000500

キリスト教の歴史A

花咲　　一利

授業テーマ:　20世紀におけるユダヤ教・キリスト教思想家たちの生涯とその思想

授業の概要:　20世紀に生きた6名の人物の生涯と思想を紹介する。彼ら前世紀のユダヤ教・キリスト教の思想家たちの思想は、今日の私たちにとっても、さまざまな重要性を持っている。彼らの思索の後を辿ることは、21世紀に生きる私たちに対して、多くの示唆を与えてくれることになるであろう。また聖書を多用することで、一回生の諸君にも、気軽に聖書の思想にも親しんでもらいたいと考えている。

到達目標:　20世紀のユダヤ教・キリスト教の思想家たちの思想を理解し、その今日的意義を知ることを目標にしている。

授業方法:　担当者が準備したハンドアウトなどをもとに、講義形式で行う。基本的に毎回の授業では視聴覚教材等を用い、授業内容をより理解していただくことを考えている。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	フェミニスト神学　1 旧約聖書におけるジェンダーの問題	シラバスを読み、関心事や問題点などを整理しておくこと
2.	フェミニスト神学 2　新約聖書におけるジェンダーの問題	次回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
3.	フェミニスト神学　3 エリザベス・シュスラー・フィオレンツァ(1938-　)の視点	次回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
4.	フェミニスト神学　4 今日における課題	次回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
5.	ルドルフ・ブルトマン(1884-1976)の思想　1　新約聖書における「非神話化」と.史的イエスの問題	次回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
6.	ルドルフ・ブルトマンの思想　2　「共観福音書伝承史」における問題	次回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
7.	カール・バルト（1886-1968）の生涯とその神学的特徴について	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
8.	カール・バルトの思想　「教会教義学」より三一論(三位一体)について	次回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
9.	ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタイン（1889-1951）の生涯と思想的特徴	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
10.	ルートヴィヒ・ヴィトゲンシュタインの思想　「論理哲学論考」、「哲学探究」より「言語ゲームSprachspiel」の意味など	次回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
11.	ハンナ・アーレント（1906-1975）の生涯と思想的特徴	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
12.	ハンナ・アーレントの思想　1「アウグスティヌスの愛の概念」における愛の問題	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
13.	ハンナ・アーレントの思想　2 「全体主義の起源(起原)」、「イェルサレムのアイヒマン」などにおける全体主義、悪の問題	紹介するテーマについて考察し、問題点などを整理しておくこと
14.	ミルチャ・エリアーデ（1907-1986）の宗教思想「聖と俗」など	次回の聖書箇所を読み、問題点などを整理しておくこと
15.	まとめ	問題点などを整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　20世紀のユダヤ教・キリスト教の思想家たちの思想は、今日の私たちにとっても、さまざまな重要性を持っている。半年間、前世紀の思想家たちの思索の世界を、共に旅しましょう。

フィードバックの方法:　授業中はもちろん、感想のレポートなどに示された疑問、質問などに答えるかたちでしっかりとフィードバックしたいと考えている。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末試験	50	紹介した思想家たちの思想に関する知識や理解度により評価する。
授業レポート	30	授業内容に関しての意見・質問等をしっかりと記すこと。
宿題レポート	20	授業で指示した内容に関して、しっかりと準備していただきたい。

教科書:　日本聖書協会訳 「新共同訳聖書」(日本聖書協会)

参考書:

絹川 久子(著)　「ジェンダーの視点で読む聖書」　日本基督教団出版局　2002年

フィリス・トリブル(著), 絹川 久子その他　(翻訳)　「フェミニスト視点による聖書読解入門」(新教新書)　新教出版社　2002年

E.S.フィオレンツァ (著), 山口 里子 (翻訳) 「彼女を記念して—フェミニスト神学によるキリスト教起源の再構築」　日本基督教団出版局　1990年

R.ブルトマン (著), 飯 峯明, 橋本 滋男 (翻訳) 「史的イエスとキリスト論」(宗教思想選書5)　理想社　1965年

カール バルト (著), 天野 有 (翻訳) 「教会と国家〈1〉『赤い牧師』・『弁証法神学』時代から反ナチズム・教会闘争時代へ」(バルト・セレクション) 文庫　　新教出版社　2011年

鬼界 彰夫 (著) 「ウィトゲンシュタインはこう考えた-哲学的思考の全軌跡1912-1951」(講談社現代新書) 講談社 2003年

ハンナ・アーレント (著), 千葉 真 (翻訳) 「アウグスティヌスの愛の概念」　みすず書房　2002年

仲正 昌樹 (著) 「今こそアーレントを読み直す」(講談社現代新書) 新書　講談社　2009年

ミルチャ・エリアーデ (著)、風間敏夫 (翻訳) 「聖と俗:宗教的なる物の本質について」〈叢書ウニベルシタス〉　法政大学出版局　1969年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　連絡に関しては、メールアドレスを授業初回にお知らせする。

000560

キリスト教の歴史A

稲山　　聖修

授業テーマ:
20世紀キリスト教世界を舞台として活躍した、世の良心たる人々の群像

授業の概要:
予習よりも復習を第一に考えてください。講義配布の資料の熟読だけでなく、講義でとりあげた書物、講義中の案内に従って関係する文献に必ず目通ししておいてください。

到達目標:
20世紀は、二度の世界大戦を通じ、世界秩序が一大転換をとげた時代でした。同時に、世界規模の経済危機・国家間の対立と交通・情報社会の加速的発展に伴い、キリスト教も一国家・一地域に留まらず、国際的な展望の下での平和的連帯と諸宗教との共存を一層要請されるにいたりました。その影響は、21世紀の現在にも深く及んでいます。本講義では、そのような「大転換の時代」にあって、キリスト教と関わりながら、人間の生き方をめぐる新しい地平の開拓にあたって貢献した、7名の人物の生涯と思想を概観します。本講義担当者は、各々の著作を紹介することを通じて、学生諸姉が実社会へ漕ぎ出すにあたり、人としての歩みを見失わないための、いわば「希望の星」を示したいと考えています。具体的目標としては、担当者が紹介する書物の幾つかを、受験生自らが進んで手にとり、単なる思想の受容に留まらず、生き方に触れる点が、本講義の目標です。

授業方法:
担当者が準備した資料レジュメに則しつつ、キーワードを適宜板書するという、至極一般的な講義形式で行う。場合によっては視聴覚教材を用い、講義内容を、一層リアルに体感して頂くことも考えている。レジュメには紹介した思想家の一次文献を可能な限り紹介し、学生諸姉の主体的な事後学習を支援する。受講生は必ずノートと配布資料保存のファイルを準備すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ルドルフ・ブルトマン(1884-1976)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
2.	ブルトマンの思想-新約聖書の「非神話化」の試み-	プリントおよび指定図書の熟読。
3.	カール・バルト(1886-1968)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
4.	バルトの思想-弁証法神学思想からイエス・キリストへの凝視と服従にいたる道-	プリントおよび指定図書の熟読。
5.	シモーヌ・ヴェーユの生涯(1909-1943)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
6.	ヴェーユの思想-『工場日記』他を通じて-	プリントおよび指定図書の熟読。
7.	ディートリッヒ・ボンヘッファー(1906-1945)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
8.	ボンヘッファーの思想-『共に生きる生活』他を通じて-	プリントおよび指定図書の熟読。
9.	ハンナ・アーレント(1906-1975)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
10.	アーレントの思想-『全体主義の起源』他を通じて-	プリントおよび指定図書の熟読。
11.	マーティン・ルーサー・キング(1929-1968)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
12.	キングの思想-「私には夢がある！」非暴力・不服従への道-	プリントおよび指定図書の熟読。
13.	マザー・テレサ(1910-1997)の生涯	プリントおよび指定図書の熟読。
14.	マザー・テレサの思想-「愛が行為で示されるならば、私の愛をどうやって見せたらよいでしょう？」-	プリントおよび指定図書の熟読。
15.	講義で扱った思想家の生き方に共通する事柄をめぐる話し合い(予定)	プリントおよび指定図書の熟読。

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義の内容が難しいといって受講を諦めるのではなく、不明な点や質問があれば教員に食い下がってでも質問してください。

フィードバックの方法:
レポートには教室で解説をいたします。出席カードに質問を書いてくだされば、講義の中で回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	記述式にて行う。400字の問題を二題。60分以内に作成。講義を踏まえておらず、かつ日本語として成立していなければ大幅に減点する。
レポート	20	提出期日厳守の上で教務課まで表紙をつけて提出。2000字以上で講義を踏まえていることが前提。関連書籍を少なくとも一冊は熟読した上で作成のこと。

教科書:
聖書、新共同訳。
講義の最中に配布するオリジナルの資料をもって教科書とする。

参考書:
笠井恵二著、「ブルトマン」、『人と思想46』、清水書院、1991.
クーピッシュ著、宮田光雄、村松恵二訳、「カール・バルト」、『現代思想の源泉2』、新教出版社、1994.
冨原真弓著、「ヴェーユ」、『人と思想107』、清水書院1992.
村上伸著、「ボンヘッファー」、『人と思想92』、清水書院1991.
太田哲男著、「ハンナ＝アーレント」、『人と思想180』、清水書院2001.
梶原壽著、「マーティン＝ルーサー＝キング」、『人と思想104』、清水書院1991.
和田町子著、「マザーテレサ」、『人と思想44』、1994.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
電子メールにてお願いします。 reisberg1223@gmail.com

000660

キリスト教の歴史B

池田　　千郷

授業テーマ:　キリスト教の歴史を音楽の面から見つめ直す試み

授業の概要:　”歌うことは祈ることである”という初期キリスト教音楽であるグレゴリオ聖歌の伝統を受け継いだ教会音楽を取り扱う。
キリスト教の母体であるユダヤ教、オーソドクス、カトリックさらにはプロテスタントや聖公会の教会音楽の変遷を概観する。

到達目標:　せめてミサ通常文とミサ固有文違いくらいは正確に認識して欲しい。

授業方法:　資料が多数にのぼるので、配布された資料を確認しつ講義を進めていく。
資料はペーパーだけではなく、音源や映像も駆使していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	宗教について	キリスト教についての解説
2.	キリスト教の三大宗派の違いについて	各宗派の儀式、聖職者の衣装、言語などについて
3.	カトリックのミサ	通常文と固有文 聖務日課
4.	ミサの構造	通常文と固有文の内容
5.	グレゴリオ聖歌	成立、変遷、楽譜、言語、読み方
6.	中世のミサ曲	単旋律聖歌 ノートルダム楽派
7.	ルネッサンス時代のミサ曲Ⅰ	フランドル楽派
8.	ルネッサンス時代のミサ曲Ⅱ	ローマ楽派
9.	バロック時代のミサ曲	声楽と器楽
10.	プロテスタントの教会音楽	讃美歌、コラール
11.	反宗教改革の動き	カトリックの伝道
12.	もう一つの宗教改革	イングランドの教会音楽
13.	古典派のミサ曲Ⅰ	演奏会用のミサ曲
14.	古典派のミサ曲Ⅱ	ハイドンやモーツァルトの教会音楽
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　講義内で説明する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席回数	60	一回の出席につき4点。但し遅刻30分以内は3点。45分で2点。一時間以上は1点。
レポート	40	各合議毎に提出のこと。未提出者は欠席とみなす。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　講義の前後に講義室内で対応

000700、60

キリスト教文化論A

中山　　幾美子

授業テーマ:　賛美歌の役割と賛美の効用

授業の概要:

賛美歌は「讃美歌21」だけでも、数百年前から現代までの24原語からなる約600曲が収録されており、現在も作り続けられています。キリスト教（特にプロテスタント）では賛美歌を歌うことを大切にしていますが、なぜでしょうか？

賛美歌は歌わなければ、本当の意味を知ることはできません。この授業では、賛美歌を実際に歌い親しみながら、それぞれの賛美歌の持つ歴史的、文化的背景を探ります。そして、賛美することを通して得られる心への効用についても考えます。

また、CDや実演を通して、賛美歌に関連する音楽や楽器（主にパイプオルガン）についても学びます。

到達目標:

・賛美歌を通して、キリスト教を理解する。
・それぞれの賛美歌の背景を知ることにより、キリスト教のみならず音楽、歴史等、様々な文化について関心を深め、見識を広げる。
・賛美歌を歌えるようになる。また共に歌うことによって得られる効用を感じ取る。

授業方法:

各回のテーマや取り上げる賛美歌に関する講義に加え、関連するCD等を聴く。毎回数曲の賛美歌を練習し、出来るだけパイプオルガンの伴奏で歌う。基本的には「讃美歌21」を用いるが、必要に応じてプリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	賛美歌とは？：讃美歌21について	「讃美歌２１」のまえがきを読んでおく
2.	これも賛美歌だった：どこかで聞いたことがある賛美歌	初回の授業での指示に従って、「讃美歌21」の概要を知っておく
3.	クラシックの名曲と賛美歌	授業で取り上げた曲を整理する ・クラシックの曲→賛美歌 ・賛美歌→クラシックの曲
4.	邦人の作詞や作曲による賛美歌	授業での指示に従い、邦人の作者について調べる
5.	コラールと賛美歌	ルターの宗教改革について最低限の知識をもっておく
6.	詩編による賛美歌	詩編とは何か、簡単に知っておく
7.	キリスト教諸式（主に結婚式）と賛美歌 及び歌唱発表の準備	次回の発表に備えて、歌いたい賛美歌をテーマごとに整理して復習しておく
8.	歌唱発表：今までに歌った賛美歌の中から、パイプオルガン伴奏でグループごとに発表する	発表のための練習
9.	キリスト教教会歴と賛美歌（1）	・アドヴェントとクリスマスの賛美歌で知っているものを挙げておく。 ・関連する聖書の記事を読んでおく（マタイ、ルカの両福音書）
10.	キリスト教教会歴と賛美歌（2）	キリストの受難と復活に関する聖書箇所を読む
11.	キリスト教教会歴（3）と行事歴の賛美歌	指示された箇所（使徒言行録等）を読む
12.	共同体の賛美歌	テゼ共同体について簡単に調べる
13.	アジア、アフリカの民謡等による賛美歌、アフロ・アメリカン・スピリチュアル	これまでに採り上げた賛美歌の中から、関連する賛美歌を探して整理しておく。
14.	新しい賛美歌の潮流	次週の発表に備えて、歌いたい賛美歌をテーマごとに整理して復習しておく
15.	歌唱発表とまとめ	発表のための練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

賛美歌には歌詞と曲の作者がいます。作者やその賛美歌が作られた背景などを知った上で歌うと、違った世界が見えてくるかもしれません。従ってこの授業では賛美歌を歌うことを大切にしていますが、それは必ずしも上手に歌うことではなく、積極的に歌うことが求められます。また礼拝等に出席し、実際にはどのように賛美歌が用いられ、歌われているかを考えることが望ましいです。場合によって、クラスでの賛美礼拝への参加を検討します。
今出川キャンパスと京田辺キャンパスとでは、授業内容や順序を一部変更することがあります。

フィードバックの方法:

授業内容に関するミニ・レポートは、原則として添削またはコメントをした上、教室で返却する。
感想等のコメントは、希望により教室で返却する。
レポートは教室でまとめてコメントの予定。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	70%	出席を含む授業への積極的参加態度及び内容に関するミニ・レポート
歌唱発表	10%	声の美しさや歌のうまさではなく、しっかりと歌えているか等で評価する
レポート	20%	独自の視点で書かれているかを重視する

教科書:　「讃美歌21」　日本基督教団出版局

参考書:　日本基督教団讃美歌委員会編 「讃美歌２１略解」 日本キリスト教団出版局
その他は必要、要望に応じて授業中に提示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、思いやる力、創造力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対します。
必要に応じてEメールを利用します。

000800

キリスト教文化論B

服部　　尚己

授業テーマ:　ヨーロッパの文化とキリスト教の結びつき

授業の概要:　「聖書」は人類にとって深く研究するに値する重要な文献である。ヨーロッパのキリスト教文化を通して「聖書」に親しむという授業にしたい。

到達目標:　「聖書」に親しみ、キリスト教およびキリスト教文化に関する初歩的な知識を身に着け、またそれを人に説明できることを到達目標として目指したい。

授業方法:　各講義はパワーポイントを用いての授業となる。ヨーロッパの文化を通して「聖書」に親しむという授業にしたい。従って授業の中で聖書を一緒に読む予定である。それによりまた「ヨーロッパの文化」に対する理解も深まるというようになればと思っている。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	キリスト教の始まり（1）（ヘロデとイエス）	
2.	キリスト教の始まり（2）（ローマ帝国におけるキリスト教）	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
3.	ヨーロッパの文化とキリスト教（1）（天使の意味）	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
4.	キリスト教の始まり（3）（教会の誕生）	
5.	キリスト教の始まり（4）（キリスト教の伝道）	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
6.	西欧の新興諸国とイタリア（含む「第五章カール大帝）	
7.	ドイツ中世都市の形成	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
8.	ヨーロッパの文化とキリスト教（2）（ケルン大聖堂）	
9.	中世のキリスト教世界（「巡礼とは」）	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
10.	ヨーロッパの文化とキリスト教（3）（南西ドイツの教会）	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
11.	ヨーロッパの文化とキリスト教（4）（聖ニコラウスとクリスマス）	
12.	ヨーロッパの文化とキリスト教（5）（聖シュテファン教会）	プリントに記載の聖書の箇所を読んで、内容に関して考えておくこと
13.	北西ヨーロッパ都市の形成	
14.	宗教改革の時代	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　ヨーロッパの歴史に関心があるか、学習済みであることが推奨される。プリントに付された課題（指定された聖書の箇所を読んだうえで）を授業中にこなしてゆく。その課題が自宅学習になった場合は、レポートとして提出することが求められる。従って、聖書を読み解く訓練をしておくことが必要となる。最後に定期試験において授業内容を理解したかを確認する試験をするので、授業中に使用したプリントを毎回復習しておく必要がある。

フィードバックの方法:　レポートおよびコメントペーパーについては、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	キリスト教およびキリスト教文化に関する初歩的な知識を身に着けたかどうか、またそれを人に説明することができるかどうかを評価する
授業への参加度	50%	「聖書」を一緒に読み、内容について考え、キリスト教およびキリスト教文化に関して理解するように授業内で努力したかどうかを判断する

教科書:　プリントを配布する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

000960

キリスト教世界の探求A

高橋　　聖子

授業テーマ:　キリスト教と音楽

授業の概要:　現在私達が親しんでいるヨーロッパ音楽の歴史を語るには、どうしてもキリスト教との関係を無視する事が出来ません。もしキリスト教という背景が無ければ、これらの音楽は今日の形とは随分異なるものとなっていたと考えられます。この授業では、ヨーロッパ各地のキリスト教文化に触れながら、音楽との関わりを見て行きます。また、同志社ならではのパイプオルガンに関する知識も深めます。

到達目標:　キリスト教は自分の日常生活に全く関係ないと思いがちですが、いかに今日の日本文化の中に混在しているかに気付き、理解することから始めます。ヨーロッパキリスト教文化を学習した後、最終的には同志社女子大学ならではのキリスト教主義の教育理念を、音楽を通して認識出来るようになることを目標とします。

授業方法:　毎回課題に沿ったプリント・資料を配布し、それを用いて授業を進めます。その都度必要な映像を見たり、音楽を原語や日本語訳のテキストを見ながら聴くことにより、より理解力を深めて行きます。また、授業の進行度を見ながら、ミニテストを行い、ミニレポートを提出することにより、それぞれの意見や理解度を確認します。一方では、他学部の学生同志での意見交換が出来るよう配慮したいと思います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:キリスト教における音楽の役割。	予備知識として必ず礼拝に出席しておいて下さい。
2.	宗教改革と音楽について(カトリックとプロテスタントの音楽の相違)。	同上。
3.	教会歴とコラールについて。	讃美歌がどのように書かれているか、歌詞を読んで理解しておいて下さい。
4.	宗派によって異なる式次第について(イタリア・ドイツ・フランス・イギリス)。	同上。
5.	教会建築とオルガンについて(オルガンの歴史:楽器と礼拝における役割の変遷)。	教会建築に於いて予備知識を得ておいて下さい。
6.	J.S.バッハとバッハの教会音楽について(1)。	J.S.バッハ作曲の教会音楽を聴いて来て下さい(授業中に説明します)。
7.	J.S.バッハとバッハの教会音楽について(2)。	同上。
8.	オラトリオについて(オペラとの相違)。	学習後は、ヘンデル作曲「メサイア」を聴いておいて下さい。
9.	クリスマスの音楽について。	同上。
10.	救世主の受難と復活の音楽について。	聖書に於ける救世主の受難と復活の記事に目を通しておいて下さい。
11.	聖母マリアへの賛歌について(アヴェ・マリア)。	「アヴェ・マリア」に関するグレゴリア聖歌を聴いておいて下さい。
12.	レクイエムについて。	レクイエムにはどのような作曲家の作品があるか、実際聴いて来て下さい。
13.	黒人霊歌とゴスペル・ソングについて。	「黒人奴隷制度」の予備知識を得ておいて下さい。
14.	日本におけるキリスト教伝来、「おらしょ」について。	「隠れキリシタン」の予備知識を得ておいて下さい。
15.	総括。	定期試験を行わない場合は意見交換、及び研究発表をしてもらいますので、準備して下さい(詳細は授業中に説明します)。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の課題の中から自分なりに興味深い事を見つけ、自分の専攻課題に関連付けながら学生生活に活かせる授業となるよう願っています。

フィードバックの方法:　授業内でのミニテストや、ミニレポート提出に関しては、必ず全員の解答に目を通して授業にて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験又はレポート	40	授業参加態度を見て定期試験を実施するか、レポート課題で評価するかを判断します。授業内容の理解度を基準として評価します。
出席及び授業への積極的態度	60	ミニテスト及びミニレポートの内容、日常的に提出される自分の意見等より、積極性を評価します。

教科書:

参考書:
金澤正剛著「キリスト教と音楽」音楽の友社
辻荘一著「キリスト教音楽の歴史」日本基督教団出版局
秋元道雄著「パイプオルガンの本」東京音楽社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応します。

001000

キリスト教世界の探求B

高橋　　聖子

授業テーマ:　音楽から読み取るキリスト教

授業の概要:　現在私達が親しんでいるヨーロッパ音楽は、キリスト教と密接な関わりの中で発展して来ました。この授業では、特に聖書やキリスト教のテキストに基づき作曲された主要な音楽作品を選び、その作品をより深く分析しながらテキストを読み解いて行きます。作曲家自身の信仰感や環境、時代背景にも触れつつ、あらゆる角度からキリスト教音楽を理解して行きます。また、同志社ならではのパイプオルガンに関する知識も深めます。

到達目標:　授業の前半では、ヨーロッパにおける主なキリスト教音楽作品を取り上げます。それに関連して「日本における明治時代の音楽教育」を学習することにより、最終的に同志社女子大学の「キリスト教主義教育」の理念を「音楽」という観点から捉えることを目標とします。

授業方法:　毎回課題に沿ったプリント・資料を配布し、それを用いて授業を進めます。その都度必要な映像を見たり、CDを聴きながらより理解力を深めます。他学部の学生同志の交流も含めて意見交換を行う一方で、必要に応じてミニテストを行い、またミニレポートを授業内にて提出してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入：キリスト教と音楽の関係	予備知識として必ず礼拝に出席しておいて下さい。
2.	教会歴、及び宗教改革におけるコラールについて。パイプオルガンについて。	宗教改革とは何か、予備知識を得ておいて下さい。
3.	J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ（1）。	聖書における受難の箇所を全般的に目を通して来て下さい（詳細は授業にて説明します）。
4.	J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ（2）。	同上。
5.	J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ（3）。	同上。
6.	J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ（4）。	同上。
7.	J.S.バッハ作曲「マタイ受難曲」より学ぶ（5）。	同上。
8.	モーツァルト作曲「レクイエム」より学ぶ（1）。	他の作曲家の「レクイエム」を、復習として聴いてもらいます（詳細は授業にて説明します）。
9.	モーツァルト作曲「レクイエム」より学ぶ（2）。	同上。
10.	モーツァルト作曲「レクイエム」より学ぶ（3）。	同上。
11.	ベートーヴェン作曲「ミサ・ソレムニス」（荘厳ミサ）より学ぶ（1）。	ミサの形態を復習しておいて下さい。
12.	ベートーヴェン作曲「ミサ・ソレムニス」（荘厳ミサ）より学ぶ（2）。「交響曲第9番『歓喜の歌』」による考察。	同上。
13.	明治時代の音楽教育とキリスト教、唱歌と讃美歌について（1）。	唱歌と関連性のある讃美歌について調べてもらいます。
14.	明治時代の音楽教育とキリスト教、唱歌と讃美歌について（2）。	同上。
15.	総括。	定期試験を実施しない場合は、研究発表及び意見交換のための準備をしてもらいます（詳細は授業にて説明します。）

受講者へのメッセージやアドバイス:　学部や専攻を問わず、キリスト教音楽に関心のある学生が受講出来るように、解り易い解説を心掛けています。特にJ.S.バッハの課題はブルーレイにて映像を使用しながら進める予定です。

フィードバックの方法:　ミニテストやミニレポート提出の際には、必ず次回の授業で内容に関して解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験又はレポート	40	授業の参加態度を見て、定期試験を実施するか課題レポートで評価するかを判断します。授業に対する理解度を基準に評価します。
出席及び積極的参加度	60	授業内での提出物（ミニテスト・ミニレポート）の内容、及び日常的意見記述内容等を基準とします。

教科書:

参考書:
金澤正剛著「キリスト教と音楽」音楽之友社
金澤正剛著「新版　古楽のすすめ」音楽之友社
磯山雅「マタイ受難曲」東京書籍

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応します。

001060

キリスト教世界の探求B

松田　　央

授業テーマ:　キリスト教の主要な思想

授業の概要:　キリスト教の主要な思想を主題とする。キリスト教は2000年以上前から多くの教えを形成してきた。その中で特に根本的な思想を考察しつつ、それらが現代の人間にとってどのような意味を持つのかということを検討する。
　またキリスト教思想を身近に感じるために広く人生論、人間論、死生観などの視点からも考察する。そのために聖書や伝統的な神学思想のほかに西洋哲学、仏教、東洋思想、美術作品などもモティーフとして用いる。

到達目標:　キリスト教思想の基礎的な知識の修得。

授業方法:　講義形式。座席指定。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスと人生論	シラバスを熟読して、関心のあるテーマを選ぶ。
2.	仏教の人生論	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
3.	神との出会い	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
4.	三位一体	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
5.	罪の概念	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
6.	悪の問題	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
7.	十字架と復活	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
8.	キリストと聖霊	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
9.	信仰の本質	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。。
10.	現代の死の問題	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
11.	人間の復活	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
12.	生き方としての救済論	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
13.	祈りの原則	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
14.	簡単な黙想	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。
15.	まとめ	あらかじめ指定された教科書と聖書の箇所を熟読する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　キリスト教思想を自分の生き方と結び付けてください。
私語と携帯電話は厳禁です。
講義ノートをしっかりとることが重要です。

フィードバックの方法:　質問については毎回の授業でまとめて回答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標であるキリスト教思想の基礎的な知識の理解度により評価する。
ミニレポート	20%	毎回の授業内容の理解度により評価する。

教科書:　松田央『信仰の基礎としての神学—キリスト教神学の道案内』新教出版社（2017年2月発行予定）
万が一教科書の題名が変わった場合には、教務課の掲示を確認して下さい。
『新共同訳聖書』

参考書:　授業で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール

001160

キリスト教の歴史C

原　　誠

授業テーマ:　キリスト教の歴史C

授業の概要:　世界に大きな影響を今も与え続けているキリスト教について、その成立と展開の概略を学びます。そしてキリスト教はその展開として日本にも、大きな影響を与えました。そのキリスト教は日本でどのように成立して今日にいたるか、その概略を同志社の歴史と合わせて理解しようとすることがこの授業の目的です。そこでは単に宗教としてのキリスト教を理解することにとどまらず、キリスト教が持つ世界観、人間観、社会観、女性観が在来の価値観とどのように関わったのかを認識したいと思います。それぞれの歴史のなかで関わった人物を取り上げ、また運動にも触れて、近代日本に深く関わったキリスト教を知ることを通してわたしたちの視野が大きくなることを願っています。

到達目標:　キリスト教の歴史の概略を知り、またキリスト教が近代日本にどのような影響を与えたか、また同志社についても基本的理解を持つことも目標です。

授業方法:　講義を中心としが、適宜、DVDも利用します。資料はその都度配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（自己紹介）	授業内容、配府された資料の熟読、復習
2.	同志社の創立者・新島襄（1）	授業内容、配府された資料の熟読、復習
3.	同志社の創立者・新島襄（2）	授業内容、配府された資料の熟読、復習
4.	同志社女子大学に関わった人々	授業内容、配府された資料の熟読、復習
5.	キリスト教の成立とカトリックの世界	授業内容、配府された資料の熟読、復習
6.	プロテスタント・キリスト教の成立	授業内容、配府された資料の熟読、復習
7.	現代社会とキリスト教	授業内容、配府された資料の熟読、復習
8.	近代日本の始まりとキリスト教	授業内容、配府された資料の熟読、復習
9.	キリスト教と近代日本（社会活動1）	授業内容、配府された資料の熟読、復習
10.	キリスト教と近代日本（社会活動2）	授業内容、配府された資料の熟読、復習
11.	キリスト教と近代日本（社会活動3）	授業内容、配府された資料の熟読、復習
12.	キリスト教と女性	授業内容、配府された資料の熟読、復習
13.	ファシズムの時代とキリスト教	授業内容、配府された資料の熟読、復習
14.	キリスト教と現代日本（社会活動）	授業内容、配府された資料の熟読、復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　キリスト教に特に関心がない学生でも、世界の歴史、日本の歴史をキリスト教を軸に考えていくことがいかに大切かを、この授業で知ることができるでしょう。

フィードバックの方法:　出席カードへのコメントに対して、次回の授業の開始時に応答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	
期末試験	50	授業内容を正しく理解しているかを評価基準とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力、

教員との連絡方法:　メールによります。
アドレス　mhara@mail.doshisha.ac.jp

001260

キリスト教文化論C

山下　　智子

授業テーマ:　近代日本におけるキリスト教の影響―湯浅初と関係者の生涯から学ぶ―

授業の概要:　同志社女子校創設期の学生であった湯浅初の生涯を手掛かりに、キリスト教や新島襄が湯浅初個人や彼女の家族・関係者の生き方に与えた影響、さらにはこれらの人々の働きを通してキリスト教が同志社や明治以降の日本社会に与えた文化的な影響について考えます。特に湯浅初や関係者による女性の地位向上や権利のための取り組みを学ぶほか、教育・美術・文学などの多様な分野での働きも取り上げます。

到達目標:　1、キリスト教が湯浅初や関係者の生き方に与えた影響を理解する。
2、湯浅初や関係者が同志社や明治以降の日本社会に与えた文化的影響を理解する。

授業方法:　基本的には講義によって進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを事前に読み、自分の関心や興味を整理しておく
2.	湯浅初①	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
3.	湯浅初②	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
4.	湯浅初③	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
5.	海老名宮	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
6.	矢島楫子	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
7.	湯浅治郎①	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
8.	湯浅治郎②	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
9.	湯浅治郎③	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
10.	湯浅吉郎・湯浅一郎	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
11.	徳富蘇峰・徳富蘆花	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
12.	湯浅八郎	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
13.	久布白落実	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
14.	湯浅初④	事前に指示された資料を読み理解を深めておく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　湯浅初の生涯を手掛かりに、湯浅家、徳富家関係者の生涯も見ていきますので、ファミリーヒストリーの要素があります。個人の人生という私たちにとって理解しやすいミクロな視点から、その周辺の人々の生涯や彼らが生きた時代と社会的な課題へ、関心を広げて学ぶことの楽しさ共有できればと思います。受講人数や、学生の関心・理解度に応じて、開講後に授業方法や授業計画を受講生に説明した上で変更することがあります。

フィードバックの方法:　メールで連絡が取れるようにします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	授業ごとのコメントシートの提出とその到達目標に対する理解度など、積極的な参加姿勢により評価
期末テスト	50	到達目標に対する理解度で評価

教科書:　配布資料を準備します。

参考書:　教室で指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールで連絡が取れるようにします。

001300

キリスト教世界の探求C

山下　　智子

授業テーマ:　聖書の女性たちに学ぶわたしらしい生き方

授業の概要:　聖書にしるされた女性たちの物語を、「わたしの目で読む」経験と客観的な学びを通して、現代に生きる私たちが、他者を尊重しつつ自分らしく生きるためにどうあるべきか考えます。あわせて女性神学の基本的な姿勢を学びます。

到達目標:
1、聖書に記される様々な女性たちと彼女たちが生きた時代や社会的状況について理解する
2、女性神学の基本的な姿勢を理解する

授業方法:　講義により授業を進めていきます。また発表やディスカッションも予定していますが、これらに関しては履修人数等により判断し教室で指示します。DVDを用いるほか、キリスト絵画も紹介します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを事前に読み自分の興味と関心を整理しておく
2.	女性の生き方①女性の生き方について描いた映像作品を見て問題提起とします。	配布資料を事前に読み、理解を深めておく。
3.	女性の生き方②課題の映像作品を踏まえ、女性の生き方について、話し合いをします。	話し合いに備え、自分の考えを整理しておく
4.	女性神学の基本的な姿勢	配布資料を事前に読み、理解を理解を深めておく
5.	旧約聖書の女性たちと時代的・社会的背景	配布資料を事前に読み、理解を深めておく
6.	新約聖書の女性たちとイエスのかかわり	配布資料を事前に読み、理解を深めておく
7.	最初の女性	指示された聖書箇所を事前に読み、自分自身の考えをまとめてくる
8.	不妊の女性	指示された聖書箇所を事前に読み、自分自身の考えをまとめてくる
9.	三角関係の女性	指示された聖書箇所を事前に読み、自分自身の考えをまとめてくる
10.	病気の女	指示された聖書箇所を事前に読み、自分自身の考えをまとめてくる
11.	諦めない女性	指示された聖書箇所を事前に読み、自分自身の考えをまとめてくる
12.	決断する女性	指示された聖書箇所を事前に読み、自分自身の考えをまとめてくる
13.	家事に忙しい女性	指示された聖書箇所を事前に読み、自分自身の考えをまとめてくる
14.	復活のイエスにあった女性	指示された聖書箇所を事前に読み、自分自身の考えをまとめてくる
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講人数や、学生の関心・理解度に応じて、開講後に授業方法や授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。

フィードバックの方法:　質問やコメントに教室で解説、回答します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	授業ごとのコメントシートの提出とその到達目標に関する理解度、授業内の発言など積極的参加度で評価
発表	20	授業内での発表の内容
期末テスト	40	到達目標に対する理解度で評価

教科書:　必要に応じて資料を配布します。

参考書:　教室で指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールで連絡をとれるようにします

001400

近代日本と同志社A

塚本　　潤一

授業テーマ:

日本の近代の歴史の中で、どのように同志社は生まれ、その独自性が何によってもたらされたのかを学ぶ。また同志社が日本の歴史にどのように貢献してきたのかを考察する。

授業の概要:

激動の日本の近代史、特に幕藩体制の終焉から明治維新へと変貌をとげていく中で、新島襄・八重夫妻によって、同志社は生まれます。そして創設以来発展を続け、優れた人材を社会に送り出してきました。その理由は新島襄・八重夫妻のかかげた建学の精神と教育理念の卓越性と普遍性にあります。その建学の精神と教育理念を学ぶことによって、同志社だから行うことのできた教育、それが他の教育機関とどれほど違いがあったのかを探ります。授業では近代日本史を世界の視点でとらえ直し、新島襄・新島八重という二人の先駆者の生涯・思想・学校への思いを学びます。それによって結実した同志社大学と同志社女子大学の歴史と建学の精神を学びます。また、そのような歴史を担った同志社がこれからの社会・世界に対して、どのように貢献していけるのかを考えていきます。

到達目標:

同志社という特別な教育機関で学ぶことのできる意味と意義を、受講生一人一人が自覚できるようになることを目指します。そして、それに基づいてこれからの社会・世界で、どのような貢献ができる人間となれるのか、自己の将来像とビジョンを描いていきます。

授業方法:

原則として講義が中心ですが、随時映像などの視聴覚教材を使用し、ディスカッション、グループワークを取り入れて進めます。なお詳細はオリエンテーションで説明します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
2.	近代日本という時代	高校で使った『日本史』の教科書の指定個所を読み、内容を理解しておく。（日本史を選択していなかった学生には別途指示をだす）
3.	近代日本と世界	高校で使った『日本史』の教科書の指定個所を読み、内容を理解しておく。（日本史を選択していなかった学生には別途指示をだす）
4.	新島襄の生涯	『現代語で読む新島襄』の指定個所を読み、内容を理解しておく。
5.	新島襄の思想	『現代語で読む新島襄』の指定個所を読み、内容を理解しておく。
6.	新島襄と同志社	『現代語で読む新島襄』の指定個所を読み、内容を理解しておく。
7.	新島八重の生涯	『同志社の母・新島八重』の指定個所を読み、内容を理解しておく。
8.	新島八重の思想	『同志社の母・新島八重』の指定個所を読み、内容を理解しておく。
9.	新島八重と同志社	『同志社の母・新島八重』の指定個所を読み、内容を理解しておく。
10.	同志社大学の歴史と建学の精神	『現代語で読む新島襄』の指定個所を読み、内容を理解しておく。
11.	同志社女子大学の歴史と建学の精神	『同志社の母・新島八重』の指定個所を読み、内容を理解しておく。
12.	新島襄・八重の後継者たち	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
13.	近代日本における同志社	『現代語で読む新島襄』の指定個所を読み、内容を理解しておく。
14.	未来に向けての同志社	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。
15.	まとめとテスト	授業時に配布する資料、紹介する文献を読解すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業を通して、同志社精神と同志社女子大学で教育を受ける意義への理解が深まり、皆さんが受講される他の授業との相乗効果によって、大学での学びがより高い次元で全人教育となることを願っています。

フィードバックの方法:

出席カードに書かれた質問やコメントに対して、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	授業出席、出席カードのコメントなどによって評価します。
期末試験	50	授業の中で語られたことが出題範囲です。

教科書:

学校法人同志社（編）『現代語で読む新島襄』丸善、2000年
同志社女子大学・新島八重研究会（編）『同志社の母・新島八重』同志社大学 広報課、2012年
（上記2冊とも入学時に無料で配布されます）

参考書:

新島襄編集委員会（編）『新島襄の手紙』岩波文庫、2005年
同志社同窓会（編）『新島八重　ハンサムな女傑の生涯』淡交社、2012年
吉海　直人『新島八重　愛と戦いの生涯』角川学芸出版、2012年
川廣中・本井康博『増補改訂　新島八重と夫―会津・京都・同志社―』思文閣出版、2012年
本井康博『新島襄と建学精神』同志社大学出版部、2005年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

必要に応じてメールで連絡を取ってください。
juntsuka@gmail.com
「件名」に学籍番号と氏名を必ず記入してください。
また授業の前後に直接コンタクトを取ってくださっても結構です。

001500

近代日本と同志社B

三宅　　えり子、岡山　　寧子、山下　　智子

授業テーマ:　学際的な視点から同志社女子教育の歩みをとらえなおす

授業の概要:

同志社女子大学が、創設以来発展を続け優れた人材を社会に送り出してきたゆえんは、新島襄がかかげた建学の精神と教育理念の普遍性と卓越性にあります。

前半（第2回～第7回山下担当）および第8～9回（岡山担当）では、まず同志社の創立者である新島襄の生涯をたどります。江戸末期から明治に至る激動の時代に一途に生きた新島の生涯について学び、彼の思想や信仰の現代的意義について検討することは、現代に生きる皆さんにも大きな示唆を与えることでしょう。また、新島ら日本人と外国人宣教師の協力で設立された「同志社女学校」や「京都看病婦学校」の創設期の歴史と、その設立の意義を考察します。

後半(第10～14回 三宅担当)は、まず、新島八重が同志社女学校創設期の変遷にどのように関わったのか、そのリーダーシップ発揮の源となった八重の資質は何かについて考察します。次に、戦後の女子教育をめぐる社会背景の中で、本学がどのようにリベラルアーツ教育の基礎を築き今日に至ったのかについて教育学とジェンダー研究の学際的視点から本学の歩みをとらえなおします。

到達目標:

1. 同志社女学校開校の歴史と同志社精神について理解できていること。
2. 戦後の新制同志社女子大学発足の歴史とリベラルアーツ教育について理解できていること。
3. 同志社女子大学で学ぶ意義が理解できていて、それに基づいてどのように社会貢献できる女性になるのか、自己の将来像とビジョンが描けるようになること。

授業方法:　原則として講義が中心ですが、随時ビデオなどの視聴覚教材を使用し、ディスカッション、グループワークを取り入れて進めます。なお詳細は初回に説明します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:ビデオ『新島襄』視聴	
2.	新島襄の誕生から脱国まで ―新島襄が育った時代と環境、受けた教育（山下）	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
3.	アメリカでの留学生活とニューイングランド地方のキリスト教（山下）	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
4.	教育者としての新島襄 -「同志社大学設立の旨意」（山下）	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
5.	同志社女学校開校とその歴史① -19世紀アメリカの宣教政策と宣教師たちの働き（山下）	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
6.	同志社女学校開校とその歴史② -同志社女学校と山本覚馬、新島八重（山下）	『現代語で読む新島襄』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
7.	前半まとめ（中間テスト）（山下）	前半部分の知識をよく復習しておく
8.	同志社病院と京都看病婦学校① 新島襄と医療（岡山）	事前配布資料を読む
9.	同志社病院と京都看病婦学校② その足跡（岡山）	事前配布資料を読む
10.	新島八重の生涯と同志社 ① ―「ハンサムウーマン」として（三宅）	『同志社の母・新島八重』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
11.	新島八重の生涯と同志社 ② ―「日本のナイチンゲール」・「茶人」として（三宅）	『同志社の母・新島八重』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
12.	新制同志社女子大学の歩み ①（三宅）	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
13.	新制同志社女子大学の歩み ②（三宅）	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
14.	女子大学の存続意義－今後求められる女性像（"Always rising to a new challenge"）（三宅）	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
15.	後半まとめ（期末テスト）（岡山・三宅）	後半の授業内容をよく復習しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業を通して、同志社精神と同志社女子大学で教育を受ける意義への理解が深まり、皆さんが受講する他の授業との相乗効果によって、大学4年間の学びがより高い次元で全人教育に結実することを願っています。

フィードバックの方法:　出席カードに書かれた質問やコメントに対して、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	授業出席、出席カードのコメントなどによって評価します。
中間テスト（山下担当部分）	25	前半の授業内容についての知識や理解度によって評価します
期末テスト（三宅/岡山担当部分）	25	後半の授業内容（岡山・三宅）についての知識や理解度によって評価します。

教科書:

学校法人同志社（編）『現代語で読む新島襄』丸善、2000年
同志社女子大学・新島八重研究会（編）『同志社の母・新島八重』同志社女子大学 広報課、2012年
（上記2冊とも入学時に無料で配布されます）

参考書:

新島襄編集委員会（編）『新島襄の手紙』岩波文庫、2005年
同志社同窓会（編）『新島八重　ハンサムな女傑の生涯』淡交社、2012年
吉海 直人『新島八重　愛と闘いの生涯』角川学芸出版、2012年
川廣中・本井康博『増補改訂 新島八重と夫、襄－会津・京都・同志社－』思文閣出版、2012年
F.B.クラップ『ミス・デントン－「同志社の宝」と呼ばれた女性の60年』同志社女子大学・同志社同窓会、2007年
『エスタ・L.ヒバド自伝－ある宣教師っ子の思い出』（増補改訂版）同志社女子大学・同志社同窓会、1999年
『主の恵みは尽きることがない―エスター・L.ヒバード先生追悼記念集』ヒバード先生追悼記念集編集委員会、2002年
本井康博・岡山寧子・石川立『鼎談 同志社医学教育の歩み-同志社病院と京都看病婦学校-』同志社時報139号、8-23頁、2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールで連絡を取れるようにします。

001560

近代日本と同志社B

小﨑　　眞

授業テーマ:　新島襄の思想に出会う　－先人とその後に続く人たち－

授業の概要:　同志社が創立以来キリスト教主義を教育の根本におき、様々な困難を乗り越えつつ、近代日本の各分野において担ってきた先駆的役割は小さくありません。この科目では、同志社と同志社女学校、女子専門学校、女子大学の歩みを、日本近代史の各時代とかかわらせながら、日本の女子教育に果たしたその役割と意義を追求します。特に、創立者新島襄の建学の志を学んだ後、同志社女子部の歴史を概観しつつ、同志社で学んだ人々（卒業生等）に焦点を当て、その思想と実践の現代的意義を探究します。

到達目標:
1. 創立者新島襄の思想に関して考察します。
2. 創立者新島襄の女子教育観に関して考察します。
3. 同志社女子部の歴史を概観しつつ、女子教育を受けた人々（卒業生）に焦点を当て、その思想と実践の現代的意義を探究します。

授業方法:　講義を中心としますが、討論、ビデオ利用等も取り入れる予定です。なお詳細は初回の講義で説明します。講義資料をその都度配布する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する。新島襄に関する既知の事実を確認する。
2.	新島襄とその時代	配布プリントにより、新島襄が生きた時代背景に関する学びを深める。とくに、日本の近代史と合わせて時代状況を整理する。
3.	新島襄の思想1	配布プリントにより、新島襄が生きた時代背景に関する学びを深める。とくに、日本の近代史と合わせて時代状況を整理する。
4.	新島襄の思想2	配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代日本の思想潮流と合わせて整理する。
5.	新島襄の良心理解を巡り1	配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代合理主義との相違点なでを整理する。
6.	新島襄の良心理解を巡り2	配布プリントや参考文献により、新島襄の思想に関する学びを深める。とくに、近代合理主義との相違点なでを整理する
7.	新島襄の教育観1	配布プリントや参考文献により、新島襄の教育観に関する学びを深める。とくに、近代日本の教育観との相違点なでを整理する
8.	新島襄の教育観2	配布プリントや参考文献により、新島襄の教育観に関する学びを深める。とくに、近代日本の教育観との相違点なでを整理する
9.	ゲストスピーカーによる 歴史的証言を通し	ゲストスピーカーの歴史的背景に関する学びを深め、本学の建学の精神とのつながりを整理する。
10.	新島襄と女子教育	配布プリントや参考文献により、新島襄の女子教育に関する学びを深める。とくに、近代日本の女子教育観との相違点なでを整理する
11.	女子教育を巡り1 卒業生の歩みから　井深八重	配布資料や参考文献により、井深八重の足跡に関する学びを深め、整理する。
12.	女子教育を巡り2 卒業生の歩みから　清水美穂	配布資料や参考文献により、清水美穂の足跡に関する学びを深め、整理する。
13.	女子教育を巡り3 戦争体験を通し	配布プリントや参考文献により、戦時中の思想や教育に関する学びを深め、整理する。
14.	女子教育を巡り4 今日的意義	今日的時代状況を見つめつつ、現在、本学にて学ぶ意義を自分なりに分析し、整理する。
15.	将来へ向け　建学の精神からの問い	講義全体をふりかえり、自分なりの問題意識を整理する。レポート構成を考え、まとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。

フィードバックの方法:　毎回の授業内で、講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。時には、受講生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを用います。学生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。また、各人のコメントペーパは教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラスへの出席・関与	50	授業ごとのコメントシート(リアクションペーパー)の提出。3つの到達目標に関する理解度及び自身の問題意識により評価します。
学期末レポート	50	的確なテーマ設定、3つの到達目標に関する理解度、自身の課題としての論理構成力により評価します。

教科書:　『現代語で読む新島襄』 丸善　2000年

参考書:　初回の講義において、参考文献表配布し、主要文献を紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で説明します（オフィスアワー、Eメールなど）。

001600

近代日本と同志社C

中村　　信博

授業テーマ:　新島襄の手紙を読む

授業の概要:　近年、新島研究は長足の進展を遂げつつあるが、このクラスでは、それらの成果を参看しながら、新島の理想と人となりを書簡によって検証することを目的とする。いわば原典による新島研究である。その語彙、文体、思想に接することで独自の言葉遣い、視点、人柄、そして理想に触れて、新島と対話をするようにして理解を深めたい。かれの書簡はじつに多様な人びとに宛てられており、新島が生きた近代日本の理解に資するだけではなく、また、たんなる個人的消息確認の域にとどまることなく、青春文学、学問論、信仰論、異文化論、教育論、神学論など多様な側面を有している。同志社設立者の珠玉の言葉に出会って欲しい。

到達目標:　【知識・理解】新島襄の畢生の事業が同志社設立にとどまらず、近代日本に自由の概念を移植し、自由を理念として行動する人びとを育て、自由自治の社会を形成することにあったことを時代背景とともに理解できる。
【関心・意欲・態度】本学建学の精神が内包する理想と受講者各人の大学生活との関係を主体的に思考することができる。
【表現・技能・能力】本学建学の精神を理解し、本学での学び、および卒業後の学びにおける自己検証の視点を獲得することができる。

授業方法:　講義を中心とし、テーマに応じて小グループでの討議を併用したい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入－書簡文学としての新島研究－	事前に同志社編『新島襄の手紙』岩波文庫、2005年を入手し、その概要を理解しておくこと。
2.	新島襄とその時代	配布資料などにより、新島が生きた時代について理解を深める。
3.	新島襄の交友	配布資料などにより、新島の生涯について理解を深める。
4.	幕末から脱国	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。あわせて幕末期の日本についても知識を整理しておくことが望まれる。
5.	欧米の発見－1	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。とくに青年新島がとらえた米国の生活をとおして異文化理解について考えておくことが望まれる。
6.	欧米の発見－2	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。留学中の新島の葛藤とはなんであったのか、関心を整理しておくことが望まれる。
7.	帰国	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。留学はどのように新島に影響を与えたのか、関心を整理しておくことが望まれる。
8.	同志社の設立－1	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。新島が理想とした教育とはどのようなものであったのか、関心を整理しておくことが望まれる。
9.	同志社の設立－2	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。同志社の設立にはどのような人びとがかかわったのか、新島の協力者にも注目して関心を整理しておくことが望まれる。
10.	教育と教会の理想－1	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。近代日本社会が求めたものと新島の理想について関心を整理しておくことが望まれる。
11.	教育と教会の理想－2	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。新島が描くキリスト教教育の理想について関心を整理しておくことが望まれる。
12.	教育と教会の理想－3	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。新島が描くキリスト教の理想について関心を整理しておくことが望まれる。
13.	夢を託して	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。教師であり宗教者であった新島についてそのイメージを整理しておくことが望まれる。
14.	新島襄と現代	前回の授業で予告される手紙の該当箇所を予め読了しておくこと。新島の後継者とはだれか、関心を整理しておくことが望まれる。
15.	まとめ	これまでの授業について総合的に復習をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　第1回～第3回までは、本講義全体と新島襄にかんする総合的なガイダンスであるが、第4回からは、実際に新島襄の手紙を読み、その背景のみならず言葉遣いなどを通しても新島の謦咳と人柄に触れながら、新島の思想を検討する。毎回、事前の予習をしておくことと授業期間終了時までに複数冊の関連書籍の読了を目標として欲しい。

フィードバックの方法:　毎回、前回のコメントシートのうち代表的なコメントを紹介し、担当者から応答するなどによって、受講生の関心を共有しながら講義を進める。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	55%	ふたつの到達目標にどの程度達しているかを基準として評価する。
授業への参加度	45%	毎回の出席とコメントシートへの積極的記入によって評価しますが、多数の受講生が予測されるため、小グループでの討議は評価対象とはしない。

教科書:　同志社編『新島襄の手紙』岩波文庫、2005年（必携）

参考書:
同志社編『新島襄自伝』岩波文庫、2013年
同志社編『新島襄 教育宗教論集』岩波文庫、2010年
現代語で読む新島襄編集委員会編『現代語で読む新島襄』丸善、2001年
新島襄全集編集委員会編『新島襄全集』同朋舎、1884～2000年
他は教室で指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己実現力、洞察力

教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

001660

近代日本と同志社C

山下　　智子

授業テーマ:　新島襄・八重の生涯

授業の概要:　新島襄の生涯と思想を学び、本学の建学精神や教育理念、本学で学ぶ意義について理解を深めます。合わせて新島八重の生涯や、二人が生きた時代に関しても理解を深めます。

到達目標:
1、新島襄の生涯と思想について理解する。
2、新島八重の生涯と二人が生きた時代について理解する。
3、本学で学ぶことの意義への理解を深め、自分自身の生き方や社会貢献のあり方について考えを深める。

授業方法:　講義を中心ですが、あわせてDVDを利用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを事前に読み、自分なりの興味や関心を整理しておく
2.	新島襄の誕生から青年期まで	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
3.	新島八重の誕生と戊辰戦争	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
4.	新島襄の脱国とアメリカへの航海	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
5.	新島襄の留学生活	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
6.	新島襄の留学生活を支えた人々	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
7.	新島襄とキリスト教との出会い	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
8.	新島襄の帰国と最初の働き	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
9.	同志社英学校の開校	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
10.	八重との出会いと同志社女学校の開校	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
11.	教育者としての新島襄	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
12.	晩年の新島襄	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
13.	その後の新島八重	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
14.	新島八重が襄から学んだこと	指示された箇所を事前に読み、内容を理解しておく
15.	まとめ	新島襄の生涯と思想、八重の生涯と二人が生きた時代について自分の言葉でまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講人数や、学生の関心・理解度に応じて、開講後に授業方法や授業計画を受講生に説明した上で変更することがあります。

フィードバックの方法:　質問やコメントに対して、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	授業ごとのコメントシートの提出とその到達目標に関する理解度で評価
期末テスト	50	到達目標に対する知識、理解度で評価

教科書:
現代語で読む新島襄編集委員会編『現代語で読む新島襄』丸善、2000年
同志社女子大学・新島八重研究会編『同志社の母・新島八重』同志社女子大学・広報課、2012年

参考書:
同志社編『新島襄の手紙』岩波文庫、2013年
同志社編『新島襄教育宗教論集』岩波文庫、2010年
同志社編『新島襄の手紙』岩波文庫、2005年
新島襄全集編集委員会編『新島襄全集』(1)-(10)、同朋社、1984－2000年
山下智子『新島八重ものがたり』日本キリスト教団出版局、2012年
同志社同窓会編『新島八重　ハンサムな女傑の生涯』淡交社、2012年
本井康博『新島襄を語る』(1)－(10)、別巻(1)－(5)、2005－2016年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールで連絡をとれるようにします。

001801 **聖書A**

塚本　　潤一

授業テーマ:　新約聖書概論

授業の概要:　キリスト教の思想と信仰内容は、現代を生きる私たちにとってどのような意味を持っているのでしょうか。「聖書A」という科目は、「聖書B」と共に、同志社女子大学の建学の精神であるキリスト教思想の内容を、本学における導入期教育（カリキュラム）の一環として提供し、その底に流れる中心的メッセージについて、現代の視点から考えようとする科目です。同志社の創立者である新島襄や、彼と共に「一国の良心」たる人物の養成のために働いた初期卒業生たちの思想と行動の意味についても触れることになります。同志社の礎を築いた人々の精神的遺産を大切にし、これを適切に継承することは同志社のこれからの歴史に関わろうとする学生にとって意味深いものと考えるからです。

到達目標:
(1) 現代人にとっての宗教とは何か、宗教の意味とは何かについて考察します。
(2)新島襄と同志社建学の精神について理解します。
(3)「聖書」とはどのような書物か、聖書の時代史と風土や文化など成立の背景について理解します。
(4)新約諸文書の成立経緯を理解します。
(5)福音書に描かれたイエスとその思想の今日的意味について考察します。

授業方法:　原則として講義が中心となります。ただし、できるだけ講義に沿ったテーマについて受講生との対話ができるように工夫します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	現代人と宗教1	日常生活と宗教との関わりについて考えてくる
3.	現代人と宗教2	宗教が関わる世界のニュースを調べてくる
4.	同志社建学の精神1	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
5.	同志社建学の精神2	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
6.	同志社建学の精神3	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
7.	同志社建学の精神4	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
8.	聖書の時代史	「聖書A: 参考文献表」から事前に指示された箇所について理解を深めてくる
9.	聖書の背景	「聖書A: 参考文献表」から事前に指示された箇所について理解を深めてくる
10.	新約諸文書の成立とその内容	「聖書A: 参考文献表」から事前に指示された箇所について理解を深めてくる
11.	福音書に描かれた「イエス像」1	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく
12.	福音書に描かれた「イエス像」2	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく
13.	福音書に描かれた「イエス像」3	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく
14.	福音書に描かれた「イエス像」4	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　同志社でのキリスト教教育は、たんなる社会的規範を教える教育ではありません。同志社は、その創立の当初から、責任を伴った自由の教育を「同志社のリベラリズム」としてその理念の柱に据え、神のもとでの良心を涵養することを大切にしてきました。こうした同志社のリベラリズムは、基本的には聖書の学びの方法論に由来するものだったと思われます。本学の「聖書」は、このような同志社の建学の理念と精神を念頭に置きながら、聖書と時代史、風土との関わり、文化との接点等、人間をめぐる諸問題について、聖書のメッセージがどのように受けとめられてきたか、それが現代に生きる私たちにどのような意味を持ちうるのか、といった点に焦点を当てて考察を進めます。受講生には、聖書の時代史が語りかけるメッセージを現代の視点から問い直す作業が期待されます。心の問題も含めて、人間や歴史や世界に対する幅広い問題意識をもって授業に臨んでください。

なお、各回の授業内容の詳細は各担当者が初回の授業で説明します。また、担当者の関心や専門性、受講生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説するか、あるいは可能な範囲でコメントを共有します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50	到達目標(1)～(5)に関する知識や理解度により評価します。
平常点	50	クラスへの出席とレポート授業への積極的参加度により評価します。 具体的な運用は担当教員が決めますが、おおむね以上のような形で総合的に評価します。なお詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します。

教科書:　『聖書』（『新共同訳聖書』が望ましい）

参考書:　春学期始めに配布される「聖書 A科目 参考文献表」の中から2冊以上を読了し、授業内容の理解を深めてください。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します。

001901 **聖書B**

塚本　　潤一

授業テーマ:　旧約聖書概論

授業の概要:　「聖書B」は、新約聖書を生み出した思想的背景としての旧約聖書の内容について考察する科目です。旧約聖書の思想は、古代イスラエル民族の歴史から生み出された思想です。紀元前千数百年という時代に、中近東に位置した時間的にも空間的にも遠く隔たった民族の思想と歴史から、私たち現代人がいったい何を学び取ることができるでしょうか。旧約聖書の文学的スタイルには散文あり詩あり、格言や比喩、物語、恋歌、哀歌あり、多種多様ですが、そこに主張され問いかけられているメッセージには、意外なほど現代的なセンスがあって私たち現代人が見失っている視点を再認識させてくれるところがたくさんあります。旧約聖書が語るメッセージを、物語や法文書、預言や黙示、詩編といった各ジャンルから選び出し、現代の視点から考察することをこの授業の課題とします。

到達目標:　(1)旧約聖書の「聖書」における位置と意味について考察します。
(2)旧約聖書を生み出した古代オリエントの歴史的、風土的背景について考えます。
(3)旧約聖書の人々の歴史観や世界観、人間観について触れ、現代に生きる私たちとの思想的接点について考察します。

授業方法:　原則として講義が中心となります。ただし、できるだけ講義に沿ったテーマについて受講生との対話ができるように工夫します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	聖書における「旧約聖書」	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
3.	旧約聖書と新約聖書Ⅰ	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
4.	旧約聖書と新約聖書Ⅱ	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
5.	旧約聖書の風土	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
6.	旧約聖書の歴史的背景Ⅰ	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
7.	旧約聖書の歴史的背景Ⅱ	参考文献の中から事前に指定された箇所について理解を深めてくる
8.	旧約聖書の歴史観・世界観・人間観Ⅰ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく
9.	旧約聖書の歴史観・世界観・人間観Ⅱ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく
10.	旧約聖書の歴史観・世界観・人間観Ⅲ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく
11.	預言者の思想・歴史観・人間観Ⅰ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく
12.	預言者の思想・歴史観・人間観Ⅱ	聖書の中から事前に指示された箇所について疑問点などを整理しておく
13.	旧約聖書と諸宗教	キリスト教以外の宗教にも関心を深めてくる
14.	旧約聖書と現代	現代世界における諸問題と聖書の世界観との関係について考察を深めてくる
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　同志社でのキリスト教教育は、たんなる社会的規範を教える教育ではありません。同志社は、その創立の当初から、責任を伴った自由の教育を「同志社のリベラリズム」としてその理念の柱に据え、神のもとでの良心を涵養することを大切にしてきました。こうした同志社のリベラリズムは、基本的には聖書の学びの方法論に由来するものだったと思われます。本学の「聖書」は、このような同志社の建学の理念と精神を念頭に置きながら、聖書と時代史、風土との関わり、文化との接点等、人間をめぐる諸問題について、聖書のメッセージがどのように受けとめられてきたか、それが現代に生きる私たちにどのような意味を持ちうるのか、といった点に焦点を当てて考察を進めます。受講生諸姉には、聖書の時代史が語りかけるメッセージを現代の視点から問い直す作業が期待されます。心の問題も含めて、人間や歴史や世界に対する幅広い問題意識をもって授業に臨んでください。

なお、各回の授業内容の詳細は各担当者が初回の授業で説明します。また、担当者の関心や専門性、受講生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説するか、あるいは可能な範囲でコメントを共有します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50	到達目標(1)～(3)に関する知識や理解度により評価します
平常点	50	クラスへの出席とレポート、授業への積極的参加度により評価します 具体的な運用は担当教員が決めますが、おおむね以上のような形で総合的に評価します。なお詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します。

教科書:　『聖書』(『新共同訳聖書』が望ましい)

参考書:　学期始めに配布される「聖書B: 参考文献表」の中から2冊以上を読了し、授業内容の理解を深めてください。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します。

010101～74

体育実技A

体育実技担当者

授業テーマ:

授業の概要: 授業1回目のオリエンテーションで決めた種目ごとにテニスコート、アリーナ、卓球室、トレーニングルームなどで実技の授業を進める。視聴覚教材などを使用したダンスの動作習得、球技などの技術練習とゲームを組み合わせた形式で行なう。また、体力測定を実施し、各自の現在の体力を分析して適切な運動の必要性を理解する。

到達目標: 人間のすべての活動の基盤である健康の保持・増進のために適度な運動は不可欠であり、機械化された現代社会において、特に重要な生活の構成要素になってきている。この授業では、人間の生活を豊かにするために作り上げられたものである各種スポーツを中心に、実技を行っていく中で、各受講者が生涯にわたって、それぞれのライフスタイルに応じた適切な運動を行うための知識と技能を修得し、定期的な運動習慣を身につけることを目指す。

授業方法: 種目ごとに実技を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、実施種目の決定 （受講者の興味関心などを考慮して実施する種目を決定する） 実施する種目の例：テニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ダンス、フィットネス等	
2.	種目の基本的理解（特性、歴史、技術体系など）	決定した種目について調べる
3.	基本的技術の理解と練習1	各自が個人的な目標を決める
4.	基本的技術の練習2	各自が個人的な目標を決める
5.	基本的技術のドリルと基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式やルールを調べる
6.	基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式やルールの復習をする
7.	体力測定	
8.	体力測定結果の解説と分析	実施した体力測定の内容を振り返る
9.	応用的技術の理解と練習1	各自が課題設定する
10.	応用的技術の練習2	各自が課題設定する
11.	複合的技術の理解と練習1	種目のゲーム形式で応用的な方法を考える
12.	複合的技術の練習2とゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
13.	ゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
14.	ゲーム・パフォーマンス3	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
15.	種目に対する理解の再確認	種目の特性、歴史、技術体系などを復習する

受講者へのメッセージやアドバイス: 1年次の体育実技Aは指定されたクラスで履修すること。

フィードバックの方法: 担当教員の指示に従う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加・態度	60	授業への参加状況を評価する
技術・技能	20	学習による向上も含めて評価する
積極的取り組み	20	健康・体力や当該種目についての認識の深まりも含めて評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法: 担当教員の指示に従う。

010201～74

体育実技B

体育実技担当者

授業テーマ:

授業の概要: 授業1回目のオリエンテーションで決めた種目ごとにテニスコート、アリーナ、卓球室、トレーニングルームなどで実技の授業を進める。視聴覚教材などを使用したダンスの動作習得、球技などの技術練習とゲームを組み合わせた形式で行なう。また、体力測定を実施し、各自の現在の体力を分析して適切な運動の必要性を理解する。

到達目標: 人間のすべての活動の基盤である健康の保持・増進のために適度な運動は不可欠であり、機械化された現代社会において、特に重要な生活の構成要素になってきている。この授業では、人間の生活を豊かにするために作り上げられたものである各種スポーツを中心に、実技を行っていく中で、各受講者が生涯にわたって、それぞれのライフスタイルに応じた適切な運動を行うための知識と技能を修得し、定期的な運動習慣を身につけることを目指す。

授業方法: 種目ごとに実技を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、実施種目の決定 （受講者の興味関心などを考慮して実施する種目を決定する） 実施する種目の例：テニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ダンス、フィットネス等	
2.	種目の基本的理解（特性、歴史、技術体系など）	決定した種目について調べる
3.	基本的技術の理解と練習1	各自が個人的な目標を決める
4.	基本的技術の練習2	各自が個人的な目標を決める
5.	基本的技術のドリルと基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式やルールを調べる
6.	基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式やルールの復習をする
7.	体力測定	
8.	体力測定結果の解説と分析	実施した体力測定の内容を振り返る
9.	応用的技術の理解と練習1	各自が課題設定する
10.	応用的技術の練習2	各自が課題設定する
11.	複合的技術の理解と練習1	種目のゲーム形式で応用的な方法を考える
12.	複合的技術の練習2とゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
13.	ゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
14.	ゲーム・パフォーマンス3	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
15.	種目に対する理解の再確認	種目の特性、歴史、技術体系などを復習する

受講者へのメッセージやアドバイス: 1年次の体育実技Bは指定されたクラスで履修すること。

フィードバックの方法: 担当教員の指示に従う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加・態度	60	授業への参加状況を評価する
技術・技能	20	学習による向上も含めて評価する
積極的取り組み	20	健康・体力や当該種目についての認識の深まりも含めて評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法: 担当教員の指示に従う。

010501～63

スポーツ実習A

スポーツ実習担当者

授業テーマ:

授業の概要: 授業1回目のオリエンテーションで決めた種目ごとにテニスコート、アリーナ、卓球室、トレーニングルームなどで実技の授業を進める。視聴覚教材などを使用したダンスの動作習得、球技などの技術練習とゲームを組み合わせた形式で行なう。また、体力測定を実施し、各自の現在の体力を分析して適切な運動の必要性を理解する。

到達目標: 生涯を通して運動に親しむ健康的なライフ・スタイルを身につけるために、スポーツ種目の技術はもちろんのこと、自主的なスポーツへの取り組み、練習計画やゲーム運営等を含めた自律的なスポーツ実践に必要な知識や能力を養うことを目的とする。

授業方法: 種目ごとに実技を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、実施種目の決定 （受講者の興味関心などを考慮して実施する種目を決定する） 実施する種目の例：テニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ダンス、フィットネス等	
2.	種目の基本的理解（特性、歴史、技術体系,練習計画の作成原理など）	決定した種目について調べる
3.	基本的技術の理解と練習1	各自が個人的な目標を決める
4.	基本的技術の練習2	各自が個人的な目標を決める
5.	基本的技術のドリルと基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式やルールを調べる
6.	基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式やルールの復習する
7.	体力測定	
8.	体力測定結果に対応した各自の運動処方の作成	実施した体力測定の内容を振り返る
9.	応用的技術の理解と練習1	各自が課題設定する
10.	応用的技術の練習2	各自が課題設定する
11.	複合的技術の理解と練習1	種目のゲーム形式で応用的な方法を考える
12.	複合的技術の練習2とゲーム・パフォーマンスの計画・運営1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
13.	ゲーム・パフォーマンスの計画・運営2	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
14.	ゲーム・パフォーマンスの計画・運営3	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
15.	種目に対する理解の再確認	種目の特性、歴史、技術体系などを復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 担当教員の指示に従う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加・態度	60	授業への参加状況を評価する
技術・技能	20	学習による向上も含めて評価する
積極的取り組み	20	健康・体力や当該種目についての認識の深まりも含めて評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法: 担当教員の指示に従う。

010601～63

スポーツ実習B

スポーツ実習担当者

授業テーマ:

授業の概要: 授業1回目のオリエンテーションで決めた種目ごとにテニスコート、アリーナ、卓球室、トレーニングルームなどで実技の授業を進める。視聴覚教材などを使用したダンスの動作習得、球技などの技術練習とゲームを組み合わせた形式で行なう。また、体力測定を実施し、各自の現在の体力を分析して適切な運動の必要性を理解する。

到達目標: 生涯を通して運動に親しむ健康的なライフ・スタイルを身につけるために、スポーツ種目の技術はもちろんのこと、自主的なスポーツへの取り組み、練習計画やゲーム運営等を含めた自律的なスポーツ実践に必要な知識や能力を養うことを目的とする。

授業方法: 種目ごとに実技を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、実施種目の決定 （受講者の興味関心などを考慮して実施する種目を決定する） 実施する種目の例：テニス、卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール、ダンス、フィットネス等	
2.	種目の基本的理解（特性、歴史、技術体系,練習計画の作成原理など）	決定した種目について調べる
3.	基本的技術の理解と練習1	各自が個人的な目標を決める
4.	基本的技術の練習2	各自が個人的な目標を決める
5.	基本的技術のドリルと基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス1	種目のゲーム形式やルールを調べる
6.	基本的技術を使ったゲーム・パフォーマンス2	種目のゲーム形式やルールの復習する
7.	体力測定	
8.	体力測定結果に対応した各自の運動処方の作成	実施した体力測定の内容を振り返る
9.	応用的技術の理解と練習1	各自が課題設定する
10.	応用的技術の練習2	各自が課題設定する
11.	複合的技術の理解と練習1	種目のゲーム形式で応用的な方法を考える
12.	複合的技術の練習2とゲーム・パフォーマンスの計画・運営1	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
13.	ゲーム・パフォーマンスの計画・運営2	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
14.	ゲーム・パフォーマンスの計画・運営3	種目のゲーム形式で応用的な方法を復習する
15.	種目に対する理解の再確認	種目の特性、歴史、技術体系などを復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 担当教員の指示に従う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加・態度	60	授業への参加状況を評価する
技術・技能	20	学習による向上も含めて評価する
積極的取り組み	20	健康・体力や当該種目についての認識の深まりも含めて評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法: 担当教員の指示に従う。

010700、60

からだの科学

米田　　祐子

授業テーマ:　身体のしくみを学び健康について考える

授業の概要:　日常生活であまり意識されていないからだのメカニズムを学ぶ。健康であるとは身体的にも精神的にも気持ちよくさわやかに生きることである。体力があるとは行動体力つまり運動能力が高いこと、そしてさまざまな環境におけるストレスから身体を守る防衛体力つまり免疫などの健康維持能力が高いことである。このようなからだのしくみの基本的な構造と機能を生理学的な観点から学び、身体運動や環境と健康の関係について考察する。

到達目標:　身体のしくみや環境との関わりについて知見を広める。授業への積極的取り組みや課題に対する提出物において理解した知識をまとめ、各自の発表において表現力を高める。

授業方法:　講義を中心とし、各自の発表も含めた方法で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日常生活と健康の関係について	日常生活における行動を健康面から振り返っておく
2.	飲酒と健康	飲酒の良い面と悪い面について調べておく
3.	喫煙と健康	喫煙の害について調べておく
4.	薬物乱用と健康	薬物乱用の害について調べておく
5.	女性のからだの特徴、妊娠・出産と健康	自分自身の健康につて女性の立場から考え、妊娠・出産の時期に注意する事を調べておく
6.	環境と健康	空気、水、土などの汚染について調べておく
7.	食生活と健康	食生活を振り返っておく
8.	運動と健康	身体運動と健康との関係について調べておく
9.	心とからだの健康	心のありようが健康状態に影響している事を考えてみる
10.	高齢社会と健康	高齢者の身体的特徴や高齢社会について調べておく
11.	応急手当と健康	外傷などの日常的な応急手当と命を救うAEDなどによる応急手当について調べておく
12.	免疫機能と健康	免疫のしくみについて『生物』などの科目で学んだ事の復習をしておく
13.	現代の感染症と健康	インフルエンザ、その他の感染症について調べ、それらに罹患しない健康的な過ごし方を考えてみよう
14.	授業内容の確認(テスト)	授業で学んだ項目を復習しておく
15.	まとめと振り返り	授業での自身の発表、他の人の発表、テスト内容などを振り返っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　次回の授業までに関連書物による定説やインターネット等による最新情報をまとめておく。

フィードバックの方法:　提出物は教室で返却しまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加・態度	40	授業への参加状況を評価する
提出物・テスト	40	予習、授業の取り組み、テストにおける理解を評価する
発表	20	各自の発表時の資料や表現力を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

010800、60

ウエルネス健康論

野之上　操

授業テーマ:　ウエルネスの理論と実践

授業の概要:　総合的な健康の概念としてのウエルネスの目標である幸福で充実した人生をおくるために、各自が自分の生活習慣をどのように改善したらよいかについて、その理論と方法を学んでいく。

到達目標:　ウエルネスに生きるための理論と方法を学び、積極的にグループワークに参加し、体験学習を通して各自の価値観、気づき等についての振り返りを行い、将来に向けてのウエルネス実践へとつなげていくことを目標とする。

授業方法:　講義、体験学習を主にグループにおける話し合い、発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業に関するオリエンテーション	シラバスを確認しておく
2.	コミュニケーション実習としての体験学習	コミュニケーションとは何かを調べておく
3.	ウエルネス概念、キーワードについての学び	健康とは何か、また健康に関する情報を調べておく
4.	自分の現在のウエルネス度についてのチェック	どのような生活習慣を送っているか考えておく
5.	行動変容における生活習慣改善についての学びと行動変容とものの見方、考え方についての体験学習	行動変容とは何かを調べておく
6.	デス・ラーニング	死の準備教育とは何か考えておく
7.	死の受容とライフプランニングについての学び	どのような人生を送りたいか考えておく
8.	ライフプランニングとタイムマネジメントについての学び	時間管理について考えておく
9.	余暇とタイムマネジメントの体験学習	余暇とは何か考えておく
10.	価値観についての学びと体験学習	価値観について考えておく
11.	ストレスについての学びとストレス度チェック及びストレスマネジメントとその実習	ストレスに関する情報を調べておく
12.	リラクセーション方法の体験	リラクセーションに関する情報を調べておく
13.	食と食行動についての学び	食に関する情報を調べておく
14.	ウエルネス保養地と健康保養地についての学び	保養に関する情報を調べておく
15.	まとめと振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:　体験学習を主にグループワーク時では、積極的に参加発表することと、振り返りレポート提出が評価の対象となりますので、体調管理に心掛けて授業参加してください。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
振り返りレポート	70%	到達目標ウエルネスの理論を理解した上で、どの程度独自の視点があるかを基準とする。
発表、話し合い	15%	グループ発表での自分の役割とその達成度、積極的に参加しているか態度・意欲を評価する。
授業への参加度	15%	積極的に授業に参加し、将来ウエルネス実践につなげることができるようになったかを評価する。

教科書:

参考書:　野崎泰明、ウエルネスマネジメント、メッツ出版
野崎泰明、ウエルネスの理論と実践、メッツ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業後教室にて

010900、60

食物と健康

河合　　美香

授業テーマ:

食と健康にまつわる日常的なトピックスや課題を取り上げ、これらについて理論を学ぶことで、近年の食と健康の問題について考える。

授業の概要:

日常の生活を快適に過ごすためには、身体的にも精神的にも健康であることが前提となる。しかし、現代社会は便利になった反面、飽食による食生活の乱れや運動不足による生活習慣病の発症、また精神的なストレスによる摂食障害など、不健康な人が増加している。

本講では、食と健康について、運動とも関連づけながら理論を学修するとともに自身の日常生活について、課題を考える。

到達目標:

・健康を維持し、体力を向上させるために必要な栄養と運動について理解する
・食と健康に関する近年の社会的な問題について理解する
・自身の身体活動状況と食事のバランスについて把握し、課題を考える
・身体活動と食事に関する女性特有の健康問題について考える

授業方法:

・基本的には講義形式で授業を進める
・授業内容の理解を深めるために簡単な計算作業をする場合がある
・各授業の最後に授業に関するコメント等を課す

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基礎理論:エネルギー系、三大栄養素のはたらきについて	
2.	身体組成を把握する方法と現状 : 体格指数(BMI)、インピーダンス法	身体状況と健康状態について、自己評価する
3.	健康づくりのための運動と栄養について : 身体活動強度、にこにこペース、摂取タイミング	効果的な運動について考える
4.	身体づくりと食事について : 筋肉づくり、タンパク質、エネルギーの摂取	タンパク質の摂取状況について、自己評価する
5.	生活習慣病の原因と対策について : 肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病	ライフスタイルについて、自己評価する
6.	ウエイトコントロールとダイエットについて : エネルギーの収支、食事制限、リバウンド	ダイエットの経験について、自己評価する
7.	疲労の原因と回復法について : 適度な運動の実施、代謝の促進	運動の実施状況について、自己評価する
8.	疲労の回復と食事について : 炭水化物、エネルギー源、抗酸化ビタミン	食生活の状況について、自己評価する
9.	ストレスの原因と食事について : 摂食障害(拒食と過食)、自律神経系、五感	ストレスの経験について、自己評価する
10.	貧血症と低血圧の相違と食事の効果について : ヘム鉄、ヘモグロビン、吸収促進と阻害	貧血症と低血圧の状況について、自己評価する
11.	ライフスタイルと骨づくりについて : 骨粗しょう症、月経不順、カルシウム、インスタント食品	骨密度の状況について、自己評価する
12.	発育発達期の食事について : 食育、スキャモンの成長曲線、インスタント食品	発育発達期の食生活について、自己評価する
13.	サプリメントの種類と課題について : 野菜ジュース、特定保健用食品、食事バランスガイド	サプリメント、および野菜ジュースの摂取状況について、自己評価する
14.	食の安心、安全について : 添加物、ADI	添加物の摂取状況について、自己評価する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

・翌週の授業の内容について、事前準備すること。
・授業で配布した資料、および下記に示した参考図書等を参考にして復習すること。

フィードバックの方法:

授業で提出されたコメントペーパーの内容は、適宜、授業等で紹介する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標の「健康を維持し、体力を向上させるために必要な栄養と運動」、「食と健康に関する近年の社会的な問題」について、理解度を評価する
コメントペーパーの内容	40	授業にて課すテーマに対し、真摯に考察しているかを評価する

教科書:

参考書:

岡村 浩嗣 編、『市民からアスリートまでのスポーツ栄養学』、八千代出版
前田 如夫、田中 喜代次 編、『健康の科学』、金芳堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール

011000、60

スポーツ文化論

宮尾　　夏姫

授業テーマ:　文化社会史的観点からスポーツの意義をとらえ直す

授業の概要:　スポーツはそれぞれの時代・社会の価値観を反映して作り上げられた文化である。また同時にスポーツは現在では世界共通の文化として多くの人がさまざまなレベルでこれに関わっている。この授業では，体育，スポーツ，プレイ，ゲームといった基本概念について，その語源や歴史を踏まえ把握する。歴史的・社会的条件のもとで発展してきたスポーツ文化を様々な視点から探求する。

到達目標:
・スポーツの成立から発展，その変遷を理解している
・体育，スポーツの諸問題について理解し，説明することができる
・現在，そして，これからのスポーツ問題に対する各々の見方・考え方をもち，その問題解決の方向性を提示できる

授業方法:　講義を中心として授業を進める。講義の中で，ディスカッションや発表等の演習の機会を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	・シラバスを確認する ・スポーツにおいて興味・関心のあるキーワードを見つける
2.	スポーツ文化論の視点：スポーツとは何か，スポーツという文化	・「スポーツ」「体育」に対して各々がもつイメージを書き出す ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
3.	近代スポーツの成立と発展Ⅰ	・配布する該当資料を熟読しておく ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
4.	近代スポーツの成立と発展Ⅱ	・オリンピック，パラリンピックに関わる諸問題を調べておく ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
5.	現代の体育・スポーツにおける諸問題Ⅰ：メディア化，スポーツの商品化	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
6.	現代の体育・スポーツにおける諸問題Ⅱ：スポーツ倫理	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
7.	現代の体育・スポーツにおける諸問題Ⅲ：ドーピング	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
8.	現代の体育・スポーツにおける諸問題Ⅳ：スポーツとジェンダー	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
9.	現代の体育・スポーツにおける諸問題Ⅴ：フェアプレイ	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
10.	現代の体育・スポーツにおける諸問題Ⅵ：勝利至上主義，運動部活動	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
11.	現代の体育・スポーツにおける諸問題Ⅶ：体罰・暴力	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
12.	スポーツと教育Ⅰ	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
13.	スポーツと教育Ⅱ	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
14.	スポーツと地域社会	・配布する該当資料を熟読しておく ・該当箇所に関わるニュース等の情報を収集する ・毎時終了時には，各時間の要点のまとめをしておく
15.	まとめ	授業資料や内容を全体的に確認して，文化論的観点から現代の課題と，今後の方向性を考えておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　2020年東京オリンピック，パラリンピックを控え，スポーツ・体育に関わる様々な問題がクローズアップされています。スポーツを見る視点の一つとして，「知るスポーツ」を加えてみましょう。

フィードバックの方法:　各時間のコメントシートに対するフィードバックを次時のイントロダクションにて行う。
また，必要に応じてコメントシートを返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への参加	50	授業への取り組みと毎回のコメントシートから各時間の内容が理解できているかを評価する
課題・レポート	50	中間及びまとめのレポートにおいてスポーツに関する諸問題を理解し，その解決に向けた方向性を自分なりに提案できているか評価する

教科書:

参考書:
友添秀則・近藤良享著「スポーツ倫理を問う」，2000，大修館書店
友添秀則・岡出美則編著「教養としての体育原理　新版―現代の体育・スポーツを考えるために」，2016，大修館書店
井上俊・菊幸一編著「よくわかるスポーツ文化論」，2012，ミネルヴァ書房
友添秀則編著「よくわかるスポーツ倫理学」，2017，ミネルヴァ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力、変化対応力

教員との連絡方法:　メール及びオフィスアワー(詳細は，第1回授業時に連絡する)

020101～15、22～71

英語講読ＩＡ

授業テーマ: 英語読解力の養成

授業の概要: この授業では、主に二つの活動を行う。一つは、各学科の専門領域と関連した英語のテキストを読み、その内容について、英語や日本語による口頭発表やレポート（要約など）作成を試みる。テキストを読む際には、内容の深い理解を心がけ、その社会的、文化的背景についても考えていく。もう一つは、TOEIC（Test for English for International Communication)のテスト形式に慣れ、読解力を高める練習をする。TOEICは、英語によるコミュニケーション能力を測るテストで、大学生の英語力を測定するために現在最もよく使われている標準テストである。1年次の秋学期には受講者全員がTOEICを受験する。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム（ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX)を積極的に利用する。

到達目標: 1.各学科の専門領域と関連した英語のテキストを正確に読み取る。2. テキストの内容について、英語や日本語で話し合い、各自の意見を口頭発表やレポート（要約など）の形で的確に表現する。3. TOEICのテスト形式に慣れ読解力を高める。

授業方法: 授業は演習形式で行う。英文テキストの読解を中心に行うが、読み取った後に、内容について、話し合ったり、各自の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の１であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
2.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
3.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
4.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
5.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
6.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
7.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
8.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
9.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
10.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
11.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
12.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
13.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
14.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。
15.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学システムを活用する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験（定期試験、小テスト等）	60%	テキスト内容の理解度により、評価する。
	平常点（授業中の意欲的な態度、課題提出、発表等）	40%	授業中の意欲的な態度：積極的に授業に参加し、テキスト内容を理解しようと努力しているかを評価する。課題提出：与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が的確に表現できているかを評価する。発表：グループまたは個人で、与えられた課題について適格に発言しているかを評価する。

教科書: 担当者によって異なる。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 担当者によって異なる。

020116～21 **英語講読ＩＡ**

O.Y.Baker、D.J.Hudgens、P.Skrivanic、K.Thompson、B.Gross

授業テーマ: Reading for International Communication

授業の概要: Reading is the one of the keys to academic success in any language. This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC.
This course will focus on reading skills necessary for understanding conversations as well as short talks/lectures and news reports. This will include weekly practice of reading skills necessary to increase vocabulary and improve grammar and reading for overall meaning and content to strengthen other communication skills, such as listening, speaking, and writing.

到達目標: This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to skim and read for main ideas in a variety of English texts and understand and produce information and opinions on academic topics about what they read. They should also be able to read and quickly understand basic work-type situations using English.

授業方法: Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
2.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
4.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
5.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
6.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
7.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
8.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
9.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
10.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
11.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
12.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
13.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
14.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
15.	Self-reflection; Wrap-up	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework

受講者へのメッセージやアドバイス: This is a skills class. That means students will be asked to do some reading preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyalble classroom experience. Students should check Manabi and their DWC e-mail every week.

フィードバックの方法: Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation & Attendance	30%	Active participation in class and group work
Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects
M-Reader Activities	10%	M-Reader Progress

教科書: Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

020201～15、22～71

英語講読ＩＢ

授業テーマ: 英語読解力の養成

授業の概要: この授業では、[英語講読ＩＡ」での授業内容を引き継ぎ、主に二つの活動を行う。一つは、各学科の専門領域と関連した英語のテキストを読み、その内容について、英語や日本語による口頭発表やレポート（要約など）作成を試みる。テキストを読む際には、内容の深い理解を心がけ、その社会的、文化的背景についても考えていく。もう一つは、TOEIC（Test for English for International Communication）のテスト形式に慣れ、読解力を高める練習をする。この科目の受講者は全員が、秋学期中に学内で実施されるTOEICを受験する（必須）。この試験結果は、この科目の成績の一部となる。2年次科目「英語講読IIA・IIB」がある学部学科については、そのクラス分けにも使われる。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム（ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX)を積極的に利用する。

到達目標: 1.各学科の専門領域と関連した英語のテキストを正確に読み取る。2. テキストの内容について、英語や日本語で話し合い、各自の意見を口頭発表やレポート（要約など）の形で的確に表現する。3. TOEICのテスト形式に慣れ読解力を高める。

授業方法: 授業は演習形式で行う。英文テキストの読解を中心に行うが、読み取った後に、内容について、話し合ったり、各自の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の１であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
2.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
3.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
4.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
5.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
6.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
7.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
8.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
9.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
10.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
11.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
12.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
13.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
14.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
15.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:	具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
TOEIC試験	20%	TOEIC試験結果により評価する。
試験（定期試験、小テスト等）	40%	テキスト内容の理解度により、評価する。
平常点（授業中の意欲的な態度、課題提出、発表等）	40%	授業中の意欲的な態度：積極的に授業に参加し、テキスト内容を理解しようと努力しているかを評価する。課題提出：与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が的確に表現できているかを評価する。発表：グループまたは個人で、与えられた課題について適格に発言しているかを評価する。

教科書:	担当者によって異なる。
参考書:	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	担当者によって異なる。

020216～21 **英語講読ＩＢ**

O.Y.Baker、D.J.Hudgens、P.Skrivanic、K.Thompson、B.Gross

授業テーマ: Reading for International Communication

授業の概要: Reading is the one of the keys to academic success in any language. This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC.
This course will focus on reading skills necessary for understanding conversations as well as short talks/lectures and news reports. This will include weekly practice of reading skills necessary to increase vocabulary and improve grammar and reading for overall meaning and content to strengthen other communication skills, such as listening, speaking, and writing.

到達目標: This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to skim and read for main ideas in a variety of English texts and understand and produce information and opinions on academic topics about what they read. They should also be able to read and quickly understand basic work-type situations using English.

授業方法: Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
2.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
4.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
5.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
6.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
7.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
8.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
9.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
10.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
11.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
12.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
13.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
14.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
15.	Self-reflection; Wrap-up	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework

受講者へのメッセージやアドバイス: This is a skills class. That means students will be asked to do some reading preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyalble classroom experience. Students should check Manabi and their DWC e-mail every week.

フィードバックの方法: Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation & Attendance	30%	Active participation in class and group work
Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects
M-Reader Activities	10%	M-Reader Progress

教科書: Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

020301～71

英語講読ⅡＡ

授業テーマ:

英語読解力の養成

授業の概要:

この授業では、1年次の「英語講読ＩＡ」「英語講読ＩＢ」に引き続き、さらなる読解力向上を目指し、主に二つの活動を行う。一つは、各学科の専門領域と関連した英語のテキストを読み、その内容について、英語や日本語による口頭発表やレポート（要約など）作成を試みる。テキストを読む際には、内容の深い理解を心がけ、その社会的、文化的背景についても考えていく。もう一つは、1年次に受験したTOEIC（Test for English for International Communication)における読解力向上のための練習をする。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム(ALC Net Academy2、 Super英語、ATR CALL BRIX)を積極的に利用する。

到達目標:

1.各学科の専門領域と関連した英語のテキストを正確に読み取る。2. テキストの内容について、英語や日本語で話し合い、各自の意見を口頭発表やレポート（要約など）の形で的確に表現する。3. TOEICのテスト形式に慣れ読解力を高める。

授業方法:

授業は演習形式で行う。英文テキストの読解を中心に行うが、読み取った後に、内容について、話し合ったり、各自の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の１であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
2.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
3.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
4.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
5.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
6.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
7.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
8.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
9.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
10.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
11.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
12.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
13.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
14.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
15.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験（定期試験、小テスト等）	60%	テキスト内容の理解度により、評価する。
	平常点（授業中の意欲的な態度、課題提出、発表等）	40%	授業中の意欲的な態度：積極的に授業に参加し、テキスト内容を理解しようと努力しているかを評価する。課題提出：与えられた課題について、文章で自分の意見が的確に表現できているかを評価する。発表：グループまたは個人で、与えられた課題について的確に発言しているかを評価する。

教科書: 担当者によって異なる。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 担当者によって異なる。

020401～71

英語講読ⅡB

授業テーマ:

英語読解力の養成

授業の概要:

この授業では、「英語講読ⅡA」に引き続き、さらなる読解力向上を目指し、主に二つの活動を行う。一つは、各学科の専門領域と関連した英語のテキストを読み、その内容について、英語や日本語による口頭発表やレポート（要約など）作成を試みる。テキストを読む際には、内容の深い理解を心がけ、その社会的、文化的背景についても考えていく。もう一つは、1年次に受験したTOEIC（Test for English for International Communication)における読解力向上のための訓練をする。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム（ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX）を積極的に利用する。

到達目標:

1.各学科の専門領域と関連した英語のテキストを正確に読み取る。2. テキストの内容について、英語や日本語で話し合い、各自の意見を口頭発表やレポート（要約など）の形で的確に表現する。3. TOEICの読解力を高める。

授業方法:

授業は演習形式で行う。英文テキストの読解を中心に行うが、読み取った後に、内容について、話し合ったり、各自の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の１であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
2.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
3.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
4.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
5.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
6.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
7.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
8.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
9.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
10.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
11.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
12.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
13.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
14.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。
15.	英文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	授業の前に、授業範囲の英文を読み、語彙、連語などを調べ、書き手の意図をつかんでおく。授業後は、学んだ事柄や、英語の読み方を復習する。また、英語自主学習システムを活用する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	試験（定期試験、小テスト等）	60%	テキスト内容の理解度により、評価する。
	平常点（授業中の意欲的な態度、課題提出、発表等）	40%	授業中の意欲的な態度：積極的に授業に参加し、テキスト内容を理解しようと努力しているかを評価する。課題提出：与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が的確に表現できているかを評価する。発表：グループまたは個人で、与えられた課題について適格に発言しているかを評価する。

教科書: 担当者によって異なる。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 担当者によって異なる。

020501～15、22～71

英語コミュニケーションＩＡ

授業テーマ: 英語のリスニングとスピーキング力の養成

授業の概要: 言語によるコミュニケーションには「聞く、話す、読む、書く」の4つのスキルが求められる。この授業では、英語によるリスニングとスピーキング力を養成するため、主として二つの活動を行う。一つは、総合教材テキストを用い、リスニング（聞くこと）とスピーキング（話すこと）の練習を行う。もう一つは、TOEIC（Test for English for International Communication)のテスト形式を用いたリスニング練習を行う。TOEICは、英語によるコミュニケーション能力を測るテストで、大学生の英語力を測定するために現在最もよく使われている標準テストである。1年次の秋学期には受講者全員がTOEICを受験する。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム（ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX)を積極的に利用する。

到達目標: 1. 英語によるコミュニケーションのためのリスニング力とスピーキング力の向上を目指す。2. 異文化間コミュニケーションに対する積極的な態度を養う。3. TOEICのリスニングテスト形式に慣れる。

授業方法: 授業は演習形式で行う。英語による対話、簡単な意見発表、意見交換などを通し、リスニングとスピーキングの力を養成する。TOEICのリスニングテスト形式に慣れるための練習も行う。TOEICのために使う時間の割合は、授業時間の3分の１であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
2.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
3.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
4.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
5.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
6.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
7.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
8.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
9.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
10.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
11.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
12.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
13.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。

14.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
15.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験（小テスト等）	60%	テキスト内容の理解度により、評価する。
平常点（授業中の意欲的な態度、発表、課題提出等）	40%	授業中の意欲的な態度：積極的に授業に参加し、テキスト内容を理解しようと努力しているかを評価する。発表：グループまたは個人で、与えられた課題について適格に口頭発表できているかを評価する。課題提出：与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が的確に表現できているかを評価する。

教科書: 担当者によって異なる。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 担当者によって異なる。

020516～21

英語コミュニケーションＩＡ

L.Rogers、C.Adamson、S.Sakayori

授業テーマ:

International Communication

授業の概要:

This course will teach students English skills necessary for communicating with English speakers in their communities, working in companies, and getting information from sources all over the world. It will also help students learn vocabulary and other necessary English for tests such as the TOEIC. The skills taught will be adapted to the level of the students.

At the intermediate level, this course will include a balance of all four skills necessary to complete tasks such as reading and writing e-mail messages and listening and responding during discussions about various topics. This course will focus on listening skills necessary for understanding conversations, short talks/lectures and reading short stories, Internet and news articles. Students will use information they gather through listening and reading to do short writing activities and talk about topics commonly discussed by English speakers.

At the advanced level, this course will focus on the skills needed to write short essays and reports and present their ideas verbally. Students will learn to use complex vocabulary and grammar generally expected of advanced university-level English users. They will practice using English to complete various communicative tasks. These will include such communication skills as consideration of the importance of audience (readers and listeners) when speaking and writing and listening and reading for general meaning and nuances.

到達目標:

This course will teach students English skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to understand and produce information and opinions on academic topics. They should also be able to manage basic work-type situations using English.

授業方法:

Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
2.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
4.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
5.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
6.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
7.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
8.	Assessment focusing on specific listening, speaking, reading and writing skills.	Preparation for assessment and other relevant homework set by the instructor.
9.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
10.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
11.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
12.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
13.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
14.	Assessment focusing on specific listening, speaking, reading and writing skills.	Preparation for assessment and other relevant homework set by the instructor.
15.	Wrap-up	Reflect upon what the student learned and other relevant homework set by the instructor.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a skills class. That means students will be asked to do some preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyalble classroom experience.

フィードバックの方法:

At all levels in class, students will study a variety of different listening texts, from conversations to short talks/lectures from both the teacher and also audio and video recordings and reading texts from books, newspapers and the Internet. There will be a balance of listening, reading, speaking and writing activities. Students will use what they learn through practice that may include reports, presentations, role-plays and debates.

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation & Attendance	40%	Active participation in class and group work
Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work (including TOEIC score)
Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects

教科書:

Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:	Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

020601～15、22～71

英語コミュニケーションＩＢ

授業テーマ: 英語のリスニングとスピーキング能力の養成

授業の概要: 言語によるコミュニケーションには「聞く、話す、読む、書く」の4つのスキルが求められる。この授業では、「英語コミュニケーションI A」での授業内容を引き継ぎ、英語によるリスニングとスピーキング力を養成するため、主として二つの活動を行う。一つは、総合教材テキストを用い、リスニング（聞くこと）とスピーキング（話すこと）の練習を行う。もう一つは、TOEIC（Test for English for International Communication)のテスト形式を用いたリスニング練習を行う。この科目の受講者は全員が、秋学期中に学内で実施されるTOEICを受験する（必須）。この試験結果は、この科目の成績に加味する。2年次科目「英語コミュニケーションIIA・IIB」がある学部学科については、そのクラス分けにも使われる。また、課外活動として、本学の英語自主学習システム（ALC Net Academy2、Super英語、ATR CALL BRIX)を積極的に利用する。

到達目標: 1. 英語によるコミュニケーションのためのリスニング力とスピーキング力の向上を目指す。2. 異文化間コミュニケーションに対する積極的な態度を養う。3. TOEICのリスニングテスト形式に慣れる。

授業方法: 授業は演習形式で行う。英語による対話、簡単な意見発表、意見交換などを通し、リスニングとスピーキングの力を養成する。TOEICのリスニングテスト形式に慣れるための練習も行う。TOEICのために使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは、担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
2.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
3.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
4.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
5.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
6.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
7.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
8.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
9.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
10.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
11.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
12.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
13.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。

14.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。
15.	英語コミュニケーション（英語で対話、簡単な討論、発表、TOEIC演習等）	授業の前に、テキストの中の語彙・連語等を調べ、テキストの内容をつかんでおく。発表がある場合は、事前に原稿を作成し、練習する。授業後は、学んだ事柄を復習すると同時に、各自のコミュニケーションの方法について振り返る。また、英語自主学習システムを活用する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 具体的なフィードバックの方法は、担当教員によって異なるが、試験やレポートは可能な範囲で、採点、添削をして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
TOEIC試験	20%	TOEIC試験結果により評価する。
試験（小テスト等）	40%	テキスト内容の理解度により、評価する。
平常点（授業中の意欲的な態度、発表、課題提出等）	40%	授業中の意欲的な態度：積極的に授業に参加し、テキスト内容を理解しようと努力しているかを評価する。発表：グループまたは個人で、与えられた課題について適格に口頭発表できているかを評価する。課題提出：与えられた課題について、文章で的確に自分の意見が的確に表現できているかを評価する。

教科書: 担当者によって異なる。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 担当者によって異なる。

020616～21 **英語コミュニケーションＩＢ**

L.Rogers、C.Adamson、S.Sakayori

授業テーマ: International Communication

授業の概要:

This course will teach students English skills necessary for communicating with English speakers in their communities, working in companies, and getting information from sources all over the world. It will also help students learn vocabulary and other necessary English for tests such as the TOEIC. The skills taught will be adapted to the level of the students.

At the intermediate level, this course will include a balance of all four skills necessary to complete tasks such as reading and writing e-mail messages and listening and responding during discussions about various topics. This course will focus on listening skills necessary for understanding conversations, short talks/lectures and reading short stories, Internet and news articles. Students will use information they gather through listening and reading to do short writing activities and talk about topics commonly discussed by English speakers.

At the advanced level, this course will focus on the skills needed to write short essays and reports and present their ideas verbally. Students will learn to use complex vocabulary and grammar generally expected of advanced university-level English users. They will practice using English to complete various communicative tasks. These will include such communication skills as consideration of the importance of audience (readers and listeners) when speaking and writing and listening and reading for general meaning and nuances.

到達目標: This course will teach students English skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to understand and produce information and opinions on academic topics. They should also be able to manage basic work-type situations using English.

授業方法: Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
2.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
4.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
5.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
6.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
7.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
8.	Assessment focusing on specific listening, speaking, reading and writing skills.	Preparation for assessment and other relevant homework set by the instructor.
9.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
10.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
11.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
12.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
13.	Focus on specific listening, speaking, reading or writing skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
14.	Assessment focusing on specific listening, speaking, reading and writing skills.	Preparation for assessment and other relevant homework set by the instructor.
15.	Wrap-up	Reflect upon what the student learned and other relevant homework set by the instructor.

受講者へのメッセージやアドバイス: This is a skills class. That means students will be asked to do some preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyalble classroom experience.

フィードバックの方法: At all levels in class, students will study a variety of different listening texts, from conversations to short talks/lectures from both the teacher and also audio and video recordings and reading texts from books, newspapers and the Internet. There will be a balance of listening, reading, speaking and writing activities. Students will use what they learn through practice that may include reports, presentations, role-plays and debates.

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation & Attendance	40%	Active participation in class and group work
Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work (including TOEIC score)
Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects

教科書: Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:	Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

020701～09、61～71

英語コミュニケーションⅡA

授業テーマ:

授業の概要: The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

到達目標: Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

授業方法: Visual audio learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, have discussions, and conduct mini-debates in class. They need to communicate positively in English during class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Depends on teacher
2.	English Communication 1	Depends on teacher
3.	English Communication 2	Depends on teacher
4.	English Communication 3	Depends on teacher
5.	English Communication 4	Depends on teacher
6.	English Communication 5	Depends on teacher
7.	English Communication 6	Depends on teacher
8.	English Communication 7	Depends on teacher
9.	English Communication 8	Depends on teacher
10.	English Communication 9	Depends on teacher
11.	English Communication 10	Depends on teacher
12.	English Communication 11	Depends on teacher
13.	English Communication 12	Depends on teacher
14.	English Communication 13	Depends on teacher
15.	English Communication 14	Depends on teacher

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Depends on teacher

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Tests/quizzes	40%	Depends on teacher
Other factors (e.g. class participation, presentations, assignments, communication skills):	60%	Depends on teacher

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Depends on teacher

020710～13 **英語コミュニケーションⅡA**

担当者未定、M.A.Guziak

授業テーマ:

授業の概要: The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

到達目標: Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

授業方法: Visual audio learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, have discussions, and conduct mini-debates in class. They need to communicate positively in English during class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Depends on teacher
2.	English Communication 1	Depends on teacher
3.	English Communication 2	Depends on teacher
4.	English Communication 3	Depends on teacher
5.	English Communication 4	Depends on teacher
6.	English Communication 5	Depends on teacher
7.	English Communication 6	Depends on teacher
8.	English Communication 7	Depends on teacher
9.	English Communication 8	Depends on teacher
10.	English Communication 9	Depends on teacher
11.	English Communication 10	Depends on teacher
12.	English Communication 11	Depends on teacher
13.	English Communication 12	Depends on teacher
14.	English Communication 13	Depends on teacher
15.	English Communication 14	Depends on teacher

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Depends on teacher

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Tests/quizzes	40%	Depends on teacher
Other factors (e.g. class participation, presentations, assignments, communication skills):	60%	Depends on teacher

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Depends on teacher

020801～09、61～71

英語コミュニケーションⅡB

授業テーマ:

授業の概要: Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

到達目標: The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

授業方法: Visual audio learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, have discussions, and conduct mini-debates in class. They need to communicate positively in English during class.Before class students are required to prepare by reading designated parts of the text, preparing handouts for presentations, and other items such as pre-learning vocabulary in order to enjoy communicating in English and to improve their communication skills. After class they also need to reflect on their communication skills.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Depends on teacher
2.	English Communication 1	Depends on teacher
3.	English Communication 2	Depends on teacher
4.	English Communication 3	Depends on teacher
5.	English Communication 4	Depends on teacher
6.	English Communication 5	Depends on teacher
7.	English Communication 6	Depends on teacher
8.	English Communication 7	Depends on teacher
9.	English Communication 8	Depends on teacher
10.	English Communication 9	Depends on teacher
11.	English Communication 10	Depends on teacher
12.	English Communication 11	Depends on teacher
13.	English Communication 12	Depends on teacher
14.	English Communication 13	Depends on teacher
15.	English Communication 14	Depends on teacher

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Depends on teacher

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Tests / quizzes	40%	Depends on teacher
Other factors (e.g. class participation, presentations, assignments, communication skills)	60%	Depends on teacher

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Depends on teacher

020810～13

英語コミュニケーションⅡB

担当者未定、M.A.Guziak

授業テーマ:

授業の概要: Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

到達目標: The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

授業方法: Visual audio learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, have discussions, and conduct mini-debates in class. They need to communicate positively in English during class.Before class students are required to prepare by reading designated parts of the text, preparing handouts for presentations, and other items such as pre-learning vocabulary in order to enjoy communicating in English and to improve their communication skills. After class they also need to reflect on their communication skills.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Depends on teacher
2.	English Communication 1	Depends on teacher
3.	English Communication 2	Depends on teacher
4.	English Communication 3	Depends on teacher
5.	English Communication 4	Depends on teacher
6.	English Communication 5	Depends on teacher
7.	English Communication 6	Depends on teacher
8.	English Communication 7	Depends on teacher
9.	English Communication 8	Depends on teacher
10.	English Communication 9	Depends on teacher
11.	English Communication 10	Depends on teacher
12.	English Communication 11	Depends on teacher
13.	English Communication 12	Depends on teacher
14.	English Communication 13	Depends on teacher
15.	English Communication 14	Depends on teacher

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Depends on teacher

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Tests / quizzes	40%	Depends on teacher
Other factors (e.g. class participation, presentations, assignments, communication skills)	60%	Depends on teacher

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Depends on teacher

020901～65

初級フランス語基礎Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: フランス語の文法の前半部分を学習する。フランス語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従ってその理解はとても重要であると言える。

到達目標: 簡単なフランス語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行ってゆく。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、フランス語のアルファベット、発音	フランス語のアルファベットの発音練習
2.	フランス語の母音、アクサン記号	発音練習
3.	母音字の発音、子音字の発音	発音練習
4.	名詞の性と数、不定冠詞・定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
5.	形容詞、主語人称代名詞、etreの直説法現在	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
6.	avoir の直説法現在形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
7.	前置詞と定冠詞の縮約	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
8.	第一群規則動詞の現在形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
9.	疑問形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
10.	aller と venir の直説法現在形、指示形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
11.	所有形容詞、疑問形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
12.	部分冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
13.	近接未来と近接過去	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
14.	第二群規則動詞の直説法現在	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法: 小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	フランス語の文法の前半部分に関して「簡単なフランス語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する
授業への参加度	20%	フランス語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者により異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

021001～65

初級フランス語基礎Ⅱ

授業テーマ:

授業の概要: フランス語の文法の後半部分を学習する。フランス語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。

到達目標: 簡単なフランス語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行ってゆく。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	命令法	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2.	疑問代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
3.	非人称動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
4.	形容詞・副詞の比較級・最上級	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
5.	副詞的代名詞 en と y	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
6.	現在分詞、ジェロンディフ	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
7.	関係代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
8.	直説法複合過去1	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
9.	直説法複合過去2	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
10.	補語人称代名詞、強勢形人称代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
11.	代名動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
12.	単純未来形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
13.	指示代名詞、所有代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
14.	半過去形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	フランス語の文法の後半部分に関して「簡単なフランス語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかを評価する
授業への参加度	20%	フランス語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者によって異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

021101～65

初級フランス語演習Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスおよび発音練習	フランス語のアルファベットの発音練習
2.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

021201～65

初級フランス語演習Ⅱ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスと前期の復習	
2.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

021301～63

初級ドイツ語基礎Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: ドイツ語の文法の前半部分を学習する。ドイツ語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。

到達目標: 簡単なドイツ語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行ってゆく。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、ドイツ語のアルファベット、発音	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2.	第1課　動詞の現在人称変化（1）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3.	第1課　重要動詞　sein と haben	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4.	第1課　人称代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5.	第2課　人称代名詞の格変化	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6.	第2課　疑問詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7.	第3課　名詞の性と格、不定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8.	第3課　名詞の複数形、定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9.	第4課　不規則動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10.	第4課　命令形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11.	第5課　不定冠詞類	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12.	第5課　定冠詞類	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13.	第6課　前置詞の格支配	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14.	第6課　前置詞と定冠詞の融合形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法: 小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	ドイツ語の文法の前半部分に関して「簡単なドイツ語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する。
授業への参加度	20%	ドイツ語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 寺井・川島・池田・ノイマン「シンプル・ドイツ語」（郁文堂）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

021401～63

初級ドイツ語基礎Ⅱ

授業テーマ:

授業の概要: ドイツ語の文法の後半部分を学習する。ドイツ語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。

到達目標: 簡単なドイツ語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行ってゆく。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第7課　話法の助動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2.	第7課　未来形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3.	第8課　分離動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4.	第8課　再帰代名詞の格変化	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5.	第8課　再帰動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6.	第9課　形容詞の語尾変化	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7.	第9課　形容詞・副詞の比較級と最上級	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8.	第10課　動詞の三基本形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9.	第10課　時称（1）　過去	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10.	第11課　過去分詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11.	第11課　時称（2）　現在完了	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12.	第11課　時称（2）　現在完了	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13.	補足1　前置詞の格支配	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14.	補足2　前置詞と定冠詞の融合形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	ドイツ語の文法の後半部分に関して「簡単なドイツ語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する。
授業への参加度	20%	ドイツ語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 寺井・川島・池田・ノイマン「シンプル・ドイツ語」（郁文堂）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

021501～63

初級ドイツ語演習Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスおよび発音練習	ドイツ語のアルファベットの発音練習
2.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

021601～63

初級ドイツ語演習Ⅱ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスおよび前期の復習	
2.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

022101～60

初級イタリア語基礎Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: イタリア語の文法の前半部分を学習する。イタリア語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従ってその理解はとても重要であると言える。

到達目標: 簡単なイタリア語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行ってゆく。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、イタリア語のアルファベット、発音	イタリア語のアルファベットの発音練習
2.	不定冠詞、定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3.	名詞の性と数	発音練習、学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4.	規則動詞(-are型)の活用	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習ご復習する
5.	規則動詞(-ere型)(-ire型)の活用	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
6.	動詞 essere, avere	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
7.	形容詞、人称代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
8.	前置詞 di、数詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
9.	所有形容詞、疑問形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
10.	前置詞 diと定冠詞の結合	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
11.	指示代名詞と指示形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
12.	疑問形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
13.	部分冠詞、前置詞 aと定冠詞の結合	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
14.	不規則動詞fare	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法: 小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	イタリア語の文法の前半部分に関して「簡単なイタリア語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する
授業への参加度	20%	イタリア語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者により異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

022201～60

初級イタリア語基礎Ⅱ

授業テーマ:

授業の概要: イタリア語の文法の後半部分を学習する。イタリア語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。

到達目標: 簡単なイタリア語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行ってゆく。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	命令法	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2.	疑問代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
3.	非人称動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
4.	形容詞・副詞の比較級・最上級	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
5.	現在分詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
6.	関係代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
7.	半過去形(essereを使って)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
8.	半過去形(fareを使って)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
9.	代名動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
10.	単純未来形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
11.	過去分詞と近過去(avereをとる動詞)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
12.	近過去の応用練習(avereをとる動詞)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
13.	過去分詞と近過去(essere をとる動詞)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
14.	近過去の応用練習(essere をとる動詞)	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	イタリア語の文法の後半部分に関して「簡単なイタリア語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかを評価する
授業への参加度	20%	イタリア語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者によって異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

022301～60

初級イタリア語演習Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスおよび発音練習	イタリア語のアルファベットの発音練習
2.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

022401～60

初級イタリア語演習Ⅱ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスと前期の復習	
2.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	イタリア語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

022501～60

初級スペイン語基礎Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: スペイン語の文法の前半部分を学習する。スペイン語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従ってその理解はとても重要であると言える。

到達目標: 簡単なスペイン語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行ってゆく。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、スペイン語のアルファベット、発音	スペイン語のアルファベットの発音練習
2.	不定冠詞、定冠詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
3.	名詞の性と数	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
4.	規則動詞の活用	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
5.	規則動詞の活用	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
6.	動詞ser と estar	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
7.	形容詞、人称代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習復習する
8.	前置詞、数詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
9.	所有形容詞、疑問形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
10.	前置詞と定冠詞の結合	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
11.	指示代名詞と指示形容詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
12.	疑問形	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
13.	部分冠詞、前置詞と定冠詞の結合	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
14.	不規則動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習を予習復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法: 小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	スペイン語の文法の前半部分に関して「簡単なスペイン語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかどうかを評価する
授業への参加度	20%	スペイン語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者により異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

022601～60　**初級スペイン語基礎Ⅱ**

授業テーマ:

授業の概要:　スペイン語の文法の後半部分を学習する。スペイン語の文法は非常に合理的にできており、それを習得することで言語の操作は格段に楽になる。従って、その理解はとても重要であると言える。

到達目標:　簡単なスペイン語のテキストが、辞書を引きながら読めるようになることを目標とする。文法の理解を確認するには、作文が最適である。それゆえ、その文法項目の最終的な確認を作文を通して行ってゆく。

授業方法:　講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	命令法	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
2.	疑問代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3.	非人称動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4.	形容詞・副詞の比較級・最上級	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5.	現在分詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6.	関係代名詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7.	点過去形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8.	点過去形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9.	代名動詞	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10.	単純未来形	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11.	過去分詞と線過去（1）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12.	線過去の応用練習（1）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13.	過去分詞と線過去（2）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14.	線過去の応用練習（2）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　小テスト等は採点の上返却します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	スペイン語の文法の後半部分に関して「簡単なスペイン語の文を辞書を引きながら読める」程度の文法理解に達したかを評価する
授業への参加度	20%	スペイン語の文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書:　担当者によって異なります

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

022701～60

初級スペイン語演習Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスおよび発音練習	スペイン語のアルファベットの発音練習
2.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

022801～60

初級スペイン語演習Ⅱ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習において、四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスと前期の復習	
2.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	スペイン語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点の上返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において積極的に練習に加わり、初歩的な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

022901～66

初級ハングル基礎Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: 発音、文字の読み方、文の構造を知るための文法を学ぶ。その前半部分である。

到達目標: ハングルの基本的な文法を理解し、辞書を用いて平易な文章が読める能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、発音の練習	
2.	発音、文字の読み方、文法の練習（1）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3.	発音、文字の読み方、文法の練習（2）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4.	発音、文字の読み方、文法の練習（3）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5.	発音、文字の読み方、文法の練習（4）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6.	発音、文字の読み方、文法の練習（5）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7.	発音、文字の読み方、文法の練習（6）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8.	発音、文字の読み方、文法の練習（7）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9.	発音、文字の読み方、文法の練習（8）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10.	発音、文字の読み方、文法の練習（9）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11.	発音、文字の読み方、文法の練習（10）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12.	発音、文字の読み方、文法の練習（11）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13.	発音、文字の読み方、文法の練習（12）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14.	発音、文字の読み方、文法の練習（13）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法: 小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	「簡単なハングルの文を辞書を引きながら読める」程度の言語理解に達したかどうかを評価する
授業への参加度	20%	ハングルの文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

023001～66

初級ハングル基礎Ⅱ

授業テーマ:

授業の概要: 発音、文字の読み方、文の構造を知るための文法を学ぶ。その後半部分である。

到達目標: ハングルの基本的な文法を理解し、辞書を用いて平易な文章が読める能力を身に着けることを目標とする。

授業方法: 講義と演習の併用である。文法の説明の際は講義形式であり、その文法項目を練習する際は演習形式となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	発音、文字の読み方、文法の練習（1）	
2.	発音、文字の読み方、文法の練習（2）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3.	発音、文字の読み方、文法の練習（3）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4.	発音、文字の読み方、文法の練習（4）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5.	発音、文字の読み方、文法の練習（5）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6.	発音、文字の読み方、文法の練習（6）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7.	発音、文字の読み方、文法の練習（7）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8.	発音、文字の読み方、文法の練習（8）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9.	発音、文字の読み方、文法の練習（9）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10.	発音、文字の読み方、文法の練習（10）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11.	発音、文字の読み方、文法の練習（11）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12.	発音、文字の読み方、文法の練習（12）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13.	発音、文字の読み方、文法の練習（13）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14.	発音、文字の読み方、文法の練習（14）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	「簡単なハングルの文を辞書を引きながら読める」程度の言語理解に達したかどうかを評価する
授業への参加度	20%	ハングルの文法理解のための演習授業において、積極的に練習に加わり、文法理解に達するための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

023101～66

初級ハングル演習Ⅰ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅰと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。読み、書き、聞き、話す4技能に渡っての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習をするとともに、四技能に渡っての初歩的な運用能力を身に着けることを目指す。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、発音の練習	
2.	会話、リスニングの練習（1）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3.	会話、リスニングの練習（2）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4.	会話、リスニングの練習（3）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5.	会話、リスニングの練習（4）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6.	会話、リスニングの練習（5）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7.	会話、リスニングの練習（6）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8.	会話、リスニングの練習（7）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9.	会話、リスニングの練習（8）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10.	会話、リスニングの練習（9）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11.	会話、リスニングの練習（10）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12.	会話、リスニングの練習（11）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13.	会話、リスニングの練習（12）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14.	会話、リスニングの練習（13）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 語学は特に積み重ねの科目であるので、予習・復習はことのほか大切です。学習を開始する前に、テレビやラジオの語学講座などで当該言語の音声に慣れておくのも大変有効です。

フィードバックの方法: 小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な言語運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において、積極的に練習に加わり、初歩的な言語運用能力を身に着けるための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

023201～66

初級ハングル演習Ⅱ

授業テーマ:

授業の概要: 原則として初級基礎Ⅱと並行して履修し、基礎で学んだ知識の応用練習を行う。読み、書き、聞き、話す四技能に渡っての言語運用能力を身に着けることを目指す。また、生きた言語としての文化背景にもふれる。

到達目標: 初級基礎で学ぶ文法の応用練習をするとともに、四技能に渡っての初歩的な運用能力を身に着けることを目指す。

授業方法: 演習授業である。15回の授業の中で映像や音源なども用いて四技能の訓練につとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、前半の復習	
2.	会話、リスニングの練習（1）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
3.	会話、リスニングの練習（2）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
4.	会話、リスニングの練習（3）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
5.	会話、リスニングの練習（4）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
6.	会話、リスニングの練習（5）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
7.	会話、リスニングの練習（6）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
8.	会話、リスニングの練習（7）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
9.	会話、リスニングの練習（8）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
10.	会話、リスニングの練習（9）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
11.	会話、リスニングの練習（10）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
12.	会話、リスニングの練習（11）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
13.	会話、リスニングの練習（12）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
14.	会話、リスニングの練習（13）	学習する文法項目に割り当てられた練習問題を予習・復習する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト等は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	四技能にわたっての初歩的な言語運用能力を身に着けたかどうかを判断する
授業への参加度	20%	演習授業において、積極的に練習に加わり、初歩的な言語運用能力を身に着けるための努力をしたかどうかを判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

027100、60

総合日本語・日本事情Ⅰ

中川　　裕子

授業テーマ:　学生の日本語能力の向上と専門分野での学業の成就を支援する。

授業の概要:　文章表現能力の向上及び、口頭表現能力（上級から超級）の向上をめざす。新聞、雑誌、映像などで扱われる社会一般の話題を中心に学習を進める。毎回の授業内容に基づき、目的に合致する文章を書いたり話したりする上で必要な構成や表現を身につける。テーマ別ディカッションを実施する。さらに、身近な話題について、独自の視点でスピーチできることをめざし、毎回5分間スピーチを実施する。スピーチ原稿作成のため、提出課題の一つである「課題ノート」を配布する。これには、いくつかの項目について、各自が経験したことや観察したことなどを独自の視点でまとめる課題が含まれる。学期末には、学習内容を踏まえ、各自の興味に基づいたテーマでの10分程度の口頭発表を実施する。

到達目標:
①新聞、雑誌、映像などで扱われる社会一般の内容が理解できること。
②構成をふまえた文章が書けること。
③社会一般の話題についてディスカッションができること。
④5分間スピーチで、身近な話題を独自の視点で述べられること。
⑤各自の興味に基づくテーマで10分程度の口頭発表ができること。

授業方法:　演習形式。必要に応じ視聴覚教材を使用する。毎回の授業内容で扱う基本的な表現形式の理解、運用練習を中心に進める。学習内容の定着をはかるため、毎回宿題を課す。毎回、5分間スピーチ、テーマ別ディスカッションを実施する。学期末には各自の興味に基づくテーマで10分程度の口頭発表を実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要説明、場面に応じた自己紹介	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
2.	文章構成（序論、本論、結論）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
3.	論理の展開（問題点の指摘、解決策の提案、意見の主張）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
4.	論理の展開（問題提起、反対の立場の提示、意見の主張）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
5.	大意要約	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
6.	引用表現	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
7.	ことわざ・慣用表現の効果的な使用法	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
8.	生き生きとした描写（擬態語や擬声語の効果的な使用法）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
9.	比喩表現	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
10.	分析して説明する	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
11.	因果関係の表現	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
12.	事実の報告（報告文の作成）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
13.	要点を述べる	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。次回の口頭発表の準備をする。
14.	学期末課題の口頭発表	学習内容の総復習をする。
15.	まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　学習した内容を授業内だけではなく、授業外でも積極的に使用すること。

フィードバックの方法:　毎回の宿題は、添削し返却する。 提出課題は、添削しコメントをつけて返却する。スピーチ及び口頭発表については、授業内でコメントし、さらにコメントシートに詳細を記入し配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加度	15%	出席及び授業への積極的参加度により評価する。
毎回の宿題	15%	到達目標①②③④に必要な表現の理解度により評価する。
提出課題	20%	到達目標②の文章や到達目標④⑤の原稿の仕上がり度により評価する。
発表	30%	到達目標③④⑤の達成度により評価する。
定期試験	20%	到達目標①②③に必要な表現などの理解度により評価する。

教科書:　なし

参考書:　授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

027200、60

総合日本語・日本事情Ⅱ

中川　　裕子

授業テーマ:

「総合日本語・日本事情Ⅰ」を受け、学生の日本語能力の向上と専門分野での学業の成就を支援する。

授業の概要:

「総合日本語・日本事情Ⅰ」の成果をふまえ、さらなる能力向上をめざす。特に、文章表現能力と口頭表現能力に重点を置く。学期前半は、論文読解練習と構成練習を通し、表現形式を理解する。最終的に、各自の興味ある内容について、論文形式に基づき、レポートを作成する。学期後半では、社会一般の話題、専門に関する内容について、わかりやすく話せることをめざす。レポートの内容についての口頭発表も実施する。社交文書の理解に必要な形式や表現を学習する。毎回のスピーチを通して、身近な話題を独自の視点で述べられることをめざす。スピーチ原稿作成のため、提出課題の一つである「課題ノート」を配布する。これには、いくつかの項目について、各自が経験したこと、観察したことを独自の視点でまとめる課題が含まれる。

到達目標:

①論文形式を理解し、論文が読めること。
②論文形式に基づきレポートが書けること。
③社会一般の話題、専門に関する内容について、わかりやすく話せること。
④社交文書が理解できること。
⑤5分間スピーチで、身近な話題を独自の視点で述べられること。
⑥レポートの内容の口頭発表ができること。

授業方法:

演習形式。必要に応じ視聴覚教材を使用する。毎回5分間スピーチを実施。学期前半は、論文読解と文章構成練習を通し、表現形式を身につけることを中心に授業を進める。論文形式に基づくレポートの提出を課す。学期後半は、さまざまな表現形式の理解と、テーマ別の口頭発表練習を中心に授業を進める。授業内容の定着をはかるため、毎回、宿題を配布し提出を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要説明、論文読解（序論の構成）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
2.	論文読解と文章構成練習（序論）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
3.	論文読解（本論の構成）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
4.	論文読解と文章構成練習（本論）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
5.	論文読解（結論）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
6.	論文読解と文章構成練習（結論、その他）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
7.	情景の詳細な描写（好きな映画・小説などの紹介）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。映画や小説の紹介の準備をする。
8.	相手の興味を引き付ける工夫（自国の文化・行事の紹介）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。5分間スピーチの準備をする。文化・行事の紹介の準備をする。
9.	待遇表現の適切な使用方法（相手への配慮ある表現を用いた情報提供）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
10.	社交文書に用いられる表現（内容理解・書く練習）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
11.	目的に応じたグラフや表の説明（具体的な数値を用いて社会の動きを説明する）	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
12.	抽象的な内容や複雑な仕組みをわかりやすく説明する	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。毎回の5分間スピーチの準備をする。
13.	複眼的視点で意見を述べる	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。次回の口頭発表の準備をする。
14.	レポート内容の口頭発表	学習内容の総復習をする。
15.	まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:

学習した内容を授業内だけではなく、授業外でも積極的に使用すること。

フィードバックの方法:

毎回の宿題は、添削し教室内で返却する。提出課題は、添削及びコメントをつけて教室で返却する。スピーチ及び口頭発表については、授業内でコメントし、さらにコメントシートに詳細を記入し配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への積極的参加	15%	出席及び授業への積極的参加度により評価する。
毎回の宿題	15%	到達目標①②③④に必要な表現などの理解度により評価する。
提出課題	30%	到達目標②のレポートや到達目標③⑤の原稿の仕上がり度により評価する。
発表	20%	到達目標③⑤⑥の達成度により評価する。
定期試験	20%	到達目標①②③④⑤に必要な表現などの定着度により評価する。

教科書:

なし

参考書:

授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

031700

中級フランス語Ⅰ

沼田　　千恵

授業テーマ:

対話形式の練習を中心とした初級フランス語の復習・中級フランス語の修得。

授業の概要:

対話形式での基本的な文の練習を行いながら、初級フランス語の復習と中級フランス語の習得を目指します。日常生活でよく用いる簡単な文の練習から始め、少しずつ進んだ表現も学びます。より実践的な文が習得できるように、文法事項の説明は最小限にとどめ、発音や会話中心に授業を行います。クイズなどの形式も交えながら、楽しんでフランス語を身につけられることを目指します。

到達目標:

日常生活に必要な、実践的なフランス語の表現を身につけること。またそのために必要な最低限のフランス語の文法を理解すること。

授業方法:

テキスト各課の必要単語の発音練習の後、基本的な表現を例文に則して自分で作り、さらにそれを用いて、ペアで対話の練習をします。楽しみながら学習できるように、クイズ形式の練習も行います

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自分のことを伝えよう(1)—名前、居住地、職業を伝える	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
2.	自分のことを伝えよう(1)—名前、居住地、職業を伝える	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
3.	初級フランス語の復習(1)—avoir, êtrte, 第1群規則動詞	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
4.	自分のことを伝えよう(2)—国籍、年齢、兄弟姉妹の有無、話せる言語を伝える	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
5.	自分のことを伝えよう(2)—国籍、年齢、兄弟姉妹の有無、話せる言語を伝える	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
6.	初級フランス語の復習(2)—数詞と形容詞	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
7.	家族や友人を紹介しよう —人の容姿や性格を描写する	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
8.	趣味や好みを紹介しよう —趣味、余暇の行動について話す	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
9.	趣味や好みを紹介しよう —趣味、余暇の行動について話す	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
10.	初級フランス語の復習(3)—疑問文、否定文	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
11.	行動について話そう したばかりのこと、している最中のこと、これからすることについて話す—動詞aller,venirを用いた表現	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
12.	道案内をしよう—道順についてやりとりする	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
13.	行動について話そう したばかりのこと、している最中のこと、これからすることについて話す—動詞aller,venirを用いた表現	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
14.	初級フランス語の復習(4)—場所を表す表現、命令文	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)
15.	まとめと復習	予習・復習(授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フランス語を上達するためには、声に出して練習することが重要です。積極的に授業に参加して、フランス語の発音や動詞の使い方に慣れましょう。映像なども随時鑑賞しますので、文化への関心も高めましょう。

フィードバックの方法:

提出課題を添削の上返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・学習態度	40%	出席と授業への参加度を成績評価の対象とします。
確認テスト	60%	授業内に行う確認テストを成績評価の対象とします。

教科書:

今中舞衣子・中條健志, アクティヴ！, 白水社,2018年, 978-4-560-06129-9
オ・パ・カマラッド！—足並みそろえて,フランス語—藤本武司他、駿河台出版社、2015年,978-4-411-00830-5 C1085

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

numachiepc2@yahoo.co.jp

031760

中級フランス語Ⅰ

森田　　いく子

授業テーマ:　フランス語の初級段階から脱出しよう！

授業の概要:　中級は初級から上級への橋渡しです。初級段階に留まっていずに、そこから抜け出すためには、やはり日々の努力が必要ですが、それは必ずや楽しい日々になるでしょう！まず、一回生で習った初級文法をプリントで復習しましょう。その際、日常生活を題材にして仏作文もします。テキストはワインで有名な土地ブルゴーニュ地方に主人公の女の子美香が訪問するという設定になっています。まだまだ初級文法の続きですが、学ぶべき事項が、会話と文章とで、楽しく学習できるように作られています。時には横道に逸れて、『星の王子さま』の狐との会話を味わいたいと思います。

到達目標:　仏検3級を受ける、もしくは、DELFに挑戦する。

授業方法:　新しい事柄については、まず教師が説明しますが、演習、実習をグループで学生さん同士で行い、互いに教え合うことができたら、と思う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	初級文法の復習1。発音を中心に。	プリントの復習
2.	初級文法の復習2。名詞を中心に。	プリントの予習と復習
3.	初級文法の復習3。動詞を中心に。特に複合過去の復習。	プリントの復習
4.	レッスン1　受動態	授業の復習
5.	レッスン2　関係代名詞 qui, que	〃
6.	レッスン3　関係代名詞 dont, où	〃
7.	レッスン1～3の復習	〃
8.	レッスン4　疑問代名詞	〃
9.	レッスン5　条件法	〃
10.	レッスン5　条件法	〃
11.	レッスン6　代名動詞	〃
12.	レッスン6　代名動詞の複合過去	〃
13.	レッスン7　半過去	〃
14.	レッスン7　半過去と複合過去、大過去	〃
15.	レッスン1～7までの総復習	〃

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物は添削して教室で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
自己確認クイズ	40	
期末テスト	60	既習事項を理解し、かつ、身についているかどうか

教科書:　藤田裕二著 『パリ-ブルゴーニュ』 朝日出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール

031800

中級フランス語Ⅱ

沼田　　千恵

授業テーマ:

対話形式の練習を中心とした初級フランス語の復習・中級フランス語の修得とその応用。

授業の概要:

対話形式での基本的な文の練習を行いながら、中級フランス語の習得と定着を目指します。日常生活でよく用いる簡単な文の練習から始め、少しずつ進んだ表現も学びます。より実践的な文が習得できるように、文法事項の説明は最小限にとどめ、発音や会話中心に授業を行います。クイズなどの形式も交えながら、楽しんでフランス語が身につけられることを目指します。

到達目標:

日常生活に必要な、実践的なフランス語の表現を身につけること。またそのために必要な最低限のフランス語の文法を理解すること。

授業方法:

テキスト各課の必要単語の発音練習の後、基本的な表現を例文に則して自分で作り、さらにそれを用いて、ペアで対話の練習をします。楽しみながら学習できるように、クイズ形式の練習も行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	１日の行動や習慣について言う—代名動詞と時間の表現	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
2.	１日の行動について言う—不規則動詞の活用	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
3.	過去の行為や出来事について伝える—直説法複合過去、季節、年月日の表現	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
4.	過去の行為や出来事について伝える—直説法複合過去、季節、年月日の表現（続き）	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
5.	過去の習慣、状況、気持ちについて伝える—直説法半過去	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
6.	過去の習慣、状況、気持ちについて伝える—複合過去と半過去の使い分け	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
7.	まとめと確認テスト	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
8.	インターネットを使って、情報を比較検討する—比較級と最上級	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
9.	インターネットを使って、情報を比較検討する—天候、気候の表現	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
10.	未来について語る—直説法単純未来、前未来	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
11.	未来について語る—直説法単純未来、前未来(続き)	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
12.	願望や依頼を伝える—条件法現在	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
13.	インタビューをする—疑問詞と接続詞	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
14.	インタビューをする—疑問詞と接続詞（続き）	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）
15.	まとめと確認テスト	予習・復習（授業中に出された課題・オーディオ教材での音声チェックを含む）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フランス語を上達するためには、声に出して練習することが重要です。積極的に授業に参加して、フランス語の発音や動詞の使い方に慣れましょう。映像なども随時鑑賞しますので、文化への関心も高めましょう。

フィードバックの方法:

初回授業でのアンケート。授業内容についての聞き取り。提出課題は添削の上、返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・授業態度	40%	出席と授業への参加度を成績評価の対象とします。
確認テスト	60%	授業内に行う確認テストを成績評価の対象とします。

教科書:

今中舞衣子・中條健志、アクティヴ！　、2018年、白水社　978-4-560-06129-9
オ・パ・カマラッド！—足並みそろえて,フランス語—藤本武司他、駿河台出版社、2015年。
978-4-411-00830-5

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

email: numachiepc2@yahoo.co.jp

031860

中級フランス語Ⅱ

森田　　いく子

授業テーマ:　初級段階から抜け出そう！

授業の概要:　中級は初級から上級への橋渡しです。初級段階に留まっていずに、そこから抜け出すためには、やはり日々の努力が必要ですが、それは必ずや楽しい日々になるでしょう！まず、一回生で習った初級文法をプリントで復習しましょう。その際、日常生活を題材にして仏作文もします。テキストはワインで有名な土地ブルゴーニュ地方に主人公の女の子美香が訪問するという設定になっています。まだまだ初級文法の続きですが、学ぶべき事項が、会話と文章とで、楽しく学習できるように作られています。時には横道に逸れて、自由に場面設定して、フランス語で簡単な会話をしたいと思います。

到達目標:　仏検3級を受験する。もしくはDELFに挑戦する。

授業方法:　新しい事項に関しては、まず教師が説明しますが、演習はグループで行い、お互いに教え合い刺激し合ってもらいたいと思います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	前期の復習１。再び発音練習。動詞の時制に関して。	授業の復習
2.	前期の復習２。動詞の法に関して。直説法、命令法、条件法。	〃
3.	前期の復習３。名詞、代名詞、形容詞に関して。	〃
4.	レッスン８　接続法	〃
5.	レッスン８　接続法	〃
6.	レッスン９　色々な前置詞	〃
7.	レッスン１０　現在分詞	〃
8.	レッスン１０　ジェロンディフ	〃
9.	レッスン８～１０の復習	〃
10.	レッスン１１　色々な副詞	〃
11.	レッスン１２　所有代名詞	〃
12.	レッスン１３　間接話法	〃
13.	レッスン１３　時制の一致	〃
14.	レッスン１４　強調構文	〃
15.	レッスン８～１４までの総復習	〃

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物は添削して教室で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
自己確認クイズ	40	
定期テスト	60	既習事項を理解し、かつ身につけているかどうか。

教科書:　藤田裕二著　『パリ-ブルゴーニュ』　朝日出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　E メール

031900、60

中級ドイツ語 I

B.Rohde

授業テーマ: Fit in Deutsch

授業の概要: この授業を通しては、単にドイツ語を学ぶだけでなく、異文化への理解を深めます。
コミュニケーションをとる時は、ドイツ語が話せるようになるだけでは不十分です。
例えば、ボディーランゲージだけでも、日本とは全く違う文化があります。そのような振る舞いやドイツの文化的背景も理解したうえで、自分の言葉でドイツ語を話し、会話ができるようになることがこの授業の目標です。
また、ロールプレイや小スピーチなどの練習によってドイツ語を話す自信をつけてもらいます。同時に、日本とドイツの文化の違いを学びます。

到達目標: 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4つの能力を高めるのが目的です。
その中でも日常生活に必要な会話の要素が中心となります。
しかし、しっかり文法を身につけないと会話ができないので、そのために宿題として短い作文の練習をします。この4つの能力が調和的に身につくことが到達目標となります。

授業方法: 授業時間中はロールプレイや小スピーチの練習など、会話を中心に授業を進めます。
また、宿題として短い作文を課すことで、授業で学んだことを振り返り、ドイツ語の文法を身に付けてもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Begrüßung 挨拶 Wiederholungen 復習	授業時に渡す宿題をする
2.	Wohnen (1) 住まい Zimmersuche, Beschreibung von Möbeln und Wohnungen 部屋探し、家具や住まいの比較	授業時に渡す宿題をする
3.	Wohnen (2) 住まい	授業時に渡す宿題をする
4.	Wohnen (3) 住まい	授業時に渡す宿題をする
5.	Essen (1) 食事 Bestellung und Bezahlen im Restaurant レストランでの注文と支払	授業時に渡す宿題をする
6.	Essen (2) 食事	授業時に渡す宿題をする
7.	Essen (3) 食事 internationale Küche 世界各国料理	授業時に渡す宿題をする
8.	Einkaufen (1) 買い物	授業時に渡す宿題をする
9.	Einkaufen (2) 買い物	授業時に渡す宿題をする
10.	Einkaufen (3) 買い物	授業時に渡す宿題をする
11.	Zusammenleben (1) WGでの共同生活 Arbeitsteilung 家事分担	授業時に渡す宿題をする
12.	Zusammenleben (2) WGでの共同生活 umweltbewusstes Leben 環境に配慮した生活	授業時に渡す宿題をする
13.	Präsentationen vorbereiten プレゼンテーションの準備	プレゼンテーションの準備をする
14.	Zusammenleben (3) WGでの共同生活	授業時に渡す宿題をする プレゼンテーションの準備をする
15.	Mini-Präsentationen ミニプレゼンテーション	

受講者へのメッセージやアドバイス: ドイツ語を合理的に学ぶために必要なことは以下の4つです。
1. 単語ノートを作る
2. 教科書のCDを聞く
3. ドイツ語を声に出して練習し、自分の耳で聞いて反復練習する
4. 自分の考えを文章にする

フィードバックの方法: 毎回の授業で課題と宿題を提出してもらい、採点して次回の授業で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	文法がどれくらい身についたかを見ます。
課題提出	30%	書く能力がどれくらい身についたかを見ます。
授業態度	30%	会話練習がしっかりできたかを見ます。

教科書: Farbkasten Deutsch 2（CD付き 自己表現のためのドイツ語2 三修社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

032000、60

中級ドイツ語Ⅱ

B.Rohde

授業テーマ: Fit in Deutsch

授業の概要: この授業を通しては、単にドイツ語を学ぶだけでなく、異文化への理解を深めます。
コミュニケーションをとる時は、ドイツ語が話せるようになるだけでは不十分です。
例えば、ボディーランゲージだけでも、日本とは全く違う文化があります。そのような振る舞いやドイツの文化的背景も理解したうえで、自分の言葉でドイツ語を話し、会話ができるようになることがこの授業の目標です。
また、ロールプレイや小スピーチなどの練習によってドイツ語を話す自信をつけてもらいます。同時に、日本とドイツの文化の違いを学びます。

到達目標: 聞くこと、話すこと、読むこと、書くことの4つの能力を高めるのが目的です。
その中でも日常生活に必要な会話の要素が中心となります。
しかし、しっかり文法を身につけないと会話ができないので、そのために宿題として短い作文の練習をします。この4つの能力が調和的に身につくことが到達目標となります。

授業方法: 授業時間中はロールプレイや小スピーチの練習など、会話を中心に授業を進めます。
また、宿題として短い作文を課すことで、授業で学んだことを振り返り、ドイツ語の文法を身に付けてもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Partnerschaft und Familie (1) パートナーシップと家族 Traumpartner, studierende Eltern 理想のパートナー、親であり学生であり…	授業時に渡す宿題をする
2.	Partnerschaft und Familie (2) パートナーシップと家族	授業時に渡す宿題をする
3.	Partnerschaft und Familie (3) パートナーシップと家族	授業時に渡す宿題をする
4.	Interkulturell leben (1) 多文化社会 Ausländer in Deutschland ドイツで暮らす外国人	授業時に渡す宿題をする
5.	Interkulturell leben (2) 多文化社会	授業時に渡す宿題をする
6.	Interkulturell leben (3) 多文化社会	授業時に渡す宿題をする
7.	Stellensuche (1) 就職活動 Bewerbung und Bewerbungstipps 就職活動とそのヒント	授業時に渡す宿題をする
8.	Stellensuche (2) 就職活動	授業時に渡す宿題をする
9.	Stellensuche (3) 就職活動	授業時に渡す宿題をする
10.	Besuch in Frankfurt (1) フランクフルトでの再会 Sehenswürdigkeiten in Frankfurt フランクフルトの名所	授業時に渡す宿題をする
11.	Besuch in Frankfurt (2) フランクフルトでの再会	授業時に渡す宿題をする
12.	Gespräch über die Zukunft 将来の展望	授業時に渡す宿題をする
13.	Briefe und Mitteilungen schreiben (1) 手紙とメッセージを書く	手紙を書く
14.	Reisen in Deutschland ドイツでの旅	まとめの予習
15.	Zusammenfassung まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: ドイツ語を合理的に学ぶために必要なことは以下の4つです。
1. 単語ノートを作る
2. 教科書のCDを聞く
3. ドイツ語を声に出して練習し、自分の耳で聞いて反復練習する
4. 自分の考えを文章にする

フィードバックの方法: 毎回の授業で課題と宿題を提出してもらい、採点して次回の授業で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	文法がどのくらい身についたかを見ます。
課題提出	30%	書く能力ががどのくらい身についたかを見ます。
授業態度	30%	会話練習がしっかりできたかを見ます。

教科書: Farbkasten Deutsch 2（CD付き 自己表現のためのドイツ語2 三修社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

032101

中級中国語Ⅰ

工藤　　貴正

授業テーマ:　講読教材を使用してリスニングと文法・作文を学習する中国語総合の授業。

授業の概要:　初級で学習した語学知識を土台に、講読教材を使って中級中国語を総合的に学習する。この授業では最近の中国事情を理解しながら、リスニングと文型と文法に重点を置いて、中国語の多様な表現の把握に努めることを目標とする。

到達目標:　基本的な中国語の文法と文型をマスターした上で、中国語の音声と文字を一致できるようにし、中国語検定3級のリスニングの能力のレベルまで到達できるようにする。

授業方法:　授業は文法→講読→練習問題という形式で進行し、基本的には2回の授業をかけて1課を終える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入 中国語と中国文化について説明し、授業の進め方について概説する。	初級文法の要点を確認する。
2.	第1課「大学生の週末」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
3.	第1課「大学生の週末」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
4.	第2課「飲食の習慣」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
5.	第2課「飲食の習慣」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
6.	第3課「北京の交通事情」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
7.	第3課「 北京の交通事情」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
8.	復習 第3課まで学んだ成語、慣用表現と重要文型を含む文章をリスニングの小テストを行うことで復習する。	第1課から第3課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。
9.	第4課「数字についての好み」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
10.	第4課「数字についての好み」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
11.	第5課「大学生のアルバイト事情」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
12.	第5課「大学生のアルバイト事情」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
13.	第6課「集団生活のメリット」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
14.	第6課「集団生活のメリット」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
15.	まとめ 春学期で学んだ文法、成語、慣用表現などを復習する。	第4課から第6課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　中国語の文章を翻訳し、翻訳した日本語を通して中国語を聞いただけで意味がわかるように、リスニング能力と音読力を高める。重要文型の中国語を表現できるように練習する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業での翻訳担当	10	
授業での作文担当	10	
2回の小テスト	30	
期末テスト	50	授業での担当と試験により合否を判定する。

教科書:　吉田泰謙・相原里美・葛婧『知っておきたい中国事情』第2版、白水社、2017

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　kudohgz@for,aichi-pu.ac.jpに連絡すること。

032102

中級中国語Ⅰ

林　　雅清

授業テーマ:

授業の概要:　初級中国語の授業で学んだ中国語の基礎を踏まえ、一歩進んだ表現や文法事項を学んでいく。また、教科書の内容に準じて会話練習や暗唱、中国文化の紹介等も取り入れる。

到達目標:　中国語の発音がより正確にでき、一定の語彙・文法を習得した上で、中国語で日常会話ができるようになること。また、中国語の辞書が自由に引けるようになり、中国に関する正確な情報を入手する方法を知ることも目指す。

授業方法:　教科書を中心に、中国文化を紹介する視聴覚資料や暗唱用の教材等も用いながら演習方式で進める。また、受講生一人ずつの発音指導や、リスニング等の小テストも行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	初級中国語の振り返り	初級中国語のテキストを参考に、中国語の発音・ピンイン・基礎文法を事前に復習しておく。(なお、初級テキストは持参しなくてよい)
2.	第一课:大熊猫	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
3.	第二课:游古镇	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
4.	第三课:在列车上	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
5.	第四课:逛拉萨	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
6.	第五课:家宴	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
7.	第六课:颐和园观光	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
8.	第一～六課の復習、暗唱テスト	教科書の前半六課を復習した上で、わからない箇所については辞書等を用いて調べておく。また、暗唱の課題について準備しておく。
9.	第七课:独生子女	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
10.	第八课:四川菜	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
11.	第九课:共享单车	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
12.	第十课:去文化街	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
13.	第十一课:感冒和中药	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
14.	第十二课:龙门石窟	教科書の本文・例文を日本語に訳せるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
15.	まとめ	教科書全体を復習した上で、わからない箇所については辞書等を用いて調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　大きな声で発音することが、語学習得への近道です。積極的に授業に参加し、楽しく中国語を学んでいきましょう。

フィードバックの方法:　提出された授業課題や小テスト等は添削して教室で返却し、質問や間違えやすい箇所についても教室でその都度解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	教科書に準じた中国語に関する中級程度の語彙・文法・発音(ピンイン)を理解しているかを、筆記試験の形式で判断し評価する。
小テスト	30	リスニングや暗唱等の方法によって、教科書の毎課の内容を正確に理解・習得しているか判断基準とする。
授業への参加度	10	発音や会話練習への積極的な参加、辞書の活用度等を評価する。

教科書:　遠藤光暁監修、衛榕群・汪暁京著『カレント中国—初級から中級へ—』(朝日出版社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、分析力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール・授業の前後に教室内で対応

032161

中級中国語Ⅰ

于　　敏

授業テーマ:　基礎で勉強した知識を再確認して、更なるレベル上げを目指します。

授業の概要:　初級外国語を勉強する時の退屈さを考えての教科書選びで、少しでも楽しく勉強できるように目指す授業です。ジョークの面白さが段々分かっていくように、単語量を増やし、文法の応用ができるように、中国語を理解する能力と応用する能力を高めていきます。

到達目標:　楽しく、確実にレベルをあげ、中検の三級に合格できるようになりましょう。

授業方法:　辞書を頼りにしない本文の読解をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	01、生年月日 02、家族	検定試験の内容を授業中で指示
2.	03、登校 05、教室に	検定試験の内容を授業中で指示
3.	07、趣味 08、誕生祝い	検定試験の内容を授業中で指示
4.	09、選択 10、体調	検定試験の内容を授業中で指示
5.	11、テストの得点 13、作文の誤字	検定試験の内容を授業中で指示
6.	15、地図を見る 16、歯の治療	検定試験の内容を授業中で指示
7.	復習	検定試験の内容を授業中で指示
8.	17、知っているこそ 19、弟の名前	検定試験の内容を授業中で指示
9.	21、タクシーの料金 22、お巡りさんへのお願い	検定試験の内容を授業中で指示
10.	23、眠い授業 25、飛行機の外	検定試験の内容を授業中で指示
11.	26、スープが熱くない 27、間抜け看護師	検定試験の内容を授業中で指示
12.	30、薔薇を買う 32、睡眠薬	検定試験の内容を授業中で指示
13.	33、邪魔するな 35、ケチするな	検定試験の内容を授業中で指示
14.	復習	検定試験の内容を授業中で指示
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　中国語のレベルを上げる事を目標にするので、中検三級合格を目指す事を要求する。

フィードバックの方法:　教室で説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	10	出席だけではなく、総合判断
小テスト	20	二回やります
宿題など	10	授業中で課題を出す
期末テスト	60	記述とリスリング

教科書:　中国語ジョークボックス

相原茂　郭雲輝　　朝日出版社　　ISBN978-4-255-45150-3　　1，900円

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　教室で指示

032162

中級中国語Ⅰ

二ノ宮　聡

授業テーマ:　中国語の発音・読解・表現力の向上

授業の概要:　初級中国語で修得した語彙・文法を基礎として、さらなる表現力の習得を目指し、一つの単語、一つのフレーズに注意しながら文章を読み解いていきます。

到達目標:　初級中国語で学んだ発音および文法を基礎として、より豊かな中国語での表現力の習得を目指します。そして、中国語および中国に対する理解をさらに深めることを目標とします。

授業方法:　授業は、本文の読解および練習問題を中心に進めます。読解は、事前に中国語の読み方、日本語訳を確認してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:授業のガイダンス	
2.	第一課:「日本动漫在中国」本文/文法	新出単語の確認
3.	第一課:「日本动漫在中国」練習問題	文法項目の再確認
4.	第二課:「中国的大学生」本文/文法	新出単語の確認
5.	第二課:「中国的大学生」練習問題	文法項目の再確認
6.	第三課:「网上购物」本文/文法	新出単語の確認
7.	第三課:「网上购物」練習問題	文法項目の再確認
8.	第一課から第三課のまとめ	不明な個所の確認
9.	「上下班高峰」本文/文法	新出単語の確認
10.	「上下班高峰」練習問題	文法項目の再確認
11.	「就业」本文/文法	新出単語の確認
12.	「就业」練習問題	文法項目の再確認
13.	「结婚」本文/文法	新出単語の確認
14.	「结婚」練習問題	文法項目の再確認
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　語学の習得には毎日の反復練習が不可欠です。一日5分でいいので、毎日中国語に触れることが習慣になるよう目指しましょう。

フィードバックの方法:　授業中に解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
筆記試験	60	筆記試験による授業の理解度確認。
平常点	40	授業態度、課題への取り組み等。

教科書:　本間史・張明傑『中国語読解のコツ』、金星堂

参考書:　相原茂・石田知子・戸沼市子『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社)
張黎・佐藤晴彦『「話せる」「書ける」表現のための中国語文法』(アルク)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後で教室で対応します。

032201

中級中国語Ⅱ

工藤　　貴正

授業テーマ:

春学期に引き続き、講読教材を使って中級中国語を総合的に学習する。この授業では最近の中国事情を理解しながら、文型と文法に重点を置いて、中国語の多様な表現の把握に努めることを目標とする。 講読教材を使用してリスニングと文法・作文を学習する中国語総合の授業。

授業の概要:

初級で学習した語学知識を土台に、講読教材を使って中級中国語を総合的に学習する。この授業では最近の中国事情を理解しながら、リスニングと文型と文法に重点を置いて、中国語の多様な表現の把握に努めることを目標とする。

到達目標:

基本的な中国語の文法と文型をマスターした上で、中国語の音声と文字を一致できるようにし、中国語検定3級のリスニングの能力のレベルまで到達できるようにする。

授業方法:

授業は文法→講読→練習問題という形式で進行し、基本的には2回の授業をかけて1課を終える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入 中国語と中国文化について説明し、授業の進め方について概説する。	春学期の学習の要点を確認する。
2.	第7課「値引き交渉」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
3.	第7課「値引き交渉」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
4.	第8課「贈り物で気をつけること」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
5.	第8課「贈り物で気をつけること」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
6.	第9課「中国式の結婚」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
7.	第9課「中国式の結婚」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
8.	復習 第9課まで学んだ成語、慣用表現と重要文型を含む文章をリスニングの小テストを行うことで復習する。	第7課から第9課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。
9.	第10課「共働きの家庭」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
10.	第10課「共働きの家庭」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
11.	第11課「中国人の呼称」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
12.	第11課「中国人の呼称」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
13.	第12課「理想の職業」というスキットに講読し、文法事項と生詞の内容を学習する。	予習は、「生詞」(新出単語)に目を通し、音声と音読を通し、話しの内容を想像しておくこと。
14.	第12課「理想の職業」というスキットに講読し、中国語の文型を作文の問題で学習する。	復習は、指摘した重要文型を暗証し、音声で聞いても意味がわかるようにする。練習問題の作文作成をしておくこと。
15.	まとめ 秋学期で学んだ文法、成語、慣用表現などを復習する。	第10課から第12課までの単語と重要文型を音声で聞いて日本語訳および漢字とピンインで書けるように準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

中国語の文章を翻訳し、翻訳した日本語を通して中国語を聞いただけで意味がわかるように、リスニング能力と音読力を高める。重要文型の中国語を表現できるように練習する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業での翻訳担当	10	
授業での作文担当	10	
2回の小テスト	30	
期末テスト	50	授業での担当と試験により合否を判定する。

教科書:

吉田泰謙・相原里美・葛婧『知っておきたい中国事情』第2版、白水社、2017

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

kudohgz@for.aichi-pu.ac.jpに連絡すること。

032202

中級中国語Ⅱ

林　　雅清

授業テーマ:

授業の概要:　時事中国語の教科書を用い、中国語の語彙力・読解力・表現力を一層高めるための訓練（発音や翻訳等）を行う。また、中国語検定試験3級合格に向けた指導も行う。

到達目標:
1. 中国語の中級レベルの文章を読解できる。
2. ネイティヴに近い速度で正確な中国語が話せるようになる。
3. 中国語で手紙が書ける。
4. 中国の現代社会についてより深く理解できる。
5. 中国語検定試験3級の合格を目指す。

授業方法:　教科書を中心に、中国文化を紹介する視聴覚資料や中国語検定用の補助教材等も用いながら演習方式で進める。また、受講生一人ずつの発音指導や会話練習、作文課題等も取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1课:一带一路	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
2.	第2课:《火花》	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
3.	第3课:普通话／中国語検定対策1	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。また、別途課題にも取り組む。
4.	第4课:高铁	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
5.	第5课:九寨沟	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
6.	第6课:出行方式／中国語検定対策2	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。また、別途課題にも取り組む。
7.	第7课:离开家乡	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
8.	第8课:考古二则	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
9.	第9课:《深夜食堂》／中国語検定対策3	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。また、別途課題にも取り組む。
10.	第10课:出境游	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
11.	第11课:人象共处	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
12.	第12课:中国儿童／中国語検定対策4	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。また、別途課題にも取り組む。
13.	第13课:糖尿病	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
14.	第14课:台湾职场女性	教科書の本文・例文の発音・日本語訳ができるよう予習しておき、授業内容を復習した上で練習問題を解いておく。
15.	まとめと振り返り	教科書全体を復習した上で、最終課題について準備しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書の表現以外にも「活きた中国語」を紹介します。積極的に授業に参加し、楽しく中国語を学んでいきましょう。

フィードバックの方法:　提出された課題等は添削して教室で返却し、質問や間違えやすい箇所についても教室でその都度解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
最終課題	50	到達目標1および3～5に関する到達度により評価する。
授業中の課題と発表	30	到達目標全般に関する能力と取り組みにより評価する。
授業への参加度	20	積極的な参加を評価し、主に到達目標2の到達度を見る。

教科書:　三潴正道・陳祖蓓著『時事中国語の教科書 —2018年度版—〈CD付〉』（朝日出版社）

参考書:　関西大学中国語教材研究会編『キクタン中国語【初中級編】中検3級レベル』（アルク）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、分析力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール・授業の前後に教室内で対応

032261

中級中国語Ⅱ

于　　敏

授業テーマ:　基礎で勉強した知識を再確認して、更なるレベル上げを目指します。

授業の概要:　初級外国語を勉強する時の退屈さを考えての教科書選びで、少しでも楽しく勉強できるように目指す授業です。ジョークの面白さが段々分かっていくように、単語量を増やし、文法の応用ができるように、中国語を理解する能力と応用する能力を高めていきます。

到達目標:　楽しく、確実にレベルをあげ、中検の三級に合格できるようになりましょう。

授業方法:　辞書を頼りにしない中検の問題文を読解する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	37、英会話 38、遅い食事	中検の練習を授業中で指示
2.	39、ゴミ 40、約束	中検の練習を授業中で指示
3.	42、バスケットコーチ 44、大雨	中検の練習を授業中で指示
4.	45、旦那の特徴 47、パイロット	中検の練習を授業中で指示
5.	48、アドバイス 49、愛情	中検の練習を授業中で指示
6.	50、儲け話 51、本になりたい	中検の練習を授業中で指示
7.	復習	中検の練習を授業中で指示
8.	52、メニュー 53、製品は？	中検の練習を授業中で指示
9.	55、開演の後 56、火事だ	中検の練習を授業中で指示
10.	57、怖い手術 58、を酒を止める	中検の練習を授業中で指示
11.	60、説明書 62、二台ください	中検の練習を授業中で指示
12.	64、如何すればいい	中検の練習を授業中で指示
13.	中検最終確認	中検の練習を授業中で指示
14.	中検最終確認	中検の練習を授業中で指示
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　中国語のレベルを上げる事を目標にするので、中検三級合格を目指す事を要求する。

フィードバックの方法:　教室で説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	10	出席だけではなく、総合判断
小テスト	20	二回する
宿題など	10	授業中で課題を出す
期末テスト	60	記述とリスリング

教科書:　中国語ジョークボックス

相原茂　郭雲輝　　朝日出版社　　ISBN978-4-255-45150-3　　1，900円

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　教室で指示

032262

中級中国語Ⅱ

二ノ宮　聡

授業テーマ:　中国語の発音・読解・表現力の向上

授業の概要:　初級中国語で修得した語彙・文法を基礎として、さらなる表現力の習得を目指し、一つの単語、一つのフレーズに注意しながら文章を読み解いていきます。

到達目標:　初級中国語で学んだ発音および文法を基礎として、より豊かな中国語での表現力の習得を目指します。そして、中国語および中国に対する理解をさらに深めることを目標とします。

授業方法:　授業は、本文の読解および練習問題を中心に進めます。読解は、事前に中国語の読み方、日本語訳を確認してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	前期の復習	
2.	第七課:「月光族」本文/文法	新出単語の確認
3.	第七課:「月光族」練習問題	文法項目の再確認
4.	第八課:「接待培训」本文/文法	新出単語の確認
5.	第八課:「接待培训」練習問題	文法項目の再確認
6.	第九課:「节能环保，低碳生活」本文/文法	新出単語の確認
7.	第九課:「节能环保，低碳生活」練習問題	文法項目の再確認
8.	第七課から第九課の確認	不明箇所の確認
9.	第十課:「情人节」本文/文法	新出単語の確認
10.	第十課:「情人节」練習問題	文法項目の再確認
11.	第十一課:「低头族」本文/文法	新出単語の確認
12.	第十一課:「低头族」練習問題	文法項目の再確認
13.	第十二課:「春节」本文/文法	新出単語の確認
14.	第十二課:「春节」練習問題	文法項目の再確認
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　語学の習得には毎日の反復練習が不可欠です。一日5分でいいので、毎日中国語に触れることが習慣になるよう目指しましょう。

フィードバックの方法:　授業で解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
筆記試験	60	筆記試験による授業の理解度確認。
平常点	40	授業態度、課題への取り組み等。

教科書:　本間史・張明傑『中国語読解のコツ』、金星堂

参考書:　相原茂・石田知子・戸沼市子『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書』(同学社)
張黎・佐藤晴彦『「話せる」「書ける」表現のための中国語文法』(アルク)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応します。

032300、
032400、
032500、
032600、
032700、
032800、
032900、
033000

ラピート中国語Ⅰ（A）、ラピート中国語Ⅰ（B）、ラピート中国語Ⅰ（C）、ラピート中国語Ⅰ（D）、ラピート中国語Ⅱ（A）、ラピート中国語Ⅱ（B）、ラピート中国語Ⅱ（C）、ラピート中国語Ⅱ（D）

朱　捷、李　テイ、大西　智之

授業テーマ:　中国語検定試験3級合格を目指す

授業の概要:　ラピート中国語は年間4単位の第2外国語の授業に満足せず、本格的に中国語を勉強したい人のための特別プログラムである。読解・会話・リスニング・文法で1コマずつ、週4コマ開講し、使える中国語を身につけることをめざす。

到達目標:　中国語検定試験3級に全員合格すること。

授業方法:　理屈でわかったことを体で覚えるように練習を繰り返し、練習したものを次回で復習するようにし、ときどき小テストもはさむ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	会話・リスニング・文法・読解	1年生に習った教科書を復習してくる。
2.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
3.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
4.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
5.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
6.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
7.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
8.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
9.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
10.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
11.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
12.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
13.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
14.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
15.	まとめ	復習して最終回のまとめに臨む。

受講者へのメッセージやアドバイス:　1年で中国語検定試験3級を楽々パスしましょう！

フィードバックの方法:　テスト答案用紙を添削・採点の上返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
教室での練習	40	宿題をこなしたうえ授業に臨むこと、授業への積極的な参加度
小テストや期末試験	60	学習した内容の理解度・習熟度

教科書:　教室で指示する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

033100、
033200、
033300、
033400、
033500、
033600、
033700、
033800

ラピート中国語Ⅲ（A）、ラピート中国語Ⅲ（B）、ラピート中国語Ⅲ（C）、ラピート中国語Ⅲ（D）、ラピート中国語Ⅳ（A）、ラピート中国語Ⅳ（B）、ラピート中国語Ⅳ（C）、ラピート中国語Ⅳ（D）

朱　捷、李　テイ、大西　智之

授業テーマ：　中国語検定試験2級合格を目指す

授業の概要：　ラピートI・IIで3級合格に達した次のステップとして、2級合格を目標とする。

到達目標：　中国語検定試験2級に合格すること。

授業方法：　理屈でわかったことを体で覚えるように練習を繰り返し、練習したものを次回で復習するようにし、ときどき小テストもはさむ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」：

	授業内容	準備学習等の内容
1.	会話・リスニング・文法・読解	ラピートⅠ・Ⅱで習った内容を復習してくる。
2.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
3.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
4.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
5.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
6.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
7.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
8.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
9.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
10.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
11.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
12.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
13.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
14.	会話・リスニング・文法・読解	宿題をこなし、次回の予習をする。
15.	まとめ	復習して最終回のまとめに臨む。

受講者へのメッセージやアドバイス：　中国語検定試験2級合格は、要領よく勉強すれば、だれでも手が届きますよ！

フィードバックの方法：　テスト答案用紙を添削・採点の上返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
教室での練習	40	宿題をこなしたうえ授業に臨むこと、授業への積極的な参加度
小テストや期末試験	60	学習した内容の理解度・習熟度

教科書：　教室で指示する

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法：　マナビーの掲示板

033900、
034000、
034100、
034200、
034300、
034400、
034500、
034600

ラピートドイツ語Ⅰ（A）、ラピートドイツ語Ⅰ（B）、ラピートドイツ語Ⅰ（C）、ラピートドイツ語Ⅰ（D）、ラピートドイツ語Ⅱ（A）、ラピートドイツ語Ⅱ（B）、ラピートドイツ語Ⅱ（C）、ラピートドイツ語Ⅱ（D）

服部　　尚己、田村　　萬里、R.T.Walch

授業テーマ:

授業の概要:

これはドイツ語を集中的に学んで実践的な能力を身に着けることを目標に構成された特別コースです。「適性検査テスト」を受けて許可された者しか受講できません。日本人教員による授業が週2コマ（IA/IB/IIA/IIB）とnative speaker教員による授業が週2コマ(IC/ID/IIC/IID)、計週4コマの授業を2年間に渡って受講し、高度な語学力の育成を目指します。詳しくは「語学特別プログラム」の案内を読んでください。

到達目標:

ドイツ語検定試験の3級レベルを到達目標としています。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての高度な運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法:

演習授業です。それぞれ担当者がふさわしいテキスト、プリント、視聴覚教材等を利用しつつ、アクティブラーニングを含め、少人数で効果的に練習ができるように計画が立てられて授業がなされています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テスト、リスニング試験、筆記試験等はすべて採点の上返却します。そうすることによって、自分の現在の実力（検定試験の等級）を知ることが最も重要です。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	60%	四技能にわたっての高度なドイツ語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。検定試験の3級レベルを到達目標とする。
授業への参加度	40%	演習授業において積極的に練習に加わり、高度な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

034700、
034800、
034900、
035000、
035100、
035200、
035300、
035400

ラピートドイツ語Ⅲ（A）、ラピートドイツ語Ⅲ（B）、ラピートドイツ語Ⅲ（C）、ラピートドイツ語Ⅲ（D）、ラピートドイツ語Ⅳ（A）、ラピートドイツ語Ⅳ（B）、ラピートドイツ語Ⅳ（C）、ラピートドイツ語Ⅳ（D）

服部　　尚己、田村　　萬里、R.T.Walch

授業テーマ:

授業の概要:

これはドイツ語を集中的に学んで実践的な能力を身に着けることを目標に構成された特別コースです。「適性検査テスト」を受けて許可された者しか受講できません。日本人教員による授業が週2コマ（ⅢA/ⅢB/ⅣA/ⅣB）とnative speaker教員による授業が週2コマ(ⅢC/ⅢD/ⅣC/ⅣD)、計週4コマの授業を2年間に渡って受講し、高度な語学力の育成を目指します。詳しくは「語学特別プログラム」の案内を読んでください。

到達目標:

ヨーロッパ評議会枠の検定試験のB1レベルを到達目標としています。これは400時限の受講経験を前提としており、ラピートプログラムの二年目でこの時間数に到達します。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての高度な運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法:

演習授業です。それぞれ担当者がふさわしいテキスト、プリント、視聴覚教材等を利用しつつ、アクティブラーニングを含め、少人数で効果的に練習ができるように計画が立てられて授業がなされています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	ドイツ語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テスト、リスニング試験、筆記試験等はすべて採点の上返却します。そうすることによって、自分の現在の実力（検定試験の等級）を知ることがもっとも重要なことです。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	60%	ヨーロッパ評議会枠の検定試験のB1レベルを到達目標とする。四技能にわたっての高度なドイツ語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。
授業への参加度	40%	演習授業において積極的に練習に加わり、高度な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書:

担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

035500、035600、035700、035800、035900、036000、036100、036200

ラピートフランス語Ⅰ（A）、ラピートフランス語Ⅰ（B）、ラピートフランス語Ⅰ（C）、ラピートフランス語Ⅰ（D）、ラピートフランス語Ⅱ（A）、ラピートフランス語Ⅱ（B）、ラピートフランス語Ⅱ（C）、ラピートフランス語Ⅱ（D）

水野　いずみ、湟野　ゆり子、E.Faure、藤井　フランソワーズ

授業テーマ:

授業の概要: これはフランス語を集中的に学んで実践的な能力を身に着けることを目標に構成された特別コースです。「適性検査テスト」を受けて許可された者しか受講できません。日本人教員による授業が週2コマ（IA/IB/IIA/IIB）とnative speaker教員による授業が週2コマ（IC/ID/IIC/IID）、計週4コマの授業を2年間に渡って受講し、高度な語学力の育成を目指します。詳しくは「語学特別プログラム」の案内を読んでください。

到達目標: フランス語検定試験の3級レベルを到達目標としています。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての高度な運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法: 演習授業です。それぞれ担当者がふさわしいテキスト、プリント、視聴覚教材等を利用しつつ、アクティブラーニングを含め、少人数で効果的に練習ができるように計画が立てられて授業がなされています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 小テスト、リスニング試験、筆記試験等はすべて採点の上返却します。そうすることによって、自分の現在の実力（検定試験の等級）を知ることはもっとも重要なことです。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	60%	四技能にわたっての高度なフランス語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。検定試験の3級レベルを到達目標とする。
授業への参加度	40%	演習授業において積極的に練習に加わり、高度な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書: 担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

036300、
036400、
036500、
036600、
036700、
036800、
036900、
037000

ラピートフランス語Ⅲ（A）、ラピートフランス語Ⅲ（B）、ラピートフランス語Ⅲ（C）、ラピートフランス語Ⅲ（D）、ラピートフランス語Ⅳ（A）、ラピートフランス語Ⅳ（B）、ラピートフランス語Ⅳ（C）、ラピートフランス語Ⅳ（D）

早川　文敏、湟野　ゆり子、E.Faure、丸瀬　康裕

授業テーマ:

授業の概要:
これはフランス語を集中的に学んで実践的な能力を身に着けることを目標に構成された特別コースです。「適性検査テスト」を受けて許可された者しか受講できません。日本人教員による授業が週2コマ（ⅢA/ⅢB/ⅣA/ⅣB）とnative speaker教員による授業が週2コマ(ⅢC/ⅢD/ⅣC/ⅣD)、計週4コマの授業を2年間に渡って受講し、高度な語学力の育成を目指します。詳しくは「語学特別プログラム」の案内を読んでください。

到達目標:
ヨーロッパ評議会枠の検定試験のB1レベルを到達目標としています。これは400時限の受講経験を前提としており、ラピートプログラムの二年目でこの時間数に到達します。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての高度な運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法:
演習授業です。それぞれ担当者がふさわしいテキスト、プリント、視聴覚教材等を利用しつつ、アクティブラーニングを含め、少人数で効果的に練習ができるように計画が立てられて授業がなされています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	フランス語の読み・書き・聞き・話すの四技能の実習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
小テスト、リスニング試験、筆記試験等はすべて採点の上返却します。そうすることによって、自分の現在の実力（検定試験の等級）を知ることはもっとも重要なことです。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	60%	四技能にわたっての高度なフランス語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。ヨーロッパ評議会枠の検定試験のB1レベルを到達目標とする。
授業への参加度	40%	演習授業において積極的に練習に加わり、高度な運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書:
担当者によって異なります。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応

038100

中級イタリア語Ⅰ

T.Talamini

授業テーマ: イタリア語会話に触れる

授業の概要: 少人数のグループでいくつかの表現を実際に使用し、練習する。
まず聞き取った内容を言葉に置き換える練習。次に用法や使い方を学習する。
授業には失敗を恐れず、ともかく表現してみるといった積極的な姿勢が求められる。

到達目標: イタリア語の日常会話の習得。(ネイティブ・スピーカーによる授業)

授業方法: 少人数のグループでいくつかの表現を実際に使用し、練習する。
まず聞き取った内容を言葉に置き換える練習。次に用法や使い方を学習する。
授業には失敗を恐れず、ともかく表現してみるといった積極的な姿勢が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ジェルンディオ	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
2.	命令法1	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
3.	命令法2	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
4.	不規則動詞2	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
5.	不規則動詞3	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
6.	直接目的語の代名詞	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
7.	間接目的語の代名詞	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
8.	再帰動詞	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
9.	会話練習1	
10.	比較級	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
11.	最上級	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
12.	会話練習2	
13.	会話練習3	
14.	復習	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス: 基本的に毎週、宿題を出します。

フィードバックの方法: 授業の中で、質問、会話への参加などを通して、習得する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	66	出席率、及びグループ会話練習や読み書き練習の態度を総合的に評価します。
試験結果	34	試験の結果を100点満点に換算し、採点します。

教科書: ニューエクスプレス　イタリア語　入江たまよ　著　白水社
オ・カピート！　Ho capito　菅野ヴェロニカ　著　白水社

参考書: 配付プリント

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法: 大学の窓口を通じて、コンタクトしてください。

038200

中級イタリア語Ⅱ

T.Talamini

授業テーマ:　イタリア語会話に触れる

授業の概要:　少人数のグループでいくつかの表現を実際に使用し、練習する。
まず聞き取った内容を言葉に置き換える練習。次に用法や使い方を学習する。
授業には失敗を恐れず、ともかく表現してみるといった積極的な姿勢が求められる。

到達目標:　イタリア語の日常会話の習得。(ネイティブ・スピーカーによる授業)

授業方法:　少人数のグループでいくつかの表現を実際に使用し、練習する。
まず聞き取った内容を言葉に置き換える練習。次に用法や使い方を学習する。
授業には失敗を恐れず、ともかく表現してみるといった積極的な姿勢が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第9課(パンとジャム)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
2.	第10課(弟の誕生日)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
3.	第11課(夕食の準備)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
4.	第12課(一日を振り返って)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
5.	第13課(カーニバル)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
6.	第14課(いよいよヴァカンス)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
7.	第15課(行かなくてよかった!?)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
8.	第16課(時事ネタに強くなる)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
9.	会話練習1	
10.	第17課(今日、できることは)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
11.	第18課(原書に挑戦)	テキストにおける該当課の下見 解らない表現と単語の拾い出し
12.	会話練習2	
13.	会話練習3	
14.	復習	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　基本的に毎週、宿題を出します。

フィードバックの方法:　授業の中で、質問、会話への参加などを通して、習得する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	66	出席率、及びグループ会話練習や読み書き練習の態度を総合的に評価します。
試験結果	34	試験の結果を100点満点に換算し、採点します。

教科書:　ニューエクスプレス　イタリア語　入江たまよ　著　白水社
オ・カピート!　Ho capito　菅野ヴェロニカ　著　白水社

参考書:　配付プリント

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　大学の窓口を通じて、コンタクトしてください。

038300

中級スペイン語 I

I.Aristimuno

授業テーマ:

ESPAÑA AL DÍA: Lectura y comprensión de temas españoles.

授業の概要:

Este curso se enfoca en desarrollar la comprensión de textos españoles y la competencia comunicativa hablada, y a la vez que se repasan conceptos gramáticales ya estudiados en el previo año..

到達目標:

Desarrollar las competencias de la lectura, la traducción de textos, y su comprensión. De igual forma se busca れrevisar elementos gramáticales ya estudiados, y trabajar en el ejercicio de la conversación sobre diferentes temas del mundo hispano en la lengua española.

授業方法:

Lectura, traducción y comprensión de textos españoles sobre diferentes tópicos. Ejercicios de la práctica comunicativa por medio de la conversación.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ESPAÑA, PAÍS ANTIGUO Y MODERNO.	Realizar tradución del texto.
2.	LENGUA Y COSTUMBRES VARIADAS	Realizar tradución del texto.
3.	LA COMIDA ESPAÑOLA	Realizar tradución del texto.
4.	FIESTAS POPULARES ESPAÑOLAS	Realizar tradución del texto.
5.	LOS DEPORTES EN ESPAÑA	Realizar tradución del texto.
6.	MÚSICA Y DIVERSIONES	Realizar tradución del texto.
7.	EL CINE ESPAÑOL	Realizar tradución del texto.
8.	POBLACIÓN Y VIVIENDA	Realizar tradución del texto.
9.	LITERATURA EN ESPAÑA	Realizar tradución del texto.
10.	CAMBIO POLITÍCO EN ESPAÑA	Realizar tradución del texto.
11.	MATRIMONIO Y FAMILIA	Realizar tradución del texto.
12.	Revisión, ejercicios y práctica comunicativa.	Tareas diversas.
13.	Revisión, ejercicios y práctica comunicativa.	Tareas diversas.
14.	Revisión, ejercicios y práctica comunicativa.	Tareas diversas.
15.	RESUMEN Y EXAMEN FINAL	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Los estudiantes que deseen entrar en este curso deben haber estudiado español por un año como mínimo y tener conocimientos básicos de la gramática española.

フィードバックの方法:

El método principal para el feedback es participar y mantener la práctica de la conversación sobre un tema específico.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
集積	15%	毎授業に来ること。
授業の参加	30%	毎授業の評価。翻訳したもの、理解、黒板に参加、会話とモチベーション。
宿題	25%	レポートと文書の翻訳以外、スペイン語の文法について練習問題。
期末試験	30%	発表、レポートと期末テスト。

教科書:

スペインを知るために　España al Día.
西川　僑　/　セフェリーノ・プエブラ
東京:　第三書房　(2005)
Tel: 03-3267-8531

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

ignitus@msn.com

038360

中級スペイン語 I

M.A.Kimmel

授業テーマ:
El espanol en situaciones cotidianas
The spanish in usual situation

授業の概要:
This spanish course prepare you for used spanish in easy conversation with native

到達目標:
The main objective of this class is that students become able to communicate and sustain basic conversations in Spanish.

授業方法:
Work class in group or team
Revision and introduce new topic
Video
Game
Printed

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	week 1 Presentation and rules class Hola! iquestQue tal?	a. New topic introduce: Used text book, dictionary, picture, news papers, film, music, etc b.Main: Use text book Entre amigos 1 and prints for listen, oral and written exercises c.Review: Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this. d. Home work: Print, diary or other about day topic e. One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
2.	week 2 De donde eres?	New topic introduce: Used text book and other material b. Main: Text book or other material c.Review: Team or group write orignal dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this. d. Home work: Print e.One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
3.	week 3 Es alto y simpatico	a. New topic introduce: Used text book and other material b.Main: text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
4.	week 4 Quiz (Listen, write and oral	a.Examination a. Write quizzes b. Oral presentation
5.	week 5 Conoce tu universidad	a.New topic introduce: Used text b.Main: tex book or other material c. Review;Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this d.Home work : Print e. One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
6.	week 6 iquestQueacute haces normalmente?	a. New topic introduce; Used text book and other material b.Main; text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day topic. PResentation or discussion about this. d.Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
7.	week 7 Test	Examination a.Write quizzes b.Oral presentation
8.	week 8 iquestTienes algun plan?	a. New topic introduce; used text book and other material b,Main; Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
9.	week 9 Un dia normal	a. New topic introduce; Used text book and other material. b.Main; Text book, or other material c.Review; Team or group write original dialogue about topic day. Presentation or discussion about this. d; Home work e. One or two quizzes for theme f.Final semester presentation in spanish
10.	week 10 Lo conoces?	a. Newtopic introduce, used text book and other material b.Main; Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day topic.Presentation or discussion about this d.Home work: Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
11.	week 11 Exercises (Listen, write and oral)	Write; Print exercise Listen; Audio Oral: Presentation

12.	week 12 Vamos de compras	a. New topic introduce; Used text book and other material b.Main; Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this d.Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
13.	week 13 El tiempo libre	a.New topic introduce: Text book and other material b.Main:Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day topic: Presentation or discussion about this. d.Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
14.	week 14 Quiz (Listen, write and oral)	Write; Print exercise Listen; Audio Oral; Presentation
15.	week 15 Presentation	Presentation in spanish about Spain, Latin america or Japan

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Home work

Check in the bllackboard the next class
Review about difficult point if that neccesary

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
attitude and participation	30%	Class presentation and rules
attend	20%	
Mini test	25%	
Presentation	25%	

教科書:

IMAGINATELO
Masako Ura, Francisco Partida
Editorial Asahi

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

Ask in the class room

038400

中級スペイン語Ⅱ

I.Aristimuno

授業テーマ:

ESPAÑA AL DÍA: Lectura y comprensión de temas españoles.

授業の概要:

Este curso está diseñado para alumnos que ya han cursado un año estudiando la lengua española como mínimo. Se revisará todo lo referente a la gramática ya estudiada y centrará en la competencia comprensiva y comunicativa hablada. Numerosos ejercicios serán realizados así como la práctica de la copnversación.

到達目標:

El objetivo del curso es, además de revisar elementos ya estudiados de la gramática, desarrollar la competencia de la lectura y su comprensión así como el ejercicio de la traducción y la práctica comunicativa hablada.

授業方法:

Como método de instrucción se utilizará basicamente la lectura, la traducción, y la práctica comunicativa hablada.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	MATRIMONIO Y FAMILIA	Realizar trabajo de traducción.
2.	LA EDUCACIÓN EN ESPAÑA	Realizar trabajo de traducción.
3.	VACACIONES Y VIAJES	Realizar trabajo de traducción.
4.	RELACIONES CON JAPÓN	Realizar trabajo de traducción.
5.	BELLAS ARTES	Realizar trabajo de traducción.
6.	INDUSTRIA Y COMERCIO	Realizar trabajo de traducción.
7.	HISTORIA Y CAMBIOS SOCIALES	Realizar trabajo de traducción.
8.	RELACIONES INTERNACIONALES	Realizar trabajo de traducción.
9.	PAÍSES HISPANOAMERICANOS	Realizar trabajo de traducción.
10.	ESPAÑA EN EL SIGLO XXI	Realizar trabajo de traducción.
11.	REVISIÓN, PRÁCTICA Y EJERCICIOS DE GRAMÁTICA	TAREAS DIVERSAS.
12.	REVISIÓN, PRÁCTICA Y EJERCICIOS DE GRAMÁTICA	TAREAS DIVERSAS.
13.	REVISIÓN, PRÁCTICA Y EJERCICIOS DE GRAMÁTICA.	TAREAS DIVERSAS.
14.	REVISIÓN, PRÁCTICA Y EJERCICIOS DE GRAMÁTICA.	TAREAS DIVERSAS.
15.	EXAMEN FINAL	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Los alumnos que participen en esta clase deberán saber que esta es una clase avanzada para aquellos que han estudiado español por más de un año.

フィードバックの方法:

Como m:étodo de feedback se tomará en cuenta las tareas y el mantenimiento de una conversacón en español durante la clase.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
集積	15%	毎日の集積
授業の参加	30%	授業の参加、宿題、黒板に参加、会話
宿題	25%	翻訳又はレポート
期末試験	30%	発表、レポート、期末テスト

教科書:

スペインを知るために　España al Día
西川　僑　／　せフェリーノ
東京：　第三書房
Tel: 03-3267- 8531

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

ignitus@msn.com

038460

中級スペイン語Ⅱ

E.G.Valverde

授業テーマ:
El espantildeol en situaciones cotidianas
The spanish in usual situation

授業の概要:
This course prepare you for easy conversation in any situation

到達目標:
The main objective of this class is that students become able to communicate in proper and creative way in any situation

授業方法:
Work class in group or team
Revision and introduce new topic
Video
Game
Printed

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Presentation. Class rules	a. New topic introduce: Text book, dictionary, picture, news papers, film, music, etc b.Main: Text book and other material c.Review: Team or group write original dialogue about the day topic. Presentation or discussion about this. d. Home work: Print, e. One or two quizzes for theme f. Final semester presentation in spanish
2.	Me gusta	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the day theme. Presentation or discussion about this d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme flFinal semester Presentation in spanish
3.	Vamos a invitar a un amigo	a. New topic introduce: Text book and other material b.Main; Text book or other material c;Review; Team or group write original dialogue about the day theme. Presentation or discussion about this. d. Home work: Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
4.	Qué haces hoy?	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main: text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this. d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
5.	Test	Write; Print exercise Listen; Audio Oral; Presentation
6.	Que le regalamos?	a. .New topic introduce; Text book and other material b.Main; text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this d. Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
7.	Qué te pasa te sientes mal?	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main; text book or other material c.Review: Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this. d.Home work; Print e.One or two quizzes for theme f.Final presentation in spanish
8.	Perdón, puede enseñarme?	a. New topic introduce; text book and other material b.Main; text book or other material c: Review: Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this. d.Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
9.	Test	Write; Print exercise Listen; Audio Oral; Presentation
10.	Vamos a hablar del pasado	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main: Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this d.Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
11.	Hablamos de recuerdos	a.New topic introduce; Text book and other material b.Main; text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discusscion about this. d. Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish

12.	Las fiestas	a. New topic introduce; Text book and other material b.Main: Text book or other material c.Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this. d.Home work; Print e.One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
13.	Test	Write; Print exercise Listen; Audio Oral; Presentation
14.	Las vacaciones	a. New topic Introduce; Text book and other material b.Main: Text book or other material c. Review; Team or group write original dialogue about the topic day. Presentation or discussion about this d.Home work; Print e. One or two quizzes for theme f. Final presentation in spanish
15.	Presentation	Team presentation Theme about Spain or Latin america culture

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
Home work
check on the blackboard the next class
Review the difficult point if that neccesary

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attitude and participation	30 %	Class presentation and rules
Attend	20%	
Mini test	25%	
Presentation	25%	

教科書: NO BOOK

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法: Ask in the class room

038501

中級ハングルⅠ

芦田　　麻樹子

授業テーマ:　韓国語を1年ほど履修した学生を対象に、テーマ別の文章を講読します。

授業の概要:　初級で学習した内容をもとに、「聞く」「読む」、「話す」、「書く」の4つの技能を伸ばします。

到達目標:　最終的には韓国語で書かれた文章を韓国語で理解し、その内容について韓国語で表現できるようになることを目指します。

授業方法:　大まかに文章全体に目を通した後、書かれている内容の理解を深めるための問題を解きます。その後、ペアで音読練習を行います。文章全体の内容が把握できたところで、細かい文法の説明を行います。場合によっては、グループで内容に関する討論を行うこともあります。最後は、韓国語で物語のあらすじを書きます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の進め方の説明	音読練習
2.	第1課　世界の名作（1）　アリとキリギリス	音読練習
3.	第1課　世界の名作（1）　アリとキリギリス	音読練習
4.	第1課　世界の名作（1）　アリとキリギリス	音読練習、本文を写して訳をつける
5.	小テスト　アリとキリギリス 第2課　世界の名作（2）　北風と太陽	音読練習
6.	第2課　世界の名作（2）　北風と太陽	音読練習
7.	第2課　世界の名作（2）　北風と太陽	音読練習
8.	第2課　世界の名作（2）　北風と太陽	音読練習、本文を写して訳をつける
9.	小テスト　北風と太陽 第3課　世界の名作（3）　三匹の子ブタ（1）	音読練習
10.	第3課　世界の名作（3）　三匹の子ブタ（1）	音読練習、本文を写して訳をつける
11.	小テスト　三匹の子ブタ（1） 第3課　世界の名作（3）　三匹の子ブタ（2）	音読練習
12.	第3課　世界の名作（3）　三匹の子ブタ（2）	音読練習、本文を写して訳をつける
13.	第3課　世界の名作（3）　三匹の子ブタ（3）	音読練習、本文を写して訳をつける
14.	小テスト　三匹の子ブタ（2）（3） 復習	音読練習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業は韓国語を日本語に訳すことを目的としているのではなく、音読を練習することで韓国語をそのまま理解できるようになることを目指します。そのため、各自音読練習を行うことが大切です。CDを聴きながら何度も練習してください。

フィードバックの方法:　提出物は添削して教室で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	15	欠席1回につき1点減点
授業態度	15	積極的に授業に参加し、授業で説明した項目を使った例文が作れるようになっているかどうかで判断する
小テスト	10	各課の最後に小テトを実施し、理解度を評価する
課題	10	各課の内容の理解度を評価する
期末試験	50	各課で説明した項目を理解しているかどうか、また韓国語で表現できるようになっているかを評価

教科書:　金京子・髙正子・伊地知紀子、『昔話で学ぶ　韓国語リーディング　中級』、（アルク）

参考書:　『ポケットプログレッシブ　韓日・日韓辞典』、小学館
『朝鮮語辞典』、小学館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　基本的に授業の前後に教室内で対応します。緊急時にはmashida@dwc.doshisha.ac.jpへEメールを送ってください。

038502

中級ハングルⅠ

金　　貞蘭

授業テーマ:　話せる韓国語

授業の概要:　初級ハングル演習・基礎で培ったコミュニケーション能力を一層高める。

到達目標:
「聞く・話す・読む・書く」のすべての面において基本的な能力をレベルアップする。
【聞く・話す】(簡単な言葉なら)話したいことがスムーズに言えるようになることを目指す。
【読む】やや長い文章の要点を読み取ることができる。
【書く】出来事を文章で表現することができる。

授業方法:　グループ会話、発表などをを交えた講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション(自己紹介など) ・韓国語のおさらい(復習)	・シラバスの確認 ・初級ハングル演習・基礎の復習
2.	第1課　食べ方が違いますね。 ・動詞の現在連体形(先行動作の用法) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
3.	第2課　韓国へ行った事がありますか。 ・動詞の過去連体形(過去の経験を言う) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
4.	第3課　卒業したら何をするつもりですか。 ・動詞の未来連体形(するつもりです) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
5.	第4課　背の高い男は誰ですか。 ・形容詞の現在連体形 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
6.	第5課　お忙しいところすみません。 ・前置きの語尾(～のですが) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
7.	第6課　熱いから気を付けてください。 ・ㅂ不規則活用(理由) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
8.	・Review ・中間テスト	・連体形のまとめ ・中間テストの実施
9.	第7課 外国語は毎日聞かなければなりません。 ・ㄷ不規則活用(～しなければなりません) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
10.	第8課　風邪はすっかり治りましたか。 ・ㅅ不規則活用(為に、～ので) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
11.	第9課　A型とO型はどう違いますか。 ・ㄹ不規則活用(付加疑問文) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
12.	第10課　赤色はありまあせんか。 ・ㅎ不規則活用(試みを表す語尾) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
13.	第11課　私もメール送ります。 ・話者の意思・約束の語尾 ・ㄹ変則用言のまとめ ・基本文型の練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
14.	第12課　あそこに何と書いてありますか。 ・完了状態の継続 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・近況報告(韓国語で)
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
欠席をしないこと。
出された宿題や課題は必ずやってくること。

フィードバックの方法:
会話本文の暗記を行います。(日本語訳を見ながら)
授業が始まる前近況報告を行います。
単語テストを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	毎回の単語テストや2回行う総合テストで文法や語彙力が到達目標に達しているかどうかを評価する。
授業への参加度	30%	積極的に授業に参加し、課題の提出・会話の暗記などを意欲的に行うことにより段階的に目標に近づいているかどうかを評価する。
発表	20%	毎回行う近況報告が段階的に到達目標に達しているのかどうかを評価する。

教科書:
著者名:　新大久保語学院・李志映
書　名:　「できる韓国語初級Ⅱ」 新装版
出版社　DEKIRU出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法:	jungrankim55@gmail.com

038560

中級ハングルⅠ

松井　　聖一郎

授業テーマ:　文法と語彙の習得を中心に、四技能（話す・読む・聞く・書く）をバランスよく習得できるようにする。

授業の概要:
初級ハングル基礎・演習に続く授業である。
・テキストに沿ってさまざまな語尾や表現をを学ぶ。
・文法事項の習得の後、会話練習を行う。２～３人のチームによる協働学習を導入する。
・聴解や読解の練習をする。

到達目標:
1. 韓国人と円滑なコミュニケーションを取れる能力を習得する。
2. 韓国語の習得を通じて、人間関係を結べるコミュニケーション能力をつける。
3. 韓国文化についても学び、韓国・朝鮮とそこに住む人々に関心を持てるようにする。

授業方法:
講義と演習(実習)形態で行う。
教科書に沿って本文の音読・暗誦→文法の説明→文法事項を使った会話の順で進めていく。
受講生のレベルによっては適宜授業の一部を韓国語で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の導入 ・語幹Ⅰ、語幹Ⅱ、語幹Ⅲの復習 ・変則活用用言前半	ハムニダ体・ヘヨ体を復習して授業に臨む
2.	・語幹Ⅰ、語幹Ⅱ、語幹Ⅲ・変則活用小テスト ・変則活用用言後半およびその応用	・語幹Ⅰ、語幹Ⅱ、語幹Ⅲの復習 ・変則活用用言についての復習・予習
3.	・変則活用小テスト（２） ・第１課文法説明	変則活用用言についての復習
4.	・第１課会話練習	第１課文法についての復習
5.	・第１課小テスト ・第２課文法説明	第１課の復習
6.	・第２課会話練習	第２課文法についての復習
7.	・第２課小テスト ・第３課文法説明	第２課の復習
8.	・第３課会話練習	第３課文法についての復習
9.	・中間テスト ・第４課文法説明	第３課の復習
10.	・第４課文法練習続き・会話練習	第４課文法についての復習
11.	・第４課小テスト ・第５課文法説明	第４課の復習
12.	・第５課会話練習	第５課文法についての復習
13.	・第５課小テスト ・第６課文法説明	第５課の復習
14.	・第６課会話練習	第６課文法についての復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
・予習や復習の際には辞書が必要である。
・欠席した場合はマナビーの授業報告を参照しながら勉強し、次回出席時に応分の課題を提出すること。
・協働作業を導入する。授業中はメンバーと協力するように努力すること。
・欠席時の小テストは、マナビーからダウンロードして提出すれば60点として評価する。

フィードバックの方法:
・授業についての質問等はsmatsui@dwc.doshisha.ac.jpまたは授業中で対応する。
・授業概要、小テストの過去問はマナビーに掲載するので、欠席時には必ず参照のこと。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	40	得点
中間テスト	30	得点
小テスト	15	得点の平均
授業への参加度	15	出席率と出席時の授業参加度

教科書:
黄聖媛　黄政煖/話せる！　中級韓国語/朝日出版社

参考書:
小学館・韓国金星出版社/朝鮮語辞典/小学館
門脇誠一　高島淑郎　松尾　勇　油谷幸利/小学館日韓辞典/小学館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:
smatsui@dwc.doshisha.ac.jp

038601

中級ハングルⅡ

芦田　　麻樹子

授業テーマ:　一年半程度ハングルを履修した学生を対象に、講読を行います。

授業の概要:　中級ハングルIで学んだことをもとに、「聞く」「読む」、「書く」、「話す」の4つの技能を高めていきます。

到達目標:　より高度な内容の文章を韓国語で読み、その内容について韓国語で表現できるようになることを目指します。

授業方法:　大まかに文章全体に目を通した後、内容の理解を深めるために問題を解きます。その後、ペアで音読練習を行います。文章全体の内容が把握できたところで、細かい文法の説明を行います。グループで文章の内容に関連したプレゼンテーションを行い、最後に韓国語で物語のあらずじを作成します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の進め方の説明	
2.	第5課　日本の昔話　舌きりスズメ(1)	音読練習、本文を写して訳をつける
3.	第5課　日本の昔話　舌きりスズメ(2)	音読練習
4.	第5課　日本の昔話　舌きりスズメ(2)	音読練習、本文を写して訳をつける
5.	小テスト　舌きりスズメ(1)(2) 第5課　日本の昔話　舌きりスズメ(3)	音読練習
6.	第5課　日本の昔話　舌きりスズメ(3)	音読練習
7.	第5課　日本の昔話　舌きりスズメ(3)	音読練習、本文を写して訳をつける
8.	小テスト　舌きりスズメ(3) 音読コンテスト	音読練習
9.	第6課　韓国の伝来童話　アマガエル(1)	音読練習、本文を写して訳をつける
10.	第6課　韓国の伝来童話　アマガエル(2)	音読練習
11.	第6課　韓国の伝来童話　アマガエル(2)	音読練習、本文を写して訳をつける
12.	小テスト　アマガエル(1)(2) 第6課　韓国の伝来童話　アマガエル(3)	音読練習
13.	第6課　韓国の伝来童話　アマガエル(3)	音読練習、本文を写して訳をつける
14.	第6課　韓国の伝来童話　アマガエル(4)	音読練習、本文を写して訳をつける
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では、音読を繰り返し練習することで日本語訳を介さずに韓国語の文章を理解できるようになることを目指しています。ですので、各自繰り返しCDを聴きながら音読練習を行ってください。

フィードバックの方法:　添削して教室で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	15	欠席1回につき1点減点
授業態度	15	積極的に参加し、授業で説明した項目を使った例文作りで理解度を確認
小テスト	10	各単元の終わりに実施し、授業で説明した項目の理解度を評価
課題	10	授業で説明した項目の理解度を評価
期末試験	50	各課の内容を理解しているか、また授業で説明した項目を使えるようになっているかを評価

教科書:　金京子・髙正子・伊地知紀子、『昔話で学ぶ　韓国語リーディング　中級』、アルク

参考書:　『ポケットプログレッシブ　韓日・日韓辞典』、小学館
『朝鮮語辞典』、小学館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　基本的に授業の前後に教室内で対応します。緊急時にはmashida@dwc.doshisha.ac.jpへEメールを送ってください。

038602

中級ハングルⅡ

金　　貞蘭

授業テーマ:　話せる韓国語

授業の概要:　中級ハングルIで培ったコミュニケーション能力を一層高める。

到達目標:　「聞く・話す・読む・書く」のすべての面において基本的な能力をレベルアップする。

【聞く・話す】(簡単な言葉なら)話したいことがスムーズに言えるようになることを目指す。
【読む】やや長い文章の要点を読み取ることができる
【書く】出来事を文章で表現することができる。

授業方法:　グループ会話、発表などをを交えた講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション(自己紹介など) ・中級ハングルⅠの復習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
2.	第13課　雨が降りそうです。 ・過去/現在/未来の推量 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
3.	第14課　新年のあいさつをした後、お墓参りに行きます。 ・-기による慣用句(1) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
4.	第15課　辛くして食べるほうです。 ・-게 副詞化 ・-이/ 가 되다 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
5.	・Review ・中間テスト	・連体形のまとめを熟知する。 ・中間テストの実施
6.	第16課　日本にいらしてからどれくらいになりますか。 ・時間の経過を表す過去連体形 ・意図を表す語尾 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
7.	第17課　こうすれば探しやすいです。 ・-기による慣用句(2) ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
8.	第18課　運転お上手でしょうね。 ・予測・推測の語尾 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
9.	第19課　私がお持ちしましょうか。 ・～てあげる/～てくれる ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
10.	第20課　何を召し上がりますか。 ・意思・意向を表す語尾 ・願望の語尾 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
11.	第21課　気分が良くなりました。 ・変化を表す語尾 ・過去回想の- ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
12.	・Review ・小テスト	・17課-21課までのまとめを熟知する。 ・小テストの実施
13.	第22課　また会えるかと聞きました。 ・間接話法(1)ー疑問文 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
14.	第23課　韓国の男性はみんな軍隊に行くそうです。 ・間接話法(2)-平叙文 ・基本文型の練習 ・応用練習	・会話本文の暗記 ・韓国語で近況報告
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
欠席をしないこと。
出された宿題や課題は必ずやってくること。

フィードバックの方法:
会話本文の暗記を行います。(日本語訳を見ながら)
授業が始まる前近況報告を行います。
単語テストを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	毎回の単語テストや2回行う総合テストで文法や語彙力が到達目標に達しているかどうかを評価する。
授業への参加度	30%	積極的に授業に参加し、課題の提出・会話の暗記などを意欲的に行うことにより段階的に目標に近づいているかどうかを評価する。

	発表	20%	毎回行う近況報告が段階的に到達目標に達しているのかどうかを評価する。

教科書:
著者名: 新大久保語学院・李志映
書　名: 「できる韓国語初級II」 新装版
出版社 DEKIRU出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: jungrankim55@gmail.com

038660

中級ハングルⅡ

松井　　聖一郎

授業テーマ:

中級ハングルⅠで学んだ内容に続きさらに文法や表現を学びながら、四技能（読む・話す・書く・聞く）もバランスよく習得できるようにする。

授業の概要:

中級ハングルⅠに続く授業である。
・テキストに沿ってさまざまな語尾や表現をを学ぶ。
・文法事項の習得の後、会話練習を行う。２～３人のチームによる協働学習を導入する。
・聴解のトレーニングを実施する。

到達目標:

１. 韓国人と円滑なコミュニケーションを取れる能力、特に聴解力を習得する。
２. 韓国語の習得を通じて、人間関係を結べるコミュニケーション能力をつける。
３. 韓国文化についても学び、韓国・朝鮮とそこに住む人々に関心を持てるようにする。

授業方法:

講義と演習(実習)形態で行う。
教科書に沿って本文の音読・暗誦→文法の説明→教科書または別教材を用いた聴解練習の順で進めていく。
受講生のレベルによっては適宜授業の一部を韓国語で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・前期の復習 ・聴解練習	前期内容の復習
2.	・第7課文法説明	聴解練習の復習
3.	・第7課会話練習	第7課文法についての復習
4.	・第8課文法説明	第7課の復習
5.	・第8課会話練習	第8課文法についての復習
6.	・第9課文法説明	第8課の復習
7.	・第9課会話練習	第9課文法についての復習
8.	・中間テスト ・聴解練習	第7課～9課の復習
9.	・第10課文法説明	聴解練習の復習
10.	・第10課会話練習	第10課文法についての復習
11.	・第11課文法説明	第10課の復習
12.	・第11課会話練習	第11課文法についての復習
13.	・第12課文法説明	第11課の復習
14.	・第12課会話練習	第12課文法についての復習
15.	まとめ	第10課～12課の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

・予習や復習の際には辞書が必要である。参考書に挙げた辞書・スマホのアプリ・電子辞書を購入し　活用すること。ネット上の辞書(http://dic.naver.com/)を使ってもかまわない。
・進度も速く、課題も多い授業なので、GPAも念頭において受講申請すること。
・欠席した場合はマナビーの授業報告を参照しながら勉強し、　次回出席時に応分の課題を提出すること。
・欠席時の小テストは、マナビーからダウンロードして提出すれば60点として評価する。

フィードバックの方法:

・授業についての質問等はsmatsui@dwc.doshisha.ac.jpまたは授業中で対応する。
・授業概要、小テストの過去問はマナビーに掲載するので、欠席時には必ず参照し、必要に応じて提出のこと。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	40	得点
中間テスト	30	得点
小テスト	15	得点の平均
授業への参加度	15	出席率と出席時の授業参加度

教科書:

黄聖媛　黄政煖/話せる！　中級韓国語/朝日出版社

参考書:

小学館・韓国金星出版社/朝鮮語辞典/小学館
門脇誠一　高島淑郎　松尾　勇　油谷幸利/小学館日韓辞典/小学館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

smatsui@dwc.doshisha.ac.jp

038760

上級フランス語Ⅰ

E.Faure

授業テーマ:　フランス語で話してみましょう！

授業の概要:　この従業の目的はフランス語で様々な話題について話をすることです。よく、友達としゃべるとき、学校、アルバイトや休みなどについて話しをする。このクラスで友達としゃべるときの場面を想定して、必要な語彙、表現や文法のポイントを学んで、実際に会話の練習を多く行います。フランス語で話しをすることはとても自然なことになるまで、会話の練習を繰り返します！

到達目標:　フランス語で基本的な会話が出来るように、必要な語彙、表現や文法のポイントを学んで、実際に会話の練習を多く行います。

授業方法:　フランス語で話しをすることはとても自然なことになるまで、会話の練習を繰り返します！

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	フランス語で履歴書を書きましょう！（復習）	進み方にあわせて提出
2.	フランス語で履歴書を書きましょう！（復習）	進み方にあわせて提出
3.	フランス語で履歴書を書きましょう！（復習）	進み方にあわせて提出
4.	フランスの教育制度（文法のポイント：時を表す表現）	進み方にあわせて提出
5.	フランスの教育制度（文法のポイント：時を表す表現）	進み方にあわせて提出
6.	フランスの教育制度（文法のポイント：時を表す表現）	進み方にあわせて提出
7.	フランスの教育制度（文法のポイント：時を表す表現）	進み方にあわせて提出
8.	ステレオタイプについて考えましょう！（文法のポイント：代名詞）	進み方にあわせて提出
9.	ステレオタイプについて考えましょう！（文法のポイント：代名詞）	進み方にあわせて提出
10.	ステレオタイプについて考えましょう！（文法のポイント：代名詞）	進み方にあわせて提出
11.	ステレオタイプについて考えましょう！（文法のポイント：代名詞）	進み方にあわせて提出
12.	ステレオタイプについて考えましょう！（文法のポイント：代名詞）	進み方にあわせて提出
13.	フランス共和国のシンボル（文法のポイント：関係代名詞）	進み方にあわせて提出
14.	フランス共和国のシンボル（文法のポイント：関係代名詞）	進み方にあわせて提出
15.	フランス共和国のシンボル（文法のポイント：関係代名詞）	進み方にあわせて提出

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業に参加することは大切です。

フィードバックの方法:　クラス中

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	60	学期中3～5回の小テストを行う
出席・参加	40	授業に参加することは非常に大切です。

教科書:　プリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　クラス後

038860

上級フランス語Ⅱ

E.Faure

授業テーマ:
フランス語で話してみましょう！

授業の概要:
この従業の目的はフランス語で様々な話題について話をすることです。よく、友達としゃべるとき、学校、アルバイトや休みなどについて話しをする。このクラスで友達としゃべるときの場面を想定して、必要な語彙、表現や文法のポイントを学んで、実際に会話の練習を多く行います。フランス語で話しをすることはとても自然なことになるまで、会話の練習を繰り返します！

到達目標:
フランス語で基本的な会話が出来るように、必要な語彙、表現や文法のポイントを学んで、実際に会話の練習を多く行います。

授業方法:
フランス語で話しをすることはとても自然なことになるまで、会話の練習を繰り返します！

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	前期の復習	進み方にあわせて提出
2.	フランスのヴァカンス（文法のポイント：比較）	進み方にあわせて提出
3.	フランスのヴァカンス（文法のポイント：比較）	進み方にあわせて提出
4.	フランスのヴァカンス（文法のポイント：比較）	進み方にあわせて提出
5.	フランスのヴァカンス（文法のポイント：比較）	進み方にあわせて提出
6.	フランス人と芸術（レッスンのポイント：描写をするための表現）	進み方にあわせて提出
7.	フランス人と芸術（レッスンのポイント：描写をするための表現）	進み方にあわせて提出
8.	フランス人と芸術（レッスンのポイント：描写をするための表現）	進み方にあわせて提出
9.	フランス人と芸術（レッスンのポイント：描写をするための表現）	進み方にあわせて提出
10.	フランス人と芸術（レッスンのポイント：描写をするための表現）	進み方にあわせて提出
11.	フランス人とユーモア（レッスンのポイント：自分の意見を述べる）	進み方にあわせて提出
12.	フランス人とユーモア（レッスンのポイント：自分の意見を述べる）	進み方にあわせて提出
13.	フランス人とユーモア（レッスンのポイント：自分の意見を述べる）	進み方にあわせて提出
14.	フランス人とユーモア（レッスンのポイント：自分の意見を述べる）	進み方にあわせて提出
15.	フランス人とユーモア（レッスンのポイント：自分の意見を述べる）	進み方にあわせて提出

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業に参加することは大切です。

フィードバックの方法:
クラス中

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	60	学期中3～5回の小テストを行う
出席・参加	40	

教科書:
プリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
クラス後

038960

上級ドイツ語Ⅰ

服部　　尚己

授業テーマ:　生きたドイツ語に触れる

授業の概要:　初級ドイツ語で習ったことの活用をします。また辞書を使わずに目と耳で表現を理解する訓練をします。ドイツ語圏の文化にも触れたく思います。

到達目標:　ドイツ語検定試験の４級レベルを到達目標としています。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法:　演習授業です。聞き取りは「話す」ことの準備段階です。CDを使い、楽しく聞取りの練習が続けられるようにしたいと思います。テキストは、「聞く」「話す」「書く」「読む」が並行して練習できるようになっています。各能力の平均的な力の涵養を目指したいと思っています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、数の練習	
2.	時刻の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	道案内、ブレーメンの説明文そして聞き取り練習、返却答え合わせをする	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	前置詞の練習、それと聞き取り練習をする	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	週末の予定を言う、それと聞き取り練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	形容詞変化の練習、Thomasの予定を言う等	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	きっぷ売り場での会話、話法の助動詞の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	ホテルを探す、聞き取りの練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	「週末の出来事」を述べる、現在完了形の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	「ミュンヘンで何をしていたの」現在完了形の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	メールを読む、過去分詞の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	「ブレーメンの音楽隊」を読む、過去形の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	「サイクリングに行く」関係代名詞の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	「メルヘン街道」を読む、接続法の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:　単語の習得には、多く「読む」ことが極めて重要です。普段からそのような生活習慣を身に着けてください。それが語学の上達の早道です。

フィードバックの方法:　聞き取りテスト、筆記試験はすべて授業中に返却、答え合わせをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	50%	四技能にわたってのドイツ語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。検定試験の4級レベルを到達目標とする。
授業への参加度	50%	演習授業において積極的に練習に加わり、4級レベルの運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書:　近藤、小林他「Dialog ドイツ語へのキックオフ Ver.5」（郁文堂）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

039060

上級ドイツ語Ⅱ

服部　　尚己

授業テーマ:　生きたドイツ語に触れる

授業の概要:　初級ドイツ語で習ったことの活用をします。また辞書を使わずに目と耳で表現を理解する訓練をします。さらに中級レベルの文の読解を練習します。ドイツ語圏の文化にも触れたく思います。

到達目標:　ドイツ語検定試験の3級レベルを到達目標としています。「読み、書き、聞き、話す」四技能にわたっての運用能力を身に着けることを目標としています。

授業方法:　演習授業です。聞き取りは「話す」ことの準備段階です。CDを使い、楽しく聞取りの練習が続けられるようにしたいと思います。テキストは、「聞く」「話す」「書く」「読む」が並行して練習できるようになっています。各能力の平均的な力の涵養を目指したいと思っています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、自己紹介	
2.	日付の言い方、誕生日の招待状	学習するテキストの部分の予習復習をする
3.	休暇中の体験を語る、聞き取り練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
4.	いろいろな住まい、場所の前置詞	学習するテキストの部分の予習復習をする
5.	賛成意見、反対意見を述べるそれと聞き取り練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
6.	市場で食料品を買う、料理の作り方	学習するテキストの部分の予習復習をする
7.	ごみ処理の仕方、デュアルシステムの文を読む	学習するテキストの部分の予習復習をする
8.	ベルリンと東京を比較する、比較表現の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
9.	WGでの生活、それと聞き取り練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
10.	過去の体験を述べる、「ドイツの教育制度、職業教育」についての文を読む	学習するテキストの部分の予習復習をする
11.	「akademische Hilfskraft への応募」の聞き取り練習、履歴書を読む	学習するテキストの部分の予習復習をする
12.	「ドイツの兵役と代替勤務について」の文を読む、勤務内容、期間など。	学習するテキストの部分の予習復習をする
13.	丁寧な言い方、風景を描写する、接続法の練習	学習するテキストの部分の予習復習をする
14.	「ユーロについて」の文を読む、「夢を語る」練習、それと聞き取り	学習するテキストの部分の予習復習をする
15.	総復習	

受講者へのメッセージやアドバイス:　単語の習得には、多く「読む」ことが極めて重要です。普段からそのような生活習慣を身に着けてください。それが語学の上達の早道です。

フィードバックの方法:　聞き取りテスト、筆記試験はすべて授業中に返却、答え合わせをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	50%	四技能にわたってのドイツ語の運用能力を身に着けたかどうかを判断する。検定試験の3級レベルを到達目標とする。
授業への参加度	50%	演習授業において積極的に練習に加わり、3級レベルの運用能力を身に着けるための努力をしたかどうか判断する

教科書:　近藤、小林他「Dialog ステップアップ版」(郁文堂)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

039160

上級中国語Ⅰ

水野　　義道

授業テーマ:　中国語によるコミュニケーション能力の習得

授業の概要:　初級中国語・中級中国語で習得した中国語の運用能力を出発点として、日本で中国人と中国語で基本的なコミュニケーションができる運用能力を習得する。特に聴解と発音に重点を置いて学習を行う。

到達目標:　日本で中国人と中国語で基本的なコミュニケーションができる。

授業方法:　演習:テキストを使用して聴解と発音に重点を置いて学習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	発音の確認1	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
2.	発音の確認2	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
3.	比較表現	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
4.	可能表現1(助動詞)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
5.	結果補語	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
6.	様態補語	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
7.	方向補語	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
8.	可能表現2(可能補語)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
9.	使役文	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
10.	受動文	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
11.	存現文	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
12.	強調表現	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
13.	複文1(原因・理由)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
14.	複文2(仮定)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
15.	春学期の学習内容の復習	今回学習内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題を出した場合には、添削して教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常試験	50	到達目標の達成度により評価する。
授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標がどの程度達成されているかどうかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Eメール:mizuno@kit.jp

039260

上級中国語Ⅱ

水野　　義道

授業テーマ:　中国語によるコミュニケーション能力の習得

授業の概要:　初級中国語・中級中国語および上級中国語Ⅰで習得した中国語の運用能力を出発点として、日本で中国人と中国語で基本的なコミュニケーションができる運用能力を習得する。

到達目標:　日本で中国人と中国語で基本的なコミュニケーションができる。

授業方法:　演習:テキストを使用して、聴解・発音に重点を置いて練習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文法の復習1(主な文型とテンス・アスペクト)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
2.	文法の復習2(補語と複文)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
3.	大学にて(1)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
4.	大学にて(2)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
5.	大学にて(3)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
6.	動物園にて(1)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
7.	動物園にて(2)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
8.	動物園にて(3)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
9.	故宮にて(1)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
10.	故宮にて(2)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
11.	故宮にて(3)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
12.	西安にて(1)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
13.	西安にて(2)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
14.	西安にて(3)	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
15.	秋学期の学習内容の復習	今回学習内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題を出した場合には、添削して教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常試験	50	到達目標の達成度により評価する。
授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標がどの程度達成されているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Eメール:mizuno@kit.jp

039301～03　**薬学英語A**

中村　憲夫、山内　雄二、成橋　和正

授業テーマ:　薬学英語（化学系薬学英語、生物系薬学英語、医療系薬学英語）

授業の概要:　医療および医薬学研究の国際化に伴って専門分野での英語力習得の必要性が益々高まっている。本講義では国際化薬剤師として、医師等の他の医療従事者や患者様との十分なコミュニケーションを取るために必要な専門性の高い薬学英語力の習得を目指す。特に、有機化学・生物学・医療薬学の3つの分野に重点を置き、薬学専門英単語の十分な習得と理解を目指す。　薬学準備教育（3）①～③

到達目標:　薬学専門英単語の習得および英語文読解による薬学専門知識の収集力の獲得.

授業方法:　講義，英語読解演習を中心とした授業を行う。
授業プリントを使用し、適宜、板書及びPower Pointを用いて説明する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	化学系薬学（1）：原子、分子、イオンや化学結合に関する英単語の習得およびそれらの解説文の読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学的および化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
2.	化学系薬学（2）：有機化合物の性質と立体化学に関する英単語の習得およびそれらの解説文の読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学的および化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
3.	化学系薬学（3）：化学物質の反応と合成に関する英単語の習得およびそれらの解説文の読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学的および化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
4.	化学系薬学（4）：生体分子と医薬品の化学に関する英単語の習得とそれらの解説文の読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学的および化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
5.	化学系薬学（5）：化学実験操作法の英文読解	事前に配布した授業プリントの単なる和訳だけではなく、薬学的および化学的内容も調べた上で授業に臨むこと
6.	生物系薬学（1）：細胞内小器官・分化細胞の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
7.	生物系薬学（2）：生体成分（脂質、糖）の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
8.	生物系薬学（3）：生体成分（アミノ酸、核酸）の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
9.	生物系薬学（4）：遺伝子と遺伝情報発現の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
10.	生物系薬学（5）：タンパク質の構造及び機能の関連英単語の習得と解説文の読解	生物薬学に関する英語プリントを講義に使用するので、単純全訳でなく、生物学の専門書などを参考に、英語で生物学の知識を習得できるような予習を心掛けて欲しい
11.	医療系薬学（1）：医学・薬学に関連する一般な英単語の習得、ならびに、その成り立ちの理解	何度も教科書に目を通し、多くの単語の習得を目指す
12.	医療系薬学（2）：科学英語を理解する上での注意すべき英文法	多くの科学英文を通し、論理的文章と英文法の関係性の習得を目指す
13.	医療系薬学（3）：疾患に関わる病態、治療、医薬品に関する英文 (1)	プリントの英単語の予習を行う。疾患に関する知識を日本語・英語両方から同時に理解する
14.	医療系薬学（4）：疾患に関わる病態、治療、医薬品に関する英文 (2)	プリントの英単語の予習を行う。疾患に関する知識を日本語・英語両方から同時に理解する
15.	医療系薬学（5）：疾患に関わる病態、治療、医薬品に関する英文 (3)	プリントの英単語の予習を行う。疾患に関する知識を日本語・英語両方から同時に理解する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　講義中の受講生の発表内容に対して講義中にコメント・解説を実施する.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む講義への参加状況・態度	25%	出席度及び発表回数や発表内容の適正度により評価する.
定期試験	75%	到達度：薬学専門単語の習得度により評価する. 到達度：英語文読解による薬学専門知識の収集度により評価する.

教科書:　キクタンメディカル 6 薬剤編（医学英語シリーズ10）高橋 玲（著）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワーおよび講義の前後に対応する.（中村，山内）
メール(knaruhas@dwc.doshisha.ac.jp)にて対応する.（成橋）

039400

薬学英語B

漆谷　　徹郎、天ヶ瀬　葉子

授業テーマ:
薬剤師として、科学者として、適切な情報を集め、情報発信を行える英語能力を醸成する。これは薬学準備教育ガイドライン（3）の「薬学の基礎としての英語」に対応する。

授業の概要:
薬剤師として、科学者として、適切な英文ソースから情報を入手し、まとめる。得た情報を、医療従事者、患者、科学者に対して英語で提供するために必要なコミュニケーション能力を高めるトレーニングを行う。新出の英語専門用語の意味を類推できるようになるトレーニングを行う。

到達目標:
医薬品の情報を信頼できる英文のソースから検索し、まとめ、医療従事者や患者、科学者に英語で情報提供できるようになること。

授業方法:
パワーポイントプレゼンテーション、ロールプレイ

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、海外研修プログラムの紹介、医療系英語の学習法解説	過去の海外研修報告書を参照しておくことが望ましい
2.	医薬品添付文書（英文）を読み解く①	指定のオンライン動画を視聴する。1回目の講義時に指定される薬について予習する。
3.	医薬品添付文書（英文）を読み解く② 小テスト①と解説	指定された情報をまとめる。
4.	医薬品添付文書（英文）を読み解く③ プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備
5.	英語で書かれた処方箋を使った服薬指導① 小テスト②と解説	あらかじめ配られる英文処方箋の薬について調べる。
6.	英語で書かれた処方箋を使った服薬指導② ロールプレイ 小テスト③、解説	あらかじめ配られる英文処方箋の薬について調べ、患者に説明できるようにする。
7.	英語で書かれた処方箋を使った服薬指導③ ロールプレイ	あらかじめ配られる英文処方箋の薬について調べ、医師に説明できるようにする。
8.	実験プロトコールを読み解く① 小テスト④、解説	あらかじめ配られる実験プロトコールについて調べ、理解しておく。
9.	実験プロトコールを読み解く② 小テスト⑤、解説	あらかじめ配られる実験プロトコールについて調べ、理解しておく。
10.	実験プロトコールを読み解く③ プレゼンテーション	実験プロトコールを英語でプレゼンテーションを行い、質疑応答を英語で行う準備を行う。
11.	論文を読み解く① 小テスト⑥、解説	あらかじめ配られる論文の概要を理解する。
12.	論文を読み解く② 小テスト⑦、解説	あらかじめ配られる論文の概要を理解する。
13.	論文を読み解く③ 小テスト⑧、解説	指定された論文の内容をプレゼンテーションできるように準備する。
14.	論文を読み解く④ プレゼンテーションおよびフィードバック	プレゼンテーションの練習
15.	最終プレゼンテーション	プレゼンテーションの練習

受講者へのメッセージやアドバイス:
本学習内容は、5年次に行われる薬学部海外研修のための事前学習の一部ともなるので、本学期末に行われる海外研修候補者選抜試験の受験資格として、本科目を履修することが求められている。従って、海外研修を考えている学生は必ず履修登録すること。

フィードバックの方法:
プレゼンテーションの準備、課題についての添削はメール、または対面で行う。最終プレゼンテーションに向けて、それまでのプレゼンテーションについては動画を用いてフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
専門用語の小テスト	20%	計8回の小テストの平均点
プレゼンテーション	70%	最終プレゼンテーションの完成度
授業貢献度	10%	授業中の発言、積極性

教科書:
資料はその都度配布される

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
メールで連絡 turushid@dwc.doshisha.ac.jp（漆谷） yamagase@dwc.doshisha.ac.jp （天ヶ瀬）、または憩水館6階病態生理学研究室を訪問

039501～68

初級中国語基礎

授業テーマ:　中国語をスマートに覚えよう

授業の概要:

発音を一通り覚えてから、その言語の文法構造の骨組みをいちはやくつかむのが、語学のスマートな学習方法であろう。文法構造の骨組みがわかれば、あとは語彙をどんどん増やしていけば、短期間にその言語を習得することが出来る。

幸い、中国語は文法がもっともシンプルな言語である。語順さえ覚えればいい。しかも語順の基本ルールはわずか4つしかない。それさえ覚えれば、中国語の骨組みが難なく理解できる。

この授業はスマート、スピーディーに中国語習得をめざす。

到達目標:　中国語検定試験4級合格

授業方法:　実践能力を重視し、練習・復習の繰り返しを中心に授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	教科書を用意してくる。
2.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
3.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
4.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
5.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
6.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
7.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
8.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
9.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
10.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
11.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
12.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
13.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
14.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
15.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　中国語を楽しく、スマートに覚えましょう！

フィードバックの方法:　採点、添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
教室での練習	40	宿題をこなしたうえ授業に臨むこと、授業への積極的な参加度
小テストや期末試験	60	学習した内容の理解度や習熟度

教科書:　朱捷・朱鳳『語順から学ぶ中国語　改訂版1』(白帝社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

039601～68

初級中国語演習

授業テーマ:　中国語をスマートに覚えよう

授業の概要:

発音を一通り覚えてから、その言語の文法構造の骨組みをいちはやくつかむのが、語学のスマートな学習方法であろう。文法構造の骨組みがわかれば、あとは語彙をどんどん増やしていけば、短期間にその言語を習得することが出来る。

幸い、中国語は文法がもっともシンプルな言語である。語順さえ覚えればいい。しかも語順の基本ルールはわずか4つしかない。それさえ覚えれば、中国語の骨組みが難なく理解できる。

この授業はスマート、スピーディーに中国語習得をめざす。

到達目標:　中国語検定試験4級合格

授業方法:　実践能力を重視し、練習・復習の繰り返しを中心に授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	教科書を用意してくる。
2.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
3.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
4.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
5.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
6.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
7.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
8.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
9.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
10.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
11.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
12.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
13.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
14.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。
15.	中国語の発音、文法、会話、リスニングの基礎	宿題をこなして、指定箇所のリスニングや朗読の練習をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　中国語を楽しく、スマートに覚えましょう！

フィードバックの方法:　採点、添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
教室での練習	40	宿題をこなしたうえ授業に臨むこと、授業への積極的な参加度
小テストや期末試験	60	学習した内容の理解度や習熟度

教科書:　朱捷・朱鳳『語順から学ぶ中国語　改訂版2』（白帝社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

039700

医療薬学海外事情

漆谷　徹郎、髙橋　玲、成橋　和正、天ヶ瀬　葉子、間下　雅士

授業テーマ:　アメリカ合衆国の医療薬学の理解と英語による実務実習の体験

授業の概要:　授業の2/3は、米国・南カリフォルニア大学より薬剤師実務実習担当者であるMichael Z. Wincor博士を招き、4月14・15日の土・日を利用した集中講義形式で、英語による講義およびケーススタディーを行う。5年次に薬学部南カリフォルニア大学海外研修プログラムに参加した6年次生は必ず参加するように求められる。勿論海外研修に参加しなかった6年次生も履修でき

到達目標:　単なる英会話ではなく、米国の医療現場で行われている服薬指導のシミュレーションを通じて、薬学英語でのコミュニケーション能力を養う。

授業方法:　集中講義の前に、予備知識、特に薬学専門用語を英語で使えるための訓練を行う。集中講義はWincor博士の講義と対話で進行する。教員がチューターとして入るが、基本的にはすべて英語で行われる。グループディスカッションやプレゼンテーション、模擬患者に対する服薬指導も組み込まれている。集中講義後には、SGD形式の振り返り学習によって、理解の及ばなかった点の習得をはかり、最終的ポスターを作成して卒業研究発表会の時にポスタープレゼンテーションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、国外の医療制度解説（薬学部教員）	テキストが指定されるので、集中講義までに各自hearing, speakingのスキルを磨いておくこと
2.	英語による医療専門用語－１（薬学部教員）	テキストが指定されるので、集中講義までに各自hearing, speakingのスキルを磨いておくこと
3.	英語による医療専門用語－２（薬学部教員）	テキストが指定されるので、集中講義までに各自hearing, speakingのスキルを磨いておくこと
4.	集中講義のオリエンテーション、米国における薬学教育の解説（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
5.	米国における薬剤師の役割と実務実習内容の解説（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
6.	講義内容に基づいたディスカッション（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
7.	米国における薬物治療の実際－１（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
8.	米国における薬物治療の実際－２（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
9.	米国における薬物治療の実際－３（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
10.	米国における薬物治療：グループ討論とプレゼンテーション（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
11.	ケーススタディー：模擬患者を用いた服薬指導－１（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
12.	ケーススタディー：模擬患者を用いた服薬指導－２（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
13.	まとめのフリーディスカッション（Dr. Wincor）	前もってハンドアウトが配られるので、意味が不明な単語は各自調べておくこと
14.	集中講義内容の振り返り学習とポスター作製（薬学部教員）	ポスター作製は各自行い、講義時間ではその誤りや問題点を教員が指摘する。
15.	15.総合討論、各自のプレゼンテーション（薬学部教員）	プレゼンテーションは当然英語で行うので、各自練習のこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　集中講義時には各教員が必要に応じて学生をサポート。最後のポスタープレゼンテーションでは、薬学部学生や教員の全員に英語による質問をすることが推奨されている。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
集中講義への取り組み	30%	積極的な参加・発言の態度
最終討論	30%	ポスタープレゼンテーションの会話能力
ポスタープレゼンテーション	40%	ポスタープレゼンテーションの内容の完成度

教科書:　適宜配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　履修登録時に集中講義への参加登録を行い、連絡メールを登録する。

040100、60

哲学A

服部　　敬弘

授業テーマ:　哲学入門

授業の概要:　はじめて哲学を学ぶ学生向けに、哲学の基礎問題を、具体的な事例から出発して、一から説明します。異なる時代の様々な哲学的分析を紹介しながら、「伝統的」な哲学と、そこからはみ出る様々な思考を紹介します。

到達目標:　西洋の哲学者のさまざまなテキストを通じて、哲学の基礎問題を理解する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	講義内容の復習
2.	哲学の諸分野と主要問題	講義内容の復習
3.	人間とその生（1）—生きる意味	講義内容の復習
4.	人間とその生（2）—「心」とは何か	講義内容の復習
5.	人間とその生（3）—「心」と「身体」	講義内容の復習
6.	私と他者（1）—「私」という問題	講義内容の復習
7.	私と他者（2）—私のアイデンティティ	講義内容の復習
8.	私と他者（3）—他者の心は理解できるか	講義内容の復習
9.	自由と行為（1）—自由か、決定論か	講義内容の復習
10.	自由と行為（2）—行為することと起きること	講義内容の復習
11.	自由と行為（3）—行為の責任	講義内容の復習
12.	知識と言語（1）—「知る」とはどういうことか	講義内容の復習
13.	知識と言語（2）—真理	講義内容の復習
14.	知識と言語（3）—意味	講義内容の復習
15.	まとめ	講義内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントペーパーの提出を求め、授業時に適宜応答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	15	コメントペーパーの提出
レポート	35	哲学の基礎問題を理解し自分なりに論述できるかを基準とする
定期試験	50	哲学の基礎問題に関する理解度により評価する。

教科書:

参考書:　麻生博之・城戸淳編『哲学の問題群』ナカニシヤ出版、2006年
田端信廣・和田渡・庭田茂吉・堤正史・加賀裕郎・金子昭『思考の作法』萌書房、2004年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業終了後。

040200

哲学B

服部　　敬弘

授業テーマ:　哲学入門

授業の概要:　はじめて哲学を学ぶ学生向けに、哲学の基礎問題を、具体的な事例から出発して、一から説明します。異なる時代の様々な哲学者の分析を紹介しながら、「伝統的」な哲学と、そこからはみ出る様々な思考を紹介します。

到達目標:　西洋の哲学者のさまざまなテキストを通じて、哲学の基礎問題を理解する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	講義内容の復習
2.	存在と世界（1）—「ある」とは何か	講義内容の復習
3.	存在と世界（2）—何が「ある」のか	講義内容の復習
4.	存在と世界（3）—世界の実在	講義内容の復習
5.	善悪と価値（1）—善悪の基準	講義内容の復習
6.	善悪と価値（2）—相対主義	講義内容の復習
7.	善悪と価値（3）—義務と快苦	講義内容の復習
8.	社会と人間（1）—共生	講義内容の復習
9.	社会と人間（2）—私のものとみんなのもの	講義内容の復習
10.	社会と人間（3）—性差	講義内容の復習
11.	社会と人間（4）—歴史	講義内容の復習
12.	苦悩と幸福（1）—死を考える	講義内容の復習
13.	苦悩と幸福（2）—愛の問題	講義内容の復習
14.	苦悩と幸福（3）—幸福	講義内容の復習
15.	まとめ	講義内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントペーパーの提出を求め、授業時に適宜応答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	15	コメントペーパーの提出
レポート	35	哲学の基礎問題を理解し自分なりに論述できるかを基準とする
定期試験	50	哲学の基礎問題に関する理解度により評価する。

教科書:

参考書:　麻生博之・城戸淳編『哲学の問題群』ナカニシヤ出版、2006年
田端信廣・和田渡・庭田茂吉・堤正史・加賀裕郎・金子昭『思考の作法』萌書房、2004年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業終了後。

040300、60

西洋の思想A

石井　　基博

授業テーマ:　西洋思想の伝統とキリスト教

授業の概要:　西洋思想の伝統をなす二つの主要な流れはヘレニズムとヘブライズムです。すなわち、古代ギリシアの哲学思想とユダヤ・キリスト教思想です。授業の前半では、哲学思想の出発点となった古代ギリシアの哲学を取り上げてその原理や基本的な考え方などについて理解します。後半では、イエスの思想やそれに基づいて展開された様々なキリスト教思想の基本的な内容について思想史をたどる形で考えていきます。

到達目標:　この講義では、まず第一に西洋思想の根幹にある二つの潮流である古代ギリシアの哲学思想とユダヤ・キリスト教思想へと歴史を遡って、西洋思想ひいては西洋社会の基礎にある基本的な思考や世界観について知識として理解することを目指します。さらに、そのように西洋思想の原点に立ち返って思索することによって、社会への関心を高めるとともに、混迷する現代社会について自ら考える能力・態度を身につけることを到達目標とします。

授業方法:　講義形式で行います。板書と資料でポイントを確認しながら、理解を深めるように進めます。また、受講生の人数に応じて随時（授業2、3回に1回程度の割合で）授業のテーマについての4、5人ほどのグループでの受講生同士のディスカッション、およびグループ毎の発表等を採り入れます。このグループワークの実施によって、テーマについての理解を深めるとともにコミュニケーション力を高めるように配慮します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	西洋思想の展望（授業の目標・方法と概要について）	復習
2.	西洋思想の源流（1）原理的に考えること(1)	復習と中間レポートの課題図書の通読
3.	西洋思想の源流（1）原理的に考えること(2)	復習と中間レポートの課題図書の通読
4.	西洋思想の源流（2）無知の知	復習と中間レポートの課題図書の通読
5.	西洋思想の源流（3）よく生きること	復習と中間レポートの課題図書の通読
6.	西洋思想の源流（4）徳とは何か	復習と中間レポートの課題図書の通読
7.	西洋思想の源流（5）ヘレニズム期の思想	復習と中間レポートの課題図書の通読
8.	キリスト教の思想（1）ヘブライズムと原始キリスト教（1）	復習と中間レポートの作成
9.	キリスト教の思想（1）ヘブライズムと原始キリスト教（2）	復習と中間レポートの作成
10.	キリスト教の思想（2）教父哲学	復習と中間レポートの作成
11.	キリスト教の思想（3）スコラ哲学	復習
12.	キリスト教の思想（4）宗教改革の思想(1)	復習
13.	キリスト教の思想（4）宗教改革の思想(1)	復習と期末レポートの準備
14.	キリスト教の思想（4）宗教改革の思想(2)	復習と期末レポートの準備
15.	ルネサンス期の思想	復習と期末レポートの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義と自宅での復習を中心に授業に臨んでもらいたいと思います。中間レポート作成のための課題図書の通読は、授業内容の理解にも役立つので、有効に活用してもらいたいです。
中間レポートの課題図書については、2回目の授業時に他の参考文献とともに紹介します。

フィードバックの方法:　中間レポートは、評価して教室にて返却します。
各回の授業最後に書いてもらうコメントには、次回の授業冒頭で若干のものを読み上げて紹介する形で、応答したいと思います。また、授業内容についての質問にもその紹介時に回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末のレポート	60%	講義で考察した主要概念や論点についての理解。
中間（課題図書）レポート	30%	課題図書の内容の基本的な理解。
授業最後のコメントの提出	10%	授業内容（グループディスカッション実施時にはそれも含む）についての基本的な理解の記述。

教科書:

参考書:
熊野純彦『西洋哲学史—古代から中世へ』岩波新書、2006年
原佑ほか『西洋思想の流れ』東京大学出版会、1971年。
F.M.コーンフォード、山田道夫訳『ソクラテス以前以後』岩波文庫、1995年。
竹下節子『キリスト教の真実—西洋近代をもたらした宗教思想』ちくま新書、2012年。
土井健司『キリスト教を問いなおす』ちくま新書、2003年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業内容についての質問は、授業最後のコメントに記入してもらい、次回の授業冒頭でその質問に回答します。それ以外に、授業の前後に教室内でも応対します。

040400、60

西洋の思想B

石井　　基博

授業テーマ:　近代思想から現代思想へ

授業の概要:　西洋の近代思想は、現代社会の様々な場面での基盤となり、今なお大きな影響力を及ぼしています。現代の社会の仕組みの基礎にある、近代科学の思想や民主主義の思想、合理論といった哲学思想などを取り上げて、それら思想の基本的な思考内容や世界観について理解していきます。近代初頭のルネサンス期から現代までの主要な思想を思想史をたどる形で考えていきたいです。

到達目標:　この講義では、まず第一に近代科学の思想や民主主義の思想などの西洋の近代思想の多様な側面に光を当て、西洋思想ひいては西洋社会の基礎にある基本的な思考や世界観について知識として理解することを目指します。さらに、そのように現代社会を形作る原理的、根本的なものへの理解を深めることによって、社会への関心を高めるとともに、望ましい自己と社会との在り方について自ら考え、展望する能力・態度を身につけることを到達目標とします。

授業方法:　講義形式で行います。板書や資料でポイントを確認しながら、理解を深めるように進めます。また、受講生の人数に応じて随時（授業2、3回に1回ほどの割合で）授業のテーマについての4、5人のグループでの受講生同士のディスカッション、およびグループ毎の発表等を採り入れます。このグループワークの実施によって、テーマについての理解を深めるとともにコミュニケーション力を高めるように配慮します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	西洋近・現代思想の展望(1)（授業の目標・方法と概要について）	復習
2.	西洋近・現代思想の展望(2)	復習と中間レポートの課題図書の通読
3.	近代自然科学の思想（1）自然支配の思想(1)	復習と中間レポートの課題図書の通読
4.	近代自然科学の思想（1）自然支配の思想(2)	復習と中間レポートの課題図書の通読
5.	合理論の確立――私とは何か――（1）	復習と中間レポートの課題図書の通読
6.	合理論の確立――私とは何か――（2）	復習と中間レポートの課題図書の通読
7.	社会契約思想（1）人権思想の出発点	復習と中間レポートの課題図書の通読
8.	社会契約思想（2）民主主義の思想	復習と中間レポートの作成
9.	理性批判の哲学――善意志と自由――(1)	復習と中間レポートの作成
10.	理性批判の哲学――善意志と自由――(2)	復習と中間レポートの作成
11.	功利主義	復習
12.	実証主義	復習
13.	現代思想（1）現代思想の源流――ニヒリズムについて――	復習と期末レポートの準備
14.	現代思想（2）責任倫理の思想	復習と期末レポートの準備
15.	現代思想（3）コミュニケーション行為	復習と期末レポートの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義と自宅での復習を中心に授業に臨んでもらいたいと思います。中間レポート作成のための課題図書の通読は、授業内容の理解にも役立つので、有効に活用してもらいたいです。
中間レポートの課題図書については、2回目の授業時に他の参考文献とともに紹介します。

フィードバックの方法:　中間レポートは、評価して教室にて返却します。
各回の授業最後に書いてもらうコメントには、次回の授業冒頭で若干のものを読み上げて紹介する形で、応答したいと思います。また、授業内容についての質問にもその紹介時に回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末のレポート	60%	講義で考察した主要概念や論点についての理解。
中間（課題図書）レポート	30%	課題図書の内容の基本的な理解。
授業最後のコメントの提出	10%	授業内容（グループディスカッション実施時にはそれも含む）についての基本的な理解の記述。

教科書:

参考書:
熊野純彦『西洋哲学史　近代から現代へ』岩波新書、2006年。
原佑ほか『西洋思想の流れ』東京大学出版会、1971年。
生松敬三『社会思想の歴史　ヘーゲル・マルクス・ウェーバー』岩波現代文庫、2002年。
加藤尚武『20世紀の思想　マルクスからデリダへ』PHP新書、1997年。
船木享『現代思想史入門』ちくま新書、2016年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業内容についての質問は、授業最後のコメントに記入してもらい、次回の授業冒頭でその質問に回答します。それ以外に、授業の前後に教室内でも応対します。

040500

日本の思想A

岡林　　伸夫

授業テーマ:　幕末日本の意識状況と異文化体験

授業の概要:　幕末という時代はいうまでもなく既成の秩序意識（体制イデオロギー）と新しい時代の息吹が交錯する場であった。既成の秩序意識は一方では「攘夷」をめぐる意識から揺さぶられ、もう一方では「洋学」の登場が新たな世界像を準備しようとしていた。しかもそれらの交錯を凝縮し加速させたのが、実際に西洋を見聞するという異文化体験であった。
本講においては、そのような幕末における意識（価値観）の変動を、とりわけ異文化体験を集約的に示している1860（万延1）年の遣米使節のアメリカ経験を中心に追うことによって、考察することにしよう。ただし幕末の政治的動乱以前の時期が話の中心になるので，通常「幕末」という言葉から想像されるような著名人物はほとんど登場しないから，そのつもりで。

到達目標:　幕末の精神史・思想史と異文化（アメリカ）体験というものの関係を理解することだけでなく、広い意味では異文化体験は現在の私たちをも取り巻いている現在進行形の問題である。そういう点からも過去の異文化体験の事例を学ぶことをつうじて、異文化体験なるものが人間の意識や心理にとのような変容をもたらすか（あるいはもたらさないか）ということを考える手がかりにしていただきたい。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション—徳川幕藩体制にとって「鎖国」とはなんであったか，参考文献紹介	予復習のための参考文献：小沢健志編『幕末—写真の時代』ちくま学芸文庫
2.	「幕末」に臨場感を得るために—写真資料を見る	予復習のための参考文献：小沢健志編『幕末—写真の時代』ちくま学芸文庫
3.	19世紀前半期の太平洋をめぐる国際情勢—ペリー来航の背景	予復習のための参考文献：加藤祐三『幕末外交と開国』ちくま新書
4.	日米通商条約調印から遣米使節派遣まで	予復習のための参考文献：同上
5.	徳川幕藩体制のイデオロギー（既成の秩序意識）	予復習のための参考文献：丸山真男「開国」（『丸山真男集』第8巻，岩波書店）
6.	村垣範正のアメリカ認識1—「夷狄観」の噴出	予復習のための基礎史料：村垣範正「遣米使日記」，『遣外使節日記纂輯』第1巻，日本史籍協会（復刻版，東京大学出版会）
7.	村垣範正のアメリカ認識2—「西洋技術」の認識	予復習のための参考文献：同上
8.	「攘夷」から「夷情探索」へ	予復習のための参考文献：松沢弘陽『近代日本の形成と西洋経験』岩波書店
9.	玉虫左太夫のアメリカ理解1—「礼」の国と「情」の国の交錯	予復習のための基礎史料：玉虫左太夫「航米日録」，『日本思想大系66　西洋見聞集』岩波書店
10.	玉虫左太夫のアメリカ理解2—船中体験の意味とアメリカ見聞	予復習のための基礎史料：同上
11.	幕末の洋学と洋学者	予復習のための参考文献：広重徹『科学の社会史』中央公論社，岩波現代文庫
12.	佐野鼎のアメリカ体験1—日記の特徴	予復習のための基礎史料：佐野鼎『万延元年訪米日記』金沢文化協会
13.	佐野鼎のアメリカ体験2—文化の異質性をめぐる「探索」の視座	予復習のための基礎史料：同上、福沢諭吉『福翁自伝』岩波文庫
14.	三人のその後と明治維新1—村垣範正と佐野鼎	予復習のための参考文献：高橋是清『高橋是清自伝』中公文庫
15.	三人のその後と明治維新2—玉虫左太夫	予復習のための参考文献：鶴見俊輔『記録現代史日本の百年1　御一新の嵐』ちくま学芸文庫

受講者へのメッセージやアドバイス:　以上の授業内容は講義の順序を示すものであって，必ずしも一回の授業時間で区切るとはかぎらない。また時間に余裕があれば補足参考として福沢諭吉や新島襄の場合を取り上げる。

フィードバックの方法:　レポート講評を「マナビー」にて公表する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末レポート	70%	この講義から受講者自身がいかに自分の関心と問題意識を組み立て深め，どのような事例を取り上げて考察するかを評価の最大のポイントとする。
小テスト	30%	講義内容の理解度や受講生諸君の関心，感想などを問うために予告なく2 回程度行なう。

教科書:　岡林伸夫『万延遣米使節におけるアメリカ体験の諸相』（萌書房，2016年）

参考書:　上記「授業時間外の学習」の欄を参照，および講義当初にリストを配布。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　とりあえずは授業の前後、教室周辺でとっつかまえてください。

040560

日本の思想A

望月　　詩史

授業テーマ:　近代日本における言論人の思想と行動

授業の概要:

本授業では、近代日本の言論人の思想に焦点を当てます。

言論人は、各時代の諸課題と向き合い、それらに対する解決策（処方箋）や構想を提示してきました。しかし解決策は決して一つではなく、多くの場合、それは複数存在しています。その意味では、彼らは常に様々な選択肢から一つを選択してきたといえます。その解決策は一見無原則に見えるかもしれませんが、積み重ねられたそれらを追跡することにより、彼らの思想の輪郭を浮かび上がらせることができます。もちろん、言論人は時代状況に応じて微妙に立場や主張を変化させることから、しばしば「現状追随的」と評価されます。けれども、注意しなければならないのは、なぜその解決策が選択されたのか、ということです。

そこで本授業では、以下の二点に着目します。第一に、主要な政治的・経済的・社会的課題に対する各言論人の解決策を体系的に理解すること。第二に、その解決策を言論人同士で比較することです。

到達目標:　各言論人が提示した諸課題に対する様々な解決策について、今日の価値観と照らし合わせてその内容が妥当だったのか否かという視点にとどまらず、それらが選択されるまでの過程を掘り下げて理解できるようになることを本授業の目標とします。

授業方法:　講義形式で行います。毎回レジュメと関連資料及びその回で取り上げる言論人のテクストを配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（講義スケジュールや成績評価について、「思想」とは何か）	配布レジュメ・資料の再読
2.	明治期の課題①：幕末期から維新期	配布レジュメ・資料の再読
3.	福沢諭吉	配布レジュメ・資料の再読
4.	中江兆民	配布レジュメ・資料の再読
5.	植木枝盛	配布レジュメ・資料の再読
6.	明治期の課題②：帝国憲法と教育勅語	配布レジュメ・資料の再読
7.	明治期の課題③：二つの戦争と天皇制をめぐる「正統と異端」	配布レジュメ・資料の再読
8.	徳富蘇峰	配布レジュメ・資料の再読
9.	山路愛山	配布レジュメ・資料の再読
10.	陸羯南	配布レジュメ・資料の再読
11.	三宅雪嶺	配布レジュメ・資料の再読
12.	大正・昭和期の課題	配布レジュメ・資料の再読
13.	長谷川如是閑	配布レジュメ・資料の再読
14.	石橋湛山	配布レジュメ・資料の再読
15.	まとめ	配布レジュメ・資料の再読

受講者へのメッセージやアドバイス:　「思想」というと「〇〇主義」など抽象的な話が多く、とっつきにくい印象を持たれている人もいるかもしれません。そのため、授業では、特定の時代にどういった課題が存在しており、それに対して言論人がどのような解決策（処方箋）や構想を提示したのかについて具体的に説明します。

フィードバックの方法:　毎回授業で取り上げる言論人のテクストを読み、コメントペーパーに意見を記入してもらいます。疑問点があれば、その旨を記入してください。次回授業の冒頭で回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20	各言論人のテクストを読んだ上でコメントペーパーを提出してもらいその内容で評価します。
期末試験	80	講義内容を正確に理解できているか、自らの意見を論理的に説明できているかを中心に評価します。

教科書:

参考書:　鹿野政直『近代日本思想案内』（岩波文庫、1999年）
米原謙『増補版　日本政治思想』（ミネルヴァ書房、2017年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　連絡を取る必要がある場合には、下記のアドレスにメールを送ってください。
smochizu@mail.doshisha.ac.jp

040600

日本の思想B

岡林　　伸夫

授業テーマ:　明治日本の人口問題と移民

授業の概要:

明治維新後の日本は年1%を超える増加率で人口を急増させていた。やがてその事実に気づいた言論人たちが人口増加への対策として主張し始めたのが「移民論」である。つまり増加する人口を日本の国外に移すことによって解決を図ろうとしたのである。その議論は新聞雑誌にかぎらず，政治家から実業家，さらには社会主義者たちにまで広がっていった。そしてその移民の「夢」を特に引きつけたアメリカにおいて日本人移民が排斥されるとき明治の言論界はある妄想を生み出す。

本講ではこのような明治期の「移民論」を，明治期における日本人移民としては多くを占めたアメリカ（およびハワイ）への実際の移民の姿をまじえながら語ることにしよう。

到達目標:

現在の日本はすでに「移民社会」化に直面している。つまり過去においては「移民する」側であった日本が今や「移民される」側になっているのだ。そのときにあって日本が過去に経験した移民問題を学ぶだけでなく，広くは「人はなぜ国境を超えて動こうとするか」という問題（留学・外国人労働者・密航・民族差別問題など）や移民社会が過去にも現在にももつ社会構造や心理構造の問題と重ね合わせながら受講していただけたらよいだろう。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション—江戸時代の人口動態，参考文献紹介	予復習のための参考文献：鬼頭宏『人口から読む日本の歴史』講談社学術文庫
2.	明治期日本人移民の概要—写真資料を見る	予復習のための参考文献：『写真絵画集成日本人移民1 ハワイ・北米大陸』日本図書センター：『明治大正図誌16　海外』筑摩書房
3.	維新前後—日本人移民の発端	予復習のための参考文献：横田順彌『明治不可思議堂』ちくま文庫
4.	ハワイ官約移民	予復習のための参考文献：猿谷要『ハワイ王朝最後の女王』文春新書
5.	アメリカの東アジア系移民事情と太平洋	予復習のための参考文献：ロバート・G・リー『オリエンタルズ』岩波書店
6.	福沢諭吉の「渡米論」とアメリカ移民の開始	予復習のための参考文献：岡林伸夫「人口問題と移民論—明治日本の不安と欲望」（『同志社法学』361号）
7.	人口増加問題を基盤にした移民論の登場	予復習のための参考文献：同上
8.	日本人移民の行き先と閉ざされる日本人移民	予復讐のための参考文献：同上
9.	片山潜の渡米	予復習のための参考文献：片山潜『自伝』改造社，岩波書店（再刊）
10.	社会主義者の渡米論—片山潜と山根吾一	予復習のための参考文献：岡林伸夫『ある明治社会主義者の肖像—山根吾一覚書』不二出版
11.	『渡米雑誌』おける渡米者の姿	予復習のための参考文献：山根吾一編『最近渡米案内』，復刻『近代欧米渡航案内記集成 第4巻』ゆまに書房：岡林伸夫「ボストンの蔵原惟郭」（『同志社談叢』29号
12.	渡米奨励論と渡米批判論	予復習のための参考文献：岡林伸夫『ある明治社会主義者の肖像—山根吾一覚書』不二出版
13.	アメリカにおける排日問題	予復習のための参考文献：同上
14.	日米未来戦記の登場—妄想の開始	予復習のための参考文献：横田順彌『明治「空想小説」コレクション』PHP研究所：岡林伸夫「人口問題と移民論—明治日本の不安と欲望」（『同志社法学』361号）
15.	「在米日本人」から「日系アメリカ人」へ	予復習のための参考文献：大岡信『北米万葉集』集英社新書

受講者へのメッセージやアドバイス:　以上の授業回数は講義の順序を示すものであって，必ずしも一回の授業時間で区切るとはかぎらない。

フィードバックの方法:　レポート講評を「マナビー」にて公表。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末レポート	70%	この講義から受講者自身がいかに自分の関心と問題意識を組み立て，どのような事例を取り上げて考察するかを評価の最大のポイントとする。
小テスト	30%	講義内容の理解度を問うために予告なく2 回程度行なう。

教科書:

岡林伸夫「人口問題と移民論—明治日本の不安と欲望」（『同志社法学』361号，2013年3月）。一般に市販されているものではないが，同志社大学図書館の検索システム（DOORS）で論文名または著者名で検索のうえ「閲覧可能ファイルへのリンク」から無料でPDFファイルをダウンロードできるので，それを入手してプリントアウトしてください。

参考書:

岡林伸夫『ある明治社会主義の肖像—山根吾一覚書』（不二出版，2000年）
出原政雄編『歴史・思想からみた現代政治』（法律文化社，2008年）
以上の2 冊をとりあえずあげておく。その他の参考文献については上記「授業時間外の学習」の欄を参照，および授業当初にリストを配布。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　とりあえずは授業の前後、教室周辺でとっつかまえてください。

040900、60

宇宙の科学

中川　　義次

授業テーマ:　現代の宇宙像

授業の概要:　宇宙の観測技術の急速な進歩により、現在新しい発見が次々となされている。宇宙の観測の最新の成果を紹介し、それをもとに現代の宇宙像を描き出すのが、本講の目的である。まず、我々の住む地球の紹介から始めて、太陽、銀河系、銀河、銀河団、超銀河団、宇宙全体という宇宙の各階層について、最新の観測事実と理論を紹介する。次に、それらの基礎知識をもとに、宇宙の進化を、宇宙創成から現在にいたるまで時間を追って論じ、宇宙の全体像の把握に至る。最後に、地球外生命・文明の可能性についても考察する。

到達目標:　現代科学が明かす驚くべき宇宙の全体像を学ぶ。

授業方法:　板書による講義を主とするが、理解を助けるために、パワーポイント・スライド等も使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション、宇宙の諸階層	本授業は復習を重視する。毎回の授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
2.	地球のプロフィール	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
3.	太陽のプロフィール	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
4.	銀河系のプロフィール	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
5.	銀河における物質の大循環 －星からガスへ、ガスから星へ－	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
6.	星の誕生 －星間雲の重力収縮－ 自由落下時間の計算	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
7.	星の進化をもたらすもの －中心部の核融合反応－	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
8.	巨星への進化と星の屍 白色矮星、超新星爆発、中性子星、ブラックホール	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
9.	宇宙の階層構造 銀河群・銀河団、超銀河団、宇宙の大規模構造	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
10.	宇宙の膨張の発見 アインシュタインの一般相対性理論－重力は時空のゆがみ !?－	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
11.	宇宙の進化 宇宙の始まり、インフレーション、ビッグバン、宇宙の＜加速＞膨張の発見、ダークマター・ダークエネルギー	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
12.	惑星系の形成過程（1） 原始惑星系円盤の形成、ガス・ダスト分離、微惑星誕生	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
13.	惑星系の形成過程（2） 惑星集積、木星型惑星の外層形成	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
14.	太陽系外惑星の発見、地球外生命探査・地球外文明探査	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。
15.	まとめ	授業で書き取ったノートを、授業後もう一度整理し、自分なりにまとめ直すことを勧める。

受講者へのメッセージやアドバイス:　私たちの日常生活の経験とは時間スケールも空間スケールも大きくかけ離れた宇宙の自然現象に、大いに驚嘆してもらいたい。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	6割未満の得点は不合格。下記小テスト・授業への積極的参加度を合わせて総合的に最終評価をする。
小テスト	20	加点方式で考慮
授業への積極的参加度	20	加点方式で考慮

教科書:　特に指定しない

参考書:　サイモン・シン著「宇宙創成」（上）（下）新潮文庫 新潮社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業後に声がけしてください。

041001、02

地球の科学

佐藤　　活志

授業テーマ:

地球の歴史，惑星としての特徴，地震や火山などの変動とそれに伴う災害について解説する.

授業の概要:

地球科学的現象は，時間スケールが長く，空間スケールも大きいため，日常的な感覚による理解が難しい．46億年にわたる地球の歴史，プレートテクトニクスとそれに伴う地震や火山噴火などの現象，大気と海洋で起こる現象，それらに伴う自然災害や環境問題について，基礎的な事柄を解説する.

到達目標:

(1) 地球科学的現象や地球の歴史について基礎的な知識を得る
(2) 自然災害や環境問題に関する報道を正しく理解するための基礎的な知識を得る
(3) 自然現象に興味を持ち，それを理解するための様々な視点を知る

授業方法:

基本的に板書で行う．映像資料を補助的に用いて説明する.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地球の大きさと構造	地球の半径，地殻，マントル，アイソスタシー
2.	地球を構成する物質	岩石，鉱物，地層
3.	地球の歴史（1）	放射年代，冥王累代，太古累代，原生累代
4.	地球の歴史（2）	古生代，中生代，新生代，化石
5.	プレートテクトニクス（1）	大陸移動説，断層，海嶺，海溝
6.	プレートテクトニクス（2）	島弧，付加体，構造線
7.	地震と災害（1）	地震波，マグニチュード，震度
8.	地震と災害（2）	海溝型地震，内陸型地震，津波
9.	火山と災害（1）	溶岩，盾状火山，成層火山，カルデラ
10.	火山と災害（2）	火山灰，火砕流，水蒸気爆発
11.	大気と海洋（1）	大気圏，気圧，貿易風，偏西風
12.	大気と海洋（2）	海流，温暖化，炭素循環
13.	太陽系の惑星と衛星	太陽の大きさ，地球型惑星，木星型惑星，準惑星
14.	月の歴史	月の海と高地，ジャイアントインパクト説，クレーター年代
15.	まとめ	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

準備学習として，市販の高校地学の参考書（高校で地学を履修した者は教科書や資料集でよい）を用いて，授業の各回に示したキーワードに該当する項を参照しておくと，効率よく学習できる.

フィードバックの方法:

出席カードの自由記入欄等に質問や意見を書いてほしい．それらは，次回の授業にできるだけ反映させたい.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標(1)および(2)に関する知識と理解度を評価する.
授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し，到達目標(3)ができるようになったか評価する.

教科書:

参考書:

杵島正洋・松本直記・左巻健男，「新しい高校地学の教科書」，講談社ブルーバックス，ISBN: 978-4062575102
「ニューステージ新地学図表」，浜島書店，ISBN: 978-4834340129
酒井治孝，「地球学入門」，東海大学出版部，ISBN: 978-4-486-02099-8

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール: k_sato@kueps.kyoto-u.ac.jp

041060

地球の科学

渡邊　　裕美子

授業テーマ:

授業の概要:　地球表層環境の成り立ちと、その変遷を中心に解説する。

到達目標:　地球科学、とくに表層環境の変遷に関する基礎知識を得ること。昨今課題となっている、地球環境問題を考えるために必要な"科学的な思考方法"を身に付けること。

授業方法:　講義形式。パワーポイントのスライドショー、関連する動画などを取り入れながら授業を進めるので、適宜ノートを作成してください。必要な資料はプリントにして配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	特になし。
2.	地球システムと物質の循環	特になし。
3.	地球のエネルギー収支	前回の復習を中心に学習してください。
4.	地球の歴史(1):地球の形成と初期地球の環境	前回の復習を中心に学習してください。
5.	地球の歴史(2):地球大気と生物の進化　～スノーボールアース～	前回の復習を中心に学習してください。
6.	地球の歴史(3):地球大気と生物の進化　～カンブリア紀から白亜紀まで～	前回の復習を中心に学習してください。
7.	地球の歴史(4):大量絶滅	前回の復習を中心に学習してください。
8.	地球の歴史(5):新生代の気候変動	前回の復習を中心に学習してください。
9.	地球の歴史(6):氷河時代と無氷河時代　～氷河の痕跡～	前回の復習を中心に学習してください。
10.	地球の歴史(7):氷期-間氷期サイクル～10万年スケールの気候変動～	前回の復習を中心に学習してください。
11.	地球の歴史(8):最終氷期のおける急激な気候変動　～100年から1000年スケールの気候変動～	前回の復習を中心に学習してください。
12.	地球の歴史(9):最終氷期から現在まで　～歴史時代の気候変動～	前回の復習を中心に学習してください。
13.	地球の歴史(10):人類による地球環境の変化	前回の復習を中心に学習してください。
14.	これまでの授業の復習、演習	前回の復習を中心に学習してください。
15.	まとめ	講義全体の復習を中心に学習してください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　出席カードの自由記入欄に、質問・感想等があれば積極的に記入してください。それらの質問には、できる限り、授業を通して解説したいと思います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	60	地球科学に関する知識や、その理解度を評価する。
授業への参加度	40	積極的に授業に参加し、地球科学に関する理解度を評価する。

教科書:　特になし。

参考書:　特になし。必要があれば、随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

041101、02

生命の科学

角山　　雄一

授業テーマ:　生命に関する科学知識について幅広く学び、「生命とは何か？」を考えます。

授業の概要:

生命の謎の解明に挑んでいる科学者たちは、
生命現象を客観的かつ体系的に調査観察し、
その結果から生命現象を矛盾なく論理的に説明しようと日夜奮闘しています。

本講義では、生命に関する謎の解明に挑戦し続けてきた科学者たちが
これまでに明らかにしてきた生命現象のことを幅広く紹介して行きます。

生命について、科学の世界ではどこまで明らかにされているのでしょう。
体に備わっている巧妙な仕組みや、生命現象の不思議に接することが
もしかしたら皆さん自身の命や人生について見つめ直すきっかけになるかもしれません。

到達目標:

・生命科学における基礎科学知識を習得
・生命について多角的な視点で考察する力を獲得

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	細胞の進化	授業後に、高校等で学習した生物学の基礎知識とあわせて復習すること。
2.	DNAの役割	授業後に、高校等で学習した生物学の基礎知識とあわせて復習すること。
3.	染色体異常・突然変異と遺伝病の関係	授業後に、突然変異と進化の関係について考察すること。
4.	突然変異源としての紫外線と放射線	授業後に、突然変異と進化の関係について考察すること。
5.	放射線利用のリスクと恩恵	授業後に、科学技術を利用することの利便性とリスクについて考察すること。
6.	がんとは何か	
7.	自己と他者を区別する仕組み	
8.	種の多様性	授業後に、さまざまな生物種が地球上に存在する意義について考察すること。
9.	雌雄と生存戦略	授業後に、性別があることと地球環境との関係を考察すること。
10.	脳の世界	
11.	スーパー触媒「酵素」タンパク質	
12.	バイオテクノロジーの最先端	
13.	生物なんでもＱ＆Ａ	生命科学に関する事柄で、かつこれまでの講義で取り扱われなかったことについて質問があれば、授業までに質問事項を整理しておくこと。
14.	寿命…「人はなぜ死ななければならないのか」	授業後に、生命とは何かについて、自身の言葉で考察すること。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講に際しては専門的な知識は不要です。高校で生物を選択していない学生にもわかるよう基礎知識から学べるよう講義を行います。

フィードバックの方法:　アンケートを実施するが、その結果については講義の中で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	50	到達目標「生命科学における基礎知識を習得」および「生命について多角的な視点で考察する力を獲得」について、試験を通じてこれらの達成度を評価する。
アンケート	10	到達目標「生命について多角的な視点で考察する力を獲得」を達成する意欲の有無について、その度合いを評価する。
授業への参加度	40	積極的に授業に参加して到達目標「生命科学における基礎知識を習得」を達成する意欲があるかどうかについて、その度合いを出席回数に応じて評価する。

教科書:

参考書:

椎名隆、佐藤雅彦、角山雄一　著、
「スタートアップ生化学　わかる“生命”のしくみ」 第2版、
化学同人

田中司朗、角山雄一、中島裕夫、坂東昌子　編著、
「放射線必須データ32　被ばく影響の根拠」、
創元社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　出席カードの自由記述欄、Eメール（アドレスは授業で告知）、授業後の教室内で応対

041161

生命の科学

那須田　周平

授業テーマ:
私たちの生活と生物:食品中の植物の共通性と多様性

授業の概要:
普段何気なく暮らしている私たちは、他の生物に支えられています。この講義では、私たちの身の回りの生物(とくに植物)について再認識することを試みます。生物である私たちは、生き物を摂取せずに生活することは出来ません。すなわち、食事は生物の一員であるヒトが根源的に必要とする生命活動です。同時に、食事には単に栄養の摂取とだけでは説明しきれない文化的な側面があります。
　セメスターの前半で、各人が食事で摂取する生物由来の食材の調査を行います。1週間に食事で摂取した生物名を記述し、その特徴を検討します。次に、この調査の結果生じた疑問とそれに対するもっともらしい説明(仮説)を検証するための調査を自分で設計して実施します。この過程で、観察結果を科学的に考察するトレーニングをします。

到達目標:
・食事中の植物についてその特徴を捉える。
・生物の分類方法について理解する。
・科学程方法論について理解する。
・自ら仮説を立て、その仮説を検証するための調査方法を立案し実施する。

授業方法:
講義は通常の講義形式でおこない、演習とプレゼンテーションは受講者参加型のゼミ形式で行います。
・食物調査は、前半の1週間、後半の1週間に摂取した食物すべてを写真付きで記録していただきます。主食、副食、調味料等に含まれる生物由来の成分を枚挙していただき、生物分類学的に考察を加えてもらいます。
・各受講生の食物調査の内容は、クラスの総合討論(まとめ)の資料とすることがあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義:イントロダクション(講義の進め方、課題、評価について):生命とは？生命科学とは？	準備はいりません
2.	野外調査:同志社女子大学今出川キャンパス周辺の植生調査1	キャンパスの植物に興味を持ってください。今咲いている花の名前で分かるものを教えてください
3.	課題の説明:食物の調査についての解説・問題提起	調査開始の準備をします
4.	講義:植物の分類方法1．:分類指標	食事の調査
5.	演習:第1回目の食物の調査の結果の考察:観測データの数値化	調査結果をどのようにまとめたらいいか考察
6.	演習:第1回目の食物の調査の結果の考察:何をどう示すか？	プレゼンテーションの準備
7.	プレゼンテーション:第1回目の食物の調査の結果と考察	プレゼンテーションの準備
8.	講義:植物の分類方法2．:どのように分類するか	第一回目の調査結果(自分の調査だけに限らなくて良い)から、どんなことを面白く思い、どんなことを知りたいと思ったかを箇条書きにしてみる
9.	野外調査:同志社女子大学今出川キャンパス周辺の植生調査2	第一回目の調査結果(自分の調査だけに限らなくて良い)から、どんなことを面白く思い、どんなことを知りたいと思ったかを箇条書きにしてみる
10.	講義:植物の分類方法3．:ゲノム情報と分類	科学的方法論に関する文献(印刷して配布)を読む
11.	演習:第1回目の食物の調査で生じた疑問:仮説を立ててみよう	仮説を立ててみよう
12.	演習:第2回目の食物の調査:仮説を検証するにはどのような調査をすればよいか？	仮説を検証するためにはどんな調査を行えばいいのか考える
13.	演習:第2回目の食物の調査の結果の考察	第2回目調査結果の取りまとめと考察
14.	プレゼンテーション:食物調査のまとめ	プレゼンテーションの準備
15.	プレゼンテーション:食物調査のまとめ	プレゼンテーションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
本講義は、講義・演習・プレゼンテーション・野外調査で構成されます。講義では生物を分類する方法について概説いたします。
　演習として、食物の調査を行います。受講生は、講義の前半1週間に摂取した食物のすべてを記録してもらいます。その記録に基づき、われわれが普段食べている生物由来の食物について、その分類学的特徴などについてプレゼンテーションしてもらいます。
　また、前半、中盤、後半の各1回の講義時間を利用して、今出川キャンパス内の植物の野外調査を行います。春から夏への移り変わりの中での植物相の変化を調査します。
　高等学校で生物を選択していることを前提として講義を行います。生物未履修者は、高校の教科書・参考書・図説で基本的知識を補習してください。
　予習は特に必要ではありませんが、プロジェクト課題に積極に取り組んでください。
　PCを使ったデータのとりまとめとプレゼンテーションを行います。PCにプレゼンテーション用ソフトウエアを用意してください。また、レポート作成のため写真データのPCへの取り込み、印刷等をしてもらいます。PCの基本的な操作については自習してください。

フィードバックの方法:
プレゼンテーションに対する相互フィードバックを行います

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プロジェクト課題(調査、プレゼンテーション)への取り組み	100%	自己の課題として積極的に取り組めているかどうか、仮説検証の方法論に則って調査できているかなど、総合的に評価します。

教科書:
亀田龍吉著 「花からわかる野菜の図鑑」 文一総合出版

参考書:
「ダイナミックワイド　図説生物」 東京書籍(高等学校の生物の図説。生物未履修者のために。)
東京大学生命科学教科書編集委員会編 「生命科学」　羊土社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
電子メールアドレスを受講生に公開します。オフィスアワーは設けません。質問等がある場合には電子メールをください。

041162

生命の科学

堀江　　正信

授業テーマ:
「生命」と「バイオテクノロジー」

授業の概要:
生命を構成している様々な事柄について、基礎から最先端の研究報告まで幅広い内容を網羅して学ぶことで、「生命」というモノについて様々な角度からアプローチしていきましょう。

到達目標:
複雑な生命現象を解き明かすためには、多くの知見を吸収して仮説を立て、実験によって検証・証明するというプロセスの積み重ねです。本講義では様々な先人たちの研究過程などにも触れ、論理的思考プロセスも説明していきます。このような思考法は科学研究のみならず、社会一般的な生活においても、非常に重要になってくるでしょう。さらに最新研究結果なども織り込むことで、日常の中に研究成果が多く活用されていることも知っていただきます。

授業方法:
講義形式で行う。映像を多用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	生命の構成分子たち 生命を構成している要素が何かを学ぶ	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
2.	細胞とは？（1） 細胞の誕生と歴史、構造などを学ぶ	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
3.	細胞とは？（2） 代謝や研究への応用などを学ぶ	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
4.	生命の設計図DNA 遺伝と遺伝子発現、DNAの本質について学ぶ	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
5.	遺伝病と遺伝子組換え 遺伝病を通じて遺伝子の重要性を学び、現代の遺伝子組換え技術について説明する	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
6.	放射線とは？ 放射線とは何か？遺伝子への影響を含めて学ぶ	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
7.	紫外線と日焼け どうして日焼けするのか？UVから身を守る細胞の仕組みを知る	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
8.	ガン ガンとは何か？どうして発生するのか？	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
9.	タンパク質と酵素 生命の恒常性を維持するタンパク質と酵素の驚くべき機能を学ぶ	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
10.	免疫 体を防衛する重要な仕組みについて学ぶ	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
11.	ウィルス ウィルスってなに？なぜ感染るの？	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
12.	生物を利用したものづくり お酒や醤油など、日本の伝統技術である発酵物などのものづくりについて学ぶ	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
13.	幹細胞と再生医療 身体中に存在する体性幹細胞及びiPS細胞などについてとその応用について、近年話題になっている再生医療などを含めて学ぶ	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
14.	質問コーナー 生物なんでもQ&A	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。
15.	生と死について	配布資料や教科書を用いて講義後に復讐を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
高校で生物を選択していない学生でもわかるように講義を行うため、予備知識は全く必要ありません

フィードバックの方法:
小テストの内容や講義での質問事項などは、講義の中で可能な限り取り上げて解説を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席およびレポート	40%	欠席することなく授業へ積極的に参加していたかを評価
小テスト	10%	到達目標である日常への生命科学技術の応用に気づけたかどうかを評価する
定期試験	50%	到達目標である論理的思考ができるかを、講義中に説明した科学課題に対する理解度と説明によって評価する。

教科書:
椎名隆、佐藤雅彦、角山雄一 「スタートアップ生化学　わかる　”生命”のしくみ」第2版 化学同人 ISBN: 978-4759811872

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:
horie.masanobu.4z@kyoto-u.ac.jp

041200、60

自然人類学

中野　　良彦

授業テーマ:　生物としての人類のあり方について学習する

授業の概要:　生命の誕生からヒトに至るまでの進化は、さまざまな地球環境の変化に対する適応の歴史である。これは全ての生物についても同様であり、適応できなかった種は絶滅することになっていった。
こうしたヒトにおける適応の歴史を通して、ヒトの進化はどのような過程をたどったのか、そしてヒトの特徴とはどのようなものなのかを学習することにより、ヒトの本質とは何か、私たちをとりまく自然や社会の中でどのように生きていくべきなのかについて考えを深める。

到達目標:
1. .ヒトへと至る生物の進化過程についての知識を得る。
2. 現代人が世界の様々な環境に適応して生活することが可能な理由について理解する。
3. 上記の内容についての知識、理解に基づいて、ヒトの本質について考察する意欲や能力を身につける。

授業方法:　授業は講義形式で行い、板書を中心に進める予定である。内容に応じてスライドやビデオなどの映像資料を利用する。また、補助資料(図表)としてプリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自然人類学を学ぶにあたって イントロダクションと基礎的な知識の概説	自然人類学の研究対象についての知識を得ておく。
2.	進化と進化論 ダーウィンの進化論とは	ダーウィンの業績について一般的に知られている範囲の知識を得ておく。
3.	遺伝のしくみ メンデルの法則からDNA研究まで	高校までに学習した遺伝に関する内容を復習する。
4.	ヒトの特徴 ヒトはどこが他の動物たちと違うのか	ヒトと他の動物との相違点について、様々な面から考えておく。
5.	生命の進化(1) 生命の誕生～脊椎動物の登場	動物の分類群について復習しておく。
6.	生命の進化(2) 哺乳類への進化	哺乳類の分類とその特徴について、調べておく。
7.	霊長類(1) 分類・分布と形態的特徴	霊長類とはどういう動物かについて答えられるようにする。
8.	霊長類(2) 霊長類の社会	霊長類の社会的行動について、有名な例を調べておく。
9.	霊長類(3) 霊長類の行動と心理	霊長類の知能についての研究例を調べておく。
10.	サルからヒトへ 初期人類(猿人)への進化	化石研究とはどのようなものかを調べておく。
11.	出アフリカ ホモ属(原人)の進化とユーラシア大陸への進出	アフリカでヒトが進化したとされる理由について調べておく。
12.	現代人(ホモ・サピエンス)への進化 現代人の起源について	現代人の形態的特徴についてあげることができるようにする。
13.	現代人の適応と地球全体への拡散 生活様式の発展と環境変化への対応	地球上の地域によって適応条件が異なることについて調べておく。
14.	文明への道 農耕の開始と社会、都市の発達	ヒトが現代文明を築くにはどのような過程が必要であったかを調べておく。
15.	まとめ	これまでの講義内容について復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ヒトの進化過程について理解し、現代人が地球のほぼ全域にまで生活域を拡げていった理由を考察することにより、ヒトに本来、備わっている性質や特長がどのような要因にもとづいて獲得されたものかを追究していってもらいたい。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	90	到達目標1～3に関する知識や理解度により評価する。
授業への参加度	10	授業中に行う不定期の小レポートなどにより、到達目標1についての理解度を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、Eメール

041300

物質の科学

伊東　　徳人

授業テーマ:　原子、分子の振る舞いから観た物質の様々な性質

授業の概要:　現在、地球上に存在すると思われる数千万種の物質が僅か118種類の元素の組み合わせで出来ている。それらを理解するには、物質を作っている原子や分子レベルの化学的な基礎知識が必要である。
また、物質が示す性質を理解すると共に機能を実用的に利用しているのかを学び考察する事は、理系/文系を問わず大変重要であり、興味深い事である。本講義では原子の構造等の基礎知識を学んだ上で身の回りの”物質”や”現象”についてその本質や変化を分子レベルで理解出来るように解説する。

到達目標:　日常生活の中で接する物質に対して科学的な知識や原理と関連付けて理解出来る様にする。
① 物質を構成する原子、分子が示す化学的な性質とそれらが凝集した時に現れる凝集体の物質の違いを理解する。
② 物質の示す機能を化学的、或は物理的な視点からに基づいて理解する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 物質の科学および化学	
2.	原子と分子とイオン 元素の周期表 電子配置	当日、配布したプリントの復習
3.	電子配置 様々な化学結合と分子の極性	当日、配布したプリントの復習
4.	同位体・同素体 自然界における放射性同位元素 放射性同位元素による年代測定	当日、配布したプリントの復習
5.	遷移元素と金属錯体 鉄鋼と非鉄金属	当日、配布したプリントの復習
6.	高分子化合物Ⅰ ～合成高分子化合物～ 汎用性樹脂と合成ゴム マイクロプラスチック	
7.	小テスト 高分子化合物Ⅱ 高機能性樹脂	
8.	天然高分子 ～デンプン・タンパク質～ バイオエタノール	当日、配布したプリントの復習
9.	遺伝子とは 遺伝子組み換え作物（GMO）	当日、配布したプリントの復習
10.	π結合と色素 放射能と（電離）放射線	当日、配布したプリントの復習
11.	放射性崩壊 原子力発電と放射線	当日、配布したプリントの復習
12.	製鐵について レアメタルとレアアース	
13.	電気の技術と半導体について ～　LED/太陽光発電　～ 有機ELについて	当日、配布したプリントの復習
14.	電池に利用される酸化と還元 酸化剤と還元剤について 燃料電池について	当日、配布したプリントの復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　小テストの解答、解説については教室でまとめて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	20	
出席を含む授業の参加態度	40	出席カードに確認問題等を解く。
期末試験	40	50%以上

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　nito@dwc.doshisha.ac.jp

041360

物質の科学

赤松　　美紀

授業テーマ:　身の回りの物質の化学

授業の概要:　人類は化学物質に囲まれて生活しているとともに，すべての生物も化学物質から作られており，私たちは化学物質の中で生きていると捉えることができる．この講義では，人類の生活と関わりの深い化学物質について説明する．まず，原子・分子レベルで，次に化合物レベルで化学物質とは何かについて考え，化学物質の構造と性質について学ぶ．そして，私たちの身の回りに存在する化学物質の具体例について，化学的観点から理解を深めることを目標とする．

到達目標:
・化学の基礎について理解する．
・身の回りの化学物質に対して関心を持ち，知識・理解を深める．
・小レポートにおいて，調査内容に対して独自の視点を持つ重要性を理解する．
・グループ発表において，調査の重要性および表現の仕方を会得する．
・グループ発表において，内容に関心を持ち，積極的に討論する姿勢を会得する．

授業方法:　パワーポイントファイルを用いた講義形式，およびグループ発表（1回）．

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション，物質の科学および化学，化学の歴史	初回講義なので，特に準備学習は必要ない．今後の方針について説明する．
2.	「原子」と「元素」，周期律表と電子の軌道	化学の基礎について学習するため，高校レベルでの化学について，できるだけ復習して授業に臨むこと．
3.	放射線の化学	授業内容を整理して復習すること． 第1回レポート課題について説明するので，調査・準備を始めること．
4.	色の化学	授業内容を整理して復習すること．
5.	「無機化学」と「有機化学」，有機化学物質の平面構造・立体構造	授業内容を整理して復習すること． 第1回レポート提出．
6.	「毒」の定義，医薬と毒物の化学	グループ発表について説明するので，発表のための調査・準備を始めること．授業内容を整理して復習すること．
7.	化学物質の「疎水性」，疎水性と慢性毒性	授業内容を整理して復習すること．グループ発表のための調査・準備
8.	農薬，環境ホルモン（内分泌かく乱化学物質）と化学	授業内容を整理して復習すること．グループ発表のための調査・準備．
9.	グループ発表	グループ発表のための調査・準備をしておくこと．
10.	高分子（タンパク質，DNA）の構造	授業内容を整理して復習すること．
11.	食品の栄養と化学	授業内容を整理して復習すること．
12.	酸性と塩基性，洗剤の化学	第2回レポート課題について説明するので，調査・準備を始めること．授業内容を整理して復習すること．
13.	化粧品の化学，酸化還元とパーマ処理	授業内容を整理して復習すること．
14.	繊維の化学	授業内容を整理して復習すること． 第2回レポート提出．
15.	遺伝子工学と化学，遺伝子組換え技術	授業内容を整理して復習すること．

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業を通じて，身の回りの化学について関心を持ってもらえたらと思います。授業には真摯な態度で臨んでください．

フィードバックの方法:　レポートなどはコメントを付けて教室で返却する．

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
宿題、授業後の感想・まとめの提出	25%	到達目標である化学の基礎についての理解，および身の回りの化学物質に対する関心，内容の理解度について評価する．
小レポート2回	20%	課題に対する調査結果のまとめの仕上がり度および独自の視点について評価する．
グループ発表	15%	グループ発表での自分の役割とその達成度，表現の仕方，討論への積極的参加の度合いを評価する．
定期試験	40%	授業で説明した化学の基礎および身の回りの化学物質に関する知識の理解度により評価する．

教科書:　使用しない．適宜，プリントを配布する．

参考書:
廣瀬千秋　訳，改訂「実感する化学（上）（下）」，株式会社エヌ・ティー・エス，2015
芝原寛泰，後藤景子　著，身の回りから見た化学の基礎，化学同人，2009
個別のテーマについては，講義中に参考書を紹介する．

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　E-メール（アドレスは授業で伝える）．授業中および授業後は教室で質問に対応する．

041400

生活環境の科学

井上　　博子

授業テーマ:　高度消費社会の生活環境問題とその原因・対策について

授業の概要:　人間活動がもたらす「自然環境の変化や地球温暖化」、現代社会の「エネルギー問題」を基礎的な科学の視点からとらえるとともに、その解決方法に関して、消費生活、人の健康、都市環境などの身近な生活環境の諸側面から、具体的かつ多面的に考察する。さらに、安全・安心、循環型社会、自然共生社会、低炭素社会という現代の環境問題の新しいとらえ方についても、国際政治や経済面からの最新情報を交えて分かりやすく解説する。

到達目標:
（1）私たちの生活が地球環境のしくみと分かちがたく結びついていることを科学的に認識する。
（2）ミクロレベルの科学的対応策とマクロレベルの包括的政策の知識があり、理解できる。
（3）持続可能な社会を形成するにはどうすれば良いのかを討議できる。

授業方法:　基本的に講義形式で授業を行うが、課題（テーマ）を設定し、学生による発表やディスカッションを取り入れて進める。また、理解を助け深めるため、適宜、視聴覚教材やタイムリーな新聞記事などを活用し、解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと環境意識チェック （授業の到達目標、具体的な進め方、成績評価の仕方、受講に関する諸注意）	この講義のシラバスを読んでくること
2.	消費生活の変化と環境科学についての概観 （グループ発表のテーマについて検討する）	予習として，授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくこと
3.	現代のエネルギー事情 （既存エネルギーと代替エネルギーの開発）	予習として，授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくこと
4.	原子力発電とは （原子、核分裂と原子力、原子力発電のしくみ）	予習として，授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくこと
5.	放射能汚染 （放射線の種類、人体への影響、医療への応用）	担当する課題（テーマ）の発表の準備（配付資料の作成や論点を整理しておく）
6.	地球温暖化にいたる反応機構（オゾン層破壊、CO2増加）と脱温暖化社会への国際的取り組み	担当する課題（テーマ）の発表の準備（配付資料の作成や論点を整理しておく）
7.	大気汚染と酸性雨	担当する課題（テーマ）の発表の準備（配付資料の作成や論点を整理しておく）
8.	自然災害と人間生活 （地震のメカニズム、異常気象）	担当する課題（テーマ）の発表の準備（配付資料の作成や論点を整理しておく）
9.	四大公害病と私たちの健康 （カドミウム、有機水銀、亜硫酸ガスの影響）	担当する課題（テーマ）の発表の準備（配付資料の作成や論点を整理しておく）
10.	水俣病発生の科学的過程と医学的被害	担当する課題（テーマ）の発表の準備（配付資料の作成や論点を整理しておく）
11.	人体と有害物質 （農薬・食品添加物などの化学物質と毒性）	担当する課題（テーマ）の発表の準備（配付資料の作成や論点を整理しておく）
12.	世界の水環境 （環境汚染と飲料水、バーチャルウォーターと農業）	予習として，授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくこと
13.	資源の消費と世界の人口・食糧問題	予習として，授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくこと
14.	自然環境の保全 （生物多様性に影響を与える要因と保全）	予習として，授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくこと
15.	地球市民のエシカル（倫理的）消費 （フェアトレードとは）	予習として，授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書を使用しないので、配布するプリントや資料にしっかり目を通し、環境省のHPや環境NPO／NGOの公式HP、授業中に提示する環境科学関係のサイトをチェックし、公表された白書や報告書に親しんでおくこと。新聞や雑誌をよく読み、時事問題や環境問題に関心を持ち、クリッピングしておくこと。

フィードバックの方法:　毎回提出するコメントペーパーの質問や意見、要望には、その都度「教室でまとめて対応、解説する」。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50%	積極的な授業参加をはじめ、質問や発言などの授業への貢献度や、毎回の授業後に提出するコメントペーパーの内容により評価する。
発表	30%	発表の準備学習やその達成度、およびプレゼンテーションの態度・意欲を評価する。
期末レポート	20%	生活環境問題に関する科学的知識の理解度と、どの程度独自の視点があるかを基準とする。

教科書:　特に定めない。プリントや資料を配布する。

参考書:　環境省編「環境白書」
環境省編「図で見る環境・循環型社会・生物多様性白書」

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　毎回の講義の後およびEメールで連絡可能（メールアドレスは授業時に知らせる）

041501、02

自然科学史

新井　　晋司

授業テーマ:

「科学と戦争・倫理」「科学の歴史」2つのテーマを取り上げることで，科学と社会のより良い関わりを考えます。
20世紀を振り返ってみると，科学技術は2つの顔を持っていることがよく理解できます。1つは，人類が生みだした最高級の知識であり，福祉や物質的豊かさ・経済発展に貢献してきたプラスの顔。もう1つは，戦争・核兵器・環境問題・公害・医療過誤・薬害・優生学・人体実験などのマイナスをもたらしてきた顔です。
また，科学史を文明ごとにとらえてみると，古代ギリシア科学，アラビア（イスラム）科学，インド科学，中国科学，さらに16，17世紀に西欧で成立した近代科学（代表的な科学者はニュートン）など，多様なテーマを持っています。
過去を知ることを通じて，みなさんのこれからの未来の社会と科学のより良い関係を模索する「科学史・科学論」の授業と考えてください。歴史を学ぶ意義は，「人間の優れた歩みを継承するとともに，過去の過ちを繰り返さないようにすること」にあります。

授業の概要:

本講義は，前半の「科学と戦争・倫理」で取り上げる科学の戦争利用や生命倫理（出生前診断や安楽死），および後半の「科学の歴史」の2つのテーマを通じて，過去・現在・未来の科学と社会の関係を考えることで，科学技術のプラス面をより活かし，マイナス面をより少なくするにはどうしたら良いかを考察したいと思います。

◆単位取得には，出席10回以上と学期末レポートの提出が必要です。
・本講義では科学の軍事利用を防止し、平和利用を推進するた，「平和学」の解説にも時間を割きます。
・新しい講義テーマの導入，学生の議論の進捗状況などによって，講義内容が一部変動することがあります。
・学生同士の意見交換の機会もできる範囲で多く持つので，積極的に参加してください。有志学生による発表も予定しています。

到達目標:

前半では，科学技術と戦争の関わりや平和学について学ぶことで，「科学の平和利用」について思索を深めることができるようになる。
後半では，天文学の歴史を通じて，人類が生み出してきた科学のありようや，文明の多様性について理解できるようになる。

授業方法:

講義。音楽・スライド・動画を多用します。対話式の授業もあります。希望者は学生発表もできます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「ガイダンス」（1） 全講義を概括した授業と，講義内容と単位の取り方などを説明。必ず出席してください。	特になし
2.	「科学と戦争・倫理（1）」科学者はなぜ軍事研究をするのか？ 「ロボット兵器」「人体実験とインフォームドコンセント」「第一次世界大戦のハーバーとワイツマン」のいずれか。	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
3.	「科学と戦争・倫理（2）」 −科学の平和利用を目指して− ：平和学の奨め①，トランセンドほか	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
4.	「科学と戦争・倫理（3）」 平和学の奨め②，核開発	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
5.	「科学と戦争・倫理（4）」 平和学の奨め③：科学と法	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
6.	「科学と戦争・倫理（5）」 科学と戦争・まとめ	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
7.	「科学と戦争・倫理（6）」 戦争または生命倫理①	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
8.	「科学と戦争・倫理（7）」 戦争または生命倫理②	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
9.	「科学の歴史（1）」 天文学史（星座・時間・占星術史・こよみ・宇宙論）、錬金術史からいずれかを講義	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
10.	「科学の歴史（2）」 天文学史：星座または時間	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
11.	「科学の歴史（3）」 天文学史：	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
12.	「科学の歴史（4） 天文学史	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
13.	「科学・戦争・社会」学生発表（1） 科学技術と戦争・倫理や，社会問題などについて任意の数グループによる発表	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
14.	「科学・戦争・社会」学生発表（2） 科学技術と戦争・倫理や，社会問題などについて任意の数グループによる発表	前回の復習 学期末レポートの内容を考える
15.	まとめ，レポートの注意	前回の復習 学期末レポートの内容を考える

受講者へのメッセージやアドバイス:

最初の講義で、「ガイダンスプリント」を配布するので必ず出席してください。プリントには講義内容・レポート課題などが書かれています。

フィードバックの方法:

教室で伝えます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30	1回2点×15回＝30点 講義内に感想やまとめを書く時間を設けることがあります。
学期末レポート2問	70	課題はガイダンスプリント参照してください。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、
教員との連絡方法:	授業の前後に対応します。

041560

自然科学史

斎藤　　光

授業テーマ:

「性」・「生命」についての科学史
(および学問史・思想史)

授業の概要:

この講義では、「性」・「生命」を対象とし焦点とする科学・学問・思想の歴史と現状を概観する。
現在、世界的(グローバル)に支配的な「性」についての学問・思想は、19世紀後半にヨーロッパで登場した。たとえば、進化論者のダーウィンもその出現過程に深く関係している。しかし、19世紀後半の見方も、実は、古代ギリシア・ローマの思想やキリスト教的観念などと拮抗しつつその影響下で展開してきたものである。別な捉え方をするならば、21世紀の日本で生きる私たちの「性」・「生命」は、新しい科学である生物学によって捉えられてはいるが、歴史的な根を持っているということである。その点についてこの講義では考えていく。

到達目標:

目標は4点設定している。
(1)「科学」とは何か、また、科学と社会との関係はどのようになっているかを理解する。
(2)私たちの「性」・「生命」についての考え方や感じ方の現段階での構図を理解する。
(3)その構図がいかに科学や思想と関るかを考える。
(4)その歴史的な系譜を了解する。

授業方法:

講義で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション。「性」・「生命」を主題とするときの問題点。	特にない。
2.	科学、技術、科学技術とは何か。 「性」「生命」を対象とする科学のあり方。科学と社会とのつながり方について。	科学とは何かについて自分なりに言葉化できるようにしておく。
3.	現在、「性」を理解するとき必須である4つの観念。 「性」という記号について。①	生物に関わる自分の知識を再確認しておく。
4.	現在、「性」を理解するとき必須である4つの観念。 「性」という記号について。②	前回の内容を理解し再確認しておく。
5.	古代ギリシアのエロスの哲学とエロスの神話。	前回の内容を理解し再確認しておく。 西洋の哲学の始まりについて、高校レベル(倫理など)の知識を確認しておく。
6.	古代ギリシア・ローマの生殖論と、体液論という生命理解。	前回の内容を理解し再確認しておく。
7.	キリスト教を軸とする性道徳の形成とその内容。	前回の内容を理解し再確認しておく。
8.	「科学革命」という歴史イベントとその意味。「科学革命」と生殖・性理論の革新。	前回の内容を理解し再確認しておく。 ルネサンスについて、高校レベルの知識を確認しておく。
9.	18世紀を中心とする発生をめぐる議論。その混乱的状況と混乱の原因。	前回の内容を理解し再確認しておく。
10.	新しい社会秩序の出現と「生物学」の成立。	前回の内容を理解し再確認しておく。 生物についての知識を再確認しておく。
11.	ダーウィンと「性選択」。	前回の内容を理解し再確認しておく。
12.	クラフト＝エビングと「性倒錯」。	前回の内容を理解し再確認しておく。
13.	フロイトと「精神分析」。(あるいは「性」の発達論)	前回の内容を理解し再確認しておく。
14.	キンゼイ報告と「性の平均像」。	前回の内容を理解し再確認しておく。
15.	エイズの出現と21世紀の「性」「生命」の構図、および、その構図と科学技術の関連性。 まとめ。	前回の内容を理解し再確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自然科学や生物学の知識を前提とはしません。主題に興味がある場合受講ください。
自分なりにノートをとる必要があります。できれば専用のノートを用意しておいて下さい。

フィードバックの方法:

さらなる勉強を自分でできるように、関連の書籍等を出来るだけ紹介する。
コメントカードで示された質問などに関しては、次の回にフィードバックする予定。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	85	授業等の理解度。
授業コメント	15	授業等の理解度と質問内容など。

教科書:

参考書:

廣野喜幸・市野川容孝・林真理編『生命科学の近現代史』(勁草書房)
井上章一・斎藤光・澁谷知美・三橋順子編『性的なことば』(講談社現代新書)
斎藤光『幻想の性　衰弱する身体』(洋泉社)
陰山大輔『消えるオス』(化学同人)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業のある当日に講師控室等で。
また、メールアドレスをはじめに提示する。

041600、60

科学技術と人間

坂本　　正弘

授業テーマ:　われわれの身の回りのものを科学する

授業の概要:　私たち人間は科学技術を発展させ産業を興し，資源・エネ ルギーの利用化を進めるとともに，身の回りに便利な物を開発し，生活を豊かにしてきた。私たち人間にとって科学技術とは何であろうか？科学技術はどのような形でわれわれの日常生活に関わっているのであろうか？生活の中で使われている身近にあるものや，自然現象を通し，科学技術について考えるとともに，科学技術と人間の関係，そして環境への影響についても考える。また，社会で話題となった科学技術に関するテーマについても適宜解説する。

到達目標:
1 科学技術は身近なものであると認識する
2 ものごとに対して「なぜ」「どうして」と疑問をもつようにする
3 日常使うものの成り立ちやそこに含まれる成分を調べるようにする
4 宣伝やコマーシャルに惑わされずに客観的に判断できる力を身につける

授業方法:　液晶プロジェクターにより講義する。テーマによりDVDも使用する。適宜プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「科学と技術，科学技術」とは何か。科学と技術，科学技術の歴史	自分にとっての科学技術とは何か，考えてみよう。
2.	「光エネルギー・自然の恵み」 1.植物の光合成活動	植物の光合成が私たちの生活にどのような影響を与えているのか考えてみよう。
3.	「光エネルギー・自然の恵み」 2.デンプン：植物の贈り物	日常食べている食品でデンプン由来のものは何か調べてみよう。
4.	「光エネルギー・自然の恵み」 3.植物繊維の利用	植物由来の繊維にはどのようなものがあるのか調べてみよう。
5.	「身の回りを科学する～水～」 1.おいしい水とは何か？	水の中にはどんな成分が含まれているのか調べてみよう。
6.	「身の回りを科学する～水～」 2.石けんを科学する	毎日使っている石けんや洗剤の成分を調べてみよう。
7.	「身の回りを科学する～水～」 3.化粧品の科学	日常使っている化粧品には何が成分として含まれているのか調べてみよう。
8.	「身の回りを科学する～水～」 4.皮膚と髪の科学	自分の肌や髪についてその組織や作りについて調べてみよう。
9.	「身の回りを科学する～地～」 地球の鉱物資源	身の回りにある鉱物資源は何か調べてみよう。
10.	「身の回りを科学する～色～」 光と色の科学・天然の色素	ものの見え方や色について調べてみよう。
11.	「身の回りを科学する～生命～」 1.酒酔いの遺伝子と日本人の歴史	アルコールが私たちの脳や身体に与える影響について調べてみよう。
12.	「身の回りを科学する～生命～」 2.革命的な技術：PCRをめぐる話題	私たちの遺伝情報を担う細胞核とミトコンドリアについて調べてみよう。
13.	「身の回りを科学する～生命～」 3.組換え作物は安全か？	遺伝子組換え作物の成り立ちについて理解するとともに遺伝子組換え食品の安全性について考えてみよう。
14.	「身の回りを科学する～生命～」 4.未来の医療技術	私たちの体を形作る細胞について調べてみよう。
15.	「身の回りを科学する～環境～」 環境問題と再生資源の利用	日常生活の中でどれくらいのゴミを出しているのか調べてみよう。

受講者へのメッセージやアドバイス:　科学や技術は決して私たちの生活と無縁のものではありません。普段使っている身の回りのものには科学や技術が応用されていることが多く，その原理や仕組みを知ることでより一層便利になったり，正しく使えるようになることもあります。「科学技術」と言う難しい言葉にとらわれることなく，なぜ？どうして？と言う疑問をもつことから賢く生きるための考え方を身につけてほしいと思います。

フィードバックの方法:　授業時間内の質問は次回授業のはじめにまとめて回答・解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	45%	授業を通して学んだ日常身の回りにあるものの成り立ち，そこに含まれる成分は何か，どのような長所や欠点があるのか等について理解できているか判断する。
出席及び授業時間内でのレポート提出	55%	授業時間内での質問に対する回答，また疑問に思ったことや感想などで授業理解度を評価する。

教科書:

参考書:
竹内 啓「科学技術・地球システム・人間」(岩波書店、2001)
高月 紘・仲上健一・佐々木佳代編「現代環境論」(有斐閣ブックス、1996)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメールで対応する。

041901、02、60

人格心理学

三根　　浩

授業テーマ:　パーソナリティの心理学

授業の概要:　人格（personality）とは、個人の行動の特徴を記述するための手がかりであり、主に個人の社会的・対外的な行動の側面を処理するために用いられる予測変数である。私たちは、日常生活の中で常に他人の感情状態や行動傾向を予測することで社会的な対人関係を円滑に進めている。この予測過程は、意識的に行われることは少なく、第一印象や先入観により形成されるものである。

到達目標:　この講義では、人を描写するために必要とされるパーソナリティの基本的次元の概説を行うとともに、自分らしさの確立に関わるアイデンティティの諸問題を考察する。

授業方法:　パーソナリティがダイナミックに形成される過程について概説するとともに、誤った測定法がもたらす問題点についても紹介する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	パーソナリティとペルソナ	
2.	パーソナリティの測定	村上宣寛「心理テスト」はウソでした。」日経BP社
3.	人間の測り間違い	S. J. グールド「人間の測りまちがい」河出書房新社
4.	万人共通表現	地上最大のショウ [DVD]
5.	基本的帰属錯誤	心理学への招待　19. 状況の力, es [DVD] スペシャリスト　[DVD]
6.	20世紀のパーソナリティ理論	
7.	特性論（Big Five）	「パーソナリティを科学する」（白揚社）
8.	分析的心理学	
9.	エディプス・コンプレックス	エディプス王（LD）
10.	自我防衛のメカニズム	エリクソン 「アイデンティティとライフサイクル」
11.	コンプレックス(複合体)	
12.	自己同一性（Identity）	小此木啓吾「モラトリアム人間の時代」 中公叢書
13.	ピーターパン・シンドローム	フック(DVD) ダン・カイリー「ピーターパンシンドローム」
14.	アイデンティティ・クライシス	関谷透「お母さんはもうがまんできない！」 清水 将之「青い鳥症候群—偏差値エリートの末路」
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　パーソナリティがダイナミックに形成される過程について概説するとともに、誤った測定法がもたらす問題点についても紹介する。また、アイデンティティの形成における、人生の節目の役割を古今の文学作品における人間描写を参考にして解説する予定である。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験の結果	70	記述式問題を出題する
積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標アイデンティティの理解ができるようになったか評価する

教科書:

参考書:
グールド 『人間の測りまちがい—差別の科学史』河出書房新社
ソポクレス『オイディプス王・アンティゴネ』新潮文庫
角野栄子 『魔女の宅急便』
ディケンズ『クリスマス・キャロル』岩波少年文庫
メーテルリンク『青い鳥』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

042001、02、60

臨床心理学

三根　　浩

授業テーマ:　不安とストレス

授業の概要:　臨床心理学は、人間の「こころ」を直接の対象として、こころの健康の問題について扱う実践的な領域である。本講では、まず、こころの機能の正常と異常の概念を紹介し、その後、不安障害を中心として、こころの健康を脅かす諸問題（とくに不安とストレス）についての理論と応用について概説する。

到達目標:　こころの健康についての認知を高める

授業方法:　講義という性格上、臨床心理の実践面については扱うことができないので、概説的な内容が中心となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	正常な分布とプレッシャー	臨床心理学入門シリーズ(VHS)
2.	心理療法の過去	ホーソーン 「緋文字」 ブリューゲル 「バベルの塔」
3.	異常心理と障害	「心理学への招待　23. 健康、精神、および行動(VHS)」
4.	不安を測る	奇妙な論理（早川書房）、超常現象をなぜ信じるのか（ブルーバックス）
5.	不安障害の基礎	パニック障害（健康ライブラリー イラスト版）
6.	DSM-5：発達障害と臨床症状	『DSM-5 精神疾患の分類と診断の手引き』医学書院 『ぼくはアスペルガー症候群』 彩図社
7.	DSM-5：人格障害など	脳の栄養失調（ブルーバックス）
8.	不安障害の臨床	西部戦線異状なし(DVD)、 レナードの朝（DVD)、アルジャーノンに花束を
9.	不安障害（恐怖症）	「あがり」を克服する(音楽之友社)
10.	不安障害（パニック障害）	「ぼくは社会不安障害」(彩図社)
11.	不安障害（強迫性障害）	マクベス(DVD)、サイコ(DVD)、鳥(DVD) 『ぼくは強迫性障害』 彩図社
12.	PTSD　後外傷性ストレス障害	フォレスト・ガンプ(DVD)、 人質―イラク人質事件の嘘と実(ポプラ社)
13.	現代生活とストレス	ストレスの不思議(ナショナルジオグラフィック, DVD)
14.	ストレスの測定と対処	『現代社会とストレス』 法政大学出版局 『キラーストレス 心と体をどう守るか』NHK出版新書
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　異常心理を扱った文学作品は『マクベス』をはじめ数多く書かれている。また、作品に基づいて制作された映画も多数存在する。これらの必要な作品については各講義において紹介するとともに、翌週のテーマを予告する。また、AVライブラリーに所蔵されているビデオ教材についても、とくに参考文献に挙げた教材の他にEMDRや発達障害に関するものは視聴する必要がある。

フィードバックの方法:　出席票に質問欄を用意しています。各回の疑問点については翌週に解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験の結果	70	記述式問題を出題する
積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標不安障害の臨床が理解できるようになったか評価する

教科書:

参考書:　『現代社会とストレス』（法政大学出版局）
やさしくわかる「パーソナリティ障害」（ナツメ社）
「あがり」を克服する(音楽之友社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

042101、02

日本国憲法

竹村　　和也

授業テーマ:　現代社会の仕組みと問題点

授業の概要:　日常生活の中で、我々が法を直接意識することは稀です。しかし、法は日常生活のほとんどすべての領域を規制しているのであって、法についての知識は社会生活に不可欠だといえます。特に憲法は法の基本原理を定めた法であり、国のあり方を定めた法ですから、憲法について理解することはなおさら必要であるといえるでしょう。
本講義では、憲法に関連する幾つかのトピックを取り上げます。憲法そのものだけでなく、関連する法律をも扱うことになるでしょう。そうすることで現在社会の全体的な仕組みや問題について学ぶことが可能になります。
授業で憲法上の被疑者・被告人の権利を扱いますが、それに関連して、現実の裁判の傍聴のレポートを課す予定です。
具体的な授業計画は以下に示しますが、進度などにより適宜変更はあります。また、憲法に関連する新たな社会的問題が発生した場合や重要な判決が下された場合には、それらを優先して授業で取り扱うこともあるでしょう。

到達目標:　憲法及び法の仕組みの理解
批判的に検討する能力

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション（法の体系・憲法・立憲主義）	
2.	憲法とは何か・憲法の成立をめぐる問題(1)	前回の授業内容を理解しておくことが必要である
3.	憲法の成立をめぐる問題(2)	
4.	憲法の基本原理(1)（9条解釈と重要影響事態安全確保法）	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する
5.	憲法の基本原理(2)（国民主権と人権）	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する
6.	補論：国際人権（大規模な人権侵害があった場合）(1)	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する
7.	補論：国際人権（大規模な人権侵害があった場合）(2)	
8.	捜査・裁判と憲法上の被疑者・被告人の権利(1)	立憲主義とは何か、について以前の授業内容を理解しておくことが必要である
9.	捜査・裁判と憲法上の被疑者・被告人の権利(2)	
10.	捜査・裁判と憲法上の被疑者・被告人の権利(3)	
11.	捜査・裁判と憲法上の被疑者・被告人の権利(4)	
12.	憲法における幸福追求権と家族	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する
13.	憲法における平等権と家族(1)	
14.	憲法における平等権と家族2)	事前に調べておくべきことを前の授業で指示する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　単に大学生としての教養の為だけではなく、法は社会の動きにかかわるものですから、日常的に新聞を読むことが必要です。

フィードバックの方法:　あまり機会はないと思うが、授業中に提出物を求めた場合には、後の授業においてまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	憲法及び法の仕組みをどの程度理解しているか、及びどの程度正確に説明できているか 批判的に検討する能力
レポート	20	課題に十分に応えているか否か

教科書:

参考書:
竹下　賢・沼口智則・角田猛之・竹村和也編『入門法学−現代社会に生きる法・活かす人権−（第五版）』（晃洋書房、2018年）
青井未帆『憲法を守るのは誰か』（幻冬舎ルネッサンス新書、2013年）
後藤昭『わたしたちと裁判』（岩波ジュニア新書、2006年）
木村草太『キヨミズ准教授の法学入門』（星海社新書、2012年）
今村核『冤罪と裁判』（講談社現代新書、2012年）
二宮周平『家族と法』（岩波新書、2007年）
角田由紀子『性と法律』（岩波新書、2013年）
青井未帆『憲法と政治』（岩波新書、2016年）
古関彰一『日本国憲法の誕生』（岩波現代文庫, 2008年）
川名壮志『密着 最高裁のしごと』（岩波新書、2016年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

042161、62

日本国憲法

沼口　　智則

授業テーマ:　危機に立つ日本国憲法と改憲のいくえ

授業の概要:　21世紀が新たに刻まれていく中、日本国憲法が施行（1947年5月3日）されてからすでに71年が経過する。2001年9月11日のアメリカでの同時多発テロ事件以後の日本の対応の中で、2004年からのイラクへの自衛隊派遣を含め、憲法第9条がさらに空洞化し、改憲の危機に瀕している。2007年5月には憲法改正の手続についての国民投票法も成立した（2010年施行）。2014年7月1日には集団的自衛権行使の解釈変更の閣議決定がなされ、それにともない2015年9月19日安保関連法も成立した。
本講は、最近の改憲論議を整理・検討するとともにこの半世紀を越える重みの中での日本国憲法の存在意識を考えることをメインテーマとしたい。と同時に、改憲のいくえや憲法を通じて私たちはこの21世紀をどう生きるかということも考えてみたい。日本国憲法は人権規定と統治機構（三権分立）に大きく分けられるが、前者を中心に講義する中から憲法の全体像に迫っていく。

到達目標:　近代欧米市民革命の成果としての近代憲法のエッセンスを日本の新・旧憲法の比較の中から把握し、改憲とは何かを考える。

授業方法:　講義形式をとって毎回授業を行うが、必要に応じて日本国憲法への理解を深めるためのビデオ教材も使用する。そのビデオ教材は一度で見せず、3回くらいに分けて解説やコメントを入れながら見せる予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	憲法とは？（1）近代立憲主義の歴史	憲法にかかわるニュースに注目し、テレビや新聞でチェックし、新聞記事はコピーして講義ノートに貼り付けるなど資料を自分で集める努力を行うこと。テキストは指摘箇所を中心に何度もくり返し読むこと。
2.	憲法とは？（2）日本の新・旧憲法	テキスト 第1章・プロローグの4
3.	ビデオ学習『日本国憲法を生んだ密室の9日間』（1）―なぜGHQが日本国憲法の草案を手がけなければならなかったのか？―	テキスト 第1章・2章
4.	ビデオ学習『日本国憲法を生んだ密室の9日間』（2）―象徴天皇制、そして第9条の由来は？―	テキスト 第1章・2章
5.	ビデオ学習『日本国憲法を生んだ密室の9日間』（3）―男女平等はだれが書いたのか？―	テキスト 第1章・2章
6.	日本国憲法の三大特色（国民主権・平和主義・基本的人権の尊重）	テキスト 第1章
7.	基本的人権とは？（1）人権総論・人権成立の歴史（1945以前）	テキスト 第1章
8.	基本的人権とは？（2）人権総論・人権成立の歴史（1945以後）	テキスト 第1章
9.	女性の権利（平等権を中心に）（1）ベアテ草案と14条・24条	テキスト 第1章・7章の3
10.	女性の権利（平等権を中心に）（2）条約・憲法・法律の中での女性の権利	テキスト 第1章
11.	三権分立（とりわけ司法権の独立・違憲立法審査権）（1）9条平和主義を中心に	テキスト 第1章
12.	三権分立（とりわけ司法権の独立・違憲立法審査権）（2）25条生存権を中心に	テキスト 第1章
13.	国際平和と日本（1）憲法第9条には何が書かれているか？	テキスト 第2章
14.	国際平和と日本（2）自衛隊・安保条約・PKO・日本の国際貢献	テキスト 第2章
15.	国際平和と日本（3）9条の行くえ・日本はどこへいくのか？	テキスト 第2章

受講者へのメッセージやアドバイス:　暗記ではなく、「憲法とは何か？」ということを念頭に憲法を通じて考えること。

フィードバックの方法:　講義時の理解度を含め質問や対話の時間（5分前後）を毎回設定予定。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	憲法とは何かという基本的なテーマを踏まえて、設問に的確にこたえているか、憲法の知識は正確か、論理的内容か、自分の考えをしっかり論じているか、などの点が評価基準です。
授業中に書ける程度のレポート（1～2回）	20%	ビデオを通じて、内容を正確に把握しているか、そして内容に対して自分はどう考えるかを論理的に記述できているかを評価基準とします。

教科書:　竹下・沼口・角田・竹村編著『第5版入門法学−現代社会の羅針盤−』（晃洋書房、2018年）

参考書:　講義の中でその都度紹介していくが、芦部信喜・高橋和之補訂『憲法第六版』（岩波書店）は好著。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　講義終了後に、勉強の仕方や説明に時間のかかる質問等に答える。

042660

国際関係論A

大前　　信也

授業テーマ:

授業の概要:

近代日本にとって最も重要とされる米国との関係の歴史を事例に、日本をとりまく国際関係の現実を論じる。幕末の開国以来150余年の我が国の対外関係の歴史は、米国及び中国と密接に関わっており、東アジアにおける日米中の相関関係の観点からとらえることに力点を置く。すなわち、ペリー来航の19世紀後半から冷戦の20世紀後半までの東アジアの国際関係に焦点をあてて、重要な内政上の変化も説明して外交と内政の関連の面から論じる。対外政策の変化と持続は内政と関連づけることで理解できるからである。

到達目標:

1、近代日本をとりまく国際関係を歴史的事実に基づいて理解すること。
2、日米関係を中国問題や内政との関連をふまえて把握すること。
3、今後の我が国の針路を近代日本の対外関係の歴史に基づいて考察すること。

授業方法:

講義形式で行うが、出席者を指名して発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論:日米関係150年の概要	
2.	幕末期の日米関係1:ペリー来航と条約締結	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
3.	幕末期の日米関係2:西欧列国と米国の対日態度	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
4.	明治国家の形成とアメリカ1:岩倉使節団、条約改正交渉	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
5.	明治国家の形成とアメリカ2:日清戦争とアメリカ、文化経済関係	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
6.	転換期の日米関係1:大国としての日本、米国	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
7.	転換期の日米関係2:アジアをめぐる対立、日本人移民問題	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
8.	ワシントン体制の形成と動揺1:第1次大戦後の戦後体制と日米関係	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
9.	ワシントン体制の形成と動揺2:対米協調の台頭	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
10.	ワシントン体制の形成と動揺3:通商・金融関係の緊密化と外交関係の安定	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
11.	日米対決への道1:満洲事変の発生と日米対立の深化、地域主義の台頭	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
12.	日米対決への道2:中国・南方への進出と米国、日米交渉	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
13.	日米戦争1:開戦と戦争の経緯	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
14.	日米戦争2:敗戦と占領	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の入退室、飲食、私語、携帯電話・スマートフォンの使用などを控えること。広い教室の場合、着席できる範囲を前寄りの方に限定する。

フィードバックの方法:

提出物については教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	到達目標1及び2に関する知識と理解度により評価する。
授業への参加度	30%	準備学習をした上で出席して質疑応答に積極的に参加することを評価する。

教科書:

教科書はなし。レジュメと地図などの資料を事前に配布する。

参考書:

図書館に所蔵されているものとしては五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

042760

国際関係論B

大前　　信也

授業テーマ:

授業の概要:
20世紀後半と今世紀初頭の我が国を取り巻く国際関係を説明する。戦後日米関係の歴史を事例に国際関係の諸理論も紹介しながら授業を進める。重要な内政上の変化と合わせて解説するので、外交と内政の関連も理解できるであろう。

到達目標:
1、現代日本をとりまく国際関係を歴史的事実に基づいて理解すること。
2、戦後の日米関係を内政との関連をふまえて把握すること。
3、今後の我が国の針路を戦後日本の対外関係の歴史に基づいて考察すること。

授業方法:
講義形式で行うが、出席者を指名して発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論:日米関係150年の概要	
2.	戦争と占領1:日本と米国の国際秩序構想	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
3.	戦争と占領2:占領の開始、冷戦と占領政策の転換	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
4.	戦争と占領3:対日講和条約と日米安保条約の締結	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
5.	戦後日米関係の発展1:日本の国際社会への復帰、日米安保条約の改定	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
6.	戦後日米関係の発展2:高度成長と貿易の自由化、ベトナム戦争と日本	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
7.	戦後日米関係の発展3:日米関係とアジア、沖縄返還	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
8.	東西関係の変化と日本1:貿易摩擦	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
9.	東西関係の変化と日本2:ニクソンショックとオイルショック	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
10.	東西関係の変化と日本3:新冷戦と防衛問題	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
11.	ポスト冷戦期の日米関係1:貿易摩擦の構造化、ジャパンバッシング	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
12.	ポスト冷戦期の日米関係2:湾岸戦争と日本	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
13.	国内政治の再編と外交1:小泉改革と日米同盟	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
14.	国内政治の再編と外交2:政権交代と外交	事前に配布するレジュメの中のキーワードについて事典、インターネットなどを使って自分で調べてくること。授業中に指名してキーワードに関する説明を求める。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業中の入退室、飲食、私語、携帯電話・スマートフォンの使用などを控えること。広い教室の場合、着席できる範囲を前寄りの方に限定する。

フィードバックの方法:
提出物については教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	到達目標1及び2に関する知識と理解度により評価する。
授業への参加度	30%	準備学習をした上で出席して質疑応答に積極的に参加することを評価する。

教科書:
教科書はなし。レジュメと資料を事前に配布する。

参考書:
図書館に所蔵されているものとしては五百旗頭真編『戦後日本外交史』有斐閣。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応する。

042960

国際社会と経済A

庄司　　俊作

授業テーマ:　国際化の視点と比較の視点で見る世界と日本の経済社会

授業の概要:

国際化の視点および世界と日本の比較の視点で、日本の経済社会の特徴を欧米先進国と比較して講義する。国際社会と経済に関して以下の点に重点を置きつつ出来るだけ万遍なく講義し、必要な基礎知識を広くかつ確実に身につけていただく。

第1に、19世紀末から20世紀にかけての世界資本主義の発展を概観し、第1次大戦から第2次大戦後にかけての国際社会の成立と発展を背景とした国際通貨体制と貿易体制の仕組みを説明する。そして、日本経済の国際化のあゆみを説明する。そのうえで、冷戦終結後の新世界、経済のグローバル化と、その中での世界と日本の経済の展開、その摩擦・相克と調整の過程を説明する（第１～第５回）。

第2に、日本の戦後改革と高度経済成長を先進国、とくに同じ敗戦国である西ドイツと対比して明らかにしたうえで、戦後開発主義国家日本の重要な特徴である日本型雇用システムの確立を家族・女性・教育との関連で説明する。日本型雇用システムは世界史的に人びとの働き方を特異なものとしている。現代の非正規雇用と貧困・格差の拡大、女性の労働、そして重大な社会問題となっている少子高齢化や子どもの貧困、さらには社会保障や都市問題・住宅問題も元をたどれば日本型雇用システムの負の側面を社会的に克服できないところに淵源している。これら諸問題について国際社会から見た日本的特質を説明する（第6～11回）。

第3に、7年前の東日本大震災・福島第1原発事故により私たちは「文明史の転換」を求められるにいたった。脱経済成長至上主義、原発と抱き合わせの政治の中央集権体制、脱原発のエネルギーシフト、メタボ消費文化の脱却、食料の自給率向上と地産地消の推進などが時代の課題である。第12～14回では、資源・エネルギー・原発問題および農業・食糧問題から見たとき日本の経済社会が国際社会の中でいかに特異で異質であるかを明らかにしつつ、未来に向けて日本の課題と展望を考えてみたい。

到達目標:

①授業のテーマに関し、広い基礎知識をもっていただく。
②関連する岩波新書や例えば朝日新聞の記事を「読む意欲と能力」を身につけていただく。
③思考力を養い、理解したことや考えたことを的確な言葉で表現する能力を養っていただく。
④関心・意欲をもって独習、自由研究が進められるレベルを目指す。

授業方法:

講義を中心とする。毎回レジメと資料を配布し、それをもとに講義する。なお、適宜ビデオ鑑賞をしたり、新聞記事を配布して身近に理解してもらう工夫をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	資本主義経済の成立と変容	
2.	国際経済の仕組み（1）－国際通貨体制	
3.	国際経済の仕組み（2）－貿易体制	
4.	日本経済の国際化	
5.	冷戦の終結と21世紀世界	
6.	戦後改革と高度経済成長	
7.	雇用システムと賃金	
8.	非正規雇用と貧困・格差	
9.	女性と労働	
10.	社会保障と社会福祉	
11.	人口・国土・環境・国富	
12.	資源・原発問題	
13.	都市と住宅・生活問題	
14.	第１次産業と食生活	
15.	授業のまとめ一世界の中の日本	

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生にお願いしておきたいことがある。一生懸命授業に取り組むが、わずか15回の講義では理解も高が知れている。何でもかまわないので関心がある問題について関連文献を読み、独習、自由研究を進めれば長い目で見て得られるものは大きい。

フィードバックの方法:

以下を歓迎します。また、いずれも成績評価に加味します。
①授業中の質問や意見発表。
②ビデオ鑑賞に関して小レポートを作成し提出すること（提出は自由）。
③独習、自由研究の成果についてレポートを作成し提出すること（提出は自由）。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートまたは試験等	70	理解の度合とレポートの場合は加えて表現力
授業への取り組み	30	出席率と授業に対する意欲

教科書:　なし

参考書:

西川潤『世界経済入門　第3版』岩波書店（新書）、2004年
同『新・世界経済入門』岩波書店（新書）、2014年
宮崎勇・本庄真『日本経済図説　第4版』岩波書店（新書）2013年
暉峻淑子『豊かさとは何か』岩波書店（新書）、1989年
渡辺洋三・甲斐道太郎・広渡清吾・小森田秋夫『日本社会と法』岩波書店（新書）、1994年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　メールで連絡してください。

043060

国際社会と経済B

庄司　　俊作

授業テーマ:　国際社会の中で見る戦後日本の日米関係と経済社会

授業の概要:

国際社会の成立と発展が、戦後の日本経済をどのようなものにしたかを初心者にも分かりやすく講義することが授業の目的である。

戦後日本にとって「国際社会」とは、ほとんど日米関係である。そして、戦後の日本社会を形作ったのは日本国憲法と日米安保体制である。アメリカはその2つに深くかかわっている。よって、戦後の日米関係と日本経済の関係が授業の1つの柱である。

もう1つの柱である戦後日本の経済社会については、高度経済成長と、具体的な問題としてとくに雇用労働問題（教育、格差貧困を含む）と社会保障（財政を含む）、農業・食料問題（農村問題を含む）の3点に重点をおき講義を行う。その際、歴史的な視点とともに欧米先進国との国際比較が重要な方法となる。

講義のテーマ上、やや専門的になることはやむを得ないが、戦後日本の国際社会と経済に関して重要な点を万遍なく分かりやすく講義し、必要な基礎知識を確実に身につけていただくことを最大限重視した授業にすべく努力したい。

到達目標:

①授業のテーマに関し、広い基礎知識をもっていただく。
②関連する岩波新書や例えば朝日新聞の記事を「読む意欲と能力」を身につけていただく。
③思考力を養い、理解したことや考えたことを的確な言葉で表現する能力を養っていただく。
④関心・意欲をもって独習、自由研究が進められるレベルを目指す。

授業方法:

講義を中心とする。毎回レジメと資料を配布し、それをもとに講義する。なお、適宜ビデオ鑑賞をしたり新聞記事を配布して、身近に理解してもらう工夫をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	国際社会の発展と社会権・人権の確立	
2.	日本国憲法と日米安保体制	
3.	冷戦の終結と経済のグローバル化	
4.	占領・戦後改革・復興	受講生の中間レポート作成のため、1回から4回までの講義のまとめと質疑を行う。
5.	日米関係と高度経済成長	受講生を3グループに分け、グループごとにレポートを提出していただく。1回目として、第1のグループに1回から4回までの講義に関してレポートを提出していただく。
6.	世界の中の日本型雇用システム	上記レポートの何本かを作成した受講生に報告してもらい、全体で議論を行う。
7.	世界と日本の非正規雇用	
8.	新しい日本型階級社会の形成	受講生の中間レポート作成のため、5回から8回までの講義のまとめと質疑を行う。
9.	少子化と「人口減社会」のインパクト	受講生第2のグループに、5回から8回までの講義に関してレポートを提出していただく。
10.	社会保障と社会福祉一企業依存のたそがれと「アメリカ化」	上記レポートの何本かを作成した受講生に報告してもらい、全体で議論を行う。
11.	新たな社会保障システムとその課題	
12.	農産物の自由貿易と食料問題	受講生の中間レポート作成のため、9回から12回までの講義のまとめと質疑を行う。
13.	世界と日本の農業と農業政策	受講生第3のグループに、9回から12回までの講義に関してレポートを提出していただく。
14.	〈経済〉から見た欧米のレフトの台頭と日本のリベラル	上記レポートの何本かを作成した受講生に報告してもらい、全体で議論を行う。
15.	授業のまとめ一世界の中の日本とその課題	

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生にお願いしておきたいことがある。一生懸命授業に取り組むが、わずか15回の講義では理解も高が知れている。何でもかまわないので関心をもった問題について関連文献を読み、独習、自由研究を進めれば長い目で見て得られるものは大きい。

フィードバックの方法:

感想、意見、質問に対して、コメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートまたは試験	60	理解の度合とレポートの場合は加えて表現力
中間レポートや出席など授業への取り組み	40	授業に対する意欲と授業出席状況

教科書:　なし

参考書:

孫崎亨『戦後史の正体』創元社、2012年
西川潤『新・世界経済入門』岩波新書、2014年
宮崎勇・本庄真『日本経済図説　第4版』岩波新書、2013年
武田晴人『高度成長』岩波新書、2008年
橋本健二『「格差」の戦後史　増補新版』河出ブックス、2013年
庄司俊作『階級社会と格差・貧困』同志社大学人文研ブックレットNO. 58、2018年
ブレイディみかこ『労働者階級の反乱』光文社、2017年
暉峻淑子『豊かさとは何か』岩波新書、1989年
宮本太郎『生活保障』岩波書店、2012年
鈴木宜弘『現代の食糧・農業問題』総森社、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

メールで連絡してください。

043300、60

人間と社会A

冨塚　　秀樹

授業テーマ:　教育と家族

授業の概要:　19世紀前半、フランスのオーギュスト・コントの実証哲学によって誕生した社会学は、21世紀を迎えた今、約150年余を経て現代社会を解明するに不可欠な研究分野となった。一方で世界のグローバル化・情報化が進展するに従い、社会学の対象はますます複雑になり細分化されている。いわゆるカール・マンハイムのいう連字符社会学（家族社会学・教育社会学etc.）と呼ばれるものがそれである。本講義ではそうした細分化された個々の社会学の分野を特に教育と家族に焦点を絞り、現代に生きる私達の日常生活とそれがどう結びつくのかを説き明かしたい。また複雑化する人間関係の中で私達がどう生きるべきなのかを模索する道を提示したいとも考えている。

到達目標:　社会学が統計などに基づく実証的・科学的学問分野であることを理解する。

授業方法:　視聴覚教材を使用し、問題提議として提示する他、関連資料を配布して理解を深めたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会学の対象と方法（嘉門達夫で社会学）	
2.	家族とジェンダー（田嶋陽子の生い立ち）	gender(文化的・社会的性差）とsex（生物学的性差）の違いを、あらかじめ調べておくこと。
3.	韓国テレビ・ドラマのステレオ・タイプ（「冬ソナ」を例として）	
4.	変容する家族（向田邦子のホーム・ドラマを例として）	参考文献『向田邦子と昭和の東京』を読んでおくことが望ましい。
5.	核家族の素粒子化（インターネットと携帯電話の功罪）	
6.	少子・高齢化社会における日本の選択肢（移民の受け入れ？）	移民と難民の違いを調べるとともに、日本における難民認定者数の変遷を知っておくこと。
7.	貧富の格差を是正するには（ピケティ「21世紀の資本論」）	
8.	日本の学校教育の歴史（津田梅子を例として）	津田梅子と大山（旧姓＝山川）捨松の生涯を、それぞれの略歴を調べて比較しておくこと。
9.	学歴と学校歴の社会史（特に女子高等教育を巡って）	
10.	日本における高等教育の現在と未来（大学全入？）	日本の2018年問題とは何か？を調べておくこと。
11.	日本の医学の歴史と医師養成の問題点（「白い巨塔」から「ブラックジャックによろしく」へ）	
12.	看護師・介護士が足りない！（「おひとりさまの老後」を誰が看取るのか？）	介護士不足の最大の原因は何か？を調べておくこと。
13.	教育者としての宮澤賢治（父と宗教＝法華経の狭間で）	
14.	恋愛・結婚・家庭（女医第1号・荻野吟子の生涯）	荻野吟子を通して近代日本の女性の地位および医師養成制度を知っておくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問などがあった場合は、各授業終了後に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標の理解度と、到達目標を論理的に説明できているかを基準とする。
授業への積極的参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標を理解しているかをチェックする。

教科書:　友枝敏雄、山田真茂留【編】『Do! ソシオロジー～現代日本を社会学で診る～［改訂版］』（有斐閣アルマ）

参考書:
竹内洋『社会学の名著30』（ちくま新書）
鈴木りえこ『超少子化―危機に立つ日本社会』（集英社新書）
山田昌弘『モテる構造―男と女の社会学』（ちくま新書）
川本三郎『向田邦子と昭和の東京』（新潮新書）
中島さおり『なぜフランスでは子どもが増えるのか』（講談社現代新書）
トマ・ピケティ【著】、山形浩生、守岡桜、森本正史【訳】『21世紀の資本』（みすず書房）
竹内　洋『立志・苦学・出世―受験生の社会史―』（講談社現代新書）
大庭みな子『津田梅子』（朝日文庫）
川嶋みどり『看護の力』（岩波新書）
渡辺淳一『花埋み』（新潮文庫、角川文庫）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

043400、60

人間と社会B

冨塚　　秀樹

授業テーマ:　セクシュアリティとメディア・コミュニケーション（特に映像・音楽）

授業の概要:　私達の日々の生活は、家族・都市・農村・国家といった人間の集団（集合体）を軸に営まれている。一方で情報化社会と言われるように、マス・コミュニケーションの発達による情報の洪水の中で、「甲羅のない蟹」＝大衆（D・リースマン）と呼ばれる私達は常に世論操作の危険性にさらされているのが実状である。ギリシアの哲学者アリストテレスの言葉「人間はポリス的（社会的）動物である」に見られるように、社会を抜きにしては生きられない私達は、どのように生きたらよいのか？私達の身近な問題をとり上げ、VTR・DVDやCD・MDなどを使用して社会と個人との関係を解明することに重点を置いて講義を進めたい。

到達目標:　映像社会学・音楽社会学を通して、現代社会の諸問題（特にジェンダー）を考えるとともに、その解決策を見出す。

授業方法:　視聴覚教材を使用し、関連資料を配布して理解を深めたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	専業主婦かキャリア・ウーマンか（山口百恵と松田聖子）	
2.	トレンディ・ドラマに見る女性の生き方I（柴門ふみ「東京ラブ・ストーリー」をユング心理学で読み解く）	ホーム・ドラマとトレンディ・ドラマの違いを、1990年前後の日本社会の変容から理解しておくこと。
3.	トレンディ・ドラマに見る女性の生き方II（北川悦吏子「愛していると言ってくれ」を例として）	
4.	トレンディ・ドラマに見る女性の生き方Ⅲ（中園ミホ「やまとなでしこ」を例として）	男女雇用機会均等法が施行された後も、女性の社会参加が先進国の中で遅れている要因について調べておくこと。
5.	セクシュアリティとセックス、ジェンダー（中原中也と長谷川泰子vs立原道造と水戸部アサイ）	
6.	男性学とフェミニズム（高村[旧姓＝長沼]智恵子の生涯）	『智恵子抄』を読み直しておくこと。
7.	明治・大正・昭和を生きた童謡詩人（金子みすゞの生涯と世界）	
8.	美人（美女）と美男子（井上章一の「美人論」を巡って）	長谷川真理子『オスとメス=性の不思議』（講談社現代新書）を読んでおくことが望ましい。
9.	女は損か得か？（昔「スッチー」、今「女子アナ」＝女性の憧れの職業の変遷）	
10.	音楽におけるコミュニケーションI（クラシック音楽[旋律・リズム・和声]）	洋の東西を問わず、女性作曲家が少ない歴史の背景を知っておくこと。
11.	音楽におけるコミュニケーションII（流行歌・歌謡曲[演歌]）	
12.	音楽におけるコミュニケーションIII（J-POPその１・アイドルグループ）	1988年に誕生したJ-POPが、日本の大衆音楽をどのように変えたかを調べておくこと。
13.	音楽におけるコミュニケーションIV（J-POPその２・R&B）	
14.	パッケージからダウンロードへ（メディア・コミュニケーションの変遷）	21世紀になりCDのセールスが激減した原因と、歌手活動がライブ中心になった理由を考えておくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問などがあった場合は、各授業終了後に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標の理解度と、到達目標を論理的に説明できているかを基準とする。
授業への積極的参加	20%	積極的に授業に参加し、到達目標を理解しているかをチェックする。

教科書:　友枝敏夫・竹沢尚一郎・正村俊之・坂本佳鶴恵【著】『社会学のエッセンス一世の中のしくみうを見ぬく[新版補訂版]』（有斐閣アルマ）

参考書:
小倉千加子『増補版　松田聖子論』（朝日文芸文庫）
上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』(文春新書)
若桑みどり『お姫様とジェンダー―アニメで学ぶ男と女のジェンダー学入門』（ちくま新書）
上野千鶴子・小倉千加子『ザ・フェミニズム』（ちくま文庫）
駒尺喜美『高村光太郎のフェミニズム』（朝日文庫）
金子みすゞ『金子みすゞ童謡集』（ハルキ文庫）
井上章一『美人論』（朝日文芸文庫）
稲垣栄洋『オスとメスはどちらが得か？』（祥伝社新書）
宇野維正『１９９８年の宇多田ヒカル』（新潮新書）
佐藤良明『J・POP進化論』（平凡社新書）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

043600、60

異文化間コミュニケーション論

湊　　圭史

授業テーマ:　異文化が併存する社会でどのようにコミュニケーションが起こるかを考えるための概念や思考の枠組みを学ぶ。

授業の概要:　文化的背景の異なる人々が交流する際には、様々なあつれきが経験されるとともに、新しい社会を生み出すダイナミズムが感じられることもある。また、他者とのコミュニケーションは意図しようがしまいが私たちの周りで日常的に起こっている現実である。多文化的状況が世界的に一般化していくことが予想される中、この授業では、文化の違いがどのような衝突をもたらすか、また異文化との出会いによってどのような新しい可能性が生まれつつあるかを考えるために必要な基本的な概念や思考の枠組みを学ぶ。また、多文化状況が日常化したオーストラリア社会を舞台とした小説を参照することで、多文化・異文化をめぐる主題が現実において具体的状況においてどのように表れ、また私たち自身とどのような関係をもちうるかを想像する訓練を行う。

到達目標:　異文化間コミュニケーションを考察するために必要となる基本的概念や思考の枠組みを学ぶ。さらに、自らの現実において異文化の存在に気づき、異文化が併存する状況を自らに引きつけて理解する心構えを身につける。

授業方法:　教員による講義を中心に行うが、各授業中にいくつか問題を提起し、自分の意見を用紙に書いて提出してもらう。
4、7、10、13週目のオーストラリアの小説をとりあげる回では、グループを作ってもらってディスカッションも含めて進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要／グローバリゼーションと多文化社会（教科書 序章pp.1-17）	異文化間コミュニケーションについての現時点での自分の考え方を整理しておく。教科書を購入し、全体を概観する。
2.	コミュニケーションとは何か？（教科書　第１章pp.19-49）	教科書第１章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。
3.	文化とは何か？（教科書　第２章pp.51-83）	教科書第２章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。
4.	オーストラリアの小説から：　コミュニティと他者	教科書第１・２章を読み直す。前週配布のオーストラリアの短編を読み、教科書で学んだ概念・思考モデルがどう応用できるかを考える。
5.	言語的コミュニケーション（教科書　第３章pp.85-113）	教科書第３章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。
6.	非言語的コミュニケーション（教科書　第４章pp.115-155）	教科書第４章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。
7.	オーストラリアの小説から：　非言語的コミュニケーションと異文化の楽しみ	教科書第１～４章を読み直す。前週配布のオーストラリアの短編を読み、教科書で学んだ概念・思考モデルがどう応用できるかを考える。
8.	コミュニケーションとアイデンティティ（教科書　第５章pp.157-178）	教科書第５章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。
9.	マス・コミュニケーション（メディア）と文化（教科書　第６章pp.181-204）	教科書第６章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。
10.	オーストラリアの小説から：　マイノリティとマジョリティ	教科書第１～６章を読み直す。前週配布のオーストラリアの短編を読み、教科書で学んだ概念・思考モデルがどう応用できるかを考える。
11.	異文化との接触（教科書　第７章pp.207-234）	教科書第７章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。
12.	上手くいかないコミュニケーション（教科書　第８章pp.235-257）	教科書第８章を読み、課題に答え、疑問点をまとめる。
13.	オーストラリアの小説から：　文化の衝突と混淆	教科書第１～８章を読み直す。前週配布のオーストラリアの短編を読み、教科書で学んだ概念・思考モデルがどう応用できるかを考える。
14.	多文化社会を生きるために（教科書　第９章pp.259-283）	教科書全体を読み、疑問点をまとめる。異文化間コミュニケーションについての意見を、受講前の自身の見解と比べながらまとめる。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　少なくとも全授業の3分の2は出席するようにする（それ以下では単位はもらえないと考えること）。遅刻・早退は3回で欠席一回と数えますが、場合によっては欠席1回と同じとする。
各回上記のスケジュールに指定された教科書の章を読んでくる。授業ではその章からさらにトピックを絞り、スライドとハンドアウトを用いて、異文化間コミュニケーションを考える際に不可欠な視点を説明していく。
授業内では、教科書で学んだ概念や思考モデルを、フィクションに当てはめて応用してもらうが、日常生活においても想像力を働かせて、自身の周りで常に起こっているはずの異文化コミュニケーションの具体例にも敏感に反応し、これまでとは違った世界の見方ができるようになってもらいたい。

フィードバックの方法:　各回の質問の回答については、興味深いものを後の授業で口頭でとりあげて活用する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50%	記述式の試験を行う。教科書で学んだ概念・思考モデルを使って、具体的な事象を説明できるかを判定する。「相互理解が大事」「差別はいけない」といった紋切り型を越えた回答を期待する。
ディスカッション参加	20%	4、7、10、13週目のテーマを中心とした授業にて。積極的に議論に貢献できているかを評価します。
積極的な授業参加	30%	授業に取り組む姿勢、毎回の質問用紙への回答を評価します。

教科書:　八島智子・久保田真弓『異文化コミュニケーション論－グローバル・マインドとローカル・アフェクト』東京：松柏社、2012年。

参考書:
ケイト＝ダリアン・スミス／有満保江編『ダイヤモンド・ドッグ：《多文化を映す》現代オーストラリア短編小説集』東京：現代企画室、2008年。
八代京子他『異文化トレーニング―ボーダレス社会を生きる』東京：三修社、1998年。
平田オリザ『わかりあえないことから―コミュニケーション能力とは何か（講談社現代新書）』東京：講談社、2012年。
竹田いさみ他編『オーストラリア入門（第2版）』東京：東京大学出版会、2007年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法: 授業内で指示する。

043900

社会保障と福祉

倉持　　史朗

授業テーマ:

授業の概要:

社会保障や福祉サービスは、高齢になったとき、病気になったとき、働けなくなったとき、子どもを育てるときなど、安心して暮らしていくために誰もが必要とするものです。本講義では、現在の日本の社会保障制度と福祉サービスを体系的に理解し、日本が直面している様々な社会的課題をふまえながら、今後の社会保障・福祉のあり方について考えます。また、日本の現状を中心にしつつ、必要に応じて先進諸国の事例にも触れます。

到達目標:

①現代社会における社会保障の意義と概念について理解する。
②社会保障制度の全体像と各制度・サービスの仕組みについて理解する。
③日本が直面する課題をふまえて、今後の社会保障・福祉のあり方について考える。

授業方法:

講義形式で進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	現代の社会保障に関する新聞記事などを読む
2.	社会保障とはなにか	現代の社会保障に関する新聞記事などを読む
3.	年金制度（1）	公的年金制度に関連した配付資料を精読する
4.	年金制度（2）	公的年金制度に関連した配付資料を精読する
5.	医療保険制度（1）	公的医療保険・医療費等に関連した配付資料を精読する
6.	医療保険制度（2）	公的医療保険・医療費等に関連した配付資料を精読する
7.	介護保険制度（1）	高齢者の生活，介護事情に関連した配付資料を精読する
8.	介護保険制度（2）	高齢者の生活，介護事情に関連した配付資料を精読する
9.	生活保護（1）	貧困問題に関連した配付資料を精読する
10.	生活保護（2）	貧困問題に関連した配付資料を精読する
11.	生活保護（3）	貧困問題に関連した配付資料を精読する
12.	生活保護（4）	貧困問題に関連した配付資料を精読する
13.	雇用政策	現代の就労問題に関連した配布資料を精読する
14.	女性と福祉サービス	女性福祉に関連した配付資料を精読する
15.	まとめ	授業全体の資料等を精読して，現代の社会保障・福祉の意義を考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:

社会保障を自分や周りの人の生活と結びつけて捉え、なぜそのような形になったのか、社会保障はどうあるべきかなど、自分なりに考えながら講義に参加してください。ほぼ毎回配布する授業資料・ノートを読み返し、授業内容の理解に努めるよう復習してください。

フィードバックの方法:

適宜，質問シートを配布・回収して、授業時間内に回答・解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	出席及び授業内容に対する質問シート等の提出状況を基準とする。
期末レポート試験	50	到達目標①②③を理解した上で、自分の見解を明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とする。

教科書:

指定しません。

参考書:

椋野美智子、田中耕太郎（2017）『はじめての社会保障：福祉を学ぶ人へ（第14版）』有斐閣アルマ.
その他（適宜紹介します）。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:

Eメールの利用、授業の前後に教室内で応対します。

043960

社会保障と福祉

宮本　　義信

授業テーマ:　くらしに活かす社会保障と福祉の視点ー学生・ボランティアが知っておきたい基礎知識ー

授業の概要:　福祉専門職の養成には縛られずに、社会保障と福祉に関心を持つ一般のボランティアや学生を対象とした入門授業を目指す。社会保障と福祉の基本的な枠組み(①歴史・概念、②制度・政策、③実践・方法、④分野・関連領域)は押さえて体系的に基礎理解をはかるが、その際、子ども虐待、高齢者介護、障害者地域生活支援、ボランティア・NPO活動など、身近な暮らしの問題を持ち出して、福祉専門職ではない「わたしたち」がすべきことを考察する。そして同時に、日米比較の視点から、日本の社会保障・福祉の基本課題について考えたい。今日、日本の社会保障・福祉は、自由競争・規制緩和をキーワードにアメリカ型へと移行している。日本の将来を見渡すうえで、アメリカの現状と課題を掘り起こし、それと比較する作業は極めて有効である。

到達目標:　学生・ボランティアが知っておきたい社会保障と福祉の基礎知識を修得する。

授業方法:　講義中心、適宜資料を配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会保障と福祉を学ぶにあたって	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	わたしたちの暮らしと社会保障・福祉	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	社会保障・福祉の歴史と発達	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	社会保障・福祉の理論と方法	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	社会保障・福祉を担う人びと	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	社会保障・福祉の法と行財政	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	社会保障・福祉の施設・機関、組織・団体	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	貧困、医療問題と社会保障・福祉	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	現代社会と子ども家庭問題	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	障害者福祉とノーマライゼーション	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	高齢者福祉と福祉改革	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	高齢者のお金とくらしのデザイン	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	家族と高齢者介護	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	これからの社会保障・福祉	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	授業のふりかえりとまとめ、補足的な説明	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	出席を含む授業への参加・態度およびレポート内容
定期試験	50	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力, 思考力, 自己管理力

教員との連絡方法:　授業前後に対応

044000、60

介護概説

石塚　　正志

授業テーマ:

「福祉」について学び、人間関係の中で活用していこう。

授業の概要:

「福祉とは何か」、「介護とは何か」を基本に据えて、コミュニケーション、ボディメカニクス、レクリエーション等、講義・演習を行います。介護福祉士養成を意識したものではなく、将来、自分が就く仕事や家庭で、また地域活動の中で役立つ知識・技術・観点を身につけていただきます。

到達目標:

1. 単元ごとの講義・演習を通して、福祉に関心を持ち、理解して、知識として身につける。
2. 「自分だったら」ではなく、「自分がその人だったら」と他者理解を通した観点で物事を考えることができる。
3. 授業で得た知識の理解のみならず、自分の技術として活用することができる。

授業方法:

講師の福祉現場での経験をもとに、事例や新聞記事なども活用して講義・演習を進めていきます。毎回、感想などのレポートを書いていただき、質問には次回の授業の最初に解説します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	福祉とは・介護とは何か。福祉用語　解説・施設事例等。	福祉を程遠いものとして考えず、身近なものとして日頃から新聞記事や各種情報等から興味を持っておいてほしい。
2.	コミュニケーションについて	言語的コミュニケーションのみならず、非言語的コミュニケーションにも関心を持ち、事前に調べておいてください。
3.	福祉現場における相談援助	福祉現場において、相談援助は不可欠です。授業では、「バイスティックの7原則」や「ストレングス視点」についても触れますので、調べておいてください。
4.	ポジティブシンキング	介護者が笑顔でいると、利用者の方も安心できます。ポジティブシンキングの演習（グループワーク）を行います。「やってよかった。」と、毎回好評の演習です。
5.	QOL（生活・生命の質）の向上に繋　げるレクリエーション	福祉現場において、「生活の快」となるレクリエーションが注目されています。自分の体験をもとに、レクリエーションについて考えておいてください。
6.	バリアフリーとユニバーサルデザイン①	社会におけるバリア（障壁）について、どのようなものがあるのか具体的に考えておいてください。
7.	バリアフリーとユニバーサルデザイン②	どうすれば、高齢者も障がい者も誰もが、「あたりまえ」に地域社会で生活できるのか考えておきましょう。
8.	ボディメカニクス	よりよい介護に向けて、身体の使い方や福祉機器の活用について学びます。ボディメカニクスについて事前に調べておきましょう。
9.	プロセスレコードの活用～自己覚知に向けて～	人間関係の中で自分の考え方の傾向を知り、「自己覚知」に繋げる記録の書き方を学びます。課題として、自身の体験を記録していただきます。
10.	ストレスコーピングについて～バーンアウトの予防に向けて～	ストレスについて、その向き合い方について学びます。自分ではどのように向き合っているのか、日頃の自分を見つめておきましょう。
11.	緊急時の支援について	震災事例等をもとに、緊急時における支援について考えます。「他者も自分も救う」支援のあり方について考えよう。
12.	スーパービジョンについて	就職後においても、なかなか学べないスーパービジョンについて、将来的に、リーダーシップをはかる立場に立つ自分を意識して、「ケアする人のケア」について学んでください。
13.	リスクマネジメントとクライシスマネジメントについて	近年、介護や保育、医療の現場等でも事故についてニュースが流れています。事故を予防するためにどうすればよいのか学びます。自分でも、身近な事故について考察しておいてください。
14.	地域での取り組みを通して	「地域において自分ができること」をテーマに考えていただきます。事前にも、考えておきましょう。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

福祉職従事者不足といわれている現況の中で、勿論、授業で興味を持っていただき、将来、福祉職に就いていただければありがたいですが、そうでなくても福祉に関心を持って、将来、自分の仕事や家庭、地域社会にて活かしていただければ嬉しいです。福祉の3Kを私は、「煌めき」、「奇跡」、「感動」だと考えていますが、授業を通して、以前とは違うあなたなりの3Kを見出してください。福祉社会の次代を担う皆さまに期待しています。
＊参考文献については、授業内で紹介します。

フィードバックの方法:

毎回、授業に関するレポートを書いていただきます。レポートでの質問については、次回の授業の初めに解説します。また、時に皆さまの意見をまとめた資料を配り、学生間の共有にも役立てます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	福祉・介護の毎回の単元に関する知識の理解度により評価する。
レポート	15%	毎回の単元について理解したうえで、自身の体験をもとに考察し、文章表現ができているのかについて評価する。
授業への参加	15%	いるべき時に、いるべき人が、参加しているということを重視しています。積極的な参加態度・意欲を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対します。緊急の場合は、教務課を通して連絡を受け早急に対応します。

044300、60

女性と社会

野口　　孝子

授業テーマ:　近代社会を生きた女性たち

授業の概要:　現代社会は男女共生を目指しているが、なかなか目標には到達していない。とくに、少子化・育児・介護、非正規労働など、直接女性に拘わる問題も山積みである。このような時代を知り、より良き解決策を模索する一つの方法として、本講義は、現代の基礎となった近代（明治時代～）以降に焦点を当て、とくに女性の地位･役割、その背景にある法律・教育等を考察し、現代社会の様相と比較する。さらに時代に立ち向かった女性たち・流されざるを得なかった女性たちの一生についても紹介する。

到達目標:
1. 近代社会とその時代の女性たちについて歴史的な知識を得る。
2. 現代社会の女性たちと比べて、客観的な理解を深める。
3. 今後の女性のあり方について自分なりの考えを持つ。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	現代社会と女性：今私たちが生きている日本社会	新聞等に目を通し、日々の問題に関心を持つ。
2.	現代社会と女性：「世界女性会議」と世界の現状	同上
3.	文明化と女性：学校教育の開始と良妻賢母主義	参考文献（B）参照
4.	明治民法における女性の地位：夫婦同姓の始まり	参考文献（A）参照
5.	繊維産業を支えた少女たち：『富岡日記』を読む	参考文献（E）参照
6.	公娼制と廃娼運動	参考文献（C）（D）参照
7.	戦争と女性：愛国婦人会と銃後の守り	参考文献（A）（B）（D）参照
8.	地域に生きる：米騒動の担い手たちと生活権	参考文献（B）参照
9.	「命」の近代：嬰児殺し	参考文献（B）参照
10.	家族・子ども：「家」家族から「家庭」家族へ	参考文献（B）（D）参照
11.	「家庭」という生活世界：若き主婦の一日	参考文献（B）参照
12.	新しい女たち・論じる女たち：平塚雷鳥と与謝野晶子	参考文献（C）参照
13.	母性保護論争：子育て中の女性の働き方をめぐって	参考文献（C）参照
14.	外国人の見た近代日本の女性：イギリスの旅行家イザベラ･バードの視線	参考文献（E）参照
15.	まとめ	講義の復習をする

受講者へのメッセージやアドバイス:　歴史上の人物や社会を、好きか嫌いかではなく、客観的に見ることが大切。歴史は年号や用語を覚えることではない。そこに生きた人々を理解することである。

フィードバックの方法:　毎回提出するコメント用紙の内容を、以後の授業時間に適宜紹介し、検討する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	到達目標の近代の女性に関する知識や客観的理解を論理的に説明できるかを基準とする。
出席及びコメントペイパーの提出	15%	毎回出席を取り、授業への積極的参加度を評価する。
コメントの内容	15%	講義内容を理解したか、社会に関心を持っているか等を評価する。

教科書:　とくに指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:
歴史教育者協議会編『学びあう女と男の日本史』（青木書店、2001）（A）
大門正克他編『近代社会を生きる』（吉川弘文館、2003）（B）
総合女性史研究会編『時代を生きた女たち』（朝日新聞出版、2010）（C）
折井美耶子著『近現代の女性史を考える一戦争・家族・売買春一』（ドメス出版、2015）（D）
その他：講義中に紹介する文献（E）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

044400、60

日本女性史

野口　　孝子

授業テーマ:　平安の女性と社会

授業の概要:　どの時代の女性も男性も、少なからず不条理の中で生きていた。日本では古代から中世にかけて大きな転換期を迎える。例えば、婚姻の形態は今日と違い、男性が女性の家に入る婿取り婚形式であったが、中世以降、女性が男性の家に入る嫁取り婚形式に変わり、今日まで続く。このような転換期もしくはそれ以前に焦点を当て、女性たちがどのような一生を送ったのか、上層部はもちろん、庶民層や下層の人々も視野に入れて考察し、今日と比較し、今後の男女の共生を考える。

到達目標:
1. 現代とは全く異なる時代の知識を持つ。
2. 蓄積した知識をもとに別の時代の女性たちの生き方を客観的に理解する。

授業方法:　講義。絵巻物などをスライドで見る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	平安時代とは。摂関政治と女性:幼帝と母后の役割	参考文献を読む。京都という地の利を生かして、史跡をめぐってみよう
2.	女性のライフサイクル。誕生:儀礼と男女差	参考文献を読む
3.	稚児:保護(上層の子ども)と遺棄(下層の子ども)	参考文献を読む
4.	成人儀礼「裳着」:命名と期待される女性像	参考文献を読む
5.	一夫多妻制社会の結婚と離婚	参考文献を読む
6.	不婚の皇女:賀茂の斎院と伊勢の斎宮	参考文献を読む
7.	妻の役割:『新猿楽記』の三人の妻	参考文献を読む
8.	藤原道長の妻:源倫子の存在感	参考文献を読む
9.	女性と労働:「女房」という雇用労働	参考文献を読む
10.	紫式部と清少納言の仕事力:二人は宮中において顔を合わせることはなかった	紫式部の邸宅跡は廬山寺、清少納言の晩年の住居は泉涌寺付近にあったという。訪ねてみよう
11.	庶民女性の労働:多様な生業	参考文献を読む
12.	老い:老人の役割と意識。浄土を願う	参考文献を読む
13.	死:地上に現れた極楽浄土・宇治の平等院と十界曼荼羅に見る女性の地獄	参考文献を読む
14.	少女の夢と現実:菅原孝標女の文学願望と仏教意識	石山寺や長谷寺に行ってみよう
15.	まとめ	講義全体を振り返る

受講者へのメッセージやアドバイス:　平安時代や京都に関する著書は極めて多い。図書館に行って好きな一冊を捜してみよう。

フィードバックの方法:　毎回提出するコメントの内容を、必要な場合は次回以降コメントし、検討を加える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	到達目標である平安の女性についての知識及び理解ができているかを基準とする
出席及びコメントペーパーの提出	15%	毎回出席を取り、授業への積極的参加度を評価する
コメント	15%	講義を理解しているかを基準とする

教科書:　特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書:
服藤早苗著『平安朝女性のライフサイクル』(吉川弘文館、1998)
総合女性史研究会編『時代を生きた女性たち』(朝日新聞出版、2010)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

044500

外国文学と女性A

湊　　圭史

授業テーマ:　英語文学における女性像と女性自身による表現の開拓

授業の概要:　前半は、主に十九世紀までの英語文学に描かれた女性像をとり上げ、男性の視点からどのように女性が描かれてきたかを検討する。後半では、前半で見た男性の側からの女性像に対して、女性がどのように自らの表現を切り開いていったかを確認する。

到達目標:　フィクションに描かれる女性像がどのように変遷してきたかをたどることによって、「女性」という存在が固定されたものではなく、それぞれの時代や場所の価値観によって生み出されてきたイメージであることを理解する。そこから、現時点での「女性」についても、多面的に分析・理解できる考え方を身につけてもらいたい。

授業方法:　講義形式で作品と作者を紹介する。毎回、幾つかの質問を挟んで、授業の最後に用紙に書いた答えを提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文学に描かれた女性、二面性と幾つかのパターン	「文学に描かれた女性」について考えてくる
2.	キリスト教文学に見る女性像: 聖書とミルトン『失楽園』	当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
3.	シェイクスピア作品の女性たち: ソネットの「ダーク・レイディ」、『ヴェニスの商人』のポーシャと『マクベス』のマクベス夫人	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
4.	ロマン主義文学における女性像: ワーズワースのルーシー詩編、「ファム・ファタール」	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
5.	ゴシック・フィクションにおける女性: ホフマン、ポウ、ホーソーン	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
6.	ゴシック・フィクションにおける女性(2):ストーカー『ドラキュラ』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
7.	男性側からの視点まとめ／女性自身の視点へ:ウルフ『自分自身の部屋』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
8.	怪物化する女性: シェリー『フランケンシュタイン』、ギルマン「黄色い壁紙」	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
9.	女性同士の争い: ブロンテ『ジェイン・エア』とリース『サルガッソーの広い海』／中間レポート提出	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。／中間レポート(授業前半の感想)を書く。
10.	現代ゴシックに見る女性: 映画『ブラック・スワン』とプラス『ベル・ジャー』(1)	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
11.	現代ゴシックに見る女性:映画『ブラック・スワン』とプラス『ベル・ジャー』(2)	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
12.	おとぎ話・バラッドとその再解釈: カーター『血染めの部屋』、セックストン『魔女の語るグリム童話替え話』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
13.	おとぎ話・バラッドとその再解釈(2): グリムとディズニーの『白雪姫』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
14.	内省の深みへ: エミリー・ディキンソンを始めとする女性による英語詩を読む	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
15.	まとめ	授業内容をふりかえり、特に興味をもった作家・作品・テーマについて調査し、自分の考えをまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　週に配布した資料があればそれに目を通しておくこと。毎回ではないが、宿題を出す可能性もある。興味をもった作家については、作品ひとつひとつを読み通すようにする。中間レポート、期末試験では、読んだ作品について論述する。
細かな事実(作品の出版年など)を憶える必要はありませんので気楽に聴講して、特に興味を持ったテーマについて自分なりの見解にたどりつくように考えをめぐらせること。

フィードバックの方法:　質問用紙の回答については、興味深いものを後の授業内で口頭で活用させてもらう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50%	記述式の試験を行う。自分の興味をもった作品を少なくともひとつは読み込み、授業内容を参考にした上で独自の見解にたどり着いているかを判定する。
中間レポート	20%	9週目締切。8週までの授業で、特に自分が興味をもったテーマについて感想を書く。授業内容を理解しているか、その上で独自の感想をもてているかを評価する。
出席	30%	受講態度と、毎回提出してもらう質問用紙の回答を評価する。

教科書:　なし。ハンドアウトを配布します。

参考書:　授業中あるいはハンドアウトにて指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内で指示する。

044560

外国文学と女性A

阿部　　美春

授業テーマ:　旅を記録する女性たち

授業の概要:　近代のイギリス女性の旅の記録、旅から生まれた物語、旅を舞台にした物語を取り上げ、彼女たちが異境・異郷の地と自国・故郷をどのように捉えたのか、時代の文脈の中に辿る。
人はさまざまな目的で旅をしてきた。開拓、冒険、外交、交易、学問、教養、巡礼、布教、観光あるいは逃避。旅の起源は古く、たとえばギリシア神話は英雄の冒険譚を語り、聖書はイスラエルの民のエジプトからの脱出と放浪の旅を語る。中世をいろどる巡礼の旅、大航海時代の冒険と開拓・征服の旅。これらの主体の多くは男性だったが、近代になると女性も旅に出るばかりでなく、見聞や感想を記した。その多くは、故国・故郷の家族・友人への手紙という形をとっていた。彼女たちの経験と記録、そこから生み出された作品は、同時代の男性とは異なっていたのだろうか、比較文化的視点から旅をめぐるテキストを読む。

到達目標:　旅と英文学をキーワードに、異文化と歴史を学ぶための基礎的知識を身につける。

授業方法:　配布資料をもとに、講義を中心に進める。必要に応じて関連DVDを活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読む
2.	メアリ・W・モンタギュ(1689-1762) 『トルコからの手紙』女性の見たオリエント	ガイダンスで配布した資料を読む
3.	メアリ・W・モンタギュ(1689-1762) ヨーロッパの文化的記憶「官能と魅惑のオリエント」	配布資料の予習と復習
4.	メアリ・W・モンタギュ(1689-1762) 「ヨーロッパからの手紙」異郷流浪の記録	配布資料の予習と復習
5.	メアリ・ウルストンクラフト(1759-97) 「フランスからの手紙」女性の見たフランス革命	配布資料の予習と復習
6.	メアリ・ウルストンクラフト(1759-97) 『北欧からの手紙』ピクチャレスクと日常生活の記録	配布資料の予習と復習
7.	メアリ・シェリー(1797-1851) 『フランス、スイス、ドイツ、オランダの一地域をめぐる六週間の旅行記』もうひとつのグランドツアー	配布資料の予習と復習
8.	メアリ・シェリー(1797-1851) 『フランス、スイス、ドイツ、オランダの一地域をめぐる六週間の旅行記』 1814年　ナポレオン戦争の跡を辿る	配布資料の予習と復習
9.	メアリ・シェリー(1797-1851) 『フランス、スイス、ドイツ、オランダの一地域をめぐる六週間の旅行記』1816年夏スイスジュネーヴ湖畔	配布資料の予習と復習
10.	メアリ・シェリー(1797-1851) 『フランケンシュタイン』(1818)怪物創造の旅	配布資料の予習と復習
11.	メアリ・シェリー(1797-1851) 「最後の人間」の旅	配布資料の予習と復習
12.	ジェイン・オースティン(1775-1817) 『ノーサンガー・アビー』(1818)牧師の娘の旅	配布資料の予習と復習
13.	イザベラ・バード(1831-1903) 「日本からの手紙」ヴィクトリア朝レディ・トラヴェラーの見たオリエント	配布資料の予習と復習
14.	まとめと検証試験	初回から前回まで学習した内容を復習する
15.	フィードバック	フィードバックをもとに、それまでの授業を復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:　以下の点を期待する。問題意識をもって受講する。質問があれば、コメントカードを積極的に活用する。ノートを積極的にとる。授業を通して視野を広げる。授業で言及した作品を一作でも読む。

フィードバックの方法:　次回の授業はじめにフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20%	出席と授業への積極的参加を評価する。
コメント・カード	20%	毎回の授業内容の理解を評価する。質問やコメントによる授業への貢献を評価する。
レポート	40%	授業関連文献の理解を評価する。(初回授業で文献リストを配布する)
検証試験	20%	全授業を通しての内容理解を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業前後の直接対話

044600、60

外国文学と女性B

湊　　圭史

授業テーマ:　英語文学における女性像、および、ジェンダーの人種・民族・階級との関連

授業の概要:　主に英語文学において女性作家がどのような女性像を描いてきたか、また女性の語り手にどのような特徴を与えてきたかを確認し、同時に、男女のジェンダー役割とその変化が人種、民族、階級といった別のカテゴリーとどのように影響しあってきたかを考察する。

到達目標:　フィクションに描かれる女性像が時代や場所、文化的背景によっていかに異なるかを知ることによって、「女性」という存在が固定されたものではなく、それぞれの時代や場所の価値観によって生み出されてきたイメージであることを理解する。そこから、現時点での「女性」についても、多面的に分析・理解できる考え方を身につけてもらいたい。

授業方法:　講義形式で作品と作者を紹介する。毎回、幾つかの質問を挟んで、授業の最後に用紙に書いた答えを提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:ジェンダーと人種、民族、階級	「文学に描かれた女性」について考えてくる
2.	映画『マイ・フェア・レディ』とショー『ピグマリオン』（1）: ジェンダーと階級	当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
3.	映画『マイ・フェア・レディ』とショー『ピグマリオン』（2）: 二作品の違いから	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
4.	ミッチェル『風と共に去りぬ』: 強い女性と恋愛	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
5.	ミッチェル『風と共に去りぬ』（2）: 人種と階級	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
6.	ウォーカー『カラーパープル』（1）: 二重の差別	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
7.	ウォーカー『カラーパープル』（2）: 女性同士のつながり	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
8.	アメリカ合衆国のマイノリティ女性詩人	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
9.	先住民文学に見る女性像（1）: ウィティ・イヒマエラ『クジラの島の少女』／映画『モアナと伝説の海』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
10.	先住民文学に見る女性像（2）: 映画『リロ＆スティッチ』／ダフ『ワンス・ウォリアーズ』	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
11.	タン『ジョイ・ラック・クラブ』（1）: 移民体験と母の希望と呪縛	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
12.	タン『ジョイ・ラック・クラブ』（2）——「葛藤」から「和解」へ？	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
13.	オーツカ『天皇が神だったころ』、オゼキ『あるときの物語』: 日系アメリカ人文学に見る女性	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
14.	最新ミュージカルに見る女性像	これまでの授業の内容をまとめる。当該週のテーマについて、自分なりに考え、調べてくる。
15.	まとめ	授業内容をふりかえり、特に興味をもった作家・作品・テーマについて調査し、自分の考えをまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　週に配布した資料があればそれに目を通しておくこと。毎回ではないが、宿題を出す可能性もある。興味をもった作家については、作品ひとつひとつを読み通すようにする。中間レポート、期末試験では、読んだ作品について論述する。
細かな事実（作品の出版年など）を憶える必要はありませんので気楽に聴講して、興味のあるテーマについて自分なりの見解にたどりつくように考えをめぐらせること。

フィードバックの方法:　質問用紙の回答については、興味深いものを後の授業内で口頭で活用させてもらう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50%	記述式の試験を行う。自分の興味をもった作品を少なくともひとつは読み込み、授業内容を参考にした上で独自の見解にたどり着いているかを判定する。
中間レポート	20%	第9週目締切。第8週までの授業で、特に自分が興味をもったテーマについて感想を書く。授業内容を理解しているか、その上で独自の感想をもてているかを評価する。
出席	30%	受講態度と、毎回提出してもらう質問用紙の回答を評価する。

教科書:　なし。ハンドアウトを配布します。

参考書:　授業中あるいはハンドアウトにて指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内で指示する。

044700、60

日本文学と女性

乾　　澄子

授業テーマ:　古典文学における女性

授業の概要:　日本古典文学、主に今日までの日本文化の礎となった奈良、平安時代の王朝文学作品を通して、そこに描かれた女性たちについて考える。“異文化”を理解するとは、他国に関するものばかりではない。現代とは異なる時代の社会的な背景や価値観に対する知識や理解を深め、その上で与えられた環境において女性たちが、どのように生き、考え、感じ、表現してきたか。その文学的な営みを知ることは物事をいろんな視点から考える力を養うことにもなろう。

到達目標:
（1）日本文化、古典文学、歴史についての知識を深める。
（2）それぞれの時代の政治体制、社会制度の中で女性たちがどのように生き、考え、感じ、表現してきたかを学ぶ。
（3）現代社会との相違点、接点などについて考える。
（4）自らの価値観の幅を広げ、豊かにする。

授業方法:
講義形式で進めていく。
毎回授業の感想を書いてもらい、それを次回の授業に反映していく。
小レポートなどの課題提出を求めることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 奈良時代の社会背景と女性	予習・・・奈良時代の日本史の知識の確認
2.	万葉の歌人たち	復習・・・知識の習得
3.	平安時代の社会背景と女性	予習・・・平安時代の日本史の知識の確認
4.	女流日記文学（1） 蜻蛉日記	復習・・・知識の習得
5.	上流日記文学（2） 紫式部日記　更級日記	復習・・・知識の習得
6.	清少納言と枕草子	復習・・・知識の習得
7.	源氏物語（1）ー源氏物語とは	復習・・・知識の習得
8.	源氏物語（2）ー源氏物語に描かれた女性たち	復習・・・知識の習得
9.	源氏物語（3）ー源氏物語に描かれた女性たち	復習・・・知識の習得
10.	源氏物語（4）ー源氏物語に描かれた女性たち	復習・・・知識の習得
11.	源氏物語（5）ー源氏物語に描かれた女性たち	復習・・・知識の習得
12.	虫めづる姫君（1）ーこんなお姫様もいました	復習・・・知識の習得
13.	虫めづる姫君（2）ーどう読み、理解するか	復習・・・知識の習得
14.	歌人・和泉式部　ー恋多き女	予習・・・和歌についての知識確認 復習・・・知識の習得
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
遠い時代の話として単なる知識の習得ととらえるのではなく、現代社会に生きるあなたがたとの接点についても考え、自分の生き方と社会との関係性を考えていくための幅広い視野を得て欲しい。

フィードバックの方法:
毎回の授業の感想、質問について、教室でまとめて解説する。
その年のクラスの興味のあり方によって、授業内容の比重を変えることがある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	70%	授業の内容に対する理解と、それをもとに自分の意見を論理的に述べることが出来るかを基準とする
平常点	30%	授業への出席、理解、課題提出など、積極的に授業に参加し、到達目標の（1）（2）が出来るようになったかを評価する

教科書:　プリントを配布

参考書:　必要に応じて授業時に指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する

044800、60

ヨーロッパの歴史と文化A

爲政　　雅代

授業テーマ:　多様性と統合のヨーロッパの歴史

授業の概要:　ヨーロッパは現在、EUのもとで統合の道を歩んでいる。かつての古代ローマ帝国を彷彿とさせるその規模は、アメリカやロシアをも凌ぐものであり、ヨーロッパはその将来的な発展を目指しつつ、ユーロ危機や難民の流入などの山積する問題に取り組んでいる。しかし、ローマ帝国解体以降、ヨーロッパには様々な国家が形成され、それぞれの独自の歴史や文化を発展させてきた。同時に、ヨーロッパ諸国家は対立を繰り返し、覇権を争いながら勢力を拡大してきた。ではなぜ、20世紀にヨーロッパが困難を抱えながらも統合を目指したのか。その理由を探求すべく、本講義ではヨーロッパの発展を歴史的に考察する。

到達目標:
・各テーマの内容をしっかりと理解できるようにする。
・ヨーロッパの歴史の独自性を把握できるようにする。

授業方法:　毎回配布するプリントを使用しながら、講義形式で授業をおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　－古代ローマ帝国からヨーロッパ連合(EU)へ－	授業内容の復習
2.	ウェストファリア体制　－ヨーロッパ国際政治の誕生－	授業内容の復習
3.	絶対王政　－モデルはフランス－	授業内容の復習
4.	アメリカの独立　－市民社会の成立－	授業内容の復習
5.	フランス革命　－自由と人権－	授業内容の復習
6.	ナポレオン支配ととウィーン体制　－自由主義の発展－	授業内容の復習
7.	帝国主義の時代　－大英帝国の発展－	授業内容の復習
8.	第1次世界大戦　－総力戦の時代へ－	授業内容の復習
9.	ヴェルサイユ体制　－国際連盟の成立－	授業内容の復習
10.	第2次世界大戦　－ファシズムの台頭－	授業内容の復習
11.	冷戦とヨーロッパ　－東西対立－	授業内容の復習
12.	ヨーロッパの統合　－ヨーロッパの復活－	授業内容の復習
13.	ヨーロッパの拡大　－ヨーロッパはどこまでか？－	授業内容の復習
14.	ヨーロッパの現在	授業内容の復習
15.	まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　世界史＝暗記というイメージを脱して、テーマに沿ってストーリーのある歴史を解説し、ヨーロッパの歴史への理解を深める。

フィードバックの方法:　授業内に提出され小レポートについては、教室で総評する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	90	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
小レポート	10	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:　教科書は指定しない。

参考書:　初回授業で参考文献リストを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応する。

044900、60

ヨーロッパの歴史と文化B

爲政　　雅代

授業テーマ:　ドイツの歴史を旅して学ぼう

授業の概要:　ドイツは古代から近世までの長い歴史のなかで、地域性と多様性を基盤として発展を遂げてきた。そして、19世紀になってようやく統一国家になり、ドイツ・ナショナリズムが形成されようとした。しかし、2度の世界大戦における敗戦、冷戦による国家分断、東西ドイツの再統一で、「ドイツ的なるもの」の再考が迫られた。本講義では、歴史のなかでドイツが追求してきた「ドイツとは何か」を考える。

到達目標:
・各テーマの内容をしっかりと理解できるようにする。
・ドイツの歴史的な特徴を把握できるようにする。

授業方法:　毎回配布するプリントを使用しながら、講義形式で授業を行う。また、ドイツ各地の歴史遺跡、記念碑、博物館などの現地写真やカタログをスクリーンで毎回紹介し、旅する感覚でドイツの歴史をよりわかりやすく解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	授業内容の復習
2.	ローマ帝国の辺境	授業内容の復習
3.	カール大帝から神聖ローマ帝国の誕生まで	授業内容の復習
4.	宗教改革から30年戦争まで	授業内容の復習
5.	二元対立と市民革命	授業内容の復習
6.	ドイツ統一とビスマルク	授業内容の復習
7.	ドイツ帝国と第1次世界大戦	授業内容の復習
8.	ワイマール共和国	授業内容の復習
9.	ヒトラーの政権掌握	授業内容の復習
10.	第2次世界大戦と抵抗運動	授業内容の復習
11.	ホロコースト	授業内容の復習
12.	冷戦と東西ドイツ	授業内容の復習
13.	ドイツの再統一と移民国家	授業内容の復習
14.	ドイツの現在	授業内容の復習
15.	まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　ドイツを旅する気分で歴史を学ぶことで、ドイツの歴史をできるだけ身近に感じて、ドイツの特徴をより深く理解できるようにする。

フィードバックの方法:　授業内に提出された小レポートについては、教室で総評する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	90	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
授業内レポート	10	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:　教科書は指定しない。

参考書:　初回授業で参考文献リストを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後で教室内で応対する。

045200

日本の歴史と文化A

佐伯　　俊源

授業テーマ:　日本仏教文化史Ⅰ　— 神仏習合の形成 —

授業の概要:　わが国の伝統文化の多くは、仏教をはじめとする諸宗教との密接な関連の中で醸成されてきた。故に日本文化の的確な理解には、仏教を中核とする日本宗教への視角が必須となる。本講義では、世界宗教である仏教の本質を理解した上で、その仏教が日本に伝来・定着・発展する歴史推移を解説し、日本文化の理解の深化をめざしたい。具体的には以下の二つの問題をめぐって概説する。
Ⅰ、仏教概論（仏教とは何か）：インドでの釈尊による仏教の開創と、その後のアジア全土への伝播について概観し、日本に移入される世界宗教、普遍宗教たる仏教の本質について理解する。
Ⅱ、日本の仏教受容（神仏習合の形成）：仏教は6世紀頃にわが国に伝来し、日本固有の民族宗教である神祇信仰（神道）と衝突・拮抗・融合を経て日本独自の宗教として定着・展開していった。そのような日本の独特な仏教受容のあり方に焦点をあてて、日本仏教の特質について理解を深める。

到達目標:
・世界宗教としての仏教について理解を深める
・日本の仏教受容について理解を深める
・宗教文化について関心を醸成する

授業方法:　講義形式によって授業を進める

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論 講義内容の紹介と導入	
2.	仏教概論 ①　仏教の時間的・空間的広がり	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
3.	仏教概論 ②-1　仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
4.	仏教概論 ②-2　仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
5.	仏教概論 ②-3　仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
6.	仏教概論 ②-4　仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。。
7.	仏教概論 ③　釈尊以後のインド仏教の展開とアジア全土への伝播	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。。
8.	日本の仏教受容 ①　日本の固有信仰としての神祇信仰（神道）	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
9.	日本の仏教受容 ②　仏教伝来	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
10.	日本の仏教受容 ③　神祇と仏教の対立	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
11.	日本の仏教受容 ④　仏教受容の進展	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
12.	日本の仏教受容 ⑤　神仏習合の発生	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
13.	日本の仏教受容 ⑥　神仏習合の展開	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
14.	補　遺 講義内容の総括と補足	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　仏教を中心とする宗教文化の特質やその歴史的展開を、初心者にも理解できるようにできるだけわかりやすく解説することを心がけたいと思います。必要に応じてビデオやスライドなどの視聴覚素材も使用して授業を進めたいと思います。受講者各自が、日本文化の理解の深化をめざし、日本人である自己のアイデンティティーを再発見してもらえたらと思います。そのためにも日本の宗教文化について、各自が自分なりの興味関心に基づく問題意識を持って受講してもらいたいと思います。

フィードバックの方法:　毎回、出席カードにその回の講義内容についてのコメントを記述して、授業の最後に提出する。提出されたカードのコメントには随時目通しして授業内容に反映させるとともに、出席状況を集計した上で、学期末に一括して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	50%	出席カードへのコメントにより、到達目標に掲げた諸点への各自の理解度と評価する
筆記試験	50%	到達目標に掲げた諸点への各自の理解度を筆記試験によって評価する

教科書:　特になし。
講義中に配布する資料プリントによる。

参考書:
末木文美士『日本仏教史　思想史としてのアプローチ』（新潮文庫、1996年）
『日本仏教史』古代・中世・近世・近代（全4冊、吉川弘文館）
『図説日本仏教の歴史』飛鳥奈良時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代・近代（全6冊、佼成出版社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力
教員との連絡方法:	授業後に教室で対応する 必要に応じてEメールによって応答する

045260

日本の歴史と文化A

五島　　邦治

授業テーマ:　身の回りから歴史を探る

授業の概要:　現在を生きる私たちにとって、過去の歴史を学ぶことはどういう意味をもつか？　身の回りを見直してみると、当たり前の日常生活や、現代的と考えていたことの中にも、私たちの先祖が作り上げてきた歴史や慣習に依存していることが多い。反対に、歴史に対する関心の中に、現代の私たちが抱える人間関係や社会問題が投影されていたりする。このように具体的な日本の歴史や文化の中から、現在と過去の関係を考え、歴史と文化を学ぶことの意味を考える。

到達目標:　身の回りの文化の中に歴史的な背景を発見し、私たち自身や生活が具体的な歴史の中にあることを自覚する。

授業方法:　講義形式で授業を進め、その都度プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	歴史の中の私たち—はじめに—	身の回りから歴史的な物を探す。
2.	お正月の遊び－どうしてお正月だけの遊びがあるのだろう。	正月にはどんな遊びをしたか調べる。
3.	儀礼は形式的か？－贈答することの意味－溝川家文書から	中元と歳暮について歴史を調べておく。
4.	茶道や華道だけが風流ではない－宴会芸の中の風流	現代の茶道はどんなものか調べておく。
5.	還暦のお祝いの意味－十二支は年賀状のためにあるのではない	十二支にはどんなものがあるか確認する。
6.	うどんとそうめんはどちらが古い？－日本人の食物観	麺類の種類を調べておく。
7.	旅にあれば椎の葉に盛る－食器の文化	食器の歴史を見ておく。
8.	庭は社会の自然観を反映する。	自分の見た庭園を書き出す。見ていなければ、見に行くとよい。
9.	お盆の墓参りの順番－伝統的な魂祭	お盆とは何をするものか、辞書で調べる。
10.	系図を読む－系図から何が読めるか？	系図をてみる。あるいは自分の家にないか調べてみる。
11.	伝統の嘘—歴史における女性の地位	あなたの歴史における女性観を確認する。歴史上の有名な女性を書き出す。
12.	日本デザインの源流－琳派の成立と古典	本阿弥光悦・俵屋宗達・尾形光琳の絵を見てみる。写真でもよいが、時間があれば実物を見に行く。
13.	『源氏物語』とわたしたち	高校の国語の教科書を出してきて『源氏物語』を読んでみる。
14.	祇園祭の歩き方	祇園祭の山鉾をネットで探してどんな祭礼か確認する。
15.	まとめ	身の回りの中の文化をひとつとりあげて、歴史と自分の関係を考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問票の中から重要なものを授業中に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の参加度	30	授業の内容をどの程度理解したか。
定期試験	70	問題の趣旨を正しく理解し、日本の歴史と文化について、正確に理解し、真摯に問題に向き合っているか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　e-mailで(goshima@sky.plala.or.jpで、大学名、講座名、学生名を記して連絡する。

045300

日本の歴史と文化B

佐伯　　俊源

授業テーマ:　日本仏教文化史Ⅱ　— 仏教福祉史の展開 —

授業の概要:　わが国の伝統文化の多くは、仏教をはじめとする諸宗教との密接な関連の中で醸成されてきた。故に日本文化の的確な理解には、仏教を中核とする日本宗教への視角が必須となる。本講義では、世界宗教である仏教の本質を理解した上で、その仏教が日本に伝来・定着・発展する歴史推移を解説し、日本文化の理解の深化をめざしたい。具体的には以下の二つの問題をめぐって概説する。
Ⅰ、仏教概論（仏教とは何か）：インドでの釈尊による仏教の開創と、その後のアジア全土への伝播について概観し、日本に移入される世界宗教、普遍宗教たる仏教の本質について理解する。
Ⅱ、日本の仏教受容（仏教福祉史の展開）：日本史上、仏教的理念に基づく福祉・救済活動を推進した仏教者を取り上げて、その人物の業績とその思想を紹介する。その理解を通じて、わが国における仏教福祉の歴史的展開を把握することをめざしたい。

到達目標:
・世界宗教としての仏教について理解を深める
・日本の仏教受容について理解を深める
・宗教文化について関心を醸成する

授業方法:　講義形式によって授業を進める

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論 講義内容の紹介と導入	
2.	仏教概論 ①　仏教の時間的・空間的広がり	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
3.	仏教概論 ②-1　仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
4.	仏教概論 ②-2　仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
5.	仏教概論 ②-3　仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
6.	仏教概論 ②-4　仏陀釈尊の生涯と仏教の本質	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。。
7.	仏教概論 ③　釈尊以後のインド仏教の展開とアジア全土への伝播	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。。
8.	日本の仏教受容 ①　聖徳太子と飛鳥仏教	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
9.	日本の仏教受容 ②　聖徳太子の福祉実践とその思想	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
10.	日本の仏教受容 ③　行基菩薩と奈良仏教	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
11.	日本の仏教受容 ④　行基菩薩の福祉実践とその思想	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
12.	日本の仏教受容 ⑤　平安仏教の福祉実践と思想（最澄・空海）	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
13.	日本の仏教受容 ⑥　叡尊・忍性と鎌倉仏教	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
14.	日本の仏教受容 ⑦　叡尊・忍性の福祉実践とその思想	配付資料や参考文献に掲示した図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　仏教を中心とする宗教文化の特質やその歴史的展開を、初心者にも理解できるようにできるだけわかりやすく解説することを心がけたいと思います。必要に応じてビデオやスライドなどの視聴覚素材も使用して授業を進めたいと思います。受講者各自が、日本文化の理解の深化をめざし、日本人である自己のアイデンティティーを再発見してもらえたらと思います。そのためにも日本の宗教文化について、各自が自分なりの興味関心に基づく問題意識を持って受講してもらいたいと思います。

フィードバックの方法:　毎回、出席カードにその回の講義内容についてのコメントを記述して、授業の最後に提出する。提出されたカードのコメントには随時目通しして授業内容に反映させるとともに、出席状況を集計した上で、学期末に一括して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	50%	出席カードへのコメントにより、到達目標に掲げた諸点への各自の理解度と評価する
筆記試験	50%	到達目標に掲げた諸点への各自の理解度を筆記試験によって評価する

教科書:　特になし。
講義中に配布する資料プリントによる。

参考書:
末木文美士『日本仏教史　思想史としてのアプローチ』（新潮文庫、1996年）
『日本仏教史』古代・中世・近世・近代（全4冊、吉川弘文館）
『図説日本仏教の歴史』飛鳥奈良時代・平安時代・鎌倉時代・室町時代・江戸時代・近代（全6冊、佼成出版社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力
教員との連絡方法:	授業後に教室で対応する 必要に応じてEメールによって応答する

045360

日本の歴史と文化B

五島　　邦治

授業テーマ:　京都の町から歴史と文化を考える

授業の概要:　京都は日本で最初の本格的な都市だといえる。そして、現在もなお平安時代の王朝文化や室町時代の町衆文化の伝統を今に伝えている。日本各地だけでなく、世界中から多くの人々がそうした文化に憧れて観光に訪れている。しかし京都のたどってきた歴史は平坦ではなかった。京都の大学で歴史を学ぶことの利点を最大限に生かして、京都の歴史と文化を学ぶことを通して、地域にとって文化とは何か、観光とは何か、そして歴史を学ぶことの楽しさと意味を考える。

到達目標:　具体的に京都という地点を通して、地域が歴史の上に成り立っていることに気づく。また、文化と地域のたいせつさを認識する。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに—京都を勉強して京都を歩く	あらかじめ京都の地図を準備して、見ておくのがよい。
2.	都市の成立—平安京の場合	平安京の地図を準備して、京都地図と見比べる。
3.	京都御所	京都御所が江戸時代の皇居であることを理解して、どんな建物があるかを確認しておく。
4.	御霊信仰と神仏習合	地図で八坂神社と神泉苑がどこにあるかを確認し、2の地図での位置と合わせる。
5.	清水坂と五条坂	地図で清水坂と五条坂を確認し、線を引いてその沿道や行く先にどんな史跡があるかを見る。
6.	京都の自治組織—町組の成立	地図で京都の上京・中京・下京区の中心部を確認し、道がどうなっているかを見ておく。
7.	水と生活—京都の場合	鴨川と桂川の位置を地図で確認し、近くにどんな神社や寺院があるかを見ておく。
8.	『看聞御記』と伏見（室町時代の近郊農村）	地図で伏見を確認し、京都市の中央部とどのような位置関係にあるかを見る。また史跡を見ておく。
9.	能と観客	能とはどんな芸能かを予習しておく（機会があったら見ておく）。
10.	狂言	能と一緒に行われた狂言とはどんな芸能かを予習しておく（機会があったら見ておく）。
11.	茶道と工芸	茶道における茶会をネットで確認し、どんな道具が使われるかを確認しておく。
12.	織維の街としての京都—西陣と室町	地図で西陣と室町街の位置を調べる。また西陣織と友禅染がどんな織物かを確認しておく。
13.	祇園の歴史	地図で祇園の場所を確認し、八坂神社をはじめ近くにどんな史跡があるかを見ておく。
14.	大京都市	地図で岡崎・蹴上の場所を確認し、平安神宮をはじめ、琵琶湖疎水がどのように流れているかを見ておく。
15.	まとめ	地域としての京都の歴史が、現在にどのように反映されているかをまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	
定期試験	70	客観力と独創性。

教科書:

参考書:　五島邦治『京都の歴史がわかる事典』（日本実業出版社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　e-mail goshima@sky.plala.or.jp

045400

日本文化論

朱　　捷

授業テーマ:　「におい」からみる日本人の美意識

授業の概要:　「匂い立つような女」という表現がある。なぜ日本人が魅力的な女性のことを嗅覚で表現するのか。本講義はここから説きはじめ、京都でのフィールドワークで得た事例を紹介しながら、日本語の嗅覚表現にどんな特徴をもっているのかを、さまざまな角度から検証しつつ、日本語の嗅覚表現と中国語の聴覚表現とのつながり、及び中国語の聴覚表現の特徴を説いていく。そのうえで、なぜ日本人が嗅覚表現を用いて人間を評価するのか、なぜ中国人が聴覚表現を用いて人間を評価するのか、その文化的背景と文化の相違を考察していく。

到達目標:
〇色香を重んじる日本人の美意識を自分の言葉で語れる。
〇韻を重んじる中国人の美意識との対比から、比較文化の醍醐味を味わう。
〇共感覚の不思議な世界に触れる。
〇グループディスカッションや発表を通して、思考力や表現力を身につける。

授業方法:　アクティブラーニング形式、すなわち履修者も一緒に授業をつくっていく参加型の講義。
プリントを配り、写真・映像資料とパワーポイントを併用して講義を進めるが、履修者の積極的な参加を求める。毎回グループディスカッションを行い、グループごとに発表してもらったうえ、講義を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	教科書を用意してくる。
2.	小説『香水:ある人殺しの物語』の世界	『香水:ある人殺しの物語』を読む。
3.	京都に埋もれた「におい」の興味深い使い方と匂いの神ガンダルヴァ	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
4.	においと生殖の不思議な関係	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
5.	「にほひ」の語源	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
6.	源氏物語の人物評価にみる「にほひ」	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
7.	源氏物語における「にほひ」の系譜	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
8.	薫の恋・匂宮の恋	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
9.	万葉集にみる「にほひ」	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
10.	万葉集にみる「にほひ」の共感覚	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
11.	「匂」という文字の由来	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
12.	「ひびき」で人物評価する中国人の美学	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
13.	中国人の宇宙観における音楽	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
14.	中国人の求める究極の音楽	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
15.	総括	総括の準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:　「におい」の奥深い世界や共感覚の不思議な世界へ誘うので、ともに日本人の美意識を探りつつ、感性を磨いていきましょう。

フィードバックの方法:　採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでグループディスカッションに参加しているかどうか、グループディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:　パトリック・ジュースキント著　池内紀訳『香水-ある人殺しの物語』(文春文庫、2003年)

参考書:
朱捷『においとひびき』(白水社、2001年)
コレット著　工藤庸子訳『牝猫』(岩波文庫、1988年)
鈴木隆『匂いのエロティシズム』(集英社新書、2002年)
岩崎純一『音に色が見える世界』(PHP新書、2009年)
山元大輔『男は匂いで選びなさい』(ベスト新書、2007年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

045460

日本文化論

田中　　峰子

授業テーマ:
日本文化を学び
新しい文化を創る

授業の概要:
前半　日本文化すべてを学ぶ
後半　新しい文化を創り出す

到達目標:
同志社女子大学から世界に文化を発信
10年20年続けは　立派な文化として認められる

授業方法:
講義と　meeting

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	日本人の心や 文化の重要性 事業の進め方
2.	町家の暮らし 12カ月の行事	写真や行事を見ながら 節句など暮らしを知る
3.	茶道	お茶手前を見て　飲み方を心を学ぶ
4.	香道	手前を見て　聞き方遊び方を学ぶ
5.	書道	お手紙の書き方
6.	マナー	慶弔 座布団 訪問時の作法 上座下座
7.	着付け	全員浴衣を着る
8.	meeting	自由
9.	meeting	自由
10.	meeting	自由
11.	meeting	自由
12.	meeting	自由
13.	meeting	
14.	発表	グループでパワーポイントを作り上げる
15.	発表	グループでパワーポイントを作り上げる

受講者へのメッセージやアドバイス:
日本文化に興味がある方のみの受講をお願いいたします

フィードバックの方法:
出席カードに毎回書いていただく

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席率	50	体験ができてないと想像できません 体験ができてないと想像ができません
グループコミュニケーション	20	きちっと参加して意見を述べているか
想像力	20	話し合いの中から膨らましていく
調べ学ぶ	10	予習復習

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
mt09032684257end@docomo.ne.jp

045560

文化交流史

阿部　拓児、横内　裕人

授業テーマ:　東西ユーラシアにおける宗教の展開と文化の交流史

授業の概要:　本講義では、ユーラシア大陸の東西地域において見られた、宗教をむすび目とした人・モノ・思想の交流史を描き出す。前半7回においては、仏教をキーとした中国・日本など東アジアの文化交流史について学ぶ（担当：横内）。後半の8回では、地中海・西欧地域および日本における、イスラームと在地社会の対立および共存のあり方について解説する（担当：阿部）。

到達目標:　本講義の前後半を通して、宗教の展開がもたらす文化交流の多様性および共通性にたいする理解、さらには宗教に起因する諸対立の解決へむけての視座を得ることを目標とする。

授業方法:　講義形式（以下の授業内容は、受講者の理解度に応じて進度を調整する場合があります）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス—古代日本と文化交流—	普段の生活文化や習慣のなかから、宗教に起源があると考えられるものを一つ選び、国語辞典や百科事典などで、その意味を調べておくこと。
2.	仏教がつなぐ東ユーラシア（1）	予習用プリント・文献を読んでおく。
3.	仏教がつなぐ東ユーラシア（2）	予習用プリント・文献を読んでおく。
4.	遣隋使・遣唐使と仏教交流	予習用プリント・文献を読んでおく。
5.	大仏開眼供養と仏教の”世界”	予習用プリント・文献を読んでおく。
6.	仏教がもたらした世界観—大仏蓮弁と須彌山世界—	予習用プリント・文献を読んでおく。
7.	キリスト教と仏教の摩擦—フロイスが見た京都の宗教—	予習用プリント・文献を読んでおく。
8.	キリスト教とイスラーム—何が同じで、何が違うのか—	インターネット等で関連する事項を検索・閲覧しておく。
9.	イスタンブル—キリスト教、イスラーム、そして世俗主義へ—	予習用プリント・文献を読んでおく。
10.	ムスリム女性とスカーフ—現代社会におけるイスラーム—	予習用プリント・文献を読んでおく。
11.	トルコ女性とスカーフ—世俗化と宗教のはざまで—	予習用プリント・文献を読んでおく。
12.	ヨーロッパにおけるイスラーム—寛容・同化・排斥—	予習用プリント・文献を読んでおく。
13.	日本に渡ったイスラーム—まずは身近に思うことから—	予習用プリント・文献を読んでおく。
14.	イスラームと異文化—歴史からの視角—	予習用プリント・文献を読んでおく。
15.	まとめ	これまでの授業内容を振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では、国際的な文化交流の歴史を宗教という切り口を通して学びます。ある国の経済発展が他国との間での貿易活動からもたらされるように、民族や国の文化もまた他者との思想・文物の輸入・交換によって発達するものです。私たちの授業では、特に宗教に着目します。仏教・キリスト教・イスラームなどの宗教は、信仰だけではなく、思想や芸術・科学技術を含む学問や社会習慣を運ぶメディアでもありました。信仰の伝播とともに、学術・習慣などの諸要素が運ばれ、時には摩擦を伴いながらも、新しい文化を創り上げていったのです。

フィードバックの方法:　授業中に質問票を配布する場合がありますので、疑問点やさらに知りたい点などを記入してください。次回授業時などにフィードバックします。また講義内容にかんする質問は、授業後に随時受け付けます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	授業の内容を全体的に理解できているか
定期試験	50	授業の内容を全体的に理解できているか

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメールによる。
（阿部）tabe@kpu.ac.jp、（横内）yokouchi@kpu.ac.jp

045600

文化人類学A

大西　　秀之

授業テーマ:　メディア社会における他者表象

授業の概要:

現代社会は、多種多様なメディアに取り囲まれ、ありとあらゆる種類の情報が洪水のように溢れかえっています。このため、今日わたしたちが有する「異文化」や「他民族」などのイメージは、メディアによって形作られているといっても過言ではありません。

この講義では、文化人類学的な観点に立脚し、最も影響力が強いとされるテレビを中心とした映像メディアによる「異文化」や「他民族」などの描き方・語り口を検討するなかからメディア情報を批判的に読み解くとともに、わたしたち自身が持つ「異文化」や「他民族」についての認識そのものを改めて問い直して行きたいと考えています。

到達目標:

・テレビなどのマスメディアが生産する「異文化」や「他民族」などの他者表象の問題点を理解する。
・現代社会おける「異文化」や「他民族」に対する他者表象のあり方を理解する。
・「われわれ」とは違う「他者」とされる人びとに対する自らのイメージや認識を相対化する。

授業方法:

講義形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・また必要に応じてビデオ映像などを使用します。
・不定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディア社会における他者表象	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	民族誌批判とメディア社会	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	テレビにおける異文化表象Ⅰ：娯楽番組としての民族誌映像	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	テレビにおける異文化表象Ⅱ：異文化のメディア・コンテンツ化	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	テレビにおける異文化表象Ⅲ：制作者自身の視点	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	テレビにおける異文化表象Ⅳ：テレビメディアと情報選択	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	テレビの異文化表象を批判するⅠ：ステレオタイプ化された「未開」観	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	テレビの異文化表象を批判するⅡ：自文化中心主義のバイアス	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	テレビの異文化表象を批判するⅢ：映像の体験と他者表象	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	現代社会の異文表象を批判するⅠ：日本人の「外国人」観	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	現代社会の異文表象を批判するⅡ：国際支配としての他者表象	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	電子メディア時代の異文化理解Ⅰ：情報メディアの帝国主義体制	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	電子メディア時代の異文化理解Ⅱ：新しいメディア環境における異文化理解	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	電子メディア時代の異文化理解Ⅱ：メディアリテラシーの可能性！？	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この講義を受講される皆さんには、自分自身が抱いている「異文化」や「他民族」に対するイメージを見つめ直すことを期待します。また日常の生活のなかで、異文化・他民族などに対する自らのイメージに影響を及ぼしている、各種メディアの情報をチェックするように努めてください。

フィードバックの方法:

・レポートは、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。
・コメントペーパーに対しては、次の授業の際に総評を交えた解説を行います。
・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「現代社会における自分自身が有する他者表象を相対化」し、それを具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
レポート	45%	レポートは授業期間内に出題し、到達目標である「他者表象の形成にメディアが及ぼしている影響力」に関連する出題テーマに対して、独自の見解が明確に主張されているかを評価の基準とします。
コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。

教科書:

参考書:	『電子メディアを飼いならす』飯田卓・原知章（編）せりか書房
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、批判力
教員との連絡方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

045661、62

文化人類学A

冨塚　　秀樹

授業テーマ:　未開と文明（食文化一特に発酵食品を通して）

授業の概要:　「未開」という言葉がある。英語のprimitiveを訳したものだが、未開に対応するのが文明でcivilizationがその英訳である。文化人類学とは、そうした未開と呼ばれる無文字の民族や社会にも文化があることを認め、そうした人々の風俗や習慣をフィールド・ワークによって調査し、記録する学問分野である。興味のない人にとっては、そんな研究をして何になるの？と片付けられそうだが、興味のある人にとってはとても面白い領域なのである。「イラク戦争」はなぜ起こったのか、この問いは優れて文化人類学のテーマたりうる。アメリカとイラクとの文化（宗教）の相違を双方が理解していれば、多くの死傷者は出さずにすんだのだ。人間の文化がどの様に発生し、それがどういうルートで伝播していったのか、まだまだ不明な点も多いが、できるだけ講義の中で解明をしたいと考えている。

到達目標:　世界の様々な食文化を通して、生活様式の違いや文化の相対性を理解する。

授業方法:　視聴覚教材を使用し、解説を加えながら、フィールドワークの重要性について考える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文化人類学とは何か？（アイヌ語を例として）	
2.	民族学と民俗学の違い（舞妓誕生）	舞妓と芸妓の違いを調べておくこと。
3.	マリノフスキーとトロブリアンド諸島（フィールドワーク＝参与観察の導入）	
4.	C・レヴィストロースと文化相対主義（アマゾン源流の吹き矢で暮らす人々）	構造主義が20世紀の思想に及ぼした影響を知り、異文化を理解するために何が必要かを考えておくこと。
5.	ソシュールの言語学とその影響（失われゆく少数民族の言語）	
6.	世界の発酵食品（「シュールストレミング」から「くさや」まで）	日本独自の発酵食品にはどのようなものがあるか？調べておくこと。
7.	食の文化史I（チーズ）	
8.	食の文化史II（カレー）	小菅桂子『カレーライスの誕生』（講談社学術文庫）を読んでおくことが望ましい。
9.	食の文化史III（酒）	
10.	食の文化史IV（チョコレート）	カカオ豆の原産地と加工地の違いを知り、フェアトレードの重要性を知っておくこと。
11.	食の文化史V（茶）	角山栄『茶の世界史一緑茶の文化と紅茶の社会』（中公新書）を読んでおくことが望ましい。
12.	食の文化史VI（コーヒー）	
13.	食の文化史VII（ラーメン）	
14.	文化人類学の新分野（映像人類学）	英国と日本の共通点と相違点について調べておくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問などがあった場合は、各授業終了後に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標の理解と、到達目標を論理的に理解できているかを基準とする。
授業への積極的参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標を理解しているかをチェックする。

教科書:　高田公理/嗜好品文化研究会【編】『嗜好品文化を学ぶ人のために』（世界思想社）

参考書:
知里幸惠『アイヌ神謡集』（岩波文庫）
相原恭子『京都　舞妓と芸妓の奥座敷』（文春新書）
山口昌男『文化人類学への招待』（岩波新書）
ディビッド・クリスタル【著】 斉藤兆史,三谷裕美【訳】『消滅する言語:人類の知的遺産をいかに守るか』（中公新書）
丸山圭三郎『ソシュールを読む』（岩波セミナーブックス）
小泉武夫『発酵』（中公新書）
文芸春秋編『チーズ図鑑』（文春新書）
上野聡『チョコレートはなぜ美味しいのか』（集英社新書）
文芸春秋編『中国茶図鑑』（文春新書）
臼井隆一郎『コーヒーが廻り世界史が廻る一近代市民社会の黒い血液』（中公新書）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

045700

文化人類学B

大西　　秀之

授業テーマ:　ローカルな現場からの環境問題の理解

授業の概要:

わたしたちが暮らす現代社会は、今日、深刻な環境問題に直面しています。さらに、環境問題の多くは、その危機感に反して十分な成果を上げるに至っておらず、今後ますます深刻になって行くことが予想されています。そうした理由のひとつとして、環境問題が政治・経済・文化などの現代社会の抱える諸問題と複雑に絡むなかで生起していることがあげられます。

このような背景を考慮し、本講義では、人類学的な観点から環境問題を引き起こしている背景の理解を試みるとともに、その解決の糸口を探って行きたいと考えています。とくに、本講義では、具体的な環境問題に直面している現地の人びとの視点／立場側からの理解と解決を模索したいと考えています。

到達目標:

・環境問題に対するイメージと現実のギャップを理解する。
・環境問題が政治・経済・社会などの諸問題と複雑に関連していることを学び理解する。
・われわれの日々の生活に直結した問題として環境問題を考察する。

授業方法:

講義形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・また必要に応じてビデオ映像などを使用します。
・不定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	環境問題の理解にむけて	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	人間と環境の関係史	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	環境史から見た現代文明の起源	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	政治・文化が形作る環境との関係: アイヌ文化の環境利用	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	景観保護のジレンマ: フィリピン・コルディリエラの棚田群の危機	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	環境保護における現地の意義: 奄美の環境を支える多様な価値観	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	現地における環境保全: 北タイにおける河川保全区の実践	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	地球環境問題とは？: 政治・経済・社会問題としての地球環境問題	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	地球温暖化と地域社会: エコ・ポリティックスの中核と周縁	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	生物多様性はなぜ保護されるのか: グローバルエコノミーと環境保護	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	エコ・ビジネスによる環境破壊: バイオエタノールは環境保護の救世主か？	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	環境問題に関わる意思決定: 普遍性と多様性のはざま	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	地域社会からの環境保護: 「開かれた地域主義」による「協治」	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	現地からの合意形成の可能性: 試みとしてのESDモデル	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生の皆さんには、新聞やテレビなどの情報に対するような受身の態度ではなく、わたしたち一人ひとりが直面している切実な問題であるという認識に立ち理解と考察を深めることを期待します。また日常の生活のなかで、国内外の環境問題に関連する新聞報道やTVニュースなどの各種メディアの情報をチェックするように努めてください。

フィードバックの方法:

・レポートは、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。
・コメントペーパーに対しては、次の授業の際に総評を交えた解説を行います。
・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「環境問題がわれわれの日常生活と直結した政治・経済・社会問題と関連している」ことを、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
レポート	45%	レポートは授業期間内に出題し、到達目標である「環境問題に対するイメージと現実のギャップの理解」に基づき、出題テーマに対して独自の見解が明確に主張されているかを評価の基準とします。
コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。

教科書:

参考書:	『地球環境問題の人類学:自然資源へのヒューマンインパクト』池谷和信(編)世界思想社
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、批判力
教員との連絡方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

045761、62

文化人類学B

冨塚　　秀樹

授業テーマ:　演劇的知とは何か？（特に歌舞伎と宝塚歌劇について）

授業の概要:　春学期で明らかにした民族学と民俗学、フィールドワークの重要性など、文化人類学にとって軸となる要素を更に掘り下げ、それらのテーマを演劇の視点から捉え、日本の旧劇（歌舞伎）と新劇（宝塚歌劇）を通して、日本文化を世界の中に位置づける。また新しい文化と古い文化との連関性についても考察したい。学生諸姉の積極的な授業参加を求めるため、小テストの実施などを通して一方的になりがちな講義内容の検討を行うと共に、未開と位置づけられた時代の文化の諸相について関心を深めたい。消え行く伝統芸能を古いものとして葬り去るのではなく、新しい視点から捉え直し、将来への展望へつなぐことを期待する。

到達目標:　世界の演劇について、演者と観客の関係をとりあげ、考察する。特に「歌舞伎と宝塚歌劇」の比較を通して、日本の演劇の国際的位置づけを試みる。

授業方法:　AV教材を用いて世界の総合芸術を鑑賞し、その共通点と相違点を理解する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「Dream Girls]」（宝塚音楽学校）	「宝塚」の創設者=小林一三について調べておくこと。
2.	宝塚歌劇に見るレビュー（「ザッツ・レビュー」について）	
3.	歌舞伎の歴史I（出雲の阿国について）	有吉佐和子『出雲の阿国　上・下』（中公文庫）を読んでおくことが望ましい。
4.	歌舞伎の歴史II（上方歌舞伎と江戸歌舞伎＝和事と荒事	
5.	宝塚歌劇の歴史I（「愛と青春の宝塚」を通して）	辻則彦『男たちの宝塚−夢を追った研究生の半世紀』（のじぎく文庫）を読んでおくことが望ましい。
6.	宝塚歌劇の歴史II（「ザ・タカラヅカ」を通して）	
7.	少女マンガと宝塚歌劇（「ベルサイユのばら」について）	池田理代子「ベルサイユのばら」に目を通しておくことが望ましい。
8.	梨園と世襲（スーパー歌舞伎について）	
9.	総合芸術としての京劇（歌舞伎との共通点と相違点）	日本の総合芸術には、宝塚歌劇と歌舞伎の他にどんなものがあるか？調べておくこと。
10.	宝塚歌劇に見るミュージカル（「ルートヴィヒII世」について）	
11.	総合芸術としてのミュージカル（「オペラ座の怪人」を通して）	アンドルー・ロイド・ウェバーのミュージカル作品にはどんなものがあるか？調べておくこと。
12.	オペラについて（モーツアルト「魔笛」を通して）	
13.	バレエについて（チャイコフスキー「白鳥の湖」を通して）	亀山郁夫『ロシア・アヴァンギャルド』（岩波新書）を読んでおくことが望ましい。
14.	「宝塚」を変えたミュージカル（「エリザベート」について）	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問などがあった場合は、各授業終了後に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標の理解度と、到達目標を論理的に説明できているかを基準とする。
授業への積極的参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標を理解しているかをチェックする。

教科書:
和田充夫【編・著】『宝塚ファンから読み解く超高関与消費者へのマーケティング』（有斐閣）
山川静夫『歌舞伎の愉しみ方』（岩波新書）

参考書:
津金澤聰廣『宝塚戦略』（講談社現代新書）
川崎賢子『宝塚というユートピア』（岩波新書）
小笠原恭子『出雲のおくに−その時代と芸能』（中公新書）
今尾哲也『歌舞伎の歴史』（岩波新書）
玉岡かおる『タカラジェンヌの太平洋戦争』（新潮新書）
中本千晶『宝塚（ヅカ）読本』（文春文庫）
大塚英志『「りぼん」のふろくと乙女ちっくの時代：たそがれ時にみつけたもの』（ちくま文庫）
堀内修『はじめてのオペラ』（講談社現代新書）
鈴木晶『バレエの魔力』（講談社現代新書）
永竹由幸『オペラと歌舞伎　新版』（水曜社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

046060

アメリカ地域研究A

鈴木　健司、湊　圭史、宮川　成雄

授業テーマ:
大統領に見るアメリカ政治（鈴木）
アメリカ社会における法の役割（宮川）
ミュージカル『ハミルトン』から見るアメリカ（湊）

授業の概要:
本講は、アメリカを総合的に理解することを目的とする科目である。一国を理解するには、まさに人間を理解するのと同様に、多面的かつ総合的考察が要求される。とりわけアメリカ研究という学問分野は、その出発のときから、学際的研究方法が重視されている。本講では、アメリカを共通の研究対象とする各担当者が、各々の研究特色を生かし、下記の問題意識と内容で授業を行う。
〇　著名な大統領の政治スタイルを検討しつつ、アメリカ政治に流れる固有の伝統について考察する。物議を醸す言動で注目を集めるトランプ大統領にも焦点を当てながら、現代アメリカ社会で起こっている事柄の政治的・歴史的背景を探っていく。（鈴木）
〇　アメリカ社会における法の役割を、現代の大きな法的争点であるアファーマテイブ・アクション、中絶の権利、および不法移民の問題を素材にして検討する。（宮川）
〇　2016年度トニー賞で11部門を獲得したミュージカル『ハミルトン』を、アメリカ合衆国の歴史と社会、ミュージカルや音楽ジャンルの展開を参照して読み解き、社会現象としての側面も含めて考察する。（湊）

到達目標:
1) アメリカについて、政治、法、文化表現という3つの観点から、基本的な事柄を理解する。
2) アメリカの現代社会に関わる事柄について、自ら関心をもって積極的に情報を得る姿勢を身に付ける。
3) アメリカに関する理解を通して、日本や世界の社会的・文化的事象について自分自身の見解を持つことができ、また文化表現を親しみをもって読み込むことができるようになる。

授業方法:
講義を中心として、授業進行の中で適宜学生に質問を投げかけ、重要点への注意喚起と学生理解の確認を行う。テーマに関する映像資料等を適宜、活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（担当者全員）	アメリカの何についてとくに関心があるかを考えておく
2.	合衆国大統領の役割（鈴木）	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出
3.	大統領選挙とアメリカ社会（鈴木）	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出
4.	大統領にみるアメリカの保守とリベラル（鈴木）	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出
5.	オバマ大統領登場の歴史的意義（鈴木）	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出
6.	トランプ大統領と現代（鈴木）	授業内容を振り返ってまとめを書き、次週提出
7.	アメリカ社会と法の役割—法に頼る社会（宮川）	指定参考文献を予習
8.	人種差別の解消と法の役割（宮川）	指定参考文献を予習
9.	女性差別の解消と法の役割（宮川）	指定参考文献を予習
10.	移民社会と法の役割（宮川）	指定参考文献を予習
11.	『ハミルトン』とトランプ政権（湊）	10週目までの授業内容を自分なりにまとめる
12.	『ハミルトン』と建国期のアメリカ（湊）	前週の内容をまとめ、感想を書く
13.	ミュージカル史の中の『ハミルトン』（湊）	前週の内容をまとめ、感想を書く
14.	ヒップホップと『ハミルトン』（湊）	前週の内容をまとめ、感想を書く
15.	ミュージカルから見る現在のアメリカ（湊）	11−14週の授業内容を自分なりにまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:
アメリカで今起こっていることに関心を向けて、疑問や問題意識を持って授業に臨むことで、理解をより深めることができます。（鈴木）
授業外でもアメリカに関する様々な情報に敏感に反応し、できればノートをとるようにしてください。（湊）

フィードバックの方法:
提出物は評価またはコメントを付けて、後日の授業時に、またはマナビーを通して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内容に関するまとめ課題（鈴木）	80%	授業内容を適切に理解し、自分自身の問題意識に照らしてまとめられているか
出席及び授業への積極的参加（鈴木）	20%	集中力をもって授業に臨み、提起される問いに対して自分自身の見解を述べられるか
学期末レポート（宮川）	100%	課題で提示された論点を正しく把握し、自分自身の見解が明確であるか
課題（まとめ文）（湊）	70%	授業内容を適切に理解し、自分自身のオリジナルな見解が示されているか
受講態度（湊）	30%	授業に積極的に参加し、質問時に適切な返答ができるか
		3人の担当者が上記の方法と割合により各々個別に算出した成績を均等に用いて、一つの総合成績を算出する。

教科書:
未定

参考書:
詳細な参考文献一覧を、初回授業で配付する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:
Eメール、授業後に教室で対応

046160

アメリカ地域研究B

佐伯　林規江、志賀　恭子、辻　英子

授業テーマ:
アメリカの宗教と社会（志賀）
アメリカの言語と文化（佐伯）
演劇を通して見たアメリカ社会の諸相（辻）

授業の概要:
本講は、アメリカを総合的に理解することを目的とする科目である。一国を理解するには、まさに人間を理解するのと同様に、多面的かつ総合的考察が要求される。とりわけアメリカ研究という学問分野は、その出発のときから、学際的研究方法が重視されている。本講では、アメリカを共通の研究対象とする各担当者が、各々の研究特色を生かし、下記の問題意識と内容で授業を行う。
〇 「自由の国」「多様性の国」と呼ばれるアメリカは宗教と密接に関連している。アメリカの宗教に軸足を置いて、アメリカがなぜそう呼ばれるのかを、建国当初の歴史、現代政治、移民問題などを例に挙げながら考察する。（志賀）
〇 アメリカの言語と文化の特性について理解する。とくに、アメリカへの移民の歴史と特徴を通して見たダイナミックなアメリカ文化とその英語への影響を考察する。（佐伯）
〇 20世紀アメリカ演劇の代表的な作品を数作取り上げ、そこに描かれたアメリカ社会の姿を考察する。（辻）

到達目標:
1) アメリカについて、宗教、言語、演劇という3つの観点から、基本的な事柄を理解する。
2) アメリカの現代社会に関わる事柄について、自ら関心をもって積極的に情報を得る姿勢を身に付ける。
3) アメリカに関する理解を通して、日本や世界の社会的・文化的事象について自分自身の見解を持つことができ、また文学や演劇に親しみをもって鑑賞することができるようになる。

授業方法:
講義を中心として、授業進行の中で適宜学生に質問を投げかけ、重要点への注意喚起と学生理解の確認を行う。テーマに関する映像資料等を適宜、活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（担当者全員）	アメリカの何についてとくに関心があるかを考えておく
2.	アメリカの政教分離――歴史、移民、憲法（志賀）	指定参考文献を予習
3.	政治と宗教――現代政治、プロテスタント、ユダヤ教（志賀）	指定参考文献を予習
4.	移民と宗教――適応、仏教会、日系人（志賀）	指定参考文献を予習
5.	祝日と宗教――祝日、多様性、イスラーム（志賀）	指定参考文献を予習
6.	アメリカの宗教と社会（志賀）	指定参考文献を予習
7.	アメリカ社会の特質（佐伯）	指定参考文献を予習
8.	アメリカ文化の多様性（佐伯）	指定参考文献を予習
9.	アメリカの言語と言語政策（佐伯）	指定参考文献を予習
10.	アメリカ英語とその背景（佐伯）	指定参考文献を予習
11.	日米言語文化とコミュニケーション（佐伯）	指定参考文献を予習
12.	アメリカ演劇概観（辻）	指定参考文献を予習
13.	テネシー・ウィリアムズ 『欲望という名の電車』（滅びゆく古き南部への挽歌）（辻）	指定参考文献を予習
14.	アーサー・ミラー 『セールスマンの死』（アメリカンドリームの終焉）（辻）	指定参考文献を予習
15.	ソーントン・ワイルダー 『わが町』（アメリカを俯瞰する死者の眼差し）（辻）	指定参考文献を予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
提出物は評価またはコメントを付けて、後日の授業時に、またはマナビーを通して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート（2200~2500字）（志賀）	70%	授業目標を理解したうえで、どのような問題意識をもち、それを論理的に論述できるか
出席及び積極的参加（志賀）	30%	積極的に授業に参加し、発言しているか
レポート（佐伯）	80%	到達目標を理解したうえで、自分がどのように考えるのかを明確かつ論理的に論述できるか
出席及び授業への積極的参加（佐伯）	20%	積極的に授業に参加し、到達目標が理解できたか
レポート（辻）	70%	授業内容を理解し、自ら選んだテーマに沿って適切に作品分析ができているか
出席及び授業への積極的参加（辻）	30%	積極的に授業に参加し、到達目標が理解できたか
		3人の担当者が上記の方法と割合により各々個別に算出した成績を均等に用いて、一つの総合成績を算出する。

教科書:
未定

参考書:
詳細な参考文献一覧を、初回授業で配付する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:
Eメール、授業後に教室内で対応

046200

アジア地域研究A

南出　　眞助

授業テーマ:　アジアを広く深く知る。

授業の概要:　まずアジアの自然環境・国家・民族・宗教などに関して概略を述べ、つぎに主要な国については特色ある産業や政治、国際関係などについて詳しく説明する。Aでは主に西アジアおよび南アジアを対象とする。

到達目標:
・必要なデータを取捨選択し、ものごとを客観的にとらえる分析力が身に付く。
・分析されたデータからその地域の特質を総合化させる思考力が身に付く。
・地域の問題を解決する方法を模索することを通じ、創造力が身に付く。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	アジアとは何か	アジアに関連する新聞報道やTVニュースを見ておく。
2.	アジアの自然環境と地域区分	教科書（地図帳）の世界の気候関連ページを熟読しておく。
3.	アジアの風土と社会	教科書（地図帳）の世界の人種・民族関連ページを熟読しておく。
4.	アジアの国家・民族・宗教	教科書（地図帳）の国別一覧表ページを熟読しておく。
5.	西アジアの国家と社会（1）古代文明とユダヤ教・キリスト教・イスラム教の成立	高校世界史などで学んだ古代関連記事を復習しておく。
6.	西アジアの国家と社会（2）エルサレムをめぐる確執とパレスチナ問題の経緯	高校世界史などで学んだ中世～近代関連記事を復習しておく。
7.	西アジアの国家と社会（3）イスラム教の社会	教科書（地図帳）の西アジアのページを熟読しておく。
8.	西アジアの国家と社会（4）イラクをめぐる3つの戦争	イラクとはどのような国か、インターネットなどで調べておく。
9.	西アジアの国家と社会（5）中東産油国をめぐる国際情勢	教科書（地図帳）のエネルギー資源のページを熟読しておく。
10.	南アジアの国家と社会（1）自然環境と農業	教科書（地図帳）の南アジアのページを熟読しておく。
11.	南アジアの国家と社会（2）インドの歴史と重層的宗教構造	教科書（地図帳）のインドのページを熟読しておく。
12.	南アジアの国家と社会（3）カースト制度の歴史と現在	カースト制度についてインターネットなどで調べておく。
13.	南アジアの国家と社会（4）インドの新しい産業の動向	教科書（地図帳）のインドの工業のページを熟読しておく。
14.	南アジアの国家と社会（5）インドをめぐる国際社会の動向	教科書（地図帳）の南アジアのページを熟読しておく。
15.	全体のまとめ	西アジア、南アジアの特質を整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日頃からアジアに関するニュースに関心を持ってください。

フィードバックの方法:　各授業の最後に小テストを行い、その結果について次の授業でコメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点（小テストを含む）	100	各授業の最後に小テストを行い、理解度・到達度を評価する。

教科書:　詳解現代地図2018－2019　二宮書店

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:　原則として授業の前後に教室で対応する。なおメールでの連絡先は以下のとおり。
minamide@otemon.ac.jp

046260

アジア地域研究A

土平　　博

授業テーマ:　アジアの地域区分とすがた

授業の概要:　地理学的な視点から、アジア地域に関する基礎知識とらえ方について説明する。アジア全体を概観したのち、地域区分、自然環境と地域の問題、統計上にみるアジア諸国の問題について触れていく。立場やスケールをかえることによって、諸地域のすがたが見えてくるであろう。アジア地域の全体と部分を比較していきながら、さまざまな現象とその問題について受講生のみなさんと考えていく授業である。

到達目標:
①アジアに関する基礎知識を整理しながら、複眼（全体と個々の地域）で理解する考察力を身につける。
②地域の諸現象を潜む問題を掘り下げる洞察力を身につけ、現在のみならず将来にもつながる考察力を養う。
③過去の事象が現代に引き継がれ、地域に根付いていることを理解する能力を身につける。

授業方法:　講義形式であるが、地図作業をともなう。第１～７回はアジア地域全体と部分を比較対象しながら複眼的な地域の見方を理解してもらうために説明をしていく。第８～14回は個別の事例を紹介しながら地域に潜む諸問題を掘り下げていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域研究をはじめる前に	教科書として指定する地図帳を購入しておき、アジアの関する部分を確認しておく。
2.	地域のとらえ方	配付する資料を読んでおく。
3.	アジアの位置と地域区分	配付する資料に読んでおく。
4.	アジアの自然環境	配付する資料を読み、事前に作業をしておく。
5.	アジア諸国の概観（1） 東アジア・東南アジア	配付する資料を読んでおく。
6.	アジア諸国の概観（2） 南アジア・西アジア	配付する資料を読んでおく。
7.	地域統計からみたアジアのすがた	配付する資料を読んでおく。事前に作業をしておく。
8.	日本におけるバナナの輸入と消費	配付する資料を読んでおく。
9.	東南アジアにおけるバナナの生産と生産地域が抱える問題	題8回および第9回で配付する資料を関連づけて読んでおく。
10.	東南アジアにおけるエビの養殖と地域の変容	配付する資料を読んでおく。
11.	ドバイの産業構造と地域変容	配付する資料を読んでおく。
12.	東南アジアの労働力移動	配付する資料を読んでおく。
13.	アジア地域にみられる文様と文様の和様化	配付する資料を読んでおく。
14.	アジア地域にみられる伝統的家屋の屋根と装飾	配付する資料を読んでおく。
15.	まとめ	配付する資料を読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　地理の視点から授業を展開する。地理が苦手な人も受講に差し支えありません。

フィードバックの方法:
①提出されたレポートについては、コメントをつけて教室で返却する。
②提出されたコメントペーパーについては、次回の授業時に教室で受講生全体に講評を述べる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60%	到達目標①～③に関する理解度によって評価する。
授業への参加度（課題）	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①～③の取り組みができているかを評価基準とする。
レポート	10%	到達目標①について、一定の水準に達したかを評価基準とする。

教科書:　帝国書院編集部編『新詳高等地図』帝国書院。

参考書:　必要に応じて適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:
①Eメール（授業内で連絡する）で行う。
②授業の前後に教室内外で応対する。

046300

アジア地域研究B

南出　　眞助

授業テーマ:　アジアを広く深く知る。

授業の概要:　Bでは東南アジア・東アジアを中心に、自然環境・国家・民族・宗教などに関して概略を述べ、つぎに主要な国については特色ある産業や政治、国際関係などについて詳しく説明する。

到達目標:
・必要なデータを取捨選択し、ものごとを客観的にとらえる分析力が身に付く。
・分析されたデータからその地域の特質を総合化させる思考力が身に付く。
・地域の問題を解決する方法を模索することを通じ、創造力が身に付く。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	アジアとは何か、東洋とは何か	高校世界史などで学んだ「アジア」「東洋」のイメージを掘り下げておく。
2.	東南アジア・東アジアの自然環境と地域区分	教科書（地図帳）の世界の気候のページを熟読しておく。
3.	東南アジア・東アジアの国家・民族・宗教	教科書（地図帳）の世界の民族・宗教のページを熟読しておく。
4.	東南アジアの国家と社会（1）インドネシアの歴史と文化	教科書（地図帳）の東南アジアのページを熟読しておく。
5.	東南アジアの国家と社会（2）インドネシアの農業	教科書（地図帳）の東南アジアの農業のページを熟読しておく。
6.	東南アジアの国家と社会（3）インドネシアの政治と経済	教科書（地図帳）の世界の国別一覧のページを熟読しておく。
7.	東南アジアの国家と社会（4）マレーシア・シンガポールの歴史と文化	教科書（地図帳）の東南アジアのページを熟読しておく。
8.	東南アジアの国家と社会（5）マレーシア・シンガポールの社会と経済	教科書（地図帳）の東南アジアの産業のページを熟読しておく。
9.	東南アジアの国家と社会（6）ベトナムの歴史と文化	教科書（地図帳）の東南アジアのページを熟読しておく。
10.	東南アジアの国家と社会（7）ベトナム戦争の経緯とその影響	インターネット等でベトナム戦争について調べておく。
11.	東南アジアの国家と社会（8）ベトナム戦争後の経済発展	教科書（地図帳）の東南アジアの産業のページを熟読しておく。
12.	東アジアの国家と社会（1）中国の自然環境と農業	教科書（地図帳）の東アジアの農業のページを熟読しておく。
13.	東アジアの国家と社会（2）中国の経済発展	教科書（地図帳）の東アジアの産業のページを熟読しておく。
14.	東アジアの国家と社会（3）国際社会における日・中・韓の役割	インターネット等で国連について調べておく。
15.	全体のまとめ	東南アジア・東アジアの特質について整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日頃からアジアに関するニュースに関心を持ってください。

フィードバックの方法:　各授業の最後に小テストを行い、その結果について次の授業でコメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点（小テストを含む）	100	各授業の最後に小テストを行い、理解度・到達度を評価する。

教科書:　詳解現代地図2018－2019　二宮書店

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:　原則として授業の前後に教室で対応する。なおメールでの連絡先は以下のとおり。
minamide@otemon.ac.jp

046360

アジア地域研究B

土平　　博

授業テーマ:　観光と地域の諸問題

授業の概要:　観光の視点からアジアの諸地域と日本についてとらえ、地域の問題を明らかにしていく。ツアーパンフレットを資料として取り扱ってみると、アジア地域の観光地と日本の関係がみえてくる。また、日本を紹介した観光ガイドブック（洋書）を読み解くと、日本の観光地の意外な一面がわかってくる。受講生全員で作業や分析に取り組んでもらい、結果を導き出していきたい。この作業を通じて近年の観光動向をつかむことがこの授業の目標である。

到達目標:
①観光という視点から、アジアをとらえる探究心をもつ。
②アジア諸地域の地域性を引き出す能力を身につける。
③アジア地域の観光動向を分析する力を身につける。

授業方法:　前半は配付資料を用いて説明する講義形式である。ただし、地図・図表作成を実施する。後半は、資料整理を通じて各自報告をおこなってもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入：世界の中のアジアー都市間の移動ー	配付資料に作業をしておく。
2.	観光地とは	配付資料を読んでおく。
3.	アジアの観光地	配付資料を読んでおく。
4.	世界遺産からみたアジア	配付資料に作業をしておく。
5.	アジアの地域イメージ	配付資料を読んでおく。
6.	日本からの観光ツアーとアジアの観光地（1）ーツアーパンフレットの収集ー	授業内で説明する内容にしたがって資料を収集しておく。
7.	日本からの観光ツアーとアジアの観光地（2）ーツアーパンフレットの整理ー	授業内で説明する内容にしたがって資料を収集しておく。
8.	日本からの観光ツアーとアジアの観光地（3）ーツアーパンフレットの読み取り作業ー	第7回で集計したデータを整理しておく。
9.	日本からの観光ツアーとアジアの観光地（4）ーツアーパンフレットの項目分析と地域イメージの考察	授業内で説明する内容にしたがって資料を収集しておく。
10.	観光客の動向とアジア地域	配付資料を読んでおく。簡単な作業をともなう。
11.	観光ガイドブックーJAPANにみる日本＜概要＞ー	配付資料を読んで報告資料を作成しておく。
12.	観光ガイドブックーJAPANにみる日本＜地域区分と観光地＞ー	配付資料を読んで報告資料を作成しておく。
13.	観光ガイドブックーJAPANにみる日本の観光地＜項目分析＞ー	配付資料を読んで報告資料を作成しておく
14.	観光ガイドブックーJAPANにみる日本の観光地＜総括＞ー	配付資料を読んでおく。
15.	まとめ	配付資料を読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
①提出されたレポートについては、コメントをつけて教室で返却する。
②提出されたコメントペーパーについては、次回の授業時に教室で受講生全体に講評する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60%	授業目標①～③の理解度による評価する。
授業への参加度（課題）	30%	到達目標②と③が養われたかどうかを評価する。
レポート	10%	授業目標①と②が実践できたかどうかを評価する。

教科書:　使用しない。

参考書:　参考文献は必要に応じて紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
①Eメール（アドレスは授業内で連絡）で行う。
②授業の前後に教室内外で応対する。

046400

日本古典芸能A

倉橋　　正恵

授業テーマ:　古典芸能の魅力と現代性

授業の概要:　文字資料だけでなく、画像や映像資料を用いて、日本古典芸能の基礎知識、能以前の芸能、能、狂言、歌舞伎、文楽という順で学んでいく。

到達目標:　日本の古典芸能の基礎を学ぶと共に、日本独自の芸能がいかに発展し、芸能間で互いに影響を与えながら、芸能文化が人々の生活に浸透していた様子を理解する。さらに、作品の映像鑑賞を通して、古典芸能の中の現代性についても考察す

授業方法:　講義を中心に、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	古代芸能	祭祀と芸能、散楽
2.	猿楽・田楽	散楽から猿楽、田楽と猿楽の交流、世阿弥以前
3.	能	世阿弥、世阿弥以後、近世期の能
4.	能の鑑賞	映像鑑賞
5.	狂言	狂言の歴史と分類
6.	狂言の鑑賞	映像鑑賞
7.	歌舞伎の発生	風流踊り、歌舞伎踊り、遊女歌舞伎、若衆歌舞伎
8.	野郎歌舞伎・元禄歌舞伎	続狂言、荒事、和事
9.	18・19世紀の歌舞伎	写実性、生世話、鶴屋南北、歌舞伎十八番、河竹黙阿弥
10.	歌舞伎の鑑賞	映像鑑賞
11.	語りと人形浄瑠璃	古浄瑠璃、宇治加賀掾
12.	近松門左衛門	竹本義太夫、世話物
13.	近松以後	竹本座、豊竹座
14.	文楽の鑑賞	映像鑑賞
15.	まとめ	総括

受講者へのメッセージやアドバイス:　観劇レポートを課すため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。また、講義中に画像や映像を伴って解説するため、定期試験もその点を重視した出題となる事を考慮して受講すること。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	日本の古典芸能に対する基礎知識や、歴史、影響関係に関する理解度により評価する。
観劇レポート	20	実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。

教科書:

参考書:　今岡謙太郎『日本古典芸能史』(武蔵野美術大学出版局、2008年)
山路興造『京都　芸能と民族の文化史』(思文閣出版、2009年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。

046560

日本古典芸能B

倉橋　　正恵

授業テーマ:　古典芸能の魅力と現代性

授業の概要:　文字資料だけでなく、画像や映像資料を用いて、日本古典芸能の基礎知識、能以前の芸能、能、狂言、歌舞伎、文楽という順で学んでいく。

到達目標:　日本の古典芸能の基礎を学ぶと共に、日本独自の芸能がいかに発展し、芸能間で互いに影響を与えながら、芸能文化が人々の生活に浸透していた様子を理解する。さらに、作品の映像鑑賞を通して、古典芸能の中の現代性についても考察す

授業方法:　講義を中心に、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	古代芸能	祭祀と芸能、散楽
2.	猿楽・田楽	散楽から猿楽、田楽と猿楽の交流、世阿弥以前
3.	能	世阿弥、世阿弥以後、近世期の能
4.	能の鑑賞	映像鑑賞
5.	狂言	狂言の歴史と分類
6.	狂言の鑑賞	映像鑑賞
7.	歌舞伎の発生	風流踊り、歌舞伎踊り、遊女歌舞伎、若衆歌舞伎
8.	野郎歌舞伎・元禄歌舞伎	続狂言、荒事、和事
9.	18・19世紀の歌舞伎	写実性、生世話、鶴屋南北、歌舞伎十八番、河竹黙阿弥
10.	歌舞伎の鑑賞	映像鑑賞
11.	語りと人形浄瑠璃	古浄瑠璃、宇治加賀掾
12.	近松門左衛門	竹本義太夫、世話物
13.	近松以後	竹本座、豊竹座
14.	文楽の鑑賞	映像鑑賞
15.	まとめ	総括

受講者へのメッセージやアドバイス:　観劇レポートを課すため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。また、講義中に画像や映像を伴って解説するため、定期試験もその点を重視した出題となる事を考慮して受講すること。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	日本の古典芸能に対する基礎知識や、歴史、影響関係に関する理解度により評価する。
観劇レポート	20	実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。

教科書:

参考書:　今岡謙太郎『日本古典芸能史』(武蔵野美術大学出版局、2008年)
山路興造『京都　芸能と民族の文化史』(思文閣出版、2009年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。

046601

美術史

上田　　文

授業テーマ:　近代京都の美術工芸

授業の概要:　今年は明治維新150年を迎える。明治維新を迎えた京都は東京遷都によって打撃をうけ、新しい時代への変革を余儀なくされた。美術工芸の分野ではどのような取り組みがなされ、新しい時代の作品が生まれてきたのか、作品を検討しながら考察を進める。

到達目標:　近代京都の建築、デザイン、絵画、工芸を取り上げ、様々な作品に関する理解を深め、伝統と近代、西洋と日本などを軸に「京都の近代」について考えることを目標としたい。

授業方法:　各回テーマにそってスライドを用いながら授業をすすめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（授業の概要、注意点、レポート用紙配布など）	美術展覧会や建築、文化財施設を訪れ、実際の作品を鑑賞する機会をもつこと（以下同じ）。
2.	近代建築（1）―レンガ造りの登場	教科書の該当箇所を読み、質問があれば書き出しておく（以下同じ）
3.	近代建築（2）―武田五一の仕事	
4.	洋画（1）―油彩画法の導入	
5.	洋画（2）―浅井忠の画業	
6.	洋画（3）―パリからの新しい風	
7.	デザイン（1）―日本のモダンデザインと図案教育	
8.	デザイン（2）―モダンデザイン教育のゆくえ	
9.	日本画（1）―伝統絵画の近代	
10.	日本画（2）―竹内栖鳳の画業	
11.	日本画（3）―竹内栖鳳の弟子たち	
12.	工芸（1）―西洋に渡った陶磁器	
13.	工芸（2）―技術の近代化	
14.	工芸（3）―近代の染織	
15.	まとめ	授業を復習し、講義内容をまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　今年は明治維新150年、節目の年にあたります。近代京都の建築や工芸、絵画を学びながら、作品鑑賞能力を高め、感性を磨き、様々な出来事を身近な問題として考察できるように積極的に取り組んで下さい。なお、シラバスは授業の進捗状況によって変更する場合があります。

フィードバックの方法:　授業中に配布するコメントペーパー。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	75	問題に対する理解を自分の言葉で論理的に説明できているか。
展覧会鑑賞レポート	必須	鑑賞した作品について感じたこと、考えたことを自分の言葉で表現できているか。※提出がない場合は単位取得が認められません。
出席	10	積極的に授業に参加できているか。
ミニレポート	15	予告なしに行うレポート（理解度を判定する）。

教科書:　並木誠士・青木美保子『京都　近代美術工芸のネットワーク』思文閣出版、2017年

参考書:
並木誠士ほか『京都　伝統工芸の近代』思文閣出版、2012年
中川理『京都　近代の記憶―場所・人・建築―』思文閣出版、2015年
前川公秀『水仙の影　浅井忠と京都洋画壇』京都新聞社、1993年
並木誠士・松尾芳樹・岡達也『図案からデザインへ　近代京都の図案教育』淡交社、2016年
廣田孝『竹内栖鳳』平凡社、2013年
山辺知行『京都の近代染織』、1994年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

046602、60

美術史

松井　　泰典

授業テーマ:　西洋の近現代における絵画、写真

授業の概要:　19世紀、遠近法的世界の解体と写真という新しい視覚体験の登場とともに西洋美術は大きく変容する。かつて世界を真理として映し出す「窓」であった絵画が、近代以降に辿った変遷を追いつつ、絵画や写真のイメージを介して私たちが世界をいかに経験しうるかということについて考えていきたい。

到達目標:　1）西洋近代における絵画や写真イメージの特質を把握する。
2）作品を見、感じたことを自分の言葉で語る。

授業方法:　毎回、スライド等を使用して作品を提示しつつ話をすすめる。先ず見ることがこの講義の基盤となる。3回ないし4回、講義内容に即した課題を出し、その講義時間中に簡単なレポートを提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容		準備学習等の内容
1.	オリエンテーション		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
2.	遠近法の解体		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
3.	近代絵画の出発		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
4.	純粋器官としての眼	マネ モネ	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
5.	新たな世界経験としての絵画 期印象派　ゴッホ	後	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
6.	新たな世界経験としての絵画 象派　ゴーギャン　セザンヌ	後期印	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
7.	写真の驚きとは 真	19世紀写	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
8.	モダンフォト ティーグリッツとアジェ	ス	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
9.	絵画のモダニズム ムから抽象絵画へ	キュビズ	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
10.	＜芸術＞の外部へ	デュシャン	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
11.	方法としての無意識 リズム	シュールリア	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
12.	シュールリアリズムと映像		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
13.	生成としてのイメージ	ポロック	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
14.	マス・イメージの存在論、	ウォーホル	次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。
15.	アメリカン・ドキュメント・フォトの系譜		次回に紹介する画家・写真家の作品を眺めておこう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問等、必要があれば教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	50	講義目標をふまえて、印象深かった作品について論じる
授業中の小レポート	30	講義で紹介した作品に関して自分なりの視点を述べる
出欠席	10	
授業への積極的な参加	10	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内での対応

046700、60

音楽と諸芸術

池田　　千郷

授業テーマ:
音楽を多層的に見る試み。
音楽に興味がある学生のみが対象。音楽を今一度見つめ直してほしい。
出席重視。私語厳禁。

授業の概要:
音楽をVTR,DVD,CD,LDなどを駆使して進めていく。

到達目標:
音楽を一つ所で捉えないような耳をもって欲しい。

授業方法:
講義形式。質問もあり。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽史のエピソード	主にBeethovenについて
2.	ピアノ曲の魅力	鍵盤楽器の成立、歴史など
3.	交響曲の話	構造や歴史
4.	〝第九”についての考察	主に第4楽章について
5.	オペラと歌舞伎Ⅰ	共通点と相違点
6.	オペラと歌舞伎Ⅱ	荒事
7.	オペラと歌舞伎Ⅲ	フィガロの結婚
8.	名作とその条件	その基準となるもの
9.	良い音楽とはその人の感動にほかならない	作家スタンダールの音楽観
10.	演奏（その意味と仕組み）	楽譜から見る演奏の違い
11.	楽譜の」話	楽譜の移り変わり
12.	バロック音楽の芸術と生活(京田辺） クリスマスと音楽（今出川）	成立と条件
13.	Ｊ．Ｓ．Bach器楽曲に漂う尊厳	Bachの教会音楽
14.	作曲における見えざる聴衆	作曲家の姿勢
15.	フェルメールの描いた楽器	図象学と画中画

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
講義中に説明

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席回数	60	一回の出席で4点。但し遅刻者は15分以内で4点。30分以内で3点。45分以内で2点。一時間以上で1点。
レポート	40	各講義毎に提出のこと。未提出者は欠席とみなす。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:
講義の前後に講義室内で対応

046800、60

音楽と社会

谷　　正人

授業テーマ:　音楽と音楽「以外」のものを繋ぐまなざし

授業の概要:　私達はともすれば音楽を、それだけが独立して存在しているものとみなしてしまいがちである。しかし音楽は、それを取り巻く人々の営み（社会）なしには存在しない。
例えば、現代における音楽のつくられかたはテクノロジーの発達を抜きにしては考えられないだろう。あるいは19世紀のヨーロッパ芸術音楽の「伝達」には、楽譜というその時代のメディアの状況が大いに関わってくるだろう。さらに、そもそも音楽（音楽家）というものを、人々がどのようにみなし受け止めているのかという認識や行動を考えるとき、音楽はそれを支える社会集団とともに考察する必要があるだろう。
このように音楽は、「生産」「伝達」「受容」のどの局面においても、社会と無縁ではありえない。本講義では、音楽そのものを対象とするのではなく、音楽のどの局面においても深く関ってくる「社会」というものを広く視野に入れることを目指し、音楽が音楽「外」のものといかに関わっているのかについて広く考えてゆきたい。

到達目標:
(1)　音楽研究の歴史を、文化研究としてとらえることができる。
(2)　音楽を音響それだけではなく、社会的及び歴史的背景からとらえることができる。
(3)「異文化を理解する」ということを通して、自分自身の傾向やバイアスに気付くことができる。
(4)　音楽の好き嫌いを個人的なものとしてではなく、ある程度社会学的観点から説明できる

授業方法:　講義/演習　本授業は原則2人1組の指定席とし、授業時間内に講義内容に基づくテーマについて適宜パートナーとのディスカッションを行ってもらう。また議論の成果をミニコメントシートへ記入してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	テクノロジーの発達～激変する音楽製作のありかた	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと。
2.	音楽と宗教との関係	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
3.	サウンドスケープ	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
4.	多様化する音楽聴取のありかた	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
5.	「演奏会」システムの社会史	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
6.	歌詞と社会情勢～翻訳される歌詞・されない歌詞	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
7.	作られる音楽家のイメージ～バッハ・ベートーヴェンを事例に	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
8.	音楽家の社会的立場、そのイメージ	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
9.	ロックミュージックの社会的な意味	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
10.	ポピュラー音楽の3層構造	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
11.	音楽に現れる男らしさ・女らしさ	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
12.	消費社会と「クラシック音楽」	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
13.	混迷する「オリジナル」概念～音楽の著作権	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
14.	音楽学とは何か	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
15.	まとめ	これまでの内容を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標に関する理解度により評価する。
授業への積極的参加度	20%	積極的な発言など授業に参加しているかどうかを評価する。出席のみは一切加点しない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

046900、60

現代の音楽

三島　　郁

授業テーマ:　現代の音楽生活をめぐる諸問題と社会に関与する能動的音楽活動

授業の概要:　現代においては、みずから足を運んでコンサートやライブに聴きに行き、音楽活動に参加し、さらには能動的にその運営に携わる機会が増えている。またメディアのデジタル化によって、以前に比べ格段に容易に音楽を体験できるようになった。本講義では、自分が聴いたり、体験したりする身近な音楽や音文化、そしてそれを取り巻く現代の多様な音楽状況を分析・考察し、人がみずから能動的に生み出す音楽活動について議論する。

到達目標:
・音楽を受容・消費するさまざまな仕組みや、その背景となる歴史や社会についての知識を得る。
・みずからの音楽行動について、多角的に分析・考察できるようになる。
・公共的な音楽活動についてその役割を認識し、みずからが積極的にかかわるための考え方を構築できるようにする。

授業方法:　講義毎に譜例や資料を付したレジュメを配付し、視聴覚資料を使用しながら、解説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽のデジタル化（1）:わたしたちの音楽生活と「MP3」	音楽におけるデジタル化の復習
2.	音楽のデジタル化（2）:著作権をめぐる現在の問題:	音楽における著作権の復習
3.	音楽のデジタル化（3）:クラブ音楽～レコードとDJ	デジタル化のもたらす音楽活動の変化についての復習
4.	ポピュラー音楽と社会（1）:ジャンル概念の形成	ポピュラー音楽のジャンル概念の復習
5.	ポピュラー音楽と社会（2）:歌詞と社会的関心	ポピュラー音楽と社会の関係について復習
6.	ポピュラー音楽と社会（3）:野外フェス	フェスの意味について復習
7.	メディアと音楽（1）:放送禁止歌～日本編	放送禁止歌の根本原因について復習
8.	メディアと音楽（2）:放送禁止歌～アメリカ編	メディアの責任について復習
9.	音楽活動の企画（1）:アウトリーチと音楽教育	音楽教育の意味について復習
10.	音楽活動の企画（2）:音楽企画の公共性～音楽祭、災害時の音楽を例に	音楽企画の公共性について復習
11.	音楽活動の企画（3）:音楽のマネージメント	音楽マネージメントについて復習
12.	国の文化政策と音楽	日本の文化政策について復習
13.	音の現場（1）:映画音楽の記号と象徴	映画音楽におけるサウンドについて復習
14.	音の現場（2）:街とストリートの音楽	街の音環境の意味について復習
15.	音の現場（3）:音楽コンクール	音楽と政治の関係について復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　音楽は個人それぞれにとっては私的な嗜好物にみえますが、同時に社会的な意味をもち、歴史的背景も備えています。そのような音楽に付随する意味を解きほぐし、自分の好きな音楽の意味を再確認してみましょう。

フィードバックの方法:　毎授業後に提出するコメントペーパーについては、授業内容に対する深い理解や考察があるものは講義時にコメントしながら紹介し、意義のある質問等に対しては教室で解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況及び授業時の提出物	50	提出を行っているかいなか、また質・量ともにきちんと書けているか。欠席数が講義数の3分の1以上の者は失格とする。また理由のない30分以上の遅刻や早退は欠席とみなす場合がある。
学期末レポート	50	知識を身につけ、自分なりに分析・考察できているか。

教科書:　講義毎に資料を配布

参考書:　適宜提示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　kaorumishima@gmail.com

047000、60

映像文化論

水口　　薫

授業テーマ:　メディア・リテラシー（映像メディアの読み解き能力と書く、表現、活用する能力）

授業の概要:

19世紀末、エジソンら多くの発明家は、時間経過の記録・再現、“動く絵”映画の発明に努力した。「映画の誕生」は、フランスのリュミエール兄弟が、1895年パリで一般有料公開した時とされる。これが動く映像メディアの幕開けである。
映画・映像は、ドラマ（劇、文学、脚本）・音楽・美術・肉体（俳優）・機器などの複層した媒体（メディア）で表現される総合芸術・アートと言われる。この表現手段は、フィルム、テレビ、ビデオ、コンピュータ、スマートフォン、インターネットへと広がりを見せ、その影響力は多大なものとなっている。
映像を見ながら映画・映像の歴史、技法、国による文化の違い、時代背景、芸術と影響力について講義する。

到達目標:

この授業では、20世紀の代表的な映像文化論、表現論をベースに、その歴史と理論を内外の作品を通して知り、21世紀の現代、映画、テレビ、インターネットの発達により氾濫する映像メディアと向き合い、私達はどのように分析、発信するのかを学び、映像を理解し、活用する方法としてのメディア・リテラシーを身につけることを目標とする。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	映画史以前　洞窟壁画 動く絵のおもちゃ　目の残像「フィルム・ビフォア・フィルムズ」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
2.	映画の誕生　日本への輸入 京都と映画について　時間経過の記録と再現　エジソン、リュミエールとメリエス、稲畑勝太郎、牧野省三、尾上松之助	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
3.	サイレント映画1　映画言語とは D. W. グリフィスとハリウッド黎明期「国民の創生」「イントレランス」「散り行く花」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
4.	サイレント映画2　映画の表現a サイレント映画音楽伴奏　D. W. グリフィス「散り行く花」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
5.	映画のスタッフ　コンティニュイティとは 想像力と映像の影響力　音の影響について　スタンリー・キューブリック「シャイニング」「2001年宇宙の旅」ハリウッド効果音　CM　選挙CM フェイクニュース	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
6.	サイレント映画3　映画理論とは モンタージュ理論、ティバージュ　エイゼンシュテイン「戦艦ポチョムキン」アルベール・ラモリス「赤い風船」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
7.	劇映画と記録映画　プロパガンダ（宣伝）映画とは レニ・リーフェンシュタールとヒトラー 「意志の勝利」「オリンピア」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
8.	サイレント映画4　映画の表現b チャーリー・チャップリン　映像の意味「キッド」「街の灯」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
9.	映画監督・作家について チャーリー・チャップリン　メッセージとは　検閲「モダン･タイムズ」「独裁者」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
10.	映画制作者の工夫1　映画の表現c サイレントからトーキーへ　視覚の拡張、マルチ画面　アベル・ガンス「ナポレオン」ラース・フォン・トリアー「ダンサー・イン・ザ・ダーク」「マトリックス」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
11.	映画制作者の工夫2　文学・映画の中の女性 プロデューサーの仕事「風と共に去りぬ」ミュージカル「ウエストサイド・ストーリー」 翻案・シェークスピア「ロミオとジュリエット」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
12.	日本映画（戦前・戦後）こどもと女性の描かれ方　時代の変化 小津安二郎「生まれてはみたけれど」「東京物語」溝口健二「浪華悲歌」「祇園姉妹」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
13.	日本映画（戦後）　巨匠・映画監督黒澤明とキャメラマン宮川一夫 「羅生門」「生きる」「七人の侍」「蜘蛛巣城」 翻案・シェークスピア「マクベス」「荒野の七人」「バグズライフ」	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
14.	日本映画（現代） ヌーベル・バーグ　表現の改革者　世界の映画祭 大島渚「愛と希望の街」「愛のコリーダ」「戦場のメリー・クリスマス」、北野武、是枝裕和、河瀬直美	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
15.	映像メディアの可能性　活用と影響・映画の未来について　まとめ 「汝の敵を知れ」中国　反日映画、映画とアニメ　デジタル・シネマ、3D、スマートフォン、ネット映像（YouTube,YouStream）	配布プリントを熟読、可能な場合は紹介作品の全体を視聴。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業で見せる作品は、短く、一部分を見せることになるので、なるべくAVライブラリー、映画館、テレビ、レンタル・ビデオなどを利用して、本編全部を見る機会を作り、全体像を把握して欲しい。
参考資料として映像作品の紹介をするので、時間の作れる学生は、それらも見ることを希望する。
就職活動等で欠席した場合は、配布プリントを読み、上記の方法などによって出来るだけ映像を見ること。

フィードバックの方法:

受講生多数でディスカッションのできない場合は、出席票での記述にてコミュニケーションを図る。
出席票レポート、中間レポートの代表的な質問、理解の間違い等を授業においてコメントを行う。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席票を兼ねたレポート	10	
	レポート	10	オリジナリティー、論理的に説明できているかを基準とする。
	定期試験	80	到達目標に関する知識、理解度により評価する。 発想力、オリジナリティーと論理的に説明できているかを基準とする。

教科書: 適時プリント配布

参考書: 映画の教科書（フィルムアート社）
映画技法のリテラシーⅠ・Ⅱ（フィルムアート社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応。Eメール（kaoru828@gray.plala.or.jp）

047060

映像文化論

井上　　理砂子

授業テーマ:　メディア・リテラシー　教養としての映画史とともに、メディアを通して現代社会の課題を知る。

授業の概要:　″例えば「パリ」と聞いて何を思い浮かべますか？では「北朝鮮」では？　わたしたちが今、頭に浮かべた映像は、それの多くがメディアから得られたイメージです。現代人の知識は実は、メディアで成り立っているといっても過言ではありません。いま、メディアの特性を知り、読み解く力（リテラシー）を身につけることが何より重要です。
「映画（映像）」というメディアが誕生して約120年。映画を知ることは人間の約1世紀にわたる文明や考え方の進歩を知ることでもあります。まずは教養としての映画史を学びましょう。一方、後半はドキュメンタリーを素材に社会の課題を身近に捉えるトレーニングをします。さまざまなニュースに触れ、メディア上のデマや過剰な演出に惑わされない姿勢や寛容な眼差しを養います。

到達目標:　19世紀末から20世紀の映像文化の歴史を内外の作品を通して学ぶ。その上で、現代にあふれるメディアから「真実」を捉える視座を養う。ドキュメンタリーなどの映像を通じて社会的な課題を知り、自律的に思考し、解決のために実際に行動する力をつける。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	なぜ、メディアを学ぶのか。授業のイントロダクション。課題	どんな映像やニュースに心動かされるのか。自己分析して初回の授業に臨みましょう。
2.	「映画の誕生」　動く映像への欲求。映画史以前。発明の集積。草創期の映像。目の残像と錯覚。実際に作ってみよう	簡単なワークショップを実施。準備は前回の授業で指示。
3.	「見世物から物語へ」　一世風靡した「新メディア」の意外な追い風。物語と独特の映像表現の発見。	同時代のクリエイターになったつもりで、新しい題材や表現手段を考えてみましょう。
4.	「産業の揺籃期と繁栄」　広がるサイレント映画の可能性。ハリウッドの誕生。各国の映画事情	紹介した映画の全編を見ましょう。
5.	「トーキー、そしてカラーへ」　交錯する夢と現実。娯楽の変調。撮影システムの凋落。新しい波の台頭	紹介した映画の全編を見ましょう。
6.	「世界を魅了する日本映画」　稲畑勝太郎とリュミエールの出会い。草創期から敗戦を経て。小津、溝口、黒澤から現代まで。	紹介した映画の全編を見ましょう。
7.	「利用された映像たち」　プロパガンダ映画を知る。	その時代に自分が生きていたならば、映像にどう心が動かされるかを考えてみましょう。
8.	メディア・リテラシーを磨く　その映像は『真実』か？すべての映像は編集されている。	テレビやネット、新聞などのニュースをチェックしましょう。前回授業で感じたことを深めて、授業に臨みましょう。
9.	この「感動」は本物か？　映像で押し付けられる「誰かの価値観」	テレビやネット、新聞などのニュースをチェックしましょう。前回授業で感じたことを深めて、授業に臨みましょう。
10.	双方向の光と影　フェイク情報・ニュースの被害者、加害者にならないためには	テレビやネット、新聞などのニュースをチェックしましょう。前回授業で感じたことを深めて、授業に臨みましょう。
11.	この「正義感」はどこから？　現代社会の厳罰化、過剰反応とえん罪	テレビやネット、新聞などのニュースをチェックしましょう。前回授業で感じたことを深めて、授業に臨みましょう。
12.	その問題、誰かの問題？　同時代の課題（災害、基地、エネルギー、憲法など）を知ろう。	テレビやネット、新聞などのニュースをチェックしましょう。前回授業で感じたことを深めて、授業に臨みましょう。
13.	ちまたの「科学」とどう付き合う？　捏造への誘惑	2018年の最終授業にあたって、冬休みの課題を出します
14.	映像メディアの可能性を考える。	課題について、さらに思考を深めて臨みましょう
15.	まとめ	授業を通して感じたことを自己分析して最終授業に臨みましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:　一方的な講義ではなく、常に主体的に考えていただく授業を目指しています。ちまたにあふれる情報に対して、自分自身の「物差し」を持つために一緒に学びましょう。厳選した映像を用意していますので、集中して臨んでください。

フィードバックの方法:　出席票などで示された疑問があれば、次の授業でコメントします。適宜、ディスカッションや質問の時間を設け、コミュニケーションを図ります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席票を兼ねたミニ・レポート	30	授業の理解度
冬期休暇などのレポート	30	オリジナリティーある考察が論理的に説明ができているか。
定期試験	40	到達目標に関する知識が身に付くとともに、思考に応用力があるか

教科書:　授業のつど配布します

参考書:
村山匡一郎「映画史を学ぶクリティカル・ワーズ」（フィルム・アート社）
ジェイムズ・モナコ「映画の教科書　どのように映画を読むか」（フィルム・アート社）
木下和寛「メディアは戦争にどうかかわって来たか」（朝日新聞社）
永田浩三編著「フェイクと憎悪　歪むメディアと民主主義」（大月書店）
佐藤優、池上彰「僕らが毎日やっている最強の読み方」（東洋経済）
「別冊太陽　日本映画と京都」（平凡社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後で質問を受け付けます。メールアドレスはlisako@td5.so-net.ne.jpです。

047100、60

京都の文化A

伊東　　建一

授業テーマ:　御所人形師と学ぶ 京都と人形の魅力

授業の概要:
皆さんは人形にどんなイメージを持っていますか？
身近にあるにもかかわらず、意外に知らない人形の種類やその役割。
本講では数ある人形の中でも最高の格式を持つとされる御所人形の歴史やその優雅な特性をはじめ、人形の起源から確立までの流れをわかりやすく解説していきます。
さらに御所人形師である講師自身が実際に行っている制作工程についても講義したいと思います。
また人形と結びつけながら、京都の名所や年中行事など、京都が持つ四季折々の魅力を楽しく紹介します。

到達目標:
人形や京都の文化に関する基本的な知識を得る
人形や京都についてより深く学ぼうという意欲を持つ

授業方法:
毎回、スクリーンを使用します。
必要に応じてDVDを観ます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	「人形」や「京都」について知りたいことを整理しておくこと
2.	京都の春	「京都の春」とはどのような授業なのか想像しておくこと
3.	端午の節句と五月人形	「五月人形」とはどんな人形なのか考えておくこと
4.	葵祭の魅力	「葵祭」がどのような祭か想像しておくこと
5.	人形の起源	「人形の原型」がどのようなものか想像しておくこと
6.	歌舞伎と人形	「歌舞伎」と人形に何の関係があるのか考えておくこと
7.	御所人形と伊東家（1）	講師のホームページを見ておくこと
8.	御所人形と伊東家（2）	前回の授業内容をしっかり復習しておくこと
9.	京都の桜	京都の「桜の名所」といえばどこか考えておくこと
10.	京都の紅葉	京都の「紅葉の名所」といえばどこか考えておくこと
11.	祇園祭と人形（1）	「祇園祭」と人形の関係について考えておくこと
12.	祇園祭と人形（2）	前回の授業内容をしっかり復習しておくこと
13.	桃の節句と雛人形	自分の幼い頃の「ひなまつり」を思い出しておくこと
14.	時代祭の秘密	「葵祭」と「祇園祭」についての授業内容を復習しておくこと
15.	まとめ	講師のホームページをしっかり読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:
楽しい授業になるよう心掛けています。
他の受講者の迷惑になるため、授業中の私語には厳しく対処します。
出席カードの自由記述欄には必ずコメントを書いてもらいます。

フィードバックの方法:
出席カードに書かれたコメントや質問については次の授業で回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および授業中の態度	30%	出席するだけでなく、授業へ参加する姿勢も評価の対象とします。
出席カードに書くコメント	40%	出席カードに書かれたコメントで授業内容の理解度を評価します。
期末試験	30%	主に「御所人形」についての理解度を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
授業後に教室で応対
Eメール（dwcla@hisashige.net）

047200

京都の文化B

河村　　晴道

授業テーマ:
能楽を通して日本文化の特質を探る。

授業の概要:
能は、室町初期に大成された日本の音楽劇である。その大成の中心的存在である観阿弥、世阿弥父子は、奈良から京都に進出し、足利義満の庇護のもと、能を庶民の芸能から、より芸術性の高いものに昇華していった。北山文化の中で育てられた能には、日本文化の特質が多く含まれている。
この講義では能の概略と、表現方法を具体的に考察し、その音楽性や演出から日本文化の特性を探る。

到達目標:
能の概要を知る。
能の歴史を学ぶ。
能から日本の美意識を学ぶ。
能の音楽性を知る。
日本文化の特質を知る。
国際社会における自己のあり方を考える。
同志社における「良心」の意味を考える

授業方法:
毎回テーマを決め講義をすすめる。能面、能装束を教室に持ち込み、着付けも見せる。謡い舞う能の演技を実際に行い、身近に感じ取ってもらう。必要に応じてビデオを使い、能の鑑賞を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	能とは何か	授業ノートの確認
2.	能の歴史(1)	授業ノートの確認
3.	能の歴史(2)	授業ノートの確認
4.	能の演技空間	授業ノートの確認
5.	能面	授業ノートの確認
6.	能の囃子	授業ノートの確認
7.	能の種類(1)　神能	授業ノートの確認
8.	能の種類(2)　修羅能	授業ノートの確認
9.	能の種類(3)　鬘能	授業ノートの確認
10.	能の種類(4)　雑能	授業ノートの確認
11.	能の種類(5)　鬼能	授業ノートの確認
12.	狂言	授業ノートの確認
13.	能の主題	授業ノートの確認
14.	能の美意識	授業ノートの確認
15.	能の演技 （能装束着付け・仕舞実演）	授業ノートの確認

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業中の私語厳禁。
授業中の入退室は原則として禁止。

フィードバックの方法:
各回提出のコメントや質問に対し、次回の授業の冒頭に必要に応じて答える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	授業に興味を持って参加し、文化を学ぶ意味を考えられたかを評価する。
各回のコメント提出	50	各回の授業内容を理解し、日本文化を知ることによって、自己の本質を考えられたかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前に教室で対応する。

047300

京都の文化C

河村　　晴道

授業テーマ:

能楽を通して日本文化の特質を探る。

授業の概要:

能は、室町初期に大成された日本の音楽劇である。その大成の中心的存在である観阿弥、世阿弥父子は、奈良から京都に進出し、足利義満の庇護のもと、能を庶民の芸能から、より芸術性の高いものに昇華していった。北山文化の中で育てられた能には、日本文化の特質が多く含まれている。
この講義では能の様々なレパートリーを取り上げ、そこにある思想や美意識を考察し、日本文化の一端を知ることによって、国際社会の中での日本人のあり方を考える。

到達目標:

能の概要を知る。
能の歴史を学ぶ。
能から日本の美意識を学ぶ。
能の音楽性を知る。
日本文化の特質を知る。
国際社会における自己のあり方を考える。
同志社における「良心」の意味を考える。

授業方法:

毎回テーマを決め講義をすすめる。能面、能装束を教室に持ち込み、着付けも見せる。謡い舞う能の演技を実際に行い、身近に感じ取ってもらう。必要に応じてビデオを使い、能の鑑賞を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	能とは何か	授業ノートの確認
2.	能の歴史	授業ノートの確認
3.	日本の神話と神能	授業ノートの確認
4.	修羅能に見る社会性と人間性の葛藤	授業ノートの確認
5.	幽曲と幽玄論	授業ノートの確認
6.	恋慕の普遍性	授業ノートの確認
7.	義理能と中世の倫理	授業ノートの確認
8.	鬼の位相	授業ノートの確認
9.	新作能と能の可能性	授業ノートの確認
10.	能の美意識	授業ノートの確認
11.	狂言	授業ノートの確認
12.	能の主題	授業ノートの確認
13.	能の演技	授業ノートの確認
14.	能面の美	授業ノートの確認
15.	能装束の着付けと仕舞実演	授業ノートの確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語厳禁。
授業中の入退室は原則として禁止。

フィードバックの方法:

各回提出のコメントや質問に対し、次回の授業の冒頭に必要に応じて答える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	授業に興味を持って参加し、文化を学ぶ意味を考えられたかを評価する。
各回のコメント提出	50	各回の授業内容を理解し、日本文化を知ることによって、自己の本質を考えられたかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前に教室で対応する。

047701

教育の原理

佐藤　　光友

授業テーマ:　教育の意義・理念・思想・歴史・制度などについて学び、教師や学校に対する多角的な視点を持つために

授業の概要:　本科目においては、教育の意義や目的、教育の理念、教育の方法、基本的な制度について考察し、教育に関わることがらを西洋あるいは日本の歴史的・思想的な観点から理解を深め、教育についてのより根源的な考察をすすめていく。そのことによって、学校教育を含めた、学校と家庭とのかかわり、地域とのかかわりについてそれぞれ概観する。

到達目標:　教育の意義や目的、教育の理念、教育の方法、基本的な制度などについて西洋あるいは日本の歴史的・思想的な観点から理解することによって、学校教育を含めた、学校と家庭とのかかわり、地域とのかかわりについてそれぞれ考察を深めることで、現代の学校教育がかかえている課題への問題意識を高めることができる。

授業方法:　講義を中心とするが、適宜、グループ学習による討論なども行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	教育の意義・目的・理念	教育についての定義を自分なりに調べておくこと。
3.	教育の方法と内容	教育の方法について自分なりに調べておくこと。
4.	西洋における古代ギリシア(ポリス)の教育の歴史と思想	事前に与えた西洋おける古代ギリシア(ポリス)教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
5.	西洋における古代ギリシア(ソクラテス・プラトン)の教育の歴史と思想	事前に与えた西洋おける古代ギリシア(ソクラテス・プラトン)教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
6.	西洋における中世教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における中世教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
7.	西洋における近代前半の教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における近代前半の教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
8.	西洋における近代後半の教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における近代後半の教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
9.	西洋における現代教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における現代教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
10.	日本における近世教育の歴史と思想	事前に与えた日本における近世教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
11.	日本における近代教育の歴史と思想	事前に与えた日本における近代教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
12.	日本の教育制度	事前に与えた日本の教育制度についての資料を熟読しておくこと。
13.	諸外国の教育制度	事前に与えた諸外国の教育制度についての資料を熟読しておくこと。
14.	現代教育の諸問題	現代の教育問題について、自分が一番関心のある事柄について調べておくこと。
15.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	到達目標、教育の意義・目的や理念、教育方法や内容、基本的な制度に関する理解度により評価する。
授業への参加意欲	60%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出により評価する。

教科書:　授業時に資料等を配布する。

参考書:　授業中、適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

047702

教育の原理

石川　　裕之

授業テーマ:　教育の理念・歴史・思想について幅広い視点から考える。

授業の概要:　教育の理念・歴史・思想について幅広い視点から考えられるようになるために、人間や社会において教育が持つ根源的な意味、これまで教育がたどってきた栄光と苦難の歴史、私たちの教育を特徴づけている思想について学ぶ。また、それらの知識を現代の教育と有機的に結びつけて考えられるように、わが国および諸外国の教育動向についても概観する。

到達目標:　（1）教職に就く上で必要な、教育や学校に関する基礎的な知識を理解している。
（2）教育や学校について広い視野を持ち、多角的な視点から教育事象について捉えられる能力と態度を身につけている。

授業方法:　講義形式とし、配布するプリントにもとづいて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育とは何か（1）－教育の必要性－	高校レベルの公民（倫理）に関する知識が必要となる。これらについて自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での準備学習をしておくこと。
2.	教育とは何か（2）－教育の分類－	同上
3.	教育の歴史（1）－教育の起源－	高校レベルの地理歴史（世界史）に関する知識が必要となる。これらについて自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での準備学習をしておくこと。
4.	教育の歴史（2）－学校の誕生－	同上
5.	教育の歴史（3）－学校の低迷－	同上
6.	教育の歴史（4）－学校の復活－	同上
7.	教育の歴史（5）－近代公教育の誕生－	同上
8.	教育の歴史（6）－すべての子どもに教育を－	同上
9.	教育の思想（1）－近世の教育思想－	高校レベルの公民（倫理）に関する知識が必要となる。これらについて自分の知識が不足していると思う場合は、授業外での準備学習をしておくこと。
10.	教育の思想（2）－近代の教育思想・前編－	同上
11.	教育の思想（3）－近代の教育思想・後編－	同上
12.	教育の思想（4）－現代の教育思想－	同上
13.	諸外国の教育動向（1）－アジア－	東アジア関連のニュースについて日頃から関心を持つようにしておくこと。
14.	諸外国の教育動向（2）－欧米－	ヨーロッパやアメリカ関連のニュースについて日頃から関心を持つようにしておくこと。
15.	まとめ	各自でこれまでの授業の振り返りをしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　本授業は講義形式ではあるが、「一人ひとりの学生が自ら考える授業」を目指す。そのため、しばしば受講者に対し授業内容に関する質疑をおこなう。その際は受講者全員に向けて自らの考えを明確かつ簡潔に述べることが求められる。ただ聴くだけの受け身な姿勢ではなく、能動的な姿勢で授業に臨んでいただきたい。

フィードバックの方法:　毎回の授業でコメントシートを記入してもらう。コメントシートはチェックしたのち、次の回の授業に教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標に示した知識や能力・態度をどれだけ身につけているかを総合的に評価する。
授業内レポート	30	コメントシートをもとに毎回の授業の内容についてどれだけ理解し、主体的に考察しているかを評価する。
授業への参加度	10	質疑への応答などをもとに、積極的に授業に参加しているかを評価する。

教科書:　特定の教科書は使用せず、配布するプリントにもとづいて授業を進める。

参考書:　授業内において適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　原則として授業開始前および授業終了後に教室内で対応する。ただし、緊急の場合はEメールでの連絡も可とする（連絡先メールアドレスについては授業内で伝える）。

047761、62

教育の原理

西川　　信廣

授業テーマ:　教育の原理的考察

授業の概要:　本講義では教育の歴史、現状、未来について、教育思想、制度史、方法論、カリキュラム論、教職論のそれぞれの観点からの基礎的理解の定着を目指す。教科書は毎回持参すること。

到達目標:　教育活動の全体像に関する理解の深化を目指す。目指す人間像は、思考力・判断力・表現力を基礎に、アクティブ・ラーニングを経てコーディネート力、リーダーシップを備えた指導的、教育的教師である。教育に関する正確な知識、主体的に課題を設定し探究する力、多様な方法で自らの考えを伝える力などの定着を目指す。

授業方法:　1. 講義（教科書を使用して基礎的な知識理解を深める）2. 演習（テーマを設定し、事前学習を経てアクティブ・ラーニングの手法を用いて講義を進める）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	教科書を持参すること
2.	ヨーロッパにおける教育思想の展開1—古代ギリシャ、中世—	教科書の第1章、2章を事前に読んでおくこと
3.	ヨーロッパにおける教育思想の展開2—近世、現代—	教科書の第2章を事前に読んでおくこと、および前回の振り返り
4.	我が国における教育思想の展開1—明治、大正期—	教科書第３章を事前に読んでおくこと
5.	我が国における教育思想の展開2—昭和、平成期—	教科書第４章を事前に読んでおくこと、および前回の振り返り
6.	教育課程と学力観1—学習指導要領の変遷と学力観—	教科書第9章を事前に読んでおくこと
7.	教育課程と学力観2—２１世紀型学力と教育課程—	教科書第9章を事前に読んでおくこと、および前回の振り返り
8.	「21世紀の学力を学校でどう育むか」というテーマでグループ討論を行い、相互の理解の深化を図る	各自が受けた総合学習を振り返り、レポートを作成し講義に持参する。それをもとに21世紀型学力の育成のための具体的方策を討論する
9.	教育方法の歴史と展開	教科書第3章を事前に読んでおくこと
10.	教員養成制度の変遷	教科書第7章を事前に読んでおくこと
11.	教員養成制度の改革動向	教科書第7章を事前に読んでおくこと、および前回の振り返り
12.	教育の制度と関連法規	教科書第4章を事前に読んでおくこと
13.	今日の我が国の教育制度と改革動向小中一貫教育、コミュニティ・スクールを中心に	教科書第11章を事前に読んでおくこと
14.	日本の教師像－ある高校の教師の取り組み－（DVD視聴）	大阪府立X高校の若手教員の取り組みをDVDで視聴し、その感想をレポートにまとめる
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義内容は上記に記したものとなるが、講義の順番は学生の理解に応じて多少入れ替えが生じる可能性もある。

フィードバックの方法:　レポートなどを課した場合は、その次の講義で適宜、まとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間レポート	30%	到達目標に記した主体的な課題設定がなされ、探究的なものとなっているかが重要。ネット情報のコピーなどは認めない。
最終レポート	70%	課題に向き合い、半年間の学びの成果が反映された内容となっていることが重要。ネット情報のコピーなどは認めない。

教科書:　西川信廣・長瀬美子編著「改訂版　学生のための教育学」ナカニシヤ出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　教務課を経由したeメールまたは教室での対応

047801、02

発達と学習の心理学

向井　　正廣

授業テーマ:

新生児から老年期に至る心身の発達過程の特徴を理解し、主な学習理論のアウトラインを習得する。発達段階の特徴に応じた適切な生活支援と学習支援の在り方の理解を深める。

授業の概要:

(1)新生児から老年期に至る心身の発達過程の特徴を学び、具体的なケースを通して理解する。
(2)「学習・記憶・動機づけ」の主要な理論の基礎知識を習得し、具体的なケースを通して理解する。
(3)心身の発達過程の特徴に応じた生活支援と学習支援のあり方等をグループワークのなかで理解を深めるとともに、アクティブラーニングのスキルを習得する

到達目標:

(1)発達過程、発達段階の特徴を理解し、生活や教育の場面での適用を考えることができる。
(2))「学習・記憶・動機づけ」の主要な理論の基礎知識を理解し、生活や教育の場面での適用を考えることができる。
(3)グループワークを通して、アクティブラーニングのスキルを習得する。

授業方法:

毎回の講義は、パワーポイントや配布資料を用いて行い、その日のテーマに関するグループワークを行う。復習プリントを次回までに提出。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	発達心理学の源流 遺伝と環境	
2.	乳幼児の能力 新生児の感覚と認知	復習プリント
3.	児童期の認知発達　その1 ピアジェの発達理論	復習プリント
4.	児童期の認知発達　その2 ピアジェ以降の発達理論	復習プリント
5.	パーソナリティと社会性の発達 愛着:ボウルビーとエインズワース	復習プリント
6.	青年期から老年期の認知発達 エリクソンの発達理論	復習プリント
7.	ケースワーク:発達の特徴に応じた支援とは？ 発達に関する小テスト	復習プリント
8.	記憶の形成　その1 海馬・扁桃体・PTSD	復習プリント
9.	記憶の形成　その2 意識できる記憶と意識できない記憶	復習プリント
10.	学習理論　その1 パブロフの古典的条件づけ	復習プリント
11.	学習理論　その2 スキナーの道具的条件づけ	復習プリント
12.	学習理論　その3 バンデューラの社会的学習	復習プリント
13.	動機づけ　その1 神経生理学的メカニズム	復習プリント
14.	動機づけ　その2 セリグマンの学習性無力感 記憶と学習に関する小テスト	復習プリント
15.	発達と学習の心理学を振り返る 発達検査から支援のヒントをさぐる	

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義担当者は、大半の時間を臨床心理士として心理支援等の相談業務に費やしています。臨床的知見を交えた初学者にも親しみやすい講義を実現したいと考えています。また参考文献等は授業の中で紹介します。

フィードバックの方法:

・各自の発表・質問等に関してはその授業時間内か次回の授業時にコメントをお返しいたします。
・各回に配布する復習プリントは、次回の授業時に解説・解答します。
・小テストの解答は、次回の授業時に解説・解答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
グループワーク・発表	20	到達目標(3)のアクティブラーニングのスキルの修得、プレゼン力を基準とする
復習プリント	20	各回の講義内容の理解度を基準とする
小テスト	60	到達目標(1)(2)の達成度を基準とする

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

(1)授業の前後に教室内で対応
(2)メールで対応

047861

発達と学習の心理学

向井　　正廣

授業テーマ:

新生児から老年期に至る心身の発達過程の特徴を理解し、主な学習理論のアウトラインを習得する。発達段階の特徴に応じた適切な生活支援と学習支援の在り方の理解を深める。

授業の概要:

(1)新生児から老年期に至る心身の発達過程の特徴を学び、具体的なケースを通して理解する。
(2)「学習・記憶・動機づけ」の主要な理論の基礎知識を習得し、具体的なケースを通して理解する。
(3)心身の発達過程の特徴に応じた生活支援と学習支援のあり方等をグループワークのなかで理解を深めるとともに、アクティブラーニングのスキルを習得する

到達目標:

(1)発達過程、発達段階の特徴を理解し、生活や教育の場面での適用を考えることができる。
(2))「学習・記憶・動機づけ」の主要な理論の基礎知識を理解し、生活や教育の場面での適用を考えることができる。
(3)グループワークを通して、アクティブラーニングのスキルを習得する。

授業方法:

毎回の講義は、パワーポイントや配布資料を用いて行い、その日のテーマに関するグループワークを行う。復習プリントを次回までに提出。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	発達心理学の源流 遺伝と環境	
2.	乳幼児の能力 新生児の感覚と認知	復習プリント
3.	児童期の認知発達　その1 ピアジェの発達理論	復習プリント
4.	児童期の認知発達　その2 ピアジェ以降の発達理論	復習プリント
5.	パーソナリティと社会性の発達 愛着:ボウルビーとエインズワース	復習プリント
6.	青年期から老年期の認知発達 エリクソンの発達理論	復習プリント
7.	ケースワーク:発達の特徴に応じた支援とは？ 発達に関する小テスト	復習プリント
8.	記憶の形成　その1 海馬・扁桃体・PTSD	復習プリント
9.	記憶の形成　その2 意識できる記憶と意識できない記憶	復習プリント
10.	学習理論　その1 パブロフの古典的条件づけ	復習プリント
11.	学習理論　その2 スキナーの道具的条件づけ	復習プリント
12.	学習理論　その3 バンデューラの社会的学習	復習プリント
13.	動機づけ　その1 神経生理学的メカニズム	復習プリント
14.	動機づけ　その2 セリグマンの学習性無力感 記憶と学習に関する小テスト	復習プリント
15.	発達と学習の心理学を振り返る 発達検査から支援のヒントをさぐる	

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義担当者は、大半の時間を臨床心理士として心理支援等の相談業務に費やしています。臨床的知見を交えた初学者にも親しみやすい講義を実現したいと考えています。また参考文献等は授業の中で紹介します。

フィードバックの方法:

・各自の発表・質問等に関してはその授業時間内か次回の授業時にコメントをお返しいたします。
・各回に配布する復習プリントは、次回の授業時に解説・解答します。
・小テストの解答は、次回の授業時に解説・解答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
グループワーク・発表	20	到達目標(3)のアクティブラーニングのスキルの修得、プレゼン力を基準とする
復習プリント	20	各回の講義内容の理解度を基準とする
小テスト	60	到達目標(1)(2)の達成度を基準とする

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

(1)授業の前後に教室内で対応
(2)メールで対応

047862

発達と学習の心理学

中川　　美保子

授業テーマ:　幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程を理解する。

授業の概要:
（1）幼児、児童及び生徒の心身の発達過程や特徴を発達の諸理論によって具体的に理解する。
（2）幼児、児童及び生徒の学習に関する基礎的知識を習得し、学習の諸理論を理解する。
(3) 子どもの各発達段階に適した学習支援・指導のあり方を、グループ討議を中心としたアクティブ・ラーニングを活用し、主体的に考える力を養う。

到達目標:
（1）幼児、児童及び生徒の心身の発達と主な学習理論を習得する。
（2）各発達段階に応じた適切な学習支援のあり方を理解する。

授業方法:
1:講義　パワーポイントやDVD教材、配布資料を用いての講義が中心。毎回，その日の講義内容の定着のためのドリルを復習教材とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	幼児、児童及び生徒の心身の発達に寄与する成熟と学習の概念を理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）ドリルの完成
2.	乳児期、幼児期の心身の発達の特徴を「発達期」に基づく理論によって理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）ドリルの完成
3.	児童期、思春期の心身の発達の特徴を「発達期」に基づく理論によって理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）「発達期の特徴」をまとめる。 （復習）ドリルの完成
4.	乳児期から思春期に至る運動、言語、認知及び社会性等の特徴を、ピアジェの理論から理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）ピアジェの理論をまとめる。 （復習）ドリルの完成
5.	乳児期から青年期に至る心理的な発達の特徴をフロイト、エリクソンなどの理論から理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）フロイト、エリクソンの理論をまとめる。 （復習）ドリルの完成
6.	乳児期から青年期に至る発達の特徴をグループでまとめる。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出
7.	前時の活動をグループごとに発表し、質疑応答を行いながら、子どもの発達についての理解を深める。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）グループ討議で感じたことをまとめる。 （復習）ドリルの完成
8.	動物の本能行動からより高等な初期学習に至る諸行動について知り、人間における初期学習や学習の意義について理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）初期学習についてまとめる。
9.	学習の「連合理論」について理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）連合理論についてまとめる。 （復習）ドリルの完成
10.	学習の「認知理論」について理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）認知理論についてまとめる。 （復習）ドリルの完成
11.	発達の特徴を踏まえ、学習の各理論に基づいた「効果的で主体的な学習法」をグループで考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）自らの学習法の改善点を考える。 （復習）ドリルの完成
12.	前時の討議を発展させ、動機付け・集団づくり・学習評価に観点を絞って、効果的で主体的な学習方法について深く考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）多様な主体的な学習方法についてまとめる。
13.	2回のグループ討議の結果を発表し、受講生全体で質疑応答を行い、考えを深める。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出
14.	幼児、児童及び生徒の心身の発達に基づいた、各段階に最適な主体的な学習とはどのような形態で行えばよいかを考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）主体的な学習について、発達(復習)ドリルの完成期との関連でまとめる。
15.	まとめと振り返り ー子どもの心身の発達及び学習の過程が強く関連していることを理解できたかを確認しまとめる。ー	「毎時のまとめ」の記入

受講者へのメッセージやアドバイス:
自身の幼児期、児童期、思春期を振り返り、学習したことと照合しながら授業を受けることによって、より身近に子どもの発達の過程が理解できると思います。

フィードバックの方法:
・ドリル教材の回答および解説をその授業内で行います。
・毎回配布する「質問用紙」に対して、次回の授業前あるいは授業内でコメントをお返しします。
・毎回配布する「毎時のまとめ」を複数回提出していただき、評価してお返しします。
・2階実施する小テストの標準解答を次回授業時に開示します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	50%	到達目標（1）（2）の知識理解を評価基準とする。
毎時のまとめ	20%	到達目標（1）（2）に関連する各回の授業内容の理解度、及び課題学習への積極的な態度を評価基準とする。
グループ討議、発表	20%	到達目標（1）（2）が理解されているか、自分の考えを表現し他者と協調的に関われるかを評価基準とする。
授業への積極的参加度	10%	将来、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができているかを評価基準とする。

教科書:

参考書: 無藤　隆・岡本祐子・大坪治彦編　よくわかる発達心理学　ミネルヴァ書房
中澤　潤編　よくわかる教育心理学　ミネルヴァ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力, 思考力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 自己実現力

教員との連絡方法:
1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる（mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp）
3. 研究室訪問してください。（C444）

048100

海外事情（アメリカ）

国際部長

授業テーマ:

語学・文化研修

授業の概要:

コンコーディア大学（Concordia University）またはドミニカン大学カリフォルニア校（Dominican University of California）（2校のうち参加者が選択）内の英語研修機関で約四週間の授業を受講する。ホームステイを行う。

到達目標:

・英語授業、ホームステイを通じて、英語の運用能力を高めるとともに、アメリカ文化・社会に対する理解を深める。
・引率教職員を伴わない、現地集合・現地解散を基本とする研修を通じて、参加学生の自主・自立を促す。

授業方法:

現地での研修を円滑に、かつ一層有意義なものとするよう、事前授業を実施する。
事前授業は、アメリカの文化・社会などに関する調査・発表を中心に行う。

研修先での授業は、以下のとおりである。

・インテンシブ一般英語プログラム
午前のクラスでは、文法、スピーキング、語彙力強化などコミュニケーション能力の基本を学び、実践的な生きた英語を使い会話力を身に付ける。午後のクラスでは、アメリカンイディオム、アメリカ映画、アメリカ時事問題、アメリカ文化を学び、四技能のスキル強化を行う。

・インテンシブ進学英語プログラム
午前のクラスでは、文法、スピーキング、語彙力強化などコミュニケーション能力の基本を学び、実践的な生きた英語を使い会話力を身に付ける。午後のクラスでは、リーディングとライティングを集中的に学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前授業　第1回（5月） オリエンテーション、留学先大学の詳細、諸手続の説明	
2.	事前授業　第2回（6月） アメリカの文化・社会などに関する研究発表	第2回事前授業でのアメリカの文化・社会などに関する研究発表のレジュメを作成する。
3.	事前授業　第3回（7月） プログラム・現地生活に関する質疑応答・危機管理対策	
4.	現地研修として、コンコーディア大学またはドミニカン大学カリフォルニア校において、インテンシブ一般英語プログラムもしくはインテンシブ進学英語プログラムのいずれかの英語研修プログラムを約四週間受講する。 研修先で受講するプログラムは参加学生が選択する。 なお、滞在期間中の宿泊はホームステイである。	各自の研究計画に基づき、現地での調査結果を踏まえて事後レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

第2回事前授業でのアメリカの文化・社会などに関する研究発表について授業内で講評を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前授業での評価	10%	
研修先による評価	70%	
事後レポートの評価	20%	

事前授業での評価、研修先による評価、事後レポートの評価に基づき、出席状況等を勘案した上で総合的に評価する。
ただし、所定の期日までに事後レポート未提出の場合は、単位の取得を認めない。

教科書:

なし。

参考書:

随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

国際課に問い合わせる。

048200

海外事情（イギリス）

国際部長

授業テーマ:　語学・文化研修

授業の概要:　エクセター大学（University of Exeter）で約四週間の英語研修プログラムを受講する。
フィールドトリップやホームステイを行う。

到達目標:
・英語授業、フィールドトリップ、ホームステイを通じて、英語の運用能力を高めるとともに、イギリス文化・社会に対する理解を深める。
・引率教職員を伴わない研修を通じて、参加学生の自主・自立を促す。

授業方法:
現地での研修を円滑に、かつ一層有意義なものとするよう、事前授業を実施する。
事前授業は、イギリスの文化・社会に関する調査・発表を中心に行う。
エクセター大学では、“General English”と呼ばれる英語研修プログラムに参加し、Speaking、Listening、Reading、Writingの四つの技能をバランス良く学習する英語の授業を受講する。
また、英語のスキルを高め、英語の知識を深めるだけでなく、フィールドトリップやアクティビティを通して、イギリスの生活や文化、社会についても学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前授業　第1回（11月） オリエンテーション、諸手続の説明、発表グループ分け	
2.	事前授業　第2回（12月、同志社びわこリトリートセンターでの一泊研修） イギリスの文化・社会などに関する研究発表	第2回事前授業でのイギリスの文化・社会などに関する研究発表のレジュメを作成する。
3.	事前授業　第3回（1月） 前年度参加者による研修報告および質疑応答	
4.	事前授業　第4回（1月） 危機管理対策	
5.	この後、現地研修として、エクセター大学において約四週間英語の授業を受講するとともに、フィールドトリップを行う。なお、滞在期間中の宿泊は、ホームステイである。	各自の研究計画に基づき、現地での調査結果を踏まえて事後レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　第2回事前授業でのイギリスの文化・社会などに関する研究発表について授業内で講評を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前授業での評価	10%	
エクセター大学による評価	70%	
事後レポートの評価	20%	

事前授業での評価、エクセター大学による評価、および事後レポートの評価に基づき、出席状況等を勘案した上で総合的に評価する。
ただし、所定の期日までに事後レポート未提出の場合は、単位の取得を認めない。

教科書:　なし。

参考書:　随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　国際課に問い合わせる。

048300

海外事情（ニュージーランド）

国際部長

授業テーマ:　語学・文化研修

授業の概要:　ワイカト大学パスウェイズカレッジ（University of Waikato Pathways College）という英語研修機関での約三週間の授業を受講する。フィールドトリップやホームステイを行う。

到達目標:
・英語授業やフィールドトリップ、ホームステイを通して、英語運用能力を高めるとともに、ニュージーランド文化・社会に対する理解を深める。
・引率教職員を伴わない研修を通じて、参加学生の自主・自立を促す。

授業方法:
現地での研修を円滑に、かつ一層有意義なものとするよう、事前授業を実施する。事前授業は、ニュージーランドの文化・社会に関する調査・発表を中心に行う。
ワイカト大学パスウェイズカレッジでは“General English”と呼ばれる英語研修プログラムに参加し、Reading、Writing、Listening、Speakingの四つの技能をバランス良く学習する英語の授業を受講し、日常生活で使う英語の習得を目指す。また、フィールドトリップを通してニュージーランド文化・社会についても学習する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前授業　第1回（11月） オリエンテーション、諸手続の説明、発表グループ分け	
2.	事前授業　第2回（12月、同志社びわこリトリートセンターでの一泊研修） ニュージーランドの文化・社会などに関する研究発表	第2回事前授業でのニュージーランドの文化・社会などに関する研究発表のレジュメを作成する。
3.	事前授業　第3回（1月） 前年度参加者による研修報告および質疑応答	
4.	事前授業　第4回（1月） 危機管理対策	
5.	現地研修として、ワイカト大学パスウェイズカレッジにおいて約三週間英語の授業を受講するとともに、フィールドトリップを行う。なお、滞在期間中の宿泊は、ホームステイである。	各自の研究計画に基づき、現地での調査結果を踏まえて事後レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　第2回事前授業でのニュージーランドの文化・社会などに関する研究発表について授業内で講評を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前授業での評価	10%	
ワイカト大学パスウェイズカレッジによる評価	70%	
事後レポートの評価	20%	

事前授業での評価、ワイカト大学パスウェイズカレッジによる評価、および事後レポートの評価に基づき、出席状況等を勘案した上で総合的に評価する。
ただし、所定の期日までに事後レポート未提出の場合は、単位の取得を認めない。

教科書:　なし。

参考書:　随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　国際課に問い合わせる。

048660

Japan Studies A

G.Brooks

授業テーマ:

Cool Japan

授業の概要:

In 2013, the Japanese government budgeted hundreds of millions for a “Cool Japan” fund to promote contemporary Japanese pop culture abroad. In this class we will examine a variety of aspects of this new youth culture to try to get a better understanding of what it is and where it came from. The topics will include music, especially the “idol” phenomena, as well as fashion, film, manga, anime, games and technology. Our aim will be to reach some conclusions about the cultural, societal and political implications of this shift from traditional to popular. To add context, we will also consider some aspects of traditional culture, including traditional Japanese crafts and theatre, both of which have experienced “booms” in recent years.

到達目標:

This course is a content based course designed to teach the students about modern Japanese culture. Students will also recieve instruction on various academic skills such as internet research, giving academic presentations, participating in academic discussions, and media literacy. All of the course will be conducted in English. While the materials will be scaffolded for non-native speakers students are required to have a basic proficiency in English before enrolling in this class.

授業方法:

Class discussions, presentations, field trips, lectures, reading activities, guided research activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Reading activity 1: Gross National Cool
2.	The Roots of Japanese Cool	Reading activity 2: Modern Japan - The Old in the New
3.	Cool Japan: Culutre and Tradition - Guest Lecture: Japanese architecture - the traditional and the modern	Visit to the Manga Museum and self study
4.	Visit to the Manga Museum	Visit to the Manga Museum and self study
5.	Introduction to Manga	Reading Activity 3: Manga and Anime
6.	From Manga to Anime	Reading Activity 4: The History of Kawaii
7.	Kawaii and its connection to Cool Japan	Preparation for Midterm Presentations
8.	Midterm Presentations	Self Reflection
9.	The Japanese Film and TV Industry	Reading 5: Inside the Idol Factory
10.	J Pop and the Idol Phenomenon	Research for final presentations
11.	Preparation for final presentations / Introduction to Takarazuaka	Preparation for the final presentations
12.	Takarazuka Field Trip	Takarazuka Field Trip
13.	Takarazuka Field Trip	Takarazuka Field Trip
14.	Final Presentations	Self reflections
15.	Final Presentations	Self reflections

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students will have to turn in weekly reports that will be graded and returned. Students will also get feedback on their Presentations and Discussion performances.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	15	Students must attend at least 2/3 of the classes.
Participation	15	Evaluated all semester.
Homework	20	Weekly homework assignments.
Midterm Presentation	20	Individual presentation given at the middle of the semester.
Final Presentation	30	Pair presentation given at the end of the semester.

教科書:

No textbooks required - teacher will provide materials in class.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:

bgavin@mail.doshisha.ac.jp

048760

Japan Studies B

I.D.Sancho

授業テーマ:

From Fine Arts to Media Mix: adapting motifs, characters and stories

授業の概要:

In today's world, media technologies have permeated many categories of artistic activity: Japanese manga, anime, and video games have a significant global impact, and the dividing line between fine art and other cultural domains, especially the area conventionally referred to as popular culture, has become blurred. In this course, after clarifying concepts such as media, adaptation, transmedia and media mix, we will explore some of the historical processes that have shaped Japanese popular culture by focusing on how motifs, characters and stories have been adapted through different times and platforms. Together with the theory, the students will be able to experience the adaptation process by adapting a story of their choice to kamishibai, a post-war Japanese form of storytelling.

到達目標:

This course has 2 main aims:
1. to help students become critical readers of visual and other texts, able to interpret, and discuss them;
2. to develop students' understanding of, and ability to discuss, the social, cultural, and political contexts of visual and other forms of representations in Contemporary Japanese Culture.

授業方法:

Typically, each class will involve a lecture, group and class discussions, and in-class writing in response to that week's topic

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction. Guidance to Kamishibai Presentations.	Students are expected to complete homework reading thoroughly, coming to class prepared to take part in active discussion and analysis of the topic and texts.
2.	The influence of Japanese Ukiyoe in European painting. Japonism. Impressionism.	homework reading
3.	Painting and modern Japanese literature.	
4.	Adaptation Theory. Manga Theory.	homework reading
5.	Adapting modern literature to manga: Natsume Soseki, Akutagawa Ryunosuke and others (I)	
6.	Adapting modern literature to manga: Natsume Soseki, Akutagawa Ryunosuke and others (II)	
7.	Adapting literature to anime: Kafka and others. Animation Theory. Ghibli Animation.	homework reading
8.	Field trip: Studio Ghibli and Tokyo	Preparing the suitcase
9.	Field trip: Studio Ghibli and Tokyo	
10.	Field trip: Studio Ghibli and Tokyo	
11.	Guest speaker	Submitting field trip reports
12.	Media Theory and media mix.	Searching materials for discussion
13.	Monster adpatations: Godzilla and Pokemon (I).	
14.	Monster adpatations: Godzilla and Pokemon (II)	
15.	Students Presentations	Kamishibai presentation

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Email

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and active participation	30	Attendance and participation is mandatory
In-class written work	30	
Final presentations	40	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

ivandiazsancho@hotmail.com (write your name and "Contemporary culture" in the subject box)

048860

Japan Studies C

P.Carty

授業テーマ:

The culture and history of Kyoto

授業の概要:

In this class we will take a look at some of the important cultural moments in Kyoto's long history. We will discuss the religion, geography, art, literature and architecture of Kyoto. We will go and visit some of the places discussed in class. Students should understand the role of geography and the historical importance of location. Gaining an understanding of Kyoto's central position in the history and culture of Japan is the aim of this class.

到達目標:

Students should have a clear understanding of the main events that have shaped Kyoto's history. Students should be able to summarize those key events and important traditions.

授業方法:

Students will have an assigned reading each week. After reading the homework assignment, they will answer several questions. Those questions will form the core of the class's discussion. In class, there will be pair and whole class discussion. Each class the teacher will lecture on that week's topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Geography: Where is everything?	Assigned Reading
2.	Pre-Heian-Kyo	Assigned Reading
3.	Kammu Establishes Heian-Kyo	Assigned Reading
4.	Heian Culture, Genji	Assigned Reading
5.	Buddhism in Kyoto	Assigned Reading
6.	Heike Late Heian	Assigned Reading
7.	Zen, Zen, Zen	Assigned Reading
8.	Ashikaga Rulers	Prepare Museum Presentation
9.	Museums in Kyoto	Assigned Reading
10.	Edo Period - Art/ Design	Assigned Reading
11.	Nobunaga and Hideyoshi	Assigned Reading
12.	Meiji Renaissance	Assigned Reading
13.	Maiko and Geisha	Assigned Reading
14.	Movies in Kyoto	Prepare Final Presentation
15.	Student Presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students must read a chapter of the assigned book and answer several questions each week. They will have to devote at least an hour to homework. Students will also be required to visit a museum and write a paper on one of the topics discussed in class.

フィードバックの方法:

Students will hand in their homework each week and the teacher will give them feedback on their answers. They will also be graded on the two presentations and the final paper.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	25	Students will be graded on how actively they speak in pair work discussions.
Homework	25	Students will be graded on how well they answer the assigned questions for homework.
Presentation	25	Students will be graded on their research, power point slides, and clarity of speaking.
Final Paper	25	Students will be graded on the organization of the final paper.

教科書:

Kyoto / John Dougill/ Signal Books, Oxford 2006

参考書:

Tale of Genji, Murasaki Shikibu translation Royall Tyler, Penguin 2003
The Pillow Book, by Sei Shonagon translation Meredith McKinney, Penguin Classics 2007

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

paulcarty@gmail.com

048960

Japan Studies D

池田　　久代

授業テーマ:

Japanese Tea Culture Old and New

授業の概要:

This is a Japanese culture and art course in which we can enjoy reading Kakuzo Okakura's "The Book of Tea" (1906) and discuss the way in which his ideas on 'teaism' (tea philosophy) can be seen and practiced in the present Japan and also throughout the world. This course consists of discussion and presentation about various topics derived from the book, such as flower arrangement, Cha-do, Japanese architecture, Zen Buddhism, Taoism, and other matters. Students will be able to understand and evaluate Japanese aesthetics and the way of living in comparison with those in their own countries.

到達目標:

1. to understand Japanese tea culture and evaluate its aesthetics and the way of living in comparison with those in their own (students') countries.
2. to train thinking & analyzing power and writing English essays on specific topics.

授業方法:

This class consists of lecture, discussion, field tours, and presentation of the textbook.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction and the life of Okakura Kakuzo, the author of "The Book of Tea".	Skimming of the text
2.	Chapter 1 : 'The Cup of Humanity' and its discussion	Intensive reading of Chapter 1
3.	Chapter 2: 'The Schools of Tea' and its discussion	Intensive reading of Chapter 2
4.	Chapter 3 : 'Taoism and Zennism' and its discussion	Intensive reading of Chapter 3
5.	Chapter 4: 'The Tea-Room' and its discussion	Intensive reading of Chapter 4 Preparatory reading of the temple materials (given as handouts)
6.	Field tour to Jikoin-temple and Horyuji-temple in Nara	Short essay writing assignment about the tour
7.	Field tour to Jikoin-temple and Horyuji-temple in Nara	
8.	Chapter 5 : 'Art Appreciation' and its discussion	Intensive reading of Chapter 5
9.	Chapter 6 : 'Flowers' and its discussion	Intensive reading of Chapter 6
10.	Chapter 7 : 'Tea-Masters' and its discussion	Intensive reading of Chapter 7
11.	Review of the Chapters 1-7, Q & A of the text.	Preparatory reading of the temple materials (given as handouts)
12.	Filed tour to Daitokuji-temple in Kyoto	Short essay writing assignment about the tour
13.	Guest speaker: Talk and practice by a tea master (from Ura-Sen-ke School)	Short essay writing assignment about the guest speaker' talk.
14.	Wrap Up	Planning and organizing individual presentation
15.	Class presentation and Q & A	Finishing up presentation

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students should be interested not only in tea ceremony practices but also its history and aesthetics. They are requested to read this classic English book intensively.

フィードバックの方法:

Feedbacks to the students will be done by E-mail or comments in the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final presentation and Final essay	50	Evaluated by English level, textual understanding, and logical construction of the presentation and essay.
Short essays and mid-term essay	30	Evaluated by summary competence of the themes given.
Application and attitude	20	Preparations for the class and English speaking competence.

教科書:

Kakuzo Okakura, "The Book of Tea", Dover Publications, Inc., New York

参考書:

岡倉天心 『茶の本』(英文収録) 桶谷英明訳、講談社学術文庫
Daisetz Suzuki, "Zen and Japanese Culture", Kodansha International, Tokyo.
鈴木大拙、『禅と日本文化』、講談社インターナショナル (対訳版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, Creative ability, Presentation skill.

教員との連絡方法:

Contact by E-mail or making appointments during the class.

050401、02、61、62

マスコミュニケーション論A

担当者未定

授業テーマ: マスコミュニケーションについて知る

授業の概要: テレビ、ラジオ、新聞、インターネットに代表されるマスコミュニケーションは現在の社会生活において、日常的で不可欠なものである。しかし、それが日常的なものであるがゆえに、マスコミュニケーションが私たちの生活に対して、果たしている役割について考えてみる機会は多くない。本講義では、マスコミュニケーションの性質について検討し、それぞれのマスコミュニケーションの成立と社会との関係について考察する中で、社会におけるマスコミュニケーションの在り方について考察する力を養う。

到達目標: マスコミュニケーションの在り方について理解を深めること
マスコミュニケーションの特性と性質について理解すること
マスコミュニケーションと現代社会の関係について理解すること

授業方法: 講義を中心とする。ただし、コメントペーパーなどをもちいて適宜、受講生の参加できる機会を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	参考文献の該当箇所とシラバスを読んでおくこと
2.	メディアとマスコミュニケーション	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
3.	印刷革命と出版——活字文化の成立	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
4.	新聞と近代ジャーナリズム	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
5.	電話の誕生と声の文化	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
6.	放送の始まり—ラジオ	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
7.	映像の世紀へ—テレビ	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
8.	双方向発信のマスメディア—インターネット	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
9.	疑似同期コミュニケーション—Twitter, 動画共有サービス	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
10.	マスコミュニケーションとしての広告	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
11.	マスメディアの影響力1－マスコミュニーションはどれほど人に影響を与えるのか？	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
12.	マスメディアの影響力2－聴衆の能動性	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
13.	マーケティングの神話	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
14.	マスコミュニケーションと国民国家	参考文献の該当箇所を読んでおくこと
15.	マスコミュニケーションと社会	これまでの授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: コメントペーパーの内容を授業で取り上げ、解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	マスコミュニケーションに関係する小論述試験における論理性、発想の役説性を基準とする
小論述	20	授業後に提出を求めるコメントペーパーに含まれる小論述における論理性、発想の卓越性を基準とする。

教科書: なし

参考書:
吉見俊哉・水越伸、『メディア論』、放送大学出版、2004年
吉見俊哉、『メディア文化論—メディアを学ぶ人のための15話—』、有斐閣、2012年
石井淳蔵、『マーケティングの神話』、岩波書店、2004年
B. アンダーソン、『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』、書籍工房早山、2007年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法: 授業前後、教室で対応する(または授業内で指示する)

050461

マスコミュニケーション論A

大場　　吾郎

授業テーマ:　マスコミュニケーションの包括的理解

授業の概要:　高度情報化社会といわれる今日、マスメディアが送り出す情報は私たちの生活に不可欠なものとなっている。一方で、情報テクノロジー(IT)の進化と普及に伴い放送、映画、新聞、出版、音楽などのマスメディア産業は大きな変革の波にさらされ、マスコミュニケーションのあり方そのものが変わろうとしている。講義では、各メディアの機能と特性、社会における役割、受容ならびに利用状況、問題点、将来展望などを論じる。講義にはマスメディアに関わる実際の事例や時事問題を多く織り交ぜ、日常的な視点からマスメディアを考察する。最初の数回は、マスコミュニケーションを理論的な側面から考える。多数の人々に情報を伝えるコミュニケーションの一形態としてマスコミュニケーションをとらえ、これが社会的にどのような機能を果たしているのか議論する。3回目以降は、テレビ、新聞、出版、映画などの産業別に分け、各業界の概要について基礎データを提示し、それぞれが抱えている課題について考察を行う。

到達目標:　今日のマスメディア産業のメカニズムを把握し、実際にそこで起きていることを議論する中で、マスコミュニケーションの機能や特性、問題点を理解する。

授業方法:　講義では映像資料やデータ資料を多用することで、問題点の理解向上に役立てる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	マスコミって何だろう	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
3.	テレビ業界の構図1:民放	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
4.	テレビ業界の構図2:NHK	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
5.	視聴率がテレビをダメにする？	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
6.	テレビ離れの真相	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
7.	新聞の誕生とイエロージャーナリズム	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
8.	新聞は不要か	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
9.	本が売れない理由	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
10.	映画の誕生とハリウッド	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
11.	映画はどこへ行く	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
12.	変わり続ける音楽の聴き方	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
13.	広告が効かない時代	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
14.	マスメディアは崩壊するのか	教科書を読み、講義で扱うメディアに接してみる。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　急速に変化するメディア環境に日頃から注意を払うこと。

フィードバックの方法:　授業中または授業終了後、質問を随時受け付ける。
質問についてはまとめた上で、授業内で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	マスコミュニケーションに関する理解度によって評価する。

教科書:　『図説 日本のメディア』藤竹暁 (NHK出版)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力, 思考力, 創造力

教員との連絡方法:　Eメールにて行う。メールアドレスは授業内で指示する。

050501、02、61、62

マスコミュニケーション論B

吉村　　誠

授業テーマ:

情報化社会を楽しく賢く生きるには、情報の背後に存在している人間に目を向けることが大切である。新聞などの活字メディアやテレビなどの電波メディアやインターネットといった電子メディアを、それぞれの表現を解析することによって理解しよう。メディアを読み解く糸口はその言語文体にある。溢れる情報を上手に使いこなして豊かな人生を送ろう。

授業の概要:

テレビ番組や劇場用映画の演出プロデュースを長年にわたって本務としてきた立場から、実際の新聞記事やテレビニュースやテレビ番組や映画を題材にして授業を進める。これまで何気なく触れてきたマスメディアを「人間の行う表現行為」と捉えることから、その本質を見抜く力を養う。

到達目標:

マスメディアを批評創造的に捉えることができるようにする。それは同時にマスメディアが存在している現代日本の社会的構造と経済的構造を捉えることにつながる。情報化社会を生きるための人間力を高めることが目標である。

授業方法:

テキストを使用すると共に毎回レジュメを配布する。またビデオ・DVDなどを使って解説してゆく。時事問題等で教材として取り上げるに相応しい問題が生じた場合には予定を前後させることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	テーマとしての「マスメディアの言語論」—発想の基本は、私の日常会話「新婚さんいらっしゃい」「踊るさんま御殿」	家族や親しい友人とどのような「ことば」を使って話しているかを自覚しておく。
2.	表現の読み解き方の例—『魔女の宅急便』のキキはなぜ飛べなくなったのか、を考える。	アニメ映画『魔女の宅急便』を事前に視聴しておく。
3.	「美しいことば」とは何か—朝日新聞「天声人語」と「野口英世の母の手紙」の比較から考える。	朝日新聞「天声人語」や読売新聞「編集手帳」などのコラムを読んでくる。
4.	「標準語」と「活字」が大きなコミュニケーションを産み出した代わりに、失ったものを考える。—寺山修司『戦後詩』から	寺山修司『戦後詩』(ちくま文庫か講談社学術文庫)の第一章を読んでくる。
5.	マスメディアの基本としての新聞—ニュースとは「人間によって選択加工された事実」であることを分析する。	新聞の社会面の記事を読んでくる。
6.	テレビニュースがどのように加工されているか解析する。	テレビニュースを見てくる。
7.	マスコミュニケーションは大衆社会において成立している。大衆社会の特徴としての大量生産と大量消費、ブランドについて考える。	自分の身の廻りにある物で大量生産された物と、ブランド品を確認してくる。
8.	大衆社会では「情報」も「商品」として大量生産されている。産業としてのマスメディアの存在様式を認識する。	一つの新聞を表から裏まで全部に目を通してくる。
9.	情報を大量生産するための「ことば」ー近代ジャーナリズムの理念に基づいた「無署名性の言語」について考える。	新聞記事で「事件」について書いた記事と、テレビニュースで「事件」を伝える文章を注意して聴いてくる。
10.	叙述の一人称の不在—情報の発信と受信に見る日本社会の特色を知る。	新聞記事を語尾に気を付けて読んでくる。
11.	「対自性を持ったことば」の復権を目指したテレビの「ワイドショー」について考える。	テレビの「ワイドショー」を見て、ニュース番組とどう違うかを考えてくる。
12.	テレビの「情報番組」の比較考察をする。	テレビの「情報番組」を見てくる。
13.	新聞やテレビなどのマスコミによる情報とインターネットによる情報とを比較して、それぞれに情報の発信者が居ることを認識する。	自分がよく見るサイトの記事が誰によって書かれているか確認してくる。
14.	日本のマスコミと海外のマスコミとを比較する。「ことば」の原点、「表現」の原点からマスコミュニケーションを考える。	田中克彦『ことばと国家』(岩波新書)の第一、二章を読んでくる。
15.	まとめ	テキストを熟読してくることが望ましい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業を通して「あたりまえ」のことを疑う力を身に付けて欲しいと思います。疑問を感じて考えることが素晴らしい人生を営む原動力です。

フィードバックの方法:

出席票にコメントを書いて下さい。それに授業内で答えていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・態度	50%	出席回数・受講態度
期末試験	50%	設問に対する解答の妥当性

教科書:

吉村誠『お笑い芸人の言語学』ナカニシヤ出版

参考書:

田中克彦『ことばと国家』岩波書店
寺山修司『戦後詩』筑摩書房／講談社
正高信男『ヒトはいかにヒトになったか』岩波書店
他は適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応します。

051700

日本経済のしくみ

大倉　　真人

授業テーマ:

授業の概要:　日本経済のしくみを理解する上で必須となる経済学の基礎について論じる。

到達目標:　日本経済のしくみを理解する上で必須となる経済学の基礎知識の修得を目標に掲げる。具体的には、企業・個人および市場について学習する「ミクロ経済学」と、一国全体の経済について学習する「マクロ経済学」の2つについて理解することを目標に掲げる。

授業方法:　板書による講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	需要と供給（教科書第2章）	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	価格メカニズム（教科書第3章）	「需要と供給」に対する理解
4.	市場の効率性（教科書第4章）	「価格メカニズム」に対する理解
5.	市場の失敗（教科書第5章）	「市場の効率性」に対する理解
6.	市場の限界（教科書第6章）	「市場の失敗」に対する理解
7.	労働市場（教科書第7章）	「市場の限界」に対する理解
8.	中間試験	「中間試験」の準備
9.	GDPとは何か（教科書第8章）	「労働市場」に対する理解
10.	何がGDPを決めるのか（教科書第9章）	「GDPとは何か」に対する理解
11.	消費需要と投資需要（教科書第10章）	「何がGDPを決めるのか」に対する理解
12.	貨幣と金融（教科書第11章）	「消費需要と投資需要」に対する理解
13.	政府の役割（教科書第12章）	「貨幣と金融」に対する理解
14.	経済成長と国民生活（教科書第14章）	「政府の役割」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　第1回目の授業のガイダンスで配布する資料については、マナビーに提示するので、第1回目の授業に欠席した者は、各自マナビーを通じて目を通しておくこと。

フィードバックの方法:　毎回の授業において「フィードバック用紙」を配布する。なお「フィードバック用紙」に書かれた質問等については、原則として、次週の授業の冒頭で解説する。
中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	50	到達目標に掲げたミクロ経済学についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
期末試験	50	到達目標に掲げたマクロ経済学についての基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書:　中谷武・中村保（編著）『１からの経済学』碩学舎、2010年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

051760

日本経済のしくみ

畠山　　啓

授業テーマ:

授業の概要:　日本経済に大きく関係する様々な事柄を基礎から押さえ、新聞やニュースの内容を理解できることを目指します。

到達目標:　日本経済に大きく関係する様々な事柄を自らの言葉で説明できること。

授業方法:　講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	特になし
2.	戦後日本経済の概略・戦後の金利、為替、株価	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
3.	高度成長期・バブルの時代	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
4.	長期低迷の時代・リーマン・ショック	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
5.	アベノミクス	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
6.	GDP	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
7.	貿易構造の変化・日本の国際収支	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
8.	為替の変動	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
9.	日本の人口構造・少子高齢化問題	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
10.	財政・金融の役割	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
11.	社会保障の現状	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
12.	労働問題	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
13.	食料問題	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
14.	エネルギー・環境問題	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
15.	日本経済の実態	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	日本経済に関する様々な事柄を論理的に説明できるかを基準とする。
出席確認を兼ねた小テスト	30%	問いに対して論理的に解答できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

051801、02

教育の原理

佐藤　　光友

授業テーマ:　教育の意義・理念・思想・歴史・制度などについて学び、教師や学校に対する多角的な視点を持つために

授業の概要:　本科目においては、教育の意義や目的、教育の理念、教育の方法、基本的な制度について考察し、教育に関わることがらを西洋あるいは日本の歴史的・思想的な観点から理解を深め、教育についてのより根源的な考察をすすめていく。そのことによって、学校教育を含めた、学校と家庭とのかかわり、地域とのかかわりについてそれぞれ概観する。

到達目標:　教育の意義や目的、教育の理念、教育の方法、基本的な制度などについて西洋あるいは日本の歴史的・思想的な観点から理解することによって、学校教育を含めた、学校と家庭とのかかわり、地域とのかかわりについてそれぞれ考察を深めることで、現代の学校教育がかかえている課題への問題意識を高めることができる。

授業方法:　講義を中心とするが、適宜、グループ学習による討論なども行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	教育の意義・目的・理念	教育についての定義を自分なりに調べておくこと。
3.	教育の方法と内容	教育の方法について自分なりに調べておくこと。
4.	西洋における古代ギリシア(ポリス)の教育の歴史と思想	事前に与えた西洋おける古代ギリシア(ポリス)教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
5.	西洋における古代ギリシア(ソクラテス・プラトン)の教育の歴史と思想	事前に与えた西洋おける古代ギリシア(ソクラテス・プラトン)教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
6.	西洋における中世教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における中世教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
7.	西洋における近代前半の教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における近代前半の教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
8.	西洋における近代後半の教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における近代後半の教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
9.	西洋における現代教育の歴史と思想	事前に与えた西洋における現代教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
10.	日本における近世教育の歴史と思想	事前に与えた日本における近世教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
11.	日本における近代教育の歴史と思想	事前に与えた日本における近代教育の歴史と思想についての資料を熟読しておくこと。
12.	日本の教育制度	事前に与えた日本の教育制度についての資料を熟読しておくこと。
13.	諸外国の教育制度	事前に与えた諸外国の教育制度についての資料を熟読しておくこと。
14.	現代教育の諸問題	現代の教育問題について、自分が一番関心のある事柄について調べておくこと。
15.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	到達目標、教育の意義・目的や理念、教育方法や内容、基本的な制度に関する理解度により評価する。
授業への参加意欲	60%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出により評価する。

教科書:　授業時に資料等を配布する。

参考書:　授業中、適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

051901、02

発達と学習の心理学

塘　　利枝子

授業テーマ:　発達と学習の心理学

授業の概要:

子どもに対する教育や保育は、教師や保育者自身と子どもの「共育」にもつながっていきます。子どもの発達段階と個人差、そして教師・保育者と子どもとの相互作用を考慮に入れながら、保育所・幼稚園・認定こども園の保育や、小学校の教育について心理学的な観点から授業を進めます。
　1年次の「こどもの発達心理学」で学習した発達心理学の諸理論をふまえ、さらにそれらを応用しながら発達と学習について心理学的な側面から考えていきます。そして具体的に保育実践や授業実践の中で、どのように諸理論を展開するかについて考えると共に、子どもとの関わりを通した教師や保育者の成長についても考えていきます。

到達目標:

「知識・理解」
幼児、児童及び生徒の心身の発達の過程及び特徴、学習に関する基礎的知識を身に付け、発達を踏まえた学習を支える指導について基礎的な考え方を理解する。

「関心・意欲・態度」
子どもの発達や保育・教育について関心を持ち、授業内の活動にも積極的に参加する。

「表現・技能・能力」
毎回行われる知識定着をはかる小テストにおいて7割以上の正答が見られ、レポート課題でも要求された内容を表記できる。

授業方法:

講義を中心に行いますが、グループ活動や話し合い活動も行います。特に後半の「発達障害をもつ子どもの理解と支援」については、グループ毎に事前学習をした上で、ロールプレイを最後に行います。毎回授業の初めに知識定着のための小テストを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	発達段階と発達の諸理論（認知・運動・言語・社会性の発達）：発達と学習の心理学とは何か	１年次の発達心理学の諸理論の復習をしておくこと
2.	知能の発達と学習評価	教科書を事前に読んでおくこと
3.	動機づけと学習理論	教科書を事前に読んでおくこと
4.	授業・学習の方法１：わかりやすく教えるための工夫	教科書を事前に読んでおくこと
5.	授業・学習の方法２：発達段階にそった学びとは	教科書を事前に読んでおくこと
6.	人間形成の場の構成と集団づくりにおける社会性の発達	教科書を事前に読んでおくこと
7.	学習指導要領の変遷と主体的な学び	教科書を事前に読んでおくこと
8.	特別支援教育・保育	教科書を事前に読んでおくこと
9.	発達障害をもつ子どもの発達	配布されたプリントを事前に読んでおくこと
10.	発達障害をもつ子どもの学び	配布されたプリントを事前に読んでおくこと
11.	発達障害をもつ子どもへの支援	配布されたプリントを事前に読んでおくこと 発達障害に関する本を図書館等で読んだ上で、課題をグループで取り組む
12.	発達障害をもつ子どもとの学級内での交流活動	発達障害に関する本を図書館等で読んだ上で、課題をグループで取り組む
13.	多様な子どもを核とした保育・授業づくり（グループ別ロールプレイ）２：幼児期	グループで作成したプリント
14.	多様な子どもを核とした保育・授業づくり（グループ別ロールプレイ）２：児童期	グループで作成したプリント
15.	まとめと振り返り	学習した内容を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回授業の最初に行う小テストのための復習が、授業を受ける際の準備学習として不可欠です。発達障害をもつ子どもの事例に関する宿題が後半出ますので、各自文献を調べて提出してください。

フィードバックの方法:

授業後に数人から受けた質問に対しては、次回の授業で全体に対しても話します。
わからないところは積極的に質問に来て下さい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	回答正答数
試験（論述式）	50%	授業で学習した内容が的確に表現されている。 具体例が必要に応じて書かれている。 わかりやすい文章で書かれている。
レポート	10%	具体例が詳細に書かれている。 わかりやすい文章で書かれている。

教科書:

宮川充司・大野久・大野木裕明編著 『子どもの発達と学校』 ナカニシヤ出版　2010

参考書:

宮川充司他編著 『スクールカウンセリングと発達支援』 ナカニシヤ出版　2008
柏木惠子 『発達の心理学』 萌文書林　2012

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

コメントシートに質問を書いてもらったり、授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。

053000

海外事情（カナダ）

国際部長

授業テーマ:　語学・文化研修

授業の概要:　アルバータ大学（University of Alberta）での約三週間の英語授業を受講する。フィールドトリップやホームステイを行う。

到達目標:
・英語授業やフィールドトリップ、ホームステイを通じて、英語の運用能力を高めるとともに、カナダ文化・社会に対する理解を深める。
・引率教職員を伴わない研修を通じて、参加学生の自主・自立を促す。

授業方法:
現地での研修を円滑に、かつ一層有意義なものとするよう、事前授業を実施する。事前授業は、カナダの文化・社会に関する調査・発表を中心に行う。
アルバータ大学では、午前中はListening、Speaking、ReadingおよびWritingなど総合的な英語力強化を目指した授業（本学からの参加者のみのクラス）を受講する。午後はフィールドトリップやアクティビティに参加し、カナダ文化・社会についても学習する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前授業　第1回（5月） オリエンテーション、諸手続の説明、発表グループ分け	
2.	事前授業　第2回（6月、同志社びわこリトリートセンターでの一泊研修） カナダの文化・社会などに関する研究発表	第2回事前授業でのカナダの文化・社会などに関する研究発表のレジュメを作成する。
3.	事前授業　第3回（7月） 過年度参加者による研修報告および質疑応答	
4.	事前授業　第4回（8月） 危機管理対策	
5.	現地研修として、アルバータ大学において約三週間英語の授業を受講するとともに、フィールドトリップを行う。なお、滞在期間中の宿泊は、ホームステイである。	各自の研究計画に基づき、現地での調査結果を踏まえて事後レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　第2回事前授業でのカナダの文化・社会などに関する研究発表について授業内で講評を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前授業での評価	10%	
アルバータ大学による評価	70%	
事後レポートの評価	20%	
		事前授業での評価、アルバータ大学による評価、および事後レポートの評価に基づき、出席状況等を勘案した上で総合的に評価する。 ただし、所定の期日までに事後レポート未提出の場合は、単位の取得を認めない。

教科書:　なし。

参考書:　随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　国際課に問い合わせる。

053160

教育原理・学校教育論

大黒　　孝文

授業テーマ:　学校における教育とはなにか

授業の概要:　本講座では，まず，教育の理念並びに教育に関する歴史と思想を学ぶことで，教育理論や方法の基礎的知識を身に付ける。つづいて，教育に関する社会的，及び，制度的な位置づけを知り，学校経営と学級経営に関する理論と方法について学ぶ。最後に学校教育に関わる法律や今日的課題を知り，地域連携や学校安全等を含めた学校教育の総合的な理解をねらいとしている。

到達目標:
・教育の基本的概念や理論やその歴史的背景を知ることで，教育の本質にふれることができる。
・学校教育の社会的・制度的な役割を理解し，その教育的課題を明らかにすることができる。
・学校教育に関わる法律や課題を理解し，その解決のための教育実践から学ぶことができる。
・アクティブ・ラーニング型授業の中で合意された課題を選定し，課題解決の方法を対話的に求めることができる。

授業方法:　1:講義，2:演習，5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	教育に関わる疑問や質問等を準備する
2.	現代教育諸問題	いじめ，不登校の問題について関心を持ち，教育現場における対策をまとめる
3.	教育を構成する基本的概念	
4.	近代公教育の歴史	前時に配布する教育史と年表を用いて，事前学習を行う
5.	近代公教育思想と制度	前時に配布する教育思想の相関図を用いて，事前に学習を行う
6.	教育の理念と思想	前時に提示する参考文献や配布資料を読んでおく
7.	学校教育制度	前時に配布する資料を読んでおく
8.	学校経営	教職アプローチの指定部分を読んでおく
9.	学級経営	教職アプローチの指定部分を読んでおく
10.	教育の役割と社会との連携	栄養教諭独自の学習課題に対して関心を持ち，質問内容を考えておく
11.	学校の教育活動と地域連携	教職アプローチの指定部分を読んでおく
12.	学校の地域連携と学校評価	教職アプローチの指定部分を読んでおく
13.	教育と新たな社会問題	今日的な教育課題を収集選択し，発表できるようにする
14.	教育の今日的課題と教育政策の動向	新たな法律や今日的課題の情報を収集する
15.	まとめ	全体のまとめとしてふり返る

受講者へのメッセージやアドバイス:　将来，栄養教諭として教育現場における食育の中心的存在となり，活躍するために，学校全体の仕組みや経営の方法を学びます。学習内容が非常に広く，直接栄養教諭の仕事に関わりのないものもありますが，学校教育に携わる教員として基礎基本の知識を学習します。

フィードバックの方法:　提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標の学習内容の理解度を客観的に評価する。
レポート	40	レポート課題の完成度を思考判断と表現，及び指定したフォーマットの規準に沿って評価する。
授業への参加度	10	到達目標の学習内容に対する関心や事前の予習の状況を自己評価と他者評価を参考に評価する。

教科書:　プリント配布
教職アプローチ（第6版：同志社女子大学教職課程センター発行）

参考書:　小学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
他，適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応，オフィスアワー，Eメール等

053200

薬の発明・発見史Ⅰ

松野　　浩之

授業テーマ:　医学・薬学・生命科学の発展の歴史から現代に重要な知識や経験則を学習する。
特に、女性が社会において活躍する上で重要な、特異的疾患について解説する。

授業の概要:　少人数のグループを構成することで、毎時間グループ内のdiscussionを行います。その後、全体discussionの場でグループ代表者に発表をしてもらい、さらにdiscussionを発展させていきます。題材は、シラバスに示した通りで、具体的な要素は時間毎に提示します。発表者は、レポート提出の権利をえます。学内のレポート提出システム、マナビーを利用して提出してもらいます。

到達目標:　キリスト教主義・国際主義教育・リベラルアーツ教育の教育理念により良心を持って知識、能力を運用し社会の礎となって活躍する自立した女性の育成を目標とする。講義において学習する知識だけでなく、DWCLA10に掲げられる、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップを主に向上させていくことを目標とする。(薬学準備教育

授業方法:　チュトリーアル方式、対話方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	プロローグ 講義全体の流れと、進め方を紹介します。 Discussionのやり方、レポートの作成方法など具体的な例を提示して、試します。	今までにどのような薬を使ったことがありますか？考えてみましょう。
2.	消毒(1)清潔の概念 19世紀、外傷後の死亡率の高さが大きな問題とされていました。負傷者に対する献身的な介護が、清潔・消毒という概念に発展していきます。	現代の消毒についてあなたはどのような意識を持っていますか？ナイチンゲールの誓い、知ってますか？
3.	消毒(2)無菌手術 産業革命は、様々な方面に恩恵をもたらし、文明が発展しました。無菌手術を可能にしたこの有機化合物は、後の化学合成医薬品にもつながっていきます。	病院臭ってわかりますか？病院は独特な匂いを持っています。生活の中で、どのような消毒剤があるのか調べてみましょう。
4.	病原性微生物(1)ワクチンとヴァイルス 消毒の必要性・重要性が認識され始めた頃、病原性微生物の発見がこれらを理論的に裏付けました。 次々に発見されるヴァイルスとワクチンの作成はどのように開始されたのでしょうか？また、最近パンデミックが懸念されるインフレンザヴァイルスは、どのようにしてヒトに感染するようになったのでしょうか？ 鳥に常在するヴァイルスがなぜヒトに？20世紀にパンデミックを起こしたこのヴァイルスは、21世紀に何を起こすのでしょうか？	ワクチンのイメージは？どのようなワクチンがあることを知っていますか？考えてみましょう。インフルエンザワクチンを毎年接種していますか？なぜ、毎年なのでしょうか？ワクチン接種していれば感染しないのでしょうか？考えてみましょう。免疫について調べてみましょう。
5.	病原性微生物(2)抗生物質 人類初の抗生物質、ペニシンの誕生は劇的なストリーです。今では、このような展開はありえないのですが、20世紀の歴史に大きな軌跡を残しました。抗生物質の発見はその後の医薬品の開発に拍車をかけ、医療は多大な進歩を遂げました。	あなたは、今までに抗生物質を服用したことがありますか？それは、どのような時でしたか？考えてみましょう。 プライベートライアン(スピルバーグ監督)という映画見たことありますか？ペニシリンが登場します。
6.	痛み　アスピリンと麻薬 人類初の化学合成医薬品、アスピリン、痛みを抑える医薬品です。20世紀の幕開けに登場したこの薬は21世紀に新たな作用を認められ、別の疾患に用いられるようになりました。この多彩な薬を紹介します。 ヒトの生活の中であらゆる痛みを軽減し、取り去ることができたなら？薬として使われる麻薬、一方、ヒトの生活を破壊する危険薬物として認識されています。その、歴史と現状を解説します。今、氾濫する危険ドラック、その実情を認識しましょう。	あなたは、痛み止めを服用したことがありますか？どのくらいの期間でしたか？痛みの他に何か問題は起きませんでしたか？麻薬に関するイメージを自分で確かめてみましょう。 あなたは、どのくらい麻薬について知っていますか？
7.	胃潰瘍 驚くべき大発見、ノーベル賞はその際たるものを賞賛し表彰します。ピロリ菌の発見、胃潰瘍の治療薬はまさにその代表で、日々の観察から始まる研究成果がもたらした結果です。潰瘍治療の歴史とともに解説します。この薬がもう少し早くできていれば、夏目漱石もノーベル賞を取れたかも？	胃が痛い、そんな経験はありませんか？ そんな時、どんな薬を飲んでいますか？ ちょっと成分を見て調べてみましょう。ノーベル文学賞にも関係した大発見が？
8.	脳科学　睡眠 ちょっと休憩、睡眠は、ヒトの精神行動を正常に保つ上で、極めて重要な要素です。脳内を活動する様々な物質とともにヒトの睡眠を考えてみます。	あなたの睡眠時間はどのくらいですか？1日あたり、一週間あたり、ちょっと考えてみましょう。夢はみますか？記憶に残りますか？ ”君の名は”もう一つの世界が本当にあるかも？
9.	月経と避妊・不妊症 月経に関与する、様々な生理的変化は時に疾患として治療を必要とします。また、近年、出産時期の後退や不妊症と行った問題もあります。基礎的な知識をしっかり理解しておきましょう。	月経に伴う体の変化を正しく理解していますか？避妊や妊娠に関する知識は十分にありますか？ライフスタイルの設計は、女性にとって社会活動を継続する上でも重要な要素です。
10.	性器の炎症と性感染症 近年、感染者の増加と増悪化が報告されています。男性では不顕性感染で推移した後、女性において問題を生じる場合もあります。また、不妊症の原因となる場合、HIVのように致死的なものもあります。感染予防と対処について理解しましょう。	性感染症についてどの程度、知っていますか？それに伴う炎症性変化を知っていますか？どこか、他人事おように考えていませんか？生活環境の中ら知らずに感染する場合もあるのです。
11.	子宮内膜症と子宮筋腫 婦人科腫瘍の中で代表的な疾患です。そのメカニズムと対応を正しく理解しておきましょう。	子宮内膜症のイメージって、どのように描けますか？子宮の病気？そうでもないんですよ。
12.	婦人科領域の癌(子宮癌と乳癌) 女性の癌での死亡原因の上位を占めるこれらの疾患ですが、予防法が確立され、早期発見と治療のレベルがここ10年で飛躍的に進歩しました。遺伝子も含めて、最新医療を解説します。	癌は不治の病い？細胞の変異って何でしょう？癌遺伝子、知ってますか？iPS細胞にも関与しているのです。

13.	産褥熱 出産後の母体の安全性は、19世紀では現在ほど安定したものではありませんでした。それは、皮肉にも当時の医学の発展がその危険性を増していたのです。患者でけでなく医療従事者に清潔という概念の需要性が認識されます。	産褥熱、聞いたことありますか？現代でも決して皆無ではありません。出産時の危険性を調べてみましょう。
14.	合併妊娠症 疾患が妊娠や分娩に与える影響を理解する。また、妊娠中の投薬について、一般に言われる問題点と臨床現場でのdiscrepancyについて解説する。	妊娠時に注意する点は、どのようなものがあるのでしょうか？様々な疾患にかかる可能性、また慢性疾患がある場合は？どのように考えますか？
15.	まとめの講義	14回を通してまとめのDiscussionとレポートの提出を行います。

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義を楽しんで、積極的に参加してください。

フィードバックの方法:

講義時間内に問題点を解説して、discussionの回答を導く。発表者の提出されたレポートは、マナビーを使用して随時採点して個別に返却する。講義15回目に、それまでの学習成果をまとめるレポート作成を行う。これに関しては、学生の求めに応じてオフィスアワー内の時間で個別に開示し、指導を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・レポート	100	13回の講義内の発表について、レポートを提出。1回10点満点で採点する。最終講義では、講義中に示された課題に対してレポートを提出する（30点満点）。

教科書:

指定しない

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、

教員との連絡方法:

hmatsuno@dwc.doshisha.ac.jp
内線8620（木曜日）

053300

薬の発明・発見史Ⅱ

山内　　雄二、根木　　滋

授業テーマ:　薬の発明・発見と開発の歴史を学ぶことで現代医薬品の構造や作用についての基礎的知識を身に付ける

授業の概要:　医薬品の発明・発見と開発の歴史を学び、現代医薬品の分類や系列、化学構造と作用機序の関連等の基礎的知識を身に付ける。

到達目標:　身近な医薬品の名前や化学構造、作用機序などを学ぶことで医薬品を身近な化学物質として感じるようになる。

授業方法:　講義形式で、時に演習形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	金属と医薬品1:白金が薬に	身近な医薬品のことを調べておく
2.	金属と医薬品2:鉄と活性酸素	身近な医薬品のことを調べておく
3.	毒と薬:2つは紙一重	身近な医薬品のことを調べておく
4.	抗C型肝炎ウイルス薬:ウイルスを撃退する	身近な医薬品のことを調べておく
5.	抗HIV,インフルエンザ薬:弱点を見つけて攻めていく	身近な医薬品のことを調べておく
6.	分子標的薬とは:癌を狙い打て	身近な医薬品のことを調べておく
7.	抗体医療の最前線:日本発の新薬	身近な医薬品のことを調べておく
8.	薬の基本骨格となる有機化合物の基本構造と命名法	身近な医薬品のことを調べておく
9.	抗生物質の基本(1):β－ラクタム	身近な医薬品のことを調べておく
10.	抗生物質の基本(2):マクロライド、アミノグリコシド等	身近な医薬品のことを調べておく
11.	ステロイドホルモンの基本(1):女性ホルモン、男性ホルモン	身近な医薬品のことを調べておく
12.	ステロイドホルモンの基本(2):副腎皮質ホルモン、ステロイド配糖体	身近な医薬品のことを調べておく
13.	中枢神経作用薬の基本(1):オピオイド等	身近な医薬品のことを調べておく
14.	中枢神経作用薬の基本(2):バルビツレート、ベンゾジアゼピン等	身近な医薬品のことを調べておく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　身近な医薬品の名前や化学構造、作用機序などを学ぶことで医薬品を身近な化学物質として感じるようになってほしい。

フィードバックの方法:　平常時試験の結果や解説を講義中に実施する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時試験	20%	医薬品の名前や化学構造、作用機序などの基本的知識の修得度及び理解度により評価する。
定期試験	20%	医薬品の名前や化学構造、作用機序などの基本的知識の修得度及び理解度により評価する。
授業への参加度	60%	出席度を評価の基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　オフィスアワーおよび講義の前後に対応する。

053600、60

心理学A

及川　　昌典

授業テーマ:　心の仕組みについて理解する

授業の概要:　人は誰しも心の問題に対して独自の考えを持っているものですが，それはどれくらい正しいのでしょうか。心理学は，日常の様々な問題や（自分にとっての）常識に，新たな視点を提供するものです。本講義では，心理学の主要な理論や研究を通じて，人々の思考，感情，行動の仕組みについて理解を深めることを目的とします。講義を通じて，日常生活を見つめ直す機会としていただきたいと思います。

到達目標:
・心理学における主要分野を概観し，心理学の根本的な考え方と理論を身につける
・心理学の知見に基づいて，社会や日常の問題を再考する
・客観的に自分を捉えることで，自分の考え方や感情の仕組みについて理解する

授業方法:　本講義は心理学の知識がない者を想定して行われますが，心理学の主要分野をほぼ全てカバーしますので，心理学やその関連領域を専門とする方にも適した内容です。必要に応じて心理学実験や調査の体験，ビデオ教材なども取り入れます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業内容の復習
2.	心理学とは何か？	授業内容の復習
3.	私たちは，どのように世界を見ているか？（知覚心理学）	授業内容の復習
4.	私たちは，どのように記憶するのか？（認知／生理心理学）	授業内容の復習
5.	私たちは，どのように判断するのか？（認知心理学）	授業内容の復習
6.	私たちは，どのように学び成長するのか？（学習心理学）	授業内容の復習
7.	私たちは，どうすればやる気になるのか？（教育心理学）	授業内容の復習
8.	私たちを突き動かす動機とは何か？（動機づけ）１	授業内容の復習
9.	私たちを突き動かす動機とは何か？（動機づけ）２	授業内容の復習
10.	私たちは，いつ，何を感じるのか？（感情）１	授業内容の復習
11.	私たちは，いつ，何を感じるのか？（感情）２	授業内容の復習
12.	私たちは，どのように他者を理解するのか？（コミュニケーション）１	授業内容の復習
13.	私たちは，どのように他者を理解するのか？（コミュニケーション）２	授業内容の復習
14.	私たちは，どのように他者を理解するのか？（コミュニケーション）２	授業内容の復習
15.	総括	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業は段階的に進行しますので、毎回の講義の内容をきちんと復習しておいてください。また，授業で募集する実験・調査などへの参加による学習もしくは，それに替わる課題により総合的に判断し，評価に加味する場合があります。

フィードバックの方法:　レポート課題や調査の結果などについては、教室でまとめて解説します。
心理学の研究法やデータ解析などについての質問にも対応しますので、個別に相談してください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	心理学の知識や考え方についての理解度を確認する。
授業への積極的参加度	20	積極的に授業に参加し、心理学の知識や考え方が活用できるようになったかを評価する。

教科書:　適宜プリントを配布します。

参考書:　適宜授業内で提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（moikawa@mail.doshisha.ac.jp）

053700、60

心理学B

及川　　昌典

授業テーマ:　心の仕組みについて理解する

授業の概要:　本講義では，人格，社会，健康，臨床，発達の各分野に関する，心理学の主要な理論や研究を通じて，人々の思考，感情，行動の仕組みについて理解を深めることを目的とします。講義を通じて，日常生活を見つめ直す機会としていただきたいと思います。

到達目標:
・心理学における主要分野を概観し，心理学の根本的な考え方と理論を身につける
・心理学の知見に基づいて，社会や日常の問題を再考する
・客観的に自分を捉えることで，自分の考え方や感情の仕組みについて理解する

授業方法:　本講義は心理学の知識がない者を想定して行われますが，心理学の主要分野をカバーしますので，心理学やその関連領域を専門とする方にも適した内容です。必要に応じて心理学実験や調査の体験，ビデオ教材なども取り入れます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業内容の復習
2.	私たちは，他者とどう異なるのか？（人格心理学）１	授業内容の復習
3.	私たちは，他者とどう異なるのか？（人格心理学）２	授業内容の復習
4.	私たちは，どのように他者との関係を築くのか？（社会心理学）１	授業内容の復習
5.	私たちは，どのように他者との関係を築くのか？（社会心理学）２	授業内容の復習
6.	私たちは，どのように心身の健康を保つのか？（健康心理学）１	授業内容の復習
7.	私たちは，どのように心身の健康を保つのか？（健康心理学）２	授業内容の復習
8.	私たちは，どうすれば回復するのか？（臨床心理学）１	授業内容の復習
9.	私たちは，どうすれば回復するのか？（臨床心理学）２	授業内容の復習
10.	私たちは，どのように成長するのか？（発達心理学）１	授業内容の復習
11.	私たちは，どのように成長するのか？（発達心理学）２	授業内容の復習
12.	私たちは，どのように愛するのか（親密な他者関係）１	授業内容の復習
13.	私たちは，どのように愛するのか（親密な他者関係）２	授業内容の復習
14.	これからの心理学	授業内容の復習
15.	総括	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業は段階的に進行しますので、毎回の講義の内容をきちんと復習しておいてください。また，授業で募集する実験・調査などへの参加による学習もしくは，それに替わる課題により総合的に判断し，評価に加味する場合があります。

フィードバックの方法:　レポート課題や調査の結果などについては、教室でまとめて解説します。
心理学の研究法やデータ解析などについての質問にも対応しますので、個別に相談してください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	心理学の知識や考え方についての理解度を確認する。
授業への積極的参加度	20	積極的に授業に参加し、心理学の知識や考え方が活用できるようになったかを評価する。

教科書:　適宜プリントを配布します。

参考書:　適宜授業内で提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（moikawa@mail.doshisha.ac.jp）

053800、60

女性のための医学

阿南　　節子、池田　　裕美枝

授業テーマ:　女性のWell-being（こころ・体・暮らしの健康）に必要な基礎知識を理解する。

授業の概要:　女性の健康について、様々な面から学ぶ。まず、社会的性のジェンダーについて理解を深める。さらに、女性の健康に大きく影響する女性ホルモンであるエストロゲンの働きについて学び、エストロゲンとどのようにうまくつきあうかを考える。また、妊娠・出産に関すること、女性に多く起こる疾患や、それに対処することも学ぶ。授業全体通じて、女性のWell-beingについての理解を深める。

到達目標:　女性特有の健康課題について理解する。女性を取り巻く医療環境、ジェンダー、女性の身体的特徴・性ホルモンを学び、女性を取り巻く疾患について理解する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
2.	ジェンダーと女性の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
3.	女性の健康支援に関する社会システム・制度・法律	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
4.	女性の健康支援に関する国内外の比較	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
5.	月経にまつわる障害とその対処	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
6.	女性とセクシャルヘルス（避妊法を含む）	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
7.	女性の健康と患者学　―産婦人科のかかり方	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
8.	お産事情（安全性と快適性）	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
9.	更年期女性の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
10.	女性の病気；乳がん	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
11.	女性の健康；セルフィメディケーション	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
12.	女性の健康；腸の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
13.	女性の健康；目の健康	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
14.	女性の健康；睡眠	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照
15.	総括	厚生労働省「女性の健康づくりについて」参照

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40%	
レポートと小テスト	60%	到達目標に対する理解度で評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　厚生労働省HP

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

053901、02、61、62

大学生活とキャリアデザインⅠ

甲田　　恭子

授業テーマ:　キャリアプランニングのための基礎的自己理解（1年生次対象）

授業の概要:
自分自身を見つめ、自己理解を深める。
自分の興味関心、能力を認識し、さらに自分の置かれた環境を分析し、職業選択を含めた自分の生き方を考える。

到達目標:
大学で学ぶことの意味・目標を明確にする。
自己理解を深め「働く」ということの本質について認識し、就業への関心を高める。
他者との関わりのなかから、自分の存在意義を再認識する。

授業方法:
講義と演習
毎回、ワークシート記入を行う。
必要に応じてDVD・スライド学習を取り入れる。
毎回、講義の感想や自分の考えをミニレポートにまとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「大学で学ぶことの意味と目標を明確に」 大学生活を過ごす時に意識しておきたいことを探る。	今までの大学生活を振り返り、大学生活における自分の目標を再認識しておく。
2.	「自己認識」 ライフサイクルをイメージすることによって、自身の存在、位置を認識する。「働いて生きる」ことの意義を考える。	生きていくうえで大切にしたいと思っていることを再確認しておく。
3.	「キャリアとは」 「キャリア」の意義、概念を確認する。 「働く」ということの歴史的背景、意義を考え、自身のキャリア形成につなげる。	何のために働くのかを考えておく。
4.	「人生の計画書」 キャリアデザインを描くために、「生きる」うえで必要なこと、重要なことを認識する。	日常的に関わりのある他者を再認識しておく。
5.	「さまざまな働き方」 多様な働き方を知り、それぞれの働き方の特徴、リスクを認識し、自身の働き方を考える。DVDで、様々な分野で活躍する女性の様子を知る。	日常生活の中で重要と考えていること、満足度の高いことを整理しておく。
6.	「若年労働者問題」 働く若い世代の問題を認識し、その原因、解決方法を探る。働き続けることの意義を考える。	女性が働き続けるために意識しておきたいことについて考えておく。
7.	「女性を取り巻く環境の変化」 女性の生き方の変化を分析し、自身のライフスタイルを考える。 「起業」という働き方について考える。	起業のため企画書作成を体験するので、「もし、起業するならどんなことをしたいのか」を考えておく。
8.	「性別役割分担」 物語におけるジェンダーに関するDVDを通して、自分自身はどう生きていきたいかを考える	子ども向けの物語、童話、絵本等に触れておくこと。
9.	「仕事と家庭・家族」 家族の役割を再認識し、仕事と家庭（プライベート）の両立について考える。家庭内における性別役割分担について検証する。	自身の家族の役割を再確認しておく。
10.	「自己を知ること」 自己分析の目的、意義、方法を知る。自己分析によって自身の能力を再発見する。	自分の強み、アピールポイントを見つけておく。
11.	「能力発揮」 自身の能力を発揮するために必要なコミュニケーションスキルとリーダーシップ能力の向上をはかる。	自身のコミュニケーションスキルについて、分析しておく。
12.	「聴く力」 キャリア形成に有効なキャリアカウンセリング、メンタリングの手法を学び、他者との関わりの重要性を認識する。	自身の成長の過程で影響を受けた他者との関わりを整理し、認識しておくこと。
13.	「世界の女性」 外国の働く女性の姿から学ぶ。（スライド学習）	自分の能力を発揮するために、日常的に意識していることをまとめておく。
14.	「キャリアデザインに向けて」 授業を振り返り、キャリアデザイン、キャリアプランを描くことの必要性を認識し、その方法を学ぶ。 キャリアプラン作成の準備を実施。	過去の生活を振り返り、印象に残った出来事をまとめておく。 13回の授業の内容、毎回実施したワークシートを再確認しておくこと。
15.	「キャリアプラン」 大学生活に焦点を当てたキャリアプランを作成、提出。	14回目の授業で、キャリアプラン作成用紙（下書き用）を配布するので、完成しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
自分自身を見つめ、自己理解を深めることを目的とする。自分の能力を知り、発揮すること、また、自分で考え、行動できるようになることが重要。自分で考えて得た答えが、自身にとっての正解となる。
毎回配布するワークシートに取り組むことによって、様々な観点からの自己分析ができる。「準備学習等の内容」は、ワークシート記入の参考となる。

フィードバックの方法:
毎回、授業の内容に沿ったテーマでミニレポートを作成、提出。指定のテーマに関わらず、独自の意見や考え、質問等の記入も可。次回の授業で、解説、回答を行い、全員で問題提起や疑問を共有する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席およびワークシートへの取り組み状況	35	毎回配布するワークシートに取り組み、自己分析へとつなげる努力をしているかを評価する。
毎回提出するミニレポート	35	自身の考えを、相手に伝えられるように表現できているかを基準とする。
キャリアプラン作成	30	最終回で作成。自身のキャリア形成について真剣に考えているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応

054001、02、61、62

大学生活とキャリアデザインⅡ

甲田　　恭子

授業テーマ:　キャリアプランニング(2年生次以上対象)

授業の概要:
自分自身を見つめ、自己理解を深める。
就業に関する様々な問題について、その原因、および対応の仕方を考える。
職業に焦点をおいてキャリアプランを描く。

到達目標:
現在の就業環境や雇用システムを知る。
働くときに直面する問題を認識し、適切な対処法を考えることにより、就業をより的確にとらえる。
内部環境、外部環境を分析し、自己のキャリア形成につながる、キャリアデザイン、キャリアプランを描く方法を学ぶ。

授業方法:
講義と演習
毎回、ワークシート記入を行う。
必要に応じてDVD・スライド学習を取り入れる。
毎回、講義の感想や自分の考えをミニレポートにまとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「キャリアとは」 「キャリア」の意義・概念の確認。 キャリア形成の意義について確認する。	今までの大学生活を振り返り、今後の課題、目標を設定する。
2.	「女性の就業環境」 女性を取り巻く就業環境を、各種データを用いて検証する。 就業環境の変化と、現在の雇用システムを確認する。	「人間的魅力」とは何かを考える。
3.	「職業選択に向けて」 職業選択に向けて、様々な働き方や業種と職種の違い等を認識し、自己の能力や興味とを照合する。	職業選択する際に何を重視するのかを考える。
4.	「女性の就業問題」 シングルマザーの就業環境を通じて、女性の就業における問題点を探り、その解決方法を考える。	自分にとって、なぜ働くことが重要なのかを考える。
5.	「社会における女性」 税金、社会保険等、働く際に関わる制度について知る。	自分の強みを考える。
6.	「女性の雇用に関する法律」 女子差別撤廃条約、雇用機会均等法、育児介護休業法、労働基準法等、女性の雇用に関する法律の概要を学び、制度を知る。	過去を振り返り、印象に残ったエピソードを確認する。
7.	「働きやすい職場(1)」 働きやすい就業環境を作るために、DVDでセクシュアルハラスメントの定義を確認し、原因を分析し、防止対策を考える。	セクシュアルハラスメントについての認識を高める。
8.	「働きやすい職場(2)」 パワーハラスメント、モラルハラスメント等、様々なハラスメントが存在することを認識し、問題の本質を考え、解決の方法を探る。	(事例研究を通して、ハラスメントを考える。)
9.	「世界の働く女性」 アメリカの、コミュニティビジネスの分野で働く女性から学ぶ。(スライド学習) コミュニティビジネスの仕組と特徴を知る。	自分の持つ様々なスキルを確認しておく。
10.	自己分析(1) 自己分析の重要性を確認する。自己分析と就職活動との関連を確認。	未来の自分の姿を思い浮かべる。
11.	自己分析(2) 自己分析の進め方を学ぶ。	現在の自分に関する情報をまとめる。
12.	自己分析(3) 自己分析を自己PRにつなげる。	過去を振り返り、印象に残る出来事をピックアップし、その時の状況を分析する。
13.	「能力発揮」 自己分析をすることによって確認した自分の能力を発揮するためのスキルを身につける。プレゼンテーションスキルを用いて、能力を発揮する方法を学ぶ。	将来、必ず経験してみたいこと、職業を含む理想とする生活環境等をまとめる。
14.	「キャリアプラン作成に向けて」 13回の授業を振り返り、キャリアデザインを描き、キャリアプラン作成につなげる。 キャリアプラン作成の準備。	人生の目標、職業上の目標、また、目標に向かうために必要なことは何かを考えておくこと。
15.	「キャリアプラン作成」 職業に焦点を当てたキャリアプラン(おおむね大学卒業後10年くらいまで)を作成、提出。	14回目の授業で、キャリアプラン作成用紙(下書き用)を配布するので、完成しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
自分自身を見つめ、自己理解を深めることを目的とする。自身の能力を理解し、職業選択への道筋を描く。「働く」ことについての意識を高める。
毎回配布するワークシートに取り組むことが自己分析につながり、職業選択、将来の生活設計へ展開することができる。「準備学習の内容」はワークシート記入の参考となる。

フィードバックの方法:
毎回、授業の内容に沿ったテーマでミニレポートを作成、提出。指定のテーマに関わらず、独自の意見や考え、質問等の記入も可。次回の授業で、解説、回答を行い、全員で問題提起や疑問を共有する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席およびワークシートへの取り組み状況	35	毎回配布するワークシートに取り組み、自己分析へとつなげる努力をしているかを評価する。
毎回提出するミニレポート	35	自身の考えを、相手に伝えられるように表現できているかを基準とする。
キャリアプラン作成	30	最終回で作成。自身のキャリア形成について真剣に考えているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応

054300、60

京都の歴史A

五島　　邦治

授業テーマ:　平安貴族と都市の人々

授業の概要:　平安京は、日本で最初の本格的な都市であった。そこで人々は農村から離れてはじめての都市生活を経験する。伝統的な王朝文化の基礎をつくった貴族たちはもちろん、そのすそ野には、それを支えた商工業に従事する多くの庶民もまた独自の生活習慣と文化をつくろうとしていた。室町時代に、京都の都市民いわゆる「町衆」たちを中心に、能や茶などの伝統的な文化を花開かせた背景もそこにある。この講座では、現代の京都文化の基礎をつくった平安時代貴族と庶民の歴史をお話しする。

到達目標:　貴族の歴史ではない京都の歴史を理解し、現代の京都にどのようにつながっているかを理解する。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	京都と平安京の違い	バスの路線図を取得し、京都の地形としての概略を見ておく。
2.	平安京の成立	平安京の地図を準備して、京都地図と見比べる。
3.	平安京の住民	平安京の地図を見て、重要な施設と位置を確認しておく。
4.	王朝文化とは－梅の花から桜の花へ	雛人形の段飾りには飾られているものを見てみる。
5.	年中行事と王朝文化	日本の年中行事にどんなものがあるかを挙げてみる。
6.	貴族の邸宅と庶民の住まい	寝殿造の復元図があればみてほしい。
7.	平安時代の庭園と郊外	京都に残された有名な庭園を確認する。それを時代順に並べてみて、平安時代の庭園を考えてみる。
8.	歌枕と地方	歌枕とは和歌の名所である。どんな地名があるだろうか。
9.	御霊会の成立	京都の地図から「神泉苑」の場所を確認し、どんな場所だったのかを調べておく。
10.	市中の堂－霊験の仏	観音・薬師と、釈迦や阿弥陀とはどう違う仏なのか、考えておく。
11.	極楽浄土への信仰	阿弥陀如来像のある寺院を探す。たとえば平等院へ行ってみよう。
12.	都市の祭礼の成立	祇園祭はどこの神社の祭りで、どんな祭だったのかを調べておく。
13.	都市民の生業と組織	平安時代の都市に住む人々の仕事は何か考えておく。勤め人？それとも商売人？または職人？農民はいないのか？
14.	貴族の食事	平安時代の貴族は何を食べていたのかを考える。たとえば肉はどんな肉を食べたのか。
15.	まとめ	平安京の一般人のありかたをまとめておく（定期試験の課題に使われる）。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	
定期試験	70	客観的な知識の確認と独創性

教科書:

参考書:　五島邦治『京都の歴史がわかる事典』（日本実業出版社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　e-mail goshima@sky.plala.or.jp

054400、60

京都の歴史B

五島　　邦治

授業テーマ:　町衆文化の成立

授業の概要:　室町時代になると、京都の貴族の経済的な力は衰退し、武家や「町衆」とよばれる都市民が新たに台頭する。彼らは平安時代に貴族によってつくられた王朝文化の美意識を受け継ぎ、能や絵画、工芸、茶道などの、現在の伝統文化の基礎をつくった。この講座では、そうした文化が成立する過程と、現代への継承をお話しする。

到達目標:　平安時代ではなく、室町時代の京都が現代の京都の基礎になっていることを理解する。現代の京都の中から直接連続する歴史を実際に見ることによって、歴史が生きていることを理解する。

授業方法:　講義形式で授業を進め、その都度プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	市中と郊外（はじめに）	あらかじめ京都の地図を準備して、見ておくのがよい。
2.	市と町棚	平安京の地図と現代の京都の地図を対照させ、どこがどの場所に該当するかを確認する。
3.	「町人」の成立	京都の地図の中心部を熟視し、どこから郊外になるのかを考える。
4.	中世の風流	祇園祭をあらかじめ見ておくとわかりやすい。たとえば、山鉾の種類を調べる。
5.	山鉾風流を支えた人々	祇園祭の山鉾と地域の関係を考える。
6.	町堂と「町人」	地図から六角堂の場所を確認し、できれば行ってみるとよい。
7.	洛中洛外図屏風の世界	上杉本「洛中洛外図屏風」の画像を見て、今どこにあるか、何が描かれているかを調べる。
8.	能の興隆	
9.	天文法華一揆と町組の成立	京都の中の日蓮宗の寺院、たとえば本能寺、本法時、立本寺などを調べたり、行ってみたりする。
10.	豊臣秀吉の京都政策	京都に於ける秀吉の遺跡、高瀬川、豊国神社・方広寺・耳塚、御土居、寺町を調べて実際に歩いてみる。
11.	床の間と畳の成立	自分の身の回りにある畳のある部屋に座って、床の間に何が懸かっているかを確認する。
12.	茶の湯から茶道へ	抹茶を体験する（茶会や和風喫茶店で）。
13.	豪商と出版事業	地図で高瀬川を探し、高瀬川に沿って歩いてみる。
14.	光悦と宗達から琳派へ	俵屋宗達の絵をネットで探し、実物を見てみる。
15.	まとめ	室町時代以降、京都の都市民が自分たちの町をどのように造ってきたかまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	
定期試験	70	客観的知識の確認と独創性

教科書:

参考書:　五島邦治『京都の歴史がわかる事典』（日本実業出版社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　e-mail goshima@sky.plala.or.jp

054500

保育原理

埋橋　　玲子

授業テーマ:　保育所保育の本質と目的

授業の概要:　日本の保育所保育の全体像、法的基盤、歴史的経緯を学ぶ。

到達目標:
1. 保育所保育の意義について理解する。
2. 保育所保育指針における保育の基本について理解する。
3. 保育の内容と方法の基本について理解する。
4. 保育の思想と歴史的変遷について理解する。
5. 保育の現状と課題について考察する

授業方法:　講義を基本に、受講生によるテーマに基づいた発表、実技発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、日本の保育を巡る諸問題	テキストの目次部分、各章の前文に目を通して全体像を把握しておく。
2.	保育の理念と概念、児童の最善の利益を考慮した保育	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
3.	保育の社会的意義、保育所保育指針の制度的位置づけ	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
4.	保護者との緊密な連携、保護者との協働、倫理観に裏付けられた保育士の専門性	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
5.	養護と教育の一体性	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
6.	現在を最もよく生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培うことの重要性	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
7.	生活と遊びを通して総合的に行う保育	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
8.	環境を通して行う保育、発達過程に応じた保育	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
9.	保育における個と集団への配慮	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
10.	計画・実践・記録・評価・改善の過程	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
11.	諸外国の保育の思想と歴史	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
12.	諸外国の保育の現状と課題	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
13.	日本の保育の思想と歴史	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
14.	日本の保育の現状と課題	テキストの当該部分を読み、概要を把握しておく。
15.	まとめ	ノート、資料、テキストなどに目を通し学習内容を振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業内容は前後することがあります。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
テーマにそった発表	40%	内容をよく理解し、相手に伝わりやすい工夫がなされているか
実技発表	10%	ねらいが明確であるか、適切なパフォーマンスができているか
試験	50%	質問の意味を理解し、的確に回答・解答ができているか

教科書:　保育所保育指針　フレーベル館
新保育士養成講座・第1巻　保育原理　保育士養成講座編纂委員会編

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後、教室内にて対応

054600、60

大学生活とキャリアデザインⅢ

廣岡　　保

授業テーマ:

講義と企業人セミナーとワークショップによる【ビジネス・業界・企業・職種・仕事研究】講座

～あなたが適切な進路選択とキャリアプラン作成をする為に！～
～そして、あなたの就職準備と就職活動がスムーズに進む為に！～

授業の概要:

☆進路選択や就職活動に欠かせない「経済活動やビジネス・業界や企業・職種や仕事」に関し詳しく講義します。
☆他の講義では聞くことが出来ない、各業界トップ企業の役職員の方や人事担当者の方をお招きして皆さんに直接講義をしてもらう「企業人セミナー」も実施します。
☆講義とワークショップを通して「業界・企業・職種研究」の仕方やスキルを身につけてもらいます。
☆京田辺キャンパスは廣岡先生、今出川キャンパスは奥谷先生の講義となります（内容は同じです）。

到達目標:

☆「経済やビジネスの仕組み」「多様な業界とその業界の主要企業」「各業界の業務内容とビジネス構造」「各業界の現状と課題」「様々な職種とその仕事内容」「職種ごとのメリット・デメリット」について学ぶことで皆さんの進路選択やキャリアプラン作成がスムーズに進むことを目指します。
☆「業界や企業研究、職種や仕事研究」の仕方を学ぶことで、就職活動に欠かせないそのノウハウやスキルを身につけてもらいます。
☆各業界を代表する企業の方から直接話を聞くことで、其々の業界の仕事内容や各業界で求められる人物像についてしっかりと理解を図ってもらいます。

授業方法:

☆講義と企業人セミナー、チームワークショップとチームプレゼンテーションで講座を構成します。
☆オリジナル講義ノートとパワーポイントをベースに講義を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	＜経済活動や企業活動の仕組みを知る＞・・経済活動の基本構造。株式会社とは。ホールディング会社と事業会社。親会社と子会社。企業業績が解る損益計算書の見方。他	
2.	＜業界を知る＞・・業界とは。業界大分類と中分類と小分類。業界間の関係性。同女生が知っておくべき業界とその業界における主要企業。キーワードから見る有望業界とは。他	講義とメディア等の情報から「今後伸びる業界や企業」を考えレポートを提出してもらいます（次週講義時に提出）。
3.	＜主要業界のビジネス構造や業務内容を知る＞・・主要業界のビジネスモデル。各業界の社会的役割。主要業界の業務内容と職種。主要業界の現状と課題と将来展望。BtoB企業とBtoC企業。他	
4.	＜職種や仕事を知る＞・・職種とは。職種と雇用形態。業界と職種。職種や雇用形態ごとのメリット、デメリット。総合職、エリア総合職、一般職、専門職について。女性活躍推進法と企業の対応。他	
5.	＜業界・企業・職種研究の方法を知る＞・・業界・企業・職種研究のポイント。ESや面接の質問事例から考える研究視点と研究を深める為の方法。業界・企業・職種選択のポイント。他	
6.	＜企業人セミナー＞・・製造業界、金融業界、サービス業界、情報関連業界からその業界のトップ企業の方をお招きし週替わりで講義をしてもらいます。	セミナーの最後に質問タイムを設けます。企業の方への質問を考えておいて下さい。
7.	＜企業人セミナー＞・・同上	同上
8.	＜企業人セミナー＞・・同上	同上
9.	＜企業人セミナー＞・・同上	同上 「4回の企業人セミナーを聞いて理解したことや気付いたこと」をテーマにレポートを提出してもらいます（次週講義時に提出）。
10.	＜業界研究ワークショップ＞・・製造業界、金融業界、サービス業界、流通業界、情報関連業界の5業界にチーム編成。各チームごとに業界や企業、職種や仕事について研究を行ってもらいます。	＜業界研究ワークショップ＞に向けて、これまでの講義内容を復習しておいて下さい。
11.	＜業界研究ワークショップ＞・・同上	自分の担当する業界に関する情報収集を積極的に行って下さい。
12.	＜業界研究ワークショップ＞・・同上	同上
13.	＜業界研究まとめ作業＞・・プレゼンテーションに向けて、チームごとに研究内容や研究成果をまとめてもらいます。	
14.	＜チームプレゼンテーション＞・・チームごとに研究内容や研究成果をプレゼンテーションしてもらいます（1回5チーム前後）。各チームの研究内容やプレゼン手法について先生よりコメントします。	他のチームに対する質問を考えておいて下さい。
15.	＜チームプレゼンテーション＞・・同上 全チーム終了後、業界研究NO1チームを受講生の挙手で決めてもらいます。	同上 講義終了後、一週間以内にマナビ―システムを使って「この講義を通して、理解したことや気づいたこと」をテーマにレポートを提出してもらいます。

受講者へのメッセージやアドバイス:

☆2～3年次生対象の講座です。就職活動を控えた3年次生はもちろんのこと、進路選択やキャリアプラン作成と近い将来に向けた就職準備の為2年次生の積極的な受講を薦めます。
☆業界選択や職種選択に対する迷いのある人、就職活動やその準備に不安のある人はぜひ受講して下さい。
☆皆さんの進路選択や就職活動準備に必要な知識・スキル・ノウハウを身につけていただく為の実践的講座です。
☆「キャリアのための自己表現演習（前期・後期開講）」と併せて受講されることを薦めます。
☆期末テストはありません。下記評価方法で採点します。

フィードバックの方法:

☆提出レポートは返却しません。
☆ワークショップに関しては、研究方法や進め方について必要なアドバイスと指導を行います。
☆チームプレゼンテーションに関しては、チームごとにその内容や発表方法について、受講生全員の参考となるようコメントを行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	50%	公欠と認めざるを得ない場合を除き、欠席回数は減点対象となります。
レポート	40%	レポートは内容と表現力の両面から採点します。
授業への取り組み姿勢	10%	講義の感想記入、企業人セミナーでの質問、ワークショップでの積極的な取り組み姿勢等をプラス評価します。

教科書: 皆さんに購入してもらう教科書はありません。「オリジナル講義ノート」を受講生に無料で配布します。

参考書: その都度、講義内で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義内容や就職に関する質問・相談は授業の前後に遠慮なく申し出てください。時間が必要な質問や相談については、別途面談時間を改めて設定します（出席カードの自由記述欄に質問や相談を書かれてもお答えできません）。

055101～66

キャリアのための自己表現演習

廣岡　　保

授業テーマ:

実践的講義と演習による【就活力・社会人力育成】講座

～就職活動を乗り越え、あなたが輝く社会人になるための講座です！～
～あなたの適正な進路選択と文章力・会話力の自己表現力向上を強力にサポートする講座です！～
～志望職種や志望企業に就職し活躍している先輩受講生たちに続く学生を育成する講座です！～

授業の概要:

☆進路選択やキャリアプラン作成、就職活動やその準備の為に必要な知識・ノウハウ・スキル・能力の修得と向上を図る講座です。
☆講義は全8回で、2回目以降は基本隔週講義となります。1回目講義の時に講義スケジュールを配布します。1回目の講義は、春学期・秋学期、各クラスとも授業開始週です。
☆後期、今出川キャンパス木曜3講時講座は奥谷先生の講義となります。それ以外は両キャンパスとも廣岡先生の講義となります。どの講座も内容は同じです。都合の良いクラスを選択して受講して下さい。
☆各クラスとも定員制の少人数クラスのため、定員に達しますと登録を締め切ります。例年、登録に漏れる学生が多くいます。受講希望者は、早めの登録をお薦めします。

到達目標:

☆社会人としてはもちろんのこと、就職活動に必須の能力となる「文章力」と「会話力」の向上を目指します。
☆社会人としてはもちろんのこと、就職活動に欠かせない能力となる「自己表現力」の育成を図ります。
☆進路選択やキャリアプラン作成及び就職活動に必要な知識やノウハウを講義することにより、皆さんの就職活動とその準備がスムーズに進むことを目指します。

授業方法:

☆講義と演習（課題文作成・面接練習・グループディスカッション・チームプレゼンテーション等）で構成。
☆オリジナル講義ノートをベースに、必要に応じ映像を交えて講義。
☆演習では、能力向上に向けた実践的なアドバイスと指導を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	＜就職の現状を知る＞・・同志社女子大生の就職率、就職先、就業職種。全国新卒学生の就職状況。就職戦線の厳しさ。企業や官公庁が大学生に求めるモノとは。就職活動のスケジュールと選考プロセス。他	
2.	＜ライフプランとキャリアプランを考える＞・・ライフプランで働き方では変わる。多様なキャリアプランとその選択について。正社員や正職員として働くこととは。就職に必要な能力や資格とは。他	最終講義日にチームでプレゼンテーションを行ってもらいますので、それまでチームごとに準備を進めて行って下さい。
3.	＜業界や企業や職種を知る＞・・業界と企業と職種。公務員の種類と職種。総合職、エリア総合職、一般職、専門職の違いと其々のメリット・デメリット。業界や職種の決め方。業界研究・企業研究・職種研究の方法とそのポイント。他	「新聞を読んで」というテーマで課題文を作成してもらいます。日頃から新聞を読む習慣を付け、気になった記事を見つけておいて下さい（次回講義時提出）。
4.	＜自分自身を知る＞・・就職活動とは自己PR活動。自分の強みやセールスポイントを見つける為には。自分自身をアピールする表現方法とは。自分の強みとその職種が求める能力とのマッチングとは。他	「自己表現シート」を作成してもらいます。自分の強みやセールスポイントとそれが身についた活動や経験を整理しておいて下さい（次回講義時提出）。
5.	＜文章力と会話力を高める＞・・社会人として求められる文章力や会話力とは。文章力や会話力を上げるポイントとは。ESや面接での質問に的確に答える文章や回答内容の作り方とは。ESや面接での質問例。他	
6.	＜面接練習＞・・伝わりやすくかつ説得力のある話の構成とは。相手に好感を与える話し方のポイントとは。面接における態度やマナーとは。面接官が面接で見るポイントとは。他	面接練習をしてもらいますので、これまでの講義内容を復習しておいて下さい。
7.	＜グループディスカッション＞・・集団の中での自己表現力と会話力を高めるポイントとは。グループディスカッションで押えておくべきポイントとは。面接官がグループディスカッションで見るポイントとは。他	数チームに分かれてグループディスカッションを行ってもらいます。集団の中で自分を際立たせる話し方やとるべき行動について考えておいて下さい。
8.	＜プレゼンテーション＞・・聞き手が理解しやすくかつ聞き手の印象に残すプレゼンテーションとは。プレゼンテーションで押さえておくべきポイントとは。面接官が見ているプレゼンテーションのポイントとは。他	チームごとにプレゼンテーションを行ってもらいますので、8回目の講義までにその準備を完了しておいて下さい。

受講者へのメッセージやアドバイス:

☆2～3年次生対象の講座です。「文章力や会話力」等の「自己表現力」は早期からの育成が重要です。2年次生の積極的な受講を薦めます。
☆少人数授業（各講座20名前後）ですので、一人一人きめ細かくサポート、指導します。
☆「自己表現力や就職活動に不安のある人」「業種選択や職種選択に悩みのある人」「将来に向けて何をすべきかわからない人」「学生に人気の難関業界を目指す人」はぜひ受講して下さい。
☆受講生満足度の非常に高い講座です。多くの先輩受講生が志望職種や志望企業に就職しています。
☆「大学生活とキャリアデザインⅢ」講座（後期開講）と併せて受講されることを薦めます。
☆期末テストはありません。下記評価方法で採点します。

フィードバックの方法:

☆提出物（課題文作成と自己表現シート作成）は、一人一人添削しコメントを添えて返却します（原則、前期受講者は後期初めに、後期受講者は翌年度前期初めに、教務課窓口にて返却）。
☆面接練習やグループディスカッション、チームプレゼンテーションに関しては個別に問題点や課題と改善方法を具体的にアドバイスします。
☆講義内容に関する質問は当然のこと、進路選択や就職全般に関する個別相談、ES添削や面接練習にも応じます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	50%	公欠と認めざるを得ない場合を除き欠席回数を減点します。
レポート	40%	内容と表現力の両面から採点します。
取り組み姿勢	10%	講義に対する感想記入、演習での積極的な取り組み姿勢、質問・相談等の積極的姿勢をプラス評価します。

教科書:

皆さんに購入してもらう教科書はありません。「オリジナル講義ノート」を受講者に無料で配布します。

参考書:	講義の中で、その都度紹介します。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力
教員との連絡方法:	最初の講義で、携帯番号をお教えします。進路選択や就職に関して悩みや相談のある人は遠慮なく連絡して下さい。ES添削や面接練習の相談にも応じます。連絡後、個別に時間を設定します。

055260

京都の文化に触れるA

河村　　晴道

授業テーマ:
能楽を通して日本文化の特質を探る。

授業の概要:
能は、室町初期に大成された日本の音楽劇である。その大成の中心的存在である観阿弥、世阿弥父子は、奈良から京都に進出し、足利義満の庇護のもと、能を庶民の芸能から、より芸術性の高いものに昇華していった。北山文化の中で育てられた能には、日本文化の特質が多く含まれている。この講義では、能の歴史や京都の文化との関係、能面の美術的価値と精神性、能装束と西陣との関係、楽器と日本の音楽性など、様々な角度から能を考察し、京都の文化、更に日本の文化の特質を探る。

到達目標:
能の概要を知る。
能の歴史を学ぶ。
能から日本の美意識を学ぶ。
能の音楽性を知る。
日本文化の特質を知る。
国際社会における自己のあり方を考える。
同志社における「良心」の意味を考える。

授業方法:
能について、様々なテーマを決めて講義をすすめる。一日は能舞台を使い、能面、能装束と着付け、能の演技を鑑賞する。教室ではビデオも使い、能を身近に感じとってもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	能とは何か	授業ノートの確認
2.	能の歴史	授業ノートの確認
3.	能の演技空間	授業ノートの確認
4.	能面	授業ノートの確認
5.	能装束	授業ノートの確認
6.	能の音楽(1) 笛・太鼓	授業ノートの確認
7.	能の音楽(2) 小鼓・大鼓	授業ノートの確認
8.	能の演技	授業ノートの確認
9.	能の種類(1) 神能・修羅能	授業ノートの確認
10.	能の種類(2) 鬘能	授業ノートの確認
11.	能の種類(3) 雑能・鬼能	授業ノートの確認
12.	新作能	授業ノートの確認
13.	狂言	授業ノートの確認
14.	能の主題	授業ノートの確認
15.	まとめの授業	授業ノートの確認

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業中の私語厳禁。
授業中の入退出は原則として禁止。

フィードバックの方法:
各回提出のコメントや質問に対し、次回の授業の冒頭に必要に応じて答える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	授業に興味を持って参加し、文化を学ぶ意味を考えられたかを評価する。
各回のコメント	50	各回の授業内容を理解し、日本文化に触れて、自己の精神性を高められたかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前に教室で対応する。

055360

京都の文化に触れるB

山口　　祥二

授業テーマ:
京菓子を単なる食文化として捉えるのではなく、儀礼や民俗、茶の湯など伝統芸術とのかかわりの中で検証していく。
京菓子がそれぞれの時代の、文化の産物であるという観点から京菓子の成り立ち、その周辺での出来事までを取り上げていく。

授業の概要:
和菓子は存在が身近なだけに普段気にとめることなく食べているが、平安時代にまでつながる文化の所産であり日本独自の食べ物として発展し、今に伝わり生活に生き続けています。
特に京菓子は、歴史・由来・菓子銘・意匠・色目などを検証していくことにより、宮中をはじめ茶道・神社仏閣・美術・古典芸能にも深く結びついていることを学んでいく。

到達目標:
京菓子を単なる食べ物としてではなく、総合文化として学んでいくことにより、意匠・色目・銘などが日本の工芸品にも影響を与え、日本の歳時記にもつながっていることが理解できる。

授業方法:
VTR・パワーポイントの使用。美術館の展観・八ッ橋工場の見学などの校外学習。
京菓子の実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	お正月に食べる雑煮についてのレポート作成。和菓子の歴史全般。	雑煮の中の具材、餅の種類。 味噌又はすまし汁か。
2.	京菓子の歴史（1） 平安時代から江戸時代初期。	
3.	京菓子の歴史（2） 江戸時代初期から江戸時代後期。	
4.	京菓子と京都の歳時記 歳時記で使用するお菓子の説明。	
5.	京菓子と神社仏閣 神社仏閣にてお供えされるお菓子の説明。	
6.	京菓子の意匠。	
7.	京菓子と琳派 細見美術館展観。	
8.	細見美術館を展観して学んだことなどをレポート作成。 菓子と砂糖。砂糖の重要性。	美術館を展観して感じたことをまとめておく。
9.	平安時代の色目。 京菓子の季節の表現と色目。	
10.	もてなしの心と京菓子。	
11.	八ッ橋の歴史と工場見学。	
12.	八ッ橋工場見学を終えてレポート作成。 京都の菓子屋の種類と特徴。	工場の見学したことで感じたことなどをまとめておく。
13.	文化としての京菓子。	
14.	授業のまとめ。 小テストの実施。	
15.	京菓子の実習。（2種類）	お菓子の実習を行うのでエプロンなど持参。

受講者へのメッセージやアドバイス:
京都の歴史・風俗・食生活など広くいろいろなことに興味を持つこと。
神社仏閣・美術館などに興味を持ち、展観・拝観を積極的にすること。

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	遅刻・欠席が無く授業に積極的に取り組んでいる。
レポート	20	校外学習による解説の理解度。
小テスト	30	授業に対する理解度・到達目標に関する知識力。

教科書:

参考書:
菓子ごよみ/淡交社
京菓子歳時記/光村推古書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、創造力、プレゼンテーション力、、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対。

055460

京都の文化に触れるC

吉岡　　更紗

授業テーマ:　日本の色　京都の色彩

授業の概要:　地球に暮らす生物のなかで、唯一人間のみが自らの意思で衣服を纏っており、布や糸に色を染める技術をもっている。その色彩をテーマとして、植物染による染色技術などにも触れながら、日本で、そして794年より都となった京都の地で、どのような衣服が着られ、どのような色が生み出されていったのかを歴史をふまえながら学びます。京都に色彩感、色の歴史、文化についても講義、及び実技を通して学び、最終日には工房「染司よしおか」で植物染による染色の体験もして理解を深めていく。

到達目標:
・持参した染織コレクションや、植物で古来の伝統色を復元したものに触れて、更なる関心を深める。

・実技を通して、技法を学び、先人たちの知恵を知る。

・自分の好きな色をみつけ、その歴史を調べ、京都との関連などリサーチと発表を通して理解を深める。

授業方法:
１:講義、２:演習、３:学内実習、４:学外実習
1日目から3日目までは講義を行い、毎日授業内容に沿った簡単な実技をします。
4日目は映画「紫」を鑑賞後発表をして頂きます。
5日目は染司よしおかの工房にて植物染の体験をして、色を生み出す技術を学びます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	色のはじまり 衣服のはじまり 絹の発明 染色技術の向上	「日本の色辞典」を読み自分の好きな色を見つける 人がどのように色を習得していったかを理解する
2.	五行思想とは 飛鳥天平時代の染織技術 万葉集に読まれた色	好きな色のリサーチをはじめる
3.	実技　胡桃の摺り染	染めてみた感想を書きとめておく
4.	奈良の都から京都へ 平安京の造営 衣装の変遷	京都についても学び、好きな色との関連性を探す
5.	源氏物語に描かれた衣装 季節にあったかさね色	京都についても学び、好きな色との関連性を探す
6.	平安時代から続く祭礼とその色 実技　石清水八幡宮供花神饌をつくる	祭礼に使われる色 実技を通して更に京都を知るきっかけをつくる
7.	中世における京都の姿と色彩 桃山時代　南蛮文化到来とその色彩 江戸時代　友禅染の技法　武士の彩	自分も好きな色について 発表できるように準備
8.	江戸時代～明治時代 町衆の色 祇園祭の色彩 化学染料の時代へ	自分も好きな色について 発表できるように準備
9.	木綿の普及 ジャパンブルー 実技　藍の摺り染	今までの授業の復讐と 発表の準備
10.	ドキュメンタリー映画「紫」鑑賞	現代に植物染をよみがえらせる工房の日常を知る
11.	3日間のまとめ 質疑　応答など	理解できなかった部分や不明点はここで解決する
12.	「自分の好きな色」をテーマに発表	発表を通して同じ授業を受けた人の色彩感を共有する レポートの準備
13.	染司よしおか　で染色実習 絹のスカーフを茜で染める	本格的な染色を体験することによって先人たちの知恵と努力を学ぶ レポートの準備
14.	染司よしおか　で染色実習 絹のスカーフを茜で染める	本格的な染色を体験することによって先人たちの知恵と努力を学ぶ レポートの準備
15.	染司よしおか　で染色実習 絹のスカーフを茜で染める	本格的な染色を体験することによって先人たちの知恵と努力を学ぶ レポートの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
色彩の歴史や文化を学んで頂きますが、その結果はこれからの皆さまの色彩感にも反映されていくと思います。
京都は1200年以上前に都となった歴史ある場所です。先人たちの遺した文化や色彩を通して学んで頂くと、その他の分野にもリンクし、色々と興味が出てくると思います。

フィードバックの方法:
授業後、教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席授業への参加度	60%	基本的に全日出席、遅刻厳禁とします。
レポート	30%	5日間の授業を通して感想文を書いて頂きます。 期日までの提出と授業の理解度を基準とします。
発表	10%	ご自身の色彩感を深めた発表であることを評価基準とします。

教科書:　吉岡幸雄 「日本の色辞典」 紫紅社

参考書:	吉岡幸雄 「日本の色の十二カ月」紫紅社 吉岡幸雄「源氏物語の色辞典」紫紅社 吉岡幸雄「京都の意匠」紫紅社 吉岡幸雄「京都の古社時　色彩巡礼」淡交社
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対

055560

京都の文化に触れるD

畑　　正高

授業テーマ:　香の文化史の視座から京都の文化を学ぶ

授業の概要:　みなさんは、歴史が育んできた「香り」について、どんなイメージを持っているでしょうか。
京都は、都として人々の心や意識を集め続け、今なお私たちを魅了しています。
1200年の歴史の中で、この京都の街が熟成してきた様々な文化を見つめてみると、個性豊かな京都の風土と我が国の独自性が見えてきます。
「香り」という一つのメディアに焦点をあてて歴史を紐解き、また、実際に聞香体験を通して香りに親しみながら、私たち自身の背景を考えてみましょう。

到達目標:　日本人としてのアイデンティティを持つ一助となることを望みます。

授業方法:　プリントを使用し、大学内での講義。社外研修（松栄堂内での聞香体験など）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	配布プリントを事前に読み下し、問題意識を集約して授業にのぞんでください。
2.	香の文化史−1	原始の時代から古代において、歴史にかいま見ることのできる我が国の香りとはどのようなものであったのでしょう。
3.	香の文化史−2	唐様に出会った人々が、和様の美しさを自ら表現できるようになります。香りはどのように和洋化したのでしょうか。
4.	香の文化史−3	王朝文学と香りについて、源氏物語や枕草子などの原文に触れながら日本の香りを考えます。
5.	香の文化史−4	禅僧と出会って、我が国の文化環境は大きく転換します。香りを見つめて、その時代を慮ってみましょう。
6.	香の文化史−5	東山文化は、いかなるものだったのでしょう。香りの文化を見つめることによって、その意味を学びます。
7.	香の文化史−6	「聞香」という言葉を学びます。香道として伝わる芸道文化は、世界にも稀な香りの芸術です。
8.	エキスカーション	香の製造現場を訪問します。
9.	エキスカーション	聞香の体験をします。実際に天然の香りにふれてみましょう。
10.	香の文化史−7	茶の湯と香の関係を学びます。
11.	香の文化史−8	香の文化を見つめることによって、江戸時代の文化的な潮流を概観します。
12.	香の文化史−9	世界と我が国は、どのような影響を互換してきたのでしょうか。香りを見つめて考えます。
13.	香りを学ぶ	私たちにとって香りとは何なのか、情報化社会に生きる意味と知恵を考えます。
14.	−15.まとめ	授業中に話題にしたことを思い起こしながら、一人一人の文化的土壌を考えてほしいと願っています。

受講者へのメッセージやアドバイス:　京都で学ぶことの幸せを体感してください。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	10%	積極的に講義に参加し、感じたことを発言出来るかどうかを判断する
試験	90%	授業内容について、理解度を計ると共に自分の言葉で表現がされているかを判断する

教科書:　『香が語る日本文化史・香千載』（光村推古書院）
『香三才・香と日本人のものがたり』（東京書籍）
『香清話・香に聞く、香を聞く』（淡交社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　メールにて

055601～03

教職実践演習（幼・小）

藤原　孝章、笠間　浩幸、松崎　正治、塘　利枝子、上田　信行、埋橋　玲子、竹井　史

授業テーマ:

4年間にわたる教職課程での学びを振り返り、教員としての資質能力の向上をめざす

授業の概要:

教職課程の授業や教職課程以外のさまざまな活動の記録を4年間通して綴ってきた「マイネカルテ（履修カルテ）」のふり返りや、課題に関する討議、ゲストスピーカーによる講義及びディスカッションを糸口にして、4年間の大学での学びを総合的にリフレクションし、自分の中で変化したことに関する意味づけを試みる。その中で、これまで身に付けてきた資質能力を、「ひとをケアし、育てる」仕事としての教職に必要な資質能力として有機的に統合していくと共に、教職に就く上での自己課題を見出し、不足している知識や技能に気づけるようにする。

到達目標:

（1）「ひとをケアし、育てる」仕事としての教職のあり方を理解する。
（2）これまでの4年間で身に付けてきた資質能力を、「ひとをケアし、育てる」仕事としての教職に必要な資質能力として有機的に統合するために具体的に省察する力を身につけようとする。
（3）教職に関する4年間の学びを通して自分自身の教職に対する見方・考え方がどのように変化したかを自分の言葉で具体的に説明することができる。

授業方法:

毎回、グループ・ディスカッションや事例研究、課題に対するプレゼンテーションなど、全員参加の演習を基本として授業を進めるが、外部講師や卒業生をはじめとするゲストスピーカーによる集中講義とそれに関する討議も織り交ぜる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教職実践演習のオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス、グループづくり	本演習の「シラバス」を必ず読んでくる。
2.	マイネカルテ（履修カルテ）のふり返り	1年春学期から4年春学期までに記録したマイネカルテを整理し、不備がないか確認しておく。
3.	防災・安全講習会（1）【集中講義・第1時目】	文部科学省が編集した『学校防災のための参考資料―「生きる力」を育む防災教育の展開』（平成25年3月）の中で事前に指示した箇所を読んでおく。
4.	防災・安全講習会（2）【集中講義・第2時目】	同上
5.	防災・安全講習会（3）【集中講義・第3時目】	同上
6.	教育実習のふり返り	教育実習の際に作成した実習簿、ならびに実習中に用いた記録用メモなどを読み返しておく
7.	小学校の教科学習に関する学びほぐし（unlearn）～これまでの学びを新たな視点で見つめ直し、意味づける～	教職課程における各教科の学びと教育実習の際に使用した資料やノート、該当するマイネカルテを読み返し、事前に指示された視点に基づいてふり返りをしておく。
8.	小学校の特別活動に関する学びほぐし（unlearn）～これまでの学びを新たな視点で見つめ直し、意味づける～	教職課程における特別活動の学びと教育実習の際に使用した資料やノート、該当するマイネカルテを読み返し、事前に指示された視点に基づいてふり返りをしておく。
9.	幼児教育に関する学びほぐし（unlearn）～これまでの学びを新たな視点で見つめ直し、意味づける～	幼児教育に関する学科必修科目と教育実習の際に使用した資料やノート、該当するマイネカルテを読み返し、事前に指示された視点に基づいてふり返りをしておく。
10.	保育に関する学びほぐし（unlearn）～これまでの学びを新たな視点で見つめ直し、意味づける～	保育に関する学科必修科目と教育実習の際に使用した資料やノート、該当するマイネカルテを読み返し、事前に指示された視点に基づいてふり返りをしておく。
11.	子どもをめぐる諸課題～貧困・障がい・ネグレクトなど～に立ち向かうそれぞれの現場の日常を知る	児童養護施設や幼稚園・保育所、こども園、小学校などで近年問題となっている諸課題について、指示された資料を事前に読んでおく。
12.	学校・家庭・地域とのつながりの中で子どもを育てる【集中講義・第1時目】	事前に指示された資料を読み、疑問に思ったこと、議論してみたいことをカードに書き出しておく。授業時にはそのカードを持参する。
13.	学校・家庭・地域とのつながりの中で子どもを育てる【集中講義・第2時目】	同上
14.	学校・家庭・地域とのつながりの中で子どもを育てる【集中講義・第3時目】	同上
15.	全体的なまとめとレポート作成によるふり返り	教職実践演習の各回で配布された資料や自分たちの発表に用いた資料などを読み返しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

教職・保育職に就く学生はもちろん、企業や団体等で働く学生にとっても、自分が教職課程を通して学んだことを具体的にふり返り、その意味を見つめ直して、自分自身の変化を知っておくことは、これからの自分のよって立つものを明確にし、目指す姿を思い描いていく上で重要な経験です。4年間の集大成となる学びを、ともに学んできた仲間とともに新たな視点から創り上げていきましょう。

★なお、本授業は教職課程の必修科目であり、全回出席を原則とする。教育実習や就職先でのインターンシップ、研修会など、公欠が認められる場合は条件が整っている必要がある。公欠に関する説明を第1回のガイダンスで聞いて、適切な手続きをとるようにする。

フィードバックの方法:

（1）毎回の授業時に記入するリフレクションカードをもとに質問や疑問を集約し、次の回の授業に反映させて、適宜、補足説明や追加資料の配布などを通して対応する。
（2）授業内のグループ発表に対して適宜コメントし、発表のまとめ方や発表方法について真似したり見習いたい点や改善点を共有できるようにする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の授業への出席と授業内容に関するリフレクションの提出	50%	毎回のリフレクションが4年間の学びの新たな意味づけに不可欠なため、全出席を前提とし、各回のテーマに基づくリフレクションを重視する。
マイネカルテ（履修カルテ）の提出	20%	教職課程の科目やその他の活動を通して学んだ内容を、質・量ともに満足できる形で、個性的に記述されているか。
最終レポート	30%	4年間の自身の変化を具体的に記述することと共に、変化をもたらしたものについて分析的に捉えることができているか 。

教科書:

文部科学省編『小学校学習指導要領解説【総則編】』東洋館出版社、2008年
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/index.htmよりダウンロード可
文部科学省編『幼稚園教育要領解説（平成20年10月）』フレーベル館、2008年
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/youchien/1258019.htmよりダウンロード可
厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館、2008年
http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/hoiku/index.htmlよりダウンロード可

文部科学省による特別支援教育に関する資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htmよりダウンロード可
文部科学省編『学校防災のための参考資料―「生きる力」を育む防災教育の展開』（平成25年3月）
http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1289310.htmよりダウンロード可

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内容に関する質問やその他、教員への連絡が必要な場合は、授業運営のとりまとめを行う代表者（吉永）に直接、連絡する。連絡先のメールアドレスは第1回のガイダンスで知らせるほか、マナビーも有効に活用する。
なお、公欠の申請については所定の用紙に記入し、第1回のガイダンスで指定されたレターボックスに提出する。

055760

京都の文化に触れるE

天野　太郎、山田　邦和、畑　正高、河村　晴道、上田　文、山口　祥二、吉岡　更紗

授業テーマ:　京都の文化を多角的な視点から総合的に学ぶ一理論と実践から

授業の概要:　本講義では，京都の文化のありかたの一端について，実際の美術・能・京菓子・染色・香・十二単の装いなど，京都文化を代表する芸術に関わる第一線の方々を講師陣として招き，その理論について講義するとともに，実践的な工房など現場の見学，体験を通じて，生きた京都文化の理解を深めることを目的とする。

到達目標:　京都の文化の重層性について理解を深める。

授業方法:　講義ならびにフィールドワーク、実地見学を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　京都の歴史的・地理的ななりたち（本学教員　山田邦和）本講義の全体導入	配布資料の確認
2.	京都の歴史的・地理的ななりたち（本学教員　山田邦和）本講義の全体導入２	配布資料の確認
3.	京都の美術（上田文）　京都美術の歴史と世界１	配布資料の確認
4.	京都の美術（上田文）　京都美術の歴史と世界２	配布資料の確認
5.	染色の世界（吉岡更紗）　染色の世界と実践1	配布資料の確認
6.	染色の世界（吉岡更紗）　染色の世界と実践2	配布資料の確認
7.	幽玄の世界　能の形（能楽師・観世流シテ方　河村晴道）「能」の歴史と実演見学1	配布資料の確認
8.	幽玄の世界　能の形（能楽師・観世流シテ方　河村晴道）「能」の歴史と実演見学2	配布資料の確認
9.	王朝の香り（松栄堂社長　畑　正高）「香」の歴史と現在のありかた1	配布資料の確認
10.	王朝の香り（松栄堂社長　畑　正高）「香」の歴史と現在のありかた2	配布資料の確認
11.	京菓子の世界（山口祥二）1	配布資料の確認
12.	京菓子の世界（山口祥二）2	配布資料の確認
13.	京都の文化の観光からの多様性（本学教員　天野太郎）1	配布資料の確認
14.	京都の文化の観光からの多様性（本学教員　天野太郎）2	配布資料の確認
15.	全体の総括	配布資料の確認とこれまでの学習の取りまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内で適宜フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席/コメントペーパー	60	出席状況の確認と、内容の理解度について、到達目標と照合させながら総合的に判断する。
テスト	40	到達目標の達成度について総合的に評価する。

教科書:　特になし。

参考書:　特になし。必要に応じて授業内で適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業内・後での教室内にて行う。

055801、02

教育の制度と経営

藤村　　祐子

授業テーマ:

授業の概要:　学校教育の諸制度について、その概要を理解するとともに、それらをめぐる多様な問題について事例等を取り上げながら解説する。

到達目標:　学校教育の諸制度について理解した上で、教育をめぐる諸課題について知りそれらに対する自身なりの意見を持つことを目指す。

授業方法:　授業は、講義と演習スタイルで実施する。適宜、クラス内でグループわけし、グループ内でのディスカッションの時間を設定し、内容に対する理解を深める。中間時に中間レポートを課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスに目を通す
2.	教育制度の基本について⑴　公教育の基本原理I	提示された資料を読み、小レポートを作成する
3.	教育制度の基本について⑵　公教育の基本原理II	提示された資料を読み、小レポートを作成する
4.	教育制度の基本について⑶　諸外国の教育制度改革	提示された資料を読み、小レポートを作成する
5.	学校制度について⑴　学校の定義・種類	提示された資料を読み、小レポートを作成する
6.	学校制度について⑵　学校の起源・系統	提示された資料を読み、小レポートを作成する
7.	学校制度について⑶　学校はどのような場所か	提示された資料を読み、小レポートを作成する
8.	教職員の制度について⑴　教職員の種類と職務	提示された資料を読み、小レポートを作成する
9.	教職員の制度について⑵　教員の研修	提示された資料を読み、小レポートを作成する
10.	教職員の制度について⑶　教員の評価制度	提示された資料を読み、小レポートを作成する
11.	教職員の制度について⑷　教員に求められているもの	提示された資料を読み、小レポートを作成する
12.	教育改革について⑴　教育委員会制度について	提示された資料を読み、小レポートを作成する
13.	教育改革について⑵　学力について	提示された資料を読み、小レポートを作成する
14.	教育改革について⑶　いじめについて	提示された資料を読み、小レポートを作成する
15.	総括	最終課題を作成する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ウェブシステムを利用したフィードバックの提供

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート・中間レポート	60	分量、論理性
最終課題	40	論理性、説得性

教科書:

参考書:　高妻紳二郎編著『新・教育制度論』ミネルヴァ書房、2014年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　ウェブシステム・Eメール

055861、62

教育の制度と経営

水本　　徳明

授業テーマ:

授業の概要:
テキストを読んで議論することを通じて、学級における児童生徒関係のダイナミズム、学級経営の課題、学力形成への学校、家庭、地域社会の影響、近年の教育改革の特徴と課題など、学校教育の制度と経営に関する基本的事項について理解する。

到達目標:
学校教育に関する諸制度について理解するとともに、学校教育について多角的に考察するための概念を獲得することを目標とする。また、テキストについて批判的に検討する力を高める。具体的な目標は次の通り。
①学校教育の基本的な制度について説明できる。
②学校教育に関わる諸問題について、基礎的な教育学専門用語を用いて議論することができる。
③学校教育についての理解に基づいて、教師のあり方について考察することができる。

授業方法:
事前にテキストの指定範囲を読み、事前レポートを作成して授業に参加する。授業では、課題について意見を出し合い全体あるいはグループでディスカッションする。また、テキスト内容に関わる重要事項について解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	自分の学校経験を振り返っておく。
2.	学級について考える　①いじめと学校空間　『教室内（スクール）カースト』はじめに～第2章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
3.	学級について考える　②児童生徒の人間関係　『教室内（スクール）カースト』第3章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
4.	学級について考える　③教室での行動戦略　『教室内（スクール）カースト』第4章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
5.	学級について考える　④学級経営と教師の戦略　『教室内（スクール）カースト』第5章、第6章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
6.	学力について考える　①学力をどうとらえるか　『学力を育てる』第1章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
7.	学力について考える　②学力の実態　『学力を育てる』第2章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
8.	学力について考える　③学力形成と家庭の役割　『学力を育てる』第3章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
9.	学力について考える　④学力形成と学校の役割　『学力を育てる』第4章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
10.	学力について考える　⑤学力形成と地域の役割　『学力を育てる』第5章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
11.	教育改革について考える　①全国一斉学力テスト　『誰のための「教育再生」か』Ⅱ-1	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
12.	教育改革について考える　②教員評価と教員免許更新制　『誰のための「教育再生」か』Ⅱ-2	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
13.	教育改革について考える　③心の教育　『誰のための「教育再生」か』Ⅱ-5	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
14.	教育改革について考える　④教育をどう改革するか　『誰のための「教育再生」か』Ⅰ、Ⅲ	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
15.	学校教育の現代的課題	前回授業の振り返りを書くとともに、事前課題に答える。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
授業レポートについては、とくに「前回授業の振り返り」を中心に授業内でコメントする。
期末レポートについては、マナビ―を通じてコメントをフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業レポート	50	到達目標①について、教育制度の理解度を評価する。 到達目標②について、専門用語活用の妥当性を評価する。
期末レポート	50	到達目標①について、教育制度の理解度を評価する。 到達目標②について、専門用語活用の妥当性を評価する。

教科書:
鈴木翔『教室内（スクール）カースト』光文社新書
志水宏吉『学力を育てる』岩波新書
藤田英典編『誰のための「教育再生」か』岩波新書

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
メールによる　nmizumot@dwc.doshisha.ac.jp

055901

教育の制度と経営

水本　　徳明

授業テーマ:

授業の概要:
テキストを読んで議論することを通じて、学級における児童生徒関係のダイナミズム、学級経営の課題、学力形成への学校、家庭、地域社会の影響、近年の教育改革の特徴と課題など、学校教育の制度と経営に関する基本的事項について理解する。

到達目標:
学校教育に関する諸制度について理解するとともに、学校教育について多角的に考察するための概念を獲得することを目標とする。また、テキストについて批判的に検討する力を高める。具体的な目標は次の通り。
①学校教育の基本的な制度について説明できる。
②学校教育に関わる諸問題について、基礎的な教育学専門用語を用いて議論することができる。
③学校教育についての理解に基づいて、教師のあり方について考察することができる。

授業方法:
事前にテキストの指定範囲を読み、事前レポートを作成して授業に参加する。授業では、課題について意見を出し合い全体あるいはグループでディスカッションする。また、テキスト内容に関わる重要事項について解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	自分の学校経験を振り返っておく。
2.	学級について考える　①いじめと学校空間　『教室内（スクール）カースト』はじめに～第2章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
3.	学級について考える　②児童生徒の人間関係　『教室内（スクール）カースト』第3章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
4.	学級について考える　③教室での行動戦略　『教室内（スクール）カースト』第4章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
5.	学級について考える　④学級経営と教師の戦略　『教室内（スクール）カースト』第5章、第6章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
6.	学力について考える　①学力をどうとらえるか　『学力を育てる』第1章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
7.	学力について考える　②学力の実態　『学力を育てる』第2章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
8.	学力について考える　③学力形成と家庭の役割　『学力を育てる』第3章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
9.	学力について考える　④学力形成と学校の役割　『学力を育てる』第4章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
10.	学力について考える　⑤学力形成と地域の役割　『学力を育てる』第5章	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
11.	教育改革について考える　①全国一斉学力テスト　『誰のための「教育再生」か』Ⅱ-1	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
12.	教育改革について考える　②教員評価と教員免許更新制　『誰のための「教育再生」か』Ⅱ-2	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
13.	教育改革について考える　③心の教育　『誰のための「教育再生」か』Ⅱ-5	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
14.	教育改革について考える　④教育をどう改革するか　『誰のための「教育再生」か』Ⅰ、Ⅲ	前回授業の振り返りを書くとともに、テキストの該当箇所を読んで事前課題に答える。
15.	学校教育の現代的課題	前回授業の振り返りを書くとともに、事前課題に答える。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
授業レポートについては、とくに「前回授業の振り返り」を中心に授業内でコメントする。
期末レポートについては、マナビ―を通じてコメントをフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業レポート	50	到達目標①について、教育制度の理解度を評価する。 到達目標②について、専門用語活用の妥当性を評価する。
期末レポート	50	到達目標①について、教育制度の理解度を評価する。 到達目標②について、専門用語活用の妥当性を評価する。 到達目標③について、考察内容の独創性と論理性を評価する。

教科書:
鈴木翔『教室内（スクール）カースト』光文社新書
志水宏吉『学力を育てる』岩波新書
藤田英典編『誰のための「教育再生」か』岩波新書

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
メールによる　nmizumot@dwc.doshisha.ac.jp

055902

教育の制度と経営

吉永　　紀子

授業テーマ:

「信頼される学校」とは―こども・教師・保護者・地域みんなでつくる学校を目指して

授業の概要:

急激に変化する社会の中で、教育界においても新しい時代の創造に向けた教育改革が進められている。一方、時代が変わっても教育にとって変わらぬ普遍的な理論、基本や方法もある。
そこで本授業では、学校教育の制度や学校運営に関する近年のさまざまな「改革」に着目し、いまの学校教育を取り巻く状況について理解するとともに、子どもと教師、家庭・地域が一緒になって学校をつくっていくために向き合うべき問題について検討し、「信頼される学校」とはどのような学校かについて根拠をもって自分の考えが説明できるようにする。

到達目標:

（1）学校教育に関係する諸制度と変化する社会の中で求められる学校教育の役割について理解する。
（2）近年の教育改革に対して関心を持ち、なぜそうした改革が求められるようになったのか、経緯を知ろうとする。
（3）こども・教師・家庭・地域が一緒になってつくる「信頼される学校」に求められることを自分なりに説明することができる。

授業方法:

毎回、教員から提供されたさまざまな事例や課題についてグループや個人で分析・考察し、考えを整理・発表することを中心的な学習活動とする。それに対する教員からの解説を交えた講義をもとに理解を深める。
なお、プランづくりにおいては授業外でのグループワークを不可欠とするため、グループのメンバーと協力し、時間を調整して活動ができるようにしておく必要がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育の制度と経営に関するオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス。「学校」とはどのような場所か～ブレーンストーミング	本授業のシラバスを読んでくる
2.	近年の学校改革の特徴を知る（1）教育特区とは何か～公教育のあり方を考える	前の回に配布された資料を読み、わからない点を見つけ、専門的用語を調べて確かめておく。
3.	近年の学校改革の特徴を知る（2）制度をめぐる規制緩和と自由化がもたらす光と影	前の回で考え、議論した内容を整理し、提示された問いに対する自分の考えをまとめておく。
4.	近年の学校改革の特徴を知る（3）なぜいま「異校種連携」が求められているのか	前の回に配布された資料を読み、問われた内容について自分なりの考えを整理しておく。
5.	近年の学校改革の特徴を知る（4）異校種連携が問いかける学校の役割とは	前の回で考え、議論した内容を整理し、自分の通っていたころの小学校教育の実際と比べて自分なりの考えをまとめておく。
6.	歴史的変遷に学ぶ（1）学校に求められる社会的機能	前の回に配布された資料を読み、問われた内容について自分なりの考えを整理しておく。資料中のわからないことばについてはあらかじめ調べて確かめておく。
7.	歴史的変遷に学ぶ（2）学校教育のカリキュラムは誰がどのように決めてきたのか	前の回で考え、議論した内容を整理し、配布された追加資料を読んで、問われた点についての自分の考えをまとめておく。
8.	「信頼される学校」のモデルプランづくり（1）制度改革の事例に学ぶモデルプランを構想する	これまでに学んできた内容の中でより関心のある内容について、根拠をもって説明できるようにしておく。
9.	地域の学校として期待される役割（1）震災、そのとき学校は～教師に何ができるか	前の回に配布された資料を読み、関心をもった箇所について図書やインターネットで調べ学習を行っておく。
10.	地域の学校として期待される役割（2）災害・危険からこどもとコミュニティを守る防災・安全教育	前の回に視聴した映像や配布された資料をもとに、課題について自分なりの考えを整理しておく。
11.	安心して学ぶことのできる学校づくり（1）「みんなの学校」が教えてくれること	第8回以降、グループで授業外に集まったり連絡しあったりして準備してきた内容を整理し、持参できるようにしておく。
12.	安心して学ぶことのできる学校づくり（2）「チーム学校」が目指される歴史的・社会的背景を探る	前の回に視聴した映像を手がかりに、指示された課題について自分なりの仮説を練っておく。他の授業で学んだ内容ももとにする。
13.	「信頼される学校」のモデルプランづくり（2）学校のマネジメントに必要な条件を吟味する	グループで考えてきた内容を整理し、自分の分担したところについて責任をもって形にすることができるように準備しておく。
14.	「信頼される学校」のモデルプランを発信しよう	グループで考えてきた内容について発表のリハーサルをし、聴き手に対して印象深い発表にするしかけを考えておく。
15.	全体のまとめ	これまでの全14回で使用した資料やノートを読み返し、受講前と比べて学校教育の制度や学校運営に対する自分の見方・考え方がどう変化したかを考えておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分が通っていたころの学校教育は「当たり前」ではないかもしれません。また、自分が通っていたころの学校教育で「当たり前」に行われいたことにも、あなたが知らない制度によって守られていたことがあるかもしれません。案外知らなかったことを、視点を変えてさまざまに捉え直してみることで、これまで以上に学校教育を深く考える手がかりが見つけられます。

フィードバックの方法:

（1）毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
（2）授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出	20	授業内容や問われたことに対して関連づけたリフレクションになっているかどうか
グループ発表の制作、発表、提出	30	授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して発表内容をつくることができているか
定期試験（論述）	50	知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

教科書:

文部科学省　小学校教育の現状、課題、改革等に関する資料
http://www.mext.go.jp/a_menu/01_c.htmより閲覧・ダウンロード可
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

参考書:

木村泰子・島沢優子（2015）『「みんなの学校」が教えてくれたこと～学び合いと育ち合いを見届けた3290日』小学館
木村泰子・出口汪（2016）『21世紀を生きる力～不登校ゼロ、モンスターペアレンツゼロの小学校が育てる』水王舎
木村泰子（2016）『「みんなの学校」流自ら学ぶ子の育て方～大人がつも子どもに寄り添い、子どもに学ぶ』小学館
品川区立小中一貫校　日野学園（2007）『小中一貫の学校づくり』教育出版

佐藤学（2012）『学校を改革する』岩波ブックレット
尾木直樹（2012）『「学び」という希望―震災後の教育を考える』岩波ブックレット
佐貫浩ほか編（2013）『講座　教育実践と教育学の再生　３．１１と教育改革』かもがわ出版
田中耕治編（2009）『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房
朝日新聞教育取材班編（2003）『転機の教育』朝日文庫
秋田喜代美・第一日野グループ編（2013）『保幼小連携―育ちあうコミュニティづくりの挑戦』ぎょうせい

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、変化対応力
教員との連絡方法：	第１回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。 履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

056060

国際社会と法

沼口　　智則

授業テーマ:　国際的人権保障の成立と展開

授業の概要:　国際社会の法的枠組として国際法が存在するが、その「国際法とは何か」ということから出発して国際法の基礎についての説明を行い、それを土台として国際人権保障の成立と展開に焦点を絞って講義を進めていく。人権の国際化（国際人権保障）は、1945年（第二次世界大戦の終了）以後国際連合を中心に推進されていくが、21世紀はとりわけ「平和と人権」の世紀であるべきである。
平和なくして人権なく、人権なくして平和もないということを心に刻んで、国際社会と法をめぐる諸問題を考えていきたい。

到達目標:　自分の基軸を発見し、国際社会を法的視点から分析したり判断する基礎力・応用力を養う。

授業方法:　講義形式をとって毎回授業を行うが、必要に応じて簡単な質問をしたりして、受講生の理解度を確認しながら進めていくこともある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに（20世紀から21世紀の世界＝国際社会へ）	講義形式をとって毎回授業を行うが、必要に応じて簡単な質問をしたりして、受講生の理解度を確認しながら進めていくこともある。
2.	国際法とは？（1）: 法とは何か？	〃
3.	国際法とは？（2）: 条約とは？	〃
4.	国際法の主体（1）: 近代国家とは？	〃
5.	国際法の主体（2）: 主権とは？	〃
6.	国際法の法源	〃
7.	国際法と国内法（条約と憲法）	〃
8.	国際人権への道（1）: 人権とは？	〃
9.	国際人権への道（2）: 人権の成立・発展	〃
10.	国際人権への道（3）: 人権の国際化	〃
11.	国際人権への道（4）: 人権の基礎にあるもの	〃
12.	国際人権の保障（1）: 国際連合のしくみと働き	〃
13.	国際人権の保障（2）: 国連人権理事会	〃
14.	国際人権の保障（3）: 「平和と人権」の実現にむけて	〃
15.	まとめ：これからの国際社会の展望	

受講者へのメッセージやアドバイス:　現代社会のさまざまなできごとやニュースに関心をもち、それを法の視点から考えること。

フィードバックの方法:　講義時の理解度を含め質問や対話の時間を毎回5～10分程度設定予定。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	国際法とは何かという基本的なテーマを踏まえて、設問に的確にこたえているか、国際法の知識は正確か、論理的内容か、自分の考えをしっかり論じているか、などの点が評価基準です。
授業中に書ける程度のレポート（1～2回）	20%	ビデオを通じて、内容を正確に把握しているか、そして内容に対して自分はどう考えるかを論理的に記述できているかを評価基準とします。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　法や人権への導入として、竹下・沼口・角田・竹村編『第5版入門法学−現代社会の羅針盤−』（晃洋書房，2018年）は好著。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　講義終了後に、勉強の仕方や説明に時間のかかる質問等に答える。

056100

法と市民生活

沼口　　智則

授業テーマ:　正義・権利・人権とは何か？

授業の概要:　現代社会は、法という枠組によって、その市民生活が営まれている。法の役割は社会秩序の維持であり、正義の実現であり、豊かな社会の設計である。我々の市民生活にとって法の果たす役割は大きい。
本講は、「法とは何か」という法学の基本命題を軸に、法学の世界へ受講生を誘っていく。市民生活にとっていかに法が必要不可欠なものであるかを、具体的な法をめぐる諸問題をとりあつかいながら考えていきたい。

到達目標:　法的思考方法を学び、自分の言葉で「法とは何か」を考えていく力を養う。

授業方法:　講義形式をとって毎回授業を行うが、必要に応じて法への理解を深めるため死刑制度や裁判員制度等のビデオ教材も使用する。なお、簡単な質問をしたりして、受講生の理解度を確認しながら進めていくこともある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	法とは何か？I （六法・法と社会）	法律にかかわるニュースに注目し、新聞や雑誌のコピーなどをノートに貼って講義ノートを充実させること。テキストは指摘箇所を中心に何度もくりかえし読むこと。 テキスト プロローグの1・2
2.	法とは何か？II （法の定義）	テキスト プロローグの1・2
3.	裁判と法I （刑事裁判・刑法とは？）	テキスト プロローグの1・2
4.	裁判と法II （少年法・犯罪被害者基本法）	テキスト 第5章
5.	裁判と法III （死刑制度・冤罪）	テキスト 第4章・5章
6.	裁判と法IV （民事裁判・民法とは？）	テキスト 第3章・5章
7.	裁判と法V （裁判員制度とは？）	テキスト 第5章の3
8.	裁判と法VI （裁判員制度の意義）	テキスト 第5章の3
9.	生命と法I （生殖技術・代理母）	テキスト 第7章の1
10.	生命と法II （脳死・臓器移植・安楽死・尊厳死）	テキスト 第7章の1
11.	女性の権利I （人権とは？）	テキスト 第1章・2章・3章
12.	女性の権利II （改正男女雇用機会均等法）	テキスト 第1章・2章・3章・7章の3
13.	女性の権利III （夫婦別姓問題）	テキスト 第1章・2章・3章・7章の3
14.	法と正義・法と道徳(1)	テキスト プロローグの1・2・3
15.	法と正義・法と道徳(2)	テキスト プロローグの1・2・3

受講者へのメッセージやアドバイス:　知識の暗記ではなく、「法とは何か」という基本テーマを念頭に法学を通じて考えることを心がけること。

フィードバックの方法:　講義時の理解度を含め質問や対話の時間を毎回5～10分程度設定予定。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	法とは何かという基本的なテーマを踏まえて、設問に的確にこたえているか、法的知識は正確か、論理的内容か、自分の考えをしっかり論じているか、などの点が評価基準です。
授業中に書ける程度のレポート（1～2回）	20%	ビデオを通じて、内容を正確に把握しているか、そして内容に対して自分はどう考えるかを論理的に記述できているかを評価基準とします。

教科書:　竹下・沼口・角田・竹村編著『第5版入門法学−現代社会の羅針盤−』（晃洋書房、2018年）

参考書:　講義の中で、その都度紹介していく。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　講義終了後に、勉強の仕方や説明に時間のかかる質問等に答える。

056200

情報と社会

池田　　知隆

授業テーマ:　情報社会を生き抜くための”眼力”を鍛えよう。

授業の概要:　グローバル化、情報化が激しく進展している現代世界を生きていくうえで、私たちが暮らしている社会、国家について正確な知識を身につけ、意見をもつことは極めて重要です。そのためには日々洪水のように流れている情報をどのように読み解いていけばいいのでしょうか。また情報がどのように社会の変化をうながし、また一方で近代化のなかで日本人はその情報とどのように格闘してきたのでしょうか。この講義では、日本近現代における情報をめぐる社会史をたどりながら、さまざまな人々が同時代の情報をどのように受け止め、自ら「経験」化して内面を豊かにしていったのか、現代社会を縦（歴史）と横（時事的な世界情勢）の両面から探っていきます。

到達目標:　社会の複雑で多様な問題について、多彩な視点を比較、検討しながら、自分の問題として考える習慣を身に着けてほしい。そのための情報リテラシーを獲得する方法に習熟する。

授業方法:　講義当日の新聞各紙を題材に現代世界の動きを解説。それらの諸問題を近代史を重ねながら分析し、視聴覚教材などを活用しながら、受講生のみなさんと双方向で興味深く、濃い内容のものにしていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義ガイダンス。情報社会を生き抜く力とはなにか。自分とはなにか。	当日の新聞やテレビのニュースをみて、いま何が問題になっているのか、考えてほしい。
2.	情報と世界「新聞の父」ジョセフ彦（浜田彦蔵）のまなざし。日本における新聞誕生の歴史。	江戸期の鎖国をめぐって。
3.	情報と知識日本の近代化の礎を築いた福沢諭吉の生き方と思想を考える。富国強兵をめぐって。	同志社創立者、新島襄と同じように慶応義塾の創設者でもある福沢諭吉の人物像について概要をつかむ。
4.	情報と政治”東洋のルソー”といわれる中江兆民。福沢諭吉と比較しながら、自由民権運動や日本近代化のもう一つの道について考える。民主政治となにか。	中江兆民の人物像について。
5.	情報と批評明治期のジャーナリスト、宮武外骨の格闘。滑稽新聞から明治新聞雑誌文庫へ。	宮武外骨の人物像について
6.	情報と大衆明治期の大衆紙を発行し、スキャンダル情報によって国民の意識を高めた黒岩涙香を中心に。海外文学翻訳から万朝報発行へ。	黒岩涙香の人物像について。
7.	情報と軍事軍人からジャーナリストになった水野広徳を中心に。軍事と情報をどのように考えるか。国家と情報をめぐって。	水野広徳の人物像について
8.	情報と国家　　国家による情報統制、世論形成をめぐって昭和の歴史を通して考える。	新聞、ラジオなどマスメディアの登場と社会の変容について
9.	情報と映画映画によるグローバル化の現状を比較社会学的に考察する。世界の映画で日本はどのように描かれているのか。	佐藤忠男の映画論―アジアからみた日本像
10.	情報と伝承　日本人の生活、伝承を長期的な視点から見つめる。日本人はどのように形成されてきたのか。	柳田国男の仕事について
11.	情報と正義国際的な事件を通して日本と世界の文明の比較し、どのような視点で見たらいいのか、考える。	立花隆の仕事について
12.	情報とジャーナリズム　科学的な情報リテラシーと世界紛争の現場学をめぐって。	山本美香の仕事について
13.	情報と生活日本人の生活文化を観察した宮本常一を中心に。旅する学者の観察術。	宮本常一の人物像について
14.	情報とマスメディアかつてメディアのご意見番といわれた大宅壮一をめぐって。無思想の思想と大宅文庫。	大宅壮一の人物像について
15.	情報社会の未来まとめ。高度情報化社会の光と影について考える。	15回にわたる講義内容を振り返り、日本の近現代史とこれからの社会について整理しながら考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、講義日当日の新聞朝刊各紙の注目記事をとりあげ、ジャーナリスト、研究者、芸術家などの多彩な視点を通して社会の動きを考えます。受講生のみなさんもできるだけ新聞やテレビのニュースに目を配り、自分だったらどう考えるか、と常に意識してほしい。

フィードバックの方法:　個々の提出物（コメント、質問）については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	課題についての理解し、自分でどこまで考えているかを見ます。
コメント	30	コメント内容から積極性を評価します。
授業への参加度	20	出席状況などから評価します。

教科書:　毎回、資料を配布します。特に教科書はありません。

参考書:

見田宗介著「社会学入門」（岩波新書）
池田知隆著「新聞記者」（実業之日本社）
池田知隆著「ほんの昨日のこと」（みずのわ出版）
岩波新書編集部編「日本の近現代史をどう見るか〈シリーズ 日本近現代史 10〉」（岩波新書）
アルビン・トフラー著「第3の波」（中公文庫）
原武史著「知の訓練」（新潮新書）
三浦瑠麗著「日本に絶望している人のための政治入門」（文春新書）
細野雄一著「安保論争」（ちくま新書）
井上智洋著「人工知能と経済の未来」（文春新書）
中島岳志・島薗進著「愛国と信仰の構造」（集英社新書）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力
教員との連絡方法：	メールで連絡してください。アドレスはikedatomotaka@nifty.com

0901S1、S2

Study Abroad:English Ⅰ

国際部長

授業テーマ:	高度な英語運用能力の獲得
授業の概要:	本科目は、国際部が提供するセメスター語学留学制度に係る科目である。 制度の詳細等については国際課で確認すること。
到達目標:	・高いレベルの自律的な語学学習者(Autonomous Learner)となること。 ・外国や日本の文化・社会等について、知的関心を広げ、知的探究心を養うこと。
授業方法:	事前学習および事後学習は講義並びに口頭発表形式。留学先英語研修機関での学習は現地の機関によるが、留学期間中には月報の提出などを求める。また、留学開始前および帰国後には留学生全員にTOEICの受験とスコアの提出を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	(1)事前学習 第1回　オリエンテーション	
2.	(1)事前学習 第2回 留学先英語研修機関スタッフ及び過去の留学生との懇談	
3.	(1)事前学習 第3回 研究・学習計画の発表及び質疑応答ならびにTOEIC受験	自分の英語能力については、現状をよく把握するとともに、それを目標達成までに高める努力を日常的に行うこと。 研究テーマについては、日本国内で事前調査を行うと同時に現地ではどのようなリソースがあるのかを把握しておくこと。
4.	(2)留学先英語研修機関での学習 第4回～第14回 留学先英語研修機関での学習および月報の提出 ※現地での授業回数は留学先機関による。	
5.	(3)事後学習 第15回　研究発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 事前・事後学習での発表に対する講評、および、留学中は月次報告(Monthly Report)に国際部長がコメントを付けて返却、指導する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前学習における発表	20%	
月次報告(Monthly Report)	10%	
事後学習における発表及びレポート	40%	
TOEICの点数	20%	留学前の点数・留学後の点数
事前・事後学習の出席状況	10%	

教科書: なし。

参考書: なし。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 国際課に問い合わせる。

0901S2

Study Abroad:English Ⅰ

丸山　　敬介

授業テーマ:　高度な英語運用能力の獲得

授業の概要:　本科目は、国際部が提供するセメスター語学留学制度に係る科目である。
制度の詳細等については国際課で確認すること。

到達目標:
・高いレベルの自律的な語学学習者(Autonomous Learner)となること。
・外国や日本の文化・社会等について、知的関心を広げ、知的探究心を養うこと。

授業方法:　事前学習および事後学修は講義並びに口頭発表形式。留学先英語研修機関での学習は現地の機関によるが、留学期間中には月報の提出などを求める。また、留学開始前および帰国後には留学生全員にTOEICの受験とスコアの提出を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	(1)事前学習 第1回　オリエンテーション	
2.	(1)事前学習 第2回　留学先英語研修機関スタッフ及び過去の留学生との懇談	
3.	(1)事前学習 第3回　研究・学習計画の発表及び質疑応答ならびにTOEIC受験	自分の英語能力については、現状をよく把握するとともに、それを目標達成までに高める努力を日常的に行うこと。 研究テーマについては、日本国内で事前調査を行うと同時に、現地ではどのようなリソースがあるのかを把握しておくこと。
4.	(2)留学先英語研修機関での学習 第4回～第14回　留学先英語研修機関での学習および月報の提出 ※現地での授業回数は留学先機関による。	
5.	(3)事後学習 第15回　研究発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　事前・事後学習での発表に対する講評、および、留学中は月次報告（Monthly Report）に国際部長がコメントを付けて返却、指導する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前学習における発表	20%	
月次報告（Mothly Report）	10%	
事後学習における発表及びレポート	40%	
TOEICの点数	20%	留学前の点数・留学後の点数
事前・事後学習の出席状況	10%	

教科書:　なし。

参考書:　なし。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　国際課に問い合わせる。

142161～64 **Reading Ⅰ**

玉田　佳子、久松　知佐子、井上　聖子、大塚　朝美

授業テーマ:　英文を正確に読み理解する英語運用能力の基礎ストラテジーを身につける

授業の概要:
(1) CALL教材のSuper Englishの語彙テスト(VQ)を毎回おこなう。
(2) TOEICの　Grammar とReading 問題の解き方を実践的におこなう。
(3) Dialogue 1800 の昨今のアメリカの時事問題を対話形式において学ぶ。
(4) Dialogue 1800と関連したトピックの英語圏の記事をNews Flashで速読し、要約等の課題をする。

到達目標:
(1) 読解の基礎能力を育成する(文型・文法に関する知識の確認と向上・ 語彙能力の向上・難解な文章でも読み進める忍耐力の育成)。
(2) 英語読解のストラテジーを身につける(類推の方法・速読の方法・パラグラフ構造の理解と活用方法・ジャンルによる特色の活用方法・文法情報や語彙情報の活用の仕方)。
(3) 多くの文章に実際に触れ、読み進める機会を増やす(授業外で、実際に原書などの英文に触れる)。

授業方法:
(1) CALL教室で、アナライザーを使ったVQ(語彙テスト)を行い、学生に勉強の成果を確認させる。
(2) TOEIC問題集、Dialogue 1800、News Flashについては、音読、ペア・ワーク、グループ発表等を通じて、語彙知識、文法知識、速読と読解力を向上させる。
(3) 提出物には可能な限り、評価とコメントを書いて返却する。
(4) 全体としては、教員と学生との双方向の授業をこころがける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　1 ・英語学習についてのアンケート ・シラバスの説明 ・CALL教室の使い方のレクチャ	90分の授業の流れの把握。予習と宿題の確認。CALL教室の使い方の学習。
2.	オリエンテーション　2 ・CALL教材のSuper English、 ALC :Net Academy 2 へのアクセス ・速読のストラテジー学習	CALL教室の使い方とCALL教材の使い方の学習。
3.	・Vocabulary Quizの練習問題 ・TOEIC (Drill 1G) ・Dialogue 1800 (7. Potluck party) ・News Flash 1	Vocabulary Quiz(語彙テスト)の予習とNews Flashの課題。
4.	・VQ1 ・TOEIC (Drill 5, 9R) ・Dialogue 1800 (16. Credit card) ・News Flash 2	VQの予習とNFの課題。
5.	・VQ2 ・TOEIC (Drill 2G) ・Dialogue 1800 (27. Welcome announcement) ・News Flash 3	VQの予習とNFの課題。
6.	・VQ3 ・TOEIC (Drill 6, 10R) ・Dialogue 1800 (33. Making appointment) ・News Flash 4	VQの予習とNFの課題。
7.	・VQ4 ・TOEIC (Drill 3G) ・Dialogue 1800 (43. Getting fatter?) ・News Flash 5	VQの予習とNFの課題。
8.	・VQ5 ・TOEIC (Drill 7, 11R) ・Dialogue 1800 (19. Casual Friday) ・News Flash 6	VQの予習とNFの課題。
9.	・VQ6 ・TOEIC (Drill 4G) ・Dialogue 1800 (67. Internship program) ・News Flash 7	VQの予習とNFの課題。
10.	・VQ7 ・TOEIC (Drill 8, 12R) ・Dialogue 1800 (88. The jury system) ・News Flash 8	VQの予習とNFの課題。
11.	・VQ8 ・TOEIC (Drill 13G) ・Dialogue 1800 (95. American Spanish) ・News Flash 8 ・CALL教材SRA導入	VQの予習とNFの課題。
12.	・VQ9 ・TOEIC (Drill 17 21R) ・Dialogue 1800 (98. Daycare system) ・News Flash 9	VQの予習とNFの課題。
13.	・VQ10 ・TOEIC (Drill 14G) ・Dialogue 1800 (30. Mental Training) ・News Flash 10	VQの予習とNFの課題。
14.	・VQ11 ・TOEIC (Drill 18, 22R) ・CALL教材SRA導入	春学期の復習。 夏休みの課題: ・英文の原書(150頁から400頁)を読み感想文を書く。 ・SRA(20-40話)を読む。
15.	まとめ	学年末試験の準備。

受講者へのメッセージやアドバイス:
Vocabulary Quizの予習とNews Flash の要約等の課題を手を抜くことなく取り組むこと。
CALL教材を授業時間以外にも、CALL教室や自宅で自主学習すること。

フィードバックの方法:
Vocabulary Quizの成績はアナライザーにより確認できる。
News Flash の要約等の課題には、評価とコメントを書いて返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学年末共通試験	60%	授業中に学んだ、News FlashとTOEICからの50問と応用問題10問の合計60満点で、授業内容の理解度を評価する。
	Vocabulary Quiz	15%	毎回のVQの累計により評価する。
	News Flash 等の課題の提出	10%	NFの課題を毎回きちんと提出しているかを評価する。
	受講態度（出欠を含む）	15%	授業に積極的に参加し、能動的に学んでいるかを評価する。

教科書: Dialogue 1800 （旺文社）
TOEICテキストについては担当者によって異なる。

参考書: 必要に応じて、プリント等を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: E－mail
オフィス・アワー

142261～64 **Reading Ⅱ**

玉田　佳子、久松　知佐子、井上　聖子、大塚　朝美

授業テーマ: 英文を多量に読み理解する英語運用能力のストラテジーを身につける

授業の概要:
(1) CALL教材のSuper Englishの語彙テスト(VQ)を毎回おこなう。
(2) TOIEICの Grammar とReading 問題の解き方を実践的におこなう。
(3) Dialogue 1800 の昨今のアメリカの時事問題を対話形式において学ぶ。
(4) Dialogue 1800と関連したトピックの英語圏の記事をNews Flashで速読し、要約等の課題をする。
(5) CALL教材のSRAを使って、速読力と読解力を向上させる。

到達目標:
(1) 多くの文章に実際に触れ、読み進める機会を増やす(授業外でも、実際に原書などの英文に触れ、英語のインプットを増やす)。
(2) 読解の基礎能力を育成する、特に、語彙能力の向上をはかる。
(3) 英語読解のストラテジーを身につける(類推の方法・速読の方法・パラグラフ構造の理解と活用方法・ジャンルによる特色の活用方法・文法情報や語彙情報の活用の仕方)。

授業方法:
(1) CALL教室で、アナライザーを使ったVQ(語彙テスト)を行い、学生に勉強の成果を確認させる。
(2) TOEIC問題集、Dialogue 1800、News Flashについては、音読、ペア・ワーク、グループ発表等を通じて、語彙知識、文法知識、速読と読解力を向上させる。
(3) 提出物には可能な限り、評価とコメントを書いて返却する。
(4) 全体としては、教員と学生との双方向の授業をこころがける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・TOEIC (Drill 15G) ・Dialogue 1800 (6. Information Kiosk) ・News Flash 1 ・SRA	夏休みの課題の提出等。
2.	・VQ1 ・TOEIC (Drill 9,23R) ・Dialogue 1800 (22. Rent-a-car) ・News Flash 2 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
3.	・VQ2 ・TOEIC (Drill 16G) ・Dialogue 1800 (33. Broadway) ・News Flash 3 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
4.	・VQ3 ・TOEIC (Drill 20, 24R) ・Dialogue 1800 (40. Cosmetic surgery) ・News Flash 4 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
5.	・VQ4 ・TOEIC (Drill 25G) ・Dialogue 1800 (11. Dialing 911 is no joke!) ・News Flash 5 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
6.	・VQ5 ・TOEIC (Drill 29, 33R) ・Dialogue 1800 (50. Ozone layer) ・News Flash 6 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
7.	・VQ6 ・TOEIC (Drill 26G) ・Dialogue 1800 (60. Husband on child-care leave) ・News Flash 7 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
8.	・VQ7 ・TOEIC (Drill 30, 34R) ・Dialogue 1800 (76. Digital Diet) ・News Flash 8 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
9.	・VQ8 ・TOEIC (Drill 27G) ・Dialogue 1800 (84. The UN and the US) ・News Flash 9 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
10.	・VQ9 ・TOEIC (Drill 31, 35R) ・Dialogue 1800 (94. Glass ceiling) ・News Flash 10 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
11.	・VQ10 ・TOEIC (Drill 28G) ・Dialogue 1800 (78. I love you!) ・News Flash 11 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
12.	・VQ11 ・TOEIC (Drill 32, 36R) ・Dialogue 1800 (20. Evaluating instructors) ・News Flash 12 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
13.	・VQ 12 ・SRA	VQの予習とNFの課題等。
14.	・SRA ・英語学習アンケート	秋学期の復習。

15.	まとめ	学年末試験の準備。

受講者へのメッセージやアドバイス:
Vocabulary Quizの予習とNews Flash の要約等の課題を手を抜くことなく取り組むこと。
CALL教材を授業時間以外にも、CALL教室や自宅で自主学習すること。
英語の原書を自主学習として読むこと。

フィードバックの方法:
Vocabulary Quizの成績はアナライザーにより確認できる。
News Flash の要約等の課題には、評価とコメントを書いて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学年末試験	60%	授業中に学んだ、News FlashとTOEICからの50問と応用問題10問の合計60満点で、授業内容の理解度を評価する。
Vocabulary Quiz	15%	毎回のVQの累計により評価する。
News Flash 等の課題の提出・TOEICやSRA伸び率	10%	NFの課題を毎回きちんと提出しているか評価する。 TOEIC（Reading）の伸び率やSRAの伸び率も加算する。
受講態度（出欠を含む）	10%	授業に積極的に参加し、能動的に学んでいるかを評価する。
夏休みの宿題	5%	原書の感想文とSRAの課題の提出を評価する。

教科書:
Dialogue 1800 （旺文社）
TOEICテキストについては担当者によって異なる。

参考書:
必要に応じて、プリント等を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:
Ｅ－mail
オフィス・アワー

142361～68 **Writing Skills Ⅰ**

風間　末起子、北尾　キャスリーン、小山　薫、甲元　洋子、玉田　佳子、辻　英子、湊　圭史、J.W.Carpenter

授業テーマ:　英作文を中心とした大学生にふさわしい高度な英語運用能力の習得

授業の概要:　この授業では、20名程度の少人数クラスで英語による「読み書き」の基礎固めを行う。Reading I,Speaking I, Active Listening Ⅰとの連携をはかりながら、ライティングの基本を訓練し、英語運用能力の向上を目指す。

到達目標:
1. 英語のライティング能力を養い、様々な種類の効果的なパラグラフが書けるようにする。
2. 英文ライティングを学ぶ中で、英語と日本語の言語構造の違いについても理解を深める。
3. 各自が自己の英語能力を把握し、伸ばす方法を考える力を養う。

授業方法:　演習形式で授業を行う。授業中の活動内容は以下の通りである。フリーライティング（10分）、英文読解（20分）、ボキャブラリーや文法事項等に関する補足説明、パンクチュエーション・ルールの学習、質疑応答、小テストなど（30分）、英作文の指導（30分）。なお、それぞれの活動にかける時間は、授業の進度や内容によって適宜変化する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション　1）フリー・ライティングについての解説と実践　2）パラグラフ・ライティングとは何か　3）パンクチュエーション・ルールの学習 ＊最初の数回の授業時間のどこかで、図書館オリエンテーションを行う。どの会に行うかは、クラスによって異なる。	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
2.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
3.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
4.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
5.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
6.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
7.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
8.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
9.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
10.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
11.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
12.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
13.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
14.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　英作文の課題は添削をして返却する。試験（授業中の小テストや学期末の共通試験）に関しては、可能な範囲で、採点をして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
英作文の課題（2回）	40%	授業で学んだライティングの知識を活用し、効果的なパラグラフが書けているかを評価する。
学期末共通試験	30%	授業で学んだ内容の理解度により評価する。
フリー・ライティング、小テストおよび受講態度	30%	授業に積極的に参加し、授業内容を理解しているかどうか、さらには、学んだ内容を活用し、自らの能力をさらに伸ばそうと努力しているかどうかを評価する。

教科書:　担当者によって異なる。

参考書:　開講時に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力
教員との連絡方法:	各担当者より授業時に連絡方法を伝える。

142461～68 **Writing Skills Ⅱ**

風間　末起子、北尾　キャスリーン、小山　薫、甲元　洋子、玉田　佳子、辻　英子、湊　圭史、J.W.Carpenter

授業テーマ:　英作文を中心とした大学生にふさわしい高度な英語運用能力の習得

授業の概要:　この授業では、「Writing Skills Ⅰ」に引き続き、20名程度の少人数クラスで英語による「読み書き」の基礎固めを行う。Reading Ⅱ,Speaking Ⅱ,Active Listening Ⅱとの連携をはかりながら、ライティングの基本を訓練し、英語運用能力の向上を目指す。

到達目標:
1. 英語のライティング能力を養い、様々な種類の効果的なエッセイが書けるようにする。
2. 英語ライティングを学ぶ中で、英語と日本語の言語構造の違いについても理解を深める。
3. 各自が自己の英語能力を把握し、伸ばす方法を考える力を養う。

授業方法:　演習形式で授業を行う。授業中の活動内容は以下の通りである。フリーライティング（10分）、英文読解（20分）、ボキャブラリーや文法事項等に関する補足説明、質疑応答、小テストなど（30分）、英作文の指導（30分）。なお、それぞれの活動にかける時間は、授業の進度や内容によって適宜変化する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション　1）フリー・ライティングのテーマを提示　2）エッセイ・ライティングの説明	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
2.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
3.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
4.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
5.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
6.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
7.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
8.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
9.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
10.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
11.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
12.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
13.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
14.	1）フリー・ライティング　2）英文読解と英文法復習　3）英作文指導	授業で学んだ重要事項を必ず復習し、次回の授業で進む範囲を予習しておくこと。提出課題がある場合は、必ず、期限までに決められた場所に提出すること。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　英作文の課題は添削をして返却する。試験（授業中の小テストや学期末の共通試験）に関しては、可能な範囲で、採点をして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
英作文の課題（2回）	40%	授業で学んだライティングの知識を活用し、効果的なエッセイが書けているかを評価する。
学期末共通試験	30%	授業で学んだ内容の理解度により評価する。
フリー・ライティング、小テストおよび受講態度	30%	授業に積極的に参加し、授業内容を理解しているかどうか、さらには、学んだ内容を活用し、自らの能力をさらに伸ばそうと努力しているかどうかを評価する。

教科書:　担当者によって異なる。

参考書:　開講時に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:	各担当者より授業時に連絡方法を伝える。

142861～74

Speaking Ⅰ

授業テーマ:

Speaking in English

授業の概要:

Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input.

到達目標:

Speaking I aims to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 1-10 of the Impact Issues textbook series, which will be chosen to best meet the needs of each student group.

授業方法:

Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations.
There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Speaking Task 1 preparation
2.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 1 preparation
3.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 1	Speaking Task 2 preparation
4.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Speaking Task 2 preparation
5.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 2 preparation
6.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	Speaking Task 2 preparation
7.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context. Speaking Task 2	Speaking Task 3 preparation
8.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 3 preparation
9.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.Speaking Task 3	Speaking Task 3 preparation
10.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Speaking Task 4 preparation
11.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 4 preparation
12.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 4	Speaking Task 4 preparation
13.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Lesson preparation to be decided by the teacher.
14.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Lesson preparation to be decided by the teacher.
15.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	Lesson preparation to be decided by the teacher.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

There will be four assessed speaking tasks, and feedback will be given on Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Speaking Task 1	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Speaking Task 2	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Speaking Task 3	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Speaking Task 4	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Participation and preparation	20	To be decided by teachers.

教科書:

Classes A,B,C: Impact Issues 1 ISBN: 9789620199301
Classes D,E,F: Impact Issues 2 ISBN: 9789620199318

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、
教員との連絡方法:	dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

142961～74

Speaking Ⅱ

授業テーマ:

Speaking in English

授業の概要:

Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input. Speaking II aims to build on the progress students have made in Speaking I by continuing to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 11-20 of the Impact Issues textbook series, which will be chosen to best meet the needs of each student group.

到達目標:

There will be a Speaking Contest held in December, where representative pairs from each class will perform one of their assessed speaking tasks, demonstrating good pronunciation, accuracy, content and engagement with each other/the audience.

授業方法:

Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations.
There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 1
2.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 1
3.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 1	Preparation for Speaking Task 1
4.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 2
5.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 2
6.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 2	Preparation for Speaking Task 3
7.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 3
8.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 3
9.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 3	Preparation for Speaking Task 4
10.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 4
11.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 4
12.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 4	Lesson Preparation as directed by the teacher.
13.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Lesson Preparation as directed by the teacher.
14.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Lesson Preparation as directed by the teacher.
15.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	Lesson Preparation as directed by the teacher.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

There will be four assessed speaking tasks, and feedback will be given on Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Speaking Task 1	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Speaking Task 2	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Speaking Task 3	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Speaking Task 4	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Participation and preparation	20	To be decided by teachers

教科書:	Classes A,B,C: Impact Issues 1 ISBN: 9789620199301 Classes D,E,F: Impact Issues 2 ISBN: 9789620199318
参考書:	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、
教員との連絡方法:	dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

143060

Intermediate Speaking Ⅰ

D.Clayton

授業テーマ:

Speaking in English

授業の概要:

Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input.

到達目標:

Speaking I aims to increase students'confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 1-10 of the Impact Issues textbook series, which will be chosen to best meet the needs of each student group.

授業方法:

Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations.
There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Speaking Task 1 preparation
2.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 1 preparation
3.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	Speaking Task 2 preparation
4.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Speaking Task 2 preparation
5.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 2 preparation
6.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	Speaking Task 2 preparation
7.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context. Speaking Task 2	Speaking Task 3 preparation
8.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 3 preparation
9.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.Speaking Task 3	Speaking Task 3 preparation
10.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Speaking Task 4 preparation
11.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 4 preparation
12.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking task 4	Lesson preparation to be decided by the teacher.
13.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Lesson preparation to be decided by the teacher.
14.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Lesson preparation to be decided by the teacher.
15.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

There will be four assessed speaking tasks, and feedback will be given on Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Speaking Task 1	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Speaking Task 2	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Speaking Task 3	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Speaking Task 4	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Participation and preparation	20	To be decided by the teacher

教科書:

Impact Issues 3 ISBN: 978-962-01-9932-5

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、
教員との連絡方法:	dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

143160

Intermediate Speaking Ⅱ

D.Clayton

授業テーマ:

Speaking in English

授業の概要:

Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input. Speaking II aims to build on the progress students have made in Speaking I by continuing to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 11-20 of the Impact Issues textbook series, which will be chosen to best meet the needs of each student.

到達目標:

There will be a Speaking Contest held in December, where representative pairs from each class will perform one of their assessed speaking tasks, demonstrating good pronunciation, accuracy, content and engagement with each other/the audience.

授業方法:

Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations.
There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 1
2.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 1
3.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 1	Preparation for Speaking Task 1
4.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 2
5.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 2
6.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 2	Preparation for Speaking Task 3
7.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 3
8.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 3
9.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 3	Preparation for Speaking Task 4
10.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 4
11.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 4
12.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 4	Lesson Preparation as directed by the teacher.
13.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Lesson Preparation as directed by the teacher.
14.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Lesson Preparation as directed by the teacher.
15.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	Lesson Preparation as directed by the teacher.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

There will be four assessed speaking tasks, and feedback will be given on Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Speaking Task 1	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Speaking Task 2	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Speaking Task 3	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Speaking Task 4	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Participation and preparation	20	To be decided by the teacher

教科書:　Impact Issues 3 ISBN: 978-962-01-9932-5

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、

教員との連絡方法:　dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

143260

Advanced Speaking Ⅰ

D.Clayton

授業テーマ:

Speaking in English

授業の概要:

Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input.

到達目標:

Speaking I aims to increase students'confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 1-10 of the Impact Issues textbook series, which will be chosen to best meet the needs of each student group.

授業方法:

Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations.
There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Speaking Task 1 preparation
2.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 1 preparation
3.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	Speaking Task 2 preparation
4.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Speaking Task 2 preparation
5.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 2 preparation
6.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	Speaking Task 2 preparation
7.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context. Speaking Task 2	Speaking Task 3 preparation
8.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 3 preparation
9.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.Speaking Task 3	Speaking Task 3 preparation
10.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Speaking Task 4 preparation
11.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Speaking Task 4 preparation
12.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking task 4	Lesson preparation to be decided by the teacher.
13.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Lesson preparation to be decided by the teacher.
14.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Lesson preparation to be decided by the teacher.
15.	Materials selected from Units 1-10 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

There will be four assessed speaking tasks, and feedback will be given on Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Speaking Task 1	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Speaking Task 2	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Speaking Task 3	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Speaking Task 4	20	Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.
Participation and preparation	20	To be decided by the teacher

教科書:

Impact Issues 3 ISBN: 978-962-01-9932-5

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、
教員との連絡方法:	dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

143360

Advanced Speaking Ⅱ

D.Clayton

授業テーマ:

Speaking in English

授業の概要:

Students will develop their speaking skills by practicing a range of speech acts in small groups. This fluency practice will be supported by functional language input. Speaking II aims to build on the progress students have made in Speaking I by continuing to increase students' confidence, accuracy and fluency when speaking. The course will be centred on units 11-20 of the Impact Issues textbook series, which will be chosen to best meet the needs of each student.

到達目標:

There will be a Speaking Contest held in December, where representative pairs from each class will perform one of their assessed speaking tasks, demonstrating good pronunciation, accuracy, content and engagement with each other/the audience.

授業方法:

Activities will include reviewing conversations showing the lesson subject in context, giving opinions about the lesson subject, controlled practice of functional language, discussion, debate, role plays and presentations.
There will be four assessed speaking tasks during the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 1
2.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 1
3.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 1	Preparation for Speaking Task 1
4.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 2
5.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 2
6.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 2	Preparation for Speaking Task 3
7.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 3
8.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 3
9.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 3	Preparation for Speaking Task 4
10.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Preparation for Speaking Task 4
11.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Preparation for Speaking Task 4
12.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation. Speaking Task 4	Lesson Preparation as directed by the teacher.
13.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Warm Up: Pairwork, Situation: A conversation to put the topic in context.	Lesson Preparation as directed by the teacher.
14.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Listening to opinions and functional language input.	Lesson Preparation as directed by the teacher.
15.	Materials selected from Units 11-20 of the Impact Issues series. Extending the topic: discussion and roleplay, presentation preparation.	Lesson Preparation as directed by the teacher.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

There will be four assessed speaking tasks, and feedback will be given on Pronunciation, Accuracy, Content and Engagement.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Speaking Task 1	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Speaking Task 2	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Speaking Task 3	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Speaking Task 4	20	Pronunciation, Accuracy, Content, Engagement.
Participation and preparation	20	To be decided by the teacher

教科書:　Impact Issues 3 ISBN: 978-962-01-9932-5

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、

教員との連絡方法:　dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

143461～64 **Active Listening Ⅰ**

今井　由美子、平岩　葉子、上田　洋子

授業テーマ:　英語リスニング力向上をめざす

授業の概要:　次の４点を重視しながら、学習者が能動的にリスニングに取り組むアクティブ・ラーニングの手法を用い、英語のリスニング練習を行う。
(1) 種々の題材を使って、多くの英語を聴き、直解型の理解力の習得を目指す。
(2) 英語の母音・子音について学び、英語音声を聴き取るための基盤を語レベルで強化する。さらに自然な発話状態での英語の語と語の間の音変化の法則、句における強勢やピッチ、文全体のイントネーションの理解につなげていく。
(3) リスニングに必要とされるストラテジーを習得する。
(4) リスニングに必要とされる豊富な語彙力をつける。
また、この授業においては、英語音声を「聞く」活動を「話す」(メモをもとにretelling)活動、「書く」(dictation, note-taking, summary writing)活動、「読む」(summary を読む)活動などへつなげる統合的言語活動を目指す。

到達目標:　英語を聴き、理解するためのリスニング・スキルの基礎を身につけることを目標とする。リスニング力を身につけることは、大学での英語による授業を理解することに直結する。TOEIC テストにおけるスコアアップを目指す。教職を希望する受講生は、将来、中学校及び高等学校において英語で指導する際、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を高めつつ英語でインタラクションを進めていくことができるよう、柔軟な英語運用能力を身につけることを目標とする。

授業方法:　授業はCALL教室で行う。週一回90分の授業であるが、リスニング力の養成のためには習慣的に多くの英語のインプットを得ることが必須であり、そのためにディクテーションを中心とした課題を多種用意している。リスニング力を効率よく向上させるために、受講者各々が、受身ではなく、意欲的に知識を吸収し学ぶ姿勢で授業に臨むことが要求される。なお、受講生は音声教材を録音するUSBを各自で用意すること。教材の種類、授業の進行、課題の勉強方法など、授業の詳細については、第一回目と第二回目の授業で説明する。

自主学習課題:授業時間外にe-learningシステムによるTOEIC練習教材ALC Net Academy 2を各自行うものとし、春学期終了までにListening partの30%を終了していること。″

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	CELT、オリエンテーション1(ログイン指導を含む)	特になし
2.	オリエンテーション2、VLT, ALC(診断テスト) 提出課題配布 開始	ALC自主学習　Listening partの30%　開始、提出課題開始
3.	TOEIC-(1)、Dialogue-(1)、SMP-(1)、Tactics-(1)、映画-(1)	課題提出(なか日・授業時)
4.	TOEIC-(2)、Dialogue-(2)、SMP-(2)、Tactics-(2)、映画-(2)	課題提出(なか日・授業時)
5.	TOEIC-(3)、Dialogue-(3)、SMP-(3)、Tactics-(3)、映画-(3)	課題提出(なか日・授業時)
6.	TOEIC-(4)、Dialogue-(4)、SMP-(4)、Tactics-(4)、映画-(4)	課題提出(なか日・授業時)
7.	TOEIC-(5)、Dialogue-(5)、SMP-(5)、Tactics-(5)、映画-(5)	課題提出(なか日・授業時)
8.	TOEIC-(6)、Dialogue-(6)、SMP-(6)、Tactics-(6)、映画-(6)	課題提出(なか日・授業時)
9.	TOEIC-(7)、Dialogue-(7)、SMP-(7)、Tactics-(7)、映画-(7)	課題提出(なか日・授業時)
10.	TOEIC-(8)、Dialogue-(8)、SMP-(8)、Tactics-(8)、映画-(8)	課題提出(なか日・授業時)
11.	TOEIC-(9)、Dialogue-(9)、SMP-(9)、Tactics-(9)、映画-(9)	課題提出(なか日・授業時)
12.	TOEIC-(10)、Dialogue-(10)、SMP-(10)、Tactics-(10)、映画-(10)	課題提出(なか日・授業時)
13.	予備	課題提出(なか日・授業時)
14.	Review Test(TOEIC、Dialogue、SMP、Tactics、映画)	特になし
15.	まとめ:CELT、VLT	ALC自主学習　Listening partの30%を終了していること

受講者へのメッセージやアドバイス:　「継続は力なり」

フィードバックの方法:　授業では、各レッスンのポイントについて説明およびリスニング課題を行う。授業で扱った音声を用いてのディクテーション課題が毎週出され、課題用紙の提出が求められる(なか日、授業時)。提出された課題用紙はチェックされ返却される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回のクイズ	10%	毎回のクイズの平均点を評価に加える。
Review Test	50%	授業で扱った内容における理解度を評価に加える。
課題の提出	20%	毎回4種類の課題提出を評価に加える。
CELTテスト(2回)	20%	学期はじめと学期末に行うCELTの平均点を評価に加える。

教科書:
江熊聡子著、Listening Navigator for the TOEIC Test、(成美堂)
秋葉利治他、Dialogue Vocabulary 1800、(旺文社)
今井由美子他、Sounds Make Perfect、(英宝社)
Richards, J.C.、Expanding Tactics for Listening、(Oxford University Press)
映画:ハンドアウト

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　自己管理力、自己実現力、英語力向上

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

143561～64 **Active Listening Ⅱ**

今井　由美子、平岩　葉子、上田　洋子

授業テーマ:　英語リスニング力向上をめざす

授業の概要:　次の４点を重視しながら、学習者が能動的にリスニングに取り組むアクティブ・ラーニングの手法を用い、英語のリスニング練習を行う。
(1) 種々の題材を使って、多くの英語を聴き、直解型の理解力の習得を目指す。
(2) 英語の母音・子音について学び、英語音声を聴き取るための基盤を語レベルで強化する。さらに自然な発話状態での英語の語と語の間の音変化の法則、句における強勢やピッチ、文全体のイントネーションの理解につなげていく。
(3) リスニングに必要とされるストラテジーを習得する。
(4) リスニングに必要とされる豊富な語彙力をつける。また、この授業においては、英語音声を「聞く」活動を「話す」(メモをもとにretelling)活動、「書く」(dictation, note-taking, summary writing)活動、「読む」(summary を読む)活動などへつなげる統合的言語活動を目指す。

到達目標:　Active Listening Ⅰに続き、英語を聴き、理解するためのリスニング・スキルの基礎を身につけることを目標とする。リスニング力を身につけることは、大学での英語による授業を理解することに直結する。TOEIC テストにおけるスコアアップを目指す。教職を希望する受講生は、将来、中学校及び高等学校において英語で指導する際、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を高めつつ英語でインタラクションを進めていくことができるよう、柔軟な英語運用能力を身につけることを目標とする。

授業方法:　授業はCALL教室で行う。週一回90分の授業であるが、リスニング力の養成のためには習慣的に多くの英語のインプットを得ることが必須であり、そのためにディクテーションを中心とした課題を多種用意している。リスニング力を効率よく向上させるために、受講者各々が、受身ではなく、意欲的に知識を吸収し学ぶ姿勢で授業に臨むことが要求される。なお、受講生は音声教材を保存するUSBを各自で用意すること。教材の種類、授業の進行、課題の勉強方法など、授業の詳細については、第一回目の授業で説明する。

自主学習課題:授業時間外に e-learningシステムによる TOEIC練習教材 ALC Net Academy 2を各自行うものとし、秋学期終了までに Listening part の100%を終了していること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	CELT 、VLT、オリエンテーション	ALC自主学習　Listening partの残り70%　開始
2.	TOEIC-(11)、Dialogue-(11)、SMP-(11)、Tactics-(11)、映画-(11)	課題提出(なか日・授業時)
3.	TOEIC-(12)、Dialogue-(12)、SMP-(12)、Tactics-(12)、映画-(12)	課題提出(なか日・授業時)
4.	TOEIC-(13)、Dialogue-(13)、SMP-(13)、Tactics-(13)、映画-(13)	課題提出(なか日・授業時)
5.	TOEIC-(14)、Dialogue-(14)、SMP-(14)、Tactics-(14)、映画-(14)	課題提出(なか日・授業時)
6.	TOEIC-(15)、Dialogue-(15)、SMP-(15)、Tactics-(15)、映画-(15)	課題提出(なか日・授業時)
7.	TOEIC-(16)、Dialogue-(16)、SMP-(16)、Tactics-(16)、映画-(16)	課題提出(なか日・授業時)
8.	TOEIC-(17)、Dialogue-(17)、SMP-(17)、Tactics-(17)、映画-(17)	課題提出(なか日・授業時)
9.	TOEIC-(18)、Dialogue-(18)、SMP-(18)、Tactics-(18)、映画-(18)	課題提出(なか日・授業時)
10.	TOEIC-(19)、Dialogue-(19)、SMP-(19)、Tactics-(19)、映画-(19)	課題提出(なか日・授業時)
11.	TOEIC-(20)、Dialogue-(20)、SMP-(20)、Tactics-(20)、映画-(20)	課題提出(なか日・授業時)
12.	TOEIC-(21)、Dialogue-(21)、SMP-(21)、Tactics-(21)、映画-(21)	課題提出(なか日・授業時)
13.	予備	課題提出(なか日・授業時)
14.	Review Test(TOEIC、SMP、Tactics、映画)	特になし
15.	まとめ:CELT、VLT	ALC自主学習　Listening partの100%　終了していること

受講者へのメッセージやアドバイス:　「継続は力なり」

フィードバックの方法:　授業では、各レッスンのポイントについて説明およびリスニング課題を行う。授業で扱った音声を用いてのディクテーション課題が毎週出され、課題用紙の提出が求められる(なか日、授業時)。提出された課題用紙はチェックされ返却される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回のクイズ	10%	毎回行うクイズの平均点を評価に加える。
Review Test	50%	授業で扱った内容における理解度を評価に加える。
課題の提出	20%	毎回4種類の課題提出を評価に加える。
CELTテスト(2回)とTOEIC	20%	学期はじめと学期末に行うCELTの平均点および秋学期全員受験のTOEICリスニング得点を評価に加える。

教科書:
江熊聡子、Listening Navigator for the TOEIC Test、(成美堂)
秋葉利治他、Dialogue Vocabulary 1800、(旺文社)
今井由美子他、Sounds Make Perfect、(英宝社)
Richards, J. C.、 Expanding Tactics for Listening、(Oxford University Press)
映画:ハンドアウト

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　自己管理力、自己実現力、英語力向上

教員との連絡方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

143660

Intermediate Active Listening Ⅰ

D.Clayton

授業テーマ:

Academic Listening in English

授業の概要:

A variety of topics and listening exercises will be included in the course. There will be a focus on developing vocabulary, note taking skills and an awareness of the phonological changes in connected speech.

到達目標:

Through intensive listening activities, as well as discussion about these subjects, students'ability to understand spoken English will progress beyond the general conversation level in preparation for future academic work.

授業方法:

Students will listen to a variety of texts including lectures, radio shows, interviews, and news reports about a range of academic subjects, including history, communication and psychology.
Each student will carry out extensive listening outside of class, and develop their academic note-taking skills.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction. Note taking #1	Extensive Listening and note taking.
2.	Note taking #2, International Relations 1: Warming up - Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English - phonology	Extensive Listening and note taking.
3.	Note taking #3, International Relations 2:, Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures	Extensive Listening and note taking.
4.	International Relations 3, Critical thinking, Vocabulary review Listening Test 1	Extensive Listening and note taking.
5.	Environment 1: Warming up - Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English - phonology,	Extensive Listening and note taking.
6.	Environment 2: Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures	Extensive Listening and note taking.
7.	Environment 3: Critical thinking, Vocabulary review	Extensive Listening and note taking.
8.	Space 1: Warming up - Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English - phonology.	Extensive Listening and note taking.
9.	Space 2: Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures.	Extensive Listening and note taking.
10.	Space 3, : Critical thinking, Vocabulary review.Listening Test 2	Extensive Listening and note taking.
11.	Anthropology 1: Warming up - Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English - phonology.	Extensive Listening and note taking.
12.	Anthropology 2: Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures.	Extensive Listening and note taking.
13.	Anthropology 3: Critical thinking, Vocabulary review.	Extensive Listening and note taking.
14.	History 1: Warming up - Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English - phonology.	Extensive Listening and note taking.
15.	History 2, : Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures.Listening Test 3	Extensive Listening and note taking.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Listening tests, Listening journal checks.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Listening Tests	40	Comprehension questions.
Listening Journal	40	Quality of note taking.
Preparation and participation	20	To be decided by teacher

教科書:

Graham-Marr, Academic Listening and Speaking 2, ABAX, ISBN: 978-1-896942-88-9

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

143760

Intermediate Active Listening Ⅱ

D.Clayton

授業テーマ:

Academic Listening in English

授業の概要:

Building on the skills introduced in Intermediate Active Listening I, a variety of topics and listening exercises will be included in the course.

到達目標:

There will be a focus on developing vocabulary, note taking skills and an awareness of the phonological changes in connected speech.

授業方法:

Students will listen to a variety of texts including lectures, radio shows, interviews, and news reports about a range of academic subjects, including history, communication and psychology.
Through intensive listening activities, as well as discussion about these subjects, students' ability to understand spoken English will progress beyond the general conversation level in preparation for future academic work. Each student will carry out extensive listening outside of class, and develop their academic note-taking skills.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction. Note taking #1	Extensive Listening and note taking.
2.	Note taking #2, Fine arts 1: Warming up – Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English – phonology.	Extensive Listening and note taking.
3.	Note taking #3, Fine arts 2: Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures.	Extensive Listening and note taking.
4.	Fine arts 3: Critical thinking, Vocabulary review. Listening Test 1	Extensive Listening and note taking.
5.	Marine Science 1: Warming up – Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English – phonology.	Extensive Listening and note taking.
6.	Marine Science 2: Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures.	Extensive Listening and note taking.
7.	Marine Science 3: Critical thinking, Vocabulary review.	Extensive Listening and note taking.
8.	Education 1: Warming up – Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English – phonology.	Extensive Listening and note taking.
9.	Education 2: Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures.	Extensive Listening and note taking.
10.	Education 3: Critical thinking, Vocabulary review. Listening Test 2	Extensive Listening and note taking.
11.	Psychology 1: Warming up – Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English – phonology.	Extensive Listening and note taking.
12.	Psychology 2: Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures.	Extensive Listening and note taking.
13.	Psychology 3: Critical thinking, Vocabulary review.	Extensive Listening and note taking.
14.	Economics 1: Warming up – Vocabulary and key concepts, Understanding a lecture, Understanding natural English – phonology.	Extensive Listening and note taking.
15.	Economics 2: Student mini lectures, Focus on note taking, Understanding articles and lectures. Listening Test 3	Extensive Listening and note taking.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Listening tests, Listening journal checks.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Listening Tests	40	Comprehension questions
Listening Journal	40	Quality of note taking
Preparation and participation	20	To be decided by teacher

教科書:

Graham-Marr, Academic Listening and Speaking 2, ABAX, ISBN: 978-1-896942-88-9

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

143860

Advanced Active Listening Ⅰ

D.Waddell

授業テーマ:

This is a listening course aimed at improving your listening skills and overall communicative ability.

授業の概要:

To improve communication skills for various purposes, listening for academic purposes, and improving English listening skills in general.

到達目標:

During the semester, students will listen to interviews, lectures, and radio programs on a range of academic and challenging topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand general conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation.

授業方法:

Students will learn a number of different strategies including reflecting, activating background knowledge, predicting, listening for main ideas,and working out unknown vocabulary in order to become better listeners. Each unit of the textbook will usually take two weeks to study, with two long listening exercises covering different aspects of the same topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introductions and Orientation	Listening Exercises
2.	Unit 1 Sign Language	Listening Exercises
3.	If I had a million dollars	Listening Exercises
4.	Unit 2 Literacy and Reading	Listening Exercises
5.	The Amazing George Best	Listening Exercises
6.	Unit 3 Plants and Bees	Listening Exercises
7.	Emerging China	Listening Exercises
8.	Unit 4 The Brain and Memory	Listening Exercises
9.	Mid tern Presentation	Listening Exercises
10.	Unit 5 Anthropology	Listening Exercises
11.	How to summarize an article from the newspaper	Listening Exercises
12.	Quiz	Listening Exercises
13.	Unit 6 Money	Listening Exercises
14.	Final Presentation	Listening Exercises
15.	Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

The students should review what we did in class and do the assigned homework.

フィードバックの方法:

Students will be given results after tests. If necessary individual students will be given advice or assistance during class on an ongoing basis.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation	50%	Observation during class
Quiz	20%	Tests are graded at the level the textbook
End of term presentation	30%	Observation during class

教科書:

Blackwell, Naber
Open Forum 1: Academic Listening and Speaking
OXFORD
(Student Book 3) ISBN 9780194361132

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking ability, creativity, communication ability, compassion ability, self-management ability, self-fulfillment ability

教員との連絡方法:

davidwaddell99@yahoo.com

143960

Advanced Active Listening Ⅱ

D.Waddell

授業テーマ:

This a listening focused course aimed at improving your listening skills and overall communicative ability.

授業の概要:

To improve communication skills for various purposes, listening for academic purposes, and improving English listening skills in general.

到達目標:

During the semester, students will listen to interviews, lectures, and radio programs on a range of academic and challenging topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand general conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation.

授業方法:

Students will learn a number of different strategies including reflecting, activating background knowledge, predicting, listening for main ideas,and working out unknown vocabulary in order to become better listeners. Each unit of the textbook will usually take two weeks to study, with two long listening exercises covering different aspects of the same topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	What we eat	Listening exercises
2.	Unit 7 Fitness and Stress	Listening exercises
3.	Fast Food Part 1	Listening exercises
4.	Unit 8 Community and Social Involvement	Listening exercises
5.	Fast Food Part 2	Listening exercises
6.	Mid term presentation	Listening exercises
7.	Unit 9 Water and Weather	Listening exercises
8.	Global Warming	Listening exercises
9.	Unit 10 Explorers and Ellis Island	Listening exercises
10.	Helping the Environment	Listening exercises
11.	Quiz	Listening exercises
12.	Unit 11 Math and Computers	Listening exercises
13.	Starbucks	Listening exercises
14.	End of term presentation	Listening exercises
15.	Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

The students should review what we did in class and do the assigned homework.

フィードバックの方法:

Students will be given results after tests. If necessary individual students will be given advice or assistance during class on an ongoing basis.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation	50%	Observation during class
Quiz	20%	Tests are graded at the level the textbook
End of term presentation	30%	Observation during class

教科書:

Blackwell, Naber
Open Forum 1: Academic Listening and Speaking
OXFORD
(Student Book 3) ISBN 9780194361132

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking ability, creativity, communication ability, compassion ability, self-management ability, self-fulfillment ability

教員との連絡方法:

davidwaddell99@yahoo.com

144061～68 **英語情報処理演習 I**

筧　　順子、北林　　寛子、岡本　　久仁子

授業テーマ:　英語・英文学科の学びに必要な高度なコンピュータリタラシーを身につけよう！

授業の概要:　英語・英文学科における学び・研究には、コンピューターリテラシー（Computer Literacy, コンピュータ利用能力）は不可欠です。このコースでは英語・英文学科の4年間で必要なコンピューターの発展的運用技術の獲得を目標とします。したがって、一般的なコンピューター運用能力の獲得はこのコースの目的ではありません。あくまでも、「英語英文学科の学生のため」の「英語英文学科における学習・研究」に必要なコンピューター運用能力の養成が目的です。

到達目標:　以下の5点を主到達目標とします。
（1）英文入力の基本となるタッチタイピングを学ぶ（基礎の基礎）
（2）英文文書作成の秘訣を学ぶ（1年次からのあらゆる授業でレポートの作成が求められる）
（3）英語情報検索の基礎を学ぶ（1年次からのあらゆる授業で必要）
（4）英語口頭発表（2年次からのゼミで必要）の基礎を学ぶ
（5）最終的には、4年次の卒業（ゼミ）論文の作成が自力でできる基礎を養う
尚、Writing Skills I, II、Performance Skills I, II の授業と連携し、英文のスタイル（Double Spacing, Indentation, APA/MLA Style）についての確認もします。

授業方法:　″（1）毎時間始め、Touch Typing 練習を10-15分各自行います。
（2）情報処理教室で演習形式で行います。″

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・学内の情報環境に慣れる	授業に期待することを事前に考えておく
2.	英文文書作成方法-1	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習（毎日15分間） スーパー英語で学習（毎日1時間）
3.	英文文書作成方法-2	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習（毎日15分間） スーパー英語で学習（毎日1時間）
4.	英文文書作成方法-3	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習（毎日15分間） スーパー英語で学習（毎日1時間）
5.	英文文書作成方法-4	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習（毎日15分間） スーパー英語で学習（毎日1時間）
6.	英文文書作成方法-5	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習（毎日15分間） スーパー英語で学習（毎日1時間）
7.	英文文書作成方法-6	ハンドアウトを事前に読んでおく タッチタイピングの練習（毎日15分間） スーパー英語で学習（毎日1時間）
8.	英文文書作成方法-7	ハンドアウトを事前に読んでおく スーパー英語で学習（毎日1時間15分）
9.	英語データーの整理・分析・活用演習-1	ハンドアウトを事前に読んでおく スーパー英語で学習（毎日1時間15分）
10.	英語データーの整理・分析・活用演習-2	ハンドアウトを事前に読んでおく スーパー英語で学習（毎日1時間15分）
11.	英語データーの整理・分析・活用演習-3	ハンドアウトを事前に読んでおく スーパー英語で学習（毎日1時間15分）
12.	英語プレゼンテーション演習-1	ハンドアウトを事前に読んでおく スーパー英語で学習（毎日1時間15分）
13.	英語プレゼンテーション演習-2	ハンドアウトを事前に読んでおく スーパー英語で学習（毎日1時間15分）
14.	英語プレゼンテーション演習-3	ハンドアウトを事前に読んでおく スーパー英語で学習（毎日1時間15分）
15.	授業の振り返り	授業を通してできるようになったスキルを事前に考えておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　コンピュータはスキルですので練習をすれば誰でもマスターすることができます。Practice makes perfect!
高等学校「情報科」などの授業を通じて、まなんだことを事前に確認しておいてください。

フィードバックの方法:　課題は基本的にまなばに提出、まなば上でフィードバックをおこないます。まなばを利用しない場合には提出された課題に評価をつけてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	60	到達目標（1）～（5）に関する知識とスキルにより評価する
スーパー英語の達成度	20	但し、半期間で5000マイルを達成していない場合には単位は認定されない（minimum requirement）
英文タイピング能力	20	但し、タイピングテスト（5回程度実施）で20 w.p.m.（目標は30 w.p.m.）以上のスキルを達成できなかった場合には単位は認定されない（minimum requirement）

教科書:　コース統一ハンドアウトを配布

参考書:　授業中に提示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

144261～63 **Reading Ⅲ**

小山　薫、久松　知佐子、山路　順子

授業テーマ:　英文を正確に読み理解する能力・ストラテジーを身につける

授業の概要:　CALL教室を利用し、計画的な授業外学習（ALC Net Academy 2）を取り入れながら、授業内外でReading力を強化する。Active Listening Ⅲと共通テキスト（Dialogue Vocabulary 1800）を使用して、語彙を増やし、全般的な英語運用能力の向上を目指す。

到達目標:
・英語読解力の強化（文型・文法に関する知識/語彙力/難解な文章でも読み進める粘り強さ）
・英語読解のストラテジー強化
（類推の方法/速読の方法/パラグラフ構造の理解と活用方法/文章のジャンルに適した読み方/文法情報や語彙情報の活用方法）
・授業内外で多くの英文に触れ、読み進める、学習意欲の強化

授業方法:　毎回の授業での学習内容は、基本的に以下の通り。
Vocabulary Quiz（15分）/初見のNews Flash読解とクイズ（40分）/ALC Net Academy 2（35分）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション（シラバス） ・学習スタイルについてのアンケート	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	・オリエンテーション （ALC Net Academy 2） ・News Flash学習 ・Dialogue 1800学習 ・ALC Net Academy 2学習	初回授業の配布物を読み直し、シラバス内容を理解しておく。
3.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習
4.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
5.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
6.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
7.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
8.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
9.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
10.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
11.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
12.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
13.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
14.	・Vocabulary Quiz ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業のNews Flashで学んだ語彙・表現の復習
15.	まとめ	春学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加（無遅刻無欠席）はもとより、授業外でも意欲的積極的に学習し、確実に実力アップしてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院（診断書提出）などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・Vocabulary Quizは満点を取れるように、十分な準備学習をする。
・ALC Net Academy 2は、毎週2 Unitsのペースで計画を立て、丁寧かつ着実に学習する。
・News Flashのクイズ結果や、ALC Net Academy 2の学習状況が良好な場合には、加点。

フィードバックの方法:
・Vocabulary Quiz（アナライザー使用）の正答は、Quiz解答直後に1問ずつPC画面に表示される。
・ALC Net Academy 2の学習は、各受講生に毎週Answer Sheetを提出してもらう。教員はそれをチェックして、適宜コメントを記入し、次週の授業で返却する。
・News Flashのクイズは、各受講生に解答（授業中にPC入力し、プリントアウトしたもの）を提出してもらう。教員はそれをチェックして、適宜コメントを記入し、次週の授業で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Vocabulary Quiz	20%	Vocabulary Quiz結果により評価。
	授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、News Flashクイズ提出や、ALC Net Academy 2の学習（データ、Answer Sheet提出）にきちんと取り組んだかを評価。
	学期末試験	60%	News Flashで学んだ内容の理解度により評価。

教科書: 秋葉利治、森秀夫（著）、Dialogue Vocabulary 1800（旺文社）

参考書: 適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Emailやオフィスアワーを利用。

144361～63 **Reading Ⅳ**

小山　薫、久松　知佐子、山路　順子

授業テーマ:　自律的な学習者としての適切な読解ストラテジーを身につける

授業の概要:　CALL教室を利用し、計画的な授業外学習（ALC Net Academy 2）を取り入れながら、授業内外でReading力を強化する。Active Listening Ⅳと共通テキスト（Dialogue Vocabulary 1800）を使用して、語彙を増やし、全般的な英語運用能力の向上を目指す。

到達目標:
・英語読解力の強化（文型・文法に関する知識/語彙力/難解な文章でも読み進める粘り強さ）
・英語読解のストラテジー強化
（類推の方法/速読の方法/パラグラフ構造の理解と活用方法/文章のジャンルに適した読み方/文法情報や語彙情報の活用方法）
・授業内外で多くの英文に触れ、読み進める、学習意欲の強化

授業方法:　毎回の授業での学習内容は、基本的に以下の通り。
Vocabulary Quiz（15分）/初見のNews Flash読解とクイズ（40分）/補助テキストの読解とクイズ（35分）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション（シラバス） ・学習スタイルについてのアンケート	・初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	・Vocabulary Quiz ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・初回授業の配布物を読み直し、シラバス内容を理解しておく。 ・Vocabulary Quizの準備 ・補助テキストの予習
3.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
4.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
5.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
6.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
7.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
8.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
9.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
10.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
11.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
12.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
13.	・Vocabulary Quiz ・Dialogue 1800学習 ・News Flash学習 ・補助テキスト学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・補助テキストの予習 ・前回授業の復習
14.	・Vocabulary Quiz ・ALC Net Academy 2学習	・Vocabulary Quizの準備 ・ALC Net Academy 2学習 ・前回授業の復習
15.	まとめ	秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加（無遅刻無欠席）はもとより、授業外でも意欲的積極的に学習し、確実に実力アップしてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院（診断書提出）などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・Vocabulary Quizは満点を取れるように、十分な準備学習をする。
・ALC Net Academy 2は、毎週2 Unitsのペースで計画を立て、丁寧かつ着実に学習する。
・News Flashのクイズ結果や、ALC Net Academy 2の学習状況、11月実施のTOEICスコアが良好な場合には、加点。

フィードバックの方法:
・Vocabulary Quiz（アナライザー使用）の正答は、Quiz解答直後に1問ずつPC画面に表示される。
・ALC Net Academy 2の学習は、各受講生に毎週Answer Sheetを提出してもらう。教員はそれをチェックして、適宜コメントを記入し、次週の授業で返却する。
・News Flashや補助テキストのクイズは、各受講生に解答（授業中にPC入力し、プリントアウトしたもの）を提出してもらう。教員はそれをチェックして、適宜コメントを記入し、次週の授業で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Vocabulary Quiz	20%	Vocabulary Quiz結果により評価。
	授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、News Flashや補助テキストのクイズ提出や、ALC Net Academy 2の学習（データ、Answer Sheet提出）にきちんと取り組んだかを評価。
	学期末試験	60%	News Flashと補助テキストで学んだ内容の理解度により評価。

教科書: 秋葉利治、森秀夫（著）、Dialogue Vocabulary 1800（旺文社）
補助テキストについては未定。

参考書: 適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Emailやオフィスアワーを利用。

144661～66 **Writing Strategies Ⅰ**

授業テーマ: Developing Essay Writing Skills

授業の概要: Teaching methods will vary according to the instructor. All teachers, however, should ensure regular reading and comprehension of a chosen text, and regularly assign tasks in response to the reading that build a variety of particular writing skills. In reading and responding to the assigned text(s) students will develop their academic literacy by completing a variety of writing tasks such as summarizing, paraphrasing, and writing analytic compositions. Research skills such as identifying reliable sources, avoiding plagiarism and referencing effectively will be developed. In a process writing approach, students will also learn the importance of multi-drafting and proofing their compositions, thereby building awareness of common errors and good and bad practices.

到達目標: By the end of the course students should be able to read more analytically and express their understanding in well-organised, well-supported, coherent compositions.
Acquire rudimentary knowledge of APA formatting.

授業方法: Students will read an assigned text and complete a variety of academic writing tasks in response to it. The instructor will provide guidance on the requirements of each task and provide extensive feedback to student work.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, assignments and goals. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
2.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
3.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
4.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
5.	Submit first essay / report In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
6.	Feedback on first essay / report In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
7.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
8.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
9.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
10.	Submit second essay / report In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
11.	Feedback on second essay / report In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
12.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
13.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
14.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
15.	Submit final essay Class review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Instructors are asked to provide extensive feedback to students in response to their writing.
Individual compositions should receive individual feedback, while general concerns should be addressed before the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Regular homework tasks	20	Completion of assigned tasks
Quizzes	20	Accurate recall of class content.
Graded compositions	60	1. Demonstrating sufficient grasp of the material covered in class. 2. Fulfilling criteria given by the instructor for each task

教科書: Textbooks will vary according to the instructor but are subject to the discretion of the co-ordinator.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Will vary according to the instructor

144761～66

Writing Strategies Ⅱ

授業テーマ:

Developing Essay Writing Skills

授業の概要:

The goals and methods of Writing Strategies II are congruent with those of Writing Strategies I. Teaching methods will vary according to the instructor. All teachers, however, should ensure regular reading and comprehension of a chosen text, and regularly assign tasks in response to the reading that build a variety of particular writing skills. In reading and responding to the assigned text(s) students will develop their academic literacy by completing a variety of writing tasks such as summarizing, paraphrasing, and writing analytic compositions. Research skills such as identifying reliable sources, avoiding plagiarism and referencing effectively will be developed. In a process writing approach, students will also learn the importance of multi-drafting and proofing their compositions, thereby building awareness of common errors and good and bad practices.

到達目標:

By the end of the course students should be able to read more analytically and express their understanding in well-organised, well-supported, coherent compositions.
Acquire rudimentary knowledge of APA formatting.

授業方法:

Students will read an assigned text and complete a variety of academic writing tasks in response to it. The instructor will provide guidance on the requirements of each task and provide extensive feedback to student work.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, assignments and goals. In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
2.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
3.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
4.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
5.	Submit first essay / report In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
6.	Feedback on first essay / report In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
7.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
8.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
9.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
10.	Submit second essay / report In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
11.	Feedback on second essay / report In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
12.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
13.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
14.	In-class writing task / Writing strategies guidance	Required reading / Related writing task
15.	Submit final essay Class review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Instructors are asked to provide extensive feedback to students in response to their writing.
Individual compositions should receive individual feedback, while general concerns should be addressed before the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Regular homework tasks	20%	Completion of assigned tasks
Quizzes	20%	Accurate recall of class content.
Graded compositions	60%	1. Demonstrating sufficient grasp of the material covered in class. 2. Fulfilling criteria given by the instructor for each task

教科書:

Textbooks will vary according to the instructor but are subject to the discretion of the co-ordinator.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Will vary according to the instructor

144860

Writing Strategies Ⅰ(AESA)

T.L.Medlock

授業テーマ:

Developing Essay Writing Skills

授業の概要:

The goals of Writing Strategies I are to prepare students for the academic work they will be doing in upper division courses for the English department, to strengthen their ability to think for themselves, and to express themselves in cogent written English. The course is intended to improve both reading and writing skills by having students respond in writing to assigned reading texts. This semester students will complete a number of written assignments about "Oliver Twist" by Charles Dickens. In the process they will learn about how to structure an essay, create a thesis and support it with citations in APA format.

到達目標:

By the end of the course students should be able to read more analytically and express their understanding in well-organised, well-supported, coherent compositions.
They will acquire a fundamental knowledge of APA formatting and use of citations.
They will also develop a greater awareness of literary strategies used by the authors whose works they read.

授業方法:

Students will read an assigned text and complete a variety of academic writing tasks in response to it. The instructor will provide guidance and provide extensive feedback to student work.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Common writing problems. An example of the 5 paragraph essay. Thesis statement	Create outline for short 5-para essay Read chapter 1 of Oliver Twist
2.	Analysis of text. Paragraph writing: Topic Sentence and Support. Transitions and signposting	Write short 5-para essay Read chapter 2 of Oliver Twist
3.	Analysis of text. Hand in short essay APA formatting	Read chapter 3 of Oliver Twist Complete related written assignment
4.	Analysis of text. Feedback APA formatting	Read chapter 4 of Oliver Twist Task: Profile of Fagin
5.	Analysis of text. Paraphrasing	Read chapter 5 of Oliver Twist Complete related written assignment
6.	Analysis of text. Hand in Fagin assignment. Further APA formatting	Read chapter 6 of Oliver Twist Complete related written assignment
7.	Analysis of text. Feedback. Introductory paragraphs Coherence and relevancy	Read chapter 7 of Oliver Twist Complete related written assignment
8.	Analysis of text. Comparing and contrasting	Read chapter 8 of Oliver Twist Comparing and contrasting task
9.	Analysis of text. Hand in comparing and contrasting task Figurative language Expressing interpretation	Read chapter 9 of Oliver Twist
10.	Analysis of text. Feedback Hand in task	Read chapter 10 of Oliver Twist Expressing interpretation task
11.	Analysis of text. Literary merit and themes of the novel	Preparing a thesis and outline of the final paper
12.	Paraphrasing practice Thesis and outline of paper	Complete first draft
13.	First draft due	Revise
14.	Second draft due	Revise
15.	Hand in final task	

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course is demanding but will be rewarding if you meet the challenges.

フィードバックの方法:

All written work will receive individual feedback
General concerns will be addressed before the class

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework	20	Tasks completed
Assignments	80	Compositions fulfil criteria given for tasks and demonstrate general competency and knowledge of material covered

教科書:

Oliver Twist (Oxford Bookworms Library Level 8 - Oxford University Press)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

144960

Writing Strategies Ⅱ(AESA)

T.L.Medlock

授業テーマ:

Developing Essay Writing Skills

授業の概要:

The goals of Writing Strategies II are congruent with those of Writing Strategies I. Throughout the semester students will have to complete and hand in several short writing assignments. However, in this semester of the course students' composition assignments should culminate in a research assignment of 1200-1500 words. In this final essay students should demonstrate competency at sustaining complex and detailed support of their analysis and also demonstrate competence in incorporating secondary sources, creating a Works Cited bibliographic reference and so forth. We will read and write about George Orwell's Animal Farm.

到達目標:

Increase awareness and competence in key academic writing practices, such as drafting outlines, coherence and relevance, citing sources, revising, and paraphrasing. Material from the previous semester will be recycled and expanded upon.

授業方法:

Classwork will proceed in a similar fashion to Writing Strategies I with responses to required reading and structured practice of essay-writing skills.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Review last semester's content Introduction to George Orwell	Read chapters 1 and 2 of Animal Farm Complete related written task
2.	Analysis of text In-class writing activity Academic Writing Guidance	Read chapters 3 and 4 Complete related written task
3.	Analysis of text In-class writing activity Academic Writing Guidance	Read chapter 5 Write outline of short essay on "From Utopia to Dystopia"
4.	Analysis of text In-class writing activity Academic Writing Guidance	Read chapter 6 Complete short essay
5.	Analysis of text Hand in assignment In-class writing activity Academic Writing Guidance	Read chapters 7 and 8
6.	Analysis of text Feedback In-class writing activity Academic Writing Guidance	Draft short essay on "The Use and Abuse of Language"
7.	Analysis of text In-class writing activity Academic Writing Guidance	Revise short essay Read chapter 9
8.	Hand in essay Analysis of text In-class writing activity Academic Writing Guidance	Comparing and contrasting assignment
9.	Feedback In-class writing activity Academic Writing Guidance	Read chapter 10
10.	Analysis of text In-class writing activity Academic Writing Guidance	Historical parallels research
11.	Compare historical parallels to the text Discussion of literary merit and themes of the novel Possible topics and theses	Thesis and outline
12.	Writing clinic	First draft
13.	First draft due	Revise draft
14.	Hand in final draft	Descriptive writing
15.	Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course is demanding but will be rewarding if you meet the challenges.

フィードバックの方法:

Individual work will receive individual corrections, comments and advice.
General concerns will be addressed in class

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework	20	Completing assigned work
Assignments	80	Compositions fulfil criteria given for tasks and demonstrate general competency and knowledge of material covered

教科書:

Animal Farm: The Illustrated Edition (Penguin Modern Classics)
George Orwell

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

tmedlock@dwc.doshisha.co.jp

145060

Writing Strategies Ⅰ(AESB)

D.Clayton

授業テーマ:

Academic Writing in English

授業の概要:

The course will include writing a variety of essay types.

到達目標:

The goals of Writing Strategies I are to prepare students for the academic work they will be doing in upper division courses for the English department, to strengthen their ability to think for themselves and to express themselves in cogent written English. The course is intended to improve both reading and writing skills by having students respond in writing to assigned reading texts. The writing will have a strong focus on academic essays and research papers.

授業方法:

In reading and responding to the assigned text(s) students will develop their academic literacy by completing a variety of writing tasks such as summarizing, paraphrasing, and writing analytic compositions. Research skills such as identifying reliable sources, avoiding plagiarism and referencing effectively will be developed. In a process writing approach, students will also learn the importance of multi-drafting and proofing their compositions, thereby building awareness of common errors and good and bad practices.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, organization, assignments and goals. Expository essay I.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
2.	Expository essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
3.	Expository essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
4.	Classification essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
5.	Classification essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
6.	Classification essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
7.	Process essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
8.	Process essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
9.	Process essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
10.	Cause/effect essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
11.	Cause/effect essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
12.	Cause/effect essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
13.	Extended definition 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
14.	Extended definition 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
15.	Conclusion	None.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students' first drafts will be returned with areas to improve marked according to a correction code. Students' final drafts will be returned with a grade based on the marking rubric provided to students.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Coursework	100	Essays will be graded according to a rubric that will be supplied to students at the beginning of the course.

教科書:

Oshima, A., Hogue, A. Longman Academic Writing Series 5: Essays to Research Papers (ISBN: 978-0-13-291274-7).

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

145160

Writing Strategies Ⅱ(AESB)

D.Clayton

授業テーマ:

Academic Writing in English

授業の概要:

The course will include writing a variety of essay types, leading to writing a research paper.

到達目標:

The goals of Writing Strategies II are congruent with those of Writing Strategies I. There will be more emphasis given to students' independent research skills, and the course will culminate in students producing a 1,000-1,200 word research report.

授業方法:

In reading and responding to the assigned text(s) students will develop their academic literacy by completing a variety of writing tasks such as summarizing, paraphrasing, and writing analytic compositions. Research skills such as identifying reliable sources, avoiding plagiarism and referencing effectively will be developed. In a process writing approach, students will also learn the importance of multi-drafting and proofing their compositions, thereby building awareness of common errors and good and bad practices.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: materials, assignments and goals. Review of issues encountered in previous semester's final essay. Problem/solution essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
2.	Problem/solution essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
3.	Problem/solution essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
4.	Summary/response essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
5.	Summary/response essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
6.	Summary/response essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
7.	Argumentative essay 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
8.	Argumentative essay 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
9.	Argumentative essay 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
10.	Research project 1.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
11.	Research project 2.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
12.	Research project 3.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
13.	Research project 4.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
14.	Research project 5.	Reading, completing exercises, drafting / re-drafting.
15.	Conclusion	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students' first drafts will be returned with areas to improve marked according to a correction code. Students' final drafts will be returned with a grade based on the marking rubric provided to students.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Coursework	100	Essays will be graded according to a rubric that will be supplied to students at the beginning of the course.

教科書:

Longman Academic Writing Series 5: Essays to Research Papers (ISBN: 978-0-13-291274-7).

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力.

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

145261～66 **Public Speaking Ⅰ**

授業テーマ: English communication skills with emphasis on public speaking.

授業の概要: In this course, students will develop confidence in their English language in speaking and presentations with attention to vocabulary, pronunciation and intonation, delivery and technique, as well as communicative ability.

到達目標: Through the practice of active learning in the classroom in every class throughout the semester, students will develop their skills in both conversation and public speaking to better prepare them for real life speaking situations, both informal and formal. In order to do succeed in these goals, students will be involved in conversations tasks with their peers in pairs groups, as well as doing evaluated individual presentations. All activities will be completed in English, and will include individual, pair and group work.

授業方法: Pair and group work, dialogue practice, individual and pair oral presentations in small groups and in front of the class

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to course	Class assignments
2.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
3.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
4.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
5.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
6.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
7.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
8.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
9.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
10.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
11.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
12.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
13.	Textbook work/ supplementary materials	Class assignments
14.	Final assignments	Class assignments
15.	Final assignments	Class assignments

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are encouraged and expected to use as much English in class as possible with fellow classmates and the instructor.

フィードバックの方法: Will be explained by the instructor in class

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class preparation and participation	40	As assessed by the teacher
Graded assignments	60	As assessed by the teacher

教科書: Depending on course level, and as instructed by the teacher

参考書: A comprehensive English-Japanese /Japanese/ English dictionary

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: Contact information will be given to students in the first class

145361～66 **Public Speaking Ⅱ**

授業テーマ: English communication skills wit emphasis on public speaking

授業の概要: In this course, students will develop confidence in their English language in speaking and presentations with attention to vocabulary, pronunciation and intonation, delivery and technique, as well as communicative ability.

到達目標: Through the practice of active learning in the classroom in every class throughout the semester, students will develop their skills in both conversation and public speaking to better prepare them for real life speaking situations, both informal and formal. In order to do succeed in these goals, students will be involved in conversations tasks with their peers in pairs groups, as well as doing evaluated individual presentations. All activities will be completed in English, and will include individual, pair and group work.

授業方法: Teachers will be creative in realising the course goals through dialogue practice, pair and group work, oral presentations, etc.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to course	Class assignments
2.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
3.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
4.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
5.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
6.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
7.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
8.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
9.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
10.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
11.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
12.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
13.	Textbook work/supplementary materials	Class assignments
14.	Final Assignments	Class assignments
15.	Final AssignmentsC	Class assignments

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are encouraged and expected to use as much English in class with their class instructor and fellow classmates

フィードバックの方法: Will be explained by the teacher in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class preparation and participationpreparation and participationpre	40	Will be assessed by the teacher
Graded assignments	60	Will be assessed by the teacher

教科書: Depending on course level and as instructed by the teacher

参考書: A comprehensive English-Japanese / Japanese-English dictionary

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ,自己管理力

教員との連絡方法: Contact information will be given by the instructor in class

145460

Public Speaking Ⅰ(AESA)

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:
English communication – conversation and public speaking skills

授業の概要:
In this course, students will further develop their confidence in their English language in speaking and formal presentations with attention to not only pronunciation and intonation, but to approach, register and flow.

到達目標:
Through the practice of active learning in the classroom in every class throughout the semester, students will develop their skills in both conversation and public speaking to better prepare them for real life speaking situations, both informal and formal. In order to do succeed in these goals, students will be involved in conversations tasks with their peers in pairs, groups, as well as doing professional academic presentations
Individually. All activities will be completed in English, and will include both individual, pair and group work

授業方法:
Active learning, student-centered learning

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction, expectations	Class assignments
2.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
3.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
4.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
5.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
6.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
7.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
8.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
9.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
10.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
11.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
12.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
13.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Preparation for final assignments
14.	Final Presentations	Preparation for final assignments
15.	Final Presentations	Reflection, peer feedback

受講者へのメッセージやアドバイス:
Students are highly expected to use English with their classmates and teacher in every class, as well as show motivation, initiative and make extensive efforts to improve their English communication skills and public speaking abilities

フィードバックの方法:
Student peer-feedback, teacher assessments and evaluations

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation, attitude, motivationss participation, attitude, motivationss	40	Will be assessed by the instructor
Graded assignments	60	Will be assessed by the instructor

教科書:
Will be determined and instructed by the teacher

参考書:
A comprehensive English-Japanese / Japanese-English dictionary

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:
Students will be notified by the instructor on the first day of class.

145560

Public Speaking Ⅱ(AESA)

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:
English Communication – conversation and public speaking skills

授業の概要:
In this course, students will further develop their confidence in their English language in speaking and formal presentations with attention to not only pronunciation and intonation, but to approach, register and flow.

到達目標:
Through the practice of active learning in the classroom in every class throughout the semester, students will develop their skills in both conversation and public speaking to better prepare them for real life speaking situations, both informal and formal. In order to do succeed in these goals, students will be involved in conversations tasks with their peers in pairs, groups, as well as doing professional academic presentations
Individually. All activities will be completed in English, and will include both individual, pair and group work

授業方法:
Active learning, student-centered learning

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to course, expectations	Class assignments
2.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
3.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
4.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
5.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
6.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
7.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
8.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
9.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
10.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
11.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
12.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
13.	Speech drills, pronunciation practice Group work /Pair work Textbook assignment	Class assignments
14.	Final Presentations	Class assignments
15.	Final Presentations	Class assignments

受講者へのメッセージやアドバイス:
Students are highly expected to communicate with both the teacher and fellow students in English during each class, as well as to show a high level of motivation and effort in completing all in-class tasks and assignments.

フィードバックの方法:
Both peer and teacher feedback, with individual student assessment by the teacher.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class preparation and participation	40	Will be assessed by the teacher
Graded assignments	60	Will be assessed by the teacher

教科書:
Will be determined and instructed by the teacher.

参考書:
A comprehensive English-Japanese / Japanese-English dictionary

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:
Students will be informed on the first day of class.

145660

Public Speaking Ⅰ(AESB)

L.D.Musselwhite

授業テーマ:

Communication in Today's World

授業の概要:

In this class students will use original English sources such as TED Talks to explore contemporary ideas, practice voicing their own opinions, examine various presentation styles and skills, and give actual presentations. This class is based on a structured textbook that practices listening, speaking, note-taking, pronunciation, and critical thinking skills. In addition, students will listen to a TED Talk, analyze the presentation skills featured in each talk and, then, design their own presentation, individually or in a group, using the newly introduced skill.

到達目標:

Students will be able to ;
1. speak with more confidence using a variety of presentation skills.
2. use critical thinking skills such as prediction, interpretation, analysis, reflection, synthesis and application.
3. work positively and constructively in groups.
Students will also gain knowledge of intermediate English vocabulary related to sociology, environmentalism, technology and design. Finally, students will be more motivated to participate in discussions as they gain practice with the speaking, listening and presentation skills emphasized in the textbook.

授業方法:

The method of instruction used in this class will be mainly group work, discussion, and student presentations either individually or in small groups. Students will give a total of four presentations during the semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the class and the textbook	Buy the textbook and a notebook and bring them on the first day.
2.	Unit 1, Part 1 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
3.	Unit 1, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
4.	Unit 1, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and prepare the presentation for this week's class.
5.	Unit 2, Part 1 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
6.	Unit 2, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
7.	Unit 2, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and prepare the presentation for this week's class.
8.	Unit 3, Part 1 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
9.	Unit 3, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
10.	Unit 3, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and prepare the presentation for this week's class.
11.	Unit 4, Part 1 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
12.	Unit 4, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
13.	Unit 4, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and prepare the presentation for the last week's class.
14.	. Review	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
15.	Final presentation	Students should review the content of the class and finish preparation for the final presentation.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Most people do not relish giving presentations, but if we can create a supportive and enjoyable atmosphere in the class, we can each find some comfort in facing the class and speaking publicly.

フィードバックの方法:

Students will be given a written assessment after each presentation. Feedback on the their homework assignments will occur during the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class attendance and active participation in the class activities	15	Points will be deducted for each absence; failure to participate positively in the class will also cause lose of points
Homework	15	Demonstrate completion and understanding of homework assignment
Presentation 1	15	Demonstrates mastery of the featured presentation skill in addition to fulfilling the presentation assignment.
Presentation 2	15	Demonstrates mastery of the featured presentation skill in addition to fulfilling the presentation assignment.
Presentation 3	20	Demonstrates mastery of the featured presentation skill in addition to fulfilling the presentation assignment.
Final Presentation	20	Demonstrates mastery of the featured presentation skill in addition to fulfilling the presentation assignment.

教科書:

21st Century Communication, Listening, Speaking, and Critical Thinking 2, Jessica Williams, National Geographic Learning/Cengage Learning, ISBN-13; 978-1-305-95545-5.

参考書:

Reference materials will be introduced as needed based on the student's level of English ability.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:	Ask in the classroom before and/or during class

145760

Public Speaking Ⅱ(AESB)

L.D.Musselwhite

授業テーマ:

Communicating in Today's World

授業の概要:

In this class students will use original English sources such as TED Talks to explore contemporary ideas, practice voicing their own opinions, examine various presentation styles and skills, and give actual presentations. This class is based on a structured textbook that practices listening, speaking, note-taking, pronunciation, and critical thinking skills. In addition, students will listen to a TED Talk, analyze the presentation skills featured in each talk and, then, design their own presentation, individually or in a group, using the newly introduced skill.

到達目標:

Students will be able to ;
1. speak with more confidence using a variety of presentation skills.
2. use critical thinking skills such as prediction, interpretation, analysis, reflection, synthesis and application.
3. work positively and constructively in groups.
Students will also gain knowledge of intermediate English vocabulary related to engineering and robotics, business and philanthropy, psychology, and wildlife conservation. Finally, students will be more motivated to participate in discussions as they gain practice with the speaking, listening and presentation skills emphasized in the textbook.

授業方法:

The method of instruction used in this class will be mainly group work, discussion, and student presentations either individually or in small groups. Students will give a total of four presentations during the semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the class and the textbook	Buy the textbook and a notebook and bring them on the first day, if you don't already have them.
2.	Unit 5, Part 1 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
3.	Unit 5, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
4.	Unit 5, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and prepare the presentation for this week's class.
5.	Unit 6, Part 1 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
6.	Unit 6, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
7.	Unit 6, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and prepare the presentation for this week's class.
8.	Unit 7, Part 1 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
9.	Unit 7, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
10.	Unit 7, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and prepare the presentation for this week's class.
11.	Unit 8, Part 1 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
12.	Unit 8, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and do the homework assigned for the next week's class.
13.	Unit 8, Part 2 of 21st Century Communication	Students should review the content of the class and prepare the presentation for the last week's class.
14.	Review	Students should review the content of the class and prepare the presentation for the last week's class.
15.	Final presentation	Students should review the content of the class and finish preparation for the final presentation.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Most people do not relish giving presentations, but if we can create a supportive and enjoyable atmosphere in the class, we can each find some comfort in facing the class and speaking publicly.

フィードバックの方法:

Students will be given a written assessment after each presentation. Feedback on the their homework assignments will occur during the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class attendance and active participation in the class activities	15	Points will be deducted for each absence; failure to participate positively in the class will also cause lose of points
Homework	15	Demonstrate completion and understanding of homework assignment
Presentation 1	15	Demonstrates mastery of the featured presentation skill in addition to fulfilling the presentation assignment.
Presentation 2	15	Demonstrates mastery of the featured presentation skill in addition to fulfilling the presentation assignment.
Presentation 3	20	Demonstrates mastery of the featured presentation skill in addition to fulfilling the presentation assignment.
Final Presentation	20	Demonstrates mastery of the featured presentation skill in addition to fulfilling the presentation assignment.

教科書:

21st Century Communication, Listening, Speaking, and Critical Thinking 2, Jessica Williams, National Geographic Learning/Cengage Learning, ISBN-13; 978-1-305-95545-5.

参考書:

Reference materials will be introduced as needed based on the student's level of English ability.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:	Ask in the classroom before and/or during class

145861～63 **Active Listening Ⅲ**

今井　由美子、平岩　葉子、上田　洋子

授業テーマ:　英語リスニング力向上をめざす

授業の概要:　次の４点を重視しながら、学習者が能動的にリスニングに取り組むアクティブ・ラーニングの手法を用い、英語のリスニング練習を行う。
(1) 種々の題材を使って、多くの英語を聴き、直解型の理解力の習得を目指す。
(2) 短文を用いたリピーティング練習を取り入れ、単語間の音のつながり、英語のリズム、ピッチ、イントネーションを理解し、発音につなげる。
(3) リスニングに必要とされるストラテジーを習得する。
(4) リスニングに必要とされる豊富な語彙力をつける。
また、この授業においては、英語音声を「聞く」活動を「話す」(メモをもとにretelling)活動、「書く」(dictation, note-taking, summary writing)活動、「読む」(summary を読む)活動などへつなげる統合的言語活動を目指す。

到達目標:　Active Listening I, II で養われたリスニング・スキルをさらに高めることを目標とする。授業では様々な英語における内容理解と多様なスタイルの英語に対応できるリスニング・スキルの向上を目指す。TOEIC テストにおけるスコアアップを目指す。教職課程履修生は、将来、中学校及び高等学校において英語で指導する際、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を高めつつ英語でインタラクションを進めていくことができるよう、柔軟な英語運用能力を身につけることを目標とする。

授業方法:　授業はCALL教室で行う。週一回90分の授業であるが、リスニング力の養成のためには習慣的に多くの英語のインプットを得ることが必須であり、そのために課題を多種用意している。リスニング力を効率よく向上させるために、受講者各々が、受身ではなく、意欲的に知識を吸収し学ぶ姿勢で授業に臨むことが要求される。なお、受講生は音声教材を保存するUSBを各自で用意すること。教材の種類、授業の進行、課題の勉強方法など、授業の詳細については、第一回目の授業で説明する。

自主学習課題:授業時間外にe-learningシステムによるATRのTOEIC練習教材を各自行うものとし、春学期最終日までに指示された課題の100%を終了していること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	CELT、オリエンテーション	ATR自主学習　開始
2.	VLT(語彙テスト) 次回授業準備	提出課題(なか日・授業時)
3.	TOEIC-(1)、SG-(1)、ESB-(1-1)、映画-(1)	提出課題(なか日・授業時)
4.	TOEIC-(2)、SG-(2)、ESB-(1-2)、映画-(2)	提出課題(なか日・授業時)
5.	TOEIC-(3)、SG-(3)、ESB-(2-1)、映画-(3)	提出課題(なか日・授業時)
6.	TOEIC-(4)、SG-(4)、ESB-(2-2)、映画-(4)	提出課題(なか日・授業時)
7.	TOEIC-(5)、SG-(5)、ESB-(3-1)、映画-(5)	提出課題(なか日・授業時)
8.	TOEIC-(6)、SG-(6)、ESB-(3-2)、映画-(6)	提出課題(なか日・授業時)
9.	TOEIC-(7)、SG-(7)、ESB-(4-1)、映画-(7)	提出課題(なか日・授業時)
10.	TOEIC-(8)、SG-(8)、ESB-(4-2)、映画-(8)	提出課題(なか日・授業時)
11.	TOEIC-(9)、SG-(9)、ESB-(5-1)、映画-(9)	提出課題(なか日・授業時)
12.	TOEIC-(10)、SG-(10)、ESB-(5-2)、映画-(10)	提出課題(なか日・授業時)
13.	予備	特になし
14.	Review Test (TOEIC、SG、ESB、映画)	特になし
15.	まとめ　CELT, VLT	ATR自主学習で指示された課題の100%を終了していること

受講者へのメッセージやアドバイス:　「継続は力なり」英語力は日々の努力をいかに継続するかにかかっています。

フィードバックの方法:　授業では、各レッスンのポイントについて説明およびリスニング課題を行う。授業で扱った音声を用いてのディクテーション課題が毎週出され、課題用紙の提出が求められる(なか日、授業時)。提出された課題用紙はチェックされ返却される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回のクイズ	10%	毎回行うクイズの平均点を評価に加える。 授業で扱った内容における理解度を評価に加える。 毎回の課題提出を評価に加える。 学期はじめと学期末に行うCELTの平均点を評価に加える。 自主学習課題ATRの指示された課題の100%を春学期最終日までに終了していない場合は、総合成績から減点する。
Review Test	50%	授業で扱った内容における理解度を評価に加える。
課題の提出	20%	毎回の課題提出を評価に加える。
CELTテスト(2回)	20%	学期はじめと学期末に行うCELTの平均点を評価に加える。

教科書:　倉田誠他、A New Threshold for the TOEIC Test Listening、(成美堂)
今井由美子他、Sounds Great、(英宝社)
大塚朝美他、English Sound Box、(金星堂)
映画:ハンドアウト

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　自己管理力、自己実現力、英語力向上

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

145961～63 **Active Listening Ⅳ**

今井　由美子、平岩　葉子、上田　洋子

授業テーマ:　英語リスニング力向上をめざす

授業の概要:　次の４点を重視しながら、学習者が能動的にリスニングに取り組むアクティブ・ラーニングの手法を用い、英語のリスニング練習を行う。
(1) 種々の題材を使って、多くの英語を聴き、直解型の理解力の習得を目指す。
(2) 短文を用いたリピーティング練習を取り入れ、単語間の音のつながり、英語のリズム、ピッチ、イントネーションを理解し、発音につなげる。
(3) リスニングに必要とされるストラテジーを習得する。
(4) リスニングに必要とされる豊富な語彙力をつける。
また、この授業においては、英語音声を「聞く」活動を「話す」(メモをもとにretelling)活動、「書く」(dictation, note-taking, summary writing)活動、「読む」(summary を読む)活動などへつなげる統合的言語活動を目指す。

到達目標:　Active Listening Ⅲ に続き、リスニング・スキルをさらに高めることを目標とする。授業では様々な英語における内容理解と多様なスタイルの英語に対応できるリスニング・スキルの向上を目指す。TOEIC テストにおけるスコアアップを目指す。教職課程履修生は、将来、中学校及び高等学校において英語で指導する際、生徒に対して理解可能な言語インプットを与え、生徒の理解を高めつつ英語でインタラクションを進めていくことができるよう、柔軟な英語運用能力を身につけることを目標とする。

授業方法:　"授業はCALL教室で行う。週一回90分の授業であるが、リスニング力の養成のためには習慣的に多くの英語のインプットを得ることが必須であり、そのためにディテーションを中心とした課題を多種用意している。リスニング力を効率よく向上させるために、受講者各々が、受身ではなく、意欲的に知識を吸収し学ぶ姿勢で授業に臨むことが要求される。なお、受講生は音声教材を保存するUSBを各自用で意すること。教材の種類、授業の進行、課題の勉強方法など、授業の詳細については、第一回目の授業で説明する。
自主学習課題:授業時間外に e-learningシステムによる ATRのTOEIC練習教材を各自行うものとし、秋学期最終日には指示された課題の100%を終了していること。"

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	CELT 、オリエンテーション	ATR自主学習　指示された課題を開始
2.	VLT(語彙テスト) 次回授業準備	課題提出(なか日・授業時)
3.	TOEIC-(11)、SG-(11)、ESB-(6-1)、 映画-(11)	課題提出(なか日・授業時)
4.	TOEIC-(12)、SG-(12)、ESB-(6-2)、映画-(12)	課題提出(なか日・授業時)
5.	TOEIC-(13)、SG-(13)、ESB-(7-1)、映画-(13)	課題提出(なか日・授業時)
6.	TOEIC-(14)、SG-(14)、ESB-(7-2)、映画-(14)	課題提出(なか日・授業時)
7.	TOEIC-(15)、SG-(15)、ESB-(8-1)、映画-(15)	課題提出(なか日・授業時)
8.	TOEIC-(16)、SG-(16)、ESB-(8-2)、映画-(16)	課題提出(なか日・授業時)
9.	TOEIC-(17)、SG-(17)、ESB-(9-1)、映画-(17)	課題提出(なか日・授業時)
10.	TOEIC-(18)、SG-(18)、ESB-(9-2)、映画-(18)	課題提出(なか日・授業時)
11.	TOEIC-(19)、SG-(19)、ESB-(10-1)、映画-(19)	課題提出(なか日・授業時)
12.	TOEIC-(20)、SG-(20)、ESB-(10-2)、映画-(20)	課題提出(なか日・授業時)
13.	予備	特になし
14.	Review Test (TOEIC、SG、ESB、映画)	特になし
15.	まとめ:CELT、VLT	ATR自主学習で指示された課題の100%を終了していること

受講者へのメッセージやアドバイス:　「継続は力なり」英語力は日々の努力をいかに継続するかにかかっています。

フィードバックの方法:　授業では、各レッスンのポイントについて説明およびリスニング課題を行う。授業で扱った音声を用いてのディクテーション課題が毎週出され、課題用紙の提出が求められる(なか日、授業時)。提出された課題用紙はチェックされ返却される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回のクイズ	10%	毎回行うクイズの平均点を評価に加える。
Review Test	50%	授業で扱った内容における理解度を評価に加える。
課題の提出	20%	毎回の課題提出を評価に加える。
CELTテスト(2回)とTOEIC	20%	学期はじめと学期末に行うCELTの平均点と秋学期に全員受験するTOEICリスニング得点を評価に加える。

教科書:　倉田誠他、A New Threshold for the TOEIC Test Listening、(成美堂)
今井由美子他、Sounds Great、(英宝社)
大塚朝美他、English Sound Box、(金星堂)
映画:ハンドアウト

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　自己管理力、自己実現力、英語力向上

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

146060

Active Listening Ⅲ(AESA)

R.Iolini

授業テーマ:

授業の概要: To improve communication skills for various purposes, listening for academic purposes, and improving English listening skills in general.

到達目標: During the semester, students will listen to interviews, lectures, and radio programs on a range of academic and challenging topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand general conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation.

授業方法: Students will learn a number of different strategies including reflecting, activating background knowledge, predicting, listening for main ideas,and working out unknown vocabulary in order to become better listeners. Each unit of the textbook will usually take two weeks to study, with two long listening exercises covering different aspects of the same topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Unit 1. COMMUNICATION. Talk on recycling	Listening Exercises
2.	Unit 1 Ch. 4. Radio program about biodiesel	Listening Exercises
3.	Unit 2. VISUAL ART. Conversation about art forgery	Listening Exercises
4.	Unit 2 Ch. 4. Museum talk about camera obscura	Listening Exercises
5.	Unit 3. SOCIOLOGY. Conversation about cell phones	Listening Exercises
6.	Unit 3 Ch. 4. Radio commentary on the internet and relationships	Listening Exercises
7.	Test Units 1-3. Unit 4. MEDICINE. Radio interview about cochlear implants	Listening Exercises
8.	Unit 4 Ch. 4. Conversation about bio-chip implants	Listening Exercises
9.	Unit 5. HISTORY. Listening to student presentations on Nobel Prizes	Listening Exercises
10.	Unit 5 Ch. 4. Lecture about Kim Dae Jung	Listening Exercises
11.	Unit 6. EARTH SCIENCE. Lecture about desertification	Listening Exercises
12.	Unit 6 Ch. 4. Interview about hurricanes	Listening Exercises
13.	Test Units 4-6 Ted Talks TBA	Listening Exercises
14.	Ted Talks TBA	Listening Exercises
15.	Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス: The students should review what we did in class and do the assigned homework.

フィードバックの方法: Students will be given results after tests. If necessary individual students will be given advice or assistance during class on an ongoing basis.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Classwork	40%	Observation during class
Two Tests (25 points each)	50%	Tests are graded at the level the textbook
Class participation and punctuality	10%	Observation during class

教科書:
Duncan, Janie; Parker, Amy
Open Forum 3: Academic Listening and Speaking
OXFORD
(Student Book 3) ISBN 9780194361132

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: Analytical ability, thinking ability, creativity, communication ability, compassion ability, self-management ability, self-fulfillment ability

教員との連絡方法: riolini@dwc.doshisha.ac.jp

146160

Active Listening Ⅳ(AESA)

R.Iolini

授業テーマ:

授業の概要: To improve communication skills for various purposes, listening for academic purposes, and improving English listening skills in general.

到達目標: uring the semester, students will listen to interviews, lectures, and radio programs on a range of academic and challenging topics. The goal is to expand the students' listening ability beyond that required to understand general conversational English, creating a strong foundation for further academic study and improving overall communication ability. Each student will do a presentation.

授業方法: Students will learn a number of different strategies including reflecting, activating background knowledge, predicting, listening for main ideas,and working out unknown vocabulary in order to become better listeners. Each unit of the textbook will usually take two weeks to study, with two long listening exercises covering different aspects of the same topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Unit 7. LIFE SCIENCES. Introduction to the Fall term / Radio interview	Listening exercises
2.	Unit 7 Ch. 4. Television program / Key phrases to introduce important facts	Listening exercises
3.	Unit 8. PSYCHOLOGY. College lecture	Listening exercises
4.	Unit 8. Ch. 4. Conversation about visualization	Listening exercises
5.	Unit 9. HEALTH. Listening for comparisons and contrasts	Listening exercises
6.	Unit 9. Ch 4. Radio program	Listening exercises
7.	Test Unit 7 – 9. Unit 10. BUSINESS. Interview / using paraphrase to work out meaning	Listening exercises
8.	Unit 10. Ch. 4. Unit Lecture on management principles	Listening exercises
9.	Unit 11. SPACE SCIENCE. Radio report on space tourism	Listening exercises
10.	Unit 11. Ch. 4. Identifying technical language / On the street survey	Listening exercises
11.	Unit 12. ARCHAEOLOGY. Radio interview about forensic archaeology	Listening exercises
12.	Unit 12. Ch. 4. College lecture about ancient Egypt	Listening exercises
13.	Test Unit 10 – 12. Ted Talks TBA	Listening exercises
14.	Ted Talks TBA	Listening exercises
15.	Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス: The students should review what we did in class and do the assigned homework.

フィードバックの方法: Students will be given results after tests. If necessary individual students will be given advice or assistance during class on an ongoing basis.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Classwork	40%	Observation during class
Two Tests (25 points each)	50%	Tests are graded at the level the textbook
Class participation and punctuality	10%	Observation during class

教科書: Duncan, Janie; Parker, Amy
Open Forum 3: Academic Listening and Speaking
OXFORD
(Student Book 3) ISBN 9780194361132

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: Analytical ability, thinking ability, creativity, communication ability, compassion ability, self-management ability, self-fulfillment ability

教員との連絡方法: riolini@dwc.doshisha.ac.jp

146260

Active Listening Ⅲ(AESB)

T.L.Medlock

授業テーマ:

Improving listening skills and note-taking for academic presentations

授業の概要:

During the semester students will listen to lectures on a range of academic topics. Activities based on these listenings will improve listening and note-taking skills, and also improve public speaking skills by focusing awareness on both the organization of the speakers'content and the intonation of the speakers' delivery. Each student will do a presentation in class utilizing skills gained through listenings. Students will also carry out extensive independent listening outside of class, which they will record in a listening journal.

到達目標:

1. Improve listening skills
2. Improve note-taking skills
3. Improve intonation and public speaking skills
4. Improve self-study skills

授業方法:

Students will listen to lectures for content and carry our note-taking exercises. They will then do further listenings focusing on the intonation and vocal delivery of the speaker and carry out in-class discussions on the subjects covered. Very active participation is necessary.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation / Active listening strategies in conversation Topic 1: Names (Unit 1) Intro: Describing Japanese names	Prepare vocabulary for Unit 1 listening Independent listening
2.	Topic 1: Names (Unit 1) Lecture Listening exercises (listening for main ideas / listening for detail)	Review vocabulary Independent listening
3.	Topic 1: Names (Unit 1) Review lecture Dialogue: Listening exercises Test on vocabulary	Independent listening
4.	Topic 1: Names (Unit 1) Paraphrase lecture based on notes Intonation focus: liaison/ elision / sentence stress / pitch Discussion (changing trends in names	Prepare for Unit 1 intonation test Prepare vocabulary for Unit 3 Independent listening
5.	Test on Unit 1 lecture intonation Topic 2: Phobias (Unit 3) Lecture: Listening exercises	Review vocabulary Independent listening
6.	Topic 2: Phobias (Unit 3) Review lecture Dialogue: Listening exercises Test on vocabulary	Independent listening Prepare for discussion
7.	Topic 2: Phobias (Unit 3) Paraphrase lecture based on notes Intonation focus: “chunking” Discussion	Prepare for Unit 3 intonation test Independent listening Prepare vocabulary for Unit 5
8.	Test on Unit 3 lecture intonation Topic 3: Multiple Intelligences Theory (Unit 5) Lecture: Listening exercises Content focus: Listing	Review vocabulary of Unit 5 Independent listening
9.	Topic 3: Multiple Intelligences Theory (Unit 5) Review lecture Intonation focus: all aspects covered	Independent listening
10.	Topic 3: Multiple Intelligences Theory (Unit 5) Dialogue: Listening exercises Test on vocabulary	Prepare for discussion Independent listening
11.	Supplementary listening – Free school Discussion topic: Free school Discussion strategy: Expressing an opinion	Prepare for presentations
12.	Review and extend rhetorical intonation ″Sound-scripting″	Prepare for presentations
13.	Presentations (TBA)	Prepare for presentations
14.	Listening and note-taking test	Independent listening
15.	Course overview Hand in listening journal	

受講者へのメッセージやアドバイス:

In for a penny, in for a pound.

フィードバックの方法:

Written homework will be corrected and commented directly.
Presentations will receive a feedback sheet containing the grade and comments.
Listening tests will be returned with scores and corrections clearly marked.
Any behaviour unbecoming to AES will be addressed individually.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Active Participation	10%	Attentiveness and Active Interaction
Tests and Graded Listenings	50%	Fill in the correct answer
Presentation	20%	Fluency, Clarity, Comprehensibility, Rhythm, Varied Pitch
Homework and Journal	20%	Required number of topics covered Quality of English

教科書:

タイトル:Contemporary Topics 2: Academic Listening and Note-Taking Skills 3rd Edition
著者:Ellen Kisslinger
出版:Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、、自己実現力
教員との連絡方法:	tmedlock@dwc.doshisha.co.jp

146360

Active Listening Ⅳ(AESB)

T.L.Medlock

授業テーマ:

Improving listening skills and note-taking for academic presentations

授業の概要:

During the semester students will listen to lectures on a range of academic topics. Activities based on these listenings will improve listening and note-taking skills, and, also, improve public speaking skills by focusing awareness on both the organization of the speakers' content and the intonation of speakers' delivery. Each student will do a presentation in class utilizing skills gained through listenings. Students will also carry out extensive independent listening outside of class, which they will record in a listening journal.

到達目標:

1. Improve listening skills
2. Improve note-taking skills
3. Improve intonation and public speaking skills
4. Improve self-study skills

授業方法:

Students will listen to lectures for content and carry our note-taking exercises. They will then do further listenings focusing on the intonation and vocal delivery of the speaker and carry out in-class discussions on the subjects covered. Very active participation is necessary.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Topic 1: Unit 7 Social Psychology - Sports Fans Lecture: Listening Activities	Independent listening
2.	Sports Fans - Part 2 Intonation focus: Review of last semester's points Supplementary listening: Analysis of fandom	Independent listening Prepare for discussion
3.	Pair listening - The Olympic Games Discussion: Sports fandom	Independent listening
4.	Skills focus: Paraphrasing based on lecture notes Supplementary listening: This semester's Shakespeare Production	Independent listening
5.	Topic 2: Unit 8 Architecture Lecture: Listening Activities	Prepare "World Heritage Sites
6.	Topic 2: Architecture Part 2 Intonation focus Supplementary listening: Demonstration presentation by teacher	Prepare for vocabulary test Prepare for presentation
7.	Pair listening - World Heritage Sites Vocabulary test and Paraphrasing based on lecture notes	Prepare for presentation
8.	Student Presentations: Famous buildings and architects	Independent listening
9.	Student Presentations: Famous buildings and architects	Independent listening
10.	Topic 3: What Makes a Good Restaurant? (Main lecture) Listening for Main ideas and detail	Independent listening
11.	Supplementary listening: World famous restaurants	Independent listening
12.	Topic 4: Wildlife documentaries Intonation focus: Narration techniques	Prepare for final presentation
13.	Topic 4: Wildlife documentaries Intonation focus: Narration techniques	Prepare for final presentation
14.	Presentations: Narration demonstration	Reflection
15.	Course overview	

受講者へのメッセージやアドバイス:

"The preparation is all" Hamlet

フィードバックの方法:

Written homework will be corrected and commented directly.
Presentations will receive a feedback sheet containing the grade and comments

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Active Participation	10%	Attentiveness and active interaction
Tests and Graded Listenings	50%	Accuracy
Presentations	20%	Intonation: elision, contraction, meaningful variety of rhythm and pacing, pitch, projection and connection
Homework and journal	20%	Detail, comment, accuracy of English

教科書:

タイトル:Contemporary Topics 2: Academic Listening and Note-Taking Skills 3rd Edition
著者:Ellen Kisslinger
出版:Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

146461～66 **Academic Skills Ⅰ**

授業テーマ: The development of Academic Skills through historical study

授業の概要: This course is intended to further the student's command of fundamental academic skills in English, such as note-taking, summarising and paraphrasing, oral presentation and research report writing, for which students should demonstrate improved competency at citing secondary resources. The academic skills work will focus on aspects of the social history of Britain in order for students to better understand and appreciate some of the major episodes in the evolution of British society. Teachers will focus on a single (or overlapping) era(s) in order to encourage understanding of the social forces at work at the time.

到達目標:
1. Develop proficiency in writing research papers
2. Improve academic presentational skills
3. Improve research methods
4. Improve note-taking skills
5. Deepen cultural understanding of a major Anglophone country through understanding of broad historical changes in that country.

授業方法: Using selected readings and presentations each teacher will focus on a distinct era of British history to provide a broad understanding of the period. This background work will then serve as a basis for closer investigation of certain themes by students in presentations and research reports.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course. Outline of objectives and topics.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
2.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
3.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
4.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
5.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
6.	1st Report (Oral / Written)	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
7.	1st Report (Oral / Written)	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
8.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
9.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
10.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
11.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
12.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
13.	2nd Report (Oral / Written)	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
14.	Report (Oral / Written)	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
15.	Course Review	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials

受講者へのメッセージやアドバイス: No background historical knowledge is necessary prior to the course, but students are encouraged to acquaint themselves with the basic outline of British history through various sources recommended by the teacher.

フィードバックの方法: Methods may vary according to the teacher, but all teachers should provide ample individual feedback for both oral and written reports. Quizzes should be returned with legible marks and comments or corrections.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	10	Attentiveness and active participation
Oral and written reports	50	Instructors' criteria may vary but should be consistent with the students' level and with criteria agreed by the co-ordinator
Quizzes	20	Accuracy of content and English
Homework	20	Instructors' criteria may vary but should be consistent with the students' level and with criteria agreed by the co-ordinator

教科書: Teachers may use their own materials. Textbooks may also be chosen at the discretion of the co-ordinator. Guides to APA style may be found online.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	Varies according to the instructor

146561～66

Academic Skills Ⅱ

授業テーマ:

The development of academic skills through historical study

授業の概要:

This course is intended to continue furthering students'command of fundamental academic skills in English, such as note-taking, summarising and paraphrasing, oral presentation and research report writing, for which they should demonstrate improved competency at citing secondary resources. Teachers are requested to require APA formatting for student papers. The academic skills work will focus on aspects of the social history of America in order for students to better understand and appreciate some of the major episodes in the evolution of American society. Teachers will focus on a single (or overlapping) era(s) in order to encourage understanding of the social forces at work at the time.

到達目標:

1. Develop proficiency in writing research papers
2. Improve academic presentational skills
3. Improve research methods
4. Improve note-taking skills
5. Deepen cultural understanding of a major Anglophone country through understanding of broad historical changes in that country.

授業方法:

Using selected readings and presentations each teacher will focus on a distinct era of American history to provide a broad understanding of the period. This background work will then serve as a basis for closer investigation of certain themes by students in presentations and research reports.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
2.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
3.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
4.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
5.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
6.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
7.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
8.	Analysis of reading text. / Lecture. / Academic skills guidance.	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
9.	Oral presentations / Feedback	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
10.	Oral presentations / Feedback	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
11.	Oral presentations / Feedback	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
12.	Research review	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
13.	Research review	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
14.	Final proofing of research reports	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
15.	Course Review	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials

受講者へのメッセージやアドバイス:

No background historical knowledge is necessary prior to the course, but students are encouraged to acquaint themselves with the basic outline of American history through various sources recommended by the teacher.

フィードバックの方法:

Methods may vary according to the teacher, but teachers should provide ample individual feedback for both oral and written reports. Quizzes should be returned with legible marks and comments or corrections.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	10	Attentiveness and active participation
Oral and Written Reports	50	Instructors' criteria may vary but should be consistent with the students' level and with criteria agreed by the co-ordinator
Quizzes	20	Accuracy of content and English
Homework	20	Instructors' criteria may vary but should be consistent with the students' level and with criteria agreed by the co-ordinator

教科書:

Teachers may use their own materials. Textbooks may also be chosen at the discretion of the co-ordinator.
Guides to APA style may be found online

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	Will vary according to the instructor

146660

Academic Skills Ⅰ(AESA)

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:

Social history and culture of Canada

授業の概要:

This course will give students an opportunity to learn about some major events in Canadian contemporary history and culture, with specific focus on Canada's First Nations peoples, early immigration and multiculturalism.

到達目標:

Students will learn about the social and cultural history of Canada while developing their reading comprehension and academic writing skills, along with improving their listening and speaking abilities.

授業方法:

Coursework will consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written assignments, including special assignments mid-term and at the end of the term.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course, goals and expectations	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
2.	Canada: Early Beginnings, Group work, written assignments	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
3.	Contemporary Canada: Recent history, government and economy, Group work, writtten assignments	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
4.	The First Nations history Part I, Group work, written assignments	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
5.	The First Nations history Part II, Group work, written assignments	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
6.	The First Nations history Part III, Group work, written assignments	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
7.	Midterm Assignments, peer feedback	Reading assignment
8.	The Pacific Region, Group work, written assignments	Reading Assignment
9.	The Praire Provinces, Group work, written assignments	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
10.	Central Canada: Ontairo and Quebec, multiculturalism	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
11.	Multiculturalism Part I, Group work, written assignments	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
12.	Multiculturalism Part II, Group work, written assignments	Reading and writing assignment from textbook or additional materials distributed in class
13.	Writing Workshop, Final presentation preparation	Written and oral presentation preparation
14.	Final Presentations, peer feedback session	Written and oral presentation preparation
15.	Final Presentations, peer feedback session	Written and oral presentation preparation

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course is conducted all in English, with particular focus on presentation and communication skills. Students are strongly encouraged to communicate with both the instructor and fellow students in English in every class.

フィードバックの方法:

In-class evaluations, writing assignment and presentation assessments

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20	Class participation and attitude
Group work/in-class participation	25	
Written assignments and oral presentations	25	
Mid-term and final presentations	30	

教科書:

Gateway to Canada

参考書:

A good English-Japanese/Japanese-English dictionary.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやり、自己管理力

教員との連絡方法:

Students will be provided with the instructor's contact information in the first class.

146760

Academic Skills Ⅱ(AESA)

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:

Social history and culture of the United States of America

授業の概要:

This course will give students an opportunity to learn about some major events in American contemporary history and culture, with specific focus on the Native Americans, the early pioneers and African-American history

到達目標:

Students will learn about the social and cultural history of the United States of America while developing their reading comprehension and academic writing skills, along with improving their listening and speaking abilities.

授業方法:

Coursework will consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written assignments, including special assignments mid-term and at the end of the term.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course, goals and expectations	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
2.	The Early Pioneers, Group work, written assignments	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
3.	Early America Part I, group work, written assignments	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
4.	Early America, Part II, Group work, written assignments	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
5.	Native Americans Part I, Group work, written assignments	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
6.	Native Americans Part II, Group work, written assignments	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
7.	Native Americans Part II, Group work, written assignments	Preparation for Mid-term assessment
8.	Mid-term presentations, peer feedback	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
9.	Black American History Part I, Group work, written assignments	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
10.	Black American History Part II, Group work, written assignments	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
11.	Black American History Part III, Group work, written assignments	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
12.	Civil Rights Movement, American Feminist Movement, Group work, written assignments	Reading and written assignments based on the class textbook and other supplemental readings
13.	Writing Workshop, Final presentation preparation	Preparation for final report and oral presentations
14.	Final Presentations, peer feedback session	Preparation for final report and oral presentations
15.	Final Presentations, peer feedback session	Preparation for final report and oral presentations

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course is conducted all in English, with particular focus on presentation and communication skills. Students are strongly encourage to communicate with both the teacher and fellow students in English during each class.

フィードバックの方法:

In-class evaluations, writing assignment and presentation assessments

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20	in-class participation, motivation
Group work and in-class group discussion	25	motivation, communication ability, leadership skills, confidence, initiative, speaking skills
Written assignments and oral presentations	25	writing skills and presentation skills
Mid-term and Final assessments	30	effort, motivation, writing and presentation skills

教科書:

Blanchard, K., Root, C., (2000) Amercian Roots:Readings on U.S. Cultural History. Longman, New York.

参考書:

A good English-Japanese/Japanese-English dictionary.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

The instructor will notify students about contact information in the first class

146860

Academic Skills Ⅰ(AESB)

T.L.Medlock

授業テーマ:

Developing academic skills through historical study

授業の概要:

This course is intended to further students' command of fundamental academic skills in English, such as note-taking, summarising and paraphrasing, oral presentation and research report writing, for which they should demonstrate improved competency at citing secondary resources. The academic skills work will focus on aspects of the social history of Britain in order for students to better understand and appreciate some of the major episodes in the evolution of British society. This background work will then serve as a basis for closer investigation of certain themes by students in presentations and research reports.

到達目標:

1. Develop proficiency in writing research papers
2. Improve academic presentational skills
3. Improve research methods
4. Improve note-taking skills
5. Deepen cultural understanding of a major Anglophone country through understanding of broad historical changes in that country.

授業方法:

Students will listen to lectures and practise note-taking and paraphrasing in class, discuss and review materials in group work, undertake research tasks outside of class and teach each other through oral presentations as the result of research tasks.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course. Outline of objective and topics. Early history of Britain: settlers and invaders	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
2.	Paraphrasing material from previous week Introduction to the Georgian Period	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
3.	Review: The Georgian Period Review of APA	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
4.	The Growth and Price of Empire Ⅰ	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
5.	The Growth and Price of Empire Ⅱ	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
6.	The Growth of Civic Freedoms Ⅰ	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
7.	The Growth of Civic Freedoms Ⅱ	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
8.	Academic Skills Case Study: The City of Bath	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
9.	Academic Skills Case Study: The Life of Georgiana, Duchess of Devonshire	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
10.	Paraphrasing study: The diary of a captive slave	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
11.	Presentations	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
12.	Presentations	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
13.	Research and writing strategies review	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
14.	Research and writing strategies review	Appropriate supplementary reading and writing to extend material covered in class, prepare for the next week or prepare a report
15.	Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

No background historical knowledge is necessary prior to the course.

フィードバックの方法:

Oral and written reports will receive individual comments and corrections.
Tests will be returned with grades clearly marked.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Oral and Written Reports	50	Rigorous preparation and organisation of materials. Effective presentation skills for oral reports, and academic writing skills for written reports such as coherence, relevancy, transitions, and use of supplementary materials with citations and a list of references.
Homework	25	The completion of required tasks
Quizzes	25	Recalling selected core material from the course

教科書:

None

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、、自己実現力
教員との連絡方法:	tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

146960

Academic Skills Ⅱ(AESB)

T.L.Medlock

授業テーマ:

Developing academic skills through selective historical study

授業の概要:

This course is intended to further the student's command of fundamental academic skills in English, such as note-taking, summarising and paraphrasing, oral presentation and research report writing, for which students should demonstrate improved competency at citing secondary resources.
Using selected readings and presentations we will focus on distinct eras of American history to provide a broad understanding of the development of American national identity. This background work will then serve as a basis for closer investigation of certain themes by students in presentations and research reports.

到達目標:

1. Develop proficiency in writing research papers
2. Improve academic presentational skills
3. Improve research methods
4. Improve note-taking skills
5. Deepen cultural understanding of a major Anglophone country through understanding of broad historical changes in that country.

授業方法:

Students will listen to lectures and practice note-taking and paraphrasing in class, discuss and review group work, undertake research tasks outside of class and teach each other through oral presentations as the rest of research tasks.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course: Looking for America I	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
2.	Looking for America II	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
3.	Mini presentations	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
4.	Short report: All Come to Look for America	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
5.	Independence I	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
6.	Independence II	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
7.	"The Last of the Mohicans"	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
8.	Causes of the Civil War I	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
9.	Causes of the Civil War I	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
10.	The Civil War	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
11.	Presentations	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
12.	Presentations	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
13.	The West I	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
14.	The West II	Appropriate supplementary work: a reading text / research topic / written report / review of class materials
15.	Final Written Report Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

No background historical knowledge is necessary

フィードバックの方法:

Oral and written reports will receive individual comments and corrections.
Tests will be returned with grades clearly marked.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Oral and written reports	50%	Rigorous preparation and organisation of materials. Effective presentation skills for oral reports, and academic writing skills for written reports such as coherence, relevancy, transitions, and use of supplementary materials with citations and a list of references.
Quizzes	25%	Recalling selected core material from the course
Homework	25%	The completion of required tasks

教科書:

None

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法:	tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

147261、62

TOEIC演習Ⅰ

松井　　ゆう子、松本　　知子

授業テーマ:　TOEICテスト対策

授業の概要:　TOEICとは、Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。このTOEICは、和文英訳、英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションできるかということを測ります。この授業では、TOEICのテスト対策を通して、英語によるコミュニケーション能力の習得とTOEICのスコアアップを目指します。

到達目標:
（1）英語によるコミュニケーション能力の習得
（2）入学直後に受けたTOEICのスコアから、1年間で100点以上のスコアアップ

授業方法:　授業は、演習形式で行います。毎回、「小テスト、listening section、reading section、今日のまとめ」という順番で進めます。詳しくは、第1回目の授業で説明します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション TOEIC演習１	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
2.	小テスト TOEIC演習２	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
3.	小テスト TOEIC演習３	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
4.	小テスト TOEIC演習４	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
5.	小テスト TOEIC演習５	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
6.	小テスト TOEIC演習６	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
7.	小テスト TOEIC演習７	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
8.	小テスト TOEIC演習８	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
9.	小テスト TOEIC演習９	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
10.	小テスト TOEIC演習１０	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
11.	小テスト TOEIC演習１１	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
12.	小テスト TOEIC演習１２	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
13.	小テスト TOEIC演習１３	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
14.	小テスト TOEIC演習１４	指示された箇所の予習と復習
15.	まとめ	指示された箇所の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回の小テストに関しては、テスト後すぐに、解答、そして解説します。
受講生からの質問、コメント等に関しては、内容により、教室でまとめて、あるいは、個別に返事をします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	35	到達目標（1）に関する知識や理解度により評価します。
授業への参加・態度、小テストなど	65	評価項目の具体的な割合は、担当教員が決めますが、到達目標（2）を踏まえた上で、積極的に授業に参加し、毎回の小テストなどに真剣に取り組めたかを評価します。詳しくは第1回目の授業で説明します。

教科書:　担当教員より指示します。

参考書:　授業中に適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　担当教員より指示します。

147361、62

TOEIC演習Ⅱ

松井　　ゆう子、松本　　知子

授業テーマ:　TOEICテスト対策

授業の概要:　TOEICとは、Test of English for International Communication の略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストです。このTOEICは、和文英訳、英文和訳などの技術ではなく、身近な内容からビジネスまで幅広くどれだけ英語でコミュニケーションできるかということを測ります。この授業では、TOEICのテスト対策を通して、英語によるコミュニケーション能力の習得とTOEICのスコアアップを目指します。

到達目標:
（1）英語によるコミュニケーション能力の習得
（2）入学直後に受けたTOEICのスコアから、1年間で100点以上のスコアアップ

授業方法:　授業は、演習形式で行います。毎回、「小テスト、listening section、reading section、今日のまとめ」という順番で進めます。詳しくは、第1回目の授業で説明します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション TOEIC演習１	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
2.	小テスト TOEIC演習２	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
3.	小テスト TOEIC演習３	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
4.	小テスト TOEIC演習４	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
5.	小テスト TOEIC演習５	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
6.	小テスト TOEIC演習６	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
7.	小テスト TOEIC演習７	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
8.	小テスト TOEIC演習８	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
9.	小テスト TOEIC演習９	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
10.	小テスト TOEIC演習１０	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
11.	小テスト TOEIC演習１１	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
12.	小テスト TOEIC演習１２	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
13.	小テスト TOEIC演習１３	小テストのための学習 指示された箇所の予習と復習
14.	小テスト TOEIC演習１４	指示された箇所の予習と復習
15.	まとめ	指示された箇所の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回の小テストに関しては、テスト後すぐに、解答、そして解説します。
受講生からの質問、コメント等に関しては、内容により、教室でまとめて、あるいは、個別に返事をします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	35	到達目標（1）に関する知識や理解度により評価します。
授業への参加・態度、小テストなど	65	評価項目の具体的な割合は、担当教員が決めますが、到達目標（2）を踏まえた上で、積極的に授業に参加し、毎回の小テストなどに真剣に取り組めたかを評価します。詳しくは第1回目の授業で説明します。

教科書:　担当教員より指示します。

参考書:　授業中に適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　担当教員より指示します。

147461～63　**CALL English Ⅰ**

風間　末起子、池上　久美子、柳　美佐

授業テーマ:　The last chance to develop higher English communicative proficiency!

授業の概要:
（1）英語基礎能力を確認する（語彙能力の向上）。
（2）読解力の発展的能力を育成する（多様なReading Strategiesを選択的に活用）。
（3）聴解の発展的能力を育成する（多様なListening Strategiesを選択的に活用）。
（4）統合的能力を育成する（Writing-Speaking能力の向上）。
（5）多くの英語に実際に触れる（読む・聴く）機会を増やす。
・必修英語スキル科目としては、このコースが総仕上げとなる。また、この授業は、1・2年次生の Reading I-IV, Active Listening I-IV, Writing I-IV, Speaking I-IVを発展的に統合したものとして位置づけられている。

到達目標:
・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
・学科の学びに必要なコンピュータ活用力を身に付けている。

授業方法:
（1）最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速読力をつける（News Flash）。
（2）最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速解力をつける（News Flash）。
（3）読解・聴解の発展的能力の向上をはかるため、CALL教材（インターネット上の教材を含む）をフル活用する。利用予定CALL教材：ATR CALL BRIX, スーパー英語, ALC NetAcademy, SRAなど。
（4）語彙能力の向上：語彙テストを適宜実施し、語彙能力の定着をはかる。
（5）個人の特徴に応じた学習効果を上げるため、CALL教室で授業を行う。
基本的には上記の通り授業を行うが、この授業は2016年度より3年次必修科目となったため、受講人数やクラスに応じて、授業内容や授業方法を柔軟に工夫していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	予習は不要だが、『Dialogue1800』を毎回予習をしておくと授業への理解が早くなる。授業では復習は必須である。また、授業内で学習する「スーパー英語」については、授業外での自学自習が強く求められる。ワークシートも利用して、教員の指示に従って、適宜授業中に提出する。
2.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
3.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
4.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
5.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
6.	第1回語彙テスト 読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第1回語彙テストに備えて準備をする。
7.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
8.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
9.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
10.	第2回語彙テスト 読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第2回語彙テストに備えて準備をする。
11.	読解演習と聴解演習：テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
12.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
13.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
14.	第3回語彙テスト	第3回語彙テストに備えて準備をする。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
3年次の英語スキル科目は少ししんどいと感じるかもしれませんが、スキルを伸ばす最後のチャンスと考えて、積極的に学習しましょう。

フィードバックの方法:	補助教材のワークシートを適宜返却する。また学期末〆切りの提出物は秋学期の授業などで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
3回のVocabulary Quiz	15%	News Flashの理解度を基準にする。
学期末〆切りの「スーパー英語」の My Portfolio, 併せてワークシート(提出済み分も含	35%	「スーパー英語」の達成度を基準にする。
定期試験	50%	授業内の学習を土台にした語彙力、および応用的な読解力と聴解力を問う。

教科書:	・秋葉利治・森秀夫著『Dialogue 1800 英単語・熟語ダイローグ1800』(三訂版)(中・上級編)　東京、旺文　社、2012。(1・2年次のReading, Active Listening, Writingの各授業と共通テキスト) ・ハンドアウトを配布。
参考書:	授業の中で提示する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡方法:	E メールやマナビーの連絡、および授業の前後で対応する。

147561～63 **CALL English Ⅱ**

風間　末起子、池上　久美子、柳　美佐

授業テーマ: The last chance to develop higher English communicative proficiency!

授業の概要:
（1）英語基礎能力を確認する（語彙能力の向上）。
（2）読解力の発展的能力を育成する（多様なReading Strategiesを選択的に活用）。
（3）聴解の発展的能力を育成する（多様なListening Strategiesを選択的に活用）。
（4）統合的能力を育成する（Writing-Speaking能力の向上）。
（5）多くの英語に実際に触れる（読む・聴く）機会を増やす。
必修英語スキル科目としては、このコースが総仕上げとなる。また、この授業は、1・2年次生の Reading I-IV, Active Listening I-IV, Writing I-IV, Speaking I-IVを発展的に統合したものとして位置づけられている。

到達目標:
・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
・学科の学びに必要なコンピュータ活用力を身に付けている。

授業方法:
（1）最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速読力をつける（News Flash）。
（2）最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速解力をつける（News Flash）。
（3）読解・聴解の発展的能力の向上をはかるため、CALL教材（インターネット上の教材を含む）をフル活用する。利用予定CALL教材：ATR CALL BRIX, スーパー英語, ALC NetAcademy, SRAなど。
（4）語彙能力の向上：語彙テストを適宜実施し、語彙能力の定着をはかる。
（5）個人の特徴に応じた学習効果を上げるため、CALL教室で授業を行う。
基本的には上記の通り授業を行うが、この授業は2016年度より3年次必修科目となったため、受講人数やクラスに応じて、授業内容や授業方法を柔軟に工夫していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	予習は不要だが、『Dialogue1800』を毎回予習をしておくと授業への理解が早くなる。授業では復習は必須である。また、授業内で学習する「スーパー英語」については、授業外での自学自習が強く求められる。ワークシートも利用して、教員の指示に従って、適宜授業中に提出する。
2.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
3.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
4.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
5.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
6.	第1回語彙テスト 読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第1回語彙テストに備えて準備をする。
7.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
8.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
9.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
10.	第2回語彙テスト 読解演習と聴解演習：テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第2回語彙テストに備えて準備をする。
11.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
12.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
13.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
14.	第3回語彙テスト 「スーパー英語」の学習	第3回語彙テストに備えて準備をする。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:	3年次の英語スキル科目は少ししんどいと感じるかもしれませんが、スキルを伸ばす最後のチャンスと考えて、積極的に学習しましょう。
フィードバックの方法:	補助教材のワークシートを適宜返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
3回のVocabulary Quiz	15%	News Flashの理解度を基準にする。
学期末〆切りの「スーパー英語」のMy Portfolio, 併せてワークシート(提出済み分も含	35%	「スーパー英語」の達成度を基準にする。
定期試験	50%	授業内の学習を土台にした語彙力、および応用的な読解力と聴解力を問う。

教科書:	・秋葉利治・森秀夫著『Dialogue 1800 英単語・熟語ダイローグ1800』(三訂版)(中・上級編)　東京、旺文　社、2012。(1・2年次のReading, Active Listening, Writingの各授業と共通テキスト) ・ハンドアウトを配布。
参考書:	授業の中で提示する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡方法:	E メールやマナビーの連絡、および授業の前後で対応する。

147660

CALL English Ⅰ(AES)

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:　The last chance to develop higher English communicative proficiency!

授業の概要:
（1）英語基礎能力を確認する（語彙能力の向上）。
（2）読解力の発展的能力を育成する（多様なReading Strategiesを選択的に活用）。
（3）聴解の発展的能力を育成する（多様なListening Strategiesを選択的に活用）。
（4）統合的能力を育成する（Writing-Speaking能力の向上）。
（5）多くの英語に実際に触れる（読む・聴く）機会を増やす。
必修英語スキル科目としては、このコースが総仕上げとなる。また、この授業は、1・2年次生のReading I-IV, Active Listening I-IV, Writing I-IV, Speaking I-IVを発展的に統合したものとして位置づけられている。

到達目標:
・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
・学科の学びに必要なコンピュータ活用力を身に付けている。

授業方法:
（1）最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速読力をつける（News Flash）。
（2）最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速解力をつける（News Flash）。
（3）読解・聴解の発展的能力の向上をはかるため、CALL教材（インターネット上の教材を含む）をフル活用する。利用予定CALL教材：ATR CALL BRIX, スーパー英語, ALC NetAcademy, SRAなど。
（4）語彙能力の向上：語彙テストを適宜実施し、語彙能力の定着をはかる。
（5）個人の特徴に応じた学習効果を上げるため、CALL教室で授業を行う。
　基本的には上記の通り授業を行うが、この授業は2016年度より3年次必修科目となったため、受講人数やクラスに応じて、授業内容や授業方法を柔軟に工夫していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	予習は不要だが、『Dialogue1800』を毎回予習をしておくと授業への理解が早くなる。授業では復習は必須である。また、授業内で学習する「スーパー英語」については、授業外での自学自習が強く求められる。ワークシートも利用して、教員の指示に従って、適宜授業中に提出する。
2.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
3.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
4.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
5.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
6.	第1回語彙テスト 読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第1回語彙テストに備えて準備をする。
7.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
8.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
9.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
10.	第2回語彙テスト 読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第2回語彙テストに備えて準備をする。
11.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
12.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
13.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
14.	第3回語彙テスト 「スーパー英語」の学習	第3回語彙テストに備えて準備をする。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:	補助教材のワークシートを適宜返却する。また学期末〆切りの提出物は秋学期の授業などで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
3回のVocabulary Quiz	15%	News Flashの理解度を基準にする。
学期末〆切りの「スーパー英語」のMy Portfolio, 併せてワークシート(提出済み分も含	35%	「スーパー英語」の達成度を基準にする。
定期試験	50%	授業内の学習を土台にした語彙力、および応用的な読解力と聴解力を問う。

教科書:	・秋葉利治・森秀夫著『Dialogue 1800 英単語・熟語ダイローグ1800』(三訂版)(中・上級編)　東京、旺文　社、2012。(1・2年次のReading, Active Listening, Writingの各授業と共通テキスト) ・ハンドアウトを配布。
参考書:	授業の中で提示する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡方法:	E メールやマナビーの連絡、および授業の前後で対応する。

147760

CALL English Ⅱ(AES)

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:　The last chance to develop higher English communicative proficiency!

授業の概要:
（1）英語基礎能力を確認する（語彙能力の向上）。
（2）読解力の発展的能力を育成する（多様なReading Strategiesを選択的に活用）。
（3）聴解の発展的能力を育成する（多様なListening Strategiesを選択的に活用）。
（4）統合的能力を育成する（Writing-Speaking能力の向上）。
（5）多くの英語に実際に触れる（読む・聴く）機会を増やす。
必修英語スキル科目としては、このコースが総仕上げとなる。また、この授業は、1・2年次生のReading I-IV, Active Listening I-IV, Writing I-IV, Speaking I-IVを発展的に統合したものとして位置づけられている。

到達目標:
・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
・学科の学びに必要なコンピュータ活用力を身に付けている。

授業方法:
（1）最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速読力をつける（News Flash）。
（2）最新の英字新聞やCNNなどの記事を読み、速解力をつける（News Flash）。
（3）読解・聴解の発展的能力の向上をはかるため、CALL教材（インターネット上の教材を含む）をフル活用する。利用予定CALL教材：ATR CALL BRIX, スーパー英語, ALC NetAcademy, SRAなど。
（4）語彙能力の向上：語彙テストを適宜実施し、語彙能力の定着をはかる。
（5）個人の特徴に応じた学習効果を上げるため、CALL教室で授業を行う。
　基本的には上記の通り授業を行うが、この授業は2016年度より3年次必修科目となったため、受講人数やクラスに応じて、授業内容や授業方法を柔軟に工夫していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	予習は不要だが、『Dialogue1800』を毎回予習をしておくと授業への理解が早くなる。授業では復習は必須である。また、授業内で学習する「スーパー英語」については、授業外での自学自習が強く求められる。ワークシートも利用して、教員の指示に従って、適宜授業中に提出する。
2.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
3.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
4.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
5.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
6.	第1回語彙テスト 読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第1回語彙テストに備えて準備をする。
7.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
8.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
9.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
10.	第2回語彙テスト 読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ 第2回語彙テストに備えて準備をする。
11.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
12.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
13.	読解演習と聴解演習： テキスト『Dialogue 1800』の学習と、そのテーマに沿ったNew Flash（新聞記事）を読解・聴解する。 「スーパー英語」の学習	上記と同じ
14.	第3回語彙テスト 「スーパー英語」の学習	第3回語彙テストに備えて準備をする。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:	補助教材のワークシートを適宜返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
3回のVocabulary Quiz	15%	News Flashの理解度を基準にする。
学期末〆切りの「スーパー英語」のMy Portfolio, 併せてワークシート(提出済み分も含	35%	「スーパー英語」の達成度を基準にする。
定期試験	50%	授業内の学習を土台にした語彙力、および応用的な読解力と聴解力を問う。

教科書:	・秋葉利治・森秀夫著『Dialogue 1800 英単語・熟語ダイローグ1800』(三訂版)(中・上級編)　東京、旺文　社、2012。(1・2年次のReading, Active Listening, Writingの各授業と共通テキスト) ・ハンドアウトを配布。
参考書:	授業の中で提示する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡方法:	Eメールやマナビーの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。

148060

イギリス文化入門

小山　　薫

授業テーマ:　イギリス文化に関する基礎知識の修得

授業の概要:　イギリスの地理、民族、歴史、現代社会など、イギリス文化に関する基礎知識を身につける。言語としての英語の背景にある、イギリスに関する文化的知識を習得することにより、異文化に属する人々との交流の意義や、異文化コミュニケーションの課題を理解し、スムーズなコミュニケーションを取ることを可能とする。現代イギリス事情を正しく認識すると共に、日本やアメリカなど、他国との比較を通して異文化理解を深める。

到達目標:
・イギリスの地理に関する基礎知識の修得
・イギリスの民族的成り立ちに関する基礎知識の修得
・イギリスの重要な歴史（16～20世紀初頭）に関する基礎知識の修得
・現代イギリス社会に関する基礎知識の修得

授業方法:　毎回パワーポイントを用い、イギリス文化の諸相について講義する。学習指導要領を意識して、アクティブラーニングの要素を取り入れた授業にするため、重要ポイントの解説をしつつ、学生に意見を求めたり、配付資料に穴埋め箇所を作って、英語のキーワードをその場で確実に覚えるよう、工夫している。補足プリント（年表やマップなど）を参照し、適宜AV機器を用いることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション（シラバス確認） ・講義：イギリス」とは?	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	講義：イギリス民族的成り立ち：まとめ	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
3.	講義：イギリス民族的成り立ち：まとめ	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
4.	講義：イギリスの食文化	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
5.	講義：イギリスの住環境	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
6.	講義：イギリスの君主制＆階級	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
7.	講義：イギリスの政治形態	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
8.	講義：イギリスの歴史：宗教改革（16世紀）	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
9.	講義：イギリスの歴史：ピューリタン革命（17世紀）と合理主義の時代（18世紀）	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
10.	講義：イギリスの歴史：ヴィクトリア時代（19世紀）と大英帝国の終焉（20世紀初頭）	前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
11.	講義：イギリスの教育制度	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
12.	講義：イギリスの言語	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
13.	講義：イギリスの芸術	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習し、英語のキーワードを覚える。
14.	講義：補足説明	秋学期授業内容の復習
15.	まとめ	秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加（無遅刻無欠席）はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院（診断書提出）などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・やむを得ず欠席した場合は、次回授業までに小山研究室に出向き、欠席回のプリントを受け取って、読んでおくこと。

フィードバックの方法:　大クラスの講義科目であり、出欠用のマークシートを配布する。その備考欄に授業内容への質問やコメントが書かれていることがあるが、口頭での質問と同様、全体で共有すべき内容だと判断した場合には、翌週の授業冒頭で紹介し、必要な説明を加える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
学期末試験	80%	春学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:　Tim Knight, Welcome to Britain（音羽書房鶴見書店）

参考書:　必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Emailやオフィスアワーを利用。

148160

アメリカ文化入門

松村　　延昭

授業テーマ:　アメリカをもう少し深く知ろう

授業の概要:　パワーポイントを用いて、取り上げる各項目を解説していく。パワーポイントのスライドにブランクを残し授業時に受講者が埋めたり、導入部分にクイズ形式を用いるなど、アクティブラーニングの要素をできる限り取り入れていく。

到達目標:　アメリカ文化の多様な形態を多面的に概観することにより、アメリカに対する基本的な知識を身につける。言語としての英語の背景にある、アメリカに関する文化的知識を習得することにより、異文化に属する人とのスムーズなコミュニケーションをとることを目指す。

授業方法:　パワーポイントのスライドを用いて概説していく。スライドのコピーはレジメとして、各週授業の始めに配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のイントロダクション アメリカの基礎知識 1 授業内容に関するコメント提出 1	シラバスを読んでおく。
2.	アメリカの基礎知識 2	アメリカに関する各種知識を整理し確認しておく。
3.	ピューリタンの抱いたアメリカの夢	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
4.	ジェームズタウン入植者の抱いたアメリカの夢	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
5.	ネイティブアメリカンと開拓者 授業内容に関するコメント提出 2	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
6.	イギリス人の入植地から独立国家へ	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
7.	南部社会と奴隷制度	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
8.	リンカーンと南北戦争	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
9.	奴隷解放後の黒人 授業内容に関するコメント提出 3	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
10.	移民の流入とネイティヴィズム	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
11.	第一次世界大戦後のジャズエイジ	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
12.	公民権運動の時代 授業内容に関するコメント提出 4	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
13.	トランプのアメリカ	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
14.	音楽・映画・スポーツとアメリカ	前回の授業内容を復讐しておく。 今回の授業内容に関する知識を深めておく。
15.	授業のまとめ	学習してきたアメリカに関する文化的知識を確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　一方的な意見をただ受け入れるだけでなく、対応する意見にも耳を傾ける。ちまたに溢れるアメリカ文化の本質に迫ってもらいたい。

フィードバックの方法:　毎週配る出席カードに、自由にコメントや質問を書くことができる。全体の参考となる意見等は、次回の授業始めに紹介する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	30%	受講姿勢をみる。3分の2以上の出席はマスト。
テスト	70%	客観テストをおこなう。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　公開しているメールアドレスに連絡する。
教員が全員に連絡するときは、マナビーのニュースを使用する。

148260

言語コミュニケーション入門Ⅰ

柳　　美佐

授業テーマ:　「ことば」について考える。

授業の概要:　各週のテーマと問いに学習者が能動的に取り組めるようアクティブ・ラーニングの手法に留意して講義とディスカッションを行う。授業では学習指導要領とともに以下の点を重視する。
（1）言語の成り立ちと役割について多様な事例を用いて考察を深め、コミュニケーションの基礎的概念を理解する。
（2）言語習得理論と指導法について学び、学習者の外国語習得ならびに運用能力の向上を目指す。
（3）言語にまつわるステレオタイプをとり上げ、批判的思考を身につけることを目指す。
（4）身につけた「外国語」を社会でどのように活かしていくのかを具体的に意識する。

到達目標:　英語学及び応用言語学の基礎的事項を理解する。英語の成り立ちや特徴を理解し日本語との比較を通して、将来中学校及び高等学校において生徒への適切な言語インプットやインタラクティブな指導のための基礎を習得する。

授業方法:　基本的に講義形式で授業を進める。視聴覚教材も適宜利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:　言語とは何か	なし
2.	言語の発達:　動物に言語はあるのか	翌週学習予定チャプターのリーディング
3.	言語と人間:　言語と思考の関係	翌週学習予定チャプターのリーディング
4.	世界の言語:　言語の分類、言語か方言か	翌週学習予定チャプターのリーディング
5.	英語の歴史:　英語の発展と国際語としての英語	翌週学習予定チャプターのリーディング
6.	英語の基本（1）:　英語の語源	翌週学習予定チャプターのリーディング
7.	英語の基本（2）:　英語の発音の特徴	翌週学習予定チャプターのリーディング
8.	英語の基本（3）:　和製英語は通じるか	翌週学習予定チャプターのリーディング
9.	英語の基本（4）:　英語にも敬語はあるのか	翌週学習予定チャプターのリーディング
10.	第一言語習得論:　幼児の言語習得	翌週学習予定チャプターのリーディング
11.	第二言語習得論:　語学学習と指導法	翌週学習予定チャプターのリーディング
12.	言語と社会:　言語とジェンダー	翌週学習予定チャプターのリーディング
13.	言語と社会:「国語」と「外国語」	翌週学習予定チャプターのリーディング
14.	言語の危機:　言語の消滅、保存、再生	翌週学習予定チャプターのリーディング
15.	異文化間コミュニケーション:相互理解と開かれた社会をめざして	既習チャプターの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書を予め読んでくること。受講態度が悪い場合には授業の進行妨害とみなして退出を求める場合があるので注意すること。

フィードバックの方法:　授業内でコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	75%	学期末に実施する最終試験
課題レポート	25%	学期中に提出

教科書:　加藤重広著、『ことばの科学（まなびのエクササイズ2 ）』、ひつじ書房・2007年刊、ISBN9784894763364

参考書:　町田健著、『言語学が好きになる本』、研究社出版・1999年刊、ISBN4327376744
佐久間順一、加藤重広、町田健著、『言語学入門』、研究社・2004年刊、ISBN4327401382

中学校学習指導要領解説、高等学校学習指導要領解説 外国語編
その他、授業中に適宜資料を配付する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール（メールアドレスは初回授業で配布予定）

148360

言語コミュニケーション入門Ⅱ

柳　　美佐

授業テーマ:　「コミュニケーション」について考える。

授業の概要:　Ⅰに続いてⅡでは、前期に学習した言語に関する知識を背景に、コミュニケーションについてより専門的な考察を試みる。授業では英語で書かれたテキストにある様々な文化摩擦を毎回とり上げ、英語と日本語の違い、ひいてはそれぞれの文化圏におけるコミュニケーションのあり方の差異に焦点をあてる。学習者が積極的にディスカッションに参加できるようアクティブラ―ニングの手法に留意し、学習者の自己理解と異文化理解を目指す。

到達目標:　英語と日本語におけるコミュニケーションの特徴と差異に気づき異文化を理解する。また、将来中学校及び高等学校において生徒への適切な言語インプットやインタラクティブな指導のための基本的事項を習得する。

授業方法:　基本的に講義形式で授業を進める。視聴覚教材も適宜利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction:　コミュニケーションとは何か	なし
2.	You and I are Equals:　尊敬と卑下	翌週学習予定チャプターのリーディング
3.	You and I are Close Friends:　多様な礼儀正しさ	翌週学習予定チャプターのリーディング
4.	You and I are Relaxed:　気楽な姿を表現する意味	翌週学習予定チャプターのリーディング
5.	You and I are Independent:　自立した個人であることの重要性	翌週学習予定チャプターのリーディング
6.	People as Individuals:　別々の個人として存在する	翌週学習予定チャプターのリーディング
7.	Being Original:　自分の意見を持つ	翌週学習予定チャプターのリーディング
8.	Questions, Questions!:　挨拶としての質問	翌週学習予定チャプターのリーディング
9.	Answer to the Point!:　質問の核心にこたえる	翌週学習予定チャプターのリーディング
10.	Conversational Ballgames:　会話は常にキャッチボール	翌週学習予定チャプターのリーディング
11.	Don't Apologize!:　誤解から合意までのプロセス	翌週学習予定チャプターのリーディング
12.	Nobody Told Me!:　謝罪と合意までのプロセス	翌週学習予定チャプターのリーディング
13.	Polite Fictionsから見えてくるもの	翌週学習予定チャプターのリーディング
14.	コミュニケーションの役割	翌週学習予定チャプターのリーディング
15.	他者理解と異文化間コミュニケーション	既習チャプターの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書を予め読んでくること。受講態度が悪い場合には授業の進行妨害とみなして退出を求める場合があるので注意すること。

フィードバックの方法:　授業内でコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	75%	学期末に実施する最終試験
課題レポート	25%	学期中に課すレポート

教科書:　Nancy Sakamoto, Shiyo Sakamoto著、『Polite Fictions in Collision―異文化との出会い・誤解・理解―』、金星堂・2008年刊、ISBN9784764737785

参考書:　中学校学習指導要領解説、高等学校学習指導要領解説 外国語編
その他、授業中に適宜資料を配付する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール（メールアドレスは初回授業で配布予定）

148860

英語音声学Ⅰ

久松　　知佐子

授業テーマ:　英語の基本的な音体系、調音の方法を学び、英語音声学の基礎を養う。

授業の概要:　教員が音声学理論や個々の音を解説した後、聞き取り練習と発音練習を繰り返し行い、自然で明瞭な発音を習得する。学期末のプロジェクトでは、会話文を音声学的に分析し、表現（発表）へとつなげていく。

到達目標:　各母音・子音の発音記号を読み、それを正しく発音できるようになる。また、聞いた単語を発音記号で表記できるようになることを目指す。

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 音について 呼吸法 発音器官	初回授業までにテキストを購入しておく。 Quizの準備
2.	Review Quiz ① 母音と子音について 母音の調音（前舌母音） 聞き取り練習、発音練習	前回授業内容の復習
3.	母音の調音（後舌母音） 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
4.	Review Quiz ② 母音の調音（中舌母音） 聞き取り練習、発音練習	前回授業内容の復習
5.	母音の調音（二重母音） 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
6.	Review Quiz ③ 子音の調音（閉鎖音・鼻音） 聞き取り練習、発音練習	前回授業内容の復習
7.	子音の調音（摩擦音） 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
8.	Review Quiz ④ 子音の調音（破擦音・側音） 聞き取り練習、発音練習	前回授業内容の復習
9.	子音の調音（半母音） 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
10.	Review Quiz ⑤ 音節と語強勢 聞き取り練習、発音練習	前回授業内容の復習
11.	文強勢 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
12.	Review Quiz ⑥ プロジェクト	前回授業内容の復習 プロジェクトの準備（ワークシート）
13.	プロジェクト	前回授業内容の復習 プロジェクトの準備（ワークシート）
14.	プロジェクト発表	春学期授業内容の復習
15.	まとめ ワークシート提出	春学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業は、「英語音声学II」と連続履修することが望ましい。

フィードバックの方法:　次回の授業で、Quizの正答を確認する。
教員が提出物をチェックし、適宜コメントを記入後、返却する。
教員、または学生同士で発音をチェックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quiz	20	6回行われるQuiz結果により評価。
課題提出	10	課題内容の理解度により評価。
プロジェクト	10	発表とワークシートの内容により評価。
学期末試験	60	春学期の学習内容の理解度により評価。

教科書:　今井由美子他（著）、Sounds Make Perfect: 英語音声学への扉（英宝社）

参考書:　授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Email、オフィスアワー

148960

英語音声学Ⅱ

久松　　知佐子

授業テーマ:
英語音声学Iに引き続き、英語の基本的な音体系（リズムやイントネーションを含めた）を学び、英語音声の基礎を養う。

授業の概要:
教員が音声学理論を解説した後、聞き取り練習と発音練習を繰り返し行い、自然で明瞭な発音を習得する。学期末プロジェクトでは、動画教材を音声学的に分析し、表現（発表）へとつなげていく。英語音声学Iを履修済みであることが望ましい。

到達目標:
春学期に学習した母音・子音の知識を踏まえ、音のつながり・強勢・イントネーションについて習得し、コミュニケーション能力の向上を目指す。

授業方法:
講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 英語音声学Iの復習	英語音声学Iを履修していない方は、初回授業までにテキストを購入し授業に参加すること。
2.	英語音声学Iの復習 ピッチとイントネーション 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
3.	Review Quiz ① 音のつながり（連結） 聞き取り練習、発音練習	前回授業内容の復習
4.	音のつながり（脱落） 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
5.	Review Quiz ② 音のつながり（同化） 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
6.	Review Quiz ③ イントネーション（列挙・選択疑問文・付加疑問文） 聞き取り練習、発音練習	前回授業内容の復習
7.	文強勢の復習 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
8.	Review Quiz ④ 機能語の弱形と強形 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
9.	Review Quiz ⑤ 句動詞 聞き取り練習、発音練習	前回授業内容の復習
10.	話者の意図と強勢 聞き取り練習、発音練習	Quizの準備 前回授業内容の復習
11.	Review Quiz ⑥ 合成語・名詞連続 聞き取り練習、発音練習	前回授業内容の復習
12.	プロジェクト(Oral Interpretation)	前回授業内容の復習 プロジェクトの準備（ワークシート）
13.	プロジェクト	前回授業内容の復習 プロジェクトの準備（ワークシート）
14.	プロジェクト発表	前回授業内容の復習
15.	まとめ ワークシート提出	秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
英語音声学Iの知識を前提とした内容となります。しっかり復習と確認をしつつ、授業に臨んでください。

フィードバックの方法:
次回の授業で、Quizの正答を確認する。
教員が提出物をチェックし、適宜コメントを記入後、返却する。
教員、または学生同士で発音をチェックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quiz	20	6回行われるQuiz結果により評価。
課題提出	10	課題内容の理解度により評価。
プロジェクト	10	発表とワークシートの内容により評価。
学期末試験	60	秋学期の学習内容の理解度により評価。

教科書:
今井由美子他（著）、Sounds Make Perfect:　英語音声学への扉（英宝社）

参考書:
授業中、適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:
Email、オフィスアワー

149060

英語学概論Ⅰ

赤松　　信彦

授業テーマ:　英語教育のための英語学

授業の概要:　外国語である英語を効果的に教えることは易しいことではありません。学習者の意欲を高めるような教授法に加え、英語という言語に対する広い見識と深い知識が求められます。この授業では、「英語とはどのような言語なのか」という問題について、英語学の知見を通して、学生のみなさんと一緒に考えます。

到達目標:　英語教育という視点から英語学的知見を捉え、「日本人にとって効果的な英語の教え方・学び方とはどのようなものか」について考えることができるような、言語学的知識を構築することが、この授業の目標です。

授業方法:　講義形式中心で授業を行います。適宜プリントを配布し、プリントに従って授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション（英語教育のための英語学とは）	シラバス
2.	音韻論（1）：母音と子音	テキスト（第1章）
3.	音韻論（2）：音節とモーラ	テキスト（第1章）
4.	音韻論（3）：アクセント	テキスト（第1章）
5.	音韻論（4）：文アクセント、イントネーション、リズム	テキスト（第1章）
6.	形態論（1）：形態論とは	テキスト（第2章）
7.	形態論（2）：派生形態論とは	テキスト（第2章）
8.	形態論（3）：複合語	テキスト（第2章）
9.	英語の歴史（1）：古英語	配布資料
10.	英語の歴史（2）：中英語	配布資料
11.	英語の歴史（3）：近代英語	配布資料
12.	英語の歴史（4）：アメリカ英語	配布資料
13.	英語の歴史（5）：世界の諸英語	配布資料
14.	英語学と英語教育：語彙指導	配布資料
15.	まとめ	配布資料

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中の質疑応答でフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト・レポート	30	各テーマに関する理解度により評価する。
期末試験	70	英語学の知見に関する基本的な理解と、英語教育における応用という観点より、評価する。

教科書:　三原健一・高見健一（編著）『日英対照　英語学の基礎』くろしお出版（2013）

参考書:　適宜、授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　nakamats@mail.doshisha.ac.jp

149160

英語学概論Ⅱ

赤松　　信彦

授業テーマ:　英語教育のための英語学

授業の概要:　外国語である英語を効果的に教えることは易しいことではありません。学習者の意欲を高めるような教授法に加え、英語という言語に対する広い見識と深い知識が求められます。この授業では、「英語とはどのような言語なのか」という問題について、英語学の知見を通して、学生のみなさんと一緒に考えます。

到達目標:　英語教育という視点から英語学的知見を捉え、「日本人にとって効果的な英語の教え方・学び方とはどのようなものか」について考えることができるような、言語学的知識を構築することが、この授業の目標です。

授業方法:　講義形式中心で授業を行います。適宜プリントを配布し、プリントに従って授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション（英語教育のための英語学とは）	シラバス
2.	統語論（1）：生成文法　句構造	テキスト（第3章）
3.	統語論（2）：生成文法　名詞句	テキスト（第3章）
4.	統語論（3）：生成文法　移動	テキスト（第3章）
5.	統語論（4）：機能的文法論　文の情報構造	テキスト（第4章）
6.	統語論（5）：機能的文法論　視点	テキスト（第4章）
7.	意味論（1）：語彙意味論　語の意味	テキスト（第5章）
8.	意味論（2）：語彙意味論　多義性	テキスト（第5章）
9.	意味論（3）：語彙意味論　加算と不可算	テキスト（第5章）
10.	意味論（4）：語彙意味論　動詞の意味	テキスト（第5章）
11.	意味論（5）：認知意味論　カテゴリー化とプロトタイプ	テキスト（第6章）
12.	意味論（6）：認知意味論　メトニミーと語彙の意味	テキスト（第6章）
13.	意味論（7）：認知意味論　メタファー	テキスト（第6章）
14.	英語学と英語教育：文法指導	配布資料
15.	まとめ	配布資料

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中の質疑応答でフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト・レポート	30	各テーマに関する理解度により評価する。
期末試験	70	英語学の知見に関する基本的な理解と、英語教育における応用という観点より、評価する。

教科書:　三原健一・高見健一（編著）『日英対照　英語学の基礎』くろしお出版（2013）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　nakamats@mail.doshisha.ac.jp

149260

外国語教育論Ⅰ

赤松　　信彦

授業テーマ:　母語習得と外国語学習について理解を深めよう。

授業の概要:　このコースでは、以下にあげる3点を目標とします。
(1) 第一・第二言語習得理論 (SLA) から外国語習得のメカニズムについて理解と関心を深める。
(2) 外国語学習に与える影響について理解を深める。
(3) 特に外国語学習における母語の影響について理解を深める。

到達目標:　(1) 外国語学習の基本概念を知り、学んだ知識を自分自身の英語学習に活かすことが出来る。
(2) 応用言語学にさらに興味関心を持つ。
(3) 協働学習の重要性が理解できる。

授業方法:　授業計画のテーマに沿い、授業をすすめます。いくつかのパターンが想定されますが、講義に加えてグループを中心に、自ら考え・意見交流ができるような形を目指します。
このコースでは、毎週課題が指定され、講義内容に基づき、自分なりの考えをまとめることが求められます。
できる限り、ビデオなど視聴覚教材およびコンピュータを利用し、わかりやすい授業を心がけます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：応用言語学（Applied Linguistics）とは？	授業への期待することを考える
2.	母語習得（1）：比較認知科学（ヒトと他の霊長類との違い）	課題に関する考察
3.	母語習得（2）：学習の始まり（乳児の能力）	課題に関する考察
4.	母語習得（3）：ことばの学習（音韻処理の働き）	課題に関する考察
5.	母語習得（4）：ことばの学習（語彙の習得）	課題に関する考察
6.	母語習得（5）：ことばの学習（概念知識の発達）	課題に関する考察
7.	母語習得（6）：ことばの学習（概念知識の再構築）	課題に関する考察
8.	外国語学習（1）：学習環境の影響	課題に関する考察
9.	外国語学習（2）：学習開始年齢の影響	課題に関する考察
10.	外国語学習（3）：母語の影響（ことばと思考）	課題に関する考察
11.	外国語学習（4）：母語の影響（空間）	課題に関する考察
12.	外国語学習（5）：母語の影響（数と色）	課題に関する考察
13.	外国語学習（6）：学習動機	課題に関する考察
14.	外国語学習（7）：学習ストラテジー	課題に関する考察
15.	まとめ	課題に関する考察

受講者へのメッセージやアドバイス:　将来、教職に就きたいと考えている学生（英語・日本語教育）だけでなく、英語教育副専攻の日本語日本文学科の学生、外国語教育（英語・日本語教育）に一般的な興味・関心がある（例えば、自分自身の英語学習をさらに発展させたらよいか、将来子供を持ったときどのような外国語教育を自分の子供に受けさせるかなど）、または塾講師など何らかの形で外国語教育に関わる仕事に就きたいと考えている学生など、幅広い学生の受講を歓迎します。また、将来、オーストラリアなど国内外で日本語を教える (ATJ Program) といった、日本語教育に関心のある学生にとっても有益な情報が得られると思います。

フィードバックの方法:　授業中に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	40	到達目標（1）～（3）に関する知識により評価する。
授業中のディスカッション態度	10	Active Learningに参加しているかどうかにより評価する。
ファイナルテスト	50	到達目標（1）～（3）に関する知識により評価する。

教科書:　教科書は使用しない。ハンドアウトを配布する。

参考書:　授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　nakamats@mail.doshisha.ac.jp

149360

外国語教育論Ⅱ

赤松　　信彦

授業テーマ:　外国語教育（教授・学習）のメカニズムについて理解を深めよう。

授業の概要:
（1）効果的な外国語の教え方について理解を深める。
（2）第二言語習得理論からの知見について理解を深める。
（3）よくいわれるコミュニケーション能力の実体について理解を深める。

到達目標:
（1）外国語教授法の背景と代表的な教え方についての理解が深まる。
（2）代表的な第二言語習得理論について理解が深まる
（3）コミュニケーション能力について理解が深まる。
（4）今後、外国語をどのように自らが学び、または職業として教えればいいか、興味が深まる。

授業方法:
授業計画のテーマに沿い、授業をすすめます。いくつかのパターンが想定されますが、講義に加えてグループを中心に、自ら考え・意見交流ができるような形を目指します。
このコースでは、毎週課題が指定され、講義内容に基づき、自分なりの考えをまとめることが求められます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業への期待することを考える
2.	外国語教授法（1）：文法訳読法（Grammar Translation Method）	課題に関する考察
3.	外国語教授法（2）：直接法アプローチ（Direct Method）	課題に関する考察
4.	外国語教授法（3）：コミュカティブアプローチ（Communicative Language Teaching）・イマージョン教育（Immersion）	課題に関する考察
5.	外国語教授法（4）：学習到達目標に基づく外国語教育（CEFR、CAN-DOリスト）	課題に関する考察
6.	外国語教授法（5）：タスクに基づく教授法（Taskt-Based Teaching）	課題に関する考察
7.	外国語教授法（6）：概念に基づく教授法（Concept-Based Teaching）	課題に関する考察
8.	第二言語習得理論（1）：Krashenの5つの仮説	課題に関する考察
9.	第二言語習得理論（2）：Longの相互作用仮説（Interaction Hypothesis）	課題に関する考察
10.	第二言語習得理論（3）：Swainのアウトプット仮説（Output Hypothesis）	課題に関する考察
11.	第二言語習得理論（4）：コミュニケーション能力とは（Communicative Competence）	課題に関する考察
12.	第二言語習得理論（5）：読み書き能力の重要性（Literacy、BICS & CALP）	課題に関する考察
13.	日本の英語教育（1）：小学校外国語活動から高校の英語の授業まで	課題に関する考察
14.	日本の英語教育（2）：これから私達はどう外国語を学び・教えればいいのか？	課題に関する考察
15.	まとめ	課題に関する考察

受講者へのメッセージやアドバイス:
将来、教職に就きたいと考えている学生（英語・日本語教育）だけでなく、英語教育副専攻の日本語日本文学科の学生、外国語教育（英語・日本語教育）に一般的な興味・関心がある（例えば、自分自身の英語学習をさらに発展させたらよいか、将来子供を持ったときどのような外国語教育を自分の子供に受けさせるかなど）、または塾講師など何らかの形で外国語教育に関わる仕事に就きたいと考えている学生など、幅広い学生の受講を歓迎します。また、将来、オーストラリアなど国内外で日本語を教える（ATJ Program）といった、日本語教育に関心のある学生にとっても有益な情報が得られると思います。

フィードバックの方法:
授業中に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	40	到達目標（1）～（4）に関する知識により評価する。
授業中のディスカッション態度	10	Active Learningに参加しているかどうかにより評価する。
ファイナルテスト	50	到達目標（1）～（4）に関する知識により評価する。

教科書:
教科書は使用しない。ハンドアウトを配布する。

参考書:
授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
nakamats@mail.doshisha.ac.jp

149660

翻訳法 I

吉江　　孝美

授業テーマ:　翻訳への理解のアプローチ(英語から日本語へ)

授業の概要:　翻訳は、単に単語を置き換えていく作業ではない。ことばは、数字や記号のように抽象的なものではなく、そのことばが話されている社会にのみ共通な、文化固有の経験の概念化、構造化である。したがって、言語それ自体が一つの「文化」、「社会制度」なのである。よって翻訳は、翻訳者自身が、自分の文化とは異なる、新しいものの見方と、異文化における新しいスタイルを身につけていくということでもある。授業は、翻訳未経験者向けの初級レベルであるが、こうした翻訳の基本を踏まえ、実際に様々なジャンルの翻訳作業をしながら、翻訳の基礎を学んでいく。

到達目標:　異なったジャンルの翻訳を体験しながら、翻訳の仕方の違いを学ぶ。そこから翻訳の難しさと奥深さ、その楽しさを実際に味わってもらう。また、日本語と英語の構造の違いや発想の違いを学びながら、これまでやってきた英文和訳と翻訳との違いを、体得してもらう。

授業方法:　講義・演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction　-人称代名詞の翻訳を例に- 1. Newspaper Articles:　新聞記事を訳す (1) ハードニュースとソフトニュース　(2)重複を嫌う英語特有の言い換えと翻訳	1. 予習課題
2.	1. Newspaper Articles: (3) 挿入構文の翻訳 (4)原文の流れを乱さない翻訳	予習と復習課題 1-(3),(4)　練習問題
3.	1. Newspaper Articles: Group Work の比較 (5) Headlineに特徴的な述語動詞の使われ方とその翻訳 (6) Headlineに特徴的な他の語法とその翻訳	予習と復習課題 1-(5)　練習問題
4.	2. Magazine Articles: (1) 長文の訳し方になれる 関係代名詞、分詞、不定詞を使った文章の翻訳 順送と逆送り 雑誌を訳す(Group Work　)	予習と復習課題 2-(1)　練習問題
5.	2. Magazine Articles Group Workの比較 (2) 英語特有の構文、関係代名詞とその翻訳 (3) 名詞中心(もの中心)の英語と動詞中心(ことがら中心)の日本語-名詞の中に動詞を読む	予習と復習課題 2-(2),(3)練習問題
6.	3. Novels: (1) 品詞の転換 (2) 文化背景の違いとその翻訳	予習と復習課題 3-(1),(2)　練習問題
7.	3. Novels: (3)主語省略　(4)英文の句読法と和文の句読法 小説を訳す	予習と復習課題 3-(3) 練習問題
8.	3. Novels: 訳してきた小説をグループで、再考し提出 (Group Work　) 複数の訳者による異なった翻訳の比較	3. 予習と復習
9.	3. Novels: Group Work の比較	3. 復習と　4. 予習
10.	4. Movie Subtitles: (1) 決められた字数に合わせて訳す (2) 会話の流れの中で訳す	予習と復習課題 4-(1),(2)　練習問題
11.	4. Movie Subtitles: (3)無生物主語の訳し方 映画(部分)を見て字幕を工夫する	予習と復習課題 4-(3)練習問題
12.	4. Movie Subtitles: Group Work の比較	予習と復習課題 5-(1),(2)　練習問題
13.	5. Children's Books: (1) 分かち書き (2) 絵との協調で訳す 絵本を訳す(Group Work)	予習と復習課題
14.	5. Children's Books (3)擬態語と擬音語 絵本を訳す	復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　翻訳に正しい答えはありません。そこに翻訳の難しさもあるのですが、同時に翻訳者の独自性を発揮する余地もそこにあります。作者との対話、読者への配慮、そして自分との対話。これらを通して、初めて可能になる翻訳は、機械的なものではない非常に人間的な作業です。

フィードバックの方法:　提出物は基本的に添削して返却します(マナビー、もしくは教室で返却)。課題によっては、授業で発表してもらいながら、その場で解説していく場合もあります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60%	ジャンルによって異なる翻訳の違い、また言語の違いが文化の違いであり発想の違いであることへ理解の程度を評価の基準とする。
提出物、課題	20%	授業でしたことがどれくらい理解できているかを基準に評価。
発表、授業への積極的な参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標への理解を深めようと努力しているかを基準に評価。

教科書:

参考書:	安西徹雄『英語の発想』ちくま学芸文庫 村上春樹　柴田元幸 『翻訳夜話』文藝新書
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力
教員との連絡方法:	tyoshie@dwc.doshisha.ac.jp

149760

翻訳法Ⅱ

吉江　　孝美

授業テーマ:　翻訳へのアプローチ（英語から日本語へ）

授業の概要:　単語ひとつひとつの訳語を辞書で調べて、それを総合してみても全体の意味にはならない。「翻訳は常に全体から、生まれてくるもの。全体を見て愛さなければ一つ一つを理解できない。文章全体を自分の中に取りこんで心と一体化する。」これはロシア出身の名翻訳家スヴェトラーナ・ガイヤの言葉である。翻訳法Ⅱでは、翻訳法Ⅰで学んだことを踏まえ、こうしたことを、一定の長さのテクストを読み、実際翻訳しながら体験していく。

到達目標:　一つの閉じられたテクストを翻訳するうえで、全体と部分がいかに密接に結びついているかを理解し、一つの単語のふさわしい訳語は、「全体」と「部分」との関係からしか確定されえないことを会得する。また異なる文化、異なるスタイル、異なるジャンルの文字を読み解いていくことの難しさを体験する。豆単で習得する語彙の習得とは異なった、身振りを通した含蓄に富んだ言葉（英語および日本語）の習得を目指す。

授業方法:　演習と講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction 翻訳法Ⅰの復習と全体の見通し 作品1. 日本を舞台にした小泉八雲の怪談物語を訳す	怪談物語の翻訳課題 part 1
2.	作品1. 日本を舞台にした小泉八雲の怪談物語を訳す 人称代名詞と指示代名詞（日本語と英語の違い）の確認 翻訳作業(グループで比較)	怪談物語の翻訳課題 part 2
3.	作品1. 日本を舞台にした小泉八雲の怪談物語を訳す 時代背景と言葉の選択 異なった訳者の翻訳を比較	怪談物語の翻訳課題 part 3
4.	作品1. 日本を舞台にした小泉八雲の怪談物語を訳す 全体と部分との関係	テスト準備
5.	テスト1　作品 1翻訳課題（辞書持ち込み可） 作品2.スコットランドのおとぎ話を訳す- スコットランドの文化と時代背景を理解する 登場人物のイメージをつかむ	お伽話　翻訳課題 part 1
6.	作品2. スコットランドのおとぎ話を訳す 内容の確認 翻訳作業 (group work)	お伽話　翻訳課題 part 2
7.	作品2. スコットランドのおとぎ話を訳す 内容の確認 翻訳作業 (group work)	お伽話　翻訳課題 part 3
8.	作品2. スコットランドのおとぎ話を訳す 内容の確認	テスト準備
9.	テスト2 作品2. 翻訳課題（辞書持ち込み可） 作品3. Anthony Glynのエッセイ The Nice Cup of Tea を訳す Paragraph 1. 2を翻訳するにあたって- 2つの翻訳詩の比較から学ぶもの	翻訳課題　Paragraph 1. 2 文化的歴史的背景の理解と言葉が担う歴史について調べる
10.	作品3. Anthony Glynのエッセイ The Nice Cup of Tea を訳す 文化的歴史的背景の理解 言葉が担う歴史の理解 イギリス史と紅茶の関係等を見る	翻訳課題 paragraph 3-9
11.	作品3. Anthony Glynのエッセイ The Nice Cup of Tea by を訳す paragraph 3-9 内容の確認（発表） 翻訳作業 paragraph 10-15 (group work)	翻訳課題 paragraph 10-15
12.	作品3. Anthony Glynエッセイ The Nice Cup of Tea by を訳す paragraph 10-15　内容の確認（発表） 翻訳作業 paragraph 16-22（group work)	翻訳課題 paragraph　16-22
13.	作品3. Anthony Glynエッセイ The Nice Cup of Tea by を訳す paragraph 16-22内容の確認（発表）	提出課題の準備
14.	スベトラーナ・ガイヤから学ぶ翻訳の意味と実践 ドキュメンタリー映画　The woman with the five elephants の鑑賞	レポート準備
15.	まとめ レポート作成	

受講者へのメッセージやアドバイス:　英語には英語の、フランス語にはフランス語の、日本語には日本語でしか言い表せない分野が存在します。それをどのように翻訳するのか。それは翻訳者が作者に同調しながら、作者と一緒に同じステップを踏んで踊ってみるしかありません。作者（他者）のステップを学び、他者の文化を自分が一緒に演じてみる。良い翻訳はそこから、初めて生まれてきます。

フィードバックの方法:　提出物は基本的に添削して返却します（教室で返却）。課題によっては、授業で発表してもらいながら、その場で解説していきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	提出物、レポート、テスト課題	70%	授業でしたことがどれくらい理解できているかを基準に評価する。
	授業への参加度	30%	積極的に授業に参加しているか、また到達目標への理解を深めようと努力しているかを基準に評価する。

教科書:

参考書: 丸山圭三郎 「言葉とは何か」夏目書房
安西徹雄「英語の発想」ちくま学芸文庫
安西徹雄「英文翻訳術」ちくま学芸文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法: tyoshie@dwc.doshisha.ac.jp

149860

翻訳法Ⅲ

洲脇　　万由美

授業テーマ:　描写された絵に合う英文翻訳にチャレンジしてみよう！

授業の概要:　翻訳とは一字一句正確に訳することが翻訳なのだかろうか？また、一字一句訳したものの方が正確に伝わるのだろうか？感動を伝えることができるのだろうか？
文化の違い、思考の違い、価値観の違いが二つの言語の間に介在する限り、翻訳家の苦労と工夫には限りない。その違いに留意しながら、まずは、翻訳Ⅲでは、絵が挿入されている原文を訳してみよう。自分の翻訳はその絵の描写とマッチするだろうか？その上でプロの翻訳家の翻訳と自分の翻訳をグループディスカッションを通し徹底した比較分析を行ってみる。

到達目標:　比較的平易な英語で書かれた絵本、マンガ、小説（挿絵のある）の一部分を、描写されている絵などをヒントに翻訳してみる。それぞれの言葉や表現が持つイメージや響きの違いを比較分析し、その違いに気づくことでより豊かな表現力が養われるようにしたい。

授業方法:　グループディスカッションによる原文、絵の分析→イメージに合う単語の選出→パラフレージング→比較検討

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	翻訳と通訳の違い 日本語と英語の違い ＊名詞化による情報の圧縮 ＊物質主語と他動詞 ＊英語は解凍しなくっちゃ！ ＊主語はどこへ？	課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート
2.	絵本　①	同上
3.	絵本　②	同上
4.	絵本　③	同上
5.	マンガ　①	同上
6.	マンガ　②	同上
7.	マンガ　③	同上
8.	小説　①	同上
9.	小説　②	同上
10.	小説　③	同上
11.	小説　④	同上
12.	課題翻訳プレゼンテーション　Ⅰ	同上
13.	課題翻訳プレゼンテーション　Ⅱ	同上
14.	課題翻訳プレゼンテーション　Ⅲ	同上
15.	翻訳トライ	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　基本的に難易度の平易なものから中程度のものを扱う。グループでディスカッションしながら進めるため、英語に自信がなくても参加可能。

フィードバックの方法:　授業内で解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート3回	30	翻訳のレベルよりも原文と翻訳文の比較分析した内容を主に評価
プレゼンテーション	40	同上
プレゼンテーション2	30	同上

教科書:　なし

参考書:　授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応

149960

翻訳法Ⅳ

洲脇　　万由美

授業テーマ:　企業翻訳を意識したやや難易度の高い英文・和文を翻訳してみよう！

授業の概要:　翻訳とは一字一句正確に訳することが翻訳なのだかろうか？また、一字一句訳したものの方が正確に伝わるのだろうか？また、正確に伝えるだけでなく、説明する対象物の魅力をアップさせるような翻訳が必要な場合もある。
文化の違い、思考の違い、価値観の違いが二つの言語の間に介在する限り、翻訳家の苦労と工夫には限りない。その違いに留意しながら、まずは、翻訳Ⅳでは、企業のホームページやパンフレットだどの原文を翻訳してみよう。

到達目標:　まずは、企業のホームページやパンフレットの内容を正確翻訳し、その上で対象物のイメージがより魅力あるものに思える翻訳表現をグループディスカッションを通して考えたい。

授業方法:　グループディスカッションによる原文の分析→イメージに合う単語の選出→パラフレージング→比較検討

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	翻訳と通訳の違い 日本語と英語の違い ＊名詞化による情報の圧縮 ＊物質主語と他動詞 ＊英語は解凍しなくっちゃ！ ＊主語はどこへ？ ＊代名詞はどうしよう	課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート
2.	観光パンフレット　英日	同上
3.	観光パンフレット　英日	同上
4.	観光パンプレット　日英	同上
5.	観光パンフレット　日英	同上
6.	観光パンフレット　日英	同上
7.	Review	同上
8.	会社説明　ホームページ　日英	同上
9.	会社説明　ホームページ　日英	同上
10.	会社説明　ホームページ　日英	同上
11.	メーカ企業　ホームページ　英日 商品説明	同上
12.	メーカ企業　ホームページ　英日 商品説明	同上
13.	課題翻訳プレゼンテーション　①	同上
14.	課題翻訳プレゼンテーション　②	同上
15.	翻訳トライ	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　やや難易度の高い翻訳に挑戦するため基本的文法力は必要。グループでディスカッションしながら進めるので、いろんな表現方法が身に付き、職場での翻訳業務の基礎を習得可能。

フィードバックの方法:　授業内で解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート　4回	40	プロの翻訳との比較分析
プレゼンテーション	40	同上
翻訳トライ	20	同上

教科書:　なし

参考書:　授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応

150060

通訳法Ⅰ

志手　　理祐

授業テーマ:　通訳の基礎訓練法を取り入れ、英語の運用能力を高める

授業の概要:　クイック・リスポンスやシャドーイング、サイトトランスレーションなど、実用的な英語力習得のための練習法を身に着ける。

到達目標:　通訳トレーニング法の目的、効用を理解し、練習方法を身につけ、トレーニングの反復により英語の運用能力を高める。

授業方法:　通訳訓練法を取り入れたトレーニングを中心とした授業（ペアワークやグループワーク等を含む）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業で紹介されたメソッドの確認・反復
2.	Unit 1 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
3.	Unit 1 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
4.	Unit 1 (3)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
5.	Unit 2 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
6.	Unit 2 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
7.	Unit 2 (3)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
8.	Unit 3 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
9.	Unit 3 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
10.	Unit 3 (3)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
11.	Unit 4 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
12.	Unit 4 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
13.	Unit 4 (3)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
14.	まとめのテスト	春期の総復習
15.	Review	テストの見直し

受講者へのメッセージやアドバイス:　通訳訓練には単語の暗記や反復練習など根気のいる作業が多く含まれるため、単調な反復トレーニングに耐えられるもののみ受講すること。

フィードバックの方法:　授業における発表・パフォーマンスに対して適宜コメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加・姿勢	30	授業に積極的に参加しているか
パフォーマンス（または小テスト）	30	授業で扱った語彙、通訳課題等が定着しているか
まとめのテスト	40	前期の授業内容の定着度および実力評価

教科書:　齋藤彩子/川内裕子/安武優子　通訳とコミュニケーションの総合演習（改訂版）　南雲堂

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

150160

通訳法Ⅱ

志手　　理祐

授業テーマ:　通訳の基礎訓練法を取り入れ、英語の運用能力を高める

授業の概要:　クイック・リスポンスやシャドーイング、サイトトランスレーションなど、実用的な英語力習得のための練習法を身に着ける。

到達目標:　通訳訓練メソッドの目的、効用を理解し、訓練の方法を身につけ、トレーニングを通じて英語力の向上をめざす。

授業方法:　通訳訓練法を取り入れたトレーニングを中心とした授業（ペアワーク、グループワーク等を含む）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業で紹介されたメソッドの確認・反復
2.	Unit 5 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
3.	Unit 5 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
4.	Unit 5 (3)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
5.	Unit 6 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
6.	Unit 6 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
7.	Unit 6 (3)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
8.	Unit 7 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
9.	Unit 7 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
10.	Unit 7 (3)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
11.	Unit 8 (1)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
12.	Unit 8 (2)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
13.	Unit 8 (3)	前回に出された課題の学習と次回新出語彙・センテンスの予習
14.	まとめのテスト	秋期の復習
15.	Review	テストの見直し

受講者へのメッセージやアドバイス:　通訳訓練には単語の暗記や反復練習など根気のいる作業が多く含まれるため、単調な反復トレーニングに耐えられるもののみ受講すること。

フィードバックの方法:　授業における発表、パフォーマンスに対して適宜コメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加・姿勢	30	授業に積極的に参加しているか
パフォーマンス（または小テスト）	30	授業で扱った語彙、通訳課題等が定着しているか
まとめのテスト	40	授業内容の定着度および実力評価

教科書:　齋藤彩子/川内裕子/安武優子　通訳とコミュニケーションの総合演習（改訂版）　南雲堂

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で応対

153060

ファンタジーの系譜Ⅰ

小山　　薫

授業テーマ:　現代に生きる、ファンタジー文学の多彩な魅力

授業の概要:　「ファンタジー」という文学ジャンルには「子供向きの荒唐無稽な物語」というイメージが先行するが、優れたファンタジー文学とは、子供ばかりか大人にも社会や人生を語り、夢と勇気を与えてくれるものである。アメリカでは1970年代以降「伝統的おとぎ話」へのフェミニストの批判が活発になり、フェミニスト・フェアリーテイル（再話・創作）の出現につながった。また古来、著名なファンタジー作家を輩出してきたイギリスでは、一流の知識人がファンタジー文学をライフワークとし、大人向きの優れた文学作品にも、ファンタジー嗜好がみられることが多い。彼らが執着したファンタジー文学の魅力とは何だろう？また私たちは今、これらの作品から何を読み取るべきだろう？
本講座では、代表的作品をいくつか分析し、そこにみられる欧米の社会や歴史、風俗や国民性について論じたい。関連する映画や図版なども参照する。ファンタジー文学の多彩な魅力を実感し、知識と理解を深めてもらいたい。

到達目標:
・代表的ファンタジー文学に関する知識（概略、登場人物、作者、時代背景など）の修得
・「伝統的おとぎ話」へのフェミニストの批判（1970年代）と、フェミニスト・フェアリーテイル（再話・創作）に関する知識の修得
・ファンタジー文学の魅力に関する、理解力の育成

授業方法:　パワーポイントや教材提示装置を利用し、各種の資料（美術も含む）を参照しつつ、担当者（小山）が講義する。受身でなく、知的好奇心と意欲をもって、積極的に学んでもらいたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業オリエンテーション ・講義：おとぎ話に秘められたメッセージ —男女のステレオタイプをめぐって	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	講義：おとぎ話にみる女性の二分化 —魔女と聖女（プリンセス）	前回授業の重要点を復習しておく。
3.	講義：おとぎ話とフェミニズム —シンデレラ・コンプレックスをめぐって	前回授業の重要点を復習しておく。
4.	講義：PC（政治的に正しい）時代の、フェミニストによるおとぎ話	前回授業の重要点を復習しておく。
5.	講義：伝承童謡（マザーグース）にみるイギリス	前回授業の重要点を復習しておく。
6.	講義：イギリスの妖精	前回授業の重要点を復習しておく。
7.	講義：ファンタジー文学の背景 —光と影のヴィクトリア時代	前回授業の重要点を復習しておく。
8.	講義：「子供は大人の父である」 —ワーズワースと湖水地方	前回授業の重要点を復習しておく。
9.	講義：『ピーター・ラビット』の故郷 —ビアトリクス・ポターと湖水地方	前回授業の重要点を復習しておく。
10.	講義：ファンタジー作家とモデル —『不思議の国のアリス』をめぐって	前回授業の重要点を復習しておく。
11.	講義：ディケンズのクリスマス物語 —「家庭の天使」をめぐって	前回授業の重要点を復習しておく。
12.	講義：『メアリー・ポピンズ』にみるイギリス—社会・家庭・子供	前回授業の重要点を復習しておく。
13.	講義：ファンタジー文学のメッセージ —ピーター・パンからハリー・ポッターへ	前回授業の重要点を復習しておく。
14.	補足説明	春学期授業内容の復習
15.	まとめ	春学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加（無遅刻無欠席）はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院（診断書提出）などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・やむを得ず欠席した場合は、次回授業までに小山研究室に出向き、欠席回のプリントを受け取って、読んでおくこと。

フィードバックの方法:　大クラスの講義科目であり、出欠用のマークシートを配布する。その備考欄に授業内容への質問やコメントが書かれていることがあるが、口頭での質問と同様、全体で共有すべき内容だと判断した場合には、翌週の授業冒頭で紹介し、必要な説明を加える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
学期末試験	80%	春学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:　本田英明、桂宥子、小峰和子（編著）『たのしく読める英米児童文学』（ミネルヴァ書房）

参考書:　必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Emailやオフィスアワーを利用。

153160

ファンタジーの系譜Ⅱ

小山　　薫

授業テーマ:　幻想文学にみる善と悪の対立—「魔性の女性」をめぐって

授業の概要:　「幻想の民」ケルト人を先住民族とするイギリスには、今も社会のすみずみに妖精伝承や幽霊伝承が根強く残り、詩歌や小説、戯曲など様ざまな形で「幻想文学」の傑作が生まれてきた。これらの作品の多くに、いわゆる「魔性の女性」(ファム・ファタール)が登場することに注目したい。
本講座では、1)シェイクスピア、バーンズ、キーツなどの詩にみられる妖精(魔女、妖女)伝承、2)『ドラキュラ』『フランケンシュタイン』などの怪奇小説、3)ミルトン作品にみられる異界伝承(善と悪の対立)等をとりあげ、そこに描かれた女性像を分析すると共に、それぞれの時代や社会、作品のメッセージについて考察したい。フェミニスト神学についても紹介し、関連する映画や図版なども参照する。ファンタジー文学の幅の広さと内容の深さを実感し、知識と理解を深めてもらいたい。

到達目標:
・ファンタジー文学のジャンルと特徴に関する知識の修得
・「魔性の女性」(ファム・ファタール)に関する知識の修得
・代表的「幻想文学」に関する知識(概略、登場人物、作者、時代背景など)の修得
・キリスト教文化における「女性蔑視」の伝統と、中世の「マリア崇拝」に関する知識の修得
・ミルトン『失楽園』における、ポジティヴなイーヴ像に関する知識の修得
・ファンタジー文学における、キリスト教的主題に関する知識の修得

授業方法:　パワーポイントや教材提示装置を利用し、各種の資料(美術も含む)を参照しつつ、担当者(小山)が講義する。受身でなく、知的好奇心と意欲をもって、積極的に学んでもらいたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業オリエンテーション ・講義:「魔性の女性」(ファム・ファタール)とは ?	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	講義:魔女と聖女	前回授業の重要点を復習しておく。
3.	講義:シェイクスピア劇にみる魔性の女性 —三人の魔女とマクベス夫人	前回授業の重要点を復習しておく。
4.	講義:詩に歌われた魔性の女性 —J・キーツ / R・バーンズ	前回授業の重要点を復習しておく。
5.	講義:小説に描かれた魔性の女性 —E・ブロンテ『嵐が丘』	前回授業の重要点を復習しておく。
6.	講義:怪奇小説にみる女性 — B・ストーカー『ドラキュラ』	前回授業の重要点を復習しておく。
7.	講義:怪奇小説にみる女性 —M・シェリー『フランケンシュタイン』	前回授業の重要点を復習しておく。
8.	講義:ミソジニイ(女嫌い)の伝統とフェミニスト神学 —原罪をめぐって	前回授業の重要点を復習しておく。
9.	講義:歪曲された女性像 — 中世のVirgin Mary(聖母マリア)信仰	前回授業の重要点を復習しておく。
10.	講義:ピューリタン詩人J・ミルトンに向けられた、女性蔑視という誤解	前回授業の重要点を復習しておく。
11.	講義:ミルトン『失楽園』 —＜人類再生の鍵＞としてのイーブ像(1)	前回授業の重要点を復習しておく。
12.	講義:ミルトン『失楽園』 —＜人類再生の鍵＞としてのイーブ像(2)	前回授業の重要点を復習しておく。
13.	講義:ファンタジー文学にみる、キリスト教的主題	前回授業の重要点を復習しておく。
14.	補足説明	秋学期授業内容の復習
15.	まとめ	秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・やむを得ず欠席した場合は、次回授業までに小山研究室に出向き、欠席回のプリントを受け取って、読んでおくこと。

フィードバックの方法:　大クラスの講義科目であり、出欠用のマークシートを配布する。その備考欄に授業内容への質問やコメントが書かれていることがあるが、口頭での質問と同様、全体で共有すべき内容だと判断した場合には、翌週の授業冒頭で紹介し、必要な説明を加える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
学期末試験	80%	秋学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:

参考書:　必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Emailやオフィスアワーを利用。

153260

ジェンダーとコミュニケーション

布施　　邦子

授業テーマ:

「ジェンダー」の基礎を学ぼう

授業の概要:

「ジェンダー」。本講座では、カタカナ語としてすっかり定着したこの言葉が示すものは何かを考えていきます。私たちの周りにある「ジェンダー」にまつわる事象を検証しながら、各自がジェンダー問題をどうとらえ、どう向き合うのかを考えていきます。「女子～」「～女子」という表現があふれる今日、「女子であること」とはどういうことなのか、本講座を通して自分の立ち位置をしっかり見つめなおすきっかけをつかんでもらいたいと思います。

到達目標:

1)「ジェンダー」の考え方や視点について、基本的な知識を習得する。
2)社会の事象について、偏った判断をすることなく、様々な立場からとらえる習慣をつける。
3)他者の社会的・文化的な背景を尊重し、柔軟かつ客観的に分析ができる能力を養う。
4)他者への理解を示しつつ、自らの立場や考えを明確に伝える言語運用力を養う。

授業方法:

1回90分の講義で半期の授業です。授業計画で挙げた項目について、テキストを基に身近な例を検証しながら進めていきます。また、学期末には、各グループで決めた「ジェンダー」にかかわるテーマについて、課題プロジェクトの発表を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション: 授業の進め方、課題プロジェクトなどの詳細説明	テキストの準備
2.	第1章 「ジェンダー」って何？ ＊グループの決定	テキスト(第1章)
3.	第4章 「教育とジェンダー」(1)	テキスト(第4章) プロジェクト:テーマ決定
4.	第4章 「教育とジェンダー」(2)	プロジェクト:先行研究調査
5.	第5章 「日常生活とジェンダー」(1)	テキスト(第5章) プロジェクト:計画立案
6.	第5章 「日常生活とジェンダー」(2)	プロジェクト:「計画書」の提出
7.	第2章 「家族とジェンダー」(1)	テキスト(第2章) プロジェクト:調査準備
8.	第2章 「家族とジェンダー」(2)	プロジェクト:調査準備／実施
9.	第2章 「家族とジェンダー」(3)	プロジェクト:データ収集／分析
10.	第7章 「身体とジェンダー」	テキスト(第7章) プロジェクト:データ分析
11.	第6章 「仕事とジェンダー」(1)	テキスト(第6章) プロジェクト:データ分析
12.	第6章 「仕事とジェンダー」(2)	プロジェクト:最終確認
13.	課題プロジェクト発表(1)	プロジェクトの発表準備 (ハンドアウトの印刷など)
14.	課題プロジェクト発表(2)	プロジェクトの発表準備 (ハンドアウトの印刷など)
15.	授業の総括:まとめ	講義全体の振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講座は社会科学を扱いますので、この機会に新聞・インターネット・雑誌などでニュースをチェックする習慣を身につけ、現在の社会を客観的に把握できる努力をしてください。プロジェクトについては、ほとんどの作業を授業外で行うことになります。発表までの約10週間をメンバーと一緒に計画的に使い、作業を進めるようにしてください。

フィードバックの方法:

1)プレゼンテーションについては、学期内に講評を添えて返却します。
2)レポート課題については、添削をした後コメントをそえて休暇明け(秋学期)に教務課で返却をします。履修者は責任を持って忘れずに受け取ってください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	10	授業への取り組みを評価します。いわゆる「出席点」ではありません。授業に積極的に参加していると認められない場合(遅刻・居眠り・私語・携帯電話の操作など)は、厳しくチェックします。また、授業最後にその日に学習した内容に関するコメントを提出し、授業への取り組みの評価の一部とします。
課題プロジェクト	45	この課題はグループで取り組むリサーチ・プロジェクトです。ジェンダーにかかわるテーマを決め、関連する文献を参考にして、調査を実施し報告します。「成績評価50%」の内訳は、「計画書」(10%)、リサーチ発表(25%)、レポート(15%)
期末評価	45	講義の総括として、学期末に記述試験を実施します。

教科書:

千田由紀・中西祐子・青山薫(2013)
「ジェンダー論をつかむ」 有斐閣

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業以外ではe-mailを主たる連絡手段とします。office hourは特に設けませんが、講義後(水曜日4校目)を相談の時間に充てます。

153460 **ラテン語 I**

高谷　　修

授業テーマ:　初級ラテン語文法 (I)

今から2000年前、西欧ではローマ帝国が栄えていた。そのローマ帝国の公用語がラテン語である。ローマ帝国はやがて滅ぶが、その豊かな遺産はその後に勃興するヨーロッパの国々に伝えられ、それぞれの国の文化の発展に大きく寄与することとなった。
ラテン語の文法はやさしくはないが、ラテン語を知っていると色々な面で役立つこと請け合いである。ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥスは「ゆっくり急げ」festina lente を座右の銘にしていたが、我々もゆっくりと急ぎながら、ラテン語を学びたい。

授業の概要:　初級ラテン語文法を学習する。

到達目標:
1. ラテン語文法を習得する。
2. ラテン語と近代語、特に英語との関連性・類似性について、考察を深められるようになることを目指す。
3. ラテン語の名句を通して、ローマ人の知恵を学ぶ。

授業方法:　まず教師が文法事項を説明する。その後で学生に各章ごとに付いている練習問題を解いて貰うが、練習問題は宿題としたい。教室で答えあわせをする。学生の反応を見ながら進めるが、おおよそ1回に2章くらいのペースで進めたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに ------ 発音・音節・アクセント	教科書を購入しておくこと。
2.	動詞変化 その1、名詞変化 その1	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
3.	動詞変化 その1、名詞変化 その1	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
4.	前置詞、動詞変化 その2	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
5.	人称代名詞、未完了過去	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
6.	以上の復習	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
7.	名詞変化 その3、未来形	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
8.	指示代名詞、形容詞変化 その2	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
9.	完了形、名詞変化 その4	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
10.	関係代名詞	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
11.	過去完了、未来完了	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
12.	名詞変化 その5	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
13.	疑問文	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
14.	以上の復習	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
15.	ラテン語の格言を読む	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。

受講者へのメッセージやアドバイス:　文法を学習するには、ゆっくりと着実に学習することが大切です。festina lente.

フィードバックの方法:　試験について、教室で説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の取り組み	40	宿題に真摯に取り組んでいるかどうか、また授業に積極的に参加しているかどうかを評価の基準とする。
期末試験	60	ラテン語文法が十分に理解できているかどうかを評価の基準とする。

教科書:　松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』東洋出版、他にプリント配布。

参考書:　小林標『ラテン語の世界 —— ローマが残した無限の遺産』中公新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　e-mail による。アドレスは教室で知らせる。

153560

ラテン語Ⅱ

高谷　　修

授業テーマ:

初級ラテン語文法 (I)

今から2000年前、西欧ではローマ帝国が栄えていた。そのローマ帝国の公用語がラテン語である。ローマ帝国はやがて滅ぶが、その豊かな遺産はその後に勃興するヨーロッパの国々に伝えられ、それぞれの国の文化の発展に大きく寄与することとなった。

ラテン語の文法はやさしくはないが、ラテン語を知っていると色々な面で役立つこと請け合いである。ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥスは「ゆっくり急げ」festina lente を座右の銘にしていたが、我々もゆっくりと急ぎながら、ラテン語を学びたい。

授業の概要:

初級ラテン語文法を学習する。

到達目標:

1. ラテン語文法を習得する。
2. ラテン語と近代語、特に英語との関連性・類似性について、考察を深められるようになることを目指す。
3. ラテン語の名句を通して、ローマ人の知恵を学ぶ。

授業方法:

まず教師が文法事項を説明する。その後で学生に各章ごとに付いている練習問題を解いて貰うが、練習問題は宿題としたい。教室で答えあわせをする。学生の反応を見ながら進めるが、おおよそ1回に2章くらいのペースで進めたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ラテン語Iの復習	教科書を購入しておくこと。
2.	命令法・能動相、名詞変化 その6	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
3.	受動相	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
4.	形容詞変化 その3、副詞	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
5.	受動相・完了形時称	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
6.	形容詞と副詞の比較級と最上級	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
7.	形式所相動詞、名詞変化 その7	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
8.	形容詞副詞の不規則な比較級と最上級	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
9.	命令法・受動相、名詞変化 その8	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
10.	分詞、不規則動詞	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
11.	数詞、不定法、絶対的奪格	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
12.	接続法、非人称動詞、動名詞、動形容詞	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
13.	やさしいラテン語作品を読む	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
14.	やさしいラテン語作品を読む	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
15.	ラテン語の格言を読む	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。

受講者へのメッセージやアドバイス:

文法を学習するには、ゆっくりと着実に学習することが大切です。festina lente.

フィードバックの方法:

試験について、教室で説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の取り組み	40	宿題に真摯に取り組んでいるかどうか、また授業に積極的に参加しているかどうかを評価の基準とする。
期末試験	60	ラテン語文法が十分に理解できているかどうかを評価の基準とする。

教科書:

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』東洋出版、他にプリント配布。

参考書:

小林標『ラテン語の世界 —— ローマが残した無限の遺産』中公新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

e-mail による。アドレスは教室で知らせる。

154760

Shakespeare Production Ⅰ

T.L.Medlock、辻　　英子

授業テーマ:　A Study of "As You Like It"

授業の概要:　In this class we will study a play in preparation for its staging the following year. The play we will read is "As You Like It". It is one of Shakespeare's great middle comedies combining both comical and dramatic elements. Students are expected to prepare in advance and participate actively in class to grasp various practical aspects of staging the play as well as comprehending language and themes of the text.

到達目標:　1. Understand the historical background of the play, gain an overview of Shakespeare's works and deepen knowledge of the performance history of the play.
2.Understand the language of the text.
3.Acquire performance skills such as vocal expression and use of appropriate gestures.

授業方法:　Lecture and workshop: both of them are conducted in Japanese and English. At the end of each class, students will submit a comments & questions paper in English. At the end of the semester, both a performance test (in English) and a written test (in Japanese) will be held. Also, students are required to submit a report by the end of the semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation. Lecture: Shakespeare's life and historical background. Workshop: Training in vocal and physical performance skills	After class students should review what was covered in class.
2.	Lecture: Theatrical conditions in Shakespeare's times Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students can prepare for theclass by reading reference books introduced in class. After class students should review what was covered in class.
3.	Lecture: Shakespeare's plays in general and then "As You Like It" will be introduced as the central topic of the class.	Before class students can prepare for theclass by reading reference books introduced in class. After class students should review what was covered in class.
4.	Lecture: Performance history Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students can prepare for theclass by reading reference books introduced in class. After class students should review what was covered in class.
5.	Lecture: As You Like It Act 1 Scene 1, Act 1 Scene 1 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
6.	Lecture: As You Like It Act 1 Scene 2 (part 1) Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
7.	Lecture: As You Like It Act 1 Scene 2 (part 2) Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
8.	Lecture: As You Like It Act 1 Scene 3 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
9.	Lecture: As You Like It Act 2 Scenes 1, 2 & 3 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
10.	Lecture: As You Like It Act 2 Scenes 4 & 5 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
11.	Lecture: As You Like It Act 2 Scenes 6 & 7 & Act 3 Scene 1 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
12.	Lecture: As You Like It Act 3 Scene 2 (part 1) Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class and practise for the performance test.
13.	Lecture: As You Like It Act 3 Scene 2 (part 2) Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class and practise for the performance test.
14.	Performance test	
15.	Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:	Preparation is essential. You must read the selected scenes in advance.
フィードバックの方法:	Students' comments and questions will be dealt with orally in class. As for the performance test, after the class recital the teacher will give the students a comment paper. As for the report at the end of the semester, the teacher will give them back with comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	10%	Active participation in class.
Performance	30%	Fluent and expressive performance of the text.
Written test	50%	Comprehension of lecture contents and the text.
Report	10%	Familiarization with other Shakespeare texts.

教科書:	お気に召すまま（大修館シェイクスピア双書）
参考書:	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp htsuji@dwc.doshisha.ac.jp

154860

Shakespeare Production Ⅱ

T.L.Medlock、辻　　英子

授業テーマ:　A Study of "As You Like It"

授業の概要:　In this class we will study a play in preparation for its staging the following year. The play we will read is "As You Like It". It is one of Shakespeare's great middle comedies combining both comical and dramatic elements. Students are expected to prepare in advance and participate actively in class to grasp various practical aspects of staging the play as well as comprehending language and themes of the text.

到達目標:　1. Understand the language of the text. 2. Understand the whole play with its themes and structure. 3. Acquire performance skills such as vocal expression and use of appropriate gestures.

授業方法:　Lecture and workshop: both of them are conducted in Japanese and English. At the end of each class, students will submit a comments & questions paper in English. At the end of the semester, both a performance test (in English) and a written test (in Japanese) will be held.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation. Lecture: As You Like It Act 3 Scenes 3 & 4 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
2.	Lecture: As You Like It Act 3 Scene 5 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
3.	Lecture: As You Like It Act 4 Scene 1 (part 1) Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
4.	Lecture: As You Like It Act 4 Scene 1 (part 2) Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
5.	Lecture: As You Like It Act 4 Scenes 2 & 3 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
6.	Lecture: As You Like It Act 5 Scene 1 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
7.	Lecture: As You Like It Act 5 Scenes 2 & 3 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
8.	Lecture: As You Like It Act 5 Scene 4 (part 1) Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
9.	Lecture: As You Like It Act 5 Scene 4 (part 2) Workshop: Training in vocal and physical performance skills	Before class students should read each scene and bring questions. After class students should review what was covered in class.
10.	Lecture: As You Like It Epilogue Compare and contrast different performances of selected scenes	After class students should review what was covered in class.
11.	Lecture: Themes and motifs within the play: Part 1 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	After class students should review what was covered in class and practise for the performance test.
12.	Lecture: Themes and motifs within the play: Part 2 Workshop: Training in vocal and physical performance skills	After class students should review what was covered in class and practise for the performance test.
13.	Lecture: Review of the text. Workshop: Training in vocal and physical performance skills	After class students should review what was covered in class and practise for the performance test.
14.	Performance test	
15.	Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:　Preparation is essential.

フィードバックの方法:

Students' comments and questions will be dealt with orally in class. As for the performance test, after the class recital the teacher will give the students a comment paper.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	10%	Active participation in class.
Performance presentation	30%	Fluent and expressive performance of the text.
Written test	60%	Comprehension of lecture contents and the text.

教科書:

お気に召すまま（大修館シェイクスピア双書）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp
htsusji@dwc.doshisha.ac.jp

155960

コーパス言語学

杉森　　直樹

授業テーマ:　英語コーパス言語学入門:コンピュータで英語を分析する

授業の概要:　本科目では、英語を対象としてコーパス言語学の基礎を実践的に学びます。英語コーパス言語学では、日常会話、映画、新聞・雑誌記事、文学作品等の英語話者によって話されたり書かれたりした英語を大規模に収集したデータベース(コーパス)を構築し、それらをコンピュータで分析して、英語という言語の特徴を科学的に調査・分析します。コーパスのデータを調べることによって、ネイティブスピーカーが実際によく使う英語の語彙や表現、英語の用法を効果的に学ぶことができます。
授業では、英語コーパス言語学の基礎を学ぶとともに、コーパス収集の手法やコーパス分析用ソフトを用いた言語データの分析手法を身につけます。また、コーパスの分析によって得られた知識を生かして自分の英語力を向上させ、ネイティブスピーカーの持つような英語のセンスを身につけていくことを目標とします。

到達目標:　コーパスとは何かを理解している。
コンピュータを用いてコーパスのデータを分析することができる。
コーパスを利用して言語の特徴に関する計量的な分析調査を行うことができる。
コーパスのデータを自らの英語学習に利用できる。

授業方法:　授業はコンピュータ教室で行う。コーパス言語学に関する講義に加えて、コーパスの利用・分析の実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入・コーパス言語学概説	シラバス記載事項の確認
2.	コーパスを用いた言語分析の手法	コーパス分析方法の復習
3.	インターネット上のコーパスサイトの利用法(1)	授業中にカバーしたコーパスサイトの利用法の確認
4.	インターネット上のコーパスサイトの利用法(2)	授業中にカバーしたコーパスサイトの利用法の確認
5.	アメリカ英語とイギリス英語の語彙の違い(1)	課題プリントで指示されたタスク
6.	アメリカ英語とイギリス英語の語彙の違い(2)	課題プリントで指示されたタスク
7.	コロケーションの分析(1)	課題プリントで指示されたタスク
8.	コロケーションの分析(2)	課題プリントで指示されたタスク
9.	類義語(synonym)の使い分け(1)	課題プリントで指示されたタスク
10.	類義語(synonym)の使い分け(2)	課題プリントで指示されたタスク
11.	コーパス分析用ソフトの利用	コーパス分析用ソフトの操作方法の復習
12.	英話コーパス作成のためのデータ収集	映画英語等のコーパスデータの収集
13.	英語コーパスの分析(1)	英語コーパスの分析タスク
14.	英語コーパスの分析(2)	英語コーパスの分析タスク
15.	総括とレポート解説	

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な授業参加を期待します。

フィードバックの方法:　授業中の課題を採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加及び演習	30	授業へ積極的に参加して演習に取り組む度合いで評価
授業中の課題	50	コーパスを利用した言語分析に関する課題の達成度により評価
期末レポート	20	コーパス分析課題の達成度により評価

教科書:　プリント教材を使用。

参考書:
斎藤俊雄他(編)『改訂新版　英語コーパス言語学』(研究社)
石川慎一郎『英語コーパスと言語教育』(大修館書店)
投野由紀夫(編)『コーパス類語英語使い分け200』(小学館)
赤野一郎他(編著)『英語教師のためのコーパス活用ガイド』(大修館書店)
その他の参考資料は授業で提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール, マナビー

156060

教育メディア学

杉森　　直樹

授業テーマ:　英語教育におけるメディアの利用について学ぶ

授業の概要:　インターネットやPC、スマートフォンに代表される近年のメディア技術の発達により、学校現場における教育メディアの重要性はますます高まってきている。英語教員にとって、教育のためにデジタル教材やコンピュータを利用することのできるスキルは必須のものとなっている。本科目では、教育メディアの基礎概念からその実践的活用法までを講義形式と実習形式で授業を行い、各種教育メディアの利用に関する知識とスキルを実践的に習得することを目標とする。また、成績評価のために必要なコンピュータによる成績処理の手法について、Excelを使った実習を行う。

到達目標:
メディアを用いた英語教育の意義について理解している。
英語教育における各種メディアの利用方法について理解している。
メディアを用いた英語教育に必要なスキルを習得している。
英語学習に有用なインターネット教材とその利用方法について説明できる。
成績評価に必要な統計の基礎知識を理解し、表計算ソフトを用いた成績管理ができる。

授業方法:　授業はコンピュータ教室を利用する。教育メディアに関する講義と、各種メディアの利用法に関する実習を行う。インターネット上の教材を利用した英語学習に関するプレゼンテーションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	シラバスの内容確認
2.	英語教育におけるメディアの利用の意義	
3.	教育メデイア論（1）	教育メディア利用の意義に関する授業内容の復習
4.	教育メデイア論（2）	教育メディア論に関する授業内容の復習
5.	メディアの種類と英語教育における利用法	教育メディアの類型に関する授業内容の復習
6.	英語教育におけるインターネット教材の利用（1）	インターネット上の教材調査課題の作業
7.	英語教育におけるインターネット教材の利用（2）	インターネット上の教材調査課題の作業
8.	インターネット教材についての調査報告プレゼンテーション（1）	プレゼンの準備
9.	インターネット教材についての調査報告プレゼンテーション（2）	プレゼンの準備
10.	教材開発演習：音声データの利用	音声編集ソフトの利用方法の復習
11.	テストと成績評価	テストと成績評価の手法についての復習
12.	Excelを用いた成績処理（1）	Excelの操作方法についての復習
13.	Excelを用いた成績処理（2）	Excelの関数の使い方についての復習
14.	Excelを用いた成績処理（3）	Excelによる成績処理の方法の復習
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な授業参加を期待します。

フィードバックの方法:　授業中の報告課題について個別にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加と演習	30	積極的に授業に参加した度合いと各回で扱うテーマへの取り組みで評価
授業中の課題とプレゼンテーション	40	教材調査の課題とそれに基づくプレゼンの達成度、その他の課題で評価
期末レポート課題	30	与えられたテーマについてのレポートの達成度で評価

教科書:　冨永 敦子『教師のためのExcel活用術 第2版』民衆社

参考書:
佐賀啓男 編著「改訂　視聴覚メディアと教育」樹村房
山本順一 著「情報メディアの活用 改訂新版」放送大学教育振興会
竹内理 編著「CALL授業の展開―その可能性を拡げるために」松柏社
その他の参考資料は授業で提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール、マナビー

156160

社会言語学

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:

Introduction to Sociolinguistics: the relationships between language and society

授業の概要:

Students will be introduced to some of the basic concepts of sociolinguistics, starting with a basic understanding of language, people and society (accent, dialect, register and style, conversation and discourse analysis, etc.)

到達目標:

The aim of this course is to introduce and expose students to the study of language and society. Students are expected to speak in English with the instructor and fellow classmates in every class, and help to create a relaxed, welcoming and enjoyable environment for learning about language and society together in English.

授業方法:

This course will be conducted all in English. Instructor will expose students to the content of the course through short film clips, TED talks, and as well as lecture with reference to textbooks and academic journals.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to course, class expectations and methods of assessment	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
2.	Introduction to language and society	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
3.	Introduction to language and society	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
4.	Introduction to linguistics: accent and dialect	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
5.	Introduction to linguistics: register and style	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
6.	Spoken discourse	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
7.	Spoken discourse	Preparation for Mid-term assessments
8.	Mid-term assessments	Preparation for Mid-term assessments
9.	Mid-term assessments	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
10.	Conversational Analysis	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
11.	Conversational Analysis	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
12.	Student Projects: Data analysis	Working on projects for Final assessment
13.	Student Projects: Data analysis	Working on projects for Final assessments
14.	End-of-term Assessments:	Preparation for Mid-term assessments
15.	End-of-term Assessments	Preparation for Mid-term assessments

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course is conducted all in English, with particular focus on presentation and communication skills. Students are expected to communicate with both the teacher and fellow students in English in each class.

フィードバックの方法:

In-class evaluations, peer feedback, writing assignment and presentation assessments

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20	active participation, initiative, motivation, effort
Group work and in-class group discussion	25	communication ability, motivation, effort
Written assignments and oral presentations	25	academic writing skills, presentation skills
Mid-term and final presentations	30	effort, academic writing skills, research skills and presentation skills

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ,
自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

The instructor will notify students about contact information in the first class.

156360

応用言語学

清水　　裕子

授業テーマ:　応用言語学の観点からみる言語教育・学習に関わる諸問題

授業の概要:　「応用言語学」(Applied Linguistics)は、＜ことばに関する研究から得た成果を、多くの分野に応用することを研究していく学問＞であり、言語にかかわる諸問題を解決することも目的としていると言えます。できるだけ身近な現象をもとに、言語や言語教育との関わりを学びながら、このコースを通じて、今までには意識しなかったことを感じ、分かち合いながら、与えられた課題やテーマを中心に言語や言語学習・教育への知的好奇心を高めていきたく思います。

到達目標:　このコースの受講者の皆さんは、英語(あるいはその他の言語)を外国語として学んできた経験がありますが、自分自身を一人の学習者として客観的な立場で見てみましょう。そして、学習(教育)の対象・コミュニケーションの手段としての英語(あるいはその他の言語)を、応用言語学の観点から捉えていきましょう。特に、外国語プログラム、教科書分析、テスト分析により、今までの自分の経験してきた事象を客観的に観察していきます。

授業方法:　講義および演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	応用言語学とは？　本コースの概要説明と<Learning Contract>の作成	ことばについてのインタビュー
2.	言語とは？Language acquisition入門	インタビュー結果の発表
3.	学習者としての自己分析、ある言語が＜できる＞とは？	Reading Assignment(報告)
4.	21世紀における世界の言語	
5.	様々な外国語学習環境	様々な外国語学習環境に関する調査とプレゼンテーション
6.	Description of Language Use (言語要素について)	Reading Assignment (報告)
7.	Language Skills #1(受容的スキルについて)	
8.	Language Skills #2(産出的スキルについて)	
9.	教材分析	教材分析の結果のプレゼンテーション
10.	How to Measure Your Language Ability #1	
11.	How to Measure Your Language Ability #2	テスト分析
12.	基本統計入門	分析してきたテストについてのプレゼンテーション
13.	基本統計入門	テスト作成(グループ作業)
14.	Presentation	Theme Paperの提出
15.	Presentation・Self-reflection・Wrap up	

受講者へのメッセージやアドバイス:　クラスメイトとの意見交換なども積極的に行うので、毎回、授業に出席することを前提に進めて行きます。万一、欠席する場合は、自己責任のもとで、講義内容や課題を確認するようにしてください。

フィードバックの方法:　提出物はコメントをつけて返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内・外の課題を含む日常点	50	課題の理解度および、発表内容や態度
最終講義に実施するSelf-reflection	10	前講義を通じての自己分析の適切さ
Theme paper およびプレゼンテーション	40	明確な問題意識をもち、自らが選んだ課題に取り組み、説得力のある説明を行っているか否か。なお、評価基準の詳細は授業内で説明。

教科書:　なし

参考書:　授業内で随時紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　電子メール(1回目の授業でお知らせします)

156560

児童英語教育法Ⅰ

菅　　正隆

授業テーマ:　子どもに対する英語指導の理論と実際を学ぶとともに、学生一人一人の指導力の向上をめざす。

授業の概要:　幼稚園、保育園の子どもをも対象に考えながら、小学校における外国語活動及び教科外国語の在り方と課題を学習指導要領をもとに学ぶとともに、実際に外国語（英語）指導の在り方を実体験する。

到達目標:　一人一人が子どもを理解し、適切な指導方法を選択しながら、自立した指導者となることをめざす。

授業方法:　学習指導要領を基に理論を構築し、その後、実際に指導を体験し、理論と実践の一体化を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	子どもに対する英語指導の在り方をイメージする。
2.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の現状と課題	日本の英語教育の歴史的変遷を学習指導要領から理解する。
3.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の意義と目的	日本の英語教育のめざすものを学習指導要領から理解する。
4.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の指導内容	適切な英語指導の在り方を学習指導要領から理解する。
5.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の教材理解（英語ノート及びHi, friends!）	英語ノート及びHi, friends！のテキストを使って、適切な指導内容を理解する。
6.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）におけるティームティーチングの在り方	日本の言語政策について情報収集をする。
7.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の教材作成	様々な教材を考え、実際に作成してみる。
8.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の評価の在り方	子どもに対する適切な評価方法を理解し、実際に評価してみる。
9.	児童英語・保育英語の考え方と在り方	どのような指導が適切なのか、まとめてみる。
10.	子どもの脳と言語中枢（母語と外国語）	脳科学及び脳医学と言語の関係を考えてみる。
11.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の模擬授業準備(1)	指導案の書き方を理解し、実際に作成してみる。
12.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の模擬授業準備(2)	模擬授業の指導案をもとに、ペアで授業の練習をする。
13.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の模擬授業発表(1)	模擬授業の指導案をもとに、ペアで授業の練習をする
14.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の模擬授業発表(2)	体験した模擬授業の課題、改善点をまとめる。
15.	総括	授業で学んだこと、知ったこと、自立した指導者として必要なことをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　英語が得意な学生だけではなく、塾や学校等で英語を子どもに教えてみたい、子どもの英語関連の企業に就職したい、親になったときに子どもに英語を教えたいなど、どのような理由でも結構です。受講してみてください。すぐに自立した指導者となります。

フィードバックの方法:　実際に指導者としての体験をすることで、課題やポイントを明らかにし、指導力の向上を図ります。また、実際に教材や教具を作成し、他の学生と比較しながら、良い点及び改善点を明確にします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	30%	内容の適切さ
模擬授業発表（TT）	30%	指導の適切さ、声の大きさ、企画力等
教材・教具作成	30%	効果、企画力、創作力
授業への取り組み	10%	積極性、出席率

教科書:

参考書:
文部科学省、『小学校学習指導要領解説　外国語活動編』、東洋館出版社
菅正隆　他、『外国語活動評価づくり完全ガイドブック』、明治図書出版
菅正隆　他、『"Hi, friends!"指導案＆評価づくりパーフェクトガイド』、明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　kan.masataka@osaka-shoin.ac.jp

156660

児童英語教育法Ⅱ

菅　　正隆

授業テーマ:　子どもに対する英語指導のねらいを深く理解し、英語指導者としての指導力（テクニック）の向上をめざす。

授業の概要:　様々な指導方法及び内容を理解し、実際に体験しながら、指導力の更なる向上を図る。

到達目標:　英語指導者としての高度な実践的指導力を身に付けた自立した指導者になることをめざす。

授業方法:　各種の指導方法の在り方を理解しながら、実際に指導を体験する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	子どもに対する英語指導の効果についてイメージする。
2.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の歌の指導と在り方	英語の様々な歌について調べておく。
3.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）のチャンツの指導の在り方	リズムで、英語を読んでおく。
4.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）のコミュニケーション活動の在り方	ゲームやアクティビィティーを創作してくる。
5.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の文字導入の在り方	アルファベットの効果的な指導方法を考えておく。
6.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の教材・教具の在り方	効率の良い教材・教具を作成しておく。
7.	クラスルーム・イングリッシュの基礎基本	教室英語を調べる。
8.	電子黒板（ICT)の在り方と実践	アナログとデジタルの利点と欠点を考える。
9.	ショー・アンド・テル、紙芝居の在り方と実践	ショー・アンド・テルの原稿を作成する。
10.	英語劇の在り方と実践	読み聞かせの練習をする。
11.	小学校、中学校及び高等学校の連携の在り方	英語教育の効果的な連携の在り方をまとめる。
12.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の授業案作成	模擬授業の指導案を作成してみる。
13.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の模擬授業発表・討議(1)	模擬授業の指導案をもとに、ペアで授業の練習をする
14.	児童英語及び小学校外国語（外国語活動）の模擬授業発表・討議(2)	体験した模擬授業の課題、改善点をまとめる。
15.	総括	自立した指導者となっているか考え、課題を明確にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　子ども英語の指導者として、指導力の向上を図るには、実際に指導を体験してみることが大切です。これは、今後ますます社会的なニーズが広がり、仕事（就職）とも密接につながるものです。ⅠとⅡを連続受講することで、指導者として完全に自立できると思います。

フィードバックの方法:　様々な指導方法を理解し、実践してみることで、課題や改善点を明確にし、テクニックを更に磨いてもらいます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	30%	内容の適切さ
模擬授業発表（TT）	30%	指導の適切さ、声の大きさ、企画力等
教材・教具作成	30%	効果、企画力、創作力
授業への取り組み	10%	積極性、、実践力、出席率

教科書:

参考書:
文部科学省、『小学校学習指導要領解説　外国語活動編』、東洋館出版社
菅正隆　他、『外国語活動評価づくり完全ガイドブック』、明治図書出版
菅正隆　他、『"Hi, friends!"指導案＆評価づくりパーフェクトガイド』、明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　kan.masataka@osaka-shoin.ac.jp

156760

第二言語習得論Ⅰ

名部井　敏代

授業テーマ:　第二言語はどのようにして習得されるのだろう:　文化、年齢、母語言語間の距離はどのように影響するのだろう？

授業の概要:　第二言語習得研究（SLA)の現時点での到達点を概観しながら、以下にあげる4点を目的とする。
(1) 早期英語教育、小学校での英語教育を念頭に、年齢と第二言語学習の関係を検討する(主として教科書第5章)
(2) 中高校の教科書を念頭に、文法の発達順序を検討する(主として教科書第2章)
(3) 英語コミュニケーション能力の正体とは一体何なのか議論する
(4) SLA研究の重要な仮説について重要な概念を理解し議論する(主としてハンドアウト)

到達目標:　（1）俗説に惑わされないように科学的な見地に立った意見を持つことができる
（2）文法能力がどのように発達するのか自身の言語発達を「なるほど」と思いながら振り返る
（3）SLA研究の重要な仮説を理解して英語学習・教授に応用することができるようになる

授業方法:　授業計画のテーマに沿い、授業をすすめる。いくつかのパターンが想定されるが、グループを中心に、自ら考え・意見交流ができるようなActive Learningの形を予定している。予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることも求められる。インターネットLMSの利用も検討する。できる限り、ビデオなど視聴覚教材およびコンピュータを利用し、わかりやすい授業を心がける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コースへのイントロダクション	授業に期待することを考える
2.	Section 1: 第二言語は幼少期から始めないとおそすぎるのか	授業に期待することを考える
3.	大人になってから始めてはネイティブ並みにマスターできる領域はないのか	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
4.	幼いうちなら日本人でもlとrを聞き分けられるのか	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
5.	運動機能の衰えが言語習得の到達度に影響するのか	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
6.	本当に言語習得の臨界期はあるのか	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
7.	Section 2: 第二言語習得理論（SLA)の重要な仮説「サピア＝ウルフ仮説」（1）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
8.	「サピア＝ウルフ仮説」（2）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
9.	対照分析仮説（CAH)と言語の習得難易度（1）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
10.	対照分析仮説（CAH)と言語の習得難易度（2）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
11.	SLAの重要な概念	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
12.	Section 3: 文法的形態素の発達順序と英語の教科書	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
13.	聞くだけで第二言語習得は可能か（インプット仮説）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
14.	多読で英語力は伸びるのか（インプット仮説）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
15.	まとめ	教科書をもう一度読む

受講者へのメッセージやアドバイス:　2年次以降を対象に開設されている「外国語教育論I, II」をすでに受講していることが望ましいが、外国語教育に興味を持ち、いろいろなアクティビティに積極的に参加し学ぶ姿勢を持っていれば問題ないかもしれない。

将来、教職に就きたいと考えている学生（英語・日本語教育）だけでなく、外国語教育や学習（英語・日本語教育）に一般的な興味・関心を持つ学生、また塾講師など何らかの形で外国語教育に関わる仕事に就きたいと考えている学生などにも有益な情報があると考えられる。

フィードバックの方法:　課題については授業中に評価をつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	30	到達目標（1）～（3）に関する知識により評価する
授業中のディスカッション	20	Active Learningに参加しているかどうかにより評価する
最終復習テスト	50	到達目標（1）～（3）に関する知識により評価する

教科書:　白畑知彦、若林茂則、須田孝司（2004). 英語習得の「常識」「非常識」第二言語習得研究からの検証. 東京. 大修館書店

参考書:　授業中に提示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に直接相談、またはメールによる連絡

156860

第二言語習得論Ⅱ

名部井　敏代

授業テーマ:
第二言語・外国語学習はどのように促進・支援することができるだろう？

授業の概要:
第二言語習得（SLA）研究の現時点での到達点を概観しながら、以下にあげる3点を目標とする。
（1）第二言語指導におけるフォーカス・オン・フォームについて理解を深める
（2）第二言語学習における学習者要因について理解を深める
（3）これまでのSLA研究に関する学習を通して得られた知見を、自身の第二言語学習・教育に関連させて考察・議論する

到達目標:
（1）フィードバックの重要性や可能性を理解し、教師や学習者同士のインタラクションの生かし方を考えることができる
（2）学習者要因を外国語学習にどう生かすか考えることができる
（3）外国語学習のメカニズムについてより強い興味関心を持つことができる
（4）これまでのSLA研究に関する学習を通して得られた知見を、自身の第二言語学習・教育に関連させて論じることができる

授業方法:
授業計画のテーマに沿い、授業をすすめる。いくつかのパターンが想定されるが、グループを中心に、自ら考え・意見交流ができるようなActive Learningの形を予定している。予め読むテキストの範囲が指定され、その内容理解に基づき、自分なりの考えをまとめることも求められる。インターネットLMSの利用も検討する。できる限り、ビデオなど視聴覚教材およびコンピュータを利用し、わかりやすい授業を心がける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コースへのイントロダクション	授業に期待することを考える
2.	Section 4: 教室での第二言語指導 フィードバックの重要性（1）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
3.	フィードバックの重要性（2）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
4.	フォーカス・オン・フォームの可能性（1）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
5.	フォーカス・オン・フォームの可能性（2）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
6.	フォーカス・オン・フォームの可能性（3）	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
7.	Section 5: 学習者の特徴（学習者要因）とは	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
8.	学習動機の重要性	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
9.	言語適性の重要性	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
10.	性格の重要性	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
11.	ジェンダーの重要性	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
12.	学習方略の重要性 1 ＆プレゼンテーション準備	教科書の該当箇所を読み課題を作成する
13.	学習方略の重要性 2 ＆プレゼンテーション準備	プレゼンテーションの準備をする
14.	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションの準備をする
15.	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションの準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:
2年次以降を対象に開設されている「外国語教育論I, II」をすでに受講していることが望ましいが、外国語教育に興味を持ち、いろいろなアクティビティに積極的に参加し学ぶ姿勢を持っていれば問題ないかもしれない。

将来、教職に就きたいと考えている学生（英語・日本語教育）だけでなく、外国語教育・学習（英語・日本語教育）に一般的な興味・関心を持つ学生、また塾講師など何らかの形で外国語教育に関わる仕事に就きたいと考えている学生などにも有益な情報があると考えられる。

フィードバックの方法:
課題については授業中に評価をつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	30	到達目標（1）～（4）に関する知識により評価する
授業中のディスカッション	20	Active Learningに参加しているかどうかにより評価する
プレゼンテーション	50	到達目標（1）～（4）に関する知識により評価する

教科書:
白畑知彦、若林茂則、須田孝司（2004). 英語習得の「常識」「非常識」第二言語習得研究からの検証. 東京. 大修館書店

参考書:
鈴木渉（2017). 実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導. 東京：大修館書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:
授業の前後に直接相談、またはメールによる連絡

156960

社会と外国語教育B

山路　　順子

授業テーマ:　英語支配の現状と外国語教育の意義

授業の概要:　「英語は世界の共通語である」という考え方に反論する方がどれくらいいらっしゃるでしょうか。日々の生活で英語にふれないことのほうが少ない現状において、英語が使える事が社会生活を過ごす基本的手段とさえ考えられているかもしれません。中学校からの英語教育に加え、文部科学省が目指す「英語が使える日本人」「グローバル人材」育成の一環として小学校からの早期英語教育が行われています。そもそも私達日本人はなぜ義務教育として他の言語ではなく英語を学ばなければならないのでしょうか。英語教育と多文化共生社会の在り方について考えていきたいと思います。
この授業では前半でイギリスという1つの国で話されていた英語の生い立ちを概観し、世界共通語と考えられるようになるまでの背景を見ることで、一言語が「国際共通語としての地位」を築く為の条件を考えていただきます。その過程で、言語を「社会」という枠組みで見ることの重要性が見えてくると思います。その後、日本国内での外国語教育の歴史と英語教育の変遷を言語政策という観点から概観し、諸外国における言語教育政策と比較していきます。また国家を超えた国際機関における言語政策についても紹介しますので、これからの日本の外国語教育、特に英語教育のあるべき姿を考えていただきたいです。

到達目標:　授業が進む中で、多様な世界の言語が「英語」という一言語に画一化され、少数言語の消滅を促すといわれる現状に問題意識を持っていただき、多文化多言語共生社会の未来を描いていただければと思っています。いくつかの国と国際機関の言語教育政策への取り組みを紹介し、社会の変化と外国語教育政策という国家の政策の相関性を見出すことで、各自がその先に何かが見えてくることを目標とします。

授業方法:　主に講義形式で行いますが、積極的な授業への参加（質疑応答の時間や各自考える時間があります）が必要です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業履修に関するガイダンス 「社会」と「外国語教育」の導入	授業で指示のあった課題と復習
2.	言語政策と外国語教育政策について	授業で指示のあった課題と復習
3.	言語の歴史：「英語」の歴史について1 ーインドヨーロッパ祖語からlingua francaに至るまでー	授業で指示のあった課題と復習
4.	言語の歴史：「英語」の歴史について2 ー国境を越えた言語global languageー	授業で指示のあった課題と復習
5.	言語の歴史：「日本語」の歴史について ー言語接触と日本語への影響ー	授業で指示のあった課題と復習
6.	日本の言語政策・外国語教育政策 −明治から戦前ー	授業で指示のあった課題と復習
7.	日本の言語政策・外国語教育政策 ー戦後から現代までー Quiz Day	授業で指示のあった課題と復習
8.	イギリスの言語政策・外国語教育政策1	授業で指示のあった課題と復習
9.	イギリスの言語政策・外国語教育政策2	授業で指示のあった課題と復習
10.	アメリカの言語政策・外国語教育政策1	授業で指示のあった課題と復習
11.	アメリカの言語政策・外国語教育政策2 Quiz Day	授業で指示のあった課題と復習
12.	EUの言語政策・外国語教育政策1	授業で指示のあった課題と復習
13.	EUの言語政策・外国語教育政策2	授業で指示のあった課題と復習
14.	英語支配と多文化多言語共生社会への取り組み	授業で指示のあった課題と復習
15.	まとめ	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　社会と外国語教育政策がテーマですので、国内外の社会情勢に興味を持って様々なメディアからの情報入手が必要となります。また授業で扱うテーマごとに考えてご自身の意見を発表していただく機会がございますので積極的な参加が必要です。積極的な参加をするためには課題に取り組み準備して授業に臨むことが重要です。

フィードバックの方法:　授業で行う課題提出についてはその都度解答解説を行います。また授業内で行われる復習クイズについては採点後返却する際に解説をしますのでしっかり確認してください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30%	授業への積極的な参加（発表発言を含む）10%と課題提出20%
復習クイズ	20%	授業内容に関する復習クイズが行われます。
定期試験	50%	試験範囲については授業内で発表します。 基本的には授業で扱ったテーマのうち、目標に掲げた社会と外国語教育の関連性についての問題や、紹介した国や国際組織の言語政策や外国語への取り組みに関する問題が出題されます。

教科書:

参考書:　授業中に適宜指示いたします。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

157060

インターンシップⅡ

玉田　　佳子

授業テーマ:　ワックジャパンで学ぶ京都の文化と国際交流

授業の概要:　(1) インターンシップⅡでは、有限会社ワックジャパンでの就労体験を通して京都の文化を実践的に学ぶことを目的とする。インターンシップを通して、学科の専門性を生かした上で、実践的学びの場を与えることを主眼とする。
(2)京都の文化を理解するというインプット的な学習と同時に、海外から京都を訪問する多くの観光客に何を伝えるのかというアウトプットの行為を同時に学ぶことができるのが、このインターンシップの特徴である。

到達目標:　有限会社ワックジャパンの3つのポリシー:
(1) 国際交流に関わる仕事をする(Be actively involved in international exchange related work)
(2)女性の能力を生かせる創造的な仕事を作り出す(Generate creative job opportunities that rely on women's skills and abilities)
(3)愛するふるさと、京都および日本の発展に尽力する(Contribute to the development of our dear hometown, Kyoto, and Japan) という考え方は、受講生に学んでもらいたい、授業の目標でもある。

授業方法:　(1)事前授業
・ キャリア支援部主催の講習会への参加(2回)
・ 学科の事前指導 (1回)
(2)実習先でのインターンシップ実習(8日間64時間) 指導教員が巡回指導
(3)事後指導　学科での反省会。

・受講生の選考: 4月に説明会の実施、5月に英語英文学科教員による面接・選考
・受入人数:　2名

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前授業1 キャリア支援部主催の講習会	予習・復習・課題
2.	事前授業2 キャリア支援部主催の講習会	予習・復習・課題
3.	事前授業3 学科の事前指導	予習・復習・課題
4.	体験実習1	体験日誌をつける
5.	体験実習2	体験日誌をつける
6.	体験実習3	体験日誌をつける
7.	体験実習4	体験日誌をつける
8.	体験実習5	体験日誌をつける
9.	体験実習6	体験日誌をつける
10.	体験実習7	体験日誌をつける
11.	体験実習8	体験日誌をつける
12.	事後指導	・体験日誌の提出 ・インタンーンシップⅡ のホームページ用体験談の提出

受講者へのメッセージやアドバイス:
・ワックジャパンの仕事内容を把握する。
・接客業について理解する。
・海外からの観光客に英語を使ってコミュニケーションをとることの大切さを理解する。

フィードバックの方法:　事後指導の反省会において、参加者で意見を交換しあい、指導者は適切なアドバイスをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
キャリアサポートの課題	10%	どれだけ真剣に調べたかを評価する
体験実習簿	40%	どれだけ真剣に取り組んだかを評価する
ホームページ用体験談文章	10%	どれだけ要点を簡潔にまとめたかを評価する
事前・事後を含めた出欠席	20%	どれだけ真剣に取り組んだかを評価する
実習先巡回時の評価	20%	どれだけ真剣に取り組んだかを評価する

教科書:

参考書:　必用に応じてプリント等の配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
・E-mail
・電話

157260

英語で読む日本昔話

吉江　　孝美

授業テーマ:　日本昔話に見る日本人の心のあり方を探りながら、昔話を英語でたどる。

授業の概要:　幼い頃、人のいうことに耳をすまし、心を込めて聴くと言う経験を誰もがしていたはずである。昔話を聴くと、私たちは心のふるさとを垣間見たような懐かしい気持ちがするものである。昔話が私たちの心を動かす原動力はどこにあるのか。
昔話の持つ力とその可能性を再発見するとともに、近代化、国際化の波に埋もれて見えなくなってしまった物語の持つ普遍性と日本人特有の心のあり方を英語でたどる。

到達目標:　日本昔話を英語で読みながら基本的な英語を身につけていくと同時に、昔話の今日的意義を探る。また、西洋と日本の昔話の相違、またそこから来る日本の特殊性、また物語が持つ普遍性も評論文等を読みながら見ていくことで、読解力を身につける一助とする。

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction “The Mysterious Technique of the Cat” 佚斎樗山と『田舎荘子』について	reading assignment (pp.127-pp.131/l.7)
2.	“The Mysterious Technique of the Cat” 内容確認(pp.127-pp.131/l.7)発表	reading assignment (pp.131/l.8-pp.134./l.8)
3.	“The Mysterious Technique of the Cat” 内容確認(pp.131/l.8-pp.134./l.8)発表	reading assignment (pp.134./l.9-pp.137)
4.	“The Mysterious Technique of the Cat” 内容確認(pp.134./l.9-137)発表	小テスト準備
5.	小テスト1 “The Mysterious Technique of the Cat” “The Tale of Urashima” 内容確認 “The Tale of Urashima”	reading assignment “The Tale of Urashima” and 'The Aesthetic Solution'(pp.99-102) by Kawai Hayao
6.	“The Tale of Urashima” 内容確認 reading 'The Aesthetic Solution'(pp.99-102)	reading assignment 'The Aesthetic Solution'(pp.102-105)
7.	“The Tale of Urashima” 内容確認'The Aesthetic Solution'(pp.102-105)	reading assignment “The Wife Who Never Eats”&' 'Two Feminine Figures' by Kawai Hayao
8.	“The Wife Who Never Eats” 内容確認 reading and listening “The Wife Who Never Eats” reading 'Two Feminine Figures'	小テスト2 準備 reading assignment “The Tale of the Bamboo Cutter”
9.	小テスト“The Tale of Urashima”、'The Aesthetic Solution' and “The Wife Who Never Eats” “The Tale of the Bamboo Cutter” 「竹取物語」について	reading The Tale of the Bamboo Cutter” & ジブリ「かぐや姫の物語」 英語字幕スーパー(部分)を訳す
10.	“The Tale of the Bamboo Cutter” ジブリ「かぐや姫の物語」(部分)見る 英語字幕スーパー(部分)を読む	ジブリ「かぐや姫の物語」 英語字幕スーパー(部分)を訳す
11.	“The Tale of the Bamboo Cutter” 「竹取物語」とジブリ「かぐや姫の物語」の比較	レポート準備
12.	“The Tale of the Bamboo Cutter” 「竹取物語」とジブリ「かぐや姫の物語」の比較 The Legend of Tono 「遠野物語」について	reading assignment The Legend of Tono
13.	The Legend of Tono 内容確認 The Legend of Tono	reading assignment The Legend of Tono
14.	The Legend of Tono 内容確認 reading The Legend of Tono & The Bears of Mt. Nametoko	reading assignment ″The Bears of Mt. Nametoko″ by Miyazawa Kenji
15.	The Bears of Mt. Nametoko 内容確認 reading	レポート準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業で発表してもらいながら、難しい構文等はその場で解説していきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	30%	授業でしたことがどれくらい理解できているかを基準に評価
授業参加度、レポート	70%	授業に取り組む積極性と授業内容を正確に理解しようと努めているかどうかを評価対象とする。レポートについては、授業でしたことを踏まえて、どの程度深く掘りさげられているかを評価基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法: tyoshie@dwc.doshisha.ac.jp

157360

英語で読む京都印象記

吉江　　孝美

授業テーマ:

京都の魅力、日本の魅力を英語でたどる。

授業の概要:

京都(日本)を訪れた外国人に、京都そして日本がどのように映っていたのか。明治から今日にかけて外国人よって書かれたエッセイ(抜粋)や日記を英語で読みながら、京都文化、日本文化の魅力を再発見していく。

到達目標:

外国人が見た京都、日本の印象、またその伝統文化を英語で読みながら、いろいろなスタイルの英文を読む英語力と読解力を身につける。また自国の文化が英語でどのように表現されているのかを学ぶと同時に、伝統文化の理解を深め、異文化の人々との共有の場をいかに開いていくかを考える。

授業方法:

講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction 異文化へのまなざし “Japan Day By Day” by Edward S. Morse Edward Morse について	reading assignment 発表準備
2.	“Japan Day By Day” by Edward S. Morse の日記内容確認(発表) -江戸の雰囲気が残る明治初期の日本-	reading assignment 発表準備
3.	“Japan Day By Day” by Edward S. Morse 日記内容確認 -英国人が見た日本-	reading assignment 発表準備
4.	“Japan Day By Day” 内容確認reading (pp.21-22),(pp.37-38),(pp.258-262) -芸術的な街「京都」- -現代日本人が失いつつあるもの-	reading assignment 発表準備
5.	'At A Railways Station' “Kokoro” by Lafcadio Hearn 小泉八雲と日本との出会い	reading assignment 発表準備
6.	'At A Railways Station' “Kokoro” by Lafcadio Hearn 内容確認reading (pp.1-2)　発表	reading assignment 発表準備
7.	'At A Railways Station' “Kokoro“ 内容確認reading (pp.3-pp.4)発表 -小泉八雲の日本人観-	“Japan Day By Day” &'At A Railways Station' “Kokoro“ 小テストテスト準備
8.	'Japanese Food '“Living in Two Countries” by Donald Keene ドナルド・キーンと日本との出会い 内容確認(pp.58-pp.61/l.14)発表	reading assignment 発表準備
9.	'Japanese Food '“Living in Two Countries” reading & 内容確認	“Kaiseki” reading assignment 発表準備
10.	“Kaiseki-Exquisite Cuisine of Kyoto's Kikunoi Restaurant-“by Murata Yoshihiro reading & 内容確認	reading assignment
11.	Kaiseki “by Murata Yoshihiro 内容確認 reading (paragraph12-22) 発表 懐石料理-日本人と四季-	小テスト準備
12.	小テスト2 “The Japanese Way of Tea” By Sen no Soshitsu (15th Master of Urasenke) Reading Foreword 'The Chanoyu of Sen	reading assignment 'Chanoyu of the Sen Family after Rikyu'
13.	“The Japanese Way of Tea” By Sen no Soshitsu 内容確認 reading 'Chanoyu of the Sen Family after Rikyu'	reading assignment 'Sen Soshitsu, Fifteenth Grand Master of Urasenke'
14.	“The Japanese Way of Tea” By Sen no Soshitsu 内容確認 reading　'Sen Soshitsu, Fifteenth Grand Master of Urasenke' 準備学習	reading assignment 'The Japanese Way of tea: From its Origins in China to Sen Rikyu
15.	″The Japanese Way of Tea” By Sen no Soshitsu 内容確認 reading 'The Japanese Way of tea: From its Origins in China to Sen Rikyu	

受講者へのメッセージやアドバイス:

最初とっつきにくいと感じる英文(構文)も内容に興味が持てれば読み進められるものです。英語力以上に積極的に取り組む姿勢が大切です。英語の力は後からついてきます。

フィードバックの方法:

授業で発表してもらいながら、難しい構文はその場で解説していきます。質問は随時受け付けます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	授業でしたことをどの程度理解し復習できるているか。
授業への参加度	60%	発表準備がなされているかどうか、授業への積極的姿勢等を評価基準にする

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: tyoshie@dwc.doshisha.ac.jp

157461

英語で案内する京都Ⅰ

祐田　　直子

授業テーマ:　英語で京都を案内する

授業の概要:　国内外から多くの人々が訪れる京都は、日本の文化と心を形作った四季に富んだ気候風土に歴史ある建築物や神社仏閣、年中行事、食、工芸品、芸能など多岐にわたる文化の重なり合いによって構成されています。本授業（春学期）では、平安京の成立の歴史から現在に伝わる伝統行事、食、特産品、名所について英語の資料を用いながら知識や表現力を増やし、何度もアウトプットを行うことにより、特に外国観光客に人気の高いものを中心に英語で説明できるようになることを目指します。

到達目標:
・京都の歴史や文化を英語で紹介できる知識や表現力を習得する。
・英語でのコミュニケーションに自信をもち、他国の人々との交流に積極的になる。
・情報の受け手の立場に立って伝え方を工夫する姿勢を養う。

授業方法:
英文資料を使用しながら情報収集し、英語での表現法や言い回しをインプットしていきます。
海外のガイドブックなども参考にしながら、異なる視点からの日本を読み取ります。
グループやペアで英語による質疑応答の練習を行い、対話力の強化を図ります。
提示された用語の説明や質問を英語で応対し、スピーキング力を上げます。
現地研修では履修生に担当箇所を実際にガイディングしてもらう予定です。（行き先は履修者との話し合いにより決定。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	京都の概要 General Information	京都の位置、大きさ、人口などの基本情報をまとめておくこと。
2.	京都の地形と気候 Geography and Climate	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
3.	平安京 The Ancient Capital	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
4.	平安神宮 Heian Shrine	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
5.	京都御所 Kyoto Imperial Palace	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
6.	現地研修 Field Trip	訪れる場所について各自調べておくこと。
7.	京都の食 1 Cuisine and Foods 1	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
8.	京都の食 2 Cuisine and Foods 2	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
9.	京都の伝統工芸品 Traditional Arts and Crafts	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
10.	京町屋 Machiya Townhouses	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
11.	京都三大祭 Three Major Festivals	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
12.	祇園 Gion Area	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
13.	現地研修 Field Trip	訪れる場所について各自調べておくこと。
14.	プレゼンテーション Presentation	授業で取り扱ったテーマの中から最も関心のあるものを5分以内でショートプレゼンできるようにしておくこと。
15.	総復習 Review	提示されるテーマについて英語で説明できるようにまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本の歴史や文化に関心があり、英語で説明できるようになる事に意欲的な学生を歓迎します。

フィードバックの方法:　授業内に行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
口頭説明	40	関連用語や質問について、英語で説明又は応対できる事。
ペア・グループ　ワーク	20	積極的な取組み姿勢を重視。
ガイディング パフォーマンス	20	分かりやすさ、聞きやすさ、対応と柔軟性（やりとり）が基準。
プレゼンテーション	20	分かりやすさ、聞きやすさ、興味深さが基準。

教科書:　英文日本絵とき事典　Illustrated MUST-SEE IN KYOTO、JTBパブリッシング、978-4-533-00528-2

参考書:　随時、紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応します。

157462

英語で案内する京都Ⅰ

洲脇　　万由美

授業テーマ:

2020年東京オリンピック開催に向けて国家をあげて「おもてなしの国」であることをPRし、訪日外国人観光客の増加が期待される中、日本・京都の事象を説明しなくてはいけない機会も増えてきた。
しかしバイト先や旅先でも経験済みだと思うが、英語が話せても日本の事を簡潔に説明することは難しい。
本クラスでは、京都の伝統文化、歴史、気候を英語でガイドできるように、まず主だったガイディングポイントを英語の文献を通して学び、同時に　ガイドと外国人観光客に扮した実践的訓練を通してガイディングパフォーマンスの習得を目指す。

授業の概要:

入門では、1. 京都の一般知識（地形・気候・行事など）　2. 京料理と特産品　3. 旅館　4. 和室と茶道　の4テーマに絞り文献購読、グループディスカッション、日英翻訳、ロールプレイング等を通しガイディングパフォーマンスを磨く。
和室での茶道の講義と京町屋・祇園祭の見学研修を予定。

到達目標:

「使える英語」によるオリジナル「使えるスクラップブック」を作成し、それを用いて英語で京都を案内できるように指導したい。

授業方法:

ガイディング練習→文献講読・解説→グループディスカッション→スクラップブック作成

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	General Information 京都の一般知識	復習として学んだことをスクラップブックにまとめる
2.	Topography　&　Climate 地形と気候	同上
3.	Heian Capital 1 平安京の歴史	同上
4.	Heian Capital 2 平安京の特徴	同上
5.	Local Products 京の特産品	同上
6.	Local Foods 1 京料理	同上
7.	Local Foods 2 京料理	同上
8.	Performance Test 1 パフォーマンステスト1	同上
9.	Japanese Accommodations 旅館・民宿・ゲストハウス	同上
10.	Japanese Room 和室	同上
11.	Japanese Tea Room & Tea Ceremony・Flower Arrangement 茶室と茶道体験	同上
12.	Festivals 京都三大祭り	同上
13.	Kyoto Town House & Gion Festival 京町屋と祇園祭研修	同上
14.	Perfomance Test 2 パフォーマンステスト2	同上
15.	Review	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本文化、殊に京都への深い興味と学習意欲のある学生に受講してもらいたい。

フィードバックの方法:

授業内で解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
パフォーマンステスト1	40	質問に対しスクラップブックを用いてガイディングを行ってもらい最低必要な情報が出せていれば可とする。
パフォーマンステスト2	40	同上
スクラップブック	20	見やすさ、分かりやすさが基準

教科書:

なし

参考書:

授業内に紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

157561

英語で案内する京都Ⅱ

祐田　　直子

授業テーマ:　英語で京都を案内する

授業の概要:　国内外から多くの人々が訪れる京都は、日本の文化と心を形作った四季に富んだ気候風土に歴史ある建築物や神社仏閣、年中行事、食、工芸品、芸能など多岐にわたる文化の重なり合いによって構成されています。本授業（秋学期）では、日本文化の基礎に据えられる信仰と神社仏閣、歴史的建造物、庭園について英語の資料を用いながら知識や表現力を増やし、何度もアウトプットを行うことにより、英語で説明できるようになることを目指します。

到達目標:
・京都の歴史や文化を英語で紹介できる知識や表現力を習得する。
・英語でのコミュニケーションに自信をもち、他国の人々との交流に積極的になる。
・情報の受け手の立場に立って伝え方を工夫する姿勢を養う。

授業方法:
英文資料を使用しながら情報収集し、英語での表現法や言い回しをインプットしていきます。
海外のガイドブックなども参考にしながら、異なる視点からの日本を読み取ります。
グループやペアで英語による質疑応答の練習を行い、対話力の強化を図ります。
提示された用語の説明や質問を英語で応対し、スピーキング力を上げます。
現地研修では履修生に担当箇所を実際にガイディングしてもらう予定です。（行き先は履修者との話し合いにより決定。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本の宗教 Japanese Religion	日本人の宗教観について考えておくこと。
2.	神道と仏教 Shinto and Japanese Buddhism	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
3.	神社 Shinto Shrines	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
4.	寺院 Buddhist Temples	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
5.	現地研修 Field Trip	訪れる場所について各自調べておくこと。
6.	禅文化と京都 Zen Culture	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
7.	茶道 Tea Ceremony	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
8.	京都の庭園 Gardens in Kyoto	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
9.	現地研修 Field Trip	訪れる場所について各自調べておくこと。
10.	伏見稲荷大社 Fushimi Inari Shrine	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
11.	清水寺 Kiyomizu Temple	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
12.	金閣寺 Kinkaku Temple	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
13.	二条城 Nijo Castle	テキストや配布資料を参考にしながら、関連用語や質問について英語で説明できるようにしておくこと。
14.	プレゼンテーション Presentation	授業で取り扱ったテーマの中から最も関心のあるものを5分以内でショートプレゼンできるようにしておくこと。
15.	総復習 Review	提示されるテーマについて英語で説明するようにまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本の歴史や文化に関心があり、英語で説明できるようになる事に意欲的な学生を歓迎します。

フィードバックの方法:　授業内に行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
口頭説明	40	関連用語や質問について、英語で説明又は応対できる事。
ペア・グループ ワーク	20	積極的な取組み姿勢を重視。
ガイディング　パフォーマンス	20	分かりやすさ、聞きやすさ、対応と柔軟性（やりとり）が基準。
プレゼンテーション	20	分かりやすさ、聞きやすさ、興味深さが基準。

教科書:　英文日本絵とき事典　Illustrated MUST-SEE IN KYOTO、JTBパブリッシング、978-4-533-00528-2

参考書:　随時、紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応します。

157562

英語で案内する京都Ⅱ

洲脇　　万由美

授業テーマ:

2020年東京オリンピック開催に向けて国家をあげて「おもてなしの国」であることをPRし、訪日外国人観光客の増加が期待される中、日本・京都の事象を説明しなくてはいけない機会も増えてきた。
しかしバイト先や旅先でも経験済みだと思うが、英語が話せても日本の事を簡潔に説明することは難しい。
本クラスでは、京都の伝統文化、歴史、気候を英語でガイドできるように、まず主だったガイディングポイントを英語の文献を通して学び、同時に　ガイドと外国人観光客に扮した実践的訓練を通してガイディングパフォーマンスの習得を目指す。

授業の概要:

秋学期は、1. 日本の宗教　2. 社寺の違いと特徴　3. 日本庭園　4. 京の世界遺産　の4つのテーマに絞りガイディングの演習を行う。
今期は、毎回授業のはじめに京都の世界遺産のミニプレゼンを行う。各参加者は、京都の世界遺産を一か所選び調べて、英語で5分ほどのミニプレゼンを行ってもらう。

到達目標:

今期は皆でオリジナル「使えるスクラップブック」の原稿をを作成し、それを用いて英語で京都を案内できるように指導したい。

授業方法:

京の世界遺産ミニプレゼン→文献購読・解説→グループディスカッション→スクラップブック作成

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Japanese Religion 1 日本の宗教～神道・仏教・キリスト教	復習として学んだことをスクラップブックにまとめる
2.	Japanese Religion 2 日本の宗教～神道・仏教・キリスト教	同上
3.	Temple & Shrine1 神社と寺の違い	同上
4.	Temple & Shrine 2 社寺に見られる13アイテム	同上
5.	Temple & Shrine 3 社寺に見られる13アイテム	同上
6.	Temple & Shrine 4 社寺に見られる13アイテム	同上
7.	Performnce Test 1 パフォーマンステスト1	同上
8.	Shokokuji 相国寺研修	同上
9.	Japanese Garden 日本庭園	同上
10.	Nijojo Castle 二条城研修	同上
11.	Golden Pavilion 1 金閣寺	同上
12.	Golden Pavilion 2 金閣寺	同上
13.	Golden Pavilion 3 金閣寺	同上
14.	Perfomance Test 2 パフォーマンステスト2	同上
15.	金閣寺寸劇	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本文化、殊に京都への深い興味と学習意欲のある学生に受講してもらいたい。

フィードバックの方法:

授業内で解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
パフォーマンステスト1	30	質問に対しスクラップブックを用いてガイディングを行ってもらい最低必要な情報が出せていれば可
パフォーマンステスト2	30	同上
金閣寺寸劇	30	ガイディングの内容を重視　金閣寺に行ってみたいと思わせるガイディングを期待　文法や表現はシンプルで可
世界遺産プレゼン	10	

教科書:

なし

参考書:

授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応

157660

英語で読む日本文学

吉江　　孝美

授業テーマ:　京都を舞台にした日本文学を英語でたどる。

授業の概要:　文学作品の中で様々に描かれてきた京都。その京都が時代の流れのなかで、何がどのように変遷し、あるいは保持されてきたのか。日本文学を英語で読みながら見ていく。

到達目標:　日本文学をあえて英語で読み、自国の文学が英語でどのように表現されているのかを学ぶ。また日本文学がどのように外国人に受容されてきたのかを学びながら、文学を英語で読み解く基礎的な力を身につける。

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction “Takasebune” by Mori Ogai -高瀬川の過去と今日- -“Origin of Taksebune” by Mori Ogai (「高瀬舟縁起」)から高瀬舟の全体像を捉える- -角倉了以と高瀬川-	reading assignment (pp.225-pp.227/l.6)
2.	“Takasebune” 内容の確認reading (pp.225-pp.227)発表 寛政年間の京都	reading assignment (pp.227/l.7-p.229/l.36)
3.	“Takasebune” 内容の確認reading (pp.227/l.7-p.229/l.36)発表 神沢杜口と鴎外	reading assignment (p.229/l.37-p.232)
4.	“Takasebune” 内容の確認reading (p.229/l.37-p.232)発表 鴎外と「安楽死」の問題 “Rashomon” by Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介と明治文学	reading assignment “Rashomon” (pp.3-pp.6/l.7)
5.	“Rashomon” by Akutagawa Ryunosuke 内容確認 reading (pp.3-pp.6/l.7) 発表	reading assignment ″Rashomon″ (pp.6/l.8~ 最後まで)
6.	″Rashomon″ 内容確認 reading (pp.6/l.8~ 最後まで)発表	テスト準備
7.	小テスト1 ″Takasebune″ ,″ Rashomon″ DVD『細雪』(部分)鑑賞	reading assignment “The Makioka Sisters”
8.	“Makioka Sisters” by Tanizaki Junichiro 内容確認	reading assignment “The Makioka Sisters”
9.	“Makioka Sisters” by Tanizaki Junichiro 内容確認	reading assignment “The Makioka Sisters”
10.	“Makioka Sisters” by Tanizaki Junichiro 内容確認	reading assignment “The Makioka Sisters”
11.	“The Tale of the Heike” 平家物語の冒頭を英語で読む -「平家物語」と灌頂の巻 - 建礼門院と「平家物語」 “Makioka Sisters” by Tanizaki Junichiro 内容確認	reading assignment ″ The Tale of Heike″ 'The Initiates' Book'(pp.148-pp. pp.151)
12.	'The Initiates' Book' “The Tale of the Heike” 内容確認 reading(pp.148-pp. pp.151) “Makioka Sisters” by Tanizaki Junichiro 内容確認	reading assignment (pp.151-pp.153)
13.	'The Initiates' Book' “The Tale of the Heike” 内容確認 reading(pp.151-pp.153)	reading assignment (pp.153-pp.156)
14.	'The Initiates' Book' “The Tale of the Heike” 内容確認reading (pp.153-pp.156) 発表	reading assignment (pp.156-pp.159) 「平家物語」冒頭暗唱テスト準備(英語、日本語)
15.	'The Initiates' Book' “The Tale of the Heike” 内容確認reading(pp.156-pp.159)発表 「平家物語」冒頭暗唱テスト(英語、日本語)	

受講者へのメッセージやアドバイス:　外国の文学に比べて感情移入をしやすい日本文学を、あえて英語で読んでいくことで英語に慣れ親しみ、自分を表現できる語彙、表現力を身につけていきましょう。

フィードバックの方法:　授業で発表してもらいながら、難しい構文等はその場で解説していきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト(筆記、暗唱テスト)	40%	構文の理解、内容の理解度で評価。暗唱テストについては、発音、息継ぎ、スムーズさなどを評価対象とする。
授業への参加度、発表、レポート	60%	意欲的に取り組んでいるか、また積極的に理解しようとつとめているかどうかを評価対象とする。また、与えられたレポートについては、授業でしたことを踏まえ、的確に内容を捉え自分の意見が表現できているかをみる。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力
教員との連絡方法:	tyoshie@dwc.doshisha.ac.jp

157760

京都の中の外国文化

大場　　修

授業テーマ:　建築・住宅・インテリアに見る西洋文化と伝統文化

授業の概要:

歴史都市京都には外国文化があふれています。
この授業は、京都の近代建築や住宅を題材に、近代京都が西洋文化をいかに受容し伝統文化とどのように融合したか、講義と現地見学を通して考えます。

到達目標:

授業の目標は、おもに西洋建築や洋風住宅の基本的な知識を学び、京都の中の洋風建築や住宅に対する理解力を獲得します。そのためには、日本の伝統建築についての学びも必要です。
この授業で得た知識は、歴史を生かした京都のまちづくりのあり方を考えるための素養となります。また、日常生活の中で建築や町並みを観る「見方」や楽しむための基礎知識ともなります。
国内外の旅先で、楽しく町歩きするためには「発見する力」が不可欠です。普通の人ならば見過ごしてしまい、気がつかないものに「価値を見つける力」を付けてもらえればと思っています。

授業方法:

講義を基本とするが、現地見学を随時行います(授業内容参照)。
現地見学のために、受講生は20人以内に限ります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	住まいの伝統文化と外国文化	シラバスの理解
2.	インテリアデザインの和風と洋風その1	事前配布資料による予習
3.	インテリアデザインの和風と洋風その2	事前配布資料による予習
4.	近代の洋風京都:三条通り沿いの近代建築の現地見学	事前配布資料による予習
5.	京町家の伝統	事前配布資料による予習
6.	京町家の現地見学	事前配布資料による予習
7.	近代京都の洋風町家	事前配布資料による予習
8.	近代京都の洋風町家の現地見学	事前配布資料による予習
9.	近代京都の小学校校舎の歴史	事前配布資料による予習
10.	近代京都の小学校校舎の現地見学	事前配布資料による予習
11.	西洋建築の基礎1(古代ギリシャとローマ:オーダーとアーチの建築)	事前配布資料による予習
12.	洋風建築の基礎2(ゴシックからルネサンス・バロック:中世から近代へ)	事前配布資料による予習
13.	京都の西洋建築の現地見学	事前配布資料による予習
14.	京都の西洋館の現地見学	事前配布資料による予習
15.	近代建築(住宅)から現代建築(住宅)へ及び授業のまとめ	事前配布資料による予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

下記の参考文献による準備学習、および授業や見学会で配布する資料、授業ノートや見学メモによる復習などを求めます。特に、授業で作成したノートは復習の中心になるので、ノートの取り方などについて個別にチェックした上で、コメントを返します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業・学外見学への積極的参加度	60	授業・学外見学への積極的参加、授業中の質疑応答の内容・見学対象への関心の度合いなどを基準に評価します。
学期末レポート	40	授業内容の理解度を、レポートの内容と正確さ、詳細さなどを基準に評価します。

教科書:

参考書:

『京都の近代化遺産』淡交社、
『京・まちづくり史』昭和堂
『みやこの近代』思文閣出版
『西洋建築の歴史』河出書房新社
『図説西洋建築史』彰国社
『ビジュアル版西洋建築史』丸善

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対します。また、Eメールでの連絡も可能です。アドレスは以下の通りです。
oba＊kpu.ac.jp

158061 **Junior Seminar Ⅰ**

風間　　末起子

授業テーマ:　『ジェイン・エア』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要:
・この授業では、文化研究の材料として小説『ジェイン・エア』を使用することで、19世紀全般のイギリスの女性文化について研究していく。
・春学期は、(1)19世紀イギリス・ビクトリア朝の中産階級の女性像の変遷、(2)映画化された文芸作品と原作の比較、(3)衣食住文化、(4)土地と文学、の4つのテーマのもとで学習していく。授業では、ジェンダー'gender'(社会的・文化的性)というキーワードを念頭において学習していく。
・研究倫理についても触れる。

到達目標:
・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。
・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
・相手の立場や意見を尊重しながら、自らの意見や考え方を分かりやすく表現できる力を持っている。

授業方法:　関連の作品・研究書・文献を使って、発表形式(グループごと)で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション。テーマの説明。	予習は不要
2.	発表テーマと発表者を決める。グループ・ミーティング。	各回、発表が当たっていなくても、事前に、テーマごとの参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談すること。
3.	テーマ1:「家庭の天使像と新しい女性まで」を学習	上記と同じ
4.	テーマ1:作品Jane Eyreの精読	上記と同じ
5.	テーマ1:発表	上記と同じ
6.	テーマ2:「映像と文芸作品の比較」の学習	上記と同じ
7.	テーマ2:作品の精読	上記と同じ
8.	テーマ2:発表	上記と同じ
9.	前半部のまとめとディスカッション	上記と同じ
10.	テーマ3:英国レディを文化・文学から読み解く。『ジェイン・エア』を材料に使って、食文化、衣裳、インテリアなどの19世紀イギリスの女性文化を読み解	上記と同じ
11.	テーマ3:作品の精読	上記と同じ
12.	テーマ3:発表	上記と同じ
13.	テーマ4:「土地と文学—ブロンテが歩いたヨークシャーとブリュッセル」 作品の精読	上記と同じ
14.	テーマ4:発表	上記と同じ
15.	春学期の総まとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　シャーロット・ブロンテ(Charlotte Bronte, 1816-1855)はイギリスの19世紀中期を代表する女性作家です。感動の小説Jane Eyre (1847)を楽しみましょう。

フィードバックの方法:　レポートは、採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート7月末に1回提出	40%	アカデミック・スキルズを応用し、作品と先行研究を使用して、分析・解釈などの論旨展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
授業発表(グループごとのプレゼン)	30%	アカデミック・スキルズを応用したプレゼンの方法を踏襲しているかどうかが基準。
授業への積極的参加度	30%	毎回出席をとる。

教科書:　Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847) (Norton Edition) 第4版

参考書:　必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメールやマナビーでの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。

158062 **Junior Seminar Ⅰ**

甲元　　洋子

授業テーマ:　イギリスの日常生活を通して見る文化・文学

授業の概要:　現代のイギリス人の生活の様々な面に着目し、そこから見えてくるこの国の文化、歴史、文学などについての広範な知識を習得する。英文教材の精読を通して英文読解力を強化する。

到達目標:　イギリスの文化、歴史、文学などを意欲的に学び、理解し、正確な知識を習得する。考察・分析した成果を理論立てて明確に表現する。英語読解力を高める。

授業方法:　主に演習形式で行う。英文教材の読解、担当者による補足説明、質疑応答という形で行う。レポート作成の指導も必要に応じて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	教科書の ″Preface″を読む	該当部分を、音読し、内容理解を確認する。
3.	教科書　第１章を読む	同上
4.	教科書第2章を読む	同上
5.	教科書第5章を読む	同情
6.	個人発表　１，２，５章で学んだ事柄に関して自主的に調べた内容を発表する。	発表準備をする。
7.	同上	同上
8.	教科書第5章を読む	該当部分を音読し、内容理解を確認する。
9.	教科書第6章を読む「	同上
10.	教科書第7章を読む	同上
11.	関連する英文資料を読む	同上
12.	関連する英文資料を読む	同上
13.	個人発表　５，６，７章および関連資料の内容に関し、自主的に調べて発表する	発表準備
14.	同上	
15.	まとめ	総合的な見直しと内容理解確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　このクラスでは、まずは精読を通して英文をしっかり読み解く力を強化したいと考えている。
よって予習は必ずすること。
教材の音読、訳読、内容要約、意見の表明など全てが成績評価の資料となるので、緊張感をもって出席してほしい。

フィードバックの方法:　提出物は添削して、またテストは採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	教材の内容理解の程度で評価する
レポート	20%	考察・分析の程度、論旨の明確さ、論文作成のルール遵守の程度により評価する
発表	20%	発表内容ならびに発表態度で評価する
授業への参加度	10%	授業中の態度、受け答えの内容などから真面目に参加しているか否かを判断し評価する

教科書:　Colin Joyce, Realise Britain (KINSEIDO)

参考書:　クラスで指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　Eメール: ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp

158063 **Junior Seminar Ⅰ**

小山　　薫

授業テーマ:　マザーグースにみるイギリス—人・風土・歴史

授業の概要:　イギリスの伝承童謡群〈マザーグースの歌〉が根強い人気と生命力を保ちながら歌い継がれ、現代でも新聞の見出しや文学、映画でもじられるばかりか、挿し絵や日用品、パブサインにも描かれ、人びとの日常生活に深く浸透すると共に、その性格形成にまで大きな影響を及ぼしてきたことは、よく知られている。
本講座では代表的マザーグースをとりあげ、その多岐にわたるテーマの中でも、特にイギリスの風土や国民性、年中行事、興味深い歴史的エピソードや人物などに焦点をしぼって分析する。イギリスの社会や文化について、知識と理解を深めたい。研究倫理についても指導する。

到達目標:
・代表的マザーグースに関する知識（押韻、背景、影響力など）の修得
・プリゼンテーション力（デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成）の向上
・代表的マザーグースをメロディーやリズムをつけ、正確な発音で暗唱する能力の修得

授業方法:　講義やグループ発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業オリエンテーション ・グループ発表分担決定 ・グループ発表要領確認	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	講義：マザーグース概説	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の配布プリントを読み直しておく。
3.	講義：マザーグースの影響力	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の配布プリントを読み直しておく。
4.	グループ発表 1： マザーグースとイギリスの風土	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
5.	グループ発表 2： マザーグースの登場人物 1	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
6.	グループ発表 3： マザーグースの登場人物 2	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
7.	グループ発表 4： マザーグースとイギリスの祝祭日	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
8.	講義：マザーグースと民間伝承	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
9.	グループ発表 5：マザーグースの恋唄 1	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。″
10.	グループ発表 6：マザーグースの恋唄 2	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
11.	グループ発表 7： マザーグースとイギリスの歴史 1	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
12.	グループ発表 8： マザーグースとイギリスの歴史 2	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
13.	マザーグース暗唱テスト：練習	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
14.	補足説明	春学期授業内容の復習
15.	まとめ	春学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加（無遅刻無欠席）はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院（診断書提出）などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・やむを得ず欠席する場合は、E-mailで小山に連絡してもらいたい。

フィードバックの方法:　グループ発表については、直後に発表者以外の学生全員がコメント（質問、良かった点、改善点）を言い、小山が総括的なコメントをする。各発表者のデリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成などについても、良かった点と改善点を具体的に指摘する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
グループ発表	20%	各発表者とグループ全体の、デリヴァリー力と、パワーポイントのスライド作成力、ハンドアウト作成力を評価。
暗唱テスト	10%	代表的マザーグース（15曲）をメロディーやリズムをつけ、正確な発音で暗唱できるかを評価。
学期末試験	50%	春学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:　Iona and Peter Opie（ed.）：The Book of Nursery Rhymes（Yumi Press, 2001）

参考書:　必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Emailやオフィスアワーを利用。

158064 **Junior Seminar Ⅰ**

松村　　延昭

授業テーマ:　映画を用いたアメリカ文化研究

授業の概要:　文学、スポーツ、音楽等のアメリカ文化を取り上げて、できる限り具体的な作品に触れながら、アメリカ社会の基本にある思想や歴史的事実を探っていく。

到達目標:　アメリカ文化全般に関する知識を増やす。その中から自分が一番興味のもてるトピックを決めて、書籍や論文などを読み研究を深めていく。自分の研究結果を口頭や論文で発表できるようにする。

授業方法:　講義の後に、内容に関する質問や意見を聞いたり書いたりしてもらう。アメリカ文化に関する指定したトピックでペア発表をおこない、その後にディスカッションをする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のイントロダクション アメリカの基礎知識	シラバスを読んでおく。
2.	講義:ベトナム戦争と公民権運動	トピックに関する知識を深めておく。
3.	ベトナム戦争の捉え方:Forrest Gump, etc.	前回の授業内容を復讐しておく。
4.	ディスカッション(Forrest Gump)	前回の授業内容を復讐しておく。
5.	講義:現代アメリカの人種問題	トピックに関する知識を深めておく。
6.	アファーマティブ・アクションとアフリカ系アメリカ人: Do the Right Thing　etc.	前回の授業内容を復讐しておく。
7.	ディスカッション(Do the Right Thing)	前回の授業内容を復讐しておくこと
8.	講義:アメリカのファミニズム	トピックに関する知識を深めておくこと
9.	女性の自由を阻むもの:Thelma & Louise, etc.	前回の授業内容を復讐しておくこと
10.	ディスカッション(Thelma & Louise)	前回の授業内容を復讐しておく。
11.	講義:奴隷制度と南北戦争	トピックに関する知識を深めておく。
12.	南北戦争とアフリカ系アメリカ人:Glory, etc.	前回の授業内容を復讐しておく。
13.	ディスカッション(Glory)	前回の授業内容を復讐しておく。
14.	講義:開拓者とネイティブアメリカン	トピックに関する知識を深めておく。
15.	マニフェスト・デスティニーと西部開拓: Dances with Wolves, etc.	前回の授業内容を復讐しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　今までにつちかった英語力を活かして、自分の興味のもてるトピックを探求する。資料収集を上手くなってもらいたい。特に、英語の資料を読むことを忌避せず、積極的に英文を読むようにしてほしい。

フィードバックの方法:　講義の後に質問等を書く。各学生の発表の後に評価と感想を記入してもらう。それらの中から今後の参考となる意見を次の授業で紹介する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディスカッションを含む授業への積極的参加	40%	授業に取り組む姿勢を評価する。
ペア発表	20%	与えられた項目を、どれだけ詳細に調べて発表したか、発表の工夫はあったか、クラスメートの理解を得られたかで評価する。。
レポート	30%	誤字やミススペリングがないか、論旨がとおっているかで評価する
研究プラン提出	10%	各自の研究をどのように進めていくのかを、いかに明確に記述し提出するかで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　公開しているメールアドレスに連絡する。
教員が全員に連絡するときは、マナビーのニュースを使用する。

158065 **Junior Seminar Ⅰ**

玉田　　佳子

授業テーマ:　英米文学に現れた女性像

授業の概要:　女性のイメージは時代とともに変化し、一面では時代を映す鏡でもあった。Mary Anne FergusonのImages of Women In Literature（1991）は、現代英米文学の短編や詩を6つのタイプの女性像 — 妻、母、理想の女性、性の対象物、男のいない女性、これからの女性　—　に分類し、さまざまな女性の生き方を紹介している。かわいい妻を演じる女性、娘を愛せない母親と母を憎む娘、男性を陶酔と破滅に追いやる宿命の女、レイプの犠牲となる女性、不倫相手からの電話を待ち続ける女、レズビアン・ファミリーなど。この授業では、女性が主人公の短編小説や詩を読みながら、それぞれの女性について考えるとともに、様々な女性の生き方に触れることによって、各自の将来も含め未来の女性像について考える。またレポート・論文を書く上での研究倫理を学ぶ。

到達目標:
（1）英語で書かれた文学作品を正確に読解すること。
（2）文学作品の分析をすること。
（3）文学作品の内容をプレゼンテーションすること。
（4）自分の意見を人前ではっきり述べること

授業方法:
（1）英米文学作品を訳読式で読解する。
（2）読み終えたらディスカッションを通して内容理解を深める。
（3）グループで映画作品のプレゼンテーションをする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション レポート・論文を書く際の研究倫理の指導	研究倫理についての再確認
2.	「妻」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠
3.	「妻」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠
4.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く
5.	「母」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠
6.	「母」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠
7.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く
8.	「男のいない女」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠
9.	「男のいない女」を描いた作品の講読・発表	作品訳読jの予習が不可欠
10.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く
11.	「妻」を描いた映画のグループ発表	グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備
12.	「母」を描いた映画のグループ発表	グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備
13.	「男のいない女」を描いた映画のグループ発表	グループで、テーマに沿った映画を選び、ストーリーやテーマを紹介するプレゼンの準備
14.	女性の生き方を描いたDVDを見てのディスカッション	感想を書く
15.	まとめ	夏休みの課題として、「理想の女性像」を描いた作品を読んで感想文を書く

受講者へのメッセージやアドバイス:
英米文学作品をこつこつ訳読することが好きな人。
女性問題に関心のある人。

フィードバックの方法:
（1）プレゼンテーションには、フロアーの学生がコメント用紙に記入して評価する。
（2）ミニ・レポートは可能な限りコメントをつけて返却したり、みんなの意見として総括してフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期 末試験	40%	作品理解がちゃんとできているか
グループ発表	20%	グループで協力しあって発表ができているか
ミニ・レポート	10%	作品について分析的に書けているか
ディスカッション	10%	自分の意見がしっかり言えるか
受講態度（出席・予習・積極性）	20%	作品の予習がしっかりできているか

教科書:　『女人生模様』/Images of Women in Literature　Mary　Anne Ferguson 編　（開文社）

参考書:　必要に応じてプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、

教員との連絡方法:
ライン
E-mail
電話

158066

Junior Seminar Ⅰ

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:

Culture, Society and Communication I

授業の概要:

Students will be exposed to a variety of topics in examining current social issues in Japan and comparing them with those of different countries and cultures.

到達目標:

Students will be learn to analyze and think critically about different topics and social issues.
Students will learn about the world around them from a different perspective.

授業方法:

Coursework will consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written assignments, concluding with a final report at the end of term.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to course, goals and expectations	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
2.	Rules for conducting research, writing research papers - Research Workshop at library	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
3.	Culture and Society Part I, Group work tasks, written assignment	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
4.	Culture and Society Part III, Group work tasks, written assignment	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
5.	Intercultural communication Part I, Group work tasks, written assignment	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
6.	Intercultural communication Part II, Group work tasks, written assignment	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
7.	Intercultural communication Part III Group work tasks, written assignment	Preparations for mid-term assessments
8.	Mid-term presentations (oral and written assignments), Peer feedback	Preparations for mid-term assessments
9.	Mid-term presentations (oral and written assignments), Peer feedback	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
10.	Gender issues in society Part I Group work tasks, written assignments	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
11.	Gender issues in society Part II Group work tasks, written assignments	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
12.	Gender Issues in society Part III Group work tasks, written assignments	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
13.	Preparations for Final Assignment for Spring Term : Writing Workshop, Pre-presentation assessments	Preparations for final assessments
14.	Final Presentations Peer and Instructor feedback	Preparations for final assessments
15.	Final Presentations Peer and Instructor feedback	Preparations for final assessments

受講者へのメッセージやアドバイス:

This Junior Seminar is conducted in English only. All students are expected to use English in when talking with classmates and the instructor during class.. All students must show a high level of motivation in class, and actively participate in class discussion and group work tasks.

フィードバックの方法:

One-on-one performance feedback sessions, written assignment and oral presentation evaluations, peer feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation, attitude, motivation	30	motivation and initiative in class, active participation
Written assignments, group work, mini-presentations	30	research skills, academic writing skills, presentation skills, effort and ability
Mid-term and Final presentations and written assignments	40	effort and ability in the four academic skills (reading, writing, listening and speaking)

教科書:

There is no textbook assigned for this course.

参考書:

Jackson, J., Introducing Language and Intercultural Communication, 2014, Routledge, New York.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、分析力, 思考力, プレゼテーション力、コミュニケーション能力

教員との連絡方法:

The instructor will notify students about contact information during the first class.

158067

Junior Seminar Ⅰ

J.W.Carpenter

授業テーマ:

Introduction to Film Translation: English to Japanese

授業の概要:

Did you know that subtitles are often completely different from what the actors are actually saying? The reasons have to do with length of time, cultural and linguistic differences, and the need to help the viewer understand clearly what is happening in the film and what the emotional impact of each line is. Through "Casablanca" and other movies, we will learn what some of the differences are between English and Japanese, and how these affect the translator's task. Students will need excellent Japanese skills as well as English skills. We will also consider differences between literal translation, natural translation, and paraphrase.

到達目標:

We will learn the basics of subtitling, and consider what makes a good subtitle. Students will develop listening, writing, and presentation skills as they work on translating alone and in groups.

授業方法:

Primarily in English. Lectures and discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to subtitles and Casablanca	Watch the movie; write a reaction paper
2.	Casablanca	Begin translation of assigned part
3.	Casablanca	Translate assigned part
4.	Casablanca	prepare for presentation
5.	presentations	write a paper on the first project
6.	Second film (to be announced)	Translate; Subtitle journal
7.	Second film	Translate; subtitle journal
8.	Second film	Translate; prepare for presentation
9.	Second film	Choose a film to work on; subtitle journal
10.	Group or pair work on third film	Translate
11.	Group or pair work on third film	Translate
12.	Group or pair work on third film	Prepare for presentation
13.	Presentations	Prepare for presentation and final paper
14.	Presentations	Final paper
15.	Conclusion	Revise as necessaryu

受講者へのメッセージやアドバイス:

The world of subtitling is not as easy as it may seem, but it('s not impossible either. Come prepared to learn and have fun. Open your mind and polish your Japanese and English at the same time.

フィードバックの方法:

Discussion, in-class comments, feedback on papers

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	20%	Come prepared. Be active and ask questions.
Homework and presentations	40%	Be thorough, organized, and use your imagination.
Final presentation and paper	40%	Originality, thoroughness, communicative ability

教科書:

Handouts

参考書:

To be announced

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

email, office hour, and by appointment

158068 **Junior Seminar Ⅰ**

今井　　由美子

授業テーマ:　The Role of Sound in Language（「音」にまつわる言語学 ）

授業の概要:　このコースでは「言語音」に焦点をあて、母語である日本語と学習語である英語を比較しながら、言語についての知識を深めることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processingなど、受講生がさまざまな分野へと興味を広げることを期待する。このコースではInternational Phonetic Alphabet (IPA)を使用するため、受講にあたり、「英語音声学Ⅰ＆Ⅱ」「Pronunciation Skills Ⅰ＆Ⅱ」を履修していることを強く勧める。（注意：「英語の発音練習」のためだけのゼミではない）

またこの授業では研究倫理についても指導する。

到達目標:　普段話していることばが「なぜそういう発音になったか」「どうしてそう言うのか」を説明することは容易なことではない。なぜなら自然に、無意識に話しているからである。このゼミでは、与えられたデータ（音声）と向き合い、そこに隠れている音韻ルールを見つける課題を通して、言語の不思議な世界を少し覗いてみる。

授業方法:　このコースは講義を中心に行うが、仲間とともに課題に取り組み、ディスカッションや発表を通じてゼミ生の理解を確認する機会も多い。また、ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿を行ったり、大学行事へ参加する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	特になし
2.	言語とはなにか（1）	課題① レポート課題 リーディング・スピーキング課題
3.	言語とはなにか（2）	課題② レポート課題 リーディング・スピーキング課題
4.	日本語と英語について（1）	課題③ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
5.	日本語と英語について（2）	課題④ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
6.	音韻ルールを探そう（1）	課題⑤ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
7.	音韻ルールを探そう（2）	課題⑥ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
8.	音韻ルールを探そう（3）	課題⑦ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
9.	音韻ルールを探そう（4）	課題⑧ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
10.	音韻ルールを探そう（5）	課題⑨ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
11.	音韻ルールを探そう（6）	課題⑩ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
12.	音韻ルールを探そう（7）	課題⑪ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
13.	音韻ルールを探そう（8）	課題⑫ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
14.	リサーチとは	予備
15.	まとめ	学期末レポート

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題にはまず自分で取り組む。授業ではクラスメートとのディスカッションを通じてトピックについての理解を確認し、また理解を深める。理解したことを文章でまとめることで、論理的に説明するスキルを練習する。レポートはチェックされ返却される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20%	課題へ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価に加える。
課題提出・発表	40%	課題の提出、発表（内容・態度）など評価に加える。
期末課題または期末テスト	40%	授業で扱ったトピックに関する課題またはテストを行い、評価に加える。

教科書:
川越いつえ、英語の音声を科学する、2007、大修館書店
今井由美子他、Sounds Make Perfect、2010、英宝社　（Active Listening で使用したものでよい）
向後千春、18歳からの「大人の学び」基礎講座、2016、北大路書房

参考書:
Fromkin,V., Rodman、R., & Nina Hyams、N.、フロムキンの言語学、2006、トムソンラーニング
本名信行、世界の英語を歩く、2003、集英社新書
英語音声学研究会、大人の英語発音講座、2003、生活新書
東照二、社会言語学入門―生きた言葉のおもしろさにせまる、2007、研究社
ゾルダン・ドルニュイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社
大津由紀雄、ことばワークショップ　－言語を再発見する―、2011、開拓社
ことばに魅せられて　対話編、2008、ひつじ書房、
探検！ことばの世界、2008、ひつじ書房、その他多数

	鈴木孝夫、閉ざされた言語・日本語の世界、2006、新潮社 森光有子他、英語vs.日本語—日本人にとって英語とは何か—、2009、開文社出版
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

158070

Junior Seminar Ⅰ

北尾　キャスリーン

授業テーマ:

Nonverbal Communication

授業の概要:

In this course, we will discuss various theories of nonverbal communication, that is, communication without words. We will look at different types of nonverbal communication and their use in daily life.

到達目標:

The purpose of this course is to introduce students to various aspects of nonverbal communication and help them understand their application to daily life as well as to verbal communication.

授業方法:

Students will read about theoretical aspects of nonverbal communication. Through group discussion, they will develop their understanding of these theories and their application to their own experiences. They will also work on a video group project about an aspect of nonverbal communication.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Nonverbal Communication	none
2.	Body Movements and Gestures	Read chapter and answer questions
3.	Eye Behavior and Gaze	Read chapter and answer questions
4.	Territoriality	Read chapter and answer questions
5.	Personal Space	Read chapter and answer questions
6.	Time	Read chapter and answer questions
7.	Touching Behavior	Read chapter and answer questions
8.	The Voice and Vocal Expression	Read chapter and answer questions
9.	Clothing as Communication	Read chapter and answer questions
10.	Artifacts as Communication	Read chapter and answer questions
11.	The Environment as Communication	Read chapter and answer questions
12.	Intercultural Aspects of Nonverbal Communication	Read chapter and answer questions
13.	Verbal Expressions of Nonverbal Communication	Read chapter and answer questions
14.	Preparation for presentations	Preparation for presentations
15.	Presentations	Preparation for presentations

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Comments to students

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework	50%	Depends on assignment
Presentation	30%	Content and delivery
Test(s)	20%	Extent to which students show what they have learned

教科書:

S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao -- Nonverbal Communication　Ikubundo

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

158071 **Junior Seminar Ⅰ**

辻　　英子

授業テーマ:　戯曲の精読から上演へ—An Inspector Calls研究①—

授業の概要:　このクラスでは、劇作品をより深く理解し、英語音声表現、および翻訳の能力を高めるため、戯曲を日本語字幕付で上演することを目指す。取り上げる作品は英国の作家、J. B. PriestleyのサスペンスドラマAn Inspector Calls(『警部の来訪』である。春学期では、場面の状況、登場人物の心の動き、観客への効果を考えながら、劇を訳読し、同時に作品の背景となる20世紀初頭のイギリス社会の抱える問題点についても理解を深める。また、授業の中で研究倫理についても学ぶ。

到達目標:
1. 戯曲の精読を通して、作品を深く理解する。
2. 作家と作品の時代背景についても理解を深める。

授業方法:　毎回、一人ずつ順番にテキストの訳をレジメを用意して発表してもらう。その際に、実際の舞台を想定しながら、演出方法などについて皆で話し合う。
また、劇のテーマ、作家の思想や時代背景に関して全員でディスカッションをする。学期末には筆記試験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	テキストの訳読(第1幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること。
3.	テキストの訳読(第1幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること。
4.	テキストの訳読(第1幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
5.	テキストの訳読(第１幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
6.	テキストの訳読(第2幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
7.	テキストの訳読(第2幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
8.	テキストの訳読(第2幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
9.	テキストの訳読(第2幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
10.	テキストの訳読(第3幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
11.	テキストの訳読(第3幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
12.	テキストの訳読(第3幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
13.	テキストの訳読(第3幕)及びディスカッション	授業前には授業で扱うテキストの範囲を必ず訳読すると共に音読練習をしてくること。また、各自のコメントを用意してくること。授業後は学んだ内容を復習すること
14.	テキスト全体の復習	授業前にはテキスト全体を読み直し、各自のコメントを用意してくること。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　秋学期の舞台上演に向けての積極的な取り組みが何よりも大切です。一人一人が責任を持って意欲的に授業に参加してください。

フィードバックの方法:　毎回の授業時におけるハンドアウトを用いた訳読の発表に対して、時間内に訳の修正とコメントを口頭で行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末試験	50%	授業内容の理解度によって評価する。
発表	30%	作品の理解度(和訳、音読、テーマや手法等)によって評価する。
授業への参加姿勢	20%	授業への積極的な参加姿勢を評価する。

教科書:　J. B. Priestley、 An Inspcetor Calls （成美堂）

参考書:　開講時に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　e-mail : htsuji@dwc.doshisha.ac.jp

158161 **Junior Seminar Ⅱ**

風間　　末起子

授業テーマ:　『ジェイン・エア』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要:　・この授業では、文化研究の材料として小説『ジェイン・エア』を使用することで、19世紀全般のイギリスの女性文化について研究していく。
・秋学期は、(1)絵画とジェイン・エア、(2)「美女と野獣」のモチーフ、(3)19世紀の女性の精神的な病、(4)聖書的アリュージョン、の4つのテーマのもとで学習しtいく。授業では、ジェンダーというキーワードを念頭において学習していく。

到達目標:　・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。
・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
・相手の立場や意見を尊重しながら、自らの意見や考え方を分かりやすく表現できる力を持っている。

授業方法:　関連の作品・研究書・文献を使って、発表形式(グループごと)で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション。7月に提出したレポートの講評。	予習は不要
2.	テーマ1:「ジェイン・エアと絵画」を学習。グループ・ミーティング	各回、発表が当たっていなくても、事前に、テーマごとの参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談すること。
3.	テーマ1:作品Jane Eyreの精読	上記と同じ
4.	テーマ1:発表	上記と同じ
5.	テーマ2:「美女と野獣のモチーフ」を学習	上記と同じ
6.	テーマ2:作品の精読	上記と同じ
7.	テーマ2:発表	上記と同じ
8.	前半部のまとめとディスカッション	上記と同じ
9.	テーマ3:「病とセラピー —母と娘、拒食症」を学習	上記と同じ
10.	テーマ3:作品の精読	上記と同じ
11.	テーマ3:発表	上記と同じ
12.	テーマ4:「19世紀とキリスト教文化—聖書的アリュージョンとと『ジェイン・エア』を学習	上記と同じ
13.	テーマ4:「19世紀とキリスト教文化—聖書的アリュージョンとと『ジェイン・エア』を学習:作品の精読	上記と同じ
14.	テーマ4:発表	上記と同じ
15.	秋学期の総まとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　シャーロット・ブロンテ(Charlotte Bronte, 1816-1855)はイギリスの19世紀中期を代表する女性作家です。感動の小説Jane Eyre (1847)を楽しみましょう。

フィードバックの方法:　レポートは、採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートを1月下旬に1回提出	40%	アカデミック・スキルズを応用し、作品と先行研究を使用して、分析・解釈などの論旨展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
授業発表(グループごとのプレゼン)	30%	アカデミック・スキルズを応用したプレゼンの方法を踏襲しているかどうかが基準。
授業への積極的参加度	30%	毎回出席をとる。

教科書:　Charlotte Bronte, Jane Eyre (1847) (Norton Edition)　第4版

参考書:　必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメールやマナビーの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。

158162 **Junior Seminar Ⅱ**

甲元　　洋子

授業テーマ:　イギリスの日常生活を通して見る文化・文学

授業の概要:　現代のイギリス人の生活の様々な面に着目し、そこから見えてくるこの国の文化や歴史、文学などについて広範な知識を習得する。英文教材の精読を通して英文読解力を強化する。

到達目標:　イギリスの文化、歴史、文学などについての理解、知識の習得。考察と分析、論旨明快な発信力の獲得。英語読解力の向上。

授業方法:　主に演習形式で行う。英文読解、担当者による補足説明、質疑応答という形で進める。レポート作成の指導も必要に応じて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 春学期のテストやレポートの返却	
2.	教科書第8章を読む	該当部分を音読し、内容理解を確認する
3.	Shakespeareに関する発表	Shakesupeareについて調べ発表準備をする
4.	教科書第9章を読む	該当部分の音読と内容確認をする
5.	関連する英文資料を読む	同上
6.	同上	同上
7.	教科書第10章を読む	同上
8.	個人発表　これまでの授業で学んだ事柄に関して自主的に調べた内容を発表	発表準備
9.	同上	同上
10.	教科書第11章を読む	該当部分の音読と内容確認をする
11.	教科書の第12章を読む	同上
12.	教科書の第13章を読む	同上
13.	関連する英文資料を読む	同上
14.	同上	同上
15.	まとめ	総合的な見直しと内容理解確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回きちんと予習して授業に臨み、緊張感を持って、音読、訳読をし、意見を発表すること

フィードバックの方法:　提出物は添削して、テストは採点して返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	教材の内容理解の程度で評価する
レポート	20%	考察・分析の程度、論旨の明確さ、論文作成のルールの遵守の程度で評価する
発表	20%	発表の内容や態度で評価する
授業への参加度	10%	授業に臨む態度、受け答えの内容などで真面目に参加しているかを判断し評価する

教科書:　Colin Joyce, Realise Britain (KINSEIDO)

参考書:　クラスで指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　Eメール: ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp

158163 **Junior Seminar Ⅱ**

小山　　薫

授業テーマ:　マザーグースの影響力—イギリスの人と暮らし

授業の概要:　本講座では、イギリスの詩人James KirkupによるエッセイMother Goose's Britainの精読と、グループ発表を通して、マザーグースが過去から現代にいたるまで、人生の様ざまなステージ(誕生→ 幼少期 → 青年期 → 壮年期 → 晩年)で、イギリスの人と暮らしに与えつづけてきた多大な影響力について、多角的に考察する。簡潔明瞭で味わい深いKirkupの文章の魅力にひかれて、どんどん読み進むことができるだろう。イギリス社会や国民性、物の考え方について知識と理解を深めると共に、私たちひとりひとりも、自らの〈より良い人生〉を追求するきっかけとしたい。
研究倫理についても指導する。

到達目標:
・James Kirkup, Mother Goose's Britainの精読を通して、イギリスの社会や生活、国民性に関する知識を修得
・代表的バラッドに関する知識(詩形、背景、歴史など)の修得
・プリゼンテーション力(デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成)の向上

授業方法:　講義やグループ発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業オリエンテーション ・グループ発表分担決定 ・グループ発表要領確認	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	講義:庶民のための物語詩— バラッド紹介	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の配布プリントを読み直しておく。
3.	グループ発表 1: Introduction / British Balance	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
4.	グループ発表 2: Birth	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
5.	グループ発表 3: Infancy	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
6.	グループ発表 4: Childhood	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
7.	講義:イギリスのクリスマス	前回授業の重要点を復習しておく。
8.	グループ発表 5: Youth	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
9.	グループ発表 6: Growing Up	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
10.	グループ発表 7: Middle Age	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
11.	グループ発表 8: Old Age / Epilogue	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
12.	講義:バラッドと映画	前回授業の重要点を復習しておく。
13.	講義:1960年代の対抗文化	前回授業の重要点を復習しておく。
14.	補足説明	秋学期授業内容の復習
15.	まとめ	秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・やむを得ず欠席する場合は、E-mailで小山に連絡してもらいたい。

フィードバックの方法:　グループ発表については、直後に発表者以外の学生全員がコメント(質問、良かった点、改善点)を言い、小山が総括的なコメントをする。各発表者のデリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成などについても、良かった点と改善点を具体的に指摘することで、学生のプリゼンテーション力は確実に向上する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
グループ発表	30%	各発表者とグループ全体の、デリヴァリー力と、パワーポイントのスライド作成力、ハンドアウト作成力を評価。
学期末試験	50%	秋学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:　James Kirkup: Mother Goose's Britain(朝日出版社)

参考書:　必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Emailやオフィスアワーを利用。

158164

Junior Seminar Ⅱ

松村　　延昭

授業テーマ:　映画を用いたアメリカ研究

授業の概要:　文学、スポーツ、音楽等のアメリカ文化を取り上げて、できる限り具体的な作品に触れながら、アメリカ社会の基本にある思想や歴史的事実を探っていく。

到達目標:　アメリカ文化全般に関する知識を増やす。その中から自分が一番興味のもてるトピックを決めて、書籍や論文などを読み研究を深めていく。自分の研究結果を口頭や論文で発表できるようにする。

授業方法:　各自の口頭発表を中心に、講義、講読、AV資料をみてのディスカッション等をおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のイントロダクション	シラバスを読んでおくこと。
2.	研究発表に関する注意等	英米文学基礎演習で学習した発表に関する知識を確認しておく。
3.	レポート作成に関する注意	英米文学基礎演習で学習したレポート執筆に関する知識を確認しておく。
4.	研究発表 1 + 2	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
5.	研究発表 3 + 4	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
6.	研究発表 5 + 6	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
7.	研究発表 7 + 8	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
8.	研究発表 9 + 10	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
9.	研究発表 11 + 12	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
10.	研究発表 13 + 14	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
11.	講義:アメリカの宗教	今回の講義に関する知識を深めておく。
12.	ディスカッション 1	指定した小説を読んでおく。
13.	講義:アメリカの音楽	今回の講義に関する知識を深めておく。
14.	講義:アメリカの銃規制	今回の講義に関する知識を深めておく。
15.	ディスカッション 2	指定した映画をみておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　今までにつちかった英語力を活かして、自分の興味のもてるトピックを探求する。資料収集力を高め、特に、英語で書かれた資料を忌避しないでほしい。

フィードバックの方法:　講義の後に感想を書く。個々の受講生の発表の後に評価と感想を記入してもらい、その中から今後の参考となる意見を次の授業で紹介する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディスカッションを含む授業への積極的参加	30%	授業に取り組む積極的な姿勢を評価する
アウトライン発表	20%	秋学期におこなう個人の研究のプランを、いかに明確に発表したかで評価する
研究発表	20%	発表内容と発表の仕方で評価する
レポート	30%	誤字やミススペリングがないか、論旨がとおっているかを基準として評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　公開しているメールアドレスに連絡する。
教員からの一斉連絡はマナビーのニュースで通知する。

158165 **Junior Seminar Ⅱ**

玉田　　佳子

授業テーマ:　英米文学に現れた女性像

授業の概要:　女性のイメージは時代とともに変化し、一面では時代を映す鏡でもあった。Mary Anne FergusonのImages of Women In Literature（1991）は、現代英米文学の短編や詩を6つのタイプの女性像 — 妻、母、理想の女性、性の対象物、男のいない女性、これからの女性　—　に分類し、さまざまな女性の生き方を紹介している。かわいい妻を演じる女性、娘を愛せない母親と母を憎む娘、男性を陶酔と破滅に追いやる宿命の女、レイプの犠牲となる女性、不倫相手からの電話を待ち続ける女、レズビアン・ファミリーなど。この授業では、女性が主人公の短編小説や詩を読みながら、それぞれの女性について考えるとともに、様々な女性の生き方に触れることによって、各自の将来も含め未来の女性像について考える。

到達目標:
（1）英語で書かれた文学作品を正確に読解すること。
（2）文学作品を比較・分析してプレゼンテーションすること。
（3））文学作品を比較して、自分独自の視点で分析しレポートにまとめること。
（4）自分の意見を人前ではっきり述べること。

授業方法:
（1）英米文学作品を訳読式で読解する。
（2）文学作品を比較・分析して、グループでプレゼンテーションをする。
（3）文学作品を比較・分析して、自分のpoint of view　で分析しレポートにまとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション	夏休みの課題の提出
2.	夏休みの課題の「理想の女性像」を描いた作品についてのディスカッション	作品についての自分の意見を再構築する
3.	今年度のShakespeare Production作品の解説	Shakespeare作品について復習
4.	「これからの女性」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠
5.	「これからの女性」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠
6.	「これからの女性」を描いた作品の講読・発表	作品訳読の予習が不可欠
7.	上記の作品についてのディスカッション	読み終えた作品のミニ・レポートを書く
8.	「妻」についてのグループ発表とディスカッション	グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
9.	「母」についてのグループ発表とディスカッション	グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
10.	「理想の女性像」についてのグループ発表とディスカッション	グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
11.	「男のいない女」についてのグループ発表とディスカッション	グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
12.	「これからの女性」についてのグループ発表とディスカッション	グループで配布文献の中から作品を選び、分析してプレゼンテーションをし、クラス・ディスカッションを誘導する
13.	女性の生き方を表すノンフィクション　DVDを見てのディスカッション	ディスカッションを通して他の人の意見を聞きながら、自分の意見を持つ
14.	女性の生き方を表すノンフィクション　DVDを見てのディスカッション	ディスカッションを通して他の人の意見を聞きながら、自分の意見を持つ
15.	レポート課題についての説明	グループ発表を元に、個人レポートを自分の視点から完成させる

受講者へのメッセージやアドバイス:
英米文学作品をこつこつ訳読することが好きな人。
女性問題に関心のある人。

フィードバックの方法:
（1）プレゼンテーションには、フロアーの学生がコメント用紙に記入して評価する。
（2）レポートはコメントをつけて、4年次のゼミで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末レポート	40%	3つの作品が自分独自の視点から分析できているか
グループ発表	20%	グループで協力しあって発表ができているか
ディスカッション	10%	自分の意見がしっかり言えるか
受講態度（出席・予習・積極性）	20%	作品の予習がしっかりできているか ディスカッションに積極的に参加できているか
夏休みの課題	10%	作品の内容を理解し、分析的に書けているか

教科書:　『女人生模様』/Images of Women in Literature　Mary　Anne Ferguson 編　（開文社）

参考書:　発表グループごとへの配布文献（プリント）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
ライン
E-mail
電話

158166

Junior Seminar Ⅱ

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:
Culture, Society and Communication II

授業の概要:
This course will be exploring and examining themes surrounding culture, society and communication. In particular:society and diversity,identity and intercultural communication competencies. Research paper writing will also be a focus of this course.

到達目標:
(1) Students will be exposed to a variety of topics in examining and comparing Japan with different countries and cultures.
(2) Students will be learn to
analyze and think critically about different topics and social issues.
(3) Students will learn about the world around them from a different perspective.

授業方法:
Coursework will consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written assignments, concluding with a final report and presentation mid-term and at the end of term.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1 Introduction Explanation of syllabus, goals and expectations	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
2.	Research and Academic Writing Workshop (at library)	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
3.	Diversity and Japan Part II, Group work tasks, written assignment	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
4.	Diversity and Japan Part III, Group work tasks, written assignment	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
5.	Intercultural communication competence Part I, Group work tasks, written assignment	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
6.	Intercultural communication competence Part II, Group work tasks, written assignment	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
7.	Intercultural communication competence Part III, Group work tasks, written assignment	Preparation for mid-term assignments
8.	Mid-term presentations (oral and written assignments), Instructor and peer feedback	Preparation for mid-term assignments
9.	Mid-term presentations (oral and written assignments), Instructor and peer feedback	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
10.	Ethnicity and Identity Part I, group work tasks, written assignments	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
11.	Ethnicity and Identity Part II, group work tasks, written assignments	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
12.	Ethnicity and Identity Part III, group work tasks, written assignments	Written assignment/oral presentations based on materials covered in class
13.	Preparations for Final Assignments	Preparations for final assignments
14.	Final Assignments	Preparations for final assignments
15.	Final Assignments	Preparations for final assignments

受講者へのメッセージやアドバイス:
This Junior Seminar is conducted in English only. Students are highly expected to use English with classmates and the teacher in every class. All students must actively participate in class discussion and group work tasks.

フィードバックの方法:
One-on-one performance feedback sessions, written assignment and oral presentation assessments, personal evaluations

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation, attitude, motivation	30	motivation and initiative in class, active participati
Written assignments, group work, mini-presentations	30	research skills, academic writing skills, presentation skills, effort and ability
Mid-term and Final presentations and assignments	40	effort and ability in the four academic skills (reading, writing, listening and speaking)

教科書:
There is no textbook assigned for this course.

参考書:
Jackson, J., Introducing Language and Intercultural Communication, 2014, Routledge, New York.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:
The instructor will notify students about contact information during the first class.

158167

Junior Seminar Ⅱ

J.W.Carpenter

授業テーマ:

Introduction to Film Translation: Japanese to English

授業の概要:

This semester we will continue our study of translation, mainly using scenes from Japanese movies to see how to render dialogue in easy-to-understand English subtitles. The emphasis will be on clarity as we try to visualize the kind of information that will be most necessary and helpful to foreign viewers unfamiliar with Japanese language, customs, and culture. We will also expand our discussion to study and compare translations of Japanese works of literature with their subtitled movie versions, trying our hand at both styles of translation.

到達目標:

Students will learn the basic rules of subtitling in English and attempt to apply them. Emphasis will again be laid on differentiating between direct translation and subtitling. They will need to demonstrate deep understanding of the movies they work on, as well as be able to explain in English the significance of chosen scenes and dialogue. These objectives will be met be working alone, in pairs, and in small groups to further stimulate discussion and creativity, and to learn from each other. Students will learn through discussion and feedback, and share what they have learned through presentations and writing assignments.

授業方法:

Class will consist of lectures, group/pair work, discussion, and presentations. Most of the movie viewing will be done outside class. Students will be expected to keep a journal of their viewing with examples and comments regarding subtitles they encounter. Discussion and presentations will be primarily in English, but due to the nature of the content, some Japanese will also be used.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction. The world of J-E subtitles. Ozu Yasujiro's Tokyo Monogatari	Watch the film and write a reaction paper.
2.	Tokyo Monogatari	Translate from English back into Japanese and compare with originals
3.	Tokyo Monogatari	Translate a selected scene
4.	Tokyo Monogatari	Translate selected scene in pairs or small groups for presentation
5.	Tokyo Monogatari presentations	Write a paper summarizing findings
6.	Second film (to be announced)	Translate portions of the script and make subtitles. Subtitle journal
7.	Second film	Revise translations. Subtitle journal.
8.	Second film	Subtitle journal
9.	Group or pair work on a third film	Transcribe, translate. Journal.
10.	Group or pair work on a third film	Transcribe, translate, revise. Journal.
11.	Group or pair work on a third film	Transcribe, translate, revise, Journal.
12.	Group or pair work on a third film	Prepare presentation
13.	presentations	Prepare presentation. Journal. Final paper
14.	presentations	Assigned reading. Final paper
15.	Class discussion; conclusion Final paper due	Revisions as necessary

受講者へのメッセージやアドバイス:

Writing English subtitles may seem daunting, but you have a big advantage: you understand clearly what the original Japanese means. Use your understanding to convey the needed information in clear, simple English. Also, be sensitive to cultural and linguistic differences that will affect the subtitles.

フィードバックの方法:

Quiz, oral and written reports, oral and written feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	20%	Be on time with homework done. Participate actively and ask questions.
Quiz, journal, homework	30%	Display knowledge. Dig deeper into the subject on your own.
Presentation, final paper	50%	Understanding, originality, ability to apply what has been learned, ability to communicate clearly

教科書:

Handouts

参考書:

To be announced.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Creative skill, presentation skill, communication skill

教員との連絡方法:

Office hour; email and by appointment

158168

Junior Seminar Ⅱ

今井　　由美子

授業テーマ:　The Role of Sound in Language （「音」にまつわる言語学I）

授業の概要:　このコースではJunior Seminar Iにつづき、「言語音」に焦点をあて、母語である日本語と学習語である英語を比較しながら、言語についての知識をさらに深めることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguistics, language acquisition, language processingなど、受講生がさまざまな分野へと興味を広げることを期待する。このコースではInternational Phonetic Alphabet (IPA)を使用するため、受講にあたり、「英語音声学Ⅰ＆Ⅱ」を履修していることを強く勧める。（注意：「英語の発音練習」のためだけのゼミではない）

またこの授業では研究倫理についても指導する

到達目標:　普段話していることばが「なぜそういう発音になったか」「どうしてそう言うのか」を説明することは容易なことではない。なぜなら自然に、無意識に話しているからである。このゼミでは、与えられたデータ（音声）と向き合い、そこに隠れている音韻ルールを見つける課題を通して、言語の不思議な世界を少し覗いてみる。

授業方法:　このコースは講義を中心に行うが、仲間とともに課題に取り組み、ディスカッションや発表を通じてゼミ生の理解を確認する機会も多い。また、ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿を行ったり、大学行事へ参加する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション リサーチについて	特になし
2.	英語のリズム・イントネーションについて（1）	課題① レポート課題 リーディング・スピーキング課題
3.	英語のリズム・イントネーションについて（2）	課題② レポート課題 リーディング・スピーキング課題
4.	言語を理解するということ（1）	課題③ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
5.	言語を理解するということ（2）	課題④ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
6.	音韻ルールを探そう（9）	課題⑤ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
7.	音韻ルールを探そう（10）	課題⑥ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
8.	言語と社会について（1）	課題⑦ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
9.	言語と社会について（2）	課題⑧ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
10.	言語と社会について（3）	課題⑨ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
11.	音韻ルールを探そう（11）	課題⑩ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
12.	音韻ルールを探そう（12）	課題⑪ レポート課題 リーディング・スピーキング課題
13.	Senior Seminarにむけて準備（1）	予備
14.	Senior Seminarにむけて準備（2）	予備
15.	まとめ	学期末レポート

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題にはまず自分で取り組む。授業ではクラスメートとのディスカッションを通じてトピックについての理解を確認し、また理解を深める。理解したことを文章でまとめることで、論理的に説明するスキルを練習する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20%	課題へ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価に加える。
課題提出・発表	40%	課題の提出、発表（内容・態度）など評価に加える。
学期末レポートまたは学期末試験	40%	授業で扱ったトピックに関する課題またはテストを行い、評価に加える。

教科書:
川越いつえ、英語の音声を科学する、2007、大修館書店
今井由美子他、Sounds Make Perfect、2010、英宝社 （Active Listening で使用したものでよい）
向後千春、18歳からの「大人の学び」基礎講座、2016、北大路書房

参考書:
Fromkin, V., Rodman, R., & Hyams, N., フロムキンの言語学、2006、トムソンラーニング
本名信行、世界の英語を歩く、2003、集英社新書
英語音声学研究会、大人の英語発音講座、2003、生活新書
東照二、社会言語学入門 －生きた言葉のおもしろさにせまる－、2009、研究社
ゾルダン・ドルニュイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社
小塩真司、質問紙調査の手順、2009、ナカニシヤ出版

大津由紀雄、ことばワークショップ　ー言語を再発見するー、2011、開拓社
ことばに魅せられて　対話編、2008、ひつじ書房、
探検！ことばの世界、2008、ひつじ書房、その他多数
鈴木孝夫、閉ざされた言語・日本語の世界、2006、新潮社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

158170

Junior Seminar Ⅱ

北尾　キャスリーン

授業テーマ:

Interpersonal Communication

授業の概要:

In this course, we will cover various aspects of interpersonal communication, that is, communication between people in friendships and family relationships, including how these apply to daily life. .

到達目標:

To help students understand theories of interpersonal communication, how relationships work, and how they can improve their relationships.

授業方法:

Each week, students will have an assigned reading and a list of study questions to answer. They must answer these questions as homework in order to participate in group discussions during the class. Each week, students will have an assigned reading and a list of study questions to answer.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Interpersonal Communication	none
2.	Componential Approach to Interpersonal Communication 1	Read passage and answer questions.
3.	Componential Approach to Interpersonal Communication 2	Read passage and answer questions.
4.	Componential Approach to Interpersonal Communication 3	Read passage and answer questions.
5.	Componential Approach to Interpersonal Communication 4	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
6.	Developmental Approach to Interpersonal Communication 1	Read passage and answer questions.
7.	Developmental Approach to Interpersonal Communication 2	Read passage and answer questions.
8.	Developmental Approach to Interpersonal Communication 3	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
9.	Elements of Communication	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
10.	Communication as a Transaction	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
11.	Perceptions and their Influence on Communication 1	Read passage and answer questions.
12.	Perceptions and their Influence on Communication 2	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
13.	Interpersonal Communication and Language 1	Read passage and answer questions.
14.	Interpersonal Communication and Language 2	Read passage and answer questions; answer discussion questions.
15.	Conclusion	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Note: Topics may vary.

フィードバックの方法:

Comments

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework	60%	Demonstration of application of material
Tests	40%	Demonstration of application of material

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

158171 **Junior Seminar Ⅱ**

辻　　英子

授業テーマ:　戯曲の精読から上演へ—An Inspector Calls研究②—

授業の概要:　このクラスでは、劇作品をより深く理解し、英語音声表現、および翻訳の能力を高めるため、戯曲を日本語字幕付で上演することを目指す。取り上げる作品は英国の作家J. B. PriestleyのサスペンスドラマAn Inspector Calls(『警部の来訪』)である。春学期で行った作品理解を元に、日本語字幕を作成し、劇の練習を重ねて、2月初旬に上演を試みる。

到達目標:
1. 戯曲を舞台上演することにより、作品のさらなる深い理解を目指す。
2. 日本語字幕を作成することにより、英語の翻訳能力を高める。
3. クラス全員で舞台制作作業を行うことにより、英語力のみならず、人を思いやる力やリーダーシップを身に付ける。

授業方法:　上演のための作業に入っていく。上演用字幕の作成、対訳台本作り(担当者があらかじめ作成した上演用の英語台本に日本語字幕をつけたもの)、及び台詞の読み合わせ練習をする。1月には、全体でのリハーサルを行い、2月初旬に一般公開で上演する。また、学期末には、上演を振り返り、各自の学びの成果についてのレポートを提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	授業後は配布された上演用台本に目を通し、各自の希望の役を決めておくこと。
2.	スタッフとキャストの役割決定、作品のテーマや手法についてのディスカッション	授業前には、作品のテーマや手法について、各自で考えてくること。
3.	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
4.	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
5.	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
6.	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
7.	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
8.	全体ミーティング、台詞の読み合わせ、及び字幕作成	授業前には台本の音読練習を必ずすること。授業後は、難しい部分の音読練習を繰り返すこと。また、各自で字幕作成を進めること。
9.	立ち稽古	台本なしで演技の練習をすること。同時にスタッフの仕事(字幕照射、音響など)も進めていくこと。
10.	立ち稽古	台本なしで演技の練習をすること。同時にスタッフの仕事(字幕照射、音響など)も進めていくこと。
11.	立ち稽古	台本なしで演技の練習をすること。同時にスタッフの仕事(字幕照射、音響など)も進めていくこと。
12.	立ち稽古	台本なしで演技の練習をすること。同時にスタッフの仕事(字幕照射、音響など)も進めていくこと。
13.	ドレス・リハーサル	本番に向けての総仕上げの作業を進めていくこと。
14.	ドレス・リハーサル	本番に向けての総仕上げの作業を進めていくこと。
15.	ゼミ文集(対訳台本を含む)作成	

受講者へのメッセージやアドバイス:　上演に向けては、授業時間外での練習が不可欠です。一人一人が責任を持って意欲的に取り組んでください。

フィードバックの方法:　日本語字幕作成に関しては、提出された字幕を添削して返却する。演技や演出方法に関しては、適宜、アドバイスとコメントを与える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加姿勢	30%	授業への積極的な取り組みを評価する。
字幕作成	20%	日本語字幕の翻訳能力によって評価する。
発表内容	40%	本番でのキャストとしてのパフォーマンス能力、及びスタッフとしての働きによって評価する。
レポート	10%	作品全体と各自の役割の理解度によって評価する。

教科書:　ハンドアウト(上演用台本)を用意する。

参考書:　授業中に随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:　e-mail: htsuji@dwc.doshisha.ac.jp

158261 **Senior Seminar Ⅰ**

小山　　薫

授業テーマ:　異界伝承にみるイギリス—異教文化とキリスト教

授業の概要:　「若者の教会ばなれ」がとりざたされる今日にあっても、キリスト教が比類ない影響力を英米文化に与え続けていることは否定のしようもない。そこにルーツをもつ様ざまな概念や思想、風習はいまもイギリス社会のすみずみにまで息づき、それぞれの地域の風土や歴史、国民性に味つけされて、この国の多様性の一端を示してもいる。そしてその鍵となるのは、ケルトを始めとする土着の異教文化だといえよう。教会や美術館で、また街角のパブサインにさえ、異教文化はキリスト教と絶妙に共存、融合し、イギリス文化の大きな特徴となっていることを実感する。
本講座では、イギリスの異界伝承を手がかりに、神、天使、聖人(聖女)に代表されるキリスト教世界の〈光の領域〉を、悪魔、魔女、人魚、妖精、幽霊の出没する〈闇の領域〉とともに分析する。文学や映画、美術、音楽、フェミニズムとの関連を確認しつつ、異界伝承の多面的魅力について知識と理解を深めたい。

到達目標:
・イギリスの異界伝承に関する知識(ケルト文化、妖精伝承、人魚伝承など)の修得
・イギリスのキリスト教文化に関する知識(天使伝承、悪魔伝承、聖人伝承、魔女伝承など)の修得
・プリゼンテーション力(デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成)の向上
・ゼミ論用テキストとテーマ、主要参考資料の決定に至る、着実な準備

授業方法:　講義やグループ発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。十分な予習をして、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業オリエンテーション ・グループ発表分担決定 ・グループ発表要領確認	授業シラバスを丁寧に読んでおく。
2.	・前年度ゼミ論文サンプル紹介 ・レポート＆コメント用紙書式設定確認	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
3.	講義:異界伝承の風土としてのイギリス — ケルトの幻想性をめぐって	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
4.	講義:サタン ＆ 悪魔 — その概念と、異教神話との関連	・前回授業の重要点を復習。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
5.	・グループ発表 1:魔女伝承 ・概略とコメント 1(魔女伝承)提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・各自のゼミ論文のテキストとテーマについて、プランを模索。
6.	・グループ発表 2:妖精伝承 ・概略とコメント 2(妖精伝承)提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
7.	・グループ発表 3:悪魔伝承 ・概略とコメント 3(悪魔伝承)提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
8.	・グループ発表 4:人魚伝承 ・概略とコメント 4(人魚伝承)提出	・グループ発表担当者は、発表準備。 ・他の学生は、授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
9.	・講義:聖女伝承 ・概略とコメント 5(聖女伝承)提出	・授業用プリントを下読みして、概略とコメントを作成。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
10.	講義:イギリスのキリスト教—歴史概説	・前回授業の重要点を復習。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
11.	ポスターセッション準備	・前回授業の重要点を復習。 ・ゼミ論文のテキストとテーマについて、自分なりのプランができた学生は、個別に小山にアポイントメント(授業外)を取り、相談。
12.	ポスターセッション準備	春学期授業内容の復習
13.	・レポート①作成要領説明 ・引用とパラフレイズに関する説明	春学期授業内容の復習
14.	レポート①チェックリストに関する説明	春学期授業内容の復習
15.	まとめ	春学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・やむを得ず欠席する場合は、E-mailで小山に連絡してもらいたい。

フィードバックの方法:
・コメント(5回)はその都度採点し、改善点を赤字で示して、翌週返却する。
・グループ発表については、直後に発表者以外の学生全員がコメント(質問、良かった点、改善点)を言い、小山が総括的なコメントをする。各発表者のデリヴァリー、パワーポイントのスライド作成、ハンドアウト作成などについても、良かった点と改善点を具体的に指摘する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業（ポスターセッション含む）参加し、授業目標に到達したかを評価。
グループ発表	10%	各発表者とグループ全体の、デリヴァリー力と、パワーポイントのスライド作成力、ハンドアウト作成力を評価。
概略とコメント（5回提出）	40%	テキストのポイントを的確に指摘し、自分なりの分析と解説を自分の言葉で伝えているか。テキストの引用とパラフレイズの区別が明瞭にできているか、を評価。
学期末試験	30%	春学期授業で学んだ内容の理解度により評価。

教科書:

参考書: 必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法: Emailやオフィスアワーを利用。

158262

Senior Seminar Ⅰ

松村　　延昭

授業テーマ:　アメリカン・カルチュラル・スタディーズ

授業の概要:　映像作品だけでなく、文学、音楽、テレビ、絵画、写真等の表現媒体を深く研究し、白人男性を中心としたかつてのアメリカ的価値観を見直す視座を得ることにより、多様な観点からアメリカ社会を理解する。

到達目標:　アメリカ文化全般にわたる知識を深め、固定観念にとらわれない柔軟な観点を得る。自ら関心をもつ項目を定めて、意欲的に研究する。英米文学基礎ゼミナールで習得したスキルをベースとして研究発表をおこなう。

授業方法:　各自の研究発表を中心に、講義、講読、AV資料をみてのディスカッション等をおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション	シラバスを読んでおく。
2.	"The Declaration of Independence"とLetters from an American Farmerの講読と解説	今回の講義に関するドキュメントを読み知識を深めておく。
3.	Democracy in Americaと"The Gettysburg Address"の講読と解説 ポスターセッション概説	今回の講義に関するドキュメントを読み知識を深めておく。
4.	ポスターでの発表 1 + 2	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
5.	ポスターでの発表 3 + 4	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
6.	ポスターでの発表 5 + 6	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
7.	ポスターでの発表 7 + 8	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
8.	ポスターでの発表 9 + 10	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
9.	ポスターでの発表 11 + 12	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
10.	ポスターでの発表 13 + 14	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
11.	ポスターでの発表 15 + 16	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
12.	ポスターでの発表 17 + 18	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
13.	ポスターでの発表 19	今回の発表内容に関する知識を深めておく。
14.	ポスターセッションの準備	追加修正したポスターを完成しておく。
15.	ディスカッション	指定した映画をみておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　今までにつちかった英語力を活かして、自分の興味のもてるトピックを探求する。資料収集力を高め、特に、英語で書かれた資料を忌避しないでほしい。

フィードバックの方法:　講義の後に感想を書く。個々の受講生の発表の後に評価と感想を記入してもらい、その中から今後の参考となる意見を次の授業で紹介する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディスカッションを含む授業への参加	40%	授業に取り組む積極的な姿勢を評価する
研究発表	50%	発表内容と発表の仕方で評価する
研究プラン提出	10%	論文の追加や修正を、どのようなスケジュールでおこなうかを明確に記しているかで評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　公開しているメールアドレスに連絡する。
教員からの一斉連絡はマナビーのニュースで通知する。

158263 **Senior Seminar Ⅰ**

玉田　　佳子

授業テーマ:　ジェイン・オースティン研究

授業の概要:　この数年間ジェイン・オースティンの作品は映画化されたり(『プライドと偏見』、『いつか晴れた日に』等)、BBCでドラマ化されたり(『高慢と偏見』)、あるいは作者をヒロインとした映画が作られたり(『ジェイン・オースティン:秘められた恋』)、パロディー作品が作られたり、(『高慢と偏見とゾンビ』)、世界的にジェイン・オースティン・ブームがずっと続いている。それほど劇的な恋愛があるわけでもなく、ヒロインたちが紆余曲折を経ながら結婚にたどり着くハピーエンドのオースティン・ワールドが、時空を超えて21世紀の私達に訴えかけるどんな魅力を持っているのだろうか？当時の時代背景を踏まえながら、作品講読を通して、ヒロインたちの人生観や結婚観などを中心に、現代女性の行き方に通じるヒロインたちの魅力を探っていく。なお、個人研究として当時のイギリス文化について研究してもよい。

到達目標:
(1)18世紀の英語で書かれた文学作品をちゃんと読破すること。
(2)自分の意見を人前でしっかり発表すること。
(3)各自卒業研究のテーマを決めて、研究概要をポスターセッションで発表すること。

授業方法:　授業は作品の講読を中心に進めていくが、各自が研究書などを参考にして、自分の研究テーマを見つける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 作品の時代背景、作者、作品についての概要を説明する	卒業研究の対象作品の概要についての復習
2.	Pride and Prejudiceに関するVideoを見る	授業のための予習　翻訳本の読破
3.	原書Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する	授業のための予習　翻訳本の読破
4.	Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自翻訳『高慢と偏見』を読破する	授業のための予習　翻訳本の読破
5.	Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習　翻訳本の読破　個人研究のテーマ探し
6.	Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習　翻訳本の読破　個人研究のテーマ探し
7.	Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習　翻訳本の読破　個人研究のテーマ探し
8.	Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、各自卒業研究のテーマを考える	授業のための予習　翻訳本の読破　個人研究のテーマ探し
9.	Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを決定する	授業のための予習　個人研究のテーマの絞り込み
10.	Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、卒業研究のテーマを調整する	授業のための予習　個人研究のテーマの絞り込み
11.	Pride and Prejudiceを授業で講読しつつ、ポスターセッションの準備をする	授業のための予習　個人研究のテーマをポスターセッション用に構成
12.	ポスターセッションの予行演習	ポスターセッションに参加　個人発表　他の人の発表の傾聴
13.	卒業研究のテーマを確定する	個人研究のテーマの再確認
14.	秋学期の個人発表の準備	個人研究のテーマの再確認
15.	まとめ	学期末試験の準備 夏休み中か、ゼミ合宿での卒業研究の中間発表

受講者へのメッセージやアドバイス:
(1)毎回、作品の予習をして授業に臨むこと。
(2)早いうちに個人研究のテーマを見つけること、自分が前のめりになって取り組めるような、自分が本当に研究したいテーマを見つけられるかどうかが、この1年の鍵となる。

フィードバックの方法:
(1)個人研究のテーマ決定の相談にのる。
(2)提出された個人研究のテーマに、適当なアドヴァイスをして返却する。
(3)卒業研究の中間発表を聞いてアドバイスする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末試験	40%	作品の内容がちゃんと理解できているか
ポスターセッションの発表	20%	自分の研究が伝わる発表ができたか
提出物	10%	個人研究のテーマ探しに真面目に取り組んでいるか
受講態度(出席・予習・積極性)	30%	授業に真面目に取り組んでいるか

教科書:　Jane Austen, Pride and Prejudice (Penguin)

参考書:　最初の授業時に参考文献リストを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
ライン
E-mail
電話

158264

Senior Seminar Ⅰ

T.L.Medlock

授業テーマ:

Text and Performance

授業の概要:

The emphasis of this course is on developing performance skills through studying and rehearsing literature written for performance. We will read a play and see how dramatic theme and tension are developed throughout it and then rehearse the play for a full performance at the end of the year. As we do so, we will learn about building a character for performance and develop the skills necessary to bring a performance alive: voice projection, intention, irony, timing, movement and collaboration. We will read Blithe Spirit by Noel Coward.

到達目標:

1. Develop vocal and physical performance skills.
2. Develop analytical ability of dramatic literature including such aspects as characterisation, irony, plot structure and theme.
3. Increase understanding of British society.

授業方法:

Students are expected to read excerpts of the play in both Japanese and English in advance and to summarise the development of the story and its characters. In class students will read the play and discuss the development of characterization and theme within it. There will also be regular practice in developing vocal skills in English, such as intonation, articulacy and projection.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: course overview and objectives Life of Coward Drama skills workshop	Read whole play in Japanese
2.	Social background to the period of writing Drama skills workshop	Read Act 1 Scene 1 (first half)
3.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read Act 1 Scene 1 (second half)
4.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read Act 1 Scene 2 (first third)
5.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Act 1 Scene 2 (second third)
6.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Act 1 Scene 2 (remaining part)
7.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Act 2 Scene 1 (first half)
8.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Act 2 Scene 1 (second half)
9.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Act 2 Scene 2 (first half)
10.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Act 2 Scene 2 (second half)
11.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Act 2 Scene 3 (first half)
12.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Act 2 Scene 3 (second half)
13.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Written report
14.	In-class presentations and feedback	Written report
15.	In-class presentations and feedback	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Never fall behind. Always comes prepared.
The more you put in, the more you will get out.

フィードバックの方法:

Participation will be commented on directly.
Written work will be graded and returned with comments and corrections.
Scene presentation work will receive a grade and a comment.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	30%	Attendance, attentiveness and active participation
Performance presentation	30%	Demonstrating comprehension of text and acing technique covered in class.
Character and plot analysis	40%	Succinctly summarising plot in one's own words. Selecting key quotations of characters and adding commentary.

教科書:

Blithe Spirit, Hay Fever, Private Lives: Three Plays (Vintage International) (英語) ペーパーバック - 1999/1/26
Noel Coward (著)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

158265 **Senior Seminar Ⅰ**

甲元　　洋子

授業テーマ:　文学を通して見るイギリス

授業の概要:　庭を扱った有名な文学作品を、文学、文化の両面から分析し考察する。

到達目標:　文学作品に対する理解を深め、様々な事象を考察し、研究成果を発表する。

授業方法:　主に演習形式で行う。教材資料の内容理解の確認、発表、討論を行い、論文作成の指導も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	春休み中にテキストのThe Secret Gardenの訳本を読んでおく
2.	作品の解説　作品研究の進め方の説明 参考資料配布	同上
3.	作品や参考資料の解読ならびに研究指導	前回の授業の復讐　次回の授業で進む範囲を予習　発表者はその準備をする
4.	同上	同上
5.	同上	同上
6.	同上	同上
7.	同上	同上
8.	同上	同上
9.	同上	同上
10.	同上	同上
11.	ポスターセッションの準備　個人の研究成果をクラスで発表	春学期の授業内容を復讐し、ポスターセッションでの発表を視野に入れて研究内容をまとめる
12.	同上	同上
13.	同上	同上
14.	同上	同上
15.	まとめ	英文テキストや参考資料を読み直す

受講者へのメッセージやアドバイス:　テキストとなるThe Secret GArdenはもちろん、配布される参考資料（特に英文の資料）も必ず自分で読んでおくこと。就職活動などで忙しくなると思うが、毎日少しづつ時間を見つけて予習をすること。

フィードバックの方法:　テストは採点して、レポートは添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
筆記テスト	30%	テキストおよび配布資料の内容理解の程度により評価
レポート	30%	考察・分析の深さ、表現の的確さにより評価
発表	40%	クラスでの発表（授業中の受け答えも含む）20%、ポスターセッションでの発表20%としていずれも内容と態度で評価

教科書:　F. H. Burnett, The Secret Garden (Penguin Classics)

参考書:　クラスで指示し、必要なものはコピーして配布する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp

158267 **Senior Seminar Ⅰ**

風間　　末起子

授業テーマ:　『嵐が丘』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要:
・この授業では、文化研究の材料として小説『嵐が丘』(1847)を使用することによって、19世紀のヨー　クシャーを舞台に展開するエミリ・ブロンテの世界を楽しみたい。
・春学期は、(1)ハワースとエミリ・ブロンテの生涯、(2)映画化された『嵐が丘』と原作との比較、(3)『嵐が丘』と食器、(4)インテリア小説としての『嵐が丘』、(5)キャサリンとヒースクリフの愛(の謎)、の5つのテーマのもとで学習していく。

到達目標:
・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。
・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
・相手の立場や意見を尊重しながら、自らの意見や考え方を分かりやすく表現できる力を持っている。

授業方法:　関連の作品・研究書・文献を使って、発表形式(グループごと)で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	予習は不要
2.	発表テーマと発表者を決める。グループ・ミーティング	各回、発表が当たっていなくても、事前にテーマごとの参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談すること。
3.	テーマ1:エミリ・ブロンテの生涯/ハワースとエミリ　作品Wuthering Heightsの精読	上記と同じ
4.	テーマ1:発表	上記と同じ
5.	テーマ2:映画化された『嵐が丘』と原作の比較　作品の精読	上記と同じ
6.	テーマ2:発表	上記と同じ
7.	テーマ3:『嵐が丘』の食器　作品の精読	上記と同じ
8.	テーマ3:発表	上記と同じ
9.	テーマ4:インテリア小説としての『嵐が丘』　作品の精読	上記と同じ
10.	テーマ4:発表	上記と同じ
11.	前半部のまとめとディスカッション	上記と同じ
12.	ポスターセッションの準備	上記と同じ
13.	テーマ5:キャサリンとヒースクリフの愛(の謎)　作品の精読	上記と同じ
14.	テーマ5:発表	上記と同じ
15.	春学期の総まとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　『嵐が丘』は謎の多い作品です。そのため、多くの芸術家の創作意欲をかき立てる作品です。私たちも、謎にせまって、何かを見つけましょう。

フィードバックの方法:　レポートは、採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート7月に1回提出	40%	アカデミック・スキルズを応用し、作品と先行研究を使用して、分析・解釈などの論旨展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
授業発表(グループごとのプレゼン)	30%	アカデミック・スキルズを応用したプレゼンの方法を踏襲しているかどうかが基準。
ポスターセッション	20%	ポスセには全員参加。プレゼンの準備が協力的にできているかどうかが基準。
授業への積極的参加度	10%	毎回出席をとる。

教科書:　Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) (Norton Edition)

参考書:　必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメールやマナビーの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。

158268

Senior Seminar Ⅰ

J.W.Carpenter

授業テーマ:

Practical Experience in Translation: Subtitling

授業の概要:

This course will give students hands-on experience in subtitling movies. We will translate episodes of older US TV shows (I LOVE LUCY, THE HONEHYMOONERS, THE ANDY GRIFFITH SHOW) in groups, and then transfer our titles onto the screen. We will do any research necessary to understand the show and its background, and students will help one another render the dialogue into natural and effective Japanese subtitles. We will analyze and discuss problems that occur along the way. In the end, students will make a DVD with their subtitles and names on it.

到達目標:

The course will enable students to acquire knowledge of common spoken English expressions; to understand differences between Japanese and English language and culture, and how to overcome them in translation; to share knowledge and work together in groups; to polish their work with attention to detail; to present their findings in cogent papers and/or presentations.

授業方法:

There will be some short lectures from the teacher, group discussions and workshops, and individual consultations. Class will be conducted primarily in English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course. Begin reading the script.	Read the script and work on vocabulary.
2.	Watch the show. Divide into groups.	Watch the show again and write a reaction paper in English.
3.	Reaction paper due. Finish reading the script. Assign parts.	Read the script and work on vocabulary.
4.	Translate in groups. Individual and/or group consultations.	Begin translation.
5.	Discuss techniques of summary etc. Translation and feedback.	Summarize the show and the part assigned.
6.	Summary due. Revise translations in group with feedback.	Work on subtitles
7.	Continue revising, with group and/or class discussion.	Work on subtitles
8.	Discussion of continuity issues. Indkvidual consultations.	Work on subtitles. Comment on work of other group members. Prepare group presentation.
9.	Group presentations on problems/solutions in translation.	Finalize subtitles.
10.	Learn the process of transferring subtitles to the screen.	Work on transferring outside of class.
11.	Transfer subtitles to the screen.	Continue transferring/reviksing
12.	Transfer subtitles to the screen, revising as necessary	Continue transferring/revising
13.	Transfer subtitles, revising as necessary. Evaluate work of other groups.	Continue translating/revising
14.	Paper due summarizing the section and analyzing the process and results.	Write paper summarizing your section and analyzing your translation
15.	Conclusion. Individual feedback on papers.	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Subtitling is hard and you will learn a lot from the other members of the class. Be sure to do your part on time as everyone will be relying on you! Making the subtitles short enough is a major challenge. At the same time, you should be thinking about what you want to write about on your senior thesis.

フィードバックの方法:

Comments on translations and papers; feedback on translations in class or by appointment.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	20%	Promptness, cooperativeness, general attitude
Presentations and papers	40%	Thoughtfulness, organization, communication ability
Final subtitles	40%	Creativity, appropriateness, technical skill

教科書:

Handouts

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Contact the teacher by email, during office hours, or by appointment

158269

Senior Seminar Ⅰ

北尾　キャスリーン

授業テーマ:

Applied Linguistics and English as a Global Lingua Franca (応用言語学とグローバル国際語としての英語: Wakamoto Seminar XVIII)

授業の概要:

This seminar discusses factors affecting foreign language learning (teaching), and strategies to develop English proficiency as an EGLF (English as a Global Lingua Franca) in Japan. We recognize that the learning English in Japan encompasses substantial difficulties. At the same time, however, it is also true that some learners have attained high-level proficiency even without studying abroad. Why are some learners more successful than others even if they are learning under the same conditions? This is a key question to be shared with course participants. Participants are asked to try to solve this "puzzle" while reading a textbook, discussing with others, or expressing their opinions.

到達目標:

At the end of the spring semester, participants will be able to know what they are interested in (Research Questions), and the rationale for their interests through the process of reading quite a few articles. They will also be able to acquire solid English proficiency, the logical thinking, and beautiful friendship, which will surely be their assets in their future career.

授業方法:

Most of the time is devoted to reading relevant journal articles (ELT Journal or Language Learning, for example) in relation to the studies of individual differences in foreign language learning so that participants will have a solid theoretical foundation in this area. We will allocate one journal article for each session, which implies that we will read more than ten articles in spring. Because seminar meets only once a week, we will not carry the discussion over to the following week. Therefore, seminar hours will be extended to some extent*. At this stage, course participants are asked to read articles and write critical summaries (entries) several times. In the process of reading articles, I expect that participants will find their own Research Questions (RQs) to develop in fall semester as a graduation thesis. For that purpose, participants will attend the 16th Poster Session of English Department (July, 2018), in which each participant will present their RQs and obtain feedback from other students, teachers, and general public.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction and individual expectations: Nice to meet you or see you again from Oxford.	Think about what you expect to this course.
2.	Introduction to a graduation thesis	Read the assigned journal article.
3.	English as a Global Lingua Franca: Galloway & Rose (2017)	Read the assigned journal article.
4.	Vocabulary learning: Young (2015)	Read the assigned journal article.
5.	Attitudes of foreign language learners	Read the assigned journal article.
6.	Self-efficacy: Wong (2005)	Read the assigned journal article.
7.	Language, context, and culture (ethnographical study): Wong & Early (2001)	Read the assigned journal article.
8.	Motivation: Dörnyei (1990)	Read the assigned journal article.
9.	EFL contexts and amount of Input: Fukuda & Yoshida (2012)	Read the assigned journal article.
10.	Influence of age and the Sensitive (Critical) Period: Lightbown & Spada (1994)	Read the assigned journal article.
11.	The Influence of personality: Wakamoto (2000)	Read the assigned journal article.
12.	Consolidation of the discussion: Deciding the Research Questions	Read the assigned journal article.
13.	Preparing for the Poster Presentation	Read the assigned journal article.
14.	Reflection the Poster Presentation	Read the assigned journal article.
15.	Consolidation of the spring semester	Read the assigned journal article.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This seminar in 2018 is a speical course taught by two professors, with the continuation of Wakamoto Junior Seminar I & II. Except for special cases, we do not admit new members to Senior Seminar I. This seminar is conduced almost in English.

フィードバックの方法:

Entries will be returned to the participants with comments and grades through Moodle and Manaba. Presentation scores will be also shown to the presenters.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Entries	30	Based on shared rubrics
Presentation	30	Based on shared rubrics
Interactions in class and contribution to seminar	40	Based on shared rubrics

教科書:

American Psychological Association. (2010). Publication manual of the American Psychological Association (6th ed.).

参考書:

Shown in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:

Through e-mail, Line or meeting the instructor in person.

158270

Senior Seminar Ⅰ

今井　　由美子

授業テーマ:　Research on Aspects of the Role of Sound in Language

授業の概要:　このコースでは、Junior Seminar Ⅰ & Ⅱ をさらに発展させ、言語音についてゼミ生ひとりひとりが研究テーマを設定し、その研究成果を論文としてまとめることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguisstics, language acquisition, language processingなど、さまざまな分野へと興味が拡がることを期待する。

到達目標:　個人の卒業研究テーマに基づき準備をすすめ、卒業論文を完成させる。

授業方法:　このコースは課題提出、発表、ディスカッションを中心に行い、ゼミ生のトピックにおける理解を確認する。ゼミ生間の親睦を深めるため、ゼミ合宿（夏期休暇中）を行う。大学行事にも参加する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	リサーチについて中間報告およびディスカッション（1）	発表準備
3.	リサーチについて中間報告およびディスカッション（2）	発表準備
4.	リサーチについて中間報告およびディスカッション（3）	発表準備
5.	論文のスタイルを知る（1）	課題①
6.	論文のスタイルを知る（2）	課題②
7.	リサーチ計画をまとめる（1）	リサーチ計画提出
8.	リサーチ計画をまとめる（2）	リサーチ計画提出
9.	先行研究を探す（1）	先行研究をまとめる
10.	先行研究を探す（2）	先行研究をまとめる
11.	ポスターセッション準備	発表準備
12.	ポスターセッション・リハーサル（1）	発表
13.	ポスターセッション・リハーサル（2）	発表
14.	ポスターセッション参加	発表
15.	卒業研究の振り返り	予備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ゼミにおけるディスカッションや個人面談を通し、リサーチテーマについて調査を進めていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30%	リサーチへ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価に加える。
課題提出・発表	50%	課題の提出、発表（内容・態度）など評価に加える。
その他	20%	

教科書:　向後千春、18歳からの「大人の学び」基礎講座、2016、北大路書房（Junior Seminar で使用したもの）

参考書:
小塩真司、質問紙調査の手順、2009、ナカニシヤ出版
藤本壱、Excelでできるらくらく統計解析、2011、自由国民社
American Psychological Association、Publication Manual of the American Psychological Association, 6th edition.　2009
ゾルダン・ドルニュイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

158271

Senior Seminar Ⅰ

北尾　キャスリーン

授業テーマ:
Interpersonal Communication

授業の概要:
In this course, we will cover various aspects of interpersonal communication, that is, communication between people in friendships and family relationships, as well as proposing a research projects related to interpersonal communication, including participating in the poster session.

到達目標:
Gaining a deeper understanding of interpersonal communication and its application to daily life.

授業方法:
Students will read about interpersonal communication, discuss what they have read, and work on research projects. They will also participate in a poster session about their research at the end of the spring semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Listening and communication 1	none
2.	Listening and communication 2	Reading passage and answering questions.
3.	Listening and communication 3	Reading passage and answering questions; answer discussion questions
4.	Interpersonal Relationships 1	Reading passage and answering questions.
5.	Interpersonal Relationships 2	Reading passage and answering questions.
6.	Interpersonal Relationships 3	Reading passage and answering questions; answer discussion questions
7.	Small Group Communication 1	Reading passage and answering questions.
8.	Small Group Communication 2	Reading passage and answering questions.
9.	Small Group Communication 3	Reading passage and answering questions; answer discussion questions
10.	Mediated Communication 1	Reading passage and answering questions.
11.	Discussion of topics for posters	Think about topics for posters.
12.	Mediated Communication 2	Reading passage and answering questions.
13.	Mediated Communication 3	Reading passage and answering questions.
14.	Mediated Communication 4	Reading passage and answering questions; answer discussion questions
15.	Work on posters	none

受講者へのメッセージやアドバイス:
The order or length of these topics, and the topics themselves, may change, depending on changing situations

フィードバックの方法:
Comments and guidance on papers

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework	50%	Demonstration of understanding of the material
Test	30%	Demonstration of understanding of the material
Poster	20%	Demonstration of understanding of the material

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:
kkitao217@yahoo.com

158272

Senior Seminar Ⅰ

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:

Intercultural communication, competency and conflict

授業の概要:

This course will expose students to topics on intercultural communication and competency, as well as to train students to write academic research papers and make formal academic presentations. A wide range of topics on intercultural communication will be discussed and studied in class. Further discussion of these topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final report and do an oral presentation at the end of the course.

到達目標:

A wide range of topics on intercultural communication will be discussed and studied in class. Further discussion of these topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final report and do an oral presentation at the end of the course.

授業方法:

(1) Students will explore and examine topics on intercultural communication and competency
(2) Students will be learn to analyze and think critically about different topics and social issues.
(3) Students will learn about the world around them from a different perspective.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to course, explanation of syllabus, class expectations	Weekly assignments based on the materials covered in class
2.	Research paper writing, Source research workshop at library	Weekly assignments based on the materials covered in class
3.	Research paper writing, Intercultural Communication Part I, group discussion, written assignments	Weekly assignments based on the materials covered in class
4.	Research paper writing, Intercultural Communication Part II, group discussion, written assignments	Weekly assignments based on the materials covered in class
5.	Research paper writing, Intercultural Compentencies, Part I, group discussion, written assignments	Weekly assignments based on the materials covered in class
6.	Research writing, Intercultural Compentencies, Part II, group discussion, written assignments	Weekly assignments based on the materials covered in class
7.	Research writing, Intercultural Compentencies, Part III, group discussion, written assignments	Preparations for mid-term assignment
8.	Mid term Assignment, Peer and Instructor feedback	Preparations for mid-term assignment
9.	Mid term Assignment, Peer and Instructor feedback	Weekly assignments based on the materials covered in class
10.	Research paper writing, Poster Presentations, Individual Consultation	Weekly assignments based on the materials covered in class
11.	Research paper writing, Poster Presentations, Individual Consultation	Weekly assignments based on the materials covered in class
12.	Research paper writing, Poster Presentations, Individual Consultation	Weekly assignments based on the materials covered in class
13.	Final Presentation Preparation, Individual student evaluation and consultation	Preparation for final assignments
14.	Final Assignments	Preparation for final assignments
15.	Final Assignments	Preparation for final assignments

受講者へのメッセージやアドバイス:

This seminar is conducted ALL in English, and students are expected to have a considerable high level of English proficiency (both written and spoken ability, as well as reading ability) and motivation in order to pass this course.

フィードバックの方法:

Individual evaluation and feedback from instructor. One-on-one consultations with instructor.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation, attitude, motivation	30	motivation and initiative in class, active participation
written assignments, group work, mini-presentations	30	research skills, academic writing skills, presentation skills, effort and ability
Mid-term and Final assignments	40	effort and ability in the four academic skills (reading, writing, listening and speaking)

教科書:

There is no textbook assigned for this course.

参考書:

Jackson, J., Introducing Language and Intercultural Communication, 2014

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

The instructor will notify students about contact information during the first class.

158361

Senior Seminar Ⅱ

小山　　薫

授業テーマ:　異教文化とキリスト教—ゼミ論文作成

授業の概要:　Senior Seminar Iで修得した知識(イギリスの歴史、異教文化、キリスト教文化、フェミニズムなど)を土台として、各受講生が個々のテーマにもとづき、科目担当者との意見交換や、クラスでの口頭発表＆ディスカッションをへて、レポート作成と修正を繰り返しつつ、ゼミ論文を完成する。

到達目標:
・各自のテキストとテーマに基づいて、「序」→「概略」→「ボディ」→「結論」に至る、効果的なアウトラインを作り、クラスでの個人発表や、指導教員(小山)との意見交換を経て、補筆や修正を加えつつ、少しずつ書き進めて、ゼミ論文を完成
・参考資料の取り扱いや注記方法に関する、基本ルールの修得
・自分の考えを自分のことばで、効果的に伝える方法を修得
・年明けの卒業研究発表会での、プリゼンテーション力(デリヴァリー、パワーポイントのスライド作成)の一層の向上

授業方法:　講義や個人発表、ディスカッションをとりまぜた授業となる。各自、小山とアポイントメント(授業外)をとって意見交換し、ゼミ論文を書き進める一方で、毎回無遅刻・無欠席で授業参加することが基本となるが、知的好奇心と意欲を持って自主的に学ぶ受講生ならば、成果は大きいはずである。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・秋学期授業オリエンテーション ・レポート①(春学期提出)返却	授業シラバスを丁寧に読んでおく。
2.	レポート①:修正確認(全体/個人別)	返却されたレポート①を丁寧に読み、指摘された改善点の意味を理解した上で、必要な修正を加える。
3.	レポート② に関する説明	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のアウトラインについて、プランを検討。
4.	ゼミ論文(アウトライン作成)に関する説明	・前回授業の重要点を確認。 ・各自のゼミ論文のアウトラインについて、プランを検討。
5.	・ゼミ論文:個人別発表 1 ・クラスディスカッション(ハンドアウト確認、質問、意見など)	・個人別発表担当者は、2週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
6.	・ゼミ論文:個人別発表 2 ・クラスディスカッション(ハンドアウト確認、質問、意見など)	・個人別発表担当者は、2週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
7.	・ゼミ論文:個人別発表 3 ・クラスディスカッション(ハンドアウト確認、質問、意見など)	・個人別発表担当者は、2週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
8.	・ゼミ論文:個人別発表 4 ・クラスディスカッション(ハンドアウト確認、質問、意見など)	・個人別発表担当者は、2週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
9.	・ゼミ論文:個人別発表 5 ・クラスディスカッション(ハンドアウト確認、質問、意見など)	・個人別発表担当者は、2週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
10.	・ゼミ論文:個人別発表 6 ・クラスディスカッション(ハンドアウト確認、質問、意見など)	・個人別発表担当者は、2週間前にレポート②とアウトラインを提出。→小山のチェックを経て、個人別発表用ハンドアウトを作成。 ・他の学生は、それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
11.	レポート③チェックリストに関する説明	それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
12.	卒業研究発表会用パワーポイント・スライド作成に関する説明	それぞれのペースで論文作成プロセスを進める。
13.	・レポート③返却 ・レポート③:修正確認(全体/個人別)	卒業研究発表会用パワーポイント・スライド作成
14.	卒業研究発表会用パワーポイント・スライド確認	レポート④(返却されたレポート③修正版)を提出。→小山がチェックして返却。→ゼミ論文最終原稿(返却されたレポート④修正版)を提出。
15.	総括	秋学期授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講し、今後の人生に役立つ、本物の知識を身につけてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・やむを得ず欠席する場合は、E-mailで小山に連絡してもらいたい。

フィードバックの方法:
・レポート(4回)はその都度採点し、改善点を赤字で示して、速やかに返却する。
・ゼミ論文:個人別発表の折には、授業でのクラスディスカッションを通して、ハンドアウトの改善点を指摘する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業(卒研発表会含む)参加し、授業目標に到達したかを評価。
レポート(4回)	70%	論旨の流れが明確で、適切な注記(引用、参照)をほどこしつつ、テーマにそってテキスト分析し、自分なりの考察をしているか、を評価。

教科書:

参考書:　必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	Emailやオフィスアワーを利用。

158362

Senior Seminar Ⅱ

松村　　延昭

授業テーマ:　アメリカン・カルチュラル・スタディーズ

授業の概要:　映像作品だけでなく、文学、音楽、テレビ、絵画、写真等の表現媒体を研究し、白人男性を中心としたかつてのアメリカ的価値観を見直す視座を得ることにより、多様な観点からアメリカを理解する。

到達目標:　アメリカ文化全般にわたる知識を深め、固定観念にとらわれない柔軟な観点を得る。自ら関心をもつ項目を定めて、意欲的に研究する。英米文学基礎ゼミナールで習得したスキルをベースとして発表をし論文を仕上げる。

授業方法:　学生個々の発表が中心となるが、AV教材を利用した講義やディスカッションも行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のイントロダクション	シラバスを熟読しておく。
2.	研究発表の概説	英米文学基礎ゼミナールで習得した発表のスキルを確認しておく。
3.	研究発表 1 + 2	予定される研究発表の内容を調べておく。
4.	研究発表 3 + 4	予定される研究発表の内容を調べておく。
5.	研究発表 5 + 6	予定される研究発表の内容を調べておく。
6.	研究発表 7 + 8	予定される研究発表の内容を調べておく。
7.	研究発表 9 + 10	予定される研究発表の内容を調べておく。
8.	研究発表 11 + 12	予定される研究発表の内容を調べておく。
9.	研究発表 13 + 14	予定される研究発表の内容を調べておく。
10.	研究発表 15 + 16	予定される研究発表の内容を調べておく。
11.	研究発表 17 + 18	予定される研究発表の内容を調べておく。
12.	研究発表 19 + 20	予定される研究発表の内容を調べておく。
13.	ディスカッション	指定した映画をみておく。
14.	卒業研究発表会準備	研究発表用のパワーポイント・スライドを完成しておく。
15.	論文執筆指導	添削返却された論文に関する質問を用意しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　発表前に発表概要を報告する。発表前に時間を計り、パワーポイントの提示時期等を確認しておく。クラスメートの発表に対する意見、質問等を書き発表の次週に提出する。クラスメートの発表タイトルに関する知識をできるだけ得て授業にのぞむ。

フィードバックの方法:　各発表に対する評価と意見を書いて提出してもらう。その中から、全体として参考になる意見を次回の授業で紹介する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディスカッションを含む授業への積極的参加	30%	クラスメートの発表に対して積極的に意見を述べているか。事前学習をしっかりとして授業に出席しているか等で評価する。
研究発表	30%	発表の内容は充実しているか。発表の工夫はされているか等で評価する。
論文	40%	論旨がとおっているか、発表時に出たクラスメートの意見は活かされているか、添削したポイントは修正されているか等で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　開しているメールアドレスに連絡する。
教員が全員に連絡するときは、マナビーのニュースを使用する。

158363

Senior Seminar Ⅱ

玉田　　佳子

授業テーマ:　ジェイン・オースティン研究

授業の概要:　この数年間ジェイン・オースティンの作品は映画化されたり(『プライドと偏見』、『いつか晴れた日に』等)、BBCでドラマ化されたり(『高慢と偏見』)、あるいは作者をヒロインとした映画が作られたり(『ジェイン・オースティン:秘められた恋』)、パロディー作品が作られたり、(『高慢と偏見とゾンビ』)、世界的にジェイン・オースティン・ブームがずっと続いている。それほど劇的な恋愛があるわけでもなく、ヒロインたちが紆余曲折を経ながら結婚にたどり着くハピーエンドのオースティン・ワールドが、時空を超えて21世紀の私達に訴えかけるどんな魅力を持っているのだろうか？当時の時代背景を踏まえながら、作品の講読を通して、ヒロインたちの人生観や結婚観などを中心に、現代女性の行き方に通じるヒロインたちの魅力を探っていく。なお、個人研究として当時のイギリス文化について研究してもよい。

到達目標:
(1)18世紀の英語で書かれた文学作品をちゃんと読破すること。
(2)自分の意見を人前でしっかり発表すること。
(3)各自卒業研究のテーマを決めて、卒業研究発表会を経て、卒業研究を論文の形で完成させること。

授業方法:　授業は、個人研究の発表が中心となるが、発表を元に各自卒業研究の論文の作成に取り組む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	個人研究の発表の日程の確認
2.	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
3.	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
4.	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
5.	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
6.	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
7.	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
8.	個人発表　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　発表の準備
9.	論文の作成　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　論文の作成
10.	論文の作成　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　論文の作成
11.	論文の作成　作品の講読　VIDEO	授業のための予習　論文の作成
12.	論文の作成　卒業研究会発表準備	卒業研究発表会の準備　論文の作成
13.	論文の作成　卒業研究会発表準備	卒業研究発表会の準備　論文の作成
14.	論文の作成	論文の作成
15.	論文の完成	論文の完成

受講者へのメッセージやアドバイス:
(1)個人研究のテーマに沿って、充実した論文を完成させてほしい。
(2)論文を書くのにかけた考察と時間と情熱が、論文が完成した時の達成感につながる。

フィードバックの方法:
(1)個人研究のテーマをもとに、論文の内容、章立てにアドヴァイスする。
(2)個人発表を聞いて、参考文献などのアドヴァイスをする。
(3)論文が完成するまで、何度も添削をする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究論文	40%	完成度の高い論文がかけているか
卒業研究発表会	20%	自分の研究が伝わる発表であるか
個人研究の口頭発表	10%	研究内容がちゃんと整理された発表であるか
中間発表	10%	研究の骨子がしっかりわかる発表であるか
受講態度(出席・予習・積極性)	20%	授業に真面目に取り組んでいるか

教科書:　Jane Austen, Pride and Prejudice (Penguin)

参考書:　春学期の最初に参考文献リストを配布済み。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
ライン
E-mail
電話

158364

Senior Seminar Ⅱ

T.L.Medlock

授業テーマ:

Text and Performance

授業の概要:

The emphasis of this course is on developing performance skills through studying and rehearsing literature written for performance. We will read a play and see how dramatic theme and tension are developed throughout it and then rehearse the play for a full performance at the end of the year. As we do so, we will learn about building a character for performance and develop the skills necessary to bring a performance alive: voice projection, intention, irony, timing, movement and collaboration. We will read Blithe Spirit by Noel Coward.

到達目標:

1. Develop vocal and physical performance skills.
2. Develop analytical ability of dramatic literature including such aspects as characterisation, irony, plot structure and theme.
3. Increase understanding of British society.

授業方法:

Students are expected to read excepts of the play in both Japanese and English in advance and to summarise the development of the story and its characters. In class students will read the play and discuss the development of characterization and theme within it. There will also be regular practice in developing vocal skills in English, such as intonation, articulacy and projection.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Review play so far Drama skills workshop	Read Act 3 Scene 1
2.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read Act 3 Scene 1 (first half)
3.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read Act 3 Scene 1 (second half)
4.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Read Act 3 Scene 2 (first half)
5.	Read scene aloud Analyse characterisation and plot Drama skills workshop	Act 3 Scene 2 (second half)
6.	Rehearse and prepare for graduation performance	Rehearse and prepare for graduation performance
7.	Rehearse and prepare for graduation performance	Rehearse and prepare for graduation performance
8.	Rehearse and prepare for graduation performance	Rehearse and prepare for graduation performance
9.	Rehearse and prepare for graduation performance	Rehearse and prepare for graduation performance
10.	Rehearse and prepare for graduation performance	Rehearse and prepare for graduation performance
11.	Rehearse and prepare for graduation performance	Rehearse and prepare for graduation performance
12.	Rehearse and prepare for graduation performance	Rehearse and prepare for graduation performance
13.	Final rehearsal and preparation for graduation performance	Performance
14.	Reflection and compilation of script and notes.	Complile script and notes
15.	Wrap up	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Never fall behind. Always come prepared.
The more you put in, the more you will get out.

フィードバックの方法:

Participation will be commented on directly.
Written work will be graded and returned with comments and corrections.
Scene presentation work will receive a grade and a comment.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	30%	Attendance, attentiveness and active participation
Performance presentation	30%	Demonstrating comprehension of text and acing technique covered in class.
Character and plot analysis	40%	Succinctly summarising the plot in one's own words. Selecting key quotations of characters and adding commentary.

教科書:

Blithe Spirit, Hay Fever, Private Lives: Three Plays (Vintage International) (英語) ペーパーバック – 1999/1/26 Noel Coward (著)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

tmedlock@dwc.doshisha.ac.jp

158365

Senior Seminar Ⅱ

甲元　　洋子

授業テーマ:　文学を通して見るイギリス

授業の概要:　Senior Seminar Iで学習したことをもとにして、庭に力点を置きながら考察を深化させる。

到達目標:　英文のテキストや関連資料を読むことにより、英語読解力を上げる。各自の研究を発展させて論文としてまとめ、その中の一部を「卒業研究発表会」で口頭で発表できるようにする。

授業方法:　主に演習形式で行う。教材資料の内容理解の確認、発表、討論を行い論文作成の指導も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	卒業論文作成の準備を夏休み中にしておく。
2.	作品の残りの部分を読む。 参考文献の紹介を行い、その一部を読む。	資料(特に英文で書かれたもの)については予習復習をし、内容の完全理解をめざす。
3.	同上	同上
4.	同上	同上
5.	同上	同上
6.	同上	同上
7.	同上	同上
8.	卒業研究発表会の予行演習	オープンセミナーの時期になるので見学に来た3年生を前にして研究の進捗状況などをまとめて発表する
9.	同上	同上
10.	同上	同上
11.	論文作成の指導と発表の準備	論文下書き提出
12.	同上	論文の加筆訂正をして清書提出の準備をする 口頭発表の準備をする
13.	同上	同上
14.	同上	同上
15.	同上	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　論文のテーマを早く見つけ、関連資料を収集し、原稿は冬休み前に完成させておくこと。
授業中に論文の書き方の指導を何回か行うので、ちゃんと聞いて理解してマスターし、そのルールに従ってきちんと論文を書くようにすること。

フィードバックの方法:　提出物は添削して返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究論文	60%	思考・分析の深さ、表現や形式の的確さ、参考文献の質で評価
発表	40%	卒業研究発表会での発表20%　クラスでの発表(授業中の受け答えも含む)20%で評価

教科書:　F. H. Burnett, The Seceret Grden (Penguin Classics)

参考書:　クラスで指示し、必要なものはコピーして配布する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp

158367 **Senior Seminar Ⅱ**

風間　　末起子

授業テーマ:　『嵐が丘』から見る19世紀のイギリス文化

授業の概要:
・この授業では、文化研究の材料として小説『嵐が丘』(1847)を使用することで、19世紀のイギリス・ヨークシャーを舞台に展開するエミリ・ブロンテの世界を楽しみたい。
・秋学期は、春学期の続きとしての通し番号で、(6)『嵐が丘』と幽霊/キャサリンの死生観(キリスト教との比較)、(7)シンボルとイメージ、(8)ゴシック小説として読む『嵐が丘』/Gothicという概念、の3つのテーマのもとで学習していく。

到達目標:
・英語圏の文学作品やその歴史的変遷について十分理解している。
・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
・相手の立場や意見を尊重しながら、自らの意見や考え方を分かりやすく表現できる力を持っている。

授業方法:　関連の作品・研究書・文献を使って、発表形式(グループごと)で授業を進めていく。受講生の人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的にはプレゼンテーションとディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	予習は不要
2.	春学期のレポートの講評など	予習は不要
3.	テーマ6:『嵐が丘』と幽霊/キャサリンの死生観(キリスト教との比較)　作品Wuthering Heightsの精読	各回、発表が当たっていなくても、事前にテーマごとの参考文献、および小説の関連箇所を読んでおくように。プレゼンの準備のためにグループで事前によく相談し、教員にも相談すること。
4.	テーマ6:発表	上記と同じ
5.	テーマ7:シンボルとイメージ/ビクトリア朝の家庭(天国と地獄), Penistone Crags, Isabella's dog, Gardening at the Heights　作品の精読	上記と同じ
6.	テーマ7:発表	上記と同じ
7.	テーマ8:ゴシック小説として読む『嵐が丘』/ゴシックという概念　作品の精読	上記と同じ
8.	テーマ8:発表	上記と同じ
9.	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
10.	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
11.	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
12.	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
13.	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
14.	卒業研究発表会の準備	上記と同じ
15.	秋学期の総まとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・『嵐が丘』は謎の多い作品です。そのため、多くの芸術家の創作意欲をかき立てる作品です。私たちも、謎にせまって、何かを見つけましょう。
・卒業前の半年間、卒研発表会に向けて、そして最終レポートの作成に向けて、大いにがんばりましょう。

フィードバックの方法:　レポートは、採点とコメントして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
1月初旬に1回提出。その後清書を提出。	30%	アカデミック・スキルズを応用し、作品と先行研究を使用して、分析・解釈などの論旨展開をしていることが重要。研究レポートとしてのレベルに達しているかどうかを基準にする。
授業発表(グループごとのプレゼン)	30%	アカデミック・スキルズを応用したプレゼンの方法を踏襲しているかどうかが基準。
卒業研究発表会	30%	卒研発表会には全員参加。プレゼンの準備が協力的にできているかどうかが基準。
授業への積極的参加度	10%	毎回出席をとる。

教科書:　Emily Bronte, Wuthering Heights (1847) (Norton Edition)

参考書:　必要な教材は随時、授業中にプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメールやマナビーの連絡、および授業の前後と授業外のアポで対応する。

158368

Senior Seminar Ⅱ

J.W.Carpenter

授業テーマ:

Writing the Senior Thesis: Translation, Commnication

授業の概要:

Students will write a senior thesis connected in some way with translation of a movie or other work. They will analyze problems in translation and identify possible solutions. The topic will be chosen in consultation with the instructor. This is a chance for students to put together everything they have learned over the past three and a half years. Think about what has puzzled or fascinated you and dig in! Learn the pleasure of exploring in depth a topic you love, and communicating your findings to your peers.

到達目標:

Students will formulate a research question; do research in English and Japanese; learn to paraphrase and quote sources properly; write a draft and revise it as many times as necessary; summarize their findings; learn to identify their sources properly

授業方法:

Lecture, Q and A, in-class writing assignments, individual consultations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Share ideas, formulate questions.	Brainstorm ideas for the research question
2.	The art of quotation. Refining the topic. Questionnaires.	Bring a properly identified and introduced quotation.
3.	Translation due. Bibliography practice.	Read sources. Preliminary bibliography
4.	Thesis statement/question and sources due. Revision, discussion.	Read sources. Work on translation if appropriate.
5.	Translation due. Feedback.	Read sources. Work on translation if appropriate.
6.	Rough outline due. Translation revision.	Continue reading and translating. Make outline
7.	Practice in the art of the introduction.	Continue reading, note-taking, and translating.
8.	Organizational issues. Introduction due.	Read, translate, work on body. Revise introduction.
9.	Work on body. Writing the conclusion. Revising for clarity.	Write the first draft.
10.	First draft due.	Check form for bibliography
11.	Discussion in pairs or groups using checklists.	Rewrite, revise
12.	Second draft due. Individual consultations.	Rewrite, revise
13.	Adjustments and preparation for final presentation.	Rewrite, revise. Prepare for presentation.
14.	Presentation of the senior thesis. Third draft due.	Rewrite, revise
15.	Conclusion. Individual consultations.	Make final adjustments

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is your chance to bring together all your knowledge and curiosity and produce original research of your own. If you want to translate something, you can do that. Make this the final culmination of your years in school!

フィードバックの方法:

In-class writing assignments; presentations; individual consultations; some pair or group work.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	20%	Attitude, promptness, participation
Presentations homework	40%	Communication, research skills
Final thesis	40%	Clarity, originality, thoroughness

教科書:

Handouts

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Contact by email, in class, during office hour, or by appointment.

158369

Senior Seminar Ⅱ

北尾　キャスリーン

授業テーマ:

Applied Linguistics and Graduation Theses （応用言語学そして卒業論文: Wakamoto Seminar XVIII）

授業の概要:

This seminar discusses factors affecting foreign language learning (teaching), and strategies to develop English proficiency as an EGLF (English as a Global Lingua Franca) in Japan. We recognize that the learning English in Japan encompasses substantial difficulties. At the same time, however, it is also true that some learners have attained high-level proficiency even without studying abroad. Why are some learners more successful than others even if they are learning under the same conditions? This is a key question to be shared with course participants. Participants are asked to try to solve this "puzzle" while writing their own graduation thesis in English.

到達目標:

At the end of the autumn semester, participants will be able to know answers to their Research Questions. They will also be able to acquire solid English proficiency, the logical thinking, and beautiful friendship, which will surely be their assets in their future career.

授業方法:

Several approaches can be assumed; one may try to design and conduct a questionnaire, conduct an experiment or describe someone's story as a case study by interviewing several successful language learners. In any case, reading and understanding relevant works in this field would be a basis (review of the spring semester). In order to help participants write a better thesis, several workshops such as the general guideline for creating a better questionnaire or the use of SPSS 25 (statistics software) are planned. Theses are to be presented at the 16th Bachelor Thesis Presentations of English Department (January, 2019).

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction and individual expectations: Welcome back to the course.	Think about what you expect to this course.
2.	Research design for theses: How to design a questionnaire	Read the designated pages of APA.
3.	Individual presentations on theses: First series (I)	Work on their own (thesis) draft.
4.	Individual presentations on theses: First series (II)	Work on their own (thesis) draft.
5.	Data processing: How to analyze data	Read the designated pages of APA.
6.	Data representations: How to create graphs, figures, and tables	Read the designated pages of APA.
7.	Individual presentations on theses: Mid-report series (I)	Work on their own (thesis) draft.
8.	Individual presentations on theses: Mid-report series (II)	Work on their own (thesis) draft.
9.	Individual presentations on theses: Mid-report series (III)	Work on their own (thesis) draft.
10.	Increase the Face Validity: Double-spacing, spell-check, and footnotes	Read the designated pages of APA.
11.	APA style for theses: Final Check	Read the designated pages of APA.
12.	Finish and submit theses	Work on their own (thesis) draft and read the designated pages of APA.
13.	Rehearsal for thesis presentations (I)	Spend time for the rehearsal.
14.	Rehearsal for thesis presentations (II)	Spend time for the rehearsal.
15.	Consolidation of the course	Reflect what you have achieved.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This seminar in 2018 is a speical course taught by two professors, with the continuation of Wakamoto Junior Seminar I & II. Except for special cases, we do not suppose new members to Senior Seminar II. This seminar is conduced almost in English.

フィードバックの方法:

Drafts will be returned to the participants with comments through Moodle and Manaba.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Thesis	100	The process and attitudes of making the thesis, and the quality of the submitted thesis

教科書:

American Psychological Association. (2010). Publication manual of the American Psychological Association (6th ed.).

参考書:

Shown in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Through e-mail, Line or meeting the instructor in person.

158370

Senior Seminar Ⅱ

今井　　由美子

授業テーマ:　Research on Aspects of the Role of Sound in Language

授業の概要:　このコースでは、Senior Seminar Ⅰをさらに発展させ、言語音について受講生ひとりひとりが研究テーマを設定し、その研究成果を論文としてまとめることを目標とする。言語は我々の生活に不可欠なものであり、言語は音声そのものである。そのためこのコースでの学びによりphonetics, phonology, sociolinguistics, psycholinguisstics, language acquisition, language processingなど、受講生がさまざまな分野へと興味を広げることを期待する。

到達目標:　個人の卒業研究テーマに基づき準備をすすめ、卒業論文を完成させる。

授業方法:　このコースは課題提出、発表、ディスカッションを中心に行い、ゼミ生のトピックにおける理解を確認する。秋学期開始前にゼミ合宿を行い、卒論の中間報告を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:卒論計画提出、質問紙案サンプル提出、先行研究案リスト提出	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
2.	「目的」の設定(「はじめに」)	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
3.	「先行研究」「文献リスト」(1)	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
4.	「先行研究」「文献リスト」(2)	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
5.	「実験・調査」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
6.	「実験・調査」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
7.	「結果」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
8.	「考察」	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
9.	「まとめ」(「はじめに」)	期日までにピア・チェックを行いドラフトを提出
10.	最終チェック(1)	
11.	最終チェック(2)～論文提出	卒論提出
12.	卒論発表リハーサル(1)	発表準備(1)
13.	卒論発表リハーサル(2)	発表準備(2)
14.	卒業論文発表会参加	
15.	卒業論文集のための最終原稿提出	最終原稿提出

受講者へのメッセージやアドバイス:　就職活動や教育実習、SPなどひとりひとりが課題を抱えながら卒論へ取り組むことになる。夏期休暇を有効に活用し、計画的に進めていくことが大事である。

フィードバックの方法:　ゼミにおけるディスカッションや個人面談を通し、リサーチテーマについて調査を進めていく。ドラフトは必ずピア・チェックを行ったものを提出する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20%	リサーチへ取り組む姿勢、学生間の相互協力など評価し、論文の評価に加える。
卒業論文	80%	卒業論文は、内容および形式を評価する。

教科書:　向後千春、18歳からの「大人の学び」基礎講座、2016、来た大路書店

参考書:
小塩真司、質問紙調査の手順、2009、ナカニシヤ出版
藤本壱、Excelでできるらくらく統計解析、2011、自由国民社
American Psychological Association. Publication Manual of the American Psychological Association, 6th edition.　2009
ゾルダン・ドルニュイ、外国語教育学のための質問紙調査入門、2009、松柏社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

158371

Senior Seminar Ⅱ

北尾　キャスリーン

授業テーマ:

Interpersonal Communication

授業の概要:

In this course, we will cover various aspects of interpersonal communication, that is, communication between people in friendships and family relationships, as well as carrying out a research projects related to interpersonal communication, including participating in presentations of their paper. .

到達目標:

Gaining a deeper understanding of interpersonal communication and its application to daily life.

授業方法:

Students will read about interpersonal communication, discuss what they have read, and work on research projects. They will also participate in a poster session about their research at the end of the spring semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Graduation Thesis 1	none
2.	Emotional Intelligence, Attraction, and Interpersonal Communication 1	Reading passage and answering questions.
3.	Emotional Intelligence, Attraction, and Interpersonal Communication 2	Reading passage and answering questions; answer discussion questions.
4.	Research Design 1	Reading passage and answering questions.
5.	Research Design 2	Reading passage and answering questions.
6.	Writing a Research Paper 1	Reading passage and answering questions.
7.	Writing a Research Paper 2	Reading passage and answering questions.
8.	Statistics	none
9.	Graduation Thesis 2	Work on graduation thesis.
10.	Graduation Thesis 3	Work on graduation thesis.
11.	Graduation Thesis 4	Work on graduation thesis.
12.	Graduation Thesis 5	Work on graduation thesis.
13.	Graduation Thesis 6	Work on graduation thesis.
14.	Graduation Thesis 7	Work on graduation thesis.
15.	Preparing for presentation	Work on graduation thesis.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussing the work they are doing on the thesis

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework	10%	Demonstration of understanding and application
Graduation thesis	70%	Research design, application of statistics, conclusions from results, etc.
Homework	20%	Demonstration of understanding and application

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com

158372

Senior Seminar Ⅱ

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:

Intercultural communication, competency and conflict II

授業の概要:

This course will expose students to topics on intercultural communication and competency, as well as to train students to write academic research papers and make formal academic presentations. A wide range of topics on intercultural communication will be discussed and studied in class. Further discussion of these topics will be made through group work, oral presentations and written assignments. Students must write a final report and do an oral presentation at the end of the course.

到達目標:

(1) Students will explore and examine topics on intercultural communication and competency
(2) Students will be learn to analyze and think critically about different topics and social issues.
(3) Students will learn about the world around them from a different perspective.

授業方法:

The class will be conducted through group discussion and with project-learning. The students will be exposed to different types of information through media (film,news, short film clips) and assigned readings from books and academic journals.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation, course expectations, schedule	review notes, reading / writing assignments
2.	Research paper writing review, research methods	review notes, reading / writing assignments
3.	Research paper writing review, research methods	review notes, reading / writing assignments
4.	Intercultural Competency and Conflict Part I , written assignment	review notes, reading / writing assignments
5.	Intercultural Competency and Conflict Part II, written assignment	review notes, reading / writing assignments
6.	Intercultural Competency and Conflict Part III , written assignment	review notes, reading / writing assignments
7.	Individual Consultations (research topic, methodology, research design, data analysis)	review notes, reading / writing assignments
8.	Diversity and conflict Part I, written assignments	review notes, reading / writing assignments
9.	Diversity and conflict Part II, written assignments	review notes, reading / writing assignments
10.	Collect 1st drafts of research paper Case study and analysis	review notes, reading / writing assignments
11.	Return 1st drafts of research paper, research methods Case study and analysis	review notes, reading / writing assignments
12.	Individual student consultations, research paper writing	Preparation for final assignments
13.	Individual student consultations, research paper writing	Preparation for final assignments
14.	Final Assignments, presentations Instructor and peer feedback	Preparation for final assignments
15.	Final Assignments, presentations Instructor and peer feedback	Preparation for final assignments

受講者へのメッセージやアドバイス:

This seminar is conducted ALL in English, and students are expected to have a considerably high level of English proficiency (written, spoken, reading and listening) and motivation to be able to pass this class.

フィードバックの方法:

Individual evaluation and feedback from instructor. One-on-one consultations with instructor.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation, attitude, motivation	30	motivation and initiative in class, active participation
written assignments, group work, mini-presentations	30	research skills, academic writing skills, presentation skills, effort and ability
Mid-term and Final presentations and assignments	40	effort and ability in the four academic skills (reading, writing, listening and speaking)

教科書:

There is not textbook assigned for this course.

参考書:

Jackson, J., Introducing Language and Intercultural Communication, 2014, Routledge, New York.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

The instructor will notify students about contact information during the first class.

158860

Reading Ⅲ(AESA)

北尾　キャスリーン

授業テーマ:

授業の概要: In this course, students will use both extensive and intensive reading to improve their reading skills.

到達目標: Improving students' reading proficiency, specifically by helping them develop skills and strategies and by giving them experience with extensive reading.

授業方法: Students will work in groups on the textbook, with one student acting at the group teacher, focusing on reading skills and strategies and on extensive reading.. Students will blog about their extensive reading and read each others' blogs. They will also read NewsFlash articles.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	none
2.	Chapter 1	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
3.	Chapter 1	Extensive reading and blogging.
4.	Chapter 1	Extensive reading and blogging.
5.	Chapter 2	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
6.	Chapter 2	Extensive reading and blogging.
7.	Chapter 2	Extensive reading and blogging.
8.	Chapter 3	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
9.	Chapter 3	Extensive reading and blogging.
10.	Chapter 3	Extensive reading and blogging.
11.	Chapter 4	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
12.	Chapter 4	Extensive reading and blogging.
13.	Chapter 4	Extensive reading and blogging.
14.	Chapter 5	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
15.	Chapter 5	Extensive reading and blogging.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Discussion of extensive reading and reading strategies

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final exam	60%	Understanding of content, vocabulary, and reading strategies
Extensive reading, blogging, etc	40%	Number of pages read, blogs

教科書: Mosaic Reading 2

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法: kkitao217@yahoo.com

158960

Reading Ⅳ(AESA)

北尾　キャスリーン

授業テーマ:

授業の概要: In this course, students will use both extensive and intensive reading to improve their reading skills.

到達目標: Improving students' reading proficiency, specifically by helping them develop skills and strategies and by giving them experience with extensive reading.

授業方法: Students will work in groups on the textbook, with one student acting at the group teacher, focusing on reading skills and strategies and on extensive reading.. Students will blog about their extensive reading and read each others' blogs. They will also read NewsFlash articles.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Chapter 6	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
2.	Chapter 6	Extensive reading and blogging.
3.	Chapter 6	Extensive reading and blogging.
4.	Chapter 7	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
5.	Chapter7	Extensive reading and blogging.
6.	Chapter 7	Extensive reading and blogging.
7.	Chapter 8	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
8.	Chapter 8	Extensive reading and blogging.
9.	Chapter 8	Extensive reading and blogging.
10.	Chapter 9	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
11.	Chapter 9	Extensive reading and blogging.
12.	Chapter 9	Extensive reading and blogging.
13.	Chapter 10	Group teacher prepares based on instructions. Extensive reading and blogging.
14.	Chapter 10	Extensive reading and blogging.
15.	Chapter 10	Extensive reading and blogging.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Discussion of extensive reading and reading strategies

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final exam	60%	Understanding of content, vocabulary, and reading strategies
Extensive reading	40%	Number of pages read, blogs

教科書: Mosaic Reading 2

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法: kkitao217@yahoo.com

159060

Reading Ⅲ(AESB)

T.Rush

授業テーマ:
Reading

授業の概要:
Improving students' reading proficiency, specifically by helping them develop skills and strategies and by improving their vocabulary and developing skills to further develop their vocabulary.

到達目標:
To improve students reading skills as well as their knowledge of important English words and phrases.

授業方法:
Classes will work in groups on the textbook, focusing on reading skills and strategies and on developing vocabulary. They will also read NewsFlash articles.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Overview – Chapter 1	Bring materials
2.	Chapter 1	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
3.	Chapter 1	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
4.	Chapter 2	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
5.	Chapter 2	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
6.	Chapter 2	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
7.	Chapter 3	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
8.	Chapter 3	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
9.	Chapter 3	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
10.	Chapter 4	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
11.	Chapter 4	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
12.	Chapter 4	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
13.	Chapter 5	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
14.	Chapter 5	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.
15.	Chapter 5	Review the textbook and your notes from the previous class and look ahead for the next class.

受講者へのメッセージやアドバイス:
Work patiently and diligently and you will succeed.

フィードバックの方法:
Feedback will be given in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final Exam	60	Teacher administered exam
Extensive reading, blogging, etc.	40	Various submitted materials

教科書:
AES A students -- Mosaic 2 Reading
AES B students -- Mosaic 1 Reading
Note: These are the same books that will be used in the AES speaking classes.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:
tom.rush.w@gmail.com

159160

Reading Ⅳ(AESB)

T.Rush

授業テーマ:

Reading

授業の概要:

Improving students' reading proficiency, specifically by helping them develop skills and strategies and by improving their vocabulary and developing skills to further develop their vocabulary.

到達目標:

Students will improve their reading skills as well as their knowledge of important vocabulary items and grammar structures in English.

授業方法:

Classes will work in groups on the textbook, focusing on reading skills and strategies and on developing vocabulary. They will also read NewsFlash articles.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Chapter 6	Bring all materials
2.	Chapter 6	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
3.	Chapter 6	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
4.	Chapter 7	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
5.	Chapter 7	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
6.	Chapter 7	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
7.	Chapter 8	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
8.	Chapter 8	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
9.	Chapter 8	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
10.	Chapter 9	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
11.	Chapter 9	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
12.	Chapter 9	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
13.	Chapter 10	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
14.	Chapter 10	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.
15.	Chapter 10	Review your in-class notes and the textbook, also look ahead for the next class.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Work patiently and diligently and you will succeed.

フィードバックの方法:

Students will receive feedback in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final Exam	60	Teacher will grade the test
Extensive reading, blogging, etc.	40	Students will submit various things to be assessed

教科書:

AES A students -- Mosaic 2 Reading
AES B students -- Mosaic 1 Reading
Note: These are the same books that will be used in the AES speaking classes.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

tom.rush.w@gmail.com

159260

アメリカ文学史

湊　　圭史

授業テーマ:　アメリカ合衆国の文学を歴史的展開に注目して学ぶことで、アメリカ合衆国の英語表現がどのような言語・社会・文化的基盤のうえに成り立っているかを理解する。

授業の概要:　講義を中心に行う。実際の文学作品からの引用を多く掲載したハンドアウトを配布し、ポイントを示すプレゼンテーション・スライドを用いて、時代ごとの英語表現の特徴、表現されている価値観、反映された社会的事象などを紹介する。アクティブ・ラーニングを部分的に取り入れ、授業中にいくつかの設問を提示して、自分の意見を表明する訓練を行う。また紹介された作品から興味がもてるものを複数選んで、実際に作品を(授業外で)読み、授業で説明した歴史的文脈においてどのような価値がある作品なのかを考えていくことを求める。授業と授業外読書を通じて、アメリカ合衆国における英語表現の多様性とその背景にある歴史を理解し、それを説明するために必要な基本的情報(例:最低限の代表作家・作品名)を身につけることを目指す。

到達目標:　時代ごとの英語表現の特徴を指摘し、アメリカ合衆国史・文学史と関連付けて説明できるようにすることで、アメリカ合衆国の英語表現の多様性とその歴史的背景を理解できるようにする。

授業方法:　学習指導要領に従って学習を進め、個々の英語スキルを学ぶ授業では身に着けることが困難な広い視野に立った多角的な英語解釈の基盤を養う。(中学校及び高等学校教育では、言語表現の歴史を知っていることで説得力のある授業が可能になる。文法や表面的な語彙以上の英語理解を意識できるようにする。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	アメリカ文学への視点、および、英語表現の基礎:政治・文化・経済的背景、聖書、シェイクスピア、マザーグース	シラバスを読んだ上で、アメリカ合衆国について自分がもっている知識を振り返っておく。
2.	エドワーズとフランクリン: 植民地期アメリカのキリスト教と啓蒙主義／アーヴィングとクーパー: アメリカ的テーマを求めて	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
3.	エマソン、ソロー、ホイットマンの思想と実践と詩 :超絶主義、「自然」、民主主義	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
4.	ホーソン、ポーの短編、ディキンソンの詩—「暗いロマン主義」の展開	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
5.	メルヴィル『白鯨』とトウェイン『ハックルベリー・フィンの冒険』—異種の交わり	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
6.	ショパン『目覚め』とドライサー『シスター・キャリー』—「新しい女」、自然主義	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
7.	パウンド、エリオット、ウィリアムズの詩—モダニズム、コスモポリタニズムと土着主義	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
8.	フィッツジェラルド『グレイト・ギャツビー』、フォークナー『アブサロム、アブサロム！』、オニール『楡の下の欲望』—「アメリカの夢」の破綻	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
9.	ハーレム・ルネッサンスとユダヤ系文学—マイノリティの登場、音楽と文学／中間レポート提出	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
10.	サリンジャー『キャッチャー・イン・ザ・ライ』、ラルフ・エリソン『見えない人間』ミラー『セールスマンの死』—成長できない若者たち	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
11.	1950年代からのアメリカ詩:多様化の時代	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
12.	バーセルミとカーヴァーの短編: ポストモダニズム、ミニマリズム	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
13.	リソン『青い眼が欲しい』、アレクシー『リザベーション・ブルース』、ラヒリ『その名にちなんで』—人種とジェンダー	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
14.	ウィルソン『フェンス』、クシュナー『エンジェルス・イン・アメリカ』、ミュージカル『ハミルトン』—アメリカ演劇の展開と文化的多様性	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。
15.	現在のアメリカ合衆国文学概観—パフォーマンス・ポエトリー、アメリカの俳句など	前週の内容を自分なりにまとめ、興味をもった作品については実際に読んでいく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　興味をもった作家については授業外で情報を調べ、作品を読んでおくこと。その上で、その作品がアメリカ文学史、またアメリカ合衆国史一般においてどのような意義をもっているのかを考える。
テキストは使用しない。代わりに毎授業ハンドアウトを配布する。ただし、下の「参考書・参考資料等」にあげる書籍でアメリカ史、および、アメリカ合衆国文学史の全体像をつかんでおくと、より理解が深まるので推奨する。

フィードバックの方法:　授業内で口頭にて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	アメリカ合衆国史およびアメリカ文学史の概観ができているか、また興味をもった作品についてはその歴史上の意義が説明できるか。
授業内の質問回答	30%	授業内容をしっかり理解したうえで、自身の意見を述べられているか。
中間レポート	20%	興味をもった作品を読み通した上で、自分の感想がもてているか。

教科書:　テキストは使用しない。

参考書:
諏訪部浩一他編『アメリカ文学入門』三修社、2013年。
別府恵子他編『新版アメリカ文学史—コロニアルからポストコロニアルまで』ミネルヴァ書房、2000年。
和田光弘『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年。
中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領(平成29年3月告示 文部科学省)
中学校学習指導要領解説、高等学校学習指導要領解説 外国語編(平成29年3月 文部科学省)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:	授業内で伝えるメールアドレスを通じて行う。

159360

イギリス文学史

辻　　英子

授業テーマ:

イギリス文学の代表的な作品をその時代背景とともに学ぶ。個々の作品における多様な英語表現を理解し、味わうとともに、イギリスの歴史と文化についても理解を深める。

授業の概要:

古英語の時代から20世紀に至るまでのイギリスにおける代表的な文学作品を、その時代背景とともに紹介する。大教室での講義科目であるが、担当教員による一方的な知識の伝達にとどまらず、毎回、様々なトピックについて受講生にグループディスカッションやミニレポートの提出を課すなど、積極的に授業に関わることのできるアクティブラーニングの手法を可能な限り取り入れていく。

到達目標:

1. イギリス文学の代表的な作品をその時代背景とともに学ぶ。
2. イギリスの文化と歴史についても理解を深める。

授業方法:

講義形式で授業を行うが、毎回授業の最後にミニレポートを提出してもらう。また、可能な限り、グループディスカッションの時間を設ける。必要に応じて、DVD等の映像資料も紹介する。受講者名簿確定と同時に座席を指定し、授業環境が整うよう工夫する。授業中に数回の小テストを、学期末には定期試験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	古英語の時代の文学	毎回の授業で学んだことを見直し、各自で理解を深めること。また次回の授業内容について各自で必要な資料の下読みをしたり、重要だと思われるテーマに関して、前もって考えてくること。
3.	中英語の時代の文学	同上
4.	ルネサンスと宗教改革の時代の文学	同上
5.	シェイクスピアを中心に①	同上
6.	シェイクスピアを中心に②	同上
7.	清教徒革命から王政復古期の文学	同上
8.	18世紀の文学①（詩と劇）	同上
9.	18世紀の文学②（小説の勃興）	同上
10.	ロマン主義時代の文学①（前半）	同上
11.	ロマン主義時代の文学②（後半）	同上
12.	ヴィクトリア朝時代の文学①(詩と散文)	同上
13.	ヴィクトリア朝時代の文学②（小説）	同上
14.	20世紀の文学①（詩と劇）	同上
15.	20世紀の文学②（小説）	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

文学は堅苦しい過去の遺物ではなく、今を生きる力になることもあります。
各自が意欲的に、文学の奥深さに触れてください。

フィードバックの方法:

授業中に行う小テストは採点して返却する。また、ミニレポートに関しては、必要に応じて、授業でコメントをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60%	授業で学んだ事項が正しく理解できているか、更にはそこから各自で学びを深めたかどうかを評価する。
小テスト（数回）	20%	授業内容を正しく理解できているかを評価する。
ミニレポート（毎回）	20%	授業で扱うテーマについて各自で積極的に理解を深める努力をしたかどうかを評価する。

教科書:

相島倫嘉、『An Outline of English Literature－イギリス文学概観』、南雲堂

参考書:

授業時に随時、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:

e-mail: htsuji@dwc.doshisha.ac.jp

159460

イギリス文化研究

潟山　　健一

授業テーマ:　文化研究とは何か

授業の概要:　1年次必修科目「イギリス文化入門」における学習成果を踏まえながら、イギリス文化を対象とした場合の「研究」にはどのような切り口があり得るのか、様々な観点からその可能性を探る。

到達目標:　イギリス文化に関する知識を広げ、深めながら、自らの関心から問題提起を引き出し、「文化研究」というかたちに立論・構成していくためのスキルを身につける。

授業方法:
1. 講義とグループワークを組み合わせて授業を進める。但し、受講者数によっては授業形態に若干の変更もあり得る。
2. 毎週、教科書の該当箇所を読んだ上で授業に臨み、予習の有無確認の上で授業開始という手順を取る。基本的に教科書の内容に沿って授業を行い、授業内で適宜参照箇所を指摘もするが、授業のなかで「教科書を読む」という形態は取らない。あくまでも、教科書の内容が頭に入っているという前提での授業というかたちで各回進めていく。
3. 毎回worksheetを配付し、note-takingに意識的に取り組む姿勢を培ってもらう。授業後にはこれを回収し、翌週にフィードバックを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスを読んでおくこと
2.	文化とは何か（第1章）	教科書該当箇所を熟読
3.	国民性と言語（第2章）	教科書該当箇所を熟読
4.	教育（第4章）	教科書該当箇所を熟読
5.	福祉（第5章）	教科書該当箇所を熟読
6.	宗教（第7章）	教科書該当箇所を熟読
7.	マスメディア（第8章）	教科書該当箇所を熟読
8.	家（第9章）	教科書該当箇所を熟読
9.	交通（第10章）	教科書該当箇所を熟読
10.	料理（第11章）	教科書該当箇所を熟読
11.	音楽（第12章）	教科書該当箇所を熟読
12.	映画（第12章）	教科書該当箇所を熟読
13.	スポーツ（第13章）	教科書該当箇所を熟読
14.	自然（第14章）	教科書該当箇所を熟読
15.	総括	前週までの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　登録者数によっては、授業方法にも若干の変更があり得る。

フィードバックの方法:　毎回、回収したworksheetに目を通し、翌週の授業冒頭でコメントを付す。また必要に応じて書き込みも行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	50	問題提起の明確さと論理性
毎回の授業内課題	30	適切なノート・テイキングと意見交換の成果
毎回の予習確認小テスト	10	マークシートでの採点評価
出席	10	欠席1回につき2点の減点、遅刻・早退1回につき1点の減点とし、減点合計が10点を上回った場合、単位取得は不可とする。

教科書:　小泉博一/飯田操/桂山康司[編]『イギリス文化を学ぶ人のために』世界思想社, 2004年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

159560

アメリカ文化研究

滝野　　哲郎

授業テーマ:

授業の概要:

アメリカ文化の多様性について理解を深めることを目指す。授業では、19世紀のアメリカ文化を地域の特性に焦点をあてながら考察する。当時のさまざまな文献（英文）を読み、各地域に暮らす人びとの生活や考え方について理解を深め、さらにそれを手がかりにして、現代のアメリカ文化についても幅広く考える。

到達目標:

1．19世紀のアメリカ文化について理解を深め、それを説明できること
2．当時の文献を原文で正確に理解し、それを説明できること
3．関心のあるテーマについて考察し、それについて発表できること

授業方法:

講義、講読、発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	19世紀アメリカの社会と文化(1)	文献（英文）を読んでおくこと
3.	19世紀アメリカの社会と文化(2)	文献（英文）を読んでおくこと
4.	アメリカ西部の文化(1)	文献（英文）を読んでおくこと
5.	アメリカ西部の文化(2)	文献（英文）を読んでおくこと
6.	アメリカ北部の文化(1)	文献（英文）を読んでおくこと
7.	アメリカ北部の文化(2)	文献（英文）を読んでおくこと
8.	アメリカ北部の文化(3)	文献（英文）を読んでおくこと
9.	アメリカ南部の文化(1)	文献（英文）を読んでおくこと
10.	10.アメリカ南部の文化(2)	文献（英文）を読んでおくこと
11.	アメリカ南部の文化(3)	文献（英文）を読んでおくこと
12.	19世紀のアメリカ文学(1)	文献（英文）を読んでおくこと
13.	19世紀のアメリカ文学(2)	文献（英文）を読んでおくこと
14.	19世紀のアメリカ芸術	文献（英文）を読んでおくこと
15.	まとめ	これまでの文献（英文）を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	30%	到達目標にかんする知識と理解により評価する。
発表	25%	テーマについて説得力のある発表ができているかを基準とする。
レポート2回	15% x2	達成目標を理解したうえで、考察や見解を適切にまとめられているかを基準とする。
授業への参加	15%	積極的に授業に参加しているかを基準とする。

教科書:

Joy Hakim, Liberty for All? (Oxford University Press, 2007).

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業後に教室内で応対、Eメール

159660

Topics in English A

J.P.Foster

授業テーマ:

Heroes, Myth, and Culture

授業の概要:

This course will examine the portrayals of heroes from different cultures in myth, literature, film, and history to discover how each hero embodies the values of that culture. Readings and films will focus on heroes and heroines from ancient Greece and Rome, England, Northern Europe, and North America. Students will investigate heroes and heroines from cultures of their own choosing as part of the class as well.

到達目標:

By the end of this class, you will be able to:
·Understand the roles heroes and heroines play in different societies and cultures
·Analyze, discuss, and summarize stories, essays, and films
·Develop critical thinking skills about cultural values
·Utilize effective public speaking skills to make presentations
·Express yourself more confidently in English

授業方法:

Method of Instruction is stated in Course Contents

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Class Introduction	Read pages 3 – 13 of the text for week 2
2.	The Greek Gods	Read pages 31 – 41 for week 3
3.	The Story of Prometheus, the First Greek Hero	Read pages 87 – 98 for week 4
4.	Perseus the Gorgon Slayer, an Early Greek Hero	Read pages 101 – 111 for week 5
5.	The Birth of Heracles, the Most Famous Greek Hero	Read pages 115 – 124 for week 6
6.	Heracles and His Adventures	Start planning written assignment and presentation
7.	Film and Discussion, Part 1	Continue work on written assignment and presentation
8.	Film and Discussion, Part 2	Finish work on written assignment and presentation
9.	Presentations on heroes, gods, goddesses, and monsters from the text not covered in class	Read pages 187 – 198 of the text for class 10
10.	The Adventures of Theseus	Read pages 229 – 239 of the text for class 11
11.	Atalanta, a Heroine of the Greeks	Read handouts for class 12
12.	Norse Mythology	Start planning written assignment and presentation
13.	Film and Discussion, Part 1	Continue working on written assignment and presentation
14.	Film and Discussion, Part 2	Finish work on written assignment and presentation
15.	Presentations on a hero or heroine from any culture of your choice	Review the semester

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class will combine short lectures and longer group discussions, so students must be willing and eager to share their opinions in English and keep an open mind to the perspectives of others.

フィードバックの方法:

All work will be returned to students with comments in class, and students will have the opportunity to ask questions at that time.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Presentation 1	20%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation
Presentation 2	30%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation
Written Assignments	30%	Content, Organization and Coherence, Grammar and Punctuation
Class Participation and Attitude	20%	Attendance and participation in class discussions

教科書:

Roger Lancelyn Green, Tales of the Greek Heroes, Puffin Classics, ISBN 978-0-141-32528-6

参考書:

Joseph Campbell, The Hero with a Thousand Faces, New World Library, ISBN 978-1-57731-593-3

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

ask in classroom before, during, or after class

159760

Topics in English B

B.Manojlovic

授業テーマ:

Topical Issues in Film

授業の概要:

The aim of this course is to present and discuss some of the current world issues through short film format. The films shown in the classroom will serve as a starting point for in-class discussion. Students will have a chance to explore the film language and themes and will also be encouraged to give their opinion on a range of topics. Students will also be expected to perform individual research on certain topics.

到達目標:

By exploring the language and themes students will be encouraged to give their opinion on a range of topics, and will in addition be expected to perform individual research on certain topics. The focus will be on enabling the students to develop: a/ analytical ability through development of research skills, b/ thinking power, i.e. deeper understanding of past and current affairs, and c/ presentation skills by expressing one's opinion logically and persuasively

授業方法:

Classes would include: topic introduction based on the textbook/teacher's handouts; comprehension and listening exercises; language focus and topic debates. Students will get plenty of time to explore language and themes in some detail through pair and group discussion, which will be shared and reported to the whole class. Internet and DVD equipment will be used in the classroom for film projections.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course / Getting familiar with the film medium	Homework / Online Research
2.	. Technology & Future (part 1) Short film 'Sight' (2012) - Film viewing, Comprehension and language exercises	Homework / Online Research
3.	Technology & Future (part 2). Discussing Modern Technology, Future of Mankind	Homework / Online Research
4.	Technology & Future (part 3) Post-research activities and discussion	Homework / Online Research
5.	Gender Roles in Modern Society (part 1) - Short Film 'Us and Them' Film Viewing/Comprehension exercises/Discussion	Homework / Online Research
6.	Gender Roles in Modern Society (part 2) Short film 'Men vs Women' film Viewing/Comprehension exercises/Discussion	Homework / Online Research
7.	Gender Roles in Modern Society (part 3); Post-research activities and discussion	Presentation Preparation
8.	Presentation	Homework / Online Research
9.	Nature & Environment Issues (part 1). Film: Short film on Environmental Issues; film Viewing/Comprehension exercises/ Discussion	Homework / Online Research
10.	Nature & Environment Issues (part 2). Short film on Endangered Species; film Viewing/Comprehension exercises/Discussion	Homework / Online Research
11.	Nature & Environment Issues (part 3). Post-research activities and discussion	Homework / Online Research
12.	Dream Careers, Identity Crisis (part 1) 'Short Film 'Nora' (2012; Film Viewing/Comprehension exercises/Discussion	Homework / Online Research
13.	Dream Careers, Identity Crisis (part 2) 'Short Film 'Nora' (2012; Film Viewing/Comprehension exercises/Discussion	Homework / Online Research
14.	Dream Careers, Identity Crisis; Post-research activities and discussion	Presentation Preparation
15.	Presentation and Course Review	n/a

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

The out-of-class learning and preparation will consist of students conducting online research on individual topics. All the reference sources should be clearly cited. Following the research, students will be required to give oral presentations, which will in turn serve as a springboard for further in-class discussion, comments and exchange of ideas.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
in-class participation and attendance	40	Continuous Assessment
presentations	30	
research & homework	30	

教科書:

no textbook

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

cacti@live.co.uk

159860

Topics in English C

T.Rush

授業テーマ:

How to Learn a Language

授業の概要:

In this course students will learn what principles are most important for learning a language. Students will look at their own language learning strategies. Students will create a language learning plan for themselves.

到達目標:

Students will be able to analyze their own language learning needs and goals, and choose effective activities to reach those goals.

授業方法:

Lecture, discussion, student group and pair work.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Overview – The Four Strands	Bring Materials
2.	Chapter 1 – What do you need to do to learn a foreign language?	Read Chapter 1
3.	Chapter 2 – Work out what your needs are and learn what is most useful for you	Read Chapter 2
4.	Chapter 2 – Work out your needs – what is useful for you	Review the week's lesson
5.	Chapter 3 – Balance your Learning – Learn through listening and reading	Read Chapter 3
6.	Chapter 3 – Balance your learning – learn through listening and reading	Prepare Reading While Listening assignment
7.	Chapter 4 – Balance your learning – learn through speaking and writing	Read Chapter 4
8.	Chapter 4 – Balance your learning – learn through speaking and writing	Prepare Extensive Reading Assignment
9.	Chapter 5 – Balance your learning–do deliberate study of language features	Read Chapter 5
10.	Chapter 5 – Balance your learning–do deliberate study of language features	Work on your word card assignment
11.	Chapter 6 – Balance your learning – get fluent at what you know	Read Chapter 6 Prepare word card assignment
12.	Chapter 6 – Balance your learning – get fluent at what you know	Read Chapter 7
13.	Chapter 7 – Apply conditions that help learning	Work on your Learning plan and make sure your reading worksheets are good
14.	Chapter 8 – Keep motivated and work hard	Read Chapter 8 Prepare Learning Plan Prepare Reading worksheets
15.	Course Review	Review your work over the course

受講者へのメッセージやアドバイス:

Work patiently and diligently and you will succeed.

フィードバックの方法:

Student will get a variety of feedback in class, as well as on some written work

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Reading Worksheets	25	The teacher will assess your work reading the course material
Assignments	30	3 assignments will be assessed by your teacher
Learning Plan	20	This is the biggest assignment, and your teacher will assess this
Attendence and Participation	25	Regular attendance and participation is assessed

教科書:

What do you need to know to learn a language? Paul Nation
http://www.victoria.ac.nz/lals/about/staff/publications/paul-nation/foreign-language_1125.pdf

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

tom.rush.w@gmail.com

159960

Topics in English D

D.Clayton

授業テーマ:

Nonverbal communication

授業の概要:

This course aims to help students understand the role that nonverbal communication plays in our day-to-day lives by developing critical thinking skills. Preparation for in-class discussions will require careful research, note taking and close collaboration between fellow students.

到達目標:

In this course students will learn how nonverbal communication is an essential part of everyday conversation and that having a strong understanding of what happens while we are speaking is imperative to better comprehension. Students will be expected to think about the issues and formulate their own ideas and opinions. There will be team presentations to demonstrate what students learned throughout the course

授業方法:

Students will be divided into groups. In groups they will complete tasks such as listening to lectures, taking notes, demonstrating features of NVC and completing presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction Body language vocabulary I	Prepare for Quiz 1 and presentations
2.	Body language vocabulary II	Prepare for Quiz 1 and presentations
3.	Cultural differences Presentation 1	Prepare for Quiz 1 and presentations
4.	Quiz 1 – Body language vocabulary Mirroring	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
5.	The eyes I	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
6.	The eyes II	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
7.	The face – universal expressions	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
8.	Gestures – taboo gestures and cultural differences.	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
9.	Gestures and presenting I	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
10.	Gestures and presenting II	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
11.	Gestures and presenting III Presentation 2	Prepare for Quiz 2 and Presentations.
12.	Quiz 2 – the eyes, the face, gestures. Space I	Prepare for Quiz 3
13.	Space II	Prepare for Quiz 3
14.	Dating and interviews	Prepare for Quiz 3
15.	Quiz 3 – Space and dating Presentation 3	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Team work will be essential in this course. Please work together responsibly.

フィードバックの方法:

Feedback will be provided on team work and in quizzes and presentations.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes	60	Quiz questions. Content will be explained in class.
Presentations	30	Pronunciation, Accuracu, Content and Engagement.
Preparation and participation	10	To be explained in class

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

160060

Topics in English E

J.P.Foster

授業テーマ:

British Culture: the Victorian Period

授業の概要:

This course will give an overview of the culture of Victorian England, one of the most interesting periods in British history. Readings and films will focus on daily life at the time, Victorian literature (both fiction and poetry), and the Victorian criminal underworld.

到達目標:

By the end of this class, you will be able to:
·Understand the culture and society of Victorian England
·Analyze, discuss, and summarize stories, essays, and films
·Develop critical thinking skills about cultural values
·Utilize effective public speaking skills to make presentations
·Express yourself more confidently in English

授業方法:

Method of Instruction is stated in Course Contents

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction	Read the handouts as homework for class 2
2.	Daily Life in the Victorian Period I	Read the handouts as homework for class 3
3.	Victorian Poetry I	Read the handouts as homework for class 4
4.	Crime and the Victorian Underworld I	Read the handouts as homework for class 5
5.	Victorian Ghost and Detective Stories I	Read the handouts as homework for class 6
6.	Daily Life in the Victorian Period II	Begin planning your first presentation and written assignment
7.	Film and Discussion, Part 1	Continue work on your first presentation and written assignment
8.	Film and Discussion, Part 2	Make final preparations for your first presentation and written assignment
9.	Presentations	Read the handouts as homework for class 10
10.	Victorian Poetry II	Read the handouts as homework for class 11
11.	Crime and the Victorian Underworld II	Read the handouts as homework for class 12
12.	Victorian Ghost and Detective Stories II	Start planning your second presentation and written assignment
13.	Film and Discussion, Part 1	Continue work on your second presentation and written assignment
14.	Film and Discussion, Part 2	Make final preparations for your second presentation and written assignment
15.	Presentations	Semester review

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class will combine short lectures and longer group discussions, so students must be willing and eager to share their opinions in English and keep an open mind to the perspectives of others.

フィードバックの方法:

All work will be returned to students with comments in class, and students will have the opportunity to ask questions at that time.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Presentation 1	20%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation
Presentation 2	30%	Public Speaking Skills, Content, Pronunciation and Intonation
Written Assignments	25%	Grammar and Punctuation, Organization and Coherence, Content
Class Participation and Attitude	25%	Attendance, Participation in Discussions, Attitude in Class

教科書:

There are no textbooks for this class.

参考書:

Henry Mayhew, The London Underworld in the Victorian Period, Dover Publications, ISBN 978-0-486-44006-4

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

ask in classroom before, during, or after class

160160

Topics in English F

T.Rush

授業テーマ:

How to Teach English

授業の概要:

In this course students will learn what principles are most important for teaching a language, especially English. Students will look at their own language learning and find the teaching principles the teachers used. Students will create a language teaching plan for a future course.

到達目標:

Students will be able to design a course for a specified group of learners. Students will be able to use a wide range of teaching activities and understand the principles behind them.

授業方法:

Lecture, discussion, group and pair work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Overview – The Four Strands	Bring materials
2.	Chapter 1 – What should an English Teacher Do? Chapter 17 – How do you become a better English teacher?	Read Chapter 1 and 17
3.	Chapter 2 – How do you teach Listening and Speaking?	Read Chapter 2
4.	Chapter 3 – How do you make good problem solving activities? Chapter 16 – How do you control a class?	Read Chapter 3 and 16
5.	Chapter 4 – How do you teach reading?	Read Chapter 4 Prepare Problem Solving Assignment 1
6.	Chapter 5 – How do you teach writing?	Read Chapter 5
7.	Chapter 6 – How do you teach pronunciation and spelling?	Read Chapter 6
8.	Chapter 14 – How do you plan a Language course?	Read Chapter 14
9.	Chapter 7 – How do you teach vocabulary?	Read Chapter 7 Prepare Language Learning Log
10.	Chapter 8 – How do you teach grammar? Chapter 15 – How do you deal with teaching problems?	Read Chapter 8 and 15
11.	Chapter 9 – How do you teach discourse?	Read Chapter 9
12.	Chapter 11 – Twenty Additional Techniques for Language Learning	Read Chapter 11
13.	Chapter 12 – How do you test learners?	Read Chapter 12
14.	Chapter 13 – How do you plan a lesson?	Read Chapter 13 Prepare Course Plan
15.	Course review	Review your work in the course

受講者へのメッセージやアドバイス:

Work patiently and diligently and you will succeed.

フィードバックの方法:

Student will get a variety of written and spoken feedback in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Reading Worksheets	20	The teacher will assess your comprehension of the reading material.
Teaching Activity Demonstration	10	The teacher will assess your ability to lead a teaching activity.
Problem Solving Activity	10	The teacher will assess your ability to design and use a problem solving activity.
Language Learning Log	10	The teacher will assess your noticing and tracking of language learning activities.
Teaching Plan	25	You will be assessed by how well you apply the principles we study in the course to designing a course plan.
Attendance and Participation	25	Your full attendance and serious participation will be assessed

教科書:

What Should Every EFL Teacher Know? – Paul Nation.
Compass Publishing
ISBN – 978-1-59966-266-4

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

tom.rush.w@gmail.com

160260

Topics in English G

北尾　キャスリーン

授業テーマ:
Mediated Communication

授業の概要:
In this course, students will learn about mediated communication and how it influxes interpersonal communication.

到達目標:
To learn about mediated communication and how it applies to their own experiences

授業方法:
Students will read about mediated communication or listen to lectures and discuss what they learn. They will discuss and write about the application of what they are learning to their own experiences.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Mediated Communication	none
2.	What is Mediated Communication? 1	Read and answer questions.
3.	What is Mediated Communication? 2	Write replies to discussion questions.
4.	Mediated Communication in Daily Life 1	Read and answer questions.
5.	Mediated Communication in Daily Life 2	Write replies to discussion questions.
6.	Interactional Aspects of Mediated Communication	Read and answer questions. Write replies to discussion questions.
7.	″Media Friends,″ Hyperpersonal Communication, Etc. 1	Read and answer questions.
8.	″Media Friends,″ Hyperpersonal Communication, Etc. 2	Write replies to discussion questions
9.	The Influence of Mediated Communication on Relationships 1 Read and answer questions.	Read and answer questions.
10.	The Influence of Mediated Communication on Relationships 2	Write replies to discussion questions.
11.	Self-Disclosure and Long Distance Friendships 1	Read and answer questions.
12.	Self-Disclosure and Long Distance Friendships 2	Read and answer questions.
13.	Self-Disclosure and Long Distance Friendships 3	Read and answer questions.
14.	Self-Disclosure and Long Distance Friendships 4	Read and answer questions. Write replies to discussion questions.
15.	Conclusion	none

受講者へのメッセージやアドバイス:
Note: Topics may vary.

フィードバックの方法:
Discussion with students

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final	40%	Demonstration of understanding of application of what student learned to daily life.
Homework	60%	Demonstration of understanding of application of what student learned to daily life.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
kkitao217@yahoo.com

160360

Studies in English A

L.D.Musselwhite

授業テーマ:

Contemporary British Culture and Society: Tradition, Family and Education

授業の概要:

In this class, we will examine various aspects of contemporary British society and culture. The main focus of this semester's class will be current thinking of what it means to be British, and aspects of daily life such as family, education, youth, food, women, and symbols of Britain. However, these topics will be presented in light of the complexity and multiculturalism that exists in contemporary British society and culture.

到達目標:

Students will learn the following:
1.Knowledge about contemporary British culture and society, including the tensions between so-called "traditional" and the modern, complex, multi-cultural society that is Britain today.
2.Knowledge about the notion of "culture" and stereotypical ideas that are part of how any culture and society define itself.
3.Students will be able to write a research paper on a topic related to the course and give a presentation.
In short, students will be able to think critically about culture and society. They will also develop their English writing, presentation, and communication skills in this class. Finally, they should be motivated to learn more about the United Kingdom after pursuing their own research in this class.

授業方法:

This class will be conducted entirely in English and is a combination of lecture, student presentations and peer review. At the beginning of the semester, students will select a topic for in-depth study and presentation. They will work on this topic for the entire semester, giving two mid-term presentations demonstrating the progress on their research. At the end of the semester they will present their findings to the class. Students will also take notes on the lectures, review the handouts, and learn the new vocabulary by the next class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to this course and the research topics	Students should review the on-line syllabus and be ready to say what aspects of British society and culture are most interesting to them.
2.	What is meant by "culture" and by "being British"?	Students should choose a topic and find three references.
3.	Introduction to the geography and symbols of British traditions	Students should review handouts and work on their research projects.
4.	Introduction to the history of England and Wales	Students should review handouts and work on their research projects.
5.	Mid-term presentation 1	Students will prepare an introduction to their topic to present to the class.
6.	Introduction to the history of Northern Ireland	Students should review handouts and continue working on their research projects as they add more references.
7.	Introduction to the history of Scotland and 20th century UK	Students should review handouts and continue working on their research projects as they add more references.
8.	Foods and festivals in the UK	Students should review handouts and prepare for the 2nd presentation on their research projects.
9.	Mid-term presentation 2 / Work on thesis statements	Students will prepare for their 2nd presentations due in class.
10.	Schools, education and youth in the UK	Students should review handouts and continue working on their research projects.
11.	Family, homes and communities in the UK	Students should review handouts and continue working on their research projects.
12.	Peer review of a 4-page draft of the research papers	Students will prepare a 4-page draft of their research papers for the peer review in class.
13.	Women and diversity in the UK	Students will review the handouts and work on finishing their papers and final presentations for the last classes.
14.	Presentations	Students who are presenting today will finish and turn in their papers as well as give a presentation.
15.	Presentations and conclusions	Students should review handouts and continue working on their research projects.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Your independent research project is important for achieving the learning goals of this class. Please participate positively and offer constructive feedback to your fellow students.

フィードバックの方法:

Students will turn in written assignments for the mid-term presentation #1 and #2 as well as the draft of their papers. They will receive written comments from the instructor and feedback from their fellow students.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Mid-term presentation 1	15%	Demonstrate knowledge of basic facts about the topic
Mid-term presentation 2	15%	Demonstrate more in-depth research on the topic and has a thesis statement
Peer review of 4-page draft	20%	Turns in a 4-page draft and participates positively in the peer review
Final research paper	25%	Fulfills the requirements set out at the beginning of the assignment
Final presentation	25%	Communicates clearly and convincingly one's thesis about the topic

教科書:

There is no textbook for this class.

参考書:

Reference materials will be introduced based on the student's choice of topic and level of English ability.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

Ask in the class room before and/or during class

160460

Studies in English B

L.D.Musselwhite

授業テーマ:

British Culture and Society: Change, Work and Leisure

授業の概要:

In this class we will examine various aspects of contemporary British society and culture, focusing on traditions that persist and the ways in which British society has changed in the modern and post-modern eras. Current British society is multicultural and, therefore, more complex than in the past. We will examine current thinking about what it means to be British and aspects of daily life such as faith, politics, work leisure, music, sports, humour and the media.

到達目標:

Students will learn the following:
1.Knowledge about contemporary British culture and society, including the tensions between so-called "traditional" and the modern, complex, multi-cultural society that is Britain today.
2.Knowledge about the notion of "culture" and stereotypical ideas that are part of how any culture and society define itself.
3.Students will be able to write a research paper on a topic related to the course and give a presentation.
In short, students will be able to think critically about culture and society. They will also develop their English writing, presentation and communication skills in this class. Finally, they should be motivated to learn more about the United Kingdom after pursuing their own research in this class.

授業方法:

This class will be conducted entirely in English and is a combination of lecture, student presentations and peer review. At the beginning of the semester, students will select a topic for in-depth study and presentation. They will work on this topic for the entire semester, giving two mid-term presentations demonstrating the progress on their research. At the end of the semester they will present their findings to the class. Students will also take notes on the lectures, review the handouts, and learn the new vocabulary by the next class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to this course and the topics	Students should review the on-line syllabus and be ready to say what aspects of British society and culture are most interesting to them.
2.	Introduction to the traditional symbols and geography of the UK	Students should choose a topic and find three references.
3.	Introduction to the history of the UK	Students should review handouts and work on their research projects.
4.	Introduction to the history of the UK	Students should review handouts and work on their research projects.
5.	Mid-term presentation 1	Students will prepare an introduction to their topic to present to the class.
6.	Faith in the UK	Students should review handouts and continue working on their research projects as they add more references.
7.	Politics in the UK	Students should review handouts and continue working on their research projects as they add more references.
8.	Work and leisure in the UK	Students should review handouts and prepare for the 2nd presentation on their research projects.
9.	Mid-term presentation 2/ Work on thesis statements	Students will prepare for their 2nd presentations due in class.
10.	Music and sports in the UK	Students should review handouts and continue working on their research projects.
11.	Media in the UK/ peer review of research papers	Students should review handouts and continue working on their research projects.
12.	Peer review of a 4-page draft of the research papers	Students will prepare a 4-page draft of their research papers for the peer review in class.
13.	Humour in the UK	Students will review the handouts and work on finishing their papers and final presentations for the last classes.
14.	Presentations	Students who are presenting today will finish and turn in their papers as well as give a presentation.
15.	Presentations and conclusions	Students should review handouts and continue working on their research projects.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Your independent research project is important for achieving the learning goals of this class. Please participate positively and offer constructive feedback to your fellow students.

フィードバックの方法:

Students will turn in written assignments for the mid-term presentation #1 and #2 as well as the draft of their papers. They will receive written comments from the instructor and feedback from their fellow students.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Mid-term presentation 1	15%	Demonstrate knowledge of basic facts about the topic
Mid-term presentation 2	15%	Demonstrate more in-depth research on the topic and has a thesis statement
Peer review of 4-page draft	20%	Turns in a 4-page draft and participates positively in the peer review
Final research paper	25%	Fulfills the requirements set out at the beginning of the assignment
Final presentation	25%	Communicates clearly and convincingly one's thesis about the topic

教科書:

There is no textbook for this class.

参考書:

Reference materials will be introduced based on the student's choice of topic and level of English ability.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Ask in the class room before and/or during class

160560

Studies in English C

M.Furmanovsky

授業テーマ:

Students will learn about the history of American Entertainment in the 20th century. The focus will be on how immigrants and their children; African-Americans and certain talented individuals shaped the popular culture of the U.S. Students will give presentations on research they conduct about three topics of their choice. Content will be balanced with language and vocabulary acquisition.

授業の概要:

This class will look at the main types of visual-based entertainment (especially movies) that shaped American culture in the 20th century. Special attention will be given to the beginnings of the mass entertainment business especially the role of vaudeville, silent movies, musicals, romantic comedies, "women's" movies and Disney. Students will learn how to to give a short presentation in small groups on a topic that they research using (a) articles uploaded to the manabe site and (b) visual and text sources that they find on the web.

到達目標:

Students will learn to talk about the following topics in American entertainment history
(a) Minstrel shows (Blackface) and Circuses 1850-1910
(b) Vaudeville (theater-based dancing, singing, comedy) 1910-20
(c) Silent Movie stars 1920-30
(d) Movie musicals 1935-65
(e) Screwball comedies and Film Noir 1940s
(f) Musicals of the 1940s and 1950s
(g) Disney and animation 1950-65
(h) Teenagers and"Bad Boys" in the 1950s
(i) British movies in the 1960s and 1970s

授業方法:

The instructor will give short lectures using youtube videos and images. Students will then get into groups according to the topics they choose for their reports and discuss what they learned.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the class and American culture before mass media: Circuses, Minstrel Shows, Blackface	Read handout
2.	Vaudeville (theater-based tap dancing, singing, comedy kits) 1910-30 + Discussion	Download relevant articles
3.	Silent and Pre Code stars (Chaplin, B. Keaton, R. Valentino, C. Bow, M. Pickford, J. Harlow) 1915-25 + Discussion	Read relevant manabe articles for report
4.	1930s Musicals 1935-65 Shirley Temple , Judy Garland Fred Astaire + Discussion	Individual research and find main points in uploaded manabe articles
5.	Work in Class on Report 1	Complete report
6.	Report 1 due & share research and talk about reports	None
7.	Screwball Comedy in the 1930s & 1940s (C Colbert, C. Lombard, K Hepburn, B Stanwyck)	Download relevant articles
8.	Film Noir and Detective Movies in 1940s &1950s (H. Bogart, J. Cagney, Lauren Bacall, Joan Crawford, B Stanwyck)	Read relevant manabe articles for report
9.	Glamorous women of 1940s & 1950s (R. Haworth, B. Davis, G. Kelly, M Monroe) & Bad Boys and Troubled Teenagers (M Clift, J. Dean, M Brando)	Individual research and find main points in uploaded manabe articles
10.	Work in class on Report 2	Complete report
11.	Report 2 due & share research and talk about reports	None
12.	Disney Movies 1950s and 1960s	Read relevant manabe articles for report
13.	British Adventure Movies	Individual research and find main points in uploaded manabe articles
14.	Work in class on Report 3	Complete report
15.	Report 3 due & share research and talk about reports	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students will need to become familiar with how to select, download and use articles uploaded by the instructor and share their findings in groups. Good research skills will also be needed for the three reports.

フィードバックの方法:

All reports will receive individual feedback and the instructor will meet with all groups who share the same report topic

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	25	An attendance and learning diary will be used every week
Reports	75	Three 5-paragraph reports will be given

教科書:

Articles will be uploaded to the manabe site

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:

michael@world.ryukoku.ac.jp

160660 **Studies in English D**

M.Furmanovsky

授業テーマ:

Students will learn about the history and development of fashion culture in the 20th Century. The focus will be on how a small number of actresses, pop stars and movie costume designers shaped the development of fashion culture in the U.S and much of the west. Students will give presentations on research they conduct about three actresses, designers or movies (featuring fashionable actresses) of their choice. Content will be balanced with language and vocabulary acquisition.

授業の概要:

In this class we will (a) examine how fashion has been used to make movies more exciting and appealing, especially for young women and (b) see how fashion worn by a small number of important actresses and popular music stars in certain key movies shaped the way many young people in the west and Japan have expressed their identity.

到達目標:

Students will develop an understanding of how fashion and the culture behind it has shaped the history of women's image and status and contributed to America's central role in popular culture. They will also be able to reflect on the role fashion plays in their lives and gain a better understanding its ability to reshape identity and status.

授業方法:

The instructor will show key scenes from around 50 movies from 1920-2010 in which certain important actresses introduced the clothing styles and related personas that shaped women's fashion tastes and choices for that era. These will be supplmented by around 100 articles uploaded to the manabe site. Students will select relevant articles based on their topic choices.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Fashion Culture	Read handout
2.	Fashion in Silent Movies	Download relevant articles
3.	Fashion in Flapper Era silent movies	Choose topic and read relevant articles
4.	Fashion in the 1930s	Work on Report 1
5.	Work on Report 1 in class	Complete Report 1
6.	Report 1 due and sharing of research in small groups	None
7.	Fashion during and after World War 2	Choose topic and read relevant articles
8.	Fashion in the Glamorous 1940s and Early 1950s	Work on Report 2
9.	Fashion Icons of the 1950s and Early 1960s	Work on Report 2
10.	Work on Report 2 in class	Complete Report 2
11.	Report 2 due and sharing of research in small groups	None
12.	French and British Fashion in the Movies and Pop Culture, 1959-65	Choose topic and read relevant articles
13.	Fashion in the Feminist and modern Era, 1970-2000	Work on Report 3
14.	Work on Report 2 in class	Complete Report 3
15.	Report 3 due and sharing of research in small groups	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class is NOT about "fashion" but about the the history of "fashion culture" as it developed in American movies, popular entertainment and mass media in the 20th Century

フィードバックの方法:

The instructor will give feedback on all reports and meet with the members of groups who are working on a particular topic or movie or actress.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	25	An attendance and learning diary will be used every week
Reports	75	Three 5-paragraph reports will be assigned

教科書:

Articles will be uploaded to manabe

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

michael@world.ryukoku.ac.jp

160760

Studies in English E

M.Larking

授業テーマ:

Studies in Folklore and Mythology, Fantasy and Fiction

授業の概要:

The course is an introduction to folklore and mythology in selected literature from Europe and Japan. In addition to examining some of the approaches to how they have been studied, we will consider the functions, performance and audiences of folk tales addressing issues of daily life, in the past and now, individual and group identity, and the construction of culture, society. A particular focus of each class will be to discern the relevance of particular readings in relation to culture and society as we experience it today. The course will ensure regular readings and their comprehension from a number of texts typifying folk and mythology literature.

到達目標:

To develop proficiency in the reading and analysis of a number of texts exemplifying fairy tale and folk discourses. Improve academic analytical abilities and written academic presentation skills. Improve research and citation methods. Improve note-taking skills. Deepen cultural and cross-cultural understanding. Comprehending cultural values and traditions through literature, and how these change over time in their telling and re-telling. Understanding the relevance of these literature traditions to contemporary society.

授業方法:

The first sessions of the course will be lecture intensive. Thereafter the course will follow a lecture format after which follows selected readings, then analysis of them both orally and in writing. Discussion of texts will be with the instructor and within small groups. Writing produced in class will form the basis of the homework assignments to be submitted the following week during class time.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course and its aims. Little Red Riding Hood	Reading around the issues raised in class
2.	The Adventures of Kintaro	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
3.	Cinderella	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
4.	The Story of the Old Man Who Made Withered Trees Flower	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
5.	Hansel and Gretel	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
6.	The Story of the Man Who Did Not Wish to Die	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
7.	Beauty and the Beast	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
8.	Mid-term review of the course - in class. The Ogre of Rashomon	Reading for the following week
9.	Bluebeard	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
10.	The Happy Hunter and the Skillful Fisher	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
11.	East of the Sun and West of the Moon	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
12.	The Quarrel of the Monkey and the Crab	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
13.	The Emperor's New Clothes	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
14.	The Ugly Duckling	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
15.	Conclusion	No assignments given in the last class

受講者へのメッセージやアドバイス:

No particular background in literature is required for this course though familiarity with some of the readings in the student's own native language is an expectation. Outside class work is largely self-directed though can be done in consultation with the instructor. Simply reciting the readings and analyses addressed in lectures will not be sufficient for the best grades determined by the middle and final semester reviews. Reading and writing outside class is a course expectation. The above schedule is tentative, and further readings may be added (or replaced) depending on the general class level and the level of interest shown by students.

フィードバックの方法:

The instructor will provide individual students with as much feedback as is possible, but this will depend rather on the number of course enrollments. In-class submissions are usually bi-weekly and will be numerically graded, and extensive reviews of the course are taken at its mid-point and in the final class of semester - these will be returned with comments to students, with the except of the final course review (i.e. conclusion). Students are encouraged to come to the instructor to inquire about their performance in the first instance during class time. Opportunities for in-class teacher-student discussion of this kind will be provided during each class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class attendance and attitude	25	Active engagement in the course
Mid-term review	25	Written review of the issues addressed in the course to date, making extensive reference to student's own reading outside the class.
Conclusion	25	Written review of the semester making extensive reference to student's own reading outside the class.
Weekly story analyses	25	Covers in-class analyses over the semester

教科書:

No textbook is assigned

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: Ask during class

160860 **Studies in English F**

M.Larking

授業テーマ: Studies in Fantasy and Science Fiction Literature

授業の概要: The course is an introduction to fantasy and science fiction in selected literature – predominantly short, self-contained examples from the genres, both by Western and Japanese writers. We will examine some of the approaches to how they have been studied, consider the functions, performance and audiences of fantasy and science fiction literature in addressing issues of habitable worlds that are magical, futuristic, and sometimes prescient of today, in particular respects. The course will ensure regular readings, their comprehension, analysis and interpretation.

到達目標: To develop proficiency in the reading and analysis of a number of texts exemplifying fantasy and science fiction literature discourses. Improve academic analytical abilities and written academic presentation skills. Improve research and citation methods. Improve note-taking skills. Deepen cultural and cross-cultural understanding. Comprehending cultural values and traditions through literature, and how these change over time. Understanding the relevance of these literature traditions to contemporary society.

授業方法: The first sessions of the course will be lecture intensive. Thereafter the course will follow a lecture format after which follows selected readings, then analysis of them both orally and in writing. Discussion of texts will be with the instructor and within small groups. Writing produced in class will be worked up for submission the following week, in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Course and Its Aims Baby HP	Reading around the issues raised in class
2.	Standing Woman	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
3.	When it Changed	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
4.	Reiko's Universe Box	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
5.	Good News From the Vatican	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
6.	New Rose Hotel	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
7.	Nine Hundred Grandmothers	Reading around the issues raised in class. Preparation for the mid-term review.
8.	Mid-term review of the course Day Million	Reading around the issues raised in class
9.	Soft Clocks	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
10.	The Last Question	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
11.	2BRO2B	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
12.	Two Small Birds	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
13.	The Star	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
14.	Plenitude	Reading around the issues raised in class. Preparation for the final review.
15.	Conclusion	Reading around the issues raised in class – these will inform what is tested in this class.

受講者へのメッセージやアドバイス: No particular background in literature is required for this course. Outside class work is largely self-directed though can be done in consultation with the instructor. Simply reciting the readings and analyses addressed in lectures will not be sufficient for the best grades determined by the middle and final semester reviews. The above schedule is tentative, and further readings may be added depending on the general class level.

フィードバックの方法: The instructor will provide individual students with as much feedback as is possible, but this will depend rather on the number of course enrollments. In-class submissions are usually bi-weekly and will be numerically graded, and extensive reviews of the course are taken at its mid-point and end in the final class of semester – these will be returned with comments to students. Students are encouraged to come to the instructor to inquire about their performance in the first instance during class time. Opportunities for in-class teacher-student discussion of this kind will be provided during each class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class attendance and attitude	25	Active engagement in the course
Mid-term review	25	Written review of the issues addressed in the course to date, making extensive reference to student's own reading outside the class.
Conclusion	25	Written review of the semester making extensive reference to the student's own reading outside the class
Weekly story analyses	25	Covers in-class analyses over the semester

教科書: No textbook is assigned

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: Ask during class

160960

Studies in English G

A.S.Willis

授業テーマ:

Basic Concepts in International Development

授業の概要:

The students will read about basic concepts and ideas that are important to developing countries. We will read about and discuss some specific problems in some countries and talk about some NGOs and their projects. "Case Study" means looking at some specific projects or country problems.

The schedule and the contents of this course are changeable according to student choices.

Students can choose some of the countries, topics and organizations we discuss if they like. They may also choose whether to have quizzes or write short paragraph responses or summaries.

到達目標:

To learn basic concepts involved in development of countries
To study international development ideas in English
To learn how to read graphs and explain them

授業方法:

Text reading, teacher instruction, note-taking, review, some discussion of responses

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Economic growth and human development -- the difference	Reading worksheet
2.	Economic growth and human development -- the difference Case Study	Reading worksheet
3.	Easy group quiz on economic growth and development How development is measured Reading graphs	Reading worksheet or written response
4.	How development is measured Case Study	Reading worksheet and study sheet
5.	Easy quiz on development measurement Categories of development	Reading worksheet or written response
6.	Categories of development Case Study	Quiz study sheet
7.	Easy quiz on categories of development Population growth and development	Reading worksheet or written response
8.	Population growth and development Case Study	Reading worksheet; quiz study sheet
9.	Easy quiz on population growth and development Education and development	Reading worksheet; quiz study sheet
10.	Education and development	Reading worksheet
11.	Education and development	Reading worksheet Quiz study sheet or written response
12.	Easy quiz on education and development or written response discussion Health and development	Reading worksheet
13.	Health and development NGOs -- students' choices	Reading worksheet; choose NGO
14.	Easy quiz on health and development NGOs -- students' choices	NGO worksheet
15.	Short reports on and discussions of NGOs Review	finished

受講者へのメッセージやアドバイス:

The plan of this course is only tentative. It will actually be very flexible so that students can make choices on what and how we study ideas in international development.

フィードバックの方法:

Class discussion and quiz evaluations or comments on written responses if appropriate

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes and written responses	55	quizzes will be based on in-class discussion and reading worksheets; written responses are very short responses (one paragraph)
Participation in class	25	participation involves attendance and discussion; usually the class is small and discussion is easy
Homework	20	to be explained weekly -- mainly reading worksheets

教科書:

World Bank, Beyond Economic Growth -- free and online

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	awillis@dwc.doshisha.ac.jp

161060 **Studies in English H**

A.S.Willis

授業テーマ:

授業の概要: Learning about justice and violence against the poor in developing countries

到達目標: To learn how violence prevents development
To learn what violence happens among the poor in developing countries
To learn ways that this violence can be stopped

授業方法: videos with transcripts (for reading as well as listening)
teacher explanations, class discussion
worksheets and student short written responses

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Class introduction and explanation Begin Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review TED talk worksheet
2.	Gary Haugen -- a good source? Continue Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review worksheet from class Write short response to Gary Haugen TED Talk
3.	Continue Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review worksheet from class
4.	Easy quiz on Haugen and violence Continue Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review worksheet from class Write short response to Gary Haugen TED Talk Preview Locust Effect web site
5.	Explore Locust Effect web site with worksheet Choose small portion of site to give short report on	Review worksheet from class Prepare short report
6.	Discuss Locust Effect web site and short reports on it	Preview portions of next video: Google Talks with Gary Haugen
7.	Discuss Gary Haugen Google Talk with worksheet	Review Google Talk worksheet
8.	Discuss Gary Haugen Google Talk with worksheet	Review Google Talk notes
9.	Easy quiz on Google Talk points Discuss Haugen's Congressional hearing on slavery	Write short response to Google Talk Review notes on Haugen's Congressional hearing
10.	Continue Haugen's Congressional hearing on slavery	Write short response to Haugen's Congressional hearing Review notes for quiz
11.	Easy quiz on Haugen's Congressional hearing Introduction of articles on ACLJ rescuing child brides in Kenya	Read assigned article on ACLJ rescue of Kenyan child brides; prepare to summarize it for class
12.	ACLJ article summaries and discussion	Review notes
13.	ACLJ article summaries and discussion Other sources of violence against the poor	Review notes Write short response to ACLJ articles Skim short excerpts from Scent of Water
14.	Discuss other sources of violence against the poor as seen in Scent of Water excrpts	Write short response to discussion on violence read about in Scent of Water
15.	Discuss responses Review and wrap up	Finished

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: in-class discussion, quiz grades and notes, written or oral comments on written responses

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Short Written Responses	60	These will be written summaries and responses to the material discussed in class. They should show an understanding of the material and also some of the student's own deep thoughts on the topic.
Quizzes	10	Quizzes will be questions regarding important points in the videos, discussions, or articles. They will only be questions on what is covered in class.
Participatioin	30	This is more than attendance. It will include discussion participation and the use of English. This class is normally small so that it is easy to feel comfortable speaking.

教科書: none

参考書: Please always bring a dictionary of your choice to every class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: awillis@dwc.doshisha.ac.jp

161160 **Studies in English I**

北尾　キャスリーン

授業テーマ: Linguistic Pragmatics

授業の概要: In this class, we will look at different aspects of Linguistic Pragmatics, including politeness, requests, and apologies.

到達目標: The purpose of this course is for students to learn about the principles of Linguistic Pragmatics and how they apply to students' experiences

授業方法: Students will read about linguistic pragmatics or listen to lectures and discuss what they learn. They will discuss and write about the application of what they are learning to their own experiences.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	none
2.	What is Linguistic Pragmatics?	Read and answer questions
3.	Brown and Levinson's Politeness Theory -- Positive and Negative Politeness 1	Read and answer questions
4.	Brown and Levinson's Politeness Theory -- Positive and Negative Politeness 2	Answer discussion questions
5.	Geoffrey Leech's Politeness Maxims 1	Read and answer questions
6.	Geoffrey Leech's Politeness Maxims 2	Answer discussion questions
7.	Speech Acts 1 -- Requests and Refusals	Read and answer questions
8.	Speech Acts 2 -- Requests and Refusals	Answer discussion questions
9.	Speech Acts 3 -- Apologies	Read and answer questions
10.	Speech Acts 4 -- Apologies	Answer discussion questions
11.	The Cooperative Principle and Conversational Maxims 1	Read and answer questions
12.	The Cooperative Principle and Conversational Maxims 2	Answer discussion questions
13.	Speech Act Theory and Pragmatic Competence 1	Read and answer questions
14.	Speech Act Theory and Pragmatic Competence 2	Answer discussion questions
15.	Conclusion	none

受講者へのメッセージやアドバイス: Note: Topics may vary.

フィードバックの方法: Discussion with students

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final test	40%	Demonstration of application of what student has learned
Homework	60%	Demonstration of application of what student has learned

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: kkitao217@yahoo.com

161260 **Studies in English J**

D.Clayton

授業テーマ: Corpus Linguistics in English.

授業の概要: Students will use computers to operate corpus software and investigate language use, and build and investigate corpora.

到達目標: Students will learn:
·key terms and concepts related to corpus linguistics.
·how to use concordancing software to analyse corpora.
·the key issues related to building a corpus.

授業方法: A variety of methods will be employed including: lectures, worksheets, pairwork, group work, individual work and computer based study.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction. Computer skills introduction.	Prepare for Quiz 1
2.	Linguistic terms introduction. Introduction to corpus software and concordance lines.	Prepare for Quiz 1
3.	Quiz 1 – Computer and linguistic terms. Concordance analysis I	Prepare for Assignment 1
4.	Concordance analysis II Antconc	Prepare for Assignment 1
5.	Concordance analysis III Creating concordance line worksheets	Prepare for Assignment 1
6.	Creating concordance line worksheets	Prepare for Assignment 1
7.	Assignment 1: Concordance worksheet Creating a corpus: pop music I	Prepare for Assignment 2
8.	Creating a corpus: pop music II	Prepare for Assignment 2
9.	Creating a corpus: pop music III	Prepare for Assignment 2
10.	Assignment 2: Pop Music Creating a corpus: Trump tweets I	Prepare for Assignment 3
11.	Creating a corpus: Trump tweets II	Prepare for Assignment 3
12.	Creating a corpus: Trump tweets III	Prepare for Assignment 3
13.	Using corpus software: Online corpora I	Prepare for Quiz 2
14.	Using corpus software: Online corpora II	Prepare for Quiz 2
15.	Using corpus software: Online corpora III Quiz 2: Antconc	Prepare for Quiz 2

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Feedback will be provided verbally and in writing on all completed assignments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes	40	To be explained in class
Assignments	60	To be explained in class

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法: dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

161360

Studies in English K

D.Clayton

授業テーマ:

The study of communication in organisations.

授業の概要:

Students will be introduced to, encouraged to discuss and engage in different aspects of organizational communication over the semester. Key themes of the course are understanding communication flows, concepts such as 'the grapevine', formal and informal communication networks and some contemporary issues in organizational communication.

到達目標:

Students will be able to identify key characteristics of different types of organisations and how communication manifests itself within each. Students will be able to apply their own experience of communication in organisations to the theoretical models presented in the course.

授業方法:

The format of each class will vary slightly as the course progresses. Students will be required to listen to a short lecture followed by discussion and group activities. The summative assessment will require students to write an essay about an Organisational Communication case study.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction What is organizational communication? Types of organisation.	Prepare for Quiz 1 and Presentation 1
2.	Characteristics of organisations Nonprofit and Profit organisations	Prepare for Quiz 1 and Presentation 1
3.	Focus on communication / myths about communication Components of communication Presentation: An Organisation.	Prepare for Quiz 1 and Assignment 1
4.	Communication networks Formal communication: downward and upward	Prepare for Quiz 1 and Assignment 1
5.	Formal communication: horizontal Social communication	Prepare for Quiz 1 and Assignment 1
6.	Informal communication “Grapevine” and Gossip activity Quiz 1: Organisations and Communication	Prepare for Quiz 2 and Assignment 1
7.	Power and status	Prepare for Quiz 2 and Assignment 1
8.	Assignment 1: Technology and Grapevines Compliance	Prepare for Quiz 2
9.	Conflict Quiz 2	Prepare for Assignment 2
10.	Conflict management case study.	Prepare for Assignment 2
11.	Putting it all together: The Devil Wears Prada I	Prepare for Assignment 2
12.	Putting it all together: The Devil Wears Prada II	Prepare for Assignment 2
13.	Nonverbal communication in organisations I Assignment 2	None
14.	Nonverbal communication in organisations II	None
15.	Conclusion Quiz 2	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback will be given in verbal and written form, depending on the task undertaken.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes	40	Quiz questions
Written Assignments	40	To be explained in class
Presentation	20	To be explained in class

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

dclayton@dwc.doshisha.ac.jp

161660

アメリカの社会と文化

富澤　　理英子

授業テーマ:　アメリカの社会と文化を学ぶ

授業の概要:　アメリカの文化はあらゆる形で日本に導入され、アメリカ社会に関するあらゆる情報も伝えられているが、私達はアメリカという国の文化や社会の実像を本当に捉えられていると言えるだろうか。本講では英語圏の国「アメリカ」を表層のイメージで捉えず深く理解するために、その文化と社会と歴史に関する基礎的な知識や様々な概念を習得しながら、「アメリカ」に対する自分の観方、考え方、判断基準の確立を試み、世界で生じる様々な社会問題や異文化に関する強い関心を持ち、異なる文化と価値観を持つ相手の意見を理解しようとする柔軟な態度を身につけること　を目標とする。

到達目標:　建国期から現代に至るアメリカのあらゆる多元的文化・社会現象を具体的な事例に基づいて学際的手法で多角的に考察していく。そして「アメリカ文化」という「他文化」と向き合うことで現代のグローバル社会の中の「自文化」と「自己」をいかに規定するかを検討する事を目指す。また、

*英語圏の国であるアメリカの文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持つこと
*世界で生じる様々な社会問題や異文化に関する強い関心を持つこと
*異なる文化や価値観の相手の意見を理解しようとする柔軟な態度を身につけること　を目標とする。

（英米間の文化や社会の関係や比較も扱うので、できる限り後期の「イギリス文化と社会」と通年で取る事が望ましい。）

授業方法:　講義が中心であるが、各種文献の読解、映画、音楽、各種美術等多様な教材における各種論題に関する考察、論点整理とアクティブ・ラーニング（意見発表、グループワークやディスカッション）も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。（受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
2.	アメリカの多元的文化と社会の基本知識(1)	講義内容を復習しておくこと。
3.	アメリカの多元的文化と社会の基本知識(2)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
4.	社会の変化と文化の普及(1)	講義内容を復習しておくこと。
5.	社会の変化と文化の普及(2)	講義内容を復習しておくこと。
6.	事例研究(1)（ジャズ・エイジの映画と音楽等）	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
7.	対抗文化の生成(1)	講義内容を復習しておくこと。
8.	対抗文化の生成(2)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
9.	事例研究(2)（60年代のアメリカ）	講義内容を復習しておくこと。
10.	成功の哲学と多元的文化(1)	講義内容を復習しておくこと。
11.	成功の哲学と多元的文化(2)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
12.	事例研究(3)（ベンジャミン・フランクリン、スティーブ・ジョブズ等）	講義内容を復習しておくこと。
13.	大統領達や各種活動家達の演説とアメリカの理想(1)	講義内容を復習しておくこと。
14.	事例研究(4)（ケネディ、ジェーン・アダムズ、オバマ等）	講義内容を復習しておくこと。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ペーパー（各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント）、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する

返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30%	授業への積極的参加度 出席状況（原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要）授業中の活動（各種読解演習、事前に配布された文献の読解、議論やグループワークへの参加、意見の発表等） *アメリカと、世界で生じる様々な社会問題や異文化に関する強い関心を持つこと *異なる文化や価値観の相手の意見を理解しようとする柔軟な態度ができるようになったかを評価する。
レポート	70%	各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度（英語圏の国であるアメリカの文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持てているか） 世界で生じる様々な社会問題や異文化に対する強い関心と 異なる文化や価値観の相手の意見を理解しようとする柔軟な態度が反映されているか、また、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。＊レポート試験は学期末に一回提出とする。

教科書:　教科書はプリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用する。

参考書:　適宜　授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Email　（授業中に指示する）

161760

イギリスの社会と文化

富澤　　理英子

授業テーマ:　イギリスの多元的文化と社会の考察

授業の概要:　本講は16世紀から現代に至るイギリスの文化と社会に関する知識を習得しながらイギリスのあらゆる多元的文化・社会現象を理解し、判断するための基準を確立する作業に取り組む。

到達目標:　イギリスの多元的文化と社会を学際的方法で多角的に理解する姿勢を身につける。また、
*英語圏の国であるイギリスの文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持つこと
*世界で生じる様々な社会問題や異文化に関する強い関心を持つこと
*異なる文化や価値観の相手の意見を理解しようとする柔軟な態度を身につけることを目標とする。

（英米間の文化と社会の関係や比較も扱うので、できる限り前期の「アメリカの文化と社会」と通年で取る事が望ましい。）

授業方法:　講義が中心であるが、各種文献の読解、映画、音楽、各種美術等多様な教材における各種論題に関する考察、論点整理とアクティブ・ラーニング（意見発表、グループワークやディスカッション）も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。（受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
2.	イギリスの多元的文化と社会の基本知識(1)	講義内容を復習しておくこと。
3.	イギリスの多元的文化と社会の基本知識(2)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
4.	社会の変化と多元的文化(1)	講義内容を復習しておくこと。
5.	社会の変化と多元的文化(2)	講義内容を復習しておくこと。
6.	事例研究(1)(「リトル・ダンサー」等も参照)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
7.	対抗文化の生成とポピュラーカルチャーの諸相(1)	講義内容を復習しておくこと。
8.	事例研究(2)（60年代　スウィンギング・ロンドン等）	講義内容を復習しておくこと。
9.	帝国主義(1)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
10.	事例研究(3)(「インドへの道」等も参照)	講義内容を復習しておくこと。
11.	帝国主義と王室文化	講義内容を復習しておくこと。
12.	首相達や各種活動家達の演説と多元的社会(1)	翌週の授業で使用する文献を読んでおくこと。
13.	首相達や各種活動家達の演説と多元的社会(2)	講義内容を復習しておくこと。
14.	事例研究(4)(サッチャー、ブレアのスピーチ等)	講義内容を復習しておくこと。
15.	総括	講義内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ペーパー（各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント）、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する

返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30%	授業への積極的参加度 出席状況（原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要）授業中の活動（各種読解演習、事前に配布された文献の読解、議論やグループワークへの参加、意見の発表等） *イギリスと、世界で生じる様々な社会問題や異文化に関する強い関心を持つこと *異なる文化や価値観の相手の意見を理解しようとする柔軟な態度ができるようになったかを評価する。
レポート	70%	各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度（英語圏の国であるイギリスの文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持てているか） 世界で生じる様々な社会問題や異文化に対する強い関心と 異なる文化や価値観の相手の意見を理解しようとする柔軟な態度が反映されているか、また、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。＊レポート試験は学期末に一回提出とする。

教科書:　教科書はプリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用する。

参考書:　適宜　授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Email（授業中に指示する）

161860

イギリスの表象文化

風間　　末起子

授業テーマ:　イギリスのビクトリア朝文化（19世紀）を中心に、イギリスの表象文化を学習する。

授業の概要:　授業では、イギリスの繁栄の時代、19世紀ビクトリア朝時代を中心に、イギリスのさまざまな文化様式について、同時代の小説を使って学んでいく。ジェンダー、階級、ロンドン、荒野などがキーワードである。

到達目標:
・英語圏の国々の文化・歴史・社会についての基礎的な知識を持っている。
・異なる文化や価値観の相手の意見を理解しようとする柔軟な態度を身に付けている。

授業方法:　人数に応じて工夫をするが、基本的には講義形式で行う。パワーポイントや配布プリントを使って講義する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	予習は不要だが、授業内容に挙がっている小説（日本語の翻訳）を読んだり、映画を観ておくと理解度が増すだろう。
2.	家具：中産階級の文化表象（小説Mayor of Casterbridge, Jane Eyreなど）	上記と同じ
3.	調度（壁紙）：産業革命へのプロテスト（William Morrisなど）	上記と同じ
4.	前回の続き	上記と同じ
5.	ゴシックという概念（Horace WalpoleのCastel of Otranto, 1764など）	上記と同じ
6.	前回の続き	上記と同じ
7.	ラファエロ前派の絵画（Dante Gabriel Rossettiなど）	上記と同じ
8.	ロンドンを知っておこう：マップ	上記と同じ
9.	ロンドンという表象（1）：労働者階級の表象（DickensのOliver Twistなど）	上記と同じ
10.	ロンドンという表象（2）：上層中産階級の表象（Virginia WoolfのMrs.Dallowayなど）	上記と同じ
11.	前回の続き	上記と同じ
12.	ロンドンという表象（3）：中産階級の表象（Margaret DrabbleのThe Milstoneなど）	上記と同じ
13.	荒野という表象（1）：荒野を歩くヒロインその1（The Return of the Nativeなど）	上記と同じ
14.	荒野という表象（2）：荒野を歩くヒロインその2（Wuthering Heightsなど）	上記と同じ
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　19世紀のイギリス小説と文化は理解しやすい分野です。授業では文化の根幹にある精神を読みとりながら、視覚的にも楽しみもながら、学んでいきたいと思います。

フィードバックの方法:　講義について質問があれば、授業の前後などで、いつでも受け付ける。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験（マークシート形式）	70%	授業で学んだ知識についての理解度を問う。
授業への積極的参加度	30%	出席を取る。

教科書:　使用しない。

参考書:　毎回、授業中にハンドアウト（配布プリント）を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。およびマナビーやEメールによる連絡。

161960

アメリカの表象文化

滝野　　哲郎

授業テーマ:

授業の概要:

アメリカの表象文化について、さまざまな文献（英文）を通して理解を深めることを目指す。授業では、独立革命・建国期から南北戦争にいたる歴史を辿りつつ、それぞれの時期におけるアメリカの表象文化について考察する。当時の日記、手紙、写真、挿絵などを通して、人びとの生活、考え方、想像力について理解を深め、さらにそれを手がかりにして、現代アメリカの表象文化についても考える。

到達目標:

1. 南北戦争以前の表象文化について理解を深め、それを説明できること
2. 当時の文献を原文で正確に理解し、それを説明できること
3. 関心のあるテーマについて考察し、それについて発表できること

授業方法:

講義、講読、発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	イギリス領アメリカ植民地	文献（英文）を読んでおくこと
3.	独立革命・建国 (1)	文献（英文）を読んでおくこと
4.	独立革命・建国 (2)	文献（英文）を読んでおくこと
5.	独立革命・建国 (3)	文献（英文）を読んでおくこと
6.	領土拡張 (1)	文献（英文）を読んでおくこと
7.	領土拡張 (2)	文献（英文）を読んでおくこと
8.	領土拡張 (3)	文献（英文）を読んでおくこと
9.	領土拡張 (4)	文献（英文）を読んでおくこと
10.	都市の発展(1)	文献（英文）を読んでおくこと
11.	都市の発展(2)	文献（英文）を読んでおくこと
12.	都市の発展(3)	文献（英文）を読んでおくこと
13.	南北の対立(1)	文献（英文）を読んでおくこと
14.	南北の対立(2)	文献（英文）を読んでおくこと
15.	まとめ	これまでの文献（英文）を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	30%	到達目標にかんする知識と理解により評価する。
発表	25%	テーマについて説得力のある発表ができているかを基準とする。
レポート2回	15% x2	達成目標を理解したうえで、考察や見解を適切にまとめられているかを基準とする。
授業への参加	15%	積極的に授業に参加しているかを基準とする。

教科書:

Joy Hakim, Liberty for All? (Oxford University Press, 2007).

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業後に教室内で応対、Eメール

162060

プラクティカルコミュニケーション

布施　　邦子

授業テーマ:　コミュニケーションのメカニズムを学ぼう

授業の概要:　「コミュニケーション能力」「コミュニケーション不足」「コミュニケーションの必要性」などなど、日常生活の様々なシーンで「コミュニケーション」という言葉が使われていますが、コミュニケーションっていったい何なのでしょう？その仕組みやメカニズムを研究するのがコミュニケーション論という学問です。この講座では、身近な例を取り上げながらコミュニケーションの諸相について考察していきます。授業を通して、自分のコミュニケーションスタイルを振り返るのもよし、コミュニケーションスキルの向上を目指すのもよし。この授業をきっかけに、一人一人が自分と他人との関わり方について考えてみてください。

到達目標:
1）言語・非言語のコミュニケーションに関する基礎理論を習得する。
2）コミュニケーションの主体である「自己」の概念を確認する。
3）様々な価値観を持つ「他者」との関係性から、自らのコミュニケーションを客観的に分析する能力を養う。

授業方法:　本講座は1回90分で、半期の授業です。テキストをベースにし、事例などを交えながらコミュニケーションの諸相を見ていきます。学期末の課題プロジェクトでは、グループによる発表とその過程について各自が分析したことをレポートにまとめます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション：詳細シラバスの配布 授業の進め方、評価方法、課題プロジェクトについての詳細説明	受講者は必ずテキストを購入しておくこと。 授業計画に従って、各章に目を通して授業にのぞむこと。
2.	コミュニケーションとは【1】	テキスト　第2章
3.	コミュニケーションとは【2】	テキスト　第2章
4.	言語を使ったコミュニケーション【1】	テキスト　第3章
5.	言語を使ったコミュニケーション【2】 プロジェクト：グループとテーマの決定	テキスト　第3章
6.	非言語によるコミュニケーション【1】	テキスト　第4章 プロジェクト：先行研究
7.	非言語によるコミュニケーション【2】	テキスト　第4章 プロジェクト：先行研究
8.	コミュニケーションと認識【1】	テキスト　第5章 プロジェクト：先行研究
9.	コミュニケーションと認識【2】	テキスト　第5章 プロジェクト：方針検討
10.	コミュニケーションと説得	テキスト　第6章 プロジェクト：方針検討
11.	対人コミュニケーション【1】 プロジェクト：作業日	テキスト　第7章 プロジェクト：発表準備
12.	対人コミュニケーション【2】	テキスト　第7章 プロジェクト：発表準備
13.	小集団コミュニケーション	テキスト　第8章 プロジェクト：　最終確認
14.	プロジェクト課題発表	プロジェクト発表の準備
15.	授業の総括と期末評価	講義内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講義は社会科学を扱いますので、この機会に新聞・ニュース・雑誌などをチェックする習慣を身につけ、現在の社会を客観的に把握できる努力をしてみてください。また、プロジェクトについては、ほとんどの作業を授業外で行うことになります。授業内に設けた準備日を有効に利用し、グループのメンバーと連絡を取りながら、文献や資料探し、打ち合わせ、資料作成などを相応に分担するなど、メンバー全員で計画的に作業を進めていきましょう。

フィードバックの方法:
1）プロジェクトのプレゼンテーションは、講評を添えて授業内で返却します。
2）レポートは、添削ののち講評を添えて、新学期（新年度になります）に教務課で返却をします。履修者は各自で責任を持って必ず受け取るようにしてください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	10	いわゆる「出席点」はありません。積極的に授業に参加していると認められない場合（遅刻・居眠り・私語・携帯電話の使用など）は厳しくチェックします。また、授業の最後にその日に学んだ内容に関するコメントを提出し、毎回の授業への取り組みの評価とします。
課題プロジェクト	45	この課題は、グループ作業と個人作業の両方のパートからなり、グループ発表を25％、レポート課題を20％として評価します。プロジェクトでは、与えられたテーマについてグループの中でその賛否をあらゆる側面から検討し、最終的にグループとしての見解をまとめて発表します。学期末には、プロジェクト作業を通して自分が経験したコミュニケーションについて論じたレポートを個人で作成し提出します。
期末評価	45	授業の総括として、学期末に実施します。講義内容を踏まえた記述試験です。

教科書:　宮原哲（2103）.「新版　入門コミュニケーション論」 松柏社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業以外ではe-mailを主たる連絡手段とします。office hourは特に設けませんが、必要に応じて、講義後(水曜日4講時)を相談の時間に充てます。

162160

Advanced Studies in English A

B.Manojlovic

授業テーマ:

Survey of Modern Life in Britain

授業の概要:

The course will offer provocative but accurate glimpses into modern British
life in order to investigate what being 'British' means today. Encouraging liberal, creative interpretation, we will educate ourselves linguistically and culturally via a set of consciously opinionated writings with which students can engage in a mature, meaningful manner

到達目標:

By exploring the language and themes students will be encouraged to give their opinion on a range of topics, and will in addition be expected to perform individual research on certain topics. The focus will be on enabling the students to develop: a/ analytical ability through development of research skills, b/ thinking power, i.e. deeper understanding of past and current affairs, and c/ presentation skills by expressing one's opinion logically and persuasively

授業方法:

Classes would include: topic introduction based on the textbook/teacher's handouts; comprehension and listening exercises; language focus and topic debates. Students will get plenty of time to explore language and themes in some detail through pair and group discussion, which will be shared and reported to the whole class. Internet and DVD equipment will be used in the classroom for film projections.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Course	Homework and Online Research
2.	British History, part 1	Homework and Online Research
3.	British History, part 2	Homework and Online Research
4.	British Music, Now and Then, part 1	Homework and Online Research
5.	British Music, Now and Then, part 2	presentation preparation
6.	Presentation	Homework and Online Research
7.	Race and Immigration, part 1	Homework and Online Research
8.	Race and Immigration, part 2	Homework and Online Research
9.	Fashion in Britain, part 1	Homework and Online Research
10.	Fashion in Britain, part 2	presentation preparation
11.	Presentation	Homework and Online Research
12.	Community Languages, part 1	Homework and Online Research
13.	Community Languages, part 2	Homework and Online Research
14.	Socializing in Britain	presentation preparation
15.	Presentation and Course Review	n/a

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

The out-of-class learning and preparation will consist of students conducting online research on individual topics. All the reference sources should be clearly cited. Following the research, students will be required to produce essays in written form which will in turn serve as a springboard for further in-class discussion, comments and exchange of ideas.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
in-class participation and attendance	40	Continuous Evaluation
quizzes/presentations	30	
research & homework	30	

教科書:

: Timothy Knowles, Charles Lowe:
'Seeing the World through the News'
Kinseido

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

cacti@live.co.uk

162260

Advanced Studies in English B

B.Manojlovic

授業テーマ:

Survey of Modern Life in Britain

授業の概要:

The course will offer provocative but accurate glimpses into modern British
life in order to investigate what being 'British' means today. Encouraging liberal, creative interpretation, we will educate ourselves linguistically and culturally via a set of consciously opinionated writings with which students can engage in a mature, meaningful manner

到達目標:

By exploring the language and themes students will be encouraged to give their opinion on a range of topics, and will in addition be expected to perform individual research on certain topics. The focus will be on enabling the students to develop: a/ analytical ability through development of research skills, b/ thinking power, i.e. deeper understanding of past and current affairs, and c/ presentation skills by expressing one's opinion logically and persuasively

授業方法:

Classes would include: topic introduction based on the textbook/teacher's handouts; comprehension and listening exercises; language focus and topic debates. Students will get plenty of time to explore language and themes in some detail through pair and group discussion, which will be shared and reported to the whole class. Internet and DVD equipment will be used in the classroom for film projections.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Economics and Farming in the UK, part 1	Homework and Online Research
2.	Economics and Farming in the UK, part 2	Homework and Online Research
3.	Social Mobility, part 1	Homework and Online Research
4.	Social Mobility, part 1	Presentation preparation
5.	Presentation	Homework and Online Reserch
6.	London, part 1	Homework and Online Research
7.	London, part 2	Homework and Online Research
8.	Brexit Challenge, part 1	Homework and Online Research
9.	Brexit Challenge, part 2	Presentation Preparation
10.	Presentation	Homework and Online Research
11.	Jobs and Work in Britain, part 1	Homework and Online Research
12.	Jobs and Work in Britain, part 2	Homework and Online Research
13.	Architecture, part 1	Homework and Online Research
14.	Architecture, part 2	Presentation preparation
15.	Presentation and Course Review	n/a

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

The out-of-class learning and preparation will consist of students conducting online research on individual topics. All the reference sources should be clearly cited. Following the research, students will be required to produce essays in written form which will in turn serve as a springboard for further in-class discussion, comments and exchange of ideas.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
in-class participation and attendance	40	Continuous Evaluation
quizzes/presentations	30	
research & homework	30	

教科書:

: Timothy Knowles, Charles Lowe:
'Seeing the World through the News'
Kinseido

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

cacti@live.co.uk

162360

Advanced Studies in English C

A.S.Willis

授業テーマ:

Admirable American Womean You Have Probably Never Heard Of

授業の概要:

In this course, we will look at the thoughts and lives of about five American women who are admirable but who are not usually heard about in the mainstream media.

到達目標:

To learn some new ways of thinking
To examine the roles these women think belong to women
To see how they worked/work out those roles in surprising ways
To practice English discussion abilities

授業方法:

videos, book excerpts, articles, teacher input, class discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Class introduction Misunderstood descriptions of women's roles Fierce Women	Reading material introduced in class (short excerpts)
2.	Discussion of Week 1 materials Begin Elisabeth Elliott	Review notes from class and write short response to Week 1 materials
3.	Discuss written responses Continue Elisabeth Elliott	Review notes from class and write very short response to Elisabeth Elliott's life Preview excerpts from Elisabeth Elliot
4.	Discuss written responses Begin Elisabeth Elliot	Review notes from class and read excerpts from Elisabeth Elliot
5.	Continue Elisabeth Elliot	Review notes, excerpts from Elisabeth Elliot and write response to her life and women's roles
6.	Share responses Begin Joni Earickson Tada	View videos
7.	Joni Earickson Tada	View videos; choose a favorite video that you find of Joni Tada on her web site or elsewhere about her work or her life Write thoughts on euthanasia
8.	Share and discuss student video choices of Joni Tada and her work Introduce article/video on euthanasia	Write response on Joni Tada Add to own response on euthanasia with response to Joni Tada's views
9.	Share responses Begin Naomi Zacharias	Read assigned excerpt from Naomi Zacharias's book, Scent of Water (each student will have a different excerpt to read and report on)
10.	Give summaries of excerpts from Scent of Water Discuss Naomi Zacharias's life and concepts from the book	Write a response to Naomi Zacharias Choose two of the women discussed so far and compare and contrast them
11.	Share responses Begin Candy Carson	Read short excerpt from one of Candy Carson's books
12.	Discuss book excerpt and Candy Carson	Write description of Candy Carson's outstanding characteristics Compare her with one other woman discussed in class Express personal reaction to Mrs. Carson
13.	Begin Condelezza Rice	Review videos from class, read short biographical article Prepare to discuss Dr. Rice's outstanding characteristics
14.	Discuss Condolezza Rice	Write a very short response to Condolezza Rice Prepare to write an in-class very short essay on the class as a whole and a paragraph on your favorite of the women covered
15.	Discussion of Week 1 lesson, women's roles, the six women's lives Write one-paragraph essay about the course as a whole and one-paragraph response on your favorite woman of those studied	Finished

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

In-class discussion responses, comments on written responses when appropriate and when possible

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Short Written Responses	65	These do not need to be more than one or two paragraphs. They will be personal responses to class discussions and articles, book excerpts and videos.
Participation in class discussions	25	This includes more than attendance. It also includes adding to discussions. Usually the class is small so that participation in discussions is comfortable.

	Completing homework	10	Homework includes short readings or short videos. Sometimes the homework is the written responses. These need to be turned in on time as much as possible.

教科書: none

参考書: Each student should bring the dictionary of her choice to every class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: awillis@dwc.doshisha.ac.jp

162460

Advanced Studies in English D

A.S.Willis

授業テーマ:

Issues in American Society

授業の概要:

issues of interest in American society will be discussed; first issue is chosen by the teacher and all other issues covered will be issues that the students choose for us to cover. In this way the course can be of interest to everyone.

到達目標:

To study contemporary issues in English
To look at different perspectives of issues in the U.S.
To improve English discussion, analysis and response ability

授業方法:

articles, teacher input, class discussion, some short writing, a limited amount of student research

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course Gather student issue interests 1st issue -- race relations	Read articles given by the teacher
2.	1st issue -- race relations Discuss articles done for homework	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
3.	1st issue -- race relations Share articles, continue discussion	Write short response to race relations discussions and readings Read article(s) from teacher on 2nd issue
4.	Discuss responses to 1st issue 2nd issue -- Discuss articles from homework	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
5.	2nd issue -- Share articles, continue discussion	Write short response
6.	2nd issue -- Discuss responses	Read articles for 3rd issue
7.	3rd issue -- Discuss articles from homework	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
8.	3rd issue -- Share articles, continue discussion	Write a short response
9.	3rd issue -- Discuss responses	Read articles for 4th issue
10.	4th issue -- Discuss articles from homework	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
11.	4th issue -- Share artickes, continue discussion	Write a short response
12.	4th issue -- Discuss responses	Read article(s) for 5th issue
13.	5th issue -- Discuss articles from homework	Find an article on the topic and prepare to summarize it for the class, including why it is of interest
14.	5th issue -- Share articles, continue discussion	Write a short response Prepare to write a short response to the course in class on week 15
15.	5th issue -- Discuss responses Write a short response summarizing the course or one or two topics of interest from the course	Finished

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

in-class discussion, comments on written responses when appropiate and possible

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Short Written Responses	65	These will be responses to the issues covered. They will be no longer than one or two paragraphs. They should show an understanding and deep thought on the issue.
Participation in class	25	This is more than attendance. Each student must participate in the class discussions, using English. Usually the class is small, so that speaking is comfortable.
Homework	10	Homework assignments will be explained weekly. Homework needs to be done in order to participate in discussions. Please complete the homework as much as possible. It is usually not a lot of homework.

教科書:	none
参考書:	Each student should bring a dictionary to every class.
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	awillis@dwc.doshisha.ac.jp

162560

Advanced Studies in English E

J.W.Carpenter

授業テーマ:

Techniques of Literary Translation, Japanese-English

授業の概要:

This course will provide a survey of actual translations undertaken by the instructor with a review of the particular problems and approaches unique to each one.

到達目標:

--to awaken an interest in the challenges of translation
--to acquire an appreciation of differences between Japanese and English
--to learn to read and discuss a translation
--to understand different styles of translation

授業方法:

Lecture with discussion and some in-class writing assignments

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the range of works translated	Read handout and prepare to discuss.
2.	Salad Anniversary: translating modern tanka	Read handout and prepare to discuss
3.	Kaguyahime: translating a folktale	Read handout and prepare to discuss
4.	Lemon: translating a short story or "Counting to Ten": translating an essay	Read handout and prepare to discuss Write reaction paper on one or all works read so far.
5.	Humor in translation	Read handout and prepare to discuss
6.	Titles: What makes a good title in translation?	Read handout and prepare to discuss
7.	"Jumping in the Pond" discussion &: individual presentations	Read handout and prepare to discuss
8.	Translating manga and anime	Read handout and prepare to discuss
9.	A True Novel by Minae Mizumura: translating a long and complex novel; collaboration	Read handout and prepare to discuss Write second reaction paper
10.	The Fall of Language in the Age of English by Minae Mizumura: translating nonfiction Reaction paper due	Read handout and prepare to discuss
11.	Fune o amu: translating a novel about Japanese dictionaries	Read handout and prepare to discuss
12.	Clouds above the Hill: translating historical fiction	Read handout and prepare to discuss
13.	Shiba continued; translating Haiku and Chinese poetry	Read handout and prepare to discuss
14.	Review	Review
15.	Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

By all means keep up with the readings, in Japanese and English. Don't hesitate to ask questions

フィードバックの方法:

Papers will be graded with comments. In-class writing assignments will be discussed together.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and participatioin	10%	Attendance and alert participation are required. Questions welcome.
Homework	30%	Prompt, careful submission of homework assignments
Reaction papers	30%	Five-paragraph papers with cogent comments on one or more topic covered in class
Final examination	30%	Understanding of translation techniques; identification of works, authors, and genres

教科書:

Handouts

参考書:

Tawara Machi, Salad Anniversary, Pushkin Press
Once Upon a Time in Japan, NHK
Minae Mizumura, A True Novel, Other Press
Minae Mizumura, The Fall of Language in the Age of English, Columbia University Press
Miura Shion, The Great Passage, Amazoncrossing
Shiba Ryotaro, Clouds above the Hill, Routledge

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

--email
--office hours and by appointment
--in the classroom

162660

Advanced Studies in English F

I.D.Sancho

授業テーマ:

Crosscultural Encounter and Representation

授業の概要:

This course is divided into two halves:
・The first half deals with the role visual representations have played in Japan-West political relations from Perry mission to today.
・The second half examines Western and Japanese culture through their representations in folklore and pop culture, focusing in the representation of monsters from medieval period to the second half of the twentieth century.

到達目標:

This course has 4 main aims:
1. to help students become critical readers of visual and other texts, able to interpret, and discuss them fluently and confidently;
2. to develop students' understanding of, and ability to discuss, the social, cultural, and political contexts of visual and other forms of representations;
3. to think about the question of cross-cultural encounter and representation in relation to Japan-West relations from the nineteenth century to today;
4. to continue to develop students' skills of discussion and debate, presentation, critical thinking, and academic writing in English

授業方法:

Typically, each class will involve a lecture, group and class discussions, and in-class writing in response to that week's topic

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction. Topic 1: Analysing visual texts	Students are expected to complete homework reading thoroughly, coming to class prepared to take part in active discussion and analysis of the topic and texts.
2.	Topic 2: Orinetalism? -dual representations from the Perry mission to Japan	homework reading
3.	Topic 3: A fantasy Japan? -Japonisme and European art at the end of 19th century	homework reading
4.	Topic 4: Representing the enemy: U.S. and Japanese propaganda images, 1905-1945	homework reading
5.	Topic 5: Geopolitics and gender -Hollywood movies in Japan, 1950-60s	homework reading
6.	Topic 6: Exoticism and power -Japanese women in the eyes of western men	homework reading
7.	Topic 7: Self-orientalisatioin? -Japanese images of Japan, postwar to today	homework reading
8.	Topic 8: Comparing Japan and the West through their monsters. Introduction	
9.	Topic 9: Monster culture (Seven thesis).	homework reading
10.	Topic 10: Monsters versus Yokai I -from Medieval beliefs to Meiji Restoration	
11.	Topic 11: Monsters versus Yokai II -From literature to manga, from cinema to anime	homework reading
12.	Topic 12: Monsters versus Kaiju -King Kong versus Godzilla	
13.	Topic 13: Monsters, advertising and consumerist society -Pokemon and others	homework reading
14.	Final presentations	Students will have to prepare an English-language Powerpoint presentation that analyses, using the skills developed in class, a set of images they have chosen in connection to the topics covered in class.
15.	Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Email

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and active participation	40	Attendance and participation is mandatory
In-class written work	30	
Final presentations	30	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

ivandiazsancho@hotmail.com (write your name and "Advanced Studies in English F" in the subject box)

162760

Advanced Studies in English G

T.L.Medlock

授業テーマ:

Japanese and Western Drama

授業の概要:

The main focus of this course is a study of Shakespeare's comedy, Twelfth Night, with particular reference to its kabuki staging by director, Ninagawa Yukio. In order to put this performance in context we will develop a broad understanding of the evolution of Western comedy (from Roman comedy to Shakespeare), and of the Japanese traditions of kyogen and kabuki . We will make appropriate comparisons and contrasts to illuminate understanding of both. We will also consider the topic of transgender performance, and meta-theatrical themes in such genres.

到達目標:

1. To deepen understanding of the art of theatrical performance, and the art of the performer.
2. To gain awareness of similarities and differences between Western and Japanese traditions of art and culture.
3. To develop academic language proficiency

授業方法:

Students will listen to lectures and take notes. Sometimes they will need to bring the results of research to class to share. They will also watch representative examples of various genres or plays and evaluate the characteristics of the performers. We will sometimes watch the same scene performed by different performers and compare them. The instructor will occasionally demonstrate performance skills or techniques and invite students to participate.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction and orientation. The evolution of Western Comedy I	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials.
2.	The evolution of Western Comedy II	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials.
3.	The art of kyogen I	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials.
4.	The art of kyogen II	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials. Prepare presentation
5.	Mixed genre performance I: Shakespearean comedy Much Ado About Nothing	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials. Prepare presentation
6.	Presentations Mixed genre performance II: kabuki	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials.
7.	Mixed genre performance III: kabuki	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials.
8.	Twelfth Night: Plot overview I	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials.
9.	Twelfth Night: Dramatic highlights I	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials.
10.	Twelfth Night: Dramatic highlights II	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials.
11.	Twelfth Night: Dramatic highlights III	Extend topic with extra reading or viewing. Review class materials.
12.	Twelfth Night: Themes I	Prepare research for report
13.	Twelfth Night: Themes II	Write report
14.	Share reports	Write reflection
15.	Review and conclusions.	

受講者へのメッセージやアドバイス:

We cover a lot of material so you really need to attend, pay attention, review and generally keep up.

フィードバックの方法:

Quizzes will be returned corrected and marked.
Presentations and reports will receive direct written feedback
Any participation that is dissatisfactory will be addressed directly

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	20%	Attentive concentration during lectures and viewings, and active interaction in communicative activities
Presentation	20%	Appropriate length / Comprehensible and appropriate content / Communicativeness
Homework	20%	Completion of assignments as requested
Report	20%	Appropriate length / Comprehensible and appropriate content / Quality of English
Quizzes	20%	Recall of material covered in class

教科書:

All materials will be provided by the instructor

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

tmedlock@dwc.doshisha.co.uk

163060

Advanced Studies in English I

山路　　順子

授業テーマ:

Cultural analysis of communication

授業の概要:

This course will give you a good opportunity to explore some aspects of intercultural communication and enhance your ideas about ″communication″. Knowing about cultural variety and different cultural communication styles will help you to polish your tactics to survive in this ″multicultural world″.

到達目標:

The main purpose of this course is to understand the basic ideas of intercultural communication and to analyze various communicative aspects of people who have different cultural backgrounds

授業方法:

Classes will consist of short lectures and two kinds of class activities:
（1）student presentations and quizzes on the topics of the reading assignments
（2）discussion of each topic
You will be required to apply what you find in the reading assignments to your experience in order to deepen your understanding of each topic. In addition to this, you should collect enough materials for your research project.
The class will be conducted mainly in English but some parts of the class sessions may be done in Japanese. Please feel free to use both languages in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Couse introduction and orientation	reading assignment on the handout
2.	The basic concepts of culture and communication: What is culture?(1)	reading assignment on the handout
3.	The basic concepts of culture and communication: What is culture?(2)	reading assignment on the handout
4.	The basic concepts of culture and communication: What is communication?(1)	reading assignment on the handout
5.	The basic concepts of intercultural communication: What is communication? (2)	reading assignment on the handout
6.	The basic concepts of intercultural/crosscultural communication: What is intercutlral communication?	reading assignment on the handout
7.	The basic concepts of intercultural/crosscultural communication: What is crosscultural communication?	reading assignment on the handout
8.	Review and discussion	reading assignment on the handout
9.	How culture affects on communication(1)	reading assignment on the handout
10.	How culture affects on communication(2)	reading assignment on the handout
11.	How culture affects on communication(3)	preparation for your presentation and paper
12.	Review and discussion	preparation for your presentation and paper
13.	Pre-ssesion for your research	preparation for your presentation and paper
14.	Presentation day	preparation for your presentation and paper
15.	Presentation day and review	preparation for your presentation and paper

受講者へのメッセージやアドバイス:

To be well-prepared for class:
For reading assignments
・read well (use English-English Dictionaries)
・think about how you will explain what you read in class
・research each topic on the Internet and in the library, if it is required
For your research project
・use many resources to support your project and also use examples from experiences

フィードバックの方法:

All work to be submitted will be returned with comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Active participation	20%	Class participation and class refelections
Reading assignments	30%	Quizes on reading assignements
Term paper and presentation	50%	Presentation 10% and a short paper 40% on your research

教科書:

No textbook is required. Handouts willl be provided in class.

参考書:

To be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

163160

Advanced Studies in English J

山路　　順子

授業テーマ:

Culture and communication

授業の概要:

Through reading articles and papers on cultural and social aspects of communication styles, you have a good opportunity to enhance your knowledge about cultural differences, especially gender differences in communication. Also, this course examines the impact of globalization on our culture and communication styles. By discussing these topics in class, you can deepen and broaden your understanding of communication and this helps you to understand human interactions in this multicultural world.

到達目標:

The purpose of this course is to familiarize you with some central concepts in interpersonal communication and to explore global influence on communication.

授業方法:

Classes will consist of short lectures and two kinds of class activities:
（1）student presentations and quizzes on the topics of the reading assignments
（2）discussion of each topic
You will be required to apply what you find in the reading assignments to your experience to deepen your understanding of each topic. In addition to this, you should collect enough materials for your research projects.
The class will be conducted mainly in English but some parts of the class sessions may be done in Japanese. Please feel free to use both languages in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction and orientation to this course	reading assignments on the hondout
2.	Cultural aspects of interpersonal communciation: verbal and non-verbal differences(1)	reading assignments on the hondout
3.	Cultural aspects of interpersonal communciation: verbal and non-verbal differences(2)	reading assignments on the hondout
4.	Cultural aspects of interpersonal communciation: cultural identity	reading assignments on the hondout
5.	Social aspects of intercultural communication: socio-cultural knowedge on conversation	reading assignments on the hondout
6.	Social aspects of intercultural communication: social regulations	reading assignments on the hondout
7.	Review and discussion	reading assignments on the hondout
8.	Pre-session for your research project	reading assignments on the hondout
9.	Global influence on communication: Information Technology (1)	reading assignments on the hondout
10.	Global influence on communication: Information Technology (2)	reading assignments on the hondout
11.	Global influence on communication: cultural products	reading assignments on the hondout
12.	Gender differences in interpersonal communication (1)	reading assignments on the hondout
13.	Gender differences in interpersonal communication (2)	preparation for your reserach project
14.	Presentation day	preparation for your reserach project
15.	Presentation day and review	preparation for your reserach project

受講者へのメッセージやアドバイス:

To be well prepared for class:
For reading assignments
・read well (use English-English Dictionaries)
・think about how you will explain what you read in class
・research each topic on the Internet and in the library, if it is required
For your research project
・use many resources to support your project and use examples from experiences

フィードバックの方法:

All work to be submitted will be returned with coments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attencdance	20%	Active class participation and class reflections
Reading assignments	30%	Quizes on reading assignments
Term paper and presentation	50%	Presentation 10% and a short paper 40% on your reseacrh

教科書:

No textbook is required. Handouts will be provided in class.

参考書:

To be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

163260

Advanced Studies in English K

B.Manojlovic

授業テーマ:

The relationship between humanity and technology

授業の概要:

The topics will explore the relationship between humanity and technology. Students are encouraged to think seriously about the benefits and dangers of technology for humanity and for their own lives.

到達目標:

Each unit explores the role of technology in different areas of life. The course aims to help students to improve their skills in listening, speaking, reading, writing, presentation and critical thinking. The course is designed to help students to become more independent learners. The focus will be on enabling the students to develop: a/ analytical ability through development of research skills, b/ thinking power, i.e. deeper understanding of mass communication and media, and c/ presentation skills by expressing one's opinion logically and persuasively.

授業方法:

Classes would include: topic introduction based on the textbook/teacher's handouts; comprehension and listening exercises; language focus and topic debates. Students will get plenty of time to explore language and themes in some detail through pair and group discussion, which will be shared and reported to the whole class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	. Introduction to the course	Homework, Online Research
2.	History of Science and Technology, part 1	Homework, Online Research
3.	History of Science and Technology, part 2	Homework, Online Research
4.	Mass Communication, part 1	Homework, Online Research
5.	Mass Communication, part 2	Homework, Online Research
6.	Robots and Artificial Intelligence, part 1	Homework, Online Research
7.	Robots and Artificial Intelligence, part 2	Preparation for Presentation
8.	Presentation	Homework, Online Research
9.	The Internet, part 1	Homework, Online Research
10.	The Internet, part 2	Homework, Online Research
11.	The Mass Media, part 1	Homework, Online Research
12.	The Mass Media, part 2	Homework, Online Research
13.	The Future of Communication part 1	Homework, Online Research
14.	The Future of Communication part 2	Homework, Online Research
15.	Presentation and Course Review	n/a

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

The out-of-class learning and preparation will consist of students conducting online research on individual topics. All the reference sources should be clearly cited. Following the research, students will be required to produce essays in written form which will in turn serve as a springboard for further in-class discussion, comments and exchange of ideas. Students will also be required to do two presentations based on their individual research.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
in-class participation and attendance	40	Continuous in-class assessment
quizzes/presentations	30	
research & homework	30	

教科書:

n/a

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

050-3555-3122

163360

イギリス文化・文学研究A

近藤　　久雄

授業テーマ:　イギリス文化の諸相

授業の概要:　イギリスの文学を読むにせよ、芸術を鑑賞するにせよ、また将来旅行者としてイギリスを訪ねたり、あるいは仕事で滞在したりするにせよ、イギリスの文化に対する理解をもって臨むことの利点には計り知れないものがあります。
以上のような観点から、この講義ではイギリスの文化や歴史それにイギリスの人々の生活に至るまで、イギリス文化の様々な面について毎回異なるトピックについて授業を行う予定です。

到達目標:　皆さんはすでにイギリスの文化について個別的な事柄についてはある程度の知識を持っていると思いますが、この講義ではそれらの知識を統合し深め、イギリスの文学や芸術を社会的・歴史的背景を踏まえたうえで鑑賞できるようになることを目標とします。

授業方法:　この授業に参加する皆さんは、必ず教科書の指示された範囲を事前に読んで出席してください。受講者の人数にもよりますが、授業は可能な限り教員と学生との対話を通じて内容の理解を深める方法で行う予定です。また。毎回レジュメや資料を配布する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	イギリスと日本	教科書の第１章を読んでおくこと
3.	イギリスはEnglandか	教科書の第２章・第６４章・第６５章を読んでおくこと
4.	英語史概観	教科書の第３章・第４章を読んでおくこと
5.	アングリカンチャーチと宗教改革	教科書の第５章・第６章・第１５章を読んでおくこと
6.	ロンドンの諸相	教科書の第９章・第１０章・第１１章・第３７章を読んでおくこと
7.	カントリー・ハウスとイギリス庭園	教科書の第１６章・第１７章・第１８章を読んでおくこと
8.	イギリスの暮らし	教科書の第18章・第19章・第23章・第25章・第26章・第28章・第29章・第30章を読んでおくこと
9.	鉄道とイギリス人の旅	教科書の第13章・第45章を読んでおくこと
10.	子供の発見と児童文学	教科書の第５３章を読んでおくこと
11.	イギリスの教育	教科書の第３４章・第３５章・第３６章・第５９章を読んでおくこと
12.	女性たちの大英帝国	教科書の第46章・第47章・第60章・第61章を読んでおくこと
13.	イギリスの演劇	教科書の第６２章・第６３章を読んでおくこと
14.	コーヒー・ハウスとジャーナリズムの発達	教科書の第４８章・第４９章を読んでおくこと
15.	総括	講義のまとめとレポートについて指導しますので、各自自分のレポートのテーマを決めて出席すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:　準備学習として示した教科書の各章については、必ずよんで出席してください。また、毎回配布されるレジュメや最初の時間に配布する予定の参考文献リストの中の必要な文献は必ず読んでください。学期末のレポート作成時に必要になってきます。

フィードバックの方法:　受講者との間でやり取りをし理解を確認しながら授業を進める予定です。確認の内容は、前回の授業の内容およびイギリス史や英文学史の基本的な知識です。また、簡単な質問について教室にて書いてもらい提出を求める場合いもあります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	20	毎回トピックが異なりますので出席は重要ですが、実習や就職活動については、事後に届け出てください。
予習	10	事前に指定された教科書の箇所を読んでいるか否かを確認します。
期末レポート	70	指示された文献を読んで作成されたレポートであるか否かが重要なポイントとなります。

教科書:　近藤久雄・細川祐子・阿部美春共著『イギリスを知るための６５章（第２版）』明石書店

参考書:　最初の授業で文献リストを配布します。また必要に応じて教室で指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、変化対応力、自己管理力。

教員との連絡方法:　木曜日２講時目をオフィスアワーとして講師室等で対応します。

163460

イギリス文化・文学研究B

近藤　　久雄

授業テーマ:　勃興期のイギリス小説を読む

授業の概要:

英語で小説を意味するNovelという言葉は、語源的には「新しきもの」を意味します。イギリスでは18世紀初頭に日本でも子供の読み物としてよく知られている『ロビンソン・クルーソー』や『ガリヴァー旅行記』といった本格的な小説が登場しました。

この講義では、まず小説が登場するまでの英文学史を概観し、次にイギリスに近代小説が登場した18世紀の時代や社会の背景を理解し、その後デフォー、スウィフト、リチャードソン、フィールディングといった当時を代表する作家たちの作品を日本語訳で読みます。

到達目標:

この講義では、イギリスに近代小説が登場した時代や社会の背景を理解し、具体的にデフォー、スウィフト、リチャードソン、フィールディングといった当時を代表する作家たちの作品の一端に触れてみることを目標とします。つまりデフォー作『ロビンソン・クルーソ』やスウィフト作『ガリヴァー旅行記』などの勃興期のイギリス小説の問題意識や特徴をその時代背景とともに理解することが目標です。

授業方法:

第4週目までは、主として講義形式で歴史的背景や社会的背景を説明します。
5週目からは、配布資料によってこうした作者たちの作品からの抜粋を読んでゆきます。とりわけ第5週目以降は予習が大切になります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	17世紀から18世紀にかけてのイギリス歴史概観（1）	今までに学習したエリザベス朝以降のイギリス史ないしは英文学史について復習をしておくこと。
2.	17世紀から18世紀にかけてのイギリス歴史概観（2）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
3.	18世紀イギリス社会（1）、（ロンドンを中心に）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
4.	18世紀イギリス社会（2）、（画家ホガースの作品を中心に）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
5.	デフォーとその作品（1）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
6.	6.　デフォーとその作品（2）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
7.	スウィフトとその作品（1）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
8.	スウィフトとその作品（2）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
9.	スウィフトとその作品（3）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
10.	リチャードソンとその作品（1）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
11.	リチャードソンとその作品（2）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
12.	フィールディングとその作品（1）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
13.	フィールディングとその作品（2）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
14.	フィールディングとその作品（3）	前回の授業で配布予定の資料やレジュメを頭に入れて出席すること。
15.	総括	レポート作成の指導を行うので、授業で取り上げた作品の一つを読み、レポートのテーマとする作品を決めておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

最初の4週間の講義の間に、指定された作品の中からひとつを選んで読み始めてください。できれば12～13週目までには作品を見終えていることが望ましいと思います。

フィードバックの方法:

授業は可能な限りインタラクティヴに行います。したがって授業では質問をし理解を確認しながら進めます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	20	毎回資料を配布しますので、出席は重視します。研修や就職活動で欠席の場合は必ず報告してください。配慮します。
授業への参加度	10	配布した資料読んで出席しているか否かを確認します。
期末レポート	70	指示通りに書かれているか。自分なりの個性や創造性が発揮されているかを評価します。

教科書:

特に教科書は使用しませんが、作品の日本語訳を随時教室で配布し、それを教科書として使用します。

参考書:

必要に応じて教室で指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:

木曜日の2講時目をオフィスアワーとして講師室等で対応します。

163560

アメリカ文化・文学研究A

徳永　　由紀子

授業テーマ:　ミュージカルの源流を探る

授業の概要:

いまや世界中の人々に親しまれているミュージカルは、アメリカ文化を代表する一つの演劇形式である。
それぞれのミュージカル作品はもちろんのこと、様々な要素を取り込みながらミュージカルが発展していく過程そのものに、さらには観客の反応に、アメリカ社会の理想や矛盾、アメリカ人の考え方や価値観を読み取ることができる。
ミュージカルの源流を、まずはオペラやオペレッタなどヨーロッパの音楽劇に、そして、ミンストレル・ショー 、ヴォードヴィル、レヴューなど、19世紀後半から20世紀初頭にかけて急速に発達したアメリカの大衆文化に探る。
ミュージカルの歴史を振り返ることによって、ミュージカルについての理解を深め、ひいてはアメリカ社会、アメリカ文化についての視野を広める。

到達目標:

1 様々なジャンルから様々な要素を吸収しながら、ミュージカルが発展してきたことを理解する。
2 ミュージカルを通じて、アメリカ社会、アメリカ文化に対する理解を深める。
3 それぞれのジャンルの内容や特徴、上演形態の変遷、評価や影響等を理解する。
4 授業で扱う作品、その他の資料についてよく検討し、自分の意見をまとめ、それを表現する。

授業方法:

CD、写真、映像資料、プログラム、劇評、研究論文などを使用する講義を中心に授業を進めるが、質問、意見の発表、意見交換など、受講生の授業への積極的な参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:19世紀後半から20世紀初頭におけるアメリカ大衆文化の発達を概観する。	
2.	オペラについて	オペラ La Boheme(DVD)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
3.	オペレッタについて	オペレッタ Merry Widow(DVD)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。レポートの準備をする。
4.	ミンストレル・ショーについて ①	ミンストレル・ショーやブラック・フェイスが再現されている映画 The Jazz Singer (1927), The Jolson Story (1946) を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
5.	ミンストレル・ショーについて ②	
6.	ミンストレル・ショーについて ③	授業内容を整理し、レポートの準備をする。
7.	ヴォードヴィルについて ①	
8.	ヴォードヴィルについて ②	
9.	ヴォードヴィルについて ③	授業内容を整理し、レポートの準備をする。
10.	レヴューについて ①	ヴォードヴィル、レヴューが再現されている映画 Broadway Melody (1929) を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
11.	レヴューについて ②	授業内容を整理し、レポートの準備をする。
12.	初期のミュージカル ①: The Black Crook (1866)から Little Johnny Jones(1904)まで	映画 The Wizard of Oz (1939)、Yankee-Doodle-Dandy (1942) を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。レポートの準備をする。
13.	初期のミュージカル ②: Sally (1920)について	
14.	ミュージカル形式の確立:Show Boat(1927)について	映画 Show Boat (1936) を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。レポートの準備をする。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	ミュージカルの歴史に関する理解度により評価する。正当な理由がない限り、レポート未提出の者、全授業回数の3分の1以上を欠席した者には受験資格は与えられない。
レポート	30	第1週目に課題作品のリストを配布する。与えられたテーマについて自分の意見をまとめ、それを表現できるかを評価する。
授業への参加度	20	授業への取り組み方、授業の中で出す理解度確認の問題、毎回のコメント・ペーパーの内容等から評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

163660

アメリカ文化・文学研究B

徳永　　由紀子

授業テーマ:　ミュージカルに見るアメリカ

授業の概要:　いまや世界中の人々に親しまれているミュージカルは、アメリカ文化を代表する一つの演劇形式である。ミュージカルの傑作を年代順にとりあげ、それぞれの作品を楽しみながら丁寧に読み解き、作品のなかに浮かび上がってくるアメリカ社会の理想や矛盾、人種や階級、ジェンダーをめぐる問題などについて考える。いずれの作品も、ミュージカルの可能性を開き、ミュージカルの歴史をぬりかえることになった重要な作品である。

到達目標:
1 それぞれの作品の脚本、歌詞を丁寧に読み、音楽をよく聞き、作品の理解を深める。
2 それぞれの作品の背景をよく知り、アメリカ社会、アメリカ文化についての考察を深める。
3 作品と作品との関係を考察する。
4 それぞれの作品について、自分なりの分析、解釈を試み、自分の言葉でそれを表現する。

授業方法:　脚本や歌詞、CD、写真、映像資料、原作の小説や劇、研究論文、劇評などを使用する講義を中心に授業を進めるが、質問、意見の発表、意見交換など、受講生の授業への積極的な参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	Show Boat(1927)について ①	映画 Show Boat(1936)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
3.	Show Boat(1927)について ②	Show Boat の重要場面の脚本、歌詞をよく読んでおく。
4.	Show Boat(1927)について ③	
5.	Show Boat(1927)について ④	授業内容を整理し、レポートの準備をする。
6.	Oklahoma! (1943)について ①	映画 Oklahoma!(1955, 1999)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
7.	Oklahoma! (1943)について ②	Oklahoma! の重要場面の脚本、歌詞をよく読んでおく。
8.	Oklahoma! (1943)について ③	授業内容を整理し、レポートの準備をする。
9.	My Fair Lady (1956)について ①	映画 My Fair Lady (1964)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
10.	My Fair Lady (1956)について ②	My Fair Lady の重要場面の脚本、歌詞をよく読んでおく。
11.	My Fair Lady (1956)について ③	授業内容を整理し、レポートの準備をする。
12.	West Side Story(1957)について ①	映画 West Side Story(1961)を授業までに見ておき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
13.	West Side Story(1957)について ②	West Side Story の重要場面の脚本、歌詞をよく読んでおく。
14.	West Side Story(1957)について ③	授業内容を整理し、レポートの準備をする。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	ミュージカル作品の変遷、それぞれの作品の背景、内容に関する理解度により評価する。正当な理由がない限り、レポート未提出の者、全授業回数の3分の1以上を欠席した者には受験資格は与えられない。
レポート	30	第1週目に課題作品のリストを配布する。与えられるテーマに関して、自分の意見をまとめ、それを表現できるかを評価する。
授業への参加度	20	授業への取り組み方、授業の中で出す理解度確認の問題、毎回のコメント・ペーパーの内容等から評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

163760

比較文化・文学研究A

富澤　　理英子

授業テーマ:　グローバル社会における異文化理解

授業の概要:　グローバリゼーションが進む現代において、異文化理解の重要性は大きくなっているが、本講は異文化理解に関連する概念の数々と背景、言語の成り立ちと社会の中の役割、文化とコミュニケーションの社会言語的関係性を理解し、グローバル社会の中の「自己」「自文化」「他者」「異文化」の規定の仕方を検討し、異文化理解を実現するための知識と姿勢を身につける。

到達目標:　「比較文化」「比較文学」という手法を通して異文化理解実現に必要な多様な課題を具体的な事例に基づいて考察し（各種文献、文学作品、音楽、映画、美術等多様な教材を使用する）、現代のあらゆる社会・文化現象への自分の判断基準を確立し、学際的方法で多角的に理解できる事を目指す。また、
*言語自体の成り立ちと現代社会における役割を理解すること
*社会言語的な観点から文化とコミュニケーションの関係性について理解すること
*異なる文化や価値観を持つ相手の意見を理解する柔軟な態度を身につけることを目的とする。

（できるかぎり後期の「比較文化・文学研究B」と通年で取ることが望ましい。）

授業方法:　講義が中心であるが、各種文献の読解、映画、音楽、各種美術等多様な教材における各種論題に関する考察、論点整理とアクティブ・ラーニング（意見発表、グループワークやディスカッション）も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。（受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
2.	文化の定義（1）	講義内容を復習しておくこと。
3.	文化の定義（2）	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
4.	比較文化の定義と意義（1）	講義内容を復習しておくこと。
5.	比較文化の定義と意義（2）	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
6.	異文化理解—「自」と「他」の間にあるもの（1）	講義内容を復習しておくこと。
7.	異文化理解—「自」と「他」の間にあるもの（2）	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
8.	エスノセントリズムと文化相対主義(1)	講義内容を復習しておくこと。
9.	エスノセントリズムと文化相対主義(2)	講義内容を復習しておくこと。
10.	比較文学の定義と意義(1)	講義内容を復習しておくこと。
11.	比較文学の定義と意義(2)	予習として配布する教材プリントを読んでおくこと。
12.	「グローバリゼーション」の定義	講義内容を復習しておくこと。
13.	グローバル時代の比較文学(1)	講義内容を復習しておくこと。
14.	グローバル時代の比較文学(2)	講義内容を復習しておくこと。
15.	総括	講義内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ペーパー（各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント）、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する

返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30%	授業への積極的参加度 出席状況（原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要）授業中の活動（各種読解演習、事前に配布された文献の読解、議論やグループワークへの参加、意見の発表等） 現代のあらゆる社会・文化現象への自分の判断基準を確立し、学際的方法で多角的に理解できる事、言語自体の成り立ちと現代社会における役割、社会言語的な観点から文化とコミュニケーションの関係性について理解することを積極的に試みる姿勢がどれくらいあるかを評価する。
レポート	70%	各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。また、言語自体の成り立ちと現代社会における役割を理解すること、社会言語的な観点から文化とコミュニケーションの関係性について理解すること、 異なる文化や価値観を持つ相手の意見を理解する柔軟な態度がいかに反映されているかを問う。＊レポート試験は学期末に一回提出とする。

教科書:　プリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術等多様な教材を使用する。

参考書:　授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Email（授業中に指示する）

163860

比較文化・文学研究B

富澤　　理英子

授業テーマ:　グローバル社会における異文化理解

授業の概要:　グローバリゼーションが進む現代において、異文化理解の重要性は大きくなっているが、本講は異文化理解に関連する概念の数々と背景、言語の成り立ちと社会の中の役割、文化とコミュニケーションの社会言語的関係性を理解し、グローバル社会の中の「自己」「自文化」「他者」「異文化」の規定の仕方を検討し、異文化理解を実現するための知識と姿勢を身につける。

到達目標:　「「比較文化」「比較文学」という手法を通して異文化理解実現に必要な多様な課題を具体的な事例に基づいて考察し（各種文献、文学作品、音楽、映画、美術等多様な教材を使用する）、現代のあらゆる社会・文化現象への自分の判断基準を確立し、学際的方法で多角的に理解できる事を目指す。また、
*言語自体の成り立ちと現代社会における役割を理解すること
*社会言語的な観点から文化とコミュニケーションの関係性について理解すること
*異なる文化や価値観を持つ相手の意見を理解する柔軟な態度を身につけることを目的とする。

（できるかぎり前期の「比較文化・文学研究A」と通年で取ることが望ましい。）

授業方法:　講義が中心であるが、各種文献の読解、映画、音楽、各種美術等多様な教材における各種論題に関する考察、論点整理とアクティブ・ラーニング（意見発表、グループワークやディスカッション）も適宜行う。英語文献も使用するので英和辞書を持参すること。（受講生の人数や関心に応じ、授業内容を若干変更する可能性がある。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
2.	グローバル時代の異文化理解に必要なもの（1） 「国際化」と「グローバリゼーション」	講義内容を復習しておくこと。
3.	グローバル時代の異文化理解に必要なもの（2） 文化の多様性とアイデンティティ	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
4.	文化の接触と対立と統合（1）	講義内容を復習しておくこと。
5.	文化の接触と対立と統合（2）	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
6.	オリエンタリズム（1）	講義内容を復習しておくこと。
7.	オリエンタリズム（2）	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
8.	ポストコロニアリズム（1）	講義内容を復習しておくこと。
9.	ポストコロニアリズム（2）	講義内容を復習しておくこと。
10.	異文化体験―相手の視点を理解する―（1）	講義内容を復習しておくこと。
11.	異文化体験―相手の視点を理解する―（2）	予習として配布するプリント教材を読んでおくこと。
12.	比較文学と異文化理解（1）	講義内容を復習しておくこと。
13.	比較文学と異文化理解（2）	講義内容を復習しておくこと。
14.	比較文学と異文化理解（3）	講義内容を復習しておくこと。
15.	総括	講義内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ペーパー（各種テキスト読解あるいは講義内容学習後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント）、質問へのフィードバックは基本的に教室でまとめて解説する

返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30%	授業への積極的参加度 出席状況（原則として単位取得には全講義数の三分の二以上の出席が必要）授業中の活動（各種読解演習、事前に配布された文献の読解、議論やグループワークへの参加、意見の発表等） 現代のあらゆる社会・文化現象への自分の判断基準を確立し、学際的方法で多角的に理解できる事、言語自体の成り立ちと現代社会における役割、社会言語的な観点から文化とコミュニケーションの関係性について理解することを積極的に試みる姿勢がどれくらいあるかを評価する。
レポート	70%	各種テキスト読解後の論点整理、各論題に関する考察、感想、コメント、期末レポート試験は講義の理解度、考察の深さと多角性、そして意見表明の論理性と説得力を問う。また、言語自体の成り立ちと現代社会における役割を理解すること、社会言語的な観点から文化とコミュニケーションの関係性について理解すること、 異なる文化や価値観を持つ相手の意見を理解する柔軟な態度がいかに反映されているかを問う。＊レポート試験は学期末に一回提出とする。

教科書:　プリント教材を授業中に配布するが、授業では、映画、音楽、各種美術など多様な教材を使用する。

参考書:　授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Email（授業中に指示する）

163960

TOEIC800 Ⅰ

小柴　　和香

授業テーマ:
TOEIC(R)Listening & Reading テスト800点以上取得および実用的な英語運用能力の向上

授業の概要:
TOEIC(R)Listening & Reading テスト800点以上を目指す学生を対象に、必要と
される総合的な英語力を身につけることを目標とする。単なるTOEICの試験対策にとどまらず、
高度な英語運用能力を獲得するために必要な語彙、文法、読解力、リスニング力を身につけ ることを目標とし、
より実践的なコミュニケーション能力の育成を目指す。受講に際してはスコア600点程度 を取得していることが望ましい。

到達目標:
・TOEIC (R) Listening & Reading テスト及びTOEIC IPに頻出する単語を習得すること。
・TOEIC (R) Listening & Reading テスト及びTOEIC IP の出題形式に慣れ、時間内に問題を解けるようになること。
・正解不正解の理由を説明できるようになること。
・試験問題(新形式、IP共に)を見たときに、問われている文法項目の種類と出題意図を特定できること。

授業方法:
演習形式
リスニング力に結びつく形式での単語テストを毎回実施する。授業ではテキストに沿って各パートを解くためのストラテジーを学び、実践問題を解く。問題を解くだけでなくペアワークも適宜取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction TOEIC(R) Listening & Reading Test / IP Overview, Practice Test (Listening Section)	Vocabulary Quizの準備 Practice Test Listening Sectionの復習
2.	Vocabulary Quiz Unit 1, Unit 8 Practice Test 1 (Listening Section)	Vocabulary Quizの準備 Practice Test Listening Sectionの復習 Unit 2, Unit 9 指定箇所
3.	Vocabulary Quiz Unit 2, Unit 9 Practice Test 1 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 3 指定箇所
4.	Vocabulary Quiz Unit 3 Practice Test 1 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 10 指定箇所
5.	Vocabulary Quiz Unit 10 Practice Test 1 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 4, Unit 11 指定箇所
6.	Vocabulary Quiz Unit 4, Unit 11	Vocabulary Quizの準備
7.	Vocabulary Quiz Unit 11	Vocabulary Quizの準備
8.	Vocabulary Quiz Practice Test 1 (Reading Section)	Vocabulary Quizの準備 Practice Test 1 (Reading Section復習) Unit 5, Unit 12 指定箇所
9.	Vocabulary Quiz Unit 5, Unit 12 PracticeTest 1 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 6 指定箇所
10.	Vocabulary Quiz Unit 6	Vocabulary Quizの準備 Unit 13 指定箇所
11.	Vocabulary Quiz Unit 13	Vocabulary Quizの準備 Unit 7 指定箇所
12.	Vocabulary Quiz Unit 7	Vocabulary Quizの準備 Unit 14 指定箇所
13.	Vocabulary Quiz, Unit 14	Vocabulary Quizの準備
14.	Vocabulary Quiz Practice Test 1 (Reading Section)	Vocabulary Quizの準備 これまでの復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
・毎回の授業は予習・復習を前提として進めるので、800点突破のために相当の準備をすること。
・授業では様々な教材や自習の仕方を掲示するので、継続して自主学習をすること。
・ペアワークも多く行うため積極的な参加すること。
注) 教科書はCD付属のフルセットの物を購入し、初回授業に持参のこと。

フィードバックの方法:
毎回のVocabulary Quiz(単語テスト)は授業中に答え合わせの後、提出。
コメントペーパーの内容については、教室でまとめてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	60	出席、授業参加、単語テスト
定期試験	40	問われている文法項目の種類と出題意図を特定し時間内に問題が解けるかにより評価する。

教科書:
Grant Trew
Tactics for TOEIC Listening and Reading Test
Oxford
(CD付きフルセットの物)
ロバート・ヒルキ, 小石裕子, ヒロ前田, ポール・ワーデン
新TOEICテストスーパー単語
アルク

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール

164060

TOEIC800 Ⅱ

小柴　　和香

授業テーマ:
TOEIC(R)Listening & Reading テスト800点以上取得および実用的な英語運用能力の向上

授業の概要:
TOEIC(R)Listening & Reading テスト800点以上を目指す学生を対象に、必要と
される総合的な英語力を身につけることを目標とする。単なるTOEICの試験対策にとどまらず、
高度な英語運用能力を獲得するために必要な語彙、文法、読解力、リスニング力を身につけ ることを目標とし、
より実践的なコミュニケーション能力の育成を目指す。受講に際してはスコア600点程度 を取得していること、さらにTOEIC 800 I を履修していることが望ましい。

到達目標:
・TOEIC (R) Listening & Reading テスト及びTOEIC IPに頻出する単語を習得すること。
・TOEIC (R) Listening & Reading テスト及びTOEIC IP の出題形式に慣れ、時間内に問題を解けるようになること。
・正解不正解の理由を説明できるようになること。
・試験問題(新形式、IP共に)を見たときに、問われている文法項目の種類と出題意図を特定できること。
・ビジネス文書や通知、広告などを読み、時間内に内容を把握して必要な情報を得ることができるようになること。
・TOEIC(R) Listening & Reading テスト及びTOECI IP頻出の表現を習得し、実際の場面で使えるコミュニケーション能力を養う。

授業方法:
演習形式
リスニング力に結びつく形式での単語テストを毎回実施する。授業ではテキストに沿って各パートを解くためのストラテジーを学び、実践問題を解く。問題を解くだけでなくペアワークも適宜取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Unit 15 / Listening Section Review	Vocabulary Quizの準備
2.	Vocabulary Quiz Practice Test 2 (Listening Section)	Vocabulary Quizの準備 Practice Test 2 Listening Sectionの復習 Unit 16 指定箇所
3.	Vocabulary Quiz Unit 16 Practice Test 2 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 17 指定箇所
4.	Vocabulary Quiz Unit 17 Practice Test 2 (Listening Section) 解説	Vocabulary Quizの準備
5.	Vocabulary Quiz Practice Test 2 (Reading Section)	Vocabulary Quizの準備 Unit 19 指定箇所
6.	Vocabulary Quiz Unit 19 Practice Test 2 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 20 指定箇所
7.	Vocabulary Quiz Unit 20 Practice Test 2 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 18 指定箇所
8.	Vocabulary Quiz Unit 18 Practice Test 2 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Practice Test 1 (Reading Section復習) Unit 21 指定箇所
9.	Vocabulary Quiz Unit 21 Practice Test 2 (Reading Section) 解説	Vocabulary Quizの準備 Unit 22, Unit 28 指定箇所
10.	Vocabulary Quiz Unit 22, Unit 28	Vocabulary Quizの準備 Unit 23 指定箇所
11.	Vocabulary Quiz Unit 23, Unit 28	Vocabulary Quizの準備 Unit 24, Unit 26 指定箇所
12.	Vocabulary Quiz Unit 24, Unit 26	Vocabulary Quizの準備 Unit 25 指定箇所
13.	Vocabulary Quiz, Unit 25, Unit 26	Vocabulary Quizの準備 Unit 27 指定箇所
14.	Vocabulary Quiz Unit 27	Vocabulary Quizの準備 これまでの復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
・毎回の授業は予習・復習を前提として進めるので、800点突破のために相当の準備をすること。
・授業では様々な教材や自習の仕方を掲示するので、継続して自主学習をすること。
・ペアワークも多く行うため積極的な参加すること。
注) 教科書はCD付属のフルセットの物を購入し、初回授業に持参のこと。

フィードバックの方法:
毎回のVocabulary Quiz(単語テスト)は授業中に答え合わせの後、提出。
コメントペーパーの内容については、教室でまとめてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	60	出席、授業参加、単語テスト
定期試験	40	問われている文法項目の種類と出題意図を特定し時間内に問題が解けるか、また、場面に応じた適切な表現の理解度により評価する。

教科書:
Grant Trew
Tactics for TOEIC Listening and Reading Test
Oxford
(CD付きフルセットの物)
ロバート・ヒルキ, 小石裕子, ヒロ前田, ポール・ワーデン
新TOEICテストスーパー単語
アルク

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

164160 **Career Introduction Ⅰ**

湊　　圭史、布施　　邦子、神鳥　　静

授業テーマ:　学習モデル・キャリアモデルのある大学生活を送ろう！

授業の概要:　（1）英語英文学科では、文学・文化・言語・コミュニケーションと4領域の学習ができるなど、科目選択の幅も広い。1年次の早い段階から、大学卒業後をイメージしながら、自分自身の「学習・キャリアモデル」を構築できるようにする。
（2）大学卒業後の職業選択はどのような可能性があるのか、具体的職業の例をもとに考える。

到達目標:　コース終了時には、2回生以降どのような科目を履修するか、自身の「学習モデル」（短期目標）及び将来の職業選択を含めた卒業後の「キャリアモデル」（長期目標）を持つことが出来るようにする。

授業方法:　（1）3名の教員がリレー形式で、それぞれ3回ずつ分担して担当。
（2）授業の方法は3名の教員により、講義、ビデオ利用、ハンドアウトの配付、イメージが湧くよう効果的かつ多様な方法を取る。
（3）ゲストスピーカーを最大3名招聘し、多様な職業選択について考える機会を持つ。
（4）できる限り、1年次の他の科目との連携を図る。
※この授業は学内に公開されているため、他の教員・学生が参加する場合があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	授業への期待を考える
2.	大学での学び（1） 大学で学ぶことの意味とは、 英語英文学科の授業料は高い？ 人生の三大選択、卒業後を意識した学習モデル	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
3.	大学での学び（2） 大学で学ぶことの意味とは、 英語英文学科の授業料は高い？ 人生の三大選択、卒業後を意識した学習モデル	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
4.	大学での学び（3） 大学で学ぶことの意味とは、 英語英文学科の授業料は高い？ 人生の三大選択、卒業後を意識した学習モデル	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
5.	英語教育への道（1）（小中高英語教員、児童英語教師、塾、予備校、教育系企業への就職）、日本語教師への道（オーストラリア、ATJ、日本国内で、副専攻プログラム）	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
6.	英語教育への道（2）（小中高英語教員、児童英語教師、塾、予備校、教育系企業への就職）、日本語教師への道（オーストラリア、ATJ、日本国内で、副専攻プログラム）	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
7.	英語教育への道（3）（小中高英語教員、児童英語教師、塾、予備校、教育系企業への就職）、日本語教師への道（オーストラリア、ATJ、日本国内で、副専攻プログラム）	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
8.	研究者の道（1）：国内外大学院進学、研究者、生涯学習としての英語の学び、海外で働く	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
9.	研究者の道（2）：国内外大学院進学、研究者、生涯学習としての英語の学び、海外で働く	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
10.	研究者の道（3）：国内外大学院進学、研究者、生涯学習としての英語の学び、海外で働く	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
11.	英語のプロへの道：通訳	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
12.	企業で働く（メーカー）	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
13.	企業で働く（航空業界）	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
14.	まとめ（1）	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく
15.	まとめ（2）	関連する内容について図書館で新聞を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:　遅刻厳禁、ミニレポート期限厳守です（1秒でも遅れたら受理しない）。

フィードバックの方法:　まなばで提出されたレポートについては評価をつけてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ミニレポート	100	到達目標に鑑み、理解度と自分自身の考えがどれくらい明確に述べられているかを基準に評価します。

教科書:　教科書は使いません。

参考書:　授業中に提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワーに直接相談またはメールによる連絡

164260 **Career Introduction Ⅱ**

原田　　紀久子

授業テーマ:　アントレプレナーシップ実践（仕事を創りだせるリーダー育成がテーマです）

授業の概要:　授業では、まず、科学技術の発展や急激な情報化・国際化の進展により、変わりゆく人々の働き方・職業の在り方や必要となる技能・資質について理解し、自分自身の今後のキャリア選択や習得すべき能力について考えます。その上で、5名程度のチームに分かれて、各自が興味ある職域分野での課題解決をテーマにミニプロジェクト（企業運営）を実践し、実際に商品開発、イベントやワークショップ開催などのアイデアを形にすることで、仕事のプロセスを体験します。
ミニプロジェクトでは、設定したテーマについての情報収集、課題分析、事業計画書の立案、収支計画、企画のプレゼン、協力者との交渉、広報、集客など一連の業務を行いながら、これらの取組み内容を同様の活動を行っている大学等との合同発表会（トレードフェア）にて、マーケティング学習の一環として出展し紹介します。

到達目標:　この授業は、実践を通じて以下の目標を達成することを目指しています。
①自分の考えや意見を言う能力を伸ばすとともに、チームで共に働く力やリーダーシップを培う
②課題解決に取組むうえで必要な視点や思考のフレームワークについて理解する
③仕事の始まりから終わりまでの業務プロセスやそれらを遂行するために必要な能力について理解を深める
④アイデアを形にするために必要な起業家的行動能力（アントレプレナーシップ）を培う
⑤自分の能力や不足している資質・技能ついて理解し、今後の学習活動や将来のキャリア設計に役立てる。

授業方法:　発表・意見交換やチームでの実習を中心とし、学外学習も予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	時代とともに変化する職業や求められる技能VS時代や職業が変わっても通用する能力とは？自分の興味・関心と将来のキャリアについて考えます	自分の興味・関心と将来のキャリアについて考えるとともに、この授業に参加して、どのような力を習得したいか明確にしておく。
2.	身近な興味・関心から、自分達ができる事業（ミニプロジェクト）について考えよう。	将来挑戦してみたい仕事について考え、それに近い活動を行うためには、この授業でどのようなプロジェクトができるかを検討し、授業中に提案できるようにしておく。
3.	企業のしくみ(営利事業と非営利事業)と組織運営。ミニプロジェクト(新規事業企画・実践)の内容についての議論	実施したいプロジェクトに近い事業について調べ、それらがどのように収益をあげているかのビジネスモデルを理解し、授業中に意見交換して、自分達の取り組むプロジェクト案をまとめる。
4.	ミニプロジェクトの市場調査と顧客分析(セグメンターション、ターゲティング、ポジショニング)	チームで取組むプロジェクトの市場分析や対象顧客のニーズ、同業他社の調査をし、授業中に意見交換できるようにしておく。
5.	ミニプロジェクトの事業計画書の立案	今まで議論してきたこととを事業計画書にまとめ、授業中に議論・完成できるようにしておく。
6.	ミニプロジェクトの収支計画の立案と企画内容の見直し	プロジェクトの実施に必要な経費を検討し、それをまかなうためにどのようにするかを考えておく。
7.	ミニプロジェクトの実践に向けた交渉やマーケティング等	プロジェクトを実施するために、どのような人に協力してもらう必要があるか、また、協力してもらいたいかをリストアップし、その交渉方法について考えておく。
8.	ミニプロジェクトの広報資料の作成・ビジネスプレゼンの練習等	自分達のプロジェクトを広く知ってもらうための広報資料（ちらしやポスター等）やプレゼン資料の提案を準備し、授業中に完成させられるようにする。
9.	ミニプロジェクトの合同発表会（トレードフェア）準備	トレードフェアに出展・発表するために必要な準備についてリストアップし、授業中に効率的に完成させるための工夫をしておく。
10.	ミニプロジェクトの合同発表会（トレードフェア）出展・発表	今までの学習内容の成果が発揮できるようにチームで準備を行う。（12/2京大での出展準備）
11.	ミニプロジェクトの合同発表会（トレードフェア）の振り返り（課題と成果）	各自、トレードフェアで学んだ成果と課題について取りまとめ、授業内で発表できるようにしておく。
12.	ミニプロジェクトの実践とまとめ	各自、チームとして今まで取組んできたプロジェクトのまとめと、そこから得た学びを各自レポートにまとめ、提出する準備をしておく。
13.	ミニプロジェクトのチーム発表と意見交換	今までの学習内容をまとめて発表し、意見交換を行う。
14.	ミニプロジェクトのチーム発表と意見交換	今までの学習内容をまとめて発表し、意見交換を行う。
15.	学習のまとめ：雇う側＆雇われる側の視点、今後のキャリアについて	本授業を通じて学んだことをどのように次につなげるか、意見交換する準備をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義では、事例分析や各人が取り組むことについて意見交換や議論を行い、皆で共有しながら学んでいきますので、主体的に考えて意見を言えるだけでなく、チームでプロジェクトを進めていける能力が求められます。よって、このような能力を伸ばしたいと考えている方や、意欲的に課題をこなし社会人としてのマナーと責任をもって参加できる、あるいは、そのようになりたいと考えている受講生を歓迎します。積極的に取組むことができれば、就職活動や社会人になった際に必ず役立つ企画・プレゼン能力・リーダーシップ等を培うことができる授業です。

フィードバックの方法:　提出物や授業での発表等については、授業内で助言し、学びを他の受講生と共有します。チーム主体で進めるミニプロジェクトについても、同様に指導しますが、授業時間外での質問については、電子メールなどで随時対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への貢献度（参加点）	20%	授業に出席するだけでなく、積極的に自分の意見を述べるなど授業の目的とする能力開発に取り組む姿勢があり、そのことで皆の意欲向上にも貢献しているかを評価します。
ミニプロジェクト（チーム）	60%	チームで企画したプロジェクトの実現状況やその実現のために果たした役割について、自己評価やチームの他のメンバーの他者評価を参考に、評価します。
個別の課題提出・発表	20%	課題に出したレポートや発表の内容を通じて、授業の到達目標としている学習が達成できているかを評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	電子メール（harada@entreplanet.org）または電話(075-468-8907, 090-2066-8939)

164361、62 **Pronunciation Skills Ⅰ**

大塚　　朝美、上田　　洋子

授業テーマ:　英語発音の向上をめざす

授業の概要:　英語音声学の理論と実践

到達目標:　このクラスは、配布教材を元にした英語の基本的な音体系の理解と、CALL教室においての実践的な発音・聴き取り練習による英語音声の基礎体力作りを目標とする。毎回の理論学習と並行して、ATR CALL BRIXを使用しての発音チェックや、モデル音声との比較などを行う。春学期には、各母音・子音の発音記号を読み、それを正しく発音できるようになること、そしてその応用を目指す。学期末にはプロジェクトとして応用教材を使用し、既に習った学習事項を踏まえた上での、個人やペアでの発表による英語音声表現にも挑戦する。相手に伝えるための音声学習であり、全員が人前で堂々と発音するクラスであるため、学生の積極的に授業に関わる姿勢を期待する。英語音声学Iを履修済であることが望ましい。

授業方法:　CALL教室を使用し、撮影機材などを効果的に用いた発音訓練も講義と併行して行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	発音器官、母音と子音	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
3.	母音（1）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
4.	母音（2）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
5.	母音（3）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
6.	母音（4）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
7.	子音（1）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
8.	子音（2）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
9.	子音（3）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
10.	子音（4）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
11.	プロジェクト練習	自主学習システムのリポート提出
12.	プロジェクト練習	自主学習システムのリポート提出
13.	プロジェクト練習	自主学習システムのリポート提出
14.	プロジェクト練習	自主学習システムのリポート提出
15.	発表のself-evaluation まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　全体練習にてチェックを行う。
ATR自主学習システムのレポートを仕上げる。
ハンドアウトを利用し、モデル音声と自分の発音の比較などをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	10%	毎回行う小テストの平均点を評価に加える。
クラスワーク（参加・レポートなど）	30%	クラスワークを評価に加える。
ATR学習リポートの提出	10%	レポート提出を評価に加える。
プロジェクト（performance・self-evaluation・worksheetな	50%	プロジェクトはperformance・self-evaluation・worksheetを評価する。

教科書:　配布教材を使用する為、購入する教科書はない。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとる

164461、62 **Pronunciation Skills Ⅱ**

大塚　朝美、上田　洋子

授業テーマ: 英語発音の向上をめざす

授業の概要: 英語音声学の理論と実践

到達目標: このクラスは、配布教材を元にした英語の基本的な音体系の理解と、CALL教室においての実践的な発音・聴き取り練習による英語音声の基礎体力作りを目標とする。毎回の理論学習と並行して、ATR CALL BRIXを使用しての発音チェックや、モデル音声との比較などを行う。秋学期には、音の連結/脱落/同化、強勢、イントネーションなどについて習得し、その応用を目指す。学期末にはプロジェクトとして応用教材を使用し、既に習った学習事項を踏まえた上での、個人やペアでの発表による英語音声表現にも挑戦する。相手に伝えるための音声学習であり、全員が人前で堂々と発音するクラスであるため、学生の積極的に授業に関わる姿勢を期待する。

Pronunciation Skills Ⅰを履修済であることが望ましい。

授業方法: CALL教室を使用し、撮影機材などを効果的に用いた発音訓練も講義と併行して行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Pronunciation Skills Ⅰ復習	
2.	音の連結・脱落・同化（1）	テキストの指定範囲の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
3.	音の連結・脱落・同化（2）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
4.	音の連結・脱落・同化（3）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
5.	強勢（1）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
6.	強勢（2）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
7.	強勢（3）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
8.	強勢（4）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
9.	イントネーション　ほか（1）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
10.	イントネーション　ほか（2）	配布教材の予習・復習 自主学習システムのリポート提出
11.	プロジェクト練習	自主学習システムのリポート提出
12.	プロジェクト練習	自主学習システムのリポート提出
13.	プロジェクト練習	自主学習システムのリポート提出
14.	プロジェクト練習	自主学習システムのリポート提出
15.	発表のself-evaluation　まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 全体練習にてチェックを行う。
ATR自主学習システムのレポートを仕上げる。
ハンドアウトを利用し、モデル音声と自分の発音の比較などをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	10%	毎回行う小テストの平均点を評価に加える。
クラスワーク（参加・レポートなど）	30%	クラスワークを評価に加える。
ATR学習リポートの提出	10%	レポート提出を評価に加える。
プロジェクト（performance・self-evaluation・worksheetな	50%	プロジェクトはperformance・self-evaluation・worksheetを評価する。

教科書: 配布教材を使用する為、購入する教科書はない。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとる

164560 **Presentation Skills Ⅰ**

松井　　ゆう子

授業テーマ:

授業の概要:
英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成します。さまざまなプロジェクトの準備をしながら、英語で情報伝達する際に必要なきちんとした発音、人前で話すための技術・心構え、ペア作業の際のコミュニケーション力・責任力を身につけていきます。「世界中どこに出ても恥ずかしくない」英語力と姿勢でプレゼンテーションができる能力は、社会に出てもきっと必要不可欠で役に立つと思われます。

到達目標:
・日本語を母国語とする人が苦手とする音を中心に、正しい英語の発音ができるようにする。
・各プロジェクトの準備をしながら、紹介、提案、効果的な情報伝達ができるようにする。
・堂々と人前で話すための技術・心構えなどを身につける。
・ペアで作業をする際のコミュニケーション力・責任感を身につける。
・自分の英語プレゼンテーション力に自信を持てるようになる。

授業方法:
プレゼンテーションの準備・練習・発表を行います。同時に発音矯正も行います。積極的な姿勢を高く評価します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	教科書の確認
2.	英語プレゼンテーションの基礎	授業内容の復習
3.	プロジェクト（1）－1	原稿製作と発表準備
4.	プロジェクト（1）－2	原稿製作と発表準備
5.	プロジェクト（1）－3	原稿暗記と発表準備
6.	プロジェクト（1）－4	自己評価・他者評価
7.	プロジェクト（2）－1	原稿製作と発表準備
8.	プロジェクト（2）－2	原稿製作と発表準備
9.	プロジェクト（2）－3	原稿暗記と発表準備
10.	プロジェクト（2）－4	自己評価・他者評価
11.	プロジェクト（3）－1	原稿製作と発表準備
12.	プロジェクト（3）－2	原稿製作と発表準備
13.	プロジェクト（3）－3	原稿製作と発表準備
14.	プロジェクト（3）－4	原稿暗記と発表準備
15.	プロジェクト（3）－5	自己評価・他者評価

受講者へのメッセージやアドバイス:
発音矯正は短期間でできるものではありません。「少しでも発音をよくしたい」と思う人は、教室内のみでなく、時間を見つけては発音練習を繰り返すことを習慣にしてください。3か月続けると自分でもわかるくらい良い発音になります。頑張りましょう。

フィードバックの方法:
英語の提出物は添削して返却します。
自己評価にはコメントをつけて返却します。
他者評価は内容をまとめて教室でフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	60	3回のプレゼンテーションにおいて、到達目標を意識して発表ができているかを評価する。
提出物	15	3回のプレゼンテーションのための指示された提出物をきちんと期限内に提出できるかを評価する。
発音テスト	10	2回の発音テストで、よりよい発音をしようとする努力ができているかを評価する。
授業参加	15	積極的に授業に参加し、到達目標に達する努力をしているかを評価する。

教科書:
Akira Tajino他, Welcome to Nippon! -Building International Friendship- 朝日出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
ymatsui@dwc.doshisha.ac.jp
または 授業の前後に教室内で応対

164660 **Presentation Skills Ⅱ**

松井　　ゆう子

授業テーマ:

授業の概要:
春学期に続き、英語で考えをまとめ、それを発表するプレゼンテーション技術を育成します。さまざまなプロジェクトの準備をしながら、英語で情報伝達する際に必要なきちんとした発音、人前で話すための技術・心構え、ペア作業の際のコミュニケーション力・責任力を身につけていきます。「世界中どこに出ても恥ずかしくない」英語力と姿勢でプレゼンテーションができる能力は、社会に出てもきっと必要不可欠で役に立つと思われます。

到達目標:
・日本語を母国語とする人が苦手とする音を中心に、正しい英語の発音ができるようにする。
・各プロジェクトの準備をしながら、紹介、提案、効果的な情報伝達ができるようにする。
・堂々と人前で話すための技術・心構えなどを身につける。
・ペアで作業をする際のコミュニケーション力・責任感を身につける。
・自分の英語プレゼンテーション力に自信を持てるようになる。

授業方法:
プレゼンテーションの準備・練習・発表を行います。同時に発音矯正も行います。積極的な姿勢を高く評価します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	プレゼンテーションの復習・発音復習	復習内容の確認
2.	プロジェクト（1）－1	原稿製作と発表準備
3.	プロジェクト（1）－2	原稿製作と発表準備
4.	プロジェクト（1）－3	原稿製作と発表準備
5.	プロジェクト（1）－4	原稿暗記と発表準備
6.	プロジェクト（1）－5	自己評価・他者評価
7.	プロジェクト（2）－1	原稿製作と発表準備
8.	プロジェクト（2）－2	原稿製作と発表準備
9.	プロジェクト（2）－3	原稿暗記と発表準備
10.	プロジェクト（2）－4	自己評価・他者評価
11.	プロジェクト（3）－1	原稿製作と発表準備
12.	プロジェクト（3）－2	原稿製作と発表準備
13.	プロジェクト（3）－3	原稿製作と発表準備
14.	プロジェクト（3）－4	原稿暗記と発表準備
15.	プロジェクト（3）－5	自己評価・他者評価

受講者へのメッセージやアドバイス:
発音矯正は短期間でできるものではありません。「少しでも発音をよくしたい」と思う人は、教室内のみでなく、時間を見つけては発音練習を繰り返すことを習慣にしてください。3か月続けると自分でもわかるくらい良い発音になります。頑張りましょう。

フィードバックの方法:
英語の提出物は添削して返却します。
自己評価にはコメントをつけて返却します。
他者評価は内容をまとめて教室でフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	60	3回のプレゼンテーションにおいて、到達目標を意識して発表ができているかを評価する。
提出物	15	3回のプレゼンテーションのための指示された提出物をきちんと期限内に提出できるかを評価する。
発音テスト	10	2回の発音テストで、よりよい発音をしようとする努力ができているかを評価する。
授業参加	15	積極的に授業に参加し、到達目標に達する努力をしているかを評価する。

教科書:
Akira Tajino他, Welcome to Nippon! -Building International Friendship- 朝日出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
ymatsui@dwc.doshisha.ac.jp
または 授業の前後に教室内で応対

164760

ビジネスイングリッシュⅠ

坂下　　正憲

授業テーマ:　グローバル・ビジネスで活用できる実践的英語能力を身につけよう。

授業の概要:　様々な国際ビジネス場面を想定して、英文レターやメールの中でよく使用される独特なビジネス英語表現を学び、実践的な学習となるよう指導する。さらに、英字新聞などの記事を題材に、ビジネスに関する語彙や独特の表現を学び、基本的な読み方を学習し、ビジネス英語の理解力、速読力を養う。

到達目標:　ビジネス英語を使って演習を繰り返すことにより、日本語との共通点や相違点を理解し、思考力、コミュニケーション能力を向上させ、国際ビジネス社会で活躍できる人材の育成を目標とする。

授業方法:　講義と演習で構成される。テキストの基本文型を学んだ後、用例について演習する。さらに、参考資料を読んで、要旨を把握する。受講者は事前に練習文の作成、参考資料を一読しておくこと。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	C.1ビジネス英文メールの形式	教科書Chapter1の予習
3.	C.2世界主要支社長会議のお知らせ＆練習問題	同C.2の予習と練習問題文の作成
4.	C.3同上への出席通知＆練習問題	同C.3の予習と練習問題文の作成
5.	C.4販売本部長の営業報告＆練習問題	同C.4の予習と練習問題文の作成
6.	C.5宣伝部長報告＆練習問題	同C.5の予習と練習問題文の作成
7.	C.6企画部長報告＆練習問題	同C.6の予習と練習問題文の作成
8.	形成テストと振り返り	C.1からC.6までの復習
9.	C.7議事録送付＆練習問題	同C.7の予習と練習問題文の作成
10.	C.8カリフォルニアワインの見本輸入＆練習問題	同C.8の予習と練習問題文の作成
11.	C.9見本商品の発送通知＆練習問題	同C.9の予習と練習問題文の作成
12.	C.10引き合い＆練習問題	同C.10の予習と練習問題文の作成
13.	C.11オファー＆練習問題	同C.11の予習と練習問題文の作成
14.	C.12カウンター・オファー＆練習問題	同C.12の予習と練習問題文の作成
15.	まとめ	C.7からC.12までの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　英語の勉強のみならず、欧米との文化、慣習、ものの考え方の違いなど、講師の実体験に基づいて学びます。参考資料の題材も皆さんの興味深いものを選び、あまり堅苦しくならないよう工夫します。

フィードバックの方法:　授業中に説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
形成テスト(2回)	50%	ビジネス英語に関する知識や英文の理解度により評価する。
発表・演習	30%	例文や和訳の発表・演習における適切な英語の表現力を評価。
授業への参加度	20%	積極性、実際のコミュニケーション能力を評価する。

教科書:　『English for Business』海老沢達郎・功力義雄著(DTP出版、2014年)

参考書:　関連記事に関してはプリントを事前配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力

教員との連絡方法:　講義中に指示

164860

ビジネスイングリッシュⅡ

坂下　　正憲

授業テーマ:　グローバル・ビジネスで応用できる実践的英語能力を身につけよう。

授業の概要:　ビジネスイングリッシュⅠのアドバンス編となる。国際ビジネス場面を想定して、よく使用される独特なビジネス英語表現を学び、実践的な学習となるよう指導する。さらに、英文記事を題材に、ビジネスに関する語彙や独特の表現を学び、読み方を学習し、ビジネス英語の理解力、速読力を養う。

到達目標:　ビジネス英語を使って演習を繰り返すことにより、日本語との共通点や相違点を理解し、思考力、コミュニケーション能力を向上させ、国際ビジネス社会で活躍できる人材の育成を目標とする。

授業方法:　講義と演習で構成される。テキストの基本文型を学んだ後、用例について演習する。さらに、参考資料を読んで、要旨を把握する。受講者は事前に練習文を作成、参考資料を一読しておくこと。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	C.13カウンター・オファー受託通知＆練習問題	教科書Chapter13の予習
3.	C.14信用状開設準備＆同上	同C.14の予習と練習問題文の作成
4.	C.15船積通知＆＆練習問題	同C.15の予習と練習問題文の作成
5.	C.16クレーム＆練習問題	同C.16の予習と練習問題文の作成
6.	C.17クレームの解決＆練習問題	同C.17の予習と練習問題文の作成
7.	C.18国際展示会及び営業会議招待＆練習問題	同C.18の予習と練習問題文の作成
8.	形成テストと振り返り	C.13からC.18までの復習
9.	C.19国際展示会及び会議出席通知＆練習問題	同C.19の予習と練習問題文の作成
10.	C.20宿泊などの申し込み＆練習問題	同C.20の予習と練習問題文の作成
11.	C.21有力販売店主の工場視察＆練習問題	同C.21の予習と練習問題文の作成
12.	C.22ホテルへの苦情＆練習問題	同C.22の予習と練習問題文の作成
13.	C.23顧客のホテル苦情への返信＆練習問題	同C.23の予習と練習問題文の作成
14.	C.24有力販売店主の工場長宛礼状＆練習問題	同C.24の予習と練習問題文の作成
15.	まとめ	C.19からC.24までの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　ビジネスイングリッシュⅠを受講していることが望ましいが、履修条件ではない。講義の中でついていけるように工夫します。英語の勉強のみならず、欧米との文化、慣習の違いなども学びます。

フィードバックの方法:　授業中に説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
形成テスト(2回)	50%	ビジネス英語に関する知識や英文の理解度により評価する。
発表	30%	例文や和訳の発表において適切な英語の表現力を評価する。
授業への参加度	20%	積極的に発表し、実際のコミュニケーション能力を評価する。

教科書:　『English for Business』海老沢達郎・功力義雄著(DTP出版、2014年)

参考書:　関連記事に関しては参考資料(プリント)を事前配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力

教員との連絡方法:　講義中に指示

164961、62

エアラインイングリッシュ

若田　　加寿子

授業テーマ:

航空業界を目指す学生に、実践的なエアライン英語/英会話コミュニケーションについて解説します。

授業の概要:

エアラインは様々な業種で成り立ち、多くの人々の協力で1機の飛行機を運航しています。その中からグランドスタッフおよび客室乗務員の業務やサービスの基礎知識について解説し、空港や機内でのお客様や関係者とのコミュニケーションに用いられる実践的な英語/英会話を学びます。エアラインに求められるホスピタリティについて学び、コミュニケーションスキルの向上を目指します。社会の変化に伴い、多様化するエアラインに求められるグローバル人材として必要な資質や要件について考えます。

到達目標:

・グランドスタッフおよび客室乗務員の業務内容やサービスの基礎知識を習得すること。
・空港および機内における英語/英会話を理解すること。

授業方法:

演習:各回とも、基本的な業務知識、文化的背景およびエアラインに求められるホスピタリティマインドなどについて講義形式で解説し、具体的な場面を想定し、実例を紹介しながら演習を組み入れ、知識の定着を図ります。ロールプレイを取り入れ、学生が主体的に取り組めるように授業参加型として行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業概要の理解)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連事項についての予備知識を持ち、航空関連の情報を収集するなど関心を持っておくこと。 ・事後学習:授業で配布した資料の内容を理解し、まとめておくこと
2.	エアラインの提供するサービスについて	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 1を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
3.	エアラインで求められるホスピタリティ	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 2を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
4.	グランドスタッフの業務 I(チェックイン業務・ロビーサービスなど)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 3を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
5.	グランドスタッフの業務 II(CIQ業務・ラウンジ業務など)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 4を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
6.	グランドスタッフの業務 III(グランドハンドリング業務・イレギュラー時の対応	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 5を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
7.	異文化コミュニケーション I(海外生活と英語)	事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
8.	CA業務 I(客室乗務員の業務・役割、客室業務の基本的な流れ)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter6を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
9.	CA業務 II(国内線の機内サービス)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter7を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
10.	CA業務 III(国際線の機内サービス)	事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 8を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
11.	. 異文化コミュニケーション II(現役CAによるQ&A)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
12.	CA業務 IV(イレギュラー時の対応)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 9を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
13.	異文化コミュニケーション III (海外生活と英語)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
14.	. CA業務 V(航空会社の安全、保安・緊急に関する業務)	・事前学習:新聞報道やインターネットの検索を通じて、航空関連ニュースを収集すること。配布資料Chapter 10を予習しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めておくこと。
15.	まとめ	・事前学習:これまでのレジュメをすべて見直しておくこと。 ・事後学習:授業全体のまとめを行い、振り返りを行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

・毎回授業終了時に提出する小レポート(理解度・テーマに対するコメント・質問・要望で構成)について、翌週授業内で解説し、フィートバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験+ミニテスト	50%	到達目標「グランドスタッフおよび客室乗務員の業務内容やサービスの基礎知識」に関する理解度および「空港および機内における英語/英会話」に関する理解度により評価します。
授業への参加度	50%	積極的に授業に参加し、ロールプレイ時等の態度・意欲を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対します。

165060

セクレタリーイングリッシュ

洲脇　　万由美

授業テーマ:　国際社会におけるバイリンガル秘書業務の習得

授業の概要:　国際社会における積極的なバイリンガルセクレタリー像を考察し、企業の中におけるその業務の習得を目標とする。コミュニケーションの中心的役割を果たす秘書が取り扱う業務は多方面に及ぶが、本講座ではバイリンガルセクレタリーとして業務を遂行していく上で必要な基礎知識を学び、演習を交えて英語表現と業務処理能力を習得することを目標とする。

到達目標:　1. ビジネスメール作成　2. 接待としての観光アテンド　3. 電話・受付での英語での応対　4. 海外出張　ができるよう指導したい。

授業方法:　レビューテスト→講義→演習の形で進める。レビューテストは全10回のうち7回分が評価対象。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	バイリンガルセクレタリーとその業務	授業で学んだ雛型英文レターと専門用語を次回のレヴューテストの為に復習
2.	ビジネスレターの種類と特徴	同上
3.	ビジネスレター　招待状　英→日	同上
4.	ビジネスレター　クレーム状　日→英	同上
5.	タイムスケジュール表	同上
6.	物の管理 ～トヨタの5S	同上
7.	プロトコール（接遇マナー）	同上
8.	海外出張　空港編	同上
9.	海外出張　ホテル編	同上
10.	観光アテンド ～二条城研修	同上
11.	受付での英語による応対	同上
12.	電話での英語による応対	同上
13.	ロールプレイ練習	同上
14.	パフォーマンステスト 秘書業務関連　50問単語テスト	同上
15.	Review	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　10回のレビューテストで雛型のビジネスレター10種類と秘書業務で必要な単語の暗記チェックを行う。
ビジネスに直結した講義で、就職、TOEIC対策にも役立つ。

フィードバックの方法:　授業内で解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レヴューテスト	70	10回分のレヴューテストのうちトップ7回分を評価対象
英語パフォーマンステスト	20	英語での受付・電話応対の口頭テスト
レポート	10	レターの提出、5Sのレポート

教科書:　OFFICE ENGLISH 南雲堂

参考書:　授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、コミュニケーション力、思いやる力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応

165160

メディアイングリッシュⅠ

井上　　聖子

授業テーマ:　メディア英語の総合演習

授業の概要:　時事的話題を扱った海外のテレビニュースを用いて、目に触れ耳にする英語を学ぶ。グローバルな視点を養いながら情報化社会で要求される英語での情報収集・理解力を高める。

本科目では、メディアで発信される様々なトピックの英語を理解する能力を総合的に養成することを目標として、リスニングを中心とした演習を行うと共に、海外事情に対する知識や関心を高めることを目標とする。

到達目標:　海外のテレビニュースで流されるナチュラルスピードの英語を聴いて、内容を理解できる。
時事英語で用いられる重要語彙を習得している。
英語圏の文化や社会事情について理解している。

授業方法:　映像教材を用いたテキストを主に利用し、演習形式の授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction Syllabus Unit 1: UNIQLO Aims High	
2.	Unit 2 : Study Finds How TV Affects Children's Behavior	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
3.	Unit 3: Texting & Driving… It Can Wait	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
4.	Unit 4 : Students Unwind in Therapy Dog Lounge Ahead of Finals	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
5.	Unit 5 : Bringing Clean Water to the World through Charity: Water	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
6.	Unit 6 : A Wave of Asian Immigrants	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
7.	Unit 7: Facebook Envy	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
8.	Review 1	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
9.	Unit 8: Smart Networking Tips	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
10.	Unit 10 : Manners 101	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
11.	Unit 11: Baby Boomers Moving Back to Cities	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
12.	Unit 13 : Carbon Dioxide Making Oceans More Acidic	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
13.	Unit 15 : Flipped Classroom is Changing the Way Students Learn	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
14.	Review 2	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
15.	Exam	

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な授業参加が求められる。

フィードバックの方法:　提出物を採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的に授業に参加した度合いとタスクへの取り組みで評価
授業中に行う課題・小テスト	50	Check Quiz, Review Quiz, 提出物などで評価
定期試験	30	Examの点数で評価

教科書:　熊井　信弘,　Stephen Timson. CBS NewsBreak 2.　成美堂.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

165260

メディアイングリッシュⅡ

井上　　聖子

授業テーマ:　メディア英語の総合演習

授業の概要:　時事的話題を扱った海外のテレビニュースを用いて、目に触れ耳にする英語を学ぶ。グローバルな視点を養いながら情報化社会で要求される英語での情報収集・理解力を高める。

本科目では、メディアで発信される様々なトピックの英語を理解する能力を総合的に養成することを目標として、リスニングを中心とした演習を行うと共に、海外事情に対する知識や関心を高めることを目標とする。

到達目標:　海外のテレビニュースで流されるナチュラルスピードの英語を聴いて、内容を理解できる。
時事英語で用いられる重要語彙を習得している。
英語圏の文化や社会事情について理解している。

授業方法:　映像教材を用いたテキストを主に利用し、演習形式の授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction Syllabus Unit 1: What's for Lunch? In Japanese Schools It's Always Healthy.	
2.	Unit 2: BYOB: California Bans Single-Use Plastic Bags	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
3.	Unit 3: How a Dog Can Improve Your Health	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
4.	Unit 5: "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
5.	Unit 6: The Evolution of Comic Books in the Digital Age	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
6.	Unit 7: Can Drinking Soda Make You Age Faster?	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
7.	Unit 8: What You Like on Facebook Could Affect Your Job Search	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
8.	Review 1	復習と質問事項の確認
9.	Unit 9: Is Sitting the New Smoking?	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
10.	Unit 10: Matcha Madness Sparks New Tea Craze	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
11.	Unit 11: Daddy Duty: Stay-at-home Dads Putting Kids Before Careers	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
12.	Unit 13: Slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習とShadowing演習
13.	Unit 15: HowCompanies Are Keeping Handwriting Alive in the Digital Age	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
14.	Review 2	授業でカバーしたUnitの内容、語彙の復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な授業参加が求められる。

フィードバックの方法:　提出物を採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的に授業に参加した度合いとタスクの取り組みで評価
授業中に行う課題・小テスト	50	Check Quiz, Review Quiz, 提出物などで評価
定期試験	30	Examの点数で評価

教科書:　熊井　信弘. Stephen Timson. CBS NewsBreak 3.　成美堂.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

165360

プロフェッショナル通訳法

志手　　理祐

授業テーマ:　通訳パフォーマンスに挑戦し、英語の運用能力を高める

授業の概要:　通訳訓練メソッドの目的、効用を理解した上で、実践的な音声教材を用い通訳パフォーマンスに挑戦する。

到達目標:　通訳のトレーニング法を身に着け、通訳レベルでの「聞き方」、「情報処理」、「アウトプット」を身に着ける。

授業方法:　様々な音声（英語・日本語）を題材にリスニングコンプリヘンション（理解）⇒アウトプット（訳出）の練習を行う（ペアワーク、グループワークを含む）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業で紹介されたメソッドの確認・反復
2.	演習（1）	課題定着のための学習
3.	演習（2）	課題定着のための学習
4.	演習（3）	課題定着のための学習
5.	演習（4）	課題定着のための学習
6.	演習（5）	課題定着のための学習
7.	演習（6）	課題定着のための学習
8.	演習（7）	課題定着のための学習
9.	演習（8）	課題定着のための学習
10.	演習（9）	課題定着のための学習
11.	演習（10）	課題定着のための学習
12.	演習（11）	課題定着のための学習
13.	演習（12）	課題定着のための学習
14.	まとめ	秋期全体の見直し
15.	Review	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業のける発表、パフォーマンスに対して適宜コメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加・姿勢	30	授業のトレーニングに積極的に参加しているか
パフォーマンス（または小テスト）	30	授業で扱った語彙、通訳課題等が定着しているか
まとめ(テスト)	40	授業内容の定着度および実力評価

教科書:　別途指示する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で応対

165460

プロフェッショナル翻訳法

洲脇　　万由美

授業テーマ:　専門性のある英文・和文を翻訳してみよう！

授業の概要:　翻訳とは一字一句正確に訳することが翻訳なのだかろうか？また、一字一句訳したものの方がその正確につたわるのだろうか？感動を伝えることができるのだろうか？
文化の違い、思考の違い、価値観の違いが二つの言語の間に介在する限り、翻訳家の苦労と工夫は限りない。その違いに留意しながら、まずは、本講座では、原文の解釈をグループディスカッションで徹底的に行い、パラフレージング・翻訳を行い、最終的にはプロの翻訳との比較分析を行う。

到達目標:　専門性の高い英文・和文の原文を徹底的に分析・解釈をして、同言語の別の文章にリプロダクションしてみよう。そのうえで色々なパターンでパラフレージング訳出し、それぞれの言葉や表現が持つイメーや響きを比較分析し、訳出の幅を広げる。

授業方法:　グループディスカッションによる原文の分析→リプロ→イメージに合う単語の選出→パラフレージング→比較検討

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本語と英語の違い ＊名詞化による情報の圧縮 ＊物質主語と他動詞 ＊英語は解凍しなくっちゃ！ ＊主語はどこへ？ ＊代名詞はどうしよう翻訳と通訳の違い	課題の文章を自分なりに翻訳し、工夫した点などをレポート
2.	スピーチ原稿翻訳　英日1	同上
3.	スピーチ原稿翻訳　英日2	同上
4.	スピーチ原稿翻訳　日英1	同上
5.	スピーチ原稿翻訳　日英2	同上
6.	プレゼンテーション1　英日	同上
7.	企業パンフレット翻訳　英日	同上
8.	企業パンフレット翻訳　英日	同上
9.	企業パンフレット翻訳　日英	同上
10.	企業パンフレット翻訳　日英	同上
11.	プレゼンテーション2	同上
12.	企業ホームページ翻訳　日英	同上
13.	企業ホームページ翻訳　日英	同上
14.	翻訳トライ	同上
15.	Review	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　難易度の高い専門性のある翻訳に挑戦するため安定した文法力は必要。
将来仕事で翻訳業務が必要になった時に役立つレベルを目指すため、翻訳に強い興味を持つ者に参加を望む。

フィードバックの方法:　授業内で解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート　5回	25	翻訳のレベルよりも原文と翻訳文の比較分析した内容を主に評価
プレゼンテーション1	25	同上
プレゼンテーション2	25	同上
翻訳トライ	25	

教科書:　なし

参考書:　授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応

165560

Advanced Presentation Ⅰ

柳　　美佐

授業テーマ:
この授業は、英語プレゼンテーションの演習を通して卒業までに実践的な英語運用能力を身につけることを目標とする。なるべく通年で受講すること。

授業の概要:
与えられたトピックの中からひとつを選びプレゼンテーションを準備する。
各自が設定した内容にそって実践的な演習を中心に授業を進める。

到達目標:
授業で選択したトピックについてスライド等を用いて英語でわかりやすくプレゼンテーションできるようになること。

授業方法:
CALL教室での演習・ピアレビュー

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction	なし
2.	実践演習	翌週までの課題
3.	実践演習	翌週までの課題
4.	実践演習	翌週までの課題
5.	実践演習	翌週までの課題
6.	実践演習	翌週までの課題
7.	実践演習	翌週までの課題
8.	実践演習	翌週までの課題
9.	実践演習	翌週までの課題
10.	実践演習	翌週までの課題
11.	実践演習	翌週までの課題
12.	実践演習	翌週までの課題
13.	実践演習	翌週までの課題
14.	実践演習	翌週までの課題
15.	最終発表	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:
プレゼンテーションスライドや原稿は授業時間外に作成してくること。

フィードバックの方法:
授業内でのレビューとディスカッション

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50%	出席ならびに課題
最終発表	50%	原稿、スライド、発表に対する総合評価

教科書:
授業中に指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
Eメール。アドレスは初回授業で配布する。

165660

Advanced Presentation Ⅱ

柳　　美佐

授業テーマ:
この授業は、英語プレゼンテーションの演習を通して卒業までに実践的な英語運用能力を身につけることを目標とする。なるべく通年で受講すること。

授業の概要:
与えられたトピックの中からひとつを選びプレゼンテーションを準備する。
各自が設定した内容にそって実践的な演習を中心に授業を進める。

到達目標:
授業で選択したトピックについてスライド等を用いて英語でわかりやすくプレゼンテーションできるようになること。

授業方法:
CALL教室での演習・ピアレビュー

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction	なし
2.	実践演習	翌週までの課題
3.	実践演習	翌週までの課題
4.	実践演習	翌週までの課題
5.	実践演習	翌週までの課題
6.	実践演習	翌週までの課題
7.	実践演習	翌週までの課題
8.	実践演習	翌週までの課題
9.	実践演習	翌週までの課題
10.	実践演習	翌週までの課題
11.	実践演習	翌週までの課題
12.	実践演習	翌週までの課題
13.	実践演習	翌週までの課題
14.	実践演習	翌週までの課題
15.	最終発表	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:
プレゼンテーションスライドや原稿は授業時間外に作成してくること。

フィードバックの方法:
授業内でのレビューとディスカッション

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50%	出席ならびに課題
最終発表	50%	原稿、スライド、発表に対する総合評価

教科書:
授業中に指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
Eメール。アドレスは初回授業で配布する。

165760

Advanced Pronunciation Ⅰ

今井　　由美子

授業テーマ:　英語の発音向上を目指す

授業の概要:　英語英文学科の卒業生として自信をもって社会で活躍するために、特に英語科教職課程を履修生は、英語教師として生徒のよき「発音モデル」となるためにこの授業を積極的に受講し、英語音声学・音韻論の知識をつけてほしい。人前で英語で話すという経験をつけるために、発表形式の練習も多く取り入れる。

到達目標:　英語音声学の理論を理解し、実践に役立てる。

「Active Listening」、「英語音声学」や「Pronunciation Skills」を受講することで、1年次より英語の発音、発声、身体表現、英語を聴く能力を訓練してきた。この授業では、3・4年次生を対象に、個々の音、単語、文レベルの練習に加え、ダイアログを取り入れるなどし、英語の発音や音のしくみを復習する機会とする。

授業方法:　CALL教室を使用し、毎回理論と実践（発音練習）を並行し行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	語強勢・文強勢 ・ポーズについて	学習ポイントにおける練習→発表
3.	ピッチ・イントネーションについて	学習ポイントにおける練習→発表
4.	音のつながり（1）	学習ポイントにおける練習→発表
5.	音のつながり（2）	学習ポイントにおける練習→発表
6.	音のつながり（3）	学習ポイントにおける練習→発表
7.	特別な強勢（合成語・語強勢の移動/弱化）について	学習ポイントにおける練習→発表
8.	母音（1）	学習ポイントにおける練習→発表
9.	母音（2）	学習ポイントにおける練習→発表
10.	母音（3）	学習ポイントにおける練習→発表
11.	子音（1）	学習ポイントにおける練習→発表
12.	子音（2）	学習ポイントにおける練習→発表
13.	子音（3）	学習ポイントにおける練習→発表
14.	Overall Review	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　与えられた課題についてリハーサルを行い、発表する。発表者は評価者からコメントをもらう。
授業終了時に各自で振り返りを行い、レポートに記入する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20%	課題への取り組み、提出物など評価に加える。
期末テスト（理論）	50%	
発表	30%	課題への取り組み、発音の質を評価に加える。

教科書:　今井由美子他、Sounds Make Perfect 、2010、英宝社　（Active Listeningで使用したものでよい）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとる

165860

Advanced Pronunciation Ⅱ

今井　　由美子

授業テーマ:　英語の発音向上を目指す

授業の概要:　英語英文学科の卒業生として自信をもって社会で活躍するために、特に英語科教職課程を履修生は、英語教師として生徒のよき「発音モデル」となるためにこの授業を積極的に受講し、英語音声学・音韻論の知識をつけてほしい。人前で英語で話すという経験をつけるために、発表形式の練習も多く取り入れる。

到達目標:　英語音声学の理論を理解し、実践に役立てる。

「Active Listening」、「英語音声学」や「Pronunciation Skills」を受講することで、1年次より英語の発音、発声、身体表現、英語を聴く能力を訓練してきた。この授業では、3・4年次生を対象に、個々の音、単語、文レベルの練習に加え、ダイアログを取り入れるなどし、英語の発音や音のしくみを復習する機会とする。

授業方法:　CALL教室を使用し、毎回理論と実践（発音練習）を並行し行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	英語のリズム・韻について	学習ポイントにおける練習→発表
3.	音のつながりの確認（進行同化、逆行同化）（1）	学習ポイントにおける練習→発表
4.	音のつながりの確認（進行同化、逆行同化）（2）	学習ポイントにおける練習→発表
5.	句動詞の確認	学習ポイントにおける練習→発表
6.	短縮形の音の現れ方の確認	学習ポイントにおける練習→発表
7.	文強勢の確認	学習ポイントにおける練習→発表
8.	まとめ（1）	学習ポイントにおける練習→発表
9.	まとめ（2）	学習ポイントにおける練習→発表
10.	プロジェクトについて	学習ポイントにおける練習→発表
11.	プロジェクト準備（1）	学習ポイントにおける練習→発表
12.	プロジェクト準備（2）	学習ポイントにおける練習→発表
13.	プロジェクト準備（3）	学習ポイントにおける練習→発表
14.	プロジェクト発表	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　与えられた課題についてリハーサルを行い、発表する。発表者は評価者からコメントをもらう。
授業終了時に各自で振り返りを行い、レポートに記入する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50%	課題への取り組み、提出物など評価に加える。
プロジェクト	50%	プロジェクトへの取り組み、完成度など評価する。

教科書:　今井由美子他、Sounds Make Perfect 、2010、英宝社　（Active Listeningで使用したものでよい）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとる

166160

Studies in English L (AES)

北尾　キャスリーン、湊　　圭史

授業テーマ:

Nonverbal Communication / Songs from Musicals

授業の概要:

In this course, we will spend half the semester on Nonverbal Communication and half on enjoying/discussing song lyrics from musicals.

到達目標:

To help students learn about Nonverbal Communication and song lyrics from musicals and by doing so, improving their proficiency and confidence in English.

授業方法:

Students will be presented with content through reading or listening, and they will discuss in groups what they have learned and how it applies to their own lives and experiences. Students will be encouraged to actively participate by asking questions, sharing their experiences, and expressing their opinions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course and to Nonverbal Communication	none
2.	Introduction to Nonverbal Communication 2	none
3.	Touching Behavior; Introduction of observation activity	observation activity
4.	The Voice and Vocal Characteristics	observation activity
5.	Artifacts	observation activity
6.	Clothing	observation activity
7.	The Environment	observation activity
8.	Musicals and Songs	Review Weeks 1-7
9.	Discussion & Workshop: "My Favorite Things" (from The Sound of Music)	Read reading materials, listen to the song
10.	Discussion & Workshop: "If I had a Brain/Heart/Nerve" (from The Wizard of Oz)	Read reading materials, listen to the song
11.	Discussion & Workshop: "I Hate Men" (from Kiss Me, Kate)	Read reading materials, listen to the song
12.	Discussion & Workshop: "People Will Say We're In Love" (from Oklahoma!)	Read reading materials, listen to the song
13.	Discussion & Workshop: "The Schuyler Sisters" (from Hamilton)	Read reading materials, listen to the song
14.	Discussion & Workshop: "Waving Through a Window" (from Dear Evan Hansen)	Read reading materials, listen to the song
15.	Review	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Discussion with students

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
assignments, tests, quizzes and contribution to class	60%	understanding of material
projects	30%	application of what the student has learned
attendance	10%	classes missed

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkitao217@yahoo.com, kjminato@gmail.com

166260

Studies in English M (AES)

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:

World migration, culture and society

授業の概要:

Students will be introduced to various aspects and current issues related to the topic of world migration, culture and society.
The course will be divided up into two parts. The first part of the course will focus on issues of migration and its impact on society.
The second part of the course will concentrate on the topic of multiculturalism in different countries including Canada, the United States of America and Japan.

到達目標:

The aim of this course is for students to improve their listening and reading comprehension skills while being exposed to topics about world migration and society.

授業方法:

Course work will consist of group discussion, group/pair work, oral presentations and written assignments in English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to course, goals and expectations	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
2.	Introduction to migration: key terms and concepts	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
3.	Introduction to migration: key terms and concepts	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
4.	Examples of migration: case studies	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
5.	Immigrants and its effects on society	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
6.	Immigration; case studies	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
7.	Japanese immigrants in the 1900's	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
8.	Japanese immigrants in the 1900's	Mid-term assessment preparation
9.	Mid-term assessments	Mid-term assessment preparation
10.	Mid-term assessments	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
11.	Japan and Immigration	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
12.	Japan and immigration	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
13.	Case studies of immigrants in Japan	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
14.	Final Presentations	Final assessment preparation
15.	Final Presentations	Final assessment preparation

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students will be expected to read texts in English, analyse information and think about its content subjectively and critically. Students are required to complete weekly assignments, a mid-term and final assignments.

フィードバックの方法:

In-class evaluations, peer feedback, writing assignment and presentation assessments

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20	active participation, initiative, motivation, effort
Group work and in-class group discussion	25	communication ability, motivation, effort
Written assignments and oral presentations	25	academic writing skills, presentation skills
Mid-term and final presentations	30	effort, academic writing skills, research skills and presentation skills

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:

The instructor will notify students about contact information in the first class.

166360

TOEFL・IELTS 初級 Ⅰ

池上　　久美子

授業テーマ:
TOEFL, IELTSで求められる英語運用能力に焦点を当てた基礎的英語運用能力を身につける。

授業の概要:
（1）TOEFL　ITPで出題される単語の語彙テストを毎回おこなう。
（2）TOEFL ITPのリスニング、文法、リーディング問題の解き方を実践的におこなう。
（3）TOEFL, IELTS の模擬問題を解き、問題形式に慣れる。
（4）アカデミックな英語の記事を読み、要約等の課題をする。
（5）オンラインリスニング教材を使用し、ディクテーションやノートテイキングの練習をおこなう。

到達目標:
（1）留学に必要なアカデミックな英語運用能力を身につける。（リスニング能力の向上、文型・文法に関する知識の確認と向上、語彙力の向上、アカデミックな文章を理解する能力の育成）
（2）TOEFL ITP,　IELTSのテストの特徴と違いについて理解し、各テストで求められる英語運用能力の向上を目指す。
（3）総合的な英語運用能力を養うため、アカデミックなテーマについて、「読む」、「自分の意見を書く」、「要約する」、「話す」といったパターンの練習をおこなう。

授業方法:
（1）語彙テストを行い、学生に勉強の成果を確認させる。
（2）TOEFL ITP, IELTSの問題を実践的に解くことで、問題形式に慣れる。
（3）ペア・ワーク、グループ発表等を通じ英語運用能力を養う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション シラバスの説明、TOEFL ITP & IELTSについての説明 Diagnostic Placement test	予習、宿題等の確認
2.	Diagnostic Placement Review (1)	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
3.	Diagnostic Placement test Review (2) Module 1 – Lesson 1 単語テスト1	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
4.	Module 1 – Lesson 2 単語テスト2	単語テストの予習 授業内容の予習・復習 アカデミックリーディングの準備 Online listening practice 1
5.	Module 1 – Lesson 3 単語テスト3 アカデミックリーディング１	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
6.	Module 1 – Lesson 4 単語テスト4	単語テストの予習 授業内容の予習・復習 Online listening practice 2
7.	Module 1 – Lesson 5 単語テスト5	単語テストの予習 授業内容の予習・復習 アカデミックリーディングの準備 Online listening practice 3
8.	Module 1–Lesson 6 単語テスト6 アカデミックリーディング２	授業内容の復習 Online listening practice 4
9.	まとめ(Module 1: Lesson 1–6)	単語テストの予習 授業内容の復習
10.	IELTS 模擬テスト1 単語テスト7	単語テストの予習 授業内容の復習 アカデミックリーディングの準備
11.	IELTS 模擬テスト1Review アカデミックリーディング３ 単語テスト8	単語テストの予習 授業内容の復習
12.	IELTS Practice 1 単語テスト9	単語テストの予習 授業内容の復習
13.	IELTS Practice 2 単語テスト１０	単語テストの予習 授業内容の復習 アカデミックリーディングの準備
14.	IELTS Practice 3 アカデミックリーディング４ 単語テスト１１	授業内容の復習
15.	まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
（1）授業の予習・復習を手を抜くことなく取り組むこと。
（2）各自、受験予定のテストに焦点を当てた問題集を準備し、計画的にテスト対策をすること。

フィードバックの方法:
課題等の提出物は評価を書いて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間テスト	20%	授業中に取り扱った問題と応用問題から、授業内容の理解度を評価する。
学年末試験	30%	授業中に取り扱った問題と応用問題から、授業内容の理解度を評価する。
受講態度	10%	授業に積極的に参加し、能動的に学んでいるかを評価する。
単語テスト	20%	毎回の単語テストの累計により評価する。
アカデミックリーディング	10%	アカデミックリーディングの感想、要約等をまとめ、全4回分が提出できているかを評価する。
オンラインリスニング	10%	オンラインでのリスニング教材に取り組み、全4回分が提出できているかを評価する。

教科書:
Boost your English 1 Practice for TOEFL ITP (SEIBIDO)
TOEFL テスト　英単語3800　4訂版　（旺文社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力
教員との連絡方法:	E-mail 授業支援システム(マナビー)

166460

TOEFL・IELTS 初級 Ⅱ

池上　　久美子

授業テーマ:
TOEFL, IELTSで求められる英語運用能力に焦点を当てた英語運用能力を身につける。

授業の概要:
（1）TOEFL　ITPで出題される単語の語彙テストを毎回おこなう。
（2）TOEFL ITPのリスニング、文法、リーディング問題の解き方を実践的におこなう。
（3）IELTS のリスニング、リーディングの解き方を模擬問題などを使用し実践的におこなう。
（4）アカデミックな英語の記事を読み、要約等の課題をする。

到達目標:
（1）留学に必要なアカデミックな英語運用能力を身につける。（リスニング能力の向上、文型・文法に関する知識の確認と向上、語彙力の向上、アカデミックな文章を理解する能力の育成）
（2）TOEFL ITP,　IELTSで求められる英語運用能力のさらなる向上を目指す。
（3）総合的な英語運用能力を養うため、アカデミックなテーマについて、「読む」、「自分の意見を書く」、「要約する」、「話す」といったパターンの練習をおこなう。

授業方法:
（1）語彙テストを行い、学生に勉強の成果を確認させる。
（2）TOEFL ITP, IELTSの問題を実践的に解くことで、問題形式に慣れると同時に、英語運用能力を養う。
（3）ペア・ワーク、グループ発表等を通じスピーキング能力を養う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション TOEFLの模擬問題	予習、宿題等の確認
2.	TOEFLの模擬問題の復習	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
3.	Module 2 – Lesson 1 IELTS Reading 1 単語テスト1	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
4.	Module 2 – Lesson 2 IELTS Reading 2 単語テスト2	単語テストの予習 授業内容の予習・復習 アカデミックリーディングの準備
5.	Module 2 – Lesson 3 単語テスト3 アカデミックリーディング１	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
6.	Module 2 – Lesson 4 IELTS Reading 3 単語テスト4	単語テストの予習 授業内容の予習・復習
7.	Module 2 – Lesson 5 IELTS reading 4 単語テスト5	単語テストの予習 授業内容の予習・復習 アカデミックリーディングの準備
8.	Module 2 – Lesson 6 単語テスト6 アカデミックリーディング２	授業内容の復習
9.	まとめ	単語テストの予習 授業内容の復習
10.	IELTS Listening Practice 1 単語テスト7	単語テストの予習 授業内容の復習 アカデミックリーディングの準備
11.	IELTS Listening Practice 2 アカデミックリーディング３ 単語テスト8	単語テストの予習 授業内容の復習
12.	IELTS Listening Practice 3 単語テスト9	単語テストの予習 授業内容の復習
13.	IELTS Listening Practice 4 単語テスト１０	単語テストの予習 授業内容の復習 アカデミックリーディングの準備
14.	IELTS Listening Practice 5 アカデミックリーディング４ 単語テスト１１	授業内容の復習
15.	まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
（1）授業の予習・復習を手を抜くことなく取り組むこと。
（2）各自、受験予定のテスト問題集を準備し、計画的にテスト対策をすること。

フィードバックの方法:
課題等の提出物は評価を書いて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間テスト	20%	授業中に取り扱った問題と応用問題から、授業内容の理解度を評価する。
学年末試験	30%	授業中に取り扱った問題と応用問題から、授業内容の理解度を評価する。
受講態度	20%	授業に積極的に参加し、期限までに提出物を提出し、能動的に学んでいるかを評価する。
単語テスト	20%	毎回の単語テストの累計により評価する。
アカデミックリーディン	10%	アカデミックリーディングの感想、要約等をまとめ、全4回分が提出できているかを評価する。

教科書:
Boost your English 1 Practice for TOEFL ITP (SEIBIDO)
TOEFL テスト　英単語3800　4訂版　（旺文社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:	E-mail 授業支援システム（マナビー）

166560

TOEFL・IELTS 中級 Ⅰ

小柴　　和香

授業テーマ:
TOEFL, IELTS で求められる英語能力に焦点を当てた実践的な英語運用能力の向上

授業の概要:
留学を目指す学生（あるいは、アカデミックな英語を理解する力を身につけたいと考えている学生）を対象に、総合的な英語力を身につけることを目標とする。英語圏の大学に留学する際には、語学要件として主に、TOEFL ITP, TOEFL iBT, IELTS いずれかのテストで一定の成績以上が求められる。授業ではそれぞれのテストの違いと特徴について理解をし、各テストで求められる英語能力に焦点を当てつつ、総合的な英語運用能力の向上を目指す。
注）授業では3種類のテストの問題対策（練習問題、過去問題など）をやることは不可能であるため、各自、自身に必要なテストの問題集を用意し、計画的にテスト対策をすること。

到達目標:
・TOEFL iBT/ITP, IELTS3種類のテストについてその違いと求められる力を理解する。
・TOEFL ITPで求められる英語能力を理解し、時間内に問題を解くことができる。
・TOEFl iBT及びILETSの問題形式にそい、自分の苦手な部分を見極め、英語の運用能力を高める。

授業方法:
リスニング力、会話力に結びつく形式での単語テストを実施する。ITP問題対策および文法解説は日本語で行い、様々なジャンルのトピックについて、スピーチ、ディスカッション、グループワーク、などは英語で行う予定である。（適宜、日本語でも補足説明を行う。）この授業は受身一方のテスト受験対策ではなく, 自らの考えをまとめて英語で発表したり, 受講生同士で発表内容の評価を行ったりといった活動も含まれるため, 積極的なクラス参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction 2種類のTOEFLテストとIETLS概要 Module 1	Vocabulary Quiz準備 Module 1指定箇所
2.	ITP攻略1 Module 1	Vocabulary Quiz準備 Module 1指定箇所
3.	ITP攻略2 Module 1	Vocabulary Quiz準備 Module 1指定箇所
4.	ITP攻略3 Module 2	Vocabulary Quiz準備 Module 2指定箇所
5.	ITP攻略4 Module 2	Vocabulary Quiz準備 Module 2指定箇所
6.	ITP攻略5 Module 2	Vocabulary Quiz準備 Module 2指定箇所
7.	ITP攻略6 Module 3	Vocabulary Quiz準備 Module 3指定箇所
8.	ITP攻略7 Module 3	Vocabulary Quiz準備 Module 3指定箇所
9.	ITP攻略8 Module 3	Vocabulary Quiz準備 Module 3指定箇所
10.	Module 4	Vocabulary Quiz準備 Module 4指定箇所
11.	Module 4	Vocabulary Quiz準備 Module 4指定箇所
12.	Module 4	Vocabulary Quiz準備 Module 4指定箇所
13.	Module 5	Vocabulary Quiz準備 Module 5指定箇所
14.	Module 5	Vocabulary Quiz準備 Module 5指定箇所
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
この授業の目的はTOEFL, IELTSテストの点数向上そのものではなく、海外の大学でアカデミックな専門分野を学ぶための語学力向上にある。そのことを絶えず念頭に置き、小手先の受験テクニックに走るのではなく、出題される様々な分野に興味関心を持ち、それを英語で学ぶ習慣を身につけて欲しい。

フィードバックの方法:
コメントペーパーについては授業でまとめてコメントする。
Vocabulary Quizは授業で答え合わせをし回収する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	60	単語、出席、授業参加
定期試験	40	TOEFL ITP問題の解き方を理解し実践に応用できるか評価する。iBTのspeaking integrated問題、IELTSのWriting問題Task 1について、その要約が適切にできるかどうか評価する。

教科書:
EXPERT IELTS 6
PEARSON

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール

166660

TOEFL・IELTS 中級 Ⅱ

小柴　　和香

授業テーマ:
TOEFL, IELTS で求められる英語能力に焦点を当てた英語運用能力の向上

授業の概要:
TOEFL iBT、IELTSで求められる総合的な英語運用能力(聴く、読む、に加え話す、書く、が求められる)を養うため、様々なテーマについて「聴く」→「自分の意見をまとめて話す」、「読む」→「自分の意見を書く」、「読む、聴く」→「両者の関係を要約する」といったパターンのトレーニングを行う。
春学期の「TOEFL・IELTS中級I」に引き続き、IELTS, TOEFL iBTのspeaking sectionで出されるようなトピックについて、準備なしで1分～2分程度スピーチができるようになることを目指す。注) TOEFL・IELTS中級Iを履修していることが望ましい。
授業ではそれぞれのテストの問題対策 (練習問題、過去問 題など) をやることは不可能であるため、各自、自身に必要なテストの問題集を用意し、計画的にテスト対策をすること。

到達目標:
・TOEFl iBT及びILETSのSpeaking Section 対策として、与えられたテーマについて準備なしに1分程度スピーチができること。
・英語で(短めの)プレゼンテーションができること。
・アカデミックな英文構造の特徴を理解し、長文を読む際、また、与えられた課題についてまとまった英語を書く際に、それらの知識の応用ができること。

授業方法:
ディスカッション、グループワーク、iBT, IELTS対策のスピーチ練習などは英語で行う予定であるが、適宜、日本語でも補足説明を行う。この授業は受身一方のテスト受験対策ではなく, 自らの考えをまとめて英語で発表したり, グループディスカッション、受講生同士での評価なども含まれるため, 積極的なクラス参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Module 7	Vocabulary Quiz準備
2.	Module 8	Vocabulary Quiz準備 課題1準備
3.	Module 8	Vocabulary Quiz準備 課題1準備
4.	Module 8	Vocabulary Quiz準備 課題1準備
5.	Module 9 課題1 (Speaking 1)	Vocabulary Quiz準備 課題2準備
6.	Module 9 課題 2 (Listening)	Vocabulary Quiz準備 課題3準備
7.	Module 9	Vocabulary Quiz準備 課題3準備
8.	Module 10 課題3 (Writing 1)	Vocabulary Quiz準備
9.	Module 10	Vocabulary Quiz準備 課題4準備
10.	Module 10	Vocabulary Quiz準備 課題4準備
11.	iBT問題 課題4 (Reading)	Vocabulary Quiz準備
12.	iBT Writing 課題5 (プレゼンテーション)	Vocabulary Quiz準備
13.	iBT Writing 課題5 (プレゼンテーション)	Vocabulary Quiz準備
14.	iBT Writing 課題5 (プレゼンテーション)	課題6準備
15.	iBT Writing 課題5 (プレゼンテーション) 課題6 (Writing 2)	

受講者へのメッセージやアドバイス:
この授業の目的はTOEFL, IELTSテストの点数向上そのものではなく、海外の大学でアカデミックな専門分野を学ぶための語学力向上にある。そのことを絶えず念頭に置き、小手先の受験テクニックに走るのではなく、出題される様々な分野に興味関心を持ち、それを英語で学ぶ習慣を身につけて欲しい。

フィードバックの方法:
コメントペーパーについては授業でまとめてコメントする。
Vocabulary Quizは授業で答え合わせをし回収する。
各課題についてはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	30	スピーチやプレゼンのトレーニングを繰り返し、到達目標にある「準備なしのスピーチ」や「英語でのプレゼンテーション」ができるか評価をする。
課題	40	listening, writing, readingそれぞれの課題を、授業内容の理解度により評価する。
平常点	30	単語テスト、出席、授業参加

教科書:
EXPERT IELTS 6
PEARSON

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール

166760

Advanced Studies in English H

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:
Language, women and society

授業の概要:
This course aims to introduce topics and issues related to language and women in past and present societies both in Japan and abroad.

到達目標:
Students will be exposed to various materials discussing the ways in which language affects the ethical and cultural identity of women. Students will be expected
to read texts in English, analyse information and think about its content subjectively and critically.

授業方法:
:Coursework wil consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written Coursework wil consist of in-class discussion, group work, oral presentations and written Coursework will consist of group discussion, projects, written assignments and oral presentations. Students will need to submit a mid-term and final written assignment and oral presentation.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course, explain course expectations	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
2.	Language and Gender	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
3.	Language and Gender	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
4.	History of women's language	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
5.	History of women's language	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
6.	Language, women and media	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
7.	Language, women and media	Mid-term assessment preparation
8.	Mid-term assessment	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
9.	Women, language and movies	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
10.	Language and Gender	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
11.	Language and Gender	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
12.	Identity and language education	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
13.	Identity and language education	Final report and presentation preparation
14.	In-class Presentations	Final report and presentation preparation
15.	In-Class Presentations	Final report and presentation preparation

受講者へのメッセージやアドバイス:
Students are expected to speak only English with the instructor and their fellow classmates in every class. Students are expected to read the assigned English texts prior to class, complete the assigned homework on time and be prepared to actively participate in class discussion and group work.

フィードバックの方法:
In-class evaluations, peer feedback, writing assignment and presentation assessment.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20	active participation, motivation, effort
Group work and in-class group discussion	25	communication ability, motivation, effort
Written assignments and oral presentations	25	academic writing skills, presentation skills
Mid-term and final presentations	30	effort, academic writing skills, research skills and presentation skills

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:
The instructor will notify students about contact information during the first class

166860

Advanced Studies in English L

崎　　ミチ・アン

授業テーマ:

Bilingualism and education

授業の概要:

Students will be introduced to the topic of bilingualism by discussion theory and different types of bilingualism with reference to various case studies. The 'bilingual child" will be discussed and the issues surrounding bilingualism and education will be explored and critically analysed.

到達目標:

Students will be expected to speak in English with both the instructor and fellow classmates in every class, as well as to actively participate in group discussion. Students are required to submit weekly written assignments, do oral presentations and submit both a mid-term and final report in this course.

授業方法:

All lectures are conducted in English, with a focus on group discussion in every class. Though a textbook is not required for this course, study materials include readings from academic journals, textbooks on bilingualism, short videos and documentaries related to the subject of study

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to course, goals and expectations	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
2.	Language and society	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
3.	Language and society	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
4.	Bilingualism, definitions and theory	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
5.	Bilingualism, definitions and theory	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
6.	Bilingualism, definitions and theory	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
7.	The bilingual child	Preparation for Mid-term Assessment
8.	Mid-term presentations	Preparation for Mid-term assessment
9.	Mid-term presentations	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
10.	The bilingual child	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
11.	bilingual education	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
12.	bilingual education	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
13.	Multilingualism and language policy	Reading assignments and written assignments based on study materials distributed in class.
14.	Final Presentations	Preparation for final assessment
15.	Final Presentations	Preparation for final assessment

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course is conducted all in English, with particular focus on presentation and communication skills. Students are expected to communicate with both the teacher and fellow students in English during each class.

フィードバックの方法:

Instructor and Peer feedback, assessments on written assignments and oral presentations

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20	active participation, initiative, motivation, effort
Group work and in-class group discussion	25	communication ability, motivation, effort
Written assignments and oral presentations	25	academic writing skills, research skills presentation skills
Mid-term and final presentations	30	effort, academic writing skills, research skills and presentation skills

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

The instructor will notify students about contact information in the first class.

166961

英米文学基礎ゼミナールⅠ

甲元　　洋子

授業テーマ:　英米文学作品を用いたアカデミック・スキルの習得

授業の概要:　この授業は、3年次から各自の選択によって受講する「Junior Seminar Ⅰ・Ⅱ」への導入をスムーズはかることを目標にしている。少人数のアドバイザー・クラスにおいて、口頭発表の仕方、ハンドアウトの作り方、レポートの書き方などのアカデミック・スキルを学んでいく。教材として、英語で書かれた文学作品を用い、大学での学びと研究の基礎を習得する。前半は文学テキストを読解し、問題を深く把握した上で、口頭発表をする。後半は文学テキストを読解し、問題を深く把握した上で、各自レポート作成の技術を学ぶ。学習指導要領に沿ってアクティブ・ラーニングの手法を取り入れることで、授業内での積極的な交流を行い、全体的なコミュニケーション能力を向上させる。

到達目標:　英語の情報を読解して自分なりのまとめを行い、それを基に独自のアイデアに到達し、さらに他の人間に論理的に説得力をもって伝える能力を身につける。また、口頭と文章という伝達方法の違いに留意して、口頭発表とレポートを整ったかたちで仕上げる力を養う。口頭発表やレポートの準備を通して、学習や研究に不可欠な計画性と時間管理を習慣づける。（中学校及び高等学校教員として、またその他の実際的業務や調査研究において、英語文の内容・意義を理解し、他者に伝える前提である十分な準備を行い、説得力をもって解説するための基盤を獲得する。）

授業方法:　教員による講義形式の説明とグループワークも含めた演習を組み合わせて授業を進める。
① 前半はテキストを読解し、問題を深く把握した上で、口頭発表をする。
② 後半はテキストを読解し、問題を深く把握した上で、各自レポート作成の技術を学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション、アカデミック・スキルの基本	大学における「学び」について考えてくる
2.	口頭発表の準備（1）—指定作品の英語表現の確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
3.	口頭発表の準備（2）—あらすじ、登場人物、テーマの確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
4.	口頭発表の準備（3）—文学的手法の確認、発表テーマの決定	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
5.	口頭発表の準備（4）—発表アウトライン作成	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
6.	口頭発表の準備（5）—スライド作成／グループ内模擬発表	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
7.	質疑応答のマナー／口頭発表	口頭発表準備（発表者は前日に準備が終わるよう十分な余裕をもって取り組む）
8.	口頭発表／口頭発表総評	口頭発表準備（発表者は前日に準備が終わるよう十分な余裕をもって取り組む）
9.	レポート作成の手順および気をつけるべき点	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
10.	レポート作成の準備（1）—指定作品の英語表現の確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
11.	レポート作成の準備（2）：作品の内容・手法・テーマについて議論	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
12.	レポート作成の準備（3）：レポートのテーマ決定	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
13.	レポート作成の準備（4）：レポートのアウトライン作成	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
14.	レポート作成の準備（5）：レポートの「イントロダクション」確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
15.	最終レポート形式・体裁確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）

受講者へのメッセージやアドバイス:　口頭発表や課題については、教員ごとの手法とクラスの状況によって変更がありうるので、担当教員の説明をしっかり理解して授業参加すること。
アカデミック・スキルはこの授業だけではなく、大学の他の授業においても不可欠な技術であり、就職活動や様々な業務において有効な考え方や習慣を養うことにもつながる。発表やレポートの書き方の基本を身につけ、大学での学び全体、また将来の仕事にも役立てられるよう意識して取り組んでもらいたい。

フィードバックの方法:　提出した課題は、教員がフィードバックが必要と判断した場合、指示を書き添えて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート試験	40%	内容のみではなく、アカデミック・ライティングとしての構成ができているか、書式が守れているかも重視する。
口頭発表	30%	読解したテクストを十分に紹介できたか、オリジナルな意見を述べることができているか、補助資料（スライドやハンドアウト）の準備が十分か、発表時の声・態度などが適切かから判定する。
授業内の作業・議論における貢献	30%	授業内課題に真剣に取り組めているか、グループ・ワークに積極的に参加できているか、教員の話をしっかり聞けているかなど、授業における学習態度を多面的に評価する。

教科書:　第1回の授業で各担当教員が指示する。

参考書:　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説、高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月 文部科学省）
他、必要に応じて授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業中に指示する。

167061

英米文学基礎ゼミナールⅡ

甲元　　洋子

授業テーマ:　英米文学作品を用いたアカデミック・スキルの習得

授業の概要:　この授業は、3年次から各自の選択によって受講する「Junior Seminar Ⅰ・Ⅱ」への導入をスムーズはかることを目標にしている。春学期の「英米文学基礎ゼミナールⅠ」で学んだスキルをより進化させ、習慣づけていく。少人数のアドバイザー・クラスにおいて、口頭発表の仕方、ハンドアウトの作り方、レポートの書き方などのアカデミック・スキルを学んでいく。教材として、英語で書かれた文学作品を用い、大学での学びと研究の基礎を習得する。前半は文学テキストを読解し、問題を深く把握した上で、口頭発表をする。後半は文学テキストを読解し、問題を深く把握した上で、各自レポート作成の技術を学ぶ。学習指導要領に沿ってアクティブ・ラーニングの手法を取り入れることで、授業内での積極的な交流を行い、全体的なコミュニケーション能力を向上させる。

到達目標:　英語の情報を読解して自分なりのまとめを行い、それを基に独自のアイデアに到達し、さらに他の人間に論理的に説得力をもって伝える能力を身につける。また、口頭と文章という伝達方法の違いに留意して、口頭発表とレポートを整ったかたちで仕上げる力を養う。加えて作品についての他者が発表した文書を探して読み解き、自分の発表や文書の中で活用するための手法やマナーも学習する。口頭発表やレポートの準備を通して、学習や研究に不可欠な計画性と時間管理を習慣づける。（中学校及び高等学校教員として、またその他の実際的業務や調査研究において、英語文の内容・意義を理解し、他者に伝える前提である十分な準備を行い、説得力をもって解説するための基盤を獲得する。）

授業方法:　教員による講義形式の説明とグループワークも含めた演習を組み合わせて授業を進める。
① 前半はテキストを読解し、問題を深く把握した上で、口頭発表をする。
② 後半はテキストを読解し、問題を深く把握した上で、各自レポート作成の技術を学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション、アカデミック・スキルの基本復習、引用のマナー	「英米文学基礎ゼミナール」で学習した内容をふりかえり、大学での「学び」について考えてくる
2.	口頭発表の準備（1）—指定作品の英語表現の確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
3.	口頭発表の準備（2）—あらすじ、登場人物、テーマの確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
4.	口頭発表の準備（3）—文学的手法の確認、発表テーマの決定	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
5.	口頭発表の準備（4）—発表アウトライン作成	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
6.	口頭発表の準備（5）—スライド作成／グループ内模擬発表	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
7.	質疑応答のマナー／口頭発表	口頭発表準備（発表者は前日に準備が終わるよう十分な余裕をもって取り組む）
8.	口頭発表／口頭発表総評	口頭発表準備（発表者は前日に準備が終わるよう十分な余裕をもって取り組む）
9.	レポート作成の手順および気をつけるべき点	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
10.	レポート作成の準備（1）—指定作品の英語表現の確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
11.	レポート作成の準備（2）：作品の内容・手法・テーマについて議論	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
12.	レポート作成の準備（3）：レポートのテーマ決定、引用と書誌について	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
13.	レポート作成の準備（4）：レポートのアウトライン作成	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
14.	レポート作成の準備（5）：レポートの「イントロダクション」確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）
15.	最終レポート形式・体裁確認	テキストの読解、課題への回答（授業時間と同じかそれ以上の時間をかけて十分な準備を行う）

受講者へのメッセージやアドバイス:　口頭発表や課題については、教員ごとの手法とクラスの状況によって変更がありうるので、担当教員の説明をしっかり理解して授業参加すること。
春学期で学習したアカデミック・スキルズをおさらいしながら、より高度な口頭発表・レポートを作るにはどうしたらよいかを学んでいく。個々の課題において何が求められているか、それが大学の学びにおいてどのような意味をもつのかを，自分でも考えながら授業に取り組むよう心がけてもらいたい。
後半のいずれかの週に、図書館ガイダンスを行う予定。

フィードバックの方法:　提出した課題は、教員がフィードバックが必要と判断した場合、指示を書き添えて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート試験	40%	内容のみではなく、アカデミック・ライティングとしての構成ができているか、書式が守れているかも重視する。特に秋学期においては、注や参考文献の表記のルールも含め、レポートの正しいかたちが身に付いたがとうかを判定する。
口頭発表	30%	読解したテクストを十分に紹介できたか、オリジナルな意見を述べることができているか、補助資料（スライドやハンドアウト）の準備が十分か、発表時の声・態度などが適切かから判定する。
授業内の作業・議論における貢献	30%	授業内課題に真剣に取り組めているか、グループ・ワークに積極的に参加できているか、教員の話をしっかり聞けているかなど、授業における学習態度を多面的に評価する。

教科書:　第一週に担当者により指示する。

参考書:　中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（平成29年3月告示 文部科学省）
中学校学習指導要領解説、高等学校学習指導要領解説 外国語編（平成29年3月 文部科学省）
その他、必要に応じて授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:	授業中に指示する。

195360

イギリス詩作品研究A

甲元　　洋子

授業テーマ:　英詩に親しむ

授業の概要:　有名な必読とみなされる英詩に多く触れ、理解を深める.

到達目標:　英詩を読み解くことに慣れ、詩人や作品についてまた時代背景についての知識を得る。

授業方法:　演習形式。受講生による音読と訳読、質疑応答、担当者による補足説明という形で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	民衆の詩バラッド(ballads)	予習をし、自分の考えを持って授業に臨む。学んだことを整理し、課題提出に備える。
3.	同上	同上
4.	ルネサンスの詩	同上
5.	同上	同上
6.	同上	同上
7.	17世紀の詩	同上
8.	同上	同上
9.	同上	同上
10.	同上	同上
11.	同上	同上
12.	18世紀の詩	同上
13.	同上	同上
14.	同上	同上
15.	同上	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物は添削して返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	60%	学期末のレポートの内容により評価する
受講態度	40%	授業の際の音読、訳読、受け答えの際の態度や内容により評価する

教科書:　プリントを配布する

参考書:　クラスで指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　Eメール:ykohmoto@dwc.doshisha. ac.jp

195460

イギリス詩作品研究B

甲元　　洋子

授業テーマ:　英詩に親しむ

授業の概要:　有名な必読とみなされる英詩を多く読み解き分析する。

到達目標:　英詩を読み解くことに慣れ、詩人や作品、時代背景についての理解を深める。

授業方法:　演習形式。受講生による音読と訳読、質疑応答、担当者による補足説明という形で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	19世紀ロマン派の詩	予習をして自分の考えを持って授業に臨む。授業で学んだことを整理し、課題提出に備える。
3.	同上	同上
4.	同上	同情
5.	同上	同上
6.	同上	同上
7.	同上	同上
8.	同上	同上
9.	19世紀ヴィクトリア朝の詩	同上
10.	同上	同上
11.	同上	同上
12.	同上	同上
13.	同上	同上
14.	同上	同上
15.	同上	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題は添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	60%	内容により評価する
授業態度	40%	音読、訳読、授業中の受け答えの内容で評価する

教科書:　クラスで配布する

参考書:　クラスで指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　Eメール:ykohmoto@dwc.doshisha.ac.jp

195560

イギリスの女性小説A

玉田　　佳子

授業テーマ:　１８世紀イギリスの女性作家ーEliza Haywood の Fantomina(1725)を読む

授業の概要:　イギリスの18世紀はマイナーな女性作家をたくさん排出した時代である。その中で一番多作であったEliza HaywoodのFantominaを取り上げて、男性が女性を誘惑する「誘惑物語」という18世紀の典型的な物語のテーマを、女性作家はどのように描いたかを探る。

到達目標:
（1）18世紀英語で書かれた文学作品の文体に慣れる。
（2）作品の内容を理解し分析することで、文学作品の研究方法の1側面を学ぶ。

授業方法:　文学作品の訳読式の講読が中心となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション １８世紀という時代・女性作家の地位・作者紹介	授業の進め方についての理解　授業の予習
2.	Fantominaの訳読と解釈　１	授業の予習
3.	Fantominaの訳読と解釈　２	授業の予習
4.	Fantominaの訳読と解釈　３	授業の予習
5.	Fantominaの訳読と解釈　４	授業の予習
6.	Fantominaの訳読と解釈　５	授業の予習
7.	Fantominaの訳読と解釈　６	授業の予習
8.	Fantominaの訳読と解釈　７	授業の予習
9.	Fantominaの訳読と解釈　８	授業の予習
10.	Fantominaの訳読と解釈　９	授業の予習
11.	Fantominaの訳読と解釈　１０	授業の予習
12.	Fantominaの訳読と解釈　１１	授業の予習
13.	Fantominaの訳読と解釈　１２	授業の復習
14.	Fantominaについてのディスカッション	授業の復習
15.	Fantominaについての課題レポートの説明	レポート課題の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
（1）18世紀の英語は現代の英語と比べると古いため、多少読解が難解であることを覚悟してほしい。
（2）毎回の予習が不可欠である。

フィードバックの方法:
（1）訳読形式の授業なので、英文の正しい読解をその都度指導する。
（2）課題レポートをコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度（予習・出欠・積極性）	40%	予習をして真面目に授業に取り組んだか
課題レポート	60%	自分独自の視点で、しっかりと作品分析ができているか

教科書:　プリント配布

参考書:　最初の授業時に配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
・ライン
・E-mail
・電話

195660

イギリスの女性小説B

玉田　　佳子

授業テーマ:　１８世紀イギリスの女性作家ーMary Davys の The Reformed Coquet (1724) を読む

授業の概要:　イギリスの18世紀はマイナーな女性作家をたくさん排出した時代である。その中でMary Davysは、男勝りなたくましい女性像を描き出している。女性作家が、父権制社会の中で男性から非難されないように、どのような擬装を使って強い女性を描いたかを訳読を通して考察する。

到達目標:　(1)１８世紀英語で書かれた文学作品の文体に慣れる。
(2)作品の内容を理解し分析することで、文学作品の研究方法の１側面を学ぶ。

授業方法:　文学作品の訳読式の講読が中心となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション １８世紀という時代・女性作家の地位・作者についての説明	授業の進め方についての理解　授業の予習
2.	The Reformed Coquet の訳読と解釈　１	授業の予習
3.	The Reformed Coquet　の訳読と解釈　２	授業の予習
4.	The Reformed Coquet　の訳読と解釈　３	授業の予習
5.	The Reformed Coquet　の訳読と解釈　４	授業の予習
6.	The Reformed Coquet　の訳読と解釈　５	授業の予習
7.	The Reformed Coquet　の訳読と解釈　６	授業の予習
8.	The Reformed Coquet の訳読と解釈　７	授業の予習
9.	The Reformed Coquet　の訳読と解釈　８	授業の予習
10.	The Reformed Coquet　の訳読と解釈　９	授業の予習
11.	The Reformed Coquet の訳読と解釈　１０	授業の予習
12.	The Reformed Coquet の訳読と解釈　１１	授業の予習
13.	The Reformed Coquet　の訳読と解釈　１２	授業の復習
14.	The Reformed Coquet についてのディスカッション	授業の復習
15.	The Reformed Coquet　についての課題レポートの説明	レポート課題の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　(1)１８世紀の英語は現代の英語と比べると古いため、多少読解が難解であることを覚悟してほしい。
(2)毎回の予習は必須である。

フィードバックの方法:　(1)訳読形式の授業なので、英文の正しい読解をその都度指導する。
(2)課題レポートにコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度(予習・出欠・	40%	予習をして真面目に授業に取り組んだか
課題 レポート	60%	自分独自の視点から、しっかりと作品分析ができているか

教科書:　プリント配布

参考書:　最初の授業時に配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
・ライン
・E-mail
・電話

195760

イギリス文学作品研究A

風間　　末起子

授業テーマ:　Thomas Hardyの小説研究

授業の概要:　19世紀後期のイギリス人作家Thomas Hardy (1840-1928)の6大作の一つTess of the dU'rbervillese (1891)を精読することによって、小説の読解力の向上と研究方法の習得を目指す。

（1）トマス・ハーディの主要作品についての解説と、Tessの研究方法（講義）
（2）作品Judeの精読、読解、分析
（3）作品に関連した研究書のまとめの発表

到達目標:　アカデミックな小説研究の基礎を学んでいく。

授業方法:　人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的には、講義と精読と発表を中心に授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。
2.	講義:トマス・ハーディとWessex Novelsについて（1）	質問を準備しておく。
3.	講義:トマス・ハーディとWessex Novelsについて（2）	質問を準備しておく。
4.	作品の精読と分析:Tess of the d'Urbervilles(1891)	十分な準備をしておく。
5.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
6.	講義:Tessの方法（1）	質問を準備しておく。
7.	講義:Tessの研究方法（2）	質問を準備しておく。
8.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
9.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
10.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
11.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
12.	発表:研究書のまとめ	レジュメの準備をする。
13.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
14.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
15.	春学期の総まとめ	これまでの授業内容を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　トーマス・ハーディは19世紀を代表するイギリスの作家です。彼の世界観を通して、個人、社会、家族、制度、芸術、いろいろなことを考えていきましょう。

フィードバックの方法:　学期末のレポートは、採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート1回	50%	小説研究の方法論を踏まえてレポートが書かれているかどうかを基準とする。
発表	25%	レジュメの作り方や内容によって評価する。
授業への積極的参加度	25%	授業への積極的参加によって評価する。

教科書:　Thomas Hardy, Tess of the d'Urbervilles (1891) (Norton Edition)

参考書:　授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメールマナビーの連絡、および授業前後と授業外のアポで対応する。

195860

イギリス文学作品研究B

風間　　末起子

授業テーマ:　Thomas Hardyの小説研究

授業の概要:　19世紀後期のイギリス人作家Thomas Hardy (1840-1928)の6大作の一つTess of the d'Ubervilles (1891)を精読することによって、小説の読解力の向上と研究方法の習得を目指す。

(1)トマス・ハーディの主要作品についての解説と、Tessの研究方法(講義)
(2)作品Tessの精読、読解、分析
(3)作品に関連した研究書のまとめの発表

到達目標:　アカデミックな小説研究の基礎を学んでいく。

授業方法:　人数に応じて授業方法を工夫していくが、基本的には、講義と精読と発表を中心に授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	授業についての質問を準備しておく。
2.	講義:Tessの研究方法(1)	質問を準備しておく。
3.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
4.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
5.	講義:Tessの研究方法(2)	質問を準備しておく。
6.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
7.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
8.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
9.	講義:Tessの研究方法(3)	質問を準備しておく。
10.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
11.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
12.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
13.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
14.	作品の精読と分析:Tess	十分な準備をしておく。
15.	秋学期の総まとめ	これまでの授業内容を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　トマス・ハーディは19世紀を代表するイギリスの作家です。個人、社会、家族、制度、芸術、いろいろなことを考えていきましょう。

フィードバックの方法:　学期末のレポートは、採点とコメントをして返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート1回	50%	小説研究の方法論を踏まえてレポートが書かれているかどうかを基準とする。
発表	25%	レジュメの作り方や内容によって評価する。
授業への積極的参加度	25%	授業への積極的参加によって評価する。

教科書:　Thomas Hardy, Tess of the d'Urbervilles (1891) (Norton Edition)

参考書:　授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメールやマナビーの連絡、および授業前後と授業外のアポで対応する。

195960

アメリカ文学作品研究A

松村　　延昭

授業テーマ:　アメリカ文学と人種問題

授業の概要:　人種問題を扱う作家や政治家の思想を追うことにより、人種差別をする側とされる側の意識を調べ、そのメカニズムを多面的に検証する。

到達目標:　文学作品をとおして、アメリカの人種問題に関する理解を深める。

授業方法:　発表と講義が中心となるが、AV資料をみてのディスカッション等もおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のイントロダクション	シラバスを読んでおく。
2.	講義:アメリカの南部社会	講義内容に関する知識を深めておく。
3.	Uncle Tom's Cabin; or Life Among the Lowly (1)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
4.	Uncle Tom's Cabin; or Life Among the Lowly (2)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
5.	Uncle Tom's Cabin; or Life Among the Lowly (3)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
6.	Uncle Tom's Cabin; or Life Among the Lowly (4)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
7.	Gone with the Wind (1) Chap. 1	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
8.	Gone with the Wind (2) Chap. 2	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
9.	Gone with the Wind (3) Chap. 4	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
10.	Gone with the Wind (4) Chap. 7	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
11.	Gone with the Wind (5) Chap. 8	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
12.	Gone with the Wind (6) Chap. 11	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
13.	Gone with the Wind (7) Chap. 28	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
14.	Gone with the Wind (8) Chap. 38	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
15.	Gone with the Wind (9) Chap. 63	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講読中に不明の箇所があれば辞書で調べておく。英語の構文等の問題だけでなく、物語の舞台となる社会の文化的・歴史的知識も深めておく。授業中に、不明な点があれば質問をし、自分の意見を積極的に発言する。

フィードバックの方法:　授業に関する質問・コメント等を随時書かせて、次の授業で紹介する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	80%	英語の語彙、構文をしっかりと調べて授業に参加しているか。発表は内容だけでなく、発表の準備・手法も考慮する。
レポート	20%	内容だけでなく、正しいフォームで書いているかも考慮する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　公開しているメールアドレスに連絡する。
教員が全員に連絡するときは、マナビーのニュースを使用する。

196060

アメリカ文学作品研究B

松村　　延昭

授業テーマ:　アメリカ文学と人種問題

授業の概要:　人種問題を扱う作家や政治家の思想を追うことにより、人種差別をする側とされる側の意識を調べ、そのメカニズムを多面的に検証する。

到達目標:　文学作品をとおして、アメリカの人種問題に関する理解を深める。

授業方法:　発表と講義が中心となるが、AV資料をみてのディスカッション等もおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のイントロダクション	シラバスを読んでおく。
2.	講義:アメリカの公民権運動	講義内容に関する知識を深めておく。
3.	Narrative of the Life of Frederick Douglass, An American Slave (1)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
4.	Narrative of the Life of Frederick Douglass, An American Slave (2)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
5.	Narrative of the Life of Frederick Douglass, An American Slave (3)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
6.	Narrative of the Life of Frederick Douglass, An American Slave (4)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
7.	"The Ethics of Living Jim Crow" (1)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
8.	"The Ethics of Living Jim Crow" (2)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
9.	"The Ethics of Living Jim Crow" (3)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
10.	"The Ethics of Living Jim Crow" (4)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
11.	"The 1963 Inaugural Address of Governor George C. Wallace" (1)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
12.	"The 1963 Inaugural Address of Governor George C. Wallace" (2)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
13.	"The 1963 Inaugural Address of Governor George C. Wallace" (3)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
14.	"The 1963 Inaugural Address of Governor George C. Wallace" (4)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。
15.	"The 1963 Inaugural Address of Governor George C. Wallace" (5)	指定した範囲を読んでおく。 この箇所の担当者は、講読に必要な文化的背景を発表する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講読中に不明の箇所があれば辞書で調べておく。英語の構文等の問題だけでなく、物語の舞台となる社会の文化的・歴史的知識も深めておく。授業中に、不明な点があれば質問をし、自分の意見を積極的に発言する。

フィードバックの方法:　授業に関する質問・コメント等を随時書かせて、次の授業で紹介する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	80%	英語の語彙、構文をしっかりと調べて授業に参加しているか。発表は内容だけでなく、発表の準備・手法も考慮する。
レポート	20%	内容だけでなく、正しいフォームで書いているかも考慮する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　公開しているメールアドレスに連絡する。
教員が全員に連絡するときは、マナビーのニュースを使用する。

196360

Principles of Translation A

J.W.Carpenter

授業テーマ:

Translation in Theory and Practice

授業の概要:

Translation is an essential part of how we learn about other cultures and how we share our knowledge and ideas with a wide range of people. But what processes are involved, and what constitutes an acceptable translation? In this class we will discuss theories and techniques of translation in general and then seek to apply them to English-Japanese and Japanese-English translation. Actual content will vary according to the students' interests and needs (and the size of the class).

到達目標:

--to improve expressive ability in written Japanese and English
--to develop understanding of topics in translation theory and techniques available to the translator
--to understand the different styles of translation that are used in different genres
--to learn to balance respect for the original with the needs of the reader

授業方法:

There will be some short lectures, and we will discuss various readings as well as our own translations. Students are encouraged to keep a notebook in which to record questions and comments to share with the class. The class will be conducted primarily in English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course	Do the assigned reading
2.	Comparisons of multiple translations of the same work	Do the assigned reading
3.	Academic translation	Do the assigned reading; translate a selected passage
4.	Academic translation	Select an academic article for translation
5.	Academic translation	Do the assigned readings and continue working on the translation.
6.	Academic translation due Translating dialogue	Examine translations of dialogue in various contexts. Translate a scene from a movie.,
7.	Translating dialogue	Continue the translation project.
8.	Subtitles	Study subtitles and/or dubbing
9.	Subtitles	Do a movie script translation
10.	Translating a newspaper article Movie translation due	Compare news articles on the same topic in Japanese and English
11.	Journalism and translation	Translate an editorial or newspaper article
12.	Translation due Journalism and translation Translating essays	Examine translation of an essay
13.	Translating essays	Begin translation of a selected essay
14.	Topics in translation: voice, register, flow	Finish the draft translation with accompanying analysis
15.	Student presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Translation can very creative and challenging, or very cut-and-dried. Sometimes there is only one correct translation, but mostly the translator is called on to show understanding and sensitivity. Enjoy this chance to fall in love with your own language above all, as well as the English language.

フィードバックの方法:

Feedback in the course of class discussions as well as corrections to the homework exercises and draft translations.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	40%	Attitude, ability to demonstrate understanding of material covered, ability to ask pertinent questions
Translations	60%	Accuracy, understanding of the requirements of the genre and the techniques available, flair for language

教科書:

Hasegawa, Yoko. The Routledge Course in Japanese Translation. Routledge, 2011.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

--office hour
--email
--by appointment

196460

Principles of Translation B

J.W.Carpenter

授業テーマ:

Translation in Theory and Practice

授業の概要:

Translation is an essential part of how we learn about other cultures and how we share our knowledge and ideas with a wide range of people. But what processes are involved, and what constitutes an acceptable translation? In this class we will discuss theories and techniques of translation in general and then seek to apply them to mostly English-Japanese translation. Content will vary according to the students' interests and needs..

到達目標:

--to deepen reading comprehension of English and learn to use the full panoply of expressions in Japanese
--to develop more knowledge of how to avoid the pitfalls of literal translation]
--to understand the requirements of different genres of translation
--to balance accuracy with readability

授業方法:

Short lectures as well as discussion based on the readings and other assignments.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course	Assigned reading
2.	Comparison of multiple translations of the same work	Assigned reading
3.	Academic translation (E-J)	Translation of a selected passage
4.	Academic translation (E-J)	Translation, continued
5.	Essay translation	Translate a selected essay
6.	Essay translation	Translation continued
7.	Essay translation	Assigned reading
8.	Poetry translatoin	Translate selected poem(s)
9.	Poetry translation	Translation continued
10.	Film translation	Assigned reading
11.	Film translation	Translation of a selected scene
12.	Topics in translation	Prepare a final project
13.	Discussion	Continue work on the project
14.	Discussion	Continue work on the project
15.	Student presentatioon ns	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Translation can be creative and challenging or cut-and-dried. Sometimes there is only one correct translation, but mostly the translator is called on to show understanding and sensitivity, translating the image and flow rather than the words per se. Enjoy this chance to fall in love with your own language as well as English and the process of translation.

フィードバックの方法:

In-class discussion as well as written corrections to homework assignments and draft translations.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	40%	Attitude, ability to demonstrate understanding of material covered, ability to ask pertinent questions
Translations	60%	Accuracy, understanding of the requirements of the genre and the techniques available, flair for language

教科書:

参考書:

To be announced

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

--office hour
--email
--by appointment

196560

Principles of Communication A

北尾　キャスリーン

授業テーマ:

授業の概要: In this class, students will learn about communication based on their own interests. (Note: The actual fields of communication covered in the class will depend on the students' interests. The schedule below an example.)

到達目標: The purpose of the course is to introduce students to communication theory and its application.

授業方法: Reading in preparation for class discussion; designing and carrying out a research project.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Communication	none
2.	Interpersonal Communication 1	Read and answer questions.
3.	Interpersonal Communication 2	Read and answer questions.
4.	Interpersonal Communication 3	Read and answer questions.
5.	Interpersonal Communication 4	Read and answer questions.
6.	Interpersonal Communication 5	Read and answer questions.
7.	Interpersonal Communication 6	Read and answer questions.
8.	Interpersonal Communication 7	Read and answer questions.
9.	Nonverbal Communication 1	Read and answer questions.
10.	Nonverbal Communication 2	Read and answer questions.
11.	Nonverbal Communication 3	Read and answer questions.
12.	Nonverbal Communication 4	Read and answer questions.
13.	Nonverbal Communication 5	Read and answer questions.
14.	Nonverbal Communication 6	Read and answer questions.
15.	Presentations	Prepare for presentations.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Discussion with students

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendence and class participation	40%	Discussion in class; number of absences
Presentation	20%	Content of presentation
Homework	40%	Demonstration of understanding of principles

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法: kkitao217@yahoo.com

196660

Principles of Communication B

北尾　キャスリーン

授業テーマ:

授業の概要: In this class, students will learn about communication based on their own interests. (Note: The actual fields of communication covered in the class will depend on the students' interests. The schedule below an example.)

到達目標: The purpose of the course is to introduce students to communication theory and its application.

授業方法: Reading in preparation for class discussion; designing and carrying out a research project.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Intercultural Communication 1	none
2.	Intercultural Communication 2	Read and answer questions.
3.	Intercultural Communication 3	Read and answer questions.
4.	Intercultural Communication 4	Read and answer questions.
5.	Intercultural Communication 5	Read and answer questions.
6.	Intercultural Communication 6	Read and answer questions.
7.	Intercultural Communication 7	Read and answer questions.
8.	Mass Communication 1	Read and answer questions.
9.	Mass Communication 2	Read and answer questions.
10.	Mass Communication 3	Read and answer questions.
11.	Mass Communication 4	Read and answer questions.
12.	Mass Communication 5	Read and answer questions.
13.	Mass Communication 6	Read and answer questions.
14.	Mass Communication 7	Read and answer questions. Preparing for presentation.
15.	Presentations	Preparing for presentation.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Discussion with students

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendence and class participation	40%	Discussion in class; number of absences
Presentation	20%	Content of presentation
Homework	40%	Demonstration of understanding and application

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、リーダーシップ

教員との連絡方法: kkitao217@yahoo.com

196960

心理言語学

飯田　　毅

授業テーマ:　英語教育と心理言語学：言語処理(language processing)を英語教育の中で考える。

授業の概要:　この授業では心理言語学に関する基礎的な様々な項目について英語教育と関連づけて議論し、各自が最終的にレポートにまとめることが中心となる。心理言語学について学ぶことは、我々が通常何気なく使っているコトバについての深い理解につながる。特に、人間のコトバの理解や発話の仕組みについて深く考える機会を与えてくれる。知識と能力の関係、言語能力の発達、そして発達を促す言語教育の方法についてこの授業を通して考えていく。本年度は、特に心理言語学と英語教育を結びつけて授業を展開する。

到達目標:　(1) 心理言語学に関する英語の文献が正確に読める。(2) 英語教育の観点から心理言語学に関する研究に焦点を当て、意見交換できる。(3) 心理言語学に関する研究成果に関して批判的に捉えることができる。(4) 各自Mini project workを立ち上げ、テーマを追求し、発表し、レポートにまとめることができる。

授業方法:　初回は飯田が全体を解説する。その後、受講者がテーマに関する文献を授業前に読んできて、発表する。授業は、文献の内容に関する討論が中心となる。最後の2回でMini project workを行う。積極的な参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: What is psycholinguistics?	シラバスを読み、授業内容を理解した上で、授業に参加する。
2.	Language and Brain：脳と言語はどのような関係になっているのであろうか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。
3.	An Information Processing Approach（情報処理アプローチ）：人は言語をどのように処理しているのか？	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
4.	Decoding Reading（読解の過程）：どのように読んだ文章を言語処理しているのかを英語の読解を通して考える。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
5.	Long term Memory and Schema Theory（長期記憶とスキーマ理論）：言語と記憶との関係、スキーマ理論。英語教育への応用。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある点について更に調べる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
6.	Data in Psycholinguistics（心理言語学、英語教育におけるデータの扱い方）：データをどのように扱うのか。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある点について更に調べる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
7.	Animal Communication（動物のコミュニケーション）：人間と動物のコミュニケーションの共通性と相違性とは何か？教室内の英語コミュニケーション活動を振り返る。	決められた範囲の部分を読み、興味ある点について更に調べてくる。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
8.	Word Association（語と語の関係）：人は語をどのように認識するのか？英語の語彙の習得方法を考える。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分を調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
9.	Bottom-up and Top-down Processing（readingの上位処理と下位処理）：人は文章をどのように読むのか？英語reading skillとの関係を考える。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
10.	Eye Movement in Reading:目の動きから文章読解方法を探る。目の動きと文章読解の関係を考える。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
11.	Inferences（推測）：ある情報から人はどの程度推測できるのであろうか？readingにおける推測問題について考える。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
12.	Memory and Language: 記憶と言語はどのような関係になっているのか？文法事項と記憶の関係、語と記憶の関係を考える。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
13.	Skilled and Unskilled Readers: 熟達した読み手と未熟な読み手ではどのような違いがあるのだろうか？第一言語の場合と第二言語の場合で考える。	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読み、興味ある部分について調べてくる。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
14.	Mini Project Work 1 ：テーマを決め、研究計画を立て、内容について議論する。	今まで、読んできた内容に関して自分なりの課題を見つけ、research questionを作成する。その具体的研究方法に関しても言及する。
15.	Mini Project Work 2 ：研究計画、途中経過について口頭発表を行う。	research questionに関して研究したことについて発表する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　コトバの役割を知り、Psycholinguisticsの基礎と面白さ、英語教育との関連を考えよう。

フィードバックの方法:　毎回読んできた内容に関しては、受講者と担当者とのやり取りの中で、フィードバックを行う。mini project workに関しては、授業中に口頭でコメントしたり、マナビーを通して提出されたレポートにコメントを加えて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の課題	30	到達目標(1)と(2)に関して、授業中の発表から内容をどの程度理解しているかという観点で評価する。
授業中の発言を含む貢献度	20	到達目標(3)に関して、授業中の発言の内容、教師とのやり取りの内容から、どの程度理解しているか、批判的に読んでいるか、という観点で評価する。
レポート	50	到達目標(4)に関して、提出されたレポートから授業の理解度、分析の深さ、テーマの設定の適切性という観点から評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	E-mail、マナビー

197060

バイリンガリズム論

飯田　　毅

授業テーマ:　バイリンガリズムから言語教育を考える。

授業の概要:　バイリンガルと聞くと日英両言語に流暢な人を連想するが、実際はさまざまな言語の組み合わせがあり、人によってさまざまな二言語の状態が存在する。ここで扱うバイリンガリズムとは、特に多数派言語(Majority language)と少数派言語(Minority language)が共存する地域での二言語状況及びその教育方法のことを指す。そのような状況の中で、この授業では子供たちの言語発達、言語の役割、教育方法のあり方を考える。次に、アメリカ、ヨーロッパ、アフリカ等の言語状況、メディア、翻訳を通して言語教育の在り方を参考にしながら将来の日本の言語教育のあるべき姿を考察する。最後に、扱ったテーマの中から自分のテーマを決め、発表し、議論を通して、レポートにまとめるproject workを行う。

到達目標:　(1) Bilingualismに関する英語の文献を正確に読める。(2) Bilingualismに関する研究に対して興味を持って意見交換でき、言語教育のあり方を考えることができる。(3) Bilingualismに関する研究に関して批判的に捉えることができる。(4) 各自Mini-project workを立ち上げ、テーマを追求できる。

授業方法:　初回は担当者が全体を解説する。その後、受講者がテーマに関する文献を授業前に読んできて、発表するという形式をとる。授業は、文献の内容に関する討論が中心となる。積極的な参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction:Bilingual, monolingual, and second language acquisition	シラバスを読み、内容を理解した上で、授業に参加する。
2.	Endangered language, language planning and revitalization(危機に瀕した言語、言語計画、言語復活)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。
3.	Languages in society(社会の中の言語)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
4.	The early development of bilingualism(バイリンガリズムの初期発達)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
5.	The later development of bilingualism(バイリンガリズムの後期発達)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
6.	Bilingualism and cognition(バイリンガリズムと認知能力)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
7.	Cognitive theories of bilingualism and the curriculum(バイリンガリズムの認知理論とカリキュラム)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
8.	Historical introduction to bilingual education: the United States(バイリンガル教育の歴史入門:アメリカの例)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
9.	Types of bilingual education(バイリンガル教育の種類)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
10.	Education for bilingualism and biliteracy(バイリンガリズムと二言語読み書き能力のための教育)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
11.	Effective schools and classrooms for bilingual students(バイリンガル生徒のための効果的な学校と教室)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
12.	Literacy, biliteracy and multiliteracy for bilinguals(バイリンガルのための 読み書き能力、二言語読み書き能力、多言語読み書き能力)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
13.	Bilingualism in the modern world(バイリンガリズムと現代)	決められた範囲の部分を読み、内容を把握する。分からない所や疑問点を整理して読む。説明の仕方、論理展開の方法、研究の内容等に関して批判的に捉える。
14.	Mini Project Work 1	今まで、読んできた内容に関して自分なりの課題を見つけ、research questionを作成する。その具体的研究方法に関しても言及する。
15.	Mini Project Work 2	research questionに関して研究したことについて発表する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　Bilingualに関わるさまざまな世界を探求しよう。

フィードバックの方法:　毎回読んできた内容に関しては、受講者と担当者とのやり取りの中で、フィードバックを行う。Project workに関しては、授業中に口頭でコメントしたり、マナビーを通して提出されたレポートにコメントを加えてを返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の課題	30	到達目標(1)と(2)に関して、授業中の発表から内容をどの程度理解しているかという観点で評価する。
授業中の発言を含む貢献度	20	到達目標(3)に関して、授業中の発言の内容、教師とのやり取りの内容から、どの程度理解しているか、批判的に読んでいるか、という観点で評価する。
レポート	50	到達目標(4)に関して、提出されたレポートから授業の理解度、分析の深さ、テーマの設定の適切性という観点から評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	E-mail、マナビー

197160 **Colloquium（文学）**

風間　末起子、甲元　洋子、松村　延昭、玉田　佳子

授業テーマ:　修士論文作成のためのガイダンス

授業の概要:　授業では、図書館の使い方、パソコン上での検索の方法、論文作成のタイムライン、作家・作品の選び方、テーマの見つけ方、論文の作成法（章立て、アウトライン等）、批評理論の使い方と作品との整合性、書式上のルール（MLA方式）など、論文作成上の基本的な事項を学習していく。
また、2年次生の中間発表やゲスト・スピーカー（修士論文を書き上げた先輩等）による発表会に参加する。これによって、修論への具体的なイメージを作り上げる機会とする。
このように、授業では、本格的に論文作成に入る前に、書式から内容までに渡って、学び考える時間とする。

到達目標:　この授業では、説得力のある修士論文を2年間で仕上げるためのアカデミック・スキルズの修得を目指す。

授業方法:　文学の担当者が分担で担当する。受講生が各自の修論を念頭において、なるべく具体的なイメージが湧くように授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：コースの目的と意識	予習は不要
2.	文献の効果的な探し方・整理の方法：図書館	毎回の授業に積極的に参加するために、質問を準備しておく。ならびに課題作成のための準備をする。
3.	文献の効果的な探し方・整理の方法：インターネット	上記と同じ
4.	修士論文のタイムライン：提出日から逆算して	上記と同じ
5.	修士論文のルール：提出要件の確認	上記と同じ
6.	大学院のルールとモラル、コンプライアンス：院生としての自覚	上記と同じ
7.	作家・作品の選び方：時代と作家、学部時代の研究との違い	上記と同じ
8.	研究課題（テーマ）の捜し方：テーマの設定方法	上記と同じ
9.	論文の構成要素：章立て、各章の役割、批評理論の使い方と作品との整合性	上記と同じ
10.	講演会（学部あるいは学科の講演会）に出席：概要をメモ、講演者に質問	上記と同じ
11.	論文のスタイル（MLA）（1）	上記と同じ
12.	論文のスタイル（MLA）（2）	上記と同じ
13.	大学院2年次生の中間発表会に参加：概要のまとめ、レジュメの作り方	上記と同じ
14.	「わたしの最前線」等の口頭発表に参加：研究課題を再考	上記と同じ
15.	おわりに：2年間でよい修士論文を書くためのまとめ	これまでの復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　博士前期課程では、修士論文を完成させることがまず第一ですね。最初は不安もあるかと思いますが、文学教員全員があなたを応援しています。

フィードバックの方法:　提出した課題（ミニレポート等）は採点・コメントつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
2つの課題提出：（1）修論のアウトライン作成、（2）修論のタイムライン作成	各30%ずつで計	課題に沿った書式と内容を基準にして評価する。
授業中の議論への参加と出席	40%	授業への積極的な取り組み方を重視する。

教科書:　・ジョジェフ・ジバルディ著　原田敬一監訳『MLA　英語論文の手引き』第6版　東京、北星堂、2005（絶版　のため、Amazonで購入すること）

参考書:　・MLA Handbook. Eighth Edition. Modern Language Association of America, 2016.
（このハンドブックは購入する必要はありません）
・授業中に提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメールやマナビーによる対応、および授業の前後や授業外でのアポイントメントで対応。

197260 **Colloquium（言語）**

飯田　　毅、J.W.Carpenter、北尾　キャスリーン

授業テーマ：
Tactics to facilitate your research: Thesis from start to finish

授業の概要：
This one-semester course is designed to help master program students understand the requirement for studies of graduate school. Quite a few tactics are needed: ways of discussion/interaction or techniques to find appropriate references for their research topics, for example. Especially, this year emphasizes the following three points.

1. Academic skills needed for the master program students
2. APA style
3. Elements of the master's thesis and the importance of timeline

到達目標：
At the end of the course, the participants will

1. ... know the required skills for the master's program
2. ... establish an identity as graduate school students
3. ... have confidence to write a thesis in two years

授業方法：
Lecture and discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」：

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course: Why do we need this course and what is the goal of this course?	Think about what you expect to this course.
2.	How to find appropriate references (1)	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
3.	How to find appropriate references (2)	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
4.	How to find your research theme: What is a Research Question?	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
5.	What is your Research Question? Presentation of participants' research interest	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
6.	Answering questions from course participants	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
7.	Timeline of finishing a thesis: Overviewing two years	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
8.	Rules of Master thesis: A-Z	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
9.	Components of thesis: Functions of each chapter (1)	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
10.	Components of thesis: Functions of each chapter (2)	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
11.	Attending a presentation: How to take memos and ask questions.	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
12.	Styles of Master thesis, APA (1) : How to cite and make references	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
13.	Styles of Master thesis, APA (2) : How to produce tables and figures	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
14.	Attending a presentation of M2 students to know what research is	Read the part of the textbook in advance that will be covered in class.
15.	Consolidation of the course	Think about what you have achieved in this course.

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：
Two tasks will be returned to the participants with comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
Two tasks	50	Based on the rubric.
Attitudes in class	50	Based on the rubric.

教科書：
American Psychological Association. (2010). Publication manual of the American Psychological Association (6th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法：
Participants could visit the instructors' office or contact them by e-mail.

197360

シェイクスピア劇とルネサンス

辻　　英子

授業テーマ:　A Midsummer Night's Dream研究

授業の概要:　このクラスではシェイクスピア劇の中に、中世から近代へと移行する時代精神を読み取っていく。取り上げる作品はA Midsummer Night's Dreamである。劇中で描かれる妖精と人間の姿を通して、ギリシア・ローマの古典とキリスト教、ならびにイギリス土着の伝承文化がどのように扱われているかに注目したい。シェイクスピアの言語や劇手法に注意を払いながら、作品の理解を深め、ひいてはルネサンスという時代の人間の精神を考察する。

到達目標:　シェイクスピア作品を通して、当時の時代精神を読み取る。

授業方法:　担当者による講義、テキストの講読、受講者による発表などから授業を進める。必要に応じてDVDなどの映像資料を用いる。学期末にはレポートを提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	シェイクスピアの概説	
3.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
4.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
5.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
6.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
7.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
8.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
9.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
10.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
11.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
12.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
13.	テキストの講読	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
14.	関連論文の要約と論評	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
15.	関連論文の要約と論評	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポートは採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加姿勢	40%	授業への意欲的な取り組み姿勢を評価する。
レポート	60%	授業の理解度とテキストの分析力を評価する。

教科書:　A Midsummer Night's Dream (大修館シェイクスピア双書)

参考書:　授業時に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　htsuji@dwc.doshisha.ac.jp

197460

シェイクスピア劇と現代

辻　　英子

授業テーマ:　As You Like It研究

授業の概要:　このクラスでは、今日の時代にふさわしいシェイクスピア上演のあり方とは何かを考える。シェイクスピア劇が書かれた400年前のイギリスでは、女優は存在せず、変声期前の少年俳優が女役を受け持っていた。つまりシェイクスピア劇に登場する女性たちはすべて少年に演じさせるために作られた役柄であった。今日、シェイクスピアの女役は多くの場合、女優が演じるが、そのことによって原作の持ち味はどのように変化するのだろうか。授業では男装のヒロイン、Rosalindが活躍する喜劇As You Like Itを取り上げ、演じ手の性別によって舞台に映し出される世界がどのように変わるのか、男優と女優、両者が演じるヒロイン像を映像資料を用いながら、比較検討していきたい。

到達目標:　シェイクスピア作品を理解し、今日的な上演のあり方を考える。

授業方法:　担当者による講義、テキストの講読、受講者による発表などから授業を進める。必要に応じてDVDなどの映像資料を用いる。学期の終わりにはレポートを提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	シェイクスピアの概説	
3.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
4.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
5.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
6.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
7.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
8.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
9.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
10.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
11.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
12.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
13.	テキストの講読とDVD視聴	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
14.	関連論文の要約と論評	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。
15.	関連論文の要約と論評	毎回の授業で必要とされる準備(テキストの入念な下調べ、参考文献の下読みなど)を万全にして授業に臨むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポートは採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加姿勢	40%	授業への意欲的な取り組みを評価する。
レポート	60%	作品の分析力によって評価する。

教科書:　As You Like It (大修館シェイクスピア双書)

参考書:　授業時に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　e-mail: htsuji@dwc.doshisha.ac.jp

197760

イギリス文学とミルトン

小山　　薫

授業テーマ:

授業の概要:

17世紀イギリスの詩人ジョン・ミルトン(1608-1674)は、シェイクスピアと並び称せられる偉大な文学者である。イギリス・ルネサンスの最後を飾る知識人であり、論文から詩へと多岐にわたる彼の作品は、内容・表現ともに、非常に格調高く高邁であるため、近寄り難い印象を持たれる傾向がある。しかし人間の自由と理性を信じる「戦うクリスチャン」ミルトンのスピリットは、多くの現代人に訴えかける素晴らしいものであり、同志社の建学の理念にも通じている。
本講座では、英文による概説書を参照しつつ、初期の抒情詩を精読する中で、詩人ミルトンの人と芸術性について知識と理解を深め、イギリス文学における彼の位置づけについて考察したい。

到達目標:

・ミルトンの人生に関する知識の修得
・ミルトンの初期を代表する詩(ラテン詩の英語訳と、英詩)に関する知識の修得
・ミルトン作品の芸術性に関する知識の修得

授業方法:

科目担当者による講義、受講者の発表、ディスカッションなど。毎回の授業に十分な予習をすることが必須となる。ミルトン作品の魅力を理解して、楽しみながら準備してもらいたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	ミルトン紹介	前回授業の配布プリントを読み直しておく。
3.	ミルトンの人生(1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
4.	ミルトンの人生(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
5.	ミルトンの人生(3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
6.	ミルトンの人生(4)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
7.	ミルトン—初期のラテン詩: 恋愛詩の英語訳	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
8.	ミルトン—初期の英詩: 賛歌"The Nativity Ode"	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
9.	ミルトン—初期の英詩: 牧歌"L'Allegro" & "Il Penseroso"	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
10.	ミルトン—初期の英詩: 哀歌 Lycidas (1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
11.	ミルトン—初期の英詩: 哀歌 Lycidas (2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
12.	ミルトン—初期の英詩: 仮面劇 Comus (1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
13.	ミルトン—初期の英詩: 仮面劇 Comus (2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
14.	ミルトン—初期の英詩: 仮面劇 Comus (3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
15.	・総括 ・レポート作成要領説明	前回授業の重要点を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回丁寧に予習して、意欲的積極的に受講し、自分自身で考え、理解することで、本物の知識を身につけてもらいたい。

フィードバックの方法:

学期末のレポートは採点後、(希望があれば)秋学期にコピーで返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
レポート	70%	論旨の流れが明確で、適切な注記(引用、参照)をほどこしつつ、テーマにそってテキスト分析し、自分なりの考察をしているか、を評価。

教科書:

Roy Flannagan, John Milton: A Short Introduction(Blackwell)

参考書:

必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:

Emailやオフィスアワーを利用。

197860

ミルトンとその時代

小山　　薫

授業テーマ:

授業の概要:

17世紀イギリスの詩人ジョン・ミルトン(1608-1674)は、シェイクスピアと並び称せられる偉大な文学者である。イギリス・ルネサンスの最後を飾る知識人であり、論文から詩へと多岐にわたる彼の作品は、内容・表現ともに、非常に格調高く高邁であるため、近寄り難い印象を持たれる傾向がある。しかし人間の自由と理性を信じる「戦うクリスチャン」ミルトンのスピリットは、多くの現代人に訴えかける素晴らしいものであり、同志社の建学の理念にも通じている。
本講座では、英文による概説書を参照しつつ、晩年の最高傑作Paradise Lost を精読し、彼の生きた時代と社会、文化についても考察したい。

到達目標:

・ミルトンのParadise Lostに関する知識の修得
・ミルトンの生きた時代と社会、文化に関する知識の修得

授業方法:

科目担当者による講義、受講者の発表、ディスカッションなど。毎回の授業に十分な予習をすることが必須となる。ミルトン作品の魅力を理解して、楽しみながら準備してもらいたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	初回授業までにテキストを購入しておく。
2.	Paradise Lostの背景(1)	授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。
3.	Paradise Lostの背景(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
4.	Paradise Lostの背景(3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
5.	Paradise Lostの背景(4)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
6.	Paradise Lost:梗概(1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
7.	Paradise Lost:梗概(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
8.	Paradise Lost:梗概(3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
9.	Paradise Lost:梗概(4)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
10.	Paradise Lost:Book 9(誘惑&堕罪)(1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
11.	Paradise Lost:Book 9(誘惑&堕罪)(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
12.	Paradise Lost:Book 10(人類救済への道)(1)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
13.	Paradise Lost:Book 10(人類救済への道)(2)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
14.	Paradise Lost:Book 12(人類救済への道)(3)	・授業スケジュールに沿って、テキストを下読みしてくる。 ・前回授業の重要点を復習しておく。
15.	・総括 ・レポート作成要領説明	前回授業の重要点を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回丁寧に予習して、意欲的積極的に受講し、自分自身で考え、理解することで、本物の知識を身につけてもらいたい。

フィードバックの方法:

学期末のレポートは採点後、(希望があれば)翌春にコピーで返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価。
レポート	70%	論旨の流れが明確で、適切な注記(引用、参照)をほどこしつつ、テーマにそってテキスト分析し、自分なりの考察をしているか、を評価。

教科書:

Roy Flannagan, John Milton: A Short Introduction(Blackwell)

参考書:

必要に応じて、授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:

Emailやオフィスアワーを利用。

197960

近代イギリス文化

A.C.Elliott

授業テーマ:

Representations of the British Empire, Queen Victoria to Brexit

授業の概要:

This course explores written and visual representations of the British Empire from its heyday in the Victorian period through to present-day Britain. In particular, the course focuses on representations in literature and film in order to consider: 1. the culture of imperialism; 2. the role that cultural productions have played in constructing, supporting, and challenging imperial power; 3. the ways in which images of the empire continue to be used in both new and familiar ways in postimperial Britain.

到達目標:

This course has four main aims:
1. to help students acquire and/or reinforce their knowledge of modern British culture, especially its literature and cinema.
2. to help students acquire and/or reinforce their critical understanding of the ideology of imperialism, and the role it has played and continues to play in the modern world.
3. to further develop students' abilities to discuss British culture in English.
4. to further develop students' abilities to use theory in order to critically analyse and interpret literary and visual texts.

授業方法:

This course is taught using a mix of interactive lectures, small group and class discussions, and student presentations. Every week, students are expected to prepare fully and actively for the next class, through reading or watching the selected text. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction. Introduction to the British Empire	Reading for the following class
2.	Culture and Imperialism	Reading for the following class
3.	Victorian fiction and the Empire I	Reading for the following class
4.	Victorian fiction and the Empire II	Reading for the following class
5.	Travelling the Empire	Reading for the following class
6.	Modern fiction and the Empire I	Reading for the following class
7.	Modern fiction and the Empire II	Presentation preparation
8.	Midterm presentation	Reading for the following class
9.	Imagining the end of empire	Reading for the following class
10.	Postcolonial fiction and the Empire I	Reading for the following class
11.	Postcolonial fiction and the Empire II	Reading for the following class
12.	Travel in a postcolonial world	Reading for the following class
13.	Nostalgia and the Empire	Reading for the following class
14.	Images of the British Empire in the twenty-first century	Presentation preparation
15.	Final presentation. Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class includes lengthy readings in English, of literature and theory, as well as out-of-class viewings of films. Also, in-class discussion is a crucial part of the course; students should come to class prepared to actively engage with, and analyse, this material. Questions and a critical approach are encouraged.

フィードバックの方法:

All work is returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	50%	
Presentations	20%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
Final report	30%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:

Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class.

198060

アメリカ文学と地域性

滝野　　哲郎

授業テーマ:　１９世紀アメリカ南部文学研究

授業の概要:　この授業では、独立革命・建国期から19世紀末までのアメリカ南部作家を取り上げ、その主要な作品を読み、作家がいかに当時の社会とかかわっていたかを考察することによって、当時の南部文学の特質について理解を深めることを目指す。

到達目標:
1. １９世紀のアメリカ南部文学について理解を深め、それを説明できること
2. 文献や作品を原文で正確に理解・分析し、それを説明できること
3. 自分で選んだテーマについて考察し、説得力のある英文で表現できること

授業方法:　講義、講読、発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	１７・１８世紀南部の社会と文化	文献を読んでおくこと
3.	１９世紀南部の社会と文化	文献を読んでおくこと
4.	独立革命・建国期の南部文学（１）	文献を読んでおくこと
5.	独立革命・建国期の南部文学（２）	文献を読んでおくこと
6.	アンティベラム期の南部文学（１）	文献を読んでおくこと
7.	アンティベラム期の南部文学（２）	文献を読んでおくこと
8.	アンティベラム期の南部文学（３）	文献を読んでおくこと
9.	南北戦争と南部文学	文献を読んでおくこと
10.	再建期の南部文学（１）	文献を読んでおくこと
11.	再建期の南部文学（２）	文献を読んでおくこと
12.	再建期の南部文学（３）	文献を読んでおくこと
13.	１９世紀末の南部文学（１）	文献を読んでおくこと
14.	１９世紀末の南部文学（２）	文献を読んでおくこと
15.	アメリカ南部文学と社会	文献を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　英文ペーパーを添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ペーパー	50%	達成目標を理解したうえで、考察や見解を適切にまとめられているかを基準とする。
発表	50%	テーマについて説得力のある発表ができているかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業後に教室内で応対、Eメール

198160

アメリカ文化と地域性

滝野　　哲郎

授業テーマ:　18・19世紀アメリカ南部文化研究

授業の概要:　南北戦争以前、アメリカ南部には奴隷制の社会が存在した。そこで暮らす人びとにとって、南部の社会と文化とはどのようなものであったのか。この授業では、18世紀から19世紀までの歴史・日記・自伝・手紙を取り上げ、人びとがいかに社会と文化にかかわっていたかを考察することによって、当時の南部文化について理解を深めることを目指す。

到達目標:
1. 18・19世紀のアメリカ南部文化について理解を深め、それを説明できること
2. 文献や作品を原文で正確に理解・分析し、それを説明できること
3. 自分で選んだテーマについて考察し、説得力のある英文で表現できること

授業方法:　講義、講読、発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	アメリカ南部の歴史と文化	文献を読んでおくこと
3.	植民地時代南部の社会と文化（1）	文献を読んでおくこと
4.	植民地時代南部の社会と文化（2）	文献を読んでおくこと
5.	独立革命・建国期南部の社会と文化（1）	文献を読んでおくこと
6.	独立革命・建国期南部の社会と文化（2）	文献を読んでおくこと
7.	アンティベラム期南部の社会と文化（1）	文献を読んでおくこと
8.	アンティベラム期南部の社会と文化（2）	文献を読んでおくこと
9.	南北戦争と南部社会（1）	文献を読んでおくこと
10.	南北戦争と南部社会（2）	文献を読んでおくこと
11.	再建期南部の社会と文化（1）	文献を読んでおくこと
12.	再建期南部の社会と文化（2）	文献を読んでおくこと
13.	19世紀末南部の社会と文化（1）	文献を読んでおくこと
14.	19世紀末南部の社会と文化（2）	文献を読んでおくこと
15.	アメリカ南部の社会と文化	文献を読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　英文ペーパーを添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ペーパー	50%	達成目標を理解したうえで、考察や見解を適切にまとめられているかを基準とする。
発表	50%	テーマについて説得力のある発表ができているかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業後に教室内で応対、Eメール

198260

アメリカの映像文化

鈴木　　健司

授業テーマ:　映像が創るアメリカの国民文化

授業の概要:　アメリカ文化史の中で注目されるいくつかの映像作品やその周辺の現象を取り上げ、それらがアート、ポップカルチャー、ビジネス等の諸分野で生み出してきたアメリカ的な特質について考察する。本科目における関心は、アメリカ研究の視点から映像に関わる文化的事象との関連で社会や文化の諸問題を考えることにあり、体系的な映画史や映像理論を学ぶことを目的としない。

到達目標:
1) アメリカの映像文化の発展とそれに関わる社会や文化の諸問題について、基礎的知識を習得する。
2) アメリカ文化研究に必要な学術的文献を読解する基礎的能力を獲得する。
3) 映像文化に親しみ自分なりの問題意識をもって鑑賞する姿勢を習得する。

授業方法:　各テーマについて、論点に関する講義、英語テキストの講読、受講者による報告から構成される。適宜、映像資料の視聴を行う。具体的なことは、受講者の人数等に応じて検討する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	本科目の授業内容に対する自分の関心の所在を明確にしておく
2.	映像文化とアメリカの20世紀	テキストを読む
3.	The Birth of a Nation (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
4.	The Birth of a Nation (2)	報告の準備
5.	Fantasia (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
6.	Fantasia (2)	報告の準備
7.	Father Knows Best (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
8.	Father Knows Best (2)	報告の準備
9.	West Side Story (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
10.	West Side Story (2)	報告の準備
11.	Back to the Future (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
12.	Back to the Future (2)	報告の準備
13.	The Metropolitan Opera Live in HD (1)	映像資料を視聴する テキストを読む
14.	The Metropolitan Opera Live in HD (2)	報告の準備
15.	総括	ここまでの授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　報告について個別にコメントを与える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び授業への積極的な参加姿勢	30%	準備学習の成果をもとに積極的に発言できること
報告	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
学期末レポート	40%	授業内容の理解を踏まえ、適切な資料を活用して、課題に則した明快な議論が展開できること

教科書:　ハンドアウトを配付する。

参考書:　授業時に適宜、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール。授業後に教室内で対応。

198460

アメリカの文化と表象

徳永　　由紀子

授業テーマ:

授業の概要:

アメリカ文化は、日本でもっとも親しまれてきた外国文化である。私たちは意識的にせよ、無意識的にせよ、また好むと好まざるとにかかわらず、アメリカ文化に大きな影響を受けて来た。本授業においては、日記、小説、写真、映画など「アメリカで作られたもの」を具体的な手がかりに、アメリカ文化とはどのようなものか、アメリカ文化を特徴づけているものは何かを考える。アメリカという国の成り立ちから始め、宗教、人種・民族、地域など、いくつかの重要項目を取り上げて行く。

到達目標:

1 具体的な作品、資料を通じてアメリカの歴史、アメリカ社会、アメリカ文化に対する理解を深める。
2 授業で扱う作品、その他の具体的な資料についてよく検討し、自分の意見をまとめ、それを自分の言葉で表現する。

授業方法:

講義を中心に授業を進めるが、質問、意見の発表、意見交換など、受講生の授業への積極的な参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	「新世界」の夢 ①	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
3.	「新世界」の夢 ②	
4.	アメリカの民主主義 ①	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
5.	アメリカの民主主義 ②	
6.	アメリカの宗教	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
7.	アメリカの人種・民族 ①:ネイティヴ・アメリカン、アフリカ系、ユダヤ系、アイルランド系、アジア系など、代表的な人種・民族を順にとりあげ、それぞれの文化について考察する。	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
8.	アメリカの人種・民族 ②	
9.	アメリカの人種・民族 ③	
10.	アメリカの人種・民族 ④	
11.	アメリカの人種・民族 ⑤	
12.	アメリカの地域とその文化 ①:アメリカにおいて特徴的な地域の一つである西部をとりあげ、その文化について考察する。	配布資料、課題作品を授業までに読んでおき、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。
13.	アメリカの地域とその文化 ②	
14.	アメリカの地域とその文化 ③	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	アメリカの歴史、アメリカ社会と文化に関する理解度により評価する。
レポート	30	課題作品(第1週目にリストを配布する)について、自分の意見を持ち、それを表現できるかを評価する。
授業への参加度	20	授業中の活発な質問や意見の発表、および授業後のコメントペーパーの提出を求める。

教科書:

参考書:

亀井俊介、鈴木健次監修『資料で読むアメリカ文化』東京大学出版会
有賀貞『ヒストリカル・ガイド・アメリカ』山川出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

198560

アメリカの歴史とジェンダー

徳永　　由紀子

授業テーマ:

授業の概要:

時代背景が異なる、アメリカ小説の代表的な作品、3編をとりあげ、主人公および主人公を取り巻く女性像や男性像、それぞれの人物の特徴的な言動、人物と人物の力関係、物語の展開、問題となる場面などを詳細に検討することによって、アメリカ社会におけるジェンダーのありよう、そしてその変化のさまを見る。

到達目標:

1 ジェンダーという視点から小説作品を読み解く。
2 3つの作品を比較することによって、アメリカ社会において時代とともにジェンダーという概念が変化して行くことを理解する。
3 作品を丁寧に読み、自分の意見をまとめ、それを自分の言葉で表現する。

授業方法:

講義と演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	アメリカ社会におけるジェンダー概念の変化について概論する。	
3.	Louisa May Alcott, Little Women (1868)の読解と分析①	Little Women を読み、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。作品読了後に提出するレポートの準備を進めておく。
4.	Louisa May Alcott, Little Women (1868)の読解と分析②	
5.	Louisa May Alcott, Little Women (1868)の読解と分析③	
6.	Louisa May Alcott, Little Women (1868)の読解と分析④	
7.	Kate Chopin, The Awakening (1899)の読解と分析①	The Awakeningを読み、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。作品読了後に提出するレポートの準備を進めておく。
8.	Kate Chopin, The Awakening (1899)の読解と分析②	
9.	Kate Chopin, The Awakening (1899)の読解と分析③	
10.	Kate Chopin, The Awakening (1899)の読解と分析④	
11.	F.Scott Fitzgerald, The Great Gatsby (1925)の読解と分析①	The Great Gatsbyを読み、自分の感想、解釈、意見、疑問等を整理しておく。作品読了後に提出するレポートの準備を進めておく。
12.	F.Scott Fitzgerald, The Great Gatsby (1925)の読解と分析②	
13.	F.Scott Fitzgerald, The Great Gatsby (1925)の読解と分析③	
14.	F.Scott Fitzgerald, The Great Gatsby (1925)の読解と分析④	
15.	3つの作品についてのディスカッション	3つの作品を通して見出した問題点について整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品についてのレポート	30	3つの作品それぞれについてのレポート(作品読了後に提出)。自分の意見を持ち、それを整理し、表現できるかを評価する。
期末レポート	50	まとめのレポート。3つの作品を通して自分が見出した問題について考察し、整理し、それを表現できるかを評価する。
授業への参加度	20	授業中の活発な質問や意見の発表、および授業後のコメントペーパーの提出を求める。

教科書:

授業において指示する。

参考書:

授業において随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

198660

ギリシャ・ローマ古典文学

西塔　　由貴子

授業テーマ:　西洋古典文学と現代文化ーギリシャ神話から学ぶ

授業の概要:　トリビア(trivia)とは？ School の語源は？？なぜ星占いが誕生したのか？トロヤ王子パリスと駆け落ちしたヘレンの言動は正しいか？サッフォーの恋愛事情は？この講義では、言語表現と文化表象を大きなテーマとして、現代思想に深く通底している古典の知識を学び、西洋古典にみる西欧思想について考えたいと思います。西洋古典は西欧文明の源です。私たちが日常何気なく使用しているカタカナ英語も、その多くが古代ギリシア語に本来の意味を発します。言葉だけに限らず、古典から学ぶことは大きく、西洋・東洋問わず、今の私たちにも密接に関連しています。この講義ではとくに、「神話」(muthos) を土台として、言語、文化、政治と宗教、そして教育などを、オリュンポスの神々やトロヤ戦争等々に見られる数々の物語を通して、多角的な視点から考えてみたいと思います。時折 DVD で映像を視聴しながら，知識の浸透を図ります。
西洋古典に学ぶ知識を培うと同時に、一つのテーマについて考えながら、論理的思考を養い、「考える力」をのばします。可能であれば、少人数でのグループワークを通して、ディスカッションや発表の機会を設け、自分の意見を表現する練習も行う予定です。学生の皆さんには、「考える」ことを楽しんでほしいと思います。西洋古典文学と現代社会について、学生の皆さんの新鮮なアイディアを期待します。

到達目標:　西洋古典の知識を身につけ、理解し、現代社会との連関性へと発展的に応用させて考えることができるようになる。
一つの問題について、論理的に考え、まとめる力をのばす。
自分の意見を明確に表現し、ディスカッションができるようになる。

授業方法:　講義/演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	予習と復習(常に参考文献を読んで授業に臨むこと)
2.	ギリシャ語とラテン語 I	予習と復習
3.	ギリシャ語とラテン語 II	予習と復習
4.	言語とは何か I	予習と復習
5.	言語とは何か II	予習と復習
6.	ギリシャ神話:神々と英雄 I	予習と復習
7.	ギリシャ神話:神々と英雄 II	予習と復習
8.	ギリシャ神話:神々と英雄 III	予習と復習
9.	ギリシャ神話:神々と英雄 IV	予習と復習
10.	ギリシャ神話:神々と英雄 V	予習と復習
11.	「語られたもの」と宗教 I	予習と復習
12.	「語られたもの」と宗教 II	予習と復習
13.	色彩と文化 I	予習と復習
14.	色彩と文化 II	予習と復習
15.	まとめと復習	予習と復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　学生の皆さんの積極的な参加と新鮮なアイディアを期待します。
出席(授業への参加)、提出物、発表、試験等の状況から総合的に評価しますが、授業に参加していない場合は、欠席とみなします。授業への参加度を重要視します。

フィードバックの方法:　提出物はコメントして返却し、教室でまとめて解説をおこないます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的な参加を評価する。
グループワークや発表、討論	30	ディスカッションや発表の積極性・論理性、表現力を評価する。
試験(提出物を含む)	50	レポートなどの提出物を含む論理性や説得力，独創性を評価する。

教科書:　プリントを配布して使用します。。
提出物や試験のための参考文献は授業中に配布するハンドアウトにて提示します。

参考書:　授業中に配布するハンドアウトに記載しますので、図書館を活用すること。特に、西村賀子『ギリシア神話』(中公新書、2010(5版))と『オリュンポスの神々の歴史』(白水社、2017)は必読と考えてほしい。ギリシャ・ローマ文学関連の翻訳も読んでおくとよいでしょう。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力 (Analytical ability)、思考力 (Thinking power)、創造力 (Creative ability)、変化対応力 (Responding to change)

教員との連絡方法:　Email address: YukixoSaito@gmail.com

198760

ヨーロッパの文学と文化

服部　　尚己

授業テーマ:　ドイツの文学と文化に親しむ

授業の概要:　文学に関してはテキストの内容を受講生に説明してもらい、理解を深める。文化に関しても同じようにして理解を深めてゆく。

到達目標:　ドイツの文学および文化についての一通りの知識を得ることを目標とする。

授業方法:　演習形式である。テキストの内容をまとめて発表および説明してもらう。そうして議論しながら、理解を深めてゆく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ドイツ文学案内ガイダンス	
2.	ドイツ文化案内ガイダンス	
3.	古典主義文学	テキストの内容をまとめて発表する準備
4.	文化案内1	
5.	古典主義とロマン主義の間	テキストの内容をまとめて発表する準備
6.	文化案内2	
7.	ロマン主義	テキストの内容をまとめて発表する準備
8.	文化案内3	
9.	写実主義	テキストの内容をまとめて発表する準備
10.	文化案内4	
11.	表現主義	テキストの内容をまとめて発表する準備
12.	文化案内5	
13.	新ロマン主義（ヘッセ、カロッサ）	テキストの内容をまとめて発表する準備
14.	文化案内6	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　ヘッセなどの文学作品を読んでおくこと。ドイツの文化および文学について関心を持ち、情報などを収集しておくこと。

フィードバックの方法:　教室内でフィードバックする。およびマナビーを通して。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に取り組む姿勢	50%	発表および説明・討論が大学院生レベルに達していたかどうかを見て判断する。
レポート	50%	ドイツの文学および文化についての一通りの知識を習得したかどうかを見て判断する。

教科書:　「ドイツ文学案内」（岩波文庫）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

198860 **ラテン語 I**

高谷　　修

授業テーマ:　初級ラテン語文法 (I)

今から2000年前、西欧ではローマ帝国が栄えていた。そのローマ帝国の公用語がラテン語である。ローマ帝国はやがて滅ぶが、その豊かな遺産はその後に勃興するヨーロッパの国々に伝えられ、それぞれの国の文化の発展に大きく寄与することとなった。
ラテン語の文法はやさしくはないが、ラテン語を知っていると色々な面で役立つこと請け合いである。ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥスは「ゆっくり急げ」festina lente を座右の銘にしていたが、我々もゆっくりと急ぎながら、ラテン語を学びたい。

授業の概要:　初級ラテン語文法を学習する。

到達目標:
1. ラテン語文法を習得する。
2. ラテン語と近代語、特に英語との関連性・類似性について、考察を深められるようになることを目指す。
3. ラテン語の名句を通して、ローマ人の知恵を学ぶ。

授業方法:　まず教師が文法事項を説明する。その後で学生に各章ごとに付いている練習問題を解いて貰うが、練習問題は宿題としたい。教室で答えあわせをする。学生の反応を見ながら進めるが、おおよそ1回に2章くらいのペースで進めたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに ------ 発音・音節・アクセント	教科書を購入しておくこと。
2.	動詞変化 その1、名詞変化 その1	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
3.	動詞変化 その1、名詞変化 その1	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
4.	前置詞、動詞変化 その2	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
5.	人称代名詞、未完了過去	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
6.	以上の復習	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
7.	名詞変化 その3、未来形	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
8.	指示代名詞、形容詞変化 その2	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
9.	完了形、名詞変化 その4	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
10.	関係代名詞	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
11.	過去完了、未来完了	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
12.	名詞変化 その5	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
13.	疑問文	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
14.	以上の復習	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
15.	ラテン語の格言を読む	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。

受講者へのメッセージやアドバイス:　文法を学習するには、ゆっくりと着実に学習することが大切です。festina lente.

フィードバックの方法:　試験について、教室で説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の取り組み	40	宿題に真摯に取り組んでいるかどうか、また授業に積極的に参加しているかどうかを評価の基準とする。
期末試験	60	ラテン語文法が十分に理解できているかどうかを評価の基準とする。

教科書:　松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』東洋出版、他にプリント配布。

参考書:　小林標『ラテン語の世界 —— ローマが残した無限の遺産』中公新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　e-mail による。アドレスは教室で知らせる。

198960

ラテン語 II

高谷　　修

授業テーマ:

初級ラテン語文法 (II)

今から2000年前、西欧ではローマ帝国が栄えていた。そのローマ帝国の公用語がラテン語である。ローマ帝国はやがて滅ぶが、その豊かな遺産はその後に勃興するヨーロッパの国々に伝えられ、それぞれの国の文化の発展に大きく寄与することとなった。

ラテン語の文法はやさしくはないが、ラテン語を知っていると色々な面で役立つこと請け合いである。ローマ帝国の初代皇帝アウグストゥスは「ゆっくり急げ」festina lente を座右の銘にしていたが、我々もゆっくりと急ぎながら、ラテン語を学びたい。

授業の概要:

初級ラテン語文法を学習する。

到達目標:

1. ラテン語文法を習得する。
2. ラテン語と近代語、特に英語との関連性・類似性について、考察を深められるようになることを目指す。
3. ラテン語の名句を通して、ローマ人の知恵を学ぶ。

授業方法:

まず教師が文法事項を説明する。その後で学生に各章ごとに付いている練習問題を解いて貰うが、練習問題は宿題としたい。教室で答えあわせをする。学生の反応を見ながら進めるが、おおよそ1回に2章くらいのペースで進めたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ラテン語Iの復習	教科書を購入しておくこと。
2.	命令法・能動相、名詞変化 その6	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
3.	受動相	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
4.	形容詞変化 その3、副詞	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
5.	受動相・完了形時称	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
6.	形容詞と副詞の比較級と最上級	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
7.	形式所相動詞、名詞変化 その7	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
8.	形容詞副詞の不規則な比較級と最上級	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
9.	命令法・受動相、名詞変化 その8	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
10.	分詞、不規則動詞	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
11.	数詞、不定法、絶対的奪格	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
12.	接続法、非人称動詞、動名詞、動形容詞	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
13.	やさしいラテン語作品を読む	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
14.	やさしいラテン語作品を読む	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。
15.	ラテン語の格言を読む	毎時間、必ず練習問題を宿題として課すので、しっかり復習し、練習問題を解いておくことが必要です。

受講者へのメッセージやアドバイス:

文法を学習するには、ゆっくりと着実に学習することが大切です。festina lente.

フィードバックの方法:

試験について、教室で説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の取り組み	40	宿題に真摯に取り組んでいるかどうか、また授業に積極的に参加しているかどうかを評価の基準とする。
期末試験	60	ラテン語文法が十分に理解できているかどうかを評価の基準とする。

教科書:

松平千秋・国原吉之助『新ラテン文法』東洋出版、他にプリント配布。

参考書:

小林標『ラテン語の世界 —— ローマが残した無限の遺産』中公新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

e-mail による。アドレスは教室で知らせる。

199060 **英語音声学A**

佐伯　　林規江

授業テーマ:　英語音声学と英語教育(Part I)

授業の概要:　英語の音を、主に調音音声学の側面から分析し、その特徴と発音法について学ぶ。特に本講では、英語特有の単音(母音・子音)に重点をおき英語音声理論の理解を深める。また、グローバル社会において英語学習の早期・低年齢化が進む日本の英語教育の観点から、英語の音声指導法についても議論する。実際に受講者は自身の英語発音矯正を行いながら英語音声を体験的に学び、その背景に存在する文化的要素と英語コミュニケーションの認知的および情意的側面の知識も身につけることにより、総合的に英語音声と英語教育について理解を深めることを試みる。必要に応じて音響音声学および聴覚音声学の基礎にも触れ、英語を多角的に音の側面から分析する。

到達目標:
(1)英語の音を、英語特有の単音(母音・子音)に重点をおき調音音声学の側面から分析し、その特徴と発音法について正しい知識を持つ。
(2)グローバル社会において英語学習の早期・低年齢化が進む日本の英語教育の観点から、英語の音声指導法について興味を持って意見交換できる。
(3)　各自、英語の単音に重点を置いたMini-project workを立ち上げ、テーマを追求できる。

授業方法:　毎授業、テーマについての担当者による講義、理解を深めるための演習、および受講者による討議を中心として授業を進める。準備学習として、毎回指定されている文献を読み、あらかじめ内容を理解し、質問や討議のトピックを準備する。授業は、文献の内容に関する討論が中心となる。積極的な参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction of the course: What is the study of phonetics?	Read the syllabus.
2.	What is the research in phonetics?	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
3.	Airstream Mechanisms: What is abdominal breathing?	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
4.	English dialects and world Englishes	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
5.	Transcription and articulation of vowel sounds (2)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
6.	Transcription and articulation of vowel sounds (1)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
7.	Places and manners of articulation (1)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
8.	Places and manners of articulation (2)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
9.	Phones and allophones, complementary distribution (1)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
10.	Phones and allophones, complementary distribution (2)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
11.	Review test	(1) Review class No.1-10 (2) Prepare for the review test
12.	Mini Project Work (1)	(1) Determine research topic (2) Find research method (3) Investigate previous studies
13.	Mini Project Work (2)	(1) Determine research topic (2) Find research method (3) Investigate previous studies
14.	Mini Project Work (3)	(1) Determine research topic (2) Find research method (3) Investigate previous studies
15.	Mini Project Work (4)	Present the results of the mini-project work

受講者へのメッセージやアドバイス:　英語の発音と発音教育に関わるさまざまな世界を探求してみよう。英語の実践的な発音指導、発音矯正法を試みる授業でもある。積極的な参加姿勢を期待する。

フィードバックの方法:　復習テストについては次回に解説を含めて評価を返却する。ミニ・プロジェクト(リサーチ)に関しては、授業内で質疑応答及びディスカッションを通して理解を深める。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
復習テスト	30	到達目標(1)に関して、授業の内容をどの程度理解し知識を構築しているかという観点で評価する。
授業中の発言を含む貢献度	30	積極的に授業に参加し、到達目標(1)を理解したうえで、到達目標(2)に関して、授業中の発言の内容、教師とのやり取りから、どの程度毎回の課題を理解し、批判的に考えているか、という観点で評価する。
レポート	40	到達目標(3)に関して、提出されたレポートから授業の理解度、分析の深さ、テーマの設定の適切性という観点から評価する。

教科書:　佐藤　寧・佐藤　努『現代の英語音声学』(金星堂)
配布資料

参考書:　授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

199160 **英語音声学B**

佐伯　　林規江

授業テーマ: 英語音声学と英語教育(Part II)

授業の概要: 英語の音を、主に調音音声学の側面から分析し、その特徴と発音法について学ぶ。特に本講では、英語特有の超文節要素(ストレス、リズム、イントネーション、音の連結など)の働きとメカニズムについて英語音声理論の理解を深める。また、グローバル社会において英語学習の早期・低年齢化が進む日本の英語教育の観点から、英語の音声指導法についても議論する。実際に受講者は自身の英語発音矯正を行いながら英語音声を体験的に学び、その背景に存在する文化的要素と英語コミュニケーションの認知的および情意的側面の知識も身につけることにより、総合的に英語音声と英語教育について理解を深めることを試みる。必要に応じて音響音声学および聴覚音声学の基礎にも触れ、英語を多角的に音の側面から分析する。

到達目標: (1)英語の超文節要素(ストレス、リズム、イントネーション、音の連結など)について調音音声学の側面から分析し、その特徴と発音法について正しい知識を持つ。
(2)グローバル社会において英語学習の早期・低年齢化が進む日本の英語教育の観点から、英語の音声指導法について興味を持って意見交換できる。
(3)　各自、英語の超文節要素に重点を置いたMini-project workを立ち上げ、テーマを追求できる。

授業方法: 毎授業、テーマについての担当者による講義、理解を深めるための演習、および受講者による討議を中心として授業を進める。準備学習として、毎回指定されている文献を読み、あらかじめ内容を理解し、質問や討議のトピックを準備する。授業は、文献の内容に関する討論が中心となる。積極的な参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction of the course: What is the study of phonetics? Review of English Phonetics A	Read the syllabus.
2.	What is the research in phonetics?	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
3.	What are supra-segmental features?	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
4.	What is syllable?	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
5.	What is stress?(1)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
6.	What is stress?(2)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
7.	What is sound reduction? What is coarticulation?	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
8.	What is intonation?	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
9.	What is the relationship between stress, intonation and rhythm?(1)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
10.	What is the relationship between stress, intonation and rhythm?(2)	(1) Read the assigned chapter(s) (2) Prepare for the in-class tasks (3) Homework
11.	Review test	(1) Review class No.1-10 (2) Prepare for the review test
12.	Mini Project Work (1)	(1) Determine research topic (2) Find research method (3) Investigate previous studies
13.	Mini Project Work (2)	(1) Determine research topic (2) Find research method (3) Investigate previous studies
14.	Mini Project Work (3)	(1) Determine research topic (2) Find research method (3) Investigate previous studies
15.	Mini Project Work (4)	Present the results of the mini-project work

受講者へのメッセージやアドバイス: 英語の発音と発音教育に関わるさまざまな世界を探求してみよう。英語の実践的な発音指導、発音矯正法を試みる授業でもある。積極的な参加姿勢を期待する。

フィードバックの方法: 復習テストについては次回に解説を含めて評価を返却する。ミニ・プロジェクト(リサーチ)に関しては、授業内で質疑応答及びディスカッションを通して理解を深める。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
復習テスト	30	到達目標(1)に関して、授業の内容をどの程度理解し知識を構築しているかという観点で評価する。
授業中の発言を含む貢献度	30	積極的に授業に参加し、到達目標(1)を理解したうえで、到達目標(2)に関して、授業中の発言の内容、教師とのやり取りから、どの程度毎回の課題を理解し、批判的に考えているか、という観点で評価する。
レポート	40	到達目標(3)に関して、提出されたレポートから授業の理解度、分析の深さ、テーマの設定の適切性という観点から評価する。

教科書: 佐藤　寧・佐藤　努『現代の英語音声学』(金星堂)
配布資料

参考書: 授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

199260

英語科教授法A

泉　　惠美子

授業テーマ:　英語科教授法

授業の概要:　英語科教授法について，英語の文献を読み説きながら，理論と実践の両面から学ぶ。また，新学習指導要領の考え方や目標などに鑑み英語教育の在り方について考究するとともに，実際の小・中・高等学校の英語授業のビデオなどを視聴し，授業分析を行い，よりよい授業の在り方について考える。最終的には英語授業の指導案を作成し，模擬授業を行い，互いに省察し合う。

到達目標:　英語教育における理論と実践について学び，4技能・語彙・文法等の指導の在り方，授業の組み立て等について学ぶと共に，実際に英語で授業が出来ることを目指す。

授業方法:　講読・演習・セミナー形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 様々な教授法 ビデオ視聴：小学校	英語授業について考えてきてください。
2.	Learner-Centredness: Chapters 4, 5 ビデオ視聴：中学校	テキストの予習と発表準備
3.	Classroom Management: Chapter 3 ビデオ視聴：高等学校	テキストの予習と発表準備
4.	Learner Needs/Differences: Chapters 7	テキストの予習と発表準備
5.	Language Clarification: Chapters 13, 14, 15, 16	テキストの予習と発表準備
6.	Language Practice: Chapters 8, 14,	テキストの予習と発表準備
7.	Language Practice: Chapters 15, 16	テキストの予習と発表準備
8.	Receptive Skills: Chapters 17, 18	テキストの予習と発表準備
9.	Receptive Skills: Chapter 19	テキストの予習と発表準備
10.	Productive Skills: Chapter 20	テキストの予習と発表準備
11.	Productive Skills: Chapter 21	テキストの予習と発表準備
12.	Lesson Planning: Chapters 11, 12	指導案の作成
13.	模擬授業と振り返り	模擬授業の準備
14.	模擬授業と振り返り	模擬授業の準備
15.	模擬授業とまとめ	模擬授業の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　小中高の英語授業について興味があり，将来英語教師を目指している意欲のある方，是非一緒に学びましょう。

フィードバックの方法:　発表，模擬授業等に対して口頭で振り返りを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の参加度	20	積極的に授業に参加しているか。
担当箇所の発表・レポート	20	担当箇所の発表・レポートの内容はどうか。
模擬授業	20	指導案作成，模擬授業の内容や教師発話はどうか。
最終レポート	40	テーマを設定し，分析，考察などを行い，十分に論述できているか。

教科書:　Jeremy Harmer. The Practice of English Language Teaching with DVD (4th Edition) (Longman Handbooks for Language Teachers) 4th Edition. Longman.

参考書:　白畑 知彦・村野井 仁・若林 茂則・冨田 祐一.『改訂版　英語教育用語辞典』大修館書店. 2009年
文部科学省.『中学校・高等学校　外国語科（英語）学習指導要領解説』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　メールでお願いします。

199560

英語評価論

清水　　裕子

授業テーマ:　外国語教育における測定と評価、言語テスト、基本統計の知識を得る

授業の概要:　このコースでは、言語テストの測定と評価における二つの側面について学んでいきます。
（1）外国語としての英語力を測定する道具の作成・開発に際して必要となる基本概念やテスト作成原理の学習
（2）基礎統計を中心に、テスト結果の処理・分析において必要となる手法の学習
　両側面をより具体的に学ぶために、目的やスキル別に実際のテスト項目を作成したり、既存テストの分析を試みると共に、サンプル・データを用いてテスト結果の分析を行っていきます。

到達目標:　本コースでの学習を通して、ある言語プログラムにおける測定と評価のあり方や問題点を客観的に捉え、また、各自が教育現場等の課題への対応を中心としたプロジェクト研究を行うことで、実際の社会における言語テストの存在やあり方についての理解を深めていくことを大きな目標とします。

授業方法:　講義をもとに授業を進めますが、学んだ内容を応用するためにも、実際にテスト項目を作成し、授業内でのペア・ワークによる作業(peer evaluation)や、データの分析結果を解釈するなど、hands-onで授業を進めていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	本コースの概要、測定と評価の歴史	Reading　assignment　（Hinofotisの論文を配布）
2.	言語テスト入門1：言語テストの基本概念	
3.	言語テスト入門2：良いテストテストとは？	（提出　Task 1:テスト分析）
4.	テスト開発入門1：Test Specificationとは？	分析してきたテストについてのさらなる分析
5.	テスト開発入門2：文法と語彙のテスト・多肢選択形式	多肢選択形式のpeer evaluation
6.	テスト開発入門3：ReadingとListeningのテスト・組み合わせ形式	組み合わせ形式のpeer evaluation
7.	テスト開発入門4：SpeakingとWritingのテスト・真偽形式	真偽形式のpeer evaluation
8.	テスト開発入門5：その他のテスト・完成法等・測定道具の評価について	完成法/短答形式のpeer evaluation （Final Projectのトピックの連絡）
9.	教材の評価 テスト分析と統計入門1：項目分析（Item Analysis）	TDAPを用いた分析 （提出　Task 2:Item Writing）
10.	テスト分析と統計入門1：項目分析（Item Analysis）	TDAPを用いた分析と分析結果の解釈
11.	テスト分析と統計入門2：教室レベルにおける統計の基礎1	SPSSを用いた実習
12.	テスト分析と統計入門3：教室レベルにおける統計の基礎2	SPSSを用いた基本統計にいついて野実習 （提出　Task 3:Article/Book Report）
13.	テスト分析と統計入門4：リサーチとは？	SPSSを用いた推測統計についての実習
14.	古典的理論と新テスト理論	（提出　Final Paper）
15.	プレゼンテーション・まとめ	Final　Paperについてのプレゼンテーション

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業の出席を前提としているので、万一、欠席する場合は、自己責任で内容や課題を確認するようにしてください。

フィードバックの方法:　課題についてはコメントや評価をつけて返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題および授業内の参加態度	60	課題の理解とその達成度
Final project とプレゼンテーション	40	トピックの選択と選んだトピックについての説得力のある説明

教科書:　なし

参考書:　Brown, J.D. (2005). Testing in Language Programs. McGraw Hill.
.D.ブラウン著　和田稔訳　（1999）『言語テストの基礎知識』（大修館書店）
その他の参考文献類は、Week1で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　電子メール（1回目の授業で提示します）

199660

メディアと英語教育

今井　　由美子

授業テーマ:　英語教育におけるInformation & Communication Technology (ICT)の活用とその可能性

授業の概要:　英語教育におけるコミュニケーション能力の構成要素は「読む、書く、聞く、話す」の4技能であるが、現代ではコンピュータリテラシー、さらにインターネットの共通言語としての「英語」教育においては情報リテラシーが語学力としての重要な要素となる。この授業では、英語教育におけるICTの活用とその可能性について考える。

到達目標:　ICTの活用と教材作成を試みる。

授業方法:　テーマについての解説とディスカッションを中心に進める。学期後半では受講生の興味あるスキルや分野について教材研究を行い、デジタル教材の作成を試みる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	リーディング課題
2.	情報メディアと英語教育	リーディング課題
3.	コンピュータとシステム開発	リーディング課題
4.	CALL教授法、CALL授業	リーディング課題
5.	CALL学習と学習者要因	リーディング課題
6.	情報ネットワークを利用した学習者支援	リーディング課題
7.	インターネットを利用して	リーディング課題
8.	eラーニングとモバイルラーニングを利用して	リーディング課題
9.	発音矯正ソフトを利用し	リーディング課題
10.	デジタル教材の活用と作成（1）	
11.	デジタル教材の活用と作成（2）	
12.	デジタル教材の活用と作成（3）	
13.	デジタル教材の活用と作成（4）	
14.	デジタル教材の活用と作成（5）	
15.	発表、評価、振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　事前に資料を配付する。授業後に、テーマに関する疑問点をひとつ挙げ、調べ、レポートを作成し、次の授業で発表する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題へ取り組む姿勢、貢献度	30%	
レポート	20%	
教材作成	50%	左の3点において総合的に評価する。

教科書:　ハンドアウト

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

199760

教材開発論

杉森　　直樹

授業テーマ:　英語学習教材開発の理論と手法について学ぶ

授業の概要:　英語学習教材の開発、選定に必要な理論と知識を学び、日本人英語学習者を対象とした効果的な英語学習教材の開発手法についての理解を深める。また、シラバスと教材の関係、教材の評価や選定の方法、テスト・演習問題の作問方法等についても学び、これらを通じて、中学校や高等学校における利用を想定した英語学習教材の開発・選定スキルを総合的に習得することを目標とする。

到達目標:　英語学習教材開発の手法について理解している。
授業目標に合致した適切な教材を選定することができる。
中学校，高等学校の学習指導要領の記載内容を理解している。
必要に応じて英語学習教材を開発することができる。

授業方法:　授業では、英語学習教材開発の理論と手法に関する文献や資料を輪読する。受講者は、扱われているテーマについて分担して発表を行い、クラス全体でディスカッションを行いながら扱われているテーマについての理解を深める。なお、授業のまとめとして期末レポート課題を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英語教育における教材開発(1)	シラバスの記載内容の確認
2.	英語教育における教材開発(2)	輪読教材を読み，内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
3.	英語教材開発論(1):シラバスと教材開発（その1）	輪読教材を読み，内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
4.	英語教材開発論(2):シラバスと教材開発（その2）	輪読教材を読み，内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
5.	英語教材開発論(3):評価・演習のための問題・教材作成（その1）	輪読教材を読み，内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
6.	英語教材開発論(4):評価・演習のための問題・教材作成（その2）	輪読教材を読み，内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
7.	英語教材開発論(5):教材の評価と選択（その1）	輪読教材を読み，内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
8.	英語教材開発論(6):教材の評価と選択（その2）	輪読教材を読み，内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
9.	英語教材開発論(7):英語教授法と教材開発（その1）	輪読教材を読み，内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
10.	英語教材開発論(8):英語教授法と教材開発（その2）	輪読教材を読み，内容を理解した上で担当部分の発表準備を行う
11.	学習指導要領のねらいと教材開発（1）	小中高の学習指導要領を読み，内容を理解する
12.	学習指導要領のねらいと教材開発（2）	小中高の学習指導要領を読み，内容を理解する
13.	教材開発演習(1)	開発する教材の検討
14.	教材開発演習(2)	開発する教材の作成
15.	.総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な授業参加を期待します。

フィードバックの方法:　輪読発表の内容に対してコメントを与えると共に理解度を確認するための質問を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加	30	授業への積極的参加の度合いと各回のテーマに対する理解度によって評価
授業中の輪読発表	40	担当部分の発表の達成度により評価
レポート課題	30	教材開発に関する期末レポートの達成度により評価

教科書:　プリント教材を使用する

参考書:

Brown, H.D. (2006). Principles of language learning and teaching (5th ed.). Pearson-Longman.
Harmer, J. (2015). The Practice of English language teaching (5th ed.). Pearson Education Limited.
Harwood, N. (2010). English language teaching materials: Theory and practice. Cambridge University Press.
Tomlinson, B. (Ed.) (2011). Materials development in language teaching (2nd ed.). Cambridge University Press.
文部科学省(2008)『中学校学習指導要領』東山書房
文部科学省(2009)『高等学校学習指導要領』東山書房
その他の参考文献は授業で指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール、マナビー

200160 **文学と表象A**

甲元　洋子、湊　圭史、吉江　孝美

授業テーマ:　英米文学と表象

授業の概要:　初回の授業で担当者3人がそれぞれの授業内容を紹介し、2回目以降はリレー形式で授業を担当する。

到達目標:　本学科（英語英文学科）のコンテンツ科目として重要な英米の文学・文化を俯瞰し、包括的に理解する。リレー形式で3名の教員が担当し全15回。
①吉江孝美(5回)
・夏目漱石の作品における異文化「表象」を読み解く
②湊圭史(5回)
・ミュージカルにおける人種・民族表象を、ミュージカル・ジャンルおよびアメリカ合衆国の歴史も振　り返りながら人種・民族グループ別に検討する。
③甲元洋子（4回）
・人生の重い現実、特に老いや死と言ったネガティブなテーマが文学作品の中でどのように表象化　され超克されてゆくかを英米の詩や小説を読みながら理解する。

授業方法:　講義形式で授業を進める。教材は基本的に日本語によるプリント（授業中に配布）を使用し、必要に応じて視聴覚教材も使用する。英米語作品を取り上げる場合は日本語の翻訳を使用する。初回から座席指定を行い、授業環境を整える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：担当者3人がそれぞれの授業内容について解説する。その後、質疑応答を行う。	準備学習は不要
2.	吉江(1)『吾輩は猫である』は、なぜ犬ではなく猫なのか　—猫という表象—	授業に集中し内容を正確に把握し、自分なりの考えをまとめ、最後にレポートが書けるようにしておく。
3.	吉江(2)漱石と英文学—『私の個人主義』と「自己本位」—	同上
4.	吉江(3)『草枕』の画工にみる「非人情」と「不人情」—東洋と西洋の間で—	同上
5.	吉江(4)『道草』、『明暗』にみる「私なし」の態度とジェイン・オースティンの作品	同上
6.	吉江(5)漱石文学の中の女性とその表象　—語り手の「場所」と「則天去私」	同上
7.	湊(1)ミュージカルにおける人種・民族表象と「アメリカの夢」	ミュージカルとはどのような芸術形式かを考えてくる。
8.	湊(2)ユダヤ系—ジャンルの創造とニューヨーク性	人種・民族と芸術との関係を考えてくる。
9.	湊（3）アフリカ系—ミンストレルから『ハミルトン』まで	前週までに紹介された作品で興味があるものについて調べる。
10.	湊（4）ラティーノ、アジア系—ステレオタイプを通して	同上
11.	湊（5）性的マイノリティー「普通」の存在へ	同上
12.	甲元（1）老いの現実：ユードラ・ウェルティの短編小説『慈善訪問』を取り上げ、特に女性の老いの描かれ方を探る。	授業に集中して内容を正確に把握し、自分なりの考えをまとめ、最後にコメントが書けるようにしておく。
13.	甲元（2）老いの超克：テニスンとブラウニングの小詩を取り上げ、老いを受け入れて尚、老いに負けない覇気に満ちた老年観を紹介する。	同上
14.	甲元（3）死と向き合う：古い民衆の詩であるバラッド他、数編の詩人たちの作品を取り上げ、死に対処する人間の思いを探る。	同上
15.	甲元（4）死と親しむ：エミリ・ディキンスンとクリスティーナ・ロセッティの詩を取り上げ、死をむしろ慰めとした彼女らの詩想背景を探る。	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物に関しては、担当教員が必要とみなした場合、点数またはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	吉江：レポートを提出させその内容で評価する（提出期限については授業で指示）。 湊：担当の最後の授業から1週間以内に800字ほどのエッセーを提出させ、その内容で評価する。 甲元：毎回の授業の最後に15分前後の時間を取り、その日の授業内容のまとめとコメントを書かせ、その内容で評価する。
授業態度	30%	意欲的で積極的な受講態度を示しているか否かで評価する
全体としての評価		この授業の成績評価は3名の教員それぞれの評価点の平均により算出される。

教科書:　教科書は使用しない。各授業でプリントを配布する。

参考書:

参考文献（吉江孝美）
授業の中で指示する。
参考文献（湊圭史）
石原隆司『ミュージカル劇場解体新書—製作テクニックからマネジメントまで』ヤマハミュージックメディア、2010年
井上一馬『ブロードウェイ・ミュージカル（文春文庫044）』文藝春秋社、1999年
小山内伸『ミュージカル史』中央公論社、2016年
岩崎徹他『世界のミュージカル・日本のミュージカル（横浜市立大学新叢書9）』春風社、2017年
考文献（甲元洋子）
授業の中で指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業の際に指示する

200260

文学と表象B

小山　　薫、玉田　　佳子、阿部　　美春

授業テーマ:　英米文学と表象

授業の概要:
・二百年前、十代の女性の悪夢から生まれた『フランケンシュタイン』(1818)を、西洋文化における「怪物」表象の視点で読む。(阿部)
・イギリスの18世紀から19世紀における文学や版画を、「風刺」、「擬装」、「ナンセンス」という表象から読み解き、時代の文化風土をあきらかにする。(玉田)
・英語圏の文化(文学)を理解する上で必須の知識として、ギリシア・ローマ神話と聖書に注目し、英詩に描かれた女性像を「バラの表象」の観点で再考すると共に、数字と左右、木と色、善と悪にまつわる寓意(アレゴリー)について学ぶ。(小山)

到達目標:　表象をキーワードに各教員が講義をおこない、本学科(英語英文学科)のコンテンツである英米文学を包括的に理解する。(オムニバス方式で3名の教員が担当)

授業方法:　講義を中心におこなう。DVDなどによる作品の鑑賞、パワーポイントや教材提示機を使用する講義もある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・授業全体の概説。 ・英文学にみる、ギリシア・ローマ神話のイメージ(小山)	シラバスを読み直しておく
2.	『フランケンシュタイン』を読む:恐怖小説、ジャコバン小説、SFの元祖(阿部)	・前回の授業で学習した内容を復習しておく ・シラバスを読み直しておく
3.	『フランケンシュタイン』の「怪物」とは何者か(阿部)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
4.	女性の「身体」をめぐる表象:「罪の器」と「禍の元凶」(阿部)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
5.	「新大陸」をめぐる表象:「人喰いの野蛮人」と「高貴な野蛮人」(阿部)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
6.	「オリエント」と「オクシデント」をめぐる神話(阿部)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
7.	風刺という表象:18世紀イギリスの風刺画(玉田)	・前回の授業で学習した内容を復習しておく ・シラバスを読み直しておく
8.	擬装という表象:18世紀イギリスの女性作家(玉田)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
9.	ナンセンスという表象:『不思議の国のアリス』(玉田)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
10.	カンバセーション・ピースという表象:18世紀イギリスの家族の肖像画(玉田)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
11.	キリスト教文学にみる寓意(アレゴリー):数字と左右(小山)	・前回の授業で学習した内容を復習しておく ・シラバスを読み直しておく
12.	詩に歌われたバラのような女性像: スペンサー、ヘリック、バーンズ(小山)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
13.	英文学にみる寓意(アレゴリー):木と色(小山)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
14.	キリスト教文学にみる寓意(アレゴリー): 善と悪(小山)	前回の授業で学習した内容を復習しておく
15.	まとめ(小山)	第1回目と、第11～14回目の授業で学習した内容を復習しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業参加(無遅刻無欠席)はもとより、意欲的積極的に受講して、知識を身につけ、視野を広げてもらいたい。
・遅刻や欠席はその都度減点。入院(診断書提出)などの客観的理由がない場合は、欠席は最多で5回まで。
・やむを得ず欠席した場合は、次回授業で担当者に申し出て、欠席回のプリントを受け取ること。

フィードバックの方法:　コメントカード提出の場合は、次の授業のはじめにフィードバックする。(具体的には、コメントカードの内容を紹介したり、コメントカードに書かれた質問に答える等)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
		授業への参加度を25点満点で評価し、さらに3人の担当者が個別に25点満点の成績を出して、合計したものを最終的な成績とする。各担当者の評価項目は以下のとおり。
授業への参加度	25%	知的好奇心をもって、意欲的積極的に授業参加し、授業目標に到達したかを評価
玉田	25%	レポートを評価
阿部	25%	毎回のコメントカード(40%)、レポート(60%)を総合して評価
小山	25%	学期末試験 を評価

教科書:

参考書:　各担当者の初回授業で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　公開されている、各担当者の学校のアドレスを使用すること。

200360

文化と表象A

飯塚　　ひろみ

授業テーマ:　『源氏物語』と表象

授業の概要:　平安時代から読み継がれてきた『源氏物語』は、物語として存在するのみならず、現在も様々な分野で形を変えて楽しまれている。『源氏物語』の何がそうさせるのか。物語の外の“源氏”の在り方を考察する。

到達目標:　形となって表れた物事や出来事について、その発生理由や意義を探求する力を養う。

授業方法:　第1回～第9回までは講義形式、その後はグループワークに移行する。
それぞれの事象に実際に触れることを重視し、出来る限り「目に見える」「手に取れる」資料を多用しながら進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	『源氏物語』について	
2.	『源氏物語』と映像① —絵画化・映画化—	テーマについての下調べをしておくこと
3.	『源氏物語』と映像② —絵画化・映画化—	テーマについての下調べをしておくこと
4.	『源氏物語』と舞台① —ミュージカル・歌舞伎—	テーマについての下調べをしておくこと
5.	『源氏物語』と舞台② —ミュージカル・歌舞伎—	テーマについての下調べをしておくこと
6.	『源氏物語』と翻訳① —小説化・マンガ化—	テーマについての下調べをしておくこと
7.	『源氏物語』と翻訳② —現代語訳・外国語訳—	テーマについての下調べをしておくこと
8.	『源氏物語』と観光	テーマについての下調べをしておくこと
9.	『源氏物語』と遊び	テーマについての下調べをしておくこと
10.	グループ発表① —ゲームをつくろう—	発表資料を準備すること
11.	グループ発表② —ゲームをつくろう—	発表資料を準備すること
12.	グループ発表③ —ゲームをつくろう—	発表資料を準備すること
13.	グループ発表④ —ゲームをつくろう—	発表資料を準備すること
14.	グループ発表⑤ —ゲームをつくろう—	発表資料を準備すること
15.	ふりかえり	

受講者へのメッセージやアドバイス:　内容は前後することがあります。

フィードバックの方法:　コメントペーパーの内容について必要に応じて教室内で回答

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	35%	到達目標に関する調査結果のまとめの仕上がり度合と、どの程度独自の視点があるかを基準とする。
発表	50%	グループ発表の充実度と到達目標の達成度を評価する。
授業への参加態度	15%	到達目標に近づこうとしているかをコメントペーパーで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

200460

文化と表象B

中嶋　　節子

授業テーマ:　近代京都の都市と建築

授業の概要:　都市部の再編と郊外の発見は、近世都市が近代的空間と機能を獲得するための必要条件であった。そこでは洋風建築の登場や町家の近代化、都市インフラの整備、郊外住宅地の開発など、都市景観を大きく変化させるさまざまな出来事がみられた。ここでは歴史都市京都の近代をとりあげ、都市と郊外の変化を建築・土木・造園の視点から辿ることで、近代都市の存立意義と空間構造の把握を目指す。さらに、そこに立ち現れた景観、繰り広げられた生活や文化活動などを通じて、居住空間としての京都のかたちを考察する。また、関西の三都、大阪・京都・神戸の都市間ネットワークの構築によって京都がどのように相対化されていったかを辿る。

到達目標:　近代都市のあり方および、町家の歴史と現在、近代建築・近代和風建築の特徴、近代郊外地についての知識を習得するとともにその背景を理解する。

授業方法:　シラバスに従って講義する。ただし、内容については前後する場合もある。写真や映像資料，図面，地図などを用いることで，視覚的，感覚的な理解を目指す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	近世の都市空間と居住システム　ー京都・大阪・江戸の居住空間	なし
2.	京都における町家の成立　ー古代から近世まで	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
3.	伝統的町家から近代町家へ	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
4.	祇園祭と町家・会所　ー祝祭の都市空間	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
5.	町家の現在＋映像鑑賞	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
6.	近代洋風建築の登場	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
7.	京都の近代洋風建築＋映像鑑賞	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
8.	同志社大学・同志社女子大学周辺の近代建築	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
9.	イベントと郊外開発　ー博覧会・遷都千百年記念祭・御大典	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
10.	近代産業・近代土木事業と郊外開発　ー琵琶湖疏水・大学・工場	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
11.	高級別荘地としての郊外　ー東山の別荘群＋映像	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
12.	郊外住宅地の開発　ー北白川小倉町・衣笠・下鴨・洛北ほか①	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
13.	郊外住宅地の開発　ー北白川小倉町・衣笠・下鴨・洛北ほか②	前回授業で扱った場所や建築について本などで調べるとともに実際に見学する。
14.	細雪にみる都市ネットワーク　映画「細雪」鑑賞①	小説「細雪」を読む。
15.	細雪にみる都市ネットワーク　映画「細雪」鑑賞②	小説「細雪」を読む。

受講者へのメッセージやアドバイス:　町を歩いてさまざまな建物や庭園などを見ることが予習となる。授業で扱った建物やまちを実際に訪れると復習とともに、より深い理解につながる。

フィードバックの方法:　授業内容について追加情報があれば、掲示等で知らせる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートor試験	80	資料調査の質と量およびレポートとしてのまとめ方 自分自身の言葉、思考でまとめられているかどうか 履修人数によって、レポートとするか試験とするか決定する。
出席	20	5回以上欠席の場合は、レポートあるいは試験は採点しない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　講師控室で連絡を取る。

200560

舞台芸術文化論

有松　　遼一

授業テーマ:　能の表現、輪読

授業の概要:
日本の伝統芸能のひとつである「能」を取り扱う。
無駄なものを徹底的に削ぎ落とした剄くシンプルな能の表現は、かえって観客の想像を豊かにさせ、真実の表現を達成する。
講義では、《井筒》と《野宮》を取り上げ、全員で詞章を深く読み込み、能の言葉・所作・音楽が表す内容や構成を検討する。
能が描き出そうとするのは、人間の心であり、これは時代を経ても変わらない。現代の私たちの人生経験と積極的に照らし合わせながら、「能は古臭くて縁遠いもの」という先入観を融解させていく。
舞台の現場に立つ能楽師の言葉に耳を傾け、また積極的に討論に参加することで、是非能の面白さを味わってほしい。

到達目標:
・能の表現と形式を学び、能の言葉・所作・音楽などを具体的に理解する。
・能が描き出す人間の心を、自分の人生経験と積極的に照らし合わせて鑑賞する。
・能の詞章を深く読み込み、表現や本説を調べ、積極的に発言・発表する。
・能が現代に生きる芸能・舞台芸術であることを理解する。

授業方法:
はじめの概説は講義を行うが、以後、担当者を決めた輪読・演習形式。
一回の講義につき複数人の担当者を事前に指定する。その回の担当者は必ず出席すること。
各授業の最後にミニカード(感想など)の記入を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	能とはどのような芸能か 能《井筒》概説	能《井筒》の詞章を通読しておくとよい。
2.	能《井筒》(1)	能《井筒》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
3.	能《井筒》(2)	能《井筒》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
4.	能《井筒》(3)	能《井筒》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
5.	能《井筒》(4)	能《井筒》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
6.	能《井筒》(5)	能《井筒》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
7.	能《井筒》(6)	能《井筒》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
8.	能《井筒》総括、能《野宮》概説	能《野宮》の詞章を通読しておくとよい。
9.	能《野宮》(1)	能《野宮》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
10.	能《野宮》(2)	能《野宮》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
11.	能《野宮》(3)	能《野宮》前場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
12.	能《野宮》(4)	能《野宮》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
13.	能《野宮》(5)	能《野宮》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
14.	能《野宮》(6)	能《野宮》後場の詞章を熟読しておく。 担当者は発表の用意をすること。
15.	総括	これまでの内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
主に輪読・演習形式なので、詞章や本説に関する自主的な学習が必須である。
担当者は必ず担当回に出席し、発表の用意をすること。

フィードバックの方法:
授業末のミニカードに関して、次回の講義でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点(出席やミニカード)	40	授業に積極的に参加しているかを評価する。
発表、討論	20	議論で発言し、特に担当部分を責任もって発表しているかを評価する。
レポート	40	講義内容を理解し、適切に論述できるかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応。

200660

メディアと表象文化

松山　　浩士

授業テーマ:　ひとはなぜ「映像」に魅了されるのか

授業の概要:　テレビ番組、映画、コマーシャル映像などを例にとりながら、「映像」という表現形態が持つ力とそれを観る者に及ぼす影響・効果を多角的に分析していきます。
授業のテーマは多岐にわたり、表象文化学部の領域から逸脱するものもありえますが、映像文化やメディアを対象にした講義には学際的な考察は不可避であると考えてください。

到達目標:　映像作品の多角的な理解のための視座と、作品（映像作品に限らない）を「批評」するための基礎的なことばと方法を獲得する。

授業方法:　1回1テーマの内容で講義（映像の視聴を含む）を進めていきます（レジュメを毎週配布）。
また、授業で用いたパワーポイントについてはダウンロードできるよう授業後にURLを指定します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コミュニケーションについて考えてみる ～コミュニケーションは「伝わらない」からこそおもしろいのだ！～ コミュニケーションの困難と快楽／去来抄にみるコードの共有／デノテーションとコノテーション／「時雨」の系譜／河瀬直美／詩とは何か／歩行と舞踏について／歩行の先にあるもの／『Where the Hell is Matt?』　※この授業で学ぶこと	準備学習は特に必要ありません。
2.	恋愛の記号学 ～「Boy meets girl」という神話～ 笑う柴犬／30分で理解するソシュール言語学／ことばと身体／「美」の起源／仏教における悟りと解脱／Boy meets girl.／王家衛／恋愛とは「不在」にまつわるコミュニケーションである／ロラン・バルトの「片思い」／空の青さについて／「意味」とは何か／「誘惑」の戦略	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
3.	映画の考古学 ～映画を「発明」した人は何を撮ったらいいのかわからなかった～ 映画の誕生（リュミエール兄弟・グリフィス・エイゼンシュテイン）／写真・印象派・映画／セザンヌ・鳩・世界初のコント／外部・人間（内面）・文法の発見／幼児の言語獲得過程と映像史の類似性／鏡像段階／視覚の帝国／映像を観るあなたはどこにいるのか／カメラという眼差し	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
4.	映像の修辞学 ～白戸家のお父さんが犬なのはなぜなのか～ 「イタリア的」とは／映像もまた言葉である／神話作用／映像における修辞技法／グループμとロラン・バルト／CM映像のレトリック分析／「意味」の包摂関係／換喩の隣接性における物語の発生／ことばは隠喩と換喩でできている	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
5.	物語と元型 ～物語は要素の組合せである～ 物語の構造分析／事件と主体の変容／通過儀礼／承認欲求／チェーホフの銃／プロップ／ユングの「元型」／折口信夫／マレビトと第三項排除論／ゾンビが街にやってくる／物語という「制度」／別視点による物語の相対化	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
6.	キャラクターとは何か ～ミッキーマウスは昔は猫だった～ アニメーションの考古学／まんがと映画的想像力／対象a／役割関係の結び目／物語の類型性とキャラクターの単独性／「かわいい」という感性／清少納言の女子力／支配の欲望／ゆるキャラの法則／リラックマと「終わりなき日常」	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
7.	「ドラマ」の構造分析 ～テレビドラマは3種類しかない～ 物語と共同体秩序／移行・救済・闘争／恋愛・家族・勧善懲悪／通過儀礼・マレビト・二項対立／暴力と社会の起源／「感動」するとはどういうことか／物語の始まりと終わり／冥界訪問譚／予定調和が抑圧するもの／物語の「消費」	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
8.	女性とは誰か ～わたしたちはみなヘンタイである～ 映画における性的不平等／LGBT／「正常」な性などない／フロイト・ボーヴォワール・ラカン／萌え／腐女子という眼差し／消費される女性性／女子力という戦略／CMにおける女性表象／共生ということ／村上春樹の「壁と卵」	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。

9.	映像のトポス（場所） ～映像が映し出すものと隠蔽するもの～ 郊外の誕生／郊外と「死」の表象／幽霊はなぜ怖いのか／未来都市あるいは「高速道路」の表象／風景が隠蔽するもの／シン・ゴジラと大震災／集合的記憶／自我の時間性と記憶の場所性／「おじさんの顔が空に浮かぶ」／場所の固有性を取り戻すために	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
10.	「笑い」の精神分析 ～『水曜どうでしょう』はなぜおもしろいのか～ お笑い番組の変遷／モンティ・パイソン／横澤彪と笑いの局所性／笑いのレトリック分析／パンクブーブー／身ぶりとコード／演劇的・落語的／『空耳アワー』のしくみ／『水曜どうでしょう』の多重構造／岡崎体育／笑いと文脈	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
11.	「事件」というフィクション ～「事実」とは何か～ 「世界」と意味／意味という病と因果関係の誘惑／相関関係と因果関係／占星術の原理／シンクロニシティ／「物語」の形成プロセス／物語化という欲望／大文字の物語／森達也『ドキュメンタリーは嘘をつく』／メディアリテラシー／リゾーム（根茎）	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
12.	映像と広告コミュニケーション ～欲望と物語の次元～ 広告とは何か／欲望の三角形／テレビCMの歴史／日本経済と消費行動モデル／ブランドとは何か／紙芝居『メイソー物語』／物語とデータベース／メイドカフェで消費されるもの／シミュラークル／新幹線のイメージの変遷／企業と消費者の共創関係	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
13.	「作品」は誰のものか ～どうして作品に値段があるんだろう～ 世界で最も高価な絵／著作権という発明／オリジナルとコピー／作品はいつまで作者のものか／芸術作品の価値形態論／「感動」の社会性と歴史性／patronage／デジタル時代の著作権／初音ミク／二次創作／ヲタクの時代　※期末レポートの書き方	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。また、学期中に何度かレポートの提出を求めます（都度指示します）。
14.	批評理論 ～「読むことの科学」は可能か～ 批評とは何か／オスカー・ワイルド／批評の二つの視座／印象批評／ロシア・フォルマリズム／構造主義批評／テーマ批評／テクスト論／受容理論／ディコンストラクション／新歴史主義批評／カルチュラル・スタディーズ／批評理論史における二つの転位／「可能性の中心」として読む	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。
15.	物語の主人公としての「わたし」？ ～「観ること」「読むこと」の意味～ 人間は現実を物語化しなければ現実の無意味さに耐えられない／ノスタルジーの危険性／説話論的因果律という幻想／物象化／キャラクターと固有名／「わたし」という物語／あなたの「価値」の源泉／森有正と「経験」　※表象文化学部で学ぶということ	15回の授業は全部つながって、全体でひとつのストーリーを構成しています。前回のレジュメをざっとおさらいしておくとより理解が進みます。

受講者へのメッセージやアドバイス:

あらゆる「作品」は、私たちに提示されたひとつの「謎」（それは時として作者でさえ意図していない）や「迷宮」であり、この授業を通じて、それを読み解くこと、探検することの面白さ（それはわたしたちが「あたりまえだ」と思っていることを根底から覆すことでもあります）を知ってもらえればいいなと思っています。しかし、わずか15コマの授業で語れることなどたかが知れています。もし、興味を持った内容があれば、自分でどんどん学習を深めてください（全力で応援します）。講師はそのための水先案内人にすぎません。

フィードバックの方法:

学期中に何度か小レポートを課しますが、それに対しては授業中にフィードバックはしません（講義の時間を圧迫するからです）。ただし、期末レポート終了後に、希望者にはメール等で小レポートの評価も含めた感想を送ります。授業の中で生じた疑問や自分の意見などは、下記の「教員との連絡方法」で伝えてください。ばんばん答えます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期中の小レポート（1000～2000字）３～４回程度	50	与えられたテーマに対し、自分で問題を設定し、的確に調べたうえで、自分の考えを論理的に言語化できているかどうかを評価します。
期末レポート	50	15回の講義中、最も興味を持った内容について、①どこに、なぜ興味を感じたか、②その内容について自分が独自に学習を深めたこと、③その内容に対する自分の考えの3点を網羅して6000字以上のレポートにまとめてください。自分で問題を設定し、的確に調べたうえで、自分の考えを論理的に言語化できているかどうかを評価します。

教科書:

参考書:

授業の回ごとに指定します（もしマジメに全部読めば、授業の終了時には100冊ぐらい読んだことになるはずです）。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:	メール（negriproject@gmail.com）もしくはtwitter（@negriproject）で。授業後に教卓に来てくれるのも大歓迎です。

227461～68 **基礎リテラシー**

森山　由紀子、森下　訓子、山本　由紀子、亀川　順代、宮本　明子、玉尾　章代

授業テーマ:
大学での学び・コミュニケーション・ライティングの基礎・研究倫理

授業の概要:
大学生としての、学び方・コミュニケーションやライティングのマナーはどうあるべきか、どうありたいかを先輩の話や友人との対話を通して、学び、考え、身につける。研究倫理についても指導する。

到達目標:
①社会人としての最低限のマナーや常識を知る。（知識・理解）
②有意義な大学生活を送ることができるよう、主体的に、大学生として自分のありたい姿を考え、実践する。（関心・意欲・態度）
③大学生として論理的に考え、また一人の大人として適切に振る舞い表現することができるよう基本的な技能を身につける。（表現・技能・能力）
④研究倫理の必要性と具体的な留意点、および、大学におけるレポートの基本的な書式を身につける。（知識・理解・表現・技能）

授業方法:
講義・実習・ディスカッション
基本的な知識の講義をベースとして、実践とディスカッションを中心に技能の定着をはかる。ここに指示されている以外にも、マナビー上で課題が出された場合は、指示に従い解答を提出すること。その場合、教室での授業は、課題を解いていることを前提として進められる。事前の課題のない場合は、授業中に課題を解きながら講義を織り交ぜて進められる。
また、授業後に指示に従い、振り返りをマナビー上にアップすることが課されることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・自己紹介	特になし。
2.	コミュニケーションゲーム	特になし。
3.	図書館オリエンテーション （4回と入れ替える場合もある）	特に準備はいりません。図書館に直接集合すること。
4.	マナビー・Eメールを使う （3回と入れ替わる場合もある）	情報処理教室に集合。 IDを確認し、パスワードの変更をしておくこと。
5.	敬語の基礎 （6回と入れ替わる場合もある）	マナビー上の課題をやってくること。
6.	Wordの基礎 （5回と入れ替わる場合もある）	情報処理教室に集合。 特になし。
7.	コミュニケーションスキル講座（1）	特になし。
8.	説明のコツ―わかりやすく伝えるには―	特になし。
9.	コミュニケーションスキル講座（2）	特になし。
10.	レポートの書き方・研究倫理 （11回と入れ替わる場合もある）	マナビー上の課題をやっておくこと。
11.	声を磨こう （10回と入れ替わる場合もある）	特になし。
12.	文章表現	特になし。
13.	資料の読み取り	特になし。
14.	コミュニケーションスキル講座（3）	特になし。
15.	まとめと振り返り	特になし。

受講者へのメッセージやアドバイス:
高校生から大学生への橋渡しをする科目です。
事前に課題をしていることを前提として、授業ではディスカッションや実習を中心にすすめることが多い。マナビーの操作を学んだあとは、マナビーからの指示に注意すること。
授業での実習やディスカッションには積極的に参加すること。

フィードバックの方法:
授業内の解説と、場合によってはマナビー上でフィードバックを行うことがある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前事後の課題	25%	大学生としての学びを始めるための、基本的な技能を身につけるよう努力した。研究倫理の必要性と具体的な留意点、および、大学におけるレポートの基本的な書式を身につけるために努力した。
授業への積極的な参加	50%	授業中の活動を通して、有意義な大学生活を送ることができるよう、主体的に、大学生として自分のありたい姿を考え、実践することができた。また、大学生として論理的に考えたり、大人として適切に振る舞い表現するための基本的な技能を身につけようと積極的に活動することができた。
小テスト	25%	社会人と接するための最低限のマナーや常識を習得した。論理的に考え、表現するための基本的な技能を身につけた。 研究倫理の必要性と具体的な留意点、および、大学におけるレポートの基本的な書式を身につけた。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメールまたはマナビー上の掲示板機能による。アドレスは授業中に開示する。

227561、62、64

近代文学入門

宮本　　明子

授業テーマ:　文学の本質に迫る

授業の概要:　私たちの身の回りにはなぜこれだけの「物語」があるのか、その形式や方法とはどのようなものであるのかを、日本近代文学を対象として、他の媒体との比較から考えてゆく。たとえば文学の映画化には、どのような制約や可能性が生まれるか。その逆ではどうか。先行研究や理論に基づき、受講者の興味・関心にも沿いながら、いくつかの事例を取り上げる。できる限り多くの演劇・漫画・アニメーション作品にも言及したい。あわせて、短篇やシナリオを実際に執筆する体験を通じて、文字で表現することの効果、媒体の差異について考察する（受講する上で、これらの経験は問わない。というより、挑戦してどのような点に難しさを感じたり、気づきを得たりしたのかを話し合う時間を大切にしたい）。可能であれば、作家、映画監督からコメントをもらう機会も設ける。以上を通じて、文学の特徴、可能性を指摘できるようになることを目標とする。

到達目標:　他の媒体との比較を通じて、文学の特徴、可能性を指摘する。

授業方法:　講義を中心とするが、受講者同士の意見交換も重視する。毎回ランダムにグループをつくり、かんたんな作業や話し合いを行う時間を設ける（これについても方法は毎回指示する。特別な準備は不要）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	関心のある作品とその理由について説明できるようにする。
2.	文学の映画化（1）	授業時までにできるかぎり多くの作品をみて、様々な媒体の特徴について考える（以降、扱う作品は特別予告しない。いずれも、文学：短篇、映画：短篇もしくは作品の一部とする）。
3.	文学の映画化（2）	授業時までにできるかぎり多くの作品をみて、様々な媒体の特徴について考える。
4.	小説とシナリオ――「演出」をめぐって（前編）	文字で表現することの可能性や限界があるとすればどのようなことかを考える。
5.	文学の映画化（3）	これまでの講義を元に、さらに多くの作品をみて、様々な媒体の特徴について考える。
6.	文学の映画化（4）	これまでの講義を元に、さらに多くの作品をみて、様々な媒体の特徴について考える。
7.	小説とシナリオ――「演出」をめぐって（後編）	文字で表現することの可能性や限界があるとすればどのようなことか、さらに考察を深める。
8.	これまでのふりかえり	様々な表現媒体の歴史や特徴について考える。
9.	他の媒体との比較（1）	様々な表現媒体の歴史や特徴について考える。
10.	他の媒体との比較（2）	様々な表現媒体の歴史や特徴について考える。
11.	他の媒体との比較（3）	様々な表現媒体の歴史や特徴について考える。
12.	他の媒体との比較（4）	様々な表現媒体の歴史や特徴について考える。
13.	先行研究を読む・批評する（1）	これまでの経験をふまえ、文学の特徴、可能性について考察する。
14.	先行研究を読む・批評する（2）	これまでの経験をふまえ、文学の特徴、可能性について考えをまとめる。
15.	まとめ	これまでの経験をふまえ、文学の特徴、可能性について考えをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日頃から様々な人やものに触れ、考える時間を大切にしてください。

フィードバックの方法:　各回提出されるコメントはすべてまとめ、翌週教場でフィードバックする。一部に解説を付し、議論の手がかりとすることがある。詳細は初回に案内する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む態度	50	欠席が4回以上の場合は不可とする。
レポート	50	先行研究や講義での経験をもとに、文学作品の特徴、可能性を指摘できているかどうかを評価する。

教科書:　教場で指示する。

参考書:　教場で指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（初回で案内する）

227661～64

古典入門

廣瀬　千紗子、森山　由紀子

授業テーマ:
古典文学作品を通読しその魅力を伝える。さまざまな古典文学作品に出会う。

授業の概要:
日本文学の古典の作品にできるだけ多く触れる。その豊かな表現や様々な修辞等を味わい、解釈する。具体的には、自分が取り組みたい作品を選び、一人一作品通読する。他の受講者に紹介したい場所を選び、その部分を精読して必要な事柄を調べ、解釈する。精読した部分を中心に、他の受講者にわかりやすく説明し、自分が感じた魅力を伝える。受講者は発表をしっかり聞いて疑問点を質問し、意見を述べる。また、古典文学の音読を通じて、「ことば」として古典語に触れる。注釈書や辞書の使い方、引用方法の基本などについても身につける。

到達目標:
①古典テキストや注釈の読み方を知る（知識・理解）
②古典文学作品の通読を体験する。古典文学作品に親しむ。（関心・意欲・態度）
③選んだ個所について、主体的に疑問点を持って本当にわかるまで精読し、その理解を踏まえた上で、作品の魅力をわかりやすく他の受講者に伝える。また、言葉として生き生きと朗読する。（表現・技能・能力）
④他者の発表を聞いて作品について理解を深め、用意された資料を用いて該当箇所を読み込む。（表現・技能・関心・意欲・態度）
⑤発表の準備や発表時の質疑応答、その後の読み込みを通して学んだことを文章にまとめる。（知識・理解・関心・態度・表現・技能）

授業方法:
各時間一つの作品について担当者が準備してきた発表を行い、それをもとに受講者全員で質疑応答を行う。担当者は指示に従いレジュメを用意すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要オリエンテーション及び作品決め	特になし。
2.	作品決めの続き。発表準備についての説明と発表準備	担当したい作品を選んでくる。
3.	発表準備続き。 音読練習。	担当することになった作品を読み進める。
4.	発表準備続き。（受講者数、扱うことになった作品数によって変更あり）	担当することになった作品を読み進める。発表箇所が決まれば、図書館も利用し、解釈のための調査を進める。
5.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。
6.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとにらに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
7.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとにらに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
8.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとにらに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
9.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとにらに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
10.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとにらに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
11.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとにらに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
12.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとにらに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
13.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとにらに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
14.	発表とディスカッション	発表の準備を進める。担当者以外は、次回取り上げられる作品に目を通しておく。発表終了者は、質問された内容、出された意見や感想、担当教員の助言をもとにらに資料を収集して考察を深め、レポート作成につなげる。
15.	まとめとふりかえり、レポート指導	レポート執筆にあたっての質問を用意してくること。

受講者へのメッセージやアドバイス:
発表スケジュールは受講者数と扱う作品数によって変更することがあります。
古典文学の世界は広いので、今まであまり触れたことのなかった作品にも積極的に視野を広げていきましょう。作品に興味を持ち、とことんこだわって向き合うことを評価します。

フィードバックの方法:
授業中に行う。質問に対してはOHを中心に随時時間をとって対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業時の発言とコメントシート	50%	発表内容を聞いて適切な質疑応答を行い、その内容を踏まえた考察がなされているか。（表現・技能・関心・意欲・態度）
発表	25%	古典作品を通読し、適切な資料を用いて解釈し、その結果をわかりやすくまとめて受講者に伝えることができたか。（知識・理解・表現・技能）
レポート	25%	発表を通してさらに理解を深め、掘り下げた内容を文章にしてまとめられているか。（表現・技能）

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業時のコンタクト、またはEメール、研究室訪問による。(メールアドレスは授業時に開示する。)

227761～64

現代日本語学入門

服部　　匡、大島　　中正

授業テーマ:　現代日本語学入門

授業の概要:　無意識に使っている母語としての日本語をあらためて観察し、その背後にあるしくみを知る。ことばの多様な側面について種々の観点から観察・議論を行い、それらの整理分析を体験する。

到達目標:　日本語学の最も基本的な考え方や整理分析の仕方を知り、自ら日本語のさまざまな側面に目を向け興味ある事実に気づく力をつける。

授業方法:　各回のテーマについての講義を受けた上、作業・討論・発表等を行い、各自与えられた課題をまとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	日本語はどういう言語か	指示された課題を行ってくる。
3.	文法から見た日本語(1)	指示された課題を行ってくる。
4.	文法からみた日本語(2)	指示された課題を行ってくる。
5.	文法から見た日本語(3)	指示された課題を行ってくる。
6.	語彙からみた日本語(1)	指示された課題を行ってくる。
7.	語彙からみた日本語(2)	指示された課題を行ってくる。
8.	語彙からみた日本語(3)	指示された課題を行ってくる。
9.	発音からみた日本語(1)	指示された課題を行ってくる。
10.	発音からみた日本語(2)	指示された課題を行ってくる。
11.	文字からみた日本語	指示された課題を行ってくる。
12.	日本語の変異(1)	指示された課題を行ってくる。
13.	日本語の変異(2)	指示された課題を行ってくる。
14.	外国人の誤用例から分かること	指示された課題を行ってくる。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本語学は、高校まででではほとんど学ばない分野です。特別な予備知識は必要なく、日本語の母語話者であれば誰でも同じ地点からスタートできます。しかし、これまでに聞いたことのない新しい考え方・ものの見方に戸惑うことがあるかもしれません。新鮮な体験を通じて、日本語を客観的に見る観点・科学的な思考法に親しみ、身近な言葉の現象の背後にある「しくみ」を見つけることの面白さを知ってほしいと思います。
担当者の判断により授業内容別の回数と順序は多少変更することがあります。

フィードバックの方法:　提出物については、教室でまとめて解説するか、個別にコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	共同または単独での作業・議論・発表などにどれだけ積極的に取り組んだか、および、その内容を到達目標に基づいて評価します。単なる出席ではありません。
提出物・テスト	60	具体的な運用は担当教員が到達目標に基づいて決めます。
出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし、原則として4回欠席した場合は不可とします。

教科書:

参考書:　別に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　担当教員によって異なるので授業時に指定する。

227861～64

日本語教育入門

丸山　　敬介、山本　　由紀子

授業テーマ:

授業の概要:　さまざまな資料にあたりながら、今、日本語を学んでいる人たちの置かれている現状やその背景を探るとともに、日本語指導の基本的なあり方を知る。

到達目標:
①社会と日本語教育の関わりの基本を学ぶ。
②日本語教師に求められる知識・技術・態度の基本を学ぶ。

授業方法:　講義を中心とし、適宜、タスクや発表を盛り込む。必要に応じて、外部の日本語教育関係者を呼ぶことがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本語を学ぶ人たち　1	外国人が日本語を学ぶというのはどういうことか考える。
2.	日本語を学ぶ人たち　2	前回を振り返る。
3.	日本語を学ぶ人たち　3	前回を振り返る。
4.	日本語を学ぶ人たち　4	前回を振り返る。
5.	日本語を学ぶ人たち　5　まとめ	1回目～4回目を振り返る。
6.	今日の日本語教育と社会　1	日本語の社会的役割を考える。
7.	今日の日本語教育と社会　2	前回を振り返る。
8.	今日の日本語教育と社会　3	前回を振り返る。
9.	今日の日本語教育と社会　4	前回を振り返る。
10.	今日の日本語教育と社会　5　まとめ	6回目～9回目を振り返る。
11.	日本語教師に求められるもの　1	どのようなことが日本語教師に求められるのかを考える。
12.	日本語教師に求められるもの　2	前回を振り返る。
13.	日本語教師に求められるもの　3	前回を振り返る。
14.	日本語教師に求められるもの　4	前回を振り返る。
15.	日本語教師に求められるもの　5　まとめ	11回目～14回目を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中に、適宜、フィードバックをする。必要に応じて、マナビーを活用する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表並びに課題提出	80%	到達目標①②を基準に評価する。
授業への参加度	20%	出席および授業中の態度、課題への取り組みも評価対象とする。なお、正当な理由なく5回以上欠席の場合は不可とする。

教科書:　授業中に、適宜、プリントなどを配布する。マナビーを通じて配布する場合もある。

参考書:　必要に応じ、授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
授業前後に対応する。
また、Eメールやオフィスアワーも活用すること。
丸山 敬介　kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp
山本 由紀子　yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

228161、62

日本語学の世界

服部　匡、丸山　敬介、森山　由紀子、大島　中正、山本　由紀子

授業テーマ:

授業の概要:　口頭語・文章語としての日本語のさまざまな側面についての講義を聴き、日本語学の面白さを知る。日本語教育に関する内容を含む。

到達目標:　日本語学・日本語教育についての学びの基礎となる初歩的な知識と、日本語を客観的にとらえる態度を身につける。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本語学とは？・世界の言語の中での日本語（服部）	配付資料を読み復習すること。
2.	音声言語としての日本語（服部）	配付資料を読み復習すること。
3.	さまざまな日本語(1)（服部）	配付資料を読み復習すること。
4.	さまざまな日本語(2)（服部）	配付資料を読み復習すること。
5.	日本語の文法　（大島）	配付資料を読み復習すること。
6.	日本語の語彙　（大島）	配付資料を読み復習すること。
7.	日本語の表記　（大島）	配付資料を読み復習すること。
8.	外国語と日本語(1)（山本）	配付資料を読み復習すること。
9.	外国語と日本語(2)（山本）	配付資料を読み復習すること。
10.	日本語を教える(1)（丸山）	配付資料を読み復習すること。
11.	日本語を教える(2)（丸山）	配付資料を読み復習すること。
12.	日本語の歴史(1)（森山）	配付資料を読み復習すること。
13.	日本語の歴史(2)（森山）	配付資料を読み復習すること。
14.	日本語の歴史(3)（森山）	配付資料を読み復習すること。
15.	日本語の歴史(4)（森山）	配付資料を読み復習すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本語学は分野としての幅が大変広く、また、高校まででではほとんど学ばない内容です。さまざまな講義を聴いて、新たな視野を開いてください。

フィードバックの方法:　小テストに対して全体的にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回行う小テスト	100	到達目標に基づいて評価する。 欠席・遅刻は減点とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　担当教員によって異なるので教室で指示する。

228360

創作A

塩見　　恵介

授業テーマ:　俳句における表現を探求することで、日本語の豊かな語彙を獲得し、言語表現の多義性を学ぶ。

授業の概要:　実作を通じ、言葉の多義性に触れる。多様な近現代俳句に触れ、短詩の鑑賞力を養う。

到達目標:　高校国語レベルで俳句を理解している受講者を対象。
句会形式を用いて、自己を他者に開く文芸の魅力を探る。

授業方法:　句会と合評など、句会形式を用いる際は演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（俳句の形式・読み方、詠み方）	特に出版社などは指定しないが、歳時記（春・夏）を各自持参することが望ましい。
2.	演習（句会と合評）作句・吟行（写生の考え方を学び、学内もしくは学内近辺での吟行）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
3.	演習（句会と合評）（前回作った俳句作品をふまえ、「写生」と表現の在り方を考える）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
4.	演習（句会と合評）（前回作った俳句作品をふまえ、「選句」と表現の在り方を考える）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
5.	演習（句会と合評）（近現代作家の俳句を交えた句会形式の合評会）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
6.	演習（句会と合評）（季語、取り合わせの効果を考える）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
7.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
8.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
9.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
10.	演習（句会と合評）（同世代的な関心を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
11.	演習（句会と合評）（京都・大学周辺の地名を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
12.	演習（句会と合評）（京都・大学周辺の行事を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
13.	演習（句会と合評）（京都・大学周辺の風物を題材に作られた他の受講者の作品を例に、多くの句を比較し選を行う）	前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。
14.	作句を学ぶ　題詠の効果「取り合わせによる多作（袋回し）」	これまでの作品の中から10句を選び、写真やイラストなどをつけてA4サイズ1ページ化したデザインの草案を持ち寄る。
15.	総括　俳句表現の可能性を考える	前時で相互に検討したA4サイズ1ページ化したデザインの改訂案を持ち寄る。前時に課された題に関しての句を用意してくることが望ましい。

受講者へのメッセージやアドバイス:　相互に忌憚なく意見を交換できる句会というシステムを見直せる明るい学びの場とします。
教職を考えている学生諸君にとっては児童・生徒の作品を評価するときの参考になることでしょう。
また、創作活動に関心のある学生諸君には、自作に対する他者の視点を受けられる絶好の機会となります。
俳句の講義ですが、俳句だけでなく、短歌や詩、小説など多様な表現との比較もできる内容です。
学生相互の議論が中心の講義ですので、積極的に文学を語り合う人にお勧めです。

フィードバックの方法:　年度末に、創作A、創作Bの講義記録を、学生主体で編集した冊子『乙女ひととせ』を刊行、配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30	出席率、講義への参加度、積極性を総合的に判断する
探求度	30	講義意図の理解、創作・合評の表現力を総合的に判断する
レポート	40	学期末に課題とする。課題意図の理解を判断する

教科書:　塩見恵介『お手本は奥の細道　はじめて作る俳句教室』（すばる舎リンゲージ）

参考書:　山本健吉『俳句とは何か』（角川ソフィア文庫）
小西甚一『俳句の世界』（講談社学術文庫）
坪内稔典『俳句のユーモア』(岩波現代文庫）
夏石番矢『『俳句」100年の問い』（講談社学術文庫）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビー、および講義中開示するメールアドレス

228460

創作B

塩見　　恵介

授業テーマ:　近現代俳句史の表現史に触れ、句会形式を用いて表現方法の探求を行う。

授業の概要:　実作を通じ、言葉の多義性に触れる。多様な近現代俳句に触れ、短詩の鑑賞力を養う。

到達目標:　実作力・鑑賞力を深化し、俳句形式の可能性を探る。
句会形式を用いて、自己を他者に開く文芸の魅力を探る。

授業方法:　句会と合評など、句会形式を用いる際は演習形式。後半には近現代俳句作品に関する発表を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス （作句・句会の基本など）	特に出版社などは指定しないが、歳時記を各自持参してくることが望ましい。
2.	作句を学ぶ　俳句の基本的な用語を学ぶ	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
3.	演習（句会と合評）（近現代作家の作品を交えた合評会）	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
4.	演習（句会と合評）（近現代作家の作品を交えた合評会）	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
5.	近世俳諧史概略、演習（句会と合評）	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
6.	近代俳句史概略、演習（句会と合評）	前時に指定された題に関する句を用意しておくことが望ましい。
7.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
8.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
9.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
10.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
11.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
12.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
13.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
14.	小報告（自分の好きな俳人、作品について報告）、演習（句会と合評）	報告担当者は指定された参考文献に基づき報告を準備する。
15.	総括　俳句表現の可能性を考える	これまでの講義概要を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　相互に忌憚なく意見を交換できる句会というシステムを使って、明るい学びの場とします。創作Bでは、創作Aの内容をより深化させて俳句史の視座をもちながら、自句を検討することになります。教職を考えている学生諸君にとっては児童・生徒の作品を評価するときの参考になることでしょう。また、創作活動に関心のある学生諸君には、自作に対する他者の視点を受けられる絶好の機会となります。俳句の講義ですが、近現代の俳文や写生文などの散文にも触れていきます。学生相互の議論が中心の講義ですので、積極的に文学を語り合う人にお勧めです。

フィードバックの方法:　年度末に、創作A、創作Bの講義記録を、学生主体で編集した冊子『乙女ひととせ』を刊行、配布する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常	30	出席率、講義への参加度、積極性を総合的に判断する
発表点	30	課題意図の理解、発表・創作・合評の表現力を総合的に判断する
レポート	40	学期末に課題とする。課題意図の理解を判断する

教科書:

参考書:
塩見恵介『お手本は奥の細道　はじめて作る俳句教室』（すばる舎リンゲージ）
山本謙吉『俳句とは何か』（角川ソフィア文庫）
山本健吉『定本現代俳句』（角川選書）
小西甚一『俳句の世界』（講談社学術文庫）
坪内稔典『俳句のユーモア』(岩波現代文庫）
夏石番矢『「俳句」百年の問い』（講談社学術文庫）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビー、および講義中に開示するメールアドレス

228560

日本近代文学史A

瀧本　　和成

授業テーマ:

授業の概要:　本講義は、近現代とくに明治時代を中心にこの時期の文学（史）を通観する。1800年代後半から1910年代初めに発表された様々な特徴・形式をもつ作品を取り上げ、鑑賞する。

到達目標:　近代文学の出発点にあたるところからその成立に焦点を当てながら、当時の時代背景、文壇状況、芸術環境を視野に入れ考察し、全体的な日本文学の流れも併せて捉えることを目標とする。

授業方法:　教科書やプリントを使った講義。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	明治文学の特質	日本近代文学の成立と展開
2.	新文学の機運（1）	啓蒙文学
3.	新文学の機運（2）	政治小説
4.	新文学の機運（3）	文学の革新（理論と実践）
5.	国会開設後の文学（1）	初期ロマン主義の文学
6.	国会開設後の文学（2）	硯友社の文学
7.	日清戦後の文学（1）	文芸評論の展開
8.	日清戦後の文学（2）	小説の諸相
9.	日露戦後の文学（1）	自然主義の文学
10.	日露戦後の文学（2）	自然主義の文学
11.	日露戦後の文学（3）	新浪漫主義の文学
12.	日露戦後の文学（4）	新浪漫主義の文学
13.	日露戦後の文学（5）	理想主義（余裕派・高踏派）の文学
14.	日露戦後の文学（6）	理想主義（余裕派・高踏派）の文学
15.	日露戦後の文学（7）	理想主義（余裕派・高踏派）の文学

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義で取り上げる作品を読んでくること。

フィードバックの方法:　コミュニケーションペーパー(コメントペーパー）を実施し、コメントをつけて返却するか、あるいは教室でまとめて解説する(内容によって判断する)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	定期試験〈持込み全可〉の成績を主とし、これに出席点等の平常点を加味して総合評価する。
平常点	20	

教科書:　上田博・瀧本和成編『明治文芸館III』（嵯峨野書院）

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　講義の前後に教室内で応対

228660

日本近代文学史B

瀧本　　和成

授業テーマ:

授業の概要:
本講義は、近現代とくに大正時代を中心にこの時期の文学を通観する。
1910～20年代前半に発表された様々な特徴・形式を持つ作品を取り上げ、鑑賞する。

到達目標:
文学をはじめとする芸術の魅力や楽しさを享受し、その役割や（存在）意義について考察、併せて日本文学の特質を修得することが目標。

授業方法:
教科書やプリントを使った講義。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	明治文学から大正文学へ	明治・大正期の文壇・社会状況
2.	森鷗外の文学（1）	森鷗外の文学（歴史小説）
3.	森鷗外の文学（2）	森鷗外の文学（史伝）
4.	夏目漱石の文学（1）	夏目漱石の文学（後期三部作）
5.	夏目漱石の文学（2）	夏目漱石の文学（『道草』から『明暗』へ）
6.	新思潮派の文学	芥川龍之介の文学とその芸術観
7.	私小説・心境小説	葛西善蔵や宇野浩二の作品の特質
8.	新浪漫主義の文学	北原白秋や木下杢太郎の詩や短歌の特徴
9.	耽美派の文学	永井荷風、谷崎潤一郎の作品一その特異性
10.	白樺派の文学	武者小路実篤や志賀直哉、有島武郎たちの文学観及び芸術観
11.	児童文学	鈴木三重吉、小川未明たちの童話世界の魅力
12.	女性文学	「青鞜」を中心にした女性解放運動の展開
13.	社会・労働文学	社会主義運動の展開とプロレタリア文学
14.	新感覚派の文学	横光利一、川端康成らの文学の斬新性
15.	新興芸術派の文学	井伏鱒二らの文学の芸術性

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義で取り上げる作品を読んでくること。

フィードバックの方法:
コミュニケーションペーパー(コメントペーパー）を実施し、コメントをつけて返却するか、あるいは教室でまとめて解説する(内容によって判断する)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	定期試験〈持込み全可〉の成績を主とし、これに出席点等の平常点を加味して総合評価する。
平常点	20	

教科書:
上田博・瀧本和成ほか編『大正文学史』（晃洋書房）

参考書:
適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:
講義の前後に教室内で応対

228760

作家研究A

黒田　　大河

授業テーマ:　作家と時代－横光利一と川端康成－

授業の概要:　新感覚派の代表的作家である横光利一と川端康成について講義する。新感覚派とは、関東大震災の翌年創刊された『文芸時代』によった新進作家群の呼称である。大正末から昭和初期における都市空間の成立、マスコミの発展に伴う世界的同時性、労働者とサラリーマン層の成立による資本主義の確立など、欧米諸国に匹敵する社会資本の拡大によって現代に通じる風景が生じた。文化もまた例外ではない。モダニズムと称される同派の文学を横光川端を比較対照しつつ検討する。

到達目標:
1　日本近代文学に関する文献を社会的・時代的コンテクストに注意しながら解釈できる。
2　問題意識を他者と共有し有意義な討論ができる。
3　自らの論点を実証的かつ論理的に記述できる。

授業方法:　講義を中心として、対象となる文学作品に関する受講者の意見を求め、解釈を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	不要
2.	別れ－川端康成「横光利一弔辞」	対象作家について基礎知識を確認する。
3.	文学的出発－故郷と文学的資質	対象作家について基礎知識を確認する。
4.	新感覚派の誕生	文学史的知識を確認する。
5.	「蠅」と「夏の靴」	対象作品にふれる
6.	「春は馬車に乗って」と「伊豆の踊子」	対象作品にふれる
7.	「街の底」と「浅草紅団」	対象作品にふれる
8.	新心理主義への展開	文学史的知識を確認する。
9.	「機械」と「水晶幻想」	対象作品にふれる
10.	評論の世界１ 「末期の眼」	対象作品にふれる
11.	評論の世界２ 「純粋小説論」	対象作品にふれる
12.	戦時下の生き方 「旅愁」と「雪国」	対象作品にふれる
13.	横光の戦後 「夜の靴」「微笑」	対象作品にふれる
14.	川端の戦後 「美しい日本の私」	対象作品にふれる
15.	まとめ	レポートの作成準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　興味を持った作品を各自通読することが必要です。また、レポートに向けて関連資料の調査も必要です。

フィードバックの方法:　教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	調査の度合いと論理性・独創性・分析の妥当性
発表・討論	20	討論への貢献度
授業への参加度	30	ミニレポートの内容と提出率

教科書:　関連作品を授業で紹介します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　マナビーを利用

228860

作家研究B

黒田　　大河

授業テーマ:　作家と地域－上海体験を中心として－

授業の概要:　国際都市上海をめぐる文学表現を中心に、横光利一・阿部知二・堀田善衛等の作品について講義する。中国など東アジア地域は、近代化に伴って列強諸国の経済的・軍事的影響下に置かれた。日清日露戦争からアジア太平洋戦争にかけて、大陸に進出した日本もまた例外ではない。講義では植民地都市上海を中心に「外地」めぐる日本語文学の諸作品を取り上げ、歴史的文脈や異文化交流の問題に着目しながら精読を試みる。文学作品をめぐる歴史的・文化的コンテクストを掘り起こしながら読み進めたい。

到達目標:
1　日本近代文学に関する文献を社会的・時代的コンテクストに注意しながら解釈できる。
2　問題意識を他者と共有し有意義な討論ができる。
3　自らの論点を実証的かつ論理的に記述できる。

授業方法:　講義を中心として、対象となる文学作品に関する受講者の意見を求め、解釈を深める。
作家ごとにペーパーにて意見を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	不要
2.	近代作家の中国体験－漱石・芥川・谷崎	対象作家について基礎知識を確認する。
3.	横光利一「上海」読解1	対象作品にふれる
4.	横光利一「上海」読解2	対象作品にふれる
5.	横光利一「上海」読解3	対象作品にふれる
6.	横光利一「上海」読解4	対象作品にふれる
7.	横光利一「上海」読解5	対象作品にふれる
8.	阿部知二－北京から上海へ1	対象作品にふれる
9.	阿部知二－北京から上海へ2	対象作品にふれる
10.	南方徴用作家－高見順・井伏鱒二・阿部知二	対象作家について基礎知識を確認する。
11.	堀田善衛「祖国喪失」「歯車」読解1	対象作品にふれる
12.	堀田善衛「祖国喪失」「歯車」読解2	対象作品にふれる
13.	堀田善衛「祖国喪失」「歯車」読解3	対象作品にふれる
14.	堀田善衛「上海にて」	対象作品にふれる
15.	まとめ	レポートの作成準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義において対象作品についての資料等も配布しますが、興味を持った作品を各自通読するように求めます。また、レポートに向けて関連資料の調査も必要です。

フィードバックの方法:　教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	調査の度合いと論理性・独創性・分析の妥当性
発表・討論	20	討論への貢献度
授業への参加度	30	ミニレポートの内容と提出率

教科書:　横光利一『上海』(岩波文庫)

参考書:
横光利一『上海』(講談社文芸文庫)
堀田善衛『歯車・至福千年』(講談社文芸文庫)
堀田善衛『上海にて』(集英社文庫)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　マナビーを利用

228960

作家研究C

村田　　好哉

授業テーマ:　夏目漱石の文学

授業の概要:　日本近代文学を代表する作家の1人である夏目漱石を取り上げる。漱石の生涯や生きた時代・社会をふまえながら、具体的な作品の分析を通じて、漱石初期文学の特色や意義についての考察を試みたい。

到達目標:
1.夏目漱石の生涯の特色を理解し、説明することが出来る。
2.夏目漱石の初期文学の特色を理解し、説明することが出来る。
3.作家研究の方法を理解し、運用することが出来る。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　漱石入門	授業に関連する作品、参考文献は事前に読んでおくこと。不明箇所は調べたりするなどしておくこと。
2.	作家研究　1 作家研究の方法	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
3.	作家研究 2　漱石の生涯 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
4.	作家研究 3　漱石の生涯 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
5.	作家研究 4　漱石の生涯 3	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
6.	作家研究 5　漱石の生涯 4	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
7.	作家研究 6　漱石の生涯 5	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
8.	作家研究 7　漱石の生涯 6	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
9.	作家研究 8　漱石の生涯 7	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
10.	作家研究 9　漱石の生涯 8	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
11.	作家研究 10　漱石の生涯 9	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
12.	作家研究 11　　漱石の生涯 10	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。授業で指示した課題について取り組むこと。
13.	作品研究 1 『吾輩は猫である』の世界　1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
14.	作品研究 2 『吾輩は猫である』の世界　2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
15.	作品研究 3 『吾輩は猫である』の世界　3	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。授業で指示した課題について取り組むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中にレポートの提出を求めることがあるので注意すること。

フィードバックの方法:　提出物については、授業中にまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	到達目標1～3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。
授業への参加度	30%	到達目標1～3に関して積極的に授業に参加しているかの達成度を評価する。

教科書:　なし

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　Eメール qqxr5sd9k@marble.ocn.ne.jp

229060

作家研究D

村田　　好哉

授業テーマ:　夏目漱石の文学

授業の概要:　日本近代文学を代表する作家の1人である夏目漱石を取り上げる。漱石の生涯や生きた時代・社会をふまえながら、具体的な作品の分析を通じて、漱石中期・後期文学の特色や意義についての考察を試みたい。

到達目標:
1.夏目漱石の生涯の特色を理解し、説明することが出来る。
2.夏目漱石の中期・後期文学の特色を理解し、説明することが出来る。
3.作家研究の方法を理解し、運用することが出来る。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　漱石文学の魅力	授業に関連する作品、参考文献は事前に読んでおくこと。不明箇所は調べたりするなどしておくこと。
2.	作家研究 1　漱石の生涯 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
3.	作家研究 2　漱石の生涯 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
4.	漱石研究史 1　漱石研究史概観 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
5.	漱石研究史 2　漱石研究史概観 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
6.	作品研究 1 『坊つちやん』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
7.	作品研究 2 『坊つちやん』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。授業で指示した課題について取り組むこと。
8.	作品研究 3 『三四郎』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
9.	作品研究 4 『三四郎』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
10.	作品研究 5 『三四郎』の世界 3	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。授業で指示した課題について取り組むこと。
11.	作品研究 6 『現代日本の開化』漱石の文明批評 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
12.	作品研究 7 『現代日本の開化』漱石の文明批評 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。授業で指示した課題について取り組むこと。
13.	作品研究 8 『こゝろ』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
14.	作品研究 9 『こゝろ』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。配布プリントやノートを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
15.	作品研究 10 『こゝろ』の世界 3	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。授業で指示した課題について取り組むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中にレポートの提出を求めることがあるので注意すること。

フィードバックの方法:　提出物については、授業中にまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	到達目標1～3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。
授業への参加度	30%	到達目標1～3に関して積極的に授業に参加しているかの達成度を評価する。

教科書:　なし

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール qqxr5sd9k@marble.ocn.ne.jp

229160 **作家研究E**

村田　　好哉

授業テーマ: 1910年代の作家

授業の概要: 明治から大正へという時代の大きな転換期とも重なり1910年代には多様 な文学運動の中から多くの問題作が生まれた。本授業では時代や社会との関わりをふまえながら、1910年代 を代表する作家である志賀直哉 ・谷崎潤一郎・森鷗外・葛西善蔵を取り上げ各作家の生涯と文学の特色についての考察を試みたい。

到達目標: 1.1910年代の作家の生涯の特色を理解し、説明することが出来る。
2..1910年代の作家の文学の特色を理解し、説明することが出来る。
3.作家研究の方法を理解し、運用することが出来る。

授業方法: 講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　1910年代の文学入門	テキストを読み返して、不明箇所は調べたりなどしておくこと。
2.	作家研究の方法	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
3.	作家研究 1　志賀直哉の生涯	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
4.	作品研究1　志賀直哉『城の崎にて』の世界1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
5.	作品研究 2　志賀直哉『城の崎にて』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
6.	作家研究 2　谷崎潤一郎 の生涯	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
7.	作品研究 3　谷崎潤一郎『刺青』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
8.	作品研究 4　谷崎潤一郎『刺青』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
9.	作家研究 3　森鷗外の生涯	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
10.	作品研究 5　森鷗外『雁』の世界1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
11.	作品研究 6　森鷗外『雁』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
12.	作家研究 4　葛西善蔵の生涯	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
13.	作品研究 7　葛西善蔵『子をつれて』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
14.	作品研究 8　葛西善蔵『子をつれて』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
15.	まとめ	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス: 授業中にレポートの提出を求めることがあるので注意すること。

フィードバックの方法: 提出物については、授業中にまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	到達目標1～3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。
授業への参加度	30%	到達目標1～3に関して積極的に授業に参加しているかの達成度を評価する。

教科書: 玉井敬之他、『1910年代の文学』、翰林書房

参考書: 授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Eメール qqxr5sd9k@marble.ocn.ne.jp

229260

作家研究F

村田　　好哉

授業テーマ:　1910年代の作家

授業の概要:　明治から大正へという時代の大きな転換期とも重なり1910年代には多様 な文学運動の中から多くの問題作が生まれた。本授業では時代や社会との関わりをふまえながら、1910年代 を代表する作家である菊池寛 ・芥川龍之介・室生犀星・夏目漱石・中勘助を取り上げ各作家の生涯と文学の特色についての考察を試みたい。

到達目標:
1.1910年代の作家の生涯の特色を理解し、説明することが出来る。
2..1910年代の作家の文学の特色を理解し、説明することが出来る。
3.作家研究の方法を理解し、運用することが出来る。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　1910年代の文学概観	テキストを読み返して、不明箇所は調べたりなどしておくこと。
2.	作家研究 1　菊池寛の生涯	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
3.	作品研究1　菊池寛『藤十郎の恋』の世界1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
4.	作品研究1　菊池寛『藤十郎の恋』の世界1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
5.	作家研究 2　芥川龍之介の生涯	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
6.	作品研究 3　芥川龍之介『枯野抄』の世界 1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
7.	作品研究 4　芥川龍之介『枯野抄』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
8.	作家研究 3　室生犀星の生涯	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
9.	作品研究 5　室生犀星『性に眼覚める頃』の世界1	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
10.	作品研究 6　室生犀星『性に眼覚める頃』の世界 2	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
11.	作家研究 4　夏目漱石の生涯	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
12.	作品研究 7　夏目漱石『道草』の世界	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
13.	作家研究 5　中勘助の生涯	指示された参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
14.	作品研究 8　中勘助『銀の匙』の世界	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。
15.	まとめ	指示された作品、参考文献は事前に読んでおくこと。テキストを読み返して、不明箇所は調べたり・質問するなどして解消しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中にレポートの提出を求めることがあるので注意すること。

フィードバックの方法:　提出物については、授業中にまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	到達目標1～3に関する知識や理解度とあわせて論理的に説明できるかの達成度を評価する。
授業への参加度	30%	到達目標1～3に関して積極的に授業に参加しているかの達成度を評価する。

教科書:　玉井敬之他、『1910年代の文学』、翰林書房

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール qqxr5sd9k@marble.ocn.ne.jp

229360

近代文学特論A

日高　　佳紀

授業テーマ:

授業の概要:
日本の近現代文学作品を、作品に描かれた〈日本〉を切り口に読み解き、時代における意味と物語における機能について講義する。

到達目標:
・文学作品を読み解くための基礎力を身につける。
・それぞれの文学作品に描かれた〈日本〉の姿を理解し、作品や時代における国家イメージやナショナリズム変化を知る。

授業方法:
講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスの確認
2.	森鴎外「普請中」 確認テスト①	作品の精読
3.	太宰治「十二月八日」(1) 確認テスト②	作品の精読
4.	太宰治「十二月八日」(2)	作品および配付資料の精読
5.	中島敦「マリヤン」 確認テスト③	作品の精読
6.	牛島春子「祝といふ男」(1) 確認テスト④	作品の精読
7.	牛島春子「祝といふ男」(2)	作品および配付資料の精読
8.	野坂昭如「火垂るの墓」(1) 確認テスト⑤	作品の精読
9.	野坂昭如「火垂るの墓」(2)	作品および配付資料の精読
10.	小島信夫「アメリカン・スクール」(1) 確認テスト⑥	作品の精読
11.	小島信夫「アメリカン・スクール」(2)	作品および配付資料の精読
12.	目取真俊「水滴」(1) 確認テスト⑦	作品の精読
13.	目取真俊「水滴」(2)	作品および配付資料の精読
14.	リービ英雄「仲間」 確認テスト⑧	作品の精読
15.	まとめ	講義全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業で扱う作品は精読してくること。新しい教材に入る際の授業内で読書確認の小テスト(教科書閲覧可)を行い、成績に加える。
・教材以外でも、授業で紹介した文学作品や評論など、幅広く読書すること。
・出席が一定基準に満たない場合は定期試験の受験を認めない。

フィードバックの方法:
確認テスト:採点して返却
その他:教室でまとめて解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
確認テスト	20	教材の文学作品を精読してきたかどうかを評価する。
定期試験	80	文学作品の批評性を理解できているか、作品解釈の論理性と独自性といった観点で総合的に評価する。

教科書:
飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編、『文学で考える〈日本〉とは何か』、翰林書房、2016

参考書:
授業中にプリント等で配布。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室で対応

229460

近代文学特論B

日高　　佳紀

授業テーマ:

授業の概要:　日本の近現代文学作品を〈仕事〉を切り口に読み解き、その時代的位置と物語における機能について講義する。

到達目標:
・文学作品を読み解くための基礎力を身につける。
・日本の近現代文学を通して、近現代の文化の様態を知る。
・時代ごとの〈仕事〉の意味を知り、労働と文化、歴史に対する理解を深める。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスの確認
2.	泉鏡花「海城発電」(1) 確認テスト①	作品の精読
3.	泉鏡花「海城発電」(2)	作品および配布資料の精読
4.	樋口一葉「にごりえ」(1) 確認テスト②	作品の精読
5.	樋口一葉「にごりえ」(2)	作品および配布資料の精読
6.	正宗白鳥「塵埃」 確認テスト③	作品の精読
7.	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」 確認テスト④	作品の精読
8.	王昶雄「奔流」(1) 確認テスト⑤	作品の精読
9.	王昶雄「奔流」(2)	作品および配付資料の精読
10.	井伏鱒二「遥拝隊長」(1) 確認テスト⑥	作品の精読
11.	井伏鱒二「遥拝隊長」(2)	作品および配付資料の精読
12.	庄野潤三「プールサイド小景」 確認テスト⑦	作品の精読
13.	村上春樹「午後の最後の芝生」(1) 確認テスト⑧	作品の精読
14.	村上春樹「午後の最後の芝生」(2)	作品および配付資料の精読
15.	まとめ	講義内容全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業で扱う作品は精読してくること。新しい教材に入る際の授業内で読書確認の小テスト(教科書閲覧可)を行い、成績に加える。
・教材以外でも、授業で紹介した文学作品や評論など、幅広く読書すること。
・出席が一定基準に満たない場合は定期試験の受験を認めない。

フィードバックの方法:
確認テスト:採点して返却
その他:教室でまとめて解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
確認テスト	20	教材の文学作品を精読してきたかどうかを評価する。
定期試験	80	文学作品の批評性を理解できているか、作品解釈の論理性と独自性といった観点で総合的に評価する。

教科書:　飯田祐子・日高佳紀・日比嘉高編、『文学で考える〈仕事〉の百年』、翰林書房、2016

参考書:　授業中にプリント等で配布。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室で対応

229560

表現研究A

牛田　　あや美

授業テーマ:　映画・マンガのリテラシーを読む。

授業の概要:　日本の輸出文化の一躍を担っているストーリーマンガとはどのような過程を経て成立をしたのか、歴史や政治動向から学習する。

到達目標:　過去のメディア、特にエンターテイメンメディアのなかに潜む問題を具体的に学ぶことにより、現在のメディアリテラシーに反映することが目標。

授業方法:　基本的には講義形態でおこなうため、ノートを持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	京都を舞台としたマンガ、映画	京都を舞台とした作品を調べる。
2.	鳥獣人物戯画　マンガの始祖	鳥獣人物戯画を調べる。
3.	江戸時代のマンガ	浮世絵を勉強する。
4.	絵から写真、そして映画へ	写真の誕生を調べる
5.	自由民権運動と雑誌のなかに描かれるマンガ	自由民権運動を勉強する。
6.	近代化とマンガ	明治･大正の歴史を勉強する。
7.	映画のモンタージュとマンガのコマ	明治･大正の歴史を勉強する。
8.	戦中の映画・マンガ	戦前の歴史を勉強する。
9.	戦中の映画・マンガⅡ	戦前の歴史を勉強する。
10.	戦中の映画・マンガⅢ	戦前の歴史を勉強する。
11.	戦中の映画・マンガⅣ	戦前の歴史を勉強する。
12.	子どもの憧れからマンガを読む	戦前の子どものエンターテイメントを考える。
13.	占領下の映画・マンガ	占領期日本の歴史を勉強する。
14.	ストーリーマンガの始まり	マンガとは何か、を考える。
15.	文化となった映画とマンガ	文化となった映画とマンガ

受講者へのメッセージやアドバイス:　「出席」とは机に座るだけではありません。積極的に参加をしてください。事前に調べたことやもともと知識としてあることなどを踏まえ、積極的に参加してください。レポートではそれを反映してください。

フィードバックの方法:　次回の授業日に優秀なレポートを紹介します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	40	「出席」とは座っているだけではありません。授業態度も含みます。
授業への積極性	30	事前に調べたことを授業内で発表してください。
レポート内容	40	授業内容と事前に調べたことを絡めてレポートしてください。

教科書:　授業内で適宜プリントを配布します。

参考書:　牛田あや美他『メディア活用能力とコミュニケーション』大学図書出版２０１６年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　a-ushida@kuad.kyoto-art.ac.jp

229660

表現研究B

平川　　大作

授業テーマ:　表象の動物園

授業の概要:　講義を想像上の動物園＝動物そのものではなく「動物の表象」が集められた動物園になぞらえて、映画と演劇を中心にアニメ、マンガ、音楽にいたるサブカルチャーなど各種の表現領域のなかで、動物がどのように表象されているのか、その動物の表象を通して何がどのようなルールに基づいて表現されているのかを考えます。

到達目標:　現代のサブカルチャーについて理解を深める。動物表象の背景にある映画、演劇の基礎知識を学ぶ。表象の分析的解釈ができるようになる。

授業方法:　基本的には講義形式、授業各回の内容は変更の可能性があります。講義の終わり数回分でグループ発表の実施を予定しているので、積極的な参加を期待しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロ:　表象の動物園のルール	自分の知っている動物の表象を確認する。
2.	ネズミ:　ミッキー･マウスとキャラクター･ビジネス	ウォルト･ディズニーについて調べる
3.	ネコとネズミ:『トムとジェリー』とアメリカのギャグ･アニメ	『トムとジェリー』を鑑賞する。
4.	ネコ:『キャッツ』とミュージカル	ミュージカルについて調べる。
5.	サル:『キング･コング』とモンスター映画	キング･コングについて調べる。
6.	サル:『猿の惑星』とSF映画	SF映画の歴史について調べる。
7.	サイ:　イヨネスコ作『犀』と不条理演劇	20世紀の演劇について調べる。
8.	イヌ:『ラッシー』と動物映画	動物映画を鑑賞する。
9.	クモとコウモリ:　バットマン、スパイダーマンとアメコミ	アメコミ映画を鑑賞する。
10.	昆虫:『仮面ライダー』と日本のヒーロー	日本のヒーローについて調べる。
11.	地を這うもの:『デューン』と『モスラ』、あるいはグループ発表その1	発表の準備
12.	動物集合:　オーウェルの『動物農場』、あるいはグループ発表その2	発表の準備
13.	脇役や背景としての動物表彰:『ゴッドファーザー』と『ブレードランナー』、あるいはグループ発表その3	発表の準備
14.	実在しない獣:『ゴジラ』、龍など、あるいはグループ発表その4	発表の準備
15.	総括:　ニンゲン、表象の動物園のなかで	提出物の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　映画･演劇を中心としたサブカルチャーの豊穣な表現世界を概観することが狙いです。基本的には講義一回で完結する進行なので、それを承知で受講してください。また、普段から身の回りの動物表象を意識しておくことを勧めます。

フィードバックの方法:　毎回の授業でコメントペーパーを配布、回収します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	60	コメント･ペーパーによる理解度
発表　あるいはレポート	40	独創性、積極性

教科書:　特にありません。

参考書:　必要に応じて、授業内で指示します。

獲得が期待される基礎的･汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　いつでもメールで。 dhira@otemae.ac.jp

229760

表現研究C

倉橋　　正恵

授業テーマ:　芸能情報の表現

授業の概要:　江戸時代において歌舞伎が文学や絵画、特に浮世絵版画といかに関連していたのかについて理解する。また、演劇が小説化、あるいは小説から演劇化されていく過程を追いながら、報道やマスメディアが確立していなかった時代に、人々の噂や評判といった芸能情報が絵画・文学的に表現されていた実際の事例を学ぶ。

到達目標:
・歌舞伎の基礎・歴史を理解する
・浮世絵版画の基礎・歴史を理解する。
・近世文学史の基礎を理解する。
・芸能情報が絵画・文芸化される現象について理解する。
・江戸時代の出版文化を理解する。
・近世期における表現方法を用いて、芸能情報を発信する。

授業方法:　歌舞伎の基本的な約束事や用語を具体的に説明しながら、さまざまな分野の文献史料の訳読を行い、絵画における歌舞伎の表現方法の確認する。また、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	歌舞伎の歴史1	歌舞伎についての事前学習
2.	歌舞伎の歴史2	歌舞伎についての事前学習
3.	歌舞伎の歴史3	歌舞伎についての事前学習
4.	歌舞伎の歴史4	歌舞伎についての事前学習
5.	歌舞伎の歴史5	歌舞伎についての事前学習
6.	歌舞伎鑑賞1	鑑賞する演目についての事前学習
7.	浮世絵版画の歴史と種類	浮世絵版画についての事前学習
8.	歌舞伎と浮世絵版画	歌舞伎興行についての事前学習
9.	歌舞伎鑑賞2	鑑賞する演目についての事前学習
10.	歌舞伎鑑賞3	鑑賞する演目についての事前学習
11.	芸能情報と文芸	江戸時代のメディアにでついての事前学習
12.	芸能情報と浮世絵1	江戸時代のメディアにでついての事前学習
13.	芸能情報と浮世絵2	江戸時代のメディアにでついての事前学習
14.	芸能情報と戯作者	近世文学史についての事前学習
15.	江戸時代において芸能情報を表現するために	「江戸時代の表現者であれば何ができるのか」を考察する

受講者へのメッセージやアドバイス:　準備学習:観劇レポートを課すため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート試験	60	到達目標を全て理解した上で、近世期における芸能情報の発信方法について独自の視点を持っているかによって評価する。
観劇レポート	20	実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。
授業への積極的参加度	20	積極的に授業へ参加し、到達目標の理解度によって評価する。

教科書:

参考書:
服部幸雄『絵で読む歌舞伎の歴史』(平凡社、2008年)
赤間亮『江戸の演劇書』(八木書店、2003年)
荻田清『上方歌舞伎関係一枚摺考』(清文堂、1999年)
神楽岡幼子『歌舞伎文化の享受と展開』(八木書店、2002年)
大久保純一『浮世絵出版論』(吉川弘文館、2013年)
藤沢茜『浮世絵が創った江戸文化』(笠間書院、2013年)
藤沢茜『歌川派の浮世絵と江戸出版界』(改訂版、勉誠出版、2001年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。

229860

表現研究D

平川　　大作

授業テーマ:　実践的演劇入門　～身体で読む戯曲～

授業の概要:　戯曲作品を文字として読み、文学的に解釈するだけではなく、身体すなわち声と動作を使いながら、立体的かつ実践的に理解することを目指します。ただ座って話を聞いている講義形式ではなく、自分から「やってみる」「取り組んでみる」タイプの授業なので、そのつもりで受講してください。とはいえ、この授業は俳優育成や演技レッスンが主眼ではありません。あくまで「入門」として、これまで演劇に触れる機会のなかった初心者の学生諸君でも楽しみながら参加できる内容を心がけます。なお、どのような戯曲作品を読むのかは、受講生と相談の上で決定します。

到達目標:　演劇の初歩的な考え方を見につける。広義のプレゼンテーション能力を向上させる。言語と身体の表現上のかかわりについて体験的に考察する。

授業方法:　実技・実習をメインとします。なお、授業内容はひとつの目安で、順番等変更の可能性があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロ:　戯曲の基礎、舞台の魅力	演劇、舞台に対する印象を再確認する。
2.	戯曲選択	自分で戯曲を探してみる。
3.	コミュニケーションと発声	自分の発声と話し方の癖を自覚する。
4.	テーブル稽古	課題戯曲テキストを事前に読んでおく。あるいは、戯曲テキストを執筆する。
5.	演出の役割	自分が演出の立場になったことを想像してみる。
6.	登場人物の研究	登場人物の履歴書や背景を考察する。
7.	サブテクストとは？	せりふの裏に隠された発言の意図や作家の狙いについて考える。
8.	ブロッキング	課題戯曲テキストを空間化して読み直す。
9.	演出のさまざまな効果	課題戯曲テキストの演出ノートを作る。
10.	立ち稽古	せりふを覚える。
11.	ダメ出し	せりふや所作の「別の表現方法」を考えてみる。
12.	稽古　発表へ	さらに、せりふを覚える。
13.	稽古　継続　中間チェック	実演の改善点を考える。
14.	稽古　仕上げ	さらに、稽古する。
15.	実演発表	最終リハーサル

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業に対する積極的な姿勢が必要です。学期の後半は、グループ単位で稽古をするので、ひとりの欠席が他の受講生に大きな影響を与えます。そのため、毎回の出席は単なる講義とは違う意味で必須だと考えてください。

フィードバックの方法:　授業内での個別的な指導により

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極性、自発性
実演発表	50	事前準備、創意工夫

教科書:　使用する戯曲は授業で配布します。

参考書:　必要に応じて、授業で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールでいつでも。　dhira@otemae.ac.jp

229961

作品研究A

日高　　佳紀

授業テーマ:　谷崎潤一郎と都市モダニズム（大正～昭和初期を中心に）

授業の概要:　・近代都市文化を切り口に、谷崎潤一郎の前期の代表的な作品を読み、物語の舞台である都市空間と、そこで展開される近代文化の様相を捉え、文学的表現との関連性について考える。

到達目標:　・谷崎潤一郎の作品における文学表現を手がかりに、歴史・社会的な状況に対する、文学の位置とその批評性を理解する。
・作品精読を通しての表現のモチーフを理解し、作家が対象とした〈近代〉という時代の特性を知る。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスの確認
2.	谷崎潤一郎初期作品の特質	配付資料の確認
3.	「秘密」―都市空間とは何か	作品および配付資料の精読
4.	「秘密」―都市を遊歩すること	作品および配付資料の精読
5.	「痴人の愛」―東京都市空間の特質	作品および配付資料の精読
6.	「痴人の愛」―消費文化と物語	作品および配付資料の精読
7.	「痴人の愛」―物語における時間と空間	作品および配付資料の精読
8.	「痴人の愛」―コミュニケーションと性	作品および配付資料の精読
9.	「痴人の愛」―大衆文化の誕生	作品および配付資料の精読
10.	関東大震災と谷崎の関西移住	配付資料の精読
11.	「卍（まんじ）」―関西都市空間の特質	作品および配付資料の精読
12.	「卍（まんじ）」―語りの特質	作品および配付資料の精読
13.	「卍（まんじ）」―物語の時間軸とレトリック	作品および配付資料の精読
14.	「卍（まんじ）」―物語の多声性	作品および配付資料の精読
15.	まとめ	講義内容全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	授業態度、取り組みの積極性、作品の理解度を評価する
レポート	80	課題に対する論述内容の独創性、論理性、表現を総合的に評価する

教科書:　谷崎潤一郎『痴人の愛』（新潮文庫、2003年改版）
谷崎潤一郎『卍（まんじ）』（新潮文庫、2010年改版）

参考書:　参考資料を授業中にプリントで配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

229962

作品研究A

黒田　　大河

授業テーマ:　日本近代文学と日本語の表現－明治大正篇－

授業の概要:　明治期から大正期にかけてのさまざまな近代文学作品を取り上げ、それらを解釈・鑑賞し、研究史に基づいた批評の方法を学ぶ。作品の解釈について受講者同士の討議・意見交換を行なう。明治期から大正期にかけての文章表現の特色を理解するだけでなく、ディスカッションを通して自己の考えを他人に分かりやすく伝える技術を身につける。

到達目標:
1　日本近代文学に関する文献を社会的・時代的コンテクストに注意しながら解釈できる。
2　問題意識を他者と共有し有意義な討論ができる。
3　自らの論点を実証的かつ論理的に記述できる。

授業方法:　日本近代文学の短篇小説をゼミ形式で講読する。前半に作品解釈をめぐるディスカッションを行なうと共に後半にはグループ報告も取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	テキストを購入する。
2.	書誌・研究史の意味	対象作品を精読する。
3.	引用・要約の方法	調査方法を実践してみる。
4.	問題意識を持つ	配付資料を精読する。
5.	作品研究1	対象作品を精読する。
6.	ディスカッション	問題意識を持って準備する。
7.	作品研究2	対象作品を精読する。
8.	ディスカッション	問題意識を持って準備する。
9.	作品研究3	対象作品を精読する。
10.	ディスカッション	問題意識を持って準備する。
11.	作品研究4	対象作品を精読する。
12.	グループ報告と質疑応答	問題意識を持って準備する。
13.	作品研究5	対象作品を精読する。
14.	グループ報告と質疑応答	問題意識を持って準備する。
15.	まとめ	レポートに向けて準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ゼミ形式の講義であるので、事前準備と演習への積極的な参加を求める。
春学期には明治・大正期の作品を扱います。

フィードバックの方法:　教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	調査の度合いと論理性・独創性・分析の妥当性
発表・討論	30	報告や討論への貢献度とミニレポートの内容
授業への参加度	20	ミニレポートの提出率

教科書:　東郷克美・吉田司雄編『〈都市〉文学を読む』(鼎書房)

参考書:　授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力, 思考力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力

教員との連絡方法:　マナビーを利用

230061 **作品研究B**

日高　　佳紀

授業テーマ:　谷崎潤一郎と歴史語り(昭和初年代を中心に)

授業の概要:　谷崎潤一郎の中期の代表的な作品を読み、物語と古典、歴史との関係を捉え、文学的表現との関連性について考える。

到達目標:
・文学作品の表現を手がかりに、同時代の社会的な状況に対する、文学の位置とその批評性を理解する。
・歴史語りと小説創作というテーマを切り口に作品を精読、その表現のモチーフを理解し、作品が対象とした〈近代〉という時代の特性を知る。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスの精読
2.	昭和初年代と〈古典回帰〉の谷崎	配布資料の精読
3.	「「九月一日」前後のこと」―谷崎の物語叙述の特性	作品および配布資料の精読
4.	「「九月一日」前後のこと」―歴史認識と物語	作品および配布資料の精読
5.	「吉野葛」―語りの特質	作品および配布資料の精読
6.	「吉野葛」―伝説と歴史	作品および配布資料の精読
7.	「吉野葛」―歴史叙述と津村の物語	作品および配布資料の精読
8.	「吉野葛」―母恋いと物語	作品および配布資料の精読
9.	「吉野葛」―歴史と政治性	作品および配布資料の精読
10.	「盲目物語」―語りの特質	作品および配布資料の精読
11.	「盲目物語」―語り手・弥市の位置	作品および配布資料の精読
12.	「盲目物語」―物語の原典と歴史叙述	作品および配布資料の精読
13.	「盲目物語」―引用とコラージュの問題	作品および配布資料の精読
14.	「盲目物語」―翻訳としての物語	作品および配布資料の精読
15.	まとめ	授業全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	授業態度、取り組みの積極性、作品の理解度を評価する
レポート	80	課題に対する論述内容の独創性、論理性、表現を総合的に評価する

教科書:　谷崎潤一郎『盲目物語・吉野葛』(新潮文庫、2002年改版)

参考書:　参考資料を授業中にプリントで配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

230062

作品研究B

黒田　　大河

授業テーマ:　日本近代文学と日本語の表現－昭和篇－

授業の概要:　昭和初期から戦前・戦後期にかけてのさまざまな近代文学作品を取り上げ、それらを解釈・鑑賞し、研究史に基づいた批評の方法を学ぶ。作品の解釈について受講者同士の討議・意見交換を行なう。昭和期から現代にかけての文章表現の特色を理解するだけでなく、ディスカッションを通して自己の考えを他人に分かりやすく伝える技術を身につける。

到達目標:
1　日本近代文学に関する文献を社会的・時代的コンテクストに注意しながら解釈できる。
2　問題意識を他者と共有し有意義な討論ができる。
3　自らの論点を実証的かつ論理的に記述できる。

授業方法:　日本近代文学の短篇小説をゼミ形式で講読する。前半に作品解釈をめぐるディスカッションを行なうと共に後半にはグループ報告も取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	テキストを購入する。
2.	書誌・研究史の意味	対象作品を精読する。
3.	引用・要約の方法	調査方法を実践してみる。
4.	問題意識を持つ	配付資料を精読する。
5.	作品研究1	対象作品を精読する。
6.	ディスカッション	問題意識を持って準備する。
7.	作品研究2	対象作品を精読する。
8.	ディスカッション	問題意識を持って準備する。
9.	作品研究3	対象作品を精読する。
10.	ディスカッション	問題意識を持って準備する。
11.	作品研究4	対象作品を精読する。
12.	グループ報告と質疑応答	問題意識を持って準備する。
13.	作品研究5	対象作品を精読する。
14.	グループ報告と質疑応答	問題意識を持って準備する。
15.	まとめ	レポートに向けて準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ゼミ形式の講義であるので、事前準備と演習への積極的な参加を求める。
秋学期には昭和期の作品を扱います。

フィードバックの方法:　教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	調査の度合いと論理性・独創性・分析の妥当性
発表・討論	30	報告や討論への貢献度とミニレポートの内容
授業への参加度	20	ミニレポートの提出率

教科書:　東郷克美・吉田司雄編『〈都市〉文学を読む』(鼎書房)

参考書:　授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力, 思考力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力

教員との連絡方法:　マナビーを利用

230160

日本民俗学A

浅野　　久枝

授業テーマ:　自分の常識を疑い、日本の文化の多様性に気づき、自分自身の文化を内省する

授業の概要:　民俗学というと、昔話やお祭を研究したり、過去を知る学問と考えている人が多いであろう。中にはエキゾチズムを「民俗学」に感じている人もいるのではないだろうか。それらはもちろん、第一歩としては問題がない。しかし、民俗学は過去を振り返るだけの学問ではない。この講義では、まず第一にそのことを理解していただきたい。その上で、民俗学が対象とするモノ・コト及び、方法論を考える。それに際しては、民俗学を体系立てた柳田国男の、初期の業績を取り上げつつ、講じたい。最終的には、自分の身の回りのあたりまえのモノ・コトに目を向け、自分自身を内省し、足下を見直す視点を獲得することを達成目標とする。

到達目標:　(1)自分があたりまえだと思っているモノ・コトが、地域あるいは世代が違えばまったくあたりまえではないということに気づくことによって、異文化は外国に行かなくても存在することに思い至ることができる。
(2)そのことから、自分の文化を見つめ直すことができ、自らの足下を見直す視点を獲得することができる。
(3)それができるようになれば、外国人に限らず、友人や親といった他人の文化を理解するという姿勢を獲得できる。

授業方法:　1:講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:授業の概要と進め方について説明する。	
2.	現在学としての民俗学:民俗学は「あたりまえ」を疑い、「あたりまえ」に目を向ける学問であることを知る。	身の回りの当たり前の物や者や事にはどのようなことがあるか、周囲を観察して考えておく。
3.	民俗学前史1:民俗学の生まれた背景(民俗学前史)を知ることから、民俗学の方向性を考える。第1回目は、いにしえを見ようとする江戸期の思想、国学の視点について講ずる。	平田篤胤『仙境異聞』『勝五郎再生記聞』に目を通してみる。
4.	民俗学前史2:江戸時代の旅人の視点を知ることから、観察し、記録をすることについて考える。	菅江真澄『いなのなかみち』などの著作に目を通してみる。また、『菅江真澄民俗図絵』に目を通し、「観察」と「記録」について考えてみる。
5.	民俗学前史3:ヨーロッパフォークロアの発生とその背景について講じ、伝承と歴史の関係も考える。	ハインリッヒ・ハイネ『精霊物語』『神々の流刑』に目を通してみる。
6.	民俗採訪から見いだせる庶民の歴史:愛知県『花祭り』のビデオから、祭に現れる歴史性を考える	早川孝太郎『花祭』に目を通してみる。
7.	柳田国男の生い立ちと思想的背景1:彼自身が述べるように、彼の個人的経験が柳田民俗学の成立に影響を及ぼしているので、その点について紹介する。	柳田国男『故郷七十年』に目を通してみる。
8.	柳田国男の生い立ちと思想的背景2:文学者としての柳田の業績から、記録をする、記述をする、表現することと民俗学の関係を考える。	柳田国男『遠野物語』に目を通して、彼の表現について考えてみる。
9.	柳田国男の生い立ちと思想的背景3:農政学者としての柳田の業績から、彼の考えた「経済」とは、「農業」とは何かを考え、彼の考えた「経世済民の学としての民俗学」について考える。	柳田国男『時代ト農政』に目を通してみる。
10.	柳田国男と南方熊楠:柳田と親交の厚かった南方熊楠を取り上げ、人間の暮らしと自然との関わりの重要性を考える。	
11.	民俗学の方法1:ハレとケの概念、および、調査地で語られる言葉(民俗語彙)の重要性、言葉を大切にする視点を意識する。	、『後狩詞記』に目を通してみる。
12.	民俗学の方法2(地域差と時代差1):各地のコトバから日本全体を見る視点を考える。	
13.	民俗学の方法3(地域差と時代差2):方言周圏論について考える	柳田国男『蝸牛考』に目を通してみる。
14.	民俗学の方法4(民俗調査を考える):全国を視野に入れる調査法だけでなく、一地域を対象とする地域調査から見えてくる方向性について、考える。	各自の地元の民俗誌に目を通してみる。
15.	総括:各自が自分の身の回りの民俗に対し、興味を持って注目できるようになったか、確認する。	

受講者へのメッセージやアドバイス:　普段から、自分の日常生活、すなわち、自分の部屋、毎日の通学路など身の回りの「あたりまえ」の世界に、新たな目を向けるよう心がけ、講義で指摘した視点を用いて自らの普段の暮らしを観察し、次週の講義に臨むこと。

フィードバックの方法:　毎回、講義終了時にコメントカードを書いて頂く。その内容のコメントや質問に対する答えを、翌週の講義にて口頭で伝える。
レポートについては返却は考えていないが、希望者にはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	70	各自に身近なテーマを設定し、各自の聞き取り調査に基づいて書いていただく。その作業を通じて、民俗学についての考え方を深めていただきたい。レポートの内容で、講義中に示した民俗学的見地が理解されているかどうか、判断する。
出席およびコメントカード	30	コメントカードは出席を確認するだけでなく、その内容によって、講義に積極的に関わり、思考を深めているかどうかを判断する。なにも記述のないコメントカードは出席とは見なさない。また、欠席は5回まで認めるが、それ以上の欠席者はレポート提出の資格がないものとする。

教科書:

参考書:　「忘れられた日本人」宮本常一(岩波文庫)
「現代民俗学入門」古家信平他編(吉川弘文)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、
教員との連絡方法:	授業の前後に教室で対応する。必要な場合はEメールを利用。アドレスは第１回目の講義時に通知する。

230260

日本民俗学B

浅野　　久枝

授業テーマ:

「おとなになるって？」「あの世ってあるの？」…社会の枠組み、規範、常識とはどういうことかを考える 。

授業の概要:

民俗学Aで講じた民俗学の基礎的問題をふまえた上で、「人の一生」「人生儀礼」に関わる問題点を考える。人の一生に関わる儀礼や、「一人前」などについて取り上げるが、例えば「大人」とは何か「子ども」とは何かを、自分のこととして考えて頂く。それは社会によって、時代によって異なるものであることに気づいて頂きたい。

それらの話題の中で取り上げる女性の初潮、月経との関連で、ケガレ観についての問題も考えていく。

これらの話題は、民俗学Aと同様、過去の習俗を知ることに主眼があるのではなく、自らの問題として、自分に引きつけて内省し、足下をみつめ直す視点を養うことを目標とする。とくに、人間が生きていくために作り出している社会の枠組み、規範、常識というものについて考えて頂きたい。あまりにもあたりまえ、常識化しているが故に気がついていない枠組みに縛られている自分に目を向ける視点を獲得できることを達成目標とする。

到達目標:

(1)社会に存在する枠組み、規範は、極めて文化的なものであることに気がつくことができる。
(2)既存の枠組みに縛られている自分に目を向ける視点を獲得できる。
(3)自分の生きている社会を相対化することができるようになる。
(4)「大人」の仲間入りをしつつある諸君にとって身近な問題として考える機会となる。
(5)死後の世界と少しだけ向き合うことで、現在に生きる知恵を働かせることができるようになることを期待する。

授業方法:

1:講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:講義概要の説明と講義の進め方について述べる。	日本民俗学Aの内容を復習する。
2.	民俗学の対象とは:民俗学の考え方の復習と、民俗学が対象とするものの多重性について考え、民俗調査項目の利点と欠点について確認する。	各自の地元の民俗誌、民俗調査報告書、地方自治体誌民俗編などの目次に目を通してみる。
3.	人生における儀礼について:「儀礼」というものが持つ意味を考え、人生儀礼だけでなく儀礼が持つ意味についても広げて講じる。	ｳﾞｧﾝ・ジュネップ『通過儀礼』に目を通してみる。
4.	「一人前」とは(その1):何をもって、人は一人前と認められるのか。1回目は年齢について考える。現代の成人式についても触れる。	自分の成人式のことを思い出し、分析してみる。
5.	「一人前」とは(その2):何をもって、人は一人前と認められるのか。2回目は仕事量と一人前の関係を考える。	自分のアルバイト経験などを思い出し、仕事と一人前の関係を考えてみる。
6.	「一人前」とは(その3):何をもって、人は一人前と認められるのか。3回目は身体的成長について考える。とくに初潮祝いの儀礼をとりあげ、そこに現れる人々の期待を探る。	『女の眼でみる民俗学』1章(中村ひろ子)「女になる」に目を通してみる。
7.	「一人前」とは(その4):月経小屋、産小屋の存在からケガレとは何かという問題を取り上げる。さらに女性排除の論理についても言及する。	近藤直也『ケガレとしての花嫁』に目を通してみる。
8.	「一人前」とは(その5):結婚することと一人前と認められることの関係を考える。また、女性(あるいは男性)の帰属の問題にも言及する。	『女の眼でみる民俗学』2章(蓼沼康子)「様々な婚姻」に目を通してみる。
9.	一人前とは(その6):一人前を意識させる儀礼についての記録映像を見る。	自分が一人前と思えたシーンを思い出し、これまでの講義内容と絡めて考察してみる。
10.	「〇〇らしさ」を作る躾(教育)について:一人前の大人、女、男を作るための教育(躾)について考える。	『女の眼でみる民俗学』4章(倉石あつ子)「子育ての世界」に目を通してみる。
11.	衣服と社会的立場との関わりについて:衣服は成長段階あるいは社会的位置を表出する機能を持つ。具体例を提示しながら、過去だけではなく、現代でもその機能があることに気づいて頂きたい。	松崎憲三編『人生の装飾法』に目を通してみる。
12.	成長儀礼と葬送儀礼(その1):成長儀礼の具体事例を提示し、そこに現れる霊魂観について考える。	『女の眼でみる民俗学』7章(浅野久枝)「女の死」に目を通してみる。
13.	成長儀礼と葬送儀礼(その2):葬送儀礼の具体事例を提示し、成長儀礼との類似性をどのように考えるべきかを考える。	古家信平他編『現代民俗学入門』4章「生と死」に目を通してみる。
14.	死後の世界に投影される現世社会の期待:死後の世界を想定してきた文化では、その観念が現代を生きる人にどのように影響したのかを考える。二つの世界を媒介する霊能者の存在にも言及する。	古家信平他編『現代民俗学入門』4章「生と死」に目を通してみる。
15.	総括:過去の事例を多く取り上げたが、現代を生きる上で、これらの考え方がどのように使えるかを確認する。	これまでの講義内容を思い出し、自分のこれからの生き方を考えてみる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

民俗学Aと同様、身近な日常生活や身近な人々、あたりまえとされる事柄に、普段から新たな目を向けるよう、心がけていただきたい。とくに、毎回の講義で提起する問題は、諸君自身が生きていく上で対峙していくべき問題であるので、民俗事象に驚いたりするだけでなく、あるいはその時だけの聞き流しにせず、時間をかけてじっくり考え、次週の講義に臨むこと。

春学期の民俗学Aに積み重ねるものとして講義内容を組み立てているため、この講義の受講希望者は、民俗学Aを履修済みであることが望ましい。 また、レポートにおいても民俗学Aよりも高度な調査が要求されることを留意されたい。

フィードバックの方法:

毎回、講義終了時にコメントカードを書いて頂く。その内容のコメントや質問に対する答えを、翌週の講義にて口頭で伝える。

レポートについては返却は考えていないが、希望者にはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	70	レポートは、講義内容とからめて、自らの民俗調査によるものを提出していただき、講義時に示した民俗学的見地達成目標を、自分の問題としてとらえられているかどうかを評価する。
出席およびコメントカード	30	コメントカードの内容によって、講義に積極的に関わり、思考を深めているかどうかを判断する。出席はコメントカードによって確認するが、何も記載が無い、あるいは投げやりな内容のものは出席とは認めない。なお、欠席は、5回までは認めるが、それ以上の欠席はレポート提出の資格がないものとする。

教科書:

参考書: 中村ひろ子他著『女の眼でみる民俗学』(高文研)
松崎憲三編『人生の装飾法』 (筑摩新書)
古家信平他編『現代民俗学入門』(吉川弘文館)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法: 授業の前後に教室で対応する。必要な場合にはEメールでも可。アドレスは第1回目の講義に伝える。

230360

日本古典文学史A

飯塚　　ひろみ

授業テーマ:　文学作品から見る文学史（上代～平安期）

授業の概要:　代表的な文学作品を鑑賞しながら、それらの作品が生まれるに至った地理的・文化的な背景についての知識や理解を深める。

到達目標:　上代～平安期の古典文学の基礎的事項や歴史的変遷を理解する。
文学史の表面的な理解にとどまらず、時代背景や人物関係にも目を配れるようになる。

授業方法:　講義形式。
作品を取り巻く背景や人物構図を解説してから作品鑑賞にうつる。
ときとして履修者にも講読や考察を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文学史の基礎知識（文学史の時代区分他）	文学史年表に目を通しておくこと
2.	古事記・日本書紀	
3.	古今集以前	
4.	古今集の時代	勅撰和歌集について把握しておくこと
5.	醍醐天皇と文学作品	
6.	後撰集の時代	
7.	村上天皇と文学作品	
8.	拾遺集の時代	
9.	花山天皇と文学作品	
10.	『蜻蛉日記』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
11.	『枕草子』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
12.	『和泉式部日記』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
13.	『紫式部日記』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
14.	『源氏物語』とその周辺	作品概要を把握しておくこと
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　作品の舞台となる場所には積極的に足を運んでください。
博物館の見学等も常に心がけてください。

フィードバックの方法:　コメントペーパーの内容について、必要に応じて教室内で回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	85%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
授業への参加態度	15%	到達目標に近づこうとしているかをコメントペーパーで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

230460

日本古典文学史B

佐藤　　愛弓

授業テーマ:　日本古典文学史

授業の概要:　日本古典文学の基礎的事項や歴史的変遷について学ぶ。
　文学行為の背景にある日本文化史について理解を深める。古典文学のテキストとそれを生み出すに至った時代について、総合的に考えてゆく。

到達目標:　知識を暗記することではなく、文学史の流れと歴史の変遷を連動させて理解する事を求めます。
毎回の授業の主旨を歴史の流れとともに理解してください。

授業方法:　随時プリントを配布しながら、文学史の流れについて講義していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　時代区分概観文学以前（文字の受容と使用）	これまでの文学史知識を復習しておく。
2.	律令国家の形成と『古事記』『日本書紀』（その１）（『古事記』と『日本書紀』それぞれの成立事情）	前回の授業内容を確認しておく。
3.	律令国家の形成と『古事記』『日本書紀』（その２）（『古事記』と『日本書紀』それぞれの特徴）	前回の授業内容を確認しておく。
4.	中古文学概観	第１回から第３回までの授業の流れをまとめておく。
5.	国風文化の開花と日記文学の隆盛（その１）（漢文日記から仮名日記へ『土佐日記』、『古今和歌集』仮名序）	前回の授業内容を確認しておく。
6.	国風文化の開花と日記文学の隆盛（その２）（女流日記の隆盛『蜻蛉日記』）	前回の授業内容を確認しておく。
7.	国風文化の開花と日記文学の隆盛（その３）（女流日記の隆盛『紫式部日記』『和泉式部日記』）	前回の授業内容を確認しておく。
8.	物語文学の隆盛と摂関政治（その１）（伝奇物語と歌物語それぞれの特徴『竹取物語』）	第４回から第７回までの授業の流れをまとめておく。
9.	物語文学の隆盛と摂関政治（その２）（伝奇物語と歌物語それぞれの特徴『伊勢物語』）	前回の授業内容を確認しておく。
10.	物語文学の隆盛と摂関政治（その３）（一条朝と女房の文学『源氏物語』）	前回の授業内容を確認しておく。
11.	『源氏物語』以降の物語（院政期の社会変化と文学『とりかへばや物語』『浜松中納言物語』）	前回の授業内容を確認しておく。
12.	中世文学概観	第８回から第１１回までの授業の流れをまとめておく。
13.	説話集の時代（その１）（院政期の社会変化と価値観の変動『今昔物語集』）	前回の授業内容を確認しておく。
14.	説話集の時代（その２）（混乱の時代の試み『十訓抄』『古今著聞集』『沙石集』）	第１２回から第１４回までの授業の流れをまとめておく。
15.	まとめ	これまでの授業内容をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末のテスト	85	到達目標「文学史の流れと歴史の変遷を連動させて理解する事」に関する理解度により評価する。
平常点	15	毎回の出席、授業中の発言などを総合的に評価する。なお全授業の3分の1を欠席した場合、期末テストの受験資格を認めない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

230560

漢文学A

丹羽　　博之

授業テーマ:　中国の先哲の智慧と日本人・日本文学

授業の概要:　中国の種々の古典を講読し、先人の知恵を学び、自分の人生に活かせるように指導する。中国の古典と日本文学との関係を解説し、「枕草子」や「奥の細道」にも影響を与えていることとを話す。また五言絶句・律詩など漢詩の形式について概説する。

到達目標:
中国文学・漢詩の理解
漢文訓読法の総復習と習熟
先哲の智慧の理解とそれを自分の人生に活かす
中国文学と日本文学の関係の理解

授業方法:　教科書を中心に、授業を進める。随時プリント配布。作品は学生が朗読。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	漢文訓読法の総復習	返り点・送り仮名・振りがな等訓読の基本を復習してくること。
2.	故事成語①・守株と待ちぼうけ。五十歩百歩。	事前に指定された漢文をノートに写し解説を読んでくること。
3.	故事成語②・隗より始めよ。	事前に指定された漢文をノートに写し解説を読んでくること。
4.	論語と孔子	事前に指定された論語をノートに写し解説を読んでくること。
5.	老子の思想	事前に指定された老子をノートに写し解説を読んでくること。
6.	荘子の思想	事前に指定された荘子をノートに写し解説を読んでくること。
7.	史記の世界・四面楚歌	事前に指定された史記をノートに写し解説を読んでくること。
8.	史記の世界・函谷関の故事と清少納言	事前に指定された史記をノートに写し解説を読んでくること。
9.	陶淵明と桃花源記	事前に指定された桃花源記ををノートに写し解説を読んでくること。
10.	李白と「春夜宴桃李園序」と「奥の細道」	事前に指定された序をノートに写し解説を読んでくること。
11.	蘇軾「赤壁賦」	事前に指定された賦をノートに写し解説を読んでくること。
12.	韓愈「雑説」	事前配布のプリントの作品をノートに写し、意味を調べてくること。
13.	五言絶句と五言律詩	事前配布のプリントの漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。
14.	七言絶句と七言律詩	事前に配布した漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。
15.	まとめ	１４回分の総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　漢和辞典をしっかり引いてください。本文をノートに写してきてください。熱心な受講を望みます。

フィードバックの方法:
・教室でまとめて解説する。
・教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標：漢詩と白楽天に関する知識や理解度により評価する。
レポート	40	課題図書２点の感想、レポート提出。５月末・６月末締め切り

教科書:　興膳宏「中国の名文」岩波新書

参考書:
一海知義「漢語の知識」岩波書店
石川忠久「漢詩鑑賞事典」講談社
松浦友久「中国名詩集」朝日文庫
阿辻哲次「漢字を楽しむ」講談社現代新書
高島俊男「漢字雑談」講談社現代新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法:　h-niwa@otemae.ac.jp

230660 **漢文学B**

丹羽　　博之

授業テーマ:　中国の先哲の智慧と日本人・日本文学

授業の概要:　中国の種々の古典を講読し、先人の知恵を学び、自分の人生に活かせるように指導する。中国の古典と日本文学との関係を解説し、「仰げば尊し」や「山月記」にも影響を与えていることとを話す。また五言絶句・律詩など漢詩の形式について概説する。

到達目標:
中国文学・漢詩の理解
漢文訓読法の総復習と習熟
先哲の智慧の理解とそれを自分の人生に活かす
中国文学と日本文学の関係の理解

授業方法:　配布資料を中心に、授業を進める。作品は学生が朗読。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	漢文訓読法の総復習	返り点・送り仮名・振りがな等訓読の基本を復習してくること。
2.	故事成語①虎の威を借る狐。	事前に指定された漢文をノートに写し解説を読んでくること。
3.	故事成語②蛍雪の功・刻集舟求剣。	事前に指定された漢文をノートに写し解説を読んでくること。
4.	論語と孔子	事前に指定された論語をノートに写し解説を読んでくること。
5.	韓非子の思想	事前に指定された韓非子をノートに写し解説を読んでくること。
6.	荘子の思想	事前に指定された荘子をノートに写し解説を読んでくること。
7.	史記の世界・鴻門の会	事前に指定された史記をノートに写し解説を読んでくること。
8.	史記の世界・李将軍と成蹊の故事	事前に指定された史記をノートに写し解説を読んでくること。
9.	孝経と「仰げば尊し」	事前に指定された孝経をノートに写し解説を読んでくること。
10.	文章規範	事前に指定された漢文をノートに写し解説を読んでくること。
11.	文選と「出師の表」	事前に指定された「出師の表」をノートに写し解説を読んでくること。
12.	「人虎伝」と「山月記」	事前配布のプリントの作品をノートに写し、意味を調べてくること。
13.	五言絶句と五言律詩	事前配布のプリントの漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。
14.	七言絶句と七言律詩	事前に配布した漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。
15.	まとめ	１４回分の総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　漢和辞典をしっかり引いてください。本文をノートに写してきてください。熱心な受講を望みます。

フィードバックの方法:
・教室でまとめて解説する。
・教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標：漢詩と白楽天に関する知識や理解度により評価する。
レポート	40	課題図書２点の感想、レポート提出。１１月末・１２月末締め切り

教科書:

参考書:
一海知義「漢語の知識」岩波書店
村上哲見「漢詩の名句・名吟」講談社現代新書
山本昌弘「漢字遊び」講談社現代新書
小駒勝美「漢字は日本語である」新潮社
今鷹真「蒙求」角川ソフィア文庫
植木久行「唐詩歳時記」講談社学術文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法:　h-niwa@otemae.ac.jp

230760

古典芸能A

有松　　遼一

授業テーマ:　能の表現

授業の概要:
日本の伝統芸能のひとつである「能」を取り扱う。
無駄なものを徹底的に削ぎ落とした剽いシンプルな能の表現は、かえって観客の想像を豊かにさせ、真実の表現を達成する。
講義では、さまざまな演目を題材に、能の言葉・所作・音楽などを具体的にひとつずつ分析する。能が描き出そうとするのは、人間の心であり、これは時代を経ても変わらない。現代の私たちの人生経験と積極的に照らし合わせながら、「能は古臭くて縁遠いもの」という先入観を融解させていく。
舞台の現場に立つ能楽師の言葉に耳を傾けて、能の面白さを是非味わってほしい。

到達目標:
・能の表現と形式を学び、能の言葉・所作・音楽などを具体的に理解する。
・能が描き出す人間の心を、自分の人生経験と積極的に照らし合わせて鑑賞する。
・能が現代に生きる芸能・舞台芸術であることを理解する。

授業方法:　講義形式。各授業の最後にミニカード（感想など）の記入を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	能とはどのような芸能か	特になし。
2.	能の構成	前回の講義を復習しておくこと。
3.	能の美しさ	能《羽衣》の詞章を通読しておくとよい。
4.	愛と忠義	能《巴》の詞章を通読しておくとよい。
5.	「人待つ女」	能《井筒》の詞章を通読しておくとよい。
6.	人間の執心	能《葵上》の詞章を通読しておくとよい。
7.	昔を思う	能《融》の詞章を通読しておくとよい。
8.	神の降臨	能《龍田》の詞章を通読しておくとよい。
9.	愛と孤独	能《楊貴妃》の詞章を通読しておくとよい。
10.	祝言ということ	能《高砂》の詞章を通読しておくとよい。
11.	信光の工夫	能《紅葉狩》の詞章を通読しておくとよい。
12.	力	能《安宅》の詞章を通読しておくとよい。
13.	子を思う心	能《隅田川》の詞章を通読しておくとよい。
14.	能とは何か	能《道成寺》の詞章を通読しておくとよい。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義では主題の一曲すべての詞章を扱い得ないので、詞章や本説に関する自主的な学習を期待する。

フィードバックの方法:
授業末のミニカードに関して、次回の講義でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点（出席やミニカード）	40	授業に積極的に参加しているかを評価する。
定期試験	60	講義内容の理解度により評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応。

230860

古典芸能B

倉橋　　正恵

授業テーマ:　芸能文化の広がり

授業の概要:　歌舞伎作品の映像鑑賞をしながら歌舞伎の歴史を理解した上で、江戸時代における歌舞伎興行の行われ方や、歌舞伎から派生した芸能文化の広がりについても理解を深める。

到達目標:
・歌舞伎作品鑑賞を行えるように基礎と歴史を理解する。
・歌舞伎と他の芸能、歌舞伎と他の芸術との交流や影響関係を理解する。

授業方法:　歌舞伎の基本的な約束事や用語を具体的に説明しながら、さまざまな分野の文献史料の訳読を行い、歌舞伎の表現方法の確認する。また、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	歌舞伎の歴史1 出雲の阿国、遊女歌舞伎、若衆歌舞伎	歌舞伎踊りについての事前学習
2.	歌舞伎の歴史2 野郎歌舞伎、元禄歌舞伎	野郎歌舞伎、元禄歌舞伎、元禄時代についての事前学習
3.	歌舞伎の歴史3 荒事・和事	市川団十郎、坂田藤十郎についての事前学習
4.	歌舞伎映像鑑賞1 荒事の映像鑑賞	映像鑑賞作品についての事前学習
5.	歌舞伎映像鑑賞2 和事の映像鑑賞	映像鑑賞作品についての事前学習
6.	歌舞伎の歴史4 18世紀の歌舞伎	劇場建築、並木正三、並木五瓶についての事前学習
7.	歌舞伎映像鑑賞3 歌舞伎と文楽	映像鑑賞作品についての事前学習
8.	歌舞伎映像鑑賞5 歌舞伎と文楽	映像鑑賞作品についての事前学習
9.	歌舞伎の歴史5 鶴屋南北	鶴屋南北についての事前学習
10.	歌舞伎映像鑑賞6 生世話	映像鑑賞作品についての事前学習
11.	歌舞伎の歴史6 歌舞伎十八番、勧進帳、天保改革	七代目市川団十郎についての事前学習
12.	歌舞伎映像鑑賞7 歌舞伎十八番	映像鑑賞作品についての事前学習
13.	歌舞伎の歴史7 河竹黙阿弥	河竹黙阿弥についての事前学習
14.	女形の芸と所作事	女形、歌舞伎舞踊についての事前学習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　観劇レポートを課すため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。また、講義中に画像や映像を伴って解説するため、定期試験もその点を重視した出題となる事を考慮して受講すること。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	歌舞伎に対する基礎知識や、歴史、他の芸能や芸術との影響関係に関する理解度により評価する。
観劇レポート	20	実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。

教科書:

参考書:　服部幸雄『絵で読む歌舞伎の歴史』(平凡社、2008年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。

230960

上代文献講読A

垣見　　修司

授業テーマ:　万葉集の名歌を読む

授業の概要:　日本上代の和歌集である『万葉集』は，仮名が成立していなかった時代に日本語を漢字で記そうとした文学作品であるため、読解は漢字を読むことが基本となる。『万葉集』を読むことは，当時，日本語がどのように話されていたかを意識しつつ、当時の人々がどのように漢字を学び用いて、日本語を書き表そうとしていたかを知ることでもある。そのための基本的な知識を身につけることに加えて、『万葉集』の時代背景と地理・環境への理解を深める。

到達目標:　『万葉集』を読むことができるようになる知識と考え方を身につけることを目標とする。

授業方法:　『万葉集』の歌群を読み、和歌表現を理解する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1講万葉集の概要（導入）	復習
2.	第2講万葉集の巻頭歌群1	復習
3.	第3講万葉集の巻頭歌群2	復習
4.	第4講万葉集の巻頭歌群3	復習
5.	第5講額田王の歌1	復習
6.	第6講額田王の歌2	復習
7.	第7講額田王の歌3	復習
8.	第8講皇子皇女の歌1	復習
9.	第9講皇子皇女の歌2	復習
10.	第10講皇子皇女の歌3	復習
11.	第11講柿本人麻呂の歌1	復習
12.	第12講柿本人麻呂の歌2	復習
13.	第13講柿本人麻呂の歌3	復習
14.	第14講 まとめ1	復習
15.	第15講　　まとめ2	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義の進捗状況により，変更することがある。

フィードバックの方法:　毎回コメントシートに感想や疑問点、質問を記入し、提出させることで出席をとる。次回冒頭にコメントシートに書かれた質問等に回答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40%	出席、授業時の課題への取り組み姿勢およびコメントシートへの記入を基準とする。
期末レポート	60%	2000字程度のレポートを課し、与えられた課題に的確に答えられているかを基準とする。

教科書:　井手至・毛利正守編 『新校注萬葉集』（和泉書院）
坂本信幸・毛利正守編 『万葉事始』（和泉書院）

参考書:　授業時にその都度指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

231060

上代文献講読B

吉野　　政治

授業テーマ:　古事記の神話

授業の概要:　日本上代文学の代表的作品の一つ『古事記』の上巻を原文から読みすすめる。

到達目標:
①日本神話の内容を知る。
②和化漢文体という日本語表記の一つの形式を知る。
③上代日本語を理解できるようになる。

授業方法:　講義。可能ならば時に演習形態をとりたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	古事記概説(講義)	日本文学史における『古事記』の位置を復習しておくこと
2.	序文(講義)	天武天皇の事績について調べておくこと
3.	国土誕生から三貴神誕生まで	あらかじめテキストによって原文の読みを試みておくこと
4.	天照大御神とスサノオのうけひ	同上
5.	天の岩戸	同上
6.	五穀の起源	同上
7.	ヤマタノオロチ スサノオとクシナダ姫との結婚	同上
8.	因幡の白兎	同上
9.	根の国訪問	同上
10.	八千矛の歌物語	同上
11.	国譲り	同上
12.	天孫降臨	同上
13.	木の花咲くや姫	同上
14.	海幸彦と山幸彦	同上
15.	中巻の神武天皇記概説	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　「授業の内容」は状況によって変更することがある。

フィードバックの方法:　毎回授業時に出席確認のための用紙を配布します。それに感想や質問を記してください。翌週に回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席点	20	毎時回収する感想や質問の内容も評価する。
レポート	80	独自の問題意識を持つものを高く評価する。

教科書:　西宮一民編『古事記　修訂版』　(株)おうふう

参考書:　授業時に随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　OA。および授業時に配布する質問用紙。

231160

平安文献講読A

吉海　　直人

授業テーマ:　百人一首の和歌的研究をめざして

授業の概要:　勅撰集の入門書としての性格を有する百人一首をテキストにして、平安時代の和歌の特徴を探っていく。あわせて百人一首という作品の特殊性をも考えてみる。

到達目標:　百人一首の学習を通して、平安時代の和歌の特徴や和歌の技法に触れる。あわせて歌語の時代的変遷を探り、百人一首がどのような和歌を撰入させているかを考えてみる。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 百人一首について	百人一首に一通り目を通してほしい。
2.	万葉時代の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の万葉歌に目を通しておく。
3.	古今集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の古今集歌に目を通しておく。
4.	引き続き古今集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の古今集歌に目を通しておく。
5.	後撰集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の後撰集歌に目を通しておく。
6.	拾遺集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の拾遺集歌に目を通しておく。
7.	後拾遺集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の後拾遺集歌に目を通しておく。
8.	金葉集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首金葉集歌に目を通しておく。
9.	詞花集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の詞花集歌に目を通しておく。
10.	千載集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の千載集歌に目を通しておく
11.	新古今集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の新古今集歌に目を通しておく。
12.	新古今集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の新古今集歌に目を通しておく。
13.	新勅撰集の和歌を取り上げて講義する	百人一首の新勅撰集歌に目を通しておく。
14.	新勅撰集の和歌を取り上げて講義する。	百人一首の新勅撰集歌に目を通しておく。
15.	続後撰集の和歌を取り上げて講義する。 総括	百人一首の続後撰集歌に目を通しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な授業への参加を望む。

フィードバックの方法:　質問や相談はいつでも教室や研究室で受け付ける。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	学期末のレポートによって評価する。授業への積極的な参加も加味する。

教科書:　吉海直人著『百人一首で読み解く平安時代』角川選書　定価1890円

参考書:　吉海直人著『百人一首の正体』角川ソフィア文庫　定価782円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　教室及び研究室でいつでも対応します

231260

平安文献講読B

吉海　　直人

授業テーマ:　百人一首の文化的研究をめざして

授業の概要:　百人一首の享受史をたどる。特にかるたと融合した後の享受史を追ってみたい。あわせて浮世絵や川柳などとの融合にも触れる。百人一首の文化的な魅力を発掘してみよう。

到達目標:　百人一首の文化的価値の高さを認識する。百人一首の享受史を通して、百人一首がいかに一般大衆化していったかを知ってほしい。近世以降、かるたと融合することが百人一首にとってどのような効果があったのか、を考えてほしい。さらに百人一首の国際化についても考えてみたい。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 百人一首の成立について	百人一首の成立について考えてきてほしい。
2.	百人秀歌と小倉色紙について	百人秀歌について調べてきてほしい。
3.	小倉百人一首という書名について	「小倉」の意味を考えてきてほしい。
4.	撰ばれた歌人、撰ばれた歌について	撰ばれた歌人の妥当性、撰ばれた歌の妥当性を考えてきてほしい。
5.	連歌師宗祇について	宗祇の文学史的位置づけを調べておいてほしい。
6.	歌かるたの誕生	カルタの伝来毛色を調べておいてほしい。
7.	歌仙絵に注目	百人一首の歌仙絵を見ておいてほしい。
8.	百人一首かるたの大衆化	肉筆と木版の違いを調べておいてほしい。
9.	浮世絵になった百人一首	浮世絵について調べておいてほしい。
10.	川柳に読まれた百人一首	川柳・狂歌について調べておいてほしい。
11.	明治の百人一首かるた	尾崎紅葉『金色夜叉』に目を通しておいてほしい。
12.	競技かるたの誕生	競技かるたの歴史について調べておいてほしい。
13.	近代文学の中の百人一首	近代文学の中に登場している百人一首（歌・歌人・かるた）について調べておいてほしい。
14.	小倉山荘の謎	藤原定家の小倉山荘について調べておいてほしい。
15.	競技かるたの国際化 （ちはやふる）	マンガ「ちはやふる」についての感想をまとめておいてほしい。

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な授業への参加を望む。

フィードバックの方法:　質問や相談はいつでも教室や研究室で受け付ける。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	学期末のレポートによって評価する。授業への積極的な参加も加味する。

教科書:　吉海直人著『百人一首の正体』角川ソフィア文庫　定価782円

参考書:　吉海直人著『百人一首で読み解く平安時代』角川選書　定価1890円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　教室及び研究室でいつでも対応します

231360

中世文献講読A

佐藤　　愛弓

授業テーマ:　説話と伝説の中世

授業の概要:　中世の説話や伝説の研究には、さまざまな研究方法がある。
　この授業では、説話作品をその研究方法とともに紹介し、それによってどのようなことが明らかになるのか解説する。

到達目標:　本授業は、さまざまな作品例をもって解説をしていくが、その主旨は、研究方法を伝える事にある。
レポートに向けて、毎回の授業の主旨を理解して、自ら応用できるようになることをめざす。

授業方法:　ストーリーを想像しながら着実に理解することを重視するため、現代語訳付きのプリントを用意し、ポイントとなるところは板書して確認していく。
また作品の背景となった時代についての基礎知識も随時紹介する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 説話文学概観	
2.	【研究方法その一】同話、類話と比較する。 蝉丸説話の変遷 『今昔物語集』の蝉丸説話	前回の授業内容を確認しておく。
3.	貴族の言談の中の蝉丸	前回の授業内容を確認しておく。
4.	軍記や謡曲にあらわれる蝉丸	前回の授業内容を確認しておく。
5.	【研究方法その二】歴史資料に関連記事をさがす。 真夜中の殺害事件 『今昔物語集』に記された事件の顛末	第１回から第4回までの授業内容をまとめておく。
6.	被害者の肖像－関連資料からうかびあがる被害者の真実－	前回の授業内容を確認しておく。
7.	加害者の肖像－関連資料からうかびあがる加害者の真実－	前回の授業内容を確認しておく。
8.	事件の真相ー歴史書から読み解く真相と『今昔』の表現－	前回の授業内容を確認しておく。
9.	【研究方法その三】前後の話から考える。 空飛ぶ亀の話 『真言伝』貞崇伝にあらわれた亀	第5回から第8回までの授業内容をまとめておく。
10.	亀の正体－年紀から読み解く－	前回の授業内容を確認しておく。
11.	事件の背景－前後の説話から読み解く－	前回の授業内容を確認しておく。
12.	【研究方法その四】思想展開から考える 山中で出会う美女	第9回から第１１回までの授業内容をまとめておく。
13.	美女の正体	前回の授業内容を確認しておく。
14.	該当説話の思想的背景	前回の授業内容を確認しておく。
15.	総括ーレポートに向けてー	第１２回から第１４回までの授業内容をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	85	授業で紹介した4つの研究手法を参考にして、具体的に説話作品を分析できているかどうかを評価する。
平常点	15	毎回の出席、授業中の発言などを総合的に評価する。なお全授業の3分の1を欠席した場合、レポートの提出資格を認めない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

231460

中世文献講読B

小林　　賢章

授業テーマ:

授業の概要:　『保元物語』を読む

到達目標:　軍記の文体が読めるようになる。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概説	『保元物語』を読んでくること
2.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
3.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
4.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
5.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
6.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
7.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
8.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
9.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
10.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
11.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
12.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
13.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
14.	教科書2ページ分読む	前回の問題点を指摘できるようにしてくること
15.	まとめ	テスト準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　軍記はどう読むのかの基礎を楽しむ

フィードバックの方法:　テスト

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	60%	
テスト	40%	本文が理解できているか

教科書:　『保元物語』日下力（角川文庫）

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　メール　soumen1949@docoo.ne.jp

231560

近世文献講読A

倉橋　　正恵

授業テーマ:　近世版本（草双紙）を読む

授業の概要:　江戸時代に出版された黄表紙『桃太郎後日噺』を読みながら、言葉・構想・主題・絵画表現を解読すると共に、近世期の言語感覚と江戸文化事象との関わり方を理解する。

到達目標:
・近世文学史の基礎を理解する。
・近世期の言語・絵画・文化・風俗を理解する。

授業方法:　本文テキストと注釈による受講生による発表を主とした講読形式とする。発表担当以外の受講生も本文の音読を求め、適宜、内容に関する質疑応答によって理解を深める。注釈には、テキスト以外の絵図や写真などの画像資料を広範囲に活用する。受講者数によっては、グループ発表にするなど授業の進行を変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	近世文学史・書誌学の基礎知識1	近世文学史、書誌学についての事前学習
2.	近世文学史・書誌学の基礎知識2	近世文学史、書誌学についての事前学習
3.	黄表紙『桃太郎後日噺』とは	朋誠堂喜三二、恋川春町についての事前学習
4.	『桃太郎後日噺』の講読1	発表箇所についての事前学習
5.	『桃太郎後日噺』の講読2	発表箇所についての事前学習
6.	『桃太郎後日噺』の講読3	発表箇所についての事前学習
7.	『桃太郎後日噺』の講読4	発表箇所についての事前学習
8.	『桃太郎後日噺』の講読5	発表箇所についての事前学習
9.	『桃太郎後日噺』の講読6	発表箇所についての事前学習
10.	『桃太郎後日噺』の講読7	発表箇所についての事前学習
11.	『桃太郎後日噺』の講読8	発表箇所についての事前学習
12.	『桃太郎後日噺』の講読9	発表箇所についての事前学習
13.	『桃太郎後日噺』の講読10	発表箇所についての事前学習
14.	『桃太郎後日噺』の講読11	発表箇所についての事前学習
15.	『桃太郎後日噺』の講読12	発表箇所についての事前学習

受講者へのメッセージやアドバイス:　テキストに掲げた注釈書の本文テキストだけでなく、他の収録作品も通読し、毎回の質疑応答にそなえること。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのか、または独自の視点を明確にし、その理由を論理的に説明できるかを基準とする。
発表、討論	30	発表資料の完成度、討論では到達目標をふまえた上で発言しているかを評価する。
授業への積極的参加度	20	積極的に授業へ参加し、講読作品を解釈・鑑賞できるようになったかを評価する。

教科書:

参考書:　『江戸の戯作絵本（一）』（教養文庫1037、1980）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。

231660

近世文献講読B

倉橋　　正恵

授業テーマ:　近世版本（草双紙）を読む

授業の概要:　江戸時代に出版された黄表紙『鬼の趣向草（おにのしこぐさ）』を読みながら、言葉・構想・主題・絵画表現を解読すると共に、近世期の言語感覚と江戸文化事象、出版文化との関わり方を理解する。

到達目標:
・近世文学史の基礎を理解する。
・近世期の言語・絵画・文化・風俗・出版を理解する。

授業方法:　本文テキストと注釈による受講生による発表を主とした講読形式とする。発表担当以外の受講生も本文の音読を求め、適宜、内容に関する質疑応答によって理解を深める。注釈には、テキスト以外の絵図や写真などの画像資料を広範囲に活用する。受講者数によっては、グループ発表にするなど授業の進行を変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	近世文学史・書誌学の基礎知識1	近世文学史、書誌学についての事前学習
2.	近世文学史・書誌学の基礎知識2	近世文学史、書誌学についての事前学習
3.	『鬼の趣向草』とは	黄表紙についての事前学習
4.	『鬼の趣向草』の講読1	発表箇所についての事前学習
5.	『鬼の趣向草』の講読2	発表箇所についての事前学習
6.	『鬼の趣向草』の講読3	発表箇所についての事前学習
7.	『鬼の趣向草』の講読4	発表箇所についての事前学習
8.	『鬼の趣向草』の講読5	発表箇所についての事前学習
9.	『鬼の趣向草』の講読6	発表箇所についての事前学習
10.	『鬼の趣向草』の講読7	発表箇所についての事前学習
11.	『鬼の趣向草』の講読8	発表箇所についての事前学習
12.	『鬼の趣向草』の講読9	発表箇所についての事前学習
13.	『鬼の趣向草』の講読10	発表箇所についての事前学習
14.	『鬼の趣向草』の講読11	発表箇所についての事前学習
15.	『鬼の趣向草』の講読12	発表箇所についての事前学習

受講者へのメッセージやアドバイス:　参考書に掲げた注釈書の本文テキストだけでなく、他の収録作品も通読し、毎回の質疑応答にそなえること。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標を理解した上で、自分がどの立場を取るのか、または独自の視点を明確にし、その理由を論理的に説明できるかを基準とする。
発表、討論	30	発表資料の完成度、討論では到達目標をふまえた上で発言しているかを評価する。
授業への積極的参加度	20	積極的に授業へ参加し、講読作品を解釈・鑑賞できるようになったかを評価する。

教科書:

参考書:　アダム・カバット、『大江戸化物細見』（小学館、2000年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。

231760

漢文学特講A

丹羽　　博之

授業テーマ:　白楽天の文学と人生と日本文学

授業の概要:　白楽天の前半の人生とその作品を講読し、白楽天の文学を理解する。次に、日本文学に受容された作品を紹介する。彼の処女作とされる作品と日本文学との関係を講義し、五言律詩など漢詩の形式について概説する。そのあと、「王昭君」「長恨歌」「琵琶行」などの彼の代表作品を講読し、日本文学との関係についても言及する。次に、七夕伝説の日中韓国の比較、七夕伝説のルーツなども解説する。最後に「蛍の光」の背景を紹介する。

到達目標:
中国文学・漢詩の理解
漢文訓読法の総復習と習熟
白楽天の人生と文学の理解
白楽天の文学と日本文学の関係の理解
中国文学と日本文学の関係の理解

授業方法:　教科書を中心に、授業を進める。随時プリント配布。作品は学生が朗読。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	白楽天の人生と文学の説明。	教科書の白楽天の解説を読んでくること。
2.	白楽天の16歳の処女作の講読と日本文学への影響。	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
3.	白楽天の「王昭君」詩の講読。	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
4.	白楽天の「新楽府」の「売炭翁」詩の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
5.	「長恨歌」前半の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
6.	「長恨歌」後半の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
7.	「琵琶行」前半の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
8.	「琵琶行」後半の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
9.	「香炉峰の雪」詩の講読・菅家文草・枕草子への影響	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
10.	白楽天のの「燕」詩の講読・王維との関係	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
11.	白楽天の「燕」詩と日本文学	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
12.	七夕伝説・鵲の姿と声	事前配布のプリントの漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。
13.	滝廉太郎「花」と古典:明治時代に発表され、今なお人気の高い「花」「箱根八里」の歌詞と古典文学の関係を解説。	事前配布のプリントの漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。
14.	蛍の光:スコットランド民謡が明治時代に日本に伝わり、中国の故事「蛍雪之功」を利用して歌われたことを紹介。	事前に配布した蛍雪の故事をノートに写し、意味を調べてくること。
15.	まとめ	14回分の総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　漢和辞典をしっかり引いてください。本文をノートに写してきてください。熱心な受講を望みます。

フィードバックの方法:
・教室でまとめて解説する。
・教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標:漢詩と白楽天に関する知識や理解度により評価する。
レポート	40	課題図書2点の感想、レポート提出。5月末・6月末締め切り

教科書:　川合康三「白楽天詩選(上)岩波文庫

参考書:
一海知義「漢詩入門」岩波書店
石川忠久「漢詩鑑賞事典」講談社
松浦友久「中国名詩集」朝日文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法:　h-niwa@otemae.ac.jp

231860 **漢文学特講B**

丹羽　　博之

授業テーマ:　白楽天の文学と人生と日本文学

授業の概要:　白楽天の後半の人生とその作品を講読し、白楽天の文学を理解する。次に、日本文学に受容された作品を紹介する。10回目以降は白楽天が一番力を注いだ「新楽府」を中心に講読し、彼の社会批判詩が現代の日本社会にも当てはまる部分があることを紹介。最後は、貧困にあえぐ孤児を詠んだ詩を紹介し、それがアンデルセンの「マッチ売りの少女」と酷似することを解説する。

到達目標:
中国文学・漢詩の理解
漢文訓読法の総復習と習熟
白楽天の人生と文学の理解
白楽天の文学と日本文学の関係の理解
中国文学と日本文学の関係の理解

授業方法:　教科書を中心に、授業を進める。随時プリント配布。作品は学生が朗読。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	白楽天の人生と文学の説明。	教科書の白楽天の解説を読んでくること。
2.	薪を売る女性の漢詩	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
3.	白楽天の忠州時代の詩の講読。	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
4.	白楽天の杭州時代の詩と松尾芭蕉	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
5.	白楽天の蘇州時代の漢詩の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
6.	白楽天と平家物語	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
7.	白楽天の三友と菅原道真	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
8.	白楽天の晩年の嘆きと源氏物語	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
9.	白楽天の晩年洛陽での詩の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
10.	新楽府「新豊折臂翁」詩の講読	事前に指定された詩をノートに写し解説を読んでくること。
11.	月と望郷の詩：白楽天の友情と源氏物語	事前配布された詩をノートに写し解説を読んでくること。
12.	新楽府「紅線毯」詩の講読と「ああ野麦峠」と「女工哀史」	事前配布のプリントの漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。
13.	乃木希典「金州城下作」詩の講読	事前配布のプリントの漢詩をノートに写し、意味を調べてくること。
14.	「孤児行」の講読とマッチ売りの少女	事前に配布した蛍雪の故事をノートに写し、意味を調べてくること。
15.	まとめ	１４回分の総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　漢和辞典をしっかり引いてください。熱心な受講を望みます。

フィードバックの方法:
・教室でまとめて解説する。
・教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標：漢詩と白楽天に関する知識や理解度により評価する。
レポート	40	課題図書２点の感想、レポート提出。１０月末と１１月末

教科書:　川合康三「白楽天詩選（下）」岩波文庫

参考書:
一海知義「漢語の知識門」岩波書店
石川忠久「漢詩鑑賞事典」講談社学術文庫
村上哲見「漢詩の名句・名吟」もしくは「中国の名句名言」講談社学術新書
下定雅弘「白楽天」角川文庫
村上哲見「唐詩」講談社学術文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法:　h-niwa@otemae.ac.jp

231960

日本語の変化A

吉野　　政治

授業テーマ:　日本語の変化を時間軸に沿ってたどる。

授業の概要:　上代から近世までの各時代の資料を紹介し、それに基づくそれぞれの時代の日本語のかたちを各言語要素から講義する。

到達目標:
①各時代の日本語のかたちをそれぞれの時代の担い手との関係で理解できるようになること。
②変化の方向を理解し、将来の日本語のかたちを予測できるようになること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義の進め方などの説明	「日本語の世界」で学んだ基礎知識を復習しておくこと
2.	西洋言語学の歴史と江戸時代までの日本語研究との関係	
3.	日本語系統論	
4.	時代区分について 奈良時代以前の日本語	
5.	奈良時代の日本語①	前回の復習をしておくこと
6.	奈良時代の日本語②	同上
7.	奈良時代の日本語③	同上
8.	平安時代の日本語①	同上
9.	平安時代の日本語②	同上
10.	鎌倉室町時代の日本語①	同上
11.	鎌倉室町時代の日本語②	同上
12.	江戸時代の日本語①	同上
13.	江戸時代の日本語②	同上
14.	江戸時代の日本語③	同上
15.	まとめ	配布されたレジュメのすべてを整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回出席確認のための小紙を配布するので、それに質問などを記入してください。翌回に回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席点	20	用紙に書かれた質問や意見も考慮する。
期末試験	80	「到達目標」で設定されたことが達成されているか。

教科書:　毎回こちらで用意するレジュメによって授業を行う。

参考書:　授業時に随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業時に配布する用紙による。その他OAの時間も利用してください。

232060

日本語の変化B

吉野　　政治

授業テーマ:　日本語の変化の中に見られる多様性

授業の概要:　位相語（特に女性に関するもの）と仮名遣いの問題を中心に講義する。

到達目標:
①位相語についての知識を得る
②仮名遣についての知識を得る

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	言語変化の要因	
2.	位相と位相語	前回の授業を復習しておくこと
3.	位相語①方言1	前回の授業を復習しておくこと
4.	位相語②方言2	同右
5.	位相語③斎宮忌言葉	同右
6.	位相語④女房詞	同右
7.	位相語⑤遊女詞	同右
8.	位相語⑥現代の女性語	同右
9.	位相語⑦職業語その他	同右
10.	位相語⑧その他	同右
11.	仮名遣い概説	
12.	定家仮名遣い・行阿仮名遣い	同右
13.	契沖仮名遣い	同右
14.	現代仮名遣い	同右
15.	まとめ	毎回配布したレジュメを整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　本稿では特殊問題だけを扱うので、「日本語の変化A」を受講して全体を把握しておくことがのぞましい。

フィードバックの方法:　出席確認のために毎回配布する用紙に質問や意見を記入してください。翌週回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席点	20	出席確認用紙に書かれた質問・意見も含む。
期末テスト	80	「授業の目標」が達成されているか。

教科書:　毎回配布するレジュメによる。

参考書:　授業の中で随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　OAを利用するか。事務室経由で連絡してください。

232160

特殊講義A（上代文学）

垣見　　修司

授業テーマ:　万葉集の長歌を読む

授業の概要:　日本上代の和歌集である『万葉集』には、類歌あるいは異伝歌といわれる、ほぼ同じ内容をもつ複数の歌が存在する。一見、同一歌とも見られるそれらが具体的にどのような違いを持つのかを検討し、複雑多彩な表現のあり方を理解することを目的とする。講義では、異伝が多い巻十三の作者未詳歌、とりわけ長歌を中心に扱う。また、『万葉集』を読むための前提となる基本的な知識や方法についても解説する。

到達目標:　『万葉集』を原文で読むことができるようになる知識と考え方を身につけることを目標とする。

授業方法:　『万葉集』の歌群の原文を読み下し、和歌表現を理解する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1講万葉集の概説（1）文字と表記	復習
2.	第2講万葉集の概説（2）長歌と短歌	復習
3.	第3講旅の歌（1）都と地方	復習
4.	第4講旅の歌（2）道行きの事情	復習
5.	第5講待つ女の歌（1）男性の訪れ	復習
6.	第6講待つ女の歌（2）女性の孤独	復習
7.	第7講行路死人歌（1）旅と遭難	復習
8.	第8講行路死人歌（2）教訓と同情	復習
9.	第9講飛鳥の恋の歌（1）神への祈り	復習
10.	第10講飛鳥の恋の歌（2）隠り妻	復習
11.	第11講天武天皇歌とその類歌（1）吉野隠遁の思い	復習
12.	第12講天武天皇歌とその類歌（2）恋の思い	復習
13.	第13講片思いの歌（1）一途な女	復習
14.	第14講片思いの歌（2）鈍い男	復習
15.	第15講　　古代の文芸	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義の進捗状況により，変更することがある。

フィードバックの方法:　毎回コメントシートに感想や疑問点、質問を記入し、提出させることで出席をとる。次回冒頭にコメントシートに書かれた質問等に回答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40%	出席、授業時の課題への取り組み姿勢およびコメントシートへの記入を基準とする。
期末レポート	60%	2000字程度のレポートを課し、与えられた課題に的確に答えられているかを基準とする。

教科書:　井手至・毛利正守編 『新校注萬葉集』（和泉書院）
坂本信幸・毛利正守編 『万葉事始』（和泉書院）

参考書:　授業時にその都度指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

232260

特殊講義B（平安文学）

飯塚　　ひろみ

授業テーマ:　『源氏物語』の時代

授業の概要:　『源氏物語』が誕生した前後には、女性の手による多くの文学作品が生み出された。それらの作品を深く読み解くことにより、平安貴族社会で女性たちがどのように生き、何を記録し、何を残したのかを掴む。

到達目標:　作品を注意深く読む姿勢を身につける。
作品の中に自分なりの問題や疑問を見つけ、それについて徹底的に調査し考察する方法を得る。

授業方法:　講義形式。
各作品ごとにいくつかの場面をとりあげる。
はじめに作品を取り巻く背景や人物構図を解説してから、場面の読解にうつる。
ときとして履修者にも講読や考察を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	『源氏物語』の時代　一条天皇と藤原氏	天皇家や藤原氏の系図に目を通しておくこと
2.	『蜻蛉日記』(1)　藤原兼家と道綱母	作品概要を把握しておくこと
3.	『蜻蛉日記』(2)	
4.	『蜻蛉日記』(3)	
5.	『枕草子』(1)　藤原定子と清少納言	作品概要を把握しておくこと
6.	『枕草子』(2)	
7.	『紫式部日記』(1)　藤原道長と紫式部	作品概要を把握しておくこと
8.	『紫式部日記』(2)	
9.	『紫式部日記』(3)	
10.	『源氏物語』』(1)	作品概要を把握しておくこと
11.	『源氏物語』(2)	
12.	『源氏物語』(3)	
13.	『栄花物語』と『大鏡』	作品概要を把握しておくこと
14.	『更級日記』　源氏物語に憧れて	作品概要を把握しておくこと
15.	ふりかえり	

受講者へのメッセージやアドバイス:　作品の舞台となる場所には積極的に足を運んでください。
博物館の見学等も常に心がけてください。

フィードバックの方法:　コメントペーパーの内容について必要に応じて教室内で回答

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	85%	到達目標に関する調査結果のまとめの仕上がり度合と、どの程度独自の視点があるかを基準とする。
授業への参加態度	15%	到達目標に近づこうとしているかをコメントペーパーで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

232360

特殊講義C（中世文学）

小林　　賢章

授業テーマ:

授業の概要:　古典文学に見られる時間表現を説明する。

到達目標:　時間表現を理解する。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概説	ジャパンナレッジを使用できるようにしておくこと
2.	五更（1）	国歌大観を使用できるようにしておくこと
3.	五更（2）	東大資料編纂所データベースを使用できるようにしておくこと
4.	よもすがら（1）	小レポートの準備
5.	よもすがら（2）	小レポートの準備
6.	よもすがら（3）	小レポートの準備
7.	よもすがら（4） 小レポート提出	用例採集
8.	暁（1）	用例採集
9.	暁（2）	用例採集
10.	あけたつ・あけゆく	用例採集
11.	あけはつ・あけはなる	用例採集
12.	月かたむく 小レポート提出	用例採集
13.	入り方の月	用例採集
14.	夜一夜	用例採集
15.	明けやる 小レポート提出	用例採集

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前準備は不要だが、事後学習（用例採集）をしっかりとすること

フィードバックの方法:　小レポート提出

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	60%	用例採集をしているか
出席	40%	

教科書:　なし

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　メール　soumen1949＠docomo.ne.jp

232460

特殊講義D（近世文学）

廣瀬　　千紗子

授業テーマ:　西鶴の浮世草子を読む。

授業の概要:　江戸時代が始まって、およそ80年がたつと次々に新しい表現があらわれる。なかでも、俳諧師でもあった井原西鶴の人間観察は注意深く、現実を見る目は鋭い。しかも、その表現は巧みで、一筋縄ではいかない。すべて短編で、一見、上手いと分かるけれど、よく読むと難しいのである。浮世草子3作品から、4編を選んで精読する。

到達目標:　①原文を読解する。②表現技巧を解析する。③①②を踏まえて、示されたテーマをさらに掘り下げる。

授業方法:　講義を基本とし、適宜質疑応答し、発言を求める。質疑と授業の進行状況によって、授業内容の配分は変更する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要・到達目標・授業方法について説明し、江戸時代前期の文学史を概説する。次回に使用する資料（西鶴年譜など）を配布する。	シラバスを読んで、各自がすでに知っている西鶴についての知識をまとめておく。
2.	作家と作品①配布資料にもとづいて、西鶴の事績を説明し、西鶴作品の分類と、取り上げる作品について概説する。	１回目に配布された資料（西鶴年譜など）を読んでおく。
3.	作家と作品②配布資料にもとづいて、西鶴の事績を説明し、西鶴作品の分類と、取り上げる作品について概説する。次回のテキストと関連資料を配布する。	配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
4.	『西鶴諸国はなし』「面影の焼け残り」①（前半）。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
5.	『西鶴諸国はなし』「面影の焼け残り」②（後半）。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
6.	『西鶴諸国はなし』「面影の焼け残り」③。典拠との関連を示し、①②をふまえて相違点を考える。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
7.	『西鶴諸国はなし』「面影の焼け残り」④。①②③をふまえて発言を求め、テーマについて考える。次回のテキストと資料を配布する。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。次回に小レポートを提出する。作成要領は授業中に指示する。
8.	『武道伝来記』「踊りの中の似せ姿」①（前半）。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
9.	『武道伝来記』「踊りの中の似せ姿」②（後半）。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
10.	『武道伝来記』「踊りの中の似せ姿」③。典拠との関連を示し、①②をふまえて、表現方法について考える。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
11.	『武道伝来記』「踊りの中の似せ姿」④。①②③をふまえて、全体構想とテーマについて考える。次回のテキストと関連資料を配布する。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。次回に小レポートを提出する。作成要領は授業中に指示する。
12.	『万の文反古』「南部の人がみたも真」①。テキストと関連資料について説明。受講生にテキストの音読を求める。注釈し、留意点を指摘して読解する。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
13.	『万の文反古』「南部の人がみたも真」②。本作の類話である、西鶴『懐硯』「」を音読、注釈、読解する。本作との関連について考える。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
14.	『万の文反古』「南部の人がみたも真」③。①②をふまえて、本作の構想とテーマを考える。	テキストと配布資料を読んで、発言内容をまとめておく。
15.	各作品を振り返って全体討議。作品ごとに気付いた点、指摘できる問題について全員から発言を求める。	全体討議にむけて、各自の意見をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業では取り上げない作品についても、現代語訳を参考にしながら読んでおくとよい。

フィードバックの方法:　小レポートにコメントをつけて教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	60	到達目標①②③を総合的に評価する。
授業への参加度	40	発言・質疑応答の内容。

教科書:

参考書:
新日本古典文学大系76『好色二代男・西鶴諸国はなし・本朝二十不孝』岩波書店
新日本古典文学大系77『』武道伝来記・西鶴置土産・万の文反古』岩波書店
江本裕・谷脇理史『西鶴事典』おいふう
『西鶴と浮世草子研究』1～5　笠間書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応。オフィスアワー。

232660

書誌学A

橋本　　正俊

授業テーマ:　「本」と向き合う

授業の概要:　「本」そのものから様々な情報を読み取ろうとする学問が「書誌学」である。
この授業では、特に日本において、古代から現代にいたるまで作られ読まれ続けてきた「本」からどのような情報を読み取ることができ、それをもとにどのようなことを考えられるのか、学ぶ。

到達目標:
1. 書誌の基本的な事柄について説明できる。
2. 写本について、その書誌的な注意点について説明できる。
3. 写本について、基礎的な調査ができる。
4. 一冊の写本から、様々な情報を引き出し、書写背景を考えることができる。

授業方法:　講義を中心に行う。
簡単な実習を行うこともある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	本とは何か、書誌学とは何か	書誌という言葉について調べる
2.	冊子本と巻子本	前回の内容をまとめる
3.	冊子本の形態1	前回の内容をまとめる
4.	冊子本の形態2	前回の内容をまとめる
5.	改装について	前回の内容をまとめる
6.	表紙と料紙	前回の内容をまとめる
7.	書名のいろいろ	前回の内容をまとめる
8.	奥書について	前回の内容をまとめる
9.	写本の見方	前回の内容をまとめる
10.	文体と作品1　漢文	前回の内容をまとめる
11.	文体と作品2　ひらがな文とカタカナ文	前回の内容をまとめる
12.	文体と作品3　多様な文体と書誌	前回の内容をまとめる
13.	系統とはなにか	前回の内容をまとめる
14.	解題を読み解く	前回の内容をまとめる
15.	写本の伝わり方	前回の内容をまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　本の世界は想像以上に奥深いです。たくさんの発見がある授業にしたいです。

フィードバックの方法:　コメントペーパーなどによる質問、コメントに対して、次回の授業で取り上げて説明、解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	35	コメントペーパーや質問を通して、到達目標1～3ができるようになったかを評価する。
レポート	65	到達目標1～3ができているかを評価し、その上で4ができているかを評価する。

教科書:

参考書:　堀川貴司『書誌学入門』(勉誠出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。また、Eメールアドレスを通知する。

232760

書誌学B

橋本　　正俊

授業テーマ:　「本」と向き合う

授業の概要:　「本」そのものから様々な情報を読み取ろうとする学問が「書誌学」である。
この授業では、特に日本において、古代から現代にいたるまで作られ読まれ続けてきた「本」からどのような情報を読み取ることができ、それをもとにどのようなことを考えられるのか、学ぶ。

到達目標:
1. 書誌と作品との関係について説明できる。
2. 版本について、その書誌的な注意点について説明できる。
3. 版本について、基礎的な調査ができる。
4. 一冊の版本から、様々な情報を引き出し、出版背景を考えることができる。

授業方法:　講義を中心に行う。
簡単な実習を行うこともある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	本とは何か、書誌学とは何か	書誌という言葉について調べる
2.	本の形態	前回の内容をまとめる
3.	作品の書かれ方1　記録と日記	前回の内容をまとめる
4.	作品の書かれ方2　物語と和歌	前回の内容をまとめる
5.	作品の書かれ方3　和歌集	前回の内容をまとめる
6.	古活字版と整版	前回の内容をまとめる
7.	版本の歴史	前回の内容をまとめる
8.	版本の大きさと版式	前回の内容をまとめる
9.	版本を丁寧に見る	前回の内容をまとめる
10.	.表紙と外題	前回の内容をまとめる
11.	刊記について	前回の内容をまとめる
12.	序文と跋文	前回の内容をまとめる
13.	解題を読む	前回の内容をまとめる
14.	版の違いを比べる	前回の内容をまとめる
15.	本を伝える　様々な文庫	前回の内容をまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　本の世界は想像以上に奥深いです。たくさんの発見がある授業にしたいです。

フィードバックの方法:　コメントペーパーなどによる質問、コメントに対して、次回の授業で取り上げて説明、解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	35	コメントペーパーや質問を通して、到達目標1～3ができるようになったかを評価する。
レポート	65	到達目標1～3ができているかを評価し、その上で4ができているかを評価する。

教科書:

参考書:　堀川貴司『書誌学入門』(勉誠出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。また、Eメールアドレスを通知する。

232860

学校文法

野村　　倫子

授業テーマ:　口語文法・口語文法の基本を身につける。

授業の概要:　国語の授業で必要な文法の知識を習得する。

到達目標:　文語文法・古典文法を身につけ、授業で対象とする作品を正確に理解する。

授業方法:　講義、小テストによる自己チェック

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文語文法と口語文法の修得についての概説	『古典文法』p10・p12～p14を読んでおく。
2.	口語文法：名詞・連体詞・副詞・接続詞	『古典文法』p14品詞分類表の確認
3.	口語文法：用言の活用・助詞・助動詞	前回内容の確認小テスト
4.	口語文法：敬語	前回内容の確認小テスト
5.	口語文法のまとめ、文語文法へのブリッジ	前回内容の確認小テスト
6.	文語文法：名詞・副詞・連体詞・接続詞・感動詞	『古典文法』p136・p137を読んでおく
7.	文語文法：動詞・形容詞・形容動詞	前回内容の確認小テスト
8.	文語文法：助動詞1	前回内容の確認小テスト
9.	文語文法：助動詞2	前回内容の確認小テスト
10.	文語文法：助動詞3	前回内容の確認小テスト
11.	文語文法：助詞	前回内容の確認小テスト
12.	文語文法：敬語	前回内容の確認小テスト
13.	文語文法：紛らわしい語の識別1	前回内容の確認小テスト
14.	文語文法：紛らわしい語の識別2	前回内容の確認小テスト
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　文法の知識はどのような作品を読むときにも力を発揮します。

フィードバックの方法:　小テストに対する自己分析にはメッセージをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	作品分析に有効な正確な知識が身についたか。
小テストに対する自己確認	30	（得点ではなく）躓きにたいして、正確に自己分析ができているか。

教科書:　萩野文子・編著『新修 古典文法』 京都書房

参考書:　（出版社はとわず）『百人一首』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

232960

言語学概説A

森　　若葉

授業テーマ:　言語学の初歩

授業の概要:　言語学をはじめて学ぶ人を対象に、言語学の概説を行います。世界には、過去から現在、数千もの多種多様な言語が存在します。この授業では、人間言語の体系と構造にかんし、毎回わかりやすいトピックを選び、例を示しながら、言語学の各分野における基礎的な知識や概念を解説していきます。

到達目標:　ふだんとくに意識せず使っている日本語の構造、および世界の言語の多様性に関心をもち、言語学の基本的な知識を身につけることを目標としています。

授業方法:　パワーポイントと配付資料を使用します。基本的に講義形式としますが、学生に発言を求めることがあります。また毎授業末に簡単なアンケートもしくは小レポートを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	世界の言語（1）	とくになし。
2.	世界の言語（2）	配布プリントに目をとおしてきてもらいます。
3.	言語の特性	とくになし。
4.	音声学	とくになし。
5.	音韻論（1）	とくになし。
6.	音韻論（2）	とくになし。
7.	形態論（1）	とくになし。
8.	形態論（2）	とくになし。
9.	統語論（1）	とくになし。
10.	統語論（2）	配布プリントに目をとおしてきてもらう必要があります。
11.	意味論	とくになし。
12.	語用論	とくになし。
13.	社会言語学	とくになし。
14.	その他	配布プリントに目をとおしてきてもらう必要があります。
15.	まとめ	授業前に演習問題を解いてきてもらう必要があります。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業計画は目安であり、進度は多少前後することがあります。上記に記載がないばあいでも、事前に配布プリントに目を通してきてもらったり、身近な日本語の例を探してきてもらうことがあります。

フィードバックの方法:　レポートは基本的に返却しません。第15回目にレポート課題の解説および個別の質問の受付を行います。また、授業ごとの小レポートについては、受講生が50人程度であればまとめて返却しますが、受講生が多いばあいは、返却等に時間を要するため、まとめて解説しますが返却は行いません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末レポート	70	レポート内容を、到達目標である言語学の基本的知識の理解度にもとづき評価します。
小レポート	20	小レポート内容を、その授業の理解度により評価します。
平常点	10	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応します。

233060

言語学概説B

森　　若葉

授業テーマ:　世界のさまざまな文字とそのしくみ

授業の概要:　人間の言語は、過去五千年来、様々な文字によって書き記されてきました。この授業では、世界の言語と文字が互いにどのような関係にあるのか、また、文字がどのような構造をもち、どのように分類されるのかを扱います。
　現在使われている文字（ギリシア系文字、アラム系文字、インド系文字、漢字系文字）のほかに、それらの系統の古代文字また、現在は失われた楔形文字、エジプト聖刻文字、ギリシア線文字B、マヤ文字などあまりなじみのない文字も紹介し、古代文字の解読の歴史やプロセスにもふれます。

到達目標:　世界の文字の多様性を知り、文字のしくみやその成立を学ぶことを目標にします。

授業方法:　パワーポイントと配付資料を使用します。基本的に講義形式としますが、学生に発言を求めることがあります。また毎授業末に簡単なアンケートもしくは小レポートを行います。 楔形文字の粘土板実習を1回行います

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	世界の言語と文字	なし。
2.	言語と文字の分布	とくになし。
3.	文字の種類と分布	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
4.	日本における文字使用－漢字、カタカナ、ひらがな	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
5.	文字のしくみ、古代文字の解読（1）－エジプト聖刻文字	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
6.	数を表す文字（1）、古代文字の解読（2）－ギリシア線文字B	とくになし。
7.	アラム文字系統の諸文字	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
8.	インド系の諸文字	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
9.	ギリシア文字系統の諸文字、数を表す文字（2）	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
10.	古代文字の解読（3）－楔形文字、楔形文字系統の諸文字	とくになし。
11.	楔形文字系統の諸文字（2）	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
12.	楔形文字実習	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
13.	漢字系統の文字、西夏文字ほか	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
14.	マヤ文字、ルウィ象形文字	配布プリントに目を通してきてもらう必要があります。
15.	まとめ	授業前に演習問題を解いてきてもらう必要があります。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業計画は目安であり、進度は多少前後することがあります。楔形文字実習の授業では、各自、粘土とカッターナイフ等を持参してもらう必要があります。

フィードバックの方法:　レポートは基本的に返却しません。第15回目にレポート課題の解説および個別の質問の受付を行います。また、授業ごとの小レポートについては、受講生が50人程度であればまとめて返却しますが、受講生が多いばあいは返却等に時間を要するため、まとめて解説しますが返却は行いません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末レポート	70	到達目標である世界の文字のしくみや成立にかんし、その理解度にもとづき評価します。
小レポート・実習	20	小レポート課題、実習課題にかんし、その理解度により評価します。
平常点	10	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応します。

233160

日本語の構造A（文法Ⅰ）

中山　　英治

授業テーマ:　日本語の文法を知る

授業の概要:　日本語の文法とは何だろうか。私たちは普段意識をしないで日本語を使用しているが、日本語の文法というルールを意識してみると、いろいろな面白いことに気づかされる。また、外国人の日本語学習者は、母語とは異なる日本語の文法というルールを意識して日本語を使用している。この授業では、我々の日常的な日本語の使用実態を振り返り、日本語の文法的な観点から日本語の言語事実を観察し、その不思議さや面白さを知る機会を提供する。

到達目標:
（1）日本語の文法的な観点を知るために、これまで明らかにされてきた日本語の文法的事実について先行研究を紹介しながら、日本語の文法的な知識を知ることができる。
（2）日本語の文法的な事実を知るために、様々な言語的な素材（作例・実例）を自ら採集することができる。
（3）上の（1）や（2）を通じて、日本語文法の概要を知ることができる。

授業方法:　基本的に毎回担当教員からの講義が必ず行われるが、受講者には自分で日本語の例文を収集したり、それをもとに日本語の文法的な現象を話し合ったりする能動的な活動を多く取り入れる。
また、manaba（マナビー）を多く使用するので、使い方に習熟していることが大切である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のためのオリエンテーション 日本語の文法とは何だろうか？	履修の動機について受講者に尋ねます。各自考えてきてください。
2.	日本語文法の特徴を知る	1回目に指示される課題を各自持参してください。
3.	学校文法の復習と問題点を考える	2回目に指示される課題を各自持参してください。
4.	日本語文法の品詞体系を知る	3回目に指示される課題を各自持参してください。
5.	日本語文法の品詞のうち、特に動詞を考える	4回目に指示される課題を各自持参してください。
6.	日本語文法の品詞のうち、特に形容詞と形容動詞を考える	5回目に指示される課題を各自持参してください。
7.	日本語文法の品詞のうち、特に名詞を考える	6回目に指示される課題を各自持参してください。
8.	日本語文法の品詞のうち、特に助詞を考える① 「主語と主題」	7回目に指示される課題を各自持参してください。
9.	日本語文法の品詞のうち、特に助詞を考える② 「方向と場所」	8回目に指示される課題を各自持参してください。
10.	日本語教育の観点からみた文法① 「初級学習者が学ぶ文型」	9回目に指示される課題を各自持参してください。
11.	日本語教育の観点からみた文法② 「日本語学習者の文法の習得」	10回目に指示される課題を各自持参してください。
12.	文法に関するこれまでの学修を踏まえて先行研究を紹介する①	受講者自らが授業で学んだ内容に関連する先行研究を探し出し、紹介するのでその準備を行う。
13.	文法に関するこれまでの学修を踏まえて先行研究を紹介する②	受講者自らが授業で学んだ内容に関連する先行研究を探し出し、紹介するのでその準備を行う。
14.	文法に関するこれまでの学修を踏まえて先行研究を紹介する③	受講者自らが授業で学んだ内容に関連する先行研究を探し出し、紹介するのでその準備を行う。
15.	まとめと振り返り 学修ポートフォリオの提出	これまで授業で学習してきた課題や提出物、配付プリントなど、学修の痕跡となるものをすべて持参してください。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業は自分たちのものだということを自覚して、担当教員の指示を待つばかりでなく、自分たちで授業を修正したり、楽しい授業になるように工夫したりしてください。この授業では受講者同士が話す場面が多くあります。「先輩・後輩」や「知っている・知っていない」に関わらず、コミュニケーションを通じて授業内容の理解を深めることになります。

フィードバックの方法:　授業の予習として指示した課題については、授業の中で受講者全員でコメントをつけあいます。また、授業コメントシートを用意しますので、疑問点やよくわからなかったことなどについては次週の授業でフィードバックをするようにします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学修ポートフォリオ	60	学期末（15回目）の授業で提出する学修ポートフォリオを作成後、それを見ながら振り返りシートを添付して提出された全体を評価する
授業への参加度	30	予習として持参した課題をもとに授業中に行うグループ活動を評価する
課題	10	授業の予習として課した課題を自らの力で行い持参できたものを評価する

教科書:

参考書:　森山卓郎、ここからはじまる日本語文法、ひつじ書房
原沢伊都夫、日本人のための日本語文法入門、講談社現代新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室にて対応、Eメール対応（教室にて指示します。）

233260

日本語の構造B（文法Ⅱ）

中山　　英治

授業テーマ:　日本語の文法を問う

授業の概要:　日本語の文法とは何だろうか。私たちは普段意識をしないで日本語を使用しているが、日本語の文法というルールを意識してみると、いろいろな面白いことに気づかされる。また、外国人の日本語学習者は、母語とは異なる日本語の文法というルールを意識して日本語を使用している。この授業では、春学期の「日本語の構造A（文法Ⅰ）」で学んだ日本語の文法的な観点と日本語の文法の知識を使って、さらに日本語の文法の知識を深める機会を提供する。

到達目標:
（1）春学期「日本語の構造A（文法Ⅰ）」で学んだ知識を復習し、その知識を使って日本語の文法への興味や関心をさらに持続することができる。
（2）日本語の文法的な観点や言語事実に対して、様々な言語的な素材（新聞・図書・広告・各種メディアなど）から広く例文や実例を採集することができる。
（3）上の（1）や（2）を通じて、日本語文法の概要を深めると共に、批判的な態度を養うことができる。

授業方法:　基本的に毎回担当教員からの講義が必ず行われるが、受講者には自分で日本語の実例や資料を収集したり、それをもとに日本語の文法的な現象を話し合ったりする能動的な活動を多く取り入れる。授業の中ではmanaba（マナビー）を多く使用するので、使い方に習熟していることが大切である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のためのオリエンテーション 日本語の文法の概要（復習）	履修の動機について受講者に尋ねます。各自考えてきてください。
2.	日本語文法の研究と対象を知る −新聞の日本語、小説の日本語−	1回目に指示される課題を各自持参してください。
3.	日本語の文法 −テンス−	2回目に指示される課題を各自持参してください。
4.	日本語の文法 −アスペクト−	3回目に指示される課題を各自持参してください。
5.	日本語の文法 −ヴォイス−	4回目に指示される課題を各自持参してください。
6.	日本語の文法 −ムードとモダリティ−	5回目に指示される課題を各自持参してください。
7.	日本語の文法 −複文「時間節」−	6回目に指示される課題を各自持参してください。
8.	日本語の文法 −複文「条件節」−	7回目に指示される課題を各自持参してください。
9.	日本語の文法 −方言−	8回目に指示される課題を各自持参してください。
10.	日本語の文法 −コーパス−	9回目に指示される課題を各自持参してください。
11.	グループ発表のための準備	次週から始まるグループ発表のためにこれまでの学修内容がわかるような資料をすべて持参してきてください。
12.	文法に関するこれまでの学修を踏まえてグループ発表を行う①	受講者自らが授業で学んだ内容をふまえて、それに関連する素材を見つけて発表する。
13.	文法に関するこれまでの学修を踏まえてグループ発表を行う②	受講者自らが授業で学んだ内容をふまえて、それに関連する素材を見つけて発表する。
14.	文法に関するこれまでの学修を踏まえてグループ発表を行う③	受講者自らが授業で学んだ内容をふまえて、それに関連する素材を見つけて発表する。
15.	まとめと振り返り 学修ポートフォリオの提出	これまで授業で学習してきた課題や提出物、配付プリントなど、学修の痕跡となるものをすべて持参してください。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業は自分たちのものだということを自覚して、担当教員の指示を待つばかりでなく、自分たちで授業を修正したり、楽しい授業になるように工夫したりしてください。この授業では受講者同士が話す場面が多くあります。「先輩・後輩」や「知っている・知っていない」に関わらず、コミュニケーションを通じて授業内容の理解を深めることになります。また、春学期の「日本語の構造A（文法Ⅰ）」を受講していることが望ましいです。

フィードバックの方法:　授業の予習として指示した課題については、授業の中で受講者全員でコメントをつけあいます。また、授業コメントシートを用意しますので、疑問点やよくわからなかったことなどについては次週の授業でフィードバックをするようにします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学修ポートフォリオ	60	学期末（15回目）の授業で提出する学修ポートフォリオを作成後、それを見ながら振り返りシートを添付して提出された全体を評価する
授業への参加度	30	予習として持参した課題をもとに授業中に行うグループ活動を評価する。
課題	10	授業の予習として課した課題を自らの力で行い持参できたものを評価する。

教科書:

参考書:　森山卓郎、ここからはじまる日本語文法、ひつじ書房
原沢伊都夫、日本人のための日本語文法入門、講談社現代新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室にて対応、Eメール対応（教室にて指示します。）

233360

日本語の構造C（語彙Ｉ）

小椋　　秀樹

授業テーマ:　日本語語彙論(1)

授業の概要:　日本語の語彙に関する基本事項を学習するとともに，日本語の語彙の構造・特徴等を明らかにするために必要なデータ分析の基礎的能力を身に付けることが，この授業の目標です。

到達目標:
1. 語彙論の用語を理解し，簡単な説明ができる。
2. 言語データから日本語の語彙の特徴などを読み取り，簡単な説明ができる。
3. 語彙論の基本事項の理解，言語データの分析を通して日本語を客観的に捉える態度を身に付ける。

授業方法:　教科書は使用せず，プリントを使って講義形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	語彙の体系	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
3.	語彙と語彙量(1)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
4.	語彙と語彙量(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
5.	語彙と語彙量(3)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
6.	語形と表記(1)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
7.	語形と表記(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
8.	語形と表記(3)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
9.	語種(1)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
10.	語種(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
11.	語種(3)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
12.	語種(4)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
13.	語構成(1)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
14.	語構成(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
15.	まとめ	第2回～第14回の復習として小テスト，課題を見直しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業は講義形式で行いますが，言語データから日本語の語彙の特徴などについて，どのようなことが分かるか，常に自分で考える姿勢を持ってください。
新聞，雑誌，放送，Web，会話等を通じて見聞きする言葉について関心を持ってください。

フィードバックの方法:　コメントカードを毎回提出してもらいます。コメントカードに書かれた質問等については，翌週に回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	15	授業に積極的に参加しているか否か，及び到達目標3の達成度をコメントカードにより評価します。
小テスト及び課題	25	到達目標1及び2の途中段階での達成度を小テスト(マナビーで実施)と課題によって評価します。
定期試験	60	到達目標1から3の達成度を記述式の試験によって評価します。

教科書:

参考書:
安部清哉，斎藤倫明，岡島昭浩，半沢幹一，伊藤雅光，前田富祺『シリーズ日本語史 2 語彙史』，岩波書店，2009年.
沖森卓也，木村義之，田中牧郎，陳力衛，前田直子『図解 日本の語彙』，三省堂，2011年.
北原保雄(監)，斎藤倫明(編)『浅倉日本語講座 4 語彙・意味』，朝倉書店，2002年.
国立国語研究所『語彙の研究と教育』(上・下)，国立国語研究所，1984-1985年.
斎藤倫明(編)『講座言語研究の革新と継承 1 日本語語彙論I』，ひつじ書房，2016年.
斎藤倫明(編)『講座言語研究の革新と継承 2 日本語語彙論II』，ひつじ書房，2016年.
田中章夫『国語語彙論』，明治書院，1988年.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール(アドレスは第1回の授業時に連絡)，授業の前後に教室内で対応

233460

日本語の構造D（語彙Ⅱ）

小椋　　秀樹

授業テーマ:　日本語語彙論(2)

授業の概要:　日本語の語彙に関する基本事項を理解するとともに，日本語の語彙の構造・特徴等を明らかにするためのデータ分析力を身に付けることが，この授業の目標です。

到達目標:
1. 語彙論の用語を理解し，簡単な説明ができる。
2. 言語データから日本語の語彙の特徴などを読み取り，簡単な説明ができる。
3. 語彙論の基本事項の理解，言語データの分析を通して日本語を客観的に捉える態度を身に付ける。

授業方法:　教科書は使用せず，プリントを使って講義形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	語の意味(1)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
3.	語の意味(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
4.	語の意味(3)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
5.	語の意味(4)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
6.	語の意味(5)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
7.	慣用句(1)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
8.	慣用句(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
9.	語彙と社会(1)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
10.	語彙と社会(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
11.	語彙と社会(3)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
12.	擬音語・擬態語(1)	マナビーで実施する小テストを通して専門用語を理解すること。
13.	擬音語・擬態語(2)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
14.	擬音語・擬態語(3)	マナビーで実施する小テストを通して学習した内容を確認すること。
15.	まとめ	第2回～第14回の復習として小テスト，課題を見直しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業は講義形式で行いますが，言語データから日本語の語彙の特徴などについて，どのようなことが分かるか，常に自分で考える姿勢を持ってください。
新聞，雑誌，放送，Web，会話等を通じて見聞きする言葉について関心を持ってください。

フィードバックの方法:　コメントカードを毎回提出してもらいます。コメントカードに書かれた質問等については，翌週に回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	15	授業に積極的に参加しているか否か，及び到達目標3の達成度をコメントカードにより評価する。
小テスト及び課題	25	到達目標1及び2の途中段階での達成度を小テスト(マナビーで実施)と課題によって評価する。
定期試験	60	到達目標1から3の達成度を記述式の試験によって評価する。

教科書:

参考書:
安部清哉，斎藤倫明，岡島昭浩，半沢幹一，伊藤雅光，前田富祺『シリーズ日本語史 2 語彙史』，岩波書店，2009年.
沖森卓也，木村義之，田中牧郎，陳力衛，前田直子『図解 日本の語彙』，三省堂，2011年.
北原保雄(監)，斎藤倫明(編)『朝倉日本語講座 4 語彙・意味』，朝倉書店，2002年.
国立国語研究所『語彙の研究と教育』(上・下)，国立国語研究所，1984-1985年.
斎藤倫明(編)『講座言語研究の革新と継承 1 日本語語彙論I』，ひつじ書房，2016年.
斎藤倫明(編)『講座言語研究の革新と継承 2 日本語語彙論II』，ひつじ書房，2016年.
田中章夫『国語語彙論』，明治書院，1988年.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール(アドレスは第1回の授業時に連絡)，授業の前後に教室内で対応

233560

日本語の構造E（音声Ｉ）

前田　　広幸

授業テーマ:　日本語の音声・音韻（韻律特徴を中心に）

授業の概要:　韻律特徴を中心に、日本語の音声・音韻の基礎について学習し、基礎的な知識・分析力を身につけるべく構成された配布プリント中の練習問題に取り組んでいく。

到達目標:　韻律特徴を中心に、日本語の音声・音韻に関する基礎的な知識と分析力を身につける。

授業方法:　基本事項に関する講師からの説明の後、学生を適宜指名し、配布プリント中の練習問題に答えてもらい、必要な補足説明を行う形で授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業全体のオリエンテーション	
2.	「音」と「声」について	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
3.	日本語アクセントの変異と変遷	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
4.	アクセントとイントネーション	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
5.	モーラと音節（1）	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
6.	モーラと音節（2）	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
7.	モーラと音節（3）	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
8.	１～7週の復習	7週までに取り組んだ練習問題についてあらためて質問したいことがないか考えておく。
9.	日本語のリズムとフット；音韻句の形成	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
10.	オノマトペの響き	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
11.	言葉遊びと日本語の音韻	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
12.	借用語の発音と日本語の音韻	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
13.	古典作品の発音	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
14.	音声教育における分析ソフトの利用法	配布プリント中の指定練習問題の解答を考えておく。
15.	全体のまとめ	１４週までに取り組んだ練習問題について正しく解答できるか復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	到達目標に関する知識と分析力により評価する。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標を達成すべく意欲的に取り組んでいるかを評価する。

教科書:　配布プリントを利用

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール（maedah@nara-edu.ac.jp）を利用

233660

日本語の構造F（音声Ⅱ）

前田　　広幸

授業テーマ:　日本語の音声・音韻（分節音形特徴を中心に）

授業の概要:　分節音形特徴を中心に、日本語の音声・音韻に関する基本的な知識・聴解力を身につけるべく、教科書中の問題に取り組んでいく。

到達目標:　分節音形特徴を中心に、日本語の音声・音韻の基礎について学習し、基本的な知識と聴解力を身につけることが本授業の目標です。

授業方法:　教科書の解説と聴解問題への取り組みを中心としますが、理解の確認のため授業中随時指名し、講師からの質問に答えてもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリテンテーション	
2.	五十音図とその拡大表	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
3.	話し言葉の語形	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
4.	母語の干渉、誤用分析	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
5.	子音の分類	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
6.	唇音退化、ハ行転呼	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
7.	四つ仮名	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
8.	１～7週の復習	7週までに取り組んだ問題について、あらためて質問がないか考えておく。
9.	拗音	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
10.	環境による音声変化	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
11.	母音の分類	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
12.	音節構造	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
13.	音韻論	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
14.	日本語の音声教育	教科書中の指定問題の解答に取り組んおく。
15.	全体のまとめ	１４週までに取り組んだ問題に正しく答えられるようよく復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	到達目標に関する知識と聴解力により評価する。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標を達成すべく意欲的に取り組んでいるかにより評価する。

教科書:　松崎寛・河野俊之（2010）『日本語教育能力検定試験に合格するための音声２３』（アルク）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール（maedah@nara-edu.ac.jp）を利用する

233760

日本語の構造G（表記）

入江　　さやか

授業テーマ:　日本語表記論

授業の概要:　日本語で用いられる文字の種類は，漢字・平仮名・片仮名・ローマ字・数字・句読点などの記号，と実に多様である。しかし，その表記法は複雑で，現代でも正書法が確立しているとは言い難い。この科目では，表記の実態や種々の表記研究を通して，日本語とはどのような言語であるのか，その特質を検討する。

到達目標:　日本語の文字・表記論に関する一定の知識と研究方法の基礎を身につける。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	総説	講義内容の復習
2.	日本における文字	講義内容の復習
3.	漢字（1）	講義内容の復習
4.	漢字（2）	日本における漢字受容について，考察を深める
5.	仮名（1）	講義内容の復習
6.	仮名（2）	講義内容の復習
7.	ローマ字（1）	講義内容の復習
8.	ローマ字（2）	講義内容の復習
9.	補助符号（1）	講義内容の復習
10.	補助符号（2）	講義内容の復習
11.	表記法（1）	講義内容の復習
12.	表記法（2）	講義内容の復習
13.	表記法（3）	講義内容の復習
14.	文字と社会	講義内容の復習
15.	まとめ	日本における表記法の問題点について，考察を深める

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントシート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
コメントシート	30%	平常点。講義への積極的な参加を重視する。
期末試験	70%	

教科書:

参考書:　沖森卓也・笹原宏之・常盤智子・山本真吾(2011)『図解日本の文字』三省堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　コメントシート等

233860

言語情報解析

服部　　匡

授業テーマ:　コーパスを用いた言語研究の方法

授業の概要:　日本語研究に活用できるコーパスの種類・性質・利用上の注意点を学ぶ。また、PC教室での実習を通じて各種のコーパスからのデータ取得・加工・整理の方法を習得する。あわせて、統計的な処理の基本的考え方と方法を学ぶ。

到達目標:　コーパスを利用する上での基本事項を学ぶ。研究テーマに応じて、各種のコーパスからデータを取得し、適切に加工整理、統計処理する基本的な能力を身につける。

授業方法:　講義と実習　PC教室で行う。マナビー上におくデータをUSBメモリに入れ、2週目から必ず持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:コーパスとは何か	
2.	イントロダクション:コーパスとは何か(続き) テキストファイル利用の方法	指示された課題を行ってくること
3.	テキストファイル利用の方法	指示された課題を行ってくること
4.	青空文庫データの概要と利用上の注意点 「ひまわり」によるデータ取得と利用(1) 基本的な検索・正規表現の利用	指示された課題を行ってくること
5.	「ひまわり」によるデータ取得と利用(2) Excelによる並べ替え、計数、分類	指示された課題を行ってくること
6.	国会会議録データの概要と利用上の注意点 「ひまわり」によるデータ取得と利用(3) 分析実習	指示された課題を行ってくること
7.	分析実習	指示された課題を行ってくること
8.	分析実習	指示された課題を行ってくること
9.	BCCWJの概要と利用上の注意点(1)	指示された課題を行ってくること
10.	BCCWJの概要と利用上の注意点(2)	指示された課題を行ってくること
11.	中納言によるデータ取得と利用(1) 基本的な検索・形態素情報の利用	指示された課題を行ってくること
12.	中納言によるデータ取得と利用(2) 分析実習	指示された課題を行ってくること
13.	中納言によるデータ取得と利用(3) 分析実習 最終レポート作成に向けての相談	指示された課題を行ってくること
14.	コーパスデータの統計処理・図表化	指示された課題を行ってくること
15.	最終レポート作成指導	指示された課題を行ってくること

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本語研究の道具としての各種コーパスの使い方を実習を通じて学びます。コーパスは大変便利なものですが、どのような研究にも利用できるわけではなく、その性質や限界をよく理解することが必要です。特に現代日本語領域のゼミを志望する学生には履修をすすめます。
Excelの使用経験がない場合は、課題により自主的な練習を行ってください(今後どのみち必要となるので、この際身につけてください)。
「中納言」の利用登録をしてもらいます(詳細は初回に説明)。
内容別の回数・順序は多少変更する場合があります。

フィードバックの方法:　提出された課題に対して、個別的・全体的にコメントを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加態度	20%	単なる出席ではなく積極的な参加を重視して評価する。
毎回の提出物	50%	授業内容を理解し、課題に適切に取り組むことができたかを評価する。
最終レポート	30%	授業目標に掲げる力がおおよそ身につき、それらを総合的に用いたレポート作成ができたかを評価する。
出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし、原則として4回欠席した場合は不可とします。

教科書:

参考書:　田野村忠温(編)『講座日本語コーパス6　コーパスと日本語学』 朝倉書店
山崎誠(編)『講座日本語コーパス2.書き言葉コーパス―設計と構築』 朝倉書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビー上から、または、教室・研究室等での面談による。

233960

日本語の運用A

水野　　義道

授業テーマ:　言葉の多様性と言葉の変化

授業の概要:　言葉の多様性と言葉の変化の関係について実例を通して考える。

到達目標:　言葉の多様性と言葉の変化の関係について理解する。

授業方法:　講義:　講義形式で授業を行い、毎回授業内容に関連したアンケートを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会言語学の領域（1）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
2.	社会言語学の領域（2）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
3.	2言語使用・多言語使用（1）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
4.	2言語使用・多言語使用（2）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
5.	地域方言（1）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
6.	地域方言（2）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
7.	社会方言（1）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
8.	社会方言（2）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
9.	言語変異と言語変化（1）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
10.	言語変異と言語変化（2）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
11.	言語使用域と文体（1）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
12.	言語使用域と文体（2）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
13.	ピジンとクレオール（1）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
14.	ピジンとクレオール（2）	今回学習内容の復習と次回学習内容の予習
15.	まとめ	今回学習内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回授業終了時に行うアンケートの結果を次回の授業で説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間レポート	40	到達目標の理解度により評価する。
定期試験	60	到達目標の理解度により評価する。

教科書:　田中春美・田中幸子編著 『よくわかる社会言語学』 ミネルヴァ書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール：mizuno@kit.jp

234060

日本語の運用B

水野　　義道

授業テーマ:　コミュニケーションと言葉

授業の概要:　コミュニケーションにおける言葉の役割について考える。

到達目標:　コミュニケーションにおける言葉の役割を理解する。

授業方法:　講義:　講義形式で授業を行い、毎回授業内容に関連したアンケートを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	世界各地の英語（1）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
2.	世界各地の英語（2）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
3.	伝達能力と言語教育（1）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
4.	伝達能力と言語教育（2）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
5.	言語習得と異文化接触（1）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
6.	言語習得と異文化接触（1）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
7.	言語と文化（1）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
8.	言語と文化（2）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
9.	発話行為と丁寧さ（1）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
10.	発話行為と丁寧さ（2）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
11.	言語政策と言語計画（1）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
12.	言語政策と言語計画（1）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
13.	非言語伝達（1）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
14.	非言語伝達（2）	今回授業内容の復習と次回授業内容の予習
15.	まとめ	今回授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回授業終了時に行うアンケートの結果を次回授業時に説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間レポート	40	到達目標の理解度により評価する。
定期試験	60	到達目標の理解度により評価する。

教科書:　田中春美・田中幸子編著 『よくわかる社会言語学』 ミネルヴァ書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール：mizuno@kit.jp

234160

日本語学テーマ研究A

服部　　匡

授業テーマ:　専門文献の講読と議論

授業の概要:　日本語学の諸分野の、価値ある専門文献を精密に読み、母語話者の内省やデータに照らして議論を行う。参考文献欄にあげる2冊の本を中心に、主として文法・意味に関する文献を読む。

到達目標:　日本語学の専門的な文献を、事実に照らして疑いながら読むことができるようになる。精密な読解のため、不明な用語などを専門の事典類や文献を見て調べる力をつける。また、疑問点を明確に表明し、議論することができるようになる。

授業方法:　全員、配付文献を事前に読んでくる。担当者が要約説明し、日本語話者としての直感に基づき議論を行う。また、できれば用例を収集観察するなどし、問題を見直す。受講者数などの要因により多少変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容の説明1	
2.	授業内容の説明2	配付文献を読んでくること。
3.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
4.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
5.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
6.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
7.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
8.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
9.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
10.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
11.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
12.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
13.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
14.	配付文献を読み、議論を行う	前回の内容についての課題を提出すること。配付文献を読んでくること。また、指定された人は要約資料を作成し、説明と自分の考えの表明ができるように準備してくること。
15.	配付文献を読み、議論を行う	レポートで扱いたいことを考えてくること

受講者へのメッセージやアドバイス:　取り上げる文献は専門書としては比較的明快で読みやすいものですが、易しいということはありません。毎回の予習に相当の時間がかかるので承知の上で履修してください。予習して来ない人は参加する意味がないので、出席していても当日分の点数はなしとします。

フィードバックの方法:　担当者のまとめに基づく議論にはその場で随時コメント、最終レポートにはマナビーから個別にコメントします。各回の提出課題にはまとめてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への準備・参加度合・授業中および終了後の提出課題	70%	到達目標に基づき、授業の事前準備、授業中の議論への参加がどれだけできたか、文献の内容を理解した上で問題点を見出し自分で考えることができたかを評価する。
レポート	30%	授業内容を総合的に理解し、事実を観察して自らの考えを述べることができたかを評価する。
出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし、原則として4回欠席したら不可とする。遅刻には厳しくする方針。

教科書:

参考書:　久野暲　日本文法研究　大修館
寺村秀夫　日本語のシンタクスと意味Ⅰ　くろしお出版
授業で取り上げる部分はコピーを配付するが、価値ある書物であり購入も勧められる。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　マナビーから、または、研究室等での面談による。

234260

日本語学テーマ研究B

金田　　純平

授業テーマ:　周辺的な事象から学ぶ日本語学

授業の概要:　この授業では、日本語に見られるさまざまな現象を取り上げ、一般的な日本語学のアプローチとは異なる視点から日本語を見ていく。

到達目標:　授業で扱う内容を理解したうえで、多様な着眼点から日本語および他言語を見つめることができるようになることを目標とする。

授業方法:　基本的に講義形式で進めますが、授業中課題や宿題を与えることがあります。また、各回の最後には授業内容を確認するためのワークシートを配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義の概要・授業の進め方	教科書の準備
2.	看板に見る日本語観察	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
3.	直訳日本語ロックに見る日本語の特徴	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
4.	誤変換と「言いまつがい」	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
5.	破格から考える日本語	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
6.	「チョー恥ずかしかったヨ！」—カタカナ表記	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
7.	文字表現の音声学	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
8.	文末詞とキャラ語尾	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
9.	検索してわかる正しい？日本語	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
10.	エモティコン—顔文字	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
11.	挨拶のマナー	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
12.	断り方	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
13.	かっこいい・はずかしいしゃべり方	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
14.	キャラクタの悩み	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する
15.	まとめ—ことばの専門家が言うこと	タイトルから内容を考え、自分なりの観点を用意する

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、異なった切り口から日本語（ときに英語）を見ていきます。また、授業の終わりにはワークシートを配布しますので、課題に取り組み自分の観点や意見を述べていただきたいと思います。

フィードバックの方法:　毎回のワークシートにはコメントを付けて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	75	選択したテーマおよび内容、意見の切り口などを評価し、総合的に判定する
ワークシートの提出	25	毎回配布するワークシートに記入して提出する。出席調査を兼ねる。1回出席ごとに2点（第1回を除く）、2回欠席まで減点なしとする。

教科書:　定延利之(編著)『私たちの日本語』朝倉書店, 2012年, ISBN: 978-4254510416

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　メールにてご連絡ください。
its.annex@gmail.com

234360

日本語学テーマ研究C

金田　　純平

授業テーマ:　認知言語学の基礎

授業の概要:　言語は人間の認知能力とは切り離せない。本講義では、認知言語学の基礎について学習し、言語現象が心の働きと結びついていることを理解する。

到達目標:　様々な言語現象が人間の認知能力を基盤にしていることを理解し、そのメカニズムの理解とそれを説明できるようなレベルを目指す。

授業方法:　講義および中間・期末の2回のテストを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義の概要・授業の進め方	教科書の準備
2.	「ものの見方」と意味	教科書を読んで予習
3.	プロトタイプとステレオタイプ	教科書を読んで予習
4.	抽象化とスキーマ	教科書を読んで予習
5.	イメージ・スキーマ	教科書を読んで予習
6.	意味のネットワーク	教科書を読んで予習
7.	メタファーとメトニミー	教科書を読んで予習
8.	中間テスト	これまでの授業内容を復習
9.	概念メタファー	教科書を読んで予習
10.	方向性のメタファー	教科書を読んで予習
11.	「色」とことば	教科書を読んで予習
12.	構文と意味	教科書を読んで予習
13.	ことばのダイナミズム	教科書を読んで予習
14.	ことば、文化、普遍性	教科書を読んで予習
15.	まとめ	これまでの授業内容の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　各回には内容をまとめた資料を配布するので、授業後は教科書と合わせてその内容を復習してください。

フィードバックの方法:　中間テストは採点して返却する。その他については授業中に指示を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間テスト	30	100点満点で採点し、0.3を乗じて計算
期末テスト	70	100点満点で採点し、0.7を乗じて計算

教科書:　谷口一美『学びのエクササイズ　認知言語学』ひつじ書房, 2006年, ISBN: 978-4894762824

参考書:
粕山洋介『日本語研究のための認知言語学』研究社, 2014年, ISBN:978-4327384685
吉村公宏『はじめての認知言語学』研究社, 2004年, ISBN:978-4327421656
ジョン・R・テイラー『認知言語学のための14章 第三版』紀伊國屋書店, 2008年, ISBN:978-4314010320

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　メールにてご連絡ください。
its.annex@gmail.com

234460

日本語学テーマ研究D

森山　　由紀子

授業テーマ:　日本語の敬語とポライトネス

授業の概要:　授業の前半では、日本語の敬語語彙の意味・機能を取り上げる。日本語の敬語語彙はその機能に応じて5つに分類される。それぞれの種類の敬語語彙の運用ルールについて解説する。また、ディスカッションを通じて身近な敬語の「誤用」に気づき、それがどのような変化の流れの中に位置づけられるのかを考える。後半では、コミュニケーションを行う上で用いられる、より広い配慮表現に着目し、メールの文章の作成を通して、より効果的な配慮の在り方を考察する。

到達目標:　①敬語の5分類について理解し、それぞれに属する語彙を適切に運用できるようになる(知識・理解)
②敬語の使い方に迷った時などに、文法的な仕組みに立ち戻って混乱の理由を考えることができるようになる(関心・意欲)。
③所謂敬語の「誤用」について、どこがなぜ間違っているのかを明快に説明できる。さらに、日常の会話で用いられる配慮表現とその効果に気づき、自らもまた、より適切な表現を用いて日本語を運用できる(表現・技能・能力)。

授業方法:　教科書を基本とした講義とディスカッションや表現活動を中心とした演習。
質疑応答を多用する講義を行い、随時問いかける課題に対してグループでディスカッションの上、解答作成をすることで理解を深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要・敬語と敬意表現	特になし
2.	日本語の敬語のしくみ(尊敬語)	マナビー上の練習問題に回答。
3.	日本語の敬語のしくみ(謙譲語)	マナビー上の練習問題に回答。
4.	日本語の敬語のしくみ(謙譲語Ⅱ)	マナビー上の練習問題に回答。
5.	日本語の敬語のしくみ(謙譲語Ⅱ・美化語)	マナビー上の練習問題に回答。
6.	敬語のしくみについて説明しよう(問題演習)	マナビー上の練習問題に回答。
7.	敬語のしくみについて説明しよう(問題演習)	マナビー上の模擬テスト問題に回答。
8.	中間テスト	テスト勉強
9.	広義の敬意表現とポライトネス理論	マナビー上の課題に回答。
10.	広義の敬意表現とポライトネス理論	マナビー上の課題に回答。
11.	広義の敬意表現とポライトネス理論	マナビー上の課題に回答。
12.	自分たちの言葉の使い方を観察しよう。	マナビー上の課題に回答。
13.	自分たちの言葉の使い方を観察しよう(ミニプレゼン)	プレゼン準備
14.	自分たちの言葉の使い方を観察しよう(ミニプレゼン)	プレゼン準備
15.	まとめと振り返り	マナビー上の課題に回答。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業では小グループごとのディスカッションを中心としてすすめる。各授業のあと、復習として各自教科書を熟読し、知識の定着をはかること。中間テストは授業内容に加えて、教科書をベースに作成する。授業で進んだ部分については、授業で触れなかった部分についてもよく読んで、不明な点については授業中設けられた質問の時間に質問すること。

フィードバックの方法:　中間テストは採点して返却する。マナビーで出された課題については、授業時間中に取り上げて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加貢献度	20%	授業におけるディスカッションとコメントシートの記述を通して到達目標②が達成できているかを評価する。
中間テスト	30%	到達目標①および③が達成できているかを評価する。30点中20点に満たない場合は追試験を課し、それでも20点に満たない場合は0点とする。
課題の提出とミニプレゼン	25%	課題への取り組みとミニプレゼンを通して、到達目標①②③が達成できているかを評価する。
最終レポート	25%	メール文章についての観察を通し、到達目標①を基本として、到達目標②と③が達成できているかを評価する。

教科書:　菊池康人『敬語再入門』(講談社学術文庫)

参考書:　ペネロピ・ブラウン＆スティーブンソン・O・レヴィンソン著　田中典子(監・訳)『ポライトネス―言語使用における、ある普遍現象』(研究者)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Eメール(アドレスは授業時に開示)　マナビーによる双方向機能も用いる。

234560

日本語学テーマ研究E

中山　　英治

授業テーマ:　現代日本語の外来語を考えてみよう

授業の概要:　現代日本語における外来語の存在は、無視できないものになっている。従来、外来語は新しい概念や事物が文化として国内に入った際に、その概念や事物を指し示すために使われることが一般的だったが、現在は和語や漢語が担っていた部分とも重なりを持ってきている。外来語の基本語化という現象がそれである。本授業では外来語の収集、分析、考察を通じて現代日本語における位置づけを考えたい。また、日本語学習者の日本語学習の際における外来語の意義や課題にもふれる。

到達目標:
①外来語とは何か、その一般的な定義と意味を確認する。:各種辞書の外来語分析
②外来語の使用実態を調査する。:新聞・小説・テレビ・SNS・コーパスにおける外来語収集
③外来語の変容と展開を考える。:基本語化している外来語の意味考察
上記の3つの活動を通じて、資料をふまえた洞察力を磨くことを目標とする。

授業方法:　テーマに関した基本的な事項をはじめに講義するが、学修をアクティブ・ラーニングの側面から考慮して、例文や言語資料の収集・分析では学生自らの実践的な活動を十分含めて授業を展開する。ペアやグループワークを取り入れて授業を進める予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション ①授業のテーマ説明 ②授業の方法・進め方	シラバスを十分読んでくる
2.	外来語とは何か？ ①一般的な定義 ②辞書の記述による理解	第1回目の課題を持参する
3.	外来語の収集と分析方法① ー外来語を収集できる資料	第2回目の課題を持参する 第5回～9回目の学生発表の準備
4.	外来語の収集と分析方法② ー収集した外来語を分析する方法	第3回目の課題を持参する 第5回～9回目の学生発表の準備
5.	外来語の収集と分析の実際①	本テーマの発表準備を持参する
6.	外来語の収集と分析の実際②	本テーマの発表準備を持参する
7.	外来語の収集と分析の実際③	本テーマの発表準備を持参する
8.	外来語の収集と分析の実際④	本テーマの発表準備を持参する
9.	外来語の収集と分析の実際⑤	本テーマの発表準備を持参する
10.	外来語を振り返る① ー国立国語研究所の言い換え提案	第9回目で指示する資料を十分読んでくる
11.	外来語を振り返る② ー文化庁国語に関する世論調査	第10回目で指示する資料を十分読んでくる
12.	日本語教育における外来語の指導	第11回目で指示する資料を十分読んでくる
13.	日本語学習者の外来語使用	第12回目で指示する資料を十分読んでくる
14.	学修の振り返り活動① ー学修ポートフォリオ作成	これまでの学修成果を集め、ファイルして持参する
15.	学修の振り返り活動② ー外来語の存在意義とこれから	これまでの学修成果を集め、ファイルして持参する

受講者へのメッセージやアドバイス:　本授業は、課題が多い授業です。マナビーの使用にも十分慣れている学生の履修が望ましいと思います。講義だけの授業という回はありません。常に学生のみなさんによる活動が含まれます。

フィードバックの方法:　毎回の授業で「授業コメントシート」を使用して提出します。それに教員や学生同士でコメントを付けて返却します。授業最終日（14週目、15週目）にそれらを含めた学修の成果物（配布物、発表資料、ノートやメモ等）を確認しながら、最終日に振り返りシートを作成（試験のようなもの）して提出します。マナビーも随時使用して教員と学生（学生間）の間でFBをくりかえします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業コメントシート作成	25	到達目標に記載されていることへの理解度:特に毎時の授業テーマに即しての理解を評価
発表	25	到達目標に記載されていることへの活動:特に発表内容に即しての活動を評価
学修ポートフォリオ作成	50	到達目標に記載されていることへの全体的な評価

教科書:

参考書:　授業で随時指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーを使用します。

234660

日本語学テーマ研究F

入江　　さやか

授業テーマ:　日本語の諸方言

授業の概要:　日本語の各地方言について，地図や談話資料を参照しながら，音声・音韻，文法の観点から，どのような特徴があるかについて理解する．また，その特徴を数値化し，計量的に分析することによって，各地方言の分類を試みる．

到達目標:
・日本の諸方言について理解する．
・方言という視点から，日本語史を考えられるようになる．

授業方法:　講義を中心とするが，受講者に発表を求めることもある．

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概論	講義内容の復習
2.	方言区画と方言周圏論	講義内容の復習
3.	東西方言の対立（様々な東西境界線）	講義内容の復習
4.	日本語方言の語彙（1）	講義内容の復習
5.	日本語方言の語彙（2）	講義内容の復習
6.	日本語方言の音声・音韻（1）	講義内容の復習
7.	日本語方言の音声・音韻（2）	講義内容の復習
8.	日本語方言の文法（1）	講義内容の復習
9.	日本語方言の文法（2）	講義内容の復習
10.	日本語方言の文法（3）	講義内容の復習
11.	録音文字化資料を利用した方言分類（1）音韻	音声を文字化する際の問題点について考えてくる
12.	録音文字化資料を利用した方言分類（2）音韻	講義内容の復習
13.	録音文字化資料を利用した方言分類（3）文法	方言に見られる文法について考えてくる
14.	録音文字化資料を利用した方言分類（4）文法	講義内容の復習
15.	まとめ	日本の諸方言について理解を深める

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントシート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60	
授業中の取り組み	40	コメントシート等，授業への積極的な参加を重視する

教科書:

参考書:
国立国語研究所:『国立国語研究所資料集13全国方言談話データベース 日本のふるさとことば集成』，第1巻～第20巻，国書刊行会，2001-2008.
国立国語研究所:『日本言語地図』，第1集～第6集，大蔵省印刷局，1966-1974.
国立国語研究所:『方言文法全国地図』，第1～第5集，大蔵省印刷局，1989-2006.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールアドレス（授業時に提示），コメントシート等

234760

日英対照言語研究A

山路　　順子

授業テーマ:　日本語と英語の言語文化に対する対照言語学的アプローチ

授業の概要:　母語を違った言語から捉えることで新たな側面が見えてくるものです。この授業では日本語と英語を対照させ、1. 統語論的特徴　2. 形態論的特徴　3. 音韻論的特徴　4. 意味論的特徴に言語学的な考察を加えることで、それぞれの言語の本質に少しでも迫り、その言語文化を知り、異文化の橋渡しとなれればと考えています。また国際語としての地位をえた英語の今と未来について考えていただく時間になればと思っています。

到達目標:　対照言語学的アプローチを用いて日本語と英語のいくつかの側面を考察することで、両言語の本質を知ることが主な目標です。その過程で、日本人がなぜ英語の文法や表現方法を習得しずらいのかがわかっていただけるかもしれません。両言語が持つ言語文化について把握し、日本語教師・英語教師になる方々にとっては外国語教育の現場で非母語話者の外国語習得を促すヒントが得られると思います。

授業方法:　基本的には講義形式ですが、授業内容に関するディスカッションをする機会があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のガイダンス 日英対照言語研究について	授業中に指示した課題と復習
2.	言語学の諸研究分野と対照言語学について	授業中に指示した課題と復習
3.	日本語の歴史	授業中に指示した課題と復習
4.	英語の歴史	授業中に指示した課題と復習
5.	統語論的比較1（語、句、文の成り立ち）	授業中に指示した課題と復習
6.	統語論的比較2（構文・視点の問題）	授業中に指示した課題と復習
7.	これまでの復習と演習	授業中に指示した課題と復習
8.	形態論的比較　1	授業中に指示した課題と復習
9.	形態論的比較　2	授業中に指示した課題と復習
10.	音韻論的比較	授業中に指示した課題と復習
11.	形態論と音韻論の演習とクイズ2	授業中に指示した課題と復習
12.	意味論的比較1（文字通りの意味について）	授業中に指示した課題と復習
13.	意味論的比較2（認知意味論について）	授業中に指示した課題と復習
14.	意味論の演習	授業中に指示した課題と復習
15.	まとめ	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では各トピックごとに具体例を集めていただきそれを使って討議したり演習したりする機会がありますので、しっかりと課題に取り組むことが必要です。

フィードバックの方法:　授業中の課題提出に関してはその場で解説もしくは返却時に解説いたします。また復習クイズに関しては採点後返却し解説いたします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20%	積極的な授業への参加10% 授業で指示した課題提出10%
復習クイズ	30%	授業で扱ったトピックについての復習クイズがあります
定期試験	50%	授業で扱った項目のうち重要な理論を理解しているかどうか、日本語と英語を比較対照させて分析できるかどうかを確認するテストがあります。詳細については授業で説明します。

教科書:

参考書:　授業中に適宜紹介いたします

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

234860

日英対照言語研究B

山路　　順子

授業テーマ:　日本語と英語の言語文化に対する対照言語学的アプローチ

授業の概要:　母語を違った言語から捉えることで新たな側面が見えてくるものです。この授業では日本語と英語を対照させ、前半は語用論的特徴を考察し、後半では社会言語学的なアプローチを用いて両言語のいくつかの特徴を考察します。言葉を使用するということが一体どういう意味を持つのか、言語を社会の枠組みでとらえることの意義について考える授業になると思います。

到達目標:　異文化コミュニケーションへの関心が高まる中、言葉と文化に関する知識が問われるようになっています。この授業では日本語と英語を対照させ、言語学的考察に社会学的なアプローチを加えることで、それぞれの言語文化とそれを取り巻く社会を知り、異文化の橋渡しとなれることを目標としています。また国際語としての地位をえた英語の今と未来について考えていただく時間となればと思っています。

授業方法:　基本的には講義形式ですが、授業の後半では各自が具体例を調べて考察する必要がありかなり双方向性を持つ授業となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のガイダンス 2つのアプローチについて	授業で指示した課題と復習
2.	語用論的考察:文脈の重要性と協調の原則	授業で指示した課題と復習
3.	語用論的考察:なぞなぞと言外の意味	授業で指示した課題と復習
4.	語用論的考察:発話行為論	授業で指示した課題と復習
5.	語用論的考察:演習	授業で指示した課題と復習
6.	社会言語学的アプローチ:社会言語学の紹介	授業で指示した課題と復習
7.	社会言語学的アプローチ:敬意表現について	授業で指示した課題と復習
8.	社会言語学的アプローチ:日英地域方言	授業で指示した課題と復習
9.	社会言語学的アプローチ:社会方言	授業で指示した課題と復習
10.	社会言語学的アプローチ:若者言葉と流行語	授業で指示した課題と復習
11.	社会言語学的アプローチ:日英性差表現	授業で指示した課題と復習
12.	社会言語学的アプローチ:日英性差表現	授業で指示した課題と復習
13.	社会言語学的アプローチ:演習	授業で指示した課題と復習
14.	世界の日本語教育	授業で指示した課題と復習
15.	まとめ	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では各トピックごとに具体例を集めていただきそれを使って討議したり演習したりする機会がありますので、しっかりと課題に取り組むことが必要です。

フィードバックの方法:　授業中の課題提出に関してはその場で解説もしくは返却時に解説いたします。また復習クイズに関しては採点後返却し解説いたします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20%	積極的な授業への参加10%と課題への取り組み10%によって評価します。
復習クイズ	30%	授業内容に関する復習クイズが数回設定されています。
定期試験	50%	授業内容に関するテストが行われます。

教科書:

参考書:　授業内で適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

234960

日中対照言語研究A

河村　　静江

授業テーマ:　音声・語彙・文法における日中両言語の差異について

授業の概要:　講義プリントに沿って授業を行う。受講者はプリントに書き込みながら各テーマについて考える。

到達目標:　日中両言語の学習者がお互いの言語を学習する際に困難を感じるであろう差異について明らかにし、日本語・中国語教育に生かせるようにする。

授業方法:　講義を主とするが、各自で選んだテーマに基づいて一人一回発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	中国語についてどのような疑問点があるか考えておく。
2.	中国はどんな国？	中国に関する本を読んでおく。
3.	音声(1)アクセント・意味の弁別	中国語の発音記号がわかるようにしておく。
4.	音声(2)発音しにくい音	同上
5.	語彙(1)色・動物のイメージ	日本語の色・動物のイメージについて考えておく。
6.	語彙(2)オノマトペ・慣用句	中国語の語彙に関する本を読んでおく。
7.	語彙(3)四字熟語・ことわざ	同上
8.	語彙(4)中国人学習者の誤用	誤用に関する本を読んでおく。
9.	文法(1)語順と構文	中国語の基本的な文法について把握しておく。
10.	文法(2)受け身と使役	同上
11.	文法(3)結果補語と方向補語	同上
12.	文法(4)指示詞・数量詞	同上
13.	中国文化に触れよう(1)冠婚葬祭	日本の文化に関する本を読んでおく。
14.	中国文化に触れよう(2)年中行事	同上
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　第二外国語で1年中国語を勉強した程度の知識で十分理解できる内容ですが、各自教科書以外の中国語についての本を読むなど積極的な態度で授業に臨んでください。
特に外国人に日本語を教えたいと考えている受講者を歓迎します。

フィードバックの方法:　授業中にまとめて行う。個別の質問に対しては授業が終わった後に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60%	課題に関する理解度により評価する。
授業への参加態度	40%	出席状況、発表に取り組む態度や授業への参加態度を基準とする。

教科書:　なし(プリントを配布する)

参考書:
荒川清秀『一歩すすんだ中国語文法』大修館書店
杉村博文『中国語文法教室』大修館書店
張麟声『日中ことばの漢ちがい』くろしお出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

235060

日中対照言語研究B

河村　　静江

授業テーマ:　日中両言語の語彙・文法及び語用例の分析

授業の概要:　講義プリントに沿って授業を行う。受講者はプリントに書き込みながら各テーマについて考える。

到達目標:　日中両言語の学習者がお互いの言語を学習する際に生じる誤用について明らかにし、日本語教育・中国語教育に生かせるようにする。

授業方法:　講義を主とするが、各自で選んだテーマで一人一回発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	中国語に関する疑問点などをまとめておく。
2.	漢語について	訓読み・湯桶読みなど日本語に特有の漢語との関わりについて考える。
3.	文字について(1)繁体字・簡体字・新字体	繁体字・簡体字について把握しておく。
4.	文字について(2)	同上
5.	日中同形語(1)	日中同形語にはどのようなものがあるか、意味の差異はないか考えておく。
6.	日中同形語(2)	同上
7.	日中同形語(3)	同上
8.	日中両語で品詞が異なるもの	中国語を日本語に訳す際、訳しにくいものはどんなものがあるか考えておく。
9.	日中両語で自他が異なるもの	同上
10.	日中両語でコロケーションが異なるもの	同上
11.	日本人中国語学習者の誤用①	同上
12.	日本人中国語学習者の誤用②	同上
13.	日中両言語の差異のまとめ	日本語、中国語を学習・教授する際にどのような点に気を付ければよいか考えておく。
14.	文化の差異「中国・台湾・日本の『普通』」	中国や日本の国民性に関する本を読んでおく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　第二外国語を1年履修した程度の知識で十分理解できる内容ですが、各自教科書以外の中国語に関する本を読んでおくなど、積極的な態度で臨んでください。
特に外国人に日本語を教えたいと考えている方を歓迎します。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60%	課題に関する理解度により評価する。
授業への参加態度	40%	出席状況、発表状況、授業への参加態度などを基準とする。

教科書:　なし(プリントを配布)

参考書:
荒川清秀『一歩すすんだ中国語文法』大修館書店
寺野健夫『中国語ではそう言わない！日本人がつい言ってしまう日本語表現』三修社
張麟声『日本語教育のための誤用分析・中国語話者の母語干渉20例』スリーエーネットワーク

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

235160

日本語教材論A

中川　　裕子

授業テーマ:　日本語教育用初級教材を理解する。

授業の概要:　日本語指導の初級段階の現場で幅広く用いられる教材・教具の、目的、利用方法、課題などを理解し、日本語指導に必要な基礎知識を身につける。技能別、学習者別の教材についても扱う。授業では、教科書の構成、指導内容の分析、練習方法を各課毎に扱う。学習内容の復習問題を課し学習内容の定着をはかる。さらに授業で扱った内容全般を整理する課題を与える。これは、学習内容の復習のみならず、発展的な応用練習も含む。この課題に取り組むことで、指導に必要な基礎知識の定着をはかる。

到達目標:
①初級用の教材で扱われる場面、指導項目の内容及び提出順を理解すること。
②練習方法の理論的背景を理解し、実際の指導技術の基本を身につけること。
③適切な絵教材の選択眼及び作成力を養うこと。
④学習者別、技能別の教材の特徴を理解すること。
⑤初級レベルでの生教材の教材化の基礎を身につけること。

授業方法:　講義形式で進める。内容によっては、課題を与え、発表あるいは提出を課す。内容の理解、基本的な用語の定着をはかるために、原則として毎回、復習問題を配布し提出を課す。学期末提出課題を課し、学習内容全般の理解を深め、指導上の基礎知識の定着をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	初級教材の概要	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
2.	入門期の教材(教科書の構成、指導内容)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
3.	入門期の教材(指導内容の分析)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
4.	入門期の教材(練習方法、外国語教授法との関連)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
5.	初級前半の教材(指導内容のつながり)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
6.	初級前半の教材(指導内容のつながり)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
7.	初級前半の教材(指導内容のつながり)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
8.	初級後半の教材(指導内容と運用場面)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
9.	初級後半の教材(指導内容と運用場面)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
10.	初級後半の教材(指導内容と運用場面)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
11.	技能別の教材	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
12.	学習者別の教材	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
13.	学習者別の教材	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
14.	視聴覚教材・教材や教具の効果的な使用法	学習内容の総復習をする。
15.	まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本語学習者との積極的な交流をはかることが望まれる。提出課題は計画的に取り組み、授業内容の理解に努めてもらいたい。

フィードバックの方法:　毎回の復習問題は、添削し教室で返却する。提出課題は、添削しコメントをつけて教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への積極的な参加	20%	出席及び授業への積極的な参加度により評価する。
毎回の復習問題	30%	到達目標①②③④⑤に必要な内容の理解度により評価する。
提出課題	20%	到達目標①②③④⑤に関する個々の課題の達成度により評価する。
定期試験	30%	到達目標①②③④⑤に必要な知識の定着度により評価する。

教科書:　なし

参考書:　授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

235260

日本語教材論B

中川　　裕子

授業テーマ:　日本語教育用中上級教材を理解する。

授業の概要:　日本語指導の中上級段階の現場で幅広く用いられている教材および専門に特化した教材について、その目的、使用方法、課題を理解し、日本語指導に必要な基礎知識を身につける。学期前半では、まず中級レベルの教科書の構成、指導内容の分析、指導方法などを扱う。学期後半では、上級及び超級の内容を扱う。学習者別、技能別の教材についても扱う。さらに、中上級レベルでの生教材の教材化の練習を行い、教材作成能力を身につける。毎回の授業後には復習問題を課し学習内容の定着をはかる。さらに授業で扱った内容全般を整理する課題を与える。これは、学習内容の復習のみならず、発展的な応用練習も含む。この課題に取り組むことで、指導に必要な基礎知識の定着をはかる。

到達目標:
①中級レベルの教科書の構成、指導内容、指導方法を理解すること。
②上級及び超級の教材の特徴を理解すること。
③学習者別、技能別の教材の特徴を理解すること。
④中上級レベルでの生教材の教材化の基礎を身につけること。

授業方法:　基本的に講義形式で進める。内容によっては、課題を与え、発表あるいは提出を課す。内容の理解及び基本的な用語の定着をはかるため、原則として、毎回、復習問題を配布し提出を課す。さらに授業で扱った内容全般を整理する課題を与える。これは、学習内容の復習のみならず、発展的な応用練習も含む。この課題に取り組むことで、指導に必要な基礎知識の定着をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	中級・上級の教材概要	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
2.	中級前半の教材(教科書の構成・指導内容)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
3.	中級前半の教材(指導内容の分析)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
4.	中級後半の教材(指導内容の分析)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
5.	中級後半の教材(指導内容の分析・話題の展開・応用練習)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
6.	中級用の教材(技能別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
7.	中級用の教材(技能別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
8.	上級用の教材(指導内容の概要)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
9.	上級用の教材(技能別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
10.	上級用の教材(技能別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
11.	上級用の教材(学習者別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
12.	上級用の教材(学習者別)	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
13.	超級用の教材	復習問題に取り組む。提出課題に取り組む。
14.	教材や教具の効果的な使用法	学習内容の総復習をする。
15.	まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本語学習者との積極的な交流をはかることが望まれる。提出課題は計画的に取り組み、授業内容の理解に努めてもらいたい。

フィードバックの方法:　毎回の復習問題は、添削し教室で返却する。提出課題は、添削しコメントをつけて教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び授業への積極的な参加	20%	出席及び授業への積極的な参加度により評価する。
毎回の復習問題	20%	到達目標①②③④に必要な内容の理解度により評価する。
提出課題	30%	到達目標①③③④に関する個々の課題の達成度により評価する。
定期試験	30%	到達目標①②③④に必要な知識の定着度により評価する。

教科書:　なし

参考書:　授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

235360

コースデザイン論

玉尾　　文代

授業テーマ:　外国人に対する日本語プログラム設計の基本

授業の概要:　学習目的は学習者によって異なる。したがって、日本語の授業そのものは学習者に合う学習目標を設定し、それに基づいて項目などを設定する必要がある。そうした各々の学習者の目的にかなった日本語プログラムを設計する力を身につける。講義や演習及びグループ学習・発表を通し、自らで考える力を養う。具体的には、留学生の学習者を想定し4～5人のグループを設ける。そのグループごとに模擬的にコースデザインを行い、教材を作成するなどして最終的には1グループ20分～30分程度の模擬授業を行う。

到達目標:　①学習者の目的や目標に合った日本語プログラムを設計する力を身につける

授業方法:　講義演習の混合。
4～5人のグループごとに発表や教材作成を通し、コースデザインを進めていく。最終的には対象学習者に合った模擬授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コースデザインとは何か	マナビ―での感想提出
2.	ニーズ分析①（目標言語調査）	マナビ―での感想提出
3.	ニーズ分析②	マナビ―での感想提出 発表に向けての準備（グループ）
4.	ニーズ分析③と発表	マナビ―での感想提出
5.	レディネス調査	マナビ―での感想提出
6.	シラバスデザイン① （構造・機能・場面）	マナビ―での感想提出
7.	シラバスデザイン② （概念・話題・複合）	マナビ―での感想提出 発表に向けての準備（グループ）
8.	シラバスデザイン③と発表	マナビ―での感想提出
9.	カリキュラムデザイン①	マナビ―での感想提出 教材作成（グループ）
10.	カリキュラムデザイン②と教材発表	マナビ―での感想提出 発表に向けての準備（グループ）
11.	カリキュラムデザイン③と発表	マナビ―での感想提出
12.	カリキュラムデザイン④と教案作成	マナビ―での感想提出
13.	模擬授業①	模擬授業の準備
14.	模擬授業②	模擬授業の準備
15.	模擬授業③と授業の振り返り	模擬授業の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　グループごとの活動や発表が多いことに留意した上で受講してください。

フィードバックの方法:　授業感想はマナビ―でコメントをつけて返却する。
模擬授業の授業観察記録はコメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度、出席及びマナビ―での授業感想提出	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったか評価する。
発表	50%	グループ発表での準備や自分の役割とその達成度、質疑応答などを踏まえ、到達目標①を評価する。
レポート	20%	到達目標①ができるようになったのかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（ftamao@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で応対

235460

日本語教育文法A

山本　　由紀子

授業テーマ:　初級段階の日本語教育文法

授業の概要:　初級日本語教育文法の最も基本的な項目について、学習者がつまずきやすい点や指導上のポイントを、学習者の母語による差異や影響にも触れながら学んでいく。

到達目標:
①日本語の文法や使い方を客観的に捉え、分析・整理する力を身に付ける。
②必要に応じて、日本語教育に関する基本的な知識・技能を運用する能力を身に付ける。

授業方法:　パワーポイントや配布プリントを用いて、講義形式で行います。授業は、その日に取り扱う文法項目について、まず受講者自身で、あるいは、他者との対話を通して考えたり確かめたりするタスクに取り組み、その上で重要なポイントについて解説を行うという流れを基本として行います。身の回りの日本語を観察する課題や、文法項目を効果的に教える方法をグループで話し合うタスク等も適宜行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本語教育と国語教育	
2.	日本語教育文法とは	日本語の初級教科書を見てみる。
3.	こそあ（1）	日本語の初級教科書観察課題に取り組む。
4.	こそあ（2）	日本語の初級教科書の、「こそあ」を扱う課を見てみる。
5.	文型（1）	日本語教科書において、文法項目がどのように提示されているかを見てみる。
6.	文型（2）	複数の日本語初級教科書の文型の扱いを見比べてみる。
7.	中間テスト（予定） 動詞の扱い（1）	中学校で学んだ動詞の活用による分類や活用形について、思い出してみる。
8.	動詞の扱い（2）	日本語初級教科書において、動詞の活用形がどのような順番で教えらているか見てみる。
9.	動詞の扱い（3）	さまざまな活用形の教え方を、一つひとつ考えてみる。
10.	動詞の扱い（4）	
11.	形容詞の扱い（1）	日本語の初級教科書で形容詞がどのように扱われているか見てみる。
12.	形容詞の扱い（2）	
13.	助詞の扱い（1）	日本語初級教科書における助詞の扱いを見てみる。
14.	助詞の扱い（2）	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
ふだんから、自身や他者の日本語使用に関心を向けたり、さまざまな日本語教科書に触れたりすることで、日本語を客観視する力をこつこつと養ってください。
授業で示した事前学習、課題提出等は確実にこなすようにしましょう。

フィードバックの方法:
・中間テストは、返却時に授業でフィードバックを行います。
・提出物は主にマナビーに提出してもらい、授業でフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	85%	到達目標①に関する知識と理解度により評価します。中間試験35%、期末試験50%の割合とします。
課題提出	15%	到達目標②の態度をもって課題に臨めているかを基準とします。

教科書:

参考書:　庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク）ほか、授業で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応します。
Eメールも利用してください。 yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

235560

日本語教育文法B

山本　　由紀子

授業テーマ:　初級段階の日本語教育文法

授業の概要:　初級日本語教育文法の最も基本的な項目について、学習者がつまずきやすい点や指導上のポイントを、学習者の母語による差異や影響にも触れながら学んでいく。

到達目標:
①日本語の文法や使い方を客観的に捉え、分析・整理する力を身に付ける。
②必要に応じて、日本語教育に関する基本的な知識・技能を運用する能力を身に付ける。

授業方法:　パワーポイントや配布プリントを用いて、講義形式で行います。授業は、その日に取り扱う文法項目について、まず受講者自身で、あるいは、他者との対話を通して考えたり確かめたりするタスクに取り組み、その上で重要なポイントについて解説を行うという流れを基本として行います。身の回りの日本語を観察する課題や、文法項目を効果的に教える方法をグループで話し合うタスク等も適宜与えます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	初級前半の日本語教育文法の復習	
2.	助詞の扱い（3）（（1）（2）は春学期の日本語教育文法Aで扱う）	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見てみる。
3.	授受表現（1）	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見てみる。
4.	授受表現（2）	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見てみる。
5.	授受表現（3）	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見てみる。
6.	まとめ（中間テスト）	これまでの授業内容を十分復習しておく。
7.	中間テストのフィードバック、待遇表現（1）	中間テストで問われた内容について、復習しておく。
8.	待遇表現（2）	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見てみる。
9.	待遇表現（3）	日常生活において、自他の待遇表現行動を観察する。
10.	待遇表現（4）	日常生活において、自他の待遇表現行動を観察する。
11.	自動詞と他動詞（1）	
12.	自動詞と他動詞（2）	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見てみる。
13.	テイルの扱い（1）	日常生活において、「動詞＋テイル」をどのように持ちているか、観察や分析をしてみる。
14.	テイルの扱い（2）	日本語の初級教科書における当該項目の扱い方を見てみる。
15.	まとめ	これまでの授業内容を、十分復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
日本語教育文法Aとあわせての履修が望ましいですが、履修していない場合、参考文献として示した図書を用いてAで扱う内容について学習しておくことで、授業内容が理解しやすくなるでしょう。
ふだんから、自身や他者の日本語使用に関心を向けたり、さまざまな日本語教科書に触れたりすることで、日本語を客観視する態度や力を養いましょう。
授業で示した事前学習、課題提出等は確実にこなすようにしましょう。

フィードバックの方法:
・中間テストは、返却時に授業でフィードバックを行います。
・提出物は、主にマナビーを通して提出してもらい、授業でフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	85%	到達目標①に関する知識と理解度により評価します。中間試験35%、期末試験50%の割合とします。
課題提出	15%	到達目標②の態度をもって課題に臨めているかを基準とします。

教科書:

参考書:　庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』（スリーエーネットワーク）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:
授業の前後に、教室内で対応します。
Eメールも利用してください。 yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

235660

日本語教育史

丸山　　敬介

授業テーマ:　「留学生10万人計画」以降の日本語教育の流れ

授業の概要:　外国語教育は社会の動きと密接な関係を持っている。そこで、日本語教育が'84年の「留学生10万人計画」以降、どのような社会の動きによってどのように変化したかを解説する。解説に当たっては視聴覚教材を多用し、可能な限り具体的に述べる。

到達目標:
①「留学生10万人計画」と日本語教育の変化について学ぶ。
②ニューカマー急増とそれが日本語教育に与えた影響について学ぶ。
③今日の日本語教育に関わる新しい流れについて学ぶ。

授業方法:　講義形式。毎回、VTRを視聴する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「留学生10万人計画」と日本語教育　1　概要	「留学生10万人計画」の概要を調べる。
2.	「留学生10万人計画」と日本語教育　2　教員養成	前回の授業を振り返る。
3.	「留学生10万人計画」と日本語教育　3　やってきた留学生たち　1	前回の授業を振り返る。
4.	「留学生10万人計画」と日本語教育　4　やってきた留学生たち　2	前回の授業を振り返る。
5.	「留学生10万人計画」と日本語教育　5　機関整備　1	前回の授業を振り返る。
6.	「留学生10万人計画」と日本語教育　5　機関整備　2	「留学生10万人計画」の概要を振り返る。
7.	ニューカマーの急増　1　概要	「ニューカマー」とはどういう人たちなのかその概要を調べる。
8.	ニューカマーの急増　2　中国帰国者	前回の授業を振り返る。
9.	ニューカマーの急増　1　日系人とその子弟たち　1	前回の授業を振り返る。
10.	ニューカマーの急増　1　日系人とその子弟たち　2	前回の授業を振り返る。
11.	ニューカマーの急増　1　日系人とその子弟たち　3	「ニューカマー」たちの概要を調べる。
12.	日本語教育再編成　1	「留学生10万人計画」「ニューカマー」によって日本語教育にどのような影響があったのか振り返る。
13.	日本語教育再編成　2	前回の授業を振り返る。
14.	日本語教育に関わる新しい流れ　1	観光やクールジャパンなど、最近の新しい社会の動きを調べる。
15.	日本語教育に関わる新しい流れ　2	新しい社会の動きと日本語教育のありようを考えてみる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本語教育に関心のある学生の履修を幅広く歓迎するが、特に日本語教育を専攻しようという学生は必修に準ずるものとして履修するよう勧める。

フィードバックの方法:　質問や意見については、授業中に、適宜、フィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100%	到達目標①～③の理解内容を問う小レポートをもって評価する。

教科書:　マナビーによって指示する。

参考書:　授業中に、適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:
授業前後に対応する。
Eメールやオフィスアワーも活用すること。
丸山 敬介　kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

235760

日本事情と日本語教育Ⅰ

奥村　　訓代

授業テーマ:　多文化共生に向けた日本語教育のあり方を考える

授業の概要:　日本事情と日本語教育の一環として、多文化共生の為の「やさしい日本語」を考える。

到達目標:　「やさしい日本語」誕生の背景と意味を理解し、使用できるようにする。
地域貢献と国際貢献のための共生語としての「やさしい日本語」習得に努める。

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション 評価方法 毎週の確認テスト 出席と態度 その他	教科書に目を通してくる
2.	移民と日本（1）	日本の外国人事情を調べてくる
3.	移民と日本（2）	「やさしい日本語」の背景を調べてくる （弘前大学　佐藤和之研究室HP参照）
4.	やさしい日本語の誕生（1）	定住外国人と留学生との違いをできるだけ多方面から考えてくる
5.	やさしい日本語の誕生（2）	定住外国人における、「やさしい日本語」のメリット・ディメリットを考えてくる
6.	やさしい日本語の形（1）	日本の外国人受け入れ対策の歴史的背景を調べてくる
7.	やさしい日本語の形（2）	国内外における日本語教育の歴史的背景を調べてくる 義務教員における日本語を必要とする児童生徒の現状について調べてくる
8.	外国にルーツを持つ子供たちとやさしい日本語（1）	日本語教育における「やさしい日本語」の位置付けについて考えてくる
9.	外国にルーツを持つ子供たちとやさしい日本語（2）	やさしい日本語は、本当に優しいのかを調べてくる
10.	日本語母語話者とやさしい日本語（1）	日本語の特徴を、調べてくる （日英比較など）
11.	日本語母語話者とやさしい日本語（2）	Special English , VOA, Basic English などからアメリカの移民に対する言語政策を眺めてくる
12.	多文化共生社会に必要なこと（1）	EUのCEFR、アメリカの21c外国語学習スタンダード、及び国際交流基金のJFスタンダードの本質を調べてくる
13.	多文化共生社会に必要なこと（2）	やさしい日本語の問題点を考えてくる （各自2つ以上の疑問点や問題点を考えてくる）
14.	やさしい日本語共有のために	やさしい日本語の位置づけを考える
15.	まとめ	自分の考えを自分の言葉でまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　ネット環境にいる皆さんは、居ながらにして世界中の情報を瞬時に収集できる環境にあります。
その利点を生かして、毎回30分で結構ですから自分で情報を収集し、自分の言葉で纏めながら
自分だけのポートフォリオを作成してください。
きっとテストの時のみならず、日本語教育能力検定試験や就職にも役立つこと受合います！
やればやるだけ自分の血となり肉となるでしょう。

フィードバックの方法:　毎回の小テストと確認
質問と回答
その他、「マナビー」利用による情報発信と収集

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の小テスト	30	復習確認
学期末テスト	50	普通に学んでいれば70％取れる問題
授業での貢献度	20	真剣さ、誠実さ、質疑応答、受講態度等

教科書:　庵　功雄 『やさしい日本語』 岩波新書　2016

参考書:　庵　功雄他 『「やさしい日本語」は何を目指すか』 ココ出版　2013
多言語化現象研究会 『多言語社会日本』 三元社　2015
縫部義憲 『多文化共生時代の日本語教育』 瀝々社　2007
岡戸浩子 『グローカル化時代の言語政策』 くろしお出版　2003

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビー利用予定
詳細はオリエンテーションで説明いたします

235860

日本事情と日本語教育Ⅱ

奥村　　訓代

授業テーマ:
後期オリエンテーション
学び方と評価法
その他

授業の概要:
避難所運営ゲーム（HUGゲーム）、
より良い防災カルタ作成、
東京オリンピック・パラリンピックに向けたピクトグラム再考
等による「やさしい日本語」の利用

到達目標:
地域と外国人の仲立ちとして働ける人材（グローバル人材）の育成

授業方法:
講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 評価方法の説明 その他	教材・参考書から、授業内容に関し調べ、各自質問点を3点以上、持ち寄る。
2.	前年度生作品を吟味する	前年度生作品の問題点と感想・気づきを、自分のポート・フォリオに纏める。
3.	同上	同上
4.	同上	同上
5.	同上	同上
6.	同上	同上
7.	同上	同上
8.	同上	同上
9.	同上	同上
10.	同上	同上
11.	同上	同上
12.	同上	同上
13.	同上	同上
14.	同上	自分の言葉で、再確認する。
15.	まとめ	纏める

受講者へのメッセージやアドバイス:
毎回の学習準備を真面目に行ってください。
ネットサーフィンしながら楽しく準備しましょう。
それらを基に授業を進めますので、予復習は必修です！

フィードバックの方法:
毎回の小クイズ
質問と回答

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小クイズ	30	0・1・2点の三段階評価
学期末テスト	50	不通に授業に参加していれば70から80%取れる内容
その他	20	授業態度、授業貢献度など

教科書:
必要なら授業時に説明します。

参考書:
松尾知明 『多文化共生のためのテキストブック』　明石書店　2011
荒川洋平 『もしも・・・あなたが外国人に「日本語を教える」としたら』 スリーエーネットワーク 2010
日本語教育政策マスタープラン研究会 『日本語教育でつくる社会　私たちの見取り図』 ココ出版 2010
田尻英三他　『外国人の定住と日本語教育』　ひつじ書房　2007
各都道府県、市町村作成の「やさしい日本語」による各種パンフレット

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
マナビー利用予定

235960

日本語指導A

山本　　由紀子

授業テーマ:　日本語指導プログラムへの参加を通して、日本語教師としての成長を目指す。

授業の概要:　外国人など日本語を母語としない人を対象に、実際に日本語指導を経験する。本シラバスで指定されている、20時間を超える学内外日本語指導プログラムに各々参加します。授業では、事前指導と事後指導を実施します。

到達目標:
①日本語・日本文化を客観的に捉え、日本語を母語としない人に説明する力を養う。
②社会に関心を持ち、社会への貢献を意識して物事に取り組む姿勢を身に付ける。
③異文化にも関心を抱き、理解しようとする柔軟な態度を身に付ける。
④自分の考えを持ち、自分を表現できる真の国際人としての態度を養う。
⑤各種の学びをキャリアの形成に活かしていくことができる態度を身に付ける。

授業方法:
1. 対象プログラム
(　)内に本科目が対象とする各プログラムの実習実施時期を示す。
(1)オーストラリア・ビクトリア州TJFLプログラム(2018年2月)
(2)台湾、国立政治大学日本語指導実習プログラム(2018年3月)
(3)台湾、静宜大学日本語指導実習プログラム(2018年3月)
(4)京都日本語教育センター「大学生のための日本語教育実習」(2017年度秋学期もしくは2018年度春学期)
(5)京都市教育委員会主催　京都市立小中学校　日本語ボランティア(2017年度秋学期もしくは2018年度春学期。なお、本ボランティアは4月から1年間の参加を基本とされている。参加を希望する者は、当該機関にてできるだけ早くボランティア登録を済ませること。)
(6)伏見青少年活動センター主催「にほんご教室」「Japanese　Talking　Lesson」日本語ボランティア(2017年度秋学期もしくは2018年度春学期)
(7)ニュージーランド日本語教育実習プログラム(2018年2～3月)
(8)タイスィーパトゥム大学日本語指導実習プログラム(2～3月に実施されるが、2017年度は中止)
(9)同志社女子大学　Japanese Studies Program Teaching Assistant(2017年度秋学期に実施済み)
(1)～(8)はいずれも学外のプログラムであるが、(1)は一定の信頼関係のもとに本学が紹介しているもの、(2)および(3)は本学と協定関係にある静宜大学、政治大学に実施を依頼しているものである。(9)は学内のプログラムで、参加は日本語日本文学科の学生で日本語教育を専攻する者に限る(「日本語指導」を履修しない者は原則としてこのプログラムへの参加を認めない)。なお、同一プログラムで「日本語指導A・B」2科目を履修することはできない。
2.履修登録
履修を希望する者は、上記のプログラムに個人で申し込み、下記のいずれかでなければならない。
　a. 当該学期中に終了を予定している。
　b. 当該学期直前の学期に、すでにプログラムを終了している。
上記「1」の(　)に示した実習実施時期を確認のうえ、登録を行うこと。
b. においては、プログラム終了時に2年次生であっても当該学期に3年次生であれば、登録を認める。
3.発表
授業計画の1.～2.においては、当該学期中にプログラム参加を予定している者は参加のねらい・学びたいことがらに関して、当該学期直前の学期にプログラムを終了している者はその指導実践に関して発表を行い、質疑応答を行う。同じく12.～15.においては、当該学期中にプログラム参加を終了した者が発表し、質疑応答を行う。
4.その他
2015年度以降入学の日本語日本文学科の学生で日本語教育を専攻する者は、「日本語指導」を必ず履修すること。2014年度以前入学生においては「日本語指導」は必修ではないが、それに準ずるものとして、3・4年次に1科目以上履修することを強く勧める。なお、日本語実習に興味・関心を持つ者であれば、学部・学科、年次にかかわらず聴講を歓迎する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業に関するオリエンテーション	
2.	各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
3.	各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
4.	各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
5.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
6.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
7.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
8.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
9.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
10.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
11.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
12.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
13.	各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備
14.	各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備
15.	各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
・履修する時点で、前学期中にすでにプログラムに参加、もしくは参加申し込みしているか、今学期中に参加するプログラムを決めている必要があります。不明な点があれば、メール等で質問・相談してください。
・プログラムへの申し込みは、各自で行います。プログラムにより、実習参加時期、費用の要不要が異なるので、十分に調べたうえで申し込むようにしましょう。
・実習プログラムは、変更する可能性がありますので、掲示にて確認してください。

フィードバックの方法:　授業でフィードバックを行うほか、メールでの質問にも応じます。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	プログラム修了	50%	修了証(コピー可)の提出（到達目標①～⑤）。
	発表およびレポート	50%	発表、および、レポート提出（到達目標①～⑤）。いずれかを欠いた者は不合格とする。

教科書:

参考書:

浅倉美波他『日本語教師必携　ハート＆テクニック』
庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
庵功雄他『中級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
市川保子『初級日本語文法と教え方のポイント』
市川保子『中級日本語文法と教え方のポイント』
川口義一・横溝紳一郎『成長する教師のための日本語教育ガイドブック（上・下）』
丸山敬介『日本語教育演習シリーズ(5)　教え方の基本』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室で対応。
Eメール：yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

236060

日本語指導B

山本　　由紀子

授業テーマ:　日本語指導プログラムへの参加を通して、日本語教師としての成長を目指す。

授業の概要:　外国人など日本語を母語としない人を対象に、実際に日本語指導を経験する。本シラバスで指定されている、20時間を超える学内外日本語指導プログラムに各々参加します。授業では、事前指導と事後指導を実施します。

到達目標:
①日本語・日本文化を客観的に捉え、日本語を母語としない人に説明する力を養う。
②社会に関心を持ち、社会への貢献を意識して物事に取り組む姿勢を身に付ける。
③異文化にも関心を抱き、理解しようとする柔軟な態度を身に付ける。
④自分の考えを持ち、自分を表現できる真の国際人としての態度を養う。
⑤各種の学びをキャリアの形成に活かしていくことができる態度を身に付ける。

授業方法:
1.対象プログラム
(1)オーストラリア　ビクトリア州　TJFLプログラム（2018年夏期休暇中）
(2)京都日本語教育センター「大学生のための日本語教育実習」（2018年春学期）
(3)京都市教育委員会主催　京都市立小中学校　日本語ボランティア（2018年春学期もしくは秋学期。なお、本ボランティアは4月からの1年間の参加が基本とされているが、その他の時期に追加募集が行われることもある。参加を希望する者は、できるだけ早くボランティア登録を済ませること。）
(4)伏見青少年活動センター主催「にほんご教室」「Japanese Talking Lesson」日本語ボランティア（2018年春学期もしくは秋学期）
(5)同志社女子大学　Japanese Studies Program Teaching Assistant　(2018年秋学期)
(1)～(4)はいずれも学外のプログラムであるが、(1)は一定の信頼関係のもとに本学が紹介しているもの。(5)は学内のプログラムで、日本語日本文学科の学生で日本語教育を専攻する者に限る（本科目を履修しない者は原則としてこのプログラムへの参加を認めない）。なお、同一プログラムで「日本語指導A・B」2科目を履修することはできない。
2.履修登録
履修を希望する者は、上記のプログラムに個人で申し込み、下記のいずれかでなければならない。
　a. 当該学期中に終了を予定している。
　b. 当該学期直前の学期に、すでにプログラムを終了している。
上記「1」の（　）に示した実習実施時期を確認のうえ、登録を行うこと。
b. においては、プログラム終了時に2年次生であっても当該学期に3年次生であれば、登録を認める。
3.発表
授業計画の1.～2.においては、当該学期中にプログラム参加を予定している者は参加のねらい・学びたいことがらに関して、当該学期直前の学期にプログラムを終了している者はその指導実践に関して発表を行い、質疑応答を行う。同じく12.～15.においては、当該学期中にプログラム参加を終了した者が発表し、質疑応答を行う。
4.その他
2015年度以降入学の日本語日本文学科の学生で日本語教育を専攻する者は、「日本語指導」を必ず履修すること。2014年度以前入学生においては「日本語指導」は必修ではないが、それに準ずるものとして、3・4年次に1科目以上履修することを強く勧める。なお、日本語実習に興味・関心を持つ者であれば、学部・学科、年次にかかわらず聴講を歓迎する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業に関するオリエンテーション	
2.	各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
3.	各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
4.	各自の実習先における目的と学習者・授業内容について発表を行う。	発表準備
5.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
6.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
7.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
8.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
9.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
10.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
11.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
12.	各自、おのおのの実習先で日本語指導の実践を行う。	実習先で必要な実習準備を行う。
13.	各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備
14.	各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備
15.	各自が行った実習について、学習者・授業内容などの点から発表を行う。	発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
・履修する時点で、前学期中にすでにプログラムに参加、もしくは参加申し込みしているか、今学期中に参加するプログラムを決めている必要があります。不明な点があれば、メール等で質問・相談してください。
・プログラムへの申し込みは、各自で行います。プログラムにより、実習参加時期、費用の要不要が異なるので、十分に調べたうえで申し込むようにしましょう。
・実習プログラムは、変更する可能性がありますので、掲示にて確認してください。

フィードバックの方法:　授業でフィードバックを行うほか、メールでの質問にも応じます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プログラム修了	50%	修了証（コピー可）の提出（到達目標①～④）。
発表およびレポート	50%	発表、および、レポート提出（到達目標①～④）。いずれかを欠いた者は不合格とする。

教科書:

参考書: 浅倉美波他『日本語教師必携　ハート＆テクニック』
庵功雄他『初級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
庵功雄他『中級を教える人のための日本語文法ハンドブック』
市川保子『初級日本語文法と教え方のポイント』
市川保子『中級日本語文法と教え方のポイント』
川口義一・横溝紳一郎『成長する教師のための日本語教育ガイドブック（上・下）』
丸山敬介『日本語教育演習シリーズ（5）　教え方の基本』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室で対応。
Eメール：yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

236160

教室活動論A

丸山　　敬介

授業テーマ:　日本語教育初級段階初期における教室活動

授業の概要:　初級段階の初期における基本的な項目の基本的な指導方法について、教材・教具、指導技術その他の点から具体的に学ぶ。

到達目標:
①日本語教育初級初期の指導プロセスを学ぶ。
②日本語教育初級初期の教材・教具の用い方について学ぶ。

授業方法:　基本的に6～7名程度の小グループに分け、教師による説明 → 互いを教師と学習者に見立てた模擬指導、という構成で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本語教育初級段階の指導項目概観	初級教科書についてその概要を調べる。
2.	初級段階初期の指導　1-1	初級の初期に取り上げる項目について調べる
3.	初級段階初期の指導　1-2	前回の授業を振り返る。
4.	初級段階初期の指導　1-3	前回の授業を振り返る。
5.	初級段階初期の指導　2-1	教師の指示する第2項目について調べる。
6.	初級段階初期の指導　2-2	前回の授業を振り返る。
7.	初級段階初期の指導　2-3	前回の授業を振り返る。
8.	初級段階初期の指導　3-1	教師の指示する第3項目について調べる。
9.	初級段階初期の指導　3-2	前回の授業を振り返る。
10.	初級段階初期の指導　3-3	前回の授業を振り返る。
11.	初級段階初期の指導　4-1	教師の指示する第4項目について調べる。
12.	初級段階初期の指導　4-2	前回の授業を振り返る。
13.	初級段階初期の指導　4-3	前回の授業を振り返る。
14.	初級段階初期の指導　5-1	教師の指示する第5項目について調べる。
15.	初級段階初期の指導　5-2	前回の授業を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　模擬授業という形式が基本なので、一般の授業より一層の積極的学習態度が求められる。

フィードバックの方法:　授業の前後・最中に、適宜、フィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	100%	到達目標①②の達成度並びに自らの役割を踏まえた授業中の態度を評価対象とする。なお、正当な理由なく5回以上欠席の場合は不可とする。

教科書:　マナビーで指示する。

参考書:　授業中に、適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:
授業前後に対応する。
Eメールやオフィスアワーも活用すること。
丸山 敬介　kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

236260

教室活動論B

丸山　　敬介

授業テーマ:　日本語教育初級段階中期における教室活動

授業の概要:　初級段階の中期における基本的な指導方法について、教材・教具、指導技術その他の点から具体的に学ぶ。

到達目標:
①日本語教育初級中期の指導プロセスを学ぶ。
②日本語教育初級中期の教材・教具の用い方を学ぶ。

授業方法:　基本的に6～7名の小グループに分け、教師による説明 → 互いを教師と学習者に見立てた模擬指導、という構成で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本語教育初級段階の指導項目概観	初級教科書についてその概要を調べる。
2.	初級段階中期の指導　1-1	初級の中期に取り上げる項目について調べる。
3.	初級段階中期の指導　1-2	前回の授業を振り返る。
4.	初級段階中期の指導　1-3	前回の授業を振り返る。
5.	初級段階中期の指導　2-1	教師の指示する第2項目について調べる。
6.	初級段階中期の指導　2-2	前回の授業を振り返る。
7.	初級段階中期の指導　2-3	前回の授業を振り返る。
8.	初級段階中期の指導　3-1	教師の指示する第3項目について調べる。
9.	初級段階中期の指導　3-2	前回の授業を振り返る。
10.	初級段階中期の指導　3-3	前回の授業を振り返る。
11.	初級段階中期の指導　4-1	教師の指示する第4項目について調べる。
12.	初級段階中期の指導　4-2	前回の授業を振り返る。
13.	初級段階中期の指導　4-3	前回の授業を振り返る。
14.	初級段階中期の指導　5-1	教師の指示する第5項目について調べる。
15.	初級段階中期の指導　5-2	前回の授業を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　模擬授業という形式が基本なので、一般の授業より一層の積極的学習態度が求められる。

フィードバックの方法:　授業の前後・最中に、適宜、フィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	100%	到達目標①②の達成度並びに自らの役割を踏まえた授業中の態度を評価対象とする。なお、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。

教科書:　マナビーで指示する。

参考書:　授業中に、適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業前後に対応する。
また、Eメール・オフィスアワも活用すること。
丸山敬介　kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

236360

社会と外国語教育A

藤井　　幸之助

授業テーマ:

日本における子どもに対する母語教育・継承語教育と成人に対する識字・日本語教育−外国人学校・民族学校・中学校夜間学級・日本語識字教室を中心に−

授業の概要:

戦後の日本における言語教育(「国語」「外国語」)をふまえつつ、民族的マイノリティの子どもたちの教育を母語・継承語の観点から考える。「子どもの権利条約」第30条にある「マイノリティの子どもたちが自己の文化を共有する権利を否定されない」という趣旨の条項を実現するためには何が必要か検討したい。

到達目標:

具体的に、日本各地にある、外国にルーツのある子どもたちのための外国人学校・民族学校における母語教育・継承語教育を考察する。また、日本における成人に対する日本語教育の諸形態も考察する。

授業方法:

講義形式でおこなう。映像資料を頻繁に使用する。また、5月にはグループわけをし、民族学校・外国人学校・中学校夜間学級・日本語識字教室・日本語学校などへ行って、インタビュー調査をし、レポートをまとめ、報告書を作成する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
2.	日本における「国語」「外国語」教育について	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
3.	日本に暮らす外国人について(1)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
4.	日本に暮らす外国人について(2)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
5.	日本に暮らす外国人について(3)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
6.	母語教育・継承語教育について	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
7.	朝鮮学校について(1)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
8.	朝鮮学校について(2)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
9.	民族学校・外国人学校などについて(1)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
10.	民族学校・外国人学校などについて(2)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
11.	レポート作成について(1)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
12.	レポート作成について(2)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
13.	レポート作成について(3)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
14.	レポート作成について(4)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。
15.	総括(レポート報告会)	自ら考える力を養う。疑問に思ったことは何でも調べるようにする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

調査先の学校へは学生自ら取材を申し込み、アポイントを取り、インタビューをおこない、レポートをまとめてもらう。初めての経験だとは思うが、積極的な取り組みを望む。

フィードバックの方法:

学生から提出されたレポートを1冊の報告書にまとめ、授業最終日にプレゼンテーションをしていただき、学生同士の成果を確認しあう。また、お世話になった学校に報告書をお届けすることで自分たちの調査の意味を考える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30	授業への積極的参加度を見る。教育実習などのある学生は配慮する。
期末レポート	70	各自、5月末までに訪問学校・教室を決め、グループにわかれて、インタビュー調査をして、原稿を執筆する。 提出されたレポートを報告集として発行する。

教科書:

特に指定しない。授業中に、随時プリントを配布する。

参考書:

中村一成(2014)『ルポ 京都朝鮮学校襲撃事件ー〈ヘイトクライム〉に抗して』岩波書店
師岡康子(2013)『ヘイト・スピーチとは何か』岩波新書
多言語化現象研究会編(2013)『多言語社会日本ーその現状と課題ー』三元社
丹羽雅雄(2012)『知っていますか? 移住労働者とその家族の人権 一問一答』解放出版社
真田信治・庄司博史編(2005)『事典 日本の多言語社会』岩波書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

masipon@nifty.com

236460

インターンシップⅡ

丸山　　敬介

授業テーマ:　国際交流の現場体験

授業の概要:　外国語教育はその時々の社会情勢のありように大きな影響を受ける。今日の日本では、中国帰国者・日系人・日本人と結婚した外国人などいわゆるニューカマーと呼ばれる人たちの定住が進む一方で、政府の後押しを受けた観光客の急増などが認められる。最近では、これらに、介護士・看護師が加わる。こうした外国人を受け入れていくには、日本社会はどう変わるべきなのか、そして、その流れの中で何が日本語教育に求められているのか。そうしたことがらを実地体験する。

到達目標:
①関西を訪れるあるいは関西に居住する外国人はどのような環境にあっていかなる行動をとっているのかを観察すること
②彼らの生活においてどのような日本語指導の必要性が生じているのかを考察すること
③①②の実際を、国際交流団体の窓口業務を通して学ぶこと

授業方法:
インターンシップ先:京都市・大坂市・滋賀県大津市内の国際交流団体・日本語学校など
実習先については追加・削除など変更の可能性があるので、掲示に注意すること。

授業方法:
事前指導として、インターンシップ先の活動内容を把握しその機関において自分は何を学びたいかを明らかにし、発表する。インターンシップそのものでは、原則、2週間程度、50時間以上の活動が求められる。携わる活動はインターンシップ先によるが、日本語指導を行っている機関において、外国人の受け入れから送り出しまでのさまざま側面における補助的な活動をするものと思われる。その後、事後指導として、インターンシップ先で行った活動内容とそこで何を感じ考え何を学んだかを、各自、発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	インターンシップ先の活動内容及びそこにおいて学ぼうとする事柄に関する発表　1	インターンシップ先の沿革・活動内容などについて調べる。また、そこで自分が何を学びたいかをまとめる。
2.	インターンシップ先の活動内容及びそこにおいて学ぼうとする事柄に関する発表　2	インターンシップ先の沿革・活動内容などについて調べる。また、そこで自分が何を学びたいかをまとめる。
3.	インターンシップ先での活動（各自）　1	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
4.	インターンシップ先での活動（各自）　2	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
5.	インターンシップ先での活動（各自）　3	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
6.	インターンシップ先での活動（各自）　4	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
7.	インターンシップ先での活動（各自）　5	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
8.	インターンシップ先での活動（各自）　6	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
9.	インターンシップ先での活動（各自）　7	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
10.	インターンシップ先での活動（各自）　8	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
11.	インターンシップ先での活動（各自）　9	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
12.	インターンシップ先での活動（各自）　10	指示された活動において何をどう求められているのかを考察する。また、インターン先で準備として指示されたものがあれば、それを遂行する。
13.	インターンシップ先で行った活動内容及び意見・感想の発表　1	インターンシップ先の活動と自分が学んだことについてまとめる。
14.	インターンシップ先で行った活動内容及び意見・感想の発表　2	インターンシップ先の活動と自分が学んだことについてまとめる。
15.	インターンシップ先で行った活動内容及び意見・感想の発表　3	インターンシップ先の活動と自分が学んだことについてまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　インターンシップ先の業務に支障のないよう自覚を持って行動することが求められるので、その旨、十分、心得ておくこと。

フィードバックの方法:　事前事後の授業においては、適宜、教室内外でフィードバックする。インターンシップ先のことについては、適宜、対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の積極的参加度	50%	事前・事後指導における発表並びに他の学生の発表時の質疑応答の模様を①～③の観点から評価する。やむを得ない場合を除き、欠席は認めない。
レポート	50%	事後指導における発表をまとめたレポートを①～③の観点から評価する。

教科書:　なし

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	丸山敬介 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

236761

日本語表現A

森下　　訓子

授業テーマ:　日本語でのさまざまな言語表現の基礎を学習し、豊かな自己表現の向上をめざす。

授業の概要:　「書く」「読む」という言語活動に重点を置き、現実的で身近な「課題」に取り組みながら、大学生または社会人としてふさわしい表現能力を身につける。

到達目標:
自ら意欲的に学ぶことで、日本語表現のスキルアップを図る。
①「書く」という技能の習得を目指す。
自分の意見をまとめ、読み手にわかりやすく伝える。
②「読む」という技能の習得を目指す。
限られた時間の中で必要な文献や資料を探し出し、内容を把握しながら自分の意見をまとめる。

授業方法:
・授業の流れは、「講義」→「課題を解く」→「意見交換」→「取り組んだ課題を振り返る」という順で進める。
・取り組んだ課題については、その都度シートを提出する。
・トレーニングシートを用いた作業中心の授業である。限られた時間で多くの問題について触れるので、効率よく作業をすること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	課題プリント①
2.	必要事項とその整理−スケジュール管理	課題シート
3.	1.メールとは	課題プリント②
4.	2.メールを書く-お伺い・問い合わせ	課題シート 課題プリント③
5.	3. メールを書く-依頼など	課題シート 課題プリント④
6.	書面で伝える−連絡係の仕事	課題シート
7.	手紙とその形式について	課題シート
8.	文字を見直そう	課題プリント⑤
9.	1.解釈-文章	課題シート
10.	2.解釈-データ	課題シート
11.	1.調べる-図書館を活用しよう	課題シート
12.	2.調べる-インタネットを活用しよう	課題シート
13.	アンケートを作る	課題シート
14.	文章を要約する	課題シート
15.	まとめと振り返り	課題プリント⑥（メールで提出）

受講者へのメッセージやアドバイス:
・履修者の進度、レベルにより、授業計画を多少変更することがある。
・各自の日本語表現能力を養成する場が授業だと思い、参加してほしい。

フィードバックの方法:　提出物については、コメントを付けて返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
参加態度	30	・積極的に発言したかどうか。
提出物	70	・期限を守って提出したか。 ・課題内容を前向きに取り組んで仕上げたか。

教科書:　『大学生のための日本語表現トレーニング　実践編』福嶋健伸/橋本修/安部朋世（三省堂）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　kmorishi@dwc.doshisha.ac.jp

236762

日本語表現A

河村　　静江

授業テーマ:　母国語である日本語を見つめなおし、よりよい表現者となることを目指す。

授業の概要:　私たちが日頃よく目にする表現（漢字・ことわざ・慣用句・文法・敬語など）について、誤りや曖昧な点を意識し、どのように表現すればよいかを考える。

到達目標:　日常生活におけるあらゆる場面で自分自身を表現できる能力を養う。

授業方法:　テキストに沿って講義・演習・グループ発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	各自「気になる日本語」をピックアップする。
2.	言葉と表現（1）漢字・おかしい？おかしくない？この表現①	同上
3.	言葉と表現（2）漢字・おかしい？おかしくない？この表現②	同上
4.	言葉と表現（3）四字熟語・さ入れ・ら抜き・れ足す言葉	同上
5.	言葉と表現（4）慣用句・間違えやすい漢字	同上
6.	言葉と表現（5）ことわざ・間違えやすい表現	同上
7.	言葉と表現（6）文の構造	同上
8.	話してみよう（1）自己PR	自己紹介の際、どのような工夫をすれば聞き手の印象に残るかを考える。
9.	話してみよう（2）インタビュー	人をどのように紹介すれば聞き手によい印象を与えるかを考える。
10.	話してみよう（3）発表	グループ発表を通じて各自原稿の手直しを行う。
11.	敬語（1）	敬語の基礎について学ぶ。
12.	敬語（2）	各自「気になる敬語」をピックアップする。
13.	敬語（3）	同上
14.	日本語能力試験問題をやってみよう	社会人に求められる日本語力について意識する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　社会人として最低限必要な日本語の表現について皆で学び、考えます。
遅刻・欠席のないようにしてください。

フィードバックの方法:　授業でまとめて解説する。個別に添削してもらいたい時は授業が終わった後に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	到達目標の理解度により評価する。
授業への参加態度	50%	出席状況や、話し合いに積極的に参加しているか、課題が提出されているかを基準とする。

教科書:　米田明美他著『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

236861

日本語表現B

森下　　訓子

授業テーマ:
日本語でのさまざまな言語表現の基礎を学習し、豊かな自己表現の向上をめざす。

授業の概要:
「話す」という言語活動に重点を置き、現実的で身近な「課題」に取り組みながら、大学生または社会人としてふさわしい表現能力を身につける。

到達目標:
自ら意欲的に学ぶことで、日本語表現のスキルアップを図る。
①「話す」という技能の習得を目指す。
聞き手を配慮し、その場でわかりやすく伝え、納得してもらう。
②自己分析し、自分自身をどのようにアピールすればよいのか考える。

授業方法:
2～11回目、15回目
・授業の流れは、「講義」→「課題を解く」→(「発表」)→「意見交換」→「取り組んだ課題を振り返る」という順で進める。
・トレーニングシートを用いて課題を解いていく。
・いくつかの課題については、担当者を決めて発表する。
・取り組んだ課題については、その都度シートを提出する。
12～14回目
授業で学んだことを生かして紹介スピーチをする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 話すこと	自己紹介できるように準備してくること。
2.	人を紹介する	課題シート
3.	1.説明をする-漏れや重複のない説明	課題シート
4.	2.説明をする-聞き手に合わせてわかりやすい説明	課題シート
5.	口頭表現の基礎を押さえる-印象のよい話し方	課題シート
6.	インタビューする	課題シート
7.	電話対応のマナーを学ぶ	課題シート
8.	自己分析-エントリーシートの書き方	課題シート
9.	自己PR-面接	課題シート
10.	1.視聴覚資料を作成する	課題シート
11.	2. 視聴覚資料を作成する	課題シート 発表の準備
12.	1.課題発表-紹介スピーチ	発表の準備 各発表者に対する評価とコメント
13.	2.課題発表-紹介スピーチ	発表の準備 各発表者に対する評価とコメント
14.	3.課題発表-紹介スピーチ	各発表者に対する評価とコメント
15.	自己アピール-申請書を出す	課題シート

受講者へのメッセージやアドバイス:
履修者の進度、レベルにより、授業計画を多少変更することがある。
各自の日本語表現能力を養成する場が授業だと思い、参加してほしい。

フィードバックの方法:
提出物については、授業内にコメントを付けて返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
参加態度	20	・意欲的に発言したかどうか。 ・課題についての発表をしたかどうか。
提出物	40	・期限を守って提出したか。 ・課題内容を前向きに取り組んで仕上げたか。
課題発表	40	評価の基準は授業内に知らせる

教科書:
『大学生のための日本語表現トレーニング　実践編』福嶋健伸/橋本修/安部朋世(三省堂)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:
kmorishi@dwc.doshisha.ac.jp

236862

日本語表現B

河村　　静江

授業テーマ:　母国語である日本語を見つめなおす。

授業の概要:　社会人になってから必要とされる、様々な文書を書く技術や、マナーについて皆で学び、考える。

到達目標:　社会人として、よりよい表現者として、あらゆる場面に対応できるようになること。

授業方法:　毎回出されるテーマについて受講者個人で考えながら文章を書く。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	主観的・客観的表現について考える
2.	説明・描写(1)物について説明する	聞き手の知らない事柄について言葉だけで説明する方法を考える。
3.	説明・描写(2)道案内する	同上
4.	文章の要約(箇条書き・要約の仕方)	わかりやすい文章について考える。
5.	手紙を書く(改まった手紙の書き方)	改まった文書について意識してみておく。
6.	案内文を書く(ビジネス文書の書き方)	同上
7.	冠婚葬祭のマナー	冠婚葬祭のマナーについての本を読んでおく。
8.	分析・考察(1)レポート・論文の形式	レポートや論文を読み、どのような構成や表現となっているかを考えておく。
9.	分析・考察(2)データの説明の仕方	同上
10.	分析・考察(3)考察・意見の書き方	同上
11.	就職活動の準備(1)エントリーシート	自分のやってみたい仕事について考えておく。
12.	就職活動の準備(2)ディスカッション	テレビのCMや広告を見ておく。
13.	ビジネスマナー	ビジネスマナーについての本を読んでおく。
14.	日本語検定問題	社会人として必要な日本語力について考える。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業ではたくさん考え、たくさん書きます。課題を通して社会人の疑似体験をしてみましょう。
遅刻・欠席のないようにしてください。

フィードバックの方法:　授業でまとめて行う。漢字の間違いなど簡単な添削は行うが、内容に関する添削に関しては授業が終わった後、希望者に個別に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	到達目標に関する理解度によって評価する。
授業への参加態度	50%	出席状況、課題の提出状況、授業への参加態度を基準とする。

教科書:　米田明美他著『大学生のための日本語表現実践ノート』風間書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

236960

コピーライティング

加藤　　正明

授業テーマ:　広告とコピー制作の基礎を学び、「想いを凝縮する難しさと楽しさ」を経験する。

授業の概要:　授業全15回を下記の3ステージで構成する。

ステージ1　クリエイターの仕事ぶりを通して広告の世界を理解する
ステージ2　コピーライター岩崎俊一氏の作品集を通してコピーの奥義に触れる
ステージ3　コピーライターになったつもりで演習にチャレンジする

到達目標:　ふたつの目標を掲げるが、どちらかというと目標②を重視。ただし、演習の巧拙で優劣をつけることはしない。

目標①　企業活動における広告の位置づけと制作者に求められるものを理解する
目標②　何かを発見しそれを短い言葉で誰かに伝えるというコピーの基本を経験する

授業方法:　ステージ1、2は主に講義形式、ステージ3は演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「カメラマン」の仕事を通して理解する広告の世界	無し
2.	「アートディレクター」の仕事を通して理解する広告の世界	無し
3.	「コピーライター」の仕事を通して理解する広告の世界	無し
4.	名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(1)	教科書の事前目通し
5.	名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(2)	教科書の事前目通し
6.	名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(3)	教科書の事前目通し
7.	名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(4)	教科書の事前目通し
8.	名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(5)及び課題発表	教科書の事前目通し
9.	名コピーライター岩崎俊一氏の作品集に学ぶ(6)及び課題発表	教科書の事前目通し 宿題形式で課題取り組み
10.	演習(1)　課題講評、課題発表	宿題形式で課題取り組み
11.	演習(2)　課題講評、課題発表	宿題形式で課題取り組み
12.	演習(3)　課題講評、課題発表	宿題形式で課題取り組み
13.	演習(4)　課題講評、課題発表	宿題形式で課題取り組み
14.	演習(5)　課題講評	宿題形式で課題取り組み
15.	演習(6)　課題講評	無し

受講者へのメッセージやアドバイス:　過去の受講生の多くが、「自分自身の演習取り組みのほかに、級友の作品にふれることも大きな刺激であった」とアンケートで答えています。自分の書いたものが(匿名ではありますが)級友達の前で披露されることは恥ずかしいことかもしれませんが、何かを創作するということは評価をうけることと切り離せません。実社会のシミュレーションとして前向きに参加しようという学生を歓迎します。

フィードバックの方法:　授業内で解説します。一部についてはコメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内演習	40	提出に対して配点(巧拙は問わない)
宿題形式演習	60	提出に対して配点(巧拙は問わない)

教科書:　岩崎俊一「幸福を見つめるコピー 完全版」東急エージェンシー

参考書:　鈴木康之「名作コピーに学ぶ読ませる文章の書き方」日経新聞ビジネス人文庫
黒澤晃「これから、絶対、コピーライター」マスナビBOOKS

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

237160

ウェブ・コンテンツⅠ

福田　　秀樹

授業テーマ:　マルチメディアを活用し、Webデザインの制作を通して魅力ある情報発信能力を身につける。

授業の概要:　ワープロ・表計算の基礎を学んだ者を対象として、マルチメディアを活用しWebサイトを通して魅力ある情報発信を行うことを目標とする。Webエディタ等を用いてマルチメディアの基礎を体得し、編集ソフトを用いて画像の編集加工を行う。さらに習得した技術を活用してWebオーサリングツールを使用し、Webサイト制作における魅力ある情報発信を行い、デザイン的な観点からより伝わる表現を実現する。

到達目標:　画像編集ソフトを使用した画像の編集加工
Webオーサリングツールを使用したWebデザインの制作

授業方法:　毎回コンピュータを用いて実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、概要 Webオーサリングツールについて ・用語の解説1	用語の理解
2.	Webサイト基礎（1）HTML基礎 ・用語の解説2	プログラミング言語の理解
3.	メディア編集（1）GIFアニメーション ・用語の解説3	画像素材の取扱い
4.	メディア編集（2）画像編集ソフトの基本操作 ・用語の解説4	基本操作、画像の編集
5.	メディア編集（3）画像編集ソフトの基本操作 ・用語の解説5	基本操作、画像の補整・合成加工
6.	メディア編集（4）画像の編集加工、ロゴ・バナー作成 ・用語の解説6	画像編集ソフトの応用操作
7.	Webサイト基礎（2）Webオーサリングツールの基本操作、ページフォーマットの作成 ・用語の解説7	ページフォーマットの設定手順
8.	Webサイト基礎（3）ページレイアウト、素材の配置	テキスト、画像素材の配置手順
9.	Webサイト基礎（4）テキストリンク、画像リンクの設定	リンクの設定手順
10.	Webサイトの企画 サイトマップ・ワイヤーフレームの作成	Webサイト全体の構成、ページレイアウトの構成
11.	Webサイト制作（1） テキスト、画像素材の準備	Webサイトの素材の選定
12.	Webサイト制作（2） ページフォーマットの作成	Webオーサリングツールの応用操作
13.	Webサイト制作（3） ページレイアウト、リンクの設定	Webオーサリングツールの応用操作
14.	Webサイト制作（4）検証 レイアウト調整、ブラウザで確認	Webサイトの公開申請
15.	Webサイト制作（5）仕上げ 学内サーバーへのアップロード、ブラウザで確認	Webサイトをブラウザで確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	授業への参加、態度
課題	50	発想・表現力、完成度、提出期限

教科書:　必要資料を授業中に配布する。

参考書:　適宜、授業中に指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対、またはマナビー

237260

ウェブ・コンテンツⅡ

福田　　秀樹

授業テーマ:　マルチメディアの基礎を活用しデザイン的に精度の高いWebサイト制作を行い、情報の編集力と発信能力を高める。

授業の概要:　「ウェブ・コンテンツⅠ」でWebサイト制作の基礎を学習した者を対象として、より精度の高いWebサイト制作ができるように導く。企画・構想を実現する為に、基本技術を活用しながら応用的な機能を導入した制作を行う。さらにデザイン的な観点からわかりやすいナビゲーションを心がけ、情報の編集力と発信能力を高めていく。

到達目標:　Webオーサリングツールを使用したWebサイト制作

授業方法:　毎回コンピュータを用いての実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、Webサイト制作について	画像編集ソフトの基本操作
2.	マルチメディアの応用（1） ページの装飾	Webオーサリングツールの基本操作
3.	マルチメディアの応用（2） 画像の編集加工	画像編集ソフトの応用操作
4.	マルチメディアの応用（3） 画像の編集加工	画像の補正、編集加工
5.	マルチメディアの応用（4） ページレイアウト・テーブルとフレーム	画像の合成加工
6.	マルチメディアの応用（5） ページレイアウト・スタイルシート	Webオーサリングツールの操作、ページレイアウトの復習
7.	マルチメディアの応用（6） ページレイアウト・スタイルシート	Webオーサリングツールの操作、ページレイアウトの復習
8.	企画立案（1）サイトデザインをリサーチ	Webオーサリングツールの操作、ページレイアウトの復習
9.	企画立案（2）サイトマップの作成	Webサイトの企画案の作成
10.	企画立案（3）ワイヤーフレームの作成	サイトマップ・ワイヤーフレームの作成
11.	Webサイト制作（1） テキスト、画像素材の準備	テキストの編集、ロゴ・バナー画像の作成
12.	Webサイト制作（2） ページフォーマットの作成	ページのデザイン
13.	Webサイト制作（3） ページレイアウト、リンクの設定	ページのデザイン
14.	Webサイト制作（4）検証 レイアウト調整、ブラウザで確認	Webサイトをブラウザで確認
15.	Webサイト制作（5）仕上げ 学内サーバーへのアップロード、ブラウザで確認	学内サーバーへのアップロード Webサイトをブラウザで確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	授業への参加、態度
課題	50	発想・表現力、完成度、提出期限

教科書:　必要資料を授業中に配布する。

参考書:　適宜、授業中に指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対、またはマナビー

237361、63

書道A

竹内　　健治

授業テーマ:　書法の基本―楷書・行書を学ぶ―

授業の概要:　東晋から唐の楷書（楽毅論、随代墓誌、智永千字文、九成宮）が、如何に完成されていったか、変遷の歴史を学びながら、それらの基本的な技法を学び、習得を目指す。また王義之の行書（蘭亭序、集字聖教序）を学び、後世の書人（顔真卿、米元章）が影響を受けどのように芸術的に継承・展開していったが、その様子を紹介し、その基本的技巧を学ぶ。

到達目標:　楷書・行書の筆法を理解して各古典の文字の姿、線の特徴を良く理解し捉えられるように、また余白を考え美しく配置して表現できようにする。書文化としての歴史的な流れと発展の様子を理解する。

授業方法:　実習を基本とする。毎回課題(半紙に2字～6文字書く)の紹介（歴史的意義、作品の内容）を示し、それに基づき練習をする。授業時間内の何度でも練習し、講師が随時ポイントを指導していくことにより、各自のペースで制作していく。希望により添削もする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(文房四宝・授業予定)	書道用具(筆・文鎮・下敷・墨汁・半紙)持参
2.	楷書の技法1　王羲之「楽毅論」　①	課題プリント学習(1時間程度)
3.	楷書の技法2　王羲之「楽毅論」　②	課題プリント学習(1時間程度)
4.	楷書の技法3　「蘇慈墓誌」　①	課題プリント学習(1時間程度)
5.	楷書の技法4　智永「関中本千字文」　②	課題プリント学習(1時間程度)
6.	楷書の技法5　欧陽詢「九成宮醴泉銘」①	課題プリント学習(1時間程度)
7.	楷書の技法6　欧陽詢「九成宮醴泉銘」②	課題プリント学習(1時間程度)
8.	行書の技法1　王羲之「蘭亭序」　①	課題プリント学習(1時間程度)
9.	行書の技法2　王羲之「蘭亭序」　②	課題プリント学習(1時間程度)
10.	行書の技法3　王羲之「集字聖教序」　①	課題プリント学習(1時間程度)
11.	行書の技法4　王羲之「集字聖教序」　②	課題プリント学習(1時間程度)
12.	行書の技法5　顔真卿「祭姪稿」　①	課題プリント学習(1時間程度)
13.	行書の技法6　顔真卿「祭姪稿」　②	課題プリント学習(1時間程度)
14.	行書の技法7　米元章「蜀素帖」　①	課題プリント学習(1時間程度)
15.	行書の技法8　米元章「蜀素帖」　②	課題プリント学習(1時間程度)

受講者へのメッセージやアドバイス:　90分の授業時間指定された教室内で学習すること。自分でテキストをよく見て、姿や線について考えてから実習するとさらに効果的である。漠然と書いているより成果が上がる。また自宅にて復習すればより効果が期待される。

フィードバックの方法:　質問等随時受け付けますから積極的に活用してください。作品添削を教室で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎時の提出物(清書作品)	70%	到達目標の理解と具体化達成度
授業態度および提出物	30%	授業に臨む積極的な態度、毎回の提出物の有無 (注意)清書提出をもって出席とする。

教科書:　毎回の授業時に担当教員の作成したプリントを配布する（無料）

参考書:　授業時に随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業最後における質問も歓迎するが、メールアドレスも掲載する。seiun7788@yahoo.co.jp

237362

書道A

松本　　美惠

授業テーマ:

授業の概要:
日本における書道教育は「習字→書写→書道」と変化している。これらの名称の変化について認識すると同時に、書写・書道への理解の深化を図る。書道史上には優れた書の古典が多く存在する。書写・書道への理解の深化を図るため、これらの古典を通じて多様な美に触れ、鑑賞・理解・表現について究明する。また、古典臨書することにより用筆法・結構法等の研究と表現の向上を図る。

到達目標:
「習字・書写・書道」について理解する。
鑑賞・理解・表現が互いに作用していることを理解する。
楷書体についての用筆法・結構法等について理解する。
行書体についての用筆法・結構法等について理解する。

授業方法:
講義と実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文房四宝について概説する	身近な書道道具について観察しておく。
2.	習字・書写・書道について概説する。 書体の変遷について概説する。	身近な書について観察しておく。
3.	楷書『九成宮醴泉銘』 1　講義と実技	
4.	楷書『九成宮醴泉銘』 2　講義と実技	『九成宮醴泉銘』の特徴をまとめておく。
5.	楷書『孔子廟堂碑』 1　講義と実技	
6.	楷書『孔子廟堂碑』 2　講義と実技	『孔子廟堂碑』の特徴をまとめておく。
7.	楷書『雁塔聖教序』 1　講義と実技	
8.	楷書『雁塔聖教序』 2　講義と実技	『雁塔聖教序』の特徴をまとめておく。
9.	楷書『建中告身帖』 1　講義と実技	
10.	楷書『建中告身帖』 2　講義と実技	『建中告身帖』の特徴をまとめておく。
11.	行書『蘭亭序』 1　講義と実技	
12.	行書『蘭亭序』 2　講義と実技	『蘭亭序』の特徴をまとめておく。
13.	行書『集字聖教序』 1　講義と実技	
14.	行書『集字聖教序』 2　講義と実技	『集字聖教序』の特徴をまとめておく。
15.	楷書・行書のまとめ　講義と実技	それぞれの特徴を明確に表現できるようまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
必要な道具については選択方法も併せて1回目の講義で説明します。受講希望者は1回目は是非受講してください。
実技には道具が必要です。
書道歴は人によって異なりますが、この講義では気にしなくても構いません。書道歴よりも毎回の講義を確実にこなすことが重要です。

フィードバックの方法:
講義について、内容確認のためミニレポートを提出することもあります（講義後）。質問等随時受け付けますので積極的に利用してください。作品添削を教室で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物	70	到達目標に挙げた書写・書道についての理解度を評価する。 到達目標の楷書・行書の用筆法・結構法等に関しての理解度を評価する。
授業へ積極的な取り組み	30	積極的な取り組み、到達目標の鑑賞・理解・表現に関しての理解度を評価する。

教科書:
検討中

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
講義時間内

237461

書道B

竹内　　健治

授業テーマ:　書法の発展―行書・草書・仮名を学ぶ―

授業の概要:　書法的に発展・展開された行書、草書とかなを学ぶ。行書は王羲之の手紙から明代の王鐸の行草書を用いて羲之以降の発展的な行書の技法を学ぶ。草書は古典的名筆とされる王羲之「十七帖」と明代王鐸の「献之臨書帖」を、また平安期「藤原佐理」をテキストに、その美的特質を考えながら技法を学ぶ。かなでは、平安期高野切、関戸古今集、寸松庵色紙をテキストとしわが国古来の変体仮名に対する知識と理解を深め、基本的な技法を学ぶ。なお、中国や日本の書道文化史への興味を促すようなトピックも随時提供していきたい。

到達目標:　行書・草書・仮名書の筆法を発展の歴史を理解し、その特徴、個性を理解し美的に表現する。
また、余白美しく収まっているか、作品のリズムや流れ抑揚・緩急を理解できるようにする。

授業方法:　実習を基本とする。毎回課題の紹介（作品の内容、歴史的意義）を示し、それに基づき練習をする。授業時間内の繰り返しの練習と講師の随時ポイントを指導していくことにより、各自のペースで制度の向上を目指し制作する。希望により添削もする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	行書の技法の展開1　王鐸　香山寺作　①	課題プリント学習(1時間程度)
2.	行書の技法の展開2　王鐸　香山寺作　②	課題プリント学習(1時間程度)
3.	行書の技法の展開3　空海「風信帖」	課題プリント学習(1時間程度)
4.	行書の技法の展開4　空海「風信帖」	課題プリント学習(1時間程度)
5.	草書の基本的技法1　王羲之　十七帖　①	課題プリント学習(1時間程度)
6.	草書の基本的技法2　王羲之　十七帖　①	課題プリント学習(1時間程度)
7.	草書の技法の展開3　王　鐸「臨王献之帖」①	課題プリント学習(1時間程度)
8.	草書の技法の展開4　王　鐸「臨王献之帖」①	課題プリント学習(1時間程度)
9.	草書の技法の展開5　藤原佐理「国申文帖」①	課題プリント学習(1時間程度)
10.	草書の技法の展開6　藤原佐理「国申文帖」②	課題プリント学習(1時間程度)
11.	仮名書の基本1　小筆の基本的運筆（いろは）	課題プリント学習(1時間程度)
12.	仮名書の基本2　変体仮名の2字～4字連綿	課題プリント学習(1時間程度)
13.	仮名書の基本3　高野切3種	課題プリント学習(1時間程度)
14.	仮名書の基本4　高野切3種	課題プリント学習(1時間程度)
15.	仮名書の基本4　寸松庵色紙	課題プリント学習(1時間程度)

受講者へのメッセージやアドバイス:　90分の授業時間措定された教室内で学習、指導を受けること。
自分でテキストをよく見て、姿や線についてよく考え検証してから実習するとさらに効果的である。漠然と取り組むよりも成果が上がる。また自宅にて復習すればより効果が期待される。

フィードバックの方法:　質問等随時受け付けますから積極的に活用してください。作品添削を教室で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎時の提出物(清書作品)	70%	到達目標の理解と具体化達成度
授業への参加度	30%	積極的に授業に参加しているか。出席の様子。 (注意)清書提出をもって出席とし成績評価に含める。

教科書:　毎回の授業時に担当教員の作成したプリント配布する。(無料)

参考書:　授業時に随時指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内において質問があればその都度答える。参考までにメールアドレスも掲載する。@seiun7788.yahoo.co.jp

237462 **書道B**

松本　　美恵

授業テーマ:

授業の概要:
文字を持たなかった日本人は漢字を基に日本独自の文字「仮名」を形成していく。その歴史及び変遷を理解し、日本文学をけん引してきた『万葉集』、『古今和歌集』に見られる仮名についての基本的な事項や書法について研究する。平安時代後期には仮名書として仮名美を極めていくがこの基本についても概観する。また、構築性のある「漢字」と流動性のある「仮名」の美の両者の融合美についても概観する。

到達目標:
文房四宝について理解する。
「仮名」文字の成立について理解する。
「仮名」文字についての用筆法・結構法等について理解する。
「仮名」作品について鑑賞・理解・表現する。

授業方法:
講義と実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文房四宝について概説する	身近な書道道具につて観察しておく。
2.	仮名の発生及び変体仮名について概説する。	
3.	仮名の基本　１　単体の練習 講義と実技	
4.	仮名の基本　２　変体仮名の練習 講義と実技	変体仮名についてまとめておく。
5.	『高野切』１　講義と実技	
6.	『高野切』２　講義と実技	『高野切』の特徴についてまとめておく。
7.	『御物粘葉本和漢朗詠集』１ 講義と実技	
8.	『御物粘葉本和漢朗詠集』２ 講義と実技	『『御物粘葉和漢朗詠集』の特徴についてまとめておく。
9.	『三色紙』１　講義と実技	
10.	『三色紙』２　講義と実技	『三色紙』の特徴についてまとめておく。
11.	『三色紙』３　講義と実技	
12.	散らし書きについて概説する。 講義と実技　講義と実技	第5回～第１１回の講義内容を復習しておく。
13.	創作　1講義と実技	創作する和歌を選択しておく。
14.	創作　２　講義と実技	散らしについて再検討しておく。
15.	創作　３　講義と実技	１４回での説明をもとに料紙に書く際の配置について考えておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
必要な道具について選択方法も併せて1回目の講義で説明します。受講希望者は1回目は是非受講して下さい。実技には道具が必要です。
書道歴は人によって異なりますが、この講義では気にしなくても構いません。書道歴よりも毎回の講義を確実にこなすことが重要です。

フィードバックの方法:
講義について、内容確認のためミニレポートを提出することもあります（講義後）。
質問等随時受け付けますから積極的に活用してください。作品添削を教室で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物	70	到達目標の仮名の用筆法・結構法等に関しての理解度を評価する。
講義への積極的な取り組み	30	積極的な取り組み、到達目標の鑑賞・理解・表現に関しての理解度を評価する。

教科書:
検討中

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
講義時間内

237560

フィールド・ワーク

天野　　太郎

授業テーマ:　京都をあるく―京都文化や歴史、観光の観点から「京都学」の総合的な理解をはかる

授業の概要:　京都地域を総合的に幅広い観点から学習し、また研究を進めていく上では、地域の特性、歴史などの基礎知識の上に、フィールドワークの基本的なもとで、京都を実際に歩き、現地学習を行うことが必要不可欠である。こうした観点から、この授業では、京都に関する基礎学習、フィールドワークに関する基本的な手法に関して学ぶとともに、受講学生と相互に意見交換し、相談した上で目的地を設定し、実際に京都地域（宇治、京田辺、八幡などの周辺地域も含む）また、隣接する大阪や奈良にも焦点をあてながら、現地フィールドワークを通して学習することを目的とする。

到達目標:　１:フィールドワークに関する基本的手法の獲得を通して、京都地域の総合的な学問領域である京都学の理解を深めるとともに、関連して京都観光、さらには他地域におけるフィールドワークに応用が可能な技能の獲得をめざす。
２:京都地域に対する総合的な理解をめざす。

授業方法:　現地学習を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス	配布資料の確認
2.	フィールドワーク目的地の選定　京都フィールドワーク実施の上での基礎技術(1)地図／地形図等の図像資料の活用	配布資料の確認、フィールドワーク目的地の検討
3.	京都フィールドワーク実施の上での基礎技術(1)地図／地形図等の図像資料の活用２	配布資料の確認、フィールドワーク目的地の検討
4.	＊現地フィールドワーク(1)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
5.	＊現地フィールドワーク(2)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
6.	＊現地フィールドワーク(3)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
7.	＊現地フィールドワーク(4)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
8.	＊現地フィールドワーク(5)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
9.	＊現地フィールドワーク(6)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
10.	＊現地フィールドワーク(7)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
11.	＊現地フィールドワーク(8)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
12.	＊現地フィールドワーク(9)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
13.	＊現地フィールドワーク(10)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
14.	＊現地フィールドワーク(11)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
15.	全体の総括　京都の地域構造のありかた	フィールドワークコースについての全体の振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:　(1)受講キャンパス:具体的には、今出川キャンパス内での学習、実習と同時に、京都市内をはじめとした周辺地域での現地学習を併用する。
(2)受講時間:本授業は、学外フィールドワークを実施する。移動時間を考えると通常授業時間内では効果が得にくいため、２・３時間目の連続講義とし、その前後の時間も活用しながら隔週でおこなう。具体的な開始時刻／場所などは講義内で指示する。
(3)本講義は、フィールドワーク実習を伴うため登録人数多数の場合は、受講者選考をおこなう。

フィードバックの方法:　授業中に個別・全体に対してフィードバックを随時おこなう

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
現地でのミニ説明・コメント	100	到達目標１、２の達成を総合的に評価する。

教科書:　特になし。必要に応じてフィールドワーク場所について資料配布をおこなう。

参考書:　天野太郎監修『古地図で歩く古都・京都』三栄書房、2016
天野太郎監修『イラストでみる２００年前の京都』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業中に行うとともに、マナビーなどを総合的に活用する。

237660

アナウンス論

小城　　敏

授業テーマ:　自分の気持ちや考え方を最大限に相手に伝わるためのアナウンス技術の習得

授業の概要:　これからの社会生活で直面する、たとえば「就職試験の面接での受け答え」、「会議の司会」、「スピーチ」、「絵本の読み聞かせ」、「プロのアナウンサーになりたい」など様々な場面で必要なアナウンス技術、普段何気なく使っている日本語をより正確に理解し、そしていかにより良く内容を伝えるためには何が必要かを学び、実践に生かす

到達目標:　伝わるためのアナウンス技術の会得
自己表現力を高める

授業方法:　講義一辺倒ではなく、発声・発音、文章の読み、フリートークなど、積極的に発表できる機会を多く取り入れ、人前で堂々と自分を表現できるような明るく楽しい授業を展開。学生の積極性・話し言葉の魅力を引き出すことに重点をおく

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コミュニケーションとは、自己紹介など	自己紹介（2分程度）をまとめておく
2.	基礎的な「発音・発声」、「滑舌」	日常の発声・発音練習
3.	アナウンスの基礎(1)母音の無声化・鼻濁音・長音	テレビを見る ラジオを聴く
4.	アナウンスの基礎(2)アクセント・イントネーション	テレビを見る ラジオを聴く
5.	【ミニテスト(1)】自己紹介	事前に課題を練習しておく
6.	文章の読み①（簡単な文章を読む）	テレビを見る ラジオを聴く
7.	文章の読み②（天気予報）	テレビを見る ラジオを聴く
8.	文章の読み③（ニュース）	テレビを見る ラジオを聴く
9.	文章の読み④（朗読・ナレーション）	テレビを見る ラジオを聴く
10.	【ミニテスト(2)】文章の読み	事前に課題を練習しておく
11.	司会の実習	テレビを見る ラジオを聴く
12.	インタビューの実習	テレビを見る ラジオを聴く
13.	【ミニテスト(3)】一般常識	テレビを見る ラジオを聴く 新聞を読む
14.	就職試験の面接での受け答え・自己PR	自己PRをまとめておく
15.	最終発表	事前に課題を練習しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　人前で話すことが苦手な方、アナウンサー志望の方、教師を目指している方などはぜひ受講して欲しい

フィードバックの方法:　発表の都度アドバイスを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ミニテスト（3回）	45	1回１５％×３　それぞれのテーマでの理解度
授業への積極的参加	30	毎回の授業内での取り組み方
最終発表	25	授業を通しての理解度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

237761、62

京都を読む・歩く・見る

飯塚　　ひろみ

授業テーマ:

授業の概要:　基本文献を読み、資料を活用しながら実際に歴史的な場に立ち、京都が培ってきた歴史や文化を知るとともに、私たちがいま暮らしている京都の風土を体得する。

到達目標:　広い視野と好奇心を持ち、自ら学ぶという能動的な姿勢を得る。

授業方法:　テーマごとの文献を講読し、実際に現地を訪れ、知り得たことや感じたことを報告書にまとめて発表する。訪れる場所はこちらで決定するほか、履修者との話し合いにより決定することもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文献講読（1） 主に平安京をテーマとする	京都の詳細地図を準備しておくこと
2.	フィールドワーク（1） 主に平安京をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
3.	報告（1） 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと
4.	文献講読（2） 主に京都の産業をテーマとする	指示した文献を読んでおくこと
5.	フィールドワーク（2） 主に京都の産業をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
6.	報告（2） 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと
7.	文献講読（3） 主に京都の文学をテーマとする	指示した文献を読んでおくこと
8.	フィールドワーク（3） 主に京都の文学をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
9.	報告（3） 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと
10.	文献講読（4） 主に京都の寺社をテーマとする	指示した文献を読んでおくこと
11.	フィールドワーク（4） 主に京都の寺社をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
12.	報告（4） 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと
13.	文献講読（5） 主に京都の観光・食文化をテーマとする	指示した文献を読んでおくこと
14.	フィールドワーク（5） 主に京都の観光・食文化をテーマとする	行先についての基本情報を把握しておくこと
15.	報告（5） 前回のフィールドワークの報告	発表資料を準備しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　上記授業内容は前後することがあります。また、訪れる場所によってはテーマが融合します。
フィールドワークに際して、
①長時間歩く場合があること
②交通費や拝観料等がかかる場合があること
を十分に留意したうえで受講を決定してください。

フィードバックの方法:　提出物や発表については教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40%	積極的に授業に参加し、到達目標を達成したかを評価する。
発表、討論	40%	文献講読や報告時における到達目標への態度・意欲を評価する。
レポート	20%	到達目標に関する調査結果のまとめについて独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:　文庫版京都都市図（昭文社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

237861

京ことば

松丸　　真大

授業テーマ:　京ことばで学ぶ社会言語学

授業の概要:　この授業では社会言語学的な観点から「京ことば」について学んでいきます。まず、日本全国の方言の中での京ことばの位置づけについて確認した後、京ことばの特徴を紹介していきます。大阪のことばと対比しつつ、あるいは大阪のことばと共通する点にも注目しつつ、京ことばの言語的特徴をあげていきます。後半は「京ことば」を用いる話し手の性別・職業・年齢・地域などに焦点をあて、京ことばの中の多様性についても考えてみたいと思います。簡単なアンケート調査を行い、受講生自身のことばについても取り上げます。

到達目標:
1. 日本語の多様性の一つとして京ことばを捉えられるようになる
2. 京ことばの言語的特徴や多様性に関する知識を身につける
3. ことばの多様性を分析する方法を学び、資料を読み解くことができるようになる
4. 日本語の多様性を学ぶことで自己のことばを客観的に捉え、他者のことばを肯定的に評価できるようになる

授業方法:　基本的に講義形式で進めますが、授業中におこなう課題について個人またはグループで討論・発表してもらうことがあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の説明・社会言語学とは何か	社会言語学の入門書に目を通しておこう。
2.	社会言語学とは何か（つづき）	第1回の配付資料に目を通しておこう。
3.	京ことばの位置づけ：方言分布と京ことば	方言学の入門書に目を通しておこう。
4.	京都と大阪のことば（1）：音声的特徴	方言学・音声学の入門書に目を通しておこう。
5.	京都と大阪のことば（2）：語彙的特徴	京都独特の表現をたくさん書き出しておこう。
6.	京都と大阪のことば（3）：文法的特徴（1）	方言学の本で関西方言の文法（語法）的特徴を調べておこう。
7.	京都と大阪のことば（4）：文法的特徴（2）	京都の人はどんな場面でハルを使うか、観察しておこう。
8.	京都と大阪のことば（5）：コミュニケーションスタイル	関西方言を話して／話されていて、変だと言われた／感じたエピソードがあるかな？
9.	京ことばと社会集団：性差・職業差・地域差など	京都の中でも色々なことばが話されているが、その違いは何が原因なのか、考えてみよう。
10.	京ことばの変化（1）：言語変化	同じ関西方言でも、年配のかたと大学生とではどのようにことばが違うか、書き出しておこう。
11.	京ことばの変化（2）：言語接触	京都と大阪はことばが違う？どこが違うか、考えてみよう。
12.	京ことばと標準語	自分はどのような場合に標準語を使うか、いつ方言を使うか、考えてみよう。
13.	京ことばのイメージ	地元のことば・京都のことば・大阪のことば、それぞれのイメージの違いを考えてみよう。
14.	京都の言語景観	街を歩いていて目に入る（耳に入る）方言を記録しておこう。
15.	まとめ	これまでに配付した資料をよく読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業進度によって授業内容を適宜変更することがあります。なお、この授業は「京ことば」を一つのことばとして解説することが目的であり、「京ことば」が話せるようになるためのレッスンではありません。

フィードバックの方法:　授業中に配付する出席カード・コメントシートに質問などがあれば記入してもらい、授業中に解説する。ただし、質問の量によっては全てに答えられないこともありますので、予めご了承ください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	55	到達目標2に関する知識や、到達目標3に関する理解度により評価する。また授業内で述べたことを踏まえ、受講生が自らのことばを客観的に捉えられているかという点（到達目標4）も評価する。
課題への取り組み	30	授業中の課題について自分自身で考えようとする姿勢を評価する。
授業への積極的参加	15	積極的に授業に参加し、講義内容を理解しようとする姿勢を評価する。

教科書:

参考書:
堀井令以知『京都語を学ぶ人のために』世界思想社
楳垣実編『近畿方言の総合的研究』三省堂
飯豊毅一・日野資純・佐藤亮一編『講座方言学7　近畿地方の方言』国書刊行会
平山輝男編、中井幸比古ほか著『日本のことばシリーズ26　京都府のことば』明治書院
徳川宗賢・真田信治編『関西方言の社会言語学』世界思想社
真田信治編『方言学』朝倉書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　原則として授業の前後に教室内で質問等を受け付けます。やむを得ない場合はメールを使用します。メールアドレスは必要が生じたとき、当該学生にお知らせします。

237862

京ことば

中井　　幸比古

授業テーマ:　京ことばを観察しよう

授業の概要:　都のことばを日本語の一つの方言としてとらえ、その性格について述べていきます。京都のことばといっても、年代・地域・話者の属する社会集団・使用場面などによってさまざまなことばづかいが含まれます。京都のことばで書かれた小説、映画、会話録音資料などを使い、また受講者自身の方言や共通語などと対照しながら、京都のことばの特徴について考えていきたいと思います。簡単なアンケートを行って授業の中で京都・関西のことばの実態を明らかにすることも行いたいと思います。

到達目標:
・京都のことばが日本全国の方言の中でどのような位置にあった／あるのかを理解する。
・京都のことばの特徴的な表現について理解する。
・京都のことばの周辺にある文化・歴史などについて理解する。

授業方法:　講義を中心としますが、一人ずつあるいは数名のグループで作業をしてもらうことがあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	京都のことばの日本全国の方言における位置づけ(1) 語彙・文法	方言学の入門書を探して読んでおこう。
2.	京都のことばの日本全国の方言における位置づけ(2) 語彙・文法。	方言学の入門書を探して読んでおこう。
3.	京都のことばの日本全国の方言における位置づけ(3)：2拍名詞のアクセント	標準語のアクセントの入門書を読んでおこう。
4.	近畿地方の中での京都のことばの位置づけ：アクセント変化を中心に	『日本語アクセント入門』(松森他編)の京都アクセント関係のところを読んでおこう。
5.	京都のことばでの会話サンプルのディクテーションなど	ディクテーションは案外難しいです。やってみましょう。
6.	京都のわらべ歌。わらべ歌の分類、手まり歌、通り名を読み込んだ歌の近世から現代までの変化など。	名探偵コナンの通り名を読み込んだ歌が出てくる映画を調べておこう。
7.	京都の住所表示・地点表示の方法。現代と平安朝以降の変遷	んな住所の表記方法があるのか、気になるお店の住所表示と地図上の位置を確認しよう。
8.	京都のことばの敬語－ハル・オ～ヤスなどと近世以来の変遷	京都の人がハルをどんな用法で使っているのか考えてみよう
9.	京都弁・関西弁のイメージ	京都弁・関西弁のイメージは世代・地域によってかなり違うと言われている。あなたのおじいさん・おばあさんなどに聞いてみよう。
10.	外国の方言と日本の方言	言語と社会」「社会言語学」といった本で、言語と社会の関係について調べてみよう。
11.	京都の町の中、町の外のことばの地域差	京都の町の中では方言にそれほど大きな地域差はないが、町を離れると言葉が変わっていきます。どこまでいくと言葉は大きく変わるだろうか考えてみよう。
12.	京都のお祭りとことば－悪口の言い合いなど－	悪口を言い合う祭りは日本のあちこちにあります。youtubeなどで調べてみよう。またその意味づけについて考えてみよう。
13.	公家言葉	テレビドラマやアニメの公家言葉の特徴について考えておこう。
14.	13回までの補足説明など。	これまで配布したプリントをよく見直しておくこと。
15.	まとめ	これまで配布したプリントをよく見直しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業進度などによって、内容が多少変更されることがあります。上の授業内容に加えて、会話録音のディクテーションをすることがあります。
現在未刊の教科書をあらたに付け加えることがありえます。

フィードバックの方法:　授業中に配布する記入用紙に質問などがあれば記入してもらい、授業中に説明する。但し個人的な質問にあまりに丁寧に授業中に答えるとかえって他の人はそれほど興味がない、といった場合が生じることがありえますので、一通りの説明はしますが、それほど詳細にならないこともありえます。ご了承ください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	40%	到達目標に関する知識・理解度によって評価する。
小レポート、発表	30%	授業中に指示する小レポートなどの内容によって評価する。
授業への参加度	30%	積極的に、まじめに授業に取り組み、知識理解が得られたかによって評価する。

教科書:　現在未刊の書籍を指定する可能性がある

参考書:
松森晶子他『日本語アクセント入門』三省堂
堀井令以知『京都語を学ぶ人のために』世界思想社
楳垣実編『近畿方言の総合的研究』三省堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応を原則とします。必要があればEメールを使用しますが、アドレスは必要が生じたときに当該学生の方にお知らせします。

237960

源氏物語と京都

野村　　倫子

授業テーマ:
『源氏物語』のいくつかの場面を読み、平安時代の貴族の生活にふれる。平安時代の物語を源流として、京都に花開いたさまざまな文化が数多く存在するので、現地に行くなど後世への文化の影響を立体的に学ぶ。

授業の概要:
『源氏物語』の一場面をとりあげて原文を味わう。当時の文化を知るとともに、現在の京都に息づく『源氏物語』の世界に触れる。

到達目標:
『源氏物語』を通して、日本の文化の素晴らしさを知る。

授業方法:
テキスト講読。時々学外で現地解説。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	平安京と京都	テキスト「紫式部と平安の都」p139～p141の地図に目を通しておく
2.	作者紫式部・平安時代の女性たち	同上p20～p83　Ⅰ「紫式部の履歴書」に目を通しておく
3.	紫式部の居所（できれば現地解説）	同上p96～p98「紫式部の遺構」に目を通しておく
4.	「桐壺」・平安京の内裏	テキスト『源氏物語一』p12～p13「桐壺」の解説に目を通しておく
5.	「空蝉」・装束	同上p196～p197 「空蝉」の解説、『紫式部と平安の都』p107に目を通しておく
6.	「空蝉」・遊び	同上p196～p197 「空蝉」の解説に目を通しておく
7.	「夕顔」・下京の空間	『紫式部と平安京』p107～p108目を通しておく
8.	「夕顔」・物の怪や信仰について	『源氏物語』p230～p233 「夕顔」の解説に目を通しておく
9.	「夕顔」の六条御息所（できれば下鴨神社を現地解説）	『紫式部と平安京』p109 「葵」に目を通しておく
10.	「夕顔」・中世の能への影響	「能」について調べておく
11.	「若紫」・少女から大人へ	『源氏物語』p360～p363 「若紫」の解説に目を通しておく
12.	「若紫」・みやこの空間	『紫式部と平安京』p139　地図に目を通しておく
13.	「若紫」・家族（結婚生活について）	『源氏物語』p496 「若紫」の系図に目を通しておく
14.	後世への影響・文学（和歌、俳句、狂歌）	「狂歌」について調べておく
15.	後世への影響・京都（香、工芸、着物、和菓子）	博物館等の情報を調べておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
『源氏物語』を手掛かりに、平安貴族や京に興味をもってくださると嬉しいです。

フィードバックの方法:
適宜「一言コメント」を書いて貰いますが、（無記名の形で）プリント印刷して教室内で配布し、ペーパーは各人に返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60	（到達目標）を理解し、古典・平安京・京都への興味を深められたか。
一言コメント	30	『源氏物語』当該場面の理解ができているか。
授業への参加度	10	疑問点を積極的に発言できるか。自分なりの意見を発信できるか。

教科書:
柳井滋他 『源氏物語（一）』岩波書店　岩波文庫　2017年
倉本一宏　人をあるく『紫式部と平安の都』 吉川弘文館　2014年

参考書:
柳井滋他 『源氏物語（二）』岩波書店　岩波文庫　2017年
仁木宏・山田邦和 『歴史家の案内する京都』 分理閣　2016年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応する

238060

京都の劇文学とワークショップ

有松　　遼一

授業テーマ:　能の表現、実践

授業の概要:
日本の伝統芸能のひとつである「能」を取り扱う。
無駄なものを徹底的に削ぎ落とした剄くシンプルな能の表現は、かえって観客の想像を豊かにさせ、真実の表現を達成する。
講義では、さまざまな演目を具体的に分析し、能の言葉・所作・音楽が表す内容や構成を理解する。能が描き出そうとするのは、人間の心であり、これは時代を経ても変わらない。現代の私たちの人生経験と積極的に照らし合わせ、またワークショップを体験することで、「能は古臭くて縁遠いもの」という先入観を融解させていく。
舞台の現場に立つ能楽師の言葉に耳を傾けて、是非能の面白さを味わってほしい。

到達目標:
・能の表現と形式を学び、能の言葉・所作・音楽などを具体的に理解する。
・能が描き出す人間の心を、自分の人生経験と積極的に照らし合わせて鑑賞する。
・数々のワークショップを通じて、能の表現を体感する。
・能が現代に生きる芸能・舞台芸術であることを理解する。

授業方法:
主に講義形式。適宜、実演やワークショップを交える。
各授業の最後にミニカード(感想など)の記入を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	能とはどのような芸能か	特になし。
2.	五番立	前回の講義を復習しておくこと。
3.	能の構造	能《井筒》の詞章を通読しておくとよい。
4.	夢幻能と現在能	「五番立」講義の内容をよく復習しておくこと。
5.	囃子	能《巴》の詞章を通読しておくとよい。
6.	能舞台	能《葵上》の詞章を通読しておくとよい。
7.	型	前回までの講義を復習しておくこと。
8.	装束	前回までの講義を復習しておくこと。
9.	謡(1)	能《龍田》の詞章を通読しておくとよい。
10.	舞事	前回までの講義を復習しておくこと。
11.	面	能《隅田川》の詞章を通読しておくとよい。
12.	能作者	能《船弁慶》の詞章を通読しておくとよい。
13.	謡(2)	能《安宅》の詞章を通読しておくとよい。
14.	位	前回までの講義を復習しておくこと。
15.	総括	前回までの講義を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義では主題の一曲すべての詞章を扱い得ないので、詞章や本説に関する自主的な学習を期待する。

フィードバックの方法:
授業末のミニカードに関して、次回の講義でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点(出席やミニカード)	40	授業に積極的に参加しているかを評価する。
レポート	60	講義内容を理解し、適切に論述できるかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応。

238161

近代文学基礎演習Ⅰ

宮本　　明子

授業テーマ:　日本近代文学の研究（1）

授業の概要:　私たちの身の回りにはなぜこれだけの「物語」があるのか、その形式や方法とはどのようなものであるのかを、日本近代文学を対象に、学生主体で読み解いていく。受講者の関心に沿って、文学の映画化や作家・映画監督との協働など、「映画と文学」の関わりについても考察する。

到達目標:　演習での作業・議論を通じて、日本近代文学を読み、論じる技能を身につける。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	興味・関心のある作品について、理由とともに説明できるようにしておく。
2.	発表に向けて	発表・執筆に必要な技能について確認しておく。
3.	発表に向けて	文献を読み資料を集める。
4.	発表に向けて	文献を読み資料を集める。
5.	発表に向けて	文献を読み資料を集める。
6.	発表に向けて	文献を読み資料を集める。
7.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。
8.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。
9.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。
10.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。
11.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。レポートを執筆する準備を進める。
12.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。レポートを執筆する準備を進める。
13.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。レポートを執筆する準備を進める。
14.	レポート・論文の書き方	レポートをまとめる。
15.	まとめ	学んだ技能について確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ささいなことでも、読み解きたい「謎」や「疑問」をあたためておいてください。

フィードバックの方法:　教場で指示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の参加度合い	30	欠席が4回以上の場合は不可とする。
発表	30	発表のために十全に準備し、的確な発表ができているかどうか評価する。
レポート	40	近代文学作品を読み、論じる方法が身についているかどうかを評価する。

教科書:　教場で指示する。

参考書:　教場で指示する。映画に関わる文献や必要な技能についても説明する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（初回で案内する）

238162

近代文学基礎演習Ⅰ

高橋　　幸平

授業テーマ:　近現代文学研究の基礎を習得する

授業の概要:　近現代文学を研究領域に選び、ある作品について考えようとすると、作品を通読することと分析することとのギャップに苦しむことがある。この授業では、小説本文の精緻な読解の訓練を段階的に行い、文学研究の基礎である〈精読〉の能力を身につける。

到達目標:
1.小説を精読し合理的に解釈することができる
2.チームで問題に取り組む能力を高める
3.問題を発見しそれを解決する能力を高める
4.よりよい合意を目指して建設的に批判する能力を高める
5.自らの主張を表現する能力を高める

授業方法:　授業は受講者のグループ発表・質問・討議が中心となる。出席者には毎回発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	グループ分けとアイスブレイク	
3.	文学研究のミニレッスン1	
4.	文学研究のミニレッスン2	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
5.	演習の目的・文学研究の方法1	
6.	文学研究の方法2・パスファインダー	パスファインダーで紹介・説明した参考図書やデータベースを使用してみる
7.	グループディスカッション1	授業外でのグループディスカッション
8.	グループディスカッション2	授業外でのグループディスカッション
9.	グループディスカッション3	授業外でのグループディスカッション
10.	グループ発表1　芥川龍之介「雛」（受講生の関心にあわせて作品を変更することがある。以下同様）	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
11.	グループ発表2　里見弴「銀二郎の片腕」	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
12.	グループ発表3　谷崎潤一郎「小さな王国」	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
13.	グループ発表4　吉屋信子「ヒヤシンス」	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
14.	グループ発表5　太宰治「一二月八日」	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
15.	レポートの書き方	

受講者へのメッセージやアドバイス:
★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

取り上げる作品はあらかじめ丁寧に読んでおき、疑問点や気がついた点などをリストアップして授業に臨むこと。授業中には全員に発言を求める。

フィードバックの方法:　優れたレポートはマナビーを通じて他の受講生に公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む態度	30	※欠席：1回…－5点、2回…－15点、3回…－30点、4回…－50点
ディスカッションの貢献度	20	
発表内容（レジュメ・口頭での説明・質疑応答）	25	
レポート	25	

教科書:　取り扱う小説は授業中に配布する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　学内メール：kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

238261

近代文学基礎演習Ⅱ

高橋　　幸平

授業テーマ:　近現代文学研究の基礎を習得する

授業の概要:　近現代文学を研究領域に選び、ある作品について考えようとすると、作品を通読することと分析することとのギャップに苦しむことがある。この授業では、小説本文の精緻な読解の訓練を段階的に行い、文学研究の基礎である〈精読〉の能力を身につける。

到達目標:
1.小説を精読し合理的に解釈することができる
2.チームで問題に取り組む能力を高める
3.問題を発見しそれを解決する能力を高める
4.よりよい合意を目指して建設的に批判する能力を高める
5.自らの主張を表現する能力を高める

授業方法:　授業は受講者のグループ発表・質問・討議が中心となる。出席者には毎回発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	グループ分けとアイスブレイク	
3.	文学研究のミニレッスン1	
4.	文学研究のミニレッスン2	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
5.	演習の目的・文学研究の方法1	
6.	文学研究の方法2・パスファインダー	パスファインダーで紹介・説明した参考図書やデータベースを使用してみる
7.	グループディスカッション1	授業外でのグループディスカッション
8.	グループディスカッション2	授業外でのグループディスカッション
9.	グループディスカッション3	授業外でのグループディスカッション
10.	グループ発表1　芥川龍之介「雛」（受講生の関心にあわせて作品を変更することがある。以下同様）	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
11.	グループ発表2　里見弴「銀二郎の片腕」	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
12.	グループ発表3　谷崎潤一郎「小さな王国」	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
13.	グループ発表4　吉屋信子「ヒヤシンス」	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
14.	グループ発表5　太宰治「一二月八日」	対象テクストを読んで、疑問点や気がついたことをリストアップする
15.	レポートの書き方	

受講者へのメッセージやアドバイス:
★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

取り上げる作品はあらかじめ丁寧に読んでおき、疑問点や気がついた点などをリストアップして授業に臨むこと。授業中には全員に発言を求める。

フィードバックの方法:　優れたレポートはマナビーを通じて他の受講生に公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む態度	30	※欠席：1回…－5点、2回…－15点、3回…－30点、4回…－50点
ディスカッションの貢献度	20	
発表内容（レジュメ・口頭での説明・質疑応答）	25	
レポート	25	

教科書:　取り扱う小説は授業中に配布する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　学内メール：kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

238262

近代文学基礎演習Ⅱ

宮本　　明子

授業テーマ:　日本近代文学の研究（2）

授業の概要:　私たちの身の回りにはなぜこれだけの「物語」があるのか、その形式や方法とはどのようなものであるのかを、日本近代文学を対象に、学生主体で読み解いていく。受講者の関心に沿って、文学の映画化や作家・映画監督との協働など、「映画と文学」の関わりについても考察する。

到達目標:　演習での作業・議論を通じて、日本近代文学を読み、論じる技能を身につける。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	興味・関心のある作品について、理由とともに説明できるようにしておく。
2.	発表に向けて	発表・執筆に必要な技能について確認しておく。
3.	発表に向けて	文献を読み資料を集める。
4.	発表に向けて	文献を読み資料を集める。
5.	発表に向けて	文献を読み資料を集める。
6.	発表に向けて	文献を読み資料を集める。
7.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。
8.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。
9.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。
10.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。
11.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。レポートを執筆する準備を進める。
12.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。レポートを執筆する準備を進める。
13.	作品研究	作品や関連資料を読み込む。レポートを執筆する準備を進める。
14.	レポート・論文の書き方	レポートをまとめる。
15.	まとめ	学んだ技能について確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ささいなことでも、読み解きたい「謎」や「疑問」をあたためておいてください。

フィードバックの方法:　教場で指示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の参加度合い	30	欠席が4回以上の場合は不可とする。
発表	30	発表のために十全に準備し、的確な発表ができているかどうか評価する。
レポート	40	近代文学作品を読み、論じる方法が身についているかどうかを評価する。

教科書:　教場で指示する。

参考書:　教場で指示する。映画に関わる文献や必要な技能についても説明する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（初回で案内する）

238361

古典基礎演習Ⅰ

廣瀬　　千紗子

授業テーマ:　西鶴『武家義理物語』を読む。

授業の概要:　『武家義理物語』は、大坂の裕福な町人作家であった井原西鶴の目を通してみた、武士の振舞かたを描く。江戸幕府の思想的基盤は儒教倫理である。儒教倫理を体現するという点で、武士の振舞は町人の手本であった。しかし、現実的な条件に直面したとき、実際に選択できる行動は限られる。〈その時〉に何が出来たか、出来なかったか。その微妙な差異に西鶴の洞察力は届いている。武士を描きながら、人間の倫理を問う。

到達目標:　①原文を読解する。②表現技巧を解析する。③①②をふまえて、示されたテーマをさらに掘り下げる。

授業方法:　演習を基本とし、個人もしくはグループによる発表と質疑応答。受講者数と授業の進行状況によって、授業内容の配分は変更する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要・到達目標・授業方法について説明、参考文献の検索について指導する。	シラバスを読んで、使用するテキスト（教科書）に目を通しておく。。
2.	作者と作品についてのガイダンスを行う。	1回目に配布された資料を読み、質問事項があれば、発言できるようにまとめておく。
3.	発表者・発表箇所・発表順を決め、レジュメの作成（注釈書、参考文献の提示など）、および発表内容にもとづくレポート作成についての留意点を説明する。	前回の授業内容を復習し、発表者（個人もしくはグループ）を相談して決めておく。
4.	発表①。質疑応答と講評。	前回の授業に留意してレジュメを作成。グループ発表の場合は分担箇所を配分。1年次『古典入門』の要領で口頭発表の手順を決めておく。
5.	発表②。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする
6.	発表。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする
7.	発表④。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする
8.	発表⑤。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする
9.	発表⑥。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする
10.	発表⑦。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする
11.	発表⑧。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
12.	発表⑨。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
13.	発表⑩。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
14.	発表⑪。質疑応答と講評。	レジュメを作成し、口頭発表の準備をする。
15.	各回の発表を振り返り、発表者からのコメントを求めて、講評する。	各回の発表を振り返り、今後の課題や指摘すべきコメントをまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　西鶴の他作品にも、なるべく多くふれておく。

フィードバックの方法:　適宜、小レポートを課し、コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	レジュメと論述の論点整理の完成度。 到達目標①②③を総合的に評価。
発表・質疑応答	30	レジュメの完成度と口述の分かりやすさ。
授業への参加度	20	発表者へのコメント。

教科書:

参考書:　対訳西鶴全集『武家義理物語』 明治書院
『西鶴事典』
『浮世草子事典』 2017　笠間書院
『西鶴と浮世草子』1～5　笠間書院。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。オフィスアワー。

238362

古典基礎演習Ⅰ

小林　　賢章

授業テーマ:

授業の概要: 古典に親しむ『徒然草』

到達目標: 内容理解

授業方法: 演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概説	不要
2.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
3.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
4.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
5.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
6.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
7.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
8.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
9.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
10.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
11.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
12.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
13.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
14.	各自1ページを担当	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
15.	各自1ページを担当 レポート提出	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること

受講者へのメッセージやアドバイス: 高校の古典をどれだけ生き生きと心にとめられるか。

フィードバックの方法: レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60%	本文が理解できているか
出席	40%	

教科書: プリント

参考書: なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: メール　soumen1949＠docomo.ne.jp

238461

古典基礎演習Ⅱ

森山　　由紀子

授業テーマ:　古典文学・古典語学研究の基礎

授業の概要:　百人一首の中の『古今和歌集』からとられた歌を解釈し、自らの問を解決していく実習を通して、古典文学における言葉について考える基礎的な技能を身につける。具体的には、注釈や辞書を正しく用いる技法、および、用例を用いて、当時の言葉の使い方を知ることでより解釈を深める技法を中心に学ぶ。
同時に、春学期に学んだ変体仮名読解の技能をさらにトレーニングし、変体仮名による百人一首遊びも楽しむ。

到達目標:
①古今和歌集の表現について知る。(知識・理解)
②歌の解釈について自ら見出した問題点や疑問点を解決する方法を考え実践することができる。(関心・意欲・態度)
③適切な資料を用いて正しい方法で用例を収集し、用例から各語の意味用法を論理的に推定することができる。(技能)
④資料から推定される結果について、根拠を示しながらわかりやすく簡潔にまとめることができる。(表現・技能・能力)
⑤基本的な変体仮名を読むことができる。

授業方法:　演習の形態で進める。
授業中の解説およびマナビー上の解説を参考に、各自が資料収集や分析を行いマナビーにアップしておく。授業時に、その内容についてグループでディスカッションすることでブラッシュアップし、代表例を取り上げて教員が助言を行うというサイクルを重ねることで、前期を通じてそれぞれの研究を進めていく。毎回の授業のはじめには、変体仮名を用いた百人一首のカルタ遊びも取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要説明・グループ分け・歌の選択	春学期に学んだ崩し字の復習
2.	テキストを集める	マナビーの指示に従い課題提出
3.	辞書を使う	マナビーの指示に従い課題提出
4.	辞書を使う	マナビーの指示に従い課題提出
5.	歌の構造を考える	マナビーの指示に従い課題提出
6.	解釈を検討する	マナビーの指示に従い課題提出
7.	解釈を検討する	マナビーの指示に従い課題提出
8.	問題点を見つける・解決の方法を考える	マナビーの指示に従い課題提出
9.	索引・評釈・論文を利用する	マナビーの指示に従い課題提出
10.	索引・評釈・論文を利用する	マナビーの指示に従い課題提出
11.	問題点を整理してレジュメを書く	マナビーの指示に従い課題提出
12.	口頭発表	マナビーの指示に従い課題提出
13.	百人一首大会	レポート原案作成
14.	口頭発表	百人一首をおぼえてくること
15.	レポート作成指導	改稿レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　期間を通じて課題の提出が課されますが、時には休憩的な回もあります。スモールステップで課される課題を提出していくことで、自然と自らのテーマが明確になり、興味を持ってきちんとしたレポートを仕上げることができるはずです。当該授業までに課題を提出しておくことで解説の内容もよくわかり、また、自分の課題について多くのアドバイスを得ることができますので、期限までの課題提出を勧めます。さらに、提出後の課題の修正は自由であり、修正再提出を推奨します。ただし、原則として期限後も課題受付は可能な設定にしてありますので、期限に間に合わなかった場合も、諦めずに追いかけて提出することで授業に追いついてきてください。途中で追いつくゆとりは見込んであります。また、途中でわからないことは遠慮なく質問し、共に授業を作っていきましょう。

フィードバックの方法:　授業時の解説、および個人指導、およびマナビー上での添削を組み合わせて行う。受講者側からの要求があった場合は別に時間を設けての個別面談によるフィードバックも可能。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	20%	資料から推定される結果をわかりやすく説明し、自ら見つけだした問題点とその解決の方法についてディスカッションすることを通して互いの考えを深めあうことができる。
マナビーへの課題提出状況	40%	適切な資料を用いて正しい方法で用例を収集し、用例から各語の意味用法を論理的に推定できている。資料から推定される結果について、根拠を示しながらわかりやすく簡潔にまとめられている。
まとめのレポート(レジュメ形式)	20%	自ら見出した問題点や疑問点を解決する方法を考え実践することができている。適切な資料を用いて正しい方法で用例を収集し、用例から各語の意味用法を論理的に推定することができている。資料から推定される結果について、根拠を示しながらわかりやすく説明できている。
レポート(文章による)	10%	自ら見出した問題点や疑問点を解決する方法を考え、根拠を示しながらわかりやすく文章で論述できている。
テスト(変体仮名の理解)	10%	授業で扱った基本的な変体仮名が読める。

教科書:　原色小倉百人一首(文英堂)※ただし、同種のものをすでに持っている場合にはそれを使用してもよい。

参考書:　『仮名手引』(和泉書院)※古典基礎演習Ⅰで用いたものを引き続き用いる。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメールによる。(アドレスは授業時に開示する)

238462

古典基礎演習Ⅱ

吉海　　直人

授業テーマ:　古典文学研究の基礎的方法を学ぶ。

授業の概要:　『源氏物語』をテキストとした演習（個人発表・レポート作成）の体験を通して、卒業論文作成に必要な基本的知識や研究方法を修得する。そのために必要な知識、調べ方、レポートの書き方などを一通り体験してほしい。そこから次のステップ（3年次の演習）へグレードアップしてもらいたい。

到達目標:　第一に、『源氏物語』を研究することにどういう作業が必要かを知る。
具体的に本文異同の調査、古注・新注の調査・総索引を活用した用例の調査を各自行う中で、問題点を見つけ出すことになる。
テーマに関して、どのような構成・論理的な説明をすれば相手に理解してもらえるかを工夫する。
最終的には卒業論文につながるようなレポートの作成を行う。

授業方法:　演習（個人発表が中心）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概要 授業の進め方などのオリエンテーション	あらかじめ『源氏物語』桐壺巻を読んでおくこと。
2.	具体的な演習担当個所の決定、及び演習日程の決定。	あらかじめテーマになりそうなことを準備しておくこと。
3.	最初に見本としてこちらで演習を行いつつ、必要事項などを確認していく。	個人発表のための調べを進めてほしい。
4.	『源氏物語』桐壺巻についての講義。	個人発表のための調べを進めてほしい。
5.	第１回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う。	個人発表のための調べを進めてほしい。
6.	第２回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	個人発表のための調べを進めてほしい。
7.	第３回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	個人発表のための調べを進めてほしい。
8.	第４回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	個人発表のための調べを進めてほしい。
9.	第５回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	個人発表のための調べを進めてほしい。
10.	二回目の個人発表第1回。毎時間3、4名の個人発表を行う。	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
11.	二回目の個人発表2回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う。	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
12.	二回目の個人発表第3回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
13.	二回目の個人発表第4回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
14.	二回目の個人発表第5回発表。毎時間3、4名の個人発表を行う	レポート作成に向けて各自進めてほしい。
15.	総括	レポート作成に向けて各自進めてほしい。

受講者へのメッセージやアドバイス:　調べ物は面倒だが、これを踏まえないと研究の土台は築けないので頑張ってほしい。

フィードバックの方法:　発表に関しては、その場で評価する。レポートに関しては朱を入れて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	90	到達目標を踏まえてレポートが掛けているかを基準にする。卒業論文へのステップなので、枚数も評価の対象になる。
授業への参加度	10	積極的に参加しているか、また発表の態度はどうか、資料の完成度、レポート提出など総合的に判断する。

教科書:　特になし

参考書:　『源氏物語1』（小学館新編古典文学全集）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　相談は研究室でいつでも受け付けます。またメールによる質問も受け付けます。

238561、62

日本語学基礎演習Ⅰ

大島　　中正

授業テーマ:　問う力を錬磨する

授業の概要:　現行の辞書類の記述を批判的に検討して問題を設定する。次にその問題を解決するための方法を検討し、種々の言語資料から』収集した実例を整理・分析する。このプロセスのおもしろさを実感できるようにしたい。

到達目標:　研究の課題を発見する力および他人の報告内容に対して適切にコメントできる力を養成することを目標とする。

授業方法:　演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	指示された課題にとりくむ。
2.	問題を設定する（1）	指示された課題にとりくむ。
3.	問題を設定する（2）	指示された課題にとりくむ。
4.	問題を設定する（3）	指示された課題にとりくむ。
5.	調査方法を検討する（1）	指示された課題にとりくむ。
6.	調査方法を検討する（2）	指示された課題にとりくむ。
7.	第1回発表会（1）	報告または質疑の準備をする。
8.	第1回発表会（2）	報告または質疑の準備をする。
9.	第1回発表会（3）	報告または質疑の準備をする。
10.	第1回の発表の総括	各自で第1回の発表の総括をこころみる。
11.	第2回発表会（1）	報告または質疑の準備をする。
12.	第2回発表会（2）	報告または質疑の準備をする。
13.	第2回発表会（3）	報告または質疑の準備をする。
14.	学期末レポートを作成する	レポートの草稿を用意する。
15.	総ふりかえり	春学期のふりかえりを自分のことまでまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　辞書類をよむこと、ツッコミをどんどんいれながら、よむことをたのしみましょう。そうすれば、様々な課題を発見することができます。なお、授業内容の回数や順序は進捗状況に応じて適宜変更することがあります。

フィードバックの方法:　授業時に全体にまた個別に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	到達目標により評価する。
学期末レポート	50	調査の緻密さや記述の丁寧さを重視して評価する。

教科書:

参考書:　適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力。

教員との連絡方法:　オフィスアワー。Eメールなど。

238661、62

日本語学基礎演習Ⅱ

服部　　匡

授業テーマ:　日本語学の研究方法の基本を学ぶ。

授業の概要:　日本語を観察・分析し、結果を分かり易く発表するための基本的な方法を学ぶ。特に語の意味、経年変化などの問題について、コーパスの利用をした方法を中心に学ぶ。

到達目標:　日本語の問題について、適切な観察方法を考え、データを観察・整理・分析し、分かり易く発表するための基本的な力をつける。

授業方法:　演習形式。各自が作業を行い発表し議論する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容の説明 基本事項の確認	指示された課題を行うこと
2.	コーパスを用いた類義語研究	指示された課題を行うこと
3.	コーパスを用いた類義語研究	指示された課題を行うこと
4.	コーパスを用いた類義語研究	指示された課題を行うこと
5.	コーパスを用いた類義語研究	指示された課題を行うこと
6.	成果発表	指示された課題を行うこと
7.	成果発表	指示された課題を行うこと
8.	コーパスを用いた経年変化研究	指示された課題を行うこと
9.	コーパスを用いた経年変化研究	指示された課題を行うこと
10.	コーパスを用いた経年変化研究	指示された課題を行うこと
11.	コーパスを用いた経年変化研究	指示された課題を行うこと
12.	コーパスを用いた経年変化研究	指示された課題を行うこと
13.	成果発表	指示された課題を行うこと
14.	成果発表	指示された課題を行うこと
15.	まとめとレポート作成指導	指示された課題を行うこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本語に関する興味深い研究テーマはほとんど無限にあります。しかし、それらを研究するためには、まず、方法を学ばなければなりません。この授業を通じて、科学的な研究方法の基本を学んでください。受講者人数などの要因により、内容別の回数・順序は変更することがあります。

フィードバックの方法:　提出された課題には授業中になるべく個別にコメントし、他の学生からの意見も求める。受講者数によっては、全体的なコメントとする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題へのとりくみ	60	到達目標に基づいて評価する。
レポート	40	到達目標に基づいて評価する。
出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし原則として4回欠席したら不可とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビー上から、または、研究室等での面談による。

238761、62

日本語教育基礎演習Ⅰ

丸山　　敬介、山本　　由紀子

授業テーマ:

授業の概要:
日本語教育初級段階の指導に必要な各種の知識を学ぶ講義や、グループでの模擬的指導実践（模擬授業）を通して、初級日本語学習者に日本語を教える技術を習得します。

到達目標:
①日本語指導に関する各種学習を通して、日本語・日本文化を客観的に捉える力、異文化に対する柔軟な態度、状況に応じて適切な日本語を使用する力を身に付ける。
②日本語教育初級段階の指導に必要な基本的知識・技能を運用する能力を身に付ける。
③キャリアを意識しながら他者と共同作業を行うことを通して、コミュニケーション能力、協調性、責任感等を養う。
④体験についての各種のふりかえり作業を通し、観察力や省察力、自分の考えを表現する力を身に付ける。

授業方法:
前半は、日本語教育初級段階の指導に必要な各種知識を、教科書を用い講義形式の授業で学んでいきます。授業は、主にグループで取り組む様々なタスクも行いながら進めます。
後半は、グループでの模擬的指導実践（模擬授業）を行います。学習者役はクラスメートです。模擬授業後はさまざまな方法で模擬授業をふりかえり、学びを確実なものとします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. 初級とは	教科書の該当課を読んでおく。 さまざまな初級日本語教科書に触れる。
2.	初級段階の指導法　1	教科書の該当課を読んでおく。
3.	初級段階の指導法　2	教科書の該当課を読んでおく。
4.	初級段階の指導法　3	教科書の該当課を読んでおく。
5.	初級段階の指導法　4	教科書の該当課を読んでおく。
6.	初級段階の指導法　5	教科書の該当課を読んでおく。
7.	模擬授業の準備　1	模擬授業の準備作業を進める。
8.	模擬授業の準備　2	模擬授業の準備作業を進める。
9.	模擬授業の準備　3	模擬授業の準備作業を進める。
10.	模擬授業　1	・模擬授業の準備を進める。 ・実践について振り返る。
11.	模擬授業　2	・模擬授業の準備を進める。 ・実践について振り返る。
12.	模擬授業　3	・模擬授業の準備を進める。 ・実践について振り返る。
13.	模擬授業　4	・模擬授業の準備を進める。 ・実践について振り返る。
14.	模擬授業　5	・模擬授業の準備を進める。 ・実践について振り返る。
15.	ふりかえり	実践について振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:
模擬授業はグループ単位で行います。各自協調性と責任感をもってグループ作業に取り組むことで、多くの学びを得ましょう。
模擬授業に関しては、担当グループごとに、10時間以上の準備が求められることを理解しておくこと。

フィードバックの方法:
授業中適宜フィードバックを行います。
マナビーで課題を課す場合には、必要に応じて個別にコメントするか、まとめて教室でフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート・課題提出	30%	到達目標③④を基準に評価します。
授業の積極的参加度	70%	到達目標①～③を基準に、グループ発表では成果および、各自の役割とその達成度を評価します。出席および授業中の発言も評価対象とします。

教科書:
『みんなの日本語　初級Ⅰ』（スリーエーネットワーク）、もしくは、『国際交流基金　日本語教授法シリーズ9　初級を教える』（ひつじ書房）。教師が指示します。

参考書:
授業において紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:
授業前後に対応します。
また、Eメールやオフィスアワーも活用してください。
丸山敬介　:kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp
山本由紀子:yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

238861、62

日本語教育基礎演習Ⅱ

丸山　　敬介、山本　　由紀子

授業テーマ:

授業の概要:
日本語教育中・上級段階の指導に必要な各種の知識を学ぶ講義や、グループでの模擬的指導実践（模擬授業）を通して、中・上級日本語学習者に日本語を教える技術を習得します。

到達目標:
①日本語指導に関する各種学習を通して、日本語・日本文化を客観的に捉える力、異文化に対する柔軟な態度、状況に応じて適切な日本語を使用する力を身に付ける。
②日本語教育中級段階の指導に必要な基本的知識・技能を運用する能力を身に付ける。
③キャリアを意識しながら他者と共同作業を行うことを通して、コミュニケーション能力、協調性、責任感等を養う。
④体験についての各種のふりかえり作業を通し、観察力や省察力、自分の考えを表現する力を身に付ける。

授業方法:
前半は、日本語教育中・上級段階の指導に必要な各種知識を、教科書を用い講義形式の授業で学んでいきます。授業は、主にグループで取り組む様々なタスクも行いながら進めます。
後半は、グループでの模擬的指導実践（模擬授業）を行います。学習者役はクラスメートです。模擬授業後は、さまざまなふりかえり作業を行うことで、学びを確実なものとします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 学習者の多様性について	
2.	中上級段階とは	教科書の該当課を読んでおく。 さまざまな中上級教科書に触れる。
3.	中上級段階の指導項目	教科書の該当課を読んでおく。 さまざまな中上級教科書に触れる。
4.	中上級段階の指導法　1	教科書の該当課を読んでおく。
5.	中上級段階の指導法　2	教科書の該当課を読んでおく。
6.	中上級段階の指導法　3	教科書の該当課を読んでおく。
7.	模擬授業の準備　3	模擬授業の準備作業を進める。
8.	模擬授業の準備　2	模擬授業の準備作業を進める。
9.	模擬授業の準備　3	模擬授業の準備作業を進める。
10.	模擬授業　1	授業後、模擬授業をふりかえる。
11.	模擬授業　2	授業後、模擬授業をふりかえる。
12.	模擬授業　3	授業後、模擬授業をふりかえる。
13.	模擬授業　4	授業後、模擬授業をふりかえる。
14.	模擬授業　5	授業後、模擬授業をふりかえる。
15.	ふりかえり	これまでの模擬授業をふりかえる。

受講者へのメッセージやアドバイス:
模擬授業はグループ単位で行います。各自協調性と責任感をもってグループ作業に取り組むことで、より多くの学びを得ましょう。
模擬授業に関しては、担当グループごとに、10時間以上の準備が求められることを理解しておくこと。

フィードバックの方法:
授業中適宜フィードバックを行います。
マナビーで提出のリフレクション課題を課す場合には、必要に応じて個別にコメントするか、まとめて教室でフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート・課題提出	30%	到達目標③④を基準に、レポートや教案およびそれに付随するものを評価します。
授業の積極的参加度	70%	到達目標①～④を基準に、模擬授業ではその質、および、各自の役割とその達成度を評価します。出席および授業中の態度、課題への取り組みも評価対象とします。なお、正当な理由なく5回以上欠席の場合は不可とします。

教科書:
『テーマ別　中級から学ぶ日本語』（研究社）、あるいは、国際交流基金『日本語教授法シリーズ10　中上級を教える』（ひつじ書房）。教師が指示します。

参考書:
授業中に紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:
授業前後に対応します。
また、Eメールやオフィスアワーも活用してください。
丸山 敬介　kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp
山本 由紀子　yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

239360

演習ＩＣ

吉海　　直人

授業テーマ:　『源氏物語』を研究するためのレッスン

授業の概要:　『源氏物語』の演習を通して、古典文学の研究法を修得する。作品を研究として読むという行為がどのようなものかを体得してもらう。本年度は夕顔巻を選び、各自担当本文を発表する中で、研究に必要な諸情報をマスターしてほしい。また課題レポートの作成を通して、卒業論文へのステップとしてほしいので、積極的名参加を希望する。

到達目標:　卒業論文作成へのステップとして、分量的にも内容的にもそれに見合ったものができるようになってほしい。研究は各自のテーマによって異なるので、受身ではなく積極的に演習に参加してほしい。

授業方法:　演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	夕顔巻を読んでおく。
2.	個人発表のスケジュール調整	発表に向けての準備
3.	発表までの間、講義を行う。	発表に向けての準備
4.	発表までの間、講義を行う。	発表に向けての準備
5.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
6.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
7.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
8.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
9.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
10.	２回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
11.	２回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
12.	２回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
13.	２回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
14.	２回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
15.	レポート提出のガイダンス 総括	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な参加を望む

フィードバックの方法:　個人発表についてはその場で意見・批評を行う。レポートについては添削の上改訂をしてもらう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	最終的に提出されるレポートによって評価する。ただし個人発表など積極的に参加していることも加味する。

教科書:　新編日本古典文学全集『源氏物語1』（小学館）

参考書:　特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室での対応、メールでの対応

239460

演習ⅡC

吉海　　直人

授業テーマ:　『源氏物語』を研究するためのレッスンⅡ

授業の概要:　『源氏物語』の演習を通して、古典文学の研究法を修得する。作品を研究として読むという行為がどのようなものかを体得してもらう。本年度は夕顔巻を選び、各自担当本文を発表する中で、研究に必要な諸情報をマスターしてほしい。また課題レポートの作成を通して、卒業論文へのステップとしてほしいので、積極的名参加を希望する。

到達目標:　卒業論文作成へのステップとして、分量的にも内容的にもそれに見合ったものができるようになってほしい。研究は各自のテーマによって異なるので、受身ではなく積極的に演習に参加してほしい。

授業方法:　演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	夕顔巻を読んでおく。
2.	個人発表のスケジュール調整	発表に向けての準備
3.	発表までの間、講義を行う。	発表に向けての準備
4.	発表までの間、講義を行う。	発表に向けての準備
5.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
6.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
7.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
8.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
9.	個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
10.	2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
11.	2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
12.	2回目の個人研究発表並びに討議	発表に向けての準備
13.	レポート提出のガイダンス	論文集作成にむけての準備
14.	論文集作成作業	論文集作成に向けての準備
15.	論文集作成作業 総括	自己評価を行っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な参加を望む

フィードバックの方法:　個人発表についてはその場で意見・批評を行う。レポートについては添削の上改訂をしてもらう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	最終的に提出されるレポートによって評価する。ただし個人発表など積極的に参加していることも加味する。

教科書:　新編日本古典文学全集『源氏物語1』(小学館)

参考書:　特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室での対応、メールでの対応

239760

演習ＩＥ

高橋　　幸平

授業テーマ:　近現代文学に描かれた〈都市〉の諸相を読む

授業の概要:　日本では明治から大正・昭和にかけて東京や大阪といった〈都市〉があらわれた。ある場所に人口が集中すると、そこに新たな文化や価値観が生まれる。〈都市〉は人やモノの関係で構成されるネットワークでありながら、逆に人やモノのあり方を規定する。近代の〈都市〉はどのようにして生まれ変化していったのか。そして人はそのネットワークの中でどのように生きたのか。近現代の小説を〈都市〉という視点から読み解く。

到達目標:
1.チームで問題に取り組む能力を高める
2.問題を発見しそれを解決する能力を高める
3.よりよい合意を目指して建設的に批判する能力を高める
4.自らの主張を表現する能力を高める

授業方法:　授業は受講者のグループ発表・質問・討議が中心となる。出席者には毎回発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	グループ分けとアイスブレイク	
3.	文学研究の目的と方法	
4.	発表の目的と方法	
5.	グループディスカッション１	授業外でのディスカッション
6.	グループディスカッション２	授業外でのディスカッション
7.	グループディスカッション３	授業外でのディスカッション
8.	グループ発表１　田山花袋「少女病」（受講生の関心にあわせて作品を変更することがある。以下同様）	対象テクストの精読
9.	グループ発表２　谷崎潤一郎「秘密」	対象テクストの精読
10.	グループ発表３　堀辰雄「水族館」	対象テクストの精読
11.	グループ発表４　三島由紀夫「橋づくし」	対象テクストの精読
12.	グループ発表５　大江健三郎「人間の羊」	対象テクストの精読
13.	レポート・論文の書き方	
14.	レポート相互添削	
15.	レポート相互添削	

受講者へのメッセージやアドバイス:
★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

取り上げる作品はあらかじめ丁寧に読んでおき、疑問点や気がついた点などをリストアップして授業に臨むこと。授業中には全員に発言を求める。

フィードバックの方法:　優れたレポートはマナビーを通じて他の受講生に公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む態度	30	※欠席：1回…－5点、2回…－15点、3回…－30点、4回…－50点
ディスカッションの貢献度	20	
発表内容（レジュメ・口頭での説明・質疑応答）	25	
レポート	25	

教科書:　東郷克美・高橋広満編『〈都市〉文学を読む』（鼎書房）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　学内メール：kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

239860

演習ⅡE

高橋　　幸平

授業テーマ:

近現代文学に描かれた〈異界〉の諸相を読む。

授業の概要:

明治に入り急速に欧化を進めた日本は、西欧から様々な文化・思想を摂取した。〈近代科学の精神〉もその一つである。主張の正しさを確保する上で客観性や実証性を重視し、自然を理解・支配しようとする〈近代科学の精神〉は、しかしながら、キリスト教の統一的世界観など西欧文化を基底にして成立したものであると言われる。西欧文化に根ざした〈近代科学の精神〉を東洋の日本が取り入れようとしたとき、日本人の心に何が起きたのか。近代の文学作品を読むことは、その諸相をのぞくことにつながる。

到達目標:

1.チームで問題に取り組む能力を高める
2.問題を発見しそれを解決する能力を高める
3.よりよい合意を目指して建設的に批判する能力を高める
4.自らの主張を表現する能力を高める

授業方法:

授業は受講者のグループ発表・質問・討議が中心となる。出席者には毎回発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス・グループ分け	
2.	先行研究について・パワーポイント発表の方法	
3.	グループディスカッション1	授業外でのディスカッション
4.	グループディスカッション2	授業外でのディスカッション
5.	グループ発表1（先行研究の整理）	対象テクストの精読
6.	グループ発表2（先行研究の整理）	対象テクストの精読
7.	グループディスカッション3	授業外でのディスカッション
8.	グループディスカッション4	授業外でのディスカッション
9.	グループ発表1　永井荷風「狐」 （受講生の関心にあわせて作品を変更することがある。以下同様）	対象テクストの精読
10.	グループ発表2　芥川龍之介「奉教人の死」	対象テクストの精読
11.	グループ発表3　江戸川乱歩「押絵と旅する男」	対象テクストの精読
12.	グループ発表4　太宰治「魚服記」	対象テクストの精読
13.	グループ発表5　川端康成「水月」	対象テクストの精読
14.	ポスター発表準備1	授業外でのディスカッション
15.	ポスター発表準備2	授業外でのディスカッション

受講者へのメッセージやアドバイス:

★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

取り上げる作品はあらかじめ丁寧に読んでおき、疑問点や気がついた点などをリストアップして授業に臨むこと。授業中には全員に発言を求める。

フィードバックの方法:

優れたポスター発表資料はマナビーを通じて他の受講生に公開する。2月初旬に行われる「成果発表会」において、ポスター発表を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む態度	30	※欠席：1回…－5点、2回…－15点、3回…－30点、4回…－50点
ディスカッションの貢献度	20	
発表内容（パワポ資料・口頭での説明・質疑応答）	25	
ポスター	25	

教科書:

東郷克美・吉田司雄編『〈異界〉文学を読む』（鼎書房）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

学内メール：kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

239960 **演習ＩＦ**

宮本　　明子

授業テーマ: 映画を読む

授業の概要: 私たちの身の回りにはなぜこれだけの「物語」があるのか、その形式や方法とはどのようなものであるのかを、映画を対象として考えてゆく。主に受講生による発表とディスカッションにより進めるが、内容や方法については各自の希望や関心に基づき柔軟に対応する。講読で論点を定め、映画その他関連映像を参照する。

到達目標: 映画を構成する要素、基本的な技法を理解し、映画を論じる方法を学ぶ。映画が文学、音楽、漫画、その他とどのように関わり、異なっているのかに目を向け、媒体や成立の特徴を探る。以上の観点から発表とディスカッションを行い、今後の卒業研究を執筆するために必要な知識、技術を身につける。

授業方法: 演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（演習の進め方、各自の目標・希望確認、文献紹介など）	この演習に期待すること、関心のある映画やこれまでの学びとの関わりなどを考えておく。
2.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第1章「映画製作、配給、興行」・参考上映／ディスカッション	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
3.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第2章「映画形式の意味」・参考上映『オズの魔法使』（1939）／ディスカッション①	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
4.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第2章「映画形式の意味」・参考上映『オズの魔法使』（1939）／ディスカッション②	これまでに学んだ映画製作、配給、興行、さらに映画の形式について、概要を説明できるようにする。
5.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第3章「形式上のシステムとしての物語」・参考上映『市民ケーン』（1941）／ディスカッション①	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
6.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第3章「形式上のシステムとしての物語」・参考上映『市民ケーン』（1941）／ディスカッション②	これまでに学んだ映画の物語形式について概要を説明できるようにする。
7.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第4章「映画ジャンル」・参考上映『捜索者』（1956）／ディスカッション①	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
8.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第4章「映画ジャンル」・参考上映『捜索者』（1956）／ディスカッション②	これまでに学んだ映画のジャンルについて概要を説明できるようにする。
9.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第5章「ドキュメンタリー映画、実験映画」・参考上映『美の祭典』（1938）／ディスカッション①	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
10.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第5章「ドキュメンタリー映画、実験映画」・参考上映『美の祭典』（1938）／ディスカッション②	これまでに学んだドキュメンタリー映画、実験映画の概要を説明できるようにする。
11.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第5章「アニメーション映画／ディスカッション」・参考上映『ロジャー・ラビット』（1988）／ディスカッション①	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
12.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第5章「アニメーション映画／ディスカッション」・参考上映『ロジャー・ラビット』（1988）／ディスカッション②	これまでに学んだアニメーション映画の概要を説明できるようにする。
13.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第6章「ショット―ミザンセン」・参考上映『荒武者キートン』（1923）／ディスカッション①	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
14.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第6章「ショット―ミザンセン」・参考上映『荒武者キートン』（1923）／ディスカッション②	これまでに学んだ映画の「ショット」「ミザンセン」について概要を説明できるようにする。
15.	まとめ	これまでに学んだ映画の歴史、作品、技法について概要を説明できるようにする。演習を通じて、各自の関心に対してどのように考察が深められたかを確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 映画に関心がある、映画が好きというだけでなく、映画についてよく考えてみたことはないものの、映画から広く表象文化を考えてみたいという方を歓迎します。上記作品は参照するごく一部です。日本語日本文学科の講義で言及される日本文学・日本文化に関わる作品や、CM、アニメーション（特に近年の作品）も扱う予定です。受講生皆さんの関心や希望に応じて、扱う領域を広げていきたいと考えています。

フィードバックの方法: 毎回提出してもらうコメントは翌週授業時にコメントしフィードバックする。解説を付したり、議論の手がかりとしたりすることがある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習への参加・貢献度	50	担当回だけでなく、一連の演習を通じて、共に文献を読み込み、議論できているかどうかを評価する。
レポート	50	演習でのディスカッションをもとに、みずから設定した問に対して答えを導けているかどうかを評価する。

教科書: 教場で指示する。

参考書: 教場で指示する。主に『フィルム・アート 映画芸術入門』を用いるが、随時プリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Eメール（初回で案内する）

240060 **演習ⅡF**

宮本　　明子

授業テーマ:　映画を読む

授業の概要:　私たちの身の回りにはなぜこれだけの「物語」があるのか、その形式や方法とはどのようなものであるのかを、映画を対象として考えてゆく。主に受講生による発表とディスカッションにより進めるが、内容や方法については各自の希望や関心に基づき柔軟に対応する。講読で論点を定め、映画その他関連映像を参照する。

到達目標:　映画を構成する要素、基本的な技法を理解し、映画を論じる方法を学ぶ。映画が文学、音楽、漫画、その他とどのように関わり、異なっているのかに目を向け、媒体や成立の特徴を探る。以上の観点から発表とディスカッションを行い、今後の卒業研究を執筆するために必要な知識、技術を身につける。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（演習の進め方、各自の目標・希望確認、文献紹介など）	この演習で達成する目標、期待すること、関心のある映画やこれまでの学びとの関わりなどを考えておく。
2.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第7章「ショット――撮影法」・参考上映『ロード・オブ・サ・リング』シリーズ／ディスカッション①	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
3.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第7章「ショット――撮影法」・参考上映『ロード・オブ・サ・リング』シリーズ／ディスカッション②	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
4.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第8章「ショットとショットの関係――編集」・参考上映『麦秋』（1951）／ディスカッション①	これまでに学んだ映画のショット、撮影法について概要を説明できるようにする。
5.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第8章「ショットとショットの関係――編集」・参考上映『麦秋』（1951）／ディスカッション②	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
6.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第9章「映画の音」・参考上映『東京暮色』（1957）／ディスカッション①	これまでに学んだ映画の編集の特徴について概要を説明できるようにする。
7.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第9章「映画の音」・参考上映『東京暮色』（1957）／ディスカッション②	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
8.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第10章「形式上のシステムとしてのスタイル」・参考上映『お早よう』（1959）／ディスカッション①	これまでに学んだ映画の音について、事例から説明できるようにする。
9.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第10章「形式上のシステムとしてのスタイル」・参考上映『お早よう』（1959）／ディスカッション②	テキストを読み、注目した一文とその理由をおさえておく。各自の関心に基づき、該当する章に関連する資料をできるかぎり調査する。
10.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第11章「映画批評――分析例」・参考上映作品調査①	これまでに学んだ映画の形式について、事例をもとに概要を説明できるようにする。
11.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第11章「映画批評――分析例」・参考上映作品調査②	これまでの学びをふまえ、映画の形式や方法にどのようなものがあるか、概要を説明できるようにする。あわせて、各自の関心に基づき、今後論じたい対象を明確にしてゆく。
12.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第12章「映画形式と映画史」・参考上映作品調査	これまでの学びをふまえ、映画の形式や方法にどのようなものがあるか、概要を説明できるようにする。あわせて、各自の関心に基づき、今後論じたい対象を明確にしてゆく。
13.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第13章「映画の見方と書き方」・参考上映作品調査①	テキストその他関連資料を用いて、映画について「書く」ための方法を確認する。
14.	文献講読『フィルム・アート 映画芸術入門』第13章「映画の見方と書き方」・参考上映作品調査②	テキストその他関連資料を用いて、映画について「書く」ための方法を確認する。
15.	まとめ	これまでに学んだ映画の歴史、作品、技法について概要を説明できるようにする。演習を通じて、各自の関心に対しどのように考察が深められたかを確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　映画に関心がある、映画が好きというだけでなく、映画についてよく考えてみたことはないものの、映画から広く表象文化を考えてみたいという方を歓迎します。上記作品は参照するもののごく一部です。日本語日本文学科の講義で言及される日本文学・日本文化に関わる作品や、CM、アニメーション（特に近年の作品）も扱う予定です。受講生皆さんの関心や希望に応じて、扱う領域を広げていきたいと考えています。

フィードバックの方法:　毎回提出してもらうコメントは翌週授業時にコメントしフィードバックする。解説を付したり、議論の手がかりとしたりすることがある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習への参加・貢献度	50	担当回だけでなく、一連の演習を通じて、共に文献を読み込み、議論できているかどうかを評価する。
レポート	50	演習でのディスカッションをもとに、みずから設定した問に対して答えを導けているかどうかを評価する。

教科書:　教場で指示する。

参考書:　教場で指示する。主に『フィルム・アート 映画芸術入門』を用いるが、随時プリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（初回で案内する）

240160

演習ＩＧ

高橋　　幸平

授業テーマ:　近現代文学に描かれた〈都市〉の諸相を読む

授業の概要:　日本では明治から大正・昭和にかけて東京や大阪といった〈都市〉があらわれた。ある場所に人口が集中すると、そこに新たな文化や価値観が生まれる。〈都市〉は人やモノの関係で構成されるネットワークでありながら、逆に人やモノのあり方を規定する。近代の〈都市〉はどのようにして生まれ変化していったのか。そして人はそのネットワークの中でどのように生きたのか。近現代の小説を〈都市〉という視点から読み解く。

到達目標:
1.チームで問題に取り組む能力を高める
2.問題を発見しそれを解決する能力を高める
3.よりよい合意を目指して建設的に批判する能力を高める
4.自らの主張を表現する能力を高める

授業方法:　授業は受講者のグループ発表・質問・討議が中心となる。出席者には毎回発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	グループ分けとアイスブレイク	
3.	文学研究の目的と方法	
4.	発表の目的と方法	
5.	グループディスカッション１	授業外でのディスカッション
6.	グループディスカッション２	授業外でのディスカッション
7.	グループディスカッション３	授業外でのディスカッション
8.	グループ発表１　田山花袋「少女病」（受講生の関心にあわせて作品を変更することがある。以下同様）	対象テクストの精読
9.	グループ発表２　谷崎潤一郎「秘密」	対象テクストの精読
10.	グループ発表３　堀辰雄「水族館」	対象テクストの精読
11.	グループ発表４　三島由紀夫「橋づくし」	対象テクストの精読
12.	グループ発表５　大江健三郎「人間の羊」	対象テクストの精読
13.	レポート・論文の書き方	
14.	レポート相互添削	
15.	レポート相互添削	

受講者へのメッセージやアドバイス:
★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

取り上げる作品はあらかじめ丁寧に読んでおき、疑問点や気がついた点などをリストアップして授業に臨むこと。授業中には全員に発言を求める。

フィードバックの方法:　優れたレポートはマナビーを通じて他の受講生に公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む態度	30	※欠席：1回…－5点、2回…－15点、3回…－30点、4回…－50点
ディスカッションの貢献度	20	
発表内容（レジュメ・口頭での説明・質疑応答）	25	
レポート	25	

教科書:　東郷克美・高橋広満編『〈都市〉文学を読む』（鼎書房）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　学内メール：kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

240260

演習ⅡG

高橋　　幸平

授業テーマ:　近現代文学に描かれた〈異界〉の諸相を読む。

授業の概要:　明治に入り急速に欧化を進めた日本は、西欧から様々な文化・思想を摂取した。〈近代科学の精神〉もその一つである。主張の正しさを確保する上で客観性や実証性を重視し、自然を理解・支配しようとする〈近代科学の精神〉は、しかしながら、キリスト教の統一的世界観など西欧文化を基底にして成立したものであると言われる。西欧文化に根ざした〈近代科学の精神〉を東洋の日本が取り入れようとしたとき、日本人の心に何が起きたのか。近代の文学作品を読むことは、その諸相をのぞくことにつながる。

到達目標:
1.チームで問題に取り組む能力を高める
2.問題を発見しそれを解決する能力を高める
3.よりよい合意を目指して建設的に批判する能力を高める
4.自らの主張を表現する能力を高める

授業方法:　授業は受講者のグループ発表・質問・討議が中心となる。出席者には毎回発言を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス・グループ分け	
2.	先行研究について・パワーポイント発表の方法	
3.	グループディスカッション1	授業外でのディスカッション
4.	グループディスカッション2	授業外でのディスカッション
5.	グループ発表1（先行研究の整理）	対象テクストの精読
6.	グループ発表2（先行研究の整理）	対象テクストの精読
7.	グループディスカッション3	授業外でのディスカッション
8.	グループディスカッション4	授業外でのディスカッション
9.	グループ発表1　永井荷風「狐」（受講生の関心にあわせて作品を変更することがある。以下同様）	対象テクストの精読
10.	グループ発表2　芥川龍之介「奉教人の死」	対象テクストの精読
11.	グループ発表3　江戸川乱歩「押絵と旅する男」	対象テクストの精読
12.	グループ発表4　太宰治「魚服記」	対象テクストの精読
13.	グループ発表5　川端康成「水月」	対象テクストの精読
14.	ポスター発表準備1	授業外でのディスカッション
15.	ポスター発表準備2	授業外でのディスカッション

受講者へのメッセージやアドバイス:
★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

取り上げる作品はあらかじめ丁寧に読んでおき、疑問点や気がついた点などをリストアップして授業に臨むこと。授業中には全員に発言を求める。

フィードバックの方法:　優れたポスター発表資料はマナビーを通じて他の受講生に公開する。2月初旬に行われる「成果発表会」において、ポスター発表を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む態度	30	※欠席：1回…－5点、2回…－15点、3回…－30点、4回…－50点
ディスカッションの貢献度	20	
発表内容（パワポ資料・口頭での説明・質疑応答）	25	
ポスター	25	

教科書:　東郷克美・吉田司雄編『〈異界〉文学を読む』（鼎書房）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　学内メール：kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

240360 **演習ＩＨ**

森山　　由紀子

授業テーマ: 古典文学・古典語学の諸問題

授業の概要: :①古典文学作品を丁寧に読み、その過程で見つけた自らの疑問を明らかにしていく方法を身につけ、各自の卒業研究の準備につなげる。②古典のさまざまな表現に親しみ、日本古典文学の基礎となる表現や修辞法の起源を知る。

到達目標: ①古典文学の言葉ひとつひとつをできるだけ当時の文脈の中で丁寧に再現するための課題に積極的に取り組み、その過程を通して古典文学についての関心を深め、知的好奇心をもって主体的に自らの学びの課題を見出すことができる。（関心・意欲・態度）
②古今集をはじめとする文学作品を、適切な辞書や注釈書、論文や参考図書の力を借りながら、当時の社会的文脈も踏まえた上で解釈し、他の受講者に自分の言葉で解説することができる。
③各自設定した課題について、先行研究も参考にしながら自ら検証し、根拠となる用例等を提示した10枚程度のレポートを書くことができる。
④古典文学を、言葉の意味や文脈をふまえたイントネーションで生き生きと朗読することができる。
⑤基本的な変体仮名の文章を読むことができる。

授業方法: 最初は全員で『古今和歌集』を題材として基本的な方法を学ぶことを予定しているが、物語に興味のある人は、関係の深い『伊勢物語』を扱ってもよく、言葉に興味のある人は言葉の歴史に焦点をあててもよい。具体的な授業方法として、授業の前半は、授業中の指示に従って各自がマナビ―に課題を提出してレジュメを完成させていく。途中、考えを整理するためにグループディスカッションを取り入れる。後半は、各自が作成した資料をもとに担当者がクラス全体に発表し、全体でディスカッションを行う。なお、並行してさまざまな古典文学作品を音読する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要説明と古今和歌集の概説	特になし。
2.	授業の概要説明と古今和歌集の概説	音読練習
3.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	音読練習
4.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	資料収集・音読練習
5.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	資料収集・音読練習
6.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成
7.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成・発表準備・音読練習
8.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成・発表準備・音読練習
9.	担当個所についての発表①	レジュメ作成・発表準備・音読練習
10.	問題解決のための調査とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成・発表準備・音読練習
11.	問題解決のための調査とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成・発表準備・音読練習
12.	担当個所についての発表②	レジュメ作成・発表準備・音読練習
13.	レポート執筆指導	レポート作成
14.	レポート執筆指導	レポート作成
15.	レポート執筆指導	れぽと作成

受講者へのメッセージやアドバイス: 演習は、受講者の積極的な学びを教員が支援する場です。各段階における課題をこなしながら、自ら考える姿勢を身につけていってください。読書によって関心を広げることも大切です。
また、授業の形は、受講者の学びたい内容に応じて対話しながら柔軟に工夫したいと思っていますので、各自の希望をどんどん提案してみてください。

フィードバックの方法: Eメール。マナビ―の双方向機能も併用する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加とマナビ―への課題の提出	40%	古典文学の言葉ひとつひとつをできるだけ当時の文脈の中で丁寧に再現するための課題に積極的に取り組んだ。
口頭発表	20%	古今集をはじめとする文学作品を、適切な辞書や注釈書、論文や参考図書の力を借りながら、当時の社会的文脈も踏まえた上で解釈し、他の受講者に自分の言葉で解説することができた。
レポート	20%	各自設定した課題について、先行研究も参考にしながら自ら検証し、根拠となる用例等を提示した10枚程度のレポートを書くことができた。
テスト（音読・変体仮名）	各10%	古典文学を、言葉の意味や文脈をふまえたイントネーションで生き生きと朗読することができた。基本的な変体仮名の文章を読むことができた。

教科書: 授業中に指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール。マナビ―の双方向機能も用いる。来室も推奨する。

240460 **演習ⅡH**

森山　　由紀子

授業テーマ:　古典文学・古典語学の諸問題

授業の概要:　①演習Ⅰの経験を踏まえ、各自が選んだ様々な古典文学作品を読み、その過程で見つけた自らの疑問を明らかにしていく中で、各自が卒業論文として取り組みたい作品やテーマを見つける。②古典のさまざまな表現に親しむ。

到達目標:　①古典文学の言葉ひとつひとつをできるだけ当時の文脈の中で丁寧に再現するための課題に積極的に取り組み、その過程を通して古典文学についての関心を深め、知的好奇心をもって主体的に自らの学びの課題を見出すことができる。(関心・意欲・態度)
②各自が選んだ文学作品を、適切な辞書や注釈書、論文や参考図書の力を借りながら、当時の社会的文脈も踏まえた上で解釈し、そこで考察した内容をポスターセッションで自分の言葉を使い解説することができる。
③各自設定した課題について、先行研究も参考にしながら自ら検証し、根拠となる用例等を提示した20枚程度のレポートを書くことができる。
④古典文学を、言葉の意味や文脈をふまえたイントネーションで生き生きと朗読することができる。
⑤基本的な変体仮名の文章を読むことができる。

授業方法:　あらかじめ資料を準備した担当者のよる発表とディスカッションを中心に授業をすすめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要説明と古今和歌集の概説	特になし。
2.	授業の概要説明と古今和歌集の概説	音読練習
3.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	音読練習
4.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	資料収集・音読練習
5.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	資料収集・音読練習
6.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成
7.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成・発表準備・音読練習
8.	解釈に必要な資料収集とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成・発表準備・音読練習
9.	担当個所についての発表①	レジュメ作成・発表準備・音読練習
10.	問題解決のための調査とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成・発表準備・音読練習
11.	問題解決のための調査とレジュメ作成の準備・音読練習	レジュメ作成・発表準備・音読練習
12.	担当個所についての発表②	レジュメ作成・発表準備・音読練習
13.	レポート執筆指導	レポート作成
14.	レポート執筆指導	レポート作成
15.	レポート執筆指導	れぽと作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　演習は、受講者の積極的な学びを教員が支援する場です。各段階における課題をこなしながら、自ら考える姿勢を身につけていってください。読書によって関心を広げることも大切です。
また、授業の形は、受講者の学びたい内容に応じて対話しながら柔軟に工夫したいと思っていますので、各自の希望をどんどん提案してみてください。

フィードバックの方法:　Eメール。マナビーの双方向機能も併用する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加とマナビーへの課題の提出	40%	古典文学の言葉ひとつひとつをできるだけ当時の文脈の中で丁寧に再現するための課題に積極的に取り組んだ。
口頭発表	20%	自分が選んだ文学作品を、適切な辞書や注釈書、論文や参考図書の力を借りながら、当時の社会的文脈も踏まえた上で解釈し、そこで見つけた課題についてポスターセッションの場で自分の言葉を用いて解説することができた。
レポート	20%	各自設定した課題について、先行研究も参考にしながら自ら検証し、根拠となる用例等を提示した20枚程度のレポートを書くことができた。
テスト(音読・変体仮名)	各10%	古典文学を、言葉の意味や文脈をふまえたイントネーションで生き生きと朗読することができた。基本的な変体仮名の文章を読むことができた。

教科書:　授業中に指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール。マナビーの双方向機能も用いる。来室も推奨する。

240760

演習ＩＪ

小林　　賢章

授業テーマ:

授業の概要:　『古今栄雅抄』を読む

到達目標:　異体字が読めること、論文の基礎

授業方法:　演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
2.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
3.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
4.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
5.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
6.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
7.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
8.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
9.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
10.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
11.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
12.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
13.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
14.	２首を演習形式で発表（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること
15.	２首を演習形式で発表（2名） レポート提出	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくること

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒論目指して頑張ろう

フィードバックの方法:　各回の質問・レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50%	
レポート	50%	用例採集ができていること

教科書:　プリント

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　メール　soumen1949＠docomo.ne.jp

240860 **演習ⅡＪ**

小林　　賢章

授業テーマ:

授業の概要: 『古今栄雅抄』を読む

到達目標: 論文の書き方を知る

授業方法: 演習方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
2.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
3.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
4.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
5.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
6.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
7.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
8.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
9.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
10.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
11.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
12.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
13.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
14.	教科書2首を読む（2名）	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる
15.	教科書2首を読む（2名） レポート提出	発表者はレジュメ作成、発表者以外は本文を読んでくる

受講者へのメッセージやアドバイス: 学問とは何かに気付こう

フィードバックの方法: レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	自分の意見があるかどうか
出席	30%	

教科書: プリント

参考書: なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: メール　soumen1949＠docomo.ne.jp

241160 **演習ＩＬ**

大島　　中正

授業テーマ: 語彙・文字・表現の諸問題

授業の概要: 語彙論・文字論・表記論に関する論文を講読する。

到達目標: ①論文を批判的に読解する力をやしなう。
②自分で計画した調査を実行し、その結果をふまえて仮説をたてる力をやしなう・。

授業方法: 演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	名詞の意味の記述（1）	指示された課題にとりくむ。
2.	名詞の意味の記述（2）	指示された課題にとりくむ。
3.	名詞の意味の記述（3）	指示された課題にとりくむ。
4.	命名と造語（1）	指示された課題にとりくむ。
5.	命名と造語（2）	指示された課題にとりくむ。
6.	命名と造語（3）	指示された課題にとりくむ。
7.	感覚・感情表現（1）	指示された課題にとりくむ。
8.	感覚・感情表現（2）	指示された課題にとりくむ。
9.	感覚・感情表現（3）	指示された課題にとりくむ。
10.	文字による重層的表現（1）	指示された課題にとりくむ。
11.	文字による重層的表現（2）	指示された課題にとりくむ。
12.	文字による重層的表現（3）	指示された課題にとりくむ。
13.	卒業研究の仮テーマを決定する（1）	報告または質疑の準備をする。
14.	卒業研究の仮テーマを決定する（2）	報告または質疑の準備をする。
15.	卒業研究の仮テーマを決定する（3）	報告または質疑の準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス: ゼミ仲間で情報を共有したり交換したりして切磋琢磨する力をやしなうように努力すること。

フィードバックの方法: 適宜、全体にまたは個別に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	到達目標により評価する。
学期末レポート	50	学期末レポートとしての完成度により評価する。

教科書:

参考書: 適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力。

教員との連絡方法: オフィスアワー。Eメール等による。

241260

演習ⅡL

大島　　中正

授業テーマ:　日本語学の諸問題

授業の概要:　これまでの学習を十二分にふまえて卒業研究のテーマを確定する。

到達目標:　①各自が設定した卒業研究のテーマに関する主要先行研究について調査し報告する力をやしなう。
②予備的な調査などを実行して、研究テーマを確定する力をやしなう。

授業方法:　演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	夏期休暇中の成果を報告するための資料を準備する。
2.	先行研究についての報告（1）	報告または質疑の準備をする。
3.	先行研究についての報告（2）	報告または質疑の準備をする。
4.	先行研究についての報告（3）	報告または質疑の準備をする。
5.	先行研究についての報告（4）	報告または質疑の準備をする。
6.	先行研究についての報告（5）	報告または質疑の準備をする
7.	先行研究についての報告（6）	報告または質疑の準備をする。
8.	先行研究についての報告（7）	報告または質疑の準備をする。
9.	予備調査の報告（1）	報告または質疑の準備をする。
10.	予備調査の報告（2）	報告または質疑の準備をする。
11.	予備調査の報告（3）	報告または質疑の準備をする。
12.	予備調査の報告」（4）	報告または質疑の準備をする。
13.	予備調査の報告（5）	報告または質疑の準備をする。
14.	成果発表会への準備（1）	成果発表の資料を作成する。
15.	成果発表会への準備（2）	成果発表会の資料を作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒業論文の作成は、基本的に孤独な作業です。しかし、その過程は、ゼミ仲間と切磋琢磨する絶好の機会です。

フィードバックの方法:　適宜、全体にまたは個別に対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	到達目標により評価する。成果発表会も評価の対象とする。
学期末レポート	50	学期末レポートとしての完成度により評価する。

教科書:

参考書:　適宜、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力。

教員との連絡方法:　オフィスアワー。Eメールなどによる。

241360 **演習ＩＭ**

服部　　匡

授業テーマ:　実例に基づく言語変化の研究

授業の概要:　明治以降の日本語に起こった言語変化(語や表現の意味用法の変化、文法的変化、その他)を、用例に基づいて研究し、新事実を発見することを目指します。そのため、まず、各種のコーパスや冊子資料により過去の日本語の実例を観察し、言語変化があった(可能性がある)と思われる事象を見つけてください。次に、その事象を解明するのに適当で十分な量の資料(コーパスあるいは冊子)があるかどうかを検討し、あるならばそれを用いて研究にとりかかり(ないならば諦めて別の事象を探し)、成果を発表しレポートにまとめます。以上のことと平行して、研究文献の利用法や勉強の仕方を学び、卒業研究作成に役立てます。

到達目標:　テーマの発見・資料の選択・データの収集整理・文献の利用法など、研究の基礎となる力を習得する

授業方法:　授業は学生の発表と議論、教員からのコメントを中心とする。それと別に、全員が定期的に研究の中間報告をマナビーから行い、指導を受けて方向を見直していく。また、宿題として、指定する文献を読んだり、それについてのノート取りをしたりしてきてもらう。自分のPCのある人は「ひまわり」をインストールして利用すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基本事項・研究方法(コーパス・冊子資料の利用法、文献の読み方、その他)	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。
2.	基本事項・研究方法(コーパス・冊子資料の利用法、文献の読み方、その他)	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
3.	上記と平行して、研究テーマの打合せ	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
4.	上記と平行して、研究テーマの打合せ	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
5.	上記と平行して、研究テーマの打合せ	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
6.	学生の研究成果の発表	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
7.	学生の研究成果の発表	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
8.	学生の研究成果の発表	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
9.	学生の研究成果の発表	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
10.	学生の研究成果の発表	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
11.	学生の研究成果の発表	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
12.	各自の発表 研究文献の探索法等、研究の基礎的事項の指導	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
13.	学生の研究成果の発表	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
14.	学生の研究成果の発表	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
15.	レポート作成指導 秋学期テーマの相談	レポートの土台となるものを書いてくること。

受講者へのメッセージやアドバイス:　3年次の1年間は、卒論のテーマを見つけるための期間と捉えてください。研究は、実際にやってみなければ何も分かりませんから、様々なことを試してみるのが肝心で、結果的にうまく行ったテーマが良いテーマです。自分自身の使う(あるいは見聞きする)言葉を中心に考えているとうまくいきません。現在や過去の実例に目を向け、言葉やその使い方には想像を超えた多様性や経年変化が存在することに気づいてください。

フィードバックの方法:　提出課題や発表資料・下書きにはできる限り個別にコメントします。教室で、または、マナビー上から行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的な参加を重視する。単なる出席ではない。
中間の提出物・発表内容・最終レポート	80	各自の研究を通じて、授業目標に掲げた力をつけることができたかを評価する。
出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし、原則として欠席4回で不可とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーから、または、教室・研究室等での面談による

241460 **演習ⅡM**

服部　　匡

授業テーマ:　実例に基づく言語研究

授業の概要:　各自、興味のあるテーマを選び、コーパスや冊子資料を用いて研究する。先行研究の扱い方、コーパス・冊子資料の適切な用い方、データの処理法、分析の考え方、レポート(論文)のまとめ方など、卒業研究につながる実際的な研究方法を学ぶ。研究テーマについては、夏休みのうちに候補をいくつか考えてくること。

到達目標:　テーマの発見・資料の選択・データの収集整理・文献の利用法など、研究の基礎となる力を習得する

授業方法:　授業は学生の発表と議論、教員からのコメントを中心とする。それと別に、全員が定期的に研究の中間報告をマナビーから行い、指導を受けて方向を見直していく。各自、卒業論文作成までを視野に入れて研究に取り組むこと。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容の説明・各自の研究テーマの仮決定	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。
2.	授業内容の説明・各自の研究テーマの仮決定	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
3.	授業内容の説明・各自の研究テーマの仮決定	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
4.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
5.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	各自の課題に取り組み発表準備を行うこと。中間報告を行うこと。
6.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
7.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
8.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
9.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
10.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
11.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
12.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
13.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
14.	学生の発表:問題点の整理と今後の方向	発表者は2日前までにレジュメをマナビーから提出。発表後も内容の改善に努めること。
15.	レポート作成の指導	レポートの土台となるものを書いてくること。

受講者へのメッセージやアドバイス:　3年次の1年間は、卒論のテーマを見つけるための期間と捉えてください。研究は、実際にやってみなければ何も分かりませんから、様々なことを試してみるのが肝心で、結果的にうまく行ったテーマが良いテーマです。自分自身の使う(あるいは見聞きする)言葉を中心に考えているとうまくいきません。現在や過去の実例に目を向け、言葉やその使い方には想像を超えた多様性や経年変化が存在することに気づいてください。

フィードバックの方法:　提出課題や発表資料・下書きにはできる限り個別にコメントします。教室で、または、マナビー上から行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的な参加を重視する。単なる出席ではない。
中間の提出物・発表内容・最終レポート	80	各自の研究を通じて、授業目標に掲げた力をつけることができたかを評価する。
出欠席・遅刻		欠席・遅刻は減点とし、原則として欠席4回で不可とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーから、または、教室・研究室等での面談による

241560 **演習ＩＮ**

丸山　　敬介

授業テーマ:　今日の日本語教育における諸問題　1

授業の概要:　今日の日本語教育で論ぜられる課題を、社会・文化・地域に関わるもの、言語に関わるもの、教育に関わるものの三つの観点から概観し、その基礎を理解する。

到達目標:　①今日の日本語教育を、上記3点から理解すること
②卒業研究のテーマをしぼり込み、その枠組みをつくること

授業方法:　演習形式。各領域についてなされる教師の解説を受け、各自、一つずつテーマを選び問題のあり方とその背景・新しい動き・課題などについて発表する。その後、その発表をめぐって質疑応答・意見の交換を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	今日の日本語教育における諸問題（社会・文化・地域に関わるもの） 1	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
2.	今日の日本語教育における諸問題（社会・文化・地域に関わるもの） 2	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
3.	今日の日本語教育における諸問題（社会・文化・地域に関わるもの） 3	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
4.	今日の日本語教育における諸問題（社会・文化・地域に関わるもの） 4	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
5.	今日の日本語教育における諸問題（社会・文化・地域に関わるもの）5	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
6.	今日の日本語教育における諸問題（言語に関わるもの） 1	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
7.	今日の日本語教育における諸問題（言語に関わるもの） 2	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
8.	今日の日本語教育における諸問題（言語に関わるもの） 3	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
9.	今日の日本語教育における諸問題（言語に関わるもの） 4	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
10.	今日の日本語教育における諸問題（言語に関わるもの） 5	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
11.	今日の日本語教育における諸問題（教育に関わるもの） 1	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
12.	今日の日本語教育における諸問題（教育に関わるもの） 2	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
13.	今日の日本語教育における諸問題（教育に関わるもの） 3	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
14.	今日の日本語教育における諸問題（教育に関わるもの） 4	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
15.	今日の日本語教育における諸問題（教育に関わるもの） 5	授業で紹介・指示した教科書・文献などの中から自分の興味に沿ったものをテーマごとに、1～2点、読み込む。発表が当たっている場合には、その準備を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回取り上げる項目については、そのものの解説の他、卒業研究として取り上げる際の留意点について解説する。それについて、質問などがある場合には、授業中並びにその前後に対応する。発表に際しても、発表内容とその仕方並びに卒業研究として取り上げる際の留意点について解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の積極的な参加度	60%	授業中の教師への質疑応答並びに発表者への質疑応答などを通して、到達目標①②を評価する。ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。
発表	40%	発表内容とその仕方を、①の観点から評価する。ただ原稿を読み上げるような発表は、評価の対象外とする。

教科書:　マナビー参照のこと。

参考書:　都度、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　以下のアドレスを使用のこと。
kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

241660 **演習ⅡN**

丸山　　敬介

授業テーマ:　今日の日本語教育における諸問題　2

授業の概要:　今日の日本語教育を、社会・文化・地域に関わるもの、言語に関わるもの、教育に関わるものの三つの観点から、より深く理解する。

到達目標:　①今日の日本語教育を、上記3点からより深く理解すること
②卒業研究の枠組みをかためること

授業方法:　演習形式。各自の発表を受け質疑応答し、最後に教師が卒業研究の観点から講評する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究と卒業論文に関する基礎知識	レジメを読んでおく。
2.	社会・文化・地域に関わる課題の発表と質疑応答　1	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
3.	社会・文化・地域に関わる課題の発表と質疑応答　2	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
4.	社会・文化・地域に関わる課題の発表と質疑応答　3	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
5.	社会・文化・地域に関わる課題の発表と質疑応答　4	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
6.	まとめ　1	その領域・個々の項目についてまとめる。また、自分の卒業研究とのつながりを確認する。
7.	言語に関わる課題の発表と質疑応答　1	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
8.	言語に関わる課題の発表と質疑応答　2	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
9.	言語に関わる課題の発表と質疑応答　3	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
10.	まとめ　2	その領域・個々の項目についてまとめる。また、自分の卒業研究とのつながりを確認する。
11.	教育に関わる課題の発表と質疑応答　1	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
12.	教育に関わる課題の発表と質疑応答　2	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
13.	教育に関わる課題の発表と質疑応答　3	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
14.	教育に関わる課題の発表と質疑応答　4	その領域・個々の項目にどのような背景があるかを調べる。また、それが自分が計画している卒業研究とどのようなつながりがあるのかを調べる。発表が当たっている場合には、その準備を行う。
15.	まとめ　4	その領域・個々の項目についてまとめる。また、自分の卒業研究とのつながりを確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒業研究のより詳細なテーマのしぼりこみ・枠組みの修正がなされるよう、各自の発表の後の活発な質疑応答・意見の交換を期待する。

フィードバックの方法:　発表内容・卒業研究のテーマの選択・研究の枠組みなどについて、授業中並びにその前後にフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	60%	発表者への質疑応答並びに教師への質疑応答などを通して、到達目標①②がどれだけ達成できているかを評価する、ただし、正当な理由なく5回以上欠席した場合は不可とする。
発表	40%	発表内容とその仕方を、①②の観点から評価する。ただ原稿を読み上げるような発表は、評価の対象外とする。

教科書:　マナビー参照のこと。

参考書:　都度、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力
教員との連絡方法:	以下のアドレスを使用すること。 kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

241760 **演習ＩＯ**

山本　　由紀子

授業テーマ:

授業の概要: 日本語教育分野の論文購読、VTRの視聴、グループ発表やディスカッションを通して、日本語教育に関わる諸問題を概観し、基本的な知識を身に付けます。同時に、さまざまな研究方法や、資料収集方法、文献の読み方・書き方を理解しながら、研究に必要な基本的な力を身に付けます。この授業での各学習活動を通して、各々の卒業研究テーマについても考えはじめます。

到達目標: ①日本語教育研究に取り組む上で必要となる基本的知識、および、なかでも関心を抱く領域に関する専門的知識を身に付ける。
②自ら問題を設定し、それらの問題を解決するために必要な情報を収集、整理し、実証的、論理的、多角的に物事を考えることができる。
③日本語・日本文化・日本社会、および、異文化に関心を持ち、理解を深めようとする態度を養う。
④自分の考えを持ち、表現できる力を養う。

授業方法: 演習形式。まず、日本語教育の諸問題をいくつかの観点から概観し、論文や調査報告書、VTRを通じて具体的問題に触れ、討論します。グループ発表では、グループで選択したテーマに関わる問題やその背景・先行研究を調べて発表を行います。そのうえで、発表者から提示された問題について全体で討論を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業説明、グループ分け、日本語教育分野の研究について	
2.	参考文献の探し方、取り扱い、発表・討論の方法について	配布資料に目を通しておく。
3.	日本語教育に関わる問題についての論文講読、解説、討論	宿題に取り組む。
4.	日本語教育に関わる問題についての論文講読、解説、討論	宿題に取り組む。
5.	日本語教育に関わる問題についての論文講読、解説、討論	宿題に取り組む。
6.	論文作成オリエンテーション	
7.	まとめ	
8.	発表の準備	発表のための資料収集を進める。
9.	発表の準備	担当の準備作業を進める。
10.	発表の準備	担当の準備作業を進める。
11.	グループ発表と討論	発表担当グループは念入りに準備を行っておく。
12.	グループ発表と討論	
13.	グループ発表と討論	
14.	グループ発表と討論	
15.	ふりかえり	

受講者へのメッセージやアドバイス: 日本語教育に関わる社会情勢に関心を持つこと、さまざまな日本語教材に積極的に触れること、実習や日本語ボランティアへの参加を通して、現場を見学したり経験したりすることを強く勧めます。こうした活動を通して日本語教育をよりよく理解できるだけでなく、卒業研究テーマの芽を見つけることもできるものです。
グループ発表では、準備学習をグループで進めます。協調性、責任感をもって臨みましょう。

フィードバックの方法: 教室でまとめてフィードバックを行います。
レポートには、必要に応じてマナビーでフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	30%	到達目標①②④を基準とする。
発表および討論	30%	グループ発表では、到達目標①～④を踏まえた発表内容となっているか、十分な準備学習ができているか、自身の役割が十分達成できているかを評価する。討論では論点をおさえた上で発言できているかを評価する。
出席および積極的参加度	40%	到達目標②～④の点から、課題の提出、自己評価シート、出席、授業中の発言を評価対象とします。

教科書:

参考書: .V.ネウストプニー、宮崎里司共編著『言語研究の方法』(くろしお出版)
浜田麻里他著『論文ワークブック』(くろしお出版)
S・B・メリアム『質的調査法入門』(ミネルヴァ書房)
ゾルタン・ドルニェイ『外国語教育学のための質問紙調査入門』(松柏社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室で対応します。
Eメールやオフィスアワーも活用してください。
yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

241860 **演習ⅡO**

山本　　由紀子

授業テーマ:

授業の概要: 日本語教育の諸問題のうち、特に興味を持つ事柄について、各自先行研究を読み進めることでさらに知識を深めていきます。研究方法や論文の書き方についてもより理解を深め、卒業研究のテーマをしぼりこみ、研究計画書を書き、研究の準備態勢を整えていきます。

到達目標: ①日本語教育研究に取り組む上で必要となる基本的知識、および、なかでも関心を抱く領域に関する専門的知識を身に付ける。
②自ら問題を設定し、それらの問題を解決するために必要な情報を収集、整理し、実証的、論理的、多角的に物事を考えることができる。
③日本語・日本文化・日本社会、および、異文化に関心を持ち、理解を深めようとする態度を養う。
④自分の考えを持ち、表現できる力を養う。

授業方法: まず、研究方法に関する解説やタスク、先行研究を用いた論文の構成や引用を学ぶタスクを行う授業を数回行います。その後の授業では、自身が興味を抱くテーマの研究課題・先行研究・研究方法について発表し、議論や助言を経て各自研究計画を練っていく材料を得ます。個人発表は一人2回ずつ行います。テーマ決定が順調に進めば、予備調査やその準備など、各々できるところから次の段階へと歩みだしていきます。学期末までに研究計画書をマナビーで提出し、コメントをもとにさらに計画を練り上げます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 研究テーマについて	各自暫定の研究テーマを考えておく。
2.	研究の方法	配布資料に目を通しておく。
3.	論文の構成、先行研究の活用	配布資料に目を通しておく。 興味を持つ問題に関する先行研究論文を2つ程度コピーし持参する。
4.	発表	発表準備（発表担当者）
5.	発表	発表準備（発表担当者）
6.	発表	発表準備（発表担当者）
7.	発表	発表準備（発表担当者）
8.	発表	発表準備（発表担当者）
9.	ふりかえり	
10.	発表	発表準備（発表担当者）
11.	発表	発表準備（発表担当者） 発表が終了した者は、研究計画を練り直す。
12.	発表	発表準備（発表担当者） 発表が終了した者は、研究計画を練り直す。
13.	発表	発表準備（発表担当者） 発表が終了した者は、研究計画を練り直す。
14.	発表	発表準備（発表担当者） 発表が終了した者は、研究計画を練り直す。
15.	ふりかえり	研究計画書を作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 日本語教育に関わる社会情勢に関心を持つこと、さまざまな日本語教材に積極的に触れること、実習や日本語ボランティアへの参加を通して、現場を見学したり経験したりすることを強く勧めます。こうした活動を通して日本語教育をよりよく理解できるだけでなく、卒業研究テーマの芽を見つけることもできるものです。

フィードバックの方法: 発表へのフィードバックは、教室で行います。
レポート（研究計画書）には、マナビーでフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	30%	到達目標①②④を基準とする。
発表および討論	30%	グループ発表では、到達目標①～④を踏まえた発表内容となっているか、十分な準備学習ができているか、自身の役割が十分達成できているかを評価する。討論では論点をおさえた上で発言できているかを評価する。
出席および積極的参加度	40%	到達目標②～④の点から、課題の提出、自己評価シート、出席、授業中の発言を評価対象とします。

教科書:

参考書: .V.ネウストプニー、宮崎里司共編著『言語研究の方法』（くろしお出版）
浜田麻里他著『論文ワークブック』（くろしお出版）
S・B・メリアム『質的調査法入門』（ミネルヴァ書房）
ゾルタン・ドルニェイ『外国語教育学のための質問紙調査入門』（松柏社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室で対応します。
Eメールやオフィスアワーも活用してください。
yuyamamo@dwc.doshisha.ac.jp

242061～63

コンピュータ活用

筧　　順子

授業テーマ:
コンピュータの基本およびソフトウェアの活用と、情報収集、プレゼンテーション能力、情報リテラシー習得

授業の概要:
本学部生として必要とされる基本的なコンピュータ利用から外部情報・データの有効な処理方法を学び、複数のソフトウェアを同時に利用しながら、考えていることを的確に伝えられる方法を文章作成、表計算、統計、情報検索、プレゼンテーション、クラウドコンピューティングなどの基礎知識と共に、習得していく。

到達目標:
「コンピュータ」の基本的理解を深める。
日本語文章作成、データベースの作成とその活用。
情報を収集し、自分の意見をまとめ上げ、周りに理解してもらえるようなプレゼンテーションを仕上げる。
これらをスピーディに完成させていくことで、表現方法、技能スキルをアップしていく。
学生、社会人を問わず、対応できる知識を身につける。

授業方法:
演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 現在の情報に関する知識調査、	
2.	情報機器の基本、ネットセキュリティモラルについて 基本操作（Microsoft Word）	
3.	文書作成に関わる一連の作業（1）	
4.	文書作成に関わる一連の作業（2） メールシステムについての説明	文書作成に関する宿題あり
5.	文書作成に関わる一連の作業（3）	文書作成に関する宿題あり
6.	情報検索の方法、クラウドコンピューティングについて	情報検索についての宿題あり
7.	表計算処理の基礎技能（1）	宿題あり
8.	表計算処理の基礎技能（2）	宿題あり
9.	表計算処理の基礎技能（3）	
10.	表計算処理の基礎技能（4） Microsoft officeのソフト同士でのデータ共有	
11.	Microsoft officeのソフト同士でのデータ共有	
12.	プレゼンテーションやスライド作成方法説明	プレゼンテーション資料作成の宿題あり
13.	プレゼンテーション用スライド作成	時間外作業あり
14.	プレゼンテーション用スライド作成	時間外作業あり
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
携帯、スマートフォンなどに頼りがちの中で、「コンピュータ」の知識、技能を高め、幅広く利用できるようになってもらいたい。
演習なので、欠席、遅刻することなく、提出物や宿題は必須。

フィードバックの方法:
授業内での提出物については、次回授業の折にチェックして返却。
時には、ファイル提出もあり。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・授業への参加度	40	授業中での作業の方法や授業態度
提出物	30	授業中での提出物、課題の評価
定期試験	30	授業全体を通しての、知識、技能の理解度を評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
出講日の休憩時間やEメール（アドレスについては、授業中に連絡）

243360

京都文化概論

野口　　実

授業テーマ:　「京都文化」と「日本文化」－平安京から京都へ－

授業の概要:　平安時代から現代に至る日本の歴史の中で、京都の果たした役割を追いながら、その文化的位置づけを考え直します。女性の視角を重視するとともに、現代的な問題意識を踏まえて、京都の歴史に踏み込み、その文化の深淵に触れます。京都の観光の問題、これに関連して各地の歴史資産に基づいた地域振興のあり方などにも触れたいと思います。

到達目標:　日本の文化については、京都に代表される西国的なものと、関東に代表される東国的なものの相異、あるいは貴族的な文化と武士的な文化の違いが指摘されることがあります。にもかかわらず、京都文化＝日本文化と単純化してよいのかどうか、そんなことを考えて貰いたいと思います。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「京都文化」って何だろう－貴族・女性の京都VS武士・男性の東国・九州－	テーマに関連する文献を読んでおく。
2.	東国と西国－日本社会の多元性－	各地の出身者から文化的な京都との違和感を聴いておく。
3.	前近代の京都と女性（1）－結婚と妻の役割・貞女観－	ジェンダーに関する文献を読んでおく。
4.	前近代の京都と女性（2）－離婚・遊女・女商人－	日本女性史に関する文献を読んでおく。
5.	二つの王権－天皇と王権－	王権論に関する文献を読んでおく。
6.	「聖なるもの」と「賤なるもの」－差別の発生－	同和問題に関する文献を読んでおく。
7.	中世人のファッション－京都で生まれた可視的身分標識－	服飾の歴史に関する文献を読んでおく。
8.	貴族の刑罰・寺社の刑罰・武士の刑罰－日本中世社会における刑罰－	法社会史に関する文献を読んでおく。
9.	武士の都としての平安京	中世武士論に関する文献を読んでおく。
10.	京都の『平家物語』	『平家物語』を読んでおく。
11.	武士の空間「六波羅」	「平家政権」や「六波羅探題」に関する文献を読んでおく。
12.	京都人の作った鎌倉幕府－源頼朝のバックグラウンド－	源頼朝の伝記を調べておく。
13.	源実朝の妻と西八条の遍照心院	鎌倉時代はじめの頃の京都の歴史に関する文献を読んでおく。
14.	現代社会の諸問題と京都文化	これまで学んできたことを整理し、現代社会の諸問題との関連を考えてみる。
15.	まとめ	授業全体を振り返って、京都文化に関する自分なりの認識を語れるようにする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　在来の観光用に作り上げられた「京都文化」のイメージを一度取り払って、京都の文化を自分の出身地やほかの国の都市の文化と比較する形で考えること。
日本社会史や社会学の都市論に関する研究から得るものが多いと思います。
授業中に紹介した参考文献は出来るだけ読んでおくこと。また、京都の大学生であることを利して、講義で取り上げられた現場に出かけたり、市内の博物館や資料館を見学することを勧めます。

フィードバックの方法:　時に応じてミニカードなどを配布してコメントや感想を求めます。また、教室に於いてはもとより、E・メールでの質問に応じます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
筆記試験	80	授業内容の理解度。論理性。問題意識。
授業に取り組む姿勢	20	授業参加の態度。ミニカードの提出・内容など。

教科書:　とくに使用しない。授業ごとにプリントを配布する予定。ただし、原則として、当該回のプリントを後で配付することはしない。

参考書:
山田邦和『京都』保育社ｶﾗｰﾌﾞｯｸｽ、1993年
山田邦和『京都　知られざる歴史探検』上・下、 新泉社、2017年
髙橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史』岩波新書、2014年
網野善彦『東と西の語る日本の歴史』講談社学術文庫、1998年
小川剛生『兼好法師』中公新書、2017年
野口実『武家の棟梁の条件』中公新書、1994年
野口実『列島を翔ける平安武士』吉川弘文館、2017年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　E・メール：noguchi@kyoto－wu. ac. jp

243461、62

朗読

来栖　　史江

授業テーマ:　朗読・語りを楽しむ

授業の概要:
朗読という科目ではあるが、スピーチやフリートークも練習しながら自分の語りを目指すきっかけにしてほしい。
基本はどれも同じ。作品の中身・伝えたい事を整理し、しっかり理解し、表現したいと思う通りの語りが出来るか。そこに向かっていく過程も楽しむ。
取り上げる教材は、講師の専門である絵本、エッセーや詩、古典など。受講者の希望を取り入れながら決定する。

到達目標:
魅力的な語り手になるために、大きく二つの目標を立てる。
・技術面・・・綺麗でわかりやすい語りのために、きちんと滑舌・発声の基礎が出来ているか。緩急、間の取り方などテクニックを理解出来ているか。
・表現面・・・一つの作品に対して理解を深め、それにあった語りが出来ているか。
他に、聴く力、質問する力、臨機応変に対応する力なども養う。

授業方法:
一方通行の講義型ではなく、基本毎回実習中心の参加型。個々で、グループで、作品に取り組み練習・発表をする。同志社幼稚園での絵本読み聞かせも予定。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション→良い語り・朗読とは何かを考える。	「良い朗読とは」をテーマに自分の考えをまとめてくる。
2.	実習(1) 一つの課題を取り上げ、作品を理解し発表する事で語りの楽しさ・難しさを味わう。	基本毎回課題は前の週に渡すので、個々で作品を理解し、それにあった読み方を考え練習してくる事。
3.	実習(2) このあたりから毎回滑舌・発声練習も入れていく。	同上 自分たちの滑舌練習文を考えてくる。
4.	実習(3)	課題を理解し、読み込んでくる。
5.	実習(4)	同上
6.	幼稚園実習に向けて① 絵本選び、絵本の読み方の基礎を学び練習する。	絵本の読み方を練習し、楽しい場作りについて考えてくる。
7.	幼稚園実習に向けて② 本番に向けて通し練習	同上
8.	幼稚園実習	本番に向けて個々・グループで最終確認、練習。
9.	幼稚園実習の反省・優れた語りを聴く。	実習の感想レポート提出
10.	実習(5)	課題を理解し、読み込んでくる。
11.	実習(6)	同上
12.	実習(7) 絵本セラピーを体験する	
13.	発表①　3分間朗読 個々で好きな作品を選び、3分以内にまとめ、発表する。	発表に向けての準備。 なぜこの作品を選んだのかなどを自分の言葉で説明し、それにあった語りが出来るようにしてくる。
14.	発表②　3分間朗読	同上
15.	まとめ　～授業を振り返って～ 自分の意識の変化、語りの変化を確認する。	

受講者へのメッセージやアドバイス:
自分の声を鍛え、自分の言葉で想いを伝える楽しさを味わって下さい。人前に立つのは苦手・・という人にもどんどん受講してもらいたいと思います。練習を繰り返す事で声や話し方は確実に変わっていきますし、その自信は大きな人生のプラスになるはずです。
朗読にゴールはありませんが、だからこそ一生の楽しい勉強になります。
一緒に楽しみましょう。

フィードバックの方法:
個々・グループでの提出物については基本教室内で解説し、受講者全員で理解を深める材料とする。必要があれば教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	70%	積極的に楽しみながら毎回の授業に参加し、課題に取り組んでいるかを評価する。
提出物	30%	授業の理解、自分の想いをきちんと文章に記し、伝える事が出来ているかを評価する。

教科書:

参考書:
『日本語発音アクセント新辞典』 NHK放送文化研究所
齋藤孝 『声に出して読みたい日本語』　草思社
齋藤孝 『話し上手　聞き上手』『読み上手　書き上手』　ちくまプリマー新書
『美しい日本語の辞典』 小学館辞典編集部編
『絵本講師の本棚から』 NPO法人「絵本で子育て」センター刊
岡田達信 『絵本はこころの処方箋』　瑞雲社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール(kurutan0910@gmail.com)、教室の前後に教室内で対応

243560

編集技術Ⅰ

江角　　悠子

授業テーマ:

「編集」とは、ある目的やテーマに基づき、文字や写真や図版といった素材をもとに、ひとつの体系的な情報として仕上げる作業や概念のことをさす。その形式は、これまで「印刷物」が主であったが、近年、音声や電子媒体などに拡がっている。ここで重要なことは、最終形式はどうであれ、編集作業は同じ原則・理論に基づいて行われるという普遍性を持つことである。この科目では、「編集」の概念や実際の作業を身につけることをテーマとする。

授業の概要:

自分たちで企画・編集し、1年をかけて、なんらかの紙媒体を作り上げる。

到達目標:

「編集」された情報の最終形式はさまざまであると述べたが、この科目では、実際に「紙媒体」を仕上げることを目標にする。何を作るかは、受講生の関心や学生を取り巻く社会状況などに鑑み、受講生と相談して決定する。原稿を書いたりデザインをしたりという作業は伴うものの、この科目での主目標はあくまで、何をテーマに、何を目的に、どのような情報をどう料理するか、という「編集」の中核を体験すること。また、編集には、永年「常識」とされてきた、いわゆるスタンダードが存在するが、それをきちんと理解・体得したうえで、いまの時代に適った編集像についても考えていきたい。さらに、後に述べるように、「ものをつくる共同作業」という社会体験の場としても捉えていただきたい。

授業方法:

当該授業までに行った作業に関する学習と評価、そして来週までにすることを協議・確認する場が各回の授業となる。（シラバスは一部変更の可能性がある）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	これから共同作業を体験する受講生同士が仲良くなること。自己紹介とフリートークなど。	
2.	講師による「編集論」講義。従来の編集の原則やスタンダードを知る。	
3.	何を作りたいかの企画議論を開始する。	自分の書きたいテーマについて考えておく。
4.	同上。	自分で興味のあるテーマについて下調べしてくる。
5.	同上。	チームと話し合った中で出てきたテーマについて、さらに下調べをする。
6.	企画の大枠決定。コンテンツの検討、役割分担など。	企画をどういう切り口で進めるのか、みんなの前で発表できるように準備をしてくる。
7.	役割分担に基づき、チームあるいは個々人が自分の担当部分について詳細なプランを仕上げていく。	自分の担当する事柄について、取材に必要な事柄を下調べする。
8.	同上。	
9.	コンテンツやページネーションの決定。同時にデザインの方向性について議論を開始する。	
10.	取材に当たっての準備やルール、心構えなどを理解。	
11.	紙面素材準備（取材など）開始。デザイン担当チームは、デザインのサンプルを集めたり作ったり。	取材で何を聞きたいのか、質問リストを作り上げておく。
12.	取材など、もろもろ進行。	取材をするための下準備を進めておく。
13.	同上。	取材後、原稿を書くための準備や画像の処理をしておく。
14.	同上。	記事をどんなふうにレイアウトするのかを、自分なりに考えてみる。
15.	いったん、ここまでのまとめ。到達点の確認と反省、編集技術Ⅱに向けての課題の洗い出しなど。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

第1回目の授業に出席しなかった学生は原則として受講を認めない。また、授業外での取り組みが必須ゆえ、授業時間だけでこの科目を履修しようという考えはもたないでほしい。また、数人の共同作業ゆえ、遅刻や欠席は厳禁。自分が損をするだけでなく、他人に迷惑をかける、つまり作業の進行に支障をきたすから。したがって、意欲の高い受講生以外には受講を勧めない。厳しいことを申し上げるが、最後まできっちり参加した暁の充実感や得られるものは多いと信じてほしい。また、編集技術Ⅰだけを受講しても単位は認定するが、制作物の完成は編集技術Ⅱを履修してようやく見届けることができるので、Ⅰだけの受講は勧めない。

フィードバックの方法:

メールなど。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および取り組みの姿勢	70%	試験は実施しない。ふだんの取り組みの姿勢と、担当部分の成果物の出来で評価するが、最後までちゃんと制作に参加した学生には単位は認定する。
制作物の出来栄え	30%	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

メール

243660

編集技術Ⅱ

江角　　悠子

授業テーマ:
編集技術Ⅰに同じ。

授業の概要:
編集技術Ⅰに同じ。

到達目標:
編集技術Ⅰに同じ。

授業方法:
編集技術Ⅰに同じ。
（シラバスは一部変更の可能性がある）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	編集技術Iの続きで、ここまでの到達点を確認し、冊子完成まですべきことやスケジュールなどをあらためて共有する。	取材で準備できた素材を、分かりやすくまとめておく。
2.	編集技術Iの終盤から夏休みにかけて準備してきた、デザイン作業にかかるための素材が揃っていることを確認。不足しているものはすぐに準備する。	どんなページに仕上げたいのか、自分なりのレイアウトを下書きしておく。
3.	準備が整ったページから順次、デザイン作業に。	原稿と画像、レイアウトを用意して、デザイン作業に取りかかれるように準備しておく。
4.	校ゲラが上がりはじめ、点検、取材先に校正確認、修正作業の指示、など。	各自、先方校正を進めておく。
5.	上記を、なんどか繰り返す。	
6.	同上。	間違いがないか、校正を繰り返す。
7.	同上。	修正があれば反映し、前回の修正がきちんと直っているかを確認する。
8.	同上。	
9.	同上。	
10.	再校ゲラがいっせいにアップされる。	最終チェックをしておく。
11.	最終確認。	
12.	印刷所へ入稿。	献本先をまとめておく。
13.	印刷プロセスを学ぶ。	
14.	完成、品評会。	
15.	活用の検討。	

受講者へのメッセージやアドバイス:
編集技術Ⅰに同じ。

フィードバックの方法:
編集技術Ⅰに同じ。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および取り組みの姿勢	70%	出席と取り組みの姿勢70%。試験は実施しない。普段の取り組みの姿勢と、担当部分の成果物の出来で評価するが、最後までちゃんと制作に参加した学生には単位は認定する。
制作物の出来栄え	30%	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
創造力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
メール

243861、62

日本文学の世界

朝比奈　英夫、高橋　幸平、吉海　直人、有松　遼一、宮本　明子

授業テーマ:　文学研究の醍醐味

授業の概要:　リレー講義で、各時代の代表的な作家・作品に触れていく。

到達目標:　日本文学を学ぶことの楽しさを味わう。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに／上代文学	なし
2.	上代文学	前回の指示に従うこと
3.	上代文学	前回の指示に従うこと
4.	中古文学	なし
5.	中古文学	前回の指示に従うこと
6.	中古文学	前回の指示に従うこと
7.	中世文学	なし
8.	中世文学	前回の指示に従うこと
9.	中世文学	前回の指示に従うこと
10.	近代文学	なし
11.	近代文学	前回の指示に従うこと
12.	近代文学	前回の指示に従うこと
13.	現代文学・文化	なし
14.	現代文学・文化	前回の指示に従うこと
15.	現代文学・文化	前回の指示に従うこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　学生の理解の程度に応じて進度・回数・順番を変更することがある。

フィードバックの方法:　教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	１００％	到達目標の日本文学を学ぶことの楽しさが理解出来ているかを評価する。ただし欠席・遅刻は減点の対象とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応する

243961、62

日本語教育概説

松本　　秀輔

授業テーマ:　日本語教育の現状及びその社会的役割について知り、日本語を教えるとはどのような行為であるかを知る。

授業の概要:　国内外における日本語教育の現状と課題について講義を行い、日本語教育がどのようなものであるかを概観する。また、日本語教育で扱う「日本語」の文法や語彙等について、教授ポイントやその扱い方などを概観する。さらに、講義・グループ活動等を通して初歩的な日本語教育文法及び指導法に触れ、指導のシミュレーション等を行うことで、日本語を教えるとはいかなる行為かを体験をもって理解する。

到達目標:
1. 日本語教育の現状及びその社会的役割を理解し、日本語教師に必要とされる視野・態度についての知識を身につける。
2. 日頃何気なく触れているであろう日本語について関心を深め、日本語を客観的に捉えられるようになる。
3. 日本語教育にまつわる諸課題について自ら考察し、教室内で表現し、クラスメート間で共有できるようになる。

授業方法:　主に講義形式で行うが、適宜グループ活動も取り入れる。受講者には、授業への積極的な参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	今日の日本語教育の課題　1	本時の学習内容の復習
2.	今日の日本語教育の課題　2	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
3.	今日の日本語教育の課題　3	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
4.	今日の日本語教育の課題　4	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
5.	今日の日本語教育の課題　5	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
6.	日本語を知る　1	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
7.	日本語を知る　2	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
8.	日本語を知る　3	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
9.	日本語を知る　4	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
10.	日本語を知る　5	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
11.	日本語教育の教材と指導法　1	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
12.	日本語教育の教材と指導法　2	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
13.	日本語教育の教材と指導法　3	前時の学習内容の振り返り、本時の学習内容の復習
14.	日本語教育の教材と指導法　4	これまでの学習内容の総復習
15.	まとめ	これまでの学習内容の総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ほぼ毎回提出の小レポートについて、原則として次週教室で返却し、まとめて解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート（毎回）	40	毎回の授業の理解度及び取り組みの深度により評価する。
期末試験	40	到達目標1及び2に関する理解度及び到達度により評価する。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標3が達成できたかを評価する。

教科書:　必要に応じ、プリントを配布する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメールを利用

244060

国語教育演習Ⅰ

野村　　倫子

授業テーマ:　教員採用試験に合格するための支援講座。

授業の概要:　教員採用試験に向けての受験対策

到達目標:　「教員になりたい」という強い意志をもって、採用試験の受験に取り組む。

授業方法:　講義・自己確認の小チェック・自己の振り返り

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	採用試験の概要解説	テキストの全国出題頻度シート（グリーンのページ）に目をとおしておく
2.	「教育原理①」と時事問題	当該箇所に目を通しておく
3.	「教区原理②」と教育現場	当該箇所に目を通しておく
4.	教育実習について（「国語」の試験対策）	自分の教育実習について確認
5.	「学習指導要領」	当該箇所に目を通しておく
6.	「教育史」	当該箇所に目を通しておく
7.	「教育心理①」	当該箇所に目を通しておく
8.	「教育心理②」と時事問題	当該箇所に目を通しておく
9.	「教育法規①」	当該箇所に目を通しておく
10.	「教育法規②」と時事問題	当該箇所に目を通しておく
11.	「教育法規③」と面接対策	当該箇所に目を通しておく
12.	「教育時事」	当該箇所に目を通しておく
13.	「国語」の筆記問題	事前に配布する資料に目を通す
14.	「「国語」の模擬授業	事前に配布する資料に目を通す
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　採用試験は筆記試験のほかに、面接や模擬授業など自治体によってまちまちです。筆記試験だけでなく全体を見渡して、手堅く学習してください。

フィードバックの方法:　コメントペーパーについては教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	必要な知識が身についたか。
一言コメント	20	つねに問題意識をもってとりくんでいるか。

教科書:　『'19年度教員採用試験　教職教養の要点理解』（参考書「赤の教職」）　時事通信社

参考書:　『'19年度教員採用試験　教職教養の演習問題』（問題集「青の教職」）　時事通信社
特に出版社は定めないが『一般教養』、『中学・高校の国語』の過去問題集の2種も必携

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

244160

国語教育演習Ⅱ

野村　　倫子

授業テーマ:　教員採用試験に合格するための支援講座。

授業の概要:　教員採用試験に向けた「国語」受験対策

到達目標:　「教員になりたい」という強い意志をもって、採用試験の受験に取り組む。

授業方法:　講義・自己確認の小チェック・自己の振り返り

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	採用試験「国語」の概要解説	テキストの使い方に目をとおしておく
2.	現代文・評論1	当該箇所に目を通しておく
3.	現代文・評論2	当該箇所に目を通しておく
4.	現代文・評論3	当該箇所に目を通しておく
5.	現代文・文法	当該箇所に目を通しておく
6.	現代文・小説1	当該箇所に目を通しておく
7.	現代文・小説2	当該箇所に目を通しておく
8.	現代文・韻文	当該箇所に目を通しておく
9.	現代文・漢字と言葉	当該箇所に目を通しておく
10.	古文1	当該箇所に目を通しておく
11.	古文2	当該箇所に目を通しておく
12.	古文3	当該箇所に目を通しておく
13.	漢文1	当該箇所に目を通しておく
14.	漢文2	当該箇所に目を通しておく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　採用試験は筆記試験のほかに、面接や模擬授業など自治体によってまちまちです。筆記試験だけでなく採用試験の全体を見渡して、手堅く学習してください。

フィードバックの方法:　コメントペーパーについては教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	必要な知識が身についたか。
一言コメント	20	つねに問題意識をもってとりくんでいるか。

教科書:　『'20年度教員採用試験　中高国語の完全攻略』 時事通信社 （2019年9月刊行予定）

参考書:　荻野文子 編著『新修古典文法』 京都書房
（特に指定はしないが自分が受験する予定の）自治体別に編集された『国語』の過去問題集

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

244560

日本語読解ＩＡ

奥村　　訓代

授業テーマ:
しんぶん　よ　　にほんご・にほんじじょう　かん　まな
新聞を　読みながら、日本語・日本事情に　関して学ぶ

授業の概要:
まいかい　あたら　きょうみぶかい　わだい　えら　よ　すす
毎回　新しいく　興味深い　話題を　選んで　読み　進む
れい　しんぶん　ことばあそび
例:　新聞、　言葉遊び・クイズなど

到達目標:
こ　しんぶん　いっぱんし　よ　よう
「子ども新聞」から　「一般紙」が　読める様になる

授業方法:
講義（こうぎ）と演習（えんしゅう）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	この1週間で、興味（きょうみ）のあった話題（わだい）について語（かた）る。
2.	ほんじつ　わだいていきょう 本日の　話題提供（1）	同上（どうじょう） また、その話題（わだい）に興味（きょうみ）を持（も）った理由（りゆう）について50字程度（ていど）を付記（ふき）する
3.	本日の話題提供（1）	同上
4.	本日の話題提供（1）	同上
5.	本日の話題提供（1）	同上
6.	本日の話題提供（1）	同上
7.	本日の話題提供（1）	同上
8.	本日の話題提供（1）	同上
9.	本日の話題提供（1）	同上
10.	本日の話題提供（1）	同上
11.	本日の話題提供（1）	同上
12.	本日の話題提供（1）	同上
13.	本日の話題提供（1）	同上
14.	本日の話題提供（1）	同上
15.	まとめ	半年間（はんとしかん）の一番印象的（いちばんいんしょうてき）だった記事（きじ）に関（かん）してまとめてくる

受講者へのメッセージやアドバイス:
まいしゅう　いっしゅうかん　できごと　わだい　かん　はっぴょう
毎週テレビやニュース、あるいは1週間の　出来事や話題に　関して発表があります。
きょうみ　も　つた　おも　りゆう　もじ　ぶんしょう
また、興味を持った（伝えたいと思った）理由を文字や文章にしようと思います。
ぶんしょう　よ　よ　ひょうげん　つか　がんばり
文章をたくさん読んで、良い表現をたくさん使ってみましょう。 頑張りましょう！

フィードバックの方法:
ていしゅつぶつ
クイズや提出物で、おこないます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物	30%	毎回（まいかい）2点満点（まんてん）で評価（ひょうか）
テスト	50%	基本的（きほんてき）なテスト
その他	20%	授業貢献度（じゅぎょうこうけんど）・態度等（たいどとう）

教科書:
新聞（しんぶん）・ネット記事（きじ）、言葉（ことば）遊（あそ）び
未定（みてい）

参考書:
きじ　かくしゅ　しんぶんきじ　とう
ネット記事と各種　新聞記事　等

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
マナビー使用予定

244660

日本語読解ＩＢ

奥村　　訓代

授業テーマ:
しんぶんきじ　とう　　にほんご・にほんじじょう　まな
新聞記事　　等から日本語・日本事情を　　学ぶ

授業の概要:
かんたん　ものがたり　しんぶん　　りよう　どっかいりょく　たか
簡単な　　物語や　　新聞などを利用し、読解力を　　高める

到達目標:
きょうと　しんぶん　じゆう　よ
京都新聞などが、 自由に読めるようになる

授業方法:
こうぎ　えんしゅう
講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション きょうかしょ　すす　かた　ひょうかほう 教科書の　　進め方や　　評価法について	さいきん　き　　jはっぴょう 最近　　気になったニュースを発表する
2.	かくじ　き　　い　　ないよう　よ テキストより各自が　気に入った内容を　読んで、 せつめい 説明する	す　　いじょう　よ 好きなところを2つ以上　　読んでくる
3.	どうじょう 同上	どうじょう 同上
4.	同上	同上
5.	同上	同上
6.	同上	同上
7.	同上	同上
8.	同上	同上
9.	同上	同上
10.	同上	同上
11.	同上	同上
12.	同上	同上
13.	同上	同上
14.	同上	同上
15.	まとめ	こんがっき　なか　いちばん　いんしょうてき 今学期の　中で　一番　　印象的な ないよう　　かた　あ 内容について　語り　合う

受講者へのメッセージやアドバイス:
まいかい　どくしょ　かだい　　りゅうがく　　がんば
毎回　　読書　　課題がありますが、せっかく留学したのだから　頑張りましょう。(加油、加油！)

フィードバックの方法:
おこな
クイズを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題達成度(かだいたっせいど)	30%	毎回(まいかい)2点満点(まんてん)とする
テスト	50%	ひょうじゅんてき　りかいりょく 標準的な　　理解力を　チェックする
その他	20%	じゅぎょう　こうけんど　いよくど 授業　　貢献度・　意欲度　など

教科書:
ことば　じんせい　　だいそうしゅっぱん
『いい言葉は人生をかえる』　大創出版　　2016年

参考書:
め　ふ　みみ　き
目に触れ、耳に　聞こえるものすべて

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
マナビー利用予定

244760

日本語会話ＩＡ

中川　　裕子

授業テーマ:　中級後半から上級段階の会話能力

授業の概要:　身近な話題・社会一般の話題について、わかりやすく話せること、また状況に応じた適切な会話ができることをめざす。そのため、クラスでは、各テーマに沿って表現や構成を理解し、基本的な運用練習を行う。次回には各自が発表を行う。発表後には、表現や構成及び音声面でのフィードバックを行う。学期末には、各自の興味に基づくテーマで、10分間程度の口頭発表を行い、プレゼンテーション能力の向上をめざす。

到達目標:
①身近な話題・社会一般の話題について、中上級レベルの表現を用いてわかりやすく話せること。
②状況に応じた適切な表現を用いて、会話ができること。
③各自の興味に基づくテーマで10分程度の口頭発表ができること。

授業方法:　演習形式。必要に応じて視聴覚教材を使用する。毎回、学習内容の口頭発表を課す。学期末には、各自の興味に基づくテーマによる10分程度の口頭発表を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要説明。場面に応じた自己紹介をする。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
2.	国や町を詳しく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
3.	動作の順序や規則をわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
4.	二つのものを比較し相違点を分かりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
5.	好きな映画や小説などのストーリーをわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
6.	自国の文化や行事などをわかりやすく紹介する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
7.	敬語を使いこなす。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
8.	悩みを相談する・アドバイスする	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
9.	気持ちをわかりやすく伝える。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
10.	原因や理由をわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
11.	賛成意見・反対意見を述べる。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
12.	グラフや表をわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
13.	社会の問題をわかりやすく説明する。	宿題（語彙、表現、作文を含む）に取り組む。次回の口頭発表の準備をする。
14.	各自の興味に基づくテーマで口頭発表をする。	学習内容の総復習をする。
15.	まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　学習した表現などを授業内だけではなく、授業外でも積極的に使うように心がけること。

フィードバックの方法:　毎回の宿題は、添削し教室で返却する。提出課題は、添削しコメントをつけて教室で返却する。発表に関しては、授業内でコメントし、さらにコメントシートに詳細を記入し配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への積極的参加	20%	出席及び授業への積極的な参加度により評価する。
毎回の宿題	20%	到達目標①②に必要な表現の理解度及び原稿の仕上がり度により評価する。
提出課題	10%	到達目標③の口頭発表に必要な原稿の仕上がり度により評価する。
発表	30%	到達目標①②③の達成度により評価する。
定期試験	20%	到達目標①②③に必要な表現などの理解度により評価する。

教科書:　なし

参考書:　授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

244860

日本語会話ＩＢ

中川　　裕子

授業テーマ:　中級後半から上級段階の会話能力

授業の概要:　身近な話題・社会一般の話題について、わかりやすく話せること、状況に応じた適切な会話ができることをめざす。そのため、クラスでは各テーマに沿って、表現や構成を理解し、基本的な運用練習を行う。次回には、各自が発表を行う。発表後には、表現や構成及び音声面でのフィードバックを行う。学期末には、各自の興味に基づくテーマで10分間程度の口頭発表を行い、プレゼンテーション能力の向上をめざす。

到達目標:
①身近な話題・社会一般の話題について、わかりやすく話せること。
②状況に応じた適切な表現を用いて、会話ができること。
③各自の興味に基づくテーマで10分程度の口頭発表ができること。

授業方法:　演習形式。必要に応じて視聴覚教材を使用する。毎回、学習内容の口頭発表を行う。学期末には、各自の興味に基づくテーマによる10分程度の口頭発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要説明。場面に応じた自己紹介をする。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
2.	国や町を紹介する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
3.	動作の順序や規則を説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする
4.	二つのものを比較して説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
5.	映画・小説などのストーリーを説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
6.	自国の文化や行事などを紹介する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
7.	敬語を使いこなす。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
8.	相談する・アドバイスする。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
9.	気持ちを伝える。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
10.	理由を説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
11.	賛成意見・反対意見を述べる。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
12.	グラフや表を説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組み、次回の発表の準備をする。
13.	社会の問題をわかりやすく説明する。	宿題(語彙、表現、作文を含む)に取り組む。次回の発表の準備をする。
14.	各自の興味に基づくテーマで口頭発表をする。	学習内容の総復習をする。
15.	まとめ	学習内容全般を振り返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　学習した内容を授業内だけではなく、授業外でも積極的に使用すること。

フィードバックの方法:　毎回の宿題は、添削し教室で返却する。提出課題は、添削しコメントをつけて教室で返却する。発表に関しては、授業内で口頭でコメントし、さらにコメントシートに詳細を記入し配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への積極的参加	20%	出席及び授業への積極的な参加度により評価する。
毎回の宿題	20%	到達目標①②に必要な表現の理解度及び原稿の仕上がり度により評価する。
提出課題	10%	到達目標③の口頭発表に必要な原稿の仕上がり度により評価する。
発表	30%	到達目標①②③の達成度により評価する。
試験	20%	到達目標①②③に必要な表現などの理解度により評価する。

教科書:　なし

参考書:　授業で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

244960

日本語作文ＩＡ

玉尾　　文代

授業テーマ:　中級後半から上級段階にかけての作文能力

授業の概要:　様々なテーマや形態の作文の書き方のポイントを押さえ、既習文型や語彙を駆使し、ある一定の量の作文を書く。添削した課題（作文）の間違いを再度考え、直す。その直した課題を全体やグループ間で発表する。発表を通し、互いの作文内容を知り、互いにコメントをする。教師と学生、学生と学生の対話を通し、自身への振り返りとする。

到達目標:
①様々なテーマや形態の作文に慣れること
②既習文型を駆使した作文構成能力を身につけること

授業方法:　20分程度で課題として出された作文のフィードバック、間違いを訂正する。15分程度で全体またはグループで発表をし、コメントをする。作文を書く上でのポイントを全体で確認する。残りの5分間で書き始める。この書き始めた作文が次回までの課題となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、 書き言葉の文体・語句表現	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
2.	物事を説明するときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
3.	物事を説明するときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
4.	図やグラフを説明するときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
5.	図やグラフを説明するときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
6.	順番を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
7.	例や理由を提示し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
8.	問題点を明らかにし、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
9.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
10.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
11.	要約の書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
12.	要約の書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
13.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
14.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
15.	レポート・論文の書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったかを評価する。
発表	20%	授業内で扱った作文及び毎回の授業で提出した課題から到達目標②を評価する。
課題	30%	到達目標②を評価する。
レポート	20%	到達目標①と②を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメール（ftamao@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で応対

245060

日本語作文ＩＢ

玉尾　　文代

授業テーマ:　中級後半から上級段階にかけての作文能力

授業の概要:　様々なテーマや形態の作文の書き方のポイントを押さえ、既習文型や語彙を駆使し、ある一定の量の作文を書く。添削した課題（作文）の間違いを再度考え、直す。その直した課題を全体やグループ間で発表する。発表を通し、互いの作文内容を知り、互いにコメントをする。教師と学生、学生と学生の対話を通し、自身への振り返りとする。

到達目標:
①様々なテーマや形態の作文に慣れること
②既習文型を駆使した作文構成能力を身につけること

授業方法:　20分程度で課題として出された作文のフィードバック、間違いを訂正する。15分程度で全体またはグループで発表をし、コメントをする。作文を書く上でのポイントを全体で確認する。残りの5分間で書き始める。この書き始めた作文が次回までの課題となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、 書き言葉の文体・語句表現	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
2.	物事を説明するときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
3.	物事を説明するときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
4.	図やグラフを説明するときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
5.	図やグラフを説明するときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
6.	順番を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
7.	例や理由を提示し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
8.	問題点を明らかにし、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
9.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
10.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
11.	要約の書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
12.	要約の書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
13.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
14.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）
15.	レポート・論文の書き方	レジュメをよく読むこと。各回で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。 （マナビ―での課題提出）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったかを評価する。
発表	20%	授業内で扱った作文及び毎回の授業で提出した課題から到達目標②を評価する。
課題	30%	到達目標②を評価する。
レポート	20%	到達目標①と②を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメール（ftamao@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で応対

245160

日本語聴解ＩＡ

野村　　登美子

授業テーマ:　中級後半から上級段階の聴解力

授業の概要:　依頼・文句・提案・感想などを言う場面の自然な速さの会話、3～5分程度の色々な話題の説明文、日本文化や外国の観光地紹介など、多種のCDやDVDを視聴することによって、聴解力を高める。視聴した後、質問に答えたり、要約することで、内容の理解を深める。事前に配布する語彙表の予習と授業内での意味確認によって理解語彙を増やす。

到達目標:　中上級段階の語彙力を増やす。
多様な話題について視聴した後、質疑応答や要約をすることによって内容を把握し、中級後半から上級の聴解力を身に付ける。

授業方法:　講義・演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 中級程度の説明文の聴解 日本昔話①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 日本昔話のあらすじを書く
2.	テレビ番組の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
3.	中上級程度の説明文の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
4.	会話の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
5.	説明文聴解② 日本昔話②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
6.	テレビの録画の視聴②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
7.	会話の聴解②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
8.	説明文聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
9.	テレビの録画の視聴③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
10.	会話の聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
11.	説明文の聴解④ 日本昔話③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
12.	テレビの録画の視聴④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
13.	会話の聴解④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
14.	会話文の聴解小テスト テレビの視聴⑤	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
15.	説明文の聴解⑤	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:　学習者のレベルを確認し、適切な教材を使用し、楽しめる聴解授業を目指す。
使用教材のリクエストの受付可能。

フィードバックの方法:　辞書を見てもわかりにくい語彙は、文の中で理解できるよう説明する。
使用のCDやDVDで理解が不十分な場合は、何度でも聴き、解説し納得できるまで繰り返す。
要約やあらすじの提出物は、添削して次回教室で返却し、説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	課題の準備を含み、授業中の質疑応答で評価する
提出物	40	聴解内容のクイズ、要約、あらすじの提出度で評価する
小テスト	20	会話の要点の聴解テストで習熟度を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　大学のメール:tnomura@dwc.doshisha.ac.jp

245260

日本語聴解ＩＢ

野村　　登美子

授業テーマ:　中級後半から上級段階の聴解力

授業の概要:　伝言・勧誘・許可・情報などを言う場面の自然な速さの会話、3～5分程度の色々な話題の説明文、日本文化や外国の観光地紹介など、多種のCDやDVDを視聴することによって、聴解力を高める。視聴した後、質問に答えたり、要約することで、内容の理解を深める。事前に配布する語彙表の予習と授業内での意味確認によって理解語彙を増やす。

到達目標:　中上級段階の語彙力を増やす。
多様な話題について視聴した後、質疑応答や要約をすることによって内容を把握し、中級後半から上級の聴解力を身に付ける。

授業方法:　講義・演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 中級程度の説明文の聴解 日本昔話①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 日本昔話のあらすじを書く
2.	テレビ番組の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
3.	中上級程度の説明文の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
4.	会話の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
5.	説明文聴解② 日本昔話②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
6.	テレビの録画の視聴②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
7.	会話の聴解②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
8.	説明文聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
9.	テレビの録画の視聴③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
10.	会話の聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
11.	説明文の聴解④ 日本昔話③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
12.	テレビの録画の視聴④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
13.	会話の聴解④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
14.	会話文の聴解小テスト テレビの視聴⑤	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
15.	説明文の聴解⑤	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:　学習者のレベルを確認し、適切な教材を使用し、楽しめる聴解授業を目指す。
使用教材のリクエストの受付可能。

フィードバックの方法:　辞書を見てもわかりにくい語彙は、文の中で理解できるよう説明する。
使用のCDやDVDで理解が不十分な場合は、何度でも聴き、解説し納得できるまで繰り返す。
要約やあらすじの提出物は、添削して次回教室で返却し、説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	課題の準備を含み、授業中の質疑応答で評価する
提出物	40	聴解内容のクイズ、要約、あらすじの提出度で評価する
小テスト	20	会話の要点の聴解テストで習熟度を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　大学のメール:tnomura@dwc.doshisha.ac.jp

245360

日本語読解ⅡＡ

奥村　　訓代

授業テーマ:　4技能の充実

授業の概要:　日常生活の必需表現（慣用句、熟語、ことわざ）を使用し、日本語と日本文化に親しむ
色々な文章を読み、考え方を豊かにする

到達目標:　ことわざ、4字熟語、日本漢字の習得、言葉遊びができる
文章を滑らかに読み、理解できる。

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション テキストの使い方背説明 評価法について等	各自の好きな格言・ことわざを持ち寄る
2.	●教材（ことわざ・格言、4字熟語）から毎回適する個数を学んでいく ●テキスト1日、2課題読み進める	前回授業の「確認テスト」の為の復習
3.	同上	同上
4.	同上	同上
5.	同上	同上
6.	同上	同上
7.	同上	同上
8.	同上	同上
9.	同上	同上
10.	同上	同上
11.	同上	同上
12.	同上	同上
13.	同上	同上
14.	同上	同上
15.	まとめ	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回復習確認小テストがあります。
たくさん勉強して、留学効果を残しましょう！

フィードバックの方法:　毎回の復習・確認テストで行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
確認テスト	30	毎回2点満点とする
テスト	50	学習範囲から
その他	20	授業態度・貢献度など

教科書:　『人間関係を楽にするコツ』 大創出版　2017年

参考書:　ネット、辞書等

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　マナビ－利用予定

245460

日本語読解ⅡＢ

奥村　　訓代

授業テーマ:　日本語表現力を豊かにする

授業の概要:　身近な格言・ことわざ、4字熟語等を加味し、表現力と内容を深める。
テキストを多読することにより、読解力と推察力を養う。

到達目標:　ちょっと気の利いた表現が使えるようになる。

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション テキストの使用法の説明 評価法の説明	自分の好きな言葉と理由を紹介する。
2.	適量の格言・ことわざ・4字熟語等を学ぶ。 テキストを読み進める。	前回内容の復習
3.	同上	同上
4.	同上	同上
5.	同上	同上
6.	同上	同上
7.	同上	同上
8.	同上	同上
9.	同上	同上
10.	同上	同上
11.	同上	同上
12.	同上	同上
13.	同上	同上
14.	同上	同上
15.	まとめ	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、前回の復習・確認小クイズを行います。
楽しみながら語彙や用言を増やしていきましょう！

フィードバックの方法:　毎回の確認テストで行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
確認テスト	30%	毎回2点とする
テスト	50%	定着度を計る
その他	20%	授業貢献度・態度など

教科書:　『男のホンネ　女のホンネ』 大創出版　2016年

参考書:　ネット、新聞、書籍等

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビー利用予定

245560

日本語会話ⅡＡ

丸山　　敬介

授業テーマ:　日本語教育上級段階の会話能力

授業の概要:　各自、今日の日本社会の動きあるいは世界の時事的なことがらをまとめ、その内容・そこに至った背景などを発表する。

到達目標:
①日本国内のあるいは海外の時事的な話題について基本的な知識・情報を得ること
②①の話題について、プレゼンテーションしディスカッションできる技術を習得すること

授業方法:
あらかじめ教師が録画した30分程度の時事番組の中から一人一つずつ選び、その内容をパワーポイントを使ってプレゼンテーションする。プレゼンテーションの後は、質疑応答・ディスカッションをして内容理解を深める。
今学期中には、教師のデモンストレーションを含め五つの番組を予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 教師によるデモンストレーション　1-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
2.	教師によるデモンストレーション　1-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
3.	教師によるデモンストレーション　1-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
4.	プレゼンテーション　2-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
5.	プレゼンテーション　2-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
6.	プレゼンテーション　2-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
7.	プレゼンテーション　3-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
8.	プレゼンテーション　3-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
9.	プレゼンテーション　3-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
10.	プレゼンテーション　4-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
11.	プレゼンテーション　4-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
12.	プレゼンテーション　4-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
13.	プレゼンテーション　5-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
14.	プレゼンテーション　5-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
15.	プレゼンテーション　5-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中並びに授業前後に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	50%	他の学生のプレゼンテーションに対してどのような質疑応答を行ったかを通して、①を評価する。
発表	30%	プレゼンテーションの内容と仕方を、②の観点から評価する。
小テスト	20%	各々の学生のプレゼンテーションの後に、教師が内容理解と日本語の小テストをし、①の観点から評価する。

教科書:　なし。

参考書:　なし。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
以下のアドレスを使用すること。
kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

245660

日本語会話ⅡＢ

丸山　　敬介

授業テーマ:　日本語教育上級段階の会話能力

授業の概要:　各自、今日の日本社会の動きあるいは世界の時事的なことがらをまとめ、その内容・そこに至った背景などを発表する。

到達目標:
①日本国内のあるいは海外の時事的な話題について基本的な知識・情報を得ること
②①の話題について、プレゼンテーションしディスカッションできる技術を習得すること

授業方法:
あらかじめ教師が録画した30分程度の時事番組の中から一人一つずつ選び、その内容をパワーポイントを使ってプレゼンテーションする。プレゼンテーションの後は、質疑応答・ディスカッションをして内容理解を深める。
今学期中には、教師のデモンストレーションを含め五つの番組を予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 教師によるデモンストレーション　2-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
2.	教師によるデモンストレーション　2-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
3.	教師によるデモンストレーション　2-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
4.	プレゼンテーション　6-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
5.	プレゼンテーション　6-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
6.	プレゼンテーション　6-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
7.	プレゼンテーション　7-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
8.	プレゼンテーション　7-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
9.	プレゼンテーション　7-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
10.	プレゼンテーション　8-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
11.	プレゼンテーション　8-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
12.	プレゼンテーション　8-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。プレゼンテーションが当たっている場合には、準備をする。
13.	プレゼンテーション　9-1	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
14.	プレゼンテーション　9-2	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。
15.	プレゼンテーション　9-3	レジメを読んでおく。語彙リストの語彙を調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中並びに授業前後に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	50%	他の学生のプレゼンテーションに対してどのような質疑応答を行ったかを通して、①を評価する。
発表	30%	プレゼンテーションの内容と仕方を、②の観点から評価する。
小テスト	20%	各々の学生のプレゼンテーションの後に、教師が内容理解と日本語の小テストをし、①の観点から評価する。

教科書:　なし。

参考書:　なし。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
以下のアドレスを使用すること。
kmaruyam@dwc.doshisha.ac.jp

245760

日本語作文ⅡＡ

玉尾　　章代

授業テーマ:　上級段階の作文能力

授業の概要:　様々なテーマや形態の作文を扱い、表現及び構成方法を学び、ある一定量の正しい文を書く。フィードバックを行い、どこが間違っているのかを全体で確認していく。その作文を授業内で発表し、クラス全体でコメントを出し合い、更なる発展を目指す。

到達目標:　①様々なテーマや形態の作文に慣れる。
②既習文型を駆使した作文構成能力を身につけることを目指す。

授業方法:　20分程度で課題として出された作文のフィードバック、間違いを訂正する。15分程度で全体またはグループで発表をし、コメントをする。作文を書く上でのポイントを全体で確認する。残りの5分間で書き始める。この書き始めた作文が次回までの課題となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、要約の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
2.	物事を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
3.	順番を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
4.	図やグラフを説明するときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
5.	図やグラフを説明するときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
6.	例や理由を提示し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
7.	問題点を明らかにし、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
8.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
9.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
10.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
11.	スピーチ原稿の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
12.	レポート・論文の書き方①	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
13.	レポート・論文の書き方②	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
14.	ビジネスメールの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
15.	報告書の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったかを評価する。
発表	20%	授業内で扱った作文及び毎回の授業で提出した課題から到達目標②を評価する。
課題	30%	到達目標②を評価する。
レポート課題	20%	到達目標①と②を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメール（atamao@dwc.doshisha.ac.jp）・授業の前後に教室内で応対

245860

日本語作文ⅡＢ

玉尾　　章代

授業テーマ:　上級段階の作文能力

授業の概要:　様々なテーマや形態の作文を扱い、表現及び構成方法を学び、ある一定量の正しい文を書く。フィードバックを行い、どこが間違っているのかを全体で確認していく。その作文を授業内で発表し、クラス全体でコメントを出し合い、更なる発展を目指す。

到達目標:　①様々なテーマや形態の作文に慣れる。
②既習文型を駆使した作文構成能力を身につけることを目指す。

授業方法:　20分程度で課題として出された作文のフィードバック、間違いを訂正する。15分程度で全体またはグループで発表をし、コメントをする。作文を書く上でのポイントを全体で確認する。残りの5分間で書き始める。この書き始めた作文が次回までの課題となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、要約の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
2.	物事を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
3.	順番を説明するときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
4.	図やグラフを説明するときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
5.	図やグラフを説明するときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
6.	例や理由を提示し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
7.	問題点を明らかにし、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
8.	賛成・反対を表明し、自分の意見を伝えるときの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
9.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方①	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
10.	時事問題を取り上げ、自分の意見を伝えるときの書き方②	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
11.	スピーチ原稿の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
12.	レポート・論文の書き方①	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
13.	レポート・論文の書き方②	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
14.	ビジネスメールの書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）
15.	報告書の書き方	レジュメをよく読むこと。各回の授業で学んだスキルを使い、ある一定量の作文を書き上げることなどが求められる。（マナビ―の課題提出）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントをつけ、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	30%	積極的に授業に参加し、到達目標①ができるようになったかを評価する。
発表	20%	授業内で扱った作文及び毎回の授業で提出した課題から到達目標②を評価する。
課題	30%	到達目標②を評価する。
レポート課題	20%	到達目標①と②を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメール（atamao@dwc.doshisha.ac.jp）・授業の前後に教室内で応対

245960

日本語聴解ⅡＡ

野村　　登美子

授業テーマ:　上級段階の聴解力

授業の概要:　様々な話題の5～7分程度の説明文、依頼・文句・提案・感想などを言う場面の自然な速さの会話、世界遺産の紹介、日本文化や外国の観光地紹介など、多種のCDやDVDを視聴することによって、聴解力を高める。視聴した後、質問に答えたり、要約することで、内容の理解を深める。事前に配布する語彙表の予習と授業内での意味確認によって理解語彙を増やす。

到達目標:　上級段階の語彙を増やす。
多様な話題について視聴した後、質疑応答や要約をすることによって内容を把握し、上級の聴解力を身に付ける。

授業方法:　講義・演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 中上級程度の説明文の聴解	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
2.	テレビ番組の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
3.	上級程度の説明文の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
4.	会話の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
5.	説明文聴解② 世界遺産の視聴	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
6.	テレビの録画の視聴②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
7.	会話の聴解②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
8.	説明文聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
9.	テレビの録画の視聴③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる あらすじを書く
10.	会話の聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
11.	説明文の聴解④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
12.	テレビの録画の視聴④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
13.	会話の聴解④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
14.	会話文の聴解小テスト テレビの視聴⑤	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
15.	説明文の聴解⑤	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:　学習者のレベルを確認し、適切な教材を使用し、楽しめる聴解授業を目指す。
使用教材のリクエストの受付可能。

フィードバックの方法:　辞書を見てもわかりにくい語彙は、文の中で理解できるよう説明する。
使用のCDやDVDで理解が不十分な場合は、何度でも聴き、解説し納得できるまで繰り返す。
要約やあらすじの提出物は、添削して次回教室で返却し、説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	課題の準備を含み、授業中の質疑応答で評価する
提出物	40	聴解内容のクイズ、要約、あらすじの提出度で評価する
小テスト	20	会話の要点の聴解テストで習熟度を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　大学のメール:tnomura@dwc.doshisha.ac.jp

246060

日本語聴解ⅡＢ

野村　　登美子

授業テーマ:　上級段階の聴解力

授業の概要:　様々な話題の5～7分程度の説明文、伝言・勧誘・許可・情報などを言う場面の自然な速さの会話、世界遺産の紹介、日本文化や外国の観光地紹介など、多種のCDやDVDを視聴することによって、聴解力を高める。視聴した後、質問に答えたり、要約することで、内容の理解を深める。事前に配布する語彙表の予習と授業内での意味確認によって理解語彙を増やす。

到達目標:　上級段階の語彙を増やす。
多様な話題について視聴した後、質疑応答や要約をすることによって内容を把握し、上級の聴解力を身に付ける。

授業方法:　講義・演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 中上級程度の説明文の聴解	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
2.	テレビ番組の視聴①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
3.	上級程度の説明文の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
4.	会話の聴解①	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
5.	説明文聴解② 世界遺産の視聴	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
6.	テレビの録画の視聴②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
7.	会話の聴解②	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
8.	説明文聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
9.	テレビの録画の視聴③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる あらすじを書く
10.	会話の聴解③	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
11.	説明文の聴解④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる 要約を書く
12.	テレビの録画の視聴④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
13.	会話の聴解④	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
14.	会話文の聴解小テスト テレビの視聴⑤	次回の使用教材の語彙の意味を調べる
15.	説明文の聴解⑤	なし

受講者へのメッセージやアドバイス:　学習者のレベルを確認し、適切な教材を使用し、楽しめる聴解授業を目指す。
使用教材のリクエストの受付可能。

フィードバックの方法:　辞書を見てもわかりにくい語彙は、文の中で理解できるよう説明する。
使用のCDやDVDで理解が不十分な場合は、何度でも聴き、解説し納得できるまで繰り返す。
要約やあらすじの提出物は、添削して次回教室で返却し、説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	課題の準備を含み、授業中の質疑応答で評価する
提出物	40	聴解内容のクイズ、要約、あらすじの提出度で評価する
小テスト	20	会話の要点の聴解テストで習熟度を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　大学のメール:tnomura@dwc.doshisha.ac.jp

246161、62

身体表現

石本　　興司

授業テーマ:

授業の概要:

本講は「演劇」や「演技」について直接学ぶ授業ではない。演劇や演技を「通して」、自分自身、他者とのやりとり、表現、協働などについて学ぶ授業である。

時には裸足で動きまわり、時には輪になって語り合うことをする。内容の多くはあそびであり、試みである。解くべき問題は用意されていない。様々な活動を通じて各々が問題を立て、探求を続けていく。新しい能力を開発することよりも、今の自分を認識し、すでに備わっている力をいかに活用するかが重要となる。

到達目標:

・芸術的な表現を鑑賞することができ、興味に従って、自らも創り出すことができる。(カリキュラムマップより)

・自分のからだと動きについて、より明瞭に、より詳細に認識できる。
・他者とのやりとりを通して、表現における自分の欲求と力に気づき、それらを育むことができる。
・作品創作や試演を通して、他者と協働できる。
・授業内の体験から知を結ぶことができる。

授業方法:

集中講義(連続3日間を予定)。少人数による体験学習形式。
演劇の演技者のためのレッスンを主な方法として、演習(エクササイズ、ゲームあそび等)と、体験の言語化(ふりかえり、ジャーナル)を積み重ねる。また、他者と協働して作品を創作し、試演(教室内発表)を体験する。

服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)、裸足(ストッキング不可)。
持参物はメモ用筆記具、飲料、汗拭き用タオル、(汗をかいた場合の)着替え。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自分のからだを観る、聴く、語る	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
2.	他者とのやりとり1 (ヴァーバル・コミュニケーション)	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
3.	他者とのやりとり2 (ノンヴァーバル・コミュニケーション)	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
4.	他者とのやりとり3 (スキン・コンタクト)	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
5.	他者とのやりとり4 (ブラインド・ウォーク)	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
6.	他者とのやりとり5 (能動と受動)	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
7.	即興により造形する1	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
8.	即興により造形する2	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
9.	日常にドラマをみつける	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
10.	劇の創作と試演1	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
11.	劇の創作と試演2	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
12.	劇の創作と試演3 (詩をあそぶ)	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
13.	劇の創作と試演4 (詩を演じる)	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
14.	試演を鑑賞する	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
15.	体験をことばにする(ふりかえり、ジャーナル) / 体験から知を結ぶ	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポート(ジャーナル)は、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	課題に対して主体的、積極的に取り組んでいるかを基準とする。
レポート	50	授業での体験を通して、問題や課題を見い出せているかと、独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対。

246260

演劇と演技Ⅰ

石本　　興司

授業テーマ:

授業の概要:

本講は「演劇」と「演技」についての授業であり、体験学習の形式をとる。
先に、あるいは同年度に春学期集中科目「身体表現」を履修するのがよい。

「演技」とは自分が自分を使うことについての技術であり、演劇においては、虚構の時空で「役」となって状況を生き、相手とやりとりするための技術のことである。 本講では、そのような「演技」について、ゲーム、あそび、エクササイズなどを通じて、体験的に学習していく。

到達目標:

・芸術的な表現を鑑賞することができ、興味に従って、自らも創り出すことができる。(カリキュラムマップより)

・自分のからだと動きについて、より明瞭に、より詳細に認識できる。
・他者とのやりとりを通して、表現における自分の欲求と力に気づき、それらを育むことができる。
・作品創作や試演を通して、他者と協働できる。
・授業内の体験から知を結ぶことができる。

授業方法:

少人数による体験学習形式。
演習(演技者のためのレッスン)と体験の言語化(ふりかえり)を積み重ねる。また、他者と協働して作品やシーンを創作し、試演(教室内発表)を体験する。

服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)。指示により、すぐに裸足になれること(ストッキング不可)。
持参物はメモ用筆記具、飲料、汗拭き用タオル、(汗をかいた場合の)着替え。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
2.	ステイタス	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
3.	スピード1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
4.	スピード2	予習として、「スロー×ポーズ」の練習。
5.	積極的受動1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
6.	積極的受動2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
7.	能動と受動1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
8.	能動と受動2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
9.	能動と受動3	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
10.	詩を演じる1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
11.	詩を演じる2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
12.	詩を演じる3	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
13.	詩を演じる4	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
14.	詩を演じる5	予習として、「ふりかえりシート」の作成。
15.	ふりかえり	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポート等は、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	出席に加え、課題に対して主体的、積極的に取り組んでいるかを基準とする。
レポート	50	授業での体験を通して、問題や課題を見い出せているかと、独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対。

246360

演劇と演技Ⅱ

石本　　興司

授業テーマ:

授業の概要:

本講は「演劇」と「演技」についての授業であり、体験学習の形式をとる。
「演劇と演技Ⅰ」の発展学習科目であり、先に「演劇と演技Ⅰ」の履修が必須である。

「演技」とは自分が自分を使うことについての技術であり、演劇においては、虚構の時空で「役」となって状況を生き、相手とやりとりするための技術のことである。本講では、そのような「演技」について、ゲーム、あそび、エクササイズなどを通じて、体験的に学習していく。

到達目標:

・芸術的な表現を鑑賞することができ、興味に従って、自らも創り出すことができる。(カリキュラムマップより)

・自分のからだと動きについて、より明瞭に、より詳細に認識できる。
・他者とのやりとりを通して、表現における自分の欲求と力に気づき、それらを育むことができる。
・作品創作や試演を通して、他者と協働できる。
・授業内の体験から知を結ぶことができる。

授業方法:

少人数による体験学習形式。
演習(演技者のためのレッスン)と体験の言語化(ふりかえり)を積み重ねる。また、他者と協働して作品やシーンを創作し、試演(教室内発表)を体験する。

服装は簡単な運動のできるもの(スカート不可)。指示により、すぐに裸足になれること(ストッキング不可)。
持参物はメモ用筆記具、飲料、汗拭き用タオル、(汗をかいた場合の)着替え。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	創作:夏のできごと	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
2.	創作:あいうえおの会話1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
3.	創作:あいうえおの会話2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
4.	創作:あいうえおの会話3	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
5.	創作:あいうえおの会話4	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
6.	人狼ゲーム1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
7.	人狼ゲーム2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
8.	人狼ゲーム3	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
9.	かさこじぞう再考1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
10.	かさこじぞう再考2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
11.	創作:カバンの中1	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
12.	創作:カバンの中2	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
13.	創作:カバンの中3	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。
14.	創作:カバンの中4	予習として、「ふりかえりシート」の作成。
15.	ふりかえり	あえて予習を必要としない。 体調を整えて受講すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポート等は、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	出席に加え、課題に対して主体的、積極的に取り組んでいるかを基準とする。
レポート	50	授業での体験を通して、問題や課題を見い出せているかと、独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対。

320101～06 **和声法Ⅰ**

葛西　聖憲、成田　和子、檜垣　智也、岡田　加津子、下石坂　徹、脇山　幹士

授業テーマ:　和声の理論と実習

授業の概要:　機能和声の理論と実習を行う。教科書に基づいて、和声法Iでは、和声の形態についての予備知識に始まり、和音の機能性（トニク、サブドミナント、ドミナント）について理解する。まず、基本形での主3和音（I、IV、V）、次いで副3和音（II、VI）を含む連結、続いて各3和音の転回形の連結を実習する。
なお、バス課題と同時に、教科書では触れていないがソプラノ課題も行う。

到達目標:　古典的調性音楽の基本となる理論の第1段階として、基本形主3和音（I、IV、V）、副3和音（II、VI）を含む連結、各3和音の転回形の連結を習得する。

授業方法:　和声およびその連結に関する説明をし、新しい和音の説明と、前に学んだ和音の確認を行いながら課題を実施させる。また、宿題を添削し、模範解答を提示しながら問題点をチェック、徹底させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	予備知識	楽典の内容の、音階および和音に関することの復習をすること
2.	基本位置3和音の配置と連結　1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	基本位置3和音の配置と連結　2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	基本位置3和音の配置と連結　3	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	和音設定の原理　1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	和音設定の原理　2　各種の調　1	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	各種の調　2	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	3和音の第1転回位置　1	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	3和音の第1転回位置　2	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	3和音の第1転回位置　3	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	3和音の第1転回位置　4	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	3和音の第2転回位置　1	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	3和音の第2転回位置　2	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	3和音の第2転回位置　3	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:　各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:　和声―理論と実習Ⅰ（音楽之友社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

320201～06 **和声法Ⅱ**

葛西　聖憲、檜垣　智也、岡田　加津子、下石坂　徹、橘　由美子、脇山　幹士

授業テーマ:　和声の理論と実習

授業の概要:　教科書に基づき、和声法Ⅰに引き続き機能和声の理論と実習を行う。和声法Ⅱでは、主としてドミナント機能の学習に重点をおく。ドミナント機能を持つ属7、属9の和音の基本形と根音省略の転回形の連結を学ぶ。
なお、バス課題と同時に、教科書では触れていないがソプラノ課題も行う。

到達目標:　古典的調性音楽の基本となる理論の第2段階として、ドミナント機能としての属7、属9の基本形と転回形（省略形を含む）の連結を習得する。

授業方法:　新しい和音の説明と、前に学んだ和音の確認を行いながら課題を実施させる。また、宿題を添削し、模範解答を提示しながら問題点をチェック、徹底させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	属7の和音　1	和声法Ⅰの内容を復習をすること
2.	属7の和音　2	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	属7の和音　3	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	属7の和音　4	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	属7の和音　5	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	属9の和音　1	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	属9の和音　2	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	属9の和音　3	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	属9の和音　4	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	属9の和音　5	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	ドミナント諸和音による課題の実施　1	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	ドミナント諸和音による課題の実施　2	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	ドミナント諸和音による課題の実施　3	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	ドミナント諸和音による課題の実施　4	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:　各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:　和声―理論と実習Ⅰ（音楽之友社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

320301～06 **和声法Ⅲ**

藤林　由里、岡田　加津子、下石坂　徹、橘　由美子、脇山　幹士、安村　好弘

授業テーマ:　和声の理論と実習

授業の概要:　教科書に基づき、和声法Ⅱに引き続き機能和声の理論と実習を行う。和声法Ⅲでは、まずⅡ度7の和音を、次に準固有和音（同主短調からの借用和音）とV度上のV度（ドッペルドミナント）諸和音を学ぶ。
なお、各々の段階に於いてバス課題及びソプラノ課題を実施する。

到達目標:　古典的調性音楽の基本となる理論の第３段階として、サブドミナント機能の一部と、準固有和音を始めとした借用和音について習得する。

授業方法:　新しい和音の説明と、前に学んだ和音の確認を行いながら課題を実施させる。また、宿題を添削し、模範解答を提示しながら問題点をチェック、徹底させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Ⅱ度7の和音　１	和声法Ⅱの復習をすること
2.	Ⅱ度7の和音　２	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	Ⅱ度7の和音　３	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	Ⅱ度7の和音　４	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	準固有和音　１	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	準固有和音　２	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	準固有和音　３	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	準固有和音　４	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	V度上のV度（ドッペルドミナント）諸和音　１	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	V度上のV度（ドッペルドミナント）諸和音　２	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	V度上のV度（ドッペルドミナント）諸和音　３	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	V度上のV度（ドッペルドミナント）諸和音　４	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	V度上のV度（ドッペルドミナント）諸和音　５	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	V度上のV度（ドッペルドミナント）諸和音　６	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で学んだことが、１週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:　各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:　和声―理論と実習Ⅱ（音楽之友社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

320401～06

和声法Ⅳ

葛西　聖憲、成田　和子、藤林　由里、下石坂　徹、安村　好弘、脇山　幹士

授業テーマ:　和声の理論と実習

授業の概要:　教科書に基づき、和声法Ⅲに続き機能和声の理論と実習を行う。和声法Ⅳ前半では、Ⅳ度7、ドリアの7、ナポリなどの和音のサブドミナント機能、更に終止におけるⅣ度の付加6、Ⅳ度の付加46（oⅣの付加46）等の使い方を学ぶ。後半では、近親転調について学び、実習する。

到達目標:　古典的調性音楽の基本となる理論の第４段階として、第３段階以外のサブドミナント機能と、準固有和音を始めとした借用和音、そして近親転調についても習得する。

授業方法:　新しい和音の説明と、前に学んだ和音の確認を行いながら課題を実施させる。また、宿題を添削し、模範解答を提示しながら問題点をチェック、徹底させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	和声法Ⅲまでの復習	和声法Ⅲの復習をすること
2.	Ⅳ度7、ドリアの7、ナポリの和音　1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	Ⅳ度7、ドリアの7、ナポリの和音　2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	Ⅳ度7、ドリアの7、ナポリの和音　3	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	Ⅳ度の付加6、Ⅳ度の付加46（oⅣの付加46）等　1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	Ⅳ度の付加6、Ⅳ度の付加46（oⅣの付加46）等　2	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	近親転調　1	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	近親転調　2	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	近親転調　3	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	近親転調　4	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	近親転調　5	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	近親転調　6	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	近親転調　7	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	近親転調　8	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で学んだことが、１週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:　各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:　和声―理論と実習Ⅱ（音楽之友社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

320501、02

和声法Ⅴ

葛西　　聖憲、高柳　　理恵

授業テーマ:　和声の実習

授業の概要:　和声法Ⅳまでの教科書とは別の、Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第3巻のテキストを用い、属7の和音の学習を目的とした、多様な転調を伴った課題を実習する。
近親転調だけではなくそれ以外の転調も伴った課題を実習し、3和音（ナポリの和音も含む）および属7の和音（ドリアの7の和音も含む）使い方を学習する。また一部、偶成和音についても学習する。

到達目標:　和声法Ⅳまでの知識および技術を生かし、より高度な和声を実践する。

授業方法:　Henri Challan 380 Basses et Chants donnésのテキストを使う。まずバス課題に付された数字について説明し、各課題を実施させる。
それを添削し、模範解答を示す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　バス課題　1	和声法Ⅳの復習をすること
2.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻よりり　ソプラノ課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　バス課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　ソプラノ課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　バス課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　ソプラノ課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　バス課題　4	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　ソプラノ課題　4	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　バス課題　5	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　ソプラノ課題　5	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　バス課題　6	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻より　ソプラノ課題　6	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	過去定期試験問題課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	過去定期試験問題課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:　授業で行った課題を宿題として引き続き行い完成させ、次回の授業で添削し理解させる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:　Henri Challan著　380 Basses et chants donnés / 第3巻 Septième de dominante – 3a Textes（Leduc）

参考書:　和声—理論と実習 Ⅲ（音楽之友社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

320601、02

和声法Ⅵ

葛西　　聖憲、高柳　　理恵

授業テーマ:　和声の実習

授業の概要:　和声法 V で使ったHenri Challan 380 Basses et Chants donnés第3巻に引き続き、Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第4巻のテキストを用い、副7の和音の学習を目的とした、多様な転調などを伴った課題を実習する。
近親転調だけではなくそれ以外の転調も伴った課題を実習し、和声法 V で学習した和音に加え、副7の和音（ Ⅳ度の付加6の和音も含む）の 使い方を学習する。その他、偶成和音についても学習する。

到達目標:　和声法Vまでの知識および技術を生かし、より高度な和声を実践する。

授業方法:　Henri Challan 380 Basses et Chants donnés のテキストを使う。まずバス課題に付された副7の和音に使われる数字について説明し、各課題を実施させ、それを添削し、模範解答を示す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　バス課題　1	和声法Ｖの復習をすること
2.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　ソプラノ課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　バス課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　ソプラノ課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　バス課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　ソプラノ課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　バス課題　4	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　ソプラノ課題　4	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　バス課題　5	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　ソプラノ課題　5	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　バス課題　6	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第4巻より　ソプラノ課題　6	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	過去定期試験問題課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	過去定期試験問題課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:　授業で行った課題を宿題として引き続き行い完成させ、次回の授業で添削し理解させる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:　Henri Challan著　380 Basses et chants donnés / 第4巻 Septièmes de différentes espèces – 4a Textes（Leduc）

参考書:　和声―理論と実習 Ⅲ（音楽之友社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

320701～06　**ソルフェージュⅠ**

藤林　由里、貝和　裕美子、小松　淳史、高柳　理恵、山上　友佳子、担当者未定

授業テーマ:　音楽における基礎知識の取得と基礎能力の向上

授業の概要:
聴音:単旋律(調性的なものを中心に行う)
複旋律(2声)
4声体和声(和声法Iの授業内容に従い、理論だけでなく耳からもわかるようにする)
視唱:高音部譜表、低音部譜表を修得する。
その他

到達目標:
聴音、および視唱などソルフェージュの練習を通して音楽の基礎訓練を行い、能力を向上させる。
聴音:単旋律
複旋律
4声体和音
視唱:調性感を身につけ、転調を把握し、すぐ歌えるようにする。
その他

授業方法:
グレード別によるクラスでの演習形式
聴音:教師がピアノを弾き、各自書き取らせる。代表者に白板に書かせたりもする。
視唱:一人一人に実施させ、全員で確認しながら授業を進める。
その他:各々のクラス独自のメニューによるソルフェージュ課題を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	聴音 1　視唱 1　その他 1	準備
2.	聴音 2　視唱 2　その他 2	課題を練習
3.	聴音 3　視唱 3　その他 3	課題を練習
4.	聴音 4　視唱 4　その他 4	課題を練習
5.	聴音 5　視唱 5　その他 5	課題を練習
6.	聴音 6　視唱 6　その他 6	課題を練習
7.	聴音 7　視唱 7　その他 7	課題を練習
8.	聴音 8　視唱 8　その他 8	課題を練習
9.	聴音 9　視唱 9　その他 9	課題を練習
10.	聴音 10　視唱 10　その他 10	課題を練習
11.	聴音 11　視唱 11　その他 11	課題を練習
12.	聴音 12　視唱 12　その他 12	課題を練習
13.	.聴音まとめ	課題を練習
14.	新曲視唱まとめ	課題を練習
15.	その他まとめ	課題を練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度考査の聴音	40	
新曲視唱	40	
出欠席の状態と平常の学習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかかわらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、創造力、音感

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応

320801～06　**ソルフェージュⅡ**

藤林　由里、貝和　裕美子、小松　淳史、高柳　理恵、山上　友佳子、担当者未定

授業テーマ:　音楽における基礎知識の取得と基礎能力の向上

授業の概要:
ソルフェージュIに準じた形式で授業を進める。
聴音:単旋律(調性的なものから旋法的、非調性的なものまで幅広く行う)
　複旋律(2声)
　4声体和声
視唱:高音部譜表、低音部譜表、ハ音譜表(アルト記号)の修得。
その他

到達目標:
ソルフェージュIの修得を前提として更に、音楽の基礎訓練としての「聞ける、読める、演奏できる」という基本的な能力の向上をねらう。
聴音:単旋律
　複旋律
　4声体和音
視唱:調性感を身につけ、転調を把握し、すぐ歌えるようにする。
その他

授業方法:
聴音:教師がピアノを弾き、各自書き取らせる。代表者に白板に書かせることもある。
視唱:一人一人に実施させ、全員で確認しながら授業を進める。
その他:各々のクラス独自のメニューによるソルフェージュ課題を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	聴音 1　視唱 1　その他 1	準備
2.	聴音 2　視唱 2　その他 2	課題を練習
3.	聴音 3　視唱 3　その他 3	課題を練習
4.	聴音 4　視唱 4　その他 4	課題を練習
5.	聴音 5　視唱 5　その他 5	課題を練習
6.	聴音 6　視唱 6　その他 6	課題を練習
7.	聴音 7　視唱 7　その他 7	課題を練習
8.	聴音 8　視唱 8　その他 8	課題を練習
9.	聴音 9　視唱 9　その他 9	課題を練習
10.	聴音 10　視唱 10　その他 10	課題を練習
11.	聴音 11　視唱 11　その他 11	課題を練習
12.	聴音 12　視唱 12　その他 12	課題を練習
13.	聴音まとめ	課題を練習
14.	新曲視唱まとめ	課題を練習
15.	その他まとめ	課題を練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度考査の聴音	40	
新曲視唱	40	
出欠席の状態と平常の学習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかかわらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、音感

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応

320901～05　**ソルフェージュⅢ**

藤林　由里、貝和　裕美子、高柳　理恵、山上　友佳子、担当者未定

授業テーマ:　ソルフェージュⅠとⅡで得た音楽における知識と能力を応用し発展させる。

授業の概要:
聴音:単旋律(調性的なものを中心に、旋法や非調性的なものを含む)
複旋律(3声も導入)
4声体和声(和声法Ⅲの内容に従い、理論だけでなく耳からもわかるようにする)
視唱:各種ハ音譜表(アルト、ソプラノ譜表)による旋律を歌う。
リズム打ち:様々な変拍子もできるようにする。
その他

到達目標:
ソルフェージュⅢに引き続き、聴音と視唱、各種音部譜表読み、リズム打ちなど、更に進んだ音楽の基礎訓練と同時に、楽器による初見視奏や移調奏なども行い、より高い能力を引き出す。
聴音:単旋律
複旋律
4声体和声
視唱:各種ハ音譜表(アルト、ソプラノ譜表)による旋律を歌う。
リズム打ち:様々な変拍子もできるようにする。
その他

授業方法:
グレード別によるクラスでの演習形式
聴音:教師がピアノを弾き、各自書き取らせる。代表者に白板に書かせたりもする。
視唱:一人一人に実施させ、全員で確認しながら授業を進める。
その他:各々のクラス独自のメニューによるソルフェージュ課題を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容			準備学習等の内容
1.	聴音　1	視唱　1	リズム打ち等その他　1	授業の準備
2.	聴音　2	視唱　2	リズム打ち等その他　2	課題を練習
3.	聴音　3	視唱　3	リズム打ち等その他　3	課題を練習
4.	聴音　4	視唱　4	リズム打ち等その他　4	課題を練習
5.	聴音　5	視唱　5	リズム打ち等その他　5	課題を練習
6.	聴音　6	視唱　6	リズム打ち等その他　6	課題を練習
7.	聴音　7	視唱　7	リズム打ち等その他　7	課題を練習
8.	聴音　8	視唱　8	リズム打ち等その他　8	課題を練習
9.	聴音　9	視唱　9	リズム打ち等その他　9	課題を練習
10.	聴音　10	視唱　10	リズム打ち等その他　10	課題を練習
11.	聴音　11	視唱　11	リズム打ち等その他　11	課題を練習
12.	.聴音　12	視唱　12	リズム打ち等その他　12	課題を練習
13.	聴音まとめ			課題を練習
14.	新曲視唱まとめ			課題を練習
15.	その他まとめ			課題を練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度考査の聴音	40	
新曲視唱	40	
出欠席の状態と平常の学習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかかわらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、創造力、音感

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応

321001～05　**ソルフェージュⅣ**

藤林　由里、貝和　裕美子、高柳　理恵、山上　友佳子、担当者未定

授業テーマ:　ソルフェージュⅠとⅡ、Ⅲで得た音楽における知識と能力を応用し発展させる。

授業の概要:
聴音:単旋律(調性的なものを中心に旋法や非調声的なものを含む)
複旋律(3声も導入)
4声体和声(和声 Ⅳ の内容に従い、理論だけでなく耳からもわかるようにする)
視唱:各種ハ音譜表(アルト、ソプラノ、テノール譜表)による旋律を歌う。
リズム打ち:さまざまな変拍子もできるようにする。
その他
またクラスによっては楽器での初見、移調奏などを導入。

到達目標:
ソルフェージュ Ⅲ に引き続き、聴音と視唱、各種音部譜表読み、リズム打ちなど、更に進んだ音楽の基礎訓練と同時に楽器による初見視奏や移調奏なども行い、より高い能力を引き出す。
聴音:単旋律
複旋律
4声体和声
視唱:各種ハ音譜表(アルト、ソプラノ、テノール譜表)による旋律を歌う。
リズム打ち:さまざまな変拍子もできるようにする。
その他

授業方法:
グレード別によるクラスでの演習形式
聴音:教師がピアノを弾き、各自書き取らせる。代表者に白板に書かせたりもする。
視唱:一人一人に実施させ、全員で確認しながら授業を進める。
その他:各々のクラス独自のメニューによるソルフェージュ課題を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	聴音 1　視唱 1　リズム打ち等その他 1	
2.	聴音 2　視唱 2　リズム打ち等その他 2	
3.	聴音 3　視唱 3　リズム打ち等その他 3	
4.	聴音 4　視唱 4　リズム打ち等その他 4	
5.	聴音 5　視唱 5　リズム打ち等その他 5	
6.	聴音 6　視唱 6　リズム打ち等その他 6	
7.	聴音 7　視唱 7　リズム打ち等その他 7	
8.	聴音 8　視唱 8　リズム打ち等その他 8	
9.	聴音 9　視唱 9　リズム打ち等その他 9	
10.	聴音 10　視唱 10　リズム打ち等その他 10	
11.	聴音 11　視唱 11　リズム打ち等その他 11	
12.	聴音 12　視唱 12　リズム打ち等その他 12	
13.	聴音まとめ	
14.	新曲視唱まとめ	
15.	その他まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度考査の聴音	40	
新曲視唱	40	
出欠席の状態と平常の学習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかかわらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、創造力、音感

教員との連絡方法:
授業の前後に教室で対応

321101～04　**ソルフェージュⅤ**

貝和　裕美子、小松　淳史、前田　則子、山上　友佳子

授業テーマ:　ソルフェージュIとII、IIIとIVで得た音楽における知識と能力を応用し発展させる。

授業の概要:　単旋律から多声の聴音、各種音部譜表での視唱、より複雑なリズム打ちなど、更に進んだ音楽の基礎訓練を行うと同時に、楽器による初見視奏や移調奏などを行う。

到達目標:　ソルフェージュ IV および和声法 IV までの知識や技術などを生かしてより高度なソルフェージュを実践する。

授業方法:　グレード別によるクラスでの演習および実習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容			準備学習等の内容
1.	聴音　1	視唱　1	その他　1	準備
2.	聴音　2	視唱　2	その他　2	課題を練習
3.	聴音　3	視唱　3	その他　3	課題を練習
4.	聴音　4	視唱　4	その他　4	課題を練習
5.	聴音　5	視唱　5	その他　5	課題を練習
6.	聴音　6	視唱　6	その他　6	課題を練習
7.	聴音　7	視唱　7	その他　7	課題を練習
8.	聴音　8	視唱　8	その他　8	課題を練習
9.	聴音　9	視唱　9	その他　9	課題を練習
10.	聴音　10	視唱　10	その他　10	課題を練習
11.	聴音　11	視唱　11	その他　11	課題を練習
12.	聴音　12	視唱　12	その他　12	課題を練習
13.	聴音　13	視唱　13	その他　13	課題を練習
14.	まとめ　1			課題を練習
15.	まとめ　2			課題を練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度考査	80	
出欠席の状態と平常の学習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかかわらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、音感

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応

321201～04　**ソルフェージュⅥ**

貝和　裕美子、小松　淳史、前田　則子、山上　友佳子

授業テーマ:　ソルフェージュⅠとⅡ、ⅢとⅣ、およびⅤで得た音楽における知識と能力を応用し発展させる。

授業の概要:　単旋律から多声の聴音、各種音部譜表での視唱、より複雑なリズム打ちなど、更に進んだ音楽の基礎訓練を行うと同時に、楽器による初見視奏や移調奏などを行う。

到達目標:　ソルフェージュ Ⅴ の修得を前提として、ソルフェージュの基礎から更に発展させ応用的な力をつける。

授業方法:　グレード別によるクラスでの演習および実習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	聴音 1　視唱 1　その他 1	準備
2.	聴音 2　視唱 2　その他 2	課題を練習
3.	聴音 3　視唱 3　その他 3	課題を練習
4.	聴音 4　視唱 4　その他 4	課題を練習
5.	聴音 5　視唱 5　その他 5	課題を練習
6.	聴音 6　視唱 6　その他 6	課題を練習
7.	聴音 7　視唱 7　その他 7	課題を練習
8.	聴音 8　視唱 8　その他 8	課題を練習
9.	聴音 9　視唱 9　その他 9	課題を練習
10.	聴音 10　視唱 10　その他 10	課題を練習
11.	聴音 11　視唱 11　その他 11	課題を練習課題を練習
12.	聴音 12　視唱 12　その他 12	課題を練習
13.	聴音 13　視唱 13　その他 13	課題を練習
14.	まとめ 1	課題を練習
15.	まとめ 2	課題を練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度考査	80	
出欠席の状態と平常の学習態度	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、到達度考査を受験するしないにかかわらず、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、音感

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応

323900

音楽通史A

仲　　万美子

授業テーマ:　西洋音楽史を概観し、演奏／創作／研究活動と聴衆との関係を探求する旅

授業の概要:　古代から現代までの西洋芸術音楽創出の足跡を通時的／共時的に概観し、今までに演奏した／知りえた「西洋（芸術）音楽」は、そのジャンルも時代もその一部に過ぎないことを再確認すること。世界の民族音楽やポピュラー音楽と同様に、継承され他地域に伝播するなかで、他の芸術、他の文化から影響を受けながら、また相互に補完しあいながら、さらに新しいジャンルをも形成してきたこと、そして、音楽が創作／演奏される場も、文化的・社会的背景を背負ってきたことを理解する。

到達目標:　各音楽作品がどのような視点で、どのような空間で、どのような音楽家によって再現され、それを多様な聴衆がどのように受容していたかを考察し、在学中の演奏／創作／研究活動や趣味に関連づけていくための基礎知識を修得すること。

授業方法:　講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	西洋音楽史を理解することとは／古代ギリシアの人々は音楽をどのように捉えていたか	
2.	キリスト教音楽の成立と展開／中世世俗音楽の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
3.	ルネサンス音楽の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
4.	バロック音楽：オペラの誕生とその後の展開	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
5.	バロック音楽：器楽の多様な世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
6.	バッハの時代の宗教音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
7.	古典派の音楽：シンフォニーの発展	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
8.	19世紀の室内楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
9.	19世紀の鍵盤楽器の音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
10.	19世紀の声楽曲（芸術歌曲・オペラ）	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
11.	19世紀から20世紀初頭の管弦楽の世界（1）：ドイツの作曲家を中心に	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
12.	19世紀から20世紀初頭の管弦楽の世界（2）：民族音楽との遭遇	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
13.	印象主義、そしてその後の欧州における音楽の諸相	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
14.	20世紀中期から21世紀現在までの音楽の展開：アメリカを中心に	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
15.	20世紀中期から21世紀現在までの音楽の展開：代表的な東アジアの作曲家による芸術音楽創作作品の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるもの）

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:　提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する
発表、報告	25%	準備学習（予習、復習）、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する

教科書:　片桐功ほか 『増補改定版はじめての音楽史　古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社

参考書:　講義時に適宜、提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

324000

音楽通史B

仲　　万美子

授業テーマ:　人間の身体と心から紡ぎ出され、社会の中で育まれる音楽の探究

授業の概要:　音楽は、文化の中で他の芸術・芸能とともに息づいている。芝居を豊かに展開させたり、詩の情感を深めたり、人間の心を高揚させたりする。そして、儀礼に用いられる音楽、娯楽の場を提供する音楽、自然の風景を描きだす音楽など、多様な空間に音楽が鳴り響く。本講義では、通時的／共時的な視点で、幅広く世界の民族に眼を向け、相互の関連性にも着目し、人間が音楽と密接な関わりをもって創造・受容・継承してきた音楽文化の特質を深く理解する。21世紀に生きる受講生にとって世界の民族音楽と同様、「異文化」になりつつある日本の伝統音楽について、自分との距離を再考してみましょう。

到達目標:　世界や日本の多様な音楽の成り立ちや文化的背景を理解する方法を、講義で取り上げる音楽事例から読み取り、今までの自分が経験してきた音楽と比較しながら、それぞれのトピックへの関心と知識を深化させ、外国や多民族の方々にどのように紹介できるか、それぞれの音楽活動に応用できるかが求められる。

授業方法:　講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら、音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	民族音楽はどのように人間の身体に摺り込まれ、時空間を越えていくか？	
2.	音楽が生地に留まり／から飛び出して新たな世界を創生することの意味	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
3.	旅するロマの人々が伝える音楽の心：移動／定着における音の出会い	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
4.	伝統音楽・芸能はどのように教習されるのか：日本・中国・朝鮮半島・カンボジアを事例に	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
5.	人間は鳥とどんな会話をするのだろうか：自然と一体となった音風景	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
6.	ネイティブアメリカンの人々は音や音楽をどのように受け入れてきたか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
7.	現代でも輝いている神事芸能としての音楽：インドネシアとブラジルを事例に	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
8.	人生の節目「結婚式」の場で奏でられる「おんがく」と「おどり」の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
9.	宮城道雄の心のなかにある眼差し：指からつむぎ出される新たなる音楽	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
10.	能楽を支える人々：プロフェッショナルとアマチュアの違い	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
11.	琵琶と声で語る物語：日本人の目／外国人の目を通して	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
12.	打楽器の魅力：リズム・響き・コラボレーション	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
13.	中国から東アジア／東南アジアに伝播した宮廷音楽の世界	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
14.	歌舞伎が伝承、鑑賞される空間：江戸から現代までの上演の場とそのあり方	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
15.	上方伝統芸能に携わる人々の「芸の心」とは：狂言・人形浄瑠璃・日本舞踊を事例に	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるもの）

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:　提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する
発表、報告	25%	準備学習（予習、復習）、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。

教科書:　片桐功他 『増補改訂版はじめての音楽史　古代ギリシアの音楽から日本の現代音楽まで』音楽之友社

参考書:　柘植元一他『はじめての世界音楽　諸民族の伝統音楽からポップスまで』音楽之友社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

324300

音楽史（古典派）

三島　　郁

授業テーマ:　西洋音楽史における「古典派」時代の音楽の特質と背景を探る

授業の概要:　西洋音楽史における18世紀「古典派」の音楽は、「バロック」から多くを受け継ぎ、19世紀のロマン派の音楽形式や構造面にも影響を与えた。この「古典派」は短期間ではあるが、この時期には啓蒙思想とともに新しい様式の音楽が現れ、「中心地」とみなされるウィーンのみならず、イタリアやフランスにおいても多様な音楽シーンが展開していた。そのような時期やさまざまな地域を特徴づける作品の様式や演奏慣習についてその歴史を分析し、啓蒙主義などの思想的、そして文化的・社会的背景についての考察を行う。

到達目標:
・古典派における作曲家や作品の様式やその内容について知識を身につける。
・西洋音楽史における古典派の位置と意義を理解し、自分なりに音楽を分析・考察できるようにする。

授業方法:　講義：講義毎に譜例や資料を付したレジュメを配付し、視聴覚資料を使用しながら、解説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	啓蒙主義の18世紀：音楽史における古典派	古典派の語義や音楽史上の意味について復習
2.	18世紀の伊仏オペラ論争	伊仏の様式感の違いの復習
3.	多感様式の作品とその様式	古典派の中の多様性を復習
4.	管弦楽作品「シンフォニア」とマンハイム楽派	古典派の音楽内容に決定的影響を与えた様式の復習
5.	J. ハイドンの作品と様式（1）：室内楽曲	ハイドンの室内楽曲様式の復習
6.	J. ハイドンの作品と様式（2）：管弦楽曲	ハイドンの管弦楽曲様式の復習
7.	18世紀パリの演奏会～宮廷、音楽サロン、公開演奏会	古典派時代の音楽消費地と受容者について復習
8.	モーツァルトの作品と様式（1）：室内楽曲	モーツァルトの室内楽曲様式の復習
9.	モーツァルトの作品と様式（2）：交響曲	モーツァルトの交響曲様式の復習
10.	モーツァルトのオペラ（1）：イタリア風オペラ	モーツァルトのイタリア風オペラについての復習
11.	モーツァルトのオペラ（2）：ジングシュピール	モーツァルトのドイツ語のオペラについての復習
12.	ベートーヴェンの作品と様式（1）：ピアノ曲	ベートーヴェンのピアノ曲様式の復習
13.	ベートーヴェンの作品と様式（2）：交響曲	ベートーヴェンの交響曲様式の復習
14.	ベートーヴェンの作品と様式（3）：室内楽曲	ベートーヴェンの室内楽曲様式の復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　音楽は、前の時代や別の地域のそれから影響を受けたり、反発したりするなど、時間的・空間的に異なった場所から常に新しく生まれています。本講義では、古典派が前後の時代の音楽特徴とどのように異なりまた同一であるか、それらを理解する能力を養い、現在の自分の演奏レパートリーや研究に関連づけてみましょう。

フィードバックの方法:　毎授業後に提出するコメントペーパーについては、授業内容に対する深い理解や考察があるものは講義時にコメントしながら紹介し、意義のある質問等に対しては講義資料に転載したり、教室で解説を行ったりする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末試験	65	知識を身につけ、自分なりに分析・考察できているかどうか
出席状況及び授業時の提出物	35	提出物を提出しているかどうか、また質・量ともにきちんと書けているか。欠席数が講義数の3分の1以上の者は失格とする。

教科書:　講義毎に資料を配布

参考書:　D. J. グラウト、C. V. パリスカ／戸口幸策、津上英輔、寺西基之共訳　1998 『グラウト／パリスカ新西洋音楽史』（中）　東京: 音楽之友社。その他については適宜提示。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　kaorumishima@gmail.com

324400

音楽史（ロマン派）

筒井　　はる香

授業テーマ:　19世紀の西洋音楽を多角的に考察する。

授業の概要:　この授業では、19世紀の音楽を作曲家ごとにとりあげ、代表的な作品やその背景について学びます。西洋音楽史において19世紀は、近代的な音楽文化の基礎をつくった時代ということができます。例えば、音楽学校（コンセルヴァトワール）、音楽専用のホールでの演奏会、批評活動などはすべて19世紀に誕生したものです。また作曲家も、社会的、宗教的な制約に束縛されない自律した芸術家として創作活動を行うようになりました。それらに加えて、楽器の技術的発展によって、それまでの音楽にはみられなかった新しい表現が可能になったのが19世紀の音楽です。このような背景を踏まえながら、音楽作品を多角的に考察します。

到達目標:　この授業では、ロマン派の音楽を演奏、聴取、解釈するうえで必要な知識を学び、作品の理解を深めることを目標とします。

授業方法:　講義形式が中心です。各回、資料を配布するとともに視聴覚教材を活用し、時折、ピアノの実演をとりいれることによって理解を深めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	音楽通史の復習
2.	シューベルト	授業の復習と次回のテーマについての予習
3.	シューベルトの時代のピアノ文化	授業の復習と次回のテーマについての予習
4.	メンデルスゾーン	授業の復習と次回のテーマについての予習
5.	シューマン（1）	授業の復習と次回のテーマについての予習
6.	シューマン（2）	授業の復習と次回のテーマについての予習
7.	ベルリオーズ	授業の復習と次回のテーマについての予習
8.	リスト（1）	授業の復習と次回のテーマについての予習
9.	ロマン派のオペラ	授業の復習と次回のテーマに関する予習
10.	ショパン（1）	授業の復習と次回のテーマについての予習
11.	ショパン（2）	授業の復習と次回のテーマについての予習
12.	リスト（2）	授業の復習と次回のテーマについての予習
13.	ブラームス	授業の復習と次回のテーマについての予習
14.	国民楽派	授業の復習と次回のテーマについての予習
15.	まとめ	授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で取り上げる作曲家の伝記を予習しておくことが望ましい。

フィードバックの方法:　提出物は教室内で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
コメントペーパーを含む授業への学習態度	50	ミニレポートに基づいて授業の理解度を評価します。
定期試験	50	ロマン派の音楽を聴取、演奏、解釈する上で必要な知識を理解し、設問に対して論理的に説明できるているかを基準とします。

教科書:　特になし。適宜プリントを配布します。

参考書:

エクトール・ベルリオーズ、リヒャルト・シュトラウス、『管弦楽法』、広瀬大介訳、音楽之友社、2006年

椎名亮輔編、三島郁、筒井はる香、福島睦美、『音楽を考える人のための基本文献34』、アルテスパブリッシング、2017年

ジャン＝ジャック・エーゲルディンゲル、『弟子から見たショパン』、音楽之友社、2010年

ロベルト・シューマン、『音楽と音楽家』、吉田秀和訳、岩波文庫、1994年

Charles Rosen, "The Romantic Generation", Harvard University Press, 1955.

Richard Taruskin, "Music In The Nineteenth Century", Oxford University Press, 2010.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　原則として授業時間の前後に対応します。

326101～04　**対位法Ⅰ**

成田　和子、下石坂　徹、橘　由美子

授業テーマ:　対位法の理論と実習

授業の概要:　２声対位法の2分音符対位法と4分音符対位法を実習する。

到達目標:　対位法の歴史は古く13世紀にまで遡るが、この授業では18世紀以降に確立された、調性（長調および短調）の対位法技法を学び、実習する。対位法の技法とは、グレゴリオ聖歌に由来する全音符による定旋律をおき、それに他の声部が別の独立した線としていかに美しく関わるかを習得するものである。

授業方法:　はじめに、それぞれの種類毎に規則や方法を説明し、範例を示した後、各自実施させる。宿題を添削し、問題点をチェック、それぞれよりよく直しつつ先へ進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	全音符対位法　１	楽典の知識の確認をすること
2.	全音符対位法　２	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	２分音符対位法　１	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	２分音符対位法　２	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	２分音符対位法　３	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	２分音符対位法　４	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	２分音符対位法　５	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	４分音符対位法　１	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	４分音符対位法　２	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	４分音符対位法　３	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	４分音符対位法　４	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	４分音符対位法　５	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	２分音符対位法および4分音符対位法の復習　１	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	２分音符対位法および4分音符対位法の復習　２	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で学んだことが、１週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:　各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書:　池内友次郎著　二声対位法　（音楽之友社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

326201～04　**対位法Ⅱ**

成田　和子、小松　淳史、下石坂　徹、橘　由美子

授業テーマ:　対位法の理論と実習

授業の概要:　２声対位法の移勢対位法と華麗対位法の実習を行う。

到達目標:　対位法の歴史は古く13世紀にまで遡るが、この授業では18世紀以降に確立された、調性（長調および短調）の対位法技法を学び、実習する。対位法の技法とは、グレゴリオ聖歌に由来する全音符による定旋律をおき、それに他の声部が別の独立した線としていかに美しく関わるかを習得するものである。

授業方法:　はじめに、それぞれの種類毎に規則や方法を説明し、範例を示した後、各自実施させる。宿題を添削し、問題点をチェック、それぞれよりよく直しつつ先へ進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	移勢対位法　１	対位法Ｉの復習をすること
2.	移勢対位法　２	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	移勢対位法　３	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	移勢対位法　４	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	移勢対位法　５	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	移勢対位法　６	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	華麗対位法　１	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	華麗対位法　２	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	華麗対位法　３	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	華麗対位法　４	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	華麗対位法　５	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	華麗対位法　６	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	移勢対位法および華麗対位法の復習　１	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	移勢対位法および華麗対位法の復習　２	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で学んだことが、１週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:　各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書等から宿題を出し、添削する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書:　池内友次郎著　二声対位法　（音楽之友社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

327200

音楽心理学

津崎　　実

授業テーマ:　音楽を支える音とは何か？

授業の概要:　音楽というものは人間の文化的な所産のひとつである。そのため，その文化面の意味合いが多くの音楽教育では重視視されてきている。特に音楽の実施（演奏）能力はそれぞれの分化特有の技法に通じないと演奏者としての高い評価は期待できないため，この傾向は助長される。しかしながら，音楽には人の聴覚に訴えるという万人共通の側面がある。この授業では音楽受容の根底中の根底となる人間の聴覚の基礎の理解を主眼として音とは何かを，その物理的側面と心理的側面を併せて理解するための基礎知識の取得を目指す。

到達目標:　まず音楽が音響芸術であること，つまり人間の聴覚に訴える音の理解，そしてそれを人間が受容する器官である聴覚と中枢の仕組みについての理解を目指します。我々の周辺に存在する多くのものを，叩いたり，擦ったり，吹いたりすることで生じる音響信号が，どのように私達の聴覚系で感知されるか，そこで重要視される違いは何であるかを知るために音という物理現象と心理現象の両側面の理解を目指します。それにより音楽が今の形態となっていることへの流れを自分なりに考える土台を作ることを目指します。

授業方法:　基本的にはキーノートを使った講義
講義の際に資料を配付する。受講者の興味の対象・理解程度をさぐるために、毎回の授業の最後にその日に教授した内容の中から1問程度のクイズに解答してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽心理学の概要（音楽を考える上で心理学的な視点とは何であるかの視座）	
2.	音響学（音の物理的側面）	仕事，仕事率，力，圧力，三角関数について復習しておくこと
3.	聴覚生理その１（大気圧の振動現象が脳に伝わる原理）	神経，脳，感覚器などについての基礎知識が求められます
4.	聴覚生理その２（大気圧の振動現象が脳に伝わる原理）	
5.	聴覚心理学（感覚，知覚システムの中での聴覚の特徴）	第２回で教授する正弦振動，周波数，音圧と強度の関係を理解しておくこと。
6.	ピッチその１（音の高さと周波数の違い）	周波数，周期性，調波構造などの物理的な概念と，ピッチという感覚的な印象の違いを理解していく必要が出ます。
7.	ピッチその２（場所説と時間説，基底膜の存在と位相固定発火）	第３，４回で学んだ基底膜の役割と聴神経の位相固定発火の役割をここで使います。
8.	協和性とマスキングその１（マスキング現象と基底膜）	第３，４回で学んだ基底膜の役割とフィルターの概念の結びつきを理解していくこと。
9.	協和性とマスキングその２（聴覚的協和と音楽的協和の違いとマスキング現象）	音楽的協和の背景に'同一フィルターの中を通る複数の周波数成分間の唸りがあることを理解の軸にします。
10.	音色（周波数スペクトルと共鳴特性）	音色を規定する要因のひとつであるスペクトルについての理解と，それが聴覚系でなぜ検出可能なのかを理解することが求められます。
11.	ラウドネス（ダイナミクスとラウドネスの違い，強度とラウドネスの違い）	強度に対する非線形応答としてラウドネスが得られることと，その非線形性が第３，４回で学んだ外有毛細胞の能動性にあることの理解を深めます。
12.	聴覚情景分析（音脈分凝と音の群化）	ここまでの微視的な視点とは異なり，聴覚が何のためにあるのかという巨視的な視点がここで導入されます。
13.	ゲシュタルト原理　（旋律性と調性）	
14.	歌唱　（声の性質：音域と声道共鳴）	人間が獲得した声という「楽器」の特徴と，その知覚の原則と聴覚系との結びつきを理解していきます。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　難しいからと理由だけで点数を取るために「丸暗記」をするのではなく，理解すること，腑に落ちることを求めていきます。授業を受動的に聞くだけでは，そのような理解には結びつきません。自分で分かるように努力し，分からないときは質問することを奨励します。

フィードバックの方法:　各回の授業の最後に行うクイズは，少なくともその授業を普通に聞いていれば解けるはずと言うつもりのものを出題する計画でいます。結果についてはいちいち各自にフィードバックしませんが，正答率が低いものがある回は翌週に正解を発表します。各自の授業に臨む姿勢のチェックにして下さい。しかし，こちらからフィードバックをしなくても，自分が理解して講義を聴けているかどうかは本来は各自が判断できるはずです。その直観重要です。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	65	選択肢の選択基準が明確であること
授業への参加度	35	積極的に講義を聴く姿勢と各単元に実施する確認クイズ

教科書:

参考書:
香田徹他：「聴覚モデル」，日本音響学会編，コロナ社，￥3,400，2011.
乾敏郎編著：「知覚と運動」,東京大学出版会　¥3,400, 1995.
ダイアナ・ドイチュ著，寺西立年他監訳：「音楽の心理学（上・下）」，西村書店，各￥3800, 1987.
大山正他編：新編　知覚間隔心理学ハンドブック，誠信書房，誠信書房，￥54,000, 1994.
大山正他編：新編　知覚間隔心理学ハンドブック Part2，誠信書房，誠信書房，￥19,440, 2007.
大串健吾監訳，B,C.J.Moore著：聴覚心理学概論，誠信書房，￥4,500，1994.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール（アドレスは授業時に伝えます），授業後で教室内で対応。

329601～04、
329801～04、
330001～04、
330201～04

オーケストラⅠ、オーケストラⅢ、オーケストラⅤ、オーケストラⅦ

関谷　弘志、森　香織、柳生　厚彦、山本　一宏

授業テーマ:　優れた管弦楽作品の研究と演奏。

授業の概要:　合奏における基本的な演奏能力を身につけるとともに、作曲家と作品に対する理解を深め、演奏会に向けて一曲一曲を仕上げていく。その過程で、他のセクションやパートを聴く力を養い、自分のパートの持つ役割を体得し実践していく。

到達目標:　自らのパートのみならず、全体のオーケストレーションを理解し、更には技術的安定と、より高度なアンサンブル技術を身につけることを目標とする。

授業方法:　分奏、合奏授業をバランスよく行い、定期公演に向けて楽曲を仕上げていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）①	事前の自主練習①
2.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）②	事前の自主練習②
3.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）③	事前の自主練習③
4.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）④	事前の自主練習④
5.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）①	スコアの研究①
6.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）②	スコアの研究②
7.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）③	スコアの研究③
8.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）④	スコアの研究④
9.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）①	より積極的なパート練習①
10.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）②	より積極的なパート練習②
11.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）③	より積極的なパート練習③
12.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）④	より積極的なパート練習④
13.	総合練習 （演奏会の準備）①	演奏会に向けての自主練習①
14.	総合練習 （演奏会の準備）②	演奏会に向けての自主練習②
15.	総合練習 （演奏会の準備）③	演奏会に向けての自主練習③

受講者へのメッセージやアドバイス:　我々が取り上げる作品は、大作曲家が音楽史上に残した傑作ばかりです。作曲家と作品に対する深い敬意をもって、それぞれの作品の奥深さを学びましょう。

フィードバックの方法:　日頃の授業に対する積極的参加度や姿勢、合奏の総合的な到達度を、授業の中で随時コメントしていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	80	授業への出席状況を見る
技術的到達度	20	演奏への参加姿勢を見る

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室にて対応。

329701～04、
329901～04、
330101～04、
330301～04

オーケストラⅡ、オーケストラⅣ、オーケストラⅥ、オーケストラⅧ

関谷　弘志、森　香織、柳生　厚彦、山本　一宏

授業テーマ:　優れた管弦楽作品の研究と演奏。

授業の概要:　合奏における基本的な演奏能力を身につけるとともに、作曲家と作品に対する理解を深め、演奏会に向けて一曲一曲を仕上げていく。その過程で、他のセクションやパートを聴く力を養い、自分のパートの持つ役割を体得し実践していく。

到達目標:　自らのパートのみならず、全体のオーケストレーションを理解し、更には技術的安定と、より高度なアンサンブル技術を身につけることを目標とする。

授業方法:　分奏、合奏授業をバランスよく行い、定期公演に向けて楽曲を仕上げていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）①	事前の自主練習①
2.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）②	事前の自主練習②
3.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）③	事前の自主練習③
4.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）④	事前の自主練習④
5.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）①	スコアの研究①
6.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）②	スコアの研究②
7.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）③	スコアの研究③
8.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）④	スコアの研究④
9.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）①	より積極的なパート練習①
10.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）②	より積極的なパート練習②
11.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）③	より積極的なパート練習③
12.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）④	より積極的なパート練習④
13.	総合練習 （演奏会の準備）①	演奏会に向けての自主練習①
14.	総合練習 （演奏会の準備）②	演奏会に向けての自主練習②
15.	総合練習 （演奏会の準備）③	演奏会に向けての自主練習③

受講者へのメッセージやアドバイス:　我々が取り上げる作品は、大作曲家が音楽史上に残した傑作ばかりです。作曲家と作品に対する深い敬意をもって、それぞれの作品の奥深さを学びましょう。

フィードバックの方法:　日頃の授業に対する積極的参加度や姿勢、合奏の総合的な到達度を、授業の中で随時コメントしていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	80	授業への出席状況を見る
技術的到達度	20	演奏への参加姿勢を見る

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室にて対応。

330400 **オペラⅠ**

井原　　秀人

授業テーマ:　総合芸術としてのオペラへのアプローチ

授業の概要:　演技に関わる基礎を身につけ、各々の声質に応じたモーツァルト作曲「COSI FAN TUTTE」「LE NOZZE DI FIGARO]のレチタティーボ、アンサンブルを演習する中で、音楽様式、性格描写、発声、相手役と合わせる能力などを実践的に理解する。

到達目標:　総合芸術としてのオペラの基礎知識を高めるとともに、その基礎的表現力を習得する。

授業方法:　演習・演唱・ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション。各々の声質により、配役を決定する。	
2.	演技演習	指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
3.	パントマイム	指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
4.	「LE NOZZE DI FIGARO」 NO.5をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
5.	「LE NOZZE DI FIGARO」 NO.5をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (身体表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
6.	「LE NOZZE DI FIGARO」 NO.5をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現・身体表現・相手役への配慮などの融合を図る。①)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
7.	「LE NOZZE DI FIGARO」 NO.5をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現・身体表現・相手役への配慮などの融合を図る。②)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
8.	「COSI FAN TUTTE」 NO.4をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
9.	「COSI FAN TUTTE」 NO.4をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (身体表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
10.	「COSI FAN TUTTE」 NO.4をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現・身体表現・相手役への配慮などの融合を図る。)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
11.	「COSI FAN TUTTE」 NO.20をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
12.	「COSI FAN TUTTE」 NO.20をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (身体表現を中心に)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
13.	「COSI FAN TUTTE」 NO.20をとりあげ、オペラの基礎的技術の習得をめざす。 (歌唱表現・身体表現・相手役への配慮などの融合を図る。)	事前に譜読みを行い、授業内では暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
14.	上記演習曲のクラス内発表①	
15.	上記演習曲のクラス内発表②。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	オペラの基礎知識を高めているか評価する。
歌唱発表	40%	歌唱発表により、オペラの基礎的表現力を高めているか評価する。

教科書:　その都度指定する。

参考書:　授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール

330500 **オペラⅡ**

井原　　秀人

授業テーマ:　総合芸術としてのオペラへのアプローチ

授業の概要:　各々の個性に応じた多岐にわたるオペラ作品を取り上げ、より実践的にオペラを演奏するために必要な身体表現法、言語表現法、発声法などの知識と技術を体得し、作品研究、舞台の仕組みなども含め、オペラ試演会の上演に向け、総合芸術としてのオペラの理解をさらに深める。

到達目標:　総合芸術としてのオペラの知識をさらに高め、舞台表現力を習得する。

授業方法:　演習・演唱・ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	歌唱法、言語表現法の体得を目指した音楽練習①	事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
2.	歌唱法、言語表現法の体得を目指した音楽練習②	事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
3.	歌唱法、言語表現法の体得を目指した音楽練習③	事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
4.	歌唱法、言語表現法の体得を目指した音楽練習④	事前に譜読みを行い、歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
5.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古（身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む）①	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
6.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古（身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む）②	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
7.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古（身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む）③	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
8.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古（身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む）④	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
9.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古（身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む）⑤	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
10.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古（身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む）⑥	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
11.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古（身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む）⑦	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
12.	身体表現法の体得を目指した立ち稽古（身体表現により発生する歌唱のずれの矯正も含む）⑧	暗譜で歌唱できる状態にしておくこと。指摘された箇所は、次回の通し稽古①までに修正しておくこと。
13.	通し稽古①	指摘された箇所は、次回の通し稽古②までに修正しておくこと。
14.	通し稽古②	指摘された箇所は、試演会までに修正しておくこと。
15.	ホールにて試演会	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	オペラの総合的な知識をさらに高めているか評価する。
歌唱発表	40%	試演会により、オペラの総合的な舞台表現力を高めているか評価する。

教科書:　その都度指定する。

参考書:　授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール

332500

合唱Ⅰ

青木　　耕平

授業テーマ:　声の素晴らしさを知り、ハモる喜びを感じよう

授業の概要:　古典から現代までの合唱曲（日本の伝統的な歌唱を含む）をとりあげ、合唱におけるハーモニー・リズム・発声・発語などの練習をし、アンサンブルの基本を身につける。また、発声練習を通して「楽器」としての身体を認識する。

到達目標:　１２月に行われる定期演奏会において暗譜で演奏するための譜読みを完全に行い、暗譜に向けての準備をする。

授業方法:　実技。体操・発声練習・アンサンブル練習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスと発声についてのレクチャー、体操・発声練習及び、「大学歌」・「Doshisha College Song」の練習。	授業後、「大学歌」・「Doshisha College Song」について、授業内で不十分な所を各自個人練習する。
2.	体操・発声練習・ハーモニー練習、「大学歌」・「Doshisha College Song」の練習。	「大学歌」・「Doshisha College Song」について音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
3.	体操・発声練習・ハーモニー練習・カノンを使った練習・小品1の練習。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
4.	体操・発声練習・ハーモニー練習・小品１、２の練習。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
5.	体操・発声練習・ハーモニー練習・小品２、３の練習。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
6.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の譜読み。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
7.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の譜読み。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
8.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の譜読み。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
9.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
10.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
11.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
12.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
13.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の暗譜練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
14.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の暗譜練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。
15.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の暗譜練習。	授業後は授業内で不十分な所を各自個人練習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　音楽は完全な無音から始まります。大人数での授業ですが、音が出る前は集中して静寂から音楽を始めるよう心がけましょう。うまくハモった時はきっと気持良さを感じることができると思います。たくさんの心地よい時間と空間をつくっていきましょう。

フィードバックの方法:　練習において、その都度、いま出した音の問題点やその解決法などをコメントしますので、必要なことは楽譜に書き込んでください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	60%	欠席の回数に応じて減点します。
授業態度	40%	ハーモニーを作っていく上での積極的な参加度を、少人数でのアンサンブル練習などを実施して評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業前後に直接話しかけてください。

332600

合唱Ⅱ

青木　　耕平

授業テーマ:　声の素晴らしさを知り、ハモる喜びを感じよう。

授業の概要:　古典から現代までの合唱曲（日本の伝統的な歌唱を含む）をとりあげ、合唱におけるハーモニー・リズム・発声・発語などの練習をし、アンサンブルの基本を身につける。また、発声練習を通して「楽器」としての身体を認識する。練習の成果を定期演奏会で発表する。

到達目標:　定期演奏会において暗譜で演奏するための準備をする。

授業方法:　実技。体操・発声練習・アンサンブル練習を行い、到達度確認のためのテストを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	暗譜のための自主練習を行う。
2.	到達度確認のためのテストを実施。	暗譜のための自主練習を行う。
3.	到達度確認のためのテストを実施。	暗譜のための自主練習を行う。
4.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
5.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
6.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
7.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
8.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
9.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
10.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
11.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
12.	体操・発声練習・ハーモニー練習・定期演奏会曲の練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
13.	体操・発声練習・ハーモニー練習・入学式、卒業式のための合唱曲練習。	次に取り組む曲の音楽用語や歌詞の意味を調べる。授業内で不十分な所を各自個人練習する。
14.	体操・発声練習・ハーモニー練習・入学式、卒業式のための合唱曲練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。
15.	体操・発声練習・ハーモニー練習・入学式、卒業式のための合唱曲練習。	授業内で不十分な所を各自個人練習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　音楽は完全な無音から始まります。大人数での授業ですが、音が出る前は集中して静寂から音楽を始めるよう心がけましょう。うまくハモった時はきっと気持良さを感じることができると思います。たくさんの心地よい時間と空間をつくっていきましょう。

フィードバックの方法:　練習において、その都度、いま出した音の問題点やその解決法などをコメントしますので、必要なことは楽譜に書き込んでください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	60%	定期演奏会を含む出席状況において欠席の回数に応じて減点します。
到達度テスト	40%	暗譜を含む到達度確認のためのテストにより評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業前後に直接話しかけてください。

332700、
332900、
333000

合唱Ⅲ、合唱Ⅴ、合唱Ⅶ

井上　　敏典

授業テーマ:　楽曲の解釈のうえにおける、声の調和と感動の心を伝達するには。

授業の概要:　ハーモニーを形成するためには、個人で何をすべきか。合唱を通して与えられたセクションの位置や重要性、表現に至るまでの技術の認識、必要性、方法を学び、聴衆と共感する意味を探る。

到達目標:
1.発声の理解。
2.音色の統一の理解。
3.アンサンブルの理解。
4.作品（詩と曲）の理解。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ウォーミングアップ用練習曲（1） 希望パートの提出。	自分のパートを決めておく。
2.	ウォーミングアップ用練習曲（2） パート分け。	配布された楽譜の製本が必要な場合は製本をしておく。 譜読みをしてくる。
3.	ウォーミングアップ用練習曲（3）	譜読みとイメージ作り。
4.	ウォーミングアップ用練習曲（4）	暗譜同然にする。
5.	ウォーミングアップ用練習曲（5） 定期演奏会用作品（1）	定期演奏会用の楽譜を購入しておく。
6.	ウォーミングアップ用練習曲（6） 定期演奏会用作品（2）	譜読み。
7.	ウォーミングアップ用練習曲（7） 定期演奏会用作品（3）	譜読み。
8.	ウォーミングアップ用練習曲（8） 定期演奏会用作品（4）	譜読み。
9.	ウォーミングアップ用練習曲（9） 定期演奏会用作品（5）	譜読み。
10.	ウォーミングアップ用練習曲（10） 定期演奏会用作品（6）	譜読み。
11.	ウォーミングアップ用練習曲（11） 定期演奏会用作品（7）	譜読み。
12.	ウォーミングアップ用練習曲（12） 定期演奏会用作品（8）	譜読み。
13.	ウォーミングアップ用練習曲（13） 定期演奏会用作品（9）	譜読み。
14.	ウォーミングアップ用練習曲（14） 定期演奏会用作品（10） 最終曲まで終了。	イメージ作り。
15.	ウォーミングアップ用練習曲（15） 定期演奏会用作品（11） 全曲通し。	秋学期に向けて暗譜同然に仕向けること。

受講者へのメッセージやアドバイス:　定期演奏会用の曲は5月の連休明けよりスタートしますので、楽譜の購入は早めに購入のこと。

フィードバックの方法:　教室内でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	100%	欠席は3回までとする。それ以上の欠席は認めない。 ただし、公的なる出校不可などの場合はそれに限らない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

332800、
333100、
333200

合唱Ⅳ、合唱Ⅵ、合唱Ⅷ

井上　　敏典

授業テーマ:　徹底した響きと、ハーモニーと言葉の表現研究。

授業の概要:　春学期に引き続き、楽譜上での記号をいかに生きた音にできるか、再度ハーモニーを生かすための技術の向上と客観性を養い、舞台上での最大限の表現の伝達を探る。

到達目標:
1. 声音の統一。
2. 各パートの役割の理解。
3. 作品解釈の統一。
4. 最大限のパフォーマンスに向けての技術改革。
5. 客観視する能力の開発。

授業方法:　演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ウォーミングアップ用練習曲（1） 定期演奏会用の作品研究（1） 新規受講者の希望パート提出。	春学期での感覚を戻しておくこと。新規登録者は譜読みをしておくこと。
2.	ウォーミングアップ用練習曲（2） 定期演奏会用の作品研究（2）	譜読みとイメージ作り。
3.	ウォーミングアップ用練習曲（3） 定期演奏会用の作品研究（3）	譜読みとイメージ作り。
4.	ウォーミングアップ用練習曲（4） 定期演奏会用の作品研究（4）	曲の解釈の方向付け。
5.	ウォーミングアップ用練習曲（5） 定期演奏会用の作品研究（5）	曲の解釈の方向付け。
6.	ウォーミングアップ用練習曲（6） 定期演奏会用の作品研究（6）	曲の解釈の方向付け。
7.	ウォーミングアップ用練習曲（7） 定期演奏会用の作品研究（7）	曲の解釈の方向付け。
8.	ウォーミングアップ用練習曲（8） 定期演奏会用の作品研究（8）	イメージのまとめ。
9.	ウォーミングアップ用練習曲（9） 定期演奏会用の作品研究（9）	イメージのまとめ。
10.	ウォーミングアップ用練習曲（10） 定期演奏会用の作品研究（10）	本番へ向けての集中力を養う。
11.	ウォーミングアップ用練習曲（11） 定期演奏会用の作品研究（11）	曲解釈の統一を再度確認。 通し稽古へ対応すべく心身の準備。
12.	ウォーミングアップ用練習曲（12） 卒業式、入学式、新曲（1）	
13.	ウォーミングアップ用練習曲（13） 卒業式、入学式、新曲（2）	配布された楽譜に製本が必要であれば、事前にしておくこと。
14.	ウォーミングアップ用練習曲（14） 卒業式、入学式、新曲（3）	譜読み。
15.	ウォーミングアップ用練習曲（15） 卒業式、入学式、新曲（4）	

受講者へのメッセージやアドバイス:　定期演奏会での演奏が前提となっている授業ですので、暗譜ができたから良いというわけではありません。
解釈と表現、それをサポートするテクニックのマスターと、本番にむけてのく心構えを養っていきます。

フィードバックの方法:　教室内でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	60%	授業への積極的な参加度を判断。 3回以上の欠席は単位を認めない。ただし、公の認めた理由がある場合はその限りでない。
行事への参加	40%	定期演奏会、その他依頼演奏への参加度。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

341701、02

和楽器実習

片岡　　リサ

授業テーマ:　和楽器についての講義・実習

授業の概要:　平成14年度から新・学習指導要領に改訂されて以降、学校教育において和楽器に触れることが加えられ、それに伴い、全国の音楽科教員採用試験にも、和楽器の実技試験が実施されてきている。
本授業では、箏・三味線の歴史や基本的な演奏技法を学び、和楽器の指導法にも触れながら、和楽器を使っての簡単なアレンジを楽しむ。

到達目標:　和楽器の理解を深める
教育実習や教員採用試験への準備・対策

授業方法:　和楽器の歴史に関する講義。
また実際に楽器に触れ、学習指導要領で使われている作品などを用い、自由なアレンジも行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	箏の歴史・楽器の構造についての講義	教科書の「箏の歴史」を読んでおくこと
2.	箏の基本的な演奏技法の実習 （1)記譜法・演奏姿勢について	教科書に記載の楽器の部位名を確認する
3.	箏の基本的な演奏技法の実習 （2)練習曲1～5	演奏姿勢の確認、記譜法の復習
4.	箏の基本的な演奏技法の実習 （3)練習曲6～8	練習曲１～5の復習
5.	箏の基本的な演奏技法の実習 （4)練習曲9～11	練習曲6～8の復習
6.	箏の基本的な演奏技法の実習 （5)練習曲12～14	練習曲9～11の復習
7.	三味線の歴史・楽器の構造について	練習曲12～14の復習 教科書の「三絃の歴史」を読んでおくこと
8.	三味線の基本的な演奏技法の実習 （1)演奏姿勢を中心に	三絃の各部位名の復習
9.	三味線の基本的な演奏技法の実習 （2）練習曲(前半)	三絃の演奏姿勢の確認
10.	三味線の基本的な演奏技法の実習 （3）練習曲（後半）	練習曲（前半）の復習
11.	箏・三味線のさまざまな演奏形態や調弦法について	練習曲（後半）の復習 箏の演奏法の復習
12.	和楽器指導法の研究 （1)六段の調を用いて	「六段の調」を鑑賞しておく
13.	和楽器指導法の研究 （2)童謡・唱歌を用いて	箏と三絃の調弦法の復習
14.	和楽器を使ってのアレンジ	「平調子」の音階の確認
15.	「さくらさくら」のグループごとの発表・小テスト	「さくらさくら」のアレンジ譜の作成 講義内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　最終授業の行う小テストは、授業で学んだ内容から出題するため、教科書やノートをよく読む。
「さくらさくら」のアレンジについては、まずピアノ等を使いながら事前に作成しておくこと。
授業時間外に考えたアレンジを、授業内で箏の譜面に書き直せるようにする。

フィードバックの方法:　課題提出物については、教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	60	出席状況とグループワークでの態度・意欲を評価する
授業内小テスト	30	
課題作品の提出	10	

教科書:　久保田敏子 「よくわかる箏曲地歌の基礎知識」（白水社発行）

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

342000、
342100、
342200、
342300

リサイタルⅠ、リサイタルⅡ、リサイタルⅢ、リサイタルⅣ

専任教員

授業テーマ: 鑑賞を通じて学ぶ。

授業の概要: 演奏専攻の各コースのおこなう演奏を鑑賞し、多様な楽曲や楽器の演奏方法等を学ぶとともに、みずからの感性を磨き、音楽発表会そのもののあり方についても検討する。

到達目標: 演奏専攻の各コースのおこなう演奏を鑑賞する。
多様な楽曲や楽器の演奏方法等を学ぶ。
みずからの感性を磨く。
音楽発表会そのもののあり方についても検討する。

授業方法: 指定された座席に着席して鑑賞する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	演奏を鑑賞する。	自らの音楽的興味をもつ。
2.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
3.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
4.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
5.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
6.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
7.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
8.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
9.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
10.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
11.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
12.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
13.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
14.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。
15.	演奏を鑑賞する。	自分なりの方法で前回をふりかえる。

受講者へのメッセージやアドバイス: 旧カリキュラム科目ですので、受講の詳細については音楽学科事務室に問い合わせをしてください。

フィードバックの方法: 可能な範囲で、各回の演奏についてのコメントを伝える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	100	授業に積極的に参加しているかどうかで評価する。

教科書: なし

参考書: なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法: オフィスアワー

342700

ピアノ奏法研究Ⅳ

河江　　優、中野　　慶理

授業テーマ:　ピアノ演奏における諸問題の探究

授業の概要:　モーツァルトのピアノ協奏曲とロシア音楽、声楽の伴奏法ではドイツ・リートを取り上げ、演奏における諸問題を考えていく。

到達目標:
・モーツァルトのピアノ協奏曲を独奏パートと管弦楽パートの関係に留意し、モーツァルトらしい音質やアーティキュレーション、表現法などを学ぶ。
・ロシアのピアノ作品について的確な楽譜の読み方や奏法を習得する。
・歌詞と音楽との関係に留意しながらひとつの音楽を作り上げる。

授業方法:　学生による演習（事前に割り当てられた楽曲について準備し発表する）形式を中心に行う。各回の順序は受講者の状況を見て変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	モーツァルト：ピアノ協奏曲全般について	モーツァルトのピアノ協奏曲を聴き、楽器編成やピアノパートとの関係などに着目する。
2.	モーツァルト：ピアノ協奏曲①	指定された協奏曲の特徴について考える。
3.	モーツァルト：ピアノ協奏曲②	第1楽章を読譜する。
4.	モーツァルト：ピアノ協奏曲③	第1楽章の表現を更に深められるよう準備する。
5.	モーツァルト：ピアノ協奏曲④	第2楽章を読譜する。
6.	モーツァルト：ピアノ協奏曲⑤	第2楽章の表現を更に深められるよう準備する。
7.	モーツァルト：ピアノ協奏曲⑥	第3楽章を読譜する。
8.	モーツァルト：ピアノ協奏曲⑦	第3楽章の表現を更に深められるよう準備する。
9.	モーツァルト：ピアノ協奏曲⑧	全楽章を通して演奏出来るよう準備する。
10.	声楽の伴奏法①	リートにおけるピアノの役割について考える。
11.	声楽の伴奏法②	課題に出された声楽曲について、詩の意味を考えながらピアノパートを読譜する。
12.	声楽の伴奏法③	課題に出された声楽曲について、合わせた時に起こる問題点を改善していく。
13.	ロシア音楽①	課題に出された曲を読譜する。
14.	ロシア音楽②	課題に出された曲の奏法や表現法についてさらに深める。
15.	ロシア音楽③	課題に出された曲の奏法や表現法についてさらに深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演奏発表やレポート	50%	演奏発表やレポートの内容を評価する。
授業への参加度	50%	出席を含む授業態度や意欲を評価する。

教科書:　適宜指示

参考書:　授業内に指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業後に教室内で対応

343000

オルガン奏法研究

高橋　　聖子

授業テーマ:　パイプオルガンに関する知識を身につけ、時代と作曲家、及びスタイルに合った奏法を研究する。

授業の概要:　オルガンの楽器の構造及び歴史を学ぶ事は、自分がオルガンを演奏するにあたり大変重要な事です。この授業では、各国におけるそれぞれの時代のオルガンの変遷や音色の特徴を把握しながら、オルガン音楽の理解を深め、奏法やレジストレーション（音色の選択）を学んで行きます。

到達目標:　普段のレッスンとは違った視点でより深くオルガン音楽を学ぶ事により、そのオルガン音楽が作曲された時代・作曲家の特徴、使用された楽器のストップリストや特徴を参考にしながら、それぞれのスタイルに合った奏法及びレジストレーション（音色の選択）を、自分で考え見出せるようになる事を目標とします。

授業方法:　毎回課題に沿って必要な知識を丁寧に説明した後、履修学生が互いに課題を弾き合う実技形式で授業を進めます。必要なテキスト、課題曲はその都度配布・指示します。また、内容に沿って、授業内に自分の考えをミニレポートとして提出してもらうことがあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入：オルガンの起源、構造について。	可能であれば、下記の参考文献：秋元道雄著「パイプオルガンの本」（東京音楽社）を読んでおいて下さい（図書館にあります）。
2.	ルネッサンス時代のオルガン及びオルガン音楽について。	前回配布された課題曲を、ある程度弾けるようにしておいて下さい。
3.	イタリア・バロックオルガン音楽について。	同上。
4.	北ドイツ・バロックオルガン音楽について。	同上。
5.	フランス・バロックオルガン音楽について。装飾音の弾き方や指使い、レジストレーションについて（1）。	授業中に学習した課題を、もう一度身につくまで自分で練習しておいて下さい。
6.	フランス・バロックオルガン音楽について。装飾音の弾き方や指使い、レジストレーションについて（2）。	同上。
7.	フランス・バロックオルガン音楽について。装飾音の弾き方や指使い、レジストレーションについて（3）。	同上。
8.	J.S.バッハが使用したオルガンについて。	授業中に学習したJ.S.バッハ関連のオルガン資料を、もう一度自分で良く見て復習しておいて下さい。
9.	ドイツ・ロマン派オルガン音楽について。	授業中に学習したドイツ・ロマン派オルガン音楽およびオルガンの特徴の内容を、自分で良く理解しておいて下さい。
10.	セザール・フランクの作品と、カヴァイエ・コルのオルガンについて（1）。	フランクのオルガン作品で弾けるものがあれば、練習しておいて下さい（なければこちらで課題を出します。）
11.	セザール・フランクの作品と、カヴァイエ・コルのオルガンについて（2）。	フランクの課題曲を練習しておいて下さい。
12.	フランス・シンフォニックオルガン音楽について。レジストレーションの基本について。	授業内で勉強したレジストレーションを自分で復習しておいて下さい。
13.	現代オルガン音楽について。	前回配布された課題曲に目を通しておいて下さい。
14.	即興演奏の基本について。	自分の好きな讃美歌を2～3曲選び、良く弾いておいて下さい。
15.	総括。	全般的に、学習内容を良く思い出し、理解しておいて下さい。

受講者へのメッセージやアドバイス:　履修人数の関係で、履修者が最も勉強し易い方法を臨機応変に対応しますので、シラバス内容の課題の順序を変更することがあります。

フィードバックの方法:　ミニレポートを授業内に提出してもらう場合は、必ず目を通し、次の授業で解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び授業への積極的参加態度	60	授業への集中態度を基準とします。
実技課題の取り組み度	20	実技課題の事前準備及び演奏時の思考力、及び理解力を基準とします。
学期末課題レポート	20	オルガン奏法をどれだけ自分なりに理解・習得出来たかを、学期末課題レポートの記述内容より評価します。

教科書:

参考書:　秋元道雄著「パイプオルガンの本」東京音楽社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:　授業の前後にその場で対応します。

344100

医学概論

豊田　ふみよ、赤羽　学、王寺　幸輝

授業テーマ:　生命の素晴らしさと尊さ、再生医療、保健　・医療統計

授業の概要:　・生命活動の基盤である内部環境維持機構を念頭に置きながら、ヒトの持つ臓器の構造と機能との関係を知り、臨床の基礎を理解す る。先進医癒技術と生命倫理を考える。
・日本や世界の保健医療統計について知る。

到達目標:　・生命活動の基盤である内部環境維持機構を念頭に置きながら、ヒトの持つ臓器の構造と機能との関係を知り、臨床の基礎を理解す ることができる。先進医癒技術と生命倫理について説明できる。
・日本や世界の保健医療統計を実際に生かすことができる。

授業方法:　スライド、プリントなどを使用し、わかりやすく解説する。質問を学生に投げかけたり、随時学生からの質問を受け付け、コミュニケーションを密にすることで、講義内容の理解を深めさせる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人体の特徴（細胞組織）	特に必要ない。
2.	人体の特徴（DNAと遺伝情報）	遺伝子に関する本を何でもよいので読んでくる。
3.	人体の内部環境と臓器Ⅰ	特に必要なし。中学高校生の時の生物学の講義ノート本などあれば目をとおしておく。
4.	人体の内部環境と臓器Ⅱ	特に必要なし。中学高校生の時の生物学の講義ノート本などあれば目をとおしておく。
5.	自律神経系による生体調節	特に必要なし。中学高校生の時の生物学の講義ノート本などあれば目をとおしておく。
6.	ホルモンによる生体調節	現在の食生活などを振り返ってみておくこと。
7.	生体防御	特に必要なし。中学高校生の時の生物学の講義ノート本などあれば目をとおしておく。
8.	感覚	エイズウイルス（HIV）について調べておく。
9.	脳の機能（統合システム）	特に必要なし。中学高校生の時の生物学の講義ノート本などあれば目をとおしておく。
10.	運動	特に必要なし。中学高校生の時の生物学の講義ノート本などあれば目をとおしておく。
11.	保健・医療統計	特に必要なし。公衆衛生とはどんな分野か資料があれば目をとおしておく。
12.	幹細胞生物学	「幹細胞」の定義について予習しておく。適宜、資料を配付する。
13.	再生医療学	再生医療の現状について、予習しておく。展望については、適宜、資料を配布し、解説する。
14.	病原体と感染症（1）	「病原体」の定義について予習しておく。講義では、具体例を提示し、適宜、配布資料などを用いて解説する。
15.	病原体と感染症（2）	「感染症」の定義や種類について予習しておく。適宜、講義資料を配布し、解説する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講生と毎時間コミュニケーションをとる中で行っている。

フィードバックの方法:　講義終了時に質問用紙を配っている。講義中に質問できなかったことなどを書いてもらっているそれに対する回答を次の講義で行っている。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	66.70 %	出席・試験・質問へと受け答えなどの総合評価で決定する。
レポート	33.30 %	総合点数で決定する。

教科書:　特になし。

参考書:　特になし。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（講義中に知らせる）

344200

音楽史（中世からバロック）

三島　　郁

授業テーマ:　西洋の中世、ルネサンス、バロック期における音楽の特質と背景を探る

授業の概要:　西洋の中世、ルネサンス、バロック期の音楽の鳴り響きや構造は、その後の古典派やロマン派以降のそれとは大きく異なっている。またバロック期までの間にも、音楽の様式、根底にある思想、そして受容の方法と場において何度も大きな転換があった。本講義では、この時代における音楽において、それぞれの時代や地域に特徴的な作曲や演奏の様式について注目しながら、作品の構造、記譜、演奏、楽器、さらにその文化的・社会的背景についての分析、考察を行う。本講義の続編が「音楽史（古典派）」である。

到達目標:
・古代ギリシア、中世、ルネサンス、そしてバロック期までの音楽作品の様式やその内容について知識を身につける。
・西洋音楽史における古代ギリシア、中世、ルネサンス、そしてバロック期の位置と意義を理解し、自分なりに音楽を分析・考察できるようにする。

授業方法:　講義：講義毎に譜例や資料を付したレジュメを配付し、視聴覚資料を使用しながら、解説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	古代ギリシアの音楽理論	古代ギリシアにおける音楽概念の復習
2.	中世（1）：キリスト教会の単旋律聖歌	単旋律聖歌の成り立ちと機能の復習
3.	中世（2）：多声音楽の誕生とオルガヌム	多声音楽の誕生についての復習
4.	中世（3）：多声音楽の発展とアルス・ノヴァ	多声音楽における「リズム」の復習
5.	ルネサンス（1）：ブルゴーニュ楽派からフランドル楽派へ	ルネサンス期の音楽概念の復習
6.	ルネサンス（2）：世俗歌曲と半音階法	15～16世紀の世俗歌曲の復習
7.	ルネサンス（3）：パレストリーナとラッスス	16世紀の教会音楽の復習
8.	ルネサンス（4）：ヴェネツィア楽派と器楽曲	16世紀末の器楽曲の復習
9.	バロック（1）：「新音楽」とオペラの誕生	バロック音楽概念の復習
10.	バロック（2）：17世紀のイタリア音楽とフランス宮廷音楽	17世紀の音楽様式の復習
11.	バロック（3）：絶対王政期フランス宮廷の劇音楽	フランスの劇音楽の復習
12.	バロック（4）：18世紀イタリア～「コンチェルト・グロッソ」	イタリアの合奏形態の復習
13.	バロック（5）：J. S. バッハの作品とその様式	バッハの作品様式の復習
14.	バロック（6）：J. S. バッハの宗教曲における修辞	バロックにおける修辞論の復習
15.	バロック（7）：18世紀のオペラの発展～古典派へ	新しい音楽様式の芽生えの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　音楽は、前の時代や別の地域のそれから影響を受けたり、反発したりするなど、時間的・空間的に異なった場所から常に新しく生まれています。本講義では、西洋音楽の根源をたどり、それを理解する能力を養い、自分の演奏レパートリーや研究に関連づけてみましょう。

フィードバックの方法:　毎授業後に提出するコメントペーパーについては、授業内容に対する深い理解や考察があるものは講義時にコメントしながら紹介し、意義のある質問等に対しては講義資料に転載し、教室で解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況及び授業時の提出物	50	提出を行っているか否か、また質・量ともにきちんと書けているか。なお欠席数が講義数の3分の1以上の者は失格とする。
学期末レポート	50	知識を身につけ、自分なりに分析・考察できているか

教科書:　講義毎に資料を配布

参考書:　D. J. グラウト、C. V. パリスカ／戸口幸策、津上英輔、寺西基之共訳　1998 『グラウト／パリスカ新西洋音楽史』（上、中）　東京: 音楽之友社。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　kaorumishima@gmail.com

344300

音楽史（近・現代）

椎名　　亮輔

授業テーマ：　西洋近現代音楽研究

授業の概要：　「近現代」という時代枠組みは、かなり幅広い。そしてまた、古代ギリシアから始まる西洋音楽史において、最もラディカルな（根本的な、と同時に過激な）革新が行われたのもこの時期においてである。それらの改革の多様な姿をできるだけ具体的に検討することを通して、それらの背後に通底しているものを探って行く。

到達目標：　知識・理解：西洋近現代音楽史の諸相を知り、それらの背後にあるものを理解する。
関心・意欲・態度：西洋近現代音楽史について積極的に知り、理解しようとする。
表現・技能・能力：自らの理解をもとに西洋近現代音楽史について考え、まとめる。

授業方法：　視聴覚資料を駆使した講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」：

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ドビュッシーとその周辺1	ドビュッシーとその周辺について参考文献などを使って調べておく
2.	ドビュッシーとその周辺2	ドビュッシーとその周辺について参考文献などを使って調べておく
3.	シェーンベルクとその周辺1	シェーンベルクとその周辺について参考文献などを使って調べておく
4.	シェーンベルクとその周辺2	シェーンベルクとその周辺について参考文献などを使って調べておく
5.	ストラヴィンスキーとその周辺1	ストラヴィンスキーとその周辺について参考文献などを使って調べておく
6.	ストラヴィンスキーとその周辺2	ストラヴィンスキーとその周辺について参考文献などを使って調べておく
7.	メシアンとセリアリズム	メシアンとセリアリズムについて参考文献などを使って調べておく
8.	素材の拡大	近現代音楽おける素材の拡大について参考文献などを使って調べておく
9.	テクノロジー	近現代音楽におけるテクノロジーについて参考文献などを使って調べておく
10.	不確定性	近現代音楽における不確定性について参考文献などを使って調べておく
11.	即興・パフォーマンス	近現代音楽における即興・パフォーマンスについて参考文献などを使って調べておく
12.	政治参加の音楽	近現代音楽における政治参加について参考文献などを使って調べておく
13.	ミニマリズム	ミニマリズムについて参考文献などを使って調べておく
14.	環境音楽・ポストモダン	環境音楽・ポストモダンの音楽について参考文献などを使って調べておく
15.	現在時の音楽	現在時の音楽について参考文献などを使って調べておく

受講者へのメッセージやアドバイス：

フィードバックの方法：　試験については、可能な範囲で、コメントを伝える

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
積極的な授業参加	55	積極的な授業参加について評価する
試験	45	西洋近現代音楽史についての知識・理解に基づいて、自分の考えを深められているかを評価する

教科書：　なし

参考書：　ポール・グリフィス『現代音楽小史』音楽之友社
柴田南雄『西洋音楽史印象派以後』音楽之友社
グラウト／パリスカ『新西洋音楽史（下）』音楽之友社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法：　Eメール：rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

344600

音楽社会学

太田　　健二

授業テーマ:　ポピュラー音楽と社会

授業の概要:　この授業科目で扱う音楽とは「芸術音楽」でも「民俗音楽」でもありません。あくまでも「ポピュラー音楽」です。また、「音楽学」のように、音楽そのものを直接扱うわけではありません、「ポピュラー音楽」と個人、そして社会との関わりをみていきます。たとえば、生演奏（ライブ）こそ価値があると考え、コンサートに足繁く通う人も多く、ライブ・エンターテインメント市場は活況を呈しています。しかし、コンサートはどこまで「生（ライブ）」なのでしょうか。また、ポピュラー音楽の価値を、経済的な売上で測ってしまってはいないでしょうか。「CD不況」や「特典商法」、「野外フェス」、「2.5次元」など、ポピュラー音楽から現代社会をとらえなおしてみましょう。

到達目標:
①ポピュラー音楽にかかわるメディアの歴史を把握する。
②ポピュラー音楽文化に対して、客観的で分析的な見方ができる。
③ポピュラー音楽を通して社会を読み解くことができる。

授業方法:　スライドや映像資料を利用した講義形式で進めていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスの確認
2.	ポピュラー音楽とは①～成立とテクノロジー	参考文献⑤⑨の参照
3.	ポピュラー音楽とは②～W.ベンヤミンとT.アドルノ	参考文献⑨⑩の参照
4.	小型化する音楽メディア～Walkman	参考文献②の参照
5.	デジタル化する音楽メディア～iPod・ストリーミング	参考文献②の参照
6.	音楽産業の現在①～最新データより	参考文献⑧の参照
7.	音楽産業の現在②～CDショップの役割	大型CDショップへ行ってみること
8.	音楽と著作権	著作権法の確認
9.	音楽文化とパクリ	参考文献③の参照
10.	「ボカロ」と音楽文化の場①～普及過程	参考文献①③の参照
11.	「ボカロ」と音楽文化の場②～コンサートから考える	参考文献①③⑧の参照
12.	ポピュラー音楽のこれから①～DJとクラブ	参考文献④⑧⑨の参照
13.	ポピュラー音楽のこれから②～MVとシンクロ	MVの確認
14.	ポピュラー音楽のこれから③～震災後の音楽	参考文献⑦⑨の参照
15.	まとめ	これまでの授業資料の参照

受講者へのメッセージやアドバイス:　普段よりいろいろなポピュラー音楽をよく聴き、ライブ・コンサートに行ってみたりするなかで、興味関心や疑問を抱いていることがあれば、ぜひ受講してみてください。

フィードバックの方法:　各授業回にコメントするリアクションペーパーは、次回の授業の冒頭で振り返ります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60%	到達目標①を理解した上で、到達目標②③に関して、論理的に説明できるかを評価する。
リアクションペーパー	40%	各授業内容をふまえて、自分の考えをコメントしたものを評価する。

教科書:

参考書:

遠藤薫, 2013,『廃墟で歌う天使――ベンヤミン『複製技術時代の芸術作品』を読み直す』現代書館.
円堂都司昭, 2013,『ソーシャル化する音楽――「聴取」から「遊び」へ』青土社.
福井健策, 2015,『18歳の著作権入門』筑摩書房.
井手口彰典, 2009,『ネットワークミュージッキング――「参照の時代」の音楽文化』勁草書房.
増田聡, 2005,『その音楽の〈作者〉とは誰か：リミックス・産業・著作権』みすず書房.
増田聡・谷口文和, 2005,『音楽未来形――デジタル時代の音楽文化のゆくえ』洋泉社.
南田勝也, 2014,『オルタナティヴロックの社会学』花伝社.
宮入恭平・佐藤生美, 2011,『ライブシーンよ、どこへいく――ライブカルチャーとポピュラー音楽』青弓社.
Negus, Keith, 1996, Popular Music in Theory: An Introduction, Polity Press.（＝2004, 安田昌弘訳『ポピュラー音楽理論入門』水声社.）
多木浩二, 2000,『ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」精読』岩波書店.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　嘱託講師なのでオフィスアワーはありません。
質問や相談は講義後か、メールでしてください。

345000

通奏低音理論

葛西　　聖憲

授業テーマ:　数字付き低音についての理解と実際

授業の概要:　「数字付き低音」「ゲネラル・バス」「バッソ・コンティヌオ」などとも呼ばれる通奏低音について理解し実際に実践出来るよう、譜表上で学ぶ。

到達目標:　通奏低音奏法はバロック音楽の時代、鍵盤楽器奏者が、与えられたバス声部上に、即興で和声をつけ伴奏部を完成させる方法である。
この授業では、数字付き低音の仕組みを学び、先人の書いた譜例の分析を行い、それを例として、各自、それを五線上で実施し、秋学期の鍵盤上での実践へとつなげる。

授業方法:　下記のことを、随時、織り交ぜて授業を行う。
・数字付き低音についての基礎
・分析
・五線上での実習
・書いたものの添削

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容		準備学習等の内容
1.	数字付き低音の歴史的背景について		和声及び非和声音についての確認をすること
2.	数字付き低音の仕組み　1		前回の授業の復習をすること
3.	数字付き低音の仕組み　2		前回の授業の復習と宿題をすること
4.	数字付き低音の解釈と譜例分析　1		前回の授業の復習と宿題をすること
5.	数字付き低音の解釈と譜例分析　2	実習　1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	数字付き低音の解釈と譜例分析　3	実習　2	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	数字付き低音の解釈と譜例分析　4	実習　3	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	数字付き低音の解釈と譜例分析　5	実習　4	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	数字付き低音の解釈と譜例分析　6	実習　5	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	数字付き低音の解釈と譜例分析　7	実習　6	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	数字付き低音の解釈と譜例分析　8	実習　7	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	数字付き低音の解釈と譜例分析　9	実習　8	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	数字付き低音の解釈と譜例分析　10	実習　9	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	数字付き低音の解釈と譜例分析　11	実習　10	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ		前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で学んだことが、1週間何もしないと忘れてしまう可能性があるので、復習と宿題の課題は必ず行うこと。

フィードバックの方法:　各回、授業の復習を行う目的も含めて、教科書から宿題を出す。
その次の授業でチェックし、必要があれば、ピアノで演奏させる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書:　ヘルマン ケラー 著、野村 満男 訳　通奏低音奏法 （全音楽譜出版社）（絶版）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

345100

通奏低音奏法研究

植山　　けい

授業テーマ:　バロックの室内アンサンブル

授業の概要:　春学期に学んだ通奏低音理論の知識を基にアンサンブルをする。
通奏低音の視点からバロック室内楽曲の特徴、様式、奏法について学ぶ。

到達目標:　1.課題曲の特徴と様式をふまえた数字付き通奏低音の和声付け
2.音楽表現をする意欲と演奏技術の習得

授業方法:　講義と演奏実習と演奏発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	チェンバロの特徴と奏法について	春学期の通奏低音理論の復習
2.	作曲家の書いた4声体と通奏低音を弾く1	4声体を適切なテンポで演奏出来るよう練習する。
3.	作曲家の書いた4声体と通奏低音を弾く2	4声体を適切なテンポで演奏出来るよう練習する。
4.	17世紀の通奏低音1　歌曲	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、適切なテンポで演奏出来るよう練習する。
5.	17世紀の通奏低音2　器楽曲	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、適切なテンポで演奏出来るよう練習する。
6.	17世紀の通奏低音　合奏とまとめ	アンサンブルを楽しむための練習
7.	18世紀の通奏低音1 ヘンデル　数字付き低音を演奏	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、適切なテンポで演奏出来るよう練習する。
8.	18世紀の通奏低音2 ヘンデル　数字付き低音を演奏	演習課題の手直しと練習
9.	18世紀の通奏低音3 J.S.バッハ　数字付き低音を演奏	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、適切なテンポで演奏出来るよう練習する。
10.	18世紀の通奏低音4 J.S.バッハ　数字付き低音を演奏	演習課題の手直しと練習
11.	18世紀の通奏低音5　演習とまとめ	演習課題の様式と特徴を表現するための練習
12.	各自のレパートリー課題曲1	課題のバス声部上に和声を五線譜に書き、適切なテンポで演奏出来るよう練習する。
13.	各自のレパートリー課題曲2　合奏	演習課題の手直しと練習
14.	各自のレパートリー課題曲3　合奏とまとめ	演習課題の様式と特徴を表現するための練習
15.	レパートリー曲の演奏発表と総括	アンサンブルを楽しむための練習

受講者へのメッセージやアドバイス:　チェンバロでバロック時代のアンサンブルを楽しみましょう。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演奏実習	50%	準備学習
授業の積極的な参加度	50%	1.課題曲の特徴と様式をふまえた数字付き通奏低音の和声付け　2.音楽表現をする意欲と演奏技術の習得　3.リアライズした通奏低音の楽譜の提出

教科書:　春学期に学んだ『通奏低音理論』のプリント、及び授業時に配布するプリント

参考書:　授業内指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

345201～04　**作曲法（編曲法を含む）**

葛西　聖憲、成田　和子、安村　好弘、脇山　幹士

授業テーマ:　基礎的な楽曲の作曲および編曲実習

授業の概要:　和声法、対位法、楽曲分析など、これまでに学んできた理論と、個人のセンスを基に、作曲を試みる。
ソナタ形式の主題の作り方、転調、展開のさせ方、また、綬徐楽章の旋律作法、和声づけ、変奏法などを、楽曲分析を交えて学び、各自、作曲を試みる。また、歌曲の創作の方法を学び、実践する。
その他、さまざまな編曲法を学び、実際に簡単な曲を基に、混声合唱、あるいは女声合唱、児童合唱、および合奏曲への編曲を試みる。

到達目標:　中学校・高等学校の音楽教科の職についた場合、授業をする上で困らない程度の作曲および編曲の技法を、習得する。

授業方法:　形式や方法論など論じた上で、各々書いたものを添削する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ソナチネ形式の分析および創作1	ソナチネ形式について調べる、
2.	ソナチネ形式の分析および創作2	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
3.	ソナチネ形式の分析および創作3、歌曲の分析1	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
4.	ソナチネ形式の分析および創作4、歌曲の分析2	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
5.	歌曲の創作1	歌曲の形式について調べる。
6.	歌曲の創作2、 合唱曲の分析1	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
7.	歌曲の創作3、 合唱曲の分析2、 合唱曲への編曲1	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
8.	合唱曲への編曲2	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
9.	合唱曲への編曲3	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
10.	ソナチネ形式の分析および創作5、 合奏曲への編曲1	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
11.	ソナチネの創作6、 合奏曲への編曲2	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
12.	ソナチネの創作7、 歌曲の創作4、 合唱曲への編曲4	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
13.	ソナチネの創作8。 歌曲の創作5、 合唱曲への編曲5	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
14.	ソナチネの創作9、 歌曲の創作6、 合唱曲への編曲6	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。
15.	ソナチネの創作10、 歌曲の創作7、 合唱曲への編曲7	参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	
平常の学習状態	50	出席状況・小レポート提出状況など

教科書:

参考書:　参考文献や資料を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

345301、02

コンピュータ音楽演習

落　　晃子

授業テーマ:　現在の様々なミュージックメディア、および音楽制作方法について

授業の概要:　現在の音楽シーンで活用されている様々なミュージックメディア、また、インターネットやコンピュータ、MIDIの基礎について学び、音楽制作ソフトを使用して簡単な作品制作を行う。
また、授業内でMIDI検定4級認定試験を実施する。

到達目標:　最新の音楽制作手法やミュージックメディアなどについて学びながら、MIDI理論の基礎を習得する。
並行して、ボーカロイドソフト、音楽制作ソフト操作方法を学び、用途に応じた音楽作品制作ができるようになる。

授業方法:　講義、演習。
教科書を中心に、keynoteや動画、音楽作品等の視聴覚教材を多用しながら、講義を展開する。並行して、楽譜制作ソフトによる楽譜作成方法や、DAWソフトによるオリジナル音楽作品制作方法、フリーのボーカロイドソフトによる音声入力方法などについて解説する。
また、授業内でMIDI検定4級検定を実施し、合格者にはMIDI検定4級資格を認定する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	最新のミュージックメディアについて	パソコン、スマホ、タブレットによる音楽制作について事前に調べておく
2.	音楽ソフト（DAWソフト)について/DAWソフトによるスコア入力	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
3.	音楽ソフト（楽譜作成ソフト、ループシーケンサ等)について/DAWソフトによるスコア入力	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
4.	音楽ソフト(プラグインシンセ、サウンド編集、音楽環境作成言語等)について/DAWソフトによるスコア入力	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
5.	MIDI知識（MIDI理論概要）/DAWソフトによるスコア入力	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
6.	MIDI知識（GeneralMIDIについて）/ボーカロイドソフトによるサウンドロゴ制作	自宅パソコン等にボーカロイドソフト（フリーウェア）をインストールし、予習、課題の作成をすすめておく。
7.	接続端子とケーブルについて/ボーカロイドソフトによるサウンドロゴ制作	自宅パソコン等にボーカロイドソフト（フリーウェア）をインストールし、予習、課題の作成をすすめておく。
8.	コンピュータ知識（コンピュータの構成、USBとFireWire）/ボーカロイドソフトによるサウンドロゴ制作	自宅パソコン等にボーカロイドソフト（フリーウェア）をインストールし、予習、課題の作成をすすめておく。
9.	コンピュータ知識（データ保存・管理方法)/オリジナル音楽制作	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
10.	タブレット、スマートフォンを使用した音楽制作/オリジナル音楽制作	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
11.	オーディオ知識（音の基本知識、録音、サンプリング、圧縮オーディオ)/オリジナル音楽制作	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
12.	オーディオ知識（音編集、エフェクター、ミキシング、マスタリング)/オリジナル音楽制作	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
13.	楽譜の知識、著作権/オリジナル音楽制作	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
14.	MIDI検定4級実施/オリジナル音楽制作	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく
15.	検定復習、音楽課題作品合評、まとめ	可能な限り自宅環境で作品制作をすすめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　コンピュータやスマートフォンなどの一般的操作方法は身につけておくこと。
また、日頃から身の回りのミュージックメディアについて意識してください。

フィードバックの方法:　個々の課題については、合評を行い、コメントを返します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、コンピュータによる基礎的な音楽制作手法を習得できたかどうかを評価する。
MIDI検定結果	15	MIDI検定試験の取得点数により評価する。
課題提出	35	各課題に設定する要件を充たした作品制作ができたかどうかについて評価する。

教科書:　ミュージッククリエイター入門 音楽電子事業協会

参考書:　松前公高著　いちばんわかりやすいDTMの教科書 リットー・ミュージック
ミュージッククリエイターハンドブック MIDI検定公式ガイド リットー・ミュッジック

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール:aochi@dwc.doshisha.ac.jp

348200

オペラⅢ

井上　　敏典

授業テーマ:　総合芸術としてのオペラへのプロセスを体得

授業の概要:　モーツァルトのオペラ「フィガロの結婚」を研修テーマとして取り上げ、その中で求められる基本的な歌唱表現と身体表現の相乗的、効果的な修得を研究する。

到達目標:
1. 舞台上での基本的な所作知識。
2. 演技をしながらの歌唱法。

授業方法:　演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスとあらかじめ発表していた曲の音楽稽古	「フィガロの結婚」ヴォーカルスコア（ベーレンライター版）の指定部分の譜読みをしておくこと。
2.	音楽練習①	譜読み。
3.	資料映像「アマデウス」鑑賞	特に無し
4.	音楽練習② 立稽古のための説明	楽譜精読とイメージ作り。
5.	音楽稽古③ ScenaⅣ　No.5Duettino　立稽古	キャラクター作り。
6.	音楽稽古④ ScenaⅣ　No.5Duettino　立稽古	キャラクター作り。
7.	音楽稽古⑤ ScenaⅣ　No.5Duettino　立稽古	キャラクター作り。
8.	音楽稽古⑥ ScenaⅣ　No.5Duettino N0.15 Duettino　・Recitativo　立稽古	楽譜精読とイメージ作り。
9.	音楽稽古⑦ N0.15 Duettino　・Recitativo　立稽古	キャラクター作り。
10.	音楽稽古⑧ N0.15 Duettino　・Recitativo　立稽古	キャラクター作り。
11.	音楽稽古⑨ N0.15 Duettino　・Recitativo ScenaⅩ・No.21　Duettino　立稽古	楽譜精読とイメージ作り。
12.	音楽稽古⑩ ScenaⅩ・No.21　Duettino　立稽古	キャラクター作り。
13.	音楽稽古⑪ ScenaⅩ・No.21　Duettino　立稽古	キャラクター作り。
14.	音楽稽古⑫ ScenaⅣ　No.5Duettino N0.15 Duettino　・Recitativo ScenaⅩ・No.21　Duettino　立稽古	各キャラクターをどのように使い分けられるか、イメージを熟成させておくこと。
15.	本公演に向けてのオーディション	本公演で演じたい役のアリアを用意。第2希望目まで考えておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業内の演習個所は、授業の進み具合によって変動する。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	80	到達レベルではなく、いかに積極的に自己改革を行おうとしてかに重点をおく。
発表	20	授業内発表においての歌唱と演技の進展度。

教科書:
オペラ「フィガロの結婚」ベーレンライター版
①ScenaⅣ　No.5Duettino
②N0.15 Duettino　・Recitativo
③ScenaⅩ・No.21　Duettino

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応。Eメール（tinoue@dwc.doshisha.ac.jp）。

348300 **オペラⅣ**

井上　　敏典

授業テーマ:　総合芸術としてのオペラ制作へのプロセスを体得。

授業の概要:　モーツァルト作曲「フィガロの結婚」を研究テーマとし、公演に向けての実践性を追求する。

到達目標:
1. キャラクター設定とそれに伴う歌唱表現。
2. より拡大された身体表現の修得とテクニック。
3. より安定した指揮の見方。
4. オペラ制作のための運営法。

授業方法:　演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	秋学期の授業の進め方ガイダンス。 第1幕　立稽古①	夏季休業中に過去の公演映像を見て、大まかな動きをつかんでおく。 第1幕よりスタートするため、該当する役の人はスタンバイしておく。
2.	立稽古 第1幕② 第2幕①	第2幕前半までスタンバイ。
3.	立稽古 第2幕② 第3幕①	第３幕前半までスタンバイ。
4.	立稽古 第3幕① 第4幕②	第4幕前半までスタンバイ。
5.	立稽古 第4幕② 第1幕①	第1幕に戻る可能性有のため、該当者はスタンバイ。
6.	立稽古 第1幕② 第2幕①	キャストが揃うように調整すること。
7.	立稽古 第2幕② 第3幕①	キャストが揃うように調整すること。
8.	立稽古 第3幕② 第4幕①	キャストが揃うように調整すること。
9.	立稽古 第4幕② 第1幕～	2順目の立稽古が終わると、不規則な幕稽古で進行。 スケジュール担当者が調整するようになる。
10.	立稽古①	男声キャストの参加が見込まれてくるため、その準備にはいること。
11.	立稽古②	新島記念講堂の本番舞台が使えるようになれば、その空間に慣れることを考える。
12.	立稽古③	分担された担当が円滑に遂行されるように配慮する。
13.	立稽古④	練習の円滑運営に邁進。
14.	立稽古⑤	演奏者であることも忘れないように運営を進める。
15.	立稽古⑥	本番に向けての集中。

受講者へのメッセージやアドバイス:　春学期修了時に決定された配役に則って、夏休み中に過去の公演の資料映像を見て事前に研究をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室にてまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	80	積極的な態度と、いかに自分に足りないものを習得したかを評価する。
本番出演	20	本番での演奏評価。

教科書:　ベーレンライター版「フィガロの結婚」 ピアノヴォーカルスコア

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。Eメール（tinoue@dwc.doshisha.ac.jp）。

349401、02

指揮法Ⅰ

加藤　　完二

授業テーマ:　指揮法の基本と実践

授業の概要:　指揮の基礎を学ぶことによって、合奏に対するアンサンブル意識と、音楽の表現方法を学び、自分自身の専門に活かす授業を行う。

到達目標:　簡単なピアノ曲を使い、基本のリズム（2拍子・3拍子・4拍子）のわかりやすい指揮、見にくい指揮、そして音楽の組み立て、自分の気持ちの伝達について、実践を交えて解説する。

授業方法:　ピアノあるいは専門の楽器を用いて、実際に振りながら授業を進めていきます。
オーケストラ専攻生及びピアノ科専攻生は、授業内で実際に演奏してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業内容説明と基礎運動	指揮の基礎中の基礎の運動理論を学ぶ。
2.	2拍子の運動（叩きとしゃくい）	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
3.	3拍子の運動（叩きとしゃくい）	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
4.	4拍子の運動（叩きとしゃくい）	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
5.	応用問題	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
6.	直接運動の説明	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
7.	ソナチネを用いて3拍子の曲の表現の仕方を学ぶ	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
8.	ソナチネを用いて3拍子の曲の表現の仕方を学ぶ	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
9.	ソナチネを用いて4拍子の曲の表現の仕方を学ぶ	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
10.	ソナチネを用いて4拍子の曲の表現の仕方を学ぶ	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
11.	今までの見極め。	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
12.	オースチン作曲「お人形の夢と目覚め」を用いて2・3・4拍子の実践総合練習	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
13.	オースチン作曲「お人形の夢と目覚め」を用いて2・3・4拍子の実践総合練習	授業内で演奏する内容を、指名されたものは、必ず予習すること。
14.	オースチン作曲「お人形の夢と目覚め」を用いて順番に試験を実施	自分が振ってない時でも演奏に参加して協力する。
15.	オースチン作曲「お人形の夢と目覚め」を用いて順番に試験を実施	自分が振ってない時でも演奏に参加して協力する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業を受けることで、楽曲の表現の仕方をまなぶ。

フィードバックの方法:　自分の専門楽器に、フィードバックできる音楽の構成を学ぶ。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の取り組み・姿勢	20%	授業内態度や出席等で判断します。
小テスト（授業内で行う見極めテスト）	20%	授業内で、見極めのため実技を指名します。
定期試験	60%	最終授業内、およびその前の最終2週において、実技試験を行う。

教科書:

参考書:　ソナチネアルバムNo.26 No29
オースチン：お人形の夢と目覚め

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力

教員との連絡方法:　質問があれば、wolfeekanji3@outlook.jp で受け付けます。

349500

指揮法Ⅱ

加藤　　完二

授業テーマ:　指揮の基本テクニック習得と表現方法の習得

授業の概要:　春学期に学んだ、基礎を応用して、いろんな楽曲を分析する。

到達目標:　それぞれに実技を中心に受けられるよう進めていく。
内容は指揮法Iで学んだ基礎をより深く細かなテクニックを習得をめざす。
指揮法Iを習得した者が、受講する事が出来る。
実力に会った楽曲を選択し、その楽曲の分析と解釈を考える。
管弦打及びピアノ科専攻生は、実際に楽器を演奏していただきます。

授業方法:　受講生みずからアンサンブルを編成し、それを順番に振り、見にくい見やすいを考えていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基本動作及び指揮法Iの理解度をチェックする	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
2.	ソナチネを利用して技術をより深く研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
3.	各個人、実技を交えて楽曲分析をしながら曲の構成研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
4.	各個人、実技を交えて楽曲分析をしながら曲の構成研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
5.	各個人、実技を交えて楽曲分析をしながら曲の構成研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
6.	管弦楽曲を用いて見やすい指揮でいかにして気持ちの伝達方法を考える	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
7.	管弦楽曲を用いて見やすい指揮でいかにして気持ちの伝達方法を考える	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
8.	管弦楽曲を用いて見やすい指揮でいかにして気持ちの伝達方法を考える	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
9.	理解度チェック	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
10.	みずからが演奏に参加して、どういうことがプレーヤーが見やすい指揮、見にくい指揮の研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
11.	みずからが演奏に参加して、どういうことがプレーヤーが見やすい指揮、見にくい指揮の研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
12.	みずからが演奏に参加して、どういうことがプレーヤーが見やすい指揮、見にくい指揮の研究	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
13.	DVDを鑑賞し、スコアの理解の仕方を研究する	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
14.	DVDを鑑賞し、スコアの理解の仕方を研究する	基本的に、次週行う曲の下調べ等は必ず行い、翌週に備える。
15.	まとめ	自分がどの程度、触れるようになったのか、自分で確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　教育実習いって、実際に指揮するときに、困らないように。
このクラスは、実践を中心に授業を進めます。

フィードバックの方法:　春学期で学んだことを応用して、いろんな楽曲に挑戦する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	40%	出席や、遅刻、早退なくしっかり復讐してるかどうかを判断する。
定期試験	60%	授業の最終日に、実技を実施。自分の番でないものは、演奏者として参加する。

教科書:

参考書:　その都度各自で用意する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力、伝達力

教員との連絡方法:　質問があれば、wolfeekannji3@outlook.jp
まで連絡してください。

351100

特別支援教育

井坂　　行男

授業テーマ:

特別な教育的ニーズを有する幼児児童生徒の障がいや諸特性を理解し、適切な教育支援を実践する特別支援教育の現状と課題、さらに、インクルーシブ教育システム構築における現状と課題を学び、インクルーシブ教育の理念、制度、実践についての理解を深める。

授業の概要:

障がいや教育的ニーズのある幼児児童生徒に対する特別支援教育を学ぶ上で必要な基礎知識を得るための解説と、皆さん自身による集団討論による情報交流や意見交換も実施しながら、理解を促進しつつ、講義を展開していく。前半部分の特別支援教育総論を学んだ後に、障がいごとの各論や支援方法を学ぶ。障がい各論ではDVD視聴や演習なども交えながら、より具体的に障がいの特性や支援方法が理解できるようにする。

到達目標:

一人一人の幼児児童生徒にそれぞれ個性があるように、様々な特別な教育的ニーズを有する幼児児童生徒にもそれぞれの個性や発達の道筋、障がいや教育的ニーズの特性がある。これらの基本的な理解に基づいて、様々な特別な教育的ニーズを有する幼児児童生徒の発達支援の在り方を、特別支援教育やインクルーシブ教育の理念・制度、具体的な実践について学ぶことを目標にする。

授業方法:

講義、集団討論、演習（障がいの擬似体験）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人間とは何か、障がいとは何か－障がい理解－障がいを有することと教育的ニーズについて	障がいとは何かについて、予習して、考えをまとめておくこと
2.	個人及び社会の障がい理解認識－「国際生活機能分類」「障がい児教育の創始」－	国際障がい分類及び国際生活機能分類について、予習しておくこと
3.	障がい児教育の現状（1）－障がい児教育の歴史－障がい児教育の黎明期・発展充実期・社会福祉改革期	障がい児教育の概要を調べておくこと
4.	障がい児教育の現状（2）－特別支援教育－特別支援教育制度と発達障がい	文部科学省特別支援教育のHPを参照して、特別支援教育に関する答申や報告、特別支援教育資料を予習していくこと
5.	障がい教育の現状（3）－日本のインクルーシブ教育システム－インクルーシブ教育システムの構築	文部科学省特別支援教育のHPを参照して、インクルーシブ教育システム構築に関する答申や報告を予習していくこと
6.	特別支援教育の対象（1）－障がいごとの特性と支援方法－視覚障がい児の教育・聴覚障がい児の教育	国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、視覚障がい児教育及び聴覚障がい児教育の概要を予習しておくこと
7.	特別支援教育の対象（2）－障がいごとの特性と支援方法－知的障がい児の教育	国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、知的障がい児教育の概要を予習しておくこと
8.	特別支援教育の対象（3）－障がいごとの特性と支援方法－運動障がい児の教育	国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、運動障がい児の教育の概要を予習しておくこと
9.	特別支援教育の対象（4）－障がいごとの特性と支援方法－その他の障がい児の教育	国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、病弱・言語障がい児教育等の概要を予習しておくこと、
10.	特別支援教育の対象（5）－障がいごとの特性と支援方法－発達障がい児の教育	文部科学省特別支援教育及び国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、発達障がい児の教育の概要を予習しておくこと
11.	インクルーシブ教育の目指すもの－共感・共学・共生・共育の共育－基礎的環境整備と合理的配慮	文部科学省特別支援教育及び国立特別支援教育総合研究所のHPを参照して、基礎的環境整備と合理的配慮について、予習しておくこと
12.	演習1（障がいの擬似体験）－視覚障がい・聴覚障がい・運動障がい－	視覚障がい、聴覚障がい、運動障がい等の当事者の体験や思いについて、予習しておくこと
13.	演習2（障がいの擬似体験）－視覚障がい・聴覚障がい・運動障がい－	視覚障がい、聴覚障がい、運動障がい等の当事者の支援方法について、予習しておくこと
14.	特別支援教育の現状と課題－特別支援学校と通常の学校－集団討論	特別支援学校と通常の学校における特別支援教育の対象児の教育支援の実際を調べておくこと
15.	日本のインクルーシブ教育システムの構築について－諸外国との比較－集団討論を含む	諸外国のインクルーシブ教育の動向を調べておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

国連の「障がい者の権利に関する条約」を締結した我が国は「インクルーシブな社会」の構築を目指して、教育システムにおいても、インクルーシブ教育システムの構築に取り組んでいます。ですから、教育や子ども達の支援に関わる人達は特別支援教育に関する知識理解や支援技能を習得していることが求められています。授業では皆さん一人一人の考えや思いを大切にするために、集団討論等も取り入れていますので、積極的に授業に参加して下さい。

フィードバックの方法:

授業の質問や集団討論時の意見に関する吟味や応答、小レポートの返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物（小レポート 4）	40	課題の到達目標を達成しているかを評価する
授業や集団討論への積極的参加度	20	授業や集団討論への参加を評価する
試験	40	適切な理解に基づく、解答がなされているかどうかを評価する

教科書:

参考書:

文部科学省　特別支援教育に関するHP
独立行政法人　国立特別支援教育総合研究所HP

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

isaka@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

351800、
352000、
352200、
352400

合奏Ⅰ、合奏Ⅲ、合奏Ⅴ、合奏Ⅶ

筒井　　はる香

授業テーマ:　ピアノを含む器楽アンサンブルの基礎

授業の概要:　この授業はピアノを含む器楽アンサンブルのグループレッスンです。授業ではグループごとにレッスンを行います。演奏する曲は原則として予め登録の時に提出したものをします。

到達目標:　ピアノを含む器楽アンサンブルの基礎を習得することを目標とします。
なお、あくまでも器楽アンサンブルの学習を目的とし、楽器演奏にかかわる個人的な技術指導は行わないため、あらかじめ留意のうえ登録のこと(楽器演奏の既習者であること)。
また他のグループのレッスンを聞くことによって、合奏の観点から分析的に聞く力をつけることを目標とします。

授業方法:　器楽アンサンブル実技。演習の形式をとる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション―合奏とは何か	合奏で使用する楽譜、楽器を持参すること
2.	グループに対応した指導(1)	個人・グループによる練習
3.	グループに対応した指導(2)	個人・グループによる練習
4.	グループに対応した指導(3)	個人・グループによる練習
5.	グループに対応した指導(4)	個人・グループによる練習
6.	中間発表会(1)	個人・グループによる練習
7.	グループに対応した指導(5)	個人・グループによる練習
8.	グループに対応した指導(6)	個人・グループによる練習
9.	グループに対応した指導(7)	個人・グループによる練習
10.	グループに対応した指導(8)	個人・グループによる練習
11.	中間発表会(2)	個人・グループによる練習
12.	グループに対応した指導(9)	個人・グループによる練習
13.	グループに対応した指導(10)	個人・グループによる練習
14.	グループに対応した指導(11)	個人・グループによる練習
15.	総仕上げ(演奏発表会)	個人・グループによる練習

受講者へのメッセージやアドバイス:　演奏する曲目は原則として登録の際に提出したものにしてください。準備する曲は、2曲程度が望ましい。グループレッスンが主体となるため、各人が責任をもって授業に参加してください。

フィードバックの方法:　提出物がある場合は教室で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	70	グループレッスンでの態度・意欲を評価します。
発表	30	グループでの発表で自分の役割がどの程度果たせているかを評価します。

教科書:　特になし

参考書:　練木繁夫、『A をください : ピアニストと室内楽の幸福な関係』春秋社、 2003年
ハーター・ノートン、『クァルテットの教科書』、阿部卓也、大橋咲子訳、春秋社、1997年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　原則として授業の前後に対応します。

351900、
352100、
352300、
352500

合奏Ⅱ、合奏Ⅳ、合奏Ⅵ、合奏Ⅷ

筒井　　はる香

授業テーマ:　ピアノを含む器楽アンサンブルの基礎

授業の概要:　この授業はピアノを含む器楽アンサンブルのグループレッスンです。授業ではグループごとにレッスンを行います。演奏する曲は原則として予め登録の時に提出したものをします。

到達目標:　ピアノを含む器楽アンサンブルの基礎を習得することを目標とします。
なお、あくまでも器楽アンサンブルの学習を目的とし、楽器演奏にかかわる個人的な技術指導は行わないため、あらかじめ留意のうえ登録のこと(楽器演奏の既習者であること)。
また他のグループのレッスンを聞くことによって、合奏の観点から分析的に聞く力をつけます。

授業方法:　器楽アンサンブル実技。演習の形式をとる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション—合奏とは何か	合奏で使用する楽譜、楽器を持参すること
2.	グループごとのレッスン(1)	個人・グループによる練習
3.	グループごとのレッスン(2)	個人・グループによる練習
4.	グループごとのレッスン(3)	個人・グループによる練習
5.	グループごとのレッスン(4)	個人・グループによる練習
6.	中間発表会(1)	個人・グループによる練習
7.	グループごとのレッスン(5)	個人・グループによる練習
8.	グループごとのレッスン(6)	個人・グループによる練習
9.	グループごとのレッスン(7)	個人・グループによる練習
10.	グループごとのレッスン(8)	個人・グループによる練習
11.	中間発表会(2)	個人・グループによる練習
12.	グループごとのレッスン(9)	個人・グループによる練習
13.	グループごとのレッスン(10)	個人・グループによる練習
14.	グループごとのレッスン(11)	個人・グループによる練習
15.	総仕上げ(発表会)	個人・グループによる練習

受講者へのメッセージやアドバイス:　演奏する曲目は原則として登録の際に提出したものにしてください。用意する曲目は、2曲程度が望ましい。グループレッスンが主となるため、各人が責任をもって授業に参加してください。

フィードバックの方法:　提出物は教室で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	70	グループレッスンでの態度・意欲を評価します。
発表	30	グループでの発表で自分の役割がどの程度果たせているかを評価します。

教科書:　特になし

参考書:　練木繁夫、『Aをください: ピアニストと室内楽の幸福な関係』、春秋社、2003年
ハーター・ノートン、『クァルテットの教科書』、阿部卓也、大橋咲子訳、春秋社、1997年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　原則として授業時間の前後に対応

353001～05　**コンピュータ活用**

石上　和也、藤澤　敬子、渡辺　直人

授業テーマ:

授業の概要:　情報化社会で必要なコンピュータ活用技術の習得

到達目標:　情報技術は著しい進化を遂げているが、とりわけコンピュータは我々の日常生活にも必要不可欠になっている。進化し続ける技術に翻弄されることなく、また安全に活用するためには、基本を正しく理解することが必要である。
本講座は、インターネット、コンピュータ、ソフトウェアの基礎知識の理解と、コンピュータの操作および、文書作成ソフトと表計算ソフト等の活用技術を習得する

授業方法:　毎回、授業前半に講義をおこない、後半は演習をおこなう。講師による講義と、情報処理教室のパーソナルコンピュータを1人1台ずつ使用し、操作演習と課題演習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	情報倫理、インターネットの仕組みと機能、コンピュータの仕組みと機能について 基本ソフト(Windows)の理解と操作 日本語入力機能(IME)の理解と操作 文書作成ソフトの機能について 文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その1)	予習:Word／Excelの機能について、インターネット等で調べておくこと。
2.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その2)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
3.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その3)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
4.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その4)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
5.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その5)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
6.	文書作成ソフト(Word)の技術習得と課題演習(その6)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
7.	表計算ソフトの機能について 表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その1)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
8.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その2)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
9.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その3)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
10.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その4)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
11.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その5)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
12.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その6)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
13.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その7)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
14.	表計算ソフト(Excel)の技術習得と課題演習(その8)	予習:前回授業で習得したことを復習すること。
15.	全体のまとめ	予習:前回授業で習得したことを復習すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出した演習課題に対して、教室でまとめて解説をおこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点(出席、授業態度、積極的参加度)	70	到達目標「基礎知識の理解」ができているか評価する。 ＊具体的な評価基準・運用は担当教員が決めます。
課題提出	30	到達目標「コンピュータ操作、文書作成ソフト、表計算ソフト等の活用技術の習得」ができているか評価する。 ＊具体的な評価基準・運用は担当教員が決めます。

教科書:　石上 和也クラス、渡辺 直人クラスは下記教科書を使用:
「30時間でマスター　Office2016」Windows10対応(実教出版)
藤澤敬子クラスは下記教科書を使用:
「情報リテラシー アプリ編 Windows 10・Office 2016対応」(FOM出版)

参考書:　特に無し

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

353501～03 **楽典**

成田　和子、岡田　加津子、脇山　幹士

授業テーマ: 音楽理論の基礎的スキルの習得

授業の概要: 楽典を通して音楽の基礎的な理論を学ぶ。

到達目標: 楽譜の読み方や書き方、音楽用語を習得する。

授業方法: 講義および課題の実施

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	楽譜の基本、音名について	教科書の該当項目を予習
2.	音符と休符、拍子とリズム	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
3.	全音階、音程	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
4.	長音階、短音階、調名と調号	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
5.	転調と移調	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
6.	3和音と4和音、和音の基本形と展開形	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
7.	和音の進行と終止	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
8.	調律と音律	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
9.	速度標語と強弱記号、和声の基礎知識1	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
10.	速度や強弱の変更や変化、発想標語、表情記号、和声の基礎知識2	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
11.	発想標語、表情記号、和声の基礎知識3	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
12.	装飾音と装飾記号、反復記号と略記、和声の基礎知識4	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
13.	楽曲の分類、和声の基礎知識5	教科書の該当項目を予習、課題を実施する。
14.	まとめ1	復習1
15.	まとめ2	復習2

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	59	
出欠席の状態と平常の学習態度等	41	授業回数の3分の1以上の欠席者は、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書: 楽典　坂口博樹編著　成美堂出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

354600

ミュージックリテラチュアA

稲田　　雅美

授業テーマ:　音楽に関する英語文献を読み解く。

授業の概要:　英語文献に広く親しみ，英語の語彙を増やすことによって，音楽の専門知識を英語により習得する。

到達目標:
・英語による、音楽用語の習熟
・英語による、音楽の基礎知識の習熟
・英語による、音楽作品や作曲家についての知識の習得

授業方法:　与えられた訳読課題に取り組み，訳文を発表し合って内容の理解を確認する。重要単語や重要表現については，復習テストの機会を通して習得を確かなものにしていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英語による音楽用語の整理(1)	学習した用語と使用例文をノートに整理する。
2.	英語による音楽用語の整理(2)	同上
3.	音楽理論(1):音楽の要素	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要単語や重要表現をノートに整理する。
4.	音楽理論(2):音楽の構造	同上
5.	音楽理論(3):音楽の形式	同上
6.	まとめと復習テスト(1)	既習文献の総復習
7.	音楽作品(1);ピアノ作品	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要単語や重要表現をノートに整理する。
8.	音楽作品(2):オペラ作品	同上
9.	音楽作品(3):オーケストラ作品	同上
10.	まとめと復習テスト(2)	既習文献の総復習
11.	作曲家(1):古典派の作曲家	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要単語や重要表現をノートに整理する。
12.	作曲家(2):ロマン派の作曲家	同上
13.	作曲家(3):近現代の作曲家	同上
14.	まとめと復習テスト(3)	既習文献の総復習
15.	習得語彙の整理と授業内容の総括	既習教材に関して、英文法重要事項の復習を兼ねて内容の全般的見直しを行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日ごろから英語に親しむ習慣をつけること。

フィードバックの方法:　テストは採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および予復習状況	25%	予復習を伴う積極的な授業への参加を評価する。
復習テスト合計	75%	到達目標全項目の達成度を評価する。

教科書:　プリント配布による。

参考書:　授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

354700

ミュージックリテラチュアB

稲田　　雅美

授業テーマ:　音楽研究に必要な英語力の強化、ならびに、英語表現の独自性に関する吟味と考察。

授業の概要:　授業期間の前半は、音楽文化に関する英語文献を読み解きながら、英文法学習の徹底を行う。その上で、期間の後半では、英語圏の歌曲やミュージカル曲における美的でリズミックな歌詞表現を吟味するとともに、英語を訳して日本語の歌詞に置き換える試みも行う。

到達目標:
・英語文献を積極的に活用する基礎となる英文法の徹底習得
・英語による，音楽文化全般の知識の習得
・歌曲やミュージカル曲における英語表現のリズム性の習得

授業方法:　期間前半では、与えられた訳読課題に取り組み，訳文を発表しあうことにより、内容の理解を確認する。内容および英文法における重要事項については，復習テストの機会を通して習得を確かなものにしていく。期間の後半では、題材とする英語曲を履修者とともに選択し、実際に歌いながら歌詞の吟味を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英語による音楽用語の整理	学習した用語と使用例文をノートに整理する。
2.	文献講読と文法の整理(1)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要表現と文法事項をノートに整理する。
3.	文献講読と文法の整理(2)	同上
4.	文献講読と文法の整理(3)	同上
5.	文献講読と文法の整理(4)	同上
6.	文献講読と文法の整理(5)	同上
7.	まとめと復習テスト	既習文献の総復習
8.	英語曲(その1)の吟味	題材に選んだ英語曲を歌えるようにする。また、あらかじめ歌詞の直訳をしておく。
9.	英語曲(その1)の吟味	同上
10.	英語曲(その1)に日本語詞をつける	英語表現と日本語表現の独自性について考える。
11.	英語曲(その2)の吟味	題材に選んだ英語曲を歌えるようにする。また、あらかじめ歌詞の直訳をしておく。
12.	英語曲(その2)の吟味	同上
13.	英語曲(その2)に日本語詞をつける	英語表現と日本語表現の独自性について考える。
14.	英語曲の復習と応用の小テスト	英語曲の吟味から得られた知識やセンスを生かして、新たな英語曲に各自が日本語詞をつける。
15.	既習内容の整理と総括	文法事項の整理。ならびに英語がもつリズム性についての議論。

受講者へのメッセージやアドバイス:　文献購読では、英文法を詳しく解説しながら読み進めるので，当科目を履修する機会を通して英文法の苦手意識を克服してほしい。

フィードバックの方法:　テストは採点して返却する。英語曲の吟味に関しては、履修者のアイデアや歌詞作品についてその都度コメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と予復習状況	65%	予復習を伴う積極的な授業への参加を評価する。
テスト合計	35%	到達目標の全項目の達成度を評価する。

教科書:　プリント配布による。

参考書:　授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

354800

ミュージックリテラチュアC

稲田　　雅美

授業テーマ:　音楽教育に関する英語文献を読み解く。

授業の概要:　音楽の基礎知識を英語を通して確認しつつ，音楽教育の価値、理念、方法について考察する。

到達目標:
・英語による，音楽の基礎知識の習得
・音楽に関する英語文献を読むための英語語彙力を強化する。
・英語文献を通して音楽教育について考察する力を養う。

授業方法:　与えられた訳読課題に取り組み，訳文を発表し合って内容の理解を確認する。また，小グループで抄訳を作成して発表することも行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英語による音楽用語の整理(1)	学習した用語と使用例文をノートに整理する。
2.	英語による音楽用語の整理(2)	同上
3.	音楽教育の価値(1):音楽の力	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要単語や重要表現をノートに整理する。
4.	音楽教育の価値(2):子どもの成長と音楽	同上
5.	音楽教育の価値(3):表現と音楽	同上
6.	まとめと復習テスト(1)	既習文献の総復習
7.	音楽教育の理念:音楽教育家の思想(1)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要単語や重要表現をノートに整理する。
8.	音楽教育の理念:音楽教育家の思想(2)	同上
9.	音楽教育の理念:音楽教育家の思想(3)	同上
10.	まとめと復習テスト(2)	既習文献の総復習
11.	音楽教育の方法(1)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要単語や重要表現をノートに整理する。
12.	音楽教育の方法(2)	同上
13.	音楽教育の方法(3)	同上
14.	まとめと復習テスト(3)	既習文献の総復習
15.	習得語彙の整理と授業内容の総括	既習教材に関して、英文法の重要事項の確認を兼ね、内容の全般的復習を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日ごろから英語に親しむ習慣をつけること。

フィードバックの方法:　テストは採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および予復習状況	25%	予復習を伴う積極的な授業への参加を評価する。
テスト合計	75%	到達目標の全項目の達成度を評価する。

教科書:　プリント配布による。

参考書:　授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

354900

ミュージックリテラチュアD

稲田　　雅美

授業テーマ:　音楽と心理に関連する英語文献を読み解く。

授業の概要:　心理学や医学の基礎知識を踏まえながら，人間と音楽の関係について英語文献（専門書および論文）を通して考察する。

到達目標:
・心理学や医学に関する英語の語彙力を身につける。
・英語文献を通して，人間と音楽の関係について考察する力を身につける。

授業方法:　与えられた訳読課題に取り組み，訳文を発表し合って内容の理解を確認する。また，小グループで抄訳を作成して発表することも行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	英語による音楽用語および心理学用語の整理(1)	学習した用語と使用例文をノートに整理する。
2.	英語による音楽用語および心理学用語の整理(2)	同上
3.	文献講読(1)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要単語や重要表現をノートに整理する。
4.	文献講読(2)	同上
5.	文献講読(3)	同上
6.	まとめと復習テスト(1)	既習文献の総復習
7.	文献講読(4)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要単語や重要表現をノートに整理する。
8.	文献講読(5)	同上
9.	文献講読(6)	同上
10.	まとめと復習テスト(2)	既習文献の総復習
11.	文献講読(7)	教材文献の予習。内容と英文構造の把握に努める。復習として，重要単語や重要表現をノートに整理する。
12.	文献講読(8)	同上
13.	文献講読(9)	同上
14.	まとめと復習テスト(3)	既習文献の総復習
15.	習得語彙の整理と授業内容の総括	既習教材に関して、英文法の重要事項の確認を兼ね、内容の全般的復習を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日ごろから英語に親しむ習慣をつけること。

フィードバックの方法:　テストは採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および予復習状況	25%	予復習を伴う積極的な授業への参加を評価する。
テスト合計	75%	到達目標の全項目の達成度を評価する。

教科書:　プリント配布による。

参考書:　授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

355001～03　**アナリーゼⅠ**

成田　和子、橘　由美子

授業テーマ:　バロックから現代までの室内楽および管弦楽などの作品のスコアの読譜力と分析能力の取得

授業の概要:　アナリーゼⅠ･Ⅱを通して、バロックから現代までの室内楽および管弦楽などの作品をとりあげ分析する。各々の作品の構造上必要な要素（音素材、リズム素材、和声進行）、また、様式、形式、楽器法、など細かく分析した上でそれぞれの作曲家の書法を学び、さらに時代的背景を考え作曲家の音楽史的な立場を理解し、その作品の根源にある音楽的発想、概念を探る。

到達目標:　分析するスキルを養うことにより、いろいろな楽曲が分析できるようになること。

授業方法:　講義および演習形式。
実際の楽譜を基に曲の構成、調性、和声進行、その他楽曲を構成する要素を分析し、把握させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	和声と楽式のアナリーゼ　1. 旋律と和声　2. 和音　3. 和音の組み立て　4. 和音の分析　5. 分散和音　6. 非和声音	科書の該当ページの予習と課題曲の復習
2.	和声と楽式のアナリーゼ　7. カデンツの第１型　8. カデンツの第３型　9. ２部形式の曲　10. ３部形式の曲　11. ２部形式と3部形式の違い　12. コーダ	科書の該当ページの予習
3.	和声と楽式のアナリーゼ　13. カデンツの第３型　14. 低音位　15. ドミナント　16. サブドミナント　17. 主音の保続　18. 非和声音のつづき	科書の該当ページの予習
4.	和声と楽式のアナリーゼ　19. 近親調　20. 同主調　21. 転調　22. 複合３部形式	科書の該当ページの予習
5.	和声と楽式のアナリーゼ　23. TとしてのVI　24. 各種のD和音　25. 各種のS和音　26. 終止　27. 非和声音のおぎない	科書の該当ページの予習
6.	和声と楽式のアナリーゼ　28. ロンド形式	科書の該当ページの予習
7.	和声と楽式のアナリーゼ　29. ソナタ形式　30. ソナタ形式分析の要領	科書の該当ページの予習
8.	ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第8番 Op.13 ハ短調「悲愴」1	ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第8番 Op.13 ハ短調「悲愴」について調べる。
9.	ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第8番 Op.13 ハ短調「悲愴」2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
10.	ベートーヴェン：ピアノ・ソナタ第8番 Op.13 ハ短調「悲愴」3	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
11.	モーツアルト：弦楽セレナーデ K.525 ト長調「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」1	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
12.	モーツアルト：弦楽セレナーデ K.525 ト長調「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
13.	モーツアルト：弦楽セレナーデ K.525 ト長調「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」3	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
14.	まとめ1	復習1
15.	まとめ2	復習2

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	
平常点	41	出欠席の状態と平常の学習態度等

教科書:　和声と楽式のアナリーゼ　バイエルからソナタアルバムまで　島岡譲著　音楽之友社
楽譜『ソナチネ・アルバムI』
楽譜『モーツアルト　弦楽セレナーデ「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク　K525」』（スコア）

参考書:　プリントを授業時に配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

355101～03 **アナリーゼⅡ**

成田　　和子、橘　　由美子

授業テーマ:　バロックから現代までの室内楽および管弦楽などの作品のスコアの読譜力と分析能力の取得

授業の概要:　楽曲分析Ⅰ･Ⅱを通して、バロックから現代までの室内楽および管弦楽などの作品をとりあげ分析する。各々の作品の構造上必要な要素（音素材、リズム素材、和声進行）、また、様式、形式、楽器法、など細かく分析した上でそれぞれの作曲家の書法を学び、さらに時代的背景を考え作曲家の音楽史的な立場を理解し、その作品の根源にある音楽的発想、概念を探る。

到達目標:　分析するスキルを養うことにより、いろいろな楽曲が分析できるようになること。

授業方法:　講義および演習形式。
実際の楽譜を基に曲の構成、調性、和声進行、その他楽曲を構成する要素を分析し、把握させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	バッハ：2声と3声のインヴェンションおよび平均率クラヴィーア曲集より選曲1	バッハの鍵盤楽器作品について調べる。
2.	バッハ：2声と3声のインヴェンションおよび平均率クラヴィーア曲集より選曲2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
3.	バッハ：2声と3声のインヴェンションおよび平均率クラヴィーア曲集より選曲 3	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
4.	バッハ：無伴奏ヴァイオリンのための楽曲やオルガンのための楽曲などより選曲1	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
5.	バッハ：無伴奏ヴァイオリンのための楽曲やオルガンのための楽曲などより選曲2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
6.	ベートーヴェン：交響曲第1番 Op.21 ハ長調 1	ベートーヴェン：交響曲第1番 Op.21 ハ長調 について調べる。
7.	ベートーヴェン：交響曲第1番 Op.21 ハ長調 2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
8.	ベートーヴェン：交響曲第1番 Op.21 ハ長調 3	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
9.	ベートーヴェン：交響曲第1番 Op.21 ハ長調 4	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
10.	ショパン：ピアノ・ソナタ第2番 Op.35 変ロ短調　第一楽章1	ショパン：ピアノ・ソナタ第2番 Op.35 変ロ短調について調べる。
11.	ショパン：ピアノ・ソナタ第2番 Op.35 変ロ短調　第一楽章2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
12.	ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第一番ト長調「雨の歌」第一楽章1	ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第一番ト長調「雨の歌」について調べる。
13.	ブラームス：ヴァイオリン・ソナタ第一番ト長調「雨の歌」第一楽章2	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
14.	ウェーベルン：ピアノのための変奏曲 Op.27　第1・2楽章	課題曲の読譜を行う。分析をまとめる。
15.	まとめ	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	
平常点	41	出欠席の状態と平常の学習態度等

教科書:　楽譜　ベートーヴェン　交響曲第1番 Op.21ハ長調（オーケストラスコア）

参考書:　プリントを授業時に配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

355201、02

オーケストレーションⅠ

葛西　　聖憲、安村　　好弘

授業テーマ:　楽器法を学び、ピアノ曲等を管弦楽曲に編曲する

授業の概要:　オーケストラで使われる各々の楽器（弦楽器・木管楽器・金管楽器・打楽器など）について、講義をする。また、楽器の音を聴き（録音されたもの、またはその楽器そのものによる実際の音等）、譜例を参照し、また演奏している画像を見ることによって学ぶ。
それを基に、古典的な編成によるオーケストラ作品を分析すると共に、その編成でのオーケストレーションの実習をする。

到達目標:　オーケストラでの種々の楽器についての知識を身につけ、それを基にオーケストレーションができるようにする。

授業方法:　基本的に下記のような順序にしたがって、授業を行う。
1. 弦楽器の説明
2. ピアノ曲を弦楽合奏に編曲する実習
3. 木管・金管楽器の説明
4. 木管合奏曲（少数の金管も含む）の分析
5. 基本的な打楽器の説明
6. Beethoven作曲　交響曲第1番の分析
7. ピアノ曲を古典的な2管編成によるオーケストラへ編曲する実習

クラス授業。講義形式と演習形式とを、その都度組み合わせて、進行する。講義形式では、板書し、口頭でも説明するが、その他、教材提示機、映像機器などを使って視覚による把握も促す。また、演習の場合、その場で課題を出して実習したり、授業時間だけで終えられないときなどは、それを宿題とすることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	弦楽器について　1	オーケストラ作品やオーケストラで使われる楽器の曲をいろいろ聴いてみること
2.	弦楽器について　2	前回の授業の復習をすること
3.	弦楽器について　3	前回の授業の復習をすること
4.	弦楽合奏について	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	木管楽器について　1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	木管楽器について　2	前回の授業の復習をすること
7.	金管楽器について　1	前回の授業の復習をすること
8.	金管楽器について　2	前回の授業の復習をすること
9.	木管金管合奏について	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	打楽器について	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析　1 オーケストレーションの実習　1	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析　3 オーケストレーションの実習　2	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析　3 オーケストレーションの実習　3	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析　4 オーケストレーションの実習　4	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	古典的な編成によるオーケストラ作品分析　5 オーケストレーションの実習　5	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　日頃からオーケストラ作品やオーケストラで使われる楽器の曲をいろいろ聴いて、可能であれば楽譜を見ながら、各楽器の音色や性能、楽器の組み合わせ方による音色など、自分自身でも体験するように。

フィードバックの方法:　参考文献や配布資料を参照する。
課題を実施する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート提出	60	正確に書かれているか、工夫は見られるか　など
平常点	40	学習態度、小レポートなど

教科書:　楽譜　Beethoven作曲　交響曲第1番（オーケストラスコア）

参考書:　ヴォルター・ピストン著　戸田邦雄訳　管弦楽法（音楽之友社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

355301、02

オーケストレーションⅡ

葛西　　聖憲、安村　　好弘

授業テーマ:　楽器法を学び、ピアノ曲等を管弦楽曲に編曲する。

授業の概要:　ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲を分析し、各楽器の用法について学習する。
また、それを踏まえて、実際に、ピアノ曲などの小品を3管編成程度のオーケストラに編曲する。

到達目標:　オーケストレーションⅠに引き続き、さらに編入楽器などについても詳しく学び、3管編成などの管弦楽作品を分析し、それを基にピアノ曲などの3管編成でのオーケストレーションも実施する。

授業方法:　楽譜(オーケストラスコア)に加えCD・レコード等の演奏を参考に、管弦楽曲を分析する。
併せてオーケストラ用五線紙を用い、実際にオーケストレーションの演習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オーケストレーションⅠで説明できなかった派生楽器およびその他打楽器等の説明　1	オーケストレーションⅠを復習すること
2.	オーケストレーションⅠで説明できなかった派生楽器およびその他打楽器等の説明　2	前回の授業の復習をすること
3.	オーケストレーションⅠで説明できなかった派生楽器およびその他打楽器等の説明　3	前回の授業の復習をすること
4.	オーケストレーションⅠで説明できなかった派生楽器およびその他打楽器等の説明　4	前回の授業の復習をすること
5.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　1 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　1	前回の授業の復習をすること
6.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　2 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　2	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　3 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　3	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　4 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　4	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　5 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　5	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　6 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　6	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　7 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　7	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　8 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　8	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　9 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　9	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　10 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　10	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	ロマン派、および近代の3管編成程度の管弦楽曲の分析　11 ピアノ曲を3管編成程度のオーケストラ編曲　11	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　日頃からオーケストラ作品やオーケストラで使われる楽器の曲をいろいろ聴いて、可能であれば楽譜を見ながら、各楽器の音色や性能、楽器の組み合わせ方による音色など、自分自身でも体験するように。

フィードバックの方法:　参考文献や配布資料を参照する。課題を実施する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート提出	60	正確に書かれているか、工夫は見られるか　など
平常点	40	学習態度・小レポートなど

教科書:　楽譜　Debussy作曲「牧神の午後への前奏曲」(オーケストラスコア)

参考書:　ヴォルター・ピストン著　戸田邦雄訳　管弦楽法(音楽之友社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

355400

音楽とキャリアデザイン

音楽未定9

授業テーマ:　自分をプロデュースする

授業の概要:　社会に開かれた音楽活動を実践することをめざす第一歩として、「音楽に関わる自己」を知ることと、音楽関連の職業について広く知識や情報を得ることを目標とする。その目標へのプロセスにおいてディスカッションやプレゼンテーションをすることといった社会性の基礎力を養うと同時に自分の未来像を考える礎とする。

到達目標:　知識・理解:「音楽に関わる自己」を知る。音楽関連の職業について広く知識や情報を得る。
関心・意欲・態度:積極的に授業に参加し、ディスカッションやプレゼンテーションをする。自分の未来像を考える。
表現・技能・能力:社会性の基礎力としてディスカッションやプレゼンテーションができる。

授業方法:　グループワークや個別ワーク、ディスカッション等により課題に取り組み、ゲストスピーカーによる実践現場の現状のヒアリングや、課題の遂行にともなうグループ発表の機会を設定し、プレゼンテーション能力を磨く。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション「キャリア」への意識づくり	キャリアとは何かを考えてくる
2.	音楽関係の仕事について知る(発表)1	音楽関係の仕事について調べる
3.	音楽関係の仕事について知る(発表)2	音楽関係の仕事について調べる
4.	人に伝える「企画書について」	企画書について調べる
5.	人に伝える「情報の収集と整理」	情報収集・整理について調べる
6.	人に伝える「取材演習:インタビューセッション」	取材・インタビューについて調べる
7.	人に伝える「企画書の作成」	企画書制作とはどのように行うかを調べる
8.	人に伝える「プレゼンテーション」	プレゼンテーションとは何かを調べる
9.	現場の声「企業と教育現場」	企業と教育現場について調べる
10.	現場の声「音楽の現場最前線!ホールを聴く、ホールを弾く」	音楽の現場・ホールについて調べる
11.	現場の声「演奏会制作と企画の現場」	演奏会制作と企画について調べる
12.	現場の声「『人生を設計する』ということ」	「人生を設計すること」について調べる
13.	演奏会を企画する(1)チャリティーコンサート等のプログラムを組む	チャリティーコンサート等のプログラムを準備する
14.	演奏会を企画する(2)上記(1)の演奏発表1	演奏発表の準備をする
15.	演奏会を企画する(3)上記(1)の演奏発表2およびまとめ	演奏発表の準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:　9～12の「現場の声」はあくまで予定であり、場合によってはテーマが変わることがある。

フィードバックの方法:　適宜、授業の中で解説をする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加姿勢	70	授業に積極的に参加しているかを評価する
発表、レポート提出等、課題	30	発表や提出物について授業目標に鑑みて評価する

教科書:　使用しない

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール:tinoue@dwc.doshisha.ac.jp

355500

ミュージックセラピー概論

北脇　　歩

授業テーマ:　ミュージックセラピーとは何か

授業の概要:　ミュージックセラピー（音楽療法）についての基礎知識を、理論と実践から外観する。

到達目標:　音楽の利用方法の一つであるミュージックセラピー（音楽療法）への理解を深める。

授業方法:　講義、討議、実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ミュージックセラピーの実際−事例より（1）	
2.	ミュージックセラピーの実際−事例より（2）	配布資料復習
3.	歴史的背景ー原点	配布資料復習
4.	歴史的背景ー欧米	配布資料復習
5.	歴史的背景ー日本	配布資料復習
6.	体験-楽曲から学ぶ（1）	配布資料復習
7.	体験−楽曲から学ぶ（2）	配布資料復習
8.	子どものためのミュージックセラピー（1）	配布資料復習
9.	子どものためのミュージックセラピー（2）	配布資料復習
10.	成人のためのミュージックセラピー（1）	配布資料復習
11.	成人のためのミュージックセラピー（3）	配布資料復習
12.	高齢者のためのミュージックセラピー（1）	配布資料復習
13.	高齢者のためのミュージックセラピー（2）	配布資料復習
14.	特殊な分野でのミュージックセラピー	配布資料復習
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　特に「人と音楽との関係」について考察することが中心となるので、知識とともに自分自身ならびに周りの人と音楽との関係性について考察する心の準備をしてほしい。

フィードバックの方法:　授業の感想や小レポートの提出、ならびに最終レポートによる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	出欠
感想・小レポート	10	内容
レポート	40	内容と量

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

355600

アニメ・ゲーム音楽A

落　　晃子

授業テーマ:　アニメ・ゲーム音楽制作における様々な手法と基礎知識について(主にアニメ分野)

授業の概要:　現在のアニメ・ゲーム音楽制作において、必要とされる知識、基礎技術…主にコンピュータを使用した、用途に応じたさまざまなジャンルの音楽制作方法、音色合成方法、音響に関する基礎知識、ボーカロイドソフトによる歌曲作品制作方法、などを学び、簡単な音楽・音響作品を制作する。

到達目標:　一般的なコンピュータ音楽制作手法に加え、特にアニメーションなどの動画用途の音楽、または音声合成ソフト(ボーカロイド)による歌作品に関する制作技法を習得し、用途に応じた音楽作品制作ができるようになる。

授業方法:　Macintoshコンピュータ、音楽制作ソフト (GarageBand、ProTools)、ボーカロイドソフト (UTAU)、プラグインソフト シンセサイザー (Noisemaker) 等を使用。最新のアニメ・ゲーム音楽の制作技法を学びながら、毎回制作課題を作成す る。
制作した課題については、その都度合評を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションアニメ、ゲーム音楽について、アニメ音楽史概要	映像作品やアニメーション、ゲームに使用されている音楽にはどのようなものがあるか、事前に調べておく
2.	アニメ・ゲームBGM制作(ループ素材操作方法)	自宅パソコン等にボーカロイドソフトや音楽制作ソフト(無料のものを授業で紹介)をインストールするなどして、課題作成をすすめておく
3.	アニメ・ゲームBGM制作(MIDIデータ入力)	自宅環境で課題作成をすすめておく
4.	アニメ・ゲームBGM制作(エフェクト付加、ミックスダウン、合評)	自宅環境で課題作成をすすめておく
5.	アニメ・ゲームBGM制作(ミックスダウン、合評)	自宅環境で課題作成をすすめておく
6.	サウンドロゴ制作(ボーカロイドソフト操作方法、メロディ作成)	自宅環境で課題作成をすすめておく
7.	サウンドロゴ制作(楽器データ及びループ素材入力、編曲)	自宅環境で課題作成をすすめておく
8.	サウンドロゴ制作(エフェクト付加)	自宅環境で課題作成をすすめておく
9.	サウンドロゴ制作(ミックスダウン、合評)	自宅環境で課題作成をすすめておく
10.	ボーカロイド音楽作品制作 (ボーカロイドソフトによる音声合成)	自宅環境で課題作成をすすめておく
11.	ボーカロイド音楽作品制作 (プラグインシンセサイザーによる音色合成法)	自宅環境で課題作成をすすめておく
12.	ボーカロイド音楽作品制作 (プラグインシンセサイザーによる音色変調)	自宅環境で課題作成をすすめておく
13.	ボーカロイド音楽作品制作 (サンプリング手法)	自宅環境で課題作成をすすめておく
14.	ボーカロイド音楽作品制作 (ミックスダウン)	自宅環境で課題作成をすすめておく
15.	合評、まとめ	自宅環境で課題作成をすすめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　コンピュータやスマートフォンなどの基本的操作方法は身につけておくこと。
自宅のパソコンに何らかの音楽制作ソフトをインストールし、使用方法を学んでおくこと。

フィードバックの方法:　各課題については合評を行い、その都度コメントを返します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、アニメ音楽制作の手法について習得できたかどうかを評価する。
課題提出	50	各課題に設定する要件を充たした作品制作ができたかどうかについて、また、アニメなどの動画における音楽の役割を意識した作品ができたかどうかについて評価する。

教科書:

参考書:
UTAUスターターパック 晋遊舎
梅垣ルナ著　イメージした通りに作曲する方法50 リットー・ミュージック
すごい!アニメの音作りの現場 ハイパーボイス 雷鳥社
プロが教えるアニソンの作り方 ランティス リットー・ミュージック

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール:aochi@dwc.doshisha.ac.jp

355700

アニメ・ゲーム音楽B

落　　晃子

授業テーマ:　アニメ・ゲーム音楽制作における様々な手法と基礎知識について（主にゲーム）

授業の概要:　現在のアニメ・ゲーム音楽制作において、必要とされる知識、基礎技術…主にコンピュータを使用した、効果音制作方法、音響に関する基礎知識、音楽環境プログラミングの基礎、インタラクティブ音楽生成システム構築の基礎、などを学び、音楽・音響の範疇にとどまらない総合的なサウンド作品を制作する。

到達目標:　様々なシーンに応じたゲーム用の音楽の制作と、フィールドレコーディング、またはシンセサイザーによる電子音合成によるゲーム用の効果音制作ができるようになる。
また、教育用プログラミング言語「Scratch」を使い、ゲームなどのインタラクティブ作品制作ができるようになる。

授業方法:　Macintoshコンピュータ、音楽制作ソフト（GarageBand、ProTools等）、プログラミング言語（Scratch）、音波形編集ソフト（Audacity）等を使用。
最新のアニメ・ゲーム音楽の制作技法を学びながら、毎回制作課題を作成する。
制作した課題については、その都度合評を行う。
最終課題として、これまでの学習事項をふまえ、映像・音響・プログラミング等、様々な要素を持つ総合的な音楽作品 を作成する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	アニメ・ゲーム効果音制作(音色合成によるゲーム開始音、警告音、等の効果音制作)	身の回りの環境音や、映像作品やゲームにおける効果音について意識する。
2.	アニメ・ゲーム効果音制作(フィールドレコーディングによる自然音採取、編集による効果音制作)	スマートフォン等、手持ちのレコーダーに環境音などを録音しておく
3.	アニメ・ゲーム効果音制作(波形編集による効果音制作)	スマホ、パソコンなどのアプリで、効果音制作に使えるものについて調べておく
4.	ゲーム音楽制作　ループ素材を活用した音楽制作	スマホ、パソコンなどのアプリで、音楽制作に使えるものについて調べておく
5.	ゲーム音楽制作　実際のゲームを想定した音楽制作1	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
6.	ゲーム音楽制作　実際のゲームを想定した音楽制作2	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
7.	プログラミング実習（プログラミング言語Scratch入門 プログラミング作法の基礎を学ぶ）	事前にScratchユーザー登録を行っておく（登録方法については授業で紹介）
8.	プログラミング実習（プログラミング言語Scratch入門 キャラクタ等を動かし、効果音や音楽などをつける）	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
9.	プログラミング実習（プログラミング言語Scratch入門 音楽・映像プログラミングマイクやカメラをセンサとして使用する）	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
10.	最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 1.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
11.	最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 2.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
12.	最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 3.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
13.	最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 4.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
14.	最終課題制作 インタラクティブな音楽ゲームや音楽生成システムを作成する 5.	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく
15.	合評、まとめ	自宅パソコン等で作品制作をすすめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業では実習室のパソコンを使用して授業を展開するが、
できれば、自宅のパソコンに学校で使用する各種ソフト(フリーソフト)をインストール、あるいはWebアプリにアクセスするなどして、課題制作をすすめておくことが望ましい。

フィードバックの方法:　個々の課題については、合評を行い、コメントを返します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、ゲーム音楽とゲーム効果音、またゲーム作品制作の手法について習得できたかどうかを評価する。
課題提出	50	各課題に設定する要件に応じた作品制作ができたかどうか、また、ゲームにおける音楽、効果音の役割を理解し、作品に活かすことができたかどうかについて評価する。

教科書:

参考書:
ゲームクリエイターが知るべき97のこと オライリージャパン
石原正雄著 スクラッチではじめるプログラミング　カットシステム
polymoog著 ゲーム音楽の作り方　リットーミュージック
松前公高著 シンセサイザー入門　リットー・ミュージック

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール:aochi@dwc.doshisha.ac.jp

356000

音楽の史学

三島　　郁

授業テーマ:　西洋音楽史概念の特質を探る

授業の概要:　西洋音楽史は、一般的にはその中心が西洋の芸術音楽作品の作曲様式史である。しかし、音楽史上重要かつ規範的であるとしてその中心に位置付けられる作品群は、歴史的には様々な基準によって価値あるものと判断されてきた。本講義では、音楽史がいかに作られてきたかを、このような様式史上の規範とは別の文脈から探る。その際、音楽史上のトピックをいくつか取り上げ、その歴史的、社会的、思想的、文化的脈絡を具体的に分析・観察し、様式史に関連させながら音楽作品について考察する。音楽史科目を受講していることが望ましい。

到達目標:　・従来の西洋音楽史では重要視されてこなかった、しかしその周縁の分野では注目された作品を理解するのに必要な知識や考え方を身につける。
・西洋音楽史における様々な要素を多角的に、分析・考察できるようにする。

授業方法:　講義毎に譜例や資料を付したレジュメを配付し、視聴覚資料を使用しながら、解説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽史と作品様式史	作品様式史のありかたについて復習
2.	19世紀のバッハ復興運動	19世紀におけるバッハの捉え方の復習
3.	歴史主義と合唱運動	19世紀における合唱運動の意味の復習
4.	ベートーヴェンの神格化：作曲家受容態度の変化	19世紀におけるベートーヴェン評価の復習
5.	舞曲「メヌエット」とその受容	メヌエット受容の変遷について復習
6.	モーツァルトのスラーとスタッカート：エディションと演奏	記譜概念の復習
7.	演奏法の伝承：ヴィブラート、ポルタメント、フレーズ	演奏史の復習
8.	ショパンのテンポ・ルバート	ルバートの意味の復習
9.	テンポ：アンダンテとアンダンティーノ	テンポ概念史の復習
10.	前奏曲とファンタジー	即興ジャンルの復習
11.	イベリア半島の音楽～歴史とのかかわり	イベリア半島の音楽の特徴の復習
12.	「メメント・モリ」の哀悼曲ジャンル	哀悼曲ジャンルの特徴の復習
13.	中世の宮廷恋愛詩と吟遊詩人	中世の封建社会と音楽の復習
14.	デカルトの「フランス音楽」	17世紀教養人音楽サークルの復習
15.	ピアノ・ヴィルトゥオーソとサロン	19世紀ピアニストの活動の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　西洋音楽史は、客観的な歴史的事実を並べたものではありません。私たちが価値を置く音楽が歴史の中にどのように位置付けられ、またそうでない音楽や事項はなぜそうなったのかを考察することによって、音楽史の捉え方を変えてみましょう。また自分の演奏等にも活かしてみましょう。

フィードバックの方法:　毎授業後に提出するコメントペーパーについては、授業内容に対する深い理解や考察があるものは講義時にコメントしながら紹介し、意義のある質問等に対しては講義資料に転載し、教室で解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末レポート	50	知識を身につけ、自分なりに分析・考察できているか
出席状況及び授業時の提出物	50	提出を行っているか否か、また質・量ともにきちんと書けているか。 なお欠席数が講義数の3分の1以上の者は失格とする。

教科書:　講義毎に資料を配布

参考書:　その都度提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　kaorumishima@gmail.com

356100

音楽の美学

椎名　　亮輔

授業テーマ:　音楽美学を理解する

授業の概要:　「音楽美学」という学問は、西洋近代において生まれたものである。それはその淵源を古代ギリシア・ローマにもち、西洋における一般的な芸術論の伝統の刻印を抜きがたく保持している。したがって、この学問を十全に理解するためには、古代から現代にいたるまでの、音楽を論じた芸術論の系譜をたどる必要がある。この授業では、その作業を行う。

到達目標:　知識・理解：音楽美学に関連する音楽論の系譜を知り、その根底にある思想を理解する。
関心・意欲・態度：積極的に理解しようとし、そのためのグループワークを真摯に行う。
表現・技能・能力：グループワークで得られた成果をもとに、自分の理解したものをマナビーにおいて正しく表現する。

授業方法:　講義とグループワーク、それに基づいた課題の提出

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション、「音楽美学」の概観	「音楽について考えること」について考えておく
2.	古代１（オルフェウス、プラトン）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
3.	古代２（アリストテレス、アリストクセノス、アウグスティヌス）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
4.	中世１（カッシオドルス、ケルンのフランコ、グロケイオ）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
5.	中世２（ヴィトリ、ティンクトーリス）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
6.	ルネサンス（カスティリオーネ、ルター）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
7.	バロック（デカルト、クープラン、C・P・E・バッハ、クヴァンツ）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
8.	古典派の時代（ルソー、モーツァルト、ベートーヴェン）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
9.	ロマン主義１（ジャン・パウル、ヴァッケンローダー、ホフマン）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
10.	ロマン主義２（ベルリオーズ、シューマン、ショパン）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
11.	ロマン主義３（ヴァーグナー、ハンスリック）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
12.	現代１（ドビュッシー、ウェーベルン、シェーンベルク）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
13.	現代２（バルトーク、ストラヴィンスキー）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
14.	現代３（ブーレーズ、ケージ）	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する
15.	「音楽美学」の現在	グループワークの成果にもとづき、課題を行い、マナビーに提出する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中に、可能な範囲内で、コメントや解説を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加と課題などの提出物	100	授業に積極的に参加し、音楽美学に関連する音楽論の系譜を知り、その根底にある思想を理解したうえで、グループワークを真摯に行い、グループワークで得られた成果をもとに、自分の理解したものをマナビーにおいて正しく表現できているかを評価する。

教科書:　椎名亮輔編著『音楽を考える人のための基本文献34』アルテス・パブリッシング

参考書:　戸澤義夫・庄野進編『音楽美学』勁草書房
カール・ダールハウス『音楽美学』シンフォニア

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール：rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

356200

ミュージックマネージメントA

下田　　展久

授業テーマ:　音楽プログラムの企画立案

授業の概要:　みなさん自身の音楽の知識や音楽への興味からスタートして、主旨を組み立て、人に伝わる、実施可能な音楽プログラムを企画立案する。コンサート、レクチャー、ワークショップなど、プログラムの形態は自由に考えてください。

到達目標:
1)自分の音楽的な関心や興味を把握し、客観的なことばで人に伝えることができる。
2)興味を掘り下げ、必要な情報を集めて分析することができる。
3)新しく知った事を評価し、自分の視点を獲得して情報を再構成して人に伝える為の文章にすることができる。

授業方法:　講義と演習を繰り返します。文章を書いてもらいます。また全員でディスカッションと発表を行ないます。随時レポートを提出してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	各自の音楽的な関心や興味について: 興味を持っている音楽を紹介する。CDを持参するなどして、音楽を紹介し、話す。	自分の興味ある音楽について人に話せるように準備しておくこと。音源も持参。演奏も可。
2.	各自の音楽的な関心や興味について: 再度発表と相互にインタビュー。 各自が論旨の客観性を高める。	相互にインタビューできるよう、質問事項など整理して準備の事。
3.	各自の音楽的な関心や興味について: 相互にインタビュー。 各自が客観性を高める。	相互にインタビューできるよう、質問事項など整理して準備の事。
4.	各自の音楽的な関心や興味について: 相互インタ ビューで自分の興味関心を客観的に捉え直し、テキストを作成する。	必要な情報は事前に収集しておく。
5.	各自の音楽的な関心や興味について: 作成したテキ ストに基づき各自が発表し、相互にコメント。	テキストに基づいて、自分の考えを人に伝えられるよう準備しておく事。
6.	企画書について: 企画書の構成や利用方法について講義。	気になった音楽プログラムのチラシを複数持参。
7.	企画について: 気に入ったチラシから企画者の主旨を読み解き、発表する。相互にコメント。	気に留まった音楽プログラムのチラシを持参。そのプログラムの主旨を理解し発表できるよう必要な情報を収集しておく事。
8.	企画について: 企画テーマを考える。いくつかの企画候補を上げ、骨子を書く。発表し相互にコメントする。	自分の企画テーマを幾つかあげられるようよう準備しておく事。
9.	企画について: 自分の企画テーマを絞る。主旨を立てる。文章にする。	企画主旨を立てられるよう、必要な情報を収集しておく事。
10.	企画について: 企画主旨から企画内容を構成。コンサートやワークショップなどの企画内容を考える。	企画内容、プログラムの形態について案を考えておく事。
11.	企画について: 発表と相互コメント	企画主旨とプログラム内容について発表できるよう準備しておく事。
12.	企画について: 各自の企画のバリエーションを考える。中間発表する。	企画バリエーション、あるいは別の企画をたてられるよう準備しておくこと。
13.	企画について: 第二の企画について発表と相互コメント。	相互にコメントできるよう、質問や批評ができるよう準備しておく事。
14.	企画書の作成: 基本的な企画書の構成を参考に、各自企画書を作成。	企画書を作成できるよう、情報を集めておくこと。必要になりそうな事柄については授業で助言しておきます。
15.	企画書の発表: 発表と相互コメント。企画書の提出。	企画書を提出できるよう準備しておく事。

受講者へのメッセージやアドバイス:
自分の興味や考えを整理して把握し、相手に上手に伝えること。
授業では書くことと話すことを繰り返します。同様に人に対して質問することは、相手の話の先に仮説を立てて確認し理解を深めて行く事になります。聴き、考え、上手に質問ができるよう努力してください。

フィードバックの方法:　授業で討議しコメントします。提出物は電子メール、あるいはマナビーを使います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート(随時)	40	到達目標を基準に、文章も評価します。
発表と相互コメント	40	企画主旨への興味を高める発言を評価します。主旨の強度も評価します。
授業への参加度	20	授業への積極的な参加意識を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　emailあるいはマナビー

356300

ミュージックマネージメントB

下田　　展久

授業テーマ:　音楽プログラムの制作

授業の概要:　企画の主旨を汲んで実際に実施するための活動が制作です。制作について学ひます。主旨を読み取り、最適な実施方法を考え、諸条件を把握・考慮し、考えられるリスクを抑え、最大効果をあげる実施プランを検討します。制作と呼ばれる仕事の流れも理解しましょう。主体性をもって授業に臨んでください。

到達目標:
実施プランを立てられるスキルを身につける。
リスクを予測しマネージメントできる。
計画書を作成でき、他者と計画を共有できる。

授業方法:　基本的にディスカッションで進行します。話す事、聴く事、書く事など基本的なコミュニケーションの技術を獲得してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講座ガイダンス、企画書の理解	出演や裏方など、各自の経験について話せるよう準備。資料があれば持参。
2.	企画書について 実施プランのイメージについて ブレインストーミング	気になる音楽プログラムのチラシを複数集め、持参してください。
3.	主催者について プロデューサーについて	疑問点を整理して質問できるように準備。
4.	会場とキャスティングについて	必要な情報を事前に収集。
5.	実施計画	必要な情報を事前に収集。
6.	予算立案	必要な情報を事前に収集。
7.	リサーチと計画の立案	必要な情報を事前に収集。
8.	実施計画書作成にむけて	計画の為の素案を準備する事。
9.	開催は可能か リスクの発見	実施計画を検討しておく事。
10.	リスクの課題化 成功のイメージ	必要な情報を収集。
11.	開催概要 スケジュール	必要な情報を収集。
12.	広報について	新聞、雑誌、ネットなどから音楽プログラムの広報活動と思われるものを収集し持参。
13.	舞台制作について1	各自舞台イメージを構想しておく事。
14.	舞台制作について2	各自舞台イメージを構想しておく事。
15.	音楽会を考える	各自舞台イメージを構想しておく事。

受講者へのメッセージやアドバイス:
実行委員会を結成してプログラム実施に向けて進めて行くことをイメージしてください。
積極的な動機を持って参加すること。
話し合いに基づいて進めるので、毎回必ず発言して自ら進めてゆく気持ちをもって参加する事。

フィードバックの方法:
授業で討議しコメントします。
提出物は電子メールあるいはマナビーで提出、授業でコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート(随時)	40	到達目標を基準に、文章も評価します。
発表とコメント	40	目的意識が的確で明確か。また周囲の動機を高める発言を評価します。
授業への参加度	20	授業への積極的な参加態度を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　emailあるいはマナビー

356400

ポピュラーミュージックA

竹中　　真

授業テーマ:　ポピュラー音楽理論

授業の概要:　ポピュラーで使われるコードなどを学び、その機能、トニックやサブドミナント、ドミナントなど、なぜ存在するかについて学ぶ。最後に自作のオリジナル曲を作り、みんなで評価しあい次のステップに備える。

到達目標:　クラシックの基礎理論を履修した学生を対象にポピュラー音楽で使われているコードやスケールを導入し、ジャズ理論に導くための準備を行う

授業方法:　講義方式＋演奏鑑賞

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	0章　音を一つも使わない場合 雑音は音楽になれるか？ 3分44秒の音楽など。	
2.	1章　音を一つだけ使える場合 リズムが生まれる！ 偶数に着目してみる!!	リズム譜に慣れる課題
3.	1章　リズミック・イヤー・トレーニング	リズム譜を作ってくる
4.	2章　音が二つになると音程が生じる 倍音の原理。。。音楽最重要法則	倍音がどの音からも作れるように練習
5.	2章　音程の勉強　一オクターブ以内、二オクターブとどのように使い分けるか 小テスト	音程に関しての練習
6.	3章　トライアド　　3等分はオーグメント	
7.	3章　maj, min, aug, dim, sus その他の三つの音で構成されたもの。	トライアド、見分け聞き分けの練習問題
8.	中間テスト 4章　コード　　4等分はdiminished	
9.	4章　7, maj7, m7, 6, m6　など	コード、見分け聞き分けの練習問題
10.	4章　その他のコード　aug, alt	
11.	4章　diminishedについて。その応用とトライトーン解決を使ったリハモニゼーションなど。	dimを挿入するリハモに関する問題
12.	コードの一般的な表し方	
13.	コードの機能 トニック、サブドミナント、ドミナントはどうして出てくるのか。。。作曲方法。	期末の作曲 コードの機能を鑑みた作曲
14.	コードの機能 宿題で作曲されたものの発表会	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　今まで勉強してきたクラシックの理論と、ジャズやポピュラーの理論は何ら反対するものではありません。ただ多少言語や言い回しが違うだけなのです。このクラスではポピュラーやジャズで使われる言い回しを習って作曲を試み、これからの演奏や創作活動に役立ててほしいと思います。

フィードバックの方法:　単元ごとの宿題、創作活動をみんなで鑑賞したり、演奏したりしながらいいところを指摘しあい自信につながるフィードバックができたらいいと思います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	20	出席が最も大切、出席して積極的に発言、質問、提言など
宿題	20	時間をかけて考えながら取り組むと次の単元が見えてくる
小テスト、中間テスト	20	単元ごとのまとめテスト
期末の作曲	20	履修したことを理解しているか、うまく使えているかの作曲
期末試験	20	一学期間習ったことの総まとめ

教科書:　スケールとコードの本(竹中真)からの抜粋プリント

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　makotobtakenaka@yahoo. co. jp

356500

ポピュラーミュージックB

仲　　万美子

授業テーマ:　世界のポピュラーミュージックのルーツとそれらの日本における受容およびその展開を探る旅

授業の概要:　「ポピュラーミュージック」という用語は一般的に「芸術音楽」や「民族音楽」などと比較対照されることが多い。21世紀の日本で多様なメディアに登場してくる音楽が「ポピュラーミュージック」として認識されているとしても、それぞれのジャンルが誕生した際に属している文化圏から伝播して異なる文化圏で再創造されたり、さらに日本という東アジア文化圏で受容され独自の展開をみせたものがある。本講義では、世界の代表的なポピュラー音楽の各ジャンルのルーツを確認するとともに、20世紀におけるアジアや日本におけるポピュラーミュージックの受容と定着との関係性を理解し、また世界における21世紀のポピュラーミュージックにおける日本発のポピュラーミュージックの意義を探ってみよう。

到達目標:　21世紀を生きる受講生にとって身近なポピュラー音楽が、1）世界／国内でそれぞれどのような文化的背景をもち、そして2）日本でどのように受容され定着したか、また3）それぞれのパフォーマーにあこがれたプロ／アマチュアの音楽活動の意義を、自分の経験と比較しながら、それぞれのトピックへの関心と知識を深化させ、活用できるかが求められる。

授業方法:　講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	世界では「ポピュラーミュージック」はどのように捉えられているか。	
2.	ワールドミュージックの文脈におけるポピュラーミュージックはどのような展開がなされたか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
3.	アルゼンチンタンゴは地域とジャンルをどのように越境しえたか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
4.	サルサは南北アメリカ、日本、そして世界でどのように展開したか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
5.	レゲエミュージックはなぜ人々を魅了するのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
6.	ジャズミュージックは東アジアでどのように受容されたか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
7.	エルビス・プレスリーは世界の若者をなぜ魅了したのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
8.	ビートルズは世界のミュージックシーンに何を遺したのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
9.	フォークシンガー達はなぜメッセージを発信しつづけたのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
10.	20世紀後半の日本のミュージシャン達はどのようなロック・ミュージックに憧れたのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
11.	日本における20世紀後半以降の女性アイドルの共通点と相違点はどこにあるか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
12.	日本の音楽番組の変遷とポピュラーミュージシャンの実力と人気にはどのような関係性があるのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
13.	ジャニーズ事務所所属のパフォーマー達はなぜ多彩な活動をつづけられるのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
14.	多人数のグループのダンスと音楽パフォーマンスの類似点と相違点はどこにあるのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関るものと次週講義に関するもの）。
15.	クールジャパノロジーの世界を21世紀の日本のパフォーマ―達はどのように体現しているのか。	前回の講義中に紹介した資料の読み込み（本講義に関するもの）。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:　提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する
発表、討論	25%	準備学習（予習、復習）、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　講義時に適宜、提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

356600

ジャズミュージック

竹中　　真

授業テーマ:　ジャズの音楽理論

授業の概要:　履修したポピュラー音楽理論をよく復習し、さらに5音スケールから12音スケールまでの様々な音楽を楽しみ、作曲する喜びも味わう。

到達目標:　ジャズやポピュラーなどの音楽を作曲・編曲したり、即興演奏を行うための理論を学習し、実践に役立てる

授業方法:　講義方式＋演奏鑑賞

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	倍音、コードとその機能など 4章までの復習	4章までわかっていないと5章以降大変苦労するので1～4章の総復習
2.	5章　ペンタトニック 12／5は整数じゃない!　歪にばらまかれた音たち。。。 代表的なものはヨナ抜き旋法	
3.	5章　マイナー・ペンタ、陽旋法などのヨナ抜きの転回型のペンタたち	色々な調でペンタトニックを書いてみる、弾いてみる、聞いてみる。。。
4.	5章　アルタード・ペンタ、サス・ペンタなどができる。。。その一つの理由	
5.	5章　その他の広義のペンタトニック 陰旋法、オキナワ、ジャワペログなど民族音楽に使われるエキゾチックなスケール	ペンタトニックを使用した作曲
6.	宿題の鑑賞会 6章　ホールトーンスケール 唯一の完全無比スケール	
7.	6章　その他の6音スケール 中間テスト	
8.	7章　最も広く知られるスケール、長調！	
9.	7章　ドリアン、フリジアン、リディアン 様々な世界に誘う素晴らしくユニークなスケールたち	作曲
10.	7章　ミクソリディアン、エオリアン、ロクリアン。。。12x7＝84のスケールを即刻理解するための3つの道	作曲と84のスケールの理解を深める
11.	7章　「旋律短音階」系と「ナポリタン」系 半音と全音だけで構成されるものはこの二つのタイプで完成！	
12.	7章　「和声短音階」系と「和声長音階」系、その他の7音スケール	短音階についての履修
13.	8章　ディミニッシュ・スケール コンディミとは？	ディミニッシュ、コードとスケールの関係について勉強。。。
14.	9章、10章、11章、12章 ドミナントのスケール、 クロマティック。。。12音階奏法、作曲法のいろいろ。。。など	クロマティックに関する考察など
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　いろいろな演奏法、作曲法などに触れ、音楽の世界旅行を楽しんでもらいたいと思います。また、いろいろな旋法を使うだけで簡単に世界のあちらこちらに誘うことができます。

フィードバックの方法:　宿題をみんなで鑑賞する、批評しあうことで次につながるヒントを得たり、自分の反省点にもつなげてより良いものに挑戦していただきたいと思います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	20	出席が最も大切、積極的に質問を考え、自分の意見を述べる。。。など
宿題	20	遅滞なく提出
小テスト、中間試験	20	単元ごとのまとめの理解
作曲	20	履修したことをうまく作曲に反映させているか否か。。。
期末試験	20	履修したことの総合的理解度を問う

教科書:　スケールとコードの本(竹中真)からの抜粋

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　makotobtakenaka@yahoo. co. jp

356700

ロックミュージック

下田　　展久

授業テーマ:　ロックとは何か

授業の概要:　ロックミュージックが生まれて約60年。ロックミュージックが生まれた背景を知り
、その変遷を文化や世界の出来事と照らし合わせて、ロックミュージッ クとはいったいなんなのかを考察する。音楽資料や映像などふんだんに視聴。現代の音楽シーンとの繋がりについても考えよう。

到達目標:　ロックミュージックとは何かについて、各自の見解をもち軽音楽とロックの文化について視点を得ること。
また、それを人に伝えられる事。

授業方法:　音源を聴き、映像を観ます。随時レポートを提出。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ロックンロール	各自、自分がロック だと思う音楽を選ん で、音源を持参。なぜそう思うのかを話せるよう 準備。
2.	デルタブルース	ブルースについて調べておく事。
3.	シカゴブルース	ブルースについて調べておく事。
4.	ケイジャン音楽	ケイジャンとは何か、調べておく事。
5.	ブルースとカントリー音楽	ブルースとカントリー、好きな曲をひとつ選び、できれば音源を持参。
6.	ブリティッシュインベイジョン	ビートルズとローリングストーンズについてネットなどで確認しておく事。
7.	ヘビー級のバンド、英国と米国	ヘビーな音楽とは何か、考えておく事。
8.	ベトナム戦争、ヒッピームーブメントと音楽	1960年から1975年までのアメリカ合衆国の文化を大まかに確認しておく事。
9.	テクノロジーとポピュラー音楽、音楽産業	レコード、ラジオ、テレビ、ビデオ、CDなどのメディアがいつ普及して行ったか、調べておく事。
10.	ロックのそと～モータウンサウンド	モータウンレーベルについて調べておく事。
11.	ロックのそと～ソウルその他	ソウルとはなにか、現在の音楽との繋がり。ネットなどで事前学習しておく事。
12.	巨大フェスティバル woodstock art and music festival	ウッドストックフェスティバルにまつわる言説をネットなどで確認しておく事。
13.	シンセサイザー	シンセサイザーについてインターネットなどで調べておく事。
14.	1970年代以降の音楽1	グラムロック、プログレッシブロック、などについて調べておく事。
15.	1970年代以降の音楽2	ニューウェイブ、テクノ、ハードロック、レゲエ、スカなどについて調べておく事。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ロックという概念は少なくとも音楽様式で規定されるものではなさそうです。急激に変遷してきたロックミュージックを、ひとつの民族音楽を眺めるように、俯瞰してみます。CDやDVDの視聴をふんだんに行ないます。自分なりのロック観を獲得してください。

フィードバックの方法:　感想やレポートをemailあるいはマナビーで提出、授業でコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70	社会の中での位置づけを意識したレポートを評価する。
授業への参加度	30	授業への積極的な参加態度を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　emailあるいはマナビー

356800

音楽教育史A

垣内　　幸夫

授業テーマ:　日本における近代以降の学校音楽教育の歴史を学び、各時代ごとの諸特徴について理解する。

授業の概要:　明治期・大正期・昭和期・平成期の音楽教育の諸特徴を理解するため、全体を13期に分けて講義する。受講生は各講義内容の中で興味を持った事項について自ら調べ、授業内でプレゼンテーションを行い調べ学習の成果を発表する。

到達目標:
本授業を通して日本音楽教育史の概要を理解し、諸特徴について説明できるようになる。
明治期の音楽教育の諸特徴を理解する。
大正期の音楽教育の諸特徴を理解する。
昭和期の音楽教育の諸特徴を理解する。
平成期の音楽教育の諸特徴を理解する。
興味を持った事項について自ら調べ、調べ学習の成果が発表できる。

授業方法:　講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本音楽教育史とは	伊澤修二、音楽取調掛について予習する。
2.	日本の音楽教育史1(明治期1) 伊澤修二と音楽取調掛	田村虎蔵と言文一致唱歌について予習する。
3.	日本の音楽教育史2(明治期2) 田村虎蔵と言文一致唱歌	滝廉太郎作曲「花」の成立について予習する。
4.	日本の音楽教育史3(明治期3) 滝廉太郎作曲「花」の成立	鈴木三重吉と赤い鳥童謡運動について予習する。
5.	日本の音楽教育史4(大正期1) 鈴木三重吉と赤い鳥童謡運動	童謡の作曲家たち～成田為三・中山晋平他について予習する。
6.	日本の音楽教育史5(大正期2) 童謡の作曲家たち～成田為三・中山晋平他	戦前の音感教育について予習する。
7.	日本の音楽教育史6(昭和前期1) 戦前の音感教育	国民学校時代の音楽教育について予習する。
8.	日本の音楽教育史7(昭和前期2) 国民学校時代の音楽教育	諸井三郎と学習指導要領音楽編(試案)について予習する。
9.	日本の音楽教育史8(昭和後期1) 諸井三郎と学習指導要領音楽編(試案)	音楽教育の会と「わらべうた二本立て方式」について予習する。
10.	日本の音楽教育史9(昭和後期2) 音楽教育の会と「わらべうた二本立て方式」	高度経済成長と器楽教育の隆盛について予習する。
11.	日本の音楽教育史10(昭和後期3) 高度経済成長と器楽教育の隆盛	日本伝統音楽の重視について予習する。
12.	日本の音楽教育史11(昭和後期4) 日本伝統音楽の重視	創造的音楽学習と世界の諸民族の音楽について予習する。
13.	日本の音楽教育史12(平成期1) 創造的音楽学習と世界の諸民族の音楽	国際理解教育における音楽教育について予習する。
14.	日本の音楽教育史13(平成期2) 国際理解教育における音楽教育	これまでの全授業内容についてまとめておく。
15.	まとめと振り返り	積極的に討議に参加できるように準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義を聴いて興味を持った事項について本を沢山読み、取り組んだ成果をプレゼンテーションで発表できるようにしてください。

フィードバックの方法:
提出レポートについては返却の際、教室で説明する。
講義内容についての質疑応答は教室で行う。
プレゼンテーションについては発表直後に教室で説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出レポート	50%	到達目標「日本音楽教育史の概要を理解し、諸特徴について説明できるようになる。」について各時代ごとの理解度を提出レポートで評価する。
プレゼンテーション	30%	到達目標「興味を持った事項について自ら調べ、調べ学習の成果が発表できる。」が達成できたかどうかを評価する。
授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標「日本音楽教育史の概要を理解」できるようになったかを評価する。

教科書:

参考書:
伊沢修二著、山住正己校註『洋楽事始』(東洋文庫188)平凡社
金田一バ春彦・安西愛子編『日本の唱歌[上] 明治篇』、『日本の唱歌[中] 大正・昭和編』(講談社文庫)講談社
小長久子『滝廉太郎』(人物叢書)吉川弘文館
園部三郎・山住正己『日本の子どもの歌』(岩波新書468)岩波書店
山住正己『子どもの歌を語る』(岩波新書[新赤版]352)岩波書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール(kaki@kyokyo-u.ac.jp)並びに授業の前後に教室内で応答する。

356900

音楽教育史B

吉田　　直子

授業テーマ:　音楽教育の歴史を通して現在の音楽教育を考察する

授業の概要:　様々な時代の社会情勢や思想の影響を受けながら展開されてきた音楽教育の歴史を学び、音楽教育について視野を広げる。現在の音楽教育の根底にある理念を考察し、自らの音楽教育観を確立していく。

到達目標:　世界の音楽教育の歴史を通して、音楽教育が時代の社会情勢や思想に影響を受けながら人間教育の一環として重要な役割を担ってきたことを理解できる。現在の音楽教育の指導法が長い歴史の上に成立していることを理解できる。現在の音楽教育について多角的な視野から考察することができる。

授業方法:　講義、学生による発表と連動させて授業を進める。毎回テーマに沿って研究発表をおこなってもらう。視聴覚教材を積極的に活用して音楽史と音楽教育史との関連についても理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションン　音楽教育の歴史を学ぶ意味	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
2.	古代ギリシャの音楽教育（ピタゴラス、プラトン）	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
3.	キリスト教と音楽教育（グレゴリオ聖歌、ネウマ譜、グィード・ダレッツォと階名唱）	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
4.	ルソーの音楽教育（数字譜、『エミール』の音楽教育）	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
5.	ペスタロッチと音楽教育（プファイフェルとネーゲリ）	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
6.	カーウェンの音楽教育（トニック・ソルファ法）	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
7.	コダーイの音楽教育（1）ハンドサイン、移動ド唱法	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
8.	コダーイの音楽教育(2)ソルファ譜、リズム唱	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
9.	ダルクローズの音楽教育（1）動きと音楽	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
10.	ダルクローズの音楽教育（2）リトミック	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
11.	オルフの音楽教育（1）言葉と音楽	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
12.	オルフの音楽教育（2）オルフ・シュールベルク、オルフ楽器	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
13.	新しい音楽教育　創造的音楽学習、ジョン・ペインターとピーター・アストン、『音楽の語るもの』	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
14.	新しい音楽教育　音風景、マリー・シェーファー、『音さがしの本』	配布されたプリントを良く読んでおくこと担当する発表の準備学習を行うこと
15.	総括	配布されたプリントを良く読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　担当テーマの研究発表を、計画的に責任を持って準備してください。

フィードバックの方法:　コメントをつけて教室で返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内の研究発表	40	準備学習、意欲・態度、発表内容・資料の達成度を評価する
授業への参加度	30	積極的な発言や学習意欲により授業を通して音楽教育について歴史的に考察しているかを評価する。
レポート	30	授業内容をふまえて現在の音楽教育を考察できているかを評価する。

教科書:

参考書:
供田武嘉津、『西欧音楽教育史』、音楽之友社、ISBN 9784276311725
鳥越けい子、『サウンドスケープ[その思想と実践]』、鹿島出版社、ISBN　4-306-05229-X　C1352
田村和紀夫、「『文化としての西洋音楽の歩み』わたし探しの音楽美学の旅」、音楽之友社、ISBN　978-4-276-11017-5
J. ペインター＆P. アストン、「音楽の語るもの」、音楽之友社
R. マリー・シェーファー、「音さがしの本」、春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する

357000

子どもと音楽A

小森　　創介

授業テーマ:

当講座は演習・体験学習である。音楽を介して子どもと接する、実演を想定した授業展開となる。

授業の概要:

音楽を介したコミュニケーションの実践を目指し、自身の肉体を駆使した全身体的なコミュニケーションを探求する。そのために必要なトレーニングを授業内で出来るだけ実行し、実演に向けた素地作りを平行して行なっていく。

到達目標:

音楽を介した表現作品を一人一作品創造し、実演できるようになる。
自己の肉体、感覚力、表現力、想像力を駆使し、空間に“生きた” コミュニケーションを創造することを大目標に掲げる。
「演技・コミュニケーション」に対する自らの情報を更新する。
「演技・コミュニケーション」ということを多角的に捉えることが出来る。
己の全て（全身体） に「気付く」ことが出来るようになる。
全身体的なるコミュニケーション能力を身につける。受容し、協調し、自己表現が出来るようになる。

授業方法:

当講座は演習・体験学習である。常に身体、精神のコンディションを整え授業に臨むこと。
毎回動きやすい服装・靴で参加のこと。（レオタードなどの着用の必要はない。）
グループの集中度合いによって内容は変化する。必要があればいつでも基本エクササイズに戻る。
常に能動的姿勢で望むこと。待ち受け・受身姿勢であってはならない。演技に対する様々な思考、知識、技術などの全てを、自身がつなげて考えていく努力を怠らないこと。
芸術は知識ではなく、感じられた体験を伝えるもの（レフ・トルストイ）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	我々は何を目指すか	まず、集まった者全員で、我々の共通の課題を見出すためのディスカッション。授業の方向性を示すガイダンスでもある。参加必須。実演に関する各自の意見を持ち寄ること。
2.	身体の素地作り	実演に必要不可欠なのは自身の肉体である。思い通りに表現できる身体の素地作りを始めていく。
3.	音楽の選定・構成	どのような実演作品が可能なのか。実演を見るなどしながら短い自身の作品のための準備を始める。
4.	人の前に立つ	見る・見られる、という相互関係の成立を実感し、表現作品に活かせるよう知識として蓄積していく。音楽選定の申告。
5.	実演のために	自身の肉体以外に必要なものは何か見極めていく。エクササイズを並行しながら自身を見つめる視点を養う。
6.	プレゼンテーション	自身の作品がどのようなものになるのか、一人づつプレゼンテーション。併せてフィードバックをしていく。
7.	コミュニケーション	観客と実演家の間に存在するコミュニケーションを考察。想定観客の年齢層に合わせた表現・テーマの定め方も含めて。
8.	コミュニケーション2	我々の対人コミュニケーションとは、どのようなものか。実演を踏まえて実践し、考察していく。
9.	エクササイズ＆リハーサル	グループの進度にあわせて様々なエクササイズを行なう。授業後半は各自の作品作りの時間に充てる。
10.	エクササイズ＆リハーサル	グループの進度にあわせて様々なエクササイズを行なう。授業後半は各自の作品作りの時間に充てる。
11.	エクササイズ＆リハーサル	グループの進度にあわせて様々なエクササイズを行なう。授業後半は各自の作品作りの時間に充てる。
12.	エクササイズ＆リハーサル	グループの進度にあわせて様々なエクササイズを行なう。授業後半は各自の作品作りの時間に充てる。
13.	エクササイズ＆リハーサル	グループの進度にあわせて様々なエクササイズを行なう。授業後半は各自の作品作りの時間に充てる。
14.	エクササイズ＆リハーサル	グループの進度にあわせて様々なエクササイズを行なう。授業後半は各自の作品作りの時間に充てる。
15.	発表・まとめ	創作して来た作品の授業内発表を行なう。また、最終的な質疑応答も展開。 レポートはこの回にプリントアウトして持参、提出とする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回、自身のコンディションを見極めて参加することは必須。自身の内面の言語化には常に注力すること。
自身の観察、他者の観察を常に行なうこと。

フィードバックの方法:

授業中に毎回積極的に内面の言語化を行う

質問、疑問などは遠慮なくメールを
billy@sosukekomori.com

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	45%	
授業参加時の積極性・フィードバック参加度・最終実演課題評価	40%	
レポート	15%	（課題の理解、参考文献などからの知の導入、内面の言語化） 課題は授業時に指示。

教科書:

基本的に使用しない。必要に応じてプリントなど配布。

参考書:

末田 清子・福田 浩子(2003)「コミュニケーション学ーその展望と視点ー」松柏社
ジョン・ペリー(2014)「演劇入門ブック」玉川大学出版部

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

billy@sosukekomori.com

357100

子どもと音楽B

仲　　万美子

授業テーマ:

子どもの時の音楽との出会い、そしてその音楽実践が一生を通して継続し、開花していく道を探る旅

授業の概要:

子どもは、家庭、保育園、幼稚園、小学校などで多様な音楽に出会い、実践することも始め、中学校、高等学校、大学でもその実践を継続したり、あるいは新たな音楽に興味をいだき多種の音楽実践を継続させていく。そして学校の授業、クラブ活動、企業の音楽教室、公共ホールなどの学びの場での音楽の楽しみがきっかけとなり音楽がこよなく好きになり、プロを目指し専門の高等教育機関(国内外)に歩みをすすめる人もいる。一方で、趣味として生涯、仲間とともに音楽活動を継続して、それぞれ花を咲かせる。具体的な事例をもとに、幼児から大学生までの音楽との出会いの意味を熟考する。

到達目標:

多様な「場」「ジャンル」「修得のプロセス」「発表のスタイル」などを事例に、1)子ども達が、それぞれどのような音楽とどのような出会いをするか、2)人間が継続的にミュージッキングすることの意義、3)その音楽活動が文化を学ぶことにつながるか、4)社会的文脈のなかでどのような影響を受けるか、を見極め、自分の未来の諸活動に活かしていけるかを深く考えられるようになること。

授業方法:

講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	家族とみる国内外のテレビの幼児向け番組で音楽を感じることの意味について	
2.	幼少期から音楽コンクールでの成果を得るために技術修得に励むことの意味について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するものと次週に関するもの)。
3.	小学校での音楽教室のあり方について:アメリカの場合	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
4.	民族音楽を学ぶ場について:ヨーロッパや東南アジアの場合	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
5.	マイノリティの子供たちが自分たちの音楽を通して文化を伝える試み(オーストラリアの場合)の意義について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
6.	戦地のこどもたちにとっての音楽の意味について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
7.	バレエ学校で身体にすりこまれる音楽と身体表現の完成度の意味について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
8.	歌舞伎に挑戦する小学生、能楽をクラブでまなぶ大学生、歌舞伎襲名公演を行う大学生、各々の修得するものの意味について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
9.	オーケストラのレクチャーコンサートやテレビ番組から何を学びとるかについて	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
10.	総合大学のアマチュアオーケストラからプロの指揮者が輩出したことの意味について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
11.	半世紀の歴史をもつ少年合唱隊の世界ツアーを行う意味について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
12.	学校内外の合唱コンクールと合唱祭(国内・国際)への出演とそのパフォーマンスの意味について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
13.	世界の吹奏楽活動と民族楽器の取り込み方の意味について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
14.	吹奏楽コンクールへの出場、そしてプロの学びへの転化について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み。(本講義に関するものと次週に関するもの)。
15.	プロミュージシャンを目指す世界の音楽学生のパフォーマンスの特徴について	前回の講義中に紹介した資料の読み込み(本講義に関するもの)。

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:

提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
発表、報告	25%	準備学習(予習、復習)、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。

教科書:

特に指定しない。

参考書:

講義時に適宜、提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対する。

357200

ミュージックセラピー基礎Ⅰ

北脇　　歩

授業テーマ:　ミュージックセラピーの理論と実践の基礎を学ぶ（1）

授業の概要:　ミュージックセラピー（音楽療法）の概要を深め、対象者について学ぶ。

到達目標:　音楽療法の理論や対象者、実践方法についての認識を深め、実践へつなげる手がかりを学ぶ。

授業方法:　講義、討議、実践体験

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ミュージックセラピーを概観する	教科書予習
2.	ミュージックセラピーの対象者と施設（1）	教科書予習
3.	ミュージックセラピーの対象者と施設（2）	教科書予習
4.	ミュージックセラピーの対象者と施設（3）	教科書予習
5.	ミュージックセラピスト（1）	配布資料予習
6.	ミュージックセラピスト（2）	配布資料予習
7.	グループワーク（1）	
8.	グループワーク（2）	
9.	グループワーク（3）	
10.	分野別ミュージックセラピー（1）	教科書予習
11.	分野別ミュージツクセラピー（2）	教科書予習
12.	分野別ミュージツクセラピー（3）	教科書予習
13.	ケーススタディ（1）	
14.	ケーススタディ（2）	
15.	総括	教科書予習

受講者へのメッセージやアドバイス:　音楽療法士のための重要な科目の一つである。特にDVDによる実践の様子を多く学ぶので、真摯に現場の様子を観察し秘密保持を守る。

フィードバックの方法:　教科書や資料での復讐、グループ討議

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	出欠
レポート	25	内容と量
授業参加態度	25	討議や実践への参加の様子

教科書:　「音楽療法入門1　理論と実践」（第3版）W・B・デイビス他著、栗林文雄訳、一麦出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、、自己実現力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

357300

ミュージックセラピー基礎Ⅱ

北脇　　歩

授業テーマ:　ミュージックセラピーの理論と実践の基礎を学ぶ（2）

授業の概要:　前期（1）をさらに専門的な分野に特化して深める。

到達目標:　音楽には身体的、心理的、社会的、認知的、また精神的に働きかける力がある。ミュージツクセラピー（音楽療法）では、あらゆる年齢や状況にある全ての人々の、多岐にわたるニーズに向けて、その“音楽の働き”を意図的・計画的に使用する。この講義では、音楽療法の理論、臨床法などをトータルに学び、幅の広さについて学ぶ。

授業方法:　講義、討議、実践

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	前期を振り返る	
2.	身体障がいとミュージツクセラピー（1）	教科書予習
3.	身体障がいとミュージックセラピー（2）	教科書予習
4.	自閉症とミュージックセラピー	教科書予習
5.	知的障がいとミュージックセラピー	教科書予習
6.	リハビリテーションとミュージックセラピー	教科書予習
7.	精神障がいとミュージックセラピー	教科書予習
8.	緩和ケアとミュージックセラピー（1）	教科書予習
9.	緩和ケアとミュージックセラピー（2）	教科書予習
10.	特別支援教育とミュージックセラピー	教科書予習
11.	聴覚・視覚障がいとミュージックセラピー	教科書予習
12.	医療現場でのミュージックセラピー	教科書予習
13.	クロスカルチャーセラピー（1）	教科書予習
14.	クロスカルチャーセラピー（2）	教科書予習
15.	総括	教科書予習

受講者へのメッセージやアドバイス:　より専門的な領域でのミュージックセラピーについての学びとなるので、それぞれの領域についての専門知識を教科書や各自の予習によって予備知識を深めておくこと。

フィードバックの方法:　教科書による復讐。レポートでのまとめ。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	出欠
レポート	25	内容と量
授業参加状況	25	討議参加状況

教科書:　「音楽療法入門2　理論と実践」（第3版）W・B・デイビス他著、栗林文雄訳、一麦出版社
「音楽療法入門3　理論と実践」（第3版）W・B・デイビス他著、栗林文雄訳、一麦出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

357400

ミュージックセラピー各論A

稲田　　雅美

授業テーマ:　ミュージックセラピーの理論を学ぶ

授業の概要:　テキストに沿って，欧米由来のミュージックセラピーの理念と理論を理解する。その上で，ミュージックセラピーとは病院や施設で単に音楽活動を展開するものではないことを正しく認識し，ミュージックセラピストの役割についても深く考察する。

到達目標:
・欧米由来のミュージックセラピーの理念について習熟する。
・ミュージックセラピーを実践するに不可欠な理論を習得する。
・ミュージックセラピーの理論的な原書（英語文献）を講読する力をつける。

授業方法:　講義，ディスカッション，発表。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ミュージックセラピーの理論的概略	テキストの該当箇所を復習する。
2.	スターンの理論(1)	テキストの該当箇所を予復習する。
3.	スターンの理論(2)	同上
4.	スターンの理論のミュージックセラピーへの応用	セラピーの実践を想定した活動を考案する。
5.	発表(1)	各自が設定したテーマに基づき，発表の準備をする。
6.	ウィニコットの理論(1)	テキストの該当箇所を予復習する。
7.	ウィニコットの理論(2)	同上
8.	ウィニコットの理論のミュージックセラピーへの応用	セラピーの実践を想定した活動を考案する。
9.	発表２	各自が設定したテーマに基づき，発表の準備をする。
10.	音楽教育とミュージックセラピー（１）	テキストの該当箇所を予復習する。
11.	音楽教育とミュージックセラピー（２）	同上
12.	発表３	各自が設定したテーマに基づき，発表の準備をする。
13.	英語文献の講読（１）	講読文献の予復習。
14.	英語文献の講読（２）	同上
15.	英語文献のまとめ	講読文献の復習と内容の吟味。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で取り上げる理論に関する図書や論文を積極的に読んで理解を深める。

フィードバックの方法:　提出物については，教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席およびクラス参加度	60%	積極的に授業に参加し，到達目標としての「ミュージックセラピーの理論や理念の習熟」を踏まえた討議ができているかを評価する。
発表	20%	到達目標としての「ミュージックセラピーの理論や理念の習熟」を踏まえた独創的な発表ができているかを評価する。
レポート課題	20%	到達目標としての「ミュージックセラピーの理論や理念の習熟」を踏まえた論理的な説明ができているかを評価する。

教科書:　稲田雅美『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房（2016年）

参考書:　レスリー・バント『音楽療法：ことばを超えた対話』ミネルヴァ書房（1996年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

357500

ミュージックセラピー各論B

稲田　　雅美

授業テーマ:　サイコセラピー（心理療法）の一環としてのミュージックセラピーのあり方について考える。

授業の概要:　欧米由来のミュージックセラピーの理念と理論を理解する。その上で，サイコセラピーの一環としてのミュージックセラピーの役割，および，ミュージックセラピストの位置づけについて考察する。合わせて，各自の考察を小論（エッセイ）としてまとめる訓練も行う。

到達目標:
・心理臨床全般における言葉の役割と使い方に習熟する。
・臨床上のコミュニケーション媒体としての音楽および芸術全般の役割について習熟する。
・臨床における音楽の役割を自分の言葉で論理的に説明できる。

授業方法:　講義，ディスカッション，発表。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：臨床における芸術の役割についての概説	心理臨床に関する学術論文を自発的に読む。
2.	心理療法の概観：理論的展望(1)	同上
3.	心理療法の概観：理論的展望(2)	同上
4.	心理療法の概観：ことばの役割	テキストの該当箇所を予復習する。
5.	心理臨床における音楽（芸術全般）の役割入：心理学的見地から	同上
6.	心理臨床における音楽（芸術全般）の役割：芸術学的見地から	同上
7.	心理臨床における音楽（芸術全般）の役割：精神分析的見地から	同上
8.	事例の考察(1)	関連する学術論文を自発的に読む。
9.	事例の考察(2)	同上
10.	描画テスト	関連図書，論文を自発的に読む。
11.	心理臨床における芸術の可能性についての討議および小論（エッセイ）の作成(1)	小論のテーマを設定し，執筆する。
12.	心理臨床における芸術の可能性についての討議および小論（エッセイ）の作成(2)	同上
13.	小論および研究の発表(1)	発表の準備
14.	小論および研究の発表(2)	同上
15.	総括：音楽と視覚芸術の統合的応用	テキストの該当箇所を復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　心理臨床に関する時事問題に関心をもち，新聞や学術論文を積極的に読むこと。

フィードバックの方法:　提出物については，教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席およびクラス参加度	60%	積極的に授業に参加し，到達目標としての「心理療法における言葉の役割の習熟」を踏まえた討議ができているかを評価する。
発表	20%	積極的に授業い参加し，到達目標としての「臨床における音楽および芸術の役割の習熟」を踏まえた独創的な発表ができているかを評価する。
レポート	20%	積極的に授業い参加し，到達目標としての「臨床における音楽の役割について論理的な説明ができている」かを評価する。

教科書:　稲田雅美『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』 ミネルヴァ書房（2016年）

参考書:　レスリー・バント『音楽療法：ことばを超えた対話』ミネルヴァ書房（1996年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

357600

ミュージックセラピー（グループ体験）

稲田　　雅美

授業テーマ:　グループダイナミクスの理解

授業の概要:　心理・福祉領域の援助にとって，集団内の人間関係や集団構造を的確にとらえる技量は不可欠である。集団内に発生する個人の心理や行動について考察するために，この授業では，即興演奏や描画制作を通じて，クラスという集団の中で各人が相互に及ぼす影響を体験する。

到達目標:
・音楽文化全般における集団の役割や意義に関する理解
・人間生活全般におけるグループダイナミクスに関する知識の習得
・即興演奏を通じた、グループダイナミクスの体得
・作品創作を通じた、グループダイナミクスの体得

授業方法:　演習形式。楽器や描画素材を媒介として多様な「創作活動」をグループで行い，創作プロセスにおける自己の役割についてディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:「音楽的対話」の検討	テキスト該当箇所の復習
2.	即興演奏とグループ体験１	テキスト該当箇所の予復習
3.	即興演奏とグループ体験２	同上
4.	リズムを基にしたグループ即興演奏１	同上
5.	リズムを基礎にしたグループ即興演奏２	同上
6.	各種音階を基にしたグループ即興演奏	同上
7.	視覚芸術への理解とグループ討議	関心のある美術作品について紹介できるよう準備する。
8.	視覚作品を基にした即興演奏１	テキスト該当箇所の予復習
9.	視覚作品を基にした即興演奏２	同上
10.	描画制作とグループ体験１	同上
11.	描画制作とグループ体験２	同上
12.	描画制作とグループ体験３	同上
13.	研究発表１	個人発表の準備
14.	研究発表２	同上
15.	まとめと討議	グループダイナミクスの意味を自分の言葉で伝えられるよう，これまでの学習内容を振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
1）授業の内容に則した楽典知識をつねに予復習すること。
2）音楽以外の芸術，とくに絵画について関心をもち，画家やその作品について積極的に学ぶ姿勢をもつこと。

フィードバックの方法:　提出物は，教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況およびクラス貢献度	75%	積極的な授業への参加と発表の姿勢を中心に評価する。
レポート	25%	到達目標における，グループダイナミクスに関する知識の習得に基づき，論理的に説明できていることを評価する。

教科書:　稲田雅美『こころをつなぐミュージックセラピー:ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房（2016年）

参考書:　授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

357700

ミュージックセラピー技能演習A

北脇　　歩

授業テーマ:　ミュージックセラピー実践に必要な音楽技能の獲得とその応用(！)

授業の概要:　声・楽器・身体表現などの技能を通して実践の方法を学ぶ。

到達目標:　実習に役立つように楽曲選定やその実践方法を体験する。

授業方法:　実技、講義、グループ発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	声の使い方	
2.	歌の意味(1)	楽譜集の譜読み
3.	歌の意味(2)	楽譜集の譜読み
4.	楽器の使い方(1)	楽譜集の譜読み
5.	楽器の使い方(2)	楽譜集の譜読み
6.	既成曲を活かす(1)	楽譜集の譜読み
7.	既成曲を活かす(2)	楽譜集の譜読み
8.	既成曲を活かす(3)	楽譜集の譜読み
9.	グループごとの実践(1)	
10.	グループごとの実践(2)	
11.	グループごとの実践(3)	
12.	グループごとの実践(4)	
13.	グループごとの実践(5)	
14.	グループごとの実践(6)	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書の楽譜集や配布楽譜の譜読みをしっかりと準備する。

フィードバックの方法:　グループで練習を積み重ねること。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	出欠
発表	25	内容
楽譜提出	25	正確さ

教科書:　「音楽療法のピアノ小品集」ヤマハミュージックメディアコーポレーション

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

357800

ミュージックセラピー技能演習B

北脇　　歩

授業テーマ:　ミュージックセラピーの実践に必要な音楽技能の獲得とその応用(2)

授業の概要:　声、楽器、身体表現を使いながら、特に成人障がい者への実践に応用する楽曲。技能を学ぶ。

到達目標:　グループで活動をする力を身につける。

授業方法:　実技、グループ活動と発表、ケーススタディ

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	即興音楽の技法(1)	楽譜集の譜読み
2.	即興音楽の技法(2)	楽譜集の譜読み
3.	即興音楽の技法(3)	楽譜集の譜読み
4.	既成曲の展開(1)	
5.	既成曲の展開(2)	
6.	既成曲の展開(3)	
7.	グループによる活動(1)	
8.	グループによる活動(2)	
9.	グループによる活動(3)	
10.	グループによる活動(4)	
11.	楽曲制作と発表(1)	
12.	楽曲制作と発表(2)	
13.	楽曲制作と発表(3)	
14.	楽曲制作と発表(4)	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　楽譜集を手がかりに、目的にあった活動を構築すること。
楽譜集をモデルとして、作品を作ってみる。

フィードバックの方法:　楽譜集はなるべく暗譜をするように予習復習を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	出欠
グループ発表	20	内容
作品制作	30	内容

教科書:　「たからもの」同志社女子大学音楽療法たからものプロジェクト、

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

357900

ミュージックセラピー技能演習C

北脇　　歩

授業テーマ:　ミュージックセラピーの実践に必要な作曲・編曲・アンサンブル・指揮などの技法の獲得

授業の概要:　実践的な課題に取り組み、現場で行われている実践を分析する。

到達目標:　実習で活かせるように、セッションの構成を組み立てる音楽力を身につける。
即興的な展開力を身につける。

授業方法:　講義、実技、編曲、制作、グループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	対象者に対応した音楽の役割(1)	教材の分析と練習
2.	対象者に対応した音楽の役割(2)	教材の分析と練習
3.	対象者に対応した音楽の役割(3)	教材の分析と練習
4.	既成曲の編曲(1)	教材選択
5.	既成曲の編曲(2)	教材選択
6.	既成曲の編曲(3)	教材選択
7.	実習のためのアンサンブル曲の編曲または制作(1)	編曲または制作
8.	実習のためのアンサンブル曲の編曲または制作(2)	編曲または制作
9.	グループワーク(1)	
10.	グループワーク(2)	
11.	グループワーク(3)	
12.	グループワーク(4)	
13.	発表(1)	
14.	発表(2)	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　より実践的な課題に取り組むために、幅広い領域の多くの楽曲に触れる。
楽曲は、基本的に暗譜で演奏できるように努力する。

フィードバックの方法:　グループでの組み立てや練習を重ね、チームワークでフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	出欠
グループ発表	25	内容
楽曲提出	25	内容

教科書:　「たからもの　2」同志社女子大学たからものプロジェクト

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

358000

臨床の医学A

山本　　一成

授業テーマ:　こころとこころの病

授業の概要:　こころと脳の関係について学び、症例を通してこころの病の知識を得る。

到達目標:
こころとこころの病について知識を習得する。
こころの病で苦しんでいる人への理解を深める。
自分自身のこころの健康に留意する。

授業方法:　講義、質問用紙記入、討議・発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	こころについて	授業内容について復習する
2.	こころと脳	授業内容について復習する
3.	脳の構造と機能	授業内容について復習する
4.	こころの病概論	授業内容について復習する
5.	症例検討とディスカッション（1）	授業内容について復習する
6.	症例検討とディスカッション（2）	授業内容について復習する
7.	症例検討とディスカッション（3）	授業内容について復習する
8.	症例検討とディスカッション（4）	授業内容について復習する
9.	症例検討とディスカッション（5）	授業内容について復習する
10.	症例検討とディスカッション（6）	授業内容について復習する
11.	症例検討とディスカッション（7）	授業内容について復習する
12.	症例検討とディスカッション（8）	授業内容について復習する
13.	症例検討とディスカッション（9）	授業内容について復習する
14.	症例検討とディスカッション（10）	授業内容について復習する
15.	こころの病まとめ	授業内容について復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問用紙の内容について、適宜、教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および質問用紙提出	75	授業や討議への参加度・態度と到達目標への意欲により評価する
期末レポート	25	到達目標にどの程度まで近づいているかで評価する

教科書:

参考書:　適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

358100

臨床の医学B

川上　　明

授業テーマ:　対人援助論ー特に癌患者の想いを理解するとともに死を通して生を考える

授業の概要:　双方向性の討論を中心とした授業（一方的に話を聞くだけの授業はしない）

到達目標:　他人の援助のための方法論を理解することができる

授業方法:　講義の中で討論をしながらすすめてゆく

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	医学と医療 死について 終末期医療とは	人の死についてどんな思いを持っているかまとめる
2.	緩和医療概論及び緩和ケア	緩和ケアとはどのようなことをするか
3.	他人の想いをどう理解するか	他人の理解はどうすればできるかを考えてくる
4.	他者の理解と共感（哲学的見地）	共感ってどうすることかを考える
5.	他者に対する援助CureとCare	援助って何だろう
6.	生命倫理	生命倫理について考えつくものを調べる
7.	生命倫理ー安楽死と尊厳死	安楽死と尊厳死の違いについて
8.	ホスピスと緩和ケア	ホスピスの歴史を調べる
9.	生命倫理　死を考える　症例検討	
10.	症例検討	
11.	苦痛を考える。特にスピリチュアルペインについて-1	苦痛とは何か調べてみる
12.	スピリチュアルペインとスピリチュアルケア-2	スピリチュアルペインとは何か
13.	スピリチュアルペインとスピリチュアルケア-3	スピリチュアルペインとは何か
14.	傾聴について考える	傾聴とは土嚢用にすればよいかを調べる
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業ではクライエントの苦痛を理解しどのように援助するかを考えることができるようになることを目的に勉強したい

フィードバックの方法:　一方的なデスクワークはせず毎回の授業で双方向性の討論から内容の理解をしその場で考える習慣を身につけてゆく

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の参加具合	40%	授業中の発言など
定期テスト	60%	記述式の期末試験にて

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　a_kawakam@yahoo.co.jp

358200

臨床の心理学A

中井　　由佳子

授業テーマ:　臨床心理学を通して人間を理解するための基礎を学ぶ。

授業の概要:
1. 臨床心理学が目指しているもの、歴史、理論、おもな援助の対象、アセスメントについて学ぶ。
2. 自分自身が考えたり感じたりしたことを振り返り、体験的に臨床心理学の基礎を学ぶ。

到達目標:
1. 臨床心理学が目指しているもの、歴史、理論、おもな援助の対象、アセスメントについて説明できる。
2. 体験して自分自身が考えたり感じたりしたことをもとにディスカッションできる。

授業方法:　講義と演習で行う。講義はペア・リーディングを、講義と演習にはグループディスカッションや全体討議も取り入れ、これらを通して積極的に授業に参加して体験的に理解を深められるようにする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	授業概要や成績評価方法、受講ルールの説明、他己紹介。
2.	臨床心理学とは	臨床心理学が何を目指しているかについて知る。
3.	臨床心理学の歴史	臨床心理学がどのようにして生まれたかについて知る。
4.	臨床心理学の理論	臨床心理学のざまざまな理論は何の役に立つかについて知る。
5.	おもな援助の対象①神経症・うつ病・パーソナリティー障がい・統合失調症	「症状をもつ」とはどういうことかについて知る。
6.	おもな援助の対象②発達がい・知的障がい	「発達障がい・知的障がいをもつ」とはどういうことかについて知る。
7.	アセスメント	アセスメントを通して人間の心を理解するとはどういうことかについて知る。
8.	質問紙法の体験1	エゴグラムの体験を通して質問紙法を知る。
9.	質問紙法の体験2	向性検査の体験を通して質問紙法を知る。
10.	質問紙法体験のディスカッション	グループディスカッションや全体討議を通して質問紙法の理解を深める。
11.	投影法の体験1	風景構成法での描き手と見守り手との両方の体験を通して投影法（描画法）について知る。
12.	投影法の体験2	風景構成法での描き手と見守り手との両方の体験を通して投影法（描画法）について知る。
13.	投影法体験のディスカッション	グループディスカッションや全体討議を通して投影法の理解を深める。
14.	質問紙法と投影法の違い	質問紙法と投影法の共通点と相違点、それぞれの長所と短所、テストバッテリーについて知る。
15.	まとめと振り返り	授業全体の振り返り。

受講者へのメッセージやアドバイス:　セラピストなど援助者にとって自分自身の身体を使って学んだことは今後の大切な宝物になると私は思っています。楽しみながら自分自身について理解を深める機会にもしていただけるとうれしいです。

フィードバックの方法:　授業内で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	100	平常点（授業の参加態度、ディスカッションへの参加度、感想などのミニレポート）で総合的に評価する。

教科書:　いちばんはじめに読む心理学の本1 「臨床心理学　全体的存在として人間を理解する」 伊藤良子編著　ミネルヴァ書房

参考書:　臨床心理学シリーズ② 「臨床心理学概論」 楡木満生・松原達哉　共編　培風館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Emailによって対応します。

358300

臨床の心理学B

中井　　由佳子

授業テーマ:　臨床心理学を通して人間を理解するための応用を学ぶ。

授業の概要:
1. 心理療法の実際、箱庭療法とユング心理学、乳幼児期から老年期の発達、専門性と訓練や職業倫理、社会のなかでの実践と連携、研究について学ぶ。
2. 自分自身が考えたり感じたりしたことを振り返り、体験的に臨床心理学の応用を学ぶ。

到達目標:
1. 心理療法の実際、箱庭療法とユング心理学、乳幼児期から老年期の発達、専門性と訓練や職業倫理、社会のなかでの実践と連携、研究について説明できる。
2. 体験して自分自身が考えたり感じたりしたことをもとにディスカッションできる。

授業方法:　講義と演習で行う。講義はペア・リーディングを、講義と演習にはグループディスカッションや全体討議も取り入れ、これらを通して積極的に授業に参加して体験的に理解を深められるようにする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	授業概要や成績評価方法、受講ルールの説明。
2.	心理療法の実際	臨床心理学的援助を実践するために大事なことについて知る。
3.	心理療法体験1	箱庭療法のグループ作成による作り手と見守り手との両方の体験を通して心理療法について知る。
4.	心理療法体験2	箱庭療法のグループ作成による作り手と見守り手との両方の体験を通して心理療法について知る。
5.	心理療法体験3	箱庭療法の個人作成による作り手と見守り手との両方の体験を通して心理療法について知る。
6.	心理療法体験4	箱庭療法の個人作成による作り手と見守り手との両方の体験を通して心理療法について知る。
7.	心理療法体験5	箱庭療法の個人作成による作り手と見守り手との両方の体験を通して心理療法について知る。
8.	心理療法体験のディスカッション	グループディスカッションや全体討議を通して心理療法の理解を深める。
9.	箱庭療法とユング心理学	箱庭療法の概論について知る。また向性検査、風景構成法、箱庭療法、米国での音楽療法のもととなるユング心理学について知る。
10.	乳幼児期から青年期の発達	子どもや青年の生きている世界と、そこで生じうる心理的な問題・課題について知る。
11.	成人期から老年期の発達	おとなとして生きることと、そこで生じうる心理的な問題・課題について知る。
12.	専門性と訓練や職業倫理	臨床心理実践の専門家になるために必要なことについて。
13.	社会のなかでの実践と連携	幼稚園（保育園）や学校などに臨床心理の専門家がいることの意味について。
14.	研究	臨床心理学ではどんな研究が行われているかについて。
15.	まとめと振り返り	授業全体の振り返り。

受講者へのメッセージやアドバイス:　セラピストなど援助者にとって自分自身の身体を使って学んだことは今後の大切な宝物になると私は思っています。楽しみながら自分自身について理解を深める機会にもしていただけるとうれしいです。

フィードバックの方法:　授業内で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	100	平常点（授業の参加態度、ディスカッションへの参加度、感想などのミニレポート）で総合的に評価する。

教科書:　いちばんはじめに読む心理学の本1 「臨床心理学　全体的存在として人間を理解する」 伊藤良子編著　ミネルヴァ書房

参考書:　臨床心理学シリーズ② 「臨床心理学概論」 楡木満生・松原達哉　共編　培風館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Emailによって対応します。

358400

映画・舞台音楽

仲　　万美子

授業テーマ:　20世紀、世界の人々を魅了してきた映画／舞台芸術の音楽の世界を探る旅

授業の概要:　西洋・東洋の総合芸術に携わる人々は伝統を育み、そして他の地域の特色にも関心を寄せ、それぞれの世界に取り込み、さらなる昇華をめざしてきた。そして20世紀に入り、ライブだけでなく映像記録メディアの登場によりさらなる展開が加速した。本講義では、日本が受信あるいは日本から発信される映像／舞台芸術の音楽を事例として、その意義と魅力を探る。

到達目標:　1）日本を中心に多様な舞台音楽がどのような演出や音楽によって、視聴者を魅了したか、2）多様な映画の各ジャンルにおいて音楽がどのように活用されたかを理解し、自分のこれまでの視聴体験と比較しながら、それぞれのトピックへの関心と知識を深化させることができるかが求められる。

授業方法:　講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	世界の人を魅了した日本人振付家が描き出したレビューの世界の魅力とは。	
2.	20世紀前半、バレエ音楽に新風を吹き込んだ振付家／作曲家の仕掛けとは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
3.	多言語による演劇における音楽の果たす役割とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
4.	日本人を描いた西洋人が創作したオペラの音楽とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
5.	一つのテクストが多様なジャンルで描き分けられる音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
6.	東アジアにおけるミュージカル音楽の受容の特徴とは。	前回の講義時に紹介しtあ資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
7.	劇団四季のミュージカル音楽の多様な世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
8.	21世紀宝塚歌劇団のあらたなる展開を見せる音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
9.	無声映画における「音楽」の魅力とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
10.	時代劇映像における「音楽」の役割とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
11.	邦画の中で鳴り響いた多様な「音楽」の魅力とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
12.	アメリカ映画の音楽手法とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
13.	怪獣映画の音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
14.	ディズニーカンパニー制作の映画音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
15.	スタジオジブリ制作のアニメーション映画音楽の世界とは。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるもの）

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:　提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする
授業への参加度	30%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。
発表、報告	25%	準備学習（予習、復習）、受講者のコメントの読み取りから、総合的に授業目標の達成の有無を判断する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　講義時に適宜、提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

358501、02

キーボードハーモニー

成田　　和子

授業テーマ:　メロディーとハーモニー

授業の概要:　基本的なコードを習得し、メロディーに適したコード付けを行う。
伴奏技能の上達とアレンジメント力を養う。

到達目標:　メロディーにコード付けを実施し、メロディーとともに即興的に演奏する。

授業方法:　講義および演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音階上のコードとコードネーム1	教科書の該当項目を予習する。
2.	音階上のコードとコードネーム2	教科書の該当項目を予習する。
3.	機能和声とコードネーム1、演習1	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
4.	機能和声とコードネーム２、演習2	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
5.	属7、減7、副7のコード、演習3	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
6.	メロディーとコード１、演習4	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
7.	メロディーとコード２、演習5	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
8.	和声音と非和声音１、演習６	教教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
9.	和声音と非和声音１、演習７	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
10.	借用和音、演習８	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
11.	準固有和音，演習９	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
12.	ナポリのIIとドリアのIVの和音、演習10	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
13.	伴奏テクニックとアレンジメント1、演習11	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
14.	伴奏テクニックとアレンジメント2、演習12	教科書の該当項目を予習する。課題を実施し、ピアノで練習する。
15.	総合	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習	50	
課題の実施	30	
出欠席の状態と平常の学習態度等	20	授業回数の3分の１以上の欠席者は、正当な理由が認められない限り、単位不認定（59%以下）とする。

教科書:　ピアニストのためのコード学習帳、監修：角聖子、著：藤原豊・植田彰、リットー・ミュージック・ムック

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

358600

ミュージッククリエイションA

成田　　和子

授業テーマ:　マイ・ソング（うた）の創作

授業の概要:　ポップス系のうたやクラシックの歌曲などの創作方法を学び、オリジナルなマイ・ソング（うた）を創作する。

到達目標:　オリジナルなマイ・ソング（うた）の創作と発表

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入：曲作りのプロセス	教科書の該当項目を予習する。
2.	メロディー、ハーモニー、リズムについて　演習１	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
3.	メロディーの作り方1.　演習２	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
4.	メロディーの作り方2.　演習３	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
5.	メロディーの作り方3.　演習４	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
6.	歌詞とメロディーの関係1.　演習５	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。。
7.	歌詞とメロディーの関係2.　演習６	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
8.	歌詞とメロディーの関係3.　演習７	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
9.	コード進行のテクニック1.　演習８	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
10.	コード進行のテクニック2.　演習９	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
11.	コード進行のテクニック3.　演習10	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
12.	曲の構成について　演習11	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
13.	イントロ，間奏，エンディングについて　演習12	教科書の該当項目を予習する。課題を実施する。
14.	発表1	発表の準備1
15.	発表2	発表の準備2

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習	50	
課題の実施	30	
出欠席の状態と平常の学習態度等	20	授業回数の３分の１以上の欠席者は、正当な理由が認められない限り、単位不認定（59%以下）とする。

教科書:　作曲をしたい人の本　久米大作著　成美堂出版

参考書:　参考文献や資料を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応

358700

ミュージッククリエイションB

葛西　　聖憲

授業テーマ:　ピアノ曲の創作

授業の概要:　過去のピアノ曲を研究しつつ、各自、独自のピアノ曲を作曲する。
様々なピアノ曲を分析し、学生各人の創作のレッスンを行う。

到達目標:　様々なピアノ曲を参考にしながら、自分なりのピアノ曲をつくる。

授業方法:　創作以外については演習形式。
創作に関する部分は、基本的にレッスン形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ピアノ曲をつくることについてのガイダンス	音楽に対する基礎的な知識の確認
2.	メロディと伴奏（右手と左手）について　１、 ピアノ曲の創作　１	前回の授業の復習
3.	メロディと伴奏（右手と左手）について　２、 ピアノ曲の創作　２	前回の授業の復習と課題創作
4.	分析：古典的様式のピアノ曲　１、 ピアノ曲の創作　３	前回の授業の復習と課題創作
5.	分析：古典的様式のピアノ曲　２、 ピアノ曲の創作　４	前回の授業の復習と課題創作
6.	分析：ロマン派のピアノ曲　１、 ピアノ曲の創作　５	前回の授業の復習と課題創作
7.	分析：ロマン派のピアノ曲　２、 ピアノ曲の創作　６	前回の授業の復習と課題創作
8.	分析：ロマン派のピアノ曲　３、 ピアノ曲の創作　７	前回の授業の復習と課題創作
9.	分析：旋律が少し複雑に組み合わさった対位的なピアノ曲　１、 ピアノ曲の創作　８	前回の授業の復習と課題創作
10.	分析：旋律が少し複雑に組み合わさった対位的なピアノ曲　２、 ピアノ曲の創作　９	前回の授業の復習と課題創作
11.	分析：旋律が少し複雑に組み合わさった対位的なピアノ曲　３、 ピアノ曲の創作　１０	前回の授業の復習と課題創作
12.	分析：近現代のピアノ曲　１、 ピアノ曲の創作　１１	前回の授業の復習と課題創作
13.	分析：近現代のピアノ曲　２、 ピアノ曲の創作　１２	前回の授業の復習と課題創作
14.	クラシック以外のピアノ曲（ジャズなど）　１、 ピアノ曲の創作　１３	前回の授業の復習と課題創作
15.	クラシック以外のピアノ曲（ジャズなど）　２、 ピアノ曲の創作　１４	前回の授業の復習と課題創作

受講者へのメッセージやアドバイス:　創作は受身だけでは出来ないので、単に授業での課題をこなすだけではない積極的な姿勢で臨んでほしい。

フィードバックの方法:　授業に基づき、自宅での作曲が必須である。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品提出	60	提出された作品の内容
平常点	40	授業に対する姿勢、中間レポートなど

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

358800

ミュージッククリエイションC

成田　　和子

授業テーマ:　器楽アンサンブル曲の創作

授業の概要:　弦楽器や菅楽器、鍵盤楽器を編成とするのアンサンブル曲の創作方法を学び、オリジナル曲を創作する。

到達目標:　オリジナルな器楽アンサンブル曲の創作と発表

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:いろいろな器楽作品について	どのようなアンサンブル曲を創作したいのか考える。
2.	木管楽器の基礎知識1　演習1	配布資料を参照する。課題を実施する。
3.	木管楽器の基礎知識2　演習2	配布資料を参照する。課題を実施する。
4.	木管楽器の基礎知識3　演習3	配布資料を参照する。課題を実施する。
5.	金管楽器の基礎知識1　演習4	配布資料を参照する。課題を実施する。
6.	金管楽器の基礎知識2　演習5	配布資料を参照する。課題を実施する。
7.	金管楽器の基礎知識3　演習6	配布資料を参照する。課題を実施する。
8.	弦楽器の基礎知識1　演習7	配布資料を参照する。課題を実施する。
9.	弦楽器の基礎知識2　演習8	配布資料を参照する。課題を実施する。
10.	弦楽器の基礎知識3　演習9	配布資料を参照する。課題を実施する。
11.	楽曲の構成と創作1　演習10	配布資料を参照する。課題を実施する。
12.	楽曲の構成と創作2　演習11	配布資料を参照する。創作を実施する。
13.	楽曲の構成と創作3　演習12	配布資料を参照する。創作を実施する。
14.	創作のまとめ	配布資料を参照する。創作を実施する。
15.	発表	発表の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習、創作	50	
課題の実施	30	
出欠席の状態と平常の学習態度等	20	授業回数の3分の1以上の欠席者は、正当な理由が認められない限り、単位不認定(59%以下)とする。

教科書:

参考書:　参考文献や資料を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

358900

ミュージッククリエイションD

葛西　　聖憲

授業テーマ:　合唱曲や合奏曲の創作

授業の概要:
以下のプロセスを組み合わせ、各自の創作へと導く。
o 楽器としての声の使い方と歌詞との連鎖の習得
o 様々な楽器の機能を習得
o 過去の合唱曲や合奏曲の分析とその模倣
o 上記を参考にした創作

到達目標:　伴奏付および無伴奏の女声・男声・混声合唱曲や、多様な楽器を用いた合奏曲をつくる。

授業方法:
創作以外については演習形式。
創作に関する部分は、基本的に1対1のレッスン形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	音楽に対する基礎的な知識の確認
2.	合唱曲の創作 1	前回の授業の復習
3.	合唱曲の創作 2	前回の授業の復習と課題創作
4.	合唱曲の創作 3	前回の授業の復習と課題創作
5.	合唱曲の創作 4	前回の授業の復習と課題創作
6.	合奏曲の創作 1	前回の授業の復習と課題創作
7.	合奏曲の創作 2	前回の授業の復習と課題創作
8.	合奏曲の創作 3	前回の授業の復習と課題創作
9.	合奏曲の創作 4	前回の授業の復習と課題創作
10.	声のパートを含む合奏曲の創作 1	前回の授業の復習と課題創作
11.	声のパートを含む合奏曲の創作 2	前回の授業の復習と課題創作
12.	声のパートを含む合奏曲の創作 3	前回の授業の復習と課題創作
13.	声のパートを含む合奏曲の創作 4	前回の授業の復習と課題創作
14.	声のパートを含む合奏曲の創作 5	前回の授業の復習と課題創作
15.	声のパートを含む合奏曲の創作 6	前回の授業の復習と課題創作

受講者へのメッセージやアドバイス:
創作は受身だけでは出来ないので、単に授業での課題をこなすだけではない積極的な姿勢で臨んでほしい。

フィードバックの方法:
授業に基づく自宅での作曲が必須である。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品提出	60	提出された作品の内容
平常点	40	授業に対する姿勢、中間レポートなど

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
オフィスアワー他

359000

コンピュータミュージック演習A

檜垣　　智也

授業テーマ:　コンピュータを用いた音楽表現技法について学ぶ。

授業の概要:　コンピュータを用いた音楽制作の環境について理解する。またAvid社のPro Toolsを用いたMIDIを用いた入力、編集の基本を習得をする。

到達目標:　アプリケーションの操作法とMIDIについて理解すること。
コンピュータを用いた新しい音楽表現についての教養とセンスを深めること。

授業方法:　Apple社のMacにインストールした音楽制作用ソフトウェアを用いた演習形式による授業。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	特になし
2.	コンピュータ・ミュージックの制作環境1	特になし
3.	コンピュータ・ミュージックの制作環境2	特になし
4.	音楽制作ソフトウェアの使い方1	授業で学んだ操作を復習しておく。
5.	音楽制作ソフトウェアの使い方2	授業で学んだ操作を復習しておく。
6.	音楽制作ソフトウェアの使い方3	授業で学んだ操作を復習しておく。
7.	ミニ課題の制作	授業で学んだ操作を復習しておく。
8.	ミニ課題の合評	ミニ課題を制作しておく。
9.	最終課題の説明	特になし
10.	課題の個別指導1	課題の制作をすすめておく。
11.	課題の個別指導2	課題の制作をすすめておく。
12.	課題の個別指導3	課題の制作をすすめておく。
13.	課題の個別指導4	課題の制作をすすめておく。
14.	課題の個別指導5	課題の制作をすすめておく。
15.	合評会	課題の制作をすすめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業が受講生の理解度に合わせて進行するため、シラバス通りに進むとは限りません。
授業ではアプリケーションの操作を系統的に学びます。休むと前の操作がわからなくなるので、できるだけ休まないでください。
また、コンピュータを用いた新しい音楽について、たくさん触れて、感性を養ってください。
授業内で、たくさんのコンサートを紹介していきますので、参考にしてください。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びミニ課題の提出	41	アプリケーションの習熟度
最終課題の提出	59	オリジナリティとクオリティ

教科書:　授業内でプリント配布します。

参考書:　授業内で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内に相談してください。

359100

コンピュータミュージック演習B

檜垣　　智也

授業テーマ:　コンピュータミュージック演習Aに引き続き、コンピュータを用いた音楽表現技法について学ぶ。

授業の概要:　コンピュータミュージック演習Aをふまえて、電子音響音楽（ミュージック・コンクレート）の制作を通じて、Avid社のPro Toolsを用いた音声の録音、エディット、エフェクト、ミックスについて習得する。

到達目標:　アプリケーションの操作、とりわけAUDIOに関する取扱について習得する。
電子音響音楽の教養とセンスを身につける。

授業方法:　Apple社のMacにインストールした音楽制作用ソフトウェアを用いた演習形式による授業。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	特になし
2.	音声編集について1	特になし
3.	音声編集について2	学んだアプリーケーションの操作方法の復習。
4.	音声編集について3	学んだアプリーケーションの操作方法の復習。
5.	録音方法	学んだアプリーケーションの操作方法の復習。
6.	ミニ課題の制作	学んだ録音方法の復習
7.	ミニ課題の合評	ミニ課題の制作
8.	最終提出課題（電子音響音楽／ミュージック・コンクレートの制作）の説明	特になし
9.	課題の個別指導1	最終課題の制作
10.	課題の個別指導2	最終課題の制作
11.	課題の個別指導3	最終課題の制作
12.	課題の個別指導4	最終課題の制作
13.	課題の個別指導5	最終課題の制作
14.	課題の個別指導6	最終課題の制作
15.	合評会	最終課題の制作

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業内での課題の制作も可能であるが、授業を受けながら、自宅での制作環境を整え自宅でも制作できるようにしてほしい。コンピュータを援用した新しい音楽への教養とセンスを身につけるために、コンサートなどのイベントに参加してほしい。授業でたくさん紹介していきます。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びミニ課題の提出	41	アプリケーションの習熟度
最終課題	59	オリジナリティとクオリティ

教科書:　授業内でプリント配布します。

参考書:　授業内で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内に相談してください。

359200

コンピュータミュージック演習C

石上　　和也

授業テーマ:

授業の概要: メディア・アート表現／映像音響作品の制作技術の習得

到達目標:
●映像表現の基礎知識、映像編集技術の習得。
●音楽家の視点から、映像作品を制作する為の方法論の習得

授業方法:
・毎回、授業前半は講義をおこない、後半は演習をおこなう。
・一人一台コンピュータ(Mac)を使用して演習をおこなう。
・講義時に映像／音響作品の紹介もおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	映像と音の表現:基礎知識その1	予習:受講前に映像作品(TV、DVD等どんなジャンルの映像でも構わないので)の鑑賞時に、音／音楽を意識して鑑賞すること。
2.	映像と音の表現:基礎知識その2	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
3.	映像と音の表現:基礎知識その3	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
4.	音楽における映像　映像における音楽について	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
5.	映像編集ソフトの概要	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
6.	映像編集ソフト基本操作その1	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
7.	映像編集ソフト基本操作その2	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
8.	映像編集ソフト:編集テクニック1	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
9.	映像編集ソフト:編集テクニック2	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
10.	映像編集ソフト:編集テクニック3	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
11.	映像音響作品制作・発表　指導	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
12.	映像音響作品制作・発表　指導	前回の制作状況の把握をおこなうこと。
13.	映像音響作品制作・発表　指導	前回の制作状況の把握をおこなうこと。
14.	映像音響作品制作・発表　指導	前回の制作状況の把握をおこなうこと。
15.	合評	合評までに作品を完成させること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 作品制作時に個別に指導をおこなう。完成した作品に対して合評時にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点(出席、授業態度、積極的参加度)	70	到達目標「映像表現の基礎知識、映像編集技術の習得」ができているかを評価する。
レポート・課題	30	到達目標「音楽家の視点から、映像作品を制作する為の方法論の習得 」ができているかを評価する。

教科書: プリント配布

参考書: 授業内で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で応対

359300

コンピュータミュージック演習D

石上　　和也

授業テーマ:

授業の概要:　メディア・アート／サウンド・アート／サウンド・ビジュアル・プログラミング／作品制作・発表のプランニング技術の習得

到達目標:
●メディア・アート／サウンドアート／音楽＋視覚芸術の基礎知識の習得
●作品発表の表現方法・能力の取得
●自分の作品を他者へ届けるための能力の習得
●社会の中での芸術表現について考察し理解する
●サウンド・ビジュアル・プログラミングの基礎基礎の習得

授業方法:
・1回から4回までは講義を中心におこなう。5回以降は、授業前半は講義、後半は演習をおこなう。
・一人一台コンピュータ(Mac)を使用して演習をおこなう。
・サウンドアート／メディアアート作品の紹介もおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	サウンド・アート／メディア・アートについて　歴史・表現方法1	予習:受講前にサウンド・アート／メディア・アートについてインターネット等で調べおくこと
2.	サウンド・アート／メディア・アートについて　歴史・表現方法2	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
3.	サウンド・アート／メディア・アートについて　歴史・表現方法3	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
4.	サウンド・アート／メディア・アートについて　歴史・表現方法4	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
5.	サウンド・アート／メディア・アート制作演習1 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
6.	サウンド・アート／メディア・アート制作演習2 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
7.	サウンド・アート／メディア・アート制作演習3 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
8.	サウンド・アート／メディア・アート制作演習4 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
9.	サウンド・アート／メディア・アート制作演習5 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
10.	サウンド・アート／メディア・アート制作演習6 ～プログラミング環境「PureData」を使用した演習～	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
11.	作品制作・発表　指導	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
12.	作品制作・発表　指導	前回の制作状況の把握をおこなうこと。
13.	作品制作・発表　指導	前回の制作状況の把握をおこなうこと。
14.	作品制作・発表　指導	前回の制作状況の把握をおこなうこと。
15.	合評	合評までに作品を完成させること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　作品制作時に個別に指導をおこなう。完成した作品に対して合評時にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点(出席、授業態度、積極的参加度)	70	到達目標「メディア・アート／サウンドアート／音楽＋視覚芸術の基礎知識の習得」「社会の中での芸術表現について考察し理解する」「サウンド・ビジュアル・プログラミングの基礎基礎の習得」ができているかを評価する。
レポート・課題	30	到達目標「作品発表の表現方法・能力の取得」「自分の作品を他者へ届けるための能力の習得」ができているかを評価する。

教科書:　プリント配布

参考書:　授業内で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

360501、02　**リトミックA**

辻　　裕

授業テーマ:　ダルクローズ・リトミックのサブジェクトを通じて、音楽の様々な要素を感じ、それを動きながら音楽を体験し、音楽と動きを関連づけた音楽教育として、感性トレーニングとしてのリトミックを学ぶ。

授業の概要:　基礎的な音楽の項目やニュアンスを、身体を使って習得し、カラーボール・ボール・スカーフなどを使ってトレーニングする。

到達目標:　音・音楽の様々な基礎的な音楽項目やニュアンスを、身体を使って習得し、表現やコミュニケーション力の基礎トレーニングをする。

授業方法:　演習／実技の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	拍のニュアンスとアクセント	基礎的な楽典知識が必要
2.	強弱のニュアンスと拍・拍子の強弱	基礎的な楽典知識が必要
3.	音楽の高低やテンポによるニュアンスと方向	速度記号・音程などの知識が必要
4.	強弱・遅速・高低のニュアンスと感覚	3つの総合的な感覚を考える。
5.	拍（Beat）の考え方と、拍子のニュアンス	2Beat・4Beat・8Beatについて
6.	分割リズムと統合リズムと倍加半減	音符や休符についての基礎的な楽典知識が必要
7.	研究発表（1）	用意された課題を考える
8.	和音の性格と種類によるニュアンス	長・短・減・増の和音
9.	リズムの強弱とリズムパターン・フレーズ	音楽構成の分析
10.	リズムの即興と即興演奏法	リズムの作り方と伴奏例
11.	スケールとハーモニー	音階と和声の基礎的な楽典知識
12.	自由即興演奏法	用意された方法を実践する。
13.	研究発表（2）	グループで創作する。
14.	メロディー即興と動きの伴奏法	プリント資料を参考にする
15.	動きと音楽、音楽と動き	音楽とリトミックの関係

受講者へのメッセージやアドバイス:　動きやすい服装、動きやすい靴で受講。

フィードバックの方法:　授業内にてコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究発表による評価	50%	発表での統合と達成度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

360601、02　**リトミックB**

辻　　裕

授業テーマ:　音楽の感性トレーニングの一つとして、音楽と動きを関連づけた音楽教育としてのリトミックを学ぶ。

授業の概要:　個人・グループなどでの活動の中で、コミュニケーション能力と自己表現力のトレーニング。

到達目標:　音楽から動き、動きからのプロセスの中で、音楽を通じて感性と音楽性を高める。

授業方法:　演習/実技の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音と歩行、音楽と歩行とクラッピング	音と音楽のタイミングをトレーニング。
2.	音楽歩行と体重移動の関係とニュアンス	音楽を歩行することで、長さや重さを感じるトレーニング。
3.	筋肉の緊張と弛緩と音楽との関係	音楽の緊張感を筋肉で捉えるトレーニング。
4.	身体を使ってのリズム表現と音楽表現	音楽を聴いて、身体のいろんな部分を動くトレーニング。
5.	ことばのリズムから音楽	言葉のアクセントやリズムのトレーニング。
6.	研究発表（1）	用意された曲をグループで創作発表。
7.	基礎的な動き（1）	音楽を聴いて動くトレーニング。
8.	基礎的な動き（2）と様々な動き	音楽のニュアンスを動くトレーニング。
9.	道具を使っての動き（ボール・スカーフ）	道具を使って、音楽のニュアンスを表現するトレーニング。
10.	道具を使っての動き（カラーボード・トーンチャイム）	ニュアンスの違いと動きの違いのトレーニング。
11.	動きから音へ（ピアノ即興演奏法も含む）	動きに音楽を付けるトレーニング。
12.	動きのための即興演奏法と伴奏演奏法（1）	色々な伴奏パターンと即興のトレーニング。
13.	研究発表（2）	課題曲をグループで創作発表。
14.	動きのための即興演奏法（2）	グループで動く人と弾く人に分かれて、即興のトレーニング。
15.	音楽と動き、動きと音楽、音楽とリトミック	リトミックのまとめ。

受講者へのメッセージやアドバイス:　動きやすい服装と底の薄いシューズもしくは裸足で受講

フィードバックの方法:　授業内にてコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究発表の評価	50%	達成度と表現力と感性。
平常課題	50%	授業への積極的参加度。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

360701、02

ギター演習

増井　　一友

授業テーマ:　ギター、素晴らしき世界に触れる

授業の概要:　実際に楽器を使い、弾き方を習得する
幅広く音楽の中でのギターの役割を理解する

到達目標:　簡単な旋律の演奏と伴奏
楽器のメンテナンスを含めた全体の理解

授業方法:　実際に楽器を使い、グループレッスンの形態をとりながら楽器への理解を深める

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	スケール1 1弦と2弦を使った音階 旋律演奏	アポヤンドとアルアイレを理解する 課題:かっこう
2.	スケール2 3弦を使った音階 旋律演奏	簡単な旋律を集める
3.	スケール3 4弦と5弦を使う音階 右手の弾弦と左手の押弦	音域の拡大を理解する
4.	CとG7のコード コード演奏の実際 右手の弾き方	コードの理解 課題:いとしのクレメンタイン
5.	オルタネーティング・ベース 右手親指の演奏	ベースの理解 課題:駅馬車、ポルカ(三重奏)
6.	Am、E、E7のコード 調性の理解	調性を広げる 課題:一週間
7.	Dmコード カデンツの理解	様々な終止形を理解する 課題:ボヘミアの歌、行商人
8.	スケール4 6弦を使うスケール	課題:遥かなる谷間
9.	Fのコード Fを使った伴奏	課題:帰省、旅愁 旅愁の歌詞を調べる
10.	セーハの技法 C on Gのコード	課題:星の世界
11.	GとD7のコード ト長調の旋律の伴奏	課題:波とうを超えて、バラのタンゴ
12.	Em、B7、Dのコード ホ短調の旋律の伴奏 ストローク奏法	課題:愛のロマンス、グリーンスリーブス
13.	ギター音楽の歴史	音楽史の中のギター史を調べる
14.	ギターの管理の方法 弦の交換 ナット、ブリッジ等の理解	コードの理解の徹底
15.	まとめ 教育現場でのギターの活用	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　実際に楽器を使う授業ですのです

フィードバックの方法:　レポートはコメントを付けて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	30	ギターに対する理解度、現場で指導するための知識を評価する
授業への参加度	70	演習への参加意欲と受講態度を評価する

教科書:　ヤマハ音楽振興会・Classic Guitar Course vol.1 ・株式会社ヤマハミュージックメディア

参考書:　ヤマハ音楽振興会・Classic Guitar Course vol.2・株式会社ヤマハミュージックメディア
ヤマハ音楽振興会・Classic Guitar Course vol.3 ・株式会社ヤマハミュージックメディア

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　masuikazutomo@gmail.com

360800

リコーダー演習

肥塚　　賀津子

授業テーマ:

授業の概要:　リコーダーの歴史から始め、基礎奏法（ロングトーン、タンギング、スラー、スタッカート、チューニング等）の講義と実習を通して、教育現場における指導方法を習得させる。

到達目標:
1.リコーダーの基礎奏法の習得
2.学生自身が選択した曲の演奏と、他の学生を中高校生に見立てての指導ができること
3.課題曲の演奏

授業方法:　講義と実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	リコーダーの歴史、楽器についての説明、運指表を用いて音を確認する。	手持ちアルトリコーダーを持参
2.	ロングトーン、タンギング、スラー、スタッカートを主に左手を使った曲を用いて練習する。	事前配布テキストの予習
3.	チューニングの説明と両手を使った練習で演奏音域を拡げてゆく。	前週の復習
4.	サミングの説明を加え、主に高音域の練習を行う。	前週の復習
5.	この回以降、学生自身で選択した曲を教師の立場として、グループ分けした他の学生に模擬指導し、それに対しての意見交換を実施してもらう。	選択曲の事前用意
6.	フラットを使った曲を主に練習する。	事前配布テキストの予習
7.	シャープを使った曲を主に練習する。	前週の復習
8.	二声及び三声の曲を使い、ブレスやフレーズの取り方、音の合わせ方等の練習を行う。	前週の復習
9.	二人、又は三人のグループに分けて課題曲の演奏と、それに対する意見交換を学生間で行う。	事前配布の課題曲の予習
10.	同上	課題曲の復習
11.	ダブルタンギングの説明とバスパートの付いた曲の練習。	事前配布テキストの予習
12.	まとめの曲の説明と練習。	事前配布したまとめ曲の予習
13.	アルトリコーダーのまとめ。	まとめ曲の復習
14.	ソプラノリコーダーを使用した音階練習と、即興にて短いフレーズを作り、それを他の学生に模倣させる練習を行う。	ソプラノリコーダーの持参
15.	テキストを使用し、ソプラノリコーダーを用いて二声及び三声の曲を実習する。	事前配布テキストの予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実技試験による採点

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	30	
出席状況	70	授業への積極的な参加等の態度

教科書:　全てプリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で応対

360901

古楽器演習Ⅰ

吉田　　一美

授業テーマ:

授業の概要:　ヴィオラ・ダ・ガンバの基本的な演奏法を身につけ、ルネサンス時代の色々な国の曲を合奏体験する。

到達目標:
・楽器を正しく構え、弓を正しく持ち演奏する。
・ルネサンス、バロック時代の演奏スタイルを学び、演奏する。
・合奏することで相手を思いやり、助け合い、共に楽しむ。

授業方法:　アンサンブルでの指導をいたしますが、持ち方、弾き方などは個人的に指導することもあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	楽器についての資料配布、楽器の取り扱い説明および楽器の説明。楽器の割り当て、楽器・弓の持ち方の説明。	
2.	資料に基づいて楽器の弾き方(開放弦)。	楽器の名称や開放弦の音を覚える。
3.	資料に基づいて楽器の弾き方。	楽器の名称、開放弦の音を覚える。
4.	指板上の音の弾き方。音階練習(1オクターブ)。	
5.	音階練習(1オクターブ)。簡単な曲の演習。	第4回で指導した指板上の音(1オクターブ)を覚える。
6.	簡単な曲の演習。	指板上の音(1オクターブ)を覚える。
7.	全弦を使った音階練習。簡単な曲の演習。	開放弦を覚える。
8.	受講生各自の選択による自由曲の発表。	発表の練習。
9.	合奏の演習。スペインの世俗曲。 J.デル エンシーナ(1468-1526)「美しいご婦人」	各自パートの歌を歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
10.	合奏の演習。イタリアの舞曲。 G.ザネッティ(？～1626?)「麗しのペドリナ」	各自のパートに言葉が付いているようなアーティキュレーションを考える。
11.	合奏の演習。イギリスの古い讃美歌。 J.ダウランド(1563～1626)編曲「第100番」	各自パートの歌を歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
12.	合奏の演習。ドイツの世俗曲。 H.L.ハスラー(1562～1612)「私はあなたの心から離れません」	各自パートの歌を歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
13.	合奏の演習。フランスのシャンソン。 T.アルボー(1520～1595)「私を虜にした美しい人」	各自パートの歌を歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
14.	グループによるアンサンブル練習(演習曲より各グループ選択)。	各自個人練習。
15.	アンサンブルグループによる発表とまとめ。	各自個人練習。グループでの練習ができるとなお良い。

受講者へのメッセージやアドバイス:　第6回目終了以降、学内に限り楽器の貸し出しが可能です。

フィードバックの方法:　必要な場合、口頭で伝えます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	70%	合奏を中心とした授業ですので、特別な理由が無い限り授業日数の1/3以上の欠席は不可となります。
発表	30%	個人の発表では基本的なことが習得できているかどうか、グループでの発表では仲間と積極的に曲を仕上げながら自分の役割を果たせているかどうか。

教科書:

参考書:
ヴィオール概論　ジャン・ルソー著　関根敏子/神戸愉樹美共訳(アカデミアミュージック出版)
新版古楽のすすめ　金澤正剛著　(音楽の友社)
Metodo completo e progressivo per viola da gamba vol.1　Paolo Violdi/Vittorio Ghielmi著(UT ORPHEUS EDIZIONI)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対いたします。

360902

古楽器演習Ⅰ

肥塚　　賀津子

授業テーマ:

授業の概要:　ソプラノ、アルト、テナー、バスの4種類のリコーダーを使用し、主にルネッサンス音楽の演奏を通して、合奏の楽しさやハーモニーの美しさを実感させる。

到達目標:
1.個々の学生が選択した声部を正確に演奏できること。
2.自身が選択した声部以外の演奏を聴きながら、調和させての演奏ができること。

授業方法:　四種類の楽器（ソプラノ、アルト、テナー、バス）を用いた合奏を主とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学生の経験の有無を聞き、ソプラノ、アルト、テナー、バスの中から希望するリコーダーに分けて、楽器の扱い方、運指法、譜面台の組み立て方等を説明する。	手持ちソプラノおよびアルトリコーダーを持参
2.	M. プレトリウスの「4声のダンス音楽」より抜粋した曲を実習。	自分の声部の運指の確認。
3.	M. プレトリウスの「4声のダンス音楽」より抜粋した曲を実習。	前週の復習
4.	M. プレトリウスの「スパニョレッタ」を用いて実習	事前に予習
5.	P.ファレーズの二つのダンス曲（ガイアルド）を用いて実習。	事前に予習
6.	P.ファレーズの二つのダンス曲（ガイアルド）を用いて実習。	前週の復習
7.	T.スザートの「ロンド」と「バスダンス」を実習。	事前に予習
8.	T.スザートの「ロンド」と「バスダンス」を実習。	前週の復習
9.	C.ジェルヴェーズの「パヴァーヌとガリアルド」を実習。	事前に予習
10.	C.ジェルヴェーズの「パヴァーヌとガリアルド」を実習。	前週の復習
11.	作者不詳「パヴァーヌ」を実習。	事前に予習
12.	作者不詳「パヴァーヌ」を実習。	前週の復習
13.	全体を2～3組に分け、2～8回の講義中の曲から抜粋し、グループ毎に演奏を行う。	2～8回の講義曲の復習
14.	前回同様に9～12回の講義中の曲から抜粋し、グループ毎に演奏を行う。	9～12回の講義曲の復習
15.	まとめ。	まとめ演奏の練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実技試験による採点

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	30	
出席状況	70	授業への積極的参加等の態度

教科書:　全てプリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で応対

361001

古楽器演習Ⅱ

肥塚　　賀津子

授業テーマ:

授業の概要:　ソプラノ、アルト、テナー、バスの4種類のリコーダーを使用し、主にルネッサンス音楽の演奏を通して、合奏の楽しさやハーモニーの美しさを実感させる。

到達目標:
1.個々の学生が選択した声部を正確に演奏できること。
2.自身が選択した声部以外の演奏を聴きながら、調和させての演奏ができること。

授業方法:　四種類の楽器（ソプラノ、アルト、テナー、バス）を用いた合奏を主とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学生の経験の有無を聞き、ソプラノ、アルト、テナー、バスの中から希望するリコーダーに分けて、楽器の扱い方、運指法、譜面台の組み立て方等を説明する。	手持ちソプラノおよびアルトリコーダーを持参
2.	M. プレトリウスの「4声のダンス音楽」より抜粋した曲を実習。	自分の声部の運指の確認。
3.	M. プレトリウスの「4声のダンス音楽」より抜粋した曲を実習。	前週の復習
4.	M. プレトリウスの「スパニョレッタ」を用いて実習	事前に予習
5.	P.ファレーズの二つのダンス曲（ガイアルド）を用いて実習。	事前に予習
6.	P.ファレーズの二つのダンス曲（ガイアルド）を用いて実習。	前週の復習
7.	T.スザートの「ロンド」と「バスダンス」を実習。	事前に予習
8.	T.スザートの「ロンド」と「バスダンス」を実習。	前週の復習
9.	C.ジェルヴェーズの「パヴァーヌとガリアルド」を実習。	事前に予習
10.	C.ジェルヴェーズの「パヴァーヌとガリアルド」を実習。	前週の復習
11.	作者不詳「パヴァーヌ」を実習。	事前に予習
12.	作者不詳「パヴァーヌ」を実習。	前週の復習
13.	全体を2～3組に分け、2～8回の講義中の曲から抜粋し、グループ毎に演奏を行う。	2～8回の講義曲の復習
14.	前回同様に9～12回の講義中の曲から抜粋し、グループ毎に演奏を行う。	9～12回の講義曲の復習
15.	まとめ。	まとめ演奏の練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実技試験による採点

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	30	
出席状況	70	授業への積極的参加等の態度

教科書:　全てプリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で応対

361002

古楽器演習Ⅱ

吉田　　一美

授業テーマ:

授業の概要:　ヴィオラ・ダ・ガンバの基本的な演奏法を身につけ、ルネサンス時代の色々な国の曲を合奏体験する。

到達目標:
・楽器を正しく構え、弓を正しく持ち演奏する。
・ルネサンス、バロック時代の演奏スタイルを学び、演奏する。
・合奏することで相手を思いやり、助け合い、共に楽しむ。

授業方法:　アンサンブルでの指導をいたしますが、持ち方、弾き方などは個人的に指導することもあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	楽器についての資料配布、楽器の取り扱い説明および楽器の説明。楽器の割り当て。楽器・弓の持ち方の説明。	
2.	資料に基づいて楽器の弾き方(開放弦)。	楽器の名称や開放弦の音を覚える。
3.	資料に基づいて楽器の弾き方。	楽器の名称や開放弦の音を覚える。
4.	指板上の音の弾き方。音階練習(1オクターブ)。	
5.	音階練習(1オクターブ)。簡単な曲の演習。	第4回で指導した指板上の音(1オクターブ)を覚える。
6.	簡単な曲の演習。	指板上の音(1オクターブ)を覚える。
7.	全弦を使った音階練習。簡単な曲の演習。	開放弦を覚える。
8.	受講生各自の選択による自由曲の発表。	発表に向けての個人練習(学内であれば楽器の貸し出し可能)。
9.	合奏の演習。スペインの世俗曲。 J.デル エンシーナ(1468～1526)「美しいご婦人」	各自のパートを歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
10.	合奏の演習。イタリアの舞曲。 G.ザネッティ(？～1626？)「麗しのペドリナ」	各自のパートに言葉が付いているようなアーティキュレーションを考える。
11.	合奏の演習。イギリスの古い讃美歌。 J.ダウランド(1563～1626)編曲「第100番」	各自のパートを歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
12.	合奏の演習。ドイツの世俗曲。 H.L.ハスラー(1562～1612)「私はあなたの心から離れません」	各自のパートを歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
13.	合奏の演習。フランスのシャンソン。 T.アルボー(1520～1595)「私を虜にした美しい人」	各自のパートを歌う。出来れば言葉を調べるとなお良い。
14.	グループによるアンサンブル練習(演習曲より各グループ選択)。	各自個人練習。
15.	アンサンブルグループによる発表とまとめ。	各自個人練習。グループでの練習が出来るとなお良い。

受講者へのメッセージやアドバイス:　第6回目終了以降、学内に限り楽器の貸し出しが可能です。

フィードバックの方法:　必要な場合、口頭で伝えます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	70%	合奏を中心とした授業ですので、特別な理由がない限り授業日数の1/3以上の欠席は不可となります。
発表	30%	個人の発表では基本的なことが習得できているかどうか。グループの発表では仲間と積極的に曲を仕上げながら自分の役割を果たせているかどうか。

教科書:

参考書:
ヴィオール概論　ジャン・ルソー著　関根敏子/神戸愉樹美共訳(アカデミアミュージック出版)
新版　古楽のすすめ　金澤正剛著(音楽の友社)
Metodo completo e progressivo per viola da gamba vol.1　Paolo Violdi/Vittorio Ghielmi著(UT ORPHEUS EDIZIONI)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対します。

361101

古楽器演習Ⅲ

吉田　　一美

授業テーマ:

授業の概要: ヴィオラ・ダ・ガンバの演奏を通して西洋古楽（ルネサンス及びバロック音楽）を学ぶ。

到達目標: 古楽器演習ⅠまたはⅡで習得した基礎演奏技術をさらに発展させ、中級技術をマスターする。

授業方法: 基本的にはアンサンブル指導ですが、適宜個人的な指導も行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	楽器の割り当て。 楽器の構え方、ボゥイングの確認。	
2.	合奏の演習。イタリアの舞曲 作者不詳（16世紀） 「農夫」	
3.	合奏の演習。イタリアの舞曲 作者不詳（16世紀） 「農夫」	第2回の際の注意点を踏まえて、個人練習。
4.	合奏の演習。フランスのシャンソン P.アテニャン（1494?～1552） 「花と輝ける時」	
5.	合奏の演習。フランスのシャンソン P.アテニャン（1494?～1552） 「花と輝ける時」	第4回の際の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
6.	合奏の演習。スペインの歌曲 J.デル・エンシーナ（1468～1529） 「スペインよ、嘆け」	
7.	合奏の演習。スペインの歌曲 J.デル・エンシーナ（1468～1529） 「スペインよ、嘆け」	第6回の際の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
8.	合奏の演習。ドイツの世俗曲 L.ゼンフル（1486頃～1542） 「いとしのエルスライン」	
9.	合奏の演習。ドイツの世俗曲 L.ゼンフル（1486頃～1542） 「いとしのエルスライン」	第8回の際の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
10.	合奏の演習。フランドルのシャンソン J.デ・プレ（1440頃～1521） 「千々の悲しみ」	
11.	合奏の演習。フランドルのシャンソン J.デ・プレ（1440頃～1521） 「千々の悲しみ」	第10回の際の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
12.	合奏の演習。イギリスの舞曲 作者不詳（16世紀） 「侯爵夫人のパヴァーヌ」	
13.	合奏の演習。イギリスの舞曲 I.アルヴェルティ（ ?～1565？） 「アルヴェルティのパヴァーヌ」	
14.	合奏の演習。イギリスの舞曲 作者不詳（16世紀） 「ガリアルド」	
15.	アンサンブルによる発表とまとめ。	第15回の発表に向けて個人練習。アンサンブルでの練習が可能であればなお良。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・受講生の人数及び、授業の進捗状況により演習曲を変更する場合があります。
・古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）ⅠまたはⅡを履修していない学生が受講する場合、授業時間以外に個人的な練習が必要になる場合があります。
・学内に限り楽器を借りることができます。

フィードバックの方法: 必要な場合、口頭で伝えます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極参加度	70%	アンサンブルを中心とした授業ですので、特別な理由がない限り授業の1/3以上の欠席は不可となります。
発表	30%	仲間と積極的に曲を仕上げながら、自分の役割を果たせているかどうか。

教科書:

参考書:
「ヴィオル概論」 ジャン・ルソー著　関根敏子/神戸愉樹美共訳（アカデミアミュージック出版）
「Metodo completo e progressivo per viola da gamba vol.1 」 Paolo Violdi/Vittorio Ghielmi著（UT ORPHEUS EDIZIONI）
「音楽と言語」T.Gゲオリギアース著　木村敏訳（講談社学術文庫）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で応対します。

361102

古楽器演習Ⅲ

肥塚　　賀津子

授業テーマ:

授業の概要:　ソプラノ、アルト、テナー、バスの4種類のリコーダーを使用し、主にバロック音楽の演奏を通して、合奏の楽しさやハーモニーの美しさを実感させる。

到達目標:
1.個々の学生が選択した声部を正確に演奏できること。
2.自身が選択した声部以外の演奏を聴きながら、調和させての演奏ができること。

授業方法:　四種類の楽器（ソプラノ、アルト、テナー、バスリコーダー）を用いた合唱を主とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学生をソプラノ・アルト・テナー・バスリコーダーに振り分けて、イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	手持ちリコーダーを持参
2.	イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	前週実習の課題曲を復習
3.	イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	課題曲の復習
4.	J.J.モレの「ロンド」を用いて実習。	前週配布の課題曲の予習
5.	J.J.モレの「ロンド」を用いて実習。	前週実習の課題曲を復習
6.	G.F.ヘンデルの「平和」	前週配布の課題曲の予習
7.	G.F.ヘンデルの「平和」	前週実習の課題曲を復習
8.	G.P.テレマンの「四つのフーガ」	前週配布の課題曲の予習
9.	G.P.テレマンの「四つのフーガ」	前週実習の課題曲を復習
10.	H.パーセルの「シャコンヌ」	前週配布の課題曲の予習
11.	H.パーセルの「シャコンヌ」	前週実習の課題曲を復習
12.	G.F.ヘンデルの「水上の音楽」	前週配布の課題曲の予習
13.	G.F.ヘンデルの「水上の音楽」	前週実習の課題曲を復習
14.	１～7回迄の講義の総復習。	１～7回までの課題曲の復習
15.	８～１３回迄の講義の総復習。	８～１３回までの課題曲の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実技試験による採点

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	30	
出席状況	70	授業への積極的な参加等の態度

教科書:　全てプリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で応対

361201

古楽器演習Ⅳ

肥塚　　賀津子

授業テーマ:

授業の概要:　ソプラノ、アルト、テナー、バスの4種類のリコーダーを使用し、主にバロック音楽の演奏を通して、合奏の楽しさやハーモニーの美しさを実感させる。

到達目標:
1.個々の学生が選択した声部を正確に演奏できること。
2.自身が選択した声部以外の演奏を聴きながら、調和させての演奏ができること。

授業方法:　四種類の楽器（ソプラノ、アルト、テナー、バスリコーダー）を用いた合唱を主とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学生をソプラノ・アルト・テナー・バスリコーダーに振り分けて、イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	手持ちリコーダーを持参
2.	イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	前週実習の課題曲を復習
3.	イギリスのバロック音楽より実習曲を選択。	課題曲の復習
4.	J.J.モレの「ロンド」を用いて実習。	前週配布の課題曲の予習
5.	J.J.モレの「ロンド」を用いて実習。	前週実習の課題曲を復習
6.	G.F.ヘンデルの「平和」	前週配布の課題曲の予習
7.	G.F.ヘンデルの「平和」	前週実習の課題曲を復習
8.	G.P.テレマンの「四つのフーガ」	前週配布の課題曲の予習
9.	G.P.テレマンの「四つのフーガ」	前週実習の課題曲を復習
10.	H.パーセルの「シャコンヌ」	前週配布の課題曲の予習
11.	H.パーセルの「シャコンヌ」	前週実習の課題曲を復習
12.	G.F.ヘンデルの「水上の音楽」	前週配布の課題曲の予習
13.	G.F.ヘンデルの「水上の音楽」	前週実習の課題曲を復習
14.	１～7回迄の講義の総復習。	１～7回までの課題曲の復習
15.	８～１３回迄の講義の総復習。	８～１３回までの課題曲の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実技試験による採点

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	30	
出席状況	70	授業への積極的な参加等の態度

教科書:　全てプリント配布

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で応対

361202

古楽器演習Ⅳ

吉田　　一美

授業テーマ:

授業の概要:　ヴィオラ・ダ・ガンバの演奏を通して西洋古楽（ルネサンス及びバロック音楽）を学ぶ。

到達目標:　古楽器演習ⅠまたはⅡで習得した基礎演習技術をさらに発展させ、中級技術をマスターする。

授業方法:　基本的にはアンサンブル指導ですが、適宜個人的な指導も行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	楽器の割り当て。 楽器の構え方、ボゥイングの確認。	
2.	合奏の演習。イタリアの舞曲。 作者不詳（16世紀） 「農夫」	
3.	合奏の演習。イタリアの舞曲。 作者不詳（16世紀） 「農夫」	第2回の注意点を踏まえて、個人練習。
4.	合奏の演習。フランスのシャンソン。 P.アテニャン（1494？～1552） 「花と輝ける時」	
5.	合奏の演習。フランスのシャンソン。 P.アテニャン（1494？～1552） 「花と輝ける時」	第4回の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
6.	合奏の演習。スペインの歌曲。 J.デル エンシーナ（1468～1529） 「スペインよ、嘆け」	
7.	合奏の演習。スペインの歌曲。 J.デル エンシーナ（1468～1529） 「スペインよ、嘆け」	第6回の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
8.	合奏の演習。ドイツの世俗曲。 L.ゼンフル（1486頃～1542） 「いとしのエルスライン」	
9.	合奏の演習。ドイツの世俗曲。 L.ゼンフル（1486頃～1542） 「いとしのエルスライン	第8回の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
10.	合奏の演習。フランドルのシャンソン。 J.デ・プレ（1440頃～1521） 「千々の悲しみ」	
11.	合奏の演習。フランドルのシャンソン。 J.デ・プレ（1440頃～1521） 「千々の悲しみ」	第10回の注意点を踏まえて、個人練習と言葉の意味を調べる。
12.	合奏の演習。イギリスの舞曲。 作者不詳（16世紀） 「侯爵夫人のパヴァーヌ」	
13.	合奏の演習。イギリスの舞曲。 I.アルヴェルティ（？～1565？） 「アルヴェルティのパヴァーヌ」	
14.	合奏の演習。イギリスの舞曲。 作者不詳（16世紀） 「ガリアルド」	
15.	アンサンブルによる発表とまとめ。	第15回の発表に向けて個人練習。アンサンブルでの練習ができればなお良い。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・受講生の人数及び授業の進捗状況により演習曲を変更する場合があります。
・古楽器演習（ヴィオラ・ダ・ガンバ）ⅠまたはⅡを履修していない学生が受講する場合、授業時間以外に個人的な練習が必要な場合があります。
・学内に限り楽器を借りることができます。

フィードバックの方法:　必要な場合、口頭で伝えます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	70%	アンサンブルを中心とした授業ですので、特別な理由がない限り授業の1/3以上の欠席は不可となります。
発表	30%	仲間と積極的に曲を仕上げながら、自分の役割も果たせているかどうか。

教科書:

参考書:
「ヴィオル概論」ジャン・ルソー著　関根敏子/神戸愉樹美共訳（アカデミアミュージック出版）
「Metodo completo e progressivo per viola da gamba vol.1」 Paolo Violdi/Vittorio Ghielmi著（UT ORPHEUS EDIZIONI）
「音楽と言語」T.Gゲオリギアース著　木村敏訳（講談社学術文庫）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対します。

361301、02

古典舞踏A

樋口　　裕子

授業テーマ:　古典舞曲を踊る

授業の概要:　クラシック音楽には多くの舞曲が存在する。特に古い時代の西洋音楽は踊りのリズムの影響を受けている場合が多く、器楽曲はもちろん、声楽曲も例外ではない。3拍子を例にあげても、メヌエット、サラバンド、クラント、ワルツ、ポロネーズ、マズルカ、などがあり、我々日本人が楽譜だけでそれぞれの特徴を読み取るのは難しい。授業では、時代考証を経たステップを舞曲とともに体験することにより、それぞれの特徴を探る。時代によって異なるお辞儀や手の繋ぎ方などの所作も学習し、オペラ実習にも役立てる。

到達目標:　リズム感だけでなく、アクセント感、テンポ感、フレーズ感など多角的に考察すると、それぞれの個性を把握しやすい。ダンスパートナーと息を合わせて踊ることにより、自分の個性や特徴も見直す機会となり、総合的に舞曲を考察できるようになるのが目標である。

授業方法:　1回目は「舞曲史」の講義。2回目以降はダンス実技（ストレッチ、バランストレーニング、ウォーキング、ステップ練習など）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義「舞曲史」	音楽史と関連があるので、音楽史の授業の資料やノートを見直しておくとよい
2.	ワルツ体験	ワルツの音楽を演奏、または聴いておく
3.	中世のダンス「ファランドール」「サルタレッロ」	ファランドールとサルタレッロの音楽を聴いておく
4.	ルネサンス時代のダンス1「パヴァ―ヌ」	パヴァ―ヌの音楽を演奏、または聴いておく
5.	ルネサンス時代のダンス2「アルマンド」	アルマンドの音楽を演奏、または聴いておく
6.	ルネサンス時代のダンス3「パヴァ―ヌ」「アルマンド」のダンス実技テスト	パヴァ―ヌ、アルマンドのダンスの復習をしておく
7.	バロック時代のダンス1「ブレ」	ブレの音楽を演奏、または聴いておく
8.	バロック時代のダンス2「メヌエット」	メヌエットの音楽を演奏、または聴いておく
9.	バロック時代のダンス3「サラバンド」	サラバンドの音楽を演奏、または聴いておく
10.	バロック時代のダンス4「アルマンド」	アルマンドの音楽を演奏、または聴いておく
11.	バロック時代のダンス5「ブレ」「メヌエット」「サラバンド」「アルマンド」のダンス実技テスト	ブレ、メヌエット、サラバンド、アルマンドのダンスの復習しておく
12.	ロココ時代のダンス1「ファンダンゴ」	ファンダンゴの音楽を演奏、または聴いておく
13.	ロココ時代のダンス2「ドイツ舞曲」	ドイツ舞曲の音楽を演奏、または聴いておく
14.	ロマン派ダンス1「ポロネーズ」「ワルツ」、ノート提出	ポロネーズ、ワルツの音楽を演奏、または聴いておく
15.	「ファンダンゴ」「ドイツ舞曲」「ポロネーズ」「ワルツ」のダンス実技テスト、ノート返却、レポート提出	ファンダンゴ、ドイツ舞曲、ポロネーズ、ワルツ、のダンスの復習しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講者へのメッセージやアドバイス／Message and Advice to Students

踊ったときの感じた事をなるべく早く書き留めましょう。それが後に舞曲と関わるときに役にたちます。

参考文献等／References

獲得が期待される基礎的・汎用的能力（DWCLA10）

フィードバックの方法:　授業を受けた日、または覚えているうちに演奏してみましょう。ダンスの感覚が残っているうちに演奏すると、何か発見があるかもしれません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技テスト	40	きちんと音楽に合わせて踊れているか、パートナーと息があっているか
ノート	20	板書をはじめ、授業の内容と感想が書けているか
レポート	20	短い文章で要点を書けているか
授業への参加度	20	出席状況、授業態度など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後

361401、02

古典舞踏B

樋口　　裕子

授業テーマ:　古典舞曲を踊る

授業の概要:　クラシック音楽には多くの舞曲が存在する。特に古い時代の西洋音楽は踊りのリズムの影響を受けている場合が多く、器楽曲はもちろん、声楽曲も例外ではない。3拍子を例にあげても、メヌエット、サラバンド、クラント、ワルツ、ポロネーズ、マズルカ、などがあり、我々日本人が楽譜だけでそれぞれの特徴を読み取るのは難しい。授業では、時代考証を経たステップを舞曲とともに体験することにより、それぞれの特徴を探る。時代によって異なるお辞儀や手の繋ぎ方などの所作も学習し、オペラ実習にも役立てる。

到達目標:　リズム感だけでなく、アクセント感、テンポ感、フレーズ感など多角的に考察すると、それぞれの個性を把握しやすい。ダンスパートナーと息を合わせて踊ることにより、自分の個性や特徴も見直す機会となり、総合的に舞曲を考察できるようになるのが目標である。

授業方法:　1回目は「バレエ史」の講義。2回目以降はダンス実技（ストレッチ、バランストレーニング、ウォーキング、ステップ練習など）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義「バレエ史」	どのようなバレエ音楽があるか調べておく
2.	ルネサンス時代のダンス1「ガイヤルド」	ガイヤルドの音楽を聴いておく
3.	ルネサンス時代のダンス2「ガイヤルドの実技テスト」「ブランル」	ガイヤルドの復習をしておく、ブランルの音楽を聴いておく
4.	バロック時代のダンス1「ガヴォット」	ガヴォットの音楽を演奏、または聴いておく
5.	バロック時代のダンス2「クーラント」	クーラントの音楽を演奏、または聴いておく
6.	バロック時代のダンス3「ジーグ」	ジーグの音楽を演奏、または聴いておく
7.	バロック時代のダンス4「シャコンヌ」「パッサカリア」	シャコンヌ、パッサカリアの音楽を演奏、または聴いておく
8.	バロック時代のダンス5「ガヴォット」「クーラント」「ジーグ」「シャコンヌ」「パッサカリア」のダンス実技テスト	ガヴォット、クーラント、ジーグ、シャコンヌ、パッサカリアの復習をしておく
9.	ロココ時代のダンス1「メヌエット前半」	メヌエットの音楽を演奏、または聴いておく
10.	ロココ時代のダンス2「メヌエット後半」	メヌエットの音楽を演奏、または聴いておく
11.	ロココ時代のダンス3「メヌエットのテスト」「コントルダンス」	メヌエットの復習をしておく
12.	ロマン派ダンス1「マズルカ」	マズルカの音楽を演奏、または聴いておく
13.	ロマン派ダンス2「ポルカ」「エコセーズ」「ポルカ・マズルカ」	ポルカ、エコセーズ、ポルカ・マズルカの音楽を演奏、または聴いておく
14.	ロマン派ダンス3「ウィンナ・ワルツ」、ノート提出	ウィンナ・ワルツの音楽を演奏、または聴いておく
15.	ロマン派ダンス4「マズルカ」「ポルカ」「エコセーズ」「ポルカ・マズルカ」「ウィンナ・ワルツ」のダンス実技テスト、ノート返却、レポート提出	マズルカ、ポルカ、エコセーズ、ポルカ・マズルカ、ウィンナ・ワルツの復習をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　踊ったときの感じた事をなるべく早く書き留めましょう。それが後に舞曲と関わるときに役にたちます。

フィードバックの方法:　授業を受けた日、またはなるべく早いうちにその舞曲を演奏してみましょう。ダンスの感覚が残っているうちに演奏すると、今までと違った発見があるかもしれません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技テスト	40	きちんと音楽に合わせて踊れているか、パートナーと息があっているか
ノート	20	板書をはじめ、授業の内容と感想がきちんと書けているか
レポート	20	短い文章で要点を書けているか
授業への参加度	20	出席状況、授業態度など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後

361500

ミュージックセラピー実習Ⅰ

北脇　　歩

授業テーマ:　高齢者を中心とした関連福祉施設や病院における実習

授業の概要:　高齢者を中心とした関連福祉施設や病院においての現場での体験、またそのための準備

到達目標:　対象者の理解、施設・関連業種に対する理解、ならびに音楽療法の体験とその現状を学ぶ

授業方法:　講義、実習体験

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	対象者理解と実習準備(1)	実習簿作成ならびに教科書の熟読
2.	対象者理解と実習準備(2)	実習簿作成ならびに教科書の熟読
3.	対象者理解と実習準備(3)	実習簿作成ならびに教科書の熟読
4.	対象者理解と実習準備(4)	実習簿作成ならびに教科書の熟読
5.	対象者理解と実習準備(5)	実習簿作成ならびに教科書の熟読
6.	対象者理解と実習準備(6)	実習簿作成ならびに教科書の熟読
7.	実習と報告(1)	実習準備
8.	実習と報告(2)	実習準備
9.	実習と報告(3)	実習準備
10.	実習と報告(4)	実習準備
11.	実習と報告(5)	実習準備
12.	実習と報告(6)	実習準備
13.	実習と報告(7)	実習準備
14.	実習と報告(8)	実習準備
15.	総括	実習簿提出、報告ポスター作成、パワーポイント作成の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　心身の準備、倫理的諸注意に配慮し実習に臨む

フィードバックの方法:　グループでの話し合い、実習簿の記述

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習	50	実習現場からの評価と実習簿の内容
授業出席	40	出欠
報告会	10	内容

教科書:　「高齢者のための療法的音楽活用」第2版　A・A・クレア他著、廣川恵理訳、一麦出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

361600

ミュージックセラピー実習Ⅱ

北脇　　歩

授業テーマ:　成人を中心とした関連福祉施設や病院における実習

授業の概要:　成人を中心とした関連福祉施設や病院においての現場での体験、またそのための準備

到達目標:　対象者の理解、施設・関連業種に対する理解、ならびに音楽療法の体験とその現状を学ぶ

授業方法:　講義、グループワーク、現場体験、報告

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	対象者理解と実習準備(1)	実習簿作成
2.	対象者理解と実習準備(2)	実習簿作成
3.	対象者理解と実習準備(3)	実習簿作成
4.	対象者理解と実習準備(4)	実習簿作成
5.	対象者理解と実習準備(5)	実習簿作成
6.	対象者理解と実習準備(6)	実習簿作成
7.	実習と報告(1)	実習準備
8.	実習と報告(2)	実習準備
9.	実習と報告(3)	実習準備
10.	実習と報告(4)	実習準備
11.	実習と報告(5)	実習準備
12.	実習と報告(6)	実習準備
13.	実習と報告(7)	実習準備
14.	実習と報告(8)	実習準備
15.	総括	実習簿提出、報告ポスター作成、パワーポイント作成の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　心身の準備、倫理的諸注意に配慮し実習に臨む

フィードバックの方法:　グループでの話し合い、実習簿の記述

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習	50	実習現場からの評価と実習簿の内容
授業の出席	40	出欠
報告会	10	内容

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

361700

ミュージックセラピー実習Ⅲ

北脇　　歩

授業テーマ:　子どもを中心とした関連福祉施設や病院における実習

授業の概要:　子どもを中心とした関連福祉施設や病院においての現場での体験、またそのための準備

到達目標:　対象者の理解、施設・関連業種の理解ならびにミュージックセラピーの体験と現状を学ぶ

授業方法:　講義、グループワーク、実習、報告

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	対象者理解と実習準備(1)	実習簿作成
2.	対象者理解と実習準備(2)	実習簿作成
3.	対象者理解と実習準備(3)	実習簿作成
4.	対象者理解と実習準備(4)	実習簿作成
5.	対象者理解と実習準備(5)	実習簿作成
6.	対象者理解と実習準備(6)	実習簿作成
7.	実習と報告(1)	実習準備
8.	実習と報告(2)	実習準備
9.	実習と報告(3)	実習準備
10.	実習と報告(4)	実習準備
11.	実習と報告(5)	実習準備
12.	実習と報告(6)	実習準備
13.	実習と報告(7)	実習準備
14.	実習と報告(8)	実習準備
15.	総括	実習簿提出、報告ポスター作成、パワーポイント作成の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　心身の準備、倫理的諸注意に配慮し実習に臨む

フィードバックの方法:　グループでの話し合い、実習簿の記述

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習	50	現場からの評価と実習簿の内容
授業出席	40	出欠
報告会	10	内容

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

362001

サウンドデザイン研究Ⅰ

葛西　　聖憲

授業テーマ:　音楽作品の　創作・編集・提示（または発表）

授業の概要:　様々な音楽を提示し、学生各人の創作に対する意欲を与えつつ、創作のレッスンを行う。

到達目標:　3年次までの各創作系授業を踏まえ、各自、自分の音楽表現を会得する。

授業方法:　基本はグループレッスン形式で行う。
ただし、最終的には、各々の学生に個別に対応した指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	とりあえず、作品を作り始めること。内容や編成は自由。
2.	音楽創作及びサウンドデザイン 1　楽曲分析 1	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
3.	音楽創作及びサウンドデザイン 2　楽曲分析 2	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
4.	音楽創作及びサウンドデザイン 3　楽曲分析 3	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
5.	音楽創作及びサウンドデザイン 4　楽曲分析 4	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
6.	音楽創作及びサウンドデザイン 5　楽曲分析 5	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
7.	音楽創作及びサウンドデザイン 6　楽曲分析 6	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
8.	音楽創作及びサウンドデザイン 7　楽曲分析 7	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
9.	音楽創作及びサウンドデザイン 8　楽曲分析 8	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
10.	音楽創作及びサウンドデザイン 9　楽曲分析 9	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
11.	音楽創作及びサウンドデザイン 10　楽曲分析 10	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
12.	音楽創作及びサウンドデザイン 11　楽曲分析 11	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
13.	音楽創作及びサウンドデザイン 12　楽曲分析 12	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
14.	音楽創作及びサウンドデザイン 13　楽曲分析 13	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
15.	音楽創作及びサウンドデザイン 14　楽曲分析 14	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　創作は受身では出来ない。積極的な姿勢で作曲やサウンドデザインに臨んでほしい。

フィードバックの方法:　常に、音楽製作に関することを考えている状況が必要である。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートまたは作品提出	80	音楽製作に関する提出物
平常点	20	授業に対する姿勢、創作意欲など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

362002

サウンドデザイン研究Ⅰ

成田　　和子

授業テーマ:　サウンドデザイン分野における創作/研究と発表

授業の概要:
創作:
＊ 歌や楽器のための作品の作曲:クラシック、ポップス、現代音楽などジャンルは自由
＊ 電子音楽の創作:MIDI音源やシンセサイザーを用いた作品
＊ 楽器や声・物音など録音した音素材をコンピュータで編集する作品
＊ 歌や楽器の生演奏と電子音を共存させるミクスト作品
研究:
＊ 音楽とテクノロジーに関する研究
＊ 作曲家や楽曲(時代やジャンルは自由)に関する研究

到達目標:　個人研究テーマに沿って創作あるいは研究を進める。

授業方法:　授業、グループ演習、個別指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:サウンドデザイン分野における創作/研究の多様性について	個人家研究あるいは創作のテーマを考える。
2.	創作テーマの選択方法、参考となる音楽、資料や文献の調べ方について	個人家研究あるいは創作のテーマを考える。
3.	研究テーマの選択方法、参考となる音楽、資料や文献の調べ方について	個人家研究あるいは創作のテーマを考える。
4.	創作のプロセス、その計画方法について	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
5.	研究のプロセス、その計画方法について	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
6.	グループ演習、個別指導1	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
7.	グループ演習、個別指導2	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
8.	グループ演習、個別指導3	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
9.	グループ演習、個別指導4	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
10.	グループ演習、個別指導5	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
11.	グループ演習、個別指導6	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
12.	グループ演習、個別指導7	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
13.	グループ演習、個別指導8	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
14.	発表1	発表の準備
15.	発表2	発表の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
サウンドデザイン研究ⅠとⅡを続けて履修することが望ましい。
コンピュータを用いて創作を行う場合、使用するソフトウエアをインストールした個人使用のコンピュータを有することが望ましい。

フィードバックの方法:　研究室で対応

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
創作/研究の進度と完成度	70	
平常の学習状態	30	出席状況など

教科書:

参考書:　参考音源や資料を提供する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室で対応

362101

サウンドデザイン研究Ⅱ

葛西　　聖憲

授業テーマ:　音楽作品の 創作・編集・提示(発表)

授業の概要:　様々な音楽を提示し、学生各人の創作に対する意欲を与えつつ、創作のレッスンを行う。

到達目標:　サウンドデザイン研究Iまでの授業を踏まえ、さらに各自、自分の音楽表現を会得する。

授業方法:　基本はグループレッスン形式で行う。
ただし、最終的には、各々の学生に個別に対応した指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
2.	音楽創作及びサウンドデザイン 1　楽曲分析 1	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
3.	音楽創作及びサウンドデザイン 2　楽曲分析 2	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
4.	音楽創作及びサウンドデザイン 3　楽曲分析 3	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
5.	音楽創作及びサウンドデザイン 4　楽曲分析 4	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
6.	音楽創作及びサウンドデザイン 5　楽曲分析 5	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
7.	音楽創作及びサウンドデザイン 6　楽曲分析 6	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
8.	音楽創作及びサウンドデザイン 7　楽曲分析 7	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
9.	音楽創作及びサウンドデザイン 8　楽曲分析 8	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
10.	音楽創作及びサウンドデザイン 9　楽曲分析 9	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
11.	音楽創作及びサウンドデザイン 10　楽曲分析 10	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
12.	音楽創作及びサウンドデザイン 11　楽曲分析 11	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
13.	音楽創作及びサウンドデザイン 12　楽曲分析 12	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
14.	音楽創作及びサウンドデザイン 13　楽曲分析 13	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
15.	音楽創作及びサウンドデザイン 14　楽曲分析 14	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　創作は受身では出来ない。積極的な姿勢で作曲やサウンドデザインに臨んでほしい。

フィードバックの方法:　常に、音楽製作に関することを考えている状況が必要である。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートまたは作品提出	80	音楽製作に関する提出物
平常点	20	授業に対する姿勢、創作意欲など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

362102

サウンドデザイン研究Ⅱ

成田　　和子

授業テーマ:　サウンドデザイン分野における創作/研究

授業の概要:
創作:
＊ 歌や楽器のための作品の作曲:クラシック、ポップス、現代音楽などジャンルは自由
＊ 電子音楽の創作:MIDI音源やシンセサイザーを用いた作品
＊ 楽器や声・物音など録音した音素材をコンピュータで編集する作品
＊ 歌や楽器の生演奏と電子音を共存させるミクスト作品
研究:
＊ 音楽とテクノロジーに関する研究
＊ 作曲家や楽曲(時代やジャンルは自由)に関する研究

到達目標:　個人研究テーマに沿って創作あるいは研究を進め、完成させる。

授業方法:　授業, グループ演習、個別指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	創作/研究のテーマ、創作/研究のプロセスの確認1	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
2.	創作/研究のテーマ、創作/研究のプロセスの確認2	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
3.	創作/研究のテーマ、創作/研究のプロセスの確認3	参考となる音楽の聴取と分析や、資料や文献の分析を行う。
4.	グループ演習, 個別指導1	創作/研究をテーマに沿って進める。
5.	グループ演習, 個別指導2	創作/研究をテーマに沿って進める。
6.	グループ演習, 個別指導3	創作/研究をテーマに沿って進める。
7.	グループ演習, 個別指導4	創作/研究をテーマに沿って進める。
8.	グループ演習, 個別指導5	創作/研究をテーマに沿って進める。
9.	グループ演習, 個別指導6	創作/研究をテーマに沿って進める。
10.	グループ演習, 個別指導7	創作/研究をテーマに沿って進める。
11.	グループ演習, 個別指導8	創作/研究をテーマに沿って進める。
12.	グループ演習, 個別指導9	創作/研究を完成させる。
13.	グループ演習, 個別指導10	創作/研究を完成させる。
14.	発表1	発表の準備
15.	発表2	発表の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
サウンドデザイン研究IとIIを続けて履修することが望ましい。
コンピュータを用いて創作を行う場合、使用するソフトウエアをインストールした個人使用のコンピュータを有することが望ましい。

フィードバックの方法:　研究室で対応

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
創作/研究の進度と 完成度	70	
平常の学習状態	30	出席状況など

教科書:

参考書:　参考音源や資料を提供する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室で対応

362200

ミュージックスタディーズ研究Ⅰ

椎名　　亮輔

授業テーマ:　音楽学の研究・発表の仕方を学ぶ

授業の概要:　音楽学のさまざまなアプローチを学び、それに基づいて、自らの興味・関心をもった対象について、適切な方法でアプローチ・研究を行う。そしてその成果を、効果的に説得力をもった形で発表をする。

到達目標:　知識・理解：音楽学のさまざまなアプローチの仕方を学び理解する。
関心・意欲・態度：自らの関心をもった対象について適切な方法で研究をする。
表現・技能・能力：自らの研究成果を説得力をもって発表する。

授業方法:　初回は授業オリエンテーション。その後の3回は音楽学研究の方法について実例をまじえて講義をする。第5回目からは学生たちによる研究発表。自分たちの興味・関心をもった対象について、もっとも適切な方法で研究したものを、プレゼンテーション機器（コンピュータ、パワーポイントなど）を用いたり、CDやDVD、あるいはピアノ演奏等を用いて、効果的に説得力をもった形で発表する。受講人数にもよるが、学期中に少なくとも2回は発表をしてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	自分の関心・興味をもった音楽について考えておく
2.	音楽学研究講義１	与えられた課題を行う
3.	音楽学研究講義２	与えられた課題を行う
4.	音楽学研究講義３	与えられた課題を行う
5.	研究発表１	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
6.	研究発表２	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
7.	研究発表３	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
8.	研究発表４	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
9.	研究発表５	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
10.	研究発表６	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
11.	研究発表７	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
12.	研究発表８	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
13.	研究発表９	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
14.	研究発表10	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
15.	研究発表11	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中に、コメント・解説を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	55	授業に積極的に参加しているかどうかで評価する
最終レポート	45	自分の発表のうち最良のものを、きちんとした論文としてまとめられたか評価する

教科書:　適宜指示する

参考書:　適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 変化対応力, 自己管理力, 自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール：rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

362300

ミュージックスタディーズ研究Ⅱ

椎名　　亮輔

授業テーマ:
「ミュージックスタディーズ研究I」のつづき。
音楽学の研究・発表の仕方を学ぶ。

授業の概要:
「ミュージックスタディーズ研究I」のつづきとして、すでに学んだ音楽学のさまざまなアプローチに基づいて、自らの興味・関心をもった対象について、適切な方法でアプローチ・研究を行う。そしてその成果を、効果的に説得力をもった形で発表をする。

到達目標:
知識・理解：音楽学のさまざまなアプローチの仕方を学び理解する。
関心・意欲・態度：自らの関心をもった対象について適切な方法で研究をする。
表現・技能・能力：自らの研究成果を説得力をもって発表する。

授業方法:
学生たちによる研究発表。自分たちの興味・関心をもった対象について、もっとも適切な方法で研究したものを、プレゼンテーション機器（コンピュータ、パワーポイントなど）を用いたり、CDやDVD、あるいはピアノ演奏等を用いて、効果的に説得力をもった形で発表する。受講人数にもよるが、学期中に少なくとも2回は発表をしてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究発表1	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
2.	研究発表2	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
3.	研究発表3	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
4.	研究発表4	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
5.	研究発表5	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
6.	研究発表6	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
7.	研究発表7	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
8.	研究発表8	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
9.	研究発表9	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
10.	研究発表10	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
11.	研究発表11	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
12.	研究発表12	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
13.	研究発表13	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
14.	研究発表14	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する
15.	研究発表15	自分の関心・興味のある対象について研究を行い、発表を準備する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
授業中に、コメント・解説を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	55	授業に積極的に参加しているかどうかで評価する
最終レポート	45	自分の発表のうち最良のものを、きちんとした論文としてまとめられたか評価する

教科書:
適宜指示する

参考書:
適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力, 変化対応力, 自己管理力, 自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール：rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

362400

舞台表現基礎Ⅰ

小森　　創介

授業テーマ:

当講座は演習・体験学習である。「演技」をキーワードに、この講座は様々な舞台表現形態の世界への導入となるよう 展開していく。演技の知と実践による体得を目指す。

授業の概要:

演技にあたって重要且つ必要なメディアは自身の肉体である。その自身の肉体をいかに駆使するかについて、実技を通して探求する。自己の肉体、感覚を改めて認識し、各種レッスン・エクササイズ・トレーニングを通じてひとつずつ分析を進めて自己の身体を意識的に技術として使えるように研ぎ澄ます。ウォーミングアップから、自身の集中力と感覚力、身体調整力の向上をはかり、表現への素地作りをする。自然な演技、作らない演技と　は？それを実現するためにまずは自己の現在を知ることが必要となる。授業時は毎回各自自身のコンディションを言語化し、理解する努力を怠らず行う。個人個人の内在する表現能力をあらゆる手段で発見し、コミュニケーションに活かす素地作りをする。主に我々のコミュニケーションの中の非言語領域に注目するが、非言語領域を理解するに当たって言語領域がどう活かされるか。ここも注目に値する。従って自身の感覚の言語化、その共有（フィードバック）を中心に授業は展開する。フィードバックとは、自身の行う対人コミュニケーションに対して相手から返されるレスポンスのこと。我々は肯定的フィードバックを主に用いる。このフィードバックによって自身の未知の部分を知り、知ることにより自己開示部分をより拡充する。自己開示の可能性を知ることにより自己表現の幅を広げることが出来、つまりは様々な役を自身の肉体を用いて安定的に表現することが出来る。フィードバックの考え方を理解し行使することにより、自身のコミュニケーションスキルを向上させ、様々な創造の現場で互いを高めながらひとつの目標に向かう。同時に自己開示（セルフ・ディスクロージャー）を円滑に行える環境作りについても考察を進め、皆が同一方向に向かうことを互いに確認し環境を整え自己開示に対して防衛的にならないようクラスが全員で取り組む。演技者同士、また演技者と観客の生きたコミュニケーションの中にこそライヴアート（生きた芸術）は存在する。コミュニケーションの芸術である演劇の根底にあると同時に人間関係における全ての基本とされる、人と人とのコミュニケーションにも焦点をあてレッスンを進める。

到達目標:

自己の肉体、感覚力、表現力、想像力を駆使し、劇空間に“生きた” 人物を創造することを大目標に掲げ、総合的な「演技」に対する自らの情報を更新する。
「演技」ということを多角的に捉えることが出来る。
己の全て（全身体）に「気付く」ことが出来るようになる。
全身体的なるコミュニケーション能力を身につける。受容し、協調し、自己表現が出来るようになる。

授業方法:

当講座は体験学習である。常に身体、精神のコンディションを整え授業に臨むこと。毎回動きやすい服装・靴で参加のこと。（レオタードなどの着用の必要はない。）
グループの集中度合いによって内容は変化する。必要があればいつでも基本エクササイズに戻る。
常に能動的姿勢で望むこと。待ち受け・受身姿勢であってはならない。演技に対する様々な思考、知識、技術などの全てを、自身がつなげて考えていく努力を怠らないこと。
芸術は知識ではなく、感じられた体験を伝えるもの（レフ・トルストイ）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	演技とは何か	全員参加のディスカッション。我々にとって現在、演技とはどのようなものであるかを理解する。自らの意見を持ち寄る事。
2.	ウォームアップ	自身の肉体を駆使出来るようにまずは自身の肉体を知る。心身のアップ方法を紹介する。
3.	.舞台に立つ	演技者と観客、そして、自身は果たしてまっすぐ立てているのか？止まっているか？
4.	無意識と意識的行動、言動	自身の行動・反応の分析（それは癖なのか、演技なのか？）
5.	GIVE&RECIEVE	やりとりの基本を押さえる。
6.	伝わる言槃	自らの言語の発見、受け取る側の意識
7.	身体言語	自身の身体を調整し、身体言語を増やす。
8.	イメージング	脳内の画（メンタルピクチャー）を伝えられるよう、言語野からのトレーニング。
9.	コミュニケーション	身体的に解読して来た「やりとり」の基礎知識を取り入れる。
10.	コミュニケーション2	言語が違うと思考も違うのか？異言語表現に取り組む我々の視点を考察する。
11.	表現トレーニング1	様々なエクササイズを用いて表現の素地を拡充していく。
12.	表現トレーニング2	様々なエクササイズを用いて表現の素地を拡充していく。
13.	表現トレーニング3	様々なエクササイズを用いて表現の素地を拡充していく。
14.	表現トレーニング4	様々なエクササイズを用いて表現の素地を拡充していく。
15.	まとめ	今期の総括的なエクササイズ。来たる実演のための質疑応答も展開する予定。レポートはこの15回目にプリントアウトして持参する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回、自身のコンディションを見極めて参加することは必須。自身の内面の言語化には常に注力すること。自身の観察、他者の観察を常に行なうこと。

フィードバックの方法:

言語によるフィードバックを授業内で常に行う

質問・疑問等はいつでも遠慮なく。
billy@sosukekomori.com

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	45%	
授業参加時の積極性・フィードバック参加度	40%	
レポート	15%	（課題の理解、参考文献などからの知の導入、内面の言語化）課題は授業時に指示。

教科書:

基本的に使用しない。必要に応じてプリントなど配布。

参考書:

末田 清子・福田 浩子(2003)「コミュニケーション学ーその展望と視点ー」松柏社
深田博己(1998)『インターパーソナル・コミュニケーションー対人コミュニケーションの心理学ー』
御手洗昭治(2000)『異文化に見る非言語コミュニケーション:V サインは屈辱のサイン?』ゆにま書房
マジョリー・F・ヴァーガス(1987)『非言語コミュニケーション』新潮選書
橋元良明(1997)『コミュニケーション学への招待』大修館書店
ジョン・ペリー(2014)「演劇入門ブック」玉川大学出版部

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	billy@sosukekomori.com

362500

舞台表現基礎Ⅱ

小森　　創介

授業テーマ:

当講座は演習・体験学習であり、舞台表現基礎Iの発展学習科目である。台詞を用いたエクササイズを展開する。ま　た、音楽の実演を視野に入れた個人作品創りを行なう。授業内で実演発表。「演技」をキーワードに、この講座は様々な舞台表現形態の世界への導入となるよう展開していく。演技の知と実践による体得を目指す。

授業の概要:

演技にあたって重要且つ必要なメディアは自身の肉体である。その自身の肉体をいかに駆使するかについて、実技を通して探求する。自己の肉体、感覚を改めて認識し、各種レッスン・エクササイズ・トレーニングを通じてひとつずつ分析を進めて自己の身体を意識的に技術として使えるように研ぎ澄ます。ウォーミングアップから、自身の集中力と感覚力、身体調整力の向上をはかり、表現への素地作りをする。自然な演技、作らない演技と　は？それを実現するためにまずは自己の現在を知ることが必要となる。授業時は毎回各自自身のコンディションを言語化し、理解する努力を怠らず行う。個人個人の内在する表現能力をあらゆる手段で発見し、コミュニケーションに活かす素地作りをする。主に我々のコミュニケーションの中の非言語領域に注目するが、非言語領域を理解するに当たって言語領域がどう活かされるか。ここも注目に値する。従って自身の感覚の言語化、その共有（フィードバック）を中心に授業は展開する。フィードバックとは、自身の行う対人コミュニケーションに対して相手から返されるレスポンスのこと。我々は肯定的フィードバックを主に用いる。このフィードバックによって自身の未知の部分を知り、知ることにより自己開示部分をより拡充する。自己開示の可能性を知ることにより自己表現の幅を広げることが出来、つまりは様々な役を自身の肉体を用いて安定的に表現することが出来る。フィードバックの考え方を理解し行使することにより、自身のコミュニケーションスキルを向上させ、様々な創造の現場で互いを高めながらひとつの目標に向かう。同時に自己開示（セルフ・ディスクロージャー）を円滑に行える環境作りについても考察を進め、皆が同一方向に向かうことを互いに確認し環境を整え自己開示に対して防衛的にならないようクラスが全員で取り組む。演技者同士、また演技者と観客の生きたコミュニケーションの中にこそライヴアート（生きた芸術）は存在する。コミュニケーションの芸術である演劇の根底にあると同時に人間関係における全ての基本とされる、人と人とのコミュニケーションにも焦点をあてレッスンを進める。

到達目標:

自己の肉体、感覚力、表現力、想像力を駆使し、劇空間に“生きた” 人物を創造することを大目標に掲げ、総合的な￥「演技」に対する自らの情報を更新する。
台詞に触れ、伝える、伝わるということを主体的（演技者として）、客観的（観客として）に理解出来る。
「演技」ということを多角的に捉えることが出来る。
己の全て（全身体）に「気付く」ことが出来るようになる。全身体的なるコミュニケーション能力を身につける。
受容し、協調し、自己表現が出来るようになる。

授業方法:

当講座は演習・体験学習である。常に身体、精神のコンディションを整え授業に臨むこと。毎回動きやすい服装・靴で参加のこと。（レオタードなどの着用の必要はない。）
グループの集中度合いによって内容は変化する。必要があればいつでも基本エクササイズに戻る。
常に能動的姿勢で望むこと。待ち受け・受身姿勢であってはならない。演技に対する様々な思考、知識、技術などの全てを、自身がつなげて考えていく努力を怠らないこと。
芸術は知識ではなく、感じられた体験を伝えるもの（レフ・トルストイ）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	演技とは何か	全員参加のディスカッション。当講座の目標とする「演技」について全員の認識を確認する。各自前期からの演技に対する意見を持ち寄ること。
2.	身体調整と認識	表現に向かう身体的素地を確認しながら能力の開発へと導く方法を発見する。以降台詞を用いたエクササイズを展開する。
3.	身体言語	自身の身体は何を、どの様に表現しているのか。その表現は癖なのか？演技なのか？ 台詞を使用して確認していく。
4.	読解	様々なエクササイズを使用し、言語、身体言語表現の幅を拡充する。文章や表現を読み解く。果たして言語だけしか頼りにならないのか？人間の表現、伝達を読み解くヒントを見つける。
5.	読解2	古典的な戯曲などの台詞だけではなく、我々の日常的な言語にも領域を拡げて「読み解く」知識を得る。
6.	役の人物	役の人物には、あなたと同じように人生がある。いかにしてそれを感じ、伝えられる表現に昇華していくのか。役の人物を理解するきっかけ、ヒントを見つける。実際に観客を想定して演じていく。伝えたい事はことばだけで十分に伝わるのか？実際に観客に教えてもらう。
7.	舞台表現作品へ	音楽の実演を含んだ個人作品創作を開始。以降エクササイズと創作を両方行なう。
8.	舞台表現の実際	個人作品創作のプラン相談開始。プランの実現には何が必要か、その計画は実行可能かを精査する。実際に観客を想定して演じていく。
9.	舞台表現の実際2	際に観客を想定して演じていく。人の前に実際に立つとどうなるのか。体験してみる。
10.	舞台表現の実際3	実際に観客を想定して演じていく。観客という視点も探求する。演技者は客観性と主体性のどちらを主に使うのか。
11.	舞台表現の実際4	実際に観客を想定して演じていく。空間を有効に使用するための基礎知識と我々の認識を確認する。
12.	舞台表現の実際5	実際に観客を想定して演じていく。劇的なるものの探求において、ひとつ上の枠組み「演出」という視点を追加する。
13.	劇空間と演技者	演技者として空間の認識を拡げ、他の演技者とのコミュニケーションの取り方、アンサンブルの組み方、チーム構成などにも意識を拡げる。
14.	総合演習	ここに至るまでの全身体的知識を用いて、一人一人が劇的空間に立ってみる。授業内発表がこの週に始まる可能性がある。
15.	発表・まとめ	授業内発表を行なう。また、最終的な質疑応答も展開。 レポートはこの回にプリントアウトして持参、提出とする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回、自身のコンディションを見極めて参加することは必須。自身の内面の言語化には常に注力すること。
自身の観察、他者の観察を常に行なうこと。

フィードバックの方法:

言語によるフィードバックを毎回積極的に行う。

質問・疑問等はいつでも遠慮なく。
billy@sosukekomori.com

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	45%	
授業参加時の積極性・フィードバック参加度・最終実演課題評価	40%	
レポート	15%	（課題の理解、参考文献などからの知の導入、内面の言語化） 課題は授業時に指示。

教科書: 基本的に使用しない。必要に応じてプリントなど配布。

参考書:
末田 清子・福田 浩子(2003)「コミュニケーション学ーその展望と視点ー」松柏社
深田博己(1998)『インターパーソナル・コミュニケーションー対人コミュニケーションの心理学ー』
御手洗昭治(2000)『異文化に見る非言語コミュニケーション:V サインは屈辱のサイン?』ゆにま書房
マジョリー・F・ヴァーガス(1987)『非言語コミュニケーション』新潮選書
橋元良明(1997)『コミュニケーション学への招待』大修館書店
ジョン・ペリー(2014)「演劇入門ブック」玉川大学出版部

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法: billy@sosukekomori.com

362600

ドイツ語声楽曲研究Ⅰ

松下　　悦子

授業テーマ:　ドイツ語声楽曲の発音・発声法、演奏法を学ぶ。

授業の概要:　ドイツ語による声楽曲を歌うために、まずは発音記号の読み方を学び、実際に発音しながらドイツ語の語感を養う。その後、ある程度のディクションができるようになった段階で、課題曲を用いながら作曲家や詩人がの表現したかったことを、時代背景や社会的背景などもふまえながら歌い、表現力の幅を広げる。

到達目標:　毎回用意される課題曲を、一人ずつ歌唱発表することにより完了とする。
クラス内での発表となるため、歌うことのみならず、他人の歌唱を聴くことにより自身の歌唱の技術力や表現力を顧みるよい機会になればと願っている。

授業方法:　課題となっているドイツ語声楽曲を授業内外で歌唱練習をした上で、歌唱発表を行う。また鑑賞も交えながらドイツ語声楽曲全般に親しむ。演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基本的な発音 発音記号の読み方(母音、子音)	発音記号に慣れるため、声を出して繰り返し発音練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、次回の授業で再確認できるように準備する。
2.	基本的な発音 発音記号の読み方(母音、子音)	発音記号に慣れるため、声を出して繰り返し発音練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、次回の授業で再確認できるように準備する。
3.	基本的な発音 様々な単語やセンテンスの朗読 ドイツ歌曲の歌詞朗読	ドイツ語に慣れるため、声を出して繰り返し発音練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、発音記号を見ながら繰り返し練習する。
4.	基本的な発音 ドイツ歌曲の歌詞朗読 課題曲　Schumann:Die Lotosblume	ドイツ語に慣れるため、声を出して繰り返し発音練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、発音記号を見ながら繰り返し練習する。
5.	基本的な歌唱上の発音 ドイツ歌曲を歌う 課題曲　Schumann:Die Lotosblume	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。
6.	基本的な歌唱上の発音及び演奏解釈 ドイツ歌曲を歌う 課題曲　Schumann:Die Lotosblume	題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。 また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
7.	歌唱発表 Schumann:Die Lotosblume　を歌唱発表した後、一人ずつアドバイスを聞き今後の課題を確認する	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。 また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
8.	基本的な発音 ドイツ歌曲の歌詞朗読 課題　Schubert: Mignon	ドイツ語に慣れるため、声を出して繰り返し練習する。その際、発音しにくい母音や子音を自覚し、発音記号を見ながら繰り返し練習する。
9.	基本的な歌唱上の発音 ドイツ歌曲を歌う 課題　Schubert: Mignon	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。
10.	基本的な歌唱上の発音及び演奏解釈 ドイツ歌曲を歌う 課題　Schubert: Mignon	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。 また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
11.	歌唱発表 Schubert: Mignon を歌唱発表した後、一人ずつアドバイスを聞き今後の課題を確認する	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。 また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
12.	DVD「未完成交響楽」を鑑賞する F.シューベルトの青春期と彼の作品「交響曲第8番ロ短調　未完成」の作曲秘話を描いたロマンス	F.シューベルトの活躍した時代や社会背景を調べておくこと。
13.	基本的な歌唱上の発音及び演奏解釈 ドイツ歌曲を歌う 課題曲　Schumann:Widmung	題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。
14.	基本的な歌唱上の発音及び演奏解釈 ドイツ歌曲を歌う 課題曲　Schumann:Widmung	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。 また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。
15.	歌唱発表 Schumann:Widmungを歌唱発表した後、一人ずつアドバイスを聞き今後の課題を確認する	課題曲について、正確に音とりをし、ドイツ語の歌詞をつけて、リズム読みや譜読みを行う。 また、音の強弱、テンポの揺れなど、効果的な表現法を考えながら練習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　他人と比べて、できるできない、歌える歌えないにこだわるのではなく、クラス全員で個々の問題を自分の問題として解決していきます。
そのためには、積極的に授業に参加することが大切な鍵になります。

フィードバックの方法:　授業内での発表の後、その都度個々に、直すべき点や今後の課題などのコメントを口頭で伝えます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	
歌唱発表及びレポート提出	50	課題曲の歌唱発表は、正確な発音で歌うことだけにとどまらず、表現力の有無も評価の対象とする。

教科書:	高折　讀「歌唱のためのドイツ語発音法」音楽の友社 課題曲はその都度準備する。
参考書:	独和辞書（発音記号付き）を持ってくることが望ましい。 電子辞書も可
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業時間内、あるいはその前後での連絡が基本。

362700

ドイツ語声楽曲研究Ⅱ

松下　　悦子

授業テーマ:　ドイツ語声楽曲の発音・発声法、演奏法を学ぶ。

授業の概要:　ドイツ語声楽曲研究1で学んだドイツ語発音法をふまえて、演奏者の立場からみたドイツ語声楽曲の歌唱法、演奏解釈などを、課題曲を使って掘り下げる。

到達目標:　毎回用意される課題曲を、一人ずつ歌唱発表することにより完了とする。
クラス内での発表となるため、歌うことのみならず、他人の歌唱を聴くことにより自身の歌唱の技術力や表現力を顧みるよい機会になればと願っている。

授業方法:　課題となっているドイツ語声楽曲を授業内外で歌唱練習をした上で、歌唱発表を行う。また鑑賞も交えながらドイツ語声楽曲全般に親しむ。演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ドイツ歌曲を歌う （1） 課題曲　Brahms : Vergebliches Staendchen	課題曲練習
2.	ドイツ歌曲を歌う （2） 課題曲　Brahms : Vergebliches Staendchen	課題曲練習
3.	ドイツ歌曲を歌う （3） 課題曲　Brahms : Vergebliches Staendchen	課題曲練習
4.	ドイツ歌曲を歌う （4） 課題曲　Brahms : Vergebliches Staendchen 歌唱発表	課題曲練習
5.	ドイツ歌曲を歌う （5） 課題曲　Mozart : Als die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte	課題曲練習
6.	ドイツ歌曲を歌う （6） 課題曲　Mozart : Als die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte	課題曲練習
7.	ドイツ歌曲を歌う （7） 課題曲　Mozart : Als die Briefe ihres ungetreuen Liebhabers verbrannte 歌唱発表	課題曲練習
8.	ドイツオペラについて知る（1） DVD鑑賞 Humperdinck : 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」	Humperdinck : 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」のあらすじを理解しておくこと。
9.	ドイツオペラについて知る（2） DVD鑑賞 Humperdinck : 歌劇「ヘンゼルとグレーテル」	登場人物の特徴と歌手の声種との関わりについて、気づいたことをまとめておくこと。
10.	ドイツ歌曲を歌う（8） 連作歌曲について 課題曲 Schumann :「女の愛と生涯」より	課題曲練習
11.	ドイツ歌曲を歌う（9） 連作歌曲について 課題曲 Schumann :「女の愛と生涯」より	課題曲練習
12.	ドイツ歌曲を歌う（10） 連作歌曲について 課題曲 Schumann :「女の愛と生涯」より	課題曲練習
13.	ドイツ歌曲を歌う（11） 連作歌曲について 課題曲 Schumann :「女の愛と生涯」より	課題曲練習
14.	ドイツオペラについて知る（3） DVD鑑賞　J.Strauss : 喜歌劇「こうもり」	.Strauss : 喜歌劇「こうもり」のあらすじを理解しておくこと。
15.	ドイツオペラについて知る（4） DVD鑑賞　J.Strauss : 喜歌劇「こうもり」	登場人物の感情の機微について、気づいたことをまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業では表現方法について掘り下げて行きたいので、ドイツ語の歌詞のディクションや譜読み練習は、基本的に自主練習でおこなってください。

フィードバックの方法:　授業内での発表の後、その都度個々に改善すべき点や今後の課題などのコメントを口頭で伝えます。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	
歌唱発表及びレポート提出	50	課題曲の歌唱発表は、正確な発音で歌うことだけにとどまらず、表現力の有無も評価の対象とする。

教科書: 高折　讀「歌唱のためのドイツ語発音法」音楽の友社
課題曲はその都度準備する。

参考書: 独和辞書(発音記号付き)を持ってくることが望ましい。
電子辞書も可

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業時間内、あるいはその前後での連絡が基本。

362800

フランス語声楽曲研究Ⅰ

小木谷　好美

授業テーマ:　フランス歌曲のための発音法。

授業の概要:　フランス歌曲を演奏する能力をつけることを目的とし、発音記号を徹底的に学び、正確に自然に発音出来るようになる為に、口の開き方、舌の位置、唇の使い方などを学習する。
フランス近代詩に触れ、音楽とフランス語、そしてフランス詩との絶妙な融合の美しさを感じ取れるようにする。

到達目標:　発音記号の読み方を徹底的に学習し、フランス語の正確な発音と抑揚を実践的に習得し、詩と音楽の関わりの美しさを感じ、フランス歌曲への興味を抱くことを目的とする。

授業方法:　発音記号を理解し、フランス語を正確に発音できるようにする。詩の朗読を演習することにより、明確な発音による歌唱に導く。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに。アルファベと発音記号のとらえ方。(口母音、鼻母音)	はじめに。アルファベと発音記号のとらえ方(口母音、鼻母音)を予習。
2.	綴り字の基本的な発音。母音、半母音の読み方。	綴り字の語を辞書で調べる。
3.	綴り字の基本的な発音。母音、半母音の読み方。基本的な発音。鼻母音になる場合の読み方と子音字の読み方。	口母音、鼻母音を繰り返し練習。綴り字を辞書で調べ準備。
4.	文章の読み方…リエゾン、アンシェヌマン、エリズィオンを学ぶ。	文章にある語を辞書で調べる。
5.	G.Fauré:Lydia の詩の朗読を通して、発音と抑揚を学ぶ。	Lydia の詩にある語を辞書で調べる。
6.	G.Fauré:Lydiaを一人一人演習する。	Lydia の詩のディクションと歌唱の練習。
7.	G.Fauré:Lydiaを一人一人演習する。	Lydia の詩のディクションと歌唱の練習。
8.	G.Fauré:Lydiaを一人一人演習する。	Lydia の詩のディクションと歌唱の練習。
9.	G.Fauré:Lydia　の詩のディクションと歌唱発表。	Lydia の詩のディクションと歌唱の練習。
10.	G.Fauré:Clair de lune とMandoline の詩の朗読。詩人P.Verlaineを通して、詩と音楽の関わりを感じ、深める。	Clair de lune とMandoline の詩にある語を辞書で調べる。
11.	G.Fauré：Clair de lune 、Mandoline を一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを　ディクションと歌唱の練習。
12.	G.Fauré:Clair de lune 、Mandoline を一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを　ディクションと歌唱の練習。
13.	G.Fauré:Clair de lune 、Mandoline を一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを　ディクションと歌唱の練習。
14.	G.Fauré：Clair de lune 、Mandoline を一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを　ディクションと歌唱の練習。
15.	G.Fauré：Clair de lune 、Mandoline のいずれかのディクションと歌唱発表。	Clair de lune とMandoline のどちらかを　ディクションと歌唱の練習。

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前にフランス語に少しでも触れていると理解しやすいと思います。フランス語の経験がなくても　フランス歌曲は兎に角美しい語感、美しい音楽に溢れているので　コツコツと積み上げてフランス歌曲を楽しんで下さい。

フィードバックの方法:　レポート等の提出物においては　添削し返却。授業内でも解説。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況と授業態度	50%	積極的に授業に参加し、明確な発音と美しい抑揚に対して意欲的かを評価する。
発表	50%	正確で美しい発音と抑揚を踏まえて、詩と音楽の関わりの魅力を表現しているかを評価する。

教科書:
フォーレ歌曲集(全音楽譜出版)
フランス歌曲集(ドレミ出版)

参考書:
E.ルテール「フランス歌曲とドイツ歌曲」(白水社)
P.ベルナック「フランス歌曲の演奏と解釈」(音楽之友社)
金原礼子「ガブリエル・フォーレと詩人たち」(藤原書店)
河本喜介「フォーレとその歌曲」(音楽之友社)
新潮美術文庫「ヴァトー」(新潮社)
仏和辞典

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

362900

フランス語声楽曲研究Ⅱ

小木谷　好美

授業テーマ:　フランス歌曲演奏

授業の概要:　フランス歌曲を演奏する上での正確な発音をより習得し、C.A.Debussy,E.Chausson、H.Duparc 等の歌曲を取り上げ、抑揚を更にスムーズにし、美しいディクションを目指し、詩と音楽の関わりを感じ、詩の解釈を深め、フランス歌曲の魅力を味わい演奏を行う。

到達目標:　声楽研究Ⅰで学習したフランス語発音法を生かし、更に明確な発音へ導き、実践的にフランス歌曲の演奏へ発展させる。

授業方法:　全員で詩のディクションと歌唱を演習し、更に個々で演習を通して理解を深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	夏休みの課題として与えたG.Fauré　の歌曲を演習、発表する。	課題のディクションと歌唱の練習。
2.	C.A.Debussy :Nuit d'étoiles のディクション、詩の解釈、作曲家と詩人との関わり、時代背景等説明し、演習に導く。	C.A.Debussyについて調べる。 Nuit d'étoilesの詩にある語を辞書で調べる。
3.	C.A.Debussy :Romance のディクション、詩の解釈、そして演習に導く。	Romance の詩にある語を辞書で調べる。
4.	C.A.Debussy :Nuit d'étoiles ,Romance のいずれかを一人一人演習する。	Nuit d'étoiles、Romance のディクションと歌唱練習する。
5.	C.A.Debussy :Nuit d'étoiles ,Romance のいずれかを一人一人演習する。	Nuit d'étoiles、Romance のディクションと歌唱練習する。
6.	C.A.Debussy :Nuit d'étoiles ,Romance のいずれかを一人一人演習する。	Nuit d'étoiles、Romance のディクションと歌唱練習する。
7.	C.A.Debussy :Nuit d'étoiles ,Romance のいずれかを一人一人　ディクションと歌唱発表する。	Nuit d'étoiles、Romance のディクションと歌唱練習する。
8.	E.Chausson :Les papillons,Le colibri　のディクッション、詩の解釈、作曲家と詩人との関わり等学習し、演習に導く。	E.Chausson について調べる。Les papillons,Le colibri の詩にある語を辞書で調べる。
9.	H.Duparc :Chanson triste のディクション、詩の解釈、時代背景等学習し演習に導く。	H.Duparc について調べる。Chanson tristeの詩にある語を辞書で調べる。
10.	E.Chausson :Les papillons,Le colibri　とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Les papillons,Le colibri、Chanson triste　のディクションと歌唱の練習。
11.	E.Chausson :Les papillons,Le colibri　とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Les papillons,Le colibri、Chanson triste　のディクションと歌唱の練習。
12.	E.Chausson :Les papillons,Le colibri　とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Les papillons,Le colibri、Chanson triste　のディクションと歌唱の練習。
13.	E.Chausson :Les papillons,Le colibri　とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを　ディクションと歌唱の練習。
14.	E.Chausson :Les papillons,Le colibri　とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人演習する。	Clair de lune とMandoline のどちらかを　ディクションと歌唱の練習。
15.	E.Chausson :Les papillons,Le colibri　とH.Duparc :Chanson triste から一曲選択し、一人一人ディクションと歌唱発表する。	Les papillons,Le colibri、Chanson triste　のディクションと歌唱の練習。

受講者へのメッセージやアドバイス:　声楽研究Ⅰで学習したことをより発展的に、更に色々な作曲家のフランス歌曲の作品を楽しみ深めて下さい。

フィードバックの方法:　レポート等の提出物においては、添削し返却。授業内でも解説。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況と授業態度	50%	積極的に授業に参加し、明確な発音と美しい抑揚に対して意欲的かを評価する。
発表	50%	正確で美しい発音と抑揚を踏まえて、詩と音楽の関わりの魅力を表現しているかを評価する。

教科書:
フォーレ歌曲集（全音楽譜出版）
フランス歌曲集（ドレミ出版）

参考書:
P.ベルナック「フランス歌曲の演奏と解釈」（音楽之友社）
F.ルシュール「ドビュッシー書簡集」（音楽之友社）
佐藤朔訳「ボードレール詩集」（白鳳社）
仏和辞典

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

363001

ミュージックセラピー研究Ⅰ

北脇　　歩

授業テーマ:　ミュージックセラピーならびに関連テーマに関する調査・研究

授業の概要:　各自の興味あるテーマを選定し、それについて調査・研究をする。

到達目標:　テーマに沿って資料を収集したり、調査をする力をつける。

授業方法:　討議、発表、講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	テーマ選定への準備(1)	資料の予習
3.	テーマ選定への準備(2)	資料の予習
4.	テーマ選定への準備(3)	資料の予習
5.	先行研究の調査と発表(1)	配布資料の確認
6.	先行研究の調査と発表(2)	配布資料の確認
7.	先行研究の調査と発表(3)	配布資料の確認
8.	テーマ選定のための研究方法の確認(1)	
9.	テーマ選定のための研究方法の確認(2)	
10.	テーマ選定のための研究方法の確認(3)	
11.	成果の発表(1)	
12.	成果の報告(2)	
13.	成果の報告(3)	
14.	成果の報告(4)	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　論文の書き方の基礎を資料を通してしっかり確認する。
たくさんの興味あるテーマから何にするかの選択を早めに行い、調査や資料の収集を丁寧に行う。

フィードバックの方法:　毎回作成した資料を整理し、組み立てなおす。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30	出欠
発表	30	内容
成果物	40	内容と量

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

363002

ミュージックセラピー研究Ⅰ

稲田　　雅美

授業テーマ:　ミュージックセラピーに関する卒業研究

授業の概要:　各自が関心をもつ音楽教育に関するテーマにもとづき、文献研究や調査などを行い、ミュージックセラピーIIにおいて完成させる学術論文の概要を構築する。

到達目標:
・ミュージックセラピーIIで完成させる学術論文の構成と内容を明確し，論文（小論）を作成する。
・各自の研究内容をクラス内で発表する。

授業方法:　各自が構想するテーマやその展開、関連文献等について順番に発表し合い、情報や知識の共有とディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究テーマの設定に関する討議1	関連文献を積極的に精査する。
2.	研究テーマの設定に関する討議2	同上
3.	参考文献リストに関する解説	参考文献のタイトル等を整理する。
4.	文献の引用に関する解説	引用の方法を復習する。
5.	関連文献の共有1	研究テーマに沿った文献を紹介する準備
6.	関連文献の共有2	同上
7.	関連文献の共有3	同上
8.	関連文献の共有4	同上
9.	論文（小論）の作成：個別指導1	論文（小論）の執筆
10.	論文（小論）の作成：個別指導2	同上
11.	論文（小論）の作成：個別指導3	同上
12.	論文（小論）の作成：個別指導4	同上
13.	論文（小論）の作成：個別指導5	同上
14.	論文（小論）の発表	研究発表の準備
15.	論文（小論）の発表	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　英語文献も積極的に読み込む努力をすること。

フィードバックの方法:　提出物は，教室でまとめてコメントした上で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラスへの貢献度と発表	60%	文献内容を共有する姿勢と，発表内容および発表の仕方を評価する。
論文（小論）の評価	40%	論文の構成と内容を評価する。

教科書:

参考書:
河野哲也『レポート・論文の書き方入門　第3版』 慶応義塾大学出版会（2002年） 他
ウィンジェル,R.『改訂新版　音楽の文章術』 春秋社（2014年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

363101

ミュージックセラピー研究Ⅱ

北脇　　歩

授業テーマ:　ミュージックセラピーならびに関連テーマの調査・研究のまとめ

授業の概要:　前期に調査・研究したテーマのまとめ

到達目標:　卒業研究として提出する。

授業方法:　調査・研究のグループ発表と個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	選定したテーマの再構築(1)	各自資料のまとめ
3.	選定したテーマの再構築(2)	各自資料のまとめ
4.	選定したテーマの再構築(3)	各自資料のまとめ
5.	選定したテーマの再構築(4)	各自資料のまとめ
6.	グループ討議(1)	討議資料の準備
7.	グループ討議(2)	討議資料の準備
8.	グループ討議(3)	討議資料の準備
9.	個別指導(1)	
10.	個別指導(2)	
11.	個別指導(3)	
12.	個別指導(4)	
13.	研究発表(1)	配布資料の準備
14.	研究発表(2)	配布資料の準備
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　テーマを絞り、資料を論文の形式に沿ってまとめるために、書きやすいところから手掛けるように。

フィードバックの方法:　収集した資料を丁寧に考察し深め拡げるために、読む、書く作業を続ける。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30	出欠
グループ討議	20	参加状況
成果物提出	50	内容・量

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力、

教員との連絡方法:　音楽学科事務室

363102

ミュージックセラピー研究Ⅱ

稲田　　雅美

授業テーマ:　ミュージックセラピーに関する卒業論文を制作する。

授業の概要:　ミュージックセラピーIにおいて蓄積した知識をもとに、卒業論文を執筆する。

到達目標:　・卒業論文の完成

授業方法:　ミュージックセラピーIにおいて構築した各人のテーマを掘り下げ、重要文献を精査しながら、研究成果を文章化する。個別指導を中心とするが、必要に応じてクラス内で情報交換やディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	論文執筆の手順等の確認	論文執筆の手順に関する文献を参照する。
2.	個別指導1	論文の構成を明らかにする。
3.	個別指導2	同上
4.	個別指導3	本文の執筆
5.	個別指導4	同上
6.	個別指導5	同上
7.	個別指導6	同上
8.	個別指導7	同上
9.	個別指導8	同上
10.	個別指導9	内容の精査と文献リストの確認
11.	個別指導10	同上
12.	個別指導11	論文全容の確認
13.	研究の発表1	クラス内での論文発表の準備
14.	研究の発表2	同上
15.	総括	ふり返りと討議のために，自分の論文を読み返しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　英語文献も積極的に読み込む努力をすること。

フィードバックの方法:　提出物は，教室内でまとめてコメントする。また，必要に応じて添削する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文への取り組み度	40%	論文執筆への取り組みの積極性，ならびにクラス発表の姿勢について評価する。
論文の評価	60%	論文の構成，論理的展開，内容全般について評価する。

教科書:

参考書:　河野哲也『レポート・論文の書き方入門　第3版』 慶応義塾大学出版会（2002年） 他
ウィンジェル,R.『改訂新版　音楽の文章術』 春秋社（2014年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

363201

ミュージックエデュケーション研究Ⅰ

椎名　　亮輔

授業テーマ:　音楽教育に関する卒業論文を書く

授業の概要:　各人の選んだ音楽教育に関するテーマについて調査・研究し、最終的に論文として執筆する。

到達目標:
知識・理解：音楽教育に関するテーマについて適切に調査・研究する。
関心・意欲・態度：音楽教育に関するテーマについて積極的に調査・研究する。
表現・技能・能力：音楽教育に関するテーマについて調査研究した結果を論文として執筆する。

授業方法:　各人の選んだ音楽教育に関するテーマについて、それに関する文献リストを作成し、収集する。そして重要なものを精読し、テキスト批評を施し発表、ディスカッションをする。以上により、テーマの再構築・精密化をはかり、論述としての文章作成に着手する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒論テーマの選定について	自分のもっとも興味のあるテーマについて考えてくる
2.	テーマの精選・構築について	自分のもっとも興味のあるテーマについて考えてくる
3.	テキスト批評とは	テキスト批評について調べてくる
4.	先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評１	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
5.	先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評２	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
6.	先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評３	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
7.	先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評４	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
8.	先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評５	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
9.	先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評６	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
10.	先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評７	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
11.	先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評８	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
12.	先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評９	自分のテーマを選び、先行研究の文献リスト作成・収集およびテキスト批評を行う
13.	論文の構想１	自分のテーマについて論文の構想を練る
14.	論文の構想２	自分のテーマについて論文の構想を練る
15.	論文の構想３	自分のテーマについて論文の構想を練る

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内において、適宜コメント、解説を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	55	授業への積極的な参加について評価する
テキスト批評に基づくレポート	45	自分のテーマについて正しく調査・研究ができているかについて評価する

教科書:

参考書:
河野哲也『レポート・論文の書き方入門第３版』慶応義塾大学出版会
リチャード・J・ウィンジェル『改訂新版音楽の文章術』春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール：rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

363202

ミュージックエデュケーション研究Ⅰ

稲田　　雅美

授業テーマ:　音楽教育に関する卒業研究

授業の概要:　各自が関心をもつ音楽教育に関するテーマにもとづき、文献研究や調査などを行い、ミュージックエデュケーションⅡにおいて完成させる学術論文の概要を構築する。

到達目標:
・ミュージックエデュケーションⅡで完成させる学術論文の構成と内容を明確し，論文（小論）を作成する。
・各自の研究内容をクラス内で発表する。

授業方法:　各自が構想するテーマやその展開、関連文献等について順番に発表し合い、情報や知識の共有とディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究テーマの設定に関する討議1	関連文献を積極的に精査する。
2.	研究テーマの設定に関する討議2	同上
3.	参考文献リストに関する解説	参考文献のタイトル等を整理する。
4.	文献の引用に関する解説	引用の方法を復習する。
5.	関連文献の共有1	研究テーマに沿った文献を紹介する準備
6.	関連文献の共有2	同上
7.	関連文献の共有3	同上
8.	関連文献の共有4	同上
9.	論文（小論）の作成：個別指導1	論文（小論）の執筆
10.	論文（小論）の作成：個別指導2	同上
11.	論文（小論）の作成：個別指導3	同上
12.	論文（小論）の作成：個別指導4	同上
13.	論文（小論）の作成：個別指導5	同上
14.	論文（小論）の発表	研究発表の準備
15.	論文（小論）の発表	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　英語文献も積極的に読み込む努力をすること。

フィードバックの方法:　提出物は，教室でまとめてコメントした上で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラスへの貢献度と発表	60%	文献内容を共有する姿勢と，発表内容および発表の仕方を評価する。
論文（小論）の評価	40%	論文の構成と内容を評価する。

教科書:

参考書:
河野哲也『レポート・論文の書き方入門　第3版』 慶応義塾大学出版会（2002年） 他
ウィンジェル,R.『改訂新版　音楽の文章術』 春秋社（2014年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

363301

ミュージックエデュケーション研究Ⅱ

椎名　亮輔

授業テーマ:
「ミュージックエデュケーション研究I」のつづきとして、音楽教育に関する卒業論文を書く

授業の概要:
「ミュージックエデュケーション研究I」につづいて、各人の選んだ音楽教育に関するテーマについて調査・研究し、最終的に論文として執筆する。

到達目標:
知識・理解：音楽教育に関するテーマについて適切に調査・研究する。
関心・意欲・態度：音楽教育に関するテーマについて積極的に調査・研究する。
表現・技能・能力：音楽教育に関するテーマについて調査研究した結果を論文として執筆する。

授業方法:
「ミュージックエデュケーション研究I」での成果を踏まえ、９月に中間発表を行う。重要文献やデータの精読を基礎にして、各人がそれぞれ自分のテーマを掘り下げ、研究・考察し、自分の言葉で適切な文章にまとめあげてゆく。個別指導を受けながら、論文を執筆する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個別指導1	指導をもとに論文を書いてくる
2.	個別指導2	指導をもとに論文を書いてくる
3.	個別指導3	指導をもとに論文を書いてくる
4.	個別指導4	指導をもとに論文を書いてくる
5.	個別指導5	指導をもとに論文を書いてくる
6.	個別指導6	指導をもとに論文を書いてくる
7.	個別指導7	指導をもとに論文を書いてくる
8.	個別指導8	指導をもとに論文を書いてくる
9.	個別指導9	指導をもとに論文を書いてくる
10.	個別指導10	指導をもとに論文を書いてくる
11.	個別指導11	指導をもとに論文を書いてくる
12.	個別指導12	指導をもとに論文を書いてくる
13.	まとめと考察1	指導をもとに論文をしあげる
14.	まとめと考察2	指導をもとに論文をしあげる
15.	まとめと考察3	指導をもとに論文をしあげる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
個別指導を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	20	授業に積極的に参加しているかを評価する
中間発表	20	中間発表において、自分のテーマについて正しく研究が進められ、それをプレゼンテーションできているかについて評価する
論文	60	自分のテーマについてきちんとした論文が書けているかどうかを評価する

教科書:
なし

参考書:
河野哲也『レポート・論文の書き方入門第３版』慶応義塾大学出版会
リチャード・J・ウィンジェル『改訂新版音楽の文章術』春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール：rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

363302

ミュージックエデュケーション研究Ⅱ

稲田　　雅美

授業テーマ:　音楽教育に関する卒業論文を制作する。

授業の概要:　ミュージックエデュケーションⅠにおいて蓄積した知識をもとに、卒業論文を執筆する。

到達目標:　・卒業論文の完成

授業方法:　ミュージックエデュケーションⅠにおいて構築した各人のテーマを掘り下げ、重要文献を精査しながら、研究成果を文章化する。個別指導を中心とするが、必要に応じてクラス内で情報交換やディスカッションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	論文執筆の手順等の確認	論文執筆の手順に関する文献を参照する。
2.	個別指導1	論文の構成を明らかにする。
3.	個別指導2	同上
4.	個別指導3	本文の執筆
5.	個別指導4	同上
6.	個別指導5	同上
7.	個別指導6	同上
8.	個別指導7	同上
9.	個別指導8	同上
10.	個別指導9	内容の精査と文献リストの確認
11.	個別指導10	同上
12.	個別指導11	論文全容の確認
13.	研究の発表1	クラス内での論文発表の準備
14.	研究の発表2	同上
15.	総括	ふり返りと討議のために，自分の論文を読み返しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　英語文献も積極的に読み込む努力をすること。

フィードバックの方法:　提出物は，教室内でまとめてコメントする。また，必要に応じて添削する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文への取り組み度	40%	論文執筆への取り組みの積極性，ならびにクラス発表の姿勢について評価する。
論文の評価	60%	論文の構成，論理的展開，内容全般について評価する。

教科書:

参考書:　河野哲也『レポート・論文の書き方入門　第3版』 慶応義塾大学出版会（2002年） 他
ウィンジェル,R.『改訂新版　音楽の文章術』 春秋社（2014年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

381600

ミュージッククリエイションC（Adv. ）

葛西　　聖憲

授業テーマ:　音楽作品の創作

授業の概要:　様々な音楽を提示し、学生各人の創作に対する意欲を与えつつ、創作のレッスンを行う。

到達目標:　様々な有名な音楽作品をある意味参考にし、学生自身、独自の音楽作品を創作する。

授業方法:　個人またはグループレッスン形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	とりあえず、作品を作り始めること。内容や編成は自由。
2.	創作と分析　1	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
3.	創作と分析　２	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
4.	創作と分析　３	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
5.	創作と分析　４	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
6.	創作と分析　５	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
7.	創作と分析　６	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
8.	創作と分析　７	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
9.	創作と分析　８	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
10.	創作と分析　９	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
11.	創作と分析　１０	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
12.	創作と分析　11	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
13.	創作と分析　12	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
14.	創作と分析　13	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
15.	創作と分析　14	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　創作は受身では出来ない。積極的な姿勢で作曲に臨んでほしい。

フィードバックの方法:　常に、「作曲」をしている意識をもたなければならない。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートまたは作品提出	60	提出された作品
平常点	40	授業に対する姿勢、創作意欲など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

381700

ミュージッククリエイションD（Adv. ）

葛西　　聖憲

授業テーマ:　音楽作品の創作

授業の概要:　様々な音楽を提示し、学生各人の創作に対する意欲を与えつつ、創作のレッスンを行う。

到達目標:　ミュージッククリエイションC（Adv. ）に引き続き、様々な有名な音楽作品をある意味参考にし、学生自身、独自の音楽作品を創作する。

授業方法:　個人またはグループレッスン形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	とりあえず、作品を作り始めること。内容や編成は自由。
2.	創作と分析 1	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
3.	創作と分析 2	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
4.	創作と分析	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
5.	創作と分析 4	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
6.	創作と分析 5	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
7.	創作と分析 6	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
8.	創作と分析 7	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
9.	創作と分析 8	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
10.	創作と分析 9	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
11.	創作と分析 10	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
12.	創作と分析 11	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
13.	創作と分析 12	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
14.	創作と分析 13	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。
15.	創作と分析 14	自主的に楽曲分析や創作を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　創作は受身では出来ない。積極的な姿勢で作曲に臨んでほしい。

フィードバックの方法:　常に、「作曲」をしているという意識をもたなければならない。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出作品	60	提出された作品の内容
平常点	40	授業に対する姿勢、創作意欲など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

381800

コンピュータミュージック演習C（Adv. ）

成田　　和子

授業テーマ:　コンピュータミュージック演習AとBに続く、コンピュータを用いた作品の創作

授業の概要:　MIDIデータを用いた作品、MIDIデータとAUDIOデータを用いた作品、電子音響音楽作品、楽器の演奏と電子音楽をシンクロナイズさせるミクスト作品など、オリジナルな作品の創作を行う。

到達目標:　創作テーマに沿ったオリジナルな作品の創作

授業方法:　授業、創作演習、個別指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入：音楽創作のプロセス、コンピュータを用いた創作環境について	準備
2.	MIDIデータを用いた作品について	MIDIについて調べる。
3.	MIDIデータとAUDIOデータを用いた作品について	AUDIOについて調べる。
4.	電子音響音楽作品について	電子音楽について調べる。
5.	作品に用いる素材の録音について	録音方法について調べる。
6.	楽器の演奏と電子音楽をシンクロナイズさせるミクスト作品について	楽音と電子音の違いについて考える。
7.	ミクスト作品における楽器のパートについて	楽音と電子音の共存について考える。
8.	ミクスト作品におけ電子音楽のパートについて	創作作品の形態について考える。
9.	オリジナルな作品の創作テーマの決定	創作作品の形態について考える。
10.	創作演習、個別指導1	創作を進める。
11.	創作演習、個別指導2	創作を進める。
12.	創作演習、個別指導3	創作を進める。
13.	創作演習、個別指導4	創作を進める。
14.	創作演習、個別指導5	創作を進める。
15.	創作演習、個別指導6	創作を進める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　研究室で対応

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合		評価基準
オリジナル作品の創作	70		
平常の学習状態	30	出席状況など	

教科書:

参考書:　参考音源や資料を提供する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室で対応

381900

コンピュータミュージック演習D（Adv. ）

成田　　和子

授業テーマ:　コンピュータミュージック演習C(Adv,)に続く、コンピュータを用いた作品の創作と発表

授業の概要:　MIDIデータを用いた作品、MIDIデータとAUDIOデータを用いた作品、電子音響音楽作品、楽器の演奏と電子音楽をシンクロナイズさせるミクスト作品など、オリジナルな作品の創作を行う。

到達目標:　創作テーマに沿ったオリジナルな作品の創作と発表

授業方法:　授業、創作演習、個別指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	作品創作のプロセスと創作環境の確認1	創作作品について考える。
2.	作品創作のプロセスと創作環境の確認2	創作作品について考える。
3.	作品創作のプロセスと創作環境の確認3	創作のプロセスを考える。
4.	創作演習、個別指導1	創作を進める。
5.	創作演習、個別指導2	創作を進める。
6.	創作演習、個別指導3	創作を進める。
7.	創作演習、個別指導4	創作を進める。
8.	創作演習、個別指導5	創作を進める。
9.	創作演習、個別指導6	創作を進める。。
10.	創作演習、個別指導7	創作を進める。
11.	創作演習、個別指導8	創作を進める。
12.	創作演習、個別指導9	創作を進める。
13.	創作演習、個別指導10	創作を進める。
14.	発表1	発表の準備
15.	発表2	発表の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　研究室で対応

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合		評価基準
オリジナル作品の 創作	70		
平常の学習状態	30	出席状況など	

教科書:

参考書:　参考音源や資料を提供する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室で対応

395160 **Academic Writing A**

富澤　　理英子

授業テーマ:　学術論文の書き方を学ぶ

授業の概要:　大学院修士課程2年次で修士論文を書くために論文の書き方の基本を学ぶ。実際の論文例を見ながら、日本語で論文を書く場合の書き方の基本と日本語の論文の構造を学ぶが、必要に応じて英語での論文の書き方の基本と英語論文の構造(paragraph writing等)も学ぶ。

到達目標:　受講生が、実際の論文例を見ながら、学術論文の書き方の基本と論文の基本構造を学び、また論文例を内容面で理解しながら、論文執筆に必要な文献読解力・分析力・critical thinking(批判的かつ多角的考察)の姿勢を身につけ，論文の形式の中で自分の考えを論理的に説得力を持って文章で表現する力を養うことを目標とする。また、各自の論文(後期のAcademic Writing Bの学期末論文)の執筆計画を完成する。

授業方法:　講義、文献(論文例)の講読、考察発表、そして論文を書く練習が中心となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業の復習として配布資料を読む。
2.	論文の基本構造(1) 論文例の研究と文献講読	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
3.	論文の基本構造(2) 論文例の研究と文献講読	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
4.	論文の基本構造(3) 論文例の研究と文献講読	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
5.	論文のテーマの設定(1) 資料の探し方(1)	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。 資料検索
6.	論文のテーマの設定(2) 資料の探し方(2)	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。 資料検索
7.	序論の書き方	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。 序論執筆
8.	先行研究の紹介の仕方	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。 先行研究について書く
9.	事物・現象・重要項目の定義づけと説明の仕方	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。 事物・現象・重要項目の定義と説明を書く
10.	本論の書き方(1)　論拠の提示の仕方	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。 本論を書く。 論文執筆計画書を書く。
11.	本論の書き方(2)　自分の考察・主張の提示の仕方	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。 本論を書く。 論文執筆計画書を書く。
12.	結論部の書き方(1)	授業の予習として前週に配布された文献の講読をする。 結論部を書く。
13.	結論部の書き方(2)	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。 結論部を書く。 論文論文執筆計画書を書く。
14.	各自の論文(後期のAcademic Writing Bの学期末論文)の執筆計画発表(1)	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。
15.	各自の論文(後期のAcademic Writing Bの学期末論文)の執筆計画発表(2)	授業の予習として前週に配布された文献・論文の講読をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　返却が必要な提出物は採点し教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点(出席，クラス参加の成果等)	65%	出席と積極的な授業参加，優れた発言・考察発表、そして論文執筆練習の成果(考察の深さと多角性と柔軟さ、主張の論理性と説得力等)
期末レポート試験(論文執筆計画レポート)	35%	授業で学んだ内容が生かされた，具体性のある執筆計画であること

教科書:　授業時に文献・資料を配布する。

参考書:　授業時に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	Email（授業中に指示する）

395260

Academic Writing B

富澤　　理英子

授業テーマ:　学術論文の書き方を学ぶ。

授業の概要:　春学期のAcademic Writing Aに続く授業となる。春学期に習得した論文の基本，文献の読みこなし方，critical thinking（批判的かつ多角的考察）の姿勢、そして論文の書き方を生かして学期末論文の執筆に取り組む。自分のテーマに必要な文献の収集・読解，論文執筆，執筆途中の報告・発表，添削，修正，ディスカッションを通して説得力，論理性，そして独自性のある論文を完成する。

到達目標:　受講生が学期末論文完成までのプロセスを通して，論文を読み込む力，自分のテーマに関する専門的知識を習得し，テキストを分析し、多様な意見を聞き，読み，理解しながら，論文という形式の中で独自の考えを打ち立て表現する力，論理性と説得力のある議論と主張ができるようになることを目標とする。

授業方法:　講義、文献講読、考察、ディスカッション、論文執筆演習、発表を中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	配布文献を読む
2.	論文執筆計画書（前期Academic Writing A で完成した）を元に執筆開始 各自のテーマに関する考察をいかに深めるか 各自のテーマに関する資料・文献収集 文献講読	資料・文献収集 論文執筆
3.	論文執筆と論文指導(1) 文献講読　　注と参考文献リスト	論文執筆 講義内容の復習
4.	論文執筆と論文指導(2) 文献講読　　タイトルと目次 多角的に考察する（1）	論文執筆 講義内容の復習
5.	論文執筆と論文指導(3) 文献講読　　要旨 多角的に考察する（2）	論文執筆 講義内容の復習
6.	論文執筆と論文指導(4) 文献講読　　読者を想定する 論理性と説得力をいかに磨くか（1）	論文執筆講義内容の復習
7.	論文執筆と論文指導(5) 文献講読　　書き手としての自分のスタンス・視点を検証する 論理性と説得力をいかに磨くか（2）	論文執筆 講義内容の復習
8.	論文執筆と論文指導(6) 文献講読　　論文執筆におけるモラル 論理性と説得力をいかに磨くか（3）	論文執筆 講義内容の復習 論文執筆途中の報告・発表準備
9.	論文執筆途中の報告・発表(1) ディスカッションと論文指導 文献講読	論文執筆 論文執筆途中の報告・発表準備
10.	論文執筆途中の報告・発表(2) ディスカッションと論文指導 文献講読	論文執筆 講義内容の復習 予習として配布文献を読んでおく
11.	論文修正(1) 文献講読	論文執筆 予習として配布文献を読んでおく
12.	論文修正(2) 文献講読	論文執筆 講義内容の復習
13.	論文修正(3) 文献講読	論文執筆 論文内容の報告準備
14.	論文の完成と報告(1)	論文執筆 論文内容の報告準備
15.	論文の完成と報告(2)	論文執筆

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　各種提出物の中で返却が必要なものは採点とコメントをし、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点（出席，クラス参加，グループ作業の成果，発表　等）	60%	出席と積極的な授業参加，優れた発言，考察、発表内容、論文執筆演習の成果等
学期末論文	40%	論文の書き方の基本を習得しているか テーマに沿った資料・文献を使っているか 文献・資料の読解を活かせているか テーマに関する考察が深く，多角的であるか 説得力のある，独自の議論を展開しているか 読み手に伝わる文章を書けているか

教科書:　授業時に文献・資料を配布する。

参考書:　授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Email（授業中に指示する）

395360

Academic Writing C

E.T.Ottman

授業テーマ:

This course will focus on improving English academic writing for graduate students, including argumentation with accurate citation for dissertations and research report writing.

授業の概要:

This course will focus on improving English academic writing and is intended to prepare students for writing their dissertation in English. At the end of this course, students will be able to prepare an academic CV and professional resume and relevant covering letters; organize an academic paper effectively, utilizing pre-writing generation strategies and outlining methods appropriately; find appropriate expert sources & data that have been critically chosen & critically read, and integrate them into writing to support claims; cite sources correctly according to a required citation style; paraphrase and/or summarize the ideas of other writers (with citation); compare and contrast different ideas, situations, and points of view; edit and proofread their own papers as well as those of peers, in accordance with teacher or peer feedback; prepare and submit a correctly-formatted academic research paper with an appropriate reference list, and deliver a short presentation on their paper.

到達目標:

Goals of this course include the production of academic research papers for publication, dissertations and general academic writing skills (depending on student needs).

授業方法:

This class is conducted in a computer room, and will use the instructor's website for writing assignments. There will be weekly in-class writing assignments and lectures, and also take-home writing assignments. Depending on class size, a tutorial approach will be adopted.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction and needs analysis. Website registration.	Preparation of needs analysis material for instructor evaluation.
2.	Introduction and needs analysis, ctd./	Preparation of further needs analysis material for instructor evaluation.
3.	Practical academic writing skills - using academic CVs to introduce and promote yourself (introduction and comparison).	Preparation of materials for academic CVs.
4.	Practical academic writing skills - CVs and profiles ctd./	Assignment: Academic writing CV
5.	Practical academic writing skills - accompanying letters.	Assignment: Covering letter.
6.	Process writing for academic papers; prewriting preliminaries, techniques (freewriting, listing)	Assignment: Looping.
7.	Process writing for academic papers; prewriting preliminaries, techniques ctd./. (Journalists' questions, Cubing.)	Assignments: Journalists' questions, Cubing.
8.	Process writing for academic papers; prewriting preliminaries, techniques ctd./(Mind mapping, outlining.)	Assignments: Mind mapping, outlining.
9.	Process writing for academic papers; introductions overview	. Assignment: Introduction hooks.
10.	Process writing for academic papers: thesis statements.	Assignment: 4 kinds of thesis statement.
11.	Process writing for academic papers; conclusions 1 (overview).	Assignment: conclusion techniques.
12.	Process writing for academic papers; body - supporting your paper, argument writing; classical rhetorical techniques, overview	Assignment: rhetorical strategies 1
13.	Process writing for academic papers; body - supporting your paper, arguments and rhetorical techniques, ctd.	Assignment: rhetorical strategies 2
14.	Process writing for academic papers; body - supporting your paper, evidence, ctd./	Assignment: rhetorical strategies 3
15.	Skills review.	Mini paper using above skills.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a preliminary schedule only and will be adjusted according to students' individual academic and professional requirements as much as possible.

フィードバックの方法:

Feedback from the instructor to the student: Students will upload assignments to Google Drive portfolios for individual commentary by instructor. Depending on class size, individual review will be adopted.
Feedback by students to the instructor: The university's own feedback method, in addition to the instructor's feedback method will be using for general evaluation by students.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
In class work	30	Lively and discursive contributions to in-class course activities are desired, and participation in live writing exercises.
Assignments.	30	Prompt and thorough completion of homework assignments. Careful proofreading and editing of all assignments is expected - do not send me the first draft of anything! Your portfolio of assignments forms a significant assessment component, so do not skip as
Final paper.	40	Original research skills are expected, including the critical reading of academic journals and papers. Careful proofreading and editing of your final assignment is expected - do not send me the first draft of anything! Please use a peer editor.

教科書:

No textbooks need to be purchased for this course. All the materials are on the instructor's Google Drive.
Materials may be recommended if students wish to work from a textbook by themselves.

参考書:

Swales, J. and Beer Feak, C. Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, Second Edition. Ann Arbor: University of Michigan Press. ISBN: 0-472-08856-4

Kennedy, M. L. and Smith, H. M. Reading and Writing in the Academic Community (3rd Edition). Prentice Hall; 3rd edition. ISBN: 978-0131931336.

	Leki, I. Academic Writing: Exploring Processes and Strategies. Cambridge University Press; 2nd edition. ISBN: 978-0521657686
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法：	eottman@dwc.doshisha.ac.jp ; eottman@mail.doshisha.ac.jp

395460

Academic Writing D

E.T.Ottman

授業テーマ:

his course will focus on improving English academic writing for graduate students, including argumentation with accurate citation for dissertations and research report writing.

授業の概要:

This course will focus on improving English academic writing and is intended to prepare students for writing their dissertation in English. It is intended to build on knowledge and skills acquired in the previous semester.
At the end of this course, students will be able to prepare an academic CV and professional resume and relevant covering letters; organize an academic paper effectively, utilizing pre-writing generation strategies and outlining methods appropriately; find appropriate expert sources & data that have been critically chosen & critically read, and integrate them into writing to support claims; cite sources correctly according to a required citation style; paraphrase and/or summarize the ideas of other writers (with citation); compare and contrast different ideas, situations, and points of view; edit and proofread their own papers as well as those of peers, in accordance with teacher or peer feedback; prepare and submit a correctly-formatted academic research paper with an appropriate reference list, and deliver a short presentation on their paper.

到達目標:

Goals of this course include the production of academic research papers for publication, dissertations and general academic writing skills (depending on student needs).

授業方法:

This class is conducted in a computer room, and will use the instructor's website for writing assignments. There will be weekly in-class writing assignments and lectures, and also take-home writing assignments. Depending on class size, a tutorial approach will be adopted.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction and needs analysis. Website registration if needed.	Preparation of needs analysis material for instructor evaluation.
2.	Process writing for academic papers, a review; transitions; drafting and editing; peer review process.	Assignment: practice of peer review process.
3.	Process writing for academic papers; referencing, footnotes; drafting, editing. Use of referencing software e.g. Endnote, Get A Ref.	Assignment: Research on referencing softwares.
4.	Process writing for academic papers; introduction to different citation styles (MLA, Chicago, APA etc), comparison, softwares.	Assignment: review of previous paper for citation practice.
5.	Process writing for academic papers; different citation styles (Chicago, APA etc) ctd.	Quiz Assignment: MLA or APA practice
6.	Process writing for academic papers; Paraphrasing and summarising, overview.	Assignment: Paraphrasing and summarising 1
7.	Process writing for academic papers: Paraphrasing in detail; in-class practice.	Assignment: Paraphrasing and summarising 2
8.	Process writing for academic papers: Paraphrasing in detail; in-class quiz.	Assignment: Paraphrasing and summarising 3
9.	Process writing for academic papers; Plagiarism, accidental and intentional and intellectual dishonesty - review.	Assignment: Plagiarism quiz.
10.	Process writing for academic papers: abstracts.	Assignment: Abstract writing practice.
11.	Process writing for academic papers; politically correct and gender neutral language, bias-free writing 1.	Assignment: bias-free writing quiz.
12.	Process writing for academic papers; politically correct and gender neutral language, bias-free writing 2.	Assignment: bias-free writing exercise
13.	Final project work: peer-reviewed paper discussions.	Assignment: drafting of final paper.
14.	Final project work: peer-reviewed paper discussions. Presentation skills for papers.	Assignment: drafting of final paper. preparation of presentation on final paper.
15.	Assignment: drafting of final paper. preparation of presentation on final paper.	Final Assignment - final paper.

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a preliminary schedule only and will be adjusted according to students' individual academic and professional requirements as much as possible.

フィードバックの方法:

Feedback from the instructor to the student: Students will upload assignments to Google Drive portfolios for individual commentary by instructor. Depending on class size, individual review will be adopted.
Feedback by students to the instructor: The university's own feedback method, in addition to the instructor's feedback method will be using for general evaluation by students.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
In class work.	30	Lively and discursive contributions to in-class course activities are desired, and participation in live writing exercises.
Assignments.	30	Prompt and thorough completion of homework assignments.Careful proofreading and editing of all assignments is expected - do not send me the first draft of anything! Your portfolio of assignments forms a significant assessment component, so do not skip ass
Final paper	40	Original research skills are expected, including the critical reading of academic journals and papers. Careful proofreading and editing of your final assignment is expected - do not send me the first draft of anything! Please use a peer editor.

教科書:

No textbooks need to be purchased for this course. All the materials are on the instructor's Google Drive. Materials may be recommended if students wish to work from a textbook by themselves.

参考書:

Swales, J. and Beer Feak, C. Academic Writing for Graduate Students: Essential tasks and skills, Second Edition. Ann Arbor: University of Michigan Press. ISBN: 0-472-08856-4

Kennedy, M. L. and Smith, H. M. Reading and Writing in the Academic Community (3rd Edition). Prentice Hall; 3rd edition. ISBN: 978-0131931336.

Leki, I. Academic Writing: Exploring Processes and Strategies. Cambridge University Press; 2nd edition. ISBN: 978-0521657686

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	汎用的能力：分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	eottman@dwc.doshisha.ac.jp ; eottman@mail.doshisha.ac.jp

395560

イギリスの民族と歴史

潟山　　健一

授業テーマ:　現代イギリス文化の多様性とその歴史的背景

授業の概要:　イギリス国内あるいは諸島内だけでなく、かつて帝国傘下にあった国や地域に残るイギリスらしさについて理解を深め、その維持のあり方および変容の要因について検討する。

到達目標:　政治的な観点からイギリス文化の諸相を読み解き、自らの関心を絞って問題提起を行い、小論文を作成する。

授業方法:　講義、輪読、プレゼンテーション、討議を組み合わせ、相互に理解度を確認しながら授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスを読んでおくこと
2.	民族と歴史	前週配付の資料を熟読
3.	スコットランド (1)—民族と伝統-	前週配付の資料を熟読
4.	スコットランド (2)-独立への道-	前週配付の資料を熟読
5.	ウェールズ (1)-公国の歴史-	前週配付の資料を熟読
6.	ウェールズ (2)-言語と文化-	前週配付の資料を熟読
7.	北アイルランド (1)-The Troubles-	前週配付の資料を熟読
8.	北アイルランド (2)-UKか共和国か-	前週配付の資料を熟読
9.	イングランド (1)-identity crisis-	前週配付の資料を熟読
10.	イングランド (2)-UKとEU-	前週配付の資料を熟読
11.	イギリス帝国 (1)—19世紀帝国主義-	前週配付の資料を熟読
12.	イギリス帝国 (2)—文化帝国主義-	前週配付の資料を熟読
13.	Commonwealth of Nations (1)-オセアニアの動向-	前週配付の資料を熟読
14.	Commonwealth of Nations (2)—存在意義とは-	前週配付の資料を熟読
15.	総括	前週配付の資料を熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:　登録者数によっては、授業方法に若干の変更があり得る。

フィードバックの方法:　各回、意見交換を行いながら理解度の確認と研究の方向性を見定めていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	40	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
プレゼンテーション	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
司会および討議への参加度	20	積極的な聴き方と建設的意見の提示
出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。

教科書:　配付資料

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

395660

イギリス文化と地域性

潟山　　健一

授業テーマ:　イングランドらしさとは何か

授業の概要:　イギリスという連合王国を牽引してきたイングランドの文化的特殊性について、様々な観点から検討する。

到達目標:　政治的な観点からイングランド文化の諸相を読み解き、自らの関心を絞って問題提起を行い、小論文を作成する。

授業方法:　講義、輪読、プレゼンテーション、討議を組み合わせ、相互に理解度を確認しながら授業を進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	イギリスとイングランド	前週配付の資料を熟読
3.	英語の多様性 (1)	前週配付の資料を熟読
4.	英語の多様性 (2)	前週配付の資料を熟読
5.	英語と英語圏 (1)	前週配付の資料を熟読
6.	英語と英語圏 (2)	前週配付の資料を熟読
7.	大衆文化 (1)	前週配付の資料を熟読
8.	大衆文化 (2)	前週配付の資料を熟読
9.	スポーツ (1)	前週配付の資料を熟読
10.	スポーツ (2)	前週配付の資料を熟読
11.	National Trust (1)	前週配付の資料を熟読
12.	National Trust (2)	前週配付の資料を熟読
13.	伝統と革新 (1)	前週配付の資料を熟読
14.	伝統と革新 (2)	前週配付の資料を熟読
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　登録者数によっては、授業方法に若干の変更があり得る。

フィードバックの方法:　各回、意見交換を行いながら理解度の確認と研究の方向性を見定めていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	40	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
プレゼンテーション	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
司会および討議への参加度	20	積極的な聴き方と建設的意見の提示
出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

専門実技Ⅰ～Ⅷ、第一実技Ⅰa～Ⅳb（2013年度・2014年度入学生適用）

各コース実技担当教員

授業テーマ: 専門実技

授業の概要: 声楽コース・鍵盤楽器コース・管弦打楽器コースの全学生が4年間必修とする専門実技。（鍵盤楽器コースは伴奏法を含む。）

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験・コンサートシリーズ(3・4年次生)で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通じて近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。ただし、全コースともに3・4年次生については「コンサートシリーズ」への出演を前提とする。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

ピアノ実技Ⅰ～Ⅷ、ピアノ実技Ⅰa～Ⅳb（2013年度・2014年度入学生適用）

各コース実技担当教員

授業テーマ: ピアノ実技(鍵盤楽器コースのピアノ以外対象)

授業の概要: 鍵盤楽器コースのピアノ以外を対象とするピアノ実技。

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通して近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	50%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。
出席を含む授業参加度	50%	積極的に授業に参加し、音楽的理解を深め、表現技術を高められたかを評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

声楽実技Ⅰ～Ⅷ、声楽実技Ⅰa～Ⅳb（2013年度・2014年度入学生適用）

各コース実技担当教員

授業テーマ: 声楽実技(声楽コース以外対象)

授業の概要: 声楽コース以外を対象とする声楽実技。

到達目標: 各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法: 個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通して近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

楽器実技Ⅰ～Ⅵ、楽器実技Ⅰa～Ⅲb（2013年度・2014年度入学生適用）

各コース実技担当教員

授業テーマ:	管弦打楽器実技(音楽文化専攻対象)
授業の概要:	音楽文化専攻を対象とする管弦打楽器実技。
到達目標:	各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。
授業方法:	個人指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人指導①	授業で演奏する楽曲及び練習曲を練習・準備しておく。練習・準備する楽曲は、実技試験で演奏する課題をはじめ、バロック・古典からロマン派を通して近現代に至るまで幅広い時代の様々な作曲家の作品となる。
2.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
3.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	個人指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲・練習曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高めているか評価する。

教科書: 学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: 学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール

3C8401

音楽基礎演習

松下　悦子、井原　秀人、井上　敏典

授業テーマ:

大学での学びとその技法

授業の概要:

大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかを理解してもらうことを目標とします。また、研究倫理についても学びます。

一方、声楽に特化した課題として、演奏曲目についての音楽学的視点からの掘り下げ方、リハーサルの進め方、演奏するにあたってのマナーなども学びます。

到達目標:

アカデミック・スキルを使って、自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることも目指します。

授業方法:

講義を聞くだけでなく、グループ学習、発表、歌唱発表、など実践的な内容を多く取り入れていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	大学での学びの目標を明確にすること
2.	ノート・テイキングの手法	大学入学前の教育の場で行っていたノートテイキングを振り返っておくこと
3.	図書館 オリエンテーション	図書館とは自分にとってどのような場所であるかを考えておくこと。 大学内の図書館に行っておくこと
4.	図書館・データベースの使い方	図書館オリエンテーションで体験した検索の仕方などを、再度行ってみること
5.	一般文献（著書・論文など）を読む・参考にする・引用する方法 音楽文献（著書・論文・楽譜・録音など）の扱い方	図書館に行き、興味のある著書、論文、音楽文献を探し読んでみること
6.	プレゼンテーションの技法	宿題として出された課題について、発表できるように草案をつくること
7.	レポートの書き方	宿題として出された課題について、レポートとしてまとめられるように草案をつくること
8.	歌唱における基礎知識(1)	劇音楽、オペラについて調べること
9.	歌唱における基礎知識(2)	歌う為の身体の使い方について調べること
10.	歌唱における基礎知識(3)	今までのリハーサルの進め方についてまとめておくこと
11.	歌唱における基礎知識(4)	最終日の歌唱発表会のための曲を決め、練習しておくこと
12.	歌唱における基礎知識(5)	最終日の歌唱発表会のための曲を決め、練習しておくこと
13.	歌唱における基礎知識(6)	発表会のピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方について考えること
14.	歌唱における基礎知識(7)	発表会のピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方について考えること
15.	歌唱発表会	発表会においての、ピアノ伴奏者とのアンサンブルの仕方の反省点をまとめること

受講者へのメッセージやアドバイス:

同志社女子大学では、声楽の専門分野を学ぶだけでなく、総合大学である特質を活かし音楽以外の分野にも興味を広げ、多くのことを学ぶことができます。この強みを最大限に利用することで、自分の可能性はどんどん広がっていきます。積極的に授業に参加し、興味のあるものの幅をひろげる方法を身につけましょう。

フィードバックの方法:

質問や疑問などがある場合は、積極的に述べてください。その都度、授業内で取り上げ、クラス全員で考えてみましょう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	55	
レポートの提出及び歌唱発表	45	課題であるレポートの提出や歌唱発表もかならず参加すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

基本的に授業前後で口頭による連絡。

3C8402

音楽基礎演習

河江　　優、中野　　慶理

授業テーマ:　大学での学びとその技法

授業の概要:　授業内容の各項目等について、講義とともに、グループ学習、口頭発表、演奏発表などを随時行う。学生の積極的な発言・発表を常に求めていく。また、研究倫理についても学ぶ。

到達目標:
・大学での学びは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違い、一転して自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものである。そのために必要な一定の技術を習得する。
・大学での学びとはどのようなものかを考え、その過程で自らの勉学の目的を再考し、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びを深め、音楽学科での学びの理解と興味を深めることを目指す。
・鍵盤楽器コース(ピアノ、オルガン、チェンバロ)における演奏の基礎事項を確認する。

授業方法:　講義と演習の混合。講義を聴くだけでなく、グループ学習、口頭発表、演奏発表など実践的な内容を多く取り入れていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	大学での学びの目標を明確にすること
2.	ノート・テイキングの手法	大学入学前の教育の場で行っていたノートテイキングを振り返っておくこと
3.	図書館オリエンテーション	図書館とは自分にとってどのような場所であるかを考えておくこと。 大学内の図書館に行っておくこと
4.	図書館・データベースの使い方	図書館オリエンテーションで体験した検索の仕方などを、再度行ってみること
5.	一般文献(著書・論文など)を読む・参考にする・引用する方法、音楽文献(著書・論文・楽譜・録音など)の使い方	図書館に行き、興味のある著書、論文、音楽文献を探し読んでみること
6.	プレゼンテーションの技法	宿題として出された課題について、発表できるように草案をつくること
7.	レポートの書き方	宿題として出された課題について、レポートとしてまとめられるように草案をつくること
8.	演奏における基礎事項①	事前に配布した楽譜等を予習する
9.	演奏における基礎事項②	事前に配布した楽譜等を予習する
10.	演奏における基礎事項③	事前に配布した楽譜等を予習する
11.	演奏における基礎事項④	事前に配布した楽譜等を予習する
12.	演奏における基礎事項⑤	事前に配布した楽譜等を予習する
13.	演奏における基礎事項⑥	事前に配布した楽譜等を予習する
14.	演奏における基礎事項⑦	事前に配布した楽譜等を予習する
15.	演奏における基礎事項⑧	事前に配布した楽譜等を予習する

受講者へのメッセージやアドバイス:　同志社女子大学では、専門分野を学ぶだけでなく、総合大学である特質を活かし音楽以外の分野にも興味を広げ、多くのことを学ぶことができます。この強みを最大限に利用することで、自分の可能性はどんどん広がっていきます。積極的に授業に参加し、興味のあるものの幅をひろげる方法を身につけましょう。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	55%	積極的に授業に参加し、到達目標が理解できるようになったかで評価する。
発表	45%	熟考が十分に重ねられ、主張が明快であるかが基準となる。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、またはマナビーの掲示板機能を利用

3C8403

音楽基礎演習

関谷　　弘志

授業テーマ:　大学での学びとその技法

授業の概要:　大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかを理解してもらうことを目標とします。また、管弦楽器に特化した課題として、演奏曲目についての音楽的視点からの掘り下げ方、リハーサルの進め方、演奏するにあたってのマナーなども学びます。加えて、さまざまな研究の倫理についても学びます。

到達目標:　アカデミック・スキルを使って、自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることを目指します。

授業方法:　グループワークによる検討と、それに基づく発表・ふりかえりを主とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	大学での学びの目標について、明確にすること。
2.	ノート・テイキングの手法	行っていたノート・テイキングを振り返っておくこと。
3.	図書館オリエンテーション	図書館とは自分にとってどのような場所であるかを考えておくこと。大学内の図書館に行っておくこと。
4.	図書館データベースの使い方	図書館オリエンテーションで体験した検索の仕方などを、再度行ってみること。
5.	一般文献を読む・参考にする・引用する方法 音楽文献の扱い方	図書館に行き、興味のある著書、論文、音楽文献を探し読んでみること。
6.	プレゼンテーションの技法	宿題として出された課題について、発表できるよう草案をつくること。
7.	レポートの書き方	宿題として出された課題について、レポートとしてまとめられるよう草案をつくること。
8.	演奏における基礎知識(1)	授業中に伝達する。
9.	演奏における基礎知識(2)	授業中に伝達する。
10.	演奏における基礎知識(3)	授業中に伝達する。
11.	演奏における基礎知識(4)	授業中に伝達する。
12.	演奏における基礎知識(5)	授業中に伝達する。
13.	演奏における基礎知識(6)	授業中に伝達する。
14.	演奏における基礎知識(7)	授業中に伝達する。
15.	演奏における基礎知識(8)	授業中に伝達する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　同志社女子大学では、演奏の専門分野を学ぶだけでなく、総合大学である特質を活かし音楽以外の分野にも興味を広げ、多くのことを学ぶことができます。この強みを最大限に利用することで、自分の可能性はどんどん広がっていきます。積極的に授業に参加し、興味のあるものの幅をひろげる方法を身につけましょう。

フィードバックの方法:　質問や疑問がある場合は、積極的に述べてください。その都度、授業内で取り上げ、クラス全員で考えてみましょう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	55	
レポート・発表	45	課題であるレポートの提出を必ずすること。発表の場も、かならず参加すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　基本的に授業前後で口頭による連絡。

3C8404

音楽基礎演習

関谷　　弘志

授業テーマ:　大学での学びとその技法

授業の概要:　大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかを理解してもらうことを目標とします。また、管弦楽器に特化した課題として、演奏曲目についての音楽的視点からの掘り下げ方、リハーサルの進め方、演奏するにあたってのマナーなども学びます。加えて、さまざまな研究の倫理についても学びます。

到達目標:　アカデミック・スキルを使って、自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることを目指します。

授業方法:　グループワークによる検討と、それに基づく発表・ふりかえりを主とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	大学での学びの目標について、明確にすること。
2.	ノート・テイキングの手法	行っていたノート・テイキングを振り返っておくこと。
3.	図書館オリエンテーション	図書館とは自分にとってどのような場所であるかを考えておくこと。大学内の図書館に行っておくこと。
4.	図書館データベースの使い方	図書館オリエンテーションで体験した検索の仕方などを、再度行ってみること。
5.	一般文献を読む・参考にする・引用する方法 音楽分権の扱い方	図書館に行き、興味のある著書、論文、音楽文献を探し読んでみること。
6.	プレゼンテーションの技法	宿題として出された課題について、発表できるよう草案をつくること。
7.	レポートの書き方	宿題として出された課題について、レポートとしてまとめられるよう草案をつくること。
8.	演奏における基礎知識(1)	授業中に伝達する。
9.	演奏における基礎知識(2)	授業中に伝達する。
10.	演奏における基礎知識(3)	授業中に伝達する。
11.	演奏における基礎知識(4)	授業中に伝達する。
12.	演奏における基礎知識(5)	授業中に伝達する。
13.	演奏における基礎知識(6)	授業中に伝達する。
14.	演奏における基礎知識(7)	授業中に伝達する。
15.	演奏における基礎知識(8)	授業中に伝達する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　同志社女子大学では、演奏の専門分野を学ぶだけでなく、総合大学である特質を活かし音楽以外の分野にも興味を広げ、多くのことを学ぶことができます。この強みを最大限に利用することで、自分の可能性はどんどん広がっていきます。積極的に授業に参加し、興味のあるものの幅をひろげる方法を身につけましょう。

フィードバックの方法:　質問や疑問がある場合は、積極的に述べてください。その都度、授業内で取り上げ、クラス全員で考えてみましょう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	55	
レポート・発表	45	課題であるレポートの提出を必ずすること。発表の場も、かならず参加すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　基本的に授業前後で口頭による連絡。

3C8500

和声法Ⅶ

葛西　　聖憲

授業テーマ:　和声の実習

授業の概要:　和声法VI で使ったHenri Challan 380 Basses et Chants donnés 第4巻に引き続き、Henri Challan 380 Basses et Chants donnés　第5・6巻のテキストを用い、第5巻では属9の和音、第6巻では和声音のみでのまとめとしての課題と変位音を主とした課題を実習する。なおその際、転調も近親転調だけではない様々な転調を伴う。

到達目標:　和声法VIまでの知識および技術を生かし、より高度な和声を実践する。

授業方法:　第1回目のガイダンスと最終回のまとめ以外、各回、課題の添削および説明を行う。Henri Challan 380 Basses et Chants donnés のテキストを使う。まずバス課題に付された数字について説明し、各課題を実施させ、それを添削し、模範解答を示す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より　バス課題　1	和声法VIまでの復習をすること
2.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より　ソプラノ課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より　バス課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より　ソプラノ課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より　バス課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第5巻より　ソプラノ課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より　バス課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より　ソプラノ課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より　バス課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より　ソプラノ課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より　バス課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より　ソプラノ課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より　バス課題　4	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés第6巻より　ソプラノ課題　4	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業で行った課題を宿題として引き続き行い完成させ、次回の授業で添削し理解させる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:　Henri Challan著　380 Basses et Chants donnés　(Leduc)より　5巻 Neuvièmes de dominante 5a
Henri Challan著　380 Basses et Chants donnés　(Leduc)より　6巻 Ensemble des accords et Altérations 6a

参考書:　和声—理論と実習Ⅲ(音楽之友社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

3C8600

和声法Ⅷ

葛西　　聖憲

授業テーマ:　和声の実習

授業の概要:　和声法Ⅶ で使ったHenri Challan 380 Basses et Chants donnés 第5・6巻に引き続き、Henri Challan 380 Basses et Chants donnés　第7・8巻のテキストを用いる。
第7巻では掛留音・倚音を、第8巻では刺繍音・経過音・保続音の課題を実施する。

到達目標:　和声法Ⅶまでの知識および技術を生かし、より高度な和声を実践する。

授業方法:　第1回目のガイダンスと最終回のまとめ以外、各回、課題の添削および説明を行う。Henri Challan 380 Basses et Chants donnés のテキストを使う。まずバス課題に付された数字などについて説明し、各課題を実施させ、それを添削し、模範解答を示す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻　バス課題　1	和声法Ⅶまでの復習をすること
2.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻　ソプラノ課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻　バス課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻　ソプラノ課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻　バス課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第7巻　ソプラノ課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	Henri Challan 380 Basses et Chants donneacutes 第8巻　バス課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻　ソプラノ課題　1	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻　バス課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻　ソプラノ課題　2	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻　バス課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻　ソプラノ課題　3	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻　バス課題　4	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	Henri Challan 380 Basses et Chants donnés 第8巻　ソプラノ課題　4	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業で行った課題を宿題として引き続き行い完成させ、次回の授業で添削し理解させる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等や平常の学習態度等

教科書:　Henri Challan著　380 Basses et chants donnés　(Leduc)より　7巻 Retards et appogiatures 7a
Henri Challan著　380 Basses et chants donnés　(Leduc)より　7巻 Broderies, Notes de passage, Pédales 7a

参考書:　和声—理論と実習Ⅲ（音楽之友社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

3C8700

対位法Ⅲ

葛西　　聖憲

授業テーマ:　３声による厳格対位法の修得

授業の概要:　対位法IIまでで修得した二声対位法を基に、もう1声加えた、よりポリフォニーを感じられる対位法の実習を行う。

到達目標:　対位法の歴史は古く13世紀にまで遡るが、この授業では18世紀以降に確立された、調性（長調および短調）の対位法技法を学び、実習する。対位法の技法とは、グレゴリオ聖歌に由来する全音符による定旋律をおき、それに他の声部が別の独立した線としていかに美しく関わるかを習得するものである。

授業方法:　それぞれの種類毎に規則や方法を説明し、範例を示した後、各自実施させる。宿題を添削し、問題点をチェック、それぞれよりよく直しつつ先へ進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　教科書の説明他	二声対位法の復習をすること
2.	全音符対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	全音符対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	全音符対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	混合対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	混合対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	混合対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	混合対位法の実習4	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	華麗対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	華麗対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	華麗対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	華麗対位法の実習4	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	華麗対位法の実習5	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	華麗対位法の実習6	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　各回、授業の復習を行う目的も含めて、宿題を出す。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書:　ノエル・ギャロン、マルセル・ビッチュ著　矢代秋雄訳 「対位法」（音楽之友社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

3C8800

対位法Ⅳ

葛西　　聖憲

授業テーマ:　4声による厳格対位法の修得　及び　フーガの導入

授業の概要:　対位法Ⅲで行った3声対位法をふまえ、4声の混合および華麗対位法の実習を行う。
また、フーガの実習するに当たり、実際のバッハのフーガの分析を行い、それも参考に学習フーガの実習を行う。

到達目標:　対位法の歴史は古く13世紀にまで遡るが、この授業では18世紀以降に確立された、調性（長調および短調）の対位法技法を学び、実習する。対位法の技法とは、グレゴリオ聖歌に由来する全音符による定旋律をおき、それに他の声部が別の独立した線としていかに美しく関わるかを習得するものである。

授業方法:　それぞれの種類毎に規則や方法を説明し、範例を示した後、各自実施させる。宿題を添削し、問題点をチェック、それぞれよりよく直しつつ先へ進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	三声対位法の復習をすること
2.	4声による厳格対位法：全音符対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
3.	4声による厳格対位法：全音符対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
4.	4声による厳格対位法：大混合対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
5.	4声による厳格対位法：大混合対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
6.	4声による厳格対位法：大混合対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
7.	4声による厳格対位法：華麗対位法の実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
8.	4声による厳格対位法：華麗対位法の実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
9.	4声による厳格対位法：華麗対位法の実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
10.	4声による厳格対位法：華麗対位法の実習4	前回の授業の復習と宿題をすること
11.	フーガの分析1、フーガの実習1	前回の授業の復習と宿題をすること
12.	フーガの分析2、フーガの実習2	前回の授業の復習と宿題をすること
13.	フーガの実習3	前回の授業の復習と宿題をすること
14.	フーガの実習4	前回の授業の復習と宿題をすること
15.	まとめ	前回の授業の復習と宿題をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　各回、授業の復習を行う目的も含めて、宿題を出す。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	59	試験の成績
平常点	41	宿題等及び平常の学習態度等

教科書:　ノエル・ギャロン、マルセル・ビッチュ著　矢代秋雄訳 「対位法」（音楽之友社）
島岡譲著 「フーガの実習」（国立音楽大学）

参考書:　J.S.バッハ作曲　平均律クラヴィーア曲集（楽譜） など
山口 博史著　フーガ書法　パリ音楽院の方式による（音楽之友社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

3C8900

音楽によるアウトリーチA

椎名　亮輔、谷本　裕、塩濱　健次

授業テーマ:
音楽によるアウトリーチを学ぶ。その前半部。それゆえAとBを続けて履修することが強く望まれる。

授業の概要:
アウトリーチは、本来その活動（本科目の場合は音楽）が行われていないさまざまな教育・文化・医療の現場におもむいて、自分の専門分野の活動（この場合は音楽）を行い、そのような活動を通してその場により深い文化・芸術的理解をもたらし、かつ人間としての交流を深めるのを目的とする。そのようなアウトリーチ活動を成功裏に行うためにはどうしたらよいかを学んでいく。設置初年度となる本年度は、基本的なコンサート実施のための基本的な考えやノウハウを学ぶ。音楽事業の実践場所については学内を含め、検討する。AとBを続けて履修することが強く望まれる。

到達目標:
知識・理解：専門知識はもちろん、それ以外の幅広い知識をもち、音楽のもつ全人的な魅力を理解する。
関心・意欲・態度：体得した技術や知識を社会の中で幅広く生かすために、多人数で協力してよいものを作り上げようとする。
表現・技能・能力：社会を豊かにし、幅広く働きかける能力を、専門分野はもちろんそれ以外にも持っている。

授業方法:
講義、グループワーク、プレゼンテーション、全体討議などを適宜おりまぜていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスと導入	アウトリーチについて、予習しておく。
2.	アウトリーチとは何か	アウトリーチとは何かについて、予習しておく。
3.	社会と音楽、そのさまざまな関係性	前回の授業の復習・宿題と「社会と音楽」についての予習
4.	アウトリーチ公演とそのプランニング	前回の授業の復習・宿題と「アウトリーチ公演」についての予習
5.	公演に向けて、企画・制作のスケジュール確認	前回の授業の復習・宿題と「公演の企画制作」についての予習
6.	公演のミッションとは何か、ブレーンストーミング	前回の授業の復習・宿題と「公演のミッション」についての予習
7.	自由議論の総括と構想のまとめ	これまでの授業の復習および総括
8.	企画書作成（1）コンセプト編：構想から計画へ	「企画書」について予習
9.	企画書作成（2）コンセプト編：マーケティングから考える	前回の授業の復習・宿題と「マーケティング」についての予習
10.	企画書作成（3）コンセプト編：予算（資金）から考える	前回の授業の復習・宿題と「予算や資金」についての予習
11.	企画書作成（4）仕上げ	これまでの「企画書」関連授業の復習・宿題
12.	実施計画書作成	「実施計画書」についての予習
13.	助成金申請について	前回の授業の復習・宿題と「助成金」についての予習
14.	役割分担について。会計・アーティストマネジメント・広報・当日運営ほか	前回の授業の復習・宿題と「役割分担」についての予習
15.	まとめと総括	これまでの総合復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
事業実施に向けた企画・制作は、履修生によるチームワークである。各プロセスに、一人ひとりが責任感と協調性をもって臨むことを期待する。

フィードバックの方法:
授業中における討論や議論へのコメント、課題や宿題についてのコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	40	授業に出席し積極的に参加しているか
課題や宿題などの提出物	40	課題や宿題などの良否
最終レポート	20	最終レポートの成果

教科書:
なし

参考書:
適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
椎名メールrshiina@dwc.doshisha.ac.jp

3C9000

音楽によるアウトリーチB

椎名　亮輔、谷本　裕、塩濱　健次

授業テーマ:
音楽によるアウトリーチを学ぶ、Aの続き。それゆえAとBを続けて履修することが強く望まれる。

授業の概要:
Aでも述べたが、アウトリーチは、本来その活動（本科目の場合は音楽）が行われていないさまざまな教育・文化・医療の現場におもむいて、自分の専門分野の活動（この場合は音楽）を行い、そのような活動を通してその場により深い文化・芸術的理解をもたらし、かつ人間としての交流を深めるのを目的とする。そのようなアウトリーチ活動を成功裏に行うためにはどうしたらよいかを学んでいく。設置初年度となる本年度は、基本的なコンサート実施のための基本的な考えやノウハウを学ぶ。音楽事業の実践場所については学内を含め、検討する。AとBを続けて履修することが強く望まれる。

到達目標:
Aと同様に、
知識・理解：専門知識はもちろん、それ以外の幅広い知識をもち、音楽のもつ全人的な魅力を理解する。
関心・意欲・態度：体得した技術や知識を社会の中で幅広く生かすために、多人数で協力してよいものを作り上げようとする。
表現・技能・能力：社会を豊かにし、幅広く働きかける能力を、専門分野はもちろんそれ以外にも持っている。

授業方法:
講義、グループワーク、プレゼンテーション、全体討議などを適宜おりまぜていく。さらに最終的には【履修生によるチーム公演を】グループによる公演を実現させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	広報総論	「広報」について予習
2.	広報、チラシ（1）：コンサートタイトルとキャッチコピー	前回の授業の復習・宿題と「コンサートタイトルとキャッチコピー」についての予習
3.	広報、チラシ（2）：プロフィル・写真・デザイン	前回の授業の復習・宿題と「プロフィル・写真・デザイン」についての予習
4.	広報、チラシ（3）：実際の配布	前回の授業の復習・宿題と「チラシの配布」についての予習
5.	広報、プレス資料作成	前回の授業の復習・宿題と「プレス資料」についての予習
6.	広報、メディアの活用	前回の授業の復習・宿題と「メディアの活用」についての予習
7.	集客管理（チケット管理）	前回の授業の復習・宿題と「チケット管理」についての予習
8.	当日にむけて：アーティストマネジメント（リハーサル計画）	前回の授業の復習・宿題と「リハーサル計画」についての予習
9.	当日にむけて：プログラムノート	前回の授業の復習・宿題と「プログラムノート」についての予習
10.	当日にむけて；舞台進行（裏方）	前回の授業の復習・宿題と「舞台進行についての予習
11.	当日にむけて：会場運営（オモテ方）	前回の授業の復習・宿題と「会場運営」についての予習
12.	当日にむけて：安全管理	前回の授業の復習・宿題と「安全管理」についての予習
13.	アンケートと公演総括	前回の授業の復習・宿題と「アンケートと総括」についての予習
14.	最終発表1	これまでの学習成果をもとに発表準備
15.	最終発表2	これまでの学習成果をもとに発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
事業実施に向けた企画・制作は、履修生によるチームワークである。各プロセスに、一人ひとりが責任感と協調性をもって臨むことを期待する。

フィードバックの方法:
授業中における討論や議論へのコメント、課題や宿題についてのコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	40	授業に出席し積極的に参加しているか
課題や宿題などの提出物	40	課題や宿題などの良否
最終発表とレポート	20	最終発表とレポートの良否

教科書:
なし

参考書:
適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
椎名メールrshiina@dwc.doshisha.ac.jp

3C9100

学内演奏Ⅰ

井上　　敏典

授業テーマ:
演奏というパフォーマンスをより良く演出するために、主観と客観的な目線を持ち、演奏者としてのモチベーションを考えていく。

授業の概要:
演奏専攻においての第一実技レッスンの目標は、人前で演奏することにおかれる。在学中に演奏のための心構えや準備の仕方、ステージマナーなど、演奏に関連する事項を学ぶ。

到達目標:
演奏曲目のプレゼン、楽曲を聴衆にいかに伝えられるかなどは勿論のこと、衣裳の扱い方や歩き方に至るまで、演奏以外にも注意を払える総合的なプレイヤーとしての自覚を持てるようになることを目標とする。

授業方法:
20分程度の演奏プログラムを考え、解説と演奏をすると同時に、演奏にあり方について討議する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業説明と曲目設定。	事前に15～20分のプログラムを考えておく。
2.	演奏曲目の説明①。	選曲理由と目的をまとめておく。
3.	演奏曲目の説明②。	選曲理由と目的をまとめておく。
4.	ステージマナーについての説明と実践。	
5.	演奏曲目解説　2分以内でプレゼンをする①。	まとめた文言を制限時間内にはっきり言えるようにしておく。
6.	演奏曲目解説　2分以内でプレゼンをする②。	まとめた文言を制限時間内にはっきり言えるようにしておく。
7.	ドレスを着てのステージ練習。	本番用の衣裳を持ってくる。
8.	演奏と鑑賞①。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
9.	演奏と鑑賞②。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
10.	演奏と鑑賞③。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
11.	演奏と鑑賞④。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
12.	演奏と鑑賞⑤。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
13.	演奏と鑑賞⑥。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
14.	演奏と鑑賞⑦。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
15.	まとめ。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
教室にてまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	授業への積極的に参加し、自己啓発につながる発見をしようとしているか。
演奏	40	人前での演奏
レポート、その他	30	討議や感想など私心をいかに伝えられているか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後で教室内で対応。Eメール（tinoue@dwc.doshisha.ac.jp）

3C9200

学内演奏Ⅱ

井上　　敏典

授業テーマ:
演奏というパフォーマンスをより良く演出するために、主観と客観的な目線を持ち、演奏者としてのモチベーションを考えていく。

授業の概要:
演奏専攻においての第一実技レッスンの目標は、人前で演奏することにおかれる。在学中に演奏のための心構えや準備の仕方、ステージマナーなど、演奏に関連する事項を学ぶ。

到達目標:
演奏曲目のプレゼン、楽曲を聴衆にいかに伝えられるかなどは勿論のこと、衣裳の扱い方や歩き方に至るまで、演奏以外にも注意を払える総合的なプレイヤーとしての自覚を持てるようになることを目標とする。

授業方法:
20分程度の演奏プログラムを考え、解説と演奏をすると同時に、演奏にあり方について討議する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業説明と曲目設定。	事前に15～20分のプログラムを考えておく。
2.	演奏曲目の説明①。	選曲理由と目的をまとめておく。
3.	演奏曲目の説明②。	選曲理由と目的をまとめておく。
4.	ステージマナーについての説明と実践。	
5.	演奏曲目解説　2分以内でプレゼンをする①。	まとめた文言を制限時間内にはっきり言えるようにしておく。
6.	演奏曲目解説　2分以内でプレゼンをする②。	まとめた文言を制限時間内にはっきり言えるようにしておく。
7.	ドレスを着てのステージ練習。	本番用の衣裳を持ってくる。
8.	演奏と鑑賞①。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
9.	演奏と鑑賞②。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
10.	演奏と鑑賞③。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
11.	演奏と鑑賞④。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
12.	演奏と鑑賞⑤。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
13.	演奏と鑑賞⑥。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
14.	演奏と鑑賞⑦。	演奏者は衣裳。 聴衆側は筆記用具。
15.	まとめ。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
教室にてまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	授業への積極的に参加し、自己啓発につながる発見をしようとしているか。
演奏	40	人前での演奏
レポート、その他	30	討議や感想など私心をいかに伝えられているか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後で教室内で対応。Eメール（tinoue@dwc.doshisha.ac.jp）

3C9500

演奏専攻特別レッスンⅠ

畑田　　日出美、今峰　　由香

授業テーマ:　アレクサンダー・テクニックを学ぶ、体験する

授業の概要:

「音楽」を学ぶ上での技能（楽器の弾き方、使い方、歌い方等）を今まで身につけてきた中で、
＊　技術が”習慣的”になってしまっていないか、
＊　”習慣的”である為、または不明の原因の為からくる体の痛み、不調等に気付き、それをどうやって治していくか、また自分に合った解決法をどう見つけていくか、
＊　自分の体の使い方を、どう自分なりに客観的に見れるようになるか、
＊　演奏や練習時、技能の上達、技巧向上のうえで、”新しい癖”をどうやって身につけていくかを、
Self-helping methodであるアレクサンダー・テクニックを通して身体的に、また、精神的な部分も含めて体験していただきます。
こういった体の使い方を知る方法として、集中講義の最初の日と最後の日に自分達で選んだ曲を演奏をし、いろいろなエクササイズをして体の仕組みを知っていき、自分に合った手段、方法等での自分の体の使い方を見つけていきます。

到達目標:

音楽を演奏する上でのからだの使い方に気付いていく、知っていく、興味を持つ。
講義１日目と最後の日の演奏、実技レッスンを通しての経験を客観視し、お互いにそれを共有する。
自分の体をいろいろ違って使いえることに気付く目を持つ（鏡を使う）、又、気付ける感覚を持つ。

授業方法:

講義／演習／実験の混合した、実技中心の講義を３日間で行います。短時間の自分のレッスンだけではとても学びきれないので、３日間、出席してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	１日目（午前）：アレクサンダー・テクニックの説明	
2.	１日目（午前）：各自の演奏を録画する	３－５分の曲を演奏出来るようにしておく事
3.	１日目（午後）：解剖学を使って、体の構造、構成の説明	
4.	１日目（午後）：解剖学を使って、体の構造、構成の説明	
5.	１日目（午後）：解剖学を使って、体の構造、構成の説明	翌日より、実技レッスンにはいります 今日、学んだ体の構造、構成の復習をする事
6.	２日目（全日）：１人約１５分の実技レッスン（全員）を通して、出講者全員でアレクサンダー・テクニックを学んでいく	自分の実習のレッスンは１５分だけなので、他のひとのレッスンからの学びを大切にする
7.	＊頭と背骨との関係 ＊身体の動いている時の構造、状態 ＊呼吸の機能 ＊手足、上体の動かし方 ＊体の使い方への気付き etc	
8.	２日目（全日）：１人約１５分の実技レッスン	
9.	２日目（全日）：１人約１５分の実技レッスン	
10.	２日目（全日）：１人約１５分の実技レッスン	翌日、もう一度、１人、８分のレッスンをするので、その準備、または今日学んだ事の復習
11.	３日目（午前）：１人約８分の実技レッスン（各自、２回目のレッスン）	自分の実習のレッスンは８分だけなので、他のひとのレッスンからの学びを大切にする
12.	３日目（午前）：１人約８分の実技レッスン（各自、２回目のレッスン）	
13.	３日目（午前）：１人約８分の実技レッスン（各自、２回目のレッスン）	今日の午後、もう一度、自分の演奏を録画するので、その準備
14.	３日目（午後）：１日目に演奏した曲をもう一度演奏、録画する	
15.	３日目（午後）：アレクサンダー・テクニックを学んだ後で、自分の演奏がどう変わったかを、録画を見て、再考し、その後、各自、自分の気付いたことを発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:

＊この集中講義は、３日間通して学べるプログラムになっています。半日でもぬけると授業がわかりにくくなります。
＊３－５分の曲を演奏出来るようにしておく事。曲は何でもいいですが、何故、その曲を選んだのか、その曲の歴史、背景等の質問に答えられるようにしておいてください。
＊体を動かして学んでいく、実技を中心とした講習なので、動きやすい服装で来て、自分の楽器を持ってきてください。
＊自分の演奏を録画してもらいますので、スマートフォン等、録画出来る物を持参してください。
＊A4のコピーが教材となります。それらのコピーを、自分の教材としてまとめられるノート、ファイル等、持参してください。

フィードバックの方法:

３日間の講義ですので、フィードバックはその時々でします。質問等があれば、いつでもしてください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実践、学習力	５０％	体をよく動かして、身体の構造の面からみた体の使い方の実践、発見に意欲的、自発的に取り組む
客観性、創造性	２５％	講義の最初と最後の日に演奏し（３－５分）、その結果をまとめる
コミュニケーション	２０％	グループワークに活発的に参加し（聞く力を含む）、自分達の体験を話し合う。
出席率	５％	３日間、受講する（もし、受講できない理由があれば申し出る事）

教科書:　特になし。もし自分で購入したアレクサンダー・テクニックの本があり、質問等あれば持参してください。

参考書:　特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　パソコンアドレス　／　motet1542@hotmail.co.uk

3C9600

演奏専攻特別レッスンⅡ

畑田　　日出美、今峰　　由香

授業テーマ:
アレクサンダー・テクニックを学ぶ、体験する（畑田）
ドイツ音楽を中心としたピアノ・レッスン（今峰）

授業の概要:
「音楽」を学ぶ上での技能（楽器の弾き方、使い方、歌い方等）を今まで身につけてきた中で、
＊　技術が”習慣的”になってしまっていないか、
＊　”習慣的”である為、または不明の原因の為からくる体の痛み、不調等に気付き、それをどうやって治していくか、また自分に合った解決法をどう見つけていくか、
＊　自分の体の使い方を、どう自分なりに客観的に見れるようになるか、
＊　演奏や練習時、技能の上達、技巧向上のうえで、”新しい癖”をどうやって身につけていくかを、
Self-helping methodであるアレクサンダー・テクニックを通して身体的に、また、精神的な部分も含めて体験していただきます。
こういった体の使い方を知る方法として、集中講義の最初の日と最後の日に自分達で選んだ曲を演奏をし、いろいろなエクササイズをして体の仕組みを知っていき、自分に合った手段、方法等での自分の体の使い方を見つけていきます。（畑田）

公開ゼミナール形式の実技指導（今峰）

到達目標:
・音楽を演奏する上でのからだの使い方に気付いていく、知っていく、興味を持つ。
・講義1日目と最後の日の演奏、実技レッスンを通しての経験を客観視し、お互いにそれを共有する。
・自分の体をいろいろ違って使いえることに気付く目を持つ（鏡を使う）、又、気付ける感覚を持つ。
・ドイツ音楽の解釈を深める。（ピアノ専攻生対象）

授業方法:
講義／演習／実験の混合した、実技中心の講義を3日間で行います。短時間の自分のレッスンだけではとても学びきれないので、3日間、出席してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1日目（午前）：アレクサンダー・テクニックの説明	
2.	1日目（午前）：各自の演奏を録画する	3－5分の曲を演奏出来るようにしておく事
3.	1日目（午後）：解剖学を使って、体の構造、構成の説明	
4.	1日目（午後）：解剖学を使って、体の構造、構成の説明	
5.	1日目（午後）：解剖学を使って、体の構造、構成の説明	今日、学んだ体の構造、構成の復習をする事
6.	2日目（全日）：1人約15分の実技レッスン（全員）を通して、出講者全員でアレクサンダー・テクニックを学んでいく	他のひとのレッスンからの学びを大切にする
7.	＊頭と背骨との関係 ＊身体の動いている時の構造、状態 ＊呼吸の機能 ＊手足、上体の動かし方 ＊体の使い方への気付き etc	
8.	2日目（全日）：1人約15分の実技レッスン	
9.	2日目（全日）：1人約15分の実技レッスン	
10.	2日目（全日）：1人約15分の実技レッスン	翌日のレッスンの準備、または今日学んだ事の復習
11.	3日目（午前）：1人約8分の実技レッスン（各自、2回目のレッスン）	自分の実習のレッスン以外、他のひとのレッスンからの学びを大切にする
12.	3日目（午前）：1人約8分の実技レッスン（各自、2回目のレッスン）	
13.	3日目（午前）：1人約8分の実技レッスン（各自、2回目のレッスン）	今日の午後、もう一度、自分の演奏を録画するので、その準備
14.	3日目（午後）：1日目に演奏した曲をもう一度演奏、録画する	
15.	3日目（午後）：アレクサンダー・テクニックを学んだ後で、自分の演奏がどう変わったかを、録画を見て、再考し、その後、各自、自分の気付いたことを発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:
＊ピアノ専攻生は1日目にピアノレッスンを受講し、2日目以降アレクサンダー・テクニックのクラスに合流する。曲目は、モーツァルト、ベートーヴェン、シューベルト、シューマン、ブラームスから選択することが望ましい。
＊アレクサンダー・テクニックのクラスのために3－5分の曲を演奏出来るようにしておく事。何故、その曲を選んだのか、その曲の歴史、背景等の質問に答えられるようにしておいて下さい。
＊体を動かして学んでいく、実技を中心とした講習なので、動きやすい服装で来て、自分の楽器を持ってきて下さい。
＊自分の演奏を録画してもらいますので、スマートフォン等、録画出来る物を持参して下さい。
＊A4のコピーが教材となります。それらのコピーを、自分の教材としてまとめられるノート、ファイル等、持参して下さい。

フィードバックの方法:
3日間の講義ですので、フィードバックはその時々でします。質問等があれば、いつでもしてください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実践、学習力	50%	体をよく動かして、身体の構造の面からみた体の使い方の実践、発見に意欲的、自発的に取り組む
客観性、創造性	25%	講義の最初と最後の日に演奏し（3－5分）、その結果をまとめる
コミュニケーション	20%	グループワークに活発的に参加し（聞く力を含む）、自分達の体験を話し合う。
出席率	5%	3日間、受講する（もし、受講できない理由があれば申し出る事）

教科書:
特になし。もし自分で購入したアレクサンダー・テクニックの本があり、質問等あれば持参してください。

参考書:
特になし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	パソコンアドレス ／ motet1542@hotmail.co.uk （畑田） 音楽学科事務室（今峰）

3C9800

ピアノ指導法

中野　　慶理、大渕　　雅子

授業テーマ:
ピアノの個人レッスンにおける指導法を探求する。特に初心者、生徒の多数を占めると思われる趣味でピアノを楽しむ人達への指導法にスポットを当てる。

授業の概要:
実際にピアノをレッスンした時に起こるであろう様々な状況を想定し、それにどう対処していくかを、学生同士のディスカッションをしつつ考える。まず教える側として知っておくべき自分の性格、生徒の能力と性格の把握、教材の選定、様々な指導法などを探求していく。

到達目標:
実際にピアノの個人指導をする時に、自らが会得した技術を生かし、様々な生徒のニーズに柔軟に対応出来る能力を持てることを目標とする。

授業方法:
講義と実習の混合。学生同士のディスカッション、口頭による発表、及び生徒に与える教材を学生に弾いてもらうこともする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ピアノレッスンを始めるにあたっての自分の性格の把握	自分の性格、癖などを整理しておく。(気が長いか否か、自分の演奏能力、早口か否か、など)
2.	生徒に与える教材(初心者用)について①	生徒に与える教材を自分で弾けるようにしておく。
3.	生徒に与える教材(初心者用)について②	同上
4.	生徒に与える教材(併用曲集、ソナチネなど)について	同上
5.	実際に生徒を前にして①	自分ならどんなレッスンをするか、実際にやって見せられるようにしておく。様々な状況を想像しておく。
6.	実際に生徒を前にして②	同上
7.	実際に生徒を前にして③	同上
8.	実際に生徒を前にして④	同上
9.	もし能力的に楽しみな生徒が出てきたら	
10.	ピアノ学習における様々な問題点:コンクールへの参加について、など	どのようなコンクールが実際にあるかをリサーチしておく。
11.	自分の教室の宣伝の仕方、レッスンをする際の約束事(レッスン料について、など)	
12.	実際に生徒を前にして⑤	
13.	実際に生徒を前にして⑥	
14.	実際に生徒を前にして⑦	
15.	まとめ・生徒を教えるとはどういうことか	

受講者へのメッセージやアドバイス:
巷には先生が溢れていますが、本当に生徒のニーズに柔軟に対処でき、生徒が末永く音楽と接していきたい、ピアノをずっと続けたい(たとえ専門には進まなくても)、と実感させてくれる、人間として好感を持てる先生が不足している気がします。また、自分自身が辛い体験をし、壁に当たる、頭打ちを経験することからこそ得られる貴重な体験がレッスンに生きてくることも大いにあります。ピアノ指導者、という御仕事にやりがいを見出してくれれば幸いです。

フィードバックの方法:
教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40%	積極的に発言し、到達目標への意欲を評価する。
発表、討論(演奏を含む)	25%	個人レッスンを行う際の様々な課題を捉えているかを評価する。
レポート	35%	到達目標を理解した上で、自分がどのような教師を目指すかを明確にし、説得力を持って説明できるかを基準とする。

教科書:
子供のバイエル(上巻、下巻)　全音楽譜出版社
バーナム　ピアノ　テクニック　(導入書、　ミニブック、　全調の練習)　　全音楽譜出版社
ブルグミュラー　・　25の練習曲
ソナチネ　アルバム　第1巻、第2巻

参考書:
ぴあのどりーむ(導入、1巻～3巻)/　学研
ドレミランド　/　くおん出版
プレ　ピアノランド　1巻～3巻　/　音楽之友社
うたとピアノの絵本　/　音楽之友社
トンプソン　/　全音楽譜出版社
おんぷニコニコワーク　/　サーベル社
ツェルニー　リトルピアニストOp.823
ルクーペ・ピアノのアルファベットOp.17
全訳ハノンピアノ教本
こどものバッハ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応

3C9900

舞台表現応用A

唐谷　　裕子

授業テーマ:
自分自身の姿を第三者目線で見る術を学ぶ。コミュニケーションの向上を図る。
日本人（日本に在住）であるからには、着物を美しく着こなせるようにする。

授業の概要:
自分の長所と短所を知る。喜怒哀楽を表現する中で、人前に立つ度胸を培う。共演者との関わり方を学ぶ。
「夕鶴」や「蝶々夫人」など、着物での動きを求められた時に動揺せずに済むよう、着物を着用する為の基本的な準備や手順、所作を学ぶ。

到達目標:
与えられた事柄を、人前で自信を持って表現出来るようにする。一つの物語りを力を合わせて作り上げていく感覚を養う。

授業方法:
5:講義/演習の混合。2～6回までは舞台上での基礎的な動きを学び、7回目以降は台本を用いて読み合わせや動きを実践して行く。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自己紹介、講義内での自分の居場所を作る。	自分自身を表現するのに相応しい服装をしてくる
2.	舞台での基本の姿勢を身につける（立ち姿勢）	身体のラインが分かる服装（スカート）。舞台用パンプス。
3.	喜怒哀楽の表現に挑戦してみる（喜怒哀楽）	身体のラインが分かる服装（スカート）。舞台用パンプス
4.	舞台での基本の姿勢を身につける（座り姿勢）	身体のラインが分かる服装（スカート）。舞台用パンプス
5.	舞台上で行う挨拶やエスコートの仕方／され方を学ぶ	身体のラインが分かる服装（スカート）。舞台用パンプス
6.	台本を読み合わせる（台本を声に出して読む、イントネーションの確認）	台本を講義までに数回、目を通してくる
7.	台本を読み合わせる（子音・母音・息の流れを意識して読む）	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく
8.	台本を読み合わせる（イントネーションの再確認／暗記確認）	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく
9.	台本を読み合わせる（暗記確認）・荒立ち①	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく
10.	荒立ち②（前回の続き）・グループ分け	演じる役を決定する（物語の流れを判る為に、演じる役は、この段階まで決めない）
11.	立ち稽古①	物語の筋を把握出来ているか、内容を理解出来ているかを確認する
12.	立ち稽古②	物語を理解し、考えて来た演技をスムーズに表現する事が出来ているかを確認する
13.	着物の着付け／所作を学ぶ	浴衣・肌襦袢・足袋等の着物を着用する為に必要な物を準備
14.	立ち稽古③・最終確認	表現している事が、第三者に伝わっているか、共演者同士で意見を言い合う
15.	まとめ	役柄に近づく私服（持っている物の中考える）を着用し、発表する

受講者へのメッセージやアドバイス:
出席確認の返事や、質問等の会話中からも声の使い方を指導して行きますので、積極的に声を発して下さい。

フィードバックの方法:
授業内で解説していきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	40	遅刻・早退は減点対象（正当な理由と判断した場合は対象外）。授業への積極的参加15%、出席10%、質疑応答15%
授業への参加度	15	積極的に参加し、挑戦を重ね、且つ共演者とコミュニケーションが取れているかを判断する
取り組みの姿勢	15	準備学習と復習、そして到達目標である度胸を培う事が出来ているか評価する
授業内発表での成果	30	到達目標である共演者と力を合わせて物語りを作り上げられているかを評価する

教科書:
適宜、提示します。

参考書:
適宜、提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対します

3E0100

舞台表現応用B

唐谷　　裕子

授業テーマ:　春学期で得た表現方法を更に向上させていく。演じる事ばかりでなく、第三者目線の質を上げる。

授業の概要:　役柄を演じていく中で、同じキャラクターでありながら演じる人が変わるとどう見えるのかディスカッションし合い、相手の良い部分・悪い部分を知り、自分自身にも置き換える作業をしたり、また良い部分を引き伸ばしたり改善を積極的に行っていく。

到達目標:　与えられた役柄／事柄を、人前で自信を持って表現出来るようにする。表現の一つ一つのクオリティを上げて行く。一つの物語りをグループ全員で力を合わせて作り上げていく感覚を養う。

授業方法:　5:講義/演習の混合。2～7回までは日本語の台本を用いて、8回目以降はイタリア語の台本を用いて読み合わせや動きを実践して行く。日本人と西洋人のふるまいの違いを意識させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	夏休みでの出来事を人前で発表する	プレゼンテーション能力（文章の構成能力／人を惹きつける文章力等）を見る。
2.	台本を読みあわせる（台本を声に出して読む、イントネーションの確認）	台本を講義までに数回は目を通してくる
3.	台本を読みあわせる（子音・母音・息の流れを意識して読む／イントネーションの再確認／暗記確認）	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく
4.	台本を読みあわせる（暗記確認）・グループ分けと演じる役を決定し、読みあわせを行う	グループ分けを行う／グループごとに練習をする
5.	舞台の条件を提示し、提示した内容をふまえ、グループ内でディスカッションし、年代設定や動きを考えて行く	グループごとに行動する
6.	荒立ち	物語りの筋を把握できているか、内容を理解しているか、どのように読み込んでいるかを確認する。また自分たちの考えが人に伝わっているかも把握させる
7.	立ち稽古①	物語りの筋を把握できているか、内容を理解しているか、どのように読み込んでいるかを確認する。また自分たちの考えが人に伝わっているかも把握させる
8.	「Le nozze di Figaro」の「手紙の2重唱」部分の台本を読む①（単語と文章の意味を調べる）	台本を講義までに意味をしらべ、数回は声に出して読んでくる
9.	「Le nozze di Figaro」の「手紙の2重唱」部分の台本を読む②（発音の仕方を確認する／物語のあらすじを知る）	前回の授業で確認した事を必ず復習しておく
10.	「Le nozze di Figaro」の荒立ち	物語りの筋を把握できているか、内容を理解しているか、どのように読み込んでいるかを確認する。また自分たちの考えが人に伝わっているかも把握させる
11.	「Le nozze di Figaro」の立ち稽古①	物語りの筋を把握できているか、内容を理解しているか、どのように読み込んでいるかを確認する。また自分たちの考えが人に伝わっているかも把握させる
12.	立ち稽古②（2作品共）	物語りを考えた通りに表現出来ているのかを確認する
13.	立ち稽古③（2作品共）	物語りを考えた通りに表現出来ているのかを確認する
14.	まとめ①「Le nozze di Figaro」の発表	役柄をイメージした服装を持っている服の中で考え着用する（小道具も身近な物を使用して、効果的であるならば用意する）。
15.	まとめ②「アイウエオ王国」の発表	役柄をイメージした服装を持っている服の中で考え着用する（小道具も身近な物を使用して、効果的であるならば用意する）。

受講者へのメッセージやアドバイス:　出席確認の返事や、質問等の会話中からも声の使い方を指導して行きますので、積極的に声を発して下さい。

フィードバックの方法:　授業内で解説して行きます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	40	遅刻・早退は減点対象（正当な理由と判断した場合は対象外）。授業への積極的参加15%、出席10%、質疑応答15%
授業への参加度	15	積極的に参加し、挑戦を重ね、且つ共演者とコミュニケーションが取れているかを判断する
取り組みの姿勢	15	準備学習と到達目標である度胸を培う事が出来ているか評価する
授業内発表での成果	30	到達目標に達しているかを評価する

教科書:　適宜、提示します

参考書:　適宜、提示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

3E0200

ピアノ奏法基礎

中野　　慶理

授業テーマ:　ピアノ奏法の基礎をぜひ確認しよう！

授業の概要:　ピアノ奏法の上達のための効果的な練習の仕方、体の使い方、楽譜の読み方、楽曲の構造など、様々な基礎知識を講義・実習を通じて確認していく。

到達目標:　ピアノ奏法の上達は毎日の練習の積み重ねであるが、その際にどのようなことを考え、如何なる手法で練習するかが重要である。ピアノを実際に弾いての練習と、ピアノを弾かないで練習する2つの手法をどう組み合わせるかがカギだが、練習の効率を上げるためにも、練習の際に考えるべきこと、どのような手法を用いるかを様々な観点から探り、各々学生がより確実に上達していくための足掛かりを得る事を到達目標とする。

授業方法:　講義・実習の混合の形をとる。事前に与えられたテーマに沿って事前学習をしてもらい、授業で学生に(個々・グループの両方の形態で)発表してもらう形をとる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	様々な楽曲について知っておくこと①	事前に配布する楽譜を練習してきてもらう。
2.	様々な楽曲について知っておくこと②	同上
3.	ピアノ演奏におけるタッチとは	同上
4.	ピアノ演奏における指の使い方	同上
5.	ピアノ演奏における体の使い方	同上
6.	楽譜について・楽譜の読み方①	同上
7.	楽譜について・楽譜の読み方②	同上
8.	練習の仕方①	同上
9.	練習の仕方②	同上
10.	練習の仕方③	同上
11.	楽曲の考察:旋律・和声について	楽典等で既に習得しているはずの知識を復習しておくこと
12.	楽曲の考察:楽式について①	同上
13.	楽曲の考察:楽式について②	同上
14.	演奏会・試験など、本番へ向けて知っておくとよいこと	同上
15.	本番を通して見えてくる課題	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎日の練習、日頃からの音楽への取り組みが明日のあなた方自身の音楽を創造してゆきます。あなた方自身そのものと言える、あなた方自身の音楽を大事にし、自主的・積極的に育む意欲を授業を通じて膨らませて下さい。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演奏・発表等の評価	45%	演奏・発表等の達成度、到達目標を踏まえた上で行っているかで評価する。
授業の積極的な参加度	55%	積極的に授業に参加し、到達目標を認識しているかで評価する。

教科書:

参考書:　ピアニストならだれでも知っておきたい「からだ」のこと　　トーマス・マーク他　著　春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で応対

3E0300

ピアノ奏法研究

河江　　優

授業テーマ:　ピアノ演奏における諸問題の探究

授業の概要:　様々なスタイルによるピアノ曲（またはピアノを含む作品）を取り上げ、演奏の際に考えておきたい事柄を学んでいく。

到達目標:
・各時代ごとのスタイルに即した楽譜の読み方や奏法を習得する。
・ピアノ曲以外の様々な作品に興味を持ち、ピアノ曲との関連について理解する。
・伴奏法においては歌詞と音楽との関係に留意しながらひとつの音楽を作り上げることを学ぶ。

授業方法:　教員による講義と、学生による演奏発表を合わせた形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	楽曲や演奏家についての基礎知識	映像や音源を聴いて様々な演奏家による演奏スタイルの違いについて考えておく。
2.	バロック作品の演奏法①	課題曲の的確な読譜を行い練習する。
3.	バロック作品の演奏法②	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
4.	古典派作品の演奏法①	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
5.	古典派作品の演奏法②	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
6.	古典派作品の演奏法③	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
7.	ロマン派作品の演奏法①	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
8.	ロマン派作品の演奏法②	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
9.	ロマン派作品の演奏法③	課題曲の的確な読譜を行い、練習する。
10.	ピアノ協奏曲①	課題に挙げられた協奏曲について読譜を行い練習する。
11.	ピアノ協奏曲②	課題に挙げられた協奏曲について読譜を行い練習する。
12.	ピアノ協奏曲③	課題に挙げられた協奏曲について読譜を行い練習する。
13.	ピアノ協奏曲④	課題に挙げられた協奏曲について読譜を行い練習する。
14.	声楽の伴奏法①	課題に挙げられた声楽曲の歌詞の内容を知り、声楽とピアノパートの関係について考える。
15.	声楽の伴奏法②	実際に合わせた時に起こる問題点の改善につとめながら表現を深めていく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ピアノ曲以外の作品をなるべく多く聴きましょう。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演奏発表	30%	課題曲の演奏内容と準備状況を総合的に判定する。
レポート	20%	課題に対するレポートの内容を評価する。
授業への参加度	50%	出席を含む授業への積極的な参加度を評価する。

教科書:　プリント配布または適宜指示

参考書:　授業内で指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能を利用

3E0400

オルガン・チェンバロ奏法概論

高橋　　聖子、植山　　けい

授業テーマ:　オルガン・チェンバロ奏法から考察するバロックの鍵盤音楽作品（第１回～第８回：チェンバロ、第９回～第１５回：オルガン）

授業の概要:　（第１回～第８回）講義とチェンバロ演奏実習により、チェンバロ奏法の基礎とバロック音楽の様式及び演奏習慣を学ぶ。
第９回～第１５回）講義とパイプオルガン演奏実習、及びクラス全体の意見交換を通して、パイプオルガンならではの特性や奏法を学ぶ。課題は、主にピアノで勉強するJ. S. バッハの「平均律クラヴィーア曲集」とする。

到達目標:　（第1回～第8回）１、チェンバロ奏法の基本の表現（美しい響きの音、呼吸、拍子感と動き）　２、舞曲の形式　３、カンタービレな奏法
（第9回～第15回）　ピアノと異なる鍵盤楽器（管楽器の原理のパイプオルガン）を通して、タッチや音色、奏法をより深く考える力を身に着ける。

授業方法:　講義及び実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	チェンバロとクラヴィコードの楽器構造と奏法	チェンバロとクラヴィコードの構造を学び、違いを考察する。
2.	チェンバロにおける音楽様式の違い（イタリア、フランス、ドイツ、イギリス音楽）	各音楽様式と楽器の特徴を学ぶ。
3.	調性各論、音楽における修辞法、同時代の絵画における象徴について。	音楽修辞法から楽譜の中に残された作曲家のメッセージを読み取る。
4.	J.S.バッハ：「インヴェンション」自筆譜と原典版の比較。	使用する楽譜の相違点を認識する。
5.	実践編　J.S.バッハ「インヴェンション」をクラヴィコードで演奏。	授業前に任意曲を予習し、授業後に復習する。クラヴィコードの奏法を学ぶ。
6.	実践編　J.S.バッハ「インヴェンション」をチェンバロで演奏。	授業前に任意曲を予習し、授業後に復習する。チェンバロ奏法を学ぶ。
7.	実践編　J.S.バッハ「イタリア協奏曲」の分析とチェンバロ奏法。	授業前に任意曲を予習し、授業後に復習する。2段鍵盤チェンバロに親しむ。
8.	実践編　J.S.バッハ「イタリア協奏曲」の分析とチェンバロ奏法。	授業前に任意曲を予習し、授業後に復習する。2段鍵盤チェンバロに親しむ。
9.	パイプオルガンの歴史、楽器の構造の説明。讃美歌奏法について。	各自讃美歌を1曲選んで弾いて来て下さい。
10.	J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」より学ぶ①。	各自「平均律クラヴィーア曲集」第1・2巻より1曲選び、プレリュードかフーガかのいずれを充分に練習しておいて下さい。
11.	J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」より学ぶ②。	同上
12.	J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」より学ぶ③。	同上
13.	J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」より学ぶ④。	同上
14.	J.S.バッハの「平均律クラヴィーア曲集」より学ぶ⑤。	同上
15.	オルガン奏法総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　（第1回～第8回）特にチェンバロについて・・・チェンバロのタッチと表現はとても敏感です。弦が弾く感覚を学びましょう。
（第9回～第15回）パイプオルガン特有の性質を知ることで、ピアノという楽器もよりよく理解できるようになればと願っています。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演奏実習と準備学習	50%	演奏発表の内容やそれに向けた取り組みを評価する。
授業への参加度	50%	出席を含む授業への積極的な参加度を評価する。

教科書:　J.S.バッハ：「インヴェンション・シンフォニア」（原典版）
J.S.バッハ：「イタリア協奏曲」（原典版）
J. S. バッハ：「平均律クラヴィーア曲集」第１巻、第２巻（原典版）

参考書:　J.S.バッハ：「インヴェンション・シンフォニア」（原典版）（ヘンレ版、ベーレンライター版、ウィーン原典版のどれか）
J.S.バッハ：「イタリア協奏曲」 原典版（ヘンレ版、ベーレンライター版、ウィーン原典版のどれか）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

3E0500

20世紀のピアノ音楽

法貴　彩子

授業テーマ:　20世紀から今日までのピアノ曲

授業の概要:　講義と演奏実習により、近代から現代に至るまでの様々なピアノ曲の分析・演奏を行う。

到達目標:
・近現代曲の読譜と分析
・レパートリーの拡大
・表現の幅を広げる

授業方法:　講義、実技、実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	シェーンベルクとその周辺①	課題曲の読譜と練習
2.	シェーンベルクとその周辺②	同上
3.	メシアンとその周辺①	同上
4.	メシアンとその周辺②	同上
5.	トータルセリエリズム	同上
6.	ケージとその周辺①	同上
7.	ケージとその周辺②	同上
8.	スペクトル楽派	同上
9.	ドイツ作曲家（ラッヘンマン、リームなど）①	同上
10.	ドイツ作曲家（ラッヘンマン、リームなど）②	同上
11.	邦人作曲家	同上
12.	演奏実習①	同上
13.	演奏実習②	同上
14.	演奏実習③	同上
15.	総括	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の積極的な参加度	50	授業に積極的に参加し、準備学習が充分にできているかを評価する。
レポート	25	準備学習が充分にできているかを評価する。
最終講義での演奏	25	到達目標が達成できているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

3E0601

チェンバロ実技

植山　　けい

授業テーマ:　チェンバロ実技

授業の概要:　ピアノ、オルガン専攻学生を対象とするチェンバロ実技。

到達目標:　各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法:　個人指導を中心とする

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	チェンバロについて、これまでに学んだことを整理しておく
2.	個人指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。
3.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物等がある場合、教室でまとめて解説、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加及び到達度	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高められたかを評価する。

教科書:　学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書:　学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応

3E0701

オルガン実技

中山　　幾美子

授業テーマ:　オルガン実技

授業の概要:　ピアノ、チェンバロ専攻学生を対象とするオルガン実技。

到達目標:　各自の学習状況に応じた課題により、音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高める。

授業方法:　個人指導を中心とする

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	オルガンについて、これまでに学んだことを整理しておく
2.	個人指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。
3.	個人指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	個人指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	個人指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	個人指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	個人指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	個人指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	個人指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	個人指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	個人指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	個人指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	個人指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	個人指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	個人指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、各自取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:　オルガン専用シューズ（パックスアーレン社製等）を準備しておくことが望ましい。

フィードバックの方法:　提出物等がある場合、教室でまとめて解説、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加及び到達度	100%	到達目標の音楽に対する積極的な姿勢を養うとともに、感性を磨き、音楽的理解を深め、表現技術を高められたかを評価する。

教科書:　学生各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書:　学生各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応

3E0800、
3E1000、
3E1200

吹奏楽Ⅰ、吹奏楽Ⅲ、吹奏楽Ⅴ

関谷　　弘志、森　　香織、山本　　一宏

授業テーマ:　吹奏楽の優れたオリジナル作品、並びにアレンジ作品の演奏。演奏能力の習得。

授業の概要:　吹奏楽の基本的な演奏能力を身につけるとともに、将来的に吹奏楽の指導に当たる可能性も加味し、多面的に授業に取り組む。優れたオリジナル作品や、アレンジ作品を多数取り上げ練習を重ねることにより、他楽器間とのバランスや、リズム、音色感を磨き、定期公演での質の高い演奏を目指す。

到達目標:　音色をより重視し、丁寧な音作りを第一の目標とする。イントネーション、楽器間バランスなどの感覚を磨くことを必須とする。

授業方法:　基本的に合奏練習。演奏会開催。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	吹奏楽合奏の基本練習（イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス）①	事前の自主練習①
2.	吹奏楽の基本練習（イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス）②	事前の自主練習②
3.	吹奏楽の基本練習（イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス）③	事前の自主練習③
4.	吹奏楽の基本練習（イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス）④	事前の自主練習④
5.	合奏の応用（音色感を磨く、楽曲を深く知る）①	より積極的なパート練習①
6.	合奏の応用（音色感を磨く、楽曲を深く知る）②	より積極的なパート練習②
7.	合奏の応用（音色感を磨く、楽曲を深く知る）③	より積極的なパート練習③
8.	合奏の応用（音色感を磨く、楽曲を深く知る）④	より積極的なパート練習④
9.	演奏実践（演奏会を意識した総合練習）①	演奏会に向けての予習復習①
10.	演奏実践（演奏会を意識した総合練習）②	演奏会に向けての予習復習②
11.	演奏実践（演奏会を意識した総合練習）③	演奏会に向けての予習復習③
12.	演奏実践（演奏会を意識した総合練習）④	演奏会に向けての予習復習④
13.	復習（各回のの総括）①	楽曲研究①
14.	復習（（各回の総括）②	楽曲研究②
15.	復習（各界の総括）③	楽曲研究③

受講者へのメッセージやアドバイス:　吹奏楽のために書かれた、オリジナルの良い作品を多く取り上げて、管弦楽とはまた違った独自のサウンドをを追求していきましょう。

フィードバックの方法:　授業への積極的な参加状況や姿勢、合奏技術の到達度を、随時授業の中で述べていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	80	出席状況を重視します。
授業への取り組み姿勢	20	演奏での貢献度を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

3E0900、
3E1100、
3E1300

吹奏楽Ⅱ、吹奏楽Ⅳ、吹奏楽Ⅵ

関谷　　弘志、森　　香織、山本　　一宏

授業テーマ:　吹奏楽の優れたオリジナル作品、並びにアレンジ作品の演奏。演奏能力の習得。

授業の概要:　吹奏楽の基本的な演奏能力を身につけるとともに、将来的に吹奏楽の指導に当たる可能性も加味し、多面的に授業に取り組む。優れたオリジナル作品や、アレンジ作品を多数取り上げ練習を重ねることにより、他楽器間とのバランスや、リズム、音色感を磨き、定期公演での質の高い演奏を目指す。

到達目標:　音色をより重視し、丁寧な音作りを第一の目標とする。イントネーション、楽器間バランスなどの感覚を磨くことを必須とする。

授業方法:　基本的に合奏練習。演奏会開催。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	吹奏楽合奏の基本練習（イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス）①	事前の自主練習①
2.	吹奏楽の基本練習（イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス）②	事前の自主練習②
3.	吹奏楽の基本練習（イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス）③	事前の自主練習③
4.	吹奏楽の基本練習（イントネーション、リズム、アインザッツ、バランス）④	事前の自主練習④
5.	合奏の応用（音色感を磨く、楽曲を深く知る）①	より積極的なパート練習①
6.	合奏の応用（音色感を磨く、楽曲を深く知る）②	より積極的なパート練習②
7.	合奏の応用（音色感を磨く、楽曲を深く知る）③	より積極的なパート練習③
8.	合奏の応用（音色感を磨く、楽曲を深く知る）④	より積極的なパート練習④
9.	演奏実践（演奏会を意識した総合練習）①	演奏会に向けての予習復習①
10.	演奏実践（演奏会を意識した総合練習）②	演奏会に向けての予習復習②
11.	演奏実践（演奏会を意識した総合練習）③	演奏会に向けての予習復習③
12.	演奏実践（演奏会を意識した総合練習）④	演奏会に向けての予習復習④
13.	復習（各回のの総括）①	楽曲研究①
14.	復習（（各回の総括）②	楽曲研究②
15.	復習（各界の総括）③	楽曲研究③

受講者へのメッセージやアドバイス:　吹奏楽のために書かれた、オリジナルの良い作品を多く取り上げて、管弦楽とはまた違った独自のサウンドをを追求していきましょう。

フィードバックの方法:　授業への積極的な参加状況や姿勢、合奏技術の到達度を、随時授業の中で述べていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	80	出席状況を重視します。
授業への取り組み姿勢	20	演奏での貢献度を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

3E1600、
3E1800、
3E2000

室内楽Ⅰ、室内楽Ⅲ、室内楽Ⅴ

音楽学科担当教員

授業テーマ: 室内楽実技（声楽コース以外の演奏専攻対象）

授業の概要: 演奏専攻（声楽コースを除く）を対象とするアンサンブル実技。

到達目標: 各グループの学習状況に応じた課題により、和声や音量バランスなど複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現方法について学ぶ。

授業方法: あらかじめ登録されたグループごとの個別指導によりおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	グループごとの個別指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。
2.	グループごとの個別指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
3.	グループごとの個別指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	グループごとの個別指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	グループごとの個別指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	グループごとの個別指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	グループごとの個別指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	グループごとの個別指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	グループごとの個別指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	グループごとの個別指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	グループごとの個別指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	グループごとの個別指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	グループごとの個別指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	グループごとの個別指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	グループごとの個別指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合は、返却方法も含め教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の和声や音量バランスなど、複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現力が養われているか評価する。

教科書: グループ各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: グループ各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法: 授業時に個別に伝達する。

3E1700、
3E1900、
3E2100

室内楽Ⅱ、室内楽Ⅳ、室内楽Ⅵ

音楽学科担当教員

授業テーマ: 室内楽実技（声楽コース以外の演奏専攻対象）

授業の概要: 演奏専攻（声楽コースを除く）を対象とするアンサンブル実技。

到達目標: 各グループの学習状況に応じた課題により、和声や音量バランスなど複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現方法について学ぶ。

授業方法: あらかじめ登録されたグループごとの個別指導によりおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	グループごとの個別指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。
2.	グループごとの個別指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
3.	グループごとの個別指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	グループごとの個別指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	グループごとの個別指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	グループごとの個別指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	グループごとの個別指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	グループごとの個別指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	グループごとの個別指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	グループごとの個別指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	グループごとの個別指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	グループごとの個別指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	グループごとの個別指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	グループごとの個別指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	グループごとの個別指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合は、返却方法も含め教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の和声や音量バランスなど、複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現力が養われているか評価する。

教科書: グループ各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: グループ各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法: 授業時に個別に伝達する。

3E2201

教職ピアノⅠ

松井　　典子

授業テーマ:　教育現場におけるピアノ実技のスキルアップ

授業の概要:　教職現場での実践を想定し、音楽教育現場で必須の楽曲についての弾き歌いや、楽譜に従って伴奏付けする力を養う。歌唱教材の弾き歌い、鍵盤和声、コードネームによる伴奏付けなどを演習する。
また、ピアノ曲のレパートリーを増やし、演奏技術・表現力をレベルアップする。人前で演奏することに慣れ、お互いの演奏から学び合う。受講生一人ひとりのレベルに応じた内容で展開していく。

到達目標:　・伴奏付け、弾き歌い、ピアノ演奏が人前で発表できる

授業方法:　演習
グループレッスンおよび個人実技指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 弾き歌い・鍵盤和声・コードネームについて ピアノ曲の選定	
2.	歌唱教材（日本）の弾き歌い① 鍵盤和声① ピアノ実技指導Ⅰ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
3.	歌唱教材（日本）の弾き歌い② 鍵盤和声② ピアノ実技指導Ⅰ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
4.	歌唱教材（日本）の弾き歌い③ 鍵盤和声③ ピアノ実技指導Ⅰ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
5.	歌唱教材（日本）の弾き歌い④ 鍵盤和声④ ピアノ実技指導Ⅰ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
6.	歌唱教材（日本）の弾き歌い⑤ 鍵盤和声⑤ ピアノ実技指導Ⅰ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
7.	歌唱教材（日本）の弾き歌い⑥ 鍵盤和声⑥ ピアノ実技指導Ⅰ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
8.	中間発表会	発表会に向けての練習
9.	歌唱教材（外国）の弾き歌い① 鍵盤和声① ピアノ実技指導Ⅱ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
10.	歌唱教材（外国）の弾き歌い② 鍵盤和声② ピアノ実技指導Ⅱ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
11.	歌唱教材（外国）の弾き歌い③ 鍵盤和声③ ピアノ実技指導Ⅱ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
12.	歌唱教材（外国）の弾き歌い④ 鍵盤和声④ ピアノ実技指導Ⅱ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
13.	歌唱教材（外国）の弾き歌い⑤ 鍵盤和声⑤ ピアノ実技指導Ⅱ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
14.	歌唱教材（外国）の弾き歌い⑥ 鍵盤和声⑥ ピアノ実技指導Ⅱ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
15.	まとめ 発表会	発表会に向けての練習

受講者へのメッセージやアドバイス:　個人実技なので、各自が積極的に参加し、しっかり練習してほしい。

フィードバックの方法:　教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表会における演奏	60%	演奏の出来具合
授業への積極的参加度	40%	練習の積み重ね度

教科書:　講義毎にプリントを配付、各自のピアノ曲の楽譜

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応。緊急の場合は、音楽科事務室を通してEメールで行う。

3E2202

教職ピアノⅠ

前田　　則子

授業テーマ:　教育現場におけるピアノ実技のスキルアップ

授業の概要:　教職現場での実践を想定し、音楽教育現場で必須の楽曲についての弾き歌いや、楽譜に従って伴奏付けする力を養う。歌唱教材の弾き歌い、鍵盤和声、コードネームによる伴奏付けなどを演習する。またピアノ曲のレパートリーを増やし、演奏技術・表現力をレベルアップさせる。人前で演奏することに慣れ、お互いの演奏から学び合う。受講生一人一人のレベルに応じた内容で展開していく。

到達目標:　伴奏付け、弾き歌い、ピアノ演奏が人前で発表できる。

授業方法:　演習：グループレッスンおよび個人実技指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 弾き歌い・鍵盤和声・コードネームについて、ピアノ曲の選定	
2.	歌唱教材(日本)の弾き歌い①、鍵盤和声①、ピアノ実技指導Ⅰ―①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
3.	歌唱教材(日本)の弾き歌い②、鍵盤和声②、ピアノ実技指導Ⅰ―②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
4.	歌唱教材(日本)の弾き歌い③、鍵盤和声③、ピアノ実技指導Ⅰ―③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
5.	歌唱教材(日本)の弾き歌い④、鍵盤和声④、ピアノ実技指導Ⅰ―④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
6.	歌唱教材(日本)の弾き歌い⑤、鍵盤和声⑤、ピアノ実技指導Ⅰ―⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
7.	歌唱教材(日本)の弾き歌い⑥、鍵盤和声⑥、ピアノ実技指導Ⅰ―⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
8.	中間発表会	発表に向けての練習
9.	歌唱教材(外国)の弾き歌い①、コードネーム①、ピアノ実技指導Ⅱ―①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
10.	歌唱教材(外国)の弾き歌い②、コードネーム②、ピアノ実技指導Ⅱ―②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
11.	歌唱教材(外国)の弾き歌い③、コードネーム③、ピアノ実技指導Ⅱ―③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
12.	歌唱教材(外国)の弾き歌い④、コードネーム④、ピアノ実技指導Ⅱ―④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
13.	歌唱教材(外国)の弾き歌い⑤、コードネーム⑤、ピアノ実技指導Ⅱ―⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
14.	歌唱教材(外国)の弾き歌い⑥、コードネーム⑥、ピアノ実技指導Ⅱ―⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
15.	まとめ	発表に向けての練習

受講者へのメッセージやアドバイス:　個人実技なので、各自が積極的に参加し、しっかり練習してほしい。

フィードバックの方法:　教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表会における演奏	60%	演奏の出来具合
授業への積極的参加度	40%	練習の積み重ね度

教科書:　講義毎にプリントを配布
各自ピアノ曲の楽譜

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応。緊急の場合は音楽科事務室を通してEメールアドレスで行う。

3E2301

教職ピアノⅡ

松井　　典子

授業テーマ:　教育現場におけるピアノ実技のスキルアップ

授業の概要:　教職ピアノⅠで養った力を更に発展させる。音楽教育現場で用いる歌唱教材の弾き歌い、歌曲・合唱曲の伴奏、鍵盤和声（応用）、コードネーム（応用）による伴奏付けなどを演習する。ピアノ曲のレパートリーを更に増やし、演奏技術・表現力をレベルアップさせる。人前で演奏することに慣れ、お互いの演奏から学び合う。受講生一人ひとりのレベルに応じた内容で展開していく。

到達目標:　・伴奏付け、弾き歌い、ピアノ演奏が人前で発表できる

授業方法:　演習
グループレッスンおよび個人実技指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 弾き歌い・鍵盤和声・コードネームについて ピアノ曲の選定	
2.	歌唱教材の弾き歌い① 鍵盤和声① ピアノ実技指導Ⅰ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
3.	歌唱教材の弾き歌い② 鍵盤和声（応用）② ピアノ実技指導Ⅰ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
4.	歌唱教材の弾き歌い③ 鍵盤和声（応用）③ ピアノ実技指導Ⅰ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
5.	歌唱教材の弾き歌い④ 鍵盤和声（応用）④ ピアノ実技指導Ⅰ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
6.	歌唱教材の弾き歌い⑤ 鍵盤和声（応用）⑤ ピアノ実技指導Ⅰ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
7.	歌唱教材の弾き歌い⑥ 鍵盤和声（応用）⑥ ピアノ実技指導Ⅰ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
8.	中間発表会	発表会に向けての練習
9.	歌曲伴奏① コードネーム（応用）① ピアノ実技指導Ⅱ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
10.	歌曲伴奏② コードネーム（応用）② ピアノ実技指導Ⅱ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
11.	歌曲伴奏③ コードネーム（応用）③ ピアノ実技指導Ⅱ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
12.	合唱曲の伴奏① コードネーム（応用）④ ピアノ実技指導Ⅱ-④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
13.	合唱曲の伴奏② コードネーム（応用）⑤ ピアノ実技指導Ⅱ-⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
14.	合唱曲の伴奏③ コードネーム（応用）⑥ ピアノ実技指導Ⅱ-⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
15.	まとめ 発表会	発表会に向けての練習

受講者へのメッセージやアドバイス:　個人実技なので、各自が積極的に参加し、しっかり練習してほしい。

フィードバックの方法:　教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表会における演奏	60%	演奏の出来具合
授業への積極的参加度	40%	練習の積み重ね度

教科書:　講義毎にプリントを配付、各自ピアノ曲の楽譜

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応。緊急の場合は音楽科事務室を通してEメールで行う。

3E2302

教職ピアノⅡ

前田　　則子

授業テーマ:　教育現場におけるピアノ実技のスキルアップ

授業の概要:　教職ピアノ1で養った力を更に発展させる。音楽教育現場で用いる歌唱教材の弾き歌い、歌曲・合唱曲の伴奏、鍵盤和声(応用)、コードネーム(応用)による伴奏付けなどを演習する。ピアノ曲のレパートリーを更に増やし、演奏技術・表現力をレベルアップさせる。人前で演奏することに慣れ、お互いの演奏から学び合う。受講生一人一人のレベルに応じた内容で展開していく。

到達目標:　伴奏付け、弾き歌い、ピアノ演奏が人前で発表できる。

授業方法:　演習：グループレッスンおよび個人実技指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 弾き歌い・鍵盤和声・コードネームについて、ピアノ曲の選定	
2.	歌唱教材の弾き歌い①、 鍵盤和声(応用)①、 ピアノ実技指導Ⅰ－①	弾き歌い・ピアノ曲の練習
3.	歌唱教材の弾き歌い②、 鍵盤和声(応用)②、 ピアノ実技指導Ⅰ－②	弾き歌い・ピアノ曲の練習
4.	歌唱教材の弾き歌い③、 鍵盤和声(応用)③、 ピアノ実技指導Ⅰ－③	弾き歌い・ピアノ曲の練習
5.	歌唱教材の弾き歌い④、 鍵盤和声(応用)④、 ピアノ実技指導Ⅰ－④	弾き歌い・ピアノ曲の練習
6.	歌唱教材の弾き歌い⑤、 鍵盤和声(応用)⑤、 ピアノ実技指導Ⅰ－⑤	弾き歌い・ピアノ曲の練習
7.	歌唱教材の弾き歌い⑥、 鍵盤和声(応用)⑥、 ピアノ実技指導Ⅰ－⑥	弾き歌い・ピアノ曲の練習
8.	中間発表会	発表に向けての練習
9.	歌曲伴奏①、 コードネーム(応用)①、 ピアノ実技指導Ⅱ－①	歌曲伴奏・ピアノ曲の練習
10.	歌曲伴奏②、 コードネーム(応用)②、 ピアノ実技指導Ⅱ－②	歌曲伴奏・ピアノ曲の練習
11.	歌曲伴奏③、 コードネーム(応用)③、 ピアノ実技指導Ⅱ－③	歌曲伴奏・ピアノ曲の練習
12.	合唱曲の伴奏①、 コードネーム(応用)④、 ピアノ実技指導Ⅱ－④	合唱曲の伴奏・ピアノ曲の練習
13.	合唱曲の伴奏②、 コードネーム(応用)⑤、 ピアノ実技指導Ⅱ－⑤	合唱曲の伴奏・ピアノ曲の練習
14.	合唱曲の伴奏③、 コードネーム(応用)⑥、 ピアノ実技指導Ⅱ－⑥	合唱曲の伴奏・ピアノ曲の練習
15.	まとめ	発表に向けての練習

受講者へのメッセージやアドバイス:　個人実技なので、各自が積極的に参加し、しっかり練習してほしい

フィードバックの方法:　教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表会における演奏	60%	演奏の出来具合
授業への積極的参加度	40%	練習の積み重ね度

教科書:　講義毎にプリントを配布
各自ピアノ曲の楽譜

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応。緊急の場合は音楽科事務室を通してEメールアドレスで行う。

3E2401

音楽文化基礎演習Ⅰ

椎名　亮輔、稲田　雅美、葛西　聖憲

授業テーマ:　大学での学びとその技法、および音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」入門

授業の概要:　大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるか、そして研究倫理とは何か、を理解してもらうことを目標とします。さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることも目指します。
また、最後の5回は音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」分野の入門授業です。

到達目標:　知識・理解:大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかの理解。音楽学科での学びの理解。
関心・意欲・態度:さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、興味を高める。
表現・技能・能力:グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションの能力。

授業方法:　講義とグループワーク、ディスカッション。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーションとマナビーの活用	大学での学びに関心をもつ
2.	ノート・テイキングの手法	与えられた課題を行う
3.	図書館オリエンテーション	図書館というものに関心をもつ
4.	図書館・データベースの使い方と各種文献の参考・引用の方法	与えられた課題を行う
5.	情報整理の技法と「研究倫理」について	与えられた課題を行う
6.	著書・論文の読み方	与えられた課題を行う
7.	学術的な文章表現について	与えられた課題を行う
8.	レポートの書き方1	与えられた課題を行う
9.	レポートの書き方2	与えられた課題を行う
10.	プレゼンテーションの技法	与えられた課題を行う
11.	音楽創作概論	与えられた予習、復習を行う
12.	音楽創作:旋律	与えられた予習、復習を行う
13.	音楽創作:和音進行	与えられた予習、復習を行う
14.	音楽創作:調性のない音	与えられた予習、復習を行う
15.	音楽創作:その他の音楽	与えられた予習、復習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題についてのコメント・解説を授業内で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	50%	ディスカッションやグループワークなど授業への積極的な参加度と授業内で書くミニエッセイを評価する。
提出物	50%	講義の目標に照らして、宿題としての提出物や、講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題を総合的に評価する。

教科書:　佐藤望『アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門　第2版』慶応義塾大学出版会

参考書:　リチャード・J・ウィンジェル『改訂新版　音楽の文章術』春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

3E2402

音楽文化基礎演習Ⅰ

稲田　雅美、成田　和子、椎名　亮輔

授業テーマ:　大学での学びとその技法、および音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」入門

授業の概要:　大学での学びとは、それまでの「覚える」ことが中心の受け身的なものとは違って、一転して自分で自主的に「調べる」、「考える」、「まとめる」というものになります。そのためには一定の技術が必要です。基礎演習では、大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるか、そして研究倫理とは何か、を理解してもらうことを目標とします。さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、音楽学科での学びの理解と興味を高めることも目指します。
また、最後の5回は音楽文化専攻の学びのうち「サウンドデザイン」分野の入門授業です。

到達目標:　知識・理解:大学での学びとはどのようなものか、そのためのアカデミック・スキルと呼ばれる技術にはどのような方法があるかの理解。音楽学科での学びの理解。
関心・意欲・態度:さらにその過程で自らの勉学の目的を考え、教員と学生、学生と学生という双方向・多方向の学びと人間関係を深め、興味を高める。
表現・技能・能力:グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションの能力。

授業方法:　講義とグループワーク、ディスカッション。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーションとマナビーの活用	大学での学びに関心をもつ
2.	ノート・テイキングの手法	与えられた課題を行う
3.	図書館オリエンテーション	図書館というものに関心をもつ
4.	図書館・データベースの使い方と各種文献の参考・引用文献の方法	与えられた課題を行う
5.	情報整理の技法と研究倫理について	与えられた課題を行う
6.	著書・論文の読み方	与えられた課題を行う
7.	学問的な文章表現について	与えられた課題を行う
8.	レポートの書き方1	与えられた課題を行う
9.	レポートの書き方2	与えられた課題を行う
10.	プレゼンテーションの技法	与えられた課題を行う
11.	サウンド・デザイン入門1:音ってなあに？(I) 音の現象の解明から音の記録再生が可能になるまで	与えられた予習、復習を行う
12.	サウンド・デザイン入門2:音ってなあに？(II) 磁気録音が可能にしたこと	与えられた予習、復習を行う
13.	サウンド・デザイン入門3:サウンド・ファイルってなあに？ いつでもどこでも気軽に音楽が楽しめる現在、そのテクノロジーの発展	与えられた予習、復習を行う
14.	. サウンド・デザイン入門4:コンピュータ・ミュージック(I) MIDIデータを用いた音楽創作	与えられた予習、復習を行う
15.	サウンド・デザイン入門5:コンピュータ・ミュージック(II) AUDIOデータを用いた音楽創作	与えられた予習、復習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題についてのコメント・解説を授業内で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	50%	ディスカッションやグループワークなど授業への積極的な参加度と授業内で書くミニエッセイを評価する。
提出物	50%	講義の目標に照らして、宿題としての提出物や、講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題を総合的に評価する。

教科書:　佐藤望編著、アカデミック・スキルズ　大学生のための知的技法入門　第2版、慶応義塾大学出版会

参考書:　リチャード・J・ウィンジェル著、改訂新版　音楽の文章術、春秋社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

3E2501

音楽文化基礎演習Ⅱ

仲　　万美子、成田　　和子、北脇　　歩

授業テーマ:　21世紀に活躍する若者が音楽文化を創造、発信するためのまなびとは

授業の概要:　音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイトしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を学び取りましょう。そして、大学卒業後、どのような分野で活躍していきたいかも考えつつ、自分の関心のあるテーマはどのようなものがあり、どのように学んでいけばよいかのヒントをキャッチしましょう。音楽文化基礎演習Ⅱでは、音楽文化をクリエイトする上での音楽テクノロジーにはどのようなものがあるか、また、現代の音楽文化におけるポピュラー音楽／世界の民族音楽／日本音楽の存在の意味、音楽療法の現場でどのような課題があり、療法士になる意義とはどのようなものか、について観察し、「音楽文化」をどのようにとらえるかについて各自、考えてみましょう。

到達目標:　音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイトしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を習得する。

授業方法:　講義を中心とするが、ディスカッションやグループワークも適宜取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	サウンド・デザイン入門1：音ってなあに？(I)　音の現象の解明から音の記録再生が可能になるまで	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。
2.	サウンド・デザイン入門2：音ってなあに？(II)　磁気録音が可能にしたこと	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。
3.	サウンド・デザイン入門3：サウンド・ファイルってなあに？いつでもどこでも気軽に音楽が楽しめる現在、そのテクノロジーの発展	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。
4.	サウンド・デザイン入門4：コンピュータ・ミュージック(I)　MIDIデータを用いた音楽	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。
5.	サウンド・デザイン入門5：コンピュータ・ミュージック(II)　AUDIOデータを用いた音楽創作	授業でクローズ・アップされるさまざまなテーマから、一番興味の引かれるテーマに沿って調べる。レジュメを作成する。
6.	音楽文化はどのように創造され、育まれるのだろうか： 音楽の発信と受信のメカニズムから理解する	予習：シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。復習：毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。
7.	世界のポピュラー音楽」を理解するには？： 身近にある J-pop と世界のポピュラー音楽の関係を考える方法を学ぶ	予習：シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。復習：毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。
8.	「世界の民族音楽」を理解するには： 楽器や舞踊を事例に音楽と文化の関係を考える	予習：シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。復習：毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。
9.	「日本音楽」を理解するには： 日本人の「身近にある邦楽？」それとも「彼方にある邦楽？」を考える	予習：シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。復習：毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。
10.	学校の内／外にある多様な音楽」を理解するには： 公教育の場における多様な音楽を通して考える	予習：シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。復習：毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。10回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。
11.	音楽療法士の仕事	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。
12.	日本の音楽療法の現状1	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。。
13.	日本の音楽療法の現状2	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。
14.	音楽療法士のための教育	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。。
15.	資格取得とその意義	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
各担当者の5回の講義の出席	50	授業中に書くミニエッセイあるいはディスカッションやグループワークなど
各担当者の講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題の評価	50	

教科書:

参考書:	『音楽文化学のすすめ』(小西潤子・仲万美子・志村哲共編、ナカニシヤ出版)他 講義時に適宜紹介および資料を配布する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応

3E2502

音楽文化基礎演習Ⅱ

葛西　聖憲、仲　万美子、北脇　歩

授業テーマ:　21世紀に活躍する若者が音楽文化を創造、発信するためのまなびとは

授業の概要:　音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイトしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を学び取りましょう。そして、大学卒業後、どのような分野で活躍していきたいかも考えつつ、自分の関心のあるテーマはどのようなものがあり、どのように学んでいけばよいかのヒントをキャッチしましょう。音楽文化基礎演習Ⅱでは、音楽文化をクリエイトする上での音楽テクノロジーにはどのようなものがあるか、また、現代の音楽文化におけるポピュラー音楽／世界の民族音楽／日本音楽の存在の意味、音楽療法の現場でどのような課題があり、療法士になる意義とはどのようなものか、について観察し、「音楽文化」をどのようにとらえるかについて各自、考えてみましょう。

到達目標:　音楽文化専攻生として21世紀の音楽文化をクリエイトしていくための多様な視点を身につけ、音楽文化を創造／理解する基礎的な方法を習得する。

授業方法:　講義を中心とするが、ディスカッションやグループワークも適宜取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽創作概論	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。
2.	音楽創作:旋律	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。
3.	音楽創作:和音進行	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。
4.	音楽創作:調性のない音楽	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。
5.	音楽創作:その他の音楽	授業で紹介された音楽がどのように創作されたかを考える。
6.	音楽療法士の仕事	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。
7.	日本の音楽療法の現状1	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。
8.	日本の音楽療法の現状２	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。
9.	音楽療法士のための教育	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。
10.	資格取得とその意義	図書館オリエンテーションで学んだ文献検索の方法を活用して、授業の前後に、授業内容に即した専門を自発的に発掘する。
11.	音楽文化はどのように創造され、育まれるのだろうか:音楽の発信と受信のメカニズムから理解する	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。15回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。
12.	世界のポピュラー音楽」を理解するには？:身近にある J-pop と世界のポピュラー音楽の関係を考え	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。15回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。
13.	「世界の民族音楽」を理解するには:楽器や舞踊を事例に音楽と文化の関係を考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。15回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。
14.	「日本音楽」を理解するには:日本人の「身近にある邦楽？」それとも「彼方にある邦楽？」を考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。15回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。
15.	学校の内／外にある多様な音楽」を理解するには:公教育の場における多様な音楽を通して考える	予習:シラバス記載の授業内容に関係ある参考文献や音像資料を図書館などで調べ、参照する。 復習:毎回の講義で配布された資料の該当部分を次回までに熟読して、次回講義の際にその要約を提出すること。15回目終了後に提出するレポートの準備を兼ねるものである。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
各担当者の5回の講義の出席	50	授業中に書くミニエッセイあるいはディスカッションやグループワークなど
各担当 者の講義終了後、指定された期間内に提出するレポート課題の評価	50	

教科書:

参考書:	『音楽文化学のすすめ』(小西潤子・仲万美子・志村哲共編、ナカニシヤ出版)他 講義時に適宜紹介および資料を配布する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応

3E2600

日本の音楽

志村　　哲

授業テーマ:　伝統音楽の歴史と理論の学習と、五線譜では表せないことの感得

授業の概要:　まず、日本音楽の歴史と理論を学ぶための用語と諸体系を理解する。また、古代から現代までの主要音楽種目の特徴を、理論のみならず、鑑賞をまじえて感得するとともに、それらを取り巻く現在の状況を考察する。

到達目標:　受講生が、音楽家、教育者のほか、社会人として将来的に音楽文化に関わって生きていくために重要な、日本文化に関する教養を身につける機会を与える。

授業方法:　教科書に基づき、実演、あるいはAV資料・マルチメディアコンテンツを有効に活用した講義。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本音楽とは何か（授業の方針と概要の説明）	教科書を持参すること。
2.	日本音楽の種目	教科書を持参すること。
3.	日本音楽の楽器	教科書を持参すること。
4.	理論と記譜法	教科書を持参すること。
5.	古代、中世成立の音楽（雅楽、声明）	教科書を持参すること。
6.	中世、近世成立の音楽（平曲と琵琶楽、能楽）	教科書を持参すること。
7.	近世成立の音楽１（地歌箏曲）	教科書を持参すること。
8.	近世成立の音楽２（尺八楽）	教科書を持参すること。
9.	近世成立の音楽３（文楽と歌舞伎）	教科書を持参すること。
10.	近代の日本音楽	教科書を持参すること。
11.	現代の日本音楽	教科書を持参すること。
12.	世界中の様々な音楽種目における日本楽器・日本楽器演奏家	教科書を持参すること。
13.	情報科学・情報処理技術からの音楽への接近、あるいはIT社会における音楽文化について	教科書を持参すること。
14.	こんにちの芸術創作における新しい試み（音楽以外の諸芸術との関り）	教科書を持参すること。
15.	まとめ（日本文化の中での各自の活動における主体的取り組みについて考える）	教科書を持参すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本の伝統音楽は、CD（コンパクトディスクレコード）やDVD、インターネットにおける音楽配信、およびマスメディアによる放送を試聴しても、その音楽が表す大切な要素を聴き取ることは困難である。なぜならば、それらの録音方法では、この音楽に大切な要素のひとつである「美しいノイズ」の効果が伝えられない。そこで、すでに自己が鑑賞の経験をもち、聴きどころの判断基準を獲得している音楽種目においては、その良し悪しを判断することができるが、初めて接する音楽ではその違いを認識できない。よって、できるだけ生演奏に接する機会を多くもつことが必須である。

フィードバックの方法:　授業内でミニレポートや感想文の提出課題を設けるので、必要に応じてコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	欠席、遅刻の頻度。受講への積極的な取り組み。
レポート	50	設問の内容を理解でき、自己の考えが述べられているか否か。

教科書:　月溪恒子『日本音楽との出会い　日本音楽の歴史と理論』東京堂出版

参考書:　志村　哲（共著）『事典　世界音楽の本』岩波書店
志村　哲『古管尺八の楽器学』出版芸術社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　電子メールで対応<simura@osaka-geidai.ac.jp>

3E2700

民族の音楽

谷　　正人

授業テーマ:　「民族音楽」の多様な世界と、それを捉えてゆくためのまなざし

授業の概要:　「民族音楽」とは一体何だろうか？それはただの「音楽」とどのように違うのだろうか――このように考えてゆくとき、「民族音楽」は私たちにとっての「異文化」そして「自らの文化」というものを深く問い直す契機を与えてくれるものへと変貌することとなる。
本講義では、視聴覚資料を活用して世界の諸民族の音楽文化を概観してゆくなかで、実は私たちにも身近な問題を提供している民族音楽学の様々なトピックに触れてゆく。そして、近代西洋とは異なる価値体系をもつ音楽世界の多様さを理解し、「異文化を理解する」ということを通して最終的に「自分自身の再発見」へと繋げてゆくことを目指している。

到達目標:
(1)　音楽研究の歴史を、文化研究としてとらえることができる。
(2)　音楽を音響それだけではなく、社会的及び歴史的背景からとらえることができる。
(3)「異文化を理解する」ということを通して、自分自身の傾向やバイアスに気付くことができる。
(4)　音楽の好き嫌いを個人的なものとしてではなく、ある程度社会学的観点から説明できる

授業方法:　講義/演習　本授業は原則2人1組の指定席とし、授業時間内に講義内容に基づくテーマについて適宜パートナーとのディスカッションを行ってもらう。また議論の成果をミニコメントシートへ記入してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	世界音楽とはなにか	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
2.	東南アジアの音楽～ガムランを中心に～	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
3.	東南アジアの音楽～竹素材の楽器～	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
4.	音の視覚化～世界の様々な楽譜	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
5.	言葉を話す楽器―アフリカのトーキングドラム	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
6.	民族音楽学―音楽をめぐる人間の営みの探求	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
7.	「民族音楽」を読み解く―フィールドワークという方法	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
8.	音を出す道具―音具・楽器を再考する	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
9.	宗教と音楽―イスラームの音文化	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
10.	中東の音楽～イランを中心に～	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
11.	南アジアの音楽～インドを中心に～	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
12.	職業・能力・世襲etc―「音楽家」の多様なありかた	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
13.	音楽文化の接触と変容	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
14.	「民族音楽」と異文化理解	授業のテーマについて、事前に身近な題材・素材を確認しておくこと
15.	まとめ	これまでの授業内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標に関する理解度により評価する。
授業への積極的参加度	20%	積極的な発言など授業に参加しているかどうかを評価する。出席のみは一切加点しない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

3M0200

歌曲研究A

井原　　秀人

授業テーマ:　日本歌曲の研究

授業の概要:　歌曲は、他の声楽作品に比べて、演奏される機会がとても多い。その理由の一つに、演奏形態が声楽と鍵盤楽器とゆうシンプルなアンサンブルであることが考えられる。シンプルな演奏形態だからこそ多種多様の歌曲が生まれ、長年にわたって歌い継がれてきた。今、私たちがそれらを演奏するためには、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解することや、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養う必要がある。それをふまえて、自身と対峙しながら音楽を作り上げていくのが、歌曲の世界である。この科目では、これらのプロセスを体験し表現力の充実をはかる。

到達目標:　作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高める。

授業方法:　様々な作曲家の日本歌曲を取り上げ、演習と解説を交える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	山田耕筰の歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
3.	山田耕筰の歌曲②　「喜びを表現すること」に焦点を置き、表現力の充実をはかる。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
4.	別宮貞雄の歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
5.	別宮貞雄の歌曲②　「情景を表現すること」に焦点を置き、表現力の充実をはかる。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
6.	中田喜直の歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
7.	中田喜直の歌曲②　「口に出している言葉と心にある思いの違いを表現すること」に焦点を置いた歌唱を試みる。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
8.	團伊玖磨の歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
9.	團伊玖磨の歌曲②　曲全体を見通しながら、曲を作り上げる感性を養う。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
10.	武満徹の歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
11.	武満徹の歌曲②　曲が作られた頃の時代背景を探り、その時代の空気感を表現する方法を模索する。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
12.	小林秀雄の歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
13.	小林秀雄の歌曲②　演技を伴わず詩の主人公を表現する歌唱表現力の体得を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
14.	木下牧子の歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
15.	木下牧子の歌曲②　「目に見えないものを歌う」をテーマに、歌唱の可能性を探る。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。
歌唱発表	40%	歌唱発表により、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。

教科書:　その都度指定する。

参考書:　授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール

3M0300

歌曲研究B

井原　　秀人

授業テーマ:　ドイツ歌曲の研究

授業の概要:　歌曲は他の声楽作品に比べて、演奏される機会がとても多い。その理由の一つに、演奏形態が声楽と鍵盤楽器とゆうシンプルなアンサンブルであることが考えられる。シンプルな演奏形態だからこそ多種多様の歌曲が生まれ、長年にわたって歌い継がれてきた。今、私たちがそれらを演奏するためには、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解することや、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養う必要がある。それをふまえて、自身と対峙しながら音楽を作り上げていくのが、歌曲の世界である。この科目では、これらのプロセスを体験し表現力の充実をはかる。

到達目標:　作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高める。

授業方法:　様々な作曲家の歌曲を取り上げ、演習と解説を交える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	シューベルトの歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
3.	シューベルトの歌曲②　曲全体を見通し、感情の起伏を的確に表現する歌唱方法を模索する。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
4.	シューベルトの歌曲③　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
5.	シューベルトの歌曲④　テンポの速い楽曲の中でも崩れない歌唱法、表現法の体得を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
6.	メンデルスゾーンの歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
7.	メンデルスゾーンの歌曲②　ゲーテの詩を作曲したシューベルト作品とメンデルスゾーン作品を比較し、演奏のスタイルを考える。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
8.	メンデルスゾーンの歌曲③　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
9.	メンデルスゾーンの歌曲④　揺れる感情を音楽の流れの中で表現することを体感する。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
10.	シューマンの歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
11.	シューマンの歌曲②　作曲者の心情を表現した演奏を試みる。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
12.	ブラームスの歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
13.	ブラームスの歌曲②　調性を意識しながら歌うことで表現力に繋がることを考える。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
14.	シュトラウスの歌曲①　その楽譜を読み解き、曲全体の深い理解を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。
15.	シュトラウスの歌曲②　ピアノ伴奏と歌唱の融合を目指す。	与えられた課題曲は事前に譜読みを行い、授業内では歌唱できる状態にしておくこと。そして、授業内で指摘された箇所は、次回の授業までに修正しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物等がある場合、教室でまとめて解説する。返却方法は、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	積極的に授業に参加し、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。
歌唱発表	40%	歌唱発表により、作曲された当時の歴史的・文化的背景をより深く理解し、多種言語で書かれた歌詞に対する語感を養い表現技術を高めているか評価する。

教科書:　その都度指定する。

参考書:　授業内で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール

3M0400

オラトリオ研究A

松下　　悦子

授業テーマ:　オラトリオ作品の歌唱技術と表現力の体得

授業の概要:　オラトリオ作品を歌唱するにあたり求められるテクニックを体得する。オラトリオは、声のみで叙事的楽曲を表現する為、高度な声のテクニックが求められる。声という楽器を駆使し、音色や発音、強弱等の変化により、多くの感情や情景を劇的に、かつ繊細に表現する技術の体得を目指す。

到達目標:　オラトリオ作品の多くはバロックや古典派に集中しているため、器楽曲のように高度な歌唱技術を求められる。その技術を高めるために、読譜力を身につける方法や作曲様式を知ることが必要である。このように歌うことにとどまらず、視野の広い音楽感も身につける。

授業方法:　様々なオラトリオ作品を課題曲として取り上げ、演習（歌唱）と解説、鑑賞を交えてすすめていく。
課題曲は一人ずつの歌唱発表によって完了とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オラトリオ作品全般について	オラトリオの代表作品を調べてくる。
2.	イタリアンバロック作品の研究(1) 課題曲　Vivaldi :　Gloria D dur	課題曲の練習
3.	イタリアンバロック作品の研究(2) 課題曲　Vivaldi :　Gloria D dur	課題曲の練習
4.	イタリアンバロック作品の研究(3) 課題曲　Pergolesi : Stabat Mater	課題曲の練習
5.	イタリアンバロック作品の研究(4) 課題曲　Pergolesi : Stabat Mater	課題曲の練習
6.	イタリアンバロック作品の研究(5) 課題曲　Pergolesi : Stabat Mater	課題曲の練習
7.	ドイツバロック作品の研究(1) 課題曲　J.S.Bach :　Mgnificat　D dur	課題曲の練習
8.	ドイツバロック作品の研究(2) 課題曲　J.S.Bach :　Mgnificat　D dur	課題曲の練習
9.	ドイツバロック作品の研究(3) 課題曲　J.S.Bach :　Mgnificat　D dur	課題曲の練習
10.	ドイツバロック作品の研究(4) 課題曲　J.S.Bach :　Mgnificat　D dur	課題曲の練習
11.	ヘンデル作曲「メサイア」の研究(1) レチタティーヴォの歌い方	課題曲の練習
12.	ヘンデル作曲「メサイア」の研究(2) レチタティーヴォの歌い方	課題曲の練習
13.	ヘンデル作曲「メサイア」の研究(3) アリアの歌い方	課題曲の練習
14.	ヘンデル作曲「メサイア」の研究(4) アリアの歌い方	課題曲の練習
15.	ヘンデル作曲「メサイア」の研究(5) アリアの歌い方	課題曲の練習

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業の中で課題曲を一人づつ歌ってもらい、それぞれにアドバイスしていきながら授業を進めていきますので、自分で練習はしておいてください。

フィードバックの方法:　質問や疑問など、随時授業内で解決していきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	
歌唱発表及びレポート提出	50	歌唱発表やレポート提出は必ず行うこと

教科書:　課題曲をその都度指定する。

参考書:　授業に必要なCDやDVDなどの音源は、こちらで随時準備します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業時間内、あるいはその前後での連絡が基本。

3M0500

オラトリオ研究B

松下　　悦子

授業テーマ:　オラトリオ作品の歌唱技術と表現力の体得

授業の概要:　オラトリオ研究Aで学んだことをふまえ、より高度な歌唱技術の体得する。加えて、宗教的背景を理解することにより歌唱表現の幅を広げる。

到達目標:　オラトリオ作品の多くはバロックや古典派に集中しているため、器楽曲のように高度な歌唱技術を求められる。その技術を高めるために、読譜力を身につける方法や作曲様式を知ることが必要である。また、宗教曲とはいえ、生き生きとした感情が伝わる表現力を身につける。

授業方法:　様々なオラトリオ作品を課題曲として取り上げ、演習（歌唱）と解説を交えてすすめていく。
課題曲は一人ずつの歌唱発表によって完了とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	古典派オラトリオ作品の研究(1) 課題曲　Mozart : 戴冠ミサ	課題曲の練習
2.	古典派オラトリオ作品の研究(2) 課題曲　Mozart : 戴冠ミサ	課題曲の練習
3.	古典派オラトリオ作品の研究(3) 課題曲　Mozart : 戴冠ミサ	課題曲の練習
4.	受難曲の研究（1） 課題曲　J.S.Bach : マタイ受難曲	受難曲について調べる。
5.	受難曲の研究（2） 課題曲　J.S.Bach : マタイ受難曲	課題曲の練習
6.	受難曲の研究（3） 課題曲　J.S.Bach : マタイ受難曲	課題曲の練習
7.	受難曲の研究（4） 課題曲　J.S.Bach : マタイ受難曲	課題曲の練習
8.	近代宗教曲の研究(1) 課題曲　Faure :　小ミサ曲	課題曲の練習
9.	近代宗教曲の研究(2) 課題曲　Faure :　小ミサ曲	課題曲の練習
10.	レクイエムの研究（1） 課題曲　Mozart :　レクイエム Verdi :　レクイエム Faure :　レクイエム	課題曲の作曲家の時代背景や社会背景を比較しまとめる。
11.	レクイエムの研究（2） 課題曲　Mozart :　レクイエム Verdi :　レクイエム Faure :　レクイエム	課題曲の作曲家の時代背景や社会背景を比較しまとめる。
12.	レクイエムの研究（3） 課題曲　Mozart :　レクイエム Verdi :　レクイエム Faure :　レクイエム	課題曲の作曲家の時代背景や社会背景を比較しまとめる。
13.	レクイエムの研究（4） 課題曲　Brahms :　ドイツレクイエム	課題曲の作曲家の時代背景や社会背景を比較しまとめる。
14.	現代宗教曲の研究(1) 課題曲　Poulenc : グローリア　他	課題曲の作曲家の伝えたかったことをレポートとしてまとめる。
15.	現代宗教曲の研究(2) 課題曲　Rutter : レクイエム　他	課題曲の作曲家の伝えたかったことをレポートとしてまとめる。 課題曲の練習

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業の中で課題曲を一人づつ歌ってもらい、それぞれにアドバイスしていきながら授業を進めていきますので、自分で練習はしておいてください。

フィードバックの方法:　質問や疑問など、随時授業内で解決していきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	
歌唱発表及びレポート提出	50	歌唱発表やレポート提出は必ず行うこと

教科書:　課題曲をその都度指定する。

参考書:　授業に必要なCDやDVDなどの音源は、こちらで随時準備します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業時間内、あるいはその前後での連絡が基本。

3M0600

オペラ研究Ⅰ

井上　　敏典

授業テーマ:　より安定する歌唱と演技のための具体性の追求

授業の概要:　豊かなパフォーマンスを要求されるオペラの分野における歌唱と身体表現法を研究することにより、声楽家の演技技術の向上と広範囲な知識を習得する。

到達目標:
1. オペラ史など、オペラにまつわる知識の習得。
2. 作曲家による作品と演奏の違いの理解。
3. 作品毎における演技の区別。

授業方法:　講義と演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション。	特になし。
2.	オペラ史概論。	特になし。
3.	古典派のオペラ作品研究 （モーツァルトの作品） 歌唱①	レチタティーヴォの音程の正確さと、イタリア語の朗読練習をしておくこと。
4.	古典派のオペラ作品研究 （モーツァルトの作品） 歌唱②	ヴォカリーゼでの音程をしっかりとしておく。
5.	古典派のオペラ作品研究 （モーツァルトの作品） 歌唱・立稽古説明	音程と発音の関係をしっかりと理解し、安定した歌唱を追及すること。 暗譜。
6.	古典派のオペラ作品研究 （モーツァルトの作品） 歌唱・立稽古	大まかな動きを理解した上で、動く理由を考える。
7.	古典派のオペラ作品研究 （モーツァルトの作品） 立稽古①	心理の表現に着目。
8.	古典派のオペラ作品研究 （モーツァルトの作品） 立稽古②	思い通りの表現ができているかをチェック。
9.	バロック時代の作品研究 （ヘンデルの作品） 歌唱①	レチタティーヴォの音程と発音、重唱部分の音程の正確さを大切に譜読みをしておく。
10.	バロック時代の作品研究 （ヘンデルの作品） 歌唱②	より安定した歌唱の追及。
11.	バロック時代の作品研究 （ヘンデルの作品） 歌唱と立稽古説明	暗譜をしておき、立稽古に備える。
12.	バロック時代の作品研究 （ヘンデルの作品） 立稽古①	大まかな動きを理解した上で、動く理由を考える。
13.	バロック時代の作品研究 （ヘンデルの作品） 立稽古②	心理の表現に着目。
14.	バロック時代の作品研究 （ヘンデルの作品） 立稽古③	思い通りの表現ができているかをチェック。
15.	バロック時代の作品研究 （ヘンデルの作品） 立稽古④	モーツァルトとヘンデルの作品の違いを感じ取る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　レチタティーヴォの音程はとかく曖昧になりがちのため、音程はしっかりと押さえておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	70	積極的に授業に参加し、自分の不得意な部分を解決しようとしているか判断して評価する。
発表の成果	30	授業内における発表において、改善されたかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。Eメール。

3M0700

オペラ研究Ⅱ

井上　　敏典

授業テーマ:　舞台表現のための歌唱研究

授業の概要:　春学期で得た基礎知識をさらに発展させ、作品解釈は勿論のこと歌唱と身体表現を含めたスキルアップを求める。

到達目標:
1. 歌唱力のレベルアップ。
2. 演技の基礎所作と表現力の拡大。
3. 幅広い解釈の仕方。

授業方法:　演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ロマン派以降のオペラ作品研究 （プッチーニの作品） 歌唱①	ロマン派ということでメロディーに影響されず、正確な拍で旋律を押さえておくこと。 歌詞については朗読練習をしておくこと。
2.	ロマン派以降のオペラ作品研究 （プッチーニの作品） 歌唱②	オーケストラパートの動きやサウンドを意識すること。
3.	ロマン派以降のオペラ作品研究 （プッチーニの作品） 歌唱と立稽古説明	暗譜状態で立稽古の準備をしておく。
4.	ロマン派以降のオペラ作品研究 （プッチーニの作品） 立稽古①	練習着（浴衣）が必要な場合は用意。
5.	ロマン派以降のオペラ作品研究 （プッチーニの作品） 立稽古②	心理と動きの関係を考察。
6.	ロマン派以降のオペラ作品研究 （プッチーニの作品） 立稽古③	細部に渡る感情の変化と音楽の関係を認識する。
7.	ロマン派以降のオペラ作品研究 （プッチーニの作品） 立稽古④	意識したものが表現できているかを客観視する。
8.	その他のオペラ研究 （正歌劇と喜歌劇・創作オペラ） 歌唱	譜読みの仕方は過去にしてきたものを振り返って確認する。
9.	その他のオペラ研究 （正歌劇と喜歌劇・創作オペラ） 歌唱	台本から創造した作曲者の意図をくみ取る。
10.	その他のオペラ研究 （正歌劇と喜歌劇・創作オペラ） 歌唱と立稽古説明	立ち位置などのアウトラインは提示するが、所作などは自分なりに考えること。
11.	その他のオペラ研究 （正歌劇と喜歌劇・創作オペラ） 立稽古①	自分流解釈での表現。
12.	その他のオペラ研究 （正歌劇と喜歌劇・創作オペラ） 立稽古②	表現の確認。
13.	その他のオペラ研究 （正歌劇と喜歌劇・創作オペラ） 立稽古③	表現の拡大。
14.	その他のオペラ研究 （正歌劇と喜歌劇・創作オペラ） 立稽古④	確認。
15.	総括	音楽と演技（演奏表現）の関連性をどのように感じられるようになったかを再考し、より豊かな感性を磨けるよう方向付けをする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	70	授業の積極的に参加し、到達目標である自己改革への著しい変化がみられるようになったかを評価する。
発表	30	変化の在り方と演奏技術の向上を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。Eメール。

3M0900

伴奏法A

右近　　恭子

授業テーマ:

「ピアニスト」として演奏相手と対等に協力して音楽を創造する

授業の概要:

簡単な課題曲で伴奏曲全般の「譜読み」の仕方から学ぶ。 それは、ソロの勉強にも通じるものである。
自分が伴奏される立場であれば、どうしてほしいのかという想像力を働かせ、互いにディスカッションを重ねる。
次に共演者を伴い実際に楽曲を演奏し、問題点をみつけていく。 そこでは共演者同士のディスカッションだけではなく、受講者同士のディスカッションも促す。

到達目標:

この授業は「伴奏法」という名前での登録だが、実際に学ぶのは狭義の「伴奏」のみにはとどまらない。 器楽や声楽と共に演奏する、ソナタやリートなどの二重奏（ピアノは対等） また「伴奏」と言っても、元からピアノパートとして書かれているものだけではなく、本来はオーケストラが担当する部分をピアノで弾くこともある。 それぞれの楽曲からピアニストに求められることを見極め、共演者の特徴を瞬時に把握し、ディスカッションができるだけの分析力を身につけることで、ともに豊かな音楽を奏でることを目標とする。

授業方法:

演奏実習、それについての意見発表、グループディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	伴奏（共演）者の心得	事前に課題曲を学習しておく。 ソロパートも弾けるようにしておく。
2.	簡単な課題曲での学習①	同上
3.	簡単な課題曲での学習②	同上
4.	中程度の課題曲での学習①	同上
5.	中程度の課題曲での学習②	同上
6.	伴奏曲（協奏曲、オペラなど）	事前に各自用意した曲を共演者と共に練習しておく
7.	伴奏曲（協奏曲、オペラなど）	同上
8.	伴奏曲（器楽曲、声楽曲など）	事前に各自用意した曲を共演者と共に練習しておく
9.	伴奏曲（器楽曲、声楽曲など）	同上
10.	伴奏曲（器楽曲、声楽曲など）	同上
11.	重奏曲（リート、ソナタなど）	事前に各自用意した曲を共演者と共に練習しておく
12.	重奏曲（リート、ソナタなど）	同上
13.	重奏曲（リート、ソナタなど）	同上
14.	重奏曲（リート、ソナタなど）	同上
15.	まとめと総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

「伴奏」者次第で、演奏される音楽の出来、聴き手に与える印象は大きく変わります。 単なる受け身の伴奏者ではなく、音楽の一方の語り手として積極的にソリストと共に表現していく意欲を、授業を通じて育ててください。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演奏・発表等の評価	50%	到達目標を自覚しつつ主体的な表現ができているかで評価する。
授業の積極的な参加度	50%	積極的に授業に参加し、意見発表等において到達目標が自覚できているかで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内での応対
クラスグループlineでも対応

3M1000

伴奏法B

船橋　　美穂

授業テーマ:　伴奏におけるピアノ奏法の探求

授業の概要:　共演者を伴って学生一人一人が順番に楽曲を伴奏していく。
その演奏に関して学生と意見交換をし、問題提起、その解決法を探る。

到達目標:　共演者としての伴奏は、音楽を創造する上で重要な役割を担っており、様々な楽器との共演、また声楽との歌曲、オペラの伴奏を経験することにより、音楽を総合的に把握する力を高める。また共演者との呼吸の合わせ方、ピアノの音色の変化、音量のバランスの取り方などを学ぶ。

授業方法:　演奏実習、それについてのディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	声楽における伴奏について	事前に各自用意した声楽曲を共演者とともに練習しておく。
2.	声楽曲①	同上
3.	声楽曲②	同上
4.	声楽曲③	同上
5.	声楽曲④	同上
6.	声楽曲⑤	同上
7.	弦楽器における伴奏について	事前に各自用意した弦楽器のための作品を共演者とともに練習しておく。
8.	弦楽器①	同上
9.	弦楽器②	同上
10.	管楽器における伴奏について	事前に各自用意した管楽器のための作品を共演者とともに練習しておく。
11.	管楽器①	同上
12.	管楽器②	同上
13.	管楽器③	同上
14.	打楽器	事前に各自用意した打楽器のための作品を共演者とともに練習しておく。
15.	まとめと総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　伴奏は単なる添え物ではなく音楽を作り上げていく上で重要な役割を担っています。相手の演奏を聴きながら弾くこと、相手の個性を尊重しながら芸術性を高めるにはどうすればよいかを研究することは自分の演奏技術、また精神面での成長にもつながるのではないかと思います。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演奏・発表等の評価	50%	到達目標を自覚しつつ主体的な表現が出来ているかで評価する。
授業の積極的な参加度	50%	積極的に授業に参加し、意見発表等において到達目標が自覚できているかで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

3M1100

鍵盤楽器奏法研究A

河江　　優、植山　　けい

授業テーマ:
・伝統と様式をふまえたピアノ演奏
・チェンバロ作品から考察するバロックの鍵盤作品

授業の概要:
・学生による演奏実習を行いながら、教員によるアドヴァイスと学生による意見交換を行う。
・講義とチェンバロ実習により、チェンバロ奏法とチェンバロ表現の特徴を学ぶ。

到達目標:
・作曲家や時代ごとのスタイルを考えた演奏解釈ができる。
・チェンバロ奏法と表現技術を学び、バロック 音楽の様式を理解する。

授業方法:
ピアノによる授業は8回、チェンバロは7回、講義と演奏実習を各回組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	チェンバロの楽器構造と奏法	チェンバロの構造を理解し、奏法を学ぶ。
2.	J.S.バッハ:「インベンション」自筆譜と原典版の比較。	使用する楽譜の相違点を認識する。
3.	実践編　J.S.バッハ:「インベンションとシンフォニア」をチェンバロで演奏	各自弾いたことのある曲をチェンバロで演奏。(インベンション、シンフォニア各1曲準備する)
4.	舞曲の特徴 (アルマンド、クーラント、サラバンド、ジグ)	舞曲の拍感や様式を学ぶ。
5.	実践編　舞曲の特徴	各自弾いたことのある曲をチェンバロで演奏。(組曲より舞曲を数曲準備する)
6.	J.S.バッハ: パルティータの初版譜と原典版の対比	使用する楽譜の相違点を認識する。
7.	実践編　J.S.バッハ: パルティータの分析とチェンバロ奏法	授業前に任意のパルティータを予習し、授業後に復習する。
8.	J.S.バッハの作品について①	前週までのチェンバロでの実践を踏まえ、ピアノでのバッハ演奏について改めて考える。
9.	J.S.バッハの作品について②	各自これまで弾いたことのある曲を準備する。
10.	ウィーン古典派作品について①	同上
11.	ウィーン古典派作品について②	同上
12.	ロマン派作品について①	同上
13.	ロマン派作品について②	同上
14.	近現代作品について①	同上
15.	近現代作品について②	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:
特にチェンバロ演奏について・・・チェンバロのタッチと表現はとても繊細です。弦がはじく感覚を学びましょう。

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演奏実習と準備学習	50%	演奏発表の内容やそれに向けた取り組みを評価する。
授業への参加度	50%	出席を含む授業への積極的な参加度を評価する。

教科書:
チェンバロの授業では、J.S.バッハ 「インベンションとシンフォニア」「パルティータ」 (原典版) その他配布プリントを使用
ピアノの授業では、各自演奏する曲の楽譜

参考書:
J.S.バッハ 「インベンションとシンフォニア」原典版(ヘンレ版、ベーレンライター版、ウィーン原典版のいずれか)
J.S.バッハ 「パルティータ」原典版(ヘンレ版、ベーレンライター版、ウィーン原典版のいずれか)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己表現力

教員との連絡方法:
授業後に教室内で対応、またはマナビーの掲示板機能を利用

3M1200

鍵盤楽器奏法研究B

中野　　慶理、中山　　幾美子

授業テーマ:
第1回～第7回:自分の音を聴く耳を養い、ピアノ曲においても譜読みや解釈の助けとなることをめざす。
第8回～第15回:修了試験へ臨んでいくにあたり、自分の感性を生かし、かつ楽曲の内容に沿う創造的な演奏を目指す。

授業の概要:
第1回～第7回:バロックやロマン派などのオルガン曲に触れ、タッチの違い等について学ぶ。実際にオルガンを演奏するときの最低限の知識を得る。
第8回～第15回:自分がこれまで学習してきた楽曲を振り返り、積み上げてきたレパートリーを再確認しつつ、自分の演奏上の課題を見据え、修了試験へ向けて演奏する楽曲の分析等も行いつつ、その準備に役立てていく。

到達目標:
第1回～第7回:自分の音を聴く耳を養い、ピアノ曲においても譜読みや解釈の助けとなることをめざす。
第8回～第15回:自分の演奏上の課題について自覚し、自分一人でもある程度曲を仕上げていくことの出来る練習方法を見出していくことを目指す。

授業方法:
第1回～第7回:主に手だけで弾けるオルガン曲を使って、実際にオルガンを弾いてみる。
第8回～第15回:演奏、口頭発表、討論(演奏する楽曲について等)をしていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オルガンの基本構造と基本奏法①	学部で学んだことを復習しておく。
2.	オルガンの基本奏法②(主にバロック)	課題の譜読み、練習をしておく。
3.	ドイツロマン派のオルガン曲①	課題の譜読み、練習をしておく。
4.	ドイツロマン派のオルガン曲②	前回の復習、練習をする
5.	オルガンでの伴奏(声楽曲)①	課題の譜読み、練習をしておく。
6.	オルガンでの伴奏(声楽曲)②	同上。できれば歌とあわせる。
7.	オルガンでの伴奏(通奏低音)	課題の譜読み、練習をしておく。
8.	これまでの学習を振り返り、自分の現在における演奏上の課題を確認する	これまで弾いてきた楽曲を復習しておく。
9.	練習の仕方について考える①	同上
10.	練習の仕方について考える②	修了試験で演奏する楽曲を準備していく。
11.	修了試験で演奏する楽曲の構造を分析する	同上
12.	修了試験で演奏する楽曲のバックグラウンドを知る	同上
13.	練習の仕方について考える③	同上
14.	修了試験を前にして考えておくことの確認	同上
15.	修了試験の予行演習	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:
第1回～第7回:　R.シューマンは、オルガンを練習するチャンスがあれば逃してはならない、と書き残しています。これほど正直に返してくる楽器は無いからです。このチャンスを生かし、耳を使って弾く練習をしてください。
第8回～第15回:様々な知識を得ることの目的は、自分一人でも楽曲を仕上げていくことの出来るスキルを身に着けていくことです。自分の演奏についての自覚を持ち、自分自身の演奏を論理的に説明できるようになりましょう。

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加態度	60%	出席を含む授業への積極的な態度
授業での演奏内容等	40%	授業での注意点などに留意した演奏が出来ているか

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対

3M1401、02、
3M1501、02

オーケストラⅠ、オーケストラⅡ

関谷　　弘志

授業テーマ:　優れた吹奏楽・管弦楽作品の研究と演奏。

授業の概要:　合奏における基本的な演奏能力を身につけるとともに、作曲家と作品に対する理解を深め、演奏会に向けて一曲一曲を仕上げていく。その過程で、他のセクションやパートを聴く力を養い、自分のパートの持つ役割を体得し実践していく。

到達目標:　自らのパートのみならず、全体のオーケストレーションを理解し、更には技術的安定と、より高度なアンサンブル技術を身につけることを目標とする。

授業方法:　分奏、合奏授業をバランスよく行い、定期公演に向けて楽曲を仕上げていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）①	事前の自主練習①
2.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）②	事前の自主練習②
3.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）③	事前の自主練習③
4.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）④	事前の自主練習④
5.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）①	スコアの研究①
6.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）②	スコアの研究②
7.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）③	スコアの研究③
8.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）④	スコアの研究④
9.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）①	より積極的なパート練習①
10.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）②	より積極的なパート練習②
11.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）③	より積極的なパート練習③
12.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）④	より積極的なパート練習④
13.	総合練習 （演奏会の準備）①	演奏会に向けての自主練習①
14.	総合練習 （演奏会の準備）②	演奏会に向けての自主練習②
15.	総合練習 （演奏会の準備）③	演奏会に向けての自主練習③

受講者へのメッセージやアドバイス:　優れた吹奏楽・管弦楽作品に精通し、演奏能力を高め、作曲家と作品に対する深い敬意をもって、それぞれの楽曲の奥深さを学びましょう。

フィードバックの方法:　日頃の授業に対する積極的参加度や姿勢、合奏の総合的な到達度を、授業の中で随時コメントしていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	80	授業への出席状況を見る
技術的到達度	20	演奏への参加姿勢を見る

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室にて対応。

3M1501

オーケストラⅡ

関谷　　弘志

授業テーマ:　優れた吹奏楽・管弦楽作品の研究と演奏。

授業の概要:　合奏における基本的な演奏能力を身につけるとともに、作曲家と作品に対する理解を深め、演奏会に向けて一曲一曲を仕上げていく。その過程で、他のセクションやパートを聴く力を養い、自分のパートの持つ役割を体得し実践していく。

到達目標:　自らのパートのみならず、全体のオーケストレーションを理解し、更には技術的安定と、より高度なアンサンブル技術を身につけることを目標とする。

授業方法:　分奏、合奏授業をバランスよく行い、定期公演に向けて楽曲を仕上げていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）①	事前の自主練習①
2.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）②	事前の自主練習②
3.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）③	事前の自主練習③
4.	合奏の基本練習 （音程・リズム・アインザッツ・バランス）④	事前の自主練習④
5.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）①	スコアの研究①
6.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）②	スコアの研究②
7.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）③	スコアの研究③
8.	合奏の応用 （音色感を磨く・楽曲を深く知る）④	スコアの研究④
9.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）①	より積極的なパート練習①
10.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）②	より積極的なパート練習②
11.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）③	より積極的なパート練習③
12.	演奏実践 （演奏会を意識した総合練習）④	より積極的なパート練習④
13.	総合練習 （演奏会の準備）①	演奏会に向けての自主練習①
14.	総合練習 （演奏会の準備）②	演奏会に向けての自主練習②
15.	総合練習 （演奏会の準備）③	演奏会に向けての自主練習③

受講者へのメッセージやアドバイス:　優れた吹奏楽・管弦楽作品に精通し、演奏能力を高め、作曲家と作品に対する深い敬意をもって、それぞれの作品の奥深さを学びましょう。

フィードバックの方法:　日頃の授業に対する積極的参加度や姿勢、合奏の総合的な到達度を、授業の中で随時コメントしていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	80	授業への出席状況を見る
技術的到達度	20	演奏への参加姿勢を見る

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室にて対応。

3M1600

楽曲分析Ⅰ

成田　　和子

授業テーマ:　楽曲の分析と解釈

授業の概要:　声楽曲、室内楽曲、協奏曲、アンサンブル曲、管弦楽曲、カンタータやオペラなど、さまざまなジャンルや編成のために作曲された作品を分析する。それぞれの作品の時代的背景、楽曲の様式や形式、書法や楽器法、和声やリズムなど、さまざまな視点から細かく分析し、作品の音楽的発想、表現や概念の独自性を探る。授業では、ある1人の作曲家の作品を集中的に取り上げたり、ジャンルや編成を同じくする2人の作曲家の作品を対比させたりして学ぶ。

到達目標:　中世からバロックまでのさまざまな編成のために作曲された、代表的作曲家の主要作品を学び、それらの作品の分析を行うことで、楽曲の正確な理解力と分析力を養い、音楽実技や音楽教育における応用力を修得する。

授業方法:　講義、演習、視聴, ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:中世からバロック期までの音楽の流れ	準備
2.	ギヨーム・ド・マショーの宗教曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
3.	ギヨーム・ド・マショーの世俗曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
4.	クラウディオ・モンテヴェルディの声楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
5.	クラウディオ・モンテヴェルディの歌劇の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
6.	ジロラーモ・フレスコバルディの器楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
7.	ジャン＝バティスト・リュリの舞踏喜劇1.の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
8.	ジャン＝バティスト・リュリの舞踏喜劇2.の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
9.	ヘンリー・パーセルの頌歌の分析を行う	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
10.	ヘンリー・パーセルの歌劇の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
11.	ジャン＝フィリップ・ラモーのクラヴサン作品の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
12.	ルイ・クープランとフランソワ・クープランのクラヴサン作品の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
13.	ヨハン・セバスティアン・バッハの合奏協奏曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
14.	ヨハン・セバスティアン・バッハの受難曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
15.	まとめ:音楽作品が作曲された時代的背景と作品の形式について考察する。	レジュメをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レジュメ	59	
平常点	41	授業への取り組み、ディスカッションなど

教科書:

参考書:　楽譜、スコア
プリントを授業時に配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

3M1700

楽曲分析Ⅱ

成田　　和子

授業テーマ:　楽曲の分析と解釈

授業の概要:　声楽曲、室内楽曲、協奏曲、アンサンブル曲、管弦楽曲、オペラなど、さまざまなジャンルや編成のために作曲された作品を分析する。それぞれの作品の時代的背景、楽曲の様式や形式、書法や楽器法、和声やリズムなど、さまざまな視点から細かく分析し、作品の音楽的発想、表現や概念の独自性を探る。授業では、ある1人の作曲家の作品を集中的に取り上げたり、ジャンルや編成を同じくする2人の作曲家の作品を対比させたりして学ぶ。

到達目標:　古典派から近代までのさまざまな編成のために作曲された、代表的作曲家の主要作品を学び、それらの作品の分析を行うことで、楽曲の正確な理解力と分析力を養い、音楽実技や音楽教育における応用力を修得する。

授業方法:　講義、演習、視聴, ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルトの室内楽曲の分析を行う。	準備
2.	ヴォルフガング・アマデウス・モーツアルトの歌劇の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
3.	フランツ・シューベルトの歌曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
4.	フランツ・シューベルトの室内楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
5.	ロベルト・シューマンの歌曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
6.	ロベルト・シューマンの室内楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
7.	ヨハネス・ブラームスの室内楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
8.	ヨハネス・ブラームスの管弦楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
9.	ジュゼッペ・ヴェルディの宗教音楽の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
10.	ジュゼッペ・ヴェルディのオペラの分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
11.	アントニン・ドヴォルザークの協奏曲分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
12.	アントニン・ドヴォルザークの管弦楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
13.	クロード・ドビュッシーのピアノ曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
14.	クロード・ドビュッシーの管弦楽曲の分析を行う。	課題曲の読譜を行う。レジュメを書く。
15.	まとめ：音楽作品が作曲された時代的背景と作品の形式について考察する。	レジュメをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レジュメ	59	
平常点	61	授業への取り組み、ディスカッションなど

教科書:

参考書:　楽譜、スコア
プリントを授業時に配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

3M1800

楽書講読Ⅰ

稲田　　雅美

授業テーマ:　音楽理論および音楽作品に関する英語文献の講読

授業の概要:　演奏技術を高める糧となるように，英語文献を通じてより高度な音楽知識を習得し，学問的思索を行う。とくに，音楽史上の主な作曲家や作品についての知識を習得することにより，各時代の文化的背景について考察する。

到達目標:
・英語文献の精読を通して，高度な音楽知識を習得する。
・英語文献の精読を通して，作曲家や音楽作品の理解と時代背景についての考察を深める。

授業方法:　訳読形式。各自が作成した訳文を発表し，内容理解の確認と内容に関する討議を行う。
また，小グループで訳文を作成して発表することも行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：音楽用語の整理	学習した音楽用語をノートに整理し，覚える。
2.	ルネサンス，バロック時代の音楽と作曲家(1)	教材文献にあらかじめ目を通し英文の構造や内容の理解に努める。 学習した箇所については訳文を作成して整理する。
3.	ルネサンス，バロック時代の音楽と作曲家(2)	同上
4.	ルネサンス，バロック時代の音楽と作曲家(3)	同上
5.	総括と小テスト(1)	既習文献の総復習
6.	古典派，ロマン派の音楽と作曲家(1)	教材文献にあらかじめ目を通し英文の構造や内容の理解に努める。 学習した箇所については訳文を作成して整理する。
7.	古典派，ロマン派の音楽と作曲家(2)	同上
8.	古典派，ロマン派の音楽と作曲家(3)	同上
9.	総括と小テスト(2)	既習文献の総復習
10.	近現代の音楽と作曲家(1)	教材文献にあらかじめ目を通し英文の構造や内容の理解に努める。 学習した箇所については訳文を作成して整理する。
11.	近現代の音楽と作曲家(2)	同上
12.	近現代の音楽と作曲家(3)	同上
13.	総括と小テスト(3)	既習文献の総復習
14.	CDの曲目解説を抄訳する	教材にあらかじめ目を通し，抄訳を作成する。
15.	楽譜の曲目解説を抄訳する	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　日ごろから，自分が演奏する楽曲などについて，英語で書かれた曲目解説を積極的に読む努力をすること。

フィードバックの方法:　テストは採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席およびクラス参加度	25%	授業への積極的な参加と予習状況について評価する。
小テスト合計	75%	到達目標における，英語を通した，音楽に関する高度な知識の習得と作曲家/作品の理解ができていることを評価する。

教科書:　プリント配布による。

参考書:　授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

3M1900

楽書講読Ⅱ

稲田　　雅美

授業テーマ:　音楽発達および音楽教育に関する英語文献の講読。

授業の概要:　音楽発達や音楽心理学に関する英語文献の講読を通して，小児期・青年期における音楽技能の獲得過程や音楽教育のあり方について考察する。

到達目標:
・音楽発達，音楽心理学，音楽教育に関する語彙や知識を英語により習得する。
・英語文献を精読することを通して，音楽教育のあり方を考察する力を養う。

授業方法:　訳読形式。各自が作成した訳文を発表し、内容理解の確認と内容に関する討議を行う。
また，小グループで抄訳を作成して発表することも行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：音楽用語の整理	学習した音楽用語をノートに整理し，覚える。
2.	音楽発達に関する小論（1）	教材文献にあらかじめ目を通し，英文の構造や内容の理解に努めること。学習した箇所については訳文を作成して知識を整理する。
3.	音楽発達に関する小論（2）	同上
4.	音楽発達に関する小論（3）	同上
5.	内容のまとめと小テスト（1）	既習文献の総復習
6.	子どもの心理に関する小論(1)	教材文献にあらかじめ目を通し，英文の構造や内容の理解に努めること。学習した箇所については訳文を作成して知識を整理する。
7.	子どもの心理に関する小論(2)	同上
8.	子どもの心理に関する小論(3)	同上
9.	内容のまとめと小テスト（2）	既習文献の総復習
10.	音楽教育に関する論文 (1)	教材文献にあらかじめ目を通し，英文の構造や内容の理解に努めること。学習した箇所については訳文を作成して知識を整理する。
11.	音楽教育に関する論文 (2)	同上
12.	音楽教育に関する論文 (3)	同上
13.	音楽教育に関する論文 (4)	同上
14.	内容のまとめと小テスト(3)	既習文献の総復習
15.	音楽発達と音楽教育に関する総括	これまでのテストの見直しによる総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　英語の新聞や雑誌により，音楽に関する情報を得るよう日ごろからチャレンジしてほしい。

フィードバックの方法:　テストは添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席およびクラス参加度	25%	授業への積極的な参加および予習状況について評価する。
小テスト合計	75%	到達目標における，英語による専門語彙や知識の習得度を評価する。

教科書:　プリント配布による。

参考書:　授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

3M2000

音楽外国語Ⅰ

椎名　　亮輔

授業テーマ:　音楽フランス語

授業の概要:　英語以外の外国語（本講義ではフランス語）による音楽文献の講読は、西洋音楽を専門とする者にとって必須である。その能力をできるかぎり獲得することを目標とする。

到達目標:　フランス語初級文法の能力を、積極的に授業に参加することにより、獲得することを目標とする。

授業方法:　フランス語の初級文法の説明・練習を行う。その際に、特殊音楽的用語の扱いについて、特に注意する点を説明に付け加えて行く。具体的には、文法の説明・練習を視聴覚教材を用いて進めて行く。発音や聞き取りの練習も行う。毎回宿題を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習1	当該部分の予習復習
2.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習2	当該部分の予習復習
3.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習3	当該部分の予習復習
4.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習4	当該部分の予習復習
5.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習5	当該部分の予習復習
6.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習6	当該部分の予習復習
7.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習7	当該部分の予習復習
8.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習8	当該部分の予習復習
9.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習9	当該部分の予習復習
10.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習10	当該部分の予習復習
11.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習11	当該部分の予習復習
12.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習12	当該部分の予習復習
13.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習13	当該部分の予習復習
14.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習14	当該部分の予習復習
15.	まとめ	全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回の宿題の返却とコメント・解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加と宿題提出	55	授業に積極的に参加しているか、宿題をきちんと提出しているかを評価する
試験	45	フランス語初級文法の学んだ事項をきちんと自分のものとしているかどうかを評価する

教科書:　《新版》ピエールとユゴー、白水社

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール：rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

3M2100

音楽外国語Ⅱ

椎名　　亮輔

授業テーマ:　「音楽外国語I」のつづき

授業の概要:　英語以外の外国語（本講義ではフランス語）による音楽文献の講読は、西洋音楽を専門とする者にとって必須である。その能力をできるかぎり獲得することを目標とする。

到達目標:　「音楽外国語I」につづいて、フランス語初級文法の能力を、積極的に授業に参加することにより、獲得することを目標とする。

授業方法:　「音楽外国語I」につづいて、フランス語の初級文法の説明・練習を行う。その際に、特殊音楽的用語の扱いについて、特に注意する点を説明に付け加えて行く。具体的には、文法の説明・練習を視聴覚教材を用いて進めて行く。発音や聞き取りの練習も行う。毎回宿題を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習1	当該部分の予習復習
2.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習2	当該部分の予習復習
3.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習3	当該部分の予習復習
4.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習4	当該部分の予習復習
5.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習5	当該部分の予習復習
6.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習6	当該部分の予習復習
7.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習7	当該部分の予習復習
8.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習8	当該部分の予習復習
9.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習9	当該部分の予習復習
10.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習10	当該部分の予習復習
11.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習11	当該部分の予習復習
12.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習12	当該部分の予習復習
13.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習13	当該部分の予習復習
14.	音楽フランス語初級文法についての説明と練習14	当該部分の予習復習
15.	まとめ	全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回の宿題の返却とコメント・解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加と宿題提出	55	授業に積極的に参加しているか、宿題をきちんと提出しているかを評価する
試験	45	フランス語初級文法の学んだ事項をきちんと自分のものとしているかどうかを評価する

教科書:　《新版》ピエールとユゴー、白水社

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール：rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

3M2200

アンサンブルⅠ

音楽未定10

授業テーマ: 室内楽実技

授業の概要: 音楽専攻科生を対象とするアンサンブル実技。学部科目「室内楽」と合同開催。

到達目標: 各グループの学習状況に応じた課題により、和声や音量バランスなど複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現方法について学ぶ。

授業方法: あらかじめ登録されたグループごとの個別指導によりおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	グループごとの個別指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。
2.	グループごとの個別指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
3.	グループごとの個別指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	グループごとの個別指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	グループごとの個別指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	グループごとの個別指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	グループごとの個別指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	グループごとの個別指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	グループごとの個別指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	グループごとの個別指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	グループごとの個別指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	グループごとの個別指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	グループごとの個別指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	グループごとの個別指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	グループごとの個別指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合は、返却方法も含め教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の和声や音量バランスなど、複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現力が養われているか評価する。

教科書: グループ各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: グループ各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法: 授業時に個別に伝達する。

3M2300

アンサンブルⅡ

音楽未定10

授業テーマ: 室内楽実技

授業の概要: 音楽専攻科生を対象とするアンサンブル実技。学部科目「室内楽」と合同開催。

到達目標: 各グループの学習状況に応じた課題により、和声や音量バランスなど複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現方法について学ぶ。

授業方法: あらかじめ登録されたグループごとの個別指導によりおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	グループごとの個別指導①	授業で演奏する楽曲を練習・準備しておく。
2.	グループごとの個別指導②	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
3.	グループごとの個別指導③	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
4.	グループごとの個別指導④	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
5.	グループごとの個別指導⑤	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
6.	グループごとの個別指導⑥	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
7.	グループごとの個別指導⑦	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
8.	グループごとの個別指導⑧	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
9.	グループごとの個別指導⑨	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
10.	グループごとの個別指導⑩	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
11.	グループごとの個別指導⑪	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
12.	グループごとの個別指導⑫	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
13.	グループごとの個別指導⑬	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
14.	グループごとの個別指導⑭	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。
15.	グループごとの個別指導⑮	前回の授業で教員が指摘した注意点に基づき、グループで取り組んでいる楽曲の演奏面において復習・改善し、さらに理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 提出物等がある場合は、返却方法も含め教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験	100%	到達目標の和声や音量バランスなど、複数人における演奏調和のための技法を体得し、アンサンブルならではの表現力が養われているか評価する。

教科書: グループ各々に対応した楽譜等をその都度指定する。

参考書: グループ各々に対応した資料を適宜指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法: 授業時に個別に伝達する。

3M2400

指揮法研究Ⅰ

森　　香織

授業テーマ:

授業の概要:
ピアノ曲等の様々な楽曲を順を追って取り上げながら、指揮をするための技術を身につけていく。また、指揮をするという観点から楽曲分析等の力を養い、学生それぞれが専門としている楽器演奏へ活かしながら、演奏の幅を広げていくことを目標とする。
簡単な楽曲を授業の最後には学生自身で分析・指揮を行えるようにする。

到達目標:
・基本的な指揮の技術を習得する。
・簡単なピアノ曲を自身で楽曲分析できる。
・簡単なピアノ曲を自身で指揮することが出来る。

授業方法:
学生によるピアノ連弾による演奏で、他の学生一人が指揮を振る形態で進める。(ピアノ連弾の代わりに専門の楽器、声楽での参加も可能)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	指揮法の基本　2拍子と2拍子を含む楽曲の演習	–
2.	指揮法の基本　3拍子と3拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
3.	指揮法の基本　4拍子と4拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
4.	指揮法の基本　5拍子と5拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
5.	指揮法の基本　6拍子と6拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
6.	指揮法の基本　7拍子と7拍子を含む楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
7.	指揮法の基本　3/8、6/8、9/8と楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
8.	指揮法の基本　3/8、6/8、9/8と楽曲の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
9.	Waltz振り演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
10.	Waltz振り演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
11.	変拍子の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
12.	変拍子の演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
13.	楽曲分析と演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
14.	楽曲分析と演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)
15.	楽曲分析と演習	次回曲の予習(ピアノの演奏を含む)

受講者へのメッセージやアドバイス:
大学を卒業してからの小・中・高校生向けの音楽指導の場面や、アンサンブル・吹奏楽の指導等の際に役立てて頂けると嬉しいです。

フィードバックの方法:
教室で纏めて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業での発表	50	指揮法、楽曲分析の正しい理解、応用を基準とする
授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、楽曲の理解、指揮が出来るようになったかを評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対

3M2500

指揮法研究Ⅱ

森　　香織

授業テーマ:

授業の概要:
指揮をするための基本技法を反復しながら弦楽器、管楽器、打楽器の楽譜に触れる。それらの簡単なアンサンブル曲を読みながら、実際、指揮をしてみることにチャレンジする。
卒業後、これらの簡単なアンサンブル曲を自分の力で読み、指揮できることを目標とする。

到達目標:
・弦楽器、管楽器、打楽器の簡単な楽譜を読むことが出来る。
・簡単なアンサンブル曲を自身で楽曲分析できる。
・簡単なアンサンブル曲を自身で指揮できる。

授業方法:
学生によるピアノ連弾で、他の学生一人が指揮を振る形態で進める。(ピアノ連弾については専門の楽器での参加も可能)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	弦楽器の楽譜の読み方と演習	–
2.	弦楽器の楽譜の読み方と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
3.	管楽器の楽譜の読み方と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
4.	管楽器の楽譜の読み方と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
5.	打楽器の楽譜の読み方と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
6.	打楽器の楽譜の読み方と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
7.	吹奏楽の楽譜の読み方と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
8.	吹奏楽の楽譜の読み方と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
9.	合唱曲の楽譜の読み方と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
10.	合唱曲の楽譜の読み方と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
11.	交響曲の分析と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
12.	交響曲の分析と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
13.	交響曲の分析と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
14.	交響曲の分析と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)
15.	交響曲の分析と演習	次回曲の予習(ピアノでの演奏を含む)

受講者へのメッセージやアドバイス:
大学を卒業してからの小・中・高校生向けの音楽指導の場面やアンサンブル、吹奏楽の指導等の機会の際、役立ててもらえると嬉しいです。

フィードバックの方法:
教室で纏めて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業での発表	50	指揮法、楽曲分析の正しい理解、応用を基準とする
授業への参加度	50	積極的に授業に参加し、楽曲の理解、指揮が出来るようになったかを評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対

3M2600

京都の音・音楽Ⅰ

仲　　万美子

授業テーマ:　文化の発信地としての京都の＜伝統音楽および民俗音楽＞の様相を探る旅

授業の概要:　近代西洋芸術文化を受容した以後の近代日本音楽史は、東京を中心に語られることが多いが、それまでの千年を超える「京都」で育まれた音、音楽が、「日本の音楽」というコンテクストのなかで大きな位置をしめていることは言うまでもない。そして「都」が東京に移ってからも、京都では新しい音・音楽を発展させ、国内外に発信しつづけている。その発展の様子を理解し、国内はもとより世界においても芸術教育に携わる可能生を秘めた音楽家としての未来の諸活動のヒントを、日本の伝統音楽の宝庫から探りあてよう。

到達目標:　本講義 Iでは、京都に鳴り響いた日本伝統音楽・民俗音楽の世界について、その源流および伝播した他地域との関係を視野にいれて探る。宮廷、神社仏閣、娯楽の空間で、音楽を学びたしなむ人々がどのようにそれらの音楽を受けとめ、そして他地域にどのような影響をもたらしたかについても探り、現代観光都市として活発な文化交流を展開している京都人にとって、1）伝統音楽がどのような意味をもっているか，2）現代都市空間を創造していく上で、観光資源としてどのように音／音楽を有効活用しているか，3）京都を表象する音楽がどの様に創作され、国内はもとより世界で上演されているかを認識し、自分の将来の音楽活動に応用できるか、その可能性を探ることがもとめられる。

授業方法:　講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	京都の音・音楽をどのように探るのか 京都の音・音楽をどのように捉え、どのように探っていくかについての説明を行う。	
2.	平安京に鳴り響いた音・音楽の世界：貴族や民衆が愛好した音楽 宮廷の音楽の代表である「雅楽」をふくめ当時の物語に描かれた京都の音楽の世界を探り、欧米人にどのように受けとめられているか。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
3.	中世に鳴り響き始めた音・音楽の世界とその展開：能・狂言の世界 笑いをテーマとする「狂言」、そして武士のたしなみとしての「能楽」の魅力について、世界の人々はどのように感じているか	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
4.	中世に鳴り響き始めた音・音楽の世界とその展開：テキストを語り、魂を揺さぶる世界 琵琶の伴奏による「平曲」で奏でられる京の世界、そして異邦人が琵琶を奏でる意義について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
5.	中世に鳴り響き始めた音・音楽の世界とその展開：仏教音楽・仏教芸能の世界 比叡山延暦寺をはじめ仏教寺院に鳴り響いた「声明」などの仏教音楽および仏教芸能について、世界での実演を含めてその「声の力」について考える。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
6.	近世に鳴り響き始めた音・音楽の世界：歌舞伎・文楽の世界 歌舞伎、文楽にみる「上方の芸能」の音楽の魅力と伝承のあり方について、海外での上演を含めてパフォーマーとオーディエンスが何を大切にしているかを探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
7.	近代京都に出現した「劇場」での舞台芸術の上演について 能楽や歌舞伎の専門劇場の創設の背景と上演のシステムについて探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
8.	近代に鳴り響いた音・音楽の世界：能・歌舞伎の海外公演 20世紀の能の海外公演の意味について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
9.	近代に鳴り響いた音・音楽の世界：能・歌舞伎の海外公演 21世紀の歌舞伎の海外公演の意味について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
10.	「京都」を描いた作品が、西洋音楽のスタイルで表現される場合 オペラとオーケストラ作品を事例に探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
11.	観光資源となっている京都市内の春の踊りを彩る音・音楽の世界 京に春の到来をつげる「都／北野／鴨川おどり」を支える「女性の舞」の魅力について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
12.	観光資源として活用される文化都市京都に響く音・音楽の世界 京都の祭りを代表する「葵／祇園／時代祭り」で響き渡る音・音楽の魅力について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
13.	京都の大学で展開される伝統芸術のパフォーマンスについて 京都の国立／私立大学の邦楽サークルで伝統文化に親しむことの魅力について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
14.	京都学生祭典で鳴り響いた音・音楽の世界 21世紀に登場した大学生自らが運営する京都学生祭典に鳴り響く音・音楽の魅力について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
15.	21世紀に京都で学んだ西洋音楽家としての視点からみた京都の伝統音楽の世界観について考える。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるもの）

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:　提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
	授業への参加度	55%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。

教科書: 特に指定しない。

参考書: 講義時に適宜、提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内て対応する

3M2700

京都の音・音楽Ⅱ

仲　　万美子

授業テーマ:　文化の発信地としての近代京都に鳴り響いた西洋の音や音楽文化の様相を探る旅

授業の概要:　近代西洋芸術文化を受容した以後の近代日本音楽史は、東京を中心に語られることが多いが、「都」が東京に移ってからも、京都では新しい音・音楽を発展させ、国内外に発信しつづけている。その発展の様子を理解し、次世代の文化交流の担い手となる生徒に何を伝え、自ら世界に羽ばたく音楽家として行う諸活動のヒントを探りあてる。

到達目標:　本講義Ⅱでは、講義Ⅰで理解した京都に鳴り響いた伝統音楽／民俗音楽の音・音楽の意味を踏まえて、西洋音楽と遭遇した近代以降の京都の音、音楽の状況について認識を深めるため、音楽の専門教育の場、公教育の場、高等教育の場、娯楽空間での音楽実践の実態を振り返る。そして教授する人、学ぶ人、視聴する人にとって、西洋音楽を中心とする京都の音・音楽がどのような役割をはたしてきたかを理解する。さらに将来、京都あるいは他地域で音楽文化をプロデュースあるいは教授／演奏する際に、20世紀に生きた京都人の文化創成力をどのように活用できるかを考える。

授業方法:　講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	西洋音楽との出会い 京都で西洋音楽がいつ頃、どこで鳴り響いたかを知る。	
2.	幼稚園で鳴り響いた音楽の世界 全国でも早い時期から開かれた京都の幼稚園舎で鳴り響いていた音楽について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
3.	小学校で鳴り響いた音楽の世界 京都における初等教育の場で学んだ音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
4.	女学校で鳴り響いた音楽の世界 同志社女学校をはじめとする女学生が学んだ／演奏した音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
5.	中学校・高等学校で鳴り響いた音楽の世界 同志社英学校をはじめ男子中・高等学校生が学んだ／演奏した音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
6.	総合大学で鳴り響いた音楽の世界 京都大学など総合大学で鳴り響いた音・音楽の世界を考察し、そこでの学びを基にプロになった音楽家の活動について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
7.	音楽を専門に学ぶ大学で鳴り響いた音楽の世界 京都市立芸術大学をはじめ音楽を専門に学ぶ大学で鳴り響いた音楽の世界を考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
8.	社会人が参加する音楽団体で鳴り響いた音楽の世界 京都労音など市民が参加した団体の活動の内容とその特徴について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
9.	プロフェッショナルオーケストラで鳴り響いた音楽の世界 京都市立交響楽団などプロの団体の音楽活動の特徴について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
10.	外来演奏家が鳴り響かせた音楽の世界：明治・大正時代 明治・大正期に来京した世界の音楽家の公演活動について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
11.	外来演奏家が鳴り響かせた音楽の世界：昭和時代 昭和期に来京した世界の音楽家の公演活動について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
12.	公共ホールの音楽の世界 「京都コンサートホール」「京都府民ホールアルティ」「ロームシアター京都」などの啓蒙活動について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
13.	映画村で鳴り響いた音楽の世界 太秦映画村など京都で製作した／京都をテーマにした映画の音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
14.	カフェで鳴り響いた音楽の世界 京都市内のカフェなどで鳴り響いた音・音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
15.	京都・国際音楽学生フェスティバルで鳴り響いた音楽の世界 世界の代表的な音楽学校で学ぶ学生が京都に集い演奏した音楽の世界について考察する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるもの）

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:　提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
授業への参加度	55%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:	講義時に適宜、提示する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対する。

3M2800

宗教音楽Ⅰ

中山　　幾美子

授業テーマ:　キリスト教音楽(教会音楽)について、また西洋音楽一般との関係性

授業の概要:　キリスト教音楽は、特にバロック時代までは「礼拝」の中で位置づけられ、演奏されてきた。演奏会の中心がコンサートホールなどに移ってからも、現在までキリスト教音楽は作り続けられている。また、いわゆる「キリスト教音楽」というジャンルに含まれないような交響曲などにも、グレゴリオ聖歌やコラールの旋律が用いられたりしている。授業では歴史的に重要な曲のみならず、私たちが耳にしたり演奏したりする機会の多い曲をとり上げ、それらの音楽の本来の目的や姿を知り、音楽を理解する助けにしたい。

到達目標:
・西洋音楽の源流ともいえるグレゴリオ聖歌からの流れを知る。
・レクイエムを含むミサ及びミサ曲の形や内容を理解し、演奏時の表現に活かす。
・ミサ曲の歴史的な変化について把握する。
・聖務日課とそこで用いられる音楽についての知識を得る。

授業方法:　プリントによる資料、楽譜、CD等の音源を用いる。講義が中心だが、受講生の専攻や人数を考慮して行う。それにより可能な限り実際に音に出してみたい。個人またはグループで発表する場を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. 導入:宗教音楽、キリスト教音楽とは何か / キリスト教音楽の基礎的な知識の確認	キリスト教やその音楽の用語について、自分の知識を整理しておく
2.	キリスト教音楽の源流:ユダヤ教の音楽～単声聖歌	ユダヤ教とキリスト教の関係について知っておくことが望ましい
3.	グレゴリオ聖歌とその影響	授業で取り上げた曲の全体を聴く
4.	聖務日課とミサの構成(Mozartを参考に)	授業で指示する参考文献を読む
5.	バロック以前のミサ曲	関連する音楽史の復習
6.	バロックのミサ曲	授業中に聴けなかった部分を聴いたり、楽譜を参照する
7.	バッハのミサ曲～「ロ短調ミサ」を中心に	同上 ミニレポートの準備
8.	古典派以降のミサ曲	同上
9.	レクイエム①	参考文献を読む
10.	レクイエム②	授業中に聴けなかった部分を聴いたり、楽譜を参照する
11.	マニフィカート	授業中に聴けなかった部分を聴いたり、楽譜を参照する
12.	Ave Mariaと4つの聖母マリアの賛歌について	参考文献を読む
13.	研究発表(1)	研究発表の用意
14.	研究発表(2)	研究発表の用意
15.	研究発表(3)またはオルガン・ミサ曲について	研究発表の用意

受講者へのメッセージやアドバイス:
　キリスト教を抜きにして、西洋音楽を語ったり演奏することはできません。一見馴染みが薄く、難しく感じられるかもしれませんが、知らない間に耳にしたり演奏したりしている旋律も、実は教会音楽と深く関係しているかもしれません。卒業後も音楽を続けていく中で必要になる知識を得、活かしてほしいと思います。
　春学期はミサ曲を中心に、主にカトリックの音楽を学びますが、授業にも主体的に関わってください。具体的に取り上げる曲については、出来るだけ専攻を考慮しますが、自分の専門に偏らず、幅広く見識を身に着けてください。

フィードバックの方法:
ミニ・レポートは、授業中にコメントし返却する。
研究発表のまとめであるレポートは、採点後に返却予定。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点及びミニ・レポート	50%	出席を含む授業への積極的参加度及びミニ・レポートの内容
研究発表及びレポート	50%	選んだテーマについて正しく理解し、独自の視点が加えられているかを基準とする。

教科書:

参考書:
「キリスト教音楽の歴史～初代教会からJ.S.バッハまで～」 金沢正剛著　日本基督教団出版局
「ミサ曲・ラテン語・教会音楽ハンドブック」 三ヶ尻　正著　(株)ショパン
その他は項目ごとに紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後や他の授業の出講日に対応します。
必要に応じて、Eメールを利用します。

3M2900

宗教音楽Ⅱ

中山　　幾美子

授業テーマ:　キリスト教音楽の実際

授業の概要:　宗教音楽Iではカトリックの音楽が中心であったが、IIでは宗教改革後の音楽も多く採り上げる。J.S.バッハを中心に、聖書の言葉などを音楽でどう表現しているか、コラールをどのように用いているか、音型や数の象徴についても学ぶことにより、楽譜を深く読むための助けとなることを目指す。また教会歴や宗教的な行事のための音楽も紹介し、教会音楽を身近なものとして受け入れてきた西洋の文化についても考える。

到達目標:
・コラールとそれを用いた音楽について知る
・カンタータ、オラトリオ、受難曲とは何か、またその成立からの歴史を理解する
・主にJ.S.バッハの音型や象徴について知り、楽譜を深く読むことにより、演奏上への表現へと結びつける。

授業方法:　プリントによる資料、楽譜、CD等の音源を用いる。講義が中心だが、受講生の専攻や人数を考慮して行う。それにより可能な限り実際に音に出してみたい。個人またはグループで発表する場を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	テ・デウム等の賛歌	参考文献を読む
2.	詩編歌（1）	詩編とは何か、最低限の知識を得ておく
3.	詩編歌（2）と詩編に関する音楽	授業で取り上げた曲について発展的に学習する
4.	オラトリオについて	参考文献を読む 知っているオラトリオをあげておく
5.	ヘンデルのメサイア	授業中に指示された内容に従って予習する
6.	カンタータについて	ミニ・レポートの準備 （バッハのカンタータを1曲聴く）
7.	クリスマス・オラトリオについて（シュッツ、バッハ）	ミニ・レポートの準備 キリスト誕生の物語に関する福音書を読んでおく
8.	クリスマス・オラトリオとその他のクリスマス音楽	授業での指示に従って、CD等を聴く
9.	受難曲：オラトリオ受難曲の成立	キリストの受難の物語に関する聖書箇所を読んでおく
10.	バッハの受難曲（1）	指示に従って受難曲の鑑賞及び楽譜の検討
11.	バッハの受難曲（2）	同上
12.	バッハの受難曲（3） バッハ以降の受難曲	同上
13.	研究発表（1）	研究発表の用意
14.	研究発表（2）またはモテットについて	研究発表の用意
15.	研究発表（3）またはオルガンコラール編曲とまとめ	研究発表の用意

受講者へのメッセージやアドバイス:　宗教音楽Ⅰに引き続き、様々なキリスト教音楽に触れることによって音楽の視野を広げます。
演奏したり聴いたりする機会も多いメサイアなどのオラトリオや受難曲を学ぶだけでなく、その音楽の語法は声楽曲にとどまらず器楽曲にも応用されていることを紹介したいと思います。

フィードバックの方法:　ミニ・レポートは授業中にコメントし返却する。
研究発表のまとめであるレポートは、採点後に返却予定。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点及びミニ・レポート	50%	出席を含む授業への積極的参加度及びミニ・レポートの内容
研究発表及びレポート	50%	テーマを正しく理解し、独自の視点をもって書かれているかを重視します

教科書:

参考書:　授業でテーマごとに紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後や他の出講日に対応します。
必要に応じてEメールを利用します。

3M3000

音楽作品研究A

葛西　　聖憲

授業テーマ:　バルトークの管弦楽作品の分析・研究

授業の概要:　特定の作品について、その作品の歴史的背景を前提に、より的確な演奏につながるための構造を細部にわたって分析・研究する。
文献や楽譜を基に、歴史的にも内容的にも深く掘り下げ全体の構成はもちろんのこと音符一つ一つの意味を考察し、それが実際の演奏にどのように反映させるべきかを研究する。

到達目標:　楽譜を基に、どのような考えで作曲家が音符を書いたのかを考察する能力をつける

授業方法:　講義及び演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	事前に授業で使う楽譜に目を通しておくこと
2.	バルトークの管弦楽作品作曲者とその時代背景	さらに授業で使う楽譜に目を通しておくこと
3.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 1	さらに授業で使う楽譜に目を通しておくこと
4.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 2	授業の復習と予習をすること
5.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 3	授業の復習と予習をすること
6.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 4	授業の復習と予習をすること
7.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 5	授業の復習と予習をすること
8.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 6	授業の復習と予習をすること
9.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 7	授業の復習と予習をすること
10.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 8	授業の復習と予習をすること
11.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 9	授業の復習と予習をすること
12.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 10	授業の復習と予習をすること
13.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 11	授業の復習と予習をすること
14.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 12	授業の復習と予習をすること
15.	バルトークの管弦楽作品の分析・研究 13	授業の復習と予習をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　予習及び復習（授業内容確認）は当然必要。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	学習態度等
レポートなど	50	成績

教科書:　楽譜・ポケットスコア／バルトーク作曲 弦楽器、打楽器とチェレスタのための音楽
その他　適宜その都度指定する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

3M3100

音楽作品研究B

葛西　　聖憲

授業テーマ:　ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究

授業の概要:　特定の作品について、その作品の歴史的背景を前提に、より的確な演奏につながるための構造を細部にわたって分析・研究する。
文献や楽譜を基に、歴史的にも内容的にも深く掘り下げ全体の構成はもちろんのこと音符一つ一つの意味を考察し、それが実際の演奏にどのように反映させるべきかを研究する。

到達目標:　楽譜を基に、どのような考えで作曲家が音符を書いたのかを考察する能力をつける。

授業方法:　講義及び演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	事前に授業で使う楽譜に目を通しておくこと
2.	作曲者とその時代背景	さらに授業で使う楽譜に目を通しておくこと
3.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　1	さらに授業で使う楽譜に目を通しておくこと
4.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　2	授業の復習と予習をすること
5.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　3	授業の復習と予習をすること
6.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　4	授業の復習と予習をすること
7.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　5	授業の復習と予習をすること
8.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　6	授業の復習と予習をすること
9.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　7	授業の復習と予習をすること
10.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　8	授業の復習と予習をすること
11.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　9	授業の復習と予習をすること
12.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　10	授業の復習と予習をすること
13.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　11	授業の復習と予習をすること
14.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　12	授業の復習と予習をすること
15.	ベートーベンの後期ピアノソナタの分析・研究　13	授業の復習と予習をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　予習及び復習（授業内容確認）は当然必要。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	学習態度等
レポートなど	50	成績

教科書:　楽譜／ベートーベンの後期ピアノソナタ

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー他

3M3200

音楽史特講Ⅰ

仲　　万美子

授業テーマ:　プロフェッショナルな演奏活動を推進していくための視座を音楽文化からまなびとる。

授業の概要:　音楽史特講Ⅰでは、西洋音楽史学の先行研究を参照しつつ、他ジャンルの音楽を研究する上でも重要な研究方法の観点（時代区分、作品研究と伝記研究、器楽の成立、楽譜と演奏、音楽の評価など）を理解し、そして世界の音楽文化、特に近代日本における西洋芸術音楽受容史にどのような影響を与えたかについて考察する。

到達目標:　音楽のジャンルを越えた視点で、多様な社会のニーズに応える事の出来る音楽家としての活動のあり方の視座を、西洋芸術音楽史学の研究テーマおよび近代日本西洋音楽受容史を精査することを通して習得する。

授業方法:　講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽学の基本的な考え方とは 芸術音楽を対象とする学問分野の総称としての「音楽学」について再確認する。	
2.	音楽史学とは 音楽史学の基本的な研究視座について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
3.	西洋芸術音楽はどのように綴られてきたか。 西洋芸術音楽の歴史的研究の多様な視座について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
4.	西洋音楽史の時代区分について 西洋音楽史はどのように時代区分されてきたか実例をもとに理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
5.	作品研究と伝記研究について 音楽作品そのものを分析研究する事と作曲家の伝記研究との相違点及びその複合的研究を理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
6.	器楽の成立について 西洋音楽史における「器楽」という概念の成立および「声楽」との関係について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
7.	楽譜が語る意味について 音楽創作の表現／記録手段としての「楽譜」の機能及び作品解釈の仕方について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
8.	実用版楽譜と演奏について 作曲家の残した原点版および実用楽譜の相違点および演奏者からみた楽譜の意味について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
9.	音楽評論家の仕事について 音楽作品についての評価をなす「音楽評論家」の果たしてきた役割について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
10.	演奏の評価はどのような規準でなされるのか。 音楽作品の再現行為者による演奏のテクニック／音楽表現の評価規準について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
11.	日本の近代音楽史の研究：交響楽運動 交響楽運動の展開の特徴について、具体的作品やオーケストラ団体の成立史をもとに理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
12.	日本の近代音楽史の研究：オペラ運動 オペラ運動とその展開の特徴について、創作／上演史にみる特徴的な作品を事例に理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
13.	日本の近代音楽史の研究：合唱運動 合唱運動とその展開の特徴について、明治から昭和にかけての活動事例をもとに理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
14.	日本の近代音楽史の研究：創作活動 創作活動の特徴について、昭和期に世界に向け発信された作品の創作経緯について理解する。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるものと次週の講義に関するもの）
15.	日本の近代音楽史における西洋芸術音楽の存在について 日本人にとって西洋芸術音楽とはどのような意味をもちえたかについて分析・考察を行う。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み（本講義に関わるもの）

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:　提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	45%	課題各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
授業への参加度	55%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　講義時に、適宜、提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

3M3300

音楽史特講Ⅱ

仲　　万美子

授業テーマ:　プロフェッショナルな演奏活動を推進していくための視座を日本の音楽文化からまなびとる。

授業の概要:　音楽史特講Ⅱでは、21世紀の地域の音楽文化をクリエイトしていく音楽家がどのような音楽活動を展開させていくことができるか。公教育の場で音楽を学ぶ生徒が将来の重要な聴衆層となることを意識し、ジェンダー論、マネージメント論、民族音楽の現代化論、生涯教育論の視座を交差させながら、それぞれ該当する事項の歴史的背景、公共ホールでの企画力、多様な音楽を学ぶ場の提供方法、音楽市場からみた音楽創造活動の可能性を探る。

到達目標:　音楽史特講Ⅰで音楽史研究から修得した音楽文化を創出する諸活動の視座を念頭にいれ、1)将来、音楽活動をおこなう地域での諸活動に応用させること、そして2)有意義な諸活動を遂行するためにジャンルを越えた音楽に精通し、多様な社会のニーズに応える事のできる音楽文化のプロデューサーとしての役割の一端を担えるような音楽活動のあり方をまなびとる。

授業方法:　講義ごとに毎回参考資料プリントを配布し、視聴覚資料を使用しながら音楽視聴体験に根差した理解をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽家に対する社会の多様なニーズ プロとしての演奏者に対して期待されることを、具体的な事例をもとに探る。	
2.	日本で女性音楽家はどのな役割を果たしてきたか:日本音楽の場合 当該ジャンルにおける日本伝統音楽の女性パフォーマーの活動の意義について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
3.	日本で女性音楽家はどのような役割を果たしてきたか:西洋芸術音楽の場合 作曲家、演奏家の活動事例から「女性」としての視点がどのように反映されていたかを探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
4.	日本で女性音楽家はどのような役割を果たしてきたか:ポピュラー音楽の場合 女性ミュージシャンの活動が、ポピュラー音楽ジャンルの新しい波を生み出したかについて探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
5.	生涯教育の場で音楽を習得することの意味:第二次世界大戦以前 アマチュア向けの教習を事例にし、一般の人々の世界に息づいていた邦楽の意味を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
6.	生涯教育の場で音楽を習得することの意味:第二次世界大戦直後 働く人々の間にひろまったジャズやロシア民謡の合唱などの活動の意義を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
7.	生涯教育の場で音楽を習得することの意味:20世紀後半以降 市民オーケストラやオペラ団体の活動を通して、クラシック音楽普及の意味を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
8.	民族音楽のアジアの音楽市場での役割について 20世紀末、多様なジャンルの楽曲に民族楽器とのコラボが盛んになった背景について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
9.	観光音楽について 多様なジャンルの音楽が、「観光」の重要な資源となっていることについて探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
10.	音楽文化をクリエイトすることについて 音楽家はどのように「音楽文化」をクリエイトすることができるかを探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
11.	芸術マネージメントについて 日本の具体的な事例をもとに、「芸術マネージメント」の可能性を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
12.	「音楽作品」の受容について レコード、テレビ／ラジオ放送、インターネットなどの音楽配信の変化の特徴について探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
13.	公共ホールの活用について 音楽家は公共ホールでどのような発信活動が可能かを探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
14.	日本の近代音楽文化の評価について 講義で探ってきた近代音楽文化の諸特徴から、世界の音楽文化における日本の特徴を探る。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるものと次週の講義に関するもの)
15.	自分の理想とするプロの音楽家の活動を考える 21世紀を担うプロの日本人音楽家としての活動の可能性を考える。	前回の講義時に紹介した資料の読み込み(本講義に関わるもの)

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に主体的に参加し、自分のめざす分野に講義内容を応用させようとする意識を持ち、各回の講義のトピックスの理解を深めてください。

フィードバックの方法:　提出物から適宜そのコメントを入力したものを配布し、内容について教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	45%	レポート課題の各項目を理解し、自分がどのような立場にあるかを明確にし、説得力をもった論述ができているかを基準とする。
授業への参加度	55%	講義中に綴る授業内容に関するコメントから、各回のテーマの理解度を判断し、授業目標の達成の有無を評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　講義時に、適宜、提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対する。

400301、02

社会学概論

河野　　健男

授業テーマ:　近代市民社会の特質とは何か？

授業の概要:　中世社会の特徴を人口の視点から捉え、近代市民社会の動態を「集団と個人との関係」から解明するのが社会学であることを理解する。

到達目標:　知識・理解の点では、人口の視点から、中世社会(人口停滞社会)と近代社会（人口増大社会)の相違を理解する。関心・意欲・態度の点では、社会科学の視点を体得して、2年生秋学期のコース・ゼミ選択を自主的に判断できる態度を養う。

授業方法:　講義形式で進めます。必要に応じてﾌﾟﾘﾝﾄなどを配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会とは何か　その１　社会という言葉	配付資料の読了・考察
2.	社会とは何か　その２　人口から見た社会の変化	教科書の読了
3.	前近代社会の変容　その１　歴史人口学とは何か	配付資料の読了・考察
4.	前近代社会の変容　その２　人口曲線で見たヨーロッパの400年	
5.	前近代社会の変容　その３　中世の家族・婚姻の特徴	教科書による家族・婚姻史の読了
6.	近代への予兆　その１　都市の変化	配付資料の読了・考察
7.	近代への予兆　その２　農村の変化	
8.	近代への予兆　その３　プロト工業家族への道	教科書の読了
9.	中世社会の崩壊　その１　社会史のアプローチとは？	
10.	中世社会の崩壊　その２　市民革命の社会史	配付資料の読了・考察
11.	中世社会の崩壊　その３　自由権と社会権	教科書の読了
12.	近代社会と社会学の成立小史　その１　資本制生産の仕組み	教科書の読了
13.	近代社会と社会学の成立小史　その２　産業革命の余波	配付資料の読了・考察
14.	近代社会と社会学の成立小史　その３　救貧法と社会保障	教科書の読了
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物は教室で解説し返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	知識・理解の到達目標の達成度
授業参加	20%	関心・意欲・態度を小レポートで評価する

教科書:　河野健男「日本社会の変化と社会学−家族・地域・生活の場面から−」(八千代出版2010年)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

400401

倫理学概論

中川　　明才

授業テーマ:　現代社会を生きるための倫理

授業の概要:　この講義では「倫理」を私たちの人生の歩み、あるいは社会生活で生じる様々な倫理的問題について考察を加える営みと理解します。そこで講義では、私たちの人生、社会生活、現在考えるべき倫理的諸問題について吟味してみたいと思います。以下に述べる講義内容は初歩的なものですから、講義をベースにより高度な分野にチャレンジしていくことを望みます。

到達目標:　人間同士が共に生きていく上で考察しなければならない問題＝倫理的問題について、自分自身で考え判断する力を養います。

授業方法:　主として講義を行います、また適宜、プリント教材を使用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	今日の倫理的環境の悪化について、何が問題になっているのかを検討する。	授業内容に関する復習。
2.	倫理的環境の悪化の主要な要因である相対主義について、Sokratesの生き方を参考にしながら、検討する。	授業内容に関する復習。
3.	社会生活における理想と現実の関係について、Platonとともに考える。	授業内容に関する復習。
4.	社会生活における正義と友愛の役割について、Aristotelesとともに考える。	授業内容に関する復習。
5.	倫理的環境の悪化の、相対主義と並ぶ要因であるエゴイズムについて検討する。その際、DescartesやHobbesに見られる近代的自我の特徴を考察する。	授業内容に関する復習。
6.	道徳的感情としての自己愛と同情について、Rousseauを手がかりに検討する。	授業内容に関する復習。
7.	社会生活における理性の役割について、Kantの倫理学を手がかりに検討する。その第一回。	授業内容に関する復習。
8.	前回の続き。特に道徳と幸福の問題について考える。	授業内容に関する復習。
9.	HegelやMarxの「労働」観の変遷を振り返りながら、社会における労働の意義について考える。	授業内容に関する復習。
10.	BenthamやMillの功利主義を参考にしながら、社会共通の幸福について考える。	授業内容に関する復習。
11.	道徳の起源について、Nietzscheとともに考える。	授業内容に関する復習。
12.	Ortegaの大衆社会論、Habermasの社会哲学を参照しながら、公共性をめぐる問題について考える。	授業内容に関する復習。
13.	Heideggerの人間存在論を題材にしながら、「人の死」にどのように向き合うことができるのかを考える。	授業内容に関する復習。
14.	Arendtの政治哲学を参照しながら、公と私、publicとprivateの区別について考える。	授業内容に関する復習。
15.	まとめ	授業内容に関する事前復習。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業時に紹介した参考文献のうち、興味をもったものを実際に読むことを勧めます。

フィードバックの方法:　コメントペーパーおよびレポートに対して、教室で論点を再説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	授業内容の理解度と倫理的問題に関する思考力を問います。
レポート	20	授業内容の理解度を問います。
授業への参加度	10	出席、コメントペーパーを基に評価します。

教科書:　特に使用しません。

参考書:　授業時に適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応します。

400501、02

法学概論

谷　　直之

授業テーマ:　法的視点から現代社会を見つめなおし、法的思考を身につける。

授業の概要:　法学、法律学というと、何かとても難解で、非日常的なものと思っている人が多いかもしれません。また、法律の条文を丸暗記しなければならないと思っている人もいるかもしれません。しかし、普段意識されることは少なくても、実は、法というものは、もっと身近で、私たちの日常生活に密接に結びついているものなのです。
本講義では、憲法を中心として各法分野で現在まさに問題となっている最新のトピックをとりあげ、法的な視点から現代社会を見つめなおしつつ、法とは何かということを理解すると同時に、法学を学ぶ上で必要な知識と法的思考方法の基礎を修得することを目標としています。

到達目標:　国家と法に関する基本原理・原則を理解すること。
国際社会と国際法に関すr う基本原理・原則を理解すること。
法律学の諸分野における問題点についての正しい知識に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つこと。
自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 法とは何か？	テキストの第1章を読んで、内容を理解しておくこと。
2.	法の仕組み 国家の成り立ちと国際法・国際政治	テキストの第2章・第3章を読んで、内容を理解しておくこと。
3.	法の学び方（1） 法の基本原理・原則 自然法論と法実証主義	自然法論と法実証主義の対立について整理し整理しておくこと。
4.	法の学び方（2） 自己決定権とパターナリズム	自己決定権とパターナリズムの対立について整理し、具体的な例を念頭に、自分の立場を定め、文章で表現できるようにしておくこと。
5.	憲法の基本原理 統治機構と三権分立	テキストの第4章と第5章を読んで、内容を理解しておくこと。 特に、大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点について整理するとともに、日本国憲法の前文などを読み返し、自然法論との関係を理解しておくこと。
6.	基本的人権（1） 自由権と平等権	テキストの第6章・第8章を読んで、内容を理解しておくこと。
7.	基本的人権（2） 社会権	テキストの第9章を読んで、内容を理解しておくこと。
8.	社会保障と福祉 生存権	テキストの第17章を読んで、内容を理解しておくこと。
9.	女性・こどもと貧困問題	厚生労働省HPで、『厚生労働白書』等を参照しておくこと。
10.	財産と法・経済取引と法	テキストの第11章・第12章を読んで、内容を理解しておくこと。
11.	労働と法（1） 労働法	テキストの第15章を読んで、内容を理解しておくこと。
12.	労働と法（2） 男女雇用機会均等法	内閣府男女共同参画局のHP等を参照し、男女雇用機会均等法の改正点や諸政策について調べておくこと。
13.	新しい人権 環境権	テキストの第20章を読んで、内容を理解しておくこと。
14.	国際社会と法 地球温暖化問題と国際協調	JCCCA（全国地球温暖化防止活動推進センター）のHP等を参照し、地球温暖化問題について調べておくこと。
15.	まとめ	配布資料を中心に復習をしておくこと。 シラバスおよびテキストを読み返しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　社会の仕組みや、社会に存在している諸問題について、まず興味・関心を持ってください。そして、自分から積極的に情報を集め、しっかりと考え、さらに自分にできることを行動に移すように心がけてください。

フィードバックの方法:　提出物については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	到達目標にある、法に関する基本原理・原則の理解、法律学の諸分野における問題点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。

教科書:　大谷　實編『エッセンシャル法学』（成文堂）　最新版

参考書:　六法（『法学六法』（信山社）や『デイリー六法』（三省堂）、『ポケット六法』（有斐閣）等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。）
衆議院ホームページ
http://www.shugiin.go.jp/internet/index.nsf/html/index.htm
参議院ホームページ
http://www.sangiin.go.jp/
裁判所ホームページ
http://www.courts.go.jp/
厚生労働省ホームページ『厚生労働白書』
http://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/kousei/16/
厚生労働省ホームページ「各種統計」
http://www.mhlw.go.jp/toukei/itiran/
JCCCA 全国地球温暖化防止活動推進センター ホームページ
http://www.jccca.org/

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

400601、02

文化人類学概論

大西　　秀之

授業テーマ:　異文化の理解と自文化の相対化

授業の概要:

文化人類学は、西欧近代社会の側が「異文化」とみなした人びとや社会を主要な対象として、人類の多様な文化のあり方を明らかにしてきました。またその結果として、文化人類学は、文化そのものに対する理解を深めてきました。

この講義では、文化人類学の成果や視点を学ぶなかから、文化の多様性を考察するとともに異文化を理解する視点を養うことを目的とします。さらには、このような学習を通して、わたしたち一人ひとりが無自覚に持っている、自文化に根ざした「常識」や「ものの考え方」を相対化し、それらの再構築を目指したいと考えています。なお、この講義では、毎回テーマを設定し具体的な事例から読み解く予定です。

到達目標:

・人類の多様な「文化」のあり方を学ぶなかから文化人類学の成果や視点を理解する。
・自文化に根ざした無自覚な「常識」や「ものの考え方」を疑い相対化する視点を身に付ける。
・現代社会における「異文化理解」の重要性を学び理解する。

授業方法:

講義形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・不定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文化人類学とは？	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	文化の定義	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	文化の理解と相対化	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	多様な世界観・コスモロジー	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	民俗知識と近代科学	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	民俗知識と近代科学	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	中間まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。
8.	異文化を知り理解する意義とは？	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	ジェンダーの多様性	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	オトナとコドモの境界線	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	生と死は普遍か？	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	家族を形作るきずな	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	民族・エスニシティの不確実性	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	現代社会における異文化理解の役割	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この講義を受講される皆さんには、国際社会に生きる一個人として、積極的に自他の文化に関する知見を広げられることを期待します。また日常の生活のなかで、意識的に自他の文化に触れ、それを再考する機会を作り、本講義の学びを深めるようにして心掛けてください。

フィードバックの方法:

・中間試験は、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。
・コメントペーパーに対しては、次の授業の際に総評を交えた解説を行います。
・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「文化人類学に基づく異文化理解の重要性」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
中間試験	45%	論述試験では、到達目標である「自文化に根ざした「常識」や「ものの考え方」を相対化する視点」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。

教科書:

参考書:	『文化人類学（カレッジ版）』波平恵美子（編）医学書院
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、批判力
教員との連絡方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

400900

教育学概論

小山　　裕樹

授業テーマ:

授業の概要:

本講義は、大学入学後に初めて「教育学」に触れようとする学生のための入門講義として開講されるものです。皆さんがこれまで当たり前のように受けてきた「教育」とは、そもそも一体何なのでしょうか。「教育学」が引き受ける問いのなかでも最も大きくかつ根本的であろうこの問いに対し、本講義では、主に歴史的・哲学的な角度からアプローチしていきます。

到達目標:

①「教育」という観点から、現代社会を生きる人間の諸課題を理解する力を持っている。
②①の力に基づきながら、自らの考えを主体的に発信し、自らの生涯を主体的に創造していく意欲や態度を身に付けている。

授業方法:

基本的に講義形式とします。とはいえ、毎回講義の最後にコメントペーパーを書いてもらい、次の講義時間の始めにそれに応答することで、出来る限り多角的・双方向的に講義を進められるよう配慮します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	「自分にとって教育とは何か」を考えておく。
2.	動物と人間の違い①——「野生児」の事例から教育を考える	講義内容を踏まえたうえで、「野生児」は教育されるべきであったかを再考する。
3.	動物と人間の違い②——「野生児」の事例から教育について引き続き考察を深める	二回分の講義内容を踏まえたうえで、「野生児」の教育についてより広い視点から考察を深める。
4.	教育をめぐる諸論理①——「教える」と「学ぶ」の関係から教育を考える	「教える」と「学ぶ」の違いや関係について、講義後にもう一度整理しておく。
5.	教育をめぐる諸論理②——「発達」と「生成」の関係から教育を考える	「発達」と「生成」の違いや関係について、講義後にもう一度整理しておく。
6.	教育をめぐる諸論理③——「子ども」観の歴史的変化から教育を考える	「子ども」一般に対して自分が抱いているイメージを思い起こしておく。さらに、講義内容を踏まえたうえで、自分の「子ども」観について再考する。
7.	現代社会と教育①——現代の「いじめ」問題の特質から教育を考える	自分の周囲で起こった「いじめ」体験について思い起こしておく。さらに、その体験について講義内容を踏まえたうえで再考する。
8.	現代社会と教育②——現代の「スクールカースト」問題の特質から教育を考える	自分の周囲で起こった「スクールカースト」体験について思い起こしておく。さらに、その体験について講義内容を踏まえたうえで再考する。
9.	現代社会と教育③——「いのちの教育」の実践例から教育を考える	「いのちの教育」の可能性について、講義内容を踏まえたうえで再考する。
10.	現代社会と教育④——「甘え」という観点から教育を考える	現代社会における「甘え」の位置づけについて、講義内容を踏まえたうえで再考する。
11.	現代社会と教育⑤——「自律」という観点から教育を考える	現代社会における「自律」の位置づけについて、講義内容を踏まえたうえで再考する。
12.	教育と権力①——ミシェル・フーコーの規律訓練論から教育を考える	教育と権力の関わりについて、講義内容を踏まえたうえで再考する。
13.	教育と権力②——権力論の新たな展開としての「環境管理型権力」の問題から教育を考える	教育と空間の関わりについて、講義内容を踏まえたうえで再考する。
14.	媒介者としての教師——「媒介者」としての教師の位置づけから教育を考える	自分の理想の教師像について考えておく。さらに、講義内容を踏まえたうえで、それについて再考する。
15.	まとめ	講義時に指示する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

講義への積極的な参加を期待しています。

フィードバックの方法:

毎回講義の最後にコメントペーパーを書いてもらい、次の講義時間の始めにそれに応答することで、出来る限り多角的・双方向的に講義を進めていきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末試験	70	「教育」という観点から現代社会を生きる人間の諸課題を理解する力を持ち、その力に基づいて出題テーマに対し説得力のある考察を展開できるかどうかで評価します。
コメントペーパー	30	各回の講義へ積極的に参加し、各回の講義内容への理解に基づきながら自らの考えを主体的に発信できるかどうかで評価します。

教科書:

なし（講義時にレジュメと資料を配布します）。

参考書:

講義中に適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

Eメール（初回の講義時に指示します）、講義の前後に教室内で対応

401100

観光学概論

大津　　正和

授業テーマ:　非常に幅広い現象である観光を、様々な視点から学問対象として捉える

授業の概要:　観光は、非常に広範な行動であり、関連する領域は非常に広い。このような観光の特徴を、理論と現実の両面という広い視野から理解し、人間生活や社会との深い関わりを理解する。国の観光立国政策や、インバウンド観光来訪者の急増など、観光に対する関心は高まっているが、観光に対する社会的理解はまだ充分とはいえない。表層的な単なる娯楽という理解ではなく、観光についてより深く考えられる能力を獲得するために、まずその基礎となる広範な知識を獲得することを目指す。

到達目標:　観光そのものについて、さらに観光に関連する様々な分野について基礎的な知識を理論と現実から確実に身に付ける。そして獲得した知識を活用して、観光を単なる娯楽活動としてではなく、人間生活や社会との深い関わりから考察でき、より良い観光を構想する能力を獲得する。

授業方法:　講義　基本的に講義形式であり、時間が許せば、授業時間内に小レポートを書いてもらい、学んだことについて自身の考えをまとめるという進め方を予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	観光に関するニュースや自身の観光経験について確認しておく
2.	「観光」の概念	教科書の該当箇所の予習
3.	観光の歴史	教科書の該当箇所の予習
4.	観光の諸制度，観光の影響と効果	教科書の該当箇所の予習
5.	観光と経済	教科書の該当箇所の予習
6.	観光と情報，観光と環境	教科書の該当箇所の予習
7.	観光と地域社会，観光における開発と保護	教科書の該当箇所の予習
8.	余暇活動としての観光，観光行動を成立させるもの	教科書の該当箇所の予習
9.	観光行動の対象	教科書の該当箇所の予習
10.	観光と教育・福祉	教科書の該当箇所の予習
11.	観光と交通	教科書の該当箇所の予習
12.	観光と宿泊	教科書の該当箇所の予習
13.	観光に関連する諸事業	教科書の該当箇所の予習
14.	観光と旅行業	教科書の該当箇所の予習
15.	まとめ	これまで講義で学んだことに対する復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　観光は、単に「お客」として出かけるだけであれば、楽しい活動であろう。しかし、観光を仕事として、あるいは国や地域を活性化させるための手立てとして、さらに人間にとって観光とは何かといった根源的内容を考察する対象として捉えた場合には、決して簡単なものではない。この講義は、そのための基礎知識を身につける機会として、取り組むことが望ましい。さらに、自分自身が観光に出かけるときはもちろん、報道などを通じて観光を知る機会には、広い視点と深い洞察を心掛けて欲しい。

フィードバックの方法:　小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	20	指示した設問に対して、よく考えて答えているか
試験	80	講義で学んだ知識が身についているか

教科書:　教科書: 前田勇編著『新現代観光総論』学文社，2015

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

401201、02

経済学概論

長岡　　延孝

授業テーマ:　経済理論と経済政策を歴史的観点から理解し、現代の社会経済を分析する

授業の概要:

社会科学の一分野としての経済学が成立、発展してきた過程を、政治経済の歴史的発展の文脈に置いて理解する。具体的にはスミス、マルクス、ケインズといった、偉大な経済学者の経済思想をそれが登場した社会的背景を考えながら理解する。そこから、重要な経済的問題（貨幣・労働・格差など）について言及しながら議論を進める。

そうすることで、市場経済の有効性と限界について、的確な理解が得られるものと考える。そして最後に、グローバルな経済問題について考察を進める。

こうした知識を基礎にして、経済学の重要な諸問題についての分析力を深め、社会人として、また消費者として、豊かな社会生活を営める力をつけてもらいたい。また、日常的に経済社会は変動しているので、日々、新聞や報道番組に接して情報を収集し、その変化の意味を読み解くことも目標とする。

到達目標:

1　主な経済理論の基本を理解し、特徴、相違、背後にある思想が解る。
2　日常的に、現代経済と政策の基になっている構造と理論の基礎が理解できるようになる。
3　ビジネスを体系的に学ぶための基礎理論と知識の習得を目指す。

授業方法:　講義形式で行うが、ビデオやプリント等の教材も適宜使用する。講義内容にかんする感想・意見・レポートを求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
2.	経済学の歴史的展開	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
3.	古典派経済学の成立：アダム・スミス	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
4.	古典派経済学と新古典派経済学（ミクロ分析）	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
5.	貨幣論と金融の役割	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
6.	カール・マルクスの資本主義批判と社会主義	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
7.	労働経済論(1)	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
8.	労働経済論(2)（小論文）	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
9.	景気循環論とフォード主義	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
10.	世界恐慌とニューディール政策	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
11.	ケインズ理論(1)：ケインズ革命	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
12.	ケインズ理論(2)：マクロ経済学	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
13.	帝国主義と植民地問題	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
14.	グローバル化：自由貿易体制と地域圏	配布プリント（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
15.	まとめ	講義全体を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　日常的に、新聞やテレビの報道に接して、経済社会への関心を培ってほしい。

フィードバックの方法:　授業でのアンケートや感想に関して、その次の授業でコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	課題に関しての正しい知識と自分の考えを持っているか。また、それらを解りやすく論述しているか。

教科書:

参考書:

矢沢サイエンス『経済学はいかにして作られたか』学習研究社。
岩田規久男『経済学を学ぶ』筑摩書房。
佐々木隆治『カール・マルクス：資本主義と闘った社会思想家 』筑摩書房。
吉川洋『ケインズ：時代と経済学』筑摩書房。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール

401301、02

比較文化概論

朱　　捷

授業テーマ:　四大文明の歴史をたどり、文明と文化を学ぶ。

授業の概要:　文明がどのように誕生したのか、文明と文化はどうちがうのか、比較文化の視点からみて、グローバル化社会をどのように生きればよいか、について受講者とディスカッションしながら考えていきたい。

到達目標:
〇文明誕生と自然環境との関係を自分の言葉で語れる。
〇文明と文化のちがい、文明と文化の多様性について自分の言葉で語れる。
〇異なる文明や文化と共存するのに自分の考えをもつ。
〇習得した知識を文明や文化間の相互理解に寄与する意欲をもつ。
〇グループディスカッションや発表を通して、思考力や表現力を身につける。

授業方法:
アクティブラーニング形式、すなわち履修者も一緒に授業をつくっていく参加型の講義。
プリントを配り、写真・映像資料とパワーポイントを併用して講義を進めるが、履修者の積極的な参加を求める。毎回グループディスカッションを行い、グループごとに発表してもらったうえ、講義を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。
2.	文明誕生の条件	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
3.	メソポタミア文明(1)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
4.	メソポタミア文明(2)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
5.	メソポタミア文明(3)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
6.	エジプト文明(1)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
7.	エジプト文明(2)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
8.	インダス文明(1)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
9.	インダス文明(2)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
10.	中国文明(1)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
11.	中国文明(2)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
12.	中国文明(3)	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
13.	比較文化の視点からみる現代のグローバル社会	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
14.	文化とは何か、文明とは何か	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
15.	総括	予習用プリントを読んで、課題を調べる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　グローバル化社会を生きていくのに、異なる文明や文化についての理解が欠かせません。文明と文化の基礎を学んで視野を広げていきましょう。

フィードバックの方法:　採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでグループディスカッションに参加しているかどうか、グループディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:　ジャレド・ダイヤモンド『銃・病原菌・鉄』上　(草思社文庫、2012年)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

401401、02

政治学概論

鳥潟　優子

授業テーマ:　現代の政治外交および国際問題の検討

授業の概要:　政治外交・国際関係一般を概観し理解することを目指す。基本的な知識や理論を学び、どのように政治や外交、国際関係がどのように動いているか、時事問題を踏まえた分析を行う。

到達目標:　教科書の予習復習を欠かさず、政治外交・国際関係一般について毎日新聞を読み込む習慣をつけて、日常生活で議論できるレベルを目指す。

授業方法:　講義形式、適宜映像資料を使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	国内社会と国際社会の相違とは？	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認する。
2.	国家という枠組みと国民の形成	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
3.	政治体制	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
4.	政策	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
5.	政治参加	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
6.	報道の役割	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
7.	国民と政治外交	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
8.	リアリズムから見る国際政治	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
9.	事例による考察①　海洋をめぐる問題	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
10.	事例による考察②　安全保障	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
11.	リベラリズムからみる国際政治	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
12.	国際機関の役割	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
13.	相互依存	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
14.	外交とは？日本・アメリカ・ヨーロッパ	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
15.	まとめ	まとめを行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、教科書を十分に予習し、復習を行うこと。基礎知識や概念、理論を理解するために、教科書と毎日新聞の記事を必ず読み理解することを求める。

フィードバックの方法:　授業中に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	90	知識および理解力、論理構成力、文章力
出席とコメントペーパー	10	出席及び知識および理解力、論理構成力、文章力

教科書:　山田高敦・大矢根聡編『グローバル社会の国際関係論・新版』(有斐閣)
砂原洋介他『政治学の第一歩』(有斐閣)

参考書:　村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ』(有斐閣)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー

401501、02

社会心理学概論

諸井　　克英

授業テーマ:　うたのちから・ことばの想いー音楽社会心理学への誘いー

授業の概要:　わが国の'60年代後半から'70年代初頭かけて，歌の「作り手」と「歌い手」を一致させるフォーク・ブームが現れた。このブームは，音楽ジャンルとしてのJ-Popの「曙」として位置づけられるだけでなく，若者自身が自らの心性を表出する「形式」を獲得したともいえる。この講義では，'60年代後半から現在に至るまでにわが国で流通している音楽の「歌詞」を通して，青年の心性の分析を試みる。

到達目標:　講義を通じて，いわゆる流行歌(はやりうた)が，その時代や社会のあり方と相関した文化現象であることを理解する。

授業方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	音楽社会心理学の粗描ー歌は時代とともにー〔1〕	前回の講義主題の確認
3.	音楽社会心理学の粗描〔2〕	同上
4.	音楽との接触の変容	同上
5.	コミュニケーションとしての音楽へ-想いを歌にー〔1〕	同上
6.	コミュニケーションとしての音楽へ〔2〕	同上
7.	ことばのちから〔1〕	同上
8.	ことばのちから〔2〕	同上
9.	音のちから〔1〕	同上
10.	音のちから〔2〕	同上
11.	身体のちから	同上
12.	アイドルの彷徨い〔1〕	同上
13.	アイドルの彷徨い〔2〕	同上
14.	生の継続へ-歌のちからー	同上
15.	総括	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:　1週間に一度は「流行歌」(かつての流行歌でもOK)と向き合おう。その「流行歌」がなぜ多くの人々の心と共振しているのかを考えよう。そして，講義で学習した心理学用語を用いて，その「流行歌」がもつ「ちから」を分析してみよう。

フィードバックの方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや資料整理も含む）	70	授業への集中と理解
小課題（含　マナビー）	30	授業への集中と理解

教科書:　諸井克英著『ことばの想いー音楽社会心理学への誘いー』(ナカニシヤ出版)

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー

401701

応用演習 I

C.Adamson

授業テーマ:
Research, ethics and completion of graduation thesis

授業の概要:
Students will receive assistance and support to create and carry out an original research project using English to write up the results

到達目標:
Students should develop appropriate research skills and improve their English ability in all areas

授業方法:
Group/ individual instruction and research

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Guidance toward research theory. Ethics and research skills	individual research
2.	Guidance toward research theory. Ethics and research skills	individual research
3.	Self-research and reporting of results	individual research
4.	Self-research and reporting of results	individual research
5.	Self-research and reporting of results	individual research
6.	Self-research and reporting of results	individual research
7.	Mid-term progress presentation	individual research
8.	Self-research and reporting of results	individual research
9.	Self-research and reporting of results	individual research
10.	Self-research and reporting of results	individual research
11.	Self-research and reporting of results	individual research
12.	Self-research and reporting of results	individual research
13.	Final progress and presentation	individual research
14.	Final progress and presentation	individual research
15.	Debriefing and preparation for final term	individual research

受講者へのメッセージやアドバイス:
Make sure you start early and maintain steady progress. A rush at the end will result in a poor thesis.

フィードバックの方法:
Individual progress and advice

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Presentations	25	Quality of research
Drafts	25	Writing progress and quality
Final thesis	50	Participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:
cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

401702

応用演習Ⅰ

天野　　太郎

授業テーマ:　まちづくりと地域－観光と文化のかかわり

授業の概要:　大阪や東京、あるいはみなさんの出身地域などの具体的な地域を対象地域として、その実態を幅広い問題意識と視点から調査・研究することを通して、地域空間についての理解を深めることを目標とします。たとえば担当者は地理学を専門としていますが、地理学という学問は非常に幅広く、また歴史・文化・観光とも結びついたさまざまなテーマを扱います。受講生の多様な興味・問題意識に基づいて、4年生の卒業論文作成にむけてのテーマ探し、また研究を進めていく上での基本的な事柄を習得することを目標とします。

到達目標:　1:地域空間について各自の興味・関心のあるテーマを基に理解を深める。
2:卒業研究に向けて必要な研究方法論の基礎を獲得する。

授業方法:　演習・ゼミナール形式での学生個人発表を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　ゼミナールのガイダンス	配布資料の確認
2.	論文・研究の基本的方法論と研究倫理の学習	国立国会図書館HPの事前調査
3.	論文収集・分析の基礎～具体的論文を通した理解	論文の確認と精読
4.	受講生テーマ発表	各自の発表検討
5.	研究発表と研究指導1	PPT準備と発表内容の検討
6.	研究発表と研究指導2	PPT準備と発表内容の検討
7.	研究発表と研究指導3	PPT準備と発表内容の検討
8.	研究発表と研究指導4	PPT準備と発表内容の検討
9.	フィールドワーク・合宿に関する事前学習	フィールドワーク対象地域の資料取集
10.	研究発表と研究指導5	PPT準備と発表内容の検討
11.	研究発表と研究指導6	PPT準備と発表内容の検討
12.	研究発表と研究指導7	PPT準備と発表内容の検討
13.	研究発表と研究指導8	PPT準備と発表内容の検討
14.	研究発表と研究指導9	PPT準備と発表内容の検討
15.	全体の総括	レジュメ資料の確認と振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:　各人の基本的な発表を通して、実際に野外に出てのフィールドワークをおこないます（京都を中心とする地域など、半期1～2回程度）。また、被災地もしくは北海道富良野を中心とした合宿学習もあわせて行います。

フィードバックの方法:　ゼミ発表に対して各自・全体に対して随時フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ゼミナール発表	60	到達目標1についての達成度を総合評価する。
他の学生発表に対するコメント評価	40	到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。

教科書:　指定しない

参考書:　天野太郎監修『古地図であるく古都・京都』三栄書房、2016（研究方法論として）
天野太郎監修『『都名所図会』でみる京都観光案内～イラストから見る200年前の京都』実業之日本社、2016
天野太郎監修『近鉄沿線の不思議と謎』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビー・メールを総合的に活用する。

401703

応用演習Ⅰ

福本　　俊樹

授業テーマ:　働くこと、生きること:組織行動論、組織論の基礎を学ぶ

授業の概要:　私達は日々、様々な組織に参加しながら生活を送っています。例えば、大学、ゼミ、部活、サークル、アルバイト先…。こうした私達が参加する組織の中でも最も代表的なものは、何と言っても企業でしょう。学生の皆さんもいずれ、企業の一員として働くようになります。
本演習では、企業をはじめとする経営組織との関わりの中で、私達一人ひとりにとって切実な問題となる、モチベーション、リーダーシップ、キャリアなどのトピックを考察していきます。本演習の目標は、組織行動論、組織論の基礎理論を修得することで、これらのトピックを学術的な観点から考察する能力を養うことにあります。そのために本演習では、必要に応じて、社会学や心理学などの隣接領域の知見も学習していきます。また、ゼミ生同士の議論を通じて、自らの考えを他者にうまく伝える能力を養うことも、本演習の目標としています。

到達目標:　（1）組織行動論、組織論の基本的な考え方を修得すること
（2）組織に関わる諸現象を学術的な観点から考察する能力を養うこと
（3）ディスカッションの中で、自身の考えを他者に伝える能力を養うこと

授業方法:　演習形式で授業を進めます。
各回のテーマについて、あらかじめ課題文献を読んだ上で、プレゼンテーションとディスカッションを行います。
また、本演習は卒業研究の基礎となるものであるため、研究倫理についても合わせて指導します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスを読んでくること
2.	会社とは何か？	教科書1章の予習・復習
3.	会社で働くこと	教科書1章の予習・復習
4.	組織社会化	教科書2章の予習・復習
5.	組織文化	教科書2章の予習・復習
6.	官僚制組織	教科書3章の予習・復習
7.	モチベーション	教科書3章の予習・復習
8.	会社の人材管理	教科書4章の予習・復習
9.	個人のキャリア・マネジメント	教科書4章の予習・復習
10.	リーダーシップ（1）	教科書5章の予習・復習
11.	リーダーシップ（2）	教科書5章の予習・復習
12.	意思決定（1）	教科書6章の予習・復習
13.	意思決定（2）	教科書6章の予習・復習
14.	集団の機能と逆機能	教科書6章の予習・復習
15.	今後の研究の進め方について	春学期の内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では、組織行動論、組織論の様々な理論を習得していくことをねらいとしています。理論の習得の際は、教科書の暗記ではなく、必ず学んだ理論を具体的な出来事に当てはめて考えるようにしてください。

フィードバックの方法:　マナビーで返却します（詳細は，初回講義時に説明します）

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディスカッションへの参加	40%	到達目標（1）～（3）を，毎回のディスカッションにどれだけ参加・貢献したかによって評価します。
プレゼンテーション	60%	到達目標（1）～（3）を，プレゼンテーションの内容によって評価します。

教科書:　稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る 経営組織 個人の論理と組織の論理』有斐閣アルマ

参考書:　金井壽宏『経営組織』日経文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，Emailなど（詳細は初回授業時に説明します）

401704

応用演習Ⅰ

福岡　　久美子

授業テーマ:　現代社会における憲法問題

授業の概要:　報道の自由とプライバシー権、外国人の人権、社会保障、個人情報保護、環境、平和、憲法改正など、さまざまな問題、具体的事例を取り上げ、憲法の視点から論点を理解し検討します。そのことを通して、社会問題・政治問題などに関心をもち、法的なものの見方、考え方の修得を目指します。
また、研究推進上の倫理問題についても十分理解するよう強調します。

到達目標:
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
社会生活の多様な場面で活躍することに意欲的に取り組んでいる
幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
社会の課題解決にあたるうえで、他者と協同的な関係を形成し維持する態度を身につけている
法律の基礎的知識を社会生活の多様な場面で運用できる能力を持っている
修得した知識や技術を統合し、その成果を広く社会に発信し、よりよい社会の構築に寄与する能力を持っている
研究倫理を理解する

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業に関するオリエンテーション:テキスト、事例、担当者などの決定	
2.	リーガル・リサーチ概論	
3.	発表、討論1	判例①、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
4.	発表、討論2	判例②、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
5.	発表、討論3	判例③、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
6.	発表、討論4	判例④、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
7.	発表、討論5	判例⑤、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
8.	リーガル・リサーチの実践	学内のパソコンを使って、自分でできるところまでやってみる
9.	発表、討論6	判例⑥、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
10.	発表、討論7	判例⑦、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
11.	発表、討論8	判例⑧、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
12.	発表、討論9	判例⑨、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
13.	発表、討論10	判例⑩、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
14.	発表、討論11	判例⑪、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する
15.	発表、討論12	判例⑫、関連資料を読む 発表者はレジメを作成する

受講者へのメッセージやアドバイス:
発表者だけでなく、受講生全員が事前に読んでくることが必要です
フィールドワーク、ゼミ合宿も考えていますが、その時期、場所については、受講生と相談して決めます

フィードバックの方法:　授業中にコメントします

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30%	事前の準備度、積極的参加度 欠席は減点になります
発表、討論の内容	70%	レジメの内容、発表の達成度、討論内容、理解度

教科書:　初回時に決定

参考書:　授業中に指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメールの利用、マナビーの利用

401705

応用演習Ⅰ

畠山　　啓

授業テーマ:　CSR（企業の社会的責任）とCSV（共通価値の創造）

授業の概要:

現在世界中の企業がCSRに取り組んでいます。CSRとは法律を守り、利益を上げるだけでなく、社会と環境の持続可能性を目指して社会的責任も果たしていくべきであるという考えに基づいた取り組みです。具体的には環境対策、労働問題（ブラック企業・非正規雇用）、消費者課題（個人情報保護・製品偽装）、社会貢献（インターンシップ・工場見学）などの取り組みがあります。

また近年CSVにも取り組む企業が増加しています。CSVとは世の中にある社会的課題を企業がビジネスとして取り組み、課題解決を目指していく取り組みのことです。具体的には貧困・飢餓・気候変動・高齢化・地域活性化などの取り組みがあります。

これらのCSRとCSVの取り組みを企業は国内だけでなく海外でも取り組んでいます。この応用演習では日系企業が国内外で取り組むCSRとCSVについて個人発表とグループワークを通して理解を深めていきます。

さらに研究倫理についても学んでいきます。

到達目標:

CSR・CSVとは何かを理解し、自らの言葉で説明できるようになること。
卒論のテーマを決めること。

授業方法:

・演習形式です。個人の発表・グループワーク・フィールドワークを実施していきます。
・扱うテーマについては受講者と相談して決めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	特になし。
2.	研究倫理について	マナビーで資料を事前に確認しておくこと。
3.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
4.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
5.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
6.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
7.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
8.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
9.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
10.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
11.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
12.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
13.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
14.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
15.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。

受講者へのメッセージやアドバイス:

・無断欠席・遅刻をせず、事前学習・発表準備をしっかり行うことが基本です。
・発表者以外もしっかりと文献・資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
・グループワークに積極的に取り組む姿勢が求められます。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30%	積極的にゼミに参加するかどうかを基準とする。
発表	35%	準備学習、発表内容の達成度合いを評価する。
グループワーク	35%	準備学習、積極的な参加度合いを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応します。

401706

応用演習Ⅰ

服部　　尚己

授業テーマ:　ヨーロッパの文化と日本

授業の概要:　ドイツを中心とするヨーロッパの文化を多様な角度から探求する。ヨーロッパの文化では、さまざまな都市が大きな役割を担っている。それらの都市をつぶさに見てゆくことによって、文化の形成される過程が観察できると考える。そのような意味で、ヨーロッパの都市および文化をテーマに掘り下げてゆく。
また、昨今のヨーロッパの目指す都市像として「サステイナブルシティ」(持続可能な都市)という呼び名がある。これはひとつには、エネルギー効率の良い移動距離の短い都市(すなわち、コンパクトシティ)を目指すことであるが、このような現代的な観点も取り入れつつ、ヨーロッパの都市および文化の内容を掘り下げて見て行きたいと思っている。
受講者はあわせて、「ヨーロッパ地域文化論Ⅰ,Ⅱ」(服部)を受講することが望ましい。

また、研究倫理についても指導する(これは「卒業研究Ⅱ」においても再度指導する予定である)。

到達目標:　ヨーロッパの文化および都市に関しての理解を深め、確かな知識に裏打ちされた観察眼を養うことを目標とする。

授業方法:　輪読、個人発表およびディスカッション。建築・都市の紹介のビデオも逐次鑑賞したい。また、フィールドワークなども必要に応じて取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のガイダンスと導入(研究倫理にも触れる)	
2.	都市の中心市街地の重要性	
3.	都市の中心市街地を勉強する	
4.	中世都市ニュルンベルクを調べる	割り当てられた都市を調べる
5.	金融都市フランクフルトを調べる	割り当てられた都市を調べる
6.	世界遺産都市ヴュルツブルクを調べる	割り当てられた都市を調べる
7.	都市とまちづくり(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
8.	都市とまちづくり(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
9.	都市とまちづくり(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
10.	都市と文化(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
11.	都市と文化(学生の発表)	プレゼンテーションの準備
12.	美術・建築、建築様式のまとめ	
13.	都市ベルリンの研究	
14.	都市ベルリンの研究	
15.	都市のまとめ、あるいは日本の都市の研究	

受講者へのメッセージやアドバイス:　文化および都市に関して常に関心を持ち、情報を収集する訓練をすること。それが自分の研究テーマに結びつくはずである。

フィードバックの方法:　マナビーを通して

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に取り組む姿勢	40%	ヨーロッパの文化や都市にどれ程関心を抱いて調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
授業での発表	30%	卒論につながる発表に関して、どれほど調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
レポート	30%	ヨーロッパの文化および都市に関してどのような観察眼を養うことができたかを見て判断する

教科書:　竹ケ原、フュロップ「ドイツ環境都市モデルの教訓」エネルギーフォーラム新書、2011年
「わがまま歩きドイツ」(実業之日本社)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して

401707

応用演習Ⅰ

加賀　　裕郎

授業テーマ:　家族、学校、地域社会に関わる教育的、倫理的諸問題

授業の概要:　日々のくらしが営まれる家族、学校、地域社会の現状を教育と倫理という視座から把握するように努めるとともに、その現状が抱える問題を改善するための方策を追求することを課題とする。

到達目標:　現代の教育問題の基本について理解するとともに、パワーポイント資料の作成、プレゼンテーションの基本を学ぶ

授業方法:　演習と講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、研究倫理、一年間のスケジュールについて	
2.	図書館の利用法、文献検索、資料収集の方法について	HPの図書館部分の使用法の練習
3.	ゼミ基本文献表の説明、マナビ―の利用法、ゼミ発表の割り当て、テキストの概要説明	テキスト購入、全体把握、
4.	教育とは何か／教育と人間／子どもの発見／学ぶことと教えること／発達と教育	テキスト該当箇所予習／ノート整理／マナビ―上に意見を載せる
5.	学校とは何か／近代の学校ー西洋	同上
6.	学校とは何か／近代の学校／戦後の学校―日本	同上
7.	こどもの心と体を育てる／身体の技法／道徳性の発達／教育におけることば	同上
8.	学習するとは何か／授業とは何か／ユニークな学校	同上
9.	青年とは何か／青年期の課題と教育／若者をめぐる問題	同上
10.	生涯学習とは何か／生涯学習とまちづくり／生涯学習と地球市民	同上
11.	子どもの権利とは何か／子どもの権利条約／新旧教育基本法	同上
12.	現代の教育政策の動向／道徳の教科化とは何か／Active Learningとは何か	同上
13.	家族と国家／家庭教育支援法／親子断絶防止法／憲法・教育基本法における家族の位置づけ問題（1）	同上
14.	同上（2）	同上
15.	まとめ	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　口頭、マナビ―、メール

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	20%	全出席を基本とした減点（遅刻二回で欠席一回）
提出ノート	30%	ノートは毎回チェックする、ノートの精確さ
プレゼンテーション	30%	内容と説得力
ミニテスト	20%	点数による

教科書:　田嶋一・中野新之佑・福田須美子・狩野浩二『第3版　やさしい教育原理』、有斐閣、2016年。
木村涼子『家庭教育は誰のもの？―家庭教育支援法はなぜ問題か』、岩波ブックレット、2017年。

参考書:　本田由紀・伊藤公雄編『国家がなぜ家族に干渉するのか―法案・政策の背後にあるもの』、青弓社、2017年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　メール、研究室

401708

応用演習Ⅰ

記虎　優子

授業テーマ:　実在する企業の開示情報を利用した企業分析のケーススタディ

授業の概要:

この授業では、実在する企業の開示情報を利用した企業分析のケーススタディを行う。ケーススタディの対象とする企業は、原則として、担当教員から指定せずに学生諸姉自らが選定する。

この授業では、ケーススタディを通じて次の3点を学ぶ。まず、①企業の情報開示制度について学び、どのような情報が、どのような開示媒体で、どのようなタイミングで開示されているのかを学ぶ。また、②どのようにすれば開示情報を入手することができるのかを学ぶ。さらに、③企業分析のための各種の方法を学ぶ。

なお、この授業では、研究倫理についても指導する。

到達目標:

この授業の第一の目標は、企業に関して知りたいと思う自分自身のニーズを満たすためには、膨大な開示情報の中からどれを参照すればよいのかを自ら判断できるようになることである。

この授業の第二の目標は、膨大な開示情報の中から、自分自身のニーズを満たすために必要な開示情報を自ら入手できるようになることである。

この授業の第三の目標は、入手した開示資料を自ら分析することで、自分自身のニーズを満たすことができるようになることである。

この授業の第四の目標は、ケーススタディを通じて、ニーズはあっても開示情報からは十分には知ることができないこともあることを体得することである。

授業方法:

原則としてゼミ(演習)形式で行う。この授業では、各回の授業で取り上げるテーマと合致した、実在する企業の開示情報のケーススタディを行い、各企業がどのような開示を行っているのかについて、一般的な開示事例だけでなく、特色のある開示事例もできるだけ取り上げることによって各社のさまざまな開示事例を具体的に学ぶ。

また、この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。また、反転授業のため、事前学習が必須である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
2.	金融商品取引法に基づく情報開示制度	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
3.	会社法に基づく情報開示制度(1) 会社法に基づく情報開示の枠組み 間接開示:決算公告	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
4.	会社法に基づく情報開示制度(2) 直接開示:招集通知	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
5.	会社法に基づく情報開示制度(3) ウェブ開示 英文での招集通知の開示	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
6.	株主総会議決権行使結果の開示	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
7.	証券取引所の規則に基づく情報開示制度(1) 決算短信	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
8.	日本の制度会計において利用可能な会計基準の種類と財務諸表の体系	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
9.	自発的な情報開示(1) IRウェブページとその利用	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
10.	自発的な情報開示(2) 決算説明会ほか	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
11.	証券取引所の規則に基づく情報開示制度(2) 適時開示	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
12.	証券取引所の規則に基づく情報開示制度(3) 業績予想の開示	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
13.	開示情報の信頼性担保のための開示	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
14.	内部統制に関する情報開示制度	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
15.	証券取引所の規則に基づく情報開示制度(4) コーポレート・ガバナンスに関する報告書	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

明確な問題意識に基づいてケーススタディを行うためには、日頃より日本経済新聞やビジネス系の雑誌(例えば、『週刊東洋経済』、『日経ビジネス』、『週刊ダイヤモンド』、『週刊エコノミスト』など)を読む習慣を身に付、実務上企業に関して今どのようなことに関心が向けられているかを知ることが必要である。ぜひ日頃から企業に関する様々なニュースに触れる努力をしてほしい。

なお、この授業は、ゼミ(演習)形式の反転授業であるため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、十分な事前学習が必要である。

フィードバックの方法:

マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50%	明確な問題意識に基づいて、参照すべき開示情報を自ら判断して入手し、適切な方法で開示情報を分析することができているかどうかを基準とする。
授業への積極的参加度	50%	出席のほか、授業中に積極的に発言するなどによって、学び得た知識の共有化を図ることができているかどうかを評価する。

教科書:　特になし

参考書:

井端和男著『最近の粉飾—その実態と発見法』(第7版)税務経理協会、2016年。

大崎貞和著『フェア・ディ スクロージャー・ルール』(日経文庫)日本経済新聞出版社、2017年。

北川哲雄編著『ガバナンス革命の新たなロードマップ—2つのコードの高度化による企業価値向上の実現』東洋経済新報社、2017年。

鈴木広樹著『適時開示実務入門』(第2版)同文舘出版、2017年。

宝印刷総合ディスクロージャー＆IR研究所監修・新保秀一著『モデルで学ぶ有価証券報告書の仕組みと作り方』中央経済社、2016年。
八田進二・伊豫田隆俊・橋本 尚著『会計のいま、監査のいま、そして内部統制のいま―日本経済を支える基本課題とは？』同文舘出版、2016年。
浜田康著『粉飾決算―問われる監査と内部統制』日本経済新聞出版社、2016年。
盛田良久・百合野正博・朴大栄編著『はじめてまなぶ監査論』中央経済社、2017年。
山本爲三郎著『会社法の考え方』（第10版）八千代出版、2017年。
『'19　日本の優良企業パーフェクトブック』日経HR、2017年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法：	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

401709

応用演習Ⅰ

河野　　健男

授業テーマ:　地域振興と観光･余暇、現代日本の家族と福祉

授業の概要:　社会学の視点から、現代日本の家族(関係)の変容、少子高齢化を反映した地域福祉ニース゛の高まりと地域福祉実践、戦後日本の生活様式の変遷、出身地の地方都市の振興･まちづくり、戦後日本の余暇と観光に関する史的研究など、幅広く取り扱います。また、研究倫理についても学びます。

到達目標:　4年次の卒業研究で主体的に研究テーマが設定できること。そのためには、3年次応用演習でテーマに関する先行研究が大切です。

授業方法:　各自が自由に設定したテーマごとにグループを作って、相互にゼミ発表をしていきます。質問や意見の交換のなかから、自分たちが意識していなかった問題のとらえ方や新たな問題の発見につながればよいでしょう。必要に応じて、フィールド参加や調査活動ができればよい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、自己紹介とグループづくり、今後の作業プロセス確認	
2.	官庁統計の活用法(国指定統計や自治体統計)	国勢調査の概要把握
3.	民間機関の調査･統計(各種民間研究所や統計機関)	社会保障･人口問題研究所の概要把握 統計資料を扱う際の研究倫理について
4.	情報倫理学習(統計利用に当たって踏まえるべき心得や先行研究の引用法や活用の仕方など)	研究論文の書式検討
5.	各自のテーマ設定、グループづくり確定、グループ内討論	
6.	グループA　その1　問題関心の紹介	グループごとの討論と発表分担･資料づくり
7.	グループB　その1　問題関心の紹介	グループごとの討論と発表分担･資料づくり
8.	グループC　その1　問題関心の紹介	グループごとの討論と発表分担･資料づくり
9.	グループA　その2　先行研究の紹介	先行研究の読了と批判
10.	グループB　その2　先行研究の紹介	先行研究の読了と批判
11.	グループC　その2　先行研究の紹介	先行研究の読了と批判
12.	グループA　その3　研究課題の再設定	先行研究を踏まえた研究テーマの再設定
13.	グループB　その3　研究課題の再設定	先行研究を踏まえた研究テーマの再設定
14.	グループC　その3　研究課題の再設定	先行研究を踏まえた研究テーマの再設定
15.	全体総括と秋学期へのつなぎ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ゼミ発表に際しては、事前に教員と相談し、発表内容を確認すること。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	60%	集団作業などへの貢献度で評価する。
個人研究の到達度	40%	研究テーマの独自性や習熟度で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的･汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

401710

応用演習Ⅰ

日下　　菜穂子

授業テーマ:　ポジティブ心理学の実践

授業の概要:　人のもつ強みを最大限に発揮して，よりよく生きることをめざすポジティブ心理学（Positive psychology）の視点から，「幸福な生き方」について考え， well-beingを実現するための科学的アプローチを探求することが授業目標です。
主なテーマとして「幸福感」「フロー」「強み」「人生の意味」「創造性」「精神的健康」といった事柄を取り上げて理解を深めるとともに，それらを実証する方法についても，実践的な活動を通じて学んでいきます。

到達目標:　(1)文献講読や演習を通じて，個人や共同体を繁栄させる要因を発見し，促進するスキルを身につけます。
(2)心理学の視点から，人間生活全般にわたる心理的問題を理解し，効果的な支援の方法を説明することができる。

授業方法:　演習・文献購読，グループ研究・発表，ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション	自己・他者理解
2.	ポジティブ心理学とは何か？	資料講読
3.	文献検索・講読の方法 研究倫理に突いて学ぶ	文献講読
4.	論文の読み方　/ 自己探求＋共有	文献講読・発表準備
5.	ポジティブ感情／ネガティブ感情の影響	文献講読・発表準備
6.	幸福（happiness）と主観的ウエルビーイング（subjective well-being）	文献講読・発表準備
7.	楽観主義（optimism）と希望（hope）	文献講読・発表準備
8.	モチベーション（motivation）／人生の目的（life goals）	文献講読・発表準備
9.	研究の方法　①量的研究：アンケート	文献講読
10.	研究の方法　②量的研究：インタビュー	インタビュー
11.	調査票の作成方法	質問紙作成
12.	調査の実施・データの集計方法・研究倫理	調査実施
13.	調査票の集計（演習：幸福感調査）	報告書作成
14.	グループ発表・ディスカッション	発表
15.	全体のふりかえり	コメントペーパー

受講者へのメッセージやアドバイス:　全員毎回出席が原則です。具体的な運用は、担当教員が決めます。

フィードバックの方法:　授業開始時に担当教員からお知らせします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	レポートの内容から，個人や共同体を繁栄させる心理的要因の理解と，促進スキルの知識を評価します。
発表	50	発表により，心理学の視点からの人間生活全般にわたる心理的問題と解決の理解を評価します。

教科書:　小塩真司・西口利文（編著），「心理学基礎演習vol.2 質問紙調査の手順」，ナカニシヤ出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

401711 **応用演習Ⅰ**

三宅　　えり子

授業テーマ:　女性・仕事・リーダーシップ － 女性活躍社会に向けて

授業の概要:　女性を取り巻く社会情勢と社会のしくみをジェンダー研究の視点から理解し、女性活躍社会に向けて自己実現ができるように心構えと知識基盤を育成することを授業目標とします。
　現在の日本は、あらゆる社会領域において女性も男性も一緒になって主体的に活躍する男女共同参画社会に向かっています。男女共同参画社会のキーワードとして、女性、仕事、リーダーシップを取り上げます。これらのキーワードをめぐってジェンダー研究の視点から理解を深めることで、卒業後の女性活躍社会において、女性であるがゆえに遭遇するかもしれない障壁や、女性であるからこそ挑戦できる機会や享受できる支援策を知ることになり、ライフコースの選択肢をクリエイティブに増やし、納得のいく意思決定ができるようになります。
　授業ではディスカッションの機会を多くもちます。今まで疑問に思っていた身近な事柄について多様な意見を共有することで、新たな気づきが得られます。また、政治経済の動きや社会問題に対してジェンダーの光を当てることで、その問題が生じる要因を理解することができます。
ジェンダー研究の奥深さを味わって、女性活躍社会での自己実現に役立ててください。

到達目標:
1. 女性を取り巻く社会情勢についてジェンダー研究の視点から理解できていること
2. 雇用におけるジェンダー格差と女性活躍推進策について理解できていること
3. リーダーシップの概念とリーダーシップの発揮の仕方について理解できていること

授業方法:　講義、グループワーク、ディスカッション、発表などをバランスよく混ぜて授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業目標と授業全体の流れ、研究倫理についてもガイダンスを行う）	
2.	日本社会における女性の現状―男女格差、女女格差	事前配布資料を読み、内容を理解しておく
3.	学問領域としての女性学・男性学・ジェンダー研究	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の1章を読み、内容を理解しておく
4.	社会保障とジェンダー: 社会保障制度のしくみを知ろう	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の2章を読み、内容を理解しておく
5.	雇用問題とジェンダー：労働市場と女性問題	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の3章を読み、内容を理解しておく
6.	高齢期におけるジェンダー問題：幸せな高齢期をどうつくるか	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の4章を読み、内容を理解しておく
7.	少子社会におけるジェンダー問題：出生率を上げるには	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の5章を読み、内容を理解しておく
8.	貧困化と女性：貧困化を防ぐには	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の6章を読み、内容を理解しておく
9.	高等教育におけるジェンダー：女性の能力を伸ばすには	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の7章を読み、内容を理解しておく
10.	アジア諸国のジェンダー：中国・韓国	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の8章・9章を読み、内容を理解しておく
11.	アジア諸国のジェンダー：インド・ベトナム	『アジアのなかのジェンダー 第2版』の10章・11章を読み、内容を理解しておく
12.	ネオリベラリズム、労働、少子化 － ジェンダー問題研究1	『女たちのサバイバル作戦』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
13.	ネオリベラリズム、ジェンダー、バックラッシュ －ジェンダー問題研究2	『女たちのサバイバル作戦』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
14.	女子学生へのアドバイス － サバイバル作戦研究	『女たちのサバイバル作戦』の指定箇所を読み、内容を理解しておく
15.	前期の振り返りとまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業ではディスカッションの機会を多くもちます。今まで疑問に思っていた身近な事柄について多様な意見を共有することで、新たな気づきが得られます。また、政治経済の動きや社会問題に対してジェンダーの光を当てることで、その問題が生じる要因を理解することができます。ジェンダー研究の奥深さを味わって、自己実現に役立ててください。

フィードバックの方法:　ワークプリントに関しては、コメントをつけて返却します。
期末レポートについては、秋学期に教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30%	出席、授業コメント、積極的な発言など
ワークプリント（複数回）	30%	授業内容の要点が理解できている
期末レポート	40%	ジェンダー問題に関する情報収集力、理解度、分析力

教科書:
川島典子・三宅えり子(編著)『アジアのなかのジェンダー 第2版』ミネルヴァ書房 2015年
上野千鶴子『女たちのサバイバル作戦』文春新書 2013年

参考書:
川口章『ジェンダー経済格差』勁草書房 2009年
伊藤公雄・牟田和恵（編）『ジェンダーで学ぶ社会学（全訂新版）』世界思想社 2015年
中野円佳『「育休世代のジレンマ － 女性活用はなぜ失敗するのか」』光文社 2014年
濱口桂一郎『働く女子の運命』文春新書 2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　E メール　（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

401712

応用演習Ⅰ

長岡　　延孝

授業テーマ:　ヨーロッパの経済社会を日本と比較しながら多面的に理解する

授業の概要:

現在、ヨーロッパは大きな変化の時代を迎えています。金融危機、難民の移動、イギリスのEU離脱などが経済社会を揺さぶっています。とはいえ、豊かな歴史・文化、人権を尊重する社会、あるいは新たなトレンド発信力は魅力的です。

この演習では、ヨーロッパの持つ魅力と課題を、さまざまな角度から調査し、研究します。そのため、これまで演習で取り上げてきたテーマは、政治経済、企業活動、社会福祉・労働、環境対策・まちづくりなど広範囲にわたります。

ヨーロッパはグローバル化の中で国境を越えた協力の仕組みも作り上げてきました。アジアやその他の地域にとっても、その経験を学ぶ必要があるでしょう。他方、今では工業製品だけでなく、マンガ、食文化、スポーツなどでヨーロッパも日本から影響を受ける時代になっています。相互理解は新たな段階を迎えています。

初めに、基本的なテキストを読んで全員の共通理解を図り、次いで具体的なテーマについて調べる予定です。多様なテーマですが、それらの根底に流れている共通の価値観を探って、日本と比較しながら調査や考察を深めます。そうすることによって、すぐれた社会人への道が拓かれることを期待します。

なお、学習・研究にあたっては、研究倫理を踏まえて進めます。

到達目標:　ヨーロッパと日本社会の特性についての理解を深めることによって、グローバル経済を視野に入れたビジネスパーソンの基礎力を養うことを目標にしています。

授業方法:　テキストを使い、情報交換をしながら知識と理解を深めます。次に、グループをつくって具体的なテーマを決めて調べます。そして順番に報告し、皆で議論します。(ただし、受講人数によっては、グループ分けなどの方法を変更することがあります。)当然のことですが、演習のテーマに関心があり、熱心に学び、研究したいと思う学生さんに受講してほしい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと自己紹介 研究倫理についての学習	課題について調べ、整理しておくこと
2.	プレゼンテーションの方法 研究倫理についての確認	課題について調べ、整理しておくこと
3.	ヨーロッパの情報交換と理解:国々と民族の多様性	課題について調べ、整理しておくこと
4.	ヨーロッパの情報交換と理解:EUと政治	課題について調べ、整理しておくこと
5.	ヨーロッパの情報交換と理解:経済と企業	課題について調べ、整理しておくこと
6.	グループ分け	課題について調べ、整理しておくこと
7.	ヨーロッパの情報交換と理解:社会福祉と労働	課題について調べ、整理しておくこと
8.	ヨーロッパの情報交換と理解:環境対策	課題について調べ、整理しておくこと
9.	ヨーロッパの情報交換と理解:町づくりと観光	課題について調べ、整理しておくこと
10.	グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと
11.	グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと
12.	グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと
13.	グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと
14.	グループ報告	課題について調べ、整理しておくこと
15.	春学期の振り返り	課題について調べ、整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　世界の動向に関心を持って、新聞や報道番組を通じて情報を収集してほしい。

フィードバックの方法:　報告についてコメントを行い、全員で議論する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	課題について調査・整理し、分りやすく伝えられているか
レポート	50	課題について調査・整理し、論理的に議論できているか

教科書:　加賀美雅弘ほか『ヨーロッパ学への招待』(第二版)、学文社。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール

401713

応用演習Ⅰ

大倉　　真人

授業テーマ:　日常生活におけるリスクマネジメントと保険

授業の概要:

リスクマネジメントおよび保険は、意識しているか否かはさておき、日常生活の中で数多く登場している。例えば地震について考えると、地震で建物が倒壊しないように耐震補強工事をしたり、地震が起こったときに備えて避難訓練を行ったりすることなどは地震に対するリスクマネジメントとして考えられる。また、火災保険や自動車保険についてみると、一人暮らしの人だと火災保険に、車や原付を持っている人だと自動車保険に実際に入っているケースが少なくない。さらに、医療保険や年金保険などは、病気になったときや老後の生活を支える重要な手段となっている。また最近では、女性特有の病気に対して手厚い保障を行う保険なども登場している。

本講義では、このように日常生活の中で数多く登場するリスクマネジメントや保険について考えていく。また同時に、研究を行う上での研究倫理について学ぶ機会とする。

到達目標:

リスクマネジメントや保険がどのような役割を担っているのか、どのような問題を抱えているのか、などについて学習することを通じて、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識を修得することおよびそれらの知識を使ってプレゼンテーションできるようになることを目標とする。

授業方法:　主として「個人研究」と「グループ研究」にかかる発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解
2.	研究に関する基礎的事項（研究倫理、参考文献の書き方、引用の方法等）に関する確認	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	個人研究（1）	「個人研究」の準備
4.	個人研究（2）	「個人研究」の準備
5.	グループ研究（1）	「グループ研究」の準備
6.	個人研究（3）	「個人研究」の準備
7.	グループ研究（2）	「グループ研究」の準備
8.	個人研究（4）	「個人研究」の準備
9.	個人研究（5）	「個人研究」の準備
10.	個人研究（6）	「個人研究」の準備
11.	グループ研究（3）	「グループ研究」の準備
12.	個人研究（7）	「個人研究」の準備
13.	グループ研究（4）	「グループ研究」の準備
14.	個人研究（8）	「個人研究」の準備
15.	総括	全体の振り返り等

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中において、担当教員が適宜コメントすることで、発表の内容についてのフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
個人研究の発表	20	個人研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
グループ研究の発表	30	グループ研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
期末レポート	30	期末レポートより、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度を評価する。
授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。

教科書:

参考書:

家森信善（編著）『はじめて学ぶ保険のしくみ（第2版）』中央経済社、2015年

下和田功（編）『はじめて学ぶリスクと保険（第4版）』有斐閣、2014年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

401714 **応用演習Ⅰ**

大西　　秀之

授業テーマ:　多文化社会を読み解く

授業の概要:　現代社会は、国家や民族集団など既存の枠組みを超え、多種多様な文化が共存・混合する状況が進んでいます。また同じ社会のなかでも、さながら異文化のようにコミュニティが分断され相互交流が希薄になっていることが問題視されています。このため、わたしたちを取り巻く社会現象の理解は、今後ますます困難になって行くと予想されます。
　以上のような状況を考慮に入れ、本演習では、個人からグローバルなレベルにまたがる今日の社会現象の読み解きを試みます。このような目的の下、本演習では、まず受講生の興味・関心に関わる研究テーマを選定した上で、多文化化が進む現代社会を理解するためのリテラシー（分析力・読解力）を学び身につけて行きたいと考えています。また本演習では、研究倫理についての学習も併せて行います。

到達目標:
・自らの視点で社会現象を読み解き固定観念にとらわれない新たな知見や理解を習得する。
・社会現象を読み解く上で必須となる「批判力」と「多角的視点」を身に付ける。
・自らの主張や見解を第三者に説得的に説明できるプレゼンテーション力とディスカッション力を身に付ける。
・社会責任としてグローバルに通用する研究倫理を確認し習得する。

授業方法:
演習形式
・毎回の授業では、個人発表（PowerPoint使用）と全体討論を実施します。
・受講生の数によりますが各人が最低１～２回は報告・発表を担当していただく予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス：演習計画と研究倫理などの説明	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	具体事例の検討：プレゼンテーション＆ディスカッション	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてくださ
3.	具体事例の検討：プレゼンテーション＆ディスカッション	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてくださ
4.	具体事例の検討：プレゼンテーション＆ディスカッション	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてくださ
5.	具体事例の検討：プレゼンテーション＆ディスカッション	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてくださ
6.	具体事例の検討：プレゼンテーション＆ディスカッション	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてくださ
7.	具体事例の検討：プレゼンテーション＆ディスカッション	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてくださ
8.	具体事例の検討：プレゼンテーション＆ディスカッション	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてくださ
9.	具体事例の検討：プレゼンテーション＆ディスカッション	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてくださ
10.	具体事例の検討：プレゼンテーション＆ディスカッション	プレゼンテーションの資料は事前に配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてくださ
11.	中間まとめ：事例研究の意義	各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。
12.	批判力と多角的視点の習得：グループディスカッション	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
13.	批判力と多角的視点の習得：グループディスカッション	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
14.	批判力と多角的視点の習得：グループディスカッション	ディスカッションのテーマは事前に告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。ディスカッション後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
15.	最終まとめ：批判力と多角的視点の意義	各自のこれまでのプレゼンテーションやディスカッションを通して得たポイントや理解を整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:
　なお本演習の受講生の皆さんには、既存の学問的なテーマに縛られず、自由な発想でテーマとなる社会現象を選択して頂ければと思っています。
　ちなみに2017年度の受講生は、「チケット転売」「野球派／サッカー派」「日韓スタバ比較」「男／女受け髪型」「SNSフォロー」「スナック菓子」「同性愛」「インスタントカメラ」「ベジタリアン」「ナシ婚」「ファッション男女差」「テーマパーク入場者数」「ギャップ萌え」「犬派／猫派」「プチ留学」「YouTube」「愛煙家」「お土産ネット購入」など、様々なキーワードで研究発表を行われました。

フィードバックの方法:
・各回の個別のプレゼンテーションとディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	発表、討論	40%	発表は、到達目標である「自らの視点で社会現象を読み解き、固定観念にとらわれない新たな知見や理解」に基づいているか評価します。また討論は、到達目標である「批判力」と「多角的視点」からなされているか評価します。
	授業への参加度	60%	到達目標である「批判力」と「多角的視点」を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法: オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

401715

応用演習Ⅰ

大津　　正和

授業テーマ:　観光に関連する産業および地域に関する経営学的研究

授業の概要:　本演習では、実証的な研究に基づいた観光学の学びを深めることを目的とする。具体的には、観光関わる産業や観光振興に取り組む地域の経済的側面、経営的側面などを多角的に分析・検討する。特に、観光現象は、遠方に居住する人々の移動を引き起こさないと実現しないことから、このような機能を担うマーケティング論的視点からの考察に重点を置く。すなわち、どのような地域を訪問し、どのような行動や経験をすることが、観光者たちにとって価値となり、観光の満足をもたらしているのかといった視点から観光を考えることで、人はなぜ観光をするのかという根源的な問にアプローチする。このような検討を通して、観光学についての理解を深めるとともに、実社会における様々な観光のあり方の研究を試みる

到達目標:　基礎となる知識としてマーケティング論に関する知識とその考え方を確実に吸収するまたその知識を他のメンバーに対して明確に報告できる。観光に関する現象について、具体的な情報収集を行い、それを理論的な視点から整理・考察する能力を身につける。グループワークでは、他メンバーの意見を良く聞いた上で、自分の意見を明確に示し、全体としてより良い考察・結論に結びつけていく能力を身につける。

授業方法:　演習　前半は、マーケティング論に関する輪読形式、後半は、具体的な観光現象についてマーケティングの視点から考察するグループワーク形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	観光に関するニュースや自身の観光経験について確認しておく
2.	研究倫理について	オリエンテーション時に配布（予定）の資料を読んでくる
3.	マーケティングについて(1)	教科書の該当箇所の予習
4.	マーケティングについて(2)	教科書の該当箇所の予習
5.	マーケティングについて(3)	教科書の該当箇所の予習
6.	マーケティングについて(4)	教科書の該当箇所の予習
7.	現代の観光現象について(1)：グループ編成と対象設定	自身の興味ある観光現象について情報収集を行っておく
8.	現代の観光現象について(2)：情報収集・分析	グループで設定した研究対象について情報収集を行ってくる
9.	現代の観光現象について(3)：検討と報告書作成	グループでの議論を踏まえ、必要な情報収集を行ってくる
10.	現代の観光現象について(4)：報告	グループのメンバーと協力して、報告書を完成させてくる
11.	魅力ある観光を考える(1)：グループ編成と対象設定	自身の興味ある観光地について情報収集を行っておく
12.	魅力ある観光を考える(2)：情報収集・分析	受講生全体で決めた観光地域について情報収集を行ってくる
13.	魅力ある観光を考える(4)：検討と報告書作成	グループでの議論を踏まえ、必要な情報収集を行ってくる
14.	魅力ある観光を考える(3)：報告	グループのメンバーと協力して、報告書を完成させてくる
15.	講義全体の振り返り	これまで学んだことに対する復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　輪読に関しては、担当者はもとより、各自が該当箇所について十分に予習をしていることを前提に、報告・討論によって理解を深め、復習によってそれらを確実なものとする。グループワークは、各メンバーがそれぞれ準備をしてきて、それらを付き合わせることで成果へとつなげるため、それらが揃わないとグループワークが進まないので、予習・復習は必須である。特に、後半の「魅力ある観光を考える」は、夏休みに予定しているフィールドワークの準備になるので、真剣に取り組んで欲しい。

フィードバックの方法:　輪読内容に対しては、教室でコメントする。報告書（レポート）に対しては、添削してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	輪読およびグループワークで、担当部分を適切に報告できるか、それ以外の時には積極的に意見表明ができるか。
発表、討論	20	グループワークで、自分の意見を表明したり、他のメンバーの意見と調整したりして、積極的に進行に参加しているか
レポート	30	マーケティングの考え方を理解した上で、観光領域の諸問題に適切に考察が行えているか

教科書:　小川進『はじめてのマーケティング』千倉書房, 2016

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

401716 **応用演習 I**

L.Rogers

授業テーマ: Diversity and Leadership Development

授業の概要: Two important leadership skills are communication and self-awareness. This course will focus on leadership and cultural diversity, especially how it relates to identity, and communication styles. Class work will take a practical approach and include various activities in which students will examine critical incidents, discuss readings, participate in simulations, and do fieldwork to examine value and belief systems and communication styles in various Japanese and non-Japanese cultures to understand mainstream intercultural communication patterns in Japan and other countries. Upon completion of this seminar, students should have a better awareness of who they are and who they want to become. They will also have a better understanding and better ability to communicate with people from various backgrounds and countries.

到達目標: Upon completion of this seminar, students should have a better awareness of who they are and who they want to become. They will also have a better understanding and better ability to adapt to new situations and communicate with people from various backgrounds and countries.

授業方法: Class work will take an experiential approach and include various activities in which students will examine critical incidents, discuss readings, participate in simulations, and do fieldwork to examine value and belief systems and communication styles in various Japanese and non-Japanese cultures to understand mainstream intercultural communication patterns in interactions between people with diverse backgrounds.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction and introduction to leadership	Prepare to take part in class discussion
2.	Learning styles and communication	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
3.	Cultural identity part 1	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
4.	Cultural identity part 1 practical	Outside activity to prepare for class discussion
5.	Perceptions and stereotypes	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
6.	Cultural values and beliefs part 1	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
7.	Cultural values and beliefs part 2	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
8.	Project 1 due: Presentation using weeks 1-7 ideas	Review and prepare for assessment activity
9.	Culture shock	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
10.	Communication styles Part 1	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
11.	Communication styles Part 1 practical	Outside activity to prepare for class discussion
12.	Communication styles Part 2	Readings from textbook and notes to prepare for class discussion
13.	Communication styles Part 2 practical	Outside activity to prepare for class discussion
14.	Project 2 discussion	Review and prepare for assessment activity
15.	Wrap-up discussion	Review and self-reflection for discussion

受講者へのメッセージやアドバイス: This seminar is a content course in English. That means that it is imperative that students prepare during the week between classes in order to be able to discuss and better understand what is done in class. This course may appear to be easy; however, it will require students to be independent learners and keep up with readings before classes so that they can contribute to class discussions and ask relevant questions in class. Projects will require students to apply ideas studied in the course with real life situations.
Points will be deducted for late assignments (5% each day) and assignments more than one week overdue will not be accepted without prior notification. If you miss a class, you are responsible for finding out what you missed, and what assignments were given. Please ask a classmate or contact me. A grade of '0' will be given for missed projects and presentations unless advanced notice is given.

フィードバックの方法: Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Projects & presentations	40%	Assessment project work and presentations
Participation & active discussion	30%	Active participation in class and group work
Homework & Project preparation	30%	Outside preparation for in-class work and projects

教科書: Lee, S. & Rogers, L. (2014). Culture and Conflict: Making the world a better place to live in. Tokyo: Shohakusha.

参考書: Trompenaars, F. & Hampden-Turner, C. (2012). Riding the waves culture: Understanding diversity in global business (3rd ed.). NY: Nicholas Brealey Publishing.
Hofstede, G., Hofstede, G. J., & Minkov, M. (2010). Cultures and organizations: Software for the mind (Vol. 3rd edition). USA: McGraw-Hill.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、変化対応力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法: lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

401717 **応用演習Ⅰ**

朱　　捷

授業テーマ: 比較文化──グローバル化社会を生きる知恵

授業の概要: グローバル化社会において、異文化への理解力、異文化とコミュニケーションする能力がますます求められる。比較文化研究は、文化間の違いが由来する歴史背景を調べ、それぞれの文化の個性を理解し、文化間の違いを乗り越えるのにどうすればいいかを考える学問である。この授業は受講者が、宗教・神話・文学・美術・音楽・映画・アニメ・ファッション・料理・・・などなど、さまざまなテーマをとりあげて文化間の違いを自由に比較研究し、ひとつの研究テーマを定めて深く調べることを通して、異文化理解の力やグローバル化社会を生きる知恵を身につけることを目標とする。
さらに、調べと発表の演習を通して、情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力、という五つの力も鍛えていく。

到達目標: 下記の5つの力を身につける
〇情報収集力
〇情報分析力
〇問題発見力
〇問題解決力
〇プレゼン力

授業方法: 教員はあくまでアドバイザーに徹し、ゼミ生の自主研究とグループ研究を奨励する。自己評価と相互評価を取り入れて、自己管理力・自己実現力を磨いていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。
2.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
3.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
4.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
5.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
6.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
7.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
8.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
9.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
10.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
11.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
12.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
13.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
14.	レポートや論文作成方法と研究倫理について	レポートや論文作成方法と研究倫理に関するプリント資料を読む。
15.	総括	総括の準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうか、ゼミのディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書: 教室で指示する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法: マナビーの掲示板

401718

応用演習Ⅰ

鈴木　　尊明

授業テーマ:　事例で学ぶ民法　～判例を読み解く～

授業の概要:

この演習は、民法を素材にして、具体的な問題に対する取り組み方を学ぶものです。民法を始め、法律は「条文」の形で定められていますが、実際に使おうとすると、①内容が理解できない、②具体的な問題に適用できないことがよくあります。法律を使いこなすため、その内容と適用方法を学ぶことは、とても重要なことです。

しかし、そのような知識だけでは、問題を解決することはできないでしょう。民法では、争う当事者双方に言い分があり、それぞれに法的な根拠があるからです。もちろん、簡単に勝敗を決めることができる場合も少なくありませんが、どちらの言い分にも一理ある場合にはどうしたらよいでしょうか？ここで、単に「民法を使う」だけではなく、「民法を使って説得する」ことが必要になります。この演習の目的は、民法に関する知識を縦横に使って、異なる主張を持つ相手方を説得する経験を積んでもらうことです。

「応用演習Ⅰ」では、具体的な裁判例を素材にして、どのような事件であったのか、どのような論理で結論が出されたのかを読み解く基本的な訓練を積んでもらいます。演習の進め方は皆さんと相談しますが、基本的には、教員が用意した事例についてグループの調査・報告によって進めます。「発表が苦手」という人も、ここからじっくり取り組んでくれれば、その姿勢を積極的に評価します。

なお、演習の一環として、研究倫理についても学びます。

到達目標:

〇民法に関する知識を理解し、具体的事例に適用して結論を導くことができるようになる。
〇様々な考え方があることを理解し、自分と異なる考え方を持つ相手を説得する経験を積む。
〇プレゼンテーションの技法を習得する（レジュメ作成・口頭発表・PowerPoint作成など）。

授業方法:

口頭発表
※他大学ゼミとの討論会の実施も考えています。
☆夏は皆で研修に行きましょう（合宿）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。	これまで受けた民法関連科目の内容を教科書・ノート類を使って復習しておく。
2.	法律情報の検索方法と報告技術（1）：研究倫理について	1年次の図書館ガイダンスや基礎演習等で習得した報告技術の復習をしておく。
3.	法律情報の検索方法と報告技術（2）	民法関係の専門文書を配布するので、それを事前に読み込んでくる。
4.	グループ発表1周目（1）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
5.	グループ発表1周目（2）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
6.	グループ発表1周目（3）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
7.	グループ発表1周目（4）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
8.	グループ発表1周目（5）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
9.	特別企画 ☆フィールドワークの予定	訪問先での調査内容等をそれぞれ考えてくる。
10.	グループ発表2周目（1）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
11.	グループ発表2周目（2）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
12.	グループ発表2周目（3）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
13.	グループ発表2周目（4）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
14.	グループ発表2周目（5）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
15.	春学期の総括	他大学との討論会を実施する可能性もある。

受講者へのメッセージやアドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」ことと「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの方法:

発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時の取り組み	100	普段のゼミにおける討論への参加、発表の準備と内容といった様々な取り組みを評価する。

教科書:　六法　（どのようなものでも良いです）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

401719 **応用演習Ⅰ**

谷　　直之

授業テーマ:　刑事法学への誘い

授業の概要:

刑事法学の領域には、犯罪と刑罰とを規定する刑法の意味・内容を解釈によって体系的に認識する刑法解釈学、個々の事件について犯罪事実を認定し刑法が予定した刑罰を言渡してそれを執行するための手続を定める刑事訴訟法の理論的検討、刑罰を執行する行刑関係者が従うべき行刑法および犯罪者の更生保護に関する犯罪者処遇法に関する理論的・実践的検討といった諸分野があって、それぞれ有機的な関連をもっています。そのほかにも、周辺領域として、脳死・臓器移植や生殖医療の問題など医事刑法の領域や、犯罪被害者の支援問題、少年犯罪とその対策等も重要です。

３年次の応用演習Ⅰでは、（1）刑法解釈学、（2）刑事訴訟法学、（3）医事刑法学、（4）刑事政策学、（5）被害者学などの諸分野から、死刑、安楽死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、ドメスティック・バイオレンス、児童虐待、ストーカー、少年犯罪とその対策、精神障害者による犯罪とその処遇、裁判員制度、犯罪被害者保護、犯罪被害者の刑事裁判参加制度など、受講者の問題関心に添ってテーマを決め、それを少人数のグループで担当してもらい、ビデオや映画等の映像素材を活用しつつ、クラス全体で討論するという演習形式で行います。

授業では、リサーチ方法のほか、研究倫理についても指導を行います。

また、夏季休暇（または冬季休暇）等を利用して、和歌山の女子刑務所や京都刑務所等の刑務所参観、女子少年院の見学のほか、合宿をともなうフィールドワークを行う予定です。また、同志社大学刑事法ゼミとの合同ゼミ等も企画しています。

到達目標:

信頼できる複数の情報源から、必要な情報を収集することができる。
問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持つことができる。
準備や討論に積極的に参加する態度で授業に臨むことができる。
コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができる。
論理的な議論・討論ができる。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（1）	各自の興味・関心に合わせて、ゼミで扱うテーマについてのプレゼンテーションを各自で用意すること。
2.	オリエンテーション（2）	自分の担当するテーマについて、インターネット等を活用して、各自でリサーチを始めておくこと。
3.	リーガルリサーチ 研究倫理指導	研究倫理指導の内容に沿って、図書館等を活用したリサーチを進め、担当グループで分担するなど、発表の準備を進めておくこと。
4.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
5.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
6.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
7.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
8.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
9.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
10.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
11.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
12.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
13.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
14.	刑務所の問題点	現在の刑務所が抱える問題点について、十分にリサーチを行うこと。

	15.　総括と指導	前回の授業中に指示した点について、準備を行っておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備をしておくことが大切です。刑事法的な問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っていきましょう。

フィードバックの方法:
マナビーを活用してコメントを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・討論	35%	到達目標のうち、信頼できる複数の情報源から、必要な情報を収集することができているか、問題についての正しい知識を得ているか、コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができているかを基準として評価する。
授業への参加度	65%	到達目標のうち、問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持って授業に臨んでいるか、討論に積極的に参加しているか、論理的な議論・討論ができているかを基準として評価する。

教科書:

参考書:
テーマに応じて、適宜、指示していきます。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

401720

応用演習Ⅰ

鳥潟　　優子

授業テーマ:　対米関係の比較

授業の概要:　圧倒的な力を持つアメリカとどのようにつきあうか、日本はもちろんヨーロッパ各国、カナダをはじめ世界のどのような国にとっても今日、大きな課題です。また国連など多国間外交の舞台でも、アメリカがどのような政策をとるかによって国際政治の動向や国際機関の果たす役割は大きく左右されます。各国はどのような対米政策をとってきたのか、あるいは国際機関とアメリカの関係についてなど、各受講生が自らの関心に添ってテーマを決め報告し、他の受講生と議論します。授業では、課題を見出し、基本的な文献を調査した上でそれを読みこなすことを通じて、国際政治への理解を深め複眼的な視点を養うことを目指します。

到達目標:　ゼミを通じて、自ら課題を見つけ目標を設定し、その実現に向けて努力する姿勢を身につけつつ、国際政治やアメリカ外交について知識や理解力を涵養し、議論を深めていく。

授業方法:　毎回、報告の担当者を決め、担当者はレジュメを作成し報告を行い、ゼミで議論します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスの内容や到達目標等を読み込むこと
2.	問題意識の検討と課題設定	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
3.	文献の探し方と読み方	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
4.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
5.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
6.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
7.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
8.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
9.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
10.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
11.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
12.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
13.	研究計画の立て方	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
14.	レポートや論文作成方法と研究倫理について	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する 研究倫理について考える
15.	まとめ	まとめを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　予め文献を読んでディスカッションに備えてください。報告担当者はレジュメを作成し、プレゼンテーションの準備を行ってください。

フィードバックの方法:　授業中に解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表内容	50	基礎知識、理解力、プレゼンテーションの構成力や表現力など
出席	20	出席と積極的なゼミへの参加
授業での議論などの参加態度	30	学期末にレポート提出などを総合的に評価

教科書:　佐々木卓也編『戦後アメリカ外交史　第3版』(有斐閣)

参考書:　授業中に適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー、Eメールなど

401721

応用演習Ⅰ

山田　　邦和

授業テーマ:　京都の歴史と歴史遺産

授業の概要:　京都は1200年を超える歴史を持つ巨大都市である。千年以上にもわたってひとつの文明の中心としての地位を保ってきた都市は、世界を見渡してもそうたくさんあるわけではない。この演習では、京都に存在する歴史遺産（寺社や史跡などの不動産的文化財、美術資料や古文書などの動産的文化財）を研究し、それを現代にどう活用していくかを考える。また、京都を知るためには何よりもまず、幾度も幾度も京都の町を歩き、京都の息吹を身体で感じることが必要である。受講生の諸君とともに、日本文化の精華ともいうべきこの都市の魅力を味わっていきたいと思う。

到達目標:　自分で独自の研究テーマをみつけ、それについて自主的な学習ができる能力を確立する。

授業方法:　教室内での作業、受講生の発表と討論（参加者全員が必ず発言できるようにすること）、休暇期間を利用したゼミ合宿などをおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ゼミのガイダンス	自分なりの研究テーマを考えておく。
2.	同志社京田辺キャンパス内の博物館・史跡見学1	博物館・史跡見学のやりかたを考えておく。
3.	同志社京田辺キャンパス内の博物館・史跡見学2	博物館・史跡見学のやりかたを考えておく。
4.	同志社京田辺キャンパス内の博物館・史跡見学3	博物館・史跡見学のやりかたを考えておく。
5.	歴史遺産研究の方法1	自分なりの研究テーマを考えておく。
6.	歴史遺産研究の方法2	自分なりの研究テーマを考えておく。
7.	歴史遺産研究の方法3	自分なりの研究テーマを考えておく。
8.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
9.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
10.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
11.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
12.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
13.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
14.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
15.	春学期の総括	これまでの授業の内容をふりかえり、夏季休暇中の学習計画をたてる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びペーパー提出	30	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
授業への積極的参加度	20	授業中に積極的に参加したか。
学期末のリポート	40	研究内容を適切にまとめたか。自分で独自の研究テーマをみつけ、それについて自主的な学習ができる能力を確立できたか。
フィールドワーク	10	自主的にフィールドワークをおこなったかどうか。

教科書:

参考書:　仁木宏・山田邦和編『歴史家の案内する京都』（文理閣,2016）
山田邦和『京都　知られざる歴史探検』上・下巻（新泉社、2017）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

401722

応用演習Ⅰ

倉持　　史朗

授業テーマ:　現代社会における社会保障と福祉

授業の概要:　現在，子ども，高齢者，障害，貧困，病などに関わるさまざまな生活問題や福祉ニーズが生まれており，社会保障・社会福祉の動向は私達の生活に多大な影響を及ぼします。つまり，これらは現代を生きる私たちにとって切っても切れない関係にあると同時に，このような人びとが抱える生活困難の現状やその解決に向けた課題を通して「現代社会」のあり様を理解することは，本学科学生の皆さんにとって大変重要であると考えます。
本授業(応用演習Ⅰ・Ⅱ)では，現代の社会保障・社会福祉問題に関する課題(研究テーマ)について各自やグループで取り上げ、それらのあるべき方向性について皆さんとともに考えていきたいと思います。

到達目標:　現代社会における社会福祉の意義を学ぶ。また、日本の社会福祉の法体系・制度施策について理解を深め，ソーシャルワーク(社会福祉援助)に関する基礎的な知識・技術・倫理について学習する。

授業方法:　講義，文献・資料等の精読，グループワーク，プレゼンテーションや討論を通じて学術的な研究論文を作成する基本的な考え方，スキルを獲得します。
社会保障・福祉問題に関する理解を深めるために，専門職のゲスト講義や施設・機関見学も適宜実施します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	自己紹介カード作成
2.	文献収集と精読	配布資料を精読する
3.	情報・研究リテラシー	配布資料を精読する
4.	プレゼンテーション方法	配布資料を精読する
5.	共通テキストの精読，分担発表(1)	テキスト精読，プレゼンテーション準備
6.	共通テキストの精読，分担発表(2)	テキスト精読，プレゼンテーション準備
7.	共通テキストの精読，分担発表(3)	テキスト精読，プレゼンテーション準備
8.	グループ研究：討議(1)	研究テーマの設定
9.	グループ研究：討議(2)	研究資料の収集・精読
10.	グループ研究：討議(3)	研究資料の収集・精読
11.	グループ研究：討議(4)	研究資料の収集・精読
12.	グループ研究：発表・討議(1)	プレゼンテーション準備
13.	グループ研究：発表・討議(2)	プレゼンテーション準備
14.	グループ研究：発表・討議(3)	プレゼンテーション準備
15.	まとめ	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業時間内のコメント等で講評をフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40	出席状況，授業参加への積極性を基準にします。
レポート	30	テーマの理解度と，社会福祉援助のと基本的知識・技術等を論理的に説明できるかを基準とします。
プレゼンテーション	30	プレゼンテーション内容・スキル等を基準とします。

教科書:　適宜，紹介します。

参考書:　適宜，紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール

401723

応用演習Ⅰ

山下　　智子

授業テーマ:　「人生の物語」に学ぶ一人物研究から考えるライフデザイン一

授業の概要:　本学にかかわりのある女性たちを含め、過去に教育、医療、福祉、文学、経済などの諸分野で活躍した人々の伝記や、証言、手紙、日記などに表される多様な経験、つまり「人生の物語」を学ぶことを通して、他者への理解や受容、自分自身の生き方や現代社会の諸問題に対する批判的な思索と行動へのアプローチとすることを目指します。
合わせて次年度の卒業研究に向けて知っておかなくてはならない研究倫理や資料収集の仕方なども学びます。

到達目標:　1、伝記や証言、手紙、日記などを多角的に読むための方法論を学びます。
2、現代日本に生きる自分自身の立場を明らかにしつつ、他者の多様な経験を考察します。
3、卒業研究に向け自分の研究テーマを探求します。

授業方法:　演習形式。状況に応じ、講義、発表、ディスカッション、グループワークなどを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを読み、自分自身の興味や関心を整理しておく
2.	研究活動の基本（1）研究倫理についても触れる	配布資料を参考に、グループワークの準備をしてくる
3.	研究活動の基本（2）研究倫理についてもふれる	配布資料を参考に、グループワークの準備をしてくる
4.	同志社創設期の女性（1）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
5.	同志社創設期の女性（2）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
6.	伝記（1）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
7.	伝記（2）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
8.	手紙（1）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
9.	手紙（2）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
10.	日記（1）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
11.	日記（2）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
12.	個人発表（1）	発表の準備をする
13.	個人発表（2）	発表の準備をする
14.	個人発表（3）	発表の準備をする
15.	まとめと期末レポートの準備	期末レポートの準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:　このゼミでは、みなさんが興味を持って打ち込める卒論のテーマを見つけ、仲間づくりをし、大学で学ぶ楽しさを味わえるよう応援します。

フィードバックの方法:　教室で発表にコメントしたり、質問に答えたりします。また期末レポートはコメントして返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	積極的な発言やクラスへの参加の姿勢など総合的に判断
発表や授業内の取り組みの成果物	30	思考力、分析力、取り組みへの姿勢などにより判断
期末レポート	30	思考力、分析力など総合的に判断

教科書:　配布資料を準備します

参考書:　教室にて指示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールで連絡が取れるようにします

401801

応用演習Ⅱ

C.Adamson

授業テーマ:
Research and completion of graduation thesis

授業の概要:
Students will receive assistance and support to create and carry out an original research project using English to write up the results

到達目標:
Students should develop appropriate research skills and improve their English ability in all areas

授業方法:
Group/ individual instruction and research

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Self-research and reporting of results	individual research
2.	Self-research and reporting of results	individual research
3.	Self-research and reporting of results	individual research
4.	Self-research and reporting of results	individual research
5.	Self-research and reporting of results	individual research
6.	Self-research and reporting of results	individual research
7.	Mid-term progress presentation	individual research
8.	Self-research and reporting of results	individual research
9.	Self-research and reporting of results	individual research
10.	Self-research and reporting of results	individual research
11.	Self-research and reporting of results	individual research
12.	Self-research and reporting of results	individual research
13.	Final progress and presentation	individual research
14.	Final progress and presentation	individual research
15.	Debriefing and preparation for final term	individual research

受講者へのメッセージやアドバイス:
Make sure you start early and maintain steady progress. A rush at the end will result in a poor thesis.

フィードバックの方法:
Individual progress and advice

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Presentations	25	Quality of research
Drafts	25	Writing progress and quality
Final thesis	50	Participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:
cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

401802

応用演習Ⅱ

天野　　太郎

授業テーマ:　まちづくりと地域－観光と文化のかかわり

授業の概要:　大阪や東京、あるいはみなさんの出身地域などの具体的な地域を対象地域として、その実態を幅広い問題意識と視点から調査・研究することを通して、地域空間についての理解を深めることを目標とします。受講生の多様な興味・問題意識に基づいて、4年生の卒業論文作成にむけて実践的な作業を行います。

到達目標:　1：研究の基本的な姿勢と、オリジナルの視点からの調査研究を進める。
2：卒業研究に向けて、ゼミ生相互の議論を深化させる。

授業方法:　演習・ゼミナール形式での学生個人発表を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　夏季フィールドワークのフィードバック	配布資料の確認
2.	グループコンペ観光課題の討論	国立国会図書館HPの事前調査
3.	研究発表と研究指導1	論文の確認と精読
4.	研究発表と研究指導2	各自の発表検討
5.	研究発表と研究指導3	PPT準備と発表内容の検討
6.	研究発表と研究指導4	PPT準備と発表内容の検討
7.	他分野との研究交流・秋期フィールドワークの課題討論	PPT準備と発表内容の検討
8.	研究発表と研究指導5	PPT準備と発表内容の検討
9.	研究発表と研究指導6	フィールドワーク対象地域の資料取集
10.	研究発表と研究指導7	PPT準備と発表内容の検討
11.	研究発表と研究指導8	PPT準備と発表内容の検討
12.	研究発表と研究指導9	PPT準備と発表内容の検討
13.	研究発表と研究指導10	PPT準備と発表内容の検討
14.	卒業研究中間報告討議	PPT準備と発表内容の検討
15.	全体の総括	レジュメ資料の確認と振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:　各人の基本的な発表を通して、実際に野外に出てのフィールドワークをおこないます（京都を中心とする地域など、半期1～2回程度）。また、被災地もしくは北海道富良野を中心とした合宿学習もあわせて行います。

フィードバックの方法:　ゼミ発表に対して各自・全体に対して随時フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ゼミナール発表	60	到達目標1についての達成度を総合評価する。
他の学生発表に対するコメント評価	40	到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。

教科書:　指定しない

参考書:
天野太郎監修『古地図であるく古都・京都』三栄書房、2016（研究方法論として）
天野太郎監修『『都名所図会』でみる京都観光案内～イラストから見る200年前の京都』実業之日本社、2016
天野太郎監修『近鉄沿線の不思議と謎』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室（知徳館C354）にての連絡を基本としつつ、マナビー・メールを総合的に活用する。

401803

応用演習Ⅱ

福本　　俊樹

授業テーマ:　働くこと、生きること:現代の労働問題を考える

授業の概要:　仕事は、私達の一生のかなりの部分を占めます。私達がどんな一生を過ごすかは、どんな組織に参加するか、組織でどのように働くか、ということと切り離せません。本演習では、「生きる」ということを経営組織への参加との関わりから考えていきます。
本演習の目標は、現代の人々が仕事の中で日々直面している課題を、組織行動論、組織論の観点から分析し、何らかの解決策を導き出す力を養うことにあります。そのために、春学期からの継続として(1)組織行動論、組織論の理論の習得に取り組むとともに、(2)現代における労働問題の理論的分析・考察にも取りかかります。
また、実際に働いている人々へのインタビュー調査や企業でのフィールドワーク等を通じて、働く人々がそれぞれ何を感じ、何を考えながら日々の仕事生活を送っているのかを深く理解する力を養うことも目標としています。

到達目標:　(1)現代の労働問題を、組織行動論、組織論の観点から分析し、何らかの解決策を導き出す力を養うこと
(2)働く人々がそれぞれ何を感じ、何を考えながら日々の仕事生活を送っているのかを深く理解する力を養うこと
(3)ディスカッションの中で、自身の考えを他者に伝える能力を養うこと

授業方法:　演習形式で授業を進めます。
序盤は、春学期と同じく、各回のトピックについてあらかじめ課題文献を読んだ上で、プレゼンテーションとディスカッションを行います。
中盤の「現代の労働問題を考える」と題したセッションでは、受講生が自ら関心のある労働問題を選び、それについて詳しく調査した上で、何らかの解決策を提案してもらいます(グループでの実施を予定しています)。
終盤では、各自の卒業研究のテーマについても検討します。

また、働くことの実際に触れるために、企業組織におけるフィールドワーク、および、企業の人事部の方のゼミへのゲスト参加も予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	リーディング資料の予習・復習
2.	コンフリクトとは何か	教科書第7章の予習・復習
3.	コンフリクトとダイバシティ・マネジメント	教科書第7章の予習・復習
4.	組織デザイン(1)	教科書第8章の予習・復習
5.	組織デザイン(2)	教科書第8章の予習・復習
6.	現代の労働問題を考える:様々な労働問題	配布資料の予習・復習
7.	現代の労働問題を考える:プロジェクトの進め方について	同上
8.	現代の労働問題を考える:中間報告(1)	発表準備・コメントへの対応
9.	現代の労働問題を考える:中間報告(2)	同上
10.	現代の労働問題を考える:発表(1)	同上
11.	現代の労働問題を考える:発表(2)	同上
12.	女性のキャリアの実際(企業の人事部の方のゲスト参加)	配布資料の予習・復習
13.	卒業論文のテーマ検討(1)	各自研究テーマの大まかな方向性を考えてくること
14.	卒業論文のテーマ検討(2)	同上
15.	卒業論文のテーマ検討(3)	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　ディスカッションに参加するために、必ず指定した文献を読み、自らの考えをまとめてきて下さい。
「労働問題について考える」というのは難しそうですが、気負わずに、楽しみながら取り組んでください。

フィードバックの方法:　授業中に適宜コメントをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディスカッションへの参加	40%	到達目標(1)～(3)について，ゼミでのディスカッションにどれだけ参加・貢献したかによって評価します。
プレゼンテーション	60%	到達目標(1)～(3)について，プレゼンテーションの内容によって評価します。

教科書:　稲葉祐之・井上達彦・鈴木竜太・山下勝『キャリアで語る 経営組織 個人の論理と組織の論理』有斐閣アルマ
その他、リーディング資料を配布します。

参考書:　金井壽宏『経営組織』(日経文庫)
その他、適宜指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Emailなど(詳細は初回授業時に説明します)

401804 **応用演習Ⅱ**

福岡　　久美子

授業テーマ:　現代社会における憲法問題

授業の概要:　「応用演習I」に引き続いて、家庭、学校、社会、地方行政、国家機構などに関する問題、具体的事例を取り上げ、法令、条例、施策などを憲法との関係で考えていきます。「応用演習ⅠⅡ」を通して、さまざまな問題を検討したことによって、各自、とくに関心のもてる問題が出てきます。そこで、研究テーマを見つけ、卒業研究につなげます。また、研究推進上の倫理問題についても再度強調します。

到達目標:
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
社会生活の多様な場面で活躍することに意欲的に取り組んでいる
幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
社会の課題解決にあたるうえで、他者と協同的な関係を形成し維持する態度を身につけている
法律の基礎的知識を社会生活の多様な場面で運用できる能力を持っている
修得した知識や技術を統合し、その成果を広く社会に発信し、よりよい社会の構築に寄与する能力を持っている

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:事例、担当者などを決定する	
2.	発表、討論1	判例①、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
3.	発表、討論2	判例②、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
4.	発表、討論3	判例③、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
5.	発表、討論4	判例④、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
6.	発表、討論5	判例⑤、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
7.	発表、討論6	判例⑥、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
8.	発表、討論7	判例⑦、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
9.	発表、討論8	判例⑧、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
10.	発表、討論9	判例⑨、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
11.	発表、討論10	判例⑩、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
12.	発表、討論11	判例⑪、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
13.	発表、討論12	判例⑫、関連文献を読む 発表者はレジメを用意する
14.	リーガル・レポート概論	
15.	卒業研究のテーマを決める	卒業研究のテーマを考える

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中にコメントします

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の参加度	30%	事前の準備度、積極的参加度 欠席は減点となります
レジメ、発表、討論の内容	70%	レジメ、発表の内容、理解度 討論の内容

教科書:　初回時に決定

参考書:　授業中に指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメールの利用

401805

応用演習Ⅱ

畠山　　啓

授業テーマ:　CSR（企業の社会的責任）とCSV（共通価値の創造）

授業の概要:

現在世界中の企業がCSRに取り組んでいます。CSRとは法律を守り、利益を上げるだけでなく、社会と環境の持続可能性を目指して社会的責任も果たしていくべきであるという考えに基づいた取り組みです。具体的には環境対策、労働問題（ブラック企業・非正規雇用）、消費者課題（個人情報保護・製品偽装）、社会貢献（インターンシップ・工場見学）などの取り組みがあります。

また近年CSVにも取り組む企業が増加しています。CSVとは世の中にある社会的課題を企業がビジネスとして取り組み、課題解決を目指していく取り組みのことです。具体的には貧困・飢餓・気候変動・高齢化・地域活性化などの取り組みがあります。

これらのCSRとCSVの取り組みを企業は国内だけでなく海外でも取り組んでいます。この応用演習では日系企業が国内外で取り組むCSRとCSVについて個人発表とグループワークを通して理解を深めていきます。

さらに研究倫理についても学んでいきます。

到達目標:

CSR・CSVとは何かを理解し、自らの言葉で説明できるようになること。
卒論のテーマを決めること。

授業方法:

・演習形式です。個人の発表・グループワーク・フィールドワークを実施していきます。
・扱うテーマについては受講者と相談して決めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	特になし。
2.	研究倫理について	マナビーで資料を事前に確認しておくこと。
3.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
4.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
5.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
6.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
7.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
8.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
9.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
10.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
11.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
12.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
13.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
14.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
15.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ（スライド）を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。

受講者へのメッセージやアドバイス:

・無断欠席・遅刻をせず、事前学習・発表準備をしっかり行うことが基本です。
・発表者以外もしっかりと文献・資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
・グループワークに積極的に取り組む姿勢が求められます。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30%	積極的にゼミに参加するかどうかを基準とする。
発表	35%	準備学習、発表内容の達成度合いを評価する。
グループワーク	35%	準備学習、積極的な参加度合いを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応します。

401806 **応用演習Ⅱ**

服部　　尚己

授業テーマ:　ヨーロッパの文化と日本

授業の概要:　卒論作成のための授業「卒業研究Ⅰ」への導入の期間と位置づける。テーマを自分で決めて行う個人発表を中心とする演習授業とする。プレゼンテーションは大事な技能である。その訓練を演習授業の中で行う。従って、討論会を行うことなども考えている。あわせて、都市ベルリンの研究なども取り入れていきたい。

到達目標:　ヨーロッパの文化および都市に関しての理解を深め、確かな知識に裏打ちされた観察眼を養うことを目標とする。

授業方法:　輪読、個人発表およびディスカッション。建築・都市の紹介のビデオも逐次鑑賞したい。また、フィールドワークなども必要に応じて取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ドイツの都市と環境（テキストを輪読する）	輪読した内容をレポートにまとめる
2.	ドイツの都市と環境（テキストを輪読する）	輪読した内容をレポートにまとめる
3.	ドイツの都市と環境（テキストを輪読する）	輪読した内容をレポートにまとめる
4.	ドイツの都市と家屋	
5.	ヨーロッパの都市とまちづくり	
6.	まちづくりと景観	
7.	機能分化のまちづくり（バンベルク）	
8.	ドイツ16州の面積と人口	
9.	統合から25年	
10.	討論会（日本の町とヨーロッパの町および文化）	討論会の準備
11.	ドイツの工業地帯（ライン・ネッカー地域）	
12.	都市と文化（学生の発表）	プレゼンテーションの準備
13.	都市と文化（学生の発表）	プレゼンテーションの準備
14.	都市と文化（学生の発表）	プレゼンテーションの準備
15.	都市と文化（学生の発表）	プレゼンテーションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　文化および都市に関して常に関心を持ち、情報を収集する訓練をすること。それが自分の研究テーマに結びつくはずである。

フィードバックの方法:　マナビーを通して

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に取り組む姿勢	40%	ヨーロッパの文化や都市にどれ程関心を抱いて調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
授業での発表1	30%	卒論につながる発表に関して、どれほど調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
授業での発表2	30%	ヨーロッパの文化および都市に関してどのような観察眼を養うことができたかを見て判断する

教科書:　竹ケ原、フュロップ「ドイツ環境都市モデルの教訓」エネルギーフォーラム新書、2011年
「わがまま歩きドイツ」（実業之日本社）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して

401807

応用演習Ⅱ

加賀　　裕郎

授業テーマ:　家族、学校、地域社会に関わる教育的、倫理的諸問題

授業の概要:　日々のくらしが営まれる家族、学校、地域社会の現状を教育と倫理という視座から把握するように努めるとともに、その現状が抱える問題を改善するための方策を追求することを課題とする。

到達目標:　ラーニング・コモンズを利用した共同研究の基本、パワーポイントの洗練された使用による効果的なプレゼンテーション、批判的思考を体得すること。

授業方法:　演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション一秋学期の全体計画、割り当て、夏休み課題のプレゼンテーション	
2.	共同研究テーマ確定、第一回共同研究	マナビ―に結果を記載
3.	第二回共同研究	同上（2）
4.	第三回共同研究	同上（3）
5.	第四回共同研究	同上（4）
6.	共同研究成果プレゼンテーション（1）	同上（5）
7.	同上（2）	同上（6）
8.	個人研究発表会（1）	同上（7）
9.	同上（2）	同上（8）
10.	同上（3）	同上（9）
11.	同上（4）	同上（10）
12.	同上（5）	同上（11）
13.	同上（6）	同上（12）
14.	同上（7）	同上（13）
15.	同上（8）	同上（14）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　口頭、マナビ―、メール

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	20%	全出席を基本に減点（遅刻二回で欠席一回）
共同研究参加・プレゼン	30%	協力度、発表内容、プレゼンテーション力
個人研究プレゼン	30%	発表内容、プレゼンテーション力
マナビ―上の宿題	20%	意見の内容

教科書:　田嶋一・中野新之佑・福田須美子・狩野浩二『第3版　やさしい教育原理』、有斐閣、2016年。

参考書:　各ゼミ生ごとに紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:　メール、研究室

401808 **応用演習Ⅱ**

記虎　　優子

授業テーマ:　企業の情報開示をめぐる問題意識を知る

授業の概要:

この授業では、春学期の「応用演習I」に続いて、実在する企業の開示情報を利用した企業分析のケーススタディを行う。ケーススタディの対象とする企業は、原則として、担当教員から指定せずに学生諸姉自らが選定する。

この授業ではまた、次年度の卒業論文の作成のための最初のステップとして、卒業研究のテーマの選定の参考とするため、企業の情報開示について考察している先行研究のレビューを行う。レビュー対象とする論文は、原則として、担当教員から指定せずに学生諸姉自らが選定する。

到達目標:

この授業の目標は、次の4つである。

① ケーススタディを通じて、企業の情報開示制度についてさらに学ぶ。
② 学術研究として優れたよい論文を自ら効率よく見つけ出すことができるように、論文検索のための各種の方法を学ぶ。
③ 先行研究のレビューを通じて、企業の情報開示をめぐって現在どういった諸点が問題とされ、また議論されているのか（学術研究上の問題意識）を知る。
④ 多くの先行研究を批判的に読むことを通じて学術研究として優れたよい論文を見抜く力をつける。

授業方法:

原則としてゼミ（演習）形式で行う。この授業では、各回の授業で取り上げるテーマと合致した、実在する企業の開示情報のケーススタディを行い、各企業がどのような開示を行っているのかについて、一般的な開示事例だけでなく、特色のある開示事例もできるだけ取り上げることによって各社のさまざまな開示事例を具体的に学ぶ。その上で、次年度の「卒業研究Ⅰ」や「卒業研究Ⅱ」の準備として、企業の情報開示を学術研究の対象として取り上げるための問題意識を持つことができるよう、学生諸姉自ら先行研究を検索・入手してレビューを行う。

また、この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。また、反転授業のため、事前学習が必須である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
2.	図書館ガイダンス	
3.	女性の活躍状況についての情報開示のケーススタディ	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
4.	レビュー対象とする先行研究論文の検討（1） 本学所蔵雑誌の中から論文を探す	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
5.	財務諸表情報と非財務情報のケーススタディ 配当政策と研究開発活動に着目して リスク情報に着目して	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
6.	持合い株式についての情報開示のケーススタディ	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
7.	レビュー対象とする先行研究論文の検討（2） 同じ著者または同じテーマの複数の論文を探す	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
8.	役員報酬・監査報酬の情報開示のケース・スタディ	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
9.	役員についての情報開示のケーススタディ	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
10.	企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー（1）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
11.	企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー（2）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
12.	企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー（3）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
13.	企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー（4）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
14.	企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー（5）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
15.	企業の情報開示に関する先行研究論文のレビュー（6）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では、各学生が実際にレビューする論文数は限られているものの、各学生がレビュー対象とする論文を自由に選定するので、全体としては企業の情報開示についての多岐に渡る内容（論点）の論文を多数読むことができるようになっている。多くの先行研究のレビューを行うことで、企業の情報開示について学術研究上の問題意識を持つことは、次年度の卒業研究を行う上で必須である。

なお、この授業は、ゼミ（演習）形式の反転授業であるため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、十分な事前学習が必要である。

フィードバックの方法:

マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50%	ケーススタディや先行研究のレビューを通じて、企業の情報開示について学術研究上の問題意識を持つことができたかどうかを基準とする。
授業への積極的参加度	50%	出席のほか、授業中に積極的に発言するなどによって、学び得た知識の共有化を図ることができたかどうかを評価する。

教科書:　特になし

参考書:

コーポレート・プラクティス・パートナーズ編・中西敏和・関孝哉著『コーポレート・ガバナンスの現状分析〈2017年版〉』商事法務、2017年。

澤口実・内田修平・高田洋輔編著『コーポレートガバナンス・コードの実務 』（第2版）商事法務、2016年。

田中隆一著『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』有斐閣、2015年。

田村威文・中條祐介・浅野信博著『会計学の手法—実証・分析・実験によるアプローチ』中央経済社、2015年。

豊泉貫太郎責任編集『会社法の実務とコーポレートガバナンス・コードの考え方—平成26年改正会社法を素材として』弁護士会館ブックセンター出版部LABO、2016年。

樋口達・山内宏光・小松真理子著『コーポレートガバナンス・コードに対応した招集通知・議案の記載例』商事法務、2016年。

平松一夫監訳『会計学の研究方法』中央経済社、2015年。
プロネクサスディスクロージャー研究部編『招集通知・議案の記載事例〔平成29年版〕』（別冊商事法務No.419）商事法務、2017年。
松山遙著『はじめて学ぶ社外取締役・社外監査役の役割』商事法務、2017年。
森・濱田松本法律事務所編『コードに対応したコーポレート・ガバナンス報告書の記載事例の分析〔平成29年版〕』（別冊商事法務No.427）商事法務、2017年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法：	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

401809

応用演習Ⅱ

河野　　健男

授業テーマ:　地域振興と観光･余暇、現代日本の家族と福祉

授業の概要:　社会学の視点から、現代日本の家族(関係)の変容、少子高齢化を反映した地域福祉ニース゛の高まりと地域福祉実践、戦後日本の生活様式の変遷、出身地の地方都市の振興･まちづくり、戦後日本の余暇と観光に関する史的研究など、幅広く取り扱います。

到達目標:　4年次の卒業研究で主体的に研究テーマが設定できること。そのためには、3年次応用演習でテーマに関する先行研究が大切です。

授業方法:　各自が自由に設定したテーマごとにグループを作って、相互にゼミ発表をしていきます。質問や意見の交換のなかから、自分たちが意識していなかった問題のとらえ方や新たな問題の発見につながればよいでしょう。必要に応じて、フィールド参加や調査活動ができればよい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	グループ構成の調整	
2.	研究課題の再設定	卒業生の卒論テーマを参照
3.	グループA　その1　設定テーマの現状と課題	卒業生の卒論読了
4.	グループB　その1　設定テーマの現状と課題	卒業生の卒論読了
5.	グループC　その1　設定テーマの現状と課題	卒業生の卒論読了
6.	グループA　その2　設定テーマのデータ収集と分析（官庁統計）	国勢調査の活用法
7.	グループB　その2　設定テーマのデータ収集と分析（官庁統計）	国勢調査の活用
8.	グループC　その2　設定テーマのデータ収集と分析（官庁統計）	国勢調査の活用
9.	グループA　その3　設定テーマのデータ収集t分析（民間研究機関）	大学その他の民間研究機関の諸調査
10.	グループB　その3　設定テーマのデータ収集t分析（民間研究機関	大学その他の民間研究機関の諸調査
11.	グループC　その3　設定テーマのデータ収集t分析（民間研究機関	大学その他の民間研究機関の諸調査
12.	グループA　その4　研究テーマの再設定（卒業研究テーマの構想）	グループから個人研究への展開
13.	グループB　その4　研究テーマの再設定（卒業研究テーマの構想	グループから個人研究への展開
14.	グループC　その4　研究テーマの再設定（卒業研究テーマの構想	グループから個人研究への展開
15.	全体的なふりかえり	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ゼミ発表に際しては、事前に教員と相談し、発表内容を確認すること。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	60%	集団作業などへの貢献度で評価する。
個人研究の到達度	40%	研究テーマの独自性や習熟度で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的･汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

401810 **応用演習Ⅱ**

日下　　菜穂子

授業テーマ:　ポジティブ心理学の実践

授業の概要:　人のもつ強みを最大限に発揮して，よりよく生きることをめざすポジティブ心理学（Positive psychology）の視点から，「幸福な生き方」について考え， well-beingを実現するための科学的アプローチを探求することが授業目標です。
主なテーマとして「幸福感」「フロー」「強み」「人生の意味」「創造性」「精神的健康」といった事柄を取り上げて理解を深めるとともに，それらを実証する方法についても，実践的な活動を通じて学んでいきます。

到達目標:　(1)文献講読や演習を通じて，個人や共同体を繁栄させる要因を発見し，促進するスキルを身につけます。
(2)心理学の視点から，人間生活全般にわたる心理的問題を理解し，効果的な支援の方法を説明することができる。

授業方法:　演習・文献購読，グループ研究・発表，ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究テーマ検討・報告	課外活動準備
2.	研究計画の立て方	資料講読
3.	研究の方法　②質的研究：面接	文献講読
4.	コミュニケーションの方法①（話の聴き方）	文献講読・発表準備
5.	コミュニケーションの方法②（対象者の理解・話し方）	文献講読・発表準備
6.	ポジティブ心理学の介入1・対コミュニティへの実践法	文献講読・発表準備
7.	ポジティブ心理学の介入2・対個人への実践法	文献講読・発表準備
8.	共感性を育むカウンセリング（ゲストスピーカー）	文献講読・発表準備
9.	演習：実験計画の立て方	文献講読
10.	演習；行動変容の進め方	レポート作成
11.	演習；実験・効果測定	レポート作成
12.	実験データのまとめ方・報告・ディスカッション	報告
13.	卒業研究に向けて①：テーマの選び方	レポート作成
14.	卒業研究に向けて②：卒業研究報告会（先輩ゼミ生	発表
15.	全体のふりかえり	コメントペーパー

受講者へのメッセージやアドバイス:　全員毎回出席が原則です。具体的な運用は、担当教員が決めます。

フィードバックの方法:　授業開始時に担当教員からお知らせします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	レポートの内容から，個人や共同体を繁栄させる心理的要因の理解と，促進スキルの知識を評価します。
発表	50	発表により，心理学の視点からの人間生活全般にわたる心理的問題と解決の理解を評価します。

教科書:　小塩真司・西口利文（編著），「心理学基礎演習vol.2 質問紙調査の手順」，ナカニシヤ出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

401811 **応用演習Ⅱ**

三宅　　えり子

授業テーマ:　女性・仕事・リーダーシップ － 女性活躍社会に向けて

授業の概要:　前期は女性を取り巻く社会情勢と社会のしくみをジェンダーの視点から理解し、女性活躍社会での自己実現のための心構えと知識基盤をつくることを授業目標としました。
後期はフェミニズム諸理論とリーダーシップ諸理論を概観したうえで、リーダーシップの育成を目指します。ここでいう「リーダーシップ」とは、肩書を必要とせず、練習によって身につき、身近な環境で発揮できるリーダーシップからスタートします。
そして後半は4年次の卒業研究の準備として、各自研究テーマを選び、卒業研究論文計画書を作成します。どのようなテーマでも、ジェンダー研究の視点を入れて学問的にアプローチすることが可能ですので、各自が興味と情熱のもてるテーマを選びましょう。

到達目標:
1. グローバル時代の女性活躍社会を生きるうえで必要なリーダーシップ発揮力が身についていること
2. 各自の研究テーマにそって卒業研究論文計画書を作成できること

授業方法:　講義、プレゼンテーション、ディスカッション、文献講読、発表などをバランスよく混ぜて授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業目標と授業全体の流れ、研究倫理の確認）	
2.	フェミニズム諸理論をとおして男女間の関係性を理解する	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
3.	フェミニズムと世界におけるジェンダー主流化の流れを理解する	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
4.	リーダーシップ諸理論をとおして自分にとってリーダーシップとは何かを考える	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
5.	リーダーのマインドをもつには（教科書1章　発表とディスカッション）	教科書の1章を読み、内容を理解しておく
6.	自分の殻を破って成長しよう（教科書2章　発表とディスカッション）	教科書の2章を読み、内容を理解しておく
7.	リーダーとしてのスキルを伸ばす二つのプロセス（教科書3章　発表とディスカッション）	教科書の3章を読み、内容を理解しておく
8.	真の人間関係を築いてグループの力を活用しよう（教科書4章　発表とディスカッション）	教科書の4章を読み、内容を理解しておく
9.	リーダーとして行動しよう（教科書5章　発表とディスカッション）	教科書の5章を読み、内容を理解しておく
10.	論文の書き方の説明、テーマの設定、研究目的：論文で明らかにしたいことは？	論文のテーマを考えてくる
11.	参考文献の収集、先行研究のレビュー	論文のテーマに関連した文献検索をし、3冊借りてくる。研究目的を考えてくる。
12.	先行研究のレビュー（つづき）	参考文献・先行研究を読み進める。
13.	理論的枠組の作り方	参考文献・先行研究を読み込んで、研究目的に関連する論点を理論的枠組としてまとめる。
14.	理論的枠組の作り方（つづき）	参考文献・先行研究を読み込んで、研究目的に関連する論点を理論的枠組としてまとめる。
15.	卒業研究論文計画書の発表とフィードバック	

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒業研究に関しては、どのようなテーマでも、ジェンダー研究の視点を入れて学問的にアプローチすることが可能ですので、各自が興味と情熱のもてるテーマを選びましょう。

フィードバックの方法:　ワークプリントはコメントをつけて返却します。
卒業研究論文計画書は採点して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30%	出席、授業コメント、積極的な発言など
ワークプリント（複数回）	20%	授業内容のポイントが理解できていること
卒業研究論文計画書	50%	論文の作法にもとづき、研究目的が明確で、事例の分析に役立つ専門知見が理論的枠組の中にまとめられていること

教科書:　ロバート・スティーヴン・カプラン『「自分の殻」を打ち破る ハーバードのリーダーシップ講義』CCCメディアハウス 2016年

参考書:　牛尾奈緒美・志村光太郎『女性リーダーを組織で育てるしくみ』中央経済社 2014年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

401812

応用演習Ⅱ

長岡　　延孝

授業テーマ:　ヨーロッパの経済社会を日本と比較しながら多面的に理解する

授業の概要:

春学期での学びを基に、ヨーロッパ社会のさまざまな側面について、各自の関心にしたがって探求します。またその際に、ヨーロッパと日本を比較しながら調べるという手法をとります。各自がユニークな課題を設定し、調査・研究してまとめ、発表してもらいます。期末には各自がレポートを作成し、これが4年生で行う卒業研究につながります。

また、秋学期になるといよいよ就職活動の準備が始まります。そこで、業界研究と企業研究も同時に進め、みなさんで情報を共有したいと思います。この作業を演習の目標とも合致するようにしたいと考えています。

さらに社会生活では、意見や主張を簡明かつ正確に表明し、またプレゼンテーションする能力が求められています。そのために、習うより慣れろの精神で、数多く練習を行います。

なお、学習・研究にあたっては、研究倫理を踏まえて進めます。

到達目標:　ヨーロッパと日本社会の特性についての理解を通じて、グローバル経済を視野に入れたビジネスパーソンの基礎力を養うことを目標にします。

授業方法:　秋には就職活動の準備も始まるので、業界研究・企業研究を進めつつ情報交換と就活の準備をします。後半には、各自が研究テーマを定めて調査・報告し、期末レポートにまとめます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	課題について調べ、整理しておくこと
2.	プレゼンテーションの方法	課題について調べ、整理しておくこと
3.	研究テーマの決定と就職の情報交換	課題について調べ、整理しておくこと
4.	ビジネス研究と就職の情報交換	課題について調べ、整理しておくこと
5.	ビジネス研究と就職の情報交換	課題について調べ、整理しておくこと
6.	ビジネス研究と就職の情報交換	課題について調べ、整理しておくこと
7.	ヨーロッパの情報交換と理解	課題について調べ、整理しておくこと
8.	ヨーロッパの情報交換と理解	課題について調べ、整理しておくこと
9.	ヨーロッパの情報交換と理解	課題について調べ、整理しておくこと
10.	グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと
11.	グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと
12.	グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと
13.	グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと
14.	グループまたは個人による研究報告	課題について調べ、整理しておくこと
15.	秋学期の振り返り	課題について調べ、整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　視野を広く持って、新聞や報道番組などから情報を獲得してほしい。

フィードバックの方法:　報告に関してコメントを行い、全員で議論する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	課題について調査・整理し、分りやすく伝えられたか
レポート	50	課題について調査・整理し、論理的に議論できているか

教科書:　加賀美雅弘ほか『ヨーロッパ学への招待』(第二版)、学文社。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール

401813

応用演習Ⅱ

大倉　　真人

授業テーマ:　日常生活におけるリスクマネジメントと保険

授業の概要:

リスクマネジメントおよび保険は、意識しているか否かはさておき、日常生活の中で数多く登場している。例えば地震について考えると、地震で建物が倒壊しないように耐震補強工事をしたり、地震が起こったときに備えて避難訓練を行ったりすることなどは地震に対するリスクマネジメントとして考えられる。また、火災保険や自動車保険についてみると、一人暮らしの人だと火災保険に、車や原付を持っている人だと自動車保険に実際に入っているケースが少なくない。さらに、医療保険や年金保険などは、病気になったときや老後の生活を支える重要な手段となっている。また最近では、女性特有の病気に対して手厚い保障を行う保険なども登場している。

本講義では、このように日常生活の中で数多く登場するリスクマネジメントや保険について考えていく。

到達目標:

リスクマネジメントや保険がどのような役割を担っているのか、どのような問題を抱えているのか、などについて学習することを通じて、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識を修得することおよびそれらの知識を使ってプレゼンテーションできるようになることを目標とする。

授業方法:　主として「個人研究」と「グループ研究」にかかる発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解
2.	グループ研究（1）	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	グループ研究（2）	「グループ研究」の準備
4.	グループ研究（3）	「グループ研究」の準備
5.	グループ研究（4）	「グループ研究」の準備
6.	グループ研究（5）	「グループ研究」の準備
7.	グループ研究（6）	「グループ研究」の準備
8.	グループ研究（7）	「グループ研究」の準備
9.	グループ研究（8）	「グループ研究」の準備
10.	グループ研究（9）	「グループ研究」の準備
11.	個人研究（1）	「個人研究」の準備
12.	個人研究（2）	「個人研究」の準備
13.	個人研究（3）	「個人研究」の準備
14.	個人研究（4）	「個人研究」の準備
15.	総括	全体の振り返り等

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中において、担当教員が適宜コメントすることで、発表の内容についてのフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
個人研究の発表	20	個人研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
グループ研究の発表	30	グループ研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
期末レポート	30	期末レポートより、リスクマネジメントや保険にかかる基礎的知識の修得の程度を評価する。
授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。

教科書:

参考書:

家森信善（編著）『はじめて学ぶ保険のしくみ（第2版）』中央経済社、2015年

下和田功（編）『はじめて学ぶリスクと保険（第4版）』有斐閣、2014年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

401814 **応用演習Ⅱ**

大西　　秀之

授業テーマ:　多文化社会を読み解く

授業の概要:

本演習では、応用演習Ⅰでの学習を踏まえ、各受講生が選定したにテーマに取り組むための研究視点と方法論の学習を行います。ここでは、特定の研究分野を限定せず、複合的な社会現象を調査・分析するための社会科学的な視点と方法を幅広く学ぶ予定です。くわえて本演習でも、研究倫理についての学習を継続して行います。

また上記の学習を踏まえた上で、研究計画書の作成に取り組む予定です。ここで作成した計画書は、必ずしも卒業研究につなげる必要はありませんが、各受講生は卒業論文の執筆に向けたケーススタディあるいはシミュレーションとして取り組まれることを期待します。

なお本年度は、北海道知床半島周辺地域でのフィールドワーク実習を計画しています。この実習への参加・不参加は自由ですが、本受講生には、机上の学習のみならず、実体験を通して研究視野を広げることを期待します。

この他、シンポジウム・講演会への参加や他大学との交流活動など、学外での学習の機会も積極的に作る予定です。ちなみに2017年度は、北海道東部の標津町において地域住民の方々への調査成果の還元を目的とした公開ゼミナールを開催しました。またゼミ生の希望があれば、フィールドワークをテーマとしたインターカレッジの開催も計画しています。

到達目標:

・複合的な社会現象を調査・分析するための社会科学的な視点と方法を習得する。
・卒業研究論文に向け研究計画書の制作法を理解し実践する。
・自らの主張や見解を第三者に説得的に説明できる調査法と研究計画書の制作法を身に付ける。
・社会責任としてグローバルに通用する研究倫理を確認し習得する。

授業方法:

演習形式
・本演習では、社会調査と研究計画の制作を実施します。
・受講生の数によりますが各人が最低2～3回は報告・発表を担当していただく予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	前期の指示に従い事前準備をしておいてください。
2.	社会調査方法の実践1：調査＆プレゼンテーション	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
3.	社会調査方法の実践1：調査＆プレゼンテーション	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
4.	社会調査方法の実践1：調査＆プレゼンテーション	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
5.	社会調査方法の実践1：調査＆プレゼンテーション	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
6.	社会調査方法の実践2：調査＆プレゼンテーション	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
7.	社会調査方法の実践2：調査＆プレゼンテーション	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
8.	社会調査方法の実践2：調査＆プレゼンテーション	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
9.	社会調査方法の実践2：調査＆プレゼンテーション	調査法のテーマは事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
10.	卒業研究のテーマ決定：プレゼンテーション＆計画書	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
11.	卒業研究のテーマ決定：プレゼンテーション＆計画書	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
12.	卒業研究のテーマ決定：プレゼンテーション＆計画書	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
13.	卒業研究のテーマ決定：プレゼンテーション＆計画書	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
14.	卒業研究のテーマ決定：プレゼンテーション＆計画書	研究計画書の制作は事前に配布・告知する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べディスカッションの準備をしておいてください。ゼミ後は、次回に繋げるように各自で反省点などを確認しておいてください。
15.	最終まとめ：卒業研究制作に向けて	各自のこれまでの調査法や研究計画の制作を通して得たポイントや理解を整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

なお本年度は、北海道知床半島周辺地域でのフィールドワーク実習を計画しています。この実習への参加・不参加は自由ですが、本受講生には、机上の学習のみならず、実体験を通して研究視野を広げることを期待します。

この他、シンポジウム・講演会への参加や他大学との交流活動など、学外での学習の機会も積極的に作る予定です。ちなみに2016年度も2017年度も、北海道東部の標津町において地域住民の方々への調査成果の還元を目的とした公開ゼミナールを開催しました。またゼミ生の希望があれば、フィールドワークをテーマとしたインターカレッジの開催も計画していま

す。

フィードバックの方法:
・各回の個別のプレゼンテーションとディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	40%	発表と討論は、到達目標である「複合的な社会現象を調査・分析するための社会科学的な視点と方法」を習得し、その上で卒業研究論文に向けた研究計画書の制作法」を理解し実践できているか評価します。
授業への参加度	60%	到達目標である調査方法と研究計画書の制作法を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

401815 **応用演習Ⅱ**

大津　　正和

授業テーマ:　観光に関連する産業および地域に関する経営学的研究

授業の概要:　前半は、夏休みに実施予定のフィールドワークで得られた、実際の観光に対する理解を、グループでまとめて報告する。これによって、フィールドワークでの各自の体験をより深い理解へとつなげていく。本演習の大部分は、グループワーク形式によるマーケティング・リサーチ実習になる。各グループが設定した興味ある対象に対して、マーケティング・リサーチの手法を適切に適用することによって、表面的な理解では得られない、人々の意見や行動そしてそれらの間の関連といった社会の本質に迫る知識の獲得を実行できる能力を獲得する。

到達目標:　フィールドワークで得た情報から、現実の観光の現場についてより深い理解をする。マーケティング・リサーチの手法とその考え方を理解し、自身が興味を持つ対象に対してマーケティング・リサーチを行うことによって、客観的・科学的な理解を深める能力を獲得する。

授業方法:　演習　とくに、グループワーク形式での実習が中心となる

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	フィールドワークの結果まとめ・報告書作成	夏休みに実施したフィールドワークで得た情報を整理してくる
2.	フィールドワークの結果報告	グループのメンバーと協力して、フィールドワークの結果報告の準備
3.	マーケティング・リサーチへのオリエンテーション	マーケティング・リサーチで調査したい対象について考え、下調べを行ってくる
4.	マーケティング・リサーチ実習(1):グループ編成とテーマ設定	マーケティング・リサーチで調査したい対象について考え、下調べを行ってくる
5.	マーケティング・リサーチ実習(2):テーマに関する問題設定	グループで決定した調査対象について情報収集を行ってくる
6.	マーケティング・リサーチ実習(3):問題に対する仮説構築	グループで決定した調査対象について情報収集を行ってくる
7.	マーケティング・リサーチ実習(4):仮説に基づいた質問設計	グループで決定した仮説に基づいた質問を考えてくる
8.	マーケティング・リサーチ実習(5):質問票作成	グループで決定した質問を載せた質問票の案を作成してくる
9.	マーケティング・リサーチ実習(6):質問票の配布・回収とデータ入力	グループのメンバーと協力して、質問票を完成させてくる
10.	マーケティング・リサーチ実習(7):データ入力	グループのメンバーと協力して、質問票を完成させてくる配布し、回答を記入してもらってくる
11.	マーケティング・リサーチ実習(8):データ集計	グループのメンバーと分担して、回答済み質問票からデータを入力してくる
12.	マーケティング・リサーチ実習(9):データ分析	仮説を検証するためには、どのような分析が必要かを考えてくる
13.	マーケティング・リサーチ実習(10):データ分析の解釈と報告書作成	分析結果からどのようなことがいえるかを考えてくる
14.	マーケティング・リサーチ実習(11):報告書の検討	報告書の案を作成してくる
15.	講義全体の振り返り	報告書を完成させてくる

受講者へのメッセージやアドバイス:　本演習は、マーケティング・リサーチ実習が中心となるが、あるテーマについて深く考え、仮説を構築し、それを多くの人々から集めたデータを用いて検証するという手続きは、あらゆる社会的現象を客観的に理解する上で重要な手段であるから、この手法とその基礎となる考え方を確実に身につけるように努力して欲しい。特に、グループワーク形式で実施するので、他のメンバーに任せるのではなく、積極的に取り組む努力が必要である。

フィードバックの方法:　報告内容に対しては、教室でコメントする。報告書(レポート)に対しては、添削してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	キチンと出席し、グループワークや報告に積極的に参加している程度
発表、討論	20	報告やグループワークでのディスカッションに積極的に参加している程度
レポート	30	マーケティング・リサーチの手法や考え方を理解し、自らが知りたいことに対して結論を導く能力が身についている程度

教科書:　島口充輝・石井淳蔵『[新版]現代マーケティング』有斐閣

参考書:　恩藏直人・冨田健司編著『1からのマーケティング分析』碩学舎, 2011
山際勇一郎・服部環『文系のためのSPSSデータ解析』ナカニシヤ出版, 2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu(以下に@およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける)

401816 **応用演習Ⅱ**

L.Rogers

授業テーマ: Diversity and Leadership Development

授業の概要: Two important skills for leaders and anyone living in today's society are conflict management and diversity management. This course will cover the basics of cultural diversity, cultural identity, and cultural values and beliefs and their roles in intercultural conflict. It will take an experiential approach by using various activities and group discussions to help students become aware of issues that underlie cultural conflict. Discussions will focus on conflicts that can occur when people from different cultures come together in international, domestic, and interpersonal relations. This course will also incorporate ways to prevent cultural conflict from escalating and negotiate conflict through use of activities and examinations of critical incidents.

到達目標: Upon completion of this seminar, students should have a better awareness of culture's influence on leadership and relationships. They will also have a better understanding and better ability to manage conflicts and do research.

授業方法: Class work will take an experiential approach and include various activities in which students will examine critical incidents, discuss readings, participate in simulations, and do fieldwork to examine diversity and conflict and various ways to manage them.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction and introduction to conflict	Readings and notes to prepare for class discussion
2.	Culture and introduction to conflict	Readings and notes to prepare for class discussion
3.	Conflicts – connecting theory and real life	Outside activity to prepare for class discussion
4.	Introduction to diversity	Readings and notes to prepare for class discussion
5.	Values and belief systems	Readings and notes to prepare for class discussion
6.	Perceptions and stereotypes	Readings and notes to prepare for class discussion
7.	Values and communication styles	Outside activity to prepare for class discussion
8.	Project 1 due: Presentation using weeks 1-7 ideas	Review and prepare for assessment activity
9.	Power distance, and cultural awareness	Readings and notes to prepare for class discussion
10.	Conflict management styles	Readings and notes to prepare for class discussion
11.	Conflict management strategies	Outside activity to prepare for class discussion
12.	Leadership, mediation and negotiation Part 1	Readings and notes to prepare for class discussion
13.	Leadership, mediation and negotiation Part 2	Readings and notes to prepare for class discussion
14.	Successful management of conflicts (Project 2 Due)	Review and prepare for assessment activity
15.	Wrap-up Discussion	Review and self-reflection for discussion

受講者へのメッセージやアドバイス: This seminar is a content course in English. That means that it is imperative that students prepare during the week between classes in order to be able to discuss and better understand what is done in class. This course may appear to be easy; however, it will require students to be independent learners and keep up with readings before classes so that they can contribute to class discussions and ask relevant questions in class. Projects will require students to apply ideas studied in the course with real life situations.
Points will be deducted for late assignments (5% each day) and assignments more than one week overdue will not be accepted without prior notification. If you miss a class, you are responsible for finding out what you missed, and what assignments were given. Please ask a classmate or contact me. A grade of '0' will be given for missed projects and presentations unless advanced notice is given.

フィードバックの方法: Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Projects & presentations	40%	Assessment project work and presentations
Participation & active discussion	30%	Active participation in class and group work
Homework & Project preparation	30%	Outside preparation for in-class work and projects

教科書: Lee, S. & Rogers, L. (2014). Culture and Conflict: Making the world a better place to live in. Tokyo: Shohakusha.

参考書: Ting-Toomey, S. & Oetzel, J. G. (2001). Managing intercultural conflict effectively. Thousand Oaks, CA: Sage Publications, Inc.
Hammer, M. R. (2003). Intercultural conflict style inventory individual profile ICS-IP interpretive guide. North Potomac, MD: Hammer Consulting Group.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、変化対応力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法: lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

401817 **応用演習Ⅱ**

朱　　捷

授業テーマ:　比較文化──グローバル化社会を生きる知恵

授業の概要:　グローバル化社会において、異文化への理解力、異文化とコミュニケーションする能力がますます求められる。比較文化研究は、文化間の違いが由来する歴史背景を調べ、それぞれの文化の個性を理解し、文化間の違いを乗り越えるのにどうすればいいかを考える学問である。この授業は受講者が、宗教・神話・文学・美術・音楽・映画・アニメ・ファッション・料理・・・などなど、さまざまなテーマをとりあげて文化間の違いを自由に比較研究し、ひとつの研究テーマを定めて深く調べることを通して、異文化理解の力やグローバル化社会を生きる知恵を身につけることを目標とする。
　さらに、調べと発表の演習を通して、情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼンカ、という五つの力も鍛えていく。

到達目標:　下記の5つの力を身につける
〇情報収集力
〇情報分析力
〇問題発見力
〇問題解決力
〇プレゼンカ

授業方法:　教員はあくまでアドバイザーに徹し、ゼミ生の自主研究とグループ研究を奨励する。自己評価と相互評価を取り入れて、自己管理力・自己実現力を磨いていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。
2.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
3.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
4.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
5.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
6.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
7.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
8.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
9.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
10.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
11.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
12.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
13.	自由発表・読書・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
14.	レポートや論文作成方法と研究倫理について	レポートや論文作成方法と研究倫理に関するプリント資料を読む。
15.	総括	総括の準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうか、ゼミのディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:　教室で指示する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

401818

応用演習Ⅱ

鈴木　　尊明

授業テーマ:　事例で学ぶ民法　～説得する経験を積む～

授業の概要:

この演習は、「応用演習Ⅰ」と同様に、民法に関する知識を縦横に使って、異なる主張を持つ相手方を説得する経験を積んでもらうことを目的としています。争う当事者双方の法的主張を整理・理解し、その基本的な考え方を学びます。

「応用演習Ⅱ」では、「応用演習Ⅰ」で学んだ基本的な民法学習の取り組み方を、実践の場で用いてもらうことに主眼を置きます。具体的には、他大学ゼミとの討論会を実施し、そこで議論を戦わせることで自分達の考えを相手方に伝え、説得する経験を積んでもらいます。そのため、授業時間外での活動が増えますが、それに積極的に取り組んでくれる人の参加を期待しています。なお、「応用演習Ⅰ」に引き続き、「発表が苦手」という人も、ここからじっくり取り組んでくれれば、その姿勢を積極的に評価します。

到達目標:

〇民法に関する知識を理解し、具体的事例に適用して結論を導くことができるようになる。
〇様々な考え方があることを理解し、自分と異なる考え方を持つ相手を説得する経験を積む。
〇プレゼンテーションの技法を習得する（レジュメ作成・口頭発表・PowerPoint作成など）。

授業方法:

口頭発表
※他大学ゼミとの討論会を実施します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。	春学期の「応用演習Ⅰ」の内容の復習をしておく。
2.	グループ発表（1）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
3.	グループ発表（2）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
4.	グループ発表（3）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
5.	グループ発表（4）	各グループで事前に決めたテーマについて調査し、プレゼン資料を作成する。
6.	特別企画 ☆フィールドワーク	訪問先での調査内容等をそれぞれ考えてくる。
7.	討論会①問題の検討（1）	それぞれ問題に関する資料を調査する。
8.	討論会①問題の検討（2）	それぞれ問題に関する資料を調査する。
9.	討論会①問題の検討（3）	討論会で使用する資料を作成してくる。
10.	民法討論会①	
11.	討論会②問題の検討（1）	それぞれ問題に関する資料を調査する。
12.	討論会②問題の検討（2）	それぞれ問題に関する資料を調査する。
13.	討論会②問題の検討（3）	討論会で使用する資料を作成してくる。
14.	民法討論会②	
15.	秋学期の総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」ことと「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの方法:

発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時の取り組み	100	普段のゼミにおける討論への参加、発表の準備と内容といった様々な取り組みを評価する。

教科書:　六法　（どのようなものでも良いです）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

401819 **応用演習Ⅱ**

谷　　直之

授業テーマ:　刑事法学への誘い

授業の概要:　秋学期の応用演習Ⅱでも、応用演習Ⅰに引き続き、(1)刑法解釈学、(2)刑事訴訟法学、(3)医事刑法学、(4)刑事政策学、(5)被害者学などの諸分野から、死刑、安楽死、脳死と臓器移植、人工妊娠中絶、ドメスティック・バイオレンス、児童虐待、ストーカー、少年犯罪とその対策、精神障害者による犯罪とその処遇、裁判員制度、犯罪被害者保護、犯罪被害者の刑事裁判参加制度など、受講者の問題関心に添ってテーマを決め、それを少人数のグループで担当してもらい、ビデオや映画等の映像素材を活用しつつ、クラス全体で討論するという演習形式で行います。
授業では、リサーチのほか、研究倫理についても指導します。
また、冬季休暇等を利用して、和歌山の女子刑務所や京都刑務所等の刑務所参観、女子少年院の見学のほか、合宿をともなうフィールドワークを行う予定です。また、同志社大学刑事法ゼミとの合同ゼミ等も企画しています。

到達目標:　信頼できる複数の情報源から、必要な情報を収集することができる。
問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持つことができる。
準備や討論に積極的に参加する態度で授業に臨むことができる。
コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができる。
論理的な議論・討論ができる。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	フィールドワーク等の事後学習	フィールドワーク等で学んだ内容を整理しておくこと。
2.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
3.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
4.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
5.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
6.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
7.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
8.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
9.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
10.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
11.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
12.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
13.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
14.	卒業論文の作成について 法律文献・情報の収集について 文献の引用方式と研究倫理の指導	卒業研究で取り上げるテーマを選べるように、興味・関心のあるテーマについて、各自でリサーチを行っておくこと。

	15.　総括と指導	前回の授業中に指示した点について、準備を行っておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備をしておくことが大切です。刑事法的な問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っていきましょう。

フィードバックの方法:
マナビーを活用してコメントを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・討論	35%	到達目標のうち、信頼できる複数の情報源から、必要な情報を収集することができているか、問題についての正しい知識を得ているか、コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができているかを基準として評価する。
授業への参加度	65%	到達目標のうち、問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持って授業に臨んでいるか、討論に積極的に参加しているか、論理的な議論・討論ができているかを基準として評価する。

教科書:

参考書:
テーマに応じて、適宜、指示していきます。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

401820

応用演習Ⅱ

鳥潟　　優子

授業テーマ:　国際政治と対米関係

授業の概要:　「対米関係」「対米同盟」を中心的なテーマとして、各受講生が春学期の報告を踏まえて自主的にテーマを設定します。春学期に行った報告を生かして、専門的な学術論文の先行研究を調査し独自の問いを見つけることを目指します。先行研究のレビューと問いの検討を、他の受講生とともに行うことで、卒業論文作成に向けた調査などの研究計画を考えながら学びを深めていきます。

到達目標:　ゼミを通じて、自ら課題を見つけ目標を設定し、その実現に向けて努力する姿勢を身につけつつ、国際政治やアメリカ外交について知識や理解力を涵養し、議論を深めていく。

授業方法:　毎回、報告の担当者を決め、担当者はレジュメを作成し報告を行い、ゼミで議論します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	秋学期のオリエンテーション	夏休みに関心を持った国際問題について紹介すること
2.	研究テーマの再検討	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
3.	先行研究の調査	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
4.	論文の読み方と問いの発見①	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
5.	論文の読み方と問いの発見②	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
6.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
7.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
8.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
9.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
10.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
11.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
12.	報告とディスカッション	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
13.	卒業論文執筆に向けた課題と研究計画	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
14.	レポートや論文作成方法と研究倫理について	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する 研究倫理について検討する
15.	まとめ	秋学期のまとめを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　予め文献を読んでディスカッションに備えてください。

フィードバックの方法:　授業中に解説します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表内容	50	基礎知識、理解力、プレゼンテーションの構成力、説得力など
出席	20	出席し、ゼミへの積極的な参加
授業での議論などの参加態度	30	学期末のレポート提出などを総合的に評価する

教科書:　授業中に適宜指示する

参考書:　必要があれば選定する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー、Eメールなど

401821

応用演習Ⅱ

山田　　邦和

授業テーマ:　京都の歴史と歴史遺産

授業の概要:　京都は1200年を超える歴史を持つ巨大都市である。千年以上にもわたってひとつの文明の中心としての地位を保ってきた都市は、世界を見渡してもそうたくさんあるわけではない。この演習では、京都に存在する歴史遺産（寺社や史跡などの不動産的文化財、美術資料や古文書などの動産的文化財）を研究し、それを現代にどう活用していくかを考える。また、京都を知るためには何よりもまず、幾度も幾度も京都の町を歩き、京都の息吹を身体で感じることが必要である。受講生の諸君とともに、日本文化の精華ともいうべきこの都市の魅力を味わっていきたいと思う。

到達目標:　自分で独自の研究テーマをみつけ、それについて自主的な学習ができる能力を確立する。

授業方法:　教室内での作業、受講生の発表と討論（参加者全員が必ず発言できるようにすること）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
2.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
3.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
4.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
5.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
6.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
7.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
8.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
9.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
10.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
11.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
12.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
13.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
14.	個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
15.	秋学期の総括	これまでの授業の内容をふりかえり、来年度の学習計画をたてる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びペーパー提出	30	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
授業への積極的参加度	20	授業中に積極的に参加したか。
授業での研究発表と学期末のリポート	40	研究内容を適切にまとめ、わかりやすく説明したか。自分で独自の研究テーマをみつけ、それについて自主的な学習ができる能力を確立できた
フィールドワーク	10	フィールドワーク

教科書:

参考書:　仁木宏・山田邦和編『歴史家の案内する京都』（文理閣,2016）
山田邦和『京都　知られざる歴史探検』上・下巻（新泉社、2017）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

401822

応用演習Ⅱ

倉持　　史朗

授業テーマ:　現代社会における社会保障と福祉

授業の概要:　現在，子ども，高齢者，障害，貧困，病などに関わるさまざまな生活問題や福祉ニーズが生まれており，社会保障・社会福祉の動向は私達の生活に多大な影響を及ぼします。つまり，これらは現代を生きる私たちにとって切っても切れない関係にあると同時に，このような人びとが抱える生活困難の現状やその解決に向けた課題を通して「現代社会」のあり様を理解することは，本学科学生の皆さんにとって大変重要であると考えます。
本授業(応用演習Ⅰ・Ⅱ)では，現代の社会保障・社会福祉問題に関する課題(研究テーマ)について各自やグループで取り上げ、それらのあるべき方向性について皆さんとともに考えていきたいと思います。

到達目標:　現代社会における社会福祉の意義を学ぶ。また、日本の社会福祉の法体系・制度施策について理解を深め，ソーシャルワーク(社会福祉援助)に関する基礎的な知識・技術・倫理について学習する。

授業方法:　講義，文献・資料等の精読，グループワーク，プレゼンテーションや討論を通じて学術的な研究論文を作成する基本的な考え方，スキルを獲得します。
社会保障・福祉問題に関する理解を深めるために，専門職のゲスト講義や施設・機関見学も適宜実施します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	研究計画の作成
2.	研究テーマの設定	研究計画の作成
3.	個人研究：先行研究レビュー(1)	文献・資料を精読する
4.	個人研究：先行研究レビュー(2)	文献・資料を精読する
5.	個人研究：先行研究レビュー(3)	文献・資料を精読する
6.	個人研究：発表・討議(1)	プレゼンテーション準備
7.	個人研究：発表・討議(2)	プレゼンテーション準備
8.	個人研究：発表・討議(3)	プレゼンテーション準備
9.	個人研究：発表・討議(4)	プレゼンテーション準備
10.	個人研究：発表・討議(5)	プレゼンテーション準備
11.	個人研究：発表・討議(6)	プレゼンテーション準備
12.	個人研究：研究レポート執筆・添削(1)	レポート作成
13.	個人研究：研究レポート執筆・添削(2)	レポート作成
14.	個人研究：研究レポート執筆・添削(3)	レポート作成
15.	まとめ	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業時間内のコメント等で講評をフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40	出席状況，授業参加への積極性を基準にします。
レポート	40	自身の研究テーマを深め，関連分野に関する援助実践の基本的知識・技術等を論理的に説明できるかを基準とします。
プレゼンテーション	30	プレゼンテーション内容・スキル等を基準とします。

教科書:　適宜，紹介します。

参考書:　適宜，紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール

401823

応用演習Ⅱ

山下　　智子

授業テーマ:　「人生の物語」に学ぶ―人物研究から考えるライフデザイン―

授業の概要:　春学期に引き続き人々の伝記や、証言、手紙、日記などに表される多様な経験、つまり「人生の物語」を学ぶことを通して、他者への理解や受容、自分自身の生き方や現代社会の諸問題に対する批判的な思索と行動へのアプローチとすることを目指します。
次年度の卒業研究のテーマ決定に向け、自身の問題意識を明らかにするために自分史の作成を行います。

到達目標:　1、自分史を振り返り問題意識を探求します。
2、卒業研究に向け、自分の研究テーマを決定します。

授業方法:　演習形式。状況に応じ、講義、発表、ディスカッション、グループワーク、フィールドワークなどを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを事前に読み、自分自身の興味や関心を整理しておく
2.	自分史、ファミリーヒストリーについて	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
3.	個人発表および全体討議（1）	配布資料を参考に自分史を振り返り、発表準備をする
4.	個人発表および全体討議（2）	配布資料を参考に自分史を振り返り、発表準備をする
5.	個人発表および全体討議（3）	配布資料を参考に自分史を振り返り、発表準備をする
6.	問題提起（1）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
7.	問題提起（2）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
8.	問題提起（3）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
9.	問題提起（4）	配布資料を事前に読み内容を理解しておく
10.	卒業研究テーマの設定	卒業研究のテーマについて考えてくる
11.	卒業研究計画書作成	卒業研究計画書を作成してくる
12.	個人発表（1）	卒業研究のテーマについて発表の準備をする
13.	個人発表（2）	卒業研究のテーマについて発表の準備をする
14.	個人発表（3）	卒業研究のテーマについて発表の準備をする
15.	まとめと期末レポートの準備	期末レポートの準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室で発表にコメントしたり、質問に答えたりします。また期末レポートはコメントして返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	積極的な発言やクラスへの参加の姿勢など総合的に判断
発表や授業内の取り組みの成果物	30	思考力、分析力、取り組みへの姿勢などにより判断
期末レポート	30	思考力、分析力など総合的に判断

教科書:　配布資料を準備します

参考書:　教室にて指示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールで連絡が取れるようにします

406400

民事訴訟法

川嶋　　四郎

授業テーマ:　法律科目のなかで、民事裁判を理解し、日常生活や就職後の社会生活に生かすことを、目的とします。

授業の概要:　できるだけわかりやすく、映像も交えて、民事訴訟を中心とする民事紛争解決手続について学びます。裁判所の制度や、裁判官、民事訴訟、調停、和解、その他様々な手続についても、教えてゆきます。昨年の授業で、学生からの希望が多かった人事訴訟・家事調停家事審判も扱います。

到達目標:　民事訴訟法の基本的な仕組み、民事裁判の基本的な仕組みを学びます。

授業方法:　講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　以下、変更の場合あり	特になし
2.	民事訴訟法の世界へ	テキスト第1章
3.	裁判所	テキスト第2章
4.	民事訴訟法の映像	特になし
5.	当事者	テキスト第3章
6.	民事手続の映像	特になし
7.	訴え	テキスト第4章
8.	審理	テキスト第5章
9.	証拠	テキスト第6章
10.	民事裁判の映像	特になし
11.	訴訟の終了	テキスト第7章
12.	同	テキスト第7章
13.	複雑訴訟	テキスト第8章
14.	上訴再審	テキスト第9章
15.	まとめ	試験実施（持込み可）

受講者へのメッセージやアドバイス:　朝が早い科目ですが、ゆったりと、楽しく授業をしましょう。
民事訴訟法は、皆さんとはあまり縁がなく、イメージしにくいと思いますが、DVDなどの映像を用いて、できるだけ分かりやすく、お話しできればと思います。　川嶋

フィードバックの方法:　テキスト（のみ）持ち込み可能な試験を行いますので、テキストに、線を引いたり、書き込んだり、付箋をはったりして、勉強しましょう。
★なお、テキストは、第2版ですので、注意してください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
最終試験	100	民事訴訟の基本の理解

教科書:　川嶋四郎『民事訴訟法概説【第2版】』 弘文堂、2016年

参考書:　授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　メールで連絡をください。メール・アドレスは、最初の時間に教えます。

406500

刑事訴訟法

谷　　直之

授業テーマ:　実体的真実の発見と適正手続の保障

授業の概要:

刑事訴訟法は刑法を実現する法律であると言われます。例えば、XがYを拳銃で射殺したという場合、刑法の世界では、刑法199条の殺人罪に該当することになるでしょう。しかし、現実の世界においては、Yの死因が何か、誰がYを殺害したのか、ということはこの時点では不明で、捜査が開始され、証拠が集められ、容疑者が逮捕され、公訴が提起され、裁判が開かれて、ようやくXが犯人であったと認定されることになります。しかし、場合によっては、さらに上訴が行われ、長いプロセスを経て、裁判が確定したときにはじめて、「XがYを殺した」という事実が事実として認められ、Xに刑罰が科されることになります。

こうしてはじめて、刑法が実現された、と言えることになります。そして、この長い過程を規律しているのが、刑事訴訟法という法律なのです。

本講義では、犯罪の捜査や刑事裁判といった刑事司法手続について、手続の流れに沿って概観し、刑事訴訟法の諸原理について、基本的理解を得ることを目標とします。特に、受講者の興味関心を念頭に置きつつ、近年問題となっている冤罪問題を素材に、捜査の問題点を中心に講義を進めていきます。

到達目標:

刑事司法における問題点と基本原理・原則を理解すること。
刑事手続・刑事司法に関する正しい知識に基づいて、批判的な考察ができること。
自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	刑事司法の基本原理 刑事手続の概観	犯罪や裁判に関する小説，ドラマ，映画等を通して刑事司法に親しんでおくこと。 1年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習し、刑事手続の基本的な流れと各過程の具体的な内容について確認しておくこと。
2.	刑事訴訟の当事者（1） 1）裁判官 2）弁護士	裁判所ホームページ、日本弁護士連合会ホームページ等を参照し、それぞれの業務内容や主張等を確認しておくこと。
3.	刑事訴訟の当事者（2） 3）警察	警察庁ホームページや警視庁ホームページ等を参照し、警察の組織や業務内容、活動等を理解しておくこと。
4.	刑事訴訟の当事者（3） 4）検察 5）犯罪被害者	検察庁ホームページ等を参照し、検察の組織や業務内容、活動等を理解しておくこと。 また犯罪被害者保護の抱えている問題点等も理解しておくこと。
5.	刑事訴訟法の意義と目的	インターネット等で、『冤罪』問題について調べ、基礎的な知識と問題意識を持っておくこと。
6.	刑事訴訟法の構造	糾問的訴訟構造論と弾劾的訴訟構造論、職権主義と当事者主義の根本的な対立をしっかりと理解しておくこと。
7.	捜査の構造	新しい捜査方法にはどのようなものがあるか、インターネット等で調べておくこと。
8.	捜査法（1）	糾問的捜査観と弾劾的捜査観の対立をしっかりと理解しておくこと。
9.	捜査法（2）	捜査法上の諸原則について、整理しておくこと。
10.	被疑者の身体拘束と防御権（1）	レジュメのほか、講義中に指示したテキストの箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
11.	被疑者の身体拘束と防御権（2）	レジュメのほか、講義中に指示したテキストの箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
12.	証拠法	自白に関する証拠法上の諸法則について整理しておくこと。
13.	新しい刑事司法の動き（1） 取調べの可視化	取調べの可視化の流れについて、各自で整理しておくこと。
14.	陪新しい刑事司法の動き（2） 陪審制度と裁判員制度	配布レジュメを中心に、裁判員制度の概要と意義について整理しておくこと。
15.	まとめ	配布レジュメを中心に、復習を行い、重要な点を整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講者には、普段からニュース報道や新聞等に接し、これらの動きを意識しておくことを望みます。

フィードバックの方法:

提出物については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	到達目標にある、刑事司法に関する基本原理・原則の理解ができているか、刑事手続・刑事司法に関する正しい知識の取得と批判的な考察ができているか、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できているかを基準とする。

教科書:　田口守一・佐藤博史・白取祐司『目で見る刑事訴訟法教材　最新版』（有斐閣）

参考書:

『刑事訴訟法判例百選（第9版）』（有斐閣、2011年）
裁判所ホームページ
<http://www.courts.go.jp/>
日本弁護士連合会ホームページ
<http://www.nichibenren.or.jp/>
警察庁ホームページ
http://www.npa.go.jp/<>
検察庁ホームページ
<http://www.kensatsu.go.jp/top.shtml>
法務省『犯罪白書』
<http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html>

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

406600

行政法

荒木　　修

授業テーマ:　行政権に対する統制に関する法のあり方を学ぶ

授業の概要:　国家権力の一つである行政権は、立法権・司法権とは異なり、通例、国民の権利・自由に対して、極めて多様な方法で関わってきます（立法府や司法府に比して圧倒的なマンパワーなど様々な権力リソースを有しています）。例えばデモを規制する警察がどのような権力を用いて「公共の安全」を確保しているでしょうか？　人権への不当な侵害を防ぐには、「公共の福祉」の実現のために行政権が行使されるときに、それが濫用されないようにしなければなりません。「警察法」や「警察官職務執行法」という法律がありますが、この点について如何なる意義を持つでしょうか？　本講義では、「法」が行政権の道具として用いられる一方、「法」によって行政権がどのように統制される（べき）かを、いくつかの事例などを通じて概説します。

到達目標:
・行政に関する法は行政権の道具（公共政策を実現するための道具）であると同時に行政権を統制するものであることを理解する。
・そのために、法律等の条文や判例を読むことで、行政法がどのように存在するかを探し出すことができるようになる。
・行政法において用いられる基礎的な概念を用いて文章を作成できる。
・公務員試験や各種資格試験などを受験する者は、そこで出題される行政法の試験問題を解くための基礎的な知識を身に付ける。
・行政法を学ぶことで獲得した知識を用いることで、自己の権利・利益を守ることができるようになると同時に、それが公共政策の実現にどのように繋がっていくかを、考えることができるようになる。

授業方法:　講義。本講義では教科書を用いますが、教科書の章立てと講義の順番は異なります。必要に応じて、他の図書・論文のコピーや裁判例なども用います（講義で取り上げる重要な判例はウェブで提供する予定）。基本的に板書はしません（スライドを用いる場合があります）。口述する内容を適宜筆記してください。講義時間の制約上、ディスカッション等は行いません。その代わりに、簡単なレポートを提出してもらい、それに対してコメントを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	行政法・行政作用の具体例（その1） 行政法の基本原理である「法律による行政」の原理やその背後にある権力分立を中心に、行政権が国民の自由を「侵害」する場合の法を学ぶ。	教科書第1講義、第2講義-1・2、第10講義－1、第11講義-1。判例（旭川市国保条例、成田空港＝事前手続、川崎民商＝税務調査、京都府学連＝プライヴァシー侵害、自動車一斉検問）。「日本国憲法」、「警察官職務執行法」など。
2.	行政法・行政作用の具体例（その2） 国民に財・サービスを提供することは行政にとっての権力源の一つである。給付行政や調達行政の公正を保障するためにどのような法がこれまで作られてきたかを学ぶ。	教科書第1講義、第2講義-1・2、第8講義-1・2、第11講義-2。判例（公営住宅使用関係、給水拒否、泉佐野市民会館、ゴミ焼却炉発注）。「公営住宅法」、「水道法」、「地方自治法」など。
3.	公法と私法 「行政法＝公法」という考え方は現在批判されているものの、行政に関する法は現在でも私人間に妥当する法とは違いがある。その違いがどこまで正当化できるかを考えながら、行政法の特徴を学ぶ。	教科書第3講義。判例（宝塚市パチンコ条例＝行政上の司法的執行、公物時効取得、自衛官交通事故＝安全配慮義務及び金銭債権の消滅時効）。「行政事件訴訟法」、「民法」、「会計法」など。
4.	行政行為 行政法学では行政の作用・活動のうち一定のパタンのものを特に「行政行為」として取り出し、特殊な規律のもとに置く（行政行為の効力論、撤回の可否など）。	教科書第4講義。判例（固定資産税課税処分＝公定力の範囲、新宿マンション建設＝違法性の承継、優生保護法指定医撤回）。「行政事件訴訟法」、「行政手続法」、「建築基準法」など。
5.	行政指導 「非権力的」と性格付けられ、殆ど規制されないが、現実には国民は行政指導に協力しない自由は認められず、行政のやりたい放題になりがちである。どこまで行政指導が許されるかなどを学ぶ。	教科書第5講義。判例（品川マンション建設、病院建設中止勧告）。「行政手続法」、「建築基準法」、「医療法」など。
6.	行政の実効性確保（エンフォースメント） 「行政強制」「行政罰」と呼ばれてきた分野。行政権による実力行使などは厳格に規制されてきたが、それゆえに機能不全も起こる。そして、新たな手段がインフォーマルに使われ出す。	教科書第9講義。判例（境川鉄杭撤去、重加算税、O157公表）。「行政代執行法」、「国税通則法」など。
7.	行政立法 行政は議会からの「委任」により立法権も獲得するとき権力分立は崩れる。行政組織内では指揮監督として「通達」が飛び交う。これらが国民にとって如何なる意味を有するかを学ぶ。	教科書第6講義、第7講義。判例（家永教科書検定＝検定基準、監獄法、パチンコ通達＝物品税法）。「国家行政組織法」、「学校教育法」、「道路交通法」など。
8.	行政裁量 「法律」が行政に関して一義的なルールを定めないとき、行政権は自由に行使されてよいか。「法律による行政」の例外が何故に許される場合があるか、裁量を如何に統制すればよいかなどを学ぶ。	教科書第2講義-3。判例（伊方原発、神戸税関＝公務員懲戒、剣道受講拒否・退学、学校施設使用不許可、筑豊じん肺＝鉱山保安法）。「行政事件訴訟法」、「国家公務員法」、「地方自治法」、「土地収用法」など。
9.	行政法の一般法理 「法律による行政」の原理のほかに、民主制原理、信頼保護原理、事前手続保障、説明責任など、良き行政を実現するためには、如何なる法原理が要請されるかを学ぶ。	教科書第2講義-1・2、第7講義-2、第10講義、第19講義。判例（信頼保護、工場誘致、個人タクシー＝申請手続、旅券拒否＝理由附記）。「日本国憲法」、「行政手続法」、「情報公開法」など。
10.	行政争訟（その1） 行政不服申立、行政訴訟の類型など。国民が行政権の行使に対する不服を有するときに、如何なる手段を用いることができるかを学ぶ（民事訴訟という手段が使えないことへの注意も必要）。	教科書第12講義、第13講義-1・2。判例（日の丸君が代通達＝懲戒処分差止・義務不存在確認）。「行政不服審査法」、「行政事件訴訟法」など。
11.	行政争訟（その2） 処分性、原告適格、判決、仮の救済。国民が行政権の行使に対する不服を有するときに、如何なる手段を用いることができるかを学ぶ（民事訴訟という手段が使えないことへの注意も必要）。	教科書第13講義-2・3。判例（交通反則金通告、サテライト大阪＝原告適格、保育所入園拒否＝仮の義務付け）。「行政事件訴訟法」など。
12.	国家補償（その1） 国家賠償法1条。国民が違法な行政権の行使によって損害を被った場合に、その責任を誰が負うか、どのような要件で損害賠償が認められるかを学	教科書第14講義-1・2、第15講義-3。判例（加害者個人責任、奈良民商、芦別国賠、小樽予防接種事故）。「国家賠償法」、「民法」など。

13.	国家補償（その2） 国家賠償法2条、損失補償。公共施設の設置・管理に瑕疵がある場合や公用収用など国民に何らかの財産的な負担が生じる場合の損害賠償・補償について学ぶ。	教科書第14講義-3、第15講義-1・2。判例（高知落石、大東水害、多摩川水害、福島駅ホーム転落、ため池条例＝損失補償の要否）。「国家賠償法」、「土地収用法」、「都市計画法」など。
14.	行政法の現代的な課題 情報公開、個人情報保護、行政改革などについて、時間があれば説明する。	教科書第11講義-2・3。「情報公開法」、「行政機関個人情報保護法」など。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

教科書は事前に一読しておいてください（完璧に理解できなくても心配は要りません）。予習は大切ですが、「講義」科目においては復習がより大切だと考えております。そのため、簡単なレポートを提出してもらいます（講義内容の復習であり、定期試験に備えた学習となります）。

「概説」的な科目であるため、行政に関する法律の「条文」を細かく解釈することは求めませんが、条文を全く読まずに済ますことはできません。重要な条文は必ず読んでください（そのために講義には六法を必ず持参し、ライン等を引いてください。附箋やインデックスシールがあると便利です）。また、判例を読むときは、講義では判旨の重要な箇所しか取り上げませんが、予習・復習では「どのような事案であったか」を常に意識しながら読んでください（自分が当事者の立場ならどのように行動しただろうか、自分が裁判官ならばどのような判断を下しただろうか、考えることは大切です）。

講義で扱う行政法は抽象度が高いですが、是非、新聞等の報道のなかからも行政法を探してみてください（教科書11頁）。色々なところに行政法のネタは転がっています。

フィードバックの方法:

本講義では、数回、簡単なレポートを提出してもらいます（基本的には講義内容の復習）。分からなかった箇所などは、教科書や参考図書などを読むことで調べてください（ウェブ上の情報は玉石混淆です。中途半端なコピペでは勉強にはなりません）。講義内容への質問があればレポートのなかに記載してください。

全員に対してコメントを附してレポートを返却することはできませんが、気になったもの（行政法の理解に誤りがある場合など）は講義のなかで補足的な説明を行います（場合によっては、本人にコメントを送り返します）。

レポートの提出方法等は、最初の講義時に説明します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	75	行政法を正しく理解できているかどうか、行政法において用いられる基礎的な概念を用いて文書を作成できているかどうかによって評価する。
平常点	25	提出された簡単なレポートを見て、行政法を正しく理解できているかどうか、行政法において用いられる基礎的な概念を用いて文書を作成できているかどうかによって評価する。

教科書:

宇賀克也（編）『ブリッジブック行政法〔第3版〕』（信山社、2017年）

参考書:

宇賀克也ほか（編）『行政判例百選I・II〔第7版〕』（有斐閣、2017年）
高木光・宇賀克也（編）『行政法の争点』（有斐閣、2014年）
芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）
橋本博之『行政判例ノート〔第3版〕』（弘文堂、2013年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

講義時間の後に教室内で対応します。質問等が込み入っている場合は、文書を講義時に提出してください。

406800

労働法

植村　　新

授業テーマ:　労働をめぐる法的問題

授業の概要:

労働法は、企業（使用者）と従業員（労働者）、労働組合との関係を規整する法的ルールです。労働法には、例えば、賃金の支払いや労働時間、昇進・降格、転勤、解雇に関する法的ルールが含まれています。このように、労働法は、皆さんが将来企業に就職して働いたり（あるいは在学中にアルバイトをしたり）人を雇って事業を経営するようになったりしたときにとても重要な意味を持つ法分野です。

本講義では、労働法を形成する法的ルール（法律の条文や裁判所の判例）を、具体的事例をベースにしながら分かりやすく解説します。本講義の受講によって、法的な知識を学ぶだけでなく、学んだ知識を現実の紛争解決に用いるための方法（法的思考方法）を修得できるようにすることも心がけます。さらに、講義の中では、雇用関係法に関して現在行われている立法上の議論も可能な限り紹介します。それが、雇用社会が将来どのように変化していくのかを考える契機になるからです。

到達目標:

1. 労働法の基本的なルールを体系的に修得する
2. 1の知識・理解を用いて、将来自分の身にも生じうる労働問題を法的に解決できるようになる
3. 日頃ニュースや新聞で報じられる労働問題を法的に把握・考察できるようになる

授業方法:　講義（レジュメを配布します）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
2.	労働者と使用者	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
3.	労働契約の成立－採用・内定・試用	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
4.	労働契約の基本内容と形成要因	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
5.	賃金に関するルール	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
6.	労働時間に関するルール	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
7.	休暇・休業に関するルール	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
8.	安全衛生の確保と労働災害の救済	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
9.	労働契約の展開（1）－人事異動	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
10.	労働契約の展開（2）－懲戒・休職	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
11.	労働契約の終了（1）－解雇	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
12.	労働契約の終了（2）－解雇以外の終了事由	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
13.	団体交渉と争議行為	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
14.	労働協約	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
15.	不当労働行為	レジュメ・教科書による講義の予習・復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

労働法の知識や考え方を修得することは、皆さんが大学を出て社会で働くための大切な素養です。積極的な姿勢での受講をお待ちしています。

フィードバックの方法:

小テストを実施したり質問用紙を配布したりして、疑問点や要望に対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	授業内容の理解度により評価します。

教科書:　ガイダンスにおいて紹介します。

参考書:

小畑史子・緒方桂子・竹内（奥野）寿『労働法』（有斐閣、第2版、2016年）
川口美貴『基礎から学ぶ労働法』（信山社、2016年）
水町勇一郎『労働法』（有斐閣、第6版、2016年）
森戸英幸『プレップ労働法』(弘文堂、第5版、2016年)
安枝英訷・西村健一郎『労働法』（有斐閣双書、第12版、2014年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応するほか、メールでの質問等を受け付けます。

407100

国際関係史

爲政　　雅代

授業テーマ:　第2次世界大戦の開戦から1950年代までのドイツをめぐる国際関係の歴史

授業の概要:　第2次世界大戦で敗戦国となったドイツは、超大国の米ソやヨーロッパ諸国の影響下におかれた。このために、戦後ドイツは当時の国際社会の縮図となり、ここを舞台に様々な国際関係が構築された。本講義では、ドイツをめぐる各国の見解やそれに対応するドイツの主張のせめぎ合いを通じて、戦後ヨーロッパ社会における国際関係のありかたを具体的に学ぶ。

到達目標:　・各テーマの内容をしっかりと理解できるようにする。
・ドイツを中心とした戦後ヨーロッパの国際関係を把握できるようにする。

授業方法:　毎回配布するプリント（写真、地図など）を使用しながら、講義形式で授業をおこなう。また、授業内容に応じて、映画や音楽なども使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	授業内容の復習
2.	第2次世界大戦	授業内容の復習
3.	1945年　－勝利・解放・敗戦－	授業内容の復習
4.	連合国による戦後処理　－ヤルタ会談・ポツダム会談－	授業内容の復習
5.	ドイツ占領政策　－4つの占領地区－	授業内容の復習
6.	ニュルンベルク国際軍事裁判	授業内容の復習
7.	フランスの対ドイツ政策　－ルールとザールラント－	授業内容の復習
8.	アメリカの政策転換　－マーシャル・プランへ－	授業内容の復習
9.	通貨改革とベルリン封鎖	授業内容の復習
10.	東西ドイツ分断	授業内容の復習
11.	2つの国旗・2つの国歌	授業内容の復習
12.	東ドイツ社会の動乱　－6月17日事件－	授業内容の復習
13.	アデナウアーの西側統合政策	授業内容の復習
14.	冷戦と東西ドイツ	授業内容の復習
15.	まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　ヨーロッパの国際関係の特徴について、ドイツを舞台にしてわかりやすく解説する。多面的に歴史や国際社会を理解する方法を学んでもらいたい。

フィードバックの方法:　授業内に提出された小レポートについては、教室で総評する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	90	到達目標に関する知識や理解度による評価する。
授業中レポート	10	到達目標に関する知識や理解度による評価する。

教科書:　教科書は指定しない。

参考書:　初回授業で参考文献リストを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応する。

407400

国際環境政策論

内藤　　登世一

授業テーマ:　地球温暖化を抑制するための国際環境政策

授業の概要:

世界銀行によると，2016年には世界の約40の国や20以上の都市や州で，地球温暖化を抑制するための環境政策に，「炭素税」や「排出量取引」といった「経済的政策（経済的インセンティブに基づく政策）」が導入されています．日本においても，炭素税（地球温暖化対策税と呼ばれる）が，2012年10月1日から導入されました．また，排出量取引については，日本政府としては導入していないものの，東京都は2010年から，また埼玉県は2011年から，独自に実施しています．

従来の環境政策といえば，政府による「規制政策（環境基準で規制する政策）」が主流でした．しかし，最近では炭素税や排出量取引といった経済的政策が，地球温暖化問題に対する優れた環境政策として世界的に認められるようになってきました．それはなぜなのでしょうか？ 答えは，経済的政策には規制政策に内在するいくつかの短所を克服する，優れた長所があるからなのです．

本授業の目的は，地球温暖化を抑制する環境政策として世界的に評価が高まっている，経済的政策について理解することにあります．特に，なぜ従来の規制政策よりも経済的政策の方が優れているのかについて理解することを目標とします．そうした理解によって，最も有効な政策を選択するための知識や論理的思考力を修得し，地球温暖化問題に貢献できるリーダーシップを身につけることができます．（学生諸君には，将来社会の中で是非ともリーダーシップを発揮していただきたい．）

授業の前半は，政策の優劣を比較するために必要な分析道具として，経済学の基礎を確認します．また，その応用としての環境経済学の理論や分析手法なども修得していきます．後半は，前半で学んだ分析道具を使用して従来の規制政策の短所を明らかにした上で，それを補う経済的政策の長所について理解を深めていきます．

さらに，経済的政策のしくみや長所を理解した後には，学生諸君が企業者となって教室で実際に排出許可証の売買取引の体験を行い，排出量取引のしくみや長所についてさらに理解を深めます．なお，毎回の授業のはじめには，新聞や雑誌記事などの資料を配布し，地球温暖化問題への国際的取組の最前線の状況についても認識を深めていきます．

到達目標:

1. 経済学のアイデアを日常生活に活用できるようになる．
2. 環境経済学のアイデアを使ってベストな環境政策について議論ができるようになる．
3. 規制政策や経済的政策のしくみや短所について説明できるようになる．
4. なぜ従来の規制政策よりも経済的政策の方が優れているのかを説明できるようになる．
5. 排出量取引制度が市場を通してどのように機能するのかを説明できるようになる．
6. 地球温暖化に対する現在の世界や日本の取り組みについて説明できるようになる．
7. 国際的な視野から地球温暖化に対する経済的政策のあり方を理解できるようになる．

授業方法:　講義，詳細は各回の授業内容欄に記載

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地球温暖化を抑制する経済的政策と世界情勢	リーディング：参考書① 21-22頁（推定時間15分）・参考書③ 4-20頁（推定時間30分）
2.	分析道具Ⅰ（支払意思・便益）	リーディング：参考書① 47-57頁（推定時間30分）・参考書③ 100-111，205-211頁（推定時間30分）
3.	分析道具Ⅱ（費用・技術・限界費用均等化原理）	リーディング：参考書① 57-68頁（推定時間30分）・参考書③ 111-120，375-383頁（推定時間30分）
4.	分析道具Ⅲ（経済効率性・衡平性・市場）	リーディング：参考書① 71-77頁（推定時間15分）・参考書③ 211-225頁（推定時間30分）
5.	分析道具Ⅳ（外部性・市場の失敗）	リーディング：参考書① 77-82頁（推定時間15分）・参考書③ 284-300頁（推定時間30分）
6.	分析道具Ⅴ（汚染被害・削減費用）	リーディング：参考書① 93-105頁（推定時間30分）
7.	分析道具Ⅵ（効率的な排出水準）	リーディング：参考書① 105-114頁（推定時間30分）
8.	規制政策Ⅰ（規制政策のしくみ）	リーディング：参考書① 237-241頁（推定時間10分）・中間試験（take home）（推定時間90分）
9.	規制政策Ⅱ（規制政策の短所）・＜中間試験解説＞	リーディング：参考書① 241-252頁（推定時間30分）
10.	経済的政策Ⅰ（炭素税制度のしくみ）	リーディング：参考書① 259-266頁（推定時間30分）・参考書② 276-291頁（推定時間20分）
11.	経済的政策Ⅱ（炭素税制度の長所）	リーディング：参考書① 266-271，276-278頁（推定時間30分）・参考書② 292-305頁（推定時間20分）
12.	経済的政策Ⅲ（排出量取引制度のしくみ・長所）	リーディング：参考書① 293-300，304-306頁（推定時間30分）
13.	排出量取引の実践（体験学習）	リーディング：環境省HP「国内排出量取引制度について」（推定時間30分） http://www.env.go.jp/earth/ondanka/det/capandtrade/about1003.pdf
14.	国際環境政策（国家政策から国際協調政策へ）	リーディング：参考書② 306-322頁（推定時間30分）
15.	まとめ	授業ノートの総復習 1-50頁（推定時間60分）

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業では，書き込み式の授業ノートや資料を配布する．また，この授業ノートは，自筆で書き込まれたもののみ，期末試験への持ち込みを許可する．したがって，授業への出席が大切である．

フィードバックの方法:

・中間試験（take home）は，9回目の授業で返却して，解説を行う．
・期末試験の解説は授業講評で行う．

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内小テスト	25	授業内に学んだ内容を正しく理解しているかどうかを評価する．
中間試験（take home）	25	経済学の用語，概念，理論について，図を用いて正しく説明できるかどうかを評価する．
期末試験	50	経済的政策のしくみや長所について，図を用いて正しく説明できるかどうかを評価する．

教科書:　特に指定しない．

参考書:

バリー・C・フィールド著・秋田次郎他訳『環境経済学入門』日本評論社（1997年）．

ウィリアム・ノードハウス著・藤崎香里訳『気候カジノ — 経済学から見た地球温暖化問題の最適解』日経BP社（2013年）．

N. グレゴリー・マンキュー著（足立英之他訳）『マンキュー経済学Ⅰ ミクロ編』（第3版）東洋経済新報社（2013年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、リーダーシップ
教員との連絡方法:	メールアドレス: naito@kyotogakuen.ac.jp

407800

国際教育論

三宅　　えり子

授業テーマ:　諸外国の教育改革を比較教育学的・比較社会学的にとらえる

授業の概要:　グローバル化が進んだ現在、自国の教育力を高めることは国際競争力を高めることでもあり、どの国においても質の高い教育制度の整備は重要な社会基盤となります。したがって各国ではさまざまな教育改革が行われています。どの国がどのような目的でどのような教育改革を行っているかについて、比較教育学的・比較社会学的な視点で考察することにより、各国が抱えるさまざまな社会問題と教育との関係がみえてきます。

到達目標:　グローバル社会の多様性の中で、各国の教育改革を比較教育学的な視点と比較社会学的な視点の両方からとらえることで、教育の役割と教育の諸問題に対して理解が深まること。

授業方法:　毎時のテーマに関してミニ講義をしますが、基本的にグループワーク、グループ発表、ディスカッションを中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業目標と授業全体の流れ）	
2.	教育を受ける目的、社会における学校の役割、国家における教育の役割	事前配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。
3.	教育改革は何のために行うのか？	事前配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。
4.	日本の教育制度の特色と教育問題について考えてみよう	事前配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。
5.	フィンランドの教育制度と教育改革ついて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
6.	アメリカの教育制度と教育改革ついて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
7.	イギリスの教育制度と教育改革ついて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
8.	ドイツの教育制度と教育改革ついて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
9.	教育問題に関するディベート試合	ディベート試合の準備をする。
10.	シンガポールの教育制度と教育改革ついて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
11.	韓国の教育制度と教育改革ついて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
12.	中国の教育制度と教育改革ついて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
13.	ブラジルの教育制度と教育改革ついて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	教科書『新版 世界の学校』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
14.	フリーターやニートについて考えてみよう：グループ発表とディスカッション	事前配布資料を読んで、内容を理解しておくこと。
15.	振り返りとまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では各国の教育制度をみていきますが、世界旅行をするつもりで、それぞれの国について自分が興味をもてる領域（文化、観光名所、歴史、ファッション、グルメなど）から入っていってください。

フィードバックの方法:　ワークプリントに関しては、コメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40%	出席、グループワークや討論への積極的な参加度、発表など
ワークプリント（複数回）	20%	毎回の授業内容の要点を理解し、ディスカッションテーマについて意見が書けている。
期末レポート	40%	授業内容の要点を理解して、レポート要領の指示にしたがって書けている。

教科書:　二宮皓（編著）（2014）『新版　世界の学校 － 教育制度から日常の学校風景まで』学事出版

参考書:
原清治・山内乾史・杉本均（編著）（2009）『増補版　教育の比較社会学』学文社
坂野慎二・藤田晃之（編著）（2015）『海外の教育改革』放送大学教育振興会
小川正人・岩永雅也（編著）（2015）『日本の教育改革』放送大学教育振興会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

408100

東洋の歴史Ⅰ

太田　　出

授業テーマ:　人口からみた中国の歴史

授業の概要:　現在、中国は13億以上にものぼる世界一の人口大国である。周知のとおり、人口はその国のあり方はもちろん、政治、経済、社会、文化などさまざまな分野に多大な影響を与えてきた。では中国の人口は歴史上どのように変遷してきたのだろうか。たとえば古代・中世・近世・近代・現代と中国の人口は如何に増減し、政治や経済などにおいてどのようなかたちで表象されてきたのだろうか。本授業では、中国の歴代人口を時代ごとに整理するとともに、特に明代の人口飽和、清代の人口爆発、戦後中国の人口動態と一人っ子政策に焦点をあて、現代中国の流動人口と超高齢化社会を理解して対処するカギを歴史のなかに発見してみたい。アジアの諸問題を考える際には人口問題の検討が不可欠と判断するからである。

到達目標:　中国の人口史を手がかりに、中国の歴史と現在を深く考える力を養う。

授業方法:　授業は講義形式で行う。必要に応じてビデオを鑑賞し、その内容について討論する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	特になし
2.	ビデオ鑑賞と討論（1）―――民工と民工子弟学校	前回の復習
3.	ビデオ鑑賞と討論（2）――――疲弊する農村	前回の復習
4.	中国の歴代人口（1）――――殷・周～隋唐帝国	前回の復習
5.	中国の歴代人口（2）――――宋元時代	前回の復習
6.	明代の人口飽和	前回の復習
7.	清代の地域開発と人口爆発	前回の復習
8.	戦後中国の人口動態（1）――――中華人民共和国の成立から大躍進まで	前回の復習
9.	戦後中国の人口動態（2）――――文化大革命	前回の復習
10.	馬寅初と人口論論争	前回の復習
11.	一人っ子政策	前回の復習
12.	流動人口と民工	前回の復習
13.	ビデオ鑑賞と討論（3）――――拡大する格差	前回の復習
14.	ビデオ鑑賞と討論（4）――――超高齢化社会への道	前回の復習
15.	授業のまとめ	前回の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　中国をはじめとする東アジア世界に興味を有する学生の参加を期待しています。

フィードバックの方法:　最終回の授業で授業の「総まとめ」を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点1	60	出席率
平常点2	40	毎回行う授業中の小テスト

教科書:　授業中にレジュメを配布する。

参考書:　授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　taitianchu1205@yahoo.co.jp

408200

東洋の歴史Ⅱ

太田　　出

授業テーマ:　中国史の三大画期――――特に中国近世論を中心に

授業の概要:　中国史を学ぶとき、殷、周、秦、漢……と続く王朝興亡の歴史、すなわち王朝の建国、衰退、中興、反乱、滅亡の繰り返しとして理解することが少なくない。しかし人間が歩んできたこれまでの歴史をある基準によって段階ごとに区分する時代区分も歴史学の一つの重要な作業である。本授業では、教科書に見られる「古代」「中世」「近世」「近代」「現代」という区分を近年の新しい研究を参考にしながら再検討し、中国史の三大画期と見なしうる「春秋・戦国」「唐・宋変革」「明末・清初」の意義を紹介してみたい。特にこれまで日本史に特殊な区分とされてきた「近世」を中国史をはじめとする世界史に如何にあてはめるか、具体的な事例を示しながら考えてみることにする。

到達目標:　中国史の時代区分に関する理解を深める。

授業方法:　講義形式で授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	特になし
2.	時代区分論とは何か？	前回の復習
3.	さまざまな時代区分論（1）――――日本の学界における時代区分論	前回の復習
4.	さまざまな時代区分論（2）――――中国の学界における時代区分論	前回の復習
5.	春秋・戦国時代（1）――――政治・経済から見る	前回の復習
6.	春秋・戦国時代（2）――――社会・文化から見る	前回の復習
7.	唐・宋変革（1）――――内藤湖南の唐宋変革論1	内藤湖南「唐宋変革論」を読んでおくことが望ましい。
8.	唐・宋変革（2）――――内藤湖南の唐宋変革論2	前回の復習
9.	唐・宋変革（3）――――この画期に何を見出すか	前回の復習
10.	明末・清初（1）――――宮崎市定の近世論	宮崎市定「東洋的近世」を読んでおくことが望ましい。
11.	明末・清初（2）――――岸本美緒の近世論	岸本美緒『アジアの「近世」』を読んでおくことが望ましい。
12.	明末・清初（3）――――近世化とは何か？	歴史学研究』特集「近世化を考える」を読んでおくことが望ましい。
13.	日本史における近世とアジアにおける近世	前回の復習
14.	近世から近代へ	前回の復習
15.	授業のまとめ	前回の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　中国史における近世を中心に時代をどう区分するかを考えます。中国史に興味のある学生の参加を期待しています。

フィードバックの方法:　最終回の授業で「総まとめ」を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点1	60	出席率
平常点2	40	毎回授業中に行う小テスト

教科書:　授業中にレジュメを配布する。

参考書:　授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　taitianchu1205@yahoo.co.jp

409400

京都伝統芸能論

倉橋　　正恵

授業テーマ:　近世京都の芸能空間

授業の概要:　中世から明治期までに記された史料、絵画史料、文学作品を用いながら、京都に育まれた様々な伝統芸能の中から特に歌舞伎と人形浄瑠璃（文楽）について学ぶ。これと同時に、芸能の発展に京都という土地がいかに関わっていたのかについても理解する。

到達目標:
・文楽、歌舞伎の基礎と歴史を理解する。
・芸能と京都の関連性と芸能文化の広がりについて理解する。
・古典芸能の中の現代性について理解する。

授業方法:　講義を中心に、絵画・浮世絵・写真・ビデオ・DVDなどのヴィジュアルな教材を適宜使用して授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	風流と祇園祭	祇園祭についての事前学習
2.	四条河原の芸能風景	芝居町としての四条河原について事前学習
3.	語りと人形浄瑠璃	文楽についての事前学習
4.	人形浄瑠璃から文楽	文楽についての事前学習
5.	文楽の鑑賞	鑑賞する演目についての事前学習
6.	歌舞伎の発生	歌舞伎についての事前学習
7.	野郎歌舞伎・元禄歌舞	歌舞伎についての事前学習
8.	荒事・和事	歌舞伎についての事前学習
9.	江戸歌舞伎と上方歌舞伎	歌舞伎についての事前学習
10.	18・19世紀の歌舞伎	歌舞伎についての事前学習
11.	歌舞伎の鑑賞	鑑賞する演目についての事前学習
12.	歌舞伎と人形浄瑠璃1	「仮名手本忠臣蔵」についての事前学習
13.	歌舞伎と人形浄瑠璃2	「義経千本桜」についての事前学習
14.	現代へと続く伝統芸能	古典芸能の中にある現代性についての事前学習
15.	まとめ	総括

受講者へのメッセージやアドバイス:　観劇レポートを課すため、授業で学ぶ古典芸能に対する基礎知識に加えて、受講生自身が観劇した芸能に対する個人学習が必要となる。また、講義中に画像や映像を伴って解説するため、定期試験もその点を重視した出題となる事を考慮して受講すること。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験の成績	80	文楽、歌舞伎、京都の芸能に対する基礎知識や、歴史、影響関係に関する理解度により評価する。
観劇レポート	20	実際に観劇した古典芸能への理解度と、その芸能に対しての考察が論理的に説明できているかによって評価する。

教科書:

参考書:
今岡謙太郎『日本古典芸能史』(武蔵野美術大学出版局、2008年)
山路興造『京都　芸能と民族の文化史』(思文閣出版、2009年)
川嶋將生『祇園祭—祝祭の京都（吉川弘文館、2010年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

410500

都市政策論

立木　　康介

授業テーマ:　生まれ変わる都市―パリ、ビルバオ、京都

授業の概要:　都市はある種の生き物であり、多くの場合、人間やその他の生物の個体よりはるかに長く生きる。とすれば、時代や社会状況の移り変わりに伴って、都市も疲労や病に見舞われるだろう。そうなったとき、それを治療し回復させるための手当や、都市を時代や社会状況にもっとよく適応させるための手術が必要になる。国や自治体のイニシアティヴのもとで進められるそのような「都市改造」の理念やプロセスを、1850年代のパリ、1980 年代のビルバオ (スペイン)、そして明治期以後の京都を例にとって学んでゆく。

到達目標:　都市の生態学的・社会学的変容に応じた都市政策のありかたについて学び、都市計画や都市行政について自分なりの考えをもてるようにする。

授業方法:　授業は基本的に講義形式で進められる。
同時に、受講生の日常的な関心が都市政策・都市計画に向かうような課題を与える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション― 都市を観る愉しみ、都市に遊ぶ愉しみ	特になし
2.	パリ大改造その1:19世紀、激動のフランス社会	配付資料の当該箇所に目をとおしておく
3.	パリ大改造その2:ナポレオン三世の時代	同上
4.	パリ大改造その3:都市パリの歴史古代から中世、そして近世へ	同上
5.	パリ大改造その4:街路の拡張、上下水道の整備	同上
6.	パリ大改造その5:オペラ座とその他の建築	同上
7.	パリ大改造その6:都市改造と芸術家のまなざし	同上
8.	パリ大改造その7:都市改造のなかの近代、近代のなかの都市改造	同上
9.	パリのいまその1:19世紀から現代へ	同上
10.	パリのいま その2:メトロとトラム、バスと自転車	同上
11.	ビルバオ再生 その1:スペインのなかのビルバオ	同上
12.	ビルバオ再生 その2:グッゲンハイム美術館 (フランク・ゲーリー)	同上
13.	近代都市京都 その1:遷都とその影響	同上
14.	近代都市京都 その2:「古都」のブランド化	同上
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　学期末の評価を通じて行う。
それ以外は、個別に対応することもありうるが、教務係を通して行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50	授業内容をどの程度理解しているかを問う。
授業態度	50	授業中に私語をする者、スマートフォンや携帯電話などをしまわない者には厳正に対処する。

教科書:

参考書:
富永茂樹『都市の憂鬱 感情の社会学のために』新曜社(1996年)
高階秀爾 (監修)『オルセー美術館3 都市「パリ」の自画像』日本放送出版協会(1990年)
丸山宏他 (編)『みやこの近代』思文閣出版(2008年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。

410600

地誌学Ⅰ

土平　　博

授業テーマ:　多様な地域性－日本国内外を多角的にとらえる－

授業の概要:　さまざまなスケールの「地域」を設定しながら、日本の国内外にわけて地域性をとらえていく。日本国内では、一般的にとらえられている地方区分を再認識しながら異なる捉え方によって各地方の地域性を探っていく。国外では、自然と人々の生活をテーマにしながら、南アメリカのガラパゴス諸島、ブラジルの世界遺産に注目しつつ地域の特色をとらえていく。また、産業をテーマにしてアラブ首長国内外を動態的にみていく。

到達目標:
①固定概念としてとらえている地域を地理的現象を通じて多角的にとらえ直すことができるようにする。
②地域の諸現象を潜む問題を掘り下げる洞察力を身につけ、現在のみならず将来にもつながる考察力を養う。
③過去の事象が現代に引き継がれ、地域に根付いていることを理解する能力を身につける。

授業方法:　講義形式で実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. はじめに−授業のガイダンス&地誌学とは−	
2. 北海道地方と観光関連産業	
3. 東北地方6県と都市圏	
4. 江戸・東京とその周辺	
5. 中部地方と複雑な地方内区分	
6. 畿内と近畿地方	
7. 中国・四国地方と瀬戸内地域	
8. 第一次産業からみた九州地方の地域性	
9. 統計からみた南アメリカ大陸の国々	
10. ガラパゴス諸島の地形と気候	
11. ガラパゴス諸島の生き物からみた環境と人々の生活	
12. 世界遺産からみるブラジルの自然と生活	
13. アラブ首長国連邦と日本	
14. アラブ首長国連邦の地域性	
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　身近な人々の活動や生活を客観的に観察していると、それらは地域や空間の現象としてとらえることができます。また、歴史とも深くかかわっています。暗記する科目としての地理をイメージしてきたみなさんは、これを機会にそのイメージを崩して受講してみてください。

フィードバックの方法:
①提出されたレポートについてはコメントをつけて教室で返却する。
②提出されたコメントペーパーについては、次回の授業時、教室で受講生全体に講評を述べる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	60	達目標①～③に関する理解度によって評価する。
授業への参加度（課題）	30	積極的に授業に取り組み、到達目標①～③の取り組みができているかを評価基準とする。
レポート	10	到達目標①について、一定の水準に達したかを評価基準とする。

教科書:　使用しない。

参考書:　適宜、授業で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:
①電子メールによって行う。
②授業の前後の時間を利用して直接対面で行う。

410700

地誌学Ⅱ

立木　　康介

授業テーマ:

地誌学としてのフランス文化論

授業の概要:

近世以降、つねにヨーロッパの中心（のひとつ）でありつづけるフランス。今日のフランスは、しかし、カトリックの伝統の上に啓蒙主義と民主主義が上乗せされた進歩的な白人の国などではなく、宗教的にも人種的にも多様で、ヨーロッパ的な伝統とアメリカ的なリベラリズム、そしてイスラムやアフリカの文化がせめぎ合う多面的な国家である。
したがって、一口に「フランス文化」といっても、それがなにを意味するのか見きわめるのは簡単なことではない。しかし、今日のフランスの社会文化的状況から、私たちは少なくとも二つのことを学ぶことができる。1/ フランス革命以来の絶え間ない政治的社会的「実験」が、フランス文化にいかなる独自性、あるいはアイデンティティをもたらしたか。2/ 植民地主義の終焉とともにフランス社会が抱え込んだ多様性に、国民がいかに現在進行形で向き合い、議論を重ねているか。一見すると相反するこれら二つの相の混在こそが現代フランスの実像であるといってよい。その地理的・歴史的諸条件を、可能なかぎり平明な問いかけを通じて探ってゆく。

到達目標:

「優雅で高級な（あるいは「オシャレな」）フランス文化」といったクリーシェをいったん括弧に入れ、地誌学的アプローチを通じて、現代フランス文化の実像を捉える。

授業方法:

本講義は、教科書として取り上げる本（小田中直樹『フランス7つの謎』）の内容に沿って進められる。
ただし、それはいわば議論の叩き台にすぎず、本講義では独自の観点からこれに検証や批判を加え、具体的なテーマにまつわる資料をそのつど補いつつ、学びを深めてゆく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション－ いま「フランス」とはなにを意味するのか	特になし
2.	なぜ政教分離をめぐって延々と議論が続くのか(その1)	テキストの当該箇所に目をとおしておく
3.	なぜ政教分離をめぐって延々と議論が続くのか(その2)	同上
4.	なぜいつどこでもストに出会うのか(その1)	同上
5.	なぜいつどこでもストに出会うのか(その2)	同上
6.	なぜ標識がバイリンガル表記なのか(その1)	同上
7.	なぜ標識がバイリンガル表記なのか(その2)	同上
8.	なぜマクドナルドを「解体」すると拍手喝采されるのか(その1)	同上
9.	なぜマクドナルドを「解体」すると拍手喝采されるのか(その2)	同上
10.	なぜアメリカを目の敵にするのか（その1）	同上
11.	なぜアメリカを目の敵にするのか（その2）	同上
12.	なぜ大学生がストライキをするのか（その1）	同上
13.	なぜ大学生がストライキをするのか（その2）	同上
14.	なぜ大学生がストライキをするのか（その3）	同上
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

教科書については、先輩（前年度までの受講者）から譲ってもらったり、何人かで購入したものをコピーしてもよい。

フィードバックの方法:

学期末の評価を通じて行う。
それ以外は、個別に対応することもありうるが、教務係を通して行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50	授業内容をどの程度理解しているかを問う。
授業態度	50	授業中に私語をする者、スマートフォンや携帯電話などをしまわない者には厳正に対処する。

教科書:

小田中直樹『フランス7つの謎』文春新書（2005年）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対。

410800

日本の歴史Ⅰ

角谷　　江津子

授業テーマ:　春学期15回の授業で、日本の歴史についてしっかりと学びます。

授業の概要:　原始・古代から中世、近世の政治史を中心としつつ、各回の内容に近代史、現代史の内容を付加するとともに、現代から見た視点をも加えて問題を提起しながら説明します。
通史という観点から、時代を特徴づける事象について、最新の研究成果をとりいれながら標準的な日本史の授業をおこなうことをめざします。
個々の歴史事実の解説にとどまることなく、歴史全体の流れや、時代の転換点について考える契機となるような事項を授業の中で与えていくようにします。

到達目標:　受講生ひとりひとりが問題意識をもって授業に出席するようにしてください。日本史の各時代の特徴をつかみ、前の時代とどこがどのように変わったのかということを理解し、それを自分で説明できるようにすることを目標にしてください。
将来教職を希望する学生以外の受講生の登録が増えています。実社会で役立つやや高度な日本史の基礎知識を習得することを目標とすることを希望します。

授業方法:　講義形式を基本とし、必要に応じてDVD，パワーポイント等を使用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「日本の歴史」概説 旧石器時代の日本	日本列島の位置から、日本の旧石器時代の存在の意義について考える。授業プリントを復習し、身近な遺跡について調べる。
2.	縄文時代について	旧石器時代のプリントを復習し、縄文時代のプリントについて予習しておく。旧石器時代から縄文時代への転換点について考える。
3.	弥生時代の開始	縄文時代のプリントを復習し、弥生時代のプリントについて予習しておく。縄文時代から弥生時代への転換点について考える。
4.	『魏書』東夷伝倭人条を読む（1）	弥生時代のプリントを復習し、卑弥呼の時代がつぎの時代とどのように関係するのかを考える。プリントを予習し、卑弥呼以前の倭国の外交について中国の文献を読んでおく。
5.	『魏書』東夷伝倭人条を読む（2）	配布史料を復習し、卑弥呼と魏の外交関係について、倭国内の情勢と関連づけて考える。
6.	古墳時代の開始	プリントを復習し、卑弥呼の時代と古墳時代の関係について自分の意見をもって授業に のぞむ。
7.	大和政権の成立過程	プリントを復習し、古墳の出現と大和政権の関係について考える。
8.	律令の制定 『令義解』を読む』（1）	史料プリントを読んでおく。
9.	『令義解』を読む』（1）	史料プリントを読んでおく。
10.	土地制度の改革と律令制度の崩壊	史料プリントを復習し、古代の土地制度について考える。
11.	平安京遷都と摂関政治	プリントを予習し、平安京遷都の背景と歴史的意義について考える。
12.	「荘園公領制」の概念とその成立	プリントを復習し、土地制度の変容について理解する。 プリントを予習し、荘園公領制」の概念についておおまかな知識を得ておく。
13.	院政と「荘園公領制」の展開	プリントを予習し、「荘園公領制」が日本中世の開始と大きく関連することについて考える。
14.	封建政治の成立（1） 鎌倉時代・室町時代	プリントを予習・復習し、日本史における封建制度の概念の成立について考える。
15.	封建政治の成立（1） 安土桃山時代・江戸時代	プリントを復習し、封建制度の概念を用いることによって、鎌倉時代・室町時代と同様に、安土桃山時代・江戸時代の説明ができることを理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、授業中や最後などで近代史、現代史の内容を付加し、現代から見た視点をも加えて説明します。
配布プリントをみてよく復習してください。
次回のプリントを早めに配布する予定です。必ず目を通してから授業に出席してください。

フィードバックの方法:　授業後に質問を受け付けます。基本的にただちに解答します。
発展的な質問や日本史全体にかかわる内容に関する質問には、時間を改めて解答する場合があります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	85%	歴史事実をよく認識かつ理解し、論理的に説明できるかを基準とします。
授業への参加度	15%	準備学習等の内容につい理解したうえで、積極的に授業に参加しているか、史料の音読が上達したかなどを評価します。 毎時間出席をとり、状況を考慮します。

教科書:　使用しません。
図表や文献の引用を中心としたプリントを毎時間配布します。
授業内容4・5・8・9などでは、史料の原文とともに現代語訳を配布します。

参考書:
児玉幸多編『日本史年表・地図』（吉川弘文館）
岩波講座『日本通史』（岩波書店）第2巻「古代1」～第11巻「近世1」までの通史の部分
『日本の歴史』（講談社）第00巻～第15巻
『図解・日本の人類遺跡』（東京大学出版会）
『図解日本の中世遺跡』』（東京大学出版会）
『日本の時代史』（吉川弘文館）1巻～13巻
『戦争の日本史』（吉川弘文館）1巻～17巻
全集『日本の歴史』（小学館）第1巻～第8巻

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

410900

日本の歴史Ⅱ

角谷　　江津子

授業テーマ:
秋学期15回の授業で、日本の近代史・現代史についてしっかりと学びます。

授業の概要:
日本近世の外交史から近代、現代までを範囲とします。
個々の歴史事実の解説にとどまることなく、歴史全体の流れや、時代の転換点について考える契機となるような事項を授業の中で与えていくようにします。
時代の要請にしたがい、時事的な視点を加えていきます。

到達目標:
受講生ひとりひとりが問題意識をもって授業に出席するようにしてください。
歴史事実をよく確認し、適切な説明ができるように努力してください。
現代の日本が形成された背景であり、かつ重要な過程である近代史について、基礎的な知識を習得することを目標とすることを希望します。

授業方法:
講義形式を基本とし、必要に応じてDVD，パワーポイント等を使用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本の歴史Ⅱ　概説 日本の対外政策（1） 鎖国とは何か	プリントを復習し、江戸時代の外交について考える。
2.	日本の対外政策（2） 開国ということ	プリントを予習・復習し、開国の概念の成立について考える。
3.	幕末の動乱	プリントを予習し、幕末の動乱がおこった地域と関係する人物に関するおおまかな知識を得ておく。
4.	明治新政府の成立	プリントを予習・復習し、新政府の成立過程とその矛盾について考える。
5.	大日本帝国憲法の制定	プリントを予習・復習し、明治時代の憲法の特性について考える。
6.	民権運動の展開と民党の成立	プリントを予習・復習し、明治政府と民権運動との対立関係をよく理解する。
7.	条約改正と日清戦争	プリントを予習・復習し、明治時代の外交と対外戦争についてよく理解する。
8.	日本の帝国主義（1） 日露戦争	プリントを予習・復習し、帝国主義の概念を理解し、日清戦争の結果から日露開戦の経過をよく知る。
9.	日本の帝国主義（2） 韓国併合	プリントを予習・復習し、当時の世界情勢から韓国併合という歴史事実について考える。
10.	第一次世界大戦とヴェルサイユ＝ワシントン体制下の日本	プリントを予習・復習し、第一次世界大戦開戦と終結についてよく理解する。
11.	満州事変から太平洋戦争へ	プリントを予習・復習し、第一次世界大戦後の日本の外交政策について理解し考える。
12.	原子爆弾投下と日本の無条件降伏	プリントを予習・復習し、第二次世界大戦の終結の実際について理解し考える。
13.	占領政策の転換と日米安保条約の調印	プリントを予習・復習し、占領政策転換の背景と要因について理解し考える。
14.	朝鮮戦争勃発と日本における自衛隊の発足	プリントを予習・復習し、朝鮮戦争勃発が日本に与えた影響について理解する。
15.	1960年代～80年代の日本 ヴェトナム戦争・沖縄返還 日中国交正常化・55年体制	プリントを復習し、現代の日本がかかえる問題について考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:
毎回、配布プリントをみてよく復習してください。前回の内容が次回の内容と密接にかかわっています。
次回のプリントを早めに配布する予定です。必ず目を通してから授業に出席してください。

フィードバックの方法:
授業後に質問を受け付けます。基本的にただちに解答します。
発展的な質問や日本史全体にかかわる内容に関する質問には、時間を改めて解答する場合があります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	85%	歴史事実をよく認識かつ理解し、論理的に説明できるかを基準とします。
授業への参加度	15%	準備学習等の内容について理解したうえで、積極的に授業に参加しているかなどを評価します。 毎時間出席をとり、状況を考慮します。

教科書:
使用しません。
図表や文献の引用を中心としたプリントを毎時間配布します。

参考書:
児玉幸多編『日本史年表・地図』（吉川弘文館）
岩波講座『日本通史』（岩波書店）第12巻「近世２」～第20巻「現代１」までの通史の部分
『日本の歴史』（講談社）第16巻・第18巻・第20巻～第24巻
『日本の時代史』（吉川弘文館）14巻～27巻
『戦争の日本史』（吉川弘文館）18巻～23巻
全集『日本の歴史』（小学館）第９巻～第16巻

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

411000

ホスピタリティマネジメント論

大津　　正和

授業テーマ:　ホスピタリティ（もてなし）の視点から、サービス事業、特に人的サービスの経営管理を考える

授業の概要:　現在の産業社会では、サービス要素の重要性がますます増大しており、企業の収益性を左右する重要な要素となっている。このようなサービスの中でも、人的サービスはその重要性と同時に経営管理の難しさが様々な領域での経営課題となっている。人的サービスの品質、そしてその結果の顧客満足や顧客ロイヤルティの決定要因として、接客におけるホスピタリティの重要性は明らかである。この授業では、ホスピタリティマネジメントに関連する理論的要素を学習して身につけるとともに、様々な企業の事例を通じて、ホスピタリティの経営管理を多角的に学び、その方策について考える力を養う。

到達目標:　ホスピタリティマネジメントに関連する理論的要素を、現実に即して理解し、身につける。現在の産業社会では、サービス要素の重要性がますます増大しており、企業の収益性を左右する重要な要素となっているという現状について理由を含め理解する。特に、サービスの中でも、人的サービスはその重要性と同時に経営管理の難しさが、観光関連分野はもとより様々な領域での経営課題となっているという背景を理解し、ホスピタリティマネジメントを改善する方策について考える能力を身につける。

授業方法:　講義　教科書に沿って、ホスピタリティとサービスのマネジメントについて知識の理解を行う講義と、現実の企業等の事例を通じて、教科書で得た知識から、より深く理解したり改善策を考えたりできる能力を養う講義とをほぼ半数ずつ実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	身の回りのサービスやホスピタリティについて観察し整理してくる
2.	サービス経営のマネジメント（第1章）	教科書の該当箇所の予習
3.	サービス経営のマネジメントの事例	教科書の該当箇所の復習
4.	サービス創造のマネジメント（第2章）	教科書の該当箇所の予習
5.	サービス創造のマネジメントの事例	教科書の該当箇所の復習
6.	サービス経験のマネジメント（第3章）	教科書の該当箇所の予習
7.	サービス経験のマネジメントの事例	教科書の該当箇所の復習
8.	サービス人材のマネジメント（第4章）	教科書の該当箇所の予習
9.	サービス人材のマネジメントの事例	教科書の該当箇所の復習
10.	サービス品質のマネジメント（第5章）	教科書の該当箇所の予習
11.	サービス品質のマネジメントの事例	教科書の該当箇所の復習
12.	おもてなしのマネジメント（第6章）	教科書の該当箇所の予習
13.	おもてなしのマネジメントの事例	教科書の該当箇所の復習
14.	顧客ロイヤルティのマネジメント（第7章）	教科書の該当箇所の予習
15.	.まとめ	これまで講義で学んだことに対する復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義部分に関して、教科書の該当部分を予習しておくこと、そして講義後に復習しておくことが重要である。特に、復習は次の週の事例研究の基礎となるので必須である。

フィードバックの方法:　小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	教科書で学んだ知識が身についているか、またその知識を具体的な事例に当てはめて考えることができているかの程度
試験	50	講義で学んだ知識が身についているか、また事例で学んだ現実のホスピタリティマネジメントを考える能力が身についているかの程度

教科書:　伊藤宗彦・高室裕史編著『1からのサービス経営』碩学舎，2010

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

411200

観光社会論

河野　　健男

授業テーマ:　日本の国民生活と観光･余暇の変遷

授業の概要:　観光･余暇の変遷を、近代日本と戦後日本の事例に則して社会史的に跡づけていきます。その時々の社会のあり方と観光･余暇がどのように関係していたのか、また、その時々の観光･余暇政策の確立過程を、諸外国と対比しながらたどります。

到達目標:　知識･理解の点では、戦前と異なって何故戦後高度成長期に大衆余暇が成立したのかを理解する。関心･意欲･態度の点では、観光･余暇産業のあり方に関心を持つ態度を育む。

授業方法:　講義形式で進めます。必要に応じてﾌﾟﾘﾝﾄなどを配布します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	前近代社会における常民と余暇　その１　常民とは?	配付資料の読了
2.	前近代社会における常民と余暇　その２　定住民と漂泊者	配付資料の読了
3.	前近代社会における常民と余暇　その３　常民の信仰と余暇	配付資料の読了･考察
4.	前近代社会における常民と余暇　その４　常民と旅−伊勢参り−	
5.	前近代社会における常民と余暇　その５　供給側の整備−街道整備や浪花講−	配付資料の読了･考察
6.	近代社会と観光の解禁　その１　文明開化と自ら好んでする旅	配付資料の読了･考察
7.	近代社会と観光の解禁　その２　新政府の諸施策−鉄道敷設など−	配付資料の読了
8.	近代社会と観光の解禁　その３　天皇制国家体制の機構	小レポートの解説
9.	近代社会と観光の解禁　その４　庶民の生活と社会構造	
10.	戦後型市民社会の成立　その１　なぜ戦後型か？	配付資料の読了･考察
11.	戦後型市民社会の成立　その２　労働と余暇の関連	配付資料の読了･考察
12.	戦後型市民社会の成立　その３　大衆余暇の成立	
13.	国内観光の動向　その１　まちづくりと地域振興	配付資料の読了･考察
14.	国内観光の動向　その２　京都のまちづくり	配付資料の読了･考察
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物は教室で解説し返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	知識･理解の到達目標の達成度
授業参加	20%	関心･意欲･態度を小レポートで評価する

教科書:

参考書:
神崎宣武「江戸の旅文化」(岩波新書2004年)
深井甚三「江戸の宿−三都･街道宿泊事情−」(平凡社新書2000年)
三浦展「家族と幸福の戦後史」(講談社現代新書1999年)
山口誠「ニッポンの海外旅行」(ちくま新書2010年)

獲得が期待される基礎的･汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

411600

観光マーケティング論

大津　　正和

授業テーマ:　マーケティングの視点から観光に関わる企業や組織の業務を理解する。

授業の概要:　観光には、様々な企業や組織が業務(お仕事)として関わっている。それらの企業や組織は、もちろん成果を求められる。しかし、観光は、遠く離れた国・地域に住む人々に、その国・地域がどのような魅力を持つのかを考え、それを適切に伝え、実際の訪問につなげ、もちろん訪問時には期待に応える経験を提供しなければならないという困難さを伴っている。このような活動は、まさにマーケティング活動であるが、現状では、それが適切に機能しているだろうか。この授業では、マーケティングの基礎を理解し、その視点から、観光に関わる企業や組織の活動をどのようにすれば良いのかを考えることができる力を養う。

到達目標:　マーケティングにおける基礎的な理論や重要概念を体系的に身に付け、それらを観光の文脈に当てはめ、その意味と役割を理解できる。観光に関連する企業活動や自治体等の活動において、マーケティングが果たすべき役割とその重要性を現実に即して説明できる。マーケティングの視点から、観光の適切な振興を進める方策を考える能力を身に付ける。

授業方法:　講義　基本的に講義形式であり、時間が許せば、授業時間内に小レポートを書いてもらい、学んだことについて自身の考えをまとめるという進め方を予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	観光に関わる企業の活動などについて、これまでの経験などを整理してくる
2.	マーケティングの基礎（実務と理論の両面から）	マーケティングに関する書籍等でマーケティングについて調べてくる
3.	そもそもマーケティングって、なんだ？（第1章）	教科書の該当箇所の予習
4.	人はどうして商品を購入するのだろう？（第2章）	教科書の該当箇所の予習
5.	お客様って、誰だ？（第3章）	教科書の該当箇所の予習
6.	人はどのようなプロセスを経て商品を購入するのだろう？（第4章）	教科書の該当箇所の予習
7.	旅行商品がたどるお客様に届くまでの複雑な旅（第5章）	教科書の該当箇所の予習
8.	マーケティングで価格戦略を策定する（第6章）	教科書の該当箇所の予習
9.	敵を知り、己を知らば、百戦危うからず（第7章）	教科書の該当箇所の予習
10.	若人よ、負け犬にはなるな！問題児なら大いに結構（第8章）	教科書の該当箇所の予習
11.	. いざ討って出よ！その時もマーケティング的発想を忘れるな（第9章）	教科書の該当箇所の予習
12.	理念なきブランドは続かない（第10章）	教科書の該当箇所の予習
13.	やっぱり大切にしたい、長～い関係（第11章）	教科書の該当箇所の予習
14.	実際にマーケティングリサーチをやってみよう＆観光マーケティングの可能性(第12, 13章)	教科書の該当箇所の予習
15.	.まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　基本的に、教科書に即した講義ですが、教科書で取り上げられたテーマについて、マーケティングの理論を参照することで、より正確に理解していきます。教科書を使った予習は必須ですが、講義ではその内容をより深く正確に学びますので、講義には毎回出席しないと理解を深めることはできません。時間の都合で、毎回は無理かも知れないが、講義の後半に、その回学んだテーマに即した小レポートを実施する。

フィードバックの方法:　小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	30	教科書で学んだ知識が身についているか、またその知識を指示された状況に当てはめて考えることができているかの程度
試験	70	講義で学んだ知識が身についているか、また観光領域におけるマーケティングの重要性を正しく説明できるかの程度

教科書:　森下晶美編著『新版 観光マーケティング入門』同友館、2016

参考書:　適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

411700

国際観光論

大津　　正和

授業テーマ:　他の国へ出掛けて行う観光で得られるものを理解する

授業の概要:　国際観光とは、国境を越えて、他国に出掛けて行う観光である。他国に出掛けることは、自国内にいては経験できない自然や文化など様々な未知の事柄に出会う機会を提供してくれる。本講義では、日本人という立場から、日本以外の国々で、どのような観光体験があり得るのか、それらにどのような魅力があるのかを具体的事例に則して理解することを進める。そして、それらを通じて、国際観光の意味と、翻って、外国から日本を訪問する観光者たちにどのような観光経験を提供できるかを考える力を身に付ける。

到達目標:　日本人の立場から、日本以外の国々を訪れた場合に、どのような国のどのような場所にどのような観光体験があり得るのか、それらにどのような魅力があるのかを理解する。さらに、このことを通じて、国際観光の意味と、翻って、外国から日本を訪問する観光者たちに、例えば身近な京都でどのような観光経験を提供できるかを考える能力を身に付ける。

授業方法:　講義　ただし、大部分は、日本人が他国で行う観光について、具体的な観光地の状況やそこでの観光行動について、視聴覚教材を用いて学ぶ。講義毎に、設定した問に対する小レポートを書いて提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	身の回りの国際観光について、情報を整理してくる
2.	国際観光とは	国際観光の特徴について調べてくる。特に、自分が興味を持った国・地域について、そこでの観光について調べてくる
3.	アジアの観光（1）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
4.	アジアの観光（2）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
5.	アジアの観光（3）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
6.	ヨーロッパの観光（1）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
7.	ヨーロッパの観光（2）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
8.	ヨーロッパの観光（3）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
9.	アフリカの観光（1）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
10.	アメリカの観光（1）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
11.	アメリカの観光（2）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
12.	オセアニアの観光（1）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
13.	オセアニアの観光（2）	前回の講義終了時に指示した、国・地域における観光について情報収集を行ってくる
14.	より良い国際観光に向けて	これまで学んだ各国・地域における日本人の観光について比較し、共通点と相違点を整理してくる
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　普段から、様々な国・地域での観光に興味を持って、書籍、テレビ番組、あるいは観光紹介サイトなど様々な情報源から観光に関連する情報を集めておく。取り上げる国・地域については、予告するので、講義までに予習をしておくことが必須である。また、授業で学んだ国・地域については、良く復習をして理解を深めておく。

フィードバックの方法:　小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60	各回で学んだ国・地域における観光について、日本人の視点からその魅力を理解できているか、それを適切に表現できているかの程度
試験	40	講義で学んだ国・地域における観光についての知識が身についているか、それらを基礎に日本への外国からの魅力を考える能力が身についているかの程度

教科書:　地図帳（高校の地理用程度）出版社等は特に指定しない

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

411800

ホスピタリティ産業論

若田　　加寿子

授業テーマ:

ホスピタリティの探究。これからの産業におけるホスピタリティの重要性を理解し、行動につなげます。

授業の概要:

近年、様々な業種において、ホスピタリティが重要視され、特に航空産業や観光産業においては、人と人とが生み出す無形の価値が注目されてきています。ホスピタリティについて、様々な角度から解説し、ホスピタリティがどのような価値を生み出すのか、ホスピタリティを生み出すには何が求められているのかについて理解を深めます。また、ホスピタリティの発揮が顕著な企業や集団に共通している組織構造、特徴やマネジメントのあり方について学び、エアラインやホテル、テーマパークなどの事例研究を通して、ホスピタリティ産業への理解を深めるとともに、高いホスピタリティを発揮できる人材になることを目指します。

到達目標:

・現代社会において、ホスピタリティが生み出す価値を理解し、発揮していくための組織の在り方やホスピタリティ・マネジメントの重要性を理解できるようになること。
・ホスピタリティの重要性を理解し、様々な場面でホスピタリティが発揮できるようになること。

授業方法:

講義/演習:講義を中心に進めますが、討論・グループ学習・発表をほぼ毎回取り入れながら、学生が主体的に取り組めるように授業参加型として行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業概要の理解)	・事前学習:ホスピタリティに関する書籍や記事などを読み、事例を体験するなど関心を持っておく。 ・事後学習:授業で配布した内容を理解し、まとめておくこと。
2.	ホスピタリティとは(ホスピタリティの語源など)	・事前学習:配布資料「第2回　ホスピタリティとは」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
3.	ホスピタリティと文化(ホスピタリティの表現、ホスピタリティに影響を与えた文化・歴史)	事前学習:配布資料「第3回　ホスピタリティと文化」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
4.	ホスピタリティと産業I(社会・産業の変化とホスピタリティ産業)	事前学習:配布資料「第4回　ホスピタリティと産業Ⅰ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
5.	ホスピタリティと産業II(ホスピタリティ産業のひとつとしてエアラインを参考に)	事前学習:配布資料「第5回　ホスピタリティと産業Ⅱ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
6.	ホスピタリティとチームワーク(ホスピタリティをチームとして伝えることの重要性)	事前学習:配布資料「第6回　ホスピタリティとチームワーク」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
7.	ホスピタリティとコミュニケーション(コミュニケーションの観点から考察する)	事前学習:配布資料「第7回　ホスピタリティとコミュニケーション」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
8.	ホスピタリティと観光産業(観光産業の中で発揮されるホスピタリティについて)	事前学習:配布資料「第8回　ホスピタリティと観光産業」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
9.	ホスピタリティの発揮I(ホスピタリティの発揮と企業の関係)	事前学習:配布資料「第9回　ホスピタリティの発揮Ⅰ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
10.	ホスピタリティの発揮II(ホスピタリティの発揮と醸成)	事前学習:配布資料「第10回　ホスピタリティの発揮Ⅱ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
11.	ホスピタリティの評価(ホスピタリティの評価方法の検討とフィードバックの重要性)	事前学習:配布資料「第11回　ホスピタリティの評価」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
12.	ホスピタリティとマニュアル	事前学習:配布資料「第12回　ホスピタリティとマニュアル」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
13.	ホスピタリティ・マネジメント(ホスピタリティを高めるマネジメント)事例研究I	事前学習:配布資料「第13回　ホスピタリティ」・マネジメント」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
14.	事例研究II	事前学習:配布資料「第14回　事例研究Ⅱ」をよく読み、理解しておくこと。 ・事後学習:レジュメを復習し、理解を深めると共に、日常生活やあらゆる場面で学んだことを実践すること。
15.	. まとめ	・事前学習:これまでのレジュメをすべて見直しておくこと。 ・事後学習:授業全体のまとめを行い、振り返りを行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

・授業終了後に提出する理解度確認シート(各授業の理解度、テーマに対するコメント、質問・要望で構成)について、翌日の授業内で解説し、フィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50%	到達目標「現代社会において、「ホスピタリティが生み出す価値を理解し、発揮していくための組織の在り方やホスピタリティ・マネジメントの重要性」に関する理解度および到達目標「ホスピタリティの重要性」に関する理解度により評価します。
	授業への参加度	50%	積極的に授業に参加し、討論、グループ学習や発表などにおける態度・意欲を評価します。到達目標「様々な場面でホスピタリティが発揮できる」ようになったかを評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。

411900

観光地理論

天野　　太郎

授業テーマ:　地域と観光のかかわりについて～さまざまな事例から学ぶ日本・世界各地における観光実態の総合理解

授業の概要:　観光地理学がどのような視点に基づいているのか。近年では北朝鮮や中国の観光、アニメや映画ロケ地を活用した観光など、多様化した視点が必要となる。
　観光の基礎的理論に関する知識の上に、その国内外の動向を紹介するとともに、日本各地の具体的な地域を対象として、観光地理学のさまざまなトピックスを考察し，観光と地域の関わりかたについて考える。
　また、観光に関わる諸システムを現実に即して理解し、社会の諸課題を解決していく基礎的な力と実践力を獲得することを目標とする。

到達目標:　1：観光地理の基本事項を理解する。
2：多様な事例から、地域と観光の関わりと課題、展望について理解する。

授業方法:　講義形式で行う。配布プリントとパワーポイントを中心に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	本講義のガイダンス	配布資料の確認
2.	観光地理学のあり方～地理学における観光地理学の位置	配布資料の確認
3.	観光地理の視点と研究動向	配布資料の確認
4.	外国の観光地理にかかわる諸事例　北朝鮮を中心として	配布資料の確認
5.	外国の観光地理にかかわる諸事例　中国の歴史的観光資源の課題	配布資料の確認
6.	外国の観光地理にかかわる諸事例　中国の事例を通したツイン・タイム・トラベルのありかた	配布資料の確認
7.	コンテンツ・ツーリズムの実態　①実写映画の誘致と地域	各自のこれまでに見た映画の確認作業
8.	コンテンツ・ツーリズムの実態②アニメを通した「聖地巡礼」の効果	各自のこれまでに見たアニメーションの確認作業
9.	ダーク・ツーリズム～被災地を巡る観光のかたち	配布資料の確認
10.	グリーンツーリズムの可能性～全国の実例	配布資料の確認
11.	北海道富良野地域におけるこれからの観光の可能性①　グリーンツーリズム	配布資料・地図資料の確認
12.	北海道富良野地域におけるこれからの観光の可能性②　食を生かした観光の可能性	配布資料の確認
13.	観光に関わる都市政策～市町村レベルと府県レベルの実例　長崎県	配布資料の確認
14.	観光に関わる都市政策～市町村レベルと府県レベルの実例　都市交通と観光	配布資料の確認
15.	全体の総括　これからの持続可能な観光の可能性	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内で実施するコメントペーパーを適宜授業内にてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況とコメントペーパー	50	出席状況の確認と到達目標1の達成度を総合評価する。
随時提出する小レポートの提出物	50	到達目標2の達成度を総合評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　特に指定しない。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業中・後の教室内、ならびに研究室にて対面形式で行う。

412200

ウエルネスライフ論

野之上　操

授業テーマ:　ウエルネスライフ論

授業の概要:　ウエルネスの基本的な項目としてのストレスマネジメント、デス・ラーニング、健康保養、行動変容、自然との関係、価値生きがい、食行動、身体活動についての基本的な知識を学ぶ。

到達目標:　総合的な健康の概念としてのウエルネスの目標である幸福で充実した人生を送るために、自分の生活習慣をどのように改善したらよいかを学び、それらをどのように計画していったら良いかについて考え将来に向けて実践していくことを目標とする。また、体験実習をとおし人間関係の大切さを学ぶ。

授業方法:　講義、体験学習、実習を主にグループでの話し合い、発表。必要に応じて視覚教材を使う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業に関するオリエンテーション	シラバスを確認しておく
2.	コミュニケーション実習としての体験学習	グループワークに参加できるように心構えをしておく
3.	ウエルネス概念、キーワードについての学び	ウエルネスの言葉の意味を調べておく
4.	いろいろな健康の概念についての学び	健康とは、何か考えておく
5.	自分の現在の健康度についてのチェックとグループにおける話し合い	自分の健康度について知っておく
6.	生活習慣改善についての学びと行動変容とものの見方、考え方についての体験学習	行動変容とは、何かを調べておく
7.	デス・ラーニングの学び	死生観について考えておく
8.	死の受容とライフプランニングについての学び	どのような人生を送りたいかについて考えておく
9.	ライフプランニングとタイムマネジメントについての学びと実習	人生計画に関する情報を調べておく
10.	余暇とタイムマネジメントの体験学習	時間管理について考えておく
11.	価値観についての学びと体験学習	価値観について考えておく
12.	ストレスについての学びとストレス度チェックとグループにおける話し合い	ストレスに関する情報を調べておく
13.	ホスピタリティについての学びと体験実習	ホスピタリティについて調べておく
14.	ウエルネス保養と健康保養についての学び	健康保養について考えておく
15.	まとめと振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:　体調管理を心掛けて授業参加してください。また、グループワークは積極的に参加してください。

フィードバックの方法:　教室にて全体に解説、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
振り返りレポート	70%	到達目標ウエルネス理論の理解と各自の気づきやまとめの仕上がり度合い、独自の視点があるかを基準とする。
発表、話し合い	15%	グループ発表での自分の役割とその達成度と積極的な参加態度・意欲を評価する。
授業への参加度	15%	積極的に授業に参加し、他者との良好なかかわり方を評価する。

教科書:

参考書:　野崎泰明、ウエルネスマネジメント、メッツ出版
野崎泰明、ウエルネスの理論と実践、メッツ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業後教室にて

412400、60

生涯学習論

吉岡　　いずみ

授業テーマ:　生涯学習の基礎的理解

授業の概要:

生涯学習の基礎的理解をめざし、社会教育分野を中心に扱う。生涯学習・社会教育の概念、法制度・行政、職員、事業、施設の概要について講義する。

同時に、歴史的理解の重要性に鑑みて、日本社会教育史に重点をおく。日露戦後期から高度経済成長期にかけての民衆と政策の動きを追いながら、社会教育の歴史を概説する。理解の一助とするため、古今の映画（1920～90年代の邦・洋画）やTVドキュメンタリー、画像などを視聴覚教材として多用する予定。

到達目標:

1. 生涯学習・社会教育の概念や社会教育法制・行政・機関の概要をつかむ。
2. 近現代の日本社会教育史の概要をつかむ。
3. 学校教育にとどまらない、「教育」「学習」「学び」という営みについて、社会教育への理解を通じて考える。

授業方法:　講義を基本とし、映像等の視聴を組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	生涯学習のイメージをとらえ直す
2.	基本概念をつかむ	配付プリントの再読・熟読
3.	基本法制と社会教育行政	配付プリントの再読・熟読
4.	社会教育機関・施設と職員（1） 公民館	配付プリントの再読・熟読
5.	日本社会教育史（1） 歴史の「ものさし」	配付プリントの再読・熟読
6.	日本社会教育史（2） 19世紀末～戦間期	配付プリントの再読・熟読
7.	日本社会教育史（3） 戦時期	配付プリントの再読・熟読
8.	社会教育機関・施設と職員（2） 図書館	配付プリントの再読・熟読
9.	社会教育機関・施設と職員（3） 博物館	配付プリントの再読・熟読 社会教育の視点で公民館・図書館・博物館をとらえる
10.	日本社会教育史（4） 占領期――公民館の誕生	配付プリントの再読・熟読
11.	現代社会と社会教育（1） 文化芸術・スポーツの振興	配付プリントの再読・熟読
12.	日本社会教育史（5） 高度経済成長期――農村から都市へ	配付プリントの再読・熟読
13.	日本社会教育史（6） 勤労青年の社会教育	配付プリントの再読・熟読
14.	現代社会と社会教育（2） ユネスコ学習権宣言	配付プリントの再読・熟読
15.	まとめ	生涯学習・社会教育の概念を歴史的にとらえ、現代的意味について考える

受講者へのメッセージやアドバイス:　高校で歴史を履修したか否かを問わない。

フィードバックの方法:　質問やコメントについて、次回以降に教室で解説・応答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標に関する知識や理解度、考察力を評価
授業への積極的参加度	30	到達目標への努力を評価
指定課題	10	講義中にコメントペーパー記入等の形で適宜求める課題への取り組み内容を評価

教科書:　配付プリントで講義する。『月刊社会教育』（国土社）の、指示する月・号をテキストにする場合がある（指示があれば入手のこと）。

参考書:

『月刊社会教育』国土社

大串隆吉『日本社会教育史と生涯学習』エイデル研究所、1998年

千野陽一監修・社会教育推進全国協議会編『現代日本の社会教育＜増補版＞社会教育運動の展開』エイデル研究所、2015年

成田龍一『大正デモクラシー』・雨宮昭一『占領と改革』ほか、シリーズ日本近現代史 全10巻、岩波新書、2006～2010年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　基本的にはコメントペーパーを連絡手段としますが、必要に応じて E-mail などでも対応します。アドレスは講義中にお知らせします。

412600

現代青年の心理と行動

諸井　　克英

授業テーマ:　「パンクロック」で表出される「青年像」の社会心理学的解析

授業の概要:　「子ども」から「大人」への過渡期として位置づけられる青年期に関して、(1)自我の目覚めや性的機能の発現に伴う自己の内面への拡大、(2)親からの心理的独立など、種々の心理学的特徴が明らかにされてきた。しかしながら、近年、時代条件の変化と相関しながら青年期自体が変貌し、青年期が拡大した(早期開始＝低年齢化と延長＝青年期への滞留)。それに伴い、青年期自体の過渡期的性質の消失が指摘され、心理学で構築された従来の青年期の枠組みの再構築が迫られている。この講義では、ロック音楽を通して青年期の心性の一端を明らかにし、青年期の変貌の心理学的意味を明らかにする。1970年代半ばに米国の若者の間で発生し、英国で確立した「パンクロック」に焦点をあてる。「パンクロック」は、近年日本の若者でも確固たる音楽領域として認知され、そこで表出される歌詞は、基本的に青年期の心性(心の不安定さ＝揺れ、既存社会への反発、将来の自己展望)を骨格にして形成されている。この講義では、日本の「パンクロック」に焦点をあて、表出されている歌詞をテキストとして青年期の心性がどのように構築されているのかを捉えたい。

到達目標:　講義を通じて，いわゆるロック音楽が，その時代や社会の青年のあり方と相関した文化現象であることを理解する。

授業方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	パンクロックと青年	前回の講義主題の確認
3.	青年の誕生と存在の危うさ	同上
4.	未来に向かう青年	同上
5.	未来に向かわない青年	同上
6.	仲間関係の神秘	同上
7.	隔絶する「自分」の発見	同上
8.	自己中心化する「自分」	同上
9.	照れる恋愛	同上
10.	変形化する恋愛感覚	同上
11.	生き続けることの意味	同上
12.	柔らかな反抗	同上
13.	再び、荒野へ	同上
14.	青年の行方	同上
15.	総括	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:　1週間に一度は「流行歌」(かつての流行歌でもOK)と向き合おう。その「流行歌」がなぜ多くの人々の心と共振しているのかを考えよう。そして，講義で学習した心理学用語を用いて，その「流行歌」がもつ「ちから」を分析してみよう。

フィードバックの方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
小課題(含　マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:　諸井克英著『ハイロウズの掟―青年のかたち―』＜晃洋書房＞

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー

412800

情報社会心理学

諸井　　克英

授業テーマ:　「ゼロ年代」における若者によるアニメ・メディアミックスの受容

授業の概要:　2000年以降のわが国の若者をターゲットして創出された「ライトノベル-アニメ-コミック」の相互関連メディアを対象として，これらのメディア創造物を受容する若者の心性の基底にある心理学的メカニズムの解明を行います。これらのメディア創造物の基底には，わが国の'90年代のバブル経済の崩壊と冷戦の終結に伴う「自由だが冷たい(わかりにくい)社会」への直面に曝された若者の心理的状況がある(宇野，2008)。このような状況の中で，「セカイ系」の出現や「コミュニケーションとしての作品消費」という新たなパラダイムである「日常系」の流れが出現しています。この講義では，このような「ゼロ年代」以降のアニメ・メディアミックスの状況に焦点をあて，作品分析や当該作品の若者の受容形態を通して，現代の若者の心性を明らかにする。

到達目標:　アニメやコミックが創出する虚構世界を通して，同時代の人々の心性を理解しよう。

授業方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	現実(reality)構築の心理学的原理	前回の講義主題の確認
3.	'60・'70年代アニメの素描—「魔法使いサリー」と「天才バカボン」—	同上
4.	アニメ・メディアミックスの現状—「涼宮ハルヒの憂鬱」を例として—	同上
5.	世界融解としての「ゼロ年代」	同上
6.	分裂するこころの世界から力へ—「ブギーポップは笑わない」—	同上
7.	「セカイ系」的世界観の構築における「母性」回帰—「最終兵器彼女」—	同上
8.	反復される日常への「コミュニケーション消費」志向—「けいおん！」—	同上
9.	生活の「島宇宙」化—再び「涼宮ハルヒの憂鬱」—	同上
10.	現実世界の「空気」の投影から「解決」へ	同上
11.	自然畏怖と日本アイデンティティの喚起—「太陽の黙示録」—	同上
12.	格差社会における浮遊層の覚醒—「東のエデン」—	同上
13.	昭和30年代回帰への「クレヨンしんちゃん」の対抗	同上
14.	まとめ	同上
15.	評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:　１週間に一度はアニメやコミックと向き合い，その作品ががなぜ人々の心と共振しているのかを考えよう。

フィードバックの方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや資料整理も含む）	70	授業への集中と理解
小課題（含　マナビー）	30	授業への集中と理解

教科書:　授業時に指示する。

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー

413000

音楽療法

稲田　　雅美

授業テーマ:　音楽の臨床的応用としての音楽療法を正しく理解する。

授業の概要:　心理や福祉の領域における対人援助の一方法として音楽療法について概観する。また，、音楽以外の芸術活動の臨床応用（芸術療法）についても議論する。

到達目標:
・心理や福祉の観点から音楽療法を理解し、人間生活全般における音楽療法の役割を認識する。
・音楽療法の背景理論に習熟する。
・芸術療法の種類やその方法について理解する。

授業方法:　講義中心。授業の中で数回のコメントペーパーを課し，理解の確認を行う。また，芸術療法に関するグループ発表を行い、講義で得た知識を整理、発展させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：音楽療法とは何か	テキスト該当箇所の復習
2.	心理および福祉領域における援助としての音楽活動のあり方	テキスト該当箇所を読んで予復習する。
3.	子どもの心身の発達と音楽的発達との関係	同上
4.	子どもと音楽療法(1)	同上
5.	音楽療法の背景理論(1)	同上
6.	子どもと音楽療法(2)	同上
7.	音楽療法の背景理論(2)	同上
8.	理論の総括	これまでの授業でノートにまとめた内容を総復習する。
9.	芸術療法の概観	芸術療法の種類について事前に調べておく。
10.	芸術療法の事例検討	芸術療法の対象者の特性について復習する。
11.	描画療法と描画テスト	描画テストの種類について事前に調べておく。
12.	芸術家の作品とその制作背景について	テキスト該当箇所を読んで予復習する。
13.	グループ発表(1)	グループ発表の準備
14.	グループ発表(2)	グループ発表の準備
15.	総括と討論	これまでの授業でノートにまとめた内容を総復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業内容に即した関連文献に積極的に目を通すよう努めること。

フィードバックの方法:　提出物については授業内でコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席およびクラス参加度	50%	授業への積極的な参加，および到達目標における音楽療法に対する正しい理解について，コメントペーパーにより評価する。
発表	20%	到達目標における，芸術療法に対する理解に基づき，独創的な発表ができていることを評価する。
レポート課題	30%	到達目標における，音楽療法の背景理論の習熟により，論理的な説明ができていることを評価する。

教科書:　稲田雅美『こころをつなぐミュージックセラピー：ことばを超える音との対話』 ミネルヴァ書房（2016）

参考書:　レスリー・バント『音楽療法：ことばを超えた対話』 ミネルヴァ書房（1996）
その他，授業内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

413100

生命の倫理

島田　　喜行

授業テーマ:　生命と医療をめぐる問題を考察することから「より善い生き方」について探究する

授業の概要:

今日、自然科学技術はわたしたちの生活に不可欠のものとなっている。高度に発達した自然科学　技術のおかげで、わたしたちは日々、快適な生活を送ることができる。わたしたちが、自然科学技術の力をもっとも明確な形で感じ取る場所の一つは、わたしたちの「いのち（生と死）」にかかわる医療の領域であろう。ここで使用される生命技術は、「生きたい」あるいは「死にたくない」というわたしたちの切実な思いに――もちろん、そのすべてにではないのだが――さまざまな仕方で応えてくれる。しかし、生命技術はわたしたちに多くの恩恵を与えてくれるだけではない。生命技術は、わたしたちの「いのち」にかかわるさまざまな倫理的問題も引き起こす。臓器移植、不妊治療、安楽死、ケア、自己決定といった問題である。わたしたちは、こうした「いのち」にかかわる倫理的問題とどのように向き合えばよいのだろうか。

本講義では、受講生とともに、いくつかの倫理的問題にじっくりと取り組み、当該の問題に潜んでいる論点を明らかにすることから、「いのち」を大切にする生き方について考察してみたい。

到達目標:

①受講生が倫理的問題と向き合い、その論点を分析し、理解することができるようになること
②「いのち」の大切さについて思索を重ねていく能力を身につけること
③より善い生の実現を目指し自ら実践する倫理的態度を養うこと

授業方法:

講義形式
板書を中心に講義を進めるので、必ずノートをとること。
なお、受講生の人数により、可能であれば少人数でのグループ討論を数回行うことを予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに（道徳と倫理）	予習 テキスト第1～5節を読む 復習 講義内容についてのまとめを行う
2.	いのちが主人公	予習 テキスト第6、8、9節を読む 復習 講義内容についてのまとめを行う
3.	自然科学技術の根底に潜む思想	予習 テキスト第21～23節を読む 復習 講義内容についてのまとめを行う
4.	現代医療の功罪	予習 テキスト第7、12、13節を読む 復習 講義内容についてのまとめを行う
5.	臓器移植をめぐる問題①	予習 テキスト第10節を読む 臓器移植問題についてのグループ討論を行うための準備 復習 講義内容についてのまとめを行う
6.	臓器移植をめぐる問題②	復習 配布資料を読む 講義内容についてのまとめを行う
7.	不妊治療をめぐる問題	予習 テキスト第11節を読む 復習 講義内容についてのまとめを行う
8.	人工妊娠中絶をめぐる問題①	予習 テキスト第16、19節を読む 人工妊娠中絶についてのグループ討論を行うための準備 復習 講義内容についてのまとめを行う
9.	人工妊娠中絶をめぐる問題②	復習 配付資料を読む 講義内容についてのまとめを行う
10.	超高齢化社会のなかで生きることにかかわる問題	予習 テキスト第14、17節を読む 復習 講義内容についてのまとめを行う
11.	安楽死と人生の質	予習 テキスト第15節を読む 復習 講義内容についてのまとめを行う
12.	ケアの思想	予習 テキスト第8、17節を読む
13.	自己決定の思想	予習 テキスト第9節を読む 復習 講義内容についてのまとめを行う
14.	現代医療と生き方	予習 テキスト第18、20節を読む 復習 講義内容についてのまとめを行う
15.	講義全体の振り返り	復習 講義内容についてのまとめを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

テキストの当該箇所を読んだうえで授業に参加すること。
また、授業中に興味関心をもった事柄にかかわる参考文献を選んで読んでおくこと。

フィードバックの方法:

コメントペーパーに記入された質問などについては、可能なかぎり次の講義時にコメントする。
中間レポートは、希望者のみコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30	各回、コメントペーパーに講義に対する意見、疑問などを書く。 グループ討論では、到達目標①を踏まえたうえで、当該の問題に対して論理的に討議することができたかを評価する。
中間レポート	30	文献読解の正確さと論証の正確さを評価基準とする 。
定期試験	40	到達目標①、②、③にかんして、倫理的問題についての論点分析とその論理的説明を主たる評価基準とする。

教科書: 工藤和男『いのちとすまいの倫理学(改訂版)』晃洋書房、2010年

参考書: 第1回講義時に参考文献一覧表を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 講義の前後に教室内で対応する。

413200

ジェンダー論

中山　　まき子

授業テーマ:　「女性学・男性学・ジェンダー研究」の基礎　ー理論と実践の両輪を学ぶー

授業の概要:

男性と女性の両性を含めた総合的な人間理解を目指すジェンダー研究・セクシュアリティー研究に基づき、ジェンダーの視点およびその理論の概要と検討課題を学ぶ。

学びのねらいは、私たちの暮らしに遍満している「性や性別にかかわるとらわれ・思いこみ」(ジェンダー問題、ジェンダー課題、セクシュアリティー課題、男女共同参画社会関連諸課題、等)に気付くことを重視し、研究・運動・政策等の推移を講義する。

具体的内容は、1)1960年代から2018年現在までの性別/性差問題に対する実践・運動史、及び、学問「女性学・男性学・ジェンダー研究」の誕生と発展を概観する。次に、2)ジェンダー/セックス/セクシュアリティー/クイア、そして「男女共同参画社会」という概念と意義、その拡大・修正の軌跡を学ぶ。さらに、3)身体、暴力、労働、経済などの諸課題とジェンダーの視点が深く結びついていることを具体的かつ正確に理解する。

到達目標:

(1)ジェンダー、セックス、セクシュアリティーの概念と同概念が台頭した歴史的背景を正確に理解できる。
(2)女性学・ジェンダー研究という「学問」の誕生と発展について、国際的視野を身に付けつつ正しく理解する。

授業方法:　講義、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	性暴力ーデートDVとは何かー	本講義のシラバスを必ず読んでくること
2.	性暴力ー被害と加害、そして根絶に向けたシステム形成への軌跡	第1回時に配布したデートDV事例資料を熟読してくること
3.	ジェンダー問題とは何かー「当たり前」を見直す	性暴力被害・加害の本質を考えてくる
4.	ワークショップー私の気づき・あなたの発見を比較しながら	第1回から第3回までの「気づき」をノートに整理する。
5.	女性学・ジェンダー研究の誕生と歴史:その1	ワークショップでの他者の意見から考えたことを記録・提出する
6.	女性学・ジェンダー研究の誕生と歴史:その2	第5回時に配布した女性学・ジェンダー研究の資料に関するノート整理を行う(リベラルフェミニズム、ラディカルフェミニズム、その考え方、本質等の学び)
7.	男性学・ジェンダー研究とは	第6回時に配布した女性学・ジェンダー研究の続きの資料に関するノート整理を行ってくる(マルクス主義フェミニズム、アメリカの大学における女性学の発展、等)
8.	ジェンダー研究の発展と応用 ジェンダーとセックス	第7回時に配布した男性学・ジェンダー研究の資料に関するノート整理を行ってくる。
9.	セクシュアリティー	第8回時に配布した、ジェンダーとセックスの概念とその理解について、各自でノートに資料整理をおこなう。
10.	ジェンダー・セックス・セクシュアリティー 質疑応答(1)	セクシュアリティーの多様性を理解し、第8回と第9回の講義内容の統合を試みる。
11.	ジェンダーと法律・政策ー国際法から国内法へ	第8回から第10回までの講義を整理し、ジェンダー・セックス・セクシュアリティーという概念とその広がり、人間の多様性を思考・理解する。また、疑問点も整理する。
12.	男女共同参画社会基本法と男女共同参画社会	国際社会が確立してきた法律とその内容をノート整理する。
13.	女性と身体ー「私」の人生選択と刑法堕胎罪・母体保護法・少子化社会対策基本法ー	第12回時に配布した資料の整理を行っておく。
14.	ジェンダーと労働	ジェンダー研究の個別課題ー「女性の身体」について、ノート整理を行い、自分の現在までの身体・生活を振り返っておく。
15.	ジェンダーと教育 質疑応答(2)	今までの授業の中での、質問・疑問・意見等について、ノート整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

1. 配布資料は各自で授業ノートを作成し、ノート整理しておくこと。
2. 疑問点はノート整理後に文章化してまとめ、次回授業時に質問し、学びを深めていくこと。

フィードバックの方法:

・提出されたレポートに関しては、後日授業で必ずコメントや質疑応答について答える。
・時間が不足する場合には、質疑応答に対する応答シートを配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
1. 講義と討論への積極参加	20%程度	出欠に関して、6回以上の欠席者は、成績評価の対象としない。
2. 中間レポート	20%程度	引用した文章に関し、引用・参考文献を記載していないポートは採点の対象としない。
3. 期末試験等	60%程度	核となる内容がきちんと明記されていることを重視し採点する。

教科書:

参考書:

井上輝子・上野千鶴子他編 『岩波女性学事典』岩波書店、2002
木村涼子他編著『よくわかるジェンダー・スタディーズ』ミネルバ書房、2013
沼崎一郎 『キャンパスセクシュアルハラスメント対応とガイドー改訂増補版ー』 嵯峨野書院、2006
小林美佳 『性犯罪被害とたたかうということ』 朝日新聞社、2010
佐藤文香・伊藤るり編『ジェンダー研究を継承する』人文書院、2017
その他適宜資料を配付する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己管理力、Human　Rights.

教員との連絡方法:　質疑応答は授業内・授業後に教室や研究室訪問等で対応する。

413300

女性史

京樂　　真帆子

授業テーマ:　ジェンダーで見る日本女性史

授業の概要:　日本における女性史研究は戦前からの長い歴史を持っている。近年、ジェンダーの概念を取り入れることで、新しい日本女性史が描かれるようになってきた。女性のことを取り上げるから「女性史」なのではなく、「女性」であることが歴史の中でどういう意味を持ち、誰にどう評価されてきたのかを考えていく。これは、今を生きる私たち自身の問題でもある。歴史とは単に過去のことを学ぶのではない。女性史を学ぶことで、自分の未来を考えて欲しい。

到達目標:
（1）女性史関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることができる。
（2）女性史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることができる。
（3）女性史の基礎知識に基づき、男女共同参画社会の実現に向けての具体的な提言ができる。

授業方法:
講義
受講者の人数によっては、グループ・ワークを取り入れることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	女性史を学ぶ意味とは？	高校で習得している女性史・ジェンダー論に関する基礎用語を再確認しておくこと。
2.	ジェンダーをめぐる日本の状況とは？	前回の講義内容を復習しておくこと。
3.	悪女は「悪い」女なのか？	前回の講義内容を復習しておくこと。
4.	悪女の時代とは？	前回の講義内容を復習しておくこと。
5.	女も漢字を書く？	前回の講義内容を復習しておくこと。
6.	正妻への道は厳しい？	前回の講義内容を復習すると共に、基礎的な学術用語を再確認しておくこと。
7.	「不倫」の「倫」って何？	前回の講義内容を復習すること。
8.	誰にとっての強姦か？	前回の講義内容を復習すること。
9.	出産の歴史（その1）	前回の講義内容を復習すること。
10.	出産の歴史（その2）	前回の講義内容を復習すると共に、現代社会の課題について把握しておくこと。
11.	戦争と女性（その1）	前回の講義内容を復習すること。
12.	戦争と女性（その2）	前回の講義内容を復習すること。
13.	女性と学び	前回の講義内容を復習すること。
14.	女性労働と人権	前回の講義内容を復習すること。
15.	総括	すべての講義内容を再確認すると共に、課題レポートの完成に取り組むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・コメント・ペーパーは出席カードではなく、採点の対象となるので留意されたい。
・極端に文字数が少ない、また、教員の話のオウム返しを書くなど、授業を聞いておらず、自分の頭で考えてもいないことが明白なコメントペーパーに対しては、点を与えない。
・レポートは、参考文献リストを付したものを要求するので、留意されたい。

フィードバックの方法:
コメントペーパーについては、提出者のなかからその一部をとりあげ、講義の最初に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	25	女性史に関する基礎知識を理解し、それを現代文化との比較を通して論じることができている。
レポート	25	女性史に関する基礎知識を理解し、それを諸外国との比較を通して論じることができている。
レポート	20	女性史の基礎知識に基づき、男女共同参画社会の実現に向けての具体的な提言を行うことができている。
出席およびコメントペーパーの提出	30	講義に出席し、その内容を正しく理解し、自ら課題を見つけ、問い直すことができる。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:
電子メール

413400

女性とリーダーシップ

三宅　　えり子

授業テーマ:　自己のリーダーシップ資質に気づき育む

授業の概要:　日本社会でリーダーシップを発揮している女性は、諸外国と比較して極端に少ないのが現状です。社会における女性の活躍度を示すジェンダー・ギャップ指数（GGI）の日本の順位は、144カ国中114位です。日本の順位を大幅に下げる主要因は、企業の管理職と国会議員・閣僚に占める女性比率が著しく低く男女の賃金格差が大きいことです。政府主導で女性活躍推進策がすすめられている現在、受講生のみなさんは卒業後、さまざまな領域でリーダーシップを発揮する機会が増えるでしょう。リーダーシップは人が生まれつきもっているものではなく、各自が特性を活かして学習して身につけることが可能です。

到達目標:
1. リーダーシップとは何か、どのようなメカニズムで発揮されるのか、どのような種類・スタイルのリーダーシップがあるのかについて理解できていること。
2. 様々な女性リーダーの資質を考察し、発表や演習のアクティブラーニングをとおして自己のリーダーシップ資質に気づき、それを育む力が身についていること。

授業方法:　授業の4～14回は、おもにグループ発表とディスカッションを組み合わせます。その間、担当者は主として当該テーマに関する補足説明と効果的な発表やディスカッションのためのサポートを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業目標と授業全体の流れ）	
2.	リーダーシップとは何か、リーダーシップが発揮されるメカニズム	事前配布資料を読んで、内容が理解できていること。
3.	グループづくりとグループの課題決定、リーダーシップ発揮のためのミニ演習ワーク	前回の授業内容を復習しておくこと。
4.	マーガレット・サッチャーに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
5.	インディラ・ガンディーに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
6.	ディベート試合（ディベートの論題は受講生の話し合いにより決定する） シンポジウム（シンポジウムのテーマは受講生の話し合いにより決定する）	発表を積極的に傾聴する態度をもつこと。発表者は準備をする。
7.	エバ・ペロンに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
8.	アウンサンスーチーに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
9.	ヒラリー・クリントンに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
10.	緒方貞子に学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
11.	マザー・テレサに学ぶリーダーシップ、グループ発表、ディスカッション	教科書『現代世界の女性リーダーたち』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
12.	社長ごっこ（女性が実力を発揮できる会社を構想する）	発表を積極的に傾聴する態度をもつこと。発表者は準備をする。
13.	政治家ごっこ（国民を幸せにする政策を構想する）	発表を積極的に傾聴する態度をもつこと。発表者は準備をする。
14.	学長ごっこ（女性の潜在的能力が伸びる大学を構想する）	発表を積極的に傾聴する態度をもつこと。発表者は準備をする。
15.	自己のリーダーシップ資質の育成に向けて一女性リーダーからの学びとリーダーシップミニ演習の振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:　自分の人生をよりよく生きるため、また、自分の周りや社会を少しでも良くするため、自己リーダーシップとリーダーシップ資質を身につけることを目指しましょう。

フィードバックの方法:　ワークプリントはコメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50%	グループ発表や討論への積極的な参加度、ワークプリントなど
期末レポート	50%	自分で選択した女性リーダーの生い立ちと業績が分かりやすくまとめてある。彼女のリーダーシップ資質が分析できている。

教科書:　石井貫太郎（編著）（2008）『現代世界の女性リーダーたち一世界を駆け抜けた11人』ミネルヴァ書房

参考書:
バーバラ・ケラーマン（2013）『ハーバード大学特別講義 リーダーシップが滅ぶ時代』ソフトバンククリエイティブ
ショーン・コヴィー（2013）『7つの習慣　ティーンズ』キングベアー出版
伊賀泰代（2012）『採用基準』ダイヤモンド社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

414700

現代社会と犯罪

谷　　直之

授業テーマ:　犯罪を通して現代社会を考える

授業の概要:

犯罪は、一瞬にして私たちの平穏な生活を破壊し、被害者の幸せを踏みにじる、憎むべき行為です。諸外国に比べ、我が国は比較的安全な国であると言われてきたのですが、近年、犯罪数の増加と凶悪化が叫ばれており、我が国の安全神話は既に崩壊してしまったとも言われていて、そう感じている人も多いかもしれません。また近時、立法の動きが非常に活発な領域のひとつでもあって、社会的な関心も高い領域でもあります。

本講義では、殺人や強盗といった刑法典上の犯罪だけでなく、死刑の是非、飲酒運転や危険運転などの交通犯罪、少年犯罪と少年法改正、精神障害者による犯罪、児童虐待やドメスティック・バイオレンスなどの他、犯罪被害者問題や犯罪者処遇問題も取り上げる予定です。受講生が興味を持てるよう、できるだけ最新の情報とビデオなどの視覚教材を用いて講義を進め、犯罪とその対策についての理解を深めるとともに、これら諸犯罪現象を通して、現代社会の抱える問題点について考察することを目標とします。

到達目標:

犯罪学における基本原理を理解すること。
現代社会と犯罪に関する諸問題について、その傾向と社会の対応に関する正しい知識を得ること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	刑法と犯罪	社会と犯罪との関係について、授業中に指示したテキストの該当箇所を読む等、復習しておくこと。
2.	死刑制度	死刑について、アムネスティ・インターナショナルのホームページ等を参照し、死刑の現状について理解しておくこと。
3.	犯罪論の基礎	授業中に指示したテキストの該当箇所を復習し、諸学説を整理しておくこと。
4.	現代社会における犯罪現象（1）	テキスト第2講をよく読んで復習しておくこと。
5.	現代社会における犯罪現象（2）	警察庁の統計資料等を参照して、我が国の犯罪の現状を理解しておくこと。 また、統計資料の読み方について、授業中に指摘した留意すべき諸点を整理しておくこと。
6.	新しいタイプの犯罪（1） 1）児童虐待	テキスト第13講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。
7.	新しいタイプの犯罪（2） 1）児童虐待	テキスト第13講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。 また、子どもの虹研修センターのホームページ等で、児童虐待の現状と対策について理解しておくこと。
8.	新しいタイプの犯罪（3） 2）ストーカー	テキスト第13講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。 また、警察庁生活安全企画のホームページ等を参照して、ストーカーとストーカー規制法について整理しておくこと。
9.	新しいタイプの犯罪（4） 3）DV（ドメスティック・バイオレンス）	テキスト第13講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。 また、警察庁生活安全企画のホームページ等を参照して、DVとDV防止法について整理しておくこと。
10.	新しいタイプの犯罪（5） 総括	配布レジュメおよびテキスト第13講を復習し、整理しておくこと。
11.	性犯罪（1）	テキスト第6講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。
12.	性犯罪（2）	授業中に指導した方法で、メーガン法について各自で調べておくこと。
13.	交通犯罪	テキスト第5講および配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。
14.	精神障害と犯罪	配布レジュメをよく読み、内容を理解しておくこと。
15.	まとめ	配布レジュメを中心に、復習をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

現代社会と犯罪との関係で、受講者が興味・関心を持ちそうな内容を取り上げています。興味を持ったなら、自分から積極的にさらに情報収集を進める姿勢を大事にしてくだ

フィードバックの方法:　クラス全体で講評する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	到達目標にある、犯罪学における基本原理を理解できているか、現代社会と犯罪に関する諸問題について、その傾向と社会の対応に関する正しい知識を得ているかどうかを基準とする。

教科書:　川崎友巳『犯罪タイポロジー　犯罪の類型学（最新版）』（成文堂）

参考書:

警察庁統計資料
<https://www.npa.go.jp/toukei/index.htm>
警察庁『警察白書』
<https://www.npa.go.jp/hakusyo/index.htm>
法務省『犯罪白書』
<http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html>
アムネスティ・インターナショナル「死刑廃止」
<http://www.amnesty.or.jp/human-rights/topic/death_penalty/>
子どもの虹研修センター「児童虐待」
<http://www.crc-japan.net/>
警察庁生活安全企画「ストーカー事案及び配偶者からの暴力事案等の対応状況について」
<https://www.npa.go.jp/safetylife/index.htm#seian>

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

414800

国際企業論

畠山　　啓

授業テーマ:

授業の概要:

現在日本企業の多くは国内だけではなく、海外とのビジネスや自ら現地に進出して経営を行っています。そして海外ビジネスに関連する経営活動の多くは文化的・政治的など様々な隔たりの影響を受けるので、日本国内で行う場合と大きく異なってきます。本講義では日本国内との差を意識しつつ、日本企業の海外ビジネスの事例を基にして国際経営の理論や概念を理解することを目指します。

到達目標:

国際経営に関する様々な事柄、特に日系企業の日本国内での経営との差について理解できること。
企業の取り組み事例を分析できる能力を獲得すること。

授業方法:

講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	特になし
2.	国際経営とは	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
3.	戦略	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
4.	組織	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
5.	マーケティング	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
6.	進出	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
7.	輸出入	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
8.	生産	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
9.	中間まとめ	特になし
10.	研究開発	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
11.	販売	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
12.	人的資源管理	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
13.	企業の社会的責任（CSR）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
14.	BOP(bottom of the pyramid)ビジネス	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語など他の受講生の学習を妨げる行為は厳しく対処します。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	50%	企業の取り組みを国際経営の視点から論理的に説明できるかを基準とする。
定期試験	50%	企業の取り組みを国際経営の視点から論理的に説明できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

414900

国際金融論

大倉　　真人

授業テーマ:

授業の概要:　国際金融にかかる諸問題について論じる。

到達目標:　国際金融についての基礎的知識の修得を目標に掲げる。具体的には、国際金融取引、為替レートの決定、為替にかかる経済政策、国際通貨制度などについて理解することを目標にとする。

授業方法:　板書による講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	どのように国際的に資金が流れるのか（その1）（教科書第5章）	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	どのように国際的に資金が流れるのか（その2）（教科書第5章）	「どのように国際的に資金が流れるのか（その1）」に対する理解
4.	どのように国際的に資金が流れるのか（その3）（教科書第5章）	「どのように国際的に資金が流れるのか（その2）」に対する理解
5.	為替レートはどのように決まるのか（その1）（教科書第6章）	「どのように国際的に資金が流れるのか（その3）」に対する理解
6.	為替レートはどのように決まるのか（その2）（教科書第6章）	「為替レートはどのように決まるのか（その1）」に対する理解
7.	為替レートはどのように決まるのか（その3）（教科書第6章）	「為替レートはどのように決まるのか（その2）」に対する理解
8.	中間試験	「中間試験」の準備
9.	どのように為替レートを安定化させるのか（その1）（教科書第7章）	「為替レートはどのように決まるのか（その3）」に対する理解
10.	どのように為替レートを安定化させるのか（その2）（教科書第7章）	「どのように為替レートを安定化させるのか（その1）」に対する理解
11.	どのように為替レートを安定化させるのか（その3）（教科書第7章）	「どのように為替レートを安定化させるのか（その2）」に対する理解
12.	どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか（その1）（教科書第8章）	「どのように為替レートを安定化させるのか（その3）」に対する理解
13.	どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか（その2）（教科書第8章）	「どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか（その1）」に対する理解
14.	どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか（その3）（教科書第8章）	「どのようにして安定した国際通貨制度を構築するのか（その2）」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　本授業では、上記教科書の第II部について取り扱う。なお第I部については「国際ビジネス論」の授業で取り扱う予定なので、あわせて履修すると効果的である。
なお第1回目の授業のガイダンスで配布する資料については、マナビーに提示するので、第1回目の授業に欠席した者は、各自マナビーを通じて目を通しておくこと。

フィードバックの方法:　毎回の授業において「フィードバック用紙」を配布する。なお「フィードバック用紙」に書かれた質問等については、原則として、次週の授業の冒頭で解説する。
また中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	50	到達目標に掲げた国際金融についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
期末試験	50	到達目標に掲げた国際金融についての基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書:　浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣、2011年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

415500

経営哲学

麻生　　潤

授業テーマ:　日本企業のものづくり経営哲学と組織文化

授業の概要:　営利企業であるかぎり利益をあげることはすべての企業に共通する目標ですが、利益をあげるために行う事業活動の具体的な進め方には企業ごとに個性があります。企業のこのような個性を生み出す要因の一つは創業者の経営理念や経営信条、あるいは企業自身がかかげる経営目標や理念です。それは言葉として社長室に額縁にいれて掲げられるだけでなく製品開発・生産・販売などの事業活動の進め方、組織運営の仕方、仕事のやり方に影響を及ぼし、また従業員の意識にも反映し、継承されます。このような価値観、思想が経営哲学です。本講義では日本の製造業の大企業を主たる題材とし、そのものづくりの哲学とは何か、それは具体的に事業活動の進め方のどのような特徴として現れているのかを考えていきます。これらの企業は個人経営の零細企業ではなく数万人以上の従業員が働く巨大企業ですから、巨大企業の組織管理の仕組みとそれを通じて形成される組織文化についても概説します。講義ではなるべく具体的な事例を紹介して、受講生が実際の企業活動に対するイメージをもてるように工夫したいと考えています。

到達目標:　（1）経営哲学・経営理念と企業経営や経営組織、組織文化との関係について理解できるようになる。
（2）日本企業のものづくりの特徴や優位性、あるいはその限界について理解できるようになる。
（3）学生が実際の企業活動に対して興味関心を抱くようになる。また受講生各自の進路選択において、企業を深く理解することに役立つ。

授業方法:　授業は講義形式です。授業で教科書およびパワーポイントは使用しません。担当者が毎回資料（紙媒体）を教室で配布し、それにもとづいて講義を行います。なるべく映像教材を活用して具体的なイメージがもてるようにします。授業計画は受講生の理解度をふまえて順番を入れ換えたり、異なる内容を付け加えるなどの部分的な変更を行うことがあります。その場合にはその都度、新しい授業計画を教室にて配布します。授業では出席調査は行いません。中間試験やレポートは課しません。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	経営理念と経営の哲学	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
2.	製品開発と組織マネジメントの思想－シャープの液晶開発	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
3.	市場の発見と新製品の投入－日産フェアレディZ	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
4.	巨大企業の管理と組織文化－フォードとGM	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
5.	大量生産の思想と品揃えの思想	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
6.	経営理念と事業システム－CVSとトヨタシステム	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
7.	リーン生産方式の思想－フォードシステムとトヨタシステム	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
8.	垂直統合と分業システム－ドコモiモード開発とTORON	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
9.	日本のものづくり哲学とアーキテクチャー論	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
10.	顧客第一の製品開発－日本ビクターのVHS開発	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
11.	創業者の経営理念と巨大企業－松下電器産業とパナソニック	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
12.	創業者と会社の所有者	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
13.	経営理念と会社の株主	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
14.	経営理念・企業のミッションと企業の社会的責任	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する
15.	まとめ	授業内容について各自で予・復習し参考文献等を独習する

受講者へのメッセージやアドバイス:　会社や企業経営に関心がある学生の受講を歓迎します。 経営学関連諸科目の履修や企業経営に関する予備知識は必要ありません。

フィードバックの方法:　授業内容について質問がある場合、授業終了時に質問カードを提出してもらい、次回の授業で質問に答えるようにしたいと思います。ただし質問カードの提出は任意であり、出席調査の代わりにはしません。質問は担当者にメールで提出してもかまいません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	100	試験問題は論述式（〇〇について論じなさい）で、複数の問題から受験者が1問を選択して解答する方式です。評価は到達目標（1）（2）を理解している度合い、それを論理的に説明できているかを基準として評価します。

教科書:

参考書:
経営哲学会（編）『経営哲学の授業』PHP研究所、2012年
社会経済生産性本部（編）『ミッション・経営理念・社是社訓（第4版）』生産性出版、2004年
森川英正『トップ・マネジメントの経営史』有斐閣、1996年
藤本隆宏『ものづくり経営学―製造業を超える生産思想』光文社、2007年
東北大学経営学グループ（編）『ケースに学ぶ経営学（新版）』有斐閣、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　担当者への連絡はeメールにて以下へ。24時間いつでも可。メール本文に学生ID、学部・学年および氏名を必ず記載してください。メールは各自の携帯電話やスマートホンから送信してもかまいませんが、その際、以下のメール・アカウントからの返信メールが受信可能なように設定しておいてください。
jasou@mail.doshisha.ac.jp

415600

環境経済論

長岡　　延孝

授業テーマ:　自然環境と適合する経済活動の在り方を目指して、現代社会の持続可能な発展の条件を探求する。

授業の概要:

良好な地球環境は、現代社会経済がそれに基づいて繁栄しながら人間の暮らしを豊かにするものであるし、また次世代が存続するにあたって重要な基盤をなしている。しかし、残念ながらこれまでの経済発展は、その基盤を掘り崩してきた。日本は経済発展を遂げる過程において、企業の生産過程で激甚公害を生み出し、広範な放射能汚染も引き起こしてしまった。こうした厳しい事実を踏まえ、人類が経済社会を存続させるための条件はどのようなものなのかを考察し、明らかにする必要がある。

そのためにまず、人間の経済活動による環境負荷に関して、公害の時代から地球環境の時代までをふり返る。そして、環境問題のグローバル化やエネルギー・資源問題を受け、循環型社会の構築に向けてどの様な政策や制度、あるいは企業経営が必要なのか、考察する。

さらに、パリ協定の発効を踏まえた温暖化対策やエネルギー政策、あるいは、地域で行われている取り組みについて取り上げる。

到達目標:

1　現代社会で地域や地球の環境を守るために、どのような政策が必要になっているのか、正しい知識を基に理解できるようになること。
2　ビジネスを体系的に学ぶための基礎理論と知識の習得を目指す。

授業方法:　教科書の関連箇所を指摘しながら、講義の形式で行う。受講生の理解を深めるために、ビデオやプリント等の教材を適宜使用する。また授業内容にかんする意見・感想を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
2.	環境保護主義の誕生と発展	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
3.	公害の発生と対策	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
4.	レイチェル・カーソンの環境保護思想と人工化学物質	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
5.	公害からグローバル環境問題へ	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
6.	企業の対応(1):環境イノベーションの促進	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
7.	企業の対応(2):環境マネジメントの展開	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
8.	地球環境問題への対応:京都議定書の気候政策	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
9.	. 生物多様性と経済:名古屋議定書とCBD戦略計画	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
10.	循環型社会の制度と政策	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
11.	エコタウンとゼロエミッション:エコロジー的産業共生の構築	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
12.	サステイナブル都市のデザイン	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
13.	エネルギーの現在と政策	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
14.	世界の環境政策について	教科書の指定箇所（またはmanabi掲載の資料）を読んでおくこと
15.	まとめ	講義全体を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　環境問題は21世紀に生きる人々全員と関わっているので、さまざまな環境についての関心を常に持ち、どのような解決策が望まれるか考えてほしい。

フィードバックの方法:　感想やアンケートについて、その次の授業でコメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	課題についての正しい知識と自分の考えを持っているか。また、それらを解りやすく論述できているか。

教科書:　長岡延孝編『サステナビリティの政策と経営』晃洋書房。

参考書:

三橋規宏『環境経済入門』（最新版）日本経済新聞出版社。
長岡延孝『緑の成長の社会的ガバナンス』ミネルヴァ書房。
吉田文和『ドイツの挑戦』日本評論社。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール

416000

都市経済論

薮谷　　あや子

授業テーマ:　グローバル経済、人口減少、少子高齢化時代におけるサスティナブルな都市のあり方を展望する。

授業の概要:　「都市」が歴史的に形成されてきた社会的・政治的・民族的な表現であり、人為・人工的な構造物であることを理解したうえで、多角的な視座から、現代の都市が抱える多様な課題について学び、それらに対する都市政策、都市計画、都市技術における最新成果について概説する。さらに、それらをふまえつつ、生活の「質」、環境、コミュニティ・住民主権を軸とした持続可能なまちづくりについて提案したい。

到達目標:
1. 都市問題を、政策、都市技術、マネジメント、ビジネス、マーケティングなど多角的な視点から考察する。
2. 都市経済学の基礎となる理論や知識やアプローチを学ぶ。
3. 都市の担い手である3つのセクター（行政、住民、ビジネス）の役割について学ぶ。
4. 都市インフラ（資源）を多角的な観点～①環境価値、②社会（的）価値、③経済（的）価値～から評価する。
5. 都市問題の解決には、都市住民の主体的な参加（民主的なガバナンス）が基本であることを理解する。
6. 都市を孤立した存在としてでなく、農村との関連、国土や都市圏の中で位置づける。

授業方法:　教科書に替えて、毎回レジュメと資料を配布し、ニュース・特集番組を独自編集したDVDとパワーポイント等映像を活用する。受講生は関連事項について、日常的にタウンウオッチングすることを予習・復習とされたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	＜オリエンテーション＞ ・授業の進め方と準備学習の説明 ・都市とは何かを世界の都市に探る ～歴史的起源と空間的形態 ・「都市国家型」と「中央集権国家型」 ～都市構造、農村との違い ・都市と市民社会	・シラバスを読んでくる。 ・都市と農村の違いについて考えてくる。 ・欧米、アジア、アフリカ、日本の都市の共通性と違いについて調べてくる。
2.	＜交通のマネジメント1＞ ～公共交通の再生による都市再生 ・モータリゼーション、スプロール ・総合交通政策　・モーダルシフト ・DSM　・交通権　・中心市街地活性化	京都市交通局のホームページを読んで、感想をメモしてくる。
3.	＜交通のマネジメント2＞ ～都市の脱クルマ戦略 ・自動車の社会的費用 ・自動運転・燃料電池車	100年に一度といわれる「自動車の大変化」といわれるものについて調べてくる。
4.	＜交通のマネジメント3＞ ～都市再編と交通 ・コンパクトシティ論の評価 ・交通弱者と買物弱者 ・ヨーロッパのLRTと交通税	自分の故郷、居住地、通学先のまちの交通事情について、気がついたことをメモしてくる。
5.	＜景観のマネジメント1＞ ～京都市景観創生条例を事例に ・京都市景観条例の歩み ・生活環境防衛としての景観の保全 ・公害 / 環境 / アメニティ	自分が好きな場所、風景について選び、その理由についてメモしてくる。
6.	＜景観のマネジメント2＞ ～京都らしさは誰が決める？ ・ガバナンスという考え方 ・都市の秩序・規制と誘導 ローカルルール/条例/法律 都市計画法と建築基準法	授業で学んだ京都市の景観規制を念頭に置いて、周辺をチェックしてくる。（スマホ等の写真で記録できればベスト。）
7.	中間まとめと意見交流	これまでの回での疑問、意見、質問をメモしてくる。
8.	＜住まいのマネジメント1＞ ～空き家が示す日本の現在 ・増殖し続ける空き家 ・リノベーションと中古住宅市場 ・日本の住宅政策（経過と現状）	居住地や故郷のまち、あるいは実家の住宅事情、商店街の状況について気づいたことをメモしてくる。（以前と比べて、最近、どのような地域が寂れてきたか、賑わいがあるかなど。）
9.	＜住まいのマネジメント2＞ ～住み分け（都市空間の分節化） ・高層億ションとスラム化した老朽マンション ・ホットスポットとクールスポット ・マンション（管理組合）は一つの町	自治体広報誌、タウン誌、街案内やNPOのイベントチラシ、不動産の広告などを街の息吹を示すものを入手してくる。
10.	＜住まいのマネジメント3＞ ～人にとって「家」とは何か？ ・住宅政策・思想の国際比較 ・社会政策・居住福祉としての住宅政策 ・シェアハウス、コーポラティブハウス	ネット等で、被災者住宅について調べてくること。
11.	＜都市施設のマネジメント1＞ ～インフラ劣化と成熟都市 上下水道・公園や道路の維持管理、幼稚園・学校・公民館・市民病院等の統廃合、鉄道・バス路線の撤退、シャッター通り商店街	自分の出身地のまちの商店街、小中学校、公民館の現在について調べてくる。
12.	＜都市施設のマネジメント2＞ ～民営化、都市の縮小的再編 ・人口・世帯減少社会と都市の維持管理 ・自治体財政の現状 ・「スマートな縮退」	居住地や故郷のまちの市町村のHPから、人口・世帯の推移関するデータをプリントアウトしてくる。
13.	＜都市と環境問題＞ ～防災という視野も加わって ・都市が環境問題から被っている負荷 ・都市が環境に与えている負荷 ・都市基盤の脆弱化による都市災害の大規模化	環境問題の視点から、自分のライフスタイルについて点検し、感想をメモしてくる。

14.	＜EU都市先進国の光と影＞ ～公正・平等・多様性の追求と確執と ・「明日の都市」＆EU都市再生戦略 ・市民社会/産業革命/階級対立 ・インナーシティ問題、ゲイティッド・シティ ・ゲットー、排除と差別のパリ「郊外」	居住地や故郷のまちの主要産業の現状について、自治体HPなどを活用して、調べてくる。
15.	まとめ	これまでの資料やメモ類を整理し、授業を振り返り、ふるさとや居住地の町の課題について考えてくる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

1. 理工学科系の街づくり分野における研究成果を知ることで、視野と関心を広げ、進路選択にも役立てよう。
2. タウンウォッチングで、生きいきしたリアルな都市の様子や個性を発見しよう。
3. 自治体広報誌、タウン誌、街案内やNPOのチラシなどを集め、作り手の活動に関心をもとう。
4. コミュニティビジネス、自治体政策、NPOや市民のまちづくり活動やプロジェクトに関心をもとう。
5. ビジネスや政治・政策に関する報道や記事に親しもう。

フィードバックの方法:

1. 各単元の終わりに（全体で4回程度）、授業への感想・質問等のミニミニ・レポートを求めることがある。それに応える事項を後続の授業に組み込む。
2. 従来から、授業終了後及びメールによる個人質問にかなりの時間をあてているので、遠慮なく活用してほしい。
3. 中間まとめのコマにおいて、授業への希望、評価を求め、その内容を後半の授業に反映する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	論述中心。記述の論理性とともに、実践的なアプローチを重視する。
出席及びペーパー提出	30%	公欠を除く欠席の許容範囲は概ね全体の3分の1とする。単元が進む節目の回では、準備・事後学習ペーパーを指示に従って提出する。
実践的、積極的な授業参加	20%	積極的な意見交流など、集団学習に積極的に参加する態度を重視する。

教科書:

教科書は指定しません。教科書の代わりに、各単元ごとに体系的なレジュメと資料を配布します。相当枚数になるので、ファイル綴じにして、毎回、持参のこと。

参考書:

加藤敏文編著「環境・共生型タウンマネジメント」 学文社、2007年
その他は、授業中、適宜、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、思いやる心

教員との連絡方法:

メール及び面談。（直接、意見交換を希望する場合は、事前にメールでアポイントをとってください。

416200

会計学

記虎　　優子

授業テーマ:　会計学の基本を学ぶ

授業の概要:

この授業では、企業会計における実践的ツールである簿記の基礎を習得していることを前提に、実在する企業の財務諸表を利用したケーススタディを行うほか、各回の授業で取り上げるテーマと合致した日本経済新聞の新聞記事を多数参照することによって、会計学の入門的な事項について学ぶ。

なお、この授業は、「簿記論I」をすでに履修し、複式簿記に関する基礎的な知識を有していることを前提としている。この授業と並行して、「簿記論II」を履修していればなお望ましい。また、3年次に開講の「財務諸表論」は、この授業の講義内容を前提としている。3年次に開講の「ディスクロージャー論」では、この授業や「財務諸表論」で取り扱っている一般的な企業会計についての知識を得ていることを前提とした、さらに発展的な内容を取り扱っている。

到達目標:

より上級の会計学領域の開講科目に発展的に取り組む上で必須となる、会計学の基本となる考え方ないし会計に関連する基本的な専門用語の意味内容を知る。

特に、各回の授業で取り上げるテーマと合致した日本経済新聞の基本的な記事内容を理解できる程度の会計知識を身につける。

授業方法:

原則として講義形式で行う。この授業では、実在する企業の財務諸表を利用したケーススタディを行うほか、各回の授業で取り上げるテーマと合致した日本経済新聞の新聞記事を多数参照する。授業で取り上げる新聞記事は、講義内容と密接に関連しており、学生は、新聞記事を読むことで、講義で学んだ知識が実際に近い将来における就職活動でも役立つことを体得できるであろう。

また、授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。なお、授業中には実在する企業の財務諸表を利用したケース・スタディを行う際に電卓が必要となることがあるので、授業時には毎回電卓を持参する必要がある。

第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 会計への接し方	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
2.	損益計算書(1)　損益計算書の全体像	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
3.	損益計算書(2)　営業利益	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
4.	損益計算書(3)　経常利益と税引前当期純利益	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
5.	損益計算書(4)　当期純利益と包括利益 貸借対照表(1)　貸借対照表の全体像	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
6.	貸借対照表(2)　流動資産	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
7.	貸借対照表(3)　固定資産	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
8.	貸借対照表(4)　繰延資産、負債、純資産	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
9.	株主資本等変動計算書 確定決算主義 欠損状態と債務超過の異同	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
10.	キャッシュ・フロー計算書(1)　キャッシュ・フロー計算書の全体像	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
11.	キャッシュ・フロー計算書(2)　キャッシュ・フローの種類とパターン	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
12.	損益分岐点分析 製造原価明細書	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
13.	財務諸表分析(1)安全性の分析ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
14.	財務諸表分析(2)収益性の分析ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
15.	まとめ	小テストをはじめとして、これまでの学習内容を十分に復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

広い意味での会計学の学習は、簿記を修得することから始めることが多い。しかし、技術的な簿記技法だけに固執していれば、社会における会計の役割や機能ひいてはその限界を正しく理解することはできない。

簿記は財務諸表を作成するための技術であり、「簿記論Ⅰ」や「簿記論Ⅱ」では、財務諸表を作成するプロセスを学ぶ。これに対して、この授業では、誰か(つまり企業)がすでに作成・公表した財務諸表の構造を学ぶとともに、財務諸表から得られる情報を加工することで、財務諸表が(主として投資家の)意思決定に役立つことを体得する。

フィードバックの方法:

各回の授業の終了後にマナビー上に公開した講義内容に関する小テストについては、次の授業の冒頭で解説を行うとともに、模範解答をマナビー上に公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	日本経済新聞に掲載された会計に関連する基本的な記事内容を理解できる程度に、会計学の基本となる考え方ないし会計に関連する基本的な専門用語の意味内容を理解しているかどうかを基準とする。
定期試験	60%	日本経済新聞に掲載された会計に関連する基本的な記事内容を理解できる程度に、会計学の基本となる考え方ないし会計に関連する基本的な専門用語の意味内容を理解しているかどうかを基準とする。

教科書:

大阪商工会議所編『ビジネス会計検定試験公式テキスト3級』(第3版) 中央経済社、2014年。

宮入勇二著『実務入門　会計の基本がわかる本』日本能率協会マネジメントセンター、2008年。

参考書:

青木茂男編著『要説　経営分析』(5訂版)森山書店、2016年。

岩崎功著『会計学の基礎』五絃舎、2017年。

大塚宗春・福島隆・金子良太著・菅野浩勢著『テキスト入門会計学』(第4版)中央経済社、2017年。

小栗崇資・森田佳宏・石川祐二・北口りえ著『スタートガイド会計学』中央経済社、2017年。

神戸大学会計学研究室編『会計学基礎論』(第5版補訂版)同文舘出版、2016年。

千代田邦夫著『会計学入門—会計・監査の基礎を学ぶ』(新版(第4版))中央経済社、2016年。

日本大学会計学研究室編『はじめての会計学』(第5版)森山書店、2016年。

	牧野明弘著『財務分析のための実践財務諸表の見方』（新１１版）経済法令研究会、2016年。 水口剛・平井裕久・後藤晃範著『企業と会計の道しるべ』中央経済社、2017年。 柳田仁編著『会計の基礎ハンドブック 』（第3版）創成社、2017年。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、コミュニケーション力
教員との連絡方法：	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

416300

財務諸表論

記虎　　優子

授業テーマ:　新聞記事のケースを通して財務諸表論を学ぶ

授業の概要:

この授業では、会計学の基本となる考え方をすでに習得していることを前提に、新聞記事のケースを通して、財務諸表論を学ぶ。財務諸表は、企業が公表する代表的な会計情報である。財務諸表を作成するプロセスを学ぶのが「簿記論I」や「簿記論II」である。また、「原価計算」では、製造業の財務諸表を作成するのに必要な製品製造原価算定の方法（原価計算制度）を学んだ。これに対して、「財務諸表論」では、財務諸表をはじめとする会計情報が持つ特性を理解した上で、会計情報を読むことを学ぶ。この意味で、この授業では、情報利用者側の視点から、会計学を学ぶことになる。

なお、この授業は「簿記論I」および「簿記論II」のほか、「原価計算」や「会計学」の発展科目であるので、これらの授業科目をあらかじめ履修していることが強く望まれる。特に、「会計学」の講義内容の知識は必須である。

到達目標:

この授業の目標は、会計に関する新聞記事の内容を理解できる程度の専門的知識を身につけることである。またこの授業は3年次開講であるので、学生諸姉が将来の就職活動に際してこの授業で学んだ知識を実際に生かすことができるように、企業会計に関する実践的な知識を身に付けることも、付随的な目標としている。

授業方法:

原則として講義形式で行う。この授業では、各回の授業で取り上げるテーマと合致した日本経済新聞の新聞記事を多数取り上げる。授業で取り上げる新聞記事は、講義内容と密接に関連しており、学生は、新聞記事を読むことで、講義で学んだ知識が実際に役立つことを体得できるであろう。

また、授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。なお、この授業では、新聞記事のケースという形で時事問題を多く取り扱うことになるので、授業計画を変更する場合がある。

第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 会計をめぐる2つのドラマ	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
2.	会計の役割と規則	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
3.	会社の計算原理	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
4.	棚卸資産の会計	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
5.	有形固定資産の会計(1)　減価償却と減損に焦点を当てて	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
6.	有形固定資産の会計(2)　リース資産に焦点を当てて 無形固定資産の会計(1)　のれんに焦点を当てて	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
7.	無形固定資産の会計(2)　のれんに焦点を当てて 研究開発費の会計 繰延資産の会計	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
8.	金融資産の会計　有価証券に焦点を当てて	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
9.	負債の会計(1)　社債と引当金に焦点を当てて	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
10.	負債の会計(2)　退職給付に焦点を当てて 純資産の会計(1)　ストック・オプションに焦点を当てて	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
11.	純資産の会計(2)　自己株式と剰余金の配当に焦点を当てて M&Aの会計	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
12.	工事契約の会計 税効果会計	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
13.	連結財務諸表をめぐる論点	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
14.	真実な報告と会計戦略	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、授業中に取り上げた新聞記事を熟読しておく。
15.	まとめ	小テストをはじめとして、これまでの学習内容を十分に復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

近年企業会計制度はめまぐるしく変化しており、この授業で学ぶ知識もこうした環境下ではすぐに陳腐化してしまう。この授業を通じて学び得た知識をアップデートし続けるための効率的な方法は、日本経済新聞 を読む習慣を身に付けることである。日本経済新聞には、会計基準の改正についての動向など、財務諸表論を学ぶことでその内容をよりよく理解できる記事が多数掲載されている。ぜひ日頃から企業会計に関する様々なニュースに触れる努力を続け、会計学を学び続ける姿勢を持ってほしい。

フィードバックの方法:

各回の授業の終了後にマナビー上に公開した講義内容に関する小テストについては、次の授業の冒頭で解説を行うとともに、模範解答をマナビー上に公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	日本経済新聞に掲載された会計に関する新聞記事の内容を理解できる程度の専門的知識を身に付け、さらに将来の就職活動に際してこの授業で学んだ知識を実際に生かすことができるような企業会計に関する実践的な知識を身に付けることができたかどうかを基準とする。
定期試験	60%	日本経済新聞に掲載された会計に関する新聞記事の内容を理解できる程度の専門的知識を身に付け、さらに将来の就職活動に際してこの授業で学んだ知識を実際に生かすことができるような企業会計に関する実践的な知識を身に付けることができたかどうかを基準とする。

教科書:

永野則雄著『ケースでまなぶ財務会計』（第7版）白桃書房、2013年。

参考書:

岩﨑健久著・平石智紀著『レクチャー財務諸表論』中央経済社、2017年。
郡司健著『現代財務会計のエッセンス』中央経済社、2017年。
桜井久勝著『財務会計講義』（第１８版）中央経済社、2017年。
新日本有限責任監査法人編『図解でざっくり会計シリーズ　リース会計のしくみ』中央経済社、2015年。
新日本有限責任監査法人編『こんなときどうする？減損会計の実務詳解Ｑ＆Ａ』中央経済社、2016年。

新日本有限責任監査法人編『図解でざっくり会計シリーズ　税効果会計のしくみ 』（第２版）中央経済社、2016年。
新日本有限責任監査法人編『図解でざっくり会計シリーズ　退職給付会計のしくみ』（第２版）中央経済社、2017年。
平野秀輔著『財務会計 』（第５版）白桃書房、2017年。
藤井秀樹著『入門財務会計 』（第２版）中央経済社、2017年。
山本史枝著『取引事例に見る「新たな収益認識基準」実務対応』清文社、2017年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、コミュニケーション力
教員との連絡方法：	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

416400 **マーケティング論**

大内　　秀二郎

授業テーマ:　現代のマーケティング

授業の概要:　近年、新聞・雑誌やテレビ、インターネットなどの記事・番組を通じて、企業のマーケティング活動が紹介される機会が増加しています。皆さん自身もまた、日常生活において、企業のマーケティング活動に日々接しています。皆さんの中で「マーケティング」という用語そのものを全く聞いたことがないという人は、ほとんどいないかもしれません。マーケティング活動は非常に身近なものであり、それを研究対象とするマーケティング論もまた身近な学問であると言えます。
マーケティングは、企業（または組織）の対市場活動のことであると一般に言われています。しかし、この説明だけでは抽象的すぎて、マーケティングがいったい何であるかを正確に理解することは難しいでしょう。この授業の目標は、紹介されるさまざまな理論や事例を通じて、マーケティングの基本的な考え方、マーケティング活動の具体的内容、さらにはマーケティングと社会との関係について理解を深め、最終的には、「マーケティングとは何か」、「マーケティングのあるべき“かたち”とは何か」について考える力を修得することです。

到達目標:
1. マーケティングの基本的な考え方を理解する。
2. マーケティング活動の具体的内容を理解する。
3. マーケティングと社会との関係について理解する。
4. マーケティングのあるべき“かたち”とは何かについて考える力を修得する。

授業方法:　授業形態は講義形式です。講義は、授業の各回の冒頭に配布するレジュメにそって行います。
なお、授業中に講義内容に関連したレポート課題を課し、その授業時間内にレポートを作成・提出してもらうことがあります（成績評価方法を参照のこと）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	新聞、雑誌、インターネットの記事やテレビのニュース番組等を通じて、企業のマーケティング活動に対する関心を高めておいてください。
2.	マーケティングの基礎概念	新聞、雑誌、インターネットの記事やテレビのニュース番組等を通じて、企業のマーケティング活動に対する関心を高めておいてください。
3.	市場細分化と標的市場の設定	マーケティング・マイオピア（第2講の講義内容）の意味内容を確認した上で、実際の企業事例を探索してください。
4.	ポジショニング	市場細分化と標的市場の設定（第3講の講義内容）の意味内容を確認した上で、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
5.	マーケティング・ミックス①製品（1）	ポジショニング（第4講の講義内容）の意味内容を確認した上で、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
6.	マーケティング・ミックス①製品（2）	「製品はベネフィット（便益）の束である」という考え方（第5講の講義内容）の意味内容を確認した上で、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
7.	マーケティング・ミックス②価格	新製品のブランディングにあたり留意すべきこと（第6講の講義内容）を確認した上で、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
8.	マーケティング・ミックス③プロモーション	さまざまな価格設定の方法（第7講の講義内容）を確認した上で、それぞれの価格設定の方法について講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
9.	マーケティング・ミックス④チャネル	SNSを活用した新たなプロモーション手法（第8講の講義内容）について、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
10.	競争環境の分析	チャネルの設計、特にチャネル構造の選択にあたり留意すべきこと（第9講の講義内容）を確認したうえで、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
11.	マーケティングの誕生	第10講の講義でとりあげたいくつかの分析手法を用いて、講義で取り上げた以外の企業（もしくは事業）を例として実際に分析を行い、それぞれの企業（事業）の現状を説明してください。
12.	消費者中心志向とマネジリアル・マーケティング	第11講でとりあげたシンガー社などの初期のマーケティング活動の事例について、さらに情報収集をしてください。
13.	マーケティングの適用範囲の広がり	顧客満足と企業利潤との関係（第12講の講義内容）について、各自の見解を深めてください。
14.	マーケティングとは、再考	マーケティングが非営利の組織にも活用・応用されるようになってきたこと（第13講の講義内容）について、講義で取り上げた以外の事例を探索してください。
15.	まとめ	マーケティングの目的やあり方について、各自の見解を深めてください。また、定期試験にあたって、到達目標の達成状況を参照しつつ全体を復習してください。

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義の全体的な流れは以下の通りです。
(1)マーケティングの基本的な考え方と戦略立案プロセスを理解する（1～5講・10講）
(2)マーケティング活動の内容を理解する（6～9講）
(3)マーケティングの歴史を振り返り、マーケティングが社会において登場した必然性を理解する（11～12講）
(4)現代、マーケティングがさまざまな分野へ応用され、概念自体が拡張されつつあることを理解する（13-14講）
(5)マーケティングとは何か、マーケティングと社会との関係はどうあるべきかについて考える（14講）
なお、「準備学習等の内容」にも記載の通り、前回の講義内容を必ず復習する習慣を身につけてください。

フィードバックの方法:　定期試験終了後に、授業支援システム「ナマビー」を通じて試験の要点と解説を配信します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	85	到達目標1～3に関する知識の修得・理解度と、それらを踏まえた上で到達目標4について自らの考えを論理的に説明できるかを基準として評価する。
講義中のレポート	15	到達目標1～3について、修得した知識や理解を活用して実際の企業事例を分析できるかを基準として評価する。

教科書:

参考書:	薄井和夫『はじめて学ぶマーケティング［基礎篇］現代のマーケティング戦略』大月書店、2003年。 薄井和夫『はじめて学ぶマーケティング［応用篇］マーケティングと現代社会』大月書店、2003年。 和田充夫，恩藏直人，三浦俊彦『マーケティング戦略［第5版］』有斐閣、2016年。 フィリップ・コトラー，ゲイリー・アームストロング，恩藏直人『コトラー、アームストロング、恩藏のマーケティング原理』丸善出版、2014年。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力
教員との連絡方法:	Eメールを活用してください。アドレスは以下の通りです。 oouchi@bus.kindai.ac.jp

416800

広告論

廣岡　　保

授業テーマ:

～具体的事例で楽しく学ぶ広告論～

広告会社の【生（ナマ）仕事】を通して広告ビジネスと広告コミニュケーションの【今（イマ）】を学ぶ！

＜広告を知れば、社会が見える！＞＜広告ってほんとうに面白い！＞＜広告から学ぶアイディア発想法！＞

授業の概要:

☆広告に関する基礎知識・広告会社の仕事・広告メディア・広告クリエイティブ・プロモーション・イベント等について、具体的事例やデータをベースに講義します。
☆専門的な広告理論や広告制作スキルではなく、社会人として知っておくべき広告基礎知識や広告手法、広告表現手法等について講義します。
☆「マスコミの入社問題にチャレンジ！」「広告のキャッチコピーを考える！」「変わった広告を見つけよう！」等の楽しい課題に取り組くんでもらい、その優秀作を講義で発表します。

到達目標:

☆広告手法や広告表現手法を学ぶことで、一人のビジネスウーマンや生活者として、日々の仕事や生活の中で欠かせない分析力・思考力・表現力を養うことを目指します。
☆多彩な広告コミニュケーションを学ぶことで、社会人として必要不可欠な多様な視点や発想力や企画力を身に付けることを目指します。
☆広告の送り手や作り手（広告主・広告会社・メディア等）の＜意図＞や＜手口＞を知ることで、皆さんの社会生活での情報感度を高めると共に情報の受け取りや発信をもっともっと面白く楽しくすることを目指します。

授業方法:

パワーポイントをベースに、DVD映像・インターネット映像・資料映像等を多用し解かりやすく楽しい講義となるように授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	＜オリエンテーション＞・・この講義で学ぶこと。この講義から身に付けて欲しいこと。私が広告会社でやってきたこと。最近の広告事例。皆さんが生まれた頃の社会と広告事例。他	
2.	＜広告コミニュケーションの基礎知識＞・・広告の歴史。狭義の広告と広義の広告。広告の種類とその事例。タッチポイント理論と生活者発想について。他	「マスコミの入社問題をやってみよう！」というテーマでレポートを提出してもらいます。面白いアイディアや人と違う発想を期待しています。（以下レポートは全て予定です）
3.	＜日本の広告産業と広告会社＞・・日本の広告産業規模。日本の主要広告会社とその組織。広告会社の多様な仕事とその具体事例。他	
4.	＜広告会社の仕事＞・・広告会社の職種とその仕事内容。広告会社から総合コミニュケーション企業へ。広告会社の仕事の変化とその具体事例。他	
5.	＜広告メディア＞・・広告メディアの種類とその移り変わり。メディア別広告投下シェアと変化。生活者のメディア接触分析とその時代変化。他	「自分のメディア接触時間を考える！」というアンケートレポートを提出してもらいます。一日平均の各メディア接触時間を整理しておいて下さい。
6.	＜テレビメディア＞・・データから見るテレビメディアの変化。テレビメディアの現状とその課題。テレビメディアの新しい取組み事例。他	「テレビ番組を企画しよう！」というテーマでレポートを提出してもらいます。最近、話題の番組や人気番組をチェックしておいて下さい。
7.	＜新聞・出版メディア＞・・データから見る新聞・出版メディアの変化。新聞・出版メディアの現状とその課題。新聞・出版メディアの新しい取組み事例。他	
8.	＜インターネットメディア＞・・インターネット広告の種類とその効果指標。インターネットメディアの現状とその課題。インターネットメディアの新しい取組み事例。他	
9.	＜広告コミニュケーションの新しい潮流＞・・「クロスメディア」と「メディアクリエイティブ」について。「クロスメディア」と「メディアクリエイティブ」の具体事例。他	「変わった広告を見つけよう！」というテーマでレポートを提出してもらいます。日々の生活の中で、変わった広告や珍しい広告をよくウオッチしておいて下さい。
10.	＜広告クリエイティブ＞・・広告クリエイティブの種類とその変化。CMに見る広告クリエイティブの移り変わり。他	
11.	＜広告クリエイティブ＞・・CMに見る広告クリエイティブのポイント。CMから学ぶアイディア発想法や広告企画手法。他	「キャッチコピーを考えよう！」というテーマでレポートを提出してもらいます。街中にあるポスターや商品のキャッチコピーをよく観察しておいて下さい。
12.	＜広告クリエイティブ＞・・企業のマーケティング方針と商品のポジショニングの違いによる広告クリエイティブの違い。CMに見るその具体事例。他	
13.	＜プロモーション＞・・売りに繋げる広告手法、プロモーションとは。プロモーションの種類と内容とその目的。最近のプロモーション事例。他	「私のプロモーションアイディア！」というテーマでレポートを提出してもらいます。社会に溢れている販促手法を注意深く観察しておいて下さい。
14.	＜イベント＞・・コンテンツホルダーと企業と生活者を結ぶイベントとは。イベントの種類と内容とその目的。私が関わったイベント事例。他	
15.	＜まとめ＞・・この講義で憶えておいて欲しいこと。この講義から身に付けて欲しいこと。広告業界やマスコミ業界で働く人達から学ぶこと。他	

受講者へのメッセージやアドバイス:

☆大手広告会社勤務37年のビジネス経験と知見を基にした「活きた講義」を行います。
☆広告関係・映像制作関係・メディア関係・エンタテイメント関係の仕事を目指す学生はもちろんのこと、他業界を目指す学生も含めて全ての受講生の「発想力」「企画力」「表現力」の向上を図る講義にしたいと考えます。
☆社会システム学科の学生はもちろんのこと、他学科の学生の受講を大いに歓迎します。
☆毎年、受講者が200名を超える人気の講座です。
☆期末試験はありません。下記評価方法で採点します。

フィードバックの方法:

☆提出物（課題レポート）は返却しません。優秀作は講義内で発表します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	50%	公欠と認めざるを得ない場合を除き欠席回数を減点します。
レポート	40%	レポートは内容と表現力の両面から採点します。一回ごとに採点し全回数の総合点で評価します。
取組み姿勢	10%	講義への感想記入、講義中の積極的な挙手、質問や相談等の取り組み姿勢をプラス評価します。

教科書: 皆さんに購入してもらう教科書はありません。毎回、必要な講義資料を配布します。

参考書: 講義の中で、その都度紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 質問や相談がある場合は、授業の前後に遠慮なく申し出て下さい。時間が必要な場合は改めて日時を設定します。マスコミ・広告・映像制作・エンタテイメント・イベント業界等に関する個別相談にも応じます。

417100

知的財産権法

平野　　和宏

授業テーマ:　知的財産権全般の基礎的理解

授業の概要:　知的財産権法の中でも、特許法を中心とした授業を行う。また、特に特許権侵害訴訟に関する実務・裁判例を踏まえた授業を行う。

到達目標:　知財立国が標榜され、国家戦略として保護強化が図られている知的財産権について、特許権を中心に知的財産権全般の基礎的な知識を得ること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	知的財産権の概要	知的財産法に関する入門書の購読
2.	権利（特許権）の主体、権利（特許権）の客体	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
3.	特許要件、特許出願、審査	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
4.	特許発明の技術的範囲、特許権侵害（文言侵害、均等論）	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
5.	間接侵害、特許権が及ばない場合、先使用権、侵害訴訟における無効主張、権利の消尽）	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
6.	特許異議申立て、審判手続、審決取消訴訟	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
7.	権利救済のための特別規定、特許権侵害訴訟の実務	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
8.	特許権の利用（ライセンス等）	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
9.	実用新案法	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
10.	意匠法	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
11.	商標法	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
12.	並行輸入	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
13.	不正競争防止法	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
14.	著作権法Ⅰ	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認
15.	著作権法Ⅱ	授業中に配布するレジュメによる知識の整理確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　特許は技術的な事項を対象とするが、授業で技術的な事項を詳しく取り扱うことはない。また、特許権侵害訴訟は民事訴訟の一つであるので、民法や民事訴訟法に関する知識・理解が前提となるものであり、復習を中心に、授業中に配布するレジュメや知的財産法に関する入門書により、知識の整理確認を行うことが望ましい。

フィードバックの方法:　講義期間中に提出された提出物は教室でまとめて解説するなど、適宜の方法による。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
記述式の試験又はレポート	70	到達目標である知的財産権（特に特許権）に関する基礎的理解度により評価する。
日頃の受講態度	30	積極的に授業に参加し、到達目標である知的財産権（特に特許権）ができるようになったかを評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　必要に応じて講義中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

417701

卒業研究 I

C.Adamson

授業テーマ:

International politics

授業の概要:

As an international language, English can be used to build bridges between different countries. In this course, you will become a delegate of the United Nations General Assembly. You will choose a country to represent and learn about life there. Subsequently, you will study about important global issues and create solutions to those problems before debating and negotiating the issue with other students at a Model United Nations meeting.

到達目標:

Objectives are to improve students' knowledge of the world, negotiation skills, English level and self-confidence

授業方法:

Groupwork

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation. Introduction to the Model United Nations	Research and homework
2.	World issues. Introduction to negotiation. Choosing a country	Research and homework
3.	Learning about the issue	Research and homework
4.	Learning about the issue	presentation prep
5.	Informal presentation: country and issue	Research and homework
6.	Learning the meeting protocols of the United Nations Writing a draft resolution	Position paper
7.	Research and discussion. Debate practice and preparation informal and formal debate	Position paper
8.	Research and discussion. Debate practice and preparation Amendments	Position paper
9.	Research and discussion. Debate practice and preparation	Position paper
10.	Speechmaking and negotiation	Research and homework
11.	Speechmaking and negotiation Draft resolution Debate practice	Research and homework
12.	Research and discussion. Draft resolution Debate and preparation	Research and homework
13.	Research and discussion. Debate and preparation	Research and homework
14.	Preparation for research. Ethics and basic research skills	Research and homework
15.	Preparation for research. Ethics and basic research skills	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

You must be interested in international issues and organisations like the UN or other NGOs. You must be prepared to speak out in English in every class.

フィードバックの方法:

Feedback will be given to all presentations and written work

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Debate participation	30	Participation
Position paper	20	Preparation and quality
Presentations	20	Preparation and quality
Homework	10	Participation
General participation	20	Participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力, 思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

417702

卒業研究Ⅰ

天野　　太郎

授業テーマ:　卒業論文完成に向けての研究調査の深化

授業の概要:　大阪や東京、あるいはみなさんの出身地域などの具体的な地域を対象地域として、その実態を幅広い問題意識と視点から調査・研究することを通して、地域空間についての理解を深めることを目標とします。受講生の多様な興味・問題意識に基づいて、卒業論文作成にむけて実践的な作業を行います。特に4年生では、内容の深化を図るとともに、発信する力の養成に注力します。

到達目標:　1：研究の基本的な姿勢と、オリジナルの視点からの調査研究を進める。
2：卒業研究に向けて、ゼミ生相互の議論を深化させる。

授業方法:　演習・ゼミナール形式での学生個人発表を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　冬季フィールドワークのフィードバック	配布資料の確認
2.	グループコンペ課題の討論	国立国会図書館HPの事前調査
3.	研究発表と研究指導1	論文の確認と精読
4.	研究発表と研究指導2	各自の発表検討
5.	研究発表と研究指導3	PPT準備と発表内容の検討
6.	研究発表と研究指導4	PPT準備と発表内容の検討
7.	他分野との研究交流・夏季フィールドワークの課題討論	PPT準備と発表内容の検討
8.	研究発表と研究指導5	PPT準備と発表内容の検討
9.	研究発表と研究指導6	フィールドワーク対象地域の資料取集
10.	研究発表と研究指導7	PPT準備と発表内容の検討
11.	研究発表と研究指導8	PPT準備と発表内容の検討
12.	研究発表と研究指導9	PPT準備と発表内容の検討
13.	研究発表と研究指導10	PPT準備と発表内容の検討
14.	卒業研究中間報告討議	PPT準備と発表内容の検討
15.	全体の総括	レジュメ資料の確認と振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:　各人の基本的な発表を通して、実際に野外に出てのフィールドワークをおこないます（京都を中心とする地域など、半期1～2回程度）。また、合宿を伴う調査も合わせて行う予定です。

フィードバックの方法:　ゼミ発表に対して各自・全体に対して随時フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ゼミナール発表	60	到達目標1についての達成度を総合評価する。
他の学生発表に対するコメント評価	40	到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。

教科書:　指定しない

参考書:　天野太郎監修『古地図であるく古都・京都』三栄書房、2016（研究方法論として）
天野太郎監修『『都名所図会』でみる京都観光案内～イラストから見る200年前の京都』実業之日本社、2016
天野太郎監修『近鉄沿線の不思議と謎』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室（知徳館C354）での対面連絡を基本とする。マナビー・メールを総合的に活用する。

417703

卒業研究Ⅰ

福岡　　久美子

授業テーマ:　憲法に関する諸問題

授業の概要:　最近の憲法に関する事例や問題を検討します。また、「応用演習」においてさまざまな憲法問題にふれたことにより、各自、関心が芽生え、研究テーマが決まっています。資料・文献の収集・検討、論文の概略作成を行い、論文執筆に取りかかります。文献の引用方法など、研究推進上の倫理問題についても理解の確認をします。

到達目標:
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
社会生活の多様な場面で活躍することに意欲的に取り組んでいる
幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
社会の課題解決にあたるうえで、他者と協同的な関係を形成し維持する態度を身につけている
修得した知識や技術を統合し、その成果を広く社会に発信し、よりよい社会の構築に寄与する能力を持っている
研究倫理を理解する

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文のテーマ・概要の発表	テーマ、概要を決めて、文章で表す
2.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例①を読む
3.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例②を読む
4.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例③を読む
5.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例④を読む
6.	卒業研究の経過報告	文献・資料を収集し、そのリストを作成する
7.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑤を読む
8.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑥を読む
9.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑦を読む
10.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑧を読む
11.	卒業研究の経過報告	文献・資料を収集し、それらを検討する。
12.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑨を読む
13.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑩を読む
14.	最近の憲法判例の検討	授業で取り上げる判例⑪を読む
15.	卒業研究の中間発表	検討した文献、資料をまとめ、考察などを文章で書く

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および授業への参加度	50%	憲法判例の理解度により評価する
発表	50%	卒業論文の準備度により評価する

教科書:　授業中に指示

参考書:　授業中に指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で応対、オフィスアワー、Eメールの利用、マナビーの利用

417704 **卒業研究Ⅰ**

畠山　　啓

授業テーマ:

授業の概要:

現在世界中の企業がCSRに取り組んでいます。CSRとは法律を守り、利益を上げるだけでなく、社会と環境の持続可能性を目指して社会的責任も果たしていくべきであるという考えに基づいた取り組みです。具体的には環境対策、労働問題(ブラック企業・非正規雇用)、消費者課題(個人情報保護・製品偽装)、社会貢献(インターンシップ・工場見学)などの取り組みがあります。

また近年CSVにも取り組む企業が増加しています。CSVとは世の中にある社会的課題を企業がビジネスとして取り組み、課題解決を目指していく取り組みのことです。具体的には貧困・飢餓・気候変動・高齢化・地域活性化などの取り組みがあります。

これらのCSRとCSVの取り組みを企業は国内だけでなく海外でも取り組んでいます。卒業研究では企業が国内外で取り組むCSRとCSVについて卒業論文作成を通して理解を深めていきます。

到達目標:

CSR・CSVとは何かを理解し、自らの言葉で説明できるようになること。
卒業論文を完成させること。

授業方法:

演習形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	特になし。
2.	研究倫理について	マナビーで資料を事前に確認しておくこと。
3.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
4.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
5.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
6.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
7.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
8.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
9.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
10.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
11.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
12.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
13.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
14.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
15.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。

受講者へのメッセージやアドバイス:

無断欠席・遅刻をせず、卒論作成・発表準備をしっかり行うことが基本です。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30%	積極的にゼミに参加するかどうかを基準とする。
個人発表	70%	準備学習、発表内容の達成度合いを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。

417705

卒業研究Ⅰ

服部　　尚己

授業テーマ:　ヨーロッパの文化と日本

授業の概要:　ドイツを中心とするヨーロッパの文化を多様な角度から探求する。ここでは、基本的知識としての文化の講義と資料を用いての学習を行なうが、その都度、討論の時間をもうけ、卒業論文作成のための基本的な作業を行なう。

到達目標:　応用演習から続くテーマ(ヨーロッパの文化と日本およびまちづくりと景観)に関してさらに理解を深め、総括的な理解に達することを到達目標とする。そこから個人個人の問題意識に従って、個人研究(すなわち卒論)へとつながって行くように導いてゆきたい。

授業方法:　輪読、レポート提出、個人発表およびディスカッション。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究に関するガイダンス	
2.	ヨーロッパの文化と日本(演習)	
3.	ヨーロッパの文化と日本(演習)	
4.	ヨーロッパの文化と日本(演習)	
5.	卒業論文作成のための準備作業(輪読、個人発表、ディスカッション)	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備
6.	卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備
7.	卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備
8.	卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備
9.	卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備
10.	卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備
11.	卒業論文作成のための準備作業	卒論の資料収集およびプレゼンテーション準備
12.	まちづくりと景観(演習)	
13.	まちづくりと景観(演習)	
14.	まちづくりと景観(演習)	
15.	まちづくりと景観(演習)	

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本及びヨーロッパの文化に関して情報を収集し、考えを準備しておくこと。それにより演習授業の中でディスカッションしてゆく。

フィードバックの方法:　面談及び授業の中のディスカッション場面でそれぞれのプレゼンテーションに対しての評価を伝えてゆく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディスカッションおよび個人発表	50%	応用演習等で身に着けた知識を用いて、自分の考えを表現することができたかどうかを評価する
授業への参加度およびレポート	50%	応用演習および卒業研究のテーマに関して総括的な理解に達することができたかどうかを判断する

教科書:　プリントを配布する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応

417706

卒業研究Ⅰ

加賀　　裕郎

授業テーマ:　現代社会における教育的・倫理的諸問題

授業の概要:　応用演習で体得した知見を基本にして、卒業論文の作成を目標にした基礎的作業を行う。

到達目標:　各自、卒業論文に関して、二度の中間発表を行い、それに基づいて卒業論文のタイトル、参考文献、章節構成の第一次案を完成させる

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	大学図書館、大学外の公共図書館、データベースの利用法の紹介	
2.	研究倫理、論文作成の基礎的知識、学術書、学術論文のリファレンス	文献、資料収集のエクササイズ
3.	中間発表会（1）	マナビ―上での意見表明、ディスカッション
4.	中間発表会（2）	同上
5.	中間発表会（3）	同上
6.	中間発表会（4）	同上
7.	中間発表会（5）	同上
8.	中間発表会（6）	同上
9.	中間発表会（7）	同上
10.	中間発表会（8）	同上
11.	中間発表会（9）	同上
12.	中間発表会（10）	同上
13.	中間発表会（11）	同上
14.	中間発表会（12）	同上
15.	まとめ	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　口頭、マナビ―

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	20%	全出席を基本とし減点（遅刻二回で欠席一回）
プレゼンテーション	60%	内容の緻密さ、プレゼンの説得力
マナビ―上でのディスカス	20%	意見の出来不出来

教科書:　特になし

参考書:　各自に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　メール、研究室

417707

卒業研究Ⅰ

加藤　　敦

授業テーマ:　経営学で卒論を書き上げる、このミッションを通じタフな知性を身につけよう

授業の概要:　最終学年を迎え学生諸姉は「私の仕事」を見出そうと懸命な努力をされていることでしょう。「私の仕事」の質を高めるには、PLAN－DO－SEEというマネジメントサイクルの中で、優れた情報活用・企画力、タフな行動力、適切な自己評価と謙虚な見直し姿勢等が求められます。
幸いにも経営学は実践の学問であり、皆さんの情報活用力・企画力の向上、適正な評価基準設定等につながる、あらゆる要素が内包されています。
本演習では、3年次に取り組んだグループ別事例研究を踏まえ、各自がそれぞれ実践的なテーマを選定し卒業研究を進めてゆきます。卒業研究に創意工夫を凝らし経営学を深く学ぶことにより、ビジネス社会を生き抜くタフな知性を身につけてゆくことを目標とします。

到達目標:　第1に卒業研究におけるセールスポイントを示すことができる。
・ビジネスパーソンがなるほどと思う課題設定
・徹底的に既存資料にあたった地域研究並びに業界研究
・決算書（大企業）また業界別標準財務指標（中小企業）の分析
・汗がにじむ社会調査（インタビューまたは質問調査・観察
第2に文献調査の方法を理解し、質量ともに十分な文献調査を行うことができること。
第3に実行可能な研究計画を立案し、スケジュール管理をすることができること。

授業方法:　演習形式で行います。学生が主体的に卒業研究に取り組み、教員は研究手法等について適宜指導します。また授業は中間報告及び討論・助言の場として活用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	発表のための準備学習については適宜、授業中に指示します。 また事前学習として履修者は経営学、会計学の内容を復習しておいて下さい。
2.	テーマ設定、資料収集等についての指導	同上
3.	論文作成法等について指導	同上
4.	フリーディスカッションによる論点抽出	同上
5.	中間報告及び相互評価(1)	同上
6.	中間報告及び相互評価(2)	同上
7.	中間報告及び相互評価(3)	同上
8.	中間報告及び相互評価(4)	同上
9.	中間報告及び相互評価(5)	同上
10.	中間報告及び相互評価(6)	同上
11.	中間報告及び相互評価(7)	同上
12.	中間報告及び相互評価(8)	同上
13.	中間報告及び相互評価(9)	同上
14.	中間報告及び相互評価(10)	同上
15.	復習と討論	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　笑顔と厳しさが我々のモットーです。
各ゼミ生が「何をゼミから与えられるか」ではなく「自分がゼミのためになにができるか」を考え、能動的に行動するならば、互いにとり満足のゆく果実を得ることができます。

フィードバックの方法:　提出物は教室でまとめて解説いたします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	到達目標に照らし、授業への参加度・貢献度を欠席数、遅刻回数から評価します。
レポート	50	到達目標に照らし、レポートを評価します。

教科書:

参考書:　授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー。マナビーの掲示板機能並びにEメールを利用。

417708

卒業研究Ⅰ

記虎　　優子

授業テーマ:　企業の情報開示に関する卒業論文を作成しよう

授業の概要:

「応用演習Ⅰ」および「応用演習Ⅱ」を通じて、企業の情報開示について学んできた。こうした学習を通じて得た各々の問題意識をもとに、卒業論文の作成を進める。

この授業では、まず卒業論文の研究テーマや研究アプローチを決定する。次に、選定した研究テーマに関連する先行研究を収集して、先行研究のレビューを行う。合わせて、着目する情報開示制度の枠組み・根拠について調べる。そのうえで、各自の問題意識を明確にし、学術研究上の論点を取りまとめるとともに、卒業研究の大まかな論文構成を決定する。

到達目標:

この授業の目標は、次の3つである。

①企業の情報開示に関するさまざまな論点や課題の中から、各自の卒業論文の研究テーマを決定し、資料・文献の収集と整理を進め、同時に大まかな論文構成を決定する。

②学術論文はその内容が優れていることは当然であるが、同時に文献の引用の仕方や参考文献の記載の仕方等、さまざまな形式的要件を満たす必要があるので、学術論文の書き方を身に付ける。

③ほかの学生に対して、自身の研究内容を明瞭に説明し、研究の必要性や重要性をアピールできる。

授業方法:

原則としてゼミ（演習）形式で行う。

この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。また、反転授業のため、事前学習が必須である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
2.	卒業論文のテーマを決める（1）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
3.	卒業論文のテーマを決める（2）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
4.	参考文献リストの提示（1）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
5.	研究アプローチの決定	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
6.	参考文献リストの提示（2）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
7.	重要な先行研究の紹介（1）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
8.	重要な先行研究の紹介（2）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
9.	着目する情報開示制度の枠組み・根拠を調べて発表する（1）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
10.	着目する情報開示制度の枠組み・根拠を調べて発表する（2）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
11.	着目する情報開示制度の課題を調べて発表する（1）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
12.	着目する情報開示制度の課題を調べて発表する（2）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
13.	卒業研究の問題意識と研究アプローチの詳細を発表する（1）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
14.	卒業研究の問題意識と研究アプローチの詳細を発表する（2）	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
15.	卒業論文の論文構成の提示	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では、卒業論文の作成に際して必要となる資料・文献の収集と整理を行うとともに、各文献を読み込んで、その内容や論点をまとめるなど、卒業論文の作成のために主体的に調査・研究を行う。このため、調査・研究のために多くの時間が必要であり、学生は、十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、主体的かつ意欲的に学ぶことを期待する。

なお、この授業は、ゼミ（演習）形式の反転授業であるため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、十分な事前学習が必要である。

フィードバックの方法:

マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50%	各自の卒業論文の研究テーマや研究アプローチを踏まえたうえで、各自の問題意識を明確にし、学術研究上の論点を取りまとめることができているかどうかや、適当な論文構成を決定できているかどうかを基準とする。また、参考文献や引用文献を適当な方法で明示できているかどうかを基準とする。
授業への積極的参加度	50%	出席のほか、授業中に積極的に発言するなどによって、自身の研究内容を他の学生と共有できているかどうかを評価する。

教科書:　特になし

参考書:

あずさ監査法人編『会社法決算の実務―計算書類等の作成方法と開示例』（第11版）2017年。

小津稚加子編著『IFRS適用のエフェクト研究』中央経済社、2017年。

倉橋雄作著『コーポレートガバナンス・コード対応　招集通知等見直しの実務』商事法務、2015年。

財務会計基準機構編『有価証券報告書の作成要領』（平成30年3月期提出用）、財務会計基準機構、2018年。

財務会計基準機構編『四半期報告書の作成要領』（平成30年6月第1四半期提出用）、財務会計基準機構、2018年。

東京証券取引所上場部編『会社情報適時開示ガイドブック』（2017年3月版）東京証券取引所、2017年。

中村聡ほか著『金融商品取引法―資本市場と開示編』（第3版）商事法務、2015年。

日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『会計監査六法』(平成30年版)日本公認会計士協会、2018年。
樋口達・山内宏光・小松真理子編著『開示事例から考える「コーポレートガバナンス・コード」対応』商事法務、2015年。
森・濱田松本法律事務所編『コードに対応したコーポレート・ガバナンス報告書の記載事例の分析〔平成29年版〕』(別冊商事法務No.427)商事法務、2017年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

417709

卒業研究Ⅰ

河野　　健男

授業テーマ:　社会学から現代社会の諸問題を考える

授業の概要:　3年次応用演習でのグループでの議論を基にして、そこから個人ごとの問題意識を発展させていく。10月には卒業論文のあらましをまとめる。

到達目標:　各自の卒業研究テーマに関わる先行研究と調査データの把握

授業方法:　個人ごとのテーマに基づいて卒業論文を完成すべく、個別指導も踏まえた個人発表の段階に入っていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	個人別研究テーマの選定と確定	卒業生の卒論読了と個人テーマの構想
2.	個人別研究テーマの選定と確定	卒業生の卒論読了と個人テーマの構想
3.	卒論計画書の作成	先行研究とデータの準備
4.	卒論計画書の作成	先行研究とデータの準備
5.	卒論計画書に準拠した個人発表　その1	発表資料の作成
6.	卒論計画書に準拠した個人発表　その2	発表資料の作成
7.	卒論計画書に準拠した個人発表　その3	発表資料の作成
8.	卒論計画書に準拠した個人発表　その4	発表資料の作成
9.	卒論計画書に準拠した個人発表　その5	発表資料の作成
10.	卒論計画書に準拠した個人発表　その6	発表資料の作成
11.	卒論計画書に準拠した個人発表　その7	発表資料の作成
12.	卒論計画書に準拠した個人発表　その8	発表資料の作成
13.	卒論計画書に準拠した個人発表　その10	発表資料の作成
14.	卒論計画書に準拠した個人発表　その11	発表資料の作成
15.	全体の振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ゼミ発表に際しては、事前に教員と相談し、発表内容を確認すること。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30%	計画的な作業の進行度で評価する。
個人研究の到達度	70%	研究テーマの独自性や習熟度で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

417710

卒業研究Ⅰ

日下　　菜穂子

授業テーマ:　臨床心理学の実証的研究法を学ぶ

授業の概要:　卒業研究では、具体的に心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本を実践的に学ぶことを授業の目標とします。応用演習Ⅰ・Ⅱで学んだ応用行動分析の基礎理論、行動アセスメントの方法、問題行動への具体的な介入とその効果の測定について、先行研究の検証などを通じて知識と技術を深めます。卒業論文のための文献収集、研究計画の検討、立案、データの収集を行います。

到達目標:　(1)心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本的な技法を理解し，説明することができる。
(2)心理学的な研究方法の知識を用いて，研究計画を立てて実行することができる。

授業方法:　発表、ディスカッションを中心に授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	資料講読
2.	研究計画のたて方	資料講読
3.	研究のすすめ方・研究環境の整備	資料講読
4.	文献検索・文献収集	文献検索・収集
5.	文献講読・先行研究の検討	文献講読
6.	文献講読・先行研究の検討	文献講読・小レポート作成
7.	文献講読・先行研究の検討	文献講読・小レポート作成
8.	研究テーマの検討	文献検索・講読
9.	研究テーマについての調査	文献検索・講読
10.	研究計画の立案・報告	研究計画検討
11.	研究テーマ・計画の報告・ディスカッション	研究計画立案
12.	研究テーマ・計画の報告・ディスカッション	研究計画報告
13.	研究テーマ・計画の報告・ディスカッション	研究計画再検討
14.	研究実施にあたってのガイダンス	研究開始
15.	夏季休暇中の研究活動計画作成	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　全員毎回出席が原則です。具体的な運用は、担当教員が決めます。

フィードバックの方法:　授業時間内に報告・レポートの内容等についてのコメントを講評としてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	40	心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本的な技法の理解を評価します。
プレゼンテーション	60	心理学的な研究方法の知識を用いて，研究計画を立てて実行する力を評価します。

教科書:　小塩真司，西口利文 『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版

参考書:　無藤隆　他編著(2011)『心理学　第9版』有斐閣

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

417711

卒業研究Ⅰ

三宅　　えり子

授業テーマ:　女性・仕事・リーダーシップ－ジェンダー研究の視座から

授業の概要:　3年次の終わりに設定したテーマと研究計画書にそって、卒業研究論文の執筆を行い論文前半の完成を目指します。

到達目標:
1. 研究目的を簡潔に表現することができる。
2. 理論的枠組に必要な専門知見を、先行研究のレビューを通して論点をまとめ、構築できる。
3. 自分の研究目的にふさわしい研究方法を考案して記述することができる。

授業方法:　講義、発表、ディスカッション、論文の個人指導などを組み合わせて授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業目標と授業全体の流れ、研究倫理の確認）	
2.	卒業研究論文のための先行研究の文献レビュー	先行研究を読み込んで、要点をまとめる。
3.	卒業研究論文のための先行研究の文献レビュー（継続）	先行研究を読み込んで、要点をまとめる。
4.	卒業研究論文のための先行研究の文献レビュー（継続）	先行研究を読み込んで、要点をまとめる。
5.	卒業研究論文の理論的枠組の構築	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。
6.	卒業研究論文の理論的枠組の構築（継続）	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。
7.	卒業研究論文の理論的枠組の構築（継続）	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。
8.	卒業研究論文の理論的枠組の構築（継続）	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。
9.	事例の選定と研究方法の策定	事例に関する情報収集とその分析方法を考える。
10.	事例の選定と研究方法の策定	事例に関する情報収集とその分析方法を考える。
11.	卒業研究論文（前半）の発表とディスカッション ①	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
12.	卒業研究論文（前半）の発表とディスカッション ②	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
13.	卒業研究論文（前半）の発表とディスカッション ③	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
14.	卒業研究論文（前半）の発表とディスカッション ④	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
15.	ふりかえりと、まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　4年次の春学期は、就職活動と卒業研究論文執筆の両立がたいへんな時期ですが、少しずつでよいので、時間をつくって論文を書き進めましょう。

フィードバックの方法:　卒業研究論文（前半）は、採点をしてコメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50%	卒業研究論文への意欲的な取り組みや発表など
卒業研究論文（前半部分）	50%	明確な研究目的、研究基盤となる理論的枠組みの構築、適切な研究方法

教科書:　指定教科書なし

参考書:　授業で適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

417712

卒業研究Ⅰ

長岡　　延孝

授業テーマ:　ヨーロッパ社会経済モデルと日本を比較研究する

授業の概要:

ヨーロッパは今、経済的、社会的苦境のなかにありますが、それでも豊かな文化があり、人々を大切にする社会を作り上げてきた伝統はやはり魅力的です。この演習では、応用演習での知識と研究を踏まえ、卒業論文に向けて準備します。

テーマは、政治経済、企業活動、社会福祉、環境対策と町づくり、さまざまな文化、労働と移民など、広範囲です。ヨーロッパはグローバル化の中で国境を越えた協力の仕組みも作り上げてきました。アジアやその他の地域にとっても、その経験を学ぶ必要があるでしょう。他方、今では工業製品だけでなく、マンガ、食文化、スポーツなどでヨーロッパも日本から影響を受ける時代になっています。相互の理解は新たな段階を迎えています。

こうしたなか、演習では多様な角度からヨーロッパに切り込んで、全体的に理解します。テーマは多様に見えても、根底に流れている共通の価値観を探って、日本のそれと比較しながら、調査や考察を深めます。

なお、研究倫理について、絶えず確認していきます。

到達目標:　ヨーロッパと日本社会の比較研究を通じて、グローバルな視野に立ったビジネスパーソンの基礎力を養うことを目標にします。

授業方法:　各自が研究テーマを設定し、関連書物等を調査・分析し、報告することが中心となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	課題について調査し、整理しておくこと
2.	論文作成のプロセス	課題について調査し、整理しておくこと
3.	研究テーマの設定	課題について調査し、整理しておくこと
4.	文献収集とリストの作成と情報交換	課題について調査し、整理しておくこと
5.	研究計画書の作成と情報交換	課題について調査し、整理しておくこと
6.	研究計画書の作成と情報交換	課題について調査し、整理しておくこと
7.	文献や資料の整理と情報交換	課題について調査し、整理しておくこと
8.	卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと
9.	卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと
10.	卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと
11.	卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと
12.	卒業研究中間報告	課題について調査し、整理しておくこと
13.	論文にまとめる方法	課題について調査し、整理しておくこと
14.	文章作法	課題について調査し、整理しておくこと
15.	春学期の振り返り	課題について調査し、整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　新聞や報道番組などを通じて、グローバルな視野で情報を収集してほしい。

フィードバックの方法:　報告に関してコメントを行い、全員で議論する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	課題について適切に調査・整理し、分かりやすく伝えられているか
レポート	50	課題について適切に調査・整理し、論理的に述べられているか

教科書:　加賀美雅弘ほか『ヨーロッパ学への招待』(第二版)、学文社。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール

417713

卒業研究Ⅰ

三宅　　えり子

授業テーマ:　社会保障の国際比較

授業の概要:　3年次の終わりに設定したテーマと研究計画書にそって、卒業研究論文の執筆を行い論文前半の完成を目指します。

到達目標:
1. 研究目的を簡潔に表現することができる。
2. 理論的枠組に必要な専門知見を、先行研究のレビューを通して論点をまとめ、構築できる。
3. 自分の研究目的にふさわしい研究方法を考案して記述することができる。

授業方法:　講義、発表、ディスカッション、論文の個人指導などを組み合わせて授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業目標と授業全体の流れ、研究倫理の確認）	
2.	卒業研究論文のための先行研究の文献レビュー	先行研究を読み込んで、要点をまとめる。
3.	卒業研究論文のための先行研究の文献レビュー（継続）	先行研究を読み込んで、要点をまとめる。
4.	卒業研究論文のための先行研究の文献レビュー（継続）	先行研究を読み込んで、要点をまとめる。
5.	卒業研究論文の理論的枠組の構築	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。
6.	卒業研究論文の理論的枠組の構築（継続）	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。
7.	卒業研究論文の理論的枠組の構築（継続）	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。
8.	卒業研究論文の理論的枠組の構築（継続）	論文全体の構成を予測しながら、先行研究・参考文献を基に、事例分析に役立つような専門知見をまとめる。
9.	事例の選定と研究方法の策定	事例に関する情報収集とその分析方法を考える。
10.	事例の選定と研究方法の策定	事例に関する情報収集とその分析方法を考える。
11.	卒業研究論文（前半）の発表とディスカッション ①	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
12.	卒業研究論文（前半）の発表とディスカッション ②	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
13.	卒業研究論文（前半）の発表とディスカッション ③	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
14.	卒業研究論文（前半）の発表とディスカッション ④	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
15.	ふりかえりと、まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　4年次の春学期は、就職活動と卒業研究論文執筆の両立がたいへんな時期ですが、少しずつでよいので、時間をつくって論文を書き進めましょう。

フィードバックの方法:　卒業研究論文（前半）は、採点をしてコメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50%	卒業研究論文への意欲的な取り組みや発表など
卒業研究論文（前半部分）	50%	明確な研究目的、研究基盤となる理論的枠組みの構築、適切な研究方法

教科書:　指定教科書なし

参考書:　授業で適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

417714

卒業研究Ⅰ

大倉　　真人

授業テーマ:　日常生活におけるリスクマネジメントと保険

授業の概要:　リスクマネジメントおよび保険は、意識しているか否かはさておき、日常生活の中で数多く登場している。例えば地震について考えると、地震で建物が倒壊しないように耐震補強工事をしたり、地震が起こったときに備えて避難訓練を行ったりすることなどは地震に対するリスクマネジメントとして考えられる。また、火災保険や自動車保険についてみると、一人暮らしの人だと火災保険に、車や原付を持っている人だと自動車保険に実際に入っているケースが少なくない。さらに、医療保険や年金保険などは、病気になったときや老後の生活を支える重要な手段となっている。また最近では、女性特有の病気に対して手厚い保障を行う保険なども登場している。
本講義では、このように日常生活の中で数多く登場するリスクマネジメントや保険について考えていく。

到達目標:　リスクマネジメントや保険がどのような役割を担っているのか、どのような問題を抱えているのか、などについて学習することを通じて、リスクマネジメントや保険にかかる知識を修得することおよびそれらの知識を使ってプレゼンテーションできるようになることを目標とする。

授業方法:　主として卒業論文作成のための発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解
2.	卒業研究にかかる発表（1）	「卒業研究」の準備
3.	卒業研究にかかる発表（2）	「卒業研究」の準備
4.	卒業研究にかかる発表（3）	「卒業研究」の準備
5.	卒業研究にかかる発表（4）	「卒業研究」の準備
6.	卒業研究にかかる発表（5）	「卒業研究」の準備
7.	卒業研究にかかる発表（6）	「卒業研究」の準備
8.	卒業研究にかかる発表（7）	「卒業研究」の準備
9.	卒業研究にかかる発表（8）	「卒業研究」の準備
10.	卒業研究にかかる発表（9）	「卒業研究」の準備
11.	卒業研究にかかる発表（10）	「卒業研究」の準備
12.	卒業研究にかかる発表（11）	「卒業研究」の準備
13.	卒業研究にかかる発表（12）	「卒業研究」の準備
14.	卒業研究にかかる発表（13）	「卒業研究」の準備
15.	総括	全体の振り返り等

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中において、担当教員が適宜コメントすることで、発表の内容についてのフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究の発表	40	卒業研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
期末レポート	40	期末レポートより、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度を評価する。
授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

417715

卒業研究Ⅰ

大西　　秀之

授業テーマ:　多文化社会の諸問題を調査・分析する

授業の概要:

本演習では、まず現代社会における諸問題のなかから自らの関心に基づき研究テーマを選定していただきます。また各自のテーマを全員で共有するためディスカッションを行い、その研究意義について相互に理解・考察を深めて行くことを計画しています。

上記の目的の下、本演習では、研究テーマの社会的・文化的背景を読み解くための調査方法を選択・実践し、卒業研究論文に向けた研究計画書を作成します。なお本演習の担当教員は、人類学を専門としていますが、可能な限り人類学にとどまらず幅広い視野からテーマの選定と研究計画書の作成をフォローしたいと考えています。

到達目標:

・社会科学的な方法と目的に基づく卒業研究論文のテーマの選定と計画書の作成。
・自らの研究内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力を身に付ける。
・社会責任としてグローバルに通用する研究倫理を確認し習得する。

授業方法:

演習形式
毎回の授業では、卒業研究論文の作成に向けての個人発表と全体討論を実施します。
受講生の数によりますが、各人が最低一回は報告・発表を担当していただく予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
2.	テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	テーマの選定	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	計画書の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	計画書の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

12.	計画書の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	計画書の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	計画書の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	計画書提出	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。また同時並行で調査・分析を実施し、データ収集を終了しておくようにしてください。毎回の演習終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本演習の受講生は、日常の生活のなかでメディアや自らの体験などで見聞する社会事象に関心を向け、それらを本演習の学びの目的である批判精神や多角的視点で読み解くように心掛けておいてください。

フィードバックの方法:

・各回の個別のプレゼンテーションとディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究計画発表	30%	発表は、到達目標である「自らの研究内容を第三者に説得的に説明できる表現力とプレゼンテーション力」でなされているか評価します。
卒業研究計画書	50%	計画書は、到達目標である「社会科学的な方法と目的」に基づいた卒業研究論文のテーマの選定と計画書の作成ができているか評価します。
授業への参加度	20%	到達目標である「社会科学的な方法と目的」を積極的に理解し習得しようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

417716

卒業研究Ⅰ

大津　　正和

授業テーマ:　観光に関連する産業または地域に関する経営学的研究

授業の概要:　研究テーマは抽象的なものではなく、観光に関連する産業または地域の活動などに即して研究できるテーマであることが望ましい。そうして選んだテーマについて、受講生それぞれが自主的な調査・研究をおこない、その成果を発表する。さらに、観光に関連する産業または地域に関するフィールドワークを実施する。

到達目標:　適切な研究テーマを選択できるか。緩急テーマに関連した情報を適切に収集できるか。研究テーマに対して、適切な研究手法を選択できるか。自律的に計画を立てて、卒論研究に取り組めるか。

授業方法:　演習　卒業論文作成に向けて、各自が自律的に活動するとともに、教室で発表することによって、刺激し合いながら、より良い卒業論文に向けて活動する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文に向けてのガイダンス	取り組みたい卒論テーマ候補を考えてくる
2.	各自のテーマ発表	取り組みたい卒論テーマ候補を考えてくる
3.	研究に対する姿勢について	事前に配布する資料を読んでくる
4.	第1次個別発表　1	選択した卒論テーマについて、情報収集し、研究アプローチを考えて、報告準備を行う
5.	第1次個別発表　2	選択した卒論テーマについて、情報収集し、研究アプローチを考えて、報告準備を行う
6.	第1次個別発表　3	選択した卒論テーマについて、情報収集し、研究アプローチを考えて、報告準備を行う
7.	第1次個別発表　4	選択した卒論テーマについて、情報収集し、研究アプローチを考えて、報告準備を行う
8.	第1次個別発表　ふりかえり	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
9.	第2次個別発表　1	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
10.	第2次個別発表　2	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
11.	第2次個別発表　3	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
12.	第2次個別発表　4	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
13.	第2次個別発表　5	第1次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、テーマやアプローチの修正をし、第2次個別発表に向けた情報収集を行う
14.	夏期休暇中の「プレ卒論」への指示	第2次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、卒論の本格的作成に向けた計画を明確化する
15.	講義全体のふりかえり	第2次個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて、卒論の本格的作成に向けた計画を明確化する

受講者へのメッセージやアドバイス:　就職活動等により、出席が困難なときも連絡を怠らず、可能な限り出席するようにしてください。また、卒論テーマを考えたり、卒論作成を進めるためにも、できるだけ多く、観光に関連する産業または地域に関する現状を見学したり、報道等の各種情報を収集したりすること。

フィードバックの方法:　報告に対しては、教室で。また進捗状況をマナビーで報告したものに対しては、マナビーで対応する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	40	卒論テーマの設定、自律的に計画を立てて進めているか、他者の発表に有益なコメントをしているかといった程度
レポート	60	卒論テーマの設定、適切な情報収集、適切なアプローチの選択、アドバイスやコメントを適切に取り入れて計画的に進めているかの程度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

417717

卒業研究 I

L.Rogers

授業テーマ:

Leadership & Diversity

授業の概要:

This seminar is a continuation of the third year Diversity and Leadership Skills seminar
The aims are for students to use leadership skills to do the following:
1) Actively do research and produce a final project reporting their research findings. Students will do research and gather information in Japanese and English; however, their final report will be in a more widely understood English format.
2) Organize a group learning activity
3) Present research project findings inside and outside the university

到達目標:

Upon completion of this course, students will understand and be able to do research and produce a final project reporting their research findings. They will also be able to practice leadership skills from their third year.

授業方法:

Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Discuss course and research project guidelines	Reading and note-taking and preparation for graduation research project
2.	Review research skills	Reading and note-taking and preparation for graduation research project
3.	Discuss presenting research as research papes and presentations	Reading and note-taking and preparation for graduation research project
4.	Review leadership skills	Reading and note-taking and preparation for graduation research project
5.	Discuss research projects	Reading and note-taking and working on graduation research project
6.	Organizational skills: begin organizing research trip	Reading and note-taking and working on graduation research project
7.	Discuss research projects	Reading and note-taking and working on graduation research project
8.	Discuss research projects	Reading and note-taking and working on graduation research project
9.	Discuss research projects	Reading and note-taking and working on graduation research project
10.	Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project
11.	Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project
12.	Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project
13.	Research project and activity planning updates	Reading and note-taking and working on graduation research project
14.	Research project updates	Reading and note-taking and working on graduation research project
15.	Wrap-up and discuss remaining course goals and seminar activities	Reading and note-taking and working on graduation research project

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students will be required to present a research project outline, give periodic updates and feedback to other students. They will do this through class discussions on campus and online and through presentations.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final Research Project Progress	40%	Research plan outline with research question
Group discussion & presentations	40%	Active participation in class and online
Seminar activity organization	20%	Planning and organization of a learning activity

教科書:

No Textbook

参考書:

Will be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

417718

卒業研究Ⅰ

才藤　　千津子

授業テーマ:　現代日本における「ケア」の問題～人を支える関係づくり

授業の概要:　3回生での「応用演習Ⅰ、Ⅱ」に引き続き、この演習では、「ケア」「ケアリング」「人を支える人間関係づくり」という観点から人間のあり方、生き方について考察し、人間と現代社会への理解を深めます。3回生の時に選んだテーマを発展させながら、卒業論文完成に向けての作業を行ないます。
　卒業研究のテーマの設定から問題の絞り込み、研究の方法の確認、文献リストの作成と資料の読み込みの方法、研究計画の立て方など、卒業論文を書き上げるまでのプロセスを、授業の中で計画的に追ってゆきます。 また研究活動と対人援助活動の倫理についても学びます。

到達目標:　授業の目標は、①卒業研究のテーマを特定すること、②研究計画書を作成すること、③2回にわたって卒論に向けての中間報告をすること、また④研究倫理を理解し遵守することです。

授業方法:　演習形式。始め数回は主に教員による講義によって進め、あとはゼミ生が各自の研究テーマにそって個別に進行状況を報告し、受講者全員で発表の内容についてディスカッションを行います。教員は、学生の発表の際にアドバイスをすることに加えて個別指導をします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション―論文を書くとは・論文作成のプロセスについて―	
2.	研究をすすめる方法①研究テーマの設定、研究の方法、研究活動と対人援助活動の倫理、（発表の日程を決める）	3回生の演習での発表記録を読み直し、自分の卒論の研究テーマを明確にしてくる。
3.	研究をすすめる方法②文献リストの作成と資料の読み込みの方法、研究計画書の作成	事前にマナビーに掲示する資料を読んで疑問点を整理してくる
4.	中間発表（卒業研究についての経過報告）とディスカッション①	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
5.	中間発表とディスカッション②	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
6.	中間発表とディスカッション③	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
7.	中間発表とディスカッション④	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
8.	中間発表とディスカッション⑤	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
9.	研究をすすめる方法③論文にまとめる方法・文章作法	事前にマナビーに掲示する資料を読んで疑問点を整理してくる
10.	期末発表（卒業研究についての経過報告）とディスカッション①	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
11.	期末発表とディスカッション②	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
12.	期末発表とディスカッション③	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
13.	期末発表とディスカッション④	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
14.	期末発表とディスカッション⑤	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
15.	まとめ・期末レポートについて	事前にマナビーに掲示する資料を読んで疑問点を整理してくる

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業での発表、卒論の制作に向けて自主的に準備を進めてください。教員はそのプロセスを支援します。
・授業で使う資料はマナビーに掲示します。事前に必ず読んで来てください。

フィードバックの方法:　教員は、授業中にアドバイスをすることに加えて、主にマナビ―を通じて個別指導をします。常にマナビーの掲示やマナビーを通じての連絡に注意していてください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	クラスの出席と中間発表、授業への積極的参加度により評価する。
期末レポート（卒業論文の中間報告）	50	卒業論文に対する取り組み方と達成度によって評価する。

教科書:　なし

参考書:　各自のテーマについて必要と思われる資料や文献を、授業中にそのつど紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーを利用する他、メールcsaito@dwc.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。

417719 **卒業研究Ⅰ**

朱　　捷

授業テーマ: 自分の言葉で卒論を書こう

授業の概要: 応用演習にひきつづき、総合的に五つのポイント（情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力）でのレベルアップを図る。具体的な成果として、応用演習をふまえて、各自研究テーマを決め、自分の視点で調べ、自分の言葉で独創性のある卒業論文の完成を目指す。

到達目標: ○情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力でのレベルアップ
○卒論テーマを固める

授業方法: 教員はあくまでアドバイザーに徹し、ゼミ生の自主研究とグループ研究を奨励する。自己評価と相互評価を取り入れて、自己管理力・自己実現力を磨いていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
2.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
3.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
4.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
5.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
6.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
7.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
8.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
9.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
10.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
11.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
12.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
13.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
14.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする。
15.	総括	総括の準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうか、ゼミのディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法: マナビーの掲示板

417720

卒業研究Ⅰ

鈴木　　尊明

授業テーマ:　民事法学の総合問題

授業の概要:

卒業論文の執筆はとても楽しいものです。難しい資料を分析し、自分の考えをまとめ、長い文章を書くということに苦痛を感じる人は多いですが、「自由にできる」という1点において、卒業論文の執筆は楽しいものだと思います。

テーマは民事法学ですから、教員の専門である民法（特に財産法分野）に関連したものが中心になるかと思いますが、家族法、消費者法、商法、民事手続法に関連したものでもよいでしょう。さらに、興味というのは「育てるもの」ですから、勉強していく中で徐々に変わっていく可能性もあります。それにも対応しながら、これまで学んできた内容を縦横に使いこなしてもらいたいと考えています。

「卒業研究I」では、口頭報告・文章作成の基本を確認しながら、各受講者の興味関心を、論文につながる「問題意識」のレベルにまで醸成することを目標とします。諸君がこれまで学んできた内容や、現時点で興味を持っている内容について報告してもらう他、教員の方からも面白い素材を提示して、討論形式で進めたいと考えています。

なお、演習の一環として、研究倫理についても学びます。

到達目標:

〇これまでに習得した知識・技術を用いて、自分なりのテーマを設定する。
〇卒業論文計画書を作成する。

授業方法:　口頭発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。	これまで受けた民法関連科目の内容を教科書・ノート類を使って復習しておく。
2.	法律情報の検索方法と文章作成（1）	各種データベースの利用方法を復習しておく。
3.	法律情報の検索方法と文章作成（2）	専門的な文章作成の作法を確認するため、教員から参考資料を配布するので、それを事前に確認しておく。
4.	テーマ選定（1）	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
5.	テーマ選定（2）	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
6.	テーマ選定（3）	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
7.	テーマ選定（4）	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
8.	テーマ選定（5）	各人で自分なりのテーマを設定し、どのようなアプローチによって切り込むのか、簡単なメモを作成してくる。
9.	テーマ決定	
10.	卒業論文計画書作成（1）	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
11.	卒業論文計画書作成（2）	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
12.	卒業論文計画書作成（3）	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
13.	卒業論文計画書作成（4）	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
14.	卒業論文計画書作成（5）	先行研究を調査し、自分なりの問題意識を洗練させる。
15.	春学期の総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」ことと「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの方法:

発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時の取り組み	50	普段のゼミにおける討論への参加、発表の準備と内容といった様々な取り組みを評価する。
卒業論文計画書	50	計画書作成に向けての取り組み姿勢を評価する。

教科書:　六法　（どのようなものでも良いです）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

417721 **卒業研究Ⅰ**

谷　　直之

授業テーマ:　刑事法学の諸問題（医療と法、被害者学を含む）

授業の概要:　刑法解釈学、刑事訴訟法学、医療と法、被害者学の各領域から各受講者が選択したテーマを卒業論文にまとめるため、卒業研究Iでは第1段階の中間報告を行います。報告者には、卒業論文の作成を念頭に置きながら、必要な資料の収集・分析を行い、問題意識の醸成をはかり、論点を整理した上でクラスに問題提起を行うことが求められます。
なお、研究倫理の指導のほか、中間報告は、プレゼンテーションソフトを用いて行ってもらうこととし、そのためのプレゼンテーションソフトの活用方法についても指導します。

到達目標:　各自が卒業論文のテーマついて選択したテーマに関する正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できること。
当該テーマについての正しい知識に基づいて、論理的に考察を行い、明確な問題意識を持つこと。
自分の考え・主張を、論理的・効果的なプレゼンテーションで表現できること。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	応用演習で指示した卒業論文作成のための文献・資料収集と一覧表を作成して提出すること。
2.	論文作成指導 研究倫理指導	配布資料に目を通し、各自のテーマ・問題意識について整理しておくこと。 文献の引用方式について、復習しておくこと。
3.	プレゼンテーションソフト講習	復習として、授業で扱ったパワーポイントを使いこなせるように、各自で実習を行っておくこと（1～3時間程度）。
4.	プレゼンテーションソフト講習	授業で扱ったパワーポイントを使いこなせるように、各自で実習を行っておくこと（1～2時間程度）。 できる者については、各自で中間報告の準備を進めておくこと（3～5時間程度）。
5.	プレゼンテーションソフト講習	各自で中間報告の準備を進めておくこと（3～5時間程度）。
6.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。
7.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。
8.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
9.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
10.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
11.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
12.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
13.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。
14.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと
15.	総括と指導	卒業論文の作成について、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備をしておくことが大切です。刑事法的な問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っていきましょう。

フィードバックの方法:　マナビーを活用して、個別に指導します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・討論	100	到達目標にある、卒業論文のテーマに関して、正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できているかどうか、正しい知識に基づいて、論理的に考察を行い、明確な問題意識を持っているかどうか、自分の考え・主張を、論理的・効果的なプレゼンテーションで表現できているかどうかを基準とする。

教科書:

参考書:　各自のテーマについて、個別に指導します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

417722

卒業研究Ⅰ

山田　　邦和

授業テーマ:　京都の歴史と歴史遺産

授業の概要:　受講生それぞれが研究テーマを設定して研究を深め、卒業論文に向けての準備作業をおこなう。

到達目標:　卒業論文の概要を構築する。

授業方法:　研究テーマは抽象的なものではなく、京都の史跡、寺社、町屋、考古学的遺跡などにの即して研究できるテーマであることが望ましい。そうして選んだテーマについて、受講生それぞれが自主的な調査・研究（京都の史跡や博物館におけるフィールド=ワークも含む）をおこない、その成果を発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文に向けてのガイダンス	自分なりの研究テーマについて説明できるようにしておく。
2.	学生各自のテーマの発表	自分なりの研究テーマについて説明できるようにしておく。
3.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
4.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
5.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
6.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
7.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
8.	第1次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
9.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
10.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
11.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
12.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
13.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
14.	第2次個別発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
15.	夏期休暇中の「プレ卒論」の指示、秋学期の展望	これまでに、卒業論文に必要な資料を揃え、卒論の章立てをおこなっておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びペーパー提出	30	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
授業への積極的参加度	20	授業中に積極的に参加したか。
授業での研究発表と学期末のリポート	40	研究内容を適切にまとめ、わかりやすく説明したか。研究テーマを設定して研究を深め、卒業論文に向けての準備作業が進んだか。
フィールドワーク	10	自主的なフィールドワークにとりくんだか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

417723

卒業研究Ⅰ

福本　　俊樹

授業テーマ:　「働くこと、生きること」についての卒業論文の執筆

授業の概要:　本演習では、卒業論文の執筆に取り組みます。これまでに学習してきた組織行動論、組織論（およびそれに関連する領域）の学術的な考え方、調査方法に基づき、「働くこと、生きること」に関する諸問題を深く考察します。その上で、学生一人ひとりが自身のキャリアを歩む上での指針を導き出すことをねらいとしています。

到達目標:
（1）組織行動論、組織論（およびその関連領域）の学術的な考え方、調査方法を習得すること
（2）「働くこと、生きること」に関して、自ら問題を設定し、深く考察した上で、自身のキャリアにとっての指針を導き出すこと
（3）研究成果のプレゼンテーションや他者の発表へのコメントを通じ、グループでうまくディスカッションできるようになること

授業方法:
演習形式で、発表・ディスカッションを中心に授業を行います。
授業の前半は、教員から、卒業研究のすすめ方についての解説を行います。それと並行して、学生は各自で卒業研究を進めていきます。
授業の後半は、学生が各自の卒業研究の進捗について報告し、それに対して他の学生がコメント・アドバイスをするとともに、教員が適宜指導を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション：卒業研究とは何か	配布資料の予習・復習
2.	卒論テーマの探索	同上
3.	調査方法論：概論	同上
4.	調査方法論：インタビュー	同上
5.	調査方法論：エスノグラフィーとクリニカルアプローチ	同上
6.	理論的に考える	同上
7.	論文の作法・形式を知る	同上
8.	卒業研究の進捗報告（1）	報告準備、コメントへの対応
9.	卒業研究の進捗報告（2）	同上
10.	卒業研究の進捗報告（3）	同上
11.	卒業研究の進捗報告（4）	同上
12.	卒業研究の進捗報告（5）	同上
13.	卒業研究の進捗報告（6）	同上
14.	卒業研究の進捗報告（7）	同上
15.	卒業研究の進捗報告（8）	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:
卒業研究は、「ひとり」でやるものですが、「孤独」でやるものではありません。第一に、自分の卒業研究については自分が責任を持って完成させること、第二に、他の学生の卒業研究はできるかぎりサポートすること、の二点を意識して取り組んでください。

フィードバックの方法:
授業中に適宜コメントをします。
あわせて、E-mail等でも質問受付、回答を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文の内容	60%	到達目標（1）（2）の達成度合いによって評価します。
ディスカッションへの参加	40%	到達目標（3）の達成度合いによって評価します。

教科書:　戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで（NHKブックス）』NHK出版

参考書:　適宜指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:
卒業論文の添削等については、E-mailでも受け付けています。

417801 **卒業研究Ⅱ**

C.Adamson

授業テーマ: International politics

授業の概要: As an international language, English can be used to build bridges between different countries. In this course, you will become a delegate of the United Nations General Assembly. You will choose a country to represent and learn about life there, learning how to create solutions to international problems. It is likely we attend an inter-university problem-solving conference in December
Leading into the final seminar course, we will learn more about research techniques and prepare topics for the graduation thesis.

到達目標: Objectives are to improve students' knowledge of the world, negotiation skills, English level and self-confidence

授業方法: Groupwork/individual research

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	World issues. Selecting an issue and choosing a country	Research and homework
2.	Learning about the issue	Research and homework
3.	Learning about the issue	Research and homework
4.	Learning about the issue	presentation prep
5.	Informal presentation: country and issue	Research and homework
6.	Research and discussion. Debate practice and preparation	Research and homework
7.	Debates	Research and homework
8.	Debates	Research and homework
9.	Introduction to research	Research and homework
10.	Research philosophy and ethics Considering topics	Research and homework
11.	Prepare for problem solving conference	Research and homework
12.	Prepare for problem solving conference	Research and homework
13.	Research methods	Research and homework
14.	Research methods	Research and homework
15.	Feedback and reflection	None

受講者へのメッセージやアドバイス: You must be interested in international issues and organisations like the UN or other NGOs. You must be prepared to speak out in English in every class.

フィードバックの方法: Feedback will be given to all presentations and written work

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Debate participation	30	Participation
Presentations	30	Preparation and quality
General participation	20	Participation
Homework	20	Participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力, 思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

417802

卒業研究Ⅱ

天野　　太郎

授業テーマ:　まちづくりと地域－卒業論文完成への最終作業

授業の概要:　大阪や東京、あるいはみなさんの出身地域などの具体的な地域を対象地域として、その実態を幅広い問題意識と視点から調査・研究することを通して、地域空間についての理解を深めることを目標とします。受講生の多様な興味・問題意識に基づいて、卒業論文作成にむけて実践的な作業を行います。特に4年生では、内容の深化を図るとともに、発信する力の養成に注力します。

到達目標:　１:研究の基本的な姿勢と、オリジナルの視点からの調査研究を進める。
２:卒業研究の完成の最終段階として、その深化を常時図るとともに、研究調査ついて地域社会との連携を図る。

授業方法:　演習・ゼミナール形式での学生個人発表を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　夏季フィールドワークのフィードバック	配布資料の確認
2.	グループコンペ課題の討論	国立国会図書館HPの事前調査
3.	研究発表と研究指導1	論文の確認と精読
4.	研究発表と研究指導2	各自の発表検討
5.	研究発表と研究指導3	PPT準備と発表内容の検討
6.	研究発表と研究指導4	PPT準備と発表内容の検討
7.	他分野との研究交流	PPT準備と発表内容の検討
8.	研究発表と研究指導5	PPT準備と発表内容の検討
9.	研究発表と研究指導6	フィールドワーク対象地域の資料取集
10.	研究発表と研究指導7	PPT準備と発表内容の検討
11.	卒業論文の提出と全体討議	PPT準備と発表内容の検討
12.	卒業研究の修正とフィードバック1	PPT準備と発表内容の検討
13.	卒業研究の修正とフィードバック2	PPT準備と発表内容の検討
14.	卒業研究発表会に向けての研究発信の方法	PPT準備と発表内容の検討
15.	全体の総括	レジュメ資料の確認と振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:　各人の基本的な発表を通して、実際に野外に出てのフィールドワークをおこないます（京都を中心とする地域など、半期1～2回程度）。また、合宿を伴う調査も合わせて行う予定です。

フィードバックの方法:　ゼミ発表に対して各自・全体に対して随時フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ゼミナール発表	60	到達目標1についての達成度を総合評価する。
他の学生発表に対するコメント評価	40	到達目標2についての達成度を総合評価する。積極的な参加を前提条件として希望します。特に、自己の発表だけでなく、他の人の発表に関しても積極的な質問・議論を行うことを評価します。

教科書:　指定しない

参考書:
天野太郎監修『古地図であるく古都・京都』三栄書房、２０１６（研究方法論として）
天野太郎監修『『都名所図会』でみる京都観光案内～イラストから見る200年前の京都』実業之日本社、２０１６
天野太郎監修『近鉄沿線の不思議と謎』実業之日本社、２０１６

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビー・メールを総合的に活用する。

417803

卒業研究Ⅱ

福岡　　久美子

授業テーマ:　憲法学における諸問題

授業の概要:　各自、選択したテーマの研究を行い、卒論を執筆し、卒業研究発表会用のパネルを作成します。毎回、前回から加筆変更した卒論の部分などを発表し、意見を出し合って、より完成度の高い卒論作成を目指します。

到達目標:
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
社会生活の多様な場面で活躍することに意欲的に取り組んでいる
幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
社会の課題解決にあたるうえで、他者と協同的な関係を形成し維持する態度を身につけている
修得した知識や技術を統合し、その成果を広く社会に発信し、よりよい社会の構築に寄与する能力を持っている
研究倫理を理解する

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒論中間発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
2.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
3.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
4.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
5.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
6.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
7.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
8.	卒論進捗発表	卒業研究の文献を読み、資料を検討して、卒論を執筆する
9.	卒論仮提出	卒論の本文をひととおり完成させる
10.	卒論の修正・変更	卒論の推敲、修正
11.	卒論の修正・変更	卒論の推敲、修正
12.	卒論提出 卒論集の編集	卒論を完成させる
13.	卒業研究発表会用のパネル作成	パネル用の原稿作成
14.	卒業研究発表会用のパネル作成	パネル用の原稿作成
15.	卒業研究発表会の準備	発表会の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中にコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	10%	積極的参加度
卒論の内容	70%	卒論の内容・分量
卒業研究発表会の内容	20%	パネルの内容、質問に対する説明

教科書:　授業中に指示

参考書:　授業中に指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、授業前後に教室内で応答、Eメールの利用、マナビーの利用

417804

卒業研究Ⅱ

畠山　　啓

授業テーマ:

授業の概要:

現在世界中の企業がCSRに取り組んでいます。CSRとは法律を守り、利益を上げるだけでなく、社会と環境の持続可能性を目指して社会的責任も果たしていくべきであるという考えに基づいた取り組みです。具体的には環境対策、労働問題(ブラック企業・非正規雇用)、消費者課題(個人情報保護・製品偽装)、社会貢献(インターンシップ・工場見学)などの取り組みがあります。

また近年CSVにも取り組む企業が増加しています。CSVとは世の中にある社会的課題を企業がビジネスとして取り組み、課題解決を目指していく取り組みのことです。具体的には貧困・飢餓・気候変動・高齢化・地域活性化などの取り組みがあります。

これらのCSRとCSVの取り組みを企業は国内だけでなく海外でも取り組んでいます。卒業研究では企業が国内外で取り組むCSRとCSVについて卒業論文作成を通して理解を深めていきます。

到達目標:

CSR・CSVとは何かを理解し、自らの言葉で説明できるようになること。
卒業論文を完成させること。

授業方法:

演習形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	特になし。
2.	研究倫理について	マナビーで資料を事前に確認しておくこと。
3.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
4.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
5.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
6.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
7.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
8.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
9.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
10.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
11.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
12.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
13.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
14.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。
15.	発表とグループワーク	発表担当者は文献や資料を熟読し、調査を行い、パワポ(スライド)を作成し発表の準備を行います。その他の学生も文献や資料を熟読したうえで、出席することが求められます。

受講者へのメッセージやアドバイス:

無断欠席・遅刻をせず、卒論作成・発表準備をしっかり行うことが基本です。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30%	積極的にゼミに参加するかどうかを基準とする。
個人発表	70%	準備学習、発表内容の達成度合いを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応します。

417805

卒業研究Ⅱ

服部　　尚己

授業テーマ:　ヨーロッパの文化と日本

授業の概要:　「卒業研究Ⅰ」に引き続き、さらにヨーロッパの文化への理解を深める。ここでは、生活文化、思想、言語および社会などの分野から学生個人の関心によりテーマを決定し、それに関して発表し、卒業研究としてまとめることを目標とする。

到達目標:　応用演習から続くテーマ(ヨーロッパの文化と日本およびまちづくりと景観)に関してさらに理解を深め、総括的な理解に達することを到達目標とする。そこから個人個人の問題意識に従って、個人研究(すなわち卒論)へとつながって行くように導いてゆきたい。

授業方法:　個人発表およびディスカッション。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究概要発表1	
2.	卒業研究概要発表2	
3.	卒業研究概要発表3	
4.	卒業研究発表会1	プレゼンテーション準備
5.	卒業研究発表会2	プレゼンテーション準備
6.	卒業研究発表会3	プレゼンテーション準備
7.	卒業研究発表会4	プレゼンテーション準備
8.	卒業研究発表会5	プレゼンテーション準備
9.	卒業研究発表会6	プレゼンテーション準備
10.	卒業研究発表会7	プレゼンテーション準備
11.	卒業研究発表会8	プレゼンテーション準備
12.	卒業研究発表会9	プレゼンテーション準備
13.	提出論文に対する個別面談	
14.	卒論発表会準備	
15.	卒論発表会準備	

受講者へのメッセージやアドバイス:　プレゼンテーション技術は大事な能力である。卒業研究で扱っている個人個人のテーマに関して、演習授業の中でパワーポイントなどを用いてわかりやすくその内容を発表してゆく。そのためには準備と反省をすることが必要である(つまり予習と復習)。また、その発表内容に関して、ゼミ生間でディスカッションをしてもらう。それもまた反省につながることと思う。

フィードバックの方法:　面談及び授業の中のディスカッション場面でそれぞれのプレゼンテーションに対しての評価を伝えてゆく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究(提出論文)	40%	応用演習等で身に着けた知識を用いて、自分の考えを表現することができたかどうかを評価する
発表	30%	研究の内容に関してわかりやすく説明することができたか、またその準備は充分であったかなどを評価する。
ディスカッション等演習への参加度	30%	他のゼミ生の発表をよく聞き、しっかり自分の意見を言うことができたかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応

417806

卒業研究Ⅱ

加賀　　裕郎

授業テーマ:　現代社会における教育的・倫理的諸問題

授業の概要:　卒業論文の完成に向けて、必要な事項の教授する

到達目標:　卒業論文を完成させ、ポスター発表を行うことができる

授業方法:　演習、個別指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文タイトル、章節構成、内容梗概、参考文献一覧表のプレゼンテーション（1）	他のゼミ生の内容把握とファイリング準備
2.	同上（2）	同上（2）
3.	卒業論文作成のための基礎的知識、技術、文章作成の基本、研究倫理を講義する	文章作法の練習
4.	卒論中間発表会（1）	マナビ―状での意見表明、ディスカッション
5.	同上（2）	同上（2）
6.	同上（3）	同上（3）
7.	同上（4）	同上（4）
8.	同上（5）	同上（5）
9.	同上（6）	同上（6）
10.	同上（7）	同上（7）
11.	同上（8）	同上（8）
12.	卒論ゼミ内発表会（1）	同上（9）
13.	卒論ゼミ内発表会（2）	同上（10）
14.	卒論ゼミ内発表会（3）	同上（11）
15.	卒論のパワーポイント化実習	パワーポイント一次資料の作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　口頭、マナビ―、メール

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	10%	全出席を基本とした減点（遅刻二回で欠席一回）
プレゼンテーション	10%	内容の良さ
卒業論文	70%	論文の出来不出来、参考文献の出来不出来
ポスターセッション	10%	ポスターセッションの出来不出来

教科書:　特になし

参考書:　各自に紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　メール、研究室

417807

卒業研究Ⅱ

加藤　　敦

授業テーマ:　経営学で卒論を書き上げる、このミッションを通じタフな知性を身につけよう

授業の概要:　本演習では、卒業研究Iを基礎とし、卒業研究の完成を目指してゆきます。卒業研究に創意工夫を凝らし真剣に取り組むことで、実践の学問である経営学を深く学び、ビジネス社会を生き抜くタフな知性を身につけてゆくことを目標とします。

到達目標:
第1に卒業研究におけるセールスポイントを示し、実行する。
第2に社会調査の方法を理解し、文献調査を徹底的に行う。
第3に卒業研究の内容を正しくわかりやすくプレゼンテーションする。
第4に他者のプレゼンテーションを積極的に傾聴し、より良い方向への改善を提案したり、新たな視点を提示するなど、相互評価において貢献する。

授業方法:　少人数の演習形式で実施します。学生が主体的に卒業研究に取り組み、教員は研究手法等について適宜指導します。また授業は中間報告及び討論・助言の場として活用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	発表のための準備学習については適宜、授業中に指示します。 また事前学習として履修者は経営学、会計学の内容を復習しておいて下さい。
2.	社会調査法の復習:質的調査と量的調査	同上
3.	中間報告及び相互評価(1)	同上
4.	中間報告及び相互評価(2)	同上
5.	中間報告及び相互評価(3)	同上
6.	中間報告及び相互評価(4)	同上
7.	中間報告及び相互評価(5)	同上
8.	中間報告及び相互評価(6)	同上
9.	中間報告及び相互評価(7)	同上
10.	中間報告及び相互評価(8)	同上
11.	中間報告及び相互評価(9)	同上
12.	中間報告及び相互評価(10)	同上
13.	修正指導(1)	同上
14.	修正指導(2)	同上
15.	復習と討論	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:
笑顔と厳しさが我々のモットーです。
各ゼミ生が「何をゼミから与えられるか」ではなく「自分がゼミのためになにができるか」を考え、能動的に行動するならば、互いにとり満足のゆく果実を得ることができるだろう。

フィードバックの方法:　卒業論文は12月末に提出しますが、1月初旬に改善個所を明示して返却します。2週間ほどで、受講生は卒業論文を再提出します。卒業論文に対する総合的なコメントは、1月のゼミ合宿でも行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	欠席数、遅刻回数から評価します。
卒業論文	70	卒業論文について、到達目標に照らし総合的に評価します。

教科書:

参考書:　授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー。マナビーの掲示板機能並びにEメールを利用。

417808

卒業研究Ⅱ

記虎　　優子

授業テーマ:　企業の情報開示に関する卒業論文を作成しよう

授業の概要:

「卒業研究I」を踏まえて、卒業論文を完成させる。
この授業では、春学期に決定した各自の卒業論文の論文構成に沿って、順に卒業論文を執筆していく。また、卒業研究発表会用のポスターを作成する。 合わせて、随時研究内容について発表し、討論を行うとともに、終盤の授業では最終的な研究成果について発表する。
なお、完成した卒業論文は、全員分をとりまとめて論文集として製本することを予定している。

到達目標:

「卒業研究I」を踏まえて、各自が決定した企業の情報開示に関する卒業論文のテーマや研究アプローチに従って、卒業論文の執筆をさらに進めて、完成させる。
また、学術論文はその内容が優れていることは当然であるが、同時に文献の引用の仕方や参考文献の記載の仕方等、さまざまな形式的要件を満たす必要があるので、学術論文の書き方を身に付ける。
さらに、ほかの学生に対して、自身の研究内容を明瞭に説明し、研究の必要性や重要性をアピールできる。

授業方法:

原則としてゼミ(演習)形式で行う。
この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。また、反転授業のため、事前学習が必須である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 卒業研究の進捗度の報告	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。 反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
2.	実態調査・事例研究の中間発表(1)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
3.	実態調査・事例研究の中間発表(2)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
4.	着目する情報開示制度について卒論を執筆して発表する(1)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
5.	着目する情報開示制度について卒論を執筆して発表する(2)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
6.	実態調査・事例研究の結果発表(1)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
7.	実態調査・事例研究の結果発表(2)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
8.	実態調査・事例研究の方法について卒論を執筆して発表する	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
9.	実態調査・事例研究の結果について卒論を執筆して発表する(1)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
10.	実態調査・事例研究の結果について卒論を執筆して発表する(2)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
11.	卒論の「おわりに」を執筆して発表する	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
12.	卒論の「はじめに」を執筆して発表する	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
13.	卒業論文提出、卒論集作成 卒業研究発表会のためのパネル(ポスター) を作成して発表する(1)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
14.	卒業研究発表会のためのパネル(ポスター) を作成して発表する(2)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
15.	卒業研究発表会のためのパネル(ポスター) を作成して発表する(3)	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では、各自決定した卒業論文のテーマに沿って、主体的に卒業論文の執筆を進める。卒業論文の執筆のために多くの時間が必要であり、学生は、十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、主体的かつ意欲的に学ぶことを期待する。
なお、この授業は、ゼミ(演習)形式の反転授業であるため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、十分な事前学習が必要である。

フィードバックの方法:

マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	40%	各自の問題意識をもとに、適当な研究アプローチを用いて主体的に研究を行い、研究成果を卒業論文という形で取りまとめることができているかどうかを基準とする。また、卒業論文の執筆にあたり、文体や引用文献・参考文献の表記をはじめとして、学術論文として適当な方法で執筆できているかどうかを基準とする。
パネル(ポスター)	30%	各自の問題意識をもとに、適当な研究アプローチを用いて主体的に研究を行い、研究成果を発表用パネル(ポスター)という形で取りまとめることができているかどうかを基準とする。
授業への積極的参加度	30%	出席のほか、授業中に積極的に発言するなどによって、研究内容を他の学生と共有できているかどうかを評価する。

教科書:　特になし

参考書:

あずさ監査法人編『会社法決算の実務―計算書類等の作成方法と開示例』(第11版)2017年。
小津稚加子編著『IFRS適用のエフェクト研究』中央経済社、2017年。
倉橋雄作著『コーポレートガバナンス・コード対応　招集通知等見直しの実務』商事法務、2015年。
財務会計基準機構編『有価証券報告書の作成要領』(平成30年3月期提出用)、財務会計基準機構、2018年。
財務会計基準機構編『四半期報告書の作成要領』(平成30年6月第1四半期提出用)、財務会計基準機構、2018年。

東京証券取引所上場部編『会社情報適時開示ガイドブック』(2017年3月版)東京証券取引所、2017年。
中村聡ほか著『金融商品取引法—資本市場と開示編』(第3版)商事法務、2015年。
日本公認会計士協会・企業会計基準委員会共編『会計監査六法』(平成30年版)日本公認会計士協会、2018年。
樋口達・山内宏光・小松真理子編著『開示事例から考える「コーポレートガバナンス・コード」対応』商事法務、2015年。
森・濱田松本法律事務所編『コードに対応したコーポレート・ガバナンス報告書の記載事例の分析〔平成29年版〕』(別冊商事法務No.427)商事法務、2017年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

417809

卒業研究Ⅱ

河野　　健男

授業テーマ:　これまでの研究を卒業論文にまとめる

授業の概要:　卒論計画書に基づいた草案を10月に確定、12月末までに卒業論文完成

到達目標:　先行研究とデータおよび研究倫理を踏まえた卒業論文を作成する。

授業方法:　各自の卒業研究の進捗状況を発表する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒論計画書に準拠した卒業論文構成の最終確定	章構成や表・図の準備
2.	卒論計画書に準拠した卒業論文構成の最終確定	章構成や表・図の準備
3.	卒論計画書に準拠した卒業論文構成の最終確定	章構成や表・図の準備
4.	卒業論文作成の進捗状況を発表　その1	発表資料の準備
5.	卒業論文作成の進捗状況を発表　その2	発表資料の準備
6.	卒業論文作成の進捗状況を発表　その3	発表資料の準備
7.	卒業論文作成の進捗状況を発表　その4	発表資料の準備
8.	卒業論文作成の進捗状況を発表　その5	発表資料の準備
9.	卒業論文作成の進捗状況を発表　その6	発表資料の準備
10.	卒業論文作成の進捗状況を発表　その7	発表資料の準備
11.	卒業論文作成の進捗状況を発表　その8	発表資料の準備
12.	卒業論文作成の発表　その1	
13.	卒業論文作成の発表　その2	
14.	卒業論文作成の発表　その3	
15.	卒業論文作成の発表　その4	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ゼミ発表に際しては、事前に教員と相談し、発表内容を確認すること。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30%	計画的な作業の進行度で評価する。
個人研究の到達度	70%	研究テーマの独自性や習熟度で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

417810

卒業研究Ⅱ

日下　　菜穂子

授業テーマ:　臨床心理学の実証的研究法を学ぶ

授業の概要:　卒業研究では、具体的に心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本を実践的に学ぶことを授業の目標とします。応用演習Ⅰ・Ⅱで学んだ応用行動分析の基礎理論、行動アセスメントの方法、問題行動への具体的な介入とその効果の測定について、先行研究の検証などを通じて知識と技術を深めます。研究計画に基づいて研究をすすめ、結果を卒業論文としてまとめます。

到達目標:　(1)心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本的な技法を理解し，説明することができる。
(2)心理学的な研究方法の知識を用いて，研究計画を立てて実行することができる。

授業方法:　発表、ディスカッションを中心に授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	データの集め方	文献講読
2.	データの集計法	研究計画実施準備
3.	論文のまとめ方・書き方ガイドライン	研究実施
4.	卒業研究中間報告・ディスカッション	データ収集
5.	卒業研究中間報告・ディスカッション	データ収集・集計
6.	卒業研究・グループ別ディスカッション	データ分析
7.	卒業研究・グループ別ディスカッション	データ分析
8.	卒業研究・グループ別ディスカッション	分析結果考察
9.	卒業研究中間報告2	分析結果考察
10.	卒業研究中間報告2	論文作成・報告準備
11.	卒業研究中間報告2	論文作成・報告準備
12.	卒業研究論文の事前提出・修正	卒業研究論文推敲
13.	卒業研究論文最終提出	卒業研究論文推敲
14.	卒業研究成果報告	卒業研究論文報告準備
15.	全体のまとめ	卒論発表会プレゼンテーション準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　全員毎回出席が原則です。具体的な運用は、担当教員が決めます。

フィードバックの方法:　それぞれの受講生の発表，報告について，授業時間内にコメントをフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	30	心理学的な事象の観察方法、データの収集及び分析といった実証的な研究の進め方と基本的な技法の理解を評価します。
卒業研究論文	70	心理学的な研究方法の知識を用いて，研究計画を立てて実行する力を評価します。

教科書:　小塩真司，西口利文 『質問紙調査の手順』 ナカニシヤ出版

参考書:　無藤隆　他編著(2011)『心理学　第9版』有斐閣

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

417811

卒業研究Ⅱ

三宅　　えり子

授業テーマ:　女性・仕事・リーダーシップ － ジェンダー研究の視座から

授業の概要:　卒業研究論文の完成を目指します。
同時に各自の研究を通して研究方法を修得し、社会のしくみとジェンダー問題に関して専門知見をもとに分析的、批判的思考力を養うことを目標としています。

到達目標:　「学士」の学位にふさわしい研究論文が書けること。

授業方法:　卒業研究論文執筆における個人指導、および発表とディスカッションを中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業目標と授業全体の流れ、研究倫理の確認）	
2.	卒業研究論文のためのデータ収集、およびデータ・事例の執筆	事例となるデータの収集、または資料を読みこなし、事例の執筆をすすめる。
3.	卒業研究論文のためのデータ収集、およびデータ・事例の執筆（継続）	事例となるデータの収集、または資料を読みこなし、事例の執筆をすすめる。
4.	卒業研究論文のためのデータ収集、およびデータ・事例の執筆（継続）	事例となるデータの収集、または資料を読みこなし、事例の執筆をすすめる。
5.	事例の執筆/データ分析、および考察部分の執筆	事例の収集データ、または、資料の情報の集約にとりかかる。
6.	データ分析、および考察部分の執筆（継続）	事例の収集データ、または、資料の情報の集約にとりかかる。
7.	データ分析、および考察部分の執筆（継続）	研究目的の答えを導くために、事例の集約情報に基づき、かつ、理論的枠組の専門知見に照らし合わせながら考察を書き進める。
8.	データ分析、および考察部分の執筆（継続）	研究目的の答えを導くために、事例の集約情報に基づき、かつ、理論的枠組の専門知見に照らし合わせながら考察を書き進める。
9.	結論部分の執筆	考察部分の要約を結論としてまとめる。
10.	卒業研究論文の初稿提出	論文全体を読み返し、推敲する。
11.	卒業研究論文の総括（卒業研究論文執筆を通して学んだこと、気づいたこと）	論文執筆作業プロセスをふりかえり省察する。
12.	卒業研究論文の初稿返却	論文執筆作業プロセスをふりかえり省察する。
13.	卒業研究論文の発表とディスカッション ①	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
14.	卒業研究論文の発表とディスカッション ②	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
15.	卒業研究論文の発表とディスカッション ③	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒業研究論文の執筆は、大学での学問の集大成となります。
達成感が味わえるよう、論文執筆を優先して真剣に取り組みましょう。

フィードバックの方法:　卒業研究論文初稿は、コメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50%	卒業研究論文への意欲的な取組みや発表など
卒業研究論文	50%	論文全体の一貫性、特に、研究目的を論証するための十分な事例、考察における分析力、その他、論文作法など。

教科書:　指定教科書なし

参考書:　授業で適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

417812

卒業研究Ⅱ

長岡　　延孝

授業テーマ:　ヨーロッパ社会モデルと日本の比較研究:卒業研究論文を完成させる

授業の概要:　春学期で準備してきた卒業論文を完成させることが目標となる。各自がテーマに関連する書物や情報を掘り下げ、その成果を報告する。そのさいの議論をも参考にしながら、論文を完成させる。
なお、研究倫理について絶えず確認しながら進める。

到達目標:　大学での学習・研究の集大成として、卒業研究論文をまとめ、ビジネスパーソンとしての能力を固めることを目標とします。

授業方法:　各自が調査研究してきたその成果を報告し、ディスカッションする。その成果を卒論に生かすべく執筆する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	課題について調査、整理しておくこと
2.	研究計画書の提出と確認	課題について調査、整理しておくこと
3.	卒論作成までのプロセスの確認	課題について調査、整理しておくこと
4.	情報交換	課題について調査、整理しておくこと
5.	情報交換	課題について調査、整理しておくこと
6.	プレゼンテーションとディスカッション	課題について調査、整理しておくこと
7.	プレゼンテーションとディスカッション	課題について調査、整理しておくこと
8.	プレゼンテーションとディスカッション	課題について調査、整理しておくこと
9.	プレゼンテーションとディスカッション	課題について調査、整理しておくこと
10.	卒業論文の指導	課題について調査、整理しておくこと
11.	卒業論文の指導	課題について調査、整理しておくこと
12.	卒業論文の指導	課題について調査、整理しておくこと
13.	卒業研究論文集の作成	課題について調査、整理しておくこと
14.	卒業研究発表会の準備	課題について調査、整理しておくこと
15.	二年間にわたる演習の振り返り	課題について調査、整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　二年間にわたる演習の集大成として、卒業論文に取り組んでほしい。

フィードバックの方法:　プレゼンテーションや論文草稿についてコメントを行い、全員で議論する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	課題について調査・整理し、分かりやすく伝えられたか
卒業研究論文	50	課題を適切に設定し、調査・分析・整理し、論理的かつ説得力を持って議論できているか

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール

417813

卒業研究Ⅱ

三宅　　えり子

授業テーマ:　社会保障の国際比較

授業の概要:　卒業研究論文の完成を目指します。
同時に各自の研究を通して研究方法を修得し、社会のしくみとジェンダー問題に関して専門知見をもとに分析的、批判的思考力を養うことを目標としています。

到達目標:　「学士」の学位にふさわしい研究論文が書けること。

授業方法:　卒業研究論文執筆における個人指導、および発表とディスカッションを中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業目標と授業全体の流れ、研究倫理の確認）	
2.	卒業研究論文のためのデータ収集、およびデータ・事例の執筆	事例となるデータの収集、または資料を読みこなし、事例の執筆をすすめる。
3.	卒業研究論文のためのデータ収集、およびデータ・事例の執筆（継続）	事例となるデータの収集、または資料を読みこなし、事例の執筆をすすめる。
4.	卒業研究論文のためのデータ収集、およびデータ・事例の執筆（継続）	事例となるデータの収集、または資料を読みこなし、事例の執筆をすすめる。
5.	事例の執筆/データ分析、および考察部分の執筆	事例の収集データ、または、資料の情報の集約にとりかかる。
6.	データ分析、および考察部分の執筆（継続）	事例の収集データ、または、資料の情報の集約にとりかかる。
7.	データ分析、および考察部分の執筆（継続）	研究目的の答えを導くために、事例の集約情報に基づき、かつ、理論的枠組の専門知見に照らし合わせながら考察を書き進める。
8.	データ分析、および考察部分の執筆（継続）	研究目的の答えを導くために、事例の集約情報に基づき、かつ、理論的枠組の専門知見に照らし合わせながら考察を書き進める。
9.	結論部分の執筆	考察部分の要約を結論としてまとめる。
10.	卒業研究論文の初稿提出	論文全体を読み返し、推敲する。
11.	卒業研究論文の総括（卒業研究論文執筆を通して学んだこと、気づいたこと）	論文執筆作業プロセスをふりかえり省察する。
12.	卒業研究論文の初稿返却	論文執筆作業プロセスをふりかえり省察する。
13.	卒業研究論文の発表とディスカッション ①	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
14.	卒業研究論文の発表とディスカッション ②	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。
15.	卒業研究論文の発表とディスカッション ③	発表を傾聴し、積極的にディスカッションに参加する態度をもつ。発表準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒業研究論文の執筆は、大学での学問の集大成となります。
達成感が味わえるよう、論文執筆を優先して真剣に取り組みましょう。

フィードバックの方法:　卒業研究論文初稿は、コメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50%	卒業研究論文への意欲的な取組みや発表など
卒業研究論文	50%	論文全体の一貫性、特に、研究目的を論証するための十分な事例、考察における分析力、その他、論文作法など。

教科書:　指定教科書なし

参考書:　授業で適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

417814

卒業研究Ⅱ

大倉　　真人

授業テーマ:　日常生活におけるリスクマネジメントと保険

授業の概要:　リスクマネジメントおよび保険は、意識しているか否かはさておき、日常生活の中で数多く登場している。例えば地震について考えると、地震で建物が倒壊しないように耐震補強工事をしたり、地震が起こったときに備えて避難訓練を行ったりすることなどは地震に対するリスクマネジメントとして考えられる。また、火災保険や自動車保険についてみると、一人暮らしの人だと火災保険に、車や原付を持っている人だと自動車保険に実際に入っているケースが少なくない。さらに、医療保険や年金保険などは、病気になったときや老後の生活を支える重要な手段となっている。また最近では、女性特有の病気に対して手厚い保障を行う保険なども登場している。
本講義では、このように日常生活の中で数多く登場するリスクマネジメントや保険について考えていく。

到達目標:　リスクマネジメントや保険がどのような役割を担っているのか、どのような問題を抱えているのか、などについて学習することを通じて、リスクマネジメントや保険にかかる知識を修得することおよびそれらの知識を使ってプレゼンテーションできるようになることを目標とする。

授業方法:　主として卒業論文作成のための発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解
2.	卒業研究にかかる発表（1）	「卒業研究」の準備
3.	卒業研究にかかる発表（2）	「卒業研究」の準備
4.	卒業研究にかかる発表（3）	「卒業研究」の準備
5.	卒業研究にかかる発表（4）	「卒業研究」の準備
6.	卒業研究にかかる発表（5）	「卒業研究」の準備
7.	卒業研究にかかる発表（6）	「卒業研究」の準備
8.	卒業研究にかかる発表（7）	「卒業研究」の準備
9.	卒業研究にかかる発表（8）	「卒業研究」の準備
10.	卒業研究にかかる発表（9）	「卒業研究」の準備
11.	卒業研究にかかる発表（10）	「卒業研究」の準備
12.	卒業研究にかかる発表（11）	「卒業研究」の準備
13.	卒業研究発表会にかかる準備（1）	「卒業研究発表会」の準備
14.	卒業研究発表会にかかる準備（2）	「卒業研究発表会」の準備
15.	総括	全体の振り返り等

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中において、担当教員が適宜コメントすることで、発表の内容についてのフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究の発表	20	卒業研究の発表より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度およびそのプレゼンテーションによって評価する。
卒業論文	40	卒業論文より、リスクマネジメントや保険にかかる知識の修得の程度を評価する。
授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなど、議論の活発化にどの程度貢献しているかによって評価する。
卒業研究発表会での発表	20	学科で行われる卒業研究発表会における発表の内容等によって評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

417815

卒業研究Ⅱ

大西　　秀之

授業テーマ:　多文化社会の諸問題を調査・分析する

授業の概要:

本演習では、前期までの学習を踏まえ、卒業研究論文の作成に取り組みます。具体的には、まず各自のテーマと計画に関連する先行研究のレビューを行います。先行研究のレビューは、卒業研究論文の作成のみにとどまらず、それぞれが関心のある現代社会の諸問題をより深く理解するため、人類学のみならず幅広い分野から多様な研究を取り上げ学習する予定です。

以上のような学習は、自らの視点でグローバル化する多文化社会の諸問題を読み解く力を身につけることを意図して行います。その集大成として、一人ひとりの受講生が卒業研究論文を完成・執筆することを最終的な目的とします。

到達目標:

・社会科学的な方法と目的に基づく卒業研究論文の制作・執筆。
・自らの研究内容を第三者に説得的に説明できる表現力と文章力を身に付ける。
・社会責任としてグローバルに通用する研究倫理を確認し習得する。

授業方法:

演習形式
・毎回の授業では、各受講生が卒業研究論文を執筆するための学習を行います。
・受講生の数によりますが、各人が最低1～2回は途中経過の報告・発表を担当していただく予定です。
・最終的に全員に卒業研究論文の内容発表をしていただきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
2.	先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
3.	先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
4.	先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
5.	先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
6.	先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
7.	先行研究のレビュー	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
8.	卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
9.	卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
10.	卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
11.	卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
12.	卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、事前に割り振られたパートナー＆グループ単位で議論を深めるようにしてください。自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、プレゼンテーションを作成しておいてください。
13.	卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、卒業論文を執筆し完成させてください。
14.	卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、卒業論文を執筆し完成させてください。
15.	卒業研究論文の作成	卒業論文計画に対して受けたコメントなどに基づき、自ら調査データを分析し結論まで導いた上で、卒業論文を執筆し完成させてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本演習の受講生は、自分ひとりの問題関心のみに閉じこもることなく、他の受講生の研究テーマについてもその意義を共有し、自らの問題と同じように理解・考察することを意識してください。またそうした理解と考察を積極的に自分自身の研究に結び付けて考えるためにも、積極的にディスカッションなどに参加してください。

フィードバックの方法:

・各回の個別のプレゼンテーションとディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・最終回に各受講生に対して総評と評価を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	卒業研究論文	80%	論文は、到達目標である「社会科学的な方法と目的」に基づいた卒業研究論文が制作できているか、またその内容を「第三者に説得的に説明できる表現力と文章力」で執筆できているか評価します。
	授業への参加度	20%	到達目標である「社会科学的な方法と目的」を積極的に理解し習得しようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己実現力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

417816

卒業研究Ⅱ

大津　　正和

授業テーマ:　観光に関連する産業または地域に関する経営学的研究

授業の概要:　研究テーマは抽象的なものではなく、観光に関連する産業または地域の活動などに即して研究できるテーマであることが望ましい。そうして選んだテーマについて、受講生それぞれが自主的な調査・研究をおこない、その成果を発表する。さらに、観光に関連する産業または地域に関するオリジナルの情報を収集し、それに基づいた考察を行って卒業論文を作成する。

到達目標:　適切な研究テーマを選択できるか。緩急テーマに関連した情報を適切に収集できるか。研究テーマに対して、適切な研究手法を選択し、実施できるか。自律的に計画を立てて、卒論研究に取り組っみ、卒業論文の形にまとめらめるか。

授業方法:　演習　卒業論文作成に向けて、各自が自律的に活動するとともに、教室で発表することによって、刺激し合いながら、より良い卒業論文に向けて活動する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文に向けてのガイダンス	夏休みの間に進めた研究についてまとめてくる
2.	各自のテーマについて進捗状況の発表	夏休みの間に進めた研究についてまとめてくる
3.	第1次個別発表　1	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
4.	第1次個別発表　2	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
5.	第1次個別発表　3	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
6.	第1次個別発表　4	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
7.	第1次個別発表　5	これまで進めてきた研究について、卒業論文にまとめることを視野に、筋立てや考察についての報告を準備してくる
8.	第1次個別発表　ふりかえり	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
9.	第2次個別発表　1	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
10.	第2次個別発表　2	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
11.	第2次個別発表　3	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
12.	第2次個別発表　4	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
13.	卒業論文提出	個別発表での際に受けたアドバイスに基づいて研究を進め、卒業論文完成へと作業を進める
14.	卒業研究発表会への準備	提出した卒業論文の内容をまとめ、卒業研究発表会の準備を進める
15.	卒業研究発表会への準備	提出した卒業論文の内容をまとめ、卒業研究発表会の準備を進める

受講者へのメッセージやアドバイス:　就職活動等により、出席が困難なときも連絡を怠らず、可能な限り出席するようにしてください。また、卒業論文作成を進めるためにも、できるだけ多く、観光に関連する産業または地域に関する現状を見学したり、報道等の各種情報を収集したりすること。

フィードバックの方法:　報告に対しては、教室で。また進捗状況をマナビーで報告したものに対しては、マナビーで対応する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	40	卒論テーマに基づいた調査・考察、自律的に計画を立てて進めているか、他者の発表に有益なコメントをしているかといった程度
卒業論文	60	卒論テーマの設定、適切な情報収集、適切なアプローチの選択、アドバイスやコメントを適切に取り入れて、卒論が作成できたかどうかの程度

教科書:

参考書:　適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

417817

卒業研究Ⅱ

L.Rogers

授業テーマ:

Leadership & Diversity

授業の概要:

This seminar is a continuation of the third year and spring Diversity and Leadership Skills seminar
The aims are for students to use leadership skills to do the following:
1) Actively do research and produce a final project reporting their research findings. Students will do research and gather information in Japanese and English; however, their final report will be in a more widely understood English format.
2) Organize a group learning activity
3) Present research project findings inside and outside the university

到達目標:

Upon completion of this course, students will understand and be able to do research and produce a final project reporting their research findings. They will also be able to practice leadership skills from their third year.

授業方法:

Students will participate in group discussions and give research project updates, while doing outside research. Students will also be required to do a presentation of their research outside the seminar.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Discuss course and research project guidelines	Reading and note-taking and preparation for graduation research project
2.	Review research skills	Writing graduation research project paper
3.	Discuss presenting research as research papes and presentations	Writing graduation research project paper
4.	Review how to write a research paper	Writing graduation research project paper
5.	Discuss research projects	Writing graduation research project paper
6.	Organizational skills: begin organizing seminar activities	Writing graduation research project paper
7.	Discuss research projects updates and seminar activities	Writing graduation research project paper
8.	Discuss research projects updates and seminar activities	Writing graduation research project paper
9.	Discuss research projects updates and seminar activities	Editing and rewriting graduation research project
10.	Research project and activity planning updates	Editing and rewriting graduation research project
11.	Research project and activity planning updates	Editing and rewriting graduation research project
12.	Research project and activity planning updates	Editing and rewriting graduation research project
13.	Finisng final research project and activity planning updates	Editing and rewriting graduation research project
14.	Research project Presentations	Reading and giving feedback on graduation research projects
15.	Wrap-up and discuss remaining course goals and seminar activities	Reading and giving feedback on graduation research projects

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students will be required to give weekly progress updates on their graduation projects and activity projects and give feedback to other students. They will do this through class discussions on campus and online and through presentations.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final Research Project	50%	Research project and progress updates
Group discussion & presentations	30%	Active participation in class and online, outside presentation
Seminar activity organization	20%	Planning and organization of a group learning activity

教科書:

No Textbook

参考書:

Will be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

417818

卒業研究Ⅱ

才藤　　千津子

授業テーマ:　現代日本における「ケア」の問題～人を支える関係づくり

授業の概要:　春学期の「卒業研究I」の学びによって得られた成果をふまえて、各自の研究テーマをさらに深め、卒業論文を制作する作業を行います。
卒業研究Iでの学びを基にして卒業論文を書き上げ、最終的にパワーポイントを使って発表します。そのために、授業での発表とディスカッション、教員の個別指導、受講生同士の助け合いを組み合わせて授業を進めます。

到達目標:
（1）卒業論文を完成させます。
（2）パワーポイントを使って授業でその成果を発表します。
（3）社会システム学科卒業研究発表会においてポスター発表をするための準備をします。

授業方法:　演習形式。ゼミ生が各自の研究テーマにそって個別に進行状況を報告し、受講者全員で発表の内容についてディスカッションを行います。教員は、学生の発表の際にアドバイスをすることに加えて、必要に応じて個別指導をします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション―今学期のスケジュール確認、発表の順番を決める	
2.	卒業研究の様式について 卒業研究個別指導①	卒論制作についての疑問点を整理してくる
3.	卒業研究個別指導②	卒論制作についての疑問点を整理してくる
4.	卒業研究個別指導③	卒論制作についての疑問点を整理してくる
5.	発表（卒論中間報告）①	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
6.	発表（卒論中間報告）②	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
7.	発表（卒論中間報告）③	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
8.	発表（卒論中間報告）④	卒論作成経過について人数分のレジュメを作り、発表の準備をする
9.	卒業研究個別指導④	卒論制作についての疑問点を整理してくる
10.	卒論第１次締切―卒業論文の様式を再確認し、受講生同士で卒論を推敲し合う	卒論を書き上げ、１部印刷して持ってくる
11.	最終発表①	卒論をパワーポイントを使って発表するための準備をしてくる
12.	最終発表②	卒論をパワーポイントを使って発表するための準備をしてくる
13.	最終発表③	卒論をパワーポイントを使って発表するための準備をしてくる
14.	最終発表④	卒論をパワーポイントを使って発表するための準備をしてくる
15.	社会システム学科卒業研究発表会の準備	卒論発表会のためにポスターを作ってくる

受講者へのメッセージやアドバイス:
・卒論制作のために自主的に準備を進めてください。教員はそのプロセスを支援します。
・授業で使う資料はマナビーに掲示します。事前に必ず読んで来てください。

フィードバックの方法:　教員は、授業中にアドバイスをすることに加えて、主にマナビ―を通じて個別指導をします。常にマナビーの掲示やマナビーを通じての連絡に注意していてください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30	クラスの出席と中間発表、授業への積極的参加度により評価する。
最終発表	20	卒業論文に対する取り組み方と達成度によって評価する。
卒業論文	50	卒業論文の内容によって評価する。

教科書:　なし

参考書:　各自のテーマについて必要と思われる資料や文献を紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビ―を利用する他、メールcsaito@dwc.doshisha.ac.jpで連絡を取れるようにします。

417819

卒業研究Ⅱ

朱　　捷

授業テーマ:　自分の言葉で卒論を書こう

授業の概要:　応用演習にひきつづき、総合的に五つのポイント(情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力)でのレベルアップを図る。具体的な成果として、応用演習をふまえて、各自研究テーマを決め、自分の視点で調べ、自分の言葉で独創性のある卒業論文の完成を目指す。

到達目標:
〇情報収集力・情報分析力・問題発見力・問題解決力・プレゼン力でのレベルアップ
〇卒論完成

授業方法:　教員はあくまでアドバイザーに徹し、ゼミ生の自主研究とグループ研究を奨励する。自己評価と相互評価を取り入れて、自己管理力・自己実現力を磨いていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
2.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
3.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
4.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
5.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
6.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
7.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
8.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
9.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
10.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
11.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
12.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
13.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
14.	読書・発表・ディスカッション	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする
15.	総括	自由研究の本を読み、週間報告書を書き、発表の準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうか、ゼミのディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

417820

卒業研究Ⅱ

鈴木　　尊明

授業テーマ:　民事法学の総合問題

授業の概要:

卒業論文の執筆はとても楽しいものです。難しい資料を分析し、自分の考えをまとめ、長い文章を書くということに苦痛を感じる人は多いですが、「自由にできる」という1点において、卒業論文の執筆は楽しいものだと思います。

テーマは民事法学ですから、教員の専門である民法（特に財産法分野）に関連したものが中心になるかと思いますが、家族法、消費者法、商法、民事手続法に関連したものでもよいでしょう。さらに、興味というのは「育てるもの」ですから、勉強していく中で徐々に変わっていく可能性もあります。それにも対応しながら、これまで学んできた内容を縦横に使いこなしてもらいたいと考えています。

「卒業研究Ⅱ」では、「卒業研究Ⅰ」で決定したテーマに基づいて執筆を進めてきた卒業論文について、各受講者に報告してもらい、討論を通じてブラッシュアップしていくこととなります。目標は、当然、卒業論文の完成です。

到達目標:　〇「卒業研究Ⅰ」を通じて洗練した問題意識に基づき、卒業論文を完成させる。

授業方法:　口頭発表と成果物の添削

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。	
2.	卒業論文中間報告（1）	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。
3.	卒業論文中間報告（2）	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。
4.	卒業論文中間報告（3）	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。
5.	卒業論文中間報告（4）	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。
6.	卒業論文中間報告（5）	計画書からどの程度進展したか、レジュメを準備する。
7.	卒業論文執筆（1）	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。
8.	卒業論文執筆（2）	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。
9.	卒業論文執筆（3）	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。
10.	卒業論文執筆（4）	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。
11.	卒業論文執筆（5）	内容面だけでなく、学術論文としての形式面にも気を配って執筆する。
12.	卒業論文完成	
13.	卒業論文の発表と評価（1）	各自の卒業論文を、卒業研究発表会にてどのようにプレゼンするか考えてくる。
14.	卒業論文の発表と評価（2）	各自の卒業論文を、卒業研究発表会にてどのようにプレゼンするか考えてくる。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」ことと「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの方法:

発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	100	卒業論文のみで評価します。しかし、執筆にあたっては、何度も発表し、そこでの指摘を踏まえて何度も書き直すという作業が必要になります。結果として、良い卒業論文は、平常時から一生懸命取り組んできた姿勢の延長にあります。そのため、これまでと同様、「平常時の取り組み」によって評価することには変わりありません。

教科書:　六法　（どのようなものでも良いです）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

417821

卒業研究Ⅱ

谷　　直之

授業テーマ:　刑事法学の諸問題（医療と法、被害者学を含む）

授業の概要:　刑法解釈学、刑事訴訟法学、医療と法、被害者学の各領域から各受講者が選択したテーマを卒業論文にまとめるため、卒業研究Iで行った中間報告をふまえ、卒業論文の構成を意識した第2段階の中間報告を行ってもらいます。その上で、10月中に論文形式にまとめて提出してもらい、担当者が目を通した上で適宜指導を行い、各人に一旦返却し、個別的に指導した点をふまえて、12月中の論文完成を目指します。研究倫理についても、あらためて指導します。
　そのほか、刑事法学の諸問題について、ディスカッションを行います。

到達目標:　各自が卒業論文のテーマついて選択したテーマに関する正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できること。
当該テーマについての正しい知識に基づいて、明確な問題意識を持ち、論理的な考察を行い、自分の意見を持つこと。
自分の意見・主張を、論理的な文章で、学術論文という形で表現できること。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	卒業研究Ｉで指示した卒業論文作成に向けた課題を作成して提出すること。
2.	論文作成指導 研究倫理指導	授業中に指導した内容に沿って、卒業論文の作成を進めておくこと。
3.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、第2次の中間報告の準備を行うこと。
4.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習しておくこと。 各自で、考察を進め、第2次の中間報告の準備を行うこと。
5.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
6.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
7.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
8.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
9.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
10.	中間報告・指導	各自で、考察を進め、中間報告の準備を行うこと。 中間報告後は、報告の際に指示した内容を参考に、各自で資料の収集と整理および考察を進めておくこと。
11.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習し、自分の意見を準備しておくこと。
12.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習し、自分の意見を準備しておくこと。
13.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習し、自分の意見を準備しておくこと。
14.	ディスカッション	授業中に指示したテーマについて、事前に学習し、自分の意見を準備しておくこと。
15.	総括と指導	卒業論文の内容について、卒業研究発表会用のパネル作成を進めておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備をしておくことが大切です。刑事法的な問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っていきましょう。

フィードバックの方法:　マナビーを活用して、個別に指導します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文・中間報告	80	到達目標にある、各自が卒業論文のテーマついて選択したテーマに関する正確な情報・文献を、複数の信頼できる情報源から収集できているかどうか、当該テーマについての正しい知識に基づいて、明確な問題意識を持ち、論理的な考察を行い、自分の意見を持っているかどうか、自分の意見・主張を、論理的な文章で、学術論文という形で表現できているかどうかを基準とする。
授業への参加度	20	到達目標にある、正確な情報・文献をもとに、自分の意見を持っているかどうか、建設的な議論において、自分の意見・主張をきちんと表現できているかどうかを基準とする。

教科書:

参考書:　各自のテーマについて、個別に指導します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

417822

卒業研究Ⅱ

山田　　邦和

授業テーマ:　京都の歴史と歴史遺産

授業の概要:　教室内での作業、受講生の発表と討論（参加者全員が必ず発言できるようにすること）。

到達目標:　卒業研究Iを受けて、受講生それぞれが研究を深め、卒業論文を完成させる。

授業方法:　教室内での作業、受講生の発表と討論（参加者全員が必ず発言できるようにすること）。研究テーマは抽象的なものではなく、京都の史跡、寺社、町屋、考古学的遺跡などにの即して研究できるテーマであることが望ましい。そうして選んだテーマについて、受講生それぞれが自主的な調査・研究をおこない、その成果を発表する。学期末には、卒業論文（16,000字以上）を提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文に向けての進め方	夏季休暇中に「プレ卒論」を書く。
2.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
3.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
4.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
5.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
6.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
7.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
8.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
9.	卒論発表	自分なりの研究テーマについてレジュメを作り、説明できるようにしておく。
10.	個別指導	自分の研究の問題点をまとめ、質問できること。
11.	個別指導	自分の研究の問題点をまとめ、質問できること。
12.	個別指導	自分の研究の問題点をまとめ、質問できること。
13.	個別指導	自分の研究の問題点をまとめ、質問できること。
14.	卒業論文提出	卒業論文を完成させておく。
15.	ゼミのまとめ	卒業論文の内容をまとめなおす。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びペーパー提出	20	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
卒業論文	80	研究内容を適切にまとめ、論理的に説明した内容の卒業論文を完成させる。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

417823

卒業研究Ⅱ

福本　　俊樹

授業テーマ:

「働くこと、生きること」についての卒業論文の執筆

授業の概要:

本演習では、卒業論文の執筆に取り組みます。これまでに学習してきた組織行動論、組織論（およびそれに関連する領域）の学術的な考え方、調査方法に基づき、「働くこと、生きること」に関する諸問題を深く考察します。その上で、学生一人ひとりが自身のキャリアを歩む上での指針を導き出すことをねらいとしています。

到達目標:

（1）組織行動論、組織論（およびその関連領域）の学術的な考え方、調査方法を習得すること
（2）「働くこと、生きること」に関して、自ら問題を設定し、深く考察した上で、自身のキャリアにとっての指針を導き出すこと
（3）研究成果のプレゼンテーションや他者の発表へのコメントを通じ、グループでうまくディスカッションできるようになること

授業方法:

演習形式で、発表・ディスカッションを中心に授業を行います。具体的には、学生が各自の卒業研究の進捗について報告し、それに対して他の学生がコメント・アドバイスをするとともに、教員が適宜指導を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	卒業研究の進捗についての簡単な報告準備
2.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（1）	卒業論文の進捗についての報告準備と、当日にもらったコメントへの対応
3.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（2）	同上
4.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（3）	同上
5.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（4）	同上
6.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（5）	同上
7.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（6）	同上
8.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（7）	同上
9.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（8）	同上
10.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（9）	同上
11.	卒業論文の進捗報告・ディスカッション（10）	同上
12.	卒業論文の提出	卒業論文の提出に向けた仕上げ
13.	卒業論文の発表（1）	各自、発表用のPPTスライド、配布資料を準備してくる
14.	卒業論文の発表（2）	同上
15.	卒業論文の発表（3）	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:

卒業研究は、「ひとり」でやるものですが、「孤独」でやるものではありません。第一に、自分の卒業研究については自分が責任を持って完成させること、第二に、他の学生の卒業研究はできるかぎりサポートすること、の二点を意識して取り組んでください。

フィードバックの方法:

各自の進捗について、授業中にコメントをします。
卒業論文は12月末に一度提出してもらいます。それにコメントを入れたものを1月初旬には返却しますので、その後、1月末をめどに、卒業論文の完成稿を再提出してもらいます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文の内容	60%	到達目標（1）（2）がどの程度達成できているかによって評価します
ディスカッションへの参加	40%	到達目標（3）がどの程度達成できているかによって評価します

教科書:

戸田山和久『新版 論文の教室 レポートから卒論まで（NHKブックス）』NHK出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

卒業論文の添削等については、E-mailでも受け付けています。

418900

ヨーロッパ地域文化論Ⅰ

服部　　尚己

授業テーマ:　もう一つのヨーロッパ、ハプスブルク文化を知る

授業の概要:　ヨーロッパの中心的な歴史と文化をつむいできたハプスブルク家の変遷を受講生各自の発表（一人15分）によってたどりながら、その功績を全員で考察してゆきたい。その文化と歴史を検討することにより、現代のドイツ・オーストリアの文化のより深い理解が可能となると考える。

到達目標:　ハプスブルク家の歴史と文化についての基本的な知識の獲得を目指す。またその歴史と文化についてどの分野でもいいので、より深めた内容の知見を獲得することを目指す。各自15分の発表またはレポート提出でその知見の獲得を目指す。

授業方法:　講義形式であるが、ビデオなども用いてより深い理解につながるよう工夫している。またオペラやオペレッタについてもビデオ・DVD等で鑑賞したい。授業の終わりに前回の部分を含めた授業の内容に関してその理解度をはかる小レポートを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オーストリアとは何か（ヨハン・ネストロイの作品）とビーダーマイヤー文化	
2.	ビーダーマイヤー文化について（シューベルトとベートーベンの時代）	前回の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
3.	ウィーン三月革命	
4.	オペレッタの時代（ヨハン・シュトラウス「こうもり」を聴く）	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
5.	神聖ローマ帝国の始まり（受講生の発表）	発表の準備
6.	大空位時代とカール5世の治世（受講生の発表）	発表の準備
7.	ルードルフ2世と30年戦争（受講生の発表）	発表の準備
8.	30年戦争とウェストファリア条約の研究（受講生の発表）	発表の準備
9.	ハプスブルク家の始まりに遡る（受講生の発表）	発表の準備
10.	マリア・テレジアとその娘たち（受講生の発表）	発表の準備
11.	皇帝フランツ・ヨーゼフとフランツ・フェルディナント（受講生の発表）	発表の準備
12.	世紀末ウィーン文化（1）	
13.	世紀末ウィーン文化（2）	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
14.	現代オーストリアと中欧の復活（リヒァルト・シュトラウス「ばらの騎士」を見る）	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　ハプスブルクの文化に関心を持つことが何より重要である。課題として出されたテーマに関して発表またはレポート提出が求められる。そして最後に、定期試験において授業内容を理解したかを確認する試験をするので、授業中に使用したプリントを毎回復習しておく必要がある。

フィードバックの方法:　小レポートおよびコメントペーパーに関しては教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	ハプスブルクの文化に関する基礎的な知識を身に着けたかどうかを評価する
発表またはレポート	20%	特定のテーマに関して理解をより深めることができたかどうかを判定する
平常点（出席および小レポート）	30%	準備学習をして授業に臨めたかどうかを判定する

教科書:
菊池良生「神聖ローマ帝国」（10冊）
菊池良生「戦うハプスブルク家」（10冊）
菊池良生「ハプスブルク家の女たち」（10冊）

各自どれか一冊を購入してください

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して

419000

ヨーロッパ地域文化論Ⅱ

服部　　尚己

授業テーマ:　ヨーロッパ文化の特質は何か

授業の概要:　ヨーロッパ文化の特質とは何なのか、この点を歴史、言語、文学、思想および社会などの観点から追ってゆく。話の中心はドイツになるが、そこからヨーロッパの全体像も映し出せたらというのがこの授業の目標である。また話は当然、日本の文化との比較にもおよぶ。

到達目標:　ヨーロッパの文化の多面性についての基本的な知識の獲得を目指す。そしてどの分野でもいいので、より深めた内容の知見を獲得することを目指す。

授業方法:　講義形式であるが、授業の終わりに前回の部分を含めた授業の内容に関してその理解度をはかる小レポートを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ヨーロッパとは何か（古代ローマ文化の影響）	
2.	ヨーロッパとは何か（文化を風土から理解する）	前回の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
3.	言語から見るヨーロッパ（日本語とヨーロッパ語のちがい）	
4.	文学から見るヨーロッパ（ロマン主義とは何か）	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
5.	文学から見るヨーロッパ（ブレンターノからミヒァエル・エンデまで）	
6.	メルヒェンから見るヨーロッパ（グリム童話と女性たち）	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
7.	メルヒェンから見るヨーロッパ（グリム童話の分析１）	
8.	メルヒェンから見るヨーロッパ（グリム童話の分析２）	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
9.	哲学から見るヨーロッパ（デカルト・カント・ルソー）	
10.	社会から見るヨーロッパ（ドイツの環境対策について）	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
11.	社会から見るヨーロッパ（ヨーロッパの家族制度）	
12.	社会から見るヨーロッパ（ドイツの教育制度について）	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
13.	歴史から見るヨーロッパ（カール大帝の登場）	
14.	歴史から見るヨーロッパ（フリードリヒ１世と2世）	過去二回分の授業のプリント部分を復習してから授業に臨むこと
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　ヨーロッパの文化に関心を持つことが重要である。課題として出されたテーマに関してレポート提出が求められる。そして最後に、定期試験において授業内容を理解したかを確認する試験をするので、授業中に使用したプリントを毎回復習しておく必要がある。

フィードバックの方法:　小レポートおよびコメントペーパーに関しては教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	ヨーロッパの文化に関する基礎的な知識を身に着けたかどうかを評価する
レポート	20%	特定のテーマに関して理解をより深めることができたかどうかを判定する
平常点（出席および小レポート）	30%	準備学習をして授業に臨めたかどうかを判定する

教科書:　プリントを配布する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して

420700

高齢者心理学

日下　　菜穂子

授業テーマ:　高齢者の生活と心理への理解を深める

授業の概要:　わが国では急速に高齢化が進展しています。人生の3分の1を占めるまでに老年期が延長され、高齢者のライフスタイルは多様化しています。そして超高齢者の増加により、加齢に伴うさまざまな問題が取り上げられるなど、誰もが高齢社会の波を日常生活の中で身近に感じていることと思います。
この授業では、その老年期を「よりよく生きる」とはどういうことかを考えるために、高齢者の生き方に多次元的に接近します。まず心身の加齢変化といった心理的側面から高齢者を知ることから出発し、高齢者を取り巻く社会全体の動きを学際的に概観します。
その過程で、今後の高齢者の生き方や高齢社会に向けての問題意識を深めます。

到達目標:　長寿社会においてよく生きる人間生活全般にわたる生き方を，複眼的な視点から理解することができる。
加齢の心理的側面を理解し、社会・環境と関連づけて説明することができる。
長寿社会の課題を理解し，その問題解決について関心を持って考えることができる。

授業方法:　講義形式。身近にある高齢者の生活に関するさまざまな事例や資料をとりあげ、意見交換や演習を講義に交えながらすすめていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	高齢時代の到来と社会の対応	テキスト・資料の講読
2.	人は年をとるとどうなるのか：身体機能	テキスト・資料の講読
3.	人は年をとるとどうなるのか：記憶・知能	テキスト・資料の講読
4.	人は年をとるとどうなるのか：感情	テキスト・資料の講読
5.	サクセスフル・エイジングからワンダフルエイジングへ	テキスト・資料の講読
6.	老年期のパーソナリティ発達	テキスト・資料の講読
7.	老年期の心理的問題：認知症	テキスト・資料の講読
8.	認知症の症状と対応	テキスト・資料の講読
9.	高齢者を介護する家族	テキスト・資料の講読
10.	認知症高齢者の介護	テキスト・資料の講読
11.	老年期の心理的問題：うつ・不安	テキスト・資料の講読
12.	高齢者の心理アセスメント	テキスト・資料の講読
13.	地域における高齢者の心理的支援：認知行動療法	テキスト・資料の講読
14.	地域における高齢者の生きがい創造	テキスト・資料の講読
15.	総括	最終レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポートの講評を授業時間内に教室でフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	50	長寿社会における高齢期の適応に関する諸理論および、加齢の心理的側面の社会・環境との相互作用の理解度および，長寿社会の課題解決の提案の考究の深度を評価基準とします。
中間レポート	50	長寿社会における高齢期の生き方への関心と理解度を評価基準とします。

教科書:　大川一郎他（編）、『シリーズ生涯発達心理学　エピソードでつかむ老年心理学』 、ミネルヴァ書房.

参考書:　日下菜穂子（著）、『ワンダフル・エイジング：人生後半を豊かに生きるポジティブ心理学』、ナカニシヤ出版.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業時間前後に教室で対応します。

420801、02

生涯発達心理学

日下　　菜穂子

授業テーマ:　生涯にわたる心理的発達のプロセスを学ぶ

授業の概要:　人は、受胎から死に至るまでの一生にわたって発達し続ける存在です。この授業では生涯発達の視点に立って、乳幼児期から高齢期までの生涯にわたる発達について講義します。この授業の目的は、胎児期、乳児期、幼児期、児童期、青年期までの獲得を中心とするいわゆる進歩的発達の特徴を知るとともに、成人期、老年期の喪失を伴う発達の特徴についても理解することです。そのために、気質、感情、対人関係、自己意識、思考などの諸相における発達の過程を概観します。また、子どもの発達障害、小学校での配慮を必要とする児童の支援、中年期から老年期の適応などの問題について生涯発達臨床の観点から解説し、配布資料やビデオなどを教材として授業を行います。

到達目標:　生涯発達の視点から、乳幼児期から高齢期までの一生にわたる心理的側面の発達的変化を理解し、説明することができる。人が社会の中で他者や状況と関わりながら変化する過程を知り，現代社会のキャリア形成の諸問題に関連づけて理解することができる。

授業方法:　主に講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	現代社会と生涯発達	資料講読
2.	生涯発達の過程:人間は変化する	テキスト・資料講読
3.	愛着	テキスト・資料講読
4.	言葉の生涯発達	テキスト・資料講読
5.	認知の生涯発達	テキスト・資料講読
6.	感情の生涯発達	テキスト・資料講読
7.	遊びと社会性	テキスト・資料講読
8.	軽度発達障害	テキスト・資料講読
9.	パーソナリティの生涯発達	テキスト・資料講読
10.	アイデンティティの生涯発達	テキスト・資料講読
11.	親密性の生涯発達	テキスト・資料講読
12.	成人期の危機	テキスト・資料講読
13.	中年期から老年期への移行	テキスト・資料講読
14.	生涯発達の視点からの老年期の発達	テキスト・資料講読
15.	まとめ	授業内容全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業のまとめとして行う試験については教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	生涯発達の視点の理解度、心理的諸側面の発達的変化を論理的に説明できるか，キャリア形成の諸問題について生涯発達の視点から複合的に理解し説明できるかを基準とする。

教科書:　福本俊・西村純一共著、発達心理学、ナカニシヤ出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業時間の前後に教室で対応します。

420900

Tourism, Culture, and Technology Ⅰ

R.H.S.Wong

授業テーマ:

授業の概要:

This course is thematic based. It focuses mainly on tourism and the cultural aspects of selected countries around the world. Where appropriate, the impact of technology on tourism is also explored. There are two central themes in this course. In the first half of the course more popular aspects of tourism are examined and discussed in class. In the second half of the course, the focus will shift to World Heritage Sites and issues related to their promotion and management as tourist destinations.

到達目標:

This course aims to broaden the students' awareness of some popular sub-categories of tourism, the impact that technology has had on people's modern day travels, and to critically examine the management issues related to the UNESCO World Heritage Sites. Students who have a strong interest in exploring other cultures, like travelling, and enjoy learning using a combination of traditional and online resources are encouraged to apply for this course.

授業方法:

This is a seminar or workshop style of class with regular interaction between the instructor and students as well as cooperative group work amongst the students.

The class will be held in a computer classroom where students use the computer and the internet for research and to complete some of the course activities. Each class starts with a short discussion based on either reading passages with some questions or audiovisual materials with a simple listening worksheet distributed in the previous class. All handouts and worksheets are in English. Instructions and review of homework are done in English. However, the students are encouraged to use a combination of English and Japanese when working together in class.

After the discussion, the students will prepare for their projects using the computers. Around 25 to 30 minutes of class time is allotted to this. The rest is to be done for homework. The students are expected to submit components of their project work in Weeks 5, 7, 13, and 14. The project work has two parts: a written report and a presentation component. In Project 1, each student will present their original escorted tour and submit a report explaining the choices behind the travel itinerary. In Project 2, each student will present about one UNESCO World Heritage Site and a similar heritage site on the Tentative List to their classmates in small groups (max. four students). They will also submit an individual report about the heritage sites chosen.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Culinary Tourism I	The students are expected to do some initial planning and research for Project 1, which starts from Week 2. In addition, the students are expected to read the distributed handouts for Week 2 and complete the related worksheet for homework before the next class.
2.	Independent Travel vs Escorted Tours	The students are expected to read the distributed handouts for Week 3 and complete the related worksheet for homework before the next class. In addition, the students have to complete their Project 1 Outline for submission in Week 3's class.
3.	Culinary Tourism II	The students are expected to read the distributed handouts for Week 4 and complete the related worksheet for homework before the next class.
4.	Arts Tourism	The students are expected to read the distributed handouts for Week 5 and complete the related worksheet for homework before the next class. In addition, the students have to finish their Project 1 Report for submission in Week 5's class.
5.	Festival and Events Tourism	The students are expected to read the distributed handouts for Week 6 and complete the related worksheet for homework before the next class.
6.	e-Tourism	The students are expected to work on their Power Point slides for Project 1's Presentation. They must be completed and uploaded to Manabi before the start of class on their assigned presentation day in either Week 7 or 8.
7.	Project 1 Presentations	The students who are giving their presentations in Week 7 are expected to prepare for and practise their presentation during the week before the class in Week 7.
8.	Project 1 Presentations	The students who are giving their presentations in Week 8 are expected to prepare for and practise their presentation during the week before the class in Week 8. In addition, all the students are expected to read the distributed handouts for Week 9 and complete the related worksheet for homework before the next class.
9.	Heritage Tourism	The students are expected to read the distributed handouts for Week 10 and complete the related worksheet for homework before the next class.
10.	UNESCO World Heritage Site Designation UNESCO World Heritage Sites In Japan	The students are expected to read the distributed handouts for Week 11 and complete the related worksheet for homework before the next class.
11.	UNESCO World Heritage Sites Outside of Japan	The students are expected to read the distributed handouts for Week 12 and complete the related worksheet for homework before the next class.
12.	Marketing Issues and World Heritage Sites	The students are expected to read the distributed handouts for Week 13 and complete the related worksheet for homework before the next class. In addition, the students have to finish their Project 2 Report for submission in Week 13's class.
13.	Destination Management	The students are expected to work on their Power Point slides for Project 2's Presentation. They must be completed and uploaded to Manabi before the start of class on their assigned presentation day in either Week 14 or 15.

14.	Project 2 Presentations	The students who are giving their presentation in Week 14 are expected to prepare for and practise their presentation during the week before the class in Week 14.
15.	Project 2 Presentations	The students who are giving their presentation in Week 15 are expected to prepare for and practise their presentation during the week before the class in Week 15.

受講者へのメッセージやアドバイス:

There is no textbook for this course. All readings and worksheets will be distributed by the teacher in class.

フィードバックの方法:

The students are assessed based on a combination of written reports, presentations, attendance, and participation. Written feedback is given on the reports and a one-page grading rubric is used for the presentations.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	20%	Points are awarded for punctual attendance, completion of homework, and effort made to complete assigned tasks in class
Project 1 Report	20%	A three-page written report.
Project 1 Presentation	20%	A 7 to 10 minute Power Point presentation
Project 2 Report	20%	A three-page written report.
Project 2 Presentation	20%	A 7 to 10 minute Power Point presentation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

rwong@dwc.doshisha.ac.jp

421000

Tourism, Culture, and Technology Ⅱ

R.H.S.Wong

授業テーマ:

授業の概要:

This course is thematic based. It focuses mainly on experiential tourism, the modern tourist and the impact of technology on tourism. There are two central themes in this course. In the first half of the course, the aspects of post-tourism are examined and discussed in class. In the second half of the course, the focus will shift mainly to how technological advances have influenced tourism development. Several stand alone units related to castles and porcelain are also covered in this course.

到達目標:

This course aims to introduce students to the concept of post-tourism, the impact that technology has had on tourism, and the cultural icons of some European countries and Japan in the form of castles and porcelain. Students who have a strong interest in theme parks, enjoy exploring other cultures, like traveling, and prefer learning using a combination of traditional and online resources are encouraged to apply for this course.

授業方法:

This is a seminar or workshop style of class with regular interaction between the instructor and students as well as cooperative group work amongst the students.

The class will be held in a computer classroom where students use the computer and the internet for research and to complete some of the course activities. Each class starts with a short discussion based on either reading passages with some questions or audiovisual materials with a simple listening worksheet distributed in the previous class. All handouts and worksheets are in English. The method of instruction and review of homework is done in English. However, the students are encouraged to use a combination of English and Japanese when working together in class.

After the discussion, the students will prepare for their projects using the computers. Around 25 to 30 minutes of class time is allotted to this. The rest is to be done for homework. The students are expected to submit the components of their project work in Weeks 5, 7, 12 and 14. The project work has two parts: a written report and a presentation component. In Project 1, each student will present about two similar experiential theme parks, one in Japan and the other one in a foreign country. In Project 2, each student will present in small groups (max. four students) about a technological innovation and its influence on tourism. They will also submit an individual report on the chosen technology.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Theme Parks and Experiential Tourists	The students are expected to do some initial planning and research for Project 1, which starts from Week 2. In addition, the students are expected to read the distributed handouts for Week 2 and complete the related worksheet for homework before the next class.
2.	Post-Tourism	The students are expected to read the distributed handouts for Week 3 and complete the related worksheet for homework before the next class.
3.	Experience Economy	The students are expected to read the distributed handouts for Week 4 and complete the related worksheet for homework before the next class.
4.	Authenticity in Tourism Experience	The students are expected to read the distributed handouts for Week 5 and complete the related worksheet for homework before the next class. In addition, the students have to finish their Project 1 Report for submission in Week 5's class.
5.	Urban Tourism and Urban Regeneration	The students are expected to read the distributed handouts for Week 6 and complete the related worksheet for homework before the next class.
6.	Castle Tourism	The students are expected to work on their Power Point slides for Project 1's Presentation. They must be completed and uploaded to Manabi before the start of class on their assigned presentation day in either Week 7 or 8.
7.	Project 1 Presentations	The students who are giving their presentations in Week 7 are expected to prepare for and practise their presentation during the week before the class in Week 7.
8.	Project 1 Presentations	The students who are giving their presentations in Week 8 are expected to prepare for and practise their presentation during the week before the class in Week 8. In addition, all the students are expected to read the distributed handouts for Week 9 and complete the related worksheet for homework before the next class.
9.	Technology in Tourism: Augmented Reality and Virtual Travel	The students are expected to read the distributed handouts for Week 10 and complete the related worksheet for homework before the next class.
10.	Technology in Tourism: Impact of High Speed Railways on Tourism Development	The students are expected to read the distributed handouts for Week 11 and complete the related worksheet for homework before the next class.
11.	Social Media and Tourism Marketing	The students are expected to read the distributed handouts for Week 12 and complete the related worksheet for homework before the next class. In addition, the students have to finish their Project 2 Report for submission in Week 12's class.
12.	Christmas Around the World	The students are expected to read the distributed handouts for Week 13 and complete the related worksheet for homework before the next class.
13.	Porcelain: Herend, Meissen, Noritake and Sevres	The students are expected to work on their Power Point slides for Project 2's Presentation. They must be completed and uploaded to Manabi before the start of class on their assigned presentation day in either Week 14 or 15.
14.	Project 2 Presentations	The students who are giving their presentations in Week 14 are expected to prepare for and practise their presentation during the week before the class in Week 14.

15.	Project 2 Presentations	The students who are giving their presentations in Week 15 are expected to prepare for and practise their presentation during the week before the class in Week 15.

受講者へのメッセージやアドバイス:

There is no textbook for this course. All readings and worksheets will be distributed by the teacher in class.

フィードバックの方法:

The students are assessed based on a combination of written reports, presentations, attendance, and participation. Written feedback is given on the reports and a one-page grading rubric is used for the presentations.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	20%	Students are awarded points based on punctual attendance, completion of homework and effort made on assigned tasks in class.
Project 1 Report	20%	A three-page written report
Project 1 Presentation	20%	A 7 to 10 minute Power Point presentation
Project 2 Report	20%	A three-page written report
Project 2 Presentation	20%	A 7 to 10 minute Power Point presentation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

rwong@dwc.doshisha.ac.jp

421100

ネットビジネス論

杉浦　　司

授業テーマ:
マーケティングや情報技術などネットビジネスの基礎理論を学んだ上で、Webアクセス解析やソーシャルメディアなどを駆使した最先端ネットビジネスの事例研究を行う。

授業の概要:
インターネットビジネスは日々刻々と進化しています。単なるネットショップの時代からソーシャルメディアを利用した顧客サポートやマーケティングリサーチ、さらにはKindleやiTunesのようにビジネス取引のプラットフォームとなるケースさえ出てきています。情報技術においても、大量データを扱うためのとしてクラウドやビッグデータ、実店舗でのショッピング連携のためのIoT(もののインターネット)など、もはやネットショップはインターネット上だけでとどまらない存在となっています。本講ではネットビジネスの基礎理論を理解した上で、ネットビジネス人材としてニーズが高まる検索キーワード最適化やアクセス解析、ソーシャルメディアなどの実践的知識の習得、そしてアマゾンやスターバックス、メイシーズといった先進事例について学んでいただきます。

到達目標:
＜インプットすべき知識＞
・ネットビジネスの前提知識となるIT戦略の理解
・ネットビジネスの前提知識となるITマーケティングの理解
・ネットビジネスの前提知識となるWebデザイン・Webアクセス解析の理解
・ネットビジネスの課題となる情報セキュリティやコンプライアンス、情報技術の理解
＜アウトプットが期待される能力＞
・ネットビジネス事例の特徴整理
・ネットビジネス事例の課題抽出
・ネットビジネス事例の発表

授業方法:
・ネットビジネス理論の講義
・ネットビジネス事例の研究発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(ネットビジネスと社会)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
2.	マーケティング基礎(ターゲティング、ブランディング、顧客行動心理、イノベーター・キャズム理論等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
3.	ITマーケティング(バズマーケティング、データベースマーケティング等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
4.	ネットビジネスにおけるIT戦略(CRM、データマイニング等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
5.	ネットビジネスにおけるITマーケティング(マイクロターゲティング、レコメンデーション、共生マーケティング等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
6.	ネットビジネスと情報セキュリティ(不正アクセス、プライバシー、システム障害等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
7.	ネットビジネスとコンプライアンス(特商法、薬事法、個人情報保護法等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
8.	ネットビジネスと情報技術(クラウド、ビッグデータ、IoT等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
9.	ネットショップの特徴と課題(ショッピングモール、ECパッケージ、ランディングページ、検索キーワード最適化、アクセス解析等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
10.	ソーシャルメディアの特徴と課題(コミュニティ、インフルエンサー、ソーシャルメディア広告等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
11.	プラットフォームの特徴と課題(標準化、アプリマーケット、フリーミアム等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
12.	eラーニングの特徴と課題(デジタル教材、LMS学習管理システム、傾向分析等)	・講義内容については必ず復習しておくこと。
13.	事例研究の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。
14.	事例研究の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。
15.	事例研究の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
Webマーケティングなどネットビジネス人材に対する社会的ニーズは高まる一方です。ITに対する苦手意識を持たずに積極的にチャレンジしてみてください。大切なことはユーザーの目線で企画、設計、分析、評価できる力を磨くことです。

フィードバックの方法:
講義や演習内容に対する質疑応答や実習講評はできる限り教室にて行いますが、電子メールでもマナビ―の掲示板でも対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業の姿勢・態度	30	講義内容を傾聴し、ディスカッションにも積極的に参加すること。
小レポート	20	講義内容に関連する小レポートをきちんと作成・提出すること。
事例発表による評価	50	事例研究の結果を的確に資料にまとめ、わかりやすく発表すること。

教科書:
レジュメを前もって配布し、時事性のある内容は都度配布する。(教科書は使用しない。)

参考書:
『消費を見抜くマーケティング実践講座』(翔泳社　杉浦　司著　※ファーストリテリング社柳井社長推薦)
『ITマネジメント』(関西学院大学出版会　杉浦　司著※ファーストリテリング社岡田CIO推薦)
『情報セキュリティマネジメント』(関西学院大学出版会　杉浦　司著※NTTラーニング社推薦)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:
マナビ―の掲示板機能、Eメール(sugiura@sugi-sc.com)、授業の前後に教室内で対応

421200

ベンチャービジネス論

畠山　　啓

授業テーマ:

授業の概要:
ベンチャービジネスには雇用創出、イノベーションの実現、産業の新陳代謝促進などの効果があり、これらは日本の経済成長の実現に大きく貢献する可能性を秘めています。またIT技術の普及により少ない初期投資で起業できるようになり、様々な起業支援策も政策として実施され、現在ベンチャーブームが到来しています。本講義では現在日本経済にとって重要な役割を担っているベンチャービジネスを理解することを目指します。

到達目標:
ベンチャービジネスに関する様々な事柄を理解できること。

授業方法:
講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	特になし
2.	ベンチャービジネスの意義	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
3.	イノベーション	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
4.	起業家精神	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
5.	ベンチャービジネスの成長段階	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
6.	資金調達	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
7.	事業機会とアイデア	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
8.	ビジネスモデル	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
9.	成長の難しさ	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
10.	収穫・EXIT戦略	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
11.	CSR（企業の社会的責任）とCSV（共通価値の創造）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
12.	人的資源管理	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
13.	海外におけるベンチャービジネス	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
14.	ベンチャービジネスの実態(1)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
15.	ベンチャービジネスの実態(2)	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	ベンチャービジネスに関する様々な事柄を論理的に説明できるかを基準とする。
出席確認を兼ねた小テスト	30%	問いに対して論理的に解答できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応する。

421301

インターンシップⅡ

天野　　太郎

授業テーマ:　京町家を通して京都文化の総合理解をはかる

授業の概要:　京町家において実施されている「町家講座」の運営に実際に携わることを通して、京都の文化のありかたや発信の方法、受講者や地域の方々との相互交流を通して、京都を総合的に理解する。

到達目標:
1：京町家の構造、現状、今後のありかたを理解する。
2：京町家の講座運営を中核として、受講生や地域の方々との相互交流も通しながら、国際観光都市としての「京都」の特徴を理解し、京都地域の総合的理解をはかる。
3：修得した知識や技術を統合し、その成果を広く社会に発信し、よりよい社会の構築に寄与する能力の獲得を召さす。そしてこれからの京都のありかたについて考察し、発信する力を養う。

授業方法:　実習（京町家講座　月1回（土曜日開講）の運営）、周辺地域の学習を含めた校外授業を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　授業のガイダンス	配布資料・日程の確認
2.	町家講座の実地運営1	講座に必要な資料の整理・確認
3.	町家講座の実地運営2	講座に必要な資料の整理・確認
4.	町家講座の実地運営3	講座に必要な資料の整理・確認
5.	京町家周辺の環境～京都市内の中心市街地を事例として	古地図の確認、配布資料の予習
6.	町家講座の運営・計画～文化発信の実態	配布資料の確認
7.	町家の活用の多様性と保存活動	配布資料の確認
8.	町家講座の実地運営4	講座に必要な資料の整理・確認
9.	町家講座の実地運営5	講座に必要な資料の整理・確認
10.	町家講座の実地運営6	講座に必要な資料の整理・確認
11.	町家講座の実地運営7	講座に必要な資料の整理・確認
12.	京町家周辺の環境～京都市内の中心市街地を事例として	配布資料の確認
13.	これからの京都へ向けての提言～町家からみたこれからの京都像	PPTの準備・報告資料の作成
14.	これからの京都へ向けての提言～町家からみたこれからの京都像	PPTの準備・報告資料の作成
15.	全体の総括とこれからの京都文化の発信の可能性	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　町家で月1回開催される「町家講座」を軸としながら、京都の文化や観光について多層的に考え、これからの京都のありかたを発信していきます。

フィードバックの方法:　授業内に個別・全体に向けてフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講座運営への参加	60	町家講座の準備・運営への参画を通して、到達目標1、2の達成度を総合評価する。
まちづくりに関する発表	40	これからの町家を中核としたまちづくりのありかたについてPPT発表を行い、到達目標3の達成度を総合評価する。

教科書:　特になし

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　研究室（知徳館C354）での直接対面での連絡を基本とする。補完的にMailなどを援用する。

421302 **インターンシップⅡ**

畠山　　啓

授業テーマ:　おもてなしのプロフェッショナル達から学ぼう:サービス業における課題解決型インターンシップ

授業の概要:　サービス業における課題解決型のインターンシップを通じ、プロフェッショナルとは何かを学び、ビジネス現場を知る。パートナー企業から、「当社活動についてプロモーションビデオを作る」「当社の社会貢献活動について紹介する」「学生の視点から新商品・新サービスを提案する」等の課題を出してもらい、グループで取り組むとともに中間発表会を行い、相互評価する。さらパートナー様におけるインターンシップを経て、社員の方に講評いただく。原則として課題報告は動画形式にまとめる。

到達目標:　第1におもてなしのプロフェッショナル達のどこがすごいのか、理解する。
第2に自分がおもてなしのプロフェッショナルになるために、どのような強みを伸ばし、いかなる弱み克服すべきか理解する。
第3に社会に通用する、課題解決力とは何かを理解する。
第4に動画編集法を習得し、豊かなプレゼンテーション力を身につける。

授業方法:　事前学習、学外研修、事後学習からなるプログラム。事前学習は原則として、授業内容は予めマナビーにアップし、授業時間中はグループ演習をするという、反転授業形式で行う。受講生は予めマナビーにアップされた授業用資料を試聴しておくこと。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション パートナー企業様及び課題の紹介	パートナー企業様について予め調べておく
2.	事前学習1 グループ分け並びに補足説明	
3.	事前学習2 業界研究の方法	反転授業形式で行う。受講生は予めマナビーにアップされた授業用資料を試聴しておくこと。
4.	事前学習3 企業研究の方法	反転授業形式で行う。受講生は予めマナビーにアップされた授業用資料を試聴しておくこと。
5.	事前学習4 iPadによる動画撮影・編集法	反転授業形式で行う。受講生は予めマナビーにアップされた授業用資料を試聴しておくこと。
6.	事前学習5 マナー講習	
7.	事前学習6 マナー講習	
8.	事前学習7 発表準備	必要に応じ発表準備を授業時間外に行う。
9.	事前学習8 中間発表会	必要に応じ発表準備を授業時間外に行う。
10.	実習1 8月から9月の間に実習は10日間実施	
11.	実習2 8月から9月の間に実習は10日間実施	
12.	実習3 8月から9月の間に実習は10日間実施	
13.	実習4 8月から9月の間に実習は10日間実施	
14.	実習 8月から9月の間に実習は10日間実施	
15.	事後学習・復習と討論	事後レポートを用意しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　プロフェッショナルの本気をどこまで引き出せるかは受講生次第です。そのために事前学習に懸命に取り組みましょう。なお研修期間10日間の具体的日程はパートナー企業様と受講生で調整します。一度、約束した日程は必ず守ること。病気などやむをえない事情を除き、研修中止は認めません。実習は1日でも参加できない日があると単位が出せません。

フィードバックの方法:　個々の作業時の発表、レポート等については教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	80	事前・事後授業の出欠並びに研修期間中の勤怠から評価する。
テーマ発表	10	個々の到達目標に照らし、総合的に評価する。
事後レポート	10	個々の到達目標に照らし、総合的に評価する。

教科書:

参考書:　授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー。マナビーの掲示板機能並びにEメールを利用。

421303

インターンシップⅡ

三宅　　えり子

授業テーマ:　地域情報誌編集

授業の概要:　株式会社KADOKAWAの『関西ウオーカー』編集長および編集部の協力を得て、地域に存在する観光・文化資源を発見し、その魅力を地域内外に住む人々へ効果的に紹介する『関西ウオーカー』の掲載記事編集の実務を経験します。この活動を通して、地域に存在する観光スポット、歴史、芸術、文化、生活、食などの多様な領域から、訪問者にとって魅力的な要素を見つけ出し、その存在や魅力を効果的に伝えるプロモーションスキルの修得を目指します。

到達目標:
1. 読者の興味を引くテーマの設定、手応えのある内容の企画力、企画案にそった取材力、取材記事の編集力、美しく見やすいレイアウト、適確で分かりやすい表現を駆使した編集スキルを身につける。
2. インターンシップを積極的に体験することで、主体性、独創性、企画力、発信力などを身につける

授業方法:　講義、編集作業、『関西ウオーカー』編集部訪問、フィールドワーク、グループワークを組み合わせます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前指導 – オリエンテーション、昨年度のコラボ記事の研究分析	
2.	事前指導 – 多様な地域情報紙の比較調査、グループ発表	地域情報紙を収集する
3.	講義「編集および編集者の役割とは」、講義内容に関するグループディスカッション	前回の多様な地域情報紙の編集方法をふまえて講義に臨む
4.	講義「企画の立て方と必要なスキルについて」企画案の作成スタート	企画案のアイデア収集
5.	企画案（タイトルと企画概要）完成させ、『関西ウオーカー』編集部に提出する	企画案を考案する
6.	企画案のプレゼンテーションとレビュー、ディスカッションで精度を高める	企画案のプレゼンの練習をしておく パワーポイントスライドを用意する
7.	7回～10回：主に夏期休暇中、企画案に関するフィールドワーク（6時間X5回＝30時間）	実地調査のフィールドワークノートを作成する。企画案をブラッシュアップする
8.	2回目の企画案のプレゼンテーションとレビュー、企画案を決定する（於：『関西ウオーカー』編集部）	企画案のプレゼンの練習をしておく パワーポイントスライド修正版を用意する
9.	講義「紙面レイアウト（ラフ）の書き方について」、ラフ作成スタート	紙面レイアウトを考える
10.	紙面レイアウト（ラフ）を完成させ、『関西ウオーカー』編集部に提出する	紙面レイアウトの完成に向け、編集作業を行う
11.	編集長のコメントを受けて、紙面レイアウト（ラフ）を修正して、『関西ウオーカー』編集部に再提出する	紙面レイアウトの完成に向け、さらに編集作業を続ける
12.	編集長のコメントを受けて、紙面レイアウト（ラフ）を再修正して、『関西ウオーカー』編集部に最終提出する	紙面レイアウトの完成版を仕上げる
13.	紙面レイアウト入校・校正、校了に向けて途中経過の確認、紙面掲載用の学生の写真撮影	紙面レイアウトの途中経過を確認する
14.	完成企画のレビュー、取り組み全体の総括、ふりかえり	インターンシップ経験をふりかえる
15.	事後指導 – 記事紹介スポット訪問、および報告会	報告書の作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　本インターンシップの体験は、就職活動においてもアピールでき、また卒業後どのような活動領域に進んでも、受講生それぞれのキャリア構築において有益な資質育成と貴重な経験となることでしょう。

フィードバックの方法:　『関西ウオーカー』編集長と担当者の両方から、口頭、Eメールを通して、随時フィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	意欲的な参加態度、フィールドワークの記録とふりかえり
掲載記事	50	企画力、取材力、レイアウト、編集力

教科書:　なし

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、

教員との連絡方法:　Eメールによる連絡可能

421304

インターンシップⅡ

福岡　　久美子

授業テーマ:　市民活動推進

授業の概要:　京田辺市における魅力や課題などを学び楽しみながらまちに役立つものを市民の手で作り上げる体験型のイベント(京田辺まち・しる・つくる塾)の企画や運営などに主体的に携わることを通し、市役所の仕事を体験する。
「憲法ⅠⅡ」「行政法」「地方行政論」「公務員と法」を受講していることが望ましい。
オリエンテーション、学内での事前学習は春学期、京田辺市の事前学習は8月、市民活動団体の見学は8月～9月、イベントは秋学期週末に行われる予定です
★秋学期　金曜日午後に市役所で実習を行うので、その時間帯には他の授業を登録しないでください

到達目標:　現代社会においての総合的なキャリア形成についての諸問題を理解している
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
修得した知識や技術を地域社会に還元することに強い関心を持っている
自らの一生涯を主体的に創造する広義のキャリア形成の意欲を持っている
専門的知識を探求する姿勢と、幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
自ら考えて行動を起こし、主体的に発信していく態度を身につけている
社会の課題解決にあたるうえで、他者と協同的な関係を形成し維持する態度を身につけている

授業方法:　講義、イベント企画、実習(イベント運営)等

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、事前学習(インターンシップ)(学内)	課題をする
2.	事前学習(ガイダンス、京田辺市の市政)(京田辺市役所職員担当)	予備知識を入れる
3.	事前学習(市民協働、企画するイベント)(京田辺市役所職員担当)	予備知識を入れる
4.	市民活動団体等の見学	事前学習の復習をする
5.	京田辺ええまちつくろうカフェ(市民活動団体・市役所職員の交流会)の運営業務、参加	交流会の準備
6.	京田辺まち・しる・つくる塾(イベント)の企画・広報資料作成	アイデアを考える 資料作成の準備
7.	京田辺まち・しる・つくる塾(イベント)の企画・広報資料作成	アイデアを考える 資料作成の準備
8.	京田辺まち・しる・つくる塾(イベント)の事前準備	アイデアを考える 情報収集・資料作成
9.	京田辺まち・しる・つくる塾(イベント)の事前準備	アイデアを考える 情報収集・資料作成
10.	京田辺まち・しる・つくる塾(イベント)の運営、参加	イベントの準備
11.	京田辺まち・しる・つくる塾(イベント)の成果物の作成	成果物の作成の準備
12.	京田辺まち・しる・つくる塾(イベント)の成果物の作成	成果物の作成の準備
13.	成果物の発表会	発表会の準備
14.	事後学習(報告)(学内)	報告書の作成
15.	学内での発表会	発表会の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　問題意識をもって、主体的に積極的に参加する姿勢が大切です。

フィードバックの方法:　教室でまとめて(or個別に)解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30%	授業への積極的参加度 欠席は減点となります
発表、討論	70%	調査・検討の内容、発表の達成度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、Eメール利用

422000

情報ネットワーク基礎

片山　　雅男

授業テーマ:

最先端の情報ネットワークの可能性と活用を学び、考え、情報化社会への一歩を踏み出してみよう。

授業の概要:

本講は大きく「やさしいネットワークの技術」と「ビジネス社会とネットワーク」に分かれています。「やさしいネットワークの技術」ではネットワークがつながる仕組みやLAN、インターネット、マルチメディア、セキュリティなどの基礎を学ぶとともに、N進数、アルゴリズム、ネットワーク図などネットワークを理解する上で最低限必要な情報数学を修得するように努めます。「ビジネス社会とネットワーク」では、エコシステム並びにプラットフォームや標準化をキーワードとして、学生たちになじみ深い分野（教育、医療、電子商取引、モバイルデバイスなど）だけでなく、HEMSや自動車など最新のネットワーク動向についても検討するとともに、ネットワークのリスク管理や事業継続計画の在り方を考察します。受講者には情報数学を身につけ、エコシステム並びにプラットフォームや標準化といったキーワードを理解することにより、今日の情報ネットワークを活用するための正確な羅針盤を獲得することを期待しています。

到達目標:

第1にネットワーク技術の基礎を身につけること。
第2に2進数、16進数や暗号など基礎的な情報数学を理解すること。
第3にプラットフォーム、標準化など情報ネットワーク社会のキーワードについて理解すること。
第4に最先端の情報ネットワークが社会にもたらすインパクトを理解し、自分なりの考え方をもてるようにすること。

授業方法:

講義形式で授業をします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:「情報ネットワーク基礎」の進め方	
2.	やさしいネットワーク技術（1）:インターネットの基礎	事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおくこと
3.	やさしいネットワーク技術（2）:LANの基礎とクライアントサーバ	同上
4.	やさしいネットワーク技術（3）:WEBページの基礎	同上
5.	やさしいネットワーク技術（4）:ブロードバンドとマルチメディア	同上
6.	ビジネス社会とネットワーク(1):クラウドコンピューティングの実際	同上
7.	ビジネス社会とネットワーク(2):LANの実際。プライベートIPとプロキシサーバ	同上
8.	ビジネス社会とネットワーク(3):電子商取引の実際	同上
9.	ビジネス社会とネットワーク(4):セキュリティと暗号の実際	同上
10.	ビジネス社会とネットワーク(5):モバイルネットワークとスマホ	同上
11.	ビジネス社会とネットワーク(6):ホームネットワーク	同上
12.	ビジネス社会とネットワーク(7):ネットワーク関連産業	同上
13.	ビジネス社会とネットワーク(8): IoT(Internet of Things)とビッグデータ	同上
14.	ビジネス社会とネットワーク(9): 災害に強いネットワーク	同上
15.	まとめ　事前にマナビーにアップされた授業内容に目を通しておくこと	

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習は基本的には不要ですが、余裕がある方は、事前にマナビーにアップされた、各回の配布資料及び講義概要を読んでおいてください。
毎回、理解度を確認するために、マナビーを利用して自動採点方式の小テストを行います。小テストは授業終了後、2日以内に回答して下さい。

フィードバックの方法:

定期試験の模範解答と講評はマナビー上に掲載します。
また、毎回、マナビーを利用して小テストを行いますが、その際に自由記入欄に授業中によくわからなかった点や希望を記入していただければ、教員より個別に回答いたします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	10	毎回、マナビーを利用して、知識・理解を確認するために小テストを行います。
平常点	20	授業への積極的な参加度
定期試験	70	到達目標に照らし、知識・理解度を総合的に評価します。

教科書:

参考書:

授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

授業後の教室内での対応やEメールでの対応をいたします。

422100

社会保障論

倉持　　史朗

授業テーマ:

授業の概要:

社会保障は私たちが安心して暮らしていくために誰もが制度です。本講義では、日本や諸外国の社会保障の史的展開をふまえ，現在の日本の社会保障制度を体系的に理解し、今後の社会保障の課題についても考えます。また、必要に応じて先進諸国の事例にも触れます。

到達目標:

①現代社会における社会保障の意義と課題等について理解する。
②社会保障制度の全体像と各制度・サービスの仕組みについて理解する。
③社会保障の史的展開をふまえ，人権思想の発展との関連性を理解する。

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	現代の社会保障に関する新聞記事などを読む
2.	社会保障とはなにか(1)	現代の社会保障に関する新聞記事などを読む
3.	社会保障とはなにか(2)	現代の社会保障に関する新聞記事などを読む
4.	社会保障の史的展開(1)	社会保障と人権思想の発展に関連する配付資料を精読する
5.	社会保障の史的展開(2)	社会保障と人権思想の発展に関連する配付資料を精読する
6.	貧困問題と公的扶助(1)	貧困問題の現状に関連した配付資料を精読する
7.	貧困問題と公的扶助(1)	生活保護制度に関連した配布資料を精読する
8.	公的年金制度(1)	公的年金制度に関連した配付資料を精読する
9.	公的年金制度(1)	公的年金制度に関連した配付資料を精読する
10.	公的医療保険(1)	公的医療保険・医療費等に関連した配付資料を精読する
11.	公的医療保険(2)	公的医療保険・医療費等に関連した配付資料を精読する
12.	介護保険制度(1)	高齢者の生活，介護事情に関連した配付資料を精読する
13.	介護保険制度(1)	高齢者の生活，介護事情に関連した配付資料を精読する
14.	雇用政策	現代の就労問題に関連した配布資料を精読する
15.	まとめ	授業全体の資料等を精読して，現代の社会保障・福祉の意義を考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:

社会保障を自分や周りの人の生活と結びつけて捉え、なぜそのような形になったのか、社会保障はどうあるべきかなど、自分なりに考えながら講義に参加してください。ほぼ毎回配布する授業資料・ノートを読み返し、授業内容の理解に努めるよう復習してください。

フィードバックの方法:

適宜，質問シートを配布・回収して、授業時間内に回答・解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	出席及び授業内容に対する質問シート等の提出状況を基準とする。
期末レポート試験	60	到達目標①②③の到達点の図るための課題を通じて，講義全体の理解度，自身の考えを論理的に説明できるかを基準とする。

教科書:

適宜指示します。

参考書:

椋野美智子、田中耕太郎(2017)『はじめての社会保障：福祉を学ぶ人へ(第14版)』有斐閣アルマ.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:

Eメールの利用、授業の前後に教室内で応対します。

423800

証券キャピタルマーケット論

大倉　　真人

授業テーマ:

授業の概要:　金融・証券市場および資産の管理運用について理論的・実際的に論じる。

到達目標:　証券およびキャピタルマーケット（資本市場）にかかる理論的基礎を学ぶとともに、その現状および実状について知ることを授業目標とする。

授業方法:　全15回のうち、前半部を野村證券社員が、後半部を大倉がそれぞれ講義する。なお前半部の講義は、野村證券による寄付講座である。また、板書・プリント・パワーポイント等を使った授業方式を採用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（大倉）	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	経済情報の捉え方（野村證券）	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	金融資本市場の役割とその変化（野村證券）	「経済情報の捉え方」に対する理解
4.	債券市場の役割と投資の考え方（野村證券）	「金融資本市場の役割とその変化」に対する理解
5.	株式市場の役割と投資の考え方（野村證券）	「債券市場の役割と投資の考え方」に対する理解
6.	投資信託の役割とその仕組み（野村證券）	「株式市場の役割と投資の考え方」に対する理解
7.	外国為替相場とその変動要因（野村證券）	「投資信託の役割とその仕組み」に対する理解
8.	ライフプランニングと資産形成（野村證券）	「外国為替相場とその変動要因」に対する理解
9.	資産形成と非課税制度の活用について（野村證券）	「ライフプランニングと資産形成」に対する理解
10.	中間試験	「中間試験」の準備
11.	証券のリスクとリターン（大倉）	「資産形成と非課税制度の活用について」に対する理解
12.	投資家の行動（大倉）	「証券のリスクとリターン」に対する理解
13.	ポートフォリオ（その１）（大倉）	「投資家の行動」に対する理解
14.	ポートフォリオ（その２）（大倉）	「ポートフォリオ（その１）」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　上に示した各回の授業内容は計画案であり、野村證券側の事情で一部変更されることがあるが、その場合はガイダンスなどで連絡する。
なお第1回目の授業のガイダンスで配布する資料については、マナビーに提示するので、第1回目の授業に欠席した者は、各自マナビーを通じて目を通しておくこと。

フィードバックの方法:　毎回の授業前に配布する用紙に感想や質問を書いてもらうが、そこで書かれた質問等については、授業中あるいはマナビーを通じてフィードバックする。
中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	60	証券およびキャピタルマーケット（資本市場）にかかる現状および実状についての理解度により評価する。
期末試験	40	証券およびキャピタルマーケット（資本市場）にかかる理論的基礎についての理解度により評価する。

教科書:

参考書:　野村證券投資情報部（編）『証券投資の基礎』丸善、2002年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

424301～18 **基礎演習**

福本　　俊樹

授業テーマ:　大学での勉学や学生生活の基礎となる姿勢・技能を養う

授業の概要:　基礎演習は、大学での勉学や学生生活にとって必要となる社会的事象に関する関心を育て、社会的事象に関する基本的な見方や考え方を身につけることを目標にします。そのために必要な、文献の探し方、研究論文やレポートの作成の仕方、調査データや情報検索の方法などを、「基礎演習マニュアル－学問の基礎技術 2017年度」を活用して学びます。

到達目標:　大学での勉学や学生生活にとって必要となる社会的事象に関する関心を育て、社会的事象に関する基本的な見方や考え方を身につけます。
具体的には、文献の探し方、研究論文やレポートの作成の仕方、調査データや情報検索の方法を理解し、適切に情報検索、データ分析を行うことができること。また、テーマに則して内容を明確に伝えるプレゼンテーションの力、論点の明確な議論を展開する力，社会的事象に関する考察力とレポート執筆力を高めます。

授業方法:　演習ですので、毎回、全員参加型の授業を行います。紹介・発表にあたっては、必ずレジメ(報告要旨)を作成すること、理解促進のために写真・ビデオなどの視聴覚教材をフルに活用すること、それに必要な機器使用法を熟知することなどを、図書館ガイダンスの機会を活用しながら進めます。授業内容，評価方法・割合・評価基準は，担当教員により変更の可能性がありますので、授業開始時に改めて担当教員からお知らせします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 受講生の自己紹介と集団づくり	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
2.	基礎演習の目標などの確認	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
3.	調査の方法	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
4.	口頭発表（プレゼンテーション）の作法と技法	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
5.	ディスカッション	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
6.	ディベート	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
7.	社会調査の方法	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
8.	レポートの書き方	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
9.	大学生活とキャリアデザイン	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
10.	論文を書くとはどのようなことか	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
11.	ポスターを使った研究発表	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
12.	テーマに基づく調査、報告、意見交換	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
13.	テーマに基づく調査、報告、意見交換	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
14.	テーマに基づく調査、報告、意見交換	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2018年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。
15.	全体のふりかえり	『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2017年度』の当該箇所を読んで、要点を理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　全員毎回出席が原則です。具体的な運用は、担当教員が決めます。

フィードバックの方法:　授業開始時に担当教員からお知らせします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40	出席状況・授業への参加度，貢献度
レポート	30	資料収集の適切さ，社会的事象に関する考察力，論理的に議論を展開し伝える文章力
プレゼンテーション	30	課題設定の独創性，論点の明確性，テーマに則して調べた内容を明確に伝える表現力

教科書:　同志社女子大学現代社会学部社会システム学科,『基礎演習マニュアル － 学問の基礎技術 2017年度』

参考書:　授業中に適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

424401 **専門基礎演習**

福本　　俊樹

授業テーマ:　自分たちでニュース番組を作ろう！

授業の概要:　本授業では、現代における労働問題について深く理解することを目指します。
そのために、受講生には、擬似的なニュース番組を作成してもらいます。具体的には、自身の関心のある労働問題を取り上げ、その問題について丹念に調査し、その成果を、あたかも「ニュース番組のように」発表してもらいます。これらはすべてグループで行います。
もちろん、擬似的なニュース番組ですので、本物の番組のようなクオリティは求めません。しかし、少しでも本物の番組に近づけることを意識してください。そうすることで、どのような情報を集めるべきか、集めた情報をどのように編集すべきか、それをどのように聞き手に伝えるべきかについてのスキルが磨かれるはずです。
また、これら一連のプロセスは、自ら研究テーマを設定し、文献調査と分析を行い、その成果を発表するという、研究の基本的作法の体得にもつながっています。

到達目標:　(1)現代の労働問題を、丹念な調査をもとに深く理解すること
(2)自身の調査成果を、見せ方を工夫して聞き手にうまく伝えられるようになること
(3)グループでのプロジェクトをうまく進められるようになること

授業方法:　演習形式で授業を進めます。
まず、教員から、現代の労働問題やニュース番組作成プロジェクトの進め方についての解説を行います。
その後、受講生には、自分たちで番組作成に取り組んでもらいます。その進捗は「リハーサル」(中間報告)という形でひとまず発表してもらいます。そこでのコメントを踏まえ、内容をブラッシュアップしたものを「本番」(最終報告)としてニュース番組形式で発表してもらいます。その出来については、みんなでリフレクションを行う予定です。
以上の流れを2回繰り返した後、最後に簡潔な振り返りレポートを作成してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスを読んでくること
2.	現代の労働問題	配布資料の予習・復習
3.	ニュース番組作成プロジェクトの進め方	配布資料の予習・復習
4.	第1部:「リハーサル」(1)	進捗発表の準備、コメントへの対応
5.	第1部:「リハーサル」(2)	同上
6.	第1部:「本番」(1)	同上
7.	第1部:「本番」(2)	同上
8.	第1部のリフレクション	リフレクション・ペーパーの作成
9.	第2部に向けた準備	配布資料の予習・復習
10.	第2部:「リハーサル」(1)	進捗発表の準備、コメントへの対応
11.	第2部:「リハーサル」(2)	同上
12.	第2部:「本番」(1)	同上
13.	第2部:本番(2)	同上
14.	第2部のリフレクション	リフレクション・ペーパーの作成
15.	本授業全体のリフレクション	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　「ニュース番組を作る」というと大変そうですが、あまり気負わずに、楽しみながら取り組んでください。

フィードバックの方法:　授業中にコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	60%	到達目標(1)(2)の達成度によって評価します。
最終レポート	40%	到達目標(1)(2)(3)について、どの程度リフレクションができているかによって評価します。

教科書:　特に指定しません。

参考書:　授業中に適宜、指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Emailなど(詳細は初回授業時に説明します)

424402 **専門基礎演習**

福岡　　久美子

授業テーマ:

授業の概要: 基本的人権について、いくつか具体的事件をピックアップして、問題点などを考えることを目的とします。自分の知識・考えを発言し、他人の意見なども聞くことによって、知識をより深め、考えを発展させます。また、レジメの作成に慣れ、法学文献の調べ方などについても学びます。＊どの事件を取り上げるかは、初回時に決定します。
夏休みには裁判傍聴なども考えていますが、受講生と相談して決めます。

到達目標: 修得した知識や技術を地域社会に還元することに強い関心を持っている
幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
社会の課題解決にあたるうえで、他者と協同的な関係を形成し維持する態度を身につけている
法律の基礎的知識を社会生活の多様な場面で運用できる能力を持っている
修得した知識や技術を統合し、その成果を広く社会に発信し、よりよい社会の構築に寄与する能力を持っている
研究倫理を理解する

授業方法: 演習（輪読、発表、討論）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業についてのオリエンテーション、自己紹介、取り上げる事件の決定、担当者決定など	
2.	障害者の自由（例です。以下同様）	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
3.	母親となる権利	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
4.	治療拒否の自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
5.	ダンスの自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
6.	職業の自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
7.	ポルノ鑑賞の自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
8.	プライバシー権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
9.	アクセス権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
10.	嫌煙権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
11.	景観権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
12.	取材の自由	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
13.	自己情報開示請求権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
14.	名誉権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。
15.	平和的生存権	教科書を読む。担当者はレジメを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス: 疑問に思うことは躊躇せずに発言してください。

フィードバックの方法: 授業中に解説、コメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	40%	レジメの達成度、発表の達成度
レポート	40%	基礎知識の習得度、文章力
授業への参加度	20%	授業への積極的参加度

教科書: 初回に受講生と相談して決めます
候補例として、棟居・赤坂・松井・笹田・常本・市川『基本的人権の事件簿』（有斐閣選書）

参考書: 君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法』（法律文化社）
小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本』（法律文化社）
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法』（岩波書店）
『憲法判例百選ⅠⅡ』（有斐閣）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法: オフィスアワー、授業前後の教室内、Eメール

424403

専門基礎演習

畠山　　啓

授業テーマ:　企業不祥事を考える

授業の概要:　現在企業は法的責任（法律を守ること）・経済的責任（利益をあげること）だけでなく社会的責任（CSR）も果たすことが求められています。
CSRと関係のある事柄には様々なものがあります。例えばブラック企業、非正規雇用、環境対策、製品偽装、工場見学、インターンシップなどは全てCSRと関係のある事柄です。
しかしこれらのCSRの取り組みは十分ではなく様々な企業が不祥事を引き起こす状況が続いています。
そこでこの専門基礎演習では経営学の1領域であるCSRとはどのようなものなのか、不祥事を起こした企業のCSR活動のどこに問題があるのか、などについて事例に基づき考察・ディスカッション・グループワークを行い、CSRに関する理解を深めていきます。

到達目標:　CSRとは何かを理解し、自分の言葉で説明できるようになること。

授業方法:　演習形式です。個人発表・グループワーク・ディスカッションなどを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	特になし
2.	CSRとは①	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
3.	CSRとは②	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
4.	企業不祥事ケース①	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
5.	企業不祥事ケース①	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
6.	企業不祥事ケース②	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
7.	企業不祥事ケース②	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
8.	企業不祥事ケース③	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
9.	企業不祥事ケース③	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
10.	企業不祥事ケース④	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
11.	企業不祥事ケース④	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
12.	企業不祥事ケース⑤	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
13.	企業不祥事ケース⑤	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
14.	企業不祥事ケース⑥	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと
15.	企業不祥事ケース⑥	マナビーで資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　無断欠席や遅刻は厳禁です。毎回必ず予習を行い、休まず出席することが基本です。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	50%	資料を事前にしっかり読み込み、自分の意見を発言しているかを基準とする。
授業への参加度	50%	積極的に授業に参加しているかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

424404 **専門基礎演習**

服部　　尚己

授業テーマ:　ドイツの都市と文化について考える

授業の概要:　ドイツは伝統的に地方分権の歴史をもち、そのために各地方にある都市が個性的で美しく、また大変におもしろい。そのおもしろみがどこから来るのかを文化を知ることを通して追求したい。
まず、テキストを読みつつ、基礎的な知識を涵養する。それからテーマを決めて、そのテーマのもとに全員が発表を行い、学びを深める。

到達目標:　ドイツの文化や都市についての基礎的な知識を習得する。それからひとつのテーマに関してさらに知識を深めることを目標とする。

授業方法:　輪読、個人発表およびディスカッションなど。その他、ドイツの都市を紹介するビデオ、または世界遺産のビデオなどを逐次鑑賞する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ドイツの地理(州、町、森など)を調べる	
2.	ドイツの地理(州、町、森など)を調べる	
3.	都市の発展フライブルクの場合	プリントの課題による予習
4.	フライブルクが環境先進都市となったきっかけ	プリントの課題による予習
5.	フライブルクのエネルギー自立都市への歩み	プリントの課題による予習
6.	ヨーロッパの建築と日本の家屋	
7.	ドイツの交通政策	
8.	ミュンヘンを調べる	プリントの課題による予習
9.	受講生の発表	プレゼンテーションの準備
10.	受講生の発表	プレゼンテーションの準備
11.	受講生の発表	プレゼンテーションの準備
12.	受講生の発表	プレゼンテーションの準備
13.	受講生の発表	プレゼンテーションの準備
14.	受講生の発表	プレゼンテーションの準備
15.	学習したドイツの都市に関してディスカッション	ディスカッションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　ドイツの文化および都市に関して常に関心を持ち、情報を収集する訓練をすること。レジメを使っての15分程度の発表を各自がすることになるので、それが発表の準備にもなることと思う。

フィードバックの方法:　マナビーを通して

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に取り組む姿勢	40%	ドイツの文化や都市にどれ程関心を抱いて調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
授業での発表	30%	ひとつのテーマに関する発表において、どれ程調べ、授業でそれをどう発表できたかを評価する
レポート	30%	培った基礎知識をどのように深めたかを見て判断する

教科書:　池内紀「ドイツ　町から町へ」(中公新書)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応およびマナビーを通して

424405 **専門基礎演習**

記虎　　優子

授業テーマ:　ケーススタディを通じて財務諸表のイロハを学ぼう

授業の概要:　この授業では、実在する企業の財務諸表を利用したケーススタディを通じて、財務諸表の体系やその情報内容を学ぶとともに、財務分析のための各種の方法を学ぶ。その際、ケーススタディの対象とする企業は、担当教員から指定せずに学生諸姉自らが選定する。さらに、当該企業の財務諸表を学生自らが入手して分析する。
なお、この授業の講義内容は、初歩的な簿記の知識を得ることと関連しているので、「簿記論I」をあらかじめ履修しているか、並行して履修していることが望ましい。また、この授業を受講して、会計学に興味・関心を持った学生諸姉には、「簿記論II」のほか、「会計学」、「原価計算」、「財務諸表論」、「ディスクロージャー論」といったより上級の会計学領域の開講科目の履修を推奨する。

到達目標:　企業が作成・公表した財務諸表を入手するための方法を学ぶとともに、実在する企業の財務諸表を利用したケーススタディを通じて、広く社会に向けて公表される財務諸表にはどのような利点と限界があるのかを体得する。
また、財務分析に際して、なぜその企業を取り上げたのか、なぜその観点から分析しようと思ったのか、すなわち問題意識を明確にして、その問題意識に基づいて適当な分析手法を自ら選択して分析ができるようになる。
さらに、ほかの学生に対して、自身の問題意識や分析内容を明瞭に説明し、知識の共有化を図ることができる。

授業方法:　原則としてゼミ(演習)形式で行う。。この授業では、ケース・スタディの対象とする企業を学生諸姉自らが選定し、当該企業の財務諸表を利用したケース・スタディを行う。
この授業では、従来ありがちであった各回の授業時に数名の学生が順番に発表をしていくという授業形態はとらない。その代わりに、マナビーのレポート機能や掲示板機能を活用することで、全員が授業時に毎回発表ないし討論をする。また、反転授業のため、事前学習が必須である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
2.	決算書とは	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
3.	有価証券報告書・四半期報告書の入手方法	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
4.	決算短信・計算書類の入手方法	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
5.	日本経済新聞の読み方	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
6.	貸借対照表	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
7.	損益計算書	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
8.	キャッシュ・フロー計算書	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
9.	財務分析の方法(1)収益性分析ほか	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
10.	財務分析の方法(2)安全性分析ほか	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
11.	財務分析の方法(3)キャッシュ・フロー分析	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
12.	ケーススタディ(1)前期比較の方法	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
13.	ケーススタディ(2)トレンド分析	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
14.	ケーススタディ(3)同業他社比較	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。
15.	ケーススタディ(4)セグメント分析	反転授業のための事前学習用の課題に取り組み、マナビーを利用して提出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　広い意味での会計学の学習は、簿記を修得することから始めることが多い。しかし、技術的な簿記技法だけに固執していれば、社会における会計の役割や機能ひいてはその限界を正しく理解することはできない。
簿記は財務諸表を作成するための技術であり、「簿記論Ⅰ」や「簿記論Ⅱ」では、財務諸表を作成するプロセスを学ぶ。これに対して、この授業では、誰か(つまり企業)がすでに作成・公表した財務諸表を読み解くことで、財務諸表の役立ちを体得することができる。
なお、この授業は、ゼミ(演習)形式の反転授業であるため、毎回授業に出席することはもちろんのこと、十分な事前学習が必要である。

フィードバックの方法:　マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50%	企業が作成・公表した財務諸表を自ら入手するとともに、財務諸表の利点と限界を踏まえた上で自身の問題意識に基づいて適当な分析手法を選択して財務分析ができるかどうかを基準とする。
授業への積極的参加度	50%	出席のほか、授業中に積極的に発言するなどによって、学び得た知識の共有化を図ることができているかどうかを評価する。

教科書:　木村直人著『これならわかる決算書キホン50！〈2018年版〉』中央経済社、2017年。

参考書:
小宮一慶著『小宮一慶の「日経新聞」深読み講座〈2018年版〉』日本経済新聞出版社、2017年。
佐々木理恵著『ここだけ読めば決算書はわかる！〈2018年版〉』新星出版社、2017年。
東洋経済新報社編『会社四季報業界地図 〈2018年版〉』東洋経済新報社、2017年。
東洋経済新報社編『最強の会計力—会社四季報から始める企業分析　会計的思考で企業経営は生まれ変わる』東洋経済新報社、2017年。
日本経済新聞社編『日経業界地図 〈2018年版〉』日本経済新聞出版社、2017年。
長谷川正人著『「強い会社」はセグメント情報で見抜きなさい』KADOKAWA、2014年。
長谷川正人著『ヤバい決算書』日本経済新聞出版社、2017年。

松岡真宏監修・フロンティア・マネジメント著『流通業の「決算書」 — 経営コンサルタントが読み解く』商業界、2017年。
矢島雅己著『決算書はここだけ読もう〈２０１８年版〉』弘文堂、2017年。
矢部謙介著『武器としての会計思考力—会社の数字をどのように戦略に活用するか？』日本実業出版社、2017年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

424406

専門基礎演習

河野　　健男

授業テーマ:　現代社会と社会学

授業の概要:　社会学は、現代社会で発生する社会問題を「集団と個人」との視点から考察する分野です。集団が個人を拘束する側面もあれば、逆に、個人が集団を作っていく側面もあります。興味関心のある社会問題を参加受講生が選定して、プレゼンおよび討論を展開します。

到達目標:　知識・理解の点では、何故そのテーマに関心があるのか、その社会問題の現状を理解します。関心・意欲・態度の点では、選定したテーマに関連するデータや文献を探り・読了・考察する態度・意欲を育む。

授業方法:　演習ですので全員出席と討論による授業進行

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、自己紹介と関心領域の説明、社会学とは？	卒業生の卒論研究テーマの紹介
2.	プレゼンによるテーマの紹介とグループ設定作業	受講生各自による新聞報道記事の収集
3.	データや文献の探し方　その１　官庁統計の利用法	主要省庁のURLの検索方法
4.	データや文献の探し方　その２　社会学文献検索	日本社会学会や関連諸学会の文研センター
5.	グループAのプレゼン　その１　家族・地域・福祉・余暇など	事前準備分担と発表
6.	グループBのプレゼン　その１　家族・地域・福祉・余暇など	事前準備分担と発表
7.	グループCのプレゼン　その１　家族・地域・福祉・余暇など	事前準備分担と発表
8.	グループAのプレゼン　その２　家族・地域・福祉・余暇など	テーマの再設定、事前準備分担と発表
9.	グループBのプレゼン　その２　家族・地域・福祉・余暇など	テーマの再設定、事前準備分担と発表
10.	グループCのプレゼン　その２　家族・地域・福祉・余暇など	テーマの再設定、事前準備分担と発表
11.	グループAのプレゼン　その３　家族・地域・福祉・余暇な	テーマの総括、事前準備分担と発表
12.	グループBのプレゼン　その３　家族・地域・福祉・余暇な	テーマの総括、事前準備分担と発表
13.	グループCのプレゼン　その３　家族・地域・福祉・余暇な	テーマの総括、事前準備分担と発表
14.	総括討論　その１	社会学の視点と他分野の視点
15.	総括討論　その２	これからの研究テーマの設定

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　演習ですので発表資料などの事前相談が必要です。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	100%	準備作業への貢献度やプレゼンの評価で決定

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

424407

専門基礎演習

三宅　　えり子

授業テーマ:　ジェンダー論にふれてみよう ー 新しい気づきがあって面白い！

授業の概要:　ジェンダー論やジェンダー研究と聞くと、何となく近よりがたい印象がありますが、実は社会人の常識として知っていなくてはならない基礎知識です。社会の様々な領域のできごとや男女に関する疑問を、「男だから…」「女だから…」という枠にはめて見た場合と、性別の枠を取り払って考えた場合とでは、物事の見え方が変わり新しい気づきに出会うことができます。授業後半の5回分は、映画を視聴することで登場人物のジェンダー像がどのように、また、なぜそのように描かれているのか、あるいは、登場人物がどのような問題に遭遇しどのように解決するのかについて考えることで、その時代のジェンダー像を理解することができ、ジェンダー意識を高めることができます。

到達目標:　ジェンダーに関する知識がなぜ必要なのか、ジェンダー研究という学問分野が何を問題とし何をめざすものなのかが理解できていること。

授業方法:　講義、ディスカッション、発表、ジェンダー問題に関連したビデオ教材を組み合わせます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業目標と授業全体の流れ）	
2.	ジェンダーとは何か：性差について考え直してみよう	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
3.	「家族」とはどのように語られるのか：家族とジェンダーの関係	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
4.	女性が仕事をするとき、何が問題となるのか	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
5.	学校教育においては、はたして男女平等なのか	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
6.	日常生活で出会うジェンダー問題	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
7.	国家・人権・ジェンダーを問う	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
8.	私たちの身体をめぐるジェンダー	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
9.	フェミニズムとジェンダー	教科書『ジェンダー論をつかむ』の指定箇所を読んで、内容を理解しておくこと。
10.	映画に描かれたジェンダー ①：映画『エリン・ブロコビッチ』の一部視聴、ディスカッション	映画『エリン・ブロコビッチ』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。
11.	映画に描かれたジェンダー ②：映画『プラダを着た悪魔』の一部視聴、ディスカッション	映画『プラダを着た悪魔』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。
12.	映画に描かれたジェンダー ③：映画『アナと雪の女王』の一部視聴、ディスカッション	映画『アナと雪の女王』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。
13.	映画に描かれたジェンダー ④：映画『シンデレラ』の一部視聴、ディスカッション	映画『シンデレラ』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。
14.	映画に描かれたジェンダー ⑤：映画『君の名は』の一部視聴、ディスカッション	映画『君の名は』を前もって視聴し、あらすじを理解しておくこと。
15.	振り返りとまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　いっしょにジェンダー論にふれる旅に出てみましょう。

フィードバックの方法:　平常のワークプリントについては、教室でまとめて解説します。
中間レポートについては、短いコメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40%	授業への積極的な参加度、発表など
中間レポート	30%	ジェンダー問題の情報収集と考察力
期末レポート	30%	ジェンダーの視点をあてはめて自身のライフヒストリーを語ることができる。

教科書:　千田有紀・中西祐子・青山薫（2013）『ジェンダー論をつかむ』有斐閣

参考書:　授業で適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　Eメール（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

424408

専門基礎演習

長岡　　延孝

授業テーマ:

自然環境とできる限り調和する社会の在り方についての研究
:地球温暖化、生物多様性、資源・ごみ問題について一緒に考えよう

授業の概要:

近年、温暖化、生物多様性、資源の有効利用などの環境問題がますます深刻になっています。21世紀はこれらとの闘いが必須となっています。
環境問題の解決のためには、国際社会、国家、企業、そして地域の市民といった、さまざまなレベルでの対応が必要であり、すでに多様な取り組みがなされています。
演習では、これらの各レベルでどんな課題があり、どんな興味深い対応がなされているのかについて調査し、環境問題と環境政策についての理解を深めます。
なお、研究倫理についても確認しながら進めます。

到達目標:

地球温暖化、生物多様性、資源・ごみ問題など、さまざまな環境問題について、興味を持って、どのような解決策があるか、考える能力を高めます。そうして、自然や環境を大切にできるビジネスパーソンの基礎力を養うことを目標にしています。

授業方法:

参加者が興味のある環境問題を取り上げて調査し、整理して報告してもらいます。大事だと思われる環境問題については、担当教員が解説します。期末に、報告した内容についてレポートをまとめ、提出してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	課題について調べ、整理しておく。
2.	基本情報の共有	課題について調べ、整理しておく。
3.	基本情報の共有	課題について調べ、整理しておく。
4.	グローバルな環境問題への取り組み:地球温暖化	課題について調べ、整理しておく。
5.	グローバルな環境問題への取り組み:生物多様性	課題について調べ、整理しておく。
6.	グローバルな環境問題への取り組み:森林の保護	課題について調べ、整理しておく。
7.	企業による環境問題への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
8.	企業による環境問題への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
9.	企業による環境問題への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
10.	地域レベルでの環境保全への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
11.	地域レベルでの環境保全への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
12.	地域レベルでの環境保全への取り組み	課題について調べ、整理しておく。
13.	国レベルでの取り組み:リサイクル	課題について調べ、整理しておく。
14.	国レベルでの取り組み	課題について調べ、整理しておく。
15.	演習の振り返り	課題について調べ、整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

日ごろから、身の回りの環境に注意を払い、また、新聞や報道番組を通じて、グローバルな環境問題について関心を持ってもらいたい。

フィードバックの方法:

報告に関してコメントし、また全員で議論を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	50	課題を適切に設定し、調査・整理し、全員にわかりやすく伝えているか。
レポート	50	課題を適切に設定し、調査・整理し、論理的に主張を行っているか。

教科書:

参考書:

長岡延孝編『サステナビリティの政策と経営』晃洋書房。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール

424409

専門基礎演習

大倉　　真人

授業テーマ:　地方自治体が抱える諸課題の検討

授業の概要:　本講義では、地方自治体が抱える現状について把握するとともに、その現状から生じている諸課題についての検討を行う。具体的には、城陽市役所（京都府）と連携した上で授業を進めていく。

到達目標:　京都府城陽市のケースを検討することを通じて、分析力・思考力を高めることを授業目標とする。また、諸課題の検討によって得られた知見・成果等を城陽市の担当者等に対してプレゼンテーションするなどを通じて、実践的なプレゼンテーション力を高めることも授業目標とする。

授業方法:　学内での授業・検討・議論の他、学外での調査（城陽市に行く、城陽市役所への訪問など）を実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（本講義の内容等）	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	ガイダンス（調査研究を行うための基本的知識）	「ガイダンス（本講義の内容等）」の内容に対する理解
3.	城陽市にかかる概要の説明	「ガイダンス（調査研究を行うための基本的知識）」の内容に対する理解
4.	班分け作業・テーマ決定	「城陽市にかかる概要」に対する理解
5.	班ごとの作業①（方針・計画の立案）	班内での情報交換等
6.	班ごとの作業②（作業行程の検討）	方針・計画の立案にかかる作業（授業中にできなかった部分の実施）
7.	班ごとの作業③（プレゼン資料の作成）	作業行程の検討にかかる作業（授業中にできなかった部分の実施）
8.	予備プレゼンテーション①（各班による発表）	予備プレゼンテーション①の準備
9.	班ごとの作業（予備プレゼンテーション①で出たコメントへの対応）	予備プレゼンテーション①で出たコメントへの対応の準備
10.	予備プレゼンテーション②（各班による発表）	予備プレゼンテーション②の準備
11.	班ごとの作業（予備プレゼンテーション②で出たコメントへの対応）	予備プレゼンテーション②で出たコメントへの対応の準備
12.	予備プレゼンテーション③（各班による発表）	予備プレゼンテーション③の準備
13.	最終プレゼンテーション（城陽市役所職員も参加してのプレゼンテーション）①	最終プレゼンテーションの準備＆他の班の発表内容にかかる検討
14.	最終プレゼンテーション（城陽市役所職員も参加してのプレゼンテーション）②	最終プレゼンテーションの準備＆他の班の発表内容にかかる検討
15.	最終プレゼンテーション（城陽市役所職員も参加してのプレゼンテーション）③	最終プレゼンテーションの準備＆他の班の発表内容にかかる検討

受講者へのメッセージやアドバイス:　上に示した各回の授業内容は、受講生の数や関心、城陽市役所の都合等によって変更される可能性がある。

フィードバックの方法:　作業中において担当教員が適宜フィードバックするとともに、予備プレゼンテーションおよび最終プレゼンテーションにおいて、参加者（担当教員、城陽市役所の担当者など）がコメントすることで、調査・発表の内容についてのフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
予備プレゼンテーション	15	予備プレゼンテーションより、プレゼンテーション力の観点から評価する。
最終プレゼンテーション	40	最終プレゼンテーションより、プレゼンテーション力の観点から評価する。
最終レポート	30	提出されたレポートより、分析力・思考力の観点から評価する。
授業への参加度	15	積極的に議論に参加するなど、調査・検討等にどの程度貢献しているかによって評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　担当教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

424410 **専門基礎演習**

大津　　正和

授業テーマ:　マーケティングの視点から観光を考える

授業の概要:　政府の「観光立国宣言」に代表されるように、現在我が国では、観光で国や地域を活性化しようという試みが進められている。しかし、かけ声だけでは、結果は生みだされない。観光は、遠く離れた国・地域に住む人々に、その国・地域がどのような魅力を持つのかを考え、それを適切に伝え、実際の訪問につなげ、もちろん訪問時には期待に応える経験を提供しなければならない。このような活動は、まさにマーケティング活動である。
本演習では、このような基本に基づいて、ある地域あるいは産業の観光マーケティング・プランを考えることができる力を養う。

到達目標:　現在わが国の、観光の現状について正しく理解できる。人々が観光に求めるニーズを考え、地域資源からそれにあった組み合わせを考え提案できる思考力・提案力を身に付ける。

授業方法:　演習　当初の数回は、観光とマーケティング論の基礎に関する講義形式、中盤は、個人で具体的な観光現象についてマーケティングの視点から考察する。後半は、具体的な観光企画についてマーケティングの視点から考察するグループワーク形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	身近な観光現象について、情報収集をしてくる
2.	観光とは	身近な観光現象について、情報収集をしてくる
3.	マーケティングとは	身近な企業活動について、情報収集をしてくる
4.	観光にマーケティングはなぜ、どのように必要なのか	身近な観光関連領域の企業活動について、情報収集をしてくる
5.	身近な観光状況を調べる(1)	出身地など、身近な地域の観光の状況について情報収集をしてくる
6.	身近な観光状況を調べる(2)	調査対象と決めた地域について、観光の状況について情報収集をしてくる
7.	身近な観光状況を報告する(1)	これまで集めた情報に基づいて、選んだ地域の観光の状況についてまとめてくる
8.	身近な観光状況を報告する(2)	これまで集めた情報に基づいて、選んだ地域の観光の状況についてまとめてくる
9.	グループワーク(1)―グループで取り上げるテーマを決める	取り上げたい地域を考え、その地域の観光の現状について、情報収集をしてくる
10.	グループワーク(2)―取り上げた対象の観光状況について調べる(1)	グループで決定した地域と方針に基づいて、観光関連情報を収集してくる
11.	グループワーク(3)―取り上げた対象の観光状況について調べる(2)	グループで決定した地域と方針に基づいて、観光関連情報を収集してくる
12.	グループワーク(4)―取り上げた対象の観光マーケティング・プランを考える(1)	選択した地域への観光の魅力度を高められるような情報を収集してくる
13.	グループワーク(5)―取り上げた対象の観光マーケティング・プランを考える(2)	選択した地域への観光の魅力度を高められるような情報を収集してくる
14.	グループワーク(6)―取り上げた対象の観光マーケティング・プランをまとめる	グループのメンバーと協力して、選択した地域への観光の魅力度を高められるような企画をまとめてくる
15.	グループワーク(7)―まとめた観光マーケティング・プランを報告する	グループのメンバーと協力して、選択した地域への観光の魅力度を高められるような企画をまとめてくる。それをもとに、レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　個人での調査・報告に関しては、各自が自分で選択した地域について充分に情報収集をおこない、討論を行って、報告できる内容へとまとめていく。グループワークは、各メンバーがそれぞれ準備をしてきて、それらを付き合わせることで成果へとつなげるため、それらが揃わないとグループワークが進まないので、予習・復習は必須である。

フィードバックの方法:　個別課題・グループワークともに、情報収集や検討においては、質問等は個別に教室で対応する。報告については、教室で総評という形でフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	個別課題およびグループワークで、自分で決めた課題および担当部分を適切に報告できるか、それ以外の時には積極的に意見表明ができるか。
発表、討論	30	グループワークや報告で、自分の意見を表明したり、他のメンバーの意見と調整したりして、積極的に進行に参加しているか
レポート	30	マーケティングの考え方を理解した上で、観光企画を適切に作成できているか

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

424411 **専門基礎演習**

L.Rogers

授業テーマ: Introduction to Intercultural Relations & Social Systems

授業の概要: This course will focus on basic intercultural communication concepts as well as look at cultural diversity in Japan and other countries. In this course, students will learn about learning styles, communication styles, communities and privilege within systems in order to learn about individual and group relations within global societies. Knowledge of communication skills and social systems issues can help students make future life choices.

到達目標: Students will learn about their own learning styles, communication styles, values and privilege as well as those of people from other cultures. They will also learn how relationships effect social systems. The skills and knowledge students gain will help them make important life choices.

授業方法: Classwork will take a practical approach and include various activities and video materials to understand how relationships and systems are formed and managed.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction and introduction to culture	Check syllabus to prepare for class discussion
2.	Learning Styles	Outside activity to prepare for class discussion
3.	Categories and Perceptions	Readings and notes to prepare for class discussion
4.	Cultural identity part 1	Readings and notes to prepare for class discussion
5.	Cultural identity part 2	Outside activity to prepare for class discussion
6.	Stereotypes and Generalizations	Readings and notes to prepare for class discussion
7.	Diversity issues	Outside activity to prepare for class discussion
8.	Present Mid-Term Project and peer review	Review and prepare for assessment activity
9.	Cultural values and beliefs part 1	Readings and notes to prepare for class discussion
10.	Cultural values and beliefs part 2	Outside activity to prepare for class discussion
11.	Individuals and community	Readings and notes to prepare for class discussion
12.	Parts of social systems	Outside activity to prepare for class discussion
13.	Transition/Culture shock	Outside activity to prepare for class discussion
14.	Present Final Project	Review and prepare for assessment activity
15.	Course feedback and peer review	Review and self-reflection for discussion

受講者へのメッセージやアドバイス: Classwork will take a practical approach and include various activities in which students will examine critical incidents, discuss readings, participate in simulations, and do fieldwork to examine value and belief systems their influences on social systems in various Japanese and non-Japanese cultures to understand mainstream intercultural communication patterns to create and improve personal relationships with people from any culture. Reading handouts and assignments will be necessary to understand the practical classroom activities and discussions.

フィードバックの方法: Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Projects & presentations	40%	Assessment project work and presentations
Participation & active discussion	30%	Active participation in class and group work
Homework & Project preparation	30%	Outside preparation for in-class work and projects

教科書: Some handouts will be given. However, students may have to make photocopies of some materials.

参考書: Will be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、分析力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

424412

専門基礎演習

鈴木　　尊明

授業テーマ:　専門文書を読もう　～判決文を通じて学ぶ～

授業の概要:

基礎演習で、大学で勉強を進めるためには報告と討論が重要なことを学んだことと思います。専門基礎演習では、より専門的な素材を取り上げて、その分析によって得られた成果を報告し、それに基づいて討論することとします。

担当教員は民法（広く法学）が専門なので、この演習では、民法に関する問題が中心争点となった事件に対する判決文を素材にしたいと思います。おそらく、多くの方が「判決文は難しい」と感じていると思います。原文を読む経験もないかもしれません。しかし、実際の事件に対して下された判決文には、当事者の生々しい希望をどのように扱うかについての裁判所の悩みがにじみ出ているものが多いです。悩んだ末に下した裁判所の決断というのは、私達にとって、とても興味深く面白いものです。

この演習では、判決文という専門文書を読解するという経験を積んでもらうことを第一の目的とし、その読解を前提として報告・討論の経験を積んでもらうことを第二の目的とします。担当教員としては、必ずしも民法の知識を身につけてもらいたいわけではなく、専門文書に触れる経験を楽しんでほしいと考えています。

到達目標:

〇プレゼンテーションの技法を習得する（レジュメ作成・口頭発表・PowerPoint作成など）。
〇専門文書読解の技術を習得する。

授業方法:　講義と口頭発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス ※ゼミの進め方について相談します。	1年次に履修した「基礎演習」の内容を復習しておく。
2.	法律情報の検索方法と報告技術（1）	1年次の図書館ガイダンスや基礎演習等で習得した報告技術の復習をしておく。
3.	法律情報の検索方法と報告技術（2）	民法関係の専門文書を配布するので、それを事前に読み込んでくる。
4.	グループ報告と討論（1）	検討資料について事前に目を通しておく。
5.	グループ報告と討論（2）	検討資料について事前に目を通しておく。
6.	グループ報告と討論（3）	検討資料について事前に目を通しておく。
7.	グループ報告と討論（4）	検討資料について事前に目を通しておく。
8.	グループ報告と討論（5）	検討資料について事前に目を通しておく。
9.	特別企画 ☆フィールドワークの予定（相談しましょう）	訪問先での調査内容等をそれぞれ考えてくる。
10.	グループ報告と討論（6）	検討資料について事前に目を通しておく。
11.	グループ報告と討論（7）	検討資料について事前に目を通しておく。
12.	グループ報告と討論（8）	検討資料について事前に目を通しておく。
13.	グループ報告と討論（9）	検討資料について事前に目を通しておく。
14.	グループ報告と討論（10）	検討資料について事前に目を通しておく。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」ことと「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの方法:

発表用のレジュメ等の成果物については、ゼミ中だけでなくその前後においても適宜相談の上で改善点等を指摘する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時の取り組み	100	普段のゼミにおける討論への参加、発表の準備と内容といった様々な取り組みを評価する。

教科書:　六法　（どのようなものでも良いです）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

424413 **専門基礎演習**

朱　　捷

授業テーマ:　ロボットも文化を持つのか

授業の概要:　AI技術の進展により、いずれはロボットも文化を持つだろうと予測されている。ロボットが文化を持つと、人間の文化はどうなるのか、われわれの社会はどう変わるのか。受講者とディスカッションしながら共に考えていきたい。

到達目標:
〇AI技術について初歩的な知識を持つ
〇技術と文化について初歩的な知識を持つ
〇ディスカッションや発表を通して、思考力や表現力を身につける。
〇文献の調べ方やレポートの書き方を学習し、論理的に思考を組み立てる力を身につける。

授業方法:　発表・ディスカッションを中心に進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。
2.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
3.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
4.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
5.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
6.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
7.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
8.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
9.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
10.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
11.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
12.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
13.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
14.	発表・ディスカッション	課題を調べ、発表の準備をする。
15.	総括	課題を調べ、発表の準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ロボットの時代がすぐやってきます。AIやロボットを調べて、人間の文化とは何かを共に考えていきましょう。

フィードバックの方法:　採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	50	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	40	しっかり予習して準備したうえでグループディスカッションに参加しているかどうか、グループディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:　石黒浩『ロボットとは何か——人の心を映す鏡』(講談社現代新書 2009)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

424414 **専門基礎演習**

谷　　直之

授業テーマ:　いのちと法

授業の概要:

医療と法との関係、特に人間のいのちをめぐる生命倫理の重要問題を、法的な視点から検討します。
科学技術、医療技術の長足の進歩によって、我々はこれまでは救えなかった命を救うことができるようになりました。しかし、同時に、我々人間の命をめぐって、新たに様々な問題が提起されています。例えば、なぜクローン人間を産生することは禁止されるのか、ヒトに対する遺伝子操作は許されるのか、体外受精、特に代理母にはどのような問題があるのか、出生前診断にはどのような問題があるのか、安楽死や尊厳死は許されるのか、脳死と臓器移植の問題点は、など、様々なものがあります。本講義は、これらを素材として、できるかぎりビデオなどの視覚教材を用いて受講生が興味を持つことができるようにしながら、広く法的な視点から問題について考えていきます。
また、必要となるリサーチ方法や研究倫理についても指導します。

生命の始期に関しては、
（1）クローン人間の産生の是非
（2）ヒトに対する遺伝子操作の是非
（3）体外受精の問題点（代理母、出生前診断と選択的人工妊娠中絶の是非など）
生命の終期に関しては、
（4）安楽死
（5）尊厳死
（6）脳死と臓器移植
を素材として、これらの中から各受講者の問題関心に添って担当者を決め、それを少人数のグループで担当してもらい、クラス全体で討論するという演習形式で行います。

到達目標:

必要な情報を収集することができる。
問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持つことができる。
準備や討論に積極的に参加する態度で授業に臨むことができる。
コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができる。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（1）	復習として、各自の興味・関心に合わせて、ゼミで扱うテーマについてのプレゼンテーションを各自で用意すること。
2.	オリエンテーション（2）	自分の担当するテーマについて、インターネット等を活用して、各自でリサーチを始めておくこと。
3.	リーガルリサーチ 研究倫理指導	研究倫理指導の内容に沿って、図書館等を活用したリサーチを進め、担当グループで分担するなど、発表の準備を進めておくこと。
4.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
5.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
6.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
7.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
8.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
9.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
10.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
11.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
12.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。

13.	発表・討論	発表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
14.	発表・討論	表グループは、担当テーマについてリサーチを行い、複数回の打ち合わせを行った上で討論の論点を定め、レジュメを作成して発表に臨むこと。討論の司会も担当する。発表グループ以外の者も、各自でリサーチを行い、設定された論点について、自分の意見を準備して授業に臨むこと。
15.	まとめ	前回の授業中に指示した点について、準備を行っておくこと。

受講者への
メッセージや
アドバイス:

『十分考えた上で自分の意見を持つこと』は、就活や社会に出てからも求められる力ですので、大学生のうちにしっかりと準備をしておくことが大切です。生命倫理の問題を素材として、しっかりと考え、その考えを相手に伝えるトレーニングを一緒に行っていきましょう。

フィードバックの
方法:

マナビーを活用してコメントを行います。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・討論	35%	到達目標のうち、必要な情報を収集することができているか、問題についての正しい知識を得ているか、コミュニケーションをとりつつ、協力して準備ができているかを基準として評価する。
授業への参加度	65%	到達目標のうち、問題に関する正しい知識を前提に、自分の意見を持って授業に臨んでいるか、討論に積極的に参加しているか、論理的な議論・討論ができているかを基準として評価する。

教科書:

参考書:

大谷　實『新　いのちの法律学　生命の誕生から死まで』(悠々社、2011年)

獲得が期待される
基礎的・汎用的能
力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡
方法:

マナビー、オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

424415 **専門基礎演習**

鳥潟　　優子

授業テーマ: 同盟と安全保障を考える

授業の概要: 戦後、日本外交の機軸といわれてきた日米関係は、沖縄の基地移設問題をめぐって動揺し、北朝鮮問題を課題としてかかえている。近年には1969年沖縄返還合意の際の日米間で有事における沖縄への核兵器再持ち込み合意などの「密約」問題も注目を集め、今日、北朝鮮の核開発問題や先覚問題等でアメリカからどの程度協力を引き出せるか問われるようになってきた。
本演習では、日米関係の歴史を辿りながら、安全保障をはじめとする日米関係の諸問題を取り上げ、同盟のあり方を議論する。

到達目標: 戦後日米関係一般について理解し、安全保障問題や今日の日米外交について議論できるレベルを目指す。

授業方法: 毎回、報告の担当者を決め、担当者はレジュメを作成し報告を行い、ゼミで議論する。適宜映像資料を使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスの内容や到達目標等を読み込んでおくこと
2.	戦後日本外交の構図	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
3.	アメリカの対日占領政策と日本	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
4.	サンフランシスコ講和への道	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
5.	日米安全保障条約と吉田路線	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
6.	冷戦の変容と日本の外交地平拡大—鳩山政権による日ソ国交回復など	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
7.	安保条約の改定	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
8.	1960年代日米「パートナーシップ」の形成	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
9.	ベトナム戦争と沖縄返還	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
10.	日中国交回復と日米関係	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
11.	日米関係の「同盟化」—1980年代	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
12.	冷戦後の日米関係	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
13.	9.11以後の日米関係	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
14.	日米関係の課題	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
15.	まとめ	まとめを行う

受講者へのメッセージやアドバイス: ゼミで理解を深めて、議論に参加するためには、必ず予習をしておくことが必要です。自分の関心を探求し見つけるためにも、予習と復習は重要だといえます。また、報告担当者はプレゼンテーションの準備が必要です。

フィードバックの方法: 発表内容50%、その他、出席20%、授業での議論などの参加態度（出席は必須、学期末にレポート提出）30%などを総合的に評価します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表内容	50	知識および理解力、プレゼンテーション
出席	20	出席
授業への参加態度	30	授業での議論などの参加態度（出席は必須、学期末にレポート提出）などを総合的に評価

教科書: 五百旗頭真編『戦後日本外交史・新版』（有斐閣）

参考書: 五百旗頭真編『日米関係史』（有斐閣）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー、Eメールなど。

424416

専門基礎演習

山田　　邦和

授業テーマ:　「歴史」を体験する

授業の概要:　高等学校までの歴史の学習とは「暗記」が主となるものであり、それで歴史に対する拒否反応をおこした人も多いと思う。しかし、大学での歴史学とは、さまざまな史料を分析し、そこから得られた事実を自らの頭で評価し、再構成するところにある。

到達目標:　この演習では、歴史研究の基礎的方法を学んでいただくことを目的としたい。

授業方法:　講義、実技、テキスト購読とその発表を組み合わせる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	歴史学の方法	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
2.	博物館（同志社大学歴史資料館）見学	博物館見学にはどういったことが必要か、考えておく。
3.	同志社女子大学所蔵の歴史資料の観察	資料をあつかうにはどういったことが必要か、考えておく。
4.	遺跡と遺物の見方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
5.	遺跡と遺物の見方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
6.	遺跡と遺物の見方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
7.	地図史料の扱い方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
8.	地図史料の扱い方	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
9.	文献史料の購読	漢文の読み方を復習しておく。
10.	文献史料の購読	漢文の読み方を復習しておく。
11.	文献史料の購読	漢文の読み方を復習しておく。
12.	文献史料の購読	漢文の読み方を復習しておく。
13.	歴史の個別研究の紹介	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
14.	歴史の個別研究の紹介	歴史についての自分が関心あるテーマをまとめておく。
15.	科目全体の総括	これまでの授業の内容をふりかえっておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室にてまとめておこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びペーパー提出	50	遅刻なしに出席し、指定されたペーパー等を提出したか。
授業への積極的参加度	20	授業に積極的に参加したか。
リポート	30	授業で学んだ内容をきちんとまとめ、歴史研究の基礎的方法を的確に学んだことを示せたか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

424417 **専門基礎演習**

倉持　　史朗

授業テーマ:　現代の子ども家庭福祉

授業の概要:　子どもとは，家庭や社会といった環境の強い影響下にさらされる受動的な存在であるとともに，人間形成の途上にあり，成長発達していくという性質を同時に持ち合わせている存在である。よって，子どもの成長発達する権利と，その主体性を最大限尊重し発揮できる環境を創りあげることが社会の使命である。本授業では，子どもという存在とその特質に対する認識を深め，現代社会における児童及び児童福祉政策の現状と課題について学習していく予定である。

到達目標:
①子どもの人権に関する理解を深める。
②子どもをめぐる福祉問題の現状について理解する。
③　②に対する解決策を提示する。

授業方法:　子どもの人権・福祉問題を概観する。それらをふまえ，受講生それぞれが関心のあるテーマについて個人・グループ研究とプレゼンテーションを行い，受講生全体での共通理解をめざす。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	子どもの福祉問題に関する時事資料を収集し，精読する。
2.	子ども家庭福祉の概要	配付資料を精読する
3.	子どもの権利条約	配付資料を精読する
4.	子ども家庭福祉に関わる諸問題(1)	配付資料を精読する
5.	子ども家庭福祉に関わる諸問題(2)	研究テーマを設定する
6.	個人・グループ研究(1)	関連資料を精読し，プレゼンテーション準備を行う。
7.	個人・グループ研究(2)	関連資料を精読し，プレゼンテーション準備を行う。
8.	個人・グループ研究(3)	関連資料を精読し，プレゼンテーション準備を行う。
9.	子ども家庭福祉の実際：ゲスト講師(1)	関連資料を精読し，プレゼンテーション準備を行う。
10.	子ども家庭福祉の実際：ゲスト講師(2)	関連資料を精読し，プレゼンテーション準備を行う。
11.	子ども家庭福祉の実際：ゲスト講師(3)	関連資料を精読し，プレゼンテーション準備を行う。
12.	プレゼンテーション(1)	関連資料を精読し，プレゼンテーション準備を行う。
13.	プレゼンテーション(2)	関連資料を精読し，プレゼンテーション準備を行う。
14.	プレゼンテーション(3)	関連資料を精読し，プレゼンテーション準備を行う。
15.	研究レポート作成	プレゼンテーションと討論内容をふまえてレポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業における教員からのコメント，参加学生とのディスカッション等を通じて実施する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	出席，授業参加の積極性を基準とする
プレゼンテーション	30	プレゼンテーション内容・スキル等を基準とする。
研究レポート	40	研究テーマとして選択した福祉問題への理解，解決策の提示等を論理的に説明できること。

教科書:　適宜，指示します。

参考書:　適宜，指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール

424418

専門基礎演習

山下　　智子

授業テーマ:　新島襄研究から考えるライフデザイン

授業の概要:　新島襄の手紙・日記・自伝等から、近代日本の教育・宗教界に大きな影響を与えた新島襄が、そのその生涯でいかに自己の知・徳をはぐくみ、自己の使命を明確にし、それを実現したか、さらに困難をいかに乗り越えたかを考えます。またこれらの新島襄研究を通して、人物研究の基礎的な方法を学ぶとともに、自身のライフデザインについて考え、その興味を掘り下げてさらなる研究への手掛かりとします。

到達目標:
1、新島襄の生涯と思想を理解する。
2、人物研究の基本的な方法を学ぶ。
3、新島襄の生涯と思想から自身のライフデザインを考え、興味を掘り下げる。

授業方法:　演習形式。状況に応じて講義、ディスカッション、グループワーク、発表、フィールドワークなどをおこないます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを事前に読み、自分の関心や興味を整理しておく。
2.	わたしたちが直線する人生の困難とは	指示された資料を事前によみ、自分の考えを整理しておく
3.	困難をいかに乗り越えるか	指示された資料を事前によみ、自分の考えを整理しておく
4.	新島襄の学び、成長と飛躍	指示された資料を事前によみ、理解を深めておく。
5.	新島襄の直面した困難	指示された資料を事前によみ、理解を深めておく。
6.	新島襄がいかに困難を乗り越えたか	指示された資料を事前によみ、理解を深めておく。
7.	新島襄の残したもの	指示された資料を事前によみ、理会を深めておく。
8.	興味のある人物	指示された資料を事前によみ、自分の考えを整理しておく。
9.	学外研修準備と発表に向けた注意点	指示された資料を事前によみ、理解を深めておく。
10.	学外研修	指示された資料を事前によみ、理解を深めておく。
11.	発表①	発表の準備をする。
12.	発表②	発表の準備をする。
13.	発表③	発表の準備をする。
14.	人物研究と私のライフデザイン	指示された資料を事前によみ、自分の考えを整理しておく。
15.	まとめ	レポートの準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室で発言・発表にコメントをしたり質問に答えたりします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	クラスへの出席と授業への積極的参加度により評価
発表	30	発表の内容、達成目標に対する理解度により評価
期末レポート	30	達成目標に対する理解度により評価

教科書:
現代語で読む新島襄編集委員会編『現代語で読む新島襄』丸善、2000年
同志社編『新島襄の手紙』岩波文庫、2005年

参考書:　教室で指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールで連絡が取れるようにします。

424801、02

経営学概論

畠山　　啓

授業テーマ:

授業の概要:

現代社会において企業は様々な役割を担っており、私たちの日常生活と密接に関わっています。学生の皆さんにとってはバイト先や就職先でもある企業はいかなる仕組みで成り立っているのか、また企業活動はどうあるべきなのかを理解するために、本講義では経営学の基礎的知識の習得を目指していきます。

到達目標:

経営学の基礎的知識を習得し、経営活動を自らのことばで説明できるようにする。

授業方法:

講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	特になし
2.	経営学とは	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
3.	企業の特徴	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
4.	コーポレートガバナンス	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
5.	企業戦略	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
6.	競争戦略	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
7.	組織	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
8.	中間まとめ	特になし
9.	組織文化	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
10.	人的資源管理	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
11.	マーケティング	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
12.	ベンチャービジネス	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
13.	日本的経営	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
14.	国際経営	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語などの他の受講生の学習を妨げる行為には厳しく対処します。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	50%	企業の経営活動について論理的に説明できるかを基準とする
期末試験	50%	企業の経営活動について論理的に説明できるかを基準とする

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

424900

アジア太平洋地域発展論

畠山　　啓

授業テーマ:

授業の概要:

企業が海外、特にアジア太平洋地域で事業を行う際に遭遇するリスクとしてカントリーリスクがあります。カントリーリスクには政治的・社会的・経済的な様々な問題が含まれます。
本講義では各国が抱えるカントリーリスクを切り口にして、アジア・太平洋地域に属する各国の実情、各国が発展する際の課題、課題解決における日本の関わりについて考察していきます。

到達目標:

アジア太平洋地域の国々の実情を理解すること。
日本ができることについて自らの意見が言えること

授業方法:

講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
2.	国境問題	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
3.	対外経済関係1	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
4.	対外経済関係2	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
5.	政情1	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
6.	政情2	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
7.	環境1	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
8.	中間まとめ	特になし
9.	インフラ1	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
10.	インフラ2	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
11.	経済法制度1	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
12.	経済法制度2	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
13.	投資1	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
14.	投資2	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中の私語など他の受講生の学習を妨げる行為に対しては厳しく対処します。

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間テスト	50%	アジア・太平洋地域に属する国々に関する様々な事柄を論理的に説明できるかを基準とする。
定期試験	50%	アジア・太平洋地域に属する国々に関する様々な事柄を論理的に説明できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応する。

425000

アメリカ地域文化論

鈴木　　健司

授業テーマ:　北米の政治システム

授業の概要:

トランプ大統領の独善的にも見える政治スタイルは世界を驚かせたが、それでもアメリカの民主政治が変わらず機能している事実は、その制度がいかに堅固に設計されているかを再認識させる。アメリカの政治システムは、様々な修正を経ながらも、依然として憲法制定時の精神を基本として、社会に活力と多様性を生み出す源であり続けている。また、カナダでは、カナダでは、若きトルドー首相のリーダーシップによって、アメリカとの違いを浮き彫りにしつつ、多元社会の新たな統合の形が模索されている。

そのような事情をふまえ、このクラスでは、北米の二つの国の政治システムがどのような仕組みによって機能し、それぞれの国民のどのような価値観を反映しているのかを考察する。制度の概要を基本的事項から確認しつつ、そこに見られる理念や問題を現代の北米事情に即した具体的な事例をもとに検討しながら、理解を深めていく。適宜、日本の事情とも比較しながら話を進め、自国の政治や社会について考える手がかりを提供したい。

到達目標:

1) アメリカ合衆国とカナダの政治システムとその文化的・歴史的背景について、基礎的知識を持つ。
2) アメリカ合衆国とカナダの政治に関わる現代社会の諸問題について、論点を理解して自らの見解を形成する能力を持つ。
3) アメリカ合衆国とカナダの政治に関する知識をもとに、日本の事情に応用して考えようとする姿勢を持つ。

授業方法:　講義を中心に進める。適宜、テーマに関連する映像資料を視聴する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	トランプ大統領のアメリカ・トルドー首相のカナダ	まとめプリントを用いて復習
2.	合衆国の建国と政治理念	まとめプリントを用いて復習
3.	アメリカ政治の保守とリベラル	まとめプリントを用いて復習
4.	合衆国憲法の基本構造	まとめプリントを用いて復習
5.	連邦制の原理と展開 (1)	まとめプリントを用いて復習
6.	連邦制の原理と展開 (2)	まとめプリントを用いて復習
7.	大統領の役割と評価	まとめプリントを用いて復習
8.	大統領選挙の仕組み	まとめプリントを用いて復習
9.	「抑制と均衡」の理論と現実 (1)	まとめプリントを用いて復習
10.	「抑制と均衡」の理論と現実 (2)	まとめプリントを用いて復習
11.	トランプ政権下の「抑制と均衡」	まとめプリントを用いて復習
12.	アメリカ外交原則の変遷	まとめプリントを用いて復習
13.	カナダの政治システム (1)	まとめプリントを用いて復習
14.	カナダの政治システム (2)	まとめプリントを用いて復習
15.	まとめ	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　アメリカで現在起こっていることに注意を払うことによって、授業の理解が深まります。

フィードバックの方法:　授業内で、前回授業での提出物をもとに疑問点等に言及する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び授業内課題	50%	講義内容を正しく理解し、授業内で指示される具体的な問題に適切に応用して考えを述べることができること
定期試験	50%	アメリカ合衆国とカナダの政治システム及びそれに関わる具体的な論点について、適切に説明できること

教科書:　使用しない。毎回の授業でハンドアウトを配付する。

参考書:　テーマごとの参考図書を、授業配付資料に記載する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール。授業後に教室内で対応。

425501

Academic Studies in English Ⅰ(A)

P.Skrivanic

授業テーマ:

Culture, Communication and Conflict

授業の概要:

When we learn a foreign language, we also learn the elements of a foreign culture.
This course explores how culture relates to communication.

Students will explore a number of questions: How does culture shape our values and ways of communicating? How can we learn about other cultures without our own values getting in the way? What skills do we need to communicate effectively with someone from a different culture? And how do cultural differences contribute to conflicts, both locally and globally?

到達目標:

Students will:
- improve their ability to communicate actively in English
- gain new knowledge about both Japanese and foreign cultures
- find motivation to interact with foreign sources of news and knowledge

授業方法:

Seminar

This class involves small and large group discussions, as well as short lectures. Students will discuss readings done for homework in small groups, and then share their findings with the whole class. All communication will be done in English.

Students will be responsible for keeping a weekly journal in which they reflect on the week's reading and classroom discussion. They will also be responsible for making a group presentation; writing a short research essay; and making an individual presentation based upon their essay.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Course	
2.	The Culture Concept 1	Assigned Reading Begin Weekly Reflective Journal
3.	The Culture Concept 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
4.	Culture and Identity 1	Assigned Reading Prepare to Submit Reflective Journal
5.	Culture and Identity 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
6.	Culture and Society 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
7.	Culture and Society 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
8.	Stereotypes	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
9.	Culture and Face	Assigned Reading Prepare to Submit Reflective Journal
10.	In-Class Presentation Preparation	Prepare for Group Presentation
11.	Group Presentations 1	Prepare for Group Presentation
12.	Group Presentations 2	Write First Draft of Final Essay
13.	Individual Writing Conferences	Edit Essay Prepare for Individual Presentation
14.	Individual Presentations	Finish Essay Prepare for Individual Presentation
15.	Individual Presentations and Reflection on Term	Reflect on Term

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course challenges students to think in a new way. Coming to class prepared (by having completed the reading) will enable students to participate fully and to achieve the goals of the course.

フィードバックの方法:

Journals - returned to students in classroom with comments
Presentations - evaluated in classroom, feedback on written marking sheet
Essays - grade and comments returned to students in classroom

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Journals	20	Thoroughness of Summary Independent Thinking in Reflection Written Grammar
Attendance and Participation	30	Deductions for Absence/Lateness Active Participation and Contribution
Group Presentation	20	Content Communication Clarity Visual Aids
Essay	20	Content and Analysis Essay Structure Written Grammar
Inidividual Presentation	10	Content Communication Clarity

教科書:

Lee, Soo im & Lisa Rogers
Culture and Conflict -- Changing the World for the Better
Shohakusha, 2014

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:	Instructor email address will be provided in class. Manavi will also be used.

425502

Academic Studies in English Ⅰ(A)

C.Adamson

授業テーマ:

Become a member of the Model United Nations

授業の概要:

As an international language, English can be used to build bridges between different countries. In this course, you will become a delegate of the United Nations General Assembly. You will choose a country to represent and learn about life there. Later, you will study about various important global issues, think about solutions to those problems, and then debate your ideas with the delegates of other countries, using the meeting style of the United Nations General Assembly.
An important aim of this course is to learn how English is used for the purposes of negotiation and conflict resolution. After taking this course, as well as improving your English, you will understand the world more clearly and how different countries act in relation to global issues. Also, you will be better prepared to deal with problems and negotiation issues in the future.

到達目標:

The main focus of this class is negotiation and the resolution of international issues through debate. Classroom tasks are to learn about foreign countries and international issues, create solutions to problems and debate the issues using the meeting style of the United Nations. Your main tasks will be to create solutions to problems in pairs and small groups, and debate your ideas in English.

授業方法:

Classroom teaching / outside research / class debate

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation. Introduction to the Model United Nations	Homework/ review / research
2.	World issues. Introduction to negotiation. Choosing a country	Homework/ review / research
3.	Learning about the issue 1	Homework/ review / research
4.	Learning about the issue 2	Preparing a presentation
5.	Informal presentation	Homework/ review / research
6.	Holding a meeting. What to say	Homework/ review / research
7.	Practice meeting. Writing a speech	Homework/ review / research
8.	Learning about the issue	Preparing a presentation
9.	Issue presentation	Homework/ review / research
10.	Making a draft resolution	Homework/ review / research
11.	Debate practice and speeches	Homework/ review / research
12.	Final preparations for debate	Homework/ review / research
13.	Debating	Homework/ review / research
14.	Debating	Homework/ review / research
15.	Final class feedback	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students must be prepared to speak actively in English during class activities and should be well prepared for debates. Students should be able to display knowledge about the issue and their country and a certain amount of independent research is required. At a minimum, students should expect to spend about 45 minutes to one hour in preparing for classes but more extensive review is encouraged. As well as class debates, students will submit one poster presentation; one or two short quizzes; a short essay; and a final quiz in each semester.

フィードバックの方法:

Feedback to presentations and debate performance will be given

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Debate participation	30	Contribution to debate
Presentation and short speeches	20	English skills, presentation ability, content
Short quizzes	10	Knowledge of subject and terms
Class work	20	Participation
Preparation and homework	20	Participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

425601

Academic Studies in English Ⅱ(A)

P.Skrivanic

授業テーマ:

Culture, Self and Society

授業の概要:

When we learn a foreign language, we also learn the elements of a foreign culture.
This course further explores how culture relates to communication.

到達目標:

Using the tools and skills developed in the first term, students will explore a number of contemporary examples of cultural conflicts, drawn both from within and outside of Japanese society. The examples will involve issues of identity, gender, religion as well as economic and demographic change.

授業方法:

Students will continue to:
- improve their ability to communicate actively in English
- gain new knowledge about both Japanese and foreign cultures
- find motivation to interact with foreign sources of news and knowledge

This class involves small and large group discussions, as well as short lectures. Students will discuss readings done for homework in small groups, and then share their findings with the whole class. All communication will be done in English.

Students will be responsible for keeping a weekly journal in which they reflect on the week's reading and classroom discussion. They will also be responsible for making a group presentation; writing a short research essay; and making an individual presentation based upon their essay.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Term and Review of Main Ideas from Spring Term	Assigned Reading Begin Weekly Reflective Journal
2.	Japanese Society: Identity and Difference 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
3.	Japanese Society: Identity and Difference 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
4.	Culture and Social Change 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
5.	Culture and Social Change 2	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Reflective Journal
6.	Gender, Identity and Culture 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
7.	Gender, Identity and Culture 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
8.	Religion, Identity and Culture 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
9.	Religion, Identity and Culture 2	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Reflective Journal
10.	Presentation Preparation	Prepare for Group Presentations
11.	Group Presentations 1	Prepare for Group Presentations and Begin First Draft of Essay
12.	Group Presentations 2	Complete First Draft of Essay
13.	Essay Writing Support: Individual Writing Conferences	Revise Essay and Prepare for Individual Presentation
14.	Final Presentations	Revise Essay and Prepare for Individual Presentation
15.	Final Presentations and Course Conclusion	Reflect on Course

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course continues to challenge students to think in a new way, and requires them to apply this way of thinking to analyze contemporary social conflicts. Coming to class prepared (by having completed the reading) will enable students to participate fully and to achieve the goals of the course.

フィードバックの方法:

Journals – returned to students in classroom with comments
Presentations – evaluated in classroom, feedback on written marking sheet
Essays – grade and comments returned to students in classroom

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Journals	20	Thoroughness of Summary Independent Thinking in Reflection Written Grammar
Attendance and Participation	30	Deductions for Absence/Lateness Active Participation and Contribution
Group Presentation	20	Content Communication Clarity Visual Aids
Essay	20	Content and Analysis Essay Structure Written Grammar
Inidividual Presentation	10	Content Communication Clarity

教科書:

Lee, Soo im & Lisa Rogers
Culture and Conflict -- Changing the World for the Better
Shohakusha, 2014

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

Instructor email will be provided during first class. Manavi will also be used.

425602

Academic Studies in English Ⅱ(A)

C.Adamson

授業テーマ:

Become a member of the Model United Nations.

授業の概要:

As an international language, English can be used to build bridges between different countries. In this course, you will become a delegate of the United Nations General Assembly. You will choose a country to represent and learn about life there. Later, you will study about various important global issues, think about solutions to those problems, and then debate your ideas with the delegates of other countries, using the meeting style of the United Nations General Assembly.

到達目標:

An important aim of this course is to learn how English is used for the purposes of negotiation and conflict resolution. After taking this course, as well as improving your English, you will understand the world more clearly and how different countries act in relation to global issues. Also, you will be better prepared to deal with problems and negotiation issues in the future.

授業方法:

groupwork

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction; choosing countries	Homework and research
2.	Background to issue 2 (issues are current so will be decided with consultation with students in semester 1)	Homework and research
3.	Issue 2; research	Preparing presentation
4.	Prensentation: my country	Homework and research
5.	Debate and discussion	Homework and research
6.	Information sharing	Homework and research
7.	Preparing draft resolutions	Preparing presentation
8.	Presentation 2: my nation's position on issue 2	Homework and research
9.	Preparing draft resolutions	Homework and research
10.	Preparing draft resolutions	Homework and research
11.	Debate review	Homework and research
12.	Debate	Homework and research
13.	Debate	Homework and research
14.	Feedback and reflection	Homework and research
15.	Final class	Homework and research

受講者へのメッセージやアドバイス:

Be interested in international political issues and organisations such as the UN and other NGOs. Be prepared to do research. A high level of English is not neccessary but you must be prepared to give opinions in English in this class.

フィードバックの方法:

Feedback will be given on presentations and debate performance

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Debate participation	30	participation and knowledge
Presentation and short speeches	30	skills and English ability
Homework	20	participation
Classwork and issue awareness	20	participation

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

425701

Academic Studies in English Ⅰ(B)

B.Gross

授業テーマ:

Peace Studies and Conflict Resolution

授業の概要:

This class will serve as an introduction to Peace Studies and Conflict Resolution. It will explore, through activities, games, and short readings, how we understand and deal with conflict in our personal, school, and work lives as well as how conflict is addressed in society and in international business and political relations. Students will gain a very basic understanding of the main aspects of peace studies, including mediation, restorative justice, dialogue, and the history of peace and human rights. Students of all levels are welcome to join this class.

到達目標:

Students will have an opportunity to learn about a variety of approaches to peace. They will look at the question of how to reduce or end war, violence, inequality and injustice and how to build peaceful and fair societies. Students will not only expand their understanding of peace studies as an academic field, but will also practice conflict resolution through group activities, role plays and exercises. The goal of this class is for students to enjoy creating and expressing their own visions for a peaceful world in a way that deepens their sense of global citizenship.

授業方法:

lectures, activities, role plays, presentations

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction to Positive Peace; Intercultural Communication Game	short readings
2.	2. Getting to Yes: Principled Negotiation	short readings
3.	3. Getting to Yes: Part 2	short summary writing
4.	4. Student Negotiation Exercise	short readings
5.	5. Mediation and Conflict	short readings
6.	6. Peer Mediation: Mediation as an Answer to School Violence	short answer
7.	7. Student Mediation Activity	short readings
8.	8. The problem of War: The Sermon on the Mount and Just War Theory	short readings
9.	9. Movie: "The Fog of War"	short answer
10.	10. Group discussion of "The Fog of War"	short readings
11.	11. Pacifism: Jacques Ellul's "Law of Violence"	short readings
12.	12."Law of Violence" Part 2	presentation preparation
13.	13.Thich Nhat Hanh: Being Peace	presentation preparation
14.	14. Being Peace: Part 2	presentation preparation
15.	15. Presentations;	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Do your best!

フィードバックの方法:

Written and verbal feedback with assignments and incremental grade assessments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation	40%	attendance, spoken and written participation
Group projects/Presentations	40%	rubrics to be provided to students
Homework	10%	level of effort and completion
Class Notebooks	10%	frequency and detail of note-taking

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

425702

Academic Studies in English Ⅰ(B)

K.Adams

授業テーマ: Scarcity and Excess: Who Are We?

授業の概要: We live in a time of rapid technological change in how we eat, communicate, interact and present ourselves. We have more opportunities than ever before, opportunities, which are both exciting and confusing. Who are we, what are we becoming? What is real and what is fake? This course looks at changes in food, social media and technology that affect us as individuals through articles from the New York Times. This class will greatly improve your reading ability and speed, your vocabulary, and your ability to think and talk about your views and the world today.

到達目標:
- to increase awareness and knowledge about our complex modern world
- to motivate students to take an active interest in world issues.
- to greatly increase reading and analytical abilities
- to increase vocabulary to western newspaper comprehension levels.
- to encourage reflection and critical thinking about technology and society.
- to improve ability to express ones thoughts both verbally and in writing.

授業方法: The class is a mixture of reading, lecture and seminar. Practical reading skills, fun vocabulary building exercises and group discussion will be combined with video excerpts and internet resources. Students will be required to do research, study for short vocabulary quizzes, make a short presentation and a long presentation on an issue of their choice.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Reading skills Active versus Passive Reading	Vocabulary Exercises Unit 1
2.	Food Unit 1 Excess and Leftovers	Vocabulary Exercises Unit 2
3.	Food Unit 2 Soda and Obesity	Study For Test 1 Units 1-2
4.	Test 1. Food. Video excerpt Supersize me	Food Crossword
5.	Reading Food Labels	Prepare presentation
6.	Short presentation What's in this Snack?	Vocabulary Exercises Unit 3
7.	Social Media Unit 3: Selfie Sticks and Narcissism	Vocabulary Exercises Unit 4
8.	Social Media: Unit 4 How to Escape Your Smart Phone!	Study for Test 2 Units 3-4
9.	Vocabulary Quiz Video Excerpt Her.	Vocabulary Exercises Unit 11
10.	Branding the Self: Unit 11 Plastic Surgery	Vocabulary Exercises Unit 12
11.	Branding the self: Unit 12 Chinese Rip Off Brands.	Study for test 3 units 11-12
12.	Vocabulary Quiz two. Video Excerpt Surrogates.	Prepare ideas for discussion and choose presentation topic.
13.	Discussion: Who are we?	Outline Rough draft
14.	Practice Presentation methods	Clean up Final Presentation
15.	Conclusion	Review

受講者へのメッセージやアドバイス: **NOTE: If you miss class it is up to you to find out what was covered in that class and do the homework. MISSING CLASS IS NOT AN EXCUSE FOR NOT DOING HOMEWORK. Find someone in class to contact, or email me.
*** Homework is often preparation for next class' conversation. Minus points will accrue for failure to do so.

Students are encouraged to get or use the following books to increase their vocabulary and presentation skills: Instant vocabulary by Ida Ehrlich Understanding and Using English Grammar by Betty Schrampfer Azar, Speaking of Speech, www.breakingnews.com For further reading for ambitious students: Please consult your teacher for readings specific to your interests.

フィードバックの方法: Homework is checked each class with marks given for completion, not for correctness. Teacher actively participates in weekly group discussions, going around the class and talking to students individually to give them feedback on their participation and discussion skills. Tests are graded and returned to students. Presentations are graded and verbal response is provided. Students may request their grade average at any point during the semester.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	25	Students are expected to attend class and participate in conversations,group and pair work. Points given for preparedness and active responses to questions and engagement with others.
Unit Tests	30	Tests are based on vocabulary and comprehension questions, graded and handed back.
Short Presentations	10	Presentations marked on clarity, depth of thought, and audience engagement.
Final Paper	10	A short paper on a social problem with a variety of technical, social and political solution. Points given for completion of all dsections, depth of ideas, creative solutions.
Homework	25	Regular homework is given and graded each class. Points are given for completion and preparedness for class activity.

教科書: Scarcity and Excess: Technological Troubles and Social Solutions, by Rume Kita and Keith Wesley Adams, Eihosha, ISBN: 978-4-269--19019-1

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: I am only at Doshisha on Thursday from 1st to 4th periods. You may find me at the teachers' room beside the Kyomu office. You may contact me for homework or in case of sickness at: kwadams3@yahoo.co.jp.

425801

Academic Studies in English Ⅱ(B)

B.Gross

授業テーマ:

授業の概要:

This class will serve as an introduction to Peace Studies and Conflict Resolution. It will explore, through activities, games, and short readings, how we understand and deal with conflict in our personal, school, and work lives as well as how conflict is addressed in society and in international business and political relations. Students will gain a very basic understanding of the main aspects of peace studies, including mediation, restorative justice, dialogue, and the history of peace and human rights. Students of all levels are welcome to join this class.

到達目標:

Students will have an opportunity to learn about a variety of approaches to peace. They will look at the question of how to reduce or end war, violence, inequality and injustice and how to build peaceful and fair societies. Students will not only expand their understanding of peace studies as an academic field, but will also practice conflict resolution through group activities, role plays and exercises. The goal of this class is for students to enjoy creating and expressing their own visions for a peaceful world in a way that deepens their sense of global citizenship.

授業方法:

lectures, activities, role plays, presentations

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Review of Spring Term Topics; Introduction to Restorative Justice	short reading
2.	2. Looking at Restorative Justice, Videos of RJ in British Schools	short reading
3.	3. Restorative Justice Continued	short answer
4.	4. Assignment: Restorative Justice Student Presentation	presentation preparation
5.	5. Restorative Justice Presentation Creation	presentation preparation
6.	6. Restorative Justice Presentation Performance	short reading
7.	7. International Restorative Justice: Truth and Reconciliation in South Africa	short reading
8.	8. Gandhi's Nonviolence in Satyagraha, Excerpts from the Movie "Gandhi"	short answer
9.	9. Civil Disobedience and Non-Cooperation in Gandhi and King	short answer
10.	10. Non-Cooperation in the Movie "The Long Walk Home"	short writing
11.	11. Discussion of "The Long Walk Home"	short writing
12.	12. Readings in Dialogue: David Bohm	short reading
13.	13. Creating a Dialogue Activity	short reading
14.	14. Concepts of Human Rights	short presentation preparation
15.	15. short presentations	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Written and verbal feedback with assignments and incremental grade assessments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation	40%	attendance, spoken and written participation
Group projects/Presentations	40%	rubrics to be provided to students
Homework	10%	level of effort and completion
Class Notebooks	10%	frequency and detail of note-taking

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

425802

Academic Studies in English Ⅱ(B)

K.Adams

授業テーマ:

Textbook: Scarcity and Excess: Technical, Social and Political Solutions

授業の概要:

We live in a time of globalization, rapid technological change, environmental decline, and drastic increase in the gap between the rich and the poor. What are the causes, and what are the solutions? Can technology save us, or is it a part of the problem? What social values from Japan, and from other cultures around the world will help us? This course looks at issues from around the world through newspaper articles form the New York Times and how changes population, technology, and the environment will effect us. From China's one child policy to the Californian water crisis, we look how technology and society are either harming us or helping us. This class will greatly improve your reading ability and speed, your vocabulary, and your ability to think and talk about the world today.

到達目標:

·to increase awareness and knowledge about our complex modern world
·to motivate students to take an active interest in world issues.
·to greatly increase reading and analytical abilities
·to increase vocabulary to western newspaper comprehension levels.
·to encourage reflection and critical thinking about technology and society.
·to improve ability to express ones thoughts both verbally and in writing.

授業方法:

The class is a mixture of reading, lecture and seminar. Practical reading skills, fun vocabulary building exercises and group discussion will be combined with video excerpts and internet resources. Students will be required to do research, study for short vocabulary quizzes, make a short presentation and a long presentation on an issue of their choice.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction : The World Today Problems and Solutions	Vocabulary Exercises: Unit 5
2.	Population: Political Solutions: Unit 5: Too Many Men: Consequences of China's One Child policy	Vocabulary Exercises: Unit 6
3.	Population: Technical Solutions: Unit 6 Test tubes babies and Leftover embryos	Prepare for Test 1 Units 5-6
4.	Test 1./ Video Excerpt: The Island	Vocabulary Exercises: Unit 7
5.	Environment: Technology gone wrong Unit 7 Air Conditions	Vocabulary Exercises: Unit 8
6.	Environment: Technology gone wrong. Unit 8 Malaria Nets	Prepare for Test 2 Units 7-8
7.	Test 2 Video Excerpt: Baraka	Vocabulary Exercises: Unit 9
8.	Social Solutions: Unit 9: Water Crisis	Vocabulary Exercises: Unit 10
9.	Social-Technical Solutions: Kidney Swap	Prepare for Test 3 Units 9-10
10.	Test 3 Video Excerpt: Bend it like Beckham	Prepare Discussion ideas
11.	Discussion: The Future: Trends, Fears and Solutions	Choose Essay Topic
12.	Essay Writing: Statement, Sources, Structure	Get Research Materials and prepare outline
13.	Research	Finish Rough Draft
14.	Final Paper Check	Clear Up Paper
15.	Conclusion	Review

受講者へのメッセージやアドバイス:

**NOTE: If you miss class it is up to you to find out what was covered in that class and do the homework. MISSING CLASS IS NOT AN EXCUSE FOR NOT DOING HOMEWORK. Find someone in class to contact, or email me.
*** Homework is often preparation for next class' conversation. Minus points will accrue for failure to do so.

Students are encouraged to get or use the following books to increase their vocabulary and presentation skills: Instant vocabulary by Ida Ehrlich Understanding and Using English Grammar by Betty Schrampfer Azar, Speaking of Speech, www.breakingnews.com For further reading for ambitious students: Please consult your teacher for readings specific to your interests.

フィードバックの方法:

Homework is checked each class with marks given for completion, not for correctness. Teacher actively participates in weekly group discussions, going around the class and talking to students individually to give them feedback on their participation and discussion skills. Tests are graded and returned to students. Presentations are graded and verbal response is provided. Students may request their grade average at any point during the semester.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	25	Preparedness and activeness of students in the weekly group discussions. Readiness to answer questions in class based on homework
Homework	25	Fulfillment of Homework is checked each class. Grades are given for fulfillment not based on correct answers.
Unit Tests	30	Vocabulary and comprehension questions, graded and handed back following week.
Final Essay	20	Essay graded based on format, content, grammar, and clarity of ideas.

教科書:

Scarcity and Excess: Technological Troubles and Social Solutions, by Rume Kita and Keith Wesley Adams, Eihosha, ISBN: 1-978-4-269-19019-1

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

I am only at Doshisha on Thursday from 1st to 4th periods. You may find me at the teachers' room beside the Kyomu office. You may contact me for homework or in case of sickness at: kwadams3@yahoo.co.jp.

425901

Academic Studies in English Ⅰ(C)

シュトラウマン　千里

授業テーマ:

Travel and Tourism Industry I

授業の概要:

What is travel and tourism? Travel and tourism is the world's largest service industry and in 2015 had a global economic contribution of US$7.6 trillion. As tourism is also one of the fastest growing industries, it is an exciting and dynamic industry responsible for one in every 12 jobs in the world.

This course introduces students to the world of tourism; an understanding of the importance of the travel and tourism industry to host destination, to communities, to the economy, globally and locally. Students will gain essential elements of tourism not only grasping the key issues but applying them to real world problems faced by professionals in the tourism industry.

The course work blends tourism principles and theory with practice including case analysis. By the end of this course, students will develop an understanding of the positive and negative impacts of travel and tourism and the importance of sustainability.

到達目標:

Students will learn:
・the nature of travel and tourism, including the main types of tourism, types of destination, the main reasons why people travel and characteristics of the industry
・the structure and scale of the travel and tourism industry
・a basic understanding on various impacts of tourism
・positive and negative aspects of economic impacts for both hosts and guests
・positive and negative aspects of environmental impacts for both hosts and guests

授業方法:

A seminar or workshop style with regular interaction between the instructor and students as well as cooperative group work amongst the students.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction, Self-introductions, Preliminary activities	Reading and preparation for discussion
2.	The tourism essentials: The history of tourism; Types of tourism; The components of the tourism system	Reading and preparation for discussion
3.	The tourism essentials: Travelers and visitors; Tourism flows; The tourist experience; Tourists in Kyoto	Reading and preparation for discussion
4.	The destination: Defining the destination; Common features of tourist destinations, and examples in Japan and outside Japan	Reading and preparation for discussion
5.	The destination: Components of the destination amalgam; The sustainable destination and examples	Reading and preparation for discussion
6.	The destination: The competitive and evolving destinations and examples	Preparation for presentation, Topics TBA
7.	Student short presentations in small groups	Reading and preparation for discussion
8.	The economic consequences of tourism: The supply side and demand side of tourism; The economic benefits and cost of tourism	Reading and preparation for discussion
9.	The economic consequences of tourism: What economic impacts does tourism in Kyoto have? – Direct, Indirect and Induced Effects	Reading and preparation for discussion
10.	The environmental consequences of tourism: Relationship between tourism and the environment; Consequences of tourism for the environment	Reading and preparation for discussion
11.	The environmental consequences of tourism: Environment impact assessment; Examples of environmental tourism	Reading and preparation for discussion
12.	Case Study: "Event" tourism – Olympic Games, analysis and discussions	Preparation for presentation, Topics TBA
13.	Student individual presentations	
14.	Student individual presentations (Cont'd)	
15.	Summary Q & A	

受講者へのメッセージやアドバイス:

From 2011 to 2015, Japan's inbound tourism grew by 33 percent a year, among the fastest rates in the world. Among many tourist destinations, Kyoto is one of the most popular destination for foreign visitors to Japan.
While we discuss different aspects of travel and tourism, we will reflect competitiveness of Kyoto in global tourism.

フィードバックの方法:

A combination of written reports, presentations, attendance, and participation.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	20	
Homework	30	
Small group presentation	20	Assessed as a group
Individual presentation	30	Individual assessment

教科書:

No textbooks. Class materials (PPT) for each class.
Reading articles

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力
教員との連絡方法:	cstraumann6@gmail.com

425902

Academic Studies in English Ⅰ(C)

O.Y.Baker

授業テーマ:

The History and Culture of Kyoto: From Pre-History to the Rise of the Warrior Class

授業の概要:

This course will explore the history and culture of Kyoto. Students will have a reading and writing assignment each week. Topics will include the geography of Kyoto, religion, literature, art, and history. We will read about powerful families, military, and religious leaders. During each class meeting, students will review and discuss the previous week's reading assignments in groups. In addition, students will be required to take notes during lectures covering topics that supplement each week's reading assignments. During the spring term we will take a look at several temples and shrines in detail. Students are asked to visit Kyoto at least once during the spring term to research a temple, shrine, or other location of interest. The results of this research will be presented at the end of the semester.

到達目標:

The main goal of this class is for students to practice introducing Kyoto's culture and history in English, as they might when guiding tourists from overseas.

授業方法:

lecture/discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Kyoto: An Introduction	Reading and writing assignments to be provided in class
2.	Pre-Heian Kyoto I: The Jomon Period	Reading and writing assignments to be provided in class
3.	Pre-Heian Kyoto II: The Yayoi Period	Reading and writing assignments to be provided in class
4.	Pre-Heian Kyoto III: The Kofun Period	Reading and writing assignments to be provided in class
5.	Pre-Heian Kyoto IV: From the Asuka to the Nara Period	Reading and writing assignments to be provided in class
6.	Emperor Kanmu, Nagaoka-kyo, and Heian-kyo	Reading and writing assignments to be provided in class
7.	Esoteric Buddhism: Kukai and Saicho	Reading and writing assignments to be provided in class
8.	The Fujiwara Family & Heian Period Literature	Reading and writing assignments to be provided in class
9.	Pure Land Buddhism: Hōnen and Shinran	Reading and writing assignments to be provided in class
10.	The Minamoto, The Heike, and the Military Chronicle	Reading and writing assignments to be provided in class
11.	The Kamakura Period & Zen Buddhism	Reading and writing assignments to be provided in class
12.	Term Review	Reading and writing assignments to be provided in class
13.	End of Term Test	
14.	End of Term Presentations - Kyoto's Temples and Shrines	
15.	End of Term Presentations - Kyoto's Temples and Shrines	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback on student work will be provided in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	60	Attendance, Preparedness, Participation in discussion
End of Term Test	20	Short answer test
Final Presentation	20	Presentation on two sites of religious interest in or near Kyoto City.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

obaker@dwc.doshisha.ac.jp

426001

Academic Studies in English Ⅱ(C)

シュトラウマン　千里

授業テーマ:

Travel and Tourism Industry

授業の概要:

This course picks up where the Travel and Tourism Industry I left off and advances to look further into travel and tourism industry; such as, the social and cultural consequences of tourism, sustainable tourism, hospitality and tourism policy. By the end of this course, students will acquire essential general knowledge about travel and tourism industry.

The course work blends tourism principles and theory with practice including case analysis so that students will learn to apply their knowledge to real tourism situations.

到達目標:

The students will learn:
・positive and negative impacts of socio-cultural tourism for both hosts and guests
・the different stages in destination development and identify the different prerequisites of a sustainable tourism development and its benefits
・the importance of the customer service, and better understand the nature of hospitality and hospitality management
・how market research and analysis define the tourism market
・the role of government in tourism and tourism policy

授業方法:

A seminar or workshop style with regular interaction between the instructor and students as well as cooperative group work amongst the students.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Recap of first semester – Go over the main points from the first semester Preview of second semester and introductory activities	Reading and preparation for discussion
2.	The Social and Cultural Consequences of tourism: Sociology and culture; Tourist culture; Positive and negative impacts on local community and their culture; How about Kyoto?	Reading and preparation for discussion
3.	The Social and Cultural Consequences of tourism: Process of cultural change; Assessment of the social and cultural consequences; Case analysis – “Slum” tourism	Reading and preparation for discussion
4.	Sustainable tourism: Concepts and definition; Types of tourism sustainability; Case analysis – “Eco” tourism	Reading and preparation for discussion
5.	Sustainable tourism: Principles of sustainable tourism; Implementation of sustainable tourism and government role; Case analysis – “Medical” tourism	Preparation for presentation, Topics TBA
6.	Students short presentations in small groups	Reading and preparation for discussion
7.	Hospitality: Definition and scope; Structure of hospitality industry; Hospitality management;	Reading and preparation for discussion
8.	Hospitality: Hospitality operations; Environmental issues; “Omotenashi”– Japanese hospitality?	Reading and preparation for discussion
9.	Government and tourism: The role of government in tourism; Government and tourism organizations; Tourism policy	Reading and preparation for discussion
10.	Code of conduct – Law and ethics: The different aspects of law and the principles of international law; The link between cultural dimensions, diversity and perceptions on rules/law; CSR in tourism; Ethical issues in the tourism industry – discrimination, behavioral discipline, prevention approach, etc.	Reading and preparation for discussion
11.	Tourism marketing: The concept of tourism marketing; Evolution of marketing approaches; Market planning in tourism and hospitality	Reading and preparation for discussion
12.	Tourism marketing: Tourism product markets; Process of promotion; How tourism organizations communicate with potential visitors	Preparation for presentation, Topics TBA
13.	Students individual presentations	Preparation for presentation, Topics TBA
14.	Students individual presentations (Cont'd)	Reading and preparation for discussion
15.	Summary: Future of tourism – Tourism future markets; Destination futures; Transport futures; Future tourism products	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

From 2011 to 2015, Japan's inbound tourism grew by 33 percent a year, among the fastest rates in the world. Among many tourist destinations, Kyoto is one of the most popular destination for foreign visitors to Japan.
While we discuss different aspects of travel and tourism, we will reflect competitiveness of Kyoto in global tourism.

フィードバックの方法:

A combination of written reports, presentations, attendance, and participation.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	20	
Homework	30	
Small group presentation	20	Assessed as a group
Individual presentation	30	Individual assessment

教科書:

No textbooks. Class materials (PPT).
Reading articles

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	cstraumann6@gmail.com

426002

Academic Studies in English Ⅱ(C)

O.Y.Baker

授業テーマ:

The History and Culture of Kyoto

授業の概要:

The fall term will continue to explore the art, religion, literature and history of Kyoto. We will begin with the Muromachi Period and examine how the cultural life of Kyoto's citizens expanded greatly. Topics such as tea, machiya, ceramics, art, and film will be covered. We will discuss the dramatic end of the Edo Period and the profound changes of the Meiji Period, rapid developments in industry and education, and conditions in the city during the first and second world wars. Lastly we will consider the state of modern Kyoto, discussing currently relevant topics such as entertainment, tourism, ecological preservation, etc.

到達目標:

The main goal of this class is for students to practice introducing Kyoto's culture and history in English, as they might when guiding tourists from overseas.

授業方法:

lecture/discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Review: Early History of Kyoto	Reading and writing assignment to be provided in class
2.	The Nanbokucho & Muromachi Periods	Reading and writing assignment to be provided in class
3.	The Onin Wars & The Warring States Period	Reading and writing assignment to be provided in class
4.	The Azuchi-Momoyama Period	Reading and writing assignment to be provided in class
5.	The Edo Period	Reading and writing assignment to be provided in class
6.	The Bakumatsu Period	Reading and writing assignment to be provided in class
7.	Meiji Period Institutions: Museums and Universities	Reading and writing assignment to be provided in class
8.	The Taisho and Showa Periods	Reading and writing assignment to be provided in class
9.	Before, during, and after World War II	Reading and writing assignment to be provided in class
10.	Kyoto's Entertainment Industry	Reading and writing assignment to be provided in class
11.	Kyoto 2018	Reading and writing assignment to be provided in class
12.	End of Term Review	Reading and writing assignment to be provided in class
13.	End of Term Test	
14.	End of Term Presentations: One Day Kyoto Tour	
15.	End of Term Presentations: One Day Kyoto Tour	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback on student work will be provided in class

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	60	Attendance, Preparedness, Participation in discussions
End of Term Test	20	Short answer test
Final Presentation	20	Presentation of an original one day Kyoto tour itinerary

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

obaker@dwc.doshisha.ac.jp

426100

Academic Studies in English Ⅰ(D)

B.Bridgman

授業テーマ:

English for Tourism

授業の概要:

This course is for CASE intermediate-level students and will help students who want to work in the travel and service field. It will also be useful for any student interested in personal travel around the world. Students will learn what they need for professional communication in hotel, airline and other related tourism services. The course will build confidence in using English in travel situations, such as travel booking, making reservations, tour guiding, and taking care of customers in English. Students will have many opportunities to practice using and listening to English in travel and work situations. We will also learn about different countries and their important tourist destinations. Project work will be focused on Kyoto and aiding tourists from abroad in that setting.

到達目標:

Students will learn how to work independently and with others in order to navigate common tourism/travel related situations.
Also, students will be expected to acquire the confidence, language and skills to solve more complex problems they may face in the hospitality and tourism field.
A component of this course will be to raise each student's level of cross-cultural awareness, in order to handle situations which may arise in dealing with customers from other countries.

授業方法:

Units from the textbook will guide the themes for each semester. Students will be expected to participate in pairwork and groupwork to complete class tasks. The class will emphasize speaking and listening but will also include reading and writing skills that will be useful for the tourism industry as well as individual travel. Homework and extra work from outside sources, including handouts, will be used to reinforce vocabulary and structures leading to the production of larger class projects.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Class introduction -textbook navigation	Fill-out -Tourism 'about you'- handout
2.	Sharing 'about you' handout. Window on the world -What do you know?	Textbook page 8 -Reading Textbook Page 9-Vocabulary & Research about Japan Task
3.	Unit 1 - World Tourism Vocabulary building & general knowledge tasks from text	Reading 'Bangkok surpasses London...' Handout
4.	Unit 1 - World Tourism (continued) Focus on the U.S.A.	Review Unit 1 -notes & vocabulary Optional Homework 'the modern traveler' -internet research task
5.	Unit 1 - Professional Skills Listening and confirmation skills focus	Pre-read Textbook -Page 15 A~D
6.	Unit 1 - Case Study choosing the right package tour	Write and Send confirmation E-mail for Mark to the teacher.
7.	City tours -planning a bus tour Workday Text Page 28-29	Gather information & images for your 'bus tour' project
8.	City tours -planning a bus tour Presentation Day	Self-critique your presentation Textbook - Page 16 -2 & 3
9.	Unit 2 - Jobs in Tourism	Textbook - Page 18 -All
10.	Unit 2 - Professional Skills -Cover Letter	Make mini-CV (cover letter)
11.	Unit 2 -Case Study Choosing the right person for a job Debate and discussion skills for narrowing down a candidate	Fine tune CV and prepare for job interviews
12.	A Job Interview Job interview skills and role-play	Study for Quiz
13.	Quiz # 1	Review Quiz Material
14.	Unit 4 -Case Study Refining the 'Bus Tour' Improving a tour package with complimentary aspects	Prepare for last class
15.	Consolidation and Speaking Challenge	Review Semester notes and vocabulary Enjoy Summer!

受講者へのメッセージやアドバイス:

We'll have lots of opportunities to speak, learn and create in this class.
Keeping up with homework and attempting special research tasks assigned by the teacher is key to success in the class.

フィードバックの方法:

Feedback on progress and areas that need improvement will be given during the class, when necessary, and written on all homework or assignments that are submitted.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework	10%	Textbook and Handouts
Classroom tasks/participation	30%	Student's effort and attitude in class
Semester project	30%	Main semester project
Consolidation and speaking Quizzes	30%	Writing and Speaking Quizzes

教科書:

English for International Tourism -New Edition, Iwonna Dubicka & Margaret O'Keeffe, Longman, 978-1-4479-2387-9

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法: buggy76@hotmail.com

426200

Academic Studies in English Ⅱ(D)

B.Bridgman

授業テーマ: English for Tourism

授業の概要: This course is for CASE intermediate-level students and will help students who want to work in the travel and service field. It will also be useful for any student interested in personal travel around the world. Students will learn what they need for professional communication in hotel, airline and other related tourism services. The course will build confidence in using English in travel situations, such as travel booking, making reservations, tour guiding, and taking care of customers in English. Students will have many opportunities to practice using and listening to English in travel and work situations. We will also learn about different countries and their important tourist destinations. Project work will be focused on Kyoto and aiding tourists from abroad in that setting.

到達目標: Students will learn how to work independently and with others in order to navigate common tourism/travel related situations.
Also, students will be expected to acquire the confidence, language and skills to solve more complex problems they may face in the hospitality and tourism field.
A component of this course will be to raise each student's level of cross-cultural awareness, in order to handle situations which may arise in dealing with customers from other countries.

授業方法: Units from the textbook will guide the themes for each semester. Students will be expected to participate in pairwork and groupwork to complete class tasks. The class will emphasize speaking and listening but will also include reading and writing skills that will be useful for the tourism industry as well as individual travel. Homework and extra work from outside sources, including handouts, will be used to reinforce vocabulary and structures leading to the production of larger class projects.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Welcome back -activities for review	Textbook Page 52 - Vocabulary 1 & 2
2.	Unit 6 - Food & Beverage Various activities from the unit The 'proposal'	Think of and plan a traditional Japanese recipe
3.	Unit 6 - Case Study Restaurant rescue and upgrading the Menu Homestay Recipe	Internet Task -Research information on Costa Rica online
4.	Unit 7 - Nature Tourism Planning a short itinerary	Internet Task - Research popular outdoor activities in either Hokkaido or Okinawa
5.	Unit 7 - Case Study Upgrading an 'Adventure Tour'	Type-up your new tour idea Fill-out handout
6.	Project 1 -'The Brochure' Computer Room -workday	Finish & Print Brochure
7.	Project 1 'The Brodchure' Presentation day	Textbook Page 68 - 3 & 4
8.	Unit 8 - Air Travel Airport facilities & Navigating the concourse	Textbook Page 70 - Reading 3
9.	Unit 8 - Air Travel (continued) Flight Safety -Prohibitions	Read 'Japanese Culture' handout
10.	East meets West Window on Japan Intercultural awareness task	Work on conference idea
11.	Applying what you've learned - attending an 'International Conference'	Textbook Page 90 - Read over information on Isan
12.	Development/Promotion - Project 2 Choose -Hermosa or Isan	Prepare for next week's class Designing the 'ideal tourist community'
13.	Project 2 'Build it and they will come' workday -putting it together	Finish up presentation plan
14.	Project 2 - Present	Make up assignment 'hospitality terms'
15.	Consolidation & Speaking challenge	Reflect & Review -semester's work

受講者へのメッセージやアドバイス: We'll have lots of opportunities to speak, learn and create in this class.
Keeping up with homework and attempting special research tasks assigned by the teacher is key to success in the class.

フィードバックの方法: Feedback on progress and areas that need improvement will be given during the class, when necessary, and written on all homework or assignments that are submitted.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework	10%	Textbook and Handouts
Classroom tasks/participatio	30%	Student's effort and attitude in class
Semester project	30%	Main Semester Project
Consolidation and speaking Quizzes	30%	Writing and Speaking Quizzes

教科書: English for International Tourism -New Edition, Iwonna Dubicka & Margaret O'Keeffe, Longman, 978-1-4479-2387-9

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法: buggy76@hotmail.com

426300

女性と社会保障

倉持　　史朗

授業テーマ:

授業の概要:

今日では国際社会においても権利思想の上では「男女平等」であることが普遍化し，性別を前提にして「社会保障」を考えることについては色々な見方があろう．しかし，実際に現在の日本社会に目を向けたとき，生物学的な性別の他にもジェンダー(文化的・社会的性別)を起点とした女性の生きにくさが存在することも事実である．

本講義では，女性が主体的に自らのライフスタイルを選択し，さまざまなライフイベントを経験しつつその人らしい生き方が獲得できるよう，女性と深く関わる社会保障(福祉)制度・政策を学習する．さらには具体的な事例を活用しながら現在の社会保障・福祉の問題点とその解消のための方策をともに考えて行くことを目的とする．

到達目標:

女性という立場からみた社会保障・福祉の意義と課題について理解する．
女性(男性)のライフステージと社会保障・福祉の関わりについて学習する．
女性の固有性によって直面しやすい生活問題とその解決策について考える．

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	関連文献の精読
2.	女性のライフサイクルと社会保障	テキスト内の関係箇所の精読
3.	女性福祉の歴史的展開1	テキスト内の関係箇所の精読
4.	女性福祉の歴史的展開2	テキスト内の関係箇所の精読
5.	女性と人権保障	テキスト内の関係箇所の精読
6.	女性と教育保障	テキスト内の関係箇所の精読
7.	ライフステージと社会保障・福祉１－進路選択	テキスト内の関係箇所の精読
8.	ライフステージと社会保障・福祉２－結婚	テキスト内の関係箇所の精読
9.	ライフステージと社会保障・福祉3ー妊娠・出産・子育て(1)	テキスト内の関係箇所の精読
10.	ライフステージと社会保障・福祉4ー妊娠・出産・子育て(2)	テキスト内の関係箇所の精読
11.	ライフステージと社会保障・福祉5ー壮年期	テキスト内の関係箇所の精読
12.	ライフステージと社会保障・福祉6ー高齢期	テキスト内の関係箇所の精読
13.	女性と貧困問題	テキスト内の関係箇所の精読
14.	諸外国の社会保障と女性	テキスト内の関係箇所の精読
15.	まとめ	テキスト内の関係箇所の精読

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講義は男性教員が担当しますので，適宜ゲスト講師をお招きしたりしながら学びを深めていきたいと思います．
また，女性・男性という枠にとらわれず，みなさんそれぞれの考えや思いを自由に表現しながらお互いの価値観についての気づきを得たり，視野を広げていきたいと思います．

フィードバックの方法:

授業内のコメントによる講評等を通じてフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的参加度	30	出席状況や質問・課題シート等の内容を基準とする。
期末試験	70	授業内容に関する理解度を基準とする。

教科書:

日本婦人団体連合会(2017)『女性白書2017　女性の人権と社会保障－世界と日本』ほるぷ出版.

参考書:

森田明美編著(2011)『よくわかる女性と福祉』ミネルヴァ書房.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:

Eメール

426400

心理臨床学

日下　　菜穂子

授業テーマ:　人間の行動の理解と支援についての基礎知識を学ぶ

授業の概要:　心理臨床の対象は、心理的問題を抱えている人と問題に直面する潜在的な可能性を持っているすべての人を対象として、心の健康の維持増進と心の問題を解決することです。この授業では、心の問題の予防と解決のために果たす心理臨床の役割を学ぶことを目標とします。まず、対象者理解の視点を身につけるために、人の心のはたらきについての基本的理論を概説します。そして心理アセスメントや心理療法の技法の具体例をあげながら、心理臨床の実際を紹介します。また、近年広く展開されつつあるスクールカウンセラーによる学校臨床、子育て支援や高齢者の心のケアといったコミュニティを中心とした臨床現場の諸領域を取り上げ、心理臨床の知見を人間関係や地域生活など身近な生活に生かすことにも関心を広げることをめざします。

到達目標:　心理臨床の対象となる心の問題を知り，現代社会におけるキャリア形成についての諸問題と関連づけて理解することができる。
心理臨床の対象者を理解する視点を知り、実践することができる。
心の健康の維持増進と心理的問題を解決する心理臨床の基礎知識と技法を理解し、説明することができる。

授業方法:　主に講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	心理臨床とは何か	資料の講読
2.	臨床心理学の歴史	資料の講読
3.	ライフサイクルと心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読
4.	ライフサイクルと心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読
5.	心理的問題のとらえ方	授業内容のふりかえり 資料の講読
6.	心理アセスメントの目的と方法	授業内容のふりかえり 資料の講読
7.	心理アセスメントによるパーソナリティの理解1（知能検査と質問紙）	授業内容のふりかえり 資料の講読
8.	心理アセスメントによるパーソナリティの理解2（投影法）	授業内容のふりかえり 資料の講読
9.	さまざまな心理療法	授業内容のふりかえり 資料の講読
10.	心理療法1（精神分析療法・分析心理学的心理療法）	授業内容のふりかえり 資料の講読
11.	心理療法2（クライエント中心療法）	授業内容のふりかえり 資料の講読
12.	心理療法3（認知行動療法・行動療法）	授業内容のふりかえり 資料の講読
13.	予防のための心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読
14.	コミュニティにおける心理臨床	授業内容のふりかえり 資料の講読
15.	まとめ	授業内容のふりかえり 資料の講読

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業のまとめとして行う試験については教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	心の問題の知識と理解，心の健康の維持増進と心理的問題を解決する心理臨床の基礎知識と技法の理解度、心理臨床の対象者を理解する視点の重要性の認識度を評価の基準とします。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業時間の前後に教室で対応します。

426501、02

対人関係心理学

谷口　　淳一

授業テーマ:

授業の概要:

この授業では、対人関係をめぐる日常的で身近な様々な現象について、主に社会心理学的にアプローチする。授業では、できるだけ身近な対人関係のテーマについて取り上げ、人間関係の複雑な網の目を少しでもほどくことができればと考えている。

到達目標:

これまで行われてきた多くの実証研究について学び、社会心理学における専門的基礎知識を習得することを目標とする。また、そのような社会心理学の基本的な考え方や知識について学ぶことによって、自分自身やまわりの人々の心の働きや行動について“考える” 力を身につけることを目標とする。

授業方法:

授業は基本的にパワーポイントを用いた講義形式で行うが、授業の理解を深めるために適宜、心理テストの実施などを行う。また授業の初めに前回の質問への回答を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションとイントロダクション	
2.	未知から既知へ　①対人認知	テキストの「エピソード」について予習
3.	未知から既知へ　②対人魅力	テキストの「エピソード」について予習
4.	未知から既知へ　③対人魅力の理論	テキストの「エピソード」について予習
5.	親しくなる　　①自己開示と自己呈示	テキストの「エピソード」について予習
6.	親しくなる　　②対人コミュニケーション	テキストの「エピソード」について予習
7.	親しくなる　　③説得的コミュニケーション	テキストの「エピソード」について予習
8.	深い関係になる　①さまざまな恋愛のタイプ	テキストの「エピソード」について予習
9.	深い関係になる　②親密な関係の維持	テキストの「エピソード」について予習
10.	恋愛できない・しない若者たち	テキストの「エピソード」について予習
11.	深い関係になる　③親密な関係の発展	テキストの「エピソード」について予習
12.	親密な関係のなかの自分	テキストの「エピソード」について予習
13.	親密な関係からの影響	テキストの「エピソード」について予習
14.	親密な他者集団からの影響	テキストの「エピソード」について予習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業内容について自らの問題意識と照らし合わせながら受講することを望みます。

フィードバックの方法:

毎回の授業に対する質問がある場合は「質問シート」に記載して提出してもらいます。提出された質問には次回の授業の初めに受講者全体に対して回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中に提出するコメントシート	30%	授業内容を自らの日常生活に照らし合わせて考える力身についているかを評価する。
定期試験	70%	社会心理学における専門的基礎知識を習得することができているかを評価する。

教科書:

谷口淳一・相馬敏彦・金政祐司・西村太志（編著） エピソードでわかる社会心理学－恋愛関係・友人関係からまなぶ－　北樹出版　2017年

参考書:

金政祐司・相馬敏彦・谷口淳一　史上最強図解よくわかる恋愛心理学　ナツメ社　2010年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

426700

ジェンダーの社会心理学

諸井　　克英

授業テーマ:　家族関係の社会心理学

授業の概要:　青少年の「事件」が起きるたびに、背景に「家族の変容」という言説がメディアを通して流布される。我々にとって「家族」とは何なのか曖昧なまま、「家族の大切さ」という感情的言説を機軸にして、「家族価値への回帰」が唱導される。本講義では、第二次大戦後の我が国の家族像の変遷を辿りながら、我々にとって「家族」とはそもそも何かを心理学的に明らかにする。

到達目標:　１週間に一度は，自分のまわりの対人関係を観察し，「社会における男と女のあり方」について考えてみよう。そのために，活字メディアやニュース映像などにも積極的に接触し，観察の幅と深さを増そう。この反復によって，自分の人生デッサンの手がかりを得よう。

授業方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	変容する家族	前回の講義主題の確認
3.	結婚価値の変貌	同上
4.	夫婦関係の社会心理学的特徴	同上
5.	夫婦関係を支える社会心理的スキル	同上
6.	恋愛の罠	同上
7.	成長する夫婦関係	同上
8.	夫婦関係の危機への対処	同上
9.	理想とする「夫婦」像の変遷	同上
10.	多様な夫婦像の創出（1）	同上
11.	多様な夫婦像の創出（2）	同上
12.	シングルは幸せか	同上
13.	夫婦関係の未来	同上
14.	家族の行方	同上
15.	評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:　１週間に一度は周囲に存在する様々な「家族」を観察しよう。

フィードバックの方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや資料整理も含む）	70	授業への集中と理解
小課題（含　マナビー）	30	授業への集中と理解

教科書:　諸井克英著『夫婦関係学への誘い―揺れ動く夫婦関係―』＜ナカニシヤ出版＞

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー

426800

家族臨床心理学

日下　　菜穂子

授業テーマ:　システムとしての家族の理解と支援

授業の概要:　家族はあまりにも身近すぎて意識せずに生活を送りがちなものです。しかし、人々に安らぎを与え、人格を形成する場としての重要な役割を家族は担っています。何かと家族をめぐる問題が取りざたされる現代にあって、もう一度家族の意味を授業を通して考えてみたいと思います。授業では、社会状況の変化と関連付けながら、現代における様々な家族問題を取り上げながら、家族をとりまく心の危機を理解し、家族の健全な発達を支える心理的援助法の理論と実践について講義します。

到達目標:　家族臨床心理学の対象となるシステムの問題を理解し，現代社会におけるキャリア形成を含む生き方全般を理解する。
家族システム論の視点からの、家族の病理・問題を把握する方法を理解し、説明することができる。
システムとしての家族の具体的な支援の技法を知り、適切に説明することができる。
システムとしての家族の具体的な支援の技法の理解から，システムの問題解決を考え対処する姿勢を獲得する。

授業方法:　主に講義形式、家族療法の技法の修得のためにロールプレイやグループワークも行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	私にとっての家族とは	資料の講読
2.	現代社会と家族	授業内容の復習 資料の講読
3.	家族周期と個人のライフサイクル	授業内容の復習 資料の講読
4.	家族のアセスメント	授業内容の復習 資料の講読
5.	システムとしての家族	授業内容の復習 資料の講読
6.	事例検討（演習）	授業内容の復習 資料の講読
7.	家族面接の進め方（グループワーク）	授業内容の復習 資料の講読
8.	家族療法の技法（演習）	授業内容の復習 資料の講読
9.	システム論に基づく家族療法	授業内容の復習 資料の講読
10.	コミュニケーションのいろいろ（演習）	授業内容の復習 資料の講読
11.	解決志向アプローチ	授業内容の復習 資料の講読
12.	家族療法の実際１（演習）	授業内容の復習 資料の講読
13.	家族療法の実際２（演習）	授業内容の復習 資料の講読
14.	家族療法の臨床的応用	授業内容の復習 資料の講読
15.	まとめ	授業内容の復習 資料の講読

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　まとめとして行う定期試験の解説を教室で行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	家族システム論の視点からの、家族の病理・問題を把握する方法および、システムとしての家族の具体的な支援の技法についての理解度を評価基準とします。その他に評価基準には，システムとしての家族の具体的な支援の技法についての知識と理解，システムの問題解決を考え対処する姿勢を含みます。

教科書:

参考書:　授業中に適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業時間前後に対応します。

427001

Academic Studies in English Ⅰ(E)

C.Sato

授業テーマ:

Life in Society 1

授業の概要:

This course is for third year Advanced students.
Students will be encouraged to express their views in a free and friendly atmosphere. We will be focusing on four skill areas: listening skills, speaking skills including sharing opinions and oral presentations, vocabulary building and report writing. The topics will be of interest and relevance to the students' lives.

到達目標:

By the end of the course the students will:
1 have a working knowledge of language relevant to the topics
2 be motivated to express their opinions about the topics
3 be able to express their opinions in written form and orally about the topics

授業方法:

Seminar style. Class work will consist of a variety of listening and speaking exercises in pairs, groups and open class. Students will practise sharing opinions and leading discussions. They will write a short opinion paper and give two short presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation	Self introduction
2.	Different kinds of family life. Reading exercises from textbook. Discussion	Prepare opinion paper:Divorce in Japan
3.	Family stories Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare opinion paper:Divorce in Japan
4.	Marriage and Divorce Listening exercises from textbook Discussion	Prepare opinion paper:Divorce in Japan
5.	The power of the group Reading exercises from the textbook Discussion	Exercises from tectbook
6.	Teenagers Listening exercises from the textbook Discussion	Prepare short individual oral presentation
7.	Gender in society:bringing up children Reading exercises from the textbook Discussion	Prepare short individual oral presentation
8.	Growing up as a boy or girl Listening exercises from the textbook Discussion	Prepare short individual oral presentation
9.	Short individual oral presentations Listening exercises from the textbook Discussion	Exercises from the textbook
10.	Gender Discrimination Listening exercises from the textbook Discussion	Prepare pair oral presentation
11.	Gender Inequality Listening exercises from the textbook Discussion	Prepare pair oral presentation
12.	Pair oral presentations	Prepare pair oral presentation
13.	Pair oral presentations	Prepare pair oral presentation
14.	Pair oral presentations	Write summaries of other students' presentations
15.	Review Pair and class discussion	Write self assessment of course

受講者へのメッセージやアドバイス:

The schedule is subject to change
Discussion and sharing opinions are central to the course. Please participate positively in English

フィードバックの方法:

Written comments on assignments submitted
Oral feedback to individual students
Oral feedback to the group as a whole

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	Students are allowed up to 5 absences. Two lates = one absence
Participation	20	Positive participation at all times in English
Opinion paper	20	The opinion paper should be well written and well reasoned
Oral Presentations	40	The presentations should be well researched and delivered, and accompanied by an informative power point slideshow.

教科書:

Kim Sanabria Academic Encounters Life in Society 3 CUP

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

cflintsato@hotmail.com

427002

Academic Studies in English Ⅰ(E)

R.Ramirez

授業テーマ:

English Through Psychology

授業の概要:

This course is for Advanced CASE students. Are we products of our experiences? Are we creatures of only impulses and conflicts? Are our behaviors predetermined by our DNA? Are we just trying to fulfill our potential? How does our thinking affect us? How do social groups affect our individual behavior? Why do we have the kind of mind we have? Psychology tries to answer all these questions. In this course, we will look at and discuss such questions and answers while improving English skills (i.e., listening, speaking, and reading). Handouts, and some lecturing will be the basis for this course. The materials and talks will give the students many chances to participate in interesting and thoughtful exercises and discussions. There is a wide variety of topics for this course, and students will be asked to participate and discuss fully. Class activities will be done in small groups and pair work. Emphasis will be on participation and thinking. The benefit of this class (as well as the whole CASE program) is that it will help you in the future for TOEIC, job-hunting, and studying abroad -- if you put in the effort.

到達目標:

To develop oral skills and aural skills in English
To develop interpersonal and intrapersonal skills

授業方法:

Handouts, lectures, individual, and group work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction and perception	
2.	Unit 1: A Century of Psychology	
3.	Discussion/Lecture on learning	
4.	Discussion/Lecture on learning and conditioning	
5.	Discussion/Lecture on conditioning	
6.	Unit 2: Our Changing Human View	
7.	Discussion/Lecture on subconscious and dreams	
8.	Discussion/Lecture on subconscious and dreams	
9.	Unit 3: Psych in the Everyday World	
10.	Unit 3: Psych in the Everyday World	
11.	Discussion/Lecture on abnormal psychology	
12.	Discussion/Lecture on abnormal psychology	
13.	Discussion/Lecture on emotions	
14.	Discussion/Lecture on emotions	
15.	Review & Evaluation	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Completion of assignments, written and oral evaluation

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Assignments	34%	Completion and insight
Class participation	33%	Group and individual
Attendance	33%	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

rramirez@dwc.doshisha.ac.jp

427101

Academic Studies in English Ⅱ(E)

C.Sato

授業テーマ:

Life in Society 2

授業の概要:

This course is for third year Advanced students.
Students will be encouraged to express their views in a free and friendly atmosphere. We will be focusing on four skill areas: listening skills including strategies to improve listening, speaking skills including sharing opinions and oral presentations, vocabulary building, and report writing.

到達目標:

By the end of the course the students will:
1 have a working knowledge of language connected to the topics of the course
2 be motivated to give their opinions about the topics
3 be able to give their opinions about the topics both in written form and orally

授業方法:

Seminar style: Class work will consist of a variety of listening and speaking exercises in pairs, groups and open class. Students will practise sharing opinions and leading discussions. They will write a short opinion paper and give two short oral presentations, one in a pair.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation	Write about the holidays and their personal study and use of English
2.	Mass Media Today Reading from textbook. Discussion	Prepare opinion paper
3.	The News Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare opinion paper
4.	Impact of the Media on Our Lives Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare opinion paper
5.	Advantages of the Media Listening exercises from textbook. Discussion	Exercises from textbook
6.	Disadvantages of Mass Media Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare individual oral presentation
7.	Dangers of Mass Media Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare individual oral presentation
8.	Crime in Society today Reading from textbook. Discussion	Prepare individual oral presentation
9.	Individual oral presentations	Exercises from textbook
10.	Crime and Criminals Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare pair oral presentation
11.	Being a Victim of Crime Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare pair oral presentation
12.	Preventing Juvenile Crime Listening exercises from textbook. Discussion	Prepare pair oral presentation
13.	Pair oral presentations	Prepare pair oral presentation
14.	Pair oral presentations	Write summaries of other students' presentations
15.	Review	Write self assessment about the course

受講者へのメッセージやアドバイス:

The syllabus is subject to change
Discussion and sharing opinions are central to the course. Please participate positively in English at all times in class.

フィードバックの方法:

Written comments on work submitted
Oral feedback to individual students
Oral feedback to the group

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	Up to 5 absences allowed. 2 lates = one absence
Class participation	20	Positive participation in English in class
Opinion paper	20	A well reasoned and written paper is expected
Oral Presentations	40	A well researched and delivered presentation with an informative power point slide show is expected

教科書:

Kim Sanabria Academic Encounters: Life in Society 3 CUP

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

cflintsato@hotmail.com

427102

Academic Studies in English Ⅱ(E)

R.Ramirez

授業テーマ:

English Through Psychology Ⅱ

授業の概要:

This course is for CASE students. Are we products of our experiences? Are we creatures of only impulses and conflicts? Are our behaviors predetermined by our DNA? Are we just trying to fulfill our potential? How does our thinking affect us? How do social groups affect our individual behavior? Why do we have the kind of mind we have? Psychology tries to answer all these questions. This is a continuation of the spring semester course. In this semester, we will continue look at and discuss such questions and answers while improving English skills (i.e., listening, speaking, and reading). Handouts, and some lecturing will be the basis for this course. The materials and talks will give the students many chances to participate in interesting and thoughtful exercises and discussions. There is a wide variety of topics for this course, and students will be asked to participate and discuss fully. Class activities will be done in small groups and pair work. Emphasis will be on participation and thinking. The benefit of this class (as well as the whole CASE program) is that it will help you in the future for TOEIC, job-hunting, and studying abroad -- if you put in the effort.

到達目標:

To continue to develop oral skills and aural skills in English
To continue develop interpersonal and intrapersonal skills

授業方法:

Handouts, lectures, individual/group work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course re-introduction	Review in-class work
2.	Unit 4: Talking about Psychology	Review and complete unit exercises
3.	Unit 4: Talking about Psychology	Review and complete unit exercises
4.	Unit 5: A Matter of Personality	Review and complete unit exercises
5.	Unit 5: A Matter of Personality	Review and complete unit exercises
6.	Lecture on personality	Review and complete lecture questions
7.	Lecture on personality	Review and complete lecture questions
8.	Unit 6: Nature vs. Nurture	Review and complete unit exercises
9.	Unit 6: Nature vs. Nurture	Review and complete unit exercises
10.	Lecture on intelligence	Review and complete lecture questions
11.	Lecture on intelligence	Review and complete lecture questions
12.	Unit 7: It's All in Your Mind	Review and complete unit exercises
13.	Unit 7: It's All in Your Mind	Review and complete unit exercises
14.	Unit 8: Psychology, a review	Complete final assignment
15.	Unit 8: Psychology, a review	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Individual/group work, oral and written evaluation

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Assignments	34%	Completion and insight
Class participation	33%	Group and individual work
Attendance	33%	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

rramirez@dwc.doshisha.ac.jp

427201

Academic Studies in English Ⅰ(F)

J.Wallen

授業テーマ:

Understaning the World

授業の概要:

This course will look at how the world is changing through social, cultural, and technological development, and will explore some of the less known parts of the globe.

到達目標:

To improve English skills in writing, reading, and speaking. To broaden students' understanding of the world.

授業方法:

Lecture, discussion, independent study

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Class Introduction Extensive Reading Vocabulary	Procure ER books Vocabulary study
2.	Vocabulary review Ch. 1 reading and discussion ER	ER Comprehension
3.	Ch1 Reading 2 Choose presentation topic	ER Presentation research
4.	Ch. 1 Video Presentation prep ER	ER Presentation prep/practice
5.	Presentation Ch.2 vocabulary ER	ER Vocabulary study
6.	Vocabulary Quiz Ch.2 Reading 1 ER	ER Comprehension review
7.	Ch. 2 Reading 2 ER Ch. 3 Vocabulary	ER Vocabulary Study
8.	Vocabulary Quiz Ch. 3 Reading 1 ER	ER
9.	Ch. 3 Reading 2 Short essay introduction ER	ER Essay research
10.	Ch. 3 Video Ch. 4 Vocabulary Essay Writing ER	ER Finish Essay Vocabulary Study
11.	Essay Due Vocabulary Quiz Ch. 4 Reading 1 ER	Reading comprehension ER
12.	Ch. 4 Reading 2 ER	ER
13.	Ch.4 video ER	ER
14.	Test review ER	ER
15.	Review Test ER reports due	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Address to class as a group
Individual conversation/written feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Essay	20	Clarity/Grammar/Adherence to Form
Presentation	20	Expressing information in an easily understandable way/ effective use of visual aids/relevance of information
Vocabulary Quizzes	20	
Test	20	
Participation	20	Willingness to speak English/ positive demeanor/ attendance

教科書:

Thomas Fast/Impact 4/Cengage Learning

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

justuswallen@gmail.com

427202

Academic Studies in English Ⅰ(F)

P.Skrivanic

授業テーマ:

Culture, Self and Society

授業の概要:

This course explores the idea of 'culture'--what it is, and how it influences our daily lives. Students will explore a number of questions: How does culture shape us as individuals? How can we learn about other cultures without our own values getting in the way? What skills do we need to communicate effectively with someone from a different culture? How can we recognize and avoid cultural conflicts? And what can these skills teach us about our own native (Japanese) culture?

到達目標:

Students will:
- improve their ability to communicate actively in English
- gain new knowledge about both Japanese and foreign cultures
- find motivation to interact with foreign sources of news and knowledge

授業方法:

Seminar

This class involves small and large group discussions, as well as short lectures. Students will discuss readings done for homework in small groups, and then share their findings with the whole class. All communication will be done in English.

Students will be responsible for keeping a weekly journal in which they reflect on the week's reading and classroom discussion. They will also be responsible for making a group presentation; writing a short research essay; and making an individual presentation based upon their essay.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Course	
2.	The Culture Concept 1	Assigned Reading Begin Weekly Reflective Journal
3.	The Culture Concept 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
4.	Culture and Identity 1	Assigned Reading Prepare to Submit Reflective Journal
5.	Culture and Identity 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
6.	Culture and Society 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
7.	Culture and Society 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
8.	Stereotypes	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
9.	Culture and Face	Assigned Reading Prepare to Submit Reflective Journal
10.	In-Class Presentation Preparation	Prepare for Group Presentation
11.	Group Presentations 1	Prepare for Group Presentation
12.	Group Presentations 2	Write First Draft of Final Essay
13.	Individual Writing Conferences	Edit Essay Prepare for Individual Presentation
14.	Individual Presentations	Finish Essay Prepare for Individual Presentation
15.	Individual Presentations and Reflection on Term	Reflect on Term

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course challenges students to think in a new way. Coming to class prepared (by having completed the reading) will enable students to participate fully and to achieve the goals of the course.

フィードバックの方法:

Journals - returned to students in classroom with comments
Presentations - evaluated in classroom, feedback on written marking sheet
Essays - grade and comments returned to students in classroom

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Journals	20	Thoroughness of Summary Independent Thinking in Reflection Written Grammar
Attendance and Participation	30	Deductions for Absence/Lateness Active Participation and Contribution
Group Presentation	20	Content Communication Clarity Visual Aids
Essay	20	Content and Analysis Essay Structure Written Grammar
Inidividual Presentation	10	Content Communication Clarity

教科書:

Lee, Soo im & Lisa Rogers
Culture and Conflict -- Changing the World for the Better
Shohakusha, 2014

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Instructor email address will be provided in class. Manavi will also be used.

427301

Academic Studies in English Ⅱ(F)

J.Wallen

授業テーマ: Understanding the World

授業の概要: This course will look at how the world is changing through social, cultural, and technological development, and will explore some of the less known parts of the globe.

到達目標: To improve English skills in writing, reading and speaking. To broaden students' understanding of the world.

授業方法: Lecture, discussion, independent study

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Ch. 5 Reading 1 Vocabulary ER	Vocabulary ER
2.	Vocabulary Quiz Ch. 5 Reading 2 ER	ER
3.	Chapter 5 Video Discussion ER	ER Vocabulary
4.	Vocabulary Quiz Ch. 6 Reading 1	ER
5.	Ch. 6 Reading 2 ER	Reading Comprehension ER
6.	Chapter 6 Wrap up ER	ER Vocabulary
7.	Vocabulary Quiz Essay Assignment ER	Essay Research ER
8.	Ch. 7 Reading 1 Essay Writing ER	Essay Writing ER
9.	Essay Due Ch. 7 Reading 2 ER	ER
10.	CH. 7 Video and Discussion ER	ER Vocabulary
11.	Vocabulary Quiz CH. 8 Reading 1	ER
12.	Introduce Final Presentation ER Ch. 8 Reading 2	ER Presentation Research
13.	CH. 8 Wrap up Presentation Prep ER	Presentation Research ER
14.	Final Test	ER Presentation Research
15.	Final presentation	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Address to class as a group
Individual conversation/ written feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Essay	20	Clarity/Grammar/Adherence to Form
Presentation	20	Expressing information in an easily understandable way/ effective use of visual aids/ relevance of information
Vocabulary Quizzes	20	
Test	20	
Participation	20	Willingness to speak English/ positive demeanor/ attendance

教科書: Thomas Fast/ Impact 4/ Cengage Learning

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: justuswallen@gmail.com

427302

Academic Studies in English Ⅱ(F)

P.Skrivanic

授業テーマ:

Culture, Self and Society

授業の概要:

This course further explores the idea of 'culture'--what it is, and how it influences our daily lives. Using the tools and skills developed in the first term, students will explore a number of contemporary social conflicts, and try to understand how differences in culture contribute to them. The conflicts we consider will be drawn both from Japanese and foreign settings, and will involve questions of identity, gender, religion and more.

到達目標:

Using the tools and skills developed in the first term, students will explore a number of contemporary examples of cultural conflicts, drawn both from within and outside of Japanese society. The examples will involve issues of identity, gender, religion as well as economic and demographic change.

授業方法:

Students will continue to:
- improve their ability to communicate actively in English
- gain new knowledge about both Japanese and foreign cultures
- find motivation to interact with foreign sources of news and knowledge

This class involves small and large group discussions, as well as short lectures. Students will discuss readings done for homework in small groups, and then share their findings with the whole class. All communication will be done in English.

Students will be responsible for keeping a weekly journal in which they reflect on the week's reading and classroom discussion. They will also be responsible for making a group presentation; writing a short research essay; and making an individual presentation based upon their essay.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Term and Review of Main Ideas from Spring Term	Assigned Reading Begin Weekly Reflective Journal
2.	Japanese Society: Identity and Difference 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
3.	Japanese Society: Identity and Difference 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
4.	Culture and Social Change 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
5.	Culture and Social Change 2	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Reflective Journal
6.	Gender, Identity and Culture 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
7.	Gender, Identity and Culture 2	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
8.	Religion, Identity and Culture 1	Assigned Reading Continue Weekly Reflective Journal
9.	Religion, Identity and Culture 2	Assigned Reading Prepare to Submit Weekly Reflective Journal
10.	Presentation Preparation	Prepare for Group Presentations
11.	Group Presentations 1	Prepare for Group Presentations and Begin First Draft of Essay
12.	Group Presentations 2	Complete First Draft of Essay
13.	Essay Writing Support: Individual Writing Conferences	Revise Essay and Prepare for Individual Presentation
14.	Final Presentations	Revise Essay and Prepare for Individual Presentation
15.	Final Presentations and Course Conclusion	Reflect on Course

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course continues to challenge students to think in a new way, and requires them to apply this way of thinking to analyze contemporary social conflicts. Coming to class prepared (by having completed the reading) will enable students to participate fully and to achieve the goals of the course.

フィードバックの方法:

Journals - returned to students in classroom with comments
Presentations - evaluated in classroom, feedback on written marking sheet
Essays - grade and comments returned to students in classroom

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Journals	20	Thoroughness of Summary Independent Thinking in Reflection Written Grammar
Attendance and Participation	30	Deductions for Absence/Lateness Active Participation and Contribution
Group Presentation	20	Content Communication Clarity Visual Aids
Essay	20	Content and Analysis Essay Structure Written Grammar
Inidividual Presentation	10	Content Communication Clarity

教科書:

Lee, Soo im & Lisa Rogers
Culture and Conflict -- Changing the World for the Better
Shohakusha, 2014

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:	Instructor email will be provided during first class. Manavi will also be used.

427400

財政学

原田　　禎夫

授業テーマ:　身近なテーマから学ぶ財政学

授業の概要:　私たちの生活に、政府の経済活動が欠かせません。たとえば、公共事業、電力の自由化などの規制緩和、環境問題、巨額の政府債務、税制改革、年金問題、介護保険制度、医療保険制度、地方財政改革などが数多くあります。少子高齢社会とグローバリゼーションの中で、このような財政問題を解決せずには、日本の未来を展望することは難しいのが現状です。特に、最近では子育て支援や環境問題など新しい課題に対しても様々な政策が提示されていますが、厳しい財政状況の中で財源をどうするのか、消費税の増税などと合わせて大きな議論になっています。本講義では、経済社会において政府はどのような役割を果たすべきなのかを考える際の基本的な視点について学びます。

到達目標:　財政学の基本的な理論と実際の制度について学び、現代社会が抱える課題について考える力を身につけることをめざします。

授業方法:　講義形式で実施します。適宜、映像資料等を用いて最新のトピックについても分かりやすく説明します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	財政学とは何か	テキストを必ず読んでおくおこと
2.	政府はなぜ必要か	テキストを必ず読んでおくおこと
3.	公共財とは何か	テキストを必ず読んでおくおこと
4.	税金とは	テキストを必ず読んでおくおこと
5.	所得税の理論と実際	テキストを必ず読んでおくおこと
6.	消費税の理論と実際	テキストを必ず読んでおくおこと
7.	公債と財政赤字	テキストを必ず読んでおくおこと
8.	年金財政の現状と課題	テキストを必ず読んでおくおこと
9.	医療保険財政の現状と課題	テキストを必ず読んでおくおこと
10.	介護保険財政の現状と課題	テキストを必ず読んでおくおこと
11.	児童・家族政策の現状と課題	テキストを必ず読んでおくおこと
12.	地方財政の仕組み	テキストを必ず読んでおくおこと
13.	国から地方への補助金とは？	テキストを必ず読んでおくおこと
14.	幸福度と財政	テキストを必ず読んでおくおこと
15.	まとめ	テキストを必ず読んでおくおこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　テキストを十分に読んでおくとともに、普段から講義内容に関連する新聞記事やテレビ報道も関心を持って読んでおいてください。また、講義中に指示した予習・復習や資料の取得は忘れずに行うようにしてください。

フィードバックの方法:　レポート等を実施した場合、教室でまとめて解説します。また、講義の最後に毎回質問を受け付けます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	80	財政学に関する基礎的な知識や到達目標に関する理解度により評価します。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、講義で学んだテーマについて論理的な思考を元に自らの考え方を説明できるかを基準として評価します。

教科書:　伊多波良雄、川浦昭彦、原田禎夫『基礎から学ぶ財政学』晃洋書房、2016。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　質問等は随時メール（harada@daishodai.ac.jp）で受け付けます。

427500

金融論

大倉　　真人

授業テーマ:

授業の概要:　経済を理解する上で必須となる金融について論じる。

到達目標:　金融にかかる基礎的知識（具体的には、金融システム、金融市場、金融機関、金融政策、金融商品についての基礎的知識）の修得を目標に掲げる。

授業方法:　板書による講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容の理解
2.	貨幣（教科書第2章）	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	金利（教科書第3章）	「貨幣」に対する理解
4.	経済の変動と資金の流れ（教科書第1章（改題））	「金利」に対する理解
5.	金融政策の課題と日本銀行（教科書第5章）	「経済の変動と資金の流れ」に対する理解
6.	金融政策の基本手段と新しい展開（教科書第6章）	「金融政策の課題と日本銀行」に対する理解
7.	金融システムと金融仲介機関の役割（教科書第7章）	「金融政策の基本手段と新しい展開」に対する理解
8.	中間試験	「中間試験」の準備
9.	銀行以外の金融機関（教科書第8章）	「金融システムと金融仲介機関の役割」に対する理解
10.	金融システムの安定化のための政策（教科書第9章）	「銀行以外の金融機関」に対する理解
11.	金融機関の破綻への対応策（教科書第10章）	「金融システムの安定化のための政策」に対する理解
12.	金融市場に関する規制（教科書第11章）	「金融機関の破綻への対応策」に対する理解
13.	間接金融型の金融商品（教科書第12章）	「金融市場に関する規制」に対する理解
14.	直接金融型の金融商品（教科書第13章）	「間接金融型の金融商品」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　第1回目の授業のガイダンスで配付する資料については、マナビーに提示するので、第1回目の授業に欠席した者は、各自マナビーを通じて目を通しておくこと。

フィードバックの方法:　毎回の授業において「フィードバック用紙」を配布する。なお「フィードバック用紙」に書かれた質問等については、原則として、次週の授業の冒頭で解説する。
中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	50	到達目標に掲げた金融にかかる基礎的知識に関する理解度により評価する。
定期試験	50	到達目標に掲げた金融にかかる基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書:　家森信善『金融論』中央経済社、2016年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　担当教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

427600

国際社会と公共政策

長岡　　延孝

授業テーマ:
ヨーロッパの地域的な統合を具体例にして、グローバル化する国際社会の公共政策の発展について考察する。

授業の概要:
ヨーロッパを対象にして、国民国家の諸政策がどのような変化を遂げるのかについて解説する。一方で、国民国家の政策の一部が超国家組織に移行してゆくとともに、他方、ミクロ地域にも権限を移している。
現在、世界各地で国家間の協力や統合が進められており、その際にEUの事例が重要なモデルとなっている。国家利害の衝突する東アジアでも、平和と協力をめざすマクロ地域を構築する必要があるが、その際にヨーロッパの経験が大いに役立つであろうと思われる。

到達目標:
1　グローバル化に適応した政策変化を理解することを通じて、世界に目を向けて活躍できるビジネスパーソンの基礎を養う。
2　現代社会の問題を公共政策の視点から理解する。

授業方法:
基本的に講義の形式で行い、適宜、ビデオやプリントの教材を使用する。また、講義内容にかんする感想と意見を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
2.	EUの３層モデル	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
3.	ミクロ地域(1):アルザス地方	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
4.	ミクロ地域(2):スコットランド	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
5.	ECSCとEECの形成	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
6.	EC・EUの発展:組織と政策形成	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
7.	自由貿易と地域統合	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
8.	東欧加盟後のEU	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
9.	EU共通農業政策	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
10.	経済通貨同盟(1):単一通貨ユーロの導入	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
11.	経済通貨同盟(2):ユーロの課題	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
12.	EU環境政策・気候政策	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
13.	EU共通移民政策	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
14.	EU地域政策:地域間不均衡の是正	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
15.	まとめ	講義全体を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:
新聞や報道番組を通じて、世界の動きに関心を持ち、それに対する各自の考えを持ってほしい。

フィードバックの方法:
感想、意見、質問に対して、コメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	課題についての正しい知識と自分の考えを持っているか。また、それらを解りやすく論述しているか。

教科書:

参考書:
藤井良広『EUの知識』最新版、日経文庫。
加賀美雅弘ほか『ヨーロッパ学への招待』最新版、学文社。
田中素香『ユーロ危機とギリシャ反乱』岩波書店。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:
オフィスアワー、Eメール

427700

女性企業家論

安田　　三江子

授業テーマ:

女性企業家—この「すばらしい」生き方—を、私たちのくらしに活かそう
仕事の役割について考え、企業と起業を学ぶ。仕事をしていくということは、自分が成長し、そして、よりよい社会の構築に貢献していくことである。現代の多様な男女のあり方のなかで、よりよい女性の生き方と働き方について学ぶ。また女性企業家のリアルな事例から就活の参考にもなるよう講義をめざす。

授業の概要:

1.仕事とは何か、企業とは何かについて、考える。組織の役割を考え、ふつうの仕事の中にも大きな幸せや社会貢献があることを実感する。
2.企業家に必要なことは「困る力」「起こす力」「継続する力」である。このことを理解する。
3.男女の多様なあり方についてみつめる。性別役割意識はいまだ根強い。その実態を考察し、自分のなかでの「偏見」についても気づく。
4.事例をみる目を養う。「すごい。私にはできない」から「私にはできない。でも、すごい」へ。
現代も「女性らしさ」への志向はいまだ強い。しかし、一方では「女性にこだわらない」企業家も増加してきている。この状況についてデータで確認する。
5.いまだ残る女性の不利益、「女性問題」についても学ぶ。
6.女性労働の経済学の基礎的な理論について学ぶ-統計的差別理論ー。
6.女性起業家の変遷について学ぶ-ゴミ箱モデルー
7.諸外国の女性企業家の実態について学ぶ。
8・身近な女性企業家について学ぶ。
9・学んだことを自分の力へ。。。勝つ就活について考える。
10.勝ち抜く「就活」について考える
11.男女にかかわらずよりよい個人のあり方を実現するための社会について考える。

到達目標:

1.仕事の意義、組織の役割につ,いて理解をする。
2.ジェンダーの実態について理解をする。
3.女性企業家の意義について理解をする。
4.学んだことを自分にいかし、よりよい就活を展開できるようになる。

授業方法:

講義形式。レジュメや資料を配布をする。必要に応じて、DVDなどを鑑賞する。パワーポイントの利用頻度は低い。講義の終わりにコメントを記入することを要請する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	仕事の意義、組織の役割の解説。「ふつう」の仕事の中にも、大きな幸せやいのちを支える役割のあることを実感する。	身近な仕事について考える。男女それぞれに魅力のある職業人をみつけ、その方について考察する。
2.	現代の日本における人びとの働き方とに「良い」企業について考察する。	身近なひとの働き方について考える。身近な企業やマスコミ情報やインターネットで検索を通じて「良い企業」について考える。
3.	ワークライフバランスについて多角的な観点から解説する。	自分の理想的な職業生活に考え、ライフスタイルについても思いをめぐらす。また、魅力のある仕事をしているひとのワークライフバランスについて考察する。
4.	男と女のむずかしさ	男女共同社会の実現は言うは易し、行うは難しである。ふつうのくらしのなかの男女の人間生活について考えてみる。また、男と女のわくにはまらない人びとについても思いをめぐらす。
5.	女性労働のデータを解説する。	家族など近な女性のライフスタイルの変化について考察する。 祖父母の世代、親の世代の違いについて考察をする。
6.	女性労働の実態についての経済的理論、統計的差別理論とその対策としての男女雇用機会均等法について解説する。	なぜ、女性差別がいまだに残るか、考えてみる。
7.	女性起業家の変遷について(1) ーゴミ箱モデルを用いながら解説するー	前回の講義で配布をしたプリントを復習し、理解できなかった点については、講義のコメントで記述をする。
8.	女性起業家の変遷について(2) ー江戸から明治(広岡浅子)、昭和から平成へ(篠原欣子)	大同生命、テンプホールディングスについて、インターネットで会社概要につ いて閲覧をする。
9.	女性企業家の変遷について(3) 平成の女性起業家ー南場智子ー	株式会社DeNAについて会社概要をインターネットで閲覧をする。
10.	企業で働く女性管理職と女性社長の概要について解説する。	女性企業家の変遷についての配布プリントを復習する。
11.	外国の女性企業家 ー北欧の女性とマリメッコー	外国の女性企業家についての配布プリントを復習する。
12.	身近な女性企業家の紹介 ー社会企業家ー	魅力のある女性企業家を「発見」する
13.	身近な女性企業家の紹介 ー縁の下の力持ちー	魅力のある女性企業家を「発見」する
14.	身近な女性企業家の紹介 ー祇園の地方、至芸の瞬間ー	魅力のある女性企業家を「発見」する
15.	まとめ	今までのプリントをなど復習し、不明な点については質問できるようにしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

ふつうの仕事こそがすばらしい。偉大な仕事もふつうのくらしのなかからうまれてきます。。
仕事の原動力は「困る力」です。仕事の展開は「起こす力」で、「継続していく力」が他の人びとへの貢献に結びついていきます。
「できない」ことこそが、そのひとの財産です。これからの女性に必要なことは、「おこられる」力です。
このことを講義の学習を,通じて実感してください。

フィードバックの方法:

前回の講義への学生からのコメントについて、講義のはじめにその総括を行う。講義の参考になり、学生間の共有化が望ましンと判断したコメントは紹介する。なお、個人の特定はできないように配慮をするので、コメントは自由に書くこと。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講義へのコメント	50	講義の理解、自らの考えの展開をする。
レポート	50	基礎的な知識の理解、講義を受けての自らの考えの展開をする。論理的な展開であるかどうか。

教科書:

参考書: 渡辺峻 守屋貴司編(2016)『活躍する女性会社役員の国際比較 一役員登用と活性化する経営』シリーズ〈女・あすに生きる〉24 ミネルヴァ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の後に教室内で応対。メールアドレスなどに関しては、後日通知。

427800

流通論

大津　　正和

授業テーマ:　時代とともに変化を遂げる流通:そのダイナミズムの背景を基礎から学ぶ

授業の概要:　流通は商的流通・物的流通・情報流通の面で消費者と生産者を結びつける重要な機能を果たしています。その活動の実際は商品分野、業態、規模等の違いによりバラエティに富んでいますが、一方で規制緩和、国際化、「IT革命」のもとで今日、大きな変化を受けつつあります。本講では現代社会において流通の果たしている役割を正しく理解するため、石原武政・竹村正明編著(2008)『1からの流通論』にもとづき「様々なタイプの小売業」、「小売業を支える背後の仕組み」、「流通の理論」の順に体系的に学んでゆきます。

到達目標:　第1に様々なタイプの小売業について学び、業態の考え方を現実に即して体系的に理解する。
第2に小売業を支える背後の仕組みを学び、商業の役割並びに流通システムについて現実に即して理解する。
第3に流通の基礎理論を体系的に理解する。
第4に流通システムを巡る各種主体間の競争と協調ついて理解する。

授業方法:　講義形式で授業します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	教科書の第1章を読んでおく
2.	様々なタイプの小売業(1)　百貨店と総合スーパー	教科書の第2章を読んでおく
3.	様々なタイプの小売業(2)　食品スーパーとCVS	教科書の第3章を読んでおく
4.	様々なタイプの小売業(3)　ディスカウントストアとSPA	教科書の第4章を読んでおく
5.	様々なタイプの小売業(4)　商店街とショッピングセンター	教科書の第5章を読んでおく
6.	小売業を支える背後の仕組み(1)　変化する流通構造	教科書の第6章を読んでおく
7.	小売業を支える背後の仕組み(2)　小売業態とは何か	教科書の第7章を読んでおく
8.	小売業を支える背後の仕組み(3)　日本型取引慣行	教科書の第8章を読んでおく
9.	小売業を支える背後の仕組み(4)　流通系列化からの脱皮	教科書の第9章を読んでおく
10.	小売業を支える背後の仕組み(5)　ロジステックス	教科書の第10章を読んでおく
11.	流通の理論(1)　売買集中の原理と品揃え形成	教科書の第11章を読んでおく
12.	流通の理論(2)　商業の外部性と商業集積	教科書の第12章を読んでおく
13.	流通の理論(4)　延期化と投機化	教科書の第13章を読んでおく
14.	流通の理論(5)　生産と流通の新しい関係	教科書の第14章を読んでおく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　できるだけ教科書の関連する章を読んでおいてください。
毎回、理解度を確認するために、講義時間内に小レポートを行います。

フィードバックの方法:　小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	30	指示した設問に対して、よく考えて答えているか
試験	70	講義で学んだ知識が身についているか

教科書:　石原武政・竹村正明編著(2008)『1からの流通論』碩学舎

参考書:　田村正紀（2001）『流通原理』千倉書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

427900

国際ビジネス論

大倉　　真人

授業テーマ:

授業の概要:　国際ビジネスにおける主要なテーマである国際貿易・投資について論じる。

到達目標:　国際ビジネスにおける主要なテーマである国際貿易・投資についての基礎的知識の修得を目標に掲げる。具体的には、貿易が行われる理由、政府が貿易に介入する理由、地域経済統合が形成される理由、海外投資が行われる理由、について理解することを目標とする。

授業方法:　板書による講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	なぜ貿易が行われるのか（その1）（教科書第1章）	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	なぜ貿易が行われるのか（その2）（教科書第1章）	「なぜ貿易が行われるのか（その1）」に対する理解
4.	なぜ貿易が行われるのか（その3）（教科書第1章）	「なぜ貿易が行われるのか（その2）」に対する理解
5.	なぜ政府は貿易に介入するのか（その1）（教科書第2章）	「なぜ貿易が行われるのか（その3）」に対する理解
6.	なぜ政府は貿易に介入するのか（その2）（教科書第2章）	「なぜ政府は貿易に介入するのか（その1）」に対する理解
7.	なぜ政府は貿易に介入するのか（その3）（教科書第2章）	「なぜ政府は貿易に介入するのか（その2）」に対する理解
8.	中間試験	「中間試験」の準備
9.	なぜ地域統合が行われるのか（その1）（教科書第3章）	「なぜ政府は貿易に介入するのか（その3）」に対する理解
10.	なぜ地域統合が行われるのか（その2）（教科書第3章）	「なぜ地域統合が行われるのか（その1）」に対する理解
11.	なぜ地域統合が行われるのか（その3）（教科書第3章）	「なぜ地域統合が行われるのか（その2）」に対する理解
12.	なぜ海外投資が行われるのか（その1）（教科書第4章）	「なぜ地域統合が行われるのか（その3）」に対する理解
13.	なぜ海外投資が行われるのか（その2）（教科書第4章）	「なぜ海外投資が行われるのか（その1）」に対する理解
14.	なぜ海外投資が行われるのか（その3）（教科書第4章）	「なぜ海外投資が行われるのか（その2）」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　本授業では、上記教科書の第I部について取り扱う。なお第II部については「国際金融論」の授業で取り扱う予定なので、あわせて履修すると効果的である。
なお第1回目の授業のガイダンスで配布する資料については、マナビーに提示するので、第1回目の授業に欠席した者は、各自マナビーを通じて目を通しておくこと。

フィードバックの方法:　毎回の授業において「フィードバック用紙」を配布する。なお「フィードバック用紙」に書かれた質問等については、原則として、次週の授業の冒頭で解説する。
また中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	50	到達目標に掲げた国際ビジネスについての基礎的知識に関する理解度により評価する。
期末試験	50	到達目標に掲げた国際ビジネスについての基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書:　浦田秀次郎・小川英治・澤田康幸『はじめて学ぶ国際経済』有斐閣、2011年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

428001

Academic Studies in English Ⅰ(G)

K.Kim

授業テーマ:

授業の概要: Students will have the opportunity to grow their four skills (speaking, listening, reading, and writing), with a special emphasis on the theme of Business, both within Japan and in the world.

到達目標: This is a CASE course focused on Business English Skills. We will emphasize presentations, in-class writing, and discussions. The course is designed to help students achieve higher TOEIC scores.

授業方法: Text-based learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, and have discussions in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction & Orientation	To be determined
2.	Careers	To be determined
3.	Group Discussion I	To be determined
4.	Employment	To be determined
5.	Import - Export	To be determined
6.	Marketing	To be determined
7.	Group Discussion II	To be determined
8.	Innovation	To be determined
9.	Negotiation	To be determined
10.	Group Discussion III	To be determined
11.	Development	To be determined
12.	Review and preparation for Final Presentation	To be determined
13.	Ethics	To be determined
14.	Preparation for Final Presentations	To be determined
15.	Final Presentations	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス: This course will be based text materials, student research, and other relevant materials prepared by the teacher. Students will be expected to prepare for group discussions and in-class activities, as well as presentations.

フィードバックの方法: Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation & Attendance	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor. The completion of in-class writing assignments will be graded as part of participation.
Homework	25	Approximately 1 hour of homework per week should be expected, though may not be consistent. Students will be required to hand in all homework assignments on time.
Group Discussions	25	Students will be expected to prepare and present their research for group discussions 3 times during the course of the semester.
Final Presentation	25	Students will be expected to prepare for one individual presentation at the course of the semester. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.

教科書: Market Leader

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: kkimdoshisha@gmail.com

428002

Academic Studies in English Ⅰ(G)

C.L.Thorp

授業テーマ:

International Business Communication

授業の概要:

This course aims to stimulate communication in an international context. All 4 skills; Reading, Writing, Speaking, and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening.
Critical and creative thinking will be practiced and business strategies learned to enable students who complete this course successfully to navigate international business environments with confidence.

到達目標:

Fluency in speaking and basic presentation skills. Reading competency especially of newspaper/magazine- style English. Ability to create reports, proposals, summaries, action plans and to write emails and letters skillfully. To develop critical assessment of business situations and logical action and follow up. To produce rather than imitate. To cross cultural barriers and feel at ease in business practices in English.

授業方法:

Interactive

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Block 1: weeks 1-4 Unit 1 Careers overall goals: Test 1(vocabulary.), Writing 1 (emails) , Speaking 1 (f-t-f 3 min presentation - personal career path)	Test preparation Creation of Vocabulary Book Listening and Reading (3 texts)
2.	ntroduction to Business Presentations general strategies/pronunciation/making a memo Personal career pathway Case Study 1 - class tasks	Basic Writing Skills review 1: sentences/paragraphs/greetings Presentation preparation and practice Writing 1 : (500 words minimum)
3.	Test 1 (correction and grading in class) Presentation 1 performance Part 1 - assessment peer + teacher: recommendations for improving	Grammar practice (Present Tenses Unit 1)
4.	Presentation 1 Performance Part 2 Grammar answers and explanations (speaking practice)	Preparation Unit 2 - readings and listening Vocabulary Book/system check
5.	Block 2: weeks 5-8 Unit 2 Companies overall goals: Test 2 (vocabulary + grammar), Writing 2 (email to report team meeting), Speaking 2 (Case Study: Investment Plan - 5 mins pp)	Basic Writing Skills review 2: email etiquette and abbreviations/tone Presentation preparation and practice Writing 2: (500 words minimum) Test preparation
6.	Business Presentations - power point/strategies Introductions/Aims/Changing to new section/Conclusions - making a memo Case Study 2 - class tasks - meeting	Extra Listening practice More work on Writing 2
7.	Test 2 (correction and grading in class) Presentation 2 Performance Part 1 Grammar answers and explanation (speaking practice)	Grammar Practice (Past Tenses Unit 2) Presentation practice/improvement
8.	Presentation 2 Performance Part 2 Further strategies	Preparation Unit 3 - readings and listening Vocabulary Book/system check
9.	Block 3: weeks 9-11 Unit 3 Selling Overall goals: Test 3 (vocabulary + Listening), Writing 3 (business letter); Speaking 3 (negotiating 7 mins pp)	Basic Writing Skills review 3: letter formal etiquette and abbreviations/tone Presentation preparation and practice Writing 3: (700 words minimum) Test preparation
10.	Test 3 (correction and grading in class) Presentation 3 (pair/group) practice/ Part 1 Grammar answers and explanations (speaking practice) Saying 'No' politely (intercultural)	Extra Listening Practice Grammar Practice (Unit 3 combining past and present)
11.	Presentation 3 Performance Part 2 Further improvements/peer assessment Collaboration - Co-operation Vocabulary book/system check	Preparation Unit 4 - readings and listening Revision A - Units 1-3 Progress Test 1 - Units 1-3
12.	Block 4: weeks 12-15 Unit 4 Great Ideas Overall goals: Test 4 (vocabulary, grammar), Writing 4 (short report), Speak 4 (meeting strategies) Progress Test 1 review	Basic Writing Skills review 4: report - summarizing/clarifying and appraising Presentation preparation and practice Writing 4: (700 words minimum) Test preparation
13.	Test 4 (correction and grading in class) Presentation 4 (meeting style, f-t-f) Part 1 Leading a meeting	Extra Listening Practice Grammar Practice (Unit 4 future)
14.	Grammar answer and explanation (speaking practice) Presentation 4 practice - Part 2 Grammar answers and explanations (speaking practice)	review of all readings: spot test extended listening practice
15.	Final Assessment Discussion : suggestions about vacation work and continuing to keep contact with English watch presentation/meeting videos - visible improvement.	

受講者へのメッセージやアドバイス:

On this course, if you work hard and follow my instructions carefully you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and leadership qualities.

フィードバックの方法:	Peer assessment. Test advice. Writing correction and drafting. Regular Class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4-week block.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Block 1: test, presentation, writing, participation	25	Participation and effort, and willingness to communicate in English
Block 2: test, presentation, writing, participation	25	Participation and effort, and willingness to communicate in English
Block 3: test, presentation, writing, participation	25	Participation and effort, and willingness to communicate in English
Block 4: test, presentation, writing, participation	25	Participation and effort, and willingness to communicate in English

教科書:	Cotton D., Falvey D., Kent S. Market Leader : Pre-intermediate with DVD Rom, 3rd Edition. Pearson
参考書:	Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD-Rom) - Collins/ Thomson Heinle Longman Business English Dictionary (with CD-Rom) Pearson Longman Market Leader Business Grammar and Usage Strutt, P. Longman
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、
教員との連絡方法:	lindenthorp@gmail.com

428101

Academic Studies in English Ⅱ(G)

K.Kim

授業テーマ:

授業の概要: Students will have the opportunity to grow their four skills (speaking, listening, reading, and writing), with a special emphasis on the theme of Business, both within Japan and in the world.

到達目標: This is a CASE course focused on Business English Skills. We will emphasize presentations, in-class writing, and discussions. The course is designed to help students achieve higher TOEIC scores.

授業方法: Text-based learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, and have discussions in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Review & Orientations	To be determined
2.	Businesses	To be determined
3.	Job Interviews	To be determined
4.	Group Discussion I	To be determined
5.	Working Abroad	To be determined
6.	Leaders	To be determined
7.	Group Discussion II	To be determined
8.	Meetings	To be determined
9.	Business Trips	To be determined
10.	Group Discussion III	To be determined
11.	Online Businesses	To be determined
12.	Sales	To be determined
13.	Customers	To be determined
14.	Preparation for Final Presentation	To be determined
15.	Final Presentations	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス: This course will be based text materials, student research, and other relevant materials prepared by the teacher. Students will be expected to prepare for group discussions and in-class activities, as well as presentations.

フィードバックの方法: Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation & Attendance	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor. The completion of in-class writing assignments will be graded as part of participation.
Homework	25	Approximately 1 hour of homework per week should be expected, though may not be consistent. Students will be required to hand in all homework assignments on time.
Group Discussions	25	Students will be expected to prepare and present their research for group discussions 3 times during the course of the semester.
Final Presentation	25	Students will be expected to prepare for one individual presentation at the course of the semester. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.

教科書: Market Leader

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: kkimdoshisha@gmail.com

428102

Academic Studies in English Ⅱ(G)

C.L.Thorp

授業テーマ: International Business Communication

授業の概要: This course aims to stimulate communication in an international context. All 4 skills; Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening.
Critical and creative thinking will be practiced and business strategies learned to enable students who complete this course successfully to navigate international business environments with confidence.

到達目標: Fluency in speaking and basic presentation skills. reading competency especially of newspaper/magazine style-English. Ability to create reports, proposals, summaries, action plans and to write emails and letters skillfully. To develop critical assessment of business situations and logical action and follow up. To produce rather than imitate. To cross cultural barriers and feel at ease in business practices in English.

授業方法: interactive

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Block 1 : weeks 1-4 Unit 5 Stress overall goals: Test 1 (vocabulary), Writing 1(recommendations report), Speaking 1 (pp presentation - 5mins - Solutions to Stress)	Test preparation Vocabulary collection Unit Listening and Reading (3 texts) Creation of English Environment to be visited daily for a short time
2.	Presentation Skills - effective openings intonation and fluency Case Study 5 - class tasks - small group discussion and meeting as one group	Basic Writing Skills review 1 - report language - formal/informal; complex sentences Writing 1: (700 words)
3.	Test 1 (correction and grading in class) Presentation performance Part 1 - assessment (peer + teacher) recommendations for improvement-general speaking practice for fluency	Grammar Practice (Conditionals) test review
4.	Presentation 1 Performance Part 2 Grammar answers and explanations (speaking practice)	Preparation Unit 6 - readings and listening Vocab. Collection English Environment check/recommendations
5.	Block 2 : weeks 5-8 Unit 6 Entertaining overall goals: Test 2 (listening), Writing 2 (letter as CEO), Speaking 2 (Case Study: conference venue choice/organization - pp	Basic Writing Skills review 2 - paragraph planning, accuracy, using pronouns to avoid repetition Writing 2: (700 words) Test preparation
6.	Test 2 (correction and grading in class) Presentation 2 practice and Part 1 performance	Extra Listening and Reading practice. More work on Writing 2. test review
7.	Presentation 2 Performance Part 2 Further speaking strategies	Grammar Practice (Verb combinations) Presentation fluency and gestures
8.	Grammar answers and explanations (speaking practice)	Preparation Unit 7 - readings and listening Vocab collection/ English Environment - reading strategies Revision B Progress Test 2 (units 4-6)
9.	Block 3: weeks 9-11 Unit 7 New Business Progress Test review overall goals: Test 3 (vocabulary + idioms), Writing 3 (extended email), Speaking 3 (f-t-f summarizing of case study info - 3 mins)	Basic Writing Skills review 3 - tone & register; planning; anticipating response Writing 3: (1000 words) Test preparation
10.	Test 3 (correction and grading in class) Presentation 3 practice and Part 1 performance	Extra Listening and Reading practice. More work on Writing 3. test review Grammar Practice (Passives) Presentation - rhetorical
11.	Presentation 3 Performance Part 2 Further speaking strategiesGrammar answers and explanations (speaking practice)	Preparation Unit 8 - readings and listening Vocab collection/ English Environment - reading strategies
12.	Unit 8 Marketing overall goals: test 4 (open book comprehension), Writing 4 (Market survey - data and action), Speaking 4 (pp Market Research Project 10 mins)	Basic Writing Skills review 4 - making survey questions Writing 4: (1000 words) Test preparation
13.	Test 4 (correction and grading in class) Presentation 4 practice and Part 1 performance	Extra Listening and Reading practice. More work on Writing 4. test review Grammar Practice (modal verbs) Presentation - survival strategies
14.	Presentation 4 Performance Part 2 Further speaking strategies Grammar answers and explanations (speaking practice)	Review & revisiting of all readings and listenings extended listening practice
15.	Final Assessment Discussion ; suggestions about vacation work and continuing to keep contact with English watch presentation/meeting videos to see visible communicative improvement	

受講者へのメッセージやアドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions carefully you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and leadership qualities.

フィードバックの方法:	Peer assessment. Test advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4/ week block.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Block 1: test, presentation, writing, participation & effort	25%	Participation and effort, and willingness to communicate in English.
Block 2: test, presentation, writing, participation & effort	25%	Participation and effort, and willingness to communicate in English.
Block 3: test, presentation, writing, participation & effort	25%	Participation and effort, and willingness to communicate in English.
Block 4: test, presentation, writing, participation & effort	25%	Participation and effort, and willingness to communicate in English.

教科書:	Coton D., Falvey D., Kent S.. Market Leader: Pre-intermediate with DVD Rom, 3rd Edition. Pearson
参考書:	Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD Rom) - Collins/Thomson Heinle (recent edition, paper) Longman Business English Dictionary (with CD Rom) Pearson Longman Market Leader Business Grammar and Usage. Strutt, P.
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡方法:	lindenthorp@gmail.com

428200

Academic Studies in English Ⅰ(H)

M.Stapp

授業テーマ:

Contemporary business studies in English

授業の概要:

This course is for intermediate-level CASE students who want to develop their all-round English language ability, whilst learning about today's corporate world. A wide variety of business topics will be covered enabling students to acquire a broad base of business knowledge. Students will also become familiar with numerous practices and procedures used in the day-to-day running of a modern business entity. The profiles and business philosophies of two inspirational Japanese entrepreneurs will be analyzed. Business-related vocabulary frequently used in TOEIC tests will also be studied.

到達目標:

* Increase knowledge of today's business world

* Improve intrinsic and extrinsic motivation

* Develop all-round English language communication ability

授業方法:

Workshop-style classes will be held in English. Textbook studies will form the basis of the coursework. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analyzed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for evaluating students..

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Overview; "Getting-to-Know-You" Activity	Make a name card
2.	Unit 1: Meeting Someone for the First Time	Finish page 6
	What to do when meeting someone for the first time	Review work
3.	Unit 1: Meeting Someone for the First Time (cont.)	Finish pages 9 and 10
	What to do when meeting someone for the first time	Review work
4.	Unit 2: Calling Contacts	Finish page 13
	Making calls, leaving messages, listening to voicemail, taking messages	Review work
5.	Unit 2: Calling Contacts (cont.)	Finish page 17
	Making calls, leaving messages, listening to voicemail, taking messages	Review work
6.	Unit 3: Talking About Schedules	Finish page 19
	Talking about schedules, making appointments, rescheduling meetings	Review work
7.	Unit 3: Talking About Schedules (cont.)	Finish page 24
	Talking about schedules, making appointments, rescheduling meetings	Review work
8.	Mid-Semester Assessment Task; Video Activity	Video activity homework
		Review work
9.	Successful Japanese Businessperson #1 Analysis	Successful Japanese businessperson #1 homework
		Review work
10.	Unit 4: Company Performance	Finish page 27
	Presenting figures, describing graphs, comparing information, presenting information	Review work
11.	Unit 4: Company Performance (cont.)	Finish pages 30 and 31
	Presenting figures, describing graphs, comparing information, presenting information	Review work
12.	Successful Japanese Businessperson #2 Analysis	Successful Japanese businessperson #2 homework
		Review work
13.	Unit 5: Production and Services	Finish page 34
	Describing products, asking about products, talking about company activities, talking about services, what to do when visiting a client	Review work
14.	Unit 5: Production and Services (cont.)	Finish page 38
	Describing products, asking about products, talking about company activities, talking about services, what to do when visiting a client	Review work
15.	Conclusion	Review and consolidation of coursework

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students should prepare for class by reviewing the previous week's lesson and completing any assigned work in a timely manner.

Assignments that are submitted late will incur a penalty.

If a student misses class, it is the student's responsibility to find out what was missed and to complete it.

フィードバックの方法:

Any written work that is submitted will receive feedback on its form and content. Corrections and comments will be written on student papers.

Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student on the day of the presentation.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty. If a student has a Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) she will not be penalized.
Class Participation and Overall Effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Homework will be given to help the students comprehend the coursework.
Mid-Semester Assessment Task	30%	An assessment task to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書:

Business venture 2 (Third Edition), R. Barnard and J Lady, Oxford University Press.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

I will be on campus on Fridays.
Please ask me questions before, during or after class.

428300

Academic Studies in English Ⅱ(H)

M.Stapp

授業テーマ:

Contemporary business studies in English

授業の概要:

This course is for intermediate-level CASE students who want to develop their all-round English language ability, whilst learning about today's corporate world. A wide variety of business topics will be covered enabling students to acquire a broad base of business knowledge. Students will also become familiar with numerous practices and procedures used in the day-to-day running of a modern business entity. The profiles and business philosophies of two inspirational Japanese entrepreneurs will be analyzed. Business-related vocabulary frequently used in TOEIC tests will also be studied.

到達目標:

* Increase knowledge of today's business world

* Improve intrinsic and extrinsic motivation

* Develop all-round English language communication ability

授業方法:

Workshop-style classes will be held in English. Textbook studies will form the basis of the coursework. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analyzed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for evaluating students.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Overview; "Getting-to-Know-You" Activity	Make a name card
2.	Unit 6: Talking About Decisions	Finish page 41
	An industry history, cause and effect, business decisions, explaining decisions, franchises	Review work
3.	Unit 6: Talking About Decisions (cont.)	Finish page 44
	An industry history, cause and effect, business decisions, explaining decisions, franchises	Review work
4.	Unit 7: Complaints and Problems	Finish page 47
	Receiving a complaint, making a complaint, dealing with a complaint, complaints and solutions, hotel problems	Review work
5.	Unit 7: Complaints and Problems (cont.)	Finish page 50
	Receiving a complaint, making a complaint, dealing with a complaint, complaints and solutions, hotel problems	Review work
6.	Unit 8: Checking Progress	Finish page 53
	Travel arrangements, getting an update, giving an update, updates and future plans, a business trip	Review work
7.	Unit 8: Checking Progress (cont.)	Finish pages 57 and 58
	Travel arrangements, getting an update, giving an update, updates and future plans, a business trip	Review work
8.	Mid-Semester Assessment Task; Video Activity	Video activity homework
		Review work
9.	Successful Japanese Businessperson #3 Analysis	Successful Japanese businessperson #3 homework
		Review work
10.	Unit 9: Future Prospects	Finish page 61
	Forecasting, predicting trends, making decisions, financial advice, looking at the long-term future	Review work
11.	Unit 9: Future Prospects (cont.)	Finish page 65
	Forecasting, predicting trends, making decisions, financial advice, looking at the long-term future	Review work
12.	Successful Japanese Businessperson #4 Analysis	Successful Japanese businessperson #4 homework
		Review work
13.	Unit 10 Regulations and Advice	Finish page 68
	Discussing job requirements, traveling by plane, company regulations, flight advice, giving advice	Review work
14.	Unit 10 Regulations and Advice (cont.)	Finish page 71
	Discussing job requirements, traveling by plane, company regulations, flight advice, giving advice	Review work
15.	Conclusion	Review and consolidation of coursework

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students should prepare for class by reviewing the previous week's lesson and completing any assigned work in a timely manner.

Assignments that are submitted late will incur a penalty.

If a student misses class, it is the student's responsibility to find out what was missed and to complete it.

フィードバックの方法:

Any written work that is submitted will receive feedback on its form and content. Corrections and comments will be written on student papers.

Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student on the day of the presentation.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty. If a student has a Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) she will not be penalized.
Class Participation and Overall Effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Homework will be given to help the students comprehend the coursework.
Mid-Semester Assessment Task	30%	An assessment task to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書:

Business venture 2 (Third Edition), R. Barnard and J Lady, Oxford University Press.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

I will be on campus on Fridays.
Please ask me questions before, during or after class.

428400

Academic Studies in English Ⅰ(I)

C.L.Thorp

授業テーマ: Legal Studies

授業の概要: This course aims to encourage communication about matters related to the law from a society viewpoint. All 4 skills: Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening, and general communication. Critical and creative thinking skills and strategies will be practiced to enable students to be able to converse about current international issues from a wide perspective confidently.

到達目標: Fluency and ease with spoken English. Reading competency and depth of understanding of intermediate cases/texts and above. Ability to write a basic discursive short essay in academic style/formal letter and to speak extensively, to question and to summaries. The international global arena will be considered at all times while at the same time generating new perspectives on Japan.

授業方法: Interactive: short teacher-led lectures

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Block 1: weeks 1-4 The Environment and Globalization overall goals: Test 1 (legal vocabulary), Writing 1 (extended paragraphs), Speaking 1 (f-t-f 3 min presentation-academic interest)	Test preparation Creation of Vocabulary system/book Reading & Question reflection Listening
2.	Introduction to Presentation techniques Intro of Case 1: assessment and prediction of verdict Class tasks-survey	Basic Writing Skills review 1: sentences/paragraphs/formatting Presentation preparation/practice Writing 1: (500 words)
3.	Test 1 (correction/grading in class) Presentation 1 Performance Part 1 assessment and advice Intro. Globalization.	Test review More work on Writing 1
4.	Speaking warm-up Presentation 1 Performance Part 2 assessment and advice	Preparation for Block 2
5.	Block 2: weeks 5-8 Employment and Gender overall goals: Test 2 (political/legal vocabulary), Writing 2 (short opinion essay), Speaking 2 (pairs interview - 5 mins)	Test preparation Vocabulary collection check Readings and reflective questions Listening
6.	Presentation strategies - collaboration/cooperation pronunciation/stress Introduction of Case 2: assessment & prediction of verdict	Basic Writing Skills review 2: cohesion, mindmapping, paragraph planning - punctuation Writing 2: (700 words)
7.	Test 2 (correction and grading in class) Presentation 2 Performance Part 1 assessment and advice Intro. Gender	Test review/prep for retake More work on Writing 2
8.	Speaking warm-up Presentation 2 performance Part 2 (peer)assessment and advice	Preparation for Block 3
9.	Block 3: weeks 9-11 The Supernatural overall goals: Test 3 (emotional/legal vocabulary), Writing 3 (short academic essay), Speaking 3	Test preparation Vocabulary collection check Readings and reflective questions Listening
10.	Test 3 (correction and grading in class) Presentation 3 Performance Part 1 assessment and advice	Basic Writing Skills review 3: paraphrasing/quotations: basic citations and referencing Writing 3: (700 words)
11.	Speaking warm-up Presentation 3 Performance Part 2	Preparation for Block 4 more work on Writing 3
12.	Block 4: 12-15 Organ Tissue and Donation overall goals: Test 4 (medical/legal vocabulary, Writing 4 (formal letter to the Editor), Speaking 4 (pp Presentation - survey report)	Test preparation Vocabulary collection check Readings and reflective questions Listening
13.	Test 4 (correction and grading in class) Presentation 4 Performance Part 1 assessment and advice	Basic Writing Skills review 4: more paraphrasing/quotations: basic citations and referencing: introductions and conclusions Writing 4: (1000 words)
14.	Speaking warm-up Presentation 3 Performance Part 2 Peer assessment	Draft 1 Writing 4 Grand Review of all topics and cases General work on Memorization - reading/eye movements/glancing
15.	Final Assessment Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep contact with English Watch presentation videos - visible improvement	

受講者へのメッセージやアドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions carefully you can hoped to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language, as well as developing personal confidence and a wide perspective on the Law and Society.

フィードバックの方法: Peer assessment. Test strategies and advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4 week Block.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Block 1: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations; improving writing skills
Block 2: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations; improving writing skills
Block 3: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations; improving writing skills
Block 4: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations; improving writing skills

教科書:

Goodmacher G. Stimulating Conversation Today. Intercom Press.

参考書:

Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD-Rom) - Collins/Thomson Heinle (most recent edition)
Powell R. Viewpoints in Law. Macmillan.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

lindenthorp@gmail.com

428500

Academic Studies in English Ⅱ(I)

C.L.Thorp

授業テーマ: Legal Studies

授業の概要: This course aims to encourage communication about matters related to the law from a society point of view. All 4 skills: Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening, and general communication. Critical and creative thinking skills and strategies will be practiced to enable students to be able to converse about current international issues from a wide perspective confidently.

到達目標: Fluency and ease with spoken English. Reading competency and depth of understanding of intermediate cases/texts and above. Ability to write a basic short discursive essay in academic style, a formal letter, and to speak extensively, to question and summarize. The international global arena will be considered at all times while at the same time generating new perspectives on Japan.

授業方法: interactive: short teacher-led lectures

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Block 1: weeks 1-4 Animal Rights and Violence/Nonviolence overall goals: Test 1 (legal/technical vocab.), Writing 1 (short comparative essay), Speaking 1 (f-t-f 5 min presentation)	Test preparation Vocabulary collection system Reading and Question reflection Listening
2.	New presentation techniques/strategies Intro of Case 1: assessment and prediction of verdict Class tasks	Basic Writing Skills review: 1 (punctuation and complex sentences/referencing) Presentation preparation and practice Writing 1: (700 words)
3.	Test 1 (correction/grading in class) Presentation 1 Performance Part assessment and advice Intro: Violence/Non-violence	Test review/retake More work on Writing 1
4.	Speaking warm up Presentation 1 Performance Part 2 assessment and advice	Preparation for Block 2
5.	Block 2: weeks 5-8 Education Today and The Family overall goals: Test 2 (legal/technical vocab.) Writing 2 (short essay with fixed sources) Speaking 2 (pp 7 min pairs presentation)	Test preparation Vocabulary collection system Reading and Question reflection Listening
6.	Intro of Case 2: assessment and prediction of verdict Class tasks	Basic Writing Skills review: 2 (choosing quotations, summarizing and evaluating) Presentation 2 preparation and practice Writing 2: (1000 words)
7.	Test 2 (correction/grading in class) Presentation 2 Performance Part 1 Intro: The Family	Test review/retake More work on Writing 2
8.	Speaking warm up Presentation 2 Performance Part 2 assessment and advice	Preparation for Block 3
9.	Block 3: weeks 9-11 Marriage and Divorce/Sex Education overall goals: Test 3 (legal/technical vocab.), Writing 3 (short technical report based on survey), Speaking 3 (f-t-f 5 min. present. of survey)	Test preparation Vocabulary collection system Reading and Question reflection Listening
10.	Test 3 (correction/grading in class) Presentation 3 Performance Part 1 Intro of Case 3: assessment and prediction of verdict Intro: Sex Education	Basic Writing Skills review: 3 (expanding, reiteration) Presentation 3 preparation and practice Writing 3: (1000 words)
11.	Speaking warm up Presentation 3 Performance Part 2 assessment and advice	Preparation for Block 3
12.	Block 4: 12-15 Morality and Immorality overall goals: Test 4 (legal/ethical/moral vocab.), Writing 4 (short academic essay), Speaking 4 (Debate Presentation)	Test preparation Vocabulary collection system Reading and Question reflection Listening
13.	Test 4 (correction/grading in class) Presentation 4 Performance Part 1 Intro of Case 4: assessment and prediction of verdict	Basic Writing Skills review: 4 (cohesion/style) Presentation 4 preparation and practice Writing 4: (1000 words)
14.	Speaking warm up Presentation 4 Performance Part 2 assessment and advice	Grand Review of Semester topics/materials/cases General work of memorization
15.	Final Assessment Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep in contact with English Watch presentation videos - to see visible improvement	

受講者へのメッセージやアドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions, you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and a wide perspective on the Law and Society.

フィードバックの方法: Peer assessment. Test strategies and advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4 week Block.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Block 1: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
Block 2: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
Block 3: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
Block 4: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills

教科書:

Goodmacher G. Stimulating Conversation Today. Intercom Press.

参考書:

Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD Rom) - Collins/Thomson Heinle (most recent edition)
Powell R. Viewpoints in Law. Macmillan.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法:

lindenthorp@gmail.com

428600

Academic Studies in English Ⅰ(J)

C.L.Thorp

授業テーマ: Legal Studies

授業の概要: This course aims to encourage communication about matters related to the law from a social viewpoint. All 4 skills: Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening, and general communication. Critical and creative thinking skills and strategies will be practiced to enable students to be able to converse about current international issues from a wide perspective confidently.

到達目標: Fluency and ease with spoken English. Reading competency and depth of understanding of intermediate legal cases/texts and above. Ability to write a basic short discursive essay in academic-style and to speak extensively, to question and to summarize. The international global arena will be considered at all times while a the same time getting new perspectives on Japan.

授業方法: Interactive. Short lectures

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Block 1: weeks 1-4 The Environment and Globalization overall goals: Test 1 (legal vocabulary), Writing 1 (extended paragraphs), Speaking 1 (f-t-f 3 min presentation-academic interest) Intro: The Environment	Test preparation Creation of Vocabulary system/book Reading & Question reflection Listening
2.	Introduction to Presentation techniques Intro of Case 1: assessment and prediction of verdict Class tasks-survey	Basic Writing Skills review 1: sentences/paragraphs/formatting Presentation preparation/practice Writing 1: (500 words)
3.	Test 1 (correction/grading in class) Presentation 1 Performance Part 1 assessment and advice Intro. Globalization.	Test review More work on Writing 1
4.	Speaking warm-up Presentation 1 Performance Part 2 assessment and advice.	Preparation for Block 2
5.	Block 2: weeks 5-8 Employment and Gender overall goals: Test 2 (political/legal vocabulary), Writing 2 (short opinion essay), Speaking 2 (pairs interview - 5 mins)	Test preparation Vocabulary collection check Readings and reflective questions Listening
6.	Presentation strategies - collaboration/cooperation pronunciation/stress Introduction of Case 2: assessment & prediction of verdict.	Basic Writing Skills review 2: cohesion, mindmapping, paragraph planning - punctuation Writing 2: (700 words)
7.	Test 2 (correction and grading in class) Presentation 2 Performance Part 1 assessment and advice Intro. Gender.	Test review/prep for retake More work on Writing 2
8.	Speaking warm-up Presentation 2 performance Part 2 (peer)assessment and advice.	Preparation for Block 3
9.	Block 3: weeks 9-11 The Supernatural overall goals: Test 3 (emotional/legal vocabulary), Writing 3 (short academic essay), Speaking 3	Test preparation Vocabulary collection check Readings and reflective questions Listening
10.	Test 3 (correction and grading in class) Presentation 3 Performance Part 1 assessment and advice	Basic Writing Skills review 3: paraphrasing/quotations: basic citations and referencing Writing 3: (700 words)
11.	Speaking warm-up Presentation 3 Performance Part 2	Preparation for Block 4 more work on Writing 3
12.	Block 4: 12-15 Organ Tissue and Donation overall goals: Test 4 (medical/legal vocabulary, Writing 4 (formal letter to the Editor), Speaking 4 (pp Presentation - survey report)	Test preparation Vocabulary collection check Readings and reflective questions Listening
13.	Test 4 (correction and grading in class) Presentation 4 Performance Part 1 assessment and advice	Basic Writing Skills review 4: more paraphrasing/quotations: basic citations and referencing: introductions and conclusions Writing 4: (1000 words)
14.	Speaking warm-up Presentation 3 Performance Part 2 Peer assessment	Draft 1 Writing 4 Grand Review of all topics and cases General work on Memorization - reading/eye movements/glancing
15.	Final Assessment Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep contact with English Watch presentation videos - visible improvement	

受講者へのメッセージやアドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions carefully you can hoped to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language, as well as developing personal confidence and a wide perspective on the Law and Society.

フィードバックの方法: Peer assessment. Test strategies and advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4 week Block.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Block 1: test, writing, speaking, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests: continual efforts to assess and improve all skills
Block 2: test, writing, speaking, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests: continual efforts to assess and improve all skills
Block 3: test, writing, speaking, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests: continual efforts to assess and improve all skills
Block 4: test, writing, speaking, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests: continual efforts to assess and improve all skills

教科書:

Goodmacher G. Stimulating Conversation Today. Intercom Press.

参考書:

Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD-Rom) - Collins/Thomson Heinle (most recent edition)
Powell R. Viewpoints in Law. Macmillan.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

lindenthorp@gmail.com

428700

Academic Studies in English Ⅱ(J)

C.L.Thorp

授業テーマ: Legal Studies

授業の概要: This course aims to encourage communication about matters related to the law from a society point of view. All 4 skills: Reading, Writing, Speaking and Listening will be focused on, but priority will be given especially to Speaking and Listening, and general communication. Critical and creative thinking skills and strategies will be practiced to enable students to be able to converse about current international issues from a wide perspective confidently.

到達目標: Fluency and ease with spoken English. Reading competency and depth of understanding of intermediate cases/texts and above. Ability to write a basic short discursive essay in academic style, a formal letter, and to speak extensively, to question and summarize. The international global arena will be considered at all times while at the same time generating new perspectives on Japan.

授業方法: interactive: short teacher-led lectures

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Block 1: weeks 1-4 Animal Rights and Violence/Nonviolence overall goals: Test 1 (legal/technical vocab.) Writing 1 (short comparative essay), Speaking 1 (f-t-f 5 min presentation)	Test preparation Vocabulary collection system Reading and Question reflection Listening
2.	New presentation techniques/strategies Intro of Case 1: assessment and prediction of verdict Class tasks	Basic Writing Skills review: 1 (punctuation and complex sentences/referencing) Presentation preparation and practice Writing 1: (700 words)
3.	Test 1 (correction/grading in class) Presentation 1 Performance Part assessment and advice Intro: Violence/Non-violence	Test review/retake More work on Writing 1
4.	Speaking warm up Presentation 1 Performance Part 2 assessment and advice	Preparation for Block 2
5.	Block 2: weeks 5-8 Education Today and The Family overall goals: Test 2 (legal/technical vocab.) Writing 2 (short essay with fixed sources) Speaking 2 (pp 7 min pairs presentation)	Test preparation Vocabulary collection system Reading and Question reflection Listening
6.	Intro of Case 2: assessment and prediction of verdict Class tasks	Basic Writing Skills review: 2 (choosing quotations, summarizing and evaluating) Presentation 2 preparation and practice Writing 2: (1000 words)
7.	Test 2 (correction/grading in class) Presentation 2 Performance Part 1 Intro: The Family	Test review/retake More work on Writing 2
8.	Speaking warm up Presentation 2 Performance Part 2 assessment and advice	Preparation for Block 3
9.	Block 3: weeks 9-11 Marriage and Divorce/Sex Education overall goals: Test 3 (legal/technical vocab.) Writing 3 (short technical report based on survey), Speaking 3 (f-t-f 5 min. present. of survey)	Test preparation Vocabulary collection system Reading and Question reflection Listening
10.	Test 3 (correction/grading in class) Presentation 3 Performance Part 1 Intro of Case 3: assessment and prediction of verdict Intro: Sex Education	Basic Writing Skills review: 3 (expanding, reiteration) Presentation 3 preparation and practice Writing 3: (1000 words)
11.	Speaking warm up Presentation 3 Performance Part 2 assessment and advice	Preparation for Block 3
12.	Block 4: 12-15 Morality and Immorality overall goals: Test 4 (legal/ethical/moral vocab.), Writing 4 (short academic essay), Speaking 4 (Debate Presentation)	Test preparation Vocabulary collection system Reading and Question reflection Listening
13.	Test 4 (correction/grading in class) Presentation 4 Performance Part 1 Intro of Case 4: assessment and prediction of verdict	Basic Writing Skills review: 4 (cohesion/style) Presentation 4 preparation and practice Writing 4: (1000 words)
14.	Speaking warm up Presentation 4 Performance Part 2 assessment and advice	Grand Review of Semester topics/materials/cases General work of memorization
15.	Final Assessment Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep in contact with English Watch presentation videos - to see visible improvement	

受講者へのメッセージやアドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions, you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and a wide perspective on the Law and Society.

フィードバックの方法: Peer assessment. Test strategies and advice. Writing correction and drafting. Regular class discussion about progress and sharpening objectives at the end of each 3-4 week Block.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Block 1: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
Block 2: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
Block 3: test, presentation, writing, participation	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills
Block 4: test, presentation, writing, participation & effort	25%	willingness to communicate and prepare for tests and presentations: improving writing skills

教科書:

Goodmacher G. Stimulating Conversation Today. Intercom Press.

参考書:

Collins Co-Build Intermediate Dictionary (with CD Rom) - Collins/Thomson Heinle (most recent edition)
Powell R. Viewpoints in Law. Macmillan.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法:

lindenthorp@gmail.com

428801～06 **Academic Reading Ⅰ**

江藤　あさじ、井上　径子、森永　弘司、末澤　亜矢子

授業テーマ:　グローバル人材育成のための英語教育

授業の概要:　英語の散文（評論やエッセー）を講読する中で、英文の読解力を養う。また一方で、TOEICのリーディング練習を行う。TOEIC（Test of English for International Communication）は英語を母語としない人のための、英語によるコミュニケーション能力を測る試験であり、大学生の英語力を測定するために現在最もよく使われている標準テストである。学内の自主学習CALLプログラム（Super English/ALC Net Academy2）の課外利用も推奨して、TOEICなどの英語の資格試験でのスコアアップをめざす。

到達目標:
1. 受講生のレベルに応じた英文の正確な読解力が身についていること。
2. TOEICのスコアを各受講生が設定したレベルに上げること。

授業方法:　学科のより専門領域に関連した英文の講読を中心に行うが、内容を批判的に読むことも大切である。読み取った後に、内容について話し合ったり、自分の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに関する読解の問題演習も実施する。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーションなど	
2.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
3.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
4.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
5.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
6.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
7.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
8.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
9.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
10.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
11.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
12.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
13.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
14.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
15.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習として、授業で扱うテキストに含まれる語彙・連語等を調べ、書き手の意図を掴んでおくことが大切である。また、授業中に学んだ事柄を復習すると同時に、各自の読み方を復習することが大切である。自主学習CALLプログラムに関しては、各自で目標を設定して主体的・継続的に取り組むこと。

フィードバックの方法:　各担当者が適切なフィードバックを行うが、原則として教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40	出席、授業中の意欲的な態度、発表など
試験・小テストなど	60	英文の総合的な読解力

教科書:　クラス別テキスト：担当者によって異なる
TOEICのテキスト：担当者により指示する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業時に各担当者から連絡する

428807～13

Academic Reading Ⅰ

M.A.Guziak、C.Sato、J.Wallen、R.H.S.Wong

授業テーマ:

Reading for International Understanding

授業の概要:

Reading is the one of the keys to academic success in any language. This course will allow students English to practice using their reading skills as they would in future careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC.
This course will focus on reading skills necessary for understanding every day signs and written messages as well as short news reports. This will include weekly practice of reading skills necessary to increase vocabulary and improve reading for overall meaning and content to strengthen other communication skills, such as listening, speaking, and writing.

到達目標:

This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to skim and understand and present and discuss information and opinions on academic topics about what they read. They should also be able to read and quickly understand basic work-type situations using English.

授業方法:

Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
2.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
4.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
5.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
6.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
7.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
8.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
9.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
10.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
11.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
12.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
13.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
14.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
15.	Self-reflection; Wrap-up	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a skills class. That means students will be asked to do some reading preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities reporting and discussing what they have read in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyalble classroom experience. Students should check Manabi and their DWC e-mail every week.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation & Attendance	30%	Active participation in class and group work
Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects
M-Reader Activities	10%	M-Reader Progress

教科書:

Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力
教員との連絡方法:	Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

428901～06 **Academic Reading Ⅱ**

江藤　あさじ、井上　径子、森永　弘司、末澤　亜矢子

授業テーマ:　グローバル人材育成のための英語教育

授業の概要:　「Academic Reading I」での授業内容を受け継ぎ、その主旨を深めるとともに、今日の社会に対する、さらに深い理解と偏りのない判断へと導くことに主眼を置く。
また一方で、TOEICのリーディング練習を行う。TOEIC（Test of English for International Communication）は英語を母語としない人のための、英語によるコミュニケーション能力を測る試験であり、大学生の英語力を測定するために現在最もよく使われている標準テストである。学内の自主学習CALLプログラム（Super English/ALC Net Academy2）の課外利用も推奨して、TOEICなどの英語の資格試験でのスコアアップをめざす。

到達目標:　1．Academic Reading Ⅰ よりもさらに正確で深い読解力が身についていること。
2．TOEICのスコアを各自が設定したレベルよりも上げること。

授業方法:　学科のより専門領域に関連した英文の講読を中心に行うが、内容を批判的に読むことも大切である。読み取った後に、内容について話し合ったり、自分の考えを書いたりする活動も含まれる。TOEICに関する読解の問題演習も実施する。TOEICに使う時間の割合は、授業時間の3分の1であるが、どのように配分するかは担当者により異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーションなど	
2.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
3.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
4.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
5.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
6.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
7.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
8.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
9.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
10.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
11.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
12.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
13.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
14.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う
15.	散文講読（内容理解、発表、討論、表現活動、TOEIC演習等）	事前に授業範囲の英文を読んでくることを前提として授業を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習として、授業で扱うテキストに含まれる語彙・連語等を調べ、書き手の意図を掴んでおくことが大切である。また、授業中に学んだ事柄を復習すると同時に、各自の読み方を復習することが大切である。自主学習CALLプログラムに関しては、各自で目標を設定して主体的・継続的に取り組むこと。

フィードバックの方法:　各担当者が適切なフィードバックを行うが、原則として教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40	出席、授業中の意欲的な態度、発表など
試験・小テストなど	60	英文の総合的な読解力

教科書:　クラス別テキスト：担当者によって異なる
TOEICのテキスト：担当者により指示する

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業時に各担当者から連絡する

428907～13

Academic Reading Ⅱ

M.A.Guziak、C.Sato、J.Wallen、R.H.S.Wong

授業テーマ:

Reading for International Understanding

授業の概要:

Reading is the one of the keys to academic success in any language. This course will allow students English to practice using their reading skills as they would in future careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC.
This course will focus on reading skills necessary for understanding every day signs and written messages as well as short news reports. This will include weekly practice of reading skills necessary to increase vocabulary and improve reading for overall meaning and content to strengthen other communication skills, such as listening, speaking, and writing.

到達目標:

This course will teach students English reading skills necessary for success in careers and the academic world as well as in tests such as TOEIC. After completing this course, students should be able to skim and understand and present and discuss information and opinions on academic topics about what they read. They should also be able to read and quickly understand basic work-type situations using English.

授業方法:

Will vary with the instructor and class level, but teacher-student interactions to actively practice academic skills will be carried out.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course orientation	Check the syllabus and textbook for the course.
2.	Focus on specific reading skills.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
4.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
5.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
6.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
7.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
8.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
9.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
10.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
11.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
12.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
13.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework
14.	Focus on specific reading skills and discussions about what students have read and presentations about reading topics.	Checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor. M-Reader homework

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a skills class. That means students will be asked to do some reading preparation each week to prepare to actively participate in communicative activities reporting and discussing what they have read in class. Students are expected to be responsible for making up any missed assignments and for asking the teacher for clarification when the student does not understand something. Teacher-student communication is important for an enjoyalble classroom experience. Students should check Manabi and their DWC e-mail every week.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Participation & Attendance	30%	Active participation in class and group work
Quizzes, Tests & Projects	30%	Assessment of quizzes, tests, and project work
Homework	30%	Outside preparation for in-class work and projects
M-Reader Activities	10%	M-Reader Progress

教科書:

Will vary by instructor and class level. Will be announced.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:	Will depend on the instructor. Check with the teacher or Gensha office.

429401、02

Communication Skills Ⅰ

S.Sakayori

授業テーマ: English as a Tool for Communication

授業の概要: The primary objective of this course will be for students to develop a stronger awareness of English as a tool for communication. Students will work on getting away from simply 'speaking in English and move towards 'communicating in English'.

到達目標:
☆Lessons will focus on listening and talking about a variety of topics and acquiring the skills to speak more fluently and confidently.
☆Activities to enable students to take a more active and independent role in their learning will be emphasized.
☆The key word is to be 'positive'.

授業方法: The class will follow the 'active learning' method. Class activities will be conducted mainly in pairs or in small groups to give students ample opportunity to use English. Emphasis will be placed on active student participation. Students will be expected to 'stay in English'.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introductions Ice breaking activities Introduction to class	Prepare materials for next class Informal writing exercises
2.	Unit 1 My Life A. People	Textbook assignment Prepare for mini presentation
3.	Mini presentation Online workbook introduction	Online assignment
4.	Unit 1 My Life B. Lessons Learned	Textbook assignment
5.	Unit 1 My Life B. Lessons Learned	DVD assignment Online assignment
6.	Unit 2 Let's Eat A. Foods We Like	Textbook assignment
7.	Unit 2 Let's Eat A. Foods We Like	Prepare for mini presentation Online assignment
8.	Mini presentation Unit 2 Let's Eat B. Eating Well	DVD assignment
9.	Unit 2 Let's Eat B. Eating Well	Textbook assignment Online assignment
10.	Unit 3 Mysteries A. You're in Luck!	Textbook assignment
11.	Unit 3 Mysteries A. You're in Luck!	Online assignment Textbook assignment
12.	Unit 3 Mysteries B. Unsolved Mysteries	Textbook assignment Prepare for final presentation
13.	Unit 3 Mysteries B. Unsolved Mysteries	Online assignment Textbook assignment
14.	Individual presentations	Feedback on presentations
15.	Wrap up of the semester	Summer essay

受講者へのメッセージやアドバイス: Your English won't improve unless you come to class and participate actively! Don't be afraid of making mistakes. We all learn by making mistakes!

フィードバックの方法: Students will regularly be asked to reflect and share their feelings on the class and the class activities both orally and in writing. The instructor will give comments and make adjustments when necessary.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation/Attitude/Effort	40%	Full participation in English is required.
Homework/Written	35%	Points will be deducted for late or incomplete homework.
Presentations/Quizzes	25%	Students will receive an automatic zero if they are absent for any scheduled presentation or quiz (without a valid reason).

教科書:
World Link Combo Split A with online workbook
by James R. Morgan
published by Cengage Learning

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーショん力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法: Instructor's e-mail address will be provided on the first day of class.

429403、04

Communication Skills Ⅰ

C.Adamson

授業テーマ:

Speaking and listening skills

授業の概要:

This course is intended to build up communicative skills by studying content in English. The course will mainly focus on building up vocabulary by reading and practising useful words and phrases. An important part of the course will be making poster and PowerPoint presentations.

到達目標:

Students will build confidence in communicating in English by developing listening and speaking skills through practice and self-study

授業方法:

Group and pair-work mainly

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Pathways unit 1	Homework set from textbook
2.	Pathways unit 1	Homework set from textbook
3.	Pathways unit 1	Homework set from textbook
4.	Pathways unit 2	Presentation 1
5.	Pathways unit 2	Presentation 1
6.	Presentation 1	Homework set from textbook
7.	Pathways unit 2	Homework set from textbook
8.	Pathways unit 2	Homework set from textbook
9.	Pathways unit 3	Homework set from textbook
10.	Pathways unit 3	Presentation 2
11.	Presentation 2	Presentation 3
12.	Pathways unit 4	Homework set from textbook
13.	Prep for speaking test	Group discussion
14.	Group discussion (speaking test)	Group discussion
15.	Reflection	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Be prepared to speak out in English practice actively in class. Show a very positive attitude and you will do well.

フィードバックの方法:

Comments on presentations and discussion work will be given

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
presentations	30	Presentation skills and English ability
Classwork	30	Positive attitude to communication in English
Quizzes	10	Vocabulary knowledge
Participation	20	Attendance and attitude to homework and class
Final speaking test	10	English ability and fluency

教科書:

B Chase and K Johannsen, Pathways 2, Cengage

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

429405、06

Communication Skills Ⅰ

シュトラウマン千里

授業テーマ:

Developing critical thinking skills

授業の概要:

This course is designed to help students communicate more effectively and confidently in spoken English. Students are encouraged to analyze, apply knowledge, and develop an individual voice around a topic. Then students are asked to synthesize what they have learnt in a written assignment, in which they have a chance to develop their own ideas.

到達目標:

・To be able to understand the main ideas of complex text on both concrete and abstract topics, and be able to interact with a degree of fluency and spontaneity.
・To be able to convey information through oral and written language by using appropriate grammar, vocabulary, and a variety of sentence structures.
・To be able to improve their communication skills through various activities, including pair work, listening tasks, vocabulary study, and follow-up work in writing.
・To be able to build up a logical analytical argument in a short essay
・To be able to reflect on their own cultural identities and express their opinions

授業方法:

Active learning and student-centered approaches are used, which incorporate activities; such as,
・Pair work
・Informal small group work
・Group presentation

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction, Self-introductions, Preliminary activities	Homework and review
2.	Unit 1	Homework and review
3.	Unit 1	Homework and review
4.	Unit 1	Homework and review
5.	Unit 2	Homework and review
6.	Unit 2	Homework and review
7.	Unit 2	Homework and review
8.	Unit 3	Homework and review
9.	Unit 3	Homework and review
10.	Unit 3	Homework and review
11.	Unit 4	Homework and review
12.	Unit 4	Homework and review
13.	Unit 4	To be announced
14.	Small group presentations	
15.	Small group presentations (Cont'd) Conclusion, Q & A	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

・You are expected to be active learners and active participants in each class discussion and activity. You have to show each other respect. Differences in opinions and ideas will be discussed in a nonjudgmental and respectful manner.
・Don't be afraid of making mistakes and challenge yourself in order to make progress in learning English.

フィードバックの方法:

Written and verbal evaluation

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	
Class participation	20	
Homework	30	
Presentation	30	Assessed as a group

教科書:

Miles Craven and Kristin Donnalley Sherman. Q: Skills for Success Listening and Speaking 3. Oxford University Press, 2015

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力,

教員との連絡方法:

cstraumann6@gmail.com

429501、02

Communication Skills Ⅱ

S.Sakayori

授業テーマ:

English as a Tool for Communication

授業の概要:

The course will be a continuation of the spring semester.

到達目標:

The goal of the course will be a continuation of the spring semester. In addition, students will also begin talking about a wider range of topics to broaden their view of the world around them.

授業方法:

The method of instruction will be the same as in the spring semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Summer news Summer essays Unit 4 Trends Lesson A Lifestyle Trends	Textbook assignment
2.	Unit 4 Trends Lesson A Lifestyle Trends	Essay rewrite Textbook assignment Online assignment
3.	Unit 4 Trends Lesson B Fashion Trends	Prepare for mini presentation Textbook assignment
4.	Mini presentation Unit 4 Trends Lesson B Fashion Trends	Textbook assignment Online assignment DVD assignment
5.	Unit 5 In and About Lesson A Running Errands	Textbook assignment
6.	Unit 5 In and About Lesson A Running Errands	Textbook assignment Online assignment
7.	Unit 5 In and About Lesson B My Neighborhood	Textbook assignment DVD assignment Prepare for mini presentation
8.	Mini presentation Unit 5 In and About Lesson B My Neighborhood	Textbook assignment Online assignment
9.	Unit 6 Goals Lesson A Starting Out	Textbook assignment
10.	Unit 6 Goals Lesson A Starting Out	Textbook assignment Online assignment DVD assignment
11.	Unit 6 Goals Lesson B After Graduation	Practice for presentation Textbook assignment Online assignment
12.	Unit 6 Goals Lesson B After Graduation	Practice for presentation Online assignment
13.	Group Presentations	Feedback and evaluations
14.	Holiday News	Holiday Essay
15.	Holiday Essays Short story impressions	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Do your best! Keep a positive attitude! Don't be afraid of making mistakes!

フィードバックの方法:

The method will be the same as in the spring semester.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation/Attitude/Effort	40%	Active participation is required. Grades will be lowered for excessive use of Japanese.
Homework/Written Homework	35%	All assignments must be completed. Points will be deducted for late, incomplete or no homework.
Presentations/Quizzes	25%	Students who are absent for presentations and quizzes will receive an automatic zero (0) without a valid reason.

教科書:

The same as spring semester.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:

E-mail address will be given in class.

429503、04

Communication Skills Ⅱ

C.Adamson

授業テーマ:

Speaking and listening skills

授業の概要:

This course is intended to build up communicative skills by studying content in English. The course will mainly focus on building up vocabulary by reading and practising useful words and phrases. An important part of the course will be making poster and PowerPoint presentations.

到達目標:

Students will build confidence in communicating in English by developing listening and speaking skills through practice and self-study

授業方法:

Group and pair-work mainly

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Pathways unit 5	Homework set from textbook
2.	Pathways unit 5	Homework set from textbook
3.	Pathways unit 6	Homework set from textbook
4.	Pathways unit 6	Presentation 3
5.	Pathways unit 6	Presentation 3
6.	Presentation 3	Homework set from textbook
7.	Pathways unit 7	Homework set from textbook
8.	Pathways unit 7	Presentation 4
9.	Short presentation 4	Homework set from textbook
10.	Pathways unit 9	Homework set from textbook
11.	Pathways unit 9	Homework set from textbook
12.	Pathways unit 9	Homework set from textbook
13.	Prep for speaking test	Group discussion
14.	Group discussion (speaking test)	Group discussion
15.	Reflection	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Be prepared to speak out in English practice actively in class. Show a very positive attitude and you will do well.

フィードバックの方法:

Comments on presentations and discussion work will be given

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
presentations	30	Presentation skills and English ability
Classwork	30	Positive attitude to communication in English
Quizzes	10	Vocabulary knowledge
Participation	20	Attendance and attitude to homework and class
Final speaking test	10	English ability and fluency

教科書:

B Chase and K Johannsen, Pathways 2, Cengage

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:

cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

429505、06

Communication Skills Ⅱ

シュトラウマン千里

授業テーマ:

Developing critical thinking skills

授業の概要:

This course picks up where the first semester left off. This course is designed to help students communicate more effectively and confidently in spoken English. Students are encouraged to analyze, apply knowledge, and develop an individual voice around a topic. Then students are asked to synthesize what they have learnt in a written assignment, in which they have a chance to develop their own ideas.

到達目標:

・To be able to understand the main ideas of complex text on both concrete and abstract topics, and be able to interact with a degree of fluency and spontaneity.
・To be able to convey information through oral and written language by using appropriate grammar, vocabulary, and a variety of sentence structures.
・To be able to improve their communication skills through various activities, including pair work, listening tasks, vocabulary study, and follow-up work in writing.
・To be able to build up a logical analytical argument in a short essay
・To be able to reflect on their own cultural identities and express their opinions

授業方法:

Active learning and student-centered approaches are used, which incorporate activities; such as,
・Pair work
・Informal small group work
・Group presentation

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Recap of first semester – Go over the main points from the first semester Preview of second semester and introductory activities	Homework and review
2.	Unit 5	Homework and review
3.	Unit 5	Homework and review
4.	Unit 5	Homework and review
5.	Unit 6	Homework and review
6.	Unit 6	Homework and review
7.	Unit 6	Homework and review
8.	Unit 7	Homework and review
9.	Unit 7	Homework and review
10.	Unit 7	Homework and review
11.	Unit 8	Homework and review
12.	Unit 8	Homework and review
13.	Unit 8	To be announced
14.	Small group presentations	
15.	Small group presentations (Cont'd) Conclusion, Q & A	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

・You are expected to be active learners and active participants in each class discussion and activity. You have to show each other respect. Differences in opinions and ideas will be discussed in a nonjudgmental and respectful manner.
・Don't be afraid of making mistakes and challenge yourself in order to make progress in learning English.

フィードバックの方法:

Written and verbal evaluation

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	
Class participation	20	
Homework	30	
Presentation	30	Assessed as a group

教科書:

Miles Craven and Kristin Donnalley Sherman. Q: Skills for Success Listening and Speaking 3. Oxford University Press, 2015

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力, 思考力, 創造力, プレゼンテーション力, コミュニケーション力,

教員との連絡方法:

cstraumann6@gmail.com

429801～07

Academic Writing Ⅰ

K.Adams、B.Bridgman、K.Thompson、C.Sato、C.L.Thorp、G.Couzens

授業テーマ:
Academic writing

授業の概要:
Students will learn how to create coherent and creative arguments and commentaries using English. Course contents and texts will vary according to different teachers but students should expect to focus on writing accurate paragraphs and essays according to accepted standards in English speaking countries.

到達目標:
Students will improve accuracy and vocabulary in English. Students will be able to deliver concise and logical arguments and commentary in written English. Students will also improve their reading skills.

授業方法:
individual and group study

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
2.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
3.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
4.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
5.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
6.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
7.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
8.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
9.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
10.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
11.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
12.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
13.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
14.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
15.	Review and reflection	none

受講者へのメッセージやアドバイス:
Please be active in speaking out in class in English. Prepare all assignments on time and keep good attendance.

フィードバックの方法:
Will vary according to teacher

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Assignments	30	Accuracy and organisation of written assignments
Classwork, including quizzes	30	Participation and quality
Text and other homework	20	Participation and quality
Attendance and attitude	20	Participation

教科書:
Will vary according to teacher

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:
cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

429901～07

Academic Writing Ⅱ

K.Adams、B.Bridgman、K.Thompson、C.Sato、C.L.Thorp、G.Couzens

授業テーマ:
Academic writing

授業の概要:
Students will learn how to create coherent and creative arguments and commentaries using English. Course contents and texts will vary according to different teachers but students should expect to focus on writing accurate paragraphs and essays according to accepted standards in English speaking countries.

到達目標:
Students will improve accuracy and vocabulary in English. Students will be able to deliver concise and logical arguments and commentary in written English. Students will also improve their reading skills.

授業方法:
individual and group study

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
2.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
3.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
4.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
5.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
6.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
7.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
8.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
9.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
10.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
11.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
12.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
13.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
14.	Focus on various aspects of academic writing and reading. Actual contents will vary according to instructor and materials.	Assigned homework
15.	Review and reflection	none

受講者へのメッセージやアドバイス:
Please be active in speaking out in class in English. Prepare all assignments on time and keep good attendance.

フィードバックの方法:
Will vary according to teacher

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Assignments	30	Accuracy and organisation of written assignments
Classwork, including quizzes	30	Participation and quality
Text and other homework	20	Participation and quality
Attendance and attitude	20	Participation

教科書:
Will vary according to teacher

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:
cadamson@dwc.doshisha.ac.jp

430001～03

Academic Listening Ⅲ

L.Rogers

授業テーマ:

Contemporary Studies

授業の概要:

The main objective of this course is to help students develop listening strategies and skills for academic and career purposes. In addition, the course will help students improve their note-taking and study skills and expand their vocabulary. Class listening activities will use a variety of authentic listening samples, including interviews and lectures about multicultural topics. Students will use listening homework to gather information to use in presentations and discussions.

到達目標:

Upon completion of this course, students will be able to take better notes for academic lectures, and use listening skills in order to discuss and present their own ideas.

授業方法:

Class activities will include listening, speaking, and vocabulary-building activities. Students will learn note-taking and other useful listening strategies. Students will also be expected discuss and do mini-presentations about information gathered from their listening journal activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction	Check the syllabus and textbook for the course.
2.	Orientation to Listening Diary homework and A-V library and Internet materials	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3.	Listening skills focus: Gender and Society	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
4.	Listening practice for main ideas and academic skills	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
5.	Listening skills focus: Life Science topics	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
6.	Guessing vocabulary from context	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
7.	Note taking: using symbols and abbreviations Presentation	Listening journal homework, presentation preparation
8.	Listening skills focus: Human Migration	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
9.	Listening practice for main ideas and academic skills	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
10.	Mini-presentation summarizing information gathered through listening activities	Listening journal homework, presentation preparation
11.	Listening skills focus: Multicultural issues Guessing vocabulary from context	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
12.	Listening practice for main ideas and academic skills	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
13.	Mini-presentation Project	Listening journal homework, presentation preparation
14.	Mini-presentation Project and discussion	Listening journal homework, presentation preparation
15.	Course feedback and peer review	Listening journal homework, presentation feedback and course assessment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students' ongoing homework assignment will be to keep a Listening Diary of materials they will choose in accordance with their own ability level and listening goals. They can choose from materials in the A-V Library Self-study Program, ALC Net Academy, TOEIC preparation materials, and online resources. They will listen to the material an average of 30 minutes at least 3 times a week and keep a record of their learning. These listening journal activities will also be used to get information for presentations.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation, active discussions in English	40%	Active participation in class and group work
Homework & English use	30%	Listening journal homework, in-class use of English, etc.
Quizes & Presentations	30%	Assessment of quizzes and presentations

教科書:

Becky Traver Chase, Kristin L. Johannsen, Paul MacIntyre (2011). Pathways Combo Split 3A: Listening, Speaking and Critical Thinking. Cengage ELT.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

430101～03

Academic Listening Ⅳ

L.Rogers

授業テーマ:

Contemporary Studies

授業の概要:

This course will help students further develop listening strategies and skills for academic and career purposes. Class listening activities will use a variety of authentic listening samples. The content and activities of the course will help students develop the critical thinking skills of analyzing and synthesizing facts and information as well as how to present them.

到達目標:

Upon completion of this course, students will be able to take better notes for academic lectures, and use listening skills in order to discuss and present their own ideas.

授業方法:

Class activities will include listening, speaking, and vocabulary-building activities. Students will learn note-taking and other useful listening strategies. Students will also be expected discuss and do mini-presentations about information gathered from their listening journal activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction and listening journal guidelines	Check the syllabus and textbook for the course.
2.	Listening self-study discussion	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
3.	Listening topic focus: Historical Events	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
4.	Note taking: listening for definitions and information	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
5.	Listening topic focus: Making a Living, Making a Difference	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
6.	Listening for details and notetaking skills	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
7.	Note taking: Listening for answers to questions	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
8.	Presentation: cause and effect	Listening journal homework, presentation preparation
9.	Listening topic focus: Trends	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
10.	Listening for signal words and phrases	Listening journal homework, checking vocabulary and other relevant homework set by the instructor.
11.	Mini-presentation summarizing information gathered through listening activities	Listening journal homework, presentation preparation
12.	Presentation Preparation	Listening journal homework, presentation preparation
13.	Presentations	Listening journal homework, presentation preparation
14.	Presentations	Listening journal homework, presentation preparation
15.	Course feedback and peer review	Listening journal homework, presentation feedback and course assessment

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students' ongoing homework assignment will be to keep a Listening Diary of materials they will choose in accordance with their own ability level and listening goals. They can choose from materials in the A-V Library Self-study Program, ALC Net Academy, TOEIC preparation materials, and online resources. They will listen to the material an average of 30 minutes at least 3 times a week and keep a record of their learning. These listening journal activities will also be used to gather information for presentations.

フィードバックの方法:

Feedback will be given in class and online.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation, active discussions in English	40%	Active participation in class and group work
Homework & English use	30%	Listening journal homework, in-class use of English, etc.
Quizes & Presentations	30%	Assessment of quizzes and presentations

教科書:

Becky Traver Chase, Kristin L. Johannsen, Paul MacIntyre (2011). Pathways Combo Split 3A: Listening, Speaking and Critical Thinking. Cengage ELT.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

lrogers@dwc.doshisha.ac.jp

430201、02

Academic Speaking Ⅲ

R.Ramirez

授業テーマ:

Public Speaking

授業の概要:

The primary aim of this course will be to develop a stronger awareness of English as a tool for communication. Students will improve their speaking skills. They will be allowed to choose their own topics or be given interesting and practical topics. This will provide practice with all the basics needed to improve when speaking to one person or to many people. Students will be mainly speaking in class but will also learn how to put a good speech together as well. Handouts, and a step-by-step procedure on public speaking and presenting will be the basis for this course. The materials and activities will give the students ample opportunity to engage in stimulating exercises and discussions. Through public speaking/presenting, students will gain confidence in their ability regardless of their level. Eye contact, voice inflection, gestures, posture, visual aids, introductions, and conclusions are some of the things that will be worked on to make a clear speech/presentation.

到達目標:

To develop oral English skills for presentations
To develop writing skills (in English) for presentations
To develop confidence for speaking in front of large groups

授業方法:

Handouts, lectures, and group/pair work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction and public speaking overview (impromptu speeches)	Review in-class work
2.	Written speech and physical speech	Complete and practice physical speech exercises
3.	Written speechII and physical speechII	Complete and practice written speech exercises
4.	Voice and prosody	Complete and practice speech exercises
5.	Putting everything together	Review all exercises from first lesson
6.	Putting everything together II and evaluation	Choose a partner and complete a written speech
7.	Evaluation II and speech check	Prepare for speech performance
8.	Pair speeches	Prepare a new written speech (individual)
9.	Speech check and practice	Prepare for speech performance
10.	First individual speech (group A)	Prepare for speech performance
11.	First individual speech (group B)	Prepare a new written speech (individual)
12.	New speech check and practice	Prepare for speech performance
13.	Final individual speech (group A)	Prepare for speech performance
14.	Final individual speech (group B)	None
15.	Make-up speeches and review	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Practice is the best preparation for any speech

フィードバックの方法:

All students will be evaluated by and will evaluate others

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Speeches	30	Various criteria as described in class
Assignments	20	Completion and quality
Class participation	25	Individual, pair, and group work (5% for speech days)
Attendance	25	(5% for speech days)

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

rramirez@dwc.doshisha.ac.jp

430203

Academic Speaking Ⅲ

B.Gross

授業テーマ:

Speaking and Discussion in the University Setting

授業の概要:

This course is designed to develop your ability to think about, discuss and create presentations on topics of global importance. This course will aid you in exploring many sides of issues. You will learn to use English to identify problems, form and express opinions, and advance logical arguments. While broadening your database of useful English vocabulary and expressions, this course will help you strengthen the critical thinking and communication skills necessary for joining global conversations about the world in which we live.

到達目標:

You will discuss, research, and make presentations on, a variety of interesting topics during the semester. You will gain confidence in your ability to form and contribute ideas, opinions and arguments. You will be asked to supplement the material provided in class with your own research.

授業方法:

Students will participate in pair work and group activities as well as make individual presentations for the class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Academic Speaking; Group Discussion: What is the Purpose of the Academy?	short answer
2.	Discussing Education: Foreign Language	short answer
3.	Education: STEM	short answer
4.	Education: University Life	vocabulary homework
5.	Expressing Opinions; Supporting Opinions with Reasons, Examples and Explanations	debate preparation
6.	Group Debate Projects	reading preparation and answer
7.	Discussion: Technology, Online Communication	vocabulary homework
8.	Discussion: Technology, Global Challenges	short answer
9.	Discussion: In the News	Summaries
10.	News Summaries and Responses;	summary response homework
11.	Discussion: Media	short answer
12.	Discussion: Media, Advertising	vocabulary homework
13.	Human Rights Discussion; Preparation for Human Rights Group Presentations	Preparation for Human Rights Group Presentations
14.	Human Rights Discussion; Preparation for Human Rights Group Presentations	Preparation for Human Rights Group Presentations
15.	Presentations	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Do your best!

フィードバックの方法:

Each week, students will prepare speeches, presentations, and discussion materials. Teacher will provide written and spoken feedback on this work.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
class participation	50%	attendance, evaluation of contributions to group discussions and activities
class presentations	40%	rubrics to be provided
Homework	10%	successful completion

教科書:

Mauro Lo Dico, Steven Shea, Nicolai Struc, James Michael Underwood, Richard John Walker, Academically Speaking, Perceptia Press

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

430301、02

Academic Speaking Ⅳ

R.Ramirez

授業テーマ:

Debate

授業の概要:

The primary aim of this course will be to continue to develop a stronger awareness of English as a tool for communication. Students will improve their speaking skills. They will be given interesting and practical issues on which to debate. This will provide practice with all the basics needed to improve when speaking to one person or to many people. Students will be mainly speaking in class but will also learn how to put a good debate together as well. Handouts on debating will be the basis for this course. The materials and activities will give the students ample opportunity to engage in stimulating exercises and discussions. Through debating, students will gain confidence in their ability regardless of their level. Presentation skills learned from the previous semester will be in use. New skills learned will include critical thinking, fair judging, and the protocols of debate.

到達目標:

To develop oral skills for short presentations
To develop (quick) critical thinking skills in English
To develop writing skills for short presentations
To learn the procedures and protocols of formal debate

授業方法:

Handouts, lectures, and group work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction and Debate Introduction	Review in-class work
2.	Debate Steps and Logic	Complete debate steps and logic exercises
3.	Structure and Formal Rules	Review and memorize structure and formal rules
4.	Review (Rules for Debate); Logic Clinic	Complete logic exercises
5.	Logic Clinic Ⅱ	Complete logic exercises
6.	Strategies and Expressions, Judging	Review and memorize strategies and expressions
7.	Debate Code and Debate Rehearsal Ⅰ	Review debate procedure and research debate topic
8.	Review (Logic, Fallacies, Cross Exam Qs) and Debate 1	Review debate procedure and research debate topic
9.	Debate 2	Research debate topic
10.	Debate 3	Research debate topic
11.	Debate 4	Research debate topic
12.	Debate 5	Research debate topic
13.	Debate Competition (first tier)	Research debate topic
14.	Debate Competition (second tier)	Research debate topic
15.	Debate Review and Awards	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Research topics to be able to prepare the best arguments for a debate

フィードバックの方法:

Teachers and students will evaluate arguments based on sound principles learned in class

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation/attitude	35	Role (or judge) completion, group or individual work
Assignments	15	Completion and quality
Attendance	30	
Quizzes	20	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

rramirez@dwc.doshisha.ac.jp

430303

Academic Speaking Ⅳ

B.Gross

授業テーマ:

Speaking and Discussion in the University Setting

授業の概要:

This course will continue to build on the skills introduced in the spring semester. This course is designed to develop your ability to think about, discuss and create presentations on topics of global importance. This course will aid you in exploring many sides of issues. You will learn to use English to identify problems, form and express opinions, and advance logical arguments. While broadening your database of useful English vocabulary and expressions, this course will help you strengthen the critical thinking and communication skills necessary for joining global conversations about the world in which we live.

到達目標:

You will discuss, research and make presentations on a variety of interesting topics during the semester. You will gain confidence in your ability to form and contribute ideas, arguments and opinions. You will be asked to supplement the material provided in class with your own research.

授業方法:

Students will participate in pair work and group activities as well as make individual presentations for the class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Catching up: interviews	short answer
2.	debate activity	debate preparation
3.	debates	reading/answer
4.	Discussing Society: population and aging	short speaking preparation
5.	Discussing Society: immigration	vocabulary exercise
6.	Discussing Society: gender equality	short speaking preparation
7.	Taking Action: Persuasion Speeches	Speech preparation
8.	Taking Action: Persuasion Speeches	vocabulary exercise
9.	Discussing the Environment: endangered species	short answer
10.	Discussing the Environment: energy	short speaking preparation
11.	Discussing the Environment: consumerism	short answer
12.	Consumerism and Christmas: A Charlie Brown Christmas	Happy New Year!
13.	Employment: work and priorities	vocabulary exercise
14.	Employment: work exploitation	discussion preparation materials
15.	Final Discussion	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Each week, students will prepare speeches, presentations, and discussion materials. Teacher will provide written and spoken feedback on the work.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
class participation	50%	attendance, evaluation of contributions to group discussions and activities
class presentations	40%	rubrics
Homework	10%	successful completion

教科書:

Mauro Lo Dico, Steven Shea, Nicolai Struc, James Michael Underwood, Richard John Walker, Academically Speaking, Perceptia Press

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

430401

Communication Skills Ⅲ

K.Kim

授業テーマ:

授業の概要: Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

到達目標: The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

授業方法: Text-based learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, and have discussions in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction & Orientation	To be determined
2.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
3.	Group Presentation Ⅰ	To be determined
4.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
5.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
6.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
7.	Group Presentation Ⅱ	To be determined
8.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
9.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
10.	Group Presentation Ⅲ	To be determined
11.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
12.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
13.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
14.	Final Presentations Ⅰ	To be determined
15.	Final Presentations Ⅱ	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are expected to complete all assignments on time. Positive and respectful participation in partner and group work is expected. Punctual and regular attendance is compulsory.

フィードバックの方法: Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation & Attendance	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor. Five absences will result in immediate failure. The completion of in-class writing assignments will be graded as part of participation.
Journal	25	Approximately 1 hour of homework per week should be expected in the form of a "Journal". Students will be required to keep up with their weekly journal assignment, and hand in completed work on time.
Group Presentations	25	Students will be expected to prepare and present with a group of classmates 3 times during the course of the semester. Equal and fair participation by all members is required. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.
Final Presentation	25	Students will be expected to prepare for one individual presentation at the course of the semester. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.

教科書: Keynote 1

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: kkimdoshisha@gmail.com

430402

Communication Skills Ⅲ

D.J.Hudgens

授業テーマ:

授業の概要: A wide variety of reading (text, handouts, online sources) and listening (CD, video, online sources) resources relating to important contemporary topics will be used in class and for homework.

到達目標:
- Increase knowledge of language related skills and contemporary topics.
- Raise awareness and curiosity regarding important social issues.
- Improve knowledge of vocabulary and grammar necessary for discussion skills.

授業方法: Lecture and practice.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Pages 3-5
2.	Advertising	Pages 8-9
3.	Advertising	Pages 10-11
4.	Advertising	Pages 22-23, 26
5.	Identity Theft	Pages 29-31
6.	Identity Theft	Pages 34-35, 39
7.	Identity Theft	Pages 42-43, 47-49
8.	Why Explore Space?	Pages 51-53
9.	Why Explore Space?	Pages 59, 63-65
10.	Why Explore Space?	Pages 66-69, 75-77
11.	Words That Persuade	Pages 79-81
12.	Words That Persuade	Pages 90-92
13.	Words That Persuade	Pages 95-96, 101-103
14.	Group Project	TBD
15.	Group Project	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Comments and explanations regarding quizzes and classwork will be made during and after class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes	35	Quizzes will include reading, vocabulary and short writing.
Group Project	35	Leadership, teamwork, self-management and presentation skills.
Attendance and Participation	30	Points will be deducted for absences.

教科書: North Star 3, Soloranzo and Schmidt, 2015, Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法: Please ask in the classroom during or after class.

430403

Communication Skills Ⅲ

M.Stapp

授業テーマ:

Developing English language communicative ability.

授業の概要:

This course is for intermediate-level CASE students who wish to develop their English language communication skills, while being confronted with various real life issues and scenarios. Students will learn how to think creatively, express their opinions clearly, empathize with other people, and make the best decisions. The lessons feature exciting and timely topics that will lead to a lively exchange of ideas.

到達目標:

* Develop English language communication ability

* Improve intrinsic and extrinsic motivation

* Increase knowledge of the English language

授業方法:

Workshop-style classes will be held in English. The course material will be provided by the instructor. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analyzed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for evaluating students.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Overview; "Getting-to-Know-You" Activity	Make a name card
2.	Topic 1: Professional Athletes Is money more important than happiness? A sports star has to make a difficult decision	Homework and review
3.	Topic 2: What is a Happy Relationship? What is most important: loving your spouse, success in your career, or happy children? Three different relationships are compared.	Homework and review
4.	Topic 3: Should People Keep Pets? What's the best way to treat pets? A cat tells his story about life with his owner.	Homework and review
5.	Topic 4: Fast Food Do we eat too much fast food? What are the consequences of eating too much fast food? A professor of food science gives her view.	Homework and review
6.	Topic 5: Watching TV Can watching TV be harmful? Can watching TV be beneficial? A university student tells her story.	Homework and review
7.	Topic 6: Cosmetic Surgery? Is it okay to have cosmetic surgery? A daughter tells her mother that she wants to have cosmetic surgery.	Homework and review
8.	Mid-Semester Assessment Task; Video Activity	Video activity homework
9.	Topic 7: How to Prepare a Short Speech "Restaurant Recommendation" Activity	Homework and review
10.	Topic 8: Excessive Computer Use Can the excessive use of computers be harmful to a human relationship? A wife thinks that her husband spends too much time on computers.	Homework and review
11.	Topic 9: Beautiful Men Should men wear make-up? Should men strive to be beautiful? Should women refrain from using make-up?	Homework and review
12.	Topic 10: Newlyweds A newlywed couple complain about their partner's shortcomings. How much should they be prepared to compromise?	Homework and review
13.	Topic 11: I Don't Care Two roommates disagree about how their choices affect the environment. Should we be worried about climate change?	Homework and review
14.	Topic 12: Rules and Responsibilities A teenager and her mother argue about rules and responsibility. How much freedom should teenagers have?	Homework and review
15.	Conclusion	Review and consolidation of coursework

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students should prepare for class by reviewing the previous week's lesson and completing any assigned work in a timely manner.

Assignments that are submitted late will incur a penalty.

If a student misses class, it is the student's responsibility to find out what was missed and to complete it.

フィードバックの方法:

Any written work that is submitted will receive feedback on its form and content. Corrections and comments will be written on student papers.

Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student on the day of the presentation.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty. If a student has a Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) she will not be penalized.
Class Participation and Overall Effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Homework will be given to help the students comprehend the coursework.
Mid-Semester Assessment Task	30%	An assessment task to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書:

No textbook required

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力.

教員との連絡方法:

I will be on campus on Fridays.
Please ask me questions before, during or after class.

430404

Communication Skills Ⅲ

B.Gross

授業テーマ:

English Communication

授業の概要:

This is a speaking and listening class for second-year students. Students will advance their overall communication skills by engaging in discussions about a variety of interesting topics and by creating and performing role-plays. Students will also practice expressing opinions and responding to the opinions of their classmates.

到達目標:

Students will expand their vocabularies and improve their ability to use English vocabulary and phrases appropriate to diverse situations. Students will also enhance their listening and pronunciation skills. This class will empower students to enter into English-speaking environments with greater confidence.

授業方法:

Learning in this class will be cooperative and participatory. Class time will be devoted to pair work and group activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introductions, Group Interviews, Reporting Group Interviews	short answer, vocabulary writing
2.	Topic: Health	short answer
3.	Continuing Discussion of Health, Health Habits, Health and Safety	short answer, vocabulary writing
4.	Topic: Animals	short answer
5.	Continuing Discussion of Animals, Animal Rights, Vegetarianism, Endangered Species	short answer, vocabulary writing
6.	Topic: Fashion	short assignment
7.	Continuing Discussion of Fashion, Fashion Excesses, Sweat Shops	short answer, vocabulary writing
8.	Topic: Family	short assignment
9.	Continuing Discussion of Family, Raising Children, Discipline, Divorce	short answer, vocabulary writing
10.	Topic: Culture	short survey assignment
11.	Continuing Discussion of Culture, Cultural Misunderstandings, Preserving Cultures, Destruction of Cultures	short answer, vocabulary writing
12.	Topic:Love and Marriage	short survey assignment, poster presentation preparation
13.	Continuing Discussion of Love and Marriage, True Love, Relationships, Qualities in a Partner	poster presentation preparation
14.	Group Dialogue Preparation	poster presentation preparation
15.	Group Dialogues, Conclusion	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Enjoy the class!

フィードバックの方法:

spoken and written evaluation and feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
class participation	60%	attendance and daily evaluation of activity
podcast poster presentation	30%	rubric to be provided
Homework	10%	effort and level of completion

教科書:

Mclean, Kirsty. Topic Talk: Issues. Okegawa City: EFL Press, 2002.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

430501

Communication Skills Ⅳ

K.Kim

授業テーマ:

授業の概要: Of the four skills (speaking, listening, reading, and writing), speaking and listening are emphasized.

到達目標: The goal is to develop students' English communication skills under the guidance of a native-English-speaking teacher.

授業方法: Text-based learning materials, as well as others are used in class. Students not only participate in English conversation, but also make speeches, do presentations, and have discussions in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction & Orientation	To be determined
2.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
3.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
4.	Group Presentation Ⅰ	To be determined
5.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
6.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
7.	Group Presentation Ⅱ	To be determined
8.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
9.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
10.	Group Presentation Ⅲ	To be determined
11.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
12.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
13.	English Communication Lesson & Practice	To be determined
14.	Final Presentation Ⅰ	To be determined
15.	Final Presentation Ⅱ	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are expected to complete all assignments on time. Positive and respectful participation in partner and group work is expected. Punctual and regular attendance is compulsory.

フィードバックの方法: Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation & Attendance	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor. Five absences will result in immediate failure. The completion of in-class writing assignments will be graded as part of participation.
Journal	25	Approximately 1 hour of homework per week should be expected in the form of a "Journal". Students will be required to keep up with their weekly journal assignment, and hand in completed work on time.
Group Presentations	25	Students will be expected to prepare and present with a group of classmates 3 times during the course of the semester. Equal and fair participation by all members is required. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.
Final Presentation	25	Students will be expected to prepare for one individual presentation at the course of the semester. Students will be graded on their enthusiasm and preparation.

教科書: Keynote 1

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: kkimdoshisha@gmail.com

430502

Communication Skills Ⅳ

D.J.Hudgens

授業テーマ:

授業の概要: A wide variety of reading (text, handouts, online sources) and listening (CD, video, online sources) relating to important contemporary topics will be used in class and for homework.

到達目標:
- Increase knowledge of language related skills and contemporary topics.
- Raise awareness and curiosity regarding important social issues.
- Improve knowledge of vocabulary and grammar necessary for discussion skills.

授業方法: Lecture and practice.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Follow Your Passion	Pages 105-107
2.	Follow Your Passion	Pages 116-118
3.	Follow Your Passion	Pages 125-127
4.	Culture and Commerce	Pages 129-131
5.	Culture and Commerce	Pages 136-138
6.	Culture and Commerce	Pages 140-141
7.	Before You Say I Do	Pages 143, 147, 152-153
8.	Before You Say I Do	Pages 155-157
9.	Before You Say I Do	Pages 161, 167
10.	Reducing Your Carbon Footprint	Pages 169-170, 176-179
11.	Reducing Your Carbon Footprint	Pages 181-184
12.	Reducing Your Carbon Footprint	Pages 189, 193-195
13.	Group Project	TBD
14.	Group Project	TBD
15.	Group Project	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Comments and explanations regarding quizzes and classwork will be made during and after class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes	35	Quizzes will include reading, vocabulary and short writing.
Group Project	35	Leadership, teamwork, self-management and presentation skills.
Attendance/Participation	30	Points will be deducted for absences.

教科書: North Star 3, Soloranzo and Schmidt, 2015, Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力, プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ, 自己管理力、

教員との連絡方法: Please ask in the classroom during or after class.

430503

Communication Skills Ⅳ

M.Stapp

授業テーマ:

Developing English language communicative ability.

授業の概要:

This course is for intermediate-level CASE students who wish to develop their English language communication skills, while being confronted with various real life issues and scenarios. Students will learn how to think creatively, express their opinions clearly, empathize with other people, and make the best decisions. The lessons feature exciting and timely topics that will lead to a lively exchange of ideas.

到達目標:

* Develop English language communication ability

* Improve intrinsic and extrinsic motivation

* Increase knowledge of the English language

授業方法:

Workshop-style classes will be held in English. The course material will be provided by the instructor. Short texts, audio dialogues, and video segments will be analyzed. Frequent in-class activities will be done in pairs and small groups. This class will adhere to the eclectic method of TEFL whilst applying the continuous assessment approach for evaluating students.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Overview; "Getting-to-Know-You" Activity	Make a name card
2.	Unit 1: A Secret Romance Is it okay to keep a romance secret? A young single woman opens up about her relationship with an older married man.	Homework and review
3.	Unit 2: Career Choice What is important to you in a job? A young graduate has to decide which company to join.	Homework and review
4.	Unit 3: Drinking Workers Should co-workers socialize with each other and their superiors outside the office. An employee wants to keep his private life separate from his work life.	Homework and review
5.	Unit 4: Always Late! A woman has trouble being punctual. Her fiancé and his father discuss this problem.	Homework and review
6.	Mini Drama Activity: Preparation and Practice	Homework and review
7.	Unit 5: Halloween Activities Have you ever seen a ghost? Have you ever been to a costume party? What is trick or treating?	Homework and review
8.	Mid-Semester Assessment Task; Video Activity	Video activity homework
9.	Unit 6: Dress for Success How do we talk about problems we have at work? Are the clothes that we wear important?	Homework and review
10.	Unit 7: Bullying at Work How do you deal with bullying at the work place? What can you do when you are the victim?	Homework and review
11.	Unit 8: Alcohol Abuse Is drinking just a temporary escape? What should we do if a friend has a drinking problem?	Homework and review
12.	Unit 9: No Place Like home How do we deal with culture shock? Two students abroad have very different experiences.	Homework and review
13.	Unit 10: "Christmas and New Year" Activities Christmas songs; A cross-cultural look at Christmas and new year traditions.	Homework and review
14.	Unit 11: Housework A young woman is frustrated because her fiancé won't do any household chores. Should working couples share the housework?	Homework and review
15.	Conclusion	Review and consolidation of coursework

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students should prepare for class by reviewing the previous week's lesson and completing any assigned work in a timely manner.

Assignments that are submitted late will incur a penalty.

If a student misses class, it is the student's responsibility to find out what was missed and to complete it.

フィードバックの方法:

Any written work that is submitted will receive feedback on its form and content. Corrections and comments will be written on student papers.

Oral reports will be graded according to a presentation rubric. Feedback will be given to each student on the day of the presentation.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class Attendance	10%	Students can miss up to 4 classes and still pass this course. However, each unexcused absence will incur a 2% penalty. If a student has a Notice of Absence (issued by the Student Affairs Office) she will not be penalized.
Class Participation and Overall Effort	10%	To achieve a high score for this component, students need to contribute to class discussions by asking and answering as many questions as possible.
Homework	10%	Homework will be given to help the students comprehend the coursework.
Mid-Semester Assessment Task	30%	An assessment task to determine how well the students are coping with the course.
Conclusion	40%	A final test to determine if the students have understood the key concepts of the course and whether they deserve to pass or not.

教科書:

No textbook required

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力.

教員との連絡方法:

I will be on campus on Fridays.
Please ask me questions before, during or after class.

430504

Communication Skills Ⅳ

B.Gross

授業テーマ:

English Communication

授業の概要:

This is a speaking and listening class for second-year students. Students will advance their overall communication skills by engaging in discussions about a variety of interesting topics and by creating and performing role-plays. Students will also practice expressing opinions and responding to the opinions of their classmates.

到達目標:

Students will expand their vocabularies and improve their ability to use English vocabulary and phrases appropriate to diverse situations. Students will also enhance their listening and pronunciation skills. This class will empower students to enter into English-speaking environments with greater confidence.

授業方法:

Learning in this class will be cooperative and participatory. Class time will be devoted to pair work and group activities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Catching Up: Vacation Interviews	vocabulary writing
2.	Topic: Jobs	short answer
3.	Continuing Discussion of Jobs, Choosing and Applying for Work, Equality in the Workplace	short answer
4.	Job Interview Practice	vocabulary writing
5.	Topic: School	survey homework
6.	Continuing Discussion of School, Bullying, The School System, Alternative Schools	vocabulary writing
7.	Topic: TV and the Movies	short answer
8.	Continuing Discussion of Media Influences, TV News, TV Violence	vocabulary writing
9.	Topic: Nature	short answer
10.	Continuing Discussion of Nature, Environmental Problems	vocabulary writing
11.	Topic: Shopping, Consumerism and the Environment	short answer
12.	″A Charlie Brown Christmas″: Consumerism and Christmas, Christmas Party	Merry Christmas!
13.	Topic: Human Rights	dialogue preparation
14.	Continuing Discussion of Human Rights, dialogues	podcast poster presentation preparation
15.	Podcast poster presentation	none

受講者へのメッセージやアドバイス:

Enjoy the class!

フィードバックの方法:

spoken and written evaluation and feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
class participation	60%	attendance and daily evaluation of activity
podcast poster presentation	30%	rubric
Homework	10%	successful level of completion

教科書:

Mclean, Kirsty. Topic Talk: Issues. Okegawa City: EFL Press, 2002.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

brettgross13@yahoo.com

430600

Conversational English Ⅲ

G.Couzens

授業テーマ:

Communicative English.

授業の概要:

Students will learn and improve their communication skills, develop communication strategies,, give opinions, and ask questions.

到達目標:

The objective of this course is to develop your communicative ability in English. All four skills; speaking, listening, reading, and writing will be touched on, however, the main goal is to improve your communication ability.

授業方法:

1. There will be no final examination, however, there will be small unit quizzes and some homework corresponding to the unit's theme required. 2. Class attendance. 3. In class participation. 4. Small unit quizzes, and hand in homework.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction to the course and your introductions to each other. An explanation of what we will be doing with the textbook.	Buy the book. Read the instructions for the class.
2.	2. Unit 1. Have you two met? Relationships.	Scan Unit 1 and check on vocabulary you don't understand. Do required writing and listening.
3.	3. Continuation of Unit 1. Have you two met? Relationships. Small Quiz on Unit 1.	Scan Unit 1 and check on vocabulary you don't understand. Study for small quiz.
4.	4. Unit 2. You must be excited. Emotions.	Scan Unit 2 and check on vocabulary you don't understand. Do required writing and listening.
5.	5. Continuation of Unit 2. You must be excited. Emotions. Small Quiz on Unit 2.	Scan Unit 2 and check on vocabulary you don't understand. Study for small quiz.
6.	6. Unit 3. Where should I go? You must be excited.	Scan Unit 3 and check on vocabulary you don't understand. Do required writing and listening.
7.	7. Continuation of Unit 3. Where should I go? You must be excited. Small Quiz on Unit 3.	Scan 3 and check on vocabulary you don't understand. Study for small quiz.
8.	8. Unit 4. I love that. Opinion Adjectives.	Scan Unit 4 and check on vocabulary you don't understand. Do required writing and listening.
9.	9. Continuation of Unit 4. I love that. Opinion Adjectives.	Scan 4 and check on vocabulary you don't understand. Study for small quiz.
10.	10. Small Quiz on Unit 4.	Scan 4 and check on vocabulary you don't understand. Study for small quiz.
11.	11. Very important unit. Unit 5. What's your excuse? Problems and reasons.	Scan Unit 5 and check on vocabulary you don't understand. Do required writing and listening.
12.	12. Continuation of Unit 5. What's your excuse? Problems and reasons.	Scan 5 and check on vocabulary you don't understand. Study for small quiz.
13.	13. Quiz on Unit 5.	Scan 5 and check on vocabulary you don't understand. Study for small quiz.
14.	14. Unit 6. What's it like there? Cultural symbols and traditions.	Scan Unit 6 and check on vocabulary you don't understand. Do required writing and listening.
15.	15. Continuation of Unit 6. What's it like there? Cultural symbols and traditions. Small Quiz on Unit 6.	Scan 6 and check on vocabulary you don't understand. Study for small quiz.

受講者へのメッセージやアドバイス:

1. Review class notes. 2. Preview unit, do the listening, and prepare for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabulary for small unit quizzes.

フィードバックの方法:

This is a communicative class. There will be lots of talking. Feedback will be on going.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Book and assignments.	33	Book has listening assignments and some writing to be done before next class.
Hand in homework.	33	Small writing assignment at the end of each unit. Done satisfactorily.
Attendance and attitude	34	Participation.

教科書:

English Firsthand 2. New English Firsthand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

2. 思考力　5. コミュニケーション力　10. 自己実現力

教員との連絡方法:

geraldcouzens@hotmail.com

430700

Conversational English Ⅳ

G.Couzens

授業テーマ:

Communicative English

授業の概要:

Students will learn and improve their communication skills, develop communication strategies,, give opinions, and ask questions.

到達目標:

The objective of this course is to develop your communicative ability in English. All four skills; speaking, listening, reading, and writing will be touched on, however, the main goal is to improve your communication ability.

授業方法:

1. There will be no final examination, however, there will be small unit quizzes and some homework corresponding to the unit's theme required.2. Class attendance. 3. In class participation. 4. Small unit quizzes, and hand in homework.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction to the course for new students whom have joined the class. An explanation of what we will be doing.	Buy the textbook and starting checking on Unit 7. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
2.	2. Unit 7. Do you remember when…..? Personal experiences and past events.	Review Unit7. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
3.	2. Unit 7. Do you remember when…..? Personal experiences and past events..	Review Unit7. Prepare for small quiz on Unit 7.
4.	4. Small Quiz on Unit 7.	Review Unit 7. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
5.	5. Unit 8. Let's have a party! Leisure time activities.	Review Unit8. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
6.	6. Continuation of Unit 8. Let's have a party! Leisure time activities. Small Quiz on Unit 8.	Review Unit 8. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
7.	7. Unit 9. What should I do? Personal problems.	Review Unit 9. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
8.	8. Continuation of Unit 9. What should I do? Personal problems.	Review Unit 9. Check on vocabulary you don't know. Prepare for small quiz on Unit 9.
9.	9. Small Quiz on Unit 9.	Review Unit 9. Check on vocabulary you don't know. Prepare for small quiz on Unit 9.
10.	10. Unit 10. Tell me a story. Traditional and modern story elements.	Review Unit 10. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
11.	11. Continuation of Unit 10. Tell me a story. Traditional and modern story elements. Small Quiz on Unit 10.	Review Unit 10. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
12.	12. Unit 11. In my opinion. Agreement and disagreement language.	Review Unit 11. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
13.	13. Continuation of Unit 11. In my opinion. Agreement and disagreement language.. Quiz on Unit 11.	Review Unit 11. Prepare for small quiz on Unit 11.
14.	14. Unit 12. It' my dream! Dreams and goals.	Review Unit 12. Do the assigned homework and listening activities. Check on vocabulary you don't know.
15.	15. Continuation of Unit 12. It' my dream! Dreams and goals. Small quiz on 12.	Review Unit 12. Prepare for small quiz on Unit 12.

受講者へのメッセージやアドバイス:

1. Review class notes. 2. Preview unit, do the listening, and prepare for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabuarly for small unit quizzes.

フィードバックの方法:

There is a lot of communication in this class, and feedback will be coming all the time. Hand in homework has to be done satisfactorily.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Homework and assignments.	33	Has to be done satisfactorily
Small unit quizzes	33	Has to be done satisfactorily
Attendance and attitude	34	Particapation

教科書:

English Firsthand 2. New English Firsthand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

2. 思考力　5. コミュニケーション力
10. 自己実現力

教員との連絡方法:

geraldcouzens@hotmail.com

430800

Presentation Skills Ⅰ

C.L.Thorp

授業テーマ: Presentation Skills

授業の概要: Speaking and general communication skills will be learned and frequently practiced. Non-verbal communication will be cultivated along with facial and bodily expression of emotions. Close attention will be paid to pronunciation, intonation, stress and other verbal techniques. In addition, quick verbal responses and offering of opinions will be encouraged.

到達目標: To hone develop and polish all English communication skills and to become accustomed to speaking English in a public situation.

授業方法: interactive

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Block 1 weeks 1-4 Memory work. Basic presentation style. overall goals: fluency, non-verbal aspects of communication - leading to 5 min. solo presentation (the Environment)	Basic vocabulary collection regular speaking practice: cultivating English pronunciation. muscles Plan presentation: time and practice
2.	Introductions and Conclusions: memorising to maximise eye-contact and audience attention script checking/visuals	practice of introductions/conclusions. Prepare for Test 1: stating your purpose making a memo for Presentation 1
3.	Speaking warm up: vowel sounds Practice Presentation 1 - timing, memorization. Test 1: general presentation vocabulary Presentation 1 Performance Part 1	Practise presentation with memo. Final adjustments for timing/fluency Discover your Opinion: opinions of value, policy and Fact. Test correction/grading & feedback review for retake
4.	Speaking warm up: consonants Test 1 retake Presentation Performance Part 2 peer assessment, advice and strategies for improvement.	Generating ideas for Presentation 2_finishing reading, collecting info./impressions about book Start to prepare numbered memo
5.	Block 2: weeks 5-8 overall goals: fluency, eye-contact, speaking not reading, being convincing leading to 5 min Book Review Presentation (scripted)	Opinion class survey resolutions Effective presentation openings Introducing visuals Practise Pres. 2 timing with memo
6.	Speaking warm up: stress Presentation 2 Performance Part 1 More practice on Introduction and Conclusions: introducing sign-posting: eye-contact practice and voice quality/projection	Grammar Practice (passive voice) Presentation practice/timing adjustments Find a newspaper article debate
7.	Test 2: debate vocabulary + grammar Speaking warm up: stress Presentation 2 Performance Part 1 feedback/peer impressions more practice	Test correction/grading & feedback review for retake
8.	Speaking warm up: stress and intonation 1 Test 2: retake Presentation Performance Part 2	Generating ideas for Presentation 3 Reviewing problems of/strategies for Presentation 2
9.	Block 3: weeks 9-11 overall goals: fluency, audience contact, getting attention - leading to 10 min pp presentation on Academic Interest.	Start to write script for Pres. 3 - to be checked. Powerpoint design using slides to indicate change & development
10.	Speaking warm up: stress & intonation 2 Presentation 3 Performance Part 1 More practice on using your voice/articulation 1 Test 3	Speaking warm up: stress & intonation 2 Presentation 3 Performance Part 1 More practice on using your voice/articulation 1 Test 3
11.	Speaking warm up: stress and intonation 3 Test 3: retake Presentation 3 Performance Part 2 assessment/advice - target for improvement	Generating ideas for Presentation 4 explaining your opinion: supporting opinions; general debate delivery - assertiveness, leading
12.	Block 4: weeks 12-15 overall goals: making opinions, spontaneity, questioning, reacting/responding/clarification leading to 10 min as Debate Leader in Debate.	Write intro speech for Debate and make pros/cons list of possible responses for closing remarks.
13.	Speaking warm up: stress Presentation 4 Performance Part 1 assessment, advice Test 4: (debate vocabulary.)	Test correction/grading & feedback review for retake Presentation 4 practice
14.	Speaking warm up: stress and intonation 3 Test 4: retake Presentation 4 Performance Part 2 assessment/advice - target for improvement	Grand Review of all presentations Practice list for improvement/awareness
15.	Final Assessment Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep in contact with English Watch presentation videos - to see visible improvement	

受講者へのメッセージやアドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions, you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and a wide perspective on global topics.

フィードバックの方法: Presentation assessment, peer assessment, frequent advice and practice. Discussion/clinic at the end of each block about future improvement and requirements to become a successful communicator in English cultural style.

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	Block 1: test, presentation, participation and effort writing, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
	Block 2: test, presentation, participation and effort writing, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
	Block 3: test, presentation, participation and effort writing, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
	Block 4: test, presentation, participation and effort writing, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)

教科書:	Greg Goodmacher. Stimulating Conversation Today. Intercom Press.
参考書:	Powell M.　Presenting in English: how to give successful presentations. (CDs x 2)　Cengage Learning.
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	lindenthorp@gmail.com

430900

Presentation Skills Ⅱ

C.L.Thorp

授業テーマ: Presentation Skills

授業の概要: Speaking and general communication skills will be learned and frequently practiced. Non-verbal communication will be cultivated along with facial and bodily expression of emotions. Close attention will be paid to pronunciation, intonation, stress and other verbal techniques. In addition, quick verbal responses and offering of opinions will be encouraged.

到達目標: To develop and polish all English communication skills and to become accustomed to speaking English in a public situation.

授業方法: interactive

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Block 1 weeks 1-4 Memory work. Basic presentation style. overall goals: fluency, non-verbal aspects of communication - leading to 5 min. solo presentation (Social/Business)	Basic vocabulary collection regular speaking practice: cultivating English pronunciation. muscles Plan presentation: time and practice
2.	More Introductions and Conclusions: memorising to maximise eye-contact and audience attention script checking/visuals	practice of introductions/conclusions. Prepare for Test 1: stating your purpose making a memo for Presentation 1
3.	Speaking warm up: stress 1 Practice Presentation 1 - timing, memorization. Test 1: general presentation vocabulary Presentation 1 Performance Part 1	Practise presentation with memo. Final adjustments for timing/fluency Supporting opinion with strong reasons Test correction/grading & feedback
4.	Speaking warm up: stress 2 Test 1 retake Presentation Performance Part 2 peer assessment, advice and strategies for improvement	Generating ideas for Presentation 2 Start to prepare numbered memo
5.	Block 2: weeks 5-8 overall goals: fluency, eye-contact, speaking not reading, being convincing leading to 10 min Debate Presentation (script checked)	Opinion class survey resolutions Introducing visuals Practise Pres. 2 timing with memo
6.	Speaking warm up: stress 3 Presentation 2 Performance Part 1 More practice on Introduction and Conclusions: introducing sign-posting: eye-contact practice and voice	Grammar Practice (conditionals) Presentation practice/timing adjustments Find a newspaper article debate
7.	Test 2: debate vocabulary + grammar Speaking warm up: stress Presentation 2 Performance Part 1 feedback/peer impressions more practice newspaper debates	Test correction/grading & feedback review for retake
8.	Speaking warm up: stress and intonation 1 Test 2: retake Presentation Performance Part 2	Generating ideas for Presentation 3 Reviewing problems of/strategies for Presentation 2
9.	Block 3: weeks 9-11 overall goals: fluency, audience contact, getting attention - leading to 10 min pp presentation on Academic Interest	Start to write script for Pres. 3 - to be checked. Powerpoint design using slides to indicate change & development
10.	Speaking warm up: chunking 1 Presentation 3 Performance Part 1 More practice on using your voice/articulation 1 Test 3	Grammar Practice (more pronouns-to avoid repetition) Presentation practice Test correction/grading & feedback review for retake
11.	Speaking warm up: chunking 2 Test 3: retake Presentation 3 Performance Part 2 assessment/advice - target for improvement Emphasis	Generating ideas for Presentation 4 explaining your opinion: supporting opinions; general debate delivery - assertiveness, leading
12.	Block 4: weeks 12-15 overall goals: making opinions, spontaneity, questioning, reacting/responding/clarification leading to 15 min as Debate Leader in Debate	Write intro speech for Debate and make pros/cons list of possible responses for closing remarks
13.	Speaking warm up: stress & intonation-emphasis Presentation 4 Performance Part 1 assessment, advice Test 4: (debate vocabulary)	Test correction/grading & feedback review for retake Presentation 4 practice
14.	Speaking warm up: stress and intonation 3 Test 4: retake Presentation 4 Performance Part 2 assessment/advice - target for improvement	Grand Review of all presentations Practice list for improvement/awareness
15.	Final Assessment Discussion: suggestions about vacation work and continuing to keep in contact with English Watch presentation videos - to see visible improvement	

受講者へのメッセージやアドバイス: On this course, if you work hard and follow my instructions, you can hope to raise your TOEIC/TOEFL scores substantially. There will be no translation into Japanese at any time. This is an English medium course and will provide a perfect opportunity to improve fluency and confidence in the target language as well as developing personal confidence and a wide perspective on global topics.

フィードバックの方法: Presentation assessment, peer assessment, frequent advice and practice. Discussion/clinic at the end of each block about future improvement and requirements to become a successful communicator in English cultural style.

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Block 1: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
Block 2: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
Block 3: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)
Block 4: test, presentation, participation & effort	25%	Preparation, practice and performance of all communication skills (academic and social)

教科書:

Greg Goodmacher. Stimulating Conversation Today. Intercom Press.

参考書:

Powell M. Presenting in English: how to give successful presentations. (CDs x 2) Cengage Learning.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

lindenthorp@gmail.com

431000

Discussion Skills Ⅰ

K.Adams

授業テーマ:

The Life Cycle: Intercultural Values: Personal Issues.

授業の概要:

Love, Marriage, Raising Children, Friendship, Childhood, Family...these are issues that concern people all over the world. We will explore the ideas and values concerning these issues from countries around the world as well as in Japan. You will get a chance to think about your own ideas and learn how to express them clearly successfully in English, while developing the very vocabulary used in TOEIC tests. From birth to death, this class will help you think and talk about life. Learning about others peoples' values helps us learn about our own.

到達目標:

・To increase student vocabulary concerning personal issues that effect people world wide using words commonly found in TOEIC tests.
・To increase knowledge about world issues.
・To increase self-awareness through analyzing the pros and cons of various ideas and reflecting on one's own opinion.
・To increase ability to express ones ideas in a foreign language.
・To increase logical reasoning and adequate provision of support for arguments.
・To increase personal motivation by thinking about world issues and realizing one's potential and core values.
・To increase empathy for others by realizing the universality of issues that effect people around the world.

授業方法:

The class will follow an interactive seminar type format, with short lectures/readings, pair and group work followed by discussion. Readings from the textbook will be used as a starting point for exploring cultural values using video clips, popular songs and internet resources relevant to the issue under discussion. This calls follows an Active Learning method, students are expected to participate through discussions, participation and group work. Students are expected to bring dictionaries to class and to do regular homework to be ready to discuss the issues in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Vocabulary Sheet
2.	English and Cultural Imperialism	Vocabulary and Reading Sheet, fill in blanks.
3.	Education: Rote vs. Analytical Learning	Question Sheet
4.	Friendship	Fill in Poem: Blake's Poison Tree
5.	Love	Cross Word and Questions
6.	International Relationships	Advantages and Disadvantages List. Marriage Pop Quiz
7.	Marriage	Pros and Cons List. Prepare presentation/debate
8.	Mid-Term Presentation	Vocabulary sheet
9.	Divorce/Domestic Violence	Causes and Solutions list.
10.	Birth and Abortion	Decide on Final Presentation
11.	Raising Children and Family	Dos and Don'ts List Presentation Outline
12.	Career and Life Purpose	Personal Qualities/Ambitions for Jobs.
13.	Old Age and Death	Rough Draft of Final Presentation
14.	Final Presentations	Clean up and practice Final Presentation
15.	Conclusion -Presentations	Review

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a preliminary schedule subject to change based on student interest and ability to comprehend and complete the readings and class work.
**NOTE: If you miss class it is up to you to find out what was covered in that class and do the homework. MISSING CLASS IS NOT AN EXCUSE FOR NOT DOING HOMEWORK. Find someone in class to contact, or email me.
*** Homework is often preparation for next class' conversation. Minus points will accrue for failure to do so.

Students are encouraged to get or use the following books to increase their vocabulary and presentation skills: Instant vocabulary by Ida Ehrlich Understanding and Using English Grammar by Betty Schrampfer Azar, Speaking of Speech, www.breakingnews.com For further reading for ambitious students: Please consult your teacher for readings specific to your interests.

フィードバックの方法:

Teacher actively participates in weekly group discussions, going around the class and talking to students individually to give them feedback on their participation and discussion skills. Presentations are graded and verbal response is provided. Homework is checked each class. Students may request their grade average at any point during the semester.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
In Class Discussion	25	Students must be present for each class to receive points, and actively participate in the group, pair and class discussions. Grades given in relation to preparedness based on homework.
Homework	20	Fulfillment of Homework is checked each class. Grades are given for fulfillment not based on correct answers.
Vocabulary Quizzes/Short Presentations	25	Quizzes are returned with a grade. Presentations are based on content, clarity, and audience engagement
Mid Term and Final Presentation	30	Presentations are based on delivery, preparedness, content, and clarity of presentation.

教科書:

Impact Issues, by Richard R. Day, Junko Yamanaka, Pearson Longman

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシッ、思いやる力、変化対応力, 自己実現力

教員との連絡方法:

I am only at Doshisha on Thursday from 1st to 4th periods. You may find me at the teachers' room beside the Kyomu office. You may contact me for homework or in case of sickness at: kwadams3@yahoo.co.jp.

431100

Discussion Skills Ⅱ

K.Adams

授業テーマ:

The Life Cycle: Intercultural Values: Social Issues.

授業の概要:

What can you do for society? What do you want to be? What worries you about life in the near future? As in Discussion Skills I we will learn about issues of crucial importance to people around the world. Rather than personal issues, however, this class will focus on broader social issues of life styles, gender, jobs, identity, religion, the environment, peace and the future. You will explore both your own ideas and learn about those from countries around the planet, helping you to discover greater respect both for other cultures and your own. In English speaking countries, the ability to express your opinion on a variety of topics is both expected and respected. Ideas shape the world and being conscious of what we think and how it effects our surroundings can help make our world a better place and all of us better Japanese and world citizens. Less time will be spent in the book and more time on research and presentations.

到達目標:

·To increase student vocabulary concerning personal issues that effect people world wide using words commonly found in TOEIC tests.
·To increase knowledge about world issues.
·To increase self-awareness through analyzing the pros and cons of various ideas and reflecting on one's own opinion.
·To increase ability to express ones ideas in a foreign language.
·To increase logical reasoning and adequate provision of support for arguments.
·To increase personal motivation by thinking about world issues and realizing one's potential and core values.
·To increase empathy for others by realizing the universality of issues that effect people around the world.
·To increase presentation skills and confidence so students can become active participants in social change

授業方法:

The class will follow an interactive seminar type format, with short lectures/readings, pair and group work followed by discussion. Readings from the textbook will be used as a starting point for exploring cultural values using video clips, popular songs and internet resources relevant to the issue under discussion. This calls follows an Active Learning method, students are expected to participate through discussions, participation and group work. Students are expected to bring dictionaries to class and to do regular homework to be ready to discuss the issues in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction Social Issues and Social Change:	Vocabulary Sheet & Reading
2.	The 1960s a time of social change	Vocabulary Sheet & Reading
3.	Feminism - Gender and Jobs.	Vocabulary Sheet & Reading
4.	Research project 1. Successful Women	Research Questions Sheet
5.	Presentation 1: Female Role Models	Finish Presentations
6.	Human Rights: Cultural Identity. Minority rights	Vocabulary Sheet & Reading
7.	Research Project two: Human Rights Activists	Vocabulary Sheet & Reading
8.	Presentation 2: Famous Political Activists	Research Questions Sheet
9.	Environmentalism:	Finish Presentations
10.	Research project 3: What can the average person do?	Vocabulary Sheet & Reading
11.	Presentation Methods: Social Issues	Choose Final Presentation topic
12.	The Future.	Vocabulary Sheet & Reading Presentation Outlies
13.	Technology:	Presentation Rough Draft
14.	Final Presentations.	Clean up final presentations
15.	Conclusion	Review

受講者へのメッセージやアドバイス:

Message to Students 考文献等:
**NOTE: If you miss class it is up to you to find out what was covered in that class and do the homework. MISSING CLASS IS NOT AN EXCUSE FOR NOT DOING HOMEWORK. Find someone in class to contact, or email me.
*** Homework is often preparation for next class' conversation. Minus points will accrue for failure to do so.

Students are encouraged to get or use the following books to increase their vocabulary and presentation skills: Instant vocabulary by Ida Ehrlich Understanding and Using English Grammar by Betty Schrampfer Azar, Speaking of Speech, www.breakingnews.com For further reading for ambitious students: Please consult your teacher for readings specific to your interests.

フィードバックの方法:

Teacher actively participates in weekly group discussions, going around the class and talking to students individually to give them feedback on their participation and discussion skills. Presentations are graded and verbal response is provided. Homework is checked each class. Students may request their grade average at any point during the semester.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
In Class Discussion	25	Preparedness and activeness of students in the weekly group discussions. Readiness to answer questions in class based on homework
Homework	20	Fulfillment of Homework is checked each class. Grades are given for fulfillment not based on correct answers.)
Short Presentations	30	Presentations are based on preparedness, content, clarity, and audience engagement.
Final Presentation	25	Presentations are based on preparedness, content, clarity, and audience engagement.

教科書:

:Impact Issues, by Richard R. Day, Junko Yamanaka, Pearson Longman 参

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

I am only at Doshisha on Thursday from 1st to 4th periods. You may find me at the teachers' room beside the Kyomu office. You may contact me for homework or in case of sickness at: kwadams3@yahoo.co.jp.

432000

京都・大阪の歴史地理

天野　　太郎

授業テーマ:　京都・大阪のなりたちを考える～地図から読み取る京都・大阪のすがた

授業の概要:　本講義では、地図作業を通して京都・大阪の歴史的な成り立ちを考えていきます。具体的には、明治時代に作成された仮製2万分1地形図上で実際に作業しながら、京都がどのように今日の姿になってきたのか、また大阪との関わりはどのようになってきたのか、地理学的に考えていきます。

到達目標:　1：地図作業を通して「地図を読む」読図力を身につける。

2：国際観光都市としての「京都」の特徴を理解し、京都・大阪の歴史的、地理的な形成の特質を理解し、「京都とは何か」を空間的に把握する。

授業方法:　講義　パワーポイントを中心とし、各自の地図作業を行ないながら理解を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　本授業の概要説明	準備物・地図作業に必要な器具類の説明
2.	地図の成り立ちと地図作業上の問題点一世界と日本の地図、地図と地形図の違い	プリント配布　事前学習と理解
3.	仮製2万分1地形図の作業図作成	地図作業に必要なものの準備、はり合わせ作業
4.	京都の地形図の特質	配布資料の確認学習
5.	平安京はなぜこの場所にあるのか～立地の背景と設置の基準	配布資料の確認学習
6.	京都の町の形～正方形か長方形か	配布資料の確認学習
7.	豊臣秀吉の京都都市改造1　洛中	配布資料の確認学習
8.	豊臣秀吉の京都都市改造2　伏見	配布資料の確認学習
9.	京都の地名の変遷と意味	配布資料の確認学習
10.	街道の展開と京都	配布資料の確認学習
11.	熊野街道と京都・大阪	配布資料の確認学習
12.	淀川水運の重要性～京都と大阪	配布資料の確認学習
13.	水都大阪の成立と展開1　古代からの難波京の形成	配布資料の確認学習
14.	水都大阪の成立と展開2　水と共存する街　大阪の現状と課題	配布資料の確認学習
15.	地図作業の確認とまとめ	配布資料の確認学習

受講者へのメッセージやアドバイス:　京都がどのように今日のようになってきたのか。そのプロセスを、地図を通して総合的な視点から理解します。

フィードバックの方法:　地図作業の確認を通して授業中に随時フィードバックを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・コメントペーパー	50	出席と授業に対する理解　到達目標1：地図作業を通して「地図を読む」読図力を身につけているか判断する。
地図作業確認	50	地図作業の確認を行い、到達目標の地図作業を通して到達目標2の「地図を読む」読図力を身につけているかどうかを判断する

教科書:　特になし

参考書:　天野太郎監修『古地図で歩く古都・京都』三栄書房、2016
天野太郎監修『『都名所図会』で歩く京都案内～イラストで見る200年前の京都』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業後に教室内での対応、オフィスアワーを中心とした時間帯において、研究室（知徳館C354）にて直接面談・相談を行う。

432100

地域調査法

河野　　健男

授業テーマ:　地域生活に関する調査を設計し実施してみる

授業の概要:　社会調査の設計から始め、収集したデータ入力・分析のプロセスを実際に行ってみます。

到達目標:　知識・理解の点では、答えやすい設問など社会調査の基本から集計方法までの技法を獲得する。関心・意欲・態度の点では、マーケッティングなど企業で行っている調査領域への関心を育む。

授業方法:　受講生全員で作業分担しながら進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	テーマと質問紙作成　その1　官庁統計の紹介	該当URLからのダウンロード
2.	テーマと質問紙作成　その2　テーマ選定と質問紙作成	先行調査との比較検討
3.	テーマと質問紙作成　その3　ワーディング確定作業	集団討論によるワーディング確定作業
4.	表計算ソフトExcelの基本と応用　その1　Excelの基本	
5.	表計算ソフトExcelの基本と応用　その2　データベースとは？	データベースの諸規則の学習
6.	表計算ソフトExcelの基本と応用　その3　検索の方法	データベースを諸企業はどのように活用しているかの学習
7.	統計ソフトSPSSの学習　その1　SPSSとは？	
8.	統計ソフトSPSSの学習　その2　Excelとの互換性	Excelの限界と統計専用ソフトの強み
9.	統計ソフトSPSSの学習　その3　単純集計と多重回答の処理	SPSSの基本活用法学習
10.	データ入力と分析　その１　Excelでデータ入力	
11.	データ入力と分析　その２　SPSSへの置換	データビューと変数ビューの理解
12.	データ入力と分析　その３　データ整形と単純集計・検定	クロス集計法の学習
13.	データ入力と分析　その４　多重集計処理	多重集計法の学習
14.	データ入力と分析　その5　分析データ考察	集計結果の集団討論
15.	残された課題整理の議論	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　受講生の集団作業であるので、随時、質問・解説の繰り返し

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	100%	ExcelとSPSSの基本的理解と活用能力の判定

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

432300

社会福祉調査法

倉持　　史朗

授業テーマ:

授業の概要:

私たちの日常生活は「社会福祉」と深く結びついています．つまり現在，そしてこれからの社会福祉の動向は私たちの生活(将来を含めて)に大きな影響を与えます．人びとが直面する生活困難や，その解決に向けた課題(なぜ，解決できないのか)を含めてその実態を知るために社会福祉調査は非常に重要です．
本授業では，具体的な先行事例等の参照・分析を通して社会福祉調査の意義と目的，その実施方法と分析手法について学習し，エビデンス(実証的根拠)にもとづいて福祉問題について考える力を養います．

到達目標:

①社会福祉調査の意義・目的を理解できる
②社会福祉調査の対象の特質と調査倫理について理解する．
③調査方法をデータ分析の方法を理解する．

授業方法:

講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	配付資料の精読
2.	社会福祉調査の意義と目的	配付資料の精読
3.	社会福祉調査の歴史１	過去の社会福祉調査を精読し，内容と意義を理解する
4.	社会福祉調査の歴史２	過去の社会福祉調査を精読し，内容と意義を理解する
5.	社会福祉調査における「問い」の立て方と調査方法１	配付資料の精読
6.	社会福祉調査における「問い」の立て方と調査方法２	配付資料の精読
7.	調査倫理と個人情報保護1	配付資料の精読
8.	調査倫理と個人情報保護２	配付資料の精読
9.	量的調査1－特徴と種類	配付資料の精読
10.	量的調査2－実施方法	配付資料の精読，課題シートの作成
11.	量的調査3－データ分析	配付資料の精読，課題シートの作成
12.	質的調査1－特徴と種類	配付資料の精読
13.	質的調査2－実施方法	配付資料の精読，課題シートの作成
14.	質的調査3－データ分析	配付資料の精読，課題シートの作成
15.	まとめ	配付資料の精読

受講者へのメッセージやアドバイス:

社会福祉は受講生のみなさんご自身や他の人びとの生命や人生，人権に深く関わります．ですから単なる「思いこみ」や「偏見」をもって福祉問題や当事者の方々と向き合うのは望ましいことではありません．社会福祉調査の考え方，データの見方を身につけて客観的に福祉問題を理解する力を身につけていただきたいと思います．

フィードバックの方法:

授業内のコメント，質問シートへの回答・解説などを通じてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加度	40	出席状況や課題シートの提出状況を基準とする。
期末試験	60	講義内容の理解度を基準とする。

教科書:

社会福祉士養成講座編集委員会編(2015)『社会福祉調査の基礎(第3版)』中央法規出版．

参考書:

斉藤嘉孝(2010)『社会福祉調査－企画・実施の基礎知識とコツ』新曜社．
笠原千絵・永田祐編著(2013)『地域の＜実践＞を変える社会福祉調査入門』春秋社．

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:

Eメール

432400

社会福祉論

倉持　　史朗

授業テーマ:

授業の概要:
現代社会における社会福祉の意義を確認し、現在に至る日本と諸外国の社会福祉の歴史的展開について学ぶ。また、日本の社会福祉の法体系・制度施策について理解を深める。

到達目標:
1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について理解する。
3. 社会福祉の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組みについて理解する。
5. 社会福祉の動向と課題について理解する。

授業方法:
講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	配付資料を精読する。
2.	社会福祉とは何か(1) −社会福祉の概念と構成	配付資料を精読する。
3.	社会福祉とは何か(2) −人権と社会福祉の価値	配付資料を精読する。
4.	社会福祉の史的展開(1) −近代の慈善・社会事業	テキスト内の関連箇所を精読する。
5.	社会福祉の史的展開(2) −戦後の社会福祉と基礎構造	テキスト内の関連箇所を精読する。
6.	社会福祉の史的展開(3) −社会福祉改革の福祉財政	テキスト内の関連箇所を精読する。
7.	子ども家庭福祉(1) −子どもを取り巻く福祉問題と政策	配付資料を精読する。
8.	子ども家庭福祉(2) −子ども・家庭への支援の実際	配付資料を精読する。
9.	現代の社会福祉政策と課題(1) −貧困問題と生活保護	配付資料を精読する。
10.	現代の社会福祉政策と課題(2) −少子高齢化への対応	配付資料を精読する。
11.	現代の社会福祉政策と課題(3) −障害者とノーマライゼーション	テキスト内の関連箇所を精読する。
12.	社会福祉専門職とソーシャルワーク	テキスト内の関連箇所を精読する。
13.	社会福祉思想・理論(1) −現代社会における社会福祉の存在意義を考える	テキスト内の関連箇所を精読する。
14.	社会福祉思想・理論(2) −社会福祉の目的と方法を考える	テキスト内の関連箇所を精読する。
15.	まとめ	配付資料を精読する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
授業内のコメント，質問シート等をつうじてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的参加度	40	出席状況や質問・課題シートの内容を基準とする。
期末試験	60	授業内容の理解度を基準とする。

教科書:
田中和男・石井洗二・倉持史朗編（2016）『社会福祉の歴史－地域と世界から読み解く』（法律文化社）

参考書:
室田保夫・倉持史朗ほか編著(2018)『社会福祉(新・基礎からの社会福祉)』ミネルヴァ書房.
木村容子・有村大士編著(2017)『子ども家庭福祉(新・基礎からの社会福祉)』ミネルヴァ書房.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:
Eメール

432500

社会倫理学

倉本　　香

授業テーマ:　自分の生き方を考える　−道徳や倫理の話を深めて考えてみよう−

授業の概要:

現代社会において私たちはさまざまな選択に迫られています。「何を食べようか」という日常的な小さい選択から、「なりたい自分になれるように自分でしっかり考えて生きよ」と言われるような、「生き方」に関係する大きな選択まで、様々な選択をしています。これらの選択を行うときに、私たちは本当に自由に選択したとどの程度までいえるでしょうか。何を選択したらよいか、あるいは何を選択するべきか、ということに関しては、あらかじめある一定の枠組みが「道徳」や「倫理」として社会において存在しているように感じることがあるのではないでしょうか。

この授業では、社会の中で、他者と関わりながらも、自分の意志と責任で納得しながらさまざまな選択を行っていくことができるようになるために、社会における「道徳」や「倫理」の意味をもう一度捉えなおます。日常的な道徳的判断をふり返りつつ、表層では捉えきれない「道徳」や「倫理」の話をより深めていきたいと思います。また、現代の日本社会において、女性として自分の生き方を考えていくときに参考になるような話題も取り上げたいと思います。

到達目標:

現代社会における「道徳」や「倫理」の諸問題に関心を持つ。
現代社会における「道徳」や「倫理」の諸問題について多面的・多角的に考えることができる。
「生き方の選択」に関する諸問題について、身近なことを通して考えていく力を付ける。

授業方法:

テキストをもとに、受講生それぞれが当日の講義テーマに従って与えられた課題について考察を行ってもらう。それを小レポートとして提出する。各自の考察と、全体での討論も併せて行うつもりである。最後に全体のまとめとしてのレポートを作成する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　授業の進め方の説明　倫理学とは	シラバスを読んでおくこと
2.	自由な選択についてまわる他者の視線 ー私たちは「透明な存在」なのかー	復習として参考文献を読む
3.	「人と信頼関係を築くことはよいことである」という考え方について	事前に『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。
4.	「自分で決めたことには責任を持つ」という考え方について	事前に『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。
5.	「目標に向けて努力することはよいことである」という考え方について	事前に『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。
6.	「人は互いに気遣う／助け合うべきである」という考え方について	事前に『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。
7.	女性にひろがるスピリチュアルブームについて	復習として参考文献を読む。
8.	やりたいことを見つける、という呪縛	課題を出すのでそれを行う。
9.	自分の人生を設計する方法ー自分をプロデュースするー	課題を出すのでそれを行う。
10.	「美」は女性にとって資本なのか	復習として参考文献を読む。
11.	<じぶん>を愛すること	復習として参考文献を読む。
12.	「主体的に生きることはよいことである」という考え方について	『倫理のノート』を読んでおく。 箇所は授業中に指定する。
13.	2017年に起こった社会の出来事を多面的・多角的に考えてみよう ①問題提起する	2017年に起こった社会の出来事について考えておく。 グループレポートを課す。
14.	2017年に起こった社会の出来事を多面的・多角的に考えてみよう ②問題を比較する	レポートを仕上げる。
15.	まとめと振り返り	これまでの授業全体を復習しておくこと。『倫理のノート』を読んでおく。箇所は授業中に指定する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室で返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	40	講義内容の理解度をみる。指定されたテーマについて自分の考えを簡潔に整理して述べることができているか。
期末レポート	40	講義全体を通して、到達目標をふまえて理解度をみる。
発表・討論	20	多面的・多角的な観点から考察できているか。積極的に発言しているか。

教科書:　倉本香他 『倫理のノート』 萌書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　kuramoto@cc.osaka-kyoiku.ac.jp

432600

経済学ステップアップ

岸　　基史

授業テーマ:　ミクロ経済学の基礎理論を理解し、経済学的なものの見方・考え方を身につける。

授業の概要:　現代社会における様々な経済問題を分析するための経済理論にはミクロ経済学とマクロ経済学がある。この講義ではミクロ経済学の初歩を解説する。すなわち、個々の消費者および生産者の経済行動の理論的な分析と市場経済における価格調整メカニズムの機能についての、基本的な概念や考え方を説明する。

到達目標:　(1)ミクロ経済学の考え方を理解し、初級～中級レベルのミクロ経済学を学んでいくための道筋をつけること。
(2)市場経済の根本的な仕組みを理解し、日常生活や現代社会における様々な課題について経済学的に考えるための基礎を身につけること。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス/経済学とは(1): 授業を進めるに当たって／ 経済問題とは何か	
2.	.経済学とは(2): マクロ経済学の考え方	経済学とは(1)の復習（内容の理解）
3.	経済学とは(3): ミクロ経済学の考え方	.経済学とは(2)の復習（内容の理解）
4.	需要・供給と価格(1): 需要曲線の意味と性質、 消費者余剰	
5.	需要・供給と価格(2): 供給曲線の意味と性質 生産者余剰	需要・供給と価格(1)の復習（内容の理解）
6.	需要・供給と価格(3): 価格調整と市場均衡	需要・供給と価格(2)の復習（内容の理解）
7.	.消費者行動の理論(1): 予算制約線と無差別曲線	
8.	消費者行動の理論(2): 効用最大化行動	消費者行動の理論(1)の復習（内容の理解）
9.	消費者行動の理論(3): 所得・価格の変化と需要曲線	消費者行動の理論(2)の復習（内容の理解）
10.	消費者行動の理論(4): 消費者行動理論の応用	消費者行動の理論(3)の復習（内容の理解
11.	生産者行動の理論(1): 生産関数と費用関数	
12.	生産者行動の理論(2): 生産者行動の費用分析	生産者行動の理論(2)の復習（内容の理解）
13.	生産者行動の理論(3): 生産者の利潤最大化行動	生産者行動の理論(3)の復習（内容の理解）
14.	資源配分とパレート最適: 市場経済における資源の効率配分	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業内容が積み重ねられていくので、各回ごとに授業内容をきちんと理解するよう講義ノートや参考文献を使って復習すること。分からないことがあれば、放置せずに遠慮なく質問すること。

フィードバックの方法:　質問用紙、コメントペーパー等についてはマナビー等で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	到達目標（1）に関し、ミクロ経済学の基本的諸概念の理解度を評価する。

教科書:　指定しない。

参考書:　伊藤元重著『ミクロ経済学』日本評論社2003年
伊藤元重・下井 直毅著『ミクロ経済学パーフェクトマスター』日本評論社2007年
その他については授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業終了後、教室内で対応。Eメールでの連絡も可。mkishi@mail.doshisha.ac.jp

432700

経済政策論

長岡　　延孝

授業テーマ:　先進的な経済政策を学ぶことを通じて、市民生活への影響と望ましい現代経済の展開について考察する。

授業の概要:　欧米や日本の経済政策を中心に解説し、そこからどのような点が学べるのかを考えながら授業を行う。できれば新興国など世界の経済政策にも言及する。
世界の市場システムは多様であり、自由主義型、国家主導型、社会的市場型などに分けられるが、それぞれの特徴にも配慮する。
最後に、グローバル経済における経済政策についても解説する。

到達目標:
1　先進的な経済政策を理解することによって、新聞やビジネス情報を分析し、ビジネスパーソンとして活躍できる基礎を養うこと。
2　ビジネスを体系的に学ぶための基礎理論と知識の習得を目指す。

授業方法:　基本的に講義の形式で進め、適宜、ビデオやプリント等の教材を使用する。また、講義内容にかんする意見・感想を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
2.	望ましい経済システムを考える	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
3.	資本主義における政府の役割	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
4.	イギリスの経済政策:戦後からブレグジットへ	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
5.	イギリスの福祉国家と新自由主義的政策	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
6.	米国の経済政策:大きな政府と小さな政府	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
7.	米国の経済政策:トランプ政権と日本	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
8.	日本の経済政策:産業政策と経済発展	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
9.	日本の経済政策:安倍政権の政策	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
10.	ドイツの経済政策:社会的市場経済	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
11.	フランスの経済政策:国家介入と市民生活	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
12.	ドイツの経済政策:環境と経済	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
13.	福祉国家の経済政策	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
14.	グローバル経済における経済政策	配布したプリント(またはmanabi掲載資料)を読んでおくこと
15.	まとめ	講義全体を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　新聞や報道番組に接して、経済社会の動きに関心を持ってもらいたい。

フィードバックの方法:　授業での感想や意見について、コメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	課題にかんして正しく理解し、自分の考えを持っているか。また、それらを解りやすく論述しているか。

教科書:

参考書:
田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済』有斐閣。
熊谷徹『あっぱれ技術大国ドイツ』新潮社。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール

432800 **簿記論Ⅰ**

記虎　　優子

授業テーマ:　簿記の基礎を学ぶ

授業の概要:　この授業では、企業会計における実践的ツールである複式簿記の基礎を学ぶ。そのために、この授業では、吟味された例題を用いて講義を行い、合わせて練習問題にも取り組む。
なお、秋学期に開講予定の「簿記論Ⅱ」は、本授業科目を履修済みであることを前提としている。簿記についてさらに学びたい学生には、「簿記論Ⅱ」の履修を推奨する。

到達目標:　初学者になじみにくい複式簿記機構に固有の技術的構造を理解し、財務諸表が複式簿記機構を通じてどのように作成されるのか、その方法を具体的に知る。

授業方法:　原則として講義形式で行う。
授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。また、授業中に必要に応じて練習問題に取り組む。練習問題の解答に当たっては、学生に板書してもらうことがある。なお、例題の解説および練習問題の解答に際して電卓が必要となるので、授業時には毎回電卓を持参する必要がある。
第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 簿記を学ぶにあたって	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
2.	貸借対照表と損益記計算書	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
3.	取引と勘定、仕訳	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
4.	転記 仕訳帳と総勘定元帳 残高とは	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
5.	試算表	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
6.	決算手続(1) 決算手続の概要 振替とは	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
7.	決算手続(2) 決算振替仕訳 収益・費用の諸勘定と損益勘定の締切り 資産・負債・資本の諸勘定の締切り	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
8.	決算手続(3) 繰越試算表 財務諸表の作成 精算表	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
9.	現金・預金取引(1)　現金	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
10.	現金・預金取引(2)　当座預金	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
11.	現金・預金取引(3)　小口現金	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
12.	商品売買取引(1)　分記法と三分法	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
13.	商品売買取引(2)　仕入帳、売上帳、商品有高帳	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
14.	総合問題の解説と解答	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
15.	まとめ	小テスト、ワークブック、第14回授業時の総合問題をはじめとして、これまでの学習内容を十分に復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では、いわゆる積み上げ型の学習が必要である。理解できなかった点があると、次回以降の授業内容もさっぱり分からず、授業についていけない。このため、学生は、十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、理解が十分でない点を早め早めに解決するよう努めることを希望する。
この授業で学ぶ簿記は、複式簿記に技術的基礎を置く「会計学」、「原価計算」、「財務諸表論」、「ディスクロージャー論」といった、より上級の会計学領域の開講科目を学ぶ上で必要不可欠なものであるが、残念ながら知的好奇心を大きく刺激するものではない。このため、簿記を修得するためには忍耐強い学習が必要である。しかし、この段階を終えれば会計学の面白さに気が付くはずであるので、学生にはぜひ努力してほしい。

フィードバックの方法:　各回の授業の終了後にマナビー上に公開した講義内容に関する小テストについては、次の授業の冒頭で解説を行うとともに、模範解答をマナビー上に公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	複式簿記機構に固有の技術的構造を理解できているかどうかを基準とする。
定期試験	60%	複式簿記機構に固有の技術的構造を理解できているかどうかを基準とする。

教科書:
蛭川幹夫・増子敦仁著『新版日商簿記3級テキスト』(初版第5刷)実教出版、2016年。
※表紙に「新出題範囲対応」と記載のあるものに限る。
蛭川幹夫・増子敦仁著『新版日商簿記3級問題集』(初版第5刷)実教出版、2016年。
※表紙に「新出題範囲対応」と記載のあるものに限る。

参考書:
石川純治著『複式簿記のサイエンス―簿記とは何であり、何でありうるか』(増補改訂版)税務経理教会、2015年。
上野清貴監修『人生を豊かにする簿記―簿記のススメ続』創成社、2015年。
興津裕康・大矢知浩司監修『現代会計用語辞典』(新版)税務経理協会、2016年。
関西大学会計学研究室編『簿記システムの基礎』(第5版)国元書房、2017年。
関西学院大学会計学研究室編『基本簿記論』(新版(第3版))中央経済社、2017年。
田村雅俊ほか編著『勘定科目別　仕訳処理ハンドブック―平成27年11月改訂』(第18版)清文社、2015年。
トーマツ編『勘定科目ハンドブック』(第4版)中央経済社、2015年。

中村忠著『簿記の考え方・学び方』（五訂版） 税務経理協会、2006年。
新田忠誓編著『エッセンス簿記会計―初歩から納税申告書作成・財務諸表分析まで』（第13版）森山書店、2017年。
八田進二・橋本尚著『簿記の基本を学ぶ』（第4版）同文舘出版、2016年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	思考力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法：	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

432900 **簿記論Ⅱ**

記虎　　優子

授業テーマ:　簿記の基礎を学ぶ

授業の概要:　この授業では、「簿記論Ⅰ」を受けて、引き続き企業会計における実践的ツールである複式簿記の基礎を学ぶ。そのために、この授業では、吟味された例題を用いて講義を行い、合わせて練習問題にも取り組む。
なお、この授業は、「簿記論I」をすでに履修し、複式簿記に関する基礎的な知識を有していることを前提としている。簿記技法を習得するためには、積み上げ型の学習が必要となるので、この授業を受けるにあたっては、「簿記論I」で説明した論点を十分に理解していることが必要である。

到達目標:　「簿記論I」で説明した論点も含めて、おおむね日商簿記検定3級程度の複式簿記に関する基礎知識を得る。

授業方法:　原則として講義形式で行う。
授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。また、授業中に必要に応じて練習問題に取り組む。練習問題の解答に当たっては、学生に板書してもらうことがある。なお、例題の解説および練習問題の解答に際して電卓が必要となるので、授業時には毎回電卓を持参する必要がある。
第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 掛取引	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
2.	手形取引	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
3.	固定資産取引(1)　取得時・期末の会計処理ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
4.	固定資産取引(2)　売却時の会計処理ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
5.	その他の資産・負債（1）未収入金ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
6.	その他の資産・負債（2）貸付金・借入金と手形貸付金・手形借入金 有価証券 訂正仕訳の仕方	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
7.	個人企業の資本と税務取引	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
8.	決算手続(1)　決算手続の概要	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
9.	決算手続(2)　売上原価の算定・貸倒引当金の設定	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
10.	決算手続(3)　減価償却手続ほか	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
11.	決算手続(4)　経過勘定項目（収益・費用の見越し、消耗品）	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
12.	決算手続(5) 経過勘定項目（収益・費用の繰延べ） 帳簿決算と財務諸表の作成	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
13.	伝票会計 試算表・精算表の総合問題（1）	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
14.	総合問題の解説と解答	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、ワークブックの練習問題を自習しておく。
15.	まとめ	小テスト、ワークブック、第14回授業時の総合問題をはじめとして、これまでの学習内容を十分に復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では、いわゆる積み上げ型の学習が必要である。理解できなかった点があると、次回以降の授業内容もさっぱり分からず、授業についていけない。このため、学生は、十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、理解が十分でない点を早め早めに解決するよう努めることを希望する。
この授業で学ぶ簿記は、複式簿記に技術的基礎を置く「会計学」、「原価計算」、「財務諸表論」、「ディスクロージャー論」といった、より上級の会計学領域の開講科目を学ぶ上で必要不可欠なものであるが、残念ながら知的好奇心を大きく刺激するものではない。このため、簿記を修得するためには忍耐強い学習が必要である。しかし、この段階を終えれば会計学の面白さに気が付くはずであるので、学生にはぜひ努力してほしい。

フィードバックの方法:　各回の授業の終了後にマナビー上に公開した講義内容に関する小テストについては、次の授業の冒頭で解説を行うとともに、模範解答をマナビー上に公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	日商簿記検定3級程度の複式簿記に関する基礎知識を得ているかどうかを基準とする。
定期試験	60%	日商簿記検定3級程度の複式簿記に関する基礎知識を得ているかどうかを基準とする。

教科書:
蛭川幹夫・増子敦仁著『新版日商簿記３級テキスト』（初版第5刷）実教出版、2016年。
※表紙に「新出題範囲対応」と記載のあるものに限る。
蛭川幹夫・増子敦仁著『新版日商簿記３級問題集』（初版第5刷）実教出版、2016年。
※表紙に「新出題範囲対応」と記載のあるものに限る。

参考書:
石川純治著『複式簿記のサイエンス―簿記とは何であり、何でありうるか』（増補改訂版）税務経理教会、2015年。
上野清貴監修『人生を豊かにする簿記―簿記のススメ続』創成社、2015年。
興津裕康・大矢知浩司監修『現代会計用語辞典』（新版）税務経理協会、2016年。
関西大学会計学研究室編『簿記システムの基礎』（第5版）国元書房、2017年。
関西学院大学会計学研究室編『基本簿記論』（新版（第3版））中央経済社、2017年。
田村雅俊ほか編著『勘定科目別　仕訳処理ハンドブック―平成２７年１１月改訂』（第１８版）清文社、2015年。
トーマツ編『勘定科目ハンドブック』（第４版）中央経済社、2015年。
中村忠著『簿記の考え方・学び方』（五訂版）税務経理協会、2006年。
新田忠誓編著『エッセンス簿記会計―初歩から納税申告書作成・財務諸表分析まで』（第１３版）森山書店、2017年。

	八田進二・橋本尚著『簿記の基本を学ぶ』(第4版)同文舘出版、2016年。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

433000

原価計算

記虎　　優子

授業テーマ:　原価計算の基礎を学ぶ

授業の概要:

この授業では、「原価計算基準」に準拠した、制度としての原価計算（原価計算制度）を中心に、原価計算の基礎を学ぶ。そのために、この授業では、吟味された例題を用いて講義を行い、合わせて練習問題にも取り組むことで、具体的な原価計算プロセスを体得できるようにする。

なお、この授業は、「簿記論I」をすでに履修し、複式簿記に関する基礎的な知識を有していることを前提としている。この授業と並行して、「簿記論II」を履修していればなお望ましい。

到達目標:

「原価計算基準」に準拠した、制度としての原価計算（原価計算制度）を中心に、製造業の財務諸表を作成するのに必要な原価計算の各種の方法を学び、企業会計上どのように製品の製造原価が計算されているのかを知る。

さらに、原価計算制度に基づいて算定された製品の製造原価がどのような特徴と限界を持っているのかを知る。

授業方法:

原則として講義形式で行う。最終回の授業では、実在する企業の財務諸表のケーススタディを行って、この授業で学んだ原価計算制度に基づく原価情報が財務諸表上どのように開示されているのかを学ぶ。

また、授業の冒頭には、前回の講義内容に関する小テストの解説を行う。また、授業中に必要に応じて練習問題に取り組む。練習問題の解答に当たっては、学生に板書してもらうことがある。なお、例題の解説および練習問題の解答に際して、電卓が必要となるので、授業時には毎回電卓を持参する必要がある。

第1回の授業時から教科書を使用するので、授業時には必ず教科書を持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 原価計算の基礎	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
2.	費目別計算(1)　材料費会計	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
3.	費目別計算(2)　労務費会計	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
4.	費目別計算(3)　経費会計 製造間接費会計(1)　集計と配賦	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
5.	製造間接費会計(2)　差異分析 単純個別原価計算(1)	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
6.	単純個別原価計算(2)仕損と作業屑の計算と処理 部門別個別原価計算	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
7.	活動基準原価計算 個別原価計算のまとめ	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
8.	単純総合原価計算	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
9.	総合原価計算における仕損・減損の計算と処理	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
10.	総合原価計算における副産物の処理と評価 工程別総合原価計算	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
11.	加工費法 半製品 等級別総合原価計算	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
12.	組別総合原価計算 連産品の計算 標準原価計算(1)製品原価の算定	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
13.	標準原価計算(2)差異分析	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
14.	直接原価計算 原価情報の開示	マナビーを利用して小テストに解答しておくとともに、レジュメに含まれている練習問題を自習しておく。
15.	まとめ	小テストや授業中に取り組んだ例題や問題集など、これまでの学習内容を十分に復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では、いわゆる積み上げ型の学習が必要である。理解できなかった点があると、次回以降の授業内容もさっぱり分からず、授業についていけない。このため、学生は、十分な自宅学習をする必要がある。また、学生には、オフィスアワーなどを活用して積極的に質問するなどして、理解が十分でない点を早め早めに解決するよう努めることを希望する。

フィードバックの方法:

各回の授業の終了後にマナビー上に公開した講義内容に関する小テストについては、次の授業の冒頭で解説を行うとともに、模範解答をマナビー上に公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	原価計算制度における原価計算の各種の方法を具体的に理解しているかどうかを基準とする。
定期試験	60%	原価計算制度における原価計算の各種の方法を具体的に理解しているかどうかを基準とする。

教科書:

奥村輝夫・齋藤正章・井出健二郎著『原価計算』新世社、2007年。

参考書:

上埜進編著『工業簿記・原価計算の基礎—理論と計算—』（第4版）税務経理教会、2017年。
上埜進編著『工業簿記・原価計算演習—理論と計算—』（第4版）税務経理協会、2015年。
勝本宗男著『現場で使える原価計算システム』中央経済社、2017年。
加登豊編『インサイト原価計算』中央経済社、2008年。
小林英幸著『原価企画とトヨタのエンジニアたち』（メルコ学術振興財団研究叢書）中央経済社、2017年。
清水孝著『原価計算』（改訂版）税務経理教会、2017年。
廣本敏郎・挽文子著『原価計算論』（第3版）中央経済社、2015年。
本橋正美・林總・片岡洋人編著『要説管理会計事典』清文社、2016年。
古田隆紀著『ABCのコア』森山書店、2015年。
山北晴雄・福田淳児著『ファーストステップ　原価計算を学ぶ』中央経済社、2016年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

433100

マーケティング調査法

畠山　　啓

授業テーマ:

授業の概要:
消費生活データーを活用して、どの商品が、いくらで、どれくらい購入されているのかを考察していきます。講義の前半では様々な品目についてのデーター入手・処理・解釈を行い、後半では主に都道府県毎の消費特徴についてのデーター入手・処理・解釈を行っていきます。

到達目標:
品目ごと、地域ごとの消費傾向を理解すること。
知りたい情報を得るためには、どのデータをどのように処理したらよいのかを理解し、データーの入手・処理・解釈を実践できる能力を獲得すること。

授業方法:
毎回、講義とパソコンを活用した演習を組み合わせて行っていきます（毎回情報処理室で授業を行います）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	特になし
2.	食料・飲料	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
3.	食料・飲料	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
4.	光熱・家具・家事用品	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
5.	光熱・家具・家事用品	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
6.	被服・履物	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
7.	被服・履物	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
8.	交通・通信・教育	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
9.	北海道	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
10.	東北地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
11.	関東甲信越・北陸地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
12.	東海地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
13.	近畿地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
14.	中国・四国地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと
15.	九州・沖縄地方	マナビーで講義資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:
毎回授業中に課題（excelを用いてデータ処理・分析）に取り組みます。Office（word・excel・power point）、特にexcelを問題なく使いこなせることを前提に行います。パソコン教室ではないので、操作に関するレクチャーは基本行いません。Excelなどパソコン操作が不得手な受講者は事前に操作を自らマスターしておくことが求められます。
また積み上げ式の授業になるので、毎回休まず出席することが求められます。

フィードバックの方法:
教室内でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の出席及び課題提出	70%	データの入手・処理・解釈ができているのかを基準とする。
レポート	30%	消費傾向を多面的に考察できているのかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応

433300

企業の社会的責任

畠山　　啓

授業テーマ:

授業の概要:
企業の社会的責任（CSR）とは持続可能な社会と環境を実現するために、企業が経済的責任だけでなく、社会的責任や環境責任も果たしていくことです。本講義では日本企業が国内外で行っているCSRの取り組み、特に社会的責任の国際規格であるISO26000の中核主題7項目（企業統治・人権・労働・環境・事業慣行・消費者課題・コミュニティの参画と発展）に関連する取り組みにはどのようなことがあるのか、なぜ企業の取り組みに問題が生じているのかを理解することを目指します。

到達目標:
企業の社会的責任に関する様々な事柄を理解できること。

授業方法:
講義形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	特になし
2.	企業の社会的責任とは？	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
3.	企業統治	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
4.	人権の尊重（児童労働・紛争鉱物）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
5.	労働慣行(1)（ブラック企業・ブラックバイト）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
6.	労働慣行(2)（女性の社会進出・ワークライフバランス）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
7.	環境(1)（温暖化）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
8.	環境(2)（資源・エネルギー）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
9.	公正な事業慣行	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
10.	消費者課題(1)（食品問題）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
11.	消費者課題(2)（偽装問題）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
12.	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展(1)（社会貢献活動）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
13.	コミュニティへの参画及びコミュニティの発展(2)（工場見学・インターンシップなど）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
14.	CSV（共有価値の創造）・ESG（社会的責任投資）	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと
15.	組織全体への社会的責任の統合	マナビーにある講義資料を事前に目を通しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	70%	企業の社会的責任に関する様々な事柄を論理的に説明できるかを基準とする。
出席確認を兼ねた小テスト	30%	問いに対して論理的に解答できるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応する。

434000

公務員と法

福岡　　久美子

授業テーマ:　公務員に関する法制度

授業の概要:　公務員とひとくちに言っても、さまざまな職種が存在しますが、本講においては、行政職の公務員（とくに地方公務員）にとって必要な憲法・行政法（行政組織法、公務員法）・地方自治法の基礎知識を修得し、公務員の人権・権利・義務・責任、行政、地方自治に関する法制度、判例などを学びます。公務員を目指す人はもちろん、そうでない人も、これから生活・仕事をしていくうえで、特に地方公共団体の職員と関わりをもつ機会は少なくないでしょう。
「憲法特講」「行政法」「民法」などを受講済み、あるいはあわせて受講することが望ましいです。

到達目標:
日本国憲法を中心とした法律の基礎的知識を持っている
現代社会の直面する問題を法的な視点から理解している
修得した知識を地域社会に還元することに強い関心を持っている
専門的知識を探求する姿勢と、幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
法律の基礎的知識を社会生活の多様な場面で運用できる能力を持っている

授業方法:　主として講義により行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	公務員の意義・職種	教科書を読む
2.	公務員制度の沿革・特質	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
3.	公務員の人権（労働基本権の制限）	憲法の教科書の該当箇所を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
4.	公務員の人権（政治的活動の制限）	憲法の教科書の該当箇所を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
5.	公務員の勤務関係、権利・義務	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
6.	国家の組織	憲法の教科書の該当箇所を読む 復習として、レジメやレジメ・配付資料、教科書で知識・理解を確かなものにする
7.	国の行政のしくみ	憲法の教科書の該当箇所を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
8.	地方自治の意義、歴史	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
9.	自治体の種類、国との関係	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
10.	自治体の組織、権能	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
11.	条例制定権	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
12.	情報公開と個人情報保護	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
13.	住民の権利（参政権）	憲法の教科書の該当箇所を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
14.	住民の権利（直接請求、住民訴訟、住民投票など）	予習として、教科書を読む 復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする
15.	まとめ	復習として、レジメや教科書で知識・理解を確かなものにする

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
授業中に解説する
コメントペーパーにコメントを付けて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	公務員をめぐる法制度に関する知識の修得度、理解度、文章で知識や考えを表す力
授業への参加度、小レポート	20%	授業への積極的参加度

教科書:
板垣勝彦『ようこそ地方自治法』（第一法規）
『ポケット六法』（有斐閣）、『ディリー六法』（三省堂） 等、六法を携帯すること

参考書:
君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法』（法律文化社）
小泉洋一、倉持孝司、尾形健、福岡久美子、櫻井智章『憲法の基本』（法律文化社））
北村 和生、佐藤 英世、高橋 明男、 佐伯 彰洋『行政法の基本』（法律文化社）
『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ」（有斐閣）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業前後の教室で応対

434100

日本国憲法概説

福岡　　久美子

授業テーマ:　憲法の基本

授業の概要:　憲法は国家の組織・作用に関する根本規範であり、国家の最高法規です。憲法というと遠い存在のように感じる人もいるかもしれませんが、憲法問題は政治の場だけでなく日常生活においても存在します。また、有権者として、国家の仕組みや社会問題にも関心をもってもらいたいと思います。本講は、高校までに習った憲法に関する知識の確認と大学における憲法学の入門学習を目標とします。具体的事例にも触れながら、憲法の基本理念について講述します。

到達目標:　日本国憲法を中心とした法律の基礎知識を持っている
現代社会の直面する問題を法的な視点から理解している

授業方法:　主として講義で行います

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	憲法とは何か	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
2.	憲法の歴史、基本原理	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
3.	基本的人権の意味、主体、制約	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
4.	プライバシー権などの新しい人権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
5.	平等権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
6.	精神的自由権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
7.	経済的自由権、人身の自由	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
8.	社会権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
9.	参政権、国民主権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
10.	国会と立法権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
11.	内閣と行政権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
12.	裁判所と司法権	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
13.	地方自治、天皇、憲法改正	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
14.	平和主義	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
15.	まとめ	事前に教科書やレジメなどで復習をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　新聞などを読んで、政治、社会、国際問題などに関心をもつことを勧めます。
高校までに習った日本史、世界史などの知識を確認しておいてください。”

フィードバックの方法:　授業中に解説します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	基礎知識の修得度
授業への参加度、小レポート	20%	積極的に授業に参加し、課題に取り組む

教科書:　君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法（第3版）』（法律文化社）

参考書:　小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本（第3版）』（法律文化社、2016）
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法（第6版）』（岩波書店、2015）
吉田仁美編『スタート憲法』（成文堂）
初宿正典・大沢秀介・高橋正俊・常本照樹・高井裕之『目で見る憲法』（有斐閣）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内での応対、オフィスアワー

434200

現代社会と民事法

鈴木　　尊明

授業テーマ:　民事法入門

授業の概要:

※本科目は、カリキュラム変更により、再履修者のみの受講を想定しています。参加者が激減する予定ですので、過年度とはやり方を変えるつもりです。ご注意ください。

法律に対して諸君が抱くイメージは様々でしょうが、大抵の場合は、「悪いことをしたら罰を受けると定めているもの」という理解ではないでしょうか。これは完全に間違いであるとまでは言えませんが、法律、もっと広く「法」に対する理解としては、あまりにも一面的です。この授業で扱う「民事法」、その中心にあたる「民法」とは、罰を定めるものではなく、市民社会の基本法と位置づけられています。確かに罰則のように見える内容も含まれますが、それだけではないのです。

この講義では、具体的な事例を素材にして、諸君の意見も聞きながら、民法を中心とする民事法全体が、社会の中でどのように機能しているのかを把握できるようになることを第一の目標とします。そして、民事法に興味を持ち、自ら勉強に取り組みたくなるようにすることを第二の目標とします。

到達目標:

〇六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。
※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

授業方法:　レジュメを配布し、それに沿って講義形式で進める。参加者の数に応じて適宜変更する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　～民事法とは何か	高校までに学習した政治経済や公民の内容を復習しておく。
2.	人の値段	
3.	盗まれた手	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
4.	金返せ！　―残り物の平等	
5.	芸能人のお約束	
6.	よくわからない新聞記事	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
7.	助けた私の貢献度	
8.	パンデクテン体系　―前半の総括	
9.	民事法の広がり（1）	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
10.	民事法の広がり（2）	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
11.	民事法の広がり（3）	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
12.	民事法の広がり（4）	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
13.	民事法の広がり（5）	事前に資料を配布するので、目を通しておく。
14.	民事法の展開	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

これまでどの程度勉強してきたのかについては問いません。皆さんには意欲のみを求めます。楽しくできるように私も努めますし、皆さんにも協力をお願いしますが、「楽しい」ことと「楽」なことは違います。少しでも成長できるように、一緒に勉強しましょう。

フィードバックの方法:

授業中に私から問いかけ、問題について皆で検討する他、コメントペーパーの内容にも応答していく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
コメントペーパー	100	授業内容に関する内容を問う。

教科書:

六法（どのようなものでも良いです）
※初回授業で指示しますが、安くて携帯しやすいので、『法学六法』（信山社、1080円）を薦めます。秋学期開始時には2019年度版が発行されていると思いますが、それ以外の年度のものでも基本的には大丈夫です。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

434300

現代社会と刑事法

谷　　直之

授業テーマ:　現代社会の抱える犯罪問題と刑事法についての基礎的知識を身につける

授業の概要:

この科目は、現代社会の基礎を法が支えており、法についての基本的理解は現代人の必須の素養であるという学科の理念に基づいて設置され、必修科目となる法律基礎科目の中でも、刑事法分野の基礎的知識と理解を得ることを目的とする科目です。

私たちの日常生活を規律している民事法とは異なり、犯罪という、本来『非日常的』な現象を検討対象とするのが刑事法ですが、残念ながら、私たちは日々、凶悪な犯罪の報道に接し、安全・安心を脅かされながら生活しているというのが現状です。

また、犯罪への対策である刑事法は、国家と市民の人権とが最も峻厳に対立する分野でもあって、法というものを考える上で、恰好の素材を提供してくれるものでもあります。

この刑事法分野には、犯罪と刑罰を定めている刑法、刑事裁判手続について定めている刑事訴訟法、犯罪の傾向と対策を研究対象とする刑事政策とが含まれますが、これら3つの分野を総合的に俯瞰していきながら、刑事法の基礎を学んでいきます。

なお、履修条件にかんがみて、毎回、講義内容の理解度を問う小レポートを課します。

到達目標:　刑事法の分野に関して、「犯罪」とは何か？現代社会の抱える犯罪の傾向や特徴は何か？刑法とは何か？どのような基本原理があるのか？刑事裁判はどのようルールに従って行われるのか？犯罪を減らすためにどのような政策が必要なのか？といった諸点について、基礎的知識を得ること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	刑事法の全体像 ― 刑法・刑事訴訟法・刑事政策 ―	犯罪や捜査に関する小説や映画等を参照して、刑事法分野への興味・関心を持っておくこと。
2.	犯罪防止と法（1） 我が国の犯罪情勢	配布レジュメのほか、テキスト第1章をよく読んで、現在の犯罪の傾向等を理解しておくこと。
3.	犯罪防止と法（2） 犯罪原因論	配布レジュメのほか、テキスト第1章をよく読んで、犯罪の原因・メカニズムに関する諸説の内容を理解しておくこと。
4.	刑法の基礎 古典学派と近代学派	配布レジュメのほか、テキスト第2章をよく読んで、いわゆる学派の争いに関して、内容を理解しておくこと。
5.	刑罰と保安処分	配布レジュメのほか、テキスト第11章をよく読んで内容を理解しておくこと。特に、刑罰と保安処分の関係を軸に、整理しておくこと。
6.	罪刑法定主義と構成要件	配布レジュメのほか、テキスト第3章をよく読んで内容を理解しておくこと。
7.	法益三分説 個人法益に対する罪 社会法益に対する罪 国家法益に対する罪	配布レジュメのほか、テキスト第4～6章をよく読んで、日本における犯罪の全体像を把握しておくこと。
8.	刑罰権の具体的実現 ― 刑事訴訟法 ―	配布レジュメのほか、テキスト第12章をよく読んで内容を理解し、刑事手続の流れを整理しておくこと。
9.	捜査機関 警察と検察	配布レジュメ等を参照して、警察と検察の組織や権限等について、基礎的な理解を得ておくこと。
10.	捜査と人権（1）	配布レジュメのほか、テキスト第13章をよく読んで内容を理解しておくこと。
11.	捜査と人権（2）	配布レジュメのほか、テキスト第13章をよく読んで内容を理解しておくこと。 冤罪問題について、インターネット等で調べておくこと。
12.	裁判員制度	配布レジュメをよく読んで、日本の裁判員制度の特徴と概要を理解しておくこと。
13.	犯罪者の処遇	配布レジュメのほか、テキスト第16～17章をよく読んで内容を理解しておくこと。
14.	少年非行と刑事司法	配布レジュメのほか、テキスト第18章をよく読んで内容を理解しておくこと。
15.	まとめ	配布レジュメのほか、テキスト第章をよく読んで内容を理解しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　現代社会の抱える問題点と犯罪との関係、犯罪に対する社会の対応策等について、まず興味・関心を持ってください。そして、自分から積極的に情報を集め、しっかりと考え、さらには自分にできることを行動に移すように心がけてください。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	到達目標に示した諸点に関して、基礎的知識が得られているかを基準に評価する。
小レポート	30	各回の授業内容を理解できているかどうかを基準に評価する。

教科書:　大谷實『刑事法入門（第8版）』（有斐閣、2017年）
（第7版など、以前の版でも可）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

435000

考古学Ⅰ

山田　　邦和

授業テーマ:　考古学の理論と歴史

授業の概要:　考古学とは「歴史学の方法学たる『史料学』の一部門として『物質史料』を扱う学問」である。つまり、文献史料（文字史料）に登場しない人間の歩みを、「モノ」の分析によって解明していこうとするのである。考古学の視点を加えることにより、われわれの歴史像はきわめて豊かになるはずである。この授業では、考古学の理論、方法、学史をたどることにより、この学問の基礎を理解していただく。

到達目標:　考古学的なものの見方とは何かということを理解する。

授業方法:　講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	考古学とはどんな学問か	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
2.	考古学の定義	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
3.	考古学の理論と方法　（1）型式学	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
4.	考古学の理論と方法　（2）層位学	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
5.	考古学の理論と方法　（3）年代決定法	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
6.	考古学の歩み（欧米）（1）考古学の開始	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
7.	考古学の歩み（欧米）（2）考古学の展開	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
8.	考古学の歩み（欧米）（3）考古学の発達	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
9.	考古学の歩み（欧米）（4）新たな考古学の世界	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
10.	考古学の歩み（日本）（1）古代・中世における考古学	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
11.	考古学の歩み（日本）（2）近世における考古学1	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
12.	考古学の歩み（日本）（2）近世における考古学2	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
13.	考古学の歩み（日本）（3）明治・大正期における考古学	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
14.	考古学の歩み（日本）（3）明治・大正期における考古学2	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
15.	まとめ	授業の内容をふりかえり、まとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

フィードバックの方法:　教室中でまとめておこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	授業の内容を的確に理解し、自分の言葉で説明できているかどうか。考古学的なものの見方とは何かということを理解できたかどうか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

435100

考古学Ⅱ

山田　　邦和

授業テーマ:　考古学が解明する日本古代国家

授業の概要:　考古学とは「歴史学の方法学たる『史料学』の一部門として『物質史料』を扱う学問」である。つまり、文献史料（文字史料）に登場しない人間の歩みを、「モノ」の分析によって解明していこうとするのである。考古学の視点を加えることにより、われわれの歴史像はきわめて豊かになるはずである。この授業では、考古学の方法によって解明された歴史像を、具体例に則して理解してもらう。

到達目標:　考古学的なものの見方とは何かということを理解する。

授業方法:　講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	古代国家とは何か	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
2.	弥生時代の文化圏	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
3.	権力の発生	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
4.	弥生時代北部九州の王墓1	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
5.	弥生時代北部九州の王墓2	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
6.	邪馬台国論争と考古学	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
7.	西日本における初期古墳（墳丘墓）の出現	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
8.	三角縁神獣鏡論争	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
9.	古墳の発生と古代国家1	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
10.	古墳の発生と古代国家2	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
11.	前期古墳とその時代	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
12.	中期古墳とその時代	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
13.	後期古墳とその時代	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
14.	終末期古墳とその時代	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。
15.	まとめ	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

フィードバックの方法:　関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の遺跡や博物館を見学することが望ましい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	考古学的なものの見方とは何かということを理解できたかどうか。授業内容をきちんと把握し、体系的に理解できたかどうか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

435200

オセアニア地域文化論

大西　　秀之

授業テーマ:　オセアニアの過去と現在を学ぶ

授業の概要:

もし、「オセアニアについて、知っていることを述べて下さい」、と問われたら、ほとんどの皆さんは答えに困られるのではないでしょうか。オセアニアとは、太平洋の島々からなる地理区分ですが、日本に暮らすわたしたちにとって世界のなかで最もなじみのない地域のひとつと言っていいかもしれません。

このような状況を考慮に入れ、本講義では、まずオセアニアの基本情報を知ることから始め、同地域における歴史や文化を学んで行く予定です。さらに、そこでは、同地域に暮らす人びとが抱えるさまざまな問題について検討をくわえ、現代社会のなかでのオセアニアの位置づけを考えることを主要な目的とします。

到達目標:

・オセアニアも歴史や文化を知り学ぶ社会的意義を理解する。
・世界のなかのオセアニアの位置づけを検討し現代社会に対する新たな知見・認識を得る。
・われわれはなぜオセアニアに対する知識がないのか改めて問い直す。

授業方法:

講義形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・不定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オセアニアとは？	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	オセアニアの多様な地域と社会	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	人類史のなかのオセアニア	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	オセアニアにおける人類の拡散	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	西洋によるオセアニアの「発見」	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	オセアニアの近現代史	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	近代化によるオセアニアの社会変容	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	中間まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。
9.	オセアニアのイメージと観光	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	オセアニアを取り巻くポリティックス	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	グローバルエコノミーとオセアニア	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	オセアニアにおける民族紛争	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	環境問題に直面するオセアニア	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	オセアニアから見る現代社会	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この講義を受講される皆さんには、世界の一地域としてオセアニアを知るだけではなく、世界を新たに捉え直すきっかけされることを期待します。また日常の生活のなかで、オセアニアに関連する新聞報道やTVニュースなどの各種メディアの情報をチェックしておいてください。

フィードバックの方法:

・中間試験は、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。
・コメントペーパーに対しては、次の授業の際に総評を交えた解説を行います。
・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「オセアニアの学びから得られた世界に対する新たな知見や認識を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
中間試験	45%	論述試験では、到達目標である」「オセアニアを知り理解する社会的意義」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。

教科書:

参考書:	山本真鳥 『オセアニア史 』(新版 世界各国史） 山川出版社
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、批判力
教員との連絡方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

435500

ディスクロージャー論

記虎　　優子

授業テーマ:　企業の情報開示の枠組みとその利用について学ぶ

授業の概要:

この授業では、一般的な財務会計に関する知識をすでに習得していることを前提に、社会一般、換言すれば企業外部の投資家をはじめとする不特定多数のステークホルダーに対して、企業の行う経営活動の状況や企業をめぐる諸事実について公表するという企業行動を取り扱う領域、すなわちディスクロージャー（disclosure）論を学ぶ。ディスクロージャーは、企業情報開示や、企業内容開示と呼ばれることもある。

なお、この授業は「簿記論I」、「簿記論II」、「原価計算」、「会計学」、「財務諸表論」といった一連の会計学領域の授業科目の発展科目であるので、これらの授業科目をあらかじめ履修していることが強く望まれる。

到達目標:

企業の情報開示の意義（役割）や課題を理解するとともに、日本における企業の情報開示の枠組みとその利用方法を知る。

なお、この授業は3年次開講であるので、学生が将来の就職活動に際して、自らの情報ニーズを満たすためにはどのような開示書類を入手して参照すればよいのかを自分自身で判断できるよう、開示情報の利用に際する実践的な知識を身に付けることも、付随的な目標としている。

授業方法:

原則として講義形式で行う。

この授業では、各回の授業で取り上げるテーマと合致した、実在する企業の開示情報のケーススタディを行い、各企業がどのような開示を行っているのかについて、一般的な開示事例だけでなく、特色のある開示事例もできるだけ取り上げることによって各社のさまざまな開示事例を具体的に学ぶ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 企業の情報開示のケーススタディ(1)	マナビーのリマインダ設定とプロフィール設定をしておく。
2.	日本の企業会計制度	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
3.	金融商品取引法に基づく情報開示	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
4.	会社法に基づく情報開示(1)	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
5.	会社法に基づく情報開示(2)	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
6.	証券取引所の自主規制に基づく情報開示	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
7.	自発的な情報開示（社会・環境情報、知的資産の開示を含む）	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
8.	定性情報の開示(1)	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
9.	定性情報の開示(2)	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
10.	定性情報の開示(3)	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
11.	コーポレート・ガバナンス情報の開示(1)	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
12.	コーポレート・ガバナンス情報の開示(2)	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
13.	開示情報の信頼性担保のための開示	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
14.	企業の情報開示のケーススタディ(2)	マナビーを利用して課題を提出しておくとともに、授業中に取り上げた開示事例について開示書類を実際に入手して参照しておく。
15.	まとめ	これまでの学習内容を十分に復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

企業が公表する代表的な会計情報のひとつである財務諸表は、企業の情報開示制度（ディスクロージャー制度）において確かに重要な位置をしめている。しかし、財務諸表だけが、企業が開示する情報ではない。企業の情報開示制度においてはむしろ、財務諸表以外の情報の方が多い、といっても過言ではない。そこで、この授業では、財務諸表だけでなく、財務諸表以外の情報にも関心を向ける。

フィードバックの方法:

マナビーを利用して提出された課題に対しては、授業時にまとめて解説するとともに、適宜コメントをする。さらに、必要に応じてマナビーのコメント機能を利用して、フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	企業の情報開示の意義（役割）や課題を理解するとともに、日本における企業の情報開示の枠組みとその利用方法を知ったうえで、開示情報の利用に際する実践的な知識を身に付けることができたかどうかを基準とする。
レポート	60%	企業の情報開示の意義（役割）や課題を理解するとともに、日本における企業の情報開示の枠組みとその利用方法を知ったうえで、開示情報の利用に際する実践的な知識を身に付けることができたかどうかを基準とする。

教科書:　特になし

参考書:	あずさ監査法人編『詳細解説IFRS開示ガイドブック』中央経済社、2017年。 石井裕介・小畑良晴・阿部光成・男澤江利子編著『新しい事業報告・計算書類 － 経団連ひな型を参考に』（全訂版）商事法務、2016年。 新日本有限責任監査法人編『会社法決算書の読み方・作り方 － 計算書類の分析と記載例 』（第１１版）2017年。 新日本有限責任監査法人編『３つの視点で会社がわかる「有報」の読み方（最新版） 』中央経済社、2017年。 鈴木広樹著『適時開示実務入門 』（第２版）同文舘出版、2017年。 宝印刷総合ディスクロージャー＆IR研究所編『株主総会招集通知作成の実務Ｑ＆Ａ』商事法務、2016年。 宝印刷総合ディスクロージャー＆IR研究所編『適時開示の実務Ｑ＆Ａ』商事法務、2016年。 宝印刷総合ディスクロージャー＆IR研究所監修・新保秀一著『モデルで学ぶ有価証券報告書の仕組みと作り方』中央経済社、2016年。 盛田良久・百合野正博・朴大栄編著『はじめてまなぶ監査論』中央経済社、2017年。 米山徹幸著『イチから知る！IR実務』日刊工業新聞社、2016年。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、変化対応力、自己実現力
教員との連絡方法:	マナビーの掲示板機能 オフィスアワー

435600

京都学概論

山田　　邦和

授業テーマ:　京都の都市史

授業の概要:　都市としての京都の始まりは、桓武天皇による平安京の造営（794年）にまでさかのぼる。それ以来京都は、1200年間以上の永きにわたって、日本の首都として、また日本文明の中心として栄えてきた。京都を知らずして日本を知ることはできないのである。ただ、京都は古代に作られた平安京そのままではない。都市は生き物であり、時代が変わるごとにその構造を変化させていくのである。この授業では、こうした伝統を持つ京都を、「都市史学」という立場から通観することにしたい。

到達目標:　京都とはどんな都市であるか、それぞれの時代に即し、また現地に関連づけて理解する。

授業方法:　講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。なお、授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	京都文化の特質	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
2.	桓武天皇と長岡京	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
3.	桓武天皇と平安京	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
4.	平安京の構造とその変遷	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
5.	平安時代中期の貴族邸宅	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
6.	院政期（平安時代後期）の平安京	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
7.	院政期（平安時代後期）の鳥羽・白河	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
8.	院政期（平安時代後期）の内乱と京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
9.	平家の時代と京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
10.	京・鎌倉時代の京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
11.	南北朝・室町時代の京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
12.	戦国時代の京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
13.	織田信長と京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
14.	豊臣秀吉と京都	教科書の該当部分を精読しておく。また、自主的に京都の史跡を見学することが望ましい。
15.	まとめ	これまでの授業内容をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

フィードバックの方法:　授業中にまとめておこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	授業内容をきちんと理解し、自分の言葉で適切に説明できているか。京都とはどんな都市であるか、それぞれの時代に即し、また現地に関連づけて理解することができているかどうか。

教科書:　仁木宏・山田邦和編『歴史家の案内する京都』（文理閣、2016年、1,800円+税）

参考書:
山田邦和『京都　知られざる歴史探検』上・下巻（新泉社、2017年）
林屋辰三郎『京都』（岩波新書、1962年）
高橋昌明『京都〈千年の都〉の歴史』（岩波新書、2014年）
脇田修・脇田晴子『物語 京都の歴史—花の都の二千年 』（中公新書、2008年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

435900

ヨーロッパの人と社会

立木　　康介

授業テーマ:　映画に学ぶヨーロッパの人と社会

授業の概要:　映画は情報量の多いメディアである。カメラが映し出す対象は、必ずしもプロット（筋）の中心を占める人物や事件ばかりではない。画面の隅々にいたるまで、さまざまな水準のさまざまな事象について、あるときはアップ・ショットであからさまに、あるときは背景にさりげなく、大量のメッセージや情報やヒントが観客に伝達されている。本講義は、そのような映画の特性を最大限に活用し、古典的といってもよい定評あるヨーロッパの名画を手引きとして、ヨーロッパの人と社会の諸相を学ぶことをめざす。本講義で取り上げるフランス、スペインおよびイタリアの秀作は、ヨーロッパ人たちがなにを考え、なにを求め、なにを見出してきたのかを私たちに伝える優れた教材となってくれるだろう。

到達目標:　目の前を流れる映像と音声から可能なかぎり多くの情報を引き出す集中力を身につける。
そうして読みとり、聴きとられたことから、内容を理解し、知識を深め、そこで出会われる諸問題について考察する習慣を獲得する。
以上を通じて、ヨーロッパ人が何を考え、いかに行動するのか、またヨーロッパの歴史や社会がいかに形成されてきたのかを学び取る。

授業方法:　各回の講義（ただし初回を除く）は、1/ 作品や作家についての解説、ポイントの指摘、2/ 作品の鑑賞、3/ ふりかえりとスタディ、の三つのプロセスによって構成される。この三つ目のプロセスの一環として、受講者は授業の最後に（10分間ほど）アンケートに回答することを求められる。そこに記述された回答についての立木のコメントが翌週の授業の導入になる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. イントロダクション:ヨーロッパにおける映画の位置づけと歴史	特になし。ただし、授業には最高度の集中力をもって臨むこと
2.	『軽蔑』(1) 映画の紹介と導入	同上
3.	『軽蔑』(2) ヨーロッパ文化史のなかのゴダール	同上
4.	『軽蔑』(3) 愛情生活における男女の非対称	同上
5.	『軽蔑』(4)「軽蔑」の理由	同上
6.	『カラスの飼育』(1) 映画の紹介と導入	同上
7.	『カラスの飼育』(2) 子供の視点、大人の視点	同上
8.	『カラスの飼育』(3) スペイン内戦と軍事政権の歴史	同上
9.	『カラスの飼育』(4) スペインからヨーロッパを見る	同上
10.	『暗殺の森』(1) 映画の紹介と導入	同上
11.	『暗殺の森』(2) ベルトルッチのイタリア	同上
12.	『暗殺の森』(3) 第一次世界大戦後のヨーロッパとイタリア・ファシズム	同上
13.	『暗殺の森』(4) ファシズムと第二次世界大戦	同上
14.	『暗殺の森』(5) 映画史の中の『暗殺の森』	同上
15.	全体のふりかえり～ヨーロッパ映画の現在と未来	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講義では、授業テーマにかかわる分野での「エリート教育」を行う。したがって、それにふさわしい厳格な授業運営を行う。
本講義における映画の「鑑賞」は、ただ画面に視線を注ぐことではいささかもない。
視覚および聴覚を最高度に緊張させ、シーンや台詞のいかなるディテールも見逃さない、聴き漏らさないという覚悟でなされるべき、いわば「命がけ」の行為である。本講義の受講を希望する者は、その点を肝に銘じること。
あらかじめ以下の点を厳命しておく：授業中の私語は一切認めない。私語をした者にはその場で退出を命じ、以後、本講義への出席を禁じる（もちろん単位は与えない）。授業中にスマートフォンその他を手に取った者も同様に処分する。
また、本講義は、事実上、ふりかえりと解説（前半）・鑑賞とリポート（後半）の二部構成とならざるをえないが、後半のみの出席はいかなる理由があっても許可しない（就職活動やクラブ活動も理由とはみなさない）。
欠席はやむをえない場合を除いて2回までしか認めない。15分以上の遅刻は欠席とみなし、入室を禁じる。なお、就職活動による欠席も例外なく「欠席」とみなす。
座席は全席指定する。A4の紙を三つ折りにした三角柱の一面に氏名を横書きしたものを毎回必ず持参し、指定された机に置くこと。これを怠った受講生も例外なく欠席とみなす。

フィードバックの方法:　毎回の授業の前半に、前週のアンケートについて総評し、ピックアップされた回答にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の提出物	100	出席の有無。及び、視聴した映画の内容をいかに正確に捉えたか、あるいは、与えられた情報からいかなる推論を行ったかを問う。

教科書:

参考書:　ジル・ドゥルーズ『シネマ』(1, 2) 法政大学出版局

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。

436000

ヨーロッパの人と文化

立木　　康介

授業テーマ:　映画に学ぶヨーロッパの人と文化

授業の概要:　映画は情報量の多いメディアである。カメラが映し出す対象は、必ずしもプロット(筋)の中心を占める人物や事件ばかりではない。画面の隅々にいたるまで、さまざまな水準のさまざまな事象について、あるときはアップ・ショットであからさまに、あるときは背景にさりげなく、大量のメッセージや情報やヒントが観客に伝達されている。本講義は、そのような映画の特性を最大限に活用し、古典的といってもよい定評あるヨーロッパの名画を手引きとして、ヨーロッパの人と文化の諸相を学ぶことをめざす。本講義で取り上げるイタリア・フランスおよびドイツの秀作は、ヨーロッパ人たちがなにを考え、なにを求め、なにを見出してきたのかを私たちに伝える優れた教材となってくれるだろう。

到達目標:　目の前を流れる映像と音声から可能なかぎり多くの情報を引き出す集中力を身につける。
そうして読みとり、聴きとられたことから、内容を理解し、知識を深め、そこで出会われる諸問題について考察する習慣を獲得する。
以上を通じて、ヨーロッパ人が何を考え、いかに行動するのか、またヨーロッパの歴史や文化がいかに形成されてきたのかを学び取る。

授業方法:　各回の講義(ただし初回を除く)は、1/作品や作家についての解説、ポイントの指摘、2/ 作品の鑑賞、3/ ふりかえりとスタディ、の三つのプロセスによって構成される。この三つ目のプロセスの一環として、受講者は授業の最後に(10分間ほど)アンケートに回答することを求められる。そこに記述された回答についての立木のコメントが翌週の授業の導入になる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:ヨーロッパにおける映画の位置づけと歴史	特になし。ただし、授業には最高度の集中力をもって臨むこと
2.	『アメリカの夜』(1)映画の紹介と導入	同上
3.	『アメリカの夜』(2)ヨーロッパ映画の国際性	同上
4.	『アメリカの夜』(3)映画を「読む」～ヒロインの人生と役柄の交錯	同上
5.	『アメリカの夜』(4)トリュフォーと映画	同上
6.	『アメリカの夜』(5)ヌーヴェル・ヴァーグの光芒	同上
7.	『自転車泥棒』(1)映画の紹介と導入	同上
8.	『自転車泥棒』(2)映画と社会的現実	同上
9.	『自転車泥棒』(3)第二次世界大戦後のイタリア	同上
10.	『自転車泥棒』(4)ネオレアリスモと「そぞろ歩き」	同上
11.	『ベルリン天使の詩』(1)映画の紹介と導入	同上
12.	『ベルリン天使の詩』(2)ヨーロッパにおける人の移動	同上
13.	『ベルリン天使の詩』(3)ベルリンの今昔	同上
14.	『ベルリン天使の詩』(4)歴史のなかの人、歴史のなかの都市	同上
15.	全体のふりかえり～ヨーロッパ映画の現在と未来	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講義では、授業テーマにかかわる分野での「エリート教育」を行う。したがって、それにふさわしい厳格な授業運営を行う。
本講義における映画の「鑑賞」は、ただ画面に視線を注ぐことではいささかもない。
視覚および聴覚を最高度に緊張させ、シーンや台詞のいかなるディテールも見逃さない、聴き漏らさないという覚悟でなされるべき、いわば「命がけ」の行為である。本講義の受講を希望する者は、その点を肝に銘じること。
あらかじめ以下の点を厳命しておく:授業中の私語は一切認めない。 私語をした者にはその場で退出を命じ、以後、本講義への出席を禁じる(もちろん単位は与えない)。授業中にスマートフォンその他を手に取った者も同様に処分する。
また、本講義は、事実上、ふりかえりと解説(前半)・鑑賞とリポート(後半)の二部構成とならざるをえないが、後半のみの出席はいかなる理由があっても許可しない(就職活動や部活も理由とはみなさない)。
欠席はやむをえない場合を除いて2回までしか認めない。15分以上の遅刻は欠席とみなし、入室を禁じる。なお、就職活動による欠席も例外なく「欠席」とみなす。
座席は全席指定する。A4の紙を三つ折りにした三角柱の一面に氏名を横書きしたものを毎回必ず持参し、指定された机に置くこと。これを怠った受講生も例外なく欠席とみなす。

フィードバックの方法:　毎回の授業の前半に、前週のアンケートについて総評し、ピックアップされた回答にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の提出物	100	出席の有無。及び、視聴した映画の内容をいかに正確に捉えたか、あるいは、与えられた情報からいかなる推論を行ったかを問う。いい加減な回答は減点。

教科書:

参考書:　ジル・ドゥルーズ『シネマ』(1, 2)法政大学出版局

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

436100

アジア地域文化論

朱　　捷

授業テーマ:　漢字と漢字文化的思考

授業の概要:　漢字は一時は近代化にそぐわないものと見なされて、日本にも中国にも漢字廃止が真剣に考えられていた。しかし、情報化社会を迎えた今日では、時代にそぐわないどころか、漢字はますます脚光を浴びるようになっている。漢字の歴史を振り返り、いまなぜ漢字が見直されているのか、漢字のどこが見直されているのか、を検討しつつ、漢字を使う中国人の思考様式にどんな特徴があり、それがいまの時代にどんな示唆を与えうるかを考察する。

到達目標:
〇漢字の特徴について初歩的な知識を持つ。
〇書の歴史について初歩的な知識を持つ。
〇漢字と漢字文化について初歩的な知識を習得することにより、複眼的な視点より多文化社会を理解する力を持つ。
〇グループディスカッションや発表を通して、思考力や表現力を身につける。

授業方法:　アクティブラーニング形式、すなわち履修者も一緒に授業をつくっていく参加型の講義。
プリントを配り、写真・映像資料とパワーポイントを併用して講義を進めるが、履修者の積極的な参加を求める。毎回グループディスカッションを行い、グループごとに発表してもらったうえ、講義を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスをよく読んでくる。
2.	漢字と中国文明の安定性	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
3.	漢字の図形と経済性	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
4.	漢字の多義性ー外来語訳を中心に	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
5.	漢字の多義性ー漢字の分解を中心に	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
6.	漢字音の多様性	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
7.	漢字の図形と線	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
8.	漢字は感字	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
9.	漢字の線と音楽	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
10.	書の歴史ー甲骨文字・金文・篆書	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
11.	書の歴史ー隷書	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
12.	書の歴史ー草書・行書・楷書	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
13.	ひらがなの誕生	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
14.	回文にみる漢字文化的思考	予習用プリントを読んで、課題を調べる。
15.	総括	予習用プリントを読んで、課題を調べる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　慣れ親しんでいる漢字の奥に、見知らぬ魅力的な世界があります。ともに探索していきましょう。

フィードバックの方法:　採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	60	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	30	しっかり予習して準備したうえでグループディスカッションに参加しているかどうか、グループディスカッションに貢献しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:

参考書:
白川静『漢字ー生い立ちとその背景』(岩波新書、1970年)
阿辻哲次『漢字再入門』(中公新書、2013年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

436300

京都フィールドワーク

天野　　太郎

授業テーマ:
京都をあるき、京都をまなぶ—京都を中心としたフィールドワーク:観光や文化から京都地域の総合的な理解をはかる

授業の概要:
京都地域を総合的に幅広い観点から学習し、また研究を進めていく上では、地域の特性、歴史などの基礎知識の上に、フィールドワークの基本的なもとで、京都を実際に歩き、現地学習を行うことが必要不可欠である。こうした観点から、この授業では、京都に関する基礎学習、フィールドワークに関する基本的な手法に関して学ぶとともに、受講学生と相談した上で目的地を設定し、実際に京都地域(宇治、京田辺、八幡などの周辺地域も含む)また、隣接する大阪や奈良にも焦点をあてながら、現地フィールドワークを通して学習することを目的とする。

到達目標:
1:フィールドワークに関する基本的手法の獲得を通して、京都地域の総合的な学問領域である京都学の理解を深めるとともに、関連して京都観光、さらには他地域におけるフィールドワークに応用が可能な技能の獲得をめざす。さらにそうした作業を通して、修得した知識や技術を統合し、その成果をもとによりよい地域社会の構築に寄与する能力のj獲得をを目指す。
2:国際観光都市としての「京都」、京都地域に対する総合的な理解をめざす。

授業方法:
現地学習を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス	配布資料の確認
2.	フィールドワーク目的地の選定　京都フィールドワーク実施の上での基礎技術(1)地図／地形図等の図像資料の活用	配布資料の確認、フィールドワーク目的地の検討
3.	京都フィールドワーク実施の上での基礎技術(1)地図／地形図等の図像資料の活用2	配布資料の確認、フィールドワーク目的地の検討
4.	＊現地フィールドワーク(1)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
5.	＊現地フィールドワーク(2)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
6.	＊現地フィールドワーク(3)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
7.	＊現地フィールドワーク(4)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
8.	＊現地フィールドワーク(5)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
9.	＊現地フィールドワーク(6)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
10.	＊現地フィールドワーク(7)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
11.	＊現地フィールドワーク(8)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
12.	＊現地フィールドワーク(9)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
13.	＊現地フィールドワーク(10)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
14.	＊現地フィールドワーク(11)	現地コースの文化、観光に関する事前学習
15.	全体の総括　京都の地域構造のありかた	フィールドワークコースについての全体の振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:
(1)受講キャンパス:具体的には、京田辺キャンパス内での学習、実習と同時に、京都市内をはじめとした周辺地域での現地学習を併用する。
(2)受講時間:本授業は、学外フィールドワークを実施する。移動時間を考えると通常授業時間内では効果が得にくいため、2／3時間目の連続講義とし、隔週でおこなう。具体的な開始時刻／場所などは講義内で指示する。
(3)本講義は、フィールドワーク実習を伴うため登録人数多数の場合は、受講者選考をおこなう。また
(4)現地学習(京都市内中心ならびに関連テーマにより隣接する大阪・奈良・滋賀なども含む)をおこなうため、現地までの交通費／当日の見学費は、原則として自己負担となる。

フィードバックの方法:
授業中に個別・全体に対してフィードバックを随時おこなう

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
現地でのミニ説明・コメント	100	到達目標1、2の達成を総合的に評価する。

教科書:
特になし。必要に応じてフィールドワーク場所について資料配布をおこなう。

参考書:
天野太郎監修『古地図で歩く古都・京都』三栄書房、2016
天野太郎監修『イラストでみる200年前の京都』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
授業中に行うとともに、マナビー、メールなどを総合的に活用する。

436500

カウンセリング論

大庭　　輝

授業テーマ:　カウンセリングの理論と基本的な技法について学ぶ。

授業の概要:　本授業では、精神分析や認知行動療法などのカウンセリングの諸理論について紹介し、カウンセリングを行う上での基本的な態度や技法についてマイクロカウンセリングの手法を体験を通して学ぶ。これらを通して、他者に対する心理支援の方法について理解を深める。

到達目標:
1. さまざまなカウンセリングの理論に関する基本的な知識を習得する。
2. カウンセリングを行う上での基本的な態度について理解する。
3. カウンセリングの基本的な技法を日常で意識できる。

授業方法:　講義を中心に、体験実習やグループワークを取り入れる。適宜授業中に小レポートの提出を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・カウンセリングの考え方	
2.	カウンセリング理論(1)　精神分析的心理療法・来談者中心療法	授業で配布したプリントの予習・復習
3.	カウンセリング理論(2)　認知療法・行動療法	授業で配布したプリントの予習・復習
4.	カウンセリング理論(3)　その他の理論	授業で配布したプリントの予習・復習
5.	カウンセリング技法概論	授業で配布したプリントの予習・復習
6.	カウンセリング技法(1)　信頼関係の形成	授業で配布したプリントの予習・復習
7.	カウンセリング技法(2)　開かれた質問と閉ざされた質問	授業で配布したプリントの予習・復習
8.	カウンセリング技法(3)　事実の明確化	授業で配布したプリントの予習・復習
9.	カウンセリング技法(4)　感情の理解	授業で配布したプリントの予習・復習
10.	カウンセリング技法(5)　傾聴	授業で配布したプリントの予習・復習
11.	カウンセリング技法(6)　積極技法	授業で配布したプリントの予習・復習
12.	カウンセリングのプロセス(1)　面接初期	授業で配布したプリントの予習・復習
13.	カウンセリングのプロセス(2)　面接中期	授業で配布したプリントの予習・復習
14.	カウンセリングのプロセス(3)　面接後期	授業で配布したプリントの予習・復習
15.	カウンセリング論総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問について授業内でフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標1に対する知識と理解度により評価する
授業への参加度	50	授業への出席頻度及び小レポートでの到達目標2, 3に対する考え方により評価する

教科書:

参考書:
玉瀬耕治 『カウンセリングの技法を学ぶ』 有斐閣
諸富祥彦 『新しいカウンセリングの技法:カウンセリングのプロセスと具体的な進め方』 誠信書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力・コミュニケーション力・思いやる力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応

436600

現代教育学

小山　　裕樹

授業テーマ:　子どもと哲学

授業の概要:　ユネスコが第二次世界大戦後に子どもの「哲学教育」に取り組み始めてから、その対象年齢は徐々に拡大していき、現在、世界中の多くの国々で、就学前の子どもに向けた哲学教育が実践されていると言われています。なるほど分厚い哲学書を精緻に読み解く高度に知的な営みは大人のものですが、小さな子どもが世界に出会ったときに発する純粋でときに本質的な問いは、「哲学」の重要な源泉なのかもしれません。本講義では、こうした問題関心のもと、共通のテキストを一緒に読み進めていく演習を通して、「子どもと哲学」というテーマについてともに考えていきます。

到達目標:　①「子どもと哲学」という観点から、現代社会を生きる人間の諸問題を理解する力を持っている。
②①の力に基づいて自らの考えを主体的に発信しつつ、他者との協同的な関係のなかでお互いの考えを共有し合いながらよりよい問題解決を図ろうとする態度や能力を身に付けている。

授業方法:　1～4回目までは本講義のテーマに関する入門講義を行い、5回目以降は受講者による発表と討論を中心に講義を進めていきます。5回目以降は、各自テキストの該当部分を読んで、予習と討論の準備をしてきてください。また、各回の発表の担当者になった場合は、発表の準備をしてきてください。詳しくは、オリエンテーションのときに説明します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	「哲学」一般に対するイメージを考えておく。
2.	「子どもと哲学」というテーマに関する入門講義①	講義のなかで扱った内容を講義後に復習しておく。
3.	「子どもと哲学」というテーマに関する入門講義②	講義のなかで扱った内容を講義後に復習しておく。
4.	「子どもと哲学」というテーマに関する入門講義③	講義のなかで扱った内容を講義後に復習しておく。
5.	「子どもと哲学」①――世界が「存在する」ということをめぐる問い(1)	テキストの第1章の前半部分を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
6.	「子どもと哲学」②――世界が「存在する」ということをめぐる問い(2)	テキストの第1章の後半部分を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
7.	「子どもと哲学」③――「自分」をめぐる問い(1)	テキストの第2章の前半部分を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
8.	「子どもと哲学」④――「自分」をめぐる問い(2)	テキストの第2章の後半部分を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
9.	「子どもと哲学」⑤――「世の中」のなかにいる自分をめぐる問い	テキストの第3章を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
10.	「子どもと哲学」⑥――自分と「他者」をめぐる問い	テキストの第4章を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
11.	「子どもと哲学」⑦――哲学の効用	テキストの第5章を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
12.	「子どもと哲学」⑧――哲学を学ぶことと教えること(1)	テキストの第6章の前半部分を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
13.	「子どもと哲学」⑨――哲学を学ぶことと教えること(2)	テキストの第6章の後半部分を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
14.	「子どもと哲学」⑩――哲学をする場所	テキストの第7章を読み、予習をしておく。発表の担当者になった場合は、発表の準備をしておく。
15.	総括――子どもとともに哲学をするということ	講義中に指示する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義への積極的な参加を期待しています。

フィードバックの方法:　各回の発表に対しては、出来る限り丁寧なコメントをお返しします。また、各回の討論等のなかで出てきた疑問点などについても、教室で解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表と討論への参加	50	「子どもと哲学」という観点から現代社会の諸問題を理解する力を持ち、その力に基づいて自らの考えを主体的に発表しつつ、他者との討論のなかでお互いの考えを共有してよりよい問題解決を図ろうとしているかどうかを、担当回の発表の質や各回の討論への参加状況から評価します。
学期末レポート	50	「子どもと哲学」という観点から現代社会の諸問題を理解する力を持ち、その力に基づいて自らの考えを主体的かつ説得力を持って表明できているかどうかを、学期末レポートの質から評価します。

教科書:　森田伸子『子どもと哲学を――問いから希望へ』(勁草書房、2011年)

参考書:　講義中に適宜紹介します。また、テキスト内で紹介されている文献も参考にしてください。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール(初回の講義時に指示します)、講義の前後に教室内で対応

436700

障害学

草山　　太郎

授業テーマ:　障害とはなにか／障害者とはだれか

授業の概要:　「障害って、なに？」という問いに、あなたはどのように答えるでしょうか。「耳が聞こえないこと」「自分の足で歩けないこと」。たしかにそれらは「障害」です。しかし、それらは「障害」の一側面でしかありません。では、他の側面とはどのようなものなのでしょうか。
　もうひとつ。「目が見えない人が本を読めないのは、なぜ？」と問われると、多くの人は「目が見えないから」と回答するように思います。しかし、ほんとうにそうなのでしょうか。
　この講義では、従来の障害研究と障害学の違いや障害観の変遷とその現在について知り、障害を社会によって構築されるものとしてとらえる「障害の社会モデル」を理解したうえで、障害と文化、障害とアイデンティティ、障害と優生思想など障害に関わるさまざまなトピックについて学びます。

到達目標:　1.「障害の社会モデル」を理解する。
2.「障害」というトピックをとおして、社会のあり方を考えることができる。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	障害学とは	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
2.	障害観をめぐって（1） 障害観の変遷	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
3.	障害観をめぐって（2） 障害観の現在	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
4.	障害の医学モデルと社会モデル（1） 障害の医学モデル	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
5.	障害の医学モデルと社会モデル（2） 障害の社会モデル	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
6.	障害と文化（1） 手の言葉で生きる	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
7.	障害と文化（2） ろう文化宣言をめぐって	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
8.	障害と文化（3） 感動ポルノをめぐって	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
9.	障害とアイデンティティ（1） スティグマの受け入れ	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
10.	障害とアイデンティティ（2） スティグマからの逃走	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
11.	障害とアイデンティティ（3） スティグマとの闘争	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
12.	障害と優生思想（1） 優生思想とは	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
13.	障害と優生思想（2） 出生前診断とは	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。

14.	障害と優生思想（3） いのちの選別をめぐって	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。
15.	まとめ	講義前には、ニュース等で障害に関わるできごとをチェックし、いま、どのようなことが起きているのかを知って授業に臨んでください。 講義後は、資料を読み返し、自分で説明を試みる等の方法で、講義内容が理解できているか確認してください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

「障害」に関するできごとは、日々、さまざまなことがさまざまなところで生じています。ためしに、新聞（スマホでネットニュース）を開いてチェックしてください。たとえば、いま私の手元にあるスマホでこの原稿を書いている日の某新聞社のデジタル版を「障害」で検索してみると、「障害理解に交流が大切」「花で支える障害者の就労支援」「みんながはじめる場作る」他たくさんの記事がでてきます。そして、じつは、それらはわたしたちの生活と無関係ではありません。
「障害」に関心がある方はもちろんのこと、社会のありかたを問い直したい、あるいは、人間ってなんだろう、ということに関心がある方などに受講していただければと思っています。

フィードバックの方法:

毎時間、その授業において生じた質問や、学んだことをとおして感じ、考えた内容をコメントペーパーに記述して提出してもらいます。その中での受講生全体にフィードバックすべき内容については、それをまとめた紹介資料を配布し、それをもとに次回の授業の冒頭で解説を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	到達目標1.および到達目標2.の到達度により評価する。
出席及びコメントペーパーの提出	30	毎時提出してもらうコメントペーパーの内容を評価する。

教科書:

参考書:

石川准・長瀬修編著『障害学への招待』（明石書店）
石川准・倉本智明編著『障害学の主張』（明石書店）
倉本智明『だれかふつうを、教えてくれ！』（イースト・プレス）
倉本智明編著『セクシュアリティの障害学』（明石書店）
倉本智明編著『手招くフリーク　文化と表現の障害学』（生活書院）
前田拓也『介助現場の社会学　身体障害者の自立生活と介助者のリアリティ』（生活書院）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

436800

民法Ⅰ

鈴木　　尊明

授業テーマ:　民法総則、物権法（担保物権法を除く）

授業の概要:

この講義では、「民法」に関する基礎的な知識を学び、今後の学習や関連科目へつながる考え方を獲得できるよう学びます。

民法は市民社会の基本法ですから、定める内容は膨大かつ難解です。しかし、民法に限らずおよそ「法」は人間が作り出したものなのですから（学説上の争いはあります）、およそ常識にかなったことが定められています。問題なのは、法律の中にある条文が、具体的にどのような場面を想定して作られたものなのかを、思い浮かべることができるかどうかです。具体例を使いながら、民法を貫く考え方がどのようなものなのか見ていきます。

「民法I」では、編別でいうところの、民法総則から始めて、物権法の前半部分までを扱います。「民法II」と連続で受講してもらえば、1年間で民法全体を見渡すことができますが、どちらか単独で受講してもらっても大丈夫なように配慮します（実際、そのような学生が多く履修し、良い成績を得ていますのでご心配なく）。

到達目標:

〇六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。
※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

授業方法:　レジュメを配布し、それに沿って講義形式で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション　～民法の基本構造	1年次に履修したの「現代社会と民事法」の内容を復習しておく。
2.	権利の主体と客体	1年次に学んだ「人」と「物」の峻別について復習しておく。
3.	意思能力・行為能力	
4.	意思表示part.1　～法律行為論	
5.	意思表示part.2　～94条2項類推適用論	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
6.	小テスト①　＋　代理part.1　～代理効の発生	これまでの内容を復習しておく。
7.	代理part.2	
8.	代理part.3	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
9.	時効	
10.	物権総論	「物権」と「債権」の区別について復習しておく。
11.	小テスト②　＋　不動産物権変動論part.1	これまでの内容を復習しておく。
12.	不動産物権変動論part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
13.	動産物権変動論	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
14.	民法総則・物権法の総括	パンデクテン体系の財産法前半部分を復習しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

1年次の「現代社会と民事法」は社会に存在する様々な問題に自由にアプローチしましたが、この「民法」の科目は、専門科目として、ごく普通に民法の内容を講義することになります。若干雰囲気は異なるものになりますが、楽しく勉強できるように私も努力しますので、皆さんの協力をお願いします。

なお、必修科目でない以上、履修する限りは「民法」に興味があるものと理解して講義しますので、単位が欲しいだけの方には苦痛でしかないことはあらかじめお断りしておきます。

フィードバックの方法:　授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	授業内容に関する問題を出題する。
小テスト	20	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。

教科書:　六法（どのようなものでも良いです）
※民法が改正され、2020年の施行が予定されています。この授業を履修するのが2年生中心であることを考慮し、本年度から改正法で授業を行います。そのため、改正民法が収録された六法をお持ちください。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

436900

民法Ⅱ

鈴木　　尊明

授業テーマ:　債権総論、債権各論

授業の概要:

この講義では、「民法」に関する基礎的な知識を学び、今後の学習や関連科目へつながる考え方を獲得することを目標とします。

民法は市民社会の基本法ですから、定める内容は膨大かつ難解です。しかし、民法に限らずおよそ「法」は人間が作り出したものなのですから（学説上の争いはあります）、およそ常識にかなったことが定められています。問題なのは、法律の中にある条文が、具体的にどのような場面を想定して作られたものなのかを、思い浮かべることができるかどうかです。具体例を使いながら、民法を貫く考え方がどのようなものなのか見ていきます。

「民法Ⅱ」では、編別でいうところの、債権総論の前半部分（「民法Ⅰ」で扱う内容の復習）から始めて、債権各論を中心に扱います。「民法Ⅰ」と連続で受講してもらえば、1年間で全体を見渡すことができますが、どちらか単独で受講してもらっても大丈夫なように配慮します（実際、そのような学生が多く履修し、良い成績を得ていますのでご心配なく）。

到達目標:

〇六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。
※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

授業方法:　レジュメを配布し、それに沿って講義形式で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション　～債権の一生	1年次に履修した「現代社会と民事法」の内容を復習しておく。
2.	債務不履行論	
3.	解除	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
4.	弁済	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
5.	小テスト①　＋　双務契約の基本part.1	これまでの内容を復習しておく。
6.	双務契約の基本part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
7.	売買契約における担保責任（1）	
8.	売買契約における担保責任（2）	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
9.	賃貸借契約	
10.	請負契約　＋　その他の典型契約	
11.	小テスト②　＋　不法行為（1）	1年次に履修した「現代社会の民事法」の内容を復習しておく。
12.	不法行為（2）	
13.	不法行為（3）　＋　その他法定債権	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
14.	債権法の総括	パンデクテン体系の財産法後半部分を復習しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

1年次の「現代社会と民事法」は社会に存在する様々な問題に自由にアプローチしましたが、この「民法」の科目は、専門科目として、ごく普通に民法の内容を講義することになります。若干雰囲気は異なるものになりますが、楽しく勉強できるように私も努力しますので、皆さんの協力をお願いします。

なお、必修科目でない以上、履修する限りは「民法」に興味があるものと理解して講義しますので、単位が欲しいだけの方には苦痛でしかないことはあらかじめお断りしておきます。

フィードバックの方法:　授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	授業内容に関する問題を出題する。
小テスト	20	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。

教科書:　六法
※民法が改正され、2020年の施行が予定されています。この授業を履修するのが2年生中心であることを考慮し、本年度から改正法で授業を行います。そのため、改正民法が収録された六法をお持ちください。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

437000

金融取引と法

鈴木　　尊明

授業テーマ:　金融取引と債権回収

授業の概要:

お金を貸した者は、借りた者がきちんと返してくれるのか、とても心配になるのが普通でしょう。貸す相手をよく知っていたとしても、大金を何の手当もなく貸すことは躊躇われます。そこで、いざというときのため、相手の財産に印をつけ、そこから回収できるようにしておくということが、金融取引の場面では一般的に行われています。これが、「債権回収を確実にするために担保をとる」ということです。

この講義では、民法に定められている担保方法を中心に、実務界で発展した担保的機能を営む制度も含めて説明します。金融取引における債権回収はとてもダイナミックな世界であり、じっくり取り組む必要があるものの、とても面白い分野です。その面白さを理解できるようになることを目標とします。

到達目標:

〇六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。
※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

授業方法:

レジュメを配布し、それに沿って講義形式で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション　～金銭消費貸借契約と担保	1年次に履修した「現代社会と民事法」の内容を復習しておく。
2.	責任財産保全（1）：債権者代位権	
3.	責任財産保全（2）：詐害行為取消権	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
4.	人的担保（1）：複数当事者への債権債務帰属関係	
5.	人的担保（2）：保証part.1	
6.	人的担保（3）：保証part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
7.	小テスト①　＋　弁済による代位	
8.	物的担保（1）：抵当権part.1	
9.	物的担保（2）：抵当権part.2	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
10.	物的担保（3）：抵当権part.3	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
11.	物的担保（4）：その他の典型担保と非典型担保	
12.	小テスト②　＋　担保的機能を営む諸制度（1）：債権譲渡	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
13.	担保的機能を営む諸制度（2）：相殺	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
14.	金融・担保法の総括	演習課題を配布するので、事前に解いておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

1年次の「現代社会と民事法」は社会に存在する様々な問題に自由にアプローチしましたが、この「金融取引と法」の科目は、専門科目として、ごく普通に民法の内容を講義することになります。若干雰囲気は異なるものになりますが、楽しく勉強できるように私も努力しますので、皆さんの協力をお願いします。

なお、必修科目でない以上、履修する限りは「民法」に興味があるものと理解して講義しますので、単位が欲しいだけの方には苦痛でしかないことはあらかじめお断りしておきます。

フィードバックの方法:

授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80	授業内容に関する問題を出題する。
小テスト	20	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。

教科書:

六法
※民法が改正され、2020年の施行が予定されています。この授業を履修するのが2年生中心であることを考慮し、本年度から改正法で授業を行います。そのため、改正民法が収録された六法をお持ちください。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

437100

商法

栗山　　修

授業テーマ:　「商法」の基礎知識を習得する

授業の概要:　企業に関する法である「商法」の中心は会社法である。平成17年に制定され平成26年に改正がなされた同法は、会社を株式会社と持分会社（合名会社・合資会社・合同会社）に区分して規定する。授業では、株式会社の法規制の内容を中心にそのポイントを解説する。金融商品取引法や手形法・小切手法の重要な規定についても言及する。

到達目標:　①「商法」は企業に関する法であることを理解する。②株式会社と持分会社の共通点と相違点を習得する。③M&AやCSRの法的意義について理解する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「商法」の意義	授業時に配布する「レジュメ」と最新版(平成29年版）の六法を持参すること
2.	「会社」の基本概念	同上
3.	「会社」の種類とその特徴	同上
4.	株式会社の設立	同上
5.	「株式」の意義と特徴	同上
6.	株主平等の原則	同上
7.	株式会社の「機関」	同上
8.	株主総会の意義と特徴（1）	同上
9.	株主総会の意義と特徴（2）	同上
10.	取締役＆取締役会の意義と特徴（1）	同上
11.	取締役＆取締役会の意義と特徴（2）	同上
12.	監査役（会）の意義と特徴	同上
13.	会計参与＆会計監査人の意義と特徴	同上
14.	金融商品取引法・手形法・小切手法の概要	同上
15.	知識確認テスト	

受講者へのメッセージやアドバイス:　「レジュメ」と最新版の六法を持参すること

フィードバックの方法:　最終の授業時に「知識確認テスト」をし、その解答を解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出された「レポート」の内容	70%	「課題」について論理的な説明がなされ自己の意見が示されているかを基準とする。
「知識確認テスト」の点数	30%	「商法」の基礎知識の習得度を基準とする。

教科書:　使用しない

参考書:
近藤ほか・現代商法入門（第9版）　有斐閣
近藤ほか・基礎から学べる会社法（第4版）　弘文堂
神田秀樹・会社法（第19版）　弘文堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、

教員との連絡方法:　kuriyama@inst.kobe-cufs.ac.jp

437200

家族法

渡邉　　泰彦

授業テーマ:　家族(夫婦・親子)と相続に関する法制度の概要を理解する。

授業の概要:　民法の家族に関わる分野として、夫婦と親子を中心とする親族編と、法定相続と遺言を中心とする相続編の基本的な構造を扱う。Liberal Artsとしての家族法という観点から、社会に存在する法律問題を発見できる能力と必要な知識として、基本的な内容を体系的に理解することを目的とする。講義1～8回では親族編、9回以降では相続編を講義する。より詳しい問題および現在の社会で生じている問題については、家庭生活と法で扱う。

到達目標:
1民法親族・相続編の基本的な概念と構造を理解する。
2婚姻締結の要件、婚姻の効果、離婚の要件と効果を理解する。
3法律上の親子関係が生じる原因、親権者の責任を理解する。
4相続開始から遺産分割にいたるまでの概要を理解する。
5遺言の作成方法、遺言事項の内容、遺留分による限界を理解する。
6社会における問題を法律学的に理解し、説明する。

授業方法:
講義
授業で配布するレジュメをもとに、教科書を参照しながら講義する。授業では受講者に授業のテーマに関する一般的な内容について受講者の関心や意識を知るため、また予習の課題、過去の講義の内容を確認するため質問をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	家族法概論・婚姻締結	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。
2.	婚姻の効果	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
3.	離婚	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
4.	離婚効果	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
5.	親子・嫡出子	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
6.	認知・縁組	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
7.	親権	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
8.	成年後見	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
9.	法定相続人・相続分	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
10.	相続開始から遺産分割まで	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
11.	遺産分割	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
12.	遺言の形式	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
13.	遺言の内容と実現	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
14.	遺留分	予習課題について、教科書の該当箇所を確認する。前回の授業の内容を理解する。
15.	まとめ	すべての内容について、確認し、理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
本年度は、教科書を指定し、一定の予習ができるようにします。また、授業内容を自分で理解する復習がきちんとできているのかを重視します。
「このような規定や判例がある」というのではなく、「なぜ、このような規定があるのか」「判例の理由は何か」を考えるきっかけを講義では考えてください。

フィードバックの方法:
質問用紙などがある場合には、マナビーで返却するほか、必要な場合には教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	到達目標1の理解度により評価する。そのために、同2から5までに関する基礎的な知識の有無、簡略な事例問題への対応から評価する。
授業への参加度	20	授業に積極的に参加し、到達目標6ができているのかを評価する。

教科書:
本山敦・青竹美佳・羽生香織・水野貴浩『家族法』(日評ベーシックシリーズ)　日本評論社

参考書:
六法
青竹美佳・金子敬明・幡野弘樹『民法判例30! 5 親族・相続』有斐閣

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能を利用する

437400

企業と法

栗山　　修

授業テーマ:　「会社法」の基礎知識の習得

授業の概要:　平成17年に制定され平成26年に改正された「会社法」は、会社を株式会社と持分会社に区分して規定する。授業では、株式会社と持分会社の法的共通点と相違点を考察する。その後に、株式会社の設立・「株式」の意義と特徴・株主平等の原則・株式会社の「機関」・株主総会・取締役（会）・監査役（会）等のポイントを解説する。また、株式会社の資金調達方法についても言及する。

到達目標:　①株式会社と持分会社の法的共通点と相違点を理解する。②株主総会・取締役（会）等の「機関」のポイントを習得する。③株式会社の資金調達方法を理解する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「会社法」の意義	授業時に配布する「レジュメ」と最新版（平成29年版）の六法を持参すること
2.	持分会社の意義と種類	同上
3.	株式会社の特徴	同上
4.	株式会社の設立	同上
5.	「株式」の意義	同上
6.	株主平等の原則	同上
7.	株式会社の「機関」	同上
8.	株主総会（1）	同上
9.	株主総会（2）	同上
10.	取締役＆取締役会（1）	同上
11.	取締役＆取締役会（2）	同上
12.	会計参与＆会計監査人	同上
13.	監査役＆監査役会	同上
14.	株式会社の資金調達方法	同上
15.	知識確認テスト	

受講者へのメッセージやアドバイス:　「レジュメ」と最新版（平成30年版）の六法を持参すること

フィードバックの方法:　「知識確認テスト」の解答を解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出された「レポート」の内容	70%	理論的な説明がなされ自己の意見が示されていることを基準とする
「知識確認テスト」の点数	30＆	解答の正解率を基準とする

教科書:　使用しない

参考書:　神田秀樹・会社法（第19版）　弘文堂
伊藤ほか・会社法（第3版）　有斐閣
高橋ほか・会社法　弘文堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　kuriyama@inst.kobe-cufs.ac.jp

437900

社会保障と法

植村　　新

授業テーマ:　社会保障制度とその法的問題

授業の概要:　社会保障とは、私たちが様々な生活上のリスク（病気・怪我、障害、老齢、失業など）に晒されたときにも健やかで安心できる生活を送ることができるよう、生活を支える給付（医療・介護・所得保障など）を行う公的なシステムです。
本講義では、日常生活のセーフティーネットと言える社会保障制度の内容を概観するとともに、その法的な問題を解説します。

到達目標:
1. 社会保障の基本的な制度内容を理解する
2. 社会保障制度上の法的な問題を理解する
3. 社会保障をめぐって現在生じている問題を法的に把握し、考察できるようになる

授業方法:　講義（教科書に則して進めます。適宜レジュメも配布する予定です）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
2.	医療保険(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
3.	医療保険(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
4.	医療保険(3)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
5.	生活保護(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
6.	生活保護(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
7.	社会福祉制度	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
8.	介護保険(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
9.	介護保険(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
10.	年金(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
11.	年金(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
12.	雇用保険	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
13.	労災保険(1)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
14.	労災保険(2)	レジュメ・教科書による講義の予習・復習
15.	まとめ	レジュメ・教科書による講義の予習・復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　少子高齢化や就業構造の変化、経済の低成長などの社会・経済状況の変化を受けて、社会保障制度は様々な課題に直面しています。激動の時代のなかで、社会保障法制はどうあるべきかを主体的に考える力を身につけてください。

フィードバックの方法:　小テストを実施したり質問用紙を配布したりして、疑問点や要望に対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	授業内容の理解度により評価します。

教科書:　ガイダンスにおいて指示します（教科書の改訂が予想されるため）。

参考書:
西村健一郎『社会保障法入門（第3版）』（有斐閣、2017年）
加藤智章・菊池馨実・倉田聡・前田雅子『社会保障法（第6版）』（有斐閣、2015年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応するほか、メールでの質問等を受け付けます。

438000

税金と法

占部　　裕典

授業テーマ:

消費税における軽減税率の問題、相続税法改正による相続税対策の問題、タックスヘイブンを利用した国際租税回避の問題等々、日々の新聞で税金に関する記事が掲載されていないことはない。私たちに身近な税金を取り上げて、課税のための要件や問題点などを考える。
現行税制についての基礎的知識を提供するとともに、現行税制の抱える課題を議論する。そのうえで、相続税、消費税等を中心に、今後のあるべき税制を検討する。

授業の概要:

私たちの生活と密接にかかわる所得税、相続税、消費税・贈与税を中心に、基本的な課税要件（法解釈や判例を含む）に係る基礎知識を示す。税額計算の枠組みを理解した上で簡単な税額計算を行う。適宜、税法改正の時々的な問題についても検討する。
毎回、授業で取り上げる内容について、重要な論点について出席者で意見交換を行う機会を設ける。たとえば、「タックスヘイブンの利用は許されるか」、「所得税と消費税はどちらがすぐれているか」、等々などのテーマを議論することになる。

到達目標:

受講生に下記のような知識や能力を習得させることをねらいとしている。
(1)わが国の租税法体系を理解するとともに、現行税制の課税と改革の方向性を理解する。
(2)主要な税目（所得税・法人税・相続税・贈与税・消費税・地方税等）の基本的な課税要件についての法解釈上の論点を理解する。
(3)タックスプランニングの必要性と重要性を理解する。
(4)租税債務の確定手続、税務紛争に応じた税務争訟方法の選択と審理の進め方を理解する。

授業方法:

義形式で行うが、一方的な授業にならないように双方向型授業にもつとめる。
授業は、毎回配布するレジュメに従ってすすめられる。教科書は用いず、配付するレジュメと資料で授業をすすめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	わが国の租税法の体系・財政法の体系、わが国の課税原則（憲法との関係において）を理解する。 相続税制や消費税制の改正等を中心とした今後の税制改正の方向性を探る。	第1回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
2.	節税・脱税・租税回避の区別、課税要件についての理解を深める。租税回避行為に対する課税については判例等を用いてわが国の判例の動向について理解する。	第2回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
3.	地方税法のもとでの地方公共団体の自主課税権の範囲を理解する。特に地方自治体課税の限界（地方税法の機能、法定外税の創設）については判例を用いて理解を深める。	第3回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
4.	所得税の基本的な課税の枠組みを課税理論及び所得税法の規定に則して理解する。	事例に基づいて所得税額を計算しておくこと。第4回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
5.	所得税法の抱える課題（課税単位、給与所得、退職所得、事業所得、譲渡所得、利子所得、配当所得、所得控除）について理解する。	第5回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
6.	相続税の基本的な枠組みを課税理論及び相続税法の規定に則して理解する。	第6回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
7.	贈与税の基本的な枠組みを課税理論及び相続税法の規定に則して理解する。財産評価についても理解を深める。	第7回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
8.	法人税の基本的な課税の枠組みを企業会計と法人税法との関係に留意しながら理解を深める。 法人税法の抱える課題（別段の定め～売上原価、減価償却費等、役員給与、交際費、寄附金等）について課税理論及び法人税法の規定に則して理解する。	第8回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
9.	国際的企業活動（国際取引、企業再編等）における課税関係を理解する。そのうえで国際的租税回避規定（タックスヘイブン税制、移転価格税制、過少資本税制等）の概要を理解する。	第9回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
10.	消費税（間接税）の課税理論的な問題を検討する。 わが国の消費税の導入経緯、改正経緯を概観する。 消費税の基本的な課税の枠組みを課税理論及び消費税法の規定に則して理解する。	第10回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
11.	消費税の基本的な課税の枠組みを課税理論及び消費税法の規定に則して理解する。	第11回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
12.	消費税法の抱える課題（簡易課税、仕入れ税額控除等）について理解する。今後の消費税法改正についても議論を深める。	第12回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
13.	租税債務の確定手続、納付等（時効、加算税、納期限、滞納手続き処分鉄付等を含む）について理解する。	第13回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
14.	決定・更正、更正の請求、税務調査（推計課税を含む）等について理解する。税務争訟手続きの概要を理解する。	第14回目のレジュメの通読。 配布するレジュメに予習内容を記載している。
15.	まとめ	配布する事例問題の検討。

受講者へのメッセージやアドバイス:

パナマ文書による租税回避、消費税率の複数税率化、配偶者控除の見直し、酒税法改正等々、身のまわりには日々さまざまな税制問題が生じている。また所得税や相続税等、生活のうえで避けて通れない税もある。税金への興味をまずかきたててもらいたい。

フィードバックの方法:

質問用紙による質問について提出後の直近の授業で解説する。
レポートの提出をもとめた場合にはコメント、評価等を付して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点(クラス参加等)	20	問題点の適格な把握と自分の見解を的確に表現できるか否か等。
定期試験	80	授業を通じて基礎学力・知識を習得しているか。事例に対して的確な応用能力を有しているか。

教科書:

参考書: 「租税法教材」(レジュメ・重要判例・新聞記事)、パンフレット「暮らしの税情報」(平成30年度版)、租税法条文集をコピーして配布する。
金子宏『租税法』(最新版・弘文堂)(ほぼ毎年版が改まるので購入する場合には、最新版のものを購入)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: メール
hurabe@mail.doshisha.ac.jp

438300

こどもと法

福岡　　久美子

授業テーマ:　未成年者に関する法的諸問題

授業の概要:　こどもも一人の人間として、当然、基本的人権、権利は保障されます。しかし、成長の途上にあり、その未成熟性ゆえに、大人にはないさまざまな制約・保護が存在し、こども特有の法律も制定されています。本講においては、こどもの人権・権利についてどのように大人と異なる取り扱いがなされているか、判例、具体的事例もみて検討します。また、こども特有の法制度についてその内容をみます。

到達目標:
日本国憲法を中心とした法律の基礎的知識を持っている
現代社会の直面する問題を法的な視点から理解している
専門的知識を探求する姿勢と、幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
法律の基礎的知識を社会生活の多様な場面で運用できる能力を持っている

授業方法:　主として講義形式で行います。受講生の数によって演習形式を取り入れることもあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	未成年者の人権主体性	憲法の教科書の該当箇所を読む
2.	学校における生徒の人権（校則問題）	配布資料を読む
3.	学校における生徒の人権（宗教的理由による欠席、受講拒否など）	配布資料を読む
4.	学校における生徒の人権（内申書開示請求）	配布資料を読む
5.	学校における生徒の人権（政治活動の自由）	配布資料を読む
6.	学校における生徒の人権（持ち物検査など）	配布資料を読む
7.	教育をうける権利	配布資料を読む
8.	親子関係（嫡出推定、養子縁組など）	民法の教科書を読む 配布資料を読む
9.	親子関係（相続問題など）	民法の教科書を読む 配布資料を読む
10.	親子関係（児童虐待）	民法の教科書を読む 配布資料を読む
11.	条例による有害図書規制、深夜外出規制、いん行規制など	配布資料を読む 自治体のホームページから条例の条文やパンフレットを見る
12.	条例による有害図書規制、深夜外出規制、いん行規制など	配布資料を読む 自治体のホームページから条例の条文やパンフレットを見る
13.	少年事件と報道のあり方	配布資料を読む
14.	いじめ、体罰、学校事故	配布資料を読む
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　新聞、テレビのニュース、他人との話などによって、授業内容に関係する社会問題に関心をもつことを勧めます。

フィードバックの方法:
授業中にコメント、解説を行う
コメントペーパーにコメントを付けて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80%	法的知識の修得度、法制度の理解度、文章による知識・理解の表現力
小レポート含む平常点	20%	授業への積極的参加度、社会問題への関心度

教科書:　『ポケット六法』（有斐閣）、『ディリー六法』（三省堂） 等、六法を必ず携帯すること

参考書:
棟居快行（他）『基本的人権の事件簿』（有斐閣）
米沢広一『憲法と教育15講』（北樹出版）
米沢広一『教育行政法』（北樹出版）
丹羽徹『子どもと法』（法律文化社）
『憲法判例百選Ⅰ Ⅱ』（有斐閣）
『判例セレクト』（有斐閣）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対、オフィスアワー

438900

京都観光学概論

天野　　太郎

授業テーマ:　京都における観光の現状とこれからのまちづくりにおける諸課題

授業の概要:　京都は、宮都としての長い歴史をもつと共に、「観光都市」としての側面を有している。
この講義では、観光に関する基礎的な問題を踏まえるとともに、京都という地域がどのように形成されてきたのか、また観光という要素がどのように形成されてきたのか、その現状と課題について、京都以外の事例も踏まえながら多角的に紹介・解説する。

到達目標:　1：観光学の基礎的理論に関する知識を獲得し、観光のもたらす効果と課題について理解する。
2：国際観光都市としての「京都」の特徴を理解し、京都地域における観光の実態と課題について、自ら考え、発信する力を養う。

授業方法:　講義形式　パワーポイントと配布資料で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のガイダンス	配布資料の確認
2.	観光学とは何か　その定義の変遷と意味	配布資料の確認
3.	日本と世界の観光に関する現状と課題(1)　統計から見た実態	配布資料の確認
4.	日本と世界の観光に関する現状と課題(2)	配布資料の確認
5.	観光ガイドブックの誕生と京都	配布資料の確認
6.	「小京都」と京都観光	配布資料の確認
7.	近世の観光ガイドブック・都名所図会の誕生	配布資料の確認
8.	洛中洛外図屏風にみる中近世の京都観光(1)	配布資料の確認
9.	洛中洛外図屏風にみる中近世の京都観光(1)	配布資料の確認
10.	京都観光の現状と課題～統計資料から見たインバウンド観光の実態	配布資料の確認
11.	京町家を活用した観光の可能性	配布資料の確認
12.	京都観光のオーセンテシテイに関する課題	配布資料の確認
13.	京都観光のメデイア発信のありかた～番組作成を通した課題1	配布資料の確認
14.	京都観光のメデイア発信のありかた～番組作成を通した課題2	配布資料の確認・レポート提出に向けた準備作業
15.	全体の総括	レポート提出に向けた準備作業

受講者へのメッセージやアドバイス:　京都観光は、イメージと実態にいくつかのズレが存在します。そうした問題を紹介しながら、これまでの京都観光と、これからの可能性について幅広く考えていきます。

フィードバックの方法:　毎回のコメントペーパーに対して、授業内で適宜紹介・解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・コメントペーパー	50	出席状況の確認と、到達目標1の達成度について総合的に評価する。
レポート	50	到達目標2の達成度について、総合的に評価する。

教科書:　特になし

参考書:　天野太郎監修『『都名所図会』で歩く京都案内～イラストで見る200年前の京都』実業之日本社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業後の教室での対応のほか、オフィスアワーを中心として研究室(知徳館　C354)にて随時対応する。

439000

観光経営論

大津　　正和

授業テーマ:　観光に関わる各種産業における経営・マーケティングの特徴と課題

授業の概要:　観光に関連する産業は、非常に幅広く、それらが直面する経営課題も多様である。本講義では、代表的な観光関連産業について、それぞれ具体的なの事例を紹介しながら、観光経営への理解を深め、新たな課題に直面した際に解決策を考えられる能力の涵養をはかる。

到達目標:　観光に関わる多様な産業に属する各企業特有の特徴を現実に即して理解する。京都をはじめ様々な地域を活性化し雇用を創出する原動力として、各種の観光関連産業に特有の条件下で、企業等がそれらに対応できる経営・マーケティングはどのようなものかを考える能力を身につける。

授業方法:　講義　教科書に沿って、観光に関連する経営・マーケティングについて知識の理解を行う講義と、現実の企業等の事例を通じて、教科書で得た知識から、より深く理解したり改善策を考えたりできる能力を養う講義とをほぼ半数ずつ実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	身近な観光に関連する企業活動について観察し整理してくる
2.	旅行業（第1章）	教科書の該当箇所の予習
3.	事例研究（旅行業）	教科書の該当箇所の復習
4.	ホテル業（第2章）	教科書の該当箇所の予習
5.	事例研究（宿泊業）	教科書の該当箇所の復習
6.	航空輸送業（第3章）	教科書の該当箇所の予習
7.	事例研究（航空輸送業）	教科書の該当箇所の復習
8.	鉄道事業（第4章）	教科書の該当箇所の予習
9.	事例研究（鉄道または交通業）	教科書の該当箇所の復習
10.	テーマパーク（第5章）	教科書の該当箇所の予習
11.	事例研究（アミューズメント事業）	教科書の該当箇所の復習
12.	博物館・水族館・動物園（第6章）	教科書の該当箇所の予習
13.	事例研究（ミュージアム事業）	教科書の該当箇所の復習
14.	観光ビジネスの本質（第13章）	教科書の該当箇所の予習
15.	まとめ	講義全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義部分に関して、教科書の該当部分を予習しておくこと、そして講義後に復習しておくことが重要である。特に、復習は次の週の事例研究の基礎となるので必須である。

フィードバックの方法:　小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	教科書で学んだ知識が身についているか、またその知識を具体的な事例に当てはめて考えることができているかの程度
試験	50	講義で学んだ知識が身についているか、また事例で学んだ現実の観光経営を考える能力が身についているかの程度

教科書:　高橋・大津・吉田編『１からの観光』碩学舎, 2010

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

439100

観光地域事業論

大津　　正和

授業テーマ:　地域における観光振興事業の特徴、および現状と課題

授業の概要:　現在日本では、地域の活性化のために、観光振興を進めている地域が多数ある。しかし、これらの地域が観光振興において成果を挙げるためには、観光特有の特徴を理解し、それぞれの地域に特有の条件下で、それらに対応できる運営・地域マーケティングを実施しなければならない。本講義では、観光地域事業に関わる代表的な事例を紹介しながら、地域の観光事業への理解を深める。

到達目標:　観光に関わる自治体等の様々な観光事業の特徴を現実に即して理解する。それぞれの観光事業に特有の条件下で、それらに対応しながらそれぞれの地域の活性化に寄与できる自治体等の観光事業の運営はどのようなものかを考え提案できる能力を身につける。

授業方法:　講義　教科書に沿って、観光に関連する自治体等の観光事業について知識の理解を行う講義と、現実の観光事業等の事例を通じて、教科書で得た知識から、より深く理解したり改善策を考えたりできる能力を養う講義とをほぼ半数ずつ実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	身近な観光に関連する自治体活動について観察し整理してくる
2.	地域の観光まちづくり事業（第7章）	教科書の該当箇所の予習
3.	事例研究（観光まちづくり事業）	教科書の該当箇所の復習
4.	観光地の集客イベント事業（第8章）	教科書の該当箇所の予習
5.	事例研究（イベント事業）	教科書の該当箇所の復習
6.	サスティナブル・ツーリズム（第9章）	教科書の該当箇所の予習
7.	事例研究（サスティナブル・ツーリズム事業または自然環境を中心とした観光事業）	教科書の該当箇所の復習
8.	リゾート事業（第10章）	教科書の該当箇所の予習
9.	事例研究（リゾート事業）	教科書の該当箇所の復習
10.	スポーツ・スーリズムと集客都市（第11章	教科書の該当箇所の予習
11.	事例研究（スポーツ・ツーリズム事業または都市観光事業）	教科書の該当箇所の復習
12.	インバウンドの観光事業（第12章）	教科書の該当箇所の予習
13.	事例研究（インバウンド事業）	教科書の該当箇所の復習
14.	デスティネーションマーケティング（第14章）	教科書の該当箇所の予習
15.	まとめ	講義全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義部分に関して、教科書の該当部分を予習しておくこと、そして講義後に復習しておくことが重要である。特に、復習は次の週の事例研究の基礎となるので必須である。

フィードバックの方法:　小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	教科書で学んだ知識が身についているか、またその知識を具体的な事例に当てはめて考えることができているかの程度
試験	50	講義で学んだ知識が身についているか、また事例で学んだ現実の観光事業を考える能力が身についているかの程度

教科書:　高橋・大津・吉田編『1からの観光』碩学舎, 2010

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

439200

観光イノベーション論

大津　　正和

授業テーマ:　これからの観光をよりよく発展させるために必要とされるイノベーション

授業の概要:　現在日本では、経済的発展や地域振興のために、様々な領域で観光の活用が進められている。ただし、現状では、これらの取り組みの多くが従来の観光活動の延長線上にとどまっている。しかし、これまでの枠にとらわれない観光のイノベーションを実現しないと、単に数字だけではない、質的な飛躍的な進歩は望めない。本講義では、徐々に現れ始めた革新的な事例を紹介しながら、観光におけるイノベーションの可能性への理解を深める。

到達目標:　現在日本の観光に関連する産業や自治体が抱える課題について現実に即して体系的に理解する。観光における課題の解決に向けた新しい試みを構想し提案できる能力を身に付ける。

授業方法:　講義　教科書に沿って、観光に関連する産業や自治体等における新たな取り組みについて知識の理解を行う講義と、現実の新たな観光ビジネス・事業等の事例を通じて、教科書で得た知識から、より深く理解したり改善策を考えたりできる能力を養う講義とをほぼ1：2の割合で実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	身近な観光に関連する企業や自治体活動の課題について観察し整理してくる
2.	観光ビジネスのイノベーション（序章）	教科書の該当箇所の予習
3.	航空産業におけるイノベーション（3章）	教科書の該当箇所の予習
4.	事例研究（航空産業(1)）	教科書の該当箇所の復習
5.	事例研究（航空産業(2)）	教科書の該当箇所の復習
6.	旅行業におけるイノベーション（7章）	教科書の該当箇所の予習
7.	事例研究（旅行業(1)）	教科書の該当箇所の復習
8.	事例研究（旅行業(2)）	教科書の該当箇所の復習
9.	宿泊業におけるイノベーション：事例研究（宿泊業(1)）	宿泊産業の最近の動きについて観察し整理してくる
10.	事例研究（宿泊業(2)）	前回講義の復習
11.	観光まちづくりにおけるイノベーション（10章）	教科書の該当箇所の予習
12.	事例研究（観光まちづくり）	教科書の該当箇所の復習
13.	官民協働による観光振興におけるイノベーション（14章）	教科書の該当箇所の予習
14.	事例研究（クールジャパン）	教科書の該当箇所の復習
15.	まとめ	講義全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書を事前に読んで予習しておくことと、講義で学んだことを復習して事例研究に臨むように、準備学習が必要である。また、身の回りや自身が旅行に出かけたときなどに、意識して観察したり考えたりする習慣を持つことも大事である。

フィードバックの方法:　小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60	教科書で学んだ知識が身についているか、またその知識を具体的な事例に当てはめて考えることができているかの程度
試験	40	講義で学んだ知識が身についているか、また事例で学んだ現実のホスピタリティマネジメントを考える能力が身についているかの程度

教科書:　石井淳蔵・高橋一夫編『観光のビジネスモデル』学芸出版社, 2011

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

439300

保険論

大倉　　真人

授業テーマ:

授業の概要:　経済社会における保障システムとしての保険について論じる。

到達目標:　保険にかかる基礎的知識（具体的には、保険制度、保険会社、保険商品など）の修得を目標に掲げる。

授業方法:　プリント・パワーポイントを使った授業方式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	くらしの中の保険（教科書第1章）	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	保険の原理（教科書第2章）	「くらしの中の保険」に対する理解
4.	保険の歴史（教科書第3章）	「保険の原理」に対する理解
5.	現在の保険制度（教科書第4章）	「保険の歴史」に対する理解
6.	保険契約者の保護（教科書第5章）	「現在の保険制度」に対する理解
7.	金融機関としての保険会社（教科書第6章）	「保険契約者の保護」に対する理解
8.	中間試験	「中間試験」の準備
9.	保険会社の経営課題（教科書第7章）	「金融機関としての保険会社」に対する理解
10.	生命保険商品（教科書第8章）	「保険会社の経営課題」に対する理解
11.	火災保険（教科書第9章）	「生命保険商品」に対する理解
12.	自動車保険（教科書第10章）	「火災保険」に対する理解
13.	その他の保険（教科書第11章）	「自動車保険」に対する理解
14.	新しい保険の登場（教科書第14章）	「その他の保険」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義資料については、印刷資料として配付するとともに、マナビーにもアップする予定である。
なお第1回目の授業のガイダンスで配布する資料についても、マナビーに提示するので、第1回目の授業に欠席した者は、各自マナビーを通じて目を通しておくこと。

フィードバックの方法:　毎回の授業において「フィードバック用紙」を配布する。なお「フィードバック用紙」に書かれた質問等については、原則として、次週の授業の冒頭で解説する。
中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	50	到達目標に掲げた保険にかかる基礎的知識に関する理解度により評価する。
期末試験	50	到達目標に掲げた保険にかかる基礎的知識に関する理解度により評価する。

教科書:　家森信善（編著）『はじめて学ぶ保険のしくみ（第2版）』中央経済社、2015年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

439400

人的資源論

福本　　俊樹

授業テーマ:　組織における人のマネジメントについて学ぶ

授業の概要:　企業は、「ヒト・モノ・カネ・情報」の4つの資源を活用して、日々の経営を行っています。本講義では、そのうちの「ヒト」の管理・活用のあり方について学びます。「ヒト」を動かすためにはどのような仕組みや考え方を持つことが重要なのか、また、「ヒト」のマネジメントに関してどのような問題が現実に生じているのかについて、体系的に理解していきます。

到達目標:
(1)人的資源管理についての基礎知識を修得すること
(2)企業における人事活動を理論的観点から把握・分析できるようになること

授業方法:
講義形式で授業を行います。
講義時間中に、マナビーを用いた小テストを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスを読んでくること
2.	人的資源管理とは何か	教科書第1章の予習・復習
3.	人間モデル	教科書第2章の予習・復習
4.	戦略的人的資源管理	教科書第3章の予習・復習
5.	組織能力	教科書第4章の予習・復習
6.	組織構造	教科書第5章の予習・復習
7.	モチベーション	教科書第6章の予習・復習
8.	リーダーシップ	教科書第7章の予習・復習
9.	コミットメント	教科書第8章の予習・復習
10.	雇用	教科書第9章の予習・復習
11.	人材育成	教科書第10章の予習・復習
12.	評価	教科書第11章の予習・復習
13.	昇進	教科書第12章の予習・復習
14.	賃金	教科書第13章の予習・復習
15.	まとめ	これまでの講義内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
「ヒト」をうまく動かすためには、人間について深く知り、深く考えることが大切です。この講義では、人間とはどのような存在であるのかについて、いくつかの見方を提示しますが、並行して、人間を描くあらゆる文学・芸術・サブカル作品などにも貪欲に触れていって下さい。また、日常で出会う人々を詳細に観察する習慣を身につけて下さい。きっと「ヒト」の管理にとって大いに役立つはずです。

フィードバックの方法:
コメントペーパー、マナビーで対応します(詳細は、初回講義時に説明します)

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40%	講義時に小テストを実施します。人的資源管理についての基礎知識を修得できたかどうかを評価します。
定期試験	60%	人的資源管理についての基礎知識を理解した上で、企業における人事活動を理論的観点から把握・分析できるかどうかを評価します。

教科書:
上林 憲雄 (編)『人的資源管理 (【ベーシック+】)』中央経済社

参考書:
上林憲雄・厨子直之・森田雅也『経験から学ぶ人的資源管理』有斐閣
上林 憲雄・三輪 卓己『ケーススタディ 優良・成長企業の人事戦略』税務経理協会
奥林康司・平野光俊・上林憲雄『入門 人的資源管理』中央経済社
金井壽宏『経営組織』日経文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:
オフィスアワー、Emailなど(詳細は、初回講義時に説明します)

439500

コミュニティマネジメント論

福本　　俊樹

授業テーマ:　人のつながりをマネジメントする

授業の概要:　近頃よく耳にする「コミュニティ」とは何でしょうか。辞書を引けば、「人々の共同体」と出てきます。もっとやわらかい言い方をすれば、「人の集まり」「人のつながり」を指す言葉のようです。
しかし、現代における「人々の共同体」とは、どのようなものなのでしょうか。価値観・ライフスタイル・趣味嗜好などが高度に多様化・個人化した現代において、私達は一体どのような意味で「つながっている」のでしょうか（あるいは、「つながっていない」のでしょうか）。
本講義では、都市・職場・家族・町内会・ネットコミュニティ等における人と人のつながりを、経営学（および社会学）の視点から、考察していきます。その上で、現代のコミュニティをいかにマネジメントすることができるかを検討していきます。

到達目標:　(1)各種コミュニティを経営学（社会学）的観点から考察・分析・理解できるようになること
(2)コミュニティの問題点を発見し、マネジメント方法を考えられるようになること

授業方法:　講義時に、講義内容を踏まえてコミュニティについて考察する小レポートを行います（回数は6回程度を予定しています）。
なお、テーマによっては、ゲスト・スピーカーを招くことも予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション　経営学的な視点とは	講義内容の復習
2.	ソーシャルメディアと流動化する人間関係	教科書1章の予習・復習
3.	宗教なき世と人のつながり	教科書2章の予習・復習
4.	組織における人のつながり	リーディング資料の予習・復習
5.	職場における人のつながり：サービス産業を支える労働	教科書3章の予習・復習
6.	大学生のつながり：大学生活、就職活動	教科書4章の予習・復習
7.	情報のオープン化と境界を越えるつながり	教科書6章の予習・復習
8.	地域の活性化は可能か？	教科書7章の予習・復習
9.	多様化する家族	教科書8章の予習・復習
10.	治安悪化説と犯罪不安	教科書9章の予習・復習
11.	未来の労働と人工知能	教科書12章の予習・復習
12.	町内会：あるけどないコミュニティ	リーディング資料の予習・復習
13.	ITを活用した地域の課題解決	ゲスト・スピーカー，事後レポート作成
14.	アニメを通じた地域活性化	ゲスト・スピーカー，事後レポート作成
15.	コミュニティの今後	リーディング資料の予習・復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　私達は皆、誰かとつながったり、あるいは、つながらなかったりしながら、日々の生活を送っています。まずは、こうした「接続」と「分断」のリアルな姿を捉えましょう。その上で、これらの人のつながりに渦巻く「欲望」や、そうした欲望を達成するために一体何が「動員」されているのか、こうした観点から、私達が暮らすコミュニティを考えていきましょう。

フィードバックの方法:　コメントペーパー、マナビーで対応します（詳細は、初回講義時に説明します）

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	60%	各講義において、講義内容を踏まえた小レポートを課します。講義内容が理解できているか、各種コミュニティに対する洞察が深まっているかによって評価します。
期末レポート	40%	講義内容が理解できているか、各種コミュニティに対する洞察が深まっているかによって評価します。

教科書:　田所承己・菅野博史（編）『つながりをリノベーションする時代』弘文堂

参考書:　吉原直樹・近森高明（編）『都市のリアル』有斐閣
近森高明・工藤保則（編）『無印都市の社会学 どこにでもある日常空間をフィールドワークする』法律文化社
遠藤知巳（編）『フラット・カルチャー 現代日本の社会学』せりか書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Emailなど（詳細は、初回講義時に説明します）

439600

キャリア形成論

福本　　俊樹

授業テーマ:　自身のキャリア形成について考える

授業の概要:　私達がどのような人生を歩むことになるかは、私達が従事する仕事によって大きく左右されます。本講義では、仕事世界への参加という観点から、私達のキャリア形成について学びます。自分自身のキャリアを少しでもよいものにしていくにはどうすればいいか、学術的な知見、現代社会の情勢、人々の多様な生き方の事例などをもとに、考えていきましょう。

到達目標:
(1)キャリア論についての基礎知識を修得すること
(2)学習した知識を活用し、自らのキャリア形成について考察・行動できるようになること

授業方法:　授業は講義形式で行います。講義時に、学習した知識を用いて受講者自身のキャリア形成を考える小レポートを行います(回数は6回程度を予定しています)。
なお、テーマによっては、ゲスト・スピーカーを招くことも予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	教科書第1章の予習・復習
2.	日本企業と外資系企業	リーディング資料の予習・復習
3.	日本の雇用システムの変遷	リーディング資料の予習・復習
4.	バウンダリレス・キャリア	教科書第2章の予習・復習
5.	キャリア・トランジション	教科書第2章の予習・復習
6.	キャリア・デザイン	教科書第3章の予習・復習
7.	キャリア・アンカー	リーディング資料の予習・復習
8.	組織社会化(1)組織に適応する	教科書第4章の予習・復習
9.	組織社会化(2)その問題点	リーディング資料の予習・復習
10.	生涯キャリア発達課題(1)ヤング・ミドルの課題	教科書第5章の予習・復習
11.	生涯キャリア発達課題(2)ミドル・シニアの課題	教科書第5章の予習・復習
12.	企業家のキャリア	リーディング資料の予習・復習
13.	バウンダリレス・キャリアの実際(ゲスト・スピーカー)	リーディング資料の予習・復習
14.	女性のキャリア(ゲスト・スピーカー)	リーディング資料の予習・復習
15.	今後のキャリア発達に向けて	リーディング資料の予習・復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　自分自身のキャリアについて、考え、行動していくというのは、とても難しいことではないでしょうか。将来像が明確に決まっている人はともかく、人によっては雲をつかむように捉えどころのないことに思われるかもしれません。しかし、なにも人生計画を綿密に立てることだけがよいキャリアを歩む方法ではありません。肩の力を抜いて、時には寄り道などもしながら、キャリアというものについて考えていきましょう。

フィードバックの方法:　コメントペーパー、マナビーで対応します(詳細は、初回講義時に説明します)

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	60%	講義時に小レポートを作成してもらいます。講義内容が理解できているか、自身のキャリア形成に対する考察ができているかによって評価します。
期末レポート	40%	講義内容が理解できているか、自身のキャリア形成に対する考察ができているかによって評価します。

教科書:　金井壽宏『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP新書
加えて、リーディング資料を配布します。

参考書:　エドガー・H・シャイン『キャリア・ダイナミクス』白桃書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Emailなど(詳細は，初回講義時に説明します)

439701

現代社会入門

大西　秀之、福本　俊樹、大倉　真人、鈴木　尊明、山田　邦和

授業テーマ:　現代社会に対する理解や研究の方法を現代社会学部社会システム学科の5つのコースから学び検討する。

授業の概要:　現代社会学部社会システム学科の5つのコースにおける学びに関連する内容の講義を通じて、それぞれのコースの概要や特徴を理解することを目標とする。具体的には、各コースの教員5名がオムニバスで各コースでの学習の特徴や内容などについて講義する。

到達目標:
・現代社会においての総合的なキャリア形成についての諸問題を理解している。
・社会の課題を理解し問題解決にあたる能力を修得する。
・修得した知識や技術を地域社会に還元する姿勢を養う。
・専門実技の技術と知識を探求する姿勢と、幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身に付けている。

授業方法:　各コースの教員（5名）が3回ずつ講義するオムニバス方式で授業を行う。毎回、全員参加型の授業を行う。授業内容、評価方法、評価基準などは各担当教員ごとに異なるが、これらについては授業時において指示する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガンダンス 各コースでの学びの内容①（その1）	シラバスの精読
2.	各コースでの学びの内容①（その2）	前回の授業内容にかかる復習
3.	各コースでの学びの内容①（その3）	前回の授業内容にかかる復習
4.	各コースでの学びの内容②（その1）	前回の授業内容にかかる復習
5.	各コースでの学びの内容②（その2）	前回の授業内容にかかる復習
6.	各コースでの学びの内容②（その3）	前回の授業内容にかかる復習
7.	各コースでの学びの内容③（その1）	前回の授業内容にかかる復習
8.	各コースでの学びの内容③（その2）	前回の授業内容にかかる復習
9.	各コースでの学びの内容③（その3）	前回の授業内容にかかる復習
10.	各コースでの学びの内容④（その1）	前回の授業内容にかかる復習
11.	各コースでの学びの内容④（その2）	前回の授業内容にかかる復習
12.	各コースでの学びの内容④（その3）	前回の授業内容にかかる復習
13.	各コースでの学びの内容⑤（その1）	前回の授業内容にかかる復習
14.	各コースでの学びの内容⑤（その2）	前回の授業内容にかかる復習
15.	各コースでの学びの内容⑤（その3） 総括	前回の授業内容にかかる復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業への積極的な参加を受講の前提とする。

フィードバックの方法:　必要に応じて授業時にコメントペーパーを配布したりレポートの提出を求めたりする。また、それらに対して適宜回答することでフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	授業への参加度によって評価する。特に到達目標である「修得した知識や技術を地域社会に還元する姿勢を養う」こと、「専門実技の技術と知識を探求する姿勢と、幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身に付けている」ことを評価する。
授業中における課題	50	授業内容の理解度によって評価する。特に到達目標である「現代社会においての総合的なキャリア形成についての諸問題を理解している」こと、「社会の課題を理解し問題解決にあたる能力を修得する」ことを評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　必要に応じて、授業内で適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワーなどについては、初回の授業時に指示する 。

439702

現代社会入門

大西　秀之、福本　俊樹、大倉　真人、鈴木　尊明、山田　邦和

授業テーマ:　現代社会に対する理解や研究の方法を現代社会学部社会システム学科の5つのコースから学び検討する。

授業の概要:　現代社会学部社会システム学科の5つのコースにおける学びに関連する内容の講義を通じて、それぞれのコースの概要や特徴を理解することを目標とする。具体的には、各コースの教員5名がオムニバスで各コースでの学習の特徴や内容などについて講義する。

到達目標:
・現代社会学部社会システム学科の5つのコースにおける学びの内容を理解する。
・社会の課題を理解し問題解決にあたる能力を修得する。
・修得した知識や技術を地域社会に還元する姿勢を養う。

授業方法:　各コースの教員（5名）が3回ずつ講義するオムニバス方式で授業を行う。毎回、全員参加型の授業を行う。授業内容、評価方法、評価基準などは各担当教員ごとに異なるが、これらについては授業時において指示する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガンダンス 各コースでの学びの内容①（その1）	シラバスの精読
2.	各コースでの学びの内容①（その2）	前回の授業内容にかかる復習
3.	各コースでの学びの内容①（その3）	前回の授業内容にかかる復習
4.	各コースでの学びの内容②（その1）	前回の授業内容にかかる復習
5.	各コースでの学びの内容②（その2）	前回の授業内容にかかる復習
6.	各コースでの学びの内容②（その3）	前回の授業内容にかかる復習
7.	各コースでの学びの内容③（その1）	前回の授業内容にかかる復習
8.	各コースでの学びの内容③（その2）	前回の授業内容にかかる復習
9.	各コースでの学びの内容③（その3）	前回の授業内容にかかる復習
10.	各コースでの学びの内容④（その1）	前回の授業内容にかかる復習
11.	各コースでの学びの内容④（その2）	前回の授業内容にかかる復習
12.	各コースでの学びの内容④（その3）	前回の授業内容にかかる復習
13.	各コースでの学びの内容⑤（その1）	前回の授業内容にかかる復習
14.	各コースでの学びの内容⑤（その2）	前回の授業内容にかかる復習
15.	各コースでの学びの内容⑤（その3） 総括	前回の授業内容にかかる復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業への積極的な参加を受講の前提とする。

フィードバックの方法:　必要に応じて授業時にコメントペーパーを配布したりレポートの提出を求めたりする。また、それらに対して適宜回答することでフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	授業への参加度によって評価する
授業中における課題	50	授業内容の理解度によって評価する

教科書:　特に指定しない。

参考書:　必要に応じて、授業内で適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワーなどについては、初回の授業時に指示する 。

439801

社会リサーチ入門

日下　　菜穂子、天野　　太郎

授業テーマ:　社会システム学科でのまなびや学生生活の基礎となる姿勢・技能を養う。

授業の概要:　社会システム学科での学習にとって必要となる社会的事象に関する関心を育て、論理的思考力や、相互意見交流や発信を通して、PBLに関する基本的な見方や考え方を身につけます。

到達目標:
(1)プロジェクトを通して社会課題の理解の適切さと問題解決にあたる姿勢を築きます。
(2)プロジェクトを通して地域社会における課題の理解と解決に情報技術の活用の能力を修得します。
(3)グループディスカッションを通して個々の論理的思考力や、議論を通した発信力の基礎的能力高めます。
(4)グループの協同学習を通して，他者と協同的な関係を築く姿勢を修得します。

授業方法:　演習ですので、毎回、全員参加型の授業を行います。必ずレジメ(報告要旨)を作成すること、理解促進のために写真・ビデオなどの視聴覚教材をフルに活用すること、それに必要な機器使用法を熟知することなどを、図書館ガイダンスの機会を活用しながら進めます。授業内容，評価方法・割合・評価基準は，担当教員により変更の可能性がありますので、授業開始時に改めて担当教員からお知らせします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション1	受講生の自己紹介と集団づくり
2.	イントロダクション2	テーマ設定と個別の学習目標設定
3.	課題に関する基礎学習	課題に関する基礎学習
4.	調査の基本	グループワークの基礎の確立
5.	ディスカッションとフィードバック1	課題に関する学習
6.	ディスカッションとフィードバック2	課題に関する学習
7.	中間報告1	報告資料
8.	中間報告2	報告資料
9.	目標の再設定	グループワーク
10.	ポスター発表に向けての設計	企画書の作成
11.	ポスター発表のありかた	企画書の作成
12.	最終報告検討	ポスター作成
13.	最終報告会	ポスター発表
14.	全体のふりかえり	コメントペーパー作成
15.	全体のふりかえり	コメントペーパー作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　全員毎回出席が原則です。具体的な運用は、担当教員が決めます。

フィードバックの方法:　授業開始時に担当教員からお知らせします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	25	社会課題の理解の適切さと問題解決にあたる姿勢を評価します。
プレゼンテーション	25	地域社会における課題の理解と解決に情報技術の活用の有効性を評価します
授業の参加度	25	個々の論理的思考力や、議論を通した発信力の基礎的能力を評価します。
授業の参加度	25	他者と共同的な関係を築く姿勢を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

439802

社会リサーチ入門

日下　　菜穂子、天野　　太郎

授業テーマ:
社会システム学科でのまなびや学生生活の基礎となる姿勢・技能を養う。

授業の概要:
社会システム学科での学習にとって必要となる社会的事象に関する関心を育て、論理的思考力や、相互意見交流や発信を通して、PBLに関する基本的な見方や考え方を身につけます。

到達目標:
(1)プロジェクトを通して社会課題の理解の適切さと問題解決にあたる姿勢を築きます。
(2)プロジェクトを通して地域社会における課題の理解と解決に情報技術の活用の能力を修得します。
(3)グループディスカッションを通して個々の論理的思考力や、議論を通した発信力の基礎的能力高めます。
(4)グループの協同学習を通して，他者と協同的な関係を築く姿勢を修得します。

授業方法:
演習ですので、毎回、全員参加型の授業を行います。必ずレジメ(報告要旨)を作成すること、理解促進のために写真・ビデオなどの視聴覚教材をフルに活用すること、それに必要な機器使用法を熟知することなどを、図書館ガイダンスの機会を活用しながら進めます。授業内容，評価方法・割合・評価基準は，担当教員により変更の可能性がありますので、授業開始時に改めて担当教員からお知らせします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション1	受講生の自己紹介と集団づくり
2.	イントロダクション2	テーマ設定と個別の学習目標設定
3.	課題に関する基礎学習	課題に関する基礎学習
4.	調査の基本	グループワークの基礎の確立
5.	ディスカッションとフィードバック1	課題に関する学習
6.	ディスカッションとフィードバック2	課題に関する学習
7.	中間報告1	報告資料
8.	中間報告2	報告資料
9.	目標の再設定	グループワーク
10.	ポスター発表に向けての設計	企画書の作成
11.	ポスター発表のありかた	企画書の作成
12.	最終報告検討	ポスター作成
13.	最終報告会	ポスター発表
14.	全体のふりかえり	コメントペーパー作成
15.	全体のふりかえり	コメントペーパー作成

受講者へのメッセージやアドバイス:
全員毎回出席が原則です。具体的な運用は、担当教員が決めます。

フィードバックの方法:
授業開始時に担当教員からお知らせします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	25	社会課題の理解の適切さと問題解決にあたる姿勢を評価します。
プレゼンテーション	25	地域社会における課題の理解と解決に情報技術の活用の有効性を評価します
授業の参加度	25	個々の論理的思考力や、議論を通した発信力の基礎的能力を評価します。
授業の参加度	25	他者と共同的な関係を築く姿勢を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
オフィスアワー，初回の授業時間に担当教員から適宜指示します。

439901

シティズンシップ入門

福岡　　久美子、鳥潟　　優子

授業テーマ:　市民性の育成

授業の概要:　満18歳から選挙権を有することとなり、有権者として憲法および政治について基礎的な知識を有し、現代社会の直面する問題を法的・政策的な視点から理解する必要性が強くなりました。
そこで、前半（1～7回目、福岡担当）においては、国家の組織・作用に関する根本規範であり、最高法規である憲法について、基礎的知識の修得をはかります。後半（8～14回目、鳥潟担当）では、日本の民主主義と今後の日本のあり方について考察します。

到達目標:　現代社会の直面する問題を公共政策や法的な視点から理解している
日本国憲法の基礎的知識を持っている
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている

授業方法:　主として講義で行います（福岡・鳥潟）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本国憲法の特色（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
2.	基本的人権（平等権、幸福追求権、人権の制限）（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
3.	基本的人権（自由権、社会権）（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
4.	国民主権と参政権（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
5.	権力分立、国会・内閣の組織・権限（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
6.	裁判所と司法権（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
7.	憲法改正、平和主義（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
8.	現代日本のかたち（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
9.	日本の民主主義とは？（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
10.	女性の政治参加（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
11.	日本の安全をどう守るか？安全保障と民主主義（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
12.	外交の民主的統制と情報公開（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
13.	街頭におけるデモの役割：国際比較（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
14.	今後の国のかたち（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
15.	まとめ（福岡・鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:　新聞などを読んで、政治、社会、国際問題などに関心をもつことを勧めます。

フィードバックの方法:　授業中に解説します（福岡・鳥潟）

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験（福岡部分）	50%	基礎的知識の修得度
期末試験（鳥潟部分）	50%	基礎的知識の修得度

教科書:

参考書:
君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法（第3版）』（法律文化社）
小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本（第3版）』（法律文化社）
砂原洋介他『政治学の第一歩』（有斐閣）
山田高敦他『グローバル社会の国際関係論・新版』（有斐閣）
五百旗頭真編『戦後日本外交史・新版』（有斐閣）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対、オフィスアワー（福岡・鳥潟）

439902

シティズンシップ入門

福岡　　久美子、鳥潟　　優子

授業テーマ:　市民性の育成

授業の概要:　満18歳から選挙権を有することとなり、有権者として憲法および政治について基礎的な知識を有し、現代社会の直面する問題を法的・政策的な視点から理解する必要性が強くなりました。
そこで、前半（1～7回目、福岡担当）においては、国家の組織・作用に関する根本規範であり、最高法規である憲法について、基礎的知識の修得をはかります。後半（8～14回目、鳥潟担当）では、日本の民主主義と今後の日本のあり方について考察します。

到達目標:　現代社会の直面する問題を公共政策や法的な視点から理解している
日本国憲法の基礎的知識を持っている
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている

授業方法:　主として講義で行います（福岡・鳥潟）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本国憲法の特色（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
2.	基本的人権（平等権、幸福追求権、人権の制限）（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
3.	基本的人権（自由権、社会権）（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
4.	国民主権と参政権（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
5.	権力分立、国会・内閣の組織・権限（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
6.	裁判所と司法権（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
7.	憲法改正、平和主義（福岡）	事後にレジメや参考書で復習する
8.	現代日本のかたち（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
9.	日本の民主主義とは？（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
10.	女性の政治参加（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
11.	日本の安全をどう守るか？安全保障と民主主義（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
12.	外交の民主的統制と情報公開（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
13.	街頭におけるデモの役割：国際比較（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
14.	今後の国のかたち（鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する
15.	まとめ（福岡・鳥潟）	事後にレジメや参考書で復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:　新聞などを読んで、政治、社会、国際問題などに関心をもつことを勧めます。

フィードバックの方法:　授業中に解説します（福岡・鳥潟）

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験（福岡部分）	50%	基礎的知識の修得度
期末試験（鳥潟部分）	50%	基礎的知識の修得度

教科書:

参考書:
君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法（第3版）』（法律文化社）
小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本（第3版）』（法律文化社）
砂原洋介他『政治学の第一歩』（有斐閣）
山田高敦他『グローバル社会の国際関係論・新版』（有斐閣）
五百旗頭真編『戦後日本外交史・新版』（有斐閣）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対、オフィスアワー（福岡・鳥潟）

440100

エスニシティ論

大西　　秀之

授業テーマ:　エスニシティをめぐる社会問題

授業の概要:

国際社会は、今日、民族紛争や宗教対立などといったエスニシティに起因するさまざまな問題に直面しています。このため、文化の画一化が進むグローバル化時代にあっても、エスニシティの理解は、ますます重要性を増しているといえます。

この講義では、政治的・社会的マイノリティ(少数派)とされる人びとに焦点を当て、現代社会のエスニシティを検討します。とくに、国民国家や国際社会のマジョリティに対して、マイノリティの人びとが今なにを求め、どんな主張をしているか検討を行うなかから、エスニシティにかかわる社会的・政治的諸問題の背景を探って行きたいと考えています。

到達目標:

・現代社会におけるエスニシティのあり方を理解する
・様々な社会問題とエスニシティの関係を理解する。
・エスニシティを形作った文化・歴史を理解する。

授業方法:

講義形式＋演習形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・受講生の数によりますが講義を踏まえた質疑・討論による演習形式を行う予定です。
・毎回コミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	エスニシティとは	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	エスニシティの概念と定義Ⅰ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	エスニシティの概念と定義Ⅱ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	「民族問題」とエスニシティⅠ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	「民族問題」とエスニシティⅡ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	エスニシティとナショナリズムⅠ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	エスニシティとナショナリズムⅡ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	開発途上国のエスニシティⅠ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
9.	開発途上国のエスニシティⅡ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
10.	先進国のエスニシティⅠ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
11.	先進国のエスニシティⅡ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
12.	日本のなかのエスニシティⅠ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
13.	日本のなかのエスニシティⅡ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
14.	現代社会におけるエスニシティ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
15.	まとめ	各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講義の受講生は、日頃から民族問題に関連する新聞報道やTVニュースなどのメディア情報をチェックしておくようにしておいてください。

フィードバックの方法:

・各回のディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・コメントペーパーに対しては、次の授業の際に総評を交えた解説を行います。
・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	試験は、到達目標である「様々な社会問題とエスニシティの関係を理解」できているか評価します。加えて、到達目標である「エスニシティを形作った歴史・文化が理解」されているかも評価します。
授業への参加度	60%	到達目標である「現代社会におけるエスニシティのあり方を理解」できているか評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な発言を求めます。

教科書:

参考書:　綾部恒雄(著)『現代世界とエスニシティ』弘文堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力
教員との連絡方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

440200

カルチュラルスタディーズ

大西　　秀之

授業テーマ:　ポップ／サブカルチャーから多様な社会実態を読み解く

授業の概要:

「マンガ」や「SNS」、あるいは「ファッション」に「アイドル」を対象に社会を研究する、と言われたら皆さんはどんな想像をされるでしょうか。しかし、そういった通常学問の研究対象にはならないのでは、と思われるポップカルチャーやサブカルチャーといったものこそが、現代社会を読み解くための重要な素材となります。

本講義では、日常生活における「メディア」や「サブカルチャー」などを取り上げ検討するなかから、現代社会の一端を探ってみたいと考えています。具体的には、「情報検索」・「フィールドワーク」・「アンケート調査」・「テキスト分析」などの社会分析の基本方法を駆使し、日々の営みを「自らの視点」で読み解き多様な社会の実態を「自分の頭」で理解する、そんな学びを追究できればと思っています。

到達目標:

・日常生活で接する情報・環境から社会実態を読み解く
・社会実態を読み自ら解く視点を身に付ける

授業方法:

講義形式＋演習形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・受講生の数によりますが講義を踏まえた質疑・討論による演習形式を行う予定です。
・毎回コミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:カルチュラルスタディーズとは	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	TV番組を読み解く①	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	TV番組を読み解く②	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	CMを読み解く①	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	CMを読み解く①	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	映画を読み解く	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	漫画を読み解く	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	アニメを読み解く①	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
9.	アニメを読み解く②	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
10.	ミュージックシーンを読み解く	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
11.	アミューズメントを読み解く	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
12.	多重メディア社会を読み解く	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
13.	ニュース報道を読み解く	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
14.	現代社会を読み解く	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
15.	まとめ	各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講義の受講生は、日常で接する情報や環境に疑問を持ち、それを素材として社会背景を探るセンスを養うようにしておくようにしておいてください。

本講義では、いわゆる学問分野の「小難しい」研究成果などを教材とするのではなく、できる限り皆さんと同じ大学生が取り組んだ調査研究を積極的に使い授業を行いたいと思っています。ですので、自分にも社会の読み解きは可能なんだ、という意識を共有していただくことを期待しています。

フィードバックの方法:

・各回のディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・コメントペーパーに対しては、次の授業の際に総評を交えた解説を行います。
・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	試験は、到達目標である「日常生活で接する情報から社会実態を読み解く」ことができているか評価します。加えて、到達目標である「社会実態を読み自ら解く視点を身に付け」ているかも評価します。
授業への参加度	60%	到達目標を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な発言を求めます。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

440300

宗教と世界史

若林　　裕

授業テーマ:　＜宗教＞の過去・現在と未来

授業の概要:　＜宗教＞は個人の内面の事柄に関わるだけではなく、広く文化/文明を構築する原動力であり、世界の紛争や対立の要因としても指摘される。そのような意味で、＜宗教＞は時代状況を読み解くキーワードの一つと言えよう。本講義では、諸宗教の歩みを文化・社会史的に辿りつつ、現代世界の課題としての諸宗教理解と宗教多元主義の可能性を展望する。

到達目標:
1. キリスト教を主体に、諸宗教に関わる基礎知識の習得。
2. 現代世界のさまざまな問題の背後にある宗教文化的背景の把握。
3. 宗教文化史的視座から＜宗教＞を考察できる、冷静でバランスのとれた思考力および他者理解の進展。

授業方法:　授業は講義形式を原則としますが、積極的な意見交換や質問は大歓迎です。なお8、10、12回目の授業はDVDを併用する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	本講義に関するオリエンテーション（ねらい、問題設定、用語解説等）	授業時配布プリントの復習 教科書1章参照
2.	「日本の宗教」（1）—概説	授業時配布プリントの復習
3.	「日本の宗教」（2）—時代の転換期と民衆宗教	授業時配布プリントの復習
4.	仏教の歴史と哲学—大智、大悲を中心に	授業時配布プリントの復習
5.	三大一神教と多神教（ヒンドゥー教など）—比較宗教学の視点から	授業時配布プリントの復習
6.	ユダヤ教の歴史	授業時配布プリントの復習
7.	キリスト教（1）—史的イエスと信仰のキリスト	授業時配布プリントの復習 教科書6、8、9章参照
8.	キリスト教（2）—ローマ帝国とキリスト教	授業時配布プリントの復習
9.	キリスト教（3）—キリスト教と中世	授業時配布プリントの復習
10.	キリスト教（4）—ルネサンスと宗教改革の意義	授業時配布プリントの復習
11.	キリスト教（5）—東方正教会とビザンツ帝国	授業時配布プリントの復習
12.	イスラームの歴史と現在	授業時配布プリントの復習 教科書10章参照
13.	宗教多元主義（1）—前提と成り立ち	授業時配布プリントの復習 教科書、訳者あとがき参照
14.	宗教多元主義（2）—原理主義を踏まえての再考	授業時配布プリントの復習 教科書10章参照
15.	結びにかえて—現代世界の諸問題（パレスチナ問題など）と宗教多元主義の可能性	授業時配布プリントの復習 教科書序文参照

受講者へのメッセージやアドバイス:
1. 事後学習として、毎回配布されるプリント類は必ず見直しておいて下さい。もし分からないところがあれば、次回授業の前後に質問下さい。
2. 英文資料（宗教に関わる英文雑誌記事など）も適宜配布します。授業中に解説を行いますので、英語力は関係ありませんが、参考までに英和辞典の持参をお勧めします。
3. 期末レポートの課題は11月下旬に公表します。

フィードバックの方法:　毎回の質問内容に関しては、その都度お答えします。期末レポートについては15回目に、まとめてコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	70%	課題図書（教科書ないし図書館で借りられる本）の書評とする。理解力を重視
授業出席	20%	授業への積極的参加
自己評価申告	10%	当該科目に対する自らの取り組み姿勢を期末に評価

教科書:　ジョン・ヒック著　若林裕訳 『神とはいったい何ものか－次世代のキリスト教－』 新教出版社、2014年
なお毎回の講義時に、必ずプリント資料を配布する

参考書:　間瀬啓允編 『宗教多元主義を学ぶ人のために』 世界思想社、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　メールwakabayashi8476@yahoo.co.jpへ連絡ください。
なお火曜、水曜日の午前中は本学に来ています。

440400

グローバル社会論

大西　　秀之

授業テーマ:　日々の暮らしからグローバル社会のあり方を理解する

授業の概要:

TVのニュースやネットの情報、あるいは就職セミナーや街角の広告などで、グローバリズムやグローバル社会という言葉が溢れています。では、グローバル社会とは、一体どんな社会なのでしょうか。またそれは、わたしたち自身の日々の暮らしと、具体的にどのように関係しているのでしょうか。知っているようで実はよく分かっていない、それがグローバル社会に対する、わたしたちを含む一般社会の理解ではないでしょうか。

以上のような問い掛けに対し、本授業では、わたしたちの日常生活との繋がりを探るなかから、グローバル社会に対する理解を試みたいと考えています。グローバル社会が論じられる時、往々にして国際会議や多国籍企業のような華々しい場が事例として取り上げられる傾向が認められます。しかし、本授業では、むしろ慣れ親しんだ身近な日々の暮らしこそが、グローバリズムとの深い結びつきのなかで成り立っている事例を取り上げ考察を行います。このような考察を通して、グローバル社会のあり方を理解するとともに、それがわたしたちの日常生活とどう関係しているのか追究したいと考えています。

到達目標:

・現代社会におけるグローバルリズムのあり方を理解する。
・グローバル社会の視点から日々の暮らしを再考する。
・グローバリズムによって進展する国や地域を超えた関係性を追究する。

授業方法:

講義形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・不定期的にコミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日常生活からグルーバル社会を探る	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	グローバリズムが支える日々の暮らし	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	日本の食卓と生産地	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	グローバル化する生産と流通	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	輸入木材と森林伐採	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	生産現場で働く人びと	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	中間まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。
8.	日本の開発援助	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	開発援助による生活変容	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	大規模公共事業と現地住民	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	市場経済に取り込まれる日常生活	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	世界システム論	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	反グローバリズムは可能か	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	グルーバル社会との関係性を再考する	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

グルーバル社会のあり方は、新聞やテレビなどで伝えられているものがすべてではありません。この講義を受講される皆さんには、「わたしたち自身の日々の生活と決して無関係ではない」という認識に立ち、グローバル社会に対する理解を深めることを期待します。また日常の生活のなかで、グローバリズムに関係する諸問題に関心を向けるように心掛けてください。

フィードバックの方法:

・中間試験は、採点し授業期間中に教室で返却します。またその際、評価基準を改めて解説します。
・コメントペーパーは、次の授業の際に総評を交えた解説を行います。
・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	45%	論述試験では、到達目標である「現代社会におけるグローバリズムのあり方を理解する」ことが、具体的事例を基に説明・論述できているか評価します。
中間試験	45%	論述試験では、到達目標である「グローバリズムの視点から日々の暮らしを再考する」ことが、具体的事例を基に説明・論述できているか評価します。
コメントペーパー	10%	授業期間中に4～5回実施するコメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、批判力、思いやる力
教員との連絡方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

440500

異文化理解

山路　　順子

授業テーマ:　異文化理解とコミュニケーション

授業の概要:　このクラスでは『文化とは何なのか』というわかりそうでわかりにくい問いかけに取り組み、その上で異文化理解に関わる様々な基本概念を学習し、異文化理解に関するいくつかの問題に取り組んでいただきます。授業で扱う異文化は外国の文化間だけを扱うのではなく、同じ文化内でも年齢差や性差といった広義の異文化にも触れていきます。また異文化理解教育の在り方についても考えてもらいます。

到達目標:　学習していく過程で、様々な文化に触れる機会が多い現代において、よりよい異文化コミュニケーションが行えるようになっていただくのがこの授業の最終目標です。現代社会が抱えるいくつかの問題を考察することで、多文化共生社会の現状を把握し未来を模索していただければと考えています。

授業方法:　主に講義形式ですが、トピックについてのディスカッションをしながら進めていきます。かなり積極的な授業への参加が必要です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（授業運営と評価方法について）	授業中に指示した課題と復習
2.	文化が持つ様々な側面１	授業中に指示した課題と復習
3.	文化が持つ様々な側面２	授業中に指示した課題と復習
4.	コミュニケーションが持つ様々な側面１	授業中に指示した課題と復習
5.	コミュニケーションが持つ様々な側面２	授業中に指示した課題と復習
6.	Review and Discussion	授業中に指示した課題と復習
7.	異文化接触とコミュニケーション１	授業中に指示した課題と復習
8.	異文化接触とコミュニケーション２	授業中に指示した課題と復習
9.	グローバリゼーションと多文化共生１	授業中に指示した課題と復習
10.	グローバリゼーションと多文化共生２	授業中に指示した課題と復習
11.	Review and Discussion	授業中に指示した課題と復習
12.	異文化理解教育の在り方１	授業中に指示した課題と復習
13.	異文化理解教育の在り方２	授業中に指示した課題と復習
14.	異文化理解と多文化共生社会	授業中に指示した課題と復習
15.	まとめ	これまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業では皆さんが今までに経験してきた文化体験を例にしながらディスカッションすることがありますので、積極的な授業への参加が必要です。また指示した課題への取り組みが評価対象になっていますので、毎回の授業で指示する準備を必ずして授業に臨んでください。

フィードバックの方法:　授業での課題提出についてはその場で解説解答することがほとんどです。論述問題の場合は次週にコメントをつけてお返しします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20%	積極的な授業への参加１０%と授業での発表１０%による評価
課題提出	40%	ワークシートの提出がほぼ毎回あります。
レポート	40%	授業内容に関する問題に解答する形式のレポートが課せられます。

教科書:

参考書:　授業中適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　jyamaji@dwc.doshisha.ac.jp

440600

移民難民論

大西　　秀之

授業テーマ:　移民難民からグローバル化する現代社会を再考する

授業の概要:

移民・難民という言葉を聴くと、わたしたちの暮らしと程遠い、新聞やTVニュースなどのメディアで伝えられる、どこか遠い所の話のように思われるかもしれません。しかし、わたしたちの日常生活を少し見渡してみると、グルーバル化が進むなかで異なる国や地域から来られた異なる文化・エスニシティの人々との接触・交流なしに過ごす日々はないのでは、という社会状況になっています。

以上を踏まえ、本講義では、移民・難民に焦点を当てるとともに、それらに関係する社会問題を検討します。とくに本講義では、移民や難民をわたしたちとは無関係な存在として検討するのではなく、できる限り日々の暮らしに引き付けて考察を試みたいと思っています。

到達目標:

・移民や難民とされる人々の存在からグローバル化社会を理解する。
・移民や難民を自らに関係する社会問題として考察を試みる。

授業方法:

講義形式＋演習形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・受講生の数によりますが講義を踏まえた質疑・討論による演習形式を行う予定です。
・毎回コミュニケーションペーパーによって講義に対する質問や意見などを収集します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	移民とは？難民とは？	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	移民・難民と日常生活	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	移民と経済	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	難民と経済	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	移民と政治	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	難民と政治	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	移民と紛争	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
9.	難民と紛争	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
10.	移民と国際関係	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
11.	難民と国際関係	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
12.	移民とグローバル化	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
13.	難民とグローバル化	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
14.	移民・難民が形作る現代社会	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
15.	まとめ	各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講義の受講生は、日頃から移民や難民に関連する新聞報道やTVニュースなどのメディア情報をチェックしておくようにしておいてください。

なお本講義では、準備された内容によって進めるよりも、日々伝えられるニュースソースなどを積極的に活用した少しチャレンジングな授業進行を試みたいと考えています。

フィードバックの方法:

・各回のディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・コメントペーパーに対しては、次の授業の際に総評を交えた解説を行います。
・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	試験は、到達目標である「移民や難民とされる人々の存在からグローバル化社会が理解」できているか評価します。加えて、到達目標である「移民や難民を自らに関係する社会問題として考察」されているかも評価します。
授業への参加度	60%	到達目標を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と積極的な発言を求めます。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力
教員との連絡方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

440700

国際交流史

爲政　　雅代

授業テーマ:　亡命ユダヤ人による米独知的交流の歴史

授業の概要:　20世紀のドイツは大きな歴史のうねりを経験しながら、アメリカの影響を強く受けてその文化的な発展を遂げたと言われる。ただし、そのなかでアメリカ文化の一方的な受容ではなく、ドイツの伝統を守ることも主張された。その結果、アメリカの影響を受け入れながらドイツ的な文化を維持し、「融合された文化」が生み出された。本講義では、融合された文化のひとつとして学問における知的交流に焦点を当て、これを仲介した「亡命ユダヤ人たちの活動」とそれを引き起こした「ドイツ史の悲劇」を解説する。

到達目標:　・各テーマの内容をしっかりと理解する。
・ユダヤ人迫害や亡命について専門的な知識を習得する。

授業方法:　毎回配布するプリント(写真、地図など)を使用しながら、講義形式で授業をおこなう。また、授業内容に応じて、博物館や記念碑を通じて学ぶ、あるいは、映画を紹介することなどを予定している。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	授業内容の復習
2.	ドイツ国家学の形成	授業内容の復習
3.	アメリカ政治学の発展	授業内容の復習
4.	ドイツにおけるユダヤ人社会　ーフランクフルト・ゲットー博物館ー	授業内容の復習
5.	ナチス支配下のドイツ社会　ーバイエルン広場の記念碑に学ぶ日常生活におけるユダヤ人迫害ー	授業内容の復習
6.	ナチスから逃れる亡命ユダヤ人たち	授業内容の復習
7.	ユダヤ系知識人の亡命	授業内容の復習
8.	亡命したユダヤ系知識人たちとアメリカ	授業内容の復習
9.	亡命者とドイツ人の対立　ートーマス・マンー	授業内容の復習
10.	亡命者フランツ・ノイマン	授業内容の復習
11.	亡命者エルンスト・フレンケル	授業内容の復習
12.	ドイツ政治大学	授業内容の復習
13.	ベルリン自由大学と西ドイツ政治学の発展	授業内容の復習
14.	ユダヤ人迫害と亡命者による知的交流の歴史	授業内容の復習
15.	まとめ	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　ユダヤ人の迫害と亡命を中心的に学ぶことで、自分をその歴史の現場に投影して考え、自分の意見を持ってもらいたい。

フィードバックの方法:　授業内に提出された小レポートについては、教室で総評する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
小レポート	20	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:　教科書は指定しない。

参考書:　初回授業で参考文献リストを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応する。

440800

京都観光論

大津　　正和

授業テーマ:　国際観光都市である京都の観光上の特徴とその背景

授業の概要:　京都に立地する観光資源について詳細に知ることを通じて、京都の観光上の特徴を理解する。京都には多種多数の観光資源があるが、それらをエリアまたはテーマ毎に整理して学ぶ。このようにして学んだことを積み上げることによって、京都の観光上の特徴とその成り立ちへの理解を深める。京都市内が学習対象の中心となるが、京都府全体についても若干取り上げる。

到達目標:　国際観光都市としての「京都」の特徴を理解している。京都にある主要な観光資源について、その特徴や背景を現実に即して体系的に理解している。京都の観光上の特徴を活かした観光振興の方策を考え、提案できる能力を涵養する。

授業方法:　講義 テキストを参照しながら、京都市内および京都府内の観光資源についてエリアまたはテーマ毎に現実に即して体系的に学んでいく

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	京都の観光について、いろいろな情報源や実際に見てみることを通じて調べておく
2.	京都の街と観光	教科書の、平安京、まるたけえびす、町屋および関連項目について予習しておく
3.	京都市中央部1	教科書の、京都御苑、二条城、北野天満宮および近隣の関連項目について予習しておく
4.	京都市中央部2	教科書の、東西本願寺、東寺および近隣の関連項目について予習しておく
5.	京都市東部1	教科書の、清水寺、八坂神社、祇園および近隣の関連項目について予習しておく
6.	京都市東部2	教科書の、平安神宮、南禅寺、銀閣および近隣の関連項目について予習しておく
7.	京都市北部	教科書の、鞍馬、貴船および近隣の関連項目について予習しておく
8.	京都市西部1	教科書の、太秦、龍安寺、金閣、嵯峨野および近隣の関連項目について予習しておく
9.	京都市西部2	教科書の、嵐山、天竜寺および近隣の関連項目について予習しておく
10.	京都市南部	教科書の、伏見稲荷、醍醐寺、萬福寺および近隣の関連項目について予習しておく
11.	京都の祭	教科書の、葵祭、祇園祭、送り火、時代祭および関連項目について予習しておく
12.	京都の食	教科書の、和食、錦、和菓子、茶および関連項目について予習しておく
13.	京都府1	教科書の、天橋立、伊根、美山および京都府北部の観光について予習しておく
14.	京都府2	教科書の、一休寺および京都府南部の観光について予習しておく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　京都における観光に興味を持って、書籍、テレビ番組、あるいは観光紹介サイトなど様々な情報源から京都観光に関連する情報を集めておく。講義で取り上げる地域・テーマについて、講義までに予習をしておくことが必須である。また、授業で学んだ地域・テーマについては、良く復習をして理解を深めておく。

フィードバックの方法:　小レポートに付された質問等には、教室でまとめて解説する。試験は、採点し点数を通知する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	50	各回で学んだ地域・テーマにおける京都観光についての理解度
試験	50	京都にどのような観光施設や観光テーマがあるかについての理解度

教科書:　森谷尅久監修 京都商工会議所編『京都・観光文化検定試験 公式テキストブック』淡交社2016

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

440900

京都の文化財論

中島　　正

授業テーマ:　京都の歴史と文化財、その特殊性と普遍性

授業の概要:　歴史を考える場合に、史跡や文化財が重要な役割を果たすことは論を待たない。机上の勉学でわからないことであっても、実際の史跡に立ち、文化財に触れるならば、必ずや歴史を「肌で感じる」ことができるであろう。この講義は、歴史研究における史跡・文化財の持つ意義を理解することを目的とする。特に、我が国最大の史跡・文化財の宝庫である京都に焦点をあてる。受講生に対しては、毎週の講義を受けるだけでなく、積極的に実際の史跡・文化財に触れることを求めていきたい。

到達目標:　実際の史跡・文化財に触れることで、歴史の実像を体感する。積極的に史跡・博物館等に足を運び、歴史的・文化財的価値を学び取る。史跡・文化財がただ単に過去の遺物ではなく、そこに内在する現在的な価値を見出す。史跡・文化財が今日まで残ったことの意味と残した人々の意志を知り、文化財保護の現代的意義を学ぶ。

授業方法:　講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。なお最新の調査や研究成果をできるだけ授業に取り込むため，計画は一部修正されることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自然と文化，資源と資産 （史跡・文化財とその現代的価値とは）	身近な史跡・文化財や博物館を訪ねる。
2.	文化財保護法の基礎1　その歴史と成り立ち	岡倉天心について調べておく。
3.	文化財保護法の基礎2　法体系と運用 （体制，指定，管理，保護，公開）	文化財保護法について調べておく。
4.	文化財の種類1　有形文化財	文化財建造物について調べておく。
5.	文化財の種類2　今を生きる文化財としての無形文化財と民俗文化財	祇園祭について調べておく。
6.	文化財の種類3　未知の文化財としての埋蔵文化財	身近な遺跡について調べておく。
7.	文化財の種類4　土地に密着した史跡・名勝・天然記念物	故郷の国分寺について調べておく。
8.	文化財の種類5　文化複合体としての文化的景観と伝統的建造物群	故郷の風土と景観について調べておく。
9.	文化財の種類6　世界遺産と世界の記憶 （保護の意志，学問，政治）	世界遺産について調べておく。
10.	京都の文化財とその現状・活用　１ （都市と史跡・文化財，恭仁京・長岡京・平安京）	平安京について調べておく。
11.	京都の文化財とその現状・活用　２ （開発と文化財保護行政，関西学研都市）	大学近辺の天神山遺跡について調べておく。
12.	京都の文化財とその現状・活用　３ （史跡整備と保護・活用）	平城宮について調べておく。
13.	京都の文化財と観光　１ （名所旧跡・景観・風土，カルチャーツーリズム）	故郷の観光地について調べておく。
14.	京都の文化財と観光　２ （近代化遺産と戦争遺跡・災害遺跡，ダークツーリズム）	原爆ドームについて調べておく。
15.	京都の文化財と観光　３ （史跡・文化財保護と現代社会，まとめと振り返り）	史跡・文化財の現代的価値についてまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講義を通して、できるだけ多くの史跡・文化財，博物館等を訪ね、実際に肌で感じ、なぜそこに存在するのかを考える。

フィードバックの方法:　レポート・質問用紙等の提出物についてはコメントを付して返却し、重要な点については教室でまとめて解説・討議する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	７０％	史跡・文化財の現代的意義に対する理解度
発表・討議	３０％	発表・討議に対する問題意識と積極性 史跡見学などの小リポートを課す場合がある。

教科書:　無し、資料を配付する

参考書:
田中　琢『考古学で現代を見る』(岩波現代文庫、2015)
阿部謹也 『日本人の歴史意識』(岩波新書、2004)
上野　誠 『日本人にとって聖なるものとは何か』(中公新書、2015)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール

441000

京都文化論

角谷　　江津子

授業テーマ:　近世京都から21世紀まで続くKYOTO BRAND「京焼　きょうやき」って何だろう。

授業の概要:　安土桃山時代から江戸時代を中心に、京都でつくられた「京焼」を主題として、美術工芸と文化史について学びます。

到達目標:
京都におけるやきもの＝陶磁器器生産について知る。
代表的な作家と作品、文化史的背景についてよく知る。
京焼が現在までつくられているのはなぜか、考える。
京焼が今も使われ続けているのはなぜか、考える。

授業方法:　講義形式。適宜パワーポイント、DVDを使用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概論 平安京から近世まで	配布資料を読んで復習
2.	「楽」と「軟質施釉陶器」	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
3.	「京焼」あらわる	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
4.	「野々村仁清」という天才陶工	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
5.	江戸時代の工芸と京都	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
6.	「緒方乾山」という個性派陶工	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
7.	京都で磁器をつくった「奥田潁川」	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
8.	茶の湯文化と京焼	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
9.	煎茶文化と京焼 中国趣味ということ	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
10.	近世考古学と京焼（1） 生産	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
11.	近世考古学と京焼（2） 消費	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
12.	幕末京都の名工たち	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
13.	明治の京焼 海外輸出の時代	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
14.	現代の京焼	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習
15.	未来の京焼 文化都市の芸術として	配布資料を読んで復習 次回資料に目を通して予習

受講者へのメッセージやアドバイス:
今出川キャンパスをイメージして時間旅行。京焼の名品の魅力と名工たちの人生、その背景となるドラマを訪ねる旅に、一緒に出かけましょう。

準備学習は予習・復習が中心になります。次回資料を早めに配布する予定ですので、目を通してから授業に出席してください。

フィードバックの方法:　今回の内容に入る前に前回の復習をし、授業後に質問に答える時間をつくります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験またはレポート	75%	授業の内容をよく理解しているか。 京都の地名、代表的な作品名、作家名、文化的背景について論述できるか。
出席	15%	積極的に授業に参加すること。
小レポート	10%	自由提出。美術館・遺跡見学レポートを予定。 詳細は授業中に指示。

教科書:　とくに指定しません。授業内容についてプリントを作成し、毎回配布する予定です。

参考書:	『日本やきもの集成』(満岡忠成ほか編集)平凡社　1980～1982年 『角川日本陶磁大辞典』(矢部良明編集代表)角川書店　2002年 『京都の歴史』(京都市編)第3巻～第10巻　學藝書林　1968～1976年 『京都の歴史と文化』(村井康彦編)講談社　1994年 『京焼-みやこの意匠と技』(展覧会図録)京都国立博物館　2006年 『憧れのヨーロッパ陶磁』』(展覧会図録)京都国立博物館　2008年 角谷江津子『近世京焼の考古学的研究』雄山閣　2016年 他に参考文献がある場合には、授業中に指示します。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対。マナビーの掲示板機能。

441100

京都の美術史

上田　　文

授業テーマ:　近世京都の美術

授業の概要:　桃山から江戸時代にかけての京都の絵画と工芸を取り上げ、様式的、技法的な検討を加えながら近世「京都」の美術の歴史を学ぶ。

到達目標:　桃山から江戸時代へと時代が移り変わるなかで、どのような作品が生み出され、どのような絵師が活躍し、どのように展開していったのか、を学ぶことを通して、京都を中心とした美術工芸の歴史に興味をもち、自ら鑑賞するなかで美的感性を磨くことを目標とする。

授業方法:　各回テーマにそってスライドを用いながら講義を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	京都にある多くの寺社仏閣や美術館、博物館、文化財施設を訪れ、作品を実際に見ること。
2.	近世京都の美術とは	
3.	新しい価値観の創造—戦国武将の造形	
4.	桃山時代の工芸—高台寺蒔絵と小袖	
5.	西洋との出会い—南蛮美術	
6.	町衆の美意識（1）—祇園祭	
7.	江戸時代の建築（1）—二条城と離宮	
8.	町衆の美意識（2）—琳派	
9.	工芸の世界—友禅染と京焼	
10.	江戸時代の建築（2）—京都御所の造営	
11.	美術界の隆盛—安永天明期の京都画壇	
12.	新しい画風の登場—円山応挙	
13.	京の粋人—呉春	
14.	江戸時代から明治へ—四条派の流れ	
15.	まとめ	授業全体を復習し、講義内容をまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業を通して各自が日本美術に対する理解と興味を深め、作品鑑賞を通して新しい自分を磨いてほしいと思います。なお、授業の進捗状況によってシラバスの予定が変更されることがあります。

フィードバックの方法:　授業中に配布するコメントペーパー。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	75	授業に対する理解度を到達目標に即して判定する。
展覧会鑑賞レポート	必須	実際の作品を見て自分なりに感じたことや思ったことが書けているか。※提出のない場合は単位取得が認められません。
出席	10	積極的に授業に参加できたか。
ミニレポート	15	予告なしに行うレポート（詳細は授業で指示する）。

教科書:　特になし

参考書:
奥平俊六『桃山時代の美術』東京書籍、2009年
橋本麻里『京都で日本美術をみる（京都国立博物館）』集英社、2014年
安村敏信『江戸絵画入門』東京美術、2005年
河野元昭『日本美術史入門』平凡社、2014年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

441200

京都文化資料論

飯塚　　ひろみ

授業テーマ:

授業の概要:　『源氏物語』の桐壺巻を影印本を用いて読む。

到達目標:　平安時代の京都（平安京）についての知識を増やす。
変体仮名を解読し、書かれた内容を理解する力をつける。

授業方法:　講義形式とグループワーク。
テキストを読むための予備知識を講義した後、変体仮名の解読と内容読解にうつる。
最初のうちは解読の時間を多くとり、変体仮名に慣れることに主眼を置く。
慣れてきたら4～5回程度のグループワークを取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	時代背景 藤原道長と源氏物語　藤原彰子と紫式部	『源氏物語』の概要を把握しておくこと
3.	講読のための基礎知識 平安京の地理　方角・時刻の表し方	
4.	源氏物語の登場人物と系図	『源氏物語』のあらすじ把握しておくこと
5.	講読(1)「いづれの御時にか」	『源氏物語』以前の歴史を把握しておくこと
6.	講読(2)「上達部、上人なども」	平安時代の政治についての基礎知識を得ておくこと
7.	講読(3)「男御子さへ生まれたまひぬ」	
8.	講読(4)「御局は桐壺なり」	平安京についての基礎知識を得ておくこと
9.	講読(5)「愛宕といふ所に」	
10.	講読(6)「高麗人の参れる中に」	
11.	講読(7)「先帝の四の宮の」	
12.	講読(8)「源氏の君は」	
13.	講読(9)「おはします殿の東の廂」	
14.	講読(10)「母宮、内裏のひとつ后腹になむ」	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　桐壺巻の現代語訳を読んでおくと理解が深まります。

フィードバックの方法:　質問等に対して教室内で回答

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100%	到達目標に関する習得度や理解度により評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

441300

京都の社会史

佐伯　　俊源

授業テーマ:　古代都市平安京の諸様相

授業の概要:　かつて1100年にわたって日本の都であり続けた京都の地は、まさしくわが国の伝統文化の集積地である。その古都京都の地で展開されてきた人々の社会生活の営みを理解することは、現代日本社会の成り立ちを考える上でも非常に重要な課題であろう。本講義では、その京都の悠久の歴史の中でも、草創期にあたる古代の時代、すなわち平安京が建都されて以降の平安時代の社会生活のあり方について理解を深めたい。
具体的には、平安京の都市構造について全般的に把握した上で、古代都市平安京における社会生活上の諸問題の中から、いくつかの具体的問題を取り上げながら、その実態を明らかにして、それを通じて皇族・貴族から庶民に到るまで都市平安京に居住した諸階層の人々の社会生活の諸様相について知得することを目標としたい。

到達目標:
・古代都市平安京の成立・構造・変遷について理解を深める。
・平安京における社会生活の諸問題について理解を深める。
・古代京都の社会に対する関心を醸成する。

授業方法:　講義形式で授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論 講義内容の紹介と導入	
2.	都市平安京の成立とその構造 ① 日本の古代宮都とその変遷	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
3.	都市平安京の成立とその構造 ② 平安建都の歴史的経緯	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
4.	都市平安京の成立とその構造 ③ 平安建都の思想的背景	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
5.	都市平安京の成立とその構造 ④ 平安京の都市構造	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
6.	都市平安京の成立とその構造 ⑤ 平安京の社会構成	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
7.	都市平安京の成立とその構造 ⑥ 平安京の変遷	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
8.	平安京における社会生活上の諸問題 ①-1 概要	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
9.	平安京における社会生活上の諸問題 ①-2 実態と意義	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
10.	平安京における社会生活上の諸問題 ②-1 概要	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
11.	平安京における社会生活上の諸問題 ②-2 実態と意義	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
12.	平安京における社会生活上の諸問題 ③-1 概要	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
13.	平安京における社会生活上の諸問題 ③-2 実態と意義	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
14.	補遺 講義内容の総括と補足	配付資料や参考文献として紹介する図書などを用いて各自で適宜に予習を行う。講義後、その内容とともに各自の意見や問題点をノートにまとめて復習する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
古代都市平安京における社会生活上の問題の候補として以下のようなものを考えている。
①衣食住　②教育と学芸　③医療と福祉　④災害と防災　⑤土木と建築
⑥娯楽と芸能　⑦家族と生死　⑧軍事と警察　⑨外交と国際性　⑩倫理と道徳　etc
具体的には受講生の希望もふまえて決定したい。
最終的には3つほどの問題を採りあげて、詳しく考えてみたい。

フィードバックの方法:　毎回、出席カードにその回の講義内容についてのコメントを記述して、授業の最後に提出する。提出されたカードのコメントには随時目通しして授業内容に反映させるとともに、出席状況を集計した上で、学期末に一括して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	50%	出席カードへのコメントにより、到達目標に掲げた諸点への各自の理解度と評価する。
筆記試験	50%	到達目標に掲げた諸点への各自の理解度を筆記試験によって評価する。

教科書:　特になし。
適宜にプリント資料を配布する。

参考書:　授業の中で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:	授業後、教室で応対する。 必要に応じてEメールで応答する。

441400

地理学

天野　　太郎

授業テーマ:　地域と人々との関わり一人文地理学・自然地理学の多様性

授業の概要:　地理学は、地域と人々とのさまざまな関わりを総合的に考える基礎学問です。この授業では、地理学からみた視点を幅広く紹介していくとともに、その中で文化や歴史がどのように展開して行ったのか、地図をベースに見ていきます。さらに、地質や断層といた自然地理学の領域についても触れていきます。

到達目標:
1:地域と人々との関わりが多様なことを理解する。
2:地域の特質について地図から考察する力を養う。
3:人文・自然地理学両面から、わたしたちの住む地域空間のありかたについて理解する。

授業方法:　講義形式でおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　授業概要のガイダンス	配布資料の確認
2.	ヨーロッパ人たちがみた地図の世界～地理知識と宗教との関わり	配布資料の確認
3.	日本を描いた地図一測量と植民地	配布資料の確認
4.	人文地理学の諸相　都市と農村・囲まれた都市形態	配布資料の確認
5.	景観写真からみる地域の特徴～考現学の世界	配布資料の確認・写真撮影
6.	都市空間におけるメンタルマップからみた地域課題	配布資料の確認、地図作業
7.	都市と宗教～1:寺内町の成立から城下町への移行	配布資料の確認
8.	都市と宗教～2:城下町の立地と現在の都市	配布資料の確認
9.	地域と地方区分	配布資料の確認
10.	京田辺の地域構造	配布資料の確認
11.	帝国主義と植民地主義	配布資料の確認
12.	自然地理学と地域1地形と地域	配布資料の確認
13.	自然地理学と地域社会2　断層と地震～地質条件と地域	配布資料の確認
14.	自然地理学と地域社会3　断層と地震～プレートと被災地域の課題	配布資料の確認
15.	全体の総括	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　地理学は中学校・高等学校で学んだ事柄とも大きく異なり、より広く地域のありかたを考える学問です。地理が苦手であった方や、地理を高校で履修していなくても何も問題はありません。

フィードバックの方法:　授業内にて、コメントペーパー、小レポートの内容について総合的にフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席/コメントペーパー	50	毎回実施するコメントペーパーにおいて到達目標1:地域と人々との関わりが多様なことを理解する2:地域の特質について地図から考察する力について、確認を行う。
小レポート	50	授業中に指示する小レポートを通して到達目標3:人文・自然地理学両面から、わたしたちの住む地域空間のありかたについて理解しているかどうか判断する。

教科書:　指定しない。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業後の教室での質疑応答、ならびにオフィスアワーを中核とした研究室での質疑応答をおこなう

441500

まちづくりの地理学

天野　　太郎

授業テーマ:　まちづくりの地理学～各地の地域活性化と復興に向けたまちづくり

授業の概要:　この授業では、まちづくりを推進している諸地域の事例を通して考えていきます。とりわけ、北海道などの先進地域や、東日本大震災の被災地を主たる対象としながら、地域がいかに復興し、再生しているのかを実地のプロセスも踏まえながら、これからのまちづくりの現状と課題について理解を進めます。

到達目標:　地域の形成について、現代社会における諸課題の理解や解決を目指し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持ち、総合的な視点から考察することを目標とする。
1:自分たちの命をまもる知識と理解力を獲得する。
2:被災地の現状と復興のプロセスを理解し、発信する力を養う。
3:被災地のまちづくりが、過疎地域や高齢化社会での課題と共通しており、私たちのこれからの身の回りの地域を考える上でも重要であることを理解する。

授業方法:　講義　パワーポイント、資料を用いるとともに、発表を合わせて行う。また被災地での校外授業を実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　講義の目標・ガイダンスと概要	必要資料の整理、グループ作り、フィールドワークの日程確認
2.	まちづくりの先進事例	配布資料の確認
3.	まちづくりの先進事例ー多世代共生型の可能性	配布資料の確認
4.	まちづくりと地域社会	配布資料の確認
5.	東日本大震災と被災地の現状	配布資料の確認
6.	東日本大震災と被災地の現状　釜石の事例	配布資料の確認
7.	東日本大震災と被災地の現状　閖上の事例	配布資料の確認
8.	東日本大震災と被災地の現状　大川小学校の事例	配布資料の確認
9.	ボランテイアのあり方	配布資料の確認
10.	防災教育の現状と課題	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
11.	まちづくりの方向性ーグループプレゼンテーション1	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
12.	まちづくりの方向性ーグループプレゼンテーション2	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
13.	まちづくりの方向性ーグループプレゼンテーション3	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
14.	まちづくりの方向性ーグループプレゼンテーション4	配布資料の確認、プレゼン資料の作成準備
15.	発表の総括とフィードバック	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　まちづくりや被災地は特別のものではなく、いつ、日本中のどこにでも起こりうる事象です。この実態を踏まえた上で、学問としてだけではなく、自分や家族の命を守る知識として、受講いただきたいと思います。また、必要に応じて屋外でのフィールドワークを実施します。

フィードバックの方法:　授業中の発表へのコメントとしてフィードバックを随時授業内で行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・コメントペーパー	50	出席状況と理解状況、到達目標の1:自分たちの命をまもる知識と理解力を獲得しているかを評価する。
プレゼンテーション	50	グループ発表を通して、到達目標の2:被災地の現状と復興のプロセスを理解し、発信する力について評価する。

教科書:　特になし

参考書:　必要に応じて授業内で指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業中・授業後の教室内、およびオフィスアワーを中心とした研究室(知徳館c354)にて直接行う。

441600

現代社会と宗教

山下　　智子

授業テーマ:　現代社会における宗教

授業の概要:　日々伝えられる世界や日本のニュースを十分理解し現代社会を読み解く上で、宗教に関する知識や理解は不可欠です。この授業では、宗教学の基本的事項を学び、宗教を自身やその生活に関わりのある身近なことがらとしてみつめ、現代社会で起こっている宗教問題を考察します。また私たちにとって宗教とは何か、宗教の役割は何か、また、現代社会の中で宗教はどういう役割を果たしているかを考えます。

到達目標:　（1）現代社会を読み解くうえで必要な各宗教の特色や思想を理解する。
（2）現代社会における宗教の積極的な役割について理解を深める。

授業方法:　講義と発表、ディスカッションにより進めます。DVD映像を用います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	宗教とは何か	自分は今まで宗教行事にどのように参加し、どのような影響を受けてきたかを考えてくる
3.	現代日本人と宗教：カルト問題をどう考えたら良いか	日本におけるカルトに関するニュースを調べてくる
4.	現代世界と宗教：宗教間対話と宗教多元主義	世界で宗教が関わる紛争のニュースを調べてくる
5.	ユダヤ教・キリスト教・イスラム教の成り立ち	一神教とはどのようなものかを調べてくる
6.	キリスト教（1）キリスト教の発展、オーソドックス教会（正教会）の歴史と現状	正教会の成り立ちと特色を調べてくる
7.	キリスト教（2）プロテスタント教会とカトリック教会の違い	プロテスタント教会とカトリック教会の違いを調べてくる
8.	イスラーム教（1）イスラーム教とはどんな宗教か	イスラーム教とはどんな宗教か調べてくる
9.	イスラーム教（2）イスラーム教過激派とテロ	イスラーム教過激派とテロについて調べてくる
10.	仏教(1)　ブッダの教え①	事前配布資料を読んで概要を理解してくる
11.	仏教(2)　ブッダの教え②	事前配布資料を読んで概要を理解してくる
12.	日本仏教　日本仏教の特徴はどういうものか	日本の仏教の教派にはどのようなものがあるかを調べてくる
13.	神道　日本古来の宗教性の特徴はどういうものか	事前配布資料を読んで概要を理解してくる
14.	儒教　　儒教が日本文化に与えた影響は	儒教とはどのようなものかを調べてくる
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講人数や、学生の関心・理解度により、開講後に授業計画や授業方法を受講生に説明の上変更することがあります。

フィードバックの方法:　質問やコメントに教室で回答、解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	20	発表の内容によって評価
学期末テスト	30	適切な知識と理解度をもって答えているかどうかによって評価
授業の参加度	50	クラスへの出席と出席カードのコメント、授業への積極的参加度により評価

教科書:　教室で資料を配布します。

参考書:　教室で指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　メールで連絡を取れるようにします。

441700

レジャースポーツ論

濱口　　義信

授業テーマ:

授業の概要:

現代社会において、自由時間は自発的な活動を通して人々が自己実現をするための重要な生活領域になっている。特に近年の生活様式の大きな変化の中で、健康に対する社会的要請と相まって、スポーツは有力なレジャー活動のひとつになっている。この授業では、レジャー・レクリエーション全体の中でのスポーツの位置づけと役割を明らかにした上で、現状と問題点を検討し、人々の多様な自己実現を達成するためのスポーツのあり方を追求したい。

到達目標:

レジャーが人間生活全体の中で大きな領域を占めるようになっら現代社会において、個人の健康と生活を充実させるためのスポーツの重要性を理解して自らのライフスコースにおける位置づけを明確にすると共に、拡大しつつあるスポーツを支える政策やスポーツ産業などの認識を通してレジャースポーツの社会的意義と今後の方向性を構想する。

授業方法:

講義を中心として授業を進めるが、分担した課題の発表やディスカッションをする機会を設けて、受講者が主体的に取り組める授業にしたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　レジャースポーツ論の射程	自分がしているスポーツ活動を列記しておく
2.	レジャーとは何か　関連概念の整理とレジャー問題の中心	前回からの一週間に行われた大きなスポーツニュースの内容をチェックしておく
3.	現代生活とレジャー、スポーツ	日本のレジャー活動内容の歴史的変化を調べておく
4.	自由時間におけるスポーツ活動の意義と重要性	自分が自由時間にしている活動をまとめておく
5.	遊びの重要性とスポーツのあり方	これまでのあなた自身のスポーツ体験の歴史をまとめておいてください
6.	現代の健康問題とスポーツ	事後課題：毎日の運動量を記録（一週間）、評価し、今後の改善方計画を立てる。
7.	ライフコースとスポーツ活動	あなた自身の人生設計（就職、結婚、出産、など）（仮説）を考えておく
8.	地域社会とスポーツ	あなたが現在までしてきたスポーツの内容、場所、組織を整理しておく
9.	総合型地域スポーツクラブの理念と展開	事後課題レポート　あなたの住んでいる（または実家）地域にある総合型地域スポーツクラブの概要を調べてレポート提出（ワードファイルをメール添付）
10.	スポーツとの多様なかかわり方（見る、支えるなど）	自分や友達などがしている、スポーツ実施以外のスポーツ活動を列記しておく
11.	国際化したスポーツの諸問題	世界的スポーツ大会をリストアップする
12.	行政サービスとレジャースポーツ	これからしたいスポーツとその理由をまとめておく
13.	レジャー産業としてのスポーツの規模と可能性	利用している、または利用したいレジャースポーツ施設をリストアップしておく
14.	これからのレジャースポーツ	日常、週末、長期休暇にしたい活動を箇条書きで書いておく
15.	レジャースポーツ－個人的課題と社会的課題	授業全体の資料や内容を整理しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

まずは自分自身とスポーツの実践的かかわり方を分析することから始め、毎日の生活や生涯計画な中でのスポーツの位置づけをプログラムすることから始め

フィードバックの方法:

基本的に次の授業時間にコメントシート等の内容を報告して前回授業の振り返りと今回授業のイントロダクションとして用いる。また必要に応じて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	50	授業への取り組みと毎回のコメントシート
授業課題（分担発表）	20	課題の達成度
授業内容の全体的把握	30	最終コメントシートの内容

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

441800

情報学

市川　　隆司

授業テーマ:
知識基盤社会における情報通信技術を理解し、「情報」との関わり方を修得する

授業の概要:
コンピュータやネットワークなどの情報通信技術は、現代社会を支える基盤として強い影響力を持つようになりました。情報通信技術がブラックボックスとならないよう、その現状としくみについて基本的な理解を図っていきます。各回テーマに関する課題に取り組みます。その中で情報通信技術が私たちの生活にもたらすさまざまな影響を考察し、情報機器やメディアに対してよりよい関わり方を実践できるよう視覚的な資料を活用して授業を展開していきます。

到達目標:
情報通信技術の基本的なしくみを理解できる。
情報通信技術が社会にもたらす影響を考察できるよう知識を深化させる。
情報機器やメディアとのよりよい関わり方を修得する。

授業方法:
講義形式で授業を行います。プリントやビジュアルな資料を活用して理解を深めるよう展開します。授業内容の理解が定着するようマナビーを活用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス「情報の学び方」	マナビーの課題に取り組む
2.	インターネットの活用	マナビーの課題に取り組む
3.	ソーシャルメディアの台頭	マナビーの課題に取り組む
4.	インターネットのしくみ	マナビーの課題に取り組む
5.	ネットのリスクとセキュリティ	マナビーの課題に取り組む
6.	情報社会と私たちの暮らし	マナビーの課題に取り組む
7.	情報通信企業の隆盛	マナビーの課題に取り組む
8.	コンピュータの歴史	マナビーの課題に取り組む
9.	情報のデジタル表現	演習問題で復習する
10.	ソフトウェアとデジタルメディア	演習問題で復習する
11.	アプリケーションソフトとプログラミング	演習問題で復習する
12.	ハードウェアに関わる技術―機器本体の構成―	情報機器の構成内容を復習する
13.	ハードウェアに関わる技術―周辺機器の機能―	演習問題で復習する
14.	これからの情報通信技術と社会	情報社会の課題を探究する
15.	まとめ	これまでの学習内容を振り返る

受講者へのメッセージやアドバイス:
日々進歩する情報通信技術がブラックボックスとならないよう学んでいきましょう

フィードバックの方法:
授業でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内容に関するコメント	10	授業内容の理解度を評価する
授業後の課題	20	課題の取り組み度合いを評価する
期末試験	70	授業全体の理解度を評価する

教科書:

参考書:
日経BP社　キーワードで学ぶ最新情報トピックス 2018

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能、Eメール（メールアドレスは授業時に連絡）

441900

経営学ステップアップ

福本　　俊樹

授業テーマ:　経営学の考え方を体得しよう！

授業の概要:　経営学は、誕生して100年少しの比較的若い学問ですが、これまでに多くの経営学らしい考え方を生み出してきました。経営学の考え方は、企業はもちろんのこと、病院や行政機関、スポーツチームなど、様々な組織のマネジメントに活用することができます。学生のみなさんにとっては、アルバイト先、部活動やサークル、あるいは、みなさん一人ひとりの日常生活をよりよく送るためにも活用することができるでしょう。
受講生のみなさんが、経営学の考え方を体得し、それを日常生活の中で活かせるようになることが、本授業のねらいです。

到達目標:　(1)経営学の考え方を理解すること
(2)経営学の考え方を学生自身の日常生活の中で使えるようになること

授業方法:　講義形式で授業を行います。
資料はすべてマナビーで配布します。授業の予習・復習に役立ててください。
各回の授業終了後に確認の小テストを実施します(詳細は初回の授業時に説明します)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスを読んでくること
2.	経営学とはどのような学問か？	配布資料の予習・復習
3.	Kowing Doing Gap:信奉理論と使用理論	同上
4.	標準化:テイラーの科学的管理法	同上
5.	見える化:日本の生産システム	同上
6.	人間主義を使う(1):人間関係論	同上
7.	協働のマネジメント:バーナード管理論	同上
8.	限定合理性:カーネギー学派の意思決定論	同上
9.	ルールを使う:官僚制組織	同上
10.	人間主義を使う(2):新人間関係論、組織開発	同上
11.	他社(者)と競争するということ:戦略論	同上
12.	ニーズに応えるということ:マーケティング論	同上
13.	フィクションを信じる:組織文化論	同上
14.	文学的想像力(創造力):ナラティブ、レジリエンス	同上
15.	まとめ	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　何かを「知っている」ということと、それを「使える」ということは、まったく別問題です。この授業では、経営学的な考え方を単に暗記するのではなく、実際に使うことに力点を置きます。学生のみなさんも、この点を意識しつつ受講してください。

フィードバックの方法:　マナビー上で対応します(詳細は初回の授業時に説明します)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	40	到達目標(1)の達成度合いを評価します。
期末テスト	60	到達目標(1)に加え、とりわけ(2)の達成度合いを評価します。

教科書:　マナビー上で資料を配布します。

参考書:　加護野忠男・吉村典久(編)『1からの経営学(第2版)』碩学社
金井壽宏『経営組織』日経文庫
その他、適宜授業中に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビー、Email等で対応します。

442000

ビジネス統計・数学

大倉　　真人

授業テーマ:

授業の概要:　ビジネスを学ぶ上で必要とされる統計および数学について学ぶ。

到達目標:　ビジネスを学ぶ上で必要とされる統計および数学にかかる基礎的知識の修得を目標に掲げる。

授業方法:　授業の前半においてビジネス数学を、後半においてビジネス統計についての講義を行う。
毎回の授業でプリントを配布する。授業最初の時間を使って前回授業の内容について説明を行い、その後講義を行う。そして残った時間で授業中に解説した内容にかかる練習問題を解いた上で提出してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	指数法則（分数およびマイナス指数の意味、指数計算）	「ガイダンス」の内容に対する理解
3.	微分の意味（微分とは何か？limの計算）	「指数法則（分数およびマイナス指数の意味、指数計算）」に対する理解
4.	微分公式（和・差、積、商の微分公式）	「微分の意味（微分とは何か？limの計算）」に対する理解
5.	偏微分・極値	「微分公式（和・差、積、商の微分公式）」に対する理解
6.	制約条件なしの極値問題	「偏微分・極値」に対する理解
7.	（線形）制約条件ありの極値問題	「制約条件なしの極値問題」に対する理解
8.	中間試験	「中間試験」の準備
9.	確率（順列、組み合わせなど）	「（線形）制約条件ありの極値問題」に対する理解
10.	記述統計量（平均、分散（標準偏差）、メディアン、モード、レンジなど）	「確率（順列、組み合わせなど）」に対する理解
11.	確率分布（正規分布、二項分布、t分布）	「記述統計量（平均、分散（標準偏差）、メディアン、モード、レンジなど）」に対する理解
12.	統計的推定（母平均の区間推定、母比率の区間推定）	「確率分布（正規分布、二項分布、t分布）」に対する理解
13.	統計的検定（母平均の検定、母比率の検定）	「統計的推定（母平均の区間推定、母比率の区間推定）」に対する理解
14.	回帰分析	「統計的検定（母平均の検定、母比率の検定）」に対する理解
15.	まとめ	「まとめ」の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　本授業で配布したプリントについては、マナビーにもアップする。
なお第1回目の授業のガイダンスで配布する資料については、マナビーに提示するので、第1回目の授業に欠席した者は、各自マナビーを通じて目を通しておくこと。
また授業後半（第9回から第14回。ビジネス統計を講義する回）においては、√（平方根）が計算可能な電卓を持参すること。

フィードバックの方法:　毎回の授業において「フィードバック用紙」を配布する。なお「フィードバック用紙」に書かれた質問等については、原則として、次週の授業の冒頭で解説する。
また中間試験については、試験実施後の適当な時期において答案を開示する方式にてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	35	到達目標に掲げたビジネス数学についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
期末試験	35	到達目標に掲げたビジネス統計についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
授業中の課題	30	毎回の授業後に提出してもらう授業中の課題への取り組み具合により評価する。

教科書:　特に使用しない。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

442100

地方行政論

増田　　知也

授業テーマ:

授業の概要:

授業の前半では、市町村合併を題材に地方自治の理念と制度の変遷を学ぶ。授業の後半では、自治体広報を題材に住民自治の実現に必要な要素を探る。「地方自治は民主主義の学校」と言われるように、地方自治は国全体の民主主義を支える基盤となるものである。この講義を通じて、単に知識を身につけるだけでなく、地方の行政に関心を持ち、積極的に関わっていくきっかけとなることを期待する。

到達目標:

1. 地方自治について基礎的な知識を身につける。
2. 地方自治に関する主要な論点について、自分の見解を述べることができる。
3. 地元地域の行政に関心を持ち、積極的に参加できるようになる。

授業方法:

講義形式ではあるが、受講生とのコミュニケーションを重視し、議論や意見交換の時間を適宜設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地方自治の理念と制度	教科書第1章第1節を予習
2.	日本の自治の歴史	教科書第1章第2節を予習
3.	顧客主義か住民自治か	教科書第1章第3節を予習
4.	適正規模の理論	教科書第2章を予習
5.	スケールメリット論の検証	教科書第3章を予習
6.	市町村合併の潜在的効果	教科書第4章を予習
7.	適正規模の測定	教科書第5章を予習
8.	市町村合併の検証	教科書第6章を予習
9.	迷惑施設問題と自治	事前に配布した文献による予習
10.	住民運動と公共性	事前に配布した文献による予習
11.	パブリック・リレーションズ	事前に配布した文献による予習
12.	問題提起型広報の事例	事前に配布した文献による予習
13.	問題提起型広報の効果	事前に配布した文献による予習
14.	住民参加と協働	事前に配布した文献による予習
15.	まとめ	これまでの内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回授業の冒頭に、前回のリアクションペーパーへの応答を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標1の基礎的な知識の理解度と、到達目標2の自分の意見を述べられているかどうかを基準とする。
授業への参加度	40	毎回のリアクションペーパーへの記述内容により授業参加の積極度を評価する。

教科書:

増田知也『平成の大合併と財政効率:市町村の適正規模は存在するか？』金壽堂出版、2017年。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

442200

安全保障論

鳥潟　　優子

授業テーマ:　国際政治と安全保障を学ぶ

授業の概要:　複雑な国際政治に長年向き合い、数多くの戦争を経験してきたヨーロッパでは戦後、安全保障を北大西洋条約機構（NATO）によって担保しつつ、政治統合を深化させてきた。本講義では、まず冒頭で第一次世界大戦終結以降の国際機構による安全保障の可能性の模索と失敗を辿った上で、ヨーロッパの安全保障に対する取り組みを俯瞰する。さらに講義終盤では、現在日本における安全保障のあり方を考察するために、戦後の日米安全保障体制について学ぶ。

到達目標:　国際政治と安全保障に関する基礎知識と理解力を涵養し、現在日本がかかえている国際政治や安全保障の諸問題について自ら分析を行い、議論を行えるレベルを目指す。

授業方法:　講義形式。適宜ビデオなど映像資料を用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：国際政治とは？	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認する。
2.	第一次世界大戦後の国際安全保障の実験	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
3.	第二次世界大戦後の国際安全保障と国連	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
4.	戦後ヨーロッパの安全保障の試み	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
5.	ヨーロッパ地域統合の模索	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
6.	戦後国際構造の変容とヨーロッパ安全保障の調整？	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
7.	現代ヨーロッパと安全保障	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
8.	各地域における安全保障の比較考察	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
9.	国際政治とアメリカ	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
10.	国際秩序とアメリカの役割	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
11.	戦後日本の安全保障とアメリカ	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
12.	日米安全保障条約の締結	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
13.	安保改訂	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
14.	現代日本と安全保障	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
15.	まとめ	まとめを行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、参考文献を参照するなど十分に予習と復習を行い、国際政治の基礎概念と国際政治のあり方について理解を深めておくこと。

フィードバックの方法:　授業中に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	知識および理解力、論理構成力、文章力
出席及びコメントペーパー	20	出席及び知識および理解力、論理構成力、文章力

教科書:　授業の中で適宜指示する。

参考書:
渡邊啓貴編『ヨーロッパ国際関係史』（有斐閣、2008年）
遠藤乾編『ヨーロッパ統合史』（名古屋大学出版会、2008年）
吉田徹編『ヨーロッパ統合とフランス』（法律文化社、2012年）
五百旗頭真編『戦後日本外交史・新版』（有斐閣）
坂元一哉『はじめて読む日米安全保障条約』（宝島社）
森本敏『図説・ゼロからわかる日本の安全保障』（実務教育出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー

442300

外交論

鳥潟　　優子

授業テーマ:　国際政治と外交

授業の概要:　国際政治において国際紛争をいかにして防ぐことができるのか、外交が失敗した際にはどのようになるのか、紛争が生じた場合、どのようにアプローチをしていくべきか、戦争後の和平はどのように構築されるのかなど、外交のあり方を中心に本授業では国際政治を分析する。

到達目標:　国際政治の仕組みと外交、国際紛争の原因と解決方法、外交の役割について自ら分析できるレベルを目指す。

授業方法:　講義形式。適宜映像史料を用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	戦争と平和の問題と国際政治学の発展	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認する。
2.	第一次世界大戦の起源と論争	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
3.	第一次世界大戦の戦後処理の失敗と第二次世界大戦の起源	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
4.	第二次世界大戦と日本外交①	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
5.	第二次世界大戦と日本外交②	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
6.	占領期の外交？	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
7.	サンフランシスコ講和に向けた外交	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
8.	戦後アジアと日本①	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
9.	戦後アジアと日本②	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
10.	ソ連との平和条約？	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
11.	中華人民共和国との平和条約？	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
12.	外交と情報	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
13.	紛争解決と外交	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
14.	国際政治と外交の役割	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
15.	まとめ	まとめを行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、教科書を十分に予習し復習を行い、国際政治の基礎概念や国際政治における外交と軍事力の関係などを理解するよう求める。

フィードバックの方法:　授業中に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	知識および理解力、論理構成力、文章力
出席及びコメントペーパー	20	出席及び知識および理解力、論理構成力、文章力

教科書:　ジョセフ・ナイ・ジュニア著『国際紛争　理論と歴史　原書第10版』(有斐閣)

参考書:
ポール・ゴードン ローレン, アレキサンダー・L. ジョージ, ゴードン・A. クレイグ著『軍事力と現代外交』(有斐閣)
佐々木雄太『国際政治史』(名古屋大学出版会)
柳沢英二郎、加藤正男、吉留公太他『危機の国際政治史 1873-2012』(亜紀書房)
五百旗頭真編『戦後日本外交史・新版』(有斐閣)
五百旗頭真編『日米関係史』(有斐閣ブックス)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー

442400

憲法Ⅰ

福岡　　久美子

授業テーマ:　基本的人権と憲法判例

授業の概要:　法律基礎科目の「日本国憲法概説」では、高校までの知識の確認、大学における「憲法学」の入門内容を学びました。本講は、大学における「憲法学」の授業となります。憲法は条文の数が少なく抽象的な規定が多いので、学説や判例の理解がとくに重要になります。そこで、具体的事例も取り上げながら、基本的知識の修得と基本理論の理解をはかり、それらの知識に基づいて理論づけて考えられるようになることを目指します。憲法は大きく基本的人権と統治機構に分かれますが、憲法は大きく基本的人権と統治機構に分かれますが、本講では主として基本的人権（人権総論・包括的人権・精神的自由）を取り上げます。
「憲法ⅠⅡ」あわせて履修することが望ましいです。
なお、この科目は2年次配当科目であり、来年度のこの授業は「日本国憲法概説」ではなく「シティズンシップ入門」を受講した人を対象としますので、今年度と来年度では内容・難易度などが変わります。

到達目標:　日本国憲法を中心とした法律の基礎的知識を持っている
現代社会の直面する問題を法的な視点から理解している
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
専門的知識を探求する姿勢と、幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
法律の基礎的知識を社会生活の多様な場面で運用できる能力を持っている

授業方法:　講義で行いますが、受講生の人数によっては演習で行う場合もあります

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	憲法の基本原理 演習で行う場合は、担当者を決定する	
2.	外国人の人権主体性	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
3.	人権の適用範囲	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
4.	プライバシー権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
5.	平等権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
6.	平等権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
7.	思想・良心の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
8.	信教の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
9.	政教分離	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
10.	集会・結社の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
11.	表現の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
12.	報道の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
13.	政治活動の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
14.	学問の自由と大学の自治	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
15.	まとめ	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する

受講者へのメッセージやアドバイス:　法学は生きた学問です。新聞などを読んで、社会問題、政治問題などに関心を持って下さい。

フィードバックの方法:	授業中に解説、コメント コメントペーパーにコメントを付けて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験またはレポート	80%	知識の修得度、理解度、文章力
授業への参加度、小レポート	20%	授業への積極的参加度

教科書: 上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！』(有斐閣)

参考書:
君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法(第3版)』(法律文化社)
小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本(第3版)』(法律文化社)
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法』(岩波書店)
野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅰ』(有斐閣)
佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)
『憲法判例百選Ⅰ』(有斐閣)
佐藤幸治・土井真一『判例講義憲法Ⅰ』(悠々社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業前後の教室内で応対、演習を取り入れた場合はEメール

442500

憲法Ⅱ

福岡　　久美子

授業テーマ:　基本的人権・統治機構と憲法判例

授業の概要:　法律基礎科目の「日本国憲法概説」では、高校までの知識の確認、大学における「憲法学」の入門内容を学びました。本講は、大学における「憲法学」の授業となります。憲法は条文の数が少なく抽象的な規定が多いので、学説や判例の理解がとくに重要になります。そこで、具体的事例も取り上げながら、基本的知識の修得と基本理論の理解をはかり、それらの知識に基づいて理論づけて考えられるようになることを目指します。本講では「憲法Ⅰ」に引き続いて基本的人権（経済的自由、人身の自由、社会権、参政権、国務請求権）と統治機構を取り上げます。
「憲法ⅠⅡ」あわせて履修することが望ましいです。
なお、この科目は2年次配当科目であり、来年度のこの授業は「日本国憲法概説」ではなく「シティズンシップ入門」を受講した人を対象としますので、今年度と来年度では内容・難易度などが変わります。

到達目標:
日本国憲法を中心とした法律の基礎的知識を持っている
現代社会の直面する問題を法的な視点から理解している
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
専門的知識を探求する姿勢と、幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
法律の基礎的知識を社会生活の多様な場面で運用できる能力を持っている

授業方法:　講義で行いますが、受講生の人数によって演習を取り入れます

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	演習で行う場合は、担当者を決定する 経済的自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする
2.	財産権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
3.	生存権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
4.	教育をうける権利	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
5.	労働基本権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
6.	人身の自由	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
7.	国務請求権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
8.	選挙権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
9.	国会	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
10.	内閣	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
11.	司法権	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
12.	財政	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
13.	平和主義	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
14.	地方自治	予習として教科書を読む 復習として教科書・レジメなどを見て、理解・知識を確実なものとする 演習で行う場合は、担当者はレジメを作成する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　新聞などを読んで、社会問題、政治問題などに関心を持って下さい。

フィードバックの方法:
授業中に解説、コメント
コメントペーパーにコメントを付けて返却する

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験またはレポート	80%	基礎知識の修得度、学説などの理解度、文章力
授業への参加度、小レポート	20%	授業への積極的参加度

教科書: 上田健介・尾形健・片桐直人『憲法判例50！』(有斐閣)

参考書: 君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法(第3版)』(法律文化社)
小泉洋一・倉持孝司・尾形健・福岡久美子・櫻井智章『憲法の基本(第3版)』(法律文化社)
芦部信喜著、高橋和之補訂『憲法』(岩波書店)
野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法ⅠⅡ』(有斐閣)
佐藤幸治『日本国憲法論』(成文堂)
『憲法判例百選Ⅱ』(有斐閣)
佐藤幸治・土井真一『判例講義憲法Ⅱ』(悠々社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法: オフィスアワー、授業前後の教室内、演習で行う場合はEメール

442600

刑法総論

谷　　直之

授業テーマ:　刑法総論の基本原理を学ぶ

授業の概要:

犯罪と刑罰について定めた法を刑法とよびますが、この刑法は、刑罰という、場合によっては生命をも奪う強力かつ過酷な制裁手段を予定している点に、他の法にはない特徴があります。そして、この刑法、すなわち国家の刑罰権が、権力者の好き勝手に(「恣意的に」といいます)濫用された場合、甚だしい人権侵害が生じ、国民生活に深刻な打撃を与えるであろうことは明らかで、実は既に過去の歴史が証明しているところでもあるのです。そのため刑法では、恣意的な濫用を防ぐために、特に体系的思考や厳格解釈が要求されることになります。

この科目は、殺人罪や強盗罪といった個々の犯罪に共通する一般的性質の解明を目的として、まず刑法の基本原理について学んだ上で、構成要件論、違法性論、責任論、共犯論と、体系に沿って概観し、基本的な理解を得ることを目標とします。できるだけ難解な法律用語を避け、受講生が具体的にイメージできるよう、わかりやすい例などをあげながら進めていきます。

到達目標:

刑法総論に関する基本原理・原則を理解すること。
刑法総論の各争点について、正しい理解に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つこと。
自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	刑法の意義と機能	1年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習しておくこと。
2.	古典学派と近代学派	テキストp.11～19を読んで、古典学派と近代学派の主張内容を整理しておくこと。
3.	刑法の基礎理論	テキストp.20～25を読んで、内容を理解しておくこと。
4.	罪刑法定主義と刑法の解釈	テキストp.26～37を読んで、内容を理解しておくこと。
5.	犯罪論の体系 （1）犯罪の概念 （2）犯罪の成立要件 —構成要件該当性，違法性，責任—　（3）犯罪成立阻却事由	テキストp.38～44を読んで、内容を理解しておくこと。
6.	構成要件論 （1）不作為犯論 （2）間接正犯論	テキストp.74～87を読んで、内容を理解しておくこと。
7.	構成要件該当性の諸問題（1） 故意と事実の錯誤	テキストp.95～101を読んで、事実の錯誤論について理解し、具体的な事例に当てはめて、それぞれの結論が導けるようにしておくこと。
8.	構成要件該当性の諸問題（2） 過失犯論	テキストp.107～112を読んで、内容を理解しておくこと。
9.	構成要件該当性の諸問題（3） 因果関係論	テキストp.117～134を読んで、内容を理解しておくこと。
10.	違法性論（1） 違法性と違法性阻却	テキストp.131～141を読んで、結果無価値論と行為無価値論の基本的な内容を理解しておくこと。
11.	違法性論（2） 結果無価値論と行為無価値論	結果無価値論と行為無価値論で、他説を批判しつつ、自分の立場を主張できるようにしておくこと。
12.	正当防衛と緊急避難（1）	正当防衛と緊急避難の各要件について整理しておくこと。
13.	正当防衛と緊急避難（2）	防衛意思の要否について、自分の意見を持ち、体系論的に整合性を持って主張できるようにすること。
14.	責任論・共犯論	テキストp.174～188、p.227～234を読んで、内容を理解しておくこと。
15.	まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

刑法は、法の中で最も過酷な制裁手段である刑罰の付加が問題となりますので、乱用を防ぐため、しっかりと考えることが求められます。まず基本的な学説の対立を理解した上で、自分の刑法体系を構築しようとする積極的な姿勢を持ってください。

フィードバックの方法:

提出物については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	到達目標にある、刑法総論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。

教科書:　大谷　實『刑法総論（最新版）』（成文堂）

参考書:

六法（『法学六法』（信山社）や『デイリー六法』（三省堂）、『ポケット六法』（有斐閣）等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

442700

刑法各論

谷　　直之

授業テーマ:　刑法各論の基本原理を学ぶ

授業の概要:

刑法とは、犯罪と刑罰について定めている法律をさしますが、春学期の刑法Iでは、各犯罪に共通の性質について学びました。秋学期の刑法IIでは、殺人罪や窃盗罪等、個々の条文に定められている犯罪類型ごとに、どのような場合にその犯罪が成立し、どこまで処罰されるべきなのかという、犯罪の成立要件と処罰範囲および犯罪相互の関係について学んでいきます。

刑法によって保護すべき利益のことを「法益」といいますが、刑法各則は、この法益主体ごとに、それぞれ個人法益に対する罪、社会法益に対する罪、国家法益に対する罪に分類されて規定されています。

本講義では、刑法各論の諸問題について、基本的理解を得ることを目標として、できるだけわかりやすい具体的な事例をあげながら進めていきます。

到達目標:

刑法各論に関する基本原理・原則を理解すること。
刑法各論の各争点について、正しい理解に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つこと。
自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	刑法総論と刑法各論	１年次の「現代社会と刑事法」の内容を復習しておくこと。
2.	生命・身体に対する罪（1） （1）人の始期と終期 （2）殺人罪と堕胎罪	テキストp.7～16を読んで、内容を整理しておくこと。
3.	生命・身体に対する罪（2） （1）同意殺人罪 （2）傷害罪	テキストp.16～29を読んで、内容を理解しておくこと。
4.	生命・身体に対する罪（3） （1）傷害罪と故意 （2）傷害致死罪 （3）過失傷害罪 （4）暴行罪	テキストp.29～40を読んで、内容を理解しておくこと。
5.	自由および私生活の平穏に対する罪（1） （1）逮捕・監禁罪 （2）脅迫罪と強要罪	テキストp.77～92を読んで、内容を理解しておくこと。
6.	自由および私生活の平穏に対する罪（2） （1）強姦罪 （2）強制わいせつ罪	テキストp.111～124を読んで、内容を理解しておくこと。
7.	自由および私生活の平穏に対する罪（3） 住居侵入罪	テキストp.129～139を読んで、内容を理解しておくこと。
8.	名誉に対する罪 （1）名誉棄損罪 （2）侮辱罪	テキストp.107～112を読んで、内容を理解しておくこと。
9.	財産罪総論	テキストp.181～201を読んで、内容を理解しておくこと。
10.	財産に対する罪（1） 窃盗罪	テキストp.202～216を読んで、内容を理解しておくこと。
11.	財産に対する罪（2） （1）強盗罪 （2）詐欺罪	テキストp.226～283を読んで、内容を理解しておくこと。
12.	財産に対する罪（3） 具体的事例の検討	授業中に指示した答案の作成方針に沿って、具体的な事例に沿った解釈論を展開できるようにしておくこと。
13.	社会法益に対する罪 （1）放火罪 （2）通貨偽造罪 （3）文書偽造罪	テキストp.375～390、p.424～430、p.435～475を読んで、内容を理解しておくこと。
14.	国家法益に対する罪	配布レジュメに沿って、テキストの該当箇所を読んで、それぞれ内容を理解しておくこと。
15.	まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

刑法は、法の中で最も過酷な制裁手段である刑罰の付加が問題となりますので、乱用を防ぐため、しっかりと考えることが求められます。まず基本的な学説の対立を理解した上で、自分の刑法体系を構築しようとする積極的な姿勢を持ってください。

フィードバックの方法:

提出物については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	到達目標にある、刑法各論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。

教科書:　大谷　實『刑法各論（最新版）』（成文堂）

参考書:

六法（『法学六法』（信山社）や『デイリー六法』（三省堂）、『ポケット六法』（有斐閣）等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

442800

ジェンダー法

福岡　　久美子

授業テーマ:　ジェンダーに関する法的諸問題

授業の概要:　生物学的な性（sex）に対して、性別分業、女らしさなど人為的につくられた性をジェンダー（gender）と言います。本講では、ジェンダーに関する法制度、法的問題を学び、ジェンダーに関するさまざまな問題について理解し考察することを目標とします。「法」を内容とするため、基礎的な法的知識が必要となります。

到達目標:
日本国憲法を中心とした法律の基礎的知識を持っている
現代社会の直面する問題を法的な視点から理解している
専門的知識を探求する姿勢と、幅広い分野にわたる知識を体得する態度を身につけている
社会の課題を理解し、問題解決にあたる能力をいかに発揮できるかに関心を持っている
法律の基礎的知識を社会生活の多様な場面で運用できる能力を持っている

授業方法:　主として講義形式で行います。受講生の数によって、演習形式を取り入れることもあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	性差別の歴史、フェミニズム法学の展開	教科書の該当箇所を読む
2.	性差別に関する裁判例	教科書の該当箇所を読む
3.	家族と平等・自由（夫婦別姓問題、待婚期間など）	教科書の該当箇所を読む
4.	家族と平等・自由（相続制度など）	教科書の該当箇所を読む
5.	リプロダクション（生殖補助問題など）	教科書の該当箇所を読む
6.	性的マイノリティ（LGBT）	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む
7.	性的マイノリティ（トランスジェンダーと性同一性障がい）	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む
8.	親しい者からの暴力（DV、ストーカーなど）	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む
9.	性犯罪、わいせつ表現	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む
10.	不法行為などにおける性差別	教科書の該当箇所を読む
11.	社会保障（育児、介護、老後） 税制度、社会保障における問題	教科書の該当箇所を読む
12.	労働の場における問題	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む
13.	男女共同参画社会	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む
14.	国際的動向（女性差別撤廃条約など）	教科書の該当箇所を読む 新聞などを読む
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　新聞、テレビのニュース、他の人との話などによって、関連する社会問題に積極的に関心をもつことを勧めます

フィードバックの方法:
小レポートについて、教室でコメントする
コメントペーパーにコメントを付けて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	法的知識の修得度、法制度の理解度、文章による知識・理解の表現力
小レポート含む平常点	20%	授業への積極的参加度、社会問題への関心度

教科書:
犬伏由子・井上匡子・君塚正臣編『レクチャー　ジェンダー法』（法律文化社）
『ポケット六法』（有斐閣）、『ディリー六法』（三省堂）等、六法を必ず携帯すること

参考書:
三成美保（他）『ジェンダー法学入門』（法律文化社）
金城清子『ジェンダーの法律学』（有斐閣）
山下泰子・戒能民江・神尾真知子・植野妙実子『法女性学への招待』（有斐閣）
辻村みよ子『憲法とジェンダー -- 男女共同参画と多文化共生への展望』（有斐閣）
辻村みよ子『憲法と家族』（加除出版）
『憲法判例百選ⅠⅡ』（有斐閣）
『判例セレクト』（有斐閣）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業前後の教室、オフィスアワー

442900

現代の政治

張　　雪斌

授業テーマ:

授業の概要:

本講義の主な目的は、現代政治（学）を理解するために必要とする、基本的な知識と分析方法を受講者に提供し、現代政治（学）のさまざまな課題について受講生と議論をすることである。政治学を学び、研究する人間は必ずしも政治家や政治学者のように、政治、あるいは政治学を職業にするわけではない。しかし、現代社会に生きる全ての人間はほぼ間違いなく政治の影響を受けており、そして何らかの形で政治に関わっているのである。国家、自治体、あるいは国際社会における政治だけでなく、個々人の身の周りの政治を理解するためにも、絶えず「誰が、何のために、どのように政治を行っているか」を問う必要があるだろう。本講義は本人、代理人の関係に注目し現代政治（学）に関わるアクターとルール、さらに課題について議論を展開する。

到達目標:

・現代政治の制度や、システム、そしてそれらが形成された経緯を理解するために必要な知識を習得すること。
・冷静に、客観的に政治問題を分析する能力を身につけること。

授業方法:

前半は主に講義式で授業を行い、適宜ディスカッションを行う。後半は発表やディスカッションが中心となるゼミ形式で授業を行う予定である。必要に応じて、映像資料を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション・政治とは何か	テキストの内容を中心に予習
2.	ディスカッション・誰が、何のために、どのように政治を行っているか	テキストの内容を中心に予習、政治に対する自らの興味関心をまとめる
3.	政治哲学・政治思想①：権利と権力、国民国家と統治	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習
4.	政治哲学・政治思想②：自由、平等、市民社会	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習
5.	政治制度・政治過程①：政党、議会、執政部と官僚制	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習
6.	政治制度・政治過程②：政策の形成と実施	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習
7.	政治制度・政治過程③：投票と政治参加	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習
8.	国際政治①：国際政治の歴史	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習
9.	国際政治②：国際政治の分析方法としくみ	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習
10.	国際政治③：グローバリゼーションに伴う新たな展開	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習
11.	受講者による発表とディスカッション①	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習、発表・ディスカッションの準備
12.	受講者による発表とディスカッション②	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習、発表・ディスカッションの準備
13.	受講者による発表とディスカッション③	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習、発表・ディスカッションの準備
14.	受講者による発表とディスカッション④	授業内容とテキストの内容を中心に予習、復習、発表・ディスカッションの準備
15.	授業内容の総括、質疑応答	授業内容の復習、レポートの執筆

受講者へのメッセージやアドバイス:

・受講者の人数、学年構成を考慮し、授業内容、形式と日程を変更する可能性がある。
・受講者の授業に対する理解や要望を考慮し、授業の内容や進め方を調整する予定であるため、積極的に発信し、ディスカッションに参加することが望ましい。
・授業の内容を覚えるだけでなく、自らの問題関心に合わせて、政治学の知識や分析方法を活用する姿勢を高く評価する。

フィードバックの方法:

・毎回の授業において、5－10分ほど質疑応答の時間を設ける。
・ディスカッションの後は総括やコメントの時間を設ける。
・授業時間外の質疑応答やコメントはメールで対応する（アドレスは授業時に伝える）。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30	欠席が減点対象となるが、出席回数だけでなく、授業参加の姿勢も評価対象とする。
発表や提出物	30	授業に対する理解や論点の設定を評価する。
期末レポート（4000字程度）	40	授業に対する理解や論点の設定、議論の展開を評価する。

教科書:

久米郁男、川出良枝、古城佳子、田中愛治、真渕勝、『［補訂版］ 政治学』、（有斐閣、2011）。

参考書:

授業中適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

・授業時間外の連絡は主にメールで対応する（アドレスは授業時に伝える）。

443000

国連政策論

鳥潟　　優子

授業テーマ:　国連と国際機構の役割と日本の外交

授業の概要:　国際政治における国連を中心とした国際機関の役割について歴史を辿りながら学び、日本外交における国連政策を中心に取り上げる。さらに国連の可能性と限界などの現代的課題も検討する。

到達目標:　参考文献をしっかり読み込み、国連に関する知識と共に日本の国連政策についても理解を深め、国連と日本外交について議論できるレベルを目指す。

授業方法:　講義形式。適宜映像資料を使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	国際組織と国際政治	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認する。
2.	国際連盟:理事国日本と連盟脱退	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
3.	国連の誕生	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
4.	日本の国連加盟問題	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
5.	日本の国連政策の展開	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
6.	安保理における非常任理事国の役割	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
7.	国連平和維持活動と日本①	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
8.	国連平和維持活動と日本②	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
9.	平和構築と国連①	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
10.	平和構築と国連②	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
11.	平和構築と日本	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
12.	国際機関における日本のプレゼンス	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
13.	国連で活躍した日本人①	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
14.	国連で活躍した日本人②	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
15.	まとめ	まとめを行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、参考文献を参照するなど十分に予習と復習を行い、国際機構の仕組みや国際政治におけるそれらの役割について理解を深めることを求める。

フィードバックの方法:　授業中に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	知識および理解力、論理構成力、文章力
出席およびコメントペーパー	20	出席及び知識および理解力、論理構成力、文章力

教科書:　授業中に指示する。

参考書:
横田洋三『新国際機構論』上巻および下巻(国際書院)
最上敏樹『国際機構論』(東京大学出版会)
明石康『国際連合—奇跡と展望』(岩波新書年)
北岡伸一『国連の政治力学』(中公新書)、その他、講義中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー

443100

国際社会協力政策論

鳥潟　　優子

授業テーマ:　東アジア国際政治における紛争と平和構築を考える

授業の概要:　靖国・教科書などの歴史認識問題や、竹島ほかの領土問題など今日日本外交が抱える重要問題を検討するために、東アジアをめぐる国際政治を歴史的に検討する。明治以降、日本はロシア、中国、朝鮮、米国との間で対立と協力を繰り返してきた。現状の問題を考えるために、この授業では、主に日米中露の4カ国間の関係が歴史的にいかに展開し、それがどのように周辺国に影響を与えたか考察を行う。
本授業は、外交論と安全保障論を履修した上で受講することが望ましい。

到達目標:　東アジアにおける複雑な国際政治と諸問題について深い分析を行い、有意義な議論ができるレベルを目指す。

授業方法:　講義形式。適宜映像資料を用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認する。
2.	アジア諸国の植民地化と国際関係	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
3.	東アジアにおける日本の役割を考える	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
4.	日清戦争	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
5.	日清戦争後の日本外交	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
6.	日露戦争	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
7.	日露戦争の日本外交	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
8.	東アジアにおける領土問題と外交：過去から現在へ	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
9.	東アジアにおけるアメリカのプレゼンス：戦前・戦後・現在	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
10.	アジアにおける第一次世界大戦と日中戦争	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
11.	太平洋戦争	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
12.	歴史認識問題の考察	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
13.	外交政策における諸問題	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
14.	日本とアジア	事前に授業の該当箇所を読む。 事後に教科書やレジメなどで復習をする。
15.	まとめ	まとめを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、教科書を十分に予習し復習を行い、近現代における東アジアの国際情勢と現在日本がかかえる近隣諸国との問題を理解するよう求める。

フィードバックの方法:　授業中に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	知識および理解力、論理構成力、文章力
出席及びコメントペーパー	20	出席及び知識および理解力、論理構成力、文章力

教科書:　川島真、服部龍二編『東アジア国際政治史』(名古屋大学出版会)

参考書:　北岡伸一『日本政治史』(有斐閣、2011年)
衛藤瀋吉『近代東アジア国際関係史』(東京大学出版会)、その他適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー

443200

物権法の重要問題

鈴木　　尊明

授業テーマ:　民法総則・物権法の重要問題

授業の概要:

科目名としては「物権法の重要問題」となっていますが、民法の中でも財産法と呼ばれる部分の前半、講学上は民法総則と物権法の内容を扱う。基本的には「民法Ｉ」の内容を前提に、議論の多い分野を取り上げて検討します。判例や事例を用いて具体的に進めますが、レベルの高いものとなることが期待されます。サブテーマとして、「権利外観法理」にこだわって扱う予定です。

履修者数によって授業方法を変える予定ですが、プレゼンテーション技術の習得は「応用演習」等のゼミに譲り、民法の専門的内容に特化した授業となります。

なお、これまで民法関連科目を履修したことがなくても大丈夫なように配慮して授業を進めますが、併行して履修してくれるくらいには民法に興味があることを望みます。

到達目標:

〇六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。
※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

授業方法:

講義形式で行うことを予定していますが、履修者数によって適宜変更します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	これまでに履修した民法関連科目について復習しておく。
2.	民法の全体像	
3.	民法総則の重要問題（1）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
4.	民法総則の重要問題（2）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
5.	民法総則の重要問題（3）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
6.	民法総則の重要問題（4）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
7.	民法総則の重要問題（5）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
8.	小テスト①	
9.	物権法の重要問題（1）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
10.	物権法の重要問題（2）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
11.	物権法の重要問題（3）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
12.	物権法の重要問題（4）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
13.	物権法の重要問題（5）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
14.	小テスト②	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

本学に設置されている民法関連科目の最後に位置づけられる科目ですから、内容にこだわって実施したいと考えています。私自身も悩んでいるような難しいテーマにも、皆で一緒に取り組みましょう。すっきり答えが出ないのがストレスでもあり、それでいて面白いところでもあります。1年次からの集大成として民法を学ぼうとする全ての学生の参加をお待ちしておりま

フィードバックの方法:

授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。レポートについても添削の上で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	題材とする判例や事例についてレポートを課す。
小テスト	50	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。

教科書:　六法（どのようなものでも良いです）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

443300

債権法の重要問題

鈴木　　尊明

授業テーマ:　債権法の重要問題

授業の概要:

民法の中でも財産法と呼ばれる部分の後半、講学上は債権法の内容を扱う。基本的には「民法Ⅱ」の内容を前提に、議論の多い分野を取り上げて検討する。判例や事例を用いて具体的に進めますが、レベルの高いものとなることが期待されます。サブテーマとして、「信頼」・「無償」・「時間」にこだわって扱う予定です。

履修者数によって授業方法を変える予定ですが、プレゼンテーション技術の習得は「応用演習」等のゼミに譲り、民法の専門的内容に特化した授業となります。

なお、これまで民法関連科目を履修したことがなくても大丈夫なように配慮して授業を進めますが、併行して履修してくれるくらいには民法に興味があることを望みます。

到達目標:

〇六法に収録される条文群の構造を把握し、具体的に運用できるようになる。
※大学は予備校ではないので、各種資格試験の対策を中心にすることはありません。しかし、民法を試験科目に持つ資格は大変多いので、それらを目指す諸君の要望をみたすものであることも約束します。特に資格取得を考えていない諸君も何ら問題なく履修できますので、ご心配なく。

授業方法:　講義形式で行うことを予定していますが、履修者数によって適宜変更します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	これまでに履修した民法関連科目について復習しておく。
2.	民法の全体像	
3.	債権総論の重要問題（1）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
4.	債権総論の重要問題（2）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
5.	債権総論の重要問題（3）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
6.	債権総論の重要問題（4）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
7.	債権総論の重要問題（5）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
8.	小テスト①	
9.	債権各論の重要問題（1）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
10.	債権各論の重要問題（2）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
11.	債権各論の重要問題（3）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
12.	債権各論の重要問題（4）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
13.	債権各論の重要問題（5）	事前に配布する課題を各自で検討してくる。
14.	小テスト②	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

本学に設置されている民法関連科目の最後に位置づけられる科目ですから、内容にこだわって実施したいと考えています。私自身も悩んでいるような難しいテーマにも、皆で一緒に取り組みましょう。すっきり答えが出ないのがストレスでもあり、それでいて面白いところでもあります。1年次からの集大成として民法を学ぼうとする全ての学生の参加をお待ちしておりま

フィードバックの方法:

授業中に私から問いかけをして問答形式で理解を深める他、2度の小テストを実施して答案を返却する。レポートについても添削の上で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	題材とする判例や事例についてレポートを課す。
小テスト	50	授業5回分をメドに内容の確認テストを実施する。

教科書:　六法（どのようなものでも良いです）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

質問については、授業後の教室か、メール（tsuzuki@dwc.doshisha.ac.jp）によることとしてください。

443400

刑法の重要問題

谷　　直之

授業テーマ:　刑法総論・各論の重要問題を学ぶ

授業の概要:

本講義では、刑法I・Ⅱの理解を前提として、刑法総論・各論の重要問題を取り上げ、理解を深めることを目標にしています。

刑法I・Ⅱでは論理的な内容が中心でしたが、本講義では、近時の最高裁の判例を中心に、現実の世界では実際にどのようなことが問題となっているのか、具体的な問題意識を意識しながら学んでいきます。できるだけ受講生の関心を高めるように工夫しながら、授業を進めていきます。

刑法I・Ⅱの理解を前提に講義を進めるため、刑法I・Ⅱを履修済みであることが望ましく思います。

到達目標:

刑法総論・各論に関する重要問題に関して、判例・学説の理論を理解すること。
刑法総論・各論の各争点について、正しい理解に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つこと。
自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	刑法総論と刑法各論	刑法Ⅰおよび刑法Ⅱの内容を復習しておくこと。
2.	構成要件論の重要問題	配布レジュメ掲載の判例について予習をし、内容を理解しておくこと。
3.	故意と意味の認識	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成2・2・9判時1341・157について予習をし、内容を理解しておくこと。
4.	故意と抽象的事実の錯誤	配布レジュメ掲載の判例、特に薬物事犯と故意に関する最高裁判例について予習をし、内容を理解しておくこと。
5.	因果関係論（1）	配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭和42・10・24刑集21・8・1116について予習をし、内容を理解しておくこと。
6.	因果関係論（2）	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成2・11・20刑集44・8・37最刑集について予習をし、内容を理解しておくこと。
7.	違法性論 違法性と違法性阻却 結果無価値論と行為無価値論	刑法Ⅰで学んだことを前提に、結果無価値論と行為無価値論で、他説を批判しつつ、自分の立場を主張できるようにしておくこと。
8.	被害者の承諾（1）	配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭和55・11・13刑集34・6・396について予習をし、内容を理解しておくこと。
9.	生命に対する罪（1） 殺人罪と同意殺人罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最判昭33・11・21刑集12・15・3519について予習をし、内容を理解しておくこと。
10.	生命に対する罪（2） 傷害罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最二決平成17・3・29刑集59・2・54について予習をし、内容を理解しておくこと。
11.	自由・私生活の平穏に対する罪 逮捕・監禁罪 性犯罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最決昭38・4・18刑集17・3・248ついて予習をし、内容を理解しておくこと。
12.	財産に対する罪（1） 詐欺罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成18・8・21集刑289・505および最決平成19・7・17刑集61・5・521について予習をし、内容を理解しておくこと。
13.	財産に対する罪（2） 詐欺罪	配布レジュメ掲載の判例、特に最決平成26・3・28刑集68・3・646および最決平成26・3・28刑集68・3・582について予習をし、内容を理解しておくこと。
14.	犯罪の諸類型 社会法益に対する罪 放火罪 文書偽造罪	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。
15.	まとめ	配布レジュメを参考に、講義全体の内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

刑法は、法の中で最も過酷な制裁手段である刑罰の付加が問題となりますので、乱用を防ぐため、しっかりと考えることが求められます。まず基本的な学説の対立を理解した上で、自分の刑法体系を構築しようとする積極的な姿勢を持ってください。

フィードバックの方法:

提出物については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	到達目標にある、刑法総論・各論における基本原理・原則の理解、各争点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。

教科書:

大谷　實『刑法総論（第4版）』（成文堂、2013年）
大谷　實『刑法各論（最新版）』（成文堂）

参考書:

六法（『法学六法』（信山社）や『デイリー六法』（三省堂）、『ポケット六法』（有斐閣）等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

443500

刑事司法の重要問題

谷　　直之

授業テーマ:　刑事司法の重要問題を学ぶ

授業の概要:

本講義では、刑事訴訟法および刑事政策学の基本的理解を前提として、近時、注目を集めているような刑事司法の重要問題を取り上げ、理解を深めることを目標にしています。

刑事訴訟法の講義では捜査と刑事裁判についての内容が中心でしたが、本講義では、近時の立法や議論の流れを念頭に置きつつ、司法改革の流れを中心に、もう少し広く、刑事司法領域の問題を扱います。受講生が、具体的な問題意識を持ちながら、興味関心を持って問題に取り組めるように、映像資料等を活用しながら、授業を進めていきます。

到達目標:

刑事司法の諸分野における重要問題に関して、各種制度の基本的枠組みを理解できる。
近時の立法の動きや議論の状況を理解できる。
刑事司法の各争点について、正しい理解に基づいて、論理的に考察を行い、自分の意見を持つことができる。
自分の考え・主張を、論理的に、適切な文章で表現できる。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	刑事司法と人権	テレビドラマや小説等、犯罪、刑事司法と人権問題について、予備知識を得ておくこと。
2.	新しい捜査手法の問題点（1） DNA鑑定	配布資料に目を通し、予習を行い、内容を理解しておくこと。
3.	新しい捜査手法の問題点（2） GPS捜査 おとり捜査等	授業内容を復習しておくとともに、授業中に指示したことについて予習をし、内容を理解しておくこと。
4.	薬物犯罪と依存（1） 薬物犯罪の動向	各年の犯罪白書の該当箇所を参照し、内容を理解しておくこと。
5.	薬物犯罪と依存（2） 薬物依存対策	授業中に指示したインターネット上のサイトにアクセスし、内容を理解しておくこと。
6.	犯罪者処遇の問題点（1） 施設内処遇の問題点	映画やドラマなど、刑務所が舞台となる作品を鑑賞し、刑務官、受刑者の様子等を観察しておくこと。
7.	犯罪者処遇の問題点（2） 社会内処遇の問題点	授業中に指示した諸点について、内容を理解しておくこと。
8.	犯罪者処遇の問題点（3） 再犯予防の現在	各年の犯罪白書の該当箇所を参照し、内容を理解しておくこと。
9.	少年犯罪と少年審判（1） 少年非行の現状	各年の犯罪白書の該当箇所を参照し、少年非行の現状を把握しておくこと。
10.	少年犯罪と少年審判（2） 少年法と少年審判	授業中に指示した資料を参照し、少年法の理念や仕組み、少年審判、保護処分等について理解しておくこと。
11.	少年犯罪と少年審判（3） 少年法の諸問題	授業時に配布したレジュメおよび参考文献を参照し、少年法の諸問題について理解しておくこと。
12.	触法精神障害者の処遇（1） 精神障害と刑事責任能力 精神鑑定と刑事司法	現代社会と刑事法や刑法Ｉ等のテキスト等を参照し、刑事責任能力について、理解しておくこと。
13.	触法精神障害者の処遇（2） 精神保健福祉法	配布レジュメのほか、授業中に提示した参考資料を参照し、精神保健福祉法の概要と諸制度について理解しておくこと。
14.	触法精神障害者の処遇（3） 心神喪失者等医療観察法	授業中に配布したレジュメおよび提示した参考資料を参照し、医療観察法についての理解を深めておくこと。
15.	まとめ	配布レジュメを参考に、内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

刑事法は、法の中で最も過酷な制裁手段である刑罰の付加が問題となりますので、人権侵害とならないように、しっかりと考えることが求められます。少年非行や触法精神障害者による加害行為は、厳密には犯罪とは呼べませんが、社会防衛あるいは再犯防止のための方策や対象者に対する強制治療等、場合によっては、刑罰の付加と変わらない、あるいはそれ以上の人権侵害の可能性がある問題領域であり、ある意味、バランス感覚が求められます。小説やドラマ、映画等の題材にもなっていますので、興味関心を持って、取り組む姿勢を望みます。

フィードバックの方法:　提出物については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	到達目標にある、刑事司法の諸論点についての正しい知識と理解を持ち、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。

教科書:　開講時に指示します。

参考書:

六法（『法学六法』（信山社）や『デイリー六法』（三省堂）、『ポケット六法』（有斐閣）等の携帯用のもので結構ですので、授業に必ず持参するようにしてください。）

犯罪白書
< http://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html >

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

443600

家族法の重要問題

渡邉　　泰彦

授業テーマ:　家族法に関する現代的な問題、応用的な問題を扱う。

授業の概要:　家族法で扱う前提知識をもとにして、現代的問題を中心にテーマを設定する。条文の解説ではなく、家族法が取り組むべき課題とは何か、それにどのように対処するのかを考えていく。相続法に関しては、法律改正の進行状況に合わせて内容を変更する場合もある。

到達目標:　1講義で扱うテーマについて、その社会的背景、法律での扱いを理解し、これから必要とされる対応を考えることができる。
2自分が得た知識をもとに現代的な問題を分析していく力を身につける。

授業方法:　講義
配布するレジュメに沿って、質疑応答を行いつつ、講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	婚姻(夫婦同氏、再婚禁止期間など)	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
2.	養育費	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
3.	面会交流	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
4.	生物学的つながりのない親	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
5.	生殖補助医療	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
6.	ステップファミリー	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
7.	同性婚・パートナーシップ	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
8.	性別(性別違和など)	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
9.	児童虐待・親権	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
10.	高齢者の保護・成年後見	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
11.	配偶者の相続分	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
12.	相続人の居住権	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
13.	遺言制度の見直し	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
14.	遺留分	テーマについて、社会においてどのようなことが問題となっているのか調べる。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　基本書や教科書では詳しく扱われていないテーマを取りあげます。答えが1つだけではない問題だけではなく、日本では法的な対応が十分になされていない問題もあり、各自で考える素材を授業では提供することになります。

フィードバックの方法:　質問などについては、マナビーで返却するほか、必要があれば教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	到達目標1が達成できているかについて、授業で扱ったテーマのいくつかを題材にまとめることができるかという点を評価する。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標1、2を理解できているかを評価する。

教科書:

参考書:　六法

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能を利用する

444101 **キャリアアップ英語Ⅰ**

阿部　　瞳

授業テーマ: キャリア英語基礎力の育成

授業の概要: グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Iでは、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、まずは、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力の習得を目指します。

到達目標: ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得を目指します。

授業方法: 授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の趣旨、方法、全体の流れの説明）	
2.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法: 授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書: 教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444102

キャリアアップ英語Ⅰ

阿部　　瞳

授業テーマ:　キャリア英語基礎力の育成

授業の概要:　グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Iでは、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、まずは、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力の習得を目指します。

到達目標:　ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法:　授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の趣旨、方法、全体の流れの説明）	
2.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法:　授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書:　教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444103 **キャリアアップ英語Ⅰ**

西塔　　由貴子

授業テーマ:　キャリア英語基礎力の育成

授業の概要:　グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Iでは、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、まずは、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力の習得を目指します。

到達目標:　ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法:　授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の趣旨、方法、全体の流れの説明）	
2.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法:　授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書:　教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444104 **キャリアアップ英語Ⅰ**

白井　　晴美

授業テーマ: キャリア英語基礎力の育成

授業の概要: グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Iでは、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、まずは、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力の習得を目指します。

到達目標: ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法: 授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の趣旨、方法、全体の流れの説明）	
2.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法: 授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書: 教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444105 **キャリアアップ英語Ⅰ**

江藤　　あさじ

授業テーマ:　キャリア英語基礎力の育成

授業の概要:　グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Iでは、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、まずは、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力の習得を目指します。

到達目標:　ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法:　授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の趣旨、方法、全体の流れの説明）	
2.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法:　授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書:　教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444106 **キャリアアップ英語Ⅰ**

白井　　晴美

授業テーマ:　キャリア英語基礎力の育成

授業の概要:　グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Iでは、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、まずは、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力の習得を目指します。

到達目標:　ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法:　授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の趣旨、方法、全体の流れの説明）	
2.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法:　授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書:　教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444107

キャリアアップ英語Ⅰ

C.Sato

授業テーマ: キャリア英語基礎力の育成

授業の概要: グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Iでは、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、まずは、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力の習得を目指します。

到達目標: ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法: 授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業の趣旨、方法、全体の流れの説明)	
2.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法: 授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書: 教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444201 **キャリアアップ英語Ⅱ**

阿部　　瞳

授業テーマ: キャリア英語基礎力の育成

授業の概要: グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語IIでは、「キャリアアップ英語I」の授業内容を引き継ぎ、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力のさらなる習得を目指します。

到達目標: ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法: 授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の趣旨、方法、全体の流れの説明）	
2.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習（内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等）	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法: 授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書: 教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444202

キャリアアップ英語Ⅱ

阿部　　瞳

授業テーマ:　キャリア英語基礎力の育成

授業の概要:　グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Ⅱでは、「キャリアアップ英語Ⅰ」の授業内容を引き継ぎ、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力のさらなる習得を目指します。

到達目標:　ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法:　授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業の趣旨、方法、全体の流れの説明)	
2.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法:　授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書:　教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444203

キャリアアップ英語Ⅱ

西塔　　由貴子

授業テーマ:　キャリア英語基礎力の育成

授業の概要:　グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語IIでは、「キャリアアップ英語I」の授業内容を引き継ぎ、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力のさらなる習得を目指します。

到達目標:　ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法:　授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業の趣旨、方法、全体の流れの説明)	
2.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法:　授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書:　教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444204 **キャリアアップ英語Ⅱ**

白井　　晴美

授業テーマ:　キャリア英語基礎力の育成

授業の概要:　グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Ⅱでは、「キャリアアップ英語Ⅰ」の授業内容を引き継ぎ、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力のさらなる習得を目指します。

到達目標:　ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法:　授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業の趣旨、方法、全体の流れの説明)	
2.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法:　授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書:　教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444205

キャリアアップ英語Ⅱ

江藤　　あさじ

授業テーマ:　キャリア英語基礎力の育成

授業の概要:　グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語IIでは、「キャリアアップ英語I」の授業内容を引き継ぎ、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力のさらなる習得を目指します。

到達目標:　ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法:　授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業の趣旨、方法、全体の流れの説明)	
2.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法:　授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書:　教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444206

キャリアアップ英語Ⅱ

白井　　晴美

授業テーマ:　キャリア英語基礎力の育成

授業の概要:　グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語Ⅱでは、「キャリアアップ英語Ⅰ」の授業内容を引き継ぎ、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力のさらなる習得を目指します。

到達目標:　ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法:　授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業の趣旨、方法、全体の流れの説明)	
2.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法:　授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書:　教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444207

キャリアアップ英語Ⅱ

C.Sato

授業テーマ: キャリア英語基礎力の育成

授業の概要: グローバル化とIT化が急速に進む現代社会において、どのようなキャリアにおいても的確で迅速な英語コミュニケーション力の必要性は確実に高まっています。その理由として、海外に進出する企業や英語によるオンラインビジネスの増加、また日本を訪れる外国人観光客の増加によりビジネスチャンスが拡大していることや、様々な業種における海外との交流・交渉の活性化があげられます。そこでキャリアアップ英語IIでは、「キャリアアップ英語I」の授業内容を引き継ぎ、受講生のキャリアの幅と選択肢を広げより充実したキャリアを歩むために、ビジネスシーンで役立つキャリア英語基礎力のさらなる習得を目指します。

到達目標: ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力が習得できていること

授業方法: 授業は演習形式で行う。TOEICスコアアップのテキストを活用しながら、ディスカッション/グループワーク、プレゼンテーション、寸劇/表現活動なども取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業の趣旨、方法、全体の流れの説明)	
2.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
3.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
4.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
5.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
6.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
7.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
8.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
9.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
10.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
11.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
12.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
13.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
14.	キャリア英語演習(内容理解、ディスカッション、プレゼン、表現活動等)	前もってテキストの指定箇所を読み、語彙を調べ、内容を理解しておく。授業後は、特に身に付けたい英語表現を暗記する。
15.	まとめ	全体を通して復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: スキルとしてのキャリア英語は、多くの練習量によってより高いスキルを身につけることが可能です。高い目標を持って頑張ってください。

フィードバックの方法: 授業時の活動に関しては、その都度、コメントなどを通してフィードバックをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	積極的な授業参加、効果的なプレゼン、意欲的な表現活動など
期末テスト	50	ビジネスシーンに役立つキャリア英語基礎力の習得度

教科書: 教科書は担当者より指示します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応、E-mailにて連絡可能

444300

ライフデザイニング

日下　　菜穂子、福本　　俊樹、三宅　　えり子

授業テーマ:　新たな自己に出会うライフデザイン

授業の概要:　自己理解を深め、キャリアデザインに必要な基礎知識を修得し、キャリア構築力を身につける。

到達目標:　(1)自らの一生涯を主体的に創造するキャリア形成に意欲を持ち、生きることに真剣に向き合う姿勢の重要性を説明することができる。
(2)自己を探求し、他者との協同的な関係を形成して，問題解決にあたることができる。

授業方法:　講義、グループディスカッション、グループワーク、ラーニング・カフェ、ゲストスピーカー、ビデオ教材等を組み合わせて行う。
毎回、予習課題を提示する。
教育姿勢は、Care, trust, spirituality, respect for diversityの概念に基づくものとする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のオリエンテーション	テキストActivity
2.	自己をふりかえる1：ライフデザインに活かされる強みの発見	テキストActivity
3.	自己をふりかえる2：自分にとって本当に大切な価値への気づき	テキストActivity
4.	自己をふりかえる3：目標設定と分析	テキストActivity
5.	未来との対話1：アクションプランと行動実験	テキストActivity
6.	未来との対話2：アクションプランの見直し、プランの実験的実施報告と改良	テキストActivity
7.	自己を越えた次元へのいざない1：生きることの意味を探る	テキストActivity
8.	自己を越えた次元へのいざない2：働くことの意味を探る	テキストActivity
9.	自己を越えた次元へのいざない3：神からの呼びかけに応える	テキストActivity
10.	女性のめぐる雇用状況を理解する	テキストActivity
11.	女性の生き方を考える：ゲストスピーカーの体験を通して学ぶ	テキストActivity
12.	キャリア・レディネスの気づき：働き方や業種を自分の問題として具体的に捉える	テキストActivity
13.	新年を迎えて、キャリア実現のための自己管理と自己リーダーシップ	テキストActivity
14.	リーダーシップを身近なものに：役割体験を通して自己に潜在するリーダーシップに気づき高める	テキストActivity
15.	総括：全体を振り返り、学びや気づきを共有する、将来の困難の予測、価値の探求により困難に対処して新たな自己に出会う	ふりかえり作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　全員毎回出席が原則です。具体的な運用は、担当教員が決めます。

フィードバックの方法:　テキストへの記入にコメントを添付して授業時間内に返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
テキストへの記入	50	記入済みのテキストの記載内容から，自らの一生涯を主体的に創造するキャリア形成に意欲と、生きることに真剣に向き合う姿勢の重要性の理解を評価する。
授業への参加度	50	授業への参加度から，自己探求、および他者との協同的な関係を形成して，問題解決にあたる力を評価する。

教科書:　日下菜穂子・三宅えり子・才藤千津子編著、人生の意匠：心理・社会・超越性からのアプローチ、ナカニシヤ出版

参考書:　ティナ・シーリグ、20歳のときに知っておきたかったこと スタンフォード大学集中講義、阪急コミュニケーションズ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対、Eメール

444400 **World Affairs Ⅰ**

A.S.Willis

授業テーマ: Basic Concepts in International Development

授業の概要: The students will read about basic concepts and ideas that are important to developing countries. We will read about and discuss some specific problems in some countries and talk about some NGOs and their projects. "Case Study" means looking at some specific projects or country problems.

The schedule and the contents of this course are changeable according to student choices.

Students can choose some of the countries, topics and organizations we discuss if they like. They may also choose whether to have quizzes or write short paragraph responses or summaries.

到達目標: To learn basic concepts involved in development of countries
To study international development ideas in English
To learn how to read graphs and explain them

授業方法: Text reading, teacher instruction, note-taking, review, some discussion of responses

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Economic growth and human development -- the difference	Reading worksheet
2.	Economic growth and human development -- the difference Case Study	Reading worksheet
3.	Easy group quiz on economic growth and development How development is measured Reading graphs	Reading worksheet or written response
4.	How development is measured Case Study	Reading worksheet and study sheet
5.	Easy quiz on development measurement Categories of development	Reading worksheet or written response
6.	Categories of development Case Study	Quiz study sheet
7.	Easy quiz on categories of development Population growth and development	Reading worksheet or written response
8.	Population growth and development Case Study	Reading worksheet; quiz study sheet
9.	Easy quiz on population growth and development Education and development	Reading worksheet; quiz study sheet
10.	Education and development	Reading worksheet
11.	Education and development	Reading worksheet Quiz study sheet or written response
12.	Easy quiz on education and development or written response discussion Health and development	Reading worksheet
13.	Health and development NGOs -- students' choices	Reading worksheet; choose NGO
14.	Easy quiz on health and development NGOs -- students' choices	NGO worksheet
15.	Short reports on and discussions of NGOs Review	finished

受講者へのメッセージやアドバイス: The plan of this course is only tentative. It will actually be very flexible so that students can make choices on what and how we study ideas in international development.

フィードバックの方法: Class discussion and quiz evaluations or comments on written responses if appropriate

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes and written responses	55	quizzes will be based on in-class discussion and reading worksheets; written responses are very short responses (one paragraph)
Participation in class	25	participation involves attendance and discussion; usually the class is small and discussion is easy
Homework	20	to be explained weekly -- mainly reading worksheets

教科書: World Bank, Beyond Economic Growth -- free and online

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	awillis@dwc.doshisha.ac.jp

444500 **World Affairs Ⅱ**

A.S.Willis

授業テーマ:

授業の概要: Learning about justice and violence against the poor in developing countries

到達目標: To learn how violence prevents development
To learn what violence happens among the poor in developing countries
To learn ways that this violence can be stopped

授業方法: videos with transcripts (for reading as well as listening)
teacher explanations, class discussion
worksheets and student short written responses

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Class introduction and explanation Begin Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review TED talk worksheet
2.	Gary Haugen -- a good source? Continue Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review worksheet from class Write short response to Gary Haugen TED Talk
3.	Continue Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review worksheet from class
4.	Easy quiz on Haugen and violence Continue Gary Haugen TED Talk with transcript and worksheet	Review worksheet from class Write short response to Gary Haugen TED Talk Preview Locust Effect web site
5.	Explore Locust Effect web site with worksheet Choose small portion of site to give short report on	Review worksheet from class Prepare short report
6.	Discuss Locust Effect web site and short reports on it	Preview portions of next video: Google Talks with Gary Haugen
7.	Discuss Gary Haugen Google Talk with worksheet	Review Google Talk worksheet
8.	Discuss Gary Haugen Google Talk with worksheet	Review Google Talk notes
9.	Easy quiz on Google Talk points Discuss Haugen's Congressional hearing on slavery	Write short response to Google Talk Review notes on Haugen's Congressional hearing
10.	Continue Haugen's Congressional hearing on slavery	Write short response to Haugen's Congressional hearing Review notes for quiz
11.	Easy quiz on Haugen's Congressional hearing Introduction of articles on ACLJ rescuing child brides in Kenya	Read assigned article on ACLJ rescue of Kenyan child brides; prepare to summarize it for class
12.	ACLJ article summaries and discussion	Review notes
13.	ACLJ article summaries and discussion Other sources of violence against the poor	Review notes Write short response to ACLJ articles Skim short excerpts from Scent of Water
14.	Discuss other sources of violence against the poor as seen in Scent of Water excrpts	Write short response to discussion on violence read about in Scent of Water
15.	Discuss responses Review and wrap up	Finished

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: in-class discussion, quiz grades and notes, written or oral comments on written responses

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Short Written Responses	60	These will be written summaries and responses to the material discussed in class. They should show an understanding of the material and also some of the student's own deep thoughts on the topic.
Quizzes	10	Quizzes will be questions regarding important points in the videos, discussions, or articles. They will only be questions on what is covered in class.
Participatioin	30	This is more than attendance. It will include discussion participation and the use of English. This class is normally small so that it is easy to feel comfortable speaking.

教科書: none

参考書: Please always bring a dictionary of your choice to every class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: awillis@dwc.doshisha.ac.jp

445600

宗教と人間

山下　　智子

授業テーマ:　平和・非暴力・命の尊重

授業の概要:　宗教というと「危ない」「怖い」というイメージがあり、宗教が争いや暴力、人権侵害の原因になっていると感じている人も多くいるでしょう。しかし、一方で宗教は、平和や非暴力、命の尊重の重要性・可能性を示し、世界に大きな影響を与えてきた人々の行動や言葉の根拠となったものでもあります。この講義では平和・非暴力・命の尊重をテーマに、その実践に生きる(た)人々を取り上げ、各宗教への理解を深め平和・非暴力・命の尊重について考察します。

到達目標:　(1)平和・非暴力・命の尊重に関して、世界に大きな影響を与えた人々の宗教思想、実践への理解を深めます。
(2)　平和・非暴力・命の尊重に反する様々な現代の課題の解決に向け、自分の立場を明らかにすべく思索を深めます。

授業方法:　講義とディスカッションによりすすめます。DVDを用います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを事前に読み、自分の関心や興味を明らかにしておく。
2.	世界の主な宗教と宗教間対話の必要性	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
3.	マーティン・ルーサー・キング・ジュニア①	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
4.	マーティン・ルーサー・キング・ジュニア②	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
5.	マハトマ・ガンディー①	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
6.	マハトマ・ガンディー②	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
7.	ダライ・ラマ14世①	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
8.	ダライ・ラマ14世②	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
9.	マララ・ユスフザイ①	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
10.	マララ・ユスフザイ②	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
11.	マザー・テレサ①	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
12.	マザー・テレサ②	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
13.	中村哲①	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
14.	中村哲②	事前配布資料を読み、概要を理解しておく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講人数や、学生の関心・理解度に応じて、開講後に授業方法や授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。

フィードバックの方法:　質問やコメントは教室で解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	授業ごとのコメントシートの提出とその到達目標に対する理解度、発言など積極的参加の姿勢により判断
期末テスト	50	達成目標に対する理解度によって評価

教科書:　教室で資料を配布します。

参考書:　教室で指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールで連絡を取れるようにします。

445701

コンピュータ活用

片山　　雅男

授業テーマ:　まずワープロと表計算の基礎をしっかりマスターしておこう。

授業の概要:　ワープロによる文書作成並びに表計算は、大学生活においてレポートやレジュメを作成する際に不可欠なツールです。当授業ではコンピュータの基本操作とブラインドタッチを修得し、ワープロと表計算の基礎技術をしっかりと身につけることを目標とします。滑らかでスピーディなブラインドタッチ入力は、コンピュータと良い関係を築くための第一歩です。スポーツのフォームと同じように自己流は将来の成長の制約となります。コンピュータ操作に不安を感じている方、基礎からしっかり学び直したいという方はぜひこの授業に取り組んで下さい。

到達目標:　第1にコンピュータの基本を理解し、ブラインドタッチ技能を修得すること。
第2にワープロの基礎を修得すること。
第3に表計算ソフトの基礎を習得すること。

授業方法:　一人１台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、コンピュータの基本操作	
2.	文書作成の基礎　・ブラインドタッチ、文書作成の基礎	適宜、課題等が与えられます。
3.	インターネットの活用とメール	同上
4.	ワープロの実際(1)　・ビジネス文書	同上
5.	ワープロの実際(2)　・英文ビジネス文書	同上
6.	ワープロの実際(3)　・レポート・論文	同上
7.	ワープロの実際(4)　・図表を使ったビジュアル表現	同上
8.	表計算の基礎	同上
9.	表計算の実際(1)　・グラフ作成の基礎	同上
10.	表計算の実際(2)　・グラフの応用	同上
11.	表計算の実際(3)　・関数の基礎	同上
12.	表計算の実際(4)　・数式計算と関数	同上
13.	ワープロと表計算の融合(1)	同上
14.	ワープロと表計算の融合(2)	同上
15.	復習及びまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　担当教員より指示があります。

フィードバックの方法:　担当教員より指示があります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	100	出席数、授業態度並びに課題作成状況

教科書:　授業時に指示します。

参考書:　授業時に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　担当教員より指示があります。

445801

情報活用実習Ⅰ

本多　　忠紀

授業テーマ:

現代社会においては、どんな主張もデータによる裏付けを要求される。ところが、複雑さを増す現代社会が提供するデータは膨大なものとなっており、どう整理していいものやら途方に暮れるというようなことになりやすい。
この授業ではそういったデータの整理の仕方を学ぶ。

授業の概要:

エクセルを用いて、上記「授業テーマ」に示された「データ整理」のノウハウについて学ぶ。テキストは用いず、毎回授業内容に即したプリントを配る。適宜、授業内容に対応した課題「ひとりでできるもん」が課せられる。

到達目標:

職業訓練や就職支援を目的とはしないが、一般的な就職支援のコース以上の内容を含み、それがこなせることが最初の到達目標である。とくに「同一ファイルを複数人が使用する」などの現代的な使用法に違和感なく取り組めるようになることが次の到達目標である。

授業方法:

今やるべき作業をスクリーンに提示しながら進める。随時教室を回り、作業の進行を確認しながら進める。質問などもこの時に受け付ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「作表の基本」	TODAY関数が望ましいケース、望ましくないケースを想像してみよう
2.	「関数の基本」 判定の仕組みについて学ぶ。	「小破」、「中破」…あたり判定はどうしてる？
3.	「グラフ1」 人目を惹くグラフの作り方を学ぶ。	冬月先生について調べてみよう
4.	「グラフ2」 特殊なものも含め、さまざまなグラフの作り方について学ぶ。	NERVについて調べてみよう
5.	「関数アラカルト」 エラーを起こしやすい関数の使い方を学ぶ。	絶対参照と相対参照を説明してみよう
6.	「大きいデータの取り扱い」 データのテーブル化とフィルタ操作について学ぶ。	入力規則には他にどんな使い方があるか調べてみよう
7.	「これがやりたい1」 統計資料から度数分布表を作る方法を学ぶ。	配列について調べてみよう
8.	「これがやりたい2」 統計資料から該当データを探す方法を学ぶ。	いじくってほしくないシートやセルの保護の仕方をいろいろ工夫してみよう
9.	「集計」 統計資料を集計する方法をいろいろ学ぶ。	ピボットテーブルの限界を考えてみよう
10.	「シート間集計」 複数のシートにまたがったデータを集計する様々な方法について学ぶ。	一部データの修正があったときにも集計に反映させる方法をもう一度、検討してみよう
11.	「未来予測1」 過去データから明日の売り上げを予測する方法について学ぶ。	補外とはどういう意味なのだろうか
12.	「未来予測2」 将来の皆さんの暮しにかかわる、住宅ローンや子供の教育費などをシミュレーションする方法について学ぶ。	金融システムについて調べてみよう
13.	「政府統計を扱ってみよう」 e-Statの使い方について学ぶ。	国際統計はどこにアクセスしたらよいのだろう
14.	総合問題　これまでの学習事項を生かしてチャレンジしてみよう。	総復習しておくこと
15.	政府統計を利用したレポート作成	わかりやすくショーアップするにはどうしたらよいのか

受講者へのメッセージやアドバイス:

積み上げ式の進行なので休むときつくなってくる。出続けてほしいです！

フィードバックの方法:

課題についてはある程度そろったところで、評価の上、必要であれば講義中に解説を行う。通常時の疑問点については、講義中でも自由に質問してもらってよく、その都度、お答えをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	50	必要な作業が十分な速度でこなせているか。また、積極的にチャレンジしているか。
課題	50	「最低限必要」とされた要件を満たしているか。また、「チャレンジ」とされた要件をこなしていれば加点。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

基本的にメールでの連絡をお願いする。thonda@dwc.doshisha.ac.jp

445804

情報活用実習Ⅰ

林　　康功

授業テーマ:　表計算ソフトを活用し、豊かな情報処理力を養う

授業の概要:　「情報活用実習I」では、表計算ソフト(Microsoft Excel)の基本操作法を身につけることを目標とします。
表計算ソフトを用いると、複雑そうな計算(データ処理)も簡単に済み、多くのデータを効率的に整理することが可能です。またグラフを作成するとデータの視覚的な表現ができて、表形式だけではとらえがたいデータ全体の傾向についてわかりやすく表現できます。表計算以外にも、追加された機能(Add-in)を活用すれば図表を中心とした表現となり、Microsoft Wordとは一味違ったまとめもできあがります。
表計算をマスターし豊かな情報処理力を身につけて下さい。

到達目標:　情報処理技能検定の2級程度の習得を目標とします。

授業方法:　一人1台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。
授業の終了時にその日の復習課題を実施することがあります。
実習授業なので、前回の授業を理解している前提で授業を進めますので、欠席しないように注意して下さい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、Excelの基本操作	Excelの基本的な構成や、データの入力・コピーなどの基本操作を習得します
2.	表の作成と編集	Excelを使用した表の作成と編集の基本を学びます。Excelの作業では頻度の高い、データ入力→数式の入力→罫線を引く→書式設定や表の見た目を整えるといった一連の操作を、実習により習得します。
3.	数式と関数	四則演算などの基本的な関数の使い方を習得します。また、計算式を効率よく作成する上での重要なポイントである「絶対参照と相対参照」について学習します
4.	よく使う関数	SUM(合計)・AVERAGE(平均)・COUNT(データの個数)・MAX(最大値)・MIN(最小値)といった基本的な関数の使い方を習得します。
5.	グラフの作成・印刷	グラフの基本的な作成と編集の方法を習得します。 作成したExcelの表やグラフを印刷する方法及び印刷時の設定について習得します。
6.	データベース機能	Excelは「データベース」としても活用することが可能です。ここではExcelのデータベース機能の概要、テーブル機能、データの並べ替えや抽出方法を習得します。
7.	入力をサポートする機能	効率よくデータを入力するために便利な入力規則機能について習得します。セルに入力するデータの種類や範囲を制限したり、プルダウンのリストで入力値を選択できる設定や日本語入力の切り替え制御の方法を設定します。また、設定した条件によってセルに入力したデータを強調する条件付き書式を習得します。
8.	よく使用する関数(1)	IF(条件により処理を分ける)・VLOOKUP(一覧から該当するデータを検索する)・ROUND(四捨五入)等、実務において良く使用する関数の使い方を習得します。その他の様々な関数もご紹介します。
9.	よく使用する関数(2)	実務において良く使用する関数の使い方を習得します。その他の様々な関数もご紹介します。
10.	その他の様々な関数	日付・時刻データを集計等の用途に応じて適切な形式に変更するための、関数の様々な活用方法を習得します。
11.	文字列操作の応用	Excelにおいてよく使用される、文字列データ処理に関する関数の活用方法を習得します。
12.	エクセル応用(1)	覚えておくと便利な、実践的な処理を学びます。
13.	エクセル応用(2)	覚えておくと便利な、実践的な処理を学びます。
14.	エクセルを使った課題制作(1)	ここまで学習した処理方法を使って、課題を作成します。
15.	エクセルを使った課題制作(2)	ここまで学習した処理方法を使って、課題を作成します。

受講者へのメッセージやアドバイス:　不明な点は授業中でも遠慮無く質問してください。
あなたの疑問はみんなの疑問でもあるのです。

フィードバックの方法:　授業の内容は、当日の授業までに、授業用ホームページにアップします。
欠席や、不明な点がある場合は、授業ファイルを参照して復習して下さい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・態度	30%	出席及び練習問題提出
最終の総合課題	70%	課題の正答率で評価します

教科書:　必要に応じて資料を配付します。

参考書:　授業時に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　メール(hayashi@dwc-hayashi.info)

445806

情報活用実習Ⅰ

北林　　寛子

授業テーマ:　データの活用・分析の方法を学ぶ

授業の概要:
MicrosoftOfficeのExcelを使用してデータを効率よく活用分析する。
Excelのデータベースとしての利用方法を学ぶ。
具体的にはフィルター機能でデータを抽出したり、ピボットテーブルでデータを集計したり、クイック分析ツールで強調表示をしたり、マクロ（VBA）を使ってデータを効率的に処理する方法を学ぶ。

到達目標:
Microsoft Office　の　Excelを利用して、
・フィルター機能を利用してデータを抽出することができる。
・ピボットテーブルを作成することができる。
・クイック分析ツールで分析結果を強調表示することができる。
・マクロ機能を使うことができる。

授業方法:　講義と実習（実習中心）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション Excelの基本操作の復習	特になし
2.	データベースとテーブル 効率の良いデータ入力	前回の授業の復習
3.	データの整形	〃
4.	データの取り出しと並べ替え	〃
5.	フィルター機能を利用したデータ抽出	〃
6.	データの強調表示	〃
7.	集計表のデータ分析（1）	〃
8.	集計表のデータ分析（2）	〃
9.	ピボットテーブルによるデータ集計（1）	〃
10.	ピボットテーブルによるデータ集計（2）	〃
11.	マクロ(VBA)機能(1)	〃
12.	マクロ(VBA)機能(2)	〃
13.	マクロ(VBA)機能(3)	〃
14.	応用：政府統計局のデータを分析してみる	今までの総復習をし、疑問点を整理しておく
15.	課題制作	政府統計局データの中から興味のあるデータを選択しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
データの活用・分析の方法を学ぶことにより、卒論でのデータ集計を効率的に行うことができ、説得力を持った卒業論文を作成することができます。
また、社会に出てからもマーケティングやレポート作成やプレゼンテーション資料作成に役立てることができます。
Excelの関数もたくさん使えるようになります。
一般的なExcelの技術と差別化される技術を習得することができます。

フィードバックの方法:
項目ごとに練習問題を解くことにより、理解を促進する。
全体に解説すると共に個別対応で個々の理解を促進する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40	授業に取組姿勢や実習問題の提出
課題制作点	60	学習した内容の積極的な活用やチャレンジ精神

教科書:　早坂　清　著:「できる　Excelデータベース　2016対応版 」:インプレス

参考書:
「よくわかる　Excel　2010　基礎」[FOM出版]
「よくわかる　Excel　2010　応用」[FOM出版]
「よくわかる　Excel　2010　マクロ/VBA」[FOM出版]

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能、Eメール（ hkitabay@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

445901

情報活用実習Ⅱ

福田　　秀樹

授業テーマ:　マルチメディアを活用し、Webデザインの制作を通して魅力ある情報発信能力を身につける。

授業の概要:　情報活用実習Iでワープロ・表計算の基礎を学んだ者を対象として、マルチメディアを活用しWebサイトを通して魅力ある情報発信を行うことを目標とする。Webエディタ等を用いてマルチメディアの基礎を体得し、編集ソフトを用いて画像の編集加工を行う。さらに習得した技術を活用してWebオーサリングツールを使用し、Webサイト制作における魅力ある情報発信を行い、デザイン的な観点からより伝わる表現を実現する。

到達目標:　画像編集ソフトを使用した画像の編集加工
Webオーサリングツールを使用したWebデザインの制作

授業方法:　毎回コンピュータを用いて実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、概要 Webオーサリングツールについて ・用語の解説1	用語の理解
2.	Webサイト基礎（1）HTML基礎 ・用語の解説2	プログラミング言語の理解
3.	メディア編集（1）GIFアニメーション ・用語の解説3	画像素材の取扱い
4.	メディア編集（2）画像編集ソフトの基本操作 ・用語の解説4	基本操作、画像の編集
5.	メディア編集（3）画像編集ソフトの基本操作 ・用語の解説5	基本操作、画像の補整・合成加工
6.	メディア編集（4）画像の編集加工、ロゴ・バナー作成 ・用語の解説6	画像編集ソフトの応用操作
7.	Webサイト基礎（2）Webオーサリングツールの基本操作、ページフォーマットの作成 ・用語の解説7	ページフォーマットの設定手順
8.	Webサイト基礎（3）ページレイアウト、素材の配置	テキスト、画像素材の配置手順
9.	Webサイト基礎（4）テキストリンク、画像リンクの設定	リンクの設定手順
10.	Webサイトの企画 サイトマップ・ワイヤーフレームの作成	Webサイト全体の構成、ページレイアウトの構成
11.	Webサイト制作（1） テキスト、画像素材の準備	Webサイトの素材の選定
12.	Webサイト制作（2） ページフォーマットの作成	Webオーサリングツールの応用操作
13.	Webサイト制作（3） ページレイアウト、リンクの設定	Webオーサリングツールの応用操作
14.	Webサイト制作（4）検証 レイアウト調整、ブラウザで確認	Webサイトの公開申請
15.	Webサイト制作（5）仕上げ 学内サーバーへのアップロード、ブラウザで確認	Webサイトをブラウザで確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	授業への参加、態度
課題	50	発想・表現力、完成度、提出期限

教科書:　必要資料を授業中に配布する。

参考書:　適宜、授業中に指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対、またはマナビー

445902

情報活用実習Ⅱ

林　　康功

授業テーマ:　マルチメディア技術を活用し、WEBページを通して魅力ある情報発信能力を身につける。

授業の概要:　ワープロ・表計算およびWEBページ作成の基礎を学んだ者、あるいはそれと同等の者を対象として、マルチメディアを活用し、WEBページを通じて魅力ある情報発信を行うことを目標とします。
近年、ブログなどで簡単に情報発信することができるようになりましたが、その基本言語であるHTMLの言語を理解し、情報を整理し、サイトを作成する技術を習得します。
最初にテキストエディタを使用し、HTMLの構造を学習します。次に、プロも使用するHTML編集ソフトDreamWeaverを習得します。同じくAdobe社の画像編集ソフト、Photoshopを用いて、静止画像及び動画の編集加工を行います。
また、装飾のための言語であるCSSを学習し、表現を豊かにする能力を身につけます。
さらに各自が自作したマルチメディアを活用し、WEBページにおける魅力ある情報発信に努めます。

到達目標:　指定されたテーマに基づき、ホームページを作成し、公開でいます。

授業方法:　一人1台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。
実習授業なので、前回の授業を理解している前提で授業を進めますので、欠席しないように注意して下さい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション。テキストエディタを用いたWEB作成基礎（1）	HTMLとは。 テキストエディタ「秀丸」を用いてHTMLの基本構造を学ぶ。
2.	テキストエディタを用いたWEB作成基礎（2）	テキストエディタ「秀丸」を用いてHTMLの基礎を学ぶ。ハイパーリンクと画像。
3.	Adobe DreamWeaverを用いたWEB作成基礎	WYSIWYGのHTMLエディタのAdobe DreamWeaverを利用すればテキストエディタでHTMLを書くよりも簡単で高機能であることを体感する。
4.	マルチメディアの基礎（1）WEBで使う静止画像（GIF、JPEG、PINGの特徴）。	WEBで使う静止画像の種類と特徴を学び、使い分けの基準を学習する。 画像エディタ「Adobe Photoshop」を使う。
5.	CSS（1）CSSとは何か？	セレクタを理解する。CSSはどこに書くか？、CSSの書き方の基本。 セレクタって？。HTML要素のセレクタ。ID要素のセレクタ。Class要素のセレクタ。
6.	CSS（2）属性とプロパティ	ブロック要素とインライン要素。
7.	CSS（3）属性とプロパティ	マージン、パディング。
8.	CSS（4）テキストのスタイル	テキストの色、フォントサイズの指定、行揃え、行の高さ。疑似セレクタ。 第9回 CSS（5）背景のスタイル、画像のスタイル
9.	CSS（5）背景のスタイル、画像のスタイル	背景画像の指定、背景画像の位置、背景画像の繰り返し。画像の位置。フロート。
10.	CSS（6）レイアウトを作る	ヘッダーの配置、メイン要素の配置、サイドバーの配置、フッターの配置。
11.	テーブルの使用	表を作成する。
12.	Javascript、Ajaxを使って機能を追加する	Javascriptとは。Ajaxを使うと何が出来るか。
13.	マルチメディアを活用したWEBページ創作（1）	これまでに学習してきた素材制作や、文書の装飾方法を応用して、表現力豊かなWEBページを創作する。
14.	マルチメディアを活用したWEBページ創作（2）	これまでに学習してきた素材制作や、文書の装飾方法を応用して、表現力豊かなWEBページを創作する。
15.	マルチメディアを活用したWEBページ創作（3）	これまでに学習してきた素材制作や、文書の装飾方法を応用して、表現力豊かなWEBページを創作する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　不明な点は授業中でも遠慮無く質問してください。
あなたの疑問はみんなの疑問でもあるのです。

フィードバックの方法:　授業の内容は、当日の授業までに、授業用ホームページにアップします。
欠席や、不明な点がある場合は、授業ファイルを参照して復習して下さい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・態度	30%	出席及び小課題提出
最終の総合課題	70%	授業で学習したルールに基づいているか、応用できているか否かで評価します。

教科書:　必要に応じて資料を配付します。

参考書:　授業時に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　メール（hayashi@dwc-hayashi.info）

446002

情報活用実習Ⅲ

福田　　秀樹

授業テーマ:　Powerpointを修得しプレゼンテーション力向上を図るとともに、マルチメディアの扱いに慣れる。

授業の概要:　プレゼンテーションツールとしてPowerPointを使用し、現代社会で必要とされる企画力やプレゼンテーション力をマルチメディアの活用とともに習得する。「わかりやすく魅力的に伝える」ために頭にあるイメージを企画書にまとめ、形にしていくノウハウを学習しプレゼンテーション力を高める。

到達目標:　PowerPointの習得
プレゼンテーション力の向上

授業方法:　毎回コンピュータを用いて実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、概要 プレゼンテーションについて	PowerPoint でできること
2.	PowerPoint 基本1:基本操作	PowerPoint の基本操作
3.	PowerPoint 基本2:スライド作成・設定と編集	基本操作の復習
4.	PowerPoint 基本3:文章のレイアウト、デザイン1	基本操作、スライド設定の復習
5.	PowerPoint 基本4:文章のレイアウト、デザイン2	文章のレイアウトの復習
6.	PowerPoint 基本5:イラスト・写真を使用した効果的表現、編集	イラスト、写真の挿入と編集の手順
7.	PowerPoint 応用1:アニメーション効果とスライドショーの設定	アニメーション効果、画面の切り替え設定
8.	課題1:企画制作	PowerPoint の応用操作
9.	課題1:企画制作	PowerPoint の応用操作
10.	課題1:プレゼンテーション	完成したスライドを使用したプレゼンテーション
11.	PowerPoint 応用2:図解表現　表・グラフの挿入	Excelを使った図解表現
12.	PowerPoint 応用3:映像を使用した表現、配布資料の設定	表・グラフの挿入、設定の復習
13.	課題2:企画制作	PowerPoint の応用操作
14.	課題2:企画制作	PowerPoint の応用操作
15.	課題2:プレゼンテーション	完成したスライドを使用したプレゼンテーション

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	授業への参加・態度
課題	50	発想・表現力、スライドの完成度、プレゼンテーション力

教科書:　必要資料を授業中に配布する。

参考書:　適宜、授業中に指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対、またはマナビー

446003

情報活用実習Ⅲ

藤澤　　敬子

授業テーマ:　プレゼンテーションソフトウェア「PowerPoint」の操作方法とプレゼンテーション制作・発表技法の習得

授業の概要:　世界の人々が交流し、経済をはじめとする社会システムがグローバル化する現在、他者に自分の意志を明確に伝え、相手を説得する技術は生きるための重要な力です。プレゼンテーションは、伝えたい内容を明確にし、相手に見せる諸資料を作成するフェーズと、人前で実際にプレゼンテーションを行うフェーズとがあります。また、コンピュータを使ったパワーポイントやホームページによるプレゼンテーションと、コンピュータを使わないプレゼンテーションの方法があります。この授業では、「問題マップ」を用いたプレゼンテーション内容の構造化と作成方法、コンピュータを使ったプレゼンテーションスライドの作成、デザイン方法について授業します。実際にグループでプレゼンテーションを作成することで、人にものごとを説明するための技法、説得するためのコツなど構成主義の方法で身につけます。

到達目標:　「問題マップ」を用いたプレゼンテーション内容の構造化と作成方法、コンピュータを使ったプレゼンテーションスライドの作成とデザイン方法、プレゼンテーションの発表技法の習得。

授業方法:　講義と演習を組み合わせた授業を行います。コンピュータを利用します。必要に応じてビデオ教材も利用します。また、グループに分かれての共同作業も授業の中に組み込まれています。プレゼン資料の評価は学生同士で行います。成績はグループの成果を重視します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	プレゼンテーションとは何か？ プレゼンテーションが必要な社会状況になったのはなぜか？	復習
2.	PowerPointの操作1	復習
3.	PowerPointの操作2	復習
4.	PowerPointの操作3	復習
5.	PowerPointの操作4	復習
6.	スライドデザインのためのデザイン基礎	復習
7.	プレゼンテーション作成のためのグループ設定とグループワークのめのソフトウェア「slakc」の解説	グループでの事前準備を行う
8.	プレゼンテーション資料の作り方：問題マップからスライドへ	復習
9.	プレゼンテーション資料の作り方：レポートからパワーポイントへ	復習
10.	プレゼンテーション作成1	グループでの事前準備を行う
11.	プレゼンテーション作成2	グループでの事前準備を行う
12.	プレゼンテーション作成3	グループでの事前準備を行う
13.	成果発表会1	グループでの事前準備を行う
14.	成果発表会2	グループでの事前準備を行う
15.	まとめとふりかえり	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　プレゼンテーションを実際に行うために授業時間以外のグループ学習や調べ学習が発生します。グループ作業が好きな人には楽しい授業です。

フィードバックの方法:　基本的には授業内で行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
成果物	70	提出物とプレゼンテーションの相互評価
授業への積極的参加度	30	欠席回数が全授業回数の3分の1を超えた場合は評価対象とならないので注意するように。

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　グループワークで使用するソフトフェア「Slack」を用いて連絡を取り合います。授業内で指示します。

446004

情報活用実習Ⅲ

市川　　隆司

授業テーマ:　プレゼンテーション技法の習得を通して豊かな情報発信力を獲得する

授業の概要:　プレゼンテーマに関する情報を収集・整理・分析し、文字・画像・音声・動画など適切な表現手段を組み合わせてスライド資料の作成を実習します。また図解・レイアウト・カラー表現などを活用して、わかりやすい資料作成の技術を習得します。操作に習熟した上で総合的な制作実習を行います。プレゼンテーション・ソフトを活用したポスターや企画書などの制作にもふれます。以上をふまえて聞き手に「伝わる」プレゼンテーションの実施につながるよう展開していきます。

到達目標:　プレゼンテーション・ソフト（PowerPoint）の基本的機能を理解し操作できる。
ストーリー展開を活かしたスライド資料の作成ができる。
効果的なプレゼンテーションの実施工程を理解し実演できる。

授業方法:　毎回一人１台のコンピュータを活用して実習します

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション－魅力あるプレゼンテーションを行うために－	プレゼンテーション実施の流れを確認する
2.	プレゼンテーションの構成と展開を考える	プレゼンテーション資料作成の手順を確認する
3.	情報収集と素材の編集加工	素材の収集方法を確認する
4.	スライドのレイアウトと色彩効果	内容の配置や色彩の影響について復習する
5.	表・グラフ・図解の活用	わかりやすい提示内容の活用を復習する
6.	アニメーション効果と画面切り替え効果	視覚効果の設定方法を確認する
7.	中間課題制作（1）	基本的な操作を復習する
8.	中間課題制作（2）	課題制作に必要な情報を事前に収集する
9.	音声および動画素材の活用	素材の収集に必要な情報を整理する
10.	スライドテーマの編集とOfficeソフト間のデータ連携	Word、Excelの基本的な操作を確認する
11.	プレゼンテーションソフトの機能活用とポスターや企画書への応用	スライドの詳細な設定方法を復習する
12.	スライドショーの設定とプレゼンテーションでの操作	プレゼンテーション実演に必要な操作を復習する
13.	総合課題制作（1）	課題制作に必要な情報を収集する
14.	総合課題制作（2）	課題制作に必要な情報を整理、分析する
15.	総合課題発表とプレゼンテーションの評価	プレゼンテーション実施に向けた準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:　人にわかりやすいスライド資料を提示して効果的なプレゼンテーションを行える能力をつけよう

フィードバックの方法:　授業時にまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常課題	15	基本的な操作の習得度を評価する
中間課題	25	既習内容の理解度を評価する
総括課題	60	既習内容の活用度を評価する

教科書:

参考書:　マイナビ　速効!ポケットマニュアル PowerPoint基本ワザ&仕事ワザ 2016&2013&2010&2007
インプレス　一生使えるプレゼン上手の資料作成入門

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール（メールアドレスは授業時に連絡）、授業の前後に教室内で対応

446101

情報活用実習Ⅳ

北林　　寛子

授業テーマ:　プログラムの基礎を学ぶ。

授業の概要:　「Scratch」を活用して、プログラミングやアルゴリズムの初歩を楽しみながら学ぶ。Scratchの基礎、アルゴリズムの基礎を踏まえ、シューティングゲームなど受講生の興味に応じて簡単な応用プログラミングづくりに挑戦する。
授業内容は標準的内容を示したものであり、受講生の進度を勘案し、相談の上、一部、変更することがある。

到達目標:　「Scratch」を活用して、
・プログラミングの基本を理解する。
・簡単なレベルでも1つのプログラムを作成することができる。

授業方法:　講義と実習（実習中心）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 「Scratch」を使う準備をしよう 「Scratch」を使ってみよう	特になし
2.	第1部　プログラミングをはじめよう(1)	前回の授業の復習
3.	第1部　プログラミングをはじめよう(2)	〃
4.	第1部　プログラミングをはじめよう(3)	〃
5.	第1部　プログラミングをはじめよう(4)	〃
6.	第1部　プログラミングをはじめよう(5)	〃
7.	第2部　アルゴリズムの基本(1):「分岐」「繰り返し」「判断」	〃
8.	第2部　アルゴリズムの基本(2):探索	〃
9.	第2部　アルゴリズムの基本(3):並び替え(1)	〃
10.	第2部　アルゴリズムの基本(4):並び替え(2)	〃
11.	第3部　応用(2):例　ゲーム作りに挑戦しよう(1)	〃
12.	第3部　応用(2):例　ゲーム作りに挑戦しよう(2)	〃
13.	第3部　応用(4):例　ゲーム作りに挑戦しよう(3)	〃
14.	第3部　応用(4):例　ゲーム作りに挑戦しよう(4)	自分のオリジナルゲームの構想を考えておく
15.	まとめ	疑問点や質問点をまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　楽しみながら、プログラミングの基本を学ぶことができます。
難しく考えずに、先ずはやってみる精神で取り組む気持ちが大切です。

フィードバックの方法:　実習問題を通して理解の確認を行う。全体解説と共に個別に理解度を確認して対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	40	授業に取組姿勢や実習問題の提出
課題制作点	60	学習した内容の積極的な活用やチャレンジ精神

教科書:　必要な内容を適宜プリントで配布する

参考書:
たにぐち　まこと　著:「いちばんはじめのプログラミング」:マイナビ
中植　正剛・太田　和志・鴨谷　真知子　著:「Scratchで学ぶ　プログラミングとアルゴリズムの基本」:日経BP社
杉浦　学　著:「Scratchではじめよう！プログラミング入門」:日経BP社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能、Eメール（ hkitabay@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

446102

情報活用実習Ⅳ

林　　康功

授業テーマ:　Scratchを使ってプログラミングを学ぶ

授業の概要:　2020年から小学校でプログラミング教育が必修化されます。プログラミングを学ぶことで、論理的思考を育むとともに、問題解決力や情報収集能力を身につけることが期待されます。
プログラミングと聞くと難しそうに思うかもしれません。確かに専用のプログラミング言語は英語をベースに作成されたコマンド（命令）をキーボードから打ち込みます。
この授業で利用するScrachは、日本語で考えたことを、ブロックを組み合わせるようにして完成させます。
Scrachを学習することで、将来的に本格的なプログラミング言語を習得することが容易になります。あなたもプログラミング的思考を身につけましょう。

到達目標:　Scratchを使ったプログラムを自身で作成できるように習得する。

授業方法:　一人１台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。
授業の終了時にその日の復習課題を実施することがあります。
実習授業なので、前回の授業を理解している前提で授業を進めますので、欠席しないように注意して下さい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション プログラミングとは　Scratchの紹介～とにかく使ってみよう	Scratchの起動終了、各部名称、基礎的な使い方を学ぶ
2.	猫を動かしてみよう	「動き」のスクリプト、「イベント」のスクリプトやコスチュームの使い方を学ぶ
3.	音を出してみよう	「音」を使ってオルゴールやピアノを作ってみよう～「音」のスクリプトを学ぶ
4.	お絵かきソフトを作ってみよう	「ペン」の使い方を学ぶ
5.	アルゴリズムとフローチャート	プログラムの基礎である制御構造（順次構造、分岐構造、反復構造）を学ぶ
6.	簡単な計算や動きをするプログラムを作ってみよう	「調べる」や「演算」、「データ」を使って、「調べる」、「演算」、「データ」を学ぶ～演算子・変数・リスト
7.	ゲームを作ってみよう① おみくじ	ゲームの基礎となる「乱数」を学ぶ
8.	ゲームを作ってみよう② イライラ棒	「当たり判定」を学ぶ
9.	ゲームを作ってみよう③ キャッチゲーム	「クローン」を使う
10.	ゲームを作ってみよう④ シューティングゲーム(1)	いろいろな動きのあるプログラムを作る
11.	ゲームを作ってみよう⑤ シューティングゲーム(2)	いろいろな動きのあるプログラムを作る
12.	課題制作(1)	今まで学習したプログラム技法を使い、Scratchで自由にプログラムを作成する
13.	課題制作(2)～中間発表	今まで学習したプログラム技法を使い、Scratchで自由にプログラムを作成する
14.	課題制作(3)	今まで学習したプログラム技法を使い、Scratchで自由にプログラムを作成する
15.	合評会	合評会を通じてプログラムの工夫を学ぶ

受講者へのメッセージやアドバイス:　不明な点は授業中でも遠慮無く質問してください。
あなたの疑問はみんなの疑問でもあるのです。

フィードバックの方法:　授業の内容は、当日の授業までに、授業用ホームページにアップします。
欠席や、不明な点がある場合は、授業ファイルを参照して復習して下さい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・態度	30%	出席及び練習問題提出
最終の総合課題	70%	課題の正答率で評価します

教科書:　必要に応じて資料を配付します。

参考書:
中植正剛・太田和志・鴨谷真知子著
Scratchで学ぶプログラミングとアルゴリズムの基本
日経BP社　ISBN978-4-8222-0
杉浦　学著
Scratchではじめよう！プログラミング入門
日経BP社　ISBN978-4-8222-9774-9
たにぐちまこと著
いちばんはじめのプログラミングScratchで作る楽しさ、考える楽しさを育てる
マイナビ出版　ISBN978-4-8399-5486-4

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　メール（hayashi@dwc-hayashi.info）

446103

情報活用実習Ⅳ

伊藤　　泰子

授業テーマ:　プログラミングの基礎を学び、プログラミング的思考を身につける

授業の概要:　ビジュアルプログラミングソフト・Scratchを活用して、プログラミングやアルゴリズムの初歩を学ぶ。受講生の興味に応じて、シューティングゲームなどの応用プログラミングづくりに挑戦する。
プログラミングの体験を通して、コンピュータの働きや処理方法を理解していく。今後の様々な課題を、情報技術を活用しながら解決していけるような、論理的・創造的な思考を養う。

到達目標:
・プログラム制御構造を理解する
・基本的なアルゴリズムを理解する
・自分が企画したことをプログラムとして完成させる

授業方法:　実習を中心に行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション Scratch環境の作成	授業概要の理解
2.	Scratchの基本1 ステージ、スプライト、スクリプトとは 「動き」のブロックを使う	
3.	Scratchの基本2 「見た目」「音」のブロックを使う	復習のための宿題を出題
4.	Scratchの基本3 「イベント」のブロックを使う	復習のための宿題を出題
5.	プログラムの基本1 繰り返し処理	
6.	プログラムの基本2 分岐処理	復習のための宿題を出題
7.	プログラムの基本2 変数やリストの利用	
8.	中間課題　変数を利用したプログラム作成	中間課題を完成させる
9.	アルゴリズム1 探索	
10.	アルゴリズム2 ソート（バブルソート、選択ソート、挿入ソート）	
11.	アルゴリズム3 ソート（シェルソート、クイックソート）	復習のための宿題を出題
12.	応用 ゲーム作成1	
13.	応用 ゲーム作成2	
14.	最終課題制作1	
15.	最終課題制作2	最終課題を完成させる

受講者へのメッセージやアドバイス:
Scratchは、子供から大人までが使えるわかりやすいビジュアルプログラミングプログラミング言語です。
楽しみながら、コンピュータの動きや処理方法を理解することができます。
プログラミングを学ぶことで、どのように問題を解決していくかを考えられる思考回路を身につけましょう。

フィードバックの方法:　宿題や課題は、教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加	30%	積極的に授業に参加し、演習問題が作成できたか
宿題	30%	宿題の練習問題を作成できたか
課題	40%	創意工夫、機能に応じて評価

教科書:　教科書は使用しない。必要に応じて、資料等を提示・配布する。

参考書:
いちばんはじめのプログラミング　たにぐち まこと　マイナビ
Scratchで学ぶ プログラミングとアルゴリズムの基本　中植 正剛　日経BP社
Scratchではじめよう! プログラミング入門　杉浦 学　日経BP社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビ―の掲示板機能、Eメール（yito@dwc.doshisha.ac.jp ）、授業の前後に教室内で対応

446201

情報活用実習Ｖ

本多　　忠紀

授業テーマ:

現代社会においては、どんな主張もデータによる裏付けを要求される。ところが、複雑さを増す現代社会が提供するデータは膨大なものとなっており、どう処理していいものやら途方に暮れるというようなことになりやすい。
この授業ではそういったデータの処理の仕方を学ぶ。

授業の概要:

アクセスを用いて、上記「授業テーマ」に示された「データ処理」のノウハウについて学ぶ。テキストは用いず、毎回授業内容に即したプリントを配る。適宜、授業内容に対応した課題「ひとりでできるもん」が課せられる。

到達目標:

職業訓練や就職支援を目的とはしないが、一般的な就職支援のコース以上の内容を含み、それがこなせることが最初の到達目標である。とくに「同一ファイルを複数人が使用する」などの現代的な使用法に違和感なく取り組めるようになることが次の到達目標である。

授業方法:

今やるべき作業をスクリーンに提示しながら進める。随時教室を回り、作業の進行を確認しながら進める。質問などもこの時に受け付ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	データベースって何？	ビッグデータについて調べてみよう
2.	テンプレートを使用してソフトの雰囲気をつかもう	「リレーション」の概念について復習しておこう
3.	データベースの細かい取り扱い	エクセルとの連携について理解しておきましょう
4.	データベースの管理（初級編）	ここまでが初級編。おさらいしておこう
5.	テーブルの作成1	レコードとフィールドを明確に説明できるようにしよう
6.	テーブルの作成2	入力規則には他にどんな使い方があるか調べてみよう
7.	テーブルの作成3	定型入力の生きる状況をいろいろ考えてみよう。
8.	テーブルの作成4	いじくってほしくないデータの保護の仕方をいろいろ工夫してみよう
9.	データベースの管理（中級編）	よく復習しといてね
10.	クエリの作成	クエリの「抜き出し方」を復習しよう
11.	クエリによる集計	「グループ化」の概念をつかもう
12.	フォームの作成1	「コントロール」の概念をつかもう
13.	フォームの作成2	「何ができるのか」の概念をしっかりつかもう
14.	出力の工夫	わかりやすくショーアップするにはどうしたらよいのか
15.	政府統計の取り扱い	大きいデータの取り扱いについて慣れておこう

受講者へのメッセージやアドバイス:

積み上げ式の進行なので休むときつくなってくる。出続けてほしいです！

フィードバックの方法:

課題についてはある程度そろったところで、評価の上、必要であれば講義中に解説を行う。通常時の疑問点については、講義中でも自由に質問してもらってよく、その都度、お答えをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	50	必要な作業が十分な速度でこなせているか。また、積極的にチャレンジしているか。
課題	50	「最低限必要」とされた要件を満たしているか。また、「チャレンジ」とされた要件をこなしていれば加点。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

基本的にメールでの連絡をお願いする。thonda@dwc.doshisha.ac.jp

446202

情報活用実習Ｖ

林　　康功

授業テーマ:
Microsoft社アクセス（Access）を使用して、データベースの処理技法を身につける。

授業の概要:
現在、企業においては、データベースの利用はもはや必要不可欠となり、業務においてデータベースを操作するスキルが求められてきています。
この授業では、ワープロ・表計算及びWEBページ作成の基礎を学んだ者、あるいはそれと同等の者を対象として、データベースソフトの1つであるマイクロソフトアクセス（Access）を使用して、データベースの基本操作、データベースの機能と役割、さらにデータベースが持つさまざまな処理技法について学習します。

到達目標:
データベース・アプリケーションの作成方法を習得し、簡単なデータベースを自身で作成できる能力を身につけることを目標とします。

授業方法:
一人1台のパソコンが配備された情報処理実習教室を用い、実習形式で行います。
実習授業なので、前回の授業を理解している前提で授業を進めますので、欠席しないように注意して下さい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション。データベースとは何か	データベースの概念と作成の流れを学習します。
2.	データベースの設計	データベースを作成する上で最も重要な、テーブルの正規化の方法を学習する。
3.	テーブルの作成（1）	Accessを使い、例題に従い、データベースを作成してゆく。まず、ファイルの作成、テーブルの作成方法を学習する。
4.	テーブルの作成（2）	デザインビュー。主キーとリレーション設定について学ぶ。
5.	テーブルの作成（3）	書式設定や入力内容の制限、各種入力支援等、よりユーザーフレンドリーにする方法を学習する。
6.	クエリ（データの加工、集計・抽出など）の基礎（1）	複数のテーブルから、あたかも一つのテーブルのように操作・表示するための命令である「クエリ」を学習する。
7.	クエリ（データの加工、集計・抽出など）の基礎（2）	複数のテーブルから、あたかも一つのテーブルのように操作・表示するための命令である「クエリ」を学習する。
8.	フォームの作成（1）	データの入力や表示に必要な「フォーム」の作成方法を学習する。
9.	フォームの作成（2）	データの入力や表示に必要な「フォーム」の作成方法を学習する。
10.	レポートの作成	プリントのレイアウトである「レポート」機能を使い、一覧表の印刷や宛名シール印刷用のレポートを作成する。
11.	データベースの製作練習（1）	課題制作に備え、これまで学習してきた内容をもう一度最初から繰り返し学習する。テーブルの正規化手順、テーブル作成、リレーションシップの設定。クエリの作成。
12.	データベースの製作練習（2）	フォームの作成、レポートの作成。
13.	課題製作（1）	これまで学習してきたことを応用し、与えられた課題のデータベースを制作する。
14.	課題製作（2）	これまで学習してきたことを応用し、与えられた課題のデータベースを制作する。
15.	課題製作（3）	これまで学習してきたことを応用し、与えられた課題のデータベースを制作する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
不明な点は授業中でも遠慮無く質問してください。
あなたの疑問はみんなの疑問でもあるのです。

フィードバックの方法:
授業の内容は、当日の授業までに、授業用ホームページにアップします。
欠席や、不明な点がある場合は、授業ファイルを参照して復習して下さい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・態度	30%	出席及び小課題提出
最終の総合課題	70%	授業で学習したルールに基づいているか、応用できているか否かで評価します。

教科書:
必要に応じて資料を配付します。

参考書:
授業時に指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:
メール（hayashi@dwc-hayashi.info）

450301、02

フィールドワーク入門

中山　　まき子

授業テーマ:　フィールドワークの理論と実際

授業の概要:

フィールドワーク（実施調査・野外研究・現地作業・野良仕事など）とは、生の体験の「現場」に身を置いた調査や作業、あるいは仕事を指し、質的研究を行う方法の一つである。

本授業では、第1にフィールドワークの理論及び質的研究の意義を理解する。

第2に、フィールドワークの諸技法（入門遍）ー例えば、各人が現場で主体的に観る・聞く・感じる・考える方法、それらを記録する練習、現場でのマナーとエチケット、エスノグラフィーの書き方など一を、主として「京田辺市」をフィールドとして調査し、具体的に理解・習得する。

第3に、調査体験報告会を通して、授業参加者の体験を共有・評価し、議論しあう。

到達目標:　最終的にテーマを決めた調査を実施する。その上で、調査報告（合評会）を通じて、フィールドワークの技法、意義を理解する。また、フィールドワーク技法を習得しつつも、調査・研究の倫理について学び習得する。

授業方法:　講義、ワークショップ、企画会議と議論、実地、報告会

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	フィールドワークとは何か（1）ー疑似フィールド体験と記録体験からー	テキストを準備する。
2.	フィールドワークとは何か（2）ー先達のエスノグラフィーに学ぶー	第1回時の疑似体験レポートを完成させ、提出する。
3.	フィールドワークの技法（1）ー先達が実施したフィールドワーク事例に学ぶー	エスノグラフィーの意義を理解して授業に臨む。
4.	フィールドワークの技法（2）ー質問項目とフォーマル/セミフォーマル/インフォーマル・インタビューー	テキスト第1回目の小テストの準備をして授業に臨む
5.	フィールドワークの技法（3）ーデータ分類とデータ分析ー	テキスト第2回目の小テストの準備をして授業に臨む。第1回目の採点を提出する。
6.	フィールドワーク計画（1）ー具体的なフィールドワーク計画の企画会議ー	テキスト第3回目の小テストの準備をして授業に臨む。第2回目の採点を提出する。
7.	フィールドワーク計画（2）ー具体的なフィールドワーク計画の調査計画ー	テキスト第4回目の小テストの準備をして授業に臨む。第3回目の採点を提出する。
8.	フィールドワークの理論（1）ー質的・量的調査と仮説ー	テキスト第5回目の小テストの準備をして授業に臨む。第4回目の採点を提出する。
9.	フィールドワークの理論（2）ー客観性と主観性、信頼性と妥当性など	テキスト第6回目の小テストの準備をして授業に臨む。第5回目の採点を提出する。
10.	フィールド調査の準備ー依頼状を書く・インタビュー調査の準備	個々人が行いたいフィールドワークを探し、考え、ノートに記録して授業に臨む。
11.	フィールドワークの倫理ーマナー・エチケット・プライバシーー他	班のテーマ決めの材料を調えて授業に臨む。
12.	フィールドワークへ（1）	実際のフィールドワークの計画、計画修正案をグループで考え、記録して授業に臨む。調査対象者への依頼文を作成してくる。
13.	フィールドワークへ（2）	現地調査の記録をとっておく。
14.	フィールドワークへ（3）	現地調査の記録を整理する。
15.	最終合同報告会（終日）	報告会用資料を当日朝に提出できるようにしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ハードな必修授業ですが、ぜひフィールドワーク技法を理解し身に付け、こども学の基礎力として下さい。

フィードバックの方法:

（1）全6回のミニ試験は、総て確認の後に個々に返却する。
（2）フィールド調査の計画、計画遂行に関しては充分に相談にのり、随時助言を行う。
（3）最終報告会の内容は、一冊の活動記録冊子としてまとめ、全員に後日配布する。など

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講義の内容に則して行う記述式試験（用語説明、内容理解、他）の評価。	30%程度	約6回の小テストでの総合点
グループワークや最終報告会での取り組み姿勢、内容の充実度。	70%程度	主に最終報告会の報告内容を評価の核とする。但し、それまでの経緯についても優れた学びには加点し評価する。

教科書:　佐藤郁哉著 『フィールドワーク増訂版ー書を持って街に出ようー』 新曜社　2006年増訂版 （授業前半は、同書籍を用い必ず小テストを行う）

参考書:

佐藤郁哉著 『フィールドワークの技法』 新曜社　2002
佐藤郁哉著 『質的データ分析法　ー原理、方法、実践ー』 新曜社　2008
その他、複数のエスのグラフィーに関しては、折々配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　質疑応答は授業内・授業後に教室や研究室訪問等で対応する。さらなる質問等が有った場合は、その都度適切な連絡方法を指示する。

451200

地球環境論

岩渕　　善美

授業テーマ:　地球規模で考えれる環境問題を理解し、自然科学の立場から、人間と自然の環境について理解をする。

授業の概要:　地球温暖化を防止していくために、大量生産、大量消費、大量廃棄の社会を脱却し、二酸化炭素の排出を減らした低炭素型社会へと移行する必要があります。本講義では、地球環境問題や地域の環境問題、廃棄物とリサイクル、エネルギーと環境問題などについて、知識と理解を深め、私たちの社会活動に伴って発生する環境負荷を低減するために、私たちは現在のライフスタイルをどのようにしていけばよいかを思考していきます。毎回の授業のテーマの課題について、アクティブラーニング手法を用いた授業を展開していきます。

到達目標:　地球環境問題についての基本的な知識を学習する。
自然や生物に関心を持ち、意欲的、積極的に授業に参加し取り組む。
私たちと環境の関わり方について理解をする。

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要、地球環境問題について	本時の内容を復習しておきましょう。
2.	温暖化、酸性雨、オゾン層の破壊について	地球規模の環境問題はどのようなものがあるのかを調べておきましょう。
3.	エネルギー問題について（発電）	身近な電気器具の電力消費量を調べましょう。
4.	私たちの暮らしからみる環境問題 環境家計簿をつけてみよう。	自宅の電力消費量などのものを準備しておこう。
5.	自然エネルギーについて	自然エネルギーとはどのようなものがあるのかを調べておきましょう。
6.	環境問題に関する映像	課題をまとめておきましょう。
7.	水資源について	授業内容を復習しておきましょう。
8.	資源循環型社会について	授業内容を復習しておきましょう。
9.	資源廃棄物・リサイクルについて	私たちの排出するごみについて調べましょう。
10.	環境影響評価について（LCA手法）	授業内容を復習しておきましょう。
11.	身近な環境について、ホテルの環境対策を事例として	授業内容を復習しておきましょう。
12.	生物多様性について	生物多様性について復習しておきましょう。
13.	環境関連の法律について	授業内容を復習しておきましょう。
14.	環境教育について	環境教育について、調べておきましょう。
15.	授業のまとめ	授業内容を復習しておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業の前後に対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	30	授業テーマの達成度
試験	70	授業内容の理解度、達成度

教科書:　使用しません。

参考書:　環境白書・循環型社会白書・生物多様性白書
授業の中で、紹介していきます。必要に応じてプリントを配布します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後で対応します。

451400

自然環境体験論

神崎　　清一、濱口　　義信

授業テーマ:　自然体験学習とこども

授業の概要:　集中講義形式で行う（8月30日～9月1日を予定）
講義で基礎知識を学習した後、2・3日目に野外教育施設（リトリートセンター）にて体験学習の実習を行う。
また、班別で活動プログラムを開発する。

到達目標:　1）こどもの自然環境体験の重要性を中心にしつつ青少年や障がい者、高齢者にとってのについての意義と可能性について学ぶ。2）自然環境体験活動の具体的な取り組みを行っている学校教育、NPOをはじめとした社会教育団体や企業が取り組んでいる実践事例についても学ぶ。3）「自分自身」「他者との関係や繋がり」「地域社会」や「国際社会」「私たちを取り巻く自然環境」を意識することができる。4）体験活動の日常化へと深化させる具体的なプログラムをつくり、指導することができる。

授業方法:　講義で基礎知識を学習した後、2・3日目に野外教育施設（リトリートセンター）にて体験学習の実習を行う。
また、班別で活動プログラムを開発する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自然体験活動の意義（講義）	これまでの自然体験活動の経験についてまとめておくこと。興味関心のある自然体験学習について資料を探しておくこと。
2.	自然体験活動の実際2／高齢者、障がい者他	同上
3.	自然体験活動の実際1／幼稚園、学校、NPOほか（講義）か（講義）	同上
4.	自然体験活動の実際3／安全（講義）	これまでの経験で　ヒヤリ・ハッとしたことをまとめておく」
5.	自然体験活動の実習に向けて（講義）	
6.	自然体験活動の企画・立案の手法1	（グループワーク）
7.	自然体験活動の企画・立案の手法2	（グループワーク）
8.	自然体験活動の企画の実施1	（グループワーク）
9.	自然体験活動の企画の実施2	（グループワーク）
10.	自然体験活動の企画の実施3	（グループワーク）
11.	自然体験活動の体験と指導1	（体験学習）
12.	自然体験活動の体験と指導2	（体験学習）
13.	自然体験活動の体験と指導3	（体験学習）
14.	自然体験活動の評価	相互評価の実施
15.	自然体験活動のまとめ	講師によるまとめと振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:　宿泊を伴う体験学習であることに留意してほしい。交通費の半額と宿泊費補助が支給されます。
教材は、コピー教材ならびに資料を配布します。

フィードバックの方法:　課題ごとに毎回解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	50	講義・グループワークにすべて出席し、理論を学び体験すること。
授業・実習への参加度	20	積極的に授業・実習に参加することで深く理解し、自分の考え方を構築する。
企画・発表	30	実践し、企画・指導ができる。

教科書:

参考書:　公益社団法人　キャンプ指導者入門

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:　濱口義信先生を通して

451500

異文化体験論

塘　　利枝子

授業テーマ:　子どもの異文化体験

授業の概要:

現在、日本国籍をもつ約8万人の小・中学生が海外で暮らしています。幼児期や高校生段階の子ども、国際結婚家庭の子どもも含めると、さらにその数は多くなります。また外国にルーツをもつ日本在住の子どもの数も年々増加しています。子どもが文化間移動をしたり異文化体験をしたりすることは、子どもの発達や教育にどのような意味をもたらすのでしょうか。

講義の中では、文化間移動を体験した子どもの適応や発達について取り上げるとともに、これらの子どもを保育機関や学校で受け入れる側の子どもや教師・保育者の異文化受容について、シミュレーションゲームなどを実際に体験しながら考えていきます。さらにそれらを踏まえた上で、子どもの発達段階を考慮した異文化間教育とは何かについて検討します。

到達目標:

「知識・理解」
自分とは異なる文化的な環境にいる子どもや文化間移動を体験した子どもの発達・保育・教育の状況を理解している。
宗教・文化・経済等の対立が発生し、同時多発的に子どもの問題が併発する原因やその解決への道筋、解決に向けた具体的な方略について理解している。

「関心・意欲・態度」
自分とは異なる文化的な環境にいる子どもや文化間移動を体験した子どもに関心をもっている。
子どもを取り巻く国内外の環境や多文化・多言語環境のなかに生きる子どもの問題に関心を持っている。

「表現・技能・能力」
毎回の授業で要求されるコメントを誠実に記述し、レポート課題でも要求された内容を表記できる。
現代社会に生きる子どもの問題を多角的に分析し、理論と実践を結び付けて問題に対する解決策を実践に即して構築することができる。
与えられたものに満足せず、失敗を恐れず、自分にとって未知の世界や環境にも想像を働かせ、既成概念にとらわれず新たなものや斬新な見方・考え方を創り出す「想像的創造力」を発揮し、行動に移すことができる。

授業方法:　講義、シミュレーションゲームなどで授業を行います。受講生同士の協働作業もあります。シミュレーションゲームはアクティブラーニング型の授業となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	子どもの文化間移動	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
2.	海外・帰国児童生徒	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
3.	日本に在住する外国人児童生徒	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
4.	国際結婚と国際児	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
5.	子どもの異文化適応１（シミュレーションゲーム）	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
6.	子どもの異文化適応２	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
7.	文化によって創られるいい子像	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
8.	文化によって創られる母親らしさ	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
9.	文化間移動とアイデンティティ	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
10.	文化間移動と言語発達１	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
11.	文化間移動と言語発達２	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
12.	シミュレーションゲーム	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
13.	子どもの異文化受容と異文化間教育	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
14.	シミュレーションゲーム	準備学習は特にありません。遅刻せずに出席し、積極的に授業に臨んで下さい。
15.	まとめとシミュレーションゲームの振り返り	ノートに学習内容をよくまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　第６回頃の講義の際にレポート課題が発表されます。レポート作成には十分な時間をかけることが必要です。講義についての予習は特に必要ありませんが、講義で学んだことをよく考えた上で、教育・保育実践に活かしたり、実生活で活用する姿勢が重要です。

フィードバックの方法:　毎回記述するコメントシートの内容について、次回の授業の最初に紹介したり、マナビーで紹介したりします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席も含む授業への参加・態度	60%	出席回数 積極的に発言する。 シミュレーションゲームでは積極的に参加する。 特に3回行われるシミュレーションゲームに1回でも参加しなかった場合（公欠除く）や遅刻した場合には単位は取得できません。
レポート	30%	授業で紹介した理論を用いて記述されている。 内容の詳細さと丁寧な考察。 わかりやすい文章で書かれている。
試験（論述式）	10%	授業での内容を理解している。 授業で紹介した理論を具体的に活用するための内容が表記されている。 わかりやすい文章で書かれている。

教科書:　特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

参考書:　佐藤郡衛 『国際化と教育』 放送大学　2003（参考文献については図書館に所蔵されていますので、特に個人で購入する必要はありません。随時目を通しておいてください。）

佐藤郡衛・吉谷武志編 『ひとを分けるものつなぐもの』 ナカニシヤ出版 2005
塘 利枝子 『子どもの異文化受容』 ナカニシヤ出版 1997
塘 利枝子編著 『アジアの教科書に見る子ども』 ナカニシヤ出版 2005
山本雅代・馬渕仁・塘 利枝子編著 『異文化間教育のとらえ直し』 明石書店 2016
岡田努・榎本博明編著 『パーソナリティ心理学へのアプローチ』 金子書房 2008
榎本博明編著 『自己心理学の最先端：自己の構造と機能を科学する』 あいり出版 2011

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡方法：	授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。

451900

世界のこども政策

塘　　利枝子

授業テーマ:　世界のこども政策

授業の概要:

子どもの保育や教育を、各国のおとなたちはどのように保障しようとしているのでしょうか。海外での子育て支援政策、保育政策、教育政策など、特に行政の側面に焦点をあてて、日本と比較しながら学習します。各国のこれらの政策における長所や短所について理解すると共に、政策理念と現実社会とのずれをも検討しながら、各国の政策が子どもの育ちに実際どのような影響を与えているのかについても考えます。またシミュレーションゲームでは、各自が国家の政策決定者となり、他国家とのやりとりを通して、体験的に政策作成過程を理解していきます。

到達目標:

「知識・理解」
各国の子どもに関わる政策について理解するとともに、それらの政策を比較しながら子どもやその親への影響について理解している。
日本及び日本以外の多文化・多言語環境の中で生きる子どもの発達と環境との関係性について多面的に理解している。
現代的テーマや多文化・多言語環境について理解し、日本以外の文化・社会の中で生きる子どもの在り方に応じた支援に関する知識を身に付けている。
宗教・文化・経済の対立が発生し、同時多発的に子どもの問題が併発する原因やその解決への道筋、解決に向けた具体的な方略について理解している。

「関心・意欲・態度」
各国の政策と社会状況との関連について関心をもち、シミュレーションゲームでは意欲的にグループ内のメンバーと関わり、積極的に話し合いを行う。
子どもを取り巻く国内外の環境や多文化・多言語環境の中に生きる子どもの問題に関心を持っている。
子どもに実際に関わろうとする意欲を持ち、子どもを取り巻く国内外の環境や社会問題を自分のこととして捉え、その解決に向かう手立てを考えようとする意欲を持っている。

「表現・技能・能力」
毎回の授業で要求されるコメントを誠実に記述し、レポート課題でも要求された内容を表記できる。
直面している問題状況を客観的に評価し、集団内の成員の得意な面を活かしながら、チームで協働作業ができる。
与えられたものに満足せず、失敗を恐れず、自分にとって未知の世界や領域にも想像を働かせ、既成概念にとらわれず、新たなものや斬新な見方・考え方を創り出す「想像的創造性」を発揮し、行動に移すことができる。

授業方法:

前半は講義を中心に行いますが、自分自身が居住している地域の子育て政策を発表し、話し合う時間も設けられています。後半は政策シミュレーションゲームを体験します。シミュレーションゲームでは話し合い中心の授業となり、受講生同士の関わりがとても多いアクティブラーニング型の授業ですので、能動的に授業に参加することが求められます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	海外の子育て支援政策1（海外からみた日本の子育て支援の位置づけ）	日本の子育てをめぐる社会情勢に関する新聞報道等に目を通しておくこと
2.	海外の子育て支援政策2（フランスやスウェーデンでの子育て支援）	各国の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
3.	海外の子育て支援政策3（中国・台湾・韓国の子育て支援）	各国の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
4.	海外の保育政策1（スウェーデンやニュージーランドの保育政策）	各国の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
5.	海外の保育政策2（中国・台湾・韓国の保育政策）	各国の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
6.	海外の教育政策1（欧米の教育政策）	日本の教育政策について事前に学習しておくこと
7.	海外の教育政策2（東アジアの教育政策）	日本の教育政策について事前に学習しておくこと
8.	海外の教育政策3（フィンランドの教育政策と世界の教育政策のまとめ）	今まで授業で扱った教育政策について振り返りをしておくこと
9.	発表と話し合い	レポート課題で出された自分自身が居住している地域の子育て政策を発表しますので、レポート課題のコピーを持ってくるとともに、自分が書いた内容について振り返っておくこと
10.	シミュレーションゲーム（説明と練習）	世界の社会情勢や特徴について事前に学習しておくこと
11.	シミュレーションゲーム1	前回渡されたプリントの内容を熟読しておくこと
12.	シミュレーションゲーム2	前回のシミュレーションゲームの振り返りをしておくこと
13.	シミュレーションゲーム3	前回までのシミュレーションゲームの振り返りをしておくこと
14.	シミュレーションゲームまとめと話し合い	前回までのシミュレーションゲームの振り返りをしておくこと
15.	まとめと振り返り	シミュレーションゲーム全体の振り返りをしておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業の予習は特に必要ありませんが、新聞を積極的に読むなど日本や世界の社会情勢や子どもが置かれた状況に目を向けることが必要です。また授業内の話し合いに積極的に参加する姿勢が重要です。特に後半は話し合い中心の参加型の授業となります。レポート課題が前半で出されます。十分な時間をかけて調べまとめる必要があります。

フィードバックの方法:

毎回記述するコメントシートの内容について、次回の授業の最初に紹介したり、マナビーに掲載します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席も含む授業への参加・態度	40%	公欠以外の欠席や遅刻は認められません。
レポート	40%	丁寧に取材がされている。 内容の詳細さと丁寧な考察。 わかりやすい文章で書かれている。
試験（論述式）	20%	授業での内容を理解している。 授業で紹介した政策を具体的に活用するための内容が表記に反映されている。 わかりやすい文章で書かれている。

教科書:　特に指定しません。授業中にプリントを配布します。

参考書:　池田充裕・山田千明編著 『アジアの就学前教育』 明石出版　2006

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力
教員との連絡方法:	授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。

452200

国際スポーツ文化論

濱口　　義信

授業テーマ:

授業の概要:

スポーツは国や宗教の違いを越えて同じ目標を共有する事ができるという人類の可能性を表現する文化であるが、その一方で、それぞれの国や社会によってスポーツのあり方が大きく異なっていることも事実である。この授業では、世界各地のこどもを取り巻くスポーツの現状を比較検討することによって、こども文化の多様性を明らかにすると共に、よりよい未来へ向かうスポーツの可能性を探求する。

到達目標:

様々な国や社会におけるスポーツの違いとその歴史的・社会的背景を認識することによってスポーツを通した国際理解を高めると同時に、世界的規模で開催されている代表的スポーツ大会の特徴と問題点を吟味することから国際協力と共生に寄与するスポーツのあり方を構想する。また、こどもの豊かな成長・発達のために行われている各国の取り組みを知り、我が国におけるこどもスポーツの改善の方策を探る。

授業方法:

講義を中心として授業を進めるが、出来る範囲で分担した課題の発表やディスカッションをする機会を設けて、受講者が主体的に取り組める授業にしたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	この授業で知りたいことを箇条書きにしてくる
2.	スポーツとは何か　イギリス社会史とスポーツの成立	イギリス発祥スポーツのリストアップ
3.	イギリススポーツの文化的特徴とその理由	イギリス発祥スポーツのルール確認
4.	スポーツの発展とアメリカスポーツの展開	アメリカ生まれのスポーツのリストアップとルールの確認
5.	ドイツ・北欧生まれのスポーツの特徴とその背景	ドイツ・北欧生まれのスポーツのリストアップと内容の確認
6.	日本スポーツの特徴　ー　武道の概観と日本におけるスポーツの普及・発展	剣道と柔道の目的とルールの確認
7.	ヨーロッパとアメリカ大陸の民族スポーツ	ヨーロッパ、アメリカ大陸の民族スポーツのリストアップ
8.	アジアと日本の民族スポーツ	アジアと日本の民族スポーツのリストアップ
9.	スポーツの世界的普及とオリンピックの成立　ー 古代オリンピックと近代オリンピック	古代ギリシャの社会的特徴の確認
10.	スポーツの現代化と国際化　ー　近代オリンピックの歴史的変遷と課題	記憶に残るオリンピック内容のリストアップ
11.	多様な国際的スポーツ競技会の歴史と現状	ワールドカップとグランドスラム大会のあるスポーツ競技のリストアップ
12.	世界のこどもスポーツ	こどもスポーツの問題点を整理しておく
13.	スポーツによる国際協力	スポーツで国際協力になる活動を箇条書きにしておく。
14.	世界の共通文化としてのスポーツの可能性と課題	国際的に人気あるスポーツのリストアップ
15.	スポーツから見た国際理解と国際協力	授業全体を見返しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

スポーツには世界中で人気のあるスポーツから、それぞれの文化や社会だけで行われ続けている独特のものまで多様です。そこに差異や文化の特徴と人類に共通した特徴などが表れています。世界の共通語と言われるスポーツを題材として、文化の多様性を理解しすると同時に、多様な人々が協力しながら共生するためのヒントを考えていきましょう。

フィードバックの方法:

基本的に次の授業時間にコメントシート等の内容を報告して前回授業の振り返りと今回授業のイントロダクションとして用いる。また必要に応じて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的取り組み	50	授業での発言や毎回のコメントシート
授業課題	20	課題の達成度
授業内容の全体的把握	30	最終コメントシートの内容

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

453800

こどもと風俗

古澤　　夕起子

授業テーマ:
風俗という視点から近代以降のこどもについて考察する。

授業の概要:
こどもをめぐる現在の状況を解決する糸口は、150年前に始まった近代にあると考える。この授業では、風俗文化的なアプローチによって、絵本、小説、映像、音楽などを分析して現代に至る。
前半は「少女」、後半は「家族」がキーワードである。

到達目標:
・こどもの成長観の変遷を理解している。
・こどもを取り巻く環境に持続的な関心をもっている。
・社会におけるこどもの位置づけに関心をもち、自分に何ができるかを考えようとしている。
・毎時のコメントやレポートにおいて、自分の学んだこと、考えたことを表現することができる。

授業方法:
講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　キャンパスマップによるこの授業の位置づけ 「少女」のイメージを描く	授業の性質上、復習に重点が置かれます。また、自分の経験と結びつけて考えることが期待されます。
2.	【本】 日本文化を発信し、欧米の文化を受信した「ちりめん本」について	ネットで「ちりめん本」の美しい画像を確認しておこう。
3.	【家業】 「たけくらべ」(現代語訳)を読み、親の職業がこどもに与える影響について考える	現代語訳で「たけくらべ」を読んでおく。
4.	【髪型、衣服】 「たけくらべ」に登場する少年少女の髪型や衣服について	遊女、高利貸し、僧、鳶職、人力車夫などの職業について調べてみる。
5.	【雑誌】 明治に創刊された、こども向きの商業雑誌について	自分の雑誌体験と重ねて考えよう。
6.	【雑誌】 少女雑誌というメディアが作り上げた「少女像」について	イメージを作り上げて、読者に受容させるやり方を理解する
7.	【少女の職業】 「八つの夜」(現代かなづかい)を読み、職業と自立について考える	明治期の女子の職業について調べておく。
8.	【少女の職業】 「八つの夜」に描かれた職業について	与謝野晶子について調べておく。
9.	【食卓の変遷】 明治から現代までの食卓の変遷について	一家団欒のイメージが作られる過程を理解する。
10.	【地域の行事】 「星の光は昔の光」を題材に考える	自分の経験した地域の行事について思い出してみよう。
11.	【食卓】 「家族ゲーム」「幸せな食卓」を題材に考える	自分の食生活を振り返る。
12.	【家電】 「冷たいおいしさの誕生」を題材に冷蔵庫について考える	冷蔵庫などの家電について調べておく。
13.	【家族】 「ホームレス中学生」を題材に開かれた家族について考える	「ホームレス中学生」を読んでおく。
14.	【衣服】 「パジャマガール」「14歳」を題材に考える	制服とパジャマの成り立ちについて調べておく。
15.	【音楽】 ザ・ブルーハーツの時代	レポートの提出

受講者へのメッセージやアドバイス:
大学生の自覚をもって授業に臨むこと。私語やいわゆる内職は常識をもって謹んでください。

フィードバックの方法:
講義形式ですが、自主性を引き出せるようなコメントペーパーを準備したいと思います。コメントペーパーの意見や感想はフィードバックするように努力します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	60	コメントペーパーの提出をもって出席とします。内容の不十分なものは出席点になりません。
レポート	40	詳細については授業内で指示します。

教科書:
定めない。プリントを配付する。

参考書:
石澤小枝子 『ちりめん本』 三井弥書店
樋口一葉 『たけくらべ』 現代語訳　角川ソフィア文庫
与謝野晶子 『八つの夜』 与謝野晶子児童文学全集　春陽堂
川上弘美 『神様』 中公文庫
岩村暢子 『家族の勝手でしょ』 新潮社
その他、授業内で紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:
授業内でメールアドレスを知らせます

454200

こども産業論

笠間　　浩幸

授業テーマ:　現代社会における子どもに関する産業の課題について考える

授業の概要:　現代の子ども産業に関する現状と課題についての概要を学ぶとともに、自らも将来、子どもに関わっていくキャリア選択の可能性を広げることを目的に、具体的な子ども産業の実態と可能性について主体的に調べ発表する。

到達目標:
①現代における、「子ども産業」とは何か、その実態と課題を把握する（問題意識）
②子どもの成長や発達の視点から子ども産業の可能性と課題を把握する（現状分析・批判的視点）
③子ども産業・商品開発にみる子どもへの視点、工夫や努力を学ぶ（企業・産業界の努力への視点）
④自分自身の将来とキャリア形成を考える一歩として子ども産業に関する情報の収集力を高める（キャリア意識の形成）
⑤「子ども」を軸としたグループでの学びの協同と表現の力を獲得する（協同的学びとプレゼン能力）

授業方法:　講義・詳細は各回の授業内容欄に記載

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 現代の子どもを取り巻く「もの・こと」の概観	子ども産業に関する新聞・雑誌記事等を集め読んでおく
2.	「こども産業」とは	関連文献に目を通しておく
3.	子ども産業の動向（1）	関心のある子ども産業を選び情報を集めておく。
4.	子ども産業の動向（2）	関心のある子ども産業を選び情報を集めておく。
5.	子どもの生活課題と子ども産業	現代の子どもをや子どもの生育に関する課題について考えておく。
6.	今日の子育て事情から見る子ども産業	現代の子育て支援について、特に関心を持つ内容について調べておく。
7.	子ども産業に見る子ども研究	関心のある子ども産業・企業が行っている子ども研究にはどのようなものがあるかを調べておく。
8.	子ども産業ケース・スタディ（1）	子どもに関する出版業界について調べておく。
9.	子ども産業の功罪と企業の社会的責任（CSR）	関心を持つ企業のCSRについて調べておく。
10.	子ども産業ケース・スタディ（2）	子ども衣料に関して調べておく。
11.	子ども産業ケース・スタディ（3）	遊具産業について調べておく。
12.	研究発表（プレゼンテーション）検討会	関心を持つ子ども産業について、グループごとに調べておく。
13.	プレゼンテーション（1）	プレゼンテーションの準備をしておく。
14.	プレゼンテーション（2）	プレゼンテーションの準備をしておく。
15.	プレゼンテーション（3）	プレゼンテーションの準備をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
現代の子ども産業の概要をつかむとともに、受講生自身の関心に沿った情報収集とグループによるプレゼンテーションを行うので積極的な学習参加を期待する。
特に関心のある、出版・衣料・遊具企業に関する授業では積極的な質問ができるよう事前の準備を求めたい。

フィードバックの方法:　教室において、コメントをつけながら返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50%	子ども産業に関する問題意識や現代の課題が適切に把握され、自らの関心に沿った分野に関する情報収集とその批判的分析が的確になされているかどうかを評価する。
発表	30%	自らの関心とグループでの討論をていねいにまとめ、わかりやすく的確な課題の指摘ができているかどうかを評価する。
授業への参加度	20%	積極的に授業での討論やグループ学習に参加し、子どもに関わるキャリアや専門性の獲得を図ろうとしていたかどうかを評価する。

教科書:

参考書:　授業において適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

454400

ボランティア活動論

西村　　ゆり

授業テーマ:　色や音の体験、点字や介助の体験を通して、人とのつながりや心ノバリヤフリーを考え、自分自身と向き合う

授業の概要:　ボランティア活動の現実を紹介しながら、現場で起こる諸問題を共に考える。そのなかで、「障がい者」「健常者」、「強者」「弱者」の枠を超え、自分を含め、人間を深く豊かに捉えられるよう、五感を使っての実習と授業内での話し合いを大切にする。美しいもの（芸術）、文化は人間にとって大切な魂の糧であり、それらを通して、単なる「人助け」ではない、創造的な人とのつながりを体験できるボランティアの行為を、可能なかぎり授業のなかで実践する。

到達目標:　自分自身を深く認識し、新しい世界を知り、開かれた心で人と接する力を養うことを目標とする。

授業方法:　手や体を通して表現し、色や音を楽しみながら、実際に人と触れ合う授業。五感を使って人と触れ合う喜びを伝え、それが、障がいのある人やお年寄りとのコミュニケーションの力となることを実感できるよう、具体的な実習を中心に授業を行う。また、実際のボランティア活動の現場から、成果やトラブル、社会の中で求められる役割を紹介し、毎回、各自が感じたことを発表し、話し合いながら授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	＜ボランティア活動の基本＞ 名前を名乗りあい、世界に一人の私を実感する。今イメージするボランティア像について、各自が思いを述べ合う。 民俗楽器を用いて「音」を体験し、即興での合奏を試みる。－相手の「音」に耳をすませる体験－（レポート「私について」）	最初の授業では、準備を必要としない。授業後、受ける前とあとで、自分のなかで変化があったかどうか確認する。
2.	＜色の体験1＞ クレヨン画による色の体験。評価されるための絵ではなく、自由に手を動かし、思いがけない色同士の調和を感じる。	出来上がった作品を各自持ち帰り、身近に使えるもの（ブックカバー等）に形を変える。
3.	＜ビデオ鑑賞1＞ 本学の先輩、井深八重氏の生涯を知り、予想外の出来事に立ち向かう心構えを考える。また、日本のハンセン病の歴史や患者の人々について学ぶ。	それぞれが、可能な範囲でハンセン病について調べる。
4.	＜色の体験2＞ 水彩画による色の体験。水を媒介にする絵を通して、無数の色の出現と各自に個性を味わう。	準備、後片付け等、知らない学生との共同作業を積極的に行う。 次回に備え、空き缶を用意する。
5.	＜楽器作り1＞ 空き缶による楽器作り。捨てられるものが創造的に生かされる面白さ、楽しさと、人との協働作業を体験する。4で完成させた絵を楽器に貼る。	次回に備え、グループに分かれ、楽器を使った発表を考える。
6.	＜楽器作り2＞ 5で作った楽器を使ったグループ発表。 絵、楽器作りなど、これまでの作業が「人を楽しませる」ことにつながったことを実感しながら、最後は全員で合奏する。	各グループで発表を振り返り、改善点を話し合う。（13の授業準備として）
7.	＜ビデオ鑑賞2＞ あるハンセン病患者の生き方に学ぶ。 知らない世界があること、過酷な境遇にあっても、人のために生きる人が存在することを知り、人の心の豊かさに気づき、世界への関心を高める。	ビデオ野主人公の男性にあてて、 短い手紙を書く。
8.	＜私と他人について考える＞ 7の授業後に書いた手紙を音読し、録音する（男性が全盲であるため。後日西村が音源を本人に届ける）どのような人でありたいか、お互いが率直な思いを述べ合う。	特になし。
9.	＜介助実習＞ 視覚障碍者の』誘導の実習。 他人に自分の安全を委ねる体験を通し、「信頼」を考える。	町中での障がいのいあるひとへの声かけを、可能な限り実践してみる。
10.	＜点字1＞ 視覚障碍者の立場を想像しながら点字の基礎を学び、点字の名詞を作成する。	自分の名前だけ、点字での表記を覚える。
11.	＜点字2＞ 点字で視覚障碍者にあてて、短い手紙を書く。	点字を打つ感触を自分の体に」記憶させる。
12.	＜世界の子どもに出会う＞ インドのスラムに住む子ども達への芸術教育の実践をDVD等で紹介し、異文化の人々と協力し合うための、具体的なノウハウを学ぶ。	インドの子ども達に、自分が出来ることを考える。
13.	＜コミュニケーションの体験＞ 11の授業で書いた手紙の返事を受け取り、見知らぬ人と気持ちを通わせる体験をする。また、インドの子ども達に絵や折り紙などのプレゼントを作成する。	受け取った点字の「返事」をしっかりと読む。5で作ったグループで次回のために「遊び」の内容を話し合う。
14.	＜実践＞ グループに分かれ、障がいのある人、お年寄り、子どもなどを対象とした5分程度の遊びを発表しあう。	各グループごとに、準備から反省まで、発表の経過をまとめる。
15.	＜まとめ＞ 14の発表と、授業全体から感じたことの分かち合い。	それぞれが、クラス全員の顔を認識できているか確認しあう。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ありのまま、楽な気持ちで受講してください。

フィードバックの方法:　レポートについては、授業のなかでまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	50	到達目標「新しい世界を知る」「開かれた心で人と接する」に関して、授業で体験したことが、自分の言葉で表現できているか
	レポート	20	到達目標「自分自身を深く認識する」に関して、率直に自分と向き合えているか
	発表・討論	30	グループ発表での自分の役割の認識とその達成度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: Eメール yuri-n@vmail.plala.or.jp
携帯電話 090－8210－0925

454500

家族社会論

中山　　まき子

授業テーマ:　家族を取り巻く社会の変容と諸政策、家族とジェンダー課題

授業の概要:　本講義では、少子高齢化する家族の「家族を取り巻く社会・政策等の関係、生活とジェンダー課題」について講義する。既存の家族社会学領域の知見だけでなく、文化人類学、ジェンダー研究などが蓄積してきた家族に関する諸研究や諸理論を総合的に講義し、学際的かつ国際的視野にたち、家族の個別性・多様性・複雑性を理解できる人材の育成を目指す。

到達目標:
（1）世界・日本には多様な家族の形態・つながりがあることを理解する。
（2）日本の家族制度（とくに、旧民法・新民法、日本国憲法）の特徴と変化を理解する。
（3）家族内の様々な役割とそのバリエーション等を学ぶ。

授業方法:　講義と議論

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	マクロにみた日本の家族とその変容ー統計資料を用いながらー	とくに無い。
2.	高度経済成長期という特殊な時代と家族	統計からみた日本の家族の特徴をノート整理しておく。
3.	専業主婦の誕生・専従子育て者の誕生と「母性」・「父性」・「養育性」	高度経済成長期の日本の家族の特徴について、前回配布の資料を整理・理解しておく。
4.	日本の法律と家族ー旧民法に見る親子、夫婦、血族	高度経済成長期と1920年代の日本との共通点と差異点を整理し、課題とされたレポートにまとめる。
5.	日本の法律と家族ー新民法に見る親子、夫婦、血族	旧民法の特徴をノートに整理してくる。
6.	新民法に内包された諸問題ージェンダー視点からみた日本の親族制度・戸籍等	新民法の特徴をノートに整理してくる。
7.	兼業主婦と専業主婦、主夫と主婦ー性別役割分業を考えるー	法律からみた日本の家族の特徴を理解し、個々の疑問点をまとめておく。
8.	「しきたり雀」から考える私たちの暮らし	家庭内の夫婦の役割について、各自の理想、自分が育った家族の特徴についてノート整理しておく。
9.	ドメスティック・バイオレンスと日本の法律・世界の法律	パロディー「しきたり雀」で注目した点、疑問点を記録してくる。
10.	ドメスティック・バイオレンス事例と日本の政策	夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する（その1）。
11.	児童虐待と21世紀の日本社会	夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する（その2）。
12.	日本の報道紙にみる夫婦・親子の今日的問題について議論する。	夫婦・親子が抱える断絶・諸問題のバリエーションを、報道紙等から収集し、持参する（その3）。
13.	世界の家族ースウェーデンの結婚と家族ー（ビデオ視聴から）	先の全3回の夫婦・親子問題に関する資料をまとめレポートを提出する。
14.	新生殖技術と家族	親子とテクノロジーに関わる情報を収集して授業にのぞむ。
15.	ディスカッションー21世紀家族を創るー	今までの授業に関する疑問、意見をノートに整理してのぞむ。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
（1）授業終了時に、必ず質疑を確認し、その内容は次回の授業に反映させる。
（2）さらに、必要なら次回の授業で補足資料を配付し説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
2～3回のレポート提出を求める	30%	・自分で深く思慮したレポートであること。 ・事実を正確に理解していること。 ・引用・参考文献が正確に明記されていること。
記述式試験を行う	70%	複数回のレポート内容を点検し、記述試験と総合して評価する。

教科書:　なし

参考書:　適宜資料を配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
質疑応答は授業内・授業後に教室や研究室訪問等で対応する。
初回授業で受講生には、質問対応用のメールアドレスを伝える。

454901、02

現代アニメ研究

水口　　薫

授業テーマ:　アニメーションの可能性と影響力、メディア・リテラシー(映像メディアの読み解き能力と書く、表現、活用する能力)

授業の概要:　一枚では単に絵やマンガであるものが、映画、映像の原理によって、動く絵、アニメーションとなると楽しく、面白く、子どもから大人まで惹きつけている。アニメーションの表現方法は多岐にわたり、その表現内容は、それぞれの国の文化、歴史、民族性、地域性などの幅広い特色を持っている。アニメーションは、言葉や年令の壁を超えて、現代では教育、ビジネス利用など社会のあらゆるところで見ることができる視覚メディアとなってきた。世界マーケットへ進出した日本アニメ(ジャパニメーション) は、外国の社会でも影響力を持ち、「オタク」「コスプレ」などは日本より市民権があり、「マンガ・アニメ」の固有名詞として通用するようになってきている。映像を見ながらアニメーションの歴史、技法、国による文化の違い、時代背景、芸術と影響力について講義する。

到達目標:　この授業では、アニメーションの原理、種類、手法などの基本、歴史を知るために、劇場映画・テレビ・CM・ミュージッククリップなどのアニメーション作品を部分的に鑑賞する。それらを通して、現在の状況、世界、文化の違い、子どもや社会に対しての影響などを考え、問題点、可能性について、私たちはどのように理解、分析するのかを学ぶ方法としてメディア・リテラシーを身につけることを目標とする。

授業方法:　1:講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	映像の原理　目の残像現象　動きの再現と記録 洞窟壁画、絵巻、影絵、動く絵のおもちゃ、フェナキストスコープ、ゾートロープ、プラキシノ・スコープ:エミール・レイノー	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
2.	アニメーションの定義と種類　コマ撮りアニメーションとは 映画の発明、手描きアニメ、人形アニメ、セルアニメ、フランス:エミール・コール「ファンタスマゴリア」ロシア:スタレヴィッチ「映画カメラマンの復讐」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
3.	世界のアニメーション1　いろいろな素材と技法　光と影の利用 初期のアニメーションa　ドイツ:ロッテ・ライニガー影絵アニメ「アクメッド王子の冒険」、コマ撮りアニメーション「ナイト・メア・ビフォア・クリスマス」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
4.	世界のアニメーション2　いろいろな素材と技法 初期のアニメーションb　アメリカ:「リトル・ニモ」「恐竜ガーティー」「フェリッツ・ザ・キャット」、初期のディズニー「アリス・コメディーズ」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
5.	世界のアニメーション3　トーキー・アニメーション アメリカ:ウォルト・ディズニーとアブ・アイワークス、世界初のトーキー・アニメーション「ミッキー・マウス」の誕生、「ベティ・ブープ」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
6.	世界のアニメーション4　アニメの変革 アメリカ:ディズニー　マルチプレーンカメラ、「白雪姫」「ファンタジア」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
7.	世界のアニメーション5　戦争とアニメ　戦意高揚プロパガンダ利用 ドイツ:「ヒトラーのミッキー・マウス」アメリカ:ディズニー「総統の顔」「ドナルドの襲撃部隊」「空軍力の勝利」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
8.	世界のアニメーション6　ヨーロッパ　国策・イデオロギー　映像表現 ロシア:「雪の女王」「チェブラシカ」、チェコ、東欧:人形アニメ、フランス:ポール・グリモー「短編集」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
9.	世界のアニメーション7　ヨーロッパ　現代　映像表現・アートアニメ イギリス:「スノーマン」「快適な生活」、イタリア:「ネオ・ファンタジア」、フランス:「木を植えた男」、ポール・グリモー「王と鳥」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
10.	世界のアニメーション8　ヨーロッパ・パリ、アメリカ・カートゥーンと日本アニメ事情 アブ・アイワークスのディズニー復帰「メリー・ポピンズ」アメリカ:テレビ・アニメーション「ウッドペッカー」「トムとジェリー」「バックスバニー」「スポンジボブ」カナダ:NFBカナダ国立映画制作庁	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
11.	日本のアニメーション1　戦前作品と戦意高揚プロパガンダ利用 大藤信郎:千代紙アニメ「馬具田城の盗賊」、政岡憲三「くもとちゅうりっぷ」、瀬尾光世「のらくろ二等兵」「桃太郎・海の神兵」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
12.	日本のアニメーション2　戦後作品、東映動画(大塚康生・高畑勲・宮崎駿)からジブリへの道 「魔法のペン」「こねこのらくがき」「白蛇伝」「ルパン三世」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
13.	日本のアニメーション3　テレビ・アニメ　手塚治虫とアニメーション 「ある街の物語」、最初の国産テレビ・アニメーション「鉄腕アトム」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
14.	日本のアニメーション4　テレビ・アニメ、ジャパニメーション 「アンパンマン」「ドラえもん」「エヴァンゲリオン」「ポケット・モンスター」「プリキュア」「ワンピース」「妖怪ウォッチ」 劇場用作品「君の名は。」、大人向け作品	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。

15.	まとめ　アニメと社会問題　将来のアニメーションについて アニメ・ビジネス、ポケモン・ショック光過敏症事件、海外でのマンガ・アニメ文化の状況　アジア（韓国、中国、インド）CG（コンピュータ・グラフィック）3Dアニメの発達、CMアニメ、インターネット、MTV・コンサートのアニメ活用 「初音ミク」「アナと雪の女王」合唱現象	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業計画に記載していない作品の映像も利用する。
授業で見せるアニメ作品は短く、一部分を見ることになるので、なるべくAVライブラリー、テレビ、レンタル・ビデオなどを利用して、全編全部を見る機会を作り、全体像を把握して欲しい。
参考資料として映像作品の紹介をするので、時間の作れる学生は、それらも見ることを希望する。就職活動等で欠席した学生は、配布プリントを読み、上記の方法などによって出来るだけ映像を見ること。

フィードバックの方法:

受講生多数でディスカッションのできない場合は、出席票での記述にてコミュニケーションを図る。
出席票レポート、中間レポートの代表的な質問、理解の間違い等を授業においてを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席票を兼ねたレポート	10	
レポート	10	オリジナリティー、論理的に説明できているかを基準とする。
期末レポート	80	到達目標を理解した上で、自分がどの立場をとるのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とし、オリジナリティーを評価する。

教科書:

適宜、プリントを配付。

参考書:

世界アニメーション映画史（著者：伴野孝司、望月信夫、出版：ぱるぷ）
日本のアニメ全史（編著：山口康男、出版：テン・ブックス）
図説テレビアニメ全書（編者：御園まこと、出版：原書房）
アニメーションの世界へようこそ（著者：山村浩二、出版：岩波ジュニア新書）
アニメーション学入門（著者：津堅信之、出版：平凡社新書）
「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか（著者：大塚英志、出版：角川ONEテーマ21・角川書店）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。Eメール（kaoru828@gray.plala.or.jp）

454902

現代アニメ研究

井上　　理砂子

授業テーマ:　アニメーションの可能性と影響力、メディア・リテラシー(映像メディアの読み解き能力と書く、表現、活用する能力)

授業の概要:　一枚では単に絵やマンガであるものが、映画、映像の原理によって、動く絵、アニメーションとなると楽しく、面白く、子どもから大人まで惹きつけている。アニメーションの表現方法は多岐にわたり、その表現内容は、それぞれの国の文化、歴史、民族性、地域性などの幅広い特色を持っている。アニメーションは、言葉や年令の壁を超えて、現代では教育、ビジネス利用など社会のあらゆるところで見ることができる視覚メディアとなってきた。世界マーケットへ進出した日本アニメ(ジャパニメーション) は、外国の社会でも影響力を持ち、「オタク」「コスプレ」などは日本より市民権があり、「マンガ・アニメ」の固有名詞として通用するようになってきている。映像を見ながらアニメーションの歴史、技法、国による文化の違い、時代背景、芸術と影響力について講義する。

到達目標:　この授業では、アニメーションの原理、種類、手法などの基本、歴史を知るために、劇場映画・テレビ・CM・ミュージッククリップなどのアニメーション作品を部分的に鑑賞する。それらを通して、現在の状況、世界、文化の違い、子どもや社会に対しての影響などを考え、問題点、可能性について、私たちはどのように理解、分析するのかを学ぶ方法としてメディア・リテラシーを身につけることを目標とする。

授業方法:　1:講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	映像の原理　目の残像現象　動きの再現と記録 洞窟壁画、絵巻、影絵、動く絵のおもちゃ、フェナキストスコープ、ゾートロープ、プラキシノ・スコープ:エミール・レイノー	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
2.	アニメーションの定義と種類　コマ撮りアニメーションとは 映画の発明、手描きアニメ、人形アニメ、セルアニメ、フランス:エミール・コール「ファンタスマゴリア」ロシア:スタレヴィッチ「映画カメラマンの復讐」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
3.	世界のアニメーション1　いろいろな素材と技法　光と影の利用 初期のアニメーションa　ドイツ:ロッテ・ライニガー影絵アニメ「アクメッド王子の冒険」、コマ撮りアニメーション「ナイト・メア・ビフォア・クリスマス」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
4.	世界のアニメーション2　いろいろな素材と技法 初期のアニメーションb　アメリカ:「リトル・ニモ」「恐竜ガーティー」「フェリッツ・ザ・キャット」、初期のディズニー「アリス・コメディーズ」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
5.	世界のアニメーション3　トーキー・アニメーション アメリカ:ウォルト・ディズニーとアブ・アイワークス、世界初のトーキー・アニメーション「ミッキー・マウス」の誕生、「ベティ・ブープ」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
6.	世界のアニメーション4　アニメの変革 アメリカ:ディズニー　マルチプレーンカメラ、「白雪姫」「ファンタジア」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
7.	世界のアニメーション5　戦争とアニメ　戦意高揚プロパガンダ利用 ドイツ:「ヒトラーのミッキー・マウス」アメリカ:ディズニー「総統の顔」「ドナルドの襲撃部隊」「空軍力の勝利」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
8.	世界のアニメーション6　ヨーロッパ　国策・イデオロギー　映像表現 ロシア:「雪の女王」「チェブラシカ」、チェコ、東欧:人形アニメ、フランス:ポール・グリモー「短編集」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
9.	世界のアニメーション7　ヨーロッパ　現代　映像表現・アートアニメ イギリス:「スノーマン」「快適な生活」、イタリア:「ネオ・ファンタジア」、フランス:「木を植えた男」、ポール・グリモー「王と鳥」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
10.	世界のアニメーション8　ヨーロッパ・パリ、アメリカ・カートゥーンと日本アニメ事情 アブ・アイワークスのディズニー復帰「メリー・ポピンズ」アメリカ:テレビ・アニメーション「ウッドペッカー」「トムとジェリー」「バックスバニー」「スポンジボブ」カナダ:NFBカナダ国立映画制作庁	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
11.	日本のアニメーション1　戦前作品と戦意高揚プロパガンダ利用 大藤信郎:千代紙アニメ「馬具田城の盗賊」、政岡憲三「くもとちゅうりっぷ」、瀬尾光世「のらくろ二等兵」「桃太郎・海の神兵」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
12.	日本のアニメーション2　戦後作品、東映動画(大塚康生・高畑勲・宮崎駿)からジブリへの道 「魔法のペン」「こねこのらくがき」「白蛇伝」「ルパン三世」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
13.	日本のアニメーション3　テレビ・アニメ　手塚治虫とアニメーション 「ある街の物語」、最初の国産テレビ・アニメーション「鉄腕アトム」	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。
14.	日本のアニメーション4　テレビ・アニメ、ジャパニメーション 「アンパンマン」「ドラえもん」「エヴァンゲリオン」「ポケット・モンスター」「プリキュア」「ワンピース」「妖怪ウォッチ」 劇場用作品「君の名は。」、大人向け作品	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。

15.	まとめ　アニメと社会問題　将来のアニメーションについて アニメ・ビジネス、ポケモン・ショック光過敏症事件、海外でのマンガ・アニメ文化の状況　アジア（韓国、中国、インド）CG（コンピュータ・グラフィック）3Dアニメの発達、CMアニメ、インターネット、MTV・コンサートのアニメ活用 「初音ミク」「アナと雪の女王」合唱現象	配布プリントを熟読。可能な場合は紹介作品の全体を視聴。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業計画に記載していない作品の映像も利用する。
授業で見せるアニメ作品は短く、一部分を見ることになるので、なるべくAVライブラリー、テレビ、レンタル・ビデオなどを利用して、全編全部を見る機会を作り、全体像を把握して欲しい。
参考資料として映像作品の紹介をするので、時間の作れる学生は、それらも見ることを希望する。就職活動等で欠席した学生は、配布プリントを読み、上記の方法などによって出来るだけ映像を見ること。

フィードバックの方法:

受講生多数でディスカッションのできない場合は、出席票での記述にてコミュニケーションを図る。
出席票レポート、中間レポートの代表的な質問、理解の間違い等を授業においてを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席票を兼ねたレポート	10	
レポート	10	オリジナリティー、論理的に説明できているかを基準とする。
期末レポート	80	到達目標を理解した上で、自分がどの立場をとるのかを明確にし、その理由を説得力をもって説明できるかを基準とし、オリジナリティーを評価する。

教科書:

適宜、プリントを配付。

参考書:

世界アニメーション映画史（著者：伴野孝司、望月信夫、出版：ぱるぷ）
日本のアニメ全史（編著：山口康男、出版：テン・ブックス）
図説テレビアニメ全書（編者：御園まこと、出版：原書房）
アニメーションの世界へようこそ（著者：山村浩二、出版：岩波ジュニア新書）
アニメーション学入門（著者：津堅信之、出版：平凡社新書）
「ジャパニメーション」はなぜ敗れるか（著者：大塚英志、出版：角川ONEテーマ21・角川書店）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

455000

遊びの社会学

笠間　　浩幸

授業テーマ:　「砂場」から学ぶ子どもの遊びの歴史的変遷とこれからの遊び環境づくりの課題

授業の概要:　子どもにとっての遊びの意味と遊びを社会的に保障していくことの大切さと、具体的な遊びの環境づくりについての実践的課題を考える。特に遊具「砂場」に焦点を当て、その歴史的変遷と砂遊びの持つ子どもの発達への影響を探るとともに、遊びは子どもの権利であるとする国連の児童委員会の主張を原典から学ぶ。

到達目標:
①子どもにとって「遊び」とはどのような意味をもつものかの基本的な理解を図る。（発達的視点）
②「子どもには遊びが重要な意味をもつ」というような社会的な認識はどのように形成されてきたかについての歴史的な関心と探求的態度を養う。（歴史的視点）
③今後、子どもの遊び（環境）を保障していくために、大人や社会にはどのような問題解決に向けた課題があるかを考え実態に即して提案できるようにする。（社会学的視点）

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、子ども時代の遊びの振り返り	子ども時代の遊び体験とそこで自分は何を感じ、学び、獲得したかについて振り返っておく。
2.	遊びのワークショップ（WS）	同上
3.	「遊び」とは何かを考えるグループワーク	自分の振り返りと前時の遊び体験から、「遊び」とは何かを、自分なりに定義してみる。
4.	「遊び」の定義と遊びの変遷	さまざまな遊びの定義に関して調べておく。
5.	遊びと子どもの成長と発達の課題	遊びが子どもにどのような影響を与えるのかについて自分なりに考えておく。
6.	砂遊びから見る子どもの成長と発達　（テキスト序章、4章）	テキストの第4章を読みレポートをまとめる。
7.	砂場での遊びWS	子どもは「砂遊び」の何をおもしろいと感じているのか、自分なりの考えをまとめる。
8.	砂場から考える子どもの遊び（1）（1章）	テキストの第1章を読みレポートをまとめる。
9.	砂場から考える子どもの遊び（2）（2章）	テキストの第2章を読みレポートをまとめる。
10.	砂場から考える子どもの遊び（3）（3章）	テキストの第3章を読みレポートをまとめる。
11.	東日本大震災以降の福島と砂場	大震災時における子どもの生活やそこで「遊び」が果たす役割について、文献を探し読んでおく。
12.	現代の子どもの遊びと遊び環境（公園、冒険遊び場等）	現代の子どもの遊びに関する「問題点」を新聞や文献から探り纏めておく。
13.	子どもの権利としての遊び	「子どもの権利条約」について文献を探して読んでおく。特にその中で「遊び」の位置づけを確かめておく。
14.	子どもの遊びに関するこれからの課題	子どもの遊び環境づくりには何が必要であるか、自分なりの考えをまとめておく。
15.	まとめ	授業全体での学びを振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　テキストを精読し、毎回ミニレポートを課します。1本でも未提出の場合は、「まとめ」を受講することはできません。また英語文献の翻訳もあるので、しっかりとした学習計画を立てて受講してください。

フィードバックの方法:　授業時にコメントを加えて紹介する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
4本のミニレポート	40%	文献の要旨をしっかりととらえ自分の意見や疑問点を明確に描いているかどうかを評価する。
英語文献翻訳	10%	的確な翻訳及び内容への理解がなされているかどうかを評価する。
定期試験	50%	授業全体について理解できたかどうかを評価する。

教科書:　笠間浩幸 『〈砂場〉と子ども』 東洋館出版社、2001

参考書:　適宜授業で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

455100

数の社会学

今井　　敏博

授業テーマ:　「数・式」とその社会への活用について

授業の概要:　小学校や中学校で学習する「数・式」に関する事柄が、社会の事象のどのような場面でどのように使用されているかを考察していきます。小学校の算数で学習する「数」は、中学校では、文字を用いた式表現になります。この点が子どもたちのつまずきとなっています。この授業では、小学校から中学校へ移る過程で曖昧な点を明らかにし、異なった視点から見直します。子どもたちへの教育・保育、就職試験、将来の職業で役立ててほしいです。

到達目標:
1. 学校で学んだ数・式に関する内容の理解を確実にする。
2. 数・式に関する内容について、学校で扱われていない内容を知る。
2. 1、2についての関心・意欲・態度を身に付ける。

授業方法:　講義と小演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	幅広くアイデアを見出すコツは何でしょうか。	創造的思考という用語を調べておく。 創造性思考の種類について復習する。
2.	等号＝にはどんな役割があるでしょうか。	学校で学んだ等号＝の役割を思い出しておく。 等号＝の数学的役割の種類について復習する。
3.	計算で用いる「式」の語源は何でしょうか。	学校で学んだ方程式を思い出しておく。 「式」「方程式」という用語を復習する。
4.	文字の式を用いるとなぜ計算がたやすくなるのでしょうか。	学校で学んだ文字式を思い出しておく。 文字式を用いる意義を復習する。
5.	順思考と逆思考とはどう違うのでしょうか。	順思考、逆思考の用語を調べておく。 どの学校段階で逆思考、順思考を用いるかを復習する。
6.	方程式の本当の意味は何でしょうか	学校で学んだ方程式を思い出しておく。 方程式と変数を復習する。
7.	日常の事象の中で方程式をどのように用いることができるでしょうか。	学校で学んだ方程式の応用を思い出しておく。 方程式の日常への適用を復習する。
8.	問題解決にはどんな段階があるでしょうか。	ポリアについて調べておく。 ポリアの4段階を生活に適用することを復習する。
9.	加減法と代入法とではどちらが大切でしょうか。	学校で学んだ連立方程式を思い出しておく。 加減法、代入法の各々の利点を復習する。
10.	不等式にはどんな種類があるでしょうか。	学校で学んだ不等式を思い出しておく。 学校で学んでいない不等式を復習する。
11.	不等式の両辺にマイナスの数をかけるとなぜ大小関係が変わるのでしょうか。	不等式の性質を思い出しておく。 不等式の性質の子どもへの指導方法を復習する。
12.	「関数」とはいったい何だったでしょうか。	学校で学んだ関数を思い出しておく。 関数概念を復習する。
13.	関数関係はどのようにして表現できるでしょうか。	関数関係という用語を思い出しておく。 関数、写像、関係などの用語を復習する。
14.	確率は実験で求めますか、計算で求めますか。日常のどんな場面で確率を使うでしょうか。	学校で学んだ確率を思い出しておく。 確率には数学的と統計的の2つがあることを復習する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　算数・数学が苦手だった人は「なるほど、そうだったのか」と思える機会となり、算数・数学が得意だった人は、この学びをきっかけとしてスキルアップしてほしいと思います。

フィードバックの方法:　授業内の小演習では、受講生（できた人）が発表し、他の受講生に紹介します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験（持込可）	50	授業内容の知識の振り返りにより到達目標1，2を評価する。
授業への参加度	50	授業に前向きに参加し、到達目標3を評価する。

教科書:　プリントを配布します。

参考書:　適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、お昼休み時間、授業の前後に教室内で応対

456301

応用演習Ⅰ

大黒　　孝文

授業テーマ:　理科の授業力と協同学習実践力の育成Ⅰ

授業の概要:　小学校で主体的で協同的な学びを実践できる教師の育成をめざす。学習内容の中心に理科教育と協同教育をおき，その理論と方法の理解と獲得のために，授業演習とマイクロティーチングを行いながら実践的な指導力を身につける。マイクロティーチングでは授業の構想から実験準備，実験道具の操作技能習得，指導案・ワークシートの作成と授業を作る一連の作業をすべて行う

到達目標:
・理科授業に関して発展的な知識や判断力を身につけることができる。
・各領域における実験・観察の技能と表現力を身につけることができる。
・実験を構想し，協同的な授業をデザインする力を身につけることができる。

授業方法:
2:演習，3:実験実技演習（学内），5:講義/演習の混合
理科の授業を中心にマイクロティーチングを実施します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（個人の学習状況と課題の把握，個人演習単元の決定）	小学校理科の授業内容と実験操作について知識・技能の確認を行っておく
2.	授業力育成演習1（指導案作成）	単元の授業構想と指導案の下書き
3.	.授業力育成演習1（指導案修正）	指導案の作成作業
4.	授業力育成演習1（指導案完成）	指導案の修正作業
5.	授業力育成演習1（実験演習1）	実験内容と操作方法の確認 実験材料と道具の準備
6.	授業力育成演習1（実験演習2）	実験操作の再確認と材料の不足分の確認
7.	マイクロティーチング（模擬授業1）	模擬授業の予行
8.	マイクロティーチング（模擬授業2）	授業検討を受けて模擬授業の予行
9.	マイクロティーチング（模擬授業3）	授業検討を受けて模擬授業の予行
10.	マイクロティーチング（模擬授業4）	授業検討を受けて模擬授業の予行
11.	マイクロティーチング（模擬授業5）	授業検討を受けて模擬授業の予行
12.	マイクロティーチング（模擬授業6）	授業検討を受けて模擬授業の予行
13.	マイクロティーチング（模擬授業7）	授業検討を受けて模擬授業の予行
14.	教材開発研究と授業デザイン1	全模擬授業のふり返りと課題の明確化，協同学習の理論と方法の確認
15.	教材開発研究と授業デザイン2，及び，総括	授業のふり返り

受講者へのメッセージやアドバイス:
まず，小学校理科の授業内容と実験操作について知識・技能の確認を行い，理解の不十分な部分を確認しておきましょう。
マイクロテーチングでは，より実践的な模擬授業を実施します。
可能であれば，学校ボランティア等を行い，教育現場での児童の実態に触れることを強くすすめます。

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説し評価する。提出物は採点後，コメントを記入し返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業	40	到達目標の知識理解や技能の活用を学習指導，実験技能，生徒指導の観点で評価する。
レポート	30	到達目標の実験構想と協同学習をデザインする指導案や児童用ワークシートの完成度をもって評価する。
授業への参加度	30	授業への積極的な参加と到達目標すべてに関わる内容と方法の理解度を討議場面等で評価する。

教科書:
小学校学習指導要領　理科編（平成29年3月告示　文部科学省）
プリントを配布する。

参考書:
・D・W・ジョンソン，R・T・ジョンソン，E・J・ホルベック（2008）『学習の輪―アメリカの協同学習入門―』，二瓶社
その他，授業中に随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
授業の前後に対応，オフィスアワー，Eメール等

456302

応用演習Ⅰ

藤原　　孝章

授業テーマ:　多文化・格差社会に着目した社会科・国際理解の教材開発研究

授業の概要:
・小学校社会科教科書を丹念に分析、検討し、社会科（地理，歴史，公民の内容研究を行い、そのうえで、指導案、教材づくりをする。
・国際理解教育、特に，多文化、貧困、開発、平和、人権など、グローバルな世界について研究し、そのうえで、指導案、教材づくりをする。

到達目標:
知識理解：社会科教育及び国際理解教育の授業内容、授業づくりに関する理解を深めることができる。
技能：社会科教育及び国際理解教育の教材研究、授業づくりの技能を高めることができる。
関心・意欲・態度：社会科教育及び国際理解教育の教材研究、授業づくりの研究を通して、社会科教育、国際理解教育について関心を持つことができる。

授業方法:
現行教科書の分析、教材研究及び授業づくりのワークショップ、グループ活動
実践的には，ワークショップをはじめ、授業研究、フィールドワークなどを適宜取り入れる
ゼミの共同研究として、社会科や国際理解の教材作りをすることが多くなる
社内校を含めて近隣の小学校に作成した教材の「出前授業」に行くこともある

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、ゼミ開き/研究紹介 春休みの宿題の共有	春休みの宿題
2.	小学校社会科教科書の内容分析1（中学年1） （都道府県）	現行小学校社会科教科書の熟読
3.	小学校社会科教科書の内容分析2（中学年2） （防災安全）	現行小学校社会科教科書の熟読
4.	小学校社会科教科書の内容分析3（高学年1） （日本の産業1）	現行小学校社会科教科書の熟読
5.	小学校社会科教科書の内容分析4（高学年2） （日本の産業2）	現行小学校社会科教科書の熟読
6.	小学校社会科教科書の内容分析5（高学年3） （日本の歴史１）	現行小学校社会科教科書の熟読
7.	小学校社会科教科書の内容分析6（高学年4） （日本の歴史２）	現行小学校社会科教科書の熟読
8.	小学校社会科教科書の内容分析7（高学年5） （国際社会）	現行小学校社会科教科書の熟読
9.	小学校社会科教科書の内容分析のふりかえり	現行小学校社会科教科書の熟読
10.	国際理解教育の教材研究1（多文化）	参考文献の熟読
11.	国際理解教育の教材研究2（貧困）	参考文献の熟読
12.	国際理解教育の教材研究3（開発）	参考文献の熟読
13.	国際理解教育の教材研究4（平和）	参考文献の熟読
14.	国際理解教育の教材研究5（人権）	参考文献の熟読
15.	国際理解教育の教材研究のふりかえり	参考文献の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:
キャリアとして小学校教員をめざすほか、国内外での多文化、貧困に関わるフィールドでのこども支援をめざしてほしい。
必ず、課題図書をよみ、パワーポイント等で発表できるようにしておく
別に、自分の追究すべき課題に対応したゼミ課題レポートを課す

フィードバックの方法:
グループ活動（話し合い、ワークショップ）へのコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的に取り組んでいるか、討論への参加ができているか
ゼミ発表・レポート	30	積極的に取り組んでいるか、授業目標に到達しているか
最終レポート（約5000字）	50	授業目標に到達しているか

教科書:

参考書:
小学校社会科教科書（東京書籍、日本文教出版など）
田中治彦編（2016）『SDGSと開発教育』（学文社）
日本国際理解教育学会編（2015）『国際理解教育ハンドブック』（明石書店）
日本国際理解教育学会編（2010）『グローバル時代の国際理解教育』（明石書店）
原田智仁編（2015）『社会科教育のルネサンス』保育出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
e-mail、面談

456303

応用演習Ⅰ

今井　　敏博

授業テーマ:　「数・量・形」の学びと大人の役割、教育・保育の現状

授業の概要:　子どもは知識・技能をどのように獲得していくのか、大人は子どもにどのような学びの場を設定するのか、は重要な課題です。とりわけ、社会人としての資質・能力、思考力・判断力・表現力を養うことは、教育実践・保育実践と担う大人、企業人に求められています。事象を整理して全体を把握することや筋道を立てて見通しをもつことは、わが国の現代社会では不可欠となっています。この応用演習では、模擬授業、模擬保育、その他の活動を通して、社会人として「の素養を身につけていきます。また、傾聴・受容・共感という心のケアの手法、人を思いやる姿勢を備えてほしいと考えています。

到達目標:
1. 授業テーマに関する知識を獲得し技能を身につける。
2. 授業テーマに関わる資質を養う。
3. 授業テーマに関する関心・意欲・態度を高める。

授業方法:　発表、実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	役割分担を確認し、自分のプレゼンテーションの準備を行う。
2.	教具・遊具について	教具・遊具を用いた教育実践について調べる。
3.	教具・遊具を用いた活動（1）	教具・遊具を用いた活動についての実践を調べる。
4.	教具・遊具を用いた活動（2）	教具・遊具を用いた活動についての実践を調べる。
5.	模擬授業、模擬保育など	自分の実践を振り返る。子ども役の人は感想を述べる。
6.	模擬授業、模擬保育など	自分の実践を振り返る。子ども役の人は感想を述べる。
7.	模擬授業、模擬保育など	自分の実践を振り返る。子ども役の人は感想を述べる。
8.	模擬授業、模擬保育など	自分の実践を振り返る。子ども役の人は感想を述べる。
9.	模擬授業、模擬保育など	自分の実践を振り返る。子ども役の人は感想を述べる。
10.	模擬授業、模擬保育など	自分の実践を振り返る。子ども役の人は感想を述べる。
11.	模擬授業、模擬保育など	自分の実践を振り返る。子ども役の人は感想を述べる。
12.	模擬授業、模擬保育など	自分の実践を振り返る。子ども役の人は感想を述べる。
13.	教員採用、保育士採用、企業採用で求められる力（1）	ポイントをまとめる。
14.	実習に向けて	ポイントをまとめる。
15.	まとめ	本学期を振り返るとともに、次学期への準備事項をまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実習で行ってみようと思うことを実際に模擬的に試みてください。経験が自信につながると思います。

フィードバックの方法:　模擬実践・模擬授業については、質疑とともに指導助言を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬実践・模擬授業	50	到達目標1、2に伴う準備と実技の評価を行う。
授業への参加度	50	模擬実践・模擬授業への質疑の参加度など到達目標3に伴う評価を行う。

教科書:　プリントなどを配布する。

参考書:
新任教師のしごと　算数科、小学館
小学校算数科の考え方と授業展開、文渓堂
王さまのライオンのケーキ　はんぶんのはんぶん　ばいのばいのおはなし、徳間書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、昼休み時間、授業前後に教室内で応対

456304

応用演習Ⅰ

笠間　　浩幸

授業テーマ:　子どもの遊び・学びと心身の成長・発達

授業の概要:　子どもの遊びを通した直接体験は、心身の成長・発達、基本的な学習能力の獲得に重要な意味をもつ。そのため、幼児教育や生活科では、遊びを中心とした活動を主要な教育方法として位置づける。また何よりも子どもにとっては、楽しくかつ主体的な学びへの意欲を引き出す。そこで、本演習では、幼小年期の子どもを対象に、健やかな成長・発達の課題、遊びや体験活動の充実、それを保育・学校教育、地域、さらには子ども産業の分野においてどのように創り出していくかといった点からさまざまな実践的課題に取り組む。

到達目標:
①子どもの心と体はどのように育っていくのか、その基本を知る。
②今日、子どもの心や体にはどのような問題が生じているのか、その実態をつかみながら、遊びや体験活動を通じた課題解決の方途を探る。
③地域における遊び・体験活動の場づくりの実態を調査し、具体的な課題を把握しながら、自らの子どもと関わる実践力も高める。
④保育や学校教材としての体験活動の意義と課題及び子ども産業の課題と可能性について探る。

授業方法:　演習：資料、文献、映像等を用いた学習を個別、集団討議を通じて行う。遊びと体験活動の実態を調査し、問題の把握と課題解決のためのプログラム作成をグループ活動を通して行う。・春合宿にて、地域における遊びと体験活動の実態を学ぶ。（京丹後市を予定）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	各自、関心を持つ研究テーマを考えておく。
2.	今日の遊びと体験活動の課題	子ども時代の遊びや体験から学んだことをまとめておく。
3.	子どもの成長発達と環境（乳児期）	1年生のときに作成した発達レポートを振り返る。
4.	子どもの成長発達と環境（幼児期前半）	1年生のときに作成した発達レポートを振り返る。
5.	子どもの成長発達と環境（幼児期後半）	1年生のときに作成した発達レポートを振り返る。
6.	子どもの成長発達と環境（学童期）	小学校低学年の発達課題について調べておく。
7.	今日の子どもの心身の発達課題	文献資料ト『子どものからだが危ない』を読んでおく。
8.	今日の子どもの学習課題	文献資料『学力とは何か』を読んでおく
9.	遊び環境づくりの課題	文献資料『子どもとあそび』を読んでおく
10.	遊びと体験活動の実態と問題の把握①	関心のある体験活動の内容や実施プログラムを考え、発表できるように準備する。
11.	遊びと体験活動の実態と問題の把握②	関心のある体験活動の内容や実施プログラムを考え、発表できるように準備する。
12.	遊びと体験活動の環境構成の課題①	テーマに定めた体験活動プログラムの具体的な実施方法を考え、発表準備を整える。
13.	遊びと体験活動の環境構成の課題②	テーマに定めた体験活動プログラムの具体的な実施方法を考え、発表準備を整える。
14.	遊びと体験活動のプログラム	各発表に対するコメントを考えておく。
15.	振り返りと今後の課題整理	授業全体を振り返り、疑問点や今後の課題をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　個別の関心に基づくテーマ研究とともにゼミ・メンバー同士の協同的な活動や学びを重視するので、常にコミュニケーションや相手を思いやる心を大切にしてください。ゼミはみんなで創るものということを念頭に、主体的かつ積極的な参加を期待します。

フィードバックの方法:　授業時にコメントを付してフィードバックを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
テーマレポート	20%	子どもの心身の発達に関する理解及び、今日の子どもの発達に関する問題の把握ができているかどうかを評価する
討議・発表	30%	遊びや体験活動プログラムの実践計画・実施・振り返りのプロセスがきちんと理解され、実現できているかどうかを評価する。
授業への参加度	30%	積極的な話し合いに参加し、他のゼミメンバーとのコミュニケーションや協力ができているかどうかを評価する。
最終レポート	20%	授業全体からの学びが出来ているかどうかを評価する。

教科書:　中村和彦 『子どもの体が危ない』日本標準、2004

参考書:　適宜授業において紹介・配布する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール、ゼミ・メーリングリスト、オフィスアワー

456305

応用演習Ⅰ

松崎　　正治

授業テーマ:　ことばの学び（国語教育）の研究

授業の概要:　ことばを学ぶことは、どういうことなのか。文学を読むことを例にして考えていく。具体的には、新美南吉の児童文学作品を使って、作品と作家の生涯や風土の関わり、文学作品の読み方、教材研究と授業づくりの方法に習熟していく。

到達目標:
①作品と作家の生涯や風土の関わりについて、新美南吉作品を例に理解している。
②文学作品の読み方について、その方法を理解して、様々な作品の読みに応用しようとしている。
③教材研究と授業づくりの方法について、新美南吉作品を例に理解している。
④自分の研究課題を発見しようとしている。

授業方法:　最初は講義形式で、研究の基本的な方法について論じる。次に、演習形式で課題ごとに探究し、発表・討議を行う。発表担当者を決めるので、発表者は事前に資料を読み込み、レジュメを作成する。発表が終わ った後は、発表を振り返り、次の発表へつなげる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読んでおく。
2.	ことばの学びについての各人の問題意識を交流する。国語教育研究の現状と課題	ことばの学びについての自分の問題意識をまとめておく。
3.	作品と作家の生涯や風土の関わり～新美南吉作品を例に（1）	作品と作家の生涯や風土の関わりについて、学んだことをまとめておく。
4.	作品と作家の生涯や風土の関わり～新美南吉作品を例に（2）	作品と作家の生涯や風土の関わりについて、学んだことをまとめておく。
5.	文学作品の読み方～新美南吉作品を例に（1）	当日に取り扱う新美南吉作品を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には学んだことをまとめておく。
6.	文学作品の読み方～新美南吉作品を例に（2）	当日に取り扱う新美南吉作品を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には学んだことをまとめておく。
7.	文学作品の読み方～新美南吉作品を例に（3）	当日に取り扱う新美南吉作品を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には学んだことをまとめておく。
8.	文学作品の読み方～新美南吉作品を例に（4）	当日に取り扱う新美南吉作品を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとめておく。また、事後には学んだことをまとめておく。
9.	教材研究と授業づくり～新美南吉作品を例に（1）教材研究から授業の構想へ	教材研究と授業づくりの内容について、事後にまとめておく。
10.	教材研究と授業づくり～新美南吉作品を例に（2）実践事例の検討①	配付した実践事例を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとえておく。また、事後には、実践事例の要点をまとめておく。
11.	教材研究と授業づくり～新美南吉作品を例に（3）実践事例の検討②	配付した実践事例を事前に読んでおく。発表者はレジュメをまとえておく。また、事後には、実践事例の要点をまとめておく。
12.	自分の研究課題を考える（1）先輩の卒論を読んでみる	事前に配付した先輩の卒業論文を読んでおく。
13.	自分の研究課題を考える（2）各人の問題意識の交流	事前に、自分の研究課題を考えておく。
14.	自分の研究課題を考える（3）関連する文献を読む	関連文献を読む。
15.	まとめ	これまでの授業を踏まえて、自分の問題意識をまとめていく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　ゼミに入って最初の学期なので、お互いが自己開示を恐れずに、心を開いて認め合いましょう。

フィードバックの方法:　毎回、授業で発表内容等についてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への参加	40%	出席して積極的に発言しているかを評価する。
発表	20%	内容の掘り下げがあり、質疑応答に的確に答えているかを評価する。
まとめのレポート	40%	論理的に書けているか、内容に説得性があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。

教科書:　新美南吉『新美南吉童話集』ハルキ文庫、2006年

参考書:
畑中章宏『ごん狐はなぜ撃ち殺されたのか—新美南吉の小さな世界』晶文社、2013年
保坂重政・遠山光嗣編『別冊太陽　新美南吉～「ごんぎつね」「手袋を買いに」そして「でんでんむしのかなしみ」』平凡社、2013年
新美南吉・岸田今日子『新美南吉童話選集』第1巻～第3巻（児童文学朗読CDシリーズ）、エニー、2001年
新美南吉『新美南吉童話集』（朗読CD）上・下巻、パンローリング、2016年
新美南吉・黒井健『ごんぎつね（日本の童話名作選）』偕成社、1986年
新美南吉、マイケル・ブレーズ『ごんぎつね（ラダーシリーズ）』IBCパブリッシング、2006年
生野金三『改稿新美南吉研究 ごん狐の世界』萌文書林、2014年
府川源一郎『「ごんぎつね」をめぐる謎～子ども・文学・教科書』教育出版、2000年
日本国語教育学会『授業に生きる新美南吉童話』図書文化社 、1995年
田中実・須貝千里『文学が教育にできること～「読むこと」の秘鑰』教育出版、2012年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:	Eメール、オフィスアワー

456306

応用演習Ⅰ

中山　　まき子

授業テーマ:　子どもを育む「大人・社会・制度」を学ぶ

授業の概要:　子どもの姿・子どもをめぐる諸問題は、大人社会を映し出す鏡である。そこで、本演習では、子どもを育んでいる「大人と社会・制度」を、「知る力」、関連書籍を「読む力」、そして知識のストックを通して「考え方」を身に付けることを目的とする。

到達目標:　・「知る力」・「読む力」・「考える力」の重要性に気付き、自ら身につけようとする。

授業方法:　複数書籍・論文等の輪読、要旨作成、報告、ディスカッションなどを組み合わせる。（基礎力を身に付けるまでは、厳しく指導する。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	本演習のガイダンス。 各自の自己紹介	演習のシラバスを読んでおく。各自の将来の進路に対する希望、関心のある出来事等を整理し、内面含む自己紹介の準備をして演習にのぞむ。
2.	文献検索の方法を中心に、本学図書館・本学以外の図書館、インターネット等の活用方法を身につける。	本学図書館及びインターネットの利用方法について、疑問点をまとめておく。
3.	＜文献課題の提示＞：特定の資料検索・資料収集の練習を行う。辞書・事典の活用方法、学内外の図書館の生かし方を学ぶ。	今までの図書館利用、インターネット利用について振り返り、どのような時にどのような方法でこれらを活用してきたのか、既存の経験を整理しておく。
4.	受講生の「文献課題一覧」の紹介・比較検討、コメント	第3回の授業時に指示した「文献課題」を、できるだけ多く収集し、資料一覧を作成して、授業開始時に提出する。
5.	（1）書誌情報の記録法・カード化ー書籍編 （2）盗作・剽窃・コピーペイスト問題・ ねつ造・改ざんなど：その1	各自が自分の好きな本、大事な書籍等を持参する。その際、その魅力を文章化してくる。
6.	（1）書誌情報の記録法・カード化ー雑誌・論文編ー （2）盗作・剽窃・コピーペースト問題・ねつ造・改ざん：その2	盗作・剽窃・コピーペースト問題等についてノート整理し、知的財産の侵害について、深く理解しておく。なお、疑問・質問等があれば整理しておく。
7.	報道紙（全5社程度）から、同じ事件や社会問題を取り扱った記事を提示し、記述方法、内容、コメント等の類似点や相違点を比較検討し、表現の違いを学ぶ（その1）。	第4回終了時に指定した特定の記事・報道紙を収集し、内容を熟読して整理しておく。
8.	報道紙（全5社程度）から、同じ事件や社会問題を取り扱った記事を提示し、記述方法、内容、コメント等の類似点や相違点を比較検討し、表現の違いを学ぶ（その2）。	第5回終了時に指定した特定の記事・報道紙を収集し、内容を熟読して整理しておく。
9.	短い論文を読む（1）ーレジュメをつくるということー	第8回時に配布した短い論文を読み、レジュメを作成してくる。
10.	短い論文を読む（2）ー論文の構造を知るー	第9回時に配布した短い論文を読み、レジュメを作成してくる。
11.	長めの論文を読む（3）ー	第10回時に配布したやや長めの論文をペアでレジュメを作成してくる。
12.	ディベート準備を行う　ーテーマは現在の社会・制度問題を取り扱うー	ディベートで対立した議論を行いたいテーマを見つけ、テーマに関わる資料を持参する。
13.	ディベートの実施と賛否両論の資料交換	確定したディベートテーマに関して図書、論文、インターネット等から、資料収集を行い持ち寄る。
14.	ディベート時に資料を生かし、賛否両論を記すレポートの書き方指導	ディベートで活用した全資料を、ゼミ生全員に配布する準備をしてくる。
15.	各人が作成したレポートの合評会を行う。	各人がディベートに基づいて作成したレポートを、人数分複写して、演習開始時に皆に配布する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　学生の質疑応答には適宜答え、必要な諸資料を随時提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的な演習参加	40	演習内での作業、意見発表を積極的に行う。
レジュメ・レポート提出	60	レジュメ、レポート等を提出し、その内容の質を高めようとする努力が見られる。

教科書:　特になし

参考書:　演習時に適宜配布・指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　メールアドレス、電話番号等を相互に知らせあい、適宜連絡を取れる体制をつくっておく。

456307

応用演習Ⅰ

塘　　利枝子

授業テーマ:　文化と発達

授業の概要:　基本的にテーマは自由ですが、主として3つの領域から各自テーマを選び、3、4年次のゼミを通して卒業論文を作成します。また3年次修了までにも、まとまった論文を書くことを目指します。
テーマ選びに関する1つ目の領域は文化間移動をする子どもたちの教育・保育や発達に関するものです。2つ目の領域は、子育て観や発達観の文化比較に関するものです。3つ目の領域は文化間移動や文化比較だけではなく、発達障害など臨床発達心理学に関するものです。いずれの領域、または2つ以上の領域にまたがるテーマを選んでも良いですが、フィールドワーク法、質問紙法、面接法などの心理学の方法論を用いて分析を行います。特に春学期はテーマ選びと文献解題を中心に行い、夏期休暇中に調査を行います。併せて「書く力」をつけることを目指します。

到達目標:
「知識・理解」
研究方法について理解している。
論文の読み方や書き方について理解している。

「関心・意欲・態度」
ゼミ生同士の研究テーマにも関心をもち、積極的に質問やコメントをしながら、お互いの研究に貢献する態度をもつ。

「表現・技能・能力」
自分自身の研究テーマについて的確に表現できる技能を身に付けている。

授業方法:　自分のテーマに沿って随時レジュメを作成し、発表形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	レジュメの書き方、文献検索の仕方	特にありません。
2.	社会科学の研究の進め方、研究倫理、情報倫理	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。
3.	論文の読み方と書き方	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。
4.	４年次生の発表を聞き、具体的に研究の進め方について学ぶ1	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。
5.	４年次生の発表を聞き、具体的に研究の進め方について学ぶ2	前回の授業内容や配布されたプリントについて理解しておくこと。
6.	研究タイトル、目的発表	レジュメ作成
7.	論文検索の仕方	図書館のweb検索を事前に理解しておくこと。
8.	論文検索結果を持ち寄ってグループ討議	レジュメ作成
9.	模擬授業・保育	指導案作成
10.	模擬授業・保育	指導案作成
11.	ワークショップ	特にありません
12.	模擬授業・保育	指導案作成
13.	模擬授業・保育	指導案作成
14.	文献解題発表（グループ討議）	レジュメ作成
15.	文献解題発表（グループ討議）	レジュメ作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業外でも課題をこなす必要があり、定められた時間外にもゼミを行いますので、積極的な参加と課題をこなす意志が不可欠です。夏期休暇中にも課題が出されます。欠席は教育実習等の公欠以外は認められません。5月か6月に宿泊合宿を行います。

フィードバックの方法:　ゼミ内で課題を共有したり、研究室で個別相談にのります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む積極的な発表・討論	70%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。
レポート・論文等	30%	的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数のレポート・論文を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。

教科書:　特にありません。

参考書:　授業時に随時個人の研究テーマに合わせて指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーにゼミ生全員に関わることについては掲載します。
ゼミ内でのメイリングリストや個人メイルを活用します。
研究室で個人相談を行います。

456308

応用演習Ⅰ

上田　　信行

授業テーマ:　創造的学びを挑発する学習環境デザイン

授業の概要:　プレイフル・ラーニングをキーワードに、「学び」「メディア」「デザイン」 の3つの視点からこどもたちが仲間と共感しながら活動に没頭できる場のデザインについて考える。具体的には、様々なメディアを活用したワークショップを企画・実施・評価・改善する。ゼミでは「学び」とは何かを根源的に問い直し、「ケア」の概念と重ね合わせながら、これからの時代に必要な学習環境デザインを考えていく。特に、こどもたちの創造力を刺激するための「空間」「道具」「活動」「人（学びの共同体）」のデザインを中心にプロジェクトを展開していく。多様なプロジェクトを通して、ヴィデオ･ドキュメンテーションを含めたメディアスキルも磨いていく。新しいテクノロ ジーを未来の学びに活かしたいという情熱を持っている人にぜひ来てほしい。 春学期は学習環境デザインのベースになる様々な理論を学習科学の文献を中心に読み進め、これらの知見を活かして、ワークショップデザインのための基本的な姿勢と技術を身につける。

到達目標:
（1）「想像的創造力」を駆使し、メディアテクノロジーを効果的に使ったワークショップを企画・実施・評価・改善することができる。
（2）学びに関する現代的課題を理解するために多様な情報を探索し、問いを組み立て、探求のための活動をデザインできる。
（3）ヴィデオを使ってワークショップを撮影し、コンピュータを使ってリフレクションムービーを編集することができる。

授業方法:　ゼミはレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みをつかっ て、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。学生によるプレゼンテーションや討論を頻繁に行う。協同でプロジェクトを行うので、かなりのコミットメントが要求される。積極的な参加が必要。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	創造的学びのためのメディアテクノロジー	教科書の第1章を読んでおく。ロー・ハイテクメディアをどのように活用して創造的学びの環境をデザインするかについて自分の考え方をまとめておく。
2.	学びの社会的構成とラーニングデザイン 発達の最近接領域と憧れの最近接領域	場の理論としての「憧れの最近接領域」について自分なりの考えを整理しておく。
3.	学びへの動機づけとメタ認知 成長的マインドセットと固定的マインドセット	マインドセットとメタ認知の関係について自分なりの解釈をまとめておく。
4.	オブジェクトをベースにしたパワフルな学び Evocative Object（挑発的オブジェクト）が学びを活性化する	学びやコミュニケーションを活発にするオブジェクトを一つ選び、どのように活用できるかを具体的に説明できるようにしておく。
5.	6Csについて Collaboration, Communication, Content, Critical Thinking , Creative Innovation, Confidence	6Csの4レベルについて、今の自分がどのレベルにいるかを、プロットしてみる。
6.	リフレクション(省察)	Reflection-in-Action, Reflection-after-Action, Reflection-on-Actionのそれぞれの違いを整理しておく。
7.	学びの共同体	学びの共同体がもつカルチャーの重要性についてまとめておく。
8.	ドキュメンテーション技術	教科書のコラム1を読んでおく。
9.	ヴィデオ編集ワークショップ 撮影	携帯のヴィデオ機能を使って、撮影練習をしておく。
10.	ヴィデオ編集ワークショップ 編集	録画したヴィデオ素材をiMovieを使って編集する。
11.	ワークショップの構想 (コンセプト･デザイン)	教科書の第2章を読んでおく。 ワークショップデザインのコンセプトを考えておく。
12.	活動のデザイン (ツール開発を含む)	コンセプトを実現する活動を考え、特にワークショップを活性化するツールを決め、次週までに準備する。
13.	ワークショップの実施 ヴィデオドキュメンテーションも行う	ワークショップの準備をする。
14.	ワークショップの評価	ヴィデオを視聴しながらワークショップをふり返り、改善点を整理しておく。教科書の第3章を読んでおく。
15.	まとめ:リフレクションと秋学期への展望	授業全体をふり返ってリフレクションペーパー(最終レポート)を書く。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実践的研究を中心に活動するゼミなので、かなりのコミットメントが要求される。とてもやりがいがあるので、一緒に授業を創っていきたい。教育の専門家（プロフェッショナル）としての自覚と、共感的、かつ理性的に自ら関わっていこうとする強い意志と態度を身につけたいと思っている人にぜひチームに加わってほしい。

フィードバックの方法:　グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションを総合的に評価する。
ディスカッション	20	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
最終レポート	50	春学期の授業を通して実践的に経験したことを意味づけ、抽象化し、学びの理論と関係づけながら自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:　上田信行・中原淳『プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来』三省堂 2013

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

456309

応用演習Ⅰ

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:　保育環境評価スケールを通して保育を見る目を育てる。

到達目標:　保育環境評価スケールが使えるようになる。
・スコアリングの理解
・評価観察のポイントを学ぶ
・項目の理解

授業方法:　演習形式。フィールドワークも行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容		準備学習等の内容
1.	オリエンテーション		保育環境評価スケールについて既習の内容について復習しておく。
2.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（1）	国内外の事例	学習予定の項目内容について理解しておく。
3.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（2）	国内外の事例	学習予定の項目内容について理解しておく。
4.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（3）	国内外の事例	学習予定の項目内容について理解しておく。
5.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（4）	国内外の事例	学習予定の項目内容について理解しておく。
6.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（5）	国内外の事例	学習予定の項目内容について理解しておく。
7.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（6）	国内外の事例	学習予定の項目内容について理解しておく。
8.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（7）	国内外の事例	学習予定の項目内容について理解しておく。
9.	保育環境評価スケール項目研究の検討を通して（8）	国内外の事例	学習予定の項目内容について理解しておく。
10.	保育フィールドワーク（1）		スケールの内容、評価方法について復習しておく。
11.	保育フィールドワーク(2)		評価内容についてまとめる。
12.	保育フィールドワーク（3）		評価内容についてまとめる。
13.	保育フィールドワーク（4）		評価内容についてまとめる。
14.	保育フィールドワーク（5）		評価内容についてまとめる。
15.	まとめ		全体を振り返り、評価レポートを完成させておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業内容は都合により前後することがある。

フィードバックの方法:　全体に解説。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	50%	スケールの各項目の意味を理解し的確なコメントができているか。
レポート採点	50%	評価方法を理解し的確な評価レポートとなっているか。

教科書:　新・保育環境評価スケール①幼児版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に応答。ウェッブメール。

456310

応用演習Ⅰ

吉永　　紀子

授業テーマ:　こどもと教師がともに学び育つ授業づくりを探究する

授業の概要:　応用演習Iでは、まず学校現場やこどもが育つ場で、いま何が起きているのか、それがどのように問題となっているのかをリサーチする。またリサーチするための方法も学んでいく。さらに、私たちが被教育体験のなかで構築してきた「授業」「学び」「こども」「教師」などに対する見方・考え方を見つめ直しながら、授業という場が〈こどもと教師の共に学び育つ場〉となるために求められることはどのようなことなのか、実践記録や先行研究図書を読むなかで探っていく。
※春学期に1回ゼミ合宿を実施する。また福島県内でのフィールドワークも計画している。日程は受講者と相談する。

到達目標:
（1）自分が関心あるテーマや対象について現状や歴史的背景を知り、調べる中で、対象への関心をより一層高め、自分が探究しようとする領域に対する多様な考え方を構築している。
（2）研究に必要となる考え方や研究方法とその意義について理解し、方法を駆使して研究を展開できるだけの知識を自分のものにしている。
（3）ともに学ぶ仲間のよさを引き出しながら自分が果たすべき役割を見出し、多様性を尊重しながら協同学習を自分たちなりに工夫して創り上げることができる。

授業方法:
毎回、受講者による小レポートや報告をすることでゼミを創る。したがって、ゼミで報告するための準備学習として、授業外でのリサーチ、資料作成も求められる。また、毎回冒頭で各自が最近気になっているニュースやトピックについて話題提供し、現代的課題へのアンテナを磨いていく。
・報告担当者は報告内容の準備だけでなくディスカッションの柱立てを練っておく。
・毎回の授業終了後に本時のリフレクションシートをまとめる。
・こども、教師、学校をめぐって気になるニュースを各自がスクラップしていく。毎回担当者がその記事・資料をもとに話題提供できるように情報をストックしていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション／ゼミを学び合う場にするために	本授業のシラバスを読んでくる。また、自己紹介の内容と方法を工夫して準備してくる。
2.	いま学校現場で何が問題になっているのか（1）「問題」を見つける方法を知る	自分の関心あるテーマや対象について語る準備をしてくる。また、前の回に配布された昨年度の先輩の研究冊子を読んで気になったことを整理しておく。
3.	いま学校現場で何が問題になっているのか（2）「問題」を洗い出す	前の回に行った問題発見の方法をもとに自分の関心あるテーマ・対象に関する現状を知る方法を探してくる。
4.	いま学校現場で何が問題になっているのか（3）「問題」を仕分ける	問題であると思っている理由が相手にわかるように説明できるように整理してくる。
5.	問題を探究する方法を広げよう（1）「探究」するとはどういうことか	前の回で学んだ方法をもとに、自分の関心あるテーマや対象についての問題をリサーチし始める。
6.	問題を探究する方法を広げよう（2）私にとっての「問い」をつくる	複数ある問題の中で「私にとって」の問いとなるように自分の考えを整理してくる。
7.	わたしの問題意識の芽を発表する（1）	発表者は自分の発表について内容、方法ともに工夫して準備してくる。
8.	わたしの問題意識の芽を発表する（2）	発表者は自分の発表について内容、方法ともに工夫して準備してくる。また聴き手から受けた質問や意見について整理する。
9.	わたしの問題意識の芽を発表する（3）	発表者は自分の発表について内容、方法ともに工夫して準備してくる。また聴き手から受けた質問や意見について整理する。
10.	実践記録を読む（1）実践記録を調べる方法	前の回に配布された資料を読んで、わからないところを調べてくる。
11.	実践記録を読む（2）実践記録を読む意味	前の回に考え、議論したことを読み返し、自分なりの考えを整理してくる。
12.	実践記録を読む（3）実践記録を分析する方法	前の回に分担した内容について自分なりの分析結果をわかりやすくまとめてくる。
13.	実践記録を読む（4）実践記録からどう学ぶか	前の回に分析した結果を踏まえ、実践記録を分析する意味を自分なりに考えて整理してくる。
14.	問題を探究する方法を広げよう（3）研究課題を整理する	実践記録を調べ、分析する手法を、自分の研究関心のある領域で具体化するための戦略を考えてくる。
15.	春学期の学びをふり返る	これまでに学んだ内容についてノートや資料を見返して、自分の「授業」や「学び」に対する見方や考え方がどう変化したかをふり返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
「授業」というのはこどもが知識や技能を獲得するだけの場ではありません。もちろん、そうした側面もありますが、それ以上に「授業」という世界が〈こどもと教師がともに学び育つ場〉として機能するように「授業」を考えたり、つくり出したりしていくためには、私たちの学び直し、学びほぐしが欠かせません。
ゼミをつくるということは、一人ひとりの責任ある行動と、ともに学ぶ仲間に対する誠意ある対応を必要とします。したがって、教育実習や介護等体験の公欠を除いては原則として全回出席とし、誠意ある姿勢で学ぶことを求めます。

フィードバックの方法:
（1）毎回、ゼミの最後に記入するリフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
（2）ゼミのなかで、グループ活動や発表したりした際には適宜その場でコメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。
（3）自分の研究テーマ決定や進路に向けた相談については、必要に応じて随時行い、サポートする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回のゼミへの積極的な参加とリフレクションカードの記入	30	当日のゼミの内容に即して自分の考えや感じたことを具体的かつ個性的に記述できているか
担当者としての報告（レジュメ作成やプレゼンを含む）	30	伝えるべき内容について必要な手続きを経て整理し、相手にわかりやすい方法を用いてプレゼンテーションできているか
期末の課題レポート	40	自分の関心ある内容について受講の前後での見方や考え方にどう変化があったかを具体的に捉え記述できているか

教科書:
稲垣佳世子・波多野誼余夫（1989）『人はいかに学ぶか―日常的認知の世界』中公新書
昨年度の応用演習で製作した冊子は授業第1回で配布する。
その他、授業時に配布する資料はテキストとして用いるため、ファイリングしておく。

参考書:	秋田喜代美(2012)『学びの心理学ー授業をデザインする』左右社 今井むつみ(2016)『学びとは何か—〈探究人〉になるために』岩波新書 秋田喜代美(2000)『子どもをはぐくむ授業づくり—知の創造へ』岩波書店 グループ・ディダクティカ編(2012)『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望』勁草書房 その他、授業時に随時紹介、指示する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	ゼミの内容などに関しては、第1回に配布する資料で教員の連絡先を知らせるほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。課題内容によってはマナビーも随時活用する。

456311

応用演習Ⅰ

竹井　　史

授業テーマ:　子どもの造形表現・ｱｰﾄ・遊び・おもちゃの世界を知ろう

授業の概要:　子どもの造形表現・ｱｰﾄ・遊び・おもちゃに関わる様々な内容を教員からの提案、受講者からの提案を織り交ぜ、教材研究を通じて実際に経験することで、その面白さや、意義などについての多面的、本質的な理解に迫る。ゼミにおいては、必要に応じて基本文献の提示、図書館その他の利用法、資料の収集、研究方法の基本などについても学ぶ。

到達目標:　子どもの造形表現・ｱｰﾄ・遊び・おもちゃに関わる様々な内容を実体験することにより、その内容の多面的、本質的理解をめざす。

授業方法:　演習、実技による。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ゼミのオリエンテーション	自己紹介、本授業に関わって関心のあるテーマについて発表する。
2.	子どもの造形表現（1）	子どもの造形表現の特質について実習をもとに考える。
3.	子どもの造形表現（2）	前時の理解をふまえて子どもの造形表現の特質について実習をもとに理解する。
4.	子どもとｱｰﾄ（1）	子どもとｱｰﾄの実際について実習をもとに考える。
5.	子どもとｱｰﾄ(2)	前時の理解をふまえて子どもとｱｰﾄの特質について実習をもとに理解する。
6.	子どもと遊び（1）	子どもと遊びの世界について実習をもとに考える。
7.	子どもと遊び（2）	前時の理解をふまえて子どもと遊びの特質について実習をもとに考える。
8.	子どもと遊び（3）	前時の理解をふまえて子どもと遊びの特質について実習をもとに理解する。
9.	子どもと遊び（4）	前時の理解をふまえて子どもと遊びの特質について実習をもとに理解する。
10.	子どもと伝承玩具（1）	子どもと伝承玩具について実習をもとに経験する。
11.	子どもと伝承玩具（2）	前時の理解をふまえて子どもと伝承玩具について実習をもとに経験する。
12.	子どもと伝承玩具（3）	前時の理解をふまえて子どもと伝承玩具の特質について実習をもとに理解する。
13.	子どもと科学おもちゃ（1）	子どもと科学おもちゃについて実習をもとに考える。
14.	子どもと科学おもちゃ（2）	前時の理解をふまえて子どもと科学おもちゃについて実習をもとに理解する。
15.	まとめ	子どもの造形表現・ｱｰﾄ・おもちゃ・遊びの世界についてまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　3年生の最初のゼミでは、子どもの造形・ｱｰﾄに関わる様々なテーマを実体験し、その本質的理解を目指します。受講生は、主旨を理解し、主体的、積極的に関わりながら、楽しく学びの多い半期にしましょう。

フィードバックの方法:　授業中における質疑応答、メール

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表内容	20%	論理構成力、説得力、パワーポイント
レジュメ	20%	内容の分りやすさ
プレゼンテーション力	10%	発言内容の明確さ
出席	50%	全出席を基本に減点

教科書:　竹井　史著、『つくってあそべる子どものart　book　まいにちぞうけい115』 、メイト

参考書:　竹井　史著、『伝承おもしろおもちゃ事典』、明治図書
竹井　史著、『泥遊び、水遊び、プール遊び180』 、ひかりのくに
その他、必要に応じて紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　研究室、メール。メールは、最初の授業時にお伝えします。

456313

応用演習Ⅰ

宮尾　　夏姫

授業テーマ:　子どもとスポーツ・運動に関する研究

授業の概要:　子どもの運動・スポーツに関する基礎的知識を，講義・演習・実技・フィールドワーク等の実践的な活動を取り入れながら獲得し理解を深める。演習，実技等に関しては，小グループにわかれ，担当する内容について他グループへのプレゼンテーション，実際の指導等も取り入れながら行う。

到達目標:
・子供の発育発達と運動・スポーツの関係について基礎的知識を理解している
・運動・スポーツの特性を理解し，対象者に応じた教材を開発することができる
・他者と協働しながら教材開発，運動プログラムの考案，プレゼンテーションに取り組み，自身の役割を果たすことができる

授業方法:　序盤は，講義形式を通して子供と運動・スポーツに関する基礎的知識を獲得する。
中盤から後半にかけては，演習，実技，フィールドワークを通した実践的な活動を取り入れながら，知識に対する理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション，ゼミ開き	シラバスの確認
2.	子供の発育発達と運動遊びに対する理解(1):グルーピング，分担	子供の運動あそびに関する自身の課題意識をまとめておく。
3.	子供の発育発達と運動遊びに対する理解(2):プレゼンテーションⅠ	各グループの担当箇所について調査し，プレゼンテーションの準備を行う。
4.	子供の発育発達と運動遊びに対する理解(3):プレゼンテーションⅡ	各グループの担当箇所について調査し，プレゼンテーションの準備を行う。
5.	子供の発育発達を踏まえた運動あそびの考案(1):教材開発	体育授業における教材開発について理解したことをまとめておく。
6.	子供の発育発達を踏まえた運動あそびの考案(2):教材検討Ⅰ(実技含む)	各グループの担当種目について実技を含むプレゼンテーションの準備を行う。 事後には，教材に対するリフレクションを行う。
7.	子供の発育発達を踏まえた運動あそびの考案(3):教材開発Ⅱ(実技含む)	各グループの担当種目について実技を含むプレゼンテーションの準備を行う。 事後には，教材に対するリフレクションを行う。
8.	子供の発育発達を踏まえた運動あそびの考案(4):教材開発Ⅲ(実技含む)	各グループの担当種目について実技を含むプレゼンテーションの準備を行う。 事後には，教材に対するリフレクションを行う。
9.	子供の発育発達を踏まえた運動あそびの考案(5):教材開発Ⅳ(実技含む)	各グループの担当種目について実技を含むプレゼンテーションの準備を行う。 事後には，教材に対するリフレクションを行う。
10.	子供の体力に関する実態理解(1):グルーピング，分担	子供の体力に関する自身の課題意識をまとめておく。
11.	子供の体力に関する実態理解(2)：課題分析Ⅰ	子供の体力に関する情報を収集しておく。 事後は，他者の情報を含めて課題を整理する。
12.	子供の体力に関する実態理解(3)：課題分析Ⅱ	子供の体力に関する情報を収集しておく。 事後は，他者の情報を含めて課題を整理する。
13.	子供の体力に関する実態理解(4)：運動プログラム考案Ⅰ(実技含む)	子供の体力向上に関する具体的なプログラムの情報を収集しておく。 事後は，プログラムに対するリフレクションを行う。
14.	子供の体力に関する実態理解(5)：運動プログラム考案Ⅱ(実技含む)	子供の体力向上に関する具体的なプログラムの情報を収集しておく。 事後は，プログラムに対するリフレクションを行う。
15.	まとめ	これまでの授業を踏まて，子供と運動・スポーツに関する自身の課題意識をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　プレゼンテーションや演習について，毎時間コメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への参加	40	出席し，積極的に議論に参加しているか評価する
プレゼンテーション	40	自身の担当内容を十分に整理し，他者に伝わるようプレゼンしようとしているか評価する
まとめレポート	20	授業内容，発表内容を踏まえて自身の課題意識を論理的にまとめることができているか評価する

教科書:

参考書:
杉原隆・河邉貴子編著「幼児期における運動発達と運動あそびの指導」2016，ミネルヴァ書房
三木四郎著「新しい体育授業の運動学」2015，明和出版
高橋健夫・友添秀則・岩田靖・岡出美則編「新版 体育科教育学入門」2010，大修館書店
文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」
岩田靖著「体育の教材を創る―運動の面白さに誘い込む授業づくりを求めて」2012，大修館書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　メール及びオフィスアワー(詳細は，授業第1回目に伝える)

456401

応用演習Ⅱ

大黒　　孝文

授業テーマ:　理科の授業力と協同学習実践力の育成Ⅱ

授業の概要:　小学校で主体的で協同的な学びを実践できる教師の育成をめざす。学習内容の中心に理科教育と協同教育をおき，その理論と方法の理解と獲得のために，理科授業法ワークショップと授業力育成演習を行いながら実践的な指導力を身につける。理科授業ワークショップでは理科の各分野における協同学習を体験する。また，授業力育成演習では，実験操作に関わる演習と学外で行う理科教室の企画運営，及び，インストラクターを体験する。

到達目標:
・理科授業に関して発展的な知識や判断力を身につけることができる。
・各領域における実験・観察の技能と表現力を身につけることができる。
・実験を構想し，協同的な授業をデザインする力を身につけることができる。

授業方法:　2:演習，3:実験実技演習（学内），4:実験実技演習（学外）5:講義/演習の混合
ワークショップと授業力育成演習を大学の内外で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと授業力育成演習2（小学校理科の構成）	学習指導要領（理科）の確認
2.	授業力育成演習2（生命分野の実験技能を取り入れた協同学習）	生命分野に関わる知識・技能の復習
3.	授業力育成演習2（地球分野の実験技能を取り入れた協同学習）	地球分野に関わる知識・技能の復習
4.	授業力育成演習2（粒子分野の実験技能を取り入れた協同学習）	粒子分野に関わる知識・技能の復習
5.	授業力育成演習2（エネルギー分野の実験技能を取り入れた協同学習）	エネルギー分野に関わる知識・技能の復習
6.	理科授業法（協同学習理論）	協同学習の基本的構成要素の確認
7.	理科授業法ワークショップ（ケースメソッド教材で学ぶ協同学習技法1）	事前に配布するケースメソッド教材の読み込み
8.	理科授業法ワークショップ（ケースメソッド教材で学ぶ協同学習技法2）	読み込んだ気づきの確認と課題発見
9.	理科授業法ワークショップ（ケースメソッド教材で学ぶ協同学習技法3）	課題の解決に向けた協同学習理論の適応
10.	授業力育成演習3（理科教室の開発）	実験道具と材料の準備
11.	授業力育成演習3（理科教室の準備）	実験道具の作成
12.	授業力育成演習3（理科教室の実践1）	実験指導の構想とトレーニング
13.	授業力育成演習3（理科におけるミュージアム活用）	ミュージアムの事前調査
14.	授業力育成演習3（理科教室の実践2）	実験指導の構想とトレーニング
15.	ふり返りと総括	卒業研究に向けた課題の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　応用演習Ⅰで実施したマイクロテーチングのふり返りを行い，授業作りに生かすことができるようにします。理科教室では，児童が目的意識を持って体験的に行える実験観察を企画し運営します。また，水族館でのフィールドワークを行い，理科との関連を学びます。
可能であれば，教育現場の理科の実態に触れるためにも学校ボランティア等を強く勧めます。

フィードバックの方法:　教室やフィールドワークの現場でまとめて解説し評価する。
提出物は採点後，コメントを記入し返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
理科教室の演習	40	到達目標の知識理解や技能の理科指導場面における活用状況をもって評価する。
発表・討論	30	到達目標の実験構想と協同学習の理解度をケース教材の読み取りと問題解決の方法が説明できるかで評価する。
授業への参加度	30	授業への積極的な参加と到達目標すべてに関わる内容と方法の理解度を討議場面等で評価する。

教科書:　プリントを配布する。

参考書:
・D・W・ジョンソン，R・T・ジョンソン，E・J・ホルベック（2008）『学習の輪―アメリカの協同学習入門―』，二瓶社
小学校学習指導要領　理科編（平成29年3月告示　文部科学省）
その他，授業中で随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応，オフィスアワー，Eメール等

456402

応用演習Ⅱ

藤原　　孝章

授業テーマ:　多文化・格差社会に着目した社会科・国際理解の教材開発研究

授業の概要:
・小学校社会科教科書を丹念に分析、検討し、社会科（地理，歴史，公民の内容研究を行い、そのうえで、指導案、教材づくりをする。
・国際理解教育、特に，多文化、貧困、開発、平和、人権など、グローバルな世界について研究し、そのうえで、指導案、教材づくりをする。

到達目標:
知識理解：社会科教育及び国際理解教育の授業内容、授業づくりに関する理解を深めることができる。
技能：社会科教育及び国際理解教育の教材研究、授業づくりの技能を高めることができる。
関心・意欲・態度：社会科教育及び国際理解教育の教材研究、授業づくりの研究を通して、社会科教育、国際理解教育について関心を持つことができる。

授業方法:
現行教科書の分析、教材研究及び授業づくりのワークショップ、グループ活動
実践的には，ワークショップをはじめ、授業研究、フィールドワークなどを適宜取り入れる
ゼミの共同研究として、社会科や国際理解の教材作りをすることが多くなる
社内校を含めて近隣の小学校に作成した教材の「出前授業」に行くこともある

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、ゼミ開き/研究紹介 夏休みの宿題の共有	夏休みの宿題
2.	小学校社会科教科書の内容分析3（高学年1） （日本の産業1）	現行小学校社会科教科書の熟読
3.	小学校社会科教科書の内容分析4（高学年2） （日本の産業2）	現行小学校社会科教科書の熟読
4.	小学校社会科教科書の内容分析5（高学年3） （日本の歴史１）	現行小学校社会科教科書の熟読
5.	小学校社会科教科書の内容分析6（高学年4） （日本の歴史２）	現行小学校社会科教科書の熟読
6.	小学校社会科教科書の内容分析7（高学年5） （国際社会）	現行小学校社会科教科書の熟読
7.	小学校社会科教科書の内容分析のふりかえり	現行小学校社会科教科書の熟読
8.	国際理解教育の教材研究1（多文化）	参考文献の熟読
9.	国際理解教育の教材研究2（貧困）	参考文献の熟読
10.	国際理解教育の教材研究3（開発）	参考文献の熟読
11.	国際理解教育の教材研究4（平和）	参考文献の熟読
12.	国際理解教育の教材研究5（人権）	参考文献の熟読
13.	国際理解教育の教材研究のふりかえり	参考文献の熟読
14.	先輩ゼミ生の卒業研究発表１	卒業研究の準備
15.	先輩ゼミ生の卒業研究発表１	卒業研究の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
キャリアとして小学校教員をめざすほか、国内外での多文化、貧困に関わるフィールドでのこども支援をめざしてほしい。
必ず、課題図書をよみ、パワーポイント等で発表できるようにしておく
別に、自分の追究すべき課題に対応したゼミ課題レポートを課す

フィードバックの方法:
グループ活動（話し合い、ワークショップ）へのコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的に取り組んでいるか、討論への参加ができているか
ゼミ発表・レポート	30	積極的に取り組んでいるか、授業目標に到達しているか
最終レポート（約5000字）	50	授業目標に到達しているか

教科書:

参考書:
小学校社会科教科書（東京書籍、日本文教出版など）
田中治彦編（2016）『SDGSと開発教育』（学文社）
日本国際理解教育学会編（2015）『国際理解教育ハンドブック』（明石書店）
日本国際理解教育学会編（2010）『グローバル時代の国際理解教育』（明石書店）
原田智仁編（2015）『社会科教育のルネサンス』保育出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
e-mail、面談

456403

応用演習Ⅱ

今井　　敏博

授業テーマ:
「数・量・形」の学びと大人の役割、教育・保育の現状

授業の概要:
子どもは知識・技能をどのように獲得していくのか、大人は子どもにどのように学びの場を設定するのか、は重要な課題です。とりわけ、社会が求める資質・能力、思考力・判断力・表現力を養うことは子どもへの教育実践・保育実践を担う大人、企業などの職業人になるために大切なことです。事象を整理して全体を把握することや筋道を立てて見通しをもつことはわか国の現代の社会では不可欠となっています。この応用演習では、発表と話し合いを通して、就職(教育・保育・企業等)に向けて社会人としての素養を身に付けます。また、卒業研究テーマを定めていきます。書籍、資料などの文献等が収集できれば開講テーマに関わらないテーマの設定も可能です。

到達目標:
1. 授業テーマに関する知識を習得する。
2. 授業テーマを実践するための資質を養う。

授業方法:
発表と質疑

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	打ち合わせ	役割分担を確認する。
2.	発表と質疑(1)	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
3.	発表と質疑(2)	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
4.	発表と質疑(3)	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
5.	発表と質疑(4)	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
6.	発表と質疑(5)	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
7.	発表と質疑(6)	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
8.	発表と質疑(7)	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
9.	発表と質疑(8)	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
10.	教育実習の報告	教育実習から学んだことをまとめる。
11.	教育実習の報告	教育実習から学んだことをまとめる。
12.	教育実習の報告	教育実習から学んだことをまとめる。
13.	教員採用、保育士採用、企業採用で求められる力(2)	ポイントを整理する。
14.	卒業研究に向けて	卒業研究に関する自分の考えをまとめる。
15.	まとめ	本学期を振り返り、次年度の準備を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:
実習での経験を学問的な内容を関連づけていきます。卒業研究として行いたい内容をみつけていきましょう。

フィードバックの方法:
発表については、質疑を行い、補足説明をします。
教育実習については、各自の報告について助言します。
卒業研究に関しては、計画作成に関して助言を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	50	到達目標1，2に関して評価する。
授業への参加度	50	到達目標3について評価する。

教科書:
プリントなどを配布します。

参考書:
算数教科書の用語・記号　教え方ガイドブック、明治図書
ピアジェの構成論と幼児教育　物と関わる遊び、大学教育出版
文部科学白書
厚生労働白書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:
オフィスアワー、昼休み時間、授業前後に教室内で応対

456404

応用演習Ⅱ

笠間　　浩幸

授業テーマ:　子どもの遊びと学びの環境構成

授業の概要:　春学期の学びをもとに具体的な保育・学習教材、遊びと体験活動プログラムの作成を試みる。また、その振り返りや評価を通じて、自分たちの課題把握と運営（プロジェクト・マネジメント）能力を伸ばし検証する。さらに「子どもの参画」「子どもの遊びの権利」の保障という視点から子どもの遊びや体験活動の環境づくりについての学習を深めたい。この課題では、日本以外のヨーロッパやニュージーランドなど世界的な動向にも目を向ける。

到達目標:　（1）子どもを取り巻く環境課題についての知識を身につけ、「ケア」関係が良好に築かれる学習環境構成について理解する。
（2）子どもに関わるうえでの心構えや専門的な知識・実践的な力を積極的に身に着けていこうとする態度を持つ。
（3）関連する様々な情報から目的に応じた情報を取捨選択し、自分の思いや行動を的確に言語化して他に伝えることのできる表現力と実践を計画的に遂行できるマネジメント能力を身に着ける。

授業方法:　演習：個別、グループ、全体と色々な形態による学習、調査、ノートづくり、討議。地域や企業における遊び場等の観察。授業時間外の活動もあるので、参加できないものは受講を認めない。（合宿を予定）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	春学期の学習活動を振り返っておく。
2.	子どもの遊びや体験活動を取り巻く動向①	子どもの遊び環境に関する問題点を新聞や雑誌、文献等から拾い出し整理しておく。
3.	子どもの遊びや体験活動を取り巻く動向②	子どもの遊び環境に関する問題点を新聞や雑誌、文献等から拾い出し整理しておく。
4.	子どもの遊びや体験活動を取り巻く動向③	子どもの遊び環境に関する問題点を新聞や雑誌、文献等から拾い出し整理しておく。
5.	遊びや体験活動が子どもに及ぼす影響	遊びや体験活動の効果に関する文献を探し、目を通しておく。
6.	子どもの遊び・体験活動プログラムの計画①	遊びのプログラム案を考え、発表できるようにしておく。
7.	子どもの遊び・体験活動プログラムの計画②	遊びのプログラム案を考え、発表できるようにしておく。
8.	子どもの遊び・体験活動プログラムの作成①	遊びや体験活動の実施計画を考え、発表できるようにしておく。
9.	子どもの遊び・体験活動プログラムの作成②	遊びや体験活動の実施計画を考え、発表できるようにしておく。
10.	子どもの遊び・体験活動プログラムの振り返り①	実施した遊び・体験プログラムを振り返り到達点や改善点をまとめ、発表できるようにしておく。
11.	子どもの遊び・体験活動プログラムの振り返り②	実施した遊び・体験プログラムを振り返り到達点や改善点をまとめ、発表できるようにしておく。
12.	プロジェクトマネジメントの視点からの課題解決手法①	プロジェクト・マネジメントに関する文献や資料を探して目を通しておく。
13.	プロジェクトマネジメントの視点からの課題解決手法②	プロジェクト・マネジメントに関する文献や資料を探して目を通しておく。
14.	卒業研究に向けての課題整理①	卒業研究に向けたテーマを固め、問題意識や解決したい課題について発表できるようにしておく。
15.	卒業研究に向けての課題整理②	卒業研究に向けたテーマを固め、問題意識や解決したい課題について発表できるようにしておく。授業の全体を振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　春学期に引き続き、主体的かつ積極的な参加と、自分自身の問題意識をより鮮明にできるよう意識しながらのゼミ参加を期待する。プレゼンテーション力を大いに高めることができるよう、毎回ショートタイム・スピーチも課していくので準備や他の人への適切なコメントができるよう心掛けてもらいたい。

フィードバックの方法:　ゼミの時間に適宜コメントや全員でのディスカッションを通して行っていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
テーマレポート	20%	子どもや他者に対する「ケア」の心や方法についての理論的理解度を評価する。
実践的参加と討議	30%	実践の計画や準備、実施、振り返りといったマネジメント能力やコミュニケーション力を評価する。
授業への参加度	30%	積極的に話し合ったり、他社の意見に耳を傾けながら、協同的な創造活動ができているかどうかを評価する。
最終レポート	20%	授業全体の理解度について評価する。

教科書:

参考書:　適宜授業において紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール、ゼミ・メーリングリスト、オフィスアワー

456405

応用演習Ⅱ

松崎　　正治

授業テーマ:　ことばの学び（国語教育）の研究

授業の概要:　「国語」といわれるものを歴史・社会的に相対化しながら、ことばを学ぶことについて多角的に解明していく。これらの研究過程で、研究方法にも習熟していくことも目標にしている。応用演習ⅡではⅠでの学びを基礎として、各人の研究を深めていく。

到達目標:　①自分の研究課題を決めて、探究することができたか。
②研究方法について、理解することができたか。

授業方法:　演習形式でそれぞれの課題を深めていき、発表・討議を行う。発表担当者を決めるので、発表者は事前に資料を読み込み、レジュメを作成する。発表が終わった後は、発表を振り返り、内容を補足して、次の発表へつなげる。発表者以外は、話し合いに積極的に参加し、授業後は話し合いの内容を振り返っておく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読んでおく。
2.	研究史調査から新しい課題の発見へ	自分の課題発見を事後にまとめておく。
3.	研究課題の資料調査（1）	資料調査の方法について事後にまとめておく。
4.	研究課題の資料調査（2）	資料調査の方法について事後にまとめておく。
5.	資料調査の分析と検討（1）	資料分析の方法について、事後にまとめておく。
6.	資料調査の分析と検討（2）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。
7.	資料調査の分析と検討（3）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
8.	資料調査の分析と検討（4）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
9.	資料調査の分析と検討（5）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
10.	資料調査の分析と検討（6）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
11.	分析結果を文章にまとめていく（1）	分析結果を論理的に文章に表現する。
12.	分析結果を文章にまとめていく（2）	分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめておく。
13.	分析結果を文章にまとめていく（3）	分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめておく。
14.	分析結果を文章にまとめていく（4）	分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめておく。
15.	全体の振り返りとまとめ	全体を振り返って、省察結果をレポートにまとめていく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　教育実習や授業等で忙しい時期です。自分の研究課題をしっかり深めていきましょう。

フィードバックの方法:　毎回、授業で発表内容等についてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への参加	40%	出席して積極的に発言しているかを評価する。
発表	20%	内容の掘り下げがあり、質疑応答に的確に答えているかを評価する。
レポート	40%	研究方法に自覚的にかつ論理的に書けているか、内容に説得性があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。

教科書:　無し

参考書:

全国大学国語教育学会編『国語科教育実践・研究必携』学芸図書、2009年
田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典　第四版』教育出版、2009年
日本国語教育学会編『国語教育辞典　新装版』朝倉書店、2009年
日本近代文学会『ハンドブック日本近代文学研究の方法』ひつじ書房、2016年
草原和博・溝口和宏・桑原敏典『社会科教育学研究法ハンドブック』明治図書、2015年
佐藤学・秋田喜代美他編『（岩波講座）教育変革への展望』全7巻　岩波書店、2016年
コルトハーヘン、武田信子訳『教師教育学～理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社、2010年
浅井幸子他 編著『教師の声を聴く ～教職のジェンダー研究からフェミニズム教育学へ』学文社、2016年
府川源一郎『明治初等国語教科書と子ども読み物に関する研究～リテラシー形成メディアの教育文化史』ひつじ書房 、2014年
長田友紀『国語教育における話し合い指導の研究』風間書房、2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　Eメール、オフィスアワー

456406

応用演習Ⅱ

中山　　まき子

授業テーマ:　子どもを育む「大人・社会・制度」を学ぶ

授業の概要:　子どもの姿・子どもをめぐる諸問題は、大人社会を映し出す鏡である。そこで、本演習では、子どもを育んでいる「大人と社会・制度」を、「知る力」、関連書籍を「読む力」、そして知識のストックを通して「考え方」を身に付けることを目的とする。

到達目標:　・「知る力」・「読む力」・「考える力」の重要性に気付き、自ら身につけようとする。

授業方法:　複数書籍・論文等の輪読、要旨作成、報告、ディスカッションなどを組み合わせる。（基礎力を身に付けるまでは、厳しく指導する。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	本演習のガイダンス。 各自の自己紹介	演習のシラバスを読んでおく。各自の将来の進路に対する希望、関心のある出来事等を整理し、内面含む自己紹介の準備をして演習にのぞむ。
2.	文献検索の方法を中心に、本学図書館・本学以外の図書館、インターネット等の活用方法を身につける。	本学図書館及びインターネットの利用方法について、疑問点をまとめておく。
3.	＜文献課題の提示＞：特定の資料検索・資料収集の練習を行う。辞書・事典の活用方法、学内外の図書館の生かし方を学ぶ。	今までの図書館利用、インターネット利用について振り返り、どのような時にどのような方法でこれらを活用してきたのか、既存の経験を整理しておく。
4.	受講生の「文献課題一覧」の紹介・比較検討、コメント	第3回の授業時に指示した「文献課題」を、できるだけ多く収集し、資料一覧を作成して、授業開始時に提出する。
5.	（1）書誌情報の記録法・カード化ー書籍編 （2）盗作・剽窃・コピーペイスト問題・ ねつ造・改ざんなど：その1	各自が自分の好きな本、大事な書籍等を持参する。その際、その魅力を文章化してくる。
6.	（1）書誌情報の記録法・カード化ー雑誌・論文編ー （2）盗作・剽窃・コピーペースト問題・ねつ造・改ざん：その2	盗作・剽窃・コピーペースト問題等についてノート整理し、知的財産の侵害について、深く理解しておく。なお、疑問・質問等があれば整理しておく。
7.	報道紙（全5社程度）から、同じ事件や社会問題を取り扱った記事を提示し、記述方法、内容、コメント等の類似点や相違点を比較検討し、表現の違いを学ぶ（その1）。	第4回終了時に指定した特定の記事・報道紙を収集し、内容を熟読して整理しておく。
8.	報道紙（全5社程度）から、同じ事件や社会問題を取り扱った記事を提示し、記述方法、内容、コメント等の類似点や相違点を比較検討し、表現の違いを学ぶ（その2）。	第5回終了時に指定した特定の記事・報道紙を収集し、内容を熟読して整理しておく。
9.	短い論文を読む（1）ーレジュメをつくるということー	第8回時に配布した短い論文を読み、レジュメを作成してくる。
10.	短い論文を読む（2）ー論文の構造を知るー	第9回時に配布した短い論文を読み、レジュメを作成してくる。
11.	長めの論文を読む（3）ー	第10回時に配布したやや長めの論文をペアでレジュメを作成してくる。
12.	ディベート準備を行う　ーテーマは現在の社会・制度問題を取り扱うー	ディベートで対立した議論を行いたいテーマを見つけ、テーマに関わる資料を持参する。
13.	ディベートの実施と賛否両論の資料交換	確定したディベートテーマに関して図書、論文、インターネット等から、資料収集を行い持ち寄る。
14.	ディベート時に資料を生かし、賛否両論を記すレポートの書き方指導	ディベートで活用した全資料を、ゼミ生全員に配布する準備をしてくる。
15.	各人が作成したレポートの合評会を行う。	各人がディベートに基づいて作成したレポートを、人数分複写して、演習開始時に皆に配布する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　考える力、考え続けるエネルギーを身に付けよう。

フィードバックの方法:　学生の質疑応答には適宜答え、必要な諸資料を随時提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的な演習参加	40	演習内での作業、意見発表を積極的に行う。
レジュメ・レポート提出	60	レジュメ、レポート等を提出し、その内容の質を高めようとする努力が見られる。

教科書:　特になし

参考書:　演習時に適宜配布・指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　メールアドレス、電話番号等を相互に知らせあい、適宜連絡を取れる体制をつくっておく。

456407

応用演習Ⅱ

塘　　利枝子

授業テーマ:　文化と発達

授業の概要:　春学期各自が決めたテーマに沿って、夏期休暇中に行った調査を発表すると共に、3年次修了までにまとまった論文を書くことを目指します。特に秋学期は調査結果の整理の仕方を、それぞれの方法論にしたがって習得していきます。統計的な分析を行うことがあり、パソコンでエクセルやSPSSを用いることがありますので、質問紙法で調査を行う人は最低でもエクセルを使いこなせることが前提条件です。

到達目標:

「知識・理解」
研究方法や、論文の読み方や書き方について理解している。
自分のテーマの内容についての知識がある。

「関心・意欲・態度」
ゼミ生同士の研究テーマにも関心をもち、積極的に質問やコメントをしながら、お互いの研究に貢献する態度をもつ。
文献を積極的に読もうとする態度がある。

「表現・技能・能力」
自分自身の研究テーマについて的確に表現できる技能を身に付けている。

授業方法:　自分のテーマに沿って担当者はレジュメを作成し、発表形式で授業を行います。
教育実習の振り返り討議をします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
2.	研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
3.	研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
4.	研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
5.	卒業生を迎えての討議	発表担当者レジュメ作成
6.	研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
7.	研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
8.	研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
9.	研究内容発表 教育実習振り返り	発表担当者レジュメ作成
10.	4年次生との懇談（採用試験や就職情報交換）	発表担当者レジュメ作成
11.	研究内容発表、研究倫理	発表担当者レジュメ作成
12.	研究内容発表	発表担当者レジュメ作成
13.	研究内容発表	発表担当者レジュメ作成
14.	研究内容発表グループ討議	発表担当者レジュメ作成
15.	研究内容発表グループ討議	発表担当者レジュメ作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業外でも課題をこなす必要があり、定められた時間外にもゼミを行いますので、積極的な参加と課題をこなす意志が不可欠です。冬期休暇中にも課題が出されます。欠席は教育実習等の公欠以外は認められません。1月初旬に宿泊合宿を行います。その他、2月に私立学校やこども発達支援センター等の施設見学を行います。

フィードバックの方法:　ゼミ内で課題を共有したり、研究室で個別相談にのります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む積極的な発表・討論	60%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 フィールドワークへの参加。
レポート・論文等	40%	的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文（30枚）を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。

教科書:　特にありません。

参考書:　授業時もしくは個別に随時個人の研究テーマに合わせて指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
ゼミ生全員に関わることについてはマナビーに掲載します。
ゼミ内でのメイリングリストや個人メイルを活用します。
研究室で個人相談を行います。

456408

応用演習Ⅱ

上田　　信行

授業テーマ:　創造的学びを挑発する学習環境デザイン

授業の概要:　春学期の研究をもとに、1)ワークショップ・デザイン・モデル、2)活動のデザイン、3)学びの空間と道具のデザイン、4)ドキュメンテーションの方法について検討し、多様なプロジェクトを全員で企画し、様々なフィールドで実験する。その時に、学びに関する現代的課題を意識し、問いを立て、探求のための活動を企画・実施・評価・改善する。そして、その体験をふり返り、意味づけをして言語化する。ワークショップをヴィデオで記録するドキュメンテーション技術も身につける。

到達目標:　(1)ワークショップ・デザイン・モデルについての自分なりの解釈を整理し、理解した内容をモデル化(図示)し、説明することができる。
(2)「想像的創造力」を駆使し、メディアテクノロジーを効果的に使ったワークショップやプロジェクトの企画・実施・評価・改善ができる。
(3)ヴィデオを使ってワークショップを撮影し、コンピュータを使ってリフレクションムービーを編集することができる。

授業方法:　春学期での経験をベースに多様なワークショップの実践を重ねて行く。実践を通して、学びの経験をデザインするとはどのようなことかを実感しながら、ラーニングデザインの力を身につけてゆく。協同でプロジェクトを行うので、かな りのコミットメントが要求される。積極的な参加が必要。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ワークショップ・デザイン・モデルの検討	ワークショップ・デザイン・モデルについての自分なりの解釈を整理し、理解した内容をモデル化(図示)し、そのモデルを使って自分の言葉で説明してみる。
2.	ワークショップと21世紀型スキル	21世紀型スキルの具体的なイメージを描き、そのための学びの場のデザインをどのように創出するかを考え、まとめておく。
3.	空間、道具、活動、人(学びの共同体)をどうデザインするか	4要素を効果的に相互作用させるようなワークショップの企画書を書いてみる。
4.	ヴィデオを使ったドキュメンテーションの方法	携帯のヴィデオ機能を使って映像を撮り、iMovieで編集する。
5.	ワークショップデザイン1 −ワークショップの実施と評価−	ワークショップのアジェンダを書く。
6.	ワークショップデザイン2 −ワークショップの実施と評価−	ワークショップのアジェンダを書く。
7.	ワークショップデザイン3 −ワークショップの実施と評価−	ワークショップのアジェンダを書く。
8.	ワークショップデザイン4 −ワークショップの実施と評価−	ワークショップのアジェンダを書く。
9.	ワークショップデザイン5 −ワークショップの実施と評価−	ワークショップのアジェンダを書く。
10.	学外プロジェクトの構想	ゴールと内容を考える。
11.	アジェンダのデザイン	アジェンダを考えておく。
12.	プロジェクトの実施 ドキュメンテーションも行う	プロジェクトの準備をする。
13.	ヴィデオドキュメンテーションによるリフレクション	ヴィデオを視聴しながら、プロジェクト全体をふり返っておく。
14.	プロジェクトの評価	ゴールがどのように達成されたかをもとにプロジェクトの意味づけを行っておく。
15.	まとめ:授業全体のリフレクション	授業全体をふり返ってリフレクションペーパー(最終レポート)を書く。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実践的研究を中心に活動するゼミなので、かなりのコミットメントが要求される。とてもやりがいがあるので、一緒に授業を創っていきたい。教育の専門家(プロフェッショナル)としての自覚と、共感的、かつ理性的に自ら関わっていこうとする強い意志と態度を身につけたいと思っている人にぜひチームに加わってほしい。

フィードバックの方法:　グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションを総合的に評価する。
プロジェクトへの貢献度	10	プロジェクトのアジェンダや運営の仕方を評価する。
ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
最終レポート	50	秋学期のイベントを通して実践的に経験したことを、意味づけ、抽象化し、学びの理論と関係づけながら自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:　使用しない。

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

456409

応用演習Ⅱ

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:　保育環境評価スケールをとおして保育を見る目を養う

到達目標:　各自の関心のある項目について深く理解する
・自分の保育に対する関心・興味を育てる
・関心のある分野について探求を行う

授業方法:　授業内容によって講義，協同学習，観察実習，フィールドワークを取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	保育環境に関する各自の興味・関心について発表（全員）	自分の興味・関心のある分野について文献を探し、自分の考えをまとめる。
2.	関連文献について概要の発表（全員）	自分の興味・関心について文献に即して自分の考えを文章で表現ずる。
3.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
4.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
5.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
6.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
7.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
8.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
9.	各自のテーマにそっての発表(1)	発表の準備。自分のテーマに沿ってのまとめ。
10.	フィールドワーク（1）	スケールをよくよみ内容を把握しておく。
11.	フィールドワーク	スケールをよくよみ内容を把握しておく。視点に沿ってのレポートを書く。
12.	フィールドワーク	スケールをよくよみ内容を把握しておく。視点に沿ってのレポートを書く。
13.	フィールドワーク	スケールをよくよみ内容を把握しておく。視点に沿ってのレポートを書く。
14.	フィールドワーク	スケールをよくよみ内容を把握しておく。視点に沿ってのレポートを書く。
15.	まとめ	卒業研究という視点を持ち、学習内容を振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　全体に解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	50%	スケールに興味をもって積極的な発言をしているか
レポート採点	50%	自分の興味のある分野について掘り下げて考察することができているか

教科書:　新・保育環境評価スケール①3歳以上

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に応答。ウェッブメール。

456410

応用演習Ⅱ

吉永　　紀子

授業テーマ:　こどもと教師がともに学び育つ授業づくりを探究する

授業の概要:　応用演習IIでは、Iでの学びを土台として、一人ひとりの問題意識の芽をさらにふくらませ、個人研究テーマの輪郭をはっきりさせていくことを一つの柱とする。自分が解明していくテーマに対する研究の進め方も学んでいく。もう一つの柱は、教育実習やさまざまな課外活動を通してこどもとともに授業やプロジェクトを創る営みを通して見えてきた実践的課題（悩み、迷い、困り感）を洗い出し、多様なケースを想定した実践事例テキスト（ケース・スタディのためのテキスト）の執筆に取り組む。
※秋学期に1回、近隣でのフィールドワークを実施する。日程は受講者との相談で決める。

到達目標:
（1）自分の研究関心に関する歴史的、社会的背景と現在の実態を理解し、子どもをめぐる現代的課題に立脚した研究の計画を立て、自分の研究を立ち上げる心構えをつくることができる。
（2）教育実習やインターンシップなど現場での学びの体験の中に埋め込まれている困難性を浮き彫りにして、ふり返り、意味づけしたことを、自分の言葉で説明することができる。
（3）仲間と協同して学習スタイルをさらにブラッシュアップし、多彩な関心や才能を有機的に統合して、既成概念にとらわれない作品づくりに取り組むことができる。

授業方法:
毎回、受講者による小レポートや報告からゼミを創る。また、各自の原稿を編集し、テキスト作りを行うための協働学習を主たる活動とする。ゼミで報告するための準備学習として授業外でのリサーチ、資料作成も求められる。
・ケース・スタディのテキスト執筆・編集に必要な周辺事象のリサーチを進める。
・報告担当者は報告内容の準備だけでなくディスカッションの柱立てを練っておく。
・毎回の授業終了後に本時のリフレクションシートをまとめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	応用演習Ⅱのオリエンテーション、ゼミの進め方のガイダンス／実習リフレクション	教育実習の記録を読み返し、報告したいエピソードを選び出しておく。
2.	教育実習におけるエピソード記録をつくる	実習録や観察ノートを読み返し、エピソード記録を作るために必要な材料、情報を整理しておく。
3.	質的な研究方法を学ぶ（1）	前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。
4.	質的な研究方法を学ぶ（2）	前の回に考え、議論した内容を踏まえ、提示された問いに対する自分の考えをまとめておく。
5.	ケース・スタディのためのテキストづくり（1）ケース・スタディとは何か	昨年度の受講者が製作したテキストを読み、気になった点や参考にしたい点を書き出しておく。
6.	ケース・スタディのためのテキストづくり（2）ケースの条件を吟味する	前の回に配布された資料を読み、わからないところを調べておく。また自分の報告するエピソード記録を読み返しておく。
7.	ケース・スタディのためのテキストづくり（3）ケースを報告・検討する	発表者は自分の発表の内容と方法を工夫して考え、準備をしておく。
8.	ケース・スタディのためのテキストづくり（4）ケースを報告・検討する	発表者は自分の発表の内容と方法を工夫して考え、準備をしておく。また聴き手から受けたコメントや質問について調べ直しや考えの整理を行う。
9.	ケース・スタディのためのテキストづくり（5）ケース・スタディのテキスト編集会議	第7・8時で行った報告検討をもとに、編集のコンセプトや装丁のデザインなど、アイデアを練っておく。また第9時以降、各自作業を進め、授業外でもグループで検討する。
10.	個人研究テーマを練り上げる	個人研究のテーマについて夏季休暇以降、進めてきた内容について整理しておく。
11.	個人研究テーマの報告・検討（1）	個人研究テーマについて発表の内容と方法を工夫して考え、準備しておく。
12.	個人研究テーマの報告・検討（2）	個人研究テーマについて発表の内容と方法を工夫して考え、準備しておく。また、聴き手からもらった意見や質問について調べ直しや考えの整理を行う。
13.	卒業研究に向けての準備学習（1）卒業研究の計画書を作成する	第11・12時の内容をふり返り、卒業研究の研究内容、研究方法、研究の目的などに関する計画書の素案を準備しておく。
14.	卒業研究に向けての準備学習（2）ゼミ4回生の卒業研究報告を聴く	4回生の発表を自分の卒業研究の計画に取り込むために、学ぶべき点について整理しておく。また4回生への質問メモを作成しておく。
15.	全体のふり返り　／　ケース・スタディのテキスト仕上げ	第9時以降、授業外で進めてきた編集作業を整理し、テキストの原稿を完成させ、最終検討を行う準備をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
応用演習Ⅱでは、教育実習やインターンシップ、各自の個別の体験を複眼的、多角的にリフレクションし、その意味づけを協同して作っていく時間が主となります。自分ひとりでは気付かなかったことを仲間から得る貴重な学びです。さらにそうした学びを可視化し、作品として表現することで、研究を他者に向けて発信する練習を行います。協同で行う学習・研究を展開する上で、各自の責任ある行動と、ともに学ぶ仲間に対する誠意ある対応が必要です。したがって、教育実習や介護等体験などの公欠を除いては全員、毎回出席を原則とします。

フィードバックの方法:
（1）毎回、ゼミの最後に記入するリフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
（2）ゼミのなかで、グループ活動や発表したりした際には適宜その場でコメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。
（3）自分の研究テーマ決定や進路に向けた相談については、必要に応じて随時行い、サポートする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回のゼミへの積極的な参加とリフレクションカードの記入	30	当日のゼミの内容に即して自分の考えや感じたことを具体的かつ個性的に記述できているか
ケースメソッドのテキスト原稿の執筆、編集、提出	40	伝えるべき内容について必要な手続きを経て整理し、相手にわかりやすい方法を用いてプレゼンテーションできているか。また協働する仲間に対して果たすべき自分の役割を遂行できたか。
個人研究テーマのレポート	30	自分の関心ある内容について、卒業研究に必要となる研究の計画に即して具体的に記述することができているか。

教科書:　応用演習Ⅰと同様
授業時に配布する資料もテキストとして用いるため、ファイリングしておく。

参考書:　応用演習Ⅰと同様

赤木和重・岡村由紀子（2013）『「気になる子」と言わない保育～こんなときどうする？考え方と手立て』ひとなる書房
鯨岡峻（2013）『子どもの心の育ちをエピソードで描く』ミネルヴァ書房
中嶋雄一編（2003）『心の保育を考えるcase67』Gakken
岡田加奈子・竹鼻ゆかり編（2011）『教師のためのケースメソッド教育』少年写真新聞社
安藤輝次編（2009）『学校ケースメソッドで参加・体験型の教員研修』図書文化
小寺卓矢・石川晋・石川学級41名の生徒たち（2016）『わたしたちの「撮る教室」』学事出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法：	ゼミの内容などに関しては、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。課題内容によってはマナビーも随時活用する。

456411

応用演習Ⅱ

竹井　　史

授業テーマ:　こどものｱｰﾄ・表現（美術教育）の研究

授業の概要:　子どものｱｰﾄ、表現するということについて様々な事例をもとに多面的に解明していく。これらの研究過程で、研究方法にも習熟していくことも目標にしている。応用演習ⅡではⅠでの学びを基礎として研究を深めていく。

到達目標:　①自分の研究課題を決めて、探究することができたか。
②研究方法について、理解することができたか。

授業方法:　演習形式でそれぞれの課題を深めていき、発表・討議を行う。発表担当者を決めるので、発表者は事前に資料を読み込み、レジュメを作成する。発表が終わった後は、発表を振り返り、内容を補足して、次の発表へつなげる。発表者以外は、話し合いに積極的に参加し、授業後は話し合いの内容を振り返っておく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読む。
2.	自己の興味ある分野についてのディスカッション	自分の興味を事前にまとめておく。
3.	研究課題の検討と資料検索（1）	資料調査の方法について事後にまとめておく。
4.	研究課題の検討と資料検索（2）	資料調査の方法について事後にまとめておく。
5.	研究課題の分析と検討（1）	資料分析の方法について、事後にまとめておく。
6.	研究課題の分析と検討（2）	自分なりに資料にあたり、分析したことを報告する。
7.	研究課題の分析と検討（3）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
8.	研究課題の分析と検討（4）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
9.	研究課題の分析と検討（5）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
10.	研究課題の分析と検討（6）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
11.	研究課題の内容と分析結果を文章にまとめていく（1）	研究課題の内容と分析結果を論理的に文章に表現する。
12.	研究課題の内容と分析結果を文章にまとめていく（2）	研究課題の内容と分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめる。
13.	研究課題の内容と分析結果を文章にまとめていく（3）	研究課題の内容と分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめる。
14.	研究課題の内容と分析結果を文章にまとめていく（4）	研究課題の内容と分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめる。
15.	全体の振り返りとまとめ	全体を振り返って、省察結果をレポートにまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　教育実習や授業等で忙しい時期ですが、自分の研究課題をしっかり深めていきましょう。

フィードバックの方法:　毎回、授業で発表内容等についてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への参加	60%	出席して積極的に発言しているかを評価する。
発表	20%	内容の掘り下げがあり、質疑応答に的確に答えているかを評価する。
レポート	20%	研究方法に自覚的にかつ論理的に書けているか、内容に説得性があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。

教科書:　特になし。

参考書:　必要に応じて紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　研究室、メール。メールに関しては、授業の最初にお伝えします。

456413

応用演習Ⅱ

宮尾　　夏姫

授業テーマ:　子供と運動・スポーツに関する研究

授業の概要:　応用演習Ⅰの内容を踏まえて，各自の関心のある研究課題を見つけ，先行研究の整理，研究方法の検討を行う。
グループで資料収集，分析，整理，及び，発表を行い，各自の関心テーマに沿って資料収集から発表に取り組む。
最終的に，研究構想をA4×Ⅰ枚程度にまとめる。

到達目標:
・子供の発育発達と運動・スポーツの関係について自身の研究課題を決めることができる
・自身の研究課題に関する先行研究を整理し，問題の所在を論理的に説明することができる
・自身の研究課題に関してプレゼンテーションしたり，他者から質問，意見について議論することができる
・研究構想をA4×1枚程度にまとめることができる

授業方法:　序盤はグループで資料収集，分析，整理，及び，発表を行い，中盤以降は各自の関心テーマに沿って資料収集から発表に取り組む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション，夏休みの取り組みについて	シラバスの確認，夏季休業中の各自の取り組みについてまとめておく
2.	子供の体力，運動・スポーツに関する諸問題の理解(1):グルーピング，分担	子供の体力，運動・スポーツに関する諸問題について自身の課題意識をまとめておく
3.	子供の体力，運動・スポーツに関する諸問題の理解(2):プレゼンテーションⅠ	各グループの担当についてプレゼンテーションの準備を行う。 事後には，発表内容に関する自身の考えをまとめる。
4.	子供の体力，運動・スポーツに関する諸問題の理解(3):プレゼンテーションⅡ	各グループの担当についてプレゼンテーションの準備を行う。 事後には，発表内容に関する自身の考えをまとめる。
5.	各自の関心のある分野，テーマに関する情報収集，分析(1):キーワード検索	各自の関心のある分野，内容についてキーワードを出しておく
6.	各自の関心のある分野，テーマに関する情報収集，分析(2):文献発表Ⅰ	各自のキーワードについて情報収集し，プレゼンテーションの準備を行う。 事後には，発表内容に関する自身の考えをまとめる。
7.	各自の関心のある分野，テーマに関する情報収集，分析(3):文献発表Ⅱ	各自のキーワードについて情報収集し，プレゼンテーションの準備を行う。 事後には，発表内容に関する自身の考えをまとめる。
8.	各自の関心のある分野，テーマに関する情報収集，分析(4):文献発表Ⅲ	各自のキーワードについて情報収集し，プレゼンテーションの準備を行う。 事後には，発表内容に関する自身の考えをまとめる。
9.	各自の関心のある分野，テーマに関する情報収集，分析(5):研究課題(仮)の設定	各自の情報収集を踏まえて，研究課題の案を考えておく
10.	先行研究の整理と研究課題に対する研究方法の検討(1):先行研究の整理に関する理解	各自の研究課題について先行研究を収集する
11.	先行研究の整理と研究課題に対する研究方法の検討(2):先行研究の整理・発表Ⅰ	各自の研究課題について先行研究を収集，整理し，プレゼンテーションの準備を行う。 事後には，発表内容に関する自身の考えをまとめる。
12.	先行研究の整理と研究課題に対する研究方法の検討(3):先行研究の整理・発表Ⅱ	各自の研究課題について先行研究を収集，整理し，プレゼンテーションの準備を行う。 事後には，発表内容に関する自身の考えをまとめる。
13.	先行研究の整理と研究課題に対する研究方法の検討(4):研究構想の作成	各自の研究課題について先行研究を踏まえて研究方法を検討しておく。 事後には，研究構想をA4×Ⅰ枚程度にまとめる。
14.	先行研究の整理と研究課題に対する研究方法の検討(5):研究構想発表	各自の研究構想についてプレゼンテーションの準備を行う。 事後には，他者の意見や質問等を踏まえて研究構想を修正する。
15.	まとめ	これまでの授業を踏まえて，研究課題及び研究構想を提出する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　プレゼンテーションや議論，研究構想について毎時間コメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への参加	30	出席し，積極的に議論に参加しているか評価する
プレゼンテーション	40	自身の担当内容を十分に整理し，他者に伝わるようプレゼンしようとしているか評価する
研究構想	30	授業内容，発表内容を踏まえて自身の課題意識を論理的にまとめることができているか評価する

教科書:

参考書:
岡出美則・松田恵示・近藤智靖・友添秀則編著「新版　体育科教育学の現在」2015，創文企画
高橋健夫著「体育授業を観察評価する―授業改善のためのオーセンティック・アセスメント」2003，明和出版
Garr Reynolds著・ 熊谷小百合翻訳「プレゼンテーションZEN　第2版」2014，丸善出版
バーバラ ミント著・Barbara Minto原著・山崎康司翻訳「考える技術・書く技術―問題解決力を伸ばすピラミッド原則」1999，ダイヤモンド社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　メール及びオフィスアワー(詳細は第1回目の授業にて伝える)

456501

卒業研究Ⅰ

藤原　　孝章

授業テーマ:　社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育演習

授業の概要:　・現代のこどもの現状を中心に、多文化・開発・平和など地球的な課題の認識とその解決を探る中で、開発教育や国際理解教育、社会科教育など地球市民を育てるための教育について、その意義を理論的、実践的に考察していく。
・その際、こどもを地球市民社会への参加と形成の主体として位置付け、「学習デザイン」論の観点から、「子どもの学び」と参加型学習の意義を明確にし、学びの内容と方法について、指導法や学習材の開発などを行なう。

到達目標:　知識理解:社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育の内容と課題が理解できる。
技能:研究に関わる調査、探求、分析、表現に関わる技能を身につけることができる。
関心・意欲・態度:卒業論文の執筆に向けて、課題を把握し、研究を進めようとする意欲を持つことができる。

授業方法:　自らが追究する課題の発表、話し合い、グループでのワークショップ、レポート(論文)の作成

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ゼミ開き、年間計画	春休みの宿題
2.	研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック1	研究課題図書、資料の分析、考察
3.	研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック2	研究課題図書、資料の分析、考察
4.	研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック3	研究課題図書、資料の分析、考察
5.	研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック4	研究課題図書、資料の分析、考察
6.	研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック5	研究課題図書、資料の分析、考察
7.	研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック6	研究課題図書、資料の分析、考察
8.	研究課題の発題・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック7	研究課題図書、資料の分析、考察
9.	卒論準備(2名)1	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成
10.	卒論準備(2名)2	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成
11.	卒論準備(2名)3	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成
12.	卒論準備(2名)4	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成
13.	卒論準備(2名)5	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成
14.	卒論準備(2名)6	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成
15.	卒論準備(2名)7	研究課題図書、資料の分析、考察 論文の作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　ゼミでの発表、グループ活動を重視します

フィードバックの方法:　ゼミ発表、グループワークに対するコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	積極的に取り組んでいるか
ゼミ発表・レポート	30	積極的に取り組んでいるか
最終レポート	30	授業目標に到達しているか

教科書:

参考書:　社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育に関わる文献をゼミに詳しく紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　e-mail、面談

456502

卒業研究Ⅰ

濱口　　義信

授業テーマ:　健康と生活文化の諸問題―運動遊び・スポーツを中心として

授業の概要:　健康や運動遊び・スポーツや健康はこどもの健全な成長や発達にとって、不可欠な領域であるが、便利で豊かになった現代において、かえってさまざまなひずみや問題点が明らかになってきている。この授業では、応用演習で学んだ基本的知識と研究方法を用いて、受講生が各自の興味・関心に従っ研究題目を設定し、研究方法と対象を明確にし、資料を収集・整理する。

到達目標:　卒業研究のテーマを明確にし、それに関連する文献や資料を収集して検討を加えることによって、卒業研究の方法や対象、内容などを決定する。

授業方法:　講義・分担発表・ディスカッションと、実技やフィールドワークなどを並行して行い、総合的に授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	自分の卒業研究テーマを設定して授業に臨む
2.	研究の内容と方法、資料収集の範囲の設定　概説	自分の卒業研究の目次を作成して授業に臨む
3.	研究の内容と方法についての発表と質疑・応答、討議1	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
4.	研究の内容と方法についての発表と質疑・応答、討議2	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
5.	研究の内容と方法についての発表と質疑・応答、討議3	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
6.	研究の内容と方法についての発表と質疑・応答、討議4	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
7.	主要資料紹介による研究の方向性の発表と質疑・応答、討議1	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
8.	主要資料紹介による研究の方向性の発表と質疑・応答、討議2	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
9.	主要資料紹介による研究の方向性の発表と質疑・応答、討議3	担当者は発表資料作成して事前に提出。
10.	中間まとめ	ここまでの発表資料を見直して自分の研究テーマを設定しておく
11.	研究報告作成のための論文構成　発表と質疑・応答1	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
12.	研究報告作成のための論文構成　発表と質疑・応答2	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
13.	研究報告作成のための論文構成　発表と質疑・応答3	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
14.	研究報告作成のための論文構成　発表と質疑・応答4	担当者は発表資料作成して事前に提出。
15.	全体討議	発表等の資料や授業全体の討論などを整理して、自分なりの考えをまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　大学での学びのひとつの総決算である卒業研究のテーマや内容・方法などを決定する重要な学期です。しっかりと調べて発表し、他のメンバーへのサジェスチョンなどを含め主体的に発表と討論に参加してください。

フィードバックの方法:　それぞれの分担発表やそれに対する様々な意見などについて授業時間にそれぞれにまとめやコメントをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への主体的取り組み	40	授業内での意見発表など
発表等の課題	40	発表資料と発表内容
ゼミ活動の積極的参加	20	協同作業等の分担内容など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

456503

卒業研究Ⅰ

今井　　敏博

授業テーマ:　設定したテーマに基づいて卒業研究を進める。

授業の概要:　応用演習Ⅰ、応用演習Ⅱで学んだ知識を活用し、各自が設定しているテーマに基づいて研究を進め、その一部や進捗状況を発表する。

到達目標:
1. 卒業研究テーマに必要な知識を習得し、理解する。
2. 卒業研究テーマを進め、関心・意欲・態度を高める。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
2.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
3.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
4.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
5.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
6.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
7.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
8.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容をを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
9.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
10.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
11.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容をを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
12.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
13.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
14.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
15.	秋学期への打ち合わせ	卒業研究の進捗状況を述べ合う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　採用試験や就職試験の日程を考えて、計画的に卒業研究を進めてください。

フィードバックの方法:　卒業研究テーマについての発表にコメントをし、卒業研究の進め方に対して助言する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究についての発表	50	到達目標1，2について評価する。
授業への参加度	50	発表に対する質疑に積極的に参加したかを評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　卒業研究テーマに基づいて適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、昼休み時間、授業の前後に教室内で応対

456504

卒業研究Ⅰ

松崎　　正治

授業テーマ:　ことばの学び（国語教育）の研究

授業の概要:　「国語」といわれるものを歴史・社会的に相対化しながら、ことばを学ぶことについて多角的に解明していく。これらの研究過程で、研究方法にも習熟していくことも目標にしている。卒業論文の作成を目指す。

到達目標:
①自分の研究課題を決めて、探究することができたか。
②研究方法について、理解することができたか。
③卒業論文の作成に主体的に取り組むことができたか。

授業方法:　演習形式でそれぞれの課題を深めていき、発表・討議を行う。発表担当者を決めるので、発表者は事前に資料を読み込み、レジュメを作成する。発表が終わった後は、発表を振り返り、内容を補足して、次の発表へつなげる。発表者以外は、話し合いに積極的に参加し、授業後は話し合いの内容を振り返っておく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読んでおく。
2.	応用演習から卒業研究へ	応用演習での成果をいかに卒業研究につなげていくかを考えておく。
3.	研究課題の資料調査（1）	資料調査から文献一覧を作る。
4.	研究課題の資料調査（2）	資料調査の方法について事後にまとめておく。
5.	資料調査の分析と検討（1）	資料分析の方法について、事後にまとめておく。
6.	資料調査の分析と検討（2）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。
7.	資料調査の分析と検討（3）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
8.	資料調査の分析と検討（4）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
9.	資料調査の分析と検討（5）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
10.	資料調査の分析と検討（6）	自分なりに資料にあたり、分析してみる。発表して、検討した結果をまとめておく。
11.	分析結果を文章にまとめていく（1）	分析結果を論理的に文章に表現する。
12.	分析結果を文章にまとめていく（2）	分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめておく。
13.	分析結果を文章にまとめていく（3）	分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめておく。
14.	分析結果を文章にまとめていく（4）	分析結果を論理的に文章に表現する。また、その文章を相互批評した結果をまとめておく。
15.	全体の振り返りとまとめ	全体を振り返って、省察結果をレポートにまとめていく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　就職関係で忙しい時期ですが、自分の研究課題をしっかり深めていきましょう。

フィードバックの方法:　毎回、授業で発表内容等についてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への参加	40%	出席して積極的に発言しているかを評価する。
発表	20%	内容の掘り下げがあり、質疑応答に的確に答えているかを評価する。
レポート	40%	研究方法に自覚的にかつ論理的に書けているか、内容に説得性があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。

教科書:　無し

参考書:
全国大学国語教育学会編『国語科教育実践・研究必携』学芸図書、2009年
田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典　第四版』教育出版、2009年
日本国語教育学会編『国語教育辞典　新装版』朝倉書店、2009年
日本近代文学会『ハンドブック日本近代文学研究の方法』ひつじ書房、2016年
日本教育方法学会『教育方法学研究ハンドブック』学文社、2014年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール、オフィスアワー

456505 **卒業研究Ⅰ**

中山　　まき子

授業テーマ:　家族・文化・制度と子ども―卒業研究とテーマ設定―

授業の概要:　卒業研究のためのテーマを定め、先行研究、自らの研究の方法論を定める。長文の卒業研究の書き方を学ぶ。同時に、卒業研究に関する研究倫理の指導も行う。

到達目標:
（1）卒業研究のテーマを確定する。
（2）テーマに即した目次を立てることが出来る。
（3）テーマに即した先行研究等を複数見つけ、それらを熟読する。

授業方法:
・ゼミ生の報告と全体のディスカッション
・教員による論文紹介と解説等

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	テーマ設定と報告、議論（1）	全14名が各自の卒業研究テーマ、目的、目次を記し、必要部数印刷して授業に臨むこと。
2.	テーマ設定と報告、議論（2）	第1回目の報告、議論を踏まえ、現在の各自の作成資料を必要に応じ修正してくること。
3.	テーマ設定と報告、議論（3）	第2回目の報告、議論を踏まえ、現在の各自の作成資料を必要に応じて修正してくること。
4.	テーマ設定と報告、議論（4）	第3回目の報告、議論を踏まえ、現在の各自の作成資料を必要に応じて修正してくること。
5.	卒業論文の書き方（1）	全員が、先の報告と議論を踏まえ、卒業研究テーマ、目的文、目次を提出できる状態で持参すること。
6.	卒業論文の書き方（2）	第5回時に配布した「卒業論文の書き方」冊子（本研究室独自のもの）を指定頁まで熟読し、不明点を整理してくること。
7.	卒業論文の書き方（3）	第6回に続き、配布した冊子を指定頁まで熟読し、不明点を整理してくること。
8.	先行研究の探し方、読み方（1）	各自の、目次と章立て、目的文を点検し、現時点でのそれらを清書し、授業開始前に提出する。
9.	先行研究の探し方、読み方（2）	自らのテーマに関係する先行研究を持参する。
10.	先行研究の読み込みと先行研究の書き方（1）	自らのテーマに関係する先行研究をさらに探し、持参する。
11.	先行研究の読み込みと先行研究の書き方（2）	収集し読破した先行研究を記述し、授業前に提出する。
12.	「研究の背景・目的」文の文章表記のこと（1）	自分の卒業研究の「研究の背景・目的」文を再検討の上、配布冊子に即して清書・印刷し、授業開始時に全員に配布する（1）
13.	「研究の背景・目的」文の文章表記のこと（2）	自分の卒業研究の「研究の背景・目的」文を再検討の上、配布冊子に即し清書・印刷し、授業開始時に全員に配布する（2）
14.	調査方法等の模索と確定	聞き取り調査の計画を立ててくる。
15.	調査方法等の模索と確定	聞き取り調査の計画を加筆修正してくる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒業研究のテーマをしっかり定め、一つの課題を広く・深く学ぼう。

フィードバックの方法:　学生の質疑応答には適宜答え、必要な諸資料を随時提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
目的構成の適切さ	20%	春学期に卒業研究の目的を確立できていること。
先行研究に対する学習	20%	各自の目的に沿う先行研究を複数見いだしていること。
論文への取り組み	60%	自分の卒業研究テーマの理論化に意欲的であること。

教科書:　なし

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　卒業研究の学生たちとはメールアドレス、電話等を相互に知らせあっているので適宜連絡を取り合うことができる。

456506

卒業研究Ⅰ

塘　　利枝子

授業テーマ:　文化と発達

授業の概要:　3年次の応用演習Ⅰ、Ⅱを踏まえて、3年次終了時までに作成した論文の再考を行います。そして4年次修了時までにさらに完成された卒業論文を作成します。卒業論文のテーマとしては、子どもの文化間移動に関するもの、教育や発達に関するものを初め、自分が深めたいテーマを発表、討論しながら検討をしていきます。そして自分が研究の中で選んだ心理学の方法論をさらに身につけていきます。同時にゼミの中の他の学生が行っている方法論についても学んでいきます。夏期休暇中には卒業論文のための本調査を行います。
集団討論も行いながら、コミュニケーション力を高めていきます。

到達目標:
「知識・理解」
研究方法、論文の読み方や書き方について理解している。
自分の研究テーマに関連する文献に関する知識をもっている。

「関心・意欲・態度」
ゼミ生同士の研究テーマにも関心をもち、積極的に質問やコメントをしながら、お互いの研究に貢献する態度をもつ。
積極的に集団討論に参加しようとする態度が見られる。

「表現・技能・能力」
自分自身の研究テーマについて的確に表現できる技能を身に付けている。
自分の言いたいことを的確に表現できる技能と、集団をまとめる力を身に付けている。

授業方法:　自分のテーマに沿ってレジュメを作成し、発表・討論形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	集団討論準備 応用演習Ⅱで見学した施設のリフレクション	資料の振り返り
2.	集団討論、研究倫理、情報倫理 統計検定の学習	資料作成
3.	集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成
4.	集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成
5.	集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成
6.	集団討論 卒論発表	資料作成 担当者はレジュメ作成
7.	発達検査勉強会	事前に配布されたプリントに目を通しておくこと。
8.	新聞記事討論	新聞記事を選択し、熟読しておくこと。
9.	模擬授業・保育	担当者は指導案作成
10.	模擬授業・保育	担当者は指導案作成
11.	ワークショップ	特にありません。
12.	新聞記事討論	新聞記事を選択し、熟読しておくこと。
13.	卒論発表	担当者はレジュメ作成
14.	卒論発表	担当者はレジュメ作成
15.	卒論発表（グループ討論）	レジュメ作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業外でも課題をこなす必要があり、定められた時間外にもゼミを行いますので、積極的な参加と課題をこなす意志が不可欠です。夏期休暇中にも課題が出されます。保育者を目指す人は京田辺市の子育て広場等への参加も求められます。

フィードバックの方法:　ゼミ内で課題を共有したり、研究室で個別相談にのります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む積極的な発表・討論	70%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。
レポート・論文等	30%	的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数のレポート・論文を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。

教科書:　特にありません。

参考書:　授業時もしくは個別に随時個人の研究テーマに合わせて指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
マナビーにゼミ生全員に関わることについては掲載します。
ゼミ内でのメイリングリストや個人メイルを活用します。
研究室で個人相談を行います。

456507

卒業研究Ⅰ

上田　　信行

授業テーマ:　デザイン・シンキングとブックレット制作

授業の概要:　スタンフォード大学のd.schoolのヴィジョンとカリキュラムを参考にしてデザイン・シンキングの目標と方法を分析し、実際にワークショップを通して実践をしていく。デザイン・シンキングのための学びの場をどうデザインするかが授業のポイントで、学生は実際のワークショップを企画・実施・評価・改善を行う。春学期はデザイン・シンキングのベースになる様々な文献を中心に読み進め、これらの知見を活かして、デザイン・シンキングのためのワークショップデザインの基本的な姿勢と技術を身につける。
さらに、応用演習Ⅰ・Ⅱで学んできたことをベースにして、今までの研究プロセスをまとめていく。自分の卒論課題を決めるために、多様な分野から情報を集め、「想像的創造力」を駆使して問いを設定し、探求のための研究計画を立てる。

到達目標:　(1)デザイン・シンキングについての自分なりの解釈を整理し、理解した内容をモデル化(図示)し、説明することができる。
(2)デザイン・シンキングを身につけるためのワークショップの企画・実施・評価・改善ができる。
(3)卒業制作研究のプロトタイプとしてミニブックレットを完成する。

授業方法:　ゼミはレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使って、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。プレゼンテーションや討論は頻繁に行う。情熱的で積極的な参加が必要。実践的な授業なので学期中にいくつかのプロジェクトを実施する。そのためのグループディスカッションや制作は授業外の時間を使って行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	スタンフォード大学のd.schoolのヴィジョンと方法	d.schoolのWebsiteを見て、ヴィジョンとミッションを確認しておく。
2.	デザイン・シンキングとは	デザイン・シンキングのステップをモデル化して、その内容をまとめておく。
3.	クリエイティブ・コンフィデンスとは何か	クリエイティブ・コンフィデンスについての基本的な考え方を自分なりにまとめておく。
4.	コラボラティブ・アプローチ	コラボレーションの意義と方法について考え、様々なアプローチを考え、それぞれをモデル化し、説明する。
5.	プロトタイピング ティンカリング・スタジオ	プロトタイピングの重要性について考え、ポイントを整理しておく。 サンフランシスコのExploratoriumのTinkering StudioのWebsiteを見ておく。
6.	デザイン・シンキングのための学びの場をどうデザインするか	どのようなワーックショップが可能か考えてみる。
7.	デザイン・シンキングの社会的構成	他者とのコラボレーションの方法を考え、具体的なプロジェクトに落とし込む。
8.	チーム・ビルディングの方法	チームの重要性について考えておく。
9.	デザイン・シンキング・ワークショップのデザインと実施1	ワーックショップの準備をする。
10.	リフレクション	ワークショップをふり返る。
11.	デザイン・シンキング・ワークショップのデザインと実施2	ワーックショップの準備をする。
12.	.リフレクション2	ワークショップをふり返る。
13.	ミニブックレット制作1 卒業制作研究のプロトタイプの制作	ミニブックレットを構想する。
14.	ミニブックレット制作2 卒業制作研究のプロトタイプの制作	ミニブックレットの制作を続ける。
15.	ミニブックレットのプレゼンテーション	ミニブックレットを完成し、最終レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実践的研究を中心に活動するゼミなので、かなりのコミットメントが要求される。とてもやりがいがあるので、一緒に授業を創っていきたい。教育の専門家(プロフェッショナル)としての自覚と、共感的、かつ理性的に自ら関わっていこうとする強い意志と態度を身につけたいと思っている人にぜひチームに加わってほしい。

フィードバックの方法:　グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善を総合的に評価する。
ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
ミニブックレット	30	ミニブックレットが研究テーマのプロトタイプとして的確に作成されているかを評価する。
最終レポート	30	春学期のゼミ活動を通して実践的に経験したことを、意味づけ、抽象化し、学びの理論と関係づけながら自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:　授業中に資料を配布する。

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

456508

卒業研究Ⅰ

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:　卒業研究の場を通して意見交換をし、お互いに学び合う。

到達目標:　卒業研究について研究計画がまとまり、半分程度進行している。

授業方法:　演習形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究計画を立てる(全員)	章立てを考える(文章化)
2.	個別発表と意見交換①	自分の計画に沿って研究を進める。
3.	個別発表と意見交換②	自分の計画に沿って研究を進める。
4.	個別発表と意見交換③	自分の計画に沿って研究を進める。
5.	個別発表と意見交換④	自分の計画に沿って研究を進める。
6.	個別発表と意見交換⑤	自分の計画に沿って研究を進める。
7.	個別発表と意見交換⑥	自分の計画に沿って研究を進める。
8.	個別発表と意見交換⑦	自分の計画に沿って研究を進める。
9.	個別発表と意見交換⑧	自分の計画に沿って研究を進める。
10.	個別発表と意見交換⑨	自分の計画に沿って研究を進める。
11.	個別発表と意見交換⑩	自分の計画に沿って研究を進める。
12.	個別発表と意見交換⑪	自分の計画に沿って研究を進める。
13.	個別発表と意見交換⑫	自分の計画に沿って研究を進める。
14.	まとめ;中間発表①	自分の研究の進行状況について発表の準備をする。
15.	まとめ:中間発表②	自分の研究の進行状況について発表の準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　全体への解説。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	50%	話し合いの内容を自分のこととして受け止めたかどうか。
レポート発表	50%	着実に研究を遂行しているかどうか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後の応答。ウェッブメール。

456509

卒業研究Ⅰ

吉永　　紀子

授業テーマ:　こどもと教師がともに学び育つ授業をデザインする

授業の概要:　それぞれに多様な関心や履歴を有する仲間とともに共通のテキストから学び、各自の教育実習体験を意味づけ、言語化する活動を通して培ってきた力をもとに、各自が納得のいく卒業研究のテーマを選定し、先行研究の知見に触れながら、テーマにふさわしい研究方法を見出していくことを通して、卒業研究の書き方を学ぶことを目指す。

到達目標:
（1）卒業研究のテーマについてその選択の根拠や研究の必要性・可能性について理解しているとともに、それを文脈や目的に照らして編集し、他者にわかりやすく表現することができる。
（2）卒業研究を行っていく上で必要となる研究方法、諸々の手続きについて理解し、子どもにかかわる専門性をつけた者として、適切にそうした手法を活用できている。
（3）テーマを異にする仲間の研究内容や方法に対して責任を持って自分の見解を述べることができ、それを分かち合ってさらによりよいものに高めていく協同学習のサイクルを構築することができる。

授業方法:
各自の研究テーマに基づく研究の進捗状況を報告し、相互に検討しあう活動が主となる。また必要に応じて研究方法や論文の書き方に関するレクチャーも並行して行う。受講者の積極的参加と協同する学びによってゼミをつくる。
・ゼミの時間以外にも自分の研究テーマに関する内容の掘り下げ、研究方法の吟味を行うための相当な学習時間が必要となる。
・自分の研究テーマに関係する文献や資料のリストを定期的に更新させる必要がある。最低でも20冊の参考文献や資料が見つけ、読み込む作業を進める。
・読んで考えたことを定期的に文章化し、整理しておく。まとまった分量の文章をつくるためのこまめな文章化の作業を怠らない。
・ゼミの時間以外でも、書き進めた文章に対する添削を積極的に受ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文を書く目的を知る	応用演習Ⅱの期末レポートを読み返し、春季休暇の間に進めた内容について整理しておく。
2.	各自のテーマに関する研究の進捗状況報告（1）	発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。
3.	各自のテーマに関する研究の進捗状況報告（2）	同上
4.	各自のテーマに関する研究の進捗状況報告（3）	同上
5.	各自のテーマに関する先行研究の検討（1）	発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。
6.	各自のテーマに関する先行研究の検討（2）	同上
7.	各自のテーマに関する先行研究の検討（3）	同上
8.	卒業論文の書き方に関する全体説明	昨年度の4回生が執筆した卒業研究論文のファイルを事前に閲覧し、書き方について気になる点を書き出しておく。
9.	卒業論文の書き方（1）序論・結論	前の回に配布された資料を読み、また前の回にレクチャーされた内容を見返しておく。
10.	卒業論文の書き方（2）本論	前の回に配布された資料を読み、また前の回にレクチャーされた内容を見返しておく。気がかりな点や質問を整理しておく。
11.	各自の研究報告（1）	発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。
12.	各自の研究報告（2）	同上
13.	各自の研究報告（3）	同上
14.	卒業論文の書き方に関する質疑応答	第11～13時の中で検討を受けたことをもとに、夏季休暇中に研究を深化発展させる上で確認しておきたいことを整理しておく。
15.	春学期のまとめと夏季休暇中の研究計画づくり	春学期までの到達点を確認し、夏季休暇中に進めるべき内容を項目化して書き出しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
卒業研究のテーマはこどもや教師の学び・育ちに関わるものの中から、各自の納得のいく研究テーマを選ぶことが望ましいです。また、テーマを異にする仲間の研究内容や方法からも学ぶことによって、研究としてのクオリティを高めていくようにします。さらに、夏季休暇中にも卒業研究のための調査を行う必要がありますので、進路実現のための様々な活動（採用試験や就職活動など）を考慮して計画的に進めていきます。

フィードバックの方法:
（1）毎回、ゼミの最後に記入するリフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
（2）ゼミのなかで、グループ活動や発表したりした際には適宜その場でコメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。
（3）自分の研究テーマ決定や進路に向けた相談については、必要に応じて随時行い、サポートする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文執筆のための準備学習	30	研究テーマに不可欠な内容の構成が練られているか、研究テーマにふさわしい研究方法が選ばれているか、先行研究に対する読み込みがなされているかを基準として評価する
ゼミでの報告とレポート	40	定期的に文章化し、自分の考えと先行研究の意見や事実とを区別して論理的かつ個性的に表現できているか、先行研究の文献・資料リストが定期的に更新されているかを基準として評価する。
研究仲間への質問・検討への積極的な参加・出席と毎回のリフレクションカードの記入	30	テーマを異にする研究仲間に対して建設的な意見や質問を行っているか、他者から学んだことを自分に生かす工夫を考えてリフレクションしているかどうかを評価する

教科書:　授業時に配布する資料類がテキストとなるため、ファイリングしておく。

参考書:　昨年度の応用演習Ⅰ・Ⅱで教科書や参考文献となっていたものを引き続き活用する。それ以外の参考文献はゼミの中で随時紹介、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	ゼミの内容などに関しては、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。課題内容によってはマナビーも随時活用する。

456510

卒業研究Ⅰ

大黒　　孝文

授業テーマ:　理科の授業開発と協同学習研究Ⅰ

授業の概要:　大学での学習活動の集大成として卒業論文を作成する。研究の柱として理科教育と協同学習をおき，その理論と方法を活用した実践的な学びを実現する。具体的には，理科の授業研究，実験・観察の開発研究，協同学習研究に関わるものから課題を設定し，課題解決の方法，情報収集と活用，実験観察，データの整理等を計画的に構成し，方針を立てると同時に研究を開始する。

到達目標:
・理科の授業研究，実験・観察研究，協同学習研究，教師教育等から選択し研究を行うことができる。
・研究テーマに関する情報を収集することができる。
・予備実験観察や研究授業観察を行い，データを分析することができる。
・卒業論文の作成に向けて構成計画と実践計画を立てることができる。

授業方法:　2:演習，3:実験実技演習（学内），5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（個人テーマ決定に向けて）	課題選択に向けて卒業生の卒業論文を読む
2.	テーマと計画の確認	課題を絞り吟味する
3.	先行研究及び資料収集1	課題に関わる先行研究を読む
4.	先行研究及び資料収集2	課題に関わる先行研究を読む
5.	先行研究及び資料収集3	課題に関わる先行研究を読む
6.	予備観察実験と実験データ収集1	実験研究構想と計画を立てる
7.	予備観察実験と実験データ収集2	データを収集する
8.	予備観察実験と実験データ収集3	データを収集する
9.	実験データ分析と整理1	取得したデータの分析
10.	実験データ分析と整理2	取得したデータの表示方法を工夫して可視化作業をする
11.	実験データ分析と整理3	取得したデータの表示方法を工夫して可視化作業をする
12.	論文下書き1	論文の下書きを始める
13.	論文下書き2	論文の下書きをする
14.	論文下書き3	中間発表の原稿作成
15.	論文中間発表とまとめ	中間発表練習

受講者へのメッセージやアドバイス:
はじめに卒業研究の個人テーマについて資料・情報の収集を行います。
情報の収集にあたっては，本ゼミの卒業生が作成した卒業論文集等を参考とし，ゼミ担当と入念な調整を行います。

フィードバックの方法:
教室やフィールドワークの現場で個別に解説し評価する。
提出物は採点後，コメントを記入し返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究の実践	40	到達目標のデータ収集や分析，研究の状況の進捗状況をもって評価する。
発表・討論	30	到達目標の研究構想や方法，及び研究内容が説明でき，同時に今後の課題を説明できるかで評価する。
授業への参加度	30	授業に積極的に参加し，到達目標すべてに関わる内容と方法の理解度によって評価する。

教科書:　プリントを配布する。

参考書:
・D・W・ジョンソン，R・T・ジョンソン，E・J・ホルベック（2008）『学習の輪―アメリカの協同学習入門―』，二瓶社
小学校学習指導要領　理科編（平成29年3月告示　文部科学省）
その他，授業中で随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業前後に対応，オフィスアワー，Eメール等

456601

卒業研究Ⅱ

藤原　　孝章

授業テーマ:　社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育演習

授業の概要:
・現代のこどもの現状を中心に、多文化・開発・平和など地球的な課題の認識とその解決を探る中で、開発教育や国際理解教育、社会科教育など地球市民を育てるための教育について、その意義を理論的、実践的に考察していく。
・その際、こどもを地球市民社会への参加と形成の主体として位置付け、「学習デザイン」論の観点から、「子どもの学び」と参加型学習の意義を明確にし、学びの内容と方法について、指導法や学習材の開発などを行なう。

到達目標:
知識理解:社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育の内容と課題が理解できる。
技能:研究に関わる調査、探求、分析、表現に関わる技能を身につけることができる。
関心・意欲・態度:卒業論文の執筆に向けて、課題を把握し、研究を進めようとする意欲を持つことができる。

授業方法:
自らが追究する課題の発表、話し合い、グループでのワークショップ、レポート(論文)の作成

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ゼミ開き、年間計画	夏休みの宿題
2.	卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック1	研究課題図書、資料の分析、考察
3.	卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック2	研究課題図書、資料の分析、考察
4.	卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック3	研究課題図書、資料の分析、考察
5.	卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック4	研究課題図書、資料の分析、考察
6.	卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック5	研究課題図書、資料の分析、考察
7.	卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック6	研究課題図書、資料の分析、考察
8.	卒論準備、発題と解説・討論(2名) 最近の社会の動向、トピック7	研究課題図書、資料の分析、考察
9.	卒論論文の執筆と指導(2名)1	論文執筆
10.	卒論論文の執筆と指導(2名)2	論文執筆
11.	卒論論文の執筆と指導(2名)3	論文執筆
12.	卒論論文の執筆と指導(2名)4	論文執筆
13.	卒論論文の提出	論文執筆
14.	ゼミ卒論発表1	卒業論文の概要とパワーポイントの作成
15.	ゼミ卒論発表2	卒業論文の概要とパワーポイントの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:
ゼミでの発表を重視します

フィードバックの方法:
ゼミ発表、論文執筆に対するコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的に取り組んでいるか
ゼミ発表・レポート	30	積極的に取り組んでいるか
最終レポート	50	授業目標に到達しているか

教科書:

参考書:
社会科教育・国際理解教育・シティズンシップ教育に関わる文献をゼミに詳しく紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
e-mail、面談

456602

卒業研究Ⅱ

濱口　　義信

授業テーマ:　健康と生活文化の諸問題―運動遊び・スポーツを中心として

授業の概要:　卒業研究Ⅰにおいて設定した主題に対応する研究方法を用いて、受講生が各自の興味・関心に従って設定したテーマについてまとめた内容を基礎として、さらなる資料を収集・整理を行い、それらに分析・検討を加え論文（もしくは研究レポート等）を作成する。

到達目標:　各自が設定したテーマについての論文（もしくは研究レポート）を作成し、概要、パワーポイントによるプレゼンテーションを行い、こども学科卒業研究発表会で発表する。

授業方法:　講義・分担発表・ディスカッションと個別指導を中心にして、実技やフィールドワークなどを並行して行い、総合的に授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	研究課題をまとめておく
2.	資料の収集状況と論文の見通しの発表1	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
3.	資料の収集状況と論文の見通しの発表2	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
4.	資料の収集状況と論文の見通しの発表3	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
5.	中間発表　発表と質疑・応答、討議1	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
6.	中間発表　発表と質疑・応答、討議2	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
7.	中間発表　発表と質疑・応答、討議3	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
8.	中間発表　発表と質疑・応答、討議4	担当者は発表資料作成して事前に提出。　他のメンバーは発表のための準備
9.	各自の研究報告と討議1	発表準備（プレゼンテーション資料作成）と卒業研究作成
10.	各自の研究報告と討議2	発表準備（プレゼンテーション資料作成）と卒業研究作成
11.	各自の研究報告と討議3	発表準備（プレゼンテーション資料作成）と卒業研究作成
12.	各自の研究報告と討議4	発表準備（プレゼンテーション資料作成）と卒業研究作成
13.	全体討議1	卒業研究発表会用概要原稿作成
14.	全体討議2	卒業研究文集、論文CDブック、発表用パネル作成
15.	発表会用資料作成	卒業研究文集、論文CDブック、発表用パネル作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　自分の興味関心を明確にして客観的記述によってレポートを作成して発表するという4年間の学びの総決算です。学んだものをベースに自分の考えやこれからの方向性を明示するよう意欲的に取り組んでください。

フィードバックの方法:　それぞれの研究過程における中間発表などについて授業時間にそれぞれにまとめやコメントをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究レポート	60	レポートの内容
授業への積極的取り組み	20	授業内での意見発表など
ゼミ活動の主体的参加	20	協同作業等の分担内容など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

456603

卒業研究Ⅱ

今井　　敏博

授業テーマ:　研究テーマに基づいて卒業研究をまとめる。

授業の概要:　卒業研究Ⅰに引き続き、各自のテーマに基づいた卒業研究の進捗状況を報告し、研究内容を発表する。卒業論文としてまとめる。

到達目標:
1. 卒業研究テーマに関する知識を習得し、理解する。
2. 卒業研究テーマに対する関心・意欲を高め、社会で活用する態度を身につける。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
2.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
3.	卒業研究テーマに関する発表	発表者は発表内容を準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
4.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
5.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
6.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
7.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
8.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
9.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
10.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
11.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
12.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
13.	卒業研究テーマに関する発表	発表者はを準備する。 質疑の内容を各自まとめる。
14.	卒業研究のゼミ内発表会に向けて	発表の準備を行う。 質疑の内容を各自まとめる。
15.	卒業研究発表会に向けての打ち合わせ	卒業研究発表会での準備事項をまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒業研究テーマに基づいて卒業論文にまとめる作業を計画的に行ってください。

フィードバックの方法:　卒業研究の進捗状況についてコメントし、進め方についての助言を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究についての発表	30	到達目標1について評価する。
卒業論文	50	到達目標1，2について評価する。
授業への参加度	20	レジュメ発表に対する質疑への参加について評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　卒業研究テーマに基づいて適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、昼休み時間、授業前後に教室内で応対

456604

卒業研究Ⅱ

松崎　　正治

授業テーマ:　ことばの学び（国語教育）の研究

授業の概要:　「国語」といわれるものを歴史・社会的に相対化しながら、ことばを学ぶことについて多角的に解明していく。これらの研究過程で、研究方法にも習熟していくことも目標にしている。卒業論文の完成を目指す。

到達目標:
①自分の研究課題を決めて、探究することができたか。
②研究方法について、理解することができたか。
③卒業論文の作成に主体的に取り組むことができたか。

授業方法:　演習形式でそれぞれの課題を深めていき、発表・討議を行う。発表担当者を決めるので、発表者は事前に資料を読み込み、レジュメを作成する。発表が終わった後は、発表を振り返り、内容を補足して、次の発表へつなげる。発表者以外は、話し合いに積極的に参加し、授業後は話し合いの内容を振り返っておく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読んでおく。
2.	卒業研究のまとめ方	卒論のまとめ方を振り返っておく。
3.	卒論として文章にまとめていく（1）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
4.	卒論として文章にまとめていく（2）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
5.	卒論として文章にまとめていく（3）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
6.	卒論として文章にまとめていく（4）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
7.	卒論として文章にまとめていく（5）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
8.	卒論として文章にまとめていく（6）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
9.	卒論として文章にまとめていく（7）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
10.	卒論として文章にまとめていく（8）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
11.	卒論として文章にまとめていく（9）	分析結果を論理的に文章に表現する。
12.	卒論として文章にまとめていく（10）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
13.	卒論として文章にまとめていく（11）	残された課題について、調べておく。 文章表現の修正を行う。
14.	卒業研究のまとめ	卒論の最終的な仕上げを行う。
15.	卒業研究発表会の準備	卒業研究発表会のパネルや説明原稿を完成させる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　4年間の集大成として、大変ですが頑張りましょう。

フィードバックの方法:　毎回、授業で発表内容等についてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への参加	40%	出席して積極的に発言しているかを評価する。
発表	20%	内容の掘り下げがあり、質疑応答に的確に答えているかを評価する。
レポート	40%	研究方法に自覚的にかつ論理的に書けているか、内容に説得性があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。

教科書:　無し

参考書:
全国大学国語教育学会編『国語科教育実践・研究必携』学芸図書、2009年
田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典　第四版』教育出版、2009年
日本国語教育学会編『国語教育辞典　新装版』朝倉書店、2009年
日本近代文学会『ハンドブック日本近代文学研究の方法』ひつじ書房、2016年
日本教育方法学会『教育方法学研究ハンドブック』学文社、2014年
新堀聡『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』同文館出版 2002年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール、オフィスアワー

456605

卒業研究Ⅱ

中山　　まき子

授業テーマ:　家族・社会・文化・制度と子ども（2）ー卒業研究を仕上げるー

授業の概要:　卒業研究の内容を深め、論旨が整った文章表現に基づき、卒業研究としての論文を完成させる。

到達目標:　自分が定めたテーマ・目的にそって、研究倫理を守りつつ、卒業研究を完成させること。

授業方法:　・前半は全員参加によるゼミ
・後半は草稿に対する添削や個別指導を重視

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	目的、方法、先行研究について内容と文章の添削・推敲（1）	各自が自ら定めた研究テーマに対して、論理的流れをつくり、文章表現を工夫し、執筆した原稿を、適宜自ら添削し、構成し、推敲することを怠らない。
2.	目的、方法、先行研究について内容と文章の添削・推敲（2）	各自が自ら定めた研究テーマに対して、論理的流れをつくり、文章表現を工夫し、執筆した原稿を、適宜自ら添削し、構成し、推敲することを怠らない。
3.	具体的データの収集に関する検討	各自が自ら定めた研究テーマに対して、論理的流れをつくり、文章表現を工夫し、執筆した原稿を、適宜自ら添削し、構成し、推敲することを怠らない。
4.	具体的データの収集と検討（1）	目的に即し、具体的データの収集を行う。
5.	具体的データの収集と検討（2）	目的に即し、具体的なデータ収集を行う。
6.	具体的データの収集と検討（3）	目的に即し、具体的なデータ収集を行う。
7.	具体的データの収集と検討（4）	収集したデータの点検と文章化を行う。
8.	具体的データの提示についての議論と文章化（1）	収集したデータの点検と文章化を行う。
9.	具体的データの提示についての議論と文章化（2）	収集したデータの点検と文章化を行う。
10.	本文に対する構成、添削、推敲。 さらに具体的データの提示についての議論と文章化（3）	「卒業研究」という大型作品の完成を目指す。
11.	論文全体の構成の点検、確認、助言、推敲（1）	「卒業研究」という大型作品の完成を目指す。
12.	論文全体の構成の点検、確認、助言、推敲（2）	論文全体を俯瞰的に見て、加筆修正を加えていく。
13.	論文全体の構成の点検、確認、助言、推敲（3）ーとくに文献・引用等の点検を中心にー	論文全体を俯瞰的に見て、加筆修正を加えていく。
14.	卒業研究の概要・要旨の書き方指導（1）	卒業研究全体をA42枚にまとめる文章を作成する。
15.	卒業研究の概要・要旨の書き方指導（2）	A42枚にまとめた文章の推敲、検討、再検討を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　学生の進捗状況を常に把握しておく。またそれらを勘案しながら、適時助言を与える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文の完成度とその内容	50%	テーマに即し、具体的な調査や資料収集等を行い、それらを文章化しようと努力した。
論文への意欲的取り組み	50%	自分の設定したテーマに対して、深く追求しようとする意欲を維持し続けた。

教科書:　なし

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力、論理的思考力、筆力

教員との連絡方法:　卒業研究の学生たちとはメールアドレス、電話等を相互に知らせあっているので、適宜連絡を取り合うことができる。

456606

卒業研究Ⅱ

塘　　利枝子

授業テーマ:　文化と発達

授業の概要:　春学期各自が決めたテーマに沿って、夏期休暇中に行った調査を分析すると共に、4年次終了までに卒業論文を作成します。特に秋学期は3年次で身につけた調査結果の処理の仕方をもとに、調査結果を多層的に検討していきます。秋学期終了時にはゼミ内で卒業研究発表会を行うとともに、学科全体での発表会にも参加します。

到達目標:

「知識・理解」
研究方法、論文の読み方や書き方について理解している。
自分の研究テーマに関連する文献に関する知識をもっている。

「関心・意欲・態度」
ゼミ生同士の研究テーマにも関心をもち、積極的に質問やコメントをしながら、お互いの研究に貢献する態度をもつ。
積極的に集団討論に参加しようとする態度が見られる。

「表現・技能・能力」
自分自身の研究テーマについて的確に表現できる技能を身に付けている。
自分の言いたいことを的確に表現できる技能と、集団をまとめる力を身に付けている。
卒業論文を規定枚数作成し、充実した内容の論文になっている。

授業方法:　自分のテーマに沿ってレジュメを作成し、発表形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究論文発表、研究倫理	担当者はレジュメ作成
2.	研究論文発表	担当者はレジュメ作成
3.	研究論文発表	担当者はレジュメ作成
4.	研究論文発表	担当者はレジュメ作成
5.	卒業論文相談会	レジュメ作成
6.	研究論文発表	担当者はレジュメ作成
7.	研究論文発表	担当者はレジュメ作成
8.	研究論文発表	担当者はレジュメ作成
9.	研究論文発表	担当者はレジュメ作成
10.	卒業論文修正相談会	レジュメ・本論作成
11.	研究論文発表	担当者はレジュメ作成
12.	研究論文発表	担当者はレジュメ作成
13.	卒業論文抄録発表	抄録作成
14.	卒業論文修正相談会	レジュメ・本論作成
15.	卒業論文完全版提出	卒業論文完全版

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業外でも課題をこなす必要があり、定められた時間外にもゼミを行いますので、積極的な参加と課題をこなす覚悟が不可欠です。1月初旬に宿泊合宿を行い、ゼミ内で自分の卒業論文について発表するとともに、学科全体での卒業研究発表会にも参加します。

フィードバックの方法:　ゼミ内で課題を共有したり、研究室で個別相談にのります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む積極的な発表・討論	50%	毎回遅刻・早退せずに出席している。 ゼミ内での討論に積極的に参加している。 的確なレジュメや論文を作成し、わかりやすく発表できる。
レポート・論文等	50%	的確なレジュメを作成し、わかりやすく発表できる。 規定枚数以上のレポート・論文(50枚程度)を作成している。 課題を提出〆切日までに提出できる。

教科書:　特にありません。

参考書:　授業時もしくは個別に随時個人の研究テーマに合わせて指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:
マナビーにゼミ生全員に関わることについては掲載します。
ゼミ内でのメイリングリストや個人メイルを活用します。
研究室で個人相談を行います。

456607

卒業研究Ⅱ

上田　　信行

授業テーマ:　卒業制作研究の完成と展覧会のデザイン

授業の概要:　応用演習Ⅰ･Ⅱ、卒業研究Ⅰで実践してきたことをベースにして、今までの研究プロセスをブックレットの形にしてまとめる。ワークショップやデザイン･シンキングで学んだことを中心にして、小グループで研究プロジェクトを進め、ゼミ生全員でブックレットを完成する。自ら設定した卒業研究の課題に向かって内容を吟味し、「想像的創造力」を駆使してブックレットの構成と編集を協同で行う。ゼミで定期的に行われる発表会では、資料を吟味して作成し、他のメンバーに効果的に提示、表現できるように準備し、プレゼンテーションを行う。

到達目標:　(1)卒業制作研究としてブックレットを協同で制作する。
(2)ブックレットの制作過程を通して、自分の学びを意味づけ、省察する。
(3)ブックレットの展覧会をデザインする。

授業方法:　ゼミはレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使っ て、実際にプロジェクトを企画･実施･評価･改善する。その成果をブックレットにまとめる。プレゼンテーションや討論は頻繁に行う。情熱的で積極的な参加が必要。グループディスカッションや制作は授業外の時間を使って行う。ブックレット作成は授業外の時間を使って頻繁に行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ブックレットのデザイン	春学期にまとめたミニブックレットにもとづいて、最終的な卒業制作研究のテーマを考え、ブックレットの構想を立てる。
2.	卒業制作研究案の発表	卒業研究のテーマ、研究内容と方法、そして、予測される結果を企画書の形でまとめる。
3.	卒業制作研究案のリフレクションとプラン	卒業制作研究へ向けて研究計画を立てる。
4.	卒業制作研究の背景となる理論の発表	卒業制作研究の背景となる理論の整理をし、まとめておく。
5.	卒業制作研究のプロトタイプ発表1	卒業制作研究のプレゼンテーションスライドとレジュメを作成する。
6.	卒業制作研究のプロトタイプ発表2	発表会でのコメントにもとづいて修正したプレゼンテーションスライドとレジュメを作成する。
7.	卒業制作研究のプロトタイプ発表3	発表会でのコメントにもとづいて修正したプレゼンテーションスライドとレジュメを作成する。
8.	ブックレットの制作1	ブックレットを制作する。
9.	プレゼンテーション1 ブックレッットのプレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をする。
10.	ブックレットの制作2	引き続き、ブックレットを制作する。
11.	プレゼンテーション2	プレゼンテーションの準備をする。
12.	ブックレットの制作3	ブックレットを仕上げる。
13.	プレゼンテーション3	プレゼンテーションの準備をする。
14.	ブックレット展覧会	展覧会の準備をする。
15.	ブックレットの制作過程のリフレクティブ･プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備と2年間のゼミ活動をふり返る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　2年間のゼミでの学びをブックレットとしてまとめることの楽しみを味わってほしい。自ら設定した卒業研究の課題に向かって内容を吟味し、プロトタイピングとその修正を通して完成してほしい。そして、ゼミでの発表会では、他のメンバーに効果的に提示、表現してほしい。

フィードバックの方法:　ブックレットの制作過程で、個別またはゼミ全体で、出来るだけ具体的に改善点を指摘しつつ、共に考えていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ブックレットの制作過程	30	ブックレットをグループでどのように構想し、書き上げ、改善し、納得のいく作品に創りあげたかのプロセスを評価する。
展覧会とプレゼンテーション	20	ブックレットの制作過程を通して自分の学びを省察できたかどうかと展覧会でのパフォーマンスを総合して評価する。
ブックレット	50	2年間の研究のまとめとして制作したブックレットを、学びのプロセスと共に評価する。

教科書:　授業中に資料を配布する。

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的･汎用的能力:　プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

456608

卒業研究Ⅱ

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:　各自のテーマに沿って卒業研究を行う

到達目標:　卒業研究の成果を作成・提出する

授業方法:　個人指導及び全員での討議を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究の中間発表	発表に向けて資料の作成をする。
2.	個人指導	自分のテーマに沿って卒業研究を進める。
3.	個人指導	自分のテーマに沿って卒業研究を進める。
4.	個人指導	自分のテーマに沿って卒業研究を進める。
5.	個人指導	自分のテーマに沿って卒業研究を進める。
6.	個人指導	自分のテーマに沿って卒業研究を進める。
7.	個人指導	自分のテーマに沿って卒業研究を進める。
8.	個人指導	自分のテーマに沿って卒業研究を進める。
9.	個人指導	各章の内容の精査を図る。
10.	個人指導	全体の整合性を図る。
11.	卒業研究提出に向けての仕上げ	結論を明確にする。
12.	卒業研究提出に向けての仕上げ	全体を仕上げる。
13.	卒業研究の成果の提出	全体を見直す。
14.	卒業研究発表の要旨作成についての申し合わせ	事前の連絡事項に沿い、発表の要旨をまとめておく。
15.	発表会に向けての資料作成	発表要旨の手直しをしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　全体への解説。個人指導。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	30%	他の研究に対し自分なりの視点を持ってコメントができているか。発表会に向けての準備が適切に行えたか。
卒業研究	70%	自分なりの視点があるか。計画的に研究に取り組んだか。結論は明確か。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に応対。ウェッブメール。

456609

卒業研究Ⅱ

吉永　　紀子

授業テーマ:　こどもと教師がともに学び育つ授業をデザインする

授業の概要:　卒業研究Ⅰに引き続き、ゼミでの報告、検討を踏まえ、各自の卒業研究の内容の精度を高めると同時に、論理的思考に基づく論旨の整った文章表現を磨き、大学4年間での学びの集大成となる卒業研究論文を完成させる。
★卒業研究発表会に向けた合宿検討会を実施する予定である。日時については受講者と相談する。

到達目標:
（1）自分の研究テーマに基づく卒業研究論文を、文脈や目的に照らし合わせて、論理的に説得力のある文章として書きあげることができる。
（2）ともに研究する仲間の研究成果や課題について生産的な議論を通して指摘しあうことができ、他者の関心即して自分に求められる役割を発揮することができる。
（3）自分の研究の成果が待たれる現場や生かせる方法を見出そうとする姿勢を持っており、専門的職業人として自身の研究の成果を積極的に具体化しようとする姿勢を持っている。

授業方法:
継続的に文献読解や調査を行いながら、各自の研究テーマに基づく論文の部分的草稿（下書き）を作成・報告し、伝えたい内容が的確に伝えられ、論旨の整った文章表現に洗練させていくための推敲をゼミで協同して行う。
・事前準備としては、卒業論文を執筆する中で見えてきた悩みや困りごとに対して、限られた時間の中で仲間や教員から検討を受けられるように、報告のポイントを整理できるように努力する。
・ゼミ後の復習では、仲間や教員からの添削、個別指導の結果に関するリフレクションを行い、論文執筆に検討結果を生かしていくための学習を怠らないようにする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究Ⅱのオリエンテーション／卒業研究論文完成までの研究計画を整理する	夏季休暇中に行った研究を踏まえ、秋学期の研究計画の見直しをしておく。
2.	論文の草稿（下書き）の発表・検討（1）	発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。
3.	論文の草稿（下書き）の発表・検討（2）	同上
4.	論文の草稿（下書き）の発表と検討（3）	同上
5.	論文の結論の構成に関するレクチャー（1）	論文の書き方について卒業研究Ⅰで配布した資料を読み返し、結論の構成に関する不明点や疑問を整理しておく。
6.	論文の結論の構成に関するレクチャー（2）	前の回で考え、議論したことを踏まえ、説得力のある結論の構成にするための工夫を考えておく。
7.	論文の草稿（下書き）の推敲（1）	発表者は事前に資料をゼミメンバーと共有できるよう、計画的に余裕をもって発表の準備を行う。また、発表者以外は配布された資料を必ず読んで、質問やコメントを考えておく。
8.	論文の草稿（下書き）の推敲（2）	同上
9.	論文の草稿（下書き）の推敲（3）	同上
10.	全体の構成の確かめ	推敲してきた原稿を読み返し、課題となっている点や困っている点を確認しておく。
11.	卒業研究論文の要旨集録原稿の書き方	昨年度配布された卒業研究要旨集録を読んで、自分の研究内容にふさわしい要旨集録のアイデアを練っておく。
12.	論文のまとめ（1）	課題となっている点を明確にし、質問や確認したいことを整理しておく。
13.	論文のまとめ（2）	論文の完成に向けて必要な諸々の手続きについて漏れがないかを確認しておく。
14.	卒業研究論文のゼミ内報告会（3回生と合同）	3回生に向けて研究発表するための資料の準備を行い、リハーサルをしておく。
15.	卒業研究発表会の準備	卒業研究発表会で用いる資料の作成をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
各自の卒業論文の草稿（下書き）の報告に対して、ゼミ生全員参加で添削を行い、研究の進捗状況に応じて適宜、教員からの個別指導を行っていきます。したがって、規定の時間以外にもゼミを行うこともあり、自分の研究に対する責任ある行動と、ともに高めあう仲間に対する誠意ある対応が求められます。

フィードバックの方法:
（1）毎回、ゼミの最後に記入するリフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
（2）ゼミのなかで、グループ活動や発表したりした際には適宜その場でコメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。
（3）自分の研究テーマ決定や進路に向けた相談については、必要に応じて随時行い、サポートする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ゼミへの毎回の出席・参加とリフレクションカードの記入	30	毎回の発表者や質問などゼミの内容にかかわって積極的に発言し、内容に即したリフレクションが書けているか
仲間の研究に対する添削、検討への積極的参加	20	異なる研究テーマに関して生産的に質問や意見を述べることができているか
卒業研究論文の完成（内容と形式）	50	研究テーマを論じるにあたり妥当な内容構成になっているか、テーマにふさわしい研究方法が採用されているか、内容の妥当性、論理性、説得力ある文章表現にする努力がなされているかを基準として評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　ゼミ内で適宜紹介、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
ゼミの内容などに関しては、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。課題内容によってはマナビーも随時活用する。

456610

卒業研究Ⅱ

大黒　　孝文

授業テーマ:　理科の授業開発と協同学習研究Ⅱ

授業の概要:　大学での学習活動の集大成として卒業論文を完成する。研究の柱として理科教育と協同学習をおき，その理論と方法を活用した実践的な学びを実現する。具体的には，理科の授業研究，実験・観察の開発研究，協同学習研究，教師教育等に関わるものから設定した課題解決を進め，収集したデータを分析・整理することで卒業論文として完成させる。

到達目標:
・卒論の研究テーマごとに討論・発表会を実施し研究内容の質の向上を図ることができる。
・卒業研究を継続し，情報を整理し，結果と考察を卒業論文としてまとめることができる。
・卒業研究を論文として公開し，発表することができる。

授業方法:　2:演習，3:実験実技演習（学内），5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	進捗状況と章構成の確認	中間発表時に指摘された課題解決のための方策をたてる
2.	章構成の再構築	卒論の章構成を再考する
3.	不足資料やデーターの収集1	不足データの収集を行う
4.	不足資料やデーターの収集2	不足データの収集と整理を行う データの可視化を行う
5.	論文の加筆1	論文を作成する
6.	論文の加筆2	論文を作成する
7.	論文の加筆3	論文を作成する
8.	論文の進捗状況確認験	卒業論文作成の進捗状況をまとめ，発表の準備をする
9.	論文の修正1	論文の加筆修正をする
10.	論文の修正2	論文の加筆修正をする
11.	論文のまとめと発表交流1	論文の発表準備と微修正をする
12.	論文のまとめと発表交流2	論文の発表準備と微修正をする
13.	論文作成のふり返り	論文を完成し，要旨集を作成する
14.	卒業研究発表の準備	発表用ポスターを作成する
15.	卒業研究発表の最終準備と予行	発表準備と練習をする

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒業研究は，大学生活の学習活動の集大成です。個人テーマについて常に関心を持ち，資料・情報の収集や実験研究を積極的に行います。また，研究の進捗状況は，ゼミ担当に随時報告し，助言を得ながら研究を進めます。

フィードバックの方法:　卒業研究の作成に関しては，個別に解説し評価と助言を与える。
卒業論文は随時確認し，修正案を記入して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業研究の実践	40	到達目標の情報整理や卒業論文の作成状況をもって評価する。
論文発表	30	到達目標の研究結果や考察，及び研究内容が説明できるかで評価する。
授業への参加度	30	授業に積極的に参加し，到達目標すべてに関わる内容について総合的に評価する。

教科書:　プリントを配布する。

参考書:
・D・W・ジョンソン，R・T・ジョンソン，E・J・ホルベック（2008）『学習の輪―アメリカの協同学習入門―』，二瓶社
小学校学習指導要領　理科編（平成29年3月告示　文部科学省）
授業中に随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業前後に対応，オフィスアワー，Eメール等

457200

海外こども事情B

塘　　利枝子、竹井　　史

授業テーマ:　台湾の保育・教育・子どもの遊び場スタディツアー

授業の概要:

海外こども事情(B)では、来日する子どもの中でも、中国語を母語とする子どもが現在多くなっている点を踏まえ、アジア諸国の中でも治安の良い台湾で、夏期集中にて行う。保育・教育内容や子どもの遊び場と日本のそれらとを比較しながら、文化間移動をする子どもを受け入れる日本の幼稚園、保育所や小学校、そして子どもの遊び場のありかたについて考える。

また台湾では英語教育や多文化教育も小学校等で盛んに行われ、教育の国際化に向けて様々な努力がなされている。さらに遊び場にもICTが取り入れられ様々な工夫がなされている。同じアジア諸国圏内で行われているこれらの施策や教育・保育実践について学ぶとともに、日本で今後行おうとしている政策や教育・保育実践の現状と将来起こりうる問題点について、台湾の大学生と議論しながら検討する。

到達目標:

「知識・理解」
日本と比較したうえで、台湾の保育・教育制度・内容や遊び場の現状について理解する。
乳幼児期や児童期の文化間移動の問題について理解する。
日本人を親に持つ国際結婚家庭の子どもの問題について理解を深める。

「技能」
台湾の現地の子どもや保育・教育者と英語、中国語、日本語、非言語等を駆使して、コミュニケーションをとる。

「関心・意欲・態度」
日本人幼稚園・小学校や現地幼児園・小学校での実習を通して、日本と台湾の教師と子どもとの関係性の違いについて意欲的に考えようとする。
自分とは異なる環境で生活している人々の価値観の違いについて尊重する態度をもつ。
文化間の違いになっている歴史的・地理的な背景に関心をもつ。

授業方法:　話し合い、振り返り、発表などのワークショップ、グループワーク、現地で遊びを通した子どもとの関わりやパフォーマンス(絵本の読み聞かせ、おもちゃ作り)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習1 オリエンテーション	特になし
2.	事前学習2 台湾の社会問題、教育・保育制度、歴史・地理・気候、国際結婚、女性の就業、ICT教育、遊びについての学習1	参考文献を各自読み、自分なりのテーマを探す。 各グループごとにグループごとのテーマを深める。
3.	事前学習3 台湾の社会問題、教育・保育制度、歴史・地理・気候、国際結婚、女性の就業、ICT教育についての学習2 しおり作成	グループごとに発表のための資料作成
4.	事前学習4 子どもたちに対するパフォーマンス案を作成 宿泊研修 現地での活動、交流についての学習	子どもたちの前で披露するパフォーマンスを考え練習する。
5.	現地での活動1 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習(しおり)
6.	現地での活動2 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習(しおり)
7.	現地での活動3 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習(しおり)
8.	現地での活動4 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習(しおり)
9.	現地での活動5 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習(しおり)
10.	現地での活動6 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習(しおり)
11.	現地での活動7 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習(しおり)
12.	現地での活動8 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習(しおり)
13.	現地での活動9 日程に沿ったプログラムと振り返り	危機管理の共有、事前学習の復習(しおり)
14.	事後学習1 事後レポート(2000～3000字) 学びの履歴、学習目標の自己評価	現地でのフィールドノーツの点検 学びのリフレクション
15.	事後学習2 報告会	事後レポートの確認 報告会に向けての資料作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前、事後、現地での活動とも、積極的に参加したり、集団行動への協働の姿勢が求められます。中国語は現地の卒業生が基本的に通訳してくれますが、中国語や英語を使って現地の人と関わろうとする意欲が必要です。単なる旅行ではありませんので、自分が主体的に関わり学ぼうとする態度が、自分の価値観や生き方を変えたり、深い学びにつながっていきます。

フィードバックの方法:　事前学習におけるワークショップ、現地での活動の際の日々の振り返り、現地での学びのプレゼンテーション、事後レポート作成において助言指導を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前・事後学習への参加度	20	積極的に取り組んでいるか、授業目標が達成できているか。
現地での活動への参加度	50	積極的に取り組んでいるか、授業目標が達成できているか。
現地での学びの発表	10	積極的に取り組んでいるか、授業目標が達成できているか。
事後レポート(報告書の作成)	20	積極的に取り組んでいるか、授業目標が達成できているか。

教科書:	特になし
参考書:	池田充裕・山田千明編著（2006）アジアの就学前教育　明石書店 山田千明編著（2006）　多文化に生きる子どもたち　明石書店 宮川充司・津村俊充・中西由里・大野木裕明編（2018）スクールカウンセリングと発達支援（改訂版）　ナカニシヤ出版 佐藤郡衛・吉谷武志編（2005）ひとを分けるもの　つなぐもの：異文化間教育からの挑戦　ナカニシヤ出版 近藤清美・尾崎康子編著（2017）社会情動発達とその支援　ミネルヴァ書房 赤松美知子・若松大祐（2016）台湾を知るための60章　明石書店 亜洲原みづほ（2012）現代台湾を知るための60章　明石書店 野嶋剛（2016）台湾とは何か　ちくま新書
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	e-mail、現地での面談等

457301～06　**基礎演習**

藤原　孝章、濱口　義信、今井　敏博、松崎　正治、笠間　浩幸、上田　信行

授業テーマ:
「大学での学び」・「現代こども学科での学び」とその技法
一想像的創造力と行動力を高める道筋のために一

授業の概要:
「ガクモン・スル」には、ある程度の技術が必要です。本演習では、大学での学びとは・現代こども学科での学びとは何かを、さらに、学びの技法にはどのような方法があるかを、理解することを目的としています。
そのため、少人数で全員参加の授業方式を採用し、1)「学生と学生」・「学生と教員」など双方向・多方向の学び方を、2)参加・参画型のワークショップやディベート、ロールプレイなどを用いた方法を、3)身体表現やコミュニケーションを伴う実践的技法を重視し身につけます。
学びと諸技法理解のために取り上げる具体的なテーマは、各教員によってそれぞれ提示されます。諸技法の水先案内人はクラスごとに異なりますが、基本となる目的は共通しています。

到達目標:
(1)大学での学びのあり方とその技法を理解する。
(2)現代こども学科での学びの特徴を理解し、複数の技法を身につけようとする。
(3)とくに、少人数、双方向、主体的参画型の学び技法の特徴と意義を身につけようとする。
(4)学びの重要な技法として、研究・調査の倫理について知り、身に付ける。

授業方法:
全員参加の演習。毎回必ずレジュメやレポート提出を課し、それらに基づいてワークショップ・報告・議論する習慣を身につける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「基礎演習マニュアル」の配布と基礎演習の運営方法のオリエンテーション、ガイダンス。	本演習の「シラバス」を必ず読んでくること。
2.	図書館オリエンテーション (なお、以降は担当教員と相談の上で下記の項目を計画的に進める)	第1回時に配布した「基礎演習・こども学演習マニュアル」の3頁までを熟読してくる。とくに3頁の図書館での検索に関しては、自分自身の疑問や質問を整理しておく。
3.	著書や論文を読む・参考にする・引用するということ	後日、各自が一人で図書館を訪れ、身につけた書籍・文献等の探し方について復習しておく。
4.	インターネットの活用とマナー	図書館のオリエンテーションと第3回の授業をふまえ、「著書(単著・編著)、論文・雑誌論文・報道紙、エッセー、童話、絵本、ほか」等の違いや、「書誌情報」の確認・記録方法を習得し、ノート整理しておく。
5.	大学におけるレポートの書き方(1) ○事例を示しつつ全体構成(目的、方法、本論／結果、考察等)を学ぶ。 ○参考文献・引用文献の記述方法を学ぶ。	大学からのインターネット利用について、各自が実践・体験に基づく復習をしておく。その上で、不明点等は整理し質問としてまとめておく。
6.	大学におけるレポートの書き方(2) 一盗用・剽窃か、引用・参考文献か一 レポート課題を課す	レポートを記す場合の、引用・参考文献の記述方法、その意義や重要性について、学んだことをノート整理する。
7.	社会調査を読む・読み込む	文献のコピーペースト等の行為が、盗作や剽窃という知的財産に対する犯罪であることを理解し、学んだことをノート整理する。指示された課題を提出する。
8.	社会調査を行ってみる・記述する	各自が学びをもとに、文献・資料等から「社会調査の資料」を探し、演習に持参する。
9.	社会調査の口頭発表一プレゼンの作法・技法・多様性	第8回で行った社会調査の結果と考察を口頭発表資料としてまとめ授業に臨む・持参する。
10.	事例調査の概要を学ぶ	第8回・第9回の社会調査の結果と考察、さらに引用・参考文献を加えレポートを作成し、授業時に提出する。
11.	ディベートとは・対立する課題さがし	ディベート課題を複数考え、自分自身が臨む立ち位置(賛成・反対)を加えた資料を作成し、授業開始時に全員に配布できるよう準備しておく。
12.	ディベート課題の決定と準備	各自が挑戦するディベートのテーマに関する情報、資料、書籍、論文等を探し出し、授業時に持参する。
13.	ディベート実践	「勝利すること」を目的として、ディベート実践の準備を仲間と行い、「実践」に臨む。
14.	ディベートを素材に、レポートを書く一とくに論理的文章を書くということ一	ディベートで活用した賛否両論の全資料を、全員でシェアしておく。
15.	まとめと質疑応答	「論理性」を重視したレポートを自分なりに作成し、授業時に提出する。引用・参考文献の記述方法も、学びに即して正確に記す。 また、本基礎演習全体を通しての学びや質問をノート整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
大学での学びの作法を身につける大切な授業となる。毎回きちんと出席し、4年間の大学生活を充実させて欲しい。

フィードバックの方法:
(1)全授業時に、全員からの質疑応答を確認し、その内容は次回の授業に反映させる。
(2)必要に応じて、次回授業で補足説明や補足資料等を配布し説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	40%程度	新たな人間関係の中での、新しい学びであるため、講義の出席を重視し、活発な発言を期待する。
提出されたレジュメやレポートの内容	60%程度	提出物等を総合的に評価する。具体的な評価基準とその配分等は各担当教員が授業時に指示する。

教科書:
『基礎演習マニュアル一学問の基礎技術2018年度一』(初回配布)

参考書:
適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己表現力

教員との連絡方法:	初回授業時に、双方向の連絡方法、質疑応答用の連絡方法等につて、各教員が受講生に伝える。

457400

現代こども学概論

藤原　孝章、松崎　正治、上田　信行、吉永　紀子、竹井　史

授業テーマ:　現代こども学科４年間の学びとMy こども学へのイメージを創る

授業の概要:
①現代こども学科で４年間学んでいくための志向性を育てるために、自分なりのこども学のイメージをつくる。
②こども学の広領域性、総合性を理解するために、こどもを取り巻く社会問題とそれへの研究的アプローチの多様な事例を知る。（こどもと地球や社会との関わりの中での学び、こどもとことばの学び、こどもとカリキュラムなど）
③学生一人ひとりが「自分のこども学」を構築していくために、関心のあるテーマごとにグループを作って、課題と解決策を探究していき、その探究成果をプレゼンテーションし、成果を共有する。
④作業を通じて学生同士のコミュニケーション、協力、協働の仕方を学んでいく。

到達目標:
知識理解：こどもを取り巻く社会問題とそれへの研究的アプローチを知り、こども学の広領域性、総合性を理解する。
技能：グループ作業を通して、個々の関係性をたかめ、コミュニケーションする力、協力、協働の方法のスキルを高める。これまでの学習からの変化を楽しみ、他者と試行錯誤しながら、つくって語ってふり返る学びのスタイルを身につける。
関心・意欲・態度：学習観 「Myこども学」の構築へ関心を高め、課題と解決策を探究し、プレゼンテーションの成果を共有することで、４年間の学習意欲を身につける。

授業方法:　グループ活動、課題の探究と成果の発表・プレゼンテーション、ふりかえり

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	こども学へようこそ 授業のガイダンス	特になし
2.	私とこども学 私の今と将来　仲間の発見 キューブトーク	特になし
3.	こども学とは何か（全体の概観）	こどもをとりまく様々な課題の学習
4.	私のこども学①（こどもと地球）	こどもをとりまく様々な課題の学習
5.	私のこども学②（こどもと地球）	こどもをとりまく様々な課題の学習
6.	私のこども学③（こどもとメディア）	こどもをとりまく様々な課題の学習
7.	私のこども学④（こどもとことば）	こどもをとりまく様々な課題の学習
8.	課題発見のワークショップ：私のテーマ発見	こどもをとりまく様々な課題の学習
9.	班作りとグループ作業（１） テーマごとの班作り	こどもをとりまく様々な課題の学習
10.	グループ作業（２） 班ごとに資料分析と編集	調査、資料探求（調べ活動）
11.	グループ作業（３） 班ごとに資料分析と編集	調査、資料探求（調べ活動）
12.	グループ作業（４） 班ごとに発表ツールの作成	調査、資料探求（調べ活動）、作業の補充
13.	グループ作業（５） 班ごとに発表ツールの作成	調査、資料探求（調べ活動）、作業の補充
14.	作品発表（１） 仮発表→意見をもらって修整する	作業の補充
15.	作品発表（２） 本発表→意見をもらう 全体のリフレクション	作業の補充

受講者へのメッセージやアドバイス:
一般的な講義ではありません。、次の４つの視点を大切にしたアクティブラーニングの授業です。①学び観の転換、②学びのエンパワーメント、③関係づくり（学びの仲間づくり）、④こども学科４年間の学びのまなざし（志向性）

フィードバックの方法:
毎時間のコメントカード、グループ作業（調べ活動、発表ツールの作成、発表内容）に対する指導と助言、リフレクションムービーを通した学びの確かめ。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	毎回の自身の学びを自分の言葉でふり返り、自身のなかでどのような変化があったかを自覚的に捉えようとしているか
グループ活動による作品発表	30	既成概念にとらわれず、新たな発想や見方を使って、自分たちの探究の成果を表現しようと工夫した足跡が見られるか
レポート	30	自分の学びと協同の学びを多角的に見つめ直して自分の学びの意味づけを語れているか。また、問われた内容に過不足なく自分の言葉で説明することができているか。

教科書:　特になし

参考書:　授業で適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:
e-mail（第１回授業時に連絡）、授業前後の質問時間に対応する。また必要があればオフィスアワーの質問、相談にも応じる。

457500

教育とこどもの社会史

堀家　　由妃代

授業テーマ:

授業の概要:

近世・近代・現代の「こども」観の変遷について、学校教育や家庭教育との関係でみていきます。この授業を通じて、過去の日本社会のあり方やそのなかでの子ども・子育ての実態を学ぶことで、現代の教育問題やこども問題の反省的な見方や捉え方を習得し、よりよい未来社会を創造するための手がかりを得ることが目的です。

到達目標:

まずは、受講者それぞれが自明としている「こども」について様々に捉えなおすことができるようになることが大きな目標です。そうした広いこども観をもって、子どもをめぐる昨今の社会問題についても、批判的にみることができるようになること。そして、それらの課題についての具体的なアクションの可能性についても考えられるようになることが重要と考えられます。

授業方法:

基本は講義形式（PowerPointによる説明）ですが、受講者の規模やニーズによって適宜参加型（グループでの発表等）を求めることがあります。また、講義内容のさらなる理解のために、必要に応じて映像等を視聴します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（講義の概要や受講に当たっての注意事項の説明、講義資料の配布）	一連の講義に関する注意事項について説明するのはこの日限りになるので、履修者は必ず出席すること。
2.	「子ども」とはだれか	「子ども」についてのイメージをいろいろに準備しておいてください。
3.	「子ども」の誕生	文献配布予定です。復習し、近世の子ども観について理解を深めておくこと。
4.	近代・学校化社会の成立と子ども ：子どもと学校	資料配布予定です。復習し、近代の子ども観について理解を深めておくこと。
5.	近代・学校化社会の成立と子ども ：子どもと家庭	資料配布予定です。復習し、近代の子ども観について理解を深めておくこと。
6.	日本の戦後教育史①	最新の小学校学習指導要領／幼稚園教育要領／保育所保育指針について調べておいてください
7.	日本の戦後教育史②	学習指導要領等の歴史的変遷について簡単に予習しておいてください。
8.	変動する社会と子ども：子育ての格差	子育ての手がかり（雑誌・通信教材など）について簡単に情報を入手しておいてください。
9.	変動する社会と子ども：学校の中の子ども	資料配布予定です。復習し、現代の子ども観について理解を深めておくこと。
10.	変動する社会と子ども：教育病理	「教育病理」について具体的にイメージできるようにして授業に臨んでください。
11.	変動する社会と子ども：ジェンダー	ジェンダーについて基本的な理解をしたうえで、授業に臨んでください。
12.	変動する社会と子ども：障害児教育	資料配布予定です。復習をし、戦後障害児教育について理解を深めてください。
13.	変動する社会と子ども：子どもの貧困	子どもの貧困問題についてニュースなどで予習をして授業に臨んでください。
14.	「子ども」と「発達」を考える	子どもの発達について予習をし、自身の発達観を整理しておいてください。
15.	まとめのレポート作成	レポートを書いてもらう予定です。これまでの授業で学んだことについて各自整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

コメントペーパーで出た質問等については次回以降の授業時間内で解説します。レポート課題等については添削して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および出席中のコメントペーパー	40	基本的に出席重視。原則的に3分の１以上欠席者は評価外としますので、注意してください。コメントペーパーについても内容の適切さに応じてA、B、Cで評価し点数化します。
授業時間内のレポート	30	内容の適切さに応じてA、B、Cで評価し点数化します。
試験またはレポート課題	30	内容の適切さに応じて点数化します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

基本的には授業の前後に教室内で対応しますが、必要に応じてEmailなどでも対応します。アドレス等については授業時間のなかでお知らせします。

457600

こどもの発達心理学

塘　　利枝子

授業テーマ:　こどもの発達心理学

授業の概要:　生涯発達をふまえながら、特に乳幼児期から児童期の発達を中心に、知覚、記憶、認知、対人関係、自己、情緒、ことばとコミュニケーション、遊びと友だち関係、社会的認知と社会的行動等に関する発達心理学の基礎を学習します。さらに発達障害に関する基礎的な知識の習得を通して、子どもの発達の諸相を見る基本的なものの見方と考え方を身につけることを目指します。
この授業の内容は2年次の「発達と学習の心理学」につながるものです。

到達目標:

「知識・理解」
発達心理学の諸理論の基礎を理解している。
子どもの発達、遊びや学び、障害についての知識を身に付けている。

「関心・意欲・態度」
子どもの発達について関心を持ち、授業内の活動にも積極的に参加する。
子どもに関わる専門性を身に付けた者、専門職業人として、子どもや専門者集団に対して共感的かつ理性的に自ら関わろうとする態度を身に付けている。

「表現・技能・能力」
毎回行われる知識定着をはかる小テストにおいて7割以上の正答が見られ、レポート課題でも要求された内容を表記できる。
現代社会に生きる子どもの問題を多角的に分析し、理論と実践を結び付けて問題に対する解決策を実態に即して提案することができる。
子どもの実際の姿からその背景にあるものを把握し、収集した情報を関連づけながら問題を発見して保育・教育などの現場で問題解決に臨むことができる。

授業方法:　講義を中心に行いますが、受講者同士の話し合い、教え合いも数回行います。毎回授業の初めに知識定着のための小テストを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	発達心理学とは	子どもに関心を持って臨んで下さい。
2.	発達のしくみ1	教科書 前回の復習
3.	発達のしくみ2	教科書 前回の復習
4.	知覚の発達	教科書 前回の復習
5.	記憶の発達	教科書 前回の復習
6.	認知の発達1	教科書 前回の復習
7.	認知の発達2	教科書 前回の復習
8.	対人関係の発達	教科書 前回の復習
9.	自己の発達	教科書 前回の復習
10.	情緒の発達	教科書 前回の復習
11.	ことばとコミュニケーションの発達1	教科書 前回の復習
12.	ことばとコミュニケーションの発達2	教科書 前回の復習
13.	遊びの発達と友だち関係	教科書 前回の復習
14.	社会的認知と社会的行動の発達	教科書 前回の復習
15.	まとめと発達障害	教科書とノートを読んで学習内容をまとめておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:
毎回行われる小テストのための復習は必ずしておいてください。
教科書を事前に読んで毎回の授業の準備をしておいてください。
レポート課題が冬休みに出されます。十分な時間をかけて作成することが必要です。

フィードバックの方法:
授業後やコメントシートで数人から受けた質問に対しては、次回の授業で全体に対して話します。
マナビーにも質問の回答を載せておきます。
わからないところは積極的に質問に来て下さい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	20%	詳細に子どもの行動と考察が記述されている。 振り返りの感想が書かれている。 授業で学習した理論を引用しながら考察されている。
小テスト	20%	毎回正答数
試験（論述式）	40%	授業で学習した内容が的確に表現されている。 具体例が必要に応じて書かれている。 わかりやすい文章で書かれている。
出席を含む積極的な授業態度	20%	出席回数（公欠以外の3回以上の欠席は単位取得不可能） 質問を多くする。

教科書:　繁多進監修　『新　乳幼児発達心理学』 福村出版　2010

参考書:
柏木惠子編著 『発達の心理学』 萌文書林　2012（図書館にあります。このほかにも発達心理学関係の本が多数図書館にありますので、随時目を通しておいて下さい。）
向田久美子編著 『発達心理学概論』 放送大学　2017

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力、
教員との連絡方法:	授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。

457700

児童文化論

川北　　典子

授業テーマ:　子どもの生活と児童文化

授業の概要:　児童文化は、子どもの生活全般にかかわるものであるが、現代の子どもをとりまく文化的環境は多様化を極めている。とりわけ玩具や絵本など、乳幼児の身近な文化財については、その質量ともに大きな変容を示しており、それらを選択し手渡すおとなの役割が重要となっている。この授業では、児童文化財の活用・伝達をとおして、それらが子どもの心身の発達に及ぼす影響について考察する。

到達目標:　絵本・児童文学・紙芝居・人形劇・玩具などの児童文化財について、内容や表現を具体的に検討し、それらを選択する眼を養うとともに、子どもたちに手渡す方法や技術を習得する。
児童館や児童図書館、児童博物館等の施設について、児童文化的視点からそれらの必要性、機能性、および職員の専門性などの理解を深める。

授業方法:　講義が中心であるが、簡単な玩具や人形劇の制作も適宜おこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	児童文化とは何か	幼児期に出あった絵本や玩具について思い出しておく
2.	児童文化財　絵本の選択と種類	好きな絵本を見つけておく
3.	児童文化財　乳児絵本	あかちゃん絵本の必要性について考えておく
4.	児童文化財　物語絵本	さまざまな種類の絵本に出あう
5.	児童文化財　科学絵本	「かがくのとも傑作集」（福音館書店）の中から興味深い絵本を選んでおく
6.	児童文化財　昔話絵本	日本の五大昔話やグリム童話を読んでおく
7.	児童文化財　絵本の選択方法と読み方	子どもにとっての絵本の意義について考える
8.	児童文化財　幼年文学	日本の幼年文学に出あう
9.	児童文化財　詩	少年詩・児童詩に出あう
10.	児童文化財　紙芝居の特徴と演じ方	図書館等にある紙芝居を演じてみて、絵本との違いを理解する
11.	児童文化財　玩具の種類	子どもの頃遊んだ玩具を思い出しておく
12.	児童文化財　人形劇の歴史と種類	指人形のデザインを考えておく
13.	児童文化財　指人形の制作	材料を準備する
14.	児童文化施設	地域の児童館や児童図書館について調べておく
15.	保育・幼児教育と児童文化	子どもの発達にとっての児童文化財の意義について自分なりにまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　自分自身が幼い頃に出合ったであろう児童文化財について、保育者の視点で考えます。自らの幼少期を振り返るとともに、現代の子どもの文化的環境にも常に関心をもってください。

フィードバックの方法:　毎回コメントおよび感想を提出。必要に応じて教室にて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	40%	到達目標である絵本・紙芝居・玩具などの児童文化財について、知識を深め、適切な選択眼を持っているかを評価する
提出物	30%	講義した児童文化財や児童文化施設について、内容や特徴を的確に理解しているかどうかを評価する
授業への参加度	30%	積極的な授業参加への姿勢と、児童文化財を適切に子どもたちに手渡す技術を習得できたかどうかを評価する

教科書:　川北典子・他編　子どもの生活と児童文化　創元社

参考書:　川北典子編著　子どもの育ちを支える児童文化　あいり出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室にて対応する

457800

教育社会学

渋谷　　真樹

授業テーマ:　教育社会学へのいざない

授業の概要:　本授業では、現代社会におけるさまざまな教育現象への社会学的なアプローチを学んでいきます。
具体的には、①学力、②教科外教育、③多文化と子ども、という3つのテーマを扱います。
それぞれのテーマについて、読む、調べる、話し合うという活動を通して、受講生が主体的に学び、教育についての理解を深めていくことを目指します。

到達目標:
1　教育社会学の初歩的な文献を正確に読み取り、子どもを取り巻く環境や社会システム間の関係性、問題解決のためのシステム構築について理解している。
2　学力や教科外教育、多文化教育といった現代的な教育の現象について、客観的な情報を収集し、分析することができる。
3　現代社会における教育問題について、自分なりの意見を発信し、他者と議論することができる。

授業方法:　講義／演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	「今、教育についてどんな問題意識をもっているのか」、「この授業で、どんなことを学びたいのか」を整理する。
2.	教育の社会学	教育に対する社会学的なアプローチについて学ぶ。
3.	社会の中の教育	これまでの自分の教育経験を振り返り、「選抜」や「学歴」など、社会構造と教育との関連を考える。
4.	学力を考える①　学力調査	志水ら(2014)の前半を読み、学力調査や学力格差について学ぶ。担当者は、レジュメを用意すること。
5.	学力を考える②　学力格差	志水ら(2014)の中盤を読み、学力格差の背景を理解する。担当者は、レジュメを用意すること。
6.	学力を考える③　効果のある学校	志水ら(2014)の後半を読み、学力格差を是正することに効果をあげている学校の特徴を学ぶ。担当者は、レジュメを用意すること。
7.	教科外教育を考える①　学校行事	内田(2015)の前半を読み、学校行事やにおけるリスクについて学ぶ。担当者は、レジュメを用意すること。
8.	教科外教育を考える②　2分の1成人式	内田(2015)の中盤を読み、学校が前提としがちな家庭のあり方について、批判的に考える。担当者は、レジュメを用意すること。
9.	教科外教育を考える③　体罰・事故	内田(2015)の中を読み、部活動や体罰・事故について考える。担当者は、レジュメを用意すること。
10.	教科外教育を考える④　教師の仕事	内田(2015)の後半を読み、学校が担うべき責任や教師の働き方について考える。担当者は、レジュメを用意すること。
11.	多文化の中での学びを考える①　多文化な子どもの現状	多文化な子どもたちのこれまでと現状を理解する。担当者は、レジュメを用意すること。
12.	多文化の中での学びを考える②　多文化な子どもの教育	多文化な子どもたちに対する家庭や学校、地域での対応について理解する。担当者は、レジュメを用意すること。
13.	多文化の中での学びを考える③　国際バカロレアの理念と方法	先端的な国際教育の例として、国際バカロレアの概要を理解する。担当者は、レジュメを用意すること。
14.	多文化の中での学びを考える④　国際バカロレアの可能性と課題	国際バカロレアを日本に導入することの可能性と課題について考える。担当者は、レジュメを用意すること。
15.	まとめ	授業全体をふりかえって、社会における教育の機能や、現代社会における教育問題について議論する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　テキストの講読や教育に関する調査、発表や議論を盛り込み、アクティブ・ラーニングを目指していきます。受講生の積極的な参加を望んでいます。
なお、受講生の状況に応じて、授業内容やテキストの一部を調整することがあります。

フィードバックの方法:　授業では、質疑や議論の時間を多くとりますから、そこで随時応答していきます。
授業でのプレゼンテーションについては随時コメントし、学期内に力を伸ばしていけるようにします。
レポートは、コメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	30%	文献の理解度(到達目標1)、教育現象に関する調査・分析の深まり(到達目標2)、プレゼンテーションの明快さや説得力(到達目標3)を評価します。
討論	30%	教育問題について、自分の意見を的確に発信し、他者の意見を理解して議論を深めているかを基準とします(到達目標3)。
レポート	40%	先行研究の理解(到達目標1)や客観的根拠を踏まえて(到達目標2)、自分の意見を説得力をもって表現できるかを基準とします(到達目標3)。

教科書:
志水宏吉・伊佐夏実、知念渉、芝野淳一『調査報告「学力格差」の実態』(岩波ブックレット、2014年)
内田良『教育という病—子どもと先生を苦しめる「教育リスク」—』(光文社新書、2015年)

参考書:
財団法人アジア・太平洋人権情報センター『外国にルーツをもつ子どもたち—思い・制度・展望—』(現代人文社、2011年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に声をかけてください。あるいは、shibuya@nara-edu.ac.jpにEメールしてください。その際、タイトルと差出人を忘れずに記してください。

457900

こども福祉論

小宅　　理沙

授業テーマ:　こどもの最善の利益と家庭支援

授業の概要:　児童の権利条約にて子どもの権利が保障されているように、全ての子どもには、生まれ育った環境などにより左右されることなく、適切な養育を受け、健やかな発達を保障される権利があります。しかし実際には、児童虐待やDVなどの増加、あるいは経済格差の影響を受け貧困児童が増加するなど、子どもの権利が大きく侵害されているといっても過言ではありません。そこで本授業では、現代社会を取り巻く現状と課題を明確にするとともに、子どもの最善の利益のために何が必要かについて学びます。

到達目標:
（1）基本的な講義内容を理解する。
（2）こども家庭福祉の基礎的理解を養い、子育ての責任は誰にあるかを解説できるようにする。
（3）他者の意見をよく聴き、自分の意見を正確に伝えることのできる意欲や態度を養う。

授業方法:　基本的には、テキストなどに基づき講義を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	現代社会における児童家庭福祉の理念	シラバスを読んでくること。
2.	児童家庭福祉の制度	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P19～25）
3.	諸外国における児童家庭福祉の歴史	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P13～18）
4.	児童家庭福祉の施設と専門職	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P65～70）
5.	児童虐待	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P51～56）
6.	ドメスティック・バイオレンス（DV）	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P56～63）
7.	児童虐待に関するDVD教材①	授業の振り返り
8.	児童虐待に関するDVD教材②	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P71～74）
9.	社会的養護	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P27～37）
10.	母子保健とこどもの健全育成	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P39～50）
11.	少子化と子育て支援サービス	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P75～87）
12.	障害のあるこどもへの対応	授業の振り返りと、次回に該当するテキスト部分の通読（P95～102）
13.	少年非行等への対応	授業の振り返りと、次回に該当する新聞記事等の検索
14.	多様な保育ニーズへの対応	授業の振り返りと、次回に該当する新聞記事等の検索
15.	保育士が行う保育・教育・療育・保健・医療等との連携とネットワーク	授業の振り返りと、これまでに学んだことの整理

受講者へのメッセージやアドバイス:　こどもの最善の利益を護るためには、こどもの置かれている現状を理解するとともに、こどもの立場に立って物事を考えていくことが必要です。こどもの健全育成を推進していくための知識、技術を身につけていきましょう。

フィードバックの方法:　授業最後に集める質問等には次回の授業にてフィードバックします

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	積極的に授業に参加すること。発表や質問等は加点、受講マナー、居眠りや私語、携帯電話等の授業妨害は減点
定期試験	70	到達目標の子ども家庭福祉の基礎的理解度と、子どもや家庭を取り巻く状況を論理的に説明できるか等を基準とする

教科書:　（監修）小宅理沙 『子ども家庭福祉』 青山社
松井圭三・今井慶宗 編 『NIE　児童家庭福祉演習』 大学教育出版

参考書:　（監修）流石智子 『知識を生かし実力をつける子ども家庭福祉』 保育出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール　rackychan@hotmail.com

458000

地域社会とこども

浜田　　進士

授業テーマ:　子どもの居場所～子どもが育つ地域社会の構想～

授業の概要:　子ども支援事業のなかで、学校でも家庭でもない地域社会のおける「第三の居場所」「ナナメの関係」の重要性が認識されている。日本の自治体やNPOでは、つどいの広場事業、放課後児童対策、児童館、不登校・ひきこもり支援、中高生の居場所づくり、就労支援など様々な居場所づくりを実施している。
貧困問題の悪化・失業や雇用の不安定化など、子ども・若者の社会的排除・周辺化が進行している状況のなかで、自分の存在価値や自己有用観を喪失し、自分にも他人にも信頼することができず、あきらめている子どもが増えている。このような子ども・若者に、子どもの権利を保障し、目標や意欲を持って生きていける居場所の確保が急務である。
例：子ども食堂、学習支援、夜の居場所、フードバンク、

到達目標:　この講義では、子どもも地域も元気になっていく活動の事例を紹介する。さらに「子ども参加」と「自治体とNPOとの共働」の視点から、子どもの居場所づくりにおける地域社会の課題は何か、子どもの居場所づくりを通して、子どもにとってもすべての人にとっても「やさしいまち＝Child Friendly Cities=CFC」をどのようにつくっていくのかを、学生の皆さんとともに議論を深める。

授業方法:　講義・議論
日本の地域社会で行われている居場所づくりの実践例を紹介する。学生の理解が進むようにできるだけ毎回映像を使う。
（内容や順番は変更する可能性がある）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション あなたにとって居場所とは何か？	参考文献を配布
2.	子どもの居場所の歴史　その1 ～不登校の子どもの居場所・川崎市子ども夢パーク～	資料を配布して、復習を指示
3.	子どもの居場所の歴史　その2 ～地域の居場所がなくなる　地域の居場所から逃げる・児童虐待の増加、子育ての孤立化、犯罪による不安感の拡大 子どもと母親の居場所　びーのびーの	資料を配布して、復習を指示
4.	小学生の放課後の居場所～アフタースクールの課題～	資料を配布して、復習を指示
5.	遊びと学びと働くがごちゃまぜ・子どもがつくるまち ～ミニ・ミュンヘン（ドイツ）とキッズシティすいた（大阪）～	資料を配布して、復習を指示
6.	ディスカッション（1）～子どもにとって居場所とは何か？ ⇒子ども参加の視点から～	ディスカッションをもとに、中間レポートの作成
7.	食がつなぐ子どもと地域 ～東京池袋・「要町あさやけ子ども食堂」（夜の児童館））～	資料を配布して、復習を指示
8.	学習支援教室　→継続して関わること、子どもに聴く、居場所となる 「渡塾」あっとスクール　渡剛さん	資料を配布して、復習を指示
9.	「京都山科醍醐こどものひろば」の学生ボランティ活動（DVD視聴） 「トワイライト・ステイ」「ナイトステイ」　子ども縁による地域づくり	資料を配布して、復習を指示
10.	西成こども里 「いつでも、だれでも行くことができる」地域の包括的な居場所	資料を配布して、復習を指示
11.	「おかえり～非行に走る子どもたちの居場所」 中本　忠子（ちかこ）さん　食べて語ろう会（広島市中区）	資料を配布して、復習を指示
12.	家庭で家族と暮らす権利を奪われた15歳から20歳の子どもの居場所 自立援助ホームあらんの家	資料を配布して、復習を指示
13.	生活困窮世帯の子どもたちに文化的な体験をまるでシャワーを浴びるようにできる居場所を～神奈川県立田奈高校内カフェ「ぴっかりカフェ」の実践～	資料を配布して、復習を指示
14.	多文化の子どもたちの居場所～とよなか国際交流協会の実践～ ～多様な子どもを支えることがレジリエンス【resilience】の高い地域社会に～	資料を配布して、復習を指示
15.	まとめ：子どもが育つ地域社会の構想 ～「子どもにやさしいまち＝Child Friendly Cities=CFC」をどうつくっていくか	議論をもとに期末レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、できるだけ次回の講義に関する資料を配布するので、必ず読んで自分なりの意見を準備して講義に臨むこと。随時、確認作業を行うので、復習をしておくこと。

フィードバックの方法:　前回の質問には次回の冒頭に応答します。
またメールによる質問にも応答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
議論・発表への積極的な参加	60	毎回授業の中でコメントペーパーを書いてもらう。そのペーパーの提出、内容に関する評価を重視する
中間＋期末レポート	40	インターネットからのコピー＆ペーストについては、適切な引用ルールを踏んでいないものは大幅な減点対象とする

教科書:　特に指定はしません。毎回の講義時にレジュメと資料を配布

参考書:	子どもの権利条約総合研究所　編『子どもの居場所ハンドブック』日本評論社2013年 阿比留久美「『居場所』の批判的検討」『若者の居場所と参加』東洋館出版社　2012年 萩原建次郎「人間の発達観と子どもの現場」田中治彦編著『子どもと若者の居場所の構想』学陽書房、2001年 「特集・子どもの居場所づくり」『子どもの権利研究』第6号日本評論社　2005年 西野博之著『居場所のちから』教育史料出版会　2006年 内田宏明「子どもの居場所づくり」『子ども条例ハンドブック』、日本評論社、2008年 「アクタースクール～放課後の子どもたちの居場所のいま～」『児童心理』臨時増刊2009年2月号金子書房 池本美香編著『子どもの放課後を考える～諸外国との比較でみる学童保育問題～』 勁草書房2009年 『放課後児童クラブの」の可能性』児童心理2016年8月号　臨時増刊　金子書房 『いま、子どもの放課後はどうなっているのか』深谷昌志・深谷和子・高旗正人編　2006年　北大路書房
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	初回にメールアドレスを明記します。

458100

ユニセフとこども支援

浜田　　進士

授業テーマ:　開発途上国の子ども支援

授業の概要:　開発途上国において、ユニセフ（国際連合児童基金）が子どもをどのように支援しているのかを学ぶ。ユニセフの使命の基本である「国連・子どもの権利条約」を踏まえながら、南アジアのバングラデシュを事例に、ユニセフの組織、政策の変遷、活動内容、各国政府・NGO・企業・市民との関係などについて考察する。

到達目標:　学生には、この講義を通して、開発途上国の子どもの人権に関心をもち、日常生活の中で国際協力にどのように参加できるか考えてほしい。積極的に外部の学習会やNGOへの国内ボランティア活動、海外のスタディツアーなどに参加する意欲を期待する。

授業方法:　講義　毎回視聴覚教材を使用　随時バズセッションを実施

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・私とユニセフ	今後購読すべき参考文献を提示
2.	ユニセフの組織と歴史、募金の流れ　開発途上国の子ども支援の方法・ユニセフの組織と歴史について	関連資料を配布して復習を指示
3.	子どもにはチカラがある～子どもの権利条約～	関連資料を配布して復習を指示
4.	「生きる権利」と乳幼児の保健・栄養・衛生～ラクの物語～	関連資料を配布して復習を指示
5.	「生きる権利」と乳幼児の保健・栄養・衛生その2　ユニセフの取組み～	関連資料を配布して復習を指示
6.	「育つ権利」と初等教育　女子教育　その1　非識字体験	関連資料を配布して復習を指示
7.	「育つ権利」と初等教育　女子教育　その2　ユニセフの取組み	関連資料を配布して復習を指示
8.	「ふせぐ権利」と児童労働	関連資料を配布して復習を指示
9.	「聴いてもらえる権利」とストリートチルドレン　～ダイヤモンドランキング～	関連資料を配布して復習を指示
10.	「気持ちをカタチにする権利」とストリートチルドレン　ユニセフ包括的な実態調査と地元のNGOの取り組みを支援	関連資料を配布して復習を指示
11.	ユニセフの政策転換　人権に基づくアプローチ（RBA）～ジェンダーから見たストリートチルドレン～	関連資料を配布して復習を指示
12.	子ども買春とアドボカシー（政策提言）	関連資料を配布して復習を指示
13.	子ども買春とアドボカシー（政策提言）その2	関連資料を配布して復習を指示
14.	気候変動と子ども	関連資料を配布して復習を指示
15.	日本とユニセフ～東日本大震災と日本ユニセフ協会～まとめ	関連資料を配布して復習を指示

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、できるだけ次回の講義に関する資料を配布するので、必ず読んで自分なりの意見を準備して講義に臨むこと。随時、確認作業を行うので、復習をしておくこと。

フィードバックの方法:　毎回のふりかえりシートによる質問には次週応答する。
メールに対する質問にはその都度応答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
議論・発表への積極的な参加	60	毎回授業の中でコメントペーパーを書いてもらう。そのペーパーの提出、内容に関する評価を重視する
中間＋期末レポート	40	インターネットからのコピー＆ペーストについては、適切な引用ルールを踏んでいないものは大幅な減点対象とする

教科書:　特に指定しない
毎回の講義時にレジュメと資料を配布

参考書:　ユニセフ『世界子供白書』各年版　ユニセフ駐日事務所

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　初回にメールアドレスを明記する

458200

こどもの医療

眞鍋　えみ子、萩本　明子、和泉　美枝、川崎　友絵、木村　洋子、植松　紗代

授業テーマ:　こどもの成長・発達と医療との関わりについて考える

授業の概要:　少子化社会におけるこどもの成長発達の特徴と医療との関わりについて学ぶ。まず、出生前期の胎児の発育においてその環境としての母体の健康の大切さを理解した上で、新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期の成長・発達、こどもに起こりやすい健康上の問題とその予防方法について学ぶ。次にわが国における小児保健・医療の現状を理解し、医療におけるこどもの意思決定について考える。

到達目標:
1)こどもの成長・発達、こどもに起こりやすい健康上の問題とその予防について理解できる。
2)わが国における小児保健・医療の現状を理解できる。
3)小児保健・医療の現状や医療におけるこどもの意思決定についての問題意識を持つことができる。

授業方法:　1:講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	胎児の発育環境:妊娠の成立と経過 ［眞鍋］	可能であれば両親に誕生時の様子を聞いておく
2.	出産環境と胎外生活への適応(1):わが国の現状［眞鍋］	前回の授業資料内容を理解しておく
3.	出産環境と胎外生活への適応(2):開発途上国の現状 ［眞鍋］	前回の授業資料内容を理解しておく
4.	こどものからだと心の特徴(1):こどもの発育・発達と睡眠［植松］	前回までの授業資料内容を理解しておく
5.	こどものからだと心の特徴(2):こどもの認知発達と疾患の理解[萩本]	ピアジェの発達理論について調べておく
6.	こどものからだと心の特徴(3):疾病や障がいがこどもや家族へ及ぼす影響[萩本]	前回の授業資料内容を理解しておく
7.	こどものからだと心の特徴(4):こどもに起こりやすい症状と対処[萩本]	前回までの授業資料内容を理解しておく
8.	こどものからだと心の特徴(5):成長発達への影響因子［川崎］	前回までの授業資料内容を理解しておく
9.	こどものからだと心の特徴(6):性といのちの教育から ［眞鍋］	前回までの授業資料内容を理解しておく
10.	こどもの健康問題と医療(1):小さく生まれた赤ちゃんー新生児集中治療室(NICU)での医療とケアー ［和泉］	前回までの授業資料内容を理解しておく
11.	こどもの健康問題と医療(2):予防接種 ［川崎］	可能であれば自分自身の母子手帳の予防接種欄を見ておく
12.	こどもの健康問題と医療(3):こどものメンタルヘルス ［木村］	前回までの授業資料内容を理解しておく
13.	医療におけるこどもの意思決定 こどもの人権を守る『医療保育専門士』『子ども療養支援士』の紹介 ［川崎］	前回までの授業資料内容を理解しておく
14.	急性期の治療を受けるこどものケア ［ゲストスピーカー:辻尾有利子］	前回までの授業資料内容を理解しておく
15.	まとめ	これまでの授業資料内容を見直しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　こどもの成長・発達と医療との関わりについて問題意識をもてるように講義を進めていきます。参考文献は授業中に、適宜紹介します。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びコメントペーパー提出	40	授業に参加し、内容の理解度やテーマに関する問題意識を確認する。
定期試験	60	到達目標1)2)に関する知識や関する理解度により評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対もしくはE メールを利用

458300

こどもスポーツ論

濱口　　義信

授業テーマ:

授業の概要:

現代のこどもが直面している発育発達をはじめとする体の問題、遊びに関わる仲間づくりや自己実現、そして学校におけるいじめ問題など、スポーツが役割を果たすべき領域は多様である。また、従来の学校運動部中心だったスポーツも大きく変わろうとしている。このような大きな社会的変化の中で、こどもの心と体の豊かな成長を支えるこれからのこどもスポーツのあり方と、指導者に必要な資質を検討する。

到達目標:

こどもの発育・発達における運動遊びやスポーツの役割を体・動き・心の各側面から理解し、現実の問題点を把握してより良い成長を促進する環境設定や配慮のための工夫や対策を立案して実行することが出来る能力を身に付けることを目指す。

授業方法:

講義による資料提供を基礎として、そこから見出される諸課題についてグループ研究発表やディスカッション行い、受講者が主体的に取り組める授業にしたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	こどもスポーツの課題・問題点を箇条書きしておく
2.	現代社会におけるこどもの諸問題とスポーツ	子供の頃のスポーツ体験を整理しておく
3.	こどもの体の発育と運動	近年の体形の変化とその問題点を箇条書きにしておく
4.	こどもの健康・体力と運動	事前:こどもの健康問題を箇条書きしておく　事後課題:毎日の運動量を記録(一週間)、評価し、今後の改善方計画を立てる。
5.	こどもの運動能力と心の働き	運動能力の低下による問題点を箇条書きしておく
6.	運動・スポーツと人間形成の諸側面	自分の経験からスポーツが人間形成に役立つ点を箇条書きしておく
7.	こどもの遊びの現状と問題点	こどもの遊びの変化を箇条書きしておく
8.	スポーツから見たこどもを取り巻く遊び・運動環境	事前:家、地域、学校に分けて遊び環境の変化を箇条書きしておく　事後:自分の家(実家)周辺の遊び環境を調べてレポートする
9.	こどもの運動遊び・スポーツと総合型地域スポーツクラブ	住んでいる地域にある総合型地域スポーツクラブを調べておく
10.	総合型地域スポーツクラブの諸相	事後:自分の住んでいる地域の運動遊び環境の改善計画を立てる
11.	世界のこどもスポーツから学ぶもの	日本でこどもがスポーツをする場所・時間・組織などを整理しておく
12.	これからのこどもスポーツ環境論	運動遊びと競技スポーツをする場所を増やす方法を考える
13.	こどもスポーツ指導者の資質と指導法	運動遊びと競技スポーツでどのような指導者に出会ったか、問題点と共に箇条書きにしておく
14.	こどもスポーツから変革する地域と社会	授業で取り上げたテーマと資料を見直して自分なりの改善の方向性を考えておく
15.	こどもスポーツの諸問題と解決の方向性	授業で取り上げたテーマと資料を見直して自分なりの改善の方向性を考えておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

こどもにとって運動やスポーツは遊びであると共にからだと心を形成する中核となる活動です。現代社会の大きな変化の中で現実に起こっている様々な問題点を整理し直し、こどもたちが自由に楽しむ中で、自然によりよい発育と発達を遂げていく環境を作るのは大人の責任です。受講者それぞれの体験と知恵を持ち寄ってこれからのこどもスポーツのあり方を考えていきましょう。

フィードバックの方法:

基本的に次の授業時間にコメントシート等の内容を報告して前回授業の振り返りと今回授業のイントロダクションとして用いる。また必要に応じて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的取り組み	50	授業への取り組みと毎回のコメントシート
授業課題	20	課題の達成度
授業内容の主体的把握	30	最終コメントシートの内容

教科書:

参考書:

永井 洋一、2004、スポーツは「良い子」を育てるか、NHK出版 (生活人新書)
中山和義2008、スポーツから気づく大切なこと、実業之日本社
ジョン・J・レイティ、2009、脳を鍛えるには運動しかない！、NHK出版
佐保豊、2009、「日本のスポ-ツはあぶない」、小学館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

yhamaguc@dwc.doshisha.ac.jp

458400

多文化共生とこども

藤原　　孝章

授業テーマ:　多文化共生社会の中のこども支援

授業の概要:
・多文化化が進む日本社会。多様な文化を受け入れ共生していく価値観の育成が求められている。講義では、多文化社会が成立する歴史的背景（日系移民史）や世界の多文化社会の事例など、多文化のなかのこどもなどに焦点を当てながら、地球的課題の1つである「人の移動と共生」の問題をグローバルとローカルな視点からとらえて考察する。
・外国人のこどもの教育が重要な課題になっている日本の小学校。講義はこのようなこどもを理解するために必要な市民的資質について検討する。

到達目標:
知識理解：多文化社会が成立する歴史的背景（日系移民史）や世界の多文化社会の現状についての知識を獲得する。
技能：多文化社会における情報のリテラシーや多様性を受け入れるスキルを身につける
関心・意欲・態度：多文化に対する多様な立場や意見を踏まえて、多文化社会を形成していく資質を養う

授業方法:　講義、ワークショップ、グループ学習活動、学習の確認のための試験

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、エントリーシートの記入	1回目から出席すること
2.	最近の多文化共生をめぐる話題から1 ヘイトスピーチをめぐる動き	教科書・参考文献の熟読
3.	最近の多文化共生をめぐる話題から2 外国にルーツを持つ人々	教科書・参考文献の熟読
4.	世界システムの成立と日系移民（1） 日系移民史概観	教科書・参考文献の熟読
5.	世界システムの成立と日系移民（2） 日系移民史概観	教科書・参考文献の熟読
6.	多文化社会日本（1） 「ひょうたん島問題」1（地域の課題）	教科書・参考文献の熟読
7.	多文化社会日本（2） なぜ日本に外国人がやって来るか、どんな仕事についているか	教科書・参考文献の熟読
8.	多文化社会日本（3） 「ひょうたん島問題」2（教育の課題）	教科書・参考文献の熟読
9.	多文化社会日本（4） ニューカマーの課題（こどもの教育など）	教科書・参考文献の熟読
10.	多文化社会日本（5） 在日外国人の課題	課題レポートの準備
11.	多文化社会をめぐる世界の課題（1） 欧米など各国の現状、社会的包摂の課題	課題レポートの準備
12.	多文化社会をめぐる世界の課題（2） 欧米など各国の現状、社会的包摂の課題	課題レポートの準備
13.	課題レポートの提出とグループ発表 （日本の事例、諸外国の事例）	課題レポートの準備
14.	レポート返却、ふりかえり	課題レポートの検討
15.	学びの確かめのための試験（持ち込み可）	講義資料、課題レポート、参考文献の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義型授業ではなく、アクティブラーニングとしての参加型学習を多用するので、授業方法自体が問題の発見、理解、解決をすすめていくものとなっている。したがって欠席、遅刻があると授業目標への到達が困難になります。
課題レポートを提出するので、あらかじめ紹介した参考文献（課題図書）をしっかりとよんでおくこと。

フィードバックの方法:　毎時間ごとの振り返りカード（コメントカード）への一言、課題レポートへのコメントと返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	ふりかえりやワークショップを含め、授業に積極的に取り組んでいるか
レポート課題	30	授業目標に到達しているか
学びの確かめのための試験	30	授業目標に到達しているか

教科書:
藤原孝章（2008）『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」―多文化共生社会ニッポンの学習課題』明石書店

参考書:
田中宏（2013）『在日外国人（第三版）―法の壁、心の溝―』岩波書店
師岡康子(2013)『ヘイト・スピーチとは何か』岩波書店
藤巻秀樹（2012）『「移民列島」ニッポン-多文化共生社会に生きる』藤原書店
佐竹真明 (2011)『在日外国人と多文化共生　地域コミュニティの視点から 』明石書店
佐竹真明 メアリー・アンジェリン・ダアノイ(2006)『フィリピン―日本国際結婚　移住と多文化共生 』めこん
ななころびやおき(2005)『ブエノス・ディアス、ニッポン』ラティーナ
リリアン・テルミ・ハタノ(2009)『マイノリティの名前はどのように扱われているのか―日本の公立学校におけるニュ-カマ-の場合』ひつじ書房
朴一（2005）『「在日コリアン」ってなんでんねん』講談社
清水睦美・「すたんどばいみー」編（2009）『いちょう団地発！外国人の子どもたちの挑戦』岩波書店
野村進（1996）『コリアン世界の旅』講談社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　e-mail、面談

458500

こども英語論

大山　　万容

授業テーマ:　こどもに英語を教えることについて、実践しながら学びます。

授業の概要:　こどもに英語を教えることをめぐって、早期外国語教育についての基礎知識や、日本の小学校で外国語を教える教師として必要とされる知識・技能・態度を身に着ける。

到達目標:
目標(1)　学習指導要領およびその解説にある「小学校外国語活動」の要点を理解する。
目標(2)　早期外国語教育を考える上で必要な基礎知識(さまざまな教授法・言語能力の捉え方・バイリンガリズム)を身につける。
目標(3)　「小学校外国語」の模擬授業を行い、教師として必要な実践的知識・態度・技能を身につける。
目標(4)　個別の外国語学習を補完する「言語について学ぶ」方法を体験し、言語教育に必要な知識・態度・技能について知見を得る。

授業方法:　講義、発表、ディスカッションを取り混ぜて行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・言語科学の関連領域	授業目標と授業全体の流れを確認します。
2.	日本の小学校外国語教育(1)	小学校外国語教育の実際と問題点を確認します。
3.	日本の小学校外国語教育(2)	学習指導要領とその解説、教科書を見て、学習の目標を確認します。
4.	日本の小学校外国語教育(3)	言語内容統合型学習(CLIL)について学び、教材を分析します。
5.	グループによる模擬授業I(1)	グループで模擬授業をします。
6.	グループによる模擬授業I(2)	グループで模擬授業をします。
7.	ふりかえりとチェックテスト	前半のまとめと知識の確認をします。
8.	単一言語主義と多言語主義	日本の社会言語学的状況の成り立ちと特徴から、その外国語教育について考えます。
9.	言語への目覚め活動(1)	「言葉を学ぶ」と「言葉について学ぶ」の違いを体験します。
10.	言語への目覚め活動(2)	「言葉について学ぶ」教授法について学びます。
11.	言語への目覚め活動(3)	「言葉について学ぶ」教授法について学び、教材研究を行います。
12.	教材研究	あらかじめ示された基準に基づいて、教材研究を行います。
13.	グループによる模擬授業II(英語＋α活動)(1)	グループで模擬授業をします。
14.	グループによる模擬授業II(英語＋α活動)(2)	グループで模擬授業をします。
15.	まとめと振り返り:児童期の英語学習に必要なもの	後半のまとめと次の課題を確認します。

受講者へのメッセージやアドバイス:　子どもの言語学習について学び、模擬授業を通して、自分自身や日本の社会についても理解が深まります。他のさまざまな授業の内容とも関連しますので、がんばってください。

フィードバックの方法:　毎回、授業中に前回のフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	40	授業の構成、準備、実技を総合的に判断します
授業参加	20	毎回のコメントシートから、授業中の学習を評価します。
文献レポート	20	文献レポートについて、論理性と構造から評価します。
チェックテスト	20	知識を確認します。

教科書:
柳瀬陽介、小泉清裕『小学校からの英語教育をどうするか』岩波書店
大山万容『言語への目覚め活動　複言語主義に基づく教授法』くろしお出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業中に指示します。

458600

世界の貧困問題とこども支援

藤原　　孝章

授業テーマ:　開発の中の子ども

授業の概要:
・地球的課題の1つである貧困と開発の問題を、グローバリゼーションや世界システムと関連づけながら、開発途上地域のこどもの現状とこども支援を中心に考察する
・開発途上地域におけるこどもの現状とこども支援から、日本のこどもの現状や学校教育の課題をふりかえることで、地球的な視野を身につけた市民的資質を育てる。

到達目標:
知識理解:開発の中のこどもの現状と原因、グローバリゼーションと貧困、貧困・開発問題への取組みを学習することを通して、持続可能な開発とその目標(SDGs)について知る。
技能:講義及びワークショップを通して、世界の貧困問題を発見し、探求し、こども支援のためのスキルを身につける。
関心・意欲・態度:持続可能な開発のための目標への関心を持ち、問題解決の態度を養う。

授業方法:　講義、ワークショップ、グループ学習活動、学習の確認のための試験

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、エントリーシートの記入	1回目から出席のこと
2.	開発の中のこどもの現状と原因(1)(貧困と児童労働)	参考文献の熟読
3.	開発の中のこどもの現状と原因(2)(貧困と児童労働)	参考文献の熟読
4.	開発の中のこどもの現状と原因(3)(貧困と児童労働)	参考文献の熟読
5.	グローバリゼーションと貧困(1)「貿易ゲーム」	参考文献の熟読
6.	グローバリゼーションと貧困(2)「貿易ゲーム」のふりかえり、富の格差	参考文献の熟読
7.	貧困・開発問題への取組み(1)国際社会の取り組みMDGsからSDGsへ	参考文献の熟読
8.	貧困・開発問題への取組み(2)地球のステージ	参考文献の熟読
9.	貧困・開発問題への取組み(3)JICA,青年海外協力隊、NGO, 企業の取り組みなど貧困	参考文献の熟読、課題レポートの準備
10.	貧困・開発問題への取組み(4)国際教育支援、誰のための支援か、参加型開発	参考文献の熟読、課題レポートの準備
11.	課題レポートとグループでの発表	参考文献の熟読、課題レポートの準備
12.	課題レポートの返却とふりかえり	参考文献の熟読
13.	貧困・開発問題への取組み(5)私たちにできることサプライチェーン	参考文献の熟読
14.	優秀レポート発表	課題レポートの検討、講義資料の検討
15.	全体ふりかえり、学びの確かめのための試験(持ち込み可)	参考文献、講義資料、課題レポートの熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義型授業ではなく、アクティブラーニングとしての参加型学習を多用するので、授業方法自体が問題の発見、理解、解決をすすめていくものとなっている。したがって欠席、遅刻があると授業目標への到達が困難になります。
課題レポートを提出するので、あらかじめ紹介した参考文献(課題図書)をしっかりとよんでおくこと。

フィードバックの方法:
毎時間ごとのふりかえりカード(コメントカード)への一言、課題レポートへのコメントと返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	ふりかえりカードやワークショップを含め、授業に積極的に取り組んでいるか。
レポート課題	30	授業目標に到達しているか。
学びの確かめのための試験	30	授業目標に到達しているか

教科書:　特になし

参考書:
田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGsと開発教育－持続可能な世界のための教育』学文社
開発教育推進セミナー編(1999)『新しい開発教育のすすめ方—地球市民を育てる現場から—』古今書院
キャロル・オフ(2007)『チョコレートの真実』英治出版
中村まり, 山形辰史編(2013)『児童労働撤廃に向けて　今、私たちにできること』アジア経済研究所
ジェレミー シーブルック(2005)『世界の貧困—1日1ドルで暮らす人びと』 青土社
ロバート・チェンバース、野田直人・白鳥清志訳(2000『参加型開発と国際協力−変わるのはわたしたち』明石書店
渡部龍也(2010)『フェアトレード学−私たちが創る新経済秩序』新評論
国際連合開発計画編(2010)『世界とつながるビジネス　BOP市場を開拓する5つの方法』英治出版
サファイア・ミニー (2008)『おしゃれなエコが世界を救う　女社長のフェアトレード奮闘記』日経BP社
梁石日(2004)『闇の子供たち』幻冬舎文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
e-mail、面談など

458700

理科実験・ものづくり

岩渕　　善美

授業テーマ:　身近なものを用いた理科の実験やものづくりを実践していきます。

授業の概要:　身近なものを使って、簡単にできる理科実験・ものづくりを行っていきます。自ら実験・製作することにより、自然の不思議さ、理科のおもしろさ、ものづくりの大切さを体験します。

到達目標:　理科実験・ものづくりを通して、基本的な科学実験の知識を習得し、自分自身が理解し、つくる楽しさ、遊ぶ楽しさを感じていくことを目標に、実践していきます。
毎回行われる実験やものづくりの目的、方法などを理解すること。
実験やものづくりの結果をまとめる能力を身に付ける。
また、教育者として子どもたちにどのように伝えることができるかを考え、安全に配慮して実験を実践できるように学びます。

授業方法:　毎回、一つのテーマに沿って、身近にあるものを用いて理科の実験やものづくりなどを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の説明、安全に実験を行うための方法 固体の性質を使った遊び	実験を行うための安全管理について調べておくこと。
2.	風を感じるものづくり	風を利用したものがどのようなものがあるのかを調べておくこと。
3.	砂糖の性質を用いた実験	砂糖の性質について、学習指導要領を参考にまとめておくこと。
4.	シャボン玉の性質実験	シャボン玉にはどのような特徴があるのかを調べておくこと。
5.	人工カプセルの製作 実験器具の扱い方	実験器具の使い方を復習しておくこと。
6.	ろうそくを用いて燃焼の仕組みを知ろう	ものが燃えることについて、もう一度、学習指導要領を確認しておくこと。
7.	回転するものの性質実験	回転する性質のものがどようなものがあるのかを予習しておくこと。
8.	試行錯誤の実験	なぜそのような結果がでたのか考察してみよう。
9.	身近なものを用いた染色について	他にどのようなものがあるのかをまとめてみよう。
10.	季節を感じるものづくり	季節に応じたものづくりがどのようなものがあるのかを調べておくこと。
11.	酸性とアルカリ性の性質を調べよう 実験器具の使い方	身近なものがどのような性質のものであるのかを調べておくこと。
12.	葉の不思議を調べよう	葉の様子を観察して、まとめておくこと。
13.	温度差を使用した実験 塩の性質について 温度計の使い方	塩の性質について、まとめておくこと。
14.	身近なもので電池をつくろう 電気の利用	電池の範囲について、学習指導要領を確認しておくこと。
15.	伝統玩具の製作	カッターなど刃物の安全な使い方を再確認しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　理科実験・ものづくりを通して、基本的な科学実験の知識を習得し、つくる楽しさ、遊ぶ楽しさを体験していきます。
理科の得意ではない人でも、楽しくものづくりや理科実験ができるように工夫していきます。

フィードバックの方法:　提出物については、コメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題制作等	30	到達目標に応じた制作
毎回の小レポート	70	到達目標に関するまとめ

教科書:　使用しません。

参考書:　文部科学省:小学校学習指導要領解説、理科編
授業の中で、紹介していきます。必要に応じてプリントを配布します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

458800

児童文学論

松崎　　正治

授業テーマ:　児童文学の表現構造、社会的文脈、読者的文脈を明らかにしながら読む。

授業の概要:　小学校教材に取り上げられることの多い様々な児童文学を読み解く。それを通して、児童文学研究の方法を学ぶ。また、その研究方法を応用して、各人が興味ある児童文学を研究し、発表する。

到達目標:
①日本及び日本以外の多文化・多言語環境における児童文学の内容を理解している。
②こどもの保育・教育の教材となる児童文学を読む方法を理解している。
③ 児童文学研究方法を応用して、受講者が興味ある児童文学を研究・発表する。それを通して、現代社会に生きるこども（人間）の問題を分析する視点のヒントにすることができる。

授業方法:　講義形式・演習形式など様々な形態を組み合わせている。ビデオ教材も使う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読んでおくこと。
2.	児童文学テクストの読み方（1） ロシア民話「おおきなかぶ」	テクストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。
3.	児童文学テクストの読み方（2） アーノルド・ローベル「おてがみ」	テクストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。
4.	児童文学テクストの読み方（3） レオ・レオニ「スイミー」	テクストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。
5.	児童文学テクストの読み方（4） 新美南吉「ごんぎつね」	テクストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。
6.	児童文学テクストの読み方（5） 宮澤賢治「注文の多い料理店」	テクストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。
7.	児童文学テクストの読み方（6） 立松和平「海の命」	テクストを事前に読む。事後に、学んだ内容をまとめておく。
8.	児童文学作家・作品についての探究活動～調査活動のまとめと発表準備	発表準備をしておく。
9.	児童文学作家・作品についての発表活動（1）グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。
10.	児童文学作家・作品についての発表活動（2）グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。
11.	児童文学作家・作品についての発表活動（3）グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。
12.	児童文学作家・作品についての発表活動（4）グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。
13.	児童文学作家・作品についての発表活動（5）グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。
14.	児童文学作家・作品についての発表活動（6）グループによるプレゼンテーションと評価	事前に発表準備をしておく。事後に内容をまとめ、省察しておく。
15.	全体の振り返りとまとめ	学んだことを振り返って、レポートを書く準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　自分で調べてまとめ、発表する学習形態が学期の後半で続くので、積極的な授業参加が望まれる。

フィードバックの方法:　授業で書いた内容について、次の授業で言及し交流する。また、発表についてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30%	授業に積極的に参加して発言したり書いたりしているかを評価する。
提出物や発表	30%	日本及び日本以外の多文化・多言語環境における児童文学の内容を理解しているか。またそれを聞いている人に分かりやすいプレゼンテーションになっているかを評価する。
レポート	40%	こどもの保育・教育の教材となる児童文学を読む方法を理解しているか。また、習った児童文学研究方法を応用して、児童文学を自分なりに研究し、社会に生きるこども（人間）の問題を分析しえているかを評価する。

教科書:　無し。テクストはプリントで配付する。

参考書:
藤田のぼる・宮川健郎・目黒強編『「場所」から読み解く世界児童文学事典』原書房2014年
日本イギリス児童文学会『英米児童文学ガイド～作品と理論』研究社2001年
中川素子・石井光恵他『絵本学講座』第1巻～第4巻　朝倉書店2014年
永田桂子『絵本という文化財に内在する機能～歴史・母子関係・現代社会からの総合的考察を通して』風間書房2013年
大橋眞由美『近代日本の〈絵解きの空間〉～幼年用メディアを介した子どもと母親の国民化』風間書房2015年
三宅興子・香曽我部秀幸『大正期の絵本・絵雑誌の研究～一少年のコレクションを通して』翰林書房2009年
谷本誠剛・灰島かり『絵本をひらく～現代絵本の研究』人文書院2006年
佐々木宏子『絵本の心理学～子どもの心を理解するために』新曜社2000年
藤本朝巳『子どもと絵本～絵本のしくみと楽しみ方』人文書院2015年
藤本朝巳『松居直と絵本づくり』教文館2017年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール、オフィスアワー

458900

現代社会論

石岡　　学

授業テーマ:　現代日本の家族と教育を考える

授業の概要:　この授業では、社会現象を社会学的に捉える視点を理解し身につけることを目標とする。今年度取り上げるのは、現代日本の家族と教育についてである。具体的には、結婚・出産・子育て・進学など日常生活において起こりがちな「問題」を取り上げ、その背景にはどのような社会的メカニズムがあるのか考えていく。個々人の問題だと捉えられがちなことが実はさまざまな歴史的経緯や複数の社会システムの絡み合いによって生じているということを、経験的なレベルで考えていきたい。

到達目標:
①現代日本の家族と教育の現状に関する基礎的な知識を獲得する。
②家族と教育に関わる問題を社会学的に(関係論的・複眼思考的に)考える視点を獲得する。
③自らの考え・主張を他者に理解してもらうための表現能力を身につける。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業の概要、受講にあたっての注意事項の説明など)	シラバスの熟読
2.	「社会」をどうとらえるか:個人行為の集積？個人を離れた構造？	授業中に指定された課題への取り組み
3.	「社会問題」はどう作られるか:メディアの議題設定機能	前回授業内容の復習、授業中に指定された課題への取り組み
4.	「恋愛結婚」という理想:草食男子、恋愛離れ、婚活	前回授業内容の復習、参考文献の熟読
5.	「専業主婦」という存在:家事は労働なのか	前回授業内容の復習、参考文献の熟読
6.	なぜ親は「いい学校へ行け」というのか:近代家族と学歴社会	前回授業内容の復習、参考文献の熟読
7.	「学歴」のアンビバレンス①:求められ、けなされる学歴	前回授業内容の復習、参考文献の熟読
8.	「学歴」のアンビバレンス②:日本は学歴社会なのか	前回授業内容の復習、参考文献の熟読
9.	能力主義と格差社会①:格差社会はなぜ問題なのか	前回授業内容の復習、参考文献の熟読
10.	「貧困」とはどういうことか？概念を問い直す	前回授業内容の復習、授業中に指定された課題への取り組み
11.	能力主義と格差社会②:「能力測定」という欲望	前回授業内容の復習、参考文献の熟読
12.	理想の大学とは？:ブレイン・ライティングを通して	前回授業内容の復習、授業中に指定された課題への取り組み
13.	学校教育の拡大とゆくえ:大学の大衆化と学歴インフレ	前回授業内容の復習、参考文献の熟読
14.	ディスカッション「改めて社会をどうとらえるか」	前回授業内容の復習、授業中に指定された課題への取り組み
15.	まとめとふりかえり	前回授業内容の復習、授業中に指定された課題への取り組み

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業は一方的な講義ではありません。授業中に教員から様々な問いを投げかけるので、それに対する積極的な発言を求めます。また、グループディスカッションを実施する回も複数回設ける予定としています。そのため、主体的に授業に取り組む姿勢が必要となりますので、そのつもりで受講して下さい。

フィードバックの方法:　質問用紙・コメントシートについては、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	40	現代日本社会における家族と教育の問題について、到達目標①②に即し、正しい知識に基づき主体的に論じられているかどうかを評価する。
小レポート	30	到達目標②に基づき、自分なりの意見・見解を提出できているかどうかを評価する。
授業への参加度	30	到達目標②③に基づき、自らの意見を他者にきちんと伝えられるような発言・討論ができたかどうかを評価する。

教科書:

参考書:
山田昌弘『女性活躍後進国ニッポン』岩波書店、2015年
山田昌弘『モテる構造　男と女の社会学』筑摩書房、2017年
筒井淳也『仕事と家族』中央公論新社、2016年
筒井淳也『結婚と家族のこれから』光文社、2017年
苅谷剛彦『大衆教育社会のゆくえ』中央公論新社、1995年
吉川徹・中村高康『学歴・競争・人生』日本図書センター、2012年
矢野眞和・濱中淳子・小川和孝『教育劣位社会』岩波書店、2016年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　原則として、メールにて対応します(mishioka@mail.doshisha.ac.jp)。本務校が同志社大学ですので、面談が必要な場合などは個人研究室(京田辺キャンパス夢告館712号室)にお越しいただいても構いません。なお、授業の前後には十分な時間が取れない可能性が高いので、あらかじめご了承下さい。

459000

幼児・児童教育論

笠間　　浩幸

授業テーマ:　保育・教育の本質について考える

授業の概要:　「教育」とは、広い意味で「人間の文化的価値を伝承するシステム」であり、そのことを通して、一人一人が人間らしい人格を形成していく営みである。そのためには本来、人間としての子どもの権利が守られ、子ども自身の好奇心や学びへの意欲を尊重した教育が大切にされなければならない。つまり、子どもが主体となった教育内容や方法、子ども自身の本当の生きる力につながる学びのシステムをどう構築がしていくかが問われる。競争、暗記、詰め込み、体罰、格差を生み出すような教育ではない、本当の学びと生き方を模索する教育とはどのようなものか、それを社会的・時代的背景なども踏まえながら検討する。

到達目標:　①子どもの本来の成長や発達について基本的な理解ができているか。
②子どものための学校づくりをしていくうえで、子どものどのような学びのプロセスを大切にすべきかについて関心をもち、その実践的スキルを積極的に身に着けようとする意欲を持つ。
③現代社会における子どもの問題について、子ども本来の成長と学びという理論的な支柱をもって解決策を考えていくことができる。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	自分自身の幼児期からの遊びや学びについて振り返る。
2.	わが国の教育の到達点と問題点を考える	日本の教育の課題は何かを考える
3.	「学力」とは何かを考える（1）	「学力」とは何かの参考文献を読み自分の意見をまとめる。
4.	「学力」とは何かを考える（2）	「学力」とは何かの参考文献を読み自分の意見をまとめる。
5.	子どもを中心とする教育の歴史（1）	ルソー「エミール」の指定範囲を読んでおく。
6.	子どもを中心とする教育の歴史（2）	ルソー「エミール」の指定範囲を読んでおく。
7.	子どもを中心とする教育の実践（1）	デューイ「学校と社会」の指定範囲を読んでおく。
8.	子どもを中心とする教育の実践（2）	デューイ「学校と社会」の指定範囲を読んでおく。
9.	子どもを中心とする教育の実践（3）	「子どものための学校」に関する資料の指定範囲を読んでおく。
10.	子どもを中心とする教育の実践（4）	「子どものための学校」に関する資料の指定範囲を読んでおく。
11.	幼児・児童が学ぶべき内容と方法（教材、保育・学習環境開発）（1）	フィンランドの学習に関する資料を読んでおく。
12.	幼児・児童が学ぶべき内容と方法（教材、保育・学習環境開発）（1）	ニュージーランドの保育学校に関する資料を読んでおく。
13.	幼児・児童が学ぶべき内容と方法（教材、保育・学習環境開発）（1）	レッジョ・エミリアの実践に関する資料を読んでおく。
14.	私の「子どものための学校論」プレゼンテーション（2）	自分なりの理想の保育・教育法について考えをまとめておく。
15.	私の「子どものための学校論」プレゼンテーション（2）、まとめ	授業全体を振り返り、疑問点をあげておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　自らが受けてきた保育・教育を改めて自由な視点で振り返り、より良い教育の在り方を考えていく。そのためにはできるだけ先入観にとらわれない自由な発想、これまでの学習体験のとらえなおしを積極的に行ってもらいたい。

フィードバックの方法:　オフィスアワー

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ミニレポート	30%	子どもの本来的な成長・発達のプロセスと、それに応じた学びのプロセスやスタイルについて十分な考察ができているかを評価する。
最終レポート	50%	現代社会における教育の問題に対する解決の方向性を、確かな理論的支柱と批判的な視点をもって描くことができているかどうかを評価する。
発表・討論	20%	あらかじめ読んできた文献資料を基に、積極的な意見を表明したり討議に参加しているかどうかを評価する。

教科書:

参考書:　適宜、授業において配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

459100

教育の歴史

桐村　　幸雄

授業テーマ:　近現代日本の教育

授業の概要:

教育基本法が改正され約10年が経過し教育改革が進められているところですが、その一方で、子供を取り巻く環境等様々な変化や課題も指摘されているところです。これら諸課題を検討し、これからの教育の在り様を考察するためには、これまでの教育を振り返ることが重要な意味を持つと考えます。

本講では、我が国近現代の学校教育の歴史について平易に紹介し、今日に至るまでの経緯について理解した上でこれからの教育について考察する基礎的な力を培うことを目指します。

到達目標:

① 明治期、大正期、昭和期、平成期以降の学校教育について理解する。
② 学校教育の歴史や今日的教育課題等に照らして、これからの教育について考察する。

授業方法:　講義形式を中心に行いますが、適宜グループ学習や発表も取り入れます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	近代以前の教育（1） ー古代中世の学校ー	講義の復習と次時の予習
2.	近代以前の教育（2） ー近世の学校ー	講義の復習と次時の予習
3.	明治期の学校教育（1） ー「学制」の制定、実施ー	講義の復習と次時の予習
4.	明治期の学校教育（2） ー京都の番組小学校ー	講義の復習と次時の予習
5.	明治期の学校教育（3） ー教学聖旨と教育議ー	講義の復習と次時の予習
6.	明治期の学校教育（4） ー義務教育制度の確立と教科書の国定化ー	講義の復習と次時の予習
7.	明治期の学校教育（5） ー義務教育制度の確立と義務教育六年制ー	講義の復習と次時の予習
8.	大正期の学校教育 ー臨時教育会議と教育改革ー	講義の復習と次時の予習
9.	昭和期の学校教育（1） ー中学校教育の改革ー	講義の復習と次時の予習
10.	昭和期の学校教育（2） ー国民学校の成立ー	講義の復習と次時の予習
11.	昭和期の学校教育（3） ー戦後の学校教育ー	講義の復習と次時の予習 教育基本法（新旧）を読む。
12.	昭和期の学校教育（4） ー教育基本法の成立ー	講義の復習と次時の予習 教育基本法（新旧）を読む。
13.	平成期以降の学校教育 ー教育基本法の全部改正と学習指導要領ー	講義の復習と次時の予習 これからの教育について自分なりの考えをまとめる。
14.	これからの教育を考える	講義の総復習 これからの教育について自分なりの考えをまとめる。
15.	まとめ	教育の歴史とこれからの教育について考察しまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

課題レポート等コメントを付けて教室で返却します。
課題レポート等から得られた共通課題は、講義で解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	①学校教育の歴史について理解度により評価する。 ②これからの教育について自らの考えをまとめることができているか評価する。
課題レポート	20%	近現代の学校教育に関する課題に即したまとめているか評価する。
授業への積極的参加及び態度	10%	積極的な態度で授業に参加しているかを評価する。

教科書:　適宜プリントを配布します。

参考書:

山住正己著『日本教育小史ー近・現代ー』岩波新書
海後宗臣・仲新・寺崎昌男著『教科書で見る近現代日本の教育』東京書籍

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応します。

459200

遊びと論理的思考

今井　　敏博

授業テーマ:　「なぜ？」を問う

授業の概要:　「なぜ、そうなるのか」という問いかけに着目し、その疑問の根拠となっている論理的思考について考えます。小学校、中学校の算数・数学の題材を、不思議さに気づくという知的な遊びとして見直していきます。この授業で学習した内容を子どもの発達段階に合わせて活用してほしいです。また、学校在籍時に理解が不十分なところを確実にして、就職試験や将来の職業に役立ててほしいです。

到達目標:
1. 学校で習った算数・数学の知識を復習しつつ、学校で学ばなかった知識・技能・考え方を理解する。
2. 学校で習った算数・数学を異なった視点から、異なった過程で理解する。
3. 1、2に関る関心・意欲・態度を高める。

授業方法:　講義と小演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1980が9で割り切れることがなぜ一目でわかるのでしょうか。	4ケタの数が割り切れるかの見分け方を復習する。
2.	30の約数がなぜ図で表せるのでしょうか。	学校で学んだ約数について思い出しておく。 約数を図で示す方法を復習する。
3.	7973と2380の最大公約数がなぜ簡単に算出できるのでしょうか。	最大公約数という用語を調べておく。 ユークリッドの互除法を復習する。
4.	24と36の公約数がなぜ図から見つけることができるのでしょうか。	学校で学んだ公約数を思い出しておく。 公約数を図で示す方法を復習する。
5.	直角三角形の3辺の長さの数の組合せはなぜ規則的にわかるのでしょうか。	三平方の定理を思い出しておく。 ピタゴラス数について復習する。
6.	なぜマイナスの数が必要なのでしょうか。日常の中でマイナスの数はどんなことに使われているでしょうか。	正の数・負の数の加減を思い出しておく。 正の数・負の数の加減の指導法を復習する。
7.	プラスの数とマイナスの数の積はなぜマイナスの数なのでしょうか。	正の数・負の数の乗除を思い出しておく。 正の数・負の数の乗除の指導法を復習する。
8.	なぜルートの数が必要なのでしょうか。ルート2は日常の中でどんなところにあるでしょうか。	学校で学んだ平方根を復習する。 ルートの数の日常での存在を復習する。
9.	ルート2とルート3を加えるとなぜなぜルート5にならないのでしょうか。	学校で学んだルートの数の加減を思い出しておく。 ルートの数の加減の法則を復習する。
10.	ルート2とルート3をかけるとなぜルート6なのでしょうか。	学校で学んだルートの数の乗除を思い出しておく。 ルートの数に乗除の法則を復習する。
11.	三角数、四角数・・・はどんな数でしょうか。なぜ計算でも求められるのでしょうか。	三角数、四角数、五角数、六角数を理解する。
12.	格子点上の点を結んでいろいろな図形をかこう。どのような関係式が潜んでいるでしょうか。	格子点という用語を調べておく。 格子点上の図形の性質を復習する。
13.	円上の等間隔の点を結んでいろいろな図形をかこう。どのような規則性があるでしょうか。	円上にできた図形の規則を復習する。
14.	「ハッピーナンバー」「サッドナンバー」はどんな数でしょうか。それぞれどんな数のつながりがあるでしょうか。	自然数を2つのつながりに「分けられることを復習する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　学校では学ばなかった算数・数学の教材や理解の過程を学びます。学校在籍時に算数・数学の成績が良くなかった人でも前向きに取り組めば「わかる」「できる」内容です。関心・意欲を高めてほしいと思っています。

フィードバックの方法:　授業内に受講生が行った課題や活動（小演習）については、授業の最後に受講生（できた人）が発表します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験（持込可）	50	到達目標1，2の振り返りを評価する。
授業への参加度	50	授業に前向きに参加し、到達目標3を評価する。

教科書:　プリントを配布します。

参考書:　必要に応じて紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、昼休み時間、授業の前後に教室内で応対

459300

学習環境デザイン

上田　　信行

授業テーマ:　こどもの創造性を育てるプレイフル・ラーニング

授業の概要:　「学び」「メディア」「デザイン」をキーワードに、こどもたちが仲間と共感しながら活動に没頭できる場のデザインについて考える。プレイフルラーニングのコンセプトを核にした様々なワークショップを紹介し、プレイフルな学びのデザインについて学ぶ。授業のプロジェクトとしては、４人の学生が1チームになって、「メディアを媒介にした表現活動」と「経験のリフレクション」がアクティヴィティの軸となるようなワークショップをデザインし、実施する。この実践に埋め込まれている学びのプロセスを吟味し、改善のための手立てを考えていく。この授業は、人がワクワクするような学びを経験をするためには、どのような学習環境（ワークショップ）をデザインすればいいかを実践的に学ぶことを目標としている。

到達目標:　（1）学習環境デザインのための４要素(空間・道具・活動・人）、活動を循環させるTKFモデル（つくって、かたって、ふりかえる）、創造的な学びを活性化させる4Ps(Projets, Passion, Peers, Play)について学び、これらの枠組みを理解した上で、「想像的創造力」を発揮して、具体的な学びのプロジェクトを企画、実践することができる。
（2）ワークショップを記録する意味を理解し、ヴィデオドキュメンテーションを制作することができる。
（3）実際で行ったワークショップの全プロセスを協同でふり返り、そこでの体験を意味づけ、抽象化し、リ・デザインするという螺旋的な学びのサイクルを経験する。

授業方法:　授業は、レクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使っ て、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。実践的な授業なので学期中にいくつかのプロジェクトを実施する。そのためのグループディスカッションや制作は授業外の時間を使って行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	プレイフル・ラーニング	教科書の第1章を読んでおく。
2.	学習環境デザインとコンストラクショニスト・ラーニング	学習環境デザインの基底になる構成主義的学びの場をどうデザインすればいいかについて自分の考えをまとめておく。
3.	学習環境デザインのための４要素(空間・道具・活動・人）、活動を循環させるTKFモデル（つくって、かたって、ふりかえる）、創造的な学びを活性化させる4Ps(Projets, Passion, Peers, Play)について	創造的な学びを触発する学習環境デザインの要素を考えておく。
4.	学習環境デザインとワークショップ 活動・モデル・理論の三層構造	教科書の第1章3節を参照しながら、活動・モデル・理論の関係を可視化する。
5.	学習環境デザインにおけるラーニング・デザイナーの役割	ラーニング・デザイナーの役割について考えておく。
6.	ワークショップ・デザイン1 ゴールとコンセプト	教科書の第2章を読んでおく。 ワークショップのゴールとキーコンセプトについて考えておく。
7.	ワークショップ・デザイン2 空間とツールの開発	ワークショップを活性化する空間とツールを具体的にイメージする。 教科書のコラム3を読んでおく。
8.	ワークショップ・デザイン3 スタッフの役割分担	ワークショップを運営するチーム構成について考えておく。
9.	ワークショップ・デザイン4 アジェンダフォーマットの作成	ワークショップの時間軸に沿った活動の流れをイメージしておく。
10.	ワークショップ・デザイン5 ワークショップのドキュメンテーション	携帯のヴィデオ機能を使って撮影の練習と編集の仕方を試しておく。 教科書のコラム1を読んでおく。
11.	ワークショップの実施 1 グループごとに教室でワークショップを実施し、ドキュメンテーションも同時に行う。	ワークショップの準備をしておく。
12.	ワークショップの実施 2 リ・デザインしたワークショップを実施する。 ドキュメンテーションも同時に行う。	ワーックショップをふり返り、どのように改善すればいいかを考えておく。
13.	ドキュメンテーションヴィデオの上映	ヴィデオを視聴して気づいたことを整理し、まとめておく。
14.	リフレクティブプレゼンテーション ２回のワークショップの総合的なふり返り	ヴィデオを視聴して省察し、その結果をリフレクションペーパーにまとめる。
15.	まとめ：学習環境デザインとプレイフルラーニング	教科書の第3章を読んでおく。 最終レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業は、学習環境デザインのための理論と方法を学びつつ、その枠組みを使っ て、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善するというアクティブラーニングを実践するものなので、積極的な授業への参加と好奇心が必要である。ヴィデオの編集技術も学ぶので、テクノロジーに興味がある方は、ぜひ受講してほしい。

フィードバックの方法:　グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ワークショップへの貢献度	40	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションを総合的に評価する。どのようなリフレクションによってリ・デザインしたかを評価する。
プレゼンテーション	10	ワークショップの企画プレゼンやリフレクションのコメントが的確であるかを評価する。
最終レポート	50	ワークショップを通して実践的に経験したことを意味づけ、学びの理論と関係づけながら自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:　上田信行・中原淳『プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来』三省堂 2013

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:	基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

459400

教育評価論

吉永　　紀子

授業テーマ:

教育評価の主体となって「こどもと教師のため」の評価を考える

授業の概要:

教育評価をめぐる学校教育の歴史をふりかえってみると、数多くの論争や議論がなされてきた。それほど「評価」は解決が容易ではない問題をいくつも抱えている領域である。
本授業では、教育実践における教育評価をめぐる複数のなぞについて考え、教育評価を実践していくための基本的な概念や方法を深く理解し、評価をめぐる新たな見方・考え方を構築して、こどもと教師の双方にとって望ましい教育評価のあり方を体験も交えながら探究する。

到達目標:

（1）教育評価に関する基礎的・基本的知識について理解し、子どものための評価に必要となる知識を自分のものにしている。
（2）教育評価が行われてきた日本の学校教育の歴史について関心を持って自らさまざまな資料を探し、評価をめぐるさまざまな論争が行われてきた背景を詳しく知って、現代的課題の解決に生かす方法を提案することができる。
（3）教育評価には2つの側面があるということについて知り、それらの意味を実現する方法を、具体的な評価の場面を想定して運用することに関心を持っている。

授業方法:

歴史的背景や基礎的・基本的な知識については、個人やグループで探究し、説明・発表する活動を通して深く理解することを重視する。その上で教員からの解説や講義を行い、より正確に理解できるようにする。
なお、グループ発表に関しては授業内だけでは準備ができないため、グループメンバーと協力、相談し、授業外にもグループワークができるようにしておく必要がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育評価論のオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス。 わたしにとって「教育評価」とは何か～ブレーンストーミング	本授業のシラバスを読んでくる。
2.	教育評価をめぐる5つのなぞを推理する	前の回に配布された資料を読み、わからない点を見つけ、専門的用語を調べて確かめておく。
3.	何のための評価なのか？～教育評価が向かう先を見据える	前の回で考え、議論した内容を整理し、提示された問いに対する自分の考えをまとめておく。
4.	誰が評価を行うのか？～教育評価の主体を考える	前の回に配布された資料を読み、問われた内容について自分なりの考えを整理しておく。
5.	いつ評価をするのか？～教育評価の機能を知る	前の回で考え、議論した内容を整理し、自分が学習者として体験していた評価と比べて自分なりの考えをまとめておく。
6.	何をどのように評価するのか？（1）評価の対象の違いを比べる	前の回に配布された資料を読み、問われた内容について自分なりの考えを整理しておく。資料中のわからないことばについてはあらかじめ調べて確かめておく。
7.	何をどのように評価するのか？（2）評価の方法の違いを比べる	前の回で考え、議論した内容を整理し、配布された追加資料を読んで、問われた点についての自分の考えをまとめておく。
8.	評価課題をリサーチする（1）こどもに習得させたい内容と方法を把握する	同じ関心を持つメンバーとグループづくりを行うため、これまでに学んできた内容の中で、より関心のある内容について、根拠をもって説明できるようにしておく。
9.	教育評価の歴史をさかのぼる～教育評価の現代的課題はどこから生まれたか	前の回に配布された資料を読み、わからない言葉について図書やインターネットで調べ学習を行っておく。
10.	評価課題をリサーチする（2）多様な評価方法を比べて使いこなす	グループで分担したことをもとにそれぞれが調べ、考えたことを整理して持参できるようにしておく。
11.	評価課題をつくってみよう	前の回までに調べ、検討してきた課題についてグループのメンバーで比較検討できるように準備しておく。
12.	評価課題を解いてみよう　&　課題を洗練させよう	前の回につくった課題の意図や構成について読み返しておく。
13.	教育評価の仕組み・制度を考える～入試制度と学校間の接続に目を向けて	前の回に配布された資料を読み、内容についてわからないことを図書やインターネットで調べておく。
14.	「こどもと教師のための評価にするために」に関するグループ発表と相互批評	これまでに調べてきたことをグループで精査し、発表すべき内容を整理しておく。聴き手に印象深くなるよう発表の工夫を考え、リハーサルしておく。
15.	全体のまとめ	これまでの全14回で使用した資料やノートを読み返し、受講前と比べて学校教育の制度や学校運営に対する自分の見方・考え方がどう変化したかを考えておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

「評価」という言葉を聴くと、どのような場面やものを思い浮かべるでしょうか。学習者の側からみると、”学期末テスト”や”通知表”などが想起されることが多いことでしょう。たしかにそうした側面も含まれますが、「評価」にはもう一つ重要な側面があり、教師の仕事はこの2つの側面の「評価」によって成り立っているといっても過言ではないのです。
教育評価をめぐる私たちの固定観念や先入観を見つめ直し、こどもと教師の双方にとって意味ある評価にしていく知恵と方法をともに探究してみませんか。

フィードバックの方法:

（1）毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
（2）授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出	30	授業内容や問われたことに対して関連づけたリフレクションになっているかどうか
グループによる発表の制作、発表、提出	20	授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して発表内容をつくることができているか
定期試験（論述）	50	知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

教科書:

文部科学省 「児童生徒の学習評価の在り方について」（報告）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/004/gaiyou/1292163.htmより閲覧・ダウンロード可
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

参考書:

松下佳代（2007）『パフォーマンス評価 子どもの思考と表現を評価する』日本標準ブックレット
田中耕治編（2010）『よくわかる教育評価（第2版）』ミネルヴァ書房
黒沢俊二（2004）『本当の教育評価とは何か　子どもの力を伸ばす評価の仕方』学陽書房

田中耕治編（2015）『新しい教育評価入門―人を育てる評価のために』有斐閣
吉田新一郎（2006）『テストだけでは測れない！ 人を伸ばす「評価」とは』日本放送出版協会
若き認知心理学者の会編（1996）『認知心理学者、教育評価を語る』北大路書房
キャロライン・ギップス／鈴木秀幸訳（2001）『新しい評価を求めて　テスト教育の終焉』評論社
鹿毛雅治（2007）『子どもの姿に学ぶ教師～「学ぶ意欲」と「教育的瞬間」』教育出版
田中耕治編（2008）『新しい学力テストを読み解く』日本標準

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、変化対応力
教員との連絡方法：	第１回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。 履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

459500

こども英語指導法

菅　　正隆

授業テーマ:

子どもを対象とした英語指導の在り方と小学校における外国語・外国語活動の在り方を理解し、教員としての指導力を向上させる。

授業の概要:

小学校で実施されている外国語・外国語活動の現状を知るとともに、教科として必修化されることを念頭に、学級担任の教師や英語指導者としての実践的な指導力の基礎基本を培う。また、幼稚園・保育園で行われている児童英語を理解し、導入期のポイントを理解する。加えて、小学校教員採用選考テスト（教職教養、一般教養等）の対策も同時に行う。

到達目標:

小学校教諭及び幼稚園教諭として、外国語（英語）指導ができる教員をめざす。

授業方法:

学習指導要領を基に、外国語・外国語活動の理論を理解するとともに、体験を通して指導力向上を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	日本における英語教育の歴史的変遷を調べる。
2.	小学校外国語・外国語活動の現状と課題	小学校における外国語教育の現状を調べる。
3.	小学校外国語・外国語活動の意義と目的	学習指導要領から、外国語教育の意義を読み取る。
4.	小学校外国語・外国語活動の指導内容	学習指導要領から、外国語教育の指導内容を読み取る。
5.	テキスト「英語ノート」と"Hi, friends!"の内容とその活用	様々なテキストから、指導方法を考える。
6.	小学校外国語・外国語活動のためのティーム・ティーチング（TT）	外国人とのティーム・ティーチングの問題点をまとめる。
7.	小学校外国語・外国語活動のための教材作成	効果的な教材を作成する。
8.	小学校外国語・外国語活動のための評価方法	評価方法、評価ポイントを考えてまとめる。
9.	小学校外国語・外国語活動における様々な課題の対処方法	外国語教育の課題や問題点をまとめる。
10.	保育英語・児童英語の考え方と在り方	外国語の導入期の課題をまとめる。
11.	小学校外国語・外国語活動の模擬授業準備(1)	授業案を作成する。
12.	小学校外国語・外国語活動の模擬授業準備(2)	授業案を校正し、効果の上がる授業を組み立てる。
13.	小学校外国語・外国語活動の模擬授業発表・討議(1)	模擬授業発表の準備をする。
14.	小学校外国語・外国語活動の模擬授業発表・討議(2)	模擬授業の問題点や改善策をまとめる。
15.	総括	授業で知ったこと、分かったこと、できたことをまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

今、小学校及び幼稚園の先生に求められている外国語（英語）の指導力は、一朝一夕に身に付くものではありません。この授業を通して、英語指導の基礎基本を学び、実践を通して指導力のある先生になってみませんか。

フィードバックの方法:

講義だけではなく、受講者が児童や指導者の立場になり、指導を体験する。その中で、ポイントや改善点をこちらから示し、指導力の向上を図る。また、教材・教具を作成し、受講者同士評価しあう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	30%	内容
模擬授業発表（TT）	30%	内容、流れ、リズム、メリハリ、効果
教材・教具作成	30%	内容、企画力、創作力
授業への取り組み	10%	積極性、出席率

教科書:

参考書:

文部科学省、『小学校学習指導要領解説　外国語活動編』、東洋館出版社
菅正隆　他、『外国語活動評価づくり完全ガイドブック』、明治図書出版
菅正隆　他、『"Hi, friends!"指導案＆評価づくりパーフェクトガイド』、明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

kan.masataka@osaka-shoin.ac.jp

459600

特別支援教育

中尾　　繁樹

授業テーマ:　特別支援教育について実践例を通して理解する

授業の概要:　障害児（者）の正しい理解と認識を深めるとともに、特殊教育から特別支援教育への移行を学習していく。平成19年度から始まった特別支援教育は、これまでの「場の教育」から「機会の教育」へと内容が変化している。その基本的な理念と内容について学ぶことで、特別支援教育の今日的課題を考察していきたい。
　それらの学習によって基本的な知識及び技能の習得を目指し、障害のある子ども一人ひとりへの具体的な支援の手立てを考えていく。障害児（者）の問題は、人間発達の問題であり、全ての教育の基本になるものである。教職を目指すもの全てに必要な内容であり人としての人間観を育むことで、将来の進路に向けた資質向上につながるようにする。

到達目標:　＜想像力・知的好奇心＞新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲を持つことができる。 ・特別支援教育の授業内容に関して、新たな興味や関心を持って調べることができる。＜思いやる力・自己実現力＞社会的に弱い立場にいる人、困っている人たちがいることに関心をもち、特に各障害について理解し、障害の有無にかかわらず、相手の立場に立って考え行動する事ができる。

授業方法:　5. 講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・オリエンテーション（本授業のねらいと授業計画・特別支援教育とは） ・授業シラバスの説明および、最初の導入としての特別支援教育、障害者理解の説明を行う。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を探し、目を通しておく。
2.	・特別支援教育の理念 （特別支援教育の理念と意義について） ・特別支援教育の理念と意義について文部科学省の指導要録等を参考に理解する。	○次回の予習として、特別支援教育関連の書籍を読み、歴史についての質問を考えておく。
3.	・特殊教育から特別支援教育へ（特殊教育の歴史と特別支援教育への移行） ・特殊教育の歴史を知り、特別支援教育に移行した背景を理解する	○次回の予習として、知的障害者に関する書籍を読み、わからないところをチェックする。
4.	・知的障害児の教育 （知的障害の理解と指導について） ・知的障害の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。	○次回の予習として、肢体不自由児についての書籍を読み、わからないところをチェックする。
5.	・肢体不自由児の教育 （肢体不自由の理解と指導について） ・肢体不自由児の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。演習 ・授業外活動に関しての課題解決のためのグループワーク。	○次回の予習として、自閉症児についての書籍を読み、わからないところをチェックする。
6.	・自閉症児の教育（自閉症の理解と指導について） ・自閉症の基礎的な理解と簡単な指導法について知る。	○次回の予習として、発達障害についての書籍を読み、わからないところをチェックする。
7.	・発達障害児の教育（発達障害の理解と指導について） ・自閉症以外の発達障害についての基礎的な理解と簡単に指導法について知る。	○次回の予習として、聴覚障害についての文献を読み、コミュニケーション手段について調べておく。
8.	・聴覚障害児の教育 （聴覚障害の理解と指導について） 小テスト② ・聴覚障害の基礎的な理解とコミュニケーション手段について学ぶ。	○次回の予習として、視覚障害のコミュニケーションについて調べておく。
9.	・視覚障害児の教育 （視覚障害の理解と指導について） ・視覚障害の基礎的な理解と点字等について学ぶ。点字理解のクループワーク。演習	○次回の予習として、病弱児についての文献を読み、わからないところをチェックしておく。
10.	・病虚弱児の教育（病虚弱の理解と指導について） ・病弱児の基礎的理解とホスピスについて学ぶ。	○次回のレポート提出に向けて、課題の整理とまとめを行う。
11.	・就学前の療育と卒業後の暮らし （就学前の療育の理解と卒業後の進路生活について） 中間レポート提出 ・幼児期の療育と卒業後の実態を知る。 ・授業外活動に関しての課題解決のためのグループワーク。	○次回の予習として、特別支援学校の教育課程について文部科学省のHPを参考に見ておく。
12.	・通常の学級における特別支援教育① ・特別支援教育の場と教育課程（特別支援学校、特別支援学級、通級指導教室の理解について）	○次回の予習として、特別支援教育の体制づくりについて予習しておく。
13.	・通常の学級における特別支援教育② ・特別支援教育コーディネーターの役割と校内支援体制の確立及び センター的機能とその役割について学ぶ。	○今まで行ったことのあるボランティア、インターンシップ等のまとめをする。
14.	・個別の教育支援計画の理論（個別の指導計画と支援計画の理解） ・個別の指導計画と個別の教育支援計画の実態とアメリカとの比較をする。	○最終テストに向けて授業のまとめを行う。
15.	・まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　これから教職や保育所・養護施設等、人とかかわる職業を目指す方たちにとって原点となる講義です。人として最も大切な「ともに生きる」という考え方を学びましょう。

フィードバックの方法:　レポートに関しては教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
最終確認テスト	40	特別支援教育や各障害に対して新しい知識を獲得できたか。
中間レポート	20	特別支援教育の授業内容に関して、新たな興味や関心を持って調べることができたか。
発表、演習	20	グループワークや演習で各障害について理解し、障害の有無にかかわらず、相手の立場に立って考え行動する事ができたか。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、新しい知識や技能を学ぶことに関心や意欲を持つことができたか。

教科書:

特に使わない。毎回資料を配布する。

参考書:

中尾繁樹編著　通常学級で使える「特別支援教育」ハンドブック　明治図書
湯浅恭正編集　よくわかる特別支援教育　ミネルバ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

メール　s-nakao@kuins.ac.jp

459800

コミュニケーションデザイン

上田　　信行

授業テーマ:　PlayfulTVの実験

授業の概要:　授業では、まずこども向けテレビ番組の制作過程について概観する。『セサミ・ストリート』を例に、インストラクショ ナル・デザイン（ID）による番組開発の方法を紹介する。特に、番組改善のためのフォーマティブ・リサーチ（形成的評価）に焦点をあて、デザインとリサーチをどう融合していくかを検討する。その後、レクチャーで吟味したIDモデルをベースに、実際にミニ番組(PlayfulTV)のデザインに取り組む。具体的には小グループに分かれてPlayfulTVプロジェクトを立ち上げ、各グループが15分のヴィデオ番組の企画・実施・評価・改善を行う。この授業は、番組の制作過程をふり返り、その体験を意味づけ、どのような学びであったかを抽象化し、その経験を通して、コミュニケーションデザインとは何かを考え、コラボレーションの楽しさと難しさを実感してもらうことをめざしている。

到達目標:
（1）番組開発のためのインストラクショナル・デザインを理解し、実際の番組制作にそのアプローチを活かすことができる。
（2）「想像的創造力」を駆使しながら協同で番組の企画書を作成し、プロトタイプの改定を通して15分番組を制作することができる。
（3）制作を通して学ぶことの教育的意義について語ることができる。

授業方法:　授業は、レクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使って、実際にPlayfulTVプロジェクトの実験を行う。コンピュータによる編集技術は前もって必要ないが、新しいメディアの積極的な活用方法を考えたいという情熱が必要。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	番組開発モデルとインストラクショナル・デザイン（ID）	番組開発のためのIDの方法について整理しておく。
2.	Sesame StreetとCTWモデル	典型的な教育工学モデルとしてのCTWモデルを図示しておく。
3.	制作のためのコラボラティブ・アプローチ	コンテンツの専門家集団、プロダクションの専門家集団、リサーチの専門家集団のコラボレーションがどのようになされたを図示し、説明文を書いておく。
4.	フォーマティブ・リサーチの方法	番組開発のためのフォーマティブ・リサーチ（形成的評価）の方法を図示して、その方法をまとめる。
5.	番組の企画と制作プラン	4人で1グループをつくり、共同で番組の企画書を作成する。
6.	企画発表会	企画発表会の準備をする。
7.	ショート・ムービーの制作 1	番組の中で使用するインサートムービーをイメージしておく。
8.	ショート・ムービーの制作 2	引き続き、番組の中で使用するインサートムービーを制作する。
9.	ヴィデオ番組のプロトタイプ制作 1	15分の番組のプロトタイプを構想する。
10.	ヴィデオ番組のプロトタイプ制作 2	引き続き、プロトタイプを制作する。
11.	プロトタイプのフォーマティブ・リサーチ	プロトタイプを完成させる。
12.	ヴィデオ番組のプレゼンテーション グループ1	フォーマティブ・リサーチ結果にもとづいて、プロトタイプを改善し、ヴィデオ番組を完成させる。
13.	ヴィデオ番組のプレゼンテーション グループ2	フォーマティブ・リサーチ結果にもとづいて、プロトタイプを改善し、ヴィデオ番組を完成させる。
14.	ヴィデオ番組のプレゼンテーション グループ3	フォーマティブ・リサーチ結果にもとづいて、プロトタイプを改善し、ヴィデオ番組を完成させる。
15.	まとめ：「番組づくりを通して学ぶこと」の教育的意義を考える	PlayfulTVの制作過程をふり返り、学びの意味づけを行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　番組づくりはとても楽しい作業なので、ぜひ参加してほしい。グループ作業が中心になるが、コラボレーションの楽しさを経験することができる。ものをつくることの達成感を味わうこともできるので、みなさんの挑戦を期待している。

フィードバックの方法:　グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
番組制作への貢献度	30	グループで番組の企画書を作成し、制作し、ファーマティブリサーチを通してプロトタイプを改善し、番組を完成させるというIDアプローチの全プロセスを評価する。
プレゼンテーション	10	番組の魅力をどうプレゼンテーションしたかを評価する。
番組（作品）	30	プロトタイプから完成への変化も含めて、番組の完成度を評価する。
最終レポート	30	番組制作過程を通して体験したことを意味づけ、抽象化し、自分の言葉で学び経験を表現できているかを評価する。

教科書:　授業中に資料を配布する。

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

460000

身体表現

石本　　興司

授業テーマ:

授業の概要:

本講では、演技や演劇を通して、自分自身、他者とのやりとり、表現、協働などについて学ぶ。

演技とは、状況に応じて自分が自分を使うことについての技術である。そして、演劇は、他者とのやりとりや集団での協働を通じてなされることに創造の特徴がある。保育や教育の実践において、このような「演技や演劇の知恵」は欠かせないであろう。

授業では時に裸足で動きまわり、時に輪になって語り合うことをする。内容の多くはあそびであり、試みである。解くべき問題は用意されていない。様々な活動を通じて各々が問題を立て、探求を続けていく。新しい能力を開発することよりも、今の自分を認識し、すでに備わっている力をいかに活用するかが重要となる。

到達目標:

・人と人とが互いに心をくばる「ケア」関係の中でこどもを支援する様々な方法について理解している。
・こどもに関わる専門性を身に付けた者、又は専門職業人として、こどもや専門職業集団に対して共感的かつ理性的に自ら関わろうとする態度を身に付けている。
・個人差を尊重しながらコミュニケーションを図る中で公正に自他の評価ができ、他者の力を引き出すことができる。
・さまざまな職業分野で自分の考えを発信するスキルを身に付けている。（以上、カリキュラムマップより）

・自分のからだと動きについて、より明瞭に、より詳細に認識できる。
・他者とのやりとりを通して、表現における自分の欲求と力に気づき、それらを育むことができる。
・作品創作や試演を通して、他者と協働できる。
・授業内の体験から知を結ぶことができる。

授業方法:

少人数による体験学習形式。
演劇の演技者のためのレッスンを主な方法として、演習（エクササイズ、ゲームあそび等）と、体験の言語化（ふりかえり）を積み重ねる。また、他者と協働して作品を創作し、試演（教室内発表）を体験する。

服装は簡単な運動のできるもの（スカート不可）、裸足（ストッキング不可）。
持参物はメモ用筆記具、飲料、汗拭き用タオル、（汗をかいた場合の）着替え。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
2.	みんなでやりとり1	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
3.	みんなでやりとり2	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
4.	ふたりでやりとり1：ブラインドウォーク	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
5.	ふたりでやりとり2：リード＆フォロー1	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
6.	ふたりでやりとり3：リード＆フォロー2	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
7.	ふたりでやりとり4：リード＆フォロー3	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
8.	行動を演じる1：日常のシーン	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
9.	行動を演じる2：出会いのシーン	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
10.	行動を演じる3：非日常のシーン1	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
11.	行動を演じる4：非日常のシーン2	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
12.	詩を演じる	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
13.	せりふを演じる1：あいうえおの会話1	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。
14.	せりふを演じる2：あいうえおの会話2	予習として、「ふりかえりシート」を作成。
15.	ふりかえり	あえて予習を必要としない。 翌日から充分な睡眠をとり、体調を整えて受講すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

レポートは、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	課題に対して主体的、積極的に取り組んでいるかを基準とする。
レポート	50	授業での体験を通して、問題や課題を見い出せているかと、独自の視点があるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対。

460100

メディア表現ワークショップ

上田　　信行

授業テーマ:　デジタルヴィデオ（ショートムービー）の制作

授業の概要:　授業では、コンピュータとヴィデオを使ってさまざまな映像制作プロジェクトを行う。受講者各自の「想像的創造力」を駆使して作品テーマを考え、小グループで協同制作を行う。具体的には、iMovieというデジタル編集ソフトを使って、様々なショート・ムービーを協同で制作する。作品の制作過程では、他のグループメンバーとテーマの映像化についてディスカッションし、プロトタイプ（試作映像）をつくりつつ修正していく。授業の目的は、映像編集のセンスや技術を身につけることはもちろんであるが、「デザインを通して学ぶ」「コミュニティの中で学ぶ」という体験をふり返り、意味づけ、抽象化することによって、自らの学び経験を言語化することである。コンピュータによる編技術は前もって必要ないが、新しいテクノロジーに挑戦したいという気持ちが大切である。

到達目標:
（1）iPadを使ってヴィデオ素材を撮り、それをiMovieで編集することができる。
（2）グループでプロジェクトを立ち上げ、プロトタイプの修正を重ねて、作品を協同で作り上げることができる。
（3）「デザインを通して学ぶ」「コミュニティの中で学ぶ」ということの教育的意義について語ることができる。

授業方法:　授業は、コンピュータを使った映像編集の方法を学びながら、レクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。個人の作業と協同作業を通した作品づくりを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	編集とメタ認知	授業後、ショートムービの制作に必要な認知的スキルについて整理し、ノートに書き出しておく。
2.	デジタル技術とノン・リニアー編集 (iMovieを使って)	iPadを使ってのヴィデオ撮影の方法とiMovieの編集方法を練習する。
3.	プロジェクトの説明 逆転ムービーとインタビューヴィデオの制作 逆転ムービーの制作1 4名で1グループを編成し、逆転ムービーの動きを練習し、それをiPadで撮りながら動きを修正する。	どんな逆転ムービーをつくろうかを考えておく。
4.	逆転ムービーの制作（プロトタイプ）2 逆転素材の編集	逆転ムービーの動きを撮ったヴィデオを視聴して、編集案を考えておく。
5.	逆転ムービー（プロトタイプ）発表会	逆転ムービーを完成させる。
6.	逆転ムービーの改定	他のグループの作品から触発された刺激をもとに、自分たちの逆転ムービーの改定案を考える。
7.	改定した逆転ムービー発表会	改定した逆転ムービーを完成させる。
8.	インタビューヴィデオ制作の企画	2人でペアーをつくり、お互いをインタビューする企画を考える。
9.	インタビューヴィデオの撮影	インタビューのリハーサルをしておく。
10.	インタビューヴィデオの編集とテロップの作成	ヴィデオをよく視聴して、編集案と、どんなテロップが必要かを考えておく。
11.	インタビューヴィデオの完成	編集したインタビューヴィデオを視聴しておく。
12.	インタビューヴィデオ発表会1	発表会後、コメントをもとにリフレクションペーパーを書く。
13.	インタビューヴィデオ発表会2	発表会後、コメントをもとにリフレクションペーパーを書く。
14.	逆転ムービーとインタビュームービの制作過程のリフレクション	今回の2つのプロジェクトを振り返りながら、気づいたことをまとめておく。
15.	まとめ：ショートムービーづくりを通しての学び	「デザインを通して学ぶ」「コミュニティの中で学ぶ」という意味を整理しておく。最終レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　番組づくりはとても楽しい作業なので、ぜひ参加してほしい。グループ作業が中心になるが、コラボレーションの楽しさを経験することができる。ものをつくることの達成感を味わうこともできるので、みなさんの挑戦を期待している。

フィードバックの方法:　ショートムービーのプロトタイプの発表会でのコメントを集約して、各グループに改定のポイントをアドバイスする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ムービー制作への貢献度	30	逆転ムービー、インタビュームービーの制作過程全体を評価する。どんな改善を繰り返して完成したか、その変化を評価する。
プレゼンテーション	10	ショートムービーの魅力をどうプレゼンテーションしたかを評価する。
ショートムービー作品	30	プロトタイプから完成への変化も含めて、番組の完成度を評価する。
最終レポート	30	ショートムービーの制作過程で経験したことを、意味づけ、学びの理論と関係づけながら自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:　授業中に資料を配布する。

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

460200

教職演習

大黒　　孝文、今井　　敏博

授業テーマ:　理数教科の指導力をつける

授業の概要:　小学校教員を目指す教員志望大学生に必要な資質能力の一つに教科指導力がある。この教科指導力の中でも，特に教師の指導力不足や指導に対する自信がないとされている教科が理数教科である。本講座では，その理数教科である算数と理科の学習内容と指導法に着目し，小学校で算数と理科を教える自信と学習理解を伸張することをねらいとしている。

到達目標:
・教師としての算数科の学習内容理解と指導力を高める。
・教師としての理科の学習内容理解と指導力を高める。
・算数科・理科に対する関心と学ぶ意欲を高める。

授業方法:　1:講義，2:演習，5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 算数・数学演習1	算数科の学習内容に関する自らの課題を明確にする
2.	理科演習1	理科の学習内容に関する自らの課題を明確にする
3.	算数・数学演習2	算数・数学演習1の類似問題の演習
4.	理科演習2	理科演習1の内容の類似問題の演習
5.	算数・数学演習3	算数・数学演習2の内容の類似問題の演習
6.	理科演習3	理科演習2の内容の類似問題の演習
7.	算数・数学演習4	算数・数学演習3の内容の類似問題の演習
8.	理科演習4	理科演習3の内容の類似問題の演習
9.	算数・数学演習5	算数・数学演習4の内容の類似問題の演習
10.	理科演習5	理科演習4の内容の類似問題の演習
11.	算数・数学演習6	算数・数学演習5の内容の類似問題の演習
12.	理科演習6	理科演習5の内容の類似問題の演習
13.	算数・数学演習7	算数・数学演習6の内容の類似問題の演習
14.	理科演習7	理科演習6の内容の類似問題の演習
15.	総括	全体のふり返り

受講者へのメッセージやアドバイス:　小学校算数・理科の学習内容に関心を持ち，学習内容に関して苦手な分野の学び直しを行います。そして，理解をより深めるために類似問題による演習を行います。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
算数と数学のテスト	40	到達目標の算数と数学に関する学習内容理解と思考力を客観的に評価する。
理科のテスト	40	到達目標の理科に関する学習内容理解と思考力を客観的に評価する。
授業への参加度	20	到達目標の関心と意欲の高まりを自己評価と他者評価を統合して評価する。

教科書:　プリント配布

参考書:
小学校学習指導要領　算数編（平成29年3月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領　理科編（平成29年3月告示　文部科学省）
その他，適宜授業の中で紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応，オフィスアワー，Eメール等

460300

こども英語ワークショップ

菅　　正隆

授業テーマ:
指導者として、小学校・幼稚園で行われている外国語指導のねらいを深く理解し、英語指導者としての指導力（テクニック）の向上をめざす。

授業の概要:
様々な指導方法及び内容を理解し、実際に体験しながら、指導力の更なる向上を図る。

到達目標:
英語指導者としての高度な実践的指導力を身に付けた自立した指導者になるとともに、英語指導の達人をめざす。

授業方法:
各種の指導方法の在り方を理解しながら、実際に指導を体験する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	子どもに対する英語指導の効果についてイメージする。
2.	小学校外国語（外国語活動）の歌の指導と在り方	英語の様々な歌について調べる。
3.	小学校外国語（外国語活動）のチャンツの指導の在り方	リズムで、英語を読む。
4.	小学校外国語（外国語活動）のコミュニケーション活動の在り方	ゲームやアクティビィティーを創作する。
5.	小学校外国語（外国語活動）の文字導入の在り方	アルファベットの効果的な指導方法を考える。
6.	小学校外国語（外国語活動）の教材・教具の在り方	効率の良い教材・教具を作成する。
7.	クラスルーム・イングリッシュの基礎基本	教室英語を調べる。
8.	電子黒板（ICT)の在り方と実践	アナログとデジタルの利点と欠点を考える。
9.	ショー・アンド・テル、紙芝居の在り方と実践	ショー・アンド・テルの原稿を作成する。
10.	英語劇の在り方と実践	読み聞かせの練習をする。
11.	小学校、中学校及び高等学校の連携の在り方	英語教育の効果的な連携の在り方をまとめる。
12.	小学校外国語（外国語活動）の授業案作成	模擬授業の指導案を作成する。
13.	小学校外国語（外国語活動）の模擬授業発表・討議(1)	模擬授業の指導案をもとに、ペアで授業の練習をする
14.	小学校外国語（外国語活動）の模擬授業発表・討議(2)	体験した模擬授業の課題、改善点をまとめる。
15.	総括	自立した指導者となっているか考え、課題を明確にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:
小学校外国語の指導者として、指導力の向上を図るには、実際に指導を体験してみることが大切です。これは、今後ますます社会的なニーズが広がり、教員として無くてはならない技能のなります。こども英語指導法とともに連続受講することで、指導者として完全に自立できると思います。

フィードバックの方法:
様々な指導方法を理解し、実践してみることで、課題や改善点を明確にし、テクニックを更に磨いてもらいます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート	30%	内容の適切さ
模擬授業発表（TT）	30%	指導の適切さ、声の大きさ、企画力等
教材・教具作成	30%	効果、企画力、創作力
授業への取り組み	10%	積極性、、実践力、出席率

教科書:

参考書:
文部科学省、『小学校学習指導要領解説　外国語活動編』、東洋館出版社
菅正隆　他、『外国語活動評価づくり完全ガイドブック』、明治図書出版
菅正隆　他、『″Hi, friends!″指導案＆評価づくりパーフェクトガイド』、明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:
kan.masataka@osaka-shoin.ac.jp

460401 **インターンシップⅡ**

中山　まき子、塘　利枝子、吉永　紀子

授業テーマ:　小学校における教育実践力を養成する。

授業の概要:　京都府教育委員会との連携により、小学校現場に入って、学校における教育活動の諸相を学ぶ。とりわけ、教育実践力を高めることをねらいとしている。そのために、研究課題を決めて、学校での教育活動を観察したり実践したりして、実践的課題を明らかにしていく。

到達目標:
①教育に対する使命感や倫理観を持ち、児童の成長や安全、健康を第一 に考えて、目的や状況に応じた適切な言動をとろうとしている。
②児童の発達や心身の状況を理解して児童との間に信頼関係を築こうとし、学級集団を把握して適切な指導を行おうとしている。
③学習指導の基本的事項（教科等の知識や技能）を理解するとともに、学習指導案の作成や授業の進め方などの基本的な方法を身に付けようとしている。
④ 自分の研究テーマについて、その課題解明に向けて、実践や文献などから学び続けようとする姿勢を持っている。

授業方法:　学校現場における実践的な演習を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	大学におけるオリエンテーションと事前指導	事前指導の内容から、小学校での実践への心構えをつくる。
2.	小学校におけるオリエンテーション	小学校現場に行く時の注意事項を再確認する。
3.	小学校現場における教育活動の観察（1）	観察した実習内容を実習簿に記録する。
4.	小学校現場における教育活動の観察（2）	観察した実習内容を実習簿に記録する。
5.	実践的な研究課題設定	実習校や大学の教員にも相談しながら、研究課題を考える。
6.	小学校現場における教育実践（1）	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。
7.	小学校現場における教育実践（2）	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録するとともに、中間報告会に向けて、実習校や大学の教員にも相談しながら、研究課題をまとめていく。
8.	研究課題に関する中間報告会	指摘された事項に基づいて、自分の研究課題と方法・内容を修整する。
9.	小学校現場における教育実践（3）	修整された研究課題（以下、研究課題）に即して、実習内容を実習簿に記録する。
10.	小学校現場における教育実践（4）	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。
11.	小学校現場における教育実践（5）	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。
12.	小学校現場における教育実践（6）	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。
13.	小学校現場における教育実践（7）	研究課題に即して、実習内容を実習簿に記録する。
14.	大学における事後指導	事後指導を承けて、実習校や大学の教員にも相談しながら、最終報告会に向けて研究課題をまとめていく。
15.	研究課題に関する最終報告会	指摘された事項に基づいて、自分の研究課題と方法・内容を省察する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実際の学校現場に入って児童の指導にあたりますので、小学校および大学の先生との報告・連絡・相談を密に行うようにしましょう。

フィードバックの方法:　研究課題の設定、中間報告会、最終報告会の機会に、個別または集団で、コメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実践現場における評価	50%	到達目標①②③に関する知識や理解度により評価する。
事前事後指導および報告会の出席と発表	20%	出席して積極的に発言する態度により評価する。
研究課題のレポート	30%	到達目標④に関する探究結果の論理性と内容の説得性を基準とする。

教科書:　無し

参考書:
①文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編　平成20年8月（平成27年3月付録追加）』東洋館出版、2016年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
①文部科学省『小学校学習指導要領解説　特別活動編　平成20年8月（平成27年3月付録追加）』東洋館出版、2016年、
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
①文部科学省『小学校学習指導要領解説　道徳編』東洋館出版、2008年、
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
①文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編　平成20年8月（平成27年3月付録追加）』東洋館出版、2015年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
①文部科学省『小学校学習指導要領解説　社会編　平成20年8月（平成27年3月付録追加）』東洋館出版、2015年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
①文部科学省『小学校学習指導要領解説　算数編　平成20年8月』東洋館出版、2008年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
①文部科学省『小学校学習指導要領解説　理科編　平成20年8月』大日本図書、2008年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
①文部科学省『小学校学習指導要領解説　音楽編　平成20年8月』教育芸術社、2008年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
①文部科学省『小学校学習指導要領解説　図画工作編　平成20年8月』日本文教出版、2008年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより

10. ①文部科学省『小学校学習指導要領解説　体育編　平成２０年８月』東洋館出版、2015年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
11. ①文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』東洋館出版、2008年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
12. ①文部科学省『小学校学習指導要領解説　生活編　平成２０年８月』日本文教出版、2008年
②新学習指導要領　平成29年3月公示版　文部科学省HPより
13. ①文部科学省『小学校学習指導

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、変化対応力、
教員との連絡方法:	Eメール、オフィスアワー

460402 **インターンシップⅡ**

藤原　　孝章

授業テーマ:　国際教育カリキュラム実施校におけるこども支援・外国語活動補助体験

授業の概要:　同志社国際学院初等部において、国際教育カリキュラム実施におけるこども支援・外国語活動（英語教育）補助に携わることにより、現代こども学科での学びを生かし国際教育カリキュラム（主としてインタナショナル・バカロレア:IB）への理解を深め、そこで学ぶこどもの理解と英語活用能力の向上を図り、教員として学校運営に参加するための資質と姿勢を身につける

到達目標:　知識理解目標：総合的な学習の時間における国際理解教育の学習内容に関する知識、インタナショナル・バカロレア:IBをベースとした探究活動に関する知識を獲得する
技能：国際教育のカリキュラム実施校におけるこども支援・外国語活動（英語教育）に関するスキル、コミュニケーション能力を獲得する
関心・意欲・態度：現代こども学科での学びを生かしたこども理解と教員として学校運営に参加するための資質と姿勢を獲得する

授業方法:　実地実習：国際教育カリキュラム実施校におけるこども支援、外国語活動（英語教育）補助に関する体験活動、事前事後指導：リフレクションとしての話し合い、学びの獲得についてのワークショップ、報告会での発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前指導1 オリエンテーション（6月を予定）	特になし
2.	事前指導2 事前打ち合わせ（10月を予定）。 学科教員、参加学生、国際学院初等部教員	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧の熟読）
3.	事前指導3 国際教育カリキュラム、IBについての講義）	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧）の熟読、国際理解教育及びIBについての文献の熟読
4.	事前指導4 実習校（同志社国際学院初等部）訪問	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧）の熟読、国際理解教育及びIBについての文献の熟読
5.	体験実習1（終日） 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動（英語活動）補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧）の熟読、国際理解教育及びIBについての文献の熟読
6.	体験実習2（終日） 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動（英語活動）補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧）の熟読、国際理解教育及びIBについての文献の熟読
7.	体験実習3（終日） 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動（英語活動）補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧）の熟読、国際理解教育及びIBについての文献の熟読
8.	体験実習4（終日） 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動（英語活動）補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧）の熟読、国際理解教育及びIBについての文献の熟読
9.	体験実習5（終日） 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動（英語活動）補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧）の熟読、国際理解教育及びIBについての文献の熟読
10.	体験実習6（終日） 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動（英語活動）補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧）の熟読、国際理解教育及びIBについての文献の熟読
11.	体験実習7（終日） 探究の時間、音楽、図工など国際教育実践校におけるこども支援、外国語活動（英語活動）補助	同志社国際学院初等部のカリキュラム（学校要覧）の熟読、国際理解教育及びIBについての文献の熟読
12.	事後指導1 中間報告会	体験実習で得た資料、実習簿などの点検
13.	事後指導2 振り返り	体験実習で得た資料、実習簿などの点検
14.	事後指導3 最終報告会のための発表準備	体験実習で得た資料、実習簿などの点検
15.	事後指導4 最終報告会	発表原稿（パワーポイント、レポート）

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前事後指導、体験実習を含め、実習校（同志社国際学院初等部）の教員、児童と関わることになります。教員としての自覚と責任を持ってのぞんでください。

フィードバックの方法:　体験実習期間における実習校訪問による指導助言、中間及び最終報告会における指導助言、実習簿の点検など

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前、事後活動への参加度	20	積極的に取り組んでいるか
体験実習への参加度	30	積極的に取り組んでいるか
中間及び最終報告会での発表	30	授業目標が達成できているか
実習簿の記述内容	20	授業目標が達成できているか

教科書:　特になし

参考書:　日本国際理解教育学会編（2015）『国際理解教育ハンドブック』明石書店
日本国際理解教育学会編（2010）『グローバル時代の国際理解教育』明石書店
授業の過程で必要あるときは紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　e-mail、面談など

460403 **インターンシップⅡ**

笠間　浩幸、吉永　紀子

授業テーマ:　子ども産業における業務体験と遊びの環境開発

授業の概要:　本インターンシップでは、子ども関連企業の企画開発部担当者の指導を受けながら、子どもの遊びに関する環境づくりと普及事業に参加し、環境創造の課題を得て、受講者自身も開発プロジェクトに取り組む。現場における実習経験を通してこれまでの現代こども学科での理論的学びをさらに具体的・実践的に広げるとともに、就業体験を通して社会人、企業人として社会参加するための資質と姿勢を育成することを目指す。

到達目標:
（1）子どもの遊びと遊び環境開発に関する基本的な視点と方法について理解する。
（2）企業が行っている子どもの遊び環境開発と遊び場運営の実際に積極的に触れ、その方法と課題、および可能性について学ぶとともに、自らも創造的イメージを持って取り組む。
（3）既成概念にとらわれず、新たな見方や考え方で課題プロジェクトに受講者同士で協力して取り組み、成果を発信することができる。

授業方法:　現場での実践的な演習を中心とするが、それに加えて学内でのオリエンテーション、プロジェクト課題に関する調査学習、グループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	大学におけるオリエンテーションと事前指導	選考時の課題レポートを読み返し、自身の実習計画の見通しを持つ。
2.	子ども関連企業の企画開発担当者によるガイダンスと実習課題の提示	企画開発部の担当者に対する自己紹介の内容と方法を考えておく。また自分が考える「子どもにとっての遊び環境の意味」を語れる準備をしておく。
3.	実習課題に対する調査学習とグループ・ディスカッション（学内）	第2時に提示された実習課題について、関連する図書や資料を検索し、レジュメをつくる。また、仲間と議論すべき内容を整理しておく。
4.	子ども関連施設への訪問調査・観察実習（1）京都市内（予定）	訪問する施設について予習をしておくとともに、実習課題に即した観察調査の計画を具体化しておく。
5.	子ども関連施設への訪問調査・観察実習（2）大阪市内（予定）	課題をもとに、これまでとは異なるフィールドでの調査・観察に向けた視点を明確にし、前回の実習と比較できるように準備しておく。
6.	子ども関連施設への訪問調査・観察実習（3）大阪市内（予定）	第5時に行った調査・観察をふり返り、第6時に行うべきことを明確にしておく。
7.	子ども関連施設への訪問調査・観察実習（4）神奈川県（予定）★合宿研修1日目	2泊3日の合宿研修において調査・観察すべきことの準備を整えておく。調査・観察に必要となる道具や資料を完成させておく。
8.	子ども関連施設への訪問調査・観察実習（5）神奈川県（予定）とプロジェクト課題の決定★合宿研修2日目	第7時の調査・観察で明らかになったことを整理し、改善点をリフレクションする。第8時に決定予定のプロジェクト課題について、自分なりの考えをつくっておく。
9.	子ども関連施設への訪問調査・観察実習（6）神奈川県（予定）★合宿研修3日目	第7・8時に行った調査・観察をふり返り、決定したプロジェクト課題に基づいて第7時に行うべきことを明確にしておく。
10.	課題プロジェクトの進め方の確認とグループ・ワーク（学内）	合宿研修での成果と課題をレジュメにまとめ、課題プロジェクトに関する調査研究の見通しを持つ。
11.	課題プロジェクトに関するグループ・ワーク	これまでの調査・観察における成果と課題を整理し、グループディスカッションでさらに質の高いものにするための準備をしておく。
12.	課題プロジェクトのプレゼンテーション中間報告会（学内）	中間報告会の内容を精査して、聴き手の印象に残り、かつ報告内容の特徴にふさわしい方法でプレゼンテーションできるようにしておく。
13.	グループ・ディスカッションとプレゼンテーションの準備と（学内）	前回の中間報告会での成果と課題を踏まえ、企業の本社でのプレゼンテーションに必要となる材料や資料を準備しておく。
14.	課題プロジェクトのプレゼンテーション（企業の本社にて）	前回のプレゼンテーションリハーサルでの質疑応答の結果を受けて、規定の時間内に効果的にプレゼンテーションを行う準備をする。
15.	最終報告会（学内）	企業の本社でのプレゼンの成果と課題を踏まえ、インターンシップでの学びの総括として内容、方法双方に工夫のある報告ができるように準備し、リハーサルを行っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実際に企業の企画開発に参加して課題プロジェクトを行いますので、一人ひとりの責任ある行動が求められるとともに、受講者間はもちろん、企業の担当者、大学教員との報告・連絡・相談を密に行うことが必要です。

フィードバックの方法:
（1）毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、その場で、もしくは次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行い、対応する。
（2）授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前・事後指導を含めた出席と毎回の感想カード	10	毎回の授業の課題やテーマに即したリフレクションが行われているかどうか
プロジェクト課題の成果物と報告会でのプレゼンテーション	30	グループにおける自分の役割を明確に果たし、立てた課題に対して論理的かつ説得力のある成果が個性的に表現されているか
調査・実習現場における評価	50	到達目標に基づいて総合的に評価する
研究課題に関する個人レポート	10	課題プロジェクトにおける自身の変化を具体的にとらえ、記述することができているか

教科書:　特定の図書などは使用しないが、授業や実習先で配布される資料類をファイリングし、テキストとして使えるようにしておく。

参考書:
野村寿子（1999）『遊びを育てる』協同医書出版社
松本英博（2009）『ヒット商品を生み出すネタ出し練習帳』翔泳社
ビジャイ・ゴビンダラジャン他　吉田利子訳（2012）『イノベーションを実行する―挑戦的アイデアを実現するマネジメント』エヌティティ出版

アレックス・オスターワルダー他　関美和訳（2015）『バリュー・プロポジション・デザイン』翔泳社
笠間浩幸（2001）『〈砂場〉と子ども』東洋館出版社
仙田満（1992『子どもとあそび―環境建築家の眼』岩波新書
仙田満（2016）『人が集まる建築　環境×デザイン×こどもの研究』講談社現代新書
石川祝男（2016）『大ヒット連発のバンダイナムコが大切にしているたった1つの考え方』サンマーク出版
その他、授業の中で随時紹介、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業内容に関する質問やその他、実習先への連絡が必要な場合は、授業担当者（吉永）に授業前後やオフィスアワーなどで直接、連絡・報告・相談をする。また、連絡先のメールアドレスは第１回のガイダンスで知らせるほか、マナビーも有効に活用する。

460404 **インターンシップⅡ**

吉永　　紀子、竹井　　史

授業テーマ:　保育所における絵本製作体験

授業の概要:　本インターンシップでは、松井ケ丘保育園が実施する絵本製作プロジェクトに参加し、子どものための文化創造の意義と重要性、その具体的な方法を修得することを目的とする。継続的な保育の実習活動を通して、乳幼児期の子どもの発達に応じた興味関心を知り、保育士と園児の関係構築のプロセスを学び、発達に適した絵本環境のあり方について学びを深める。この体験を通して、社会人、企業人、保育者として社会参加するための資質と姿勢を育成することを目指す。

到達目標:　（1）乳幼児期の子どもの発達に応じた興味関心と、絵本の持つ保育的価値と役割について理解する。
（2）子ども理解および絵本づくりの基本的な技術に基づいて、既成概念にとらわれない新たな発想で絵本の製作に協同して取り組む。
（3）製作した絵本の読み聞かせを行いながら、より子どもたちにふさわしい絵本の完成を目指すとともに、子どもの文化を創造することの意義を自らの言葉で語ることができる。

授業方法:　保育現場での実践的な演習を中心とするが、それに加えて学内でのオリエンテーション、絵本製作に必要となる知識や技術に関して調査学習やグループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	大学におけるオリエンテーションと事前指導（学内）	選考時の課題レポートを読み返し、自身の実習計画の見通しを持つ。
2.	松井ケ丘保育園の担当者によるガイダンスと実習の打合せ（保育所にて）	松井ケ丘保育園の担当者に対する自己紹介の内容と方法を考えておく。また自分が考える「子どもにとっての絵本の意味」を語れる準備をしておく。
3.	過去に製作された絵本の分析と実習課題の確認（学内）	これまでに製作され、お借りした絵本すべてを読んで、自分なりの感想や意見をまとめておく。
4.	保育観察・保育指導援助実習（1）	第3時に確認した仮の実習課題を視点として保育観察ならびに保育指導援助ができる準備を整えておく。また、実習後は受講者相互でリフレクションを行う。
5.	保育観察・保育指導援助実習（2）	第4時の実習での成果と課題を踏まえ、第5時に行うべきことを整理しておく。また、実習後は受講者相互でリフレクションを行う。
6.	保育観察・保育指導援助実習（3）と絵本製作のコンセプトの検討	第5時の実習での成果と課題を踏まえ、第6時に行うべきことを確かめておく。また、これまでの実習をふり返り、絵本製作のコンセプトのアイデアを練っておく。
7.	絵本製作（1）	これまでの実習をふり返り、テーマ設定と素材選びの準備をしておく。
8.	絵本製作（2）	第7時の内容を踏まえ、絵本の構成についてのアイデアを練っておく。
9.	絵本製作（3）	第8時の内容をもとに、絵本の原画と文章を分担して進められるように準備しておく。
10.	絵本製作（4）	第9時に引き続き、分担した自分の役割を果たすために必要な資料や材料を準備しておく。
11.	製作した絵本の中間報告会（保育所にて）	製作した絵本について趣旨や意図を説明する準備を行うとともに、絵本の読み聞かせに向けた練習を行っておく。
12.	絵本の改良と読み聞かせのリハーサルを主としたグループ・ワーク（1）（学内）	中間報告会で受けた指摘や意見をもとに絵本の改良に必要となる準備をしておく。
13.	絵本の改良と読み聞かせのリハーサルを主としたグループ・ワーク（2）（学内）	第12時に引き続き、絵本の改良に向けた準備を行うとともに、読み聞かせのリハーサルを行っておく。
14.	完成した絵本を用いた保育所での実習と、松井ケ丘保育園実習担当者・保育士とのリフレクション（保育所にて）	完成した絵本を用いて行う実習の指導案を仕上げ、必要な道具を準備し、当日の状況に応じた対応ができるようにしておく。
15.	最終報告会（学内）	完成した絵本を用いた保育実習をリフレクションしたうえで、インターンシップでの学びの総括として内容、方法双方に工夫のある報告ができるようリハーサルをしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　保育士と協同して、実際に保育に用いる絵本を製作するプロジェクトを行いますので、一人ひとりの責任ある行動が求められるとともに、受講者間はもちろん、保育所の担当者、保育士、大学教員との報告・連絡・相談を密に行うことが必要となります。

フィードバックの方法:　（1）毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、その場で、もしくは次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行い、対応する。
（2）授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前・事後指導を含めた出席と毎回の感想カード	10	毎回の授業の課題やテーマに即したリフレクションが行われているかどうか
製作した絵本と、報告会でのプレゼンテーション	30	グループにおける自分の役割を明確に果たし、設定したコンセプトに基づく絵本が内容的にも形式的にも水準を満たしているか。またプレゼンテーションが文脈や目的に応じて行われているか。
保育実習の現場における評価	50	到達目標に基づいて総合的に評価する
研究課題に関する個人レポート	10	絵本づくりプロジェクトにおける自身の変化を具体的にとらえ、記述することができているか

教科書:　特定の図書などは使用しないが、授業や実習先で配布される資料類をファイリングし、テキストとして使えるようにしておく。

参考書:

赤羽末吉（1983）『私の絵本ろん』偕成社
谷本誠剛・灰島かり（2006）『絵本をひらく』 人文書院
五味太郎（2005）『絵本を作る』ブロンズ新社
つるみゆき（2013）『絵本つくりかた』 技術評論社
秋田喜代美・増田時枝（2009）『絵本で子育て―子どもの育ちを見つめる心理学』岩崎書店
松岡亨子（1987）『えほんのせかい　こどものせかい』日本エディタースクール出版部
藤本朝巳（2015）『子どもと絵本―絵本のしくみと楽しみ方』人文書院

	脇朋子（2011）『子どもの育ちを支える絵本』岩波書店 その他、授業の中で随時紹介、指示する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法：	授業内容に関する質問やその他、実習先への連絡が必要な場合は、授業担当者（吉永）に授業前後やオフィスアワーなどで直接、連絡・報告・相談をする。また、連絡先のメールアドレスは第１回のガイダンスで知らせるほか、マナビーも有効に活用する。

460501～06　**こども学演習**

今井　敏博、笠間　浩幸　、中山　まき子、宮尾　夏姫、竹井　史、吉永　紀子

授業テーマ:
「子ども学」を学ぶということ
ー想像的創造力と行動力を高める道筋のために：その2ー

授業の概要:
基礎演習Ⅰの成果を踏まえ、「こども学」というテーマを深く追究するための技法活用技術を向上させていく。例えば、これまでの学問が「こどもたちをどのような存在だと見なしてきているのか？」、「用いられた技法では、こどもについての何が明らかにされ、何は明らかにされないのか」、「用いられた技法は妥当だろうか」など、複数の技法の習得をとおして、諸技法を相対化する力などを身につけ、各自の問題意識が鮮明になることを目指す。また、自分たちの学びの足跡を明確にし、保持するための「マイネ・カルテ」記録法を習得する。
この授業は基礎演習同様、次の点を重視します。1)「学生と学生」「学生と教員」など双方向・多方向の学び、2)参加・参画型のワークショップやディベート、ロールプレイなどの活用、3)身体表現やコミュニケーションをともなう実践的技法。
クラスにより水先案内人となる教員は異なるが、目的は共通している。

到達目標:
(1)こども学の複数の学び方や技法を習得する。
(2)マイネ・カルテの意義を理解し、記録法を身につける
(3)参画型ワークショップ、ロールプレイなど多様な学び方を理解し身につけようとする。
(4)こども学演習同様に、研究・調査・研究倫理の基礎を学び、身に付けていく。

授業方法:
全員参加の演習。毎回必ずレジュメやレポート提出等を課し、それらに基づいてワークショップ・報告・議論する習慣を身につける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	担当教員による演習の運営方法に関するオリエンテーション	各自が春学期とは異なる自己紹介の内容・方法を考えて初回授業に臨むこと。
2.	マイネ・カルテとは	春学期に各自が受講した授業・演習のテキストやノートを持参し、各内容のエッセンスを振り返り、授業に臨む。
3.	マイネ・カルテをつくる	第2回授業時の学びをもとに、1～2種のマイネ・カルテを自ら作成してくる。
4.	マイネ・カルテを素材とした発表と意見交換	春学期の授業内容すべてをマイネカルテとして作成して授業にのぞむ。
5.	大学生活とキャリア・デザイン(1) ー複数のキャリアを知ろう・学ぼうー	同志社女子大学卒業後の道筋について、自分の希望も含めどのようなさまざまな道筋があるか、できるだけ多くの道筋をノートに書き出してくる。
6.	大学生活とキャリア・デザイン(2) ーキャリアに必要な資格等の検討ー	各キャリアに資格は必要か否か、必要だとすると、どのような資格が必要なのか調べ、ノートに整理してのぞむ。
7.	大学生活とキャリア・デザイン(3) ーワークショップ等ー	「私のキャリア・デザイン」を、レポート形式でまとめ持参する。
8.	読む力(1)	テキスト内の「学科推薦図書」の中から1冊を選び熟読する。その上で、自分の「お薦めポイント」を記録して、皆に配布出来るように印刷して授業に臨む。
9.	読む力(2)	第8回時に皆で紹介しあい、話し合った推薦図書のエッセンスをまとめ、ノート整理しておく。
10.	読む力(3)	「私の推薦図書」を複数見つけ、持参する。
11.	読書の意義と意味を考える	「私の推薦図書」について、1～2冊を選び、300字程度の推薦文を記し、人数分複写して授業に臨む。
12.	ロールプレイ(1)ー親を考えるー	「読む力・読書」に関するレポートを作成し、授業前に提出する。
13.	ロールプレイ(2)ー幼い子どもを考えるー	第1回目のロールプレイからの気づき、問題点、などをノートに整理しておく。
14.	さまざまな学びの技法を振り返る(1)	ロールプレイがもたらす発見をノートに記述し、意見交換の素材として準備する。
15.	こども学のさまざまな学び方ー振り返りと意見交換ー	今まで体験してきたワークショップ、ディベート、ロルプレイなど、様々な学び方の特徴、違い、意義、問題点や課題などを整理・記録して演習にのぞむ。

受講者へのメッセージやアドバイス:
大学での学びの作法を身につける大切な授業である。毎回きちんと出席し、今後4年間の大学での学びを充実させる基礎力を付けたい。

フィードバックの方法:
(1)総ての演習時に、全員からの質疑応答を確認し、その内容等は次回の授業に反映させる。
(2)必要に応じて、次回演習で補足説明を行う。あるいは補足資料を配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加と意見や考えの発表等	40%程度	卒業までのこども学の学び方習得を目指す演習であるた授業時の参画のあり方を評価対象とする。
提出されたレジュメやレポートの内容	60%程度	提出物等を総合的に評価する。具体的な評価基準とその分配等は、各担当教員が授業時に指示する。

教科書:
『基礎演習マニュアルー学問の基礎技術2018年度ー』(春学期の「基礎演習」時に配布したテキストをさらに活用)

参考書:
適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、何事にもリフレクションする力、思いやる力、

教員との連絡方法:
初回授業時に、双方向の連絡方法・質疑応答対応の連絡方法等について、各教員が受講生に伝える。

460601～06

コンピュータ活用

阿部　　法子

授業テーマ:　「こども学」を専攻する学生にとって必要な「インフォメーション・リテラシー」を身につける。

授業の概要:　授業ではコンピュータの基本操作からはじまって、電子メールの使い方、インターネットを使っての情報検索や文書検索の方法、レポート作成に必要な文書作成の基礎を学びます。コンピュータがはじめての人にもきめ細かに指導します。
コンピュータがある程度使える人にとっても、同志社女子大学のネットワーク環境に親しみ、効果的な学びが出来るような授業デザインを考えています。

到達目標:　１年生の基礎演習の授業では「しらべて」「まとめて」「つたえる」ことが学びの中心的な活動になります。そのためには、情報検索、レジュメ作成、口頭発表、ディスカッションのための資料作成、フィールドワークや調査の結果を整理・分析し、レポートにまとめることが必要になってきます。「コンピュータ活用」ではこのような作業をサポートするコンピュータの基礎を学びます。

授業方法:　情報処理教室で１人１台のパソコンを使い、実習形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 文字入力	キーボード基本操作の確認
2.	インターネット メール	インターネットとメールの基本操作の確認
3.	Word（1）	Wordの基本操作
4.	Word（2）	前回授業の復習
5.	Word（3）	前回授業の復習
6.	Word（4）	前回授業の復習
7.	Excel（1）	Excelの基本操作
8.	Excel（2）	前回授業の復習
9.	Excel（3）	前回授業の復習
10.	Excel（4）	前回授業の復習
11.	Excel（5）	前回授業の復習
12.	PowerPoint（1）	PowerPointの基本操作
13.	PowerPoint（2）	前回授業の復習
14.	PowerPoint（3）	前回授業の復習
15.	PowerPoint（4）	前回授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題：教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
タイピングテスト	10	
課題	20	
小テスト	70	到達目標に関する知識と理解度により評価する

教科書:　授業開始時に紹介します。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

460701 **教職論**

大黒　　孝文

授業テーマ:　教職をめざして（なりたい教師と求められる教師）

授業の概要:　本講座では，教職を希望するみなさんに，①教職の意義と教員に必要な資質能力，②教職の制度と職務内容や義務，及び教師の役割，③教職の今日的課題とチーム学校，④アクティブラーニング型授業の理論と方法，⑤教職に対する適正と進路選択。以上の5項目を教職現場の実態を含めて正確に伝えると同時に集団討議によって問題解決能力を身につける。併せて，教職に対する意欲の喚起と教員採用までの支援を行う。

到達目標:
・教職の意義と教師に必要な資質能力について説明することができる。
・教職の制度と職務内容や義務を理解し、教師の役割について説明することができる。
・教職の今日的課題について関心を持ち、チーム学校の重要性を説明することができる。
・実践的にアクティブラーニング型授業を行い、理論と方法を説明することができる。
・教職に対する適性と進路選択について、総合的に検討することができる。

授業方法:　1:講義，2:演習，5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	教育に関わる疑問や質問等をまとめる
2.	データで見る公教育の実態と役割	
3.	データで見る教職の実態と社会的比較	
4.	教職に求められる資質・能力と社会的背景	前時に配布する教員としての資質能力チェック表を確認しておく
5.	教師としての能力を高めるアクティブラーニングの理論	協同学習を学ぶケースメソッド教材を用いて問題点を読み取る（マナビーを用いた反転授あり）
6.	教師としての能力を高めるアクティブラーニングの方法	協同学習を学ぶケースメソッド教材を用いて問題点を読み取る（マナビーを用いた復習授業あり）
7.	教師としての能力を高めるアクティブラーニングの現状	協同学習を学ぶケースメソッド教材を用いて問題点を読み取る（マナビーを用いた復習授業あり）
8.	学校組織の中で教師のはたす役割	
9.	教員としての含むと職務内容	配布した教職アプローチを読む
10.	教員としての義務と身分	配布した教職アプローチを読む
11.	学び続ける教師の研修とその養成	配布した教職アプローチを読み読書感想文を書く
12.	学校の内から見るチーム学校（専門性）	配布した教職アプローチを読む
13.	学校の外から見るチーム学校（連携と分担）	配布した教職アプローチを読む
14.	教職のこれからと進路選択	教員採用試験に対する不安や疑問が質問できるようにする
15.	まとめ	全体のまとめとしてふり返る

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講義では，教職現場の実態を異なった視点で観ることができる工夫を行っています。視点を移動することで学校教育の多様な見え方ができると考えます。教職をめざすみなさんには，教育に関する諸問題や今日的課題に関心を持ち，情報の収集を心がける中で，進路決定に向けての課題と問題点を明確してもらいます。

フィードバックの方法:　提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標の学習内容の理解度を客観的に評価する。
感想文	20	教職アプローチの感想文の完成度を思考判断と表現，及び指定したフォーマットの規準に沿って評価する。
小テスト	20	到達目標のアクティブラーニング型授業の小テストを実施し，問題点に気づく力を客観的に評価する。
授業への参加度	10	討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。

教科書:　教職アプローチ（第6版：授業内で配布）

参考書:
小学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（現在公示分　文部科学省）
他、適宜授業の中で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等

460702 **教職論**

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要: 教職・保育職について具体的なイメージをつかみ、制度的な位置づけを知り、多角的に理解する。

到達目標:
1. 教職/保育職（幼稚園教諭、保育士、保育教諭）の法的位置づけを理解する。
2. 職務内容について知る。
3. 進路選択に資する。

授業方法: 講義と演習形式をとる。テーマに応じフィールドワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教職・保育職をめざす目的意識を持つ。	幼稚園・保育所等につき自分なりのイメージを描き、自分の適性を検討しておく。
2.	教育・保育制度内における教職・保育職の位置づけ	関連資料を読んでおく。
3.	幼稚園教諭・保育士の日常業務について（1）	関連資料と照らし合わせ理解する。
4.	幼稚園教諭・保育士の日常業務について（2）	事例をまとめておく。
5.	「子どもの思いや育ちを理解する」ことについて	事例をまとめておく。
6.	「子どもと一緒に心と体を動かす」ことについて	事例をまとめておく。
7.	遊びの重要性	事例をまとめておく。
8.	遊びと学びの環境づくり	事例をまとめておく。
9.	豊かな文化や自然との出会いについて	事例をまとめておく。
10.	絵本環境について	事例をまとめておく。
11.	自然とのかかわりについて	事例をまとめておく。
12.	保護者支援、家庭との連携	事例をまとめておく。
13.	保育者の資質向上と同僚性について	事例をまとめておく。
14.	保育者の専門性について	事例をまとめておく。
15.	まとめ	資料、テキストを通読しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス: 就学前の教育・保育職に焦点づけた内容です。実技（ピアノ・歌唱）の演習も含みます。内容については前後することがあります（予告します）。フィールドワークの課題を課します。

フィードバックの方法: 全体への解説。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参画	50%	積極的に発言したか。話し合いや共同の活動に自分なりの貢献をしたか。
定期試験	50%	設問に対し的確な回答・解答ができているか。

教科書:
幼稚園教育要領　フレーベル館
保育所保育指針　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　フレーベル館
MINERVAはじめて学ぶ保育10　保育所・幼稚園実習・幼保連携型認定こども園実習

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に応対。

460801、02

教育課程論

吉永　　紀子

授業テーマ:　こどもたち一人ひとりの学びが大切にされるカリキュラムをデザインする

授業の概要:　各学校が学習指導要領に基づいて教育課程を編成することの目的、意義、その方法原理を理解したうえで、具体的な教育課程編成の実践事例を考察することを通して、社会に開かれた教育課程の創造に向けて必要となるカリキュラム・マネジメントの課題と可能性を考察できるようになることを目的とする。

到達目標:
（1）各学校のカリキュラム（教育課程）をデザインする目的、意義、その方法原理ついて得られた知識を自分なりに編集して、相手にわかりやすく説明することができる。
（2）社会に開かれた教育課程の創造が求められる歴史的背景やこれまでの先行実践の事例を自ら調査し、カリキュラムをデザインする上での課題を見出し、解決に向けて学んだ内容から提案することができる。
（3）具体的な授業実践を分析する方法を身に付け、その方法を運用して、子ども一人ひとりの学びが大切にされるカリキュラムデザインのプランを仲間と協力して製作・発表することができる。

授業方法:　課題に基づくディスカッション、調べ学習、論点整理（講義による解説）を組み合わせ、グループワークをしながら、学んだことを自分たちの言葉で表現する課題に取り組む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション：教育課程とは何か	シラバスを事前に読んでくる
2.	学習指導要領に基づく教育課程編成のねらい	学習指導要領には何が書かれているかを事前に調べてくる
3.	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景を知る（1）1947年から1969年まで	事前課題について自分なりの考えをまとめてくる
4.	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景を知る（2）1977年から1998年まで	事前課題について自分なりの考えをまとめてくる
5.	学習指導要領の歴史的変遷と社会的背景を知る（3）2003年から2018年まで	事前課題について自分なりの考えをまとめてくる
6.	社会に開かれた教育課程とは何か	事例を読み、自分なりの考えをまとめてくる
7.	学習指導要領が示す、これからの社会を担う子どもに育みたい資質・能力の分析検討	資料を読み、自分なりの考えをまとめてくる
8.	教育実践を読み解くための分析方法を学ぶ	事前課題について自分なりの考えをまとめてくる
9.	教育実践を読み解く（1）教科・領域横断の小学校教育実践の分析	分担した内容について調べてくる
10.	教育実践を読み解く（2）実践を評価し、教育課程編成の原理を可視化する	前回の学習内容を、構造図にまとめてくる
11.	カリキュラム・マネジメントが求められる社会的背景を考える	資料を読んで、自分なりの考えをまとめてくる
12.	カリキュラム・マネジメントの先駆的取組の考察	分担した内容について調べてくる
13.	カリキュラム・マネジメントのモデルプランをデザインする（1）計画を吟味する	グループで事前に打ち合わせを行い、課題を整理してくる
14.	カリキュラム・マネジメントのモデルプランをデザインする（2）プランを発表する	発表のリハーサルを行っておく
15.	各学校の実態に即した教育課程を編成するために必要なこと	これまでの授業内容をふり返り、自分なりに意味づけをしてくる

受講者へのメッセージやアドバイス:
さまざまな学校の取り組みに具体的に学ぶための「めがね（見方）」をつくり、その「めがね」を使って見えてくることをもとに、自分たちのプランを形作っていきます。
毎回の授業の積み重ねが、その「めがね」の精度を高める上で重要です。
また、グループワークを並行して進めていくため、互いの力を引き出し合える関係を築き、よりよいモデルプランができるよう、各自の準備とふり返りが欠かせません。

フィードバックの方法:
毎回の授業で、前回の授業に対する質問や意見についてコメントしたり、解説をしたりします。
また、プレゼンテーションに対するコメントも授業内で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
モデルプランの発表	20	個々の視点が確実に発揮され、総和を超える質の高いプランの内容が、わかりやすく具体的に発表できたか
毎回の授業に関するミニレポート	30	各回の授業内容に対する理解をふり返り、自分なりの言葉にして説明することができたか
定期試験	50	授業を通して得られた知識をもとにして、問われた内容に対して的確に解答することができたか

教科書:　文部科学省編（2018）『学習指導要領・総則編』

参考書:
柴田義松（2007）『子どもと教師でつくる教育課程試案』日本標準
田村知子・村川雅弘・吉富芳正・西岡加名恵編著（2016）『カリキュラムマネジメントハンドブック』ぎょうせい
吉田新一郎（2004）『いい学校の選び方―子どものニーズにどう応えるか』中公新書
秋田喜代美・有馬幼稚園・小学校編（2002）『幼小連携のカリキュラムづくりと実践事例』小学館
奈須正裕（2013）『子どもと創る授業』ぎょうせい
田村学（2017）『カリキュラム・マネジメント入門―「深い学び」の授業デザイン。学びをつなぐ7つのミッション』東洋館出版
そのほかは授業内で適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　第1回の授業時に教員のメールアドレスとオフィスアワーを伝える。授業内外で質問などに対応するほか、メールでも対応する。

460901、02

児童理解と指導

木村　　久男

授業テーマ:

学校における教育活動全般にかかる生徒指導・進路指導の理論と方法を学び理解する。児童が輝　く「安心と信頼」の学校をつくり出すために大切なこと。

授業の概要:

学習指導要領に沿った授業テーマや到達目標を、具体的な事例を基に明らかにして、「児童理解」深め、「指導観」を磨くことで目指す教師像をイメージする。
対話的な講義を中心に受講者がともに考え、語り合う時間を大切にする。配布資料や時々の生徒指導に関係する報道等をもとにした受講者同士の意見交流やグループ討議、毎時間提出する小レポートを活用した交流など、アクティブラーニングの手法を用いて授業を行う。

到達目標:

1、生徒指導の意義は、「問題行動」や「非行」等の対策ということにとどまるものではなく、全教職員による、すべての児童の人格のよりよき発達と充実した学校生活を作り出すためのものであるということを理解する。
2、すべての児童を対象にした学級・学年・学校の教育課程内外での学習指導、進路指導、教育相談等を通しての生徒指導の進め方を理解する。
3、児童の「問題行動」等の生徒指導上の課題の背景をつかみ、その課題に応える指導を行えるように、養護教諭等の教職員やカウンセラー等の専門家、外部機関や家庭・地域等の学校内外との連携を含めた対応の在り方を理解する。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション「生徒指導の領域と機能」。教育課程における生徒指導の位置づけを知る。講義概要、講義通信、受講時の心得、成績評価について。	教職を目指す上での希望、不安や問題意識はどんなものか。最近の子どもと教育に関するニュースや関心のある社会問題は何か。自身を振り返ったり、情報を集めましょう。
2.	生徒指導と教師の役割。生徒指導の土台となる、児童・保護者との「信頼関係」をどうつくるか。集団指導・個別指導の方法原理を知る。	「なめられたら終わり」か？ 児童や保護者と信頼関係を築く上で大切なものは何か。先生の「権威とは何か」これまでの体験や知識を元に考えみましょう。
3.	学級・学校づくりと生徒指導の原則。教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生活指導の意義や重要性を理解する。	「勉強嫌い」「面白くないし、やる気ない」という声にどう答えるか。 学校生活の大半は授業時間。今求められている「アクティブラーニング」とはどんなものか。子どもの瞳の輝く授業学習をどう作るか。「面白い授業体験」をもとに考えてみましょう。
4.	「指導を受け容れる力」。生徒指導上の課題の定義とその背景にあるもの、対応の視点。 「問題行動」や「荒れ」・非行と言われるものの実態や「学級崩壊」について調べたり、自身の体験を思い出して考える。	子どもの「問題行動」や「荒れ」と言われるものの実態や「学級崩壊」について調べ、自身の体験をもとに考えてみましょう。
5.	「いじめ」の現実を明らかにし、その定義や対応の視点と原則を考える。	「いじめ事件」報道などからいじめの実態と原因について調べ、克服の道を調べよう。「いじめ指導」で一番大事なことは何か、やってはいけないことは何か、を考えよう。「いじめと自殺」の問題を「ウエルテル効果」やWHOの「自殺を予防する自殺事例報道のありかた」などについて調べて考えててみましょう。
6.	「登校拒否」「不登校」や「暴力行為」等の事態を明らかにし、その定義や対応の視点と原則を考える。	「登校拒否」「不登校」や「暴力行為」の実態と事例を調べよう。その克服と援助の取り組みについて事例をもとに考えてみましょう。
7.	今日的な生徒指導の課題（児童虐待、性、薬物、インターネット等）への対応について考え、専門家や関係機関との連携の必要性を理解する。教育相談、外部機関との連携。	紹介する参考文献などをもとに「少年事件」と「自尊感情」について調べてみよう。「迷惑」をかけた・かけられた経験も振り返って考えてみましょう。
8.	「クレーム」問題を考える。「モンスターペアレント」の正体。保護者理解と家庭・地域との連携の在り方を考える。	「クレーム問題」「モンスターペアレント」の事例について調べよう。「クレーム」を「つながるチャンス」に変えるために大切なことは何かをこれまでの学習や経験をもとに考えてみましょう。
9.	発達障がいや特別支援教育と生徒指導の関連について、体験や学んだことをもとにして考える。「問題行動」の背景にある発達課題や学校・家庭の問題と生徒指導のあり方を理解する。	発達障がいや特別支援教育と生徒指導の関連について学んだことや体験をもとに考えてみましょう
10.	校則、体罰、懲戒等の生徒指導に関する問題を考え、それに関する主な法令の内容を理解する。	校則体罰、懲戒などに関わる報道を調べ、法令や指導における問題点を考えてみましょう。
11.	日々の学習活動や道徳・総合的な学習の時間、給食、清掃活動、特別活動を通しての生徒指導と学級・学年・学校づくり。生活習慣の確立や規範意識の醸成等と児童の存在感が育まれる場や機会の設定の意義と方法。	子どもが「変わる」ために大切なものは何か。金森利朗や制野俊弘の実践を調べて学びましょう。
12.	「学習権」と進路指導。キャリアガイダンスとの連携。	自身が受けた進路指導がどのようなものだったっかをまとめてみよう。「ユネスコ学習権宣言」や「「子どもの権利条約」「児童憲章」などをもとに、キャリアガイダンスと関連付けた「学習権」について考えましょう。
13.	「教育の力」。教育集団（子ども集団、父母集団、教師集団）の力。その中核となる学校教職員の組織的な取り組みの重要性を理解する。	いじめ・不登校や「問題行動」などでの教育相談場面の事例を調べ、チーム学校としての生徒指導のありようを考えましょう。
14.	課題レポート発表Ⅰ。生徒指導や教職への不安や疑問について交流する。	「手作り新聞」プレゼンテーションの準備をしよう。 ゆとり教育と「学力問題」などの教育問題について考えよう。
15.	課題レポート発表Ⅱ．この講義で学んだことを振り返り、目指す教育と教師像を考え合う。	印刷配布された全員分の「手作り通信」を読んで、教育と子どもの問題を考えよう。 この授業で学んだことを振り返り、目指す教育・教師像を考えちう。教職への不安や疑問があれば質問できるようにまとめておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

今日的な教育課題や社会問題を積極的に取り上げながら授業を進めていくので、本や雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど、メディアを通した教育情報にできるだけ多く触れておくようにしましょう。
また、講義テーマを自分自身の体験に引き寄せて、問題意識を持って授業に参加しましょう。

フィードバックの方法:	コメントカードは全員分を講義通信に掲載して毎回紹介し、解説します。 最終レポートとなる「手作り通信」は、縮小印刷して全員分を配布し、一人1分のプレゼンテーションを行ってもらいます。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート試験	60	1、問題意識を持って調べたことや体験をもとにして記述し、自分なりの考察ができる。 2、読み手にわかりやすく興味をひく文章表現ができる。 3、グラフや表、イラストなどをを活用して、読み手にわかりやすい紙面構成にすることができる。 4、文字の丁寧さと読み手の興味を引くレイアウトの工夫ができる。
レポート等の発表内容	10	グループ活動での発表や1分間のプレゼンテーションで、聞き手の興味を引くように内容をわかりやすく伝えることができる。
毎回の授業最後に提出する小レポート	30	1、グループ活動や対話・討論など、場に応じて学習活動に参加することができる。 2、これまでの体験や知識をもとに考察して、講義後のコメントカードにまとめることができる。

教科書:	特に指定しない
参考書:	小学校学習指導要領 生徒指導提要 講義のつど授業の参考文献等を紹介する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、思いやる力。
教員との連絡方法:	1、授業の前後で教室内で対応。 2、メールによる(kimura@soai.ac.jp

461001、02

教育方法と技術

上田　　信行、吉永　　紀子

授業テーマ:　次世代型の学習を創る教育方法と授業デザインのアート(技)の探究

授業の概要:　変化の激しい知識基盤社会において求められる資質・能力の育成に資する教育方法についての基礎的理解のもとに、主体的・対話的で深い学びを生み出す指導の理念について考えることができるようにし、それを具体化するためのアート(技)を獲得することを目的とする。次のような活動を通して学習を深めていく。(1) これまでの自分たちの学習経験をふり返り、質の高い学びが生み出された教育方法や授業デザインにはどのような意図や目的が埋め込まれていたかを分析・考察し、学びの意味づけを図る。(2) 教育方法の基礎的な理解をベースにしつつも新たな学びのデザインを可能にするモデルを参照し、双方を柔軟に組み合わせて学習指導案・保育指導案を検討し、作成する。(3) 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を目指す受講者自身がアクティブに多様な考えや表現から相互に学びあい、ICTを効果的に用いながら、協同して教材を作成・表現・評価する。

到達目標:　(1) 知識基盤社会において求められる資質・能力の育成に資する教育方法の原理について得られた知識を編集して、他者に効果的に説明することができる。
(2) 主体的・対話的で深い学びを保障する理論的な知識と、それを具体化するアート(技)を自ら学ぼうとし、既成概念にとらわれない見方・考え方を具体的なプロジェクトのなかで形にすることができる。
(3) ユニバーサル・デザインの観点から全ての子どもの学習参加を可能にする情報機器を活用し、子どもの視点に立って複数のプロトタイプを出し、その中からより適切な教材を作成することができる。

授業方法:　五感マッププロジェクトでは、想像的創造力を耕し、プログラミング的思考では、自分の思考過程をふり返り、体験を意味づけて抽象化する経験をする。さらに、省察的実践家として教師を捉え、専門職業人としてのあり方をディスカッションする。授業で学んだ教育技術を使ってプロジェクトを企画・実践する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 一学びや遊びをデザインするということ一	省察的実践家としての教師はどのように授業をデザインするか。
2.	授業を構成する5つの柱	授業実践記録の分析から考察する。
3.	新学習指導要領と資質・能力	21世紀型コンピテンシーの設計図を描く。
4.	授業技術、保育技術の基礎基本	省察的実践における実践のアート(技)とその意図を考察する。
5.	学びへの動機づけとマインドセット	学びへの動機づけ理論における子どもの知能観と達成動機を分析し、この考え方を授業にどう活かすかを議論する。
6.	学習環境をデザインする 一構成主義的学習観を手がかりにして一	学習環境を構成する4要素(空間・道具・活動・人)、活動を循環させるためのTKFモデル(つくって、かたって、ふりかえる)、学びを活性化する4Ps(Projects, Passion, Peers, Play)を学ぶ。
7.	学びを触発するメディア	教材・教具、発問を考える。
8.	カリキュラムと授業を評価する	videoドキュメンテーション技術と改善のための形成的評価について考える。
9.	プログラミング的思考とは何か	Scratch(こども向けコンピューター言語)の実践を例として子どもの情報活用能力を育む指導法を考え、プログラミング的思考を育むためのプロジェクトを考える。
10.	ICTを用いた授業・保育指導案を作成する	グループで学習課題、教材・教具、発問を具体化し、リハーサルを行う。videoドキュメンテーションの方法も学ぶ。
11.	ICTを用いた模擬授業・模擬保育を実践する	作成した指導案に基づいてグループで模擬授業を行う。
12.	ICTを用いた模擬授業・模擬保育を省察する	videoドキュメンテーションを用いたグループ・リフレクションを行う。
13.	ICTを用いて、映像作品をつくる	iPadで撮影し、編集ソフトを使ってコンピューで映像編集を行い、発表会を行う。
14.	五感アルバムの作成	五感アルバムを作成し、展覧会を開く。
15.	次世代型の学習を創るために求められる教育の方法を展望する	授業全体をふり返ってリフレクションペーパー(最終レポート)を書く。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業そのものが「教育方法と技術」そのものなので、授業での経験を活かして将来小学校の授業や幼稚園での保育に活かしてもらいたい。とてもエキサイティングな教育方法の授業を展開するので楽しみにしていてほしい。

フィードバックの方法:　グループワークでのディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業・模擬保育の発表	30	作成した指導案に基づく模擬授業・模擬保育の発表内容
小レポート	20	毎回の授業の最後に提出する小レポート
作品と最終レポート	50	五感マップなどの作品と模擬授業・模擬保育体験を省察するレポート

教科書:　上田信行『プレイフル・シンキング－仕事を楽しくする思考法』宣伝会議 2009
秋田喜代美『学びの心理学―授業をデザインする』左右社 2014

参考書:　授業中に適宜資料を配付する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

461101

道徳教育論

佐藤　　光友

授業テーマ:　道徳教育における理論的かつ実践的指導方法についての考察

授業の概要:　本科目においては、児童生徒の道徳性を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念(道徳あるいは道徳教育の意義、日本における道徳の歴史的変遷の視点、道徳性の発達、道徳規範、道徳教育における理論ならびに方法、これからの学校教育における道徳教育のあり方)を考察する。さらに、道徳授業における指導方法や指導計画、指導内容(資料活用、発問作成)ついて学んでいく。

到達目標:　児童生徒の道徳性(道徳的心情・判断力・実践意欲と態度)を育成するための道徳教育の基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を確実に身につける。さらに、道徳授業の指導方法や指導内容に対応した指導案作成(資料活用、発問作成など)や模擬授業の基本的技能を修得できるようになること。

授業方法:　講義と平行して、指導案を基にして、集団討議や模擬授業等を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	道徳教育の意義、目標	シラバスを事前に読んでおくこと。
2.	道徳教育の歴史	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
3.	道徳教育と学習指導要領	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
4.	道徳性の発達	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
5.	道徳性と社会規範	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
6.	道徳教育の方法Ⅰ(モラルジレンマ方式)	事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。
7.	道徳教育の方法Ⅱ(価値明確化方式)	事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。
8.	道徳授業の指導Ⅰ(教材の活用方法)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
9.	道徳授業の指導Ⅱ(指導案作成の手順)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
10.	道徳授業の指導Ⅲ(道徳授業の発問構成)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
11.	道徳授業の指導Ⅳ(モラルスキルトレーニング活用授業)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
12.	教育活動全体と道徳教育	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
13.	道徳教育における評価	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読して自分なりに道徳教育の課題を考えておくこと。
14.	道徳教育の課題	事前に配布している資料を使って復習をしておくこと。
15.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
指導案作成・提出	30%	課題に対応した指導案作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。
発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。
定期試験	40%	道徳教育の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。

教科書:　金光靖樹、佐藤光友編著『やさしく学ぶ道徳教育』(ミネルヴァ書房)
文部科学省 著『小学校学習指導要領解説　道徳編』

参考書:　授業中、適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

461102

道徳教育論

佐藤　　光友

授業テーマ:　道徳教育における理論的かつ実践的指導方法についての考察

授業の概要:　本科目においては、児童生徒の道徳性を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念(道徳あるいは道徳教育の意義、日本における道徳の歴史的変遷の視点、道徳性の発達、道徳規範、道徳教育における理論ならびに方法、これからの学校教育における道徳教育のあり方)を考察する。さらに、道徳授業における指導方法や指導計画、指導内容(資料活用、発問作成)ついて学んでいく。

到達目標:　児童生徒の道徳性(道徳的心情・判断力・実践意欲と態度)を育成するための道徳教育の基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を確実に身につける。さらに、道徳授業の指導方法や指導内容に対応した指導案作成(資料活用、発問作成など)や模擬授業の基本的技能を修得できるようになること。

授業方法:　講義と平行して、指導案を基にして、集団討議や模擬授業等を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	道徳教育の意義、目標	シラバスを事前に読んでおくこと。
2.	道徳教育の歴史	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
3.	道徳教育と学習指導要領	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
4.	道徳性の発達	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
5.	道徳性と社会規範	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
6.	道徳教育の方法Ⅰ(モラルジレンマ方式)	事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。
7.	道徳教育の方法Ⅱ(価値明確化方式)	事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。
8.	道徳授業の指導Ⅰ(教材の活用方法)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
9.	道徳授業の指導Ⅱ(指導案作成の手順)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
10.	道徳授業の指導Ⅲ(道徳授業の発問構成)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
11.	道徳授業の指導Ⅳ(モラルスキルトレーニング活用授業)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
12.	教育活動全体と道徳教育	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
13.	道徳教育における評価	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読して自分なりに道徳教育の課題を考えておくこと。
14.	道徳教育の課題	事前に配布している資料を使って復習をしておくこと。
15.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
指導案作成・提出	30%	課題に対応した指導案作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。
発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。
定期試験	40%	道徳教育の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。

教科書:　金光靖樹、佐藤光友編著『やさしく学ぶ道徳教育』(ミネルヴァ書房)
文部科学省 著『小学校学習指導要領解説　道徳編』

参考書:　授業中、適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

461201

特別活動論

吉永　　紀子

授業テーマ:　こころとからだをはぐくむ特別活動を探究する

授業の概要:　目標とされている「望ましい集団活動を通して人間形成を図ろうとする」特別活動とは具体的にどのような活動であり、こうした活動を子どもたちの育ちに応じていかにしてデザインしていく必要があるのか。本授業では、特別活動の目的や意義を具体的な実践記録を手がかりに追究することを通して、子どもたちのこころとからだをはぐくむ特別活動のあり方を見出し、デザインするための視点を獲得していくことを目指す。

到達目標:
（1）特別活動の授業を行うために必要となる基礎的な知識を理解し、自分のものにしている。
（2）子どもの心と体をはぐくむ特別活動の展開の可能性に関心を持ち、多様な教育実践に対する考察を通して、子どもの立場に立った実践のデザインを複数提案できるようにする。
（3）望ましい集団活動を通して人間形成を図ることはどのような計画と考え方によって実現するかについて、仲間の力を引き出しあいながらデザインを作り、根拠をもって説明・表現しようとする。

授業方法:　毎回の授業では資料読解、課題追究をめぐって個人やグループで考え検討する活動が中心となり、教員からの解説や講義を踏まえ、確かな理解を目指す。グループワークを通して活動プランを作ることも中盤から後半にかけて多くなる。
なお、活動プランは授業内の時間では完成しないため、メンバーと相談、協力して授業外でのグループワークを行うことができるようにしておく必要がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	特別活動論のオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス／ブレーンストーミング：特別活動ではどのような学びが期待されているのか	本授業のシラバスを読んでくる。
2.	特別活動の年間指導計画をつくる	教科書で指定されたページを読み、わからないところを調べておく。
3.	学級活動をつくる（1）係活動と当番活動	前の回に考え、議論した内容を読み返し、自分なりの考えを整理しておく。
4.	学級活動をつくる（2）全員参加の学級会をつくるために何が必要か	指定された図書から自分が関心をもった実践について読み、気になった点や議論したい点について書き込みをしておく。
5.	学級活動をつくる（3）集会活動で育みたい力とは	前の回に考え、議論した内容を読み返し、配布された資料と該当する教科書の頁を読んでから自分の考えをつくっておく。
6.	特別活動と安全教育～救命講習を体験する	指定された動画と関連資料を事前にみておく。
7.	学校行事をつくる（1）異年齢集団の活動を通して学校の文化をつくる	前の回に配布された資料を読んでおき、気になった点や議論したい点について書き込みをしておく。
8.	学校行事をつくる（2）こどもにとって意味ある学校行事にするには	前の回に映像を視聴した際にメモをとったものを読み返し、学校行事に関する教科書の関連ページを読んでくる。
9.	チームによる学級活動・学校行事の企画づくり（1）デザイン	指定された範囲の中から自分がもっとも関心を持った内容を選び、それについて自分なりのアイデアをいくつか書き出してくる。
10.	特別活動の基盤としての学級をつくる～仲間とのかかわりを豊かにする～	前の回に配布された資料を読み、提示された問いについて自分なりの仮説を立てておく。
11.	児童会活動をつくる～こどもが主役の学校づくりに向けて	前の回に視聴した映像と該当する教科書の頁とを関連づけ、疑問に思ったことを洗い出しておく。
12.	チームによる学級活動・学校行事の企画づくり（2）準備	第9回以降、グループの中で分担していた内容を責任をもって整理し、わかりやすくメンバーに伝える工夫をしておく。
13.	チームによる学級活動・学校行事の企画を体験しよう	作成したプランをリハーサルしておき、必要となる道具や材料を整えておく。
14.	チームによる学級活動・学校行事体験のリフレクション	前の回に行ったアクティビティを映した動画を事前に視聴し、リフレクションの視点を考えておく。
15.	全体のまとめ	これまでに学んできた内容について資料やノートを読み返し、特別活動に関する見方や考え方がどう変化したのかを整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　学校には、教科や総合的な学習の時間、道徳の時間のほかに「特別活動」という教育活動があります。「特別活動」と聞いて思い出すのは学級会や学校行事、クラブ活動など、こどもたちに比較的人気のある目立った活動が多いかもしれません。しかし、実は子どもたちが毎日登校してから下校するまでのうち、授業での学習時間を除いたほとんどすべての時間はこの「特別活動」にあたるものなのです。特別活動によって子どもたちの何を可能にしていくことができるのでしょうか。Learning by Doingを実践しながら共に探求していきましょう。

フィードバックの方法:
（1）毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
（2）授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出	30	授業内容や問われたことに対して関連づけたリフレクションになっているかどうか
グループによるプランの制作、発表、提出	20	授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して発表内容をつくることができているか
定期試験（論述）	50	知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

教科書:
文部科学省（2008ならびに2018）『小学校学習指導要領解説編　特別活動』東洋館出版
文部科学省・国立教育政策研究所教育課程研究センター編（2013）『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』
www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j.pdfより閲覧・ダウンロード可
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

参考書:
岩瀬直樹（2011）『クラスづくりの極意』農文教
岩瀬直樹（2011）『よくわかる学級ファシリテーション①―かかわりスキル編―（信頼ベースのクラスをつくる）』解法出版社
金森俊朗（2003）『4年1組　命の授業―金森学級の35人』NHK出版
金森俊朗（2005）『希望の教室―金森学級からのメッセージ』角川書店

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（2014）『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)―特別活動指導資料』文溪堂
若狭蔵之助（1986）『子どもと学級―生きる力を育てる』東京大学出版会
埼玉県狭山市立堀兼小学校６年１組・岩瀬直樹・荻上由紀子（2010）『最高のクラスのつくり方』小学館
岩瀬直樹・ちょんせいこ（2011）『よくわかる学級ファシリテーション②―子どもホワイトボード・ミーティング編―』解法出版社
大阪多様性教育ネットワーク・森実（2014）『多様性の学級づくり―人権教育アクティビティ集』解法出版社
岩瀬直樹・甲斐崎博史・伊垣尚人（2013）『プロジェクトアドベンチャーでつくるとっても楽しいクラス』学事出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力
教員との連絡方法：	第１回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。 履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

461202

特別活動論

吉永　　紀子

授業テーマ:　こころとからだをはぐくむ特別活動を探究する

授業の概要:　目標とされている「望ましい集団活動を通して人間形成を図ろうとする」特別活動とは具体的にどのような活動であり、こうした活動を子どもたちの育ちに応じていかにしてデザインしていく必要があるのか。本授業では、特別活動の目的や意義を具体的な実践記録を手がかりに追究することを通して、子どもたちのこころとからだをはぐくむ特別活動のあり方を見出し、デザインするための視点を獲得していくことを目指す。

到達目標:
（1）特別活動の授業を行うために必要となる基礎的な知識を理解し、自分のものにしている。
（2）子どもの心と体をはぐくむ特別活動の展開の可能性に関心を持ち、多様な教育実践に対する考察を通して、子どもの立場に立った実践のデザインを複数提案できるようにする。
（3）望ましい集団活動を通して人間形成を図ることはどのような計画と考え方によって実現するかについて、仲間の力を引き出しあいながらデザインを作り、根拠をもって説明・表現しようとする。

授業方法:　毎回の授業では資料読解、課題追究をめぐって個人やグループで考え検討する活動が中心となり、教員からの解説や講義を踏まえ、確かな理解を目指す。グループワークを通して活動プランを作ることも中盤から後半にかけて多くなる。
なお、活動プランは授業内の時間では完成しないため、メンバーと相談、協力して授業外でのグループワークを行うことができるようにしておく必要がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	特別活動論のオリエンテーション、授業の進め方に関するガイダンス／ブレーンストーミング：特別活動ではどのような学びが期待されているのか	本授業のシラバスを読んでくる。
2.	特別活動の年間指導計画をつくる	教科書で指定されたページを読み、わからないところを調べておく。
3.	学級活動をつくる（1）係活動と当番活動	前の回に考え、議論した内容を読み返し、自分なりの考えを整理しておく。
4.	学級活動をつくる（2）全員参加の学級会をつくるために何が必要か	指定された図書から自分が関心をもった実践について読み、気になった点や議論したい点について書き込みをしておく。
5.	学級活動をつくる（3）集会活動で育みたい力とは	前の回に考え、議論した内容を読み返し、配布された資料と該当する教科書の頁を読んでから自分の考えをつくっておく。
6.	特別活動と安全教育～救命講習を体験する	指定された動画と関連資料を事前にみておく。
7.	学校行事をつくる（1）異年齢集団の活動を通して学校の文化をつくる	前の回に配布された資料を読んでおき、気になった点や議論したい点について書き込みをしておく。
8.	学校行事をつくる（2）こどもにとって意味ある学校行事にするには	前の回に映像を視聴した際にメモをとったものを読み返し、学校行事に関する教科書の関連ページを読んでくる。
9.	チームによる学級活動・学校行事の企画づくり（1）デザイン	指定された範囲の中から自分がもっとも関心を持った内容を選び、それについて自分なりのアイデアをいくつか書き出してくる。
10.	特別活動の基盤としての学級をつくる～仲間とのかかわりを豊かにする～	前の回に配布された資料を読み、提示された問いについて自分なりの仮説を立てておく。
11.	児童会活動をつくる～こどもが主役の学校づくりに向けて	前の回に視聴した映像と該当する教科書の頁とを関連づけ、疑問に思ったことを洗い出しておく。
12.	チームによる学級活動・学校行事の企画づくり（2）準備	第9回以降、グループの中で分担していた内容を責任をもって整理し、わかりやすくメンバーに伝える工夫をしておく。
13.	チームによる学級活動・学校行事の企画を体験しよう	作成したプランをリハーサルしておき、必要となる道具や材料を整えておく。
14.	チームによる学級活動・学校行事体験のリフレクション	前の回に行ったアクティビティを映した動画を事前に視聴し、リフレクションの視点を考えておく。
15.	全体のまとめ	これまでに学んできた内容について資料やノートを読み返し、特別活動に関する見方や考え方がどう変化したのかを整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　学校には、教科や総合的な学習の時間、道徳の時間のほかに「特別活動」という教育活動があります。「特別活動」と聞いて思い出すのは学級会や学校行事、クラブ活動など、こどもたちに比較的人気のある目立った活動が多いかもしれません。しかし、実は子どもたちが毎日登校してから下校するまでのうち、授業での学習時間を除いたほとんどすべての時間はこの「特別活動」にあたるものなのです。特別活動によって子どもたちの何を可能にしていくことができるのでしょうか。Learning by Doingを実践しながら共に探求していきましょう。

フィードバックの方法:
（1）毎回、授業の最後に記入する授業リフレクションシートに書かれた質問や疑問は、次の授業に反映させ、補足説明や追加資料の配布を行って対応する。
（2）授業でのグループ活動や発表については適宜コメントし、より質の高い学び合いやプレゼンテーションに向けて互いに真似したり見習いたい点や改善点を共有する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の授業への積極的参加とリフレクションの提出	30	授業内容や問われたことに対して関連づけたリフレクションになっているかどうか
グループによるプランの制作、発表、提出	20	授業で学んだ内容を理解した上でそれらを個性的に統合して発表内容をつくることができているか
定期試験（論述）	50	知っておくべき基礎的な知識を相互に関連づけて理解し、それを自分なりの言葉で説明することができているか

教科書:
文部科学省（2008ならびに2018）『小学校学習指導要領解説編　特別活動』東洋館出版
文部科学省・国立教育政策研究所教育課程研究センター編（2013）『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動（小学校編）』
www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/tokkatsu_j.pdfより閲覧・ダウンロード可
授業内で適宜配布する資料類を教科書として使用するため、ファイリングしておく

参考書:
岩瀬直樹（2011）『クラスづくりの極意』農文教
岩瀬直樹（2011）『よくわかる学級ファシリテーション①―かかわりスキル編―（信頼ベースのクラスをつくる）』解法出版社
金森俊朗（2003）『4年1組　命の授業―金森学級の35人』NHK出版
金森俊朗（2005）『希望の教室―金森学級からのメッセージ』角川書店

文部科学省国立教育政策研究所教育課程研究センター（2014）『楽しく豊かな学級・学校生活をつくる特別活動(小学校編)―特別活動指導資料』文溪堂
若狭蔵之助（1986）『子どもと学級―生きる力を育てる』東京大学出版会
埼玉県狭山市立堀兼小学校６年１組・岩瀬直樹・荻上由紀子（2010）『最高のクラスのつくり方』小学館
岩瀬直樹・ちょんせいこ（2011）『よくわかる学級ファシリテーション②―子どもホワイトボード・ミーティング編―』解法出版社
大阪多様性教育ネットワーク・森実（2014）『多様性の学級づくり―人権教育アクティビティ集』解法出版社
岩瀬直樹・甲斐崎博史・伊垣尚人（2013）『プロジェクトアドベンチャーでつくるとっても楽しいクラス』学事出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力
教員との連絡方法：	第１回に配布する資料に教員の連絡先を配布するほか、授業開始前、授業終了後やオフィスアワーに適宜質問や相談に対応する。 履修者全員とのやりとりや、グループ・受講者相互の連絡については必要に応じてマナビーを活用する。

461400

幼児教育課程総論

笠間　　浩幸

授業テーマ:　幼児教育課程・全体的な計画の基本についての理解を図り、保育の実際的な課題について考える

授業の概要:　本授業では、幼児教育課程及び保育における全体的な計画の編成や考え方についての理解を図ることを目標とする。乳幼児から幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の修了・満了までの期間はもとより、その後に続く小学校教育とのスムーズな接続を視野に、乳幼児期全般の教育及び保育の課題について考察する。特に「幼稚園教育要領」、「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」の三法令改訂（定）の背景や内容についての理解を図る。

到達目標:
（1）今日の日本における乳幼児、学童の教育及び保育課題についての関心を持つとともに、幼稚園や保育所、認定こども園等の学校・施設に関する基本的な知識を身に着ける。
（2）幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領の基本的な理解を図り、自らが社会的な子どもの教育・保育に携わっていくという専門職業人としての態度と意欲を持つことができる
（3）これからの教育・保育が果たすべき社会的な役割について、現代の多様な課題との関連において分析し、あるべき教育・保育の姿について自分なりの論理的な考えを表明することができるようになる。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 日本の子どもの現状と子育ての課題	自分の保育所・幼稚園生活で特に記憶に残っていることを思い出し、それはなぜかを考える。 今日の子育てに関する問題について新聞や文献から関心のあることを拾い出しておく。
2.	日本の保育・幼児教育の現状と課題 「幼稚園・保育園・認定こども園の共通点と相違点」	幼稚園と保育所、認定こども園それぞれの類似点と相違点を調べておく。
3.	カリキュラムに関する基礎理論（1） 「カリキュラムとは何か、カリキュラムの歴史」	幼稚園・保育園の歴史について調べておく。
4.	カリキュラムに関する基礎理論（2） 「幼児期に育てたい力とカリキュラム・マネジメントについての考察」	幼児期の発達課題について調べておく。
5.	幼稚園教育の特質と課題 「幼稚園教育要領の改訂からみる課題」	「幼稚園教育要領」を読んでおく。
6.	保育所保育の特質と課題 「保育所保育指針の改定から見る課題」	「保育所保育指針」を読んでおく。
7.	認定こども園における教育と保育の特質と課題「認定こども園教育・保育要領の改訂から見る課題」	「認定こども園教育・保育要領」を、幼稚園教育要領及び保育所保育指針と比較しながら読んでおく。
8.	保育における計画の意義 「計画作成の基本とPDCAサイクル」	PDCAサイクルについての考えや具体的な事例について調べておく。
9.	幼稚園における指導計画の実際 「指導計画の考え方と実際例」	幼稚園教育の事例文献を読んでおく。
10.	保育所における指導計画の実際（1） 「0・1・2歳児の指導計画作成とその実際」	保育所の未満児保育の事例文献を読んでおく。
11.	保育所における指導計画の実際（2） 「3・4・5歳児の指導計画作成とその実際」	保育所の3・4・5歳児保育の事例文献を読んでおく。
12.	認定こども園における指導計画の実際	認定こども園の教育・保育事例文献を読んでおく。
13.	保育における評価の意義と方法及び仮題 「保育の質を問う評価の意義、学校評価、第三者評価」	「評価」の意義や方法について調べておく。
14.	小学校との連携の課題 「幼少期の発達と接続の課題、指導要録・保育要録の意義」	「小1プロブレム」と呼ばれる問題とその発生理由について調べておく。
15.	まとめ	これまでの学習全体の振り返りをする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日常より、わが国の乳幼児の教育・保育への関心を持つとともに、新聞、雑誌、文献等から関連する問題についての視野を広げておく。

フィードバックの方法:　授業時にコメントを添えて解説・紹介をする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ミニテスト	15%	カリキュラムに関する基礎的な知識及び理論の理解度を評価する
ミニテスト	15%	幼児教育課程に関する基本的な理解度を評価する。
定期試験	70%	授業全体の理解度を評価する。

教科書:

参考書:　授業時に適宜紹介・配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

461500

幼児理解

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:　就学前教育場面に即した幼児理解の目的と手法、背景にある考え方を理解する。

到達目標:
1. 幼児の発達を理解する。
2. 教師との関係性、環境構成、保育内容、指導計画と「幼児理解」の関連性を理解する。
3. 現状把握・計画・実践・振り返り・改善のサイクルを理解する。
4. 家庭教育との連携を視野に入れる。
5. 複数の観察、評価手法を知る。

授業方法:　講義と演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	幼稚園教育要領について	既習の内容を復習しておく。
2.	現状把握（観察）・計画・実践・振り返り（評価）・改善のサイクル	評価について既習の内容を復習しておく。
3.	観察の手法	日常場面で「観察」を試しておく。
4.	SICSについて	資料を読んでSICSの概要を理解しておく
5.	エピソード記録について	資料を読んでエピソード記録に触れておく
6.	子どもの発達について：社会的発達・情緒的発達	テキスト62－67頁を読むとともに、既習の社会的・情緒的発達についての事項を復習しておく。
7.	子どもの発達について：認知的発達	テキスト67-71頁を読むとともに、既習の認知的発達についての事項を復習しておく。
8.	子どもの発達について：遊び	テキスト72-76頁を読むとともに、既習の遊びについての事項の復習をしておく。
9.	テキスト・サブスケール１　信頼、自信、自立の構築	新・保育環境評価スケール①3歳以上版と対比させて理解しておく
10.	テキスト・サブスケール２　社会的・情緒的な安定・安心	新・保育環境評価スケール①3歳以上版と対比させて理解しておく
11.	テキスト・サブスケール３　ことば・コミュニケーションを支え、広げる（1）	新・保育環境評価スケール①3歳以上版と対比させて理解しておく
12.	テキスト・サブスケール３　ことば・コミュニケーションを支え、広げる（2）	新・保育環境評価スケール①3歳以上版と対比させて理解しておく
13.	PEMQ（写真評価法）について	授業で学んだことをもとに保護者用インフォメーションポスターを作成する。
14.	指導要録、保育要録、認定こども園こども要録について	資料に目を通しておく。
15.	まとめ	これまでの資料やテキストを読み返して重要点を確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　全体に解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物	50%	課題の趣旨を理解した内容になっているか
レポートによる定期試験	50%	わかりやすくまとまっているか。教育場面における幼児理解の特徴が理解できているか。

教科書:　「保育プロセスの質」評価スケール　イラム・シラージ他　秋田喜代美・淀川裕美訳　明石書店

参考書:　幼稚園教育要領

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に応対。

461601、02

幼児教育内容総論

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:
幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基軸として、教育・保育の目標、子どもの発達、保育の内容を総合的に理解する。

到達目標:
1　教育・保育内容の歴史的変遷等を踏まえ、要領、指針等を基軸に、教育・保育の目標、子どもの発達、保育内容を物的・人的環境の在り方の視点を持ち、教育・保育の全体的構造を理解する。
2. 子どもの発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、子ども理解と保育内容、指導計画作成と関連付ける。
3. 養護と教育の一体的な展開、子どもの生活を基盤とした教育・保育の多様な展開について学ぶ。

授業方法:
講義及び演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	各自の幼稚園または保育所経験をふり返っておく。
2.	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の法的枠組みについて	近隣の幼稚園や保育所について調べておく。
3.	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領について	3つの要領・指針等に目を通しておく。 テキスト第1章を読んでおく
4.	幼稚園、保育所、認定こども園の役割について	テキスト第2章を読んでおく
5.	遊びの重要性と領域の考え方	テキスト第3章を読んでおく
6.	保育の目標～実行・記録～評価について	テキスト第4章を読んでおく
7.	乳児（1歳未満）の保育内容	テキスト第5章を読んでおく
8.	1・2歳児の保育内容	テキスト第6章を読んでおく
9.	3・4・5歳児の保育内容	テキスト第7章を読んでおく
10.	0～5歳児の保育を通して子どもに育つ姿について	テキスト第5章～第7章を読み直しておく
11.	異年齢混合（縦割り）保育について 小学校との連携について	テキスト第8章・第9章を読んでおく
12.	子育て支援、地域との連携について	テキスト第11章を読んでおく
13.	諸外国の幼児教育・保育について	テキスト第13章を読んでおく
14.	特別支援、多文化共生、安全への備え、食育について	テキスト第14章を読んでおく
15.	まとめ	これまでの学習内容をテキスト・資料・課題の見直しにより確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業内容に応じて課題を出します。

フィードバックの方法:
全体に対し解説。質問に対し回答。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み	60%	課題の達成度。毎回の授業内容についてのショートコメントの内容。
定期試験	40%	基礎的な知識を獲得しているかどうか。

教科書:
豊田和子編著 『実践を創造する演習・保育内容総論』（株）みらい
幼稚園教育要領　フレーベル館
保育所保育指針　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領　フレーベル館

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業前後の応答、ウェブメール。

461603

幼児教育内容総論

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基軸として、教育・保育の目標、子どもの発達、保育の内容を総合的に理解する。

到達目標:
1　要領、指針等を基軸に、教育・保育の目標、子どもの発達、保育内容を物的・人的環境の在り方の視点を持ち、教育・保育の全体的構造を理解する。
2. 子どもの発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、子ども理解と保育内容、指導計画作成と関連付ける。
3. 養護と教育の一体的な展開、子どもの生活を基盤とした教育・保育の多様な展開について学ぶ。

授業方法:　講義、演習形式を併用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する（1）	既習の幼児教育課程総論の内容を復習しておく。
2.	保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する（2）	新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。
3.	教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する（1）	子どもの発達について既習の学習内容を振り返りながら、保育所保育指針の第2章を中心に該当部分を読んでおく。
4.	教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する（2）	新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。
5.	保育の評価についての基礎的な知識を得る（1）	「評価」についての自分の意見をまとめておく。
6.	保育の評価についての基礎的な知識を得る（2）。	新たな知見をもって「評価」についての考えを整理しておく。
7.	教育・保育のPDCAサイクルについて理解する（1）。	教育課程・指導計画について既習の学習内容を復習しておく。
8.	教育・保育のPDCAサイクルについて理解する（2）。	PDCAサイクルの考え方を復習しておく。
9.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;①養護と教育の一体的な展開	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
10.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;②環境を通して行う。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
11.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;③遊びにより総合的に行う。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
12.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;④生活や発達の連促成に考慮する。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
13.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;⑤家庭、地域、小学校との連携を踏まえる。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
14.	要領、指針の改定について理解する。	指定された資料を読んでおく。
15.	まとめ	資料、教科書等を通読しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　全体に解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	60%	提出物の内容に基づく。
定期試験	40%	設問に対し的確な回答・解答ができているか。

教科書:
幼稚園教育要領　フレーベル館
保育所保育指針　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領
新・保育環境評価スケール①3歳以上版

参考書:
幼稚園教育要領解説　フレーベル館
保育所保育指針解説書　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応

461604

幼児教育内容総論

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:　幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を基軸として、教育・保育の目標、子どもの発達、保育の内容を総合的に理解する。

到達目標:
1　要領、指針等を基軸に、教育・保育の目標、子どもの発達、保育内容を物的・人的環境の在り方の視点を持ち、教育・保育の全体的構造を理解する。
2. 子どもの発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、子ども理解と保育内容、指導計画作成と関連付ける。
3. 養護と教育の一体的な展開、子どもの生活を基盤とした教育・保育の多様な展開について学ぶ。

授業方法:　講義、演習形式を併用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する（1）	既習の幼児教育課程総論の内容を復習しておく。
2.	保育制度を理解したうえで幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を対比し、就学前の教育・保育についての全体像を把握する（2）	新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。
3.	教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する（1）	子どもの発達について既習の学習内容を振り返りながら、保育所保育指針の第2章を中心に該当部分を読んでおく。
4.	教育・保育の内容について子どもや子ども集団の発達と関連付け、観察や記録の観点をもち、子ども理解とともに全体像を把握する（2）	新たに得た知識を既習の内容と関連させておく。
5.	保育の評価についての基礎的な知識を得る（1）	「評価」についての自分の意見をまとめておく。
6.	保育の評価についての基礎的な知識を得る（2）。	新たな知見をもって「評価」についての考えを整理しておく。
7.	教育・保育のPDCAサイクルについて理解する（1）。	教育課程・指導計画について既習の学習内容を復習しておく。
8.	教育・保育のPDCAサイクルについて理解する（2）。	PDCAサイクルの考え方を復習しておく。
9.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;①養護と教育の一体的な展開	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
10.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;②環境を通して行う。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
11.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;③遊びにより総合的に行う。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
12.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;④生活や発達の連促成に考慮する。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
13.	5領域の保育内容と保育の基本を関連付けて理解する;⑤家庭、地域、小学校との連携を踏まえる。	要領、指針等の該当部分を読んでおく。
14.	要領、指針の改定について理解する。	指定された資料を読んでおく。
15.	まとめ	資料、教科書等を通読しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　全体に解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	60%	提出物の内容に基づく。
定期試験	40%	設問に対し的確な回答・解答ができているか。

教科書:
幼稚園教育要領　フレーベル館
保育所保育指針　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領
新・保育環境評価スケール①3歳以上版

参考書:
幼稚園教育要領解説　フレーベル館
保育所保育指針解説書　フレーベル館
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応

461701

保育内容（環境）

岩渕　　善美

授業テーマ:

一人ひとりの子どものことを考え、身近な自然に興味や関心をもち、取り入れて遊ぶことのできる保育者となるように保育内容環境の観点から実践力を身につける。

授業の概要:

子どもの発達段階に応じて、一人ひとりが主体的に遊ぶことができるように必要な保育の環境構成および保育者の配慮や役割について学ぶ。また、自然に触れて感動する体験を通して、好奇心や探究心をもつようになるために、情報機器を活用した子どもの遊び、環境構成などについての保育技術について、アクティブ・ラーニングの手法を用い、授業を展開していく。
　さらに、指導案を作成して模擬授業の実践を行い、振り返りを実施し、評価法についても学んでいく。

到達目標:

1）領域環境のねらい及び内容を理解する。
2）身近な自然環境に関する知識を身につける。
3）体験・実践活動を通して、身近な自然材料を用いた遊び、保育の指導法や技術を身につける。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	領域「環境」のねらい及び内容	幼稚園教育要領などを復習しておきましょう。
2.	物の性質や仕組みを考慮した子どもの遊びについて	授業の内容を復習しておきましょう。
3.	情報機器を活用した子どもの遊びついて	授業の内容を復習しておきましょう。
4.	色水遊びを通した遊びの教材研究	教材研究のまとめをしておきましょう
5.	身近な事象からの子どもの思考力の芽生えについて	授業の内容を復習しておきましょう。
6.	小動物の飼育・植物の栽培活動について	飼育や栽培についてまとめておきましょう。
7.	情報機器を活用した環境構成について	授業の内容を復習しておきましょう。
8.	遊びを通しての数量や図形，標識や文字について	身近な図形などについて、調べておきましょう。
9.	科学遊びを通した好奇心や探究心について	授業の内容を復習しておきましょう。
10.	様々な素材の特性を生かした制作活動の実践	制作をまとめておきましょう。
11.	保幼小の連携について	保幼小の連携について、まとめておきましょう。
12.	身近な自然環境を取り入れた保育指導案について	指導案について、まとめておきましょう。
13.	身近な自然環境を取り入れた遊びについての指導案の作成	指導案を完成させて、復習しましょう。
14.	模擬保育の実践	模擬保育の準備をしておきましょう。
15.	模擬保育の実践の振り返り（評価）と全体のまとめ	授業の復習をしておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業の前後にて対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート・課題等	50	授業テーマの達成度
定期試験	50	授業内容の理解度、達成度

教科書:

コンパクト版 保育内容シリーズ環境、一藝社出版
幼稚園教育要領要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（厚生労働大臣告示（平成29年3月31日）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働大臣告示（平成29年3月31日）

参考書:

新・保育環境評価スケール①3歳以上　テルマハームス他著　埋橋玲子（訳）　法律文化社
その他、授業中に適宜資料を配付する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

461702

保育内容（環境）

岩渕　　善美

授業テーマ:

一人ひとりの子どものことを考え、身近な自然に興味や関心をもち、取り入れて遊ぶことのできる保育者となるように保育内容環境の観点から実践力を身につける。

授業の概要:

子どもの発達段階に応じて、一人ひとりが主体的に遊ぶことができるように必要な保育の環境構成および保育者の配慮や役割について学ぶ。また、自然に触れて感動する体験を通して、好奇心や探究心をもつようになるために、情報機器を活用した子どもの遊び、環境構成などについての保育技術について、アクティブ・ラーニングの手法を用い、授業を展開していく。
　さらに、指導案を作成して模擬授業の実践を行い、振り返りを実施し、評価法についても学んでいく。

到達目標:

1）領域環境のねらい及び内容を理解する。
2）身近な自然環境に関する知識を身につける。
3）体験・実践活動を通して、身近な自然材料を用いた遊び、保育の指導法や技術を身につける。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	領域「環境」のねらい及び内容	幼稚園教育要領などを復習しておきましょう。
2.	物の性質や仕組みを考慮した子どもの遊びについて	授業の内容を復習しておきましょう。
3.	情報機器を活用した子どもの遊びついて	授業の内容を復習しておきましょう。
4.	色水遊びを通した遊びの教材研究	教材研究のまとめをしておきましょう
5.	身近な事象からの子どもの思考力の芽生えについて	授業の内容を復習しておきましょう。
6.	小動物の飼育・植物の栽培活動について	飼育や栽培についてまとめておきましょう。
7.	情報機器を活用した環境構成について	授業の内容を復習しておきましょう。
8.	遊びを通しての数量や図形，標識や文字について	身近な図形などについて、調べておきましょう。
9.	科学遊びを通した好奇心や探究心について	授業の内容を復習しておきましょう。
10.	様々な素材の特性を生かした制作活動の実践	制作をまとめておきましょう。
11.	保幼小の連携について	保幼小の連携について、まとめておきましょう。
12.	身近な自然環境を取り入れた保育指導案について	指導案について、まとめておきましょう。
13.	身近な自然環境を取り入れた遊びについての指導案の作成	指導案を完成させて、復習しましょう。
14.	模擬保育の実践	模擬保育の準備をしておきましょう。
15.	模擬保育の実践の振り返り（評価）と全体のまとめ	授業の復習をしておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

授業の前後にて対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート・課題等	50	授業テーマの達成度
定期試験	50	授業内容の理解度、達成度

教科書:

コンパクト版 保育内容シリーズ環境、一藝社出版
幼稚園教育要領要領（平成29年3月告示 文部科学省）
保育所保育指針（厚生労働大臣告示（平成29年3月31日）
幼保連携型認定こども園教育・保育要領（内閣府、文部科学省、厚生労働大臣告示（平成29年3月31日）

参考書:

新・保育環境評価スケール①3歳以上　テルマハームス他著　埋橋玲子（訳）　法律文化社
その他、授業中に適宜資料を配付する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対

461801、02

保育内容（ことば）

金子　　眞理

授業テーマ:

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示された保育内容の領域「言葉」の授業である。この授業では、こどもがどのように言葉を獲得していくかという発達の筋道、保育の中で言葉を豊かに育てることの意義、児童文化財などを通して言葉を豊かにするなど、理論と実際の両面を学ぶ事を目的としている。言葉は特に他の領域との関係が深い。またこどもはすべての生活の中で言葉を獲得していくという特色がある。授業内容は大きくは「言葉」のねらいと内容、言葉の発達、教材研究の三つの柱で構成され、幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を焦点にあてた授業を展開する。

授業の概要:

どもの発達を「言葉」領域の観点から捉え、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現する力を養うことを目的とする保育内容についての知識、技術について具体的に学ぶ。

到達目標:

領域「言葉」は他の領域と関係が深く、様々な活動の中で言葉が大きな役割を担っている。
一人一人の子どもが言葉を生活の中から自らの言葉として獲得していく、そのためにはどのような環境を構成していかなければならないかを学ぶものである。
そして、自らもコミュニケーション力や国語力、児童文化財をいかした表現も学ぶものとする。

授業方法:

講義、実践、グループワークを織り込んで行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 人間とって「ことば」とは	レポート作成 絵本の読み聴かせについてのオリエンテーションも含む 毎授業で5人くらい絵本の読み聴かせを行う
2.	保育内容「言葉」の意義 人間としてのコミュニケーションのはじまりを学び、かかわりから言葉へを学ぶ。	教科書第1章を熟読のこと 絵本の読み聴かせ
3.	幼児と言葉 伝え合うこと、思考すること、行動を調整すること、自己を表現すること、ものや行為を意味づけることばについて学ぶ。	教科書第2章を熟読のこと
4.	幼児教育と保育内容「言葉」 言葉の育ちを保証することの意味、保育者が担う役割について学ぶ。	教科書第4章を熟読のこと
5.	領域「言葉」のねらいと内容 領域とは何か、ねらいとは何か、内容とは何かを学び、領域「言葉」につなげる。	教科書第5章熟読のこと
6.	領域「言葉」を読み解く。 幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を学びながら、ねらい及び内容につなげていく。	教科書第6章熟読のこと
7.	児童文化財「絵本」について 絵本の読み聴かせについて学び、その方法についても学ぶ。実際に絵本の読み聴かせも行う。	プリント配布
8.	児童文化財「ストーリーテリング」について お話しの選び方、覚え方、語り方を学ぶ。そしてグループで実演し発表する。	プリント配布
9.	児童文化財「紙芝居について」 紙芝居とは何かを学び演じ方の基本を学び、演じてみる。	プリント配布
10.	児童文化財「こどもが楽しむ言葉遊び」の実践 グループで計画し、実際に実践してみる。	プリント配布
11.	児童文化財「パネルシアター」「ペープサート」「人形劇」について グループによる製作と実演をすることで学ぶ。	プリント配布
12.	児童文化財「パネルシアター」「ペープサート」「人形劇」について グループ発表	プリント配布
13.	児童文化財「パネルシアター」「ペープサート」「人形劇」について グループ発表の評価をすることで、指導計画の作成につなぐ。	プリント配布
14.	言葉と国語教育 小学校教育につなぐことの重要性を学ぶ。	教科書第7章を熟読のこと
15.	子どもの言葉が育つ環境とは 環境評価スケール①からサブスケール3「言葉と文字」のところを学び、評価することの大切さを学ぶ。	教科書第８，９章熟読のこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

保育内容「言葉」の範囲は広いが実践的な要素が半分は入るので感じる心や見えない力を育てていくのに適した授業である。

フィードバックの方法:

絵本などをとおして言葉の持つ力が理解できる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
絵本の読み聞かせ	20	絵本の選び方、持ち方、めくり方などの総合判断
絵本のリスト作成	30	受講者全員の絵本をリストアップしそれぞれの絵本に対してのコメントもつけて作成
授業中の課題	20	指導計画の作成
児童文化財の作成及び実演	30	グループでの作成と実演での評価

教科書:	保育内容　言葉 〈新保育シリーズ〉 秋田喜代美・野口隆子 光性館 （平成29年告示　　文部科学省） 幼稚園教育要領 フレーベル館
参考書:	テルマハームス他著　埋橋　玲子訳 新・保育環境評価スケール① 法律文化社
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	kaneko@heian.ac.jp

461901、02

保育内容（表現）

竹井　　史

授業テーマ:　幼稚園教育要領における表現領域における保育の援助や環境づくり

授業の概要:　発達的な観点から、幼児の造形活動や造形表現についての特徴について学習することを通じ、幼児の造形表現活動を活性化する上で必要な援助、言葉がけ、環境づくり、その発展などについて学習する。授業においては、幼児の発達に即した身近な材料を使った具体的な手作りおもちゃ教材の実習をもとにそれぞれの背景となる学問領域の具体的な研究成果とも関連させ、理解を深めていく。

到達目標:　幼稚園教育要領における表現領域について具体的な事例をもとに、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して感性や表現力を養い、想像力や創造力を豊かにする保育の援助や環境づくりについて学習することを目的とする。

授業方法:　授業にあたっては、教員によるプレゼンテーション及び書画カメラによるICT機器等を活用し、具体的な題材の実習をもとにした学習を進める。そのプロセスにおいては、随時、アクティブ・ラーニングによる授業形態を取り入れながら、学習を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	表現するとは何か。豊かな表現とは何か。幼稚園教育要領等のねらいや内容についての学習をもとに幼児期の表現活動の意義と実際について明らかにする。	幼稚園教育要領等についての学習。
2.	幼児の表現活動を通じて育つ知性と感性の関係について明らかにする。（講義）	幼稚園教育要領等についての学習。
3.	幼児の絵画の発達の理解をもとに、表現を支える保育者の援助のあり方と環境づくりについて明らかにする。（講義）	自分の子ども時代の絵を振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
4.	幼児の土、砂遊びを事例として、幼児の日常の遊びにおける表現活動の実際と意義などについて学習する。（講義）	自分の子ども時代の砂遊び、土遊びを振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
5.	色紙を使ったおもちゃ作りをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代の工作を振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
6.	ストローを使ったおもちゃ作りをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代の工作を振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
7.	割箸、つまようじなどを使ったおもちゃ作りをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代の工作を振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
8.	画用紙や工作用紙などを使ったおもちゃ作りをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代の工作を振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
9.	ペットボトルや紙パックなどの空き容器を使ったおもちゃ作りをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代の工作を振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
10.	自然材(水)による表現遊びをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代の自然材による遊びを振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
11.	自然材(土や砂)による表現遊びをもとに、自然材を使ったものづくりの意義と援助のあり方、環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代における自然材による遊びを振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
12.	自然材(泥土)による遊びをもとに、自然材を使ったものづくりの意義と援助のあり方、環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代における自然材による遊びを振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
13.	自然材(小枝、木)による遊びをもとに、自然材を使ったものづくりの意義と援助のあり方、環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代における自然材による遊びを振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
14.	自然材による総合的な遊びをもとに、自然材を使ったものづくりの意義と援助のあり方、環境づくりについて学習する。（実習と講義）	自分の子ども時代における自然材による遊びを振り返り、その活動を支え、活性化するための援助や環境づくりについて必要なことを考える。
15.	ものづくりの題材をもとに表現領域における指導案の書き方のポイントについて学習する。（実習と講義）	授業の設計図や支援・援助の方法を伝達するための効果的な指導案のあり方について考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、テキスト、はさみ、セロハンテープ、ものさしを持参のこと。

フィードバックの方法:　毎回の小レポートをもとにした補足および質疑応答による。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業ミニレポート	70%	学習内容の理解度
課題レポート	30%	テーマの切り口及び論理性

教科書:　谷田貝公昭監修　竹井　史編著、『コンパクト保育内容シリーズ　造形表現』、一藝社
竹井　史著、『作って遊べるカンタンおもちゃ』、ひかりのくに

参考書:　『幼稚園教育要領』（平成29年7月告示 文部科学省）必要に応じて配布する。
竹井　史著、『泥遊び・水遊び・プール遊び180』、ひかりのくに
その他、必要に応じて紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　メール、研究室。メールは最初の授業で伝えます。

462001、02

保育内容（人間関係）

塘　　利枝子

授業テーマ:　保育内容（人間関係）

授業の概要:　乳幼児期の人間関係の発達の特徴を踏まえた上で、子ども同士、子どもと保育者、保護者と保育者の人間関係とそれらの支援の仕方について学びます。また近年増加する海外からの文化間移動をする子どもたちとその保護者への支援、発達障害の子どもとその保護者への支援など、現代的なテーマについても扱います。多様な人間関係の中で育つ子どもと保護者を支援し、質の高い保育とは何かについて考えます。

到達目標:

「知識・理解」
乳幼児期の発達心理学の諸理論の基礎と応用について理解している。
乳幼児期の遊びや学び、障害についての知識を身に付けている。
日本及び日本以外の多文化、多言語環境の中で生きる子どもの発達と環境との関係性について多層的に理解している。

「関心・意欲」
乳幼児期の発達や保育・教育、そしてその後の児童期への接続について関心を持ち、授業内の活動にも積極的に参加する。
子どもを取り巻く国内外の環境や多文化・多言語環境の中に生きる子どもの問題に関心を持っている。
子どもに関わる専門性を身に付けた専門職業人として、子どもや専門職業集団に対して共感的かつ理性的に自ら関わろうとする態度を身に付けている。

「表現・技能・能力」
毎回行われる知識定着をはかる小テストにおいて7割以上の正答が見られ、レポート課題でも要求された内容を適切に表記したり、グループディスカッションや発表において積極的に発言する。
子どもの実際の姿からその背景にあるものを把握し、収集した情報を関連づけながら問題を発見して保育・教育などの現場で問題解決に臨むことができる。

授業方法:　講義式の授業も行いますが、グループに分かれてのグループ討論、事例研究、教材研究、指導案の検討、模擬保育等も行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	乳幼児期の人間関係の発達と保育	１年次と2年次に学習した発達の諸理論についての復習
2.	領域「人間関係」の成り立ち	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
3.	領域「人間関係」のねらいと内容	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
4.	個の発達と集団による育ち合い	１年次と2年次に学習した発達の諸理論についての復習
5.	環境構成者・援助者としての保育者の役割	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
6.	親子の人間関係の支援とICTの活用	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
7.	外国にルーツをもつ親子や、文化間移動をした親子への支援	幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領を熟読してくること
8.	指導案作成とグループ内発表１：評価とカリキュラムマネージメント	指導案を作成し、グループの人数分コピーを用意しておくこと
9.	発達が気になる子どもへの対処	2年次「発達と学習の心理学」で配布した発達障害に関するプリントに目を通しておくこと
10.	グループごとの模擬保育	グループごとに指導案を作成し、模擬保育の練習を十分にしておくこと
11.	子どもの人間関係の理解と保育の中でのアセスメント1：発達障害についてのアセスメント	2年次「発達と学習の心理学」で配布した発達障害に関するプリントに目を通しておくこと
12.	子どもの人間関係の理解と保育の中でのアセスメント2：幼小連携	2年次「発達と学習の心理学」で配布した発達障害に関するプリントに目を通しておくこと
13.	子どもの人間関係の理解と保育の中でのアセスメント3：絵画からみるアセスメント	2年次「発達と学習の心理学」で配布した発達障害に関するプリントに目を通しておくこと
14.	指導案作成とグループ内発表２：子ども間の協力を要する教材研究	指導案を作成し、グループの人数分コピーを用意しておくこと
15.	まとめとグループ内での話し合い	マイネカルテ作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　グループごとの作業においては、グループ内で話し合うとともに、話し合いの内容をグループ内担当者はレポートにまとめて提出することが求められます。小テストも随時行いますので、１年次の「こどもの発達心理学」や2年次の「発達と学習の心理学」の内容を十分理解していることが授業を受ける前提条件となります。指導案作成や模擬保育も行いますので、教材研究や指導案作成に十分時間を取って下さい。

フィードバックの方法:　コメントシートの内容について次回の授業の最初に口頭で紹介したり、マナビーで紹介したりします。各グループで選ばれたベスト指導案をコピーして配布します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験（論述式）	60%	授業で学習した内容が的確に表現されている。 具体例が必要に応じて書かれている。 わかりやすい文章で書かれている。
小テスト	10%	回答正答数
レポート	30%	わかりやすい文章で書かれている。 文献を引用しながら論を展開している。 指導案では子どもの発達を考慮しながら現実の保育活動で展開できる内容が記載されている。

教科書:　内閣府・文部科学省・厚生労働省 『平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本』 チャイルド社

参考書:　授業中に指定します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:	授業後や研究室で随時質問を受け付けます。わからないところはそのままにせずに、積極的に聞きにきてください。

462101、02

保育内容（健康）

田中　　真紀

授業テーマ:

授業の概要:
子どもの発達を保育内容の「健康」領域の観点から捉え、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うことを目的とする保育内容についての知識、技術について具体的に学ぶ。

到達目標:
1）領域「健康」の目標、ねらい、内容を理解し説明することができる。
2）子どもの身体の発達と運動能力の発達の特徴を理解する。
3）けがや事故の実態を理解し、安全指導に必要な知識や指導法を身につける。
4）発育発達段階に応じた運動遊びの指導案を作成し、授業実践力を身につける。

授業方法:
講義ならびに演習形式で開講する。なお、授業は1）～5）の流れで行なう。
1）本日の内容についての説明
2）基礎知識を学ぶ
3）応用的思考を試みる
4）まとめ／授業メモへのコメント記入
5）次回の予告

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康の概念について	自身の健康観について考える。
2.	領域「健康」のねらいと内容について	健康の領域について、事前に幼稚園教育要領、保育所保育指針で予習する。
3.	領域「健康」の内容の取扱いについて	健康の領域について、事前に幼稚園教育要領、保育所保育指針で予習する。
4.	子どもの健康と食生活について	子どもの食の問題点について下調べをする。
5.	子どもの健康と睡眠について	自身における睡眠の意義および日本の睡眠事情について調べる。
6.	子どもの身体の発達について(1)	大人と子どもの身体の違いについて考える。
7.	子どもの身体の発達について(2)	関連する範囲について提示する参考資料をもとに準備します。
8.	子どもの体力・運動能力と動きの獲得について（1）	最新の子どもの体力・運動能力に関して、スポーツ庁のHPより調べる。
9.	子どもの体力・運動能力と動きの獲得について（2）	関連する範囲について提示する参考資料をもとに準備します。
10.	子どもにおける運動遊びの役割	関連する範囲について提示する参考資料をもとに準備します。
11.	子どもと安全教育	危険の概念について、参考資料もとにを参考に調べる。
12.	子どもの運動遊びの指導法について（動機づけの観点から）	関連する範囲について提示する参考資料をもとに準備します。
13.	模擬保育 (1):指導計画の作成と実践	教材研究および指導計画案の作成をおこなう。
14.	模擬保育 (2):指導計画の作成と実践	教材研究および指導計画案の作成をおこなう。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
授業メモについて、コメントをつけて返却する。返却方法は教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びペーパ提出	10	積極的に授業に参加し、授業メモの提出およびその内容により評価する。
レポート＜教材研究／指導計画／模擬保育＞	20	到達目標④に関する理解したうえで、指導計画のまとめの仕上がり度合により評価する。
定期試験	70	到達目標①②③④の理解度により評価する。

教科書:

参考書:
幼稚園教育要領
保育所保育指針

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業前後に教室内で応対

462201、02

国語科指導法

松崎　　正治

授業テーマ:　小学校国語科の教科指導法を学ぶ

授業の概要:　小学校の国語科教育に関する理論的知識とその実践的展開力を育てる。とりわけ、児童に国語学力をつけるために、児童の学習意欲の高め方、教材開発、教材研究、学習指導案作成、教育方法、評価、模擬授業、ティームティーチング（T.T.）の方法等について、具体的に指導していく。そして、小学校の教育実践全体を見渡しながら、学習指導を行う力量を形成していく。

到達目標:
①人と人とが互いに心をくばる「ケア」関係の中で、こどもを支援する教材開発や教材研究、学習指導案作成、評価の方法を理解している。
②こどもの立場を尊重し、こどもの状況を深く感受しながら学習及び自立を支援しようとする国語科の学習指導方法を理解し、模擬授業でそれらを使える。
③模擬授業などの経験を客観的にふり返り、体験を意味づけて抽象化しながら、さらに次の授業づくりへ活かしていくことができる。

授業方法:　講義形式・演習形式など様々な形態を組み合わせている。スピーチ演習を行い、教科通信を発行してもらう。模擬授業を実施し、省察する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	国語科の授業づくりの理論と方法（1）～教材開発と教材研究の方法	学んだ内容をまとめておく。
2.	国語科の授業づくりの理論と方法（2）～児童の学習意欲を高める教育方法（T.T.を含む）と、評価の方法	学んだ内容をまとめておく。模擬授業の班分けと担当領域にしたがって、前回に学んだことを活かして教材研究をしておく。
3.	国語科の学習指導案の作成方法（1）～ プロトタイプの練習用学習指導案を書いてみる。	プロトタイプの練習用学習指導案を完成させる。
4.	国語科の学習指導案の作成方法（2）　～模擬授業の班分けと担当領域にしたがって、前回に学んだことを活かして学習指導案を書く。	学習指導案を完成させる。
5.	国語科の模擬授業の仕方（1）～模擬授業の事前準備として、授業の具体的な進め方を学ぶ。	模擬授業の方法を把握しておく。
6.	国語科の模擬授業の仕方（2）～模擬授業の事前準備として、教材・教具、ワークシートの作り方、願書の仕方などを学ぶ。	事前準備の方法をまとめておく。
7.	国語科の模擬授業（1）～読むこと領域①文学的文章教材―散文	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
8.	国語科の模擬授業（2）～読むこと領域②文学的文章教材―韻文	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
9.	国語科の模擬授業（3）～読むこと領域③説明的文章教材―下学年教材	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
10.	国語科の模擬授業（4）～読むこと領域④説明的文章教材―上学年教材	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
11.	国語科の模擬授業（5）～書くこと領域 作文	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
12.	国語科の模擬授業（6）～話すこと・聞くこと領域　スピーチや話し合い	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
13.	国語科の模擬授業（7）～伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項領域①国語の特質の授業	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
14.	国語科の模擬授業（8）～伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項領域②伝統的な言語文化の授業	模擬授業のために、事前に教材・教具、学習指導案、ワークシートなどを用意しておく。授業後には、授業を振り返っておく。
15.	全体のまとめ	模擬授業を振り返って、小学校国語科の授業実践をどのように進めればよいかをレポートにまとめる準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　グループ学習が多いので、互いに協力し合い、補い合って進めていきましょう。

フィードバックの方法:　授業の中でコメントする。また模擬授業記録を作成して授業者はじめ受講者全員に返す。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
スピーチ、授業通信	10%	スピーチの基本を踏まえて話せているか、通信を読者に興味を持ってもらえるように工夫しているかを評価する。
模擬授業	30%	人と人とが互いに心をくばる「ケア」関係の中で、こどもを支援する教材開発や教材研究、評価論を踏まえて、学習指導案を作成出来ているか。こどもの立場を尊重し、こどもの状況を深く感受しながら学習及び自立を支援しようとする国語科の学習指導方法を理解し、模擬授業でそれらを使えているかを評価する。
レポート	60%	模擬授業などの経験を客観的にふり返り、体験を意味づけて抽象化しながら、さらに次の授業づくりへ活かしていくために、論理的に書けているか、内容に説得性があるか、自分なりの考え方を展開しているかを評価する。

教科書:　文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編　平成20年8月（平成27年3月付録追加）』東洋館出版、2015年

参考書:	青山由紀『「資質・能力」を育成する国語科授業モデル』学事出版2017年 奈須正裕『教科の本質を見据えたコンピテンシー・ベイスの授業づくりガイドブック～資質・能力を育成する15の実践プラン』明治図書2017年 東京都青年国語研究会編『子供の側に立つ国語の授業 主体的・協働的に学び合う国語単元学習』東洋館出版2016年 日本作文の会編『「書くこと」の授業を豊かに 作文教育で「アクティブ・ラーニング」の先へ』本の泉社2016年 中洌正堯 編著『主体的な〈読者〉に育てる小学校国語科の授業づくり 辞典類による情報活用の実践的方略』明治図書2016年 山元隆春・小倉国語の会『アクティブ・ラーニングの授業展開小学校国語科』東洋館出版2016年 細川太輔『こと・もの・ひと 3つの視点でデザインする』東洋館出版2016年 寺井正憲・船橋国語教育の会『深い学びを実現する書き換え学習の授業づくり』 明治図書2016年 西岡加名恵『資質・能力を育てるパフォーマンス評価～アクティブ・ラーニングをどう充実させるか』明治図書2016年 書写書道教育教材研究会・加藤達成『大学書写・書道教育 改訂』第一法規出版2012年
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力
教員との連絡方法:	Eメール、オフィスアワー

462301、02

社会科指導法

藤原　　孝章

授業テーマ:　小学校社会科の授業実践と社会科教育の課題

授業の概要:　小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識を身に付ける。特に、社会科の主な指導方法を取り上げ、その特色と問題点などについて考えていく

到達目標:　知識理解:小学校社会科の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深め、授業実践のための基礎的知識を身に付けることができる。
技能:単元計画・学習指導案の作成や模擬授業などを通して、小学校社会科の授業実践の技能を高めることができる。
関心・意欲・態度:小学校社会科の教材や指導法、授業実践について関心を持つことができる。

授業方法:　講義および教材研究、単元計画・指導案の作成の課題、模擬授業など

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(講義のすすめ方) エントリーシート(学びの履歴)から小学校社会科教育の意義と課題、状況論を探る。	初回から出席のこと
2.	小学校社会科の成立と変遷 初期社会科と問題解決学習、系統学習と現在、学力論と関連して	教科書、参考文献、授業資料の熟読
3.	小学校社会科の目標論、教科構造論、学習指導要領解説	教科書、参考文献、授業資料の熟読
4.	小学校社会科の授業構成と展開例、学習指導(1) 中学年　社会科教科書分析1	教科書、参考文献、授業資料の熟読
5.	小学校社会科の授業構成と展開例、学習指導(2) 高学年　社会科教科書分析2	教科書、参考文献、授業資料の熟読
6.	小学校社会科の授業構成と展開例、学習指導(3) 高学年　社会科教科書分析3	小学校社会科単元計画・学習指導案の作成準備
7.	小学校社会科単元計画・学習指導案の提出(相互評価)	小学校社会科単元計画・学習指導案の作成準備
8.	小学校社会科単元計画・学習指導案の改善指導	小学校社会科単元計画・学習指導案の作成準備
9.	実習視察の様子、模擬授業グループ分け	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
10.	模擬授業(1)	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
11.	模擬授業(2)	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
12.	模擬授業(3)	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
13.	模擬授業のふりかえり	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
14.	社会科学習指導案(改訂版)の提出と共有	小学校社会科単元計画・学習指導案の検討
15.	全体ふりかえり、学びの確かめのための試験(持ち込み可)	教科書、参考文献、授業資料、社会科単元計画・学習指導案の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:　単元計画・指導案の作成のために授業時間外に教材研究を相当数の時間をかけて行う。
模擬授業の準備のために相当数の時間をかける。

フィードバックの方法:　毎時間の講義対話カード(ふりかえりカード)へのコメント
単元計画・指導案の作成への改善コメントと改善指導案の提出
模擬授業へのコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	対話カードなど積極的に授業に取り組んでいるか
課題(学習指導案の提出)	40	社会科単元計画学習指導案、模擬授業を含めて、積極的に取り組んでいるか
学びの確かめのための試験	30	授業目標が達成されているか

教科書:　文部科学省『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社、2008年

参考書:
原田智仁編(2015)『社会科教育のルネサンス一実践知を求めて一』保育出版社
澤井陽介(2016)『子供の思考をアクティブにする社会科の授業展開　小学校』東洋館出版社
原田智仁編(2010)『社会科教育のフロンティア—生きぬく知恵を育む—』保育出版社
社会系教科教育学会編(2010)『社会系教科教育研究のアプローチ～授業実践のフロムとフォー～』学事出版
日本社会科教育学会編(2008年)『社会科授業力の開発　小学校編　研究者と実践家のコラボによる新しい提言』明治図書出版
有田和正(2011)『有田式歴史教科書6年生社会科・授業カンペキ版』明治図書出版
日本社会科教育学会編(2012)『新版　社会科教育事典』ぎょうせい
社会認識教育学会編(2000)『改訂新版　初等社会科教育学』学術図書出版社
有田和正(1999)『「生きる力」を育む社会科授業』明治図書出版
佐藤正寿・長瀬拓也編(2016)『ゼロから学べる学小学校社会科授業づくり』明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　e-mailなど

462401、02

算数科指導法

今井　　敏博

授業テーマ:　小学校算数科の授業づくり

授業の概要:　小学校算数科の学習指導要領の内容を習得した上で、算数科の授業づくりの方法を獲得する。具体的に学習指導案の作成に取り組み、模擬授業を通して教育実習にむけての技量を養います。

到達目標:
1. 小学校算数科の授業づくりと授業方法についての知識を獲得し、模擬授業を通して理解を深める。
2. 算数科の教育実践への関心・意欲・態度を高める。

授業方法:　実技演習（学内）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションとグループ分け	グループで打合せをする。
2.	算数科の学習指導案の書き方	算数科の授業づくりの方法を復習し、グループで確認する。
3.	算数教育のトピックス（算数科の授業を支える理論、算数教育の歴史変遷、日本の算数教育の動向、算数的活動などから）	授業の内容を振り返り、それらをまとめる
4.	小学校第1学年の教材内容における模擬授業	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
5.	小学校第2学年の教材内容における模擬授業（1）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
6.	小学校第2学年の教材内容における模擬授業（2）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
7.	小学校第3学年の教材内容における模擬授業（1）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
8.	小学校第3学年の教材内容における模擬授業（2）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
9.	小学校第4学年の教材内容における模擬授業（1）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
10.	小学校第4学年の教材内容における模擬授業（2）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
11.	小学校第5学年の教材内容における模擬授業（1）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
12.	小学校第5学年の教材内容における模擬授業（2）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
13.	小学校第6学年の教材内容における模擬授業（1）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
14.	小学校第6学年の教材内容における模擬授業（2）	担当グループは準備する。 模擬授業後の質疑をまとめる。
15.	まとめ	算数科の授業づくりを低学年、中学年、高学年ごとにまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　グループで算数の授業を試み、経験することを目標にしています。授業には完全はありませんが様々な方法を知っていておくことが重要です。また、瞬時に子どもに対応する判断力が大切です。話し方、板書の仕方などの基本から授業展開の仕方まで失敗を恐れずに取り組んでほしいです。

フィードバックの方法:　模擬授業を行った後に、模擬授業を行った受講生の振り返り、子ども役の受講生の感想を述べる時間を設けます。担当者（今井）はそれらの総括を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40	到達目標1についての振り返りを評価する。
模擬授業実践	40	到達目標1の実践状況を評価する。
授業への参加度	20	模擬授業実践の反省を到達目標2の視点から評価する。

教科書:　文部科学省、小学校学習指導要領解説 算数編（平成20年8月）、東洋館出版社

参考書:
日本数学教育学会編、算数教育指導用語辞典 第4編、教育出版
原一夫、新任教師のしごと 算数科 授業の基礎基本、小学館
次期学習指導要領：文部科学省のホームページからPDFで取得可

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、変化対応力、プレゼンテーション力、

教員との連絡方法:　オフィスアワー、昼休み時間、授業の前後に教室内で応対

462501、02

理科指導法

大黒　　孝文

授業テーマ:　理科が大好きな児童・生徒を育てる教師になる

授業の概要:　小学校で理科を教える教師としての資質と能力の育成をめざして，①理科の授業を構成する力，②実験観察を指導する力，③授業場面で安全対策に配慮した環境を整備する力，④主体的で対話的な学びを実現する力，以上の力に着目した実践力を身につける。具体的にはケースメソッド教材を用いた演習によって理科を教える教師としての観る力を育成し，次にグループティーチングによる模擬授業体験によって実践的指導力を身につけることができる。

到達目標:
・理科の4領域の学習目標と内容に対応した授業を設計する力を身に付ける。
・学年に対応した理科の見方・考え方を理解し，学習評価の考え方と方法を説明できる。
・4領域に応じた実験観察を構成し，安全に配慮した指導力を身に付ける。
・情報機器と教材を活用し，主体的で対話的な学びを実現する力を身につける。
以上をケースメソッド学習，指導案作成演習，グループテーチング（模擬授業）演習によって獲得する。

授業方法:
1:講義，2:演習，3:実験実技演習（学内），5:講義/演習の混合
グループティーチングでは4or5人が1グループとなり、指定された授業案をもとに1人が1時間の実験授業を実施する。その際、児童役の学生は記録係、トラブルメーカー1,2係の役割となり、実際の授業場面を想定した演習を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	理科の授業をふり返り，領域別に学習内容を整理しておく
2.	ケースメソッド教材で学ぶ協同学習（エネルギー領域：手回し発電機による大容量コンデンサーの蓄電実験）	マナビーで配信するケースメソッド教材から問題点を読み取り改善策と対処法を考えておく
3.	ケースメソッド教材で学ぶ理科指導法（生命領域：協同学習の理論と方法1）	マナビーで配信するケースメソッド教材を読み取り問題点を抽出しておく
4.	ケースメソッド教材で学ぶ理科指導法（生命領域：協同学習の理論と方法2）	事前に設定する問題点の改善策と対処方法を考えておく
5.	エネルギー領域の実験開発 1（風で動く車をつくる）	風で動く車の設計図を描き，必要な材料を準備しておく
6.	エネルギー領域の実験開発 2（風で動く車の児童用ワークシートを作成する。準備・手順・実験・記録・ふり返り等）	児童用ワークシートの構想を立てておく
7.	粒子領域の実験開発（カラメル焼に挑戦：実験書通りに実験は可能か）	カルメ焼の仕組みと確実にふくらませる方法を調べておく
8.	グループティーチング（模擬授業）のオリエンテーション（グループ決定、授業配分，指導案の説明）	事前に配布する指導案の書き方を読んでおく
9.	グループティーチング（模擬授業）の準備（指導案検討、実験練習と準備）	担当する単元の理科教科書と指導書を確認し，実験内容を把握する
10.	グループティーチング（模擬授業1）（実践的模擬授業と授業検討）	指導案と児童用ワークシート，及び，板書計画と実験準備を行う
11.	グループティーチング（模擬授業2）（実践的模擬授業と授業検討）	前時をふり返り授業計画を立てる 指導案と児童用ワークシート，及び，板書計画と実験準備を行う
12.	グループティーチング（模擬授業3）（実践的模擬授業と授業検討）	前時をふり返り授業計画を立てる 指導案と児童用ワークシート，及び，板書計画と実験準備を行う
13.	グループティーチング（模擬授業4）（実践的模擬授業と授業検討）	前時をふり返り授業計画を立てる 指導案と児童用ワークシート，及び，板書計画と実験準備を行う
14.	アーギュメントスキルの理論と方法	アーギュメントスキル概説を読んでおく
15.	グループティーチングのまとめと総括	グループティーチングのふり返りとポートフォリオの提出準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　将来，小学校教員として理科の授業を行う自信を身につけるため，授業を観る力と実践的に指導する力を体験的に学びます。具体的には，ケースメソッド教材を用いた演習と1時間の授業を1人だけでやりきるグループテーチングを実施します。

フィードバックの方法:　実験演習においてはその場で評価し口頭で伝える。提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習と実技	40	到達目標のグループテーチングにおける授業構成力や指導力を実技と修正指導案を含むポートフォリオで客観的に評価する。
課題テスト	30	到達目標の理科授業に関する4領域の知識や技能を活用した制作物の完成度と性能，及びレポートで評価する。
小テスト	30	ケースメソッド教材の読み取り内容と指導案修正の内容でで評価する。

教科書:
小学校学習指導要領解説　理科編（平成29年3月告示　文部科学省）
学習指導要領小学校理科新旧対照資料（平成29年3月）啓林館
その他，プリント配布

参考書:　授業の中で紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等

462601、02

生活科指導法

笠間　　浩幸

授業テーマ:　生活科指導の課題と方法

授業の概要:　教科「生活科」の教科目標、内容、授業計画及び評価の方法及び幼児教育との連携課題等に関する理論的理解をはかるとともに、生活科指導に関する具体的・実践的な力の獲得を目標とする。特に生活科指導における教育内容・教材構成の方法や、指導計画作成、指導案の書き方、実際の授業の工夫等について、受講生のグループワークによる模擬授業を通じた指導を行い、実践力の獲得を目指したい。なお、前期の講義「生活」は、本講義の土台となる関連内容を配しており、あらかじめ受講することを勧めるものである。

到達目標:
（1）幼少年期の子どもの発達的特性と生活科の体験を通じた学びとの関係性について理論的な理解を目指す。
（2）子どもや地域社会の課題を的確にとらえ、教育内容や方法に活かしていく応用力と創造性を身に着ける。
（3）子どもの理解力・発達課題を踏まえながら授業仮説としての指導案を作成し、模擬授業を通して実践力及び自らの教授法を客観的に振り返る力を身につける。

授業方法:　講義、グループによる討議、模擬授業

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、生活科の特性と目標	「小学校学習指導要領解説　生活編」の「教科の目標」に目を通しておくこと。
2.	生活科の実践に学ぶ授業構想、「授業案」課題	前時に配布する生活科の授業実践に関する資料を読んでおくこと。
3.	生活科の指導計画と指導計画作成の基本	「小学校学習指導要領解説　生活編」の「指導計画・指導計画作成」の章を読んでおくこと。
4.	「学習指導案」作成の基本	他教科の指導案作成の基本を改めて振り返っておくこと。
5.	秋たんけん（教材探し）	前時で課題にされた指導案を作成する事。
6.	作成した「学習指導案」の点検と模擬授業の検討	取り組んでみたい模擬授業のテーマを考えておくこと。
7.	グループによる模擬授業のテーマ検討	取り組んでみたい模擬授業の内容・方法を考えておくこと。
8.	模擬授業のための教材研究（1）	取り組んでみたい模擬授業の内容に関する情報を集めておくこと。
9.	模擬授業のための教材研究（2）	同上
10.	模擬授業指導案の完成と授業展開検討	具体的な模擬授業の展開を考えておくこと。
11.	模擬授業（1）	模擬授業の発表および授業の準備（指導案の印刷・準備物の用意・発問等）をしておくこと 。
12.	模擬授業（2）	同上
13.	模擬授業（3）	同上
14.	模擬授業（4）	同上
15.	授業全体の振り返り	授業全体の学びを振り返り、疑問点などを整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　生活科は、体験的方法論を特徴とする教科であり、本授業でも受講生自身の体験的な学びを重視し、個人及びグループによる協同的な授業づくりを体験する。教材研究の基本や指導案作り、模擬授業など、積極的な取り組みを期待する。全回出席を基本とし、欠席は減点とする。

フィードバックの方法:　授業においてコメントともに返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ミニレポート3本	30%	内容・方法・教材テーマ研究のそれぞれについて的確に考えをまとめることができているかどうかを評価する。
討論、模擬授業	30%	授業設計及び実践指導が適切に行われていたかどうかを評価する。
最終レポート	40%	授業全体の学びが適切に捉えられているかどうかを評価する。

教科書:　文部科学省 「小学校学習指導要領解説　生活編」 日本文教出版

参考書:　授業において適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

462701、02

音楽科指導法

垣内　　幸夫

授業テーマ:

・「小学校学習指導要領（音楽）」の目標と内容を理解し、音楽科の教材研究・指導法・評価に関する実践力を身に付ける。

授業の概要:

本授業では、①「小学校学習指導要領（音楽）」の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。②音楽科の特性を理解し、子供の実態を視野に入れ、情報機器を活用した内容の音楽科学習指導案を作成する。③模擬授業ではアクティブ・ラーニングの手法を用いて、グループ学習による多様な題材の授業の実践を行う。グループ単位で学生たちが議論を展開し、共同で指導案を仕上げ、グループの構成員が行った模擬授業を振り返り、自ら発見した課題について互いに協力して主体的に解決する力を養う。さらに授業後の総括・発表・討論を経て、音楽の授業に対する理解を深め、個人レポートを作成する。④クラス音楽会を組織・運営し、学校行事での音楽活動に参加するための基礎的能力を高める。

到達目標:

・小学校音楽科の目標と内容を理解し、音楽の授業ができるようになる。
・音楽科学習指導案が作成できる。
・歌唱教材《花》の二部合唱による歌唱と指揮を実践することができる。
・模擬授業を実践し、多様な題材の音楽授業を追求することができる。
・クラス音楽会の企画運営ができるようになる。

授業方法:

この授業では実技を伴う演習を主軸とするが、必要な場面で講義を導入する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1回:「小学校学習指導要領（音楽）」の理解1　音楽科の目標と各学年の指導内容	小学校音楽科の目標と各学年の指導内容について予習しておく。
2.	第2回:「小学校学習指導要領（音楽）」の理解2　歌唱共通教材と器楽の実践	小学校音楽科の歌唱共通教材の任意の1曲を弾き歌いできるようにする。
3.	第3回:「小学校学習指導要領（音楽）」の理解3　音楽づくりの実践と「共通事項」	「共通事項」を理解し、音楽づくりの内容を考えておくこと。
4.	第4回:音楽科学習指導案1　指導案の原理・形式と評価規準	各自が教えたい教材を選んでくる。
5.	第5回:音楽科学習指導案2　指導案の作成	各自が選んだ教材による学習指導案の構想を練っておく。
6.	第6回:模擬授業の準備1　題材の選択と教材研究	グループ毎に行う模擬授業の題材について考えてくる。
7.	第7回:模擬授業の準備2　模擬授業の指導案作成	模擬授業のための学習指導案をグループのメンバーで相談して作成する。
8.	第8回:模擬授業1　日本の伝統音楽・諸外国の音楽による授業の実践	模擬授業のためのグループメンバーによる事前練習と当日配布する資料を準備しておく。
9.	第9回:模擬授業2　わらべうた・日本の民謡による授業の実践	模擬授業のためのグループメンバーによる事前練習と当日配布する資料を準備しておく。
10.	第10回:模擬授業3　ポピュラー音楽・身体表現による授業の実践	模擬授業のためのグループメンバーによる事前練習と当日配布する資料を準備しておく。
11.	第11回:模擬授業4　音楽づくり・手作り楽器による授業の実践	模擬授業のためのグループメンバーによる事前練習と当日配布する資料を準備しておく。
12.	第12回:模擬授業の総括　全模擬授業の振り返りと学生による討論	全ての模擬授業の学習指導案を検討しておく。
13.	第13回:滝廉太郎作曲＜花＞の二部合唱と指揮の実践（クラス音楽会で発表）	＜花＞の二部合唱発表のための予習・復習。
14.	第14回:クラス音楽会の企画と準備	《花》の二部合唱発表のための予習・復習。 クラス音楽会での演奏曲の練習。 クラス音楽会のプログラムの作成。
15.	第15回:クラス音楽会の開催と総括 定期試験は実施しない。	授業の総括のために全授業内容を振り返っておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

「小学校学習指導要領（音楽）」に提示され、小学校音楽教科書に掲載されているが、受講生の皆さんが小学校時代にあまり経験してこなかった多様な題材について、積極的に取り組んでほしい。

フィードバックの方法:

歌唱及び指揮の実践については授業内でコメントする。
模擬授業の実践については、模擬授業の総括「しゃべり場」（討論）で講評する。
模擬授業に関する提出レポート（1)グループ単位の冊子(2)個人のレポートについては授業の総括の際にまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業に関するレポート	60%	到達目標「小学校において多様な題材による音楽の授業ができるようになる。」について（1)グループ単位の冊子(2)個人のレポートの2種よって理解度・達成度を評価する。
歌唱及び指揮の実践	20%	到達目標「三重唱で発表できる。」「歌唱と指揮を実践することができる。」における達成度を評価する。
授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標「クラス音楽会の企画運営」ができるようになったかを評価する。

教科書:

『最新　初等科音楽教育法』（改訂版）（初等科音楽教育研究会編、音楽之友社）
「小学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）
「小学校学習指導要領解説」（平成29年6月 文部科学省）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール（kaki@kyokyo-u.ac.jp）並びに授業の前後に教室内で応答する。

462801、02

図画工作科指導法

竹井　　史

授業テーマ:　図工授業の実践力の育成

授業の概要:　図画工作科における教育目標を実現する3つの資質・能力について理解しつつ、学習指導要領に示されている教科の学習内容や授業の進め方、指導上の留意点、及び評価等について、領域別に取り上げ学習する。その上で、それぞれの背景となる学問領域の研究成果と関連させ、理解を深めると共に指導案の作成をもとに実践力の育成を行う。

到達目標:　学習指導要領に示されている教科の学習内容や授業の進め方、指導上の留意点、及び評価、指導案等について学習することを通じ、図工授業の指導者としての実践力を育成することを目的とする。

授業方法:　授業運営にあたっては、前半は、テキスト学習及び教員によるプレゼンテーションをもとに、必要に応じてアクティブ・ラーニングによる授業形態を取り入れる。後半の領域については、グループによるテキスト、小学校図画工作教科書などによる教材研究をもとにした分析を行った研究発表をプレゼンテーション形式にて行いながらすすめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学習指導要領をもとに図画工作科の目標と内容について学習し、図画工作科の授業についてイメージ作りをする。	学習指導要領の理解。
2.	子どもの発達と表現について具体的な事例と支援、環境づくりのあり方について学習する。	自身の様々な子ども時代を振り返り、どのような絵を描いていたかに通ついて思い起こす同時に、どのような授業、環境づくりやテーマが表現活動を活性するかについて考える。
3.	図画工作科全般における教材研究のあり方について具体的な事例をもとに学習する。	自身の子ども時代を振り返り、どのような授業や、環境づくりやテーマが授業を活性するかについて考える。
4.	図画工作科全般における、用具・材料とその取り扱い、及び安全指導について学習する。	自身の子ども時代を振り返り、図工の授業で取り扱いが難しかったり、危険性のある材料や用具について考える。
5.	造形遊びの内容と模擬授業	小学時代を振り返り、造形遊びの授業の意義について考える。
6.	造形遊びの授業の進め方、教材研究のポイント、指導上の留意点及び評価について	小学時代を振り返り、造形遊びの授業の内容を振り返り、その授業のあり方について考える。
7.	絵画表域の内容と模擬授業	小学時代を振り返り、絵画表現の意義について考える。
8.	絵画表域の授業の進め方、教材研究のポイント、指導上の留意点及び評価について	あ小学時代を振り返り、絵画の授業の内容を振り返り、その意義について考える。
9.	立体領域の内容と模擬授業	小学時代を振り返り、立体の授業の意義について考える。
10.	立体領域の授業の進め方、教材研究のポイント、指導上の留意点及び評価について	小学時代を振り返り、立体の授業の内容を振り返り、その意義について考える。
11.	工作領域の内容と模擬授業	小学時代を振り返り、工作の授業の意義について考える。
12.	工作領域の授業の進め方、教材研究のポイント、指導上の留意点及び評価について	小学時代を振り返り、工作の授業の内容を振り返り、その意義について考える。
13.	鑑賞領域の内容と模擬授業	小学時代を振り返り、鑑賞の授業の意義について考える。
14.	鑑賞領域の授業の進め方、教材研究のポイント、指導上の留意点及び評価について	小学時代を振り返り、鑑賞の授業の内容を振り返り、その意義について考える。
15.	図画工作科における学習指導案の作成とそのポイント	図工の授業の進め方を良好にすすめることのできる指導案のポイントについて考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:　学習は受身では、学びが少ないものです。自身が教育現場に立った際に役立つことを想定した主体的、積極的な学習や授業参加が望まれます。

フィードバックの方法:　授業中の質疑、グループ発表後のコメント等による。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
テキストをもとにした発表内容	70%	テキストの理解度、自主テーマによる深まり、プレゼンテーション力
課題によるレポート	30%	テーマをもとにした切り口、論理性

教科書:　竹井　史編著、小学校図画工作授業づくり研究会著、『学級担任の図工授業完ぺきガイド』、明治図書
『小学校学習指導要領解説』（平成29年告示 文部科学省）

参考書:　授業中に適宜資料を配付する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　研究室、メール。メールは最初の授業時に伝えます。

462901、02

家庭科指導法

黒田　　秀子

授業テーマ:　「自立し共に生きる生活の創造」のための家庭科指導法の取得と展開

授業の概要:　小学校家庭科の目標である「①知識・技能の習得、②思考力・判断力・表現力の育成、③学びに向かう力・人間性等の涵養」とは何かを習得し、目標に即した授業内容や教材を考える力を鍛える。 1.家庭科の内容に即し、具体的に授業・指導を展開できる教員を養成する。2.「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、授業をどのように構成し工夫したらよいか議論し合い、様々な指導方法・指導内容を蓄積する。3.学習指導案の書き方を習得し、模擬授業等を通して授業力、省察力、評価力を鍛える。

到達目標:　小学校家庭科で目指す教科の目標・内容等を理解し、小学校家庭科の授業を担うために必要な授業構想力、教材開発力、授業展開・推進力を身につける。 具体的な到達目標:（1）家庭科で育む「知識・技能」を十分に取得する。（2）家庭科の目標に即した「思考力・判断力・表現力等」を児童に身につけさせるための授業計画を総合的にプロデュースし、実践し、評価・改善する力を獲得する。

授業方法:　講義・演習・実技・模擬授業

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	小学校家庭科の「目標、内容、内容の取扱」の理解と習得ー改訂学習指導要領と「自立し共生・協働できる生活者育成のための家庭科指導法」とはー	改訂学習指導要領家庭編の「目標、内容、内容の取扱」を確認しておくこと。
2.	小学校学習指導要領改訂の背景と「さまざまな指導計画」の理解と習得ー「カリキュラム・マネジメント」「生きる力の3つの柱」「資質・能力を育成する主体的・対話的で深い学び」とはー	新旧の学習指導要領を比較し、改訂の背景を読み取っておくこと。
3.	児童の実態把握と年間指導計画の立て方ー個・家族・特別支援教育に対応した学習の構成ー	児童の実態把握を円滑にするために、現代社会における家庭環境の変化や特徴を概観しておくこと。
4.	「A 家族や家庭生活」の理解と授業デザインの提示・検討	「A 家族と家庭生活」の目標・内容を復習し、授業デザインに対して意見が持てるようにしておくこと。
5.	「B 自立の基礎である衣食住と日本・世界の生活」の理解と授業デザインの提示・検討	「B 自立の基礎である衣食住と日本・世界の生活」の目標・内容を復習し、授業デザインに対して意見が持てるようにしておくこと。
6.	「C 消費生活・環境に配慮した生活」の理解と授業デザインの提示・検討	「C 消費生活・環境に配慮した生活」の目標・内容を復習し、授業デザインに対して意見が持てるようにしておくこと。
7.	家庭科における「資質・能力の育成」と「主体的・対話的で深い学び」との関係ー「日常生活からの課題発見→課題設定→課題解決に向けた実践活動→実践の評価・改善→家族・家庭・地域への実践への発展・展開」・コンピューターや情報通信の活用ー	日常生活の課題解決に向けた実践活動の一例があげられるように考えておくこと。
8.	「B 衣食住の生活:（2）調理」で指定された題材に対する実習指導トレーニングと発展	調理実習時に小学生が陥りやすい困難や問題を回避するための指導法を考えておくこと。
9.	「B 衣食住の生活:（5）制作」で指定された題材に対する実習指導トレーニングと発展	制作実習時に小学生が陥りやすい困難や問題を回避するための指導法を考えておくこと。
10.	学習指導案の作成と教材研究ー家族・家庭生活の課題と実践に関する内容からー	教材研究の基礎資料を用意しておくこと。
11.	学習指導案の作成と教材研究ー伝統的な和食・旨味と国際化に関連する内容等ー	教材研究の基礎資料を用意しておくこと。
12.	学習指導案の作成と教材研究ー自立した消費者の育成、または持続可能な社会と消費内容等ー	教材研究の基礎資料を用意しておくこと。
13.	家庭科における評価の観点とはー「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」ー	評価に関する提示資料を読んでおくこと。
14.	第1回模擬授業（情報機器を活用して）及び合評会	模擬授業のための提示物、発問計画、板書計画などの準備をしておくこと。
15.	第2回模擬授業（「主体的・対話的で深い学び」の手法を用いて）及び合評会	模擬授業のための提示物、発問計画、板書計画などの準備をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポート及び課題は、採点するとともに授業時に解説を加え、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小レポート・小課題	20	学習内容を理解し、要点を簡潔に述べられているかを基準とする。
学習指導計画・指導案の立案	40	積極的に理解した内容を生かした取り組みができているか態度・意欲を評価する。
模擬授業の準備と実践・その内容の充実度	20	作成した指導案に沿った授業準備を行い、充実した実践できたかを基準とする。
「主体的・対話的で深い学び」に対する理解と授業案の工夫	20	「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた授業案の工夫について説得力を持って説明できるかを基準とする。

教科書:　文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』（平成29年6月）
渡邊彩子監修『新編　新しい家庭科5・6』東京書籍（2014年2月20日検定済）

参考書:　文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』（平成29年6月）
文部科学省等、家庭科の学習指導要領の改定に向けた諸資料
加地芳子・大塚眞理子編著『初等家庭科教育法』ミネルヴァ書房（2011年）
授業内容に即し適宜、必要なものを提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: hkuroda@dwc.doshisha.ac.jp

463001、02

体育科指導法

田中　　聡

授業テーマ:　体育科の目標・内容と指導法

授業の概要:　体育科の目標と内容について理解を深めるとともに、学習指導の方法等について理解を深めていく。特に、体育科の各運動領域の個別の運動の特性を踏まえた教材設定について理解を深め、実践的な指導力を身につけることを目標とする。

到達目標:
1.小学校体育科の目標、指導内容、評価方法について理解する。
2.各運動領域の内容を理解し、指導方法と指導力を身に付ける。
3.小学校の指導案を作成し、模擬授業ができるようになる。

授業方法:　実践に即した指導力を身につけるため、講義やディスカッション、グループワーク、実習、また授業実践の映像などを活用し、多様な学習形態・学習教材を合わせて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	本授業の進め方、留意事項を確認する。受講者はこれまでの経験を踏まえて体育に関する疑問点や指導論を考えてきて欲しい。
2.	スピーチ「私はこんな体育の授業がしたい」－自分のもつ″体育授業″のイメージは－	自分のこれまでの体育・スポーツ経験を振り返り、2, 3分のスピーチができるようにまとめてくること
3.	体育科は何を教える教科なのか	「体育科は〇〇の教育である」の〇〇に当てはまる内容について、自分なりに説明できるようにしてほしい
4.	「教師の資質」の視点から体育授業作りを考える。	よい体育授業を実践するために必要な教師の力について考えるため、そもその「良い先生」の条件について検討してくること
5.	学習指導要領にみる体育科の目標・運動領域・技能の内容	小学校学習指導要領解説・体育編にある体育の目標・体育の各領域の区分について確認しておくこと
6.	プレイ（遊び）からみた身体運動－文化としての運動と学習指導－	下記参考文献に目を通しておくことが望ましい
7.	器械運動系・陸上運動系の運動特性と学習指導の実際	器械運動系、陸上運動系の指導内容、留意点について、指導要領解説を参照してくること
8.	水泳系・ボール運動系の運動特性と学習指導の実際	ボール運動系、水泳系の指導内容、留意点について、指導要領解説を参照してくること
9.	体つくり運動系・表現運動系の運動特性と学習指導の実際	体つくり運動系、表現運動系の指導内容、留意点について、指導要領解説を参照してくること
10.	保健領域の内容と学習指導の実際	保健領域の指導内容、留意点について、指導要領解説を参照してくること
11.	体育科学習指導案作成のための知識とポイント	学習指導案に書くべき項目について、他教科を参考にして復習しておく
12.	体育科における学習評価	評価規準と評価基準の概念の相違について調べておくこと
13.	よい体育授業の特徴と教師行動について、模擬授業の班作り	子どもから評価される体育授業での教師行動について、実習経験をもとに考えをまとめておくこと
14.	小学校体育科学習指導案の作成	各班の課題運動領域の指導案事例を収集し、参考資料を作成しておくこと
15.	模擬授業	授業班だけでなく、寒冷期の体育授業の導入としてふさわしい運動遊びなどを各自で考えて模擬授業に臨んで欲しい

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業カードは抜粋した上で後日の授業の冒頭で紹介し、口頭にてコメントを加える。
宿題として配布したプリントについては次時の授業中にまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	「運動」の概念並びに到達目標である小学校体育科の目標、指導内容、評価方法について理解しているかについて、積極的な授業参加の観点から評価する。
レポート	40	到達目標1,2について総合的にできているかについてレポート課題の提出により評価する
課題の発表・提出物の内容	10	主に作成した指導案を対象に到達目標3の観点から、できばえについて評価する

教科書:　小学校学習指導要領解説（平成29年7月 文部科学省） ※授業中も参照する

参考書:
松田恵示、「「遊び」から考える体育の学習指導」、創文企画
西村 清和、「遊びの現象学」、勁草書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で対応

463100

幼児教育指導法総論

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:　環境を通しての保育について具体的なイメージをもつ。

到達目標:
1.「環境を通して行う」教育について具体的に理解する。
2. 幼稚園教育要領の成り立ちと特徴を理解する。
3. ドキュメンテーション、マインドマップ、写真評価法(PEMQ)の手法になじむ。

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	幼稚園教育要領等の改訂について	幼稚園教育要領を読んでおく。
2.	「幼児教育において育みたい資質・能力」について	改定のポイントについて整理しておく。必要な資料をダウンロードしておく。
3.	幼稚園・保育所・認定こども園と小学校の接続について	資料やテキストの該当部分を読んでおく。
4.	ドキュメンテーションについて	プロジェクト・アプローチについて調べておく。
5.	保育実践「匂いから始まるプロジェクト」ドキュメンテーション作成	プロジェクト・アプローチの事例を調べておく。
6.	マインドマップについて	「匂い」プロジェクトのドキュメンテーションを完成させる。
7.	保育実践「ありさんのけっこんしき」ドキュメンテーション作成	課題のマインドマップを完成させる
8.	保育実践「ありさんのけっこんしき・その後」マインドマップの作成	「ありさん」のドキュメンテーションを完成させる。
9.	写真評価法(PEMQ)について	「ありさん・その後」のマインドマップを完成させる。
10.	保育環境構成について	『新・保育環境評価スケール①3歳以上』を読み、復習しておく。
11.	マインドマップを作成し、それをもとに指導案作成。	スケールの項目に沿ってのポイントをまとめる。
12.	模擬保育実施	指導案完成。
13.	模擬保育の振り返りと指導案の修正。	模擬保育で見つかった課題の整理。
14.	指導案についての討議	修正指導案の完成。
15.	まとめ	資料、テキスト等を通読しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業内容は前後することがあります。

フィードバックの方法:　全体に解説。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物	70%	課題の趣旨を理解し、的確な内容になっているか。わかりやすいか。表現上の自分なりの工夫があるか。
定期試験	30%	設問に対し的確な回答・解答ができているか

教科書:
新・保育環境評価スケール①3歳以上
幼稚園教育要領　フレーベル館

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に応対。

463201、02

初等教育実習A（事前・事後指導を含む）

今井　敏博、笠間　浩幸、中山　まき子、吉永　紀子

授業テーマ:　教育実習および準備と反省

授業の概要:　教育実習は教育現場において、教員となるための実践的な能力と態度を養うとともに教育に携わる者としての使命と責任を自覚することを目指すものである。実習園・実習校においては、現場教員の指導を受けながら実際に幼児・児童の指導にあたり、今まで大学で身につけた保育・教科・教職に関する専門知識や技術の実践的な仕上げを行う。事前指導では教育実習の意義・目的を明確にし、実習に関わる全体の概要を把握しながら、効果的な実習ができるよう模擬保育・模擬授業や必要と思われる準備を行い、教育実習性としての自覚と資質を高める。事後指導では、教育実習後の留意事項を整理するとともに教育実習で得た教師に必要な資質・能力の定着を図る。

到達目標:
1. 事前指導において、これまでの大学における学びを教師の立場に立って意味づけ直しをする中で教育実習に関する知識を習得し、準備すべき留意事項を理解する。
2. 教育実習を通して、専門職職業人としての責任感を持って教育実践の技量を獲得するとともに、教育実践への関心・意欲・態度を高める。
3. 事後指導において、各自の教育実習を振り返り、発表し合うことにより、よりよい教育実践の在り方に関する知識を得るとともにその根拠を理解し、子どもの視点を大切にした教育実践への関心・意欲・態度を一層高める。

授業方法:　教育実習事前指導は主に講義形式で行う。教育実習は、学生各自が幼稚園もしくは小学校で、指導の先生のもとで行う。教育実習後は留意事項の講義の後に反省会を発表形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、教育実習の意義と実習生としての心構え	教育実習に向けての文献や資料の整理し授業内容を復習する。
2.	教育実習前の留意事項	教育実習に向けての文献や資料の整理し授業内容を復習する。
3.	教育実習中の留意事項	教育実習にむけての文献や資料の整理し授業内容を復習する。
4.	幼児・児童の実態把握と理解の実際	保育および授業の計画と観察記録の方法を理解し復習する
5.	幼稚園及び小学校の学校組織・学校経営・学級経営の実際	保育および授業の計画と観察記録の方法を理解し復習する。
6.	保育、学習指導、特別活動、安全など指導の実際（模擬保育・模擬授業）	保育および授業の計画と観察記録の方法を理解し復習する。
7.	幼児、生徒指導の実際と教育相談	生徒指導、教育相談の在り方を理解し復習する。
8.	幼稚園、小学校での実習	実習中は実習校・園の指導を受け実習簿に記述する。
9.	教育実習後のj処理事項と留意事項	教育実習校に実習簿を提出する。
10.	教育実習から学んだ教職の意義（討議）	グループで話し合ったことの発表を準備する。
11.	教育実習から学んだ教育技術（討議）	グループで話し合ったことの発表を準備する。
12.	教育実習から学んだ児童理解（討議）	グループで話し合ったことの発表を準備する。
13.	レポートの提出と検討及び自己の課題・自己評価	教育実習研究テーマに基づいて各自の実践をレポートにまとめる。
14.	教育実習と教職	教育実習の振り返りの討議をもとに、教職の意義を各自まとめる。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　提出書類や提出物を期限内に提出すること。また、介護等体験などの公欠を除いては原則として欠席を認めないため、すべての回に積極的に参加すること。

フィードバックの方法:　事後指導における教育実習の発表会で、教員が指導助言を行うことにより、教育実習全体に関するフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習校からの評価	50	到達目標2に関する評価
教育実習簿	20	到達目標1，2に関する評価
教育実習課題レポート	10	到達目標1，2に関する評価
教育実習報告書	10	到達目標3に関する評価
授業への参加	10	到達目標1，3に関する評価

教科書:　プリント資料を配布する。

参考書:　授業時に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　担当教員教員のオフィスアワー、授業前後に教室内で応対

463301

初等教育実習B（事前・事後指導を含む）

今井　敏博、笠間　浩幸、中山　まき子、吉永　紀子

授業テーマ:　教育実習および準備と反省

授業の概要:　教育実習は教育現場において、教員となるための実践的な能力と態度を養うとともに教育に携わる者としての使命と責任を自覚することを目指すものである。実習園・実習校においては、現場教員の指導を受けながら実際に幼児・児童の指導にあたり、今まで大学で身につけた保育・教科・教職に関する専門知識や技術の実践的な仕上げを行う。事前指導では教育実習の意義・目的を明確にし、実習に関わる全体の概要を把握しながら、効果的な実習ができるよう模擬保育・模擬授業や必要と思われる準備を行い、教育実習性としての自覚と資質を高める。事後指導では、教育実習後の留意事項を整理するとともに教育実習で得た教師に必要な資質・能力の定着を図る。

到達目標:
1. 事前指導において、これまでの大学における学びを教師の立場に立って意味づけ直しをする中で教育実習に関する知識を習得し、準備すべき留意事項を理解する。
2. 教育実習を通して、専門職職業人としての責任感を持って教育実践の技量を獲得するとともに、教育実践への関心・意欲・態度を高める。
3. 事後指導において、各自の教育実習を振り返り、発表し合うことにより、よりよい教育実践の在り方に関する知識を得るとともにその根拠を理解し、子どもの視点を大切にした教育実践への関心・意欲・態度を一層高める。

授業方法:　教育実習事前指導は主に講義形式で行う。教育実習は、学生各自が幼稚園もしくは小学校で、指導の先生のもとで行う。教育実習後は留意事項の講義の後に反省会を発表形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、教育実習の意義と実習生としての心構え	教育実習に向けての文献や資料の整理し授業内容を復習する。
2.	教育実習前の留意事項	教育実習に向けての文献や資料の整理し授業内容を復習する。
3.	教育実習中の留意事項	教育実習にむけての文献や資料の整理し授業内容を復習する。
4.	幼児・児童の実態把握と理解の実際	保育および授業の計画と観察記録の方法を理解し復習する
5.	幼稚園及び小学校の学校組織・学校経営・学級経営の実際	保育および授業の計画と観察記録の方法を理解し復習する。
6.	保育、学習指導、特別活動、安全など指導の実際（模擬保育・模擬授業）	保育および授業の計画と観察記録の方法を理解し復習する。
7.	幼児、生徒指導の実際と教育相談	生徒指導、教育相談の在り方を理解し復習する。
8.	幼稚園、小学校での実習	実習中は実習校・園の指導を受け実習簿に記述する。
9.	教育実習後のj処理事項と留意事項	教育実習校に実習簿を提出する。
10.	教育実習から学んだ教職の意義（討議）	グループで話し合ったことの発表を準備する。
11.	教育実習から学んだ教育技術（討議）	グループで話し合ったことの発表を準備する。
12.	教育実習から学んだ児童理解（討議）	グループで話し合ったことの発表を準備する。
13.	レポートの提出と検討及び自己の課題・自己評価	教育実習研究テーマに基づいて各自の実践をレポートにまとめる。
14.	教育実習と教職	教育実習の振り返りの討議をもとに、教職の意義を各自まとめる。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　提出書類や提出物を期限内に提出すること。また、介護等体験などの公欠を除いては原則として欠席を認めないため、すべての回に積極的に参加すること。

フィードバックの方法:　事後指導における教育実習の発表会で、教員が指導助言を行うことにより、教育実習全体に関するフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習校からの評価	50	到達目標2に関する評価
教育実習簿	20	到達目標1，2に関する評価
教育実習課題レポート	10	到達目標1，2に関する評価
教育実習報告書	10	到達目標3に関する評価
授業への参加	10	到達目標1，3に関する評価

教科書:　プリント資料を配布する。

参考書:　授業時に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　担当教員教員のオフィスアワー、授業前後に教室内で応対

463500

幼児音楽

山田　　千枝子

授業テーマ:
自己表現力・豊かな表現力を備えた保育（教育）者になるために実践・演習発表を通して即戦力的な引き出しを作る。

授業の概要:
幼児音楽教育の理論や方法を理解した上でその理論や方法を用いて保育実践ができるような力量を高める事を目的とし「幼児の音楽性を育む・音楽活動を創造する保育者になるため」といった内容を講義・演習する。
保育指導案の立案・小さな音楽会を企画・立案し発表会を行う。

到達目標:
本講義では、音楽的表現の保育内容について理解し、学生一人ひとりが楽しく表現活動に取り組み、音楽を通して自己表現力を高めていくことを目的とする。
模擬演習を通し豊かな感性と表現能力及びコミュニケーション力を高める。
幼児の音楽表現活動を理解し、指導計画の立案と援助が工夫できるようにする。

授業方法:
乳幼児の発達段階に応じて、実際に指導するための指導案や教材等を作成し、模擬授業の実践を通して幼児音楽についての理解を深める。（実習形式での体験を通して得た気づきから、実践力を身につける）
演習・実習を中心に進め、平易な講義も併用する。
幼児音楽における教育課程・保育過程をもとに、ねらいや環境の構成・教師の援助と対応させて、指導計画を作成できるようにする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	幼児と音楽・表現について・・・ オリエンテーション 乳幼児の音楽表現とは	
2.	(1)うたう活動　歌遊び 年齢別　こどもの歌の分類と実践 歌唱指導法と指導例	各グループごとに小さな音楽会にむけての内容を企画・立案するうえで必要なものを毎回各自で事前研究をおこなう
3.	(2)うたう活動　わらべうた わらべうたの定義と遊びの実習 旋律と歌い方	同上
4.	わらべうた総合実習・研究発表	同上 タイムテーブルを立て練習法を各パートごとに考えてくる
5.	ひく活動 楽器の基本的奏法 楽器の指導方法と指導例	発表会にむけての企画運営を考える
6.	演奏のワークショップ・グループでの即興演奏発表会	反省なととする配布されたプリントを宿題とする
7.	うごく活動 リトミックについて・基礎リズム （リズムの理念と定義）	プリント提出する
8.	うごく活動 リトミックについて 実例・指導法	保育実践の内容研究する 実践に必要な教材研究をし、作成する
9.	リズム遊びの実例　ことばと音の即興	保育実践の内容の検討
10.	幼児音楽における教育課程・保育過程の内容理解 ねらい・環境構成・教師の援助	指導案を作成し提出する
11.	保育案と指導計画の立て方　発達段階に応じた指導計画案の作成と指導方法	添削された指導案にもとづき、作成し直す
12.	模擬保育　指導計画案の模擬実技発表・評価（グループ討議）	最終の保育指導案提出
13.	模擬保育　指導計画案の模擬実技発表・評価（グループ討議）	
14.	模擬保育　指導計画案の模擬実技発表・評価（グループ討議）	模擬保育の反省を書き加え保育指導案を提出する
15.	総括　（指導案・カリキュラムの検討）	

受講者へのメッセージやアドバイス:
幼児音楽を通して、保育者として、自己表現力を豊かなものに開発されることを望みます。

フィードバックの方法:
保育実践の内容・指導案作成・教材研究については、一人ひとりに丁寧にかかわる。添削・撮影したビデオを分析しながら、その都度、見直したり反省会を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点・授業態度	40	出席率・教材研究ができているか。課題に前向きに取り組む姿勢
演習発表	30	グループ発表・・・プレゼンテーション・コミュニケーション力 模擬保育・・・表現・自己表現できているか
提出物	30	レポート内容

教科書:
特になし（必要に応じてプリントを配布します）

参考書:
必要に応じて授業の中で提示する
プリント等、資料配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
メール・電話

463600

社会的養護

小宅　　理沙

授業テーマ:

授業の概要:　日本における社会的養護の展開と現状を理解し、今後の課題や専門職の支援の在り方等について考察する。

到達目標:
1. 現代社会における社会的養護の意義と歴史的変遷について理解する。
2. 社会的養護と児童家庭福祉の関連性及び児童の権利擁護について理解する。
3. 社会的養護の制度や実施体系等について理解する。
4. 社会的養護における児童の人権擁護及び自立支援等について理解する。
5. 社会的養護の現状と課題について理解する。

授業方法:　講義形式を主体に実施し、適宜グループディスカッションなどを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	子どもの健全育成と保育士の役割	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
2.	社会的養護の歴史	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
3.	社会的養護と児童の権利	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
4.	社会的養護の理念	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
5.	社会的養護に関する法制度と機関	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
6.	社会的養護の実施体系	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
7.	家庭的養護の特質・基本原理①	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
8.	家庭的養護の特質・基本原理②	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
9.	施設養護の実際①	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
10.	施設養護の実際①	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
11.	社会的養護とソーシャルワーク	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
12.	社会的養護の専門職	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
13.	社会的養護における援助の展開	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
14.	社会的養護の課題と展望	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。
15.	まとめ	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。 講義中に配付される補足資料などは，次回講義までに一読しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　適宜，講義アンケート等を活用する等、受講生の学習状況を把握し助言・補足説明等を実施します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60	期末筆記試験(60点満点)における得点
出席状況	40	全ての授業に出席したものを40点とし、欠席1回(−3)、欠席2回(−8)、欠席3回(−15)まで(　)のように減点する。欠席4回以上で出席点を0点とする。

教科書:	（監修）小宅理沙 『社会的養護・社会的養護内容』 翔雲社 松井圭三・今井慶宗 編 『NIE　児童家庭福祉演習』 大学教育出版
参考書:	有村大士ほか編『こども家庭福祉』ミネルヴァ書房. 相澤仁ほか編『社会的養護』中央法規出版. 相澤仁ほか編『社会的養護内容』中央法規出版.
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力
教員との連絡方法:	e-mail: rackychan@hotmail.com

463700

保育の心理学

薦田　未央

授業テーマ:
保育のために子どもの発達・心理を理解する

授業の概要:
保育対象となる乳幼児の発達に関する基礎的な知識を学び、理解を深め、それらを活用できる力を習得する。
厚生労働省により通知されている以下の3つの課題を授業目標とする。
1. 子どもの心身の発達と保育実践について理解を深める。
2. 生活や遊びを通して学ぶ子どもの経験や学習のプロセスを理解する。
3. 保育における発達援助について学ぶ。

到達目標:
上記に挙げた授業目標をふまえて、乳幼児の発達メカニズムや学習のプロセスを理解し、その知識の活用に向けたイメージを形成する。そのため、実際に子どもの発達を援助し、保育指導に活かすための方法を考えることや、それを他者に対して表現できる形に思考をまとめていく。

授業方法:
講義と演習を交えた形式で実施する。原則として毎回、テーマに応じた課題を行うが、その際に個別のワークだけでなく、小グループでのディスカッションに基づき発表を行うこともある。すべての課題については、毎回提出を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	子ども理解における発達の把握	春学期に既習の発達心理学に関する専門用語を振り返っておく。
2.	個人差や発達過程に応じた保育	乳幼児の発達検査や観察法について既習の知識があれば振り返っておく。
3.	身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用	子どもの身体的発達について予習をしておく。
4.	環境としての保育者と子どもの発達	子どもと養育者の愛着関係について理論を予習しておく。
5.	子ども同士のかかわりと関係づくり	子どもの人間関係についての発達を調べておく。
6.	子どもの集団と保育の環境	家庭と保育集団での子どもの育ちについて考えておく。現代の子どもの育つ環境についての問題についても調べてみる。
7.	子どもの生活と学び	子どもの生理的発達によってできることとしつけ(学習)によってできることの違いについて考える。
8.	基本的生活習慣の獲得	子どもが身に着けるべき習慣、行動について、年齢に応じた違いを考えておく。
9.	子どもの遊びと学び	子どもにとっての遊びの意義は何か、考えておく。
10.	自己主張と自己抑制	子どもの発達において、自己主張ができるのはいつごろか、また他児・他者との関係を意識し始めるのはいつごろかについて調べておく。
11.	主体性の形成	主体性を育む、発達的基盤は何か心理学的観点から考えておく。
12.	生涯にわたる生きる力の基礎を培う	乳幼児期に身につけておきたい基礎的な力は何かを考えておく。
13.	発達と学びの連続性と就学支援	就学後の学習生活と幼児期の集団生活の違いについて考える。
14.	発達援助における協働	「気になる子」「発達障害」について既習の知識を振り返ってまとめておく。
15.	現代社会における子どもの発達と保育の課題	近年問題になっている、子どもを取り巻く社会現象や実際の課題についてまとめてみる。

受講者へのメッセージやアドバイス:
わからない専門用語については、予習復習で理解を深めておいてください。不明なことは質問等で解消できるようにしておいてください。
現代の子どもたちの育ちや保育に関する問題については、積極的に新聞、ニュース，文献等で情報を収集して問題意識をもち、理解を深めておくことが望ましいです。

フィードバックの方法:
授業内でのプレゼンテーション内容については、随時コメントによるフィードバックを行います。また、授業中の課題等の提出物については、採点し、可能な限りコメントをつけて最終授業終了時までに、返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中の課題	40%	授業内容の理解度、課題への思考力やその結果としての表現力を評価します。
グループ発表	20%	グループでの自分の役割と達成度、またグループ発表の成果から見られる理解度や表現力を評価します。
期末レポート	40%	到達目標にあるように、子どもの発達メカニズムや学習のプロセスを理解し、それを踏まえた援助や保育指導についての理解度や思考の深まりについて論理的な説明ができるかを評価します。

教科書:

参考書:
公益財団法人 児童育成協会監修／清水益治他編集 2015 保育の心理学Ⅱ 中央法規
公益財団法人 児童育成協会監修／杉村伸一郎他編集 2015 保育の心理学Ⅰ 中央法規
清水益治・無藤隆編著 2011 保育の心理学Ⅱ 北大路書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応します。Eメール等で連絡が必要な場合は、授業時に連絡先を提示します。

463800

乳児保育

西村　　真実

授業テーマ:　3歳未満児の育ちを支える

授業の概要:　講義・演習を通して、乳児保育の理念・内容・方法について理解する。

到達目標:
1. 乳児保育の理念と役割を理解する。
2. 3歳未満児を対象とした保育を環境を通した養護と教育の一体的実施として理解する。
3. 3歳未満児の発達を踏まえた生活と遊びの援助について体系的に理解する。

授業方法:　前半は講義形式、後半以降は視聴覚教材や実際に乳児保育に用いられる玩具等を使用し演習形式で授業を行う。
なお、後半ではグループ毎に課すテーマについて発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション　乳児保育とは何か	教科書を熟読する
2.	乳児保育の歴史的変遷と現代的役割	保育原理・社会福祉等関連科目の復習
3.	3か月未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
4.	3か月から6カ月未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
5.	6か月から12カ月未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
6.	1歳から2歳未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
7.	2歳から3歳未満児の発達と保育内容	教科書を熟読する
8.	3歳未満児の保育における教育	保育原理等関連科目の復習
9.	3歳未満児の保育環境1保育所	教科書を熟読する
10.	3歳未満児の保育環境2乳児院	子ども家庭福祉等関連科目の復習
11.	摂食行動の発達と生活援助	子どもと保健等関連科目の復習
12.	排泄のメカニズムと生活援助	子どもと保健等関連科目の復習
13.	乳児保育における保育技術	教科書を熟読する
14.	保育と保護者支援・関係機関との連携	子ども家庭福祉・家庭支援論等関連科目の復習
15.	総括	これまでの授業内容を復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物および発表は授業内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参画度	30	講義・演習への参画の度合いを評価する
グループ発表	20	グループ発表での役割と達成度、内容が到達目標2. 3を踏まえたものになっているかについて評価する
レポート	50	到達目標1. 2. 3を踏まえた内容になっているか、まとめの仕上がり具合について評価する

教科書:　「乳児保育――人ひとりが大切に育てられるために」吉本和子　エイデル研究所

参考書:　「乳児保育の実際～子どもの人格と向き合って～」 コダーイ芸術教育研究所　明治図書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

463900

保育相談支援

西村　　真実

授業テーマ:　専門職として保護者の子育てを支える

授業の概要:　講義・演習を通じて保護者支援のための知識を技術を学ぶ

到達目標:
1.保育相談支援の意義と原則を理解する
2.保育相談支援の実際を学び、内容や方法について理解する
3.保護者支援の基本を理解する
4.保育所等児童福祉施設における保護者支援の実際について理解する

授業方法:　講義とともにグループディスカッション、グループワーク等を取り入れながら進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション　保育相談支援とは	テキストを熟読する
2.	保育相談支援の意義	テキストを熟読する
3.	保育の特性と保育士の専門性を活かした支援	テキストを熟読する
4.	保育相談支援の基本(1)子どもの最善の利益	テキストを熟読する
5.	保育相談支援の基本(2)子どもの成長の喜びの共有	テキストを熟読する
6.	保育相談支援の基本(3)保護者の養育力の向上に資する支援	テキストを熟読する
7.	保育相談支援の基本(4)信頼関係を基本とした関わり、自己決定・秘密保持	テキストを熟読する
8.	保育相談支援の基本(5)地域の資源の活用・関係機関との連携	テキストを熟読する
9.	保護者支援の方法と技術(1)直接的援助に用いるもの	相談援助等関連科目の復習
10.	保護者支援の方法と技術(2)間接的援助に用いるもの	相談援助等関連科目の復習
11.	保護者支援の展開過程	相談援助等関連科目の復習
12.	保護者支援の計画、評価	相談援助等関連科目の復習
13.	保護者支援の実際(1)保育所	テキストを熟読する
14.	保護者支援の実際(2)保育所以外の児童福祉施設	テキストを熟読する
15.	総括	これまでの授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物・発表については授業内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	授業に積極的に参画する度合いを評価する
発表・討論	20	グループでの役割と達成度、内容については到達目標2.4についての理解を踏まえているかどうかについて評価する
レポート	50	到達目標1．3を踏まえ、論理的に記述されているかどうかについて評価する。

教科書:　保育相談支援　柏女霊峰・橋本真紀（編）ミネルヴァ書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後で教室内で対応する

464000

障がい児保育

青木　　好子

授業テーマ:　障がいのある子もない子も　ともに育ちあう豊かな保育について考える。

授業の概要:　障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について、障がいについて理解するとともに、こどもの理解や援助の方法、環境構成等を学ぶ。また、保育の計画、個別支援、育ち合う保育実践、保護者への支援や関係機関との連携および、こどもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題についての理解を深める。

到達目標:
1. 障がい児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障がい児およびその保育について理解する。
2. 様々な障がいについて理解し、子どもの理解や援助の方法、環境構成等について話し合うことができる。
3. 障がいのある子どもの保育の計画を作成し、個別支援及び他の子どもとのかかわりのなかで育ちあう保育実践について、学び自分の考えを述べることができる。
4. 障がいのある子どもの保護者への支援や関係機関との連携について理解する。
5. 障がいのある子どもの保育にかかわる保健・医療・福祉・教育等の現状と課題について理解する。

授業方法:
演習
事例からその対応を個人で考えたり、グループディスカッションを通して交流することで、障がい児保育の実践において必要な考え方や知識の定着を図る。
・できるだけ具体例を示して、保育現場での実態を想像し理解できるように進める。
・教科書を予習をして授業にのぞむこと。
・支援方法や実態把握に関して、グループディスカッションを行う。
・必要に応じて要点を記載したプリントを配布するが、プリントを参考にしながら自分でノートを作成すること。
・教科書を利用するので必ず持参すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	障がい児保育を支える理念 (1)「障がい」の概念と障がい児保育の歴史的変遷	
2.	障がい児保育を支える理念 (2)障がい児保育の基本	「この子らを世の光に」という言葉について事前学習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと
3.	障がい児保育の実際 子ども同士のかかわりと育ち合い・職員間の協働	教科書を読んで予習をしておくこと
4.	障がいの理解と保育における発達の援助 (1)知的障がい児の理解と援助	教科書を読んで予習をしておくこと
5.	障がいの理解と保育における発達の援助 (2)発達障がい児の理解と援助(ADHD、LD等	教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと
6.	障がいの理解と保育における発達の援助 (3)発達障がい児の理解と援助(PDD等)	教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと
7.	障がいの理解と保育における発達の援助 (4)肢体不自由児・病弱児の理解と援助	教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと
8.	障がいの理解と保育における発達の援助 (5)視覚障がい児の理解と援助	教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと
9.	障がいの理解と保育における発達の援助 (6)聴覚障がい児の理解と援助	教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと
10.	家庭及び関係機関との連携 (1)小学校との連携 (2)保護者や家族に対する理解と支援 (3)地域の専門機関等との連携	教科書を読んで予習をしておくこと
11.	家庭及び関係機関との連携 (4)個別の支援計画の作成	教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと
12.	障がい児保育の実際 保育課程に基づく指導計画の作成と記録及び評価	教科書を読んで予習をしておくこと
13.	障がい児保育の実際 個々の発達を促す生活や遊びの環境	教科書を読んで予習をしておくこと
14.	障がいのある子どもの保育にかかわる現状と課題 (1)保健・医療における現状と課題 (2)福祉・教育における現状と課題 (3)支援の場の広がりとつながり	教科書を読んで予習をしておくこと 授業内に出す課題について考えをまとめておくこと
15.	まとめ	これまでの学習について振り返り、障がい児保育についての考え方を記述できるようにしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　障がい児を取り巻く現状について理解するとともに、その対応について何が大切なのか、自分で考えることを通して理解を深めていってほしいと考えています。

フィードバックの方法:
授業内で出す課題については、その後の授業でコメントをする。
提出課題については、採点して返却する。
授業への積極的な参加や態度30%、レポート30%(教室で返却し、解説する)、期末試験40%をもとに、総合的に判断する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標2～3について自分の考えを述べることができる。
レポート	30	到達目標1～5を理解した上で、自分が考える保育についてその理由とともに具体的に説明ができるかを基準とする。
期末試験	40	到達目標1～5に関する知識や理解度により評価する。特に到達目標2～4については、自分の目指す保育について論理的に説明できるかを基準とする。

教科書:　七木田敦編著『キーワードで学ぶ　障がい児保育入門』保育出版社

参考書:
『キミヤーズの教材・教具　知的好奇心を引き出す』村上公也、赤木和重編著, クリエイツかもがわ
『新版　テキスト障害児保育』近藤直子ほか, 全障研出版社
『気になる子と言わない保育』 赤木和重、岡村由紀子編著, ひとなる書房
『わかってほしい！気になる子　自閉症・ADHDなどと向き合う保育』田中康雄監修, 学研
『育てにくい子に悩む保護者サポートブック　保育者にできること』高山恵子監修, 学研

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対する。

464100

社会的養護内容

倉持　　史朗

授業テーマ:

授業の概要:　社会的養護領域の中での具体的な支援場面において、期待される専門職としての知識・技術・倫理等を養成する。

到達目標:
1. 社会的養護における児童の権利擁護や保育士等の倫理について具体的に学ぶ。
2. 施設養護及び他の社会的養護の実際について学ぶ。
3. 個々の児童に応じた支援計画を作成し、日常生活の支援、治療的支援、自立支援等の内容について具体的に学ぶ。
4. 社会的養護にかかわるソーシャルワークの方法と技術について理解する。
5. 社会的養護を通して、家庭支援、児童家庭福祉、地域福祉について理解や認識を深める。

授業方法:　グループワーク等を中心とした演習形式で行う。
必要に応じて講義を追加する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	被措置児童等の権利擁護	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
2.	保育士等の責務	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
3.	施設養護の特性及び実際	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
4.	家庭的養護の特性及び実際	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
5.	施設等における個別支援計画の作成	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
6.	施設等における日常生活支援に関する事例分析	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
7.	施設等における治療的支援に関する事例分析	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
8.	施設等における自立支援に関する事例分析	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
9.	家族支援に関する事例分析①	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
10.	家族支援に関する事例分析②	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
11.	社会的養護に関するDVD教材①	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
12.	社会的養護に関するDVD教材②	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
13.	施設の小規模化と地域資源の活用	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
14.	保育士の専門性にかかわる知識・技術とその応用	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。
15.	社会的養護の課題と展望	社会的養護に関する新聞報道などを日常的にチェックすること。課題を期日までに確実に提出すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　グループワークの発表に対するコメント、提出課題に対する評価等を通じて受講生の学習が深まるように支援します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
社会的養護に関する施設状況や利用者に対する支援等についての理解度を評価(発表・課題等)	60	意欲的に課題に取り組み、プレゼンテーションや提出物にて採点する。
演習に主体的に参加する姿勢を評価(主に出席回数)	40	欠席4回以上については0点とする。

教科書:　(監修)小宅理沙 『社会的養護・社会的養護内容』 翔雲社

参考書:　相澤仁・村井美紀編『社会的養護内容』中央法規出版.
有村大士ほか編『こども家庭福祉』ミネルヴァ書房.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:　e-mail: rackychan@hotmail.com へ連絡してください。

464200

こどもの保健ＩＡ

倉田　　惠子

授業テーマ:　子どもの心身の発育や機能の発達、疾病等について学び、子どもの保育保健の知識を得る

授業の概要:　子どもの『健康』と『保健』の意義を知り、子どもの身体の解剖・生理や正常な発育・発達について学ぶ。
又、精神保健の現状と問題点や、保育施設の衛生・安全管理や母子保健事業について学ぶ。
身体も心も一人一人違う子ども達が発する小さなサインを見逃さず、現場で動ける保育士になれるように学ぶ。
保育士課程では次年度の『こどもの保健ＩＢ』や『こどもの保健Ⅱ～演習』につながるものである。

到達目標:　子どもの身体発育や運動・精神各機能の発達、またそれらの障害等の基礎的知識を理解していく。
保育士には子どもの安全と健康を守る責務がある。言い換えると『子どもの生命』を預かる職業である。 この事を充分自覚し、子どもを育む立場として積極的・意欲的な姿勢を持って学ぶ。
単なる知識にとどまらず、常に現場に自分を想定し、その知識に基づいて正しい判断や行動がとれるようになる事を目標とする。 又、日々社会で起こるニュースや問題点に常に目を向け、保育や医療の新しい情報・知識を得る習慣を身につける。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	子どもの健康の概念と健康指標（実践と課題）	教科書「健康の概念・実践・課題」を読んでおく
2.	保健の意義・生物としてのヒトの成り立ち（ 生命の意義 ）	教科書「保健の意義・ヒトの成り立ち」部分を読んでおく
3.	子どもの成長・発達の経過、発育区分・発育の原則	教科書「子どもの発育・発達」部分を読んでおく
4.	胎児期・新生児期の身体的発育・発達の特徴と評価・問題点	教科書「胎児・新生児の発育・発達」部分を読んでおく
5.	乳児期・幼児期・学童期の身体的発育・発達の特徴と評価・問題点	教科書「乳幼児の発育・発達」部分を読んでおく
6.	子どもの運動機能及び精神機能の発達、情緒・行動の発達と保健	教科書「運動機能・精神機能」部分を読んでおく
7.	子どもの生理機能（呼吸機能）の特徴と関連疾患	教科書「呼吸機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認
8.	前半の確認テスト 子どもの生理機能（循環機能）の特徴と関連疾患	教科書「循環機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認
9.	子どもの生理機能（免疫・消化機能）の特徴と関連疾患	教科書「免疫・消化機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認
10.	子どもの生理機能（排泄・水分代謝機能）の特徴と関連疾患	教科書「泌尿器機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認
11.	子どもの生理機能（体温調節・内分泌機能）の特徴と関連疾患	教科書「体温・内分泌機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認
12.	子どもの生理機能（ 感覚・神経機能 ）の特徴と関連疾患	教科書「感覚・神経機能」部分を読んでおく 「生物」の教科書でも確認
13.	子どもの生理機能（ 栄養・睡眠 ）の特徴と生活習慣や環境	教科書「栄養・睡眠」部分を読んでおく
14.	子どもの精神保健（ 家庭や社会環境、心の健康）問題点と課題	教科書「精神保健」部分を読んでおく
15.	子どもの精神保健（ 問題行動・虐待・発達障害 ）	教科書「精神保健」部分を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:　高校で学んだ「生物」の教科書等で、基本的な身体のしくみ、働きを確認しておく

フィードバックの方法:　授業内確認試験、及びレポートは教室で返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	身体各分野の解剖・生理、及び発育・発達に関する知識
授業内確認試験	25%	授業第1回～7回の知識の確認
レポート	15%	精神保健に関わる問題や傷害を1つ調べ提出
授業への参加度	10%	出席及び～ペーパー提出

教科書:　佐藤 益子 編著『 子どもの保健Ⅰ』(ななみ書房)

参考書:　佐藤 益子 編著『 子どもの保健Ⅱ』(ななみ書房)
巷野 吾朗 監修『 最新　保育保健の基礎知識 』(日本小児医事出版社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

464300

こどもの保健ＩＢ

倉田　　惠子

授業テーマ:　子どもの正常な心身の発育・発達を理解した上で、疾病や外傷等の処置、更に予防や安全対策の知識を得る

授業の概要:　これは『子どもの保健ＩＡ』に続く科目である。「ＩＡ」で学んだ子どもの身体発育や生理機能を踏まえた上で、発育過程にある子ども達に特有な疾患の症状やケア、その予防について学ぶ。
子どもならではの難しさを理解し、正しい観察力や判断力、特に集団の中で予防医学的観点からも適切な対応をする為に、より具体的な知識を学ぶ。

到達目標:　子どもに特有な疾患や症状、感染症について理解し、現場で正しく観察・判断する力を獲得する。
(1)子どもの疾病とその症状の特徴や対処を理解する。
(2)子どもの感染症と予防について理解する。
(3)子どものけがと応急処置について学ぶ。
(4)保育施設の衛生管理・安全管理・母子保健事業について学ぶ。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「子どもの保健IA」の確認 子どもの観察のポイント	「子どもの保健 ＩＡ」を復習しておく
2.	子どもの生活習慣と環境（ 食事と歯 ）	教科書「生活習慣」の部分を読んでおく
3.	子どもの生活習慣と環境（ 排泄・清潔・衣類 ）	教科書「生活習慣」の部分を読んでおく
4.	子どもの症状（ 発熱・咳 ）と関連疾患及び対処	教科書「発熱・咳」を読んでおく
5.	子どもの症状（ 嘔吐・下痢／腹痛 ）と関連疾患及び対処	教科書「嘔吐・下痢」を読んでおく
6.	子どもの症状（ 脱水・発疹 ）と関連疾患及び対処	教科書「脱水・発疹」を読んでおく
7.	アレルギー疾患（ 喘息・アトピー・じんましん）と対処	教科書「アレルギー」を読んでおく
8.	前半確認テスト 緊急症状と処置（ 誤飲・けいれん・呼吸停止 ）	
9.	感染症（ 経路・分類 ）　予防接種（抗体のしくみ、現行の予防接種）	教科書「感染症・予防接種」を読んでおく
10.	子どもに多い感染症 （ 麻疹・風疹・突発性発疹 ）	教科書「感染症～麻疹・風疹・突発性発疹」を読んでおく
11.	子どもに多い感染症 （ 水痘・流行性耳下腺炎・その他 ）	教科書「水痘・流行性耳下腺炎」を読んでおく
12.	子どもの重大な疾患（ 先天性疾患 ）	教科書「先天性疾患」を読んでおく
13.	子どもの重大な疾患（ 後天性疾患 ）	教科書「後天性疾患」を読んでおく
14.	日常生活の支障をきたす疾病・問題行動	教科書「問題行動」を読んでおく
15.	子どもの事故と衛生管理・母子保健事業・子どもの保健のまとめ	教科書「安全管理・母子保健事業」を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:　「子どもの保健ＩＡ」の関連部分を復習し、内容を確認しておく

フィードバックの方法:　授業内確認試験、及びレポートは教室で返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	子どもの各症状、感染症と予防接種に関する知識確認
授業内確認試験	25%	発熱・咳・嘔吐・下痢の原因や処置の知識確認
レポート	15%	重大疾患を1つ調べて提出
授業への参加度	10%	出席及び～ペーパー提出

教科書:　佐藤 益子 編著『 子どもの保健Ⅱ』（ ななみ書房 ）

参考書:　佐藤 益子 編著『 子どもの保健Ⅰ』（ ななみ書房 ）
巷野 吾朗 監修『 最新 保育保健の基礎知識 』（ 日本小児医事出版社 ）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

464400

家庭支援論

白山　　真知子

授業テーマ:　家庭支援の必要性と支援の概要を学ぶ

授業の概要:　家庭の意義とその機能、子育て家庭を取り巻く社会的状況等、子育て家庭の支援体制および、子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開関係機関の連携について理解する。

到達目標:
1. 家庭の意義と機能について理解する
2. 子育て家庭を取り巻く社会的状況について理解する
3. 子育て家庭の支援に体制について理解する
4. 子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携について理解する

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	家庭の意義と機能	現代の子どもと家庭支援が求められる背景をみる。さらに家庭と家族とは、その意義や機能をしる。教科書の関連頁を読んでおく
2.	家庭支援の必要性と保育士が行う家庭支援の原理	家庭支援の対象構造、理念、サービスからみた技術類型などを学ぶと伴に、家庭支援の原理についてみる。教科書の関連頁を読んでおく
3.	現代家庭における人間関係	子どもと家庭、家庭と家族、親になるプロセス、乳幼児から思春期までの子どもと子育てについて学ぶ。教科書の関連頁を読んでおく
4.	地域社会の変容と家庭支援、男女協同参画社会とワークライフバランス	地域社会の変容からくる家庭支援を考える。さらに保育所や幼稚園による家庭支援についてもみる。育児休暇や働き方も。（育児相談Q&A1～2歳　レポート）
5.	子育て家庭の福祉を図るための社会資源	子育て家庭の社会資源や関係機関と人、制度についてみる。教科書の関連頁を読んでおく
6.	子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進	子育て支援の施策・次世代育成支援施策の推進について学ぶ。条約や法律も
7.	多様な支援の展開と関係機関との連携(1) 子育て支援サービスの概要	様々な子育て支援の方法をみる。特にひとり親家庭の支援についても学ぶ。教科書の関連頁を読んでおく(育児支援Q&A　2～3歳　レポート）
8.	多様な支援の展開と関係機関との連携(2) 保育所入所児童の家庭支援	保育所入所児及び特別なニーズを持つ親の支援。どんなものがあるか考えてみる。
9.	多様な支援の展開と関係機関との連携(3) 地域子育て家庭への支援	在宅家庭の支援、地域子育て支援センターや子育て広場などについて学ぶ。教科書の関連頁を読んでおく
10.	多様な支援の展開と関係機関との連携(4) 要保護児童及びその家庭に対する支援	児童虐待の歴史から定義、種類等々詳しく知り、その早期発見や支援の方法について学ぶ。虐待関連の記事を読んで、小レポート提出
11.	多様な支援の展開と関係機関との連携(5) 子育て支援における関係機関との連携	児童虐待や特別なニーズを持つ親子には一つの機関で行うより、各関係機関がその機関のもつストレングスを発揮し、連携してあたることががその技法など学ぶ
12.	多様な支援の展開と関係機関との連携(6)子育て支援サービスの課題	家庭への個別な援助活動、ソーシャルワーク、ケアーワーク支援サービスなどを学ぶ、また子育て支援サービスの課題についてもまなぶ。教科書の関連頁を読んでおく
13.	家庭支援とペアレンティングプログラム	子育てスキルが伝承せず、地域コミュニティーが崩壊する中、ペアレンティングプログラムの重要性が高まっている。様々なプログラムを知るとともに、DVDを見たりし、プログラム体験をする。
14.	描画からみられる子どもの心理と家庭	子どもの描画は保育には欠かせないものです。その描画を見ることで、子どもの発達や心理、家庭などの背景を読み解ける参考に出来るよう実際の子どもの絵を見ながら学ぶ。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　家庭支援は身近なテーマです。そして、保育士が重要な役割を担っています。教科書で習うだけでなく、自分でも市役所や地域子育て支援センターに足を運んでみたり、市井の中の親子を見たりしながら家庭支援に思いを巡らせてください。

フィードバックの方法:　各自、教科書を読んで授業に臨み、授業後は事例の解釈や制度理解を復習することが必要です。子育てQ&Aや各市が出している子育て支援冊子もレポートし実際の家庭支援をみていってほしい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60	ペーパーテストによる考査
リアクションペーパー	40	課題を調べレポートにまとめる

教科書:　橋本真紀・山縣文治　編著 『よくわかる家庭支援論』 ミエルヴァ書房

参考書:
松本園子・永田陽子・福川須美・堀口美智子著 『実践　家庭支援論』[改訂版] ななみ書房
大豆生啓友・大田光洋・森上史郎　編 『よくわかる子育て支援・家庭支援論』 ミネルヴァ書房
吉田眞理著 『家庭支援論』 萌文書林

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:　E-メール　m-shirayama@chime.ocn.ne.jp

464500

相談援助

白山　　真知子

授業テーマ:　保育におけるソーシャルワークを学ぶ

授業の概要:　保育士は保育のスペシャリストですが、社会福祉専門職としての側面も持っています。保育士は、子どもと子どもを取り巻く環境の両面を視野に入れた支援を行う、対人援助職です。この科目では、子どもにかかわる福祉専門職に必要な相談援助の知識と技術を学びます。

到達目標:
1. 相談援助の概要について理解する
2. 相談援助の方法と技術について理解する
3. 相談援助の具体的展開について理解する
4. 保育におけるソーシャルワークの応用と事例分析を通して対象への理解を深める。

授業方法:　演習形式です。受講生は出席して演習に参加してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	相談援助の理論　演習　アイスブレイク、お互いをしる	相談援助の理論的枠組みを学びます。また、授業はグループで話し合ったり、調べたりしていきますので、グループ活動についても必要な決まりなど考えてきてください。
2.	相談援助の意義　演習　ストレングス	相談援助の意義や相談援助の概要について学びます。参考教材でその部分を予習しておいてください。
3.	相談援助の機能について　演習　つなぐつながる連携	相談機能について学び、社会福祉援助技術の歴史的展開についても見ます。また、保育士がつながっていく市井の人々にはどのような活動をしているか調べておく。
4.	相談援助とソーシャルワーク　演習　差別や抑圧	相談援助における位置づけ、理念・目的・価値や現代的意義について学ぶ。また、差別や抑圧を受けている人についても、なぜそのようなことが起こるのかも考えておいてください。
5.	相談援助の対象　演習　生活課題をとらえる	相談援助の対象について学ぶ。社会福祉援助技術の対象領域と活動分野についても見ておく
6.	相談援助の過程　演習　エコマップ	相談援助の過程について学ぶ。インテーク、アセスメント、プランニングの評価などを参考文献をみて調べておく。
7.	相談援助の技術　・アプローチ　演習　聴く技術・面接の技術	面接の技術で必要と思われることを考えてきてください。
8.	演習　子どもとその家庭における福祉的課題	3回目に課題を出しますので、各グループで調べてきたことを色々な技法を駆使して発表していただきます。
9.	援助の具体的展開　1. 計画・記録・評価	計画・面接・記録・介入・評価・スーパービジョンについて学びます。下調べをしておいてください。
10.	援助の具体的展開　2. 関係機関との協働と多様な専門職との連携	困難な相談や、多様な相談援助に欠かせない関係機関との協働について学ぶ。関係機関や専門職について調べておいてください。
11.	援助の具体的展開　3. 社会資源の活用、調整、開発。	連携における保育士の役割と重要性について学ぶ。連携が困難な場合にはどんな時があるのか考えておいてください
12.	演習　障害のある子どもと保護者への支援等の事例分析	例示した事例の下調べをしておく
13.	演習　虐待のあるこどもとその保護者への支援の分析	例示した事例の下調べをしておく
14.	演習　ロールプレイ、フィールドワーク等による事例分析	今までの中での訪問時の面接などロールプレイを実施しますので、一考しておいてください。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講生のみなさんは「プロの卵」として扱います。授業への積極的な参加を求めます。発表力やグループ活動での各個人の役割なども重要になります。

フィードバックの方法:　復習をし、演習したことや聴く技術なども実際に色々な機会をとらえて実践してみる。疑問な所はどんどん質問してください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習への参加状況	50	記録、発表態度、グループ活動の状況など平常点と8回目の発表状況をみます。
授業内容の習得状況	50	テストによる評価

教科書:

参考書:
松原康雄・村田典子・南野奈津子編著 「相談援助」中央法規
笠原千恵・小橋明子 「相談援助・保育相談支援」中山書店
片山義弘・季木明徳　編著 「相談援助」[新版] 北大路書房
山田容 「対人援助の基礎」 ミネルヴァ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、リーダーシップ、変化対応力、

教員との連絡方法:　メール　m-shirayama@chime.ocn.ne.jp

464600

こどもの保健Ⅱ

倉田　　惠子

授業テーマ:　講義及び演習を通して、子ども達の心身の健康を守る知識と、日常生活を援助するための技術を習得する

授業の概要:　「こどもの保健ＩＡ･ＩＢ」で得た知識をさらに深く学ぶと共に『子どもの生命を預かっている』という認識のもと、子どもの安全と健康を守るための正確な知識、正しい判断、的確な技術等を、演習を通してより具体的に習得し、現場で対応できる為の各自のスキルアップを図る.

到達目標:
(1)子どもの健康及び安全に係る保健活動の計画及び評価について学ぶ。
(2)子どもの健康増進及び心身の発育･発達を促す保健活動や環境を考える。
(3)子どもの疾病･けがとその予防及び適切な対応について具体的に学び、技術を習得する。
(4)救急時の対応や事故防止、安全管理について具体的に学び、技術を習得する。
(5)現代社会における心の健康問題や地域保健活動を理解する。

授業方法:　講義及び演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学習の意義と目的、及び保健活動の計画･評価 （乳幼児の養護技術）	「養護技術」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる
2.	健康状態の観察と評価 （バイタルの測定と評価）	「バイタル」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる
3.	子どもの発育観察と評価（身体計測）	「身体測定」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる
4.	子どもの健康増進と保育環境 （乳幼児の衣類とその着脱～援助と自立）	「衣類と着脱」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる
5.	子どもの発達援助と保健活動 （乳幼児の排泄～援助と自立）	「排泄～おむつ」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる
6.	子どものけが（ 創傷･挫傷･火傷 ）と応急処置	「けがと応急処置」に関する予習、及び復習
7.	子どものけが（ 異物･捻挫･脱臼･骨折等 ）と応急処置	「けがと応急処置」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる
8.	前半確認テスト 子どもの疾病（各症状）予防と処置（感染症含む）	
9.	子どもの生活習慣と心身の健康 子どもの身体の清潔（ 清拭･沐浴 ）	「沐浴」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる
10.	子どもの食事と栄養、及び歯の健康 （ 調乳･授乳･離乳食 ）	「調乳」に関する「けがと応急処置」に関する予習、及び復習
11.	けがの応急手当 （ 包帯法～巻軸帯 ・ 三角巾 ）	「包帯法」に関する予習、及び復習
12.	応急手当法 （心肺蘇生法～ 人工呼吸･胸骨圧迫 ）	「心肺蘇生」に関する予習、及び復習
13.	応急手当法（ AED使用法 ） けがの応急手当（ 誤飲･止血等 ）	「心肺蘇生とAED」に関する予習、及び復習とレポートをまとめる
14.	個別の配慮～慢性疾患･アレルギー疾患や障害を持つ子どもの対応、 心の健康問題と課題	「疾患や障害を持つ子ども」に関する予習、及び復習
15.	後半確認テスト 乳幼児健康診査と地域保健活動 集団の施設管理、衛生管理	

受講者へのメッセージやアドバイス:
特に実習に関しては積極的に行なう。
実習の準備や後片付けにも積極的に参加し、物品の扱い等も同時に学ぶ。

フィードバックの方法:　教室で返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内確認テスト(前半)	25%	第1回～第7回までの内容の基礎知識の確認
授業内確認テスト(後半)	25%	第9回～第14回までの内容の基礎知識の確認
実習レポート	30%	演習の内容（8回分） を所定の用紙に簡潔にまとめる
授業への参加度	20%	講義･演習に積極的に参加し、実技を正しく習得する

教科書:　白野 幸子 著『 子どもの保健Ⅱ(演習)』（ 医歯薬出版株式会社 ）

参考書:
佐藤 益子 編著『 子どもの保健Ⅰ』（ ななみ書房 ）
佐藤 益子 編著『 子どもの保健Ⅱ』（ ななみ書房 ）
巷野 吾朗 監修『最新　保育保健の基礎知識 』（ 日本小児医事出版社 ）

獲得が期待される基礎的･汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

464700

こどもの食と栄養

久藤　　麻子

授業テーマ:

授業の概要:

小児の心身の発育に食生活が大きく関わっていることを理解し、その発育段階に応じた望ましい食生活と食育について学ぶ。具体的には健康的な食生活の意義と栄養に関する基礎知識、小児の発育段階に応じた食事、食物アレルギー等疾病時の食事について保育者としての基本的な知識、技術を得ることを目的とする。食育については地域・社会・文化・環境との関わりの中から食育を理解し、食育を実践できる力を習得する。また、この講義・実習を通して、学生自身の食生活を見直すきっかけとすることも目的とする。

到達目標:

・小児の基本的な栄養・食生活に関する知識を理解できる
・小児の発育段階に応じた望ましい食生活について理解し、提示できる
・小児の食生活における諸問題等を理解し、保育者として食育を実践できる力を身につけ、提示できる。

授業方法:

講義法・演習形式とする。ペアワーク・グループワーク・グループディスカッション等を適宜行う。
◆コンセプトマップ作成:事前学習によりコンセプトマップ作成に必要なキーワード(ラベル)を各自調べておく。単元終了毎にコンセプトマップを作製し、提出(5回予定)する。
◆食育プレゼンテーション:授業最終回にはグループで食育のプレゼンテーションを行う。
◆小テストを実施し知識の定着をはかる。
◆講義プリントおよび資料は適宜配布する。
◆調乳・離乳食は調理実習を行う予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 子どもの健康と食生活(1)　意義と必要性	自身の食生活、子どもたちの食生活について考えをまとめておく。
2.	子どもの健康と食生活(2)　現状と課題	事前に配布された食事に関するデータについて発表できるようにまとめておく。
3.	栄養に関する基本的知識(1)　栄養の基本的概念	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
4.	栄養に関する基本的知識(2)　栄養素の種類と機能	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
5.	栄養に関する基本的知識(3)　食事摂取基準、献立作成、調理と基本	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
6.	子どもの発育・発達と食生活(1)　乳児期	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。調乳実習の際には調乳の手技(教科書P66、67)を確認しておく。
7.	子どもの発育・発達と食生活(2)　離乳期	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップを作成のための予習を行う。 離乳食実習の際には、離乳食のつくり方(教科書P77～79)を確認しておく。
8.	子どもの発育発達と食生活(3)　幼児期	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
9.	子どもの発育・発達と食生活(4)　学童期	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。
10.	食育の基本と内容(1)　食育における養護と教育の一体性、食育の内容と計画および評価、食育のための環境、地域・職員間の連携、保護者への支援	食育プレゼンテーションのテーマについて考えておく。
11.	子どもの発育・発達と食生活(5)　生涯発達と食生活	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。食育プレゼンテーションの準備を行う。
12.	家庭や児童福祉施設における食事と栄養	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。食育プレゼンテーションの準備を行う。
13.	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(1)　疾病および体調不良	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。食育プレゼンテーションの準備を行う。
14.	特別な配慮を要する子どもの食と栄養(2)　食物アレルギー、障がい	教科書の該当箇所を事前に読み、キーワードを書きだし、コンセプトマップ作成のための予習を行う。食育プレゼンテーションの準備を行う。
15.	食育の基本と内容(2)　プレゼンテーション　まとめ	食育プレゼンテーションの準備を行う。 まとめのコンセプトマップ作成の準備を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回振り返りシートを提出し、次回授業時に前回授業についてのフィードバックを行う。
課題のフィードバックについては教室で返却し、内容については授業内でまとめて解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
コンセプトマップ提出	30	単元ごとの理解度をコンセプトマップ中のラベル数、リンク数で評価する。(6点×5回)
小テスト	20	基本的な栄養・食生活に関する知識、小児の発育段階に応じた望ましい食生活に関する理解度を評価する(10点×2回)
食育プレゼンテーション	20	ルーブリック評価15% 相互評価5%
授業内課題	15	授業内課題の理解度・説明・意見について評価する。また課題の期限内の提出を評価する。
授業への積極的参加度	15	コンセプトマップ作成時のワーク、授業内ペアワークやグループワーク、調理実習時の積極的な授業参加、保育者として必要な栄養の知識、技術を得るための態度・意欲を評価する

教科書:

『子どもの食と栄養』高内正子監修　今津屋直子編(保育出版)

参考書:	日本人の食事摂取基準[2015年版]厚生労働省（第1出版）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応

464800

保育実習ＩＡ

埋橋　　玲子

授業テーマ:

授業の概要:　実習園で10日間の実習を行う。

到達目標:
保育所の役割や機能を具体的に理解する。
観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。
既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
保育の計画・観察・記録及び自己評価等について具体的に理解する。
保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業方法:　保育所で観察・部分実習・責任実習等を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1.　保育所で10日間の実習を行う。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実習担当保育士より実習園で指導を受ける。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習園からの評価	70%	評価票の項目に基づく。
実習ノート	30%	1日の目標と評価は対応しているか。わかりやすく書かれているか。簡潔に要点がまとめてあるか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　実習先訪問時での応答、ウェッブメール。

464900

保育実習ＩＢ

埋橋　　玲子

授業テーマ:　社会的養護現場で実践的な学びを行う

授業の概要:　社会的養護の現場で10日間の実習を行う。

到達目標:
児童福祉施設等の役割や機能を具体的に理解する。
観察や対象者とのかかわりを通して対象者への理解を深める。
既習の教科の内容を踏まえ社会的養護について総合的に学ぶ。
養護の計画、観察、記録及び自己評価について具体的に学ぶ。
保育士の業務内容や職業倫理について具体的に学ぶ。

授業方法:　実習先で指導者の指導に従い業務に従事する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	児童福祉施設等社会的養護の現場で１０日間の実習を行う。	実習施設で配属されたグループのデイリープログラムを理解し、対象児童の生活の様相を把握する。個別理解に努め、援助技術の習得に努めるとともに、社会的養護の目的や意義を理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実習先からの評価による。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習先からの評価	70%	評価票の項目による。
実習ノート	30%	一日の目標と反省は対応しているか。わかりやすく書かれているか。簡潔に要点がまとめてあるか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　訪問担当時の応答、ウェブメール

465000

保育実習指導ＩＡ

埋橋　　玲子

授業テーマ:　保育所保育実習の準備を行う

授業の概要:　保育所実習に必要な知識についての講義と、実技実習を行う。

到達目標:
保育所保育実習の意義・目的を理解する。
実習内容を理解し、自らの課題を明確にする。
保育所入所児童の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
実習の計画・実践・観察・記録・評価の方法や内容について具体的に理解する。
事後には実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業方法:　講義と模擬保育を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	保育所保育実習の概要、意義と目的、実習内容について	保育所について、既習の内容を復習
2.	模擬保育	模擬保育の準備。指導案の構成の確認。
3.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の明確化。子どもの姿からねらいを考える。
4.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の明確化。ねらいに沿った内容を考える。
5.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の明確化。子どもの予想される活動を考える。
6.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の明確化。適切な言葉かけの内容を考える。
7.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の明確化。適切な言葉かけの内容を考える。
8.	保育実習ＩＡの総括と自己評価。保育実習Ⅱに向けての課題の明確化	保育実習Ⅱに向けての課題の整理

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業時間内に全体に解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	50%	受講態度は熱心であったか。積極的に自分の意見を述べることができたか。
模擬保育実践	50%	指導案の内容が適切か。準備はよく考えられているか。落ち着いて実行できたか。

教科書:　MINERVA　初めて学ぶ保育10　保育所・幼稚園実習・幼保連携型認定こども園実習

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業時間の前後に教室内で対応。ウェッブメール。

465100

保育実習指導ＩＢ

埋橋　　玲子

授業テーマ:　児童福祉施設等での実習を有意義なものにする。

授業の概要:　講義と実習内容の発表

到達目標:
児童福祉施設等での保育実習の意義・目的を理解する。
実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
実習施設入所児童等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業方法:　講義と演習、ケース研究

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	児童福祉施設等での保育実習の概要、意義・目的、実習内容について	テキストの該当部分の通読
2.	実習施設の種類とそれぞれの特性の理解	既習の教科科目内容の復習
3.	実習に際しての留意事項、入所児童等の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務、実習生としての心構え	既習の教科科目内容の復習
4.	実習先別のケース研究	自己の事例のまとめ
5.	実習先別のケース研究	ケース研究内容の振り返りと課題の整理
6.	実習先別のケース研究	ケース研究内容の振り返りと課題の整理
7.	実習先別のケース研究	ケース研究の振り返りと課題の整理
8.	実習の総括と自己評価、課題の明確化	実習の総括、自己評価、課題の整理

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　全体への解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	50%	熱心に受講したか。テーマに沿って自分の意見を的確に述べたか。
ケース発表	50%	実習施設の特性と実習内容が適切にまとめられているか。自己評価は的確か。わかりやすく伝えることができたか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業前後の応答。ウェブメール。

465200

保育実習Ⅱ

埋橋　　玲子

授業テーマ:
保育実習ＩＡの成果を踏まえ保育所保育の実践を学ぶ。

授業の概要:
実習園で10日間の実習を行う。

到達目標:
保育所の役割や機能を具体的に理解する。
観察や子どもとの関わりと通して子どもへの理解を深める。
既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。
保育の計画・観察・記録及び自己評価について具体的に理解する。
保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。

授業方法:
保育所で実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	保育実習ＩＡに引き続き、保育所で１０日間の実習を行う。	保育実習ＩＡの内容を振り返り、自己の課題を明らかにしておく。いっそうの子ども理解に努め、援助スキルを高める。教材研究を深める。保育所保育指針を参照し、保育内容や発達過程の理解に努める。健康に留意する。実習記録は日々提出し、指導を仰ぐ。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
保育実習先からの評価による

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習先からの評価	70%	成績評価票の項目による
実習ノート	30%	１日の目標と反省は対応しているか。わかりやすく書かれているか。要点が簡潔にまとめてあるか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
コミュニケーション能力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
訪問時での応答、ウェッブメール

465400

保育実習指導Ⅱ

埋橋　　玲子

授業テーマ:　保育所実習の準備を行う。

授業の概要:　保育所保育実習に必要な知識についての講義と模擬保育。

到達目標:
保育所保育実習の意義・目的を理解する。
保育所実習の内容を理解し、自らの課題を明確にする。
保育所入所児童の人権と最善の利益の考慮、プライバシーの保護と守秘義務等について理解する。
実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について具体的に理解する。
実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

授業方法:　講義と実技。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。保育所保育指針で発達過程について確認をする。
2.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。保育指針で保育士の援助の留意点について確認する。
3.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。表情や態度、立ち居振る舞いを見直す。
4.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。子どもの興味関心を引く環境設定について考える。
5.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。十分な教材研究を行う。
6.	模擬保育	模擬保育の内容の振り返りと課題の整理。十分な教材研究を行う。
7.	保育所保育実習の留意事項、実習記録の記入方法について	実習記録簿の内容を確認
8.	保育所保育実習全体のふりかえりと自己評価 今後の学習における課題の明確化	保育所保育実習内容の振り返り 今後の学習における課題の整理

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　全体に解説。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
受講態度	50%	熱心に受講したか。自分の意見を的確に述べることができたか。
模擬保育実践	50%	指導案の内容は適切であったか。十分な準備ができていたか。落ち着いて模擬保育ができたか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後の応答。ウェブメール。

465701、02

ピアノ奏法Ⅰ

松井　　典子

授業テーマ:　保育における基礎的なピアノ演奏の修得

授業の概要:　幼児の音楽・リズム活動の指導に必要とされる基礎的なピアノ演奏の技能を身につける。教則本を基に、基礎的なピアノ奏法及び伴奏法を修得する。また、様々なピアノ楽曲を知り、レパートリーや音楽表現の幅を広げる目的で個々の進度に合わせた自由曲を個人レッスンの課題とする。グループレッスンでは、他者の演奏から学び、お互いの演奏技術のレベルアップを目指す。実習や保育現場で使用する楽曲を多数取り上げ、レパートリーの強化を行う。ピアノ奏法Ⅱに向け、弾き歌いの導入も取り入れる。

到達目標:
・基礎的なピアノ演奏技能の修得や楽典の理解
・ピアノ練習の習慣化
・グループレッスンや発表会を通して人前での演奏に慣れる
・保育現場で使用する楽曲のレパートリーを増やす
・幼児に音楽の楽しさ、美しさを伝えることができる音楽表現やピアノ奏法の修得

授業方法:　演習、実技
授業開始10分間は、全員で楽典や基礎的なピアノ奏法を学び、残り80分間でグループ別の個人レッスンを行う。各自のレベルに応じた楽曲を選曲し、レッスンをする。発表会では、人前での演奏に慣れる事や様々な楽曲に親しむ機会にする。ピアノ練習を習慣化するために練習内容やレッスン受講時のアドバイス等を記録し、毎回レッスンにノートを持参すること。第15回目終了時にレッスンノートを提出すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 授業の進め方、評価について ピアノを弾く前に 課題曲の選曲や譜読みについて ピアノ実技	春休みの課題から1曲選び、レッスン受講時に弾けるように準備しておくこと レッスンノートの記録
2.	音程、主要三和音、コードネームについて ハ長調の伴奏付け 長音階について 和音、分散和音の奏法 ピアノ実技	ハ長調の主要三和音の予習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
3.	拍子とリズム 強弱、曲想、奏法を表す記号等 ト長調の伴奏付け ピアノ実技	ハ長調の主要三和音の復習 ト長調の主要三和音の予習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
4.	ニ長調の伴奏付け 三連符の奏法について ピアノ実技	ハ長調、ト長調の主要三和音の復習 ニ長調の主要三和音の予習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
5.	第1回発表会（自由曲） イ短調の伴奏付け 短音階について	ハ長調、ト長調、ニ長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
6.	ハ長調、ト長調、ニ長調の伴奏付けの振り返り ペダルについて ピアノ実技	ハ長調、ト長調、ニ長調の主要三和音の復習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
7.	ヘ長調の伴奏付け いろいろな指使いについて ピアノ実技	ハ長調、ト長調、ニ長調の主要三和音の復習 ヘ長調の伴奏付けの予習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
8.	変ロ長調の伴奏付け 転調について ピアノ実技	ハ長調、ト長調、ニ長調、ヘ長調の主要三和音の復習 変ロ長調の伴奏付けの予習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
9.	ヘ長調、変ロ長調の伴奏付けの振り返り ピアノ実技	ハ長調、ト長調、ニ長調、ヘ長調、変ロ長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
10.	第2回発表会（課題曲＋自由曲） 弾き歌いについて	ハ長調、ト長調、ニ長調、ヘ長調、変ロ長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
11.	移調について ピアノ実技	ハ長調、ト長調、ニ長調、ヘ長調、変ロ長調の主要三和音の復習 課題曲の練習 レッスンノートの記録
12.	移調について ピアノ実技	ハ長調、ト長調、ニ長調、ヘ長調、変ロ長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録 移調の課題、提出
13.	第3回発表会に向けての準備 ピアノ実技	ハ長調、ト長調、ニ長調、ヘ長調、変ロ長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
14.	第3回発表会に向けての準備 ピアノ実技	ハ長調、ト長調、ニ長調、ヘ長調、変ロ長調の主要三和音の復習 発表会課題曲の練習 レッスンノートの記録
15.	まとめ 第3回発表会 （課題曲<バイエルより>+課題曲<歌唱伴奏曲>+自由曲）	発表会の課題曲の練習 レッスンノートの記録、提出 夏休み課題の提示

受講者へのメッセージやアドバイス:	楽器演奏の修得は、日々の練習の積み重ねが大切なので、必ず練習をし、レッスンに臨んでほしい。
フィードバックの方法:	質問は教室で解説する。提出物は添削し、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30%	積極的に授業に参加し、意欲的にピアノの練習に取り組む態度や到達目標のレパートリーを増やすことができたかを評価する。
出席及びレッスンノートの記録	50%	毎回の授業に出席し、楽典の理解や様々なピアノ奏法、音楽表現の手法を修得し、それらの理解度により評価する。また、レッスンノートを記録することにより練習を習慣化し、振り返りや新たな課題を見つけ積極的に授業に取り組む態度を評価する。
発表会における演奏	20%	人前での演奏における自己達成度及び発表会に向けての練習の積み重ね度により評価する。

教科書:	坂東貴余子　本間正治　おとなのためのバイエル教本　ドレミ楽譜出版社 鈴木恵津子　冨田英也　改訂ポケットいっぱいのうた　実践子どものうた　簡単に弾ける144選　教育芸術社
参考書:	幼稚園教諭・保育士養成課程　幼児のための音楽教育　教育芸術社
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	Email:nmatsui@dwc.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内で応対。

465801、02

ピアノ奏法Ⅱ

松井　　典子

授業テーマ:　保育における実践的なピアノ伴奏と弾き歌いの修得

授業の概要:　ピアノ奏法Ⅰで修得したピアノ奏法の基礎を応用、発展し、実際の保育現場で役立つ幼児の歌の弾き歌いが表現豊かにできるように練習し、発表する。最終発表会は、実際の保育現場における様々な発表会を想定し、選曲する。幼児が楽しんで歌うことができるピアノ伴奏法を身につける。

到達目標:
・個人のレベルに合わせ、楽譜に従って歌唱伴奏をすることができる
・実習や保育現場で即実践できるよう、弾き歌いのレパートリーを増やす
・コードネームに従って伴奏付けをし、伴奏に簡単なアレンジをすることができる
・最終発表会の選曲や構成を立案することができる

授業方法:
演習、実技
弾き歌いの演習とグループによる個人ピアノレッスンを行う。
授業冒頭では、伴奏付けに必要な楽典や弾き歌いの演習を行い、弾き歌いの準備として発声練習を行う。
伴奏のアレンジや、コードネームによる伴奏付けの練習課題(プリント)の提出を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 歌唱楽曲の伴奏、弾き歌いについて 発声について	夏休みの課題の提出
2.	弾き歌いの演習① 旋律と伴奏のバランス 連弾奏 発声について	弾き歌い課題と連弾の練習 最終発表会の計画(選曲)
3.	弾き歌いの演習② 旋律と伴奏のバランス 連弾奏 発声について	弾き歌い課題と連弾の練習 最終発表会の計画(選曲)
4.	第1回ピアノ連弾発表会	弾き歌い課題と連弾の練習 最終発表会の計画(選曲)
5.	弾き歌いの演習③ コードネームによる伴奏付け 季節の歌、生活の歌	弾き歌い課題の練習 最終発表会の計画(伴奏練習、伴奏のアレンジ)
6.	弾き歌いの演習④ コードネームによる伴奏付け 季節の歌、生活の歌	弾き歌い課題の練習 コードネームによる伴奏付け課題の提出 最終発表会の計画、練習(伴奏練習、伴奏のアレンジ)
7.	弾き歌いの演習⑤ コードネームによる伴奏付け 自由曲	弾き歌い課題の練習 コードネームによる伴奏付け課題の提出 最終発表会の計画、練習(伴奏練習、伴奏のアレンジ)
8.	第2回弾き歌い発表会	弾き歌い課題の練習 コードネームによる伴奏付け課題の提出 最終発表会の計画、練習(伴奏練習、伴奏のアレンジ)
9.	最終発表会に向けて① 伴奏のアレンジ プログラムの構成	最終発表会の練習 最終発表会計画表の作成
10.	最終発表会に向けて② 個人レッスン プログラムの構成	最終発表会の練習 最終発表会計画表の作成
11.	最終発表会に向けて③ 個人レッスン	最終発表会の練習 最終発表会計画表の作成
12.	最終発表会に向けて④ 個人レッスン＋グループ練習	最終発表会の練習 最終発表会計画表の作成
13.	最終発表会に向けて⑤ 個人レッスン＋グループ練習	最終発表会の練習 最終発表会計画表の作成
14.	リハーサル	最終発表会の練習
15.	まとめ 最終発表会	最終発表会の練習 最終発表会計画表の提出

受講者へのメッセージやアドバイス:　楽器演奏の修得は、日々の練習の積み重ねが大切なので必ず練習をしてレッスンに臨んでほしい。

フィードバックの方法:　質問は教室で解説する。提出物は添削し、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び課題の提出	40%	準備学習、授業の取り組みの態度・意欲を評価する。また、課題の提出によりコードネームによる伴奏付けの理解度を評価する。
授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、弾き歌いのレパートリーを増やすことができたかを評価する。
発表会	40%	人前での演奏における自己達成度及び発表会に向けての練習の積み重ね度により評価する。

教科書:
鈴木恵津子　冨田英也　改訂ポケットいっぱいのうた　実践子どものうた　簡単に弾ける144選
教育芸術社

参考書:
みんなでうたおう！たのしいこどものうた大全集202　ピアノ簡易伴奏つき　永岡書店
小林　美実　こどものうた200　保育実用書シリーズ　チャイルド社
幼稚園・保育士養成課程　幼児のための音楽教育　教育芸術社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	Email:nmatsui@dwc.doshisha.ac.jp 授業の前後に教室内で応対。

465901、02

教育相談

中川　　美保子

授業テーマ:　教育相談の理論及び方法を不登校、いじめ問題を教材として実践を通して理解する。

授業の概要:
（1）教育相談が学校教育に欠くことにできない重要な機能であることを理解する。
（2）学校教育相談の基礎となる知識や理論を知り、その代表的な活用方法を学ぶ。
（3）不登校、いじめなどへの具体的な支援の方法をグループ討議やロールプレイングを通したアクティブ・ラーニングを活用し主体的に学ぶ。
（4）チーム学校の機能を理解し、学校内外の関係者や専門家との連携の重要性を理解する。

到達目標:
（1）教育相談は、幼児、児童及び生徒が自らの長所を知り課題に対処し、集団の中で自らの個性を生かして成長する力を育めるように支援する活動であることを理解する。
（2）幼児及び児童の各発達段階の特徴を理解し、それぞれに適した支援の方法をカウンセリングの理論や技法の基礎を学ぶことによって身に付ける。

授業方法:
1：講義　教師の講義と、受講生のグループ討議、ロールプレイング、受講生全員による討議を組み合わせて行う。特にグループ討議を半数以上取り入れ、受講生の能動的な活動を促進する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学校教育における教育相談の位置づけを知る。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）教育相談のイメージを授業前後で比較する。
2.	教育相談に応用できる臨床心理学の基礎的な理論を理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）カウンセリングマインドという用語について調べてくる。
3.	実践事例を通して、教育相談における「カウンセリング・マインド」、「受容、傾聴、共感的理解」などの態度をどのように活用するかを考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）事例についての振り返り
4.	前時の学びから、さらに具体的な事例を題材にして、「カウンセリング・マインド」、「受容、傾聴、共感的理解」などの態度を実際にどのような場面でどのように活用できるか、グループで考え討議する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）不登校とはどのような状態のことなのかについて、自分なりの考えをまとめてくる。
5.	不登校とはどのような状態のことなのかについて理解し、不登校の前触れとして子どもたちが示すシグナルにはどのようなものがあるかをグループで話し合う。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）グループ討議についてまとめる。
6.	前時の結果をグループごとに発表し、不登校の前駆状態にある子どもや不登校になった子どもへの適切な支援について考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）不登校の子どもたちにとって適切な居場所を提供するためにはどのような条件が必要かを箇条書きでまとめる。
7.	不登校の子どもやその保護者への適切な対応・支援について、先に考えた「受容、傾聴、共感的理解」などの態度を意識的に取り入れて、教師役と子どもや保護者役になって互いにロールプレイングを行い、実際に感じたことを述べ合うことで適切な対応について考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）不登校に関して、授業者から出された課題についてのレポートを作成する。
8.	いじめ事象の機序を理解し、いじめ被害者が示すシグナルにはどのようなものがあるかを考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）いじめの定義からいじめを分類しまとめる。
9.	いじめ事象を犯罪型いじめと対人関係型いじめに大別し、対人関係のもつれを中心としたいじめ問題への支援として、カウンセリング・マインドに基づいた「受容、傾聴、共感的理解」などが重要であることを理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）対人関係型いじめへの対応への基本的な視点をまとめる。
10.	幼児期、児童期の各発達段階によって、子どもたちの不適応や問題行動への支援の方法が異なることを理解する。	「毎時のまとめ」の記入 （予習）次週の授業で自分が演じる役作りをする。
11.	不登園、不登校、いじめ、虐待、非行など、子どもに関わる課題について、グループごとに1事例を取り上げ、前時2段階の発達段階に分けて、教師と子ども役を設定して2回のロールプレイングを行い、発達段階が支援のあり方と強く関連していることを実習する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）本時のロールプレイングについて振り返る。
12.	校務分掌での教育相談係としての行う教育相談と、教師全員が学校生活全般を通して行う教育相談について、それぞれの目的や、実際の相談のあり方について理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）スクールカウンセラーとはどのような業務を行い、教師とどのように連携しているのかを調べる。
13.	教育相談活動は教師個人で行えるものではなく、管理職・学年主任・生徒指導主事・養護教諭、スクールカウンセラーなどが日常的に体制を整えて、組織的に取り組む営為であることを理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）「チーム学校」の取り組みについて、具体的な事例を調べてくる。
14.	チーム学校には地域の専門機関との適切な連携が不可欠であることを、事例を通して理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）機能としての教育相談に必要なことがらをまとめる。
15.	まとめと振り返り ーこれまで学んだ不登校、いじめ問題などを通して学校教育における教育相談の重要性を考えるー	（復習）レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:
自身の幼稚園・保育園、小学校時代を振り返り、辛かったことやネガティブな体験を相対化し、それらの体験を教師としての強みとして、子どもたちに還元できる授業となることを願っています。

フィードバックの方法:
・毎回配布する「質問用紙」への回答は、次回の授業前あるいは授業内でコメントしてお返しします。
・毎回配布する「毎時のまとめ」を複数回提出していただき、評価してお返しします。
・提出されたレポートに関して、授業内で評価のポイントを解説します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート、小テスト	50%	到達目標（1）に関して、教育相談に関する知識を理解しているか、また教育相談への関心意欲の高さを評価基準とする。
グループ討議、ロールプレイ	30%	到達目標（1）を理解し、到達目標（2）を習得し、自分の考えを適切に表現し、他者と協調的に関われるかを評価基準とする。
授業への積極的参加度	20%	到達目標（1）（2）と関連して、将来、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができているかを評価基準とする。

教科書:

参考書: 生徒指導提要 （平成22年3月告示 文部科学省）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:
1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる（mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp）
3. 研究室訪問してください。（C444）

466000

こどもとアート

竹井　　史

授業テーマ:　こどものアートの世界を旅してみよう

授業の概要:　こどもは芸術家であるとはよく言われることである。それは、こどもたちの自由なものの見立てや想像力に基づくものであると考えることができる。絵画表現について言えば、1つの丸が、お母さん、お家、地球、そして一本の線が手や足、ボールの軌跡として表現される。また、1本の枝が、勇者の剣や魔法の杖に、何の変哲もない段ボールが空飛ぶ絨毯やタイムマシンになり、様々な物語の世界を創り出す。まさに子どもは創造的であり、その意味において優れた芸術家であるということが出来るだろう。この授業では、造形ワークショップを通じ、こどものアートの世界を経験することで、こどもに迫る発想力、造形力、想像力を身につけたい。

到達目標:　こどものアートの世界に学び、造形ワークショップを通じ、こどもに迫る発想力、造形力、想像力を身につけることを目的とする。

授業方法:　演習及び実技による。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	こどもの造形表現について調べる。
2.	紙で創る　色紙でアート	色紙の造形、とりわけこどもに関連する紙の造形について調べる。
3.	紙で創る　色紙でアート グループ発表	グループ発表をどのように進めるかイメージづくりをする。
4.	紙で創る　画用紙でアート	画用紙の造形、とりわけこどもに関連する紙の造形について調べる。
5.	紙で創る　画用紙でアート グループ発表	グループ発表をどのように進めるかイメージづくりをする。
6.	紙で創る　紙コップでアート	紙コップの造形、とりわけこどもに関連する紙の造形について調べるい。
7.	紙で創る　紙コップでアート グループ発表	グループ発表をどのように進めるかイメージづくりをする。
8.	紙で創る　段ボールでアート	段ボールの造形、とりわけこどもに関連する段ボール造形について調べる。
9.	紙で創る　段ボールでアート グループ発表	グループ発表をどのように進めるかイメージづくりをする。
10.	紙で創る　模造紙でアート ペーパーファッションショー1 構想	様々なファッションについて調べる。
11.	紙で創る　模造紙でアート ペーパーファッションショー2 仮製作（スタンピングを生かして）	グループディスカッションでテーマを決めますので、可能性のあるテーマを考える。
12.	紙で創る　模造紙でアート ペーパーファッションショー3 本製作（スタンピングを生かして）	模造紙を使った紙の表現の広がりや前時に経験したスタンピングの可能性について考える。
13.	紙で創る　模造紙でアート ペーパーファッションショー4 本製作2	模造紙を使った紙の表現の広がりや前時に経験したスタンピングの色々な表現方法について考える
14.	紙で創る　模造紙でアート ペーパーファッションショー5 発表会準備	小道具、ウォーキングの方法、アナウンスについて考える。
15.	ペーパーファッションショー発表会をもとにした鑑賞会	ファッションショーのイメージつくりをする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　紙を使った遊びやおもちゃ作り、ファッションショーを楽しみながら、自由な発想力を身につけましょう。

フィードバックの方法:　授業後の解説や総評によって行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品発表	40%	自由なものの見方に基づく発想やアイデアが生かされているか
授業への参加度	40%	積極的にグループ製作や発表に参加しているか
レポート	20%	授業を振り返り、自分もものの見方や考え方がどのようにかわったか

教科書:　竹井史著、『作って遊べる子どものart　book　まいにちぞうけい115』 、メイト

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力，プレゼンテーション力，変化対応力，自己実現力

教員との連絡方法:　メール、研究室
メールについては授業中にお伝えします。

491500

現代社会システム特殊演習ＡＩ

朱　　捷

授業テーマ:　中国の知恵・日本の知恵

授業の概要:　ギリシア人が世界が何からなっているかを追い求めていたのに対して、中国人は人間がどうすればよりよく生きることができるかを思索し続けていたとされる。その意味において、中国文化は人間本位の文化である。数千年の歴史に、中国文化は人間の生き方に深い思索と知恵を蓄積してきた。いっぽう、日本文化も人間の生き方に蘊蓄を積み重ねてきた。本演習は、生きることに関する中国人と日本人の知恵に焦点を当て、現代人がそこから何を学び取れるかを中心に考察していこうとする。

到達目標:
〇論語や中庸を通して、生き方に関する中国文化の知恵について初歩的な知識を持つ。
〇文献の読み方、調べ方を身につける。

授業方法:　共通テキストを読み、参加者が順番に発表し、ディスカッションする方式で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスをよく読んでくる
2.	論語講読	テキストを読んで課題を調べる
3.	論語講読	テキストを読んで課題を調べる
4.	論語講読	テキストを読んで課題を調べる
5.	論語講読	テキストを読んで課題を調べる
6.	論語講読	テキストを読んで課題を調べる
7.	論語講読	テキストを読んで課題を調べる
8.	論語講読	テキストを読んで課題を調べる
9.	論語講読	テキストを読んで課題を調べる
10.	論語講読	テキストを読んで課題を調べる
11.	中庸講読	テキストを読んで課題を調べる
12.	中庸講読	テキストを読んで課題を調べる
13.	中庸講読	テキストを読んで課題を調べる
14.	中庸講読	テキストを読んで課題を調べる
15.	総括	テキストを読んで課題を調べる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	50	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	40	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:　井波律子『論語入門』(岩波新書　2012年)

参考書:
吉川幸次郎『中国の知恵』
吉川幸次郎『論語』上、下
山田慶児『混沌の海へ』
島田虔次『大学・中庸』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

491600

現代社会システム特殊演習ＡⅡ

朱　　捷

授業テーマ:　中国の知恵・日本の知恵

授業の概要:　ギリシア人が世界が何からなっているかを追い求めていたのに対して、中国人は人間がどうすればよりよく生きることができるかを思索し続けていたとされる。その意味において、中国文化は人間本位の文化である。数千年の歴史に、中国文化は人間の生き方に深い思索と知恵を蓄積してきた。いっぽう、日本文化も人間の生き方に蘊蓄を積み重ねてきた。本演習は、生きることに関する中国人と日本人の知恵に焦点を当て、現代人がそこから何を学び取れるかを中心に考察していこうとする。

到達目標:　〇老子荘子や『「いき」の構造』などを通して、生き方に関する中国や日本の知恵について初歩的な知識を持つ。
〇文献の読み方、調べ方を身につける。

授業方法:　共通テキストを読み、参加者が順番に発表し、ディスカッションする方式で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	老子講読	テキストを読んで課題を調べる。
2.	老子講読	テキストを読んで課題を調べる。
3.	老子講読	テキストを読んで課題を調べる。
4.	老子講読	テキストを読んで課題を調べる。
5.	老子講読	テキストを読んで課題を調べる。
6.	荘子講読	テキストを読んで課題を調べる。
7.	荘子講読	テキストを読んで課題を調べる。
8.	荘子講読	テキストを読んで課題を調べる。
9.	荘子講読	テキストを読んで課題を調べる。
10.	荘子講読	テキストを読んで課題を調べる。
11.	『「いき」の構造』講読	テキストを読んで課題を調べる。
12.	『「いき」の構造』講読	テキストを読んで課題を調べる。
13.	『「いき」の構造』講読	テキストを読んで課題を調べる。
14.	『「いき」の構造』講読	テキストを読んで課題を調べる。
15.	総括	テキストを読んで課題を調べる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　採点してマナビーで返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	50	問題の立て方や資料収集、問題の解き方にオリジナリティがあるかどうかを基準とする。
発表・討論	40	しっかり予習して準備したうえでディスカッションに参加しているかどうかを評価する。
授業への積極的な参加度	10	5回欠席すると、単位が認められない。

教科書:
蜂屋邦夫訳註『老子』(岩波文庫　2008年)
福永光司・興膳宏訳『荘子』内篇(ちくま学芸文庫　2013年)
九鬼周造『「いき」の構造』(岩波文庫　1979年)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板

491700

現代社会システム特殊演習ＢＩ

中山　　まき子

授業テーマ:　子ども・女性の身体をめぐる諸政策と自己決定権

授業の概要:

21世紀を生きる子どもや女性に取って、日本の制度・政策は適切かつ的確か。また、「母子政策」は地域社会や家庭生活にどのような影響を与え、一人一人の身体や健康をどのように規定しているのか。さらに、政策に組み込まれた個人には、どのような自己決定権が存在するのか。

こうした疑問を解明するため、リプロダクション（妊娠、出産、子育て、子育ち、等）やセクシュアリティーに関する日本の諸政策と個人との関係を学び、諸外国のそれらと比較検討する。また、日本における「子どもと女性の自己決定権」についても考究する。

なお、本演習では、ジェンダー・センシティブな視点から研究することも重視する。加えて、毎回、各人が書籍をよみ、レジュメを作成し報告することを義務とする。さらに、大学院生として研究・調査の倫理を学び、身に付ける。

到達目標:

（1）子ども・女性の身体に関する法律とその中味を理解し、法律が運用されている現況の利点、問題点、課題等を正確に理解できる。
（2）深く思考し、必要な諸資料を自ら探し問題提起できる力を身に付ける。

授業方法:　受講生との協議によってテキストを決定し、発表とディスカッション形式で授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	演習内容・使用する文献等の紹介 研究倫理の基礎理解	各自が「子ども・女性と身体」関する諸政策の中で、より深く学びたい政策を提案できるよう、事前に提案内容を考えて授業にのぞむ。
2.	日本の母子政策を学ぶ（1）ー児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法などー	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律の全文を複写し持参する。
3.	日本の母子政策を学ぶ（2）ー児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法などー	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から一つを選択し、同法を読み整理してくる。
4.	日本の母子政策を学ぶ（3）ー児童福祉法・母子保健法・優生保護法・母体保護法などー	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から、前回とは異なる法律を一つ選択し、同法を読み整理してくる。
5.	日本の政策はどのようにつくられるのかー妊娠・出産関連政策を事例としてー	児童福祉法、母体保護法、優生保護法等の法律から、前回とは異なる法律を一つ選択し、同法を読み整理してくる。
6.	日本の母子政策	3種の法律の特徴、政策過程について、視点別にノート整理ができている。
7.	世界の政策ーリプロダクティブ・ヘルス/ライツが構成されるまでー	日本の母子政策の特徴を述べることができる。
8.	世界の政策ーリプロダクティブ・ヘルス/ライツが構成されるまでー	前回配布したリプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史を配布資料を読みレジュメを作成してくる。
9.	世界の政策ー避妊・人口妊娠中絶と自己決定権を事例としてー	前回配布したリプロダクティブ・ヘルス/ライツの歴史資料（2）をよみ、レジュメを作成してくる。
10.	世界の政策ー避妊・人口妊娠中絶と自己決定権を事例として（2）ー	前回配布した避妊・人口妊娠中絶等に関する資料を読み、レジュメを作成し報告準備が出来ている。
11.	生殖技術と日本・家庭・夫婦（1）	自ら、第10回のテーマに基づく資料を探し、ゼミで当該資料を紹介できるようレジュメを作成してくる。
12.	生殖技術と日本・家庭・夫婦（2）	生殖技術に関する日本の動向（1）について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。
13.	生殖技術と日本・家庭・夫婦ー誰が何を決めるのかー	生殖技術に関する日本の動向（2）について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。
14.	生殖技術と世界・家庭・夫婦ー自己決定権を考えるー	生殖技術に関する主に先進国を中心とした、世界の諸動向について説明できるレジュメを作成して授業にのぞむ。
15.	まとめと議論	本授業から学んだ内容・疑問・各自の意見等を整理して授業にのぞむ。

受講者へのメッセージやアドバイス:　大学院生として論文検索能力を高め、読書量を増やし、ディスカッションできる知識を増やしていきましょう。

フィードバックの方法:　受講生が見落としている諸資料や補足資料を助言・補填しつつ、視野が広がるような助言指導を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	40%	指示した内容に則したレポートを提出していること。レポート内容には、引用・参考文献が明記され、その引用等が正確かつ適切であること。
報告	60%	レジュメを用いての的確な報告ができること。

教科書:　授業中に指定する。

参考書:　授業中に指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　初回授業時に、質疑応答用のメールアドレスを受講生に伝える。

491800

現代社会システム特殊演習ＢⅡ

中山　　まき子

授業テーマ:　日本の出産施設とその変容からみた子ども・女性・政策

授業の概要:　本演習では、日本の出産施設「助産所・病院・診療所」に焦点をあて、三種の施設の歴史的推移、背後にある医療政策、医療従事者の変遷、厚生労働政策、子どもと女性がおかれている位置などを理解し議論する。
こうした一つの事例分析資料を通して、「ユーザー・主体・政策」について議論しあう。なお、演習の中で基本となる研究の倫理に関する教育を徹底する。

到達目標:
（1）日本の母子政策の特徴を理解する。
（2）事例資料を読むこと・読み込むことについて学ぶ。
（3）分析力、深い思考力とは何かを知り、身に付けようとする。

授業方法:　発表とディスカッション形式で授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・研究および研究倫理とは ・三種類の施設概要と変容に関する基礎知識の紹介	各自の現段階での興味、課題をのべ、自己紹介等できるよう準備してくる。
2.	三種類の施設概要と変容に関する基礎知識の紹介	授業で用いる資料の基礎知識をノート整理している。
3.	三種類の施設概要と変容に関する基礎知識の紹介	授業で用いる資料の基礎知識をノート整理している。疑問をまとめておく。
4.	ゼミ生からの報告. 助産所の変容と衰退（1）	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってくること。
5.	ゼミ生からの報告：助産所の変容と衰退（2）	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってくること。
6.	ゼミ生からの報告：診療所の変容と日母産科看護学院（1）	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってくること。
7.	ゼミ生からの報告：診療所の変容と日母産科看護学院（2）	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってくること。
8.	ゼミ生からの報告：大型病院の変容と衰退（1）	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってくること。
9.	ゼミ生からの報告：病院の変容と衰退（2）	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってくること。
10.	ゼミ生からの報告：厚生労働政策の推移（1）	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってくること。
11.	ゼミ生からの報告：厚生労働政策の推移（2）	配布された資料のレジュメ作成と発表準備を行ってくること。
12.	ディスカッション：ポリテックスとは	ディスカッションしたい項目・課題（1）を、思考し、提案できるようにしてくる。
13.	ディスカッション：医療政策とは	ディスカッションしたい項目・課題（2）を、思考し、提案できるようにしてくる。
14.	ディスカッション：「ユーザー主体」とは	日本の子ども政策、女性政策に対する自身の学びと意見をレポートとしてまとめてくる。
15.	まとめ：日本の母子関連政策の特徴をいまとめつつ、政策・システム・個人の関係を議論し、未来展望への道筋を検討する。	日本の子ども政策・女性政策についての未来展望について考え、議論用の諸素材を持ち寄る。

受講者へのメッセージやアドバイス:　子どもの人権・女性の人権とそれを取り巻く社会構造・政策・システムについて広く、深く考えてみよう。

フィードバックの方法:
・全授業時に、必ず質疑を確認する。
・その内容に応じて次回講義時に補足資料やレジュメを準備する。その上で、内容説明等を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30%	授業および授業内のディスカッションへの積極的参加
報告	70%	提示した資料に対するレジュメ作成と報告

教科書:　授業中に指示する。

参考書:　拙著『出産施設はなぜ疲弊したのか―日母産科看護学院・医療法改定・厚生諸政策のあゆみ―』、日本評論社、2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　初回授業で受講生には、質疑応答等のメールアドレスを伝え、スムーズな連絡方法を確立する。

491900

現代社会システム特殊演習ＣＩ

河野　　健男

授業テーマ:　日常生活圏としての地域社会の意味を考察する

授業の概要:　地域振興は、今日、簡単な言葉では「まちづくり」と表現されている。国主導の地域開発と地域主導の地域振興との区別と関連を明確にする。

到達目標:　戦後わが国における地域社会の変容過程を構造的に理解し、その時々の生活様式や地域生活問題の変遷をトレースする。そして、国民文化の一構成部分でありながら、国民文化と異なる種差性を持った地域固有の文化諸形態のなかに、地域社会の発展への萌芽があることを研究する。

授業方法:　テキストに基づいて地域社会研究の系譜を理解する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域社会とは政治的アンシュタルトである　その1	マックス・ウェーバー都市論の学習
2.	地域社会とは政治的アンシュタルトである　その2	マックス・ウェーバー都市論の学習
3.	地域社会とは政治的アンシュタルトである　その3	マックス・ウェーバー都市論の学習
4.	地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある　その1	指定した文献の読了
5.	地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある　その2	指定した文献の読了
6.	地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある　その3	指定した文献の読了
7.	地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある　その4	指定した文献の読了
8.	地域社会には支配勢力による統治と被支配勢力による支配への対抗運動がある　その5	指定した文献の読了
9.	地方自治と中央集権体制の確立の歴史　その1	指定した文献の読了
10.	地方自治と中央集権体制の確立の歴史　その2	指定した文献の読了
11.	地方自治と中央集権体制の確立の歴史　その3	指定した文献の読了
12.	地方自治と中央集権体制の確立の歴史　その4	指定した文献の読了
13.	京都の町衆の歴史　その1	中世の町衆
14.	京都の町衆の歴史　その2	近世・近代の町衆
15.	全体総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　先行研究の疑問点にはコメントを返す

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50%	発表・議論・研究視点の完成度で評価する
報告の完成度	50%	レポートなどの完成度で評価する

教科書:

参考書:　拙稿「日本における地域社会の展開過程」(松永昌三編「近代日本文化の再発見」岩田書店2006年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

492000

現代社会システム特殊演習CⅡ

河野　　健男

授業テーマ:　地域振興の現代的意義を探求する

授業の概要:　戦後日本における地域振興の思想発展を、ｼﾋﾞﾙﾐﾆﾏﾑ論・地域主義・内発的発展論として整理し、それらの相違点を論じるなかで、現在が第四の地域振興思想の発展期であることを研究する。

到達目標:　国家主導の地域開発とは異なって、地域主導の発展策を地域振興（まちづくり）として理解し、その戦後の思想史的発展をつかむ。

授業方法:　テキストに基づいて地域社会研究の系譜を理解する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域社会の現状　その1	国勢調査データから見た国土構成
2.	地域社会の現状　その2	東京一極集中の問題点
3.	地域社会の現状　その3	地方の疲弊と「地方消滅」
4.	地域開発と地域振興　その1	国土総合開発計画の系譜
5.	地域開発と地域振興　その2	国土総合開発計画の系譜
6.	地域開発と地域振興　その3	国土総合開発計画の系譜
7.	地域開発と地域振興　その4	国土総合開発計画の系譜
8.	戦後日本における地域振興の思想的潮流（シビルミニマム論・地域主義・内発的発展論）その1	シビルミニマムとは？
9.	戦後日本における地域振興の思想的潮流（シビルミニマム論・地域主義・内発的発展論）その2	シビルミニマムとは？
10.	戦後日本における地域振興の思想的潮流（シビルミニマム論・地域主義・内発的発展論）その3	地域主義の多様性
11.	戦後日本における地域振興の思想的潮流（シビルミニマム論・地域主義・内発的発展論）その4	内発的発展論の思想
12.	現代日本における地域振興策・まちづくり（観光政策も含めて）その1	地域振興策の諸相（人口流出）
13.	現代日本における地域振興策・まちづくり（観光政策も含めて）その2	地域振興策の諸相（観光政策）
14.	現代日本における地域振興策・まちづくり（観光政策も含めて）その3	地域振興策の諸相（移住促進）
15.	全体総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　先行研究の意味をフィールド観察などで考察する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50%	発表・議論・研究視点の完成度で評価する
報告の完成度	50%	レポートなどの完成度で評価する

教科書:

参考書:　拙稿「日本における地域社会の展開過程」(松永昌三編「近代日本文化の再発見」岩田書店2006年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　tkono@dwc.doshisha.ac.jp

492700

国際観光文化特論Ⅰ

大津　　正和

授業テーマ:　国際観光における対象としての文化および文化体験の重要性

授業の概要:　近年の観光では、従前の見る観光から体験する観光へと、観光者のニーズの変化が起こっている。体験の対象として、観光目的地の文化が重視され、魅力的な文化体験が観光の吸引力となっている。観光において体験される文化は多種多様であるが、その中で食文化の存在感が大きい。食文化は、比較的体験が容易である一方非常に多様であり、地域性を形成する重要要素として観光において体験されるのである。この講義では、観光における食文化の重要性を学び、インバウンド観光において日本の食文化をどのように活用し発展させていくかを考察する。

到達目標:　観光における文化体験、とくに食文化体験の重要性を理解する。海外からの観光来訪者たちが、目的地国の食文化をどのように体験し、価値を感じているかを理解する。これらの知識に基づいて、日本のインバウンド観光における日本食の位置づけ、観光振興への活用を考察できる能力を身に付ける。

授業方法:　講義 受講者が教科書に沿って行ってきた予習結果を報告し、それに基づいて教室内で議論を進めることで理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	教科書のはしがきと目次を読んで、全体の構成を確認しておく
2.	Gastronomy: an essential ingredient in tourism production and consumption? (1)	教科書の該当箇所の予習
3.	Gastronomy: an essential ingredient in tourism production and consumption? (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
4.	A typology of gastronomy tourism (1)	教科書の該当箇所の予習
5.	A typology of gastronomy tourism (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
6.	Demand for the gastronomy tourism product: motivational factors (1)	教科書の該当箇所の予習
7.	Demand for the gastronomy tourism product: motivational factors (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
8.	Gastronomy as a tourist product: the perspective of gastronomy studies (1)	教科書の該当箇所の予習
9.	Gastronomy as a tourist product: the perspective of gastronomy studies (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
10.	Tourism as a force for gastronomic globalization and localization (1)	教科書の該当箇所の予習
11.	Tourism as a force for gastronomic globalization and localization (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
12.	The relationship between tourism and gastronomy	PART1の内容全体を復習し、国際観光と食の関連を考えておく
13.	On the trail of regional success: tourism, food production and the Isle of Arran Taste Trail (1)	教科書の該当箇所の予習
14.	On the trail of regional success: tourism, food production and the Isle of Arran Taste Trail (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
15.	Gastronomy tourism in Japan	講義全体を振り返り、レポートの方針を考えてくる

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習によって、教科書の該当箇所を理解した上で、講義に参加するとともに、教科書で学んだことを現実の日本における観光に当てはめて考察するように心がけてください。

フィードバックの方法:　報告に対しては、教室で。また進捗状況をマナビーで報告したものに対しては、マナビーで対応する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講義への参加	60	予習内容の報告、議論での意見表明
期末レポート	40	講義内容に基づいて実際の日本観光を考察する

教科書:　Anne-Mette Hjalager and Greg Richards eds. "Tourism and Gastronomy", Routledge 2002

参考書:　安田亘宏『フードツーリズム論』古今書院2013
安福恵美子『ツーリズムと文化体験』流通経済大学出版会2006

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

492800

国際観光文化特論Ⅱ

大津　　正和

授業テーマ:　国際観光における対象としての文化および文化体験の重要性

授業の概要:　近年の観光では、従前の見る観光から体験する観光へと、観光者のニーズの変化が起こっている。体験の対象として、観光目的地の文化が重視され、魅力的な文化体験が観光の吸引力となっている。観光において体験される文化は多種多様であるが、その中で食文化の存在感が大きい。食文化は、比較的体験が容易である一方非常に多様であり、地域性を形成する重要要素として観光において体験されるのである。この講義では、観光における食文化の重要性を学び、インバウンド観光において日本の食文化をどのように活用し発展させていくかを考察する。

到達目標:　観光における文化体験、とくに食文化体験の重要性を理解する。海外からの観光来訪者たちが、目的地国の食文化をどのように体験し、価値を感じているかを理解する。これらの知識に基づいて、日本のインバウンド観光における日本食の位置づけ、観光振興への活用を考察できる能力を身に付ける。

授業方法:　講義 受講者が教科書に沿って行ってきた予習結果を報告し、それに基づいて教室内で議論を進めることで理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	教科書のはしがきと目次を読んで、全体の構成を確認しておく
2.	'A Taste of Wales – Blas Ar Gymru': institutional malaise in promoting Welsh food tourism products (1)	教科書の該当箇所の予習
3.	'A Taste of Wales – Blas Ar Gymru': institutional malaise in promoting Welsh food tourism products (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
4.	Sustainable gastronomy as a tourist product (1)	教科書の該当箇所の予習
5.	Sustainable gastronomy as a tourist product (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
6.	Gastronomy and intellectual property (1)	教科書の該当箇所の予習
7.	Gastronomy and intellectual property (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
8.	The route to quality: Italian gastronomy networks in opetation (1)	教科書の該当箇所の予習
9.	The route to quality: Italian gastronomy networks in opetation (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
10.	The changing nature of the relationship between cuisine and tourism in Australia and New Zealand: from fusion cuisine to food network (1)	教科書の該当箇所の予習
11.	The changing nature of the relationship between cuisine and tourism in Australia and New Zealand: from fusion cuisine to food network (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
12.	Regional food cultures: integral to the rural tourism product? (1)	教科書の該当箇所の予習
13.	Regional food cultures: integral to the rural tourism product? (2)	教科書の該当箇所の予習およびその内容に関連する事象を日本特に京都について調べておく
14.	Still undigested: research issue in tourism and gastronomy	教科書の該当箇所の予習
15.	Gastronomy tourism in Japan	教科書の該当箇所の予習および講義全体を振り返り、レポートの方針を考えてくる

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習によって、教科書の該当箇所を理解した上で、講義に参加するとともに、教科書で学んだことを現実の日本における観光に当てはめて考察するように心がけてください。

フィードバックの方法:　報告に対しては、教室で。また進捗状況をマナビーで報告したものに対しては、マナビーで対応する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講義への参加	60	予習内容の報告、議論での意見表明
期末レポート	40	講義内容に基づいて実際の日本観光を考察する

教科書:　Anne-Mette Hjalager and Greg Richards eds. "Tourism and Gastronomy", Routledge 2002

参考書:　安田亘宏『フードツーリズム論』古今書院2013
安福恵美子『ツーリズムと文化体験』流通経済大学出版会2006

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーおよびEメール。メールアドレスはmotsu（以下に＠およびdwcで始まる大学のアドレスを付ける）

494500

社会とこども特殊演習ＡＩ

松崎　　正治

授業テーマ:　こどものことばの教育の歴史的検討

授業の概要:　日本において、こどものことばの教育の基礎を作った西尾実の国語教育論を検討する。

到達目標:
①西尾実の国語教育論を通して、日本の国語教育がどのように生成してきたかを理解している。
②国語教育の歴史研究方法論を例として、教育系の歴史研究方法を理解している。

授業方法:　西尾実のテクストと関連文献を演習的に読み込む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読んでおくこと。
2.	ことばの教育の歴史	学んだ内容をまとめておく。
3.	西尾実の人と生涯	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んでおく。
4.	西尾実の国語教育論の全体構造	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んでおく。
5.	西尾実の教育思想	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んでおく。
6.	西尾実の読むことの教育論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
7.	西尾実の読むことの教育論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
8.	西尾実の読むことの教育論(3)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
9.	西尾実の書くことの教育論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
10.	西尾実の書くことの教育論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
11.	西尾実の書くことの教育論(3)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
12.	西尾実の聞くこと・話すことの教育論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
13.	西尾実の聞くこと・話すことの教育論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
14.	西尾実の聞くこと・話すことの教育論(3)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
15.	まとめ	これまで学んだ内容を総合して、レポートにまとめる準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　少人数で文献を読み発表するので、授業外の学習時間を多く必要とします。頑張りましょう。

フィードバックの方法:　授業中にコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	50%	文献を正確に読み込み、関連情報を取り込んで的確にまとめているかを評価する。
出席	20%	積極的に授業に参加して発言しているかを評価する。
レポート	30%	日本の国語教育の歴史や研究方法を踏まえて、論理的かつ正確に表現し、深まった内容になっているかを評価する。

教科書:　プリント等を配布する。

参考書:

西尾実『国語教育辞典　復刻』朝倉書店、2001年
竹長吉正『西尾実、この多様にして複雑な存在—実践的国語教育論の構築者』創英社（三省堂書店）、2012年
野地潤家『国語科教育の創造を求めて—国語教育の聖地、長野に学ぶ』渓水社、2012年
渡辺哲男『「国語」教育の思想—声と文字の諸相』勁草書房、2010年
安良岡康作『西尾実の生涯と学問』三元社、2002年
岩島公『私の国語教育の形成—垣内松三・西尾実と単元学習』東洋館出版社　2000年
西尾実『西尾実国語教育全集』全10巻・別巻２　教育出版、1974年
桑原隆『言語活動主義・言語生活主義の探究～西尾実国語教育論の展開と発展』東洋館出版社 、1998年
桑原隆『作文教育のダイナミズム～西尾実・清野甲子三・山下卓造の軌跡』東洋館出版社、1993年
西尾実・田近洵一『西尾実～現代国語教育論集成』明治図書出版 1993年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール、オフィスアワー

494600

社会とこども特殊演習ＡⅡ

松崎　　正治

授業テーマ:　こどものことばの教育の歴史的検討

授業の概要:　日本において、こどものことばの教育の基礎を作った西尾実の国語教育論を検討する。

到達目標:
①西尾実の国語教育論を通して、日本の国語教育がどのように生成してきたかを理解している。
②国語教育の歴史研究方法論を例として、教育系の歴史研究方法を理解している。

授業方法:　西尾実のテクストと関連文献を演習的に読み込む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスを読んでおくこと。
2.	西尾実の行的認識の教育論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
3.	西尾実の行的認識の教育論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
4.	西尾実の言語活動論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
5.	西尾実の言語活動論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
6.	西尾実の言語生活論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
7.	西尾実の言語生活論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
8.	西尾実の言語文化論(1)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
9.	西尾実の言語文化論(2)	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
10.	西尾実の国語科教育の近代化論（1）	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
11.	西尾実の国語科教育の近代化論（2）	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
12.	西尾実の教師論	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
13.	西尾実の授業論	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
14.	西尾実の国語科教育学の構想	学んだ内容をまとめておく。次回に扱う論文と西尾実のテクストを読んで、レジュメにまとめておく。
15.	全体のまとめ～西尾実国語教育論の成果と課題	これまで学んだ内容を総合して、レポートにまとめる準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　春学期受講生は慣れたと思いますが、授業外の学習時間を多く必要とします。引き続き頑張りましょう。

フィードバックの方法:　授業中にコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	50%	文献を正確に読み込み、関連情報を取り込んで的確にまとめているかを評価する。
出席	20%	積極的に授業に参加して発言しているかを評価する。
レポート	30%	授業で学んだことを総合して、論理的かつ正確に表現し、深まった内容になっているかを評価する。

教科書:　プリント等を配布する。

参考書:
倉沢栄吉・野地潤家『朝倉国語教育講座　６　普及版 国語教育研究』朝倉書店、2012年
井上敏夫・浜本純逸『国語教育史研究～教科書を中心に見た』渓水社、2009年
田近洵一『現代国語教育史研究』冨山房インターナショナル、2013年
田近洵一『戦後国語教育問題史　増補版』大修館書店、1999年
野地潤家『近代国語教育史研究』渓水社、2011年
野地潤家『国語教育学史研究』渓水社、2011年
野地潤家『国語教育学史』共文社、1993年
安直哉『国語教育における形象理論の生成と展開』東洋館出版社、2015年
浜本純逸『国語科教育の未来へ～国語科・日本語科・言語科』渓水社、2008年
浜本純逸『文学教育の歩みと理論』東洋館出版、2001年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール、オフィスアワー

494700

社会とこども特殊演習ＢＩ

塘　　利枝子

授業テーマ:　子どもの文化間移動と社会・文化・歴史的文脈

授業の概要:　子どもの文化間移動は、移動後の子どものアイデンティティ形成に大きな影響を与える。子ども自身の発達段階によっても、アイデンティティのあり方は異なってくるが、文化間移動前後の社会から受ける発達期待によっても、子どもは異なるアイデンティティを形成していく。春学期では、特に発達観、家族観に焦点をあて、子どもをとりまく社会・文化・歴史的文脈が子どもの育ちに及ぼす影響と意味について考える。

到達目標:

「知識・理解」
文献検索の仕方についての知識がある。
文化と個の関係性について理解している。

「関心・意欲・態度」
自分とは異なる文化的な環境にいる子どもや文化間移動を体験した子どもに関心をもっている。

「表現・技能・能力」
文献を読む技能・能力を持ち、レポート課題でも要求された内容を表記できる。

授業方法:　受講生との協議によってテキストを決定し、発表とディスカッション形式で授業を行う。参加者がレジュメを作成し、毎回必ず報告することを義務づける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文化の定義、研究倫理、情報倫理	卒業論文の概要が発表できるように準備しておくこと。
2.	異文化間心理学の文献解題	レジュメ作成
3.	異文化間心理学の文献解題	レジュメ作成
4.	異文化間心理学の文献解題	レジュメ作成
5.	文化心理学の文献解題	レジュメ作成
6.	文化心理学の文献解題	レジュメ作成
7.	文化間移動と子どもの発達	レジュメ作成
8.	文化間移動と子どもの発達	レジュメ作成
9.	歴史的文脈と子どもの発達	レジュメ作成
10.	歴史的文脈と子どもの発達	レジュメ作成
11.	文化と自己との関係性	レジュメ作成
12.	文化と自己との関係性	レジュメ作成
13.	文化と自己との関係性	レジュメ作成
14.	文化と自己との関係性	レジュメ作成
15.	まとめと発表	レジュメ作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　レジュメ作成や関連論文を必ず読んでおいて下さい。レジュメ作成や報告は毎回ありますので、課題遂行時間を十分に取って下さい。

フィードバックの方法:　毎回の授業の中でレジュメに対するコメントをしたり、研究の進め方について直接指導する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レジュメ作成や報告等の課題の遂行	80%	真摯に課題に取り組んでいる。 不明な点がわかっている。 文献をよく読み込んでいる。 わかりやすい文章で表記されている。
出席	20%	毎回遅刻や早退をせずに出席している。 先行研究に対して疑問を抱いたり意見を述べることができる。

教科書:　特にありません。

参考書:

塘　利枝子 『子どもの異文化受容：異文化共生を育むための態度形成』 ナカニシヤ出版　(1999)
塘　利枝子「グローバリゼーションと発達支援」宮川充司・津村俊充・中西由里・大野木裕明編『スクールカウンセリングと発達支援』 ナカニシヤ出版　14章　173-187.(2008)
塘　利枝子「東アジアの教科書に描かれた自己表出」榎本博明編著 『自己心理学の最先端―自己の構造と機能を科学する―』あいり出版 (2011)
山本雅代・馬渕仁・塘　利枝子編著 『異文化間教育のとらえ直し』 明石書店 (2016)
Lysgaard, S. Adjustment in a Foreign Society: Norwegian Fulbright Grantees Visiting the United States, International Social Science Bulletin,7,45-51. (1955)
Cummins, J. The Cross-Lingual Dimensions of Language Proficiency: Implications for Bilingual Education and the Optimal Age Issue, TESOL Quarterly 14, 175-187. (1980)
Adler, P. S. The Transitional Experience: An Alternative view of culture shock. Journal of Humanistic Psychology, 15(4), 13-23. (1975)
Berry, J.W., Poortinga, Y.H., Segall, M.H., & Dasen, P.R. Cross-cultural Psychology. Cambridge University Press. (1992)
Cummins, J. The Entry and Exit Fallacy in Bilingual Education, NABE Journal 4(3), 25-60. (1980)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　研究室で個人相談を行います。
個人メイルを活用します。

494800

社会とこども特殊演習ＢⅡ

塘　　利枝子

授業テーマ:　子どもの文化間移動と社会・文化・歴史的文脈

授業の概要:　春学期で焦点をあてた子どもをとりまく社会・文化・歴史的文脈と個体の発達との関係性を踏まえて、秋学期では、種々の文脈の中で子どもが文化間移動や異文化体験をする意味やそこで得られる異文化間能力について考える。特に文化間移動をする子どものアイデンティティの構築過程に焦点をあて、子どもの発達段階と受け入れ側の異文化受容との関係性をも考えながら、生涯発達的視点にたってこれらの問題をとらえる。

到達目標:

「知識・理解」
自分の研究テーマに関する文献に関する知識を持っている。
文化と個の関係性について理解している。

「関心・意欲・態度」
自分とは異なる文化的な環境にいる子どもや文化間移動を体験した子どもに関心をもっている。
様々な文献を読もうとする意欲がある。

「表現・技能・能力」
毎回の授業で要求されるコメントを誠実に記述し、レポート課題でも要求された内容を表記できる。
フィールドワークを行うスキルや、見聞きしたことを分析する能力を持っている。

授業方法:　受講生との協議によってテキストを決定し、発表とディスカッション形式で授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	異文化間教育学の文献解題、研究倫理、情報倫理	自分の研究テーマのレジュメ作成
2.	異文化間教育学の文献解題	レジュメ作成
3.	文化間移動とアイデンティティの発達	レジュメ作成
4.	文化間移動とアイデンティティの発達	レジュメ作成
5.	異文化間能力	レジュメ作成
6.	異文化間能力	レジュメ作成
7.	フィールドワーク方法論	レジュメ作成
8.	フィールドワーク方法論	レジュメ作成
9.	フィールドワーク方法論	レジュメ作成
10.	調査結果の分析と考察	レジュメ作成
11.	調査結果の分析と考察	レジュメ作成
12.	調査結果の分析と考察	レジュメ作成
13.	調査結果の分析と考察	レジュメ作成
14.	調査結果の分析と考察	レジュメ作成
15.	まとめと発表	レジュメ作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　レジュメ作成や関連論文を必ず読んでおいて下さい。レジュメ作成や報告は毎回ありますので、課題遂行時間を十分に取って下さい。

フィードバックの方法:　毎回の授業の中でレジュメに対するコメントをしたり、研究の進め方について直接指導する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	30%	毎回決められた課題を着実に行っており、自分や他者の研究に対して意見や質問を述べることができる。
文献解題とレジュメ作成	40%	指定された文献だけではなく、関連文献を読み、適切なレジュメを作成できる。
レポート作成	30%	フィールドワークを行い適切な分析ができる。 規定枚数のレポートを作成できる。

教科書:　特にありません。

参考書:

Bronfenbrenner, U. The Ecology of Human Development. Cambridge, Mass: Harvard University Press.(1979)
Bronfenbrenner, U. Ecology of the family as a context for human development: Research perspectives.(1986)
Shaywitz,S. Overcoming dyslexia : a new and complete science-based program for reading problems at any level, Vintage Books. (2005)
佐藤郡衛・吉谷武志（編）『ひとを分けるものつなぐもの：異文化間教育からの挑戦』 ナカニシヤ出版.(2005)
塘　利枝子　言語間移動をする子どものコミュニケーション・対人関係・アイデンティティの発達支援　コミュニケーション障害学31(2), 81-89. (2014)
塘　利枝子　発達心理学からみた異文化間能力：生涯発達的視点から異文化間能力のモデル化に向けて　異文化間教育　45 (2017)
Byram, M. From Foreign Language Education to Education for Intercultural Citizenship: Essays and reflections. Clevedon: Multilingual Matters. (2008)
塘　利枝子　異文化適応に対する支援　近藤清美・尾崎康子編著　社会・情動発達とその支援（臨床発達心理士認定運営機構監修　講座・臨床発達心理学）,254-273, 文献314-318. ミネルヴァ書房. (2017)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　研究室で個人相談を行います。
個人メイルを活用します。

494900

こどもコミュニケーション特論Ⅰ

上田　　信行

授業テーマ:　こどもの創造的表現とコミュニケーション活動を活性化するためのメディアテクノロジー

授業の概要:　この授業は、「学び」「メディア」「デザイン」の3つの視点から創造的な学びとメディアテクノロジーについて考える。具体的には、MIT Media Labで開発されているこども向けコンピュータ言語Scratchを使って、受講者自らアニメーションを作成する。Scratchプログラミングを学び、その経験を通して教育的意義を吟味していく。
創造的な学びを活性化させる4Ps(Projets, Passion, Peers, Play)について学び、具体的な学びのプロジェクトを企画、実践する。

到達目標:　(1)創造的な学びとは何かを、プログラミング活動の文脈に即して説明できる。
(2)Scratchを使って、簡単なアニメーションやプレゼンテーションを作成することができる。
(3)メディアの教育的可能性について積極的に考えようとする。

授業方法:　授業はレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。コンピュータを使ってScratchのプログラミングを学ぶ。プログラミングの知識は前もって必要ないが、新しいメディアに積極的に挑戦したいという情熱が必要。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	創造的な学びのためのメディアテクノロジー −MIT Media LabのLifelong Kindergartenを例として−	MIT Media LabのLifelong KindergartenのWebsiteを参照して、彼らのヴィジョンとミッションを確認しておく。
2.	Scratchの背景となる構成主義的学習観	Lifelong KindergartenのWebsiteを参照して、構成主義的学習観を理解し、さらにScratch のWebsiteでプログラミングについてのイメージをつかんでおく。
3.	創造的、協同的、省察的思考にチャレンジする	Scratchによる創造的学びの特徴を理解し、その教育学的背景を理解する。
4.	メタ認知とディバッギング	プログラミングの学びにおける最重要概念のメタ認知とディバッギングについての理解を深めておく。
5.	Scratchプログラミング1	どんな作品を作りたいかを、ScratchのWebsiteの作品を見て、自分が挑戦したいプログラムを選ぶ。
6.	Scratchプログラミング2	簡単なプログラミングの操作を練習してみる。
7.	Scratchプログラミング3	実際に簡単な作品作りに取り組む。
8.	作品のプロトタイプのプレゼンテーションとグループディスカッション	授業後、他者の作品を見て気づいた点にもとづいて作品の改善を行う。
9.	Scratchプログラミング4	引き続き、プログラミングを行う。
10.	作品の発表会	作品(プログラム)を完成させる。
11.	Scratch Website(http://scratch.mit.edu/)の分析	ScratchのWebsiteの分析を行い、なぜ世界中のこどもたちが夢中になるかを考え、リフレクションペーパーにまとめる。
12.	Scratch Websiteへ作品をアップする	最終作品をMedia LabのScratch Siteにアップする準備をする。
13.	プログラミングを通しての学びを吟味する	プログラミングの経験を通して、どのような学びを得たのかをリフレクションペーパーにまとめる。
14.	学習科学とメディアテクノロジー	学習科学研究が教育実践に与える影響を、プログラミングだけではなく、メディアと学びの視点から考えておく。
15.	学びの未来	最終レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　プログラミングに対しての予備知識やスキルは必要ではないが、新しいメディアを使った授業に挑戦してみたいと思っている人に受講してほしい。授業は、プログラミングを例にして、その背景にある構成主義的学習観や最新の学習科学の知見をワークショップにどう活かすを考えていくものである。とてもやりがいがあるので、一緒に授業を創っていきたい。

フィードバックの方法:　グループディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プログラミングへの貢献度	30	プログラミングの過程で、どのようにステップアップしていったかを評価する。作品の完成度も評価対象になる。
プレゼンテーション	10	プレゼンテーションの内容が、プログラミングと学びのプロセスをふり返りながら行ったものであるかを評価する。
ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
最終レポート	50	ワークショップを通して実践的に経験したことを意味づけ、学びの理論と関係づけながら自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:　授業中に資料を配布する。

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる

495000

こどもコミュニケーション特論Ⅱ

上田　　信行

授業テーマ:　こどもの創造的表現とコミュニケーション活動を活性化するためのワークショップ・デザイン

授業の概要:　こどもコミュニケーション特論Iで、Scratchのプログラミングを学び、その教育的意義を吟味した。こどもコミュニケー ション特論Ⅱでは、Scratch Workshopのデザインの方法を学び、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善を行う。ワークショップのドキュメンテーション技術も同時に学ぶ。
授業では、ワークショップの全プロセスを協同でふり返り、そこでの体験を意味づけ、抽象化し、リ・デザインするという螺旋的な学びのサイクルを経験する。

到達目標:　(1)ワークショップ・デザインモデルを使って、Scratchを使ったワークショップの企画・実施・評価・改善ができる。
(2)Scratch Workshopをヴィデオで撮影し、iMovieを使ってリフレクションムービー(RTV)を作成することができる。
(3)創造的学習環境としてのScratch Workshopの教育的意義を語ることができる。

授業方法:　授業はレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みを使っ て、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。学生によるプレゼンテーションや討論を頻繁に行う。積極的な参加が必要。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ワークショップ・デザインの方法	授業後、創造的表現とコミュニケーションを活性化するためのワークショップ・デザインについて、授業でのディスカッションをもとにまとめておく。
2.	創造的、協同的、省察的な学びを創造する	春学期で学んだMIT Media LabのLifelong KindergartenのScratch Projectを創造的、協同的、省察的な学びの視点から分析してみる。
3.	ワークショップ・デザインモデル -空間・道具・活動・人(学びの共同体)-	ワークショップデザインモデルの4要素について自分の言葉で説明してみる。
4.	Scratch Workshopのゴールデザイン	Scratch Workshopを学びの文脈に位置付ける。
5.	Scratch Workshopのアジェンダデザイン	Scratch Workshopのための空間・道具・活動・人(学びの共同体)についてイメージしておく。
6.	ドキュメンテーション -ヴィデオでワークショップの準備風景を撮る-	携帯のヴィデオ機能を使い撮影の練習をしておく。
7.	ドキュメンテーション -iMovieで映像を編集する-	撮ったヴィデオ素材を確認しておく。
8.	Scratch Workshopの実施 ワークショップの様子をヴィデオで撮る	ワークショップの準備をする。
9.	Scratch Workshopのリフレクションとリ・デザイン	ワークショップのヴィデオを視聴しておく。
10.	2回目のScratch Workshopの実施 Workshopの様子をヴィデオで撮る	アジェンダを改善し、ワークショップの準備をする。
11.	2回目のScratch Workshopのリフレクション	ワークショップのヴィデオを視聴しておく。
12.	Scratch Workshopのプロモーションヴィデオ作成	2回分のドキュメンテーションヴィデオを視聴しておく。
13.	Scratch Workshopの成果発表会	成果発表会の資料を作成する。プロモーションヴィデオを完成させておく。
14.	創造的学習環境としてのScratchプロジェクトを振り返る	Scratch Workshopを振り返りながら創造的表現・学び・コミュニケーションについて考えておく。
15.	まとめ:テクノロジーと学びの未来	最終レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　学習環境デザインやワークショップデザインに興味がある人はぜひ受講してほしい。ワークショップの運営やファシリテーションの方法を学ぶことができる。コンピュータを使ったヴィデオ編集も体験できるので、積極的に授業に参加してほしい。

フィードバックの方法:　グループディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションなどを総合的に評価する。
プレゼンテーション	10	成果発表会のプレゼンテーションやリフレクションのコメントが的確であるかを評価する。
ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
最終レポート	50	ワークショップを通して実践的に経験したことを意味づけ、学びの理論と関係づけながら自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:　授業中に資料を配布する。

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

495300

国際関係特論Ⅰ

鳥潟　　優子

授業テーマ:　東アジア国際政治の考察

授業の概要:　東アジアの国際関係について、中国・朝鮮・日本を中心に学びつつ、中国革命やそれを率いた指導者の政治外交について考察する

到達目標:　東アジアの国際政治について調査研究を行い、深い議論が可能なレベルを目指す

授業方法:　毎回、報告の担当者を決め、担当者はレジュメを作成し報告を行い、ゼミで議論する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスの内容、到達目標等を熟読しておくこと
2.	東アジア国際関係の歴史①	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
3.	東アジア国際関係の歴史②	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
4.	東アジア国際関係の歴史③	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
5.	革命とナショナリズム①	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
6.	革命とナショナリズム②	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
7.	反植民地運動と東アジア国際関係①	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
8.	反植民地運動と東アジア国際関係②	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
9.	反植民地運動と東アジア国際関係③	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
10.	孫文と中華民国建国	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
11.	孫文と三民主義	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
12.	孫文と連ソ容共主義	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
13.	孫文と大アジア主義	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
14.	中国における革命思想の系譜	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
15.	まとめ	まとめを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習として、毎回、必ず指定された文献を読み込み、参考文献を各自で見つけ、それを参照しながら理解を深めることを求める。理解が不十分な事項や概念については各自十分復習を行うよう求める。

フィードバックの方法:　授業の中で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表報告	50	基礎知識、理解力とプレゼンテーションの構成力・説得力
出席	20	出席と授業への積極的参加
授業での議論などの参加態度	30	学期末にレポート提出などを総合的に評価

教科書:　適宜指示する

参考書:　必要があれば選定する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー

495400

国際関係特論Ⅱ

鳥潟　　優子

授業テーマ:　東アジア国際政治の再検討

授業の概要:　東アジアの国際関係について、中国・朝鮮・日本を中心に学びつつ、中国革命やそれを率いた指導者の政治外交について考察する

到達目標:　東アジアの国際政治について調査研究を行い、深い議論が可能なレベルを目指す

授業方法:　毎回、報告の担当者を決め、担当者はレジュメを作成し報告を行い議論する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	シラバスの内容と到達目標等を読み込むこと
2.	孫文と蒋介石	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
3.	蒋介石と日本	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
4.	毛沢東と中国共産党①	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
5.	毛沢東と中国共産党②	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
6.	抗日戦争と国共内戦①	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
7.	抗日戦争と国共内戦②	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
8.	抗日戦争と国共合作①	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
9.	抗日戦争と国共合作②	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
10.	敗戦と国共内戦	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
11.	国共内戦の帰結	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
12.	中華人民共和国の建国①	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
13.	中華人民共和国の建国②	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
14.	中華人民共和国の外交	テキストを読んで課題を調べる 発表者はレジメを作成する
15.	まとめ	まとめを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、報告の担当者を決め、担当者はレジュメを作成し報告を行い、ゼミで議論する。

フィードバックの方法:　授業中に解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表報告	50	基礎知識、理解力、プレゼンテーションの構成力・説得力
出席	20	出席と授業への積極的参加
授業での議論などの参加態度	30	学期末のレポートなど総合的に評価

教科書:　適宜指示する

参考書:　必要があれば選定する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業前後の教室内で応対及びオフィスアワー

496100

社会とこども特殊演習ＣＩ

加賀　　裕郎

授業テーマ:　John Dewey, Democracy and Educationの体系的研究

授業の概要:　Democracy and Educationは2016年に出版百周年を迎え、それを記念して世界各国で、記念出版、シンポジウム、学会などが開催された。この講義では最新の研究成果を踏まえて、同書の精密な批判的理解を行う。

到達目標:　John Dewey教育学の基本構造、Democracy and Education読解の基本を学ぶ。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション、Democracy and Education(以下DM)の成立、全体構成、最近の研究状況の紹介,研究倫理	哲学辞典、教育学辞典などでジョン・デューイの基本的知識を得ておくこと
2.	Education as a Necessity of Lifeの研究（1）	Section1の予習、指定参考論文の予習
3.	同上（2）	Section2の予習、指定参考文献の予習
4.	同上（3）	Section3の予習、指定参考文献の予習
5.	Education as a Social Functionの研究（1）	Section1の予習、指定参考文献の予習
6.	同上（2）	Section2の予習、指定参考文献の予習
7.	同上（3）	Section3の予習、指定参考文献の予習
8.	Education as Directionの研究（1）	Section1の予習、指定参考文献の予習
9.	同上（2）	Section2の予習、指定参考文献の予習
10.	同上（3）	Section3の予習、指定参考文献の予習
11.	Education as Growthの研究（1）	Section1の予習、指定参考文献の予習
12.	同上（2）	Section2の予習、指定参考文献の予習
13.	同上（3）	Section3の予習、指定参考文献の予習
14.	近年の研究の批判的検討（1）	指定参考文献の予習（1）
15.	同上（2）	同上（2）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　口頭、マナビ―

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	20%	全出席を基本とし、減点していく
プレゼンテーション	40%	内容の程度、発表の説得性
レポート	40%	論理構成、文献渉猟の程度

教科書:　John Dewey, Democracy and Education.様々な出版社から出ており、どれでもよい。

参考書:　David Hansen (ed.), John Dewey and Our Educational Prospect, State University of New York Press, 2006.
田中智志編『教育哲学のデューイ』（仮題）、東信堂、2017年（出版予定）。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　メール、研究室対応

496200

社会とこども特殊演習CⅡ

加賀　　裕郎

授業テーマ:　John Dewey, Democracy and Educationの体系的研究

授業の概要:　Democracy and Educationは2016年に出版百周年を迎え、それを記念して世界各国で、記念出版、シンポジウム、学会などが開催された。この講義では最新の研究成果を踏まえて、同書の精密な批判的検討を行う。

到達目標:　John Dewey教育学の基本構造、Democracy and Education読解の基本を学ぶ

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション　後期授業の概要説明	
2.	Preparation, Unfolding, and Formal Disciplineの研究（1）	Section1の予習、指定参考文献の予習
3.	同上（2）	Section2の予習、指定参考文献の予習
4.	同上（3）	Section3の予習、指定参考文献の予習
5.	Education as Conservative and Progressiveの研究（1）	Section1の予習、指定参考文献の予習
6.	同上（2）	Section2の予習、指定参考文献の予習
7.	同上（3）	Section3の予習、指定参考文献の予習
8.	The Democratic Conception in Educationの研究（1）	Section1の予習、指定参考文献の予習
9.	同上（2）	Section2の予習、指定参考文献の予習
10.	同上（3）	Section3の予習、指定参考文献の予習
11.	Natural Development and Social Efficiency as Aimsの研究（1）	Section1の予習、指定参考文献の予習
12.	同上（2）	Section2の予習、指定参考文献の予習
13.	同上（3）	Section3の予習、指定参考文献の予習
14.	近年の研究の批判的検討（1）	指定山王文献の予習（1）
15.	同上（2）	同上（2）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　口頭、マナビ―

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	20%	全出席を基本とした、減点
プレゼンテーション	40%	発表内容の程度、発表の説得性
レポート	40%	論理構成、文献渉猟の程度

教科書:　John Dewey, Democracy and Education。様々な出版社から出ており、どれでもよい。

参考書:

R. D. Archambault (ed.), John Dewey on Education, The University of Chicago Press, 1974.

C. G. Jorgensen, Discovering John Dewey in the Twentieth-First Century, Palgrave MacMillan, 2017.

L. J. Waks and Andrea R. English (ed.), John Dewey's Democracy and Education: A Centennial Handbook, Cambridge University Press, 2017.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　メール、研究室対応

496300

現代社会システム特殊演習ＤＩ

日下　　菜穂子

授業テーマ:　情動・感情発達の理解

授業の概要:　感情は、人の行動の動機づけと相互に関連している。本講義では、感情と動機づけを中心に、その生涯にわたる発達の様相を概説する。さらに、感情研究の先行研究の文献講読により、情動・感情発達の理論に基づく心理的介入のあり方について考究する。

到達目標:　情動・感情の基本的な概念を理解し、その発達的変化を環境・社会の相互作用を含み包括的に捉えることができる。
情動・感情の発達研究の具体的な方法について理解し、説明することができる。

授業方法:　主には文献講読、発表を中心に授業を進行し、基本的な概念については講義形式で概説する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・文献紹介	文献講読
2.	感情とは	文献講読
3.	感情と動機づけ	文献講読
4.	感情と動機づけの発達	文献講読・発表準備
5.	感情の研究（研究法）	文献講読・発表準備
6.	感情の研究（研究計画）	文献講読
7.	感情発達の論文検索・収集	文献収集
8.	青年期の感情発達研究	文献講読・発表準備
9.	成人期の感情発達研究	文献収集
10.	感情の生涯発達研究	文献講読・発表準備
11.	感情の加齢変化	文献収集
12.	高齢期の感情発達	文献購読・発表準備
13.	感情発達研究の実際	研究計画案作成
14.	感情発達研究計画発表	文献講読
15.	全体総括	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講者には、毎週の文献講読および発表準備の課題を提示します。

フィードバックの方法:　購読・発表について授業時間内のコメントにより評価をフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	出席状況、授業への参加度
レポート	50	情動・感情の基本理論の理解度、感情の発達的変化や感情研究の方法を論理的に説明できるかを評価します。

教科書:　上淵寿共著、感情と動機づけの発達心理学、ナカニシヤ出版

参考書:　Lang,F.R. & Fingerman,K.L. (Eds), Growing Together, Cambridge University Press.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール

496400

現代社会システム特殊演習ＤⅡ

日下　　菜穂子

授業テーマ:　情動・感情発達の理解に基づく心理的介入を学ぶ

授業の概要:　感情は、人の行動の動機づけと相互に関連している。本講義では、感情と動機づけを中心に、その生涯にわたる発達の様相を理解する。また研究論文の購読により、情動・感情発達の理解に基づく心理的介入の方法のあり方について理解する。

到達目標:　情動・感情の基本的な概念を理解し、その発達的変化を環境・社会の相互作用を含み包括的に捉えることができる。
情動・感情発達の理解に基づく心理的介入の方法を説明することができる。

授業方法:　主には、受講生の文献講読、発表を中心に授業を進行し、基本的な概念については講義形式で概説する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	心の働き	文献講読
2.	発達の諸理論（発達段階論）	文献講読
3.	学習と記憶の発達	文献講読
4.	新生児の認知能力	文献講読・発表準備
5.	乳児期の認知発達	文献講読・発表準備
6.	幼児期の認知発達	文献講読
7.	学童期の認知発達	文献講読
8.	加齢にともなう認知機能の変化	文献講読・発表準備
9.	情動の機能主義的理解	文献講読
10.	情動とコミュニケーション	文献講読・発表準備
11.	情動制御	文献講読
12.	情動発達と文化	文献講読・発表準備
13.	情動の生涯発達	文献講読
14.	心の理論	文献講読
15.	全体総括	まとめレポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講者には、毎週の文献講読および発表準備の課題を提示します。

フィードバックの方法:　購読・発表について授業時間内のコメントにより評価をフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	出席状況、授業への参加度
レポート	50	情動・認知の基本理論の理解度、認知機能の発達的変化や情動の研究方法を論理的に説明できるかを評価します。

教科書:　上淵寿共著、感情と動機づけの発達心理学、ナカニシヤ出版

参考書:　Lang,F.R. & Fingerman,K.L. (Eds), Growing Together, Cambridge University Press.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール

496500

国際交流と社会システム特殊演習ＡＩ

藤原　　孝章

授業テーマ:　日本の国際理解教育とその背景の研究

授業の概要:　日本の国際理解教育について、日本国際理解教育学会が編纂した出版物をとおして、理念や考え方、カリキュラムや授業単元を検証する

到達目標:　国際理解教育の理念や考え方、カリキュラムや授業単元の検討をとおして、国際理解教育の内容と方法および市民性育成の論理と実践にかんする知識理解を深める

授業方法:　テキストに関する講義、購読レポート

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	特になし
2.	国際理解教育の景観、関連諸教育（概論）	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
3.	国際理解教育と地域社会	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
4.	国際理解教育と教師の育成	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
5.	キーコンピテンシーと国際理解教育	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
6.	ユネスコ理念、ユネスコ協同学校と国際理解教育の歩み	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
7.	国際理解教育の目標と内容構成、カリキュラム開発の先行実践	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
8.	国際理解教育の学力と評価、教材と教具	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
9.	参加型学習の創造とリフレクション	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
10.	国際理解教育の実践とその展望	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
11.	国際理解教育の実践（小学校の場合）	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
12.	国際理解教育の実践（中学校の場合）	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
13.	国際理解教育の実践（高等学校の場合）	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
14.	国際理解教育の国際動向（東アジア、欧米）	教科書・参考文献の熟読、レポート作成
15.	総括・まとめ	教科書・参考文献の熟読、レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書の熟読と毎回レポートを課す

フィードバックの方法:　レポートへのコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業、議論への参加度	25	積極的に取り組んでいるか
毎回レポート	25	積極的に取り組んでいるか
最終レポート	50	授業目標に到達しているか

教科書:　日本国際理解教育学会編（2015）『国際理解教育ハンドブック』明石書店

参考書:
日本国際理解教育学会編（2010）『グローバル時代の国際理解教育―実践と理論をつなぐ―』明石書店
日本国際理解教育学会編（2012）『現代国際理解教育事典』明石書店
藤原孝章（2016）『グローバル教育の内容編成に関する研究-グローバルシティズンシップの育成をめざして―』風間書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　e-mail

496600

国際交流と社会システム特殊演習ＡⅡ

藤原　　孝章

授業テーマ:　持続可能な開発のための教育とその背景の研究

授業の概要:　グローバル教育や開発教育について、テキストの購読を通して、その理念や考え方、教育実践を検討する。

到達目標:　開発教育の理念や考え方、カリキュラムの検討をとおして、持続可能な開発のために教育の内容と方法および市民性育成の論理と実践に関する理解を深める。

授業方法:　テキストに関する講義、購読レポート

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	特になし
2.	開発教育の歴史と理論	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
3.	開発教育の内容・方法・カリキュラム	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
4.	地域における開発教育の展開	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
5.	ＭＤＧからＳＤＧへ	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
6.	さまざまな開発論	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
7.	環境問題とESD	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
8.	国際協力	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
9.	貧困と格差	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
10.	持続可能な生産と消費	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
11.	紛争と平和	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
12.	災害と開発	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
13.	子どもと若者、ジェンダー	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
14.	人の移動	教科書、参考文献の熟読、レポート作成
15.	これからの世界と私たち（総括とまとめ）	教科書、参考文献の熟読、レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書の熟読と毎回レポートを課す

フィードバックの方法:　レポートへのコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業、議論への参加度	２５	積極的に取り組んでいるか
毎回レポート	２５	積極的に取り組んでいるか
最終レポート	５０	授業目標に到達しているか

教科書:　田中治彦・三宅隆史・湯本浩之編『SDGsと開発教育－持続可能な世界のための教育』学文社

参考書:
開発教育推進セミナー編（1999）『新しい開発教育のすすめ方―地球市民を育てる現場から―』古今書院
藤原孝章（2016）『グローバル教育の内容編成に関する研究-グローバルシティズンシップの育成をめざして－』風間書房
藤原孝章『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」―多文化共生社会ニッポンの学習課題』明石書店、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　e-mail

496900

国際交流と社会システム特殊演習ＣＩ

長岡　　延孝

授業テーマ:　グルーバル化する経済活動と環境保護との両立を目指して、現代社会の持続可能な発展の条件を探求する。

授業の概要:　良好な地球環境は、現代社会経済がそれに基づいて繁栄しながら人間の暮らしを豊かにするものであるし、また次世代が存続するにあたって重要な基盤をなしている。しかし、残念ながらこれまでの経済発展は、その基盤を掘り崩してきた。日本は経済発展を遂げる過程において、企業の生産過程で激甚公害を生み出し、広範な放射能汚染も引き起こしてしまった。こうした厳しい事実を踏まえ、人類が経済社会を存続させるための条件はどのようなもなのかを考察し、明らかにする必要がある。

そのためにまず、人間の経済活動による環境負荷に関して、公害の時代から地球環境の時代までをふり返る。そして、環境問題のグローバル化やエネルギー・資源問題を受け、循環型社会の構築に向けてどの様な政策や制度、あるいは企業経営が必要なのかについて多方面に考察・分析し、理解を深める

到達目標:　グローバル社会が取り組まねばならない環境問題について、理解と分析力を養うことによって、世界を視野に入れたビジネスパーソンの基礎力の養成を目標としている。

授業方法:　講義の形式で行い、ビデオやプリント等の教材を適宜使用する。また授業内容にかんする意見・感想を求め、議論を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
2.	環境保護主義の誕生と発展	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
3.	公害による被害と対策	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
4.	レイチェル・カーソンの環境保護思想と人工化学物質	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
5.	公害からグローバル環境問題へ	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
6.	企業の対応(1)：環境イノベーションの促進	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
7.	企業の対応(2)：環境マネジメントの展開	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
8.	地球環境問題への対応：京都議定書の気候政策	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
9.	生物多様性と経済：ABS名古屋議定書とCBD戦略計画	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
10.	循環型社会の制度と政策形成	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
11.	エコタウンとゼロエミッション：エコロジー的産業共生の構築	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
12.	エネルギーと環境問題（1）	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
13.	エネルギーと環境問題（2）	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
14.	サステイナブル都市のデザイン：交通と都市環境	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと
15.	持続可能な社会とは	配布資料（またはmanabi掲載資料）をあらかじめ読んでおくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　グローバルな環境問題やローカルな公害について、正しい理解をして対処法を考えてほしい。

フィードバックの方法:　感想、意見、質問に対してコメントし、議論を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	課題を適切に設定し、資料を理解・整理し、論理的に主張を行っているか。

教科書:　長岡延孝編『サステナビリティの政策と経営』晃洋書房。

参考書:　長岡延孝『「緑の成長」の社会的ガバナンス』ミネルヴァ書房。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール

497000

国際交流と社会システム特殊演習ＣⅡ

長岡　　延孝

授業テーマ:　先進的な経済政策を学ぶことを通じて、グローバルな問題を理解し、現代経済の展開について考察する。

授業の概要:　欧米や日本の経済政策を中心に解説し、そこからどのような点が学べるのかを考えながら授業を行う。できれば新興国など世界の経済政策にも言及する。
世界の市場システムは多様であり、自由主義型、国家主導型、社会的市場型などに分けられるが、それぞれの特徴にも配慮する。
最後に、グローバル経済における経済政策についても解説する。

到達目標:
1　先進的な経済政策を理解することによって、新聞やビジネス情報を分析し、ビジネスパーソンとして活躍できる基礎を養うこと。
2　国際社会の諸課題について正しく理解し、問題を探求、議論し、レポートを書くことができる。

授業方法:　基本的に講義の形式で進め、議論しながら進める。適宜、ビデオやプリント等の教材を使用する。2回報告していただく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
2.	望ましい経済システムを考える	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
3.	資本主義における政府の役割	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
4.	イギリスの経済政策：戦後からブレグジットへ	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
5.	イギリスの福祉国家と新自由主義的政策	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
6.	米国の経済政策：大きな政府と小さな政府	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
7.	米国の経済政策：トランプ政権と日本	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
8.	日本の経済政策：産業政策と経済発展	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
9.	日本の経済政策：安倍政権の政策	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
10.	ドイツの経済政策：社会的市場経済	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
11.	フランスの経済政策：国家介入と市民生活	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
12.	ドイツの経済政策：環境と経済	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
13.	福祉国家の経済政策	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
14.	グローバル経済における経済政策	配布したプリント（またはmanabi掲載資料）を読んでおくこと
15.	まとめ	講義全体を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　新聞や報道番組に接して、経済社会の動きに関心を持ってもらいたい。

フィードバックの方法:　授業での感想や意見について、コメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	100	課題にかんして正しく理解し、自分の考えを持っているか。また、それらを解りやすく論述しているか。

教科書:

参考書:
田中素香ほか『現代ヨーロッパ経済』有斐閣。
熊谷徹『あっぱれ技術大国ドイツ』新潮社。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール

497100

国際交流と社会システム特殊演習ＤＩ

大西　　秀之

授業テーマ:　文化人類学による異文化理解の実践

授業の概要:　グローバル化が進む現代社会では、国境や地域を超えて異文化の接触・混合が進んでいます。この結果、わたしたちの身の回りの社会現象にも異文化が深く関係するようになり、その理解が不可欠になっています。
以上を考慮に入れ、本演習では、文化人類学による異文化理解の視点と方法を検討します。こうした検討を通して、本演習では、グローバル化が進むなかで複雑化・複合化する様々な社会現象を読み解くためのリテラシー（分析力・読解力）として、異文化理解を学ぶ意義を追究し身につけて行きたいと考えています。

到達目標:
・文化人類学に基づく異文化理解を習得する。
・「批判力」と「多角的視点」に基づくテキストの読解力を身に付ける。

授業方法:
演習形式
・受講生の数によりますが、テキスト講読と質疑・討論による演習形式を予定しています。
・各回テーマとテキストを選定します。
・受講生の希望があれば、野外実習も行う予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	文化人類学による異文化理解	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	異文化理解の方法Ⅰ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	異文化理解の方法Ⅱ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	異文化理解の方法Ⅲ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	ライフスタイルを考える	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	家族・親族を考える	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	エスニシティを考える	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	ジェンダーを考える	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	世界観を考える	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	宗教・儀礼を考える	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	死生観を考える	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	経済・交換を考える	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	政治・権力を考える	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

	15. 全体総括	各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本演習の受講生には、自らの視点で社会現象を読み解き、固定観念にとらわれない新たな知見や理解を得ることを期待します。

フィードバックの方法:

・各回のディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
討論	30%	討論は、到達目標である「文化人類学に基づく異文化理解」に基づいているか評価します。加えて、到達目標である「批判力」と「多角的視点」からなされているかも評価します。
授業への参加度	70%	到達目標を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

米山俊直(編)『文化人類学を学ぶ人のために』世界思想社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、思いやる力、理論的思考

教員との連絡方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

497200

国際交流と社会システム特殊演習ＤⅡ

大西　　秀之

授業テーマ:　文化人類学で読み解く国際社会の諸問題

授業の概要:　国内外を問わず、現代社会に暮らすわれわれは、経済格差、環境問題、民族対立、科学倫理、人権侵害、地域間紛争など実にさまざまな諸問題に直面しています。また、こうした問題の多くは、今日のグローバル化によって複雑化し解決がますます困難になっています。
以上の課題を考慮に入れ、本演習では、世界のさまざまな地域・社会における諸問題を対象とした文化人類学的研究を取り上げ検討を行います。とくに、本演習では、具体的な社会問題に直面している現地の人びとの視点に立った理解を深めることを目指します。このような考察を通して、現代社会の諸問題の本質を理解するとともに、文化人類学的な視点や方法についても積極的に考察を加える予定です。

到達目標:
・国際社会の諸問題を理解する上で有効な文化人類学の視点・方法論を習得する。
・「批判力」と「多角的視点」に基づくテキストの読解力を身に付ける。

授業方法:
演習形式
・受講生の数によりますが、テキスト講読と質疑・討論による演習形式を予定しています。
・各回テーマとテキストを選定します。
・受講生の希望があれば、野外実習も行う予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	社会問題と文化人類学	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	経済発展を考えるⅠ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	経済発展を考えるⅡ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	政治課題を考えるⅠ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	政治課題を考えるⅡ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	宗教問題を考えるⅠ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	宗教問題を考えるⅡ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	民族対立を考えるⅠ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	民族対立を考えるⅡ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	環境問題を考えるⅠ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	環境問題を考えるⅡ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	地域紛争を考えるⅠ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。

14.	地域紛争を考えるⅡ	事前に資料・テキストを配布する予定ですので、それを確認し関連する情報や知識を調べ準備をしておいてください。毎回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	全体総括	各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講義の受講生は、日頃から国際社会の諸問題に関連する新聞報道やTVニュースなどのメディア情報をチェックしておくようにしておいてください。

フィードバックの方法:

・各回のディスカッション後にアドバイスや評価を行います。
・最終回に、各受講生に対して総評と評価を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
討論	30%	討論は、到達目標である「国際社会の諸問題を理解する上で有効な文化人類学の視点・方法論」に基づいているか評価します。加えて、到達目標である「批判力」と「多角的視点」からなされているかも評価します。
授業への参加度	70%	到達目標を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席と発言を必須とします。

教科書:

参考書:

米山俊直(編)『現代人類学を学ぶ人のために』世界思想社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、理論的思考

教員との連絡方法:

オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。
また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

497300

国際経済特論Ⅰ

大倉　　真人

授業テーマ:

授業の概要:　国際経済にかかる諸問題について論じる。

到達目標:　国際経済についての基礎的知識の修得を目標に掲げる。具体的には、貿易にかかる理論と政策などについて論じる。

授業方法:　授業参加者が教科書の各章の内容にかかる発表（レジメを作成しての発表）を行い、担当教員がそれに対してコメントする形で授業を進める

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	国際経済学って何を扱うの？（教科書第1章）	「ガイダンス」の内容に対する理解 発表用レジメの作成
3.	世界貿易の概観（教科書第2章）	「国際経済学って何を扱うの？」に対する理解 発表用レジメの作成
4.	労働生産性と比較優位：リカードのモデル（教科書第3章）	「世界貿易の概観」に対する理解 発表用レジメの作成
5.	特殊要素と所得分配（教科書第4章）	「労働生産性と比較優位：リカードのモデル」に対する理解 発表用レジメの作成
6.	資源と貿易：ヘクシャー＝オリーン・モデル（教科書第5章）	「特殊要素と所得分配」に対する理解 発表用レジメの作成
7.	標準貿易モデル（教科書第6章）	「資源と貿易：ヘクシャー＝オリーン・モデル」に対する理解 発表用レジメの作成
8.	規模の外部経済と生産の国際立地（教科書第7章）	「標準貿易モデル」に対する理解 発表用レジメの作成
9.	グローバル経済の企業：輸出判断、アウトソーシング、多国籍企業（教科書第8章）	「規模の外部経済と生産の国際立地」に対する理解 発表用レジメの作成
10.	貿易政策のルール（教科書第9章）	「グローバル経済の企業：輸出判断、アウトソーシング、多国籍企業」に対する理解 発表用レジメの作成
11.	貿易政策の政治経済（教科書第10章）	「貿易政策のルール」に対する理解 発表用レジメの作成
12.	発展途上国の貿易政策（教科書第11章）	「貿易政策の政治経済」に対する理解 発表用レジメの作成
13.	貿易政策をめぐる論争（教科書第12章）	「発展途上国の貿易政策」に対する理解 発表用レジメの作成
14.	総括（その1）	総括にかかる準備など
15.	総括（その2）	総括にかかる準備など

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中に実施する発表について、個別にコメント等するなどを通じて、フィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中の発表	50	到達目標に掲げた国際経済についての基礎的知識が修得されたかを評価する。
最終レポート	30	到達目標に掲げた国際経済についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなどによって、国際経済についての基礎的知識を得たかを評価する。

教科書:　P.R.クルーグマン・M.オブストフェルド・M.J.メリッツ（著）、山形浩生・守岡桜（訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原著第10版）　上 貿易編』丸善出版、2017年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

497400

国際経済特論Ⅱ

大倉　　真人

授業テーマ:

授業の概要:　国際経済にかかる諸問題について論じる。

到達目標:　国際経済についての基礎的知識の修得を目標に掲げる。具体的には、金融にかかる理論と政策などについて論じる。

授業方法:　授業参加者が教科書の各章の内容にかかる発表（レジメを作成しての発表）を行い、担当教員がそれに対してコメントする形で授業を進める

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスに書かれている内容に対する理解
2.	国民所得計算と国際収支（教科書第13章）	「ガイダンス」の内容に対する理解 発表用レジメの作成
3.	為替レートと外国為替市場：アセットアプローチ（教科書第14章）	「国民所得計算と国際収支」に対する理解 発表用レジメの作成
4.	貨幣、金利、為替レート（教科書第15章）	「為替レートと外国為替市場：アセットアプローチ」に対する理解 発表用レジメの作成
5.	物価水準と長期的な為替レート（教科書第16章）	「貨幣、金利、為替レート」に対する理解 発表用レジメの作成
6.	短期的な産出と為替レート（教科書第17章）	「物価水準と長期的な為替レート」に対する理解 発表用レジメの作成
7.	固定為替レートと外国為替介入（教科書第18章）	「短期的な産出と為替レート」に対する理解 発表用レジメの作成
8.	小括（その１）（第13章から第18章までの内容）	小括にかかる準備など
9.	国際通貨システム：歴史のおさらい（教科書第19章）	「固定為替レートと外国為替介入」に対する理解 発表用レジメの作成
10.	金融のグローバル化：機会と危機（教科書第20章）	「国際通貨システム：歴史のおさらい」に対する理解 発表用レジメの作成
11.	最適通貨圏とユーロ（教科書第21章）	「金融のグローバル化：機会と危機」に対する理解 発表用レジメの作成
12.	発展途上国：成長、危機、改革（教科書第22章）	「最適通貨圏とユーロ」に対する理解 発表用レジメの作成
13.	小括（その２）（第19章から第22章までの内容）	小括にかかる準備など
14.	総括（その１）	総括にかかる準備など
15.	総括（その２）	総括にかかる準備など

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中に実施する発表について、個別にコメント等するなどを通じて、フィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中の発表	50	到達目標に掲げた国際経済についての基礎的知識が修得されたかを評価する。
最終レポート	30	到達目標に掲げた国際経済についての基礎的知識に関する理解度により評価する。
授業への参加度	20	積極的に議論に参加するなどによって、国際経済についての基礎的知識を得たかを評価する。

教科書:　P.R.クルーグマン・M.オブストフェルド・M.J.メリッツ（著）、山形浩生・守岡桜（訳）『クルーグマン国際経済学 理論と政策（原著第10版） 下 金融編』丸善出版、2017年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　教員のメールアドレス：mokura@dwc.doshisha.ac.jp

497500

現代社会システム特殊演習ＥＩ

天野　　太郎

授業テーマ:　京都地域の総合的研究、地域の活性化の総合的研究

授業の概要:　地域研究を行ううえで、以下の３点に主眼をおいて研究を行う。
①京都地域の成立、展開に関する地域研究
②観光地域の現状と課題に関する研究
③様々な地域における活性化・まちづくりに関する地域研究

到達目標:
１:地域の環境・社会の相互作用を含み包括的に捉えることができる。
２:社会、地域の問題解決に対して、総合的な視野から取り組むことができる。
３:研究報告・レポート作成をまとめることができる。

授業方法:　主として演習形式で進める。受講生の発表を中心に授業を進行し、また受講生の課題選定や展開によって、フィールドワークを併用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　地域の諸課題の検討	文献講読
2.	地域の総合的研究	文献講読
3.	研究課題・対象地域の検討と報告	PPTなどプレゼンテーションの準備
4.	対象地域の基礎調査法	総務省統計類の事前準備
5.	地域研究の実例　空間情報GISの技能1	PC　データの準備
6.	地域研究の実例　空間情報GISの技能2	PC データの準備
7.	歴史的地域情報の分析	絵図・古地図の分析
8.	フィールドワーク②	地域情報の整理
9.	フィールドワーク②	地域情報の整理
10.	フィールドワーク②	地域情報の整理
11.	定性データの分析と多変量解析	PCデータの整理
12.	先行研究との対比・検討	先行研究の収集・分析
13.	論理展開の検証	文献講読
14.	中間研究レポートの報告	研究レポート報告の準備
15.	全体総括	まとめ　研究レポート提出と講評

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講者には、各自のテーマおよび地域の選定を求めます。

フィードバックの方法:　発表について授業時間内のコメントにより評価をフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	出席状況、授業への参加度
中間研究レポート	50	地域研究の方法・成果を論理的に説明できるか到達目標1～3を中心に評価します。

教科書:　特に指定しない。テーマと必要に応じて学会論文を指示する。

参考書:　特に指定しない。テーマと必要に応じて学術雑誌・学会論文を指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　研究室（知徳館C354)での直接面談を基本とし、メールを適宜使用する。

497600

現代社会システム特殊演習ＥⅡ

天野　　太郎

授業テーマ:　京都地域の総合的研究、地域の活性化の総合的研究

授業の概要:　地域研究を行ううえで、以下の３点に主眼をおいて研究を行う。
①京都地域の成立、展開に関する地域研究
②観光地域の現状と課題に関する研究
③様々な地域における活性化・まちづくりに関する地域研究

到達目標:　地域の環境・社会の相互作用を含み包括的に捉えることができる。
社会、地域の問題解決に対して、総合的な視野から取り組むことができる。
研究報告・レポート作成をまとめることができる。

授業方法:　主として演習形式で進める。受講生の発表を中心に授業を進行し、また受講生の課題選定や展開によって、フィールドワークを併用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域の総合的研究と中間報告の再検討	文献講読
2.	地域の総合的研究	文献講読
3.	研究課題の中間報告発表１	PPTなどプレゼンテーションの準備
4.	研究課題の中間報告発表２	PPTなどプレゼンテーションの準備
5.	地域研究の実例　空間情報GISの技能１	PC　データの準備
6.	地域研究の実例　空間情報GISの技能２	PC データの準備
7.	歴史的地域情報の分析	絵図・古地図の分析
8.	フィールドワーク②	地域情報の整理
9.	フィールドワーク②	地域情報の整理
10.	フィールドワーク②	地域情報の整理
11.	定性データの分析と多変量解析	PCデータの整理
12.	文化地理・社会地理の動向	文献講読・発表準備
13.	論理展開の検証	文献講読
14.	研究レポートの報告	研究レポート
15.	全体総括	まとめ　研究レポート提出と講評

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講者には、各自のテーマおよび地域の選定を求めます。

フィードバックの方法:　発表について授業時間内のコメントにより評価をフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	50	出席状況、授業への参加度
研究レポート	50	地域研究の方法・成果を論理的に説明できるかを評価します。

教科書:　特に指定しない。テーマと必要に応じて学会論文を指示する。

参考書:　特に指定しない。テーマと必要に応じて学術雑誌・学会論文を指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　研究室（知徳館C354)での直接面談を基本とし、メールを適宜使用する。

500100

データベース概論

伊藤　　泰子

授業テーマ:
データベースの構築演習を通して、基礎知識・操作技術・構築能力を身につける。

授業の概要:
現在、多くの情報が「データ」としてコンピュータ上に収集され、利用されている。これらのデータを蓄積し、管理するための技術がデータベースである。日常的に利用する情報技術の多くの場面で、我々はデータベースを使っている。
データベース管理システムとしてFileMakerを使用し、データベースの基礎理論、設計、操作を学ぶ。
最終課題として小規模なデータベースの構築演習を行い、確かな技術を習得する。

到達目標:
・データベースの機能を理解する
・FileMakerの操作ができる
・データベースシステムの設計及び作成ができる

授業方法:
ノート型コンピュータを使用し、講義と演習を交えた授業を行う。
必ず、各自のノート型コンピュータを持参すること。
（特に、初回授業でFileMakerのインストールを行うので忘れないこと。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　データベースとは、データベースの利用	授業概要の理解
2.	データベースの作成、テーブル作成、フィールドの定義	データベースの構成要素を理解
3.	検索	次回の小テストに向けて検索機能の復習をしておく
4.	ソート、復習演習	復習演習を完成させておくこと
5.	レイアウトの基本	
6.	レイアウトの応用、パート操作	復習のための宿題を出題
7.	ボタンとスクリプト	
8.	計算・集計	復習のための宿題を出題
9.	関数の利用	
10.	リレーションの設定と活用	
11.	復習演習	総合復習演習で理解度を確認
12.	データベースの設計	構築するデータベースのテーマを決めておく
13.	課題作成　データベースの設計	
14.	課題作成　データベースの構築	
15.	課題作成　データベースの構築	

受講者へのメッセージやアドバイス:
データベースの構築を通じて、ユーザーを意識したシステム作りを学ぼう。

フィードバックの方法:
提出した課題や宿題は、授業内で解説します。
授業外では、メールで質問等を受け付けます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加	30	積極的に授業に参加し、演習するDBが作成できたかを評価
宿題・小テスト	30	宿題の作成物の完成度やDBの知識、理解度に応じて評価
課題	40	学習した内容を踏まえて作成したDBの機能性・操作性に応じて評価

教科書:
使用しない

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
マナビ―の掲示板機能、Eメール（yito@dwc.doshisha.ac.jp ）、授業の前後に教室内で対応

500201、02

ネットワーク概論

余田　　義彦

授業テーマ:　インターネットの理論的基礎と有効な活用法をユーザの立場で学ぶ

授業の概要:　ネットは私たちの暮らしや仕事のあり方を大きく変えてきました。この授業では、家の中や大学・企業内などのネットワーク（LAN）やインターネットの理論的基礎と有効な活用法をユーザの立場で学びます。

到達目標:
①【知識・理解】LANやインターネットのしくみと主な活用法を例をあげて説明できる。
②【関心・意欲・態度】情報の信頼性やセキュリティ、著作権を意識してネットワークを活用できる。
③【表現・技能・能力】Webやデータベースを問題解決のために効果的に利用できる。

授業方法:　授業は授業支援システム「マナビー」を使い、講義と実習を組み合わせるかたちで行います。実習にはアクティブラーニングとして、グループで行う学習活動（協働学習）やweb教材を使用する個別学習を取り入れます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、Wi-Fi接続	
2.	電子メールの使い方と基本的なマナー	小課題
3.	（糸電話を使って考える）ネットワークがつながる仕組み	
4.	（糸電話を使って考える）インターネットがつながる仕組み	小課題
5.	（マジックを使って考える）ネットで情報が送れる仕組み	小課題
6.	Web検索の基礎知識とテクニック	小課題
7.	情報の信頼性や著作権を考慮したインターネット情報の活用	中間課題（協同学習）
8.	オンラインデータベースの活用	小課題
9.	ネットワークセキュリティ	小課題
10.	ホームページを作ろう－１	
11.	ホームページを作ろう－２	
12.	ホームページを作ろう－３	最終課題（個別学習）
13.	ホームページを作ろう－４	最終課題（個別学習）
14.	ホームページを作ろう－５	最終課題（個別学習）
15.	学習のまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、学科貸与のノートパソコン（MacBookAir）を使いますので、初回から忘れずに持参してください。付属のUSB EthernetアダプタとACアダプタも忘れないでください。

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
参加姿勢（振り返りを含む）	20	到達目標①②の達成度を評価します。
小課題	20	到達目標①②の達成度を評価します。
課題	60	到達目標②③の達成度を評価します。 ※詳細についてはマナビーのコンテンツ「ガイダンス」に掲載します。

教科書:

参考書:　授業の中で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（ yyoden@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

500300

情報倫理

松田　　昌史

授業テーマ:

授業の概要:

デジタル方式にもとづいた様々な情報技術が、20世紀末から21世紀初頭にかけて社会のなかに浸透し、私たちの生活を変化させつつある。しかし、情報技術は人々に利益だけではなく、不利益をもたらすこともある。多くの人々が互いに影響しあう現代社会において、利害の調整は重要な課題である。人々の対立を未然に防ぐための一つの方略は、各人が規範や倫理に従って行動することである。

本授業の基本的目標は、現代を生きる私たちが有するべき情報倫理の概要を把握することとする。

一方で、倫理や規範は時代や文化によって変化しうる。これからの社会を担う受講生諸君には、既存の倫理や規範を再考し、自由と責任のもとに社会情勢に即した倫理を再構築する能力や意欲を獲得してもらいたい。これが本授業の応用的目標である。

到達目標:

情報倫理における基本的な知識を習得すること。
自律的で柔軟な考えに基づき、社会の問題に対して主体的に関わり、問題解決を導く意欲を持つこと。
情報を的確に収集・編集・発信・評価できる能力を獲得すること。

授業方法:

講義を中心とする。ただし、受講生が能動的に講義へ参加できるよう、受講生が発言し、ディスカッションを行う機会を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス: 講義内容の概要	本授業のシラバスを熟読しておくこと。
2.	情報社会の光と影	過去1ヶ月の間のマスコミ報道、もしくは自身の経験について、情報社会の利益と不利益についてそれぞれまとめておくこと。
3.	情報とメディア	「情報」と「メディア」の意味をそれぞれ調べておくこと。
4.	個人情報	授業担当者の個人情報の収集を試みよ。収集した情報を悪用する手口をシミュレーションし、その防止策を考案せよ。
5.	知的財産権	これまでの授業でどのような知的財産権が使用されていたか考えよ。また、知的財産権の侵害があったとすれば、それを指摘せよ。
6.	倫理と法令遵守	不適切な情報利用について法律で罰せられるものにはどのようなものがあるか。罰則はなにか調べよ。
7.	ユニバーサルデザイン	自宅から教室に来るまでの間に、自分もしくは他者にとって利用しにくい設備や掲示物にはどのようなものがあったか。問題を指摘し、その解決策を考えよ。
8.	インターネットと情報倫理	過去1ヶ月の間に、見聞きしたインターネット上での倫理違反を挙げよ。
9.	リテラシー、モラル、マナー	インターネット利用のマナーにおいて、あなたが最もバカバカしいと思うものを挙げよ。そのマナーは今後も維持されるべきか否かを理由とともに考えておくこと。
10.	学問と情報倫理	学術書を何か1冊取り上げ、その書籍の中で引用がどのように行われているか調べておくこと。
11.	社会生活と情報倫理	性差別や人種差別は情報倫理の範疇か否か、自身の考えをまとめておくこと。
12.	自由と規制	過去1ヶ月の間に、インターネット上もしくは友人知人との交流の中で自分の自由が制限された例を挙げよ。その制限は正当だったか不当だったか考えをまとめること。
13.	セキュリティ	BOHPV UPLFSV LBOB
14.	情報社会の光と影 (reprise)	過去1ヶ月の間のマスコミ報道、もしくは自身の経験について、情報社会の利益と不利益についてそれぞれまとめること。その上で、第2回の時と観点が変わったかどうか振り返ること。
15.	情報倫理の総括と今後	授業全体で最も印象に残っている話題一つと、最も理解できなかった話題一つを挙げておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	75	情報倫理について理解度、また情報倫理をめぐる独自の視点の構築を基準とする。
授業への参加度	25	積極的に授業に参加し、情報倫理をめぐる独自の視点を形成できるようになったかを評価する。

教科書:

参考書:

情報教育学研究会・情報倫理教育研究グループ(編)、『インターネットの光と影 Ver.6』、北大路書房、2018年
高橋慈子、原田隆史、佐藤翔、岡部晋典『情報倫理――ネット時代のソーシャル・リテラシー』、技術評論社、2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、E メールを利用、授業の前後に教室内で応対

500400 **情報数学**

日置　　尋久

授業テーマ:　情報の表現とその特徴を数学的な観点から学ぶ

授業の概要:　情報化社会といわれる現代においては日々大量の情報がコンピュータによって処理されネットワークを介してやりとりされている. さてコンピュータによって扱われている情報とは何だろうか. どのような情報がどのような目的でどのように表現されるのだろうか. この授業では, 情報の表現の特徴を数学的な観点から理解することを目標として, 情報理論, 符号理論, 暗号理論にまつわるトピックを取りあげ, とくにコンピュータでの情報表現に基盤をおいて, その基礎を概説する.

到達目標:
情報を効率的に表現するための仕組みを理解する.
情報のデータ表現の信頼性を高める仕組みを理解する.
情報のデータ表現に秘匿性を与える仕組みを理解する.
情報とそのデータ表現を区別してとらえる思考力を身につける.
情報のデータ表現の性質を数学的にとらえる思考力を身につける.

授業方法:　基本的に講義により授業を進める. 授業中に理解を深めるために演習にも適宜取り組む. また原則として毎回授業への質問・コメントの提出を求める.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション, 情報とデータ	授業でとりあげる「情報」と「データ」の意味付けを授業後によく振り返っておくこと.
2.	数値のデータ表現	数値を表現するさまざまな方法, とくに2進法(位取り記法)について予習し, 授業後に復習すること
3.	文字のデータ表現	文字情報の番号によるデータ表現, また字形のデータ表現について予習し, 授業後に復習すること
4.	画像のデータ表現	アナログとデジタルの意味, デジタル画像の表現, デジタル化の原理(標本化と量子化)について予習し, 授業後に復習すること
5.	情報を効率よく表現する(1) – 情報の符号化	情報源から得られる記号列を別の記号列で表現する方法の基本, とくに瞬時符号, 符号木による符号の表現について予習し, 授業後に復習すること
6.	情報を効率よく表現する(2) – 符号化の効率を測る	符号の効率を表す指標として, 記号の出現確率を用いて定義される平均符号長について予習し, 授業後に復習すること
7.	情報を効率よく表現する(3) – 効率のよい符号化方法	ハフマン符号と情報源の拡大に基づく符号化方法について予習し, 授業後に復習すること
8.	情報を効率よく表現する(4) – 情報量と符号化の効率	情報量・エントロピー, 情報源符号化定理について予習し, 授業後に復習すること
9.	互いに関連する情報の符号化 – パターンをもった情報のモデル化と符号化	「言語」を例として記号列の出現パターンに特徴がある情報源(マルコフ情報源)について事前に学習し, 授業後に復習すること
10.	データの誤りを見つける・訂正する(1) – 誤りの検出と訂正の考え方	バーコードやQRコードなど身の回りにある誤り検出, 誤り訂正について事前に学習し, 授業で学んだことを復習すること
11.	データの誤りを見つける・訂正する(2) – 誤りの検出	バイナリデータの具体的な誤り検出方法として, 単一パリティ検査符号について, その原理, 特徴を予習し, 授業後に復習すること
12.	データの誤りを見つける・訂正する(3) – 誤りの訂正	反復符号, ハミング符号という誤り訂正符号, 符号語間のハミング距離と誤り検出・訂正の関係について予習し, 授業後に復習すること
13.	秘密の情報を伝える(1) – 暗号の考え方	第三者から情報を秘匿する暗号でのアルゴリズムと鍵の役割, また暗号の安全性の考え方について予習し, 授業後に復習すること
14.	秘密の情報を伝える(2) – 公開鍵暗号	古来より使われてきた共通鍵暗号の弱点とそれを克服した公開鍵暗号および電子署名について予習し, 授業後に復習すること
15.	学習内容のふりかえり	予め授業全体の学習内容をよく復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前の準備なしに講義内容をその場で十分に理解するのは簡単ではないだろう. 各トピックに入る前に配布する資料によって予習することが講義を理解する上で重要である. 本科目では基本的に積み上げ型で学習を進めていくことになる. 授業が進むにつれ前提となる事項が増えていくため, 毎回の講義で分からなかったことがあれば復習で理解を補うことが重要である. 理解を深めるには授業で紹介する参考書以外にも, 複数の文献を参照して予習・復習に利用することが望ましい.

フィードバックの方法:　原則として毎回授業に関する質問・コメントなどをフィードバックとして提出することを求める. それに対して講評をつけて次の回に返却するか, 授業内で解説する. 受講状況によって, マナビーを利用する場合がある.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標に照らしあわせて, 情報とそのデータ表現を区別し, データ表現の効率性, 信頼性, 秘匿性という性質について理解し, 数学的に扱うことができているかどうかを評価する.
授業中の演習問題	20	授業で扱う各トピックについて, 到達目標に照らしあわせて, 基本的事項を理解し, 思考できているかどうかを評価する.
授業へのフィードバック	20	講義を注意深く聴き, その内容について何が分かっていて, 何が分かっていないかを理解した上で, そのことを適切に教員に伝えること, また授業内容について考えを巡らせ思考したことを適切に表現することができているかどうかを評価する.

教科書:　とくに使用しない

参考書:　大村 平「情報数学のはなし」日科技連出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:	メールでのコンタクトを基本とする．教員のアドレスは授業時に伝えるようにする．

500501、02

ソフトウエア概論

和氣　　早苗

授業テーマ:　ソフトウェアを利用しての情報収集、分析、整理、運用、発信、そしてソフトウェア開発の概念について学ぶ

授業の概要:　コンピュータおよびソフトウェアについての知識を得る. IT活用に必要な基礎知識の習得のほか, プログラミング実習などを実施し, 今後のメディア系活動および専門的な科目の基礎および導入とする.

到達目標:
・コンピュータのソフトウェアに関しての基本知識を得る.
・IT機器等の基本的な活用方法を習得する

授業方法:　演習を含む講義形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション～いろいろなコンピュータ	
2.	ハードウェアとソフトウェア	配付資料による予習復習および場合により課題の実施
3.	情報の検索と運用	配付資料による予習復習および場合により課題の実施
4.	macを使いこなそう	配付資料による予習復習および場合により課題の実施
5.	メールの設定と書き方	配付資料による予習復習および場合により課題の実施
6.	ファイル・データ管理	配付資料による予習復習および場合により課題の実施
7.	デジタルで表される情報とデータ量	配付資料による予習復習および場合により課題の実施
8.	画像と音のデジタル化	配付資料による予習復習および場合により課題の実施
9.	文字コードと日本語入力	配付資料による予習復習および場合により課題の実施
10.	データーベース	配付資料による予習復習および場合により課題の実施
11.	ソフトウェアの開発（プログラミングI）	配付資料等での予習復習
12.	プログラミングII	配付資料等での予習復習
13.	アルゴリズム	配付資料等での予習復習
14.	これからの社会と情報	配付資料等での予習復習
15.	まとめ	まとめ準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　配布macは毎回持ってきて下さい。

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	15	参加姿勢で評価します。
授業内提出物および課題	15	提出回数および内容で評価します。
期末試験の結果	70	点数で評価しますが、必要最低点があります。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp）, 授業の前後に教室内で対応

500600

コンピュータ科学

旭　　敏之

授業テーマ:　コンピュータの基礎的事項(構成や動作原理)を学ぶ

授業の概要:　コンピュータの進化、構成要素と動作、2進数演算、論理回路について学習するとともに、パソコン組立実習を通じて、それらの理解を深める。

到達目標:
(1)コンピュータと深く関わる職種(教職、システム開発／デザイン、プログラマ、研究職、IT系営業職など)において、身につけておくべき基礎知識を習得する。
(2)用語やスペック数値を正確に理解し、パソコンなど情報処理機器の適切な選択や管理ができるようになる。
(3)コンピュータの特性を理解し、人との関わりを客観的に考察できるようになる。

授業方法:　学期間中の通常講義に加えて、パソコン組立実習を行う(実習の日程は授業内で調整)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コンピュータと日常生活(コンピュータの進化)	
2.	コンピュータと日常生活(集積回路)	課題および教科書での予習復習
3.	コンピュータと2進数	課題および教科書での予習復習
4.	2進数、10進数、16進数	課題および教科書での予習復習
5.	2進数の演算	課題および教科書での予習復習
6.	論理回路(回路記号、真理値表、論理演算)	課題および教科書での予習復習
7.	論理回路(回路設計)	課題および教科書での予習復習
8.	論理回路(加算回路とフリップフロップ回路)	課題および教科書での予習復習
9.	コンピュータの動作(5大装置とプロセッサ)	課題および教科書での予習復習
10.	コンピュータの動作(記憶装置)	課題および教科書での予習復習
11.	情報機器のスペックと選択	課題および教科書での予習復習
12.	まとめ	授業内容の復習
13.	パソコン組立実習 －別途1日の日程で実施する	授業内容の復習
14.	パソコン組立実習 －別途1日の日程で実施する	授業内容の復習
15.	パソコン組立実習 －別途1日の日程で実施する	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　初心者を想定しますので、コンピュータに関する事前知識、スキル、経験等は問いません。
ただし、いわゆる実学ではないので、原理的な事象に興味を持てることを条件とします。

フィードバックの方法:　提出物には添削して返却するか、教室で解説するかします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習		PC組立実習の参加を単位取得の前提条件とします
授業への参加度	25	授業参加の姿勢(積極性)を評価します
期末試験	50	授業内容の理解度で評価します
提出物	25	提出回数で評価します

教科書:　青木征男、情報の表現とコンピュータの仕組み、ムイスリ出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール(アドレスは授業内で提示)、授業の前後に教室内で対応

500801

コンピュータ活用基礎Ⅱ

木村　　仁美

授業テーマ:

・コンピューターを便利な道具として使いこなす。

授業の概要:

Word、Excel、PowerPointの特徴と、それぞれのセオリーを学びます。
中でもExcelによるデータ処理の方法を重点的に学びます。

※本年度からは、グループワークは行いません。
※14回目以外に、随時小テストまたは課題を実施する場合があります。

到達目標:

・Word、Excel、PowerPointの特徴とセオリーを理解し、応用力を身につける。
・必要な作業を、いかに短い時間で、ラクに、ミスなく済ませるしくみを実現できるようになる。

授業方法:

情報処理実習室で一人一台のパソコンを使い、実習方式で授業を行います。（基本的にはWindowsでの操作になりますが、場合によっては、Macを利用することもあります。Mac利用の際は、前もって告知します。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（講義の内容、試験・出席の評価方法の説明）	当講義に関する重要事項を説明します。今後の受講に影響しますので、必ず参加してください。
2.	コンピューターに共通する知識1	・Macを持参すること。 ・MacとWindowsPCとの違い、操作の違いなどを事前に考えておいてください。
3.	コンピューターに共通する知識2	前回の内容をよく復習しておいてください。
4.	Microsoft Word1 ワープロのセオリーその1	前回の内容をよく復習しておいてください。
5.	Microsoft Word2 ・ワープロのセオリーその2	前回の内容をよく復習しておいてください。
6.	Microsoft Excel1 グラフ作成（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、絵グラフなど）	前回の内容をよく復習しておいてください。
7.	Microsoft Excel2 ・データ入力のセオリー（オートフィルのしくみ） ・計算式入力のセオリー（計算式のコピーのしくみ）	前回の内容をよく復習しておいてください。
8.	Microsoft Excel3 ・データ入力を極める！（入力規則とセルの保護） ・日付を計算する	前回の内容をよく復習しておいてください。
9.	Microsoft Excel4 ・大量のデータを素早く処理する1	前回の内容をよく復習しておいてください。
10.	Microsoft Excel5 ・大量のデータを素早く処理する2	前回の内容をよく復習しておいてください。
11.	Microsoft Excel6 ・大量のデータを素早く処理する3	前回の内容をよく復習しておいてください。
12.	PowerPoint1 プレゼンのセオリーその1	前回の内容をよく復習しておいてください。
13.	PowerPoint2 プレゼンのセオリーその2	前回の内容をよく復習しておいてください。
14.	総合小テスト（または課題作成）	ここまでの内容をよく復習しておいてください。
15.	総括	ここまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

※本年度からは、グループワークは行いません。今後、必須となるであろうWord、Excel、PowerPointを、ここでもう一度じっくりと学んでください。

パソコンを効果的に活用するには、Word、Excel、PowerPointのそれぞれの特徴を踏まえ、どのように使い分けるのかが大切です。

各アプリケーションの機能を100%マスターしたとしても、それだけでは使いこなすことはできません。

大切なことは、
「そもそも、そのアプリケーションを使って何をするのか？」、「どんな書類を作って、それをどう活かすのか？」といった目的意識、そして、
「必要な作業を、いかに短い時間で、ラクに、ミスなく済ませるしくみを実現するか？」という発想力です。

フィードバックの方法:

小テストを実施した場合は、授業中に答え合わせをします。
その他については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テストまたは課題	60%	小テストまたは課題で評価します。
受講態度	40%	遅刻や不真面目な受講態度には厳しく対処します。出席する限りは、真剣に受講してください。

教科書:

参考書:

情報リテラシーアプリ編～Windows 10・Office 2016対応（FOM出版）
たった1日で即戦力になるExcelの教科書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に講義室にて対応します。

501501

プレゼンテーション技法

川田　　隆雄

授業テーマ:　プレゼンテーションの制作方法・発表技法の習得

授業の概要:　世界の人々が交流し、経済をはじめとする社会システムがグローバル化する現在、他者に自分の意志を明確に伝え、相手を説得する技術は生きるための重要な力です。表現力の育成が一つの教育目標である情報メディア学科で学ぶ者にとって特に必要な能力でもあります。プレゼンテーションは、伝えたい内容を明確にし、相手に見せる諸資料を作成するフェーズと、人前で実際にプレゼンテーションを行うフェーズとがあります。また、コンピュータを使ったパワーポイントやホームページによるプレゼンテーションと、コンピュータを使わないプレゼンテーションの方法があります。この授業では、人にものごとを説明するための技法、説得するためのコツなど構成主義の方法でグループディスカッションを行いながら独自に開発していきます。しっかりとしたプレゼンテーションを行う前の準備段階の資料を問題マップという形で作成します。

到達目標:　2回のプレゼンテーションを通して、将来にわたって使えるプレゼンテーションの技法を開発することを目指します。どこかに既にあるプレゼンテーションの表面的な方法論を習得するのでなく、自分達にあったプレゼンテーションの技法をクラス全体で構築していきます。

授業方法:　講義と演習を組み合わせた授業を行います。ノート型パソコンを利用します。必要に応じてビデオ教材も利用します。また、グループに分かれての共同作業も授業の中に組み込まれています。プレゼン資料の評価は学生同士で行います。成績はグループの成果を重視します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	プレゼンテーションとは何か？	復習
2.	プレゼンテーションが必要な社会状況になったのはなぜか？	復習
3.	試作プレゼンテーション作成1	グループでの事前準備を行う
4.	試作プレゼンテーション作成2	グループでの事前準備を行う
5.	試作プレゼンテーション作成3	グループでの事前準備を行う
6.	成果発表会1	グループでの事前準備を行う
7.	ピア―ディスカッションによる相互評価	ピア―ディスカッションの準備
8.	プレゼンテーション資料の作り方:問題マップからスライドへ	復習
9.	プレゼンテーション資料の作り方:レポートからパワーポイントへ	復習
10.	ファイナルプレゼンテーション作成1	グループでの事前準備を行う
11.	ファイナルプレゼンテーション作成2	グループでの事前準備を行う
12.	ファイナルプレゼンテーション作成3	グループでの事前準備を行う
13.	成果発表会2	グループでの事前準備を行う
14.	成果発表会	グループでの事前準備を行う
15.	まとめとふりかえり	プレゼンの秘伝書作りを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　プレゼンテーションを実際に行うために授業時間以外のグループ学習や調べ学習が発生します。グループ作業が好きな人には楽しい授業です。

フィードバックの方法:　全授業の終了後、授業で学んだことを冊子にして配布します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
成果物	70	プレゼンテーションの相互評価
授業への積極的参加度	30	欠席回数が全授業回数の3分の1を超えた場合は評価対象とならないので注意するように。

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　TAを通してアポイントメントを入れることが出来る

501502

プレゼンテーション技法

戸田　　就介

授業テーマ:　プレゼンテーションの制作方法・発表技法の習得

授業の概要:　世界の人々が交流し、経済をはじめとする社会システムがグローバル化する現在、他者に自分の意志を明確に伝え、相手を説得する技術は生きるための重要な力です。表現力の育成が一つの教育目標である情報メディア学科で学ぶ者にとって特に必要な能力でもあります。プレゼンテーションは、伝えたい内容を明確にし、相手に見せる諸資料を作成するフェーズと、人前で実際にプレゼンテーションを行うフェーズとがあります。また、コンピュータを使ったパワーポイントやホームページによるプレゼンテーションと、コンピュータを使わないプレゼンテーションの方法があります。この授業では、人にものごとを説明するための技法、説得するためのコツなど構成主義の方法でグループディスカッションを行いながら独自に開発していきます。しっかりとしたプレゼンテーションを行う前の準備段階の資料を問題マップという形で作成します。

到達目標:　2回のプレゼンテーションを通して、将来にわたって使えるプレゼンテーションの技法を開発することを目指します。どこかに既にあるプレゼンテーションの表面的な方法論を習得するのでなく、自分達にあったプレゼンテーションの技法をクラス全体で構築していきます。

授業方法:　講義と演習を組み合わせた授業を行います。ノート型パソコンを利用します。必要に応じてビデオ教材も利用します。また、グループに分かれての共同作業も授業の中に組み込まれています。プレゼン資料の評価は学生同士で行います。成績はグループの成果を重視します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	プレゼンテーションとは何か？	復習
2.	プレゼンテーションが必要な社会状況になったのはなぜか？	復習
3.	試作プレゼンテーション作成1	グループでの事前準備を行う
4.	試作プレゼンテーション作成2	グループでの事前準備を行う
5.	試作プレゼンテーション作成3	グループでの事前準備を行う
6.	成果発表会1	グループでの事前準備を行う
7.	ピア―ディスカッションによる相互評価	ピア―ディスカッションの準備
8.	プレゼンテーション資料の作り方:問題マップからスライドへ	復習
9.	プレゼンテーション資料の作り方:レポートからパワーポイントへ	復習
10.	ファイナルプレゼンテーション作成1	グループでの事前準備を行う
11.	ファイナルプレゼンテーション作成2	グループでの事前準備を行う
12.	ファイナルプレゼンテーション作成3	グループでの事前準備を行う
13.	成果発表会2	グループでの事前準備を行う
14.	成果発表会	グループでの事前準備を行う
15.	まとめとふりかえり	プレゼンの秘伝書作りを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　プレゼンテーションを実際に行うために授業時間以外のグループ学習や調べ学習が発生します。グループ作業が好きな人には楽しい授業です。

フィードバックの方法:　全授業の終了後、授業で学んだことを冊子にして配布します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
成果物	70	プレゼンテーションの相互評価
授業への積極的参加度	30	欠席回数が全授業回数の3分の1を超えた場合は評価対象とならないので注意するように。

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　TAを通してアポイントメントを入れることが出来る

502000

メディア論

秋吉　　康晴

授業テーマ:

授業の概要:

「メディア」という言葉は、現代生活において日常の中に溢れかえっている。それは通常、新聞や雑誌、ラジオやテレビといった「マスメディア」の文脈において解釈され、情報が社会に与えるさまざまな影響力の源泉として理解されている。ただし、メディアはそれらが「いかに社会に役立つか」という関心を超えて、もっと深く人間の存在の根源に関わるファクターとして理解することもできる。本講義では、メディアの歴史を振り返りつつ、諸々のメディアを人間の身体や感性や心のあり方に作用するものとして考えてみたい。

到達目標:

（1）メディア論の基礎知識を習得する
（2）メディア史の過去を踏まえて、現在の文化や社会を相対的にとらえる視野をもつ
（3）メディア論を通して、テクノロジー一般に対する批判的な思考を養う

授業方法:

講義を中心におこなう。その際、具体的な事例について説明するために、視聴覚資料を紹介することもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディア論の概要	参考文献の該当箇所を読む
2.	言語メディア——文字	参考文献の該当箇所を読む
3.	言語メディア——活字	参考文献の該当箇所を読む
4.	視覚メディア——写真	参考文献の該当箇所を読む
5.	視覚メディア——映画	参考文献の該当箇所を読む
6.	聴覚メディア——電話	参考文献の該当箇所を読む
7.	聴覚メディア——蓄音機	参考文献の該当箇所を読む
8.	聴覚メディア——ラジオ	参考文献の該当箇所を読む
9.	視聴覚メディア——テレヴィジョン	参考文献の該当箇所を読む
10.	デジタル・メディア——コンピュータ	参考文献の該当箇所を読む
11.	デジタル・メディア——音のデジタル化	参考文献の該当箇所を読む
12.	デジタル・メディア——映像のデジタル化	参考文献の該当箇所を読む
13.	デジタル・メディア——インターネット	参考文献の該当箇所を読む
14.	メディアと生命——サイボーグ	参考文献の該当箇所を読む
15.	総括——講義の内容をまとめ、可能ならばディスカッションをおこなう	講義の内容を振り返り、質問などをまとめておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

馴染みがなかったり、いまでは役に立たなくなった過去のテクノロジーをたくさん紹介しますが、自分には関係がないものとは思わず、当時のひとびとの立場になって理解するようにしてみてください。きっと「最先端」のメディア・テクノロジーを批判的に考えることにも役に立つはずです——世界を変えるのは、最新のiPhoneだけではない。

フィードバックの方法:

授業中にコメントカードを記入してもらい、質問や疑問には次の授業で答える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	60	講義を踏まえた上で、どれだけ自分の言葉で思考しているかを評価する（思考の形跡がみられないコピーペーストや流用は無条件で不可とする）
授業への参加度	40	コメントカードの記入内容、授業中の発言を加味する

教科書:

参考書:

マーシャル・マクルーハン『メディア論——人間の拡張の諸相』栗原裕・河本仲聖訳、みすず書房、1987年
フリードリヒ・キットラー『グラモフォン・フィルム・タイプライター』石光泰夫訳、筑摩書房、1999年
吉見俊哉『メディア文化論——メディアを学ぶ人のための15話』、有斐閣アルマ、2004年
谷口文和・中川克史・福田裕大『音響メディア史』、ナカニシヤ、2015年
長谷正人編『映像文化の社会学』、有斐閣、2016年
飯田豊編『メディア技術史——デジタル社会の系譜と行方』、北樹出版、2017年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

e-mail（授業中に指示する）、授業後の対応

502100

知覚メディアの心理学

三根　　浩

授業テーマ:

授業の概要:
われわれが世界を知るための知覚と認知のシステムは、さまざまなメディアからの情報を処理することで機能している。知覚情報処理のためのデータは、五官というメディアを経由し感覚情報として入力される。この講義では環境を知る機能を果たしている感覚器官の特性からはじめて、感覚から知覚が成立するプロセスについて解説する。知覚の法則はさまざまな芸術表現の中で生かされているばかりでなく、認知や知覚の誤りに関する法則はイリュージョンという現象を引き起こす。

到達目標:
知覚と認知の心理学に関する現象を大脳の情報処理のメカニズムに関連付けて解説していく。

授業方法:
講義では主に芸術表現と、その背後にある科学的な根拠について概説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	感覚、知覚、そして認知	心理学への招待　7. 感覚と知覚（VHS）
2.	知覚情報処理	
3.	感覚量の特徴	Newton別冊 「感覚—驚異のしくみ」（2016.03.25）
4.	五官	ヒューチャーサイエンスシリーズ5「五感力を磨く」 PHPムック
5.	視覚(輪郭の知覚)	山口真美『視覚世界の謎に迫る—脳と視覚の実験心理学』講談社
6.	色覚	A・F・T色彩検定公式テキスト3級編
7.	聴覚	日本音響学会『音のなんでも小事典—脳が音を聴くしくみから超音波顕微鏡まで』講談社
8.	触覚・味覚・嗅覚	日本味と匂学会（編集）『味のなんでも小事典』講談社
9.	知覚：図と地	
10.	簡潔化の法則	
11.	錯視と純粋知覚	後藤倬男、田中平八（編集）『錯視の科学ハンドブック』東京大学出版会
12.	奥行き(3D)の知覚	
13.	不可能な図形	だまされる脳—バーチャルリアリティと知覚心理学入門（ブルーバックス）
14.	運動の知覚	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
出席票に質問欄を用意しています。各回の疑問点については翌週に解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標知覚過程の理解ができるようになったか評価する
試験の結果	70	記述式問題を出題する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対

503900

マルチメディア論

三根　　浩

授業テーマ:　マルチメディアと創造性

授業の概要:　マルチメディアという用語は、いろいろな分野において異なった使い方をされている。たとえば、電子出版や家庭用AV機器の拡張機能やバーチャルリアリティを組み込んだゲーム機などがあげられるであろう。一方で、通信衛星や学術情報ネットワークを利用して遠隔地にあるキャンパスを繋いで遠隔授業を行うこともマルチメディア活用の一つの形態とされている。しかし、マルチメディアとは、文字情報、映像情報、音声情報などを単純に組み合わせたものではありえない。旧式のAV機器ですら、そのような機能を持っているからである。

到達目標:　この科目ではマルチメディアにとっての基本条件と可能性について多角的に論じたい。

授業方法:　マルチメディアは五官を通して、認知活動に対して様々な働きかけを意図的(または偶発的)に行っている。映画やTVは視覚と聴覚を介して情報を伝達するメディアである。この科目では情報の表現形式や活用方法について概説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育改革とマルチメディア	マルチメディア教育部会(第12回)　議事要旨
2.	教育と情報メディア	「教材整備指針」の策定について(概要)
3.	デジタル情報とメディア	
4.	さまざまな記録メディア	
5.	マルチメディア表現の心理的効果	藤沢晃治「わかりやすい表現の技術」 ブルーバックス(B1245)
6.	マルチメディアと意味のネットワーク	
7.	インタラクティブなメディア	
8.	静止画の種類と処理	
9.	動画の処理	
10.	音響・音楽の効果	心を動かす音の心理学 ― 行動を支配する音楽の力
11.	アウトライン処理装置としてのプレゼンテーション	Tak. アウトライナー実践入門
12.	創造性とプレゼンテーション	発想法―創造性開発のために (中公新書 (136)) クリエイティブマインドセット 日経BP
13.	人工知能の可能性	人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの (角川EPUB選書)
14.	CALL:語学学習におけるマルチメディアの活用	竹内　理・三根　浩(編)『情報化社会と外国語教育』(成美堂)
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　出席票に質問欄を用意しています。各回の疑問点については翌週に解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目マルチメディアの基本が理解できるようになったか評価する
試験の結果	70	記述式問題を出題する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

505800

広告プランニング

正樂地　咲

授業テーマ:　考えや想いを、相手に伝えることについて。

授業の概要:　広告制作のスキルを通して、自分の頭の中を整理したり、それを相手に伝えたりする手法を学び、実践します。

到達目標:　自分の心を見つめ、頭の中を整理し、それを相手になるべく正確に伝えられる。

授業方法:　広告制作のスキルを学びながら、実際に手を動かしてみる。（文章を書く、広告をつくる、書いたものつくったものを発表する。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	１日目①:オリエンテーション・広告全般の基礎知識。	特になし
2.	1日目②:私自身がこれまでに関わって来た仕事とそのエピソード紹介。	特になし
3.	1日目③:過去の名作キャッチコピーの紹介と、それをもとに様々な商品のキャッチコピーを書く。	特になし
4.	1日目④:「私の好きな一言」をテーマに他者にその魅力を伝えるコラムを書く。一言は、歌詞でも、歴史上の人物の遺言でも、有名人の名言でも、友人からの一言でも、自由。	特になし
5.	２日目①:昨日書いたコラムを朗読して発表。	昨日の授業内で書き切れなかった場合のみ、始業時間に間に合う様に準備をお願いします。
6.	2日目②:「私の好きな食べ物」をテーマに他者にその魅力を伝える詩を書く。	特になし
7.	2日目③:書いた詩を朗読して発表。	特になし
8.	2日目④:私自身がこれまでに関わって来た仕事とそのエピソード紹介２	特になし
9.	３日目①:グループに別れ、ディベートを行う。	特になし
10.	3日目②:グループに別れ、ディベートを行う。	特になし
11.	3日目③:「私のすきなひと」をテーマに作文を書く。家族、恋人、友人、有名人、自分自身など好きな人について作文する。	特になし
12.	３日目④:「私の好きなひと」をテーマに作文を書く。	特になし
13.	４日目①:私自身の学生時代～就職活動で学んだことのエピソード紹介。	特になし
14.	４日目②:昨日書いた作文を朗読。	昨日の授業内で書き切れなかった場合のみ、始業時間に間に合う様に準備をお願いします。
15.	４日目③:昨日書いた作文を朗読。	昨日の授業内で書き切れなかった場合のみ、始業時間に間に合う様に準備をお願いします。

受講者へのメッセージやアドバイス:　2007年に同志社女子大学を卒業して2018年現在まで、（株）電通でコピーライター・CMプランナーをしています。就職活動を含めた12年の中で、自身が学んだことを皆さんへお伝えしながら、一緒に「伝えること」について見つめる4日間にしたいと思います。たくさん考え、たくさん書きます。課題は授業の中で完結できるよう工夫します。

今年で集中講義を担当するのは3年目。
授業の初めにはラジオ体操をするのが恒例です。

フィードバックの方法:　授業内での課題発表後、その場でフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	80%	授業への積極的な参加
制作物・発表・討論内容	20%	制作物、発表の内容

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能など。

506100

情報ネットワーク

余田　　義彦

授業テーマ:　自宅や小さなオフィス向け小規模ネットワークの作り方（基礎編）

授業の概要:　本科目では、自宅や小さなオフィスの中にあるパソコンやデジタル機器をネットワーク（LAN）でつなぎ、インターネットへも接続できる知識と技術を実践的な方法で学びます。
本科目で学ぶ内容は、ネットの力で人々の暮らしや社会を支える職業に将来就きたいと考えている人にとってその基礎を培うものです。本科目に引き続き、「応用I」と「応用II」を学ぶと、さらに大きな規模（中小企業規模）のネットワークを構築・運営・管理できる知識と技術が身につきます。

到達目標:
①【知識・理解】LANやインターネットにおける情報通信のしくみや方法をTCP/IPプロトコルと関係づけて説明できる。
②【関心・意欲・態度】ネットワークに関わる技術動向や社会問題に関心をもち、進んでそれらの情報を知ろうとする。
③【表現・技能・能力】必要なネットワーク設定を行って、パソコンをLANやインターネットへ接続できる。

授業方法:　授業は授業支援システム「マナビー」を使い、講義と実習を組み合わせるかたちのアクティブラーニング形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス パソコンのハードウェアとオペレーティングシステム	
2.	ネットワークへの接続 （1)小規模ネットワーク(LAN)で情報が届く仕組み（基礎）	授業内容の理解を深める演習・実習課題
3.	ネットワークへの接続 （2)LANを作ってみよう	
4.	ネットワークへの接続 （3)LANをつないでネットを拡張しよう	授業内容の理解を深める演習・実習課題
5.	ネットワークへの接続 （4)ネットからネットへパケットはどのように送られるか	
6.	ネットワークへの接続 （5)ネットワークの設計図	授業内容の理解を深める演習・実習課題
7.	ネットワークへの接続 （6)家庭や小規模オフィス用のネットワーク機器	
8.	ISP経由のインターネット接続 （1)家庭や小規模オフィスからのインターネット接続	授業内容の理解を深める演習・実習課題
9.	ISP経由のインターネット接続 （2)インターネットサービスプロバイダの仕事	見学の予習（下調べ）
10.	学内ネットワークの見学、LANケーブルを作ろう	LANケーブル作り（授業時間内にできなかった場合）
11.	ネットワークアドレッシング （1)IPアドレスの仕組みと計算方法	授業内容の理解を深める演習・実習課題
12.	ネットワークアドレッシング （2)IPアドレスの仕組みと計算方法（続き）	
13.	ネットワークアドレッシング （3)パソコンとIPアドレス	授業内容の理解を深める演習・実習課題
14.	ネットワークアドレッシング （4)IPアドレスとインターネット接続	
15.	まとめ	ノートまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:　用意するもの：MacBookAir（初回の授業から使いますので必ず持参してください。付属のUSB EthernetアダプタとACアダプタも忘れないでください。）、教科書、A4サイズのノート（B5サイズのノートやルーズリーフは不可）

フィードバックの方法:　振り返りや演習・実習課題に対するフィードバック（コメント）は、毎回、授業の導入時に行います。
ノートは採点後、コメントをつけて学科事務室にて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
最終試験	40	到達目標①の達成度を評価します。
ノート	10	到達目標①②の達成度を評価します。
演習・実習課題	20	到達目標①②③の達成度を評価します。
実技課題	30	到達目標③の達成度を評価します。実技課題の達成を単位を与える必要条件としますが、これまでこれが原因で単位を落とした人はいません。

教科書:　アンク 『TCP/IPの絵本』 翔泳社

参考書:　アンドリュー・S・タネンバウム、デイビッド・J・ウエザロール 『コンピュータネットワーク 第5版』 日経BP社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール（yyoden@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

506201、02

調査統計法

及川　　昌典

授業テーマ:
卒業研究などで必要となる研究法ならびに統計手法を理解する

授業の概要:
現代社会のさまざまな現象を理解するための最も有効な方法のひとつは、データを分析することです。しかし、データを適切に収集、分析、報告するために必要となるデータリテラシーは、情報化社会と言われて久しい現代社会においても、あまり普及していません。本講義では、データが私たちの生活に果たす役割について理解するとともに、卒業研究などで必要となる研究法ならびに統計手法を習得します。

到達目標:
・データリテラシーに関する知識や考え方を理解する(知識・理解)。
・独自の関心に基づいて調査を計画する(関心・意欲・態度)。
・卒業研究などで必要となる研究法ならびにデータ解析の技能を身につける(表現・技術・能力)。

授業方法:
原則として授業を前半と後半に分け、前半の授業では研究法および質問紙作成を中心とした演習、後半は統計解析ソフトウェア(SPSS)を用いたデータ解析実習中心とした演習を行います。授業内容の理解を確認するためのレポート課題、独自の関心に基づいて作成した調査計画書や調査質問紙などを定期的に提出してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業内容の復習
2.	研究法(1)データリテラシー	授業内容の復習、課題レポートの作成
3.	研究法(2)観察法	授業内容の復習
4.	研究法(3)面接法	授業内容の復習
5.	研究法(4)質問紙作成	授業内容の復習、課題レポートの作成
6.	研究法(5)調査法	授業内容の復習
7.	研究法(6)実験法	授業内容の復習
8.	データ解析(1)記述統計	授業内容の復習、操作手順の復習
9.	データ解析(2)相関分析	授業内容の復習、操作手順の復習
10.	データ解析(3)推測統計	授業内容の復習、操作手順の復習
11.	データ解析(4)検定法1	授業内容の復習、操作手順の復習
12.	データ解析(5)検定法2	授業内容の復習、操作手順の復習
13.	データ解析(6)検定法3	授業内容の復習、操作手順の復習
14.	研究計画書作成	授業内容の復習、課題レポートの作成
15.	総括	授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
演習は段階的に進行しますので、毎回の講義の内容や統計ソフトの操作手順などをきちんと復習しておいてください。学期を通じて、質問紙作成や研究計画書などのレポートが課されます。この授業は演習が主なため、出席が重視されます。

フィードバックの方法:
レポート課題や質問紙調査の結果などについては、教室でまとめて解説します。
研究法やデータ解析などについての質問にも対応しますので、個別に相談してください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60	データリテラシー、質問紙作成、データ解析に関する理解度により評価する。
授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し、研究法ならびに統計手法が活用できるようになったかを評価する。

教科書:
適宜プリントを配布します。

参考書:
戸田山和久 『新版 論文の教室－レポートから卒論まで－』(NHKブックス、2012) ISBN:4140911948
この授業だけでなく、卒論研究まで役に立つテキストです。読んでおいて下さい。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:
Eメール(moikawa@mail.doshisha.ac.jp)

506203

調査統計法

杉浦　　司

授業テーマ:　マーケティングで必要とされる統計手法を理解する

授業の概要:　Webアクセス解析や顧客満足度調査、需要予測など、ビジネス特にマーケティングの分野においてデータサイエンティストの必要性がますます高まってきています。本講義では、記述統計や相関回帰、多変量解析といった調査統計手法の基礎について一通り学んだ上で、実際にアンケート調査を企画し、データの設計から収集、加工、集計、分析といったデータ分析の一連の流れについて実習することで知識だけで終わらない実践的な調査統計手法の習得をめざします。

到達目標:
①調査統計手法（基礎統計学から多変量解析まで）の学習
②Excel・SPSS・Rなど統計処理ソフトウェアによる分析方法の習得
③アンケート調査票の設計及びGoogleフォームによる作成・配布・回収方法の習得

授業方法:
（1）統計理論の学習
（2）統計処理ソフトウェア（SPSSとEasyRを予定）を使った統計分析の実習※小レポートあり
（3）アンケート調査演習（設計、集計、分析）※期末レポートあり

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	調査統計手法の概要	
2.	調査統計手法の基礎：記述統計	レジュメの事前通読
3.	調査統計手法の基礎：相関回帰	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
4.	調査統計手法の基礎：多変量解析	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
5.	調査統計手法の実践：Webアクセス解析（記述統計）	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
6.	調査統計手法の実践：需要予測（相関回帰）	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
7.	調査統計手法の実践：顧客満足度調査（多変量解析）	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
8.	調査統計手法の実習：統計処理ソフトウェアSPSSの使い方	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
9.	調査統計手法の実習：統計処理ソフトウェアEasyRの使い方・ベイズ統計の紹介	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
10.	調査統計手法の演習：アンケート調査の企画	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
11.	調査統計手法の演習：アンケート調査の設計（質問紙作成）	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
12.	調査統計手法の演習：アンケート調査の実施（収集、入力）	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
13.	調査統計手法の演習：アンケート調査の実施（集計）	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
14.	調査統計手法の演習：アンケート調査の実施（分析）	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読
15.	調査統計手法の演習：アンケート調査の実施（評価）	前回学習内容の復習及びレジュメの事前通読

受講者へのメッセージやアドバイス:　可能であれば参考文献『データ分析の基礎オフィシャルスタディノート』（日本版MOOC「gacco」統計学無料講座のテキスト）を読んでおいて下さい。

フィードバックの方法:　電子メール（sugiura@sugi-sc.com）

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への出席	20	姿勢・態度
小レポート	30	アンケート設計、アンケート集計技法の理解
期末レポート	50	アンケート分析・評価技法の理解

教科書:　レジュメを前もって配布し、時事性のある内容は都度配布する。（教科書は使用しない。）

参考書:
『データサイエンス入門』（AmazonKindle電子書籍　杉浦　司著）
『データ分析の基礎オフィシャルスタディノート』（日本統計学会　竹村 彰通他著）
『消費を見抜くマーケティング実践講座』（翔泳社　杉浦　司著）
『SPSSでやさしく学ぶアンケート処理』（東京図書　石村貞夫他著）
『フリー統計ソフトEZR(EasyR)で誰でも簡単統計解析』（南江堂　神田義伸著）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　マナビ―の掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

507300

ヒューマンインタフェース論

和氣　　早苗

授業テーマ:　人と情報機器、相互の関係およびそのデザイン（設計）について学ぶ

授業の概要:　人にとって、わかりやすい情報提示、使いやすいインタフェース、とはどういうものか、ユーザの特性、ニーズなどをベースに考察する。日常生活の道具におけるインタフェース（プロダクトデザイン）と、コンピュータのインタフェー スの双方を対象とし、情報表示の方法、ユーザ特性とユニバーサルUI、情報システムの設計と管理、ユーザインタフェー ス評価手法などについて知る。また、新しいインタフェースのアプローチの紹介も行うと共に、社会や文化への影響を考察する。

到達目標:
・情報を受ける人の視点に立った機能設計、インタフェース設計、コンテンツ制作ができる
・情報技術の発達が社会に与える影響を理解し，これからの変化に関与，予見することができる
・最新の技術およびHIに興味を持ち，知り、その社会や文化への影響を肯定的にまた批判的に考察できる

授業方法:　演習や討議を含む講義形式にて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ヒューマンインタフェースとは　ー人間側からものを見る	
2.	プロダクトデザイン	配布資料等での復習
3.	ユニバーサルデザイン	配布資料等での復習
4.	操作性、認知性、快適性（1）	配布資料等での復習
5.	操作性、認知性、快適性（2）	配布資料等での復習
6.	操作性、認知性、快適性（3）	配布資料等での復習
7.	行動のデザイン	配布資料等での復習
8.	現在のインタラクション方式	配布資料等での復習
9.	スマフォUI分析	配布資料等での復習および課題
10.	HIの歴史	配布資料等での復習
11.	HIと基礎技術	配布資料等での復習
12.	HIと技術、最新トピック（1）	配布資料等での復習
13.	HIと技術、最新トピック（2）	配布資料等での復習および課題
14.	HIと技術、最新トピック（3）	配布資料等での復習
15.	まとめ	配布資料等での復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。
授業内でのレポートおよび授業態度（40%程度）、期末試験もしくは期末レポート（60%程度）の内容に基づき総合的に 評価する。（ただし，各採点要素には必要最低点があり，また，採点比率も平均点等に準じて変動する可能性がある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	30	参加姿勢で評価する
期末試験もしくはレポート	60	内容に応じて評価する
授業内での課題	10	提出回数および内容に応じて評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp），授業の前後に教室内で対応

507701

情報メディア応用演習Ⅰ

影山　　貴彦

授業テーマ:　エンターテインメント的見地に立つメディア研究

授業の概要:　毎回ふたりの学生に自らのテーマに沿ったプレゼンテーションを課す。
同時にふたりの学生に座長を課す。
そのほかの学生にも毎回必ず発言することを課す。

到達目標:　メディアに対する正しい認識のもと、大いに知識を深め、自らの研究テーマに反映させることを目標とする。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
2.	ガイダンス②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
3.	個人発表およびディスカッション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
4.	個人発表およびディスカッション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
5.	個人発表およびディスカッション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
6.	個人発表およびディスカッション④	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
7.	フィールドワーク	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
8.	個人発表およびディスカッション⑤	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
9.	個人発表およびディスカッション⑥	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
10.	個人発表およびディスカッション⑦	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
11.	個人発表およびディスカッション⑧	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
12.	個人発表およびディスカッション⑨	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
13.	個々のショートプレゼンテーション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
14.	個々のショートプレゼンテーション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
15.	個々のショートプレゼンテーション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
個人発表	40%	研究テーマに関するクオリティ
発言力・質問力	30%	発表者への的を射た意見、および質問する力
積極的姿勢	30%	ゼミに関わる全般的な態度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワーおよびゼミ終了後

507702

情報メディア応用演習Ⅰ

川田　　隆雄

授業テーマ:　フィールド調査によるプロデュース能力研究

授業の概要:　現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテイメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミではエンターテイメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルにおけるプロデューサーのインタビュー調査を行い、分析研究を本格的に開始する。ゼミ生はグループに分かれて、プロデューサ型人材のインタビューを行い、データ収集、資質や行動パターンの分析を行う。2012年度から運用が開始されている、プロデューサーデータベース(iDUS)を利用して各ループで分析作業を行う。

到達目標:　川田ゼミの特長であるインタビューの技法をマスターする。また、インタビューデータから分析を行う方法を身につける。本音でのディスカッションを習慣化する。

授業方法:　授業はフィールド調査及び調査の発表とディスカッションによって進められる。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	プロデュース研究の方法論概説1	復習
2.	プロデュース研究の方法論概説2	復習
3.	プロデューサーデータベース(iDUS)使用方法解説	復習
4.	インタビュー結果のディスカッション1	インタビュー結果のまとめ、発表準備
5.	インタビュー結果のディスカッション2	インタビュー結果のまとめ、発表準備
6.	インタビュー結果のディスカッション3	インタビュー結果のまとめ、発表準備
7.	インタビュー結果のディスカッション4	インタビュー結果のまとめ、発表準備
8.	インタビュー結果のディスカッション5	インタビュー結果のまとめ、発表準備
9.	インタビュー結果のディスカッション6	インタビュー結果のまとめ、発表準備
10.	インタビュー結果のディスカッション7	インタビュー結果のまとめ、発表準備
11.	インタビュー結果のディスカッション8	インタビュー結果のまとめ、発表準備
12.	インタビュー結果のディスカッション9	インタビュー結果のまとめ、発表準備
13.	インタビュー結果のディスカッション10	インタビュー結果のまとめ、発表準備
14.	インタビュー結果のディスカッション11	インタビュー結果のまとめ、発表準備
15.	まとめとふりかえり	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前のフィールド調査とそこで得られたデータの整理、分析、またレジメ作成などの作業が発生する。川田ゼミ独特の研究プロセスの醍醐味を味わえる1年間となるはずである。

フィードバックの方法:　調査後の分析のフィードバックは授業中に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	70	出席と発表の有無。ゼミの授業では欠席が4回以上の場合単位が出ないので注意するように！
成果物	30	プレゼン内容で評価

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業内でのコンタクトを基本とする

507703

情報メディア応用演習Ⅰ

三根　　浩

授業テーマ:　マルチメディアの教育的応用

授業の概要:　感覚メディアに対する情報は多様な方法で相互作用を示す。意図的に計画され、提供されるイリュージョンは私たちの興味をひき、面白さを感じさせる。しかし、メディア情報の中に偶然的に発生するイリュージョンは不注意やミスを誘発し予想できない事故に結びつく可能性がある。

到達目標:　この演習では、ヒトのメンタル・モデルとイリュージョンの関係について研究していく。

授業方法:　演習、制作、分析を組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	メディアに関する心理学的現象の研究	（図と地）
3.	メディアに関する心理学的現象の研究2	（多義図形）
4.	メディアに関する心理学的現象の研究3	（Illusion）
5.	課題の構想とプレゼンテーション	
6.	基本文献の収集・講読	各自の課題に沿った文献調査を行う
7.	制作1	
8.	制作2	
9.	制作3	
10.	制作過程の中間チェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進度をチェックする
11.	プロトタイプの提出	
12.	作品・レポートの手直し1	
13.	作品・レポートの手直し2	
14.	.作品・レポートの提出・プレゼンテーション1	プレゼン力を養う
15.	.作品・レポートの提出・プレゼンテーション2	プレゼン力を養う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品・レポート	50	積極的に授業に参加し、到達目標イリュージョン現象の理解ができるようになったか評価する
プレゼンテーション	30	
積極的参加度	20	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力

教員との連絡方法:　e-mail

507704

情報メディア応用演習Ⅰ

森　　公一

授業テーマ:　PR動画の制作プロジェクト

授業の概要:　本演習では、PRを目的とする動画コンテンツの制作プロジェクトを実施します。プロジェクトはプロデューサ+ディレクタをリーダーとする4名程度のチームによって編成し、メンバーの創意工夫を最大限に発揮した動画コンテンツの制作、および必要に応じてWEBページ、印刷物等の制作を行います。

到達目標:
目的に応じた魅力的な作品を完成させる
共同作業における責務を遂行する
適切に判断し行動するためのコミュニケーション能力を身につける
創造的な問題解決能力を身につける

授業方法:　グループによるプロジェクト演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンスとチーム編成	
2.	企画案の検討1	情報収集
3.	企画案の検討2	情報収集
4.	企画案の検討3	情報収集
5.	企画プレゼンテーション1	演出案（絵コンテ等）の作成
6.	企画案の再検討	テスト作品の制作
7.	企画プレゼンテーション2	プレゼンテーションの準備
8.	企画内容の修正	演出案とテスト作品の修正
9.	制作マネジメント	制作日程、機材構成、スタッフ構成等の調整
10.	進捗の確認1	テスト撮影
11.	進捗の確認2	本番撮影
12.	進捗の確認3	編集、カラーグレーディング
13.	進捗の確認4	サウンド関連の調整
14.	最終確認	修正作業
15.	合評	プレゼンテーションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　チームのメンバーと積極的にコミュニケーションをとって行動してください。

フィードバックの方法:　制作の進捗に合わせてアドバイスを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	100	作品の表現力、訴求力
貢献度	適宜	チームへの貢献度を作品点にかけあわせます

教科書:　なし

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業内で対応します。

507705

情報メディア応用演習Ⅰ

村木　　美紀

授業テーマ:　サブカルチャーの展開に関する研究

授業の概要:　卒業研究のテーマの設定・研究計画を策定し、具体的には、作品や作家の分析・ブームの仕掛け・メディアミックス人気・コミケやコスプレをはじめとした特有のコミュニケーション・町おこしや商品化でのキャラクター活用・海外での展開等、受講生の実体験や興味関心を踏まえた研究を行う。

到達目標:
1【知識・理解】研究の基礎的情報をもとにサブカルチャーについて理解し、説明ができる。
2【関心・意欲・態度】サブカルチャーについての問題提起や提案ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:　講義、調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどを用いたゼミ形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	研究計画の策定(1)	研究計画書の作成
3.	研究計画の策定(2)	研究計画書の作成
4.	文献調査・フィールドワーク	研究の準備と実施
5.	ディスカッション(1)	
6.	個人研究報告(1)	進捗報告の準備
7.	個人研究報告(2)	進捗報告の準備
8.	個人研究報告(3)	進捗報告の準備
9.	個人研究報告(4)	進捗報告の準備
10.	ディスカッション(2)	
11.	プレゼンテーション(1)	資料作成等発表の準備
12.	プレゼンテーション(2)	資料作成等発表の準備
13.	プレゼンテーション(3)	資料作成等発表の準備
14.	ディスカッション(3)	
15.	評価	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　基本的に授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	50	到達目標の1を中心に評価する。
レポート	30	到達目標の2・3を中心に評価する。
発表	20	到達目標の2・3を中心に評価する。

教科書:

参考書:
全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』(年刊)
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』(年刊)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール:mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

507706

情報メディア応用演習Ⅰ

中村　　信博

授業テーマ:　メディア文化史的思考の歴史と可能性

授業の概要:　メディア文化史上における多様なテーマにかんして、プロジェクト研究あるいは個人研究において理解を深める。また、参加者の関心に応じて、デジタルコンテンツの作成を計画するか、テクスト・データベースなどにも関心がある場合には、設計ないし既存アーカイブの活用も可能。アナログからデジタルへの情報処理の転換が、人間社会にどのような変化をもたらしたのか、文化史と最近の成果物の利用面から考察する。理論と技術を一面的に論じるだけではなく、ヒューマンインタフェースと情報倫理も視野においた実践的な探求をめざしたい。これらの課題は、参加者全員で相互補助的に達成されることになる。

到達目標:
【知識・理解】学術調査と資料収集の初歩的技法を身につける。
【関心・意欲・態度】各人の研究について進捗状況を報告できる。また報告者への応答による協力・支援の力を身につける。
【表現・技能・能力】研究を計画し探求する力、それを論理的・効果的に発表する力、および協調的解決能力を身につけ、メディアの文化史的変遷について継続的に探求する基礎力を養う。

授業方法:　演習形式。個人およびプロジェクトによる調査、研究、発表討議を中心とする。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム（マナビー）を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	実質的に「情報メディア演習」を継続・発展させる授業であることを意識して各人の問題意識を整理しておくこと。
2.	方法としてのプロジェクト研究	学期内に終了予定のプロジェクト研究の目標、作業工程、プレゼン準備などについて各グループにおいて事前相談をしておくこと。
3.	プロジェクト研究の課題設定－１	各グループでの作業を徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
4.	プロジェクト研究の課題設定－２	各グループでの作業を徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
5.	プロジェクト研究の実際－１	各グループでの作業をプレゼンテーションに向けて徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
6.	プロジェクト研究の実際－２	各グループでの作業をプレゼンテーションに向けて徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
7.	プロジェクト研究の実際－３ －中間報告－	中間報告ができるように各グループでの作業を徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
8.	プロジェクト研究の実際－４	各グループでの作業をプレゼンテーションに向けて徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
9.	プロジェクト研究の実際－５	各グループでの作業をプレゼンテーションに向けて徹底すること。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
10.	プロジェクト研究のプレゼンテーション－１	各グループでのプレゼンテーションができるように準備を完了させておくこと。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
11.	プロジェクト研究のプレゼンテーション－２	各グループでのプレゼンテーションができるように準備を完了させておくこと。ただし、この間も授業期間後半に開始予定の個人研究のテーマについても準備を始めること。
12.	個人研究の基礎－１	プロジェクト研究の経験を生かして、卒業研究・制作にふさわしい各人の研究テーマについて考えておくこと。
13.	個人研究の基礎－２	プロジェクト研究の経験を生かして、卒業研究・制作にふさわしい各人の研究テーマについて考えておくこと。
14.	個人研究の基礎－３	プロジェクト研究の経験を生かして、卒業研究・制作にふさわしい各人の研究テーマについて考えておくこと。
15.	総括－卒業研究・制作にむけて－	事前配布資料や文献などにより卒業研究・制作の意味と必要な準備について理解を深めておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日常的関心をメディア論的思考によって探求することの意義と方法を各人の関心に応用できる可能性について理解を深めて欲しい。

フィードバックの方法:　クラスおよび授業支援システム（マナビー）利用による討議など。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	40%	積極的にクラスに参加し、討議（マナビーを含む）議論にも前向きに参加しているかどうを基準として評価する。
プロジェクト研究と発表	30%	プロジェクト内での貢献およびプレゼンテーションを基準として評価する。
卒業研究・制作への関心と着手	30%	各人の関心を卒業研究に結びつけようとする態度と着手状況によって評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力、洞察力

教員との連絡方法:　直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

507707

情報メディア応用演習Ⅰ

関口　　英里

授業テーマ:

授業の概要:
本演習では「情報メディア演習」での学びを土台とし、文化とメディアをとりまく諸相について分析を行います。
さまざまな分析対象から学生各自が興味のあるテーマを設定し、文献・資料の購読や各種調査に基づいて、独自の考察を進めます。

到達目標:
次年度の卒業演習・制作へとつながる個人研究の基礎を固めることが目標です。

授業方法:
受講生による発表を中心に、講義をまじえながら授業を進めます。学生各自の設定した発表テーマに関する講読文献と課題を毎回設定し、全員で討論を行います。各自の研究を深めると同時に、毎回さまざまな分野のトピックを学ぶことで、立体的な学際研究への視点を養ってゆきたいと考えています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業の概要と進め方の説明、必要事項についての討論と決定
2.	個人研究発表とディスカッション　基礎:発表(1)～(2)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
3.	個人研究発表とディスカッション　基礎:発表(3)～(4)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
4.	個人研究発表とディスカッション　基礎:発表(5)～(6)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
5.	個人研究発表とディスカッション　基礎:発表(7)～(8)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
6.	個人研究発表とディスカッション　基礎:発表(9)～(10)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
7.	個人研究発表とディスカッション　基礎:発表(11)～(12)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
8.	個人研究発表とディスカッション　発展:発表(1)～(2)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
9.	個人研究発表とディスカッション　発展:発表(3)～(4)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
10.	個人研究発表とディスカッション　発展:発表(5)～(6)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
11.	個人研究発表とディスカッション　発展:発表(7)～(8)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
12.	個人研究発表とディスカッション　発展:発表(9)～(10)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
13.	個人研究発表とディスカッション　発展:発表(11)～(12)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
14.	総括とポスターセッションに向けての準備(1)	各自の研究のまとめと発表準備、討論①
15.	総括とポスターセッションに向けての準備(2)	各自の研究のまとめと発表準備、討論②

受講者へのメッセージやアドバイス:
個人研究の目標設定から調査の実践、研究成果の発表とさらなる発展を実現するためには、授業内外での各自の弛みない努力が必須です。授業はおもに成果発表と討論や指導の場となりますので、毎回の授業前準備、授業後の軌道修正などが重要になります。したがって、資料収集、読解、分析、発表、といった研究活動全般を各自計画的に遂行し、自律的な学習活動を精力的に行う事が求められます。

フィードバックの方法:
授業時および授業外に必要に応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、DWCLA10の総合的な向上が最終目標
教員との連絡方法:	授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示します。

507708

情報メディア応用演習Ⅰ

和氣　　早苗

授業テーマ:　ヒューマンインタフェースおよびプロダクトのUIサウンドデザイン

授業の概要:　卒業論文の講読することを通し、研究実施の方法や論文の書き方を学ぶ。
プロダクトUIサウンドについての知識を得る.
各自の卒業研究テーマを定める。

到達目標:
・客観的にデータを見ること、論理的・批判的に思考することができる.
・論理的説明したり意見を述べることができる
・サウンドデザインに関わる基礎知識および技術を習得する
・秋学期から開始する自身の研究について創造的にアイディアを出しテーマを定める。

授業方法:　輪講，ディスカッション等によるゼミ形式で行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	ヒューマンインターフェス概論	
3.	サウンドデザイン－ヨーロッパの事例をVTRを通してしる	身の回りのサウンドデザイン事例を見つけてくる
4.	プロダクトUIサウンドデザイン手法講義	身の回りのUIサウンドを見つけてくる
5.	プロダクトUIサウンドデザイン事例紹介	身の回りのUIサウンドの分析
6.	卒業論文とは	自身が興味のある研究テーマについて案をあげてみる。
7.	卒業論文輪講	卒業論文を読んで理解する。自分の発表の場合は、卒論内容説明の発表準備をする。
8.	卒業論文輪講	卒業論文を読んで理解する。自分の発表の場合は、卒論内容説明の発表準備をする。
9.	文献調査法	自身の研究テーマ案を考える
10.	文献調査法	自身の研究テーマ案に関連する文献調査を行う
11.	録音およびサウンド編集技術基礎	録音を行ってくる
12.	録音およびサウンド編集技術基礎	課題のサウンドを作成してくる
13.	研究テーマ決定へ向けての討議	研究テーマおよび研究計画について討議の準備を行う。
14.	研究テーマ決定へ向けての討議	研究テーマおよび研究計画について討議の準備を行う。
15.	4年生卒論中間発表への参加	

受講者へのメッセージやアドバイス:
自主的な問題発見、学習を期待します。
毎回MacBookAirを持参ください。

フィードバックの方法:
教室内で全体もしくは個別に指導します。
場合によってはメールでの質問受け付け、指導も行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	50	毎回の授業への参加姿勢で評価する。
発表	30	発表の準備状況、内容の分かりやすさで評価する。
提出物	20	提出物の提出状況および内容にて評価する。

教科書:　木下是雄、レポートの組み立て方、ちくま学芸文庫

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp），授業の前後に教室内で対応

507709

情報メディア応用演習Ⅰ

余田　　義彦

授業テーマ:　学びや暮らしをサポートする情報メディア環境の研究

授業の概要:　本ゼミでは卒業演習・制作までの2年半をかけて、学びや暮らしをサポートする情報メディア環境のあり方を研究します。このテーマに迫るには様々な方法が考えられますが、本ゼミでは各自が自分の関心のあるテーマを取り上げて開発（コンテンツ制作やプログラミングなど）、実験・調査、実践（実際に試してみる）などの方法で研究を進めます。そして専門的な知識技能に加え、社会で必要とされる主体的に行動する力、考え抜く力、他者と協力して問題を解決する力などを身につけます。
情報メディア応用演習Ⅰでは、個人またはグループでテーマを設定し、研究計画書を作成し、準備的な研究を開始します。

到達目標:　①【知識・理解】先行研究（研究テーマに関わる領域で行われてきた研究）の内容や方法を説明できる。
②【関心・意欲・態度】研究テーマに関わる情報や社会的事象に常に関心を持ち、掘り下げて追究しようとする。
③【表現・技能・能力】適切な研究方法を選んで研究テーマに迫り、その成果をわかりやすく他者に伝えることができる。

授業方法:　研究そのものは授業時間外に各自で進めることとし、授業では進捗状況の発表とその内容についてのディスカッションを行います。発表の機会は1月に一回程度の頻度で回ってきます。また、通常の授業とは別に夏期休暇期間中に一泊二日でゼミ合宿を行います（同志社びわこリトリートセンターを予定）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究テーマの設定	
2.	研究テーマの設定	研究の遂行と発表準備
3.	参考資料の収集と準備的な研究	研究の遂行と発表準備
4.	参考資料の収集と準備的な研究（続き）	研究の遂行と発表準備
5.	参考資料の収集と準備的な研究（続き）	研究の遂行と発表準備
6.	研究計画書の作成	研究の遂行と発表準備
7.	研究計画書の作成（続き）	研究の遂行と発表準備
8.	研究計画書の作成（続き）	研究の遂行と発表準備
9.	研究の進捗状況について発表とディスカッション	研究の遂行と発表準備
10.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
11.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
12.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
13.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
14.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
15.	まとめと学習の振り返り	研究の遂行と発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個別指導で対応しますが、必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む姿勢（参加や積極性、発表など）	60	到達目標①②の達成度を評価します。
成果物（発表資料など）	40	到達目標①③の達成度を評価します。

教科書:

参考書:　必要に応じて授業の中で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール（yyoden@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

507710

情報メディア応用演習Ⅰ

松谷　　容作

授業テーマ:

授業の概要:
本授業では、「メディアと私たちの相互作用」に着目した個人研究を進めていく。受講生は研究のテーマと目的を具体的に設定し、資料調査（文献資料、視聴覚資料、インタビュー資料など）を行い、その成果をプレゼンテーションとレポートあるいは試作というかたちで提出する。以上を通じて、本授業では、卒業論文と卒業制作の完成にむけた基礎作りを目標とする。

到達目標:
卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の基礎を形成すること

授業方法:
演習
個人研究のプレゼンテーションおよび各研究内容にかんするディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	個人研究の内容整理しておくこと
2.	個人研究テーマと目的の設定	卒業研究の方法を確認しておくこと
3.	テーマと目的におうじた資料調査の方法	資料調査の方法について調べておくこと
4.	個人研究発表およびディスカッション(1)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
5.	個人研究発表およびディスカッション(2)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
6.	個人研究発表およびディスカッション(3)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
7.	個人研究発表およびディスカッション(4)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
8.	フィールドワーク	個人研究の内容を整理しておくこと
9.	個人研究発表およびディスカッション(5)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
10.	個人研究発表およびディスカッション(6)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
11.	個人研究発表およびディスカッション(7)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
12.	個人研究発表およびディスカッション(8)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
13.	成果のまとめとレヴュー(1)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
14.	成果のまとめとレヴュー(2)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
15.	成果のまとめとレヴュー(3)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
添削して返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	80	個人発表での個人研究の達成度、討論では個々人の研究内容を踏まえた上で発言しているかを基準にして評価する
授業への参加度	20	卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の基礎を形成したかという基準で評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能、E メールを利用、授業の前後に教室内で応対

507711

情報メディア応用演習Ⅰ

有賀　　妙子

授業テーマ:　メディアコンテンツの制作プロジェクト

授業の概要:

文化、観光、環境、科学などをテーマとし、外部機関とのコラボレーションにより動画制作プロジェクトを行います。プロジェクトはプロデューサとディレクタをリーダーとする5－6名のチームによって編成し、テーマを広く社会へ伝えるための映像コンテンツ制作に取り組みます。また、必要に応じてWEBページ、印刷物等の制作を行います。

チームごとに「何を、誰に、なぜ、どのように」伝えるかを検討し、それに沿って調査、企画、アイディア推敲、技術的検討、制作作業、発表という制作プロセスを進めます。その全工程において、各人が「今、何をすべきか」を判断し、適切に問題解決をしながら行動することが求められます。同時に、異なる興味、技術をもつ人とのコラボレーションを通して自分の視野を広げるとともに、共同作業における役割の分担とそれぞれの責務について実制作を通じて体験的に学ぶことをめざします。

なお完成作品については10月上旬にローム記念館階段劇場にてプレゼンテーションを行う予定です。

到達目標:

1 制作プロセスにおいて、創造的かつ総合的な制作力と問題解決力を身につける。
2 打ち合わせやスケジュールの調整など、外部機関とのやり取りを通して、社会とのコミュニケーション力を身につける。

授業方法:　演習・実習を中心に授業を進めます。チームごとにテーマを決め、企画から制作までを主体的に行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	課題内容のオリエンテーション、テーマ決定とチーム編成	テーマについて調査する
2.	テーマ案に基づくラフ企画案検討	テーマについて調査する 作品の企画案を検討する
3.	テーマ案に基づく企画ラフ案検討	テーマについて調査する 作品の企画案を検討する
4.	外部機関の担当部門より情報提供（予定）	企画案の詳細を検討する
5.	外部機関の担当部門より情報提供（予定）	企画案の詳細を検討する
6.	企画プレゼンテーション（授業内）	問題を検討し、企画の修正を行う
7.	企画プレゼンテーション（授業内）	問題を検討し、企画の修正を行う
8.	外部機関の担当部門へ企画プレゼンテーション	修正案を決定し、担当部門に企画内容の最終確認をとる
9.	外部機関の担当部門へ企画プレゼンテーション	修正案を決定し、担当部門に企画内容の最終確認をとる
10.	進捗状況の報告と内容の検討	映像や音声などの撮影、録音を行う
11.	進捗状況の報告と内容の検討	映像や音声などの撮影、録音を行う
12.	進捗状況の報告と内容の検討	映像や音声の編集を行う
13.	進捗状況の報告と内容の検討	映像や音声の編集を行う
14.	合評	発表会へ向けて手直しを行う
15.	合評	発表会へ向けて手直しを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　作品制作過程において、チームごとに助言し、発表会において評価します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
制作した作品	100	作品の魅力、訴求力に、チームへの貢献度を勘案して評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

507712

情報メディア応用演習Ⅰ

髙木　　毬子

授業テーマ:　情報のデザイン:グラフィックデザインとコンテンツ （本の装丁デザイン）

授業の概要:　3年ゼミの春学期では、本の装丁デザインに重点を置きます。本とは、ポスターなどの単品のデザインとは異なり、全体的な視覚的コンセプトを必要とします。グリッド、タイポグラフィ、色合い、レイアウト、紙の選択、印刷、製本の仕上げまで着々と要素を考え出し、決めていきます。コンテンツと形が結びつき、一つの作品が出来上がります。
本演習ではデュッセルドルフ出身の詩家ハインリッヒ・ハイネ（1797－1856）の若き日の自伝とも言われている『イデーエンル・グラン書、1826年』を取り上げます。日本語訳をリデザインしてもらいます。このプロジェクトではHSDのデザイン学科のゾンネン教授の学生とのコラボレーションです。2018年の秋には、ドイツの作品と情報メディア学科の学生の作品がHSDの図書館にともに並ぶ企画展を行います。

到達目標:
・コンセプト:テーマとコンテンツを分析し、個々の表現方法を考え出す
・作品:デザインコンセプトを考案し、統一感を感じさせるデザインを作り、本として仕上げる
・発表:プレゼンテーション能力を身につける

授業方法:　講義, 研究発表、グループディスカッションとプレゼンテーション等を総合的に組み込んだゼミ形式にて行います。受講生は指導に基づきつつ自律的にプロジェクトを進めていきます。また、前半のテーマ研究にあたっては、研究発表を行っていただきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション1:テーマ研究の発表、研究・プレゼンテーション内容の分担 文字組みの基礎1	テーマに関する研究と文字組みの演習1
2.	文字組みの基礎2	テーマに関する研究と文字組みの演習2
3.	文字組みとレイアウトの基礎3	テーマに関する研究と文字組みの演習3
4.	文字組みとレイアウトの基礎4・プロジェクトの準備1 ゼミ生:個人的なテーマの選択、アイデアのアウトラインを考える	テーマに関する研究と文字組みの演習4
5.	プロジェクトの準備2:テーマに関する研究 ゼミ生による研究発表:一人につき15分までのプレゼンテーション	作品制作に向けての準備、アイデアスケッチ
6.	プロジェクトの準備3:テーマに関する研究 ゼミ生による研究発表:一人につき15分までのプレゼンテーション	作品制作に向けての準備、アイデアスケッチ
7.	プロジェクトの準備4:テーマに関する研究 ゼミ生による研究発表:一人につき15分までのプレゼンテーション	作品制作に向けての準備、アイデアスケッチ
8.	プロジェクトの準備5:コンテンツを視覚化するデザイン様式・参考となる作品のディスカッション	個人的なテーマを、アイデアのアウトラインを決める
9.	プロジェクトの実行1:コンテンツのビジュアル化	ビジュアルデザインのスタイル発表（コンテンツの20%）
10.	プロジェクトの実行2:コンテンツのビジュアル化	作品制作
11.	プロジェクトの実行3:コンテンツのビジュアル化	作品制作
12.	プロジェクトの実行4:コンテンツのビジュアル化	作品制作
13.	プロジェクトの仕上げ1:プロダクション	作品制作、仕上げ
14.	プロジェクトの仕上げ2:プレゼンテーションの準備	作品制作、仕上げ
15.	最終プレゼンテーション（展示会）とプロジェクトのドキュメンテーションの提出	プレゼンテーションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
質問がありましたら、声をかけてください。
作品制作の進行は各自積極的に行ってください。

フィードバックの方法:　毎週、ゼミ生のアイデア、コンセプト、プロジェクトの進行に対して教室でまとめてフィードバック・解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み	20	積極的に授業に参加し、他の受講生にもフィードバックしているのかを評価します。（発言力、質問力
アイデア・コンセプトの独創性	20	ディスカッション・プレゼンテーションやプロジェクトのドキュメンテーションを評価します。
課題制作における完成度	60	課題制作における完成度（アイデア、表現力・デザイン、仕上げ）を評価します。

教科書:　『旅の絵』より / Heinrich Heine著 ; 木庭宏[ほか]訳 ; 木庭宏責任編集. -- 松籟社, 1990. -- (ハイネ散文作品集 / Heinrich Heine [著] ; 木庭宏責任編集 ; 第2巻).

参考書:　授業内でテーマ・進度に合わせて紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業終了後に直接連絡してください。

507801

情報メディア応用演習Ⅱ

影山　　貴彦

授業テーマ:　エンターテインメント的見地に立つメディア研究

授業の概要:　毎回ふたりの学生に自らのテーマに沿ったプレゼンテーションを課す。
同時にふたりの学生に座長を課す。
そのほかの学生にも毎回必ず発言することを課す。

到達目標:　メディアに対する正しい認識のもと、大いに知識を深め、自らの研究テーマに反映させることを目標とする。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
2.	ガイダンス②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
3.	個人発表およびディスカッション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
4.	個人発表およびディスカッション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
5.	個人発表およびディスカッション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
6.	個人発表およびディスカッション④	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
7.	フィールドワーク	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
8.	個人発表およびディスカッション⑤	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
9.	個人発表およびディスカッション⑥	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
10.	個人発表およびディスカッション⑦	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
11.	個人発表およびディスカッション⑧	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
12.	個人発表およびディスカッション⑨	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
13.	個々のショートプレゼンテーション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
14.	個々のショートプレゼンテーション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
15.	個々のショートプレゼンテーション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
個人発表	40%	研究テーマに関するクオリティ
発言力・質問力	30%	発表者への的を射た意見、および質問する力
積極的姿勢	30%	ゼミに関わる全般的な態度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワーおよびゼミ終了後

507802

情報メディア応用演習Ⅱ

川田　　隆雄

授業テーマ:　フィールド調査によるプロデュース能力研究

授業の概要:　現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテイメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミではエンターテイメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルにおけるプロデューサーのインタビュー調査を行い、分析研究を本格的に開始する。ゼミ生はグループに分かれて、プロデューサ型人材のインタビューを行い、データ収集、資質や行動パターンの分析を行う。2012年度から運用が開始されてている、プロデューサーデータベース(iDUS)を利用して各ループで分析作業を行う。

到達目標:　川田ゼミの特長であるインタビューの技法をマスターする。また、インタビューから分析を行う方法を身につける。本音でのディスカッションを習慣化する。

授業方法:　授業はフィールド調査及び調査発表とディスカッションによって進められる。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	前期のプロデュース研究のふりかえり1	復習
2.	前期のプロデュース研究のふりかえり2	復習
3.	プロデューサーデータベース(iDUS)使用方法の再確認	復習
4.	インタビュー結果のディスカッション1	インタビュー結果のまとめ、発表準備
5.	インタビュー結果のディスカッション2	インタビュー結果のまとめ、発表準備
6.	インタビュー結果のディスカッション3	インタビュー結果のまとめ、発表準備
7.	インタビュー結果のディスカッション4	インタビュー結果のまとめ、発表準備
8.	インタビュー結果のディスカッション5	インタビュー結果のまとめ、発表準備
9.	インタビュー結果のディスカッション6	インタビュー結果のまとめ、発表準備
10.	インタビュー結果のディスカッション7	インタビュー結果のまとめ、発表準備
11.	インタビュー結果のディスカッション8	インタビュー結果のまとめ、発表準備
12.	インタビュー結果のディスカッション9	インタビュー結果のまとめ、発表準備
13.	インタビュー結果のディスカッション10	インタビュー結果のまとめ、発表準備
14.	インタビュー結果のディスカッション11	インタビュー結果のまとめ、発表準備
15.	まとめとふりかえり	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前のフィールド調査とそこで得られたデータの整理、分析、またレジメ作成などの作業が発生する。川田ゼミ独特の研究プロセスの醍醐味を味わえる1年間となるはずである。

フィードバックの方法:　調査、分析のフィードバックは授業中に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	70	出席と発表の有無。ゼミの授業では欠席が4回以上の場合単位が出ないので注意するように！
成果物	30	プレゼン内容

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業内でのコンタクトを基本とする

507803

情報メディア応用演習Ⅱ

三根　　浩

授業テーマ:　マルチメディアとメンタルモデル

授業の概要:　授業目標: マルチメディア技法は、打てば響くような迅速な情報の提示技術の側面を重視してきていたが、この演習では、(1)認知システムとしてのこころ、(2)二重符号化による記憶のメカニズム、(3)認知理論に基づいたマルチメディア教材の設計、について演習と制作を目指していきたい。

到達目標:　こころの機能の仕組み(Mental Model)と記憶のメカニズムの特徴についてイリュージョンを手がかりに理解する。

授業方法:　演習、制作・著作を組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	メンタルモデルの基礎概念の解説	認知心理学 -- 知のアーキテクチャを探る 新版 (有斐閣アルマ)
3.	記憶のメカニズムの特徴	
4.	ワーキングメモリーの特徴	
5.	メディアに関する心理的現象の研究	(Illusion)
6.	メディアに関する心理的現象の研究2	(閾下知覚)
7.	課題の構想とプレゼンテーション	各自の課題に沿った文献調査を行う
8.	制作1	
9.	制作2	
10.	制作3	
11.	制作過程のチェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進度をチェックする
12.	プロトタイプの提出	
13.	作品・レポートの手直し	
14.	作品・レポートの提出・プレゼンテーション1	プレゼン力を養う
15.	作品・レポートの提出・プレゼンテーション2	プレゼン力を養う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品・レポート	50	積極的に授業に参加し、到達目標Mental Modelの理解ができるようになったか評価する
プレゼンテーション	30	
積極的参加度	20	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力

教員との連絡方法:　e-mail

507804

情報メディア応用演習Ⅱ

森　　公一

授業テーマ:　個人テーマによる作品制作と発表

授業の概要:　自由テーマに基づく作品制作とその展示を行います。これまでに培った表現技法やノウハウに加え、各個人に応じた技術的課題を解決しながら、魅力的で独自性に富んだ作品の創造を目標とします。年度末に予定している進級制作展での成果発表を前提に、作品のテーマや形式に関連する情報の収集と分析研究、独自の表現形式や展示形式の立案、新しい制作ノウハウの習得、スケジュール管理や人的ネットワークの構築、作品の完成度を高める手直しなど、全てのプロセスを一貫してプロデュースすることを体験します。

到達目標:　独自の作品を創造し展示するための総合力を獲得する
クリエイティブ力:作品の企画力、構想力、技術力、表現力など
マネジメント力:プレゼンテーション能力、スケジュール管理、資金管理など
プロデュース力:コミュニケーション力、組織運営・人材活用能力など

授業方法:　個別面談による対話形式を中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	春学期課題の発表についてオリエンテーション	
2.	春学期課題の発表本番	春学期課題の発表準備
3.	個人研究	個人研究のまとめ
4.	個人研究のプレゼンテーション1	個人研究プレゼンテーションの準備1
5.	個人研究のプレゼンテーション2	個人研究プレゼンテーションの準備2
6.	企画案プレゼンテーション1(個別面談)	企画案プレゼンテーションの準備1
7.	企画案プレゼンテーション1(個別面談)	企画案プレゼンテーションの準備1
8.	企画案プレゼンテーション2(個別面談)	企画案プレゼンテーションの準備2
9.	企画案プレゼンテーション2(個別面談)	企画案プレゼンテーションの準備2
10.	中間チェック1(個別面談)	作品制作
11.	中間チェック1(個別面談)	作品制作
12.	中間チェック2(個別面談)	作品制作
13.	中間チェック2(個別面談)	作品制作
14.	最終チェック(全員)	最終チェックにむけての準備
15.	最終チェック(全員)	最終チェックにむけての準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　個人作品の制作となるので、自己管理に努めてください。

フィードバックの方法:　個別面談や中間チェック、最終チェック、合評会においてアドバイスを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	100	完成作品の創造性

教科書:　特になし

参考書:　作品のテーマや形式に関連する参考文献など、基本的な情報は各自で積極的に収集してください。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内で対応します。

507805

情報メディア応用演習Ⅱ

村木　　美紀

授業テーマ:　サブカルチャーの展開に関する探究

授業の概要:　「情報メディア演習」、「情報メディア応用演習I」での学びを踏まえて、サブカルチャーに関するテーマで各自で課題を設定し、研究を行う。
4回生の卒業論文へと繋げるべく研究を進め、研究の中間まとめとして学科行事であるポスターセッションに全員で参加する。

到達目標:
1【知識・理解】研究の基礎的情報をもとにサブカルチャーについて理解し、説明ができる。
2【関心・意欲・態度】サブカルチャーについての問題提起や提案ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や自己管理力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:　講義、調査、ディスカッション、プレゼンテーションなどを用いたゼミ形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	文献調査・フィールドワーク	研究の準備と実施
3.	個人研究報告(1)	進捗報告の準備
4.	個人研究報告(2)	進捗報告の準備
5.	個人研究報告(3)	進捗報告の準備
6.	個人研究報告(4)	進捗報告の準備
7.	ディスカッション(1)	
8.	ポスター準備(1)	資料作成等発表の準備
9.	ポスター準備(2)	資料作成等発表の準備
10.	ディスカッション(2)	
11.	プレゼンテーション(1)	資料作成等発表の準備とプレゼン練習
12.	プレゼンテーション(2)	資料作成等発表の準備とプレゼン練習
13.	プレゼンテーション(3)	資料作成等発表の準備とプレゼン練習
14.	ディスカッション(3)	
15.	評価	

受講者へのメッセージやアドバイス:　ポスターセッションは全員参加とする

フィードバックの方法:　基本的に授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	30	到達目標の1を中心に評価する。
レポート	30	到達目標の2・3を中心に評価する。
発表（ポスターセッションを含む）	40	到達目標の2・3を中心に評価する。

教科書:

参考書:
全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』（年刊）
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』（年刊）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール：mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

507806

情報メディア応用演習Ⅱ

中村　　信博

授業テーマ:　メディア文化史的思考の歴史と可能性

授業の概要:　「情報メディア応用演習Ⅰ」において探求されたメディア文化史上の諸問題および提案されたデジタル・コンテンツ、テクスト・データベースの実際的利用などの経験をもとに高度情報化社会がもつ特性を試論的に検討する。

到達目標:　【知識・理解】「情報メディア演習」「情報メディア応用演習Ⅰ」に引き続いて、学術調査と資料収集の基礎的技法を身につける。
【関心・意欲・態度】各人の研究について進捗状況を報告できる。また報告者への応答による協力・支援の力を身につける。
【表現・技能・能力】研究を計画し探求する力、それを論理的・効果的に発表する力、および協調的解決能力を身につけ、メディアの文化史的変遷について継続的に探求する基礎力を養う。

授業方法:　演習形式。個人研究を基礎とした研究発表討議を中心とする。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム（マナビー）を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	「情報メディア応用演習Ⅰ」を継続・発展させる授業であることを意識して各人の問題意識を整理しておくこと。
2.	個人ベースの研究もしくは制作－1	事前配布の資料などにより、メディア文化史的研究とはなにか、関心を整理しておくこと。
3.	個人ベースの研究もしくは制作－2	事前配布の資料などにより、メディア文化史的研究とはなにか、関心を整理しておくこと。
4.	方法の基礎－1	事前配布の資料などにより、メディア文化史的研究にはどのような方法が必要なのか、関心を整理しておくこと。
5.	方法の基礎－2	事前配布の資料などにより、メディア文化史的研究にはどのような方法が必要なのか、関心を整理しておくこと。
6.	課題の設定－1	事前配布の資料などにより、メディア文化史的研究はどのような課題設定によって可能なのか、関心を整理しておくこと。
7.	課題の設定－2	事前配布の資料などにより、メディア文化史的研究はどのような課題設定によって可能なのか、関心を整理しておくこと。
8.	情報収集の実際－1	各人の関心に応じて、研究のための参考文献、資料、アーカイブなどのリストを作成する。
9.	情報収集の実際－2	各人の関心に応じて、研究のための参考文献、資料、アーカイブなどのリストを作成する。
10.	調査の実際－1	各人の研究計画を作成する。
11.	調査の実際－2	各人の研究計画を作成する。
12.	プレゼンテーションの実際－1	個人研究の実際についてプレゼンテーションを準備する。
13.	プレゼンテーションの実際－2	個人研究の実際についてプレゼンテーションを準備する。
14.	プレゼンテーションの実際－3	個人研究の実際についてプレゼンテーションを準備する。
15.	総括－卒業研究・制作にむけて－	「情報メディア応用演習Ⅰ」以上により具体的な研究課題として卒業研究・制作についての準備を開始する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日常的関心をメディア文化史的思考によって探求することの意義と方法を各人の関心に応用して欲しい。

フィードバックの方法:　クラスおよび授業支援システム（マナビー）利用による討議など。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	40%	積極的にクラスに参加し、討議（マナビーを含む）議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。
研究（個人）研究の理解度	30%	研究（個人）研究の意義と方法、実際について正しく理解できているかどうかを基準として評価する。
研究（個人）研究への着手度	30%	学期最終時に、卒業研究・制作の準備としての研究（個人）研究にどの程度着手されているかを基準として評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力、洞察力

教員との連絡方法:　直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

507807

情報メディア応用演習Ⅱ

関口　　英里

授業テーマ:

授業の概要:　本演習では「情報メディア応用演習I」での学びを土台に、文化とメディアをとりまく諸相についての分析を発展させます。学生各自が設定したテーマについて、文献・資料の購読や各種調査をさらに進め、独自の考察を深めてゆきます。

到達目標:　次年度の卒業演習・制作の基礎をしっかり固める個人研究を行うことが目標です。

授業方法:　受講生による発表を中心に、講義をまじえながら授業を進めます。学生各自の設定した発表テーマに関する講読文献と課題を毎回設定し、全員で討論を行います。毎回さまざまな分野のトピックを学び、各自の立体的な学際研究へ応用することが重要です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業の概要と進め方の説明、必要事項についての討論と決定
2.	個人研究発表とディスカッション　応用:発表(1)～(2)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
3.	個人研究発表とディスカッション　応用:発表(3)～(4)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
4.	個人研究発表とディスカッション　応用:発表(5)～(6)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
5.	個人研究発表とディスカッション　応用:発表(7)～(8)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
6.	個人研究発表とディスカッション　応用:発表(9)～(10)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
7.	個人研究発表とディスカッション　応用:発表(11)～(12)	発表者:個人研究テーマについての基礎的な調査、分析、発表および質疑応答の準備① 発表者以外:発表されるテーマについての予備知識獲得、質問等の準備
8.	個人研究発表とディスカッション　深化:発表(1)～(2)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
9.	個人研究発表とディスカッション　深化:発表(3)～(4)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
10.	個人研究発表とディスカッション　深化:発表(5)～(6)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
11.	個人研究発表とディスカッション　深化:発表(7)～(8)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
12.	個人研究発表とディスカッション　深化:発表(9)～(10)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
13.	個人研究発表とディスカッション　深化:発表(11)～(12)	発表者:個人研究テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
14.	総括:ポスターセッションと卒業制作に向けた実践(1)	各自の研究成果の発表演習、発展的討論①
15.	総括:ポスターセッションと卒業制作に向けた実践(2)	各自の研究成果の発表演習、発展的討論②

受講者へのメッセージやアドバイス:　個人研究の目標設定から調査の実践、研究成果の発表とさらなる発展を実現するためには、授業内外での各自の弛みない努力が必須です。授業はおもに成果発表と討論や指導の場となりますので、毎回の授業前準備、授業後の軌道修正などが重要になります。したがって、資料収集、読解、分析、発表、といった研究活動全般を各自計画的に遂行し、自律的な学習活動を精力的に行う事が求められます。

フィードバックの方法:　授業時および授業外に必要に応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、DWCLA10の総合的な向上が最終目標
教員との連絡方法:	授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示します。

507808

情報メディア応用演習Ⅱ

和氣　　早苗

授業テーマ:　ヒューマンインタフェースおよびプロダクトのUIサウンドデザイン

授業の概要:　自身の卒業研究テーマを定め、個人あるいはグループ単位で研究を実施する。

到達目標:
・客観的にデータを見ること、論理的・批判的に思考することができる.
・自信の考えを説明したり意見を述べ，相手の意見を聞き，建設的な討議を行うことができる.
・サウンドデザインに関わる基礎知識および技術を習得する
・計画的に，また計画を適宜見直しながら，研究を主体的に実施できる.

授業方法:
個別あるいはグループ単位での研究活動の実施。
毎回あるいは隔週で、実施した内容の報告および討議を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
3.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
4.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
5.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
6.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
7.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
8.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
9.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
10.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
11.	研究活動の実施および討議	研究準備および実施、討議の振り返り
12.	ゼミ内報告会	報告会準備
13.	研究活動の実施およびポスターセッション用ポスターの作成	ポスターの制作
14.	研究活動の実施およびポスターセッション用ポスターの作成	ポスターの制作、修正
15.	研究活動の実施およびポスターセッション用ポスターの作成	ポスターの制作、修正

受講者へのメッセージやアドバイス:
自主的な問題発見、学習を期待します。
毎回MacBookAirを持参ください。

フィードバックの方法:
教室内で全体もしくは個別に指導します。
場合によってはメールでの質問受け付け、指導も行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	50	研究への取り組み姿勢で評価する。
発表（ポスターセッション）	30	準備状況、ポスター発表のわかりやすさで評価する。
成果物	20	半年間の研究成果で評価する。

教科書:　木下是雄、レポートの組み立て方、ちくま学芸文庫

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp），授業の前後に教室内で対応

507809

情報メディア応用演習Ⅱ

余田　　義彦

授業テーマ:　学びや暮らしをサポートする情報メディア環境の研究

授業の概要:　本ゼミでは卒業演習・制作までの2年半をかけて、学びや暮らしをサポートする情報メディア環境のあり方を研究します。このテーマに迫るには様々な方法が考えられますが、本ゼミでは各自が自分の関心のあるテーマを取り上げて開発(コンテンツの制作やプログラミングなど)、実験・調査、実践(実際に試してみる)などの方法で研究を進めます。そして専門的な知識技能に加え、社会で必要とされる主体的に行動する力、考え抜く力、他者と協力して問題を解決する力などを身につけます。情報メディア応用演習Ⅱでは、Ⅰで開始した研究を継続してさらに深め、発展させます。

到達目標:　①【知識・理解】先行研究(研究テーマに関わる領域で行われてきた研究)の内容や方法を説明できる。
②【関心・意欲・態度】研究テーマに関わる情報や社会的事象に常に関心を持ち、掘り下げて追究しようとする。
③【表現・技能・能力】適切な研究方法を選んで研究テーマに迫り、その成果をわかりやすく他者に伝えることができる。

授業方法:　研究そのものは授業時間外に各自で進めることとし、授業では進捗状況の発表とその内容についてのディスカッションを行います。発表の機会は1月に一回程度の頻度で回ってきます。ポスターセッション、進級制作展については、原則として全員参加とします。また、通常の授業とは別に夏期休暇期間中に一泊二日でゼミ合宿を行います(同志社びわこリトリートセンターを予定)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究の進捗状況について発表とディスカッション	研究の遂行と発表準備
2.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
3.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
4.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
5.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
6.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
7.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
8.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
9.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
10.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
11.	研究の進捗状況について発表とディスカッション(続き)	研究の遂行と発表準備
12.	ポスターセッション、進級制作展ガイダンス	ポスター制作、進級制作展準備
13.	ポスター制作、進級制作展準備	ポスター制作、進級制作展準備
14.	ポスター制作と発表練習、進級制作展準備(続き)	ポスター制作と発表練習、進級制作展準備(続き)
15.	ポスターセッション、進級制作展の準備、まとめ	ポスター制作と発表練習、進級制作展準備(続き)

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個別指導で対応しますが、必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む姿勢(参加や積極性、発表など)	60	到達目標①②の達成度を評価します。また、自主学習や資格試験への挑戦を奨励し、その成果も本人からの申し出に基づいて加点します。
成果物(発表資料、ポスター、出展作品など)	40	到達目標①③の達成度を評価します。

教科書:

参考書:　必要に応じて授業の中で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

507810

情報メディア応用演習Ⅱ

松谷　　容作

授業テーマ:

授業の概要:
本授業では、「メディアと私たちの相互作用」に着目した個人研究を進めていく。受講生は研究のテーマと目的を具体的に設定し、資料調査（文献資料、視聴覚資料、インタビュー資料など）を行い、その成果をプレゼンテーションとレポートあるいは試作というかたちで提出する。以上を通じて、本授業では、卒業論文と卒業制作の完成にむけた基礎作りを目標とする。

到達目標:
卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の基礎を形成すること

授業方法:
演習
個人研究のプレゼンテーションおよび各研究内容にかんするディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	個人研究の内容整理しておくこと
2.	個人研究の進捗状況についての報告(1)	個人研究の内容整理しておくこと
3.	個人研究の進捗状況についての報告(2)	個人研究の内容整理しておくこと
4.	個人研究発表およびディスカッション(1)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
5.	個人研究発表およびディスカッション(2)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
6.	個人研究発表およびディスカッション(3)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
7.	個人研究発表およびディスカッション(4)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
8.	フィールドワーク	個人研究の内容を整理しておくこと
9.	個人研究発表およびディスカッション(5)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
10.	個人研究発表およびディスカッション(6)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
11.	個人研究発表およびディスカッション(7)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
12.	個人研究発表およびディスカッション(8)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
13.	成果のまとめとレヴュー(1)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
14.	成果のまとめとレヴュー(2)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
15.	成果のまとめとレヴュー(3)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
添削して返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	80	個人発表での個人研究の達成度、討論では個々人の研究内容を踏まえた上で発言しているかを基準にして評価する
授業への参加度	20	卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の基礎を形成したかという基準で評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能、E メールを利用、授業の前後に教室内で応対

507811

情報メディア応用演習Ⅱ

有賀　　妙子

授業テーマ:　情報デザインに関する作品の制作と発表

授業の概要:　個人のテーマに従い、自らが創造した情報をかたちにする制作を行います。情報デザインされたものと、それを使う人・見る人との間のインターフェイスに関する考察と実装（制作）が目的です。年度末に開催予定の進級制作展での成果発表を前提に、新しい視点をもち、適切な技術を使い、新しい表現やコミュニケーションの可能性を提示する作品・プログラムを制作・開発します。
企画、調査、制作・開発、フィニッシュワークの過程において、創造性、チャレンジ、地道な努力が求められます。

到達目標:
1 何をどう、どのような手法を使って表現するのか、そのためには何を解決し、何を勉強するのかを自主的に考える
2 企画に基づき制作をし、完成させる
3 制作したものを適切に発表する

授業方法:　個別のテーマに基づき、主体的に制作を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	情報メディア応用演習I 制作作品 発表会準備	発表を準備する。
2.	情報メディア応用演習I 制作作品 発表会	企画書を作成する。
3.	情報メディア応用演習I 制作作品 発表会	企画書を作成する。
4.	企画案チェック	企画の詳細を構想する。 発表を準備する。
5.	企画案チェック	企画の詳細を構想する。 発表を準備する。
6.	企画プレゼンテーション	作品を制作する。
7.	企画プレゼンテーション	作品を制作する。
8.	進捗状況・内容チェック	作品を制作する。 発表を準備する。
9.	進捗状況・内容チェック	作品を制作する。 発表を準備する。
10.	中間プレゼンテーション	作品を制作する。
11.	中間プレゼンテーション	作品を制作する。
12.	進捗状況・内容チェック	作品を制作する。 発表を準備する。
13.	進捗状況・内容チェック	作品を制作する。 発表を準備する。
14.	合評	進級制作展へ向けて、作品をブラッシュアップする。
15.	合評	進級制作展へ向けて、作品をブラッシュアップする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　クラス内でのプレゼンテーション、個別ミーティングの場において、テーマや制作手法などについて助言し、議論します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
制作した作品	80	作品の完成度
クラス内議論への参加度	20	プレゼンテーションにおける議論への積極的貢献

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

507812

情報メディア応用演習Ⅱ

髙木　　毬子

授業テーマ:　情報のデザイン:個人作品の制作と発表

授業の概要:　3年ゼミの秋学期の初めには、それまでの二学期間の作品作りのリフレクションをインフォーメーションデザインの要素を借りて、分析そして視覚化します。
これまでの作品制作の自己アナリシスを通して今学期自由課題として取り上げていただくテーマ、そしてビジュアル要素を考えてもらいます。
自由課題の作品は年度末の進級制作展で成果発表として展示します。展示に向けて独自のテーマ、作品作りに必要な情報収集と分析、作品の表現方法の実践と製作、そして作品の位置決めや解説を体験します。

到達目標:　発表:コミュニケーション・プレゼンテーション能力
作品:デザイン研究・表現力・技能力
プロダクション:タイムマネージメント、創造的な問題解決能力

授業方法:　グループディスカッション、個別指導、中間・最終プレゼンテーションなどを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	学期初めの発表の準備、リフレクションの製作
2.	発表の準備	発表の準備、展示設定
3.	発表本番	プレゼンテーション
4.	自由プロジェクトの準備1	個人的にテーマを選択し、アイデアのアウトラインを考える テーマに関する研究 研究発表の準備
5.	自由プロジェクトの準備2:テーマに関する研究 ゼミ生による研究発表:一人につき15分までのプレゼンテーション	作品制作に向けての準備、アイデアスケッチ
6.	プロジェクトの準備3:テーマに関する研究 ゼミ生による研究発表:一人につき15分までのプレゼンテーション	作品制作に向けての準備、アイデアスケッチ
7.	プロジェクトの準備4:テーマに関する研究 ゼミ生による研究発表:一人につき15分までのプレゼンテーション	個人的なテーマを、アイデアのアウトラインを決める
8.	プロジェクトの準備5:コンテンツを視覚化するデザイン様式・参考となる作品のディスカッション	作品制作
9.	プロジェクトの実行1:コンテンツのビジュアル化	作品制作 ビジュアルデザインのスタイル発表の準備(コンテンツの20%)
10.	プロジェクトの実行2:コンテンツのビジュアル化・修正	作品制作
11.	プロジェクトの実行3:コンテンツのビジュアル化・修正	作品制作
12.	プロジェクトの仕上げ1:プロダクション	作品制作・プロダクション
13.	プロジェクトの仕上げ2:プロダクション	作品制作・プロダクション
14.	プロジェクトの仕上げ3:プレゼンテーション、展示の準備	プロダクション、ドキュメンテーション
15.	最終プレゼンテーション(展示会)とプロジェクトのドキュメンテーションの提出	作品展示・プレゼンテーション

受講者へのメッセージやアドバイス:　個人作品の制作を主に行います。テーマの選択、作品制作の進行が自己管理となります。

フィードバックの方法:　毎週、ゼミ生のアイデア、コンセプト、プロジェクトの進行に対して教室でまとめてフィードバック・解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
アイデア・コンセプトの独創性	20%	ディスカッション・プレゼンテーションやプロジェクトのドキュメンテーションを評価します。
作品の完成度	80%	課題制作における完成度(アイデア、独自性、表現力・デザイン、仕上げ)を評価します。

教科書:　なし

参考書:　授業内でテーマ・進度に合わせて紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業終了後に直接連絡してください。

507901

卒業演習・制作Ⅰ

影山　　貴彦

授業テーマ:　エンターテインメント見地に立つメディア研究

授業の概要:　卒業論文、制作における指導をおこなう。

到達目標:　他者との比較ではなく、個々人の掲げた目標到達、すなわち総決算である卒業論文、制作の完成に邁進してほしいと考えている。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス①	卒業論文、制作に関する準備
2.	ガイダンス②	卒業論文、制作に関する準備
3.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(1)	卒業論文、制作に関する準備
4.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(2)	卒業論文、制作に関する準備
5.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(3)	卒業論文、制作に関する準備
6.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(4)	卒業論文、制作に関する準備
7.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(5)	卒業論文、制作に関する準備
8.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(6)	卒業論文、制作に関する準備
9.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(7)	卒業論文、制作に関する準備
10.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(8)	卒業論文、制作に関する準備
11.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(1)	卒業論文、制作に関する準備
12.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(2)	卒業論文、制作に関する準備
13.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(3)	卒業論文、制作に関する準備
14.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(4)	卒業論文、制作に関する準備
15.	卒業論文、制作進捗状況に関する個人発表(5)	卒業論文、制作に関する準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ゼミ内でまとめて指導

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文、制作に対するアプローチ	70%	受講者個人で当初立てた目標を大きな評価基準とする
積極的態度	30%	必ず発言・質問をすることを課す

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

507902

卒業演習・制作Ⅰ

川田　　隆雄

授業テーマ:　プロデュースプロセスを自分の力で分析し卒論という形でまとめる

授業の概要:　現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテイメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミでは3年生におこなったエンターテイメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルにおけるプロデューサーのインタビュー調査から、プロデューサーの行動パターンや資質について、モデル化をとおして卒業論文作成の準備を行う。2012年度から運用が開始されてている、プロデューサーデータベース(iDUS)を利用して、分析作業を行う。

到達目標:　3年生で行った調査結果をもとに卒業論文のテーマを決め論文を書く過程から以下のことを到達目標とする。
（1）生のデータを自分で分析し独自の結論を導き出す
（2）結論をモデルで表現する方法を確立する
（3）卒業論文というまとまった文章として表現する方法を学ぶ
（4）クラスメイトの論文にクリティカルな視点で評論することが出来るようになる

授業方法:　演習室での一般授業、ディスカッションを併用する。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業研究の方法論の概説	復習
2.	卒業研究の方法論解説（モデル化）	復習
3.	プロデューサーモデルの発表１	発表準備
4.	プロデューサーモデルの発表２	発表準備
5.	プロデューサーモデルの発表３	発表準備
6.	プロデューサーモデルの発表４	発表準備
7.	プロデューサーモデルの発表５	発表準備
8.	プロデューサーモデルの発表６	発表準備
9.	プロデューサーモデルの発表７	発表準備
10.	プロデューサーモデルの発表８	発表準備
11.	プロデューサーモデルの発表９	発表準備
12.	プロデューサーモデルの発表１０	発表準備
13.	卒業論文作成に関する注意	発表準備
14.	卒業論文作成に関する注意	発表準備
15.	まとめとふりかえり	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒論を書くための調べ学習、執筆、また、中間発表のための準備など予習が多く含まれる。川田ゼミでの学びのまとめが卒論であり、このプロセスをそれぞれの学生が楽しむことを期待する。

フィードバックの方法:　授業内でそれぞれの学生にフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	70	出欠。ゼミでは4回以上欠席の場合単位がでないので注意をするように！
成果物	30	授業内発表とレジメで評価する

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業内での直接コンタクトを基本とする。

507903

卒業演習・制作Ⅰ

三根　　浩

授業テーマ:　マルチメディアを応用した作品・論文の制作

授業の概要:　「情報メディア演習・応用演習」において研究・制作を行ったテーマをさらに発展させる。また、それらの理論的裏付けについて理解を深め、論文として文章化するための手法について演習を行う。

到達目標:　作品または論文のプロトタイプを作成する。

授業方法:　演習、制作・著作を組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	研究課題の検討	
3.	各自の研究テーマに関わる情報収集	（インターネット検索）
4.	各自の研究テーマに関わる情報収集	（文献調査）
5.	各自の研究テーマに関わる文献・資料収集	（文献研究）
6.	課題の構想とプレゼンテーション1	
7.	課題の構想とプレゼンテーション2	
8.	制作1	
9.	制作2	
10.	制作3	
11.	制作過程の中間チェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進度をチェックする
12.	プロトタイプの提出	各自の課題にそった制作・研究過程の骨子を作成する
13.	作品・論文の手直し	
14.	作品・論文の提出・プレゼンテーション1	プレゼン力を養う
15.	作品・論文の提出・プレゼンテーション2	プレゼン力を養う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品・論文	50	積極的に授業に参加し、到達目標マルチメディアの応用ができるようになったか評価する
プレゼンテーション	30	
積極的参加度	20	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　e-mail

507904

卒業演習・制作Ⅰ

森　　公一

授業テーマ:　個人作品の企画制作と社会への発信

授業の概要:　本演習では、三年次までに培ったメディア表現の内容的・技術的成果や進級制作展における展示経験などをふまえ、さらにステップアップした作品制作プロジェクトを実施します。各自が独自の研究課題を設け、課題に沿った質の高い作品を完成させることが目標です。ギャラリー等での展示、WEBでの配信、出版・販売、コンペティションへの出品など、社会に対する具体的アクティヴィティを前提とするプロジェクトであり、最終的にどのような場所・局面においても必要とされる「自ら考え判断する力」や「積極的に行動する力」を養うことを目標とします。

到達目標:　質の高い作品を生み出し発信するための総合力を獲得する
クリエイティブ力:作品の企画力、構想力、技術力、表現力など
マネジメント力:プレゼンテーション能力、スケジュール管理、資金管理など
プロデュース力:コミュニケーション力、組織運営・人材活用能力など

授業方法:　個別面談による対話形式を中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス	
2.	作品企画とテーマ研究のプレゼンテーション	テーマ研究をふまえた作品プランと企画書の作成
3.	テスト作品のプレゼンテーション1（個別面談）	テスト作品の制作
4.	テスト作品のプレゼンテーション1（個別面談）	テスト作品の制作
5.	テスト作品のプレゼンテーション2（個別面談）	テスト作品の修正
6.	テスト作品のプレゼンテーション2（個別面談）	テスト作品の修正
7.	中間チェック1（個別面談）	作品制作
8.	中間チェック1（個別面談）	作品制作
9.	中間チェック2（個別面談）	作品制作
10.	中間チェック2（個別面談）	作品制作
11.	最終チェック	作品制作
12.	最終チェック	作品制作
13.	作品プレゼンテーション（合評）	プレゼンテーションの準備
14.	作品プレゼンテーション（合評）	プレゼンテーションの準備
15.	社会への発信・発表方法の決定	社会への発信・発表方法の検討

受講者へのメッセージやアドバイス:　自己管理に努めてください。

フィードバックの方法:　制作の進捗に合わせてアドバイスを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	100	完成作品のクオリティ

教科書:　特になし

参考書:　作品のテーマや形式に関連する参考文献など、基本的な情報は各自で積極的に収集してください。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内で対応します。

507905

卒業演習・制作Ⅰ

村木　　美紀

授業テーマ:　サブカルチャーに関する研究と制作の実践

授業の概要:　「情報メディア演習」、「情報メディア応用演習I, II」で行ってきた研究の集大成として卒業論文を執筆する。
また、論文執筆後には卒業演習合同発表会で発表する。

到達目標:
1【知識・理解】研究の基礎的情報をもとにサブカルチャーについて理解し、説明ができる。
2【関心・意欲・態度】サブカルチャーについての問題提起や提案ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や自己管理力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:　個人研究の発表やディスカッション等、講義・指導を含めたゼミ形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	個人研究発表(1)	進捗報告の準備
3.	個人研究発表(2)	進捗報告の準備
4.	個人研究発表(3)	進捗報告の準備
5.	ディスカッション(1)	
6.	中間発表(1)	資料作成等発表の準備
7.	中間発表(2)	資料作成等発表の準備
8.	ディスカッション(2)	
9.	個人研究発表(4)	進捗報告の準備
10.	個人研究発表(5)	進捗報告の準備
11.	個人研究発表(6)	進捗報告の準備
12.	ディスカッション(3)	
13.	中間発表(3)	資料作成等発表の準備
14.	中間発表(4)	資料作成等発表の準備
15.	ディスカッション(4)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　基本的に授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	30	到達目標の1・2を中心に評価する。
論文	40	到達目標の1・2を中心に評価する。
発表	30	到達目標の3を中心に評価する。

教科書:

参考書:　全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』(年刊)
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』(年刊)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール:mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

507906

卒業演習・制作Ⅰ

中村　　信博

授業テーマ:　メディアと文化史についての総合的考察

授業の概要:　人類の知的達成の多くは、文字情報（テクスト）によって保存、伝達されてきた。本演習においては、「卒業演習・制作Ⅱ」とともに、主としてテクストというシステムの歴史性と、それがかかわる文化についての総合的知見を前提にしたうえで、参加者各人の関心にしたがって研究もしくは作品の制作をおこなう。論文を執筆するにせよ、作品制作をめざすにせよ、高度情報化社会の特性を理解し、理論的、実践的に文化と情報の相関性に注目したい。したがって、作品制作の場合にもこのような観点からの解説論文が求められる。

到達目標:　【知識・理解】卒業研究・制作の意味と水準とを理解し、「卒業演習・制作Ⅱ」における成果物（卒業論文、卒業制作）完成を目標に、各人の研究テーマの先行研究を咀嚼、検討し、自らの研究課題を探求できるようにする。
【関心・意欲・態度】他のゼミ構成員の研究についても幅広く関心をもち、適切な助言や協力ができる。また、他のゼミ構成員の助言も活かしながら自らの研究を進められるような共同的知的な研究姿勢を身につける。
【表現・技能・能力】論理的・効果的なプレゼンテーション能力を身につけ、建設的な議論と助言とができるようになる。

授業方法:　演習形式。個人研究を基礎とした研究発表討議を中心とする。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム（マナビー）を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	各回の授業は受講生のプレゼンテーションによって進められるので、各フェイズに沿った準備のための計画を考える。
2.	論文執筆の概要－１	論文執筆あるいは制作のための概要を把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
3.	論文執筆の概要－２	論文執筆あるいは制作のための概要を把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
4.	制作可愛の概要	論文執筆あるいは制作のための概要を把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
5.	論文または制作課題の検討－１	各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
6.	論文または制作課題の検討－２	各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
7.	論文または制作課題の検討－３	各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議することができるための準備をすること。
8.	研究報告－１	研究の概要（全体）を把握し、各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議検討できるための準備をすること。
9.	研究報告－２	研究の概要（全体）を把握し、各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議検討できるための準備をすること。
10.	研究報告－３	研究の概要（全体）を把握し、各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議検討できるための準備をすること。
11.	研究報告－４	研究の概要（全体）を把握し、各人の研究テーマの中心がどこにあるのかを把握し、プレゼンテーションによって批判的に討議検討できるための準備をすること。
12.	研究の再検討－１	これまでの概要理解に誤りや修正の必要はないか、プレゼンテーションによって批判的に検討することができるように準備をすること。
13.	研究の再検討－２	これまでの概要理解に誤りや修正の必要はないか、プレゼンテーションによって批判的に検討することができるように準備をすること。
14.	研究の再検討－３	これまでの概要理解に誤りや修正の必要はないか、プレゼンテーションによって批判的に検討することができるように準備をすること。
15.	総括－卒業論文・制作にむけて－	「卒業研究・制作Ⅱ」において論文または制作に直ちに着手できるようその準備を終えておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　最終的には「卒業研究・制作Ⅱ」において卒論または制作を完成することができる準備を目標とするが、その成果のみを最終目標とすることなく、クラス参加者との批判的な検討など相互支援的な学習によって、幅広い知見の獲得と研究を目指して欲しい。

フィードバックの方法:　クラスおよび授業支援システム（マナビー）利用による討議など。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	30%	積極的にクラスに参加し、討議（マナビーを含む）議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。
個人研究の達成度	50%	個人研究の達成度を基準として評価する。
他の受講者への質疑などによる支援	20%	自個のテーマだけではなく、他受講者の研究にも幅広く関心をもち、質疑などによって支援したかどうかを基準として評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力、洞察力
教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

507907

卒業演習・制作Ⅰ

松谷　　容作

授業テーマ:

授業の概要:

本授業では、「メディアと私たちの相互作用」に着目した個人研究を進めていく。受講生は研究のテーマと目的を具体的に設定し、資料調査（文献資料、視聴覚資料、インタビュー資料など）を行い、「卒業演習・制作Ⅱ」とあわせてその成果を論文あるいは制作物というかたちで提出する。以上を通じて、本授業では、卒業論文と卒業制作の完成を目標とする。

到達目標:

卒業論文と卒業制作の完成

授業方法:

演習
個人研究のプレゼンテーションおよび各研究内容にかんするディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	個人研究の内容整理しておくこと
2.	論文執筆の方法(1)	個人研究の内容整理しておくこと
3.	論文執筆の方法(2)	個人研究の内容整理しておくこと
4.	個人研究発表およびディスカッション（1）	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
5.	個人研究発表およびディスカッション（2）	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
6.	個人研究発表およびディスカッション(3)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
7.	個人研究発表およびディスカッション(4)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
8.	フィールドワーク	個人研究の内容を整理しておくこと
9.	個人研究発表およびディスカッション(5)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
10.	個人研究発表およびディスカッション(6)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
11.	個人研究発表およびディスカッション(7)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
12.	個人研究発表およびディスカッション(8)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
13.	成果のまとめとレヴュー（1）	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
14.	成果のまとめとレヴュー(2)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
15.	成果のまとめとレヴュー(3)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

添削して返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	80	個人発表での個人研究の達成度、討論では個々人の研究内容を踏まえた上で発言しているかを基準にして評価する
授業への参加度	20	卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の基盤を形成したかという基準で評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能、E メールを利用、授業の前後に教室内で応対

507908

卒業演習・制作Ⅰ

関口　　英里

授業テーマ:

授業の概要:

本演習は、「情報メディア演習」「情報メディア応用演習Ⅰ、Ⅱ」で身につけた学術的知識を実践し、メディアの読解という受け手の発想からメッセージの発信者へとなれるよう、各自の研究課題に沿った最終成果物の制作を行います。授業は受講生による研究発表を中心に進めます。毎回それぞれの設定した卒業制作テーマに関する講読文献と課題を設定し、様々な分野のトピックについて理解を深めながら、各自の分析をより高次の物へと発展させてゆきます。

到達目標:

各自が目指す将来のキャリア・プランとプロジェクトを目的意識を持って連動させ、メディア時代の国際社会で即戦力となり、様々な文化の仕掛けを発信することを目指します。

授業方法:

文献購読や調査に基づく研究発表と、毎回のテーマに応じて設定した課題のディスカッション、理論や方法論などに関する講義によるゼミ形式で授業を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業の概要と進め方の理解、必要事項についての討論と決定準備
2.	個人研究の発展と卒業制作にむけた基本理念	これまでの研究の振り返りと今後の発展的研究計画の立案
3.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　応用:発表(1)～(2)	発表者:卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外:発表されるテーマについての知識深化、討論準備
4.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　応用:発表(3)～(4)	発表者:卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外:発表されるテーマについての知識深化、討論準備
5.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　応用:発表(5)～(6)	発表者:卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外:発表されるテーマについての知識深化、討論準備
6.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　応用:発表(7)～(8)	発表者:卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外:発表されるテーマについての知識深化、討論準備
7.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　応用:発表(9)～(10)	発表者:卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外:発表されるテーマについての知識深化、討論準備
8.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　応用:発表(11)～(12)	発表者:卒業制作テーマについての応用的な調査、分析、発表準備① 発表者以外:発表されるテーマについての知識深化、討論準備
9.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　発展:発表(1)～(2)	発表者:卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
10.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　発展:発表(3)～(4)	発表者:卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
11.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　発展:発表(5)～(6)	発表者:卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
12.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　発展:発表(7)～(8)	発表者:卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
13.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　発展:発表(9)～(10)	発表者:卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
14.	卒業制作・個人研究発表とディスカッション　発展:発表(11)～(12)	発表者:卒業制作テーマについての発展的な調査、分析、発表準備② 発表者以外:発表されるテーマについての発展的知識獲得、討論準備
15.	総括と合評会	各自の卒業研究の深化と論文完成に向けた指針の策定と相互評価

受講者へのメッセージやアドバイス:

卒論は決して提出しさえすればよいという安易なものではありません。卒論完成・発表まで、綿密な計画に沿って、研究指導と研究課題の提出、修正を繰り返し行う厳格な作業が必要となります。個人指導に加えて、ペアやグループワーク等も取り入れ、成果物の完成度を高めます。こうした作業遂行においては、各自の研究における進捗管理、課外での自主研究と執筆の粘り強い学究活動が不可欠です。

フィードバックの方法:

授業時および授業外に必要に応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
各種課題	約30%	随時指示する提出物その他のタスク遂行
その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、自己管理力、自己実現力、DWCLA10の力を総合的に発揮することが最終目標です。
教員との連絡方法:	授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示します。

507909

卒業演習・制作Ⅰ

和氣　　早苗

授業テーマ:　ヒューマンインタフェースおよびサイン音デザインに関する卒業研究

授業の概要:　情報メディア応用演習II に引き続き，各自のテーマに基づいた研究を行う。

到達目標:
・各自研究テーマに対して主体的に関わる意欲を持ち，計画的に実施できる
・各自の研究に必要な先端・専門技術を習得する
・課題に対するアイディアを出し，適切な技術を用いて問題を解決に向かうことができる
・自分の考えを言葉や文章で表現し，人の意見を聞き，建設的な議論を行うことができる

授業方法:　個別の研究討議、全体の研究発表などを実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	研究実施および討議の準備
2.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
3.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
4.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
5.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
6.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
7.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
8.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
9.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
10.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
11.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
12.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
13.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
14.	研究実施および討議	研究実施および討議の準備
15.	卒業研究進捗報告会（プレゼンテーション）	プレゼン準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
自主的に研究を遂行し、積極的に討議を行うことを求めます。
授業時間外でも研究を実施する必要があります。

フィードバックの方法:　直接あるいはメール等で個別にフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究への取り組みの姿勢	50	取り組みの姿勢を評価します
研究成果	50	研究量や精度について評価しますが、各人のテーマにより難易度やアプローチが異なるため、評価基準は適宜変更します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp）

507910

卒業演習・制作Ⅰ

余田　　義彦

授業テーマ:　学びや暮らしをサポートする情報メディア環境の研究

授業の概要:　本ゼミでは卒業演習・制作までの2年半をかけて、学びや暮らしをサポートする情報メディア環境のあり方を研究します。このテーマに迫るには様々な方法が考えられますが、本ゼミでは各自が自分の関心のあるテーマを取り上げて開発（コンテンツの制作やプログラミングなど）、実験・調査、実践（実際に試してみる）などの方法で研究を進めます。そして専門的な知識技能に加え、社会で必要とされる主体的に行動する力、考え抜く力、他者と協力して問題を解決する力などを身につけます。
4年次の卒業演習・制作では、これまでに身につけた力を統合して3年次に行ってきた研究をさらに深化・発展させます。そして、卒業論文をまとめあげたり、ポートフォリオを完成させます。

到達目標:
①【知識・理解】自分の研究内容を理論や先行研究と関連づけて説明できる。
②【関心・意欲・態度】研究テーマに関わる情報や社会的事象に常に関心を持ち、掘り下げて追究しようとする。
③【表現・技能・能力】適切な研究方法を選んで研究テーマに迫り、その成果をわかりやすく他者に伝えることができる。

授業方法:　研究そのものは授業時間外に各自で進めることとし、授業ではその進捗状況を発表し、発表後にその内容について全員でディスカッションを行います。発表の機会は1月に一回程度の頻度で回ってきます。また、通常の授業とは別に夏期休暇期間中に一泊二日でゼミ合宿を行います（同志社びわこリトリートセンターを予定）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、研究の進捗状況について発表とディスカッション	研究の遂行と発表準備
2.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
3.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
4.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
5.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
6.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
7.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
8.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
9.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
10.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
11.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
12.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
13.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
14.	研究の進捗状況について発表とディスカッション（続き）	研究の遂行と発表準備
15.	まとめと学習の振り返り	研究の遂行

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個別指導で対応しますが、必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む姿勢（参加や積極性、発表など）	60	到達目標①②の達成度を評価します。また、自主学習や資格試験への挑戦を奨励し、その成果も本人からの申し出に基づいて加点します。
成果物（発表資料、卒論の下書き・作品など）	40	到達目標①③の達成度を評価します。

教科書:

参考書:　必要に応じて授業の中で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール（yyoden@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

507911

卒業演習・制作Ⅰ

有賀　　妙子

授業テーマ:　情報デザインに関係する卒業制作の企画と実行

授業の概要:

３年次までに行ってきた制作・研究活動成果の集大成として、個人のテーマに従い、自らが創造した情報をかたちにする研究を行い、作品・プログラム(アプリ)などを制作・開発します。情報デザインされたものとそれを使う人・見る人の間のインターフェイスに関する考察を行い、実装(制作)をします。新しい視点をもち、適切な技術を使い、新しい表現やコミュニケーションの可能性を提示する研究・作品をめざします。

メディアコンテンツ制作技術、プログラミングなど、今まで学習した内容を踏まえ、制作過程でぶつかる問題に対して、具体的な解決方法を見つけ出し、自ら研究・制作を進めます。学期終了時には卒業制作の中間的結果を得られるように、また夏休み終了までに、制作・開発がほぼ完成するようなスケジュールで進めます。秋学期の卒業演習・制作Ⅱでは、主にユーザテストやそれを受けての修正、社会化へ向けてのブラッシュアップ、展示などの後、制作報告書を作成します。

到達目標:

1 自らテーマを選択、問題設定を行い、制作計画を構想する
2 問題を解決するための、あるいは設定したテーマをかたちにするための調査、研究を行う
3 制作計画を基に、制作、開発を行う

授業方法:

個別のテーマ、企画に従い、作品の制作を行います。進捗をクラス内でプレゼンテーションするとともに、個別ミーティングで報告してもらいます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	卒業制作の企画を構想する。 発表を準備する。
2.	制作・開発プロジェクトの企画構想の発表	制作を進める。
3.	制作・開発プロジェクトの企画構想の発表	制作を進める。
4.	進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。
5.	進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。
6.	進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。 発表を準備する。
7.	進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。 発表を準備する。
8.	中間プレゼンテーション	制作を進める。
9.	中間プレゼンテーション	制作を進める。
10.	進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。
11.	進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。
12.	進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。 発表を準備する。
13.	進捗状況・内容チェック個別ミーティング	制作を進める。 発表を準備する。
14.	合評	制作を進める。
15.	合評	制作を進める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

各自の主体的な研究・制作による成果に対し、クラス内でのプレゼンテーションや個別ミーティングの場において、情報提供、意見交換、助言を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
制作作品	100	制作に取り組む姿勢、制作技術、進捗、テーマを適切に表現しているか、問題を適切に解決しているかの観点で評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

電子メール:　tariga@dwc.doshisha.ac.jp

508001

卒業演習・制作Ⅱ

影山　　貴彦

授業テーマ:　エンターテインメント見地に立つメディア研究

授業の概要:　卒業論文、制作における指導をおこなう。

到達目標:　他者との比較ではなく、個々人の掲げた目標到達、すなわち総決算である卒業論文、制作の完成に邁進してほしいと考えている。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス①	卒業論文、制作に関する準備
2.	ガイダンス②	卒業論文、制作に関する準備
3.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(1)	卒業論文、制作に関する準備
4.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(2)	卒業論文、制作に関する準備
5.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(3)	卒業論文、制作に関する準備
6.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(4)	卒業論文、制作に関する準備
7.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(5)	卒業論文、制作に関する準備
8.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(6)	卒業論文、制作に関する準備
9.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(7)	卒業論文、制作に関する準備
10.	卒業論文、制作にむけての個人指導およびテーマディスカッション(8)	卒業論文、制作に関する準備
11.	卒業論文、制作提出にむけての最終指導(1)	卒業論文、制作に関する準備
12.	卒業論文、制作提出にむけての最終指導(2)	卒業論文、制作に関する準備
13.	口頭発表に向けての指導(1)	卒業論文、制作に関する準備
14.	口頭発表に向けての指導(2)	卒業論文、制作に関する準備
15.	総括	卒業論文、制作に関する準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　ゼミ内でまとめて指導

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文、制作および口頭発表	80%	受講者個人で当初立てた目標を大きな評価基準とする
積極的態度	20%	必ず発言・質問をすることを課す ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

508002

卒業演習・制作Ⅱ

川田　　隆雄

授業テーマ:　プロデュースプロセスを自分の力で分析し卒論という形でまとめる

授業の概要:　現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテイメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミでは3年生におこなったエンターテイメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルにおけるプロデューサーのインタビュー調査から、プロデューサーの行動パターンや資質について、モデル化をとおして卒業論文作成の準備を行う。2012年度から運用が開始されてている、プロデューサーデータベース(iDUS)を利用して、分析作業を行う。

到達目標:　3年生で行った調査結果をもとに卒業論文のテーマを決め論文を書く過程から以下のことを到達目標とする。
（1）生のデータを自分で分析し独自の結論を導き出す
（2）結論をモデルで表現する方法を確立する
（3）卒業論文というまとまった文章として表現する方法を学ぶ
（4）クラスメイトの論文にクリティカルな視点で評論することが出来るようになる

授業方法:　演習室での一般授業、ディスカッションを併用する。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業草稿の提出	卒論草稿の提出準備
2.	卒論草稿の発表	発表準備
3.	卒論草稿の発表	発表準備
4.	卒論草稿の発表	発表準備
5.	卒論草稿の発表	発表準備
6.	卒論草稿の発表	発表準備
7.	卒論草稿の発表	発表準備
8.	卒論草稿の発表	発表準備
9.	卒論草稿の発表	発表準備
10.	卒論草稿の発表	発表準備
11.	卒論草稿の発表	発表準備
12.	卒論草稿の発表	発表準備
13.	卒業論文作成に関する注意	発表準備
14.	卒業論文作成に関する注意	発表準備
15.	まとめとふりかえり	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒論を書くための調べ学習、執筆、また、中間発表のための準備など予習が多く含まれる。川田ゼミでの学びのまとめが卒論であり、このプロセスをそれぞれの学生が楽しむことを期待する。

フィードバックの方法:　授業内でそれぞれの学生にフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	20	出欠。ゼミでは4回以上欠席の場合単位がでないので注意をするように！
成果物と授業への参加度	80	卒業論文の内容と授業への参加度で評価する ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業内での直接コンタクトを基本とする。

508003

卒業演習・制作Ⅱ

三根　　浩

授業テーマ:　マルチメディアによる作品と論文の制作

授業の概要:　個々のテーマに従ってマルチメディアに関連する研究・制作および論文化を行う。

到達目標:　卒業論文の完成。

授業方法:　演習、制作、および総合分析を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	研究課題の決定	
3.	各自の研究テーマに関わる情報収集	インターネット検索
4.	各自の研究テーマに関わる文献研究	文献調査
5.	課題の構想とプレゼンテーション1	
6.	課題の構想とプレゼンテーション2	
7.	制作1	
8.	制作2	
9.	制作3	
10.	制作過程のチェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進度をチェックする
11.	作品・論文のチェック	各自の課題にそった制作・研究成果が一定の水準に達したかチェックする
12.	作品・論文の最終チェック	
13.	作品・論文の提出	
14.	制作成果のプレゼンテーション1	合同発表会に向けてプレゼン力を養う
15.	制作成果のプレゼンテーション2	合同発表会に向けてプレゼン力を養う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室で個々に解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品・レポート	50	積極的に授業に参加し、到達目標各自の課題の理論的背景を十分に理解ができるようになったか評価する
プレゼンテーション	30	
積極的参加度	20	

※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　e-mail

508004

卒業演習・制作Ⅱ

森　　公一

授業テーマ:　ポートフォリオを兼ねた報告書の作成と口頭発表

授業の概要:　卒業演習・制作Ⅰの成果をふまえ、作品を社会に発信・発表するとともに、次のような項目を含んだプロジェクトの報告書を兼ねたポートフォリオの作成を行います。

到達目標:
ふさわしいメディアを用いて作品を社会に発信・発表する
作品制作と発表に関わる全体を報告書としてまとめる
作品についての口頭発表を行う

授業方法:　個別面談を中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業制作進捗状況、テーマ研究の報告	報告の準備
2.	卒業制作進捗状況、テーマ研究の報告	報告書の作成
3.	構成案のチェック1（個別面談）	報告書の作成
4.	構成案のチェック1（個別面談）	報告書の作成
5.	構成案のチェック2個別面談）	報告書の作成
6.	構成案のチェック2個別面談）	報告書の作成
7.	本文チェック1（個別面談）	報告書の作成
8.	本文チェック1（個別面談）	報告書の作成
9.	本文チェック2（個別面談）	報告書の作成
10.	本文チェック2（個別面談）	報告書の作成
11.	報告書＋ポートフォリオの最終チェック	報告書の提出
12.	報告書＋ポートフォリオの最終チェック	報告書の提出
13.	口頭発表のレジュメ確認	口頭発表のレジュメ作成
14.	口頭発表のレジュメ確認	口頭発表のレジュメ作成
15.	口頭発表内容の確認	口頭発表のプレゼンテーションデータ作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　早い段階で作品を社会に発信・発表し、テキストの執筆を開始してください。

フィードバックの方法:　個別面談を中心にアドバイスを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
報告書	80	報告書のクオリティ
口頭発表	20	口頭発表のクオリティ

教科書:　とくになし

参考書:　研究テーマに関連する参考文献など、基本的な情報は各自で積極的に収集してください。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内で対応します。

508005

卒業演習・制作Ⅱ

村木　　美紀

授業テーマ:　サブカルチャーに関する研究のまとめ

授業の概要:　「情報メディア演習」、「情報メディア応用演習I, II」、「卒業演習・制作I」で行ってきた研究の集大成として卒業論文を執筆する。
また、論文執筆後には卒業演習合同発表会にて発表を行う。

到達目標:
1【知識・理解】研究の基礎的情報をもとにサブカルチャーについて理解し、説明ができる。
2【関心・意欲・態度】サブカルチャーについての問題提起や提案ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や自己管理力、卒業研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:　研究経過や結果の報告と、論文の提出に基づく研究指導を中心としたゼミ形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	個人研究報告(1)	進捗報告の準備
3.	個人研究報告(2)	進捗報告の準備
4.	個人研究報告(3)	進捗報告の準備
5.	個人研究報告(4)	進捗報告の準備
6.	中間発表	資料作成等発表の準備
7.	個人研究報告(5)	進捗報告の準備
8.	個人研究報告(6)	進捗報告の準備
9.	個人研究報告(7)	進捗報告の準備
10.	個人研究報告(8)	進捗報告の準備
11.	卒業論文仕上げ	論文の執筆と修正
12.	卒業研究合同発表会の準備（1）	資料作成等発表の準備とプレゼン練習
13.	卒業研究合同発表会の準備（2）	資料作成等発表の準備とプレゼン練習
14.	卒業研究合同発表会の準備（3）	資料作成等発表の準備とプレゼン練習
15.	評価	

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒業研究合同発表会は全員参加とする

フィードバックの方法:　基本的に授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	70	到達目標の1・2を中心に評価する。
発表	30	到達目標の3を中心に評価する。 ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:
全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』（年刊）
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』（年刊）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール：mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

508006

卒業演習・制作Ⅱ

中村　　信博

授業テーマ:　メディアと文化史についての総合的考察

授業の概要:　人類の知的達成の多くは、文字情報（テクスト）によって保存、伝達されてきた。本演習においては、「卒業演習・制作Ⅰ」とともに、主としてテクストというシステムの歴史性と、それがかかわる文化についての総合的知見を前提にしたうえで、参加者各人の関心にしたがって研究もしくは作品の制作をおこなう。論文を執筆するにせよ、作品制作をめざすにせよ、高度情報化社会の特性を理解し、理論的、実践的に文化と情報の相関性に注目したい。したがって、作品制作の場合にもこのような観点からの解説論文が求められる。

到達目標:　【知識・理解】「卒業演習・制作Ⅰ」における蓄積を前提にして、各人の研究（卒業論文、卒業制作）を完成させる。先行研究を咀嚼、検討し、自らの研究課題を探求したうえで、論理的・効果的に表現できるようにする。
【関心・意欲・態度】他のゼミ構成員の研究についても幅広く関心をもち、適切な助言や協力ができる。また、他のゼミ構成員の助言も活かしながら自らの研究を進められるような共同的知的な研究姿勢を身につける。
【表現・技能・能力】論理的・効果的な表現能力を身につけ、建設的な議論と助言とができるようになる。

授業方法:　演習形式。個人研究を基礎とした研究発表討議を中心とする。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム（マナビー）を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	各回の授業は受講生のプレゼンテーションによって進められるので、各フェイズに沿った報告ができるように準備の計画を立案する。
2.	論文執筆の実際－１	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。
3.	論文執筆の実際－２	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。
4.	論文執筆の実際－３	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。
5.	制作の実際－１	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。
6.	制作の実際－２	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況を報告できるように準備をすること。
7.	論文執筆の報告－１	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。
8.	論文執筆の報告－２	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。
9.	論文執筆の報告－３	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。
10.	制作の報告－１	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。
11.	制作の報告－２	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況と問題点、改善すべき点を報告できるように準備をすること。
12.	総合報告－１	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況について総合的な観点から報告できるように準備をすること。
13.	総合報告－２	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況について総合的な観点から報告できるように準備をすること。
14.	総合報告－３	各人の研究テーマに沿った論文執筆または作品制作の状況について総合的な観点から報告できるように準備をすること。
15.	総括	提出された成果（卒論または作品）についての相互評価のための準備をすること。

受講者へのメッセージやアドバイス:　卒論・制作の完成を目標とするが、最終的には学科の卒論発表会までのすべての過程が授業の一環であり、評価の対象であると理解して欲しい。

フィードバックの方法:　クラスおよび授業支援システム（マナビー）利用による討議など。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	30%	積極的にクラスに参加し、討議（マナビーを含む）議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。
卒論または作品の完成度	50%	最終的な研究成果（卒論または作品）の完成度を基準として評価する。
他の受講者への質疑などによる支援	20%	自個のテーマだけでなく、他受講者の研究にも幅広く関心をもち、質疑などによって支援したかどうかを基準として評価する。 ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力、洞察力

教員との連絡方法:	直接またはE-mail E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

508007

卒業演習・制作Ⅱ

松谷　　容作

授業テーマ:

授業の概要:
本授業では、「メディアと私たちの相互作用」に着目した個人研究を進めていく。受講生は研究のテーマと目的を具体的に設定し、資料調査（文献資料、視聴覚資料、インタビュー資料など）を行い、「卒業演習・制作Ⅰ」とあわせてその成果を論文あるいは制作物というかたちで提出する。以上を通じて、本授業では、卒業論文と卒業制作の完成を目標とする。

到達目標:
卒業論文と卒業制作の完成

授業方法:
演習
個人研究のプレゼンテーションおよび各研究内容にかんするディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	個人研究の内容整理しておくこと
2.	個人研究の進捗報告(1)	個人研究の内容整理しておくこと
3.	個人研究の進捗報告(2)	個人研究の内容整理しておくこと
4.	個人研究発表およびディスカッション（1）	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
5.	個人研究発表およびディスカッション（2）	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
6.	個人研究発表およびディスカッション(3)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
7.	個人研究発表およびディスカッション(4)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
8.	個人研究発表およびディスカッション(5)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
9.	個人研究発表およびディスカッション(6)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
10.	個人研究発表およびディスカッション(7)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
11.	個人研究発表およびディスカッション(8)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
12.	個人研究発表およびディスカッション(9)	個人研究の内容を整理しておくこと ディスカッションのためのトピックを準備しておくこと
13.	成果のまとめとレヴュー（1）	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
14.	成果のまとめとレヴュー(2)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ
15.	成果のまとめとレヴュー(3)	授業内でのプレゼンテーションのまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
添削して返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	80	個人発表での個人研究の達成度、討論では個々人の研究内容を踏まえた上で発言しているかを基準にして評価する
授業への参加度	20	卒業論文と卒業制作の完成にむけて個人研究の深化を達成したかという基準で評価する ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能、E メールを利用、授業の前後に教室内で応対

508008

卒業演習・制作Ⅱ

関口　　英里

授業テーマ:

授業の概要:
本演習では、「情報メディア演習」「情報メディア応用演習I、II」「卒業演習・制作I」で身につけた学術的知識を実践しつつ、個人研究の分析・調査・制作を継続し、最終成果物の発展・完成を目指します。

到達目標:
受講生それぞれの設定した研究テーマに関する様々な分野の方法論・理論や文献資料について理解を深めながら、各自の研究成果を最終成果物（卒業論文）として完成させ、発表します。

授業方法:
受講生による研究提示と卒業論文、制作等に関する指導を中心に授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業の概要と進め方の理解、必要事項についての討論と決定準備
2.	卒業制作にむけた個人研究の経過報告(1)	これまでの研究経過報告の資料作成と発表等の準備①
3.	卒業制作にむけた個人研究の経過報告(2)	これまでの研究経過報告の資料作成と発表等の準備②
4.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導（アウトライン）	卒業論文アウトラインの作成準備
5.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導　序論:(1)	卒業論文の原稿作成と指導を受けての改善①
6.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導　序論:(2)	卒業論文の原稿作成と指導を受けての改善②
7.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導　各章:(1)	卒業論文の原稿執筆継続と指導を受けての改訂①
8.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導　各章:(2)	卒業論文の原稿執筆継続と指導を受けての改訂②
9.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導　結論:(1)	卒業論文の結論部分執筆と指導を受けての改訂①
10.	個人研究の深化と論文執筆・制作指導　結論:(2)	卒業論文の結論部分執筆と指導を受けての改訂②
11.	卒業制作の仮完成とゼミ内提出:確認・指導～最終作業	卒業論文の執筆および細部の確認・仕上げ作業
12.	卒業制作の最終完成と提出	卒業論文の完成と提出に向けた最終作業
13.	卒業演習・制作最終発表会準備 (1)	卒業論文発表会の実施に向けた個人・グループでの各種準備作業①
14.	卒業演習・制作最終発表会準備 (2)	卒業論文発表会の実施に向けた個人・グループでの各種準備作業②
15.	卒業演習・制作最終発表会（公開）	プレゼンテーションおよび質疑応答の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
卒論は決して提出しさえすればよいという安易なものではありません。卒論完成・発表まで、綿密な計画に沿って、研究指導と研究課題の提出、修正を繰り返し行う厳格な作業が必要となります。個人指導に加えて、ペアやグループワーク等も取り入れ、成果物の完成度を高めます。こうした作業遂行においては、各自の研究における進捗管理、課外での自主研究と執筆の粘り強い学究活動が不可欠です。

フィードバックの方法:
授業時および授業外に必要に応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度（出席、発表、討論等）
授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
各種課題と成果物	約30%	卒業論文および随時指示する提出物その他のタスク遂行と完成度
その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等 ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、自己管理力、自己実現力、DWCLA10の力を総合的に発揮することが最終目標です。

教員との連絡方法:
授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示します。

508009

卒業演習・制作Ⅱ

和氣　　早苗

授業テーマ:　ヒューマンインタフェースおよびサイン音デザインに関する卒業研究

授業の概要:　卒業演習I に引き続き，各自のテーマに基づいた研究を行う。卒業論文を執筆する。研究内容のプレゼンテーションを実施する。

到達目標:
・各自研究テーマに対して主体的に関わる意欲を持ち，計画的に実施できる
・各自の研究に必要な先端・専門技術を習得する
・研究成果を文章（卒業論文）および口頭説明（プレゼンテーション）で的確に表現できる

授業方法:　個別の研究討議、論文執筆指導、全体のプレゼンテーション練習などを実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究実施および討議	研究の遂行および論文執筆
2.	論文執筆指導	研究の遂行および論文執筆
3.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
4.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
5.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
6.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
7.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
8.	研究実施、討議および論文執筆	研究の遂行および論文執筆
9.	論文執筆指導	研究の遂行および論文執筆
10.	論文執筆指導	論文執筆
11.	論文執筆指導	論文執筆
12.	論文執筆指導	論文執筆
13.	レジメ準備およびプレゼン準備	レジメ作成およびプレゼン作成
14.	レジメ準備およびプレゼン準備	レジメ作成およびプレゼン作成
15.	プレゼンテーション指導	プレゼン作成

受講者へのメッセージやアドバイス:
自主的に研究を遂行し、積極的に討議を行うことを求めます。
授業時間外でも研究を実施および論文執筆を行う必要があります。

フィードバックの方法:　直接あるいはメール等で個別にフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究への取り組みの姿勢	40	取り組みの姿勢を評価します
研究成果	40	研究量や精度について評価しますが、各人のテーマにより難易度やアプローチが異なるため、評価基準は適宜変更します。
プレゼン	20	プレゼンの内容および態度を評価します

※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp）

508010

卒業演習・制作Ⅱ

余田　　義彦

授業テーマ:　学びや暮らしをサポートする情報メディア環境の研究

授業の概要:　本ゼミでは卒業演習・制作までの2年半をかけて、学びや暮らしをサポートする情報メディア環境のあり方を研究します。このテーマに迫るには様々な方法が考えられますが、本ゼミでは各自が自分の関心のあるテーマを取り上げて開発(コンテンツの制作やプログラミングなど)、実験・調査、実践(実際に試してみる)などの方法で研究を進めます。そして専門的な知識技能に加え、社会で必要とされる主体的に行動する力、考え抜く力、他者と協力して問題を解決する力などを身につけます。
4年次の卒業演習・制作では、これまでに身につけた力を統合して3年次に行ってきた研究をさらに深化・発展させます。そして、卒業論文をまとめあげたり、ポートフォリオを完成させます。

到達目標:
①【知識・理解】自分の研究内容を理論や先行研究と関連づけて説明できる。
②【関心・意欲・態度】研究テーマに関わる情報や社会的事象に常に関心を持ち、掘り下げて追究しようとする。
③【表現・技能・能力】卒業論文またはポートフォリオを完成させ、その成果をわかりやすく他者に伝えることができる。

授業方法:　研究や卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作そのものは授業時間外に各自で進めることとし、授業ではその進捗状況を発表し、発表後にその内容について全員でディスカッションを行います。発表の機会は1月に一回程度の頻度で回ってきます。
また、通常の授業とは別に夏期休暇期間中に一泊二日でゼミ合宿を行います(同志社びわこリトリートセンターを予定)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(卒業論文の書き方、ポートフォリオの制作方法)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
2.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
3.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
4.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
5.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
6.	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
7.	卒業論文・ポートフォリオのチェック	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
8.	卒業論文・ポートフォリオのチェック(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
9.	卒業論文・ポートフォリオの最終チェック	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
10.	卒業論文・ポートフォリオの最終チェック(続き)	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
11.	卒業論文・ポートフォリオの完成	卒業論文の執筆・ポートフォリオの制作
12.	オリエンテーション(発表)	レジュメ、発表資料の作成
13.	レジュメの作成・チェック	レジュメ、発表資料の作成
14.	発表資料の作成・チェック	発表資料の作成と発表練習
15.	発表練習	発表練習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個別指導で対応しますが、必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に臨む姿勢(参加や積極性、発表など)	60	到達目標①②の達成度を評価します。また、自主学習や資格試験への挑戦を奨励し、その成果も本人からの申し出に基づいて加点します。
成果物(発表資料、卒論・ポートフォリオなど)	40	到達目標①③の達成度を評価します。

※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:　必要に応じて授業の中で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

508011

卒業演習・制作Ⅱ

有賀　　妙子

授業テーマ:　情報デザインに関係する卒業制作の完成と発表

授業の概要:　３年次までに行ってきた制作・研究活動成果の集大成として、個人のテーマに従い、自らが創造した情報をかたちにする研究を行い、作品・プログラム(アプリ)などを制作・開発します。情報デザインされたものとそれを使う人・見る人の間のインターフェイスに関する考察を行い、実装(制作)をします。新しい視点をもち、適切な技術を使い、新しい表現やコミュニケーションの可能性を提示する研究・作品をめざします。
　卒業演習・制作Iで進めてきた研究・制作を完成させ、ユーザテストや展示・公開などの社会化を経て、制作報告書の作成を行います。加えて、学科で実施される卒業研究・制作発表会で成果を発表します。

到達目標:
1 調査、研究を基に、制作、開発を完成させる
2 制作、開発した成果を適切な方法で、テストあるいは社会に発信する
3 卒業制作の内容と考察をまとめた報告書を執筆する
4 成果について，適切に口答発表する

授業方法:　各自で，研究・制作を完成させ，報告書の制作を進めます。そのプロセスにおいて，個別ミーティングで内容をチェックします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	制作報告書の作成のためのオリエンテーション	制作を完成させ、社会化を実施する。
2.	卒業制作作品内容チェック	制作を完成させ、社会化を実施する。
3.	卒業制作作品内容チェック	制作を完成させ、社会化を実施する。
4.	制作報告書構成のチェック	発表を準備する。
5.	制作報告書構成のチェック	発表を準備する。
6.	作品最終プレゼンテーション	制作報告書を作成する。
7.	作品最終プレゼンテーション	制作報告書を作成する。
8.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
9.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
10.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
11.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
12.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
13.	制作報告書内容のチェック	制作報告書を作成する。
14.	発表会の準備(予稿原稿の作成・リハーサル)	口答発表を準備する。
15.	発表会の準備(予稿原稿の作成・リハーサル)	口答発表を準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　各自で，研究・制作を完成させるプロセス，報告書の制作において，個別に助言を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
制作報告書	90	次のような観点から，総合的に評価します。 ・完成させた卒業制作の内容を適切に説明している ・関連する研究や作品を調査，研究した結果が述べられている ・ユーザテストや社会化を受けて，制作の成果を考察している
口答発表	10	卒業制作の目的，内容に沿った発表内容であるかどうかを評価します。 ※ただし、「卒業演習・制作Ⅰ」を未修得で、次年度の春学期中に卒業論文提出を希望する者(2014年度以前入学生)は、別途、成果物の提出により評価する。希望者は事前に相談すること。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　電子メール:　tariga@dwc.doshisha.ac.jp

509601

ライティングスキル

鹿島　　我

授業テーマ:

社会で必要な文章能力と他者文章の批評能力の構築

授業の概要:

社会で求めらるライティングスキルは個々で必ずしも同一ではない。この授業では少人数開講であることを生かし、多種多用な文章を作成し他者文章を批評することで、自己のライティングスキルの短所・長所を理解し、短所の修正と長所のさらなる成育を目指す。

到達目標:

1.ライティングスキルにおける自己の課題を認識し克服できる
2.自己文章をライティングスキルに即して正しく評価できる
3.他者文章をライティングスキルに即して正しく評価できる

授業方法:

文章作品の作成、教員評価と自己批評、文章作品の再作成を3工程を1つのサイクルとして進めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス～スタート時のライティングスキル～	授業内で作成した課題についての復習が1時間程度必要
2.	作品の返却と解説①	授業内で返却された課題について1時間程度の確認が必要
3.	キャッチコピーのスキル①スキルの解説と課題作成	授業内で出された課題についての復習と次回授業テーマにについての予習が合わせて1時間程度必要
4.	キャッチコピーのスキル②課題返却と解説	授業内で返却された課題について1時間程度の確認が必要
5.	メール作成のスキル①スキルの解説と課題作成	授業内で出された課題についての復習と次回授業テーマにについての予習が合わせて1時間程度必要
6.	メール作成のスキル②課題返却と解説	授業内で返却された課題について1時間程度の確認が必要
7.	レポートのスキル①スキルの解説と課題作成	授業内で出された課題についての復習と次回授業テーマにについての予習が合わせて1時間程度必要
8.	レポートのスキル②課題返却と解説	授業内で返却された課題について1時間程度の確認が必要
9.	企画書のスキル①スキルの解説と課題作成	授業内で出された課題についての復習と次回授業テーマにについての予習が合わせて1時間程度必要
10.	企画書のスキル②課題返却と解説	授業内で返却された課題について1時間程度の確認が必要
11.	ナレーションのスキル①スキルの解説と課題作成	授業内で出された課題についての復習と次回授業テーマにについての予習が合わせて1時間程度必要
12.	ナレーションのスキル②課題返却と解説	授業内で返却された課題について1時間程度の確認が必要
13.	最終課題の発表と課題選択	授業内で出された課題についての復習と次回授業テーマにについての予習が合わせて1時間程度必要
14.	最終課題の提出と解説	授業内で返却された最終課題について1時間程度の確認が必要
15.	まとめ～終了時のライティングスキル～	ライティングスキル全般について1時間程度の復習が必要

受講者へのメッセージやアドバイス:

文章を書くことが苦手な人の多くは高校までの授業で作成した文章課題に関しての苦手意識である。この授業では大学生として、あるいは社会人として必要となるライティングスキルについて学ぶものである。新たなスキルを開拓するつもりで受講してほしい。

フィードバックの方法:

各回の感想を次回の冒頭でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加	30%	授業への積極的参加と感想レポート
通常課題	40%	自己スキルの克服度と課題の内容
最終課題	30%	自己スキルの克服度と課題の内容

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応

510100 **Media and Cross-cultural Communication**

田畑　　智司

授業テーマ: 異文化間コミュニケーションのための英語運用力ブラッシュアップ

授業の概要: 平易な語彙を活用して英語表現力を磨く

到達目標: 本講義では英語圏の映画・テレビドラマなどを題材に，使用されている英語を注意深く観察することにより、いかにして言語コミュニケーションが実現されているか、また優れた話し手はいかに巧みにことばを操作してコミュニケーション効果を高めているかを読み解く。正確な英文読解力、聴解力を涵養すると共に、自分のメッセージを分かりやすい英語で伝えるトレーニングを行う。

授業方法: 英語圏の映画、ドラマなどを繰り返し見て、英語の使用パターンの把握練習をする。受講者が受け身の講義にならないよう、題材の内容について、随時英語で質疑応答を行う。講義中は、単語の語義説明、言い換えを含め、内容理解問題等に関する質疑応答などを全て英語で実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義ガイダンス：映像メディアにおけるコミュニケーション	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
2.	文脈と意味：発話とそれがなされる文脈や場面がいかに言葉の意味を規定するかを観察する	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
3.	Andy Meets Miranda	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
4.	Andy's First Day at Runway	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
5.	Miranda, the Almighty	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
6.	第一部まとめ: ことばと視点はいかに深く結びついているか	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
7.	Andy's Metamorphosis	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
8.	Andy Performs a Miracle	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
9.	Andy's Stock Goes Up	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
10.	第二部まとめ: 言葉に現れる視点の違いをキャッチする	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
11.	Andy's Dilemma	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
12.	A Night in Paris	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
13.	A Plot against Miranda	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）
14.	Andy's Final Choice	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）

15.	全体の総括：まとめと口頭発表	1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。 2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）

受講者へのメッセージやアドバイス：
1. 各ユニットのスクリプトを熟読し，各シーンがどのようなコミュニケーションの場面となっているか確認しておくこと。
2. 音読練習（とくに，チャンク【意味的・語法的・慣用的ひとまとまりの表現】を意識して音読する練習を繰り+返しておくこと！）

フィードバックの方法：
毎回の授業はインタラクティブな形式をとるので，即時にフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
授業での指名発表	50	間違いを恐れずに積極的に英語を口に出すこと。
挙手による発言	50	間違いを恐れずに積極的に英語を口に出すこと。 5回以上の欠席・遅刻があれば単位認定しないので、この点留意願いたい。

教科書：
Love Actually／映画総合教材「ラブ・アクチュアリー」
（著者）Richard Curtis（監修者）仁科恭徳（編著者）藤原康弘／鎌倉義士／吉川裕介 （松柏社）ISBN 978-4-88198-683-7

参考書：
Longman Dictionary of Contemporary English (『ロングマン現代英英辞典』)
Collins COBUILD English Dictionary
Collins COBUILD Advanced Learners' English Dictionary

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法：
マナビ―の掲示板機能、Eメール（tabata@lang.osaka-u.ac.jp ）、授業の前後に教室内で対応

511800

現代美術論

岡本　　康明

授業テーマ:　現代社会を、美術表現を通して形成される思考によって捉える、現代美術理解。

授業の概要:　20世紀は美術において最も大きな変革のあった時代と言われています。この授業では主に第二次世界大戦以後から現在までの美術を概観し、社会現象に対する反映概念によって生み出される今日の表現や行為、表象について考察します。

到達目標:　後期印象派以後から現代の美術表現までを旅するものと考えて下さい。また、現代美術の展覧会鑑賞、写真作品制作を通して自身の眼と感性によって理解を深め、現代美術の良き理解者であるとともに、今日の美術（あるいはアート）を楽しめる存在になって欲しいと考えます。

授業方法:　スライトを使った講義を中心に行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを良く読んで、質問がある場合は準備をしてきて下さい。
2.	20世紀美術の冒険 ポスト印象派からシュルレアリスムまで	ゴッホ、セザンヌ、エルンスト、マグリットについて下調べをしてきて下さい。
3.	ジャクソン・ポロックと抽象表現主義 戦後アメリカ美術（デ・クーニング、マーク・ロスコ他）	抽象表現主義の概念を下調べしておいてください。
4.	アルベルト・ジャコメッティと戦後ヨーロッパ美術 （ジャン・デュビュッフェ、イヴ・クライン他）	ジャコメッティの絵画と彫刻作品を良く見ておいてください。
5.	小テスト① 対話による鑑賞①ーセザンヌの作品鑑賞	これまでの4回の授業の理解度を確認するものです。 セザンヌについて調べておいてください。
6.	アンディ・ウォーホルとポップ・アート 消費文化と大衆性	1970年代のアメリカの消費社会について下調べをしてきてください。
7.	美術館からの逃走 アース・ワーク、ランド・アートの世界 クリスト＆ジャンヌ＝クロードを中心に	アース・ワーク、ランド・アートの概念について下調べしてきてください。
8.	1970年以後の日本現代美術 「物質」と「非物質」をテーマに	「もの派」について調べてみてください。
9.	リレーショナル・アートの現在 （全国の地域アートについて）	リレーショナル・アートについて下調べをしてきてください。
10.	縄文と現代美術−比較芸術論の視点で	縄文文化について調べておいてください。
11.	可愛いの系譜 伊藤若冲から奈良美智、そして初音ミクまで	伊藤若冲の絵をよく見ておいてください。
12.	写真・映像表現の現在 （やなぎみわ、杉本博司他）	写真や映像表現で、興味のある作家がいたら調べてみてください。
13.	小テスト② 対話による鑑賞②ー地域アートから1点	ここまでの7回の授業についての小テスト。
14.	「私と世界」写真作品発表	自身の作品について話せるように準備してきてください。
15.	これまでの14回の授業の総括として、現代における美術の可能性について触れたいと思います。	これまでの授業を振り返るとともに、芸術の、あるいはアートの社会的機能とは何かという問題に少し触れたいと考えています。

受講者へのメッセージやアドバイス:　展覧会をたくさん見て、本物の作品に触れてください。眼も心も感覚も豊かにしてください。

フィードバックの方法:　授業中にまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
鑑賞レポート	40%	自身の眼で見て言葉としたレポートが書かれているかが評価のポイントです。
小テスト①②	50%	講義が理解できているかの確認です。
授業への積極性	10%	毎回の振り返りコメント。

教科書:　なし

参考書:　授業時に適時知らせます。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　okamoto@kuad.kyoto-art.ac.jp

511900

都市メディア論

関口　　英里

授業テーマ:

授業の概要:

流行現象や日常/非日常のイベント、消費文化が生成されるさまざまな場所や空間など、都市の営みをめぐるあらゆるモノやコトは全て何らかのメッセージを私たちに発信し、心身に働きかける広義のメディアであるといえます。そしてそこには、常に何らかの「仕掛け」が隠されています。この授業では、具体的な事例の検討を通して、多様なメッセージを読み取り、文化の仕組みを考える力を養います。

到達目標:

従来、身近な存在として何気なく接してきた事物や消費空間などに隠された深い意味に気付き、メディアとしての都市や現代文化を新たな視点から多角的に理解することがこの授業の目標です。

授業方法:

講義形式に加え、トピックに関連する課題について、個人またはグループによる授業内ディスカッションや論述などの作業などを取り入れます。また、課題分析に伴い、自主的な授業外活動や情報収集、授業内発表等も行ってもらいたいと考えています。トピック提示や要点の理解においては、映像視聴や画像資料の参照などを積極的に活用します。解説等は、パソコンとプロジェクターを使用したプレゼンテーションを中心に進めるので、適宜ノートを取り、重要な論点を理解・修得するよう努めて下さい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:授業概要や進め方等について	授業概要の事前理解
2.	現代都市の消費文化やメディアに関する基礎概念および分析視点について	文化をめぐる様々なトピックの予備知識獲得
3.	現代都市の文化をめぐる事例分析①問題提起	トピックとなる事例についての事前学習①
4.	現代都市の文化をめぐる事例分析①検討～提示	課題についての資料収集～討論・発表等①
5.	現代都市の文化をめぐる事例分析①解説	事例読解のまとめと理解①
6.	現代都市の文化をめぐる事例分析②問題提起	トピックとなる事例提示と事前学習②
7.	現代都市の文化をめぐる事例分析②検討～提示	課題についての資料収集～討論・発表等②
8.	現代都市の文化をめぐる事例分析②解説	事例読解のまとめと理解②
9.	現代都市の文化をめぐる事例分析③問題提起	トピックとなる事例提示と事前学習③
10.	現代都市の文化をめぐる事例分析③検討～提示	課題についての資料収集～討論・発表等③
11.	現代都市の文化をめぐる事例分析③解説	事例読解のまとめと理解③
12.	現代都市の文化をめぐる事例分析④問題提起	トピックとなる事例提示と事前学習④
13.	現代都市の文化をめぐる事例分析④検討～提示	課題についての資料収集～討論・発表等④
14.	現代都市の文化をめぐる事例分析④解説	事例読解のまとめと理解④
15.	現代の都市メディアと文化をめぐる諸問題:まとめと展望	これまでに得た知見の総合的な修得と今後への応用

受講者へのメッセージやアドバイス:

自律的かつ能動的な学習姿勢と実践的な知識修得を養うため、毎回授業内外での調査や考察課題を設定する予定です。受講者は指示に従い、個人やグループでの活動に取り組み、課題分析～提示を行うことが求められます。

フィードバックの方法:

授業時および授業外に必要に応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内での活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
授業外での活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
各種課題	約30%	随時指示する調査、レポート提出など各種課題やタスクの遂行
その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

授業時に連絡します。その他必要に応じて適宜指示します。

512000

コミュニケーション論

岡本　　健

授業テーマ:

「わかりあう」とはどういうことだろうか？
—コミュニケーションの「理論」と現実の「分析」

授業の概要:

コミュニケーションで悩んだことはありませんか？

私たちが生きる社会は、人と人との、人とモノとの、モノとモノとが関わり合って成り立っています。特に現代社会では、コミュニケーション力が問われたり、文脈や状況を読む（空気を読む）ことが求められたり、人と人との関係性を良好に保つことが過剰とも言えるほど意識されます。

ですが、よく考えてみると、よくわかりあうことや、情報をたくさん交換すること、あるいは、素早くコミュニケーションすることだけが本当によいコミュニケーションなのでしょうか。そもそもよくわかりあうことなどできるのでしょうか。必要なのでしょうか…。

本授業では、コミュニケーションに関する様々な考え方の枠組み（理論）を学び、
それを応用して、現実社会で起こっている現象を分析できるようになることを目指します。

到達目標:

・コミュニケーションに関する考え方の枠組み（理論）を理解する
・理論を応用して、現実のコミュニケーション場面を分析できるようになる

授業方法:

・講義である。コミュニケーションの理論とその応用についてわかりやすく説明する。
・毎回、授業冒頭に簡単な課題を発表し、授業の最後に課題に取り組む時間を設ける

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに —コミュニケーションとは何か	テキストを購入し、目次を見ておく
2.	現代社会の多様なコミュニケーション —メディア、対人、物、ノンバーバル…	自分は普段どのようなコミュニケーションを行っているか、意識して考えておく
3.	コミュニケーションの社会学（1） —デュルケム、ウェーバー、ジンメル	教科書①の第1章を読んでおく
4.	コミュニケーションの社会学（2） —ハーバーマス、ゴッフマン	教科書①の第2章を読んでおく
5.	コミュニケーションの社会学（3） —ミード、ベイトソン、ルーマン	教科書①の第3章を読んでおく
6.	社会におけるコミュニケーション（1） —「対話」「権力」	教科書①の第5章～第7章を読んでおく
7.	社会におけるコミュニケーション（2） —「遊戯」「笑い」「恋愛」「友人」	教科書①の第8章～第10章を読んでおく
8.	社会におけるコミュニケーション（3） —「家族」「教育」「いじめ」「空気」	教科書①の第11章、第12章、第14章を読んでおく
9.	観光コミュニケーションについて考える —現実空間、情報空間、虚構空間	現代社会における観光や地域振興におけるコミュニケーション的問題とは何か、考えておく
10.	観光コミュニケーション理論 —旅行者行動、ホスト＆ゲスト、メディア・コミュニケーションとネット・コミュニティ	教科書②の該当箇所を読んでおく
11.	観光コミュニケーション分析（1） —新聞・雑誌記事、聖地巡礼ノート	教科書②の該当箇所を読んでおく
12.	観光コミュニケーション分析（2） —フィールドワーク、インタビュー	教科書②の該当箇所を読んでおく
13.	観光コミュニケーション分析（3） —質問紙（アンケート）調査、アクセス解析	教科書②の該当箇所を読んでおく
14.	二項対立を超えるコミュニケーション —アニメ聖地巡礼の観光社会学	教科書②の該当箇所を読んでおく
15.	まとめ —コミュニケーション理論の理解とその応用	最終課題の準備をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

・「理論」と聞くと少し難しい印象を受けるかもしれませんが、実は身の回りで日々起こる出来事を理解するのを助けてくれるものです。
・抽象的な「理論」を習得して、実際に世の中で起こっていることを分析してみると、これまでとは違う感想や見方が得られます。
・そうすることで、表面的に相手に合わせるコミュニケーションではなく、コミュニケーションそのものを深く考え、他者とどのように関わるのが最善なのか、自分で考えることができます。

フィードバックの方法:

提出された『リアクションペーパー』の内容を次の回の冒頭に紹介し、解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
『リアクションペーパー』	60	毎回、授業冒頭に簡単な課題を出題する。授業終了時に回答時間を設け『リアクションペーパー』に記入して提出する。
『最終課題』	40	授業の最終回に実施する。問題は初回授業時に提示する。内容は授業の内容理解を確認し、かつ、受講生の興味、関心に沿ったものに応用できるかを問うものとなる。教科書の持ち込みは可能。

教科書:

長谷正人・奥村隆『コミュニケーションの社会学』有斐閣、2009
岡本健『アニメ聖地巡礼の観光社会学』法律文化社、2018

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思いやる力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

リアクションペーパー、マナビ—の掲示板機能を利用、授業の前後に教室内で対応

512200

メディア文化史

中村　　信博

授業テーマ:　文字、テクスト、次世代メディア、そして人間

授業の概要:　従来のテクスト・メディアはデジタル化されることによって、多次元的な再利用と加工とを可能にした。それは、現代社会における基礎的情報概念とコミュニケーションとに一大変革を迫ることになった。本講義においては、今日に至るメディア文化の歴史的変遷の過程をたどり、高度情報化社会の現状と将来を展望したい。代表的な学説史を紹介しながら、メディア的視点による文化史の再構築を試論的に考察する。あわせて情報化が社会にもたらした影響とメディア文化史が理解した人間と社会に潜む基本的な問題についても考察する。

到達目標:　【知識・理解】幅広い知的関心をもって、人類の歩みをメディア文化史的視点から総合的に考察する能力を養う。
【関心・意欲・態度】歴史と文化における個別的にまた総合的に分析し理解したいとする幅広い知的関心を養う。
【表現・技能・能力】この分野の探求が単に過去の歴史事象に向けられることなく、次世代への展望に繋がることを理解し、最終的には今日の課題である情報とモラルの関係についても本質的な問題がどこにあるのかを思考できるようになる。

授業方法:　講義形式を基本とする。受講者数との関係で可能であれば、一部には少人数によるグループ討議なども導入する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディアとは何か －課題と概要－	
2.	図像と文字の歴史	事前配布の資料などを手がかりに、メディアの歴史的起源についての関心を整理しておくこと。
3.	音声の文化と文字の文化	事前配布の資料などを手がかりに、メディアの歴史的起源についての関心を整理しておくこと。
4.	文字文化の影響	事前配布の資料などを手がかりに、メディアの歴史的起源についての関心を整理しておくこと。
5.	口碑、碑文から写本へ	事前配布の資料などを手がかりに、写本メディアについての歴史的関心を整理しておくこと。
6.	写本と社会	事前配布の資料などを手がかりに、写本メディアについての歴史的関心を整理しておくこと。
7.	グーテンベルクの衝撃	事前配布の資料などを手がかりに、印刷メディアの展開と影響についての歴史的関心を整理しておくこと。
8.	印刷メディアと近代社会の誕生	事前配布の資料などを手がかりに、印刷メディアの展開と影響についての歴史的関心を整理しておくこと。
9.	メディアとしての言語	事前配布の資料などを手がかりに、印刷メディアの展開と影響についての歴史的関心を整理しておくこと。
10.	翻訳言語と文化・社会	事前配布の資料などを手がかりに、印刷メディアの展開と影響についての歴史的関心を整理しておくこと。
11.	マス・メディアの誕生	事前配布の資料などを手がかりに、新聞、テレビ、ラジオなどの歴史的影響について関心を整理しておくこと。
12.	電子メディアの革新性	事前配布の資料などを手がかりに、新聞、テレビ、ラジオなどの歴史的影響について関心を整理しておくこと。
13.	現代メディアの課題	事前配布の資料などを手がかりに、高度情報化社会が内包する諸問題についての関心を整理しておくこと。
14.	メディア文化による人類史とは	メディア文化史的視点の特質について論点を整理しておくこと。
15.	まとめ	全回の講義について、総合的に復習をし、疑問点を整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義において紹介する文献や事象についてはできるだけ追跡をし、とくに関連する文献については複数冊を読了すること。毎回の復習を中心とした準備学習を継続して欲しい。

フィードバックの方法:　毎回のコメントシートに寄せられた感想と質問を中心に翌週の授業で共有し、応答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	55%	「授業の概要」および「到達目標」として設定されている事項についての理解度を中心に評価する。
授業への参加度	45%	毎回の出席とコメントシートへの積極的記入によって評価するが、多数の受講生が予測されるため、小グループでの討議は評価対象とはしない。

教科書:　多岐にわたる内容であるので、教科書はしていしないが、参考文献などは教室において指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、洞察力

教員との連絡方法:　直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

512301、02

アナウンス技術

関根　　友実

授業テーマ:　アナウンス技術を実践的に学び、今後の仕事や日常生活に役立つような「伝える力」を身につける

授業の概要:　アナウンス技術の基礎である腹式呼吸や発声法を実践的に学んだり、滑舌をより良くしたり、自分に適した良い声を見つける方法を伝授します。さらに、ニュースやお天気、ナレーション、朗読などの本格的な原稿読みを通して、総合的なアナウンス力の向上を目指します。さらに後半は、プレゼンテーションやボディランゲージ、インタビューや傾聴など、面接や仕事場面でも役立つようなコミュニケーションスキルをグループワークなどで修得を目指します。講師は元朝日放送アナウンサーであり、現在は臨床心理士でもあるので、スピーチやプレゼンテーションなどの伝える力だけではなく、聴く力や緊張や不安の乗り越え方など、心理面からのアプローチも伝授します。

到達目標:　自分に合った「人に思いを届ける声」を見つけてもらい、声を出すことの楽しさや他者と直接対話型のコミュニケーションを図ることの面白さを体感してもらうことを通して、今後の就職活動や社会生活に役立てるような技術を体得してもらいたいです。

授業方法:　講義、実践、グループワーク、プレゼンテーション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・自己紹介	準備学習や復習に関しては、授業中に適宜指示します。
2.	魅力的な声の作り方①　呼吸法、腹式呼吸、リラクセーション技法	
3.	魅力的な声の作り方②　自分だけの良い声を見つける	
4.	魅力的な声の作り方③　発声法、滑舌	
5.	魅力的な声の作り方④　抑揚、間の取り方	
6.	小テスト①　朗読＜朗読の基本＞	
7.	心に響く話し方①　シチュエーションに合わせた伝え方	
8.	心に響く話し方②　話すことの基本、ボディランゲージ	
9.	心に響く話し方③　インタビュー、あいづち、傾聴術	
10.	心に響く話し方④　アサーション、相互理解を深めるための会話術	
11.	心に響く話し方⑤　不安や緊張を乗り越える方法、感情コントロール	
12.	小テスト②　朗読＜朗読劇＞	
13.	自己分析について・プレゼンテーション	
14.	プレゼンテーション本番	
15.	プレゼンテーション振り返り・まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　日常当たり前に行っている「話す」「喋る」ということを、いかに工夫するとより「伝わる言葉」になるのかを、一緒に楽しく学んでいきましょう。

フィードバックの方法:　実践を重視した授業形態をとりますので、アドバイスは随時、行っていきます。また、授業終わりや、出席票の自由記述欄にて質問を受け付けます。個別の発話面の悩みや面接スキルなどの質問でも構いません。なお、期末試験は行いません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加意欲、態度	80%	講義を聴き、実践することにより技術を体得していくことを目指しますので、授業への参加意欲や受講態度に重点を置いて評価します
小テストの理解度	20%	期末試験は行いませんが、授業の理解度を試す小テストを二回行います

教科書:　特にありません

参考書:　授業時間内に適宜指定します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　連絡先　tomomi1972426@gmail.com　関根友実にお願いします。

512400

デジタルアーカイブス

小林　　直明

授業テーマ:　デジタルアーカイブをまなび、つくり、つかう

授業の概要:　「デジタルアーカイブ」とは、「何らかのテーマや目的に沿って収集・組織化されたデジタルコンテンツのコレクション、そしてそれらを長期にわたって保管・活用していくための仕組み」のことである。当初は主に博物館・美術館、図書館や公文書館など（いわゆるMLA)が、収蔵品をはじめ、有形・無形の文化資産をデジタル化・データベース化して記録・保存することをさしていた。しかし、近年の急速かつ高度な情報通信技術（ICT）の発達・普及に伴い、あらゆる主体によって（あるいはそれらが連携するなかで）、あらゆる事象を対象としたデジタルアーカイブがつくられるようになった。この授業では、デジタルアーカイブの構築・運営を担うアーキビストに要求される知識・技術の基礎を習得することをめざしつつ、国内外のMLAや市民社会、企業などがつくるデジタルアーカイブの事例を学ぶことを通じて、その意義や課題、可能性を展望していく。

到達目標:
・デジタルアーカイブの種類、目的、到達点と課題について理解し、説明できるようにする。
・デジタルアーカイブ構築の流れを理解し、各工程において必要な情報技術的あるいは法的な知識を身に着ける。
・デジタルアーカイブの事例に関心を持ち、新しいアーカイブやそれらの創造的利活用について考える意欲を持つ。

授業方法:　教科書を使った講義とその内容に沿った自主的な調べ学習あるいはグループワークを含むワークショップ的な内容を組み合わせてた授業とする。（授業内容の詳細を専用のホームページを介して提示する予定。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	教科書を購入し、持参すること。目次をながめて、概要をイメージしておくこと。
2.	デジタルアーカイブをまなぶ＜1＞ ：デジタルアーカイブの種類	教科書の該当箇所（pp.3-12）に目を通しておくこと。
3.	デジタルアーカイブをまなぶ＜2＞ ：デジタルアーカイブの工程	教科書の該当箇所（pp.13-33）に目を通しておくこと。
4.	デジタルアーカイブをまなぶ＜3＞ ：新しい分野のデジタルアーカイブ	教科書の該当箇所（pp.34-43）に目を通しておくこと。
5.	デジタルアーカイブをつくる＜1＞ ：管理運営（1）	教科書の該当箇所（pp.47-62）に目を通しておくこと。
6.	デジタルアーカイブをつくる＜2＞ ：管理運営（2）	教科書の該当箇所（pp.63-81）に目を通しておくこと。
7.	デジタルアーカイブをつくる＜3＞ ：技術（1）	教科書の該当箇所（pp.82-98）に目を通しておくこと。
8.	デジタルアーカイブをつくる＜4＞ ：技術（2）	教科書の該当箇所（pp.99-113）に目を通しておくこと。
9.	デジタルアーカイブをつくる＜5＞ ：法律（1）	教科書の該当箇所（pp.114-117）に目を通しておくこと。
10.	デジタルアーカイブをつくる＜6＞ ：法律（2）	教科書の該当箇所（pp.118-127）に目を通しておくこと。
11.	デジタルアーカイブをつくる＜7＞ ：法律（3）	教科書の該当箇所（pp.128-144）に目を通しておくこと。
12.	デジタルアーカイブをつかう＜1＞ ：課題と可能性、意義	教科書の該当箇所（pp.147-159）に目を通しておくこと。
13.	デジタルアーカイブをつかう＜2＞ ：活用事例（1）	教科書の該当箇所（pp.160-174）に目を通しておくこと。
14.	デジタルアーカイブをつかう＜3＞ ：活用事例（2）	教科書の該当箇所（pp.175-190）に目を通しておくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講者は各自、毎回の授業にノートパソコンを持参すること。

フィードバックの方法:　質問やレポートに対するフィードバックは教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験あるいはレポート	50	デジタルアーカイブの理解度を評価する。
出席を含む授業への参加態度	50	欠席は減点、リアクションペーパー等を通じて参加態度、意欲を評価する。

教科書:　柳与志夫（責任編集）、『入門　デジタルアーカイブ　――まなぶ・つくる・つかう』、勉誠出版、定価2500円＋税

参考書:　参考書等は、授業中あるいは授業用ホームページを介して随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　基本的に授業の前後に教室内で対応する。

512600

宗教とメディア

中村　　信博

授業テーマ:　人間と超越性、その形と解釈

授業の概要:　本来、人間の次元を超越した宗教世界は不可視であるが、宗教をめぐる多様なメディアは、その見えないことを本質とする世界を表現してきた。極論すれば、宗教メディアは不可視を可視化することによって成立してきたのである。本クラスにおいては、文学、絵画、映画、音楽、漫画、アニメ作品などに描かれた不可視の世界を具体的に検証し、表現の特性と解釈の可能性について探求する。

到達目標:　【知識・理解】宗教と無関係に成立したと思われがちなメディアに内包された宗教的ロジックについて基礎となる知識を獲得し、理解できるようになる。
【関心・意欲・態度】宗教とメディアをめぐる内的な論理について、自らの関心を他者と共有し、共同の探求ができるような総合的力を養う。
【表現・技能・能力】事例的研究を中心とするので、事象の背景を探求しようとする態度を養い、共同的解釈による成果をクラス内で発表できるようになる。

授業方法:　講義形式だけではなく、授業期間の後半には参加者による分析作業とプレゼンテーション、グループと全体の討議などを導入し、総合的な学習ができるように配慮する。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム（マナビー）を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディアと宗教 －問題の発見－	
2.	遠近法の中の宗教的世界	配布資料などにより、メディアと宗教との類似的観点について整理しておくこと。
3.	キリスト教図像の場合－1	配布資料などにより、キリスト教図像がどのような意味で読み解かれる可能性を有しているのかを考えてみる。
4.	キリスト教図像の場合－2	配布資料などにより、キリスト教図像がどのような意味で読み解かれる可能性を有しているのかを考えてみる。
5.	仏教図像の場合	配布資料などにより、仏教図像がどのような意味で読み解かれる可能性を有しているのかを考えてみる。
6.	メディアアートと宗教性	メディアアートの特性について関心を整理し、そこに宗教的思考との類似性が把握できないか検討してみる。
7.	アニメ作人のなかの宗教性 －宮崎駿、新海誠の世界－	過去において視聴経験のあるアニメ作品の解釈について、論点を整理してみる。
8.	プロジェクトによる探求	共同作業としての関心、課題、探求方法、プレゼンテーションまでの過程にどのように参加し得るのかについて準備する。
9.	プロジェクトによる探求	共同作業としての関心、課題、探求方法、プレゼンテーションまでの過程に積極的に参加し、プロジェクト内での貢献をはたすこと。
10.	プロジェクトによる探求	共同作業としての関心、課題、探求方法、プレゼンテーションまでの過程に積極的に参加し、プロジェクト内での貢献をはたすこと。
11.	プロジェクトによる探求	共同作業としての関心、課題、探求方法、プレゼンテーションまでの過程に積極的に参加し、プロジェクト内での貢献をはたすこと。
12.	宗教的思考のメディア表現 －その実際と解釈－	プロジェクト研究の成果発表の直前に、具体的な事例をクラス全体で検討する。プロジェクト研究における経験を踏まえて、メディアと宗教性についての関心を整理しておくこと。
13.	探求成果の発表（プレゼンテーション）	プロジェクト探求の成果を発表できるように準備をしておくこと。
14.	探求成果の発表（プレゼンテーション）	プロジェクト探求の成果を発表できるように準備をしておくこと。
15.	現代世界における宗教的表象のネットワーク	プロジェクト探求も含めて全回の総括的内容を講義するので、総合的な復習をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　担当者による講義のみではなく、プロジェクト研究を導入した授業となるので受講者には、他者と共同で新しいメディア解釈の可能性を探究しようとする高い意欲をもって参加して欲しい。また、「プロジェクトによる探求回」においては、各回の講義主題と受講者数との関係で変更することがあるが、随時、教室において指示する。

フィードバックの方法:　講義回においては、コメントシートに寄せられた感想と質問を中心に翌週の授業で共有し、応答する。また、プロジェクト探求においては、その都度の疑問や途中成果なども含めて随時クラス内で共有し、問題を解決したい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加	45%	コメントシートへの積極的記入も含めて毎回の出席状況を中心に評価する。
プロジェクト研究	55%	プロジェクトの成果およびプロジェクト内での貢献によって評価する。

教科書:　多岐にわたる内容であるので、とくに教科書は指定しない。参考文献は教室において指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力、洞察力

教員との連絡方法:　直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

512700

情報ネットワーク応用Ⅰ

余田　　義彦

授業テーマ:　家庭や小さなオフィス向けの小規模ネットワークの作り方

授業の概要:　無線LAN、スイッチ、ルータなどネットワーク機器の初歩的な操作方法、動作のしくみ、セキュリティ対策などを実際の機器を使った実習と講義を通して学びます。そして、家庭や小さなオフィス向けの小規模ネットワーク(LAN)を作って運用できる実践的な知識と技術を身につけます。

到達目標:
①【知識・理解】ネットワーク機器の初歩的な操作方法、動作のしくみ、セキュリティ対策などを説明できる。
②【関心・意欲・態度】ネットワークに関わる技術動向や社会問題に関心をもち、進んでそれらの情報を知ろうとする。
③【表現・技能・能力】無線LAN、スイッチ、ルータで構成される小規模ネットワークを実際に作ることができる。

授業方法:　授業は授業支援システム「マナビー」を使い、講義と実習を組み合わせるかたちで行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	情報ネットワークの復習	
2.	ネットワークサービス　①クライアントとサーバのやりとり	
3.	〃　②パケットを確実・高速に届けるプロトコル	授業内容の理解を深める復習課題
4.	〃　③パソコン、スイッチ、サーバで構成されるLANを作ってみよう	活動の振り返り
5.	無線LAN　①基礎知識	
6.	〃　②無線LANのセキュリティ対策	授業内容の理解を深める復習課題
7.	〃　③無線LANでアクセスできるLANを作ってみよう	活動の振り返り
8.	基本的なセキュリティ　①ネットワークへの脅威	
9.	〃　②様々な攻撃方法とセキュリティ対策の基本	授業内容の理解を深める復習課題
10.	〃　③ボードゲームで考えるセキュリティ対応	活動の振り返り
11.	ルータの使い方　①基礎知識	
12.	〃　②初歩的な操作方法	
13.	〃　③パソコン、スイッチ、ルータで構成される小規模LANを作ってみよう	活動の振り返り
14.	〃　④ルータを使って離れたLAN同士をつなぐ	活動の振り返り
15.	まとめと振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は「情報ネットワーク」の続編であり実践編でもあります。もう少し実践的な知識や技術を身につけたいと思っている人や、IT系企業やネットビジネス企業への就職を考えている人向きの内容です。「情報ネットワーク」の内容を復習しながら少しずつ進めて行きますので、忘れかけている人も安心して履修して下さい。授業では毎回ノートパソコンを使用しますので、初回から持ってくるようにしてください。

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
オンラインテスト	30	到達目標①の達成度を評価します。
振り返り	10	到達目標①②③の達成度を評価します。
演習・実習課題	30	到達目標①③の達成度を評価します。
実技課題	30	到達目標③の達成度を評価します。

教科書:　なし

参考書:　授業の中で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

512800

情報ネットワーク応用Ⅱ

余田　　義彦

授業テーマ:　企業向け中規模ネットワークの作り方とインターネット接続

授業の概要:　「情報ネットワーク応用I」で学んだ知識・技術を基礎として、ネットワーク間通信の仕組みを基礎から応用まで学びます。また、IPv6やそれを用いたインターネット接続など近年重要になっている技術動向についても学びます。

到達目標:
①【知識・理解】ルータを用いたネットワーク間通信のしくみや最近のネットワーク技術について説明できる。
②【関心・意欲・態度】ネットワークに関わる技術動向や社会問題に関心をもち、進んでそれらの情報を知ろうとする。
③【表現・技能・能力】スイッチ、ルータで構成される中規模ネットワークを構築できる。

授業方法:　授業は授業支援システム「マナビー」を使い、講義と実習を組み合わせるかたちで行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	情報ネットワーク応用Iの復習	
2.	ルーティング基礎　①ネットワーク間通信のしくみ	
3.	〃　②静的ルーティングでネットワーク間通信を試してみる	活動の振り返り
4.	〃　③動的ルーティングでネットワーク間通信を試してみる	活動の振り返り
5.	〃　④動的ルーティングにおけるルーティングテーブル自動更新のしくみ	
6.	アドレッシング化　①IPv4アドレスとサブネット	授業内容の理解を深める復習課題
7.	〃　②IPv4アドレスの枯渇問題とIPv6	授業内容の理解を深める復習課題
8.	ルーティング応用　①クラスレスルーティング	
9.	〃　②中規模ネットワーク対応の動的ルーティング	
10.	〃　③中規模ネットワーク対応の動的ルーティング（続き）	活動の振り返り
11.	ネットワーク機器の管理　①ルータの管理	活動の振り返り
12.	〃　②スイッチの基本設定	活動の振り返り
13.	インターネットへの接続	
14.	ネットワークの設計	授業内容の理解を深める復習課題
15.	まとめと振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は「情報ネットワーク応用Ⅰ」の続編ですが、応用Ⅰの内容を復習しながら少しずつ進めて行きますので、忘れかけている人も安心して履修して下さい。授業では毎回ノートパソコンを使用しますので、初回から持ってくるようにしてください。

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
オンラインテスト	30	到達目標①の達成度を評価します。
振り返り	10	到達目標①②③の達成度を評価します。
演習・実習課題	30	到達目標①③の達成度を評価します。
実技課題	30	到達目標③の達成度を評価します。

教科書:　なし

参考書:　授業の中で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール（yyoden@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

512900 **プログラミングＡＩ**

有賀　　妙子

授業テーマ:　プログラミング基礎の理解と、数理的思考力の習得

授業の概要:　プログラムは、仕事(処理)の手順をコンピュータへ指示するものであり、業務用ソフトからゲーム、携帯アプリまで、さまざまなプログラムを私たちは使っている。この科目ではプログラムを制作するのに必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。加えて、プログラミング基礎の学習を通し、さまざまな状況で必要になる数理的思考力(Computational Thinking)を習得する。

到達目標:　本科目では、次の点をめざす。
(1) 変数・配列・制御構造などすべてのプログラミング環境に共通する基礎概念を理解する。
(2) クラス・メソッドなどオブジェクト指向プログラミングの基礎概念を理解する。
(3) GUIをもつシンプルな機能のプログラムを作成できる。
(4) プログラム作成を通し、数理的思考力 (Computational Thinking)を養う。

【注意】
「プログラミングAI」と「プログラミングAII」は連続した授業であるため、両方を履修することが望ましい。

授業方法:　ノート型コンピュータを使用し、講義と演習を交えた授業を行う。
プログラミング言語としてJava言語を使う。
授業の進展に応じ、学期を通じて5,6回程度、プログラム制作演習の宿題を出す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと開発環境の準備	授業内容の理解
2.	オブジェクトの作成とメソッド呼び出し	授業内容の理解
3.	変数, 演算子	授業内容の理解
4.	制御構造１	授業内容の理解、演習プログラムの制作
5.	制御構造2	授業内容の理解
6.	クラスの定義(メソッド、コンストラクタの定義)	授業内容の理解、演習プログラムの制作
7.	配列	授業内容の理解
8.	マルチスレッド	授業内容の理解
9.	グラフィカルユーザインターフェース(GUI)の基礎と配置	授業内容の理解
10.	イベント処理---アクションイベント(ボタン)	授業内容の理解、演習プログラムの制作
11.	イベント処理---アクションイベント(コンボボックス、テキストフィールド)	授業内容の理解
12.	イベント処理---マウスイベント	授業内容の理解、演習プログラムの制作
13.	グラフィックスの描画	授業内容の理解
14.	グラフィックスとイベント処理１	授業内容の理解
15.	グラフィックスとイベント処理２	授業内容の理解、演習プログラムの制作

受講者へのメッセージやアドバイス:　積み重ねの授業内容となるので、理解を深め、不明点を認識するために、毎回の授業終了後の復習が必要。

フィードバックの方法:　提出された演習プログラムに対して必要に応じてコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
宿題として提出した演習プログラムの完成度	100	仕様を満たして機能するかどうか ソースコードの可読性 新規の工夫など

教科書:　立木秀樹・有賀妙子「すべての人のためのJavaプログラミング　第3版」　共立出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメール（tariga@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

513000 **プログラミングＡⅡ**

有賀　　妙子

授業テーマ:　プログラミング基礎の理解と、数理的思考力の習得

授業の概要:　プログラムは、仕事(処理)の手順をコンピュータへ指示するものであり、業務用ソフトからゲーム、携帯アプリまで、さまざまなプログラムを私たちは使っている。この科目ではプログラムを制作するのに必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。加えて、プログラミング基礎の学習を通し、さまざまな状況で必要になる数理的思考力(Computational Thinking)を習得する。

到達目標:　プログラムは、仕事(処理)の手順をコンピュータへ指示するものであり、業務用ソフトからゲーム、携帯アプリまで、さまざまなプログラムを私たちは使っている。プログラムを制作するのに必要となる基礎的な知識・技術を学ぶ。このようなプログラム作成に関する知識は、動的なWebコンテンツを制作する場合にも役に立つ。本科目では、次の点をめざす。
(1) 変数・配列・制御構造などすべてのプログラミング環境に共通する基礎概念を理解する。
(2) クラス・メソッドなどオブジェクト指向プログラミングの基礎概念を理解する。
(3) GUIをもつシンプルな機能のプログラムを作成できる。
(4) プログラム作成を通し、数理的思考力 (Computational Thinking)を養う。

【注意】
「プログラミングAI」と「プログラミングAII」は連続した授業であるため、両方を履修することが望ましい。

授業方法:　ノート型コンピュータを使用し、講義と演習を交えた授業を行う。
プログラミング言語としてJava言語を使う。
授業の進展に応じ、学期を通じて5回程度、プログラム制作演習の宿題を出す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと開発環境の準備	授業内容の理解
2.	オブジェクトの作成とメソッド呼び出し	授業内容の理解
3.	変数，演算子	授業内容の理解
4.	制御構造1	授業内容の理解、演習プログラムの制作
5.	制御構造2	授業内容の理解
6.	クラスの定義(メソッド、コンストラクタの定義)	授業内容の理解、演習プログラムの制作
7.	配列	授業内容の理解
8.	マルチスレッド	授業内容の理解、演習プログラムの制作
9.	グラフィカルユーザインターフェース(GUI)の基礎と配置	授業内容の理解
10.	イベント処理---アクションイベント(ボタン)	授業内容の理解
11.	イベント処理---アクションイベント(コンボボックス、テキストフィールド)	授業内容の理解
12.	イベント処理---マウスイベント	授業内容の理解、演習プログラムの制作
13.	グラフィックスの描画	授業内容の理解
14.	グラフィックスとイベント処理1	授業内容の理解
15.	グラフィックスとイベント処理2	授業内容の理解、演習プログラムの制作

受講者へのメッセージやアドバイス:　積み重ねの授業内容となるので、理解を深め、不明点を認識するために、毎回の授業終了後の復習が必要。

フィードバックの方法:　提出された演習プログラムに対して必要に応じてコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
宿題として提出した演習プログラムの完成度	100	仕様を満たして機能するかどうか ソースコードの可読性 新規の工夫など

教科書:　立木秀樹・有賀妙子「すべての人のためのJavaプログラミング　第3版」　共立出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメール（tariga@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

513100 **プログラミングＡⅢ**

北林　　寛子

授業テーマ:　Java言語応用:スマホアプリ(アンドロイドアプリ)を作成する

授業の概要:
「プログラミングAI・AII」でのJavaプログラミング基礎の習得を前提に、その知識や技術を発展させ実用的なプログラミングのスマホアプリ(アンドロイドアプリ)作成に活用できるように繋げる。
　実用的なプログラミングとは、今世の中で急速に普及している携帯端末(スマートフォン・タブレット)で利用されているアプリケーションプログラムを作成することである。
アンドロイドOSを採用している携帯端末では、「プログラミングAI・AII」で学んだ「Java言語」を使用してアプリケーションプログラムが作成されている。春学期に習得したJava言語の知識と技術を活かしてアンドロイドアプリ作成へとスライドする。アンドロイドアプリ作成をすることにより、Java言語のGUIの理解も深める。
　パソコン上でアンドロイドアプリケーションプログラムを作成・実行し、最終的には実機の携帯端末にダウンロードし実際に利用するところまで演習し自分でアプリ開発をすることができるようになることを目標とする。
【注意】「プログラミングAIII」と「プログラミングAIV」は連続した授業であるため、両方を履修することが望ましい。

到達目標:
(1) 開発ツール「AndroidStudio」を使用して「アンドロイドアプリ」が作成できる。
(2) アンドロイドアプリの基本構造を理解する。
(3) 作成した「アンドロイドアプリ」を実機にダウンロードすることができる。
(4) 作成した「アンドロイドアプリ」を実機で動作させることができる。
(5) 「アンドロイドアプリ」との対応でJava言語のGUIの理解を深める。

授業方法:
(1) 開発ツール「AndroidStudio」を使用して「アンドロイドアプリ」が作成できる。
(2) アンドロイドアプリの基本構造を理解する。
(3) 作成した「アンドロイドアプリ」を実機にダウンロードすることができる。
(4) 作成した「アンドロイドアプリ」を実機で動作させることができる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・開発ツールを体験する	Java言語の文法の復習
2.	開発環境の準備、一番簡単なアプリを作成してみる	Java言語の文法の復習
3.	イベントを含んだアプリを作成する	Java言語のGUIの復習
4.	いろいろなGUI+イベント	授業の復習
5.	GUI＋イベントまとめ、小課題	授業の復習
6.	画像表示＋イベント	授業の復習
7.	実機にダウンロード＋実行	授業の復習
8.	ゲームを作成する(その1)	授業の復習
9.	ゲームを作成する(その2)	授業の復習
10.	ゲームを作成する(その3)	授業の復習
11.	ゲームを作成する(その4)	授業の復習
12.	ゲームを作成する(その5)	授業の復習
13.	ゲームを作成する(その6)	授業の復習
14.	ゲームを作成する(その7)	授業の復習
15.	評価課題制作	評価課題作品の構想を練る

受講者へのメッセージやアドバイス:
・「プログラミングＡⅠ・Ⅱ」のイベントの学習内容を元にして、「プログラミングＡⅢ・Ⅳ」のイベントの学習内容で更に理解を深めて、「アンドロイドアプリ」のイベントに繋げるので、Java言語との対比で相乗効果で両方を習得することができる。
・授業内での練習問題の解答ソースは、授業後に配布フォルダに置くので、必ず復習しておく。
・疑問点は個別質問時間に質問してクリアにしておく。

フィードバックの方法:
提出問題は、授業でまとめて解説をし、参考ソースを配布フォルダで公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30	平常の取組態度や小課題の提出状況で評価する。
評価課題	70	課題の条件を満足した内容で、評価基準への到達点で評価する。

教科書:
「Android Studioではじめる　簡単Androidアプリ開発」(有山圭二　著:技術評論社)

参考書:
「すべての人のための　Javaプログラミング　第2版」(有賀　妙子、立木　秀樹　著:共立出版)
その他、適宜資料を配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、(自己管理力、自己実現力)

教員との連絡方法:
マナビ―の掲示板機能、Eメール(hkitabay@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

513200 **プログラミングAⅣ**

北林　　寛子

授業テーマ:　Java言語応用:スマホアプリ(アンドロイドアプリ)を作成する

授業の概要:
「プログラミングAI・AII」でのJavaプログラミング基礎の習得を前提に、その知識や技術を発展させ実用的なプログラミングのスマホアプリ(アンドロイドアプリ)作成に活用できるように繋げる。
　実用的なプログラミングとは、今世の中で急速に普及している携帯端末(スマートフォン・タブレット)で利用されているアプリケーションプログラムを作成することである。
アンドロイドOSを採用している携帯端末では、「プログラミングAI・AII」で学んだ「Java言語」を使用してアプリケーションプログラムが作成されている。春学期に習得したJava言語の知識と技術を活かしてアンドロイドアプリ作成へとスライドする。アンドロイドアプリ作成をすることにより、Java言語のGUIの理解も深める。
　パソコン上でアンドロイドアプリケーションプログラムを作成・実行し、最終的には実機の携帯端末にダウンロードし実際に利用するところまで演習し自分でアプリ開発をすることができるようになることを目標とする。
【注意】「プログラミングAIII」と「プログラミングAIV」は連続した授業であるため、両方を履修することが望ましい。

到達目標:
(1) 開発ツール「AndroidStudio」を使用して「アンドロイドアプリ」が作成できる。
(2) アンドロイドアプリの基本構造を理解する。
(3) 作成した「アンドロイドアプリ」を実機にダウンロードすることができる。
(4) 作成した「アンドロイドアプリ」を実機で動作させることができる。
(5) 「アンドロイドアプリ」との対応でJava言語のGUIの理解を深める。

授業方法:
(1) 開発ツール「AndroidStudio」を使用して「アンドロイドアプリ」が作成できる。
(2) アンドロイドアプリの基本構造を理解する。
(3) 作成した「アンドロイドアプリ」を実機にダウンロードすることができる。
(4) 作成した「アンドロイドアプリ」を実機で動作させることができる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・開発ツールを体験する	Java言語の文法の復習
2.	開発環境の準備、一番簡単なアプリを作成してみる	Java言語の文法の復習
3.	イベントを含んだアプリを作成する	Java言語のGUIの復習
4.	いろいろなGUI+イベント	授業の復習
5.	GUI＋イベントまとめ、小課題	授業の復習
6.	画像表示＋イベント	授業の復習
7.	実機にダウンロード＋実行	授業の復習
8.	ゲームを作成する(その1)	授業の復習
9.	ゲームを作成する(その2)	授業の復習
10.	ゲームを作成する(その3)	授業の復習
11.	ゲームを作成する(その4)	授業の復習
12.	ゲームを作成する(その5)	授業の復習
13.	ゲームを作成する(その6)	授業の復習
14.	ゲームを作成する(その7)	授業の復習
15.	評価課題制作	評価課題作品の構想を練る

受講者へのメッセージやアドバイス:
・「プログラミングＡⅠ・Ⅱ」のイベントの学習内容を元にして、「プログラミングＡⅢ・Ⅳ」のイベントの学習内容で更に理解を深めて、「アンドロイドアプリ」のイベントに繋げるので、Java言語との対比で相乗効果で両方を習得することができる。
・授業内での練習問題の解答ソースは、授業後に配布フォルダに置くので、必ず復習しておく。
・疑問点は個別質問時間に質問してクリアにしておく。

フィードバックの方法:　提出問題は、授業でまとめて解説をし、参考ソースを配布フォルダで公開する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30	平常の取組態度や小課題の提出状況で評価する。
評価課題	70	課題の条件を満足した内容で、評価基準への到達点で評価する。

教科書:　「Android Studioではじめる　簡単Androidアプリ開発」(有山圭二　著:技術評論社)

参考書:　「すべての人のための　Javaプログラミング　第2版」(有賀　妙子、立木　秀樹　著:共立出版)
その他、適宜資料を配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、(自己管理力、自己実現力)

教員との連絡方法:　マナビ―の掲示板機能、Eメール(hkitabay@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

513700 **プログラミングＢＩ**

有賀　　妙子

授業テーマ:　iOSアプリ開発の基礎技術の理解

授業の概要:　スマートフォンと呼ばれる携帯電話を筆頭に、携帯端末が日常的な道具として人々の生活の中に入り込み、それとともにさまざまな種類の携帯端末用のプログラム(アプリケーション)が開発されている。従来、専門的高度な知識をもったエンジニアだけが開発を担っていたが、開発ツールの公開により、アイディアをもつデザイナーやユーザ自身が開発できる環境が提供されている。本科目では、iOSアプリ開発ツールのXcodeを使い、iPhone/iPod touchを対象に、その上で動作するプログラム作成に必要な基礎的知識・技術を学ぶ。

到達目標:
(1) プログラム言語であるSwiftの基本を理解する。
(2) 開発ツールXcodeとそれが提供するプログラミング環境の基本を理解する。
(3) シングルビューのシンプルな機能のアプリを制作できる。

授業方法:　情報メディア学科演習室にて、講義と演習を交えた授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと開発環境Xcodeの説明	授業内容の理解
2.	Swiftの基礎	授業内容の理解
3.	Swiftの基礎	授業内容の理解
4.	Swiftの基礎	授業内容の理解
5.	テキストの入力と出力を行うアプリの制作	授業内容の理解
6.	テキストの入力と出力を行うアプリの制作	授業内容の理解
7.	簡単な計算を行うアプリの制作	授業内容の理解
8.	簡単な計算を行うアプリの制作	授業内容の理解
9.	簡単な計算を行うアプリの制作	授業内容の理解
10.	ボタンとイベント処理	授業内容の理解
11.	ボタンとイベント処理	授業内容の理解
12.	ボタンとイベント処理	授業内容の理解
13.	ボタンとイベント処理	授業内容の理解
14.	小テストと確認	授業内容の理解
15.	オリジナルアプリ作成	授業内容の理解、オリジナルアプリの制作

受講者へのメッセージやアドバイス:　プログラムを学習したことがなくても、理解できるように、基礎的なところから授業を進める。
ただし、積み重ねの授業内容となるので、毎回の授業終了後の復習が、理解を深め、不明点を認識するために必須。

フィードバックの方法:　授業内で、解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	30	プログラミング基礎知識の理解の程度
演習で制作したプログラムの内容	70	仕様を満たして機能するかどうか、新規の工夫など

教科書:　後日指定します。

参考書:　Swiftではじめる iPhoneアプリ開発の教科書　森 巧尚　マイナビ
詳解　Swift 第3版　萩原剛志　SBCreative

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメール（tariga@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

513800 **プログラミングＢⅡ**

有賀　　妙子

授業テーマ:　iOSアプリ開発の基礎技術の理解

授業の概要:　スマートフォンと呼ばれる携帯電話を筆頭に、携帯端末が日常的な道具として人々の生活の中に入り込み、それとともにさまざまな種類の携帯端末用のプログラム(アプリケーション)が開発されている。従来、専門的高度な知識をもったエンジニアだけが開発を担っていたが、開発ツールの公開により、アイディアをもつデザイナーやユーザ自身が開発できる環境が提供されている。本科目は、プログラミングBIの授業内容を踏まえ、iPhone/iPod touchを対象に、その上で動作するプログラム作成に必要な基礎的知識・技術を学ぶ。

到達目標:
(1) プログラム言語であるSwiftの基本を理解する。
(2) 開発ツールXcodeとそれが提供するプログラミング環境の基本を理解する。
(3) 画面遷移のあるシンプルな機能のアプリを制作できる。

授業方法:　情報メディア学科演習室にて、講義と演習を交えた授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Swiftの概要復習	授業内容の理解
2.	画像を扱うアプリの制作	授業内容の理解
3.	画像を扱うアプリの制作	授業内容の理解
4.	ジェスチャを扱うアプリの制作	授業内容の理解
5.	画面遷移があるアプリの制作	授業内容の理解
6.	画面遷移があるアプリの制作	授業内容の理解
7.	画面遷移があるアプリの制作	授業内容の理解
8.	時間を扱うアプリの制作	授業内容の理解
9.	時間を扱うアプリの制作	授業内容の理解
10.	時間を扱うアプリの制作	授業内容の理解
11.	日付を扱うアプリの制作	授業内容の理解
12.	日付を扱うアプリの制作	授業内容の理解
13.	日付を扱うアプリの制作	授業内容の理解
14.	小テストと確認	授業内容の理解
15.	最終演習課題の説明と制作準備	授業内容の理解、オリジナルアプリの制作

受講者へのメッセージやアドバイス:　プログラミングBIでの内容を理解していることを前提に授業を進める。
ただし、積み重ねの授業内容となるので、毎回の授業終了後の復習が、理解を深め、不明点を認識するために必須。

フィードバックの方法:　授業内で、解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	30	プログラミング基礎知識の理解の程度
演習で制作したプログラムの内容	70	仕様を満たして機能するかどうか、新規の工夫など

教科書:　後日指定します。

参考書:　Swiftではじめる iPhoneアプリ開発の教科書　森 巧尚　マイナビ
詳解　Swift 第3版　萩原剛志　SBCreative

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメール（tariga@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

514101～03

放送番組制作

影山　　貴彦

授業テーマ:　ものをつくるということ

授業の概要:　講義前半は番組を制作する際のマインドを受講者が把握できるよう、放送に関する多岐にわたる事項を教科書に基づいて解説する。後半はグループに分かれミニ番組の制作、発表へと移行する。

到達目標:　番組制作の喜び、あるいは難しさを講義で得る知識とともに習得することを目標とする。

授業方法:　講義と演習、実習の併用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	ものづくりに対するマインドを各人がイメージ
2.	教科書に基づく解説(1)	視聴を含むテレビの考察
3.	教科書に基づく解説(2)	視聴を含むテレビの考察
4.	教科書に基づく解説(3)	視聴を含むテレビの考察
5.	教科書に基づく解説(4)	視聴を含むテレビの考察
6.	教科書に基づく解説(5)	視聴を含むテレビの考察
7.	教科書に基づく解説(6)	視聴を含むテレビの考察
8.	ミニ番組制作に向けての解説	視聴を含むテレビの考察
9.	番組制作(1)	番組制作への準備、実践
10.	番組制作(2)	番組制作への準備、実践
11.	番組制作(3)	番組制作への準備、実践
12.	番組制作(4)	番組制作への準備、実践
13.	制作発表(1)	プレゼンテーションの準備
14.	制作発表(2)	プレゼンテーションの準備
15.	制作発表(3)＋小テスト	プレゼンテーションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　講義内でまとめて解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ミニ番組制作および発表	50%	完成のクオリティよりもプロセスを重視する
積極的態度	30%	必ず毎回発言することを求める
小テスト	20%	制作したミニ番組に対する振り返りを主として評価する

教科書:　「テレビのゆくえ」(世界思想社)影山貴彦著

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

514300

プロデュース論A

川田　　隆雄

授業テーマ:　プロデュース学の概論授業

授業の概要:　現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテイメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデュース学は様々なプロデュースを行うための必要な総合的な能力を研究する学問分野である。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進し、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。この授業ではエンターテイメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュースの4つのジャンルに共通なプロデュース能力を解説し実践応用が出来る準備を行う。

到達目標:　プロデュースという現代的な行為に関する明確なイメージを持つことができるようになる。また、プロデュースのプロセスを時系列で理解することができるようになる。最終的に自分でもプロデュースの企画ができるようなることを目指す。

授業方法:　授業はオンキャンパス:講義の方法で進められる。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	プロデュース学のガイダンス	特になし
2.	ビジョン(思いつき)を育む方法1	復習
3.	ビジョン(思いつき)を育む方法2	復習
4.	ビジョン(思いつき)を育む方法3	復習
5.	思いつきから構想へ1	復習
6.	思いつきから構想へ2	復習
7.	実現環境とスキーム作り1	復習
8.	実現環境とスキーム作り2	復習
9.	実現環境とスキーム作り1実現環境とスキーム作り3	復習
10.	プロジェクトの実行と管理1	復習
11.	プロジェクトの実行と管理2	復習
12.	プロジェクトの実行と管理3	復習
13.	社会化の達成と成果の評価1	復習
14.	社会化の達成と成果の評価2	復習
15.	まとめとふりかえり	全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　プロデューサーの行動パターンについて総合的に講じる授業である。将来何らかの形でプロデュースとう行為に関わりたい学生の受講を希望する。

フィードバックの方法:　授業中のディスカンションを通じ学生さんの疑問や発展的質問に答える

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席率と授業への参加度	40	出欠と授業での発言数
最終の試験	60	試験の点数(レポートの場合もある)

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内でのコンタクトを基本とする。

514400

プロデュース論B

影山　　貴彦

授業テーマ:　真のプロデューサーとは

授業の概要:　前半においては、主要なメディアプロデューサーを例に挙げながらプロデューサーとはいかなる存在なのかを解説し、彼らの代表的な作品を鑑賞しつつディスカッションを行う。さらにミニプレゼンテーションを重ねる予定。後半では、セルフプロデュースをひとつのキーワードとした各人のメディアプロデュースの成果を形として発表することでプロデュースの理解を深めてゆく。

到達目標:　「真のプロデュース」とは何なのかを講義を通して理解してもらいつつ、社会におけるプロデュースの意義を把握することを目標とする。

授業方法:　講義および演習の併用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	プロデュースとは何か、各人がイメージしておく
2.	メディアプロデュースの解説(1)	メディア系で活躍するプロデューサーを調査、考察
3.	メディアプロデュースの解説(2)	メディア系で活躍するプロデューサーを調査、考察
4.	メディアプロデュースの解説(3)	メディア系で活躍するプロデューサーを調査、考察
5.	メディアプロデュースの解説(4)	メディア系で活躍するプロデューサーを調査、考察
6.	個人およびグループでのプレゼンテーション(1)	プレゼンテーションに対する取り組み
7.	個人およびグループでのプレゼンテーション(2)	プレゼンテーションに対する取り組み
8.	個人およびグループでのプレゼンテーション(3)	プレゼンテーションに対する取り組み
9.	個人およびグループでのプレゼンテーション(4)	プレゼンテーションに対する取り組み
10.	個人およびグループでのプレゼンテーション(5)	プレゼンテーションに対する取り組み
11.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション解説	プレゼンテーションに対する取り組み
12.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション(1)	プレゼンテーションに対する取り組み
13.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション(2)	プレゼンテーションに対する取り組み
14.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション(3)	プレゼンテーションに対する取り組み
15.	セルフプロデュースに基づくプレゼンテーション(4) ＋小テスト	プレゼンテーションに対する取り組み

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内でまとめて解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講義内でのプレゼンテーション	60%	長短さまざまなプレゼンテーションに挑んでもらうが、プロセスを大いに評価基準とする
積極的態度	20%	毎回の発言を求める
小テスト	20%	セルフプロデュースの振り返りを主とする

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

514500

情報ビジネス起業論

杉浦　　司

授業テーマ:

ネットショップやビジネス代行、情報提供といった情報ビジネスの基本的な類型と、起業するために必要となるビジネス知識を学んだ上で、情報ビジネス起業の事例研究及び企画演習を行う。

授業の概要:

インターネットやスマートフォンの普及は私達の日常生活だけでなく、ビジネス起業の形をも大きく変えてしまいました。特に、情報ビジネスでは商品在庫や機械設備といったリアル資産を持つことなく、サービス提供することができることから、必要資金も少ないため起業がしやすくなっています。また、本業を持ちながらの副業スタイルも可能です。この授業では、情報ビジネスの起業のために必要となるマーケティングや財務、組織、調達、法務、情報技術といった基礎知識を修得した上で、戦略ストーリーによるビジネスモデル企画、エグゼクティブサマリーによる事業計画立案について演習及び発表を行います。

到達目標:

＜インプットすべき知識＞
・情報ビジネス起業の前提知識となるマーケティングの理解
・情報ビジネス起業の前提知識となるファイナンスの理解
・情報ビジネス起業の前提知識となる組織戦略の理解
・情報ビジネス起業の前提知識となる調達戦略の理解
・情報ビジネス起業の前提知識となる法務の理解
・情報ビジネス起業の前提知識となる情報技術の理解
＜アウトプットが期待される能力＞
・戦略ストーリーによるビジネスモデル企画
エグゼクティブサマリーによる事業計画立案

授業方法:

・情報ビジネス起業の理論講義
・情報ビジネス起業の事例研究
・情報ビジネス起業の企画発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	・講義内容については必ず復習しておくこと。
2.	情報ビジネス起業の動向と将来展望	・講義内容については必ず復習しておくこと。
3.	情報ビジネス起業のための基礎知識1（マーケティング）	・講義内容については必ず復習しておくこと。
4.	情報ビジネス起業のための基礎知識2（ファイナンス）	・講義内容については必ず復習しておくこと。
5.	情報ビジネス起業のための基礎知識3（組織戦略）	・講義内容については必ず復習しておくこと。
6.	情報ビジネス起業のための基礎知識4（調達戦略）	・講義内容については必ず復習しておくこと。
7.	情報ビジネス起業のための基礎知識5（法務）	・講義内容については必ず復習しておくこと。
8.	情報ビジネス起業のための基礎知識6（情報技術）	・講義内容については必ず復習しておくこと。
9.	戦略ストーリーによるビジネスモデル企画	・講義内容については必ず復習しておくこと。
10.	エグゼクティブサマリーによる事業計画立案	・講義内容については必ず復習しておくこと。
11.	情報ビジネス起業の事例研究1	・講義内容については必ず復習しておくこと。
12.	情報ビジネス起業の事例研究2	・講義内容については必ず復習しておくこと。
13.	起業プラン（戦略ストーリー、エグゼクティブサマリー）の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。
14.	起業プラン（戦略ストーリー、エグゼクティブサマリー）の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。
15.	起業プラン（戦略ストーリー、エグゼクティブサマリー）の発表	・PowerPointによる資料作成ができるようにしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業を受講した学生さんから未来のアントプレナー（起業家）が育つことを期待します。また、自らが起業しなくても、起業に必要となる知識を習得することによって、成長が期待できる優良企業を見極める目を持つことによって、就職先を選択する際にも役立つことでしょう。

フィードバックの方法:

講義や演習内容に対する質疑応答や実習講評はできる限り教室にて行いますが、電子メールでもマナビ―の掲示板でも対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業の姿勢・態度	30	講義内容を傾聴し、ディスカッションにも積極的に参加すること。
小レポート	20	講義内容に関連する小レポートをきちんと作成・提出すること。
企画発表の評価	50	起業企画の内容を的確に資料にまとめ、わかりやすく発表すること。

教科書:

レジュメを前もって配布し、時事性のある内容は都度配布します。（教科書は使用しません。）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

マナビ―の掲示板機能、Eメール（sugiura@sugi-sc.com）、授業の前後に教室内で対応

514600

マネージメント研究

浅野　　潤

授業テーマ:

営利企業のマネージメントの概論をベースに、非営利組織にも応用できる“集団を率いて、目的を達成する”しくみと考え方を学ぶ。

授業の概要:

この授業は、現代のグローバル社会・情報化社会ではとてつもなく複雑で、またスピーディーに変貌する”マネージメント”という概念を15回の授業で理解しようとする意欲的なクラスである。その方法として、学生自身の将来を設計し、それを満足できるように実現するためのセルフプロデュース、セルフマネージメントの考え方からはじめ、次にビジネスの目的・構造を解説した上で、ビジネスにおけるマネージメントも担当できる程度の知識にも触れる。

到達目標:

情報産業においても、所属集団の力を凝縮し、メンバー全員が目的を共有して、求める結果をつくり出すマネージメント力は、リーダーには欠かせません。
現代のように組織そのものも複雑になり、グローバル化、競争激化、顧客要求の多様化、変化のスピードアップ等、マネージメントを混乱させる原因にことかかないようになると自分なりに“マネージメントとは何か？”ということをしっかり把握しておかないと“管理の為の管理はやっているが結果が出ない”“目標が達成できない”ということになります。この“マネージメントとは、何か？”ということを明確にし、自分なりにマネージメントに挑戦できる－と自信を持つようにするのがこの授業の目的で

授業方法:

単純なレクチャーのみでは経営専攻ではない学生にとってあまりにも身近ではなく抽象的であるので、できるだけ自分自身のトピックスと組み合わせ、ワークショップを並行して進行する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスとオリエンテーション マネージメント研究で何を勉強すべきか？	自分の将来像について考える
2.	・ビジネスの概要現代のビジネスをとりまく背景 ・セルフプロデュースの目的設定	セルフプロデュースの目的を整理する
3.	・ビジネスの概要　超優良企業のビジネスシステム ・セルフプロデュースの発案のやり方	
4.	・経営戦略について　超優良企業の戦略策定の実際 ・セルフプロデュースの実現の方法	セルフプロデュースのレポート作成
5.	・経営戦略について　財務的観点と利益の重要性	自分でやりたいビジネスを考える
6.	・マーケティングとは　マーケティングに含まれる仕事の内容 ・ビジネスモデルについて	ビジネスモデルを設計してみる
7.	・マーケティングとは　ブランドビルディング	ブランドビルディングのレポート作成
8.	・マーケティングとは　購買を発生させるしくみ	
9.	・マーケティングとは　販売の考え方	マネージメントの本・記事にふれる
10.	・企業でマネジャーがやるべきことやってはいけないこと ・アカウンタビリティーとコンピテンシー	自分の強み・弱みについてチェックする
11.	・組織開発の概要（戦略、組織、文化、行動について） ・マネージメントの歴史	
12.	・組織開発の実例 ・組織の人事（能力・意欲・考え方）	
13.	・組織文化をつくりだす要素とは何か？	授業についての質問をつくる
14.	質疑応答	授業についての質問をつくる
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
レポート	25	授業の理解度を総合的に評価し、理解した内容を説得力をもって説明できるかをチェックする。
授業への参加	25	積極的に授業に参加したかどうかを評価する。

教科書:

参考書:

授業で説明する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

jun.asano@gmail.com

514700

ストラテジー研究A

久保　　真澄

授業テーマ:　自分の価値を高める戦略

授業の概要:　企業内起業家（インハウスプロデューサー）など、企業において新しい価値を創造する人材となるには、自分自身の価値を高める必要がある。自分が持っているものをどの様にして価値にするのか、自分自身をビジネスモデル化することにより、自らのキャリア戦略を明らかにする。

到達目標:　（A）自身の体験と考え方と照らし合わせてパーソナル・キャンバスによる自分自身のビジネスモデル化について理解する。
（B）チーム、企業のイノベーション創出を目的としたフレームワークとして、ビジネスモデル・キャンバスの概念を理解する。

授業方法:　講義形式で行うが、適時発表・討議を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：自己分析	
2.	イノベーションとは何か：イノベーションと戦略	
3.	ビジネスモデル・キャンバス	
4.	パーソナル・キャンバス	
5.	パーソナル・キャンバスの発表と討議（1）	課題1：パーソナル・キャンバスの作成
6.	パーソナル・キャンバスの深掘り（1）：自分はどんな人か	
7.	パーソナル・キャンバスの深掘り（2）：目的を明確にする	
8.	パーソナル・キャンバスの深掘り（3）：自分を新しく構築しなおす	
9.	パーソナル・キャンバスの深掘り（4）：パーソナル・キャンバスをもう一度描く	
10.	イノベーションの深掘り（1）：競争の戦略（5 F AnalysisとValue Chain）	
11.	イノベーションの深掘り（2）：イノベーションの整理	
12.	イノベーションの深掘り（3）：破壊的イノベーションの事例検証	
13.	パーソナル・キャンバスの発表と討議（2）	課題2：作成したパーソナル・キャンバスの見直し
14.	パーソナル・キャンバスの深掘り（5）：自分の価値を算出する	
15.	振り返りとラップアップ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	積極的に授業へ参加し、到達目標の2つの観点について考えられるようになったかを評価する。
課題1	20	作成したパーソナル・キャンバスの提出と発表内容について評価する。
課題2	20	見直したパーソナル・キャンバスの提出と発表について評価する。
レポート	20	パーソナル・キャンバスを用いて自らのキャリア戦略について説明できるかを基準とする。

教科書:

参考書:
ティム・クラーク、アレックス・オスターワルダー、イヴ・ピニュール（著）神田昌典（翻訳）『ビジネスモデルYOU』（翔泳社、2012）
グローバルタスクフォース『ポーター教授『競争の戦略』入門』(総合法令、2004)
玉田俊平太（監修）『クリステンセン教授に学ぶ「イノベーション」の授業』(翔泳社、2014)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメールと授業の前後に教室内で対応

514800

ストラテジー研究B

佐藤　　優

授業テーマ:　戦略とインテリジェンス

授業の概要:　地政学と戦略の歴史と基礎理論を学ぶ。そのうえで、具体的な歴史的出来事、地域情勢についてインテリジェンス分析を行う。その過程で、現代を読み解くための基礎教養を身につける。

到達目標:　戦略に関する基礎知識を記憶に定着させた上で、簡単なインテリジェンス分析メモを作成できるようにする。

授業方法:　講義、グループディスカッションとレポート作成による。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	戦略とは何か（1）歴史的アプローチ	ワークブック演習問題第1回分を予習しておくこと
2.	戦略とは何か（2）理論的アプローチ	ワークブック演習問題第2回分を予習しておくこと
3.	戦略と地政学	ワークブック演習問題第3回分を予習しておくこと
4.	戦略と宗教	ワークブック演習問題第4回分を予習しておくこと
5.	近現代における日本の戦略（1）1854年から1945年8月	ワークブック演習問題第5回分を予習しておくこと
6.	近現代における日本の戦略（2）1945年9月から現在	ワークブック演習問題第6回分を予習しておくこと
7.	戦略と近代的人間観	ワークブック演習問題第7回分を予習しておくこと
8.	戦略とポスト・モダン的人間観	ワークブック演習問題第8回分を予習しておくこと
9.	現代ヨーロッパと北米の課題	ワークブック演習問題第9回分を予習しておくこと
10.	現代中東の課題	ワークブック演習問題第10回分を予習しておくこと
11.	現代ユーラシアの課題	ワークブック演習問題第11回分を予習しておくこと
12.	現代東アジアの課題	ワークブック演習問題第12回分を予習しておくこと
13.	人類的思考と個人戦略	ワークブック演習問題第13回分を予習しておくこと
14.	変貌する世界における戦略	ワークブック演習問題第14回分を予習しておくこと
15.	戦略的思考とは何か	ワークブック演習問題第15回分を予習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　課題はかなり多いですが、消化すれば着実に力がつきます。予習を行っていなくても授業についていけるように配慮します。

フィードバックの方法:　授業での対話、レポートの添削

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	積極的な発言、質疑に対する応答の回数で評価する。
小テスト	60	毎回小テストを行い100点満点で採点し、返却する。
レポート	20	分析メモを作成し、評価する。

教科書:　なし（担当者作成のワークブック）

参考書:
エリック・ホブズボーム『20世紀の歴史――極端な時代』三省堂、1996年（上下2冊）
小林良樹『インテリジェンスの基礎理論［第二版］』立花書房、2014年
『文藝春秋オピニオン　2018の論点100』文藝春秋、2017年
佐藤優『現代の地政学』晶文社、2016年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　その他：新聞、雑誌、政府ホームページ等の公開情報により国際情勢を読み解くオシント（公開情報インテリジェンス）を基礎的能力を身につける。

教員との連絡方法:　Eメール、掲示板

515001

情報メディア演習

影山　　貴彦

授業テーマ:　エンターテインメント的見地に立つメディア研究

授業の概要:　毎回ふたりの学生に自らのテーマに沿ったプレゼンテーションを課す。
同時にふたりの学生に座長を課す。
そのほかの学生にも毎回必ず発言することを課す。

到達目標:　メディアに対する正しい認識のもと、大いに知識を深め、自らの研究テーマに反映させることを目標とする。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
2.	ガイダンス②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
3.	個人発表およびディスカッション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
4.	個人発表およびディスカッション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
5.	個人発表およびディスカッション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
6.	個人発表およびディスカッション④	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
7.	フィールドワーク	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
8.	個人発表およびディスカッション⑤	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
9.	個人発表およびディスカッション⑥	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
10.	個人発表およびディスカッション⑦	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
11.	個人発表およびディスカッション⑧	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
12.	個人発表およびディスカッション⑨	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
13.	個々のショートプレゼンテーション①	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
14.	個々のショートプレゼンテーション②	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める
15.	個々のショートプレゼンテーション③	各人の研究テーマに限定せず、メディアに関する造詣を深める

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
個人発表	40%	研究テーマに関するクオリティ
発言力・質問力	30%	発表者への的を射た意見、および質問する力
積極的姿勢	30%	ゼミに関わる全般的な態度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワーおよびゼミ終了後

515002

情報メディア演習

川田　　隆雄

授業テーマ:　プロデュース学の研究のための基礎的学習

授業の概要:　現代は日常的ルーティーンを行えば事足りる時代ではなく、日々新しい価値を生み出すことが必要な社会になりつつある。新しい価値の創造を行うのはプロデューサーと呼ばれる職種の人たちである。現在、プロデュースという概念は映画産業などのエンターテイメント分野に限らず、ソーシャル、サイエンス、ビジネスなどのジャンルにも拡張し、様々な分野でプロデューサーが人材として求められている。プロデューサーは一般に「0から物事を構想し、資金を集め、人的組織を形成し、プロジェクトを推進、そして、最終的な成果を評価する」といった手順を行う。このゼミではエンターテイメントプロデュース、ソーシャルプロデュース、サイエンスプロデュース、ビジネスプロデュース、教育プロデュースのいずれかのジャンルで実践応用を目指す人材とプロデュース能力の分析研究を行う2種類の人材を募集する。この授業ではプロデュース学が基礎とするセルフプロデュースについて参考文献を読みプロデュース能力の基本について理解のきっかけとする。

到達目標:　この授業では以下の点の学習に重点が置かれる
・セルフプロデュースについて深い理解に到達する
・文献を読んで、内容を把握し、それをレジメにまとめて発表する
・本音でディスカンションに臨む態度を養う

授業方法:　授業は演習形態で進められる。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	特になし
2.	プロデュースステクノロジーの概要解説	特になし
3.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
4.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
5.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
6.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
7.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
8.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
9.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
10.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
11.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
12.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
13.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
14.	テキストをもとにしたディスカッション	課題テキスト読んでレジメを準備する
15.	まとめとふりかえり	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:　大部のテキストをクラスで精読するため、毎週、テキストを読む予習の課題が出る。また、グループで内容を発表するためグループごとの資料制作の予習も発生する。

フィードバックの方法:　授業への参加度60%、ゼミ全体への貢献度20%、成果物20%で評価する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度と貢献度	80	出欠と授業での発表の様子
成果物	20	作成されたレジメを評価する

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業内での直接コンタクト

515003

情報メディア演習

三根　　浩

授業テーマ:　マルチメディアと教育

授業の概要:　マルチメディアは、人間の精神活動に即してインタラクティブに応答する、打てば響くような情報システムである。マルチメディアが普及し始めてから、かなりの年月が経過し、インターネット上やミュージアムなどにおいて多くのマルチメディア情報が実現されている。これらの情報の中には、誰にとっても興味深く楽しみながら利用できるものと、ただ画像と音声が並べられているだけで興味をあまり引かないものとが見受けられる。

到達目標:　マルチメディア情報における、このような違いの心理学的側面を実態に即して調査し分析することを目標としたい。

授業方法:　演習、調査・制作、プレゼンテーションを総合的に実践する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	マルチメディアの基本概念の解説	実践マルチメディア-コミュニケーション能力に差をつける
3.	マルチメディア・データの種類について	
4.	マルチメディア・データの操作法(1)	第三版 入門マルチメディア
5.	マルチメディア・データの操作法(2)	
6.	マルチメディア・データの操作法(3)	
7.	課題の構想とプレゼンテーション	文献調査
8.	制作1	
9.	制作2	
10.	制作3	
11.	制作過程のチェック	各自の課題にそった制作・研究過程の進度をチェックする
12.	プロトタイプの提出	各自の課題にそった制作・研究過程の骨子を作成する
13.	作品・レポートの手直し	
14.	作品・レポートの提出・プレゼンテーション1	プレゼン力を養う
15.	作品・レポートの提出・プレゼンテーション2	プレゼン力を養う

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室で個々に解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品・レポート	50	積極的に授業に参加し、到達目標マルチメディアの基礎的な理解ができるようになったか評価する
プレゼンテーション	30	
積極的参加度	20	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　e-mail

515004

情報メディア演習

森　　公一

授業テーマ:　公共CM作品の制作

授業の概要:　本授業では、公共CM作品の制作を行います。第一段階は、現代社会における多様な問題の中から、各自が特に関心のある問題を一つとりあげ、調査を行い、発表とディスカッションを行います。ここでは社会における問題の発見とその共有が課題です。第二段階は、発表・ディスカッションを経て共有したテーマの中からいくつかのテーマを絞り込み、グループ毎に作品の企画・制作を進めます。ここでは社会における問題解決の一つの方法として、視聴者のAIDMA（注意を喚起し、関心を抱かせ、欲求を生み、記憶させ、行動を促す）をふまえた公共CM作品を共同制作することが課題です。最後に、AC（公共広告機構）における学生公共広告賞への応募を通じて、社会へと投げかけることを目標とします。

到達目標:
魅力的な作品を制作し的確にメッセージを伝える
共同作業における責務を自覚する
コミュニケーションの大切さを知る
創造的な問題解決のための基礎力を養う

授業方法:　作品の企画・制作を中心とする演習を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	テーマ研究の発表1	テーマ研究の発表準備
2.	テーマ研究の発表2	テーマ研究の発表準備
3.	公共CMサンプル作品の研究発表1	公共CMサンプル作品の研究発表準備1
4.	公共CMサンプル作品の研究発表2	公共CMサンプル作品の研究発表準備2
5.	社会問題についての研究発表1	社会問題の研究発表準備1
6.	社会問題についての研究発表2、グループ分け	社会問題の研究発表準備2
7.	テーマのプレゼンテーション	テーマの調査と発表準備
8.	企画ラフ案のプレゼンテーション	企画ラフ案の検討
9.	演出案のプレゼンテーション	演出案の検討
10.	コンテ動画のプレゼンーションと検討	コンテ動画の作成
11.	テスト作品のプレゼンテーションと検討1	テスト作品の作成1
12.	テスト作品のプレゼンテーションと検討2	テスト作品の作成2
13.	作品プレビュー1	本番撮影と編集
14.	作品プレビュー2	修正1
15.	作品プレゼンテーション（合評）	修正2

受講者へのメッセージやアドバイス:　情報収集活動やチームでのコミュニケーション活動を繰り返し実施してください。

フィードバックの方法:　授業内でアドバイスを行ä。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	100	メッセージの表現力、訴求力

教科書:　特になし

参考書:　必要に応じて、自ら情報収集してください。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業内にて対応します。

515005

情報メディア演習

村木　　美紀

授業テーマ:　企業インタビューおよび会社案内の制作を通じたメディア研究

授業の概要:　大学と地域企業を結ぶ人材育成プロジェクトである「志プロジェクト」に参加し，アクティブラーニングを意識した取り組みを行います。そして，地域の企業を対象に，企業を知り，企画・インタビュー・撮影・パンフレット制作を行うことで，コミュニケーション力や卒業研究に必要な技能を身に着けることを目的とします。

到達目標:
1【知識・理解】企業研究や企業訪問で得た情報を基にして，地域企業の活動内容をわかりやすく紹介できる。
2【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに，責任感や協調性をもって他者と接することができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力，卒業研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:　講義，調査，ディスカッション等を用いたゼミ形式で，アクティブラーニングを意識した活動を行います。
企業訪問および成果発表のために学外での活動を2回予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	企業研究に関わる基礎知識の習得，会社案内の研究	グループワーク，発表のための事前・事後学習
3.	訪問先企業の決定，取材計画の策定	グループワーク，発表のための事前・事後学習
4.	アポイントメント，インタビューのロールプレイ練習	グループワーク，発表のための事前・事後学習
5.	進捗状況の報告，会社案内制作(1)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
6.	進捗状況の報告，会社案内制作(2)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
7.	進捗状況の報告，会社案内制作(3)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
8.	中間報告会(ラフデザイン発表)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
9.	進捗状況の報告，会社案内制作(1)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
10.	進捗状況の報告，会社案内制作(2)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
11.	進捗状況の報告，会社案内制作(3)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
12.	学内報告会(完成版発表)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
13.	最終調整，発表準備(1)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
14.	最終調整，発表準備(2)	グループワーク，発表のための事前・事後学習
15.	志プロジェクト報告会(訪問先企業の関係者を招いての最終成果発表)	グループワーク，発表のための事前・事後学習

受講者へのメッセージやアドバイス:　余田ゼミ，和氣ゼミとの3ゼミ合同で行います。
毎回MacBookAirを使用するので，初回から持参してください。

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	40	到達目標2の達成度を中心に評価します
発表	30	到達目標1，3の達成度を中心に評価します
成果物	30	到達目標1，3の達成度を中心に評価します

教科書:

参考書:
『採用ブランディング−採用サイト・入社案内のコンテンツ&デザイン実例集』 ビー・エヌ・エヌ新社
『構成・レイアウトで魅せる 企業案内グラフィックス』 パイインターナショナル
『伝達力のある 企業案内グラフィックス—幅広い業種の会社案内・入社案内・コンセプトブック・CSRレポート特集』 パイインターナショナル
シータス&ゼネラルプレス 『企業イメージを劇的にアップさせる新しい広報ツールの作り方、考え方。』 エムディエヌコーポレーション
筒井美希『なるほどデザイン』エムディエヌコーポレーション
『個性が光る! 小さな会社のブランディングブック−事業案内・商品案内・サービス案内・コンセプトブック・ブランドブック・採用案内のデザイン』　パイ インターナショナル
『企業イメージを劇的にアップさせる新しい広報ツールの作り方、考え方。』エムディエヌコーポレーション
オブスキュアインク『企業アピールのためのレイアウト』 ビー・エヌ・エヌ新社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力，思考力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力

教員との連絡方法:　E−mail:mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

515006

情報メディア演習

中村　　信博

授業テーマ:　メディアと人間の歴史－過去から未来へ－

授業の概要:　人間はメディアによって社会を形成してきたが、一方で、メディアによってくり返して作り変えられてきた存在でもある。その視点から、人間とメディアとの関わりを考える。具体的には、キリスト教や宗教、哲学、思想、文学、美術、音楽、倫理など、これまで人類が蓄積してきた知の遺産をメディア論や情報理論の立場から探求するための方法について検討する。広範な領域への関心が必要であるが、ぎゃくに、どんな関心からでもアプローチすることも可能である。

到達目標:
【知識・理解】「学術的調査と資料収集」「認識と伝達の基礎的理論」を中心にメディア文化史的な研究方法の背景と基礎について理解する。
【関心・意欲・態度】将来の卒業研究・制作にいたる過程（3～4年次の演習）において応用可能な研究の方法について理解を深め、自ら応用しようとする姿勢を養う。
【表現・技能・能力】「論理的文章表現」「効果的なプレゼンテーション」について共同作業によって身につける。それによって、共同知形成のための態度と工夫の力を養う。

授業方法:　演習形式。プロジェクト作業を中心とし、その成果の報告（プレゼンテーション）も求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入	実質的には2年半におよぶゼミでの学習計画についておよその計画を構想しておくこと。
2.	主要文献の紹介	指示された文献について、概要を把握しておくこと。
3.	論理的思考の基礎-1	プロジェクトによる文献の読解を開始できるように準備を進める。
4.	論理的思考の基礎－2	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。
5.	文献講読の方法－1	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。
6.	文献講読の方法－2	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。
7.	プレゼンテーションの技法－1	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。
8.	プレゼンテーションの技法－2	プロジェクトによる文献の読解を継続すること。
9.	文献からプレゼンテーションへ－1	プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。
10.	文献からプレゼンテーションへ－2 －中間報告（プレゼンテーション）－	プロジェクトによる文献の読解を継続し、中間報告（プレゼンテーション）の準備を完了しておくこと。
11.	文献からプレゼンテーションへ－3	プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。
12.	文献からプレゼンテーションへ－4	プロジェクトによる文献の読解を継続し、プレゼンテーションの準備を進めること。
13.	文献からプレゼンテーションへ－5 －最終報告（プレゼンテーション）－	プロジェクトによる文献の読解を継続し、最終報告（プレゼンテーション）の準備を完了しておくこと。
14.	文献からプレゼンテーションへ－6 －最終報告（プレゼンテーション）－	プロジェクトによる文献の読解を継続し、最終報告（プレゼンテーション）の準備を完了しておくこと。
15.	総括 －さらなる研究のために－	全回の授業をふり返り、3年次以降のゼミを継続するためにはどのような準備が必要か、整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　メディア文化史的方法による探求の基本を理解し、4年次における「卒業研究・制作」に繋げる研究・学習の準備をして欲しい。あわせて、小グループ（プロジェクト）における研究・学習の進化についても経験を積むことになるので、他者との共同についても高い意欲をもって参加して欲しい。

フィードバックの方法:　小グループ（プロジェクト）は随時組み替えながら、問題意識がクラス全体で共有されるように工夫して進めたい。グループ討議、クラス内討議は一部授業支援システム（マナビー）も利用して行われる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	50%	積極的にクラスに参加し、討議（マナビーを含む）議論にも前向きに参加しているかどうかを基準として評価する。
プロジェクト研究	50%	プロジェクト内およびクラスでの貢献を基準として評価する。

教科書:　多岐にわたる内容であるので、とくに教科書は指定しないが、参考文献はクラスにおいて指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力、洞察力

教員との連絡方法:　直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

515007

情報メディア演習

関口　　英里

授業テーマ:

授業の概要:

私たちの日常／非日常には、さまざまなメディア空間やメディアイベントが存在しています。テーマパークなど都市の商業施設や、キャラクターグッズやブランド商品などの消費をめぐる文化現象、ブライダルやバレンタインなどのイベント等は全て広義のメディアといえます。そしてそれらに接する際に人々が受ける感動や「ワクワク感」の裏側には、実はさまざまな「仕掛け」が隠されているのです。幅広い概念として身近なメディアをとらえ、そのメッセージや仕掛けを見抜く視点を養うことで、現代の消費文化をめぐる色々な疑問や仕組みが見えてきます。また、理論的な学びや消費者としての視点で考えるだけでなく、企業との連携活動により、文化を仕掛ける立場からプロジェクトを実施します（例：伝統・地場産業の振興をめざした「京都和婚」のプロデュース）。企業との協働作業を通じて独自企画を立案～具現化し、実社会にリリースすることを目指したグループ活動が主軸となります。実践的な演習を通して、ユニークな消費文化を創造する行動力や企画力をはじめ、社会の即戦力となる総合的な実力を養いましょう。

到達目標:

学期中は企業とのコラボレーションも積極的に取り入れてゼミのプロジェクト計画を設定し、フィールドワークや各種調査を実施します。その過程で、個人あるいはグループでの調査・分析、プレゼンテーションなどを行い、研究とその実践の両面から具体的な成果を出すことを目指します。

授業方法:

グループワークを基本とし、調査研究、企画立案、プレゼンテーション、ディスカッションを総合的に組み込んだゼミ形式で行います。受講生は指導に基づきつつ自律的、実践的な活動を行い、プロジェクトの目標実現を目指します。企画の実効性を高めるため、随時各所へのフィールドワークや会社・店舗訪問等を行い、各関連業界における専門家からの学びも取り入れてゆきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション（1）ゼミ開始にあたって	ゼミとプロジェクトについての事前理解
2.	イントロダクション（2）プロジェクトの進め方など	ゼミとプロジェクトについての具体的な理解
3.	プロジェクト・基礎（フィールドワーク）準備(1)	収集が必要な情報の検討
4.	プロジェクト・基礎（フィールドワーク）準備(2)	情報の獲得方法の具体的な検討
5.	フィールドワークの実践	必要な情報の現地における収集準備
6.	フィールドワーク後のまとめ(1)	収集した情報の整理と分析
7.	フィールドワーク後のまとめ(2)	収集した情報の統合と更なる分析
8.	プロジェクト・応用　グループ発表(1)	分析結果の発表準備①
9.	プロジェクト・応用　グループ発表(2)	分析結果の発表準備②
10.	プロジェクト・発展　調査研究実践と発表（1）	発展的情報収集の実施と討論、プレゼンテーション準備①
11.	プロジェクト・発展　調査後討論実践と発表（2）	発展的情報収集の実施と討論、プレゼンテーション準備②
12.	プロジェクト・完成　プレゼンテーション準備（1）	プロジェクトの完成に向けた具体的活動と関連作業①
13.	プロジェクト・完成　プレゼンテーション準備（2）	プロジェクトの完成に向けた具体的活動と関連作業②
14.	プロジェクト・完成　最終プレゼンテーション	プロジェクトの完成発表準備
15.	プロジェクトの総括と発展・継続に向けての作業	改善点の把握と今後に向けての発展的な指針作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

グループワークによるプロジェクト実践を行い、総合的な演習による学びを通して調査研究を実践に結び付けるプロセスを習得します。そのためには、チームや個人による授業内外での積極的、発展的、自主的な活動が求められます。こうした実践から各種の学習技法を体得することで、卒業制作へとつながる個人研究の土台作りをします。

フィードバックの方法:

授業時および授業外に必要に応じて適切な方法で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内での活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度（出席、発表、討論等）
授業外での活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、DWCLA10ののの力をバランスよく養うことが目標です。

教員との連絡方法:

授業時に連絡します。その他必要に応じて適宜指示します。

515008

情報メディア演習

余田　　義彦

授業テーマ:　企業インタビューおよび会社案内の制作を通じたメディア研究

授業の概要:　大学と地域企業を結ぶ人材育成プロジェクトである「志プロジェクト」に参加し，アクティブラーニングを意識した取り組みを行います。そして，地域の企業を対象に，企業を知り，企画・インタビュー・撮影・パンフレット制作を行うことで，コミュニケーション力や卒業研究に必要な技能を身に着けることを目的とします。

到達目標:
①【知識・理解】企業研究や企業訪問で得た情報を基にして，地域企業の活動内容をわかりやすく紹介できる。
②【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに，責任感や協調性をもって他者と接することができる。
③【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力，卒業研究に必要な技能を身につける。

授業方法:　講義，調査，ディスカッション等を用いたゼミ形式で，アクティブラーニングを意識した活動を行います。
企業訪問および成果発表のために学外での活動を2回予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	企業研究に関わる基礎知識の習得，会社案内の研究	グループワーク，発表のための事前・事後学習
3.	訪問先企業の決定，取材計画の策定	グループワーク，発表のための事前・事後学習
4.	アポイントメント，インタビューのロールプレイ練習	グループワーク，発表のための事前・事後学習
5.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習，企業訪問
6.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習，企業訪問
7.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習，企業訪問
8.	中間報告会（ラフデザイン発表）	グループワーク，発表のための事前・事後学習
9.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習
10.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習
11.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習
12.	学内報告会（完成版発表）	グループワーク，発表のための事前・事後学習
13.	最終調整，発表準備	グループワーク，発表のための事前・事後学習
14.	最終調整，発表準備	グループワーク，発表のための事前・事後学習
15.	志プロジェクト報告会（訪問先企業の関係者を招いての最終成果発表）	グループワーク，発表のための事前・事後学習

受講者へのメッセージやアドバイス:　和氣ゼミ，村木ゼミとの3ゼミ合同で行います。
毎回MacBookAirを使用するので，初回から持参してください。

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	40	到達目標②の達成度を中心に評価します。
発表	30	到達目標①③の達成度を中心に評価します。
成果物	30	到達目標①③の達成度を中心に評価します。

教科書:

参考書:
『採用ブランディング−採用サイト・入社案内のコンテンツ&デザイン実例集』 ビー・エヌ・エヌ新社
『構成・レイアウトで魅せる 企業案内グラフィックス』 パイインターナショナル
『伝達力のある 企業案内グラフィックス—幅広い業種の会社案内・入社案内・コンセプトブック・CSRレポート特集』 パイインターナショナル
シータス&ゼネラルプレス 『企業イメージを劇的にアップさせる新しい広報ツールの作り方、考え方。』 エムディエヌコーポレーション
筒井美希『なるほどデザイン』エムディエヌコーポレーション
『個性が光る! 小さな会社のブランディングブック−事業案内・商品案内・サービス案内・コンセプトブック・ブランドブック・採用案内のデザイン』　パイ インターナショナル
『企業イメージを劇的にアップさせる新しい広報ツールの作り方、考え方。』エムディエヌコーポレーション
『伝達力のある 企業案内グラフィックス—幅広い業種の会社案内・入社案内・コンセプトブック・CSRレポート特集』パイインターナショナル
オブスキュアインク『企業アピールのためのレイアウト』 ビー・エヌ・エヌ新社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力，思考力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp），マナビー，授業の前後に教室内で対応

515010

情報メディア演習

有賀　　妙子

授業テーマ:　メディアデザインのための技術習得と習作

授業の概要:

情報を理解しやすい、利用しやすい、あるいはインパクトのある「かたち」で提供するための発想や方法を考え、それをWebページ、映像、アニメーション、あるいはプログラムとして生み出すのが、本科目を出発点とするゼミ活動の目標です。

２年次は自分が使う表現手法について勉強を積む期間です。今後の個人テーマに沿った作品・プログラムの制作・開発に必要となる技術を自主的に学びながら、「時間の経過 :The Passage of Time」をテーマに学んだ技術を使い、習作の制作・開発を行います。制作した最終作品は、授業終了後Web公開や学内ギャラリー展示などの方法で公開します。

到達目標:

1 自分で目標として設定した基礎技術を習得する
2 自分で作品を構想し、そのねらいを説明する
3 調査、研究をもとに、制作過程を実行し、作品を完成する

授業方法:　スタートアップのための演習ならびに、個別の企画に基づく習作の制作を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Outstanding works プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備
2.	オリエンテーション	修得する基礎技術の目標設定
3.	技術習得目標の発表	必要な書籍、資料等調査
4.	「時間」の特徴を考える演習	課題演習制作 プレゼンテーションの準備
5.	「時間」の特徴を考える演習プレゼンテーション	課題作品の企画構想
6.	The Passage of Time 作品制作　準備	課題作品の企画構想と発表の準備
7.	The Passage of Time 作品制作 企画プレゼンテーション	課題作品の制作
8.	The Passage of Time 演習 進捗状況・内容チェック	課題作品の制作
9.	The Passage of Time 演習 進捗状況・内容チェック	課題作品の制作と発表の準備
10.	中間プレゼンテーション	課題作品の制作
11.	The Passage of Time 演習 進捗状況・内容チェック	課題作品の制作
12.	The Passage of Time 演習 進捗状況・内容チェック	課題作品の制作
13.	Webサイトによる公開準備	Webページの制作と発表の準備
14.	合評	発表の準備
15.	合評	展示の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

技術の習得や、表現方法の調査は、個人あるいは同じ技術や表現方法を使うメンバがグループで、勉強を行います。
「時間」をテーマとしたプロトタイプ作品の制作は、準備としての演習を行った後、それぞれの企画に従って制作を進めます。

フィードバックの方法:　習作の制作過程において、個別に助言を行います。また、発表会では成果に対してコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題作品	70	調査、勉強を踏まえて、構想した作品を制作できたかを評価
発表、討論	30	発表会での適切な説明、討論への積極的参加を評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　電子メール:　tariga@dwc.doshisha.ac.jp

515011

情報メディア演習

和氣　　早苗

授業テーマ:　企業インタビューおよび会社案内の制作を通じたメディア研究

授業の概要:　大学と地域企業を結ぶ人材育成プロジェクトである「志プロジェクト」に参加し，アクティブラーニングを意識した取り組みを行います。そして，地域の企業を対象に，企業を知り，企画・インタビュー・撮影・パンフレット制作を行うことで，コミュニケーション力や卒業研究に必要な技能を身に着けることを目的とします。

到達目標:
①【知識・理解】企業研究や企業訪問で得た情報を基にして，地域企業の活動内容をわかりやすく紹介できる。
②【関心・意欲・態度】社会人としての基本的なマナーを身につけるとともに，責任感や協調性をもって他者と接することができる。
③【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力，卒業研究に必要な技能を身につける。

授業方法:　講義，調査，ディスカッション等を用いたゼミ形式で，アクティブラーニングを意識した活動を行います。
企業訪問および成果発表のために学外での活動を2回予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	企業研究に関わる基礎知識の習得，会社案内の研究	グループワーク，発表のための事前・事後学習
3.	訪問先企業の決定，取材計画の策定	グループワーク，発表のための事前・事後学習
4.	アポイントメント，インタビューのロールプレイ練習	グループワーク，発表のための事前・事後学習
5.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習，企業訪問
6.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習，企業訪問
7.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習，企業訪問
8.	中間報告会（ラフデザイン発表）	グループワーク，発表のための事前・事後学習
9.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習
10.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習
11.	進捗状況の報告，会社案内制作	グループワーク，発表のための事前・事後学習
12.	学内報告会（完成版発表）	グループワーク，発表のための事前・事後学習
13.	最終調整，発表準備	グループワーク，発表のための事前・事後学習
14.	最終調整，発表準備	グループワーク，発表のための事前・事後学習
15.	志プロジェクト報告会（訪問先企業の関係者を招いての最終成果発表）	グループワーク，発表のための事前・事後学習

受講者へのメッセージやアドバイス:
余田ゼミ，村木ゼミとの3ゼミ合同で行います。
毎回MacBookAirを使用するので，初回から持参してください。

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	40	到達目標②の達成度を中心に評価します。
発表	30	到達目標①③の達成度を中心に評価します。
成果物	30	到達目標①③の達成度を中心に評価します。

教科書:

参考書:
『採用ブランディング−採用サイト・入社案内のコンテンツ&デザイン実例集』 ビー・エヌ・エヌ新社
『構成・レイアウトで魅せる 企業案内グラフィックス』 パイインターナショナル
『伝達力のある 企業案内グラフィックス—幅広い業種の会社案内・入社案内・コンセプトブック・CSRレポート特集』 パイインターナショナル
シータス&ゼネラルプレス 『企業イメージを劇的にアップさせる新しい広報ツールの作り方、考え方。』 エムディエヌコーポレーション
筒井美希『なるほどデザイン』エムディエヌコーポレーション
『個性が光る! 小さな会社のブランディングブック−事業案内・商品案内・サービス案内・コンセプトブック・ブランドブック・採用案内のデザイン』　パイ インターナショナル
『企業イメージを劇的にアップさせる新しい広報ツールの作り方、考え方。』エムディエヌコーポレーション
『伝達力のある 企業案内グラフィックス—幅広い業種の会社案内・入社案内・コンセプトブック・CSRレポート特集』パイインターナショナル
オブスキュアインク『企業アピールのためのレイアウト』 ビー・エヌ・エヌ新社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力，思考力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp），マナビー，授業の前後に教室内で対応

515012

情報メディア演習

髙木　　毬子

授業テーマ:　情報のデザイン:グラフィックデザインとコンテンツ(タイポグラフィ)

授業の概要:　デザインには、造形的に美しくすること以上に、視覚的な方法を利用しコミュニケーションをする役目があります。デザイン研究とは、一方では多様なデザインスタイル、デザイナーそしてデザイン領域に関して研究することを言います。また、デザインメソッドを利用し、研究内容をビジュアル化することによって、複雑なコンテンツを解りやすく表すこともできます。このゼミでは、タイポグラフィ、本のデザイン、インフォメーションデザインなどの方式でコンテンツに適したデザインを考案していきます。
2年ゼミでは、タイポグラフィに重点を置きます。
研究の基になるテーマは、ゼミのイントロダクションで紹介します。またテーマを合わせて、海外の大学とのコラボレーションも検討しています。

到達目標:
・テーマに関心を持ち、個々の考え方を展開する。
・複雑なコンテンツを理解し、自らのデザイン方法で分析する。
・グラフィックデザインの要素を使用しながらコンテンツを解りやすくビジュアル化する。
・テーマに、そして自らのスキル・長所に合わせてデザインスタイル、そしてデザインツールを選択する。
・デザインの表現力・技能の基礎力を養う

授業方法:　講義, 調査研究、グループディスカッションとプレゼンテーション等を総合的に組み込んだゼミ形式にて行います。受講生は指導に基づきつつ自律的にプロジェクトを進めていきます。また、前半のテーマ研究にあたっては、研究発表を行っていただきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション1:テーマ研究の発表・プレゼンテーション内容の分担 タイポグラフィの基礎1	ブレイン・ストーミング、テーマに関する研究とタイポグラフィの演習
2.	イントロダクション2:テーマの参考となる作品の発表 タイポグラフィの基礎2	テーマに関する研究とプレゼンテーションの準備とタイポグラフィの演習
3.	ゼミ生による研究発表:一人につき15分までのプレゼンテーション タイポグラフィの基礎3	テーマに関する研究とプレゼンテーションの準備とタイポグラフィの演習
4.	ゼミ生による研究発表:一人につき15分までのプレゼンテーション タイポグラフィの基礎4	テーマに関する研究とプレゼンテーションの準備とタイポグラフィの演習
5.	ゼミ生による研究発表:一人につき15分までのプレゼンテーション タイポグラフィの基礎4	テーマに関する研究とプレゼンテーションの準備とタイポグラフィの演習
6.	プロジェクトの準備:コンテンツを見せるデザイン様式・参考となる作品のディスカッション タイポグラフィの基礎5	個人的なテーマの選択、アイデアのアウトラインを考えるとタイポグラフィの演習
7.	プロジェクトの準備5:コンテンツを見せるデザイン様式・参考となる作品のディスカッション	個人的なテーマを、アイデアのアウトラインを決める
8.	プロジェクトの実行1:コンテンツのビジュアル化	ビジュアルデザインのスタイル発表(コンテンツの10%)
9.	プロジェクトの実行2:コンテンツのビジュアル化	作品制作
10.	プロジェクトの実行3:コンテンツのビジュアル化	作品制作
11.	プロジェクトの実行4:コンテンツのビジュアル化	作品制作
12.	プロジェクトの実行5:コンテンツのビジュアル化	作品制作
13.	プロジェクトの仕上げ1:プロダクション	作品制作、ドキュメンテーション、仕上げ
14.	プロジェクトの仕上げ2:プレゼンテーションの準備	作品制作、ドキュメンテーション、仕上げ
15.	最終プレゼンテーション(ミニ展示会)とプロジェクトのドキュメンテーションの提出	提出、展示の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　今学期のテーマは、アクションウィークで発表・解説します。質問がありましたら、声をかけてください。

フィードバックの方法:　毎週、ゼミ生のアイデア、コンセプト、プロジェクトの進行に対して教室でまとめてフィードバック・解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み	20	積極的に授業に参加し、他の受講生にもフィードバックしているのかを評価します。(発言力、質問力)
アイデア・コンセプトの独創性	20	ディスカッション・プレゼンテーションやプロジェクトのドキュメンテーションを評価します。
課題制作における完成度	60	課題制作における完成度(アイデア、表現力・デザイン、仕上げ)を評価します。

教科書:　なし

参考書:　授業内でテーマ・進度に合わせて紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業終了後に直接連絡してください。

515200

インターンシップⅡ

川田　　隆雄、森　　公一

授業テーマ:　実習(就労体験)を通じた、情報メディア関連業種への理解と学科での学びの深化

授業の概要:　実習先は「データベース開発」「広告制作」「映像制作」分野ごとに各1社を予定しています。各社での実習内容は下記の通りです。
・データベース開発企業:データベース管理ソフト「ファイルメーカー」を使った開発業務の内容と流れを体験することで、システム構築の面白さを実感するとともに、IT企業活動およびIT産業の全体像を把握します。
・広告制作企業:広告総合制作事業会社において、現場体験を通して具体的な職業観、特にクライアントの課題やニーズに応じて企画やアイデアを提供する視点を学びます。
・映像制作企業:映像制作(ポストプロダクション)を主とする企業において、映像制作現場での実務を体験します。
　加えて、事前研修にてビジネスマナーなど社会人として求められる常識を身につけ、事後研修では実習内容の報告を行います。
※実習先企業の都合により、実習予定等が変更・延期となる場合があります。

到達目標:　情報メディアに関連するビジネスを展開する企業において、実習(就労体験)を行います。それを通し、この業種への理解を深め、働くことの意義や責任, キャリアデザインを考える機会とします。

授業方法:
[1] 事前指導
・キャリアサポートセンター「インターンシップI」事前指導講義に2日間参加
・学科でのオリエンテーション
[2] 実習
・実習先でのインターンシップ実習(8月下旬～9月上旬にかけての連続した10日間程度)
　実習後は報告書を作成
[3] 事後指導
・研修内容の報告(10月上旬実施予定)
　実習内容を発表し、意見交換を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前指導:キャリアサポートセンターによるオリエンテーション	インターンシップ先の業界・業務や、基礎ビジネスマナーに関する書籍等で、事前学習を行ってください。
2.	事前指導:キャリアサポートセンターによるオリエンテーション	事前指導講義内容の復習
3.	事前指導:学科によるオリエンテーション	事前指導講義内容の復習
4.	事前指導:実習先での事前打ち合わせ	事前指導講義内容の復習
5.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
6.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
7.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
8.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
9.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
10.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
11.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
12.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
13.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
14.	インターンシップ実習	インターンシップ先から出された課題について、学習・調査・解決に努めてください。
15.	事後指導:学科でのインターンシップ報告会	インターンシップ実習内容に関する報告書を作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実習中のヒアリング、および事後指導において個別実施します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習先の評価	80	実習先からの報告に基づき、評価します
発表およびレポート	20	事後指導における報告内容に基づき、評価します

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　事前指導において指示します。

515301

English Communication in Information and Media A

P.Norton

授業テーマ: Reading, writing and listening to internetrelated media, oral communication

授業の概要: A discussion and blog writing media course using computers and popular internet content

到達目標:
Knowledge: Students will learn basic blogging skills. Current news topics and vocabulary to discuss media content will be learned.
Motivation: The content of this course will come from a variety of real media sources approproate to the students' level and interests including online news, movie and product reviews, podcasts, YouTube and other sources.
Ability: The objective of this course is to improve students ability and confidence understanding and responding to internet-based media content and themes. Students will learn to make and maintain a blog in English and to upload various kinds of medie including audio and video.

授業方法: This course will be an active learning course. Students will be responsible for regular class discussions and short presentations or videos. There is also computer work which will be done in a lab style format.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Overview and intro to class blog, avatar creation	Prepare self iIntroduction and interview questions
2.	Student blogs, design, and self introduction post	Read news article from listand prepare to discuss
3.	Movie Reviews 1 – Discussion, vocabulary, movie quiz posts	Weekly reflection news post. Finish movie quiz.
4.	Movie Reviews 2 – Movie review structure 1	Weekly reflection news post. Write movie review
5.	Movie Review 3 – Post review and embed YouTube video.	Weekly reflection news post. Finish movie review post.
6.	Product Reviews 1 – Discussion, vocabulary, website searches	Weekly reflection news post. Finish Amazon product post.
7.	Product Review 2 – Product review structure	Weekly reflection news post. Write your product review.
8.	Product Review 3 – Video editing and upload	Weekly reflection news post. Finish product review post.
9.	Product review 4 – Final edit and project completion	Weekly reflection news post. Complete work as needed.
10.	Review and workshop	Weekly reflection news post.
11.	Commercial 1 – Discussion, vocabulary, research	Weekly reflection news post. Commercial analysis.
12.	Commercial 2 – Topic development, story board	Weekly reflection news post. Write commercial script.
13.	Commercial 3 – Story board and recording	Weekly reflection news post. Complete storyboard.
14.	Commercial 4 Final edit and upload	Weekly reflection news post. Complete commercial.
15.	Consolidation and Review	Review course material.

受講者へのメッセージやアドバイス: Try to finish homework before class so you are ready to participate. If you have questions in class please ask. We work with computers every class, so sometimes you will need to be patient.

フィードバックの方法: You will receive feedback on weekly assignments, posts and projects verbally in class, and also through comments on your blog.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Paricipation and Attitude	30	
Weekly Assignments	30	Your weekly assignments will be graded on accuracy, content, and writing level.
Projects	40	Your projects will be graded on the same criteria as assignments, and also on creativity and style.
		There will be no final examination in this class. There will be regular weekly assignments 100-200 word blog posts. Additional work outside of class may be required to create media content.

教科書: There is no textbook for this class. Internet media will be the primary source of material. Occasional handouts and additional material will be supplied by the teacher as needed.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法: powerunimedia@gmail.com）

515302

English Communication in Information and Media A

G.Couzens

授業テーマ:

Developing communication skills.

授業の概要:

This is a highly communicative class. A text is used as a base, but there is a lot of diviation depending on the groups ability to communicate.

到達目標:

＊The objective of this course is to develop your communicative ability and knowledge in English.
＊It is hoped you will be motivated to participate in pair and group discussions to increase your communicative ability.

授業方法:

1. This is a communication class mainly.
2. Pair and group work are used to ellicit communication.
3. This class is 99% English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course and you introductions to each other. An explanation of what we will be doing with the textbook.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
2.	Unit 1. Have you two met? Relationships.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
3.	Continuation of Unit 1. Have you two met? Relationships. Small Quiz on Unit 1.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
4.	Unit 2. You must be excited. Emotions.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
5.	Continuation of Unit 2. You must be excited. Emotions. Small Quiz on Unit 2.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
6.	Unit 3. Where should I go? You must be excited.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
7.	Continuation of Unit 3. Where should I go? You must be excited. Small Quiz on Unit 3.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
8.	Unit 4. I love that. Opinion Adjectives.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
9.	Continuation of Unit 4. I love that. Opinion Adjectives.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
10.	Small Quiz on Unit 4.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
11.	Very important unit. Unit 5. What's your excuse? Problems and reasons.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
12.	Continuation of Unit 5. What's your excuse? Problems and reasons.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
13.	Quiz on Unit 5.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
14.	Unit 6. What's it like there? Cultural symbols and traditions.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.

15.	Continuation of Unit 6. What's it like there? Cultural symbols and traditions. Small Quiz on Unit 6.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Though not part of the course, extensive reading of easy books of your choice is one of the best educational tools possible for learning vocabulary in context.

フィードバックの方法:

This is a communication class basically, so feedback is quite quick. Quizes are marked in class as a group activity.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance, class participation, and attitude.	33	Understanding course objectives, actively participate in class
Small unit quizzes.	33	
Hand in homework.	34	

教科書:

English Firsthand 2. New English Firsthand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビ—の掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

515401

English Communication in Information and Media B

P.Norton

授業テーマ: Reading, writing and listening to internetrelated media, oral communication

授業の概要: A discussion and blog writing media course using computers and popular internet content

到達目標:
Knowledge: Students will learn basic blogging skills. Current news topics and vocabulary to discuss media content will be learned.
Motivation: The content of this course will come from a variety of real media sources approproate to the students' level and interests including online news, movie and product reviews, podcasts, YouTube and other sources.
Ability: The objective of this course is to improve students ability and confidence understanding and responding to internet-based media content and themes. Students will learn to make and maintain a blog in English and to upload various kinds of medie including audio and video.

授業方法: This course will be an active learning course. Students will be responsible for regular class discussions and short presentations or videos. There is also computer work which will be done in a lab style format.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Overview and intro to class blog, avatar creation	Prepare self iIntroduction and interview questions
2.	Student blogs, design, and self introduction post	Read news article from listand prepare to discuss
3.	Music Reviews 1 – Discussion, vocabulary, music profile posts	Weekly reflection news post. Finish movie quiz.
4.	Music Reviews 2 – Music review structure 1	Weekly reflection news post. Write movie review
5.	Music Reviews 3 – Post review and embed YouTube video.	Weekly reflection news post. Finish movie review post.
6.	News Report 1 – Discussion, vocabulary, website searches	Weekly reflection news post. Finish news analysis post.
7.	News Report 2 – Product review structure	Weekly reflection news post. Write your news report.
8.	News Report 3 – Video editing and upload	Weekly reflection news post. Finish news report post.
9.	News Report 4 – Final edit and project completion	Weekly reflection news post. Complete work as needed.
10.	Review and workshop	Weekly reflection news post.
11.	Public Service Announcement (PSA) 1 – Discussion, vocabulary, research	Weekly reflection news post. PSA analysis.
12.	Public Service Announcement 2 – Topic development, story board	Weekly reflection news post. Write PSA script.
13.	Public Service Announcement 3 – Story board and recording	Weekly reflection news post. Complete storyboard.
14.	Public Service Announcement 4 Final edit and upload	Weekly reflection news post. Complete PSA.
15.	Consolidation and Review	Review course material.

受講者へのメッセージやアドバイス: Try to finish homework before class so you are ready to participate. If you have questions in class please ask. We work with computers every class, so sometimes you will need to be patient.

フィードバックの方法: You will receive feedback on weekly assignments, posts and projects verbally in class, and also through comments on your blog.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Paricipation and Attitude	30	
Weekly Assignments	30	Your weekly assignments will be graded on accuracy, content, and writing level.
Projects	40	Your projects will be graded on the same criteria as assignments, and also on creativity and style.
		There will be no final examination in this class. There will be regular weekly assignments 100-200 word blog posts. Additional work outside of class may be required to create media content.

教科書: There is no textbook for this class. Internet media will be the primary source of material. Occasional handouts and additional material will be supplied by the teacher as needed.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法: powerunimedia@gmail.com

515402

English Communication in Information and Media B

G.Couzens

授業テーマ:

To continue developing communication skills.

授業の概要:

This class will continue to be a highly communicative class. A text is used as a base, but there is a lot of diviation depending on the groups ability to communicate.

到達目標:

1. This class will continue to be mainly a communication class.
2. Pair and group work are used to ellicit communication.
3. This class is 99% English.

授業方法:

1. There will be no final examination, however, there will be small unit quizzes and some homework corresponding to the unit's theme required.
2. Class attendance.
3. In class participation.
4. Small unit quizzes, and hand in homework.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the course for new students whom have joined the class. An explanation of what we will be doing.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
2.	Unit 7. Do you remember when…..? Personal experiences and past events.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
3.	Continuation of Unit 7. Do you remember when…..? Personal experiences and past events.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
4.	Small Quiz on Unit 7.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
5.	Unit 8. Let's have a party! Leisure time activities.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
6.	Continuation of Unit 8. Let's have a party! Leisure time activities. Small Quiz on Unit 8.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
7.	Unit 9. What should I do? Personl problems.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
8.	Continuation of Unit 9. What should I do? Personl problems.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
9.	Small Quiz on Unit 9.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
10.	Unit 10. Tell me a story. Traditional and modern story elements.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
11.	Continuation of Unit 10. Tell me a story. Traditional and modern story elements. Small Quiz on Unit 10.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
12.	Unit 11. In my opinion. Agreement and dissagreement language.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
13.	Continuation of Unit 11. In my opinion. Agreement and dissagreement language.. Quiz on Unit 11.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.

14.	Unit 12. It' my dream! Dreams and goals.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.
15.	Continuation of Unit 12. It' my dream! Dreams and goals. Small quiz on 12.	1. Review class notes. 2. Preview and prepair for the next lesson. 3. Small writing assignments are at the end of each unit. Hand them in on time. 4. Review unit and vocabualry for small unit quizzes.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Though not part of the course, extensive reading of easy books of your choice is one of the best educational tools possible for learning vocabulary in context.

フィードバックの方法:

This class will continue to be a communication class basically, so feedback is quite quick. Quizes are marked in class as a group activity.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance, class participation, and attitude.	33	Understanding course objectives, actively participate in class
Small unit quizzes.	33	
Hand in homework.	34	

教科書:

English Firsthand 2. New English Firsthand Series. Helgesen, Brown, Wiltshier. Pearson Longman.

参考書:

なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビ—の掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

515800

女性の人生設計とキャリア

荒木　　菜穂

授業テーマ:

グローバルな経済構造の変化の中で、一方では少子高齢社会日本において「女性の活躍推進」と言われるように、女性の能力の活用と社会参加の促進は喫緊の課題とされている。しかし他方では女性の生活をとりまく社会状況、固定的なジェンダー役割を含む社会意識は、それらに連動していない現状もある。こういった現状にある若い世代の女性の人生設計の一助となるよう、社会のしくみを共に考える講義を進めていきたい。

授業の概要:

本講義では女性のキャリア形成について、関連するデータを参照しつつ、社会的背景、社会意識と政策展開、それらにおけるグローバルな視点も取り入れ解説する。また、「ブラック企業」「女子力」「おひとりさま」などの今日的キーワードも交えながら、女性のライフコースの各ステージに関し各自の視点で考える作業も行っていく。

到達目標:

今日の女子学生のキャリア形成においては、日本ならびに国際的な社会的趨勢を知るとともに、自らの人生設計を各自の希望にそって実現していくにあたって知っておくべき情報、とくに高等教育で学んだ知識を、知識に留めず社会に活かすことが重要となる。本講義では、各自が自律したキャリアを創造していくための基本的知見の習得を目標としている。「少し昔」とは異なる女性に求められるジェンダー規範の現状を皆で考える機会、社会的情勢や政策の展開、また女性が社会に出る際に知っておきたい制度的基本情報の提供もめざす。

授業方法:

配布資料や映像資料、パワーポイント等による資料提示による講義を基本とする。3回程度のアンケートやミニレポートを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:現代社会における「女性の活躍推進」、男女共同参画社会におけるキャリア設計	授業時に作成したライフコーススケジュールの確認。関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
2.	働く女性の変遷:イメージから見る女性のライフコースとキャリア	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
3.	女性のライフコース1:現代女性にとっての恋愛・結婚・パートナーシップ	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
4.	女性のライフコース2:妊娠・出産と女性	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
5.	女性のライフコース3:親子の関係性(親との関係・子育て・介護)	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
6.	国際社会の動向:各国のジェンダー政策	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
7.	労働とは何か:労働をめぐる諸問題・性別役割分業など	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
8.	女性の労働とは:女性労働の特徴と社会のしくみ、女性の保護と平等など	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
9.	男女の問題としてのワークライフバランス:企業の取り組み、制度の現状	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
10.	日本の働く女性の歴史と男女雇用機会均等法(1):働く女性のしんどさ今むかし	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
11.	日本の働く女性の歴史と男女雇用機会均等法(2):均等法を知り、考える	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
12.	女、「おひとりさま」で生きる可能性:単身で生きることを想定した人生・キャリア設計とは	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
13.	女性の「困りごと」いろいろ:女性のキャリアが続きにくい理由、女性の貧困、女同士の関係性、「女子力」を求められる?etc.	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
14.	男女平等に実現可能なキャリアのあり方とは:機会の平等と結果の平等、ポジティブ・アクションの是非	関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。
15.	様々なキャリアのあり方の可能性、全体のまとめ	ライフコースの再確認。関連ニュース、話題を探し、自分の視点で考察する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

ワーク内容の共有。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席態度・ミニレポート	30	自分の視点でのワーク
最終筆記試験	70	自分の視点と授業内容の把握。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

araki_2018_renraku@yahoo.co.jp

516001

グラフィックデザイン演習

髙木　　毬子

授業テーマ:　作品を制作しながら、グラフィックデザインの基礎力を身につける。

授業の概要:　グラフィックデザインとは、文字、画像、配色、レイアウトを利用して平面設計しながら情報やメッセージを伝達する手段です。またグラフィックデザインは広範囲の平面上のデザイン分野の総称でもあります。この授業では、タイポグラフィに重点をおきます。
前半の授業では、グラフィックデザインの基礎を毎週の課題に合わせて実践します。後半では、課題を通してデザインの骨組になるアイデア、メッセージとコンセプトといった内容上の基礎を、視覚デザインと結びつけます。
2018年春学期のデザイン課題は、ファイストスディスクの45のシンボルをリデザインする事です。デザインされたシンボルは冊子、ポスターあるいはカードにてまとめて発表します。

到達目標:
・テーマに関心を持ち、個々の考え方に基づきコンセプトを展開する。
・グラフィックデザインの要素を使用しながらコンテンツを解りやすくビジュアル化する。
・テーマに、そして自らのスキル・長所に合わせてデザインスタイル、そしてデザインツールを選択する。

授業方法:　前半では、各回の授業テーマに沿った概説と課題制作を授業内に行います。後半では、主に課題作品のフィードバックをおこないます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:グラフィックデザインについて	ローマ字のAからZまでの26文字を写真に捉える(白黒)
2.	タイポグラフィ 1:書体の見分け方(欧文)	ローマ字・セリフ書体の特徴的なディテールを見つける
3.	タイポグラフィ 2:書体の見分け方(欧文)	ローマ字・サンセリフ書体の特徴的なディテールを見つける
4.	タイポグラフィ 3:書体の見分け方(和文)／　書体のスタイル別の分類	和文書体の特徴的なディテールを見つける
5.	イラストレーション :イラストのスタイルと簡素化とシステム、ピクトグラム	フツーラ(Futura)書体からピクトグラム・イラストへ
6.	課題製作 1:今学期の課題のテーマの紹介	コンセプトとスタイルを考えながらのアイデアスケッチ
7.	課題製作 2:アイデアに関するディスカッション	五つのシンボルを一つのデザインコンセプトに基づいて製作します
8.	課題製作 3:平面構成・簡単なグリッドの作り方、使い方	図・シンボルの為のグリットを製作、計15のシンボルのデザイン
9.	課題製作 4:デザインスタイルの決め方・発達	計25のシンボルのデザイン
10.	課題製作 5:デザインに関するディスカッション・フィードバック	計35のシンボルのデザイン
11.	課題製作 6:45のシンボルのレイアウトを通してのまとめ方(冊子、ポスター、カードなど)	冊子、ポスター、カードなどのレイアウトの提案
12.	課題製作 7:デザインに関するディスカッション・フィードバック	計45のシンボルのデザイン
13.	課題製作 8:デザインに関するディスカッション・フィードバック	計45のシンボルのリファイン、レイアウトの進行
14.	課題製作 9:デザインに関するディスカッション・フィードバック	作品の仕上げ
15.	プレゼンテーションと講評:作品とプロジェクトのプレゼンテーションとドキュメンテーションの提出	

受講者へのメッセージやアドバイス:　興味を持って様々なデザインを見たり、集めたりしてください。質問がありましたら、声をかけてください。

フィードバックの方法:　個々の提出物(宿題と課題の作品)に対して教室でまとめてフィードバック・解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加	20	宿題のプレゼンテーション、積極的に授業に参加し、他の受講生にもフィードバックしているのかを評価します。
デザインに関する理解度	20	フィードバックを基にして自らのプロジェクトを進行、そしてリファインしているかを評価します。
課題制作における完成度	60	課題制作における完成度(アイデア、表現力・デザイン、仕上げ)を評価します。

教科書:　なし

参考書:
http://45symbols.com/publication/ (accessed: 2017. 09. 23)
http://www.45symbols.com/blog/ (accessed: 2017. 09. 23)
https://ja.wikipedia.org/wiki/ファイストスの円盤 (accessed: 2017. 09. 23)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の後に教室内で対応

516002、04

グラフィックデザイン演習

渡部　　隆志

授業テーマ:　デジタルツールを利用したビジュアルコミュニケーションデザイン

授業の概要:　情報の収集から編集、そして視覚表現まで、グラフィックデザインのプロセスについて、コンピュータを利用したデジタル環境での演習をおこなう。

到達目標:
1 ビジュアルコミュニケーションデザインについての、さまざまな理論や技法を理解すること
2 理論や技法を踏まえた上で、自己の感性や思考を視覚的に定着させる作品制作に取り組むこと
3 グラフィックデザインにおけるデジタル環境の、表現ツールおよび表現メディアとしての特性について考察すること

授業方法:　各授業テーマに沿った概説講義と、コンピュータを利用した演習および課題作品の制作をおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のアウトライン，グラフィックデザインにおける画面空間	シラバスを読んでおくこと
2.	課題[ビジネスカードのデザイン] 1. 文字と視覚表現を考える	課題[ビジネスカードのデザイン]に向けてビジネスカードの収集をおこなう
3.	課題[ビジネスカードのデザイン] 2. CIとVI	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと
4.	課題[ページレイアウトでのテキスト操作] 1. ページの基本構造	課題[ビジネスカードのデザイン]の制作に取り組む
5.	課題[ページレイアウトでのテキスト操作] 2. テキストに関わるツールの扱い	課題[ページレイアウトでのテキスト操作]の制作に取り組む
6.	課題[雑誌レイアウトの解析] 1. 雑誌の体裁	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと
7.	課題[雑誌レイアウトの解析] 2. デザインエレメントの計測	課題[雑誌レイアウトの解析]の制作に取り組む
8.	課題[雑誌レイアウトの解析] 3. レイアウトフォーマットを探る	課題[雑誌レイアウトの解析]の制作に取り組む
9.	課題[雑誌 記事広告のデザイン] 1. DTPのプロセスとワークフロー	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと
10.	課題[雑誌 記事広告のデザイン] 2. 編集とは何か，企画構想のためのコンセプトシート	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと
11.	課題[雑誌 記事広告のデザイン] 3. レイアウトフォーマットの設計，ビジュアルイメージを整える	課題[雑誌のデザイン]コンセプトシートの制作に取り組む
12.	課題[雑誌 記事広告のデザイン] 4. テキスト素材および図形素材の取り扱い	課題[雑誌のデザイン]素材収集に取り組む
13.	課題[雑誌 記事広告のデザイン] 5. 画像素材の取り扱い	課題[雑誌のデザイン]組版作業に取り組む
14.	課題[雑誌 記事広告のデザイン] 6. コンプリヘンシブレイアウトの出力	課題[雑誌のデザイン]組版作業に取り組む
15.	課題[雑誌 記事広告のデザイン] 7. レビューと講評，授業の総括	授業前に更新される講義資料ウェブサイトを閲覧しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義資料ウェブサイトのURL　http://www.headheart.com/lecture/gd2/gd20101.html
演習や課題制作において、積極的かつ能動的な受講と制作への取り組みが望まれる。

フィードバックの方法:
課題作品1～3については、授業内で個別に解説する。
課題作品4については、授業内でレビューの上まとめて講評をおこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業毎のショートレポート	20	毎回の授業終了前にショートレポートのテーマを発表する テーマに沿った文章表現ができているかを基準とする
課題作品 1　課題[ビジネスカードのデザイン]プリントアウトおよびデータ 2　課題[雑誌レイアウトの解析]作業結果のチェック 3　課題[雑誌 記事広告のデザイン]コンセプトシートのチェック 4　課題[雑誌 記事広告のデザイン]コンプリヘンシブレイアウトおよびデータ	80	到達目標1および2の観点から課題作品を評価する

教科書:　特に指定しない

参考書:
「表現メディアの編集と表現」有賀妙子，渡部隆志，由良泰人 共著　実教出版株式会社
「ブランディングデザインの裏側」Landor Associates 監修　ピエ・ブックス
「レイアウトデザインのルール」オブスキュアインク 著　ワークスコーポレーション
「Grid Systems in Graphic Design」Josef Muller-Brockmann 著　Arthur Niggli
「広告コピー概論」植条則夫 著　宣伝会議

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール（takashi@osakac.ac.jp）

516003

グラフィックデザイン演習

岡澤　　理奈

授業テーマ:
印刷物を作りながら、グラフィックデザインの基礎力を身につける

授業の概要:
グラフィックデザインの基礎力向上のために、3つの課題を設け、実際に印刷物の製作を行いながら分析や振り返りを行なっていきます。

到達目標:
1・授業内で提示される3つの課題に創造的にとりくみ、その成果を授業内でプレゼンテーションする。
2・製作の際に、コンピュータやDTP用のアプリケーションを使用し、技術力の向上を目指す。
3・グラフィックデザイン・情報デザインとはなにか、みずからの考えを深め言語化できるようになる。
4・制作物や製作中のメモなどをまとめたファイルをつくることで、みずからの制作物の傾向が分析できるようになる。

授業方法:
5:講義/演習の混合
基本的なDTPツールの使い方の習得を目的とした実践と、解説・ディスカッションによる情報デザインについての講義で進められます。2~7回目、8~11回目、12~14回目で、3つの制作課題に取り組み、最後授業内でプレゼンテーションします。15回目に、そのまとめとなるファイルの合評を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　授業の進め方について	
2.	ワーク1:分析する／街中に溢れている印刷物を収集・分類する	街中にある印刷物を10枚以上あつめて授業に持参できるるよう準備しておく。
3.	ワーク2:真似してみる／製作1　街中にある印刷物をひとつ、画像・文字・色・紙などなるべくそっくりに作る	印刷物を1つ選び、どう真似するか方法を考えておく。アプリケーションの基礎的な使い方などの技術的な面で不安な部分は復習しておく。
4.	ワーク2:真似してみる／製作2　配置(レイアウト)について学ぶ	定規で印刷物を徹底的に測っておく。授業当日も定規を持参する。
5.	ワーク2:真似してみる／製作3　文字について学ぶ	Fontbookを使って、真似する印刷物に使われているフォントと同じものはないか、検証しておく。
6.	ワーク2:真似してみる／製作4　写真やイラストについて、色について、校正について学ぶ	
7.	ワーク2:真似してみる／製作物合評　完成品を元に印刷物を構成する要素を分析する	合評時に間に合うように制作を進める。
8.	ワーク3:マニュアルを作る／製作1　文字のないレシピをつくる(企画、スケッチ)	課題をどのように制作するかアイデアをたくさんあげておく。
9.	ワーク3:マニュアルを作る／製作2　状況の図案化のバリエーションについて学ぶ	
10.	ワーク3:マニュアルを作る／製作3　意味づけを持った配置(レイアウト)について学ぶ	
11.	ワーク3:マニュアルを作る／製作物合評　相手によって変動する要素を分析する	合評時に間に合うように制作を進める。
12.	ワーク4:自由課題:広告をつくる／製作1　場所や相手、内容を決めて作る広告	実際に使われている広告をいろいろあつめて分析しておく。
13.	ワーク4:自由課題:広告をつくる／製作2　質の高い印刷物にするための気配りや工夫について学ぶ	どのように広告するか、企画を深めて書類化しておく。
14.	ワーク4:自由課題:広告をつくる／製作物合評　意図と企画が実現できているか分析する	合評時に間に合うように制作を進める。
15.	まとめと振り返り　ファイルプレゼンテーション／制作物を通じて情報を視覚的にデザインするとは何かを考える	各自が用意したクリアファイルブックに、制作物や配布資料などを入れていき、最後には自分用のグラフィックデザイン・情報デザインの参考書になるように準備しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
コミュニケーションの場で情報メディアとデザインが結びつく時、グラフィックの要素は強い印象とともに伝達されます。それら要素の力や使い方を知り、活用していくことによって、実社会の中でよりよいコミュニケーションが図れるような力を養います。
制作課題は大変と感じることがあるかもしれませんが、課題を通じてグラフィックデザインの実力とそれにまつわる考えを深めることができるようになっていますので是非チャレンジしてください。自らの制作スケジュールと照らし合わせて、授業時間内に完成できないと判断した制作物(印刷物)は、授業時間外に制作場所と時間を確保して完成できるよう努めてください。

フィードバックの方法:
・レポート　コメントをつけて教室で返却する
・制作物　授業内で解説・コメント・アドバイスする
・まとめファイル　提出後、添削して後日情報メディア事務室にて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し、制作を行う態度や意欲を評価する。
制作課題提出、発表	50	到達目標1と2を踏まえ、課題の制作と提出、授業内プレゼンテーション、そしてその完成度を評価する。
レポート	10	到達目標3と4を踏まえ、複数のレポートを通じて、思考の深化や気づきの言語化が積極的にあったか等を基準として評価する。

教科書:
特にはありません。たくさん入るクリアファイルを1冊用意しておいてください。

参考書:
授業内で適時紹介していきます。
カラー図解 DTP&印刷スーパーしくみ事典 (Works books)
DTP 印刷 デザインの基本 (玄光社MOOK)
なるほどデザイン〈目で見て楽しむ新しいデザインの本。〉

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール、授業の前後に教室内で対応

516100

メディアアート論

森　　公一

授業テーマ:　メディアアート作品の表現分析

授業の概要:　芸術活動とは、私たちが生きる世界や私たち自身がいかなるものであるかを、創造的表現を通じて探ろうとする行為だと言えます。その意味でアーティストによる創作活動は、生きることの根底におけるコミュニケーション活動なのです。本講義ではそのようなアーティストたちによる創作の軌跡、とりわけメディアテクノロジーを表現の手段として用いた実験的作品を取り上げ、それらの作品が示す表現の多様性（テーマ性、形式性、文化性、歴史性など）の分析を行います。前半はコンピュータ以前、主としてビデオを用いた表現実験に注目し、後半はメディアテクノロジーを応用したシアター系の表現に注目します。

到達目標:　メディアアート作品における表現の多様性についての理解
作品を分析する方法、批評する能力の獲得

授業方法:　講義形式で進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス	
2.	メディアアート入門1　芸術×技術	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
3.	メディアアート入門2　芸術×科学	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
4.	ナム＝ジュン・パイク　ビデオをアートに	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
5.	オノ・ヨーコ　インストラクションとしてのアート	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
6.	ジェニー・ホルツァー　テキストとメディア	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
7.	インゴ・ギュンター　世界理解の方法	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
8.	ビル・ヴィオラ　宗教画としてのビデオ	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
9.	ゲイリー・ヒル　言語論へのアプローチ	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
10.	ジェームス・タレル　光の体験	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
11.	S.ライヒ+B.コロット　神話と歴史	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
12.	ダムタイプ　マルチメディアと身体表現メディア	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
13.	坂本龍一　マルチメディア・オペラ	授業内容と関連のある作品を調査・分析する
14.	アート作品の批評	批評対象とすべき作品を準備する
15.	まとめ	試験にむけて振り返り学習を行うこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　多くのメディアアート作品に触れて視野を広げてください。また一つの作品を何度も鑑賞し、分析力を養ってください。

フィードバックの方法:　リフレクションペーパーの内容から抜粋し、次回授業にてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	理解度、批評力
リフレクションペーパー	20	理解度、参加度

教科書:　適宜資料を配布

参考書:　『メディアアートの教科書』フィルムアート社
『スーパー・アヴァンギャルド映像術』CineLesson14 フィルムアート社
『映像表現の創造特性と可能性』情報デザインシリーズvol.4 角川書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業後に対応します。

516300

情報デザイン演習

有賀　　妙子

授業テーマ:　情報を伝えるビジュアル表現の形と意味を考える

授業の概要:　情報デザインとは、人と物や出来事、さらには環境とつながるさまざまな「情報」を整理し、構造化し、視覚化するための手法と捉えることができます。
この授業では、おもに静的な視覚情報に関わるデザインを対象として、視覚情報の知覚や認知のされ方を理解し、それを基に適切な情報の表現について考察します。段階的な演習を通して、観察力、洞察力、構想力、表現力などデザインマインドの基礎力を養成することを目的とします。

到達目標:
1 ビジュアルデザインの要素について理解する
2 視覚情報の認知のされ方を理解する
3 視覚情報を観察し、観察結果をもとに視覚的要素のもつ意味を考える
4 アイディアの発想法について理解し、アイディアを構想をする

授業方法:　講義と、それに関連した演習課題の制作を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要, 視覚的コミュニケーションデザインについて	講義内容の復習
2.	デザインを構成する要素1	講義内容の復習
3.	デザインを構成する要素2	講義内容の復習
4.	演習1　知覚の傾向を探るビジュアルイメージ採集（講義と課題説明）	講義内容の復習 課題制作
5.	演習1　知覚の傾向を探るビジュアルイメージ採集（レビュー） 演習2　ピクトグラムの設計（講義）	レビューの振り返り 講義内容の復習
6.	演習2　ピクトグラムの設計（課題説明）	課題制作
7.	演習2　ピクトグラムの設計（レビューと評価シートの作成）	レビューの振り返り
8.	インフォグラフィックス	講義内容の復習
9.	演習3　情報を表すビジュアル変数（講義）	講義内容の復習
10.	演習3　情報を表すビジュアル変数（課題説明）	課題制作
11.	演習3　情報を表すビジュアル変数（レビューと評価シートの作成）	レビューの振り返り
12.	デザイン思考ワークショップ	授業内容の振り返り
13.	演習4　ビジュアルイメージと意味（講義）	講義内容の復習
14.	演習4　ビジュアルイメージと意味（課題説明）	課題制作
15.	演習4　ビジュアルイメージと意味（レビューと評価シートの作成）	レビューの振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　演習課題のレビュー時にコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題作品	70	完成度
授業への積極的参加度	30	学生相互評価や発表へのコメントなどの貢献を評価

教科書:

参考書:
表現メデイアの編集と表現, 有賀妙子, 渡部隆志, 由良泰人, 実教出版
Design rule index:デザイン, 新・25+100の法則, William Lidwell, Kritina Holden, Jill Butler, ビー・エヌ・エヌ新社
ピクトさんの本, 内海慶一, ビー・エヌ・エヌ新社
Sign, icon and pictogram:記号のデザイン, Rayan Abdullah, Roger Hubner, ビー・エヌ・エヌ新社
インフォグラフィックス, 木村博之, 誠文堂新光社
身近なダイアグラム, パイインターナショナル
映像の修辞学, ロラン・バルト, 筑摩書房
誰のためのデザイン, D.A.ノーマン, 新曜社
発想法—創造性開発のために, 川喜田二郎, 中公新書
知の編集術, 松岡正剛, 講談社現代新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

516400

マンガ文化論A

村木　　美紀

授業テーマ:　マンガの魅力に触れる

授業の概要:　本講義では、我々にとって身近な存在であるマンガについて学ぶ。マンガは特有のメディアであることを理解したのちに、作り手と読者の観点を整理し、文化的背景・社会での位置づけ・その展開等を解説し、マンガ文化を多角的に考察していく。
「マンガ文化論A」では日本のマンガを、「マンガ文化論B」では海外のマンガを主たる対象とする。

到達目標:
1【知識・理解】マンガメディアの特徴を知るとともに、マンガ文化の位置づけを認識する。
2【関心・意欲・態度】ディスカッションへの積極的な参加やコメントペーパーのまとめを通じ、マンガ文化について説明できる力を身に着ける。
3【表現・技能・能力】授業時のワークショップやレポートを通じて学んだことを明確にし、問題提起や提案を行う。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	マンガのリテラシー(1)	ワークショップを実施予定 一授業時に説明するマンガの記号に注意していくつかの作品に目を通しておくこと
3.	マンガのリテラシー(2)	ワークショップを実施予定 一授業時に説明するマンガの記号に注意していくつかの作品に目を通しておくこと
4.	マンガのリテラシー(3)	簡単な4コママンガを制作予定 一授業時に提示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
5.	出版物としてのマンガ	書店や図書館での取り扱いの現状について確認しておくこと
6.	マンガの出版・流通	デジタルマンガについて複数のサイトを通じて作品に目を通しておくこと
7.	マンガの消費と創造	可能な限り、マンガ家や出版社について取り上げられるTV番組や報道を視聴しておく
8.	マンガと映像	アニメや実写化を取り巻く環境を理解するため、ニュース・新聞・雑誌の特集等に注目する
9.	マンガとゲーム	ゲームを取り巻く環境を理解するため、ニュース・新聞・雑誌の特集等に注目する
10.	オタク文化とカワイイ文化	オタク文化・カワイイ文化を取り巻く環境を理解するため、ニュース・新聞・雑誌の特集等に注目する
11.	クールジャパン	事前に提示する経済産業省等の関連資料に目を通しておくこと
12.	町おこし／マンガミュージアム	フィールドワーク課題を済ませておくこと
13.	イマドキのマンガ事情	マンガ文化を取り巻く環境を理解するため、ニュース・新聞・雑誌の特集等に注目する
14.	マンガを学問する	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:
・作品研究や作家研究を主としていないこと、「マンガ文化」がテーマのためマンガが出てこない回もあることを理解しておくこと
・外部講師による講演を予定

フィードバックの方法:　基本的に授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	50	到達目標の1・2を中心に評価する。
レポート	50	到達目標の3を中心に評価する。

教科書:

参考書:
全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』(年刊)
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』(年刊)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール:mmuraki@.doshisha.ac.jp

516500

マンガ文化論B

ユー　スギョン

授業テーマ:　世界のマンガ文化

授業の概要:　日本で日常的にマンガを楽しんいる人でも、海外のマンガ作品を読んだことがある人はあまり多くないのが現状である。本講義では、アジア、ヨーロッパ、北米、南米など、普段目にすることの少ない様々な地域のマンガ作品や作家について紹介し、海外のマンガ文化に対する理解を深める。日本のマンガ文化・市場とも比較しながら、それぞれのマンガ文化の特徴やその原因について考察する。

到達目標:
・世界中のマンガ文化とマンガ産業に対する視野を広げる。
・各マンガ文化を現在の形にした原因について様々な視点から考え、発言する。
・作品や作家について理解・分析し、その特徴について紹介(プレゼンテーション)する。

授業方法:
1:本講義では、各言語圏のマンガの歴史とマンガ文化の特徴について論じる。
また、マンガ作品を読み、テーマ・表現技法・出版形態などについても考察する。
(受講者はそれぞれ1回のプレゼンテーションを行う。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、日本のマンガ文化(1)	日本のマンガ文化について復習する。
2.	日本のマンガ文化(2) ーマンガ制作ワークショップー	マンガ制作に使用する画材や、制作過程について予習する。
3.	フランス語圏のマンガ文化(1)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
4.	フランス語圏のマンガ文化(2)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
5.	スペイン語圏のマンガ文化	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
6.	ドイツ語圏のマンガ文化	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
7.	ヨーロッパ諸言語圏のマンガ文化	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
8.	アジア言語圏のマンガ文化(1)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
9.	アジア言語圏のマンガ文化(2)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
10.	アジア言語圏のマンガ文化(3)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
11.	アジア言語圏のマンガ文化(4)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
12.	英語圏のマンガ文化(1)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
13.	英語圏のマンガ文化(2)	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。
14.	現場見学(京都国際マンガミュージアム)	授業前に京都国際マンガミュージアムの機能や特徴について確認する。
15.	授業の振り返り、質疑応答など	授業で取り上げた作品を授業後に読み、復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物やプレゼンテーションのフィードバックは、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50%	積極的に授業に参加し、世界のマンガ文化の特徴について様々な視点から考えるようになったかを評価する。
プレゼンテーション	30%	作家や作品について理解・分析し、自分の見解を明確に説明できたかを評価する。
レポート	20%	テーマに関する自分の経験や考えを論理的に述べられるかを基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール(suya@kyotomm.jp)

516601～03

メディア創造基礎演習A

森　　公一、中村　　信博、川田　　隆雄

授業テーマ:　情報メディアとセルフエデュケーション

授業の概要:　この情報メディア基礎演習では、まず、我々の学びや創造に大きな影響を与えるメディアを直視する。そして、それらを学生と教師の間で共有し、情報メディア分野のダイナミズムを理解する。高校とは違うメタレベルの世界観を体験すると同時に、本音で生きることの大切さも体験してほしい。また、人生最初の本格的インタビュー調査によってこの世界のありのままの姿を分析的に考察する。

到達目標:　情報メディアの役割や可能性を探りながら、下記のような目標の達成を目指します。
・学びのプロセスを自ら発見し、作り上げていく。
・自由に発想し、主体的に思考する意欲と力を育てる。
・自分の感性や考え方を積極的に表現する意欲を育てる。
・対話する能力を育て、それぞれの違いを認めていく力を育てる。
・グループで楽しみながら目的に向かって工夫し、努力し、達成感を共有する。

授業方法:　グループ単位でディスカッションや調査、発表を行い、互いに学びを作り出す方法をとります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	発表準備
2.	ショートプロジェクト1	発表準備等
3.	ショートプロジェクト1	発表準備等
4.	ショートプロジェクト2	発表準備等
5.	ショートプロジェクト2	発表準備等
6.	ショートプロジェクト2	発表準備等
7.	ロングプロジェクト	発表準備等
8.	ロングプロジェクト	発表準備等
9.	ロングプロジェクト	発表準備等
10.	ロングプロジェクト	発表準備等
11.	ロングプロジェクト	発表準備等
12.	ロングプロジェクト	発表準備等
13.	合同発表会	発表準備等
14.	合同発表会	発表準備等
15.	図書館実習	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:　プロジェクトを行うため、授業時間以外にグループ学習や調べ学習などが発生します。

フィードバックの方法:　授業内で行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	45	出欠と授業への積極的参加度
成果物	55	プレゼンテーションの内容等

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業内のコンタクトを基本とする。

516701～03　**メディア創造基礎演習B**

高木　毬子、中村　信博、村木　美紀

授業テーマ:　世界にひとつだけの「本」－こころをカタチにする－

授業の概要:　本科目は、メディアの中でも「本」を対象としている。
メディアの作品分析にから始まり、最終的には「本」の制作プロジェクトおよび展示を行う。
活動はいずれもグループ単位とし、その過程でディスカッションや発表も行う。

到達目標:
1【知識・理解】メディア分析やディスカッションを基に、自己と向き合い、見つめ直すことでメディアの世界観や自身の思考をわかりやすく説明できる。
2【関心・意欲・態度】グループでの活動を通じて、責任感や協調性をもって他者と接することができる。
3【表現・技能・能力】ディスカッション・発表・展示を通じて、プレゼンテーション力やコミュニケーション力，今後の研究に必要な技能を身につける。

授業方法:　グループでディスカッション・制作・発表・展示を行い、インタラクティブな学びを目指す

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	課題図書を読む
2.	作品分析とディスカッションの方法	課題図書を読む
3.	作品分析とディスカッション1	課題図書を読みディスカッションの準備をしておく
4.	作品分析とディスカッション2	課題図書を読みディスカッションの準備をしておく
5.	作品分析とディスカッション3	課題図書を読みディスカッションの準備をしておく
6.	チーム編成およびワークショップ	
7.	国立国会図書館ガイダンス	国立国会図書館のDBや取り組みをHPで確認しておく
8.	プロジェクトの企画・立案	企画の検討
9.	プロジェクトの企画発表	企画発表の準備
10.	プロジェクト1	制作および作品展の準備
11.	プロジェクト2	制作および作品展の準備
12.	プロジェクト3	制作および作品展の準備
13.	作品展の準備	作品展の準備
14.	作品展への参加	作品展の準備
15.	総まとめ	振り返りの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
・プロジェクトを行うため、授業時間外の学習や作業が発生する
　例えば、課題図書を読む、制作を行う、発表・展示の準備を行う等
・制作に関する費用は各グループでの負担とする
・国立国会図書館のガイダンスは国立国会図書館のゲスト講師による

フィードバックの方法:　基本的に授業内で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	30	出席と授業への積極的参加度
発表	30	プレゼンテーションの内容等
作品	40	作品の完成度

教科書:　適宜指示する

参考書:　適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業内のコンタクトを基本とする

516901～03

コンピュータ活用基礎

木村　　仁美

授業テーマ:

・何年経っても、どんな環境でも役に立つ基本的な「コンピューティング・リテラシー」を身につける。
・大学の授業に必要なコンピューター環境を知る。
・コンピューターを便利な道具として使いこなす。

授業の概要:

コンピューター全般に関する基礎知識、ならびに、大学の授業に必要な、資料作成、調査の結果の整理・分析、レポート作成などに関するコンピューター操作を身につけます。

到達目標:

・コンピューターやアプリケーションに共通する知識を理解し、どんな環境でも楽しく安全に使えるようになること。
・同志社女子大学のネットワーク環境に親しみ、コンピュータを効果的な道具として活用できるようになること。

授業方法:

情報処理実習室で一人一台のパソコンを使い、実習方式で授業を行います。（基本的にはWindowsでの操作になりますが、場合によっては、Macを利用することもあります。Mac利用の際は、前もって告知します。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（講義の内容、試験・出席の評価方法の説明）・大学のパソコン環境の説明	当講義に関する重要事項を説明します。今後の受講に影響しますので、再履修者も必ず参加してください。
2.	コンピュータの基礎知識1	・Macを持参すること。 ・MacとWindowsPCとの違い、操作の違いなどを事前に考えておいてください。
3.	コンピュータの基礎知識2	前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
4.	【入力スピード測定1】 コンピュータの基礎知識3	・前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。 ・入力スピード測定テスト（1回目）を行います。入力スピードの向上は、日々の練習が大切です。
5.	Microsoft Word1 ワープロのセオリーその1	・前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。 ・教科書の「文書作成」や、参考文献（情報リテラシーアプリ編）のWord Step1～4に目を通しておいてください。
6.	Microsoft Word2 ・ワープロのセオリーその2 ・レポート作成に関する機能	前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
7.	Microsoft Excel1 グラフ作成（棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、絵グラフなど）	前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。 ・教科書の「表計算」や、参考文献（情報リテラシーアプリ編）のExcel Step1～6に目を通しておいてください。
8.	Microsoft Excel2 ・データ入力のセオリー（オートフィルのしくみ） ・計算式入力のセオリー（計算式のコピーのしくみ）	前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
9.	Microsoft Excel3 ・データ入力を極める！（入力規則とセルの保護） ・日付を計算する	前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
10.	【入力スピード測定2】 Microsoft Excel4 ・大量のデータを素早く処理する1	・入力スピード測定テスト（2回目）を行います。入力スピードの向上は、日々の練習が大切です。 ・前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
11.	Microsoft Excel5 ・大量のデータを素早く処理する2	前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
12.	PowerPoint1 プレゼンのセオリーその1	前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。 ・教科書の「プレゼンテーション」や、参考文献（情報リテラシーアプリ編）のPowerPoint Step1～3に目を通しておいてください。
13.	PowerPoint2 プレゼンのセオリーその2	前回の内容に関する小テストまたは課題を行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
14.	入力スピード測定3 ここまでの復習（総合小テスト）	・入力スピード測定テスト（3回目）を行います。入力スピードの向上は、日々の練習が大切です。 ・ここまでの授業内容に関する総合小テストまたは課題を行います。今までの授業内容に関して全体的な復習をしておいてください。
15.	総括	ここまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

パソコン、スマートフォン、タブレットなど、現在では、様々な情報機器があります。
誰もがパソコンを日常的に使うようになって数十年経ちましたが、コンピューター全般に関する基本的なことは、今も変わりません。
基本的なセオリーを学んでおけば、目の前にあるコンピューターがWindowsであろうが、Macであろうが、どんなアプリケーションであろうが、何年経っても、どんな環境でも、応用することができるはずです。
「コンピューターをなんとなく使える」人から「コンピューターは何でも使える」人になってください。

フィードバックの方法:

小テストは、授業中に答え合わせをします。
その他については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
入力スピード測定テスト	20%	10分間で漢字仮名交じり文字の文章を何文字正確に打てるかを、3回のテストの平均文字数をもって採点します。
その他	80%	小テストまたは課題、および出席・受講態度などを総合して評価します。

教科書:

改訂第3版　基礎からわかる情報リテラシー～コンピューター・インターネットと付き合う基礎知識

参考書:

情報リテラシーアプリ編～Windows 10・Office 2016対応（FOM出版）
たった1日で即戦力になるExcelの教科書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に講義室にて対応します。

516904

コンピュータ活用基礎

木村　　仁美

授業テーマ:　大学の授業に必要な「コンピューティング・リテラシー」を身につける。

授業の概要:

大学の授業に必要な、資料作成、調査の結果の整理・分析、レポート作成などに関するコンピュータの基本的な操作方法を身につけます。

※この授業は、Word・Excel・PowerPointを使うことが、ほとんど初めての人を対象とした授業です。文字入力やUSBメモリの使い方、各アプリケーションの基礎の基礎から丁寧に説明します。

次のいずれかに当てはまる場合は、当授業を選択することをお勧めします。
・文字入力スピードが20文字／分以下である。
・パソコンが全体的に苦手である。
・WordやPowerPointは少しはなんとか使える気がするが、Excelは大の苦手で、さっぱりわからない。
・Word、Excel、PowerPointのいずれも、ほとんど使ったことがない。（または、使ったがほとんど忘れている。）

到達目標:

・文字入力スピードが、30文字／分を超えること。
・Wordで表入りの文書が作成できるようになること。
・Excelでの表作成、四則演算式や基本的な関数の入力、グラフの作成ができるようになること。
・PowerPointで、プレゼンテーション用スライドが作成できるようになること。
・大学のパソコン環境（ネットワークなど）が使えるようになること。

授業方法:

情報処理実習室で一人一台のパソコンを使い、実習方式で授業を行います。（基本的にはWindowsでの操作になりますが、場合によっては、Macを利用することもあります。Mac利用の際は、前もって告知します。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（講義の内容、試験・出席の評価方法の説明） ・大学のパソコン環境の説明 ・パソコンの基本操作 ・タイピングソフトの使い方	当講義に関する重要事項を説明します。今後の受講に影響しますので、再履修者も必ず参加してください。
2.	Windows基本操作（アプリケーションの起動、ウインドウの操作、文字の入力、USBメモリの使い方など）	この回から毎回授業開始時に入力スピード練習をします。入力スピードをUpするには、日々、タイピングソフトなどで練習することが大切です。
3.	Mac基本操作（アプリケーションの起動、ウインドウの操作、文字の入力、USBメモリの使い方など）	・Macを持参すること。
4.	入力スピード測定1 コンピュータの基礎知識	・前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。 ・入力スピード測定テスト（1回目）を行います。入力スピードの向上は、日々の練習が大切です。
5.	Microsoft Word1 ・表入り文書の作成	・前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
6.	Microsoft Word2 ・ニュースレターの作成	前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
7.	Microsoft Word3 ・レポート作成に必要な機能	前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
8.	Microsoft Excel1 ・Excelの画面 ・Excelでのデータ入力とセルの範囲選択 ・Excelでの計算（加減乗除の計算）	前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
9.	Microsoft Excel2 ・表の作成 ・縦横合計、平均・最大値・最小値の出し方	前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
10.	入力スピード測定2 Microsoft Excel3 ・式のコピーとセル参照 ・印刷の設定 ・ブック・ワークシートの操作	・入力スピード測定テスト（2回目）を行います。入力スピードの向上は、日々の練習が大切です。 ・前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
11.	Microsoft Excel4 ・グラフ作成（棒グラフ、円グラフ、折れ線グラフなど）	前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
12.	PowerPoint1 ・PowerPointの概要 ・スライドの作成	前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。oint Step1～3に目を通しておいてください。
13.	PowerPoint2 ・図形描画 ・画面切り替え ・アニメーションの設定	前回の内容に関する小テストを行います。前回の内容をよく復習しておいてください。
14.	入力スピード測定3 ここまでの復習（総合小テスト）	・入力スピード測定テスト（3回目）を行います。入力スピードの向上は、日々の練習が大切です。 ・ここまでの授業内容に関する総合小テストを行います。今までの授業内容に関して全体的な復習をしておいてください。
15.	総括	ここまでの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業は、Word・Excel・PowerPointを使うことが、ほとんど初めての人を対象とした授業です。文字入力やUSBメモリの使い方、各アプリケーションの画面の説明など、基礎の基礎からじっくり説明します。
特にExcelが苦手な人は選択することをお勧めします。

Word・Excel・PowerPointを一通り使える人は、「コンピュータ活用基礎（1，2，4講時）」を選択してください。
途中でクラスを変更することはできませんので、自分のレベルや目的に合うと思われるクラスを十分考えてから選択するようにしてください。

フィードバックの方法:

小テストは、授業中に答え合わせをします。
その他については、教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	入力スピード測定テスト	20%	10分間で漢字仮名交じり文字の文章を何文字正確に打てるかを、3回のテストの平均文字数をもって採点します。
	その他	80%	小テストまたは課題、および出席・受講態度などを総合して評価します。

教科書: 改訂第3版　基礎からわかる情報リテラシー～コンピューター・インターネットと付き合う基礎知識

参考書: 情報リテラシー入門編～Windows 10・Office 2016対応（FOM出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 授業の前後に講義室にて対応します。

517001、02

キャリアプランニング演習

荒木　　菜穂

授業テーマ:　多様性への理解と柔軟な視点でキャリアとライフコースを考える

授業の概要:　女性のライフコースがかつてないほどに多様化した現代、自分がどのような目標を持ち、人生の各ステージにてどのような役割を取得し、どのようにキャリアを積んでいくかのプランニングは重要な課題となってきます。そのためには、社会を読み解きながら、自分自身について、また、自分以外の人について知り、関係を作り、視野を広げ思考する力が必要となります。この授業では、レクチャーやグループワークなどを通じ、現代社会や女性のキャリアの可能性について考え、議論し、自分のライフコーススケジュールの具体的なビジョンを柔軟に作っていく作業を行います。

到達目標:
1. 自分と向き合い、自尊感情を深め、多様な他者のあり方に理解を持てるようになること。
2. 社会の動きを知り、自分の視点を持ち、考えることができるようになること。
3. 以上を踏まえ、キャリアプランを含んだライフコーススケジューリングができるようになること。

授業方法:　レクチャーとグループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション～社会とは、社会人とは	復習
2.	社会について知る（1）現代社会の基本的見取り図	3回の準備と復習
3.	時事問題とディスカッション	復習
4.	社会について知る（2）女性のライフコースとジェンダー	5回に向けての準備【女性のライフコースで出会う困難をリストアップ】と復習
5.	グループワーク1　女性のライフコースともやもや	6回に向けての準備シート
6.	自分について知る　個人ワークと共有	復習
7.	社会について知る（3）　女性の仕事いろいろ	8回に向けての準備シートと復習
8.	女性の自尊心～なぜ女性は仕事を辞めがちなのか	復習
9.	他者への理解　聴くことと場づくりのワーク	復習
10.	事例から知る（1）	復習
11.	事例から知る（2）	14回に向けて【関心を持った事例のまとめ（取材や調査）】と12回の準備と復習
12.	時事問題とディスカッション	復習
13.	ライフコーススケジューリングワーク　未来への手紙	復習
14.	関心を持った事例の共有	復習
15.	共有とふりかえりと	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　自分の意見を持ち、積極的な参加をしてください。

フィードバックの方法:　ワーク内容の報告による共有

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ワーク参加	50%	自分の意見を発表できているか。他の参加者の意見に関心を持ち対応できているか。
レポート課題	50%	自分の意見を持ち、社会への視点があるか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　araki_2018_renraku@yahoo.co.jp

517100

メディア創造概論

影山　貴彦、有賀　妙子、川田　隆雄、三根　浩、森　公一、村木　美紀、中村　信博、関口　英里、髙木　毬子、和氣　早苗、余田　義彦

授業テーマ:　メディア創造学科における学び、研究を知る

授業の概要:　メディア創造学科専任教員によるリレー講義を行い、各自の研究分野・内容について解説する。

到達目標:　メディア創造学科専任教員の研究分野・内容を理解し、各自の今後の研究やキャリアに関する展望を持つ。

授業方法:　講義を中心とし、担当者によってはグループディスカッションを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	9/27 ガイダンス	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
2.	10/4 有賀先生担当講義(情報のかたちと働きを創造する)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
3.	10/11 森先生担当講義(メディアアート)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
4.	10/18 髙木先生担当講義(Culture Mix: グラフィック・デザインによる文化の橋渡し)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
5.	10/25 影山先生担当講義(メディアエンターテインメントへの誘い)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
6.	11/1 川田先生担当講義(プロデュース能力開発と社会構成主義)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
7.	11/8 関口先生担当講義(都市メディアと消費文化の仕掛け)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
8.	11/15 中村先生担当講義(メディア文化史における聖書の世界)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
9.	11/22 村木先生担当講義(ヤングアダルトのメディアと読書)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
10.	12/6 三根先生担当講義(マルチメディアの教育的活用)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
11.	12/13 和氣先生担当講義(わかりやすさの設計とサウンドデザイン)	次回担当教員の研究分野、業績等を調べておくこと
12.	12/20 余田先生担当講義(教育の情報化)	卒業論文集等を参考に、過去の研究実績を調べておくこと
13.	先輩の研究内容紹介	自身の研究したい分野・内容について展望をまとめること
14.	研究ツール、サポートについて(図書館、msc、コモンズ)	自身の研究したい分野・内容について展望をまとめること
15.	まとめ	自身の研究したい分野・内容について展望をまとめること

受講者へのメッセージやアドバイス:　本授業を理解することは、2年次春学期に行うゼミ選考において非常に重要になってきます。各自、気になったことは教員へ質問するなど、自発的な姿勢で臨むことを期待しています。

フィードバックの方法:　授業での対話、オフィスアワーを活用した質問対応

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	積極的な発言、質疑などで評価する。
各回の小レポート	50	各回の理解度および内容により評価する。

教科書:　なし

参考書:　適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビーを活用すること

517301～06　**グラフィック・WEB基礎演習**

前田　剛志、福田　秀樹、高木　毬子

授業テーマ:　コミュニケーション・デザインの基本ツール

授業の概要:　この授業では、グラフィックデザインの基本的なツールであるソフト：AdobeのIllustratorと InDesignの使い方を一冊の本のデザインを実現しながら演習します。後にリデザインされた本をWebで公開するミニサイトのデザインをSketchというソフトウェアで作成します。

到達目標:　一つのデザイン・コンセプトをアナログとデジタル・メディア（本とウェブサイト）で表現する方法を身につける。

メディアに適切なソフトを選び、表現したいアイデアを実現できる事。

デザインコンセプトとスタイルで統一感を出す方法を覚える。

授業方法:　各回の授業テーマに沿った概説、課題制作とデザインへのフィードバックを授業内に行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション：授業の内容、進め方について InDesign 1 基本操作（ファイルのセットアップ）、ツールバーの説明と演習、画像の配置・簡単な図形とベジェ曲線の描画	リデザインの参考となる本の選択
2.	InDesign 2 基本操作：書体の基礎知識 文字組み：和文と欧文・書体の選択（InDesign）	テーマにあった書体の選択
3.	InDesign 3 基本操作：文字組みと文字設定（和文と欧文：カーニングとトラッキング、文字組みの単位）	本の題名そして作者の名前のカーニング
4.	InDesign 4 レイアウト設定：共通アイテムの配置（グリッド設定・マスターページ）	本の寸法、マージン、グリッドを決める
5.	InDesign 5 レイアウト設定：共通アイテムの配置（文字スタイルと段落スタイル、約物・ルビ、注意事項）	文字スタイルと段落スタイルの設定
6.	Illustrator 1 基本操作：図形とベジェ曲線の描画	本に添える図、イラストを手書きで準備する
7.	Illustrator 2 基本操作：手描きの図・イラストをスキャンし、Illustratorで図形をなぞる	イラストの作業を続ける
8.	Illustrator 3 基本操作：Illustratorで図形を製作して書き出す	イラストと本のデザインの作業を続ける
9.	Web／Sketch 1　参考になるウェブ・ポートフォリオやブログの鑑賞、ミニサイトの基本	デザインした本のミニサイトのアイデアスケッチ
10.	Web／Sketch 2　サイトマップとワイヤーフレーム	個々のサイトのサイトマップとワイヤーフレーム
11.	Web／Sketch 3　SketchでWebデザイン	ホームページ、コンテンツ、About（計3ページの形式のレイアウト）
12.	アウトプットの準備：印刷・製本	前付け、表紙、カバーと帯のレイアウト
13.	実践課題	デザインのリファイン
14.	実践課題	プロジェクトの完成
15.	本とWebサイトのプレゼンテーションと提出	提出の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　興味を持って様々なデザインを見たり、集めたりしてください。質問がありましたら、声をかけてください。

フィードバックの方法:　毎週、宿題に対する受講生へのフィードバックは教室でまとめてします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加	20	宿題のプレゼンテーション、積極的に授業に参加しているのかを評価します。
ソフト（illustrator, InDesign）の理解度	30	授業でのPCの使いこなし、授業中の努力を評価します。
作品制作	50	課題制作における完成度（アイデア、表現力・デザイン、仕上げ）を評価します。

教科書:　なし

参考書:　ミルキイ・イソベ/紺野慎一著『組む。InDesignでつくる、美しい文字組版』bnn、2010年
向井祐一著『日本語の組版の考え方』誠文堂新光社、2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　各授業の終了後に直接連絡してください。

517401～06　**写真・動画基礎演習**

前田　剛志、石堂　吉彌

授業テーマ:　写真・動画制作のための基礎

授業の概要:　前半は、一眼レフカメラを用いた写真撮影の基本的な技法を学び、Adobe Photoshopでの画像処理やAdobe Lightroomでの画像データの管理法を学習する。
後半は、ビデオカメラを用いた動画撮影の基本的な技法を学び、Adobe Premiere Proでの動画編集を学習する。
また、課題として写真と動画によるルポルタージュ作品を制作する。

到達目標:　写真・動画作品を制作するための基礎的な能力を身につけるため、撮影機材の使いこなし方やコンピューターを用いた画像処理、動画編集の技術を修得する。

授業方法:　各回の授業内容に沿った概説や撮影機材の解説と実習、コンピューターのアプリケーションの操作説明、課題制作を行う。
復習のための資料やデータを配布・提示する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:授業目的と内容の説明、参考作品の提示、写真・動画課題の提示	配布・提示した資料の理解
2.	写真撮影基礎1(一眼レフカメラの基本操作　カメラの構え方からマニュアル撮影)	撮影の実践
3.	写真撮影基礎2(カメラポジション、画面サイズ、レンズの特性など)	撮影の実践
4.	写真撮影基礎3(ライティングの知識)	撮影の実践
5.	Photoshopの基本操作	配布したデータを使った復習
6.	Photoshopでの画像処理、Lightroomの基本操作	配布したデータを使った復習
7.	課題制作	自主的な制作
8.	写真課題作品のプレゼンテーションと講評	自主的な制作
9.	動画撮影基礎1(ビデオカメラの基本操作、三脚の扱い方)	撮影の実践
10.	動画撮影基礎2(カメラワーク、音声収録)	撮影の実践
11.	PremiereProの基本操作1	配布したデータを使った復習
12.	PremiereProの基本操作2	配布したデータを使った復習
13.	課題制作	自主的な制作
14.	課題制作	自主的な制作
15.	動画課題作品のプレゼンテーションと講評	自主的な制作

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業外時間にも写真・動画撮影を実践し、積極的に技術向上に取り組むことが望ましい。
参考となる写真・動画作品を自主的に研究することで、作品を分析する力を身につけ、表現への意欲を高めて欲しい。

フィードバックの方法:　授業中に質疑応答の時間を設け、課題作品の講評を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	到達目標修得のための授業への参加を評価
課題制作	70	到達目標の達成度合いと課題作品の完成度

教科書:　指定なし

参考書:　千崎達也著『Premiere Pro 逆引きデザイン事典【CC対応】増補改訂版』翔泳社、2017年
『映像制作ハンドブック』玄光社、2014年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業後に教室で応対

517500

写真表現論

前川　　志織

授業テーマ:　写真表現の歴史と理論

授業の概要:　近代における写真の誕生は、私たちに新たな視覚経験を与える契機となりました。その誕生以降、写真をめぐる表現は、さまざまなメディアやジャンルと関わり、私たちの文化や社会に影響を与えました。現代における新聞、雑誌グラビア、広告、デジタル写真にいたるまで、その表現は多様な拡がりをみせています。この授業では、写真表現の歴史と理論について、欧米と日本の事例をもとに考えます。

到達目標:　写真表現の歴史と理論について理解を深める。
写真に関わるメディアやジャンル、写真をめぐる文化・社会とその変容を批判的に考える。
写真から拡がるイメージの多様性に関心をもち、その読み解き方を習得する。

授業方法:　講義を中心とします。スライドとレジュメを中心に授業を進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:写真を考えるとは	シラバスを確認する
2.	写真前史と写真の誕生	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
3.	初期写真(1):肖像写真をめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
4.	初期写真(2):横浜写真をめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
5.	写真とジャーナリズム(1):写真絵葉書をめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
6.	写真とジャーナリズム(2):報道写真をめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
7.	写真と身体:女性の身体をめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
8.	小括(小テスト①):写真と文化・社会の変容	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
9.	写真と芸術(1):写真と絵画をめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
10.	写真と芸術(2):新興写真運動をめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
11.	写真と広告(1):広告写真のレトリックをめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
12.	写真と広告(2):商品写真とジェンダーをめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
13.	写真と映像:CM表現をめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
14.	写真と現代:写真のアーカイヴズをめぐって	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習
15.	総括(小テスト②):写真の現在と未来	配布資料や参考文献にもとづく復習・予習

受講者へのメッセージやアドバイス:　日常の各所に溢れる写真に意識を向け、写真作品・参考文献・写真関連の展覧会などを通して積極的に写真に接することを心がけてください。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト①②	50	写真表現の歴史と理論などについての理解度により評価する。
小レポート	30	写真表現の歴史と理論などを理解した上で、写真の読み解き方を説得力をもって提示できるかを基準とする。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、写真文化の批判的な考察ができるようになったかを評価する(適宜コメントシート提出)。

教科書:　特になし

参考書:　西村清和『視線の物語・写真の哲学』講談社選書メチエ、1997年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力, 思考力, 創造力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応します

517601～04　**写真表現演習**

林　　直

授業テーマ:　写真表現の基礎知識と多様性を学ぶ

授業の概要:　機材の基本操作から、多岐にわたる写真表現を学び、制作者の立場で写真を体感する。主に授業前半では技術を、後半では表現力を磨く。

到達目標:
・デジタル一眼レフカメラの基本操作
・表現内容に適した撮影
・基本的なスタジオライティング
・画像編集の基礎知識
・写真表現の多様性を学習
・写真を使った自己表現力の向上
・写真表現物に対する自己の見解を言葉にする

授業方法:
撮影に使用するカメラは大学の貸出し用デジタル一眼レフ、もしくは各自所有のものを使用。
個人、または演習室のパソコンを使用して画像編集と作品集編集を行います。
テーマに即して完成した作品を授業最終日に合評形式でプレゼンテーションします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	写真を使った表現について、初回から簡単なグループワークをしてもらいます。
2.	撮影基礎知識1	参考文献などに目を通しておくことでより深い理解が得られるでしょう。
3.	撮影基礎知識2	参考文献などに目を通しておくことでより深い理解が得られるでしょう。
4.	スタジオ撮影1	スタジオライティングによる人物撮影。光線の方向、質について学びます。
5.	画像編集基礎および講評1	ここまでに撮影したデータをチェックしておいてください。
6.	スタジオ撮影2	スタジオライティングによる静物撮影。被写体となるものを持参してください。
7.	画像編集基礎および講評2	ここまでに撮影したデータをチェックしておいてください。
8.	写真表現の多様性について	9から取り組むテーマ制作のための心づもりしておくと良い。
9.	テーマ制作、表現について	テーマ制作のために、取り組む予定のテーマについて心づもりしておくと良い。
10.	写真表現 テーマ撮影1	各自の撮影に必要な段取り(ロケハンや協力者への依頼等)をしておきましょう。
11.	写真表現 テーマ撮影2	各自の撮影に必要な段取り(ロケハンや協力者への依頼等)をしておきましょう。
12.	画像編集 応用1	各自の表現内容に必要な画像編集技術など、質問したいことをまとめておきましょう。
13.	画像編集 応用2	各自の表現内容に必要な画像編集技術など、質問したいことをまとめておきましょう。
14.	画像編集 応用3	各自の表現内容に必要な画像編集技術など、質問したいことをまとめておきましょう。
15.	合評	出力や制作物のまとめ等、合評に向けた最終チェックをしっかりしておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業内で学習した技術は反復して使用することによって身につきます。またこの授業ではテーマ撮影の内容により、学外での撮影が必要と認められるものについて、授業時間外の撮影を課すことがあります。

フィードバックの方法:
課題制作物は合評時に採点し、基本的には当日返却を予定しています。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題作品	70	課題作品 撮影や編集の技術力と理解度、表現力により評価する
プレゼンテーション	10	プレゼンテーション 作品など成果発表時に自己表現力の度合いを評価する
授業への積極的参加度	20	授業への積極的参加度 積極的に授業に参加し、写真表現物に対する自己の見解が述べられるか等を評価する

教科書:　授業中に指示。

参考書:
「写真図解でわかりやすい まりこ先生が教える イチバンやさしい写真の教室」
山本まりこ著　株式会社インプレス刊

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応

517701～03

イラスト表現演習

森田　　麻祐子

授業テーマ:　自分の表現を見つける

授業の概要:　イラストレーションは視覚的に伝える手段として有効です。この授業では、「静」、「動」、「場面」と、3つの項目に分けてイラストレーション表現を試みます。
手作業で制作するため、鉛筆、ペン、彩色画材、クロッキー帳などの画材道具が必要となります。

到達目標:　観察力を養い、表現技術を高める。
得意な表現を伸ばす。

授業方法:　実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「静」 静物クロッキー	クロッキー帳（生協で購入できます）、鉛筆、ペンを用意しておく。
2.	線画 1で描いたクロッキーをもとにペンでイラストレーションを描く。	前回のクロッキーで足らない部分を描き足しておくこと。
3.	描画 写真を元にして植物の彩色イラストレーションを描く。	使用する画材についての知識を深めておく。
4.	線画 写真を元にして、食物のイラストレーションをペンで描く	食物のクロッキーをしておく。
5.	描画 写真を元にして、食物の彩色イラストレーションを描く。	色の三属性や、配色バランスについて知識を深めておく。
6.	「動」 人物クロッキー	人物クロッキーをしておく。
7.	線画 1で描いたクロッキーをもとにペンでイラストレーションを描く。	前回のクロッキーで足らないポーズを描き足しておくこと。
8.	描画 写真を元にして人物の彩色イラストレーションを描く。	使用する画材についての知識を深めておく。
9.	線画 動物あるいは人物が動いている様子をイラストレーションに起こす。	ひとつの動作を3コマほどで描いてみる。
10.	描画 9で描いた絵に彩色する。	同じ色が再現できるようにしておく。
11.	「場面」 パースの描き方を習得する。	建物および屋内のクロッキーをしておく。
12.	空間の中での、あるシーンをイラストレーションで表現する。 下描き1	物語の一場面をイメージしてスケッチを試みておく。
13.	空間の中でのあるシーンをイラストレーションで表現する。 彩色1	イラストレーションでその場面を伝えられているかを確認しながら進めておく。
14.	空間の中でのあるシーンをイラストレーションで表現する。 彩色2	バランスの良い配色を考える。
15.	まとめ、合評	自分の作品について、発表できるよう準備しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　イラストレーションによって「優しい」イメージや「クール」なイメージなど、いろいろなイメージを与えることができます。日頃から、書籍や雑誌のイラストレーション、絵本などを見て研究してください。また、クロッキー、スケッチを習慣にしてください。

フィードバックの方法:　課題の提出時、あるいは返却時にコメントをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30%	積極的に制作し、表現技術を習得できているかを評価する。
課題	70%	表現技術及びアイディア、画面構成力により評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対します。

517801、02

アニメーション表現演習

森　　公一

授業テーマ:　アニメーション作品の制作

授業の概要:　アニメーション作品は、言葉では伝えにくい動きの感覚や複雑な感情を視聴者に与えてくれます。それは映画創世記の切り絵アニメーションの時代から、今日のデジタル技術を活用したアニメーションに至るまで、長い歴史的変遷を経て培われた表現です。この授業では、こうしたアニメーション表現形式の多様性をふまえつつ、独自のテーマによる作品制作に挑戦します。

到達目標:　魅力的な作品を創作すること
アニメーションの特性をふまえた表現力の獲得

授業方法:　授業前半はアニメーション表現技法の習得を、後半はアニメーション作品の制作を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス	参考作品の視聴（次回以降も継続的に）
2.	撮影技法の基本	撮影技法の復習
3.	アニメーション技法１　ピクシレーション	アニメーション技法１の復習
4.	アニメーション技法２　モデルアニメーション	アニメーション技法２の復習
5.	アニメーション技法３　2Dアナログ	アニメーション技法３の復習
6.	アニメーション技法４　2Dデジタル	アニメーション技法4の復習
7.	アニメーション技法5　2Dデジタル	アニメーション技法5の復習
8.	作品の企画検討	作品の企画立案、参考作品の視聴
9.	作品の企画プレゼンテーション	企画の修正
10.	撮影または素材制作１	撮影または素材制作の続き
11.	撮影または素材制作２	撮影または素材制作の続き
12.	編集手法	編集の続き
13.	サウンドのアフレコ手法	サウンドのアフレコ
14.	プレビュー	修正
15.	完成作品のプレゼンテーション	提出

受講者へのメッセージやアドバイス:　できるだけ多くの参考作品を視聴し、独自の表現を企画してください。

フィードバックの方法:　作品の企画プレゼンテーション時や合評の際にアドバイスをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	100	作品の表現

教科書:　必要に応じて資料を配布します。

参考書:　適宜紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内で対応します。

517900 **ゲームデザイン演習**

真下　　武久

授業テーマ:　ゲーム制作の入門とプレゼンテーション

授業の概要:　授業内ではゲーム制作の入門として、簡単なコンピュータプログラムやアニメーション制作のレクチャーを行い、ゲームのプロトタイプレベルの完成を目指します。授業内では進捗を見ながらゲーム制作のアイデアや技術に関するアドバイスを行います。ゲーム制作は一般的に難易度が高いので、この授業がゲーム制作をはじめるきっかけとなり、受講者が自ら必要なことを調べて企画や制作ができるようになることを目標とします。

到達目標:
・ゲームの制作に必要な技術／知識の範囲がわかる
・ゲームの制作に必要なリサーチ力を身につけることができる
・コンテンツを企画立案する技能・能力を身につけることができる

授業方法:
2:演習
演習室およびメディアサポートセンターの機材を利用した実習となります。コンピュータなどは基本的に演習室のものを利用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	オリエンテーションで紹介した周辺情報をリサーチすること
2.	ゲーム制作基礎（マウス／キーボードインタラクション）	授業内で紹介したプログラムを復習すること
3.	ゲーム制作基礎（アニメーション／文字表示）	授業内で紹介したプログラムを復習すること
4.	ゲーム制作基礎（音声／BGM再生）	授業内で紹介したプログラムを復習すること
5.	ゲーム制作基礎（ヒットテストと分岐）	授業内で紹介したプログラムを復習すること
6.	ゲーム制作基礎（調整／デバッグ）	企画立案をしてくること
7.	ミニゲームの作成	ミニゲームを企画立案し、形にすること
8.	ミニゲームの講評	他者のアイデアや方法を復習すること
9.	ゲームの企画立案（立案）	企画立案をまとめてくること
10.	オリジナルゲームのプロトタイプ制作	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
11.	オリジナルゲームのプロトタイプ制作（中間チェック）	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
12.	オリジナルゲームのプロトタイプ制作	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
13.	オリジナルゲームのプロトタイプ制作	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
14.	オリジナルゲームのプロトタイプ制作	オリジナルゲームの制作を進めておくこと
15.	プレゼンテーション（実演／講評）	他者のアイデアや方法を復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:　好奇心を持って授業に参加してください。

フィードバックの方法:　授業内で講評を行い、学生間の作品のアイデアや方法を共有できるようにします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
制作したゲームの完成度	50%	必要な技術／知識の範囲の理解度の評価
制作したゲームのプレゼンテーション	50%	コンテンツを企画立案する技能・能力の評価

2回以上の無断欠席、あるいは最終プレゼンテーションに不参加の場合は原則単位取得を認めません。

教科書:　なし

参考書:　授業内で紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（mashimo@seian.jp）、授業の前後に教室内で対応

518001、02

エディトリアル・ブックデザイン演習

高木　　毬子

授業テーマ:　ストーリーテリングと本のデザイン

授業の概要:　グラフィックデザインの分野でも本の装幀はコンプレックスなデザイン課題です。文字、画像、配色、レイアウトなどを扱う平面設計を超えて、本のデザインは一つのオブジェクトを作り出すことでもあります。
この授業では、表す内容の編集（執筆、コンテンツのまとめ）に始まり、話の展開をページのレイアウトに訳し、紙を選び、印刷そして製本します。
基になるテーマは、各学期の初めに紹介します。またテーマを合わせて、海外の大学とのコラボレーションも検討しています。
2018年の課題は、『ドイツという国は…』です。

到達目標:
・テーマに関心を持ち、個々の考え方に基づきコンセプトを展開する。
・テーマに、そして自らのスキル・長所に合わせてデザインスタイル、そしてデザインツールを選択する。
・ストーリーを考え出す想像力とアイデアをビジュアル化する創造力をつなげる。

授業方法:　前半では、各回の授業テーマに沿った概説と課題制作を授業内に行います。後半では、主に課題作品のフィードバックをおこないます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション：エディトリアル・ブックデザインについて／今学期のテーマ	デザインが優れている本、デザインが衰えている本を一冊ずつ選び次の授業に持参ください。デザインの長所と欠点を述べてください。
2.	本のデザイン構造：本とページの各部の名称	『ドイツという国は…』今学期の実習課題に関する5つのテーマ案となる物を調べ、3分のプレゼンテションを準備してください。
3.	受講生によるプレゼンテーション、フィードバック	研究、テーマの発展
4.	タイポグラフィ：書体のスタイル別の分類、テーマに合った書体の選び方	ムードボード（15つの図・写真・イラストなど、雰囲気に応用する書体スタイル（和文と欧文）、色彩）
5.	受講生によるムードボードのプレゼンテーション、フィードバック	アイデアのまとめ1：テーマの概要、コンテンツのあらすじ、デザインのスタイル
6.	InDesign：本の寸法、マージン、グリッド	自らの本の寸法・ページの企画
7.	受講生によるプレゼンテーション （アイデアのまとめ1：テーマの概要、コンテンツのあらすじ、デザインのスタイル、本の寸法）	研究、アイデアのリファイン、コンテンツ作りを続ける
8.	InDesignでのレイアウト設定：共通アイテムの配置（マスターページ、文字スタイルと段落スタイル）	研究、アイデアのリファイン、コンテンツ作りを続ける
9.	図・イラストレーション・写真	研究、アイデアのリファイン、コンテンツ作りを続ける
10.	受講生によるプレゼンテーション （アイデアのまとめ2：テーマの概要、コンテンツのあらすじ、書体選び・図のスタイル、ページの企画）	見開きで5ページを一つのデザインコンセプトに基づいて製作します
11.	レイアウト・紙・印刷・製本	見開きで計10ページを一つのデザインコンセプトに基づいて製作します
12.	課題製作 の進行：デザインに関するディスカッション・フィードバック	前付け、表紙、カバーと帯のレイアウト
13.	課題製作 の進行：デザインに関するディスカッション・フィードバック	デザインのリファイン
14.	課題製作 の進行：デザインに関するディスカッション・フィードバック	作品の仕上げ
15.	プレゼンテーションと講評	作品とプロジェクトのプレゼンテーションとドキュメンテーションの提出

受講者へのメッセージやアドバイス:　興味を持って様々なデザインを見たり、集めたりしてください。質問がありましたら、声をかけてください。

フィードバックの方法:　個々の提出物（宿題と課題の作品）に対して教室でまとめてフィードバック・解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加	20	宿題のプレゼンテーション、積極的に授業に参加し、他の受講生にもフィードバックしているのかを評価します。
デザインに関する理解度	20	フィードバックを基にして自らのプロジェクトを進行、そしてリファインしているかを評価します。
課題制作における完成度	60	課題制作における完成度（アイデア、表現力・デザイン、仕上げ）を評価します。

教科書:　なし

参考書:　授業内でテーマ・進度に合わせて紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の後に教室内で対応

518100

エクスペリエンスデザイン演習

井登　　友一

授業テーマ:

インターネットによってあらゆる製品やサービスがつながり、わたしたちをとりまくデザイン体験が『さわれるモノ』のデザインから、『さわれないモノ』をも含む広い範囲に拡張している昨今の世の中において、価値がある、あるいは価値を生む顧客の包括的体験をデザインする考え方として注目を集めつつある『エクスペリエンスデザイン』(ユーザーエクスペリエンスデザイン
※以降講義内では"UXデザイン"と略称します)についての概念理解と、受講生自身が今後エクスペリエンスデザイン的な発想で製品やサービス、ひいては目に見えない『コト』を企画発想していくための基礎素養を身につける。
あわせて講義後半ではエクスペリエンスデザインの拡張概念でもある『サービスデザイン』についても言及する。

授業の概要:

エクスペリエンスデザインおよびサービスデザインについての概要講義と事例解説、及び積極的なディスカッションを通じて講義を行います。
講義の節目には数日のワークショップ形式の実習を実施し、講義で学んだことの実地的理解を促します。
(講師以外の実務家・専門家を招いたゲスト講義も検討中)

到達目標:

1. エクスペリエンスデザイン、サービスデザインについての概念的基本理解を踏まえて、これからの製品・サービス開発にどのように応用できるか？を解釈する。
2. 概念および手法論と、それらの活用によって実社会、実業界においてどのようなインパクトを生み出せるか？説明できる。
3. グループワークを通じて、他者の考えやアイデアを尊重し、それらを反映させつつよりよい問題解決方法がデザインできる素養を身につける。

授業方法:

・スクール形式での講義
・グループおよび講師とのインタラクティブなディスカッション
・ワークショップ形式による実習(校外・校内での短時間のフィールドワークを含む)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション～『顧客経験』についての前提理解	特になし
2.	エクスペリエンスデザイン基礎概論	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
3.	『顧客ニーズ』理解についての具体的アプローチと基礎手法	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
4.	豊かな顧客理解とアイデア発想を支援するデザインツールについて	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
5.	実習:ペルソナ開発体験ワークショップ	事前課題、フィールドワーク(予定)
6.	エクスペリエンスデザイン実践論	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
7.	実習:カスタマージャーニーマップ作成ワークショップ	事前課題、フィールドワーク予定
8.	デザイン思考基礎理解	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
9.	実習:デザイン思考的アプローチを用いたサービス発想ワークショップ	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習 実習については当日詳細のインストラクションを行いますので、準備は不要です。
10.	グループ討議:エクスペリエンスデザインとは何か？事例分析と発表、討議	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
11.	サービスデザイン基礎概論	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
12.	サービスデザイン手法論	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
13.	グループ討議:サービスデザイン発想による既存製品・サービスの改善・革新の可能性について	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
14.	ゲスト講義	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習
15.	実習:サービスデザイン実践ワークショップ もしくは講義時間内テスト(レポート形式)	前回講義の復習と指定図書・トピックの予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

はじめまして。講師である私は研究者ではなく、自身も20年近くエクスペリエンスデザインの現場で実務家として多くのクライアント(企業)のイノベーションを支援している立場の人間です。
メディア創造学科という当校においても次世代のカルチャー創造やビジネス創出を担うクリエイティブ人材の育成を目指し創設された意欲的な学びの場において、これまで産業界で重要視されてきた従来型の『顧客ニーズ』重視は当然のことながら、これまでなかったイノベーティブなビジネスコンセプトやサービスアイデアを生み出すことのできる可能性を共に学びましょう。

※シラバスで設定されている授業内容については受講人数、教室形式、および講義の進行状況で変更が行われる可能性があります。

フィードバックの方法:

講義後のフォローアップ、およびメールなどでの質疑・相談受付けを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講義期間の間に2回実施するレポートでの理解度評価	70	理解進捗、および理解深度と、提起された課題に対しての網羅度合いを定性的に評価します。
通常講義時の受講態度・積極的参加度	30	講義時の受講態度、講義参加姿勢の積極性

教科書:

参考書:

「ペルソナ戦略—マーケティング、製品開発、デザインを顧客志向にする」
ジョン・S・プルーイット (著), 秋本 芳伸 (翻訳) 2007

「Research & Design Method Index -リサーチデザイン、新・100の法則」
Bella Martin (著), Bruce Hanington (著), 小野 健太 (監修), 郷司 陽子 (翻訳) 2013

「The Inmates Are Running the Asylum: Why High Tech Products Drive Us Crazy and How to Restore the Sanity」
Alan Cooper(著)2004

「THIS IS SERVICE DESIGN THINKING. Basics - Tools - Cases ― 領域横断的アプローチによるビジネスモデルの設計」
マーク・スティックドーン (著), ヤコブ・シュナイダー (著), 長谷川敦士 (監修), 武山政直 (監修), 渡邉康太郎 (監修), 2013

「誰のためのデザイン？　増補・改訂版　—認知科学者のデザイン原論」
D. A. ノーマン (著), 岡本明 (翻訳), 安村通晃 (翻訳), 伊賀聡一郎 (翻訳), 野島久雄 (翻訳) 2015

「心脳マーケティング 顧客の無意識を解き明かす」
ジェラルド・ザルトマン (著), 藤川 佳則 (翻訳), 阿久津 聡 (翻訳) 2005

「UX × Biz Book ~顧客志向のビジネス・アプローチとしてのUXデザイン」
明海 司（著), 井登 友一（著), 奥谷 孝司（著), 川田 学（著), 坂本 貴史（著), 橘 守（著), 田平 博嗣（著), 塚本 洋（著), 萩谷 衛厚（著), 原 裕（著） 2016

「ジョブ理論 イノベーションを予測可能にする消費のメカニズム」
クレイトン M クリステンセン（著), タディ ホール（著), カレン ディロン（著), デイビッド S ダンカン（著), 依田 光江（翻訳） 2017

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力、可視化
教員との連絡方法：	e-mail: inobori@gmail.com facebook messenger: yuichi inobori

518201～04　**WEBデザイン演習**

岡澤　　理奈

授業テーマ:　Dreamweaverによるウェブサイト製作

授業の概要:　Webデザインにまつわる包括的な知識を得るために、1つウェブサイトを完成させるという課題を設け、企画やコンテンツ制作そしてDreamweaverというアプリケーションをつかったHTML+CSSコーディングを行ないます。

到達目標:
1・ウェブサイトの企画書とはどのようなものかを学び、授業内で1つ完成させる。そして計画的に製作をすすめることができるようになる。
2・HTMLとCSSを使用した基本的なレイアウトのウェブサイトを1つ完成させる。そのなかで、Dreamweaver等の必須アプリケーションの技術力の向上を目指す。
3・WWWにまつわる基礎的知識と、ウェブサイトデザインにまつわる専門的な知識の学習を行い、製作するウェブサイトに反映できるようになる。
4・広く世界中に手軽に情報をつたえることのできるメディアとしてのウェブサイトの本質を理解するために、様々なウェブサイトを分析的に見られるようになる。また、Webデザインにまつわるリテラシー(著作権問題等)を向上させる。

授業方法:
5:講義/演習の混合
講義形式による、ウェブサイトの製作における基礎的な知識の習得、実技形式によるHTMLおよびアプリケーションの使用法体得、そしてそれらを統合し、自らコンセプションからディレクション、製作までこなした「ウェブサイト」を完成させるという制作課題で進めていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　授業の進め方について	
2.	Dreamweaver　基礎編　1 各種操作ウインドウについて	HTMLの復習をしておく。
3.	Dreamweaver　基礎編　2 コーディングにまつわる操作	
4.	Dreamweaver　基礎編　3 レイアウトにまつわる操作、CSSの基礎知識	
5.	Dreamweaver　基礎編　4 レイアウトにまつわる操作、CSSの活用	前週わからなかったことがあった場合は復習しておく。ウェブサイトに掲載するコンテンツを制作する。
6.	関連アプリケーション1　IllustratorによるデザインとWEB用書き出し	アプリケーションの基礎的な使い方などの技術的な面で不安な部分は復習しておく。
7.	関連アプリケーション2　PhotoshopによるデザインとWEB用書き出し	企画書を作成しはじめておく。
8.	関連アプリケーション3　動的コンテンツをつくるために　javascriptとの連携	企画書の完成に向けて製作を進める。
9.	課題製作1　ウェブサイトをひとつ完成させる　企画書を完成させプレゼンテーションする	授業内で提示された条件を理解し、ウェブサイトの企画書を完成させておく。
10.	課題製作2　企画書に基づき画面デザインを行う1	
11.	課題製作3　企画書に基づき画面デザインを行う2	
12.	課題製作4　企画書に基づきコーディングを行う1	合評時に間に合うように制作を進める。
13.	課題制作5　企画書に基づきコーディングを行う2　サイト制作ヒアリング	合評時に間に合うように制作を進める。
14.	課題制作6　企画書に基づきコーディングを行う3	合評時に間に合うように制作を進める。
15.	まとめと振り返り　完成サイトをサーバにアップロードし、インターネット上に公開する。合評、講評。	合評時に間に合うように制作を進める。

受講者へのメッセージやアドバイス:
手軽に世界中に情報を発信したり収集できたりするインターネット環境を使いこなす知識や経験は、現代に必須のスキルとなりつつあります。自らコンセプションからディレクション、製作までこなしたウェブサイトを1つ制作することを通じて、技術力の向上を図ります。また、制作者として情報発信に対する視点を深め、ウェブにまつわるリテラシー(著作権問題等)の学習、そしてWebデザインに欠かせない情報デザインという概念についても学びます。自らのスケジュールと照らし合わせて、授業時間内に完成できないと判断した制作物(ウェブサイト)は、授業時間外に制作場所と時間を確保して完成できるよう努めてください。
※単位認定は60点以上だが、「ウェブデザイン実務士」の資格を希望する者は、70点以上の評価を得る必要があります。

フィードバックの方法:
・レポート　コメントをつけて教室で返却する
・制作物　授業内で解説・コメント・アドバイスする
・まとめファイル　提出後、添削して後日情報メディア事務室にて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し、制作を行う態度や意欲を評価する。
制作課題提出、発表	40	到達目標2と3を踏まえ、課題の制作と提出、授業内プレゼンテーション、そしてその完成度を評価する。
企画書／レポート	20	到達目標1と4を踏まえ、ウェブサイト制作に必要な知識が深まったかや、ウェブリテラシーが向上したか等を基準として評価する。

教科書:
特にはありません。
自分に適したHTML辞書やWebデザインの基礎的な知識が得られる書籍を選んで使用して下さい。

参考書:
授業内で適時紹介していきます。HTML5&CSS3デザインブック、HTML5&CSS3標準デザイン講座。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール、授業の前後に教室内で対応

518301、02

3DCG演習

下西　　紀子

授業テーマ:
3DCGの基礎的な知識、技術の習得。3DCGを用いた魅力的な静止画像を作成する。

授業の概要:
3DCG(3dimension Computer Graphics)は視覚的に見えないものをコンピュータを使って可視化するひとつの技術です。視覚はコミュニケーションの重要な手段であり、さまざまな分野で3DCGは利用されています。
この演習では静止画における3DCGの基礎的な知識と技術を学ぶことを目標とします。初心者でも容易に使用できる3DCGソフト(CINEMA 4D Lite)を利用し基本的な制作プロセスを学び、課題制作を通してコンピュータを使ったビジュアライゼーションの幅を広げていきます。

到達目標:
1.3DCGの制作プロセス、操作環境が理解できる。
2.モデリングができる。(プリミティブ、スプライン、ジェネレータなどを用いて3Dオブジェクトが作成できる。)
3.マテリアル、テクスチャの基本設定ができる。
4.カメラやライトの設定ができる。
5.静止画像のレンダリングができる。
6.企画書(課題目標)を作成し、課題制作が行える。

授業方法:
この演習は実技・実験・実習の授業形態となります。
3DCGソフト(CINEMA 4D Lite)を使用し、静止画における3DCGの基礎的な知識と技術の習得を目的とします。
授業の1～7回目までは、練習課題を通して3DCGの基礎的なスキルを学びます。
8回目以降は各自の企画書にもとづき課題作品を制作します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　基本環境とオブジェクト操作	3DCGソフトの基本環境とブジェクトの操作。
2.	モデリング1　プリミティブ　マネージャの役割とパラメータの設定	プリミティブを組み合わせた基礎的なモデリングをする。
3.	モデリング2　スプライン、ジェネレータなど	スプラインやジェネレータを加え複雑な形状をモデリングする。
4.	モデリング3　ブール、デフォーマなど	ブールやデフォーマでオブジェクトを変形させる。
5.	カメラ/ライト/シャドウ/レンダリング	カメラやライティング設定で魅力的な画像にする。
6.	シェーディング1　マテリアルとテクスチャ	基本的なマテリアル設定を学び、材質感を表現する。
7.	シェーディング2　マテリアルとテクスチャ	テクスチャやHDRを利用しマテリアルの効果をアップする。
8.	企画書の確認と課題制作	企画書にもとづき制作への取り組み方を考える。
9.	課題制作	
10.	課題制作	
11.	課題制作	
12.	課題制作	
13.	課題制作	
14.	レンダリング	After Effectsを経由して最終レンダリングを行う。
15.	講評	

受講者へのメッセージやアドバイス:
各自の課題作品の企画, 制作に結びつけられるように授業の復習をこころがけて下さい。
CINEMA 4D LiteはAdobe After Effectsに付属するソフトで、初心者でも容易に3DCGにアプローチできます。
※CINEMA 4Dは学生版があり、申請すると使用期限つきですが無償で提供されます。(CINEMA 4D Liteより高機能です。)

フィードバックの方法:
企画書:教室で解説します。
課題作品:教室で解説します。
※提出物はデータ提出になりますので返却しません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
企画書	20	到達目標を踏まえた目的を設定しているかを基準とします。
課題作品	60	到達目標を踏まえた制作ができているかを基準とします。
受講態度	20	授業に参加し、到達目標を順次蓄積できているかを評価します。

教科書:
適宜資料を配布します。

参考書:
田村誠『はじめてのCinema 4D 』ビー・エヌ・エヌ新社(2017)
阿部司『CINEMA 4D★Beginners』ビー・エヌ・エヌ新社 (2013)
コンノヒロム『CINEMA 4D 目的別ガイドブック PART1—作業環境・モデリング・マテリアル・BodyPaint 3D 編 』ビー・エヌ・エヌ新社 (2014)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール(smd0701k@gmail.com)、授業の前後に教室内で対応

518401、02

3DCGアニメーション演習

下西　　紀子

授業テーマ:
3DCGアニメーションの表現技術の習得。3Dオブジェクトを用いたモーショングラフィックスを作成する。

授業の概要:
この演習では3DCGアニメーション、つまり3Dオブジェクトに動きをつける技術を学びます。また3DCGアニメーションはVFX（Visual effects 視覚効果）やコンポジット（合成）を用いて3DCGを加工、合成され完成度の高い映像作品として制作されています。3DCGアニメーションのテクニックとともに簡単なVFXやコンポジットを取り入れた映像制作を試みます。

到達目標:
1.キーフレームアニメーションの設定ができる。
2.タイムラインでアニメーションの調整ができる。
3.パスアニメーションを作成できる。
4.MoGraphを使ったアニメーションが制作できる。
5.AEのトランスフォームを使ったアニメーションが制作できる。
6.AEで簡単なVFX、コンポジットを設定できる。
7.動画のレンダリングができる。
8.企画書、絵コンテを作成し、課題制作を行える。

授業方法:
この演習は実技・実験・実習の授業形態となります。
3DCGソフト（CINEMA 4D Lite）を使用した、アニメーションの制作方法を学ぶことを目的とします。
またAdobe After Effectsを使用し、簡単なVFXやコンポジットのテクニックを学びます。
授業の1～7回目までは、練習課題を通してアニメーション制作方法を学びます。
8回目以降は各自の企画書にもとづき課題制作「3Dオブジェクトを用いたモーショングラフィックス」を制作します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　CINEMA 4D LiteとAfter Effectsの連携	CINEMA 4D LiteとAfter Effectsの連携について知る。
2.	キーフレームアニメーションとタイムライン	キーフレームアニメーションの基本設定と動きを調整する。
3.	3Dオブジェクトの作成とキーフレームアニメーション	3Dオブジェクト（テキスト）作成し、動きを設定する。
4.	After Effectsのトランスフォームとキーフレームアニメーション	After Effectsの基本機能を使って簡単なVFXやコンポジットを行う。
5.	パスアニメーションとデーフォーマ	パスに沿ってカメラを動かす。デフォーマを使って動きを作る。
6.	MoGraphを使ったアニメーション	複数のオブジェクトをMoGraphで動かす。
7.	モーショントラッキングによる3DCGと実写映像の合成	モーショントラッキングを使って3DCGと動く実写映像と合成する。
8.	企画書の確認と課題制作	各自の企画書、絵コンテにもとづき課題制作に取り組む。
9.	課題制作	
10.	課題制作	
11.	課題制作	
12.	課題制作	
13.	課題制作	
14.	レンダリング	動画のレンダリングを行う。
15.	講評	

受講者へのメッセージやアドバイス:
各自の課題作品の企画，制作に結びつけられるように授業の復習をこころがけて下さい。
CINEMA 4D LiteはAdobe After Effectsに付属するソフトで、ふたつのソフトを連動して使います。
簡単な3Dオブジェクトを使ったアニメーションですので、複雑な3Dモデリングができなくても受講できます。
※CINEMA 4Dは学生版があり、申請すると使用期限つきですが無償で提供されます。（CINEMA 4D Liteより高機能です。）

フィードバックの方法:
企画・絵コンテ：教室で解説します。
課題作品：教室で解説します。
※提出物はデータ提出になりますので返却しません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
企画・絵コンテ	20	到達目標（1，2）か（2，3）か（4）のいずれかと（5，6）を踏まえた目的を設定しているかを基準とします。
課題作品	60	到達目標（1，2）か（2，3）か（4）のいずれかと（5，6，7），（8）を踏まえた制作ができたかを基準とします。
受講態度	20	授業に参加し、到達目標を順次蓄積できているかを評価します。

教科書:
適宜資料を配布します。

参考書:
田村誠『はじめてのCinema 4D 』ビー・エヌ・エヌ新社（2017）
コンノヒロム『CINEMA 4D 目的別ガイドブック PART2—レンダリング・アニメーション・グローバルイルミネーション編』ビー・エヌ・エヌ新社 (2014)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール（smd0701k@gmail.com）、授業の前後に教室内で対応

518500

メディアアート表現演習

真下　　武久

授業テーマ:　インタラクティブな映像、音響の制作について学ぶ

授業の概要:　メディアアートは、テクノロジーを積極的に取り入れた芸術表現の分野です。メディアアートでは、視覚や聴覚だけではなく、触覚や身体感覚、空間性などを表現の要素として加え、鑑賞者の感性的体験との関わりを深く探求しています。本授業では、メディアアート作品の制作を体験し、メディアアート制作のプロセスから、新しい表現に必要とされる知識や経験を得ることを目標とします。

到達目標:
・メディアアートに必要な技術／知識の範囲の理解
・メディアアートとその周辺の分野についての理解
・制作を企画立案する技能・能力

授業方法:
2:演習
演習室およびメディアサポートセンターの機材を利用した実習となります。コンピュータなどは基本的に演習室または自身のものを利用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディアアートの最近の動向と作品紹介	オリエンテーションで紹介した周辺情報をリサーチすること
2.	メディアアート作品の習作1（映像コンテンツを考える／作る）	授業ないで紹介した内容を復習すること
3.	メディアアート作品の習作2（音響コンテンツを考える／作る）	授業ないで紹介した内容を復習すること
4.	メディアアート作品の習作3（インタフェースを考える／作る）	授業ないで紹介した内容を復習すること
5.	メディアアート作品の制作1（企画チェック）	作品の企画を行ってくること
6.	メディアアート作品の制作2（映像・音響・インタフェースを作る）	授業ないで紹介した内容を復習すること
7.	メディアアート作品の制作3（映像・音響・インタフェースを作る）	作品の制作を進めておくこと
8.	メディアアート作品の制作4（映像・音響・インタフェースを作る）	作品の制作を進めておくこと
9.	メディアアート作品の制作5（映像・音響・インタフェースを作る）	作品の制作を進めておくこと
10.	メディアアート作品の制作6（映像・音響・インタフェースを作る）	作品の制作を進めておくこと
11.	メディアアート作品の制作7（映像・音響・インタフェースを作る）	作品の制作を進めておくこと
12.	メディアアート作品の展示1（制作物を設置／動作チェックをする）	作品の修正を進めておくこと
13.	メディアアート作品の展示2（制作物を設置／動作チェックをする）	作品の修正を進めておくこと
14.	メディアアート作品の発表1	他者のアイデアや方法を復習すること
15.	メディアアート作品の発表2	他者のアイデアや方法を復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:　好奇心を持って授業に参加してください。

フィードバックの方法:　授業内で講評会を行い、学生間の作品のアイデアや方法を共有できるようにします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
メディアアート作品の完成度	100	必要な技術／知識の範囲の理解度の評価 作品を企画立案する技能・能力の評価

教科書:　なし

参考書:　授業内で紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（ mashimo@seian.jp）、授業の前後に教室内で対応

518600

現代美術演習

森田　　麻祐子

授業テーマ:　現代美術と展示

授業の概要:　現代美術とはどのような表現でしょうか。この授業では「色を用いた表現」、「線と面を用いた表現」、「写真（映像・音）を用いた表現」をもとにインスタレーションを試みます。現代美術作品の背景にあるコンセプトに倣い、観者の五感に届くような表現方法を模索してみましょう。
制作時には素材や道具が必要となります。

到達目標:　各自が制作、展示作業を行い、全員でひとつの空間を作り上げていくことを目標とします。
配布する参考資料を読み、現代美術と社会との関わりを考察します。

授業方法:　演習、実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	色を用いた表現 導入：MoMAで2008年に開催された展覧会「Color Chart：Reinventing Color, 1950 to Today」より考察	現代美術についてどのような表現があるのか調べる。
2.	チャンス・オペレーションにより色を選択し、支持体に彩色する。	授業でとりあげた作品について調べる。 画材道具を準備する。
3.	支持体に彩色完了し、自分が彩色した色について歴史や文化など起源を調べる。	色名について理解を深める。
4.	自分が彩色した色についてまとめ、レイアウトして印刷する。キャプションをつくる。	自分の調べた内容を発表できるように準備する。
5.	線と面を用いた表現 導入：現代美術の展示方法、インスタレーションについての知識を深める	インスタレーションについて調べる。
6.	糸、紐、布を用いて制作１ 空間にドローイングするような展示方法を考察する。	制作に使用する素材を準備する。 授業でとりあげた作品について調べる。
7.	糸、紐、布を用いて制作２ 空間にドローイングするような展示方法を考察する。 展示作業を開始する。	サイト・スペシフィシティについて理解を深める。
8.	展示作業を全員で行う。 「色を用いた表現」、「線と面を用いた表現」を展示する。	展示する作品、キャプションを準備する。
9.	展示作業を全員で行う。 展示空間を撮影する。	展示する作品、キャプションを準備する。
10.	合評 （搬出）	自分の作品について発表できるように準備する。
11.	「写真（映像・音）を用いた表現」 導入：写真、映像を用いたインスタレーションについての背景を考察	授業でとりあげた作品について調べる。
12.	「〇〇と思うもの」のアンケートをとり、統計をとって、上位になるものを写真あるいは映像で表現する。抽象的な内容でも写真・映像化を試みる。	どのような手法で表現するか考える。
13.	各自制作に取り組む。 展示作業を開始する。	作品のサイズ詳細を決める。
14.	展示作業を全員で行う。 空間をうまく使って全体の展示がよりよく見えるよう工夫する。 展示空間を撮影する。	展示する作品、キャプションを準備する。
15.	合評 （搬出）	自分の作品について発表できるように準備しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　現代美術は多様な表現がありますが、視覚的に受ける印象だけではなく、その背景を知るとより多くの発見があります。実際に現代美術の展示を観に行き、自分が興味を持った表現について考察を深めてください。
展示作業及び搬出作業は時間がかかります。みなで協力して進めましょう。

フィードバックの方法:　合評の際に作品、展示についてのコメントをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50%	授業に参加し、積極的に制作と展示作業を行っているかを評価する。
課題	50%	表現技術及びアイディア、見せ方の工夫を総合的に評価する。

教科書:

参考書:　『芸術展示の現象学』太田喬夫・三木順子編　晃洋書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対します。

518700

演劇表現演習

吾郷　　賢

授業テーマ:　シェークスピアを演じる

授業の概要:　シェークスピアの戯曲「リチャード三世」を演じる。全編ではなく、抜粋したテキストで全体を構成し、複数人が同じ人物を演じる。

到達目標:　仲間と協力しながら、セリフと動きを憶えて、上演出来るまでになること。

授業方法:　いわゆる、演劇の稽古をおこないます

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基礎トレーニング 身体トレーニング 読み稽古	動きやすい服装
2.	基礎トレーニング 身体トレーニング 読み稽古	動きやすい服装 セリフを憶える
3.	基礎トレーニング 身体トレーニング 読み稽古	動きやすい服装 セリフを憶える
4.	基礎トレーニング 身体トレーニング 読み稽古	動きやすい服装 セリフを憶える
5.	基礎トレーニング 身体トレーニング 読み稽古	動きやすい服装 セリフを憶える
6.	基礎トレーニング 立ち稽古	動きやすい服装 セリフを憶える
7.	基礎トレーニング 立ち稽古	動きやすい服装 セリフを憶える 動きを憶える
8.	基礎トレーニング 立ち稽古	動きやすい服装 セリフを憶える 動きを憶える
9.	基礎トレーニング 立ち稽古	動きやすい服装 セリフを憶える 動きを憶える
10.	基礎トレーニング 立ち稽古	動きやすい服装 セリフを憶える 動きを憶える
11.	基礎トレーニング 通し稽古	動きやすい服装 セリフを憶える 動きを憶える
12.	基礎トレーニング 立ち稽古	動きやすい服装 演技修正
13.	基礎トレーニング 立ち稽古	動きやすい服装 演技修正
14.	基礎トレーニング 通し稽古	動きやすい服装 演技修正
15.	最終発表	動きやすい服装 演技修正

受講者へのメッセージやアドバイス:　シェークスピアの戯曲を、声と体を使って表現します。全編はおこなわず、限られた言葉のみで構成します。セリフや動きなどを、憶える(身体化させる)必要もありますので、講義以外の時間でも、仲間と稽古(準備)をして、講義に臨んでください。
特に難しく考える必要はありません。

フィードバックの方法:　教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
最終発表	50	表現力の到達度
授業への参加度	50	授業への積極的な参加

教科書:　ウイリアム・シェークスピア　リチャード三世　ちくま文庫　松岡和子訳

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール

518800

パフォーマンス論

吾郷　　賢

授業テーマ:　近現代日本演劇史

授業の概要:　近現代の日本の演劇史を中心として講義する。各回に資料を配付する。一部、映像や、劇場見学、演劇の鑑賞も内容とする。

到達目標:　明治以降の演劇史についての知識の習得
舞台芸術の鑑賞の視座の獲得

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	演劇通史	筆記用具　ノート
2.	明治期（1）	筆記用具　ノート
3.	明治期（2）	筆記用具　ノート
4.	大正期（1）	筆記用具　ノート
5.	実際の舞台を鑑賞する 日時は、教室で伝える	筆記用具　ノート
6.	大正期（2）	筆記用具　ノート
7.	大正期（3）	筆記用具　ノート
8.	昭和初期（1）	筆記用具　ノート
9.	戦後昭和（1）	筆記用具　ノート
10.	戦後昭和（2）	筆記用具　ノート
11.	劇場見学 京都市内の劇場を見学 日時場所などは教室で伝える	筆記用具　ノート
12.	現代（1）	筆記用具　ノート
13.	現代（2）	筆記用具　ノート
14.	現代（3）	筆記用具　ノート
15.	レポート	筆記用具　ノート

受講者へのメッセージやアドバイス:　基本的には座学ですが、可能な限り、少し演技のようなものを、実際に体験しながら、勉強ができればと考えています。嫌な人は無理にしなくても結構です。教室だけでなく、実際に作品をみたり、劇場を見学したりして、歴史と現在がつながるようになればと思います。

フィードバックの方法:　教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	80	演劇史の知識を背景に、設定した個別のテーマ或いは、鑑賞した作品の批評などが理論的に説明できているかを基準とする。
授業への参加度	20	欠席を減点とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　eメール

518901、02

音楽制作演習

加藤　　雅春

授業テーマ:　現代的なエンターテインメント音楽の制作

授業の概要:　現代に於いて世界的に高く評価されているエンターテインメント音楽を題材とし、楽曲の進行上の構成、各パートの役割、グルーブ感や音色の特徴などを参考にオリジナル曲を制作する。
音楽的専門知識の習得よりも、曲作りの実体験を通して音楽作りの楽しさを味わう事に重点を置く。

到達目標:
・音楽制作用ソフトの素材を活用して、現代的なエンターテインメント音楽を作れるようになる事。
・メディア創造学科で作られるコンテンツに、オリジナル曲を提供できるようになる事。

授業方法:　音楽ソフト(Logic Pro X)を使用した授業。
ループ系音楽の手法をつかって曲をつくる方法を習得する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽制作体験　1　素材だけを使って簡単に音楽を作ってみる	コンピュータ(Mac)の基本操作を再確認
2.	音楽制作体験　2　素材の編集、組み合わせ方、など	前回の内容を再確認しておく
3.	音楽制作体験　3　素材の編集、組み合わせ方、など	前回までの内容を再確認しておく
4.	音楽制作体験　4　素材の編集、組み合わせ方、など	前回までの内容を再確認しておく
5.	短い楽曲の制作	前回までの内容を再確認しておく
6.	講評、その他補足説明	
7.	題材曲を自分の楽曲に反映させる方法　1	前回までの内容を再確認しておく
8.	題材曲を自分の楽曲に反映させる方法　2	題材曲を聴き込んでおく
9.	題材曲を基にした楽曲の制作	7～8回目の授業内容を再確認しておく
10.	講評、その他補足説明	
11.	オリジナル曲制作に向けた準備	これまでに習得した事の再確認
12.	オリジナル曲の制作　1	題材曲を聴き込んでおく
13.	オリジナル曲の制作　2	製作中の曲と題材曲をよく聴き比べる
14.	オリジナル曲の制作　3	製作中の曲と題材曲をよく聴き比べる
15.	講評、その他補足説明	

受講者へのメッセージやアドバイス:　コンピュータ(Mac)の基本操作には習熟しておいて下さい。

フィードバックの方法:　毎回、授業内で作成したファイルを提出してもらい、これによって出席、及び授業への参加度を確認し、成績評価に用いる。
また作品に対してはマナビーで個別にコメントを送る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と提出物	85	授業内容を理解し活用できたかを評価する。
制作した楽曲	15	到達目標の達成度を総合的に評価する。

教科書:　オリジナル資料へのリンクを公開

参考書:　授業時に紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール(mkato@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

518903

音楽制作演習

石上　　和也

授業テーマ:　エンターテインメント音楽

授業の概要:
・エンターテインメント音楽（おもにループ系音楽）の作曲方法について学ぶ。
・DAW音楽ソフト（Logic Pro X）を使用したオリジナル曲の制作をおこなう。

到達目標:
① エンターテインメント音楽制作の知識・技能・能力を修得すること。
② オリジナル曲の制作を通して独自の表現方法を修得すること。

授業方法:
・コンピュータ／DAWソフトLogicを使用した演習を行う。
・また演習の中で作品発表・ディスカッションをおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	曲作り体験 1　Apple Loopを使用して	予習：自分の好きな音楽をピックアップすること。 復習：Logicの使用方法を復習しておくこと
2.	曲作り体験 2　Apple Loopを使用して	復習：Logicの使用方法を復習しておくこと
3.	曲作り体験 3　Apple Loopを使用して	復習：Logicの使用方法を復習しておくこと
4.	楽曲アレンジ 1　楽器の音色、役割について	予習：自分の好きな音楽に使用されている楽器の音をよく聴いてみること
5.	楽曲アレンジ 2　楽器の音色、役割について	復習：様々な音楽を聴くこと、楽器の音をよく聴いてみること
6.	楽曲アレンジ 3　楽器の音色、役割について	復習：様々な音楽を聴くこと、楽器の音をよく聴いてみること
7.	楽曲の構成について	予習：自分の好きな音楽の構成をまとめてみること
8.	オリジナル楽曲の制作 1	復習：制作途中の楽曲をよく聴くこと。 予習：次回制作での修正箇所などをまとめておくこと
9.	オリジナル楽曲の制作 2	復習：制作途中の楽曲をよく聴くこと。 予習：次回制作での修正箇所などをまとめておくこと
10.	オリジナル楽曲の制作 3	復習：完成した楽曲をよく聴くこと。 予習：必要であれば次回合評までに修正をおこなうこと
11.	合評会	復習：他学生の作品をよく聴くこと
12.	コンペ用楽曲の制作 1	復習：制作途中の楽曲をよく聴くこと。 予習：次回制作での修正箇所などをまとめておくこと
13.	コンペ用楽曲の制作 2	復習：制作途中の楽曲をよく聴くこと。 予習：次回制作での修正箇所などをまとめておくこと
14.	コンペ用楽曲の制作 3	復習：完成した楽曲をよく聴くこと。 予習：必要であれば次回合評までに修正をおこなうこと
15.	合評会　コンペ結果発表	復習：他学生の作品をよく聴くこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　制作した作品に対してのコメント。制作中のアドヴァイス。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60	積極的に授業に参加し、到達目標①を評価する。
課題制作発表	40	作品制作発表で、到達目標②を評価する。

教科書:　コピーにてオリジナル資料配布

参考書:　授業時に紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

519001～03　**サウンドデザイン演習**

和氣　　早苗

授業テーマ:　デジタル音響の基礎，録音技術，サウンド編集

授業の概要:　デジタル音響についての実践（録音技術や加工編集技術）、また音の高さ、大きさ、音色とは何であるか等音響の基礎物理はも解説を行いながら知識を得る。様々なサウンドデザイン事例を紹介すると共に、アニメーション作品におけるサウンドをアナリーゼすることで、サウンドデザインの考え方やアプローチを知る．最終的には自身でアニメーションのサウンドデザインを実施する。

到達目標:
①録音技術の習得
③サウンドデザインの実践およびサウンド作成技術の習得
②基本的な音の物理の理解

授業方法:
講義および演習の組み合わせ
1～10回までは演習中心に解説も行う。11回目は実技試験を予定している。13～14回は講義形式にて実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音を聞こう ～ サウンドスケープ ～ 録音	
2.	マイク解説、録音解説および録音実習	録音課題の実施
3.	録音実習および録音講評	
4.	サウンドデザイン	
5.	実習と解説：音の加工と編集①（オーディオ編集，シンセサイズ）	最終課題に向けての構想を練る
6.	実習と解説：音の加工と編集②（映像に対するサウンドの編集）	最終課題に向けての構想を練る
7.	実習と解説：音の加工と編集③（MIDIレコーディング，オーディオレコーディング）	最終課題への取り組み
8.	実習と解説：音の加工と編集④（曲をつくる）	最終課題への取り組み
9.	実習と解説：音の加工と編集⑤（サウンドアナリーゼ）	最終課題への取り組み
10.	講演：サウンドデザインの実際（予定）	実技試験へ向けての復習
11.	実技試験	最終課題への取り組み
12.	実習：自主制作時間	最終課題への取り組み
13.	講義：音の物理（波形、周波数とピッチ、正弦波、可聴域）	最終課題への取り組み
14.	講義：周波数と音楽、音色（音階と周波数、音律、周波数スペクトルと音色）	最終課題への取り組み
15.	最終課題講評	

受講者へのメッセージやアドバイス:
サウンドを作り出す側、扱う側に立つときに必要となる基礎技術と考え方を習得します。音響機器（ハードおよびソフト）の扱い等が含まれます。

フィードバックの方法:
録音課題については口頭でコメントを返します。最終課題については講評会にて個別に評価を口頭で伝えます。欠席者等についてはメールにて個別に評価を伝えます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への出席、態度および提出物	20	出席回数、授業態度および提出物の数
実技試験	40	実技試験の得点
最終課題	40	最終課題の得点 （ただし，各採点要素には必要最低点があり，また，採点比率も平均点等に準じて変動する可能性がある）

教科書:　指定しない

参考書:
中村健太郎 「音のしくみ」 ナツメ社
日本音響学会編 「音のなんでも小事典」 講談社ブルーバックス

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:
Eメール（ swake@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

519100

音楽表現論

石上　　和也

授業テーマ:

授業の概要:　音楽表現の歴史、技法、音楽ジャンルの特徴等について総合的に学ぶ。

到達目標:
●音楽表現の歴史や特徴に関する知識の習得。
●情報技術・メディアの発達と音楽表現の関係について理解する。

授業方法:　詳細は各回の授業内容欄に記載

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽表現の歴史その1	受講前に様々なジャンルの音楽（Youtube、CD等から）を聴くように心がけること。
2.	音楽表現の歴史その2	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
3.	音楽表現の歴史その3	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
4.	音楽表現の歴史その4	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
5.	音楽表現の歴史その5	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
6.	音楽表現の歴史その6	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
7.	音楽表現の歴史その7	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
8.	音楽表現の歴史その8	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
9.	音楽表現の技法その1	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
10.	音楽表現の技法その2	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
11.	音楽表現の技法その3	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
12.	音楽表現の技法その4	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
13.	音楽表現の現在その1	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
14.	音楽表現の現在その2	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。
15.	まとめ	受講前に、前回学習した内容の復習をおこなうこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物（レポート、質問用紙）ごとにコメントをつけて返却、もしくは授業内で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点（出席及び授業態度、積極的参加度）	70	積極的に授業に参加し、到達目標「音楽表現の歴史や特徴に関する知識の習得」や「情報技術・メディアの発達と音楽表現の関係について理解する」ことができているかを評価する。
レポート	30	到達目標「音楽表現の歴史や特徴に関する知識の習得」や「情報技術・メディアの発達と音楽表現の関係について理解する」に関するまとめの仕上がり度合いと、それぞれの評価についてどの程度独自の視点があるのかを基準とする。

教科書:　プリント配布

参考書:　授業内で適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

519200

アニメーション表現論

森　　公一

授業テーマ:　アニメーション作品の表現分析

授業の概要:　アニメーション作品は、現代の日本文化の一翼を担う表現ジャンルであるとともに、私たちの精神に強い影響を及ぼすメディアだと言えるでしょう。本講義では、こうしたアニメーション作品の表現の多様性（形式的、テーマ的、歴史的、文化的）をふまえつつ、いくつかの重要な作品の表現分析を行います。具体的には、日本および世界のアニメーション作品の中から、表現形式や表現内容に関する際だった特徴をもつ作品を取り上げ、各作品におけるテーマ・コンセプトや表現手法の分析を行い、作品批評のための基礎的な能力を養います。作品を受動的に鑑賞する立場から、表現者（制作者または批評者）の立場へと、意識転換を促します。

到達目標:　アニメーション作品における表現の多様性についての理解
作品を分析する方法、批評する能力の獲得

授業方法:　講義形式で進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス	
2.	映像原理としてのアニメーション	授業内容と関連のある作品を視聴する
3.	日本アニメの系譜1	授業内容と関連のある作品を視聴する
4.	日本アニメの系譜2	授業内容と関連のある作品を視聴する
5.	アニメーション作品の形式分析1	授業内容と関連のある作品を視聴する
6.	アニメーション作品の形式分析2	授業内容と関連のある作品を視聴する
7.	世界のアニメーション表現1　ソビエト	授業内容と関連のある作品を視聴する
8.	世界のアニメーション表現2　チェコ	授業内容と関連のある作品を視聴する
9.	世界のアニメーション表現3　チェコ	授業内容と関連のある作品を視聴する
10.	世界のアニメーション表現4　西ヨーロッパ	授業内容と関連のある作品を視聴する
11.	世界のアニメーション表現5　カナダ	授業内容と関連のある作品を視聴する
12.	アニメーション作品の批評	授業内容と関連のある作品を視聴する
13.	3DCGアニメーション	授業内容と関連のある作品を視聴する
14.	インタラクティブなアニメーション表現	授業内容と関連のある作品を視聴する
15.	まとめ	試験にむけて振り返り学習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　できるだけ多くの作品に触れて視野を広げてください。また一つの作品を何度も鑑賞し、分析力を養ってください。

フィードバックの方法:　リフレクションペーパーの内容から抜粋し、次回授業にてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	表現に関する理解度や作品の分析批評力
リフレクションペーパー	20	授業内容理解度や授業参加の積極性

教科書:　適宜資料を配布します。

参考書:　『アニメーション学入門』津堅信之　平凡社新書
『スタジオジブリ絵コンテ全集』宮崎駿　徳間書店
『シュヴァンクマイエルの世界』ヤン・シュヴァンクマイエル　国書刊行会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業終了後に対応します。

519300

ゲームデザイン論

井上　　明人

授業テーマ:

我々の日常にはさまざまな「ゲームのようなもの」が潜んでいる。たとえば、受験勉強をゲームのように楽しむ人もいれば、料理をゲームのように楽しむ人もいる。しかしながら、こういったものごとは一部の人には楽しいが、そうでない人にはまったく楽しくなかったり苦痛に思えたりするようなものになっている。
なぜ、似たようなことがまったく別の印象をもたらすのだろうか？ゲームのデザインについて考えるということはこういった経験が立ち現れるプロセスを分析的に考えるということにほかならない。
本講義では、体験のプロセスの「設計」というものを考える視座を養い、経験の設計について言語化できるような能力を養ってほしいと考えている。

授業の概要:

本講義ではアナログゲームの設計をすることを通して、経験の設計について考えてもらう。
授業前半では、さまざまなゲームを経験し、着想を広げていく。そのうえで、ゲームのアイデアを出し、絞りこんでゆく。
授業中盤から後半にかけては、絞り込んだゲームのアイデアを具体化していき、アナログゲームの試作品を制作してもらう。
そして、試作品のテストプレイを4回ほど実施し、ゲームを設計するときに何がうまくいき、うまくいかないかということを経験してもらいたい。
また、これらの経験を言語化するための通常講義では、ゲームについて考えるためのさまざまな視座を提供していく。

到達目標:

（1）ゲームを分析的に考える視座を身につけること
（2）アナログゲームを実際に試行錯誤しながら試作すること

授業方法:

講義が9回、演習が6回となる。うち4回は受講生自身が作成したゲームのテストプレイを通して、ゲームデザインについての知見を深めていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概論	なし
2.	ルールをつくるゲーム「ミニマムノミック」を遊ぶ	前回授業で挙げたゲームを1個以上遊んでおくこと
3.	さまざまなアナログゲーム	ミニマムノミックの面白かったポイントについて自分の言葉で言語化をしておくこと
4.	アイデアをつくる：EMSモデル	アナログゲームの面白かったポイントについて自分の言葉で言語化をしておくこと
5.	ルールをつくる：チャンキングメソッド	ゲームのイメージ図を複数枚作成する。
6.	テストプレイと相互評価（1）	テストプレイ用ゲームの準備
7.	「よいルール」はあるのか？：MDAモデル	テストプレイの課題点をまとめてリスト化しておく。
8.	シチュエーションをつくる：「クイズゲーム」を例に	ゲームの解説ドキュメントを作成する。
9.	テストプレイと相互評価（2）	テストプレイ用ゲームの準備
10.	焦点の制御	テストプレイの課題点をまとめてリスト化しておく。
11.	誰も成功させていないゲームデザインを作れるか？	ゲームの解説ドキュメントに図表を加える
12.	テストプレイと相互評価（3）	テストプレイ用ゲームの準備
13.	ゲームの社会応用	テストプレイの課題点をまとめてリスト化しておく
14.	「ゲーム」とはどのような現象なのか？	ゲームのテストプレイ風景の動画を撮影しておく
15.	テストプレイと相互評価（4）	テストプレイ用ゲームの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

本講義は、かなりの時間を受講者同士の話し合いの時間が占める。ほとんどの受講者にとっては負担というよりは、どちらかというと楽しいものだろうと考えられるが、話し合いながら考えるのが苦手という受講者にとっては苦手なものを克服するようなタイプの授業になるだろう。

フィードバックの方法:

テストプレイ時の受講生同士のフィードバックがもっとも濃いフィードバックとなる。
毎週の課題については、出席点的な意味合いが強いため問題のある内容については直接メールをするが、採点返却等は実施しない。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
最終課題	70%	事前に説明する所定の要素を満たした内容であるかどうか、またゲームの内容に工夫が見られるかどうかを評価する
平常点	30%	毎週の課題を提出しているかどうかを評価する。

教科書:

参考書:

井上明人『ゲーミフィケーション』（NHK出版、2012）
徳岡 正肇『アプリでボドゲ～スマホやタブレットで遊ぶ卓上ゲーム』（書苑新社、2013）
アーネスト・アダムス（著),ヨリス・ドーマンズ（著),バンダイナムコスタジオ（監修),ホジソンますみ（翻訳), 田中幸（翻訳)『ゲームメカニクス おもしろくするためのゲームデザイン 』（ソフトバンク・クリエイティブ 、2014）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

連絡用メールは下記になります。
課題提出用アドレス：akitoinoue.class@gmail.com
連絡用アドレス：akitoinoue.ac@gmail.com
なお、直接の質問等については、授業後に直接つかまえてもらえればと思います。

519400

西洋美術表現論

石谷　　治寛

授業テーマ:　西洋美術表現論

授業の概要:　美術の発生から現代まで、西洋美術の表現と歴史の骨格について理解する。絵画表現だけでなく、当時の生活や建築物などとの関係、宗教や信仰などにも注意を払いながら、美術について学ぶ。

到達目標:　古代から現代まで、西洋美術の基本的な表現とその特徴を理解する。視覚的表現を言葉にするための基本的な用語や考え方を身につける。

授業方法:　講義:教科書はカラー図版付きで、基本的な事項をコンパクトにまとめてあるので、それを使用する。出席者には作品の印象について発言が求められる。グループ学習も行う場合もある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション一美術館	
2.	原始美術と古代オリエント美術	
3.	ギリシア美術とローマ美術	
4.	中世I　初期キリスト教美術	
5.	中世Ⅱ ロマネスク美術・ゴシック美術	
6.	イタリア初期ルネサンス美術	
7.	イタリア盛期ルネサンス美術	
8.	バロック・ロココ美術	
9.	近代Ⅰ新古典主義・ロマン主義	
10.	近代Ⅱ現実主義・印象主義	
11.	近代Ⅲデザイン	
12.	現代Ⅰ20世紀の新しい動き	
13.	現代Ⅱ戦後の美術	
14.	現代Ⅲコンセプチュアル・アート	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　視覚中心の授業ですが、見たものを言葉にする訓練を通して、理解と認識を深めていきます。美術館に行くや映画を観るなど、積極的に視覚表現に触れてみましょう。

フィードバックの方法:　提出物についてのフィードバックは教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中の提出物	75	授業中に用意する課題に対して採点する。
レポート	25	課題に沿って、美術館やギャラリーに訪れて作品について調べる。

教科書:　カラー版『西洋美術史』高階秀爾監修, 美術出版社, 1900円

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の後に個別に対応する。

519500

現代哲学・メディア思想

富田　　大介

授業テーマ:
現代の哲学者や思想家、また人類学者の考えを手掛かりに、人間が物をつくる時の身体の役割や、種々のメディアで表される身体（像）について、議論・考察する

授業の概要:
この授業では、映像を撮ったり絵を描いたり物を書いたりする際のからだの働きやそのリズムについて、また映像や写真、絵画、書物などに表象・記述されるさまざまな身体表現を取り上げて、議論と考察を行います。授業の形態は、講師の講話から、参加者間のディスカッション、また時にみなでからだを動かすワークショップを織り交ぜたものになります

到達目標:
授業で取り上げた考え方や見方を、作品や活動の理解に適用することができる。またそれらを自身の制作に応用することができる

授業方法:
講話、ディスカッション、ワークショップ

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：授業の進行や参加者の関心などについて話し合います。またピエール・ブルデューの「（身体化された形態の）文化資本」や「ハビトゥス」の考え方を紹介し、議論します。	シラバスを通読し、この授業で教員とともに行ってみたいことを想像してくる
2.	講義とともにワークショップを行うことによって、「身体感覚」や「自己受容感覚」についての知を得る	1回目の授業で伝えた参考文献の該当箇所を読んでくる
3.	絵画と身体1：アンリ・マルディネやミケル・デュフレンヌらのフランス現象学と「美的経験」、ならびにモーリス・メルロ＝ポンティの「肉」という考え方について。ポール・セザンヌの絵画	2回目の授業で伝えた参考文献の該当箇所を読んでくる
4.	絵画と身体2：アントナン・アルトーやジル・ドゥルーズの「器官なき身体」という考え方について。フランシス・ベーコンの絵画	3回目の授業で伝えた参考文献の該当箇所を読んでくる
5.	踊りと身体、文章と身体：宇野邦一が解釈する土方巽の「衰弱体」という考え方について。土方巽の舞踏	4回目の授業で伝えた参考文献の該当箇所を読んでくる
6.	見ることと踊ること、映像と身体	5回目の授業で伝えた参考文献の該当箇所を読んでくる
7.	これまでの復習と授業内レポート	6回目までの授業内容を思い出してくる
8.	レポートの振り返りと質疑応答（制作に活かせそうな考え方の共有など）	自分がレポートに書いたことを細かく思い出してくる
9.	見る／見られる関係についてのワークショップ	見ることと見られることについて考えてくる
10.	パフォーマンスにおける身体の役割：身体の政治性、宗教性。マリーナ・アブラモヴィッチのパフォーマンス	9回目の授業で伝えた参考文献の該当箇所を読んでくる
11.	絵画と身体3：「肖像」を描くこと。線とともに立ち現れる世界。ジャン＝リュック・ナンシーの思考	10回目の授業で伝えた参考文献の該当箇所を読んでくる
12.	作るということ1：「持続（durée）」や「ラインの制作（line-making）」について。アンリ・ベルクソンやティム・インゴルドの思考	11回目の授業で伝えた参考文献の該当箇所を読んでくる
13.	作るということ2：「複数の線（lines）」について。ティム・インゴルドの思考	12回目の授業で伝えた参考文献の該当箇所を読んでくる
14.	総復習と授業内レポート	13回目までの授業内容を思い出してくる
15.	レポートの振り返りと質疑応答（制作に活かせそうな考え方の共有など）、ならびに総まとめ	自分がレポートに書いたことを細かく思い出してくる。また、これまでの授業を振り返って、自身の制作に活かせそうな点を考えてくる

受講者へのメッセージやアドバイス:
教養としての哲学・思想もさることながら、何か物を作っている人に刺激を与えることのできる哲学・思想の授業でありたいと思っています。制作している人はぜひ受講してみてください

フィードバックの方法:
授業内で解説、講評します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	60	授業中の様子や発言、およびリアクションペーパー（コメントシート）の質をもとに判定します
レポート	40	2回のレポート各20の割合で評価します

教科書:
とくに指定しません

参考書:
ピエール・ブルデュー著（石井洋二郎訳）『ディスタンクシオン 社会的判断力批判 1・2』、藤原書店、1990年
富田大介編著『身体感覚の旅 舞踊家レジーヌ・ショピノとパシフィックメルティングポット』、大阪大学出版会、2017年
富松保文訳・注（メルロ＝ポンティ著）『メルロ＝ポンティ『眼と精神』を読む』、武蔵野美術大学出版局、2015年
ジル・ドゥルーズ著（宇野邦一訳）『フランシス・ベーコン 感覚の論理学』、河出書房新社、2016年
宇野邦一著『土方巽 衰弱体の思想』、みすず書房、2017年
三浦哲哉著『映画とは何か フランス映画思想史』、筑摩書房、2014年
伊藤亜紗著『ヴァレリーの芸術哲学、あるいは身体の解剖』、水声社、2013年
Marina Abramovic, Seven Easy Pieces, Charta, 2007
ジャン＝リュック・ナンシー著（岡田温司・長友文史訳）『肖像の眼差し』、人文書院、2004年
ティム・インゴルド（工藤晋訳）『ラインズ 線の文化史』、左右社、2014年。ティム・インゴルド（金子遊ほか訳）『メイキング 人類学・考古学・芸術・建築』、左右社、2017年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
授業の前や後に尋ねてきてください（メールアドレスなどもその際に伝えます）

519600

メディア社会学

岡本　　健

授業テーマ:
自分の「好きなこと」を研究にするために必要なこと
—研究の面白さ、お伝えします

授業の概要:
・自分の興味、関心の対象を、いかに研究として扱うことが可能かを解説する。
・学問的なバックグラウンドとして、社会学、メディア学、観光学などの理論をふまえながら、メディア・コンテンツの分析方法とその結果を示していく。
・理論系の学びを進めていく際の入門的科目である。

到達目標:
・自らの興味、関心を研究にする際の方法論を身に付ける
・社会とメディアの関係性について理解する
・社会学やメディア学の理論（マスメディア、カルチャー、ビジネス、エンターテイメントなど）を知る
・具体的な作品を分析する手法を身に付け、その結果を文章で表現できるようになる

授業方法:
・講義である。資料の探し方やレポートの書き方などについても授業内で丁寧に解説する。
・毎回、授業冒頭に簡単な課題を発表し、授業の最後に課題に取り組む時間を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに —自分の好きなことを研究する	教科書を購入し、「はじめに」や「目次」に目を通しておく
2.	メディアと社会の関係性 —日常生活の中には研究テーマがたくさんある	自分の興味、関心のあるテーマを考えておく
3.	メディア・コンテンツと人間を捉える —研究のフレームワークを考える	教科書「第2章」を読んでおく
4.	社会やメディアに関する研究にはどんなものがあるか —先行研究を探す	教科書「第1章」を読んでおく
5.	メディア・コンテンツの歴史をたどる —現代のコンテンツの成り立ちを調べる	教科書「第3章」を読んでおく
6.	コミュニケーションメディアの発展とコンテンツの変遷 —声、文字、印刷、ラジオ、電話、インターネット、スマートフォン	教科書「第4章」の1～3節を読んでおく
7.	映像メディアの発展とコンテンツの変遷 —映画、テレビ、ビデオ、ゲーム	教科書「第4章」の4～6節を読んでおく
8.	ゲームの表象を分析する —アナログ、デジタル、アーケード、コンシューマー、アプリゲーム	教科書「第5章」を読んでおく
9.	日本のメディア・コンテンツ文化 —マンガ、映画宣伝、オタク、萌え、カワイイ	教科書「第6章」を読んでおく
10.	メディア表象から社会を読む（1） —キャラクター（登場人物）を要素に分解する	教科書「第7章」を読んでおく
11.	メディア表象から社会を読む（2） —虚構空間と現実空間の「時間」を考える	教科書「第8章」を読んでおく
12.	メディア表象から社会を読む（3） —描かれた「空間」や「場所」に注目する	教科書「第9章」を読んでおく
13.	虚構内存在は何をあらわしているのか —非人間と人間の相互作用から	教科書「第10章」を読んでおく
14.	メディア・コンテンツと観光 —移動社会を考える	教科書「第11章」を読んでおく
15.	まとめ —メディアと社会の関係性を考える	最終課題に向けて、これまでの学習をまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
・大学での研究は、とても面白いものです。自分の好きなことをテーマにして学びを進めることが出来ます。
・本講義では、知識や情報を皆さんに提供するのはもちろん、大学での今後の学びに役立つスキルもお伝えします。
・受講生各自の研究テーマ（最終課題）について、日々情報を収集し、本や論文を読んでください。その探し方や扱い方についても講義内で説明します。
・初回授業時に毎回の授業の進め方や最終課題の問題を発表しますので、各自のペースで学びを進めることができます。

フィードバックの方法:
・提出された『リアクションペーパー』の内容を次の回の冒頭に紹介し、解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
簡単な毎回の授業課題『リアクションペーパー』	60	課題に対して回答できているか
授業の目標を達成できているかを確認する『最終課題』	40	具体的な作品を分析する手法を身に付け、その結果を文章で表現できているか

教科書:
岡本健『ゾンビ学』人文書院、2017

参考書:
藤竹暁『図説 日本のメディア』NHK出版、2012
岡本健・遠藤英樹『メディア・コンテンツ論』ナカニシヤ出版、2016
土橋臣吾・南田勝也・辻泉『デジタルメディアの社会学（第3版）』北樹出版、2017
神田孝治・遠藤英樹・松本健太郎『ポケモンGOからの問い』新曜社、2018
藤田直哉『新世紀ゾンビ論』筑摩書房、2017
山田奨治『マンガ・アニメで論文・レポートを書く』ミネルヴァ書房、2017
小山昌宏・玉川博章・小池隆太『マンガ研究13講』水声社、2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:
リアクションペーパー、マナビーの掲示板機能を利用、授業の前後に教室内で対応

519700

コーパス演習

田畑　　智司

授業テーマ:　Digital Humanities, Distant Reading, データサイエンス

授業の概要:　コーパスからいかにして有用な情報を取り出すか，様々な手法を使えるようにする。

到達目標:　情報メディアとしてのコンピュータ、加えて最近ではiPad/iPhone, Kindle等に代表されるモバイル・デバイスの爆発的な普及により、文書・資料の電子化が急速に進み、ボーンデジタルのデータは増加の一途を辿っている。これにともない、膨大なテクストデータの中から有益な情報を効率的に抽出するための情報解析技術の開発が学界のみならず産業界においても求められている。大規模なデジタルテクストデータの出現は、従来の人文学の理論・方法論や枠組みの再編を余儀なくしただけでなく、情報工学、統計数理学、行動科学など関連領域の知見を統合した新しい人文学"Digital Humanities"を生み出した。本講義では様々なタイプのテクストデータベースを吟味しつつ、Digital Humanitiesの諸アプローチについて解説する。受講者には膨大な量のテクストデータの背後にどのようなパターン、現象の法則性があるのかを読み解くリテラシーを身に付けてもらいたい。

授業方法:　講義＋ハンズオンセッション：ハンズオンセッションではフリーのデータ解析パッケージRの基礎の基礎からはじめ、テクストデータベース処理のための基礎～中級テクニックのエクササイズをまず行う。最終的には、テクストマイニングの手法を実際に使って、データベースからどのようにして情報を掘り起こし可視化するかという一連のスキルを身に付けてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義ガイダンス：コーパスとは何か	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
2.	テクストデータベース基礎編(1): コーパスとは?	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
3.	テクストデータベース基礎編(2): アメリカ大統領演説230年の推移を視覚化する	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
4.	テクストデータベース基礎編(3): 総理大臣所信表明演説を計る	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
5.	テクストデータベース基礎編(4): Twitter等SNSのデータをネットワーク分析	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
6.	第一部まとめ	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
7.	テクストデータベース実践・応用編(1): トピックモデリング・導入編1	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
8.	テクストデータベース実践・応用編(2): トピックモデリング・導入編2	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
9.	テクストデータベース実践・応用編(3): 大規模コーパスをトピックモデリングで分析する1	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
10.	テクストデータベース実践・応用編(4): 大規模コーパスをトピックモデリングで分析する2	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
11.	テクストデータベース実践・応用編(5): word2vecでビッグデータを視覚化1	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
12.	テクストデータベース実践・応用編(6): word2vecでビッグデータを視覚化2	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
13.	テクストデータベース実践・応用編(7): text2vecでビッグデータを視覚化	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
14.	第二部まとめ・発表(1)	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。
15.	第二部まとめ・発表(2)	1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。 2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　1. iMacやMacBook (Air/Pro含む)など，macOSを搭載したコンピュータの操作に慣れておくこと。できればmacOSは最新ヴァージョンにアップデートしておいてください。
2.授業中のハンズオンセッションで行った内容を一通り繰り返し，次の単元で行うデータ分析に備えておいてください。

フィードバックの方法:　毎回の授業はインタラクティブな形式をとるので，即時にフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	普段の授業への取り組み	50	
	学期末試験またはリポート	50	授業で紹介したコーパスマイニングの手法を自分で再現できるようになっているかどうかが評価基準となります。 5回以上の欠席・遅刻があれば単位認定しないので、この点留意願いたい。

教科書: 石田 基広, 『Rによるテキストマイニング入門』森北出版; 第2版 (2017/6/28)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法: マナビ―の掲示板機能、Eメール（tabata@lang.osaka-u.ac.jp ）、授業の前後に教室内で対応

519800

ソーシャルメディア論

岡本　　健

授業テーマ:
人、モノ、場所の「つながり」や「社会性」を考える　―ソーシャルメディアと産業、文化、観光、社会

授業の概要:
・メディアに関する学びの導入的科目である
・私たちが暮らしている社会におけるソーシャルメディアについて多角的に分析していく
・メディア産業やメディア文化、観光メディアの現状や課題について論じる
・これを通じて、単にソーシャルメディアを対象とするだけでなく、様々なものがソーシャル化している現代社会について考察できる視座を獲得する

到達目標:
・メディア（マス、ソーシャル、パーソナル）の発達と社会事象との関連の仕方を学ぶ
・現実の社会事象を多面的に分析、考察できるようになる
・ソーシャルメディア社会における情報リテラシーを身に付ける

授業方法:
・講義である。現実社会で起こっていることについて、画像をふんだんに用いて説明する。
・毎回、授業冒頭に簡単な課題を発表し、授業の最後に課題に取り組む時間を設ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに ―ソーシャルメディアとは何か	教科書を購入し、目次に目を通しておく
2.	ソーシャルゲーム・ブラウザゲームの流行とボードゲーム ―『パズドラ』『艦隊これくしょん』『刀剣乱舞』『Pokemon GO』『Fate／Grand Order』	『ポスト情報メディア論』の該当箇所を読んでおく
3.	通信メディアの歴史 ―声、電信、電話、携帯電話、ケータイ	ネットや文献を用いて電話の歴史について調べておく
4.	ネットの拡がり ―インターネットの登場とスマートフォン	ネットや文献を用いてインターネットの歴史について調べておく
5.	テレビとラジオ ―マス・メディアの発展	『ポスト情報メディア論』の該当箇所を読んでおく
6.	ソーシャル・メディア(SNS)の登場 ―mixi、Twitter、Facebook、Instagram	『ポスト情報メディア論』の該当箇所を読んでおく
7.	人のメディア性 ―ファッション、コスプレイヤー、アイドル、就活	『ポスト情報メディア論』の該当箇所を読んでおく
8.	モノのメディア性 ―模型、廃墟、ミュージアム、ラブドール	『ポスト情報メディア論』の該当箇所を読んでおく
9.	場所のメディア性 ―ライブハウス、よさこいソーラン、コンビニ	『ポスト情報メディア論』の該当箇所を読んでおく
10.	コンテンツツーリズムの可能性と課題（1） ―アニメ聖地巡礼	『n次創作観光』の第3章を読んでおく
11.	コンテンツツーリズムの可能性と課題（2） ―コンテンツツーリズム	『n次創作観光』の第4章を読んでおく
12.	コンテンツツーリズムの可能性と課題（3） ―n次創作観光	『n次創作観光』の第5章を読んでおく
13.	コンテンツツーリズムの可能性と課題（4） ―現代観光の分析視座	『n次創作観光』の第2章を読んでおく
14.	コンテンツツーリズムの可能性と課題（5） ―不可能性の時代に可能性を探る	『n次創作観光』の第1章を読んでおく
15.	まとめ ―ソーシャルメディア化する社会を考える	最終課題に向けて、これまでの学びを振り返っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
・大学での研究は実に面白いものです。自分の身近なことを研究対象に学びを進めることが出来ます。本講義では、日々生活している中で接する社会事象をどのように分析することができるのか、その視点を提供します。
・初回授業時に毎回の授業の進め方や最終課題の問題を発表しますので、各自のペースで学びを進めることができます。
・受講生各自の研究テーマ（最終課題）について、日々情報を収集し、本や論文を読み、現実社会の出来事を注意して追うこと。

フィードバックの方法:
・提出された『リアクションペーパー』の内容を次の回の冒頭に紹介し、解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
簡単な毎回の授業課題『リアクションペーパー』	60	課題に回答できているか
授業の目標を達成できているかを確認する『最終課題』	40	現実の社会事象を多面的に分析、考察できているか

教科書:
岡本健・松井広志『ポスト情報メディア論』ナカニシヤ出版、2018
岡本健『n次創作観光』北海道冒険芸術出版、2013

参考書:
松井広志『模型のメディア論』青弓社、2017
田島悠来『「アイドル」のメディア史』森話社、2017
飯田豊『現代メディア・イベント論』勁草書房、2017
藤代裕之『ソーシャルメディア論』青弓社、2015
岡本健『コンテンツツーリズム研究』福村出版、2015
岡本健・田島悠来『メディア・コンテンツ・スタディーズ』ナカニシヤ出版、2018

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:
リアクションペーパー、マナビーの掲示板機能を利用、授業の前後に教室内で対応

519900

映像表現論

森　　公一

授業テーマ:　映像作品の表現分析

授業の概要:　19世紀末に誕生した映像技術は、およそ100年の間に数々の技術的革新を経て多様なる表現を産んできました。今やTVやインターネットにおける映像は、極めてスタンダードなコミュニケーションの手段となり、私たちの感性や思考に多大な影響を与えて続けています。一方デジタル技術の進化は、誰もが映像作品の表現者・発信者になれる能動的な状況を開きました。本講義ではこのような状況をふまえ、映像表現の先駆者たちが切り開いた多様な表現を取り上げて、その形式や内容の分析を行うとともに、これからの映像表現を切り開く基礎力を養います。

到達目標:　映像作品における表現の多様性についての理解
作品を分析する方法、批評する能力の獲得

授業方法:　講義形式で進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	映画前史と映画の誕生	
2.	物語表現のはじまりと映画文法の確立	授業内容と関連のある作品を視聴
3.	古典的ハリウッドの形式特性	授業内容と関連のある作品を視聴
4.	表現主義、印象主義、アバンギャルド	授業内容と関連のある作品を視聴
5.	モンタージュ派	授業内容と関連のある作品を視聴
6.	トーキーによる映画表現の変化	授業内容と関連のある作品を視聴
7.	ハリウッド黄金期の映画表現1	授業内容と関連のある作品を視聴
8.	ハリウッド黄金期の映画表現2	授業内容と関連のある作品を視聴
9.	日本映画黄金期の表現1	授業内容と関連のある作品を視聴
10.	広告の戦略的発想とCM	授業内容と関連のある作品を視聴
11.	公共広告におけるCM	授業内容と関連のある作品を視聴
12.	アイデアの出し方	授業内容と関連のある作品を視聴
13.	視覚的音楽としての映像表現1	授業内容と関連のある作品を視聴
14.	視覚的音楽としての映像表現2	授業内容と関連のある作品を視聴
15.	まとめ	試験にむけて振り返り学習を行うこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　多くの作品に触れて視野を広げてください。また一つの作品を何度も鑑賞し、分析力を養ってください。

フィードバックの方法:　リフレクションペーパーの内容から抜粋し、次回授業にてフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	理解度、非常力
リフレクションペーパー	20	理解度、参加度

教科書:　適宜資料を配布

参考書:
「世界映画全史」ジョルジュ・サドゥール　国書刊行会
「映画技法のリテラシー」ルイス・ジネアッティ　フィルムアート社
「スーパー・アヴァンギャルド映像術」フィルムアート社
「アート系映画徹底攻略」フィルムアート社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業後に対応

520000

ドキュメンタリー制作演習

坪井　　兵輔

授業テーマ:　映像、音声ドキュメンタリー制作、並びにルポルタージュ取材の実践

授業の概要:　課題制作を通して企画立案、リサーチ、取材、構成、編集まで活字、静止画、音声、動画の4類型のドキュメンタリー表現技法を学ぶ。

到達目標:　人の生き様に迫る報道ドキュメンタリーは制作者の社会へのメッセージです。社会の襞に潜む問題に光を当て、声をあげる事のできない当事者の想いを背負う。映像や原稿を通して社会に問いかける。怒りや悲しみ、挫折や絶望、そして克服と喜びなど取材を通して制作者に生じた「感動」の表現です。本講義ではインタビューや撮影など取材技術の習得を目的とし、自らの問題意識が投影された7分程度のショート・ドキュメンタリー制作が目標です。

授業方法:　社会を変えたドキュメンタリーの分析を中心に取材テーマを定め、実際の取材を通して表現手段としてのドキュメンタリーの可能性を追求する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ドキュメンタリー概論	作品視聴、講義
2.	ドキュメンタリー制作過程論	作品視聴、講義
3.	企画書作成	
4.	文章表現概論	
5.	写真取材概論	
6.	写真取材実践	撮影取材
7.	インタビュー取材概論	
8.	ルポルタージュ概論	インタビュー取材
9.	ルポルタージュ取材実践	ルポルタージュ取材・制作
10.	ドキュメンタリー取材実践	ドキュメンタリー取材・制作
11.	ドキュメンタリー取材実践	ドキュメンタリー取材・制作
12.	ドキュメンタリー取材実践	ドキュメンタリー取材・制作
13.	ドキュメンタリー取材実践	ドキュメンタリー取材・制作
14.	ドキュメンタリー取材実践	ドキュメンタリー取材・制作
15.	作品合評・まとめ	ドキュメンタリー取材・制作

受講者へのメッセージやアドバイス:　どう伝えるかよりも「何を伝えたいのか、伝えるべきなのか」が重要です。普段から多くのニュースに触れ、社会の動きに関心を持って下さい。
注意:授業の様式上、映像編集およびカメラ撮影の基本操作を修得済みであることが望ましい。

フィードバックの方法:　受業内で制作作品について講評します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回授業で提起する課題への取り組み	100	受業への積極的参加、制作作品の総合評価

教科書:　講師がプリントを配布

参考書:　毎回、講師が持参するドキュメンタリーを視聴。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　マナビ—の掲示板機能、Eメール(tsuboi1102@gmail.com)、授業の前後に教室内で対応

520101～03　**ドラマ制作演習**

武村　　敏弘

授業テーマ:　映像表現と映画の文法

授業の概要:　カメラで出来る表現、シナリオで考える表現、それらを合わせて映像作品をグループで行う。

到達目標:
露出・被写界深度による表現、レンズの特性を理解する。
それぞれの特色を活かした表現を個人課題で制作する。
映像の文法である位置、動き、目線を理解する。
モンタージュ論に基づくカットの構成を工夫する。
グループワークを通じ映像制作のノウハウと各パートの役割を理解する。
同じシナリオであっても設定や演出によって内容が大きく変わることを体験する。

授業方法:
前半は機材の使い方、カメラで出来る映像表現を講義・演習で行う。中盤は映像の文法と言われる約束事を講義で行う。終盤は課題のシナリオを用い映像制作の制作過程を実習し一本の作品を制作する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業概要　使用機材の基本操作	
2.	カメラで出来る映像表現1　露出	配布プリントの予習
3.	カメラで出来る映像表現2　被写界深度	配布プリントの予習
4.	露出と被写界深度を利用した演習	復習として課題提出有り
5.	カメラで出来る映像表現3　レンズ	
6.	ポートレイト演習	復習として課題提出有り
7.	カメラワークの基本	
8.	アベイラブルライティングと移動撮影	
9.	フレーミングと映画の約束事　モンタージュ	配布プリントの予習
10.	モンタージュ演習　4カット構成の小作品を撮る	モンタージュ論に即した企画コンテを作る
11.	高度なモンタージュ　課題シナリオ配布	
12.	シナリオ完成・ロケハン・香盤作成・機材準備	グループ内で内容を検討　共通認識を持っておく
13.	撮影実習1	各パート毎に担当機材のチェック
14.	撮影実習2	
15.	合評	

受講者へのメッセージやアドバイス:
ショートムービ・ミュージックビデオ・映画製作をこれからやろうとす学生の足がかりになる内容です。

フィードバックの方法:
個人課題については総評を配布・グループ制作については最終回に合評

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
個人課題	40	到達目標である露出・被写界深度・レンズの特性を理解した上で、出題テーマに即した作品が制作できているかを基準とする
グループワークによる成果物	30	グループ内でのディスカッションと自分の担当した役割の参加度を基準とする
出席を含む授業への積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、疑問点は質問等で解消し、知識・技術の習得に努めたか

教科書:　使用しない

参考書:
「アンセル・アダムスの写真術—The Negative」 岩崎美術社 (著), Ansel Adams (原著), 梅沢 篤之介 (翻訳)
「映画の文法—実作品にみる撮影と編集の技法」 紀伊國屋書店 ダニエル・アリホン (著), 岩本 憲児 (翻訳), 出口 丈人 (翻訳)
「映画術 ヒッチコック・トリュフォー」 晶文社 フランソワ トリュフォー (著), アルフレッド ヒッチコック (著)　山田 宏一 (翻訳), 蓮實 重彦 (翻訳)
「マスターショット100　低予算映画を大作に変える撮影術」　フィルムアート社 クリストファー・ケンワーシー (著), 吉田俊太郎 (翻訳)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール（ttakemur@dwc.doshisha.ac.jp ）、授業の前後に教室内で対応

520201、02

メディアエンターテインメント論

影山　　貴彦

授業テーマ:　メディアエンターテインメントにおける「華」

授業の概要:　「華」をキーワードに、エンターテインメントを主眼としたメディアの考察を行う。

到達目標:　メディアの研究を始める学生を対象に、受動的でなく能動的にメディアを捉える能力を得ることを最低限の目標として据える

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
2.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(1)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
3.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(2)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
4.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(3)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
5.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(4)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
6.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(5)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
7.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(6)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
8.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(7)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
9.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(8)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
10.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(9)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
11.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(10)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
12.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(11)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
13.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(12)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
14.	メディアの中にある「華」 ※今を捉えての講義のため、流動的内容となる(13)	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。
15.	総括および小テスト	テレビを真剣に視聴するということを前提に、能動的なメディアとの関わりを意識しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内でまとめて行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業における積極性	50%	聴く力、発言力および、出席カードへの自由記述欄の内容など
小テスト	50%	いかに講義で得たことを身に着けているかを確認する

教科書:

参考書:　「百恵讃～学生たちと先生の山口百恵」(晃洋書房)影山貴彦著

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

520300

プランニング演習

大野　　茂

授業テーマ:　メディアや広告は、世の中の課題を解決できるか？

授業の概要:　ここの授業では、コンテンツを「文化的意義」と「ビジネス・産業」としての二つの側面から分析し、それを実際に自分たちで創るという経験をしてもらいます。主な題材は放送・ SNS・広告などのメディア、加えてキャラクターやサブカルチャーも対象とします。
なお、ゲストの都合などによって、各回カリキュラムの順番が前後する場合があります。

到達目標:　コンテンツが、人々がコミュニケーションする上で、どのような意味を持ち、どのような効果を及ぼすのかを、歴史や自分の経験と照らし合わせて理解し、自分の意見を交えて説明できるようにする。

授業方法:　一般的な座学による授業に加えて、クリエーティブワークの実習も検討しています。
授業の内容に合わせて適宜、広告、メディア業界から人・もの・書籍等を紹介します。
常にUpdateな話題を意識し、ケーススタディに重点を置く。その際、常にBLTC＝B(ビジネス)・L(法制度)・T(テクノロジー)・C (クリエーティブ)の4つの切り口で考えていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自己紹介・全体のガイダンス・グループ分け	参考資料または「授業の概要」に挙げたキーワードを調べておくこと。
2.	ⅰ)同女について考える～良い・悪い・あるある ⅱ)「ポジショニング」と「ペルソナ分析」 ⅲ)テーマ探し～何が問題なのかが、問題だ。	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
3.	課題リサーチ結果の発表と「ジョハリの窓」	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
4.	キャラクターの基礎知識（前）	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
5.	キャラクターの基礎知識（後）	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
6.	キャラクター開発～基本設定を考えてみる	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
7.	予備日（カリキュラムの進み具合によって柔軟に）	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
8.	課題作品の発表	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
9.	炎上する広告	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
10.	言葉の意味を考えてみる	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
11.	言葉の意味を考えてみる→コピーライティング	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
12.	コピーライティング	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
13.	クリエーターからのアドバイス	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
14.	予備日（カリキュラムの進み具合によって柔軟に）	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。
15.	課題作品の発表会	指示した作品の視聴またはエンターテインメント関連サービスの調査・体験をして、考察を行っておくこと。詳細は授業内で適宜指示する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　私は約30年前にメディア業界に入って以来、様々な立場(広告代理店の電通やNHKなど)で「メディアの地殻変動」に遭遇してきました。FMラジオや衛星放送の開局、どーも君の制作、本の出版、通販商品の開発、AR(拡張現実)、宣伝と広報、映画への投資、展示イベント、海外ドラマの輸入、そして毎日の生放送…自分でも呆れるほど雑多な仕事をして来ました。それら私の体験をもとに、お話をしたいと思います。

フィードバックの方法:　授業での全体解説、あるいは個別の質問や相談へのアドバイスを適宜行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	60	授業内での質問・発言の回数や演習時の姿勢などを基に、「量」について、絶対評価で判断する。
発表や課題内容	40	発表や課題に対するアウトプットの「質」について、相対評価で判断する。

教科書:　基本教科書は特に指定しません。必要な資料はプリントして配布します。

参考書:
『コンテンツ・ビジネス戦略論』情報通信学会〔大場吾郎・大野茂ほか共著〕(中央経済社) 2017
『サンデーとマガジン～創刊と死闘の15年～』大野茂 (光文社新書) 2009
『二時間ドラマ40年の軌跡1977-2017』大野茂 (徳間書店) 2018

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:	マナビ―の掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

520401、02

プロジェクトプランニング演習Ⅰ

関口　　英里

授業テーマ:　プロジェクトチームの結成と企画・立案

授業の概要:

科目全体の目標に沿ってプロジェクトチームを結成し、各チームの個別目標に従って企画の立案、調査、活動を実践します。授業では「ユース・エンタプライズ（YE: 仮想企業）」体験プログラムを活用し、実存企業や施設、団体とのコラボレーションによる商品開発あるいはイベント等の企画アイデア提案を行いながら、社会に貢献できるプロジェクトを実践的に進めてゆきます。自分のアイデアやイベント企画等が具現化され、実際に販売・運用される大きなチャンスです。各種作業は数名のグループ単位で仮想企業や仮想NPOなどのプロジェクトチームを設立して行います。「プロジェクトプランニング演習Ⅰ」では、提携先の選定・依頼・討議、各種リサーチ、商品開発や企画（書）作成、授業内外でのビジネスプレゼンテーション、会社設立、イベントの実施や参加、広報ツール制作などの準備作業を行い、「プロジェクトプランニング演習Ⅱ」での実際的な企画運営や成果発表を目指します。

履修上の注意：本科目では、社会体験と企業・公共団体等、実社会との本格的な関わりに対して積極的な学習意欲のある学生、また、社会人／組織人としての自覚を持って協力的、積極的な活動ができる学生の受講を希望します。以下の点を十分に理解した上で履修を行って下さい。
1) 本科目では仮想ネットビジネス立ち上げの下準備を行います。実践的活動や具体化作業などは実質上、「プロジェクトプランニング演習Ⅱ」で実践されるため、「プロジェクトプランニング演習Ⅰ・Ⅱ」あわせての履修を前提として強く推奨します。なお「プロジェクトプランニング演習Ⅰ」において編成したグループは、「プロジェクトプランニング演習Ⅱ」においても継続する関係上、1年間同じ曜日講時の履修が大前提となります。 2) 実存企業や団体等、外部とのコラボレーションを行うため、当初予定や内容に若干の変更が生じる可能性があります。実社会での組織活動同様、状況変化に対する理解と臨機応変な対応が望まれます。
3) 関口担当の「情報メディア演習」の履修希望者は、メディア文化、消費文化を立体的に学ぶ観点から、本科目を早い段階で履修することが望まれます。
※本科目の企業設立・運営はあくまでバーチャル（模擬、仮想）であり、それに伴って受講者に金銭的負担や各種リスクが生じることはありません。

到達目標:

・eコマースを含む現代の消費文化を理解した上で、消費者としてではなく「運営者(企業)」の立場から本格的なプロジェクトを模擬体験することを目標とします。

授業方法:

数人でチームを組み、それぞれ独立した組織として商品開発やプレゼン、プロジェクト演習を行います。実在の企業や施設とのコラボレーションでアイデアの商品化、企画の具体化やイベント企画の実現を目指します。受講生には「教えてもらう」受け身の姿勢ではなく、あくまでも「自ら考え、行動する」積極性と責任感が要求されます。スケジュール調整の都合により、企業や外部団体へのプレゼンや各種行事を授業外に実施し、通常授業の振替を行う場合もあります（学期中1～2回程度）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション：e コマースとは、授業の概要説明、進め方など	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
2.	商品開発・企画立案作業(1)：グループ決め、プロジェクト立ち上げ	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
3.	商品開発・企画立案作業(2)：初期調査活動（マーケティング、市場調査等）	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
4.	企画・立案作業の具体化に向けた検討作業、社内討論	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
5.	支援企業、協力施設への開発商品ビジネスプレゼンと討論(1)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
6.	開発商品、提案企画の検討、ブラッシュアップ	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
7.	支援企業、協力施設への開発商品ビジネスプレゼンと討論(2)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
8.	開発商品、提案企画の更なる改良とビジネスプランの再構築	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
9.	商品、企画の具体化に向けた検討、討論	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
10.	会社組織の決定、起業の準備	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
11.	広報ツールの作成(1)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
12.	広報ツールの作成(2)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
13.	社内におけるプロジェクト推進計画の確認、調整	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
14.	支援企業、協力施設とプロジェクト推進計画についての討議	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
15.	プロジェクト前半の総括、まとめ	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

1) 本科目では学生自身が自社ホームページの制作・運営を行うため、ホームページ作成、編集、更新等の基礎技術を修得済みであることが求められます。
2) 本科目では学内外でのプレゼンテーション、連携先とのやり取り、各種イベント参加など、授業外活動と自主的な課題遂行が求められます。毎年連携先やプロジェクトのテーマ、内容が異なる性質上、活動の質・量は活動状況や提携先の指示等により随時変更されるため、臨機応変な対応力も必要とされます。
3)グループ活動及び各自の責任遂行能力が重要であり、相応の授業外作業時間と注力が必要です。しかしその分、社会に出てから即戦力として求められるマネジメント力、プロデュース力が養われます。努力した分だけ修得成果や実績評価が高まると考え、積極的に参画することが重要です。
4)課外活動の際には他の授業や活動とのスケジュール調整に留意し、支障のないように心がけて下さい。本科目を最優先にさせるような強制は一切ありませんし、制度上の公式欠席はないため、自己の判断に基づいて活動指針を決め、社会人に要請されるセルフマネジメント力を養って下さい。ただし当然ながらサポート配慮、アドバイスはしっかり行っていきますので、報告や相談は必ずこまめに行って下さい。
5) 履修形態とグループによる授業運営の特質上、本科目では授業開始後の履修取り消しは原則として不可能なため、十分検討の上履修登録して下さい。
6) 本科目では現代ビジネスにおける企画開発を中心に実践を行います。会社経営や財務管理の総合的な知識修得には、経営・会計関連の他科目（「ストラテジー研究」等）を履修して補うと有効でしょう。

社会体験の先取りができる貴重なチャンスを活かすべく、各自・各チーム、自律的かつ積極的に課外を含めた活動を行って下さい。努力に比例して本科目独自のメリットが活かされ、受講者は社会の即戦力として活躍できる実力がつくはずです。

フィードバックの方法:	授業での全体解説、あるいは個別の質問や相談へのアドバイスを適宜行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席、課題提出、プレゼン、課外活動、期末レポート(個人・チーム)の各項目の達成度	それぞれ最高100%で評価	平均値を総合成績として最終評価を行います。特にプロジェクトに対する授業内外でのチームの活動内容と個人の積極的な貢献度が成績評価の重要なポイントとなります。

教科書:	授業内で適宜指示します。
参考書:	授業内で適宜指示します。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	マナビ—の掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

520501、02

プロジェクトプランニング演習Ⅱ

関口　　英里

授業テーマ:　プロジェクトの実践と企画の実現

授業の概要:

科目全体の目標に沿ってプロジェクトを発展させ、各チームの個別目標に基づく企画を実行し、成果を発表します。各チームが自主的に選定・連携した外部協力先とのコラボレーションで商品開発やプロジェクト企画をさらに推進します。さらに「ユース・エンタプライズ」プログラムに沿って、チームや外部機関と積極的にディスカッションやプレゼンテーションを行い、フィールドワークも適宜行いつつ活動を発展させます。バーチャルな活動のみならず、校外授業(「トレードフェア京都」での模擬出店・11月下旬～12月初旬予定)等を通して実地の活動も体験します。外部連携先とのコミュニケーション密度を高め、確実に開発アイデアを具現化して、社会貢献することを目標にがんばりましょう。

履修上の注意:本科目では、社会的プロジェクトの実践体験と企業等、実社会との本格的な関わりに対して積極的な学習意欲のある学生、また、社会人／組織人としての自覚を持って協力的、積極的な活動ができる学生の受講を希望します。以下の点を十分に理解した上で履修を行って下さい。
1) 本科目のプロジェクトは「プロジェクトプランニング演習I」から継続されます。「プロジェクトプランニング演習I・II」あわせての履修が基本的な前提となるので注意して下さい。なお「プロジェクトプランニング演習I」において編成したグループは、「プロジェクトプランニング演習Ⅱ」においても継続する関係上、1年間同じ曜日講時の履修が基本となります。
2) 実存企業や団体等、外部とのコラボレーションを行うため、当初予定や内容に若干の変更が生じる可能性があります。実社会での組織活動同様、状況変化に対する理解と臨機応変な対応が望まれます。

3) 関口担当の「情報メディア演習」の履修希望者は、メディア文化、消費文化を立体的に学ぶ観点から、本科目を早い段階で履修することが望まれます。
※本科目の企業設立・運営はあくまでバーチャル(模擬、仮想)であり、それに伴って受講者に金銭的負担や各種リスクが生じることはありません。

到達目標:

・「プロジェクトプランニング演習I」のプロジェクトを継続し、外部機関との連携企画遂行、プロジェクト運営、チーム企画の実現を目標とします。

授業方法:

数人でチームを組み、それぞれ独立したチーム組織として商品開発やプレゼン、プロジェクト演習を行います。実在の企業や施設とのコラボレーションでアイデアの商品化、企画の具体化やイベント企画の実現を目指します。受講生には「教えてもらう」受け身の姿勢ではなく、あくまでも「自ら考え、行動する」積極性と責任感が要求されます。スケジュール調整の都合により、企業や外部団体へのプレゼンや各種行事を授業外に実施し、通常授業の振替を行う場合もあります(学期中1～2回程

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション(ユース・エンタプライズ [YE]のシステム説明)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
2.	YE電子商取引システムに登録＆広報活動と取引、前期実施した内容をシステム登録	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
3.	YEトレードフェア準備＆広報活動と取引(1)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
4.	YEトレードフェア準備＆広報活動と取引(2)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
5.	YEトレードフェア出席(11月中旬頃に校外授業を行い、通常授業の振替を予定)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
6.	トレードフェア報告会(成果総括、反省)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
7.	ビジネスプラン、商品企画の再構築	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
8.	開発商品、企画プロジェクトの更なる推進、完成度の向上(1)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
9.	開発商品、企画プロジェクトの更なる推進、完成度の向上(2)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
10.	売上アップの取り組みと経営の見直し(1)	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
11.	支援企業、協力施設とのディスカッションと企画完成に向けての作業	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
12.	企画の最終調整、経営、営業成績の確認と分析	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
13.	支援企業、協力施設への最終ビジネスプレゼン	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
14.	支援企業、協力施設とプロジェクト推進計画についての討議	下記、「受講者へのメッセージ」を参照し、適宜準備を行うこと。
15.	プロジェクト全体の総括、まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

1) 本科目では学生自身が自社ホームページの制作・運営を行うため、ホームページ作成、編集、更新等の基礎技術を修得済みであることが求められます。
2) 本科目では学内外でのプレゼンテーション、連携先とのやり取り、各種イベント参加など、授業外活動と自主的な課題遂行が求められます。毎年連携先やプロジェクトのテーマ、内容が異なる性質上、活動の質・量は活動状況や提携先の指示などにより随時変更されるため、臨機応変な対応力も必要とされます。
3)グループ活動及び各自の責任遂行能力が重要であり、相応の授業外作業時間と注力が必要です。しかしその分、社会に出てから即戦力として求められるマネジメント力、プロデュース力が養われます。努力した分だけ修得成果や実績評価が高まると考え、積極的に参画することが重要です。
4)課外活動の際には他の授業や活動とのスケジュール調整に留意し、支障のないように心がけて下さい。本科目を最優先にさせるような強制は一切ありませんし、制度上の公式欠席はないため、自己の判断に基づいて活動指針を決め、社会人に要請されるセルフマネジメント力を養って下さい。ただし当然ながらサポート配慮、アドバイスはしっかり行っていきますので、報告や相談は必ずこまめに行って下さい。
5) 履修形態とグループによる授業運営の特質上、本科目では授業開始後の履修取り消しは原則として不可能なため、十分検討の上履修登録して下さい。
6) 本科目では現代ビジネスにおける企画開発を中心に実践を行います。会社経営や財務管理の総合的な知識修得には、経営・会計関連の他科目(「ストラテジー研究」等)を履修して補うと有効でしょう。

社会体験の先取りができる貴重なチャンスを活かすべく、各自・各チーム、自律的かつ積極的に課外を含めた活動を行って下さい。努力に比例して本科目独自のメリットが活かされ、受講者は社会の即戦力として活躍できる実力がつくはずです。

フィードバックの方法:

授業での全体解説、あるいは個別の質問や相談へのアドバイスを適宜行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	出席（授業への貢献）、課題提出、プレゼン、課外活動、期末レポート（個人・チーム）の各項目の達成度	それぞれ最高100%で評価	平均値を総合成績として最終評価を行います。特にプロジェクトに対する授業内外でのチームの活動内容と個人の積極的な貢献度が成績評価の重要なポイントとなります。

教科書: 授業内で適宜指示します。

参考書: 授業内で適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: マナビ―の掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

520600

エンターテインメント産業論

鹿島　　我

授業テーマ:　エンターテイメント産業の多角的な理解と制作者の立場からの作品視聴法の体得

授業の概要:　エンターテイメント産業界には多様な業種が存在する。この授業では、各業種について、歴史、構造、戦術・戦略等を多角的に学ぶことでエンターテイメントについての理解を深める。さらに、その深めた理解を基盤として、視聴者側ではなく、制作者の立場からのコンテンツ視聴法の体得を目指す。

到達目標:
1.多種多様なエンターテイメント業界の多角的な理解
2.制作者の立場からのエンターテイメント・コンテンツ視聴法の体得

授業方法:　講義が中心。必要に応じてDVD視聴等を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	ガイダンス内容の振り返りとエンターテイメントの基礎知識についての予習
2.	エンターテイメントの基礎知識	エンターテイメントの基礎知識の振り返りと男性アイドルについての予習
3.	男性アイドル①～育成～	予習・復習のための男性アイドルコンテンツの視聴
4.	男性アイドル②～コンサート～	予習・復習のための男性アイドルコンテンツの視聴
5.	男性アイドル③～ドラマ～	予習・復習のための男性アイドルコンテンツの視聴
6.	アニメ映画①～誕生～	予習・復習のためのジブリ作品の視聴
7.	アニメ映画②～苦悩～	予習・復習のためのジブリ作品の視聴
8.	アニメ映画③～躍進～	予習・復習のためのジブリ作品の視聴
9.	お笑い①～劇場の笑い～	予習・復習のためのお笑いコンテンツの視聴
10.	お笑い②～テレビの笑い～	予習・復習のためのお笑いコンテンツの視聴
11.	お笑い③～グローバルな笑い～	予習・復習のためのお笑いコンテンツの視聴
12.	2018年のエンターテイメント業界・1月～6月	予・復習のための作品の確認
13.	2018年のエンターテイメント業界・7月～12月	指定したコンテンツの視聴
14.	2019年のエンターテイメントの推測	授業内容に関するコンテンツの確認
15.	エンターテイメント産業の未来	レポート作成のための各種コンテンツの視聴

受講者へのメッセージやアドバイス:　エンターテイメント産業界は多様である。この授業では多用なエンターテイメン産業について学ぶことで各業種についての理解を深める。また、エンターテイメント・コンテンツは視聴者として鑑賞する場合と制作者として視聴する場合では、受け取る情報は全く異なる。授業を通して制作者の立場からコンテンツを視聴する習慣を体得し、職業選択肢の拡大につなげてほしい。

フィードバックの方法:　各回の授業の感想を次回冒頭で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の積極性	30%	授業の感想の内容と授業態度を総合的に評価
レポート	30%	1回10点満点（提出点+内容点）で評価を3回実施
定期試験	40%	記述内容を100点満点で採点し40点換算で評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

520700

ITビジネス研究

坂野　　寿和

授業テーマ:　情報通信技術(IT)によって益々便利になる社会のなかで賢く生きるヒントを得よう。

授業の概要:　現代の私たちの生活はインターネットやスマホをはじめとする情報通信技術(IT, Information Technology)のおかげで大変便利になっています。本講義では、普段何気なく利用しているIT技術、ITを活用したサービスや製品に焦点をあて、その内容やなぜ広く普及して社会を便利にできているのかについて学習します。そして学習内容をもとに、これから出現するであろうITビジネス(製品やサービス)について議論します。一連の学習、議論を通して受講者は、ITへの理解を深めるとともに、ITと上手くつきあいながら実社会で活躍していくための素養が得られます。

到達目標:　本講義の到達目標は、受講者が以下の"できる"を達成することです。
・ITおよびITを活用したビジネスとはどんなものか自分の言葉で説明できる。
・ITビジネスの基本的な特性と社会で普及している理由について論理的に説明できる。
・身の回りの課題を発見し、ITを活用して課題を解決する方法について提案や議論ができる。

授業方法:　講義形式の授業を基本としますが、インタラクティブなディスカッションや演習を通して受講者の積極的な授業参加を促す方法も採り入れます。なお、授業内容や順番は、状況によって多少変更される場合があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 本講義の対象、目的、アプローチなどを俯瞰し、本講義の全体像を掴みます。	特になし
2.	IT(Information Technology)って何？(1) 情報通信技術(IT)の歴史や要素技術について2回にわたり解説、議論していきます。	復習
3.	IT(Information Technology)って何？(2)	復習
4.	ITビジネスって何？ ITの普及、発展によって出現したビジネスについて議論することによりITビジネスの定義、全体像を理解します。	復習
5.	ITビジネスケース(1) 典型的なITビジネス(企業、サービス、製品)を複数取り上げ、3回にわたってその内容、社会へのインパクトについて議論します。	復習
6.	ITビジネスケース(2)	復習
7.	ITビジネスケース(3)	復習
8.	ITビジネスの特徴分析(1) 学んだITビジネスケースからITビジネスの基本的特性や社会を変革する理由について3回にわたって考察します。	復習
9.	ITビジネスの特徴分析(2)	復習
10.	ITビジネスの特徴分析(3)	復習
11.	ITビジネス時代の"イノベーション" 新しい製品やサービスが社会へ変革をもたらすイノベーションのあり方が、ITの出現によって大きく変わってきました。ITビジネス時代のイノベーションに焦点をあてて議論します。	復習
12.	ITビジネスを考えてみよう(1) ITビジネスの特徴を踏まえ、身近な課題を解決するITビジネスが考えられないか3回にわたり皆で考えます。	復習
13.	ITビジネスを考えてみよう(2)	復習
14.	ITビジネスを考えてみよう(3)	復習
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講義は、皆さんが普段何気なく使っているITに関わる製品、サービスや社会の仕組みに焦点をあてて、その内容や特徴について学ぶとともに、自らITを使った新たな価値を創出できないか考える内容になっています。
受講にあたっては、講義内容を日々の生活やニュース情報などと関連づけながら多角的に考えるように心がけてください。

フィードバックの方法:　必要に応じて授業内でフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	授業への出席、発言等を通した授業への寄与度、および授業内容の習得度を評価します。
試験	60	本講義によって習得した知見を総合的に確認する問題を出題します。

教科書:　必要に応じて適宜指示します。

参考書:　必要に応じて適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業前後に教室での対応を基本とします。

520800

グローバルエンターテインメント論

川田　　隆雄

授業テーマ:
グローバル化するアジアのエンターテイメントを分析し将来世界で通用するプロデュース力を養う(k-pop、韓流ドラマ、韓流バラエティ)

授業の概要:
現在、「韓流」という言葉に代表されるk-popや韓流ドラマ、韓流バラエティーはグローバルなエンターテイメントに成長し、全世界で楽しまれる存在になっている。日本で作られるテレビの番組や日本の音楽が世界であまり注目されていない状況とは対象的である。そのような状況にあって、韓流がなぜこれほどまでに世界に受け入れられていくかの研究は我々の社会にとって重要な課題ともいえる。本授業では、授業参加者全員でk-popや韓流ドラマ、韓流バラエティーなど、韓流エンターテインメントの特長を分析し、世界に受けいれられていく普遍的な魅力がどこから来るのかを探りたい。また、各種韓流の分析の後、グローバルに受け入れられるエンターテインメントコンテンツの企画を行う。この授業では、映像を見て分析するだけでなく、実際にk-popのライブ等に参加し、現場での分析も行う予定である。また、授業にk-popグループ、韓流俳優等を招待し、分析をしたいと考えている。

到達目標:
・韓流エンターテイメントの全体像をつかむ
・韓流エンターテイメントの分析方法を確立する
・分析内容から韓流エンターテイメントの特長を導きだす
・グローバル化に対応したエンターテイメントを作るとしたらどのようにプロデュースするか企画、立案する

授業方法:
・グループディスカッションを中心に行う
・授業内での発言も評価する。
・クラス内で、韓流エンターテイメントを鑑賞する
・授業外の、韓流エンターテイメントのコンテンツを観察しに行く

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスをよく確認して授業に参加する
2.	k-popの概要説明	復習をする
3.	k-pop分析	課題を視聴しておく
4.	k-pop分析	課題を視聴しておく
5.	k-pop分析	課題を視聴しておく
6.	韓流ドラマ概要説明	課題を視聴しておく
7.	韓流ドラマ分析	課題を視聴しておく
8.	韓流ドラマ分析	課題を視聴しておく
9.	韓流ドラマ分析	課題を視聴しておく
10.	韓流バラエティー概要説明	課題を視聴しておく
11.	韓流バラエティー分析	課題を視聴しておく
12.	韓流バラエティー分析	課題を視聴しておく
13.	実際に体験したk-popライブないしは、韓流俳優ファンミーティングの分析	復習をする
14.	グローバルなエンターテイメントコンテンツの企画	復習をする
15.	試験ないしはレポート提出	復習をする

受講者へのメッセージやアドバイス:
将来、世界にコンテンツを発信したい人や日韓でプロデュースを行いたい人に向けた授業です。

フィードバックの方法:
基本的には授業でフィードバックを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期課題の評価／最終課題	70	提出物の内容の質で評価する
出席／授業への参加度	30	出欠および、授業内の発言(注意:授業の3分の1以上欠席した者は評価対象としない)

教科書:
授業中適宜指示

参考書:
授業中適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
基本的には授業内でフィードバックを行う

520900

ステージビジネス演習

豊田　　毅

授業テーマ:　ステージ企画からはじまるステージビジネスの構築

授業の概要:
この講座では技術的なこと及び総合的なステージビジネスについて実践力を身につけることを目指します。
1）物事を総合的に捉える。プロデュース力を養う。
2）プロデューサー(Producer)とともに、企画からはじまるステージ創りのプロセスを学ぶ。
3）エンターテイメント世界の価値を見いだし、その具現化に向けた実践的な技術とプロセスを学ぶ。
各技術セクションの具体的な講義が行われます。エンターテイメントの特性を理解するための社会や文化を分析し、表現力・発想力を養うちからもつけましょう。
現状で現場で働いている、理論ではない実質の物事を学んでください。
参加者が主体性を持って取り組んでください。

到達目標:
物事を総合的に捉える。（企画力）
ステージ創りのプロセスを理解する。
具現化力（具体的手法）を養う。

授業方法:
基本的には講義形式ですすめていきます。各講義ごとにディスカッションを行います。
今現在実際にステージビジネスの世界で働いている現状をはなします。実際のステージビジネスの現場を視察する可能性もあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	基本的には必要ありません。随時指示します。
2.	ステージビジネスとプロデュース	基本的には必要ありません。随時指示します。
3.	プロデューサーの仕事と役割	随時指示します。
4.	ショービジネスと演出	随時指示します。
5.	演出と舞台美術	随時指示します。
6.	舞台美術の表現	随時指示します。
7.	演出と照明デザイン	随時指示します。
8.	照明デザインの具現化	随時指示します。
9.	演出と音響デザインの考え方	随時指示します。
10.	音響デザインの具現化	随時指示します。
11.	演出と映像デザインの考え方	随時指示します。
12.	映像デザインの具現化	随時指示します。
13.	演出における特殊効果の役割	随時指示します。
14.	日本の古典芸能文化	随時指示します。
15.	講義を振り返って質疑応答・相談など レポート提出	随時指示します。

受講者へのメッセージやアドバイス:
現在ステージビジネスのなかで活動しているものの実体験講義です。
ビジネス・文化を通じておもしろい人生をエンジョイしてください。

フィードバックの方法:
基本、教室内で対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出欠	30	総合的に評価
授業への参加度	50	総合的に評価
最終レポート	20	総合的に評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
創造力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
基本、教室内での対応

521000

音楽エンターテインメント産業論

今林　　清志

授業テーマ:　音楽エンターテインメント産業の価値創造を支える原点＝『感動』

授業の概要:
☆「音楽エンターテインメント産業」＝「感動を創り、売る産業」 という前提のもとに
☆第二次大戦後の日本の音楽エンターテインメント文化を支えた「外国音楽」(＝いわゆる「洋楽」:ジャズ、R&B、ロック、ブルース、カントリー、フォーク、シャンソン、タンゴ、映画音楽、イージーリスニングetc ・・・)の現代にいたる歴史と変遷を、オリジナル音源を聴取しながら、その誕生の文化背景などを概観し、解説する。
☆その知識と理解を踏まえたうえで、「エンターテインメントとビジネス」という広範な当科目の一つを担うという位置づけのもとに、「音楽エンターテインメント産業」のトップランナーとして、ビジネスと文化の両面の発展と振興を担った「レコード会社」と「ラジオ局」の役割と歴史、その企業構造、現状と社会・文化的位置などを詳説し、未来を展望する。

到達目標:
①音楽エンターテインメント産業(レコード業界、ラジオメディア業界)における専門的知識と理解を深め、それに関連した学問・芸術分野を横断する知識を必要性に応じて修得する。
②単に知識を集積するのではなく、音楽エンターテインメント産業の価値創造の根底に「感動」があることを修得する。
③音楽エンターテインメント産業が社会全般に与える影響を理解し、関心をもってその変化を予見しようという意欲を醸成、修得する。
④音楽エンターテインメント産業が担う「ビジネス」と「文化」の両面に理解を深める中で、受講生自らも独自のクリエイティビティを創造、修得する。
⑤音楽エンターテインメント産業への理解を深める中、受講生がユニークな発想を生み出すこと、自己表現力の向上、創造的な問題解決力を修得する。

授業方法:　授業形態:講義(CD、DVDなどのメディアを使った視・聴取を講義に適宜挿入する)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	結論的概説 ＜音楽エンターテインメント産業の価値創造を支える原点＝『感動』＞	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
2.	洋楽の歴史①	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
3.	洋楽の歴史②	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
4.	洋楽の歴史③	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
5.	洋楽の歴史④	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
6.	10万枚のレコード物語①	別掲参考文献:単行本「ラジオ関西10万枚のレコード物語」に添って。
7.	10万枚のレコード物語②	別掲参考文献:単行本「ラジオ関西10万枚のレコード物語」に添って。
8.	音楽エンターテインメント産業としてのレコード業界の＜昨日・今日・明日＞①	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
9.	音楽エンターテインメント産業としてのレコード業界の＜昨日・今日・明日＞②	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
10.	音楽エンターテインメント産業としてのレコード業界の＜昨日・今日・明日＞③	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
11.	洋楽文化小論 「ビートルズが教えてくれた」①	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。 参考文献別掲
12.	洋楽文化小論 「ビートルズが教えてくれた」②	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
13.	洋楽文化小論 「文学としてのボブ・ディラン」①	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
14.	洋楽文化小論 「文学としてのボブ・ディラン」②	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。
15.	総括	講義当日に、必要に応じてレジュメや講義内容資料のコピーを教室で出席者に配布します。

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義では、全期間を通じて、講義内容と並行して、音楽エンターテインメント産業にとって重要で、洋楽音楽史の上でも価値や評価が定着している名曲・名盤と言われる音源や映像を視・聴していただきます。本講義の受講者にとっては古い、もしかしたら初めて聞くような洋楽に出会っていただけるかと存じます。それらが最新のヒットチャートを賑わせている洋楽にどのように繋がって行くのか、貴重な音楽体験をしていただこうと思っています。その一曲一曲の根底に「感動創造」の綿々たる蓄積の歴史があることを学んでいただきたいと思っています。音楽エンターテインメント産業に関心を持つ受講生にとって役に立つ時間と空間を提供したいと考えております。
NO MOVING　NO LIFE　！！

フィードバックの方法:
受講生からの「質問用紙」にはコメントを付けて、教室で返却する。
成績評価のための「レポート」は採点し、コメントを付けて、教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	65%	別記5項目の到達目標の達成により、課題を与えられたレポートが、どの程度独自の創造性、独自の視点、独自の説得力があるかにより評価する。
授業への参加度	35%	授業に積極的に参加し、別記5項目の到達目標の達成度によって評価する。

教科書:
著者　今林　清志
書名　「ラジオ関西　10万枚のレコード物語　～あの感動をもう一度～　」
出版社　神戸新聞総合出版センター
定価　　本体　1800円＋税

参考書:
著者　ハンター・デイヴィス　　訳者　小笠原　豊樹・中田　耕治
書名　「ビートルズ」 上・下
出版社　　河出書房新社　河出文庫
定価　　各冊1200円＋税

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	charliekiyoshimuffin03290306@yahoo.co.jp

521101、02

WEB技術演習

有賀　　妙子

授業テーマ:　動的要素をもつWebコンテンツを制作するための技術の理解

授業の概要:　World Wide Webをメディアとして情報を表現・伝達する際に必要となる、基本的な技術のうちスタイルシートとJavaScriptを取り上げる。推奨される規約に従い、スタイルシートを使ってWebページの内容と体裁(スタイル)を分離して記述することは、アクセスビリティの高いWebページを制作するという観点から重要である。また、JavaScriptは、リッチな体験をユーザに与える動的なWebコンテンツ、インタラクションをもつWebコンテンツの制作には欠かせない重要なキー技術の一つである。この2つの技術を中心に、Webをメディアとした情報表現のための技術を学習する。

到達目標:　本科目では、次の点を目標に学習をすすめる。
(1) スタイルシートの記述と役割を理解する。
(2) スタイルシートを使って、Webページのレイアウトができる。
(3) JavaScriptの基本を理解する。
(4) JavaScriptを使い、Webページ上でのマウス操作やキーボード入力に応じた処理を記述できる。

授業方法:　ノート型コンピュータを使用し、講義と演習を交えた授業を行う。
授業の進展に応じ、学期を通じて5回程度、Webコンテンツ制作演習の宿題を出す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Webメディアを取り巻く状況	授業内容の理解
2.	スタイルシートによるレイアウト演習	授業内容の理解
3.	スタイルシートによるレイアウト演習	授業内容の理解、演習Webサイトの制作
4.	JavaScriptの基本	授業内容の理解
5.	オブジェクトのメソッドとプロパティ	授業内容の理解
6.	マウス操作に応答するインタラクション1	授業内容の理解、演習Webページの制作
7.	関数の記述	授業内容の理解
8.	制御構造	授業内容の理解、演習Webページの制作
9.	マウス操作に応答するインタラクション2	授業内容の理解
10.	フォームに応答するインタラクション1	授業内容の理解
11.	フォームに応答するインタラクション2	授業内容の理解、演習Webページの制作
12.	動的Webコンテンツ1	授業内容の理解
13.	動的Webコンテンツ2	授業内容の理解
14.	Ajaxを使った動的Webコンテンツ	授業内容の理解
15.	総合的演習	演習Webコンテンツの制作

受講者へのメッセージやアドバイス:　ネットワーク概論で学んだ内容を前提とするが、必要に応じて復習を行う。
積み重ねの授業内容となるので、毎回の授業終了後の復習が、理解を深め、不明点を認識するために必要。

フィードバックの方法:　提出された演習Webページに対して必要に応じてコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
宿題として提出したWebコンテンツの完成度	100	仕様を満たして機能するかどうか 新規の工夫

教科書:　改訂新版　インターネット講座　有賀妙子・吉田智子・大谷俊郎　北大路書房

参考書:　やさしいJavaScriptのきほん　高橋麻奈　SBクリエイティブ
JavaScriptハンドブック　清野克行　SBクリエイティブ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール(tariga@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

521102

WEB技術演習

有賀　　妙子

授業テーマ:　動的要素をもつWebコンテンツを制作するための技術の理解

授業の概要:　World Wide Webをメディアとして情報を表現・伝達する際に必要となる、基本的な技術のうちスタイルシートとJavaScriptを取り上げる。推奨される規約に従い、スタイルシートを使ってWebページの内容と体裁(スタイル)を分離して記述することは、アクセスビリティの高いWebページを制作するという観点から重要である。また、JavaScriptは、リッチな体験をユーザに与える動的なWebコンテンツ、インタラクションをもつWebコンテンツの制作には欠かせない重要なキー技術の一つである。この2つの技術を中心に、Webをメディアとした情報表現のための技術を学習する。

到達目標:　本科目では、次の点を目標に学習をすすめる。
(1) スタイルシートの記述と役割を理解する。
(2) スタイルシートを使って、Webページのレイアウトができる。
(3) JavaScriptの基本を理解する。
(4) JavaScriptを使い、Webページ上でのマウス操作やキーボード入力に応じた処理を記述できる。

授業方法:　ノート型コンピュータを使用し、講義と演習を交えた授業を行う。
授業の進展に応じ、学期を通じて5回程度、Webコンテンツ制作演習の宿題を出す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Webメディアを取り巻く状況	授業内容の理解
2.	スタイルシートによるレイアウト演習	授業内容の理解
3.	スタイルシートによるレイアウト演習	授業内容の理解、演習Webサイトの制作
4.	JavaScriptの基本	授業内容の理解
5.	オブジェクトのメソッドとプロパティ	授業内容の理解
6.	マウス操作に応答するインタラクション1	授業内容の理解、演習Webページの制作
7.	関数の記述	授業内容の理解
8.	制御構造	授業内容の理解、演習Webページの制作
9.	マウス操作に応答するインタラクション2	授業内容の理解
10.	フォームに応答するインタラクション1	授業内容の理解
11.	フォームに応答するインタラクション2	授業内容の理解、演習Webページの制作
12.	動的Webコンテンツ1	授業内容の理解
13.	動的Webコンテンツ2	授業内容の理解
14.	Ajaxを使った動的Webコンテンツ	授業内容の理解
15.	総合的演習	演習Webコンテンツの制作

受講者へのメッセージやアドバイス:　ネットワーク概論で学んだ内容を前提とするが、必要に応じて復習を行う。
積み重ねの授業内容となるので、毎回の授業終了後の復習が、理解を深め、不明点を認識するために必要。

フィードバックの方法:　提出された演習Webページに対して必要に応じてコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
宿題として提出したWebコンテンツの完成度	100	仕様を満たして機能するかどうか 新規の工夫

教科書:　改訂新版　インターネット講座　有賀妙子・吉田智子・大谷俊郎　北大路書房

参考書:　やさしいJavaScriptのきほん　高橋麻奈　SBクリエイティブ
JavaScriptハンドブック　清野克行　SBクリエイティブ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール(tariga@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

521200

テクノロジーと社会

余田　　義彦

授業テーマ:　メディアテクノロジーと私たちの暮らしや社会との関わりを探る

授業の概要:　前半と後半で2つのプロジェクトに取り組み、メディアテクノロジーと私たちの暮らしや社会との関係性を探ります。プロジェクト1では、現存する身近なテクノロジーに焦点をあてます。そして、それがどのような経緯で生み出され、人々の暮らしや社会を変えてきたか、映像資料や文献の調査をもとに研究します。プロジェクト2では、現在研究が進みつつある未来のテクノロジーを取り上げます。そして、それがどのようなもので、私たちの暮らしや社会をどのように変えていこうとしているか、映像資料や文献の調査を通して考えます。

到達目標:
①【知識・理解】現存する身近なテクノロジーと未来のテクノロジーをそれぞれ一つ取り上げ、その概要、暮らしや社会との関わりを具体的に説明できる。
②【関心・意欲・態度】テクノロジーの進展や社会との関わりに興味や関心を持ち、進んで映像資料や文献を探して調べようとする。
③【表現・技能・能力】テクノロジーの概要、暮らしや社会との関わりなどを自作資料を効果的に使ってわかりやすく説明できる。

授業方法:　ジグソー法と呼ばれる方法を使って、アクティブラーニング形式で授業を進めます。授業では、マナビーも使用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	プロジェクト1（テクノロジーの歴史と社会変化）：調査	調査
3.	プロジェクト1（テクノロジーの歴史と社会変化）：調査	調査
4.	プロジェクト1（テクノロジーの歴史と社会変化）：発表資料作成	発表資料作成
5.	プロジェクト1（テクノロジーの歴史と社会変化）：発表資料作成	発表練習
6.	プロジェクト1（テクノロジーの歴史と社会変化）：発表とディスカッション	ディスカッションの振り返り
7.	プロジェクト1（テクノロジーの歴史と社会変化）：発表とディスカッション	ディスカッションの振り返り
8.	プロジェクト1（テクノロジーの歴史と社会変化）：まとめ	
9.	プロジェクト2（近未来のテクノロジーと社会変化予想）：調査	調査
10.	プロジェクト2（近未来のテクノロジーと社会変化予想）：調査	調査
11.	プロジェクト2（近未来のテクノロジーと社会変化予想）：発表資料作成	発表資料作成
12.	プロジェクト2（近未来のテクノロジーと社会変化予想）：発表資料作成	発表練習
13.	プロジェクト2（近未来のテクノロジーと社会変化予想）：発表とディスカッション	ディスカッションの振り返り
14.	プロジェクト2（近未来のテクノロジーと社会変化予想）：発表とディスカッション	ディスカッションの振り返り
15.	プロジェクト2（近未来のテクノロジーと社会変化予想）：まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、学科貸与のノートパソコン（MacBookAir）を使いますので、初回から忘れずに持参してください。

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
参加姿勢（マナビー掲示板への投稿を含む）	30	到達目標②の達成度を評価します。
発表	40	到達目標①③の達成度を評価します。
まとめ	30	到達目標①③の達成度を評価します。

教科書:　なし。

参考書:　授業の中で紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（ yyoden@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

521301

WEBプログラミング

藤川　　和利

授業テーマ:

Web用プログラミング言語PHPを使って実践的なWebページ作成を学習する

授業の概要:

Webサイト作成に特化したプログラム言語PHPを利用して、状況に応じて変化するWebコンテンツを作成する。HTMLのようにWebの情報を単純に表示するだけでなく、Webブラウザからの入力によって、Webページの表示内容を変化させることで、対話的な情報提供の技術を習得する。具体的には、プログラミングの技術、Webサーバのしくみ、ファイル操作、データベース操作など、Webにおける一歩進んだ知識および実用技術を身につける。

到達目標:

・World Wide Webの仕組みとHTMLによるWebページ記述の意味を理解
・基礎的なプログラミング能力の習得
・データベースの仕組みの理解、ならびに、データベース操作能力の習得

授業方法:

コンピュータを使った演習を中心に行い、プログラミング能力の向上のため、適宜、課題プログラムの作成を各自で行う。回を追うごとに高度なプログラミングを実施する。一度でも授業を欠席すると、その後のプログラミングが非常に困難になる。欠席した場合の個別フォローは行わないので、各自で学習すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、Webの仕組みとPHPの特徴	事前にHTMLを理解し、Webページの作成能力を身につけておくこと
2.	PHPを利用するための準備	WebサーバとWebクライアントの仕組みを復習しておくこと
3.	Webフォームから入力データの処理（変数と配列）	
4.	条件に応じた処理の変更（条件分岐）	復習課題プログラムにより条件分岐の理解を深めておくこと
5.	条件に応じた処理の繰り返し（ループ）	復習課題プログラムにより繰り返しの理解を深めておくこと
6.	プログラミングの流れの把握（フローチャート）	フローチャートの記述方法を復習しておくこと
7.	理解度の確認（演習プログラム）	ここまでがプログラミングの基本なので、理解が不十分なところは必ず演習プログラムを作成すること
8.	画像ファイルのアップロード	
9.	アップロードされた画像ファイルの表示	復習課題プログラムによりファイルアップロードの仕組みの理解を深めておくこと
10.	データベースからのデータの取得	
11.	データベースへのデータの保存	復習課題プログラムによりデータベースの概念と仕組みの理解を深めておくこと
12.	最終課題プログラム： 課題設定	作成したい最終課題プログラムを事前に考えておくこと
13.	最終課題プログラム: プログラムの設計	フローチャートの記述方法を再度確認しておくこと
14.	最終課題プログラム： プログラムの作成	
15.	最終課題プログラム: プログラムの動作確認と不具合の修正	

受講者へのメッセージやアドバイス:

プログラミングは、授業時間中だけでの作業では、全く習得できないと言っても過言ではないので、授業時間以外にも積極的に課題プログラムに取り組む姿勢が必要。

フィードバックの方法:

課題プログラムの提出後の授業時間中にプログラム作成の考え方をまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
最終課題レポート	80	最終課題は、作成したプログラムの難易度およびプログラムの動作説明の明確さによって評価する。プログラムが動作し、必要最低限の機能が実現されていない場合は不可になる。
途中の課題レポート	20	途中の課題プログラムは、その完成度によって評価する。
授業への参加度		最終課題レポートより欠席1回あたり5%減

教科書:

特に指定しない。適宜、必要資料を配布

参考書:

「PHP+MySQLマスターブック」,マイナビ,永田順伸 著,2014年1月発行,ISBN: 978-4839947590

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

マナビ―の掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

521302

WEBプログラミング

伊藤　　泰子

授業テーマ:　PHPを使ったWebプログラミングを学習する

授業の概要:　プログラム言語PHPを利用して、動的かつ実践的なWebコンテンツを制作する。
Webの情報を単に受け取るだけの利用者ではなく、インタラクティブな情報発信の技術を養い、プログラミングの技術、データベース(MySQL)との連携など、Webにおける一歩進んだ知識・技術を身につける。

到達目標:
・PHPの基本を理解する
・プログラミング技術を習得する
・データベース(MySQL)を利用したWebコンテンツを制作する

授業方法:　ノート型コンピュータを使用し、講義と演習を交えた授業を行う。
2回目以降、必ず各自のノート型コンピュータを持参すること。
(初回授業は使用しない。)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、Webに関連する基礎知識の確認	授業概要の理解
2.	開発環境の構築	
3.	PHPの基本、変数・文字列の利用	復習のための宿題を出題
4.	基本制御構造　繰り返し	
5.	基本制御構造　条件判断	復習のための宿題を出題
6.	配列の利用	
7.	フォーム要素の利用・処理	復習のための宿題を出題
8.	システム関数の活用	
9.	データベースの作成、基本操作(MySQL)	復習のための宿題を出題
10.	データベースの操作(SQL)	復習のための宿題を出題
11.	PHPからのデータベース操作1	
12.	PHPからのデータベース操作2	復習のための宿題を出題
13.	最終課題制作　プログラムの設計	最終課題の内容を考えておくこと
14.	最終課題制作　プログラムの制作1	
15.	最終課題制作　プログラムの制作2	

受講者へのメッセージやアドバイス:　実習を通じてWebの仕組みの理解し、プログラム作成することで論理的思考を養いましょう。

フィードバックの方法:　提出した課題や宿題は、授業内で解説します。
授業外では、メールで質問等を受け付けます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加	30	積極的に授業に参加し、演習問題が作成できたか
宿題	30	宿題の練習問題が正常動作するか
小テスト	10	プログラムの知識、理解度に応じて評価
課題	30	機能、UI、難易度に応じて評価

教科書:　適宜、必要資料を配布。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビ―の掲示板機能、Eメール(yito@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

521500

情報セキュリティ

猪俣　　敦夫

授業テーマ:

情報セキュリティにおける基礎的知識を理解し、情報を保護する意義を認識し、自身で守れるスキルを身につけること。

授業の概要:

今や目に見えるものだけが資産というわけではなく、私たちの生活を取り巻く情報全てが資産であると言っても過言ではない。現代社会においては、情報の漏洩などが発生すると盗難や窃盗とは異なり完全に元の状態に戻すことはほぼ不可能である。このため「情報」を適切に保護し、維持・管理し、運用をするといったことを網羅的に学んでおくことは私たちの生活において必須であり、そこに潜むリスクを見つけ出すことは喫緊の課題である。本講義では、情報セキュリティを学ぶ上で必要なインターネットの技術側面から、暗号、ウェブシステムの安全性、リスクマネジメント、犯罪と法律といった幅広い領域を扱うこととする。また実際に「使える」知識としてPCを用いたミニ演習も実施する。

到達目標:

私たちの生活を取り巻く「情報」の意義を理解し、それをどのように保護するのかを理解し、自分で「使える」ようになること、そして相手に「伝える、教える」ことができるようになることが最終目標である。このため、PCを用いて自分自身でシステムの状況を把握したり、異常な状態を認識できるようにするための最低限のスキルを身につけることも目標である。また、独立行政法人情報処理推進機構(IPA)が実施する資格試験「情報セキュリティマネジメント(SG)」やITパスポートの合格も目標とする。

授業方法:

座学講義が主であるが、その中でPCを用いたミニ演習も合わせて実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:情報セキュリティの世界を俯瞰する。	ニュースや新聞などで情報セキュリティの事件や話題などをチェックしておく
2.	インターネット技術の基礎1:OSIレイヤと物理層	教科書で該当する章を読んでおく
3.	インターネット技術の基礎2:データリンク層からネットワーク層	教科書で該当する章を読んでおく
4.	インターネット技術の基礎3:トランスポート層からアプリケーション層	教科書で該当する章を読んでおく
5.	インターネット技術の基礎4:クライアントサーバ(C/S)モデルと実践	ターミナルソフトの使い方を学んでおく
6.	暗号の基礎1:共通鍵暗号	教科書で該当する章を読んでおく
7.	暗号の基礎2:公開鍵暗号	教科書で該当する章を読んでおく
8.	ネットワークセキュリティ:デジタル証明書、公開鍵暗号基盤(PKI)	事前にHTTPSサーバへアクセスをして、鍵のマークが表示されていることを確認し、それをクリックしてみる
9.	ネットワークセキュリティ:ウェブセキュリティ、TLS/SSL、HTTPS	教科書で該当する章を読んでおく
10.	ネットワークセキュリティ:SNS(ソーシャルネットワークサービス)、プライバシー保護に関して座談会	LINE、Facebook、Instagramなど普段から利用しているSNSサービスについてリスクを調べておく
11.	攻撃と防御最前線1:古典的な攻撃方法から仕組みを理解する	ニュースや新聞などで情報セキュリティの事件や話題などをチェックしておく
12.	攻撃と防御最前線2:巧妙な攻撃、ソーシャルエンジニアリング攻撃、標的型攻撃など	ニュースや新聞などで情報セキュリティの事件や話題などをチェックしておく
13.	情報セキュリティに関わる法律:過去の事件とその後	ニュースや新聞などで情報セキュリティの事件や話題などをチェックしておく
14.	情報セキュリティに対する我が国の取り組み:政府の視点や国家安全に関する考え方を議論する。	ニュースや新聞などで情報セキュリティの事件や話題などをチェックしておく
15.	総括:現代社会で何故ここまで情報セキュリティが取り上げられているのかを議論する。あわせて定期考査を実施する。	配布資料をもう一度見直しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

興味や関心があれば受講資格は問いません。授業の中ではPCを利用するため、授業にラップトップPCを持参できることが要件です

フィードバックの方法:

レポートについてのフィードバックは授業内で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験(考査)	70	授業全体の理解度により評価する
レポート	20	授業内で実施するレポートの完成度から評価する
授業への参加度	10	積極的に授業に参加し、積極的な面から評価する

教科書:

猪俣敦夫、サイバーセキュリティ入門: 私たちを取り巻く光と闇 (共立スマートセレクション) 、共立出版

参考書:

独立行政法人情報処理推進機構、情報セキュリティ白書2017、IPA出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力

教員との連絡方法:

基本はメールとなりますが、場合によってはSNSでクローズドな本講義専用の掲示板を用意します。

521600

フィジカルコンピューティング

真下　　武久

授業テーマ:　フィジカルコンピューティングによるマルチメディア技術の理解

授業の概要:　授業内では主にArduinoを用いた動くおもちゃ／作品の企画からプロトタイプ制作に必要な電子技術の導入までをレクチャーします。授業計画7以降は、プロトタイプを完成させるために各自が企画した内容に基づき、書籍及びインターネット上の資料、サンプルなどを授業外でリサーチしてください。授業内では進捗を見ながら授業外で学習しきれなかった点を重点的にレクチャーします。

到達目標:
・フィジカルコンピューティング活用に必要な技術／知識の範囲の理解
・フィジカルコンピューティングを活用する意欲
・フィジカルコンピューティングによって作品を企画立案する技能・能力

授業方法:
2:演習
演習室およびメディアサポートセンターの機材を利用した実習となります。コンピュータなどは基本的に自身のものを利用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	オリエンテーションで紹介した周辺情報をリサーチすること
2.	プロトタイプツールの紹介（Arduino, Kinect, USB-KEY8, ブレッドーボード）	授業ないで紹介したプログラムを復習すること
3.	プロトタイピングツールを使ってみる1（はんだづけ・簡単な電子回路）	授業ないで紹介したプログラムを復習すること
4.	プロトタイピングツールを使ってみる2（入力・センサに反応させる）	授業ないで紹介したプログラムを復習すること
5.	プロトタイピングツールを使ってみる3（出力・LEDを光らせる）	授業ないで紹介したプログラムを復習すること
6.	プロトタイピングツールを使ってみる4（処理・思い通りに動かすには）	授業ないで紹介したプログラムを復習すること
7.	プロトタイピングツールによる電子おもちゃの制作（企画・アイデア出し）	作品の企画を行ってくること
8.	プロトタイピングツールによる電子おもちゃの制作	他者のアイデアや方法を復習すること
9.	プロトタイピングツールによる電子おもちゃの制作	作品の制作を進めておくこと
10.	プロトタイピングツールによる電子おもちゃの制作（中間チェック）	作品の制作を進めておくこと
11.	プロトタイピングツールによる電子おもちゃの制作	作品の制作を進めておくこと
12.	プロトタイピングツールによる電子おもちゃの制作	作品の制作を進めておくこと
13.	プロトタイピングツールによる電子おもちゃの制作（最終チェック）	作品の制作を進めておくこと
14.	制作物のプレゼンテーション1	作品の制作を進めておくこと
15.	制作物のプレゼンテーション2	他者のアイデアや方法を復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:　好奇心を持って授業に参加してください。

フィードバックの方法:　授業内で講評会を行い、学生間の作品のアイデアや方法を共有できるようにします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
電子おもちゃのプロトタイプの完成度	50	必要な技術／知識の範囲の理解度の評価
電子おもちゃのプロトタイプのプレゼンテーション	50	コンテンツを企画立案する技能・能力の評価

教科書:　なし

参考書:　授業内で紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール（ mashimo@seian.jp）、授業の前後に教室内で対応

521700

メディア創造系海外事情

川田　　隆雄、影山　　貴彦

授業テーマ:　韓国におけるアジア・メディアエンターテインメント体験学習

授業の概要:　韓国のエンターテイメント産業は韓流ドラマ・映画またK-popなど、アジアで最も強力なエンターテイメント産業に成長しており、今後、我々日本のエンターテインメント産業が学んでいく必要のある先進的地域になっている。
今回のプログラムでは、ソウルを中心にフィールドワーク(視察および関係者レクチャー)・体験(エンターテインメント鑑賞)・学生交流(現地の大学生とのワークショップ)を予定している。単なる視察に留まらない、能動的なコミュニケーションを促すことでメディア創造学科・エンターテインメント分野の学びを深く理解する一助としたい。

到達目標:　・アジアにおけるエンターテインメント産業、文化の現状を理解する
・ワークショップ、学生・関係者交流等を通じた能動的なコミュニケーションにより、エンターテインメントを体験的に学習する

授業方法:　事前授業、海外研修、事後課題を含む講義・演習・実習の総合的な授業

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前学習1 全体オリエンテーション、課題説明など	
2.	事前学習2 ハングル会話の入門基礎講座	事前学習の復習
3.	事前学習3 韓国エンターテインメント文化について	事前学習の復習
4.	事前学習4 アジアエンターテインメント産業について	事前学習の復習
5.	事前学習5 危機管理等説明会	事前学習の復習
6.	事前学習6 プレゼンテーションおよび目標設定	事前学習の復習
7.	現地学習 韓国・ソウルおよびスウォン	ツアー内容の予習
8.	研修後	レポート課題提出

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前学習を十分に行い、研修中は体調管理に努めてください。

フィードバックの方法:　事前授業、研修中にアドバイスします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	韓国およびアジアのエンターテインメント文化、および日本との比較についての考察および理解度を評価対象とします。

教科書:　なし

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業内、研修中に直接連絡してください。

521800 **Beginner's Reading**

関口　　英里

授業テーマ:　現代文化とメディアをめぐる諸問題:英文講読と理解

授業の概要:　英語文献購読を中心に総合的な英語力を高めながら文化を理解する力を修得する

到達目標:　幅広くメディアをめぐる諸問題を理解し、国際化する現代文化の真相をとらえたコミュニケーションを行うには、当然ながら英語の運用能力の向上が必須となる。本科目の目標は、さまざまな英語文献の講読を通してリーディング力を養いつつ、英語スキルを総合的に向上させることである。多岐にわたるトピックスを通して、総合的な英語力(リーディング、語彙・表現、リスニング、スピーキング、プレゼンテーション)の強化と、現代文化やメディアの本質をとらえるための技術獲得を目指す。

授業方法:
・各種の資料・素材を使用し、毎回のトピックに沿って英語文献を講読・発表し、必要に応じて英語サマリー等を提出してもらう(上記トピックは受講者の興味分野や状況により随時変動する場合あり)。また、発表および討論では全員、極力英語を使うよう心がける。英語力強化の実践的学習に加え、必要に応じて毎回のトピックやメディア文化に関するレクチャーや解説を行う。
・受講者には英語文献を読解するために必要な英語力と毎回の課題履行力、ならびに関連分野についての学際的な基礎知識が求められる。
・英語文献の講読・発表は、受講人数に応じてグループ単位での作業もあり得る。毎回の出席と、個人のみならずグループ成員としての責任ある態度・課題遂行が求められる。
・講読・発表後に英語でディスカッションを行う。受講生は予備知識、補足知識の獲得を含めて課題箇所をしっかりと予習し、積極的に議論に参加することが必須となる。
・理論から実践への流れを踏まえ、授業で学んだ知識から各自の設定した具体的なトピックについて分析を行う。授業内では順番に英語発表等をしてもらう。
・授業では発表、討論において積極的に英語を使用し、英語での意見表明やコミュニケーションをはかる努力が求められる。
※初回授業で授業方法などの説明や授業運営指針の策定等を行うので必ず出席のこと。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	今後必要となる準備を説明する
2.	現代社会とパートナーシップ(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
3.	現代社会とパートナーシップ(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
4.	グローバル化する社会問題と日本(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
5.	グローバル化する社会問題と日本(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
6.	言語とコミュニケーション(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
7.	言語とコミュニケーション(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
8.	世代文化と意識(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
9.	世代文化と意識(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
10.	医療と社会(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
11.	医療と社会(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
12.	文化的イベントと歴史認識(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
13.	文化的イベントと歴史認識(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
14.	未来社会の諸問題	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
15.	総括	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業では積極的に英語でコミュニケーションを行い、活発な質疑応答やディスカッションを実践するよう心がけて下さい。

フィードバックの方法:　全体への解説ならびに個別の質問や相談へのアドバイスを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業における講読発表、スピーチ、練習問題、学期内課題・学期末課題の提出、積極的な授業参加態度や予復習、出席状況の各項目の達成度	それぞれ最高100%で評価	平均値を総合成績として最終評価を行う。チーム作業を伴う場合は、チーム全体の達成度と個人の責任遂行にともなう貢献度が重要となる。

教科書:	初回授業時に指示する。
参考書:	授業内で随時指示する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応、ならびに適宜指示する。

521900 **Media Culture Reading**

関口　　英里

授業テーマ:　現代文化とメディアをめぐるトピックス:基礎理論と実践(B)

授業の概要:　総合的な英語力を高めながら現代のグローバル社会で活動するための実践力を身につけます

到達目標:　グローバル化する現代文化の真相をとらえ、広義のメディアをめぐる諸相読解には、広範な分析方法や理論の援用が重要となる。本科目の目標は、さまざまな英語文献の講読を通して問題の所在を探り、メディア文化の考察に必要な基礎知識を修得しつつ、研究への応用力を養うことである。多様なジャンルの論題を通して、複雑な様相を呈しつつある「メディア」の本質をとらえ、総合的な英語力(リーディング、語彙・表現、リスニング、スピーキング、プレゼンテーション)の強化と学術知識の獲得を目指す。

授業方法:　・各種の資料・素材を使用し、毎回のトピックに沿って英語文献を講読・発表し、必要に応じて英語サマリー等を提出してもらう(上記トピックは受講者の興味分野や状況により随時変動する場合あり)。また、発表および討論では全員、極力英語を使うよう心がける。英語力強化の実践的学習に加え、必要に応じて毎回のトピックやメディア文化に関するレクチャーや解説を行う。
・受講者には英語文献を読解するために必要な英語力と毎回の課題履行力、ならびに関連分野についての学際的な基礎知識が求められる。
・英語文献の講読・発表は、受講人数に応じてグループ単位での作業もあり得る。毎回の出席と、個人のみならずグループ成員としての責任ある態度・課題遂行が求められる。
・講読・発表後に英語でディスカッションを行う。受講生は予備知識、補足知識の獲得を含めて課題箇所をしっかりと予習し、積極的に議論に参加することが必須となる。
・理論から実践への流れを踏まえ、授業で学んだ知識から各自の設定した具体的なトピックについて分析を行う。授業内では順番に英語発表等をしてもらう。
・授業では発表、討論において積極的に英語を使用し、英語での意見表明やコミュニケーションをはかる努力が求められる。
※初回授業で授業方法などの説明や授業運営指針の策定等を行うので必ず出席のこと。
※多彩なトピックをタイムリーに取り上げ、毎回実践的に文化理論を踏まえた事例の発表・討論と分析を行う。受講者の関心領域によっては、適宜トピックの追加、順番・内容の変更なども有り得る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
2.	文化理解の理論と方法論(基礎理論)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
3.	文化理解の理論と方法論(応用事例)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
4.	メディアをめぐる諸問題	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
5.	現代文化をめぐる諸問題	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
6.	メディアの進化	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
7.	社会の変容	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
8.	消費文化の発展プロセス(1)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
9.	消費文化の発展プロセス(2)	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
10.	文化のグローバル化	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
11.	国際化と現代日本文化	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
12.	コミュニケーションをめぐる諸相	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
13.	異文化理解の状況	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
14.	文化研究をめぐる流れと現状	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。
15.	総括	プレゼンテーション、スピーチ、その他課題の遂行に伴って、自主的に授業外で予習、復習、メディアリサーチなどを積極的に行うことが求められます。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業では積極的に英語でコミュニケーションを行い、活発な質疑応答やディスカッションを実践するよう心がけて下さい。
関口担当の「情報メディア演習」の登録者は、履修指導に沿って本科目を受講してください。

フィードバックの方法:　全体への解説ならびに個別の質問や相談へのアドバイスを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業における講読発表、スピーチ、練習問題、学期内課題・学期末課題の	それぞれ最高	平均値を総合成績として最終評価を行う。チーム作業を伴う場合は、チーム全体の達成度と個人の責任遂行にともなう貢献度が重要となる。

	提出、積極的な授業参加態度や予復習、出席状況の各項目の達成度	100%で評価

教科書: 当面は設定しない。

参考書: 授業内で随時指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: マナビ—の掲示板機能、Eメール、授業の前後に教室内で対応

522100

欧米メディアスタディー

秋吉　　康晴

授業テーマ:　ニューメディア時代を理解するための基礎文献読解

授業の概要:　「メディアが消失する」――ドイツのメディア理論家フリードリヒ・キットラーは、既存のメディア――新聞・書物・電話・録音・ラジオ・写真・映画・テレビジョン――がコンピュータの中に取り込まれていく様を指して、かつてこのように述べた。多くのひとがスマートフォンを持つ現在においては、そうした意味での「メディアの消失」はすでに当たり前のものとなり、以前はばらばらに存在していた複数のメディアは手のひらの上でひとつになってしまっている。「ニューメディア」の時代とも呼ばれるこのような現在を理解するには、以前のように個々のメディアについて個別的に考えるだけでは不十分である。本科目では、ニューメディアの状況にいちはやく取り込んでいた欧米の研究者のテキストを読解することを通じて、我々が置かれている社会や文化の現状について考えてみたい。

到達目標:　(1)アカデミックな英語文献を読解するための基礎能力を習得する
(2)英語文献の読解を通じて、欧米の文化や社会のあり方を理解する
(3)上記を通じて、日本の文化や社会を相対的に理解する国際的な視野を得る

授業方法:　担当者が用意した要約および部分訳をもとに、内容および翻訳の検討とディスカッションをおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の趣旨説明。二週目以降の発表担当者の決定。	「ニューメディア」という概念について下調べし、どのような文献があるのかを知っておくことが望ましい。
2.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
3.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
4.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
5.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
6.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
7.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
8.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
9.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
10.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
11.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
12.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
13.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。
14.	個人発表もしくはグループ発表(文献の要約および部分訳)／文献の内容および翻訳に関する検討とディスカッション	発表の担当者は該当箇所の翻訳および要約をおこない、レジュメを作成すること。また、該当箇所で言及される事柄について、下調べしておくこと。他の出席者も文献に出てくる単語の意味や文法について予習し、疑問点などを明確にしておくこと。

15.	まとめ——授業で取り上げた文献の総括・ディスカッション	授業で取り上げた文献を見直し、疑問点や見解をまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス：
アカデミックな英語文献を最初からすらすら読める人はいません。この授業では「速読」よりも「熟読」に重きを置き、個々の文章にじっくり取り組んでいきましょう。

フィードバックの方法：
授業中・授業外で提起された質問に対しては、授業中に全体に向けて回答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	60	レジュメ・発表への取り組みの真摯さ：文章の読解にあたる準備の度合い、下調べの入念さ、レジュメの修正、など（英語の理解力は必ずしも重視しない）
授業への参加度	40	積極的な発言：講師や発表者に対する質問や意見、ディスカッションへの参加度（同じく、英語の理解力は必ずしも重視しない）

教科書：

参考書：
Jay David Bolter, Richard Grusin, Remediation: Understanding New Media, Cambridge, MA.: MIT Press, 2000
Rosalind E. Krauss, A Voyage on the North Sea: Art in the Age of the Post-Medium Condition, New York: Thames& Hudson, 2000
Henry Jenkins, Convergence Culture: Where Old and New Media Collide, New York: New York University Press, 2006

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法：
e-mail（授業中にメールアドレスを指示する）

522500

ジャーナリズム論

篠原　　賢太郎

授業テーマ:　情報発信者に必要なジャーナリズム的視点

授業の概要:　ウェブ、雑誌、テレビ、ラジオ、新聞などのメディアを通じて日々膨大な量の「情報」が発信されている。その情報発信のプロセス、社会に与える影響、問題点等を理解し、情報を「発信する側」としての意識をもって記事作成にあたる。

到達目標:　各メディアの特性や情報の収集・編集・発信など、ジャーナリズムについての理解を深め、受講者が情報の発信者としての当事者意識と多角的な視野を持つことを目標とする。

授業方法:　講義と演習の併用。前半は各メディアの特性や問題点、ジャーナリズムの実例について解説し、後半は課題として受講者による記事作成、およびそのプレゼンテーションとディスカッションを核とする。受講者数が多い場合はレポート提出と添削、解説で補完する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス～ジャーナリズム的視点とは	メディアが発信している情報に触れ、講義で反映させる。
2.	情報メディアの現場①情報発信メディアの構造	メディアが発信している情報に触れ、講義で反映させる。
3.	情報メディアの現場②情報の収集と編集の手法	メディアが発信している情報に触れ、講義で反映させる。
4.	情報メディアの現場③コンテンツができるまで	メディアが発信している情報に触れ、講義で反映させる。
5.	情報メディアの現場④販売や流通	メディアが発信している情報に触れ、講義で反映させる。
6.	情報メディアの現場⑤情報発信における問題点など	メディアが発信している情報に触れ、講義で反映させる。
7.	情報メディアの現場⑥ジャーナリズム的視点の整理	講義での実例の解説を参考に、各自で記事作成の準備を始める
8.	情報メディアの現場⑦ジャーナリズム的視点の整理	講義での実例の解説を参考に、各自で記事作成の準備を始める
9.	記事発表およびディスカッション①	テーマを設定し、ジャーナリズム的視点で記事を作成し、発表する。
10.	記事発表およびディスカッション②	テーマを設定し、ジャーナリズム的視点で記事を作成し、発表する。
11.	記事発表およびディスカッション③	テーマを設定し、ジャーナリズム的視点で記事を作成し、発表する。
12.	記事発表およびディスカッション④	テーマを設定し、ジャーナリズム的視点で記事を作成し、発表する。
13.	記事発表およびディスカッション⑤	テーマを設定し、ジャーナリズム的視点で記事を作成し、発表する。
14.	記事発表およびディスカッション⑥	テーマを設定し、ジャーナリズム的視点で記事を作成し、発表する。
15.	総括および小テスト	学びについての振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:　刻々と変わるメディアの状況について共に学んでいきましょう。

フィードバックの方法:　教室にて解説。提出物については添削して教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
記事作成およびプレゼンテーション	50%	記事のクオリティおよびプレゼンテーションの完成度に応じて評価する。
授業態度	30%	出席及び授業内における積極的な発言等により評価する。
小テスト	20%	課題に関する理解度により評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応。

522601

Writing for the Internet in English A

戸田　　就介

授業テーマ:　ライティングの基本を学んで、インターネットで世界に発信しよう　Learning Basic English Writing Skills for the Internet

授業の概要:　この授業では、インターネットの中にある膨大な英語の世界を探訪し、英語ライティングの基礎を学習するものである。

到達目標:　授業の前半では、インターネット世界を探訪し、後半ではインターネット子供向けのK12-Webサイトを利用しながら、英語ライティングの基礎的訓練を行う。セメスターの終盤では英語のホームページを実際に作成し、英語のライティングスキルやインターネットの為の英語の特徴を学んでいく。英語のWebページには日本語のページとは違う特有のレイアウトや決まり事があり、情報メディア学科に学ぶ者にとって有効な、英語によるページデザインの基本についても学習する。

授業方法:　講義に加えて、グループ作業、ピアディスカッション、発表などを併用する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	この授業はアクティブラーニングの要素が含まれており、随時、事前・事後のグループ学習を行う
2.	英語のインターネットサイトの楽しさを知る1（HP, Blog, Twitter等）	
3.	英語のインターネットサイトの楽しさを知る2（HP, Blog, Twitter等）	宿題の英作文を行う
4.	英語のインターネットサイトの楽しさを知る3（HP, Blog, Twitter等）	宿題の英作文を行う
5.	インターネットを使ったライティングのための文法学習1	宿題の英作文を行う
6.	インターネットを使ったライティングのための文法学習2	宿題の英作文を行う
7.	インターネットを使ったライティングのための文法学習3	宿題の英作文を行う
8.	K12のサイトを参考にライティングの練習1	グループ発表のための準備を行う
9.	K12のサイトを参考にライティングの練習2	グループ発表のための準備を行う
10.	英語のホームページの特徴を学ぼう1	グループ発表のための準備を行う
11.	英語のホームページの特徴を学ぼう2	事前・事後のグループ学習を行う
12.	ホームページを実際にグループで作成する1	事前・事後のグループ学習を行う
13.	ホームページを実際にグループで作成する2	事前・事後のグループ学習を行う
14.	ホームページの発表	事前・事後のグループ学習を行う
15.	授業の振り返り、質疑応答など	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ライティングの課題提出	30	英語のライティングの上達状況を評価する
発表	20	内容・構成・完成度を評価する
グループ学習への参加度と出席	50	グループ内での作業の参加状況も評価する

教科書:　なし

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビ―の掲示板機能、Eメール（stoda@dwc.doshisha.ac.jp ）、授業の前後に教室内で対応

522701 **Writing for the Internet in English B**

戸田　　就介

授業テーマ:　インターネットを使って、笑いの世界に挑戦しよう　Using the Internet to Connect with the World of Laughter

授業の概要:　英語の文化圏では笑いは生活の中で重要な意味を持つ。日々のコミュニケーションの中には、日本とは比べものにならない量の笑いが入り込んでおり、笑いを理解し、使いこなさなければ、英語の文化圏に入り込むことは難しいといえる。インターネットの世界にも笑いはふんだんに入り込んでいる。この授業では英語文化圏の様々な笑いにインターネットの素材をとおして親しんでいく。

到達目標:　学生各自が英語の笑いを創造し、そのプロセスでライティング、英語文法を指導していく。また、ピアディスカッションも併用しグループ学習も行う。これらのプロセスをとおして、ライティングスキルやインターネットによるコミュニケーションの方法を学んでいく。

授業方法:　講義に加えて、グループ作業、ピアディスカッション、発表などを併用する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	この授業はアクティブラーニングの要素が含まれており、随時、事前・事後のグループ学習を行う
2.	インターネットサイトをとおした笑いの諸相（米国の笑い）	
3.	インターネットサイトをとおした笑いの諸相（米国の笑い）	宿題の英作文を行う
4.	インターネットサイトをとおした笑いの諸相（米国の笑い）	宿題の英作文を行う
5.	インターネットサイトをとおした笑いの諸相（イギリスの笑い）	宿題の英作文を行う
6.	インターネットサイトをとおした笑いの諸相（イギリスの笑い）	宿題の英作文を行う
7.	インターネットサイトをとおした笑いの諸相（他の英語圏の笑い）	宿題の英作文を行う
8.	英語的笑いの創造（ブログで発信・添削）	グループ発表のための準備を行う
9.	英語的笑いの創造（ブログで発信・添削）	グループ発表のための準備を行う
10.	英語的笑いの創造（ブログで発信・添削）	グループ発表のための準備を行う
11.	英語的笑いの創造（ブログで発信・添削）	事前・事後のグループ学習を行う
12.	英語的笑いの創造（ブログで発信・添削）	事前・事後のグループ学習を行う
13.	発表1	事前・事後のグループ学習を行う
14.	発表2	事前・事後のグループ学習を行う
15.	授業の振り返り、質疑応答など	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ライティングの課題提出	30	英語のライティングの上達状況を評価する
発表	20	内容・構成・完成度を評価する
グループ学習への参加度と出席	50	グループ内での作業の参加状況も評価する

教科書:　なし

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビ―の掲示板機能、Eメール（stoda@dwc.doshisha.ac.jp ）、授業の前後に教室内で対応

522800

グラフィックデザイン論

髙木　　毬子

授業テーマ:　グラフィックデザイン概論

授業の概要:　授業目標：グラフィックデザインは比較的新しい分野です。「グラフィックデザイン」という用語は、1922年にWilliam Addison Dwigginsによって初めて使われました。以来、グラフィックデザインはタイポグラフィ、色彩、イラストレーションと写真をつなぎ、観る者を説得、指導、また時には誘惑もします。
この授業では歴史的な観点から国際的に多様なグラフィックデザインの諸相を考察します。

到達目標:
・グラフィックデザインを社会、政治と文化の歴史との関連の知識
・デザインスタイルの国際的な繋がりの理解
・作品を分析する方法、批評する能力の獲得

授業方法:　全体としては講義形式で進めますが、一部で演習も取り入れる予定です。ノート、そしてリフレクションペーパーを書かせます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション：授業の内容、進め方について イントロダクション：『グラフィックデザインとは？』	ノートテーキング：自ら「グラフィックデザイン」の要素を言葉で表す
2.	タイポグラフィエイジの始まり：グーテンベルグの発明（15世紀以後）	ノートテーキング：形を理解する為に文字を描く
3.	ポスターデザイン：印刷技術の発展とジャポニズムの影響（19世紀のヨーロッパ）	ノートテーキング：ポスターのデザインを分析し、解説してみる
4.	科学とグラフィックデザイン：オットー・ノイラートとフリッツ・カーン	ノートテーキング：ダイヤグラムやインフォメーションデザインでデータをビジュアル化する
5.	ノイエ・テュポグラフィとタイポフォト：アヴァンギャルドとバウハウス	ノートテーキング：バウハウスの影響を日常的なデザインで探し出す
6.	第二世界大戦前の日本：グラフィックデザインの芽生え	ノートテーキング：授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を進めるように
7.	グラフィックデザインとプロパガンダ	ノートテーキング：今世紀の「プロパガンダ」となる物を一つ持参し、それを紹介してください
8.	世界大戦後のヨーロッパとアメリカ：スイスとアメリカのタイポグラフィ	ノートテーキング：スイス・タイポグラフィの作品のグリットを確かめる
9.	日本のモダングラフィックデザイン	ノートテーキング：授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を進めるように
10.	システムとしてのグラフィックデザイン：オリンピックとCI計画	ノートテーキング：1964年の東京オリンピックに提案されたロゴの分析・批評
11.	グラフィックのアニメーション：映画のタイトルデザイン他	ノートテーキング：映画のタイトルデザインなどを一つ選択し、解説する
12.	デザインのデジタル化	ノートテーキング：授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を進めるように
13.	国際化とデザイン：インフォメーションデザインと多言語使用のデザイン	ノートテーキング：授業内で取り上げたデザインエポック・作家・作品に関して、各自で調査・研究を進めるように
14.	アナログvs.デジタル：オブジェクトとしての本	ノートテーキング：現在書店にある本を一冊選び、その素材・加工に関して解説する。 授業内容の復習、ノート提出の準備
15.	まとめ：Rethink Graphic Design／グラフィックデザインを再発見	期末

受講者へのメッセージやアドバイス:　興味を持って様々なデザインを見たり、集めたりしてください。質問がありましたら、声をかけてください。

フィードバックの方法:　数人の受講生のリフレクション・ペーパへのフィードバックは教室でまとめてします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加・出席	50	毎週のリフレクション・ペーパの内容、積極的に授業に参加しているのかを評価します。
ノートの提出	50	グラフィックデザインに関する理解度、作品の分析力を評価します。

教科書:　なし

参考書:　授業内で進度に合わせて紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　各授業の終了後に直接連絡してください。

550200

Public Speaking Ⅱ

沖　　キャサリン

授業テーマ:
Development of Speaking Skills

授業の概要:
Students will prepare for the TOEFL iBT test.

到達目標:
This course has two main purposes: (1) To provide students with more skills for speaking in English, in particular, to be able to speak about a familiar topic clearly and coherently with confidence and (2) to refine speaking skills using the criteria for the Independent Speaking Task of the TOEFL iBT test.

授業方法:
Practical training – Each class consists of three parts: (1) practicing speaking skills; (2) going over the assigned homework; and (3) making speeches about the topic given before and answering questions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Independent Learning Review	Plan individualized supplemental practice
2.	Quantitative and qualitative goals	Homework and tailored supplemental practice
3.	Public Academic Speaking	Homework and tailored supplemental practice
4.	Presentations	Homework and tailored supplemental practice
5.	Presentations	Homework and tailored supplemental practice
6.	Test simulations	Homework and tailored supplemental practice
7.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
8.	Focus on contents	Homework and tailored supplemental practice
9.	Motivational strategies	Homework and tailored supplemental practice
10.	Focus on delivery	Homework and tailored supplemental practice
11.	Peer feedback	Homework and tailored supplemental practice
12.	Self evaluations	Homework and tailored supplemental practice
13.	Presentations	Homework and tailored supplemental practice
14.	Presentations	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:
Speaking is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT.

フィードバックの方法:
Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
Final	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.

教科書:
Handouts will be provided.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:
Send Email to Catherine Oki
沖　キャサリン <coki@dwc.doshisha.ac.jp>

550301～08

Academic Writing Ⅰ

J.Cross、B.Quinn、担当者未定

授業テーマ:

Academic Writing Skills

授業の概要:

Students will prepare for academic writing and for the writing sections of the TOEFL iBT and IELTS tests.

到達目標:

This course has two main purposes: (1) To provide students with academic writing skills in English, in particular, to be able to write clear paragraphs and short essays on a range of topics, and (2) to prepare them for the Independent and Integrated Writing Tasks on the TOEFL iBT or IELTS test.

授業方法:

Practical Training – In a typical class, students will discuss topics, develop ideas and write outlines or focus on a target language skill and practice exercises either individually or interactively. Homework will consist of writing exercises designed to further focus student's attention on the target writing skill.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Independent learning review	Plan individualized supplemental practice
2.	Process	Homework and tailored supplemental practice
3.	Summary	Homework and tailored supplemental practice
4.	Analysis paragraph	Homework and tailored supplemental practice
5.	Analysis paragraph	Homework and tailored supplemental practice
6.	Analysis paragraph	Homework and tailored supplemental practice
7.	Cause and effect paragraph	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
9.	Cause and effect paragraph	Homework and tailored supplemental practice
10.	Persuasive paragraph	Homework and tailored supplemental practice
11.	Persuasive paragraph	Homework and tailored supplemental practice
12.	Persuasive paragraph	Homework and tailored supplemental practice
13.	Introduction to APA style	Homework and tailored supplemental practice
14.	In-text citations	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

Writing is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT or IELTS test.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class through a drafting and revising cycle of learning, and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in class using online technology software, such as sentence length, lexical density, academic vocabulary, and overall reading level of their writing.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
Midterm	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.
Final	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:

Texts will vary depending on skill level.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:

You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

550401～08

Academic Writing Ⅱ

J.Cross、B.Quinn、担当者未定

授業テーマ:

Academic Writing Skills

授業の概要:

Students will prepare for academic writing abroad and for the writing sections of the TOEFL iBT and IELTS tests.

到達目標:

This course has two main purposes: (1) To provide students with more academic writing skills in English, in particular, to be able to write clear paragraphs and short essays to help them here and while abroad, and (2) to prepare them for the Independent and Integrated Writing Tasks on the TOEFL iBT or IELTS test.

授業方法:

Practical Training – In a typical class, students will discuss topics, develop ideas and write outlines or focus on a target language skill and practice exercises either individually or interactively. Homework will consist of writing exercises designed to further focus student's attention on the target writing skill.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Independent learning review	Plan individualized supplemental practice
2.	Process	Homework and tailored supplemental practice
3.	Summary	Homework and tailored supplemental practice
4.	Analysis paragraph	Homework and tailored supplemental practice
5.	Analysis paragraph	Homework and tailored supplemental practice
6.	Analysis paragraph	Homework and tailored supplemental practice
7.	Cause and effect paragraph	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
9.	Cause and effect paragraph	Homework and tailored supplemental practice
10.	Persuasive paragraph	Homework and tailored supplemental practice
11.	Persuasive paragraph	Homework and tailored supplemental practice
12.	Persuasive paragraph	Homework and tailored supplemental practice
13.	Introduction to APA style	Homework and tailored supplemental practice
14.	In-text citations	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:

Writing is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT or IELTS test.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class through a drafting and revising cycle of learning, and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in class using online technology software, such as sentence length, lexical density, academic vocabulary, and overall reading level of their writing.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
Midterm	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.
Final	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:

Texts will vary depending on skill level.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:

You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

550501、02

Intensive Reading Ⅰ

飯田　　毅

授業テーマ:

Developing academic reading skills, enhancing motivation for academic reading, and reading collaboratively with members of skill class.

授業の概要:

The main aims of this course are to develop students' academic reading skills and enhance their motivation for academic reading. To achieve them, they need to enrich academic vocabulary, develop metalinguistic knowledge about grammar, improve reading skills, have knowledge about paragraph and get used to academic reading materials. In this course reading materials for the TOEFL ITP, TOEFL iBT, IELTS, academic passages, passages in the Super English, and papers are used. Students are required to read these materials carefully before class.

到達目標:

(1) To read reading materials of Super English and read collaboratively with members of skill class.
(2) To improve students' reading skills so that they can read quickly, accurately, analytically, and critically.
(3) To increase the amount of academic English vocabulary and have sufficient grammatical knowledge so that they become a good academic reader.
(4) To obtain a high score in the reading portion of the TOEFL iBT, TOEFL ITP, and IELTS.
(5) To read reading materials carefully, in particular, check unknown academic vocabulary.

授業方法:

Students can improve basic reading skills by reading materials in the Super English, TOEFL iBT, and IELTS reading sections collaboratively, actively, and enthusiastically. They also can develop English grammar and vocabulary skills by engaging in practicing the Super English. Before class, students are required to read and answer questions to passages in these reading materials given before as homework. In particular, students read TOEFL iBT tests collaboratively with some members in skill class. They read the same passages on the computer screen and answer questions in the classroom. New questions are given in the classroom. After reading within time pressure, they need not only give correct answers but also explain why the answer is correct. Reading strategies to improve readings skills are provided by the instructor. Also, vocabulary strategies, i.e., how to increase the number of vocabulary will also be given. To talk about what students have read is very important to improve reading skills. It is important to cooperate fully with partners during class. All reading materials in the Super English and vocabularies in TOEFL iBT and IELTS reading materials will be given as in the Mid-term and Final Exams.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction of the course: Self introduction, course introduction, and diagnostic test.	To get full scores of materials in the Super English
2.	Basic reading skills: strategies for fact finding questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
3.	Basic reading skills: strategies for reference questions	To get full scores of materials in the Super English
4.	Basic reading skills: strategies for inference questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
5.	Basic reading skills: strategies for author's intention questions	To get full scores of materials in the Super English
6.	Basic reading skills: strategies for restatement questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
7.	Basic reading skill: strategies for summary questions	To get full scores of materials in the Super English
8.	Academic reading skills & feedback	Review grammar questions, vocabulary, reading strategies.
9.	Basic reading skills: category questions	To get full scores of materials in the Super English
10.	Basic reading skills: vocabulary questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
11.	Basic reading skills: discourse questions	To get full scores of materials in the Super English
12.	Basic reading skills: titling questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
13.	Basic reading skills: paragraph summary questions	To get full scores of materials in the Super English
14.	Basic reading skills: note taking skills	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
15.	Academic reading skills & feedback	Review grammar questions, vocabulary, reading strategies.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Academic reading seems to be difficult, but in fact it is very interesting.

フィードバックの方法:

Students' homework sheets need to be submitted in every class and checked by the instructor. Also, results of mid-term and final exams are given in the form of a sheet of paper.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Mileage of Super English	20	Based on the criteria of course objective (1), total mileage of Super English is evaluated. Also, collaboration in group work is evaluated.
Homework & participation	10	Based on the criteria of course objective (5), students' level of preparation and the that of participation are evaluated.
Mid-term Exam	30	Based on the criteria of course objectives (2) & (3), students' reading skills are evaluated.
Final Exam	40	Based on the criteria of course objectives (2) & (3), students' reading skills are evaluated.

教科書:

Educational Testing Service (ETS), Official TOEFL iBT Tests with Audio, Volume 1. Mc Graw Hill

参考書:

神部孝、TOEFLテスト英単語3800、旺文社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	E-mail and Manabi

550601、02

Intensive Reading Ⅱ

飯田　　毅

授業テーマ:

Developing academic reading skills, enhancing motivation for academic reading, reading collaboratively with members of skil class, and developing critical reading skills

授業の概要:

Based on what students have learned through Intensive Reading I, this course continues to aim at developing students' academic reading skills, enhancing their motivation for academic reading, and reading collaboratively with members of skill class. In addition to these aims, critical reading skills needs to be developed in this course. To achieve them, students need to enrich academic vocabulary, develop metalinguistic knowledge about grammar, improve reading skills, have knowledge about paragraph, get used to academic reading materials, and read materials critically. Also, it is very important to read materials used in this class collaboratively with members of the same skill class. In this course reading materials for the TOEFL ITP, TOEFL iBT, IELTS, academic passages, passages in the Super English, and papers are used. Students are required to read these materials carefully before class.

到達目標:

(1) To enjoy reading materials of Super English.
(2) To improve students' reading skills so that they can read more quickly, accurately, analytically, and critically.
(3) To increase the amount of academic English vocabulary and have more sufficient grammatical knowledge so that they become a good academic reader.
(4) To obtain a higher score in the reading portion of the TOEFL iBT, TOEFL ITP, and IELTS.
(5) To read reading materials carefully, in particular, check unknown academic vocabulary.

授業方法:

Students can improve basic reading skills by reading materials in the Super English, TOEFL iBT, and IELTS reading sections collaboratively, actively, and enthusiastically. They also can develop English grammar and vocabulary skills by engaging in practicing the Super English. Before class, students are required to read and answer questions to passages in these reading materials given before as homework. In particular, students read TOEFL iBT tests collaboratively with some members in skill class. They read the same passages on the computer screen and answer questions in the classroom. New questions are given in the classroom. After reading within time pressure, they need not only give correct answers but also explain why the answer is correct. Reading strategies to improve readings skills are provided by the instructor. Also, vocabulary strategies, i.e., how to increase the number of vocabulary will also be given. To talk about what students have read is very important to improve reading skills. It is important to cooperate fully with members of a skill group during and outside class. All reading materials in the Super English and vocabularies in TOEFL iBT and IELTS reading materials will be given as in the Mid-term and Final Exams.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction of the course: Self introduction, course introduction, and diagnostic test.	To get full scores of materials in the Super English
2.	Basic reading skills: strategies for fact finding questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
3.	Basic reading skills: strategies for reference questions	To get full scores of materials in the Super English
4.	Basic reading skills: strategies for inference questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
5.	Basic reading skills: strategies for author's intention questions	To get full scores of materials in the Super English
6.	Basic reading skills: strategies for restatement questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
7.	Basic reading skill: strategies for summary questions	To get full scores of materials in the Super English
8.	Academic reading skills & feedback	Review grammar questions, vocabulary, reading strategies.
9.	Basic reading skills: category questions	To get full scores of materials in the Super English
10.	Basic reading skills: vocabulary questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
11.	Basic reading skills: discourse questions	To get full scores of materials in the Super English
12.	Basic reading skills: titling questions	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
13.	Basic reading skills: paragraph summary questions	To get full scores of materials in the Super English
14.	Basic reading skills: note taking skills	To read passage, answer the questions, check the answers, and check meaning of words and phrases. Make slide of explanation of answers collaboratively.
15.	Academic reading skills & feedback	Review grammar questions, vocabulary, reading strategies.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Academic reading is very interesting for you. Let's enjoy reading.

フィードバックの方法:

Students' homework sheets need to be submitted and checked by the instructor almost in every class. Also, results of mid-term and final exams are given in the form of a sheet of paper.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Mileage of Super English and collaborative learning	20	Based on the criteria of course objective (1), total mileage of Super English is evaluated. Also, collaboration within members of a skill class is evaluated.
Homework & participation	10	Based on the criteria of course objective (5), students' level of preparation and that of participation are evaluated.
Mid-term Exam	30	Based on the criteria of course objectives (2) & (3), students' reading skills are evaluated.
Final Exam	40	Based on the criteria of course objectives (2) & (3), students' reading skills are evaluated.

教科書:

Educational Testing Service (ETS), Official TOEFL iBT Tests with Audio, Volume 1. Mc Graw Hill

参考書:	神部孝、TOEFLテスト英単語3800、旺文社
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	E-mail、マナビー

550701、02

Intensive Listening Ⅰ

佐伯　　林規江

授業テーマ:

Developing English listening skills

授業の概要:

Students will practice listening skills in the context of the TOEFL iBT Independent Listening Task by listening for both dialogues and lecture-type passages similar in topic and style to those that English-speaking university students encounter in their life and academic settings. Students will learn how to listen actively, take notes, and re-organize ideas from their notes. In a typical class, students will be required to listen to either a certain conversation or a lecture for homework, answer some content-based questions regarding the passage, analyze the content and the strategies to understand the passage, and follow some impromptu listening tasks. Various topics will be discovered in this course by listening and analyzing the dialogues and lectures, so background knowledge will often be necessary.

到達目標:

This course has three main purposes:
(1) To improve students' listening skills
(2) To develop their listening strategies, in particular to provide them with skills for note-taking
(3) To prepare them for the Independent Listening Task of the TOEFL iBT

授業方法:

Practical Training - Each class consists of four parts:
(1) vocabulary and listening quiz
(2) analysis of the quiz by providing background information and strategies to overcome the difficulties
(3) post-listening activities such as discussing using notes and summarizing in English/Japanese
(4) portfolio filing for ongoing record of accomplishment and reflection.
The class is conducted mainly in English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction Preview test and overview of TOEFL iBT part 1	Read syllabus thoroughly and plan individualized supplemental practice
2.	Preview test and overview of TOEFL iBT part 2	Homework and tailored supplemental practice
3.	Chapter 1 Vocabulary & review quiz, listeing exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
4.	Chapter 2 Vocabulary & review quiz, listeing exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
5.	Chapter 3 Vocabulary & review quiz, listeing exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
6.	Chapter 4 Vocabulary & review quiz, listeing exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
7.	Midterm test	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm test review	Homework and tailored supplemental practice
9.	Supplemental listening exercises 1	Homework and tailored supplemental practice
10.	Supplemental listening exercises 2	Homework and tailored supplemental practice
11.	Supplemental listening exercises 3	Homework and tailored supplemental practice
12.	Chapter 5 Vocabulary & review quiz, listeing exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
13.	Chapter 6 Vocabulary & review quiz, listeing exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
14.	Chapter 7 Vocabulary & review quiz, listeing exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
15.	Final review and consolidation	Prepare for a set of final assignments and discussion

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback in class and summative evaluation through midterm and final review tests. Students also receive immediate feedback in every class using online automatic grading system. A set of homework assignments submitted in every class is returned to students in subsequent classes with comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and participation	20	Assessed on active participation by making relevant and extended contributions to discussions and by preparing for a set of review quizzes in each session, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Homework	30	Assessed on depth of comprehension, quality, and promptness of submission of a set of homework assignment in each session, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Midterm	25	Assessed on comprehension and engagement with course topics and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Final	25	Assessed on comprehension and engagement with course topics and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

教科書:

P. Edmunds, N. Mckinnon, and J. Zeter, Developing Skills for the TOEFL iBT, Compass Publishing
J. Beaumont, NorthStar Building Skills for the TOEFL iBT, Pearson Longman
Handouts

参考書:

To be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, and Communication skill

教員との連絡方法:

Office hour, after class, and/or by email

550801、02

Intensive Listening Ⅱ

佐伯　　林規江

授業テーマ: Developing English listening skills

授業の概要: Students will practice listening skills in the context of the TOEFL iBT Independent Listening Task by listening for both dialogues and lecture-type passages similar in topic and style to those that English-speaking university students encounter in their life and academic settings. Students will learn how to listen actively, take notes, and re-organize ideas from their notes. In a typical class, students will be required to listen to either a certain conversation or a lecture for homework, answer some content-based questions regarding the passage, analyze the content and the strategies to understand the passage, and follow some impromptu listening tasks. Various topics will be discovered in this course by listening and analyzing the dialogues and lectures, so background knowledge will often be necessary.

到達目標: This course has three main purposes:
(1) To improve students' listening skills
(2) To develop their listening strategies, in particular to provide them with skills for note-taking
(3) To prepare them for the Independent Listening Task of the TOEFL iBT

授業方法: Practical Training – Each class consists of four parts:
(1) vocabulary and listening quiz
(2) analysis of the quiz by providing background information and strategies to overcome the difficulties
(3) post-listening activities such as discussing using notes and summarizing in English/Japanese
(4) portfolio filing for ongoing record of accomplishment and reflection.
The class is conducted mainly in English.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction Preliminary (summer) homework review Unit 1 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Read syllabus thoroughly and plan individualized supplemental practice
2.	Unit 2 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
3.	Unit 3 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
4.	Unit 5 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
5.	Unit 8 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
6.	Unit 9 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
7.	Unit 10 vocabulary quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm test	Homework and tailored supplemental practice
9.	Supplemental listening exercises (Moc Test) for TOEFL iBT 1	Homework and tailored supplemental practice
10.	Supplemental listening exercises (Moc Test) for TOEFL iBT 2	Homework and tailored supplemental practice
11.	Chapter 1 & 2 vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
12.	Chapter 3 & 4 vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
13.	Chapter 5 & 6 vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
14.	Chapter 7 vocabulary & review quiz, listening exercises for TOEFL iBT	Homework and tailored supplemental practice
15.	Final review and consolidation	Prepare for a set of final assignments and discussion

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: Students receive formative feedback in class and summative evaluation through midterm and final review tests. Students also receive immediate feedback in every class using online automatic grading system. A set of homework assignments submitted in every class is returned to students in subsequent classes with comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and participation	20	Assessed on active participation by making relevant and extended contributions to discussions and by preparing for a set of review quizzes in each session, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Homework	30	Assessed on depth of comprehension, quality, and promptness of submission of a set of homework assignment in each session, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Midterm	25	Assessed on comprehension and engagement with course topics and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Final	25	Assessed on comprehension and engagement with course topics and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

教科書: P. Edmunds, N. Mckinnon, and J. Zeter, Developing Skills for the TOEFL iBT, Compass Publishing
J. Beaumont, NorthStar Building Skills for the TOEFL iBT, Pearson Longman
Handouts

参考書: To be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: Analytical ability, Thinking power, and Communication skill

教員との連絡方法:	Office hour, after class, and/or by email

551300

Integrative Writing Ⅱ

沖　　キャサリン

授業テーマ:
Academic Writing Skills

授業の概要:
Students will prepare for the TOEFL iBT test.

到達目標:
This course has two main purposes: (1) To provide students with a general introduction to integrated writing in English, and (2) to prepare them for the Integrated Writing portion of the TOEFL iBT test.

授業方法:
Practical Training – Students will focus on developing their skills in summarizing and responding to academic materials much in the same way that would be required of them if they were studying in a country where English was the medium of instruction.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Independent learning review	Plan individualized supplemental practice
2.	Reading Review	Homework and tailored supplemental practice
3.	Summarizing Review	Homework and tailored supplemental practice
4.	Listening/ Guessing	Homework and tailored supplemental practice
5.	Synthesizing	Homework and tailored supplemental practice
6.	Writing Integrated Response	Homework and tailored supplemental practice
7.	Editing/ Check	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
9.	Grammar Skills	Homework and tailored supplemental practice
10.	Citing Review	Homework and tailored supplemental practice
11.	Paraphrasing Review	Homework and tailored supplemental practice
12.	Timed Writing	Homework and tailored supplemental practice
13.	Editing	Homework and tailored supplemental practice
14.	Feedback	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:
Writing is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT.

フィードバックの方法:
Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, such as sentence length, lexical density, academic vocabulary, and overall reading level of their writing.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
Final	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:
Send Email to Catherine Oki
coki@dwc.doshisha.ac.jp

551501、02

Pronunciation & Presentation Ⅰ

J.Cross、担当者未定

授業テーマ:
Developing speaking and presentation skills

授業の概要:
This course explores the spoken pronunciation of a range of features at the sound, word and sentence level in the context of academic presentations, and promotes understanding of how to deliver academic poster presentations in English.

到達目標:
The objectives of this course are to:
1. introduce and provide practice of sounds, word and sentence stress and intonation features
2. develop the ability to prepare and present poster presentations

授業方法:
Tutorials; pair and small group activities

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction IPA Problem sounds analysis	Pronunciation consolidation
2.	Problem sounds 1 Presentation basics 1	Pronunciation consolidation
3.	Pronunciation review Problem sounds 2 Presentation basics 2	Pronunciation consolidation
4.	Pronunciation review Problem sounds 3 Presentation basics 3	Pronunciation consolidation
5.	Pronunciation review Problem sounds 4 Presentation basics 4	Pronunciation consolidation
6.	Pronunciation review Word stress and weak sounds 1 Presentation basics 5	Pronunciation consolidation
7.	Small group presentations	Pronunciation consolidation
8.	Pronunciation review Sentence stress 1 Presentation basics – Posters	Pronunciation consolidation
9.	Pronunciation review Sentence stress 2 Presentation basics – Posters	Pronunciation consolidation
10.	Pronunciation review Intonation 1 Presentation preparation	Pronunciation consolidation
11.	Pronunciation review Intonation 2 Presentation preparation	Pronunciation passage assessment
12.	Presentation basics – the delivery	Final preparation
13.	Final presentation	Final preparation
14.	Final presentation	Final preparation
15.	Final presentation	

受講者へのメッセージやアドバイス:
Students are expected to actively participate in lessons to maximize opportunities for themselves and other students to develop a range of skills essential to success in an academic environment. English is primarily a tool for communication and engagement with others, not just a language to be studied and tested.

フィードバックの方法:
Weekly in-class feedback; peer feedback on poster presentation

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and attitude	50	1. attendance 2. punctuality 3. level of motivation 4. level of participation
Pronunciation passage	20	1. fluency 2. pronunciation – sounds, word and sentence stress, intonation
Final presentation (individual)	30	1. poster 2. delivery (language, pronunciation, style)

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Ask in class.

551502

Pronunciation & Presentation Ⅰ

F.H.Graham Ⅲ

授業テーマ:

Developing speaking, discussion and presentation skills.

授業の概要:

This course explores the spoken pronunciation of a range of features at the sound, word, and sentence level in the context of discussions and presentations, and promotes understanding of how to deliver academic poster presentations.

到達目標:

1. To introduce and practice pronuncation of sounds, word and sentence stress, and intonation features. 2.Improve the ability to develop and effectively deliver poster presentations.

授業方法:

Lectures; group and pair work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction; IPA; Problem sounds analysis	Pronunciation consolidation
2.	Problem sounds 1; Presentation basics 1	Pronunciation consolidation
3.	Pronunciation Review; Problem Sounds 2; Presentation Basics 2	Pronunciation consolidation
4.	Pronunciation Review; Problem Sounds 3; Presentation Basics 3	Pronunciation consolidation
5.	Pronunciation Review; Problem Sounds 4; Presentation Basics 4	Pronunciation consolidation
6.	Pronunciation Review; Word Stress and weak sounds 1; Presentation Basics 5	Pronunciation consolidation
7.	Small group presentations	Pronunciation consolidation
8.	Pronunciation Review; Sentence Stress 1; Presentation Basics-Posters	Pronunciation consolidation
9.	Pronunciation Review; Sentence Stress 2; Presentation Basics-Posters	Pronunciation consolidation
10.	Pronunciation Review; Intonation 1; Presentation preparation	Pronunciation consolidation
11.	Pronunciation Review; Intonation 2; Presentation Preparation	Pronunciation consolidation
12.	Presentation Basics-the delivery	Pronunciation consolidation
13.	Final Presentation	Pronunciation consolidation
14.	Final Presentation	Pronunciation consolidation
15.	Final Presentation	Pronunciation consolidation

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a tentative schedule and will be changed, amended, and revised as necessary. You should come to class with a postive attitude, prepared and prepared to speak with your classmates. The primary way to improve your speaking skills is to speak and to become used to communictating with a variety of others. I am here to help you in any way you need, please ask when you need extra attention with anything.

フィードバックの方法:

Feedback on assignments will be provided, where necessary, by the instructor and by your peers in the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and participation	50	1. attendance 2. punctuality 3. preparedness for the lessons 4. participation in class
Pronunciation passage	20	1. fluency 2. clarity
Final presenation	30	1. poster 2. delivery (clarity, language, style)

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

analytical ability; thinking power; creative ability; presentation skill; communication skill; capacity for compassion; self-managerial power; ability of self-realization

教員との連絡方法:

See the class syllabus.

551601、02

Pronunciation & Presentation Ⅱ

J.Cross、担当者未定

授業テーマ:
Developing speaking and presentation skills

授業の概要:
This course explores the spoken pronunciation of a range of features at the sentence level in the context of academic presentations, and further promotes understanding of how to deliver academic presentations in English.

到達目標:
The objectives of this course are to:
1. introduce and provide practice of sentence stress and intonation features
2. develop the ability to prepare and present short PowerPoint academic presentations in groups

授業方法:
Tutorials; pair and small group activities

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction Review Pronunciation and Presentation I	
2.	Problem sounds Presentations 1	Pronunciation consolidation
3.	Pronunciation review Word stress Presentations 2	Pronunciation consolidation
4.	Pronunciation review Sentence stress Presentations 3	Pronunciation consolidation
5.	Pronunciation review Intonation in context Presentations 4	Pronunciation consolidation
6.	Pronunciation review Intonation in context Presentations 5	Pronunciation consolidation
7.	Pronunciation review Intonation in context Presentations – visuals 1	Pronunciation consolidation
8.	Pronunciation review Intonation in context Presentations – visuals 2	Pronunciation consolidation
9.	Pronunciation review Intonation in context Presentation preparation	Pronunciation consolidation
10.	Pronunciation review Intonation in context Presentation preparation	Pronunciation consolidation
11.	Pronunciation review Intonation in context Presentation preparation	Pronunciation passage assessment
12.	Presentations – the delivery	Final preparation
13.	Final presentation	Final preparation
14.	Final presentation	Final preparation
15.	Final presentation	

受講者へのメッセージやアドバイス:
Students are expected to actively participate in lessons to maximize opportunities for themselves and other students to develop a range of skills essential to success in an academic environment. English is primarily a tool for communication and engagement with others, not just a language to be studied and tested.

フィードバックの方法:
Weekly in-class feedback; peer feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and attitude	50	1. attendance 2. punctuality 3. level of motivation 4. level of participation
Pronunciation passage	20	1. fluency 2. pronunciation – sounds, word and sentence stress, intonation
Final presentation (group)	30	1. PowerPoint 2. delivery (language, pronunciation, style)

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
Ask in class.

551602

Pronunciation & Presentation Ⅱ

F.H.Graham Ⅲ

授業テーマ:

Develop speaking, discussion, and presentation skills

授業の概要:

This course explores the spoken pronunciation at the sentence level in the context of discussions and presentations, and futher promotes understanding of how to deliver academic presentations in English.

到達目標:

1. To introduce and provide practice of sentence stress and intonation features. 2. develop the ability to prepare and deliver short academic PowerPoint presentations in groups.

授業方法:

Lecture, pair and group activities

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction; review	Pronunciation consolidation
2.	Problem sounds; Presentations 1	Pronunciation consolidation
3.	Pronunciation review; word stress; presentations 2	Pronunciation consolidation
4.	Pronunciation review; sentence stress; presentations 3	Pronunciation consolidation
5.	Pronunciation review; intonation in context; presentations 4	Pronunciation consolidation
6.	Pronunciation review; intonation in context; presentations 5	Pronunciation consolidation
7.	Pronunciation review; intonation in context; presentations-visuals 1	Pronunciation consolidation
8.	Pronunciation review; intonation in context; presentations-visuals 2	Pronunciation consolidation
9.	Pronunciation review; intonation in context; presentation preparation	Pronunciation consolidation
10.	Pronunciation review; intonation in context; presentation preparation	Pronunciation consolidation
11.	Pronunciation review; intonation in context; presentation preparation	Pronunciation passage assessment
12.	Presentations-the delivery	Final preparation
13.	Final presentations	Final preparation
14.	Final presentations	Final preparation
15.	Final presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a tentative schedule and will be changed, amended, and revised as necessary. You should come to class with a postive attitude, prepared and prepared to speak with your classmates. The primary way to improve your speaking skills is to speak and to become used to communictating with a variety of others. I am here to help you in any way you need, please ask when you need extra attention with anything.

フィードバックの方法:

Weekly in class feedback; peer feedback

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and participation	50	1. attendance 2. punctuality 3. preparedness for the lessons 4. participation in class
Pronunciation passage	20	1. fluency 2. clarity
Final presenation	30	1. PowerPoint 2. delivery (clarity, language, style)

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

analytical ability; thinking power; creative ability; presentation skill; communication skill; capacity for compassion; self-managerial power; ability of self-realization

教員との連絡方法:

See the class syllabus.

551701、02

Extensive Reading

池上　　久美子

授業テーマ:

To motivate students to read extensively and to have an interest in reading in English.

授業の概要:

(1) Students will be introduced to a wide range of reading materials in English from around the world.
(2) Students will read, discuss and write about the reading materials.
(3) Students will extensively read a number of books of their choice (a minimum of 500 pages over the semester).
(4) Students will be encouraged to think critically about what they read.
(5) Students will gain both confidence in their ability to read and motivation to read further.

到達目標:

(1) To enhance reading skills by increasing vocabulary, expanding world knowledge and developing ability to deal with difficult sentences.
(2) To apply reading strategies such as skimming and scanning.
(3) To have independent attitude for reading. It is crucial to increase input opportunities outside the class.

授業方法:

In the first half of each class, students will read and discuss up-to-date issues from newspapers, journals, and web pages.
In the second half of the class, students will read a part of a book to discuss issues about the book.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: How to find books to read, write a book report, write a summary	Read the course syllabus.
2.	English newspapers in Japan (Japan Times); Desert flower 1	Find a book to read. Finish reading at least 30 pages.
3.	News from NHK online; Desert flower 2	Finish reading at least 60 pages.
4.	Oral presentation(OP) and Submission of Book Reports 1, Notebook 1	Finish reading at least 100 pages.
5.	News from BBC web page, Notebook 2	Finish reading at least 150 pages.
6.	Local newspaper in Britain, The Reason I Jump	Finish reading at least 200 pages.
7.	Local newspaper in the USA, My Stroke of Insight 1	Finish reading at least 250 pages.
8.	Oral presentation(OP) and Submission of Book Reports 2, To kill a mockingbird 1	Finish reading at least 300 pages.
9.	Local newspaper in Canada, To kill a mockingbird 2	Finish reading at least 330 pages.
10.	Local newspaper in Australia, Food inc. 1	Finish reading at least 350 pages.
11.	Local newspaper in New Zealand, Food inc. 2	Finish reading at least 380 pages.
12.	Oral presentation(OP) and Submission of Book Reports 3, The Diary of a Yong Girl 1	Finish reading at least 400 pages
13.	Open Courseware at MIT (You tube) and Anne of Green Gables	Finish reading at least 450 pages.
14.	Oral presentation(OP) and Submission of Book Reports 4	Finish reading at least 500 pages.
15.	Course conclusion	Review

受講者へのメッセージやアドバイス:

Please ensure to complete the worksheet provided in class prior to coming to the next class.
You are also expected to find and read books of your choice according to the schedule provided.

フィードバックの方法:

Evaluate and return all the worksheets submitted in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Exam	40%	Evaluate how well students demonstrate and apply the knowledge of the materials covered in class.
Book reports	40%	A total of 4 book reports must be submitted. Each book report is evaluated based on the criteria given in each lecture and on an assignment sheet.
Attendance and contribution to the class	10%	Evaluate how actively students will engage in a group discussion and presentation.
Oral presentation about the books	10%	Evaluate how actively students will participate in the oral presentation by summarizing and making comments.

教科書:

N/A

参考書:

N/A

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking power, presentation skill, communication skill, self-managerial power

教員との連絡方法:

E-mail address will be announced in class.

552000

Consecutive Interpretation／日英逐次通訳入門

洲脇　　万由美

授業テーマ:　ビジネス逐次通訳に挑戦してみよう！

授業の概要:　刻々と変化するグローバルな環境で働くには、通訳を依頼している暇は無い。自らが直接英語でビジネスをし、また時には社内通訳を引き受けることにもなる。簡単なビジネス通訳、例えば、社内パーティーの司会通訳、自社企業案内通訳、商談・接待通訳などができれば、ビジネスパフォーマンスも上がり、社内からの信頼アップにもつながるだろう。現役通訳士としての経験や勉強法も紹介する。

到達目標:　半年後の春学期の同時通訳にトライできるよう、秋学期では通訳の様々な訓練法を紹介しながら英日・日英の逐次通訳のスキルの習得を目指す。

授業方法:　L3を用いて、音声を聞きながらシャドーイング、ディクテーション、メモ取り、リプロダクションを反復練習し、通訳パフォーマンスにつなげていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	通訳の種類と訓練法	持ち帰りの音声を聞いてシャドーイング、ノートテーキング、訳出の準備又は通訳の反復練習
2.	メモ取りのコツ アテンド通訳（接待・観光）　英日	同上
3.	アテンド通訳（接待・観光）　日英	同上
4.	リプロダクション アテンド通訳（企業）　英日	同上
5.	アテンド通訳（企業）　日英	同上
6.	パフォーマンステスト　①	同上
7.	アテンド通訳（工場視察）英日	同上
8.	アテンド通訳（工場視察）日英	同上
9.	商談通訳（商品説明）英日	同上
10.	商談通訳（商品説明）英日	同上
11.	商談通訳（商品説明）英日	同上
12.	ウエルカムスピーチ通訳　日英	同上
13.	ウエルカムスピーチ通訳　日英	同上
14.	パフォーマンステスト　②	同上
15.	Review	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　就職先で英語を使う予定の人、通訳をしてみたい人におすすめの講座。きちんと通訳の訓練法を学んで通訳技術をアップさせてみよう。

フィードバックの方法:　授業内で解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
パフォーマンステスト　1	50	通訳パフォーマンスだけでなく、ノートテーキングしたメモも評価対象になる。
パフォーマンステスト　2	50	同上

教科書:　なし

参考書:　授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応

552100

Simultaneous Interpretation／日英同時通訳入門

洲脇　　万由美

授業テーマ:　ビジネス同時通訳に挑戦してみよう！

授業の概要:　刻々と変化するグローバルな環境で働くには、通訳を依頼している暇は無い。自らが直接英語でビジネスをし、また時には社内通訳を引き受けることにもなる。簡単なビジネス通訳、例えば、社内パーティーの司会通訳、自社企業案内通訳、商談・接待通訳などができれば、ビジネスパフォーマンスも上がり、社内からの信頼アップにもつながるだろう。現役通訳士としての経験や勉強法も紹介する。

到達目標:　今期はサイトトランスレーション、パラフレージングといった訓練法に力を入れ、簡単なものであれば同時通訳できるよう繰り返し練習したい。

授業方法:　まずは音声を聞いて逐次通訳→同時通訳につながるようにサイトトランスレーション、パラフレージング→音声を聞きながら同時通訳練習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	同時通訳の種類と訓練法 サイトトランスレーション	持ち帰りの音声を聞いてシャドーイング、ノートテーキング、訳出の準備又は通訳の反復練習
2.	スピーチ1　英日 逐次通訳 サイトトランスレーション	同上
3.	スピーチ1 同時通訳	同上
4.	スピーチ2　日英 逐次通訳 サイトトランスレーション	同上
5.	スピーチ2　日英 同時通訳	同上
6.	同時通訳パフォーマンステスト1	同上
7.	企業視察通訳　日英　A1 逐次通訳	同上
8.	企業視察通訳　日英　A2 逐次通訳	同上
9.	企業視察通訳　日英　B1 サイトトランスレーション 同時通訳	同上
10.	企業視察通訳　日英　B2 サイトトランスレーション 同時通訳	同上
11.	パフォーマンステスト2	同上
12.	スピーチ3　逐次通訳　英日	同上
13.	スピーチ3　同時通訳　英日	同上
14.	スピーチ3　同時通訳　英日	同上
15.	パフォーマンステスト　3	同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　就職先で英語を使う予定の人、通訳をしてみたい人におすすめです。きちんと通訳の訓練法を学んで通訳技術をアップさせましょう。

フィードバックの方法:　授業内で解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Test 1	30	通訳パフォーマンスだけでなく、ノートテーキングしたメモも評価対象になる。
Test 2	40	同上
Test 3	30	同上

教科書:　なし

参考書:　授業内で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応

552400

Japanese Culture／日本の文化

A.C.Elliott

授業テーマ:

授業の概要: This course examines the cultures of Japan from an anthropological and cultural studies perspective. It focuses on customs and arts, and pays special attention to their diversity, historical contexts and how they have changed over time.

到達目標: This course has three main aims:
1. to review, develop, and broaden students' knowledge and understanding of Japanese culture;
2. to engage and acquaint students with the historical roots and background of Japanese culture;
3. to give students the analytical and language skills needed to research, discuss, and interpret Japanese culture in English.

授業方法: Each class begins with an interactive lecture, where students in pairs or small groups will be asked to discuss and respond to the material. After the lecture, group discussions on the lecture topic will take place, followed by an individual written response. Every 3-4 weeks, students will present the results of their cultural research to their group. Groups change after each presentation.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction: What is "Japan"? Who is "Japanese"? What is "Japanese Culture"?	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Imamura, "The Japanese Family").
2.	Quiz on previous class Family Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Johnson and Johnson, "Daily Life in Japanese High Schools"). Begin research on Family Cultures.
3.	Quiz on previous class School Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class ("Traditional Employment Practices in Japan"). Finish research on Family Cultures.
4.	Quiz on previous class Work Cultures Report on Family Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Sosnoki, "Nihon Kaoku"). Begin research on Work Cultures.
5.	Quiz on previous class Housing Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Sosnoki, Nihon Ryori). Continue research on Work Cultures.
6.	Quiz on previous class Food Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Buckley, "Play"). Finish research on Work Cultures.
7.	Quiz on previous class Cultures of Play Report on Work Cultures	Review of lecture notes from weeks 2-7.
8.	Midterm test	Reading preparation for next class (Sosnoki, "Kimono").
9.	Fashion Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class ("A Short History of Japanese Cinema"). Begin research on Fashion Cultures.
10.	Quiz on previous class Visual Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Garcia, "A Brief History of Japanese Music"). Finish research on Fashion Cultures.
11.	Quiz on previous class Music Cultures Report on Fashion Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Avella, "Kawaii: The Culture of the Cute"). Begin research on Aesthetic Cultures.
12.	Quiz on previous class Aesthetic Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (Kelts, "Japanamerica"). Continue research on Aesthetic Cultures.
13.	Quiz on previous class Global Japanese Culture	Review of lecture notes for quiz. Finish research on Aesthetic Cultures.
14.	Quiz on previous class Course Review Report on Aesthetic Cultures	Review of lecture notes from weeks 9-14.
15.	Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: All quizzes and individual written responses are returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20%	Assessed via individual written response on understanding and engagement with lecture, reading and discussion topics.
Review quizzes	15%	
Research and oral report	15%	Assessed via research notes on depth and interest of research.
Midterm test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.
Final test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:	Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), Manabi, or see me before/after class or during my office hour.

552500

Japanese & Comparative Literature／日本文学と外国文学

A.C.Elliott

授業テーマ:

授業の概要:

This course is a survey of some of the most important works, genres, modes, and themes in Japanese literature. Although the focus is on modern and contemporary literature, texts from the early modern and other periods may be used for comparative analysis.

到達目標:

This course has three main aims:
1) to help students acquire and/or reinforce their knowledge of Japanese literature. This aims at enhancing their ability to think about Japanese society, culture and history in a critical and innovative way;
2) to provide students with the tools necessary to introduce (and discuss about) Japanese literature in a foreign language. In order to do this, we will work with reading comprehension, presentation skills and vocabulary building.
3) to offer students a new vision of Japanese literature, in order for them to use it as a tool for effective intercultural exchange and global comprehension.

授業方法:

There will be a reading assignment every week. Students are expected to read each text before class, and to prepare a short comment about it to share with the class. At the beginning of each class, there will be a quiz about the reading. This is following by a mini presentation by students on one of the assigned authors or themes. Although the readings will be offered in English as well as in Japanese, both the vocabulary test and the discussion will be based on the English version. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction	Presentation preparation.
2.	Introduction to Japanese literature: conceptions and approaches to the canon	Reading preparation for next class. Written response to class.
3.	The aesthetics and politics of haiku	Reading preparation for next class. Written response to class.
4.	Love and romance in Japanese literature I: Manyoshu to Murakami	Reading preparation for next class. Written response to class.
5.	Love and romance in Japanese literature II: male-male and female-female love	Reading preparation for next class. Written response to class.
6.	The "I" novel: Soseki Natsume and Ishikawa Jun	Reading preparation for next class. Written response to class.
7.	Politics and the novel: Oe Kenzaburo	Reading preparation for next class. Written response to class.
8.	Writing ground zero: Japanese literature and the atomic bomb	Reading preparation for next class. Written response to class.
9.	Erotic, grotesque, nonsense in Japanese literature	Reading preparation for next class. Written response to class.
10.	Japanese literature as film I: Endo Shusaku's Silence	Reading preparation for next class. Written response to class.
11.	Japanese literature as film II: Akutagawa Ryunosuke's Rashomon	Reading preparation for next class. Written response to class.
12.	Japanese literature at the margins I: colonial literature	Reading preparation for next class. Written response to class.
13.	Japanese literature at the margins II: Okinawan literature	Reading preparation for next class. Written response to class.
14.	Japanese literature at the margins III: "Japanese" literature in English	Presentation practice
15.	Final presentation. Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

All work is returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20%	
Homework responses	20%	Assessed on quality of engagement with lecture material and written style.
Mini-presentations	20%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
Final presentation	20%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
Final report	20%	Assessed on depth and relevance of reading, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力, 自己管理力, 自己実現力

教員との連絡方法:

Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during my office hour.

552600

Japanese & Foreign Languages／日本語と外国語

山内　　信幸

授業テーマ:

Introduction to Contrastive Study of Japanese and English

授業の概要:

This course serves as an introduction to contrastive study of Japanese and English and provides a general overview of several issues concerning related areas. Students are expected to develop the following skills through the course: (1) to understand several important key terms and concepts of contrastive study of Japanese and English and (2) to improve an output of oral presentation focusing on the related topics based on their own interest.

到達目標:

Students are expected to (1) understand basic ideas on Contrastive Study of Japanese and English and (2) apply the contents of the class activities based on the group-oriented methods to their own presentation.

授業方法:

The course is divided into two parts: the lecture in English and Japanese) delivered by the instructor and the presentation (in English) given by a student (or students).

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Linguistics and Contrastive Linguistics	Read a related section of the textbook.
2.	Some Properties of Language and Languages	Read a related section of the textbook.
3.	Topics of Phones 1 (Phonetics)	Read a related section of the textbook.
4.	Topics of Phones 2 (Phonology)	Read a related section of the textbook.
5.	Topics of Words 1 (Morphology)	Read a related section of the textbook.
6.	Topics of Words 2 (Word Formation)	Read a related section of the textbook.
7.	Topics of Meaning 1 (Semantics)	Read a related section of the textbook.
8.	Topics of Meaning 2 (Pragmatics)	Read a related section of the textbook.
9.	Topics of Language and Society 1 (Theories)	Read a related section of the textbook.
10.	Topics of Language and Society 2 (Applications)	Read a related section of the textbook.
11.	Topics of Language and Culture 1 (Theories)	Read a related section of the textbook.
12.	Topics of Language and Culture 2 (Applications)	Read a related section of the textbook.
13.	Topics of Nonverbal Communications 1 (Theories)	Read a related section of the textbook.
14.	Topics of Nonverbal Communications 2 (Applications)	Read a related section of the textbook.
15.	Summary	Read related sections of the textbook.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to fully prepare for and review the contents of the class activities based on the individual orgroup-oriented methods.

フィードバックの方法:

Feedback will be given at the beginning of each class to review important points and issues in the last class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class paticipation including attendance:	20	Students will be partly graded on attendance and class participation. Students absent from more than one-third of the classes will NOT be allowed to take the final examination.
Oral presentation	30	Students will be partly graded on discussion, oral presentation, quizzes during the class.
Final examination	50	Students will be partly graded on the final exam.

教科書:

山内信幸・北林利治共編『英語学へのアプローチ』英宝社

参考書:

References and other materials are to be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, Presentation skill, Communication skill, Ability of self-realization

教員との連絡方法:

Contact by email: nyamauch@mail.doshisha.ac.jp

553001、02

Introduction to British Studies／イギリス研究入門

潟山　　健一

授業テーマ:

Cultural and social background of Britain

授業の概要:

The aim of this course is to give students enough basic information and knowledge about Britain to start academic research on comparing the cultures of Japan, Britain and other English speaking countries.

到達目標:

Students will learn the cultural and social background of Britain along with its relationship with the Commonwealth countries, including Australia, New Zealand and Canada, while practicing the basic presentation and note-taking skills.

授業方法:

Each class consists of three parts:
(1) Quiz on the content learnt in the previous lecture of this course (10 min.);
(2) Presentation given by a group of 3 to 5 students, which reviews the previous week's lecture of this course (20 min.);
(3) Lecture (55-60 min.).

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction & Identity 1: 'The British Isles' & 'Very British'	
2.	Identity 2: 'Influences', 'Empire' & 'In English'	Review & Preparation with reading materials
3.	Institutions 1: 'Politics', 'The Monarchy', 'A world role' & 'Being British'	Review & Preparation with reading materials
4.	Institutions 2: 'The British year' & 'Many faiths'	Review & Preparation with reading materials
5.	Everyday: 'Coming to Britain', 'At home' & 'In the family'	Review & Preparation with reading materials
6.	Education: 'At school' & 'At college'	Review & Preparation with reading materials
7.	Working Life: 'Finding a job' & 'The economy', & Food	Review & Preparation with reading materials
8.	The Arts: 'Film and theatre', 'Music', 'The classics' & 'Modern life'	Review & Preparation with reading materials
9.	The Media: 'In the news' & 'On TV and radio'	Review & Preparation with reading materials
10.	Leisure: 'At the shop', 'Sport' & 'Free time'	Review & Preparation with reading materials
11.	Getting Around: 'In the street', 'Around town', 'On the road' & 'Trains'	Review & Preparation with reading materials
12.	Regions 1: 'In the country' & 'Environmental Issues'	Review & Preparation with reading materials
13.	Regions 2: 'London', 'The South' & 'The Midlands and the North'	Review & Preparation with reading materials
14.	Regions 3: 'Scotland', 'Wales' & 'Northern Ireland'	Review & Preparation with reading materials
15.	Assessment	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Taught in English all through the course.

フィードバックの方法:

Feedback on the weekly quiz and the presentation will be given in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final Report	50	Forty-five multiple-choice questions and another thirty questions to check the knowledge about British culture.
Weekly Quizzes	20	Ten multiple-choice questions to review the content of lecture from previous week.
Research & Presentation	20	Will be evaluated if the summary of previous week's lecture is appropriate enough and the research topic is clear enough.
Attendance & Contribution to the class	10	Regular attendance will be required. More than five times of absence automatically means to fail this course.

教科書:

Handouts

参考書:

TBA

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

In the classroom or through email

553101、02

Introduction to North American Studies／北米研究入門

鈴木　　健司

授業テーマ:

Cultural and social backgrounds of the United States and Canada

授業の概要:

This course seeks to introduce students to area studies as a core of international studies, focusing on the United States and Canada. The aim of the course is to provide a basic grasp of how the people lead a daily life and achieve a civil society in the two countries in North America. Covering a wide range of fields, the course will provoke students to think about contemporary issues relating to cultures and societies, and also will help them to take a first step toward academic approaches to such matters. Information will be given visually and aurally in English and explained in Japanese, so that students will be able to deepen understanding of what is going on in North America by themselves.

到達目標:

1) Students can acquire basic knowledge of people, history, politics, society, and culture of the United States and Canada and explain them in English.
2) Students can understand the differences and the similarities between the United States and Canada, and between these countries and Japan.
3) Students can become interested in the current social and cultural situations of the United States and Canada and their background.

授業方法:

Lecture and In-class quizzes.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Read the syllabus.
2.	Basic facts of the United States	Write a book report.
3.	Basic facts of Canada	Write a book report.
4.	Ethnic and racial diversity in the United States	Read the text in advance.
5.	Government and politics in the United States (1)	Read the text in advance.
6.	Government and politics in the United States (2)	Read the text in advance.
7.	Traditional American values and beliefs	Read the text in advance.
8.	Cultural issues of the United States	Read the text in advance.
9.	Who Canadians are; Canadian symbols	Read the text in advance.
10.	Regions of Canada	Read the text in advance.
11.	How Canada govern themselves (1)	Read the text in advance.
12.	How Canada govern themselves (2)	Read the text in advance.
13.	Cultural issues of Canada	Read the text in advance.
14.	American society and Canadian society in a comparative perspective	Read the text in advance.
15.	Overview	Overall review

受講者へのメッセージやアドバイス:

Bring your attention to the contents, not English.

フィードバックの方法:

On Manavi.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and participation	25%	Reflection papers.
In-class quizzes	25%	Degree of knowledge acquisition and accurate reading of the text.
Final examination	50%	Degree of knowledge acquisition and explanation capability.

教科書:

Handouts.

参考書:

To be announced.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

By email or in classroom.

553200

Historical View of Britain／イギリス史

潟山　　健一

授業テーマ:
Historical Background of Britain and the Commonwealth

授業の概要:
This course is designed for the DIS students who will be studying in the following autumn in Britain or in either of the Commonwealth countries in Oceania: Australia or New Zealand to study about their historical background.

到達目標:
The aim of the course is to give knowledge on history of Britain and the Commonwealth well enough to start the academic research on comparative culture in the universities of those English speaking countries. Students will learn the historical background of Britain and the Commonwealth countries, practicing the presentation and discussion skills.

授業方法:
Each class consists of three parts:
(1) Quiz (10 min.)
(2) Presentation and discussion conducted by the students (15-20 min.)
(3) Lecture (55-60 min.).

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	
2.	Britons, Celts and Romans & Saxons, Danes and Normans	Preparation with reading materials
3.	Late-medieval struggles	Review & Preparation with reading materials
4.	Renaissance, reformation and revolution 1	Review & Preparation with reading materials
5.	Renaissance, reformation and revolution 2	Review & Preparation with reading materials
6.	Towards internal stability and external expansion	Review & Preparation with reading materials
7.	Political reforms, Industrial Revolution and imperial rule	Review & Preparation with reading materials
8.	Midterm examination	
9.	Britain and Ireland	Review & Preparation with reading materials
10.	History of Australia 1	Review & Preparation with reading materials
11.	History of Australia 2	Review & Preparation with reading materials
12.	History of New Zealand 1	Review & Preparation with reading materials
13.	History of New Zealand 2	Review & Preparation with reading materials
14.	Britain and the Commonwealth, and the course review	Review & Preparation with reading materials
15.	Assessment	

受講者へのメッセージやアドバイス:
Taught in English all through the course.

フィードバックの方法:
Feedback on the weekly quiz and the presentation will be given in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final Report	30	Writing test to check the knowledge about Ireland, Oceania, and the Commonwealth of Nations.
Midterm examination	30	Writing test to check the knowledge on British history.
Weekly Quizzes	10	Ten questions to review the content of lecture from previous week and another ten to check the preparation.
Research & Presentation	20	Will be evaluated if the research topic is clear enough and if the procedure of research is appropriate.
Attendance & Contribution to the class	10	Regular attendance will be required. More than five times of absence automatically means to fail this course.

教科書:
Handouts

参考書:
TBA

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
In the classroom or through email

553300

Historical View of North America／北米史

鈴木　　健司

授業テーマ:

Historical backgrounds of the United States and Canada

授業の概要:

The purpose of this course is to examine fundamental topics in the history of the United States and Canada, for students who are supposed to study in those countries. Taking up North America altogether, the course will provide a larger picture of history, which would not be achieved by focusing on each country separately. Covering notable events, which affected the direction of the two countries, the course will help students foster historical perspectives and penetrating views to understand current affairs of North America.

到達目標:

1) Students can acquire basic knowledge of history of the United States and Canada and explain them in English.
2) Students can understand the nation building process of the United States and Canada in the historical context of North America as a whole.
3) Students can become interested in the current social and cultural situations of the United States and Canada and their historical background.

授業方法:

Lecture and In-class quizzes.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Why study history	Read the syllabus.
2.	Jamestown colony and Pochahontas	Read the text in advance.
3.	Plymouth colony and Thanksgiving	Read the text in advance.
4.	Declaration of Independence and Betsy Ross	Read the text in advance.
5.	U.S. Constitution	Read the text in advance.
6.	Thomas Jefferson and Andrew Jackson	Read the text in advance.
7.	American Civil War	Read the text in advance.
8.	Colonial Canada and Confederation	Read the text in advance.
9.	Westward expansion and frontier	Read the text in advance.
10.	U.S. immigration before 1965	Read the text in advance.
11.	Monroe doctrine and Cold War	Read the text in advance.
12.	Civil Rights Movement	Read the text in advance.
13.	Canada since Confederation	Read the text in advance.
14.	North America in 21st century	Read the text in advance.
15.	Overview	Overall review

受講者へのメッセージやアドバイス:

Be aware of the issues while reading.

フィードバックの方法:

On Manavi.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and participation	25%	Reflection papers.
In-class quizzes	25%	Degree of knowledge acquisition and accurate reading of the text.
Final examination	50%	Degree of knowledge acquisition and explanation capability.

教科書:

Handouts.

参考書:

To be announced.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

By email or in classroom.

553401

Christianity in the World／キリスト教と世界

若林　　裕

授業テーマ:
キリスト教の過去を顧み、現在を考え、未来を展望する

授業の概要:
宗教は個人の内面的事柄に関わるだけではなく、広く世界の文化/文明を構築してきた原動力であり、紛争や対立の背景にも、その影響力が指摘される。それを踏まえ、キリスト教の「今」と、その思想および歴史を概観する。併せて関連する世界の諸宗教の現状も学び、宗教多元主義の可能性を探る。

到達目標:
1. 日本語および英語による聖書の基礎理解。
2. キリスト教の文化・社会史的把握。
3. 現代世界の諸問題の背後にある宗教文化的背景の洞察。
4. キリスト教を含む宗教全般に対する、冷静でバランスのとれた思考力および他者理解力の進展。

授業方法:
授業は日本語による講義形式を原則としますが、必要に応じ英語の解説も施します（英語による宗教用語理解のため）。授業中の私語は禁止ですが、積極的な意見交換や質問は大歓迎です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	本講義に関するオリエンテーション（ねらい、問題設定、用語解説等）	授業時配布プリントの復習
2.	世界の宗教—三大一神教と多神教（ヒンドゥー教を中心に）および日本の宗教	授業時配布プリントの復習
3.	英語で学ぶ聖書の世界—旧約聖書	事前配布プリントの予習
4.	英語で学ぶ聖書の世界—新約聖書	事前配布プリントの予習
5.	ユダヤ教の歴史とキリスト教	授業時配布プリントの復習
6.	原始キリスト教と史的イエス	事前配布プリントの予習
7.	ヨーロッパ・キリスト教（1）—ローマ帝国	授業時配布プリントの復習
8.	ヨーロッパ・キリスト教（2）—中世の教会と文化	授業時配布プリントの復習
9.	ヨーロッパ・キリスト教（3）—ルネサンスと宗教改革の意義	授業時配布プリントの復習
10.	東方正教会とビザンツ帝国	授業時配布プリントの復習
11.	現代アメリカのキリスト教	授業時配布プリントの復習
12.	現代イスラームとキリスト教	授業時配布プリントの復習
13.	キリスト教と宗教多元主義	授業時配布プリントの復習
14.	世界の諸問題（パレスチナ問題等）とキリスト教	授業時配布プリントの復習
15.	結びにかえて—世界のキリスト教と日本および同志社のキリスト教	授業時配布プリントの復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
1. 毎回配布されるプリント類は必ず目を通しておいてください。もし分からないところがあれば、いつでも質問下さい。
2. 英文資料（宗教に関わる英文雑誌記事など）を適宜配布します。詳細は授業中に解説を行いますので英語力は関係ありませんが、参考までに英英辞典ないし英和辞典の持参をお勧めします。
3. 期末レポートの課題は6月中旬に公表の予定です。

フィードバックの方法:
毎回の質問内容に関しては、その都度お答えします。期末レポートについては15回目に、まとめてコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	70%	課題図書（図書館で借りられる本）の書評とします。理解力を重視。
授業出席	20%	授業への積極的参加。
自己評価申告	10%	当該科目に対する自らの取り組み姿勢を、期末に評価してもらいます。

教科書:
内容が多岐に渡るため教科書は使用しない。
毎講義、必ずプリント資料を配布する。

参考書:
ジョン・ヒック著　若林裕訳 『神とはいったい何ものか－次世代のキリスト教－』 新教出版社、2014年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:
メールwakabayashi8476@yahoo.co.jpへ連絡ください。
なお火曜、水曜日の午前中は本学に来ています。

553402

Christianity in the World／キリスト教と世界

中村　　信博

授業テーマ:　キリスト教的世界観と現代世界の諸問題

授業の概要:　長いキリスト教の歴史は、世界の諸宗教、諸思想、諸芸術、諸文化との出会いと葛藤を繰り返しながら、今日的状況を迎えている。キリスト教はそのイメージとは異なって、固有の体系としてよりも、それぞれの地域と時代の局面において多様に展開した宗教として理解すべきである。こうした問題意識を共有しながら、キリスト教の歴史と思想、また各地域における展開の独自性、世界観についても具体例を紹介しながら概観する。

到達目標:　【知識・理解】現代世界においてキリスト教が直面する諸問題について、宗教思想と倫理、政治社会、文化的側面から理解し、分析検討を行うことができる。
【関心・意欲・態度】キリスト教思想の基本を理解し、自らの問題意識と比較論的に検討することができる能力を養う。
【表現・技能・能力】学期後半からはキリスト教思想の基本を新約聖書におけるパウロの言説を参看しながらおこなうので、表層的なキリスト教理解にとどまらず、その精神史においても理解し、説明ができるようになる。

授業方法:　各回の主題は講義とともに随時実施を予定している小グループでの討議によって深化される。受講者には主体的な関心と能動的な参加を期待している。クラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム（マナビー）を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入－課題の設定－	各人のキリスト教についてのイメージを整理しておくこと。
2.	世界の宗教－神理解の多様性－	配布の資料などを手がかりに、キリスト教以外の宗教についても簡単な説明ができるようにしておくこと。
3.	日本の宗教－カミと神－	日本の宗教的伝統について、自身の言葉で説明できるようにしておくこと。
4.	アジアの諸宗教－仏教、ヒンドゥー、儒教－	配布の資料などを手がかりに、アジアにおける宗教についてヒンドゥー教や仏教を中心に簡単な説明ができるようにしておくこと。
5.	キリスト教の基本的性格－論理と歴史－	世界史におけるキリスト教の動向についての知識を整理しておくこと。
6.	キリスト教の論理－パウロへの招き－	配布資料などを手がかりに、パウロの生涯について簡単に理解しておくこと。
7.	宗教的体験と思索－異文化のなかのパウロ－	配布資料などを手がかりに、宗教を文化として観察するだけでなく、内在的な論理として機能し得ることについても理解をしておくこと。
8.	特殊と普遍－パウロの回心－	配布資料や聖書の該当箇所などを手がかりに、パウロの宗教体験とその影響についておよその理解を得ておくこと。
9.	初期キリスト教の概要－ヘレニズム世界の事情－	配布資料などを手がかりに、ヘレニズム世界の概要について理解を得ておくこと。
10.	思索と実践－ガラテヤ書の成立事情－	「ガラテヤ書」（新約聖書）を中心にパウロ書簡を通読しておくこと。
11.	キリスト教の倫理－人間であること－	「ガラテヤ書」（新約聖書）を中心にパウロ書簡を通読しておくこと。
12.	キリスト教の自己理解－セクト主義との葛藤－	「ガラテヤ書」（新約聖書）を中心にパウロ書簡を通読しておくこと。
13.	キリスト教の人間理解－エゴイズムの超克－	「ガラテヤ書」（新約聖書）を中心にパウロ書簡を通読しておくこと。
14.	宗教間の葛藤と対話－新しい課題にむけて－	配布資料などを手がかりに、宗教観が形成される論理について、整理しておくこと。
15.	まとめ	全回の授業内容について、総合的に復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　キリスト教のみならず、現代世界が内包する矛盾と課題についても理解を深めたいと考えている。世界各地におけるキリスト教とその他の宗教との関係についても論及するので、受講者には積極的な関心を期待したい。また、多岐の主題に触れることになるので、準備学習のみならず毎回の復習も大切にして欲しい。関連する文献など複数冊を講義終了時までに読了することを目的とすること。

フィードバックの方法:　毎回のコメントシートに寄せられた感想と質問を中心に翌週の授業で共有し、応答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	「授業の概要」および「到達目標」として設定されている事項についての理解度を中心に評価する。
小グループでの討議など	15%	随時導入される小グループでの討議を中心に、クラスでの発言による貢献の度合いを評価する。
授業への参加度	35%	毎回の出席とコメントシートへの積極的な記入によって評価する。

教科書:　多岐にわたる内容であるので、とくに教科書は指定しないが、参考文献はクラスにおいて指示する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、洞察力

教員との連絡方法:　直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

553500

English and American Literature／英米文学論

A.C.Elliott

授業テーマ:

"Mobilities" and Contemporary Fiction in English

授業の概要:

This course focuses on important works of fiction in recent English literature, paying particular attention to the short story and the novel. The course aims to reveal the diversity of narratives and styles of English literature today, and therefore approaches English literature in its broadest sense as literature written in English, in Britain and the United States, as well as elsewhere in the world. For that reason, mobility is a key theme of the works selected. In this context, "mobilities" refers to a wide range of real or symbolic movements of people, ideas, or things at local, regional, national and transnational levels. It includes literal journeys by foot, bicycle, motorcar, rail, air, and sea; as well as symbolic or psychological journeys of self-discovery, for example, and across racial, sexual, class, and gender lines. The term also refers to movement for a variety of different motivations, including leisure, family, work, politics and protest; some of these movements reveal a large degree of individual agency, others appear at least to be forced by present-day circumstances or history, as with the movement of refugees or the continuing after-affects of slavery and (post)colonialism in our world. A final important aspect of mobilities that will be picked up in this course is the idea of "contact" not only between people, ideas, and things on the move, but also with that considered static and rooted (the people, ideas, and things that don't seem to move). While movement has always been a feature of human life, it is clear that colonization in the modern period then globalization in the postwar period have led to a huge increase in the amount and speed of movement taking place in the world. This course focuses on stories about home and abroad, self and others, roots and routes; stories that deal with our experiences of, and responses to, mobility at the end of the twentieth century and beginning of the the twenty first.

到達目標:

This course has three main aims:
1. to help students acquire and/or reinforce their knowledge of English literature. This aims at enhancing their ability to think critically and deeply about society, culture and history across the present-day anglophone world.
2. to provide students with the tools necessary to introduce (and discuss about) English literature in English. In order to do this, we will work with reading comprehension, presentation skills and vocabulary building.
3. to offer students a new vision of English literature at the end of the twentieth century and beginning of the twenty-first century, in order for them to use it as a tool for effective intercultural exchange and global comprehension.

授業方法:

There will be a reading assignment most weeks. Students are expected to read each text before class, and to prepare a short comment about it to share with the class. At the beginning of each class, there will be a quiz about the reading. This is following by a mini presentation by students on one of the assigned authors or themes. Although the readings will be offered in English, students are free to read Japanese translations of texts at the same time, but the vocabulary test and the discussion will be based on the English version. Method of instruction and the texts selected may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction. Introduction to English literature: moving inside and outside the canon	Reading preparation for next class.
2.	Jhumpa Lahiri, Interpreter of Maladies (1999)	Written response to class.
3.	Zadie Smith, Swing Time (2016)	Reading preparation for next class. Written response to class.
4.	Teju Cole, Open City (2011)	Reading preparation for next class. Written response to class.
5.	Julian Barnes, Metroland (1980)	Reading preparation for next class. Written response to class.
6.	Colson Whitehead, Underground Railroad (2016)	Reading preparation for next class. Written response to class.
7.	Ben Marcus, Leaving the Sea (2014)	Reading preparation for next class. Written response to class.
8.	Kazuo Ishiguro, Never Let Me Go (2005)	Reading preparation for next class. Written response to class.
9.	Michel Faber, Under the Skin (2000)	Reading preparation for next class. Written response to class.
10.	Jonathan Glazer, dir., Under the Skin (2013) [film]	Reading preparation for next class. Written response to class.
11.	Christos Tsiolkas, The Slap (2008)	Reading preparation for next class. Written response to class.
12.	Ali Smith, Autumn (2016)	Reading preparation for next class. Written response to class.
13.	Salman Rushdie, East, West (1994)	Presentation practice. Written response to class.
14.	Final presentations 1	Presentation practice.
15.	Final presentations 2 Course Review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Inevitably, this course demands students read a wide range of English-language literary texts carefully and critically. Some of the texts are quite short (just a few pages), others are much longer. Students should be prepared to spend time outside of class reading and thinking about the text for the following week; hopefully, for students who enjoy reading literature, this will be a rather enjoyable task!

フィードバックの方法:

All work is returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	25%	
Homework responses	25%	Assessed on quality of engagement with lecture material and written style.
Mini-presentations	20%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
Final presentation	30%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力, 自己管理力, 自己実現力
教員との連絡方法:	Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during my office hour.

553800

Asian Culture／アジア文化論

C.Ludvik

授業テーマ:

Asian Culture: India to Japan

授業の概要:

This four-day intensive course will take students on a journey from India to Japan, via the Silk Road. We will explore Asian cultural heritages, highlighting continuities and interconnections by way of transmissions of concepts and forms. We will study selected Indian, Chinese and Japanese World Heritage Sites and Intangible Cultural Heritages, as well as certain Japanese National Treasures and Important Cultural Properties, situating specific case studies into the broader context of an Asian network of exchanges. Two field trips in the form of on-site classes will be woven into the course: one to Yakushiji in Nara, and another to Sanjūsangendō and the Kyoto National Museum.

到達目標:

The aim of this course is to familiarize students with Asian cultural heritages in the context of a vast network of exchanges of ideas and forms, so that they can recognize interconnections and continuities stretching from India to Japan.

授業方法:

This is a four-day intensive course. The language of instruction is English. Classes consist of lectures, in-class discussion, video clips and reading materials. Students are expected to write brief reflection papers. Quizzes will occasionally be held, and a final exam will take place on the last day of the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction: World Heritage and Intangible Cultural Heritage in Asia	Reading
2.	India: Introduction	Reading
3.	India: World Heritage Sites	
4.	India: Intangible Cultural Heritages	Reflection paper
5.	Silk Road: Xuanzang's Travels to India	Reading and questions
6.	Silk Road: Xuanzang's Travels to India	
7.	Nara Temples and the Silk Road Heritage: Yakushiji and Xuanzang	
8.	Nara Temples and the Silk Road Heritage: Yakushiji and Xuanzang	Reflection paper
9.	Japan: World Heritage Sites, National Treasures and Important Cultural Properties	Short presentation
10.	Japan: World Heritage Sites, National Treasures and Important Cultural Properties	
11.	Sanjūsangendō: National Treasures and Important Cultural Properties	
12.	Kyoto National Museum: National Treasures and Important Cultural Properties	Reflection paper
13.	Rāma Story in Asia, from India to Japan: Literature, Performing Arts (Intangible World Heritage), Visual Arts (World Heritage), and Animation	Reading
14.	Rāma Story in Asia, from India to Japan: Literature, Performing Arts (Intangible World Heritage), Visual Arts (World Heritage), and Animation	
15.	Conclusion	Study for final examination

受講者へのメッセージやアドバイス:

As yoga is an Intangible World Heritage, the 4th class-period will include a 20-minute yoga session. Please bring flexible clothing in order to be able to participate in yoga stretches.

Also, students are recommended to review the geography of Asia and to read general information about UNESCO World Heritage and Intangible Cultural Heritage before the course:

World Heritage Information Kit (2008)
http://whc.unesco.org/documents/publi_infokit_en.pdf

Intangible Cultural Heritage website
http://www.unesco.org/culture/ich/index.php?lg=EN&pg=home
http://www.unesco.org/culture/ich/index.php?pg=00011

フィードバックの方法:

Comments on reflection papers and contributions to discussions.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Quizzes and reflection papers	30%	Based on knowledge, thinking power and analytical ability.
Presentation and contributions to discussions	30%	Based on knowledge, thinking power and analytical ability.
Final exam	40%	Based on knowledge, thinking power and analytical ability.

教科書:

There is no textbook. Readings will be distributed in class.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking power, communication skill

教員との連絡方法:

Ask in the classroom before and/or during the class

553901、02

Introduction to International Relations／国際関係論入門

長谷川　和美

授業テーマ:

授業の概要:

This course introduces the basic concepts, theories, and issues in the field of International Relations, paying particular attention to the recent effects of globalization on world politics.

到達目標:

This course has three main aims: 1. to review, develop and broaden students' knowledge and understanding of international relations; 2. to engage and acquaint students with the role of Japan and themselves within world politics; 3. to give students the analytical and language skills needed to research, discuss, and examine international relations in English.

授業方法:

This class will be conducted by using a combination of interactive lectures, class discussions, and student group presentations on various international issues.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Course	Readings assignments
2.	Theories of World Politics (Introduction & Chapter 1)	Readings assignments
3.	Japan in the Modern International Relations ("The Rise and Fall of Japan," pp.53-54 and other readings)	Readings assignments
4.	The United Nations (Chapter 19)	Readings assignments
5.	Human Rights (Chapter 30)	Readings assignments
6.	Women's Rights are Human Rights	Readings assignments Clothes or Sneakers "Made-in…" Labels Assignment
7.	Gender in Global Economy	Readings assignments
8.	Transnational Actors and International Organizations in Global Politics (Chapter 20)	Readings assignments
9.	Group Presentation Preparation	Readings assignments Preparation for group presentation
10.	Group Presentation International Issues 1 (Environmental Issues, Chapter 21)	Readings assignments Preparation for group presentation
11.	Group Presentation International Issue 2 (Terrorism and Globalization, Chapter 22)	Readings assignments Preparation for group presentation
12.	Group Presentation International Issue 3 (Nuclear Proliferation, Chapter 23)	Readings assignments Preparation for group presentation
13.	Group Presentation International Issue 4 (Poverty, Development, and Hunger, Chapter 28)	Readings assignments Preparation for group presentation
14.	An Alternative Approach to Poverty and Development	Readings assignments Reading Response Paper
15.	Review of the Course	Preparation for the final exam

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class will be conducted by using a combination of interactive lectures, class discussions, and student group presentations on various international issues.

フィードバックの方法:

Feedback will be given to students' presentations in classroom. All written assignments will be returned to students with a grade and my detailed comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Class Participation	30	Assessed via individual written response on understanding and engagement with lecture, reading, and discussions.
Group Presentation	20	Assessed on quality of research, slides, and presentation.
Response Paper (1)	20	Assessed on quality of summary and critical engagement.
Final Exam	30	

教科書:

John Baylis, Steve Smith, and Patricia Owens. The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations (Fifth Edition). New York: Oxford University Press, 2011.

Other class readings and handouts will be provided in advance.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

Contact me via e-mail or visit me during my office hours.

554400

International Gender Studies／国際ジェンダー論

三宅　　えり子

授業テーマ:

Understanding the gendered society

授業の概要:

This course will enable you to understand how society is divided by gender and that different cultures have similar patterns of imbalanced power relationships between men and women and between dominant and minority groups.

到達目標:

1. To understand how male-female power relationships are constructed across different sectors in society
2. To gain knowledge about feminist perspectives and theories
3. To be able to interpret and analyze actual cases of gender issues based on feminist perspectives

授業方法:

Lectures, presentations by students, and discussions will be combined.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation about the course	
2.	What do we know about "gender"?	To read and understand handouts
3.	Feminist theories: Liberal feminism	To read and understand handouts
4.	Feminist theories: Radical feminism	To read and understand handouts
5.	Feminist theories: Marxist feminism	To read and understand handouts
6.	Feminist theories: Postmodern feminism	To read and understand handouts
7.	Feminist theories: Black feminism	To read and understand handouts
8.	Feminist theories: Global feminism	To read and understand handouts
9.	Debate about gender issues	To prepare for the debate
10.	Gender issues around the world – presentation and discussion ①	To gather information on gender issues/To prepare for the presentation
11.	Gender issues around the world – presentation and discussion ②	To gather information on gender issues/To prepare for presentations
12.	Gender issues around the world – presentation and discussion ③	To gather information on gender issues/To prepare for presentations
13.	Gender issues around the world – presentation and discussion ④	To gather information on gender issues/To prepare for presentations
14.	Gender issues in Japan – presentation and discussion ⑤	To gather information on gender issues/To prepare for presentations
15.	Conclusions: The current state of women and action plan	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Your active participation with diverse perspectives will be highly appreciated.

フィードバックの方法:

Worksheets will be returned with comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation	40%	Attendance, active participation in class, presentations
Worksheets	20%	Expression of own ideas on feminist issues
Final paper	40%	Understanding of feminist theories and gender issues

教科書:

Handouts will be provided in class.

参考書:

Kimmel, Michael (2011) The Gendered Society. Oxford, UK: Oxford University Press.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

E-mail: emiyake@dwc.doshisha.ac.jp

554500

Internship Ⅱ／インターンシップⅡ

飯田　　毅

授業テーマ:　日英バイリンガル教育インターンシップ実習体験

授業の概要:　同志社国際学院(DIA)は、日英バイリンガル小学校である6年生の初等部とインターナショナルスクールであり12年制の国際部(DISK)の二つの学校から構成されている。本インターンシップの目的は、初等部で実践されている日英バイリンガル教育を実践している教員の補助を通して、児童の学習を観察しながら、バイリンガル教育方法と成果を学ぶことにある。同志社国際学院初等部は2011年4月に開講した同志社大学附属の小学校であり、文部科学省の学習指導要領と世界標準のカリキュラム(国際バカロレア資格)に基づいて、教育が行われている。現在初等部では、6年間を通して授業の約55%を英語で、約45%を日本語で行っている。また、初等部は並立するDISKと共に授業の一部、学校行事、放課後活動を共同で行っている。本インターンシップでは、学生は初等部におけるバイリンガル教育の実習補助を担当する。具体的には、指導教員の授業の準備補助、授業中の児童への個別指導(例、理解できない児童への補助指導)、担任の事務補助を担当する。また、DISKとの共同の授業、学校行事、放課後活動にも積極的に参加し、児童が交流しやすいように補助活動を行う。

到達目標:　(1)事前指導を通して、同志社国際学院の理念・教育を理解する。(2)インターンシップを通して、日英バイリンガル教育を体験し、教育現場の中で働く意味を理解できる。(3)インターンシップ体験を教師や他の学生に発表することを通して、自身の体験を振り返り、働く意味を考えることができる。

授業方法:　本実習は事前指導、実習、事後指導に分かれる。事前指導では、バイリンガル教育及び同志社国際学院について理解する。2月に10日間実習を予定している。事後指導は、報告会を通して、実習全体を振り返る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	事前指導:インターンシップの心構え及び本インターシップの紹介	インターンシップの目的を理解し、同志社国際学院について事前に調べておく。どのようなインターシップにしたいか事前に考えておく。
2.	事前指導:International school及びImmersion educationの特徴、探求の単元(Unit of Inquiry)	International school、Immersion educationの特徴及び探求の単元について調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
3.	事前指導:学習指導要領と小学校教育	学習指導要領及び小学校教育の特徴について事前に調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
4.	事前指導:小学校における英語教育	小学校における英語教育について調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
5.	事前指導:小学校における教科指導と特別活動	小学校における教科指導及び特別活動の特徴について調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
6.	事前指導:小学生の心理	小学生の心理について調べ、A4用紙1枚にまとめる。教科書の決められた所を読み、自分の意見を整理しておく。
7.	事前指導:同志社国際学院における一日及び教員としての心構え(同志社国際学院訪問)	同志社国際学院訪問に際して、インターンシップに臨む心構えを等を準備しておく。
8.	バイリンガル教育インターンシップ実習 1	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
9.	バイリンガル教育インターンシップ実習2	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
10.	バイリンガル教育インターンシップ実習 3	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
11.	バイリンガル教育インターンシップ実習 4	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
12.	バイリンガル教育インターンシップ実習5	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
13.	バイリンガル教育インターンシップ実習6	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
14.	バイリンガル教育インターンシップ実習7	インターンシップ実習に必要な準備をして、実習に臨む。
15.	事後指導:報告会	実習してきた内容を担当者及び国際教養学科の1年次生に報告する資料の準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　バイリンガル教育インターンシップ実習は、バイリンガル教育を体験し、小学校教育のあり方を同志社国際学院の教育担当者の立場から見つめることができる。実習に行ける人数は限られるが、積極的な応募に期待する。

フィードバックの方法:　事前指導に関しては、毎回事前に調査してきたことに関して授業の中でフィードバックする。また、A4用紙にまとめてきたものは、コメントして、次週に返却する。実習中は、実習中の訪問や実習簿を通してフィードバックする。事後指導については、報告会での発表後、発表に関してコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前指導	20	事前指導における毎回の課題の達成度及び授業中の発言の内容により評価する。
インターンシップ実習	60	実習中の態度及び実習内容に関して、担当者が実習中の訪問を通して実習中の取り組み具合や実習簿の完成度により評価する。
事後指導	20	実習に関する発表内容についてその達成度、到達目標(3)を踏まえた上で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　E-mail

554801～05　**Seminar in International Studies Ⅰ／国際教養演習Ⅰ**

潟山　健一、飯田　毅、佐伯　林規江、鈴木　健司、A.C.Elliott

授業テーマ:　国際化社会を生き抜くための適切な表現方法を身につける。

授業の概要:

グローバル化が進展するこれからの社会で生きていくためには，単に英語が使えるというだけでなく，率直かつ明確に自分の主張を相手に伝える力が不可欠である。明確さを重要視する言語習慣を培ってきた英語圏へ赴き，異なる文化を有する人々と接していく際には，これが基本的かつ最も重要な技術となる。

この授業では，留学や卒業論文作成の準備段階として、日本語と英語という二つの言語について、率直で明確な表現方法を身につけるための知識の習得と演習を行う。なかでもこれら両言語で事実や情報を正確に伝える方法や自分の意見や意図を論理的かつ研究倫理におけるグローバル・スタンダードに則った方法で正しく他人に伝える方法に力点を置く。

到達目標:

(1) 日本語と英語の書き言葉におけるわかりやすい文、段落、説明、要約について必須事項を習得する。
(2) 日本語と英語で事実や情報を正確に伝える方法や自分の意見を論理的に他人に伝える方法を習得する。
(3) 充実した留学にするために会得しておくべき知識とスキルについて幅広く学ぶ。

授業方法:

この授業では、留学や卒業論文作成の準備段階として大きく分けて3つの事柄を扱う。

まず、日本語と英語の書き言葉における表現技術を身につけることである。母語で正確に文章が書けなければ外国語でこれを行うことは出来ない。そこで、日本語におけるわかりやすい文、段落、説明、要約について必須事項を体得する。同様に、英語におけるparagraphの構成についても実践を行いながら身につけていく。

次に、口頭発表やディスカッションの技能を修得するために，日本語と英語両方の言語で、自分の意見を筋道を立てて他人に伝える技術を身につける。これに慣れなければ、留学先大学でのseminarやtutorialといった少人数クラスで発言することは困難である。論旨を組み立ててわかりやすく事実を伝え、論理的に考え、他者の意見に耳を傾け、これに応答するという力を日英両言語について培う。

最後に、留学のとりわけアカデミックな側面に関する事前学習である。留学を成功させるためには何を準備すればよいのか、その心構えから効率的な学習の在り方、レポート作成法など、充実した留学にするために会得しておくべき知識とスキルについて幅広く学ぶ。

教科書と配付資料に沿って講義を行い、時間内外の練習と課題を通じて、基礎的なスタディ・スキルとコミュニケーション・スキルを養う。各回の授業で出される課題（日本語、英語による記述式）を翌週に提出する。授業は各回のテーマや内容によって日本語と英語を適宜使い分ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
2.	スケジュール管理とタイム・マネージメント	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
3.	図書館オリエンテーション	
4.	英語による書類の表記方法（住所・氏名等の英語表記）	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
5.	日英両言語の文章によるコミュニケーションの作法	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
6.	日英両言語で講義のポイントを掴む（Note Taking）	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
7.	プレゼンテーションの基礎	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
8.	英語によるプレゼンテーションの実践 (1)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
9.	英語によるプレゼンテーションの実践 (2)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
10.	英語によるプレゼンテーションの実践 (3)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
11.	論理構成法の基礎 (1)（Logical Thinking）	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
12.	論理構成法の基礎 (2)（Paragraph Writing）	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
13.	論理構成法の基礎 (3)（Essay Writing）	授業で学んだ知識を習得した上で、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
14.	留学先選択と研究分野の選定	留学先についてあらかじめ情報収集し各々の希望留学先について検討する。
15.	まとめ	授業で学んだ内容を総復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回の授業で提出される課題作文等は、添削して原則教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40	到達目標(1),(2),(3)に関する理解度により評価する。担当教員全員が、全クラス同一基準で総合的に評価する。
出席・受講態度	40	積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2),(3)ができるようになったかを評価する。5回を超えて欠席した場合は単位を与えない。
毎回の提出物（宿題）	20	到達目標(1),(2),(3)に関する理解度とどの程度独自の視点を論理的かつ説得力をもって表明できるかを基準とする。

教科書:　大井恭子、上村妙子、佐野キム・マリー『ライティング・パワー』研究社
資料を配布する。

参考書:　授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

554901～05　**Seminar in International Studies Ⅱ／国際教養演習Ⅱ**

潟山　健一、飯田　毅、佐伯　林規江、鈴木　健司、A.C.Elliott

授業テーマ:　国際化社会を生き抜くための適切な表現方法を身につける。

授業の概要:

グローバル化が進展するこれからの社会で生きていくためには，単に英語が使えるというだけでなく，率直かつ明確に自分の主張を相手に伝える力が不可欠である。明確さを重要視する言語習慣を培ってきた英語圏へ赴き，異なる文化を有する人々と接していく際には，これが基本的かつ最も重要な技術となる。

この授業では，留学や卒業論文作成の準備段階として、日本語と英語という二つの言語について、率直で明確な表現方法を身につけるための知識の習得と演習を行う。なかでもこれら両言語で事実や情報を正確に伝える方法や自分の意見や意図を論理的かつ研究倫理におけるグローバル・スタンダードに則った方法で正しく他人に伝える方法に力点を置く。

到達目標:

(1) 日本語と英語の書き言葉におけるわかりやすい文、段落、説明、要約について必須事項を習得する。
(2) 日本語と英語で事実や情報を正確に伝える方法や自分の意見を論理的に他人に伝える方法を習得する。
(3) 充実した留学にするために会得しておくべき知識とスキルについて幅広く学ぶ。

授業方法:

この授業では、留学や卒業論文作成の準備段階として大きく分けて3つの事柄を扱う。

まず、日本語と英語の書き言葉における表現技術を身につけることである。母語で正確に文章が書けなければ外国語でこれを行うことは出来ない。そこで、日本語におけるわかりやすい文、段落、説明、要約について必須事項を体得する。同様に、英語におけるparagraphの構成についても実践を行いながら身につけていく。

次に、口頭発表やディスカッションの技能を修得するために，日本語と英語両方の言語で、自分の意見を筋道を立てて他人に伝える技術を身につける。これに慣れなければ、留学先大学でのseminarやtutorialといった少人数クラスで発言することは困難である。論旨を組み立ててわかりやすく事実を伝え、論理的に考え、他者の意見に耳を傾け、これに応答するという力を日英両言語について培う。

最後に、留学のとりわけアカデミックな側面に関する事前学習である。留学を成功させるためには何を準備すればよいのか、その心構えから効率的な学習の在り方、レポート作成法など、充実した留学にするために会得しておくべき知識とスキルについて幅広く学ぶ。

教科書と配付資料に沿って講義を行い、時間内外の練習と課題を通じて、基礎的なスタディ・スキルとコミュニケーション・スキルを養う。各回の授業で出される課題（日本語、英語による記述式）を翌週に提出する。授業は各回のテーマや内容によって日本語と英語を適宜使い分ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
2.	事実文と意見文の分析 (Fact vs. Opinion)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
3.	絵・詩・テキストの分析（Critical Reading）	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
4.	文章の論理構成 (1)（Comparison and Contrast）	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
5.	文章の論理構成 (2)（Cause and Effect）	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
6.	文章の論理構成 (3)（Argumentation）	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
7.	中間試験	授業で学んだ内容を総復習する。
8.	討論の技法 (Discussion Skills) (1)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
9.	討論の技法 (Discussion Skills) (2)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
10.	レポートの書き方 (Thesis Statement) (1)	授業で学んだ知識を習得した上で、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
11.	レポートの書き方 (Thesis Statement) (2)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
12.	レポートの書き方 (Thesis Statement) (3)	授業で学んだ知識を用いて、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
13.	英語での志望理由書の書き方（Statement of Purpose）	授業で学んだ知識を習得した上で、課題のレポートを作成し翌週に提出する。
14.	留学先選択と研究分野の選定	留学先についてあらかじめ情報収集し各々の希望留学先について検討する。
15.	まとめ	授業で学んだ内容を総復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　毎回の授業で提出される課題作文等は、添削して原則教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験（中間+期末）	40	到達目標(1),(2),(3)に関する理解度により評価する。担当教員全員が、全クラス同一基準で総合的に評価する。
出席・受講態度	40	積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2),(3)ができるようになったかを評価する。5回を超えて欠席した場合は単位を与えない。
毎回の提出物（宿題）	20	の視点を論理的かつ説得力をもって表明できるかを基準とする。

教科書:　大井恭子、上村妙子、佐野キム・マリー『ライティング・パワー』研究社
資料を配布する。

参考書:　授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

555001～04

Seminar in International Studies Ⅲ／国際教養演習Ⅲ

潟山　健一、飯田　毅、佐伯　林規江、鈴木　健司、A.C.Elliott

授業テーマ:　研究方法の基礎を学び、留学中の個人研究テーマの大枠を決定する。

授業の概要:　研究方法の基礎を学び、留学中の研究のテーマ大枠を決定する。
この授業は、一年次の「Seminar in International Studies Ⅰ･Ⅱ／国際教養演習Ⅰ･Ⅱ」の基礎の上に築かれるものであり、その成果は、留学中の「Tutorial Ⅰ･Ⅱ／実地研究指導Ⅰ･Ⅱ」および帰国後の「Senior Seminar Ⅰ･Ⅱ／卒業研究Ⅰ･Ⅱ･Ⅲ」に活かされる。

到達目標:　(1) 留学中の研究テーマを選定するために必要となる研究方法の基礎について学ぶ。
(2) 留学中の研究テーマについて、その大枠を決定する。

授業方法:　オリエンテーション、研究の基礎、ディスカッションの方法、研究方法の概説については基本的に講義形式で行い、各担当者から指定されたテキストを読み、課題について考え、グループワークやディスカッションなどと組み合わせて授業を構成する。授業中は他者の意見に耳を傾け、わからないことは質問し、また自らの意見を述べる積極的な態度が期待される。
4回から8回の授業では、各回に出題される課題についてミニレポートを書く。
学期末までに、各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。研究テーマの設定に関しては、特に3,10,11,12,15回の授業において、ディスカッションやアドバイザー教員の指導を受けながら段階的に具体化し決定していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	アカデミック･リサーチの基礎	各自の関心に基づいて留学中の研究テーマについて関心と可能性を探る。
2.	図書館ガイダンス	各自の関心に基づいて留学中の研究テーマについて関心と可能性を探る。
3.	研究テーマ選定に関する指導 (1)	各自の関心に基づいて留学中の研究テーマについて関心と可能性を探る。
4.	アカデミック･リサーチの実践 (1)	(1) 配付資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。
5.	アカデミック･リサーチの実践 (2)	(1) 配付資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。
6.	アカデミック･リサーチの実践 (3)	(1) 配付資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。
7.	アカデミック･リサーチの実践 (4)	(1) 配付資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。
8.	アカデミック･リサーチの実践 (5)	(1) 配布資料等を読み、グループワークやディスカッションに備える。 (2) 課題のミニレポートを書く。 (3) 各自の関心に基づいて留学中の個別研究テーマを検討する。
9.	ポスター･セッション･ガイダンス	各自の関心に基づいて留学中の研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。
10.	研究テーマ選定に関する指導 (2)	各自の関心に基づいて留学中の研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。
11.	研究テーマ選定に関する指導 (3)	各自の関心に基づいて留学中の研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。
12.	研究テーマ選定に関する指導(4)	各自の関心に基づいて留学中の研究テーマを定め、研究計画をポスターセッションで発表できるように準備する。
13.	ポスター･セッション (1)	ポスター･セッションの発表資料を作成する。
14.	ポスター･セッション (2)	ポスター･セッションの発表資料を作成する。
15.	研究テーマ選定に関する指導 (5)	ポスター･セッションで得たフィードバックをもとに各自の留学中の研究テーマについて研究計画書を作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　グループワークやディスカッションなどを通して意見交換しながら、各自の研究テーマを選定していく。授業中は他者の意見に耳を傾け、わからないことは質問し、また自らの意見を述べる積極的な態度が求められる。

フィードバックの方法:　ミニレポートは各教員が添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と受講態度	40	積極的に授業に参加し、到達目標の(1)の理解度と、ディスカッションやグループワークの際に、到達目標(2)を踏まえた発言をしているかを評価する。5回を超えて欠席した場合は単位を与えない。
提出物(ミニレポート)	30	到達目標(1)の理解度と到達目標(2)を踏まえた論理的思考ができているかを基準とする。
ポスター発表および最終レポート	30	到達目標(1)の理解度と到達目標(2)を踏まえた論理的思考ができているかを基準とする。

教科書:　配布資料

参考書:　授業中に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

555101

Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ

潟山　　健一

授業テーマ:　比較文化研究

授業の概要:　国家に帰属するとは何を意味するのか。1, 2年次における習得内容と国際教養留学を通して得られた知識を踏まえ、イギリスをひとつの事例として、国家、国民性、ひいては国に帰属する人々のアイデンティティについて様々な角度から検討を行う。

到達目標:　資料収集の仕方やアカデミックな文章の組み立て方などを練習しながら、4年次の卒業研究II/IIIに必要な土台作りを行う。

授業方法:　各週2名が発表を担当し、教科書の内容の要約とこれを踏まえた問題提起を行った後、各々の意見を交えながら討議を行う。当然、全員が毎週20頁ほどの英文を読んで授業に臨むことが前提となる。基本的な部分は日本語で講義を行うが、適宜、英語による討議を交えて授業を運営する。
　また, 並行して個別研究の進捗状況についても随時報告してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	
2.	The Land of Lost Content	教科書該当箇所を熟読
3.	Funny Foreigners	教科書該当箇所を熟読
4.	The English Empire	教科書該当箇所を熟読
5.	個別研究発表(1)	各自報告準備
6.	'True Born Englishmen' and Other Lies / We Happy Few	教科書該当箇所を熟読
7.	The Parish of the Senses	教科書該当箇所を熟読
8.	Home Alone	教科書該当箇所を熟読
9.	There Always Was an England	教科書該当箇所を熟読
10.	The Ideal Englishman	教科書該当箇所を熟読
11.	Meet the Wife	教科書該当箇所を熟読
12.	Old Country, New Clothes	教科書該当箇所を熟読
13.	個別研究発表(2)	各自報告準備
14.	個別研究発表(3)	各自報告準備
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　登録者数によっては、授業方法に若干の変更があり得る。

フィードバックの方法:　・教科書を扱う回については、各週に扱われる章を熟読の上、討議に積極的に参加し得る態勢で授業に臨むこと。また、毎週授業終了後には、当日中にその日の討議に関するコメントや補足の意見などを電子メールで担当教員に提出すること。これによって知識の定着と柔軟な思考力を培う。
・個別研究発表については、所定の項目について資料を作成し、これをもとに卒業研究の構想および進捗状況に関する報告を行うこと。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	30	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
プレゼンテーション	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
司会および討議への参加度	30	積極的な聴き方と建設的意見の提示
出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。

教科書:　Jeremy Paxman, The English: A Portrait of A People, Penguin Books, 1999.

参考書:　TBA

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

555102

Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ

飯田　　毅

授業テーマ:

The role of language in journalism, psychology, media, women's studies, and culture.

授業の概要:

This seminar course deals with various topics such as the English language, journalism, psychology, media, women's studies, movie, language acquisition, and study abroad. Each class has a different topic, but the whole seminar course has a shared theme. It is the role of language in our life. In other words, the course introduces various topics related to language. Such a study is called applied linguistics (応用言語学), in particular this course focuses on discourse analysis (談話分析), which will be explained in class. In this course, students think, analyze, discuss the role of language in our society. It is very important for students to prepare for tasks given before class.

到達目標:

(1) To have interest in topics in this course, (2) To make sufficient preparation for a task given before class and discuss the task actively in class, (3) To present a mini-project in class and participate discussion about the project positively in class, (4) To write a good report about the mini-project.

授業方法:

It is important for students to prepare sufficiently for tasks given before class. A task for the next week is given a week before. An instructor explains how to do it. Students need to prepare for it. Based on the preparation, presentations and discussions are conducted throughout the class. In this seminar class, both English and Japanese are used.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction, self-introduction, attitude toward seminar class, and how to enjoy seminar class are given.	To read the syllabus of this course, and understand the content of and attitude toward the course.
2.	The Future of the English Language/未来における英語という言語はどうなるのか? British English, American English からWorld Englishesへ	To read a paper named "the future of English"before class and prepare for discussion in class.
3.	Journalism and Language 1:日本語と英語の新聞の言語はどのように使われているのだろうか?	To read Japanese and English newspapers and examine how language is used in the newspaper.
4.	Journalism and Language 2:信頼されている雑誌では広告、言語、写真ははどのように使われているのであろうか?	To examine how a quarterly magazine is constrcted for readers.
5.	Media and Language 1:戦争報道の過去と現在:戦争はどのように報道されてきたのであろうか？	To examine how wars are reported in media (newspaper, magazine, TV, movie, and web page).
6.	Language in the Advertisement:日本で使用される広告と海外で使われる広告の共通点と相違点とは何か？	To choose a favorite advertisement in media and examine how pictures and words are used for readers.
7.	Language in Movie: Photograph, language, and background music in the movie. 映画の中で映像、台詞、音楽はどのような働きをしているのか？	To choose a favorite movie and examine how photograph, language, and background music are constructed.
8.	Cultural Psychology(文化心理学):「ボスだけを見る欧米人みんなの顔までみる日本人」という考え方は正しいか？	To read an article on cultural psychology and prepare for discussion in class.
9.	Women, Marriage, Higher-education, and Discrimination:「キルギスにおける誘拐結婚」「カンボジアにおけるHIV」について考える。	To read an article and photographs created by a woman photojournalist and prepare for discussion in class.
10.	Study abroad, self-efficacy, self-development, and English proficiency: 留学によって英語力、独立心、自己効力感が高まるのか？	To read a paper on study abroad, English proficiency, and motivation and prepare for discussion in class.
11.	Second Language Acquisition, Foreigh/Second Language Teaching, Language Policy in Japan: 21世紀の日本の英語教育はどうあるべきか？	To examine the Course of Study made by MEXT(文科省), reflect on students' learning English in secondary school, and consider a better way for second language learning in Japan.
12.	Library orientation/図書館オリエンテーション:良いレポートや卒論を書くためには、どのように図書館を利用したらよいのか？	To refelct on students' use of library and know how to search materials in library for a report and graduation thesis before class.
13.	Mini Project Work 1, Presentation of research questions and literature review: 今まで学んだことを振り返り、研究課題、先行研究を調べて発表する。	To create students' own research questions and write literature review.
14.	Mini Project Work 2, Presentation of research questions, literature review, and method: 再度研究課題と先行研究を見直し、研究方法を考える。	To review research questions and literature review, and to write method of research.
15.	Mini Project Work 3, Presentation of research questions, literature review, method, and results, discussion, and conclusion: 研究課題、先行研究、研究方法を見直し、結果・考察・結論を出す。	To review research questions, literature review, and method, and to write results, discussion, and conclusion.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Let's enjoy considering the roles of English and Japanese in journalism, psychology, media, women's studies, and culture.

フィードバックの方法:

Students' homework sheets need to be submitted and commented by not only an instructor but also students in the seminar class. Also, a report on mini project is commented and given by the instructor.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation in class	10	Based on the course objective (1), students' levels of participation are evaluated in every class.
Preparation for tasks and discussion in class	40	Based on the course objective (2), students' levels of preparation are checked and evaluated in every class.
Mini project	20	Based on the course objective (3), students' contribution to discussion about mini project is evaluated.
Final report	30	Based on the course objective (4), students' final reports are evaluated from the viewpoints of logical thinking, originality, analytic ability, and use of English.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	E-mail, マナビー

555103

Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ

佐伯　　林規江

授業テーマ:

Speech Communication: Exploring Ethnographic Performance

授業の概要:

This is a project-based performance course, which provides students with the basic principles and performance techniques of oral interpretation as a foundation for the senior-year project of ethnographic performance for social change. Throughout the coursework, students will improve oral performance skills, including breathing, voice quality, pronunciation, eye-contact, posing, and other vocalic manipulations, such as pacing, volume, and intonation. Emphasis is placed on analysis of a written text, exercise, rehearsal, and oral performance of poetry, prose, children's literature, and/or dramatic scenes from plays and musicals.

到達目標:

Upon successsful completion of this course, students will be able to:
(1) develop understanding and appreciation of the intellectual, emotional, and aesthetic content of written texts,
(2) develop skills in vocal variation and body language necessary for effective performance, and learn how to critically listen, analyze, and respond to performances,
(3) determine a theme for graduation thesis (in the senior year),
(4) participate in one theatrical performance/presentation on stage (either in-college or intercollegiate festival such as Oral Communication Festival 2018 in Tokyo in December) as a team with one performance. The purpose is to allow students to enjoy using and testing the skills they have developed in class within the ultimate crucible of learning, ″the real world″ as a globas citizen.

授業方法:

Each class will consist of short lectures, guided hands-on workshop of performance techniques and pronunciation, thorough group discussion, preparation, rehearsals, portfolio, and oral performances, followed by a written report on the performance analyses. After a short lecture that will introduce basic principles and key concepts of new theories, students are welcomed to ask questions, respond to the queries, and discuss their viewpoints. Because much can be learned from the performances of others, students will be required to observe and make oral/written comments on all performances. The lecture will be delivered mainly in Japanese, and partially in English depending on a topic. Students may choose to use either English or Japanese in their class work. As requested by students, one overnight-stay session (off campus) may be scheduled for more discussion and presentation rehearsals.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Project overview and introduction Building a learning community	Reading of a syllabus
2.	Principles of ethnographic performance and oral interpretation	Reading of related materials, and preparation for discussion
3.	Principles of ethnographic performance and oral interpretation	Reading of related materials, and preparation for discussion
4.	Determining the theme of the performance project	Reading of related materials, and preparation for discussion
5.	Creating or compiling the script (in English)	Reading of related materials, and preparation for discussion
6.	Creating or compiling the script (in English)	Reading of related materials, and preparation for discussion
7.	Rehearsing and experimenting staging possibilities	Reading of related materials, and preparation for rehearsals
8.	Rehearsing and experimenting staging possibilities	Reading of related materials, and preparation for rehearsals
9.	Rehearsing and experimenting staging possibilities	Reading of related materials, and preparation for rehearsals
10.	Give a public performance and generate a discussion among the audience	Reading of related materials, and preparation for discussion and rehearsals
11.	Attending Inter-collegeate Oral Communication Festival/Competition	Reading of related materials, and preparation for discussion and rehearsals
12.	Critique and review discussion	Reading of related materials, and preparation for discussion
13.	Brainstorming for a theme for Graduation Thesis	Attending Graduation Thesis Presentation for seniors, and drafting a theme and topic for graduation thesis and preparation for discussion
14.	Brainstorming for a theme for Graduation Thesis	Drafting a theme and topic for graduation thesis and preparation for discussion
15.	Final review and consolidation	Drafting a theme and topic for graduation thesis and preparation for discussion

受講者へのメッセージやアドバイス:

Each student is necessary for this course to “work”. The instructor will try to encourage students to participate in every way she can, but it is up to the students themselves to make this course either come alive or wither away.
NOTE: Tentative plan in Senior Seminar II and III:
As also mentioned in授業目標, one of the most exciting and unique challenges of Senior Seminar I, II, and III is that students are required to participate in one intercollegiate or academic conference. The purpose is to allow students to enjoy using and testing the knowledge and skills they have developed in class within the project-based activity. It is a lot of fun, and students will learn so much more from really participating and observing others and reviewing judges' comments than they could ever learn just from readings and discussion.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback for each oral presentation and project preparation in class and summative evaluation through a draft of graduation thesis.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and participation	30	Assessed on active participation by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2), (3) and (4).
Performance Project	40	Assessed on individual or/and group participation in the projects, and hand in a written reflection at the end of each session, in order to achieve the course objectives (1), (2), (3) and (4).
final written paper	30	Assessed on comprehension and engagement with research topics, in order to achieve the course objectives (1), (2), (3) and (4).

教科書:

Handouts

参考書:

To be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、批判的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力
教員との連絡方法:	Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

555104

Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ

鈴木　　健司

授業テーマ:　北米地域研究

授業の概要:

地域研究のさまざまな手法を通して、外国の文化や社会に関わる諸問題について研究する方法を学び、４年次で卒業論文を執筆するための準備とする。アメリカ合衆国及びカナダの現状や歴史に関する事象を取り上げて、資料を読み解き議論することによって、知見を深めていく。受講者各自が英語圏諸国に関わる事柄を主題として、研究テーマと研究方法を定めるところまでを、当面の到達目標とする。

学術的研究のために必要な基礎的概念や思考方法に習熟することが科目の目的であるから、留学環境の疑似再現や語学訓練のために敢えて英語を使用する、ということはしない。なお、受講者は、アメリカ、カナダに留学した者や留学時の研究テーマとしてアメリカ・カナダ研究を掲げた者に限定しない。

年度中にゼミ合宿の実施を予定している。

到達目標:

1) 個人研究及び授業内の議論の前提として、アメリカ合衆国とカナダの社会と文化に関する論点の所在について、基本的な事柄を理解する。
2) 個人研究のテーマを設定し、先行研究をふまえてテーマに関する基本的事項を整理したうえで、自らの研究課題を具体的に限定し、調査方法を明確化することができる。
3) 自分自身の研究テーマと他の受講者の研究テーマ、および授業内で取り上げられる諸問題を通じて、広く北米事情や日本と世界の諸問題について自分なりの見識を持とうとする姿勢を身につける。

授業方法:

受講者の発表とそれに基づく討議、およびグループワークを中心に授業を進める。扱う内容によって、講義、文献の講読、映像資料の視聴等を適宜、交える。個人研究については、段階を踏んで完成に導けるよう、個別に指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	ゼミ選考時の研究計画を見直し、関連する学問分野について学んでおく
2.	研究テーマの設定と資料の活用に関する演習 (1)	研究計画書の作成（研究テーマを明確化する）
3.	研究テーマの設定と資料の活用に関する演習 (2)	研究計画書の作成（研究資料について調べる）
4.	論文執筆のための図書館ガイダンス	研究計画書の作成（先行研究を読む）
5.	分担テーマに基づく発表 (1)	研究計画書の作成（先行研究を読む）
6.	分担テーマに基づく発表 (2)	研究計画書の作成（先行研究を読む）
7.	分担テーマに基づく発表 (3)	研究計画書の作成（先行研究を読む）
8.	分担テーマに基づく発表 (4)	研究計画書の作成（研究方法を具体化する）
9.	研究テーマの設定に関する検討作業	研究テーマの設定（発表に備えてその概要を準備する）
10.	個人研究中間報告 (1)	発表の準備（研究テーマに関する基本的事実を整理する）
11.	個人研究中間報告 (2)	発表の準備（研究テーマに関する基本的事実を整理する）
12.	個人研究中間報告 (3)	発表の準備（研究テーマに関する基本的事実を整理する）
13.	個人研究中間報告 (4)	発表の準備（研究テーマに関する基本的事実を整理する）
14.	論文執筆に関する演習	研究計画の概要を再確認する
15.	総括	研究計画の概要を文章化する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　研究計画書及び論文の途中原稿の提出を課し、そのチェックと添削及び面談によって個別に指導する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および授業への積極的な参加姿勢	40%	発表後の討論における発言など、クラスや他の受講者の学習に対する積極的な貢献の程度
発表	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
学期末レポート	30%	個人研究について、問題の所在と研究方法が明確に示され、研究テーマに関する基本的事実が自身の問題意識との関わりで適切に整理されていること

授業回数の2/3以上出席すること、及び指示する要領に従って発表を行いレポートを提出することを、単位取得の必要条件とする。

教科書:　使用しない。授業に必要な資料は、適宜、配付する。

参考書:　授業の際に、適宜、紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール。授業後に教室内で対応。

555105

Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ

A.C.Elliott

授業テーマ:

Cross-cultural representations of Japan and the West

授業の概要:

This course focuses on the history and analysis of Japan-West visual representations from 1850s to the present-day.

到達目標:

This course has five main aims:
1. to develop students' understanding of, and ability to discuss, cross-cultural representations of Japan-West within their political, social, and cultural contexts;
2. to further help students become engaged, active, and critical readers of visual and other texts;
3. to review and develop students understanding of key concepts within cultural and literary studies;
4. to give students the support and guidance needed to do their graduation research;
5. to continue developing students' skills of discussion, debate, presentation, critical thinking, academic writing and opinion exchange in English.

授業方法:

This course is taught using a mix of interactive lectures, small group and class discussions, and student presentations on research. Every week, students are expected to read about the theme in preparation for the next class. In addition, throughout the semester, students will read around their own research topic and write research reports (annotated bibliographies) about what they have read for submission. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Presentation preparation.
2.	Presentation 1 Writing a research paper	Reading preparation for next class.
3.	Interpreting visual texts	Reading preparation for next class. Written response to class.
4.	Orientalism and East/West Representations	Reading preparation for next class. Written response to class.
5.	Orientalism?: Representations from the Perry mission to Japan	Reading preparation for next class. Written response to class.
6.	Fantasy and Japan: Japonisme	Reading preparation for next class. Written response to class.
7.	Representing the enemy: Propaganda, 1905-1945	Reading preparation for next class. Written response to class.
8.	Geopolitics and gender: Hollywood movies in Japan, 1950-60s Ⅰ	Reading preparation for next class. Written response to class.
9.	Geopolitics and gender: Hollywood movies in Japan, 1950-60s Ⅱ	Presentation preparation. Written response to class.
10.	Library orientation	Presentation preparation.
11.	Presentation 2	Reading preparation for next class.
12.	Nation Branding and the Tokyo Olympics, 1940, 1964, 2020	Reading preparation for next class. Written response to class.
13.	Exoticism and power: Japanese women in the eyes of western men	Presentation preparation. Written response to class.
14.	Presentation 3	
15.	Presentation 3	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Annotated bibliographies and final paper are returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	30%	
Homework responses	10%	Assessed on quality of engagement with lecture material and written style.
Research reports	10%	Assessed on depth and relevance of reading, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.
Presentations	30%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
Final report	20%	Assessed on depth and relevance of reading, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力, 自己管理力

教員との連絡方法:

Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during our office hours.

555106

Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ

長谷川　和美

授業テーマ:

Colonial/Postcolonial Studies

授業の概要:

This course introduces students to the interdisciplinary field of colonial and postcolonial studies/critiques. We will read the major theories and literature that have shaped the field over recent decades. Importantly, we will also ask how these colonial/postcolonial critiques can be translated into the context of East Asia. In this course, we will focus in particular on the experience of modern Japan, both its relation to the West as well as the colonial and postcolonial experience of the Japanese empire.

到達目標:

This course has five main aims: 1. to understand the development of colonial/postcolonial studies on European and American academic scenes; 2. to re-examine the concept of "postcolonial" by exposing to the interdisciplinary approaches; 3. to analyze the experience of modern Japan in the global context; 4. to give students the guidance and support needed to conduct their graduation research; 5. to continue developing the students' academic skills of reading, analyzing, discussing, and presenting in English.

授業方法:

This class will be conducted by using a combination of interactive lectures, class discussions, and student presentations on class materials and their research. All students will be expected to read all the assigned readings for the date indicated on the syllabus. Each week, one or two students will make an approximately 10 minute-long presentation on the readings that fosters our discussion in class.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Course	Reading assignment
2.	Postcolonial Critique 1 (Representation of Blackness in Europe)	Reading assignment
3.	Postcolonial Critique 2 (Presentation of the "Other" in Europe)	Reading assignment
4.	American Orientalism (Performing the Orient in 19th Century America)	Reading assignment
5.	Postcolonial Psychology (Internalization of Constructed "Blackness" in America)	Preparation for Senior Research Proposal and Bibliography
6.	Student Presentations (Senior Research Proposal and Bibliography)	Preparation for Senior Research Proposal and Bibliography Reading assignment
7.	Postcolonial Feminist Critiques (Women of Color or Third World Women in the West)	Reading assignment
8.	The Experience of Modern Japan vis-à-vis the West, 1	Reading assignment
9.	The Experience of Modern Japan vis-à-vis the West, 2	Reading assignment
10.	Internal Colonialism	Reading assignment
11.	Diplomacy and Colonial Expansion in the Late Meiji (The Korean Question)	Reading assignment
12.	Colonial Korea and Imperial Subjectificaiton (Reading Yuasa Katsue's "Kannani" and Kajiyama Toshiyuki's "The Clan Records")	Reading assignment
13.	Contested Memories about the War	Reading assignment
14.	The "Comfort Women" Question	Reading assignment
15.	The Postcolonial Ainu Identity in Contemporary Japan	Reading assignment

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

All written assignments will be returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	Students are responsible both for attending each class session and for participating in the lively and informed discussions.
Weekly Class Presentation	20	Each week, one or two students will make a presentation on class readings in class.
Reading Responses (5)	30	Students are required to submit 5 reading responses or reflection papers. Each response/paper should be around 400 words (1 page).
Senior Research Proposal and Literature Review (Annotated Bibliography)	30	Students are required to write a proposal for their own Senior Research, which includes an appropriate bibliography and its literature review.

教科書:

Class readings and handouts will be provided in advance.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:

Contact me via e-mail or visit me during my office hours.

555107

Senior Seminar Ⅰ／卒業研究Ⅰ

沖　　キャサリン

授業テーマ:

Individuals, Education, Society

授業の概要:

First, this course is an introduction to the field Sociology of Education and the relationships between individuals, education, and society. This course will explore all three and the relationships they have to each other, to help students to evaluate education through a sociological lens. Second, this course is meant to prepare students to perform their own research, by asking students to explore their interests and by introducing present-day issues and theories for potential research development.

到達目標:

This course has three main objectives: 1) It will begin by building a learning community to help students build a deeper understanding of themselves in order to use their strengths and build their weaknesses together over the term so as to learn more efficiently and grow their understanding of society and their place in it. 2) It will provide students with the basic tools for designing a research project. They will receive an orientation on bibliographic searches and think about questions they may want to explore in their personal research project. 3) It will provide students with readings about education and society, which they will use to gather information, seek explanation, and analyze for discussion. They will be encouraged to reflect on their own educational experiences in light of what is read and to question the ways that society, education, and individuals interact with and affect one another to reproduce and recreate society in the 21st century, using a sociological lens. By the end of the course, students should be able to question and think deeply about changes to education in the past and into the future.

授業方法:

This class will consist of three main parts: 1) Pertaining to the class, we will build a learning community, in which you will learn how to articulate and use your strengths to help yourself and others and understand your weaknesses for building up to a more self-aware you 2) Pertaining to research, students will learn to find, collate and think about information related to potential research interests and 3) Pertaining to the main topic of this seminar: Classes will be a mix of a short lecture and small-group to whole-class discussion about the lectures and/or readings. Students will make short presentations throughout the semester, giving them the responsibility to lead discussion. Students are expected to be prepared for discussions of readings in three ways: a) they must have read and understood the assigned readings, b) they must answer questions pertaining to the readings and form their own questions and c) they must offer opinions in order to create lively and meaningful discussions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Intro and outline, Individuals and Community I	TBA
2.	Library Orientation	Use the online library to find a source about a potential topic of interest
3.	Annotated Bibliographies, Topic Exploration, Individuals and Community II	TBA
4.	Individuals and Community III	Read and answer questions for next week
5.	What is Education? Key Terms, and Recent Theories and Approaches I	Read and answer questions for next week
6.	What is Education? Key Terms, and Recent Theories and Approaches II	Read and answer questions for next week
7.	What is the field of Sociology of Education interested in studying?	Read and answer questions for next week
8.	What are the theoretical approaches within the Sociology of Education?	Read and answer questions for next week
9.	What is socialization?	Read and answer questions for next week
10.	What is the social function of schools?	Read and answer questions for next week
11.	How are gender and education related?	Read and answer questions for next week
12.	How are socioeconomic status and education related?	Read and answer questions for next week
13.	What is the relationship between society and higher education?	Choose topic on which you will write next week.
14.	Final report writing	Prepare to talk with others about your final report
15.	Presentation of Final Report	TBA

This is a tentative schedule. Changes to order and content may be made when necessary.

受講者へのメッセージやアドバイス:

You must contribute to the collective learning environment; and therefore, you MUST come to class prepared. Be ready to question education in its many forms, including your own educational experiences and the role of education in society as a whole. You are responsible for staying atop of the course content, so stay in touch with your instructor (via Line or email) should you be absent.

フィードバックの方法:

Ongoing Formative Feedback via online and in-class comments, face-to-face meetings about topic ideas, written summative feedback on final.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Annotated Bibliographies	25%	complete 5 during the semester
Homework	25%	Reading and answering questions or writing reflections on manabi
Discussion	20%	Leading and participating
Final	25%	Written and oral
Attending Senior Seminar Presentations	5%	Attend and write reflection on manabi

教科書:

Handouts to be given

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: coki@dwc.doshisha.ac.jp

555201

Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ

潟山　　健一

授業テーマ:　日本と英語圏の比較文化研究

授業の概要:　3年次秋学期の「Senior Seminar I/卒業研究 I」における学習内容を踏まえながら、この春学期で各自の卒業研究にとってその基盤となる背景や既往の研究成果などに関して引き続き情報収集を進める。

到達目標:　春学期終了時には、論文の構成および背景情報の整理に当たるChapter 1草稿を作成し提出。

授業方法:　週2回授業のメリットを活かしながら進捗状況に関する報告を各回4名のペースで続けていく。各報告には司会者を設け、発表内容の要約および討議の運営を行ってもらう。論文作成作業は基本的に英語で行うが、春学期には日本語のブラッシュアップにも力を注ぐ。この成果を元に夏の間に各自論文執筆を進め、ゼミ合宿での中間報告を経て秋学期を迎える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	a. イントロダクション / b. 個別研究報告 (1)	各自報告準備
2.	a. 個別研究報告 (2) / b. 個別研究報告 (3)	各自報告準備
3.	a. 個別研究報告 (4) / b. 個別研究報告 (5)	各自報告準備
4.	a. 個別研究報告 (6) / b. 個別研究報告 (7)	各自報告準備
5.	a. 個別研究報告 (8) / b. 個別研究報告 (9)	各自報告準備
6.	a. 個別研究報告 (10) / b. 個別研究報告 (11)	各自報告準備
7.	a. 個別研究報告 (12) / b. 個別研究報告 (13)	各自報告準備
8.	a. 個別研究報告 (14) / b. 個別研究報告 (15)	各自報告準備
9.	a. 個別研究報告 (16) / b. 個別研究報告 (17)	各自報告準備
10.	a. 個別研究報告 (18) / b. 個別研究報告 (19)	各自報告準備
11.	a. 個別研究報告 (20) / b. UAFS-DIS Panel Discussion	各自報告準備
12.	a. 個別研究報告 (21) / b. 個別研究報告 (22)	各自報告準備
13.	a. 個別研究報告 (23) / b. 個別研究報告 (24)	各自報告準備
14.	a. 個別研究報告 (25) / b. 個別研究報告 (26)	各自報告準備
15.	a. 個別研究報告 (27) / b. 個別研究報告 (28)	各自報告準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　セミナー形式で個々の研究報告および意見交換を行いながら各々の方向性と手順を修正しながら進めていくので、とにかく一人ひとりが自分の研究を計画的かつ着実に進めていくことが主たる目標である。一方で、他のゼミ生の研究についても関心を注ぎ、積極的に意見を述べることで自分自身の関心事との関連性を見極め、知見を広めるというセミナーの利点を充分に活かすよう心がけること。

フィードバックの方法:　各回、意見交換を行いながら理解度の確認と研究の方向性を見定めていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末レポート	40	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
個別研究報告	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
司会および討議への参加度	20	積極的な聴き方と建設的意見の提示
出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。

教科書:　配布資料

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

555202

Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ

飯田　　毅

授業テーマ:

Applied linguistics and Psychology: Bilingualism, second language acquisition, language awareness, journalism, women's studies, and language teaching.

授業の概要:

This seminar deals with various topics such as bilingualism, second language acquisition (SLA) including teaching English/Japanese as a second language, and intercultural communication (IC). The goal of this seminar is to reflect on L1 (Japanese) and L2 (English) through these fields, to write introduction, literature review, formulate research questions, and method. They need to finish writing at least three chapters of a graduation essay by the end of the course: introduction, review of literature and method. First, students need to decide their own themes for graduation essays by reading many papers. They can choose any topic related to these fields. They also need to review literature on their themes and establish a method of study. They are expected to implement their research during the summer holidays and the results will be discussed in Senior Seminar III. Also, basic information about how to write a graduation essay and how to use statistics in research is given by the instructor, for instance, interview skills, basic knowledge of EXCEL and SPSS, and how to write a paper in English, and translation skills. Finally, they need to think and plan a project work for themselves.

到達目標:

(1) To write three chapters of a graduation thesis: introduction, literature review, and method logically; (2) To conduct a pilot study and revise the method of research; (3) To understand basic statistics of research; (4) To have an oral presentation of graduation thesis; (5) To do assignments.

授業方法:

There are two seminar classes in a week: A classes and B classes. The contents of these classes are fundamentally different. A classes will mainly focus on students' presentation and discussion about their research. Before presentation of their research, they will read papers on bilingualism, SLA and IC. They will discuss the assigned homework readings related to these topics and give oral presentations on these topics. B classes will mainly focus on methods of data analysis (interview, questionnaire, and observation), how to write a paper, basic knowledge of statistics, and use of EXCEL and SPSS. Also, they need to think and plan a project work in this seminar.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	A: Introduction of the course and how to read a paper, B: Introduction of research methods	A: To understand the course by reading the syllabus; B: To understand the course by reading the text on research methods.
2.	A: Reading a paper on bilingualism and discussion, B: Introduction to research methods (What are good papers?)	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
3.	A: Reading a paper on Second Language Acquisition (SLA) and discussion, B: Introduction to research methods (Interview skills).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
4.	A: Reading a paper on SLA and discussion, B: Introduction to research methods (Computer skills 1: How to use EXCEL).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
5.	A: Reading a paper on Intercultural Communication and discussion, B: Introduction to research methods (Computer skills 2: How to use SPSS).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
6.	A: Reading a paper on communication and discussion, B: Introduction to research methods (Computer skills 3: How to use SPSS).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
7.	A: Reading a paper and discussion, B: Introduction to research methods (Basic Statistics).	A: To read a paper and comment it critically; B: To read the text on research methods and have some questions.
8.	A: To make research questions and summarize liteature review 1, B: Introduction to research methods (How to collect and analyze data 1: making items of a questionnaire).	A: To decide research questions and summarize literature review 1 ; B: To read the text on research methods and make items of a questionnaire.
9.	A: To make research questions and summarize literature review 2,B: Introduction to research methods (How to collect and analyze data 2: Revise the items of the questionnaire).	A: To decide research questions and summarize literature review 2; B: To revise the items of the questionnaire.
10.	A: To make research questions and summarize literature review 3, B: Introduction to research methods (How to collect and analyze data 3: Revised the items of the questionnaire),	A: To decide research questions and summarize literature review 3; B: To revise the items of the questionnaire.
11.	A: To make research questions and summarize literature review 3, B: How to collect and analyze data 4: Pilot study 1).	A: To decide research questions and summarize literature review 2; B: To collect data of Pilot study.
12.	A: To write Introduction, B: How to collect and analyze data 5: Pilot study 2.	A: To write Introduction; B: To collect data of Pilot study.
13.	A: To write Literature review, B: How to collect and analyze data 6: Pilot study 3.	A: To write Literature review; B: To collect data of Pilot study.
14.	A: To write Method; B: To revise the paper.	A: To write Method; B: To analyze the data.
15.	A: To revise the paper; B: To submit the paper.	A: To write Method; B: To analyze the data.

受講者へのメッセージやアドバイス:

To research is interesting.

フィードバックの方法:

Feedback of assignments given every class is provided during class. After a presentation students are given coments not only from an instructor but also from other students. A final academic report is assessed by the instructor and the comments are given students throught Manabi.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
final academic report	50	Based on Course Objective (1), (2) and (3), the content of students' final academi report is evaluated.
presentation	30	Based on Course Objective (4), students' final academi report is evaluated from the viewpoints of delivery, content, and use of English.
assignment	20	Based on Course Objective (5), students' assignment is evaluated from the viewpoints of originality and English.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法:	E-mail、マナビー

555203

Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ

佐伯　　林規江

授業テーマ:

The study of language, performance, education, and intercultual communication

授業の概要:

In this course, students will explore the social, cultural, and psychological aspects of language and communication, as well as the language performances and the art of language learning/teaching, through designing and carrying out the participants' own research projects, which will be developed as their graduation theses. As one of the most exciting and unique challenges of this course, students will participate in one intercollegiate or academic conference. The purpose is to allow participants to enjoy using and testing the knowledge and skills they have developed in class within the ultimate crucible of learning, that is, the real world. It is a lot of fun, and participants will surely learn so much more from really participating and observing others and reviewing judges' comments than they could ever learn just from reading about it.

到達目標:

Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) explore the social, cultural, and psychological aspects of language and communication, as well as the language performance and the art of language learning/teaching, through designing and carrying out their research projects, which will be developed as their graduation theses
(2) produce a draft of the thesis statement, literature review, and method of their graduation theses
(3) create an outline of ethnographic performance project

授業方法:

(1) Guidance sessions will provide students with skills and knowledge to polish their own graduation theses through workshops and discussion.
(2) In the report and discussion session, the assigned students make oral presentations on their research projects. Each student is scheduled to do the presentation four times in the semester to present her progress in the research and questions for discussion. Each student must also submit short critical entries (reflection) after discussion in class, which are filed to her portfolio.
(3) In the ethnographic performance project,students collaborate with each other and create and stage ethnographic performances about the selected theme. This is a whole class project. Each student is required to contribute to the project, and active participation and contribution to the group preparation (both in and outside classes), rehearsal sessions, presentation, and portfolio filing is strongly recommended.
(4) The guidance sessions are conducted mainly in Japanese, but participants are strongly advised to use English to report on their graduation theses and discuss in class.
(5) As requested by students, one overnight-stay session (off campus) may be scheduled for more discussion, rehearsals, and improvement of the drafts.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Week 1: Introduction: review of the previous semester, overview and guidance for graduation thesis, scheduling	Reading a syllabus
2.	Week 2: Guidance for creating and staging ethnographic performance (group project)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
3.	Week 3: Guidance for creating and staging ethnographic performance (group project)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
4.	Week 4: Brainstorming and discussion in group, library hunting, writing session	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
5.	Week 5: Brainstorming and discussion in group, library hunting, writing session	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
6.	Week 6: Presentation on research project and discussion 1-1, 1-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
7.	Week 7: Presentation on research project and discussion 1-3, 1-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
8.	Week 8: Presentation on research project and discussion 2-1, 2-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
9.	Week 9: Presentation on research project and discussion 2-3, 2-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
10.	Week 10: Guidance for creating and staging ethnographic performance (group project)	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
11.	Week 11: Presentation on research project and discussion 3-1, 3-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
12.	Week 12: Presentation on research project and discussion 3-3, 3-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
13.	Week 13: Presentation on research project and discussion final-1, final-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
14.	Week 14: Presentation on research project and discussion final-3, final-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
15.	Week 15: Consolidation: guidance for graduation thesis, scheduling	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback for each oral presentation and project preparation in class and summative evaluation through a draft of graduation thesis.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and contribution	20	Assessed on active participation by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Oral presentations	20	Assessed on comprehension and engagement with research topics, critical thinking and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Performance project	20	Assessed on comprehension and engagement with research topics, critical thinking and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

	Graduation Thesis drafts	40	Assessed on comprehension and engagement with research topics, critical thinking and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

教科書:	Handouts
参考書:	To be announced in class
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、批判的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力
教員との連絡方法:	Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

555204

Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ

鈴木　　健司

授業テーマ:　北米地域研究

授業の概要:　外国の文化や社会に関わる事象を分析、考察するための基本的な枠組みについて理解を深めながら、批判的思考能力を磨くことをめざす。また、秋学期での卒業論文完成に向けて、各自の個人研究が着実に進展するよう導く。受講者間で互いの研究から学び、それを高め合うことができる場としたい。年度中にゼミ合宿の実施を予定している。

到達目標:
1) 個人研究及び授業内の議論の前提として、アメリカ合衆国とカナダの社会と文化に関する論点の所在について、理解を深める。
2) 個人研究のテーマについて、背景となる事実をふまえたうえで、設定した問題について適切な方法で調査を行い、明らかになった事実を整理して文章化することができる。
3) 自分自身の研究テーマと他の受講者の研究テーマ、および授業内で取り上げられる諸問題を通じて、広く北米事情や日本と世界の諸問題について自分なりの見識を持とうとする姿勢を磨く。

授業方法:　受講者の発表とそれに基づく討議、およびグループワークを中心に授業を進める。扱う内容によって、講義、文献の講読、映像資料の視聴等を適宜、交える。個人研究については、段階を踏んで完成に導けるよう、個別に指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	A. イントロダクション B. 研究計画に関するガイダンス	研究・論文執筆
2.	A. 論文執筆に関するガイダンス B. 北米地域研究に関するガイダンス	研究・論文執筆
3.	A. 論文執筆に関する演習 (1) B. 論文執筆に関する演習 (2)	研究・論文執筆
4.	A. 個人研究発表と討議 (1) B. 個人研究発表と討議 (2)	研究・論文執筆
5.	A. 個人研究発表と討議 (3) B. 個人研究発表と討議 (4)	研究・論文執筆
6.	A. 個人研究発表と討議 (5) B. 個人研究発表と討議 (6)	研究・論文執筆
7.	A. 北米地域研究に関する演習　Michael Adams, Fire and Ice (1) B. 北米地域研究に関する演習　Michael Adams, Fire and Ice (2)	テキストを事前に読む
8.	A. 北米地域研究に関する演習　Michael Adams, Fire and Ice (3) B. 北米地域研究に関する演習　Michael Adams, Fire and Ice (4)	テキストを事前に読む
9.	A. 北米地域研究に関する演習　Michael Adams, Fire and Ice (5) B. 北米地域研究に関する演習　Michael Adams, Fire and Ice (6)	テキストを事前に読む
10.	A. 論文執筆に関する演習 (3) B. 論文執筆に関する演習 (4)	研究・論文執筆
11.	A. 個人研究発表と討議 (7) B. 個人研究発表と討議 (8)	研究・論文執筆
12.	A. 個人研究発表と討議 (9) B. 個人研究発表と討議 (10)	研究・論文執筆
13.	A. 個人研究発表と討議 (11) B. 個人研究発表と討議 (12)	研究・論文執筆
14.	A. 論文執筆に関する演習 (5) B. 論文執筆に関する演習 (6)	研究・論文執筆
15.	A. 総括 B. 総括	研究・論文執筆

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　研究計画書及び論文の途中原稿の提出を課し、そのチェックと添削及び面談によって個別に指導する。
フィードバックにあたってはマナビーを活用する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および授業への積極的な参加姿勢	30%	発表後の討論における発言など、クラスや他の受講者の学習に対する積極的な貢献の程度
発表	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
論文（途中まで）	40%	個人研究について、先行研究をふまえて研究テーマに関する基本的事実が示され、自分自身による調査結果の概要が整理されていること 所定の回数の提出を行い、フィードバックを経て改善する作業が行われていること

教科書:　使用しない。適宜、ハンドアウトを配付する。

参考書:　Kate L. Turabian, A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers, 8th edition (Chicago: The University of Chicago Press, 2013)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール。授業後に教室内で対応。

555205

Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ

A.C.Elliott

授業テーマ:

Cultural studies

授業の概要:

This course is focused on thinking about, analysing, and comparing cultures from the perspective of cultural studies, with a particular focus on Japan and issues of representation in written and visual texts.

到達目標:

This course has three main aims:
1. to further develop students' understanding of, and ability to discuss and analyse "culture" and its representation, with a particular focus on Japan;
2. to give students the support and guidance needed to do their graduation research;
3. to continue developing students' skills of discussion, debate, presentation, critical thinking, academic writing and opinion exchange in English.

授業方法:

Each week, there are two classes. Generally, one class focuses on cultural studies topics, and the other on research methodologies and students' own research. The course is taught using a mix of interactive lectures, small group and class discussions, and student presentations on research. Most weeks, students are expected to read about the topic in preparation for the next class. In addition, throughout the semester, students work on developing, planning and conducting their own research. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction 2. Intro to research methods (RM)	
2.	1. Research discussions 2. Research discussions	
3.	1. Constructing "Japaneseness" 2. Japanese women, desire, and "the West" I	Reading preparation for next class. Written response to class.
4.	1. RM: Qualitative research 1 (participant observation) 2. Japanese women, desire, and "the West" II	Reading preparation for next class. Written response to class.
5.	1. RM: Quantitative research 1 (surveys) 2. Hafu, media images, and public opinions	Reading preparation for next class. Written response to class.
6.	1. RM: Quantitative research 2 (text analysis using coding) 2. Race and beauty in women's magazines	Reading preparation for next class. Written response to class.
7.	1. RM: Qualitative research 2 (interpretative text analysis) 2. Father figures in postwar Japanese cinema I	Presentation preparation
8.	1. Presentations 1 2. Presentations 1	Reading preparation for next class.
9.	1. Father figures in postwar Japanese cinema II 2. Research discussions	Reading preparation for next class. Written response to class.
10.	1. The Japanese schoolgirl: fantasies, realities, representations 2. Research discussions	Presentation preparation Written response to class.
11.	1. Presentation 2 2. Presentation 2	Presentation preparation
12.	1. Presentation 2 2. Presentation 2	Reading preparation for next class.
13.	1. Asia-Pacific war and memory 2. Asia-Pacific War on film I	Reading preparation for next class. Written response to class.
14.	1. Asia-Pacific War on film II 2. Research discussions	Reading preparation for next class. Written response to class.
15.	1. Asia-Pacific War in manga/anime 2. Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

All written work is returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	30%	
Written responses	10%	Assessed on quality of engagement with material and written style.
Presentations	20%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
Paper 1	20%	Assessed on depth and relevance of reading, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.
Paper 2	20%	Assessed on depth and relevance of reading, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力, 自己管理力

教員との連絡方法:	Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during our office hours.

555206

Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ

長谷川　和美

授業テーマ:

Gender, Sexuality, and the Politics of Queer in Modern Japan

授業の概要:

In this course, we will examine the history of modern Japan particularly through the theoretical frameworks of gender and sexuality from 1600 to the present. We will explore not only how gender relations between men and women changed historically but also the shifting gender/sexual relations and dynamics between men and men, women and women, and other socially constructed identities.

到達目標:

This course has five main aims: 1. to develop an analytical skill to examine history and society from the perspectives of gender and sexuality; 2. to understand the historical changes of gender and sexuality and other socially constructed identities in modern Japanese history; 3. to enhance students' critical understanding of the contemporary Japanese society by analyzing the historical developments; 4. to give students the guidance and support needed to conduct their graduation research; 5. to continue developing the students' academic skills of reading, analyzing, discussing, and presenting in English.

授業方法:

This course is taught using a combination of interactive lectures, class discussions, and student presentations on class materials and their own research projects. Each week, one or two students will make an approximately 10 minute-long presentation that fosters our discussion on the readings. In addition, students are required to conduct and develop their research projects.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1 Introduction to the Course 2 Approaches to Gender and Sexuality Studies I	Readings assignments Preparation for research proposal
2.	1 Research Proposal 2 Approaches to Gender and Sexuality Studies II	Readings assignments
3.	1 Gender Dynamics in the Tokugawa Society 2 Gender Dynamics in the Tokugawa Society	Readings assignments
4.	1 Male-Male Sexuality in the Tokugawa 2 Male-Male Sexuality in the Tokugawa	Readings assignments
5.	1 Women Subjects in the Meiji and Taishō Periods 2 Women Subjects in the Meiji and Taishō Periods	Readings assignments
6.	1 Moga (Modern Girls) in the Taisho Period 2 Moga (Modern Girls) in the Taisho Period	Readings assignments
7.	Mid-term Students' Presentations 1 Research Presentations I 2 Research Presentations II	Preparation for research presentation
8.	1 The War and Women 1 The War and Women	Readings assignments
9.	The Postwar Transformation 1 Early Summer (Bakushū) Viewing (dir. Ozu Yasujirō, 125 minutes, 1951) 2 Finish viewing the film and class discussion	Preparation for research projects
10.	1 Work, Household, and Corporate Masculinity in Postwar Japan 2 Work, Household, and Corporate Masculinity in Postwar Japan	Readings assignments
11.	1 Postwar Gay Culture 2 Postwar Gay Culture	Readings assignments
12.	1 Women's Liberation Movement in the 1970s I 2 Women's Liberation Movement in the 1970s I	Readings assignments
13.	1 Women's Liberation Movement in the 1970s II Film Viewing: Ripples of Change (Nanako Kurihara, 57 mins) and Class Discussion 2 Students' Presentations on Their Research Progresses	Preparation for research presentation
14.	1 Toward the LGBTQ Politics 2 Toward the LGBTQ Politics	Readings assignments
15.	Students' Final Research Presentations 1 Student Presentations 2 Student Presentations	Preparation for research presentation

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback will be given to students' presentations in classroom. All written assignments will be returned to students with my detailed comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	Students are responsible both for attending each class session and for participating in the lively and informed discussions.
Class Presentations	20	Each week, one or two students will make a presentation on class readings in class.
Reading Responses (5)	30	Students are required to submit 5 reading responses or reflection papers. Each response/paper should be around 400 words (1 page).
Research Paper	30	Students are required to write some sections for their Senior Research.

教科書:

Tanizaki, Junichirō, Naomi. New York: Vintage, 2001.

Other class readings and handouts will be provided in advance.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	Contact me via e-mail or visit me during my office hours.

555207

Senior Seminar Ⅱ／卒業研究Ⅱ

沖　　キャサリン

授業テーマ:

Individuals, Education, Society II

授業の概要:

his course will help students to produce a piece of research in preparation for graduation and explore the topic of Education through a sociological lens.

到達目標:

In this course students will do two things: 1) They will explore the topic of education through a sociological lens, with focus on relationships between individuals (students and teachers, students and students), schools (teachers and schools, students and schools) and society (students and society, schools and society). 2) Students will go deeper into their own personal research, with guidance on research methods, theories, data collection, and writing. Research reports will be due throughout the semester to keep student moving toward their final in-class presentation. By the end of the course students will have an introduction, working plan, data collection tools, and a literature review for their senior thesis ready for presentation.

授業方法:

This class will consist of two main parts: 1) Pertaining to research, students will learn about and receive guidance on developing their research plan, tools, introduction, and literature review and 2) Pertaining to the main topic of this seminar: Classes will be a mix of a short lecture and small-group to whole-class discussion about lectures and/or readings on education. Students are expected to be prepared for discussions in three ways: a) they must have read and understood the assigned readings, b) they must answer questions pertaining to the readings and form their own questions and c) they must offer opinions in order to create lively and meaningful discussions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	A. Course intro and outline B. Academic Writing Workshop 1: Update on Students' Individual Research, Annotated Bibliographies, Topic Narrowing	A. Topic 1 reading and answer questions for next week B. Work on individual research topic
2.	A. Sociology of Education topic 1 B. Academic Writing Workshop 2: Topic Due, Research Methods	A. Topic 2 reading and answer questions for next week B. Work on individual research topic
3.	A. Sociology of Education topic 2 B. Academic Writing Workshop 3: Structure and development	A. Topic 3 reading and answer questions for next week B. Work on individual research topic
4.	A. Sociology of Education topic 3 B. Student Research Meetings 1	A. Topic 4 reading and answer questions for next week B. Work on individual research topic
5.	A. Sociology of Education topic 4 B. Student Research Meetings 2	A. Topic 5 reading and answer questions for next week B. Work on individual research topic
6.	A. Sociology of Education topic 5 B. Student Research Meetings 3	A. Topic 6 reading and answer questions for next week B. Work on individual research topic
7.	A. Sociology of Education topic 6 B. Research Paper Writing 1	A. Topic 7 reading and answer questions for next week B. Work on individual research topic
8.	A. Sociology of Education topic 7 B. Research Paper Writing 2	A. Topic 8 reading and answer questions for next week B. Work on individual research topic
9.	A. Sociology of Education topic 8 B. Research Paper Writing 3	A. Topic 9 reading and answer questions for next week B. Work on individual research topic
10.	A. Sociology of Education topic 9 B. Research Paper Writing 4	A. Topic 10 reading and questions B. Prepare for preliminary research presentations on your topic, background reading to present, methods, and plan for continuing research and writing
11.	A. Sociology of Education topic 10 B. Preliminary Presentations 1	A. Topic 11 reading and questions B. Prepare for preliminary research presentations and/or continue with your research
12.	A. Sociology of Education topic 11 B. Preliminary Presentations 2	A. Topic 12 reading and questions B. Work on individual research topic
13.	A. Sociology of Education topic 12 B. Preliminary Research Paper Writing	A. Choose topic from previous classes about which you will write a personal reflection and critical analysis of for your final presentation B. Work on individual research topic
14.	A. Final Writing B. Preliminary Research Paper Draft Due	A. Prepare to discuss your Final Writing in Week 15 A. class B. Work on individual research topic
15.	A. Presentation of Final Report B. Preliminary Research Paper Revision (Final due 1 week later)	Work on individual research topic

This is a tentative schedule. Changes to order and content may be made when necessary.

受講者へのメッセージやアドバイス:

You must contribute to the collective learning environment; and therefore, you MUST come to class prepared. Be ready to question education in its many forms, including your own educational experiences and the role of education in society as a whole. In addition, you must be ready to continue reading on your topic while giving feedback to others and receiving feedback on your own research topics in order to prepare for writing parts of your graduation thesis. You are responsible for staying atop of your own research and the course content, so stay in touch with your instructor (via Line or email) should you be absent or if panic sets in.

フィードバックの方法:

Ongoing formative feedback via online and in-class comments, face-to-face meetings about topic and research development, written summative feedback on final writing and preliminary research paper.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Annotated Bibliographies	20%	Completing 5 over the semester
Homework and participation	25%	Reading, answering questions and actively participating in discussions
Peer Reviews	15%	Written feedback given to other students about their research via manabi
Preliminary Research Report	20%	Will contain your introduction, working plan, data collection tools, and a literature review
Final	20%	Written and oral reflection and analysis

教科書:	Handouts will be given
参考書:	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	coki@dwc.doshisha.ac.jp

555301

Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ

潟山　　健一

授業テーマ:　日本と英語圏の比較文化研究

授業の概要:　春学期の「Senior Seminar Ⅱ/卒業研究 Ⅱ」に引き続き各自卒業論文執筆作業を進める。

到達目標:　進捗状況について報告を継続し、最終的に英語で卒業論文を完成させる。

授業方法:　春学期同様、進捗状況に関する報告を各回4名のペースで続けていく。各報告には司会者を設け、発表内容の要約および討議の運営を行ってもらう。第7週くらいを目処に一度全体をまとめあげ、以降は細かな問題点の解消と修正作業に入る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	a. イントロダクション / b. 個別研究報告 (1)	各自報告準備
2.	a. 個別研究報告 (2) / b. 個別研究報告 (3)	各自報告準備
3.	a. 個別研究報告 (4) / b. 個別研究報告 (5)	各自報告準備
4.	a. 個別研究報告 (6) / b. 個別研究報告 (7)	各自報告準備
5.	a. 個別研究報告 (8) / b. 個別研究報告 (9)	各自報告準備
6.	a. 個別研究報告 (10) / b. 個別研究報告 (11)	各自報告準備
7.	a. 個別研究報告 (12) / b. 個別研究報告 (13)	各自報告準備
8.	a. 個別研究報告 (14) / b. 個別研究報告 (15)	各自報告準備
9.	a. 個別研究報告 (16) / b. 個別研究報告 (17)	各自報告準備
10.	a. 個別研究報告 (18) / b. 個別研究報告 (19)	各自報告準備
11.	a. 個別研究報告 (20) / b. 個別研究報告 (21)	各自報告準備
12.	a. 個別研究報告 (22) / b. 個別研究報告 (23)	各自報告準備
13.	a. 個別研究報告 (24) / b. 個別研究報告 (25)	各自報告準備
14.	a. 個別研究報告 (26) / b. 個別研究報告 (27)	各自報告準備
15.	a. 個別研究報告 (28) / b. 総括	各自報告準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　セミナー形式で個々の研究報告および意見交換を行いながら各々の方向性と手順を修正しながら進めていくので、とにかく一人ひとりが自分の研究を計画的かつ着実に進めていくことが主たる目標である。一方で、他のゼミ生の研究についても関心を注ぎ、積極的に意見を述べることで自分自身の関心事との関連性を見極め、知見を広めるというセミナーの利点を充分に活かすよう心がけること。

フィードバックの方法:　各回、意見交換を行いながら理解度の確認と研究の方向性を見定めていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
卒業論文	40	立論の明確さと、適切な資料を用いた論証の合理性
個別研究報告	20	与えられたテーマのなかで適切に焦点が絞られ問題提起と検討が為されているか否か
司会および討議への参加度	20	積極的な聴き方と建設的意見の提示
出席	20	1/3を超える回数の欠席があった場合、単位取得は不可とする。

教科書:　配布資料

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

555302

Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ

飯田　　毅

授業テーマ:

Applied linguistics and Psychology: Bilingualism, second language acquisition, language awareness, journalism, women's studies, and language teaching.

授業の概要:

This seminar focuses on various topics such as bilingualism, language awareness, education, psychology, and SLA. By the end of this seminar students need to submit a graduation paper and perform a project work. Regarding a graduation paper, students need to discuss the results gained from their research and discuss the results from various viewpoints. Also, they need to write a conclusion of the paper. The presentation of a graduation thesis is held in January. They have the presentation in English for about 10 minuets, so they need to practice it before the presentation.

到達目標:

(1) To write five chapters of a graduation thesis: introduction, literature review, method, discussion, and conclusion; (2) To report results and discuss them from various points of view; (3) To have oral presentations of graduation thesis.

授業方法:

A classes: Students will mainly present their research results and discuss them from various points of view. B classes: Students will write papers in the computer lab, being given advice on research.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	A: Course Introduction, B: Writing a graduation paper: revising introduction, literature review.	To read syllabus and understand the course.
2.	A: Report on results 1,B: Writing a graduation paper 2: revising method.	A: To analyze results 1 and prepare for presentation of results, B:To revise introduction, literature review, and method.
3.	A: Report on results 2, B: Writing a graduation paper 3: Revising Introduction, literature review, and method.	A: To analyze results 2 and prepare for presentation of results, B:To revise introduction, literature review, and method.
4.	A: Report on results 3, B: Writing a graduation paper 4: How to write a table.	A: To analyze results 3 and prepare for presentation of results, B:To learn how to write a table.
5.	A:Report on discussion 1, B: Writing a graduation paper 5: How to write a figure.	A: To prepare for discussion in the paper, B: To learn how to write a figure.
6.	A: Report on discussion 2, B: Writing a graduation paper 6: How to use statistics.	A: To prepare for discussion in the paper, B: To learn about basic statistics.
7.	A: Report on discussion 3, B: Writing a graduation paper 7: Writing results (1).	A: To prepare for discussion in the paper, B: To revise results.
8.	A: 1st report on conclusion 1, B: Writing a graduation paper 8: Writing results and discussion.	A: To prepare for conclusion in the paper, B: To write results and discussion.
9.	A: Report on conclusion 2, B: Writing a graduation paper 9: Writing Discussion.	A: To prepare for conclusion in the paper, B: To revise discussion.
10.	A: Paper presentation 1, B: Paper presentation 2: Writing Conclusion.	A: To prepare for discussion in the paper, B: To write conclusion.
11.	A: Research project 1, B: Research project 2	A: To prepare for research project 1, B: To prepare for research project 2.
12.	A: Research project 3, B: Research project 4	A: To prepare for research project 3, B: To prepare for research project 4.
13.	A: Presentation of graduation thesis 1, B: Presentation of graduation thesis 2	A: Preparation for presentation of graduation thesis 1, B: Preparation for presentation of graduation thesis 2
14.	A: Preparation for presentation of graduation thesis 3, B: Presentation of graduation thesis 4.	A: Preparation for presentation of graduation thesis 3, B: Preparation for presentation of graduation thesis 4.
15.	A: Feedback of graduation thesis and reflection on writing a thesis. B:Feedback of graduation thesis and reflection on writing a thesis	A: To check a graduation thesis, B: To revise a graduation thesis.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Finish writing a graduation thesis is just like reaching the top of the mountain.

フィードバックの方法:

Feedback of assignments given every class is provided during class. After a presentation students are given comments not only from an instructor but also from other students. A final graduation thesis is assessed by the instructor and the comments are given students through Manabi and in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Graduation thesis	50	Based on Course objectives (1), Students' graduation theses are evaluated from the viewpoints of analysis, logical way of writing, originality, and the English language.
Oral presentation of thesis	20	Based on Course objective (3), students' oral presentations are evaluated from the viewpoints of contents, delivery, and the English language.
Homework	30	Based on Course objective (2), students' homework is evaluated from the viewpoints of content.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

E-mail、マナビー

555303

Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ

佐伯　　林規江

授業テーマ:

The study of language, performance, education, and intercultual communication

授業の概要:

In this course, students will explore the social, cultural, and psychological aspects of language and communication, as well as the language performance and the art of language learning/teaching, through designing and carrying out the participants' own research projects, which will be developed as their graduation theses. As one of the most exciting and unique challenges of this course, students will participate in one intercollegiate or academic conference. The purpose is to allow participants to enjoy using and testing the knowledge and skills they have developed in class within the ultimate crucible of learning, that is, the real world. It is a lot of fun, and participants will surely learn so much more from really participating and observing others and reviewing judges' comments than they could ever learn just from reading about it.

到達目標:

Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) explore the social, cultural, and psychological aspects of language and communication, as well as the language performance and the art of language learning/teaching, through designing and carrying out their research projects, which will be developed as their graduation theses
(2) complete their graduation theses
(3) create and perform the ethnographic performance on stage in an intercollegeate performance competition/festival

授業方法:

(1) Guidance sessions will provide students with skills and knowledge to polish their own graduation theses through workshops and discussion.
(2) In the report and discussion session, the assigned students make oral presentations on their research projects. Each student is scheduled to do the presentation four times in the semester to present her progress in the research and questions for discussion. Each student must also submit short critical entries (reflection) after discussion in class, which are filed to her portfolio.
(3) In the ethnographic performance project,students collaborate with each other and create and stage ethnographic performances about the selected theme. This is a whole class project. Each student is required to contribute to the project, and active participation and contribution to the group preparation (both in and outside classes), rehearsal sessions, presentation, and portfolio filing is strongly recommended.
(4) The guidance sessions are conducted mainly in Japanese, but participants are strongly advised to use English to report on their graduation theses and discuss in class.
(5) As requested by students, one overnight-stay session (off campus) may be scheduled for more discussion, rehearsals, and improvement of the drafts.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Week 1: Introduction: review of the previous semester, overview and guidance for graduation thesis, scheduling	Reading a syllabus
2.	Week 2: Presentation on research project and discussion 1-1, 1-2	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
3.	Week 3: Presentation on research project and discussion 1-3, 1-4	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
4.	Week 4: Presentation on research project and discussion 2-1, 2-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
5.	Week 5: Presentation on research project and discussion 2-3, 2-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
6.	Week 6: Presentation on research project and discussion 3-1, 3-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
7.	Week 7: Presentation on research project and discussion 3-3, 3-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
8.	Week 8: Creating ethnographic performance: research project (1) (2)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
9.	Week 9: Creating ethnographic performance: research project (3) (4)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
10.	Week 10: Rehearsing ethnographic performance: research project (1) (2)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
11.	Week 11: Rehearsing ethnographic performance: research project (3) (4)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
12.	Week 12: Rehearsing ethnographic performance: research project (5) (6)	Reading, preparing for discussion, planning on the ethnographic project
13.	Week 13: Presentation on research project and discussion Final-1, Final-2	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
14.	Week 14: Presentation on research project and discussion Final-3, Final-4	Reading, preparing for oral presentation, drafting a research paper
15.	Week 15: Consolidation: thesis review, guidance for editing	Editing a research paper for publishing

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback for each oral presentation and project preparation in class and summative evaluation through a series of drafts of graduation thesis.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and contribution	10	Assessed on active participation by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Oral presentations	20	Assessed on active participation by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Performance project	20	Assessed on comprehension and engagement with research topics, critical thinking and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

	Graduation Thesis drafts	50	Assessed on comprehension and engagement with research topics, critical thinking and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

教科書: Handouts

参考書: To be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、批判的思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

555304

Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ

鈴木　　健司

授業テーマ:　北米地域研究

授業の概要:　外国の文化や社会に関わる事象を分析、考察するための基本的な枠組みについて理解を深めながら、批判的思考能力を磨くことをめざす。また、秋学期での卒業論文完成に向けて、各自の個人研究が着実に進展するよう導く。受講者間で互いの研究から学び、それを高め合うことができる場としたい。年度中にゼミ合宿の実施を予定している。

到達目標:
1) 個人研究及び授業内の議論の前提として、アメリカ合衆国とカナダの社会と文化に関する論点の所在について、理解を深める。
2) 研究成果をもとに分析・考察を行い、日本語と英語によって論文を完成させる。。
3) 自分自身の研究テーマと他の受講者の研究テーマ、および授業内で取り上げられる諸問題を通じて、広く北米事情や日本と世界の諸問題について自分なりの見識を持とうとする姿勢を深化させる。

授業方法:　受講者の発表とそれに基づく討議、およびグループワークを中心に授業を進める。扱う内容によって、講義、文献の講読、映像資料の視聴等を適宜、交える。個人研究については、段階を踏んで完成に導けるよう、個別に指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	A. イントロダクション B. 研究の進捗状況報告	研究の進捗状況報告の準備
2.	A. 論文執筆に関する演習 (1) B. 論文執筆に関する演習 (2)	研究・論文執筆
3.	A. 個人研究発表と討議 (1) B. 個人研究発表と討議 (2)	研究・論文執筆
4.	A. 個人研究発表と討議 (3) B. 個人研究発表と討議 (4)	研究・論文執筆
5.	A. 個人研究発表と討議 (5) B. 個人研究発表と討議 (6)	研究・論文執筆
6.	A. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (1) B. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (2)	テキストを事前に読む
7.	A. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (3) B. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (4)	テキストを事前に読む
8.	A. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (5) B. 北米地域研究に関する演習 Michael Mandelbaum, That Used to Be Us (6)	テキストを事前に読む
9.	A. 論文執筆に関する演習 (3) B. 論文執筆に関する演習 (4)	研究・論文執筆
10.	A. 個人研究発表と討議 (7) B. 個人研究発表と討議 (8)	研究・論文執筆
11.	A. 個人研究発表と討議 (9) B. 個人研究発表と討議 (10)	研究・論文執筆
12.	A. 個人研究発表と討議 (11) B. 個人研究発表と討議 (12)	研究・論文執筆
13.	A. 卒業論文発表会リハーサル (1) B. 卒業論文発表会リハーサル (2)	卒業研究発表会用の発表準備
14.	A. 論文完成に向けた作業と演習(1) B. 論文完成に向けた作業と演習(2)	研究・論文執筆
15.	A. 総括 B. 総括	研究成果と論文の見直し

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　研究計画書及び論文の途中原稿の提出を課し、そのチェックと添削及び面談によって個別に指導する。
フィードバックにあたってはマナビーを活用する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および授業への積極的な参加姿勢	30%	発表後の討論における発言など、クラスや他の受講者の学習に対する積極的な貢献の程度
発表	30%	内容の適切性、構成の論理性、論点の明確性、及びプレゼンテーション技術
論文	40%	主題、論理構成、資料の活用、言語表現（日本語・英語）が適切であること。 完成までに所定の回数の提出を行って、フィードバックを経て改善する作業が行われていることを前提とする。 卒業研究発表会で発表を行うことを、単位取得のための要件とする。正当な理由なく欠席の場合は、単位を与えない。

教科書:　使用しない。適宜、ハンドアウトを配付する。

参考書:　Kate L. Turabian, A Manual for Writers of Research Papers, Theses, and Dissertations: Chicago Style for Students and Researchers, 8th edition (Chicago: The University of Chicago Press, 2013)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール。授業後に教室内で対応。

555305

Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ

A.C.Elliott

授業テーマ: Cultural studies

授業の概要: This course is focused on thinking about, analysing, and comparing cultures from the perspective of cultural studies, with a particular focus on Japan and issues of representation in written and visual texts.

到達目標: This course has three main aims:
1. to further develop students' understanding of, and ability to discuss and analyse "culture" and its representation, with a particular focus on Japan;
2. to give students the support and guidance needed to complete their graduation research;
3. to continue developing students' skills of discussion, debate, presentation, critical thinking, academic writing and opinion exchange in English.

授業方法: Each week, there are two classes. Generally, one class focuses on cultural studies topics, and the other on students' own research. The course is taught using a mix of interactive lectures, small group and class discussions, and student presentations on research. Most weeks, students are expected to read about the topic in preparation for the next class. In addition, throughout the semester, students work on completing their own research. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. Introduction and peer review 2. Body and culture I	Reading preparation for next class.
2.	1. Body and culture II 2. Research discussions	Reading preparation for next class.
3.	1. Representing Japan on film I 2. Representing Japan on film II	Reading preparation for next class.
4.	1. Presentation 1 2. Presentation 1	
5.	1. Presentation 1 2. Presentation 1	
6.	1. Research discussions 2. Research discussions	Reading preparation for next class.
7.	1. (Multi/Mono) ethnicity and Japan 2. Hospitality: Welcoming the other?	Reading preparation for next class.
8.	1. Presentation 2 2. Presentation 2	
9.	1. Presentation 2 2. Presentation 2	Reading preparation for next class.
10.	1. Writing workshop 2. Writing workshop	Reading preparation for next class.
11.	1. Presentation 3 2. Presentation 3	
12.	1. Presentation 3 2. Presentation 3	
13.	1. SS Workshop preparation 2. SS Workshop preparation	
14.	1. SS Workshop self-reflection 2. Thesis review/bunshu plan	
15.	1. Thesis review/bunshu plan 2. Course review	

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are required to make a presentation at the Senior Seminar Workshop to pass the course. Those who are absent from the workshop for no justifiable reason will be denied credits.

フィードバックの方法: All written work is returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	30%	
Presentations (inc. Senior Seminar Workshop)	20%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.
Graduation thesis drafts	20%	Assessed on depth of research, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.
Graduation thesis final	30%	Assessed on depth of research, quality of engagement with material, written style, and accuracy of format.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力, 自己管理力

教員との連絡方法: Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during our office hours.

555306

Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ

長谷川　和美

授業テーマ:

Social History on “Difference” in Modern Japan

授業の概要:

This course examines the developments of social categories such as “ethnicity,” “gender, ″sexuality,” and “class” in Japanese modern history by particularly analyzing the political and social transitions from the Tokugawa society to the modern state in the Meiji period.

到達目標:

This course has five main aims: 1) to develop students' abilities to analyze the concepts of “difference” and “identity” in Japanese modern history; 2) to understand the historical developments/changes of those particular social categories; 3) to enhance students' critical understanding of the contemporary Japanese society by analyzing the historical developments; 4) to give students the support and guidance needed to complete their graduation theses; 5) to continue developing the students' academic skills of reading, analyzing, discussing, and presenting in English.

授業方法:

In general, there are two types of class activities in the course. Each week, we will read texts related to the notions of “difference” and “identity” in Japanese modern history. And, every other week (particularly from Week 5), we will focus on students' senior research by having individual meetings and presentations in class. Each week, one or two students will make an approximately 10 minute-long presentation that fosters our discussion on the readings. In addition, students are required to work on their research. By the end of the semester, they must submit the final versions of graduation thesis.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction 1 Introduction to the Course 2 Presentations on Students' Senior Research I	Preparation for the presentation
2.	1 The Tokugawa Order and International Relations 2 The Tokugawa Order and International Relations	Reading assignments
3.	Social Status System and Gender in the Tokugawa Society 1 Social Status System (mibunsei) I 2 Social Status System (mibunsei) II	Reading assignments
4.	1 The Tokugawa Fall and the Meiji Revolution 2 The Tokugawa Fall and the Meiji Revolution	Reading assignments Preparation for Senior Research and its presentation
5.	Individual Meetings and Students' Presentations 1 Individual Meetings I 2 Students' Presentation II	Reading assignments Preparation for Senior Research and its presentation
6.	1 Western Imperialism in Asia and the Discourse of Civilization 2 Western Imperialism in Asia and the Discourse of Civilization	Reading assignments Preparation for Senior Research and its presentation
7.	Individual Meetings and Students' Presentations 1 Individual Meetings II 2 Students' Presentations III	Preparation for Senior Research and its presentation
8.	1 The Ainu, the Meiji State, and Modernity 2 The Ainu, the Meiji State, and Modernity	Reading assignments Preparation for Senior Research and its presentation
9.	Individual Meetings and Students' Presentations 1 Individual Meetings III 2 Students' Presentations IV	Reading assignments Preparation for Senior Research and its presentation
10.	Burakumin and Shimazaki Tōson's The Broken Commandment 1 Chapters 1-11 (pp. 1-124) 2 Chapters 12-23 (pp. 124-249)	Reading assignments Preparation for Senior Research and its presentation
11.	Individual Meetings and Students' Presentations 1 Individual Meetings IV 2 Students' Presentations V	Preparation for Senior Research and its presentation
12.	1 The Discourse of Homogeneous Japan 2 The Discourse of Homogeneous Japan	Reading assignments Senior Seminar Workshop Preparation
13.	1 Senior Seminar Workshop Preparation 2 Senior Seminar Workshop Preparation	Senior Seminar Workshop Preparation
14.	Workshop Self-Reflection and Thesis Review 1 Workshop Self-Reflection 2 Thesis Review	Preparation for Senior Thesis
15.	Thesis Review and Course Review 1 Thesis Review 2 Course Review	Preparation for Senior Thesis

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are required to make a presentation at the Senior Seminar Workshop to pass the course. Those are absent from the workshop for no justifiable reason will be denied credits.

フィードバックの方法:

Feedback will be given to students' presentations in classroom. All written assignments will be returned to students with a grade and my detailed comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Class Participation	20	Students are responsible both for attending each class session and for participating in the lively and informed discussions.
Presentations (including Senior Seminar Workshop)	20	Each week, one or two students will make a presentation on class readings in class. They are also required to present the processes of their research projects.
Reading Responses (3)	20	Students are required to submit 3 reading responses or reflection papers. Each response/paper should be around 400 words (1 page).
Graduation Thesis Drafts	20	Students are required to submit the drafts of their theses and revise them throughout the semester.
Graduation Thesis Final	20	Students are required to submit the final versions of their graduation theses.

教科書:	Shimazaki Tōson, The Broken Commandment. Tokyo: University of Tokyo Press, 1974. Or, the Japanese original (島崎藤村『破戒』新潮文庫、2005年) is also accepted. Other class readings and handouts will be provided in advance.
参考書:	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	Contact me via e-mail or visit me during my office hours.

555307

Senior Seminar Ⅲ／卒業研究Ⅲ

沖　　キャサリン

授業テーマ:

Individuals, Education, Society III

授業の概要:

In this course students will finish developing, writing, and editing their graduation thesis. They will also prepare and practice for the Senior Seminar Presentations. Finally, they will continue to explore the topic of Education through a sociological lens.

到達目標:

In this course students will do two things: 1) They will continue to explore topics about education with focus on teachers, learners, and the learning environment. 2) Students will present on their data, write, edit and peer review their graduation papers so that they can submit their final reports for publication and present their research to their peers and professors in the Department of International Studies in January.

授業方法:

This class will consist of two main parts: 1) Pertaining to research, first, students will periodically present sections of their paper, giving and receiving peer feedback, while developing their ideas in consultation with small groups and the instructor. Second, student will work on writing and editing their final research report with the instructor available to give support and formative feedback; and third, students will prepare and practice for the final presentation with feedback and comments from classmates and the instructor. 2) Pertaining to the main topic of this seminar: The instructor will do a short lecture on a topic related to education and society for student discussion and reflection.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	A. Course intro and outline B. Reviewing academic writing and revising	A./B. Work on individual research topic
2.	A. Update on Writing B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
3.	A. Update on Writing B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
4.	A. Discussion Topic 1 B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
5.	A. Discussion Topic 2 B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
6.	A. Update on Writing B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
7.	A. Update on Writing B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
8.	A. Discussion Topic 3 B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
9.	A. Discussion Topic 4 B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
10.	A. Update on Writing B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
11.	A. Update on Writing B. Writing graduation research report	A./B. Work on individual research topic
12.	A. Discussion Topic 5 Work on individual research topic B. Practice presenting a research report	A. Work on individual research topic B. Practice for presentation
13.	A. Discussion Topic 6 B. Practice presenting a research report	A. Practice for presentation B. Practice for presentation
14.	A. Practice presenting a research report B. Practice presenting a research report	A. Practice for presentation B. Practice for presentation
15.	A./B. Course Conclusion, Reflection, and Wrap-up	None

This is a tentative schedule. Changes to order and content may be made when necessary.

受講者へのメッセージやアドバイス:

You must contribute to the collective learning environment; and therefore, you MUST come to class prepared. Be ready to turn in written sections of your paper and to present on your progress as you finish developing those sections. Generously give and receive feedback from your peers and instructor as you work towards completing your report and presenting on your research. When topics of discussion about education and society are presented, contribute your analysis and opinions to enrich the class' perspective. You are responsible for staying atop of your own research and the course content, so stay in touch with your instructor (via Line or email) should you be absent or if panic sets in.

フィードバックの方法:

Ongoing formative feedback on research report and presentations via online and in-class comments, face-to-face meetings about research, written summative feedback on final report and presentation.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Preparation and Participation	30%	Come to class prepared and participate actively
Peer Reviews	20%	Give written feedback to classmates on their research via manabi
Research Report Draft 1	20%	Sumbit draft of complete research report
Research Report Draft 2	20%	Sumbit final and complete research report
Presentation	10%	Present your final research report

教科書:

Handouts will be given

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

coki@dwc.doshisha.ac.jp

555700

Overseas Study Preparation Ⅲ／留学事前指導Ⅲ

佐伯　林規江、潟山　健一、飯田　毅、鈴木　健司

授業テーマ:　国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。

授業の概要:　国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。

到達目標:
(1) 国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。
(2) 自らを知り、同志社を知り、発信する力を手にする。

授業方法:
(1) 教職員による講義と解説、およびそれに伴う実習。重要事項説明会では各回の授業時間内に理解度確認テストを行う。説明会の欠席者や大幅な遅刻者には、同講義のDVD視聴とそれに関するレポートを課して「学期内の挽回」を図らせ、課題が適切に提出された場合は出席扱いとする。
(2) フィールドワークを含む課題を与え、後日ゼミ単位で成果報告会を行う。
(3) TOEIC受験。
準備学習としては、以下の3点である。
(1) 留学先で自分の国や大学について適切に説明ができるように、フィールドワークで使用した資料等を活用して、留学前に準備しておく。
(2) 重要事項説明会で配付される資料を熟読して、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について、留学前に十分に理解しておく。
(3) 留学中の通信や危機管理のために必要な機器やシステムについて、その使用方法を留学前に十分に理解し、実際に試用しておく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション (1)	配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。
2.	イントロダクション (2)	配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。
3.	留学申請に関する説明会	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
4.	重要事項説明会 (1)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
5.	新島襄と留学――同志社を知る（講義）	留学先で自分の国や大学について適切に説明ができるように、講義とフィールドワークで使用した資料等を活用して、留学前に準備しておく。
6.	新島襄と留学――同志社を知る（フィールドワーク）	留学先で自分の国や大学について適切に説明ができるように、講義とフィールドワークで使用した資料等を活用して、留学前に準備しておく。
7.	重要事項説明会 (2)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
8.	重要事項説明会 (3)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
9.	重要事項説明会 (4)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
10.	重要事項説明会 (5)	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 理解度テストの内容を復習する。
11.	国際教養留学オリエンテーション（留学先ごとに随時）	配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。
12.	新島襄と留学――同志社を知る（成果報告）	留学先で自分の国や大学について適切に説明ができるように、講義とフィールドワークで使用した資料等を活用して、留学前に準備しておく。
13.	Locator説明会	(1) 配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。 (2) 留学中の通信や危機管理のために必要な機器やシステムについて、その使用方法を留学前に十分に理解し、実際に試用しておく。
14.	TOEIC IP	テストの準備をする。
15.	重要事項説明会 (6)	配布資料を熟読し、同志社女子大学の学生として留学することに伴って生じる義務や遵守事項について十分に理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　重要事項説明会(1)～(5)の授業内で行う理解度確認テストは、マークシートで解答し、正解と解説をその授業内で即時に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	100	積極的に授業に参加し、到達目標(1)と(2)に関する知識の構築度と理解度により評価する。 1) 出欠確認を厳格に行う。出席および課題提出がすべて行われ、重要事

項説明会の理解度確認テストが満点の場合、100点とする。
2) 欠席1回につき13点を、遅刻1回につき7点を減じ、重要事項説明会の理解度確認テスト（各回10点満点）の結果に応じて点数を減じる。合計が60点を下回った場合は、単位を与えない。
3) 体調不良等でやむを得ず欠席もしくは遅刻した場合でも、担当者からDVD視聴およびレポート提出が指示され、開講学期内にこれが行われた場合は出席扱いとし、減点も行わない。
4) 私語や居眠りなど、受講態度に著しい問題のあるときは、欠席もしくは遅刻と同等の評価を行う。
5) 初回「イントロダクション」および最終回「重要事項説明会 (5)」を欠席もしくは遅刻し、学期内の挽回を行わなかった場合は、単位を与えない。

教科書: 資料を配布する。

参考書: 開講時に適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

555801～04　**Tutorial Ⅰ／実地研究指導Ⅰ**

潟山　健一、飯田　毅、鈴木　健司、A.C.Elliott

授業テーマ:　留学中の個別研究指導および学習支援

授業の概要:　留学先大学において個別研究を進展させる。また、学習・研究活動を取り巻く留学全般の充実を図る。

到達目標:　(1) 留学先大学において個別研究を進展させる。
(2) 学習・研究活動を取り巻く留学全般の充実を図る。

授業方法:　留学前は個別面談による指導。留学中は、基本的に電子メールを介した指導。中間報告にはオンライン会議システム を用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	留学全般に関する出発前指導	各自の留学先での学びと留学準備全般に関して、説明会や資料をもとに知識の確認を行う。
2.	個別研究に関する事前指導	(1) 各自の研究計画に沿って留学先での個別研究のテーマを定める。 (2) 個別研究に関する文献を読む。
3.	留学一月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
4.	留学一月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
5.	留学二月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
6.	留学二月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
7.	留学三月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
8.	留学三月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
9.	留学四月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
10.	留学四月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
11.	留学五月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
12.	留学五月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
13.	留学六月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
14.	留学六月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
15.	個別研究に関する中間報告	(1) 各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。 (2) 中間報告のための資料を作成する。 (3) 中間報告のためのオンライン会議システムの動作確認を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　担当教員や学科事務室から特別な指示がある場合は適宜それに従う。連絡に支障をきたさないよう、電子メールのチェックを日頃より習慣付けておくこと。

フィードバックの方法:　毎月のMonthly Reportは、添削してコメントを添えて電子メール（添付ファイル）で返却する、または、マナビーで返却する。返却方法は担当教員により異なる。中間報告は、オンライン会議システムにより、発表の際に口頭でフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Monthly Report on Researchの提出	30	到達目標(1),(2)を達成していく過程を、明確かつ論理的に説明できるかを基準とする。未提出や提出の遅れなどが著しい場合は単位を与えない。
Monthly Report on Study Abroadの提出	30	到達目標(2)を達成していく過程を、客観的かつ分析的に報告できるかを基準とする。未提出や提出の遅れなどが著しい場合は単位を与えない。
個別研究に関する中間報告	40	到達目標(1)の進捗状況を、資料を用いて論理的かつ分析的に口頭発表できるかを基準とする。個別研究の中間報告を行わなかった場合は単位を与えない。

教科書:　資料を配布する。

参考書:　適宜、開講時に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　留学事前指導期間は、オフィスアワー、授業の前後に応対、Eメール。
留学中は、Eメールもしくはオンライン会議システム。

555901～04　**Tutorial Ⅱ／実地研究指導Ⅱ**

潟山　健一、飯田　毅、鈴木　健司、A.C.Elliott

授業テーマ:　留学中の個別研究指導および学習支援

授業の概要:　留学先大学において個別研究を進展させる。また、学習・研究活動を取り巻く留学全般の充実を図る。

到達目標:
(1) 留学先大学において個別研究を進展させる。
(2) 学習・研究活動を取り巻く留学全般の充実を図る。

授業方法:　各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。留学中は基本的に電子メールを介した指導。帰国後は留学報告会準備および研究報告書作成の指導。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	留学七月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
2.	留学七月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
3.	留学八月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
4.	留学八月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
5.	留学九月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
6.	留学九月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
7.	留学十月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
8.	留学十月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
9.	留学十一月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
10.	留学十一月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
11.	留学十二月目個別研究	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究を進める。
12.	留学十二月目Monthly Reportsの作成・提出およびそれに基づく個別指導	(1) 大学での学習や研究の進捗状況について Monthly Report on Research を作成し、担当教員に提出する。 (2) 生活の状況について Monthly Report on Study Abroad を作成し、国際教養学科事務室に提出する。
13.	研究報告書作成に関する指導	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究の成果をレポートにまとめる。
14.	国際教養留学報告会の準備に関する指導	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究の成果をICTを用いて口頭発表する準備をする。
15.	国際教養留学報告会（個別研究に関する成果報告）	各自の研究計画に沿って留学先での個別研究の成果をICTを用いて口頭発表する準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　担当教員や学科事務室から特別な指示がある場合は適宜それに従う。連絡に支障をきたさないよう、電子メールのチェックを日頃より習慣付けておくこと。

フィードバックの方法:　毎月のMonthly Reportは、添削してコメントを添えて電子メール（添付ファイル）で返却する、または、マナビーで返却する。返却方法は担当教員により異なる。国際教養留学報告会での口頭発表は、発表の際に口頭でフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Monthly Report on Researchの提出	30	到達目標(1),(2)の進捗状況を、明確かつ論理的に説明できるかを基準とする。未提出や提出の遅れなどが著しい場合は単位を与えない。
Monthly Report on Study Abroadの提出	30	到達目標(2)の進捗状況を、客観的かつ分析的に報告できるかを基準とする。未提出や提出の遅れなどが著しい場合は単位を与えない。
留学報告会（プレゼンテーション）	10	到達目標(1)の進捗状況を、明確かつ論理的に口頭発表できるかを基準とする。
留学報告書	10	到達目標(2)の進捗状況を、客観的かつ分析的に記述形式で報告できるかを基準とする。留学報告書が未提出の場合は、単位を与えない。
研究報告書	20	到達目標(1)の進捗状況を、明確かつ論理的に論文としてまとめられるかを基準とする。研究報告書が未提出の場合は、単位を与えない。

教科書:　資料を配布する。

参考書:　適宜、開講時に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
留学中は、Eメールもしくはオンライン会議システム。
留学事後指導期間は、オフィスアワー、授業の前後に応対、Eメール。

556100

Multiculturalism in Modern Society／現代社会と多文化主義

J.Kim-Wachutka

授業テーマ:

An Emphasis on Japan's Growing Multicultural Society

授業の概要:

In the age of globalization, the world and its many frontiers have become larger and yet at the same time undeniably smaller. As people across nations and borders become increasingly more connected, there are also attempts to define, differentiate and identify one}s ″own″ ″culture,″ ″tradition″ and ″way of life″ that delineates the two entities of ″us″ and ″them.″ Within the milieu of migratory movements, immigration, emigration and temporary sojourn and domicile, how do we define local and global, micro and macro communities? What role does nation, ethnicity, race, and citizenship play in the concept of multiculturalism? Where do we belong and how do we position ourselves within the emergence and growth of multiculturalism?
We will examine various writings that depict and discuss the broad issues of multicultural societies in order to understand and familiarize ourselves with the socio-cultural and political impact of such diversity and difference. First, we will closely read basic theoretical discussions of communities, nation, ethnicity and race. We will then analyze specific countries, Japan in particular, and their formation, development and transition in encountering diverse and multi-ethnic populations.

到達目標:

Students will become familiar with the basic concepts, as well as arguments and debates concerning multiculturalism. They will also gain first-hand knowledge of specific countries such as Japan and its governmental policies in dealing with the increasing number of diverse minority groups, along with its historical and social transition. By the end of the semester, students will have conducted their own research, and be able to present it in an oral and written form for evaluation.

授業方法:

Lecture, student presentations and discussion of required readings, general discussion

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction. Academic Presentation Methods	Write a short summary of culture and identity
2.	Students share their writings. What is Culture and Identity? Lecture and Discussion.	Read Chapter 1 from Kidd on Culture and Identity.
3.	Group Discussion on social identity, agency, structure, tradition, power, institution, class, hierarchy	Read Chapter 2 from Kidd.
4.	Introduction to multiculturalism	Read introduction from Modood; Watson
5.	Multicultural Societies: An Inquiry	Prepare for Reading Test
6.	Midterm Reading Test. Group work and discussion on presentation	Prepare for group work and discussion on presentation
7.	Group work and discussion on presentation	Prepare for group work and discussion on presentation
8.	Group Presentation on a Multicultural Society	Memorize presentation script
9.	Group Presentation on a Multicultural Society	Memorize presentation script
10.	Multicultural Japan. Lecture and discussion	Read Graburn, Tierney's Multiculturalism in the New Japan
11.	Reading comprehension test. Discussion	Prepare short final research topic proposal
12.	Group discussion on research topic proposal	Prepare for individual final presentation
13.	Start of final presentations	Start of final presentations
14.	Final presentations	Memorize script
15.	Final presentations. Final discussion.	Final Class

受講者へのメッセージやアドバイス:

Keep up with the reading. Do the homework. Participate actively in discussions. Take notes during lectures. Syllabus will be adjusted according to the student's levels.

フィードバックの方法:

Fill in the blank tests focusing on learned vocabularies, concepts and theories will be graded and returned. Periodic writing assignments will be returned with comments. Evaluation by the instructor as well as feedback by classmates will contribute for students' future inmprovement.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Group Presentation	20%	Each member of the group must demonstrate equal contribution
Reading Tests	20%	Tests will assess the students' in-class and outside preparation
Midterm	30%	Comprehensive reading assessment
Final Presentation	30%	Powerpoint and handout required

教科書:

Reading list will be distributed in-class.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Creative ability, Presentation Skill

教員との連絡方法:

Instructor's contact information will be given in class.

556600

Environmental Issues in Modern Society／現代社会と環境

P.W.Strefford

授業テーマ:

Human Ecology and Sustainable Development.

授業の概要:

Human ecology is about relationships between people and their environment. Although humans are part of the ecosystem, it is useful to think of human – environment interaction as interaction between the human social system and the rest of the ecosystem. Sustainable development can be defined as meeting present needs without compromising the ability of future generations to meet their own needs.
Ecologically sustainable development is about keeping ecosystems healthy.

到達目標:

To provide a basic introduction to Human Ecology and Sustainable Development.
To investigate, using various case studies, the reality of the environmental problems facing our planet in the 21st Century.

授業方法:

This course is a lecture course, but students are expected to actively participate in class discussions.
Multimedia will be used to facilitate learning, but this is a student-centered lecture course. This means students are responsible for their learning.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction	pre-reading
2.	What is Human Ecology?	pre-reading handout review of lecture
3.	What is Sustainable Development?	pre-reading handout review of lecture
4.	Populations	pre-reading handout review of lecture
5.	Human Populations	pre-reading handout review of lecture
6.	Population regulation/ explosion	pre-reading handout review of lecture
7.	Ecosystems and Social Systems	pre-reading handout review of lecture
8.	Ecosystem Change	pre-reading handout review of lecture
9.	Comparison of natural, agricultural and urban ecosystems	pre-reading handout review of lecture
10.	Ecological change	pre-reading handout review of lecture
11.	Human-induced change	pre-reading handout review of lecture
12.	Coevolution and coadaptation of human social systems and ecosystems	pre-reading handout review of lecture
13.	Ecosystem services	pre-reading handout review of lecture
14.	Perceptions of nature	pre-reading handout review of lecture
15.	Conclusion	pre-reading handout review of lecture

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a challenging course. All students must do a considerable amount of reading before each class. This reading is essential! If you do not do the reading, then the short quizzes will be very difficult. There will often be a short quiz at the start of class. Also, everyone will have to complete worksheet in the class. These worksheets should be completed to a high level. You must impress me! Preparation is the key!

フィードバックの方法:

In-class discussions

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final test	40	essay style answers
Mid-term test	40	essay style answers
Participation	20	discussion participation

教科書:

No Textbook.
Handouts will be provided.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

pstrefford@cc.kyoto-su.ac.jp

556700

Issues in International Development／国際開発論

P.W.Strefford

授業テーマ:

International Development

授業の概要:

This course will take a multi-disciplinary approach focusing on human development — the development of greater quality of life for humans.
This course will focus on development issues, such as the following: foreign aid, governance, healthcare, education, poverty reduction, gender equality, disaster preparedness, infrastructure, economics, human rights, environment, etc.

到達目標:

To provide a basic introduction to International Development.
To investigate, using various case studies, the reality of International Development in the early 21st Century.

授業方法:

This is a lecture course, but students are expected to actively participate in class discussions.
This course will utilize multimedia to facilitate learning, but more importantly, this course uses a student-centered approach to learning. This means that students are responsible for their learning.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	review textbook
2.	History of development	pre-read assigned pages review textbook
3.	Concept of Development	pre-read assigned pages review textbook
4.	Development and Globalization	pre-read assigned pages review textbook
5.	Theories of Development- Introduction	pre-read assigned pages review textbook
6.	Theories of Development- Modernization and Structuralism	pre-read assigned pages review textbook
7.	Theories of Development- Dependency and Neo-liberalism	pre-read assigned pages review textbook
8.	Theories of Development- Culture and post-developmentalism	pre-read assigned pages review textbook
9.	Actors in Development- the State	pre-read assigned pages review textbook
10.	Actors in Development- OECD states	pre-read assigned pages review textbook
11.	Actors in Development- non-OECD states	pre-read assigned pages review textbook
12.	Actors in Development- International Financial Institutions	pre-read assigned pages review textbook
13.	Actors in Development- UN Family	pre-read assigned pages review textbook
14.	Actors in Development- Non-state actors	pre-read assigned pages review textbook
15.	Conclusions	review textbook

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a challenging course. All students must do a considerable amount of reading before each class. This reading is essential!
Preparation is the key!

フィードバックの方法:

in-class discussion

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
mid-term test	40	essay style
final test	40	essay style
participation	20	in class discussions

教科書:

Patrick Strefford
International Development Studies with a focus on East Asia: Part I: Making our Framework [Kindle Edition]

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

pstrefford@cc.kyoto-su.ac.jp

557001～08 **Academic Speaking Ⅰ**

J.Cross、B.Quinn、担当者未定

授業テーマ: Development of Speaking Skills

授業の概要: Students will prepare for speaking sections of the TOEFL iBT and IELTS test.

到達目標: This course has two main purposes: (1) To provide students with instruction, skills and opportunities to be able to speak clearly, academically, and coherently about a range of topics, and (2) to prepare them for the Speaking section of the TOEFL iBT test and IELTS test.

授業方法: Practical Training – Classes consists of: (1) practicing speaking skills; (2) going over the assigned homework; and (3) making speeches on an assigned topic and answering questions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction	Plan individualized supplemental practice
2.	TOEFL speaking skills for Questions 1-6	Homework and tailored supplemental practice
3.	The Importance of Fluency	Homework and tailored supplemental practice
4.	Impromptu Speaking and Output	Homework and tailored supplemental practice
5.	Pronunciation	Homework and tailored supplemental practice
6.	Intonation, Stress, Volume and Clarity	Homework and tailored supplemental practice
7.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
8.	Accuracy	Homework and tailored supplemental practice
9.	Organizational structure	Homework and tailored supplemental practice
10.	Theme development	Homework and tailored supplemental practice
11.	Coherence	Homework and tailored supplemental practice
12.	Complexity	Homework and tailored supplemental practice
13.	Vocabulary development	Homework and tailored supplemental practice
14.	Paragraph details and examples	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス: Students are expected to use their phones and online software at home, in class, or in the ESSR to prepare and review for classes. Students will transcribe answers they recorded in class, and they will use LINE to do homework or give feedback to one another. They will be expected to reflect on their learning and continually find new ways to improve their speaking and understanding.

フィードバックの方法: Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
Final	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.

教科書: Textbooks will vary depending on skill level.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: You will receive contact information and office hours at the start of the course.

557101～08 **Academic Speaking Ⅱ**

J.Cross、B.Quinn、担当者未定

授業テーマ: Development of Speaking Skills

授業の概要: Students will prepare for the TOEFL iBT and IELTS test.

到達目標: This course has two main purposes: (1) To provide students with more instruction, skills and opportunities for speaking clearly, coherently, and with confidence about a range of topics, and (2) to refine speaking skills using the criteria for the Speaking section of the TOEFL iBT test and IELTS test.

授業方法: Following on from Academic Speaking I, students will continue to record and transcribe answers, tracking oral output and building their vocabulary.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Independent Learning Review	Plan individualized supplemental practice
2.	Quantitative and qualitative goals	Homework and tailored supplemental practice
3.	Public Academic Speaking	Homework and tailored supplemental practice
4.	Interview Skills	Homework and tailored supplemental practice
5.	Presentations	Homework and tailored supplemental practice
6.	Test simulations	Homework and tailored supplemental practice
7.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
8.	Focus on contents	Homework and tailored supplemental practice
9.	Motivational strategies	Homework and tailored supplemental practice
10.	Focus on delivery	Homework and tailored supplemental practice
11.	Peer feedback	Homework and tailored supplemental practice
12.	Self evaluations	Homework and tailored supplemental practice
13.	Focus on IELTS	Homework and tailored supplemental practice
14.	Presentations	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス: Speaking is a skill. The more you practice, the more you will improve on the TOEFL iBT.

フィードバックの方法: Students receive formative feedback in class and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in every class using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
Midterm	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
Final	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.

教科書: Texts will vary depending on skill level.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法: You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

557201～08 **Academic Speaking Ⅲ**

長谷川　和美、J.Cross、B.Quinn、沖　キャサリン、担当者未定

授業テーマ: Academic Expectations in a Foreign University

授業の概要: Preparation for Overseas Research, Classwork, and Presentations

到達目標: The main objective of this course is to help students to acquire the speaking skills they will need in order to effectively participate in academic settings in countries where English is the primary language. Students will develop their ability to actively take part in university lectures, discussions, and presentations. Students will prepare their Study Abroad Poster Presentation in this class.

授業方法: Practical Training – Lessons will include practice using a variety of English skills with the main focus on speaking skills.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction	Plan individualized supplemental practice
2.	"Public Speaking and Presentation" Activities	Homework and tailored supplemental practice
3.	Discussion Topic #1	Homework and tailored supplemental practice
4.	Individual Presentation Topic Selection (and Demonstration)	Homework and tailored supplemental practice
5.	Discussion Topic #2	Homework and tailored supplemental practice
6.	Discussion Topic #3	Homework and tailored supplemental practice
7.	Individual Presentations	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
9.	Discussion Topic #4	Homework and tailored supplemental practice
10.	Academic Style Discussions	Homework and tailored supplemental practice
11.	Introduction to PowerPoint and Poster Presentations	Homework and tailored supplemental practice
12.	Poster Presentation Draft and Practice (with feedback)	Homework and tailored supplemental practice
13.	Poster Presentation Editing and Final Practice Sessions (with feedback)	Homework and tailored supplemental practice
14.	Final Poster Presentations	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス: This course offers a valuable opportunity to practice skills you will be expected to do while studying abroad. The more effort you make now among friends, the more successful you will be abroad.

フィードバックの方法: Students receive formative feedback in class and summative feedback through presentations.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	50	Students are expected to attend and participate actively.
Midterm Presentation	20	Tests are oral, assessed based on contents and delivery.
Final Presentation	30	Study Abroad Poster Presentation, assessed based on contents and delivery.

教科書: No textbook. There are handouts and online PDFs.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

557301～08 **Academic Writing Ⅲ**

長谷川　和美、J.Cross、B.Quinn、沖　　キャサリン、担当者未定

授業テーマ:
Academic Writing Skills

授業の概要:
Academic Essay Writing in English

到達目標:
To introduce students to the skills and conventions of English language academic papers. Students will be introduced to some basic research methods and have an opportunity to experience each in order to plan your research while aborad. Students will be required to produce essays related to those methods.

授業方法:
Practical Training – Students will engage in classroom tasks in much the same way as they will when studying abroad. This may include student-led workshops, peer review and editing, in-class research exercises, deconstruction of model papers, and group discussion. Feedback will be given in the draft stages of student's work and students are expected to modify their work in subsequent drafts accordingly.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction	Plan individualized supplemental practice
2.	Brainstorming and choosing a topic	Homework and tailored supplemental research
3.	Reading and narrowing the focus	Homework and tailored supplemental research
4.	Reading and developing a thesis statement	Homework and tailored supplemental research
5.	Finding sources in the library	Homework and tailored supplemental research
6.	Finding sources online	Homework and tailored supplemental research
7.	Exploring Research Methodologies 1	Homework and tailored supplemental research
8.	Midterm	Homework and tailored supplemental research
9.	Exploring Research Methodologies 2	Homework and tailored supplemental research
10.	Exploring Research Methodologies 3	Homework and tailored supplemental research
11.	Exploring Research Methodologies 4	Homework and tailored supplemental research
12.	Essentials in a Literature Review	Homework and tailored supplemental research
13.	Drafting and Re-drafting	Homework and tailored supplemental research
14.	Developing References	Homework and tailored supplemental research
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental research

受講者へのメッセージやアドバイス:
This course offers a valuable opportunity to practice skills you will be expected to do while studying abroad. The more effort you make now among friends, the more successful you will be abroad.

フィードバックの方法:
Students receive formative feedback in class through a drafting and revising cycle of learning, and summative feedback through midterm and final tests. Students also receive immediate feedback in class using online technology software, such as sentence length, lexical density, academic vocabulary, and overall reading level of their writing.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Midterm	20	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.
Final	50	Tests are written, assessed based on a rubric addressing contents and delivery.

教科書:
No textbook. There are handouts and online PDFs.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力, 自己管理力

教員との連絡方法:
You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

557401～08 **Integrative Skills Ⅰ**

J.Cross、B.Quinn、沖　　キャサリン、担当者未定

授業テーマ:
Developing Academic Skills

授業の概要:
Students will learn about and practice macro skills needed for the TOEFL iBT and IELTS test, within a Content and Language Integrated Learning (CLIL) environment, while also increasing their typing and reading speeds.

到達目標:
This course has two main purposes:
1. To provide students with instruction on the macro skills necessary for not only the TOEFL iBT and IELTS tests, but also life in a study abroad classroom, with opportunities for speaking and writing clearly, coherently, and with confidence on a range of topics, and 2. To provide students with issues related content in a specific academic field connected to International Studies

授業方法:
Active Learning and Practical Training

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Content and Language Integrated Learning (CLIL)	Plan individualized supplemental practice
2.	Online Tools for Success Google Drive, Grammarly, UsingEnglish, Compleat Lexical Tutor, Vocabulary.com	Homework and tailored supplemental practice
3.	Fluency for Speed – Typing, Speed Reading, Extensive Reading	Homework and tailored supplemental practice
4.	Introduction to International Studies Course Issues	Homework and tailored supplemental practice
5.	Listening and Note-taking System	Homework and tailored supplemental practice
6.	Compare and Contrast 1	Homework and tailored supplemental practice
7.	Paraphrasing 1	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
9.	Summarizing 1	Homework and tailored supplemental practice
10.	Reporting 1	Homework and tailored supplemental practice
11.	Active vs. Passive Vocabulary	Homework and tailored supplemental practice
12.	Brainstorming 1	Homework and tailored supplemental practice
13.	Persuasion with Details, Reasons, and Examples	Homework and tailored supplemental practice
14.	Individual or Group Presentations	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:
You need to develop skills you can use this year to succeed with the TOEFL or IELTS test and in classrooms abroad. You can use many of these skills throughout your four years of university. You also need to begin to explore topics and issues that you would like to research while you are abroad as well as upon your return to Japan in your 3rd year. This course is a very good opportunity for you to grow and develop.

フィードバックの方法:
Students receive formative feedback in each class and summative feedback through midterm and final tests. Students receive immediate feedback in class from peers, from the instructor, and by using online software.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
Midterm	20	Tests are oral or written, with assessment based on contents and delivery.
Final	20	Tests are oral or written, with assessment based on contents and delivery.

教科書:
Handouts and online PDFs will be provided.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

557501～08 **Integrative Skills Ⅱ**

J.Cross、B.Quinn、沖　　キャサリン、担当者未定

授業テーマ:
Developing Academic Skills

授業の概要:
Following on from Integrative Skills I, within a Content and Language Integrated Learning (CLIL) environment, students will learn about and practice macro skills needed for their academic life here and abroad, as well as on the TOEFL iBT and IELTS tests.

到達目標:
This course has two main purposes:
1. To provide students with instruction, macro skills, and opportunities for speaking and writing clearly, coherently, and with confidence in preparation to take the TOEFL iBT test and IELTS test and study abroad.
2. To provide students with issues related content in a specific academic field connected to International Studies.

授業方法:
Active Learning and Practical Training

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Autonomous Learning Reflection	Plan individualized supplemental practice
2.	Listening and Note-taking 2	Homework and tailored supplemental practice
3.	Paraphrasing 2	Homework and tailored supplemental practice
4.	Summarizing 2	Homework and tailored supplemental practice
5.	Reporting 2	Homework and tailored supplemental practice
6.	Compare and Contrast 2	Homework and tailored supplemental practice
7.	Persuasion with Details, Reasons, and Examples 2	Homework and tailored supplemental practice
8.	Midterm	Homework and tailored supplemental practice
9.	Review of Readings to date	Homework and tailored supplemental practice
10.	Brainstorming 2	Homework and tailored supplemental practice
11.	Final Essay Project References, in-text citations, thesis statement	Homework and tailored supplemental practice
12.	Essay Components	Homework and tailored supplemental practice
13.	APA Style	Homework and tailored supplemental practice
14.	Draft 1	Homework and tailored supplemental practice
15.	Conclusion	Homework and tailored supplemental practice

受講者へのメッセージやアドバイス:
You need to develop skills you can use this year to succeed with the TOEFL or IELTS test. You can use many of these skills throughout your four years of university. You also need to begin to explore topics and issues that you would like to research while you are abroad as well as upon your return to Japan in your 3rd year. This course is a very good opportunity for you to grow and develop.

フィードバックの方法:
Students receive formative feedback in each class and summative feedback through midterm and final tests. Students receive immediate feedback in class from peers, from the instructor and by using online technology software, and by recording themselves and counting output.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Participation	30	Students are expected to attend and participate actively.
Homework	30	Students use homework in subsequent classes so it is easy to monitor students' efforts.
Midterm	20	Tests are oral or written, with assessment based on contents and delivery.
Final	20	Tests are oral or written, with assessment based on contents and delivery.

教科書:
Handouts and online PDFs will be provided.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
You will receive contact information and Office Hours at the start of the course.

557600

Reading and Discussion A

長谷川　和美

授業テーマ:

"Reading" America Through The New Yorker

授業の概要:

In the ever-changing world, it is crucial for us to understand what is happening in the world and analyze the world politics. In this course, we will read the recent articles (all were published in 2017) from The New Yorker, one of the American prestigious magazines and discuss issues related to economy, politics, and culture. This course provides students with opportunities not only to understand the contemporary world politics but to analyze the particular American contexts and backgrounds that have shaped those politics.

到達目標:

This class has two main objectives: 1) To understand American society and the world politics by reading and discussing the latest news; 2) To help students continue using, improving and expanding their linguistic skills in English, by means of reading, writing and discussing various issues.

授業方法:

We will spend two weeks to work on a single topic related to contemporary American society. In the first week, we will read certain sections in an article assigned to the week, using a sophisticated guess (without a dictionary) to develop our reading comprehension skills. In the second week, we will closely look at the sections that we have read in the previous week to enhance our understanding about the topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Course	
2.	Sharing Economy 1 ("The Gig is Up," May 15, 2017)	Reading assignment
3.	Sharing Economy 2	Reading assignment
4.	Undocumented Immigrants and College Education 1 ("American Studies: How Immigrant Students Pursue a College Education," May 22, 2017)	Reading assignment
5.	Undocumented Immigrants and College Education 2	Reading assignment
6.	Minorities in Comedy 1 ("The Best Medicine: Onstage and Onscreen, Kumail Nanjiani Turns his Pain into Comedy," May 8, 2017)	Reading assignment
7.	Minorities in Comedy 2 (Viewing Video Clips from the Movie, The Big Sick)	Reading assignment
8.	Protests in American Society 1 ("Call and Response: What Happens When You Phone Congress?" March 6, 2017")	Reading assignment
9.	Protests in American Society 2	Reading assignment
10.	Race in American Literature 1 ("Fade to Black: 'I Am Not Your Negro' Takes on James Baldwin, Race, and Cinema," Feburary 13&20, 2017)	Reading assignment
11.	Race in American Literature 2 (Viewing Video Clips from the Movie, I Am Not Your Negro)	Reading assignment
12.	Gender Discrimination in the Tech Industry 1 ("The Disrupters: The Tech World is Notorious for Its Gender Discrimination, but More and More Women are Pushing for Change," November 20, 2017)	Reading assignment
13.	Gender Discrimination in the Tech Industry 2	Reading assignment
14.	Final Presentations 1	Presentation preparation
15.	Final Presentations 2	Presentation preparation

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feedback will be given to group discussions at the end of class; feedback to quizzes and written assignments will be given one or two weeks after the deadlines.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	Attendance to class and active participation in it; use of English in the classroom.
Quizzes and Written Assignments	30	Quizzes to asses reading comprehension, listening, and analyzing ability and written assignments.
Group Discussions	20	Active involvement in group discussion; reporting of discussion results to the rest of the class.
Final Presentation	30	Research and presentation about a topic related to the course theme.

教科書:

Handouts will be provided in advance.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

Contact me via e-mail or visit me during my office hours.

557700

Reading and Discussion B

K.Kim

授業テーマ:

Sustainability: Soil, Soul and Society

授業の概要:

This course will explore the theme of Sustainability: Soil, Soul & Society through various articles about each of the three S's. "Soil, Soul, and Society" was coined by world-renowned Indian philosopher, Satish Kumar, and will set the tone throughout the course. We will take a solutions-oriented approach, focusing on the solutions, not only the problems. Students will practice discussing the explored theme in small and large group discussions.

到達目標:

To develop reading in discussion skills in English while exploring the theme of Sustainability.

授業方法:

Instruction will include lectures, in-class discussions, and presentations prepared by students.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Soil, Soul and Society	To be determined
2.	Soil 1: Food	To be determined
3.	Soil 2: Forests	To be determined
4.	Soil 3: Pollution	To be determined
5.	Group Discussion A	To be determined
6.	Soul 1: Happiness	To be determined
7.	Soul 2: Productivity	To be determined
8.	Soul 3: Community	To be determined
9.	Group Discussion B	To be determined
10.	Society 1: Learning from the past	To be determined
11.	Society 2: Sharing economy	To be determined
12.	Society 3: Innovation	To be determined
13.	Group Discussion C	To be determined
14.	Final Papers Due	To be determined
15.	Final Discussion	To be determined

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class will require that the student prepare for class discussions by reading the assigned materials and preparing readings and questions to share with the larger group. Students will be expected to write a final reflection paper and participate in the final class discussion.

フィードバックの方法:

Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation & Attendance	25	Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor.
Discussion	25	Students will be marked for how frequently they participate in in-class discussions. They will be given time to prepare to comment, but will be expected to show initiative in discussions.
Homework	25	Out of class assignments will consist of preparation for discussions and the final paper. Students can expect to require not more than 1 hour of preparation per week outside of class.
Final Presentation & Paper	25	The final paper & presentation will be a reflection on all materials covered in class. Students will be expected to show an understanding and thoughtfulness to the course content.

教科書:

None

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkimdoshisha@gmail.com

557800

Reading and Discussion C

B.Quinn

授業テーマ:

Popular Music and Society

授業の概要:

In this course, we will survey the connections between popular music and society from roughly the 1920s until the present. The course will largely, but not exclusively, focus on key social events and cultural trends in the United States and United Kingdom. Along the way we will look at such issues as race, censorship, technology, political and social protest, sexuality and gender, and subcultures.

到達目標:

Students will develop their critical thinking skills and expand their knowledge of key political, social and artistic changes in the 20th century through readings, lectures, essay writing, research and presentations.

授業方法:

Lecture, reading and discussion.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Popular music and race: America and the birth of the blues; Country meets blues and the birth of rock and roll. Motown, Stax civil rights and soul music; The Dawn of hip hop	Reading: handouts provided
2.	Popular music and race: America and the birth of the blues; Country meets blues and the birth of rock and roll. Motown, Stax civil rights and soul music; The Dawn of hip hop	Reading: handouts provided
3.	Popular music and race: America and the birth of the blues; Country meets blues and the birth of rock and roll. Motown, Stax civil rights and soul music; The Dawn of hip hop	Reading: handouts provided Short presentation preparation
4.	Popular music and race: America and the birth of the blues; Country meets blues and the birth of rock and roll. Motown, Stax civil rights and soul music; The Dawn of hip hop	Reading: handouts provided
5.	The 1960s: Bob Dylan and protest music; The Beatles and the British Invasion; San Francisco and the Hippy movement	Reading: handouts provided
6.	The 1960s: Bob Dylan and protest music; The Beatles and the British Invasion; San Francisco and the Hippy movement	Reading: handouts provided
7.	The 1960s: Bob Dylan and protest music; The Beatles and the British Invasion; San Francisco and the Hippy movement	Reading: handouts provided Short presentation preparation
8.	Anarchy in the UK. Punk comes to Margaret Thatcher's England. 1970s New York: Punk, disco and gay subulture.	Reading: handouts provided
9.	Anarchy in the UK. Punk comes to Margaret Thatcher's England. 1970s New York: Punk, disco and gay subulture.	Reading: handouts provided
10.	Anarchy in the UK. Punk comes to Margaret Thatcher's England. 1970s New York: Punk, disco and gay subulture.	Reading: handouts provided Short presentation preparation
11.	MTV and the '80s, Rock Against Reagan; Seattle's Grunge subculture, heavy metal and rap in the '90s.	Reading: handouts provided Prepare first essay draft
12.	How music got free: technology and popular music	Reading: handouts provided
13.	How music got free: technology and popular music	Reading: handouts provided
14.	Final Presenations	Prepare final essay draft
15.	Final Presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Please come to class prepared to think and speak in English. Students who enjoy history and popular music AND reading and talking about these subjects will get the most out of this class.

フィードバックの方法:

Students will receive written comments on essays and other written work, as well as recommendations on how to improve presentation skills.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final essay	20	A 5 page academic essay
Final presentation	20	10 minute final Powerpoint presentation
Class discussion	30	Participation for and discussions of readings and research.
Homework	30	Readings and various other assignments

教科書:

参考書:

Brian Longhurst, Popular Music and Society, Polity, May 2007

The Rolling Stone History of Rock and Roll, Random House

Elijah, Wald, Escaping the Delta: Robert Johnson and the Invention of the Blues, Amistad, December 2004

Ben Yagoda, The B Side: The Death of Tin Pan Alley and the Rebirth of the Great American Song, Riverhead Books, January 2015

Stephen Witt, How Music Got Free, June 14, 2016

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: bquinn@dwc.doshisha.ac.jp

557900

Reading and Discussion D

沖　　キャサリン

授業テーマ:

Issues in Education: Factors that continue to influence educational change

授業の概要:

With continuing research on how humans learn, technological advancement, national and international political forces, and cultural shifts, education continues to evolve. This class is a chance for students to talk about educational goals, the means for achieving them, and potential for future change. Using various reading materials, students have the opportunity to think about and discuss the various forms that education can take, keeping in mind influences like learning theory, technology, culture, and politics.

到達目標:

This class has two main objectives: 1) To use learning theory as a vehicle for evaluating current and future educational change. 2) To help students develop their English through reading, writing and discussing topics related to educational change and their educational experiences in Japan and abroad.

授業方法:

Readings, periodic comprehension checks, small and whole group discussions

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Class The Learning Process	Reading assignment, manabi reflection
2.	Learning Theories I	Reading assignment, manabi reflection
3.	Learning Theories II	Reading assignment, manabi reflection
4.	Learning Theories III	Reading assignment, manabi reflection
5.	Purposes of Education: Time and Location	Reading assignment, manabi reflection
6.	Thinking about Education: Curriculum and Pedagogy	Reading assignment, manabi reflection
7.	Midterm	Reading assignment, manabi reflection
8.	21st Century Skills and Learning I	Reading assignment, manabi reflection
9.	21st Century Skills and Learning II	Reading assignment, manabi reflection
10.	Competency Based Learning I	Reading assignment, manabi reflection
11.	Competency Based Learning II	Reading assignment, manabi reflection
12.	Alternative Education I	Reading assignment, manabi reflection
13.	Alternative Education II	Preparation for Final Presentation
14.	Final Presentation 1	Preparation for Final Presentation
15.	Final Presentation 2	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Do the readings and be ready to discuss! This class will give you a chance to reflect on your experiences abroad, think about why education does and should change over time and how culture, popular beliefs, and research on learning influence that.

フィードバックの方法:

Feedback on discussions in class. Feedback on manabi comments. Final Feedback on Presentations according to grading rubric.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Homework	20%	Coming to and actively participating in group and class discussions; showing your preparedness, critical thinking skills and ability to interact in English.
Forum Reflections	25%	Weekly reflections about the classes and ideas discussed
Group Discussion	25%	Active involvement and feeding back information from small group discussions to whole-class. Participating in but not dominating discussions and encouraging other's to contribute.
Final Presentation	30%	Research and presentation about a topic in Education

教科書:

Handouts

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

coki@dwc.doshisha.ac.jp

558000

Reading and Discussion E

J.Cross

授業テーマ:

Academic reading, vocabulary and discussion skills

授業の概要:

This course explores readings on contemporary global topics which provide the stimulus for developing a range of high-utility reading skills, building academic vocabulary contextualized in the reading texts, and promoting personal engagement with, and critical-thinking about, the reading text content in related discussions.

到達目標:

The objectives of this course are:
1. to introduce and provide practice with academic reading skills
2. to build academic vocabulary through contextualized activities
3. to stimulate critical-thinking and discussion skills related to global issues

授業方法:

Tutorials; individual reading; pair work

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
2.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
3.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
4.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
5.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
6.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises Counselling self-evaluation
7.	Mid-course assessment Mid-course counselling	None
8.	Assessment feedback Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
9.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
10.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
11.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
12.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
13.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Reading comprehension Vocabulary exercises
14.	Vocabulary review Reading skill Discussion	Exam practice Counselling self-evaluation
15.	Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to actively participate in lessons to maximize opportunities for themselves and other students to develop a range of skills essential to success in an academic environment. English is primarily a tool for communication and engagement with others, not just a language to be studied.

フィードバックの方法:

Mid-course and Final counselling and questionnaire review (in-class)

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and attitude	50	1. attendance 2. level of motivation 3. level of participation 4. vocabulary notebook 5. self-evaluation
Mid-course assessment	25	Academic vocabulary, reading comprehension, critical-thinking written response
Final assessment	25	Academic vocabulary, reading comprehension, critical-thinking written response

教科書:

Reading and Vocabulary Focus 3
Williams, J.
National Geographic Learning/CENGAGE Learning

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Ask in class.

558100

Discussion and Debate A

長谷川　和美

授業テーマ:

Discussing Controversial Issues around the World

授業の概要:

This course provides students with opportunities to be familiar with present-day controversial issues from a humanistic and global perspective, while avoid the use of stereotypical or disengaged opinions.

到達目標:

The objective of this course is to give students the basic tools to carry out logical, accurate, well-structured, and respectful discussions related to present-day issues. Students are encouraged not only to find their own opinions but also to become a critical listener to understand different opinions from their own.

授業方法:

Each class will begin with an introduction and/or review of the issues to be discussed, as well as to some methodological tools. Next, a discussion or debate will be held.
Before every class, students are expected to carry out a simple topic research, complete some reading exercises and prepare the vocabulary related to the topic.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to the Course	Reading assignment
2.	Internet Security	Reading assignment
3.	Tokyo Olympics 2020	Reading assignment
4.	Nuclear Energy	Reading assignment
5.	Genetically Modified Food	Reading assignment
6.	Gay Marriage	Reading assignment Preparation for the midterm debate
7.	Midterm Debate	Reading assignment Preparation for the midterm debate
8.	Smoking in Public Spaces	Reading assignment
9.	Death Penalty and the Right to Die	Reading assignment
10.	Grade Skipping	Reading assignment
11.	Seniority vs. Performance	Reading assignment
12.	TPP	Reading assignment
13.	Animal Rights	Reading assignment
14.	The Article 9	Reading assignment Preparation for the final debate
15.	Final Debate	Preparation for the final debate

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Feeback will be given to group discussions and debates at the end of each class. Comments will be given to written assignments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	Attendance to class and active participation in it; use of English in the classroom
Preparation and homework	20	Preparation for following week's class; written homework, etc.
Midterm Debate	30	Ability to debate with solid and persuasive arguments
Final Debate	30	Ability to debate with solid and persuasive arguments

教科書:

Ichizo Ueda, Toshiko Ueda, Chiaki Taoka, Eri Yoneoka. Pros and Cons: Discussing Today's Controversial Issues. Tokyo: Cengage Learning K.K., 2014.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

Contact me via e-mail or visit me during my office hours.

558200

Discussion and Debate B

シュトラウマン　千里

授業テーマ:

Discussing controversial issues from around the world

授業の概要:

This course is designed to promote critical thinking and provide an opportunity for students to think about controversial issues that affect the lives of citizens around the world. In addition to providing meaningful listening, speaking and writing practice, debate is also highly effective for developing argumentation skills for persuasive speech and writing.

到達目標:

The objectives of this course are:
・To improve both critical analysis and communication skills
・To give students the basic tools to carry out logical, accurate, well-structured, and respectful discussions related to present-day topics.
・To learn not only the methodology of a debate, but also the way to find their own voice and opinion, to become an active, critical listener, and to bring a new, creative and individual perspective to the subjects

授業方法:

Student-centered

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction, Self-introductions, Preliminary activities: Introduction to discussions and debate	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
2.	Are SNS (Social Networking Sites) good for our society?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
3.	Hosting the Olympics – Honor or burden?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
4.	Nuclear power – Clean energy or potential threat?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
5.	Genetically modified (GM) food – Real risk or great technology?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
6.	Gay marriage – Legalization or outlawing?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
7.	Smoking – Separate area or total ban?	Preparation for mid-term debate
8.	Mid-term debate	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
9.	Performance or Seniority?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
10.	TPP – Free trade or Protection?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
11.	Article 9 – Peace constitution or revision?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
12.	Death penalty or Human rights?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
13.	Minimum wage – Should minimum wages be increased?	Reading and preparation for discussion, writing a reflection
14.	Foreign words – Should we use katakana words or translate them into Japanese?	Preparation for final debate
15.	Final debate	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

You must be preparing for your job interviews. Regardless of the field or industry, debating will help you think fast and come up with answers on the spur of the moment. Also it helps you make reasoned and well thought out opinions and improve self-confidence.

フィードバックの方法:

Student feedback to each other. Written and verbal evaluation

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Class participation	20	
Homework	40	
Mid-term debate	20	Assessed as a team
Final debate	20	Assessed as a team

教科書:

Ueda, I., Ueda, T., Taoka, Ch, and Yoneoka, E. (2014). Pros and Cons: Discussing today's controversial issues. Tokyo: Cengage Learning.
There are extra handouts and online PDFs

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

cstraumann6@gmail.com

558301、02

Introduction to Japanese Studies/日本研究入門

A.C.Elliott

授業テーマ:

授業の概要:

This course offers an introduction to the main themes, topics, and approaches of Japanese Studies. In particular, it focuses on the society and culture of Japan from an anthropological and cultural studies perspective, paying special attention to diversity and changes over time.

到達目標:

This course has four main aims:
1. to introduce students to the key disciplinary themes, topics, and approaches of Japanese Studies; 2. to review, develop, and broaden students' knowledge and understanding of Japanese society and culture;
3. to engage and acquaint students with the historical roots and background of Japanese society and culture;
4. to give students the analytical and language skills needed to research, discuss, and interpret Japanese society and culture in English.

授業方法:

Each class begins with a student presentation on the previous weeks' topic, followed by a review quiz. After this, there is an interactive lecture, where students in pairs or small groups are asked to discuss and respond to the material. After the lecture, group discussions on the lecture topic will take place, followed by an individual written response. Method of instruction may vary depending on class atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Defining Japan and the Japanese I: introduction	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
2.	Defining Japan and the Japanese II: different approaches and theories	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
3.	Rituals in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
4.	Space in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
5.	Gender in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
6.	Religious Beliefs in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
7.	Aesthetics in Japan I: yugen to shibui	Review of lecture notes from weeks 2-7.
8.	Midterm test	Reading preparation for next class.
9.	Aesthetics in Japan II: kawaii	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
10.	Fashion Cultures in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
11.	Food Cultures in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
12.	Visual Cultures in Japan	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
13.	Global Japanese Cultures	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class.
14.	Defining Japan and the Japanese III: course review	Review of lecture notes from weeks 9-14.
15.	Conclusion	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

All quizzes and individual written responses are returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20%	Assessed via individual written response on understanding and engagement with lecture, reading and discussion topics.
Review quizzes	15%	
Presentations	15%	Assessed on depth and interest of research, quality of slides and presentation.
Midterm test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.
Final test	25%	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical, clear and analytical report.

教科書:

参考書:

Yoshio Sugimoto (ed.), The Cambridge Companion to Modern Japanese Culture, CUP, 2009
Brian J. McVeigh, Interpreting Japan: Approaches and applications for the classroom, Routledge, 2014
Jennifer Roberton (ed.), A Companion to the Anthropology of Japan, Blackwell, 2005
Yoshio Sugimoto, An Introduction to Japanese Society, CUP, 2010 (3rd ed.)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), Manabi, or see me before/after class or during my office hour

558401

Contemporary Japanese Society／現代の日本社会

船山　　貴之

授業テーマ:

Sociology of Japan

授業の概要:

This course provides sociological perspectives on several topics (e.g., work, education, family, etc.), specifically focusing on Japanese society.

到達目標:

This course has three aims: 1. to offer a comparative view on societies (Japan and other countries) in order to relativise 'common' views on Japanese society; 2. to develop students' skills to address and explore research questions about Japanese society; 3. to encourage students to develop a reading habit through the assignments.

授業方法:

Each class starts with a student presentation on the week's topic, followed by small group and class discussion. After the discussion, there is a cover-up lecture.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Sociology of Japan: Is Japanese society still 'mura shakai', filled with 'honne' and 'tatemae'?	Sugimoto, Ch.1
2.	Japanese Economy: Economic success, bubble economy, and the 'lost decades'	Sugimoto, Ch.1
3.	Japanese Politics: Conflicts between 'hoshu' and 'kakushin' over time	Sugimoto, Ch.8
4.	Generation and Life Course: Gap between the 'dankai' and 'yutori' generations	Sugimoto, Ch.3
5.	Class and Stratification: Revisiting 'kakusa shakai' discourses	Sugimoto, Ch.2
6.	Revision Session 1: Review on topics of Weeks 1-5, preparing for the midterm test	Write two essay drafts for the midterm test
7.	Midterm test	Revise the two essay drafts for the midterm test
8.	Work: End of 'lifetime employment' and 'seniority system'?	Sugimoto, Ch.4
9.	Education: Cause and effect of the 'yutori' educational reform	Sugimoto, Ch.5
10.	Family: Limitation of the 'breadwinner & housewife' model	Sugimoto, Ch.6
11.	Ethnicity: How can you get 'Japaneseness'?	Sugimoto, Ch.7
12.	Popular Culture: Is 'Cool Japan' really cool?	Sugimoto, Ch.9
13.	Civil Society: Is Japan a civil society? Are the Japanese good citizens?	Sugimoto, Ch.10
14.	Revision Session 2: Review on topics of Weeks 8-13, preparing for the final test	Write two essay drafts for the final test
15.	Conclusion	Revise the two essay drafts for the final test

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Comments are provided to all presentations and submitted essays.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Presentations	30%	Assessed on quality of slides and presentation
Midterm test	30%	Assessed on ability to write logical and cohesive essays
Final test	40%	Assessed on ability to write logical and cohesive essays
Reading assignment	20%	Assessed on ability to create a reading habit

教科書:

参考書:

Sugimoto Yoshio, An Introduction to Japanese Society, Cambridge University Press (2014, 4th ed.)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Contact me via email (takay.noblesse.oblige@gmail.com).

558402

Contemporary Japanese Society／現代の日本社会

船山　　貴之

授業テーマ:

Sociology of Japan

授業の概要:

This course provides sociological perspectives on several topics (e.g., work, education, family, etc.), specifically focusing on Japanese society.

到達目標:

This course has three aims: 1. to offer a comparative view on societies (Japan and other countries) in order to relativise 'common' views on Japanese society; 2. to develop students' skills to address and explore research questions about Japanese society; 3. to encourage students to develop a reading habit through the assignments.

授業方法:

Each class starts with a student presentation on the week's topic, followed by small group and class discussion. After the discussion, there is a cover-up lecture.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction to Sociology of Japan: Is Japanese society still 'mura shakai', filled with 'honne' and 'tatemae'?	Sugimoto, Ch.1
2.	Japanese Economy: Economic success, bubble economy, and the 'lost decades'	Sugimoto, Ch.1
3.	Japanese Politics: Conflicts between 'hoshu' and 'kakushin' over time	Sugimoto, Ch.8
4.	Generation and Life Course: Gap between the 'dankai' and 'yutori' generations	Sugimoto, Ch.3
5.	Class and Stratification: Revisiting 'kakusa shakai' discourses	Sugimoto, Ch.2
6.	Revision Session 1: Review on topics of Weeks 1-5, preparing for the midterm test	Write two essay drafts for the midterm test
7.	Midterm test	Revise the two essay drafts for the midterm test
8.	Work: End of 'lifetime employment' and 'seniority system'?	Sugimoto, Ch.4
9.	Education: Cause and effect of the 'yutori' educational reform	Sugimoto, Ch.5
10.	Family: Limitation of the 'breadwinner & housewife' model	Sugimoto, Ch.6
11.	Ethnicity: How can you get 'Japaneseness'?	Sugimoto, Ch.7
12.	Popular Culture: Is 'Cool Japan' really cool?	Sugimoto, Ch.9
13.	Civil Society: Is Japan a civil society? Are the Japanese good citizens?	Sugimoto, Ch.10
14.	Revision Session 2: Review on topics of Weeks 8-13, preparing for the final test	Write two essay drafts for the final test
15.	Conclusion	Revise the two essay drafts for the final test

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Comments are provided to all presentations and submitted essays.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Presentations	30%	Assessed on quality of slides and presentation
Midterm test	30%	Assessed on ability to write logical and cohesive essays
Final test	40%	Assessed on ability to write logical and cohesive essays
Reading assignment	20%	Assessed on ability to create a reading habit

教科書:

参考書:

Sugimoto Yoshio, An Introduction to Japanese Society, Cambridge University Press (2014, 4th ed.)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

Contact me via email (takay.noblesse.oblige@gmail.com).

558500

Cultural Issues in Japan／日本の文化

S.Suan

授業テーマ:

Cultural Issues in Japan – Japanese Popular Culture and Media

授業の概要:

This class aims to advance the students' understanding of contemporary Japanese culture, engaging with the history of different "popular cultures" in Japan and how this is connected to changes in media technologies and business strategies. Throughout the term, the students will expand their familiarity with the media of popular culture, and to develop an awareness of production and consumption related aspects as they relate to shifts in Japanese society.

The class will be conducted in English.

到達目標:

*Transforming the basic familiarity with the media of popular culture into an advanced awareness of production and consumption related issues,
*Encouraging and improving the skills for engagement with contemporary Japanese culture on a critical and academic level.

授業方法:

Classes will feature lectures, videos, and discussions. Visual material will be provided for each class. Students are highly encouraged to raise questions and participate in discussions.
In the last three weeks of the semester, the students will make class presentations. Based on the presentations, a research paper will be submitted by the end of the term.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction of the Course Description and Class Policies	No outside class work
2.	Defining "Popular Culture" in Japan	Reading assignments will be provided in class.
3.	Critically Approaching the Media of Japanese Popular Culture	Reading assignments will be provided in class.
4.	"Cool Japan" and Nation-branding	Reading assignments will be provided in class.
5.	Media-Mix: Marketing and Consumption	Reading assignments will be provided in class.
6.	"Otaku" and Database	Reading assignments will be provided in class.
7.	"Fujoshi" Consumption-Production	Reading assignments will be provided in class.
8.	Consuming Japanese Pop Culture Outside Japan _ Constructing Japan?	Reading assignments will be provided in class.
9.	Food, TV, and Gender	Reading assignments will be provided in class.
10.	Kawaii Culture	Reading assignments will be provided in class.
11.	Japanese Fashion	Reading assignments will be provided in class.
12.	J-Pop: Local and Global	Reading assignments will be provided in class.
13.	Student Presentations	Students prepare for presentations
14.	Student Presentations	Students prepare for presentations
15.	Student Presentations	Students prepare for presentations

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Student presentation feedback results will be returned to students by email.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	30	Minimum required attendance is 12 classes.
Class participation	30	Participation in class (class discussions, comments, and questions)
Student Presentation	20	Present an outline of your paper to the class to receive feedback from other students
End of term paper	20	Main criteria for evaluation: Efficient use of theoretical sources Well developed argument Clarity and coherence of the paper Format and length

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

steviesuan@gmail.com

558600

Political Issues in Japan／日本の政治

G.A.Warries

授業テーマ:

Subtitle: Understanding the Modern and Contemporary History and Politics of Japan

授業の概要:

This course will systematically study and debate the contents of the textbook: "Governing Japan – Divided Politics in a Resurgent Economy" (Fourth Edition) by J. A. A. Stockwin. Through interactive lectures/seminars/debates/research/reading and writing projects (including research journals, notebooks and short essays) and discussion, students will develop and deepen their knowledge and critical understanding of Modern and Contemporary Japanese History and Politics.

到達目標:

* Development of student knowledge, critical thinking, reading, writing, research and discussion skills.

* Development of student motivation to fully comprehend the course theme.

* Development of student ability to achieve the required course skills.

授業方法:

"Method of Instruction is stated in Course Contents" (Please note: 1. All classes will be conducted in English. 2. Deadlines for all course work essays will be announced in class, as the semester proceeds.)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Outline and textbook/supplementary books/materials – introduction/explanations; Course Outlines etc. distributed; student self-intro. questionnaire; initial textbook reading/note-taking set.	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
2.	Introduction: Why Japan and Its Politics Matter	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
3.	Historical Background: Japan's Emergence as Modern State and the Politics of War, 1853 – 1945	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
4.	Social Background: How far Social Norms and Behaviour Influence Politics	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
5.	Political Reconstruction and Development, 1945 – 1989	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
6.	One Step Forward and One Step Back: Attempting Political Reform in the 1990s	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
7.	New Politics for the New Millennium: The Koizumi Effect	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
8.	Who Runs Japan?	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
9.	Parliament and Parliamentary Elections: The Changing Character of Electioneering	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
10.	The Politics of Party: The Liberal Democrats and their Rivals	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
11.	Some Problems of the Constitution	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
12.	Issues of Foreign Policy and Defence	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
13.	Issues of Foreign Policy and Defence	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
14.	Conclusions: The Analytical Challenge of Japanese Politics	Weekly work in "On-Going" Research Journals; completion of weekly readings and note-taking – both of which will include reviews and preparations for subsequent classes.
15.	Review of the semester's work and suggestions foe further reading, research and study.	Weekly work in "On-Going" Research Journals; continuation of textbook and associated readings and note-taking; continuous self-study and research

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are required to buy and read carefully through the set textbook during the semester, as instructed, as this will facilitate, enhance and deepen your experience of learning. Please regard the expenditure on your textbook as an important investment in your academic and intellectual development. (However, I will consider the usage of weekly, chapter photocopies, on a case-by-case basis, if absolutely necessary.) Further details of what is expected of you, and of what you can expect of me, will be clearly explained to you in the first class, when you receive your Course Outlines. (Any changes to the weekly schedule will be announced in class.)

フィードバックの方法:	All "On-Going"Research Journals and Notebooks will be collected by me on a regular basis, at approximately 4 - week intervals during the semester, and will be read, commented on, graded by me and returned to the students on a regular basis. 3 or 4 short, coursework essays will be written by students over the course of the semester and will be read, corrected, commented on and returned to the students on a regular basis. (Any further oral feedback will be given on an indivisual basis in the classroom at convenient times.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Continuous Assessment	20%	Class Attendance
Continuous Assessment	20%	Class Participation and Attitude
Continuous Assessment	30%	"On Going" Research Journals and Mini-Presentations
Continuous Assessment	30%	Coursework Essays and Notebooks

教科書:

Stockwin, J. A. A. , "Governing Japan - Divided Politics in a Resurgent Economy", (Fourth Edition) Blackwell Publishing, Year: 2010, ISBN 978-1-4051-5416-1

参考書:

Baerwald, Hans H. , "Party Politics in Japan", Allen & Unwin, Year: 1986, ISBN: 0-04-320184-9

Curtis, Gerald I. , "The Logic of Japanese Politics - Leaders, Institutions and the Limits of Change", Columbia University Press, Year: 1999, ISBN: 0-231-10843-5

Thayer, Nathaniel B. , "How The Conservatives Rule Japan", Princeton University Press, Year: 1969, L. C. Card: 69-17398

McCargo, Duncan, "Contemporary Japan", (Third Edition), palgrave/macmillan, Year: 2013, ISBN: 978-0-230-24869-4

Goto-Jones, Christopher, "Modern Japan - A Very Short Introduction", Oxford University Press, Year: 2009, ISBN: 978-0-19-923569-8

Kohno, Masaru, "Japan's Postwar Party Politics", Princeton University Press, Year: 1997, ISBN: 978-0-691-01596-1

Murphy, R. Taggart, "Japan and the Shackles of the Past", Oxford University Press, Year: 2014, ISBN: 978-0-19-061958-9

Kersten, Rikki, "Democracy in Postwar Japan - Maruyama Masao and the search for autonomy", Routledge, Year: 2014, ISBN: 978-0-415-86957-7

Karube, Tadashi, (Trans. by David Noble), "Maruyama Masao - and the Fate of Liberalism in Twentieth-Cetury Japan", International House of Japan, Year: 2008, ISBN: 978-0-415-58743-3

Hook, Glenn D., Gilson, Julie, Hughes, Christopher W., Dobson, Hugo, "Japan's International Relations - Politics, Economics and Security", (Third Edition), Routledge, Year: 2012, ISBN: 978-0-415-58743-3

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、
教員との連絡方法:	gwarries@hotmail.com

558700

Social Issues in Japan／日本の社会

N.Tajan

授業テーマ:

The Mental and the Social in Contemporary Japan

授業の概要:

This course focuses on: 1. Hikikomori; 2. Depression, and 3. Identity. It is divided in three portions. Our approach is based on recent books, articles, and videos related to contemporary Japan. We focus on psychological, anthropological and sociological data and reflections.

到達目標:

The course has 3 aims: 1. To develop students' understanding and ability to discuss social and mental health issues in contemporary Japan; 2. To help students develop their critical and reflexive skills. 3. To reinforce presentation and discussion skills.

授業方法:

The course is divided in three portions. Each class focuses on a short article (2 pages) or video (5 minutes). Discussion is encouraged.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	General Introduction : Hikikomori, Depression, and Identity in Contemporary Japan	Read the account of Miss A (Tajan 1., p.60-63)
2.	Part 1-1: Hikikomori : School Non-Attendance (futoukou)	Read the account of Mr Maruyama and Miss Hayashi (Tajan 2., p.285-287)
3.	Part 1-2: Hikikomori : From School Non-Attendance to Hikikomori	Watch a BBC video interview of hikikomori toujisha Kobayashi Shun
4.	Part 1-3: Hikikomori : Social Welfare and Community Support	Read the account of Mr B. (Tajan 2., p.290-293)
5.	Part 1-4: Hikikomori : Surviving Hikikomori	Prepare written response 1
6.	Part 2-1: Depression: Mental Disorders and Society	Depression Case 4.2 (p.77-78) in DSM-5 clinical cases (ed. J. Barnhill)
7.	Part 2-2: Depression: What is Depression ?	Read Asahi Shinbun's article abouth Takahashi Matsuri's death
8.	Part 2-3: Depression: Death by Overwork and Overwork Depression	Read Kitanaka's book extract (page number will be disclosed later)
9.	Part 2-4: Depression: Gendering Depression	Prepare written response 2
10.	Part 3-1: Identity: Gender Inequality	Read New York Times' article abouth Shiori Ito's rape
11.	Part 3-2: Identity: Couples, and Domestic Violence	Read Susan Holloway's book extract (page number will be disclosed earlier)
12.	Part 3-3: Identity: Women and Family	Prepare written response 3
13.	Guidance on how to prepare the final presentation	Make a first draft of the final presentation and rehearse
14.	Presentation's rehearsal and feedback	Revise the presentation and rehearse
15.	Final Presentation	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students interested in psycho-social issues are highly welcome. Students are responsible for watching videos and reading articles' and books' extracts in their own time. Videos, articles' and books' extracts will be seen/read and discussed in class. Students don't have to buy any books or articles (copies will be distributed).

フィードバックの方法:

Written responses are returned to the students with a grade and comments in the classroom. Final presentation will be rehearsed one time in the classroom: guidance and comments to improve presentation skills are provided.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	30%	
Written responses	30%	Assessed on ability to summarize, clarity of expression, quality of analysis, and written style. In total, 3 responses are required.
Presentation	40%	Assessed on ability to summarize, clarity of expression, quality of research and analysis, slides and presentation style.

教科書:

参考書:

Adolescents' school non-attendance and the spread of psychological counselling in Japan (Tajan Nicolas)

Japanese post-modern social renouncers: An exploratory study of the narratives of hikikomori subjects (Tajan Nicolas)

"Suicide of young Dentsu employee as due to overwork" Asahi Shinbun available online at http://www.asahi.com/ajw/articles/AJ201610080036.html

DSM-5 clinical cases (ed. J. Barnhill)

Depression in Japan Psychiatric Cures for a Society in Distress (Kitanaka Junko)

Women and Family in Contemporary Japan (Susan Holloway)

Women and Men in Japan 2016 (Gender Equality Bureau) available online at http://www.gender.go.jp/english_contents/pr_act/pub/pamphlet/women-and-men16/index.html

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

Contact me at: n.tajan2@gmail.com or see me before/after class (Wednesday 3rd period).

558800

Minority and Japanese Society／マイノリティーと日本社会

K.Kim

授業テーマ:

Art as a Tool for Representation and Peacebuilding

授業の概要:

This course will give an introduction to Peace and Conflict theory and examine how art plays an important role in the nonviolent representation of minority groups in Japan and around the world.

到達目標:

To research minority identities and how art plays a role in the nonviolent representation of those groups in a Peace & Conflict Studies framework.

授業方法:

The class will consist of lectures, discussion, student research, and presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction and Orientation: Art as a Tool for Representation and Peacebuilding	To be determined
2.	Lecture: Foundational introduction to Peace and Conflict Theory	To be determined
3.	Case Study Presentations I	To be determined
4.	Lecture: Understanding Violence	To be determined
5.	Lecture: Identity and Culture	To be determined
6.	Lecture: Conflict Analysis	To be determined
7.	Case Study Presentations II	To be determined
8.	Lecture: What is Peacebuilding?	To be determined
9.	Lecture: Theory and Practice of Nonviolence	To be determined
10.	Case Study Presentations III	To be determined
11.	Lecture: Reconciliation and Healing	To be determined
12.	Lecture: Peacebuilding in Japan and the world	To be determined
13.	Final Papers Due	To be determined
14.	Final Presentations I	To be determined
15.	Final Presentations II	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to complete all assignments on time and review lecture notes. Constructive and respectful participation in group work and discussions in class is expected. Punctual and regular attendance is compulsory.

フィードバックの方法:

Students will be regularly receiving feedback from their classmates. Feedback from the professor can also be expected, though frequency and method will depend on the size of the class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation & Attendance	25	Participation 25 Students will be expected to attend all classes unless there is an official excuse. Up to three absences will be considered with personal consultation with the professor.
Homework	25	Out of class assignments will consist of preparation for presentations and the final paper. Students can expect to require not more than 1 hour of preparation per week outside of class.
Presentations	25	Presentations will be graded based on depth of knowledge of material covered in class, and preparation outside of class.
Final Paper	25	The final paper will be a research paper based on a case study of the student's interest. The paper will need to show a depth of understanding of the subject matter and analysis of the case study.

教科書:

None

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkimdoshisha@gmail.com

558900

Inbound Tourism／インバウンド観光論

萬谷　　和歌子

授業テーマ:

This course provides an introduction to current issues on inbound tourism in Japan. Inbound tourism continues to thrive as a record 28.7 million tourists visited Japan in 2017, keeping the nation on track for the government's target of boosting the annual number of visitors to 40 million in 2020. The international travel boom continues to be aided by an increase in the services of low-cost carriers, however, challenges remain that must be overcome. Further efforts, such as a tight supply of accommodations that cater to overseas guests and a heavy concentration of visitors from East Asia, should be made to realize the full potential of inbound tourism as one of the nation's key growth industries. After completion of the course, students shall be able to demonstrate an in-depth understanding of the strategic management of inbound tourism.

授業の概要:

This course covers history, trends and future issues of inbound tourism and aviation policy in Japan.

到達目標:

The aims of the course are to enable students to:
(a) enhance their awareness of the growing importance of the tourism industry to our society, nation and the world;
(b) acquire a comprehensive understanding of the tourism industry, in particular the tourism system, policy and procedures that are valued by the industry;

授業方法:

(a) This course will be taught in English occasionally in Japanese when needed.
(b) This course will be taught through lectures.
(c) Lecture schedule and contents are subject to change depending on students' understanding.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation (introduction to the course content and class format)	Read materials, textbooks and related papers (which will be introduced during the class) and review lecture notes.
2.	Definitions of Tourism (Domestic Tourism, Inbound Tourism and Outbound Tourism), UNWTO, MICE	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.
3.	History of Inbound Tourism in Japan 1	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes. Submit the assignment 1 via Manavi for the preparation for next class.
4.	History of Inbound Tourism in Japan 2	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.
5.	Recent Trends in Tourism in Japan 1("Visit Japan Campaign")	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.
6.	Recent Trends in Tourism in Japan 2 ("Cool japan", Japanese pop culture, Manga, games,	Read and review materials, textbooks and related papers. Submit the assignment 2 via Manavi for the preparation for next class.
7.	Recent Trends in Tourism in Japan 3 ("Cool japan", films, dramas, food, USJ, etc.)	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.
8.	Mid-Term Examination	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.
9.	Case Studies of Inbound Tourism: UAE and Singapore	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes. Submit the assignment 3 via Manavi for the preparation for next class.
10.	Tourism: Transport (Aviation, Automobile, Railways and Cruise)	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.
11.	Tourism: Airport and Airline Management	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.
12.	Tourism: Business Strategy (Full Service Carrier)	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes. Submit the assignment 4 via Manavi for the preparation for next class.
13.	Tourism: Business Strategy (Low Cost Carrier)	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.
14.	Future Directions for Japan's Inbound Tourism	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.
15.	Summery	Read materials, textbooks and related papers and review lecture notes.

受講者へのメッセージやアドバイス:

(a) Students are required to submit the assignment via Manavi to understand what you will learn and prepare for the next class.
(b) Students are encouraged to keep abreast of the latest news on inbound tourism across the countries.

フィードバックの方法:

Feedback can be provided individually or the groups during the class. All individual written responses are returned to students with comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation	20	Class participation includes attendance and minute paper.
Mid-term examination	30	Assessed on comprehension and engagement with course topics.
Final examination	30	Assessed on comprehension and engagement with course topics.
Assignment (4 short reports)	20	Assessed on comprehension and engagement with course topics, and abilities to express this in a logical and analytical report.

教科書:

To be introduced in the class.

参考書:

To be introduced in the class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power and Creative ability.

教員との連絡方法:

Ask in the classroom before and/or during class.

559000

Japanese Film Studies／日本映画研究

A.C.Elliott

授業テーマ:

授業の概要: This course focuses on: 1. Japanese cinema, explored through analysis of selected Japanese films; 2. cinematic form, explored through analysis of film clips from Japan, Hollywood and other cinemas.

到達目標: This course has four main aims:
1. to develop students' understanding of, and ability to discuss, the social, cultural, political and other contexts of Japanese film;
2. to help students become engaged, active, and critical readers of film, able to interpret and discuss cinematic form fluently and confidently;
3. to consider "national cinema" in relation to Japan;
4. to continue developing students' skills of discussion, debate, presentation, critical thinking, academic writing and opinion exchange in English.

授業方法: This course is divided into six pairs of classes. The first class deals with a topic related to form. The second class focuses on analysis of, typically, one Japanese film. Each class begins with an interactive lecture, where students in pairs, small groups, and as a class will be asked to discuss and respond to the material. In the case of the form class, after the lecture, group discussions and analysis of a given film(s) using the lecture material, will take place. Students take notes about the discussion, and these notes will be collected twice during the semester. In the case of the Japanese film class, after the lecture, students write an individual written response. At the end of the semester, the class reviews the question of "Japanese cinema" and students give a presentation, using the analytical skills developed in class, on a formally and thematically interesting Japanese film of their choice. Method of instruction may vary depending on class size, atmosphere and abilities.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	Reading preparation for next class (Sikov, "Chapter 1").
2.	Form 1: Mise-en-scène	Film and worksheet: Tokyo Story.
3.	Film 1: Tokyo Story	Reading preparation for next class (Sikov, "Chapter 2").
4.	Form 2: Camera movement	Film and worksheet: The Mourning Forest.
5.	Film 2: The Mourning Forest	Reading preparation for next class (Sikov, "Chapter 3").
6.	Form 3: Cinematography	Film and worksheet: Woman in the Dunes.
7.	Film 3: Woman in the Dunes	Reading preparation for next class (Sikov, "Chapter 4 & 6").
8.	Form 4: Editing	Film and worksheet: Tampopo.
9.	Film 4: Tampopo	Reading preparation for next class (Sikov, "Chapter 5").
10.	Form 5: Sound	Film and worksheet: Rashomon.
11.	Film 5: Rashomon	Reading preparation for next class (Sikov, "Chapter 10").
12.	Form 6: Genre	Presentation preparation.
13.	Film 7: Genre in Japanese Cinema	Presentation preparation.
14.	Final presentations	
15.	Final presentations	

受講者へのメッセージやアドバイス: Every second week, students are expected to watch actively, while taking notes, a full feature-length film before the next class. This is an essential part of the course. Students are responsible for finding and viewing the film in their own time.

フィードバックの方法: All notes (when collected) and individual written responses are returned to students with a grade and comments in classroom.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20%	
Discussion notes	10%	Assessed via collected notes on focus and depth of engagement with lecture and discussion material.
Written responses	30%	Assessed on engagement with reading and lecture material, quality of analysis, and written style.
Final presentation	40%	Assessed on quality of research and analysis, slides and presentation style.

教科書:

参考書: Ed Sikov, Film Studies: An Introduction, Columbia University Press, 2009

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: Contact me via email (aelliott@dwc.doshisha.ac.jp), on Manabi, or see me before/after class or during my office hour.

559100

Advanced British Studies／イギリス研究

潟山　　健一

授業テーマ:

Britishness of British Music

授業の概要:

This course divides British music into three sections: classical, folk and pop, and tries to find their characteristic features, which could be called Britishness and considers the relationship between the nation and music.

到達目標:

The aim of the course is to gain an aspect to see music in a political context. Students are always expected to consider what the Japanese-ness of Japanese culture, while learning about British music.

授業方法:

A lecture based course. Every two weeks, there will be a quiz to check students' understandings.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	
2.	Classical music (1): Toneless society?	Preparation with reading materials
3.	Classical music (2): Christianity and Music	Review & Preparation with reading materials
4.	Classical music (3): Empire and Music	Review & Preparation with reading materials
5.	Classical music (4): Politics and Music	Review & Preparation with reading materials
6.	Folk music (1): Community and Music	Review & Preparation with reading materials
7.	Folk music (2): Folksong Revival 1	Review & Preparation with reading materials
8.	Folk music (3): Folksong Revival 2	Review & Preparation with reading materials
9.	Folk music (4): Music and Tradition	Review & Preparation with reading materials
10.	Pop music (1): Music and Mass Media	Review & Preparation with reading materials
11.	Pop music (2): R&R and 1950s	Review & Preparation with reading materials
12.	Pop music (3): The Beatles and 1960s	Review & Preparation with reading materials
13.	Pop music (4): Pop, Rock and Politics	Review & Preparation with reading materials
14.	Music and society	Review & Preparation with reading materials
15.	Assessment	

受講者へのメッセージやアドバイス:

Taught in English all through the course.

フィードバックの方法:

Feedback on the quiz will be given in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Final Report	30	Writing test to check the knowledge about Ireland, Oceania, and the Commonwealth of Nations.
Quizzes	60	Writing test to check the knowledge on British music studied in the previous two weeks.
Attendance & Contribution to the class	10	Regular attendance will be required. More than five times of absence automatically means to fail this course.

教科書:

Handouts

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

In the classroom or through email

559200

Advanced North American Studies／北米研究

長谷川　和美

授業テーマ:

Understanding Modern America Through 20th Century Cultural Innovators

授業の概要:

This class is designed to give students an understanding of how the USA developed a rich and compelling popular culture that was attractive enough to spread to many other countries and societies over the past century. Students will learn about the specific role of certain individuals, many of them African Americans and Jewish/Italian immigrants. These individuals were able to use their outsider status and cultural background to remake the culture of urban America in the areas of movies, theater, music, fashion and dance. Students will make groups to discuss the videos and images shown in class and then work on both presentations and reports. Their grades will be based on the research and the critical thinking skills that they demonstrate in their academic essays and mini-group presentations.

到達目標:

The main objective is to sharpen students' media literacy and develop their ability to combine and integrate visual and written sources. A secondary goal is to help them reach a deeper, and more visceral understanding of the impact of American culture on the world in the twentieth century. Finally the course aims to maintain and enhance the listening and writing skills that they developed while overseas.

授業方法:

All classes will feature numerous short video clips featuring the around 25 individuals who helped create American popular culture between 1915-70. These will be followed by group discussions designed to help students write the three reports which will be assigned during the semester.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction & Charlie Chaplin, Buster Keaton, Louise Brooks and Clara Bow (Silent Movie Innovators)	Read handout
2.	Jean Harlow, Norma Shearer, Marlene Dietrich (Fashion and Glamor in the Movies)	Download articles from manabe and choose topic for Report 1
3.	Louis Armstrong, Duke Ellington and Benny Goodman (Jazz as THE American Music)	Work on Report 1 using articles downloaded from manabe
4.	Superman and Batman (Comics as Commentary)	Work on Report 1
5.	Work in class on reports	Complete Report 1
6.	Report 1 due	None
7.	Nicholas Brothers. Gene Kelly, Fred Astaire & Shirley Temple (The Power of Song and Dance)	Download articles from manabe and choose topic for Report 2
8.	Frank Sinatra and Big Crosby (Pop Music and Fandom)	Work on Report 2 using articles downloaded from manabe
9.	Oscar Hammerstein, Leonard Bernstein and Jerome Robbins (The Making of the American Musical)	Work on Report 2
10.	Work in class on reports	Complete Report 2
11.	Report 2 due	None
12.	Walt Disney and Animation Culture	Work on Report 3 using articles downloaded from manabe
13.	Elia Kazan and Stanley Kramer (Movies for Educating America)	Work on Report 3
14.	Carole. King, Phil Spector and Berry Gordy (How immigrants and African Americans Invented Pop Music)	Complete Report 3
15.	Report 3 due	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

This class is for students with a strong interest in visual and material culture and students will be expected to watch and make notes about clips from movies and short documentaries every week.

フィードバックの方法:

The instructor will give written feedback on all reports and work with study/discussion groups.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation	25	Students will complete a weekly Learning and Comment card which will also be used for attendance
Reports	75	There will be three reports of around 600-800 words

教科書:

参考書:

Around 75 short articles in pdf format on the 25 individuals we study in class will be uploaded to the manabe site

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

michael@world.ryukoku.ac.jp

559300

Comparative Religious Studies／比較宗教論

C.Ludvik

授業テーマ:

Themes in Comparative Religion

授業の概要:

This course will explore selected aspects of religion, such as architecture, pilgrimage, festivals and food, in comparative perspective, by juxtaposing Japanese examples with corresponding examples from all over the world. We will examine the effects of globalization on religion and discuss the impact of World Heritage status, of the Internet, and of film/television on religious sites and practices.

到達目標:

The objective of this course is to familiarize students with themes in comparative religion, to develop their analytical abilities and thinking power through comparative study, and enhance their presentation skills.

授業方法:

The language of instruction will be English. The format of the classes will include lectures, some DVD viewing, discussion, and student presentations.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction	
2.	Religious Architecture: Symbolism, Preservation, and Reconstruction	Religious architecture chart homework
3.	Shikoku Henro Pilgrimage	Pilgrimage reading and questions
4.	Camino de Santiago Pilgrimage	Comparative pilgrimage questions
5.	Discussion: Comparing Pilgrimage Cultures	Comparative pilgrimage questions
6.	Presentations: Mt. Kailas, Mt. Putuo, Benares, Jerusalem, Mecca	Student presentation preparation
7.	Seasonal/Agricultural Festivals: Planting, Growing, Harvesting	
8.	Festivals of the Dead: Obon, Halloween, Dia de los Muertos	Halloween reading and questions
9.	Reenactment Festivals	Kumbha Mela questions
10.	Transplanting Festivals and Sacred Sites: Dio de los Milagros Festival in Hamamatsu and Ganges River in New York	
11.	Religion and Food: Offerings and Taboos	Food chart homework
12.	Religion and Food: Fasting and Feasting	Student presentation preparation
13.	Religion and Sports	Student presentation preparation
14.	Religion and Dance/Performing Arts	Student presentation preparation
15.	Conclusion	Study for course review test

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

Comments on assignments returned in class, review test.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
participation and attitude	15%	attendance and participation in class discussion
homework assignments	20%	timely completion of homeworks
two short presentations	40%	research and presentation skills
review test	25%	knowledge and thinking power

教科書:

There will be no textbook. Materials will be distributed in class.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, thinking power, presentation skills

教員との連絡方法:

Ask in the classroom before and/or during the class

559401、02

Introduction to InterculturalCommunication /異文化間コミュニケーション入門

佐伯　　林規江

授業テーマ:

Understand how to communicate with people from diverse cultural backgrounds in order to become a global citizen

授業の概要:

This course is a combination of theory and application of intercultural communication. Intercultural communication is a field of study that looks into how people from different cultural backgrounds communicate, analyzes the significant similarity and difference among the communication patterns, and explores norms and strategies for communication in order to appreciate and effectively communicate with diverse individuals. Students will understand how to communicate with people from diverse cultural backgrounds in a global society, acquiring analytical skills and insights into what social, psychological, cognitive, affective, and linguistic aspects of culture and communication, and develop critical thinking.

到達目標:

At the end of the course, the students will:
(1) have major concepts and theories of intercultural communication
(2) understand how to apply the theories to various intercultural scenes and analyze the situations
(3) explore norms and strategies for communication in order to appreciate and effectively communicate with people from different cultural backgrounds as a global citizen

授業方法:

Each class will be comprised of a lecture, a set of mini-projects and a group-presentation based on the assigned readings, and a discussion. A comprehension quiz based on the previous week's content might be conducted depending on a topic. The class is conducted both in English and Japanese depending on a topic. For example, when we discuss Japanese communication-style in a sociolinguistic/psycholinguistic perspective or comparative analysis, we will actively use Japanese language as a communication tool.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: What is culture? What is intercultural communication?	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
2.	What is culture shock?	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
3.	Dealing with culture shock (1)	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
4.	Dealing with culture shock (2)	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
5.	What is communication style?	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
6.	What is verbal communication? (1)	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
7.	What is verbal communication? (2)	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
8.	What is non-verbal communication? (1)	Review of lecure and workshop notes, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
9.	What is non-verbal communication? (2)	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
10.	What is non-verbal communication? (3)	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
11.	Interpersonal communication and self-disclosure	Review of lecure and workshop notes, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
12.	Sociolinguistic perspectives: case study-English vs. Japanese	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
13.	Intercultural communication skill (1)	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
14.	Intercultural communication skill (2)	Review of lecure notes and mini-project, prepare for quiz (if any), and reading preparation for next class.
15.	Consolidation	Review all the lecture notes and mini-projects

受講者へのメッセージやアドバイス:

Some of the topics and reading assignments above may be subject to minor alternations.

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback for each short quiz and mini-project in class and summative evaluation through a term test.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation and attitude	20	Assessed on active participation by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
Mini-projects	30	Assessed on individual or/and group participation in mini-projects, and hand in a written reflection at the end of each session, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
review quizzes	20	Assessed on comprehension and engagement with course topics, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).
final exam	30	Assessed on comprehension and engagement with course topics, critical thinking and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2) and (3).

教科書:

Handouts

参考書:

References and other materials are to be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:	Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

559500

Global Education／国際教育論

三宅　　えり子

授業テーマ:

Understanding key issues in comparative and international education

授業の概要:

This course will enable you to understand that education system is an important part of social infrastructures and effective education policies can shape the way human resources develop for the advancement of a nation state.

到達目標:

1. To gain knowledge about different perspectives and theories in comparative and international education
2. To be able to interpret and analyze educational issues in both developed and developing countries from different perspectives and theories
3. To understand the global trends shaping education and to critically think about the challenges facing education

授業方法:

Lectures, presentations by students, and discussion will be combined.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation about the course	
2.	Structural-functionalist perspectives in comparative education: Modernization theory, Human capital formation theory	To read and understand handouts
3.	Marxist Perspectives in comparative education: Dependency theory, Liberation theory	To read and understand handouts
4.	Postmordernism and Poststructuralism, Reproduction Theory, Effective Schools	To read and understand handouts
5.	Education around the world – presentation and discussion ①	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations
6.	Education around the world – presentation and discussion ②	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations
7.	Education around the world – presentation and discussion ③	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations
8.	Education around the world – presentation and discussion ④	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations
9.	Education around the world – presentation and discussion ⑤	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations
10.	Education around the world – presentation and discussion ⑥	To be ready to actively study about different education systems/To prepare for presentations
11.	Debate on educational issues	To prepare for the debate
12.	How does educational attainment affect participation in the Labor Market? (from Education at a Glance 2016, OECD)	To read and understand handouts
13.	What are the earnings advantage from Education? (from Education at a Glance 2016, OECD)	To read and understand handouts
14.	How are social outcomes related to education? (from Education at a Glance 2016, OECD)	To read and understand handouts
15.	Conclusions – What have we learned about the key issues in comparative and international education?	

受講者へのメッセージやアドバイス:

I hope this course will help you smoothly transition to your study abroad by understanding different education systems around the world.

フィードバックの方法:

Midterm papers will be graded and returned with comments in class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class participation	40%	Attendance, active participation in class, presentations
Midterm paper	30%	Understanding of education systems, writing skills
Final paper	30%	Analytical skills applied to educational issues, writing skills

教科書:

Handouts will be distributed in class.

参考書:

OECD (2016) Education at a Glance 2016: OECD Indicators. OECD Publishing.

Phillips, D. & Schweisfurth, M. (2011) Comparative and International Education: An Introduction to Theory, Method, and Practice. Continuum.

Stromquist, N. (2013) 'Women's education in the twenty-first century', in Arnove, R., Torres, C. and Franz, S. (eds), Comparative Education, Rowman & Littlefield Publishers, Inc. pp.175-200.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

E-mail（emiyake@dwc.doshisha.ac.jp）

559600

International Relations in East Asia／東アジア国際関係論

P.W.Strefford

授業テーマ:

International Relations in East Asia

授業の概要:

The East Asian region is perhaps the success story of post- World War Two economic development. And, as the economies of East Asia have become increasingly integrated, linkages between these societies have also become both deeper and broader.
However, the region is also facing considerable challenges. Security issues are dominant, examples being the Korean peninsula, and territorial disputes. Environmental/ natural resource issues provide another set of key challenges.

到達目標:

This course will begin by outlining the prominent theories of international relations, which will then become the tools we use to analyze the important issues and challenges facing Japan in East Asia. We will pick up a number of prominent case studies from contemporary East Asia, and investigate from the perspective of Japan's international relations.

授業方法:

This is a lecture course, but students are expected to actively participate in class discussions.
This course will utilize multimedia to facilitate learning, but more importantly, this course uses a student-centered approach to learning. This means that students are responsible for their learning.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	review Introduction read chapter one
2.	Social Science and International Relations	review chapter one read chapter two
3.	The Modern inter-state system	review chapter two read chapter three
4.	history and theory of IR-1	review chapter three, part one read chapter three, part two
5.	history and theory of IR-2	review chapter three, part two read chapter four
6.	Realism	review chapter four read chapter five
7.	Liberalism	review chapter five read chapter six
8.	Marxism	review chapter six read chapter seven
9.	Constructivism	review chapter seven read chapter eight
10.	Feminism	review chapter eight read chapter nine
11.	foreign policy	review chapter nine, part one read chapter nine, part two
12.	state actors	review chapter nine, part two read chapter ten, part one
13.	Non-state actors- 1	review chapter two, part one read chapter ten, part two
14.	Non-state actors- 2	review chapter ten, part two read conclusion
15.	Conclusions	review conclusion

受講者へのメッセージやアドバイス:

This is a challenging course. All students must do a considerable amount of reading before each class. This reading is essential!
Preparation is the key!

フィードバックの方法:

in-class discussion

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
mid-term test	40	essay style
final test	40	essay style
participation	20	in class discussions

教科書:

Noah Y. McCormack and Patrick W. Strefford
International Relations: A Concise Introduction
(Bookway)
ISBN: 978-4-86584-014-8

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:

pstrefford@cc.kyoto-su.ac.jp

559800

Tourism Studies／国際観光論

シュトラウマン　千里

授業テーマ:

Outbound Tourism

授業の概要:

It was only in 1964, the year the Summer Olympic Games were held in Tokyo, that overseas travel was liberalized. Even though each person was allowed to carry only $500, the doors were finally opened for ordinary Japanese to resume trips abroad.
Today, Japan National Tourism Organization (JNTO) reported that the number of Japanese overseas travelers was up 3.5% year on year, reaching 1,807,000 in March 2018, which is the highest in four years. In Asia, Japan is ranked just behind China in terms of the number of outbound travelers.
In this course, we will analyze the characteristics and trends of outbound Japanese tourists and discuss the future of outbound tourism from Japan.

到達目標:

・History of world tourism and tourism development in Japan
・Characteristics and trends of outbound travel: destination, purpose of visit, etc.
・Target group profile: gender, age, travel companions
・Types of travel
・Tourist experience and expectations
・Examples of outbound travel

授業方法:

Each class takes a workshop format, which includes a wide range of interactive exercises and pair/group discussions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction, Self-introductions, Preliminary activities: ・Getting to know the students ・Goal setting	
2.	History of tourism History of Japanese tourism	Reading, discussion, writing a reflection
3.	Types of tourism What is Outbound Tourism	Reading, discussion, writing a reflection
4.	Characteristics of Japanese tourists: ・ Numbers of tourists ・ Age distribution ・ Purpose of travel ・ Expenditure of Japanese tourists ・ Tourists expectations	Reading, discussion, writing a reflection
5.	Trends of Japanese tourism: ・ Seasonality ・ Destinations ・ Trends of Outbound tourists to Asia, Europe & USA	Reading, discussion, writing a reflection
6.	Push & Pull factors of tourism: ・ Maslow's Hierarchy of Needs ・ Push & Pull factors of Japanese Outbound tourists	Reading, discussion, writing a reflection
7.	Itinerary planning: ・Study of various outbound itineraries publishes by travel agencies with their costs	Presentation preparation
8.	Student presentations #1	Presentation preparation
9.	Student presentations #1	Reading, discussion, writing a reflection
10.	Asia as a leading Outbound tourism destination for Japanese tourists: ・ Korea ・ Taiwan	Reading, discussion, writing a reflection
11.	Europe as a popular Outbound tourism destination for Japanese tourists: ・ France ・ Germany	Reading, discussion, writing a reflection
12.	U.S.A.as a popular Outbound tourism destination for Japanese tourists: ・ Mainland U.S.A. ・ Hawaii	Reading, discussion, writing a reflection
13.	Strategies of selected highest tourism earning countries: ・Switzerland ・France ・Italy	Presentation preparation
14.	Final Student presentations	Presentation preparation
15.	Final Student presentations Summary: Future of Japanese Outbound tourism	

受講者へのメッセージやアドバイス:

While we discuss different aspects of travel and tourism together with Outbound tourism, your personal experience and ideas are always useful. Therefore, you are expected to participate actively in class discussions and activities.

フィードバックの方法:

Written and verbal evaluation

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and class participation	20	
Homework	20	
Small group presentation	30	Assessed as a group
Individual presentation	30	Individual assessment

教科書:	No textbooks. Class materials (PPT) for each class. Reading articles
参考書:	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法:	cstraumann6@gmail.com

559900

International Journalism／国際ジャーナリズム論

徳永　悠

授業テーマ:

Media and Immigration

授業の概要:

Today in Japan, we often see news about immigrants or their descendants living in Japan. Numbers have dramatically increased in the past few decades, reaching a record high of 2.56 million in 2017. This course examines the relationship between media and immigration in order to gain a better understanding of the increasingly multiethnic Japanese society from a global perspective. For this purpose, students will learn theoretical, historical, and practical aspects of journalism, particularly newspapers, and also gain experience in interviewing and writing a feature article about immigrants in the Kansai region of Japan (1,500 words in Japanese and at least 2 pictures).

到達目標:

- Understanding the importance and difficulties of internationalization within Japan
- Understanding economic, cultural, and social connections between local Japanese communities and other parts of the world by writing a feature article about immigrants in the Kansai region
- Being able to read news articles critically with media literacy skills

授業方法:

Every class consists of a lecture followed by a discussion related to the lecture and students' own feature article projects. Lectures are taught in English and discussions conducted in Japanese. At the beginning of each class, students submit a one-page paper (A4 size) about two newspaper articles they find interesting and important. The lecturer provides a reading assignment in advance when necessary. Outside of class hours, students need to spend enough time to conduct preliminary research, interview, and write their feature articles.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction	No one-page paper assignment
2.	The Role of Journalism in Society: What is journalism? What are the different types of journalism? Why do we need journalism? Who are journalists?	Conduct preliminary research on immigrants in Kansai
3.	Writing Articles and Ethics: How do journalists write articles? How do they find their stories? What do they care most about? What are the fact-checking and proofreading processes?	Conduct preliminary research on immigrants in Kansai
4.	No Revenue, No Journalism: How do newspaper companies make profits?	Conduct preliminary research on a specific group of immigrants
5.	Newspapers as Texts and Contexts 1: What is your media environment?	Conduct preliminary research on a specific group of immigrants
6.	Newspapers as Texts and Contexts 2: Who owns the media?	Prepare questions based on preliminary research
7.	History of Journalism 1: Print Media, Public Sphere, and Imagined Communities	Research, interview, and write
8.	History of Journalism 2: Beyond the Print Media, Radio and TV	Research, interview, and write
9.	History of journalism 3: The Rise of Online News, Social Media, Democracy, Social Divides, and Fake News	Research, interview, and write
10.	History of Journalism 4: Newspapers in Japan	Submit the first draft
11.	History of Journalism 5: What will change and what won't?	Additional research, interview, and write
12.	Media, Race, and Foreignness	Additional research, interview, and write
13.	Media and Migration	Submit the second draft
14.	Students' Presentations	Prepare for presentation No one-page paper assignment
15.	Media Literacy: How should we read and write in the age of internet?	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

The lecturer will give comments on the first and second drafts of students' feature articles.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Report (Feature article)	35	The feature article needs to tell a story in a detailed, accurate, and meaningful manner.
One-page papers	65	Every week students introduce two newspaper articles they find interesting and important. At the beginning of each class, they submit a one-page paper with thoughts and questions about the two articles.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:

Email: tokunaga@zinbun.kyoto-u.ac.jp
Please allow 24 hours for me to respond to your emails.

560000

Introduction to Linguistics/言語学概論

山内　　信幸

授業テーマ:

Introduction to Linguistics: Core topic for the study of language

授業の概要:

This course serves as an introduction to linguistics and provides a general overview of several issues concerning related areas. Students are expected to develop the following skills through the course: (1) to understand important key terms and concepts of linguistics and (2) to improve an output of oral presentation focusing on the related topics based on their own interest.

到達目標:

Students are expected to (1) understand basic ideas on Linguistics and (2) apply the contents of the class activities based on the group-oriented methods to their own presentation.

授業方法:

The course is divided into two parts: the lecture in English and Japanese) delivered by the instructor and the presentation (in English) given by a student (or students).

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Orientation	Read related topics of the textbook.
2.	Some Properties of Language	Read related topics of the textbook.
3.	Sound (basics: Phonetics)	Read related topics of the textbook.
4.	Sound (basics: Phonology)	Read related topics of the textbook.
5.	Sound (applications)	Read related topics of the textbook.
6.	Word (basics: Morphology)	Read related topics of the textbook.
7.	Word (basics: Word Formation)	Read related topics of the textbook.
8.	Word (applications)	Read related topics of the textbook.
9.	Sentence (basics: definitions of grammar)	Read related topics of the textbook.
10.	Sentence (basics: Generative grammar)	Read related topics of the textbook.
11.	Sentence (applications)	Read related topics of the textbook.
12.	Meaning (basics: Semantics)	Read related topics of the textbook.
13.	Meaning (basics: Pragmatics)	Read related topics of the textbook.
14.	Meaning (applications)	Read related topics of the textbook.
15.	Summary	Read related topics of the textbook.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students are expected to fully prepare for and review the contents of the class activities based on the group-oriented methods.

フィードバックの方法:

Feedback will be given at the beginning of each class to review important points and issues in the last class.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Class paticipation including attendance:	20	Students will be partly graded on attendance and class participation. Students absent from more than one-third of the classes will NOT be allowed to take the final examination.
Oral presentation	30	Students will be partly graded on discussion, oral presentation, quizzes during the class.
Final examination	50	Students will be partly graded on the final exam.

教科書:

石黒昭博・山内信幸他『現代の言語学』金星堂

参考書:

References and other materials are to be announced in class.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

Analytical ability, Thinking power, Presentation skill, Communication skill, Ability of self-realization

教員との連絡方法:

Contact by email: nyamauch@mail.doshisha.ac.jp

560100

English Phonetics/英語音声学

佐伯　　林規江

授業テーマ:

Let's master English sound system theoretically and practically!

授業の概要:

This course provides students with the basic knowledge and ground rules of English sound sytem. Together with the theoretical presentation of speech production mechanism and peimary phonetic terminology, students will get extensive training on English pronunciation and phonetic transcription (namely the International Phonetic Alphabet) throughout the course.

到達目標:

Upon successful completion of this course, students will be able to:
(1) understand and describe basic theoretical concepts in English sound system
(2) acquire expertise in analyzing phonological phenomena to become familiar with English pronunciation
(3) use the phonetic alphabets as a tool to improve pronunciation
(4) and of course, improve English pronunciation

授業方法:

This is a lecture course. However, in order to acquire practical knowledge on the English sound mechanism and skills to listen accurately and speak fluently, plenty of try-outs time for pronuncing English sounds will be provided in each session. The classes will be conducted in both English and Japanese, depending on a topic. Students are strongly advised to use English to check and reform their own English pronunciation; as well as to use Japanese (or their first language) to cognitively check and reform their understanding of expertise and sound mechanisms. Active participation will be crucial.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction of the course: What is the study of phonetics? What is articulatory phonetics?	Read the syllabus. Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.2-7, handouts)
2.	Airstream mechanisms: What is abdominal breathing? What are the vocal organs?	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.8-12, 181-183, handouts)
3.	English dialects and world Englishes	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.17,18-20, 163-170, handouts)
4.	Phonetic transcriptions	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.17, 18-20, 181-183, handouts)
5.	Transcription and articulation of vowel sounds	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.12, 25-54)
6.	Places and manners of articulation of consonants	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.12, 55-85)
7.	Phones and allophones, complementary distribution	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.12, 20-21, 55-85, handouts)
8.	Midterm test	Review of the lecture notes from weeks 1-7
9.	Stress and rhythm (1)	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.88-103, handouts)
10.	Stress and rhythm (2)	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.94-103, handouts)
11.	Sound reduction	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.104-112, handouts)
12.	Coarticulation and linking	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.113-120, handouts)
13.	Stress, rhythm, and intonation	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.121-133, handouts)
14.	Stress, rhythm, and intonation	Review of lecture notes for quiz and reading preparation for next class (textbook, pp.121-133, handouts)
15.	Conclusion	Review of the lecture notes from weeks 9-14.

受講者へのメッセージやアドバイス:

英語の音について理論的に学び、かつ実践的な発音指導、発音矯正ワークショップも伴う授業である。積極的な参加姿勢を期待する。

フィードバックの方法:

Students receive formative feedback for each short quiz and in-class activity and summative evaluation through miterm and final.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance, quizzes and participation	40	Assessed on active participation by making relevant and extended contributions to discussions, allowing for and responding to the instructor's and others' input, in order to achieve the course objectives (1), (2), (3) and (4). Absence from more than one-third of the classes will automatically lead to fail this course.
Midterm	30	Assessed on comprehension and engagement with course topics, critical thinking and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2), (3) and (4).
Final	30	Assessed on comprehension and engagement with course topics, critical thinking and analytical skills, in order to achieve the course objectives (1), (2), (3) and (4).

教科書:

佐藤　寧・佐藤　努『現代の英語音声学』(金星堂)
K. Yoshida ed., English Sounds & Penmanship, Bun-eido
Handouts

参考書:

Peter Ladefoged& Keith Johnson, A Course in Phonetics (7th edition), 2014, Wadsworth Pub Co.
To be announced in class

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

Contact me by email, or see me before or after class or during my office hour.

560200

Sociolinguistics/社会言語学

M.E.Jamentz

授業テーマ:

An exploration of the interrelationship between languages and societies focusing especially on English-speaking societies and cultures.

授業の概要:

This course examines the complex relationship between culture and language. After completing an overview of the major issues in the field of sociolinguistics, the class will focus on the interplay of culture and language in the formation of social identities and modes of communication. Topics will include how language shapes perceptions, the effects of geography and class on language, the role of gender differences on language usage, and language standardization.

到達目標:

The course objectives for this course are to encourage students to reflect carefully on the issues presented in the readings. The course also aims to improve English-language ability. Weekly reading passages and related homework assignments, brief lectures, and student-led discussions are designed to improve each of the four basic language skills.

授業方法:

The instructor will lecture briefly each week to introduce the next week's topic and help the students to become familiar with major concepts addressed each week. The majority of each session will be devoted to student-centered discussion.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction: Defining the issues in sociolinguists	Ronald Wardhaugh. "Language and Culture" from An Introduction to Sociolinguists, p. 215-36
2.	Linguistic relativity: How far the Whorfian Hypothesis?	"But Is It Language?" from Scope p. 50-54 and the video "Can Apes Really Talk?" from Slate Magazine
3.	The nature of language: Can apes really talk?	"Language as a Weapon" and "A Global Role for the Japanese Language" from Suzuki Takao's Reflections on Japanese Language and Culture, p. 119-134
4.	Language, the state and culture: What is to become of the Japanese language?	Tsuda Yukio. "Critical Studies of the Dominance of English and the Implications for International Communications" from "The Japanese and the English Language: An Interdisciplinary Study of Anglicized (Americanized) Japan" in Japan Review No. 10 (1998), p. 219-36 and "Stop Being 'Happy Slaves' of English Hegemony" from Asahi Evening News
5.	The Politics of English: Dominated languages and cultures	Johnny Cash. "A Boy Named Sue": YouTube Video
6.	Naming Practices and dialects: "A Boy Named Sue"	Review of the readings and topics from first weeks of the course
7.	Mid-term review of topics and quiz	Anna Wierzbicka. "Are Emotions Universal or Culture-Specific?" and "Describing the Indescribable" in Semantics, Culture and Cognition: Universal Concepts in Culture-Specific Configurations Oxford University Press
8.	Language and emotion: Do Americans know setsunasa?	"Language and Gender," from Ronald Wardhaugh's An Introduction to Sociolinguistics, p. 309-24
9.	Language and gender differences:	"The Sex Difference Evangelists: The Next Best-seller" by Amanda Schaffer in Slate and Slate V Videocast: "Sex Difference: The Science"
10.	Language and gender (continued): Sex Difference Evangelists	"Language and Disadvantage" in Ronald Wardhaugh. An Introduction to Sociolinguistics, pp. 325-31, 'Why Can't the English Learn to Speak?' From My Fair Lady: YouTube & text
11.	Language and disadvantage: Questions of class and race	Stanley M. Novak. "American Shibboleth: Ebonics" and/or Ronald Alan Perry. "African American English"
12.	Black English: The Ebonics plague?	"The N-word and Richard Pryor," "Should [the] Worst Racial Slur be in the Dictionary?" and "The N-word" from the On The Media website, and "The Word Nigger: Richard Pryor & George Carlin" on YouTube
13.	Taboo Tongues: The N word in America.	"Australian English" from Anna Wierzbicka, Semantics, Culture and Cognition: Universal Concepts in Configurations, p. 373-394
14.	How many Englishes?: The Australian case.	Review of major concepts and readings from the second half of the course
15.	Conclusion: Final review quiz	

受講者へのメッセージやアドバイス:

The readings for this class are very challenging, but the content should prove rewarding to all who struggle with it.

フィードバックの方法:

Homework assignments and quizzes will be returned to students with written comments.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Participation and attitude	30%	Degree and quality of participation in classroom activities such as discussions
Homework	30%	Quality and completeness of responses to homework assignments
Quizzes	40%	Quality of responses to midterm and final review quizzes

教科書:

Students are not required to purchase a textbook. Students will be supplied readings on a weekly basis.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	Please contact the instructor prior to or after class to arrange a meeting.

560300

Language Teaching Methodology/言語教育方法論

P.Neff

授業テーマ:

Language Teaching Methodology

授業の概要:

This is an introductory course covering basic principles and approaches of modern English language education.

到達目標:

The aims of this course are to introduce common approaches used in modern language education. By the end of the course, students will have been exposed to important educational themes such as: the history and development of language pedagogy, the current movement towards communicative instruction, and lesson planning.

授業方法:

Most lessons will consist of three components: an introductory lecture to the lesson's theme, group discussion of questions relating to that theme and assigned readings, and a practicum-type activity in which the theory being studied is then implemented in a concrete fashion by the students. Students will also need to keep a reaction journal in which they respond to readings related to pedagogical principles under study.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course introduction	Reading and/or journal assignment
2.	A history of language pedagogy	Reading and/or journal assignment
3.	Current language pedagogy: Japanese and Western approaches	Reading and/or journal assignment
4.	Traditional methods: Grammar Translation and the Direct Method	Reading and/or journal assignment
5.	Traditional methods: Audio-lingual and the Communicative Approach	Reading and/or journal assignment
6.	Designer methods: Suggestopedia and Community Language Learning	Preparation for mid-term project
7.	Designer methods: The Silent Way and TPR	Preparation for mid-term project
8.	Mid-term group project presentations	Reading and/or journal assignment
9.	Mid-term group project presentations	Reading and/or journal assignment
10.	Communicative methods and current pedagogy: PPP and Task-based Learning	Reading and/or journal assignment
11.	Communicative methods: Task-based Learning	Reading and/or journal assignment
12.	Communicative methods: Content-based Instruction and CLIL	Reading and/or journal assignment
13.	Preparation for final project	Preparation for final project
14.	Final project	Preparation for final project
15.	Final project	

受講者へのメッセージやアドバイス:

This course will be taught entirely in English. Students are expected to participate in English to the best of their ability.

フィードバックの方法:

Feedback will be provided through individual comments on written work (journals) and scores and comments on groupwork (mid-term project) and individual projects (final assignment).

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance	20	No more than 3 absences allowed
Journal assignments	40	Response (both in writing and class discussion) to weekly articles related to education
Mid-term project	20	A group assignment related to educational approaches
Final project	20	

教科書:

Class materials will be prepared and distributed by the instructor.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:

pneff@mail.doshisha.ac.jp

560400

Bilingualism/バイリンガリズム論

飯田　　毅

授業テーマ:

To deepen understanding of bilingualism.

授業の概要:

This seminar course deals with topics of bilingualism and bilingual education. In particular, it focuses on bilingual people in Japan, theories of bilingualism, and cognitive aspects of bilingualism. Since students have learned English not only in Japan but also English-speaking countries before choosing this course, their experiences of learning help them understand bilingualism, bilingual education, and second language education. A second purpose of this course is to develop both English and Japanese academic skills. They must read English and Japanese materials before class, present their task in English or Japanese, and discuss in English or Japanese. Students are required to read a ten-page English and Japanese paper and chapter of a book.

到達目標:

(1) To be able to have a presentation about bilingualism; (2) To have basic knowledge about bilingualism; (3) To read a paper on bilingualism correctly and critically; (4) To have discussions about topics of each class in Japanese and English; (5) To write a report on bilingualism.

授業方法:

In this course every class has its own themes written below. Students are required to read a paper on bilingualism or second language acquisition before class. Both Japanese and English papers are used in this course. When Japanese papers are used in class, students are required to do assignments and discuss in English. On the other hand, students use Japanese when they are given English materials. Thus, both English and Japanese are used in class. Class is conducted bilingually. The class is conducted the following order: students' presentation of a topic of class, questions and answers about the presentation, and discussions about topics given before. All students must have a presentation once in the course.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Introduction of the course: Objectives of this course; Assignments; Group making; Assessment.	To read a syllabus and understand the content of the course.
2.	What is bilingual? How do you measure bilingual abilities?	To read a paper on the definition of bilingual and classify bilingual people and prepare for discussion in English.
3.	Is it possible for Japanese people to become bilingual?	To read a mini paper in Japanese and prepare for discussion in English.
4.	Is it possible for minority people in Japan to become bilingual?	To read a mini paper in Japanese and prepare for discussion in English.
5.	Misunderstanding about bilingual people and bilingualism.	To read a mini paper in Japanese and prepare for discussion in English.
6.	Is it possible for Korean people in Japan to become bilingual?	To read a mini paper in Japanese and prepare for discussion in English.
7.	Theories of bilingualism 1 (バイリンガルに関する理論): the Balanced Theory(均衡仮説)	To read a part of a book on Balanced Theory and prepare for discussion in Japanese.
8.	Theories of bilingualism 2 (バイリンガルに関する理論): Common Underlying Proficiency Model(共有基底言語能力モデル)	To read a part of a book on the Common Underlying Proficiency Model and prepare for discussion in Japanese.
9.	Theories of bilingualism 3 (バイリンガルに関する理論): ThresholdsTheory(しきい理論)	To read a part of a book on the Thresholds Theory and prepare for discussion in Japanese.
10.	The Role of Code Switching and Code Mixing (言語切り替え): Why do people switch languages when they are speaking?	To read a part of a book on the role of code switching and code mixing and prepare for discussion in Japanese.
11.	Discussion in Japanese: Do you think bilinguals are superior to monolinguals in terms of intelligence?	To read a part of a book on the relationship between monolinguals and intelligence in Japanese.
12.	Discussion in English:Are bilinguals superior to monolinguals in terms of metalinguistic awareness (メタ言語意識)?	To read a part of a book on the role of metalinguistic awareness and prepare for discussion in Japanese.
13.	Discussion in English: Are bilinguals superior to monolinguals in terms of communication sensitivity?	To read a part of a book on communication sensitivity between monolinguals and bilinguals and prepare for discussion in Japanese.
14.	Mini-project 1: To create a research question and summarize literature review on it.	To create a research question and summarize literature review on it.
15.	Mini-project 2: To review a research question and examine literature review on it.	To review a research question and literature review on it.

受講者へのメッセージやアドバイス:

Students need to prepare for class for about an hour for every class. Without sufficient preparation, they cannot join discussions in class.

フィードバックの方法:

In every class, students are required to submit assignment worksheets prepared before class. The worksheets are given back to them next week with some comments by an instructor. A final report is assessed and comments are given through Manabi.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Oral presentation	20	Based on the course objective (1), students' oral presentation skills are evaluated from the viewpoint of content and English.
Assignment and mini project	20	Based on the course objective (2), students' home worksheets are evaluated to what extent they prepare for class.
Participation & Discussion in class	20	Based on the course objectives (3) & (4), students' participation and discussion skill are evaluated to what extent they get involved in them.
Report	40	Based on the course objective (5), students' reports are evaluated from the viewpoints of content, originality, and English.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	E-mail、マナビー

560500

Global Career Design Ⅰ /グローバルキャリアデザインⅠ

奥谷　　修司

授業テーマ:　国際教養留学を活かすキャリアデザイン

授業の概要:　2年次8月からの国際教養留学出発前の春学期に、将来を見据えた留学中・留学後のキャリアデザインを考えるための授業。授業終了時には自分のキャリアマップを各人が描けるようにするための基本知識を学び、キャリアデザインを構築するための基礎能力を育成する。

到達目標:
■留学前から将来を見据えた「キャリアデザイン」について考える。留学先で自分のやるべき事を明確にし、留学中は自ら決めたチャレンジを行い、帰国後は具体的に考えたキャリア実現に向けて進めるための基本を構築する。
■全員参加型のワークショップ・プレゼンテーションを通してキャリア形成に必要な知識とコミュニケーションスキルの獲得を目指す。
■グループ討議・ワークショップ・プレゼンテーションを経験することで、受講生個々の分析力・思考力・コミュニケーション力・自己表現力を向上させるとともに上記作業を通してチームワーク力・関係構築力・組織対応力を育成する。
■受講生が当講義を通して業界研究・企業研究・職種研究を行うための基本技能習得を目指す。

授業方法:　講義、ワークショップ演習、文章力アップ実習、面接力アップ実習、プレゼンテーション作業演習・発表演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	【国際教養学科における就活の現状について】…オリエンテーション、学科の就職状況と就職先、ライフプランと働き方・職種との関係、多様な働き方と職種、就職活動スケジュールとプロセス、企業は英語力をどう見ているか、留学内容の変化、インターンシップについて、今からやるべき事	自分のキャリア形成において、現状不安な事、気になる点、問題点を具体的にピックアップしておく。
2.	【留学での一年間をどう過ごすべきか①】…当学科特有の留学を今後のキャリア形成にどう活かすべきか。4回生の留学準備～帰国後の体験談を聞いてからグループワーク実施。	自分なりの留学生活目標を明確にしておき授業に臨む。
3.	【留学での一年間をどう過ごすべきか②】…グループ別発表、留学前、留学中、帰国後やるべき事説明。	討議内容をグループ別にまとめ発表の準備をしておく。
4.	【業界研究・企業研究・職種研究について①】…職種や仕事の種類、職種ごとのメリット・デメリット、業界とその分類例、業界や職種選択の視点、情報収集の方法。	今の自分がどんな業界・企業・仕事に興味あるか考えておく。また自分のライフプランイメージを形成しておく。
5.	【業界研究・企業研究・職種研究について②】…国際教養学科で人気の高い業界ごとのビジネス構造、現状、展望、課題概論。	先回の授業を深め、関心のある企業のどんな職種、どんな仕事に興味を持っているのかを考える。
6.	【企業人講座①】…入社8年～10年のOGを講師に招いての講座。企業概論、なぜ今の会社を選んだか、現在の仕事、求められる人材像、後輩にこれだけは伝えたい事。	積極的な学びの場とするために事前に質問を準備して授業に臨む。
7.	【企業人講座②】…業種を変えて実施。内容は企業人講座①に準ず。	企業人講座①に準ず。
8.	【エントリーシート(ES)を書いてみる】…ESでみられている内容、3題話(自己PR・ガクチカ・志望動機)の基本構造と関連性、自己分析・企業研究の進め方、自分の強味とやりたい仕事のマッチングをロジカルに表現する方法。	自分の強味、学生時代頑張ったこと、興味ある企業への志望動機ややりたい仕事を考えてくる。
9.	【コミュニケーション力の高め方①文章力】…就活で大事な文章力のポイント、ESを書く際のポイント、ESの具体的添削例に学ぶ、実際にESを書いてみる。	説明を聞いてすぐ3題話記述に取り掛かれるように事前準備をしておく。
10.	【コミュニケーション力の高め方②面接力】…就活で一番重要視される面接のポイント、面接での予期せぬ質問について、個人面接・集団面接・グループディスカッション(GD)のポイント、先週書いたESの修正。	自分の書いたESが第9回で学んだポイントや添削例を照らし合わせてどうなっていたかチェックをしておく。
11.	面接練習をやってみる…9回に書き、10回で修正したESをもとに面接演習、一人5分程度、約10人実施。他の学生は面接官となり面接シートに評価を記載。面接演習後、他の学生から良かった点・改善点を伺った後にポイントを指導。	10回での内容を振り返っておく。自分なりの想定設問を用意して対策を練っておく。
12.	【企業研究グループワーク演習①】…1G　5～6名に別れ、希望企業を決めグループワーク。幾つかの視点ガイドラインをオリエン、その後作業を行う。	自分の関心のある企業を選定しておく。自分なりに資料を準備しておく。
13.	【企業研究グループワーク演習②】…作業＆まとめに入る	演習①での課題を各人が用意・準備して②に臨む。
14.	【企業研究プレゼンテーション演習①】…各G約12分でプレゼン実施。終了後質疑応答。前半4～5G実施。終了後講評。	前半プレゼンチームはチームごとでリハーサルをしておく。後半チームは前半を見て学びにしておく。
15.	【企業研究プレゼンテーション演習②】…後半4～5G実施。終了後講評。相互投票により最優秀グループを選出。全15回終了後レポート「私のキャリアマップ」提出。	後半プレゼンチームはチームごとでリハーサルをしておく。各チームの参考になった点、改善した方がよい点をしっかり記載しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
■今や留学は決して特別なものではなく、ただ行くだけでは社会で通用しなくなっています。
■また、留学で身につけるのは語学力だけではなく、何を身につけたかが求められます。
■2年次の留学前から、何を留学先で学び、学びを社会でどう活かすか考えることが必要です。
■スケジュールの前倒しやインターンシップのプレ採用化で、3年次の帰国と同時に皆さんは就職活動や進路の形成に直面します。
■この授業では留学をキャリアで活かすために必要な考え方や帰国後すぐに必要となる基礎項目を徹底して指導します。
■留学で培った力をすぐに発揮するためにも、一人でも多くの方の受講をお勧めします。

フィードバックの方法:
■提出レポートは返却しません。
■ワークショップに関しては、研究方法や進め方について必要なアドバイスと指導を行います。
■チームプレゼンテーションに関しては、チームごとにその内容や発表方法について、受講生全員の参考となるよう、発表後コメントを戻し講評を致します。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	授業課題対応	70	個々の授業での発言内容レベルの高低、グループワーク、チームプレゼンテーションへの参加意欲、自分の役割発揮、プレゼンテーション能力、コミュニケーション会話能力について内容レベルを評価する。公欠以外の欠席回数は減点対象とする。
	レポート	30	2回提出を要するレポートにおいて、文章力、課題分析力、思考力、論理展開力など社会人として必要なコミュニケーション文章能力を評価する。

教科書: オリジナル講義ノートを用意します。特別な教科書の購入は必要ありません。

参考書: 授業ごと、必要な文献がある場合順次紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: 質問は、授業前後に遠慮なく行ってください。時間を要する質問については別途時間を設け個別面談も可能です。

560700

Global Leadership/グローバルリーダーシップ論

シュトラウマン　千里

授業テーマ:

Developing a global mindset

授業の概要:

The primary purpose of this course is to provide students with a multifaceted view of what it takes to become a global leader. We will discuss the roles of global leaders, the competencies they need to develop, and the challenges they face. This course also explores organizational leadership from individual, interpersonal, gender, and cross-cultural points of view. Ultimately, students will develop a personal awareness and understanding of leadership, and learn how to apply the ideas personally and professionally.

到達目標:

・To gain a sound conceptual and theoretical understanding of effective leadership for today's world.
・To define global leadership knowledge, skills, practices, and values
・To discuss aspects of emotional intelligence required for effective leadership
・To examine key issues women face at work and strategies to overcome
・To develop intercultural competence that is necessary to work in a multicultural team
・To enhance self-knowledge relating to personal leadership style, communication, identity, and develop the competencies required for global workplace

授業方法:

Each class takes a workshop format, which includes a wide range of interactive exercises and pair/group discussions.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Course Introduction, Self-introductions, Preliminary activities	Reading, discussion, writing a reflection
2.	Globalization, "Global jinzai": Global, local or regional leadership? How does this issue relate to you?	Reading, discussion, writing a reflection
3.	Cultural agility, Cultural intelligence: Defining leadership; Developing knowledge of self and others	Reading, discussion, writing a reflection
4.	Leadership traits and competencies: Leadership challenges, Traditional and contemporary leadership, Leadership-Japanese perspective	Reading, discussion, writing a reflection
5.	Mindset, motivation and leadership: Mindset – Fixed vs. Growth; Motivation – Intrinsic vs. Extrinsic	Preparation for presentation
6.	World's most influential people New corporate leaders in Japan – Student research presentations: e.g. Carlos Ghosn (Nissan), Hiroshi Mikitani (Rakuten), Tadashi Nanai (UNIQLO), Masayoshi Son (SoftBank), etc.	Preparation for presentation
7.	Female leaders in Japan; Work/Life/Family balance issues; Student's research presentations – e.g. 新島八重 (DWCLA), 南場智子 (DeNA), 大塚久美子 (大塚家具), 小池百合子 (東京都知事,「希望の党」代表), etc.	Reading, discussion, writing a reflection
8.	Culture and Communication in the Global Workforce (Part 1): Cultural dimentions: Individual vs. Group, Equality vs. Status, Task vs. Relationship	Reading, discussion, writing a reflection
9.	Culture and Communication in the Global Workforce (Part 2): Cultural dimentions: High vs. Low Context, Risk vs. Certainty	Reading, discussion, writing a reflection
10.	Diversity and Inclusion: Diversity awareness, How diversity and inclusion issues impact us in the workplace	Reading, discussion, writing a reflection
11.	Emotional intelligence – Soft skills in the workplace (Part 1): Affirmative Introspection, Self-Governance	Reading, discussion, writing a reflection
12.	Emotional intelligence – Soft skills in the workplace (Part 2): Intercultural Literacy, Social Architecting	Reading, discussion, writing a reflection
13.	Working in multicultural and virtual teams – Paradigms, rational, and key elements	Preparation for presentation
14.	Student presentations	Reading, discussion, writing a reflection
15.	Summary: Looking to the future – Global career	None

受講者へのメッセージやアドバイス:

Finishing college is the juncture where real life starts. You are passionate, hardworking and ambitious future talent. As commonly known, women face unique challenges in the workplace but they also add unique value and perspective. Thus, this course is for you, who will play an active part in the future.

フィードバックの方法:

Written and verbal evaluation

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
Attendance and Class participation	30	
Homework	30	
Presentations	40	2 individual presentations – each presentation is counted as 20%

教科書:

No textbook. There are handouts and online PDFs.

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

cstraumann6@gmail.com

560800

学芸学部ジョイントプログラム

椎名　　亮輔

授業テーマ:　英語由来の日本の歌をプレゼンテーションする

授業の概要:　もともと英語の歌が日本に輸入されて、日本語の歌詞をつけられて歌われる、さらにはそれが流行するということがあります。そのような曲をひとつ選んで、その内容や日本に輸入された来歴、あるいは日本での変化などを調べて、それをひとつの「演し物」としてプレゼンテーションします。そこには、英語の要素、研究の要素、表現の要素、創作の要素が大切なものとして、はたらきます。各学科の特性を十分に生かしながら、たくさん工夫をしなければなりません。最後には、その発表をヴィデオに撮影することもしたいと思います。あるいはその発表自体をひとつのPVのようにしてまとめるということも可能でしょう。

到達目標:　知識・理解:専門分野以外の幅広い知識・教養をもつ。
関心・意欲・態度:自分の個性を生かしながら、さまざまな人と協力して、ひとつのよいものを作り上げる。
表現・技能・能力:専門以外の幅広い調査能力、グループで協力する能力、説得力のあるプレゼンを作り上げる構成能力、プレゼンを効果的に成功させる表現能力。

授業方法:　講義とグループ・ワーク。一つのグループには各学科の人が同じくらいの人数いるのが理想です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスと導入	とくになし
2.	英語由来の日本の歌について	英語由来の日本の歌について予習
3.	グループによる調査・発表と討論1	グループによる調査とその結果の発表を準備する
4.	グループによる調査・発表と討論2	グループによる調査とその結果の発表を準備する
5.	グループによる調査・発表と討論3	グループによる調査とその結果の発表を準備する
6.	プレゼン構成案・発表と討論1	グループによるプレゼンの構成案を練り上げ、その発表を準備する
7.	プレゼン構成案・発表と討論2	グループによるプレゼンの構成案を練り上げ、その発表を準備する
8.	プレゼン構成案・発表と討論3	グループによるプレゼンの構成案を練り上げ、その発表を準備する
9.	リハーサルと討論1	グループによるリハーサルの準備
10.	リハーサルと討論2	グループによるリハーサルの準備
11.	リハーサルと討論3	グループによるリハーサルの準備
12.	リハーサルと討論4	グループによるリハーサルの準備
13.	最終発表1	最終的な本番にむけての準備
14.	最終発表2	最終的な本番にむけての準備
15.	最終発表3	最終的な本番にむけての準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中の発表や討論についてのコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	40	授業に積極的に参加しているかどうかを評価する
各課題に関する発表	30	各課題に関する発表の良否にしたがって評価する
最終発表	30	最終的なプレゼンの発表の良否にしたがって評価する

教科書:　なし

参考書:　なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、メールrshiina@dwc.doshisha.ac.jp

560900

Overseas Study Preparation Ⅰ／留学事前指導Ⅰ

佐伯　　林規江

授業テーマ:　国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。

授業の概要:　国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。また、留学に必要な英語能力を証明するためのテストであるTOEFLについて理解し、国際教養留学先となる国と協定留学大学について知る。

到達目標:
(1) 国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。
(2) TOEFLを知り、留学先を知る。

授業方法:　各回、スライドと配布資料を用いての講義および討論を行う。TOEFL受験に関しては、アカウント作成等の事前準部をワークショップ形式で指導し、実際のTOEFL受験に際しての各種手続きを各自が責任を持って遂行できるように備える。講義の欠席者や大幅な遅刻のあった学生には同講義の録画DVD視聴とそれに関するレポートを課し、「学期内の挽回」を図らせる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
2.	海外留学準備セミナー(オリエンテーション)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
3.	海外留学準備セミナー(TOEFL iBT概要について)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
4.	TOEFL iBT アカウント作成説明会	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
5.	TOEFL Complete Practice Test	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
6.	国別留学先説明会(オセアニア)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
7.	TOEFL iBT (1) 受験	テストの準備をする。
8.	国別留学先説明会(アメリカ)(1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
9.	国別留学先説明会(アメリカ)(2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
10.	国別留学先説明会(イギリス)(1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
11.	国別留学先説明会(イギリス)(2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
12.	TOEFL ITP 受験(団体受験)	テストの準備をする。
13.	国別留学先説明会(カナダ)(1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
14.	国別留学先説明会(カナダ)(2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
15.	総括	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
上記の授業内容に加えて、「留学先担当者による説明会」が複数回催されるが、その出席は任意とする。
国際教養留学の希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め、比較検討することを通して理解を深める。また、TOEFL受験を始め、留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、受講者各自が義務を遂行することへの意識や責任感を日頃から高めておくことが重要である。

フィードバックの方法:　国別留学先説明会の回に提出する課題は、提出状況と内容をチェックして担当者から次の授業内で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	100	(1)積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2)の理解度により評価する。 (2)出欠確認を厳格に行い、原則、出席および課題提出がすべて行われれば100点とする。 (3)欠席1回につき13点を、遅刻1回につき7点を減じ、合計が60点を下回った場合は、単位を与えない。 (4)体調不良等でやむを得ず欠席もしくは遅刻した場合でも、録画DVD視聴およびレポート提出が指示され、開講学期内にこれが行われた場合は出席扱いとし、減点も行わない。 (5)私語や居眠りなど、受講態度に著しい問題のあるときは、欠席もしくは遅刻と同等の評価を行う。 (6)初回「イントロダクション」および最終回「総括」を欠席もしくは遅刻し、学期内の挽回を行わなかった場合は、単位を与えない。

教科書:　Handouts

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

561000

Overseas Study Preparation Ⅱ／留学事前指導Ⅱ

佐伯　　林規江

授業テーマ:　国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。

授業の概要:　国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。また、留学に必須となる英語能力を証明するためのテストであるTOEFLの得点向上を目指し、国際教養留学先の選定を行う。

到達目標:
(1) 国際教養留学に必要な知識とスキルを身につける。
(2) TOEFLの得点向上を目指す。
(3) 国際教養留学先の選定を行う。

授業方法:　講義およびグループ討論を行う。TOEFL受験は、各種手続きを各自が責任を持って遂行する。講義の欠席者や大幅な遅刻のあった学生には同講義の録画DVD視聴とそれに関するレポートを課し、「学期内の挽回」を図らせる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
2.	留学先情報の読み方 (1)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
3.	留学先情報の読み方 (2)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
4.	国際教養留学報告会 (1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
5.	国際教養留学報告会 (2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
6.	英語による個人情報の記載方法	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
7.	留学先選択に関する個別指導面談	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
8.	３年次生・４年次生による留学先大学別説明会 (1)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
9.	３年次生・４年次生による留学先大学別説明会 (2)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
10.	国際教養留学説明会 (1)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
11.	TOEFL iBT (2) 受験（各自申し込み）	テストの準備をする。
12.	３年次生・４年次生による留学先大学別説明会 (3)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
13.	３年次生・４年次生による留学先大学別説明会 (4)	希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め比較検討できるよう準備する。
14.	国際教養留学説明会 (2)	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。
15.	総括	留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、留学準備の意識と責任感を高めておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
上記の授業内容に加えて、「留学先担当者による説明会」が複数回催されるが、その出席は任意とする。
国際教養留学の希望留学先を主体的に考えられるよう、英語圏の大学に関する情報を集め、比較検討することを通して理解を深める。また、TOEFL受験を始め、留学に関する各種手続きを適正に行うことができるよう、義務を遂行することへの意識や責任感を日頃から高めておくことが重要である。

フィードバックの方法:　留学先大学別説明会の回に提出する課題は、提出状況と内容をチェックして担当者から後の授業内で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	100	(1) 積極的に授業に参加し、到達目標(1),(2)の理解度により評価する。 (2) 出欠確認を厳格に行い、原則、出席および課題提出がすべて行われれば100点とする。 (3) 欠席1回につき13点を、遅刻1回につき7点を減じ、合計が60点を下回った場合は、単位を与えない。 (4) 体調不良等でやむを得ず欠席もしくは遅刻した場合でも、録画DVD視聴およびレポート提出が指示され、開講学期内にこれが行われた場合は出席扱いとし、減点も行わない。 (5) 私語や居眠りなど、受講態度に著しい問題のあるときは、欠席もしくは遅刻と同等の評価を行う。 (6) 初回「イントロダクション」および最終回「総括」を欠席もしくは遅刻し、学期内の挽回を行わなかった場合は、単位を与えない。

教科書:　配布資料

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、授業の前後に教室内で応対、Eメール

590200

メディア文化特殊演習B

三根　　浩

授業テーマ:　マルチメディアの心理学的側面の研究

授業の概要:　印刷や放送という媒体は、19世紀から20世紀にかけての近代文化に大きな影響を与えてきました。これらの媒体は、情報を大量に複製できる特性から、大衆メディア(新聞、ラジオ、テレビなどのマスメディア)を発展させました。近年のパーソナルなコンピュータ環境と高速大容量のインターネットの普及は、新しいメディアを通して、wwwやSNSによる新しい文化の表現形やスマフォ文化と呼ばれる現象を産み出しつつあります。

到達目標:　この演習では、私たちが新しいメディア社会からどのような影響を受けてきているのかについて心理学的側面から考察していきたい。

授業方法:　演習、プレゼンテーションを組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育メディアとしてのマルチメディア	マルチメディアと教育　加藤 潤
2.	教育と情報	
3.	マルチメディア表現	第三版 入門マルチメディア　西原清一
4.	マルチメディアとプレゼンテーション1	アウトライナー実践入門 ～「書く・考える・生活する」創造的アウトライン・プロセッシングの技術～
5.	マルチメディアとプレゼンテーション2	同上
6.	視覚情報メディア	視覚心理入門—基礎から応用視覚まで 単行本　映像情報メディア学会
7.	色覚とマルチメディア	マンガでわかる色のおもしろ心理学　サイエンス・アイ新書
8.	錯視とマルチメディア	別冊日経サイエンス(#198)「脳が生み出すイリュージョン」
9.	聴覚とマルチメディア	言葉をおぼえるしくみ: 母語から外国語まで (ちくま学芸文庫)
10.	MIDI	
11.	ディジタル音源とmp3	
12.	動画の種類と処理	大人の科学 Vol.15「紙フィルム映写機」
13.	インターネットにおけるマルチメディア表現	
14.	wwwとイメージ表象	
15.	インタラクティブなメディア	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室で個々に解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習への積極的参加度	30	
プレゼンテーション	30	15回の演習で取り上げるテーマや文献についてセメスターの間に各自の興味があるものを分担する。
レポート	40	

教科書:

参考書:　マルチメディアと教育　加藤 潤
第三版 入門マルチメディア　西原清一

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　e-mail

590300

メディア文化特殊演習C

中村　　信博

授業テーマ:　聖書とキリスト教の表象性とその解釈

授業の概要:　本演習は聖書原典を参観しながら、参加者による共同作業によって、聖書本文の背景にある歴史と宗教思想とを抽出し、ユダヤ・キリスト教的文化における影響を総合的に考察することを目的とする。

到達目標:　【知識・理解】聖書文学において表象された多くのイメージは、人間の根源的思考と論理とに対応し、そのメディア的性格は、特定宗教の教派性を超えて文化史における基層を形成してきたことが理解できる。
【関心・意欲・態度】狭義における聖書解釈学ではなく、メディア文化史における基礎的考察として広範な知的関心を養う。
【表現・技能・能力】各人の関心に従ってメディアと社会の広範な現象のなかに聖書的表彰を探求し、分析と議論を展開する能力を身につける。

授業方法:　クラス内での発表および討議を中心にして各回のテーマについて理解する。部分的に演習形式を導入するがクラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム（マナビー）を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論　メディア的表象と宗教	
2.	旧約（ヘブライ語）聖書のメディア論的理解	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
3.	新約聖書のメディア論的理解	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
4.	旧約（ヘブライ語）聖書と新約聖書の連続と非連続	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
5.	旧約（ヘブライ語）聖書と新約聖書の連続と非連続	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
6.	旧約（ヘブライ語）聖書のキリスト教的理解	事前に指示する授業のキーワードを中心に知識と関心を整理しておくこと。
7.	聖書文学における宇宙論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
8.	聖書文学における時間論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
9.	聖書文学における生命論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
10.	聖書文学における正義論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
11.	聖書文学における神論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
12.	聖書文学における聖霊論的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
13.	聖書文学における倫理的表象	事前に設定した聖書該当箇所について理解を深めておくこと。
14.	総括　メディアと宗教的論理－１	現代における宗教的表象についての見解を整理しておくこと。
15.	総括　メディアと宗教的論理－２	現代における宗教的表象についての見解を整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回のテーマについて、クラス内で指示する参考文献を手がかりにして予習をして出席すること。クラス内の討議はこの予習を前提にしておこなう。

フィードバックの方法:　クラス内および授業支援システム（マナビー）による質疑による。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラスにおける発表	50%	テーマ毎に担当者を決めての発表を基本とするがその準備と内容、クラスへの貢献度によって評価する。
学期末レポート	30%	全回の授業を反映したレポートの内容を基準として評価する。
授業への参加度	20%	出席状況だけではなく、クラスでの質疑による貢献などによって評価する。

教科書:　多岐にわたる内容であるので、特定のテキストによらない。

参考書:　参考ウェブサイトも含め、学期当初に教室において指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、洞察力

教員との連絡方法:　直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

590400

メディア文化特殊演習D

関口　　英里

授業テーマ:

授業の概要:

現代の都市メディア研究には、消費文化を読み解く深い洞察力が必要である。本演習の目標は、国内外における高度な学術文献の講読を通して、消費文化論、都市とメディアの研究にかかわる最新の理論を修得し、実践的な研究活動を実現することにある。高度な専門的理論書ならびに諸外国語（英語、仏語等）による一次文献資料の外書購読を質・量ともに高め、精力的にこなしてゆく。

到達目標:

研究遂行に必要な文献資料の読解力のみならず各種理論を修得し、メディア研究の能力向上をはかる。各自の研究に援用すべき学術手法や理論を踏まえた課題に毎回取り組むことで都市とメディアに関する分析を深める。

授業方法:

受講者には毎回20-30頁程度の外国語文献（英語、フランス語など） ならびに関連する高度な日本語文献を講読した上で独自の考察を発表してもらう。その後、修得した講読文献の理論的知見および研究技法に基づき個人研究発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業概要についての事前理解と予備知識の獲得
2.	都市メディア研究総論(1)	都市とメディアに関する文献の購読、把握①
3.	都市メディア研究総論(2)	都市とメディアに関する文献の購読、把握①
4.	都市メディア関連の国内外文献講読と諸理論の把握(1)	都市とメディアに関する海外文献の広範な収集と積極的購読、理論の理解①
5.	都市メディア関連の国内外文献講読と諸理論の把握(2)	都市とメディアに関する海外文献の広範な収集と積極的購読、理論の理解②
6.	都市メディア関連の国内外文献講読と諸理論の把握(3)	都市とメディアに関する海外文献の広範な収集と積極的購読、理論の理解③
7.	都市メディア関連の国内外文献講読と諸理論の把握(4)	都市とメディアに関する海外文献の広範な収集と積極的購読、理論の理解④
8.	都市メディア分析試論（受講者による研究発表と討論(1)	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備①
9.	都市メディア分析試論（受講者による研究発表と討論(2)	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備②
10.	都市メディア分析試論（受講者による研究発表と討論(3)	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備③
11.	都市メディア分析試論（受講者による研究発表と討論(4)	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備④
12.	都市メディア分析試論（受講者による研究発表と討論(5)	多数の海外文献の購読と理論理解に基づく研究テーマ設定と個人発表準備⑤
13.	学期末の研究成果報告と合評会(1)	研究発表の総括と発表、資料作成、質疑応答の準備①
14.	学期末の研究成果報告と合評会(2)	研究発表の総括と発表、資料作成、質疑応答の準備②
15.	全体総括	総合的な理論の復習と理解

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業内容及び授業方法に基づき、受講者には関連理論についての基盤的な学術知見と研究レベルでの外国語運用能力および毎回の課題遂行の遵守と確実な授業参加が求められる。また、授業出席や活発な議論実践に加え、課外での自主的学究活動（文献購読やフィールドワーク等）を精力的に行う事が必要である。

フィードバックの方法:

授業時および授業外に必要に応じて適切な方法で行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度（出席、発表、討論等）
授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示する。

590600

メディア文化発展演習B

三根　　浩

授業テーマ:　マルチメディアの心理学的応用

授業の概要:　World wide web (www)は、コンピュータネットワークを誰でも使用できる身近な文化にしたといえよう。ユーザーが使いやすい便利な環境が整備された一方で、セキュリティの脆弱性やユーザーの匿名性が多いネットワーク環境は、モラルの低下や著作権の侵害などの副作用を伴っていた。

到達目標:　この演習では、匿名性の問題に関連する心理学的背景を理解するとともに、実名性を高め、ユーザーが高いモラルを持てるような、より高度な文化的貢献が果たせるネットワーク環境の整備について考察したい。

授業方法:　講義、演習、プレゼンテーションを組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	マルチメディアとモラル	
2.	マルチメディアと著作権 (1) 知的所有権	マルチメディアと著作権 (岩波新書)
3.	マルチメディアと著作権 (2) 著作権制度	
4.	マルチメディアと著作権 (3) 著作人格権	
5.	匿名性の心理	インターネットの光と影Ver.5: 被害者・加害者にならないための情報倫理入門　情報教育学研究会
6.	プライバシーの保護	
7.	個人情報の保護	ソーシャルメディア時代の個人情報保護Q&A 単行本(ソフトカバー) 第二東京弁護士会
8.	サイバー犯罪	インターネットの光と影Ver.5: 被害者・加害者にならないための情報倫理入門　情報教育学研究会
9.	実名性を高める工夫	
10.	セキュリティと情報管理	情報セキュリティ読本—IT時代の危機管理入門 単行本 情報処理推進機構
11.	ネットワークと情報倫理	
12.	リアリティ(VRとAR)	SFマガジン　2016年12月号「VR/AR」. Vol. 57, No. 718.
13.	認知学習とマルチメディア	
14.	人工知能の可能性	人工知能は人間を超えるか (角川EPUB選書)
15.	マルチメディアの教育的応用	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室で個々に解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習への積極的参加度	30	
プレゼンテーション	30	
レポート	40	積極的に授業に参加し、到達目標ネットワーク環境の理解ができるようになったか評価する

教科書:

参考書:　辰巳丈夫(2000).『情報化社会と情報倫理』(第2版)　共立出版。
林　幸助(2008).『ちょっと待ってそのコピペ!　著作権侵害の罪と罰』　実業之日本社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　e-mail

590700

メディア文化発展演習C

中村　　信博

授業テーマ:　表象文化としての聖書

授業の概要:　主としてユダヤ・キリスト教における絵画を中心とした諸芸術における聖書的表象の痕跡を辿りながら、メディア文化史において形成されてきた聖書的イメージの意味と役割についての検討を課題とする。メディア文化の基礎的性格を理解するために総合的な立場から分析をおこなう。

到達目標:　【知識・理解】聖書本文の言語芸術的性格に注目し、文化史におけるその受容と発展について総合的に理解できる。
【関心・意欲・態度】メディア文化史探求に必須であるとも言える聖書的言語表現の葉池とその影響について理解しようとする広範な知的関心を養う。
【表現・技能・能力】各人の関心に従ってメディアと社会の広範な現象のなかに聖書的論理と言語表現とを探求し、分析と議論を展開する能力を身につける。

授業方法:　クラス内での発表および討議を中心にして各回のテーマについて理解する。部分的に演習形式を導入するがクラス内での資料配付および一部討議は授業支援システム(マナビー)を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論　旧約(ヘブライ語)聖書における創世記	事前配布の資料などを手がかりに、世界の創世神話についての概略を理解しておくこと。
2.	ユダヤ教における創世神話	事前配布の資料などを手がかりに、ユダヤ教および旧約聖書における創世神話についての概略を整理しておくこと。
3.	キリスト教における創世神話	事前配布の資料などを手がかりに、キリスト教はどのような世界像をユダヤ教から継承してきたのかその概略を整理しておくこと。
4.	古代における創世神話の絵画的展開	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。
5.	中世における創世神話の絵画的展開－1	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。
6.	中世における創世神話の絵画的展開－2	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。
7.	近代における創世神話の絵画的展開－1	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。
8.	近代における創世神話の絵画的展開－2	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのように描かれてきたのかその代表例ついて概略を整理しておくこと。
9.	創世神話における神論と自然論、およびその表象	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。
10.	創世神話における人間論とその表象	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。
11.	古代的世界観と創造神話	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。
12.	中世的世界観と創造神話	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。
13.	近代的世界観と創造神話	事前配布の資料などを手がかりに、創世神話はどのようにコミュニケーション・メディアを提供してきたのか、問題意識を整理しておくこと。
14.	総括　表象化された世界の理解－1	文化史的視点から獲得された創世神話の表象と現代における世界観との相違について概略を整理しておくこと。
15.	総括　表象化された世界の理解－2	文化史的視点から獲得された創世神話の表象と現代における世界観との相違について概略を整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回のテーマについて、クラス内で指示する参考文献を手がかりにして予習をして出席すること。クラス内の討議はこの予習を前提にしておこなう。

フィードバックの方法:　クラス内および授業支援システム(マナビー)による質疑。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラス内における発表	50%	テーマ毎に担当者を決めての発表をきほんとするがその準備と内容、クラスへの貢献度によって評価する。
学期末レポート	30%	全回の授業を反映したレポートの内容を基準として評価する。
授業への参加度	20%	出席状況だけでなく、クラスでの質疑による貢献などによって評価する。

教科書:　多岐にわたる内容であるので、特定のテキストによらない。

参考書:　参考ウェブサイトも含め、学期当初に教室において指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、洞察力

教員との連絡方法:　直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

590800

メディア文化発展演習D

関口　　英里

授業テーマ:

授業の概要:

本講座では、消費文化を中心に現代都市を研究し、その発展的な分析を実現するため、国内外の研究動向を見極めつつ、専門領域における高度な理論を幅広く把握する。各自の設定する研究目標達成に必須となる、分析テーマや関連事象に関するリサーチならびに論考を通じた学究活動のみならず、その成果を効果的に発表（口頭、学位・学術論文）する能力を涵養する。

到達目標:

メディアと都市をめぐる高度な文献講読にとどまらず、リサーチや収集データの読解、さらには成果の発表に至る方法論を、研究実践の中から獲得することが狙いである。

授業方法:

受講者には毎回20-30頁程度の外国語文献（英語、フランス語など）ならびに関連する高度な日本語文献を講読発表してもらう。その後、修得した講読文献の理論的知見および研究技法に基づき個人研究発表を行う。従って受講者には関連理論に関する基盤的な学術知見と高度な外国語運用能力に加え、精力的な課題遂行と授業参加が求められる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業概要の理解と必要な予備知識の獲得
2.	学術研究技法総論(1)	課題文献の購読と理解①
3.	学術研究技法総論(2)	課題文献の購読と理解①
4.	学術研究技法総論(3)	課題文献の購読と理解③
5.	主要分野の理論修得(1)	課題文献のさらなる購読と理論についての深層的理解①
6.	主要分野の理論修得(2)	課題文献のさらなる購読と理論についての深層的理解②
7.	主要分野の理論修得(3)	課題文献のさらなる購読と理論についての深層的理解②
8.	文献購読と発表（海外書中心)(1)	海外文献の購読・理解に基づく課題プレゼンテーション、資料作成、、質疑応答準備①
9.	文献購読と発表（海外書中心)(2)	海外文献の購読・理解に基づく課題プレゼンテーション、資料作成、、質疑応答準備②
10.	文献購読と発表（海外書中心)(3)	海外文献の購読・理解に基づく課題プレゼンテーション、資料作成、、質疑応答準備③
11.	受講者個別の研究成果発表と討論(1)	修得知識の応用と実践に基づく個人研究及び発表、討論準備①
12.	受講者個別の研究成果発表と討論(2)	修得知識の応用と実践に基づく個人研究及び発表、討論準備②
13.	受講者個別の研究成果発表と討論(3)	修得知識の応用と実践に基づく個人研究及び発表、討論準備③
14.	研究技法および理論の実践にむけた課題と展望	発表時に得たコメントおよび修得理論をふまえた各自の研究についての課題発見と今後の研究指針作成、討論準備
15.	全体総括	総合的な理論と知識の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講者には関連理論についての基盤的な学術知見と高度な外国語運用能力および毎回の課題遂行の遵守と確実な授業参加が求められる。また、授業内容及び授業方法に基づき、授業出席や発表に伴う活発な議論実践に加え、課外での自主的学究活動（文献購読やフィールドワーク等）を精力的に行う事が必要である。

フィードバックの方法:

授業時および授業外に必要に応じて適切な方法で行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度（出席、発表、討論等）
授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示する。

590900

表現文化特殊演習A

余田　　義彦

授業テーマ:　学びを助けるインストラクショナルデザイン

授業の概要:　インストラクショナルデザインとは、授業や教材についてその教育効果や効率、魅力を高めるための手法を集大成したモデルや研究分野、またはそれらを応用して教材や授業を実現するプロセスのことをいう。本科目では、ADDIEモデルなどインストラクショナルデザインの基礎理論を学び、それを応用して短時間で学べる簡単なテキスト教材を作成する。あわせて、そのベースとなっている学習理論（心理学）、メディア技術などについても理解を深める。

到達目標:　①【知識・理解】インストラクショナルデザインの基礎理論について例をあげて説明できる。
②【表現・技能・能力】インストラクショナルデザインの基礎理論を活用して、テキスト教材を作成できる。

授業方法:　講義と演習を組み合わせて行う。授業進度にあわせて毎回少しずつ課題を出す。その課題を次の授業のときに発表してもらい、それを受けてディスカッションを行う。また、授業時間外に教材開発も進めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教材をイメージする	授業内容に関わる課題
2.	教材作りをイメージする	授業内容に関わる課題
3.	教材の責任範囲を明らかにする：学習目標の設定	授業内容に関わる課題
4.	教材の責任範囲を明らかにする：学習目標の設定（続き）	授業内容に関わる課題
5.	テストを作成する	授業内容に関わる課題
6.	教材の構造を見きわめ、独学を支援する作戦をたてる（教授方略）	授業内容に関わる課題
7.	教材企画書を作成する	授業内容に関わる課題
8.	教材企画書を作成する（続き）	授業内容に関わる課題
9.	教材パッケージを作成する	授業内容に関わる課題
10.	教材パッケージを作成する（続き）	授業内容に関わる課題
11.	教材パッケージを作成する（続き）	授業内容に関わる課題
12.	形成的評価を実施する	授業内容に関わる課題
13.	教材を改善する	授業内容に関わる課題
14.	教材を改善する（続き）	授業内容に関わる課題
15.	まとめと学習の振り返り	最終課題

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加姿勢	30	到達目標①の達成度を評価します。
課題	30	到達目標①の達成度を評価します。
最終課題（テキスト教材）	40	到達目標②の達成度を評価します。

教科書:　鈴木克明 『教材設計マニュアル—独学を支援するために』 北大路書房

参考書:
向後千春 『上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン』 技術評論社
市川 尚, 根本 淳子 『インストラクショナルデザインの道具箱101』 北大路書房
鈴木克明 『研修設計マニュアル: 人材育成のためのインストラクショナルデザイン』 北大路書房
J. M. ケラー 『学習意欲をデザインする : ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』北大路書房
R.K. ソーヤー 『学習科学ハンドブック 第二版 第2巻: 効果的な学びを促進する実践/共に学ぶ』 北大路書房
R.K. ソーヤー 『学習科学ハンドブック 第二版 第3巻: 領域専門知識を学ぶ/学習科学研究を教室に持ち込む』 北大路書房
市川 尚, 根本 淳子『ストーリー中心型カリキュラムの理論と実践—オンライン大学院の挑戦とその舞台裏』 北大路書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール（yyoden@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

591000

表現文化特殊演習B

有賀　　妙子

授業テーマ:　メディア表現制作に必要となるプログラミング知識の習得

授業の概要:　コンピュータプログラムはメディアコンテンツの制作において表現の幅を広げる技術のひとつである。特にインタラクティブな要素をもつコンテンツの制作にはかかせない道具といえる。従来コンピュータ科学の教育を受けたプログラマが専門的にプログラムを作成していたが、ソフトウェア開発環境の発展にともない、非プログラマ(コンピュータを利用する分野の知識があり、「何をするか、したいか」知っている人)がプログラムを作ることが比較的容易に可能となった、本科目では、アートデザイン分野で広く使われるプログラミング環境Processingを取り上げ、プログラミング技法を習得するとともに、メディア表現に関係するプログラム制作演習を行い、プログラムが作り出す表現を学ぶ。

到達目標:
1 プログラミングの基礎知識を理解する
2 インタラクティブなモーショングラフィックスのプログラムを作成する

授業方法:　コンピュータを使い、講義ならびに演習・実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Processingの概要、開発環境の準備	授業内容の理解
2.	プログラム要素、描画の基礎	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
3.	制御構造1	授業内容の理解
4.	制御構造2	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
5.	マウス操作への応答	授業内容の理解
6.	関数	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
7.	イベント処理	授業内容の理解
8.	図形の運動と位置の計算	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
9.	配列	授業内容の理解
10.	フラクタル図形の描画(再帰関数)	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
11.	画像の描画	授業内容の理解、演習問題プログラムの作成
12.	クラス1	授業内容の理解
13.	クラス2	授業内容の理解
14.	総合的制作演習	演習プログラムの作成
15.	総合的制作演習	演習プログラムの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講生のプログラミングの知識・経験により、必要に応じて、上記の授業内容を変更することがある。

フィードバックの方法:　提出された課題に対して、授業内でコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習課題	100	課題の達成度

教科書:

参考書:　Processing:ビジュアルデザイナーとアーティストのためのプログラミング入門、Casey Reas、Ben Fry、ビー・エヌ・エヌ新社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

591100

表現文化特殊演習C

森　　公一

授業テーマ:　アート表現のためのリサーチワークとコンセプトワーク

授業の概要:　本演習は、メディアを用いた作品の制作と発表を行うことを前提に、その準備段階に必要なプレプロダクション（リサーチワークとコンセプトワーク）を経験することが目的です。具体的には各自が重視する研究テーマや問題意識をふまえ、それらと関わりの深いアート作品の事例調査を行います。また作品事例における表現形式や表現内容の分析に加えて、作品批評文献の調査と分析、学術文献の調査と分析を行うことで、自らの研究テーマをより明確に位置づけるとともに、そのテーマと人間・社会との根源的な関係を探求します。こうしたリサーチと分析の結果をふまえ、表現すべき作品の基本コンセプトとしてまとめます。

到達目標:
アートに関わるリサーチ能力や分析力の獲得
アート表現の前提となるコンセプトワーキング能力の獲得

授業方法:　調査・分析の発表、文献研究の成果発表を中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス	
2.	個人研究テーマの発表	個人研究発表の準備
3.	作品事例の発表とディスカッション1	作品事例のサーベイ1
4.	作品事例の発表とディスカッション2	作品事例のサーベイ2
5.	作品事例の発表とディスカッション3	作品事例のサーベイ3
6.	作品事例の発表とディスカッション4	作品事例のサーベイ4
7.	批評文献資料の発表とディスカッション1	作品批評文献資料のサーベイ1
8.	批評文献資料の発表とディスカッション2	作品批評文献資料のサーベイ2
9.	批評文献資料の発表とディスカッション3	作品批評文献資料のサーベイ3
10.	批評文献資料の発表とディスカッション4	作品批評文献資料のサーベイ4
11.	学術文献資料の発表とディスカッション1	テーマに関連する学術文献のサーベイ1
12.	学術文献資料の発表とディスカッション2	テーマに関連する学術文献のサーベイ2
13.	学術文献資料の発表とディスカッション3	テーマに関連する学術文献のサーベイ3
14.	学術文献資料の発表とディスカッション4	テーマに関連する学術文献のサーベイ4
15.	作品基本コンセプトの発表	作品基本コンセプトの構築

受講者へのメッセージやアドバイス:　積極的な情報収集と発表の準備を行ってください。

フィードバックの方法:　授業内でアドバイスします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究レポート	100	解釈の適格性、コンセプトへの接続性

教科書:　特になし

参考書:　適宜指示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業内で対応

591200

表現文化特殊演習D

和氣　　早苗

授業テーマ:
工学的観点からヒューマンインタフェース（人間とメディア／情報機器の接点）に関わる実験もしくはデザイン，設計を行い，それに関する評価，分析を行う

授業の概要:
ヒューマンインタフェース（HI）に関わる研究を実施する。
研究テーマは受講生の興味を尊重し，教員から提案を行い，協議のもと決定する．研究の形態は，実験実施，もしくは何らかのインタフェース設計，あるいはデザインとなる．一例としてはサイン音デザイン，音声インタフェース設 計，Webアクセシビリティ評価，等が考えられる．

到達目標:
・現状のHIから問題点を抽出し，問題解決のための道筋をつけることができる．
・研究の実施にあたって自ら行うべき事を計画し 遂行することができる．

授業方法:
研究指導および討議

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究テーマの設定	
2.	研究テーマの設定	テーマ設定のための事前調査
3.	研究テーマの設定	テーマ設定のための事前調査
4.	研究計画	研究計画立案
5.	研究計画	研究計画立案
6.	研究の実施（HIに関わる実験もしくは設計，デザイン）	研究や実験の準備等
7.	研究の実施（HIに関わる実験もしくは設計，デザイン）	研究や実験の準備等
8.	研究の実施（HIに関わる実験もしくは設計，デザイン）	研究や実験の準備等
9.	研究の実施（HIに関わる実験もしくは設計，デザイン）	研究や実験の準備等
10.	研究の実施（HIに関わる実験もしくは設計，デザイン）	研究や実験の準備等
11.	研究の実施（HIに関わる実験もしくは設計，デザイン）	研究や実験の準備等
12.	研究の実施（HIに関わる実験もしくは設計，デザイン）	研究や実験の準備等
13.	研究の実施（HIに関わる実験もしくは設計，デザイン）	研究や実験の準備等
14.	研究の実施（HIに関わる実験もしくは設計，デザイン）	研究や実験の準備等
15.	中間結果報告（プレゼンテーション	報告準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
個別に研究指導および討議を実施する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究への取り組みの姿勢	50	取り組みの姿勢を評価する
研究成果およびプレゼン	50	成果およびプレゼン内容を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:
Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp），授業の前後に教室内で対応

591300

表現文化発展演習A

余田　　義彦

授業テーマ:　インストラクショナルデザインに基づくICT活用学習の設計

授業の概要:　インストラクショナルデザインの応用的・発展的な理論およびそのベースとなっている最近の学習理論、学習におけるICT活用法について学ぶ。そして、効果的・効率的・魅力的なICT活用学習を設計するために必要とされる実践的な知識と技術を修得する。

到達目標:　①【知識・理解】インストラクショナルデザインの応用的・発展的な理論、学習におけるICT活用法について例をあげて説明できる。
②【表現・技能・能力】インストラクショナルデザインを活用して、ICT活用学習を設計できる。

授業方法:　講義と演習を組み合わせて行う。授業進度にあわせて毎回少しずつ課題を出す。その課題を次の授業のときに発表してもらい、それを受けてディスカッションを行う。また、授業時間外に教材開発も進めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	インストラクショナルデザインとテクノロジ(IDT)の歴史1	授業内容に関わる課題
2.	インストラクショナルデザインとテクノロジ(IDT)の歴史2	授業内容に関わる課題
3.	学習と教授の理論とモデル:構成主義1	授業内容に関わる課題
4.	学習と教授の理論とモデル:構成主義2	授業内容に関わる課題
5.	学習と教授の理論とモデル:学習科学1	授業内容に関わる課題
6.	学習と教授の理論とモデル:学習科学2	授業内容に関わる課題
7.	学習と教授の理論とモデル:学習意欲・意志とパフォーマンス1	授業内容に関わる課題
8.	学習と教授の理論とモデル:学習意欲・意志とパフォーマンス2	授業内容に関わる課題
9.	IDTにおける新しい方向性:eラーニングとインストラクショナルデザイン	授業内容に関わる課題
10.	IDTにおける新しい方向性:学習オブジェクト	授業内容に関わる課題
11.	IDTにおける新しい方向性:ネットワーク・Web2.0とつながった学習者	授業内容に関わる課題
12.	IDTにおける新しい方向性:リッチメディアを賢く使う	授業内容に関わる課題
13.	IDTにおける新しい方向性:ゲームと学習	授業内容に関わる課題
14.	IDTにおける新しい方向性:仮想世界(バーチャルワールド)でデザインする	授業内容に関わる課題
15.	まとめ	最終課題

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　必要に応じて教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加姿勢	30	到達目標①の達成度を評価します。
課題	30	到達目標①の達成度を評価します。
最終課題	40	到達目標②の達成度を評価します。

教科書:　R.A.リーサー, J.V.デンプシー『インストラクショナルデザインとテクノロジ: 教える技術の動向と課題』 北大路書房

参考書:
向後千春 『上手な教え方の教科書 ～ 入門インストラクショナルデザイン』 技術評論社
市川 尚, 根本 淳子 『インストラクショナルデザインの道具箱101』 北大路書房
鈴木克明 『研修設計マニュアル: 人材育成のためのインストラクショナルデザイン』 北大路書房
J. M. ケラー 『学習意欲をデザインする : ARCSモデルによるインストラクショナルデザイン』北大路書房
R.K. ソーヤー 『学習科学ハンドブック 第二版 第2巻: 効果的な学びを促進する実践/共に学ぶ』 北大路書房
R.K. ソーヤー 『学習科学ハンドブック 第二版 第3巻: 領域専門知識を学ぶ/学習科学研究を教室に持ち込む』 北大路書房
市川 尚, 根本 淳子 『ストーリー中心型カリキュラムの理論と実践—オンライン大学院の挑戦とその舞台裏』 北大路書房
ジョン・T. ブルーアー 『授業が変わる—認知心理学と教育実践が手を結ぶとき』 北大路書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール(yyoden@dwc.doshisha.ac.jp)、授業の前後に教室内で対応

591400

表現文化発展演習B

有賀　　妙子

授業テーマ:
コンピュータプログラムを使ったインタラクティブなメディア表現の制作

授業の概要:
インタラクティブなメディアコンテンツの制作を行う。表現文化特殊演習Bでの学習内容と理解に基づき、自分のアイディアを形にしたプログラム(メディア表現)を制作する。メディアデザインの表現手法のひとつとしてプログラムは重要な役割をもつ。マウスやキーボードに加え、音やジェスチャーにインタラクティブに応答するメディア表現を制作することで、ユーザの行為とプログラムの論理との新しい関係性を探る。資料を読み解きながら、主に計算により生み出される形とふるまいの面白さを表現するプログラムの作成を行う。

到達目標:
1 プログラミングの知識を深める
2 音声や画像認識、ジェスチャーへ応答する方法を理解する
3 インタラクティブなメディアコンテンツの構想、設計、開発のプロセス全体を自主的に行う

授業方法:
コンピュータを使い、講義ならびに演習・実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音声ファイルの再生	授業内容の理解
2.	音に応答するプログラム1	授業内容の理解
3.	音に応答するプログラム2	授業内容の理解、演習プログラムの作成
4.	音に応答するプログラム3	授業内容の理解、演習プログラムの作成
5.	カメラ画像の処理	授業内容の理解
6.	カメラ画像に応答するプログラム1	授業内容の理解
7.	カメラ画像に応答するプログラム2	授業内容の理解、演習プログラムの作成
8.	カメラ画像に応答するプログラム3	授業内容の理解、演習プログラムの作成
9.	指のジェスチャーに応答するプログラム1	授業内容の理解
10.	指のジェスチャーに応答するプログラム2	授業内容の理解、演習プログラムの作成
11.	指のジェスチャーに応答するプログラム3	授業内容の理解、演習プログラムの作成
12.	課題プログラムの構想	プログラムの作成
13.	課題プログラムの制作	プログラムの作成
14.	課題プログラムの制作	プログラムの作成
15.	課題プログラム展示準備	制作の振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:
受講生のプログラミングの知識・経験により、必要に応じて、上記の授業計画・内容を変更することがある。

フィードバックの方法:
提出された課題に対して、授業内でコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習課題	100	課題の達成度

教科書:

参考書:
Processing:ビジュアルデザイナーとアーティストのためのプログラミング入門、Casey Reas、Ben Fry、ビー・エヌ・エヌ新社
Nature of Code –Processingではじめる自然現象のシミュレーション、Daniel Shiffman、ボーンデジタル

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:
電子メール: tariga@dwc.doshisha.ac.jp

591500

表現文化発展演習C

森　　公一

授業テーマ:　メディアを活用した作品の創作と発表

授業の概要:　本演習では、メディアを活用した芸術表現の可能性を探求することを目的に、個人テーマに基づく作品の制作と発表を行います。「表現文化特殊演習C」において行ったリサーチワークやコンセプトワークをふまえ、具体的な作品として完成させるとともに、学外のギャラリーなどにおいて展示・発表することをゴールとします。
各自の研究テーマを独自の形式によって表現することをめざし、企画案のプレゼンテーショとディスカッションを通じた修正、実験作品のプレゼンテーションとディスカッションを通じた修正を繰り返し行います。

到達目標:　各自の研究テーマを独自の形式によって表現する
作品にふさわしい形式で展示し発表する

授業方法:　プレゼンテーションとディスカッションを中心とする演習形式で進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス	
2.	個人テーマ・コンセプトの確認1	個人テーマ・コンセプト案の準備1
3.	個人テーマ・コンセプトの確認2	個人テーマ・コンセプト案の準備2
4.	企画案のプレゼンと検討1	企画案の準備1
5.	企画案のプレゼンと検討2	企画案の準備2
6.	企画修正案のプレゼンと検討1	企画修正案の準備1
7.	企画修正案のプレゼンと検討2	企画修正案の準備2
8.	実験作品の確認と検討1	実験作品の準備1
9.	実験作品の確認と検討2	実験作品の準備2
10.	実験作品修正版の確認と検討1	実験作品修正版の準備1
11.	実験作品修正版の確認と検討2	実験作品修正版の準備2
12.	作品の中間チェックと検討1	作品制作1
13.	作品の中間チェックと検討2	作品制作2
14.	作品のプレゼンテーション1	作品制作3
15.	作品のプレゼンテーション2	作品制作4

受講者へのメッセージやアドバイス:　考えては創り、創っては考える、幾度も修正を繰り返しながら独自の表現を模索してください。

フィードバックの方法:　企画プレゼンテーションや制作途中においてアドバイスを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	100	創造性（テーマの独自性、表現力）

教科書:　特になし

参考書:　研究テーマや作品事例に関連する参考文献など、各自で積極的に情報収集してください。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業内にて対応

591600

表現文化発展演習D

和氣　　早苗

授業テーマ:

工学的観点からヒューマンインタフェース（人間とメディア／情報機器の接点）に関わる実験もしくはデザイン，設計を行い，それに関する評価，分析を行う

授業の概要:

春学期に引き続き、ヒューマンインタフェース（HI）に関わる研究を実施する。
研究テーマは受講生の興味を尊重し，教員から提案を行い，協議のもと決定する．研究の形態は，実験実施，もしくは何らかのインタフェース設計，あるいはデザインとなる．一例としてはサイン音デザイン，音声インタフェース設 計，Webアクセシビリティ評価，等が考えられる．

到達目標:

・現状から問題点を抽出し，問題解決のための道筋をつけることができる．
・また研究の実施にあたって自ら行うべき事を計画し 遂行することができる．
・実施内容について報告書、プレゼンテーションといった形で内容を的確に表現できる．

授業方法:

研究指導および討議

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究進捗の確認と今後の計画	
2.	実験の分析，あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
3.	実験の分析，あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
4.	実験の分析，あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
5.	実験の分析，あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
6.	実験の分析，あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
7.	実験の分析，あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
8.	実験の分析，あるいは評価の実施	分析や評価の準備等
9.	研究報告プレゼンテーション	プレゼン準備
10.	プレゼン再考	プレゼン準備
11.	再プレゼンテーション	プレゼン準備
12.	報告書作成および指導	報告書作成
13.	報告書作成および指導	報告書作成
14.	報告書作成および指導	報告書作成
15.	振り返り	振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個別に研究指導および討議を実施する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
研究への取り組みの姿勢	50	取り組みの姿勢を評価する
研究成果および報告書	50	成果および報告書内容を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:

Eメール（swake@dwc.doshisha.ac.jp），授業の前後に教室内で対応

591800

メディア文化特論

中村　　信博

授業テーマ:　メディア文化史における聖書的表象

授業の概要:　メディア文化の基層としての宗教性を探求する。

到達目標:
【知識・理解】聖書的イメージの特質を文献性、思想性、表象性において理解し、ユダヤ・キリスト教文化における展開を歴史的に探求できる。
【関心・意欲・態度】さらに各人の関心を深め、例えばグーテンベルグの活版印刷術などのメディアテクノロジーがもたらした文化史への影響を応用的に探求できる。
【表現・技能・能力】メディア文化史における聖書的表象についての基本理解を発表し、専門的な質疑が可能となる能力を身につける。

授業方法:　講義と演習形式を併用する。資料配付および一部討議は授業支援システム（マナビー）を利用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論　宗教文化におけるメディア的理解	宗教文化におけるメディア的表象の具体例を提示できるようにしておくこと。
2.	聖書のメディア的理解	事前配布の資料などを手がかりに、当該テーマについて理解を深めておくこと。
3.	文献としての聖書	事前配布の資料などを手がかりに、当該テーマについて理解を深めておくこと。
4.	聖書の空間論	事前配布の資料などを手がかりに、当該テーマについて理解を深めておくこと。
5.	聖書の時間論	事前配布の資料などを手がかりに、当該テーマについて理解を深めておくこと。
6.	聖書の表象的理解	過去の授業と配布資料などを手がかりに、当該テーマについて一定の説明ができるようにしておくこと。
7.	絵画芸術における聖書の表象的展開（古代・中世）	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。
8.	絵画芸術における聖書の表象的展開（近代）	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。
9.	絵画芸術における聖書の表象的展開（近代～現代）	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。
10.	音楽芸術における聖書の表象的展開	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。
11.	日本近代文学における聖書の受容	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。
12.	グーテンベルク革命とその影響	配布資料などを手がかりに、印刷メディアが文化史において残した影響について整理しておくこと。
13.	現代メディアにおける宗教性	配布資料などを手がかりに、当該テーマについて具体例を確認しておくこと。
14.	総括　宗教文化の基層としてのメディア理解－１	過去の授業と配布資料などを手がかりに、当該テーマについて一定の説明と議論ができるようにしておくこと。
15.	総括　宗教文化の基層としてのメディア理解－２	過去の授業と配布資料などを手がかりに、当該テーマについて一定の説明と議論ができるようにしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回のテーマについて、クラス内で指示する参考文献を手がかりにして予習をして出席すること。クラス内の討議はこの予習を前提にしておこなう。

フィードバックの方法:　クラス内および授業支援システム（マナビー）による質疑。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラスにおける発表	50%	テーマ毎に担当者を決め手の発表を基本とするがその準備と内容、クラスへの貢献度によって評価する。
学期末レポート	30%	全回の授業を反映したレポートの内容を基準として評価する。
授業への参加度	20%	出席状況だけでなく、クラスでの質疑による貢献などによって評価する。

教科書:　多岐にわたる内容であるので、特定のテキストによらない。

参考書:　参考ウェブサイトも含め、学期当初に教室において指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、洞察力

教員との連絡方法:　直接またはE-mail
E-mail: nnakamur@dwc.doshisha.ac.jp

592100

大衆文化特論

村木　　美紀

授業テーマ:　サブカルチャーの力

授業の概要:　本講義では、大衆文化の中でもマンガ・アニメ・ゲーム・ライトノベルといったサブカルチャーを対象に、それぞれの現状を把握し、特有のコミュニケーション・国内外におけるメディア戦略・今後の展開について検証する。

到達目標:
1【知識・理解】大衆文化について理解し、わかりやすく説明できる。
2【関心・意欲・態度】問題提起やディスカッションへの積極的な参加ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:　講義、ディスカッション、プレゼンテーション等を総合的に用いる

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	大衆文化－サブカルチャーとは	
2.	クールジャパンとメディア戦略(1)	経済産業省等の関連文献に目を通しておくこと
3.	クールジャパンとメディア戦略(2)	経済産業省等の関連文献に目を通しておくこと
4.	個人発表及びディスカッション(1)	資料作成等発表の準備
5.	マンガ(1)	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
6.	マンガ(2)	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
7.	個人発表及びディスカッション(2)	資料作成等発表の準備
8.	アニメ(1)	授業時に指示する映像やwebサイトに目を通しておくこと
9.	アニメ(2)	授業時に指示する映像やwebサイトに目を通しておくこと
10.	個人発表及びディスカッション(3)	資料作成等発表の準備
11.	ゲーム	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
12.	個人発表及びディスカッション(4)	資料作成等発表の準備
13.	ライトノベル	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
14.	個人発表及びディスカッション(5)	資料作成等発表の準備
15.	サブカルチャーの今後の展望	

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講人数や受講者の興味・感心によって変更を加える場合がある

フィードバックの方法:　基本的に授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	50	到達目標の1・2を中心に評価する
発表	25	到達目標の3を中心に評価する
レポート	25	到達目標の3を中心に評価する

教科書:　特に無し

参考書:
全国出版協会・出版科学研究所『出版指標年報』(年刊)
メディアクリエイト『ゲーム産業白書』(年刊)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール:mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

592200

コミュニケーションデザイン特論

上田　　信行

授業テーマ:　学習環境をデザインする

授業の概要:　この授業では「学び」をコミュニケーションデザインの視点から吟味する。コミュニケーションによって生成される学びの場を学習環境と呼び、ワークショップをデザインすることを通して実践的理論を学ぶ。授業は、学習科学や教育工学の研究知見を参照しながら、ワークショップを実際にデザイン、実施、評価、改善するというプロジェクト型の学習形態をとる。特に、表現とリフレクションのためのメディアの役割に焦点をあて、コミュニケーションを活性化するワークショップの開発を行う。

到達目標:
（1）学習環境デザインのための実践的理論を理解し、それをもとにして実際のワークショップのアジェンダをつくることができる。
（2）ワークショップを実際に 企画・実施・評価・改善することができる。
（3）表現とリフレクションのためのヴィデオの役割を理解し、実際にヴィデオドキュメンテーションの制作ができる。

授業方法:　授業はレクチャーとワークショップを融合したスタイルで進めていく。レクチャーで学んだデザインの枠組みをつかって、実際にワークショップを企画・実施・評価・改善する。学生によるプレゼンテーションや討論を頻繁に行う。積極的な参加が必要。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学びとコミュニケーションのデザイン	シラバスを読んでくること。
2.	ワークショップの体験と解説	教科書を読んで、重要な概念をノートに書いておく。
3.	Science of Playfulness −楽しさを科学する学習科学の新しい領域−	前回の授業でのワークショップ体験を省察して、リフレクションペーパーにまとめておく。
4.	学習環境デザインとワークショップ −構成主義的アプローチと教育工学モデル−	教科書の第１章を読んで、ワークショップデザインの基底になる「構成主義的学習環境」について理解を深めておく。
5.	省察的実践家としてのワークショップ・デザイナー −実践知としてのメタ認知的スキル−	授業の後、学びにおけるリフレクションの重要性を理解し、メタ認知的スキルとの関係で整理しておく。
6.	ワークショップ・デザイン Ⅰ デザインモデル	教科書の第2章を読んでおく。
7.	ワークショップ・デザイン Ⅱ ファシリテーションの方法	ワークショップの流れに沿って、どのように参加者をファシリテイトすればいいかイメージしておく。
8.	ワークショップ・デザイン Ⅲ ドキュメンテーションヴィデオの制作方法	リアルタイムドキュメンテーション(RTV)の意味づけをしておく。教科書のコラム1を読んでおく。
9.	ワークショップのアジェンダ作成	ワークショップのアジェンダの項目を考えておく。
10.	ワークショップの実施 ワークショップ＋ドキュメンテーション	ワークショップの準備をしておく。特に、空間・道具・活動、人（学びの共同体）の確認をする。
11.	ドキュメンテーション・ヴィデオの編集−	ワークショップで撮った映像を見直しておく。
12.	ワークショップの評価と改善	教科書の第3章を読んでおく。
13.	ワークショップ成果のプレゼンテーションの準備	ワークショップの企画・運営・評価・改善点を整理しておく。
14.	ワークショップの成果発表会	授業の後、プレゼンテーションのコメントをもとにリフレクションペーパーを書く。
15.	コミュニケーションデザインとメディアテクノロジー	最終レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　実践的研究を中心に展開する授業である。かな りのコミットメントが要求されるが、とてもやりがいがあるので、一緒に授業を創っていきたい。

フィードバックの方法:　プレゼンテーションやグループディスカッションに対して適宜コメントし、新たな視点や考え方を提供する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ワークショップへの貢献度	30	ワークショップのデザイン・運営の仕方・評価・改善、ドキュメンテーションなどを総合的に評価する。
プレゼンテーション	10	成果発表会でのワークショップの意味づけや改善点が的確かどうかを評価する。
ディスカッション	10	グループディスカッションへの責任ある知的貢献度を評価する。
最終レポート	50	ワークショップを通して実践的に経験したことを意味づけ、学びの理論と関係づけながら自分の言葉で表現できているかを評価する。

教科書:　上田信行・中原淳『プレイフル・ラーニング:ワークショップの源流と学びの未来』三省堂 2013

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　基本的には、授業の前後に教室内で応対する。オフィスアワーやメールでも質問を受け付ける。連絡先のメールアドレスは第1回目のガイダンスで知らせる。

592300

表象芸術特論

森　　公一

授業テーマ:　メディア芸術の表現特性の研究

授業の概要:　表象芸術特論では、映画・写真などの映像メディアを用いた芸術表現に着目し、それらの表現特性を探求することを目的とします。具体的には映画論や写真論などの文献資料の講読、及び関連する作品の分析を通じて、映像表現形式の多様性や変遷史についての理解を深めます。またこのようなプロセスを経た後、特定の作家とその作品を選択して調査を行い、研究成果の発表を行う予定です。

到達目標:　映画・写真などメディア芸術の表現特性の理解
特定の作家・作品の表現を分析する能力の獲得

授業方法:　文献の輪読とディスカッションを中心に進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス	
2.	文献研究A 発表とディカッション1	担当する文献の発表準備
3.	文献研究A 発表とディカッション2	担当する文献の発表準備
4.	文献研究A 発表とディカッション3	担当する文献の発表準備
5.	文献研究A 発表とディカッション4	担当する文献の発表準備
6.	文献研究A 発表とディカッション5	担当する文献の発表準備
7.	文献研究A 発表とディカッション6	担当する文献の発表準備
8.	文献研究B 発表とディカッション1	担当する文献の発表準備
9.	文献研究B 発表とディカッション2	担当する文献の発表準備
10.	文献研究B 発表とディカッション3	担当する文献の発表準備
11.	文献研究B 発表とディカッション4	担当する文献の発表準備
12.	文献研究B 発表とディカッション5	担当する文献の発表準備
13.	文献研究B 発表とディカッション6	担当する文献の発表準備
14.	作家・作品研究のプレゼンテーション1	作家・作品研究の発表準備
15.	作家・作品研究のプレゼンテーション2	作家・作品研究の発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業の進行にあわせて、情報収集、プレゼン資料の作成に努めてください。

フィードバックの方法:　ディスカッション時にアドバイスします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	分析力、批評力

教科書:　授業内で検討し、指示します。

参考書:　研究テーマや作品事例に関連する参考文献など、各自で積極的に情報収集してください。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業何て対応

592400

芸術文化特論

椎名　　亮輔

授業テーマ:　現代における音楽文化の再検討

授業の概要:　本講義では、「現代音楽」と呼ばれる芸術分野の諸相を検討し、その美学的背景を考えるのを目標とする。そのために、「現代音楽」について重要な発言を残している哲学者・著作家・作曲家たち、たとえば、Adorno、Boulez、Lyotard、Meyer、Benitez、近藤譲、Cage、Stockhausen、Luc Ferrari、Ivanka Stoianoba、Daniel Charlesなどのテクストを、なるべく原文によって、読み解いて行く。

到達目標:　多様な「現代音楽」の諸相を知り、その美学的背景を理解する。そのために、積極的に授業に参加して、テクスト読解を進める。それを通して、「現代音楽」についての自分自身の理解を深め、発表する。

授業方法:　テクストを事前に読み解いておき、授業中に講義によって解説を受け、それに基づき討論をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Adorno1	Adorno1のテクストを読み解いておく
2.	Adorno2	Adorno2のテクストを読み解いておく
3.	Boulez	Boulezのテクストを読み解いておく
4.	Lyotard	Lyotardのテクストを読み解いておく
5.	Meyer1	Meyer1のテクストを読み解いておく
6.	Meyer2	Meyer2のテクストを読み解いておく
7.	Benitez	Benitezのテクストを読み解いておく
8.	近藤譲1	近藤譲1のテクストを読み解いておく
9.	近藤譲2	近藤譲2のテクストを読み解いておく
10.	Cage1	Cage1のテクストを読み解いておく
11.	Cage2	Cage2のテクストを読み解いておく
12.	Stockhausen	Stockhausenのテクストを読み解いておく
13.	Luc Ferrari	Luc Ferrariのテクストを読み解いておく
14.	Stoianova	Stoianovaのテクストを読み解いておく
15.	Daniel Charles	Daniel Charlesのテクストを読み解いておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内において、適宜コメント、解説を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	50	きちんと予習をして、授業に積極的に参加し、ディスカッションを行っているかについて評価する
レポート	50	多様な「現代音楽」の諸相を知り、その美学的背景を理解して、自分自身の理解を深め表現できているか評価する。

教科書:　適宜プリントを配布する

参考書:　適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール:rshiina@dwc.doshisha.ac.jp

592500

集団制作特論

雑賀　　憲彦

授業テーマ:

現代社会におけるプロデュースプロセスの応用研究:

集団制作特論では、プロデュースの過程で生じるプロデューサーと組織とのコミュニケーション,
リーダシップやマネジメントの問題を深く理解することを目指す。

授業の概要:

メディアを駆使して、システムやコンテンツを制作するためには、プロジェクトの過程で発生するさまざまな要素をコントロールし、一つの統合した作品を作り出す必要がある。「集団制作特論」ではプロデュース行為における諸要素のコントロール方法を分析し包括的研究を行う。 講義では2つのテーマを主に扱う。一つは集団をコントロールすべきリーダーシップ、もう一つは集団での人間関係をいかに円滑にするかのマネジメントである。

到達目標:

人間集団の中で作品を制作して行く上で、不可欠な組織の生成、維持、役割分担、リーダーシップ、組織マネジメントなど組織人として社会に活躍できる人材の養成を目指す。

授業方法:

15回のうち、前半は講義形式で理論を解説し、後半は事例を基に学生と教員が議論したり、学生がﾊﾟﾜｰポイントで研究発表をしたりする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	プロデュースプロセスの研究1	シラバスを事前に見て、集団制作のをイメージしておくこと。
2.	プロデュースプロセスの研究2	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
3.	プロデューサーが行う組織環境のあり方	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
4.	プロデューサーの組織におけるリーダーシップのあり方1	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
5.	プロデューサーの組織におけるリーダーシップのあり方2	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
6.	現場での問題発見、問題解決の視点	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
7.	プロジェクトマネジメントの研究	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
8.	プロデューサーの組織におけるマネジメントとは	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
9.	組織マネジメントの一般原則への理解	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
10.	組織運用上の事例研究1	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
11.	組織運用上の事例研究2	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
12.	組織運用上の事例研究3	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
13.	組織運用上の事例研究4	授業で指示された内容と、次回の内容を踏まえて書籍・WEB記事等の資料を調査・収集しておくこと
14.	研究発表1	授業で指示された内容を総合的に考慮した上で、本講義テーマに近接した内容を研究して纏め、発表準備をしてお
15.	研究発表2	授業で指示された内容を総合的に考慮した上で、本講義テーマに近接した内容を研究して纏め、発表準備をしてお

受講者へのメッセージやアドバイス:

集団制作特論においては集団内での人の動き、心理、効率化など経営学、心理学、人間関係を主に研究するため、日頃から人間関係や人間の心理に興味、関心を持って講義に臨んでいただきたい。

フィードバックの方法:

毎回の講義で終了前の15分に小レポートを作成してもらい、その次の講義でそのレポートへのフィードバックを行う。さらに全体の3分の2以降は学生主体の議論や研究の中で常に教員とのやり取りを通じてフィードバックが行われる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	10	到達目標を理解した上で、授業に積極的に参加していたか
小レポート	10	授業内容を理解した上で、適切に整理されているか
事例研究	15	授業の内容を事例から読み取り応用できているか
研究発表	15	授業全体の流れを理解して、その内容に沿った発表になっているか
期末レポート	50	授業で学習した内容を理解したレポートになっているか

教科書:

参考書:

人生に役立つ経営学　三恵社　雑賀憲彦
経営戦略入門　ふくろう出版　雑賀憲彦

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、

教員との連絡方法:

メール、電話等

592700

理論言語学特論

郡司　　隆男

授業テーマ:　言語およびその科学的研究法についての基礎的な知識を解説する

授業の概要:

情報やメディアを論じるときには言語を扱うことが重要となる。本講義では、言語とその研究方法についての基礎的な知識を身につけ、言語情報を適切に扱う能力を身につけることを目的とする。特に、言語の形式的側面（音、文字など）と機能的側面（何が伝わるのか）の両方にわたるさまざまな現象をとりあげ、形式と機能の規則的な関係を理解する。

20世紀以降の言語学の方法論は、言語を客観的・科学的な研究対象と見るのが基本であるが、そのような考え方について学び、データと理論の関係、反証可能性（どのような証拠をあげたら理論をくつがえしたことになるのか）などに関して自覚的に研究を進める能力を身につけることを目標とする。

今日の言語の研究はいくつかの下位分野に分かれて研究されるのが普通である。本講義でも、現代言語学のさまざまな分野を一通り解説することを予定するが、受講生の専攻や関心によって、それぞれに一番適した形で、言語学に通じる考え方を習得することを目標とする。また、心理学、情報科学などの隣接分野との関係も明らかにしていきたい。

到達目標:

1. 言語とその自覚的な分析方法についての基礎的な知識を身につける。
2. 言語情報を適切に扱う能力を身につける。
3. 反証可能性を理解した上で、科学的な研究を進める能力を身につける。
4. 自分の母語を客観的に見ることができる。
5. 心理学、情報科学、社会学などの隣接分野との関係を理解する。

授業方法:

下記授業計画に沿って、教科書に従って講義形式で進めていくが、適宜、宿題を出し、解答の収集・添削・返却・講評のサイクルを混ぜていく。
おおむね、教科書の1つの章を2、3週かけて解説していく。各章末には練習問題があるので、2、3週間に1度の頻度で課題として解答してもらうことになる。

以下は目次にそって週ごとに扱う部分を示すが、受講生の専攻分野、関心、および進行状況を見て、適宜、省略したり、順番を入れ替えたり、巻末の補遺の部分を解説することも考える。

また、順調に進展したら、補助教材も配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入。言語とは何か。言語学の下位分野。反証可能性とは。	特に予習は必要としないが、復習は期待する。復習の際に不明なところが明らかになったら翌週質問すること。
2.	第1章 語のしくみ。単語と文の違い。複合語、派生語、語形成。	前回の概説を踏まえた上で、授業に臨むこと。
3.	第2章 音声のしくみ。調音音声学。調音法と音の種類。	第1章の内容を踏まえた上で、授業に臨むこと。
4.	第2章 続き。音韻論。音素の認定。音韻素性。音韻規則。	音声学の基礎的な知識を踏まえた上で、授業に臨むこと。
5.	第5章 意味と論理。意味とは何か。真理条件。	意味について自覚的な意識をもって、授業に臨むこと。
6.	第5章 続き。正しい推論と間違った推測。	前回の意味に関する概説を踏まえた上で、授業に臨むこと。
7.	第5章 続き。文を超える意味。	文内の意味に関する基本的な考え方を踏まえた上で、授業に臨むこと。
8.	第6章 ことばのバリエーション。言語内制約と社会的制約。	言語と言語外の条件について自覚的な意識をもって、授業に臨むこと。
9.	第6章 続き。社会的制約。	前回の言語と社会の関係を踏まえた上で、授業に臨むこと。
10.	第6章 続き。言語のスタイルと調査方法。	前回の言語の社会的側面を理解した上で、授業に臨むこと。
11.	第4章 言語習得の考え方。子どもと言語。遺伝と環境。	子どもの言語の獲得に関して自覚的な意識をもって、授業に臨むこと。
12.	第3章 文のしくみ。文を構成する要素。意味役割。文の組み立て方。	文の構造と意味の関係について自覚的な意識をもって、授業に臨むこと。
13.	第3章 続き。文の埋め込み。疑問文と否定文。	前回の文の構造に関する基礎的な知識を踏まえた上で、授業に臨むこと。
14.	第3章 続き。文の構成素同士の関係。	より複雑な構造をもつ文について理解した上で、授業に臨むこと。
15.	これからの学習の方向性	今学期で学んだことを自分なりに振り返って、授業に臨むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業の内容は、一部かなり専門的になりますが、事前の知識は必要ありません。授業中にわからないところがあれば、遠慮なく質問して、わからないままにすませないようにしてください。

終ったときに何らかの得るものが、一人一人にあることを期待しています。

フィードバックの方法:

基本的に授業中にどんどん意見を言ってもらいます。
あまり多くはありませんが、提出物に関しては翌週にコメントを付けて返します。
その他、適宜、下の連絡法を活用してコミュニケーションをはかっていきたいと思います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中に出す課題および、（もしあれば）期末のレポート	80	出欠は課題の提出状況で判断するので、休んだ場合には、後から提出するなどして、全て提出するように注意すること。
授業中の態度	20	少人数なので、授業中の積極的な参加を期待する。

教科書:　郡司隆男・西垣内泰介（編）『ことばの科学ハンドブック』（研究社, 2004）

参考書:　授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　gunji@shoin.ac.jp あるいは LINE で

592900

認知心理学特論

三根　　浩

授業テーマ:　人間の情報処理過程を探る

授業の概要:　0世紀の心理学では、人間の意識過程が関わっている「認知」の働きは、ブラックボックス装置として心理学の研究対象から除外されました。人間の「認知」活動である言語をモデル化するためには、多くのパラメータを同時に解析する必要があります。電子計算機の出現は、情報理論の発展を促し、人間のこころを精巧なコンピュータとしてシミュレーションするための情報処理モデルの提案を可能にしました。

到達目標:　この講義では、こころの「モデル」に関連する代表的な理論、とくにワーキング・メモリーについて考察することを目標にします。

授業方法:　講義、演習、プレゼンテーションを組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	記憶の仕組	『グラフィック 認知心理学』サイエンス社
2.	ワーキング・メモリー	別冊日経サイエンス「心を探る—記憶と知覚の脳科学」
3.	記憶の方略	「記憶力の脳科学」大和書房
4.	検索と忘却	
5.	カテゴリー化と概念	『メタ認知の促進と育成: 概念的理解のメカニズムと支援』北大路書房
6.	概念の構造	
7.	知識と表象	『意識はいつ生まれるのか』 亜紀書房
8.	語彙的表象	
9.	スキーマ理論	御領謙他『最新認知心理学への招待[改訂版]心の働きとしくみを探る』
10.	イメージと表象	
11.	注意と処理	
12.	帰納的推理	『活きてはたらく論理的思考力』東洋館出版社
13.	演繹的推理	
14.	問題解決	梅棹忠夫著作集１１　知の技術
15.	問題解決２	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室で個々に解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講義への積極的参加度	30	
プレゼンテーション	30	
レポート	40	積極的に授業に参加し、到達目標ワーキング・メモリーの理解ができるようになったか評価する

教科書:

参考書:
塩見 邦雄 (編集)『対話で学ぶ認知心理学』 ナカニシヤ出版
森 敏昭, 井上 毅, 松井 孝雄 (著)『グラフィック 認知心理学』サイエンス社
御領謙他、「最新認知心理学への招待[改訂版]心の働きとしくみを探る」 サイエンス社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　e-mail

593000

メディア研究法特論

余田　　義彦

授業テーマ:　情報文化専攻における研究の進め方と研究倫理

授業の概要:　情報文化専攻で研究を進めていくために必要な研究法と研究倫理を学びます。具体的には研究テーマの設定方法、文献検索や文献研究の方法、実証的研究の方法、研究計画の立て方、研究発表や論文の書き方、データ分析の方法などを受講生各自が自分の研究テーマと関連づけて学んでいきます。また、研究活動における不正行為の例を取り上げ、研究倫理についても学びます。情報文化専攻で行われる研究には、実証的・実験的なもの、理論的・報告的なものの2つのタイプが考えられます。そのため、どちらのタイプでも参考になる内容を取り上げるようにします。

到達目標:
①【知識・理解】研究方法に関わる基礎的な用語や関連知識について具体的に説明できる。
②【関心・意欲・態度】公正性、誠実さ、高潔さをもって研究を遂行する。
③【表現・技能・能力】適切な方法で研究テーマを設定し、文献検索を行い、文献研究または実証的研究を行い、研究発表や論文を書くことができる。

授業方法:　講義と演習を組み合わせて行います。授業進度にあわせて毎回少しずつ課題を出します。その課題を次の授業のときに発表してもらい、それを受けてディスカッションを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	研究をはじめる前に:修士課程の2年間で何を身につけるか？	
2.	研究をはじめる前に:研究とは何をすることか？	
3.	研究テーマとリサーチ・クエスチョン	授業内容に関係する課題
4.	文献研究の方法	授業内容に関係する課題
5.	情報収集や文献検索の方法1	授業内容に関係する課題
6.	情報収集や文献検索の方法2	授業内容に関係する課題
7.	実証的研究の方法論（量的な研究）	授業内容に関係する課題
8.	実証的研究の方法論（質的な研究、その他の研究）	授業内容に関係する課題
9.	研究計画の立て方	授業内容に関係する課題
10.	研究発表の方法	授業内容に関係する課題
11.	データ分析の方法1	授業内容に関係する課題
12.	データ分析の方法2	授業内容に関係する課題
13.	論文の書き方	授業内容に関係する課題
14.	研究倫理1	授業内容に関係する課題
15.	研究倫理2	授業内容に関係する課題

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加姿勢	30	到達目標①②の達成度を評価します。
課題	30	到達目標①②の達成度を評価します。
最終課題	40	到達目標③の達成度を評価します。

教科書:

参考書:
S.M. ロス,G.R. モリソン（訳　向後千春、清水克彦、余田義彦、鈴木克明）『教育工学を始めよう—研究テーマの選び方から論文の書き方まで』 北大路書房
APA アメリカ心理学会 『APA論文作成マニュアル』 医学書院
ダン・レメニイ 『社会科学系大学院生のための研究の進め方　修士・博士論文を書くまえに』 同文館出版
日本学術振興会 『科学の健全な発展のためにー誠実な科学者の心得ー』
山田剛史、林創 『大学生のためのリサーチリテラシー入門:研究のための8つの力』 ミネルヴァ書房
藤田真文、岡井崇之 『プロセスが見えるメディア分析入門—コンテンツから日常を問い直す』 世界思想社
福原俊一　『リサーチ・クエスチョンの作り方』 特定非営利活動法人 健康医療評価研究機構
山内繁 『エンジニアのための人を対象とする研究計画入門』 丸善出版
中嶌洋 『初学者のための質的研究26の教え』 医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール（yyoden@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

593100

メディア文化特殊演習E

影山　　貴彦

授業テーマ:　エンターテインメントとしてのマスメディア

授業の概要:　放送をベースに据えつつ、映画・広告・インターネット・出版あるいは新聞なども視野に入れながら、「今」を捉えたメディアエンターテインメント研究へのアプローチを試みる講義を予定している。

到達目標:　各人がメディアに関する興味ある題材を選び、それに対する造詣を深められることを目標とする。

授業方法:　講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	メディアに対して受講者が抱くイメージを膨らませておく
2.	個人発表からディスカッションへ移行(1)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
3.	個人発表からディスカッションへ移行(2)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
4.	個人発表からディスカッションへ移行(3)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
5.	個人発表からディスカッションへ移行(4)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
6.	個人発表からディスカッションへ移行(5)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
7.	個人発表からディスカッションへ移行(6)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
8.	個人発表からディスカッションへ移行(7)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
9.	個人発表からディスカッションへ移行(8)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
10.	個人発表からディスカッションへ移行(9)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
11.	個人発表からディスカッションへ移行(10)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
12.	個人発表からディスカッションへ移行(11)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
13.	個人発表からディスカッションへ移行(12)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
14.	個人発表からディスカッションへ移行(13)	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく
15.	総括	受講者各人がアンテナを張り巡らせ、メディアにおける問題提起をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業を通して全体に行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
個人発表	50%	3～4回担当する個人発表においてメディアへの造詣の深まりを評価の基準とする
積極的態度	50%	毎回発言を求めてゆく

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

593200

メディア文化発展演習E

影山　　貴彦

授業テーマ:　エンターテインメントとしてのマスメディア～笑いを軸として～

授業の概要:　放送をベースに据えつつ、映画・広告・インターネット・出版あるいは新聞なども視野に入れながら、「今」を捉えたメディアエンターテインメント研究の中でも、この講義においては「笑い」をキーワードとする。

到達目標:　各人がメディアに関する造詣を能動的に深めることを目標とする

授業方法:　講義と演習の併用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	メディアに対して持つ各人のイメージを膨らませておく
2.	個人発表およびディスカッション(1)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
3.	個人発表およびディスカッション(2)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
4.	個人発表およびディスカッション(3)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
5.	個人発表およびディスカッション(4)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
6.	個人発表およびディスカッション(5)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
7.	個人発表およびディスカッション(6)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
8.	個人発表およびディスカッション(7)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
9.	個人発表およびディスカッション(8)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
10.	個人発表およびディスカッション(9)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
11.	個人発表およびディスカッション(10)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
12.	個人発表およびディスカッション(11)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
13.	個人発表およびディスカッション(12)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
14.	個人発表およびディスカッション(13)	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく
15.	総括	発表につながる各人の興味あるメディアの要素に常にアンテナを張っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
個人発表	50%	メディアの造詣を深める結果をもたらしているかを評価の基準とする
積極的態度	50%	毎回必ず個人での発言を課す

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

593300

表現文化特殊演習E

川田　　隆雄

授業テーマ:　プロデュース学を研究するための発展研究　−社会構成主義的アプローチを学ぶ−

授業の概要:　社会学とともに、プロデュース学がよりどころとしているのが経営学である。プロデュース行為を成功させるためには、経営学の一分野である、組織論やリーダーシップ論などが重要になってくる。しかし経営学を取り巻く環境は急速に変化し、古典的な経営学はもはや現代社会とマッチしない状況も出てきている。そのような状況の中、プロデュース学が研究プロセスの中で重要な視点であると注目しているのが社会構成主義的アプローチである。社会構成主義は多様な分野にまたがる学際的テーマであるが、経営学の分野またプロデュース学の分野でプロデューサ型人材の成功へのプロセスを明らかにしていくことを可能とする視点である。社会構成主義には多様な学派が存在するが、この授業では、アメリカにおける社会構成主義の中心的理論家、ケネス・ガーゲンの著作をピックアップしプロデュース学と社会構成主義との関係を考察していく。

到達目標:　大学院生にとって必要なレベルの読解力、理解力を身につける。

授業方法:　課題図書の精読と講義を併用する。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション1	特になし
2.	イントロダクション2	特になし
3.	社旗構成主義の理解1	復習
4.	社旗構成主義の理解2	復習
5.	社旗構成主義の理解3	復習
6.	社旗構成主義の理解4	復習
7.	社旗構成主義の理解5	復習
8.	社旗構成主義の理解6	復習
9.	社旗構成主義の理解7	復習
10.	社旗構成主義の理解8	復習
11.	社旗構成主義の理解9	復習
12.	社旗構成主義の理解10	復習
13.	社旗構成主義の理解11	復習
14.	社旗構成主義の理解12	復習
15.	まとめとふりかえり	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で扱う内容が難解な部分があるので、復習が推奨される。

フィードバックの方法:　授業内で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席率と授業への参加度	80	出欠と授業への参加の様子
最終レポート	20	最終レポートにより評価

教科書:　適宜指定

参考書:　適宜指定

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業中のコンタクトを基本とする。

593400

表現文化発展演習E

川田　　隆雄

授業テーマ:　プロデュース学を研究するための発展研究　−社会学のアプローチを学ぶ−

授業の概要:　学部ではプロデューサー型人材の諸相について、実際のプロデューサーにインタビューを行い自らでデーターを収集しモデルを作成してきた。大学院においては、プロデュース行為の研究を科学的に行う方法論を身につけるため、プロデュース学が学問的アプローチの基礎としている社会学の研究の方法を学ぶ。最新の社会学の動向をピックアップして、プロデュース学を学ぶ者が社会学的視点を獲得することを目指す。特に、コミュニケーション系の社会学をベースに学ぶ。

到達目標:　大学院生にとって必要なレベルの読解力、理解力を身につける。

授業方法:　課題図書の精読と講義を併用する。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション1	特になし
2.	イントロダクション2	特になし
3.	コミュニケーションの社会学の理解1	復習
4.	コミュニケーションの社会学の理解2	復習
5.	コミュニケーションの社会学の理解3	復習
6.	コミュニケーションの社会学の理解4	復習
7.	コミュニケーションの社会学の理解5	復習
8.	コミュニケーションの社会学の理解6	復習
9.	コミュニケーションの社会学の理解7	復習
10.	コミュニケーションの社会学の理解8	復習
11.	コミュニケーションの社会学の理解9	復習
12.	コミュニケーションの社会学の理解10	復習
13.	コミュニケーションの社会学の理解11	復習
14.	コミュニケーションの社会学の理解12	復習
15.	まとめとふりかえり	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業で扱う内容が難解な部分もあるので、復習が推奨される。

フィードバックの方法:　授業内で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席率と授業への参加度	80	出欠と授業への参加の様子
最終レポート	20	最終レポートにより評価

教科書:　適宜指定

参考書:　適宜指定

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業中のコンタクトを基本とする。

593500

メディアリテラシー特論

小林　　直明

授業テーマ:　映像メディアの歴史と映像リテラシーワークショップの実際

授業の概要:　スマートフォンやソーシャルネットワーキングサービスが非常に身近な存在となった今日、情報コミュニケーションのあり方は劇的な様変わりを見せています。新聞や雑誌、ラジオ・テレビなど、いわゆるマスメディアが独占的な情報発信者であった時代の“One-to-Many”の関係性から、普通の人々が特定／不特定の人に対して互いに情報を発信しあうようになった時代の“Many-to-Many”のコミュニケーションへの変化です。これにともなってメディアリテラシーも、「マスコミのウソをどう見抜くか」といった情報の受信者であることを前提とするものから、発信者としてのより高度なリテラシーへと、要求される水準や重要度があがってきているといえるのではないでしょうか。この授業では、映像メディアを例にその歴史を紐解きつつ、リテラシー普及向上のための内外の取組についてふれていきます。また、デジタルストーテリングを例として、映像リテラシーワークショップを構想・運営していくうえでの手法等について学んでいきます。

到達目標:　①【知識・理解】メディの歴史（特に映像）およびそのリテラシーに関わる諸概念を説明できる。
②【表現・技能・能力】メディアリテラシーワークショップをデザインし、指導することができる。

授業方法:　講義と演習（実習的な内容も含む）を組み合わせて行います。授業進度にあわせて課題を出します。課題への取り組みを授業で発表してもらい、それを受けてディスカッションを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	メディアとメディアリテラシーについて考える／映像の歴史と映像リテラシーワークショップの実際（1）：映画以前の映像	
2.	メディアとメディアリテラシーについて考える／映像の歴史と映像リテラシーワークショップの実際（2）：映画の誕生	授業内容に関連した課題
3.	メディアとメディアリテラシーについて考える／映像の歴史と映像リテラシーワークショップの実際（3）：日本における黎明期の映画	授業内容に関連した課題
4.	メディアとメディアリテラシーについて考える／映像の歴史と映像リテラシーワークショップの実際（4）：映像ワークショップ・80年代チリの事例	授業内容に関連した課題
5.	メディアとメディアリテラシーについて考える／映像の歴史と映像リテラシーワークショップの実際（5）：映像ワークショップ・日本の事例研究（その1）	授業内容に関連した課題
6.	メディアとメディアリテラシーについて考える／映像の歴史と映像リテラシーワークショップの実際（6）：映像ワークショップ・日本の事例研究（その2）	授業内容に関連した課題
7.	メディアとメディアリテラシーについて考える／映像の歴史と映像リテラシーワークショップの実際（7）：まとめ	授業内容に関連した課題
8.	メディアリテラシーワークショップをデザインする／デジタルストーリーテリングを例として（1）デジタルストーリーテリングとは？	授業内容に関連した課題
9.	メディアリテラシーワークショップをデザインする／デジタルストーリーテリングを例として（2）：準備ステージ（ベストショットで自己紹介、写真組み合わせストーリー、持ちものがたり）	授業内容に関連した課題
10.	メディアリテラシーワークショップをデザインする／デジタルストーリーテリングを例として（3）：物語制作ステージ（お題ペタペタ、5コマ紙芝居）	授業内容に関連した課題
11.	メディアリテラシーワークショップをデザインする／デジタルストーリーテリングを例として（4）：映像制作ステージ（その1：絵コンテ制作、アンチ・ナレーション・ワークショップ）	授業内容に関連した課題
12.	メディアリテラシーワークショップをデザインする／デジタルストーリーテリングを例として（5）：映像制作ステージ（その2：ナレーション録音）	授業内容に関連した課題
13.	メディアリテラシーワークショップをデザインする／デジタルストーリーテリングを例として（6）：映像制作ステージ（その3：映像編集作業）	授業内容に関連した課題
14.	メディアリテラシーワークショップをデザインする／デジタルストーリーテリングを例として（7）：振り返りステージ（上映会、振り返り、映像の共有とネットワークづくり）	授業内容に関連した課題
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　各回の授業内容を細かく挙げていますが、受講者の興味関心によって内容を調整することがあります。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加姿勢	30	到達目標①の達成度を評価します。
課題の提出・発表	30	到達目標①の達成度を評価します。
最終課題	40	到達目標①③の達成度を評価します。

教科書:

参考書:　小川明子『デジタル・ストーリーテリング―声なき想いに物語を』リベルタ出版
長谷川一、村田麻里子 『大学生のためのメディアリテラシー・トレーニング』 三省堂
その他については、授業において各回の内容に関連する参考文献を紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力
教員との連絡方法:	Eメール（nkoba@idc.minpaku.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

593600

メディアコンテンツ特論

村木　　美紀

授業テーマ:　電子書籍の現状と展開

授業の概要:　本講義では、電子書籍の歴史的経緯を確認したのちに、電子書籍元年から今日までの電子書籍の現状を把握し、今後の展開について検証する。

到達目標:
1【知識・理解】電子書籍について理解し、わかりやすく説明できる。
2【関心・意欲・態度】問題提起やディスカッションへの積極的な参加ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力や研究に必要な技能を身に着ける。

授業方法:　講義，ディスカッション，プレゼンテーション等を総合的に用いる

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	電子書籍8年？	
2.	大手も撤退したこれまでの電子書籍	
3.	誰が電子書籍を愛読するのか	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
4.	無料の電子書籍：著作権フリー，作品発表の場，宣伝広報目的	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
5.	有料の電子書籍	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
6.	電子書籍だからできること	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
7.	電子書籍端末	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
8.	書デジとデジタル教科書	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
9.	電子図書館	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
10.	電子書籍の出版流通	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
11.	紙の本のゆくえ	授業時に指示する関連文献やwebサイトに目を通しておくこと
12.	電子書籍の展望	
13.	個人発表(1)	資料作成等発表の準備
14.	個人発表(2)	資料作成等発表の準備
15.	個人発表(3)	資料作成等発表の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講人数や受講者の興味・感心に応じて変更を加える場合がある

フィードバックの方法:　基本的に授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み姿勢	50	到達目標の1・2を中心に評価する
発表	25	到達目標の3を中心に評価する
レポート	25	到達目標の3を中心に評価する

教科書:　適宜指示する

参考書:　インプレス総合研究所編『電子書籍ビジネス調査報告書』（年刊）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール：mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

593700

文字メディア特論

森山　　由紀子

授業テーマ:　古今和歌集を読む

授業の概要:　意匠、商品名等にまで多大な影響を与え続けてきた『古今和歌集』を、自分たちの言葉で解読することを出発点として、和歌という詩形のレトリックについて学び、日本文化において「和歌」コンテンツが持つ様々な広がりを探究する。また、季節にあわせた歌を選ぶことよって、日本文化における四季折々の自然のモチーフについての理解を深める。

到達目標:
①和歌のしくみを知る（知識・理解）
②古今和歌集の歌の表象を読み解く（関心・理解・態度）

授業方法:　講義とディスカッションによって歌を一つずつ読み解いていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	古今和歌集についての概論	特に用意は必要ない
2.	秋上の歌を読む	マナビー上に指示する
3.	秋上の歌を読む	マナビー上に指示する
4.	秋下の歌を読む	マナビー上に指示する
5.	秋下の歌を読む	マナビー上に指示する
6.	物名の歌を読む	マナビー上に指示する
7.	恋の歌を読む	マナビー上に指示する
8.	恋の歌を読む	マナビー上に指示する
9.	冬の歌を読む	マナビー上に指示する
10.	冬の歌を読む	マナビー上に指示する
11.	雑の歌を読む	マナビー上に指示する
12.	雑の歌を読む	マナビー上に指示する
13.	春上の歌を読む	マナビー上に指示する
14.	春上の歌を読む	マナビー上に指示する
15.	離別の歌を読む	マナビー上に指示する

受講者へのメッセージやアドバイス:　予備知識はまったく必要ない。日本文学の根幹となって現代にも影響を与えている歌集とその言葉の世界を十分に味わうこと。また、受講期間中は常に関心のアンテナをはり、『古今和歌集』に関係すると思われる意匠等を見つけた場合には次回授業時に持ち寄ったり、授業支援システム「まなびー」にアップするなどして、共有すること。

フィードバックの方法:　授業中に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への貢献度	70%	資料や知識を適切に使い、授業時に共同で行う古今和歌集のテキストの読解に斬新で有益なアイデアを提供できたか。（知識・理解・関心・意欲・態度）
まとめの成果物の作成	30%	授業期間を通じて学んだ内容を各自の工夫した方法を用いて表現できたか。（表現・技能）

教科書:　『古今和歌集』全歌と、何らかの注釈が載っている本を各自選んで1冊用意すること（『古今和歌集』とあっても、抜粋の場合があるので注意）。

参考書:
小町谷照彦『古今和歌集』（ちくま学芸文庫）
渡部泰明『和歌のルール』（笠間書院）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール（アドレスは授業時に開示する）

593800

超域文化特論

関口　　英里

授業テーマ:

授業の概要:

ボーダーレス化する現代の国際社会と連動し、こんにちのメディア状況も急速に変転するとともに、メディアをめぐる問題の所在もグローバル化、超域化の様相を呈している。そうした動態的文化状況に即応しつつ総合的なメディア研究を実践するために、文化領域および学問分野や方法論における既存の枠組みを超えてさまざまな課題を的確にとらえ、連動する文化的諸相との相互関係からそのメカニズムを体系的に分析する。

到達目標:

本科目では各時代の社会や多様な属性を持つ文化集団の価 値観、言語や日常・非日常をめぐる文化記号システムといった要素やメディアをめぐる産業と消費、さらには異文化との接触にもとづく既存文化の変容など、総合的かつ動態的なメディア文化の探究を主要な課題とする。

授業方法:

実地の調査活動や文化比較分析、英語のみならず諸外国語の専門文献を中心とする高難度なメディア関係資料の読解により、多様化するメディアを立体的に読み解く分析力を養う。さらに関連領域の諸理論の運用によって、複雑化する文化のメカニズムの構造的な相関を独自の視点から探究する。調査研究活動におけるグローバルな受発信力を養うべく、受講者の自律的な調査分析、発表活動を重視しながら、高度な文化社会科学系メディア研究を実践してもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション	授業概要と必要予備知識の把握と習得
2.	学術研究技法総論(1)	指定課題文献の探査、購読①
3.	学術研究技法総論(2)	指定課題文献の探査、購読②
4.	主要関連分野の理論把握と修得(1)	主要関連分野の指定課題文献に基づく理論把握と事前学習①
5.	主要関連分野の理論把握と修得(2)	主要関連分野の指定課題文献に基づく理論把握と事前学習②
6.	諸外国の第一次文献を中心とした文献購読と発表(1)	欧米を中心とした指定外国語文献の購読に基づく発表準備①
7.	諸外国の第一次文献を中心とした文献購読と発表(2)	欧米を中心とした指定外国語文献の購読に基づく発表準備②
8.	研究技法および理論の実践にむけた発展演習(1)	これまでに修得した諸理論と研究技法の総合的把握、試論の構築およびプロポーザル①
9.	研究技法および理論の実践にむけた発展演習(2)	これまでに修得した諸理論と研究技法の総合的把握、試論の構築およびプロポーザル②
10.	超域文化分析試論:受講者による研究発表と討論(1)	分析技法および考察のための諸理論をふまえた事例研究発表の準備①
11.	超域文化分析試論:受講者による研究発表と討論(2)	分析技法および考察のための諸理論をふまえた事例研究発表の準備②
12.	超域文化分析試論:受講者による研究発表と討論(3)	分析技法および考察のための諸理論をふまえた事例研究発表の準備③
13.	学期末の研究成果検証(1)	各発表についての総合的・客観的評価とディスカッションの準備①
14.	学期末の研究成果検証(2)	各発表についての総合的・客観的評価とディスカッションの準備②
15.	全体の総括と展望	全体についての振り返り、質疑応答の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講者には毎回20-30頁程度の外国語文献(英語を中心に仏語、西語等欧州系言語の一次資料も含む)ならびに関連する高度な日本語文献を講読の上発表してもらう。その後、修得した講読文献の理論的知見および研究技法に基づき個人研究発表を実施する。その為、受講者には関連理論に関する基盤的な学術知見と高度な外国語運用能力の研鑽、ならびに精力的な課題遂行と円滑な授業運営を導く準備が必須である。

フィードバックの方法:

授業時および授業外に必要に応じて適切な方法で行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内活動	約30%	積極的かつ真摯な授業態度(出席、発表、討論等)
授業外活動	約30%	自律的かつ責任感のある授業時間外の取り組み
各種課題	約30%	随時指示するレポートその他のタスク遂行
その他の評価要素	約10%	授業内外の活動における特記事項。DWCLA10の達成度等

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業時に連絡。その他必要に応じて適宜指示する。

593900

ユーザインタフェース特論

和氣　　早苗

授業テーマ:

ユーザインタフェース設計についての知識を深める。具体的な機器についての、聴覚情報表示、視覚情報表示、インタラクション設計、あるいはそれらを実現するための基礎技術について論文および文献購読を通して学ぶ。

授業の概要:

現在までのところの標準的なユーザインタフェース(UI)は、ディスプレイによる視覚的情報表示とボタン選択型のUIであるが、今後はウェアラブル機器の増加や、ヒューマノイド型ロボット等の増加が必至である。ここでは視覚情報よりもむしろ、音、音声、対話等の聴覚情報(音)によるインタラクションが重要となってくることが予想される。AI技術の急速な発展も注目である。本科目ではこのような状況を視野に入れ、ユーザインタフェースのあり方について、まずは書籍講読、既存研究調査を通して知識を習得し、考察を行う。

到達目標:

最新のUI技術に関する知識を得る。
それらの社会への影響についての多面的な討議を通して、将来を予測する力を育成する。

授業方法:

論文、文献の購読、内容解説および討議を受講生および教員で実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	UIおよびそれに関する基礎技術についての文献調査	調査した文献の概要整理および選択
3.	UIおよびそれに関する基礎技術についての文献調査	調査した文献の概要整理および選択
4.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
5.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
6.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
7.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
8.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
9.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
10.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
11.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
12.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
13.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
14.	論文講読、輪講および討議	論文を事前に読んでくる。自分の発表担当の場合は説明資料の準備。
15.	技術動向についての振り返り	まとめレポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

必要に応じて教室でまとめての解説、個別の指導を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組みの姿勢	50	取り組みの姿勢を評価します。
プレゼンおよび課題の内容	50	内容の理解度を評価します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール(swake@dwc.doshisha.ac.jp), 授業の前後に教室内で対応

600460

被服製作実習A

食物未定1

授業テーマ:

授業の概要: 担当者未定につき、掲示により連絡するので確認すること。

到達目標:

授業方法:

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1.	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

教員との連絡方法:

600661～67

調理科学実習Ⅰ

村上　恵、橋本　多美子、久藤　麻子、松木　宏美、三浦　邦子

授業テーマ:　調理技術の基本を科学的に学ぶ

授業の概要:　実習を受講するにあたっての心得や身支度から計量、だしの取り方、クロロフィル、アントシアニンを含む野菜の取り扱い方などを習得しながら炊飯、汁物、和え物、酢の物、煮物、焼き物、揚げ物などの料理を仕上げる。また寒天、カラギーナン、ゼラチンについても学ぶ。
なお、管理栄養士専攻は1年次開講の調理科学、食物科学専攻は2年次開講の調理科学Ⅰ、Ⅱと共通の内容となる。

到達目標:
基本的調理法を各調理操作別に理解し、確実に調理操作ができる。
調理科学実験的な内容を実習で行うことにより、調理技術ならびに各食材の調理性を科学的に理解する。
安全性に留意した調理操作ができる。
おいしくかつ栄養的な料理のあり方を考える力を養う。
レポートをまとめることにより、料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解し、説得力をもって説明できる力を養う。

授業方法:
授業の展開は実習内容の説明・デモンストレーション・実習・試食・後片付け・レポート課題の説明の順で行う。
実習は班に分かれて行う。1班5～6名で構成される。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・調理における計量と廃棄率 3講時;調理実習室の使用方法および実習についての説明 4講時;調理における計量と廃棄率の実習についての説明 5講時;実習、後片づけ、実習結果のまとめ、レポートの書き方の説明	掲示板を確認し、必要な持ち物などもれなく準備をしておくこと。
2.	第2回　野菜のゆで方(1)クロロフィルの実験、えんどう御飯、味噌汁、ほうれん草の胡麻和え 3講時;野菜のゆで方(クロロフィルの実験)、野菜の切り方、米の洗い方・炊き方、煮干しだしの取り方などについての説明 4講時;デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
3.	第3回　だしの取り方、しそご飯、かき玉汁、鰺の煮付け 3講時;だしの取り方、魚の調理などについての説明 4講時;デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
4.	第4回　白飯、吸物、炊き合わせ、漬け物、抹茶水羊羹 3講時;煮物、寒天の調理性などについての説明 4講時;デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
5.	第5回　炊き込みご飯、焼き物、酢の物、Fruits jelly 3講時;焼き物、酢の物、魚の三枚卸し、カラギーナンの調理性についての説明 4講時;デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
6.	第6回　野菜のゆで方(2)アントシアニンの実験、白飯、茶碗蒸し、茄子の煮物、揚げ茄子の田楽 3講時;アントシアニン実験、蒸し調理、茄子の調理性などについての説明 4講時;デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
7.	第7回　白飯、青椒牛肉絲、涼拌三絲(涼拌粉絲)、ジャスミンティゼリー 3講時;青椒牛肉絲、涼拌三絲の調理法、炒め調理、ゼラチンの調理性についての説明 4講時;デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
8.	第8回　まとめ	これまで配布されたプリントの見直しと返却されたレポートを読み返しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実習は全て出席することが原則。遅刻、早退、欠席およびレポート未提出には厳正に対処する。

フィードバックの方法:　提出されたレポートは、評価を行い、できる限り次の回に返却する。レポートはコメントがついている場合と教室でまとめて解説する場合がある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席、貢献度および実習態度	50	実習は全て出席することが原則。出席した上で、積極的に実習に参加し、到達目標である調理技術の向上と科学的根拠の理解、衛生管理ができるようになったかを評価する。遅刻、早退、欠席には厳正に対処する。
レポートおよび試験	50	到達目標である料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解した上で、それぞれの評価についてどの程度独自の視点があるか、また説得力を持って説明できるかを基準とする。

教科書:
本学独自の実習プリント
下村道子・和田淑子編著「新調理学」(光生館)

	「食品成分表」注：日本食品標準成分表2015（七訂）をデータベースとした図書（女子栄養大出版部） 「調理のためのベーシックデータ」（女子栄養大出版部）
参考書：	山崎清子ほか編著「新版　調理と理論」（同文書院） 安藤真美ほか著「たのしい調理－基礎と実習－第5版」（医歯薬出版） 松崎政三ほか編著「映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス」（学際企画）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力
教員との連絡方法：	実習の前後に教室内で対応（あるいはオフィスアワー）

600761～67

調理科学実習Ⅱ

村上　恵、橋本　多美子、久藤　麻子、松木　宏美、三浦　邦子

授業テーマ:
調理技術を科学的に学ぶほか，西洋料理や日本の行事食を通して食文化について学ぶ

授業の概要:
西洋料理の基礎、各種ソース（フレンチドレッシング、マヨネーズソース、ベシャメルソース、エスパニョールソース、カラメルソースなど）の習得からケーキ、クッキーなどのデザート類、さらに、行事食である正月料理、寿司などの実習を行う。なお、管理栄養士専攻は1年次開講の調理科学、食物科学専攻は2年次開講の調理科学Ⅰ、Ⅱと共通の内容となる。

到達目標:
調理科学実習Iに引き続き、
基本的調理法を各調理操作別に理解し、確実に調理操作ができる。
用いる多種多様の調理素材について、それらの調理性を科学的に理解する力を養う。
西洋料理（ソースを中心）の基本を学び、調理技術を向上させる。
和食の調理技術を向上させる。
日本の行事食を知り、伝統食について理解し、伝承していく力を養う。

授業方法:
授業の展開は実習内容の説明・デモンストレーション・実習・試食・後片付け・レポート課題の説明の順で行う。
実習は班に分かれて行う。1班5～6名で構成される。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1回　Fried fish、Salade de fruits de mer、French dressing、Pomme de terre l'anglaise 3講時；揚げ物調理、鰯の手開き、いかのさばき方などについて説明 4講時；デモンストレーションと実習 5講時；盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	掲示板を確認し、必要な持ち物などもれなく準備をしておくこと。
2.	第2回　Macaroni au gratin、Salad in season、Mayonnaise sauce、Custard pudding 3講時；ホワイトルウ、ドレッシング、オーブン調理などについての説明 4講時；デモンストレーションと実習 5講時；盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
3.	第3回　Consomme brunoise、Poulet a la romaine、Garniture、Cookies 3講時；ブラウンルウ、ホワイトルウ、ブイヨンの取り方などついての説明 4講時；デモンストレーションと実習 5講時；盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
4.	第4回　Strawberry short cake、Salade de fruits、Tea 3講時；卵・小麦粉の調理性、果物の扱い方、紅茶のいれ方などについての説明 4講時；デモンストレーションと実習 5講時；盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
5.	第5回　正月料理 3講時；正月料理についての説明 4講時；デモンストレーションと実習 5講時；盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
6.	第6回　ちらし寿司、巻き寿司、吸い物、白玉団子 3講時；お寿司についての説明 4講時；デモンストレーションと実習 5講時；盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
7.	第7回　Choux a la creme、Coffee 3講時；シューの調理、カスタードクリーム、コーヒーのいれ方についての説明 4講時；デモンストレーションと実習 5講時；盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片づけ	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
8.	第8回　まとめ	これまで配布されたプリントの見直しと返却されたレポートを読み返しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
実習は全て出席することが原則。遅刻、早退、欠席およびレポート未提出には厳正に対処する。

フィードバックの方法:
提出されたレポートは、評価を行い、できる限り次の回に返却する。レポートはコメントがついている場合と教室でまとめて解説する場合がある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席、貢献度および実習態度	50	実習は全て出席することが原則。出席した上で、積極的に実習に参加し、到達目標である調理技術の向上と科学的根拠の理解、衛生管理ができるようになったかを評価する。遅刻、早退、欠席には厳正に対処する。
レポートおよび試験	50	到達目標である料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解した上で、それぞれの評価についてどの程度独自の視点があるか、また説得力を持って説明できるかを基準とする。

教科書:
本学独自の実習プリント
下村道子・和田淑子編著「新調理学」（光生館）
「食品成分表」注：日本食品標準成分表2015（七訂）をデータベースとした図書（女子栄養大出版部）
「調理のためのベーシックデータ」（女子栄養大出版部）

参考書:
山崎清子ほか編著「新版　調理と理論」（同文書院）
安藤真美ほか著「たのしい調理－基礎と実習－第5版」（医歯薬出版）

	松崎政三ほか編著「映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス」（学際企画）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力
教員との連絡方法：	実習の前後に教室内で対応（あるいはオフィスアワー）

600860

家庭機械および電気

関根　　文太郎

授業テーマ:　身の回りにおける機械・電気・情報の理解

授業の概要:　わたしたちの生活は、多くのモノと情報に支えられている。家庭にある機器類は、電気、機械、情報などの技術が、独自にあるいは複合されて、さまざまな形で取り入れられている。そこで、電気、機械、情報について、原理やしくみをもとに、それらが複合された家庭機器について解説する。その中で、環境問題やエネルギー問題も取り上げ、生活の場における、家庭電気機器等の安全な使用法、保守と管理についても解説する。

到達目標:
1. 家庭における各種家庭電気機械の構成要素である、機械と電気について講義を行い、両者の複合例である、身近な電気機器類の原理と構造を理解できる。
2.「機械」に関しては、機械材料や機械要素・機構を、「電気」に関しては、電気の原理やしくみなどの基礎知識をそれぞれ理解できる。さらに、情報処理を含めた簡単な制御システムについて理解できる。
3. 家庭における各種家庭電気機械に関し、環境問題やエネルギー問題も含めて総合的に考え、家庭電気機器等の安全な使用法、保守と管理について理解できる。
4. 1から3の知識を活用して、思考する力を身につける。

授業方法:　講義を主とするが、演習も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概要（人間と電気・機械との関わり）	単位に関する基礎的理解。
2.	家庭のエネルギー（ ガス、電気等のエネルギーについて ）	家庭のエネルギーに関する基礎知識。
3.	家庭における電気機器の利用（家庭生活と電気機器等全般について）	家庭の電気機器に関する規格の基礎知識。
4.	家庭電気機器の材料（金属、プラスチック、複合材料について）	材料に関する基礎知識。
5.	機械基礎　(1)（ ネジ、ボルト、バネ等機械部品について ）	機械要素に関する基礎知識。
6.	機械基礎　(2)（機構・構造について ）	機械の機構に関する基礎知識。
7.	電気基礎　(1)（発電、送電、電池について ）	発電･送電に関する基礎知識。
8.	電気基礎　(2)（モーター、発電機について）	モーター･発電機の基礎的理解。
9.	エレクトロニクス（電子）（ 通信、真空管、半導体素子等について）	電気記号に関する基礎知識。
10.	情報処理を含めた制御システム（マイクロコンピュータ等情報機器について）	コンピュータに関する基礎知識。
11.	家庭電気機器 (1)（住生活関係における電気機器について）	電気機器（掃除機等）に関する基礎知識。
12.	家庭電気機器 (2)（食生活関係における電気機器について）	電気機器（調理等）に関する基礎知識。
13.	家庭電気機器 (3)（衣生活関係における電気機器について）	電気機器（衣料）に関する基礎知識。
14.	各種電気機器のまとめ （家庭用電気機器の総括）	家庭用電気機器全体の基礎知識
15.	まとめ	家庭における機械および電気の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　配布資料や、授業の終わりに行う演習問題については、理解しておくこと。

フィードバックの方法:　演習問題は添削して翌週、教室で解説するとともに返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	70	到達目標にある機械および電気に関する理解度を評価する。
講義中に行う演習	10	当日の講義内容に関する理解度を評価する。
授業における意欲、態度	20	当日の講義内容に対する態度・意欲を評価する。

教科書:　授業内容に応じ資料プリントを配布する。

参考書:　新家庭機械・電気（医歯薬出版（株））
家庭機械・電気・電子（理工学社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメール（sekine@kyokyo-u.ac.jp）または授業前後に教室内で対応

600961、62

情報処理Ⅰ

吉野　　章

授業テーマ:　コンピュータとインターネットを活用する能力を身につける

授業の概要:　実際にパソコンを使いながら、パソコンのしくみ、キーボード操作、日本語入力、描画・画像編集、ワープロ、表計算の初歩的な操作方法を学びます。また、ネットワークのしくみと安全な利用方法について学びます。

到達目標:
(1)パソコンやインターネットで何ができるのか、どんな利用がされているのかについて知ります。
(2)パソコンやインターネットを安全に利用するための基礎知識を身につけます。
(3)自学でパソコンやインターネッの活用能力を高めていくための基礎を身につけます。

授業方法:　教科書に沿った講義と実習を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要と受講における注意点、大学のコンピュータとネットワークの利用方法について説明しま	教科書の準備
2.	コンピュータを使う時の姿勢や使用環境、基本用語、Windowsの基本操作について解説します。	教科書の予習 宿題:パソコン用語集の作成 ドリル問題
3.	テキストエディタを使って、テキストデータの入力と保存、ファイル形式、文字コードについて学習します。	教科書の予習 ドリル問題
4.	ブランインドタッチの練習ソフトを使って、タッチタイピングの練習をします。 各キーの働きや使い方、ショートカットキーについて学習します。	教科書の予習 ドリル問題
5.	日本語入力の練習をします。日本語入力のためのソフトウエアIMEの設定について説明します。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習
6.	World Wide Webのしくみと利用、電子メールのしくみと利用について学習します。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習
7.	描画ソフト「ペイント」とプレゼンテーションソフト「パワーポイント」の描画機能を使って、ラスタ画像とベクトル画像を描き、描画方法と画像の違いについて知ります。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習
8.	現在使われている描画のためのソフトウエア、画像データのファイル形式について学びます。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習
9.	ファイルの保存先である補助記憶装置、ファイルの移動やコピー、フォルダを使った整理、ファイルパス、ショートカットの利用について学びます。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習
10.	ワープロソフト「ワード」の基本的な利用法について学びます。	教科書の予習 ドリル問題 ブラインドタッチの練習 Proself内にフォルダを作成し、ファイル整理する
11.	「ワード」の実践的な利用として、ワードを使ったチラシづくりとパソコン用語集の作成を行います。	教科書の「ワード」の操作方法のチュートリアルを行う 宿題:ワードの基本操作の練習ファイルを完成させる
12.	表計算ソフト「エクセル」の基本的な利用方法について学びます。	ワード宿題の提出 第2講とその回の宿題として作成したパソコン用語集のファイル
13.	表計算ソフト「エクセル」の実践的な利用として、家計簿の入力と集計、グラフ作成を行います。	宿題:エクセルの基本操作の練習ファイルを完成させる
14.	デジタルとは何か、ビットとバイト、文字コード、色の表現について学びます。	教科書と講義資料の予習
15.	講義・実習を通して学んだ知識と操作方法について、学習成果の確認を行います。	講義・実習を通して学んだ知識と操作方法についての復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　パソコンについての事前の知識は必要としません。まったくの初歩から解説します。

フィードバックの方法:　質問については、直接あるいはメール等で適宜受け付けます。また、毎回、出席確認とともに、授業の感想・意見を提出してもらい、授業の内容や方法の見直しを行っています。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
タッチタイピング	10	100字/分以上、誤打率5%以内の入力ができること
基本用語	30	授業内で行う小テストの結果
基本操作	50	宿題の提出と小テストの結果
授業への積極的参加度	10	11回以上出席した上で、授業中の態度と毎回の感想を評価

教科書:　奥村 晴彦・森本 尚之「改訂第3版 ver.2　基礎からわかる情報リテラシー」技術評論社，2017年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　メール

600963

情報処理Ⅰ

岡本　　久仁子

授業テーマ:　コンピュータ・リテラシー　アカデミック・ライティング

授業の概要:　情報化社会においてコンピュータを使うことは必要不可欠である。この講義では、インターネットやワープロソフトを使って、情報のコミュニケーション技術の習得を目標とする。
具体的には、インターネットを使った情報検索、電子メールによる情報伝達、ワープロを使った文章技術の習得などを行う。

到達目標:
・タイピングがストレスなくできる
・インターネットで情報を検索することができる
・電子メールにより情報を伝達することができる
・情報をまとめ文書として発信することができる

授業方法:　講義・演習・課題で進める。資料およびデータファイルは授業中に配布。また、毎回タイピング練習および10分間入力を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　Windowsの基本操作	自分のPC環境について調べておく
2.	日本語入力　タッチタイピング練習	タイピングの練習をする
3.	ファイル操作	講義で使用するソフトについて、その種類を把握する
4.	インターネット　情報検索	ブラウザの種類を把握し、インターネットサービスについて調べる
5.	電子メール	DWCLA・Webメールにログオンしてみる
6.	Word1　基本操作　ページ設定	日本語入力について確認しておく
7.	Word2　ビジネス文書の基礎知識	ビジネス文書の種類を調べる
8.	Word3　表の作成	身近にあるさまざまな表をチェックする
9.	Word4　図形描画	インターネットで画像検索を試みる
10.	Word5　レポート演習（表紙・脚注など）	図の取り扱いについて復習しておく
11.	Word6　レポート演習（目次など）	文書の表示形式について確認しておく
12.	総合練習1　Web評価	インターネットで情報検索について復習しておく
13.	総合練習2　Web比較	複数の同テーマのサイトについて相違点を見てみる
14.	総合練習3　最終課題レポート作成	レポートの形式について復習しておく
15.	総合練習4　最終課題レポート作成	今まで学んだことを見直しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　各回のテーマに沿った課題が毎時間課せられるが、授業時間内にできなかった場合は欠席した時は資料やプリントを参考に解答し提出すること。
タイピングは基本なので、各自練習すること。

フィードバックの方法:　授業内課題（提出物）については、課題ごとに教室でまとめて解説後、不備があった場合は個別に指摘、指導。
最終課題は採点して返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
タイピング	10%	入力文字数とその伸び率
授業内課題	40%	各回の課題の提出
最終課題	50%	技術的な内容と文章から評価

教科書:　プリントを配布

参考書:　30時間でマスター「Office2016」実教出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール　kokamoto@dwc.doshisha.ac.jp

600964～67

情報処理Ⅰ

山本　　寿、羽原　　由修

授業テーマ:　情報とコンピュータ —全般的な知識・理解と基礎技能の向上—

授業の概要:　第I部　ファイルとコンピュータ、第II部　ネットワーク、第III部　バイナリファイルの3部構成からなり、情報の単位やコンピュータの基本的な構成（ハードウェアとソフトウェア）から始まって、様々な種類のファイルの作成やそれらのOS（MS-Windows）上での管理、さらにネットワークの仕組みや実際のアプリケーションの操作説明や演習（キー入力テストを含む）を行なう。できるだけ広く一般的な内容を扱い、「情報処理Ⅱ」へ進むための前段階と位置づける。

到達目標:　コンピュータの初歩的な操作経験（キー入力、マウス操作、MS-Windows やワープロソフトウェアの基本操作、情報倫理）を終えた学生が、コンピュータとネットワーク全般の知識を系統的に身につけ、種々の基本操作技術を習得することを目指す。

授業方法:　食物栄養科学科の共通教科書（山本作成）に基づいた講義が中心で、パソコンやネットワークによる演習も行う。原則として、定期試験以外の全ての授業を情報処理教室で実施する。第II部の中で、第I部の内容についての技能試験を行う。宿題も適宜与え、提出を求める。キー入力能力のテストも毎月一回程度のペースで実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業目標や進め方、本学のコンピュータ環境を説明する。ビットやバイトなど情報の単位、外部メディア（USB メモリ）の抜き差しについて説明する。	教科書、USBメモリを用意し、ユーザID と初期パスワードを確認する。教科書 0.1「本書について」と第1 章1.1.2節まで読み、問題を1.5 まで解く。
2.	様々なファイル、テキストとバイナリの違いを説明し、キー入力能力を確認する。	キー入力練習（Keyboard Master）で入力速度50（文字/分）以上、誤打率6% 以内をクリアする。
3.	ハードウェアの構成と個々のデバイスについて説明し、テキストファイルの作成を演習する。	教科書第2章「ハードウェアの構成とテキストファイルの作成」を読む。
4.	ソフトウェアの種類と階層構造を概説し、テキストの編集技術を教える。	教科書第3章「ソフトウェアの階層構造とテキストファイルの編集」を読む。
5.	ドライブとフォルダによるファイルの管理について概説する。	教科書第4章「ファイルとフォルダ（ディレクトリ）」を読む。
6.	エクスプローラを使った MS-Windows でのフォルダ作成やファイル管理を説明し、演習する。	教科書第5章「MS-Windows におけるフォルダー操作とファイル管理」を読む。
7.	LANとインターネットなどネットワーク全般について概説する。	教科書第6章「コンピュータ・ネットワーク とインターネット」を読む。
8.	E-mail とWWWの仕組みを概説し、E-mail の送受信や WWW での情報検索と保存について演習する。	教科書第7章「インターネット上のメッセージ伝達と情報検索：E-mail と WWW」を読む。
9.	DOS, UNIX 上でのコマンドによるファイル操作を説明し、演習する。	教科書第8章「DOS, UNIX上のコマンド操作とインターネット上のファイル転送：FTP」を読む。
10.	インターネット上でのファイルのアップ・ダウンロードを演習する。	教科書第8章「DOS, UNIX上のコマンド操作とインターネット上のファイル転送：FTP」を読む。
11.	ピクセルと色の RGB16進法表現を説明し、ビットマップ・ファイルの作成やファイル容量の認識について演習する。	教科書第9章「画像ファイル」を読む。
12.	ワープロ文書ファイルの作成、PDF、Word の基本機能、フォントの選択などについて説明し、演習する。	教科書第10章「ワード・プロセッシング」を読む。
13.	MS-Word での数式挿入、文書形式と保存、文字列編集、印刷、表作成、罫線、計算などについて説明し、演習する。	教科書第11章「Word の実践」を読む。
14.	MS-PowerPoint によるスライド作成を説明し、演習する。	教科書第12章「スライド・プレゼンテーション」を読む。
15.	MS-Excel を紹介し、その基本操作（セル選択とデータ入力）について説明、演習する。	教科書第13章「スプレッドシート」を読む。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業開始までに、必ず学内のPCにログインし、キー入力練習（入力速度50文字/分以上、誤打率6% 以内）をしておいてください。

フィードバックの方法:　宿題に対して事後に解説し、評価結果の詳細を掲示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	授業中に説明を聞き、指定された演習を PC で実行できる。
PC技能	18%	毎月1回のキー入力テストの正打数/min の平均値と技能テストで評価された第I部の内容に関する技能を合算する。
定期試験	45%	情報処理全般の知識の定着度を筆記試験で評価する。
宿題	17%	教科書各章末の宿題に対してメールや印刷物で提出されたものを通して、情報処理の理解度とスキルの到達度を評価する。

教科書:　『情報処理Ⅰ　Computers & Files 2017 Autumn』（同女生協で販売予定）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で、あるいは電子メール。

601061、62

情報処理Ⅱ

吉野　　章

授業テーマ:　アンケート調査を題材とした文書作成・集計・プレゼンテーション

授業の概要:　情報処理Iでは、パソコンや情報処理技術を広く学んだはずですが、情報処理IIでは、そのうちのワープロ、表計算、プレゼンテーションの3つに絞って、それらを実際に勉強や仕事に活かせるようになるまで、細かく解説していきます。
例題として、アンケート調査をとりあげます。具体的には、以下の作業となります。
1. ワープロソフトを使って回答しやすい調査票を作成する
2. 表計算ソフトを使って調査結果の集計と解析を行う
3. ワープロソフトを使って読みやすい調査報告書を作成する
4. プレゼンテーションソフトを使って調査報告書の内容をわかりやすく発表する

到達目標:　アンケート調査の実施は、社会科学系の学生にとって必須の技術です。そのほかの学生にとっても、仮説の設定と実証という卒業研究にも役立つ基本的なプロセスです。さらに、パソコンを利用するための基本的で汎用的な技術をひととおり要求され、卒業後、仕事にも役立つものです。単にパソコンの操作方法を受け身で学ぶのではなく、自ら設定したテーマで、考え、工夫しながら、現代の情報処理技術の利用方法を知る、これが本講の目標です。

授業方法:　受講者には、各自で「〇〇の人には××の人が多い」という形で仮説を考えてもらい、実際にアンケート調査を行い、その結果を分析してもらいます。授業は、そのために必要な手順を説明するという形で進めていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	解題:社会調査とは何か、なぜ必要か、何がわかるのか、について解説します。	受講を迷っている場合も、初回は必ず出席してください。
2.	調査計画:過去の仮説なども紹介しながら「〇〇の人には××の人が多い」という形の仮説を立てます。 誰にどのくらいの数の調査をしたらよいか、について解説します。	「〇〇の人には××の人が多い」という形で仮説を考えてくる。
3.	調査票の作成:調査票作成における留意点を解説します。受講生は、自ら立てた仮説を実証できるような調査票をワープロソフトを使って作成します。	コメントに従って、仮説を具体的なものに修正し、質問項目を考える。
4.	アンケートの実施方法について解説します。 収集したデータをエクセルに入力する方法を練習します。	自分で考えた仮説を、コメントに従って修正し、完成させる 宿題:エクセルの基本操作の復習
5.	エクセルに入力したアンケートのデータを集計する方法について学びます。	自分の調査票を作成し、アンケートを実施する
6.	エクセルを使ってクロス集計を行う方法について学びます。	自分のアンケート調査結果の回収、エクセルに入力する
7.	エクセルを使って、データを読み替えたり変換することによって柔軟な集計を可能にする方法を学びます。	自分のアンケート調査結果の回収、エクセルに入力する
8.	エクセルを使って、集計結果をグラフ化する方法を学びます。	自分のアンケート調査結果を集計してみる
9.	ワードによる調査報告書の書き方について学びます。	宿題:ワードの基本操作の復習
10.	ワードによる調査報告書にグラフを張り付ける方法について学びます。	自分の調査結果を報告書にまとめる作業にとりかかる
11.	ワードによる調査報告書に表を挿入する方法について学びます。	自分の調査報告書の作成
12.	パワーポイントの基本について学びます。	自分の調査報告書を完成させる
13.	パワーポイントを使って、調査結果を説明するプレゼン資料を作成する方法を学びます。	自分の調査についてプレゼン資料の作成にとりかかる
14.	パワーポイントによる調査結果のプレゼン資料にグラフと表を挿入し、アニメーションの設定する方法について学びます。	自分の調査についてのプレゼン資料を作成する
15.	見やすくて効果的な報告書の作成方法について解説し、各自作成した調査報告書とプレゼン資料の改善する方法について考えます。	自分の調査報告書とプレゼン資料を完成させ、提出する

受講者へのメッセージやアドバイス:　自分で仮説を考えて、自分でアンケートをして、集計して、その結果を人に伝えるという体験をしてみます。授業では、ステップごとにアドバイスしながら、作業に必要な技術を一つずつ教えていきます。

フィードバックの方法:　仮説の設定や調査票の作成は、授業支援システム(マナビー)の掲示板等を使って、双方向で行います。課題を仕上げる上での質問は、授業時間およびメール等で随時受け付けます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30%	11回以上の出席
宿題	20%	2回提出とその内容
課題	50%	操作の正確さ(Word、Excel、PowerPoint)、課題の理解、がんばり、仮説または結果の面白さ

教科書:　無し

参考書:　無し

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　メール

601063

情報処理Ⅱ

岡本　　久仁子

授業テーマ:　表計算とプレゼンテーション

授業の概要:　情報処理Ⅰで学んだことを踏まえ、表計算ソフトを使って数値データを分析し、わかりやすく表現し、伝達するための技術を学ぶ。また、プレゼンテーションソフトを使って、効果的な口頭発表の方法を学ぶ。

到達目標:
・タイピングが正確に素早くできる
・Excelで関数を使って数値データを分析できる
・Excelで作成したグラフを使ってレポートを作成できる
・PowerPointを使ってプレゼンテーションができる

授業方法:　入力練習・説明・実習で行う。各回に課題を作成して提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	表計算ソフトとは データ入力と表の作成	表計算ソフトで何ができるのか調べておく
2.	四則演算　合計と平均	配布された資料を読んでおく
3.	さまざまな関数	配布された資料を読んでおく
4.	順位と絶対参照	配布された資料を読んでおく
5.	IF関数による条件判定	配布された資料を読んでおく
6.	IF関数の応用	配布された資料を読んでおく
7.	グラフ作成	配布された資料を読んでおく
8.	インターネットからのデータベース検索	ネット上のデータベースについて、どんなものがあるか、調べておく
9.	ExcelとWordの連携	Officeソフトの連携について調べておく
10.	Excelのまとめ	学んだことを見直しておく
11.	PowerPointとは 基本的な操作（1）	パワーポイントで何ができるか調べておく
12.	基本的な操作（2）	配布された資料を読んでおく
13.	課題作成（1）	発表の資料を集めストーリーを考えておく
14.	課題作成（2）	作成したファイルを仕上げておく
15.	発表と評価	発表の準備とリハーサルをしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　使用するPCの環境を調べ、バージョンの違いなどによる互換などについて把握しておくこと。
各回のテーマに沿った課題が毎時間課せられるが、授業時間内にできなかった場合や欠席した時は、資料やプリントを参考に解答し提出すること。

フィードバックの方法:　授業内課題（提出物）については、課題ごとに教室でまとめて解説後、不備があった場合は個別に指摘、指導。
Excel課題については採点して返却。
PowerPoint課題については、発表を小グループで相互評価したものを各自まとめるが、それに関して全体的にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
タイピング	10%	入力文字数とその伸び率
授業内課題	30%	各回の課題の提出
Excel課題	30%	技術的な内容とレポート内容から評価
PowerPoint課題	30%	技術的な内容と作品から評価

教科書:　プリントを配布

参考書:　「30時間でマスターOffice2016」実教出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール　kokamoto@dwc.doshisha.ac.jp

601064～67 **情報処理Ⅱ**

山本　　寿、羽原　　由修

授業テーマ:　（食物栄養分野への応用を含む）表計算とデータ解析の技能習得、マークアップ言語プログラミング

授業の概要:　まず、MS-Excel（以下、Excel と表記）の標準操作（表作成・計算、グラフ化）を身につける。次に、食物栄養分野で得られる実験データに対する数学的、統計的解析（細菌の増殖データの対数変換と線形回帰分析、動物実験データの比較検定）を Excel で実践する。最後に、「情報処理Ⅰ、Ⅱ」の総決算として、2種のマークアップ言語を使った HP作成（HTML）と印刷文書作成（LaTeX）を演習し、一般プログラミングの概念やプロセスを擬似的に理解させる。

到達目標:　表計算とデータ解析、マークアップ言語プログラミングに関する知識と技術および食物栄養科学科の専門学習に生かせる応用力を獲得する。

授業方法:　食物栄養科学科の共通テキスト（山本作成）を使い、情報処理教室での講義とパソコンによる演習が中心である。データ分析に必要な数学や統計的側面について補足講義を行う。情報処理Ⅰに比べ、演習の比重が高い。宿題も適宜与え、提出を求める。第Ⅳ部内では章間の連結性が高く、特に Excel の宿題は翌週の授業へ進むために必要なものを含む。第Ⅳ部終了後に Excel の技能試験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Excel の基本操作（セル選択とデータ入力）を復習した後、データ操作（書式設定とシート上の編集）を説明し、演習する。	情報処理Iの教科書第13章「スプレッドシート」を読んで復習する。本科目の教科書第Ⅳ部第14章「データ操作と合計計算」の前半を読む。
2.	Excel の基本操作として合計計算を練習し、その演習として、「朝食の栄養計算モデル」表を作成する。数式作成やセル参照の基本を説明・演習する。	教科書第14章「データ操作と合計計算」の後半を読む。
3.	「成分表を使った朝食の栄養計算」の事例を通して絶対参照と相対参照の違い（混合参照）を理解させ、文字列や数式のコピー操作を使って効率よく栄養計算表を完成させる。	教科書第15 章「Excel の操作：数式」の後半と第16 章「Excel の操作：関数とグラフ」の前半を読む。
4.	Excel でのグラフ作成法を説明・演習する。栄養計算結果を Excel でグラフ化し、グラフのデータソースを操作する。	教科書第16 章「Excel の操作：関数とグラフ」の後半と第17 章「Excel の操作：グラフのカスタマイズ」の前半を読む。
5.	前回作成したグラフの各要素をカスタマイズ（書式設定）し、グラフを完成させる。	教科書第17 章「Excel の操作：グラフのカスタマイズ」の後半を読む。
6.	Excel で「細菌の増殖データ」を分析するための準備として、菌数―時間データの表と散布図グラフを作成する。	第18章「Excel によるデータ分析：対数散布図グラフと線形回帰直線」の18.1節「散布図グラフ」までを読む。
7.	Excel の対数（LOG）関数を使って、菌数―時間データを線形化し、散布図グラフを作成する。	「食物学のための数学と物理」あるいは教科書付録Aの「細菌の増殖」と「指数・対数関数」を予復習する。第18章「Excel によるデータ分析：対数散布図グラフと線形回帰直線」の18.2節「対数変換によるデータ系列の線形化」を読む。
8.	最小2乗法に基づく線形回帰分析法を概説した後、線形化された菌数―時間データ系列に近似直線として回帰直線を追加し、平均世代時間を求める。	基礎統計学の「相関係数」を復習する。第18章「Excel によるデータ分析：対数散布図グラフと線形回帰直線」の18.3節「細菌の増殖の線形回帰分析」をを読む。
9.	Excel で「動物実験データ」を比較分析するための準備として、ラットの解剖（タブ区切りテキスト）データを FTPサーバから取得し、Excel に取り込み、各ラット群の基礎統計量として平均値と標準偏差を Excel の関数で求め、表を完成させる。	情報処理Ⅰのデータ転送（FTP）と基礎統計学の「平均」と「標準偏差」を復習する。第19 章「Excel によるデータ分析：平均と標準偏差」の19.2節「データの基礎統計分析」までを読む。
10.	平均値を棒グラフで表示させ、誤差範囲（標準偏差）を挿入する。2群の平均値間の有意差検定に備えて、その概要を解説する。	基礎統計学の「統計的仮説検定：2つの平均値の差の検定」を復習する。第20 章「Excel：統計的検定・データの並べ換え・動的貼り付け・印刷」の20.1 節を読む。
11.	2つのラット群の特性値分布の分散（F検定）および平均値（t検定）間の有意差検定を説明し、Excel で実践する。	第20 章「Excel：統計的検定・データの並べ換え・動的貼り付け・印刷」の 20.1 節と 20.2 節を熟読する。
12.	動物実験データを使って、Excel におけるデータの並べ換えと動的貼り付けを演習する。Excel 上での表やグラフの印刷法を説明する。	第20 章「Excel：統計的検定・データの並べ換え・動的貼り付け・印刷」の20.3節以降を読む。
13.	第Ⅳ部の内容（Excel）に関する技能テストを実施する。第Ⅴ部の第一段階として、プログラミングとマークアップ言語の概要を説明する。	第Ⅳ部全体を復習し、教科書付録B「Excel 技能課題」を解き、Excel の技能テストに備える。第Ⅴ部第21 章「プログラミングとマークアップ言語」を読む。
14.	HP作成用マークアップ言語である HTML を使って HP「にんにく風味カルボナーラの調理」のソースを編集し、ブラウザで出力する。見出し・表・箇条書き作成、図とリンク、背景と文字の色調整などを演習する。	教科書第22 章「HTML によるマークアップ」を読む。
15.	印刷文書用マークアップ言語である LaTeX を使って「にんにく風味カルボナーラの調理」の TeX ソースを編集し、コンパイルして出力する。見出し、表、箇条書き、図、参照などを演習する。	教科書第23 章「TeX によるマークアップ」を読む。

受講者へのメッセージやアドバイス:　この科目は情報処理居Ⅰの後継科目ですが、より実践的で演習中心に授業が進行します。情報処理I、数学、統計学の知識・技能を獲得しているだけでなく、各回の予習（教科書を読む）と毎回の宿題も含めた実践的な復習が必須です。これらの授業外学習に基づいた本科目の履修により、非常に高い教育効果を得るでしょう。

フィードバックの方法:　宿題に対して事後に解説し、評価結果の詳細を掲示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	授業中に説明を聞き、指定された演習を PC で実行できる。
PC技能	22%	毎月1回のキー入力テストの正打数/min の平均値と Excel 技能テストの採点結果により、キー入力能力とExcel の実践能力を評価する。
定期試験	38%	筆記試験を通して、表計算とデータ解析、マークアップ言語についての知識の定着度を評価する。
宿題	20%	教科書各章末の宿題に対してメール（ファイル添付）や印刷物で提出されたものを通して、表計算とデータ解析、マークアップ言語の実践的能力を評価する。

教科書:　『情報処理Ⅱ　Using Computers in the Life Sciences and Beyond　2017 Spring』（同女生協で販売予定）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で、あるいは電子メール。

601260

保育学実習

村瀬　　学

授業テーマ:　幼稚園での保育実習

授業の概要:　幼稚園で、乳幼児の保育実習体験をする。

到達目標:　実習を通して、乳幼児の発達の理解と、保育施設の理解を深め、保育・幼児教育に関わるものとしての必要な知識、技能、態度を身につける。

授業方法:　保育実習施設での２日間の実習指導を受ける

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション①　実習園について理解を深める	幼稚園の概要を調べる。関連法規、保育所指針などを調べる
2.	オリエンテーション②　幼児教育に求められるものを学ぶ	実習生の心構え、幼稚園の年間行事など調べる。保育記録のつけ方を学ぶ。
3.	事前指導　保育と遊び①	乳幼児の発達の即した遊びを調べる。
4.	事前指導　保育と遊び②	乳幼児の発達の即した遊びを調べる。
5.	事前指導　保育と遊び③	乳幼児の発達の即した遊びを調べる。
6.	幼稚園での実習①	実習一日目。
7.	幼稚園での実習②　２日間の実習	実習二日目。
8.	実習報告書　実習簿の記入、提出	実習の振り返り。実習で学んだことの整理。
9.	反省会、レポートの作成、発表。	実習の振り返り。実習で学んだことの整理。
10.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
11.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
12.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
13.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
14.	反省会と討論。	今後の教育者としての自覚につなげるための議論をする。
15.	実習全体のまとめ。	全体のまとめをレポートにする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　たくさん幼児向けの絵本を読み、歌などを覚えておく。ダンゴムシなどに触れるようにしておく。

フィードバックの方法:　実習の様子を訪問して確認し、実習先の先生のアドバイスを学生に伝える。実習簿を通して反省会で議論する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習園からの評価	65	実習園の評価にもとずく。
実習簿	15	丁寧に観察、実践の記録が書けているか。
提出物	10	その他、幼児の遊びの補助遊具の作成と提出。
出席、欠席	10	厳しく減点する

教科書:　そのつど指示する。

参考書:　そのつど指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力　すべての獲得が必要とされる。

教員との連絡方法:　メールでのやりとりを基礎とする。

601361

インターンシップⅡ

奥田　紫乃、宮本　義信、齋藤　朱未

授業テーマ:

実習先によって以下の個別テーマを持つ。
A:商品開発につながる研究業務体験
B:模型製作・ディスプレイデザイン会社における制作業務体験
C:人と機械をつなぐものづくり現場における各種業務体験
D:農業・流通・食の現場における各種業務体験

授業の概要:

A～Cのいずれかの実習先で指導を受けながら実習する。
実習スケジュールは、A～Dのいずれにおいても以下を予定している。
①事前指導―学科におけるオリエンテーション、キャリア支援部によるオリエンテーション
②実地実習―夏季休暇中(8月～9月の12日間〔原則、月～金の2週間〕)
③事後指導―学科におけるインターンシップ報告会、キャリア支援部による事後指導
なお、実習生の選考方法については、別途掲示により周知する。

到達目標:

A:本インターンシップでは「パナソニック株式会社エコソリューションズ社ライティング事業グループ」で担当者の指導を受けながら、研究・開発等の業務活動に参加する。機能性や快適性の向上を目指した照明ソフトの開発に関連する取り組みを通じて、電機メーカーにおける研究業務に対する理解を深める。
B:本インターンシップでは「株式会社さんけい」で担当者の指導を受けながら、模型製作業務に従事する。当該株式会社は、博物館展示のための古建築模型製作を中心に、ミュージアムグッズの企画、展示室・ショールーム等のディスプレイ設計・施工等の業務を展開しており、高度な模型製作技術は全国的に評価が高い。ものづくりの現場を体験し、模型製作技術を習得するとともに、建物の造りや仕組みについての理解を深める。
C:本インターンシップでは「IDEC株式会社」で担当者の指導を受けながら、社内で実施されている業務活動に参加する。「ものづくりの現場をより安全で快適な環境に」、「くらしのシーンをより豊かに」をモットーに、制御機器の開発やシステム構築、環境・エネルギーや農業ソリューション等を多岐に渡って取り組んでいる企業で実習に参加することにより、制御機器メーカーにおける各種業務に対する理解を深め、学内での講義や実習を社会での実践に活用する手法を学ぶ。
D:本インターンシップでは京都八百一本館において担当者の指導を受けながら、株式会社セントラルフルーツが実施している業務活動に参加する。京都八百一本館は「農業・流通・食」の循環の仕組み作りを実践する場であり、実習に参加することにより、農業・流通・食の3事業における各種業務に対する理解を深め、学内での講義や実習を社会での実践に活用する手法を学ぶ。

授業方法:

4月に説明会を実施、5月に教員によって実習希望者を面接し、成績なども考慮の上、総合的に選考する。実習先毎に、担当教員および実習現場の担当者の指導の下で実施計画に沿って研修する。事前・事後指導は、教員およびキャリア支援部により、学内で実習生合同で行われる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	A:パナソニック株式会社エコソリューションズ社ライティング事業グループ(受入可能人数:2名) ・実習内容に関しては、説明会にて詳細を紹介する予定。	実地実習に必要な基礎知識・技術の獲得に努めること。
2.	B:株式会社さんけい(受入可能人数:2名) ・実習内容に関しては、説明会にて詳細を紹介する予定。	実地実習に必要な基礎知識・技術の獲得に努めること。
3.	C:IDEC株式会社(受入可能人数:2名) ・実習内容に関しては、説明会にて詳細を紹介する予定。	実地実習に必要な基礎知識・技術の獲得に努めること。
4.	D:株式会社セントラルフルーツ(受入可能人数:3名) ・実習内容に関しては、説明会にて詳細を紹介する予定。	実地実習に必要な基礎知識・技術の獲得に努めること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前指導では担当教員の指導の下、実習先の業務研究および実習に必要な知識の復習など、入念に準備する。実習期間中、実習簿に必要事項を毎日記載し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、担当教員による指導を受ける。

フィードバックの方法:

提出物はコメントを付け返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的参加度	30%	事前・事後指導を含めた出欠状況
実習簿	30%	担当教員が実習簿を基に総合評価
報告会	20%	事後に開催される報告会での報告・質疑応答
実習状況	20%	実習先巡回時の評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

担当教員が連絡方法等を個別に指示する。

601362 **インターンシップⅡ**

村上　恵、川﨑　祐子、真部　真里子、山本　寿、米田　祐子、杉浦　実

授業テーマ:

食物科学の専門性を生かしたインターンシップ。実習先によって以下の個別テーマを持つ。
A. 商品開発につながる研究業務体験、B. クッキングスクール運営業務体験、C. 酒造会社における品質管理・商品開発業務体験、D. 総合酒類食品企業における研究開発業務体験、E.麺製造会社における業務体験

授業の概要:

A～E いずれかの実習先で担当者の指導を受けながら、以下の実習を行う。
A. 研究所内で実施されている研究・開発・消費者啓発活動に参加する(江崎グリコ株式会社・健康科学研究所)。
B. クッキングスクールのインストラクター業務やその運営業務を体験する(ラ・キャリエール クッキングスクール)。
C. 酒造会社で飲料の製造工程における品質管理、商品開発などを体験する(梅乃宿酒造株式会社)。
D. 総合酒類食品企業での研究開発と品質・衛生管理を体験する(サントリーグローバルイノベーションセンター株式会社・水科学研究所)
E.麺製造会社における業務体験(株式会社三輪山本)
なお、下記「授業内容」のうち、「事前・事後指導(学内)」は食物栄養科学科での合同オリエンテーションと合同報告会、およびキャリアサポートセンターによる事前・事後指導を指す。また、実習先での内容は全て過去の実績に基づいた予定であり、実習先の都合によって変更や募集そのものの中止もありうる。実施年度における実際の現場実習内容は、学科の合同オリエンテーションの中で実習先別に説明される。

到達目標:

食品会社における基礎研究や商品企画・開発・評価など、食物科学専攻に特化した内容のインターンシップ研修を行うことで、本専攻での専門的学習を深め、広げるとともに、現場での就業体験によって社会人、企業人としての資質を育てる。
実習経験を通して、食品会社における研究業務に対する理解を深め、学内での講義や実験実習が社会での実践につながることを学ぶ (A)。また、商品企画・開発の流れ、ネーミングやパッケージング、商品コンセプト作り、クッキングスクール運営など、学内の授業だけでは得られない実践的学びを積む (B～D)。売店やお食事処の受付業務、厨房業務を手伝う中でお食事処メニューを提案などの体験を通じて学内での講義や実験実習では得られない食品製造会社での実践的学びを重ねる。(E)

授業方法:

受講人数は A. 1名、B. 1名、C. 1名、D. 2名、E. 2名。4月に説明会を実施、4月末～5月に食物科学専攻教員によって実習希望者を面接し、成績なども考慮の上、総合的に選考する。実習先毎に、その担当教員および実習現場の担当者の指導下で実施計画に沿って研修する。事前・事後指導は、食物科学専攻担当教員およびキャリア支援部により、学内で実習生合同で行なわれる。合同報告会は専攻内で公開され、実習生が司会進行を務める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	A. (1) 事前指導(学内) (2) 実習(指導者:江崎グリコ社内担当者、場所:江崎グリコ健康科学研究所) 実習1日目:オリエンテーション 実習2～11日目:商品開発、研究補助、栄養指導補助等 インターンシップ期間中に健康科学研究所で実施されている研究・開発業務を体験する。 実習2～11日目の適切な日に教員が巡回 (3) 事後指導(学内)	応募に当たって、4月に開催予定の募集説明会に出席する。事前・事後指導で必要な書類等を不備なく作成し、期限内に提出する。実習中、毎日実習簿に必要事項を記入し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、学内実習担当者による指導を受ける。
2.	B. (1) 事前指導(学内) (2) 実習(指導者:大和学園, ラ・キャリエールクッキングスクール担当者、場所:ラ・キャリエールクッキングスクール) 実習1, 2日目:オリエンテーション・集合研修 実習3～5日目:スクール運営業務体験 実習6～8日目:インストラクター業務補助体験 実習9～10日目:実習内容発表会・総括 実習期間の適切な日に教員が巡回 (3) 事後指導(学内)	応募に当たって、4月に開催予定の募集説明会に出席する。事前・事後指導で必要な書類等を不備なく作成し、期限内に提出する。実習中、毎日実習簿に必要事項を記入し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、学内実習担当者による指導を受ける。
3.	C. (1) 事前指導(学内) (2) 実習(指導者:梅の宿社内担当者、場所:梅の宿) 実習1日目:オリエンテーション、製造工場見学 実習2, 3日目:製品成分の分析実習、微生物に関する衛生実習 実習4～10日目:製造工程における品質管理、商品開発等のプレゼンテーション 実習期間の適切な日に教員が巡回 (3) 事後指導(学内)	応募に当たって、4月に開催予定の募集説明会に出席する。事前・事後指導で必要な書類等を不備なく作成し、期限内に提出する。実習中、毎日実習簿に必要事項を記入し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、学内実習担当者による指導を受ける。
4.	D. (1) 事前指導(学内) (2) 実習(指導者:水科学研究所社内担当者、場所:水科学研究所) 実習1日目:オリエンテーション、研究所見学 実習2～4日目:水の官能評価 実習5, 6日目:国産ミネラルウォーターの化学分析、成分マッピングと水の新価値提案 実習7日目:発表会とまとめ 実習期間の適切な日に教員が巡回 (3) 事後指導(学内)	応募に当たって、4月に開催予定の募集説明会に出席する。事前・事後指導で必要な書類等を不備なく作成し、期限内に提出する。実習中、毎日実習簿に必要事項を記入し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、学内実習担当者による指導を受ける。
5.	E. (1) 事前指導(学内) (2) 実習(指導者:三輪山本社内担当者、場所:株式会社三輪山本本社) 事前調査課題:2時間 デパート等で調査実施:4時間 実習1日目:手延べそうめん全般の研修、商品製作の流れの説明、市場調査課題発表など 実習2～3日目:売店・お食事処受付業務 実習4～5日目:厨房業務、お食事処メニュー提案 実習期間の適切な日に教員が巡回 (3) 事後指導(学内)	応募に当たって、4月に開催予定の募集説明会に出席する。事前・事後指導で必要な書類等を不備なく作成し、期限内に提出する。実習中、毎日実習簿に必要事項を記入し、遅滞なく提出する。実習後に開催される合同報告会に向けてスライドを作成し、学内実習担当者による指導を受ける。

受講者への メッセージや アドバイス:	受講のための選考がありますが、興味のある人は積極的に応募してください。この科目履修は社会（食品企業）への実践的参加を伴い、通常の学内授業とは全く異なる形態で行われます。実習生に選ばれた人は事前指導の内容を十分に理解し、実習の目的意識と同志社女子大生としての責任感を持って実習に臨み、事後指導も含め、最後まで積極的に参加してください。得られるものは非常に大きく、貴重な経験となるでしょう。
フィードバックの 方法:	事前指導以降、各実習先担当教員が実習生からの提出物や報告内容に対して個別に対応する。合同報告会では参加者から質疑応答を受け、また参加者の感想文を後日実習生に回覧することで、プレゼンテーションした実習内容が相手にうまく伝わったかどうかを確認する。最終的に実習簿を返却する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的参加度	25%	事前・事後指導（学内）および実習期間中の出欠席状況
実習成績報告書	25%	実習先が判断する事項別および総合評価の評点合計
実習状況	25%	担当教員が実習簿を基に実習状況を総合評価する。
合同報告会	25%	事後に開催されるS専攻インターンシップⅡ合同報告会での報告・質疑応答・運営協力姿勢に対して、出席担当教員全員の合議で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される 基礎的・汎用的能 力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡 方法:	事前指導以降、担当教員と研究室その他学内で直接連絡、あるいは E-mail で連絡。

601461、62

生物の基礎

藤井　　恒

授業テーマ:　生物学の基礎学力をつける。

授業の概要:　高校生物の内容からスタートして、専門科目の授業についていけるようにします。扱う内容は、生物の体をつくる物質、酵素の働き、細胞の構造と働き、細胞分裂の過程としくみ、生殖・発生と遺伝子の働き、動物のホメオスタシス（恒常性）です。

到達目標:　大学受験で生物を学んでいない学生を対象としていますので、生物の基礎学力をつけることを目標としています。

授業方法:　パワーポイントを使用し、適宜、質疑応答をします。授業の最初に毎回10分程度、小テストを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業についての説明 科学的方法 生物の特性	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 序章、1章
2.	生物の体をつくる物質とその働き　1 生元素、無機物	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 2章2－3
3.	生物の体をつくる物質とその働き　2 有機物	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 2章3
4.	細胞の構造と働き1	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 2章4-5
5.	細胞の構造と働き2	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 2章4-5
6.	細胞分裂	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第7章2
7.	生殖	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 7章2、8章1
8.	発生	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 8章2-5
9.	ATPと酵素の働き	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 4章1、3
10.	遺伝子の働き1	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 3章1-2、7章1
11.	遺伝子の働き2	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 3章3-4
12.	細胞間の情報伝達	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 5章、6章
13.	人のからだ1	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 9章
14.	人のからだ2	基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 10章
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業の最初に行う小テストは、前回の授業の復習テストですので、遅刻しないようにしてください。

フィードバックの方法:　小テストの解答、解説等は、授業中に行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	毎回の授業で行う小テストの内容が理解できているかを確認する試験を行いますので、小テストを受けて、よく復習をしておいてください。

教科書:
和田　勝／著　髙田耕司／編集協力
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学　第3版
羊土社
3,200円＋税 2015/11/27 発行 B5判 334ページ ISBN 978-4-7581-2065-4

参考書:
吉里勝利ほか
スクエア最新図説生物neo
第一学習社
925円

藤井　恒
高校の生物が根本からわかる本 細胞・代謝・発生・遺伝編（社会人・大学生のための理数系再入門テキスト）
中経出版
1,600円＋税

栃内 新・左巻 健男（編著）
新しい高校生物の教科書―現代人のための高校理科（ブルーバックス）
講談社
1,200円＋税

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業前または授業後に教室で対応します。

601561、62

化学の基礎

伊東　　徳人

授業テーマ:

授業の概要:

本講義は高校にて化学を修得しなかった新入生を主な対象として化学の全くの初歩からわかり易く解説する事で化学的基礎知識を確実に自分のものとして吸収し活用出来るように努める。
物質を構成する原子の構造、物質中の原子や分子、イオンの結びつき、物質量の取り扱い、溶液の性質、酸と塩基、酸化と還元など専門科目の理解・習得に必要な項目を中心に学習する。また、実験系実習科目等で必要とされる濃度の計算について学習する。

到達目標:

（1） 物質を構成する原子と分子の構造を理解する。
（2） 実験実習等で使用されるmolの定義を理解し、濃度計算ができる。
（3） 溶液の性質、pH、酸・塩基,中和滴定、酸化還元などを理解する。

授業方法:

講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 有効数字について	
2.	原子と分子とイオンについて 元素の周期表と原子の電子配置	
3.	様々な化学結合と極性、分子間力 電気陰性度とイオン化エネルギー 電子軌道	当日、配布したプリントの復習
4.	原子量、分子量（式量）について molの概念について 化学反応式と量的反応について	当日、配布したプリントの復習
5.	濃度（質量パーセント濃度・モル濃度） 密度（比重）の概念	当日、配布したプリントの復習
6.	濃度換算 ～　質量パーセント濃度⇔モル濃度　～	当日、配布したプリントの復習
7.	小テスト アレニウス酸と塩基について 酸・塩基の強弱と電離度（α）	
8.	ルイス酸・塩基について pHの概念と溶液のpHについて	当日、配布したプリントの復習
9.	ルイス酸・塩基の応用	当日、配布したプリントの復習
10.	様々な塩の種類について	
11.	中和反応と塩について 中和滴定について	
12.	中和反応と塩について 中和滴定について	当日、配布したプリントの復習
13.	酸化と還元について 酸化剤と還元剤について	当日、配布したプリントの復習
14.	規定度について 緩衝液について	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テストの質問等は教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業の参加・態度	10	出席カードに確認問題を解き、その出来具合に応じて出席点を付与する。
小テスト	20	
期末試験	70	

教科書:

参考書:

豊田正武・田島眞（編）『食物・栄養系のための基礎化学』 丸善（株） 出版事業部

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

nito@dwc.doshisha.ac.jp

610260

児童学

村瀬　　学

授業テーマ:　子どもの多様な姿を追求する。

授業の概要:　乳児、幼児、少年、青年と変化する「児童」の成長を、ただ個人の発達の相において見るだけではなく、「歴史の中に現れてきた子ども」「文化の中に現れてきた子ども」「社会政策の中に現れてきた子ども」「法の中の子ども」「映画の中の子ども」など、できるだけ多方面から取り上げ理解を深める。

到達目標:
① 固定化してみている子ども像を打ち破る。
② 自分の子ども時代を見なおす。
③ 子どもも創造者であることを知る。
④ そして知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法:　講義の形式。パワポや映像は毎回使う。しかし、一方通行にならないよう、毎回感想をメールで送ってもらい、それを次の週に指名は伏せて全員の分をプリントして配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	子どもとは何か。「となりのトトロ」を通して、新しい見方を提示する。	調べもののやり方の説明。
2.	4歳児の力とは何か。はじめてのおつかいの分析。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
3.	歌と子ども。わらべ唄、唱歌、童謡、アニメソングの歴史を知る。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
4.	絵本の魅力。絵本から何を学ぶのか。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
5.	親子とは何か。児童虐待について考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
6.	小学生とは何か。算数や理科を学ぶことの意味を考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
7.	少年期を越えるとき。10歳の壁について考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
8.	13歳問題を考える。大人への通過儀礼のあり方について考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
9.	青春と歌。自分を表現するものとしての歌について考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
10.	コルチャック先生と児童の権利条約を考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
11.	少年法の問題を考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
12.	子どもと動物物語を考える。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
13.	宮崎駿のアニメの世界を考える。 その①	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
14.	宮崎駿のアニメの世界を考える。 その②	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
15.	成人年齢を考える。	授業の全体を振り返り、レポートに向けての要点を説明する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　子どもの先入観をすてて子どもを見る努力をする。

フィードバックの方法:　授業が一方通行にならないよう、毎回感想をメールで送ってもらい、質問や疑問にはコメントをつけ、それを次の週に指名は伏せて全員の分をプリントして配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートの提出	60	授業の意図をよく汲んでレポートを書いているかどうか。
メールでの感想の提出	30	自分で、疑問を持ち、課題を調べようとしているかどうか。
出席、欠席	10	厳しく採点する。授業の三分の一の欠席があれば不可とする。

教科書:　随時、指示する。

参考書:　随時、指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールでのやりとり。

610360

住生活学

奥田　　紫乃

授業テーマ:　安全性・機能性・快適性の各側面から適切な住宅選択ができる力を養う

授業の概要:　住居学全般にわたる基礎事項について学ぶ。なお、本科目は教職課程の「家庭」教科に関する必修科目である。

到達目標:　nLDKの成立について理解し、これからの住生活を快適にするための手法について考える力を身につける。

授業方法:　スライドによる講義、ビデオ等による空間の理解とディスカッション、住生活調査など

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	住まいの目的、住要求と住意識	具体的な住要求から、自身のもつ住意識について考える
2.	起居様式、食寝分離と就寝分離	自宅での生活行為と起居様式を書き出し、気づいたことをまとめる
3.	ダイニングキッチンの成立	自宅キッチンのワークトライアングルを測定し、調理作業のしやすさとの関係を考察する
4.	公私室分離、nLDK型平面プラン	自宅のLDK空間について、その構成と使い方をまとめる
5.	住空間の理解（グループワーク）	ディスカッション内容をグループごとにまとめて考察する
6.	LDK空間 課題発表	様々な発表内容から、LDK空間の在り方について再考する
7.	子ども室の成立と機能	これからの子ども室の在り方について考える
8.	高齢者の住生活	高齢者の暮らしに関する資料を収集する
9.	安全／安心の住まい	自宅の安全性について確かめる
10.	住まいの環境	自宅の照明、換気設備の設置状況について見直し、考察する
11.	住生活調査−グループワーク	グループごとにテーマに基づき、調査項目を考える
12.	住生活調査−調査実施	調査結果をまとめる
13.	近代住宅の変遷	住生活調査結果を分析し、プレゼンテーションの資料を作成する
14.	住生活調査−発表会	調査結果、分析方法、発表内容を見直す
15.	まとめ	これまでの学びをまとめ、これからの住生活に適したプランを考える

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題の提出は課題用紙にて実施し、最終授業で返却します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	15	
課題	15	課題提出状況、提出物の内容により評価 グループ課題ではグループメンバーは同一評価点となります
試験	70	

教科書:　私たちの住居学　サスティナブル社会の住まいと暮らし、理工学社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　マナビー

610560

食生活学

真部　　真里子

授業テーマ:

授業の概要:
健康は日常の食生活と深い関わりを持っている。そのため、私たち一人一人が食について正しい知識を身につけることが不可欠である。栄養学・食品学・食品衛生学などの基本をみにつけ、氾濫する食に関する情報から適切な情報を選択し、自身の健康に役立てることのできる判断力を身につけることを望む。

到達目標:
・自分の食生活に関心をもつ。
・食品を安全に取り扱う方法を理解する。
・健康な日常生活をおくるために必要は栄養学と食品学の基礎を身につける。
・日々の生活の中にある日本の食文化について関心をもつ。

授業方法:
講義形式（一部グループ学習も実施する。）
なお、授業開始時に、指名する受講者2名に、食に関する一言報告（1-3分程度）をお願いする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食物とは 食品の安全性－食中毒とその予防1	教科書の「食中毒」に関して記載の箇所を読んでおく。
2.	食品の安全性－食中毒とその予防2	食中毒に関する課題シートを完成させる。
3.	食品の安全性と表示－農薬、食品添加物、アレルギー他	食中毒予防に関する課題シートを完成させる。 教科書の「食品の表示」「食品添加物」に関して記載の箇所を読んでおく。
4.	健康的な食生活－食事摂取基準	食品の安全性と表示に関する課題シートを完成させる。 教科書の「食事摂取基準」に関して記載の箇所を読んでおく。
5.	健康的な食生活－食品群・食事バランスガイド	食事記録シートを完成させる。 教科書の「食品群」「食事バランスガイド」に関して記載の箇所を読んでおく。
6.	栄養素とその機能－炭水化物・脂質	教科書の「栄養素」「炭水化物」「脂質」に関して記載の箇所を読んでおく。
7.	栄養素とその機能－たんぱく質・ミネラル1	教科書の「たんぱく質」に関して記載の箇所を読んでおく。
8.	栄養素とその機能－ミネラル2	教科書の「無機質」に関して記載の箇所を読んでおく。
9.	栄養素とその機能－ビタミン・食物繊維	教科書の「ビタミン」「食物繊維（通常、炭水化物の項に併記）」に関して記載の箇所を読んでおく。
10.	健康的な食生活－咀嚼	教科書の「生活習慣病」に関して記載の箇所を読んでおく
11.	食の体調調節機能－概説	消費者庁のHPにある「健康や栄養に関する表示の制度」「機能性表示食品に関する情報」を読んでおく。
12.	食の体調調節機能－特定保健用食品	消費者庁のHPにある「健康や栄養に関する表示の制度」「機能性表示食品に関する情報」を読んでおく。
13.	食と年中行事	正月料理に関するレポートを完成させる。
14.	食と京都	全講義内容の復習を開始する。
15.	まとめ	全講義内容を復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
出席カードの自由記述欄には、その日の講義に関する感想、意見を必ず記載してください。また、授業内容にかかわらず、食に関する質問があれば、自由に記載してください。

フィードバックの方法:
提出物の中で知識の整理に役に立つものは、原則、添削して授業中に返却する。出席カードに書かれた質問については、できるだけ次回以降の授業中に回答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物（レポート）	20	食に関する基礎知識の理解度、食生活への関心度を評価する。
授業への参加度	20	出席カードの自由記述欄のコメントを含めて、食生活に関する関心度を評価する。
定期試験	60	食に関する基礎知識の習得度を評価する。

教科書:
石井克枝（監修）『新カラーチャート食品成分表』教育図書

参考書:
適宜資料を配布する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
オフィスアワーならびに授業前後に教室内で対応

610660

衣生活学

平光　　睦子

授業テーマ:　生活のなかの衣服

授業の概要:　「生活のなかの衣服」をテーマに、わたしたちの衣生活を文化的・歴史的な視点と科学的な視点から考えます。健康的で豊かな衣生活を営むための基本的な知識を学ぶとともに、衣生活についての見識を広め理解を深めることを目指します。なお、この科目は教職課程の「家庭」教科に関する科目です。

到達目標:
①衣服の時代性や地域性に関する基本的な知識を身につける
②衣服の素材や性能に関する基本的な知識を身につける
③衣服に関する知識を自身の生活に結びつけて理解し、豊かで快適な衣生活について考えることができる

授業方法:　テキストをもちいて講義形式で行います。適宜、体験的な要素をとりいれながら進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	衣服と人間　ーひとはなぜ装うのか	テキストpp.1～3
2.	衣服の起源と類型	テキストpp.3～13
3.	気候風土と装い	テキストpp.46～48
4.	民族と衣服	テキストpp.48～56
5.	西洋の衣生活の変遷①　古代・中世	テキストpp.14～20
6.	西洋の衣生活の変遷②　近世	テキストpp.20～25
7.	西洋の衣生活の変遷③　近現代	テキストpp.25～31
8.	まとめ	
9.	衣服の素材①　繊維	テキストpp.57～61
10.	衣服の素材②　糸・布	テキストpp.61～64
11.	衣服の素材③　布の性能	テキストpp64～68
12.	衣服の品質と管理	テキストpp.117～121,pp.121～124,pp103～116
13.	衣服の手入れ	テキストpp125～134
14.	衣服の廃棄とリサイクル	テキストpp.135～139
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　マナビーの小テストをとおして講義及びテキストの理解度をはかります。
小レポートや提出物は、採点またはコメントを記して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	授業へ積極的に参加し、到達目標①～③に関する理解度を評価します
小レポート等	10	到達目標③の観点から、レポートや作業における視点や姿勢を評価します
試験	50	おもに、到達目標①②について評価します

教科書:　佐々井啓、大塚美智子編著『衣生活学』 朝倉書店

参考書:
岡田宣子編著『ビジュアル衣生活』建帛社
山口庸子、生野晴美編著 『新版　衣生活論　持続可能な消費に向けて』 アイ・ケイ　コーポレーション
酒井豊子、藤原康晴 編著 『ファッションと生活―現代衣生活論（放送大学教材）』放送大学教育振興会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　マナビーの掲示板機能

613960

経済と環境

齋藤　　朱未

授業テーマ:　農山村地域での生活とは

授業の概要:　限界集落，過疎化，少子高齢化など，マイナスな言葉ばかりが並ぶ農山村の現状を理解する。そのうえで，農山村の地域経済や地域環境，そして地域社会の仕組みについて学ぶ。

到達目標:　農山村地域におけるくらしとそこでの経済活動について理解する

授業方法:　スライドを用いた講義形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくこと。
2.	村落空間と山村の現状	授業内容を復習しておく。
3.	むらの変化	授業内容を復習しておく。
4.	変化する農村の家・家族・世帯	授業内容を復習しておく。
5.	むらと資源	授業内容を復習しておく。
6.	資源管理利用の今とこれから	授業内容を復習しておく。
7.	開発と環境	授業内容を復習しておく。
8.	過疎地域における集落再編	授業内容を復習しておく。
9.	農村女性・高齢者	授業内容を復習しておく。
10.	海外の村落実態	授業内容を復習しておく。
11.	農村自治とむらづくり	授業内容を復習しておく。
12.	農の担い手・農村女性起業	授業内容を復習しておく。
13.	アグロ・フードシステム	授業内容を復習しておく。
14.	新しい農村住民	授業内容を復習しておく。
15.	まとめ	授業内容を整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　環境に応じた生活スタイル，生業のかたちがあることを認識し，それらに関心をもち，理解しようという気持ちを持って受講することを望む。

フィードバックの方法:　レポートはマナビー上で提出確認を行う。毎回のミニレポートについては授業時に回収し，コメントをつけて次回授業までに返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び課題提出	30	積極的に授業に参加し，授業について理解しようとしているかを評価する。
定期試験	70	授業内容について理解しているかを評価する。

教科書:

参考書:　鳥越 皓之「むらの社会を研究する」日本村落研究学会
福与徳文「地域社会の機能と再生」日本経済評論社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，Eメール，マナビー掲示板機能を利用

614160

環境生態学

小川　　沙有里

授業テーマ:　生態系の循環構造の現在・未来を公害史から考える。

授業の概要:　生態系の循環構造が私たち人間の社会生活とどのように結びついているのかについて、理解を深める。生態系とその外側にある地下資源にどうかかわるかによって、人間は生態系を豊かにすることも、逆に破壊することもできる。日本には、明治期に始まる足尾銅山鉱毒事件、現在進行中のアスベスト公害、福島原発事故による放射能汚染など破壊の例が多いが、江戸時代に始まる植林にみられるような環境改善の努力もみられる。本講義ではこうした歴史や現在の事例にふれながら、破壊と改善の両面を学び、今後の私たちが豊饒な環境を享受しうる方向はどのようなものであるかを検討する。

到達目標:　各回で取り上げる公害に関するトピックを、わたしたちの暮らしと照らし合わせながら、生態系の循環構造という視野から理解する。

授業方法:　原則として講義形式で行う。ただし、受講者の人数や理解力に応じて当該テーマに関するリサーチペーパーの作成や討論を求める場合がある。各回、授業内容に関わる視聴覚資料を活用する。適宜、資料を配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義概要	関連文献の準備（授業内容に即した文献を検索しておくこと）
2.	古代の水銀公害	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
3.	戦乱期の森林乱伐と江戸時代の列島緑化	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
4.	幕末期の灯火燃料増加による乱伐	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
5.	鉱山公害と近代工業の発達	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
6.	現代公害の諸様相	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
7.	水俣病、カネミ油症などの続発	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
8.	経済成長と公害国会	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
9.	パルプ公害と廃棄物利用	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
10.	アスベストの毒性	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
11.	アスベスト汚染の顕在化	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
12.	放射能汚染の予感	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
13.	福島原発事故と放射能公害	当該部分の予習（授業内容に関する情報収集や文献の参照
14.	まとめ　その(1)	全体の復習をしてくること
15.	まとめ　その(2)	全体の復習をしてくること

受講者へのメッセージやアドバイス:　意見交換など積極的な授業参加を歓迎します。

フィードバックの方法:　授業内容に関する受講者からの質疑については、適宜コメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	10	原則として毎回の出席と真摯な態度が求められる。
各回の小レポート	40	各回の内容や視聴覚資料についての理解度を重視する。
期末試験	50	授業内容の基本的な理解を問う。

教科書:　使用しない。

参考書:　必要に応じて授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　電子メール：sogawa328@gmail.com

614360

服装情報論

藤本　　純子

授業テーマ:

授業の概要:

服装は多くの情報を内包し、また様々な情報の発信源でもある。この科目では、服装における情報について、先行研究の結果をふまえたうえで各自の衣生活を見つめ直し、考察を行う。また、図書・雑誌・新聞記事・実物資料などからの情報収集の重要性とその活用について講義し、課題を通して理解を深める。

到達目標:

1. 服装に関する情報収集の方法とその活用について知る。
2. 服装情報に関わる知識を習得する。
3. 服装の情報について考察し、理解を深める。
4. 服装への関心を高め、豊かな衣生活を探る能力を養う。

授業方法:

講義形式の授業。配布プリント、画像、映像により授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 身装の起源と機能	
2.	身近な情報源(1)文献資料, インターネットとデジタル情報	インターネットによる情報検索を行い、レポートを作成して提出する。
3.	身近な情報源(2)実物資料	実物資料の鑑賞を行い、レポートを作成して提出する。
4.	服装情報の多様性	
5.	服装によるコミュニケーション	
6.	衣服表示の情報	繊維製品の表示例をあげ、得られる情報について調べる。
7.	衣服の構成（1） ボディとパターン	
8.	衣服の構成（2） アイテムとディテール	
9.	衣服の構成（3） シルエット	
10.	服装における異文化の影響(1)西洋	
11.	服装における異文化の影響(2)日本	
12.	情報と流行現象	
13.	アパレル産業におけるファッション提案	
14.	被服行動と現代のファッション	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は採点して返却する。授業時に紹介して、解説をする場合もある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40	到達目標1, 2の知識や到達目標3, 4の理解度、自らの考えを論理的に説明できるかを評価する。
レポート	40	課題のねらいを理解し、取り組んだ内容を独自の視点から述べているかを評価する。
参加度	20	積極的・意欲的に授業に参加したかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能, 授業の前後に教室内で応対, オフィスアワー

614460

服飾文化史

平光　　睦子

授業テーマ:　日本服飾史

授業の概要:　衣服を着るということは極めて個人的な行為ですが、同時に社会的、文化的な意味をもっています。本講座では。古代から現代までの日本服飾史に関することがらを絵画や文学作品のなかからとりあげ、日本の釈迦的、文化的特性に照らし合わせながら考えます。形、色彩、模様、制度、習慣、流行などさまざまな切り口から服飾にアプローチし、生活文化にたいする理解を深めます。

到達目標:
①各時代の日本の服飾について基本的な知識を身につける。
②日本の服飾史において衣服と生活文化の関連性を考えることができる。
③日本の服飾史を現代の衣生活と関連づけて考えることができる。

授業方法:　テキスト、視聴覚資料をもちいて講義形式で行います。京都市内の学外での調査等を行う場合があります。また、時間割の都合上、授業時間以外で実施する場合もあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	服飾と文化　つくる・着る	
2.	服制のはじまり　原始から古代へ	テキストの予習
3.	唐風から和様へ①　和様の開花	テキストの予習と前回授業のふりかえり
4.	唐風から和様へ②　重ね色目	テキストの予習と前回授業のふりかえり
5.	唐風から和洋へ③　　袿の成立	テキストの予習と前回授業のふりかえり
6.	小袖の萌芽　新たな染織技法	まとめの小レポート
7.	小袖の開花①　模様の変遷	テキストの予習と前回授業のふりかえり
8.	小袖の開花②　「いき」の成立	テキストの予習と前回授業のふりかえり
9.	小袖の開花③　「いき」の色と模様	テキストの予習と前回授業のふりかえり
10.	洋服の浸透と和装の変化① 洋装のはじまり	まとめの小レポート
11.	洋服の浸透と和装の変化② ハイカラとモダン	テキストの予習と前回授業のふりかえり
12.	世界のモードの中で① 戦時中の衣生活	テキストの予習と前回授業のふりかえり
13.	世界のモードの中で② 洋裁文化の生成	テキストの予習と前回授業のふりかえり
14.	世界のモードの中で③ 復興から既製服時代へ	まとめの小レポート
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　採点またはコメントを記して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	授業に参加する積極的な姿勢と、到達目標①について評価する。
レポートなど	20	到達目標②③に関する調査結果などの完成度および独自性を基準とする。
試験	40	到達目標①の理解度と到達目標②③を論理的に説明できるかを基準とする。

教科書:　授業中に配布します。

参考書:
橋本澄子編 『着物の歴史』 河出書房新社
増田美子編 『日本服飾史』 東京堂出版
小池美絵、野田ひろみ、吉村佳子著 『概説　日本服飾史』 光生館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　マナビーの掲示板機能

614560

生活文化史

爲政　雅代、森　治子

授業テーマ:

本講義は前半で近代化過程における日本（森治子）、後半で第2次世界大戦後の東西ドイツ、および統一ドイツ（爲政雅代）のそれぞれの生活文化について歴史的に考察する。

授業の概要:

森治子…生活文化とは私たちが日常生活を営むときの方法や様式、またそれらを支えている感性である。日本の近代化の過程は、ひとびとのライフスタイルが西洋化してきた過程であるということができるが、この講義では、日本的なものと西洋的なものとの融合によって生み出された新しい文化をとりあげ、日常生活の文化的な構成要素や特徴を検討する。また、文化をとらえる視点を養うために、考現学を中心とした風俗研究の手法についても学ぶ。

爲政雅代…敗戦後に東西に分断され、廃墟から復興した西ドイツと社会主義体制のもとにおかれた東ドイツは、様々な問題を抱えながらも、それぞれ独自の生活文化を形成して発展を遂げた。その東西ドイツがようやく再統一されたが、現在に至るまで新たな社会問題で悩んでいる。西ドイツ、東ドイツ、統一ドイツの諸問題を検討することで、戦後ドイツの独自の生活文化の実態を歴史的な分析を通じて把握する。

到達目標:

森治子…1.日本文化の特徴や特質について理解を深め、自分の言葉で説明できるようになる。
2.流行や美意識などの観点から文化をとらえる方法を習得する。
3.生活における価値や社会問題について関心をもち、自ら考える力を身につける。

爲政雅代…本講義では、戦後ドイツの生活文化の実態と問題の本質への関心を深めるなかで、特に以下の点について探求する。
・戦後ドイツにおける生活のなかで人びとが直面する価値観の変化について理解を深める。
・戦後ドイツにおける生活のなかで人びとが抱える諸問題を多方面に把握する。

授業方法:

森治子…主として講義だが、必要に応じてビデオ教材を用い、映画やテレビドラマなどから当時の生活を考える。
爲政雅代…講義形式で授業をおこなうが、授業内ではプリントを配布し、スクリーンで写真やDVDなどを提示することで理解を深めることができるように心がける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ライフスタイルと生活に対する視点−今和次郎と考現学−【森治子】	自分にとっての理想の暮らしについて考えをまとめておくこと。
2.	近代の社会と生活のスタイル（1）洋風生活の導入（博覧会、百貨店）【森治子】	考現学について復習しておく。
3.	近代の社会と生活のスタイル（2）すまいの近代化【森治子】	2回目の授業のさいに説明する。
4.	近代の社会と生活のスタイル（3）食卓の近代化【森治子】	3回目の授業のさいに説明する。
5.	近代の社会と生活のスタイル（4）生活美学とジャポニスム【森治子】	事典等でジャポニスムということばを調べておく。
6.	戦時下の社会と生活【森治子】	5回目の授業で説明する。
7.	戦後の社会と生活の変化【森治子】	6回目の授業で説明する。
8.	崩壊社会（戦争被害、難民流入、住宅不足、食糧不足）【爲政雅代】	授業内容の復習
9.	「経済の奇跡」（大衆消費社会への突入、家電製品・自動車・旅行）【爲政雅代】	授業内容の復習
10.	学生運動と社会変化（若者と女性の活躍、学生運動、新しい社会運動）【爲政雅代】	授業内容の復習
11.	環境保護と脱原発（環境へのまなざし、緑の党、ゴミ問題、反原発運動、脱原発）【爲政雅代】	授業内容の復習
12.	東ドイツの生活文化（社会主義経済、消費行動、子供たちの活動）【爲政雅代】	授業内容の復習
13.	統一ドイツの東西格差（心の壁、映画『グッバイ・レーニン』、映画『善き人のためのソナタ』）【爲政雅	授業内容の復習
14.	移民国家ドイツ（移民問題の発生、トルコ人の移民、統合政策、難民流入）【爲政雅代】	授業内容の復習
15.	まとめ【爲政雅代】	これまでの授業内容の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

森治子…授業のさいには参考文献のほかに、授業に関連する映画、展覧会、イベントなどの情報を紹介します。自分にとって未知の文化に触れる機会があれば積極的に参加するなど、ふだんから文化や芸術に触れる機会をたくさんつくってください。

フィードバックの方法:

森治子…レポート：採点して返却する
コメントペーパー：教室でまとめて解説する
質問用紙：コメントをつけて返却する

爲政雅代…授業内で提出を求めた小レポートについては返却はしないが、教室で総評をおこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	30	レポートの配点が30%、授業時に求める感想文やミニレポートの配点が20%として総合的に評価する。【森治子】
授業時に求める感想文やミニレポート	20	
定期試験	40	到達目標に関する理解度で評価する。【爲政雅代】
授業内レポート	10	

教科書:

森治子…使用しない。
爲政雅代…指定しない。

参考書:

森治子…授業時に紹介する。
爲政雅代…初回授業においてプリントで配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

森治子…授業の前後に教室内で対応
爲政雅代…授業の前後に教室内で対応

614660

国際生活文化論

沈　　明姫

授業テーマ:　異文化に触れよう！！固定観念を捨てよう！！開かれたマインドを！！

授業の概要:　隣の国、韓国と日本は様々な意味において密接な関係の歴史を共有してきた中、痛い過去も存在し、その溝は埋まらないまま時間が流れてきた。
しかし近年、韓流というブームによって日本社会の大衆文化は一転し、両国の関係改善に希望が見えてきたように感じる。若い世代に於いて、歴史は過去の産物として薄れている現在、隣国の歴史、文化、社会について基礎知識を習得し、理解を深めることで、今後世界の関心がアジアに向いている世界情勢の中で、日本と韓国がアジアの核心役割が出来ると展望する。

到達目標:　近いとはいえ、国境を越えると様々な文化の違いが存在する。しかし文化の違いは“知る”ことによって、理解することも受け入れることも可能である。この授業を通して、韓国文化以外の異文化に遭遇する際、戸惑うことなく、開かれたマインドで接することが出来る。

授業方法:　プリントを中心に、参考映像や写真資料用いて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、授業の目的と進め方（アンケート）、教材、資料、評価の方法について。	
2.	韓国の地理と歴史、世界遺産『仏国寺』	日本と比較して韓国の国土の面積、地形、人口についての基礎知識を調べる。
3.	映画をとおして韓国の一面に触れる（韓国で流行っている整形手術についての価値観を覗く）。	
4.	映画をとおして韓国の一面に触れる（韓国で流行っている整形手術についての価値観を覗く）。	
5.	ハングル文字Ⅰ（ハングルの成立とその背景、仕組み）。	最近、観光地や駅などでハングル文字を見かけることが多いが、気になるハングルの写真を撮ってくる
6.	ハングル文字Ⅱ（ハングルの読み書きを学ぶ、ハングルで自分の名前と住所を書いてみる）。	スマートフォンを用いてハングルを打つので、ハングルアプリーをダウンロードしてくる。
7.	韓国の伝統音楽（パンソリ、仮面劇、サムルノリ）	韓国の伝統音楽についてどんなイメージを持っているか、知っているものがあるか、少し調べる。
8.	Ｋ－POPの紹介。今日のＫ－POPが存在するまでの韓流音楽の道のり。	
9.	韓国の食文化について。（プルゴギーとキムチ）	聞いたことのある、もしくは知っている韓国料理の名前を出来るだけ調べてくる
10.	韓国の住居の古今。伝統家屋「ハンオク」について。特にオンドル文化について。	韓国の家について少し調べてくる
11.	韓国の服飾の古今。	韓国の伝統服の名前を調べてくる。
12.	韓国の冠婚葬祭	韓国のセレモニーの中で、一つぐらい調べてくる。
13.	韓国の兵役制度、テコンドー(跆券道)について。	
14.	朝鮮通信使。	“世界記憶文化遺産”とは何か調べる。
15.	まとめ、テスト	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	50	教員が用意するテスト用紙に回答を記入
毎回提出する授業の感想	40	授業の内用、感想、質問について、毎回配られるカードに指定の分量を書いて提出。
授業への参加度	10	

教科書:　授業時に指示

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業初日に講義室にて告知する

614760

生活美術史

河上　　繁樹

授業テーマ:　暮らしのなかの造形と美　一海外からの受容と国内での変容一

授業の概要:　アジアの東端に位置するわが国は、中国の影響を受けながらも、独自の美意識に基づいて蒔絵や着物など工芸品を作り出した。また、16世紀にはヨーロッパの文化が伝わり、桃山時代の服飾にはその影響がうかがえる。暮らしのなかで使われる工芸品には、その風土と文化圏で育まれた造形と美意識が投影されている。日本の工芸や服飾の歴史を通じて、わが国で培われてきた暮らしの美を探り、国際化が著しい現代における伝統的な文化について考える。

到達目標:
・日本の伝統的な文化（美術）がどのように成立したのかを理解する。
・日本の伝統的な文化（美術）の特色を自分の言葉で表現する。

授業方法:　1:講義　毎回一つのテーマを掲げ、配付資料をもとに授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本美の特質 〈中国・西洋との比較から〉 日本の美にはどのような特質がうかがえるのかを西洋や中国と比較しながら、表出・造形・美・象徴の視点から考察する。	源豊宗『日本美術の流れ』序章を参照
2.	亀甲と洲浜 〈ねねの小袖文様の源泉を探る〉 中国で生まれた亀甲と日本独自の洲浜の文様が結びつく事例として高台院の小袖を取り上げ、文様の成立の背景を探る。	丹沢巧『服飾の中心にある美的感情』p117-p154、p188-p218
3.	雲気と蓮華 〈玉虫厨子を中心に〉 古代において万物生成の根本と考えられた中国の「気」とインドの「蓮華」がどのように造形化されたかを考察する。	井上正『岩波日本美術の流れ2　7-9世紀の美術』p3-p18
4.	正倉院宝物に見られる文様 〈西方的文様を中心に〉 正倉院宝物に見られる文様について、ペルシャで生まれた文様が東漸し、その意味と表現が変化する様子を概観する。	林良一『シルクロード』p149-p198
5.	古代の錦 〈経錦から緯錦へ〉 古代中国で生まれた経錦がペルシャへ伝来し、緯錦へと変化し、再び東アジアへ伝来する様子を示し、その文化的背景を考える。	横張和子『シルクロード染織史』p71―p203
6.	意匠の手法 〈散らし〉 平安時代には国風化によって、日本独自の工芸意匠が生まれた。「散らし」をキーワードにして平安時代の意匠の特質を考える。	千野香織『岩波日本美術の流れ3　10-13世紀の美術』p44-p65
7.	文芸の意匠 〈歌や物語をあらわすデザイン〉 平安時代に発達した和歌や物語は、文字として伝えられただけでなく、蒔絵や着物の意匠に取り込まれて展開した。その歴史的変遷を述べる。	京都国立博物館『工芸にみる古典文学意匠』、大阪市立美術館『うた・ものがたりのデザイン』いずれも展覧会図録
8.	高僧の袈裟 〈鎌倉時代の中国染織の受容〉 禅宗が興隆した宋代から元代にかけて、禅僧が往来し、袈裟がもたらされた。袈裟を通して鎌倉時代の中国染織の受容について考察する。	京都国立博物館『高僧と袈裟』展覧会図録
9.	日本国王の服装 〈足利義満と豊臣秀吉の事例から〉 中国の対外政策である冊封は、周辺諸国の首長を国王として認定し、身分に応じた服装を下賜した。日本国王として足利義満と豊臣秀吉の事例を考察する。	河上繁樹「服装から見た足利義満の冊封に関する小論」（『人文論究』62-4）、同「豊臣秀吉の日本国王冊封に関する冠服について」（『学叢』20）
10.	南蛮ファッション 〈武将たちの舶来趣味〉 16世紀になって、ポルトガルやスペイン人が来日し、ヨーロッパの文化をもたらした。その影響を受け、武将たちの間で起こった南蛮趣味について検証する。	丹野郁『南蛮服飾の研究』
11.	高台寺の刺繍聖母子像 〈マリアはどこから来たのか〉 京都の高台寺に伝来する刺繍の聖母子像について、イコノロジー的に検証し、さらにその制作地、制作時期、伝来について考察する。	河上繁樹「高台寺伝来の「刺繍聖母子像」について」（『美術史を愉しむ―多彩な視点』所収）
12.	祭りとタペストリー 〈祇園祭の懸装品はどこから来たのか〉 祇園祭、大津祭、長浜祭の装飾品に用いられたベルギー・ブラバン製の一連のタペストリーについて、その主題や伝来について検討する。	大津市歴史博物館編『町人文化の華―大津祭』展覧会図録
13.	着物になった「さらさ」 〈遊女が好んだエキゾチックな染物〉 江戸時代初期に輸入された更紗は、日本人の好むところとなり、きものに用いられ、やがて日本独自の染色法を生んだ。国内における更紗の変遷をたどる。	小笠原小枝「近世初期風俗画に顕れたインド更紗I」（東京国立博物館研究誌『MUSEUM』563号）

14.	ジャポニスムと服飾 〈ヨーロッパの日本受容〉 欧米におけるジャポニスムの一現象として、欧米人がキモノを着用し、さらにキモノの要素を服装に取り込んだ。日本の着物が欧米の服飾に与えた影響について考える。	京都服飾文化財団『モードのジャポニスム』展覧会図録
15.	総括〈授業をふり返って〉 海外から受容した文化（美術）を日本の暮らしのなかにどのように受け入れ、自国の文化（美術）へ変えたのか、日本のアイデンティティーとは何かを考える。	これまでの配付資料を参考にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業は、配付資料をもとに進めます。配付資料は、授業支援システム「マナビー」を通じて、毎回授業前にPDFにして配信します。授業の前にダウンロードして、予習し、授業に臨んでください。

授業は、出席するのが前提ですので、出席点を加算することはありません。また、15回のうち6回以上欠席した場合は、不合格とします。

フィードバックの方法:

授業期間中には、とくに提出物はありません。毎回の授業後に質問を受け付けます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	100	授業の理解度を試験問題の配点に応じて評価する。

教科書:

とくに指定しない。

参考書:

「準備学習等の内容」を参照

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

kawakami@kwansei.ac.jp

614860

インテリアデザイン論

持永　　愛美

授業テーマ:　インテリアデザインの基礎知識を学ぶ

授業の概要:　インテリアは使用者、生活者などこれら人間が快適に行為行動できるようにデザインされることが重要である。インテリアデザインは、人間の手が扱うナイフやフォーク、身体を支える椅子、食事行為をするテーブルなどや、さらには行為する人間を取り巻く空間へと広がる。このインテリアスペースにおいては部屋の形状、空間量、素材、色彩、照明計画などをデザインする。このようにインテリアデザインは人間を起点に考えられている。本講義では人間にとって快適なインテリアデザインを理解するためにその基礎的事項について学ぶ。

到達目標:
・インテリアデザインの基礎的知識を習得する
・空間構成やインテリアの形状など身近なものに対して関心を抱き、論理的に捉える態度を身に付ける

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、インテリアデザインの概要	・教科書に目を通しておく
2.	インテリア空間	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する
3.	インテリアエレメント	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する
4.	インテリアスタイル	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などのインテリアを観察する ・住宅やインテリア関連の雑誌に目を通す
5.	家具デザイン	・教科書に目を通しておく ・身の回りの家具の寸法を測ったり、デザインを観察する
6.	ウィンドウトリートメント	・教科書に目を通しておく ・身の回りの窓装飾を観察する ・住宅やインテリア関連の雑誌に目を通す
7.	ライティングデザイン	・教科書に目を通しておく ・自宅で使用されている照明の種類を確認しておく ・飲食店や物販店などコンセプトによって照明がどのように異なるかを観察する
8.	インテリア設備	・教科書に目を通しておく ・自宅のキッチンのレイアウトを確認する
9.	マテリアルコーディネート	・教科書に目を通しておく ・住宅や商業施設などの内装材を観察する
10.	カラーコーディネート	・教科書に目を通しておく ・自身の好きな飲食店のカラーコーディネートを観察する
11.	人間工学	・教科書に目を通しておく ・身の回りの家具の寸法を測ったり、デザインを観察する
12.	室内環境	・教科書に目を通しておく ・自宅の窓の位置及び大きさを観察し、満足な点及び改善点を考える
13.	インテリア計画と発想、インテリアデザインのプロセスと評価	・教科書に目を通しておく ・自宅での家事のしやすさを評価する。満足な点及び改善点を考える
14.	ユニバーサルデザイン、サスティナブルデザイン	・教科書に目を通しておく ・街の中で行動をしていて不便と感じること、及びその理由を考える
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中のスマートフォン、私語、居眠りなど授業に参加しない学生は欠席扱いとする。講義の最後に小テストを行ったりレポートを課すことがある。

フィードバックの方法:　添削して返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30	積極的に授業に参加し、到達目標ができるようになったかを評価する。
レポート	30	到達目標の知識によって論理的に説明できるかを基準とする
定期試験	40	到達目標に関する知識により評価する。

教科書:　図解テキスト・インテリアデザイン、小宮容一 他(著)、井上書院

参考書:　講義中に適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　マナビーでの掲示板機能、Eメール、授業前後に教室内で応対

614960

服飾デザイン論

平光　　睦子

授業テーマ:

授業の概要:

本講座では、服飾デザインを理解するために必要な知識を学び、現代の服飾デザインにもちいられる方法論をとおしてデザインを分析的に把握する力を養います。はじめに、デザインおよびデザイン理論に関する基本的な知識を学びます。次に、服飾デザインの基本的なプロセスをたどるとともに、簡単なファッション･イラストを描くことなどによってデザインにたいする理解を深めます。

到達目標:

①造形の基本原理から、服飾デザインを分析的にとらえる知識と能力を修得する
②服飾デザインを感性的な面から理解し、表現する方法を身につける

授業方法:

前半は講義形式で、後半は一部に演習を取り入れながらすすめます。ファッション雑誌などの資料および、マーカー、カラーカード、色鉛筆などの用具は各自準備してください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	アパレル製品におけるデザインの役割	テキストpp1～2
3.	造形の基本原理	テキストp3
4.	構成とバランス	テキストpp9～11
5.	シルエットとライン	テキストp12
6.	形 （点と線）	テキストpp3～4
7.	色 （色相とトーン）	テキストpp13～14
8.	色 （配色）	テキストpp15～18
9.	ファッション・イラストレーションの描き方（ブラウス）	身の廻りの衣服のデザインを注意深く観察し、イラストを描く準備をする
10.	ファッション・イラストレーションの描き方（スカート）	身の廻りの衣服のデザインを注意深く観察し、イラストを描く準備をする
11.	アイテムとディティール	テキストpp22～29
12.	ファッションとイメージ	テキストpp30～31
13.	ファッションとイメージ	身の廻りの衣服のデザインを注意深く観察し、イラストを描く準備をする
14.	服飾デザインの創造性	
15.	提出課題のふりかえりとまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出課題は採点して返却します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し、到達目標①②にむけて意欲的にとりくんだかを評価する
課題	60	到達目標①②について課題をとおして評価する

教科書:

授業内で配布します

参考書:

『改訂アパレルデザインの基礎ー衣服デザイン・色彩論』日本衣料管理協会　2004年
『文化ファッション大系　服飾関連専門講座③　服飾デザイン』文化服装学院編　文化出版局　2005 年
『服飾デザイン論』 文化出版局　2002年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、マナビーの掲示板機能

615060

服飾材料・整理学

小林　　政司

授業テーマ:　服飾の素材と消費

授業の概要:　衣服の素材や使われ方に関する知識は、購入から消費に至るまで快適な衣生活を送るうえで必要不可欠なものである。また、こうした基礎知識は、目的に合わせた服飾デザインや被服製作を行う際にも当然必要な基盤となる。
人間に欠くことのできない衣生活への活用を目標とし、見かけだけではない真の「お洒落」を目指して、服飾の素材（被服材料）とその消費（被服整理）について学ぶ。

到達目標:　服飾に関連する素材とその消費に関する基礎知識を得る。（知識・理解）
環境に関心を持ちながら、その素材および製品を利用できるようになる。（関心・態度）
衣服の制作、購入、消費に必要な能力を身に付ける。（技能・能力）

授業方法:　講義：スライド提示や板書を行いながら授業を進める。（授業中および復習時のノート作成を推奨する。）ビデオなども活用する予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	服飾の材料・整理について	シラバスの確認
2.	繊維とは何か	衣服が何からできているのかを考察
3.	繊維の種類と性質（天然繊維）	自分の衣服の素材を調査
4.	繊維の種類と性質（化学繊維）	組成表示の調査
5.	糸・布の種類	繊維分野の復習
6.	布の性質	衣服の着心地について考察
7.	新素材と加工	「衣服の素材調査」レポート作成
8.	衣服の消費	なぜ衣服を洗浄するのかを考察
9.	汚れの種類と性質	衣服の汚れ方を観察
10.	洗剤の成分（界面活性剤）	衣料用洗剤の成分表示調査
11.	界面活性剤・洗浄補助剤の性質	家庭用洗浄剤の成分表示調査
12.	洗浄の条件	衣服洗浄の実践
13.	衣服の洗浄	商業洗濯について調査
14.	漂白・柔軟仕上げ	「衣服洗浄の実践」レポート作成
15.	まとめ	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　日ごろからファッションや衣服に関心と興味を持ち、授業に臨んでいただきたい。また、本授業で得た知識をぜひ日常生活でも活用してください。

フィードバックの方法:　質問、コメントに関しては、必要に応じて教室でまとめて解説、返答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	服飾に関連する素材とその消費に関する基礎知識の獲得の度合いを基準とする。
レポート	30	「衣服の素材調査」、「衣服洗浄の実践」などについて3つの到達目標を意識した考察がどの程度できているかを基準とする。
授業への参加度	10	授業ごとに配布する出席カードに記入したコメント内容への到達目標の反映の度合いを基準とする。

教科書:　別途指示する（プリント配布予定）

参考書:　「衣服材料の科学」 島崎 恒蔵 、林 正之、団野 哲也、森 俊夫 （建帛社）
「被服管理学」 増子 富美、牛腸 ヒロミ、後藤 純子、米山 雄二、梅澤 典子、小林 政司、生野 晴美、齊藤 昌子、藤居 眞理子 （朝倉書店）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメールを利用（アドレスは授業時に伝える）

616060

介護概論

桝本　妙子、橋本　秀実、三橋　美和、岡山　寧子

授業テーマ:　健康長寿に向けた介護について考える

授業の概要:　介護を取り巻く状況をふまえ、介護の重要性を考えると共に、健康長寿に向けた予防的ケア、生活機能低下への予防と対応、介護者への支援、住環境からみた介護のあり方などを考える。また、地域でみまもる看護、海外の保健医療事情についても考える。

到達目標:　高齢社会の介護を取り巻く状況を理解する。また、介護をめぐる社会状況を様々な角度から考えることができる。

授業方法:　DVD等を用いながらの講義およびディスカッションなどを取り入れて授業を展開する。
毎回の授業終了時に、授業への意見・質問等の小用紙への記載を求め、次の授業時に反映する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	介護とは何か(1):介護を取り巻く状況、超高齢時代（岡山）	「高齢者にとっての社会」のイメージ
2.	介護とは何か(2):介護と看護、医療的ケア（岡山）	前回授業のレジメの確認
3.	高齢者の日常（橋本）	加齢に伴う心身の変化についてイメージする
4.	介護保険(1)介護保険制度（三橋）	介護保険制度の対象と利用できるサービス（何か1つ）について調べておく
5.	介護保険(2)介護予防（三橋）	前回授業のレジメの確認
6.	健康について考える（桝本）	前回授業のレジメの確認
7.	高齢者問題の現状と課題（桝本）	前回授業のレジメの確認
8.	地域で見守る看護～保健師の活動～（桝本）	前回授業のレジメの確認
9.	保健医療福祉の連携（桝本）	前回授業のレジメの確認
10.	生活環境を整える(1)安心・安全な介護環境（三橋）	療養生活を送る環境として自分が大切にしたいことは何かを考えておく
11.	生活環境を整える(2)住環境整備の実際（三橋）	介護保険制度の「福祉用具貸与」、「福祉用具購入」、住宅改修費の支給」について復習しておく（第4回授業資料）
12.	日常生活支援:睡眠と休養（三橋）	健康づくりのための睡眠指針2014（厚生労働省HP）の「睡眠12か条」を読んでおく。
13.	介護を必要とする子どもをめぐる問題（橋本）	子どもの介護について報道などから知っていることを整理する どのような子どもが介護の対象となるか考える
14.	海外の保健医療事情(橋本）	海外の保健医療に関することで報道や自分自身の体験から知っていることを整理する
15.	まとめ	前回までの授業内容を総合的に復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:　超高齢社会を迎え、自分と家族および社会全体の介護についていっしょに考えたいと思います。

フィードバックの方法:　講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・授業態度	30	出席を含む授業への参加・授業態度、期末試験により総合的に評価する。
期末試験	70	出席を含む授業への参加・授業態度、期末試験により総合的に評価する。

教科書:　教科書は使用しない。必要な資料はプリントとして配布する。DVD等を教材として使用する。

参考書:　講義中に、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　講義前後で対応する。

617060

食物栄養学

森　　紀之

授業テーマ:　食物・栄養と健康

授業の概要:　私たちの健康の推進や疾病の予防・治療に密接に関係している食物成分の特徴と機能を学び、健康のために何をどれだけ摂取すればいいのかを学ぶ。ライフステージ別の視点からもこの点について考察する。また、食品・食物の安全性について学ぶ。さらに生活習慣病予防のために、こうした基礎知識を実際の食生活にどう活かすのか議論する。

到達目標:
1. 食物中の栄養素の特徴と機能を理解する。
2. 健康のために各栄養成分をどれだけ摂取すればいいのか理解する。
3. ライフステージ別の観点から栄養と健康について理解する。
4. 食品表示、栄養成分表示、保健機能表示について理解する。
5. 食物・栄養と健康の関係に関心をもつ

授業方法:　講義形式で行う。プリントを配布し、PowerPointスライドを使って講義する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品の特性（食物とは・栄養とは・栄養素とは・食品とは・食品に必要な要素とは）	特に必要なし。
2.	１日に必要な栄養とは（エネルギーの必要量）	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
3.	摂食行動と食生活	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
4.	主要栄養素（炭水化物） 炭水化物の食事摂取基準と摂取上の注意	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
5.	主要栄養素（タンパク質） タンパク質の食事摂取基準と摂取上の注意	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
6.	主要栄養素（脂質） 脂質の食事摂取基準と摂取上の注意	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
7.	微量栄養素（ビタミン） ビタミンの食事摂取基準と摂取上の注意	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
8.	微量栄養素（ミネラル） ミネラルの食事摂取基準	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
9.	ライフステージと栄養（前半） 妊娠・授乳期、小児期、成長期の栄養に関する注意	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
10.	ライフステージと栄養（後半） 成人期、高齢期の栄養に関する注意	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
11.	健康と栄養 疾病を防ぐには何を考えればよいか	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
12.	食品表示、栄養成分表示	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
13.	健康志向の食品	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
14.	食品加工と食品添加物―食品添加物の安全性と利用法	配布プリントを使って復習し、前回までの内容について理解しておく。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義の内容を理解するには知識の積み重ねが必要になります。配布されたプリントをもとによく復習しておくと、次の授業の理解が進みます。
出席カードの自由記述欄には、その日の講義に関する感想、意見を記載してください。また、授業内容にかかわらず質問があれば、自由に記載してください。

フィードバックの方法:　出席カードに書かれた質問については、できるだけ次回以降の授業中に回答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標に掲げた食物・栄養と健康に関する基礎知識の習熟度を評価する。
授業への参加度	20%	出席カードの自由記述欄のコメントを含めて、到達目標に掲げた食物・栄養と健康に関する関心度を評価する。

教科書:　使用しない。

参考書:
中村 豊〔著〕:『よくわか栄養学の基本と仕組み』、秀和システム
井上正子〔監修〕:『栄養学と食のきほん事典』、西東社
中村丁次〔監修〕:『栄養の基本がわかる図解辞典』（成美堂出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワーならびに授業前後に教室内で対応

617560

生活健康学

野之上　操

授業テーマ:　生活健康学

授業の概要:　ウエルネス健康学を基本に幼児期から老年期に至るまでの各ライフステージに適した健康な生活を考え、どのように生き、どのように死を迎えるかを考えることが良いかについて学んでいく。また、人生をより良く送るには、人間関係も良好であることも重要な要素であることを体験学習、実習をとおして学び理解する。

到達目標:　健康を広く、大きくとらえるウエルネスの健康概念を中心にして、どのような生活を送るのが良いかについて常に考えていく習慣を養うことを目標とする。また、体験学習、実習には積極的に参加することを目標とする。

授業方法:　講義、レポートによる発表、体験学習、実習。必要に応じて視覚教材を使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業に関するオリエンテーション	シラバスを確認
2.	ウエルネスの理論について	ウエルネスの意味を調べておく
3.	いろいろな健康の概念	健康についての情報を調べておく
4.	健康な生活とは	自身の健康観について考えておく
5.	コミュニケーション実習としての体験学習（1）	グループワークに向けての心構えをしておく
6.	死の受容とデス・ラーニングについての学び（1）	死生観について考えておく
7.	死の受容とデス・ラーニングの学び（2）	死生観について考えておく
8.	余暇とタイムマネジメント	時間管理について考えておく
9.	ホスピタリティと人間関係についての学びと実習	ホスピタリティについて考えておく
10.	ストレスマネジメントについての学びとストレスチェック	ストレスに関する情報を調べておく
11.	リラクセーションについて	リラクセーションに関する情報を調べておく
12.	健康とアルコールについて	お酒について情報を調べておく
13.	健康とたばこについて	たばこについて情報を調べておく
14.	コミュニケーション実習としての体験実習（2）	グループワーク向けての心構えをしておく
15.	まとめ振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:　体調管理を心掛けてください。また、グループワーク発表には積極的に参加してください。

フィードバックの方法:　教室にて全体に解説、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	70%	到達目標健康な生活について考える力を養う必要を理解し、どの程度独自の視点があるかを基準に評価する。
発表、話し合い	15%	グループ発表での自分の役割とその達成度、積極的なかかわり方の態度・意欲を評価する。
授業への参加度	15%	積極的に授業に参加し、他者との良好なかかわり方を評価する。

教科書:

参考書:　野崎泰明、ウエルネスマネジメント、メッツ出版
野崎泰明、ウエルネスの理論と実践、メッツ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業後教室にて

621460

現代青年の心理と行動

諸井　　克英

授業テーマ:　「パンクロック」で表出される「青年像」の社会心理学的解析

授業の概要:　「子ども」から「大人」への過渡期として位置づけられる青年期に関して、(1)自我の目覚めや性的機能の発現に伴う自己の内面への拡大、(2)親からの心理的独立など、種々の心理学的特徴が明らかにされてきた。しかしながら、近年、時代条件の変化と相関しながら青年期自体が変貌し、青年期が拡大した(早期開始＝低年齢化と延長＝青年期への滞留)。それに伴い、青年期自体の過渡期的性質の消失が指摘され、心理学で構築された従来の青年期の枠組みの再構築が迫られている。この講義では、ロック音楽を通して青年期の心性の一端を明らかにし、青年期の変貌の心理学的意味を明らかにする。1970年代半ばに米国の若者の間で発生し、英国で確立した「パンクロック」に焦点をあてる。「パンクロック」は、近年日本の若者でも確固たる音楽領域として認知され、そこで表出される歌詞は、基本的に青年期の心性(心の不安定さ＝揺れ、既存社会への反発、将来の自己展望)を骨格にして形成されている。この講義では、日本の「パンクロック」に焦点をあて、表出されている歌詞をテキストとして青年期の心性がどのように構築されているのかを捉えたい。

到達目標:　講義を通じて，いわゆるロック音楽が，その時代や社会の青年のあり方と相関した文化現象であることを理解する。

授業方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	パンクロックと青年	前回の講義主題の確認
3.	青年の誕生と存在の危うさ	同上
4.	未来に向かう青年	同上
5.	未来に向かわない青年	同上
6.	仲間関係の神秘	同上
7.	隔絶する「自分」の発見	同上
8.	自己中心化する「自分」	同上
9.	照れる恋愛	同上
10.	変形化する恋愛感覚	同上
11.	生き続けることの意味	同上
12.	柔らかな反抗	同上
13.	再び、荒野へ	同上
14.	青年の行方	同上
15.	総括	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:　1週間に一度は「流行歌」(かつての流行歌でもOK)と向き合おう。その「流行歌」がなぜ多くの人々の心と共振しているのかを考えよう。そして，講義で学習した心理学用語を用いて，その「流行歌」がもつ「ちから」を分析してみよう。

フィードバックの方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況(note takingや資料整理も含む)	70	授業への集中と理解
小課題(含　マナビー)	30	授業への集中と理解

教科書:　諸井克英著『ハイロウズの掟―青年のかたち―』＜晃洋書房＞

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー

621560

情報社会心理学

諸井　　克英

授業テーマ:　「ゼロ年代」における若者によるアニメ・メディアミックスの受容

授業の概要:　2000年以降のわが国の若者をターゲットして創出された「ライトノベル-アニメ-コミック」の相互関連メディアを対象として，これらのメディア創造物を受容する若者の心性の基底にある心理学的メカニズムの解明を行います。これらのメディア創造物の基底には，わが国の'90年代のバブル経済の崩壊と冷戦の終結に伴う「自由だが冷たい(わかりにくい)社会」への直面に曝された若者の心理的状況がある(宇野，2008)。このような状況の中で，「セカイ系」の出現や「コミュニケーションとしての作品消費」という新たなパラダイムである「日常系」の流れが出現しています。この講義では，このような「ゼロ年代」以降のアニメ・メディアミックスの状況に焦点をあて，作品分析や当該作品の若者の受容形態を通して，現代の若者の心性を明らかにする。

到達目標:　アニメやコミックが創出する虚構世界を通して，同時代の人々の心性を理解しよう。

授業方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	現実(reality)構築の心理学的原理	前回の講義主題の確認
3.	'60・'70年代アニメの素描—「魔法使いサリー」と「天才バカボン」—	同上
4.	アニメ・メディアミックスの現状—「涼宮ハルヒの憂鬱」を例として—	同上
5.	世界融解としての「ゼロ年代」	同上
6.	分裂するこころの世界から力へ—「ブギーポップは笑わない」—	同上
7.	「セカイ系」的世界観の構築における「母性」回帰—「最終兵器彼女」—	同上
8.	反復される日常への「コミュニケーション消費」志向—「けいおん！」—	同上
9.	生活の「島宇宙」化—再び「涼宮ハルヒの憂鬱」—	同上
10.	現実世界の「空気」の投影から「解決」へ	同上
11.	自然畏怖と日本アイデンティティの喚起—「太陽の黙示録」—	同上
12.	格差社会における浮遊層の覚醒—「東のエデン」—	同上
13.	ゲスト・スピーカー・タイム—我が国の雑誌メディアのかたち—＜関西ウォーカー編集長篠原氏を予定＞	同上
14.	まとめ	同上
15.	評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:　1週間に一度はアニメやコミックと向き合い，その作品ががなぜ人々の心と共振しているのかを考えよう。

フィードバックの方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや資料整理も含む）	70	授業への集中と理解
小課題（含　マナビー）	30	授業への集中と理解

教科書:　授業時に指示する。

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー

621660

ジェンダーの社会心理学

諸井　　克英

授業テーマ:　家族関係の社会心理学

授業の概要:　青少年の「事件」が起きるたびに、背景に「家族の変容」という言説がメディアを通して流布される。我々にとって「家族」とは何なのか曖昧なまま、「家族の大切さ」という感情的言説を機軸にして、「家族価値への回帰」が唱導される。本講義では、第二次大戦後の我が国の家族像の変遷を辿りながら、我々にとって「家族」とはそもそも何かを心理学的に明らかにする。

到達目標:　１週間に一度は，自分のまわりの対人関係を観察し，「社会における男と女のあり方」について考えてみよう。そのために，活字メディアやニュース映像などにも積極的に接触し，観察の幅と深さを増そう。この反復によって，自分の人生デッサンの手がかりを得よう。

授業方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	変容する家族	前回の講義主題の確認
3.	結婚価値の変貌	同上
4.	夫婦関係の社会心理学的特徴	同上
5.	夫婦関係を支える社会心理的スキル	同上
6.	恋愛の罠	同上
7.	成長する夫婦関係	同上
8.	夫婦関係の危機への対処	同上
9.	理想とする「夫婦」像の変遷	同上
10.	多様な夫婦像の創出	同上
11.	ゲストスピーカータイム（「天王寺動物園」・園長の「牧慎一郎」氏を予定）	同上
12.	シングルは幸せか	同上
13.	夫婦関係の未来	同上
14.	家族の行方	同上
15.	評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:　１週間に一度は周囲に存在する様々な「家族」を観察しよう。

フィードバックの方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや資料整理も含む）	70	授業への集中と理解
小課題（含　マナビー）	30	授業への集中と理解

教科書:　諸井克英著『夫婦関係学への誘い―揺れ動く夫婦関係―』＜ナカニシヤ出版＞

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー

621760

居住環境学

奥田　　紫乃

授業テーマ:　居住環境の快適性

授業の概要:　居住環境の快適性について、講義や実習、課題(簡単な演算含む)を通して学ぶ

到達目標:　居住環境の現状を把握し、その良否を判断して解決策を考えることができる

授業方法:　スライドを用いた講義、および測定機器を用いた実習、演習課題、課題発表による。
なお、学外の施設見学を期間内の土曜日に実施予定です。日程については、第1，2講目で調整します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人と光環境	明視四要素について再確認し、身の周りの視対象物の明視性が損なわれる事象について考察する
2.	光をはかる	測光量の種類と定義について復習する
3.	住まいと日照	住生活における窓の役割について考察する
4.	昼光照明	標準時と真太陽時について理解する
5.	照度測定実習(グループワーク)	測定結果を分析／考察し、発表資料を作成する
6.	測定結果発表(グループ発表) 光源の種類と特徴	身の周りの視作業空間の照明条件について考察する 空間や視作業に求められる照明の要件についてまとめる
7.	照明器具と光のデザイン	各自の住宅における照明器具を調査し、その光環境下での明視性、雰囲気を考察する
8.	調査結果のディスカッション 建物と空気環境	換気の手法について理解する
9.	人と空気環境～匂い・臭い・香り～(ゲストスピーカー)	ゲストスピーカーによる講演内容をまとめ、レポートを作成する
10.	人体と熱環境	温熱三要素について再確認し、身の周りの熱環境に関する快／不快の要因について考察する
11.	建物と熱環境 建物の温熱実測演習	熱と建物に関する事項について復習する 実測結果をまとめ、考察する
12.	測定結果発表(グループ発表) 人と音環境	音の三要素について理解する
13.	建物と音	音の反射、吸収、透過について理解する
14.	学外施設見学	ハウスメーカーにおける住環境に関連する技術を学ぶ
15.	まとめ	これまでの内容を整理し、居住生活を快適にするために必要な要件をまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　演習などの体験を通して、室内で快適に過ごすための知識を身につけてください

フィードバックの方法:　マナビーによる課題提出はマナビー上で、グループワークは授業中に発表／ディスカッションします

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	15	
演習課題	25	課題の提出状況、提出物の内容で評価 グループ課題については、グループメンバーは同一評価点となります
試験	60	

教科書:　図解住居学　5.住まいの環境、彰国社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーまたはe-mail

621961～69

人間生活学基礎演習

授業テーマ:

人間生活学の基礎:大学における学びに向けて

授業の概要:

新入生が大学での学びにスムーズに適応できるよう、10名前後の小グループで編成されたクラスで学ぶ。人間生活学科の全専任教員が担当する基礎教育科目であります。基礎的な演習を通して、人間生活学の専門分野の基礎的知識を学ぶだけでなく、その学習過程で大学における教育活動の目的を考え、アカデミックスキルを身につけると共に、教員と学生、学生間の人間関係を深め、人間生活学への理解と興味を高めることを目標とします。各クラス担当教員が初年度のアドバイザーを兼ね、新入生の大学生活へのサポートを行います。
春学期を通して1人専任教員が授業を担当します。また、担当者の関心や専門性、受講生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。「基礎演習特別講義」として、1学年全体の学びの機会(4回)も提供される予定です。

到達目標:

人間生活学への理解と興味を高める。

授業方法:

演習を主とする

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

授業内容	準備学習等の内容
1. オリエンテーション	講義以外の事前事後学習(発表の準備や報告等)が期待されます。詳細は各担当教員が決め、教室にて説明します。
2. 大学における学び1	
3. 大学における学び2	
4. 大学における学び3	
5. 大学における学び4	
6. 基礎演習特別講義1. 人間生活学科での学びに向けて	
7. 大学における研究1	
8. 大学における研究2	
9. 人間生活学科での学びと研究1	
10. 人間生活学科での学びと研究2	
11. 基礎演習特別講義2. ゼミナール科目での学びⅠ	
12. 基礎演習特別講義3. ゼミナール科目の学びⅡ	
13. 人間生活学科での学びと研究3	
14. 基礎演習特別講義4. 卒業生によるキャリア講演会	
15. まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50%	各クラスでの発言、ディスカッションなど、理解を深めるための積極性を評価する
発表・レポート	50%	課題内容、プレゼンテーション内容などを評価する

教科書:

クラス担当教員の指示による

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

E-mailまたはマナビーによる

622060

社会心理学

諸井　　克英

授業テーマ:　社会行動を支える心理学的メカニズム

授業の概要:　社会心理学は，日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として,そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。本講義では，実験や調査によって得られた種々の研究知見を系統的に呈示しながら，社会行動を支える心理学的メカニズムの理解を目指します。

到達目標:　社会行動の支える心理学的メカニズムに関する理解と分析力

授業方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクションと授業・評価方法の確認	講義内容の大筋の理解
2.	社会心理学の課題と方法（1）	前回の講義主題の確認
3.	同上（2）	同上
4.	対人的コミュニケーションの枠組み（1）	同上
5.	同上（2）	同上
6.	同上（3）	同上
7.	対人関係の親密化（1）	同上
8.	同上（2）	同上
9.	恋愛関係の形成と進展（1）	同上
10.	同上（2）	同上
11.	同上（3）	同上
12.	集団・社会における個人（1）	同上
13.	同上（2）	同上
14.	まとめ	同上
15.	評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:　１週間に一度は，自分や周りの人たちの対人関係の様子を自己観察しよう。

フィードバックの方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや資料整理も含む）	70	授業への集中と理解
小課題（含　マナビー）	30	授業への集中と理解

教科書:　授業時に指示する。

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー

622160 **くらしの経済学**

庄司　　俊作

授業テーマ:　近現代日本の階級社会と格差・貧困――現在の雇用とくらしを歴史から見る

授業の概要:

私たちは一部自営業者・農家を除き企業等に雇われ、働いて労働の対価として賃金を得て生活している。この、企業等に雇われることを「雇用」という。また、私たちの生活が電気や食料など基礎的な生活手段なくして成り立たないことは指摘するまでもない。医療や介護など社会保障や地域社会との関わりも私たちの生活を大きく左右する。

日本社会はかつて貧困問題を解決し、中流社会を実現したといわれた。しかしそれは、一時の幻想であった。かつてなら、大学を出れば悪くてもそこそこの企業に就職でき、その企業で毎年給料が上がって退職まで働き続けることができた。会社に入って10年もすれば結婚し子どもを作って、40歳前後には住宅ローンを組み家も建てられた。重役とまではいかなくても、課長ぐらいにはなってやりがいのある仕事をやり、妻がややこしい家事・育児等全般そつなくこなしてくれたので、心置きなく「会社人間」の人生を送ることができた。退職後は十分ではないがそれなりに年金がもらえ、趣味に、場合によれば学び直しに充実した老後をおくる。

そのような生活はしかし、多くの人に保証されていないことが明らかになってからかなりの年月が経つ。大学を出ても正社員での就職は少ない。有期の非正規か派遣かで働く若者が少なくない。非正規の賃金は多くて年収300万円までで、年収100万円台で働くものも少なくない。派遣労働者に支払われる「賃金」の総額がせいぜい200万円、これは時給でありボーナスどころか交通費さえつかない。まさにワーキングプアである。こうした働き方をする人々がこの間急増した。正社員で就職した女性が結婚して子どもを産み育てる。ところが、こんなしごく当然な人生は一般企業では通用しないところが少なくない。子どもを産むか会社を辞めるか悩んだあげく、多くの女性が働き続ける道を選択した結果生まれた事態が、少子化である。結婚して働き続けるのはまだしも「よき人生」かもしれない。いまや一生結婚しない人びとが急増しつつある。約20年後の生涯未婚率は男性30%、女性25%と試算されている。

このような働き方とくらしを多くの人々に強いている社会はよくない社会である。このような社会がなぜ、どのようにして形成されたかを近現代日本の階級社会と格差・貧困の歴史から見て考えることが授業の目的である。

到達目標:

①授業のテーマに関して広い基礎知識をもっていただく。
②関連する岩波新書や例えば朝日新聞の記事を「読む意欲と能力」を身につけていただく。
③思考力を養い、理解したことや考えたことを的確な言葉で表現する能力を養っていただく。
④歴史的思考の重要さを理解していただく。　⑤関心・意欲をもって独習、自由研究が進められるレベルを目指す。

授業方法:

講義を中心とする。毎回レジメと資料を配布し、それをもとに講義する。なお、適宜ビデオ鑑賞をしたり、新聞記事を配布して身近に理解してもらう工夫をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のガイダンスとビデオ「派遣法誕生　前篇』の鑑賞	①労働派遣法に関するビデオ鑑賞 ②「法の目的と労働者派遣法の概念」(鎌田耕一ほか編『労働者派遣法』三省堂、2017年>を配布し、事前学習の課題とする。
2.	格差・貧困問題の今と昔	①庄司『階級社会と格差・貧困』(以下、教科書という)の第1章第1節(以下、1．1という)の復習。 ②教科書1．2の事前学習を課題とする。
3.	昭和初年のサラリーマンと新身分社会	①授業開始後15分間1．1と1．2について意見の交換。 ②教科書1．3と森岡『雇用身分社会』(序章、第1章)の事前学習の課題とする。
4.	「よそ者」としての職工、女工	①授業開始後15分間1週間の課題について意見交換。 ②教科書1．4の事前学習を課題とする。
5.	農民の貧困	①授業終了前15分前後授業2～5について意見交換 ②教科書2．1と2．2の事前学習を課題とする。
6.	戦時下のサラリーマンと職工	①授業開始後15分間2．1と2．2について意見交換。 ②教科書2．2の事前学習を課題とする。
7.	大田区の町工場と工員	①授業開始後15分間2・1と2．2について意見交換。 ②教科書2．3の事前学習を課題とする。
8.	戦争と農民	①授業開始後15分間2．3について意見交換。 ②教科書2．4の事前学習を課題とする。
9.	太平洋戦争下の「革命的状況」	①授業終了前15分前後授業6～9について意見交換 ②教科書3．1の事前学習を課題とする。
10.	サラリーマンと労働組合	①授業開始後15分間3．1について意見交換。 ②教科書3．2の事前学習を課題とする。
11.	身分制の撤廃と収入の平準化	①授業開始後15分間3．2について意見交換。 ②教科書3．3の事前学習を課題とする。
12.	大学の大衆化と格差・貧困	①授業開始後15分間3．3について意見交換。 ②教科書3．4の事前学習を課題とする。
13.	中・高卒の人びとの生活史	①授業終了前15分前後授業10～12について意見交換。 ②各受講生に授業全体のまとめを求める。
14.	学校歴社会と資格社会、雇用と差別	授業開始後30分間授業全体について意見交換。
15.	授業のまとめ一歴史と現在	授業開始後30分間授業全体について再度意見交換。

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生にお願いしておきたいことがある。一生懸命授業に取り組むが、わずか15回の講義では理解も高が知れている。何でもかまわないので関心をもった問題について関連文献を読み、独習、自由研究を進めれば長い目で見て得られるものは大きい。

フィードバックの方法:

以下を歓迎します。また、いずれも成績評価に加味します。
①授業中の質問や意見発表。
②ビデオ鑑賞に関して小レポートを作成し提出すること(提出は自由)。
③独習、自由研究の成果についてレポートを作成し提出すること(提出は自由)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートまたは試験等	70	理解の度合とレポートの場合は加えて表現力
授業への取り組み	30	出席率と授業に対する意欲

教科書:　庄司俊作『階級社会と格差・貧困』人文研ブックレット、同志社大学人文科学研究所、2018年3月

参考書:
横山源之助『日本の下層社会』岩波文庫
細井和喜蔵『女工哀史』岩波文庫
森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書
橋本健二『新・日本の階級社会』講談社現代新書、2018年
『週刊東洋経済　生涯未婚』2016年5月14日号
『週刊東洋経済　連鎖する貧困』2018年4月15日号
今野晴貴『ブラック企業』文春新書、2012年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:　メールで連絡してください

622260

社会福祉学A

宮本　　義信

授業テーマ:　人間生活と社会福祉

授業の概要:　社会福祉という言葉は、ミクロには、心理的援助のような直接的に人びとの生活支援に焦点づけられる言葉として、また、マクロには、国政レベルでの政策策定のような間接的に生活支援活動の客観的条件を整備する言葉として多様に使われている。授業では、社会福祉のアウトライン、すなわち、(1)歴史・思想、(2)政策・制度、(3)実践・方法について基礎的理解をうながしながら、人間生活における社会福祉の意義について考察する。そして同時に、日米比較研究の視点から、日本の社会福祉の基本課題について考える。今日、日本の社会福祉は、自由化、市場化をキーワードにアメリカ型へと移行している。日本の将来を見渡すうえで、アメリカの現状と課題を掘り起こし、それと比較する作業は極めて有効である。

到達目標:　ボランティア・学生が知っておきたい社会福祉の基礎知識を修得する。

授業方法:　講義中心、適宜資料を配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会福祉学を学ぶにあたって	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	社会福祉のあゆみと考え方	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
3.	家族支援の方法(1)	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
4.	家族支援の方法(2)	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
5.	社会福祉の施設・機関、法と行財政(1)ー高齢者施設を中心にー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
6.	社会福祉の施設・機関、法と行財政(2)ー米国・台湾の高齢者施設との比較ー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
7.	社会福祉実践(ソーシャルワーク)の固有性、意義と目標	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
8.	ソーシャルワーク専門職の成立と発展	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
9.	子ども虐待への援助・介入活動ー治療教育を中心にー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
10.	教育と福祉ースクールソーシャルワーカーの活動ー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
11.	子どもの病気と医療(病棟)保育	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
12.	障がいがある人への理解と支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
13.	貧困、医療・介護問題と生活保障	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
14.	社会福祉の日米比較ー現状と課題ー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと
15.	授業のふりかえりとまとめ、補足的な説明	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30	出席を含む授業への参加・態度およびミニレポート内容
定期試験	70	ルーブリックによる達成度評価

教科書:　宮本義信(編著)『くらしに活かす福祉の視点ーボランティア・学生が知っておきたい基礎知識ー』ミネルヴァ書房、2010年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業前後に対応

622460

世界の子どもたち

中尾　　秀一

授業テーマ:　貧困と戦争に苦しむ子どもたち

授業の概要:　戦争や貧困などの地球的課題とその中で生きている子どもたちの現実を知り、問題を解決するための取組みについて学んでいく。また、それぞれの課題の背景にある政治、経済の仕組みについても理解を深めていく。
その上で、私たち自身の生活がこれらの地球規模の課題といかにつながっているのかを考え、日常生活の中で国際協力にどのように貢献できるのか検討していく。

到達目標:
・国際社会が抱える貧困、紛争の基本的な事項と、子どもに与える影響について理解できる。
・グループでの討議やワークショップを通じて、他者の主張を理解して、自分の意見や考えとの違いを調整し、お互いに納得のできる結論を得ることができる。

授業方法:　講義だけでなく、シミュレーション、ゲームなどのワークショップやグループ討議といった学生が主体的に考える形式で進めていく。
また、写真やDVDなど視聴覚教材も活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、貧困とは	
2.	貧困と子ども①飢える子どもたち	
3.	貧困と子ども②ストリートチルドレン	
4.	貧困の原因を考える	
5.	貧困と子ども③ファストファッションと児童労働	所有する日用品がどの国から来たのか調査する
6.	貧困と子ども④スマホと児童労働	
7.	貧困と子ども⑤教育	
8.	戦争はなぜ起こるのか	1～7回までの内容について小テスト
9.	紛争下の子ども①シリア内戦	
10.	紛争下の子ども②子ども兵士	
11.	紛争下の子ども③難民	
12.	紛争下の子ども④難民と国際支援	
13.	日本に暮らす世界の子どもたち①在日韓国朝鮮人	居住する自治体の在留外国人の概要について調べる
14.	日本に暮らす世界の子どもたち②ニューカマー	8～13回までの内容について小テスト
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　単に出席するのではなく「参加」が評価となるので、ワークショップ、ディスカッション等に積極的に取り組むことを期待します。

フィードバックの方法:　採点して教室で返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	30	内容理解+文章力
授業への参加度	50	
提出物及び小テスト	20	

教科書:　必要に応じてレジュメと資料を配布。

参考書:　ユニセフ(国連児童基金)『世界子供白書』(各年版)
初瀬龍平・松田哲・戸田真紀子編著『国際関係のなかの子どもたち』晃洋書房、2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

622560

いのちと倫理

小﨑　　眞

授業テーマ:　豊かな「いのち」を求め

授業の概要:　私たちを取り巻く文明社会は「進歩」という言葉の下、様々な不可能な事柄を可能な事柄に転じてきました。このような社会に向き合いつつ、人間の本質を真摯に探究し、将来への歩みを探っていく予定です。特に、人間生活学科の入門・概論科目（こころ）として、日々の生活の中で直面する生命の領域において起こっている事象（人工授精、脳死、臓器移植等）に焦点を当て、内在する問題を考察します。不完全である人間が互いにその生命を認め、賛美するために、今日的時代状況における生命観を再考します。

到達目標:　1. 昨今、日常生活の中で直面する生命の領域において起こっている事象（人工妊娠中絶、人工授精、体外受精、脳死、臓器移植等）の課題に関して、考察を加えます。
2. 近現代社会の人間観を疑いつつ、人間の本質を探求し、自分なりの生命観を構築します。

授業方法:　主に講義形式で行いますが、状況に応じグループディスカッション等も尊重したいです。映像資料（複数）をも提供する予定です。詳細は初回の講義で説明します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（講義目標の提示）生命を「問う」とは。	シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する。
2.	生命観の再考 生命倫理学とは何か	配布プリントや参考文献により、昨今の生命事象の課題を整理する。
3.	命の始まりの領域での事象と課題（人工妊娠中絶等を巡り1	配布プリントや参考文献により、人工妊娠中絶の実情と課題を整理する。
4.	命の始まりの領域での事象と課題（人工授精等を巡り）2	配布プリントや参考文献により、人工授精、体外受精の実情と課題を整理する。
5.	生命倫理との対話　生殖医療を中心に	配布プリントや参考文献により、生殖補助医療の実情と課題を整理する。
6.	将来への展望　宗教的観点との対話から	配布プリントや参考文献により、多様な生命観に関して学びを深め、整理する。
7.	自己の「いのち」観への疑い	配布プリントや参考文献により、近現代の生命観に考察を加え、整理する。
8.	生命の終わりの領域での事象	配布プリントや参考文献により、昨今の死の事象を整理する。
9.	脳死とは	配布プリントや参考文献により、脳死の実態を整理する。
10.	脳死と臓器移植	配布プリントや参考文献により、脳死移植の課題を整理する。
11.	移植医療を巡り	配布プリントや参考文献により、移植医療の可能性と課題を整理する。
12.	生命倫理との対話　終末期医療を中心に	配布プリントや参考文献により、終末期医療の現実を整理しつつ、死生観を探り、自身の考察を加える。
13.	将来への展望　宗教的観点との対話から	多様な死生の文化を整理しつつ、生命観構築に向けた思索を深め、整理する。
14.	将来へ向け1：ホスピスの可能性を巡り	いわゆる生命の質を尊重する視座の意義と課題を整理する。
15.	将来へ向け2：豊かな「いのち」を求めて―死生観への探究	自身の生命観構築のための論理構成を考え、まとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。
レポート作成に向けての資料収集を含めた事前学習等が必要です。講義で扱ったテーマや生命に関する諸問題に関して、受講生同士による議論や他の方々との議論等を通し、自分自身の思索を深めることが期待されます。

フィードバックの方法:　毎回の授業内で、講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。
受講生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。
また、各人のコメントペーパは教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラスへの出席・関与	50	授業ごとのコメントシートの提出。講義内容の理解度及び自身の問題意識により評価します。
学期末レポート	50	的確なテーマを設定し、文献資料及び一次資料等を収集し、到達目標に則したレポート作成へ取り組みます。自身の課題としての論理構成力、批判力、洞察力、思考力を基準として総合的に評価します。詳細は最初のクラスにおいて説明する予定です。

教科書:　毎講義、プリントを配布します。

参考書:　教室にて随時紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します（オフィスアワー、Eメールなど）。

622660

児童文化と伝統

村瀬　　学

授業テーマ:　文化・伝統・歴史の中で伝えられてきた児童文化を考える。

授業の概要:　主に、日本の古代の文化に現れる子どもの姿から、江戸時代、近代までの子どもの姿の変遷をたどる。

到達目標:　地域や、その国の文化・伝統・歴史が、子どもに及ぼす影響を見つめる。そして、日本だけではなく、ヨーロッパも含めて、児童文化の継承のされ方を考え、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法:　講義形式だが、当時の時代の映像をたくさん見て一緒に考える

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	竹取物語（かぐや姫）のおもしろさ	授業全体のオリエンテーション
2.	御伽草子（一寸法師など）のおもしろさ	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
3.	吉備の国と鬼退治の話（桃太郎）のおもしろさ	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
4.	『もののけ姫』と出雲文化	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
5.	古事記のおもしろさ①　日本誕生。イザナキ、イザナミの物語。火の神、黄泉国。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
6.	古事記のおもしろさ②　スサノオと八俣のオロチの物語。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
7.	古事記のおもしろさ③　オオクニヌシといなばのしろうさぎの話。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
8.	グリム童話①　グリム兄弟。蛙の王様。鉄のハンス。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
9.	グリム童話②　ラプンツェル。シンデレラ。	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
10.	アンデルセン童話①　アンデルセンの生涯。マッチ売りの少女	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
11.	アンデルセン童話②　赤い靴　スズの兵隊、雪の女王	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
12.	クリスマス、サンタクロースについて	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
13.	正月とは何か、しめ縄、鏡餅について	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
14.	ウランの発見者　キュリー夫妻について	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する
15.	火と鉄の物語の全体を振り返る	授業全体を振り返り、レポートに向けての要点を説明する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　日本古代の物語の豊かさに注目してください。

フィードバックの方法:　授業の後、出席カードの提出と共に、帰ってからメールの感想送ることを義務づけている。その感想メールに書かれた疑問や質問に答える形で、次の週に全員の感想を名前を伏せてプリントして配布している。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートの提出	60	授業の意図を汲んでレポートをかいているかどうか。
メールでの感想	30	自分で疑問を持ち課題を調べようとしているかどうか。
出席・欠席	10	三分の一の欠席で、成績は不可とする

教科書:　随時指示する

参考書:　村瀬学『宮崎駿再考』平凡社新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、が獲得される。

教員との連絡方法:　メールでのやりとりを基礎にしている。

622760

児童文化と映像

村瀬　　学

授業テーマ:　映像文化と、映像で育つ子どもを考える

授業の概要:　戦後の、テレビ、映画などに登場する少年、少女のヒーローの変化を追い、なぜそういう変化が生じていったのか考える。

到達目標:　特に、テレビ、映画、アニメ、ゲーム、インターネットなどの映像の文化を通して、子どもたちは何を学んでいるのか。またそういう映像文化の制作者達は、何を考えて、映像作品を送り出しているのか考え、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法:　講義形式だが、当時の時代の映像をたくさん見て一緒に考える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	戦後は「ゴジラ」から始まった	授業全体のオリエンテーション
2.	鉄腕アトムの誕生	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
3.	ウルトラマンとは何だったのか	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
4.	アルプスの少女ハイジと名作物アニメ	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
5.	名作物アニメと原作の違いについて	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
6.	ディズニーとディズニーランドについて	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
7.	トイ・ストーリーと人形の世界について	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
8.	宮崎駿の世界①	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
9.	宮崎駿とサン＝テクジュペリ	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
10.	宮沢賢治の世界を考える①	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
11.	宮沢賢治の世界を考える②	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
12.	ディズニーの新しいアニメ①	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
13.	ディズニーの新しいアニメ②	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
14.	宮崎駿の世界②	次回のシラバスに沿って、調べてもらうことをそのつど指示する。
15.	戦後の映像文化の全体を振り返る	授業全体を振り返り、レポートに向けての要点を説明する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　自分の子ども時代の映像体験をしっかりと思い出す努力をしてください。

フィードバックの方法:　授業の後、出席カードの提出と共に、帰ってからメールの感想送ることを義務づけている。その感想メールに書かれた疑問や質問に答える形で、次の週に全員の感想を名前を伏せてプリントして配布している。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートの提出	60	授業の意図を汲んでレポートをかいているかどうか。
メールでの感想の提出	30	自分で疑問を持ち課題を調べようとしているかどうか。
出席・欠席	10	三分の一の欠席で、成績は不可とする

教科書:　随時指示する。

参考書:　村瀬学『宮崎駿の「深み」へ』平凡社新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、が獲得される。

教員との連絡方法:　メールのやりとりを基礎にしている。

622860

子ども心理学

矢野　　正

授業テーマ:　子ども、発達、教育、児童、心理学

授業の概要:　子ども（発達と教育）心理学は、古典的には「発達」、「教授・学習」、「パーソナリティと適応」、「測定・評価」という4つの領域を取り扱ってきた。特に本科目では、前者3領域を重点的に学び、近年取り上げられることの多い発達障害についてや、教育・保育に関する現代的な諸問題についても検討していく。心理学的な理論だけではなく、教育現場の実情にも適宜、触れて問題提起していきたい。

到達目標:　生まれたばかりの乳児は、自分と他者や外界との境界がはっきりせず、自他未分化な存在乳幼児期から児童期の子どもにおける人格、感情、認知などの発達的変化に関する著名な理論を取り上げ、これらの変化が「なぜ」その時期に起こるのか、そこに「どのような」要因が関与しているのか、また「どのようにして」変化が生じてくるのかを概説する。具体的には、乳幼児期の子どもの発達過程の学習を通して、1)子どもの発達的変化にかかわる要因、2)現代における子どもや家族の問題、を理解することを目標とする。

授業方法:　基本的には講義形式で行う。必要に応じてDVD等の視聴覚教材を用い、感想を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（子どもの発達を考える）	授業計画の作成
2.	子どもの発達と支援（1）運動機能の発達	ウィークリーレポートの作成
3.	子どもの発達と支援（2）情動の発達	ウィークリーレポートの作成
4.	子どもの発達と支援（3）社会性の発達	ウィークリーレポートの作成
5.	子どもの発達と支援（4）ことばの発達	ウィークリーレポートの作成
6.	子どもの発達と支援（5）認知・思考の発達	ウィークリーレポートの作成
7.	発達初期の子どもの能力と自我：発達の不思議	中間（課題）レポートの作成
8.	乳児の社会的能力：親子間のコミュニケーションの始まり	中間（課題）レポートの作成
9.	発達障害児とその支援（1）保育現場を中心に	中間（課題）レポートの作成
10.	発達障害児とその家族（2）学校現場を中心に	中間（課題）レポートの作成
11.	人格形成における理論的枠組み	ウィークリーレポートの作成
12.	感情・情動における理論的枠組み	ウィークリーレポートの作成
13.	認知・思考における理論的枠組み	ウィークリーレポートの作成
14.	認知・言語発達支援についての現代的問題（教育問題）	能力の向上自己評価（学期末）
15.	到達度確認と授業目標確認授業	まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は、子どもの発達と教育を理解するうえで役に立つ。自分・自己の成長及び発達を見つめなおしてほしい。なお、講義中の私語・飲食・携帯電話の使用を禁止する。20分以降の遅刻は認めない。

フィードバックの方法:　1.予習・復習：配布プリントに基づき、学習を進めてください。2.参考文献：授業中に適宜紹介します。3.授業内課題：５～６回程度、行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度確認テスト	70	満点を70点換算する。
小課題・授業内レポート	20	満点を20点換算する。
出席状況・受講態度など	10	満点を10点換算する。

教科書:　石上浩美・矢野正、教育心理学、嵯峨野書院

参考書:　石上浩美・矢野正、教育原理、嵯峨野書院
中澤潤、よくわかる教育心理学、ミネルヴァ書房
無藤隆・岡本祐子・大坪治彦、よくわかる発達心理学、ミネルヴァ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール：ai814059@hotmail.co.jpまたはtyano@dwc.doshaisha.ac.jpまで、大学名・学生番号・氏名を入力のこと。

622960

親子関係の心理学

矢野　　正

授業テーマ:　親子関係、保育、愛着、乳幼児、心理学

授業の概要:　知覚と運動、認知、言語、社会性、自己といった複数の領域における乳幼児の発達を保育所保育指針の「発達過程」の記述を軸に解説する。また、乳幼児のよりよい発達を考えるにあたって、望まれる働きかけについて検討していく。愛着や児童虐待などの親子間に存在する社会的な問題、心理学的な問題についてそれぞれ考究する。そのうえで、ソーシャルインクルージョンの考え方について理解を図る。親が子どもを育てる養育の側面と同時に、子どもが親を育てていくという相互な観点もともに重要である。

到達目標:　生まれたばかりの乳児は、自分と他者や外界との境界がはっきりせず、自他未分化な存在であるといわれている。いつ頃、どのようにして、他者とは独立な存在である自分を分かっていくのだろうか。自己の認識の始まりから、次第に子どもが様々な思い、気持ち、考えをもつようになっていく発達過程や、子どもが様々な行動を学習する過程について理解する。それらを踏まえ、養育者をはじめとする周囲の人々との関係性のなかで、子どもは何を体験し、何を育まれることが大切なのかを心理学の立場から考える。具体的には、1)子どもの自己、情動、社会性の発達、2)子どもをめぐる問題とその支援方法、について理解することを目標とする。

授業方法:　基本的には講義形式で行う。必要に応じてDVD等の視聴覚教材を用い、感想を求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（ヒトの親子関係の特徴）	授業計画の作成
2.	自己と情動の発達（1）自己の発達	ウィークリーレポートの作成
3.	自己と情動の発達（2）情動の発達	ウィークリーレポートの作成
4.	幼児期の友達関係（1）幼児期前期の友達関係と大人の関わり	ウィークリーレポートの作成
5.	幼児期の友達関係（2）仲間関係の広がり	中間（課題）レポートの作成
6.	乳幼児期の家族関係（1）乳児期の親子の愛着	中間（課題）レポートの作成
7.	乳幼児期の家族関係（2）幼児の「しつけ」をめぐる問題	中間（課題）レポートの作成
8.	乳幼児期の家族関係（3）幼児の行動的問題に対処するには	中間（課題）レポートの作成
9.	発達障害児とその家族（1）発達障害とは	ウィークリーレポートの作成
10.	発達障害児とその家族（2）発達障害児とその家族への支援	ウィークリーレポートの作成
11.	発達障害児とその家族（3）気になる子どもと保育所の役割	ウィークリーレポートの作成
12.	子どもから大人への移行期（1）青年期における身体的発達と心理	ウィークリーレポートの作成
13.	子どもから大人への移行期（2）青年期における自己概念	ウィークリーレポートの作成
14.	子どもから大人への移行期（3）親からの自立とアイデンティティの形成	能力の向上自己評価（学期末）
15.	到達度確認と授業目標確認授業	まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は、自分が親や保育者になったときにきっと役に立つはずである。また、これまで自分を育ててくれた親や保護者・養育者に感謝する気持ちを持ちたい。なお、講義中の私語・飲食・携帯電話の使用を禁止する。20分以降の遅刻は認めない。

フィードバックの方法:　1.予習・復習：配布プリントに基づき、学習を進めてください。2.参考文献：授業中に適宜紹介します。3.授業内課題：５～６回程度、行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度確認テスト	70	満点を70点換算する。
小課題・授業内レポート	20	満点を20点換算する。
出席状況・受講態度など	10	満点を10点換算する。

教科書:　矢野正・柏まり、保育と人間関係、嵯峨野書院

参考書:　矢野正、生徒指導論、ふくろう出版
平木典子・柏木惠子、日本の親子、金子書房
氏家達夫・高濱裕子、親子関係の生涯発達心理学、風間書房
日野原重明・間野忠明、医療福祉学総論、金芳堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール：ai814059@hotmail.co.jpまたはtyanopdwc.doshisha.ac.jpまで、大学名・学生番号・氏名を入力のこと。担当は、保育士養成校の教員であり、保育士試験などの個別の相談も受け付ける。

623060

音楽社会心理学

諸井　　克英

授業テーマ:　うたのちから・ことばの想いー音楽社会心理学への誘いー

授業の概要:　わが国の'60年代後半から'70年代初頭かけて，歌の「作り手」と「歌い手」を一致させるフォーク・ブームが現れた。このブームは，音楽ジャンルとしてのJ-Popの「曙」として位置づけられるだけでなく，若者自身が自らの心性を表出する「形式」を獲得したともいえる。この講義では，'60年代後半から現在に至るまでにわが国で流通している音楽の「歌詞」を通して，青年の心性の分析を試みる。

到達目標:　講義を通じて，いわゆる流行歌(はやりうた)が，その時代や社会のあり方と相関した文化現象であることを理解する。

授業方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。
なお、社会心理学に関連した調査に協力してもらい、関心を高めてもらう。
当然のことですが、講義中の私語、携帯電話・スマートフォンなどのモバイル端末機の利用、無断退出等は、「欠席扱い」となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義全体の概要と目的	講義内容の大筋の理解
2.	音楽社会心理学とは何か?	前回の講義主題の確認
3.	埋め込まれた不安から希望へ—YUI が蘇らせる伝統的青年像— ［１］	同上
4.	同上 ［２］	同上
5.	恋愛への誘い—斉藤和義が構成する恋愛の掟— ［１］	同上
6.	同上［２］	同上
7.	時代との対峙-『浜田省吾』が構成する戦後の軌跡- ［１］	同上
8.	同上［２］	同上
9.	人生を語らず-『吉田拓郎』が描く生の継続-［１］	同上
10.	同上［２］	同上
11.	ゲスト・スピーカー・タイムーエンタテインメントしてのプロレスのかたちー＜設定開講日・演題は変更の可能性あり＞ TORU「道頓堀プロレス」所属・プロレスラー[高校卒業後，プロレスラーを目指し，インディーズ団体で修行後，現所属。'13年6月「プロレスリング紫焔タッグ王者」'15年5月「道頓堀プロレス認定WDWタッグ王者」'17年7月「VKFシングル王者」'17年12月「WDNシングル王者」戴冠]	同上
12.	弱さの開示から夢の追求へ—『ザ・マスミサイル』が構成する青年の掟—［１］	同上
13.	同上［２］	同上
14.	まとめ	同上
15.	評価	講義全体の主題の理解

受講者へのメッセージやアドバイス:　１週間に一度は「流行歌」(かつての流行歌でもOK)と向き合おう。その「流行歌」がなぜ多くの人々の心と共振しているのかを考えよう。そして，講義で学習した心理学用語を用いて，その「流行歌」がもつ「ちから」を分析してみよう。

フィードバックの方法:　講義形式。講義主題に関連した「音楽」や「映像」に触れてもらう。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや資料整理も含む）	70	授業への集中と理解
小課題（含　マナビー）	30	授業への集中と理解

教科書:　諸井克英著『ことばの想いー音楽社会心理学への誘いー』(ナカニシヤ出版)

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー

623160

死生学

小﨑　　眞、谷　　直之、山本　　一成

授業テーマ:　生と死（Life and Death）の文化・価値への再考　－生活と生命を巡り－

授業の概要:　近現代社会において、命の問題は心身二元論的視座から処理される傾向があります。しかし、昨今、いわゆる西洋の文化を背景とした「近代的な学知」の偏狭さへ疑義が生じてきています。本講義では3名の担当者がそれぞれの専門領域から生と死を巡る言説を紹介することを通し、医学等の専門的な学知の間の壁を越え、新たな知の構築へ挑戦します。また、本講義は人間生活学科の応用・各論科目「こころ」分野を深化する科目の一つであることを付言します。

到達目標:
1. 日々の暮らしの中で直面する生と死を巡る現象に関して、宗教、法律、医療の各現場より再検討を加えます。
2. 各自の問題意識に根差し、担当者を通しての学びを統合し、自らの死生観を構築します。

授業方法:　主に講義形式で行うが、状況に応じグループディスカッション等も尊重して行きたい。ヴィデオ等の資料（複数）をも提供する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスにて、講義概要並び講義目標を確認する。
2.	現代社会（生活の場）における「生と死」：問題の所在－具体的な死の現象を紹介しつつ、死とは何であろうか考察する。	日常生活における、生と死の事象に関して整理する。
3.	死はどう語られてきたか　死生学とは：なぜ、死生学か先行研究を紹介しつつ、死との向き合いを探る。	配布資料や参考文献により、死生学の背景を整理する。
4.	死の受容を巡り：E・キュブラー・ロスやアルフォンス・デーケン、柏木の死の受容のプロセスを紹介しつつ、死の受容の根本問題に考察を加える。不条理の理をいかに構築していくのか。	配布資料や参考文献により、死の受容受容に関する学びを深め、整理する。
5.	生と死の法律学（法学オリエンテーション） 内容（1)法とは何か？（2)法実証主義と自然法論　(3)自己決定権とパターナリズム	日常生活と法律の関わりを整理する。
6.	クローン人間の産生はなぜ許されないのか？（法学オリエンテーション） 内容（1)クローン技術規制法の紹介（2)「人間の尊厳」について（法的視点から）（3)第5回の内容に基づき、具体的に考えてみる（思考方法の提示）。	配布資料や参考文献により、法的立場から、生命事象を分析し、整理する。
7.	人工妊娠中絶と法 内容（1)ナチス「生命の泉」計画（一部、ナチス関連ビデオ使用）、安楽死の紹介（2)刑法上の堕胎罪規定についての説明（3)（旧）優生保護法・母体保護法の紹介（4)選択的人工妊娠中絶or遺伝子操作を題材に、学生による討論	配布資料や参考文献により、法的立場から、人工妊娠中絶の課題を分析し、整理する。
8.	脳死と臓器移植 内容（1)脳死状態についての説明（2)臓器移植法の紹介（3)改正臓器移植法について（4)改正臓器移植法の問題点の整理（5)学生による討論	配布資料や参考文献により、法的立場から、脳死、臓器移植の課題を分析し、整理する。
9.	安楽死と尊厳死 内容（1)尊厳死について（諸外国・わが国の概要）（2)安楽死について（諸外国・わが国の概要）（3)尊厳死・安楽死の問題点の整理（4)現実の姿、実際の現場を知ることの重要性の示唆	配布資料や参考文献により、法的立場から、安楽死・尊厳死の課題を分析し、整理する。
10.	病院における生と死 現代医療における生と死について、その現状と問題点を明らかにする。	配布資料や参考文献により、現代の医療現場における生死の事象を整理する。
11.	終末期ケア 特にがん患者の終末期医療をとりあげ、ホスピス・緩和ケアを紹介する。	配布資料や参考文献により、医療現場における終末期ケアに関する学びを深める。
12.	死別と悲嘆 絶望的状況の中で生きる意味について問う。	配布資料や参考文献により、医療現場における死別の課題に関して整理する。
13.	生と死の意味 死別後の悲嘆について、またそのケアについて考察する。	配布資料や参考文献により、医療現場における悲嘆の課題に関して整理する。
14.	死への準備 誰もがいつか必ず迎える死について、どのような準備をしたらよいかを探る。	配布資料や参考文献により、医療現場における死の準備に関する学びを深め、整理する。
15.	死生学の可能性を巡り	全体講義をふりかえり、自身の生命観構築のための論理構成を考え、まとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　1回～4回と15回は小崎（宗教文化から）が担当。5回～9回は谷（法の現場から）が担当。10回～14回は山本（医療の現場から）が担当。受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。
3つのレポート作成に向けての資料収集を含めた事前事後学習等が必要です。

フィードバックの方法:　講義で扱ったテーマに関して、受講生同士による議論や他の方々との議論等を通し、自分自身の思索を深めることが期待されます。
毎回の授業内で、講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。
学生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラスへの出席と貢献	30	授業ごとのコメントペーパーによる授業理解度及び思考内容により評価します。
死の文化に関するレポート	20	到達目標への取り組み状況、担当者より提示した課題に対する分析力や思考力及び自身の課題としての論理構成力により総合的に評価します。
生と死の法律学に関するレポート	25	到達目標への取り組み状況、担当者より提示した課題に対する分析力や思考力及び自身の課題としての論理構成力により総合的に評価します。
医療現場の生死に関するレポート	25	到達目標への取り組み状況、担当者より提示した課題に対する分析力や思考力及び自身の課題としての論理構成力により総合的に評価します。

教科書:	配布資料により対応します。
参考書:	講義中に紹介します。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します（Eメールなど）。

623360

ファミリーセラピー

辻村　　慶子

授業テーマ:

授業の概要: ファミリーセラピーを学びながら、家族理解、家族支援の視点を養っています。

到達目標: 家族の理解を高め、家族支援の視点を養う。

授業方法: 講義、演習、ビデオ、課題を出し提出物とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに	授業に合わせ参考文献を紹介します。また資料配布もしますので理解を深めてください。課題を出すこともありますのでしっかりとやってきてください
2.	ファミリーセラピーとは	〃
3.	ファミリーセラピーの歴史	〃
4.	ファミリーセラピーの視点から家族の理解	〃
5.	身近な家族問題をファミリーセラピーの視点で考える	〃
6.	ファミリーセラピーの基礎となる理論を学ぶ	〃
7.	ファミリーセラピー理論を学ぶ	〃
8.	ロールプレーで体験しながら学ぶ	〃
9.	構成主義の考え方を学ぶ	〃
10.	構成主義アプローチの特徴を理解する	〃
11.	ソリューション・フォーカスト・アプローチ	〃
12.	ソリューション・フォーカスト・アプローチ	〃
13.	オープン・ダイヤローグの試み	〃
14.	日本での展開	〃
15.	まとめ	〃

受講者へのメッセージやアドバイス: 参考文献一覧を渡し授業内容に合わせて紹介していきます。

フィードバックの方法: 教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	80	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
提出物	20	

教科書: 使用しない。(必要に応じて資料を配布する。)

参考書: 参考文献一覧表を渡し授業に合わせて紹介します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で応対

623560

生活経営学

伏木　　真理子

授業テーマ:

授業の概要:

私たちは様々な生活資源を用いて生活をつくっている。この授業では、その生活資源の中でも、特にカネとヒトに焦点をあてて解説していく。課題として「家計簿」をつけることによって自分の生活を振り返り、今後の生活設計に役立てる。そして、経済社会の動きを体感するために株式学習ゲームを活用する。また、現代社会における、家族、家族関係、家族の機能についても解説する。

到達目標:

・生活資源について説明できるようになる。
・経済社会におけるモノとお金の循環について理解し、説明できるようになる。
・生活設計に関わる社会保障施策について理解し、説明できるようになる。
・自らの生活設計に基づき、生活資源の管理・運用ができるようになる。
・現代の家族関係・家族の機能について理解し、説明できるようになる。
・生活資源について、多面的にとらえ、その現状や問題点等を把握し、考察できるようになる。

授業方法:

講義を基本とするが、学生の発言等を求めることもある。必要に応じて視聴覚教材(ビデオ等)も使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション-「生活」とは？	各自の生活について、予め振り返っておく。
2.	生活経営の基盤となるもの-生活資源	生活資源とは何か、各自で予め考えておく。
3.	家計収入と家計調査-家計簿をつけてみる	各自の収支状況について、予め振り返っておく。支出を中心に、1ヶ月間、家計簿をつける。
4.	家庭経済と国民経済-経済社会のしくみ、経済循環、株式学習ゲーム	新聞、テレビ、Web等で報道される経済ニュース等の情報に触れておく。配付された株式学習ゲームの資料を基に、約2か月間ゲームを行う。毎週、状況報告書を提出する。
5.	家族関係・家族機能の変化-近代家族、現代家族	「あなたにとって家族とは」という問いかけに対して、予め考えておく。
6.	生活時間と家事労働	各自の生活活動、それに費やす時間について、予め振り返っておく。
7.	家計支出と費目別変化-経済構造の変化に伴う消費・生活の変化	各自の家計簿で、支出費目ごとに集計をしておく。
8.	家族周期と個人のライフコース、ライフステージ-あなたのライフデザイン	各自の夢や目標について、予め考えておく。
9.	生活設計-若年者の生活と労働	若年者の置かれている現状について、Web等で調べておく。
10.	生活設計-シングルペアレント	シングルペアレントの置かれている現状について、Web等で調べておく。
11.	生活設計-高齢期の生活	高齢者の置かれている現状について、Web等で調べておく。
12.	社会保障施策-年金	新聞、テレビ、Web等で報道される年金に関するニュース等の情報を調べておく。
13.	社会保障施策-医療	新聞、テレビ、Web等で報道される医療に関するニュース等の情報を調べておく。
14.	社会保障施策-介護	新聞、テレビ、Web等で報道される介護に関するニュース等の情報を調べておく。
15.	家族と地域・社会生活-自助・共助・公助、セーフティネット	新聞、テレビ、Web等で報道される社会保障に関するニュース等の情報を調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	40	家計簿の提出及び分析の度合、株式学習ゲームの状況報告書の提出回数及び分析の度合を基準とする。
レポート	55	各自が選んだテーマについての実態、問題点等の把握の度合、またそれに対する考察、独自の視点があるかを基準とする。
授業への参加姿勢・受講態度	5	皆出席を前提とする。遅刻・欠席については減点対象として、厳正に対処する。

教科書:

参考書:

神原文子・杉井潤子・竹田美知編著『よくわかる現代家族　第2版』、ミネルヴァ書房、2016年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応、マナビーの掲示板機能

623660

くらしのための技術と工芸

平光　睦子、川邊　祐之亮、久保田　晴司、土本　孝則、山中　恵美子

授業テーマ:

授業の概要:
かつての日本人のくらしは、必要なものを必要なだけ生産し、手直ししながら大切に使うものでした。大量生産・大量消費社会といわれて久しい現代においても、いまだ、かつての日本人の生活を継承しているものがあります。この講座では、伝統の継承を実践する方々を講師にむかえ、つくり手の立場と使い手の立場の双方から日本の伝統的な生活様式についての理解を深めます。

到達目標:
①日本の伝統的なものづくりについてその現状を興味をもって理解し考えることができる
②日本の伝統的なくらしについてその現状を興味をもって理解し考えることができる
③日本の伝統的な生活様式を自身の生活と結びつけて捉えることができる

授業方法:
つくり手の立場からは、久保田、川邊、土本が、使い手の立場からは山中が、全体のとりまとめは平光が担当しオムニバス形式で進める。京都市内の京町家での授業と学内でのワークショップ形式の授業を各1回予定しており時間割上の制約によって指定時間帯以外の実施となるが、詳細は初回に伝える。校外学習の収容定員を考慮し履修者数は40名を上限とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　担当:平光	
2.	和風家屋の装飾　担当:久保田(久保田美簾堂) ①形式と種類	講師について基本情報を認識する
3.	和風家屋の装飾 ②製作工程	前回の授業を振り返る
4.	和風家屋の装飾 ③使用事例と今後の展望	前回の授業を振り返る
5.	京町家のくらし　担当:山中恵美子(京まちや平安宮) ①四季のしつらい・年中行事	講師について基本情報を認識する
6.	京町家のくらし ②衣食住	前回の授業を振り返る
7.	京町家のくらし ③広報と伝承	前回の授業を振り返る
8.	染織工芸(京友禅)　担当:川邊祐之亮(ジャパンスタイルシステム) ①技法と種類	講師について基本情報を認識する
9.	染織工芸(京友禅) ②製作工程	前回の授業を振り返る
10.	染織工芸(京友禅) ③これからの京友禅	前回の授業を振り返る
11.	染織工芸(染色補正)　担当:土本孝則(京きもの御手入処土本) ①染色補正の役割	講師について基本情報を認識する
12.	染織工芸(染色補正) ②しみ抜き・洗い張りの技術と技法	前回の授業を振り返る
13.	染織工芸(染色補正) ③着物の再生と悉皆業	前回の授業を振り返る
14.	総括　担当:平光	これまでの授業を振り返り、伝統的なものづくりやくらしについて自身の考えをまとめる
15.	評価　担当:平光	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
日本家屋の装飾、京町家のくらし、染織工芸(京友禅)、染織工芸(染色補正)の4テーマについてレポートの提出を課します。レポートは採点し返却します。授業時間内に小テストを実施します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	興味・関心をもって授業に積極的に参加することができたか、各回の授業への感想等を含めて評価する
レポート	40	到達目標①～③について理解度と独自の視点で考えられたかを基準とする
小テスト	20	到達目標①②についての理解度と到達目標③について柔軟かつ積極的な姿勢で捉えられるかを基準とする

教科書:
なし

参考書:
山中恵美子『よそさんは京都のことを勘違いしたはる』学習研究社　2003年
『京都 手仕事帖 (京のめぐりあい)』 暮らす旅舎　2014年
『京のめぐりあい 水の都 京都 』 暮らす旅舎　2014年
澤田美恵子、中野仁人 『京の工芸ものがたり』 理論社　2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応

623860

京の伝統染織論

木村　　信一

授業テーマ:　伝統と未来　～ 京友禅の着物の世界 ～

授業の概要:　京都は古くから日本の染織文化の中心地として栄え、その伝統の技と美が時代を超えて受け継がれてきた。その代表的な京友禅の着物を通じて歴史や技術を学び、実際にモノづくりを体感・体験することで友禅を身近に感じ、伝統ある着物に対する理解をより一層深め、これからの伝統産業としての着物のあり方、またその未来について共に考えていきたい。

到達目標:　思考力・創造力・変化対応力

授業方法:　定員を30名までに限定しており、程良い距離感で授業をする。全体的に講義を行い、必要に応じて映像やプリントを使用する。また着物の作品展見学や京友禅の職人の工房見学、さらに染色などの実習体験を行う。その為に時間の都合上、講義を振替の上、見学・実習は土曜日に時間を設定します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	伝統産業の京友禅と染匠	
2.	京友禅の手描染と型染の解説	
3.	京友禅の技と匠に直接ふれる(工房見学)	自分が着てみたいと思う着物のデザインを考える
4.	京友禅の技と匠に直接ふれる(工房見学)	自分が着てみたいと思う着物のデザインを考える
5.	友禅染の歴史と京友禅の現状	
6.	京友禅作品展の見学	自分が着てみたいと思う着物のデザインを制作する
7.	京友禅作品展の見学	自分が着てみたいと思う着物のデザインを制作する
8.	着物の知識と魅力	
9.	京友禅の技を実習・体験する(彩色)	
10.	京友禅の技を実習・体験する(彩色)	
11.	伝統産業と先端産業の出会い「京友禅の他分野への展開事例」	
12.	京友禅の技を実習・体験する(金彩)	
13.	京友禅の技を実習・体験する(金彩)	
14.	伝統産業の新しい歩み方と次世代への引継ぎ	
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　着物に対する近年の難しくて煩わしいイメージを払拭し、着物文化の魅力を学んで着物をもっと身近に感じて好きになってもらいたい。

フィードバックの方法:　自分が着てみたいと思う着物のデザインを提出してもらう。それを教室で評価する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	25	到達目標 思考力、創造力によって伝統染織の認識を評価する。 到達目標 変化対応力で着物などの将来の展望について、独自の視点がどの程度あるか評価する。
授業への参加度	50	積極的に授業に参加して講義を受けなければ知識が身につかない。従って授業の最後に必ず講義に対するコメントを提出してもらい、到達目標 思考力、創造力が身に付いたかを評価する。
実習作品の評価と実習態度	25	到達目標 変化対応力は技術的評価よりも一生懸命、まじめに取り組んでいるかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

624360

世界の社会福祉

宮本　　義信、西村　　ゆり

授業テーマ:　「国際社会福祉（活動）」への視点

授業の概要:　「国際社会福祉（活動）」という言葉は次の三つの意味で使われる。①高齢化の問題のように、複数の国に（国境を越えて）共通する福祉問題への対応、②国際機関やNGOなどの開発途上国に対する福祉援助活動、③移民や外国人労働者とその家族の福祉などのように、国内における社会福祉の国際的な問題への対応。授業では、アジアを中心に（一部北欧を含め）、社会福祉の動向と課題を広く理解することをとおして、異なる文化や価値観に対する理解や尊敬の念、寛容さを養ってもらいたい。そのうえで「国際社会福祉（活動）」がもつ実践や思想を、自分の生活や人生の問題として受け止め吟味されることを期待したい。

到達目標:　「国際社会福祉（活動）」への視点を深める。

授業方法:　世界各国の社会福祉に詳しい学外の講師を含むオムニバス形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業のねらい、進め方、評価の仕方）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	なぜ今「国際社会福祉（活動）」か？	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	光の音符とインドとの「出会いからつながりへの道」	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	「知ることを楽しむには？」―インドという国の面白さ、歴史など―（1）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	「知ることを楽しむには？」―インドという国の面白さ、歴史など―（2）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	「国際協力と福祉をともに考える」―光の教室での具体的取り組みを再現し―（1）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	「国際協力と福祉をともに考える」―光の教室での具体的取り組みを再現し―（2）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	デンマークの社会と福祉（1）　ゲストスピーカー招聘	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	デンマークの社会と福祉（2）　ゲストスピーカー招聘	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	台湾の社会と福祉（1）―世界最低の出生率と世界最高の人口増加速率―	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	台湾の社会と福祉（2）―増大する大陸・東南アジア出身配偶者と深刻化するDV問題―	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	台湾の社会と福祉（3）―介護を担う東南アジアからの出稼ぎ労働者たち―	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	台湾の社会と福祉（4）―幼児教育・保育法の制定と幼保一元化の推進―	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	台湾の社会と福祉（5）―シルバーマーケット推奨政策とシニアタウンの拡大―	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	日本が学ぶべきこと	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	70	出席を含む授業への参加・態度およびミニレポート内容
期末レポート	30	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業前後に対応

624560

住まいづくりの基礎

土井　　正

授業テーマ:
環境に配慮し、頑丈で長持ちかつ安全で快適な住まいづくりの基礎を学ぶ。

授業の概要:
住まいはどのような仕組みで建てられているのか、どのような材料を必要とするのか、住まいづくりに必要な基礎知識を習得する。そのため、建築物の躯体構造から仕上げまでの全体構成に関する仕組みや住まいに求められる性能を学び、構成材料の特性と構造形式、居住環境との関係を理解する。さらに、住まいやその構成材料が今日の地球温暖化問題や資源環境問題など持続的循環（サスティナブル）社会の形成にどのように関わっているかについて学ぶ。

到達目標:
1. 建築物の構成、備えるべき性能・機能についての最低限必要な事項を理解し、安全で快適なすまいが備えるべき要件について理解する。

2. 習得した知識により安全で快適な住まいの前提条件である構造安全性、耐久性、住まい手としての維持管理行為の重要性について説明できる。

授業方法:
講義を主とするが、適宜関連したビデオ教材の視聴を行い、より深い理解ができるように配慮する。必要な資料について講義毎に配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	建築物の構成方法の基本的な仕組みについて：住まいの材料、構造はそれぞれの地域の気候、風土と密接に関わっている。	大学の校舎や御所など、大学周辺の建築物・住宅等をよく観察してみよう。
2.	住まいの構造について：伝統的な住まいは地域の気候風土に調和する材料が多く用いられてきたが、その構造は使用される材料に基づいて決まることが多い。	海外も含めて好きな地方の住まいや街並み、建築について調べてみよう。
3.	構造材料の特性と空間の構築について（1）：木材・木質材料、木造	住宅展示場などでどのような内外装材料が使用されているかパンフレットなどを収集しておくと理解が深まる。
4.	構造材料の特性と空間の構築について（2）：コンクリート・鉄、鉄筋コンクリート造、鉄骨造	住宅展示場などでどのような内外装材料が使用されているかパンフレットなどを収集しておくと理解が深まる。
5.	5. インテリア・エクステリア材料の特性とその機能について（1）金属、石材、セラミックス、ガラス、プラスチック	住宅展示場などでどのような内外装材料が使用されているかパンフレットなどを収集しておくと理解が深まる。
6.	インテリア・エクステリア材料の特性とその機能について（2）：木材・木質材料、紙、繊維、断熱材	住宅展示場などでどのような内外装材料が使用されているかパンフレットなどを収集しておくと理解が深まる。
7.	住まいづくりと法規：建築基準法、住生活基本法、品確法（住宅性能表示制度）、長期優良住宅促進法	国土交通省のホームページで各法律の目的、概要、一般向け広報パンフレットなどに目を通しておくこと。
8.	木質系住宅の構造と構法について（1）：伝統構法、在来軸組構法	各部位の名称の表記、漢字が正しく読めるようにしておくこと。
9.	木質系住宅の構造と構法について（2）：枠組壁工法（ツーバイフォー工法）	この工法は北米における工法が基礎になっている。北米の住まいと日本の住まいの違いについて調べておくこと。
10.	住まいの構造・材料と環境問題について（1）：高断熱・高気密住宅、省エネルギー	10～13回の学習内容は地球温暖化問題、エネルギー資源問題、廃棄物処理問題などと関連している。インターネットなどで現状のポイントを予習しておくと理解が深まる。
11.	住まいの構造・材料と環境問題について（2）：シックハウスソーラーハウス・スマートハウス、自然と共生するための仕組み	10～13回の学習内容は地球温暖化問題、エネルギー資源問題、廃棄物処理問題などと関連している。インターネットなどで現状のポイントを予習しておくと理解が深まる。
12.	住まいの構造・材料と環境問題について（3）：サスティナブルな住まい、エコマテリアル、建築材料のリサイクル	10～13回の学習内容は地球温暖化問題、エネルギー資源問題、廃棄物処理問題などと関連している。インターネットなどで現状のポイントを予習しておくと理解が深まる。
13.	長持ちする住まいについて：耐久性、維持管理、材料の劣化とその対策	10～13回の学習内容は地球温暖化問題、エネルギー資源問題、廃棄物処理問題などと関連している。インターネットなどで現状のポイントを予習しておくと理解が深まる。
14.	住まいの安心・安全について：住まいや住環境で発生する事故の実態とその対策、防犯対策	住んでいる府県の警察本部のホームページで防犯関係の資料を閲覧しておくこと。
15.	まとめ	第14週目までの配布資料を整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
通学途上で建設中の住宅などがあれば、よく観察しておくと学習の理解に役立つ。住宅展示場、住設機器などのショールームも積極的に見学してパンフレットなど収集することで最新の情報に触れることができる。

フィードバックの方法:
質問などは教室でまとめて解説する。
試験については採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	到達目標1及び2について、必要不可欠な項目についての理解度や知識を評価する。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、疑問点や不明な事項については質問できることを評価する。

教科書:

参考書:
図解住居学3　住まいの構法・材料、土井正・宮野道雄・田原賢・小林敬一郎著、彰国社
私たちの住居学－サスティナブル社会の住まいと暮らし、中根芳一編著、理工学社
図説　易しい建築一般構造、今村仁美、田中美都著、学芸出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
授業前後に教室及びEメールで対応する。アドレスは授業時に開示する。

624760

インターネットコミュニケーション

山田　　章

授業テーマ:

インターネット上のコミュニケーションについて「ソーシャルネットワークサービス(SNS)」を中心に解説し、それらの技術の内容理解・実践を目的とする

授業の概要:

「ソー活」などともいわれ、就職活動にも「ソーシャルネットワークサービス」は利用が不可欠な昨今、情報の伝達・発信・収集などにおいて、インターネットの利用が不可欠な現在、FaceBook、twitter、LINE、Youtubeなどの新しく登場 したコミュニケーション技術について学ぶ。
また、最新ITの情報やニュースなどを紹介していく。

到達目標:

前半は、ネットワーク (LAN) やインターネットの理論的基礎と利用法の基礎の機能を理解し、電子メールをはじめと するコミュニケーションツールを活用できるよう情報受信の能力を養う。
後半は、実際にこれらのコミュニケーションツールを活用し情報発信やその技術について学んでいく。
また、実際にソーシャルネットワーク・サービスを使用するにあたりスマートフォンやタブレットなどの機器が最近では 不可欠なので、モバイルツールの最新ニュースや情報などを紹介し、理解を深めていく。

授業方法:

授業はPowerPointとビデオを使用した講義を主体に行う。パーソナルコンピュータについては、逐次紹介するSNSサービ スの設定などを自身のアカウントと比べたりするのに使用してもらえればと思ってます。Facebook等のSNSサービスのアカウントを取得し実習を行いたいと考えているが、個人情報などの問題があるのでオリエ ンテーション時に学生とコンセンサスをとり実習の内容は考えていきたい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション～ソーシャルネットワーク・サ-ビスとは	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
2.	インターネットのしくみ1 ネットワークの基礎知識、ドメイン・WWW	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
3.	インターネットのしくみ2 メール・コンピュータの構成要素・電波帯域	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
4.	インターネットコミュニケーションツールの紹介及び利用 1 (twitter mixi facebook Ustream など)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
5.	インターネットコミュニケーションツールの紹介及び利用 2 (Blog LINE Instagram など)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
6.	インターネットコミュニケーションツールの紹介及び利用 3 (スマートフォンなどを利用したSNSの利用)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
7.	インターネットコミュニケーションツールの紹介及び利用 4 (さまざまなSNSサービス)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
8.	ネット・コミニュケーションでの利点・欠点 (炎上・誹謗中傷などの負の部分やSNSの利点などを紹介)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
9.	さまざまな新しい技術の紹介 (プロジェクションマッピング・AR等の技術の紹介)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
10.	就活とソーシャルネットワーク・サービス ～ソーシャルリクルーティングの世界～	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
11.	SNS関連の様々なアプリやサービス ～SNSを使いやすくする、様々なサービス～	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
12.	インターネットコミュニケーションツールの利用 1 (twitter、facebook等のコミュニケーションツールの活用方法)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
13.	インターネットコミュニケーションツールの利用 2 (twitter、facebook等のコミュニケーションツールの活用方法)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
14.	インターネットコミュニケーションの授業を受けてのレポート (特設URLからのWeb提出。)	特に予習に関しては必要なし。復習に関しては、普段皆さんが使用しているツールだと思うので授業の内容を実際に活用していただければよいと思う。
15.	総括・まとめ	授業の進み具合により内容が多少前後したり、新しい技術の登場や技術の陳腐化、利用数減など旬の要素によって内容 が変更になることがある。

受講者へのメッセージやアドバイス:

普段皆さんが慣れ親しんでる身近にある題材をテーマにしてますので、授業で話したTIPSや最新技術などは自分でも実践していただければ理解がさらに深まると思います。

フィードバックの方法:	いろいろな質問事項などに関してのフィードバックは、教室でまとめて解説したり個別に返答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	授業への積極的参加度合い提出物に関して評価
レポート/発表	50	5段階査定で、55～46、45～36、35～26、25～16、15～0点

教科書:	特に指定しない。必要に応じてプリント(PDF)及びPowerPointのデータを配布。
参考書:	特に指定しない。必要に応じてプリント(PDF)及びPowerPointのデータを配布。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力
教員との連絡方法:	メール(akira_yamada@mac.com)及び直接声かけいただいて大丈夫です。

624860

ボランティア・NPO活動論

西村　　ゆり

授業テーマ:　音や色の体験、点字や介助の体験を通して、人とのつながりと心のバリヤフリーを考え、NPO活動の実践について学ぶ。

授業の概要:　ボランティア活動の現実を紹介しながら、現場で起こる諸問題を共に考える。そのなかで、「障がい者」、「健常者」の枠を超え、自分を含め、人間を深く豊かに捉えられるよう、五感を使っての実習と授業内での話し合いを大切にする。美しいもの（芸術）、文化は、人間にとって大切な魂の
糧であり、それらを通して、単なる「人助け」ではない、創造的な人とのつながりを体験できるボランティアの行為を、可能な限り授業内で実践する。

到達目標:　自分自身を深く認識し、新しい世界を知り、開かれた心で人と接する力を養うことを目標とする。

授業方法:　手や体を通して表現し、色や音を楽しみながら、実際に人と触れ合う授業。五感を使って人と触れ合う喜びを伝え、それが障がいのある人やお年寄りとのコミュニケーションの力となることを実感できるよう、具体的な実習を中心に授業を行う。また、実際のボランティア活動の現場から、成果やトラブル、社会のなかで求められる役割を紹介し、毎回、各自が感じたことを発表し、話し合いながら授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	＜ボランティア活動の基本＞ 名前を名乗りあい、世界に一人の私を実感する。今イメージするボランティア像について各自が思いを述べる。 民俗楽器を用いて「音」を体験し、即興での合奏を試みる。（レポート「私について」）	最初の授業では準備は必要としない。授業後、受けた前と後で、自分のなかで変化があったかどうか確認する。
2.	＜色の体験1＞ クレヨン画による色の体験。評価されるためではなく、自由に手を動かし、思いがけない色同士の調和を感じる。	出来上がった作品を各自持ち帰り、身近に使用できるもの（ブックカバー等）に形を変える。
3.	＜ビデオ鑑賞1＞ 本学の先輩、井深八重氏の生涯を知り、予想外の出来事に立ち向かう心構えを考える。また、日本のハンセン病について、歴史や患者の人々について学ぶ。	それぞれが可能な範囲でハンセン病について調べる
4.	＜色の体験2＞ 水彩画による色の体験。水を媒介にする絵を通して、無数の色の出現と、各自の個性を味わう。	準備、後片付け等、知らない学生との協働作業を積極的に行う。次回に備え、空き缶を用意する。
5.	＜楽器つくり1＞ 空き缶による楽器つくり。捨てられるものが創造的に生かされる面白さ、楽しさと、人との協働作業を体験する。4で完成させた絵を楽器に貼る。	次回に備え、グループに分かれて楽器を使った発表を考える。
6.	＜楽器つくり2＞ 5で作った楽器を使い、グループ発表。 絵、楽器作りなど、これまでの作業が、「人を楽しませる」ことにつながったことを実感する。最後に全員で合奏する。	各グループで、発表を振り返り、改善点を話し合う。（13の授業に備えて）
7.	＜ビデオ鑑賞2＞ あるハンセン病患者の生き方に学ぶ。 自分の知らない世界があり、過酷な境遇にあっても人のために生きる人が存在することを学ぶ。人の尊厳への気づきと、世界への関心を高める。	ビデオの主人公の男性にあて、短い手紙を書く。
8.	＜私と他人について考える＞ 7の授業後に書いた手紙を音読し、録音する（男性が全盲であるため）声のメッセージは後日西村が本人に届ける。	特になし。
9.	＜介助実習＞ 視覚障碍者の誘導の実習。他人に自分の安全を委ねる体験を通し、「信頼」を考える	町中で、障がいのある人への声かけを、可能な限り実践してみる。
10.	＜点字実習1＞ 視覚障碍者の立場を想像しながら、点字の基礎を学び、点字の名詞を作成する。	自分の名前の点字表記を覚える。
11.	＜点字実習2＞ 点字で視覚障碍者に短い手紙を書く。	点字を打つ感覚を体に記憶させる。
12.	＜世界の子どもに出会う＞ インドのスラムに住む子ども達への芸術教育の実践をDVD等で紹介し、他の国際NPOの活動も踏まえ、異文化の人々と協力しあうための具体的なノウハウを学ぶ。	世界の子ども達に自分が出来ることを考える。
13.	＜コミュニケーションの体験＞ 11の授業で書いた手紙の返事を受け取り、見知らぬ人と気持ちを通わせる体験をする。また、インドの子ども達に絵や折り紙などのプレゼントを作成する。	受け取った点字の手紙をしっかりと読む。5でつくったグループで、次回のために「遊び」の内容を話し合う。
14.	＜実践＞ グループに分かれ、障がいのある人、お年寄り、子どもを対象にした5分程度の「遊び」を発表しあう。また、国内のNPOがそれらの人たちにどんな働きかけをしているかを知る。	各グループごとに、準備から反省まで発表の経過をまとめる。
15.	＜まとめ＞ 14の発表、これまでの授業で感じたことの分かち合い。	それぞれが、クラス全員の顔を認識できているか確認しあう。

受講者へのメッセージやアドバイス:　身構えず、ありのままの楽な気持で受講してください。

フィードバックの方法:　レポートについては、授業の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標「新しい世界を知る」、「開かれた心で人と接する」に関して、授業で体験したことが、自分の言葉で表現できているか
レポート	20	到達目標「自分自身を深く認識する」に関して、率直に自分と向き合えているか
発表・討論	30	グループ発表での自分の役割の認識度と、その達成度

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール　yuri-n@vmail.plala.or.jp
携帯電話:090－8210－0925

624960

ユニバーサルデザイン論

岡田　　明

授業テーマ:　誰もが公平な満足を得られる豊かなモノづくり環境づくり

授業の概要:　超高齢社会の到来や安全安心思想の浸透を背景に、ユニバーサルデザインが社会に広まりつつあります。それにより、様々なニーズをもつ人々への配慮が居住環境や生活用具にも取り入れられるようになりました。本来、健常者も障がい者も存在しません。子どもや高齢者、心身機能に配慮が必要な人々はもちろんのこと、外国人や左利きユーザなど、全ての人に使いやすさ、安全性、快適性などを公平に提供できるよう、環境、道具、情報、サービス等をデザインすることがユニバーサルデザインの基本です。本論はこうしたユニバーサルデザインの考え方や活かし方を、生活科学、人間工学、設計論に基づき解説します。

到達目標:　上述の授業内容に基づき、ユニバーサルデザインを生活の中に適切に応用できる知識や能力を身につけることを目標としています。具体的には次のとおりです。
・ユニバーサルデザイン的視点の獲得
・ユニバーサルデザインを具体化するための手法の獲得
・ユニバーサルデザインの質を評価する手法の獲得
・ユニバーサルデザインの対象となる人々の心身機能の理解
・様々なニーズをもつ人々への思いやりの心

授業方法:　本論は3部構成となっています。講義主体ですが、第Ⅲ部の机上演習ではグループワークも一部取り入れながら簡単な課題を遂行します。また、スライドを多用し、わかりやすさに配慮します。なお、毎時間終了時に授業に関するコメント・質問等をカードに記入し提出してもらい、翌週の授業時にそれに対して回答します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	【イントロダクション】 ユニバーサルデザインとは何か	予め、ユニバーサルデザインと思われる事例を見つけてください。最初の授業終了時には、ユニバーサルデザインを誤解していたことに気づくはずです。
2.	【第Ⅰ部:企画・デザインの方法と評価】 ①モノづくりとユニバーサルデザイン ーデザインに必要な4要素	授業後に、ユニバーサルデザインに備えるべき要素を身近な製品に当てはめて考えてみてください。
3.	②ユニバーサルデザインの進め方 ーつくり手から使い手に渡るまで	デザインプロセスが多くのステップから成り立つことを理解したうえで、授業の後に自分が興味のある製品をユニバーサルデザイン化することを考えてみてください。
4.	③ユニバーサルデザインの調査と評価 ー人の特性をデザインに落とし込む	授業で得た調査や評価の手法を応用し、関心のある製品を分析し、ユニバーサルデザイン面で欠けている点、問題となる点を抽出してみてください。
5.	④誰もが安全なモノづくり ーヒトはエラーを犯す動物である	予め、身近にある家電製品等のマニュアルに記載されている使用上の注意を調べておいてください。この回では誰でも安全に使えるようにすることを考えます。
6.	【第Ⅱ部:ユニバーサルデザインのための心身機能の理解】 ①人の寸法と運動機能 ー平均値だけではモノはつくれない	予め、街中の設備・施設や家庭内の製品等が自分の寸法に合っているか調べてみてください。この回は人の心身機能の個人差が大きいことを学びます。
7.	②人の感覚機能 ー我々の感覚は五感だけではない	授業で紹介したユニバーサルデザインで配慮すべき感覚機能とその応用事例を街中で探してみてください。
8.	③人の視力と視覚機能 ー我々はモノをどの様に見ているのか	視力や色の見え方には大きな個人差があります．それを学んだうえで，情報をどの様にデザインすれば見やすくなるかを考えてみてください。
9.	④人の認知機能 ー分かりやすさをデザインする	スマートフォンの操作方法や公共空間の標識等をどの様にデザインすれば誰でも分かりやすく迷わないのかを考えてみてください。
10.	【第Ⅲ部:机上演習　ー仮想製品の企画】 ①演習(1) 演習に先立つ復習	予め、これまでの授業の流れを簡単におさらいしておいてください。この回では演習に先立ち、再度ユニバーサルデザインの考えや事例等を紹介します。
11.	②演習(2) 対象ユーザとニーズの抽出(グループ演習)	この回の演習で得た知識やアイディアを基に、自分で企画したい新しい製品のイメージを膨らませてください。次の回にそれを具体的に企画してもらいます。
12.	③演習(3) ユニバーサルデザイン製品の企画づくり	前回の演習に引き続き、より具体的な提案に結びつく内容を考えておいてください。この回はその企画案を簡単にまとめ提出してもらいます。
13.	④演習の講評，ユニバーサルデザインの歴史と考え方	他の受講者の企画案を通して、ユニバーサルデザインの構築にはいかに多くの人々の考えの集約が必要かを体感してください。
14.	【終章:総括と今後の課題】 ①ユニバーサルデザインに基づく居住環境の構築	これまでの授業の内容に基づき、様々なニーズをもつターゲットユーザの居住環境をいかに構築していけばよいかを考えてみてください。
15.	②まとめと課題レポート	これまでの授業を振り返り，ユニバーサルデザインについての自分の考えをまとめてみてください。それを課題レポートとして授業時間内に記載してもらいます。

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業は、出席し一緒に考えてもらうことを最重要と捉えています。そのため、フィードバックの方法や成績評価等もそれに基づくものになっています。

フィードバックの方法:　毎回授業の最後に、その授業に対する感想、意見、もし質問があればそれもコメント用紙に記入して提出してもらいます。翌週の授業時に全体の感想や意見を紹介すると共に、個別の質問についても回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席＋コメント	80	毎回提出されたコメント用紙の内容について、その授業に対する勤勉度・理解度等に基づき評価
レポート	20	机上演習時の提出物および最終回に作成する課題レポートから、理解度・達成度に基づき評価

教科書:

参考書:	日本人間工学会（編）「ユニバーサルデザイン実践ガイドライン」共立出版 岡田明（編著）「初めて学ぶ人間工学」理工図書 （社）人間生活工学研究センター（編）「ワークショップ　人間生活工学　第1巻～第4巻」丸善 山岡俊樹，岡田明「応用人間工学の視点に基づくユーザインタフェースデザインの実践」海文堂
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	コメント用紙への記入、あるいは授業の前後に教室内等で対応

625061

応用演習Ⅰ

小﨑　　眞

授業テーマ:　「いのち」の創造

授業の概要:　日々の暮らしの中で直面する生命の領域で起きている事象に向き合いながら、21世紀を生きる私たちの生命を再考し、自らの生命観の構築を目指す。具体的には、人工授精、体外受精、人工妊娠中絶、脳死、臓器移植、自殺、安楽死、尊厳死等の事柄を扱いながら、各自の生命観、死生観を構築していきます。その際、研究倫理についての学びも深めます。

到達目標:
1. 近現代社会における「生と死」の具体的事象に内在する新たな課題を探求します。
2. その課題に対峙すべき思想を探究します。
3. 自分自身の死生観を批判的に再考し、新しい視座を模索します。

授業方法:　ゼミナール形式（発表、質疑応答、討議）。グループで課題に向き合い、各自の学びを深めます。必要に応じ、講義も行う予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 演習の意義と可能性	シラバスにより、本演習の概要、目標、要求課題などに関する学びを深める。
2.	グループワーク1 コンセンサスゲームを通し	配布資料や参考文献により、グループ学習の意義などを整理する。
3.	グループワーク2 ロールプレイングゲームを通し	配布資料や参考文献により、グループ学習の意義などを整理する。
4.	発表テーマの予備議論	発表に向けた予備討論が実施できるよう資料収集、資料分析など。
5.	発表及び全体討議: 立場固定のディベート （生殖医療の課題等）1	グループ議論のための配布資料準備、及び、議論の要点を整理。
6.	発表及び全体討議: 立場固定のディベート （生殖医療の課題等）2	グループ議論のための配布資料準備、及び、議論の要点を整理。
7.	前半発表のふりかえり	配布資料や参考文献を用いて、前半の議論のポイントに対する自己の意見構築。
8.	発表、執筆の技法	グループ発表の内容を振り返り、議論を深めるべきポイントの整理。
9.	後半発表に向けた予備討論	後半のグループ発表に向けて、論点の整理。研究倫理に関する学びを深め、整理する。
10.	発表及び全体討議 立場固定のディベート （脳死、臓器移植の課題等）1	グループ議論のための配布資料準備、及び、議論の要点を整理。 研究倫理に則した発表への工夫。
11.	発表及び全体討議: 立場固定のディベート （脳死、臓器移植の課題等）2	グループ議論のための配布資料準備、及び、議論の要点を整理。 研究倫理に則した発表への工夫。
12.	後半発表ふりかえり	グループ発表の内容を振り返り、議論を深めるべきポイントの整理。
13.	今日的課題整理1 自己決定をめぐり	発表経験を振り返り、客体化することの意義などを深め、整理する。
14.	今日的課題整理2 多様性をめぐり	発表を振り返り、他者の存在意義に関して、深め、整理する。
15.	春学期全体のまとめと秋学期向けた課題確認。夏季休暇中の自学自習活動への指示	演習全体をふりかえり、自身の論稿構築に向けた資料確認、論点整理など。研究倫理規定の確認。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各自・各グループ最低2回は発表の機会を提供する予定です。
ディベート形式の討論（人工妊娠中絶の是非、臓器移植の是非等）を通し、課題を探究する予定です。
グループ発表（討議、批評等）の準備を含め、講義時間以外に種々の課題が提供される予定です。事前の文献資料の調査、事前事後のグループ討議、さらに、学期末レポートの作成のための資料収集などが期待されます。

フィードバックの方法:　講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。時には、受講生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを用います。学生からのコメントは演習内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディベート参加・報告書作成	40	20%×2回ディベート報告書作成。発表整理力、発表内容の思考力、論点分析力によって評価します。
クラス討議への関与・コメント	20	10%×2回の発表に対するコメントペーパーを作成します。他のグループ発表の理解度、批判力、思考力により評価します。
演習レポートの作成	40	到達目標への取り組み状況、提示されたレポート課題に対する思考力、分析力及び自身の課題としての論理構成力により総合的に評価します。詳細は最初のクラスで説明します。

教科書:　配布資料を準備します。

参考書:　教室にて指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初のクラスで説明します（オフィスアワー、Eメールなど）。

625062

応用演習Ⅰ

宮本　　義信

授業テーマ:

授業の概要:

福祉は専門家に任せるものではなく、一般の市民・学生や関連職種の人たちも一緒に取り組むべきものです。しかし、今日では、それが福祉専門家の方法・技術と考えられて、わたしたち「人間」の「生活」に結びつけることが難しくなっています。だからこそ、福祉専門家ではない「わたしたち」が、さまざまな福祉の問題をめぐって「できる」こと「すべき」こと、あるいは「すべきでない」ことについて考えることは大切です。演習では、こうした作業を通して、福祉専門家任せにしがちであった社会福祉を一般の市民・学生に戻していくという視点から、社会福祉の再検討を試みます。

到達目標:

社会福祉の専門知識を修得する。

授業方法:

教室における講義、学外での体験学習、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議。併せて、映画のビデオやDVDを活用しながら、当事者の人権の問題、人間としての生きざまの過程、まわりの人びとの支援の状況、社会的な時代背景や価値について考えます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会福祉の基本的なあゆみ	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	社会福祉および福祉関連制度の利用の仕組み	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	貧困問題と生活の保障	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	社会福祉の支援の仕方	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	社会福祉の関連職種とボランティア	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	子ども・配偶者虐待と援助	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	子どもの成長と地域における子育て支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	少年非行の法と臨床	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	家族と高齢者介護	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	高齢期のお金とくらしのデザイン	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	高齢者居住施設のこれから	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	障害をもつ人とのかかわり	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	障害乳幼児の療育と家族支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	精神障害をもつ人の自立と社会参加	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	これからの社会福祉	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・発表	50	出席を含む演習への参加・態度および発表内容
レポート	50	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

宮本義信（編著）『くらしに活かす福祉の視点ー学生・ボランティアが知っておきたい基礎知識ー』ミネルヴァ書房、2010年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール等の利用

625063

応用演習Ⅰ

諸井　　克英

授業テーマ:　社会心理学（日常を計量する）

授業の概要:　社会心理学は，日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として,そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。演習では，「社会心理学」という学問ツールに触れることによって,だれもが「体感」している日常素材を対象として「心の冒険」をし,卒業後の「社会」の中で自己成長を遂げるステップにすることを目標とします。とりわけ,学問領域だけでなく，実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力を身につけることも併せて目指します。
3年次の応用演習では，(1)卒業研究に必要なスキルの習得，(2)卒業研究課題への取り組みの着手と目標とします。(1)では統計ツールの学習に加え，フィールド研究(大学構内・外での「観察」体験－ストリート・ウォッチングなど－)なども行います。この演習の最終目標は,各人が築きあげた成果を卒業研究としてまとめることです。これは，「感想文」とは異なり，あくまでも社会心理学という学問ツールの適用結果としての論文の形にします。これによって,演習生のキャンパス・ライフのアカデミックな部分を「形」として残したいと思います。

到達目標:　社会心理学研究に関する基礎的スキルの習得

授業方法:　１時間30分の授業時間のみが「学習時間」ではなく,その合間に多くの「作業・学習時間」が必要となります。とりわけ，フィールド研究のために時間外の作業が必要となります。「皆出席」を前提に、各自が「期間中」にどのくらい格闘したかを評価の対象とします。フィールド研究にはグループで従事します。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	演習の概要の説明・確認	本演習のシラバスでの確認
2.	統計ツールSPSSの基礎－1-	前回演習作業の確認
3.	統計ツールSPSSの基礎－2－	前回演習作業の確認
4.	フィールド（観察）研究の準備－1－	前回演習作業の確認
5.	フィールド（観察）研究の準備－2－	前回演習作業の確認
6.	統計ツールSPSSの基礎－3－	前回演習作業の確認
7.	統計ツールSPSSの基礎－4－	前回演習作業の確認
8.	フィールド（観察）研究計画－1－	前回演習作業の確認
9.	フィールド（観察）研究計画－2－	前回演習作業の確認
10.	統計ツールSPSSの基礎－5－	前回演習作業の確認
11.	統計ツールSPSSの基礎－6－	前回演習作業の確認
12.	フィールド（観察）研究実施－1－	前回演習作業の確認
13.	フィールド（観察）研究実施－2－	前回演習作業の確認
14.	フィールド（観察）研究整理－1－	前回演習作業の確認
15.	フィールド（観察）研究整理－2－	演習全体での作業確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　準備学習(予習・復習)等の内容: 授業と授業の間の１週間にこそ，自己進歩があることを忘れないようにしよう。

フィードバックの方法:　演習時の応答およびマナビー

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と出席時の作業状況	50	授業時の熱心さ
課題の進展状況	50	時間外活動の熱心さ

教科書:　演習時に指示する。

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビーおよび日常的接触

625064

応用演習Ⅰ

村瀬　　学

授業テーマ:　日本や東洋・西洋の児童文化の源にある「物語」を考える。

授業の概要:　古代から、人々が「神話」「民話」「昔話」などとして伝えてきた「物型」を比較、研究し、そこに人間の生きる知恵の凝縮されているところを調べる。研究倫理についても指導する。

到達目標:　①「物語」の広がりを知る。②「物語」の歴史を知る。③「物語」の継承を考える　④ 「物語」から現在を生きる知恵を学ぶ

授業方法:　講義と発表。毎回、各自調べたことをパワポで発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1古代日本の神話･民話･物語①	物語の時代背景を調べパワポにする。
2.	2古代日本の神話･民話･物語②	物語の時代背景を調べパワポにする。
3.	3古代日本の神話･民話･物語③	物語の時代背景を調べパワポにする。
4.	4古代ヨーロッパの神話･物語①	物語の時代背景を調べパワポにする。
5.	5古代ヨーロッパの神話･物語②	物語の時代背景を調べパワポにする。
6.	6古代ヨーロッパの神話･物語③	物語の時代背景を調べパワポにする。
7.	7近代の物語グリム編①	物語の時代背景を調べパワポにする。
8.	8近代の物語グリム編②	物語の時代背景を調べパワポにする。
9.	9近代の物語アンデルセン編①	物語の時代背景を調べパワポにする。
10.	10近代の物語アンデルセン編②	物語の時代背景を調べパワポにする。
11.	11現代の物語ディズニー編①	物語の時代背景を調べパワポにする。
12.	12現代の物語ディズニー編②	物語の時代背景を調べパワポにする。
13.	13現代の物語ジブリ編①	物語の時代背景を調べパワポにする。
14.	14現代の物語ジブリ編②	物語の時代背景を調べパワポにする。
15.	15　まとめ	まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:　大事な生きる知恵は、人々の伝承してきたものに蓄積されてきています。「現在」だけを見ないで、広く過去ー現在ー未来を見る目を育ててください。

フィードバックの方法:　パワーポイントの発表での質疑応答が大事

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
パワポの発表。	65	幅広く調べているか。わかりやすく発表できているか。
冊子作り	25	反省も含め、まとめの冊子がうまくできているか。
出席、欠席、遅刻	10	遅刻、欠席には厳しく対応する。

教科書:　随時、指示する。

参考書:　村瀬学『古事記の根源へ』『宮崎駿再考』など

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力　すべてが求められる。

教員との連絡方法:　メールを使って随時やりとりする。

625065

応用演習Ⅰ

奥田　　紫乃

授業テーマ:　居住環境の快適性を「はかる」

授業の概要:　光や色の測定方法について学ぶと同時に、演習課題にグループで取り組み、照明器具をデザインする。また、研究倫理について学ぶ。

到達目標:　生理的・心理的に快適な居住環境を実現するために必要な事柄を、演習を通して学ぶ。

授業方法:　グループ実習、グループ課題、照明器具の製作

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	演習の概要説明、グループ課題の決定	グループごとに研究概要発表に向けて資料作成に着手する
2.	調査課題の概要・調査手法の検討（グループワーク）	調査の概要について理解し、調査手法を検討する
3.	調査課題−グループディスカッション	他者からの意見をまとめ、各グループの計画を見直す
4.	測定機器の使用方法−光の測定	使用方法についてまとめ、使用方法を他者に解説できるようにする
5.	測定機器の使用方法−視認性の測定	使用方法についてまとめ、使用方法を他者に解説できるようにする
6.	測定機器の使用方法−色の測定	使用方法についてまとめ、使用方法を他者に解説できるようにする
7.	照明器具の取り扱い	発光の仕組みについて理解し、照明デザインのための基礎知識を理解する
8.	調査課題−データ収集	データを分析し、発表準備をする
9.	調査課題−中間発表	グループごとに反省点をまとめ、残りの分析に向けて目標をたてる
10.	照明器具のデザイン課題	照明器具のデザイン例を調べ、自身のデザインコンセプトをまとめる
11.	光と視覚の特性	色の見えの個人差について理解を深める
12.	照明器具の製作	光源の性質について理解し、デザインに反映させる
13.	調査課題−データ分析	発表会に向けて、発表資料を準備する
14.	照明器具デザイン概要発表	秋学期の作品集の制作に向けて、データを整理する
15.	調査課題−中間発表 卒論テーマについて	各自の卒論テーマの設定にむけて課題を整理する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中にディスカッションしながらフィードバックする。
照明デザイン作品は研究室で保管、授業中に返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30	
課題	70	課題内容、プレゼンテーションによう評価。グループ課題ではグループメンバーは同一評価点となります

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　マナビー及びe-mailによる

625066

応用演習Ⅰ

平光　　睦子

授業テーマ:　生活文化とファッション産業

授業の概要:　現在、服飾文化の領域は衣服を中心とする領域にとどまらず生活者のライフスタイル全体にまで広がりつつあります。そのなかでファッションには、人々の多様化するライフスタイルを表現するメディアとしての役割がもとめられています。演習では、わたしたちの身のまわりにあるファッション関連のモノや製品の現状に目を向け、それらの意図や背景、方法論などについて理解を深め、ファッション産業の仕組みや流れを学びます。具体的には、実在の製品を想定してを商品を企画してプレゼンテーションを行います。また、今後の研究活動に向けて研究方法や研究倫理について学びます。

到達目標:
①ファッション産業の構造やしくみを学び、製品への理解を深める
②調査をとおしてファッション関連商品の市場を把握する
③調査結果を踏まえて新しい商品を企画する
④プレゼンテーションとして新しい商品の意図を説明し魅力を伝える

授業方法:　学内での講義、演習のほか、学外での調査、企業見学などを予定しています。見学先や時間制約の都合上、授業時間外や補講日以外に実施する場合があります。また一部は、グループ・ワークですすめます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション／研究倫理について学ぶ	
2.	事例調査の方法と分担	
3.	事例調査と報告（Web調査）	調査結果をまとめて配布資料を作成
4.	事例調査と報告（売場調査）	調査結果をまとめて配布資料を作成
5.	事例調査と報告（見学と聞き取り）	調査結果をまとめて配布資料を作成
6.	企画にむけての意見交換	
7.	企画書の作成（目的とコンセプト）	企画についてグループ内で随時話し合いをすすめる
8.	企画書の作成（需要と背景）	企画についてグループ内で随時話し合いをすすめる
9.	企画書の作成（デザインとイメージ）	企画についてグループ内で随時話し合いをすすめる
10.	プレゼンテーションの準備（概要・役割分担）	プレゼンテーションにむけて作業をすすめる
11.	プレゼンテーションの準備（PP作成）	プレゼンテーションにむけて作業をすすめる
12.	プレゼンテーションの準備（リハーサル）	プレゼンテーションにむけて作業をすすめる
13.	プレゼンテーション	
14.	まとめ	
15.	学外見学	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
授業時間内にグループや個別にコメントします
また、授業時間以外にもマナビーなどを用いて質疑応答します
提出物については採点して返却します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30	積極的に授業に参加し、到達目標①について評価する
調査報告	20	到達目標②について、視点の適切さとまとめの仕上がりを評価する
企画とプレゼンテーション	50	到達目標③④について、グループワークにおける態度・意欲とプレゼンテーションの創造性や完成度を評価する

教科書:　なし

参考書:　授業中に指示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示板機能

625067

応用演習Ⅰ

齋藤　　朱未

授業テーマ:

授業の概要:
身のまわりの「環境」と「社会」に関し，身近な事柄を例としながら地域社会の現状を多角的に把握していく。また，それらを把握するための方法について理解する。また，研究倫理について理解することで，卒業研究をはじめとした研究への心構えを理解する。

到達目標:
身近な環境と社会に対する知識を深める

授業方法:
ゼミナール形式を基本とする。課題に対してグループまたは個人で向き合い，調べ，発表することで授業を進める。なお，必要に応じて講義や学外見学実習を行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	オリエンテーションの内容を整理しておく
2.	身近な環境問題と地域社会の概念	授業時に出題された内容について整理しておく
3.	社会調査とは	予習として授業時に出題されたキーワードについて調べておく
4.	定性データと定量データ(1)	予習として授業時に出題されたキーワードについて調べておく
5.	定性データと定量データ(2)	予習として授業時に出題されたキーワードについて調べておく
6.	研究倫理と地域資源	予習として授業時に出題されたキーワードについて調べておく
7.	地域社会の現状把握(1)	出題された課題についてグループごとに調べる
8.	地域社会の現状把握(2)	出題された課題についてグループごとに調べる
9.	地域社会の現状把握(3)	出題された課題についてグループごとに調べる
10.	地域環境とまちづくり(1)	出題された課題についてグループごとに調べる
11.	地域環境とまちづくり(2)	出題された課題についてグループごとに調べる
12.	地域環境とまちづくり(3)	出題された課題についてグループごとに調べる
13.	問題分析・関係者分析	出題された課題について考えを深める
14.	目的分析・プロジェクト選択	出題された課題について考えを深める
15.	PDMの作成	出題された課題について考えを深める

受講者へのメッセージやアドバイス:
身のまわりの「よく考えてみたら，わからない」という疑問を大切にし，身のまわりに存在しているものについて関心を高めて受講することを望む。

フィードバックの方法:
個々の提出物についてはコメントを付け，教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し，その知識を深めようとしているかを評価する。
発表・討論	50	グループ作業などにおいて，得た知識に対し理解したうえで発言しているか，内容を整理しているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
オフィスアワー，Eメール，マナビー掲示板機能を利用

625068

応用演習Ⅰ

藤本　　純子

授業テーマ:　被服学分野のアイディアソースを探る

授業の概要:　被服学分野の研究事例を紹介し、研究への関心を深める。実際に、被服学分野の諸側面からのアプローチを試みる課題に取り組むことで視野を広げ、卒業研究への手がかりとする。また、デザイン画やスワッチなどの制作や調査にも取り組む。さらに、研究倫理についても学ぶ。

到達目標:
1.被服学分野の研究対象や手法の事例を知る。
2.被服学分野の研究を進める上で必要となる基礎的な技術力、分析力、考察力、発想力、創造力を身につける。
3.効果的なプレゼンテーションの重要性について理解する。

授業方法:　ゼミナール形式を基本とし、授業内容によって実習や学外見学等の形式をとることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション・被服ができるまで	
2.	被服学の研究対象と研究手法	
3.	デザインの発想(1)	デザイン画の制作
4.	デザインの発想(2)	デザイン画の制作
5.	プレゼンテーションとディスカッション デザインの発想(3)	デザイン画の制作
6.	被服制作のアイディアソース(1) 素材	スワッチの制作
7.	被服制作のアイディアソース(2) 技法	スワッチの制作
8.	被服制作のアイディアソース(3) スワッチ	スワッチの制作
9.	プレゼンテーションとディスカッション 被服材料収集のための調査計画	スワッチのまとめ
10.	被服材料収集のための調査	調査
11.	被服材料収集に関する情報交換	調査のまとめ 提示資料の作成
12.	課題についてのデザイン(1)	デザインのための資料収集
13.	課題についてのデザイン(2)	デザイン考案
14.	プレゼンテーションの手法	プレゼンテーションの準備
15.	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物は授業時に解説を加えて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物	40	到達目標1の理解度、到達目標2の習得度を評価する。
発表とディスカッション	30	到達目標3の理解度を評価する。
参加度	30	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能, Eメール

625069

応用演習Ⅰ

麻生　　美希

授業テーマ:　都市空間をテーマにした文献講読と資料分析

授業の概要:　・授業の前半（第2～7回）は、担当者を決め、それぞれに都市計画やまちづくりに関する文献を読み、その内容をわかりやすく発表してもらいます。発表後は教員および受講生でディスカッションをします。
・授業の後半（第8～14回）は、教員が用意する各種資料の分析を行い、そこから何の情報が読み取れるのか（または何の情報が読み取れないのか）をディスカッションします。

到達目標:　都市計画やまちづくりに関係する文献の調べ方、読み方、資料分析の手法について理解することが目標です。

授業方法:　ゼミナール形式の授業となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	特にありませんが、自己紹介をしてもらいますので、このゼミで取り組んでみたいことを考えておいてください。
2.	文献の探し方、読み方	特にありません。
3.	文献講読（1）	事前に担当する文献を読み、内容をレジュメ等でわかりやすくまとめておく必要があります。
4.	文献講読（2）	事前に担当する文献を読み、内容をレジュメ等でわかりやすくまとめておく必要があります。
5.	文献講読（3）	事前に担当する文献を読み、内容をレジュメ等でわかりやすくまとめておく必要があります。
6.	文献講読（4）	事前に担当する文献を読み、内容をレジュメ等でわかりやすくまとめておく必要があります。
7.	文献講読（5）	事前に担当する文献を読み、内容をレジュメ等でわかりやすくまとめておく必要があります。
8.	まちを知るための各種資料	特にありません。
9.	資料分析（1）	事前に資料を配布した場合は、目を通しておきましょう。
10.	資料分析（2）	事前に資料を配布した場合は、目を通しておきましょう。
11.	資料分析（3）	事前に資料を配布した場合は、目を通しておきましょう。
12.	資料分析（4）	事前に資料を配布した場合は、目を通しておきましょう。
13.	資料分析（5）	事前に資料を配布した場合は、目を通しておきましょう。
14.	資料分析（6）	事前に資料を配布した場合は、目を通しておきましょう。
15.	演習の振り返り	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:　他者の発表内容や資料の分析結果に対して、自分の考えをまとめ、伝える練習をします。失敗してもいいので、積極的に発言を行うようにしましょう。

フィードバックの方法:　わからなかったこと、疑問点を書くことができるミニレポートを提出してもらいます。必要に応じて次回の授業にてコメント・説明を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	50	積極的な授業への参加を評価します。
発表内容	30	自分が担当した文献を丁寧にまとめられているかを評価します。
ディスカッション	20	自分の意見を述べることができること、また他者の発表に対して質問ができることを評価します。

教科書:

参考書:　西村幸夫・野澤康 『まちの見方・調べ方　地域づくりのための調査法入門』 朝倉書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーもしくはemail

625161

応用演習Ⅱ

小﨑　　眞

授業テーマ:　「いのち」の創造

授業の概要:　「人の命」とは何だろう？近現代を振り返ると、目覚しい文明の進歩に心を奪われます。しかしながら、それらの進歩は私たちを豊かに世界へと導いたのであろうか。平和や幸福を求めてきた人間社会であるにもかかわらず、いまだ、地域紛争、民族紛争が地球上で絶えません。地域共同体においても、様々な要因により、命が脅かされています。私たちの社会の中にある課題に向き合いつつ、自己に内在する問題意識を探求します。真に豊かな「いのち」とは何か、その本質を問いつつ、各自の卒業論文へのテーマを模索する予定です。

到達目標:　私たちの日々の生活（くらし）の中に課題を探ります。
前半：自分の学習歴（自分史）を振り返り、自己に内在する問題意識を探求する予定です。
後半：先達の思考（先行研究）に向き合い、自己の研究テーマを探します。

授業方法:　ゼミナール形式（発表、質疑応答、討議）。全体を小グループに分け、各グループ発表等を通し、課題に向き合い、多種多様な議論形式を用いて課題を深めます。状況に応じて、講義的なことも実践します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	演習の意義確認と	シラバスにより演習内容、到達目標、要求課題などを整理する。春学期の学びを整理する。
2.	自分史について	自身の学習の歴史（記録）を振り返り、自分自身に内在する問題意識に関して、深め、整理する。
3.	発表及び全体討議： 自分史を通し、自己の問題意識探求１	過去の学びを振り返り、自己の問題意識を整理し、個人発表に備える。発表予定者は配布資料を準備。
4.	発表及び全体討議： 自分史を通し、自己の問題意識探求２	過去の学びを振り返り、自己の問題意識を整理し、個人発表に備える。 受講生相互の議論を通し、問題意識を深め、整理する。 発表予定者は配布資料を準備。
5.	発表及び全体討議： 自分史を通し、自己の問題意識探求３	過去の学びを振り返り、自己の問題意識を整理し、個人発表に備える。 発表者、受講者の議論の整理と深化。 発表予定者は配布資料を準備。
6.	発表及び全体討議： 自分史を通し、自己の問題意識探求４	過去の学びを振り返り、自己の問題意識を整理し、個人発表に備える。 他の受講者からのコメントなどを通し、自己客体化に挑戦する。
7.	文献学習に関して	配布資料や参考文献を通し、文献学習の意義などを整理し、深める。
8.	課題テキスト批評　１	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。資料分析と資料批評を中心に整理し、個人発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
9.	課題テキスト批評　２	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。資料分析と資料批評を中心に整理し、個人発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
10.	課題テキスト批評　３	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。資料分析と資料批評を中心に整理し、個人発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
11.	自由テキスト紹介１	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。要約を中心に整理し、個人発表に備える。
12.	自由テキスト紹介２	共通の課題テキストに関する、要約、及び、批評をA4判1枚にまとめる。要約を中心に整理し、個人発発表予定者は配布資料を準備。 表に備える。
13.	卒業論文トピック発表１	卒業論文のテーマに関して、その概略を整理し、発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
14.	卒業論文トピック発表２	卒業論文のテーマに関して、その概略を整理し、発表に備える。 発表予定者は配布資料を準備。
15.	秋学期の課題確認。来年度に向けた自学自習活動への指示	秋学期全体の学びから、演習レポート作成ための論点を整理し、構成を考える。資料収集の段取りを確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各自・各グループ最低2回は発表の機会を提供する予定です。
ディベート形式の討論（人工妊娠中絶の是非、臓器移植の是非等）を通し、課題を探究する予定です。
グループ発表（討議、批評等）の準備を含め、講義時間以外に種々の課題が提供される予定です。事前の文献資料の調査、事前事後のグループ討議。さらに、学期末レポートの作成のための資料収集など。

フィードバックの方法:　講義の学びを深めるコメントペーパーを作成します。時には、受講生同志の意見交換を含んだコメントペーパーを用います。学生からのコメントは演習内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
自分史	10	報告書作成。発表整理力、発表内容の思考力、論点分析力によって評価します。
ブックレヴュー	30	15%×２回 報告書作成。発表整理力、発表内容の思考力、テキスト批評力、論点分析力によって評価します。
卒業論文トピック	10	報告書作成。発表整理力、発表内容の思考力、論点分析力によって評価します。
演習貢献(コメントなど)	10	発表に対するコメントペーパーを作成します。他のグループ発表の理解度、批判力、思考力により評価します。
演習レポートの作成	40	到達目標への取り組み状況、提示されたレポート課題に対する思考力、分析力及び自身の課題としての論理構成力により総合的に評価します。

教科書:	教室にて指示
参考書:	教室にて指示
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初のクラスで担当教員が説明します（オフィスアワー、Eメールなど）。

625162

応用演習Ⅱ

宮本　　義信

授業テーマ:

授業の概要:

社会福祉関係機関・施設においては、多様な支援活動が展開されています。本演習では、「応用演習Ⅰ」で学んだ『くらしに活かす福祉の視点ーボランティア・学生、市民が知っておきたい基礎知識ー』についての知見を発展させるために、より具体的な支援の在り方について、以下を中心に実践的な演習を行います。
（1)福祉の利用者・家族の主体的なあり方を“顔が見える”よう具体的に紹介します（利用者理解）。
（2)生活の視点から福祉問題の現状と課題について考えます（問題の掘り起こし）。
（3)社会福祉実践を中心に生活支援の方法について学習します（対処の仕方）。

到達目標:

社会福祉の専門知識を修得する。

授業方法:

教室における講義、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議をとおして、社会福祉学について基礎的知識を会得しながら、学習への動機づけを深めていきます。一部で社会福祉施設・機関、組織・団体での見学実習を予定します（事前学習→見学実習→見学実習レポートの作成→実習報告→全体討議と段階的に進めていきます）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	利用者・家族主体の生活支援とはなんだろうか	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	利用者理解　その1	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	利用者理解　その2	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	利用者理解　その3	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	問題の掘り起こし　その1	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	問題の掘り起こし　その2	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	問題の掘り起こし　その3	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	対処の仕方　その1	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	対処の仕方　その2	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	対処の仕方　その3	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	困難事例のケーススタディ　その1	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	困難事例のケーススタディ　その2	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	困難事例のケーススタディ　その3	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	困難事例のケーススタディ　その4	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	再び利用者・家族主体の生活支援とはなんだろうか	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・発表	50	出席を含む演習への参加・・態度および発表内容
レポート	50	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

宮本義信（著）『くらしに活かす福祉の視点ー学生・ボランティアが知っておきたい基礎知識ー』ミネルヴァ書房、2010年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール等を利用

625163

応用演習Ⅱ

諸井　　克英

授業テーマ:　社会心理学（日常を計量する）

授業の概要:　社会心理学は，日常生活の中で自分やまわりの人々が繰り広げる様々な「行動の饗宴」を素材として,そのような行動を「発現」させる「心の仕組み」を明らかにする学問ツールです。演習では，「社会心理学」という学問ツールに触れることによって,だれもが「体感」している日常素材を対象として「心の冒険」をし,卒業後の「社会」の中で自己成長を遂げるステップにすることを目標とします。とりわけ,学問領域だけでなく，実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力を身につけることも併せて目指します。
3年次の応用演習では，(1)卒業研究に必要なスキルの習得，(2)卒業研究課題への取り組みの着手と目標とします。(1)では統計ツールの学習に加え，フィールド研究(大学構内・外での「観察」体験－ストリート・ウォッチングなど－)なども行います。この演習の最終目標は,各人が築きあげた成果を卒業研究としてまとめることです。これは，「感想文」とは異なり，あくまでも社会心理学という学問ツールの適用結果としての論文の形にします。これによって,演習生のキャンパス・ライフのアカデミックな部分を「形」として残したいと思います。

到達目標:　社会心理学研究に関する基礎的スキルの習得

授業方法:　１時間30分の授業時間のみが「学習時間」ではなく,その合間に多くの「作業・学習時間」が必要となります。とりわけ，フィールド研究のために時間外の作業が必要となります。「皆出席」を前提に、各自が「期間中」にどのくらい格闘したかを評価の対象とします。フィールド研究にはグループで従事します。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	春学期演習のまとめと秋学期演習の概要の説明・確認	本演習のシラバスでの確認
2.	統計ツールSPSSの応用－1－	前回演習作業の確認
3.	統計ツールSPSSの応用－2－	前回演習作業の確認
4.	質問紙(計量)研究の準備－1－	前回演習作業の確認
5.	質問紙(計量)研究の準備－2－	前回演習作業の確認
6.	統計ツールSPSSの応用－3－	前回演習作業の確認
7.	統計ツールSPSSの応用－4－	前回演習作業の確認
8.	質問紙(計量)研究計画－1－	前回演習作業の確認
9.	質問紙(計量)研究計画－2－	前回演習作業の確認
10.	統計ツールSPSSの応用－5－	前回演習作業の確認
11.	ゲストスピーカータイム(キャリアカウンセラー「原田和榮」氏を予定)	前回演習作業の確認
12.	質問紙(計量)研究実施－1－	前回演習作業の確認
13.	質問紙(計量)研究実施－2－	前回演習作業の確認
14.	質問紙(計量)研究整理－1－	前回演習作業の確認
15.	質問紙(計量)研究整理－2－	演習全体での作業確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　準備学習(予習・復習)等の内容: 授業と授業の間の１週間にこそ，自己進歩があることを忘れないようにしよう。

フィードバックの方法:　演習時の応答およびマナビー

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と出席時の作業状況	50	授業時の熱心さ
課題の進展状況	５０	時間外活動の熱心さ

教科書:　演習時に指示する。

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビーおよび日常的接触

625164

応用演習Ⅱ

村瀬　　学

授業テーマ:　イギリスの産業革命後の「物語」を考える。

授業の概要:　産業革命が、過酷な労働を大人や子どもたちに課してきた中から生まれてきた物語のもつ意味を調べる。研究倫理についても指導する。

到達目標:　①「物語」の広がりを知る。②「物語」の歴史を知る。③「物語」の継承を考える　④ 「物語」から現在を生きる知恵を学ぶ。

授業方法:　講義と発表。毎回、各自調べたことをパワポで発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1イギリスとは何か①	時代背景を調べパワポにする。
2.	2イギリスとは何か②	時代背景を調べパワポにする。
3.	3イギリスの産業革命①	時代背景を調べパワポにする。
4.	4イギリスの産業革命②	時代背景を調べパワポにする。
5.	5ガリバー旅行記について	物語の時代背景を調べパワポにする。
6.	6ジーキル氏とハイド氏	物語の時代背景を調べパワポにする。
7.	7不思議の国のアリス	物語の時代背景を調べパワポにする。
8.	8ピーターパン	物語の時代背景を調べパワポにする。
9.	9美女と野獣	物語の時代背景を調べパワポにする。
10.	10ディズーの物語①	物語の時代背景を調べパワポにする。
11.	11ディズーの物語②	物語の時代背景を調べパワポにする。
12.	12ジブリの物語①	物語の時代背景を調べパワポにする。
13.	13ジブリの物語②	物語の時代背景を調べパワポにする。
14.	14ジブリの物語③	物語の時代背景を調べパワポにする。
15.	15まとめ	まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:　大事な生きる知恵は、人々の伝承してきたものに蓄積されてきています。「現在」だけを見ないで、広く過去ー現在ー未来を見る目を育ててください。

フィードバックの方法:　パワーポイントの発表での質疑応答が大事。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
パワポの発表	65	幅広く調べているか。わかりやすく発表できているか。
冊子作り	25	反省も含め、まとめの冊子がうまくできているか。
出席、欠席、遅刻	10	遅刻、欠席には厳しく対応する。

教科書:　そのつど指示する

参考書:　そのつど指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力　すべてが求められる

教員との連絡方法:　メールでそのつどやりとりする。

625165

応用演習Ⅱ

奥田　　紫乃

授業テーマ:　居住環境の快適性を「提案する」

授業の概要:　生理・心理的に快適な居住環境を実現するために必要な事柄を、演習や学外見学実習を通して学ぶ。
また、各自のテーマに基づき、必要な資料を収集する。

到達目標:　居住環境の快適性を提案するための評価手法を見つける

授業方法:　ゼミナール形式によるディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	卒業論文テーマについて 照明デザイン作品集の編集について	各自で卒業論文のテーマを考える 作品集の編集について検討する 研究ノートの記録方法について学ぶ
2.	文献調査1	興味ある内容について、資料を収集しまとめる
3.	文献調査2	興味ある内容について、資料を収集しまとめる
4.	卒論テーマ発表1	各自の卒論テーマについて、議論内容をもとに再考する
5.	卒論テーマ発表2	各自の卒論テーマについて、議論内容をもとに再考する
6.	先行研究調査1	先行研究についてまとめ、整理する
7.	先行研究調査2	先行研究についてまとめ、整理する
8.	研究手法の検討1	研究手法についてまとめ、考察する
9.	研究手法の検討2	研究手法についてまとめ、考察する
10.	研究手法の検討3	研究手法についてまとめ、考察する
11.	研究スケジュールの立案1	卒業論文提出までの全体の計画を見据えた上で、具体的なスケジュールを立案する
12.	研究スケジュールの立案2	卒業論文提出までの全体の計画を見据えた上で、具体的なスケジュールを立案する
13.	研究スケジュールの立案3	卒業論文提出までの全体の計画を見据えた上で、具体的なスケジュールを立案する
14.	各自の研究テーマに関するプレゼンテーション1	これまでのディスカッションを踏まえ、研究テーマに関するプレゼンテーション資料を作成する
15.	各自の研究テーマに関するプレゼンテーション2	これまでのディスカッションを踏まえ、研究テーマに関するプレゼンテーション資料を作成する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中にディスカッションしながらフィードバックする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	
課題	70	各自のテーマに対する取り組み、進捗状況による

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーおよびe-mailによる

625166

応用演習Ⅱ

平光　　睦子

授業テーマ:　現代の服飾文化

授業の概要:　服飾文化の対象は広くて多様です。とくに現代の服飾文化に関する研究は問題意識や方法論が多岐に及びます。演習では、現代の服飾文化のなかでとくに注目するべきテーマについて、各自で対象を絞って調査し結果をまとめて報告することをとおして、基本的な調査方法や文献の読解方法を学びます。演習の終盤には、卒業論文にむけて、各自の興味関心に相応しい研究テーマの設定を目指します。

到達目標:
①資料や情報を収集する方法を修得する
②資料や情報を適切に扱い読み解く力を身につける
③意見や考えを論理的に説明し伝える力を身につける

授業方法:　ゼミナール形式を基本とし、必要に応じて講義も行います。学外見学は日時を変更して実施する場合があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	先行研究の紹介と解説	配布資料を読む
3.	文献講読1	配布資料を読む
4.	文献講読2	配布資料を読む
5.	論文の基本構造	
6.	論文の調査方法	
7.	資料の種類と探し方	
8.	プレゼンテーション1	作成したレポートをもとにプレゼンテーションを準備する
9.	プレゼンテーション2	作成したレポートをもとにプレゼンテーションを準備する
10.	プレゼンテーション3	作成したレポートをもとにプレゼンテーションを準備する
11.	卒業論文にむけて	
12.	テーマ発表1	卒論テーマについてプレゼンテーションを準備する
13.	テーマ発表2	卒論テーマについてプレゼンテーションを準備する
14.	まとめ	
15.	学外見学	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中に直接伝える

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30	授業に参加し、背積極的に意見や考えを表明できる
課題	70	到達目標①～③について、レポートやプレゼンテーションをとおして評価する

教科書:　授業中に指示します

参考書:　授業で紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　マナビー掲示板

625167

応用演習Ⅱ

齋藤　　朱未

授業テーマ:

授業の概要:　各自の関心のもとに，個々で地域環境と社会に対する課題を設定し，計画学の観点から地域社会について把握・分析を進めていく。調べた内容については各自発表を行ない，他者から意見を受けることで自身の関心について理解を深める。最終的には卒業論文のテーマを設定する。

到達目標:　各自の関心に沿った情報収集・分析を行なうことができる。

授業方法:　ゼミナール形式を基本とする。課題に対してグループまたは個人で向き合い，調べ，発表することで授業を進める。なお，必要に応じて講義や学外見学実習を行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	オリエンテーションの内容を整理しておく
2.	地域に対する課題探究(1)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
3.	地域に対する課題探究(2)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
4.	地域に対する課題探究(3)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
5.	先行研究分析(1)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
6.	先行研究分析(2)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
7.	先行研究分析(3)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
8.	先行研究分析(4)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
9.	先行研究分析(5)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
10.	先行研究分析(6)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
11.	地域に対する課題設定(1)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
12.	地域に対する課題設定(2)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
13.	地域に対する課題設定(3)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
14.	地域に対する課題設定(4)	関心ある事柄について調べ，レジュメを作成することを求める
15.	卒業研究の方向性確認	自身の中で卒業研究の方向性を確認しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　単なる「おもしろそう」よりも，「何が問題なのか」に注意し，身のまわりに存在するあらゆるものについて関心を高めて受講することを望む。

フィードバックの方法:　個々の提出物については，コメントを付け，教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	極的に授業に参加し，卒業研究のテーマ設定に向け取り組んでいるかを評価する
発表・討論	50	発表において，問題提起とそれに適した情報収集ができているかを評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー，Eメール，マナビー掲示板機能を利用

625168

応用演習Ⅱ

藤本　　純子

授業テーマ:　被服学分野の研究資料を探る

授業の概要:　被服学分野の文献資料や実物資料の収集方法や扱い方を紹介し、課題への取組みを通して理解を深める。課題の成果については、プレゼンテーションとディスカッションを行い、問題提起と解決のための方法について検討する。また、卒業研究での各自のテーマを探る。

到達目標:
1.被服学分野の文献資料や実物資料の収集方法や扱い方について知る。
2.情報収集と分析力、考察力、企画力、提案力を身につけ、研究を自ら計画・実行していく姿勢を養う。
3.効果的なプレゼンテーションの手法を身につける。

授業方法:　ゼミナール形式を主体とするが、授業内容によって実習や学外見学等の形式をとることもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	情報収集(1)	レポート作成
3.	情報収集(2)	レポート作成
4.	情報収集(3)	レポート作成
5.	情報収集(4)	レポート作成
6.	課題についての調査と分析(1)	調査計画
7.	課題についての調査と分析(2)	
8.	課題についての企画・提案	
9.	課題についてのレポート作成	レポート作成
10.	プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備
11.	モノ作りの現場(1)	
12.	モノ作りの現場(2)	
13.	モノ作りの現場(3)	プレゼンテーションの準備
14.	卒業論文のテーマと研究方法	テーマおよび方法について考える
15.	研究準備と今後の課題	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物	40	到達目標1の理解度、到達目標2の習得度を評価する。
発表とディスカッション	30	到達目標3の習得度を評価する。
参加度	30	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:　授業中に指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能, Eメール

625169

応用演習Ⅱ

麻生　　美希

授業テーマ:　都市空間をテーマにしたフィールドワーク

授業の概要:　フィールドワークの計画・実施・まとめの方法について実践的に学びます。また、調査結果に基づき、地域が抱える問題を解決するための提案をおこないます。

到達目標:　卒業研究を進める上で必要なフィールドワークを計画・実践できること、まちづくりのアイデアについて考え、表現できることを目標とします。

授業方法:　ゼミナール形式の授業となります。フィールドワークの日時は地域の方々と参加者と相談して決めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	特にありません。
2.	フィールドワークとは	特にありません。
3.	事前調査(1)	フィールドワークを行う地域について、各自で事前に資料収集を行います。
4.	事前調査(2)	フィールドワークを行う地域について、各自で事前に資料収集を行います。
5.	フィールドワークの企画・準備	フィールドワークに必要なものを、各自準備します。
6.	フィールドワーク(1)	調査後すぐに、メモ・写真・地図の整理などを各自で行います。
7.	フィールドワーク(2)	調査後すぐに、メモ・写真・地図の整理などを各自で行います。
8.	フィールドワーク(3)	調査後すぐに、メモ・写真・地図の整理などを各自で行います。
9.	フィールドワーク(4)	調査後すぐに、メモ・写真・地図の整理などを各自で行います。
10.	調査のまとめ(1)	授業時間内に終わらない場合は、宿題とします。
11.	調査のまとめ(2)	授業時間内に終わらない場合は、宿題とします。
12.	提案の検討(1)	授業時間内に終わらない場合は、宿題とします。
13.	提案の検討(2)	授業時間内に終わらない場合は、宿題とします。
14.	プレゼンテーション	プレゼンテーションの準備をします。
15.	演習のまとめと卒業研究に向けて	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実際の地域に出かけ、グループでフィールドワークをする練習となります。自ら考えて、落ち着いて行動するようにしましょう。

フィードバックの方法:　授業中のディスカッションを通じてフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	70	フィールドワークやその準備に積極的に取り組んでいるかを評価します。
プレゼンテーション	30	プレゼンテーションのマナー・論理性・独創性等で評価をします。

教科書:

参考書:　西村幸夫・野澤康 『まちの見方・調べ方　地域づくりのための調査法入門』 朝倉書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビーもしくはemail

625460

キャリア心理学

松尾　　智晶

授業テーマ:

キャリアに関わる心理学の理論や知識を学び、自らのキャリア形成に活用する力をつける。

授業の概要:

「キャリア」とは心理学、社会学、経営学、教育学に関わる学際領域にあるテーマといわれています。本科目では、その中でも心理学領域の学びを深めます。自分はどのような者で、これからどんな方向性のキャリアを形成してゆくのか。自分が大切にしている価値観や行動原則とは何か、を明らかにするために、キャリアに関わる心理学の理論を理解して、自分自身のキャリアを自律的に形成する糧としてください。

到達目標:

「発達心理学」「性格心理学」「社会心理学」等からキャリアに関する領域の知見を得て、自らのキャリア形成に活用できる。自分が大切にしている価値観や行動原則とは何か、を明らかにするための知識や技能が得られる。

授業方法:

毎回授業の要点を記載したレジュメを配布し、パワーポイントの映写により講義を進行します。講義を中心に進行し、グループワーク、ペアワークで講義内容の理解を深めます。小レポート提出が毎回あります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:キャリアとは何か、キャリアと心理学の関係、この授業の学びの意義	キャリア、という語に関して調べ、現状の自分との関連について考察しておく。
2.	女性のキャリア形成:戦後日本の女性キャリアの変化、結婚・出産の現状と自己の価値観振り返り	身近の女性の「働き方」「暮らし方」に関するキャリア形成のケースを2つ調べておく。
3.	心理学とキャリア:心理学の領域と歴史、キャリアに関わる心理学の概説	心理学が包摂する領域について調べておく。
4.	自己の形成:エリクソンの発達段階論、自我同一性とモラトリアムを考える	モラトリアム、という語に関して調べ、その内容と自己の現状との関連について考察しておく。
5.	自己と社会との関わり:レヴィンの場の理論、フリーター・ニートを考える	フリーター、ニートという語について調べ、身近で該当する事例があればまとめておく。
6.	自己の性格をとどうとらえるか:ユングのタイプ論とクレッチマーの特性論	自己の性格について省察し、特徴だと感じられる点を3点挙げておく。
7.	動機づけと行動の関係:ハーズバーグの二要因理論とデシの内発的・外発的動機づけ	大学入学後に初めて経験した行動について、その動機を考察しておく。
8.	ライフラインチャート作成:自らのライフキャリアを振り返り価値観を明らかにする	自己のこれまでのキャリアを振り返り、自分の力を発揮できたと思える経験、その逆に発揮できなかったと思える経験についてまとめておく。
9.	職業選択と適応の理論:パーソンズの特性因子理論と3段階プロセス	自分が関心をもつ職種、業種、もしくは企業名について3点挙げておく。
10.	自分と職業の組み合わせ:ホランドのキャリア選択理論とRIASECモデル	自分が向いていると思える職業について調べ、その理由について考察しておく。
11.	職業選択とワークライフバランス:スーパーのキャリア発達理論「ライフステージ」と「ライフロール」	自分の周囲の社会人について、その人が果たしている社会的役割を考察しておく。
12.	自己の価値観の根本からキャリアを考える:シャインのキャリア・アンカー理論	自分の価値観について考察し、その価値観は何によって形成されたかについて考察しておく。
13.	社会変化に対応するキャリア形成の姿勢:シュロスバーグのトランジションモデル	自分の人生を振り返り、「転機」となったと思える経験について、いつ、どこで、何があったのか、その転機をどう乗り越えたかについて省察しておく。
14.	キャリア形成の視野を自分らしく広げるために:クランボルツのプランドハプンスタンス論	想定外の出来事に遭遇したときに、自分がどのような反応をするかについて、実際の事例を挙げて考察しておく。
15.	授業のまとめ・キャリア理論を活用して自己のキャリア形成を表現する。	これまでの授業内容について、配布資料を基に振り返っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

キャリアは、働く:ワークキャリアと、暮らす:ライフキャリア、で形成されます。環境を活用し、環境と調和しながら、自分自身が納得感のあるキャリア形成をしたい方に、受講をお勧めします。毎回ペアワーク・グループワークがあり、自分の価値観と他者のそれを知ることで、キャリア形成にあたって活用できる、視野の拡大と柔軟な思考力を身につけることが期待できます。

フィードバックの方法:

毎回、授業終了時に小レポートを提出してもらいます。次週に評価とコメントを加えて、返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回提出する小レポート	70	授業内容の理解度、自己理解と自己表現の程度
期末試験	30	授業内容の理解度、キャリア形成に関する思考力

教科書:

参考書:

安達智子・下村英雄編著、キャリア・コンストラクションワークブック 、金子書房
渡辺三枝子編著、新版キャリアの心理学 、ナカニシヤ出版
海老原嗣生著、女子のキャリア、ちくまプリマー新書
若松養亮・下村英雄著、詳解大学生のキャリアガイダンス論 、金子書房
岡田昌毅著、働くひとの心理学、ナカニシヤ出版
宗方比佐子・渡辺直登編著、キャリア発達の心理学 、川島書店
詫間武俊他著、性格心理学への招待 、サイエンス社
田尾雅夫著、新版組織の心理学 、有斐閣

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:

メールでの連絡をお願いします。宛先:chiakimt@cc.kyoto-su.ac.jp

625560

ファッションと社会

平光　　睦子

授業テーマ:　流行現象を考える

授業の概要:　ファッションは「時代を映す鏡」といわれるように、人々の意識や社会のあり方と深く関わっています。本講座では、ファッションを流行現象としてとらえ、その社会における果すべき役割について考えます。18世紀にファッションが産業化されることにはじまり、19世紀の流行の制度化、20世紀のファッションの大衆化を経て、21世紀の今、わたしたちの身のまわりで起こっていることまで、年代を追って進めます。

到達目標:
①ファッション史の基本的な知識を学ぶ
②ファッションの史的展開を理解する
③身の周りのファッションに関わる現象について問題意識を持って捉える
④自分自身の衣生活をファッションという側面から客観的に考える態度を身につける

授業方法:　講義形式を基本に、一部にグループ・ディスカッションや作業をとりいれて、問題意識を共有するとともに各自の考えを深めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション ー　ファッションと流行	
2.	モードの中心、パリの誕生	前回の授業内容を振り返る 参考文献等を読む（詳細は授業で説明）
3.	オートクチュールという制度	前回の授業内容を振り返る
4.	手仕事の現場	前回の授業内容を振り返る
5.	ココ･シャネルの革新性	前回の授業内容を振り返る 店舗や製品を事前調査する
6.	プレタポルテの時代へ	前回の授業内容を振り返る
7.	メディアとファッション	前回の授業内容を振り返る 参考文献等を読む（詳細は授業で説明）
8.	ファッションのジャポニスム	前回の授業内容を振り返る
9.	三宅一生の場合	前回の授業内容を振り返る 店舗や製品を事前調査する
10.	コム・デ・ギャルソンの場合	前回の授業内容を振り返る 店舗や製品を事前調査する
11.	リアルクローズとSPA	参考文献等を読む（詳細は授業で説明）
12.	ファストファッションの方法論	前回の授業内容を振り返る 店舗や製品を事前調査する
13.	グローバリゼーションの問題点	参考文献等を読む（詳細は授業で説明） 前回の授業内容を振り返る
14.	新しい「ものづくり」の挑戦	前回の授業内容を振り返る
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出したレポートは授業中または授業終了後に採点して返却します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	積極的に授業に参加し、到達目標④を身に付けたかを評価します
レポート・小テスト	20	到達目標①②を踏まえ、具体的な事象と結びつけて理解し説明できるかを基準とします
試験	40	到達目標①②の理解度と③④について独自の視点があるか、論理的に説明できるかを基準とします

教科書:

参考書:
ジョアン フィンケルシュタイン 『ファッションの文化社会学』 せりか書房　2007年
ソースタイン ヴェブレン 『有閑階級の理論』 ちくま学芸文庫　1998年
ジャン ボードリヤール 『消費社会の神話と構造』 紀伊國屋書店　1995年
深井晃子『ジャポニスム イン ファッション : 海を渡ったキモノ』 平凡社　1994年
エリザベス・L. クライン 『ファストファッション: クローゼットの中の憂鬱』 春秋社　2014年
ピエトラ リボリ 『あなたのTシャツはどこから来たのか?—誰も書かなかったグローバリゼーションの真実』 東洋経済新報社　2007年
伊藤 和子『ファストファッションはなぜ安い?』 コモンズ　2016年
深井晃子『ジャポニスム イン ファッション : 海を渡ったキモノ』 平凡社　1994年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビー掲示板機能

625761、62

住居製図基礎実習

奥田　　紫乃、河本　　ゆう子

授業テーマ:　住居製図の基礎

授業の概要:　住居製図に必要な基礎を身につける。なお、本科目は「住居デザイン実習」「インテリアデザイン実習」「空間デザイン応用実習」を履修するために必要な科目である。また、教職課程(高一種免)の「家庭」教科に関する必修科目である。

到達目標:　設計に必要な基礎知識を学ぶとともに、基本的な製図技術と技法を習得し、居住者に対応したLDKプランを提案する

授業方法:　課題説明・実習を基本とし、最終課題ではプレゼンテーションを行う。なお履修定員を20名とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(製図用具の説明、レタリング課題説明)	必要な道具を揃え、レタリングの準備をする
2.	線の練習	線の種別を理解し、線の細／太を区別して描けるようになる
3.	レタリング	レタリングの基本技術を身につける
4.	図面表現の基礎	図面の基礎的用語について理解し、図面記号を覚える
5.	模写課題1(RC造)-平面図	平面図を描く
6.	模写課題1(RC造)-断面図、立面図	断面図、立面図を描く
7.	模写課題1(RC造)-仕上げ	図面全体を整える
8.	模写課題2(木造)-平面図	平面図を描く
9.	模写課題2(木造)-断面図、立面図	断面図、立面図を描く
10.	模写課題2(木造)-仕上げ	図面全体を整える 次の課題に備え、LDK空間のプランニング事例を収集する
11.	LDK空間のプランニング-エスキース	空間プランを提案する
12.	LDK空間のプランニング-平面図	平面図を描く
13.	LDK空間のプランニング-断面図	断面図を描く
14.	LDK空間のプランニング-仕上げ	図面全体を整える
15.	まとめ-課題発表会	課題発表会での指摘に基づき、必要に応じて手直しする

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業外に作業する必要がありますので、よく考えて履修してください
必要な製図用具(製図用シャープペンシル、定規、三角スケール等)を購入する必要があります。既に所有している場合は第1講目の授業時に持参してください。
＊履修前年度の12～1月に履修希望調査を行いますので掲示板に注意し、必ず予備登録をしてください。

フィードバックの方法:　提出課題は実習準備室にて保管しています。卒業までに返却しますが、それまでに必要な場合はいつでも申し出てください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	実習に取り組む姿勢・態度
課題	60	課題内容

教科書:　建築ドリル:空間表現の基礎を学ぶ、学芸出版社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーによる

625861、62

住居デザイン実習

担当者未定

授業テーマ:
住居設計の基礎を身につける

授業の概要:
住まい手の家族構成・ライフサイクル・生活行為等の諸条件を設定し、周辺環境に配慮した、これからのあるべき住環境を設計するための知識・技法を身に付ける。また住居設計に加え、パース作図や模型製作を行いプレゼンテーション技法を身に付ける。過去の住宅デザインに学び、個性あふれる未来に向けた住宅を構想する力を養う。

到達目標:
1. 機能性及び合理性ある空間設計のための知識を身に付ける
2. 空間構成やインテリアの形状など身近なものに対して関心を抱き、論理的に捉える態度を身に付ける
3. 他者に理解しやすい表現技法やプレゼンテーション能力を身に付ける

授業方法:
実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:実習の内容、課題説明	・日頃から住宅や建築に対する意識を高める ・身の回りの寸法測定を行い、スケール感を養う ・製図手法を復習しておく
2.	パース作図1:パース作図の手法を説明し、授業内で作図を行う。消点の設定、パースグリッドの作図を行う。	・教科書に目を通す
3.	パース作図2:パース作図1で描いたグリッドを用いてインテリアパースを完成させる。	・インテリアや建築の雑誌に目を通し、描くインテリアパースのイメージを膨らませる
4.	模型製作1:模型材料、模型の作り方の説明をし、授業内で模型製作を行う。平面図及び断面図から模型に必要なパーツ及びその寸法を決定し、パーツを製作する。	・配布プリントを用いて住宅模型の概要や製作内容について予習する
5.	模型製作2:模型製作1で製作したパーツを組み立て模型を完成させる	・模型の対象とする建物の空間構成や特徴について、平面図や断面図を用いてよく考える
6.	住宅設計1:課題説明、エスキース(動線、ゾーニング)	・住宅や建築関連の雑誌に目を通し、空間設計の工夫や各ライフスタイルが求める家の在り方などについて学ぶ
7.	住宅設計2:エスキース(平面スケッチ)	・住宅や建築関連の雑誌に目を通し、デザインやコンセプトについて学ぶ ・居室や家具、段差など身の回りの寸法を測り設計の参考にする
8.	住宅設計3:エスキース(断面、立面)	・身の回りの住宅や建築物を観察し、外観デザインや周辺環境との調和の工夫などについて学ぶ
9.	住宅設計4:エスキース(外部)	・周辺環境との調和の仕方や開口部の開け方など、実例や参考となる図書を見ておく
10.	住宅設計5:製図(配置図、平面図)	・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく
11.	住宅設計6:製図(平面図)	・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・製図方法の図書を見ておく
12.	住宅設計7:製図(断面図、立面図)	・配布資料などを用いて製図手法を復習しておく ・製図方法の図書を見ておく
13.	住宅設計8:パース作図もしくは模型製作	・前課題のパース作図技法もしくは模型製作技法の復習をしておく
14.	住宅設計9:プレゼンボードの仕上げ	・各図面やパースなどの配置、見栄えを確認しておく
15.	住宅設計10:課題発表	・プレゼンテーションの練習をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
日頃より住居に関心をもつこと。設計が始まる前から様々な住宅や建築物を見るように習慣づけること。

フィードバックの方法:
各課題の提出作品に対して採点をして返却をする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	授業に参加し、課題に対して積極的に取組んでいるかを評価する。
課題成果品	80	到達目標1及び2によって得られた知識を積極的に取り入れ、それを反映させて仕上げた作品であるかを評価する。

教科書:
インテリア設計士テキスト・実技編、日本インテリア設計士協会、(編集・発行)

参考書:
暮らしから描く間取りのつくり方ーおすすめプラン120、吉田桂二(著)、彰国社
誰も教えてくれない建築模型のつくり方、建築知識(編)、エクスナレッジ(発行)
新しい建築の製図、学芸出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
マナビーでの掲示板機能、Eメール、授業前後に教室内で応対

625960

インテリアデザイン実習

持永　　愛美

授業テーマ:　インテリア設計の基礎を身に付ける

授業の概要:　周辺環境・客層・メニュー等の諸条件を設定し、快適で魅力的なカフェの食事空間を設計するための知識・技法を身に付ける。家具・照明・食器・メニュー等のデザインを立案し、スケッチ・平面図・展開図・パース・等を作成することにより、設計意図に基づいたインテリア計画を学び、インテリア空間を設計する力を養う。

到達目標:
1. インテリアスタイルの内容や違いを理解し、その効果について考えられる
2. 空間構成やインテリアの形状など身近なものに対して関心を抱き、論理的に捉える態度を身に付ける
3. 他者に理解しやすい表現技法やプレゼンテーション能力を身に付ける

授業方法:　実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス:実習の内容、課題説明	・日頃から住宅や建築に対する意識を高める ・自宅や商業施設等のインテリアを観察する ・製図手法を復習しておく
2.	インテリアスタイルシートの作成1:課題説明、インテリアスタイルの決定	・インテリア関連の雑誌に目を通し、どのようなインテリアコーディネートがあるか知識を得る ・自身の好きなインテリアスタイルを考える
3.	インテリアスタイルシートの作成2:スタイルシートの作成	・シート作成のための材料を揃えておく
4.	パースの彩色1:課題説明、彩色方法の説明	・配布資料を用いて彩色方法の基礎知識を学ぶ
5.	パースの彩色2:パースの彩色	・彩色に必要な材料を揃え、彩色の練習をしておく
6.	カフェのインテリア設計1:課題説明、コンセプト及びインテリアスタイルの決定	・カフェのコンセプトを考えておく ・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする
7.	カフェのインテリア設計2:エスキース(平面・断面スケッチ)	・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする ・雑誌などからデザインの工夫を学ぶ
8.	カフェのインテリア設計3:エスキース(家具、窓装飾、内装材)	・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする ・雑誌などからデザインの工夫を学ぶ
9.	カフェのインテリア設計4:エスキース(照明、食器、グリーン、看板)	・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする ・雑誌などからデザインの工夫を学ぶ
10.	カフェのインテリア設計5:製図(平面図、展開図)	・積極的にカフェを訪問し、設計の参考にする ・雑誌などからデザインの工夫を学ぶ ・製図技法を復習しておく
11.	カフェのインテリア設計6::プレゼンボードの作成(3Dインテリアデザイナーー Neo使用)	・インテリアのプレゼンボードのイメージを考えておく
12.	カフェのインテリア設計7:プレゼンボードの作成(3Dインテリアデザイナーー Neo使用)	・3Dソフトを用いたプレゼンボードの作成手法の復習を行う
13.	カフェのインテリア設計8:パース作図	・パースの作図手法を配布資料より予習しておく
14.	カフェのインテリア設計9:彩色、仕上げ	・前課題の彩色方法の復習をしておく
15.	カフェのインテリア設計10:課題発表	・プレゼンテーションの練習をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　各課題の提出作品に対して採点をして返却をする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	授業に参加し、課題に対して積極的に取組んでいるかを評価する。
課題成果品	80	到達目標1及び2によって得られた知識を積極的に取り入れ、それを反映させて仕上げた作品であるかを評価する。

教科書:

参考書:　3Dインテリアデザイナーー Neoによるとびきり贅沢なプレゼンテーション、河村容治他(著)、メガソフト株式会社(発行)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　マナビーでの掲示板機能、Eメール、授業前後に教室内で応対

626060

空間デザイン応用実習

円満字　洋介

授業テーマ:　テーマを持ち寄って街をつくろう

授業の概要:

模型作りを通して建築設計のプロセスを体験する。

設計はイメージに基づいて実際の建築や都市に寸法を与えるプロセスだ。もっとも基本となる寸法は人体だ。人体寸法や動作寸法の考え方が分かれば寸法化はできる。したがって特別な知識がなくとも基礎的な設計は誰でもできる。本講義では個別のテーマに深入りせず寸法化のプロセスを体験することに重点をおく。

設計のテーマは各自が自由に決めてよい。テーマに基づいて次の3班に分ける。班ごとに提出模型の縮尺が異なる。

1. まちづくり班　空想上の街をつくる。街路の配置やデザイン、広場の設計などを行う。模型縮尺は1/100とする。

2. 建築班　図書館、美術館、社寺、教会など各種建築。フリーハンドのラフプラン（平面、立面、断面）を描き、それに基づいて1/100の外観模型を作る。建築班は模型づくりよりもラフプランづくりを重視する。

3. インテリア班　与えられた外形の内側に住宅や店舗などのインテリアを設計する。ラフプラン作成後に縮尺1/30の模型を作る。

到達目標:　模型づくりを通してスケール感を養う。スケール感とは大きさ広さ高さなどを寸法化できる感覚のことである。

授業方法:　模型作りを中心に進める。途中で必要な講義、班別ミーティング、個別指導を適宜行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスと各自のテーマ設定 （各自のテーマについてヒアリングを行う）	取り組みたいテーマをあらかじめ考えてほしい。
2.	まちづくり班　架空の都市をイメージする 建築班　各自敷地を決めイメージを練る インテリア班　外形づくり イメージづくりは3分間コンペの繰り返しで決める。3分間コンペとは3分間集中してひとつのアイデアを考える手法。	どういうものを造りたいのか空想すること。
3.	まちづくり班 建築班とインテリア班の敷地を集めて街路や広場を構成する。1/200のラフプラン 建築班 イメージに基づいて1/200のラフプランをつくる インテリア班　イメージづくり	寸法化のための検討
4.	まちづくり班 ミーティングによるラフプランの検討 建築班 ミーティングによるラフプランの検討 インテリア班 イメージに基づいて1/100のラフプランを考える	寸法化のための検討
5.	班別ミーティングによりラフプランの検討	寸法化のための検討
6.	模型づくり 建築班はラフプラン作成	模型材料の調達
7.	模型づくり 建築班はラフプラン作成	細部についての検討
8.	模型づくり 建築班はラフプラン作成	細部についての検討
9.	模型づくり 建築班はラフプラン作成	細部についての検討
10.	模型づくり 建築班はラフプラン作成	細部についての検討
11.	模型づくり （以降、建築班も模型づくりに参加）	細部についての検討
12.	模型づくり	細部についての検討
13.	模型づくり	細部についての検討
14.	模型づくり（完成）	細部についての検討
15.	提出と講評	写真撮影の用意

受講者へのメッセージやアドバイス:

建築の超入門的な授業なので臆することなく参加してほしい。とくに技量や知識を要求するわけではなく、設計のおもしろさを体験してほしい。

今年度はインテリア班については外形を与えインテリアデザインに特化することにした。また建築班は模型づくりよりラフプランづくりに重点を置くことにした。

フィードバックの方法:　ラフプランについては班別ミーティングでアドヴァイスする。模型については最終授業日に講評するか、返却時にコメントを付す。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ラフプラン	30	明確なイメージを掴んでいるかどうかで評価する。
模型	30	精度は問わない。下手でもよい。自由な工夫があれば評価したい。 建築班はラフプラン50、模型10の比率とする。
授業参加度	40	積極的に質問してほしい。

教科書:　特になし

参考書:	共通のものは特にない
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	創造力、プレゼンテーション力
教員との連絡方法:	nrn45881@nifty.com

626161、62

被服製作実習基礎

藤本　　純子

授業テーマ:
被服製作に必要な基礎的知識・技術を身につける。

授業の概要:
裁断、縫製の工程を中心に、被服製作に必要な知識と技術を学ぶための実習を行う。授業での解説やデモンストレーションを踏まえ、各自で課題作品(手縫標本およびブラウス)の製作に取り組み、完成させる。また製作に関わる重要事項を記したり、標本作品や図・写真を添付する等して、被服製作の基礎資料となる実習ノートをまとめる。
この科目は、被服製作実習(平面構成・立体構成・応用)の履修の条件となる。
教職課程の「家庭」教科に関する科目である。
この科目の理解を深めるために「被服造形論」を併せて履修することが望ましい。

到達目標:
1.被服製作に関わる基礎的知識を身につける。
2.被服製作に関わる基礎的技術を身につける。
3.被服製作の意義を理解する。
4.習得した知識と技術をまとめ、伝える力を身につける。

授業方法:
授業目標に準じたクラスサイズで実習を行う。
プリント、標本などを用いて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 裁縫用具の種類と使い方 被服材料の種類と扱い方	
2.	手縫いの基礎1 (並縫い・普通まつり・たてまつり・奥まつり・千鳥がけ)	課題を完成させる。
3.	人体各部の名称と採寸 体型とパターン ブラウスの構造とパターン	各自の衣料サイズを調べる。
4.	布の扱い方 裁断	ブラウスの裁断準備をする。
5.	接着芯類の扱い方 印つけ	ブラウス用布の裁断・印つけをする。
6.	直線ミシン各部の名称と使い方 ブラウスの縫製1 (ダーツ, 肩, 見返し肩)	課題を完成させる。
7.	ロックミシン各部の名称と使い方 ブラウスの縫製2 (脇, 肩, 見返し)	課題を完成させる。
8.	ブラウスの縫製3 (袖)	課題を完成させる。
9.	ブラウスの縫製4 (衿)	課題を完成させる。
10.	ブラウスの縫製5 (衿付け)	課題を完成させる。
11.	ブラウスの縫製6 (脇, 裾)	課題を完成させる。
12.	ブラウスの縫製7 (袖付け)	課題を完成させる。
13.	コンピュータミシンの扱い方 ブラウスの縫製8 (ボタンホール)	課題を完成させる。
14.	手縫いの基礎2 (ボタン, スナップボタン, ストロングホック) ブラウスの縫製9 (ボタン付け)	課題を完成させる。
15.	着装と評価 実習ノートの整理	ブラウス作品着装写真の撮影準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業中に完成しなかった課題がある場合は、次回までに各自で完成させて授業に臨むこと。

フィードバックの方法:
提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
参加度	30	到達目標1,2,3,4の達成に向けた取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。
作品	40	到達目標1,2の習得度を評価する。
実習ノート	30	到達目標3,4の理解度を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能, 授業の前後に教室内で対応

626260

被服製作実習（立体構成）

藤本　　純子

授業テーマ:　ブラウス・スカートの製作

授業の概要:　「被服製作実習基礎」で習得した知識と技術を踏まえ、洋服の基本アイテムであるブラウスおよびスカートの製作を行う。被服製作の一連の流れを実習を通して体験し、基礎的な洋裁の知識と技術の習得を目指す。また、本科目は教職課程の「家庭」教科に関する科目であり、家庭科の被服分野の指導方法についてもあわせて学習する。

到達目標:
1.被服における立体構成の基礎知識を身につける。
2.基礎的な洋裁技術を習得する。
3.洋服製作の工程を把握し、モノ作りの意義を理解する。
4.被服製作実習の指導方法を習得する。

授業方法:　授業概要に準じたクラスサイズで実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ブラウスの製作(1) 採寸とパターン作成	
2.	ブラウスの製作(2) 製図とパターンの整理	パターンを完成させる。
3.	ブラウスの製作(3) 用布の見積りと裁断、芯地貼り、印付け（チャコペーパーとルレットを使用）	本縫いの準備
4.	ブラウスの製作(4) 本縫い（衿作り、身頃縫い合わせ）	本縫いを進める。
5.	ブラウスの製作(5) 本縫い（袖作り、縫い代のしまつ）	本縫いを進める。
6.	ブラウスの製作(6) 本縫い（衿付け、裾のしまつ）	本縫いを進める。
7.	ブラウスの製作(7) 本縫い（袖付け、ボタンホール、ボタン付け）	ブラウスを完成させる。
8.	スカートの製作(1) 採寸と製図（パターン展開）	パターンを完成させる。
9.	スカートの製作(2) 用布の見積りと裁断、印付け	本縫いの準備をする。
10.	スカートの製作(3) 仮縫いと補正	仮縫いチェックの準備をする。
11.	スカートの製作(4) 本縫い（ダーツ・脇・後中心縫合わせ）	本縫いを進める。
12.	スカートの製作(5) 本縫い（ファスナー付け）	本縫いを進める。
13.	スカートの製作(6) 本縫い（裾上げ、ベルト作り）	本縫いを進める。
14.	スカートの製作(7) 本縫い（ベルト付け、ホック付け、糸ループ付け）	本縫いを進める。
15.	着装と評価	着装写真の撮影準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中に完成しなかった課題がある場合は、次回までに各自で完成させて授業に臨むこと。

フィードバックの方法:　提出物は採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	50	到達目標1,2の習得度と到達目標3の理解度により評価する。
レポート	20	到達目標3を理解し、作品および製作工程について考察・解説できるかを評価する。
参加度	30	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能, Eメール

626361、62

被服製作実習（平面構成）

小林　　政子

授業テーマ:　浴衣（女物単衣長着）の製作

授業の概要:　日本の伝統服飾文化である和服の中から浴衣を取り上げ、その製作実習を通して平面構成や着装に関する知識と理解を深め、和服の基礎的技術と浴衣の製作方法を習得する。

到達目標:　裁断から仕上げまでの工程を和裁の伝統的手法で行う。国際的視野に立ち、和服や和裁文化について発信出来る。

授業方法:　授業目標に準じたクラスサイズで自習を行う。
標本などを用いて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	和裁に必要な用具と材料
2.	基本寸法　基礎縫い	浴衣の各部名称・構成・寸法　運針の練習
3.	裁断	用尺の見積もりと裁断
4.	しるし付け（へら）	しるし付け（へら）
5.	本縫い	袖作り
6.	本縫い	褄下、背縫い
7.	本縫い	揚げ縫い
8.	本縫い	衽付け、衽くけ
9.	本縫い	脇縫い、脇くけ
10.	本縫い	裾くけ
11.	本縫い	衿付け
12.	本縫い	衿くけ
13.	本縫い	袖付け
14.	仕上げ	仕上げ
15.	着付け	浴衣と帯の着付け

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業説明を受け、指示された箇所まで製作を行い次回の授業にのぞむこと。欠席その他、個人的な理由で生じた進度の遅れは自主的に補修して、翌週までに取り戻すこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題製作	70	
授業への積極的参加度	30	出席及び、作品製作に対する意欲

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　電話、メールにて

626362

被服製作実習（平面構成）

小林　　政子

授業テーマ:　浴衣（女物単衣長着）の製作

授業の概要:　日本の伝統服飾文化である和服の中から浴衣を取り上げ、その製作実習を通して平面構成や着装に関する知識と理解を深め、和服の基礎的技術と浴衣の製作方法を習得する。

到達目標:　裁断から仕上げまでの工程を和裁の伝統的手法で行う。国際的視野に立ち、和服や和裁文化について発信出来る。

授業方法:　授業目標に準じたクラスサイズで自習を行う。
標本などを用いて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	和裁に必要な用具と材料
2.	基本寸法　基礎縫い	浴衣の各部名称・構成・寸法　運針の練習
3.	裁断	用尺の見積もりと裁断
4.	しるし付け（へら）	しるし付け（へら）
5.	本縫い	袖作り
6.	本縫い	褄下、背縫い
7.	本縫い	揚げ縫い
8.	本縫い	衽付け、衽くけ
9.	本縫い	脇縫い、脇くけ
10.	本縫い	裾くけ
11.	本縫い	衿付け
12.	本縫い	衿くけ
13.	本縫い	袖付け
14.	仕上げ	仕上げ
15.	着付け	浴衣と帯の着付け

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業説明を受け、指示された箇所まで製作を行い次回の授業にのぞむこと。欠席その他、個人的な理由で生じた進度の遅れは自主的に補修して、翌週までに取り戻すこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題製作	70	
授業への積極的参加度	30	出席及び、作品製作に対する意欲

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　電話、メールにて

626460

被服製作実習応用

藤本　　純子

授業テーマ:　ワンピースドレスの製作

授業の概要:　「被服製作実習基礎」「被服製作実習(立体構成)」で習得した知識と技術を発展させ、洋服の基本アイテムであるワンピースドレスの製作を行う。特に、材料およびデザインに応じた製作手法、意図するシルエットの創出について実習を通して検討し、洋服製作に関する知識と技術および感性を磨き、応用力を養う。

到達目標:
1.被服における立体構成の知識を深める。
2.洋裁技術の応用力を養う。
3.より良い洋服製作のための工程を理解し、モノ作りの感性を磨く。

授業方法:
授業概要に準じたクラスサイズで実習を行う。
プリント、標本などを用いて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	採寸とデザイン パターン作成1	採寸のための服装を準備する。 デザインの参考資料を収集する。
2.	パターン作成2	パターンを完成させる。
3.	用布の見積りと表地の裁断、印付け	使用材料を準備する。
4.	仮縫い	仮縫いを完成させる。
5.	仮縫い補正とパターン修正1	仮縫い作品の試着の準備をする。
6.	仮縫い補正とパターン修正2	仮縫い作品の試着の準備をする。
7.	見返し・裏地・芯地の裁断、芯地貼り、印付け	見返し・裏地・芯地用パターンを作成する。
8.	本縫い1（ダーツ, 縫い代の始末）	本縫いを進める。
9.	本縫い2（表身頃, 見返し）	本縫いを進める。
10.	本縫い3（表スカート, ウエスト接ぎ）	本縫いを進める。
11.	本縫い4（コンシールファスナー, 脇）	本縫いを進める。
12.	本縫い5（裏身頃, 裏スカート, 裏ウエスト接ぎ）	本縫いを進める。
13.	本縫い6（表裏合わせ）	本縫いを進める。
14.	本縫い7（裾の始末, あきの始末, 仕上げ）	作品を完成させる。
15.	着装と評価	作品着装写真の撮影準備をする。 使用材料の整理をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業中に完成しなかった課題がある場合は、次回までに各自で完成させて授業に臨むこと。

フィードバックの方法:
提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	50	到達目標1, 2の習得度と到達目標3の理解度により評価する。
レポート	20	到達目標3を理解し、作品および製作工程について考察・解説できるかを評価する。
参加度	30	到達目標1,2,3,4の達成に向けた取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能、Eメール

626660

環境教育論

齋藤　　朱未

授業テーマ:

授業の概要:
環境問題というと，地球温暖化，オゾン層破壊，酸性雨といったことのみを捉えがちである。しかし，環境問題は私たちの生活において多様なかたちで密接にかかわっている。その多様にかかわる環境問題に対し，次世代育成としての環境教育の観点から私たちの生活を見直し，考え，他者に伝えることの意味，その方法について学ぶ場として授業を進めていく。

到達目標:
・環境問題に対する社会の動きを理解する
・生活の中で直面する問題に関心を持ち，自身はどのようなことができるのか考えることができる

授業方法:
講義形式を基本とし，数回のグループ学習を行なう。また，必要に応じて学外見学実習を行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	環境教育の概要・目的	学んだ内容について整理しておく。
2.	地球環境問題（1）	学んだ内容について整理しておく。
3.	地球環境問題（2）	学んだ内容について整理しておく。
4.	身近な環境調べ（グループ学習）	自身の地域のごみ分別について整理しておく。
5.	環境教育の対象（1）	学んだ内容について整理しておく。
6.	環境教育の対象（2）	学んだ内容について整理しておく。
7.	環境教育の方法とプログラム	学んだ内容について整理しておく。
8.	フードマイレージ買い物ゲーム（グループ学習）	フードマイレージについて，自身で整理しておく。
9.	世界における環境教育	学んだ内容について整理しておく。
10.	地域社会における環境保全活動	学んだ内容について整理しておく。
11.	企業と環境教育	学習した内容を基に，企業のSCRや環境活動について自身で調べ，レポートにまとめることを求める。
12.	社会の中の環境教育	学んだ内容について整理しておく。
13.	子どもの遊びと環境教育	学んだ内容について整理しておく。
14.	自然体験プログラム（グループ学習）	子どもの遊びと環境の関わりを整理しておく。
15.	まとめ	授業内容についてまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
毎回のミニレポートについては授業時に回収し，コメントをつけて次回授業までに返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びレポート提出	50	積極的に授業に参加し，社会の動きを理解し，自身ができることを考えようとしているかを評価する。
定期試験	50	積極的に授業に参加し，社会の動きを理解し，自身ができることを考えようとしているかを評価する。

教科書:

参考書:
水山光春編著「よくわかる環境教育」ミネルヴァ書房
井上有一・今村光章編「環境教育学」法律文化社
小澤紀美子編著「持続可能な社会を創る環境教育論」東海大学出版部

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、自己管理力

教員との連絡方法:
オフィスアワー，Eメール，マナビー掲示板機能を利用

626760

生活科学実験

安川　　涼子、南　　佳子、河本　　ゆう子

授業テーマ:

授業の概要:
講義科目で学習した生活に関わる身近なテーマについて、実験・実習を通して、科学的に検証・分析・考察する。
「家庭科教科教育法」履修者が、教材研究事例として活用することを視野にいれて実施する。

到達目標:
1. 講義科目で学習した知識について、本質的・科学的に理解を深める。
2. 生活者として具体的な行動改善につなげられる意識を養う。
3. 自然科学の実験の基礎的知識と方法を修得する。

授業方法:
1グループ4人程度、8グループ程度で実験・実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 繊維製品の種類と取り扱い	レポートの作成
2.	繊維の鑑別1（ 染色 ）	レポートの作成
3.	繊維の鑑別2（ 溶解・燃焼 ）	レポートの作成
4.	布の吸水性試験	レポートの作成
5.	布の漂白・蛍光増白	レポートの作成
6.	羊毛のフェルト化	レポートの作成
7.	水の種類と特性	レポートの作成
8.	乳化応用実習（ バター・リップクリーム ）	レポートの作成
9.	食品中の糖度および塩分の測定	レポートの作成
10.	でんぷんの調理特性	レポートの作成
11.	大豆蛋白の凝固 ビタミンCの検出	レポートの作成
12.	家模型を用いた温熱環境測定1（ 実験計画と模型製作 ）	実験計画の見直し
13.	家模型を用いた温熱環境測定2（ 実測と結果考察 ）	レポートの作成
14.	室内温熱環境の測定	レポートの作成
15.	室内光環境の測定	レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
提出物は添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
参加度	60	授業参加への積極性・意欲的態度を評価する。欠席と遅刻については厳正に対処し、減点する。
レポート	40	到達目標を理解した上で、実験・実習の記録と考察をまとめているか評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能, 授業の前後に教室内で対応

626860

家庭看護学

園田　　悦代

授業テーマ:　子どもたちの健康で安全な生活の保障を目指す

授業の概要:　ヒトの体にはどのような仕組みと働きがあるのか、それらがどのように発達するのか、正常な子どもの体について理解するとともに、子どもによく見られる病気や症状を知り、具合の悪い子どもの症状と見るポイントについて学習する。子どもに起こりやすい事故、子どもがかかりやすい感染症について理解し、子どもが健康で安全な日常生活を送るうえで必要な看護方法について学習する。

到達目標:
1　体の仕組みと働きがわかる。
2　子どもによく見られる症状と見るポイントがわかる。
3　子どもに発生しやすい事故や感染症がわかる。
4　子どもの健康と安全を守る意義がわかる。
5　子どもが健康で安全な日常生活を送るための看護方法がわかる。

授業方法:　講義（パワーポイント・DVDの視聴覚教材の活用）、講義と演習（グループワーク含む）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション：子どもの看護について考える	「看護」とは何か考える。
2.	子どもの不機嫌、啼泣、子どもの痛み	子ども（特に乳幼児）の特徴を調べる。
3.	子どもの発熱、かぜ（呼吸器系）	日常使う体温計を確認する。 発熱の原因について考える。
4.	子どもの腹痛、嘔吐、下痢、便秘（消化器系）、子どもの脱水症、熱中症（循環器系、泌尿器系）	腹痛、嘔吐、下痢の原因について考える。
5.	子どものみかた：バイタルサイン、症状の観察、見逃せない病気のサイン	事前配布資料を確認する。
6.	子どものみかた：バイタルサイン測定の演習	バイタルサインの測り方を復習する。
7.	子どもの薬の飲ませ方	自分の薬の飲み方を想起する。
8.	子どもの事故、けが（血液、骨格系）	事故体験を想起する。
9.	子どもの家庭内事故を防ごう（演習含む）：子どもの救急、病院のかかりかた	知っている救急処置をあげる。
10.	子どもを感染症から守ろう（演習含む）：手洗い、うがいの習慣づけ	知っている感染症をあげる。
11.	小さな子どももがんばれるプレパレーション	事前配付資料を確認する。
12.	子どもへの健康教育を考える（プレパレーションの活用）：グループワーク	感染予防のための手洗いのポイントを復習する。子どもの発達（特に認知の発達）を調べる。
13.	子どもへの健康教育を考える（プレパレーションの活用）：グループワーク	簡単で楽しくできる手洗い方法を考える。
14.	子どもへの健康教育を考える（プレパレーションの活用）：グループ発表	プレゼンテーションを準備する。
15.	まとめ	これまでの学習内容を復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　これまでの子ども体験を活かす

フィードバックの方法:　授業についての意見・感想・質問等の小用紙に対する解説やコメントは教室でまとめて行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標に関する理解度より評価する
グループワーク、発表	30	グループでの協調性、発言力、行動力を評価する
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標を達成しようとする意欲や態度を評価する

教科書:　教科書は使用しない。必要な資料はプリントとして配布する。

参考書:　講義中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する

626960

消費者教育論

伏木　　真理子

授業テーマ:　消費者市民社会の構築に向けての消費者教育

授業の概要:　消費者問題の発生と変遷、各生活分野における消費者トラブルの現状と問題点、経済社会における消費者の権利と責務、消費者に関わる法律と行政、行政等各セクターにおける消費者教育とその連携、これらを踏まえた上での消費者市民社会の構築について解説する。また、学生が消費者問題の解決、消費者トラブルの回避等に向けて「消費者教育のための教材・資料」を作成し発表を行うことにより、実社会での実践につなげる。

到達目標:
・消費者問題、消費者教育について理解し、説明できるようになる。
・各生活分野における消費者トラブルの現状や問題点を把握し、考察できるようになる。
・消費者に関わる法律、行政について理解し、説明できるようになる。
・行政等各セクターにおける消費者教育とその連携について知り、活用できるようになる。
・経済社会における消費者の権利と責務について理解し、消費者市民社会の構築に向けての消費者教育を実践できるようになる。

授業方法:　1～11回までは講義を中心として行うが、適宜、講師の発問に対する応答や意見表明等を求めたり、グループワーク等を行ったりする。必要に応じて視聴覚教材(ビデオ等)も使用する。12～14回は学生が作成した「消費者教育のための教材・資料」に基づき発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	消費者問題とは、消費者問題の発生の経緯、消費者問題の変遷	「消費者問題」という語から連想されるものを考えておく。
2.	衣生活をめぐる消費者トラブルの現状と問題点	新聞、テレビ、Web等で衣生活に関する消費者向けの情報を調べておく。課題1(消費者トラブルに関するレポート)を指定された提出期日に提出できるように取り組む。
3.	食生活をめぐる消費者トラブルの現状と問題点	新聞、テレビ、Web等で食生活に関する消費者向けの情報を調べておく。課題1(消費者トラブルに関するレポート)を指定された提出期日に提出できるように取り組む。
4.	住生活をめぐる消費者トラブルの現状と問題点	新聞、テレビ、Web等で住生活に関する消費者向けの情報を調べておく。課題1(消費者トラブルに関するレポート)を指定された提出期日に提出できるように取り組む。
5.	サービス(役務)分野をめぐる消費者トラブルの現状と問題点	新聞、テレビ、Web等でサービス(役務)分野に関する消費者向けの情報を調べておく。課題2の「消費者教育のための教材・資料」を作成するにあたって、各自関心のあるトピックを1つ選定する。そのトピックに関連する消費者向けの情報、既存の消費者教育教材の情報等の収集をし、各自、課題の教材・資料の作成を始める。
6.	経済社会における消費者、消費者の権利と責任・義務、消費者の保護と自立	「消費者の保護」、「消費者の自立」という語から連想されるものを考えておく。課題2の「消費者教育のための教材・資料」の作成を進める。
7.	消費者に関わる法律、消費者行政	消費者に関わる法律にはどのようなものがあるか考えておく。課題2の「消費者教育のための教材・資料」の作成を進める。
8.	行政における消費者教育	消費者庁、国民生活センター、地方自治体等のホームページ等で、消費者教育に関する情報を調べておく。課題2の「消費者教育のための教材・資料」の作成を進める。
9.	企業、NPO(Non Profit Organization、民間非営利組織)等における消費者教育	企業、NPO等のホームページ等で、消費者教育に関する情報を調べておく。課題2の「消費者教育のための教材・資料」の作成を進める。
10.	学校における消費者教育	文部科学省等のホームページ等で、消費者教育に関する情報を調べておく。課題2の「消費者教育のための教材・資料」の作成を進める。
11.	消費者市民社会の構築、消費者教育に関しての行政・企業・NPO・学校等の連携	「消費者市民社会」という語から連想されるものを考えておく。課題2の「消費者教育のための教材・資料」の作成を進める。
12.	発表	作成した「消費者教育のための教材・資料」に基づき発表をする。発表のための準備をする。
13.	発表	作成した「消費者教育のための教材・資料」に基づき発表をする。発表のための準備をする。
14.	発表	作成した「消費者教育のための教材・資料」に基づき発表をする。発表のための準備をする。
15.	まとめ	これまでの授業内容について復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物は教室で返却する。良い着眼点等については講評し、受講者全体で共有化を図る。また、個別に注意すべき点がある場合には、その旨を指摘して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	消費者問題、消費者教育に関する知識やその理解度により評価する。
課題1(消費者トラブルに関するレポート)	10	指示した事項を含んだ記述になっているか等を基準とする。
課題2(消費者教育のための教材・資料)	20	作成した「消費者教育のための教材・資料」に、必要な事項が入っているか、創意工夫があるか等を基準とする。
発表	15	作成した「消費者教育のための教材・資料」に基づいた発表に対する態度・意欲、効果的な方法を用いているか等を基準とする。
授業への参加度	5	発問に対する応答、意見表明等の態度・意欲を基準とする。また、皆出席が前提であり、遅刻・欠席については減点対象として厳正に対処する。

教科書:

参考書:	『くらしの豆知識　2018年版』、国民生活センター、2017年。 『消費者白書』、消費者庁。　http://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_research/white_paper/ 『ハンドブック消費者』、消費者庁。　http://www.caa.go.jp/adjustments/handbook.html
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、プレゼンテーション力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応、マナビーの掲示板（スレッド）及び個別指導（コレクション）機能

627060

住文化史

藤田　　勝也

授業テーマ:

住まいをめぐる日本の文化と歴史を学び、理解する。

授業の概要:

住まいは都市に固有の存在ではないが、都市の住まいは特有である。したがって主たるテーマは、都市および都市の住まい、そして在地の住まいである。第一に、前近代における都市の成立と形成、展開、近代以降の都市のあり方、第二に、都市の住まいの成立と展開、第三に、在地の住まい、その地域性、階層性、文化性について学ぶ。さらに近現代、未来の都市と住まいの連続性、不連続性についても展望する。

到達目標:

東アジア東端の地、日本の住まいをめぐる、文化と歴史の独自性と普遍性について学び、理解し、正しく伝え、表現できる能力と感性を涵養する。

授業方法:

要点をパワーポイントによって提示し、あわせて関連する写真を映写しつつ詳述します。パワーポイントの内容は、PDFをマナビ-にあらかじめ提示します。また理解の確認と定着を図るため、演習（小テスト）を随時、実施します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	日本住宅史の全体像	PDFをもとに、全体像を把握しておく。
2.	日本古代の都城	PDFをダウンロードして、通読しておく。
3.	平安京の空間構造	PDFをダウンロードして、通読しておく。
4.	平安京の都市化と公家の住まい	PDFをダウンロードして、通読しておく。
5.	京都御所などの見学	見学の詳細について、授業時に説明した内容を確認しておく。
6.	寝殿造の本質と住宅史の原理	PDFをダウンロードして、通読しておく。
7.	都市住宅としての町屋	PDFをダウンロードして、通読しておく。
8.	中世の住まい	PDFをダウンロードして、通読しておく。
9.	中世から近世の住まい	PDFをダウンロードして、通読しておく。
10.	近世の住まい、都市と集落	PDFをダウンロードして、通読しておく。
11.	数寄屋と茶室	PDFをダウンロードして、通読しておく。
12.	近世民家の成立	PDFをダウンロードして、通読しておく。
13.	民家の地域性と普遍性	PDFをダウンロードして、通読しておく。
14.	近代化、西洋化と住まいの変容	PDFをダウンロードして、通読しておく。
15.	まとめ	これまで学習した内容について、全体を通して再確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

日本史に関する高校卒業レベル（日本史B）の知識が必要です。授業までに、映写するパワーポイントの内容はマナビ-にPDFで公開しますので、事前に一読しておいてください。また授業で学習した内容の理解を深めるために、現地に積極的に出向いて実見することを心がけてください。

フィードバックの方法:

授業時に実施する演習（小テスト）や提出されたレポートなどについて、教室でまとめて解説、講評する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートもしくは試験	70	レポートは主題に沿った内容で、かつ自身のことばでまとめられているかを評価する。レポートか試験かは、履修人数によって決める。
出席	30	演習（小テスト）の提出・評価が出席を兼ねる。出席率が6割に満たない場合には、レポート・試験は採点しない。

教科書:

参考書:

西山良平・鈴木久男・藤田勝也編著『平安京の地域形成』、京都大学学術出版会
西山良平・藤田勝也編著『平安京と貴族の住まい』、京都大学学術出版会
日本建築学会編『日本建築史図集』（新訂版あるいは新訂第二版）、彰国社
藤田 勝也ほか編『日本建築史』、昭和堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、おもいやる力

教員との連絡方法:

授業の教室内あるいは講師控室で対応します。質問等、Eメールでも受け付けます。fujitama@kansai-u.ac.jp

630160

有機化学

杉浦　　実

授業テーマ:　食物栄養科学（食品学・栄養学・調理科学）を学ぶために必要とする基礎的な有機化学を学ぶ。

授業の概要:　基礎的な化学の知識から学習を始め、食物栄養科学を学ぶ上で必要な有機化合の知識を身につけるため、有機化合物の種類や命名法、官能基の特徴や反応性について理解できるよう努める。また、日常生活と関わりの深い有機化合物や取り扱いに注意を要する薬品についても学ぶ。各講義毎に小テストによる理解度を確認するとともに、基礎から応用までの演習問題にも取り組む。

到達目標:　食品学、栄養学を学ぶ上で必要とする基礎的な有機化学の知識を修得することが目標である。食品成分や生体分子に対して有機化学的な見方ができるようにして「生化学」（2年次に履習）への橋渡しとする。

授業方法:　講義を中心に行い、毎回学習したことについて小テストを行うことで理解度を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	化学の基礎1：原子の構造、イオン結合、共有結合と分子軌道、電気陰性度と極性分子について	高等学校で化学を履修していない学生も受講するので、特に準備は求めない。
2.	化学の基礎2：酸と塩基、酸化と還元について	化学の基礎1：原子の構造、イオン結合、共有結合と分子軌道、電気陰性度と極性分子について復習しておく。
3.	有機化合物の構成、アルカンと構造異性体、命名法について	化学の基礎2：酸と塩基、酸化と還元について復習しておく。
4.	アルケン、アルキン、炭化水素の反応と性質について	有機化合物の構成、アルカンと構造異性体、命名法について復習しておく。
5.	酸素原子を含む有機化合物の分類（アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル）について	アルケン、アルキン、炭化水素の反応と性質について復習しておく。
6.	酸素原子を含む有機化合物の分類（アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル）とその化学反応について	酸素原子を含む有機化合物の分類（アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル）について復習しておく。
7.	芳香族炭化水素について	酸素原子を含む有機化合物の分類（アルコール、エーテル、アルデヒド、ケトン、カルボン酸、エステル）とその化学反応について復習しておく。
8.	芳香族炭化水素とその化学反応について	芳香族炭化水素について復習しておく。
9.	窒素原子を含む高分子化合物について	芳香族炭化水素とその化学反応について復習しておく。
10.	酸無水物とエステル化反応について	窒素原子を含む高分子化合物について復習しておく。
11.	元素分析について	酸無水物とエステル化反応について復習しておく。
12.	分子式からの構造推定について	元素分析について復習しておく。
13.	構造異性体、幾何異性体、光学異性体について	分子式からの構造推定について復習しておく。
14.	食品に含まれる有機化合物と生体高分子について	構造異性体、幾何異性体、光学異性体について復習しておく。
15.	まとめ	前回までの授業内容を教科書・配布プリント・ノートを使って復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業を理解するためには、前回に学んだ授業内容を充分に復習して次回の授業に臨むことが重要である。特に授業中に行った小テストや演習問題を解くことによって知識を整理し、理解を深め、思考力を養うことが必要である。

フィードバックの方法:　課題として出題した小テストや演習問題は、授業中に解説・解答を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度、小テスト及び演習問題	40	授業への積極的参加度及び授業毎の小テストや演習問題で確認する。到達目標に掲げた有機化学に関する知識、理解度により評価する。
定期試験	60	到達目標に掲げた有機化学に関する知識、理解度により評価する。

教科書:　原田義也著『生命科学のための有機化学I—有機化学の基礎』東京大学出版会

参考書:　山本学、伊与田正彦、豊田真司 著「有機化学演習」東京化学同人
立屋敷哲 著「生命化学・食品学・栄養学を学ぶための 有機化学 基礎の基礎 補訂版」丸善

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。
オフィスアワーで応対。

630261、62

基礎統計学

酒井　　健

授業テーマ:　基礎統計

授業の概要:　今後統計法を使えるようになるための基礎的知識を獲得し、さらに実際にデータ分析の初歩ができるようになるために、講義形式で授業を行うが、可能な限り、主にエクセルを用いての統計分析のデモも行う。

到達目標:　統計学の基礎のために必要な知識を身につけること。
度数分布表の作成、ヒストグラムの描画、および平均、分散、標準偏差、相関係数のなどの基本統計量を計算できるようになること。
推測統計の基礎として、母平均の95%信頼区間、二つの母平均の差の検定(t検定)、χ2検定、無相関の検定などに関する数値の計算とその読み方を理解すること。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	統計と調査　尺度の種類など	エクセルもしくはそれに類する表計算ソフトの基本操作が出来るようになっておくこと。具体的には、エクセル等を開いて、数値を入力し保存する作業がスムーズに出来ること。
2.	度数分布表とヒストグラム	ソフトを使用して、データを入れて、度数分布表とヒストグラムが描けるようになること。およびその意味がわかること。
3.	基礎統計量(代表値・分散・標準偏差)	事前配布のレジュメに目を通し、平均と分散について予習しておくこと。
4.	基礎統計量その2(代表値・分散・標準偏差)	ソフトを使用して、データを入れて、平均、分散、標準偏差を算出できること。
5.	正規分布とデータの標準化	事前配布のレジュメに目を通し、正規分布について予習しておくこと。
6.	母平均の推定　その1	標準誤差について事前に予習しておくこと。
7.	母平均の推定　その2　95%信頼区間を求める	確率分布について事前に予習しておくこと。
8.	母平均の推定　その3　95%信頼区間を求める	95%信頼区間の意味を事前に予習しておくこと。
9.	統計的仮説検定　その1　統計的検定とは	統計的仮説検定の基本的考え方、すなわち、帰無仮説、対立仮説、有意水準、棄却域などの用語について、事前配布したレジュメを読んでおくこと。
10.	統計的仮説検定　その2-1　2つの平均値の差の検定	t検定について、帰無仮説、対立仮説を具体的に理解できるように、事前配布したレジュメを読んでおくこと。
11.	統計的仮説検定　その2-2　2つの平均値の差の検定	エクセル等を用いてt値が出せるようにしておくこと。
12.	統計的仮説検定　その3　度数の検定	カイ2乗検定について、帰無仮説、対立仮説を具体的に理解できるように、事前配布したレジュメを読んでおくこと。
13.	相関係数　その1　相関係数の計算方法	分散の復習と共分散について予習しておくこと。
14.	相関係数　その2　無相関の検定	統計的仮説検定について復習し、無相関の検定のt値が出せるようにしておくこと。
15.	まとめ	これまでの内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業では、理論の理解も大事にしますが、実際にデータを分析できるようになることを目指します。エクセルやナンバーズなどの表計算ソフトはむろんのこと、SPSSやRといった統計専用のソフトにも触れてみてください。統計分析の能力は、将来武器になります。

フィードバックの方法:　授業の終わりにコメントペーパーを配布するので、そこに質問等を記入すること。必要があれば次の回にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	80%	100点満点の試験を行い評価する。宿題を課した場合は期末試験分を80%に換算し、宿題の点と併せて期末得点とする。到達目標に対して、具体的なデータを提示し、必要な数値の計算およびその意味を正しく理解できているかによって評価する。
宿題	20%	宿題を課した場合は、その合計点を20点とし、提出量に比例して点数を配分する。よって宿題の半分を出した場合は10点とする。

教科書:

参考書:
高橋信　「マンガでわかる統計学」オーム社
小島寛之「完全独習　統計学入門」ダイヤモンド社
宮川公男「基本統計学」有斐閣
柳井久江「4Steps エクセル統計」星雲社
菅民郎「Excelで学ぶ統計解析入門」オーム社
羽山博「できる やさしく学ぶExcel統計入門 難しいことはパソコンにまかせて 仕事で役立つデータ分析ができる本」インプレス
米谷学「7日間集中講義! Excel統計学入門: データを見ただけで分析できるようになるために」オーム社
門脇香奈子「できるExcel ピボットテーブル データ集計・分析に役立つ本」インプレス

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメールにて受け付ける。メールアドレスは、授業開始後に提示する。

630361、62

生物学実験A

足立　　聡子

授業テーマ:　動物・植物組織の観察と微生物の培養を通じ生物の知識と実験手技を学ぶ

授業の概要:　本実験は生物試料の正しい扱い方と観察、及び無菌操作による微生物の培養方法を学ぶことを目標としている。顕微鏡の正しい使い方を習得した上で、細胞や花粉、植物内含有物を顕鏡観察する。他にもニワトリの筋肉、硬骨、軟骨等の動物組織の観察も行う。このことにより、大学入学までに学んできた内容をより詳細に理解することを目的とする。また、培養実験では、器具の洗浄・滅菌、培地の調製・滅菌、無菌操作の必要性を理解し、これらの手技を習得する。市販の納豆から納豆菌を分離培養することで、純粋培養の必要性や分離できた納豆菌の生理機能を理解し、環境微生物試験では、私たちの生活に密着したカビ類、細菌類の観察と同定を行う。植物組織培養実験では、市販のにんじんからカルスを誘導する。生物試料の統計処理方法及び推定・検定の基礎を統計ソフトを用いて実習する。

到達目標:
・実験データは、毎回レポートで報告することになる。レポートは、独りよがりな内容になることなく、その実験内容を知らない自分の家族に読んでもらっても理解してもらえるような真心のこもった内容にすることを目標に、社会人になってからも必要な第三者に発信する術を身につける。
・次年次以降の本格的な実験実習のためにも基本的な実験手技を習得することを目的とする。
・培養実験では、器具の準備や培地の調製を含め、菌体の培養開始から観察までに数か月を要し、各回完了型の内容になるとは限らない。そのため、いつどの実験を何のために行うか、いつまでにそのレポートを書き終えるか等の中長期的スケジュール管理ができるようにする。

授業方法:　毎回、最初に実験の内容説明、基本的知識の確認を行ってから実験にはいる。難しい手技は必ず教員が学生にデモンストレーションを行う。クラス半分が顕微鏡実験、もう半分が培養実験を行い、次回その内容をローテーションする授業形態をとる回が何度かあるため、学生はどちらの実験をするかを把握して実験に臨む必要がある。顕微鏡実験は個人で、培養実験は班単位での実験となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	光学顕微鏡の使い方 マツ科、ユリ科の花粉細胞の顕鏡とスケッチ・ミクロメーターを用いた花粉の大きさの測定	顕微鏡の部位名称及び基本的な使い方を予習する。観察試料の花粉はどの様な形態をしているのか、予測してノートに書いておく。花粉の大きさの測定もするので、ミクロメーターの使い方も予習する。
2.	器具の洗浄・培地作成・無菌操作の習得 実験器具の洗浄方法と使用方法を学び、納豆菌やカルス等を培養するための培地を作成しその滅菌方法を学ぶ。ガスバーナーの正しい使い方を確認しガスバーナーの元での無菌操作を習得する。	細菌類やカビ類を培養するためには、なぜ器具の洗浄・滅菌及び培地の調製・滅菌、無菌操作が必要なのか考える。ガスバーナーの使い方を予習する。GPY培地の組成を確認しておく。
3.	貯蔵デンプン・鐘乳体の観察とスケッチ ジャガイ・サツマイモ塊根、バナナのデンプン粒、インドゴムの鐘乳体の観察とスケッチを行う。	観察試料の貯蔵デンプン粒の形態を調べておく。未熟と完熟バナナでの貯蔵デンプン粒の量の違いを予測する。鐘乳体とはインドゴムの葉のどの組織に存在し、主成分は何かを調べておく。インドゴムの葉からどのようにプレパラートを作成するか予習する。
4.	環境微生物試験 空中に浮遊している細菌やカビ類を経時的に寒天平板で捕捉し、質的・量的に調査する。手のひらの微生物検査を手洗い前と手洗い後に行い、どちらが質的・量的に汚染度が高いか検討する。希釈法による土壌細菌の分離も行う。	空中落下細菌は寒天培地の暴露時間と暴露場所における菌体コロニー数や種類にどのような変化が起きるか予測しておく。手のひらの微生物検査については手洗い前と手洗い後の菌体数に明白な違いが出るにはどのように実験を行えばよいかを考えておく。土壌細菌試験は、試料である土壌の希釈方法を予習する。
5.	レポートの書き方について 文章の書き方とグラフ・表の作成方法を講義する。 環境微生物試験の観察と考察	ここまでで提出してきたレポートを通して書き方がわからなかった点などをまとめておき、この機会に質問してもよい。土壌1g中の菌体数の算出方法を予習する。
6.	細胞分裂と原形質分離の観察 タマネギの鱗茎細胞を観察する。タマネギ根端の細胞分裂の各ステージを観察・スケッチし、各ステージの所要時間を算出する。	タマネギの鱗茎細胞の膜構造について予習する。細胞周期と細胞分裂の違いについて学んでおく。細胞分裂各ステージの特徴的な染色体の形態を確認しておく。
7.	納豆菌の分離培養から釣菌まで 市販の納豆から納豆菌を分離し、後日釣菌を行う。	分離培養と釣菌をする目的を考えておく。分離培養はどのように培養できれば成功か予習する。約1ヶ月にわたって行う実験のため、実験ノートの付け方に気を付ける。レポートは全行程を1冊にまとめて提出する。
8.	微細藻類の同定と形態的特徴のスケッチ・動物組織の観察とスケッチ 鴨川水系の微細藻類を観察し実際の大きさを顕微鏡下で測定し同定する。手羽先の解剖及び筋肉組織・軟骨・硬骨の観察とスケッチ。	本講座の最初の実験で使用したミクロメーターを教員の説明なしで使いこなせるか。筋肉組織、軟骨・硬骨組織はどの様な構造をしているか予習する。
9.	納豆菌を使った実験・植物組織培養 納豆菌のグラム染色と芽胞染色実験並びにアミラーゼ、プロテアーゼ、DNase活性の有無を調べる酵素活性試験。植物組織培養では、MS培地を調製し市販のにんじんからカルスを誘導する。	納豆菌が持つ酵素を学習しておく。『カルス』という言葉の意味を調べる。またMS培地とこれまで調製してきた培地との大きな調製方法の違いを確認しておく。
10.	パラフィン法による連続切片の作成とHE染色 アサリの組織でヘマトキシリン・エオシンの二重染色を行う。染色に至るまでの組織の固定・脱水・透徹・パラフィン浸透・ミクロトームで連続切片作成といった組織染色の基本的な工程を学ぶ。	組織の固定・脱水・透徹・パラフィン浸透・ミクロトームで連続切片作成等、様々なステップを踏んで染色へと進むが、なぜこれらのステップを踏む必要があるのか理由を学習しておく。ヘマトキシリンとエオシンは各々何を何色に染色するか予習する。
11.	観察の結果・考察 納豆菌の酵素活性試験、カルス、HE染色の観察と写真撮影。	酵素活性試験の評価方法を予習する。にんじんから誘導したカルスはどんな色でどのような形状かテキストのカラー写真等で確認しておく。
12.	植物色素の同定・ヒトの核型分析 ホウレンソウから抽出した光合成色素をペーパークロマトグラフィーにより分離し、分離された色素が何か同定する。 ヒトの核型分析は、配布する核型資料の染色体配列を分析する。	ペーパークロマトグラフィーの原理を学習しておく。ホウレンソウの光合成色素の種類を確認し、Rf値の算出方法を予習する。核型分析の基本的ルールを学習しておく。
13.	生物統計(1) モデルを用い、平均値・分散・標準偏差・相関等をEXCELで実習。実際に、ムラサキハナマメの長径・短径を各自で測定し、統計処理を行う。	基本統計量、度数分布表とヒストグラム、散布図と相関についてできる限り知識を深めておく。
14.	生物統計(2) モデルを用い、推定と検定をEXCELで実習。	メンデルの法則とメンデルの法則に則らない遺伝について、高校生物のレベルでいいので復習しておく。

15.	寒天培地の処理・器具の洗浄 これまでの実験で使った寒天培地の滅菌と洗浄。ガラス器具の洗浄。	実験が完了した培地の処理方法を確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

予習は実験内容を把握し、まず自分で結果の予測をたてましょう。ただ単に頭で考え予測するのではなく、実験ノートになぜそのように予測するか理由を述べておきましょう。そうすることで、レポート作成時に、実際の結果と自分の予測の比較がしっかりできるようになります。また、調べるべきキーワードや実験原理、実験方法を予習しておくことで、実験中にわからない言葉がないように、2歩3歩先を読んで作業ができるようになりましょう。実験中困っている学生を気遣える思いやりの気持ちをもって実験を行えるようにしましょう。

フィードバックの方法:

レポートの書き方について、学生の大半が陥る書き方の不備にはその都度クラス全体にアナウンスを行う。不備の多いレポート内容に関しては、学生本人もどのように書いたらいいのかわからない部分もあるかと思うので、個人的に指導を行うことで学生の気づきを促す。何度かはレポートを返却し教員の添削内容を学生に確認してもらう(そのレポートは再度提出)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	80	レポートの提出遅れ、極端に事実と異なる観察スケッチは減点対象となる。 テキストに挙げている通り、レポートの基礎的構成で書かれているか。結果が数値で出る場合は途中式を省略せず記載する。数値の羅列ではなく、表やグラフを整理する。その際、どの数値を図式化したら効果的かをよく考えて行う。 考察は、現象のみを述べるのではなく、その現象に至った理由や自分の予測と結果の比較、結果と文献的に言われている事との比較を論理的に述べる。
出席状況・実験態度	20	出席が原則である。 関心・意欲・態度の悪い場合は減点対象となる。

教科書:

同志社女子大学　生活科学部　食物栄養科学科　生物学研究室 編 『生物学実験』

参考書:

高校の生物図説は大変役に立ちます。
図書館で毎回の実験内容に見合った参考書を探し利用する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後にも教室内で対応する。
生物学研究室(U214b)にて、質問や連絡を受け付ける。教員不在の際は、助手が対応し追って教員が対応する。

630461、62

化学実験A

森　　紀之、林　　由佳子

授業テーマ:　食品や食品成分、生体成分を用い、化学実験において基本的な原理や実験手法を学ぶ。

授業の概要:　食物栄養科学科で行う最初の基礎実験として、はじめに、研究倫理について学ぶ。化学的な項目について実験を行い、基本的な器具の名称やその扱い方、試薬の調製法、実験データの整理の仕方などを学ぶ。実験内容としては、まず、定性試験では糖質とアミノ酸の呈色反応を、定量実験では中和滴定とキレート滴定を行う。次にクロマトグラフィーでは吸着クロマトグラフィーである薄層クロマトグラフィーと、分配クロマトグラフィーであるペーパークロマトグラフィーを行う。その他、緩衝作用の強さの測定、ポリフェノール量の測定、塩析・電気泳動法によるタンパク質の分離を行う。

到達目標:
1. それぞれの実験の原理や反応について理解する
2. 実験へ積極的に参加し、様々な器具の取り扱い方法を習得する
3. レポート(目的、序論、方法、結果、考察、感想、参考文献)が書けるようになる

授業方法:　一人またはグループで実験を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基礎事項 ①研究倫理について　②実験器具の名称とその取り扱い方	
2.	基礎事項 ①数値の取り扱い方　②酸・塩基の取り扱い方、試薬の調製法	
3.	糖、アミノ酸、タンパク質の呈色反応 ①説明、試薬の調製　②定性分析	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬や反応について、あらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
4.	中和滴定(食酢中の酢酸濃度測定) ①説明、試薬の調製　②中和滴定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。中和滴定について原理を学んでおく。
5.	レポートの書き方(1) ①数値の取り扱い方　②考察の書き方(その1)	
6.	薄層クロマトグラフィー(トマトに含まれるアミノ酸の分離) ①説明、ガラス細工　②試薬の調製、薄層クロマトグラフィー	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
7.	ペーパークロマトグラフィー(ビタミンB2、ビタミンB12)の分離 ①説明、試薬の調製　②ペーパークロマトグラフィー、吸収スペクトルとモル吸光係数の測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
8.	分配比の測定(ビタミンB2、ビタミンB12を用いた分配比の測定) ①説明、試薬の調製　②分配比の測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。
9.	レポートの書き方(2) ①グラフの描き方　②考察の書き方(その2)	
10.	キレート滴定(牛乳中のCa量の測定) ①説明、試薬の調製　②キレート滴定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
11.	緩衝値βの測定 ①説明、試薬の調製　②緩衝値βの測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。緩衝作用とはどのような性質なのか、緩衝作用を持つ物質にはどのような特徴があるのか調べておく。
12.	食品中のポリフェノール量の測定 ①説明、試薬の調製　②ポリフェノール量の測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。食品中に含まれるポリフェノールについてどのようなものがあるか調べておく。
13.	塩析法によるタンパク質の分離 ①説明、試薬の調製　②塩析法による血清タンパク質の分離	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬や塩析についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて調べておく。
14.	電気泳動法によるタンパク質の分離 ①説明、試薬の調製　②電気泳動、電子とメーターによる解析	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬や電気泳動法についてもあらかじめ辞典や参考書などを用いて調べておく。
15.	まとめ ①実験結果のまとめ、レポート要点の再確認　②実験器具の整理	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出されたレポートは、添削した後に返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	85	目的、序論、方法、結果、考察などレポートに必要な項目が書けているかを評価する
実験への参加度	15	出席および実験に取り組む態度を評価する

教科書:　研究室で作成した実験書を配布する。

参考書:　図書館にある実験に関する書籍を都度利用すること

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、実験の前後に実験室内で応対

630560

食物学のための数学と物理

山本　　寿

授業テーマ:　食物科学および関連分野で求められる数学的取り扱い（指数・対数・微分）とモデル解析

授業の概要:　食物を科学的に扱う際、その理論や測定データの解析にしばしば数学的な取り扱いが有用となる。本授業では、「細菌の増殖」と「落下運動」という具体例を通して高校数学Ⅱ, Ⅲレベルの解析学（指数・対数・微分）を学習し直す。さらに、対数変換によるデータの線形化や1次反応速度式の解など、大学レベル解析技術を身につけ、2年次「情報処理Ⅱ」、「食品物性学」や 3年次「食品加工・物性学実験」で現れる数学的なモデル解析に備える。

到達目標:
1. 食物関連分野での数学的取り扱い、特に指数・対数・微分の考え方を身につける。
2. 実際の現象に数学的なモデルを適用してデータ解析を行う方法を習得する。
3. 教養として、数学的な考え方を身につける。

授業方法:　基本、自作の教科書に沿って、演習を交えながら講義形式で進める。高校数学Ⅰ（1次関数、2次関数）程度を理解し、指数関数や対数を初めて学ぶ人に対応する。理解度を確認し、授業を活性化するために、授業中にクリッカーを用いた小テストを実施し、話し合いの場も設ける。前半の内容（指数、対数、線形化）について、一度、実践的な課題レポートを出す。各テーマの理解を深め、かつ食物科学専攻新入生としての学習動機を高めるために、上級生の実験授業の様子や装置・結果の画像や映像を見せる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	数の計算、自然数から実数への拡張、乗法の繰り返しとしての「べき乗」の導入	大学に入学するまでの「数と計算」を復習し（自然数→整数→有理数→実数）、教科書第1章「細菌の増殖と指数関数」全体を読む。
2.	「べき乗（指数計算）」から「指数関数」を導入する。指数法則を一般化（指数：自然数→整数→有理数）して、2^0, 2^{-1}, 2^{0.5} を計算で導く。	教科書1.2節の前半を熟読して、問1.3 を考える（計算により答えを導く）。
3.	a^x (a=2, 3, 10) の計算値から関数： y=2^x, 3^x, 10^x のグラフを描く。x=0 での傾きが1になる底 a の値を考える（e=2.71828… の導入）。	問1.3 を復習し、e の説明を熟読し、意味を考える。
4.	ここまでのまとめ（復習・確認）の後、関数 e^x の変化形や漸近的な振る舞い（x→無限大）を考える。指数に係数が含まれる指数関数：2^{bx}, e^{bx} を導入する。 宿題1のヒントを与える。	問1.4 を考え、少なくとも最初の4つの関数のグラフを書く。1.2節の後半を何度も読み、考える。宿題1に取り組み、提出する。
5.	宿題1を講評・解説する。一般的な指数関数 e^{bt} から速度定数の概念を導入し、菌の増殖モデル 2^{t/T} と平均世代時間を導入する。指数計算の逆演算として対数計算を導入する。	1.1節と1.2節の前半を読み直す。第2章2.1節「対数関数」の前半を読み、問2.1を考える。
6.	第1章「指数関数」の全体復習後、対数計算の確認（問2.1, 2.2）。	問2.1, 2.2 を考えて解く。
7.	対数計算の公式 (2.1)「積の対数＝対数の和」, (2.2), (2.4), (2.5) を証明し、計算問題で理解度確認。	公式 (2.1), (2.2), (2.4), (2.5) を証明する。
8.	対数計算の復習テスト。細菌の増殖データを対数変換で線形化し、平均世代時間を求める方法を説明する。これに関する課題レポートを与え、内容と解き方を説明する。	問2.5を解き、対数計算を復習し、2.3節を読む。授業後、課題レポートに取り組む。グラフ用紙で菌数－時間、およびそれを線形化した常用対数（菌数）－時間グラフを作成し、その傾きから平均世代時間を求めて、提出する。
9.	自由落下する物体の2秒後の瞬間速度を考え、微分のアイデアを導入する。	前章の課題レポートに取り組みつつ、第3章「量の変化と微分」の2.2節「落体の運動と変化する``速度''」を読む。
10.	課題レポートの結果を講評する。落下運動の瞬間速度の求め方を整理し、導関数を導入する。	3.2, 3.3節を読む。
11.	導関数や2階導関数の値と関数の増減との関係。代数（0, 1, 2, 3次） 関数の導関数をまとめる。	3.3節を読み、問3.4 と 3.5および宿題3（3次関数の導関数とグラフ）を考える。
12.	指数関数 e^x の導関数を導入し、e^{kx} の導関数へ拡張する。	第4章「いろいろな関数の導関数と微分公式」を4.2節「指数関数の導関数」まで読み、公式 (4.2) を証明して、問4.2を考える。
13.	「関数の定数倍や和」の微分公式を導入し、前回の結果から関数 ae^{kx} が満たす関係式を考える。	4.3節「微分公式（和、定数倍）」を読み、問4.3を解く。
14.	細菌の増殖を微分方程式で表し、その一般解を指数関数として求める。時刻0での初期条件から特解を求め、増殖速度定数と平均世代時間の関係を導く。	第5章「細菌の増殖と微分方程式」を5.2節まで読む。
15.	細菌の死滅を微分方程式で表し、ある時刻での初期条件から特解を求める。5.4節「章末問題」を説明し、未解説部分（第2章の例題2.4と章末問題、宿題4.2など）を補足する。	5.3節「細菌の死滅」を読み、宿題5を解く。授業後、5.4節「章末問題」を考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:　本学科の入学生には、自然科学を扱う際に必要な数学的な知識と使用経験が欠けていることが多く、本科目のねらいはその弱点を補うことです。本科目の積極的な学修によって、高等学校で身につけられなかった知識と経験を補って欲しい。最初につまずくと後で理解することが難しいので、最初から予・復習の時間を確保して取り組むことが重要です。

フィードバックの方法:　授業中にクリッカーで行われる小テストでは、正解と選択分布が即座にスライド提示される。課題レポートでは、研究室に一人ずつ直接対面提出させ、その場でグラフや平均世代時間の適否・正誤を確認し、不適当な場合は問題点を指摘し、再提出を促す。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業の積極的参加度と理解度を見るためのクリッカー小テスト	30%	クリッカーテストで判断される出欠席状況と正解数
課題レポート	20%	レポート結果の採点結果
定期試験	50%	採点結果

教科書:　『食物学のための数学と物理』（担当者作成、同女生協で販売）

参考書:　各自が高校時代に使っていた数学の教科書や参考書など。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業後、教室で、またオフィスアワーなど、公務時間以外に研究室で応対する。

630660

食品化学Ⅰ

森　　紀之

授業テーマ:　食品成分の化学的理解

授業の概要:　食品・食物について学び、研究するためには、基本的知識として食品がどのような成分からできているのか、どのような特質を持つものかを知っておく必要がある。食品化学Ⅰでは、食品中の主要成分(水・タンパク質・脂質)及び重要な微量成分(無機質・ビタミン)の化学構造、化学的性質、分離分析法などについて学ぶ。さらに、食品の貯蔵・加工・調理の過程で、これらの食品成分にどのような動的変化が起こるのか、また成分間にどのような相互作用が起こるのか、食品品質との関係から学ぶ。

到達目標:
1. 食品成分(水・タンパク質・脂質及び無機質・ビタミン)の化学構造、化学的性質、分離・分析法などについて理解する。
2. 各成分と食品品質との関係を理解する。
3. 食品の貯蔵・加工・調理の過程で、食品成分にどのような動的変化が起こるのか、また、成分間でどのような相互作用が起こるのかを理解し、食品品質への影響を理解する。

授業方法:　講義形式で行う。教科書および配布プリントに従って進める。PowerPointスライドも併用する。授業は口頭での説明が中心となるので、しっかりと聞いてメモ・ノートを取ること。また、理解度確認のための小テストを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人間と食べ物 食品の成分	教科書を用意しておくこと。
2.	食品と水(水の理化学的性質)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
3.	食品と水(食品中の水の状態と食品品質)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
4.	食品中のタンパク質(総論・アミノ酸)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
5.	食品中のタンパク質(アミノ酸の性質・タンパク質の構造)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
6.	食品中のタンパク質(タンパク質の分類・タンパク質の性質)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
7.	食品中のタンパク質(タンパク質の性質・タンパク質の定量・酵素)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
8.	食品中の脂質(脂質の定義と分類)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
9.	食品中の脂質(脂肪酸・単純脂質)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
10.	食品中の脂質(複合脂質・誘導脂質・油脂の理化学的試験)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
11.	食品中の脂質(油脂の理化学的性質・油脂の融点)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
12.	食品中の無機質	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
13.	食品中のビタミン	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
14.	健康志向の食品	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　この科目は、今後食品学関係の各科目を学んでいくための基礎となる科目になりますので、秋学期の食品化学Ⅱとセットで、しっかりと学習して基礎学力をつけてください。
理解できない部分があった場合、自分で調べたり聞きやすい人に質問したりして、そのまま放置しないように心がけてください。

フィードバックの方法:　小テストは教室内でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び小テスト	40%	授業への積極的参加度及び小テストで確認する到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により総合的に評価する。
定期試験	60%	到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により評価する。

教科書:　森田潤司〔編著〕:『新訂 食品学総論』、樹村房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワーならびに授業前後に教室内で対応

630760

食品化学Ⅱ

森　　紀之

授業テーマ:　食品成分の化学的理解

授業の概要:　食品・食物について学び、研究するためには、基本的知識として食品の成分とその特質について知っておく必要がある。
食品化学Ⅱでは、春学期の食品化学Ⅰに続き、食品中の主要成分（糖質）、重要な微量成分（色素・香りなど）の分類、化学構造、化学的性質について学ぶ。さらに食品の貯蔵・加工・調理の過程で、これらの食品成分にどんな動的変化が起こるのか、さらに、食品の貯蔵・加工・調理の過程で、これらの食品成分にどのような動的変化が起こるのか、また成分間にどのような相互作用が起こるのか、食品品質との関係から学ぶ。

到達目標:　食品の成分とその特質についての知識を身につける。
1. 食品中の主要成分（糖質）、重要な微量成分（色素・香りなど）の分類、化学構造、化学的性質について理解する。
2. 各成分と食品品質との関係を理解する。
3. 食品の貯蔵・加工・調理の過程で、食品成分にどのような動的変化が起こるのか、また、成分間でどのような相互作用が起こるのかを理解し、食品品質への影響を理解する。

授業方法:　講義形式で行う。教科書および配布プリントに従って進める。PowerPointスライドも併用する。授業は口頭での説明が中心となるので、しっかりと聞いてメモ・ノートを取ること。また、理解度確認のための小テストを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品中の糖質1　総論・糖質の分類	教科書を用意しておくこと。
2.	食品中の糖質2　単糖	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
3.	食品中の糖質3　単糖誘導体	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
4.	食品中の糖質4　オリゴ糖	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
5.	食品中の糖質5　甘味料としての糖質	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
6.	食品中の糖質6　単純多糖	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
7.	食品中の糖質7　複合多糖	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
8.	食品中の色・味・香り成分（嗜好成分）1	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
9.	食品中の色・味・香り成分（嗜好成分）2	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
10.	食品の成分と特性の変化1　加熱による変化、酵素反応など	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
11.	食品の成分と特性の変化2　加熱による変化、酵素反応など	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
12.	食品の成分と特性の変化3　加熱による変化、酵素反応など	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
13.	食品の成分と特性の変化4　脂質の酸化的劣化	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
14.	食品の成分と特性の変化5　脂質酸化の防止法	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　この科目は、今後食品学関係の各科目を学んでいくための基礎となる科目になりますので、春学期の食品化学Ⅰとセットで、しっかりと学習して基礎学力をつけてください。
理解できない部分があった場合、自分で調べたり聞きやすい人に質問したりして、そのまま放置しないように心がけてください。

フィードバックの方法:　小テストは教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び小テスト	40%	授業への積極的参加度及び小テストで確認する到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により総合的に評価する。
定期試験	60%	到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により評価する。

教科書:　森田潤司〔編著〕:『新訂 食品学総論』、樹村房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワーならびに授業前後に教室内で対応

630860

生化学

倉橋　　優子

授業テーマ:　ヒトの体内で行われている代謝について学ぶ

授業の概要:　生化学とは、生命の基礎を化学的に取り扱う学問である。
生体を構成している物質とはどのような化学構造なのか・どのように細胞、臓器、生体をつくり上げているのか？生物は生きていくために、食物として摂取した物質をどのようにエネルギーや身体構成成分へ利用するのかなどについて学ぶ。

到達目標:　・授業で学ぶ内容について、理解し、自分で説明することが出来るようになる
・毎回の授業の理解度、予習・復習を行ったかについて自己評価し、マナビーに記録する

授業方法:　講義形式で行う。教科書および配布プリントに従って進める。PowerPointスライドも併用する。授業は口頭での説明が中心となるので、しっかりと聞いて適宜メモ・ノートを取ること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	細胞の構造、細胞小器官の役割（1章）	「高校生物」や本学の「生物の基礎」で学んだことを復習しておく。 教科書の第1章を一通り読んでおく。
2.	酵素（10章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
3.	代謝のあらまし（9章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
4.	糖質の構造（2章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
5.	糖質の代謝１（12章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
6.	糖質の代謝２（12章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
7.	脂質の構造（3章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
8.	脂質の代謝１（13章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
9.	脂質の代謝２（13章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
10.	タンパク質の構造（4章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
11.	タンパク質・アミノ酸の代謝（14章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
12.	核酸の構造（5章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
13.	遺伝情報１（18章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
14.	遺伝情報（18章）	事前学習として、授業内容の該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。章末のゼミナール問題を解き、知識を整理する。
15.	まとめ	事前学習として、授業の全範囲について復習を行っておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:	『高校生物』や大学で学ぶ『生物の基礎』を土台に知識を更に積み上げていくので、授業が始まる前までにしっかり復習しておくと良いです。毎回の予習・復習がとても大事となってきますので、コツコツ頑張って下さい。
フィードバックの方法:	質問、感想については、マナビーでコメントを返す。 また、必要に応じて授業中に全体へ向けてコメントする。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	90	授業で学んだ内容に対する理解度を評価する
授業への参加度	10	積極的にマナビーへのアンケート（自己評価や授業に対する感想や質問）へ参加しているかを評価する

教科書:	三輪一智・中　恵一，系統看護学講座　専門基礎　人体の構造と機能[2]　生化学，医学書院 適宜、資料を配布
参考書:	
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力
教員との連絡方法:	オフィスアワーまたはマナビーの掲示板機能・アンケート機能を利用

630960

栄養学

仲佐　　輝子

授業テーマ:　栄養素の機能について理解する。

授業の概要:　私達が健康な生活を営むためには適切な栄養摂取が不可欠であり、市場に出回る多種多様な食品の中から適正な食品を選択する能力が求められている。そこで、人が生命を維持し、健康を保ち、活動するために食物として摂取する栄養素は生体内でどのように変化し、エネルギー源や身体構成成分として利用されるのかを学び、健康の保持増進、疾病の予防における栄養の役割について学ぶ。

到達目標:
①摂食行動と生体リズム、消化吸収のメカニズムについて理解できる。
②血糖値の調節を通して食後・食間期の栄養について理解できる。
③非エネルギー源としての脂質の栄養およびたんぱく質の栄養とその栄養価の判定法について理解できる。
④エネルギー代謝について理解できる。
⑤骨代謝や貧血に関わるビタミンとミネラルについて理解できる。

授業方法:　授業は教科書と配布プリントを用い、パワーポイントで示しながら講義形式で行う。単元終了毎に小テストを行って理解の定着を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養と健康（生活習慣病、加齢と食生活）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
2.	摂食行動	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
3.	生体リズム	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
4.	栄養素の消化（口腔、胃、小腸における消化）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
5.	膜消化と吸収機構	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
6.	大腸における発酵・吸収と機能性非栄養成分	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
7.	血糖値の調節（食後の栄養素の代謝）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
8.	血糖値の調節（食間期の栄養素の代謝）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
9.	脂質の栄養（脂質の量と質の評価、必須脂肪酸）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
10.	たんぱく質の栄養（体たんぱく質の合成と分解）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
11.	たんぱく質の栄養価（生物価、アミノ酸価）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
12.	エネルギー代謝	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
13.	骨代謝に関わるビタミンとミネラル	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
14.	貧血に関わるビタミンとミネラル	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は、「生化学」の講義内容と密接に関係があるので、その内容を十分理解しておくこと。授業に先立ち、教科書の関連ページを熟読すること。復習としては、授業で得た知識を整理しノートにまとめる。理解できないことは、そのままにせず、参考図書で確認したり、積極的に質問すること。

フィードバックの方法:　単元終了毎に行う小テストについては、採点して返却し、解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	到達目標①～⑤に関する理解度により評価する。
小テスト	30%	それぞれの単元内容に関する理解度により評価する。

教科書:　「新食品・栄養科学シリーズ　基礎栄養学」第4版（化学同人）

参考書:　他の出版社から出版されている栄養学関係の本を参考にするとよい。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で、または研究室で対応する。

631261、62

食物英書講読

山本　寿、真部　真里子、スミス　朋子、杉浦　実

授業テーマ:　食物科学分野の専門英語

授業の概要:　担当教員の4人がそれぞれのテーマを持ってリレー式で授業を行う。最初の5回は科学分野の英語研究論文について基礎・概論的な講義を行ない（スミス）、それを踏まえて6回目以降に他の教員（真部、杉浦、山本）が、応用・各論的な授業を展開し、最後にまとめを行う。

到達目標:　広く食物科学に関する事柄や研究論文、最近の話題の中からテーマを選んで英文を講読することにより
・食物科学分野の知識を英語で読み取る力を養う。
・卒業後、グローバル社会を生き抜く武器や道具としての英語力を向上させる。

授業方法:　講義以外にグループで課題に取り組んでもらい分かったことを発表してもらう形式を用いる。7, 8回は、グループ別に発表を行う。12−14回では、PowerPoint スライドで解説を進め、その中で準備学習・理解度判定のためのクリッカー小テストを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	理系英語論文の全体的な構成を学ぶ。 Abstract（要旨）の役割と情報構造について学ぶ。 Abstract に頻出する表現を学ぶ。（スミス担当）	科学の研究論文というジャンルには特定の言語的特徴があるので、そのパターンを理解することを学習するが、初回に限っては特に予習は求めない。
2.	課題①の発表。Introduction（序文）の役割と情報構造について学ぶ。Introduction に頻出する表現を学ぶ。（スミス担当）	課題①: Abstract を読んで、情報の流れや言語特徴を考える。
3.	課題②の発表。Methods（研究方法）の役割と情報構造について学ぶ。 Methods（研究方法）に頻出する表現を学ぶ。（スミス担当）	課題②: Introduction を読んで、情報の流れや言語特徴を考える。
4.	課題③の発表。Results（結果）とDiscussion（考察）の役割と情報構造について学ぶ。 Results（結果）とDiscussion（考察）に頻出する表現を学ぶ。（スミス担当）	課題③: Results を読んで、情報の流れや言語特徴を考える。
5.	課題④の発表。 まとめと振り返り。（スミス担当）	課題④: Results & Discussion を読んで、情報の流れや言語特徴を考える。
6.	【読解と解説】調理・食事に関わる英語1− 意外と知らない調理に関わる単語について学ぶ。（真部担当）	身の回りにあるカタカナ表記の調理器具、調理法について、正しい英単語（スペル）を調べておく。
7.	【読解と解説】調理・食事に関わる英語2－レシピを読み解く。（真部担当）	各グループで、6回に配当された和食の英文レシピを読み解き、適切な日本語で説明できるよう準備する。
8.	【読解と解説】調理・食事に関わる英語3－学術論文に記載される調理法を読み解く＆調理科学に関するテキストを理解する。（真部担当）	各グループで、7回に配当された英語論文の方法に記載された加工調理法を適切な日本語で説明できるよう準備する。
9.	【読解と解説】食品と地球環境に関する英文のトピックス記事を読んで理解する。（杉浦担当）	事前に配付された資料を読み、食品の2次機能を復習しておくとともに自分なりに地球温暖化について調べておく。
10.	【読解と解説】食品成分の体内動態分析に関する英語の原著論文を読み、分析方法やデータ解析法の表現を学ぶ。（杉浦担当）	事前に配付された資料を読み、プロビタミンAとしてのカロテノイドについて調べておく。
11.	【読解と解説】食品の機能性に関する英語の原著論文を読み、論文の要点を理解する方法を学ぶ。（杉浦担当）	事前に配付された資料を読み、各セッションで書かれている要点を自分なりに纏めてみる。
12.	【読解と解説】英文の基本要素と文型、態を復習し、食物に関する英語論文事例を使って、「英文の構造」を捉えることを学ぶ。（山本担当）	事前に配付された資料を読み、論文の第Ⅰ節を読解する。
13.	【読解と解説】食物に関する英語論文事例を使って、「英文の構造（要素・文型・態）」を捉える訓練を行う。（山本担当）	配付論文の第Ⅰ節および第Ⅱ節第1パラグラフを読解する。
14.	【読解と解説】食物に関する英語論文事例を使って、英文（構造と意味）を深く理解する訓練を行う。（山本担当）	配付論文の第Ⅱ節第2, 3パラグラフを読解する。
15.	まとめ	全体を通して学習したことの復習・総括。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各担当教員が用意した資料を配布する日時と場所を、事前に生活科学部の掲示板でお知らせするので取りに来てください。準備学習の各欄に記載したように概ね共通している事は、各担当教員が配付した教材のプリントを前もって精読することが望まれるという事である。この際に、特殊な専門用語などは別として、辞書を使用した単語の意味調べは必要である。7, 8回については、グループ別に発表してもらうので、グループ内に当日欠席者が出ても発表できるようにグループ内で知識を共有しておいてください。

フィードバックの方法:　原則として、提出物の課題を出した場合は授業中に解答をする。また、授業中に課題についてグループで相談しながら答えを発表してもらい、正解を確認する。さらに、クリッカーで行われる授業中の小テストでは、正解と選択分布が即座にスライド提示される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加度	32	出欠席状況とグループ学習における貢献度
提出物等を含む定期試験評価	68	採点結果（12−14回分についてはクリッカーテストの正解率も考慮する）によって、食物科学分野の英語読解力がどの程度身についたかを評価する。

教科書:　テーマに応じた内容の英書を一部抜粋した資料か、研究論文などをプリントにして配付する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　メール連絡および授業の前後で対応する（スミス）。他の教員（真部、杉浦、山本）は授業後に教室、またはオフィスアワーなど公務時間以外に研究室で対応する。

631461～63　**調理科学実験**

真部　　真里子

授業テーマ:

授業の概要:　日常的に広く用いられる食品を材料にして、調理過程における食品成分の化学変化を実験により検証する。

到達目標:
・汎用実験器具が適切に使用できる。
・実験の流れを理解し、所属する実験班が段取りよく適切に実験できるよう貢献できる。
・実験結果を適切に図表と文章で説明し、考察することができる。
・食品化学・調理科学の講義で学んだ食品成分の化学変化を理解する。

授業方法:　毎回、授業開始時に実験方法の詳細を説明するので、それに従って実験を実施する。
8－11回は、実験を班ごとに組み立て、成果発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	①実験実施上の諸注意 ②レポートの書き方1	化学実験で習った実験器具の名称を復習しておく。 他の学生実験（2年・3年）で返却されたレポートを見直し、レポートの書き方等を確認しておく。
2.	①白米の洗浄・浸漬による成分の溶出（実験方法の説明と実施） ②白米の洗浄・浸漬による成分の溶出（実施）	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしおく。
3.	①米の種類によるデンプンの構造と吸水速度の相違（実験方法の説明と実施） ②米の種類によるデンプンの構造と吸水速度の相異（実施）	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしおく。
4.	①レポートの書き方2 ②ビタミンCの定量法について－インドフェノールの力価測定	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしおく。
5.	①野菜の部位によるビタミンC含量の相違（実験方法の説明と実施） ②野菜の部位によるビタミンC含量の相違（実施）	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしおく。
6.	①加熱によるビタミンC含量の変化（実験方法の説明と実施） ②加熱によるビタミンC含量の変化（実施）	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしおく。
7.	①磨砕・副材料添加によるビタミンC含量の変化（実験方法の説明と実施） ②磨砕・副材料添加によるビタミンC含量の変化（実施）	1回に配布されたテキストの該当箇所を読み、実験の流れをイメージしおく。
8.	①調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題実験立案、個別実技試験 ②調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題実験立案、個別実技試験	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。
9.	①調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題実験実施 ②調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題実験実施	立案した実験操作の詳細を班内で共有しておく。 レジメの目的・方法を作成しておく。
10.	①調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題実験結果のまとめ ②調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題実験結果レジメ作成	実験結果をまとめておく。 実験結果から得られた知見は何かを考える。
11.	①調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題実験発表 ②調理によるビタミンC含量変化に関する自由課題実験発表	発表用原稿を作成し、どのように発表するかを班内で共有しておく。
12.	①タンパク質の凝固（実験方法の説明と実施） ②タンパク質の凝固（実施）	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。
13.	①加熱による卵の凝固および消化性[タンパク質の定量法を含む]（実験方法の説明と実施） ②加熱による卵の凝固および消化性[タンパク質の定量法]（実施）	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。
14.	①加熱による卵の凝固および消化性[13回で得られた試料のタンパク質の定量と電気泳動]（実施） ②加熱による卵の凝固および消化性[電気泳動結果の解説]	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。
15.	①食品の非酵素的褐変（実験方法の説明と実施） ②食品の非酵素的褐変（実施）	1回に配布されたテキストの該当箇所を読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　計算機（モバイルによる代用は不可）を持参してください。

フィードバックの方法:　レポートは、添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実験参加態度	50	実験操作の適切性、段取り力、コミュニケーション力から評価する。
自由課題実験への取り組み	15	8-11回における、実験内容の理解、貢献度、プレゼンテーション力から評価する。
レポート	35	実験に対する理解度（文献の探索と活用、図表の表記の適切性、文章の適切性を含む）から評価する。本実験にて説明したレポートの書き方に従って作成されていない場合、提出期限を遅れた場合は減点する（差し替え再提出は認めない）。提出受け取り期限までに未提出のレポートがあった場合は、不合格とする。

教科書:	研究室作成のテキスト（1回に配布）
参考書:	香西みどり『調理がわかる物理・化学の基礎知識』光生館 学術雑誌掲載の論文
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、思いやる力、自己管理力
教員との連絡方法:	オフィスアワーおよび実験の前後に実験室内で対応

631561～63

食品分析化学実験

杉浦　　実

授業テーマ:

食品衛生監視員や食品衛生管理者の資格を得るために必要な基本的知識と実験手法を学ぶため、生鮮食品や加工食品に含まれている栄養成分、健康機能性成分、また加工食品の保存等を目的として使用される食品添加物等を対象に、これら成分を定性・定量分析するための化学的手法と分析機器を用いた実験手法を学ぶ。

授業の概要:

授業日程（月・火）のカレンダーにより、各クラスで実験項目の順番を入れ替えることがあるが、実験課題はどのクラスも同じである。化学的手法と機器分析の併用で実験を行う。食品成分や食品添加物を抽出し、分画、精製、同定また定量分析を行う基本的な手法を学ぶとともに、実験データの解析方法と得られた結果について考察を行う。

到達目標:

①2年次に学んだ化学実験の基礎に立って、食品に含まれている栄養・機能性成分や、加工食品に使用されている食品添加物の定性定量分析を行う。実験操作としては化学的手法と機器分析の併用で行い、微量成分の取扱い方、前処理の方法、クロマトグラフィー、さらに分光学的方法（スペクトルの解析）により、化合物の構造や性質について考察する姿勢を養うことを目標とする。
②実験はグループでの共同作業であるため、積極的に実験に関わり、協力して実験を進めることができるようになる。

授業方法:

各実験の始めに約30分間、実験方法の要点について説明し、安全確実に実験を行うための注意点を挙げる。実験はグループ単位で協力して行い、実験装置の組立や使用法を学生が自分で安全にミス無く行えるようにトレーニングする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	実験の全般的注意と試薬の調製、実験器具類、およびこれらの取り扱いについての基本的な解説と次回以降の内容説明	特に求めない。
2.	水分の定量（常圧加熱乾燥法）と水分活性、およびデータ解析方法について	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。水分の定量方法を予習しておく。
3.	タンパク質の定量（ローリー法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。ローリー法について予習しておく。
4.	脂質の定量（クロロホルム-メタノール抽出法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。クロロホルム-メタノール抽出法法について予習しておく。
5.	炭水化物の定量（アンスロン硫酸法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。アンスロン硫酸法について予習しておく。
6.	灰分の定量（直接灰化法）と無機質の定量（原子吸光法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。灰分と無機質について予習しておく。
7.	植物色素（アントシアニン）の抽出と安定性	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。植物色素（アントシアニン）及び分光法について予習しておく。
8.	植物色素（クロロフィル、カロテン）の同定と定量（薄層クロマトグラフィーとHPLC法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。植物色素（クロロフィルとカロテン）及びHPLC法について予習しておく。
9.	食品中の有機酸（クエン酸、リンゴ酸、酢酸等）の同定と定量（HPLC法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。食品中の有機酸について予習しておく。
10.	清酒中のアルコール分の定量（ガスクロマトグラム法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。ガスクロマトグラフィーについて予習しておく。
11.	柑橘精油成分の同定と定量（ガスクロマトグラム法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。精油成分について予習しておく。
12.	緑茶中のタンニンの定量（酒石酸鉄吸光光度法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。タンニンと酒石酸鉄吸光光度法について予習しておく。
13.	合成保存料（ソルビン酸カリウム）の定量（TBA発色法）	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。ソルビン酸とTBA発色法について予習しておく。
14.	食品成分が有する抗酸化活性（DPPHラジカル消去活性）の測定	あらかじめ実験マニュアルを配付するので精読し、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。食品の抗酸化能とDPPHラジカルについて予習しておく。
15.	まとめと復習、および日本食品標準成分表に基づく定量方法の概要と解説	提出したレポートを再読して、これまでに行った実験内容を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実験を安全確実に、そしてスムーズに行うためには事前に配布してある実験操作マニュアルのプリントを読んでおくことが必要である。実際に器具や機器を見て扱わないとイメージしにくい点はあると思われるが、一通り操作手順を前もって読んでおくことが大切である。また、実験後にレポートを書いて提出しなければならない。実験で扱う食品成分や食品添加物に関して、自分に不足している知識や曖昧な事柄は、他の講義科目で使用している教科書や文献を調べて明確にしておく必要がある。

フィードバックの方法:

レポートはコメントをつけて返却するが、不備のある場合は再提出を求める。また教室でまとめて解説する場合もある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む実験への積極的参加度	50	実験操作予習の有無、実験内容の理解度、実験態度により評価する。
レポート	50	全ての項目について序論、方法、結果、考察、参考文献が適切に記載されていることにより評価する。

教科書:

それぞれの実験項目について、実験マニュアルを配付する。

参考書:	藤田修三、山田和彦　編集 「食品学実験書第3版」 医歯薬出版株式会社 新藤一敏、森光　康次郎著 「食品分析化学（新スタンダード栄養・食物シリーズ18)」 東京化学同人 松井 利郎、松本清　編 「食品分析学—機器分析から応用まで」 培風館 日本食品標準成分表2015年度版　文部科学省科学技術・学術審議会資源調査会
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、実験の前後に実験室内で応対。

631661～63

食品加工・物性学実験

山本　　寿

授業テーマ:　加工食品の製造実習、物性測定とデータ解析の習得、食品学的考察、レポート作成とプレゼンテーション

授業の概要:　様々な加工食品を実際に製造してその原理や方法を体得する。食品のレオロジー特性（応力－ひずみ、クリープ）を測定し、「食品物性学」で修得したデータ解析を実践する。さらに、官能評価を実行し、統計的に検定する。これらの結果から、材料の違いが食品の物性や嗜好性にどのように影響するのかを考察する。また、食品の熱分析（DTA＋TGD）を行い、加熱が食品成分にもたらす物理化学変化を分析、考察する。指定された条件（材料やコンセプト）に合わせて、パンやアイスクリームを創作する。

到達目標:
・食品物性の測定方法と解析方法を実践的に習得し、食品物性の意味を理解する。
・食品の官能評価方法を実践的に習得する。
・食品の物性と成分との関係を考察する能力を獲得する。
・様々な食品の加工方法を実践的に習得する。
・実験レポートの書き方と発表（PowerPointプレゼンテーション）スキルを獲得する。

授業方法:　実験テキストとオリエンテーションに基づき、学生が自主的に実験する。ういろう調製と熱分析には材料選択の自由がある。製造された加工食品を試食する。パンとアイスクリームの製造実習では、与えられたテーマに沿ったオリジナル食品の開発を求め、口頭発表 (3 min) させる。3種の物性実験のうち、2種について、終了後 10日ほどでレポートを提出させる。残り1種の物性実験について、グループ単位でクラス全員の前で口頭発表 (8－9 min) させる（リハーサル指導も有り）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションⅠ：一般的注意、ういろうのテクスチャー測定と熱分析のデモンストレーション、パンとアイスクリームの課題説明	自分のグループと日程を把握し、実験テキスト 0.1節「食品加工・物性学実験の一般的注意」を読む。
2.	オリエンテーションⅡ：熱分析のデモンストレーション、パンとアイスクリームの課題調整、レポートの書き方指導	オリエンテーションⅠで配付された資料を読み、パンとアイスクリームの課題を考える。
3.	米粉加工食品（ういろう）の調製、レオメータ測定の練習、官能評価用紙の準備	「食品物性学」第3章3.3節「テクスチャー特性」を復習する。ういろう試料の加工原理とを把握し、材料変更と官能評価項目を考える。
4.	レオメータによるういろうのテクスチャー測定と官能評価	ういろう試料のテクスチャ—測定と官能評価結果について、考察を準備する。
5.	中華麺とうどんの製造と試食	前週の実験「ういろうのテクスチャー」の結果をまとめてレポート（プレゼンテーション）作成。
6.	ソーセージの製造と試食	前週の実験「ういろうのテクスチャー」の結果をまとめてレポート（プレゼンテーション）作成。次週「熱分析」の試料を考えて選択・報告する。
7.	食品の熱分析（A班）と解析・考察指導、豆腐製造のための大豆洗浄と浸漬	実験テキスト 3.4.1節「示差熱分析の原理」を読む。
8.	食品の熱分析（B班）、（木綿・絹ごし）豆腐の製造	自分の試料の成分を調べて、加熱による変化、反応を考える。
9.	創作パンの製造（ドウの1次発酵）、ジャムの製造（水さらしまで）、コーヒー豆の焙煎	前週の実験「食品の熱分析」の結果をまとめてレポート（プレゼンテーション）作成。創作パンの調製法を考える。
10.	創作パンの製造（ドウの2次発酵と焼成）と試食）、ジャムの製造（煮詰めと試食）、コーヒーの抽出と試	前週の実験「食品の熱分析」の結果をまとめてレポート（プレゼンテーション）作成。
11.	寒天ゲル試料（砂糖入りと無し）の調製、レオロジー理論の復習	「食品物性学」3.1節「応力−ひずみ特性」と3.2節「破断特性」および第4章「固状食品のクリープ特性（静的微小変形）」を復習する。
12.	クリープメータを用いた寒天ゲルの応力－ひずみ測定とクリープ測定	レポート（発表）に備えて、寒天のゲル化とゲルの物性を文献で調べておく。
13.	創作アイスクリームの製造、コンニャクの製造と試食	前週の実験「寒天ゲルのレオロジー」のデータを解析して、レポート（プレゼンテーション）にまとめる。創作アイスクリームの調製法を考える。
14.	カマボコの製造と試食、創作アイスクリームの試食	前週の実験「寒天ゲルのレオロジー」のデータを解析して、レポート（プレゼンテーション）にまとめる。
15.	発表会	2週ないし3週前に実施した実験に関するプレゼンテーションを準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　「食物学のための数学と物理」、「情報処理Ⅰ，Ⅱ」、「食品物性学」の集大成であり、「食品化学Ⅰ，Ⅱ」、「調理科学Ⅰ，Ⅱ」、「食品加工貯蔵学」などの実践的総合科目です。これまでに修得した知識を存分に駆使して測定データを解析・考察し、加工食品製造と開発に挑んでください。2本書いてもらうレポートを文章・体裁・内容すべて細かくチェックします。プレゼンテーションも大小、リハーサル合わせて4回してもらいます。これら盛りだくさんの内容を真剣に取り組めば、能力・技術すべての面で大きく向上するでしょう。

フィードバックの方法:　提出された物性実験レポートを添削・採点の上、授業中に返却する（講評を加えることもある）。試食した加工食品について、評価コメントする。プレゼンテーションのリハーサルに対して修正箇所を指摘し、本番では全員でクリッカーで相互評価し、感想を書かせて後に発表者に渡す。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加度	36%	授業に対する参加・取り組み姿勢
レポート（発表）・試食	64%	・食品物性の測定・解析方法および官能評価方法をどの程度習得したかを評価する。 ・食品の物性と成分変化との関係をどの程度考察できるかを評価する。 ・レポートやプレゼンテーションの完成度を評価する。 ・製造された加工食品の目視と試食（豆腐とコンニャクは外観のみ）により、加工方法の習得度を評価する。

教科書:　『食品加工・物性学実験』（研究室作成、授業開始までに実験室で配付）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	授業中、実験室や研究室で。

631761～63

食品バイオテクノロジー実験

川﨑　　祐子

授業テーマ:

授業の概要:
微生物や植物細胞などを実験材料に用い、実験実習を通じて基礎的なバイオテクノロジー（細胞培養・細胞融合・遺伝子操作・バイオリアクター）の知識と実験手法を体験的に習得する。

到達目標:
①基本的なバイオテクノロジーの技術について、実験実習を通じて体験的に理解できる。
②実験の前提となる無菌操作が確実にできるようになる。
③一般的な科学実験に共通する基礎的な実験器具を正しく使うことができるようになる。
④班員と協力して安全に実験を遂行する態度が身につく。
⑤体験的に理解したことを参考文献等で調べて再学習し、客観的、論理的な文章にしてレポートにまとめることができる。

授業方法:
講義と実習形式の組み合わせで授業を行う。グループで実験を行うが、実験内容により操作は1名～複数名で行う。
生物を対象としているため、準備、培養、結果観察を含め1つの実験が数回にわたるので、複数の実験を同時並行で行う。
以下に示す授業内容は、月、火曜日連続での実験日を基本として組み立てているが、クラスによっては祝日等により実験の順番を入れ替えることがある。特に冬期休暇など授業期間内に長期休暇が入る場合は、実験日以外の日に結果観察日を設けることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	〈実験実習の全体説明〉 〈実験1〉微生物の分離と同定（1－1　ジャガイモからの菌の分離）	マナビーにアップされた「無菌操作の基本」動画を見て、生物学実験の復習をしておくこと。
2.	〈実験1〉微生物の分離と同定（1－1　分離した菌の純培養） 〈実験2〉微生物の増殖に対する保存料の効果	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
3.	〈実験2〉微生物の増殖に対する保存料の効果(結果観察） 〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験（4－2　培地作成）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
4.	〈実験1〉微生物の分離と同定（1－2　酸素要求度および乳糖分解能試験） 〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験（4－1　緩衝液作成）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
5.	〈実験1〉微生物の分離と同定（1－1　分離した菌の植え継ぎ） 〈実験1〉微生物の分離と同定（1－3　胞子染色）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
6.	〈実験1〉微生物の分離と同定（1－4　グラム染色） 〈実験3〉固定化酵素によるバイオリアクター実験（方法説明）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
7.	〈実験3〉固定化酵素によるバイオリアク〈実験3〉固定化酵素によるバイオリアクター実験（3－1　酵素の固定化、標準曲線作製） 〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験（4－1　試験菌の前培養）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
8.	〈実験3〉固定化酵素によるバイオリアクター実験（3－2　糖の定量） 〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験（4－1　試験菌液の調製）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
9.	〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験（4－2　食品添加物の変異原性試験） 〈実験5〉微生物での遺伝子工学実験（5－1　プラスミド保有菌の培養）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
10.	〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験（4－2　総菌数の測定） 〈実験5〉微生物での遺伝子工学実験（5－1　プラスミドDNAの調製）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
11.	〈実験4〉食品添加物の突然変異原性試験（4－2　突然変異菌数の測定） 〈実験5〉微生物での遺伝子工学実験（5－2　制限酵素でのプラスミドDNAの切断と電気泳動）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
12.	〈実験5〉微生物での遺伝子工学実験（5－3　形質転換） 〈実験7〉植物細胞のプロトプラスト化と細胞融合（試薬等の調製）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
13.	〈実験6〉抗生物質の力価測定 〈実験7〉植物細胞のプロトプラスト化と細胞融合（方法説明	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
14.	〈実験7〉植物細胞のプロトプラスト化と細胞融合（7－1　プロトプラスト化） 〈実験7〉植物細胞のプロトプラスト化と細胞融合（7－2　細胞融合）	実験テキストにあるスケジュール表を確認し、毎回必ず事前に実験操作手順について熟読し、予習すること。
15.	〈実験結果のまとめ、レポート要点の再確認〉 〈実験道具の整理、掃除〉	実験内容、レポート作成に関して質問があれば、あらかじめまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
特に実験内容が複数回にわたるものは、実験中に日付も含めて細大漏らさずメモを取り、実験後記憶が薄れないうちにすぐレポート作成に取り掛かるようにしてください。序論、考察を記入するに当たっては、図書館で参考となる書籍等を自分で探してレポート作成に役立ててください。
2年次生物学実験が無菌操作が苦手だった人は、マナビーにアップされた「無菌操作の基本」（動画）を繰り返し見て、あらかじめ頭の中でシミュレーションしておくとスムースに作業できます。

フィードバックの方法:
レポート（計7本）のうち2本は添削したものを授業内で返却し、次回提出分の参考になるよう解説を行う。残り5本は次年度各自に返却する。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	レポート	70	到達目標①②⑤について、レポートで評価する。実験1～7まで各10点満点で評価する。
	実験時の態度・参加度	30	到達目標③④について、実験中の態度・積極的参加度で評価する。
	レポート提出の遅滞、欠席・遅刻		レポート提出の遅滞、欠席・遅刻については、特別な理由がない限り減点する。

教科書: 研究室作成の実験テキストを配布する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で対応

631861～63

調理科学実習Ⅲ

村上　　恵、李　　温九

授業テーマ:　季節食、行事食を日本、西洋、中国料理の多方面から学ぶ

授業の概要:　調理科学実習ⅠおよびⅡの内容をさらに応用・発展させた調理を行う。具体的には日常の献立はもちろん、四季の客膳調理、行事食などの調理を行う。
2年次開講の調理科学Ⅰ、Ⅱの共通の内容となる。

到達目標:　日常の献立はもちろん、四季の客膳調理、行事食などに応用する能力を養う。
調理技術を向上させるだけでなく、衛生管理にも留意した調理操作が確実にできる。
レポートをまとめることにより、料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解し、独自の視点を持って、かつ説得力をもって説明できる力を養う。
なお、調理科学実習Ⅰ、Ⅱおよび調理科学Ⅰ、Ⅱで学んだ基本的調理理論、副次的調理操作の科学、調理素材の調理性および調理技術を実際に活用、発展させる実習である。

授業方法:　授業の展開は実習内容の説明・デモンストレーション・実習・試食・後片付け・レポート課題の説明の順で行う。
実習は班に分かれて行う。1班4～5名で構成される。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1回　木の芽和え、若竹汁、筍御飯 4講時;たけのこの扱い方、食材の調理特性の説明、食文化の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	掲示板を確認し、必要な持ち物などもれなく準備をしておくこと。
2.	第2回　Crevette a la francaise, butter rice, Green Asparagus Salad, Bavarois 4講時;フランス料理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
3.	第3回　八宝菜、涼拌海、炒飯、杏仁豆腐 4講時;中国料理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
4.	第4回　Spaghetti alla bolognese, Insalata mista, Gelo alle frutte 4講時;イタリア料理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
5.	第5回　Choux a la creme, Petites Bouche a la Bohemienne、Le　gumes marine, Ice tea 4講時;シューの調理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
6.	第6回　てんぷら＜えび2種、きす、さつまいも、青唐、しいたけ、なす、はじかみしょうが　など＞、とうがんの冷やし鉢、桜ふりかけご飯（またはじゃこご飯）、お手軽くずまんじゅう 4講時;てんぷらについて、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
7.	第7回　焼き物＜スズキ＞、わかめスープ、三色ナムル＜人参、ほうれん草、豆もやし＞、 海鮮チヂミ、ヤクシク 4講時;韓国料理について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
8.	第8回　調理理論の復習および各実習のふりかえり	これまで配布されたプリントの見直しと返却されたレポートを読み返しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実習は全て出席することが原則。遅刻、早退、欠席およびレポート未提出には厳正に対処する。

フィードバックの方法:　提出されたレポートは、評価を行い、できる限り次の回に返却する。レポートはコメントがついている場合と教室でまとめて解説する場合がある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席、貢献度および実習態度	50	実習は全て出席することが原則。出席した上で、積極的に実習に参加し、到達目標である調理技術の向上と科学的根拠の理解、衛生管理ができるようになったかを評価する。遅刻、早退、欠席には厳正に対処する。
レポートおよび試験	50	到達目標である料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解した上で、それぞれの評価についてどの程度独自の視点があるか、また説得力を持って説明できるかを基準とする。

教科書:　本学独自の実習プリント
「食品成分表」注:日本食品標準成分表2015（七訂）をデータベースとした図書（女子栄養大出版部）

参考書:
山崎清子ほか編著「新版　調理と理論」（同文書院）
安藤真美ほか著「たのしい調理－基礎と実習－第5版」（医歯薬出版）
松崎政三ほか編著「映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス」（学際企画）
下村道子・和田淑子編著「新調理学」（光生館）

	「調理のためのベーシックデータ」（女子栄養大出版部）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力
教員との連絡方法：	実習の前後に教室内で対応（あるいはオフィスアワー）

631961～63　**調理科学実習Ⅳ**

村上　　恵、李　　温九

授業テーマ:　季節食、行事食を日本、西洋、中国料理の多方面から学ぶ

授業の概要:　調理科学実習ⅠおよびⅡの内容をさらに応用・発展させた調理を行う。具体的には秋の日本料理、西洋料理、中国料理およびクリスマス料理、正月料理にも適応できる料理を実習する。
2年次開講の調理科学Ⅰ、Ⅱと共通の内容となる。

到達目標:　日常の献立はもちろん、四季の客膳調理、行事食などに応用する能力を養う。
調理技術を向上させるだけでなく、衛生管理にも留意した実習が確実にできる。
レポートをまとめることにより、料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解し、独自の視点をもって、かつ説得力をもって説明できる力を養う。
なお、調理科学実習Ⅰ、Ⅱおよび調理科学Ⅰ、Ⅱで学んだ基本的調理理論、副次的調理操作の科学、調理素材の調理性および調理技術を実際に活用、発展させる実習である。

授業方法:　授業の展開は実習内容の説明・デモンストレーション・実習・試食・後片付け・レポート課題の説明の順で行う。
実習は班に分かれて行う。1班4～5名で構成される。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1回　栗御飯、吸物、かますの幽庵焼、さつまいもの黄金煮 4講時;秋の日本料理について、食材の調理特性、食文化などの説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	掲示板を確認し、必要な持ち物などもれなく準備をしておくこと。
2.	第2回　白飯、古滷肉、炒滑蛋、西米椰汁 4講時;溜菜について、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
3.	第3回　Fricassees de volaille, , Onion gratin, Soute de brocoli, Soute de champignons, Gelee au vin rouge 4講時;ブイヨンについて、食材の調理特性、食文化などの説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
4.	第4回　Hors-d'Oeuvre Varies, Puree a la Paysanne, Tea 4講時;オードブルについて、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
5.	第5回　おにぎり、かぶら蒸し、Plum cake、Coffee 4講時;蒸し物調理、クリスマスケーキについて、食材の調理特性の説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
6.	第6回　幕の内弁当＜正月料理＞、赤だし味噌汁 4講時;弁当およびお節料理について説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、食事作法の説明、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
7.	第7回　特別食＜離乳食＞ 4講時;授乳・離乳支援ガイドについて説明、デモンストレーション、実習 5講時;盛付け、試食、仕上がりに対する評価、後片付け	前回終了時に、次回の実習プリントを配布するので、そのプリントを読んでおくこと。 実習終了後はその内容をレポートにまとめること。
8.	第8回　包丁技術指導および各実習のふりかえり	これまで配布されたプリントの見直しと返却されたレポートを読み返しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実習は全て出席することが原則。遅刻、早退、欠席およびレポート未提出には厳正に対処する。

フィードバックの方法:　提出されたレポートは、評価を行い、できる限り次の回に返却する。レポートはコメントがついている場合と教室でまとめて解説する場合がある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席、貢献度および実習態度	50	実習は全て出席することが原則。出席した上で、積極的に実習に参加し、到達目標である調理技術の向上と科学的根拠の理解、衛生管理ができるようになったかを評価する。遅刻、早退、欠席には厳正に対処する。
レポートおよび試験	50	到達目標である料理の仕上がりおよびその仕上がりの理由を科学的に理解した上で、それぞれの評価についてどの程度独自の視点があるか、また説得力を持って説明できるかを基準とする。

教科書:　本学独自の実習プリント
「食品成分表」注:日本食品標準成分表2015(七訂)をデータベースとした図書(女子栄養大出版部)

参考書:
山崎清子ほか編著「新版　調理と理論」(同文書院)
安藤真美ほか著「たのしい調理－基礎と実習－第5版」(医歯薬出版)
松崎政三ほか編著「映像で学ぶ調理の基礎とサイエンス」(学際企画)
下村道子・和田淑子編著「新調理学」(光生館)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力
教員との連絡方法：	実習の前後に教室内で対応（あるいはオフィスアワー）

632160

食品微生物学

川﨑　　祐子

授業テーマ:　微生物の一般性状の概説と食品への利用

授業の概要:　本科目は家庭科一種免許（中学校・高等学校）の教科に関する科目の一つである。また、本科目は食品衛生管理者/食品衛生監視員任用資格のための必修科目である。
食品衛生における重要な項目の一つである食中毒は微生物によって引き起こされることから、授業の前半部分ではわれわれの生活に身近な微生物の一般性状と増殖に関わる環境因子について説明する。後半では伝統的な発酵食品の製造に果たす微生物の役割、微生物の代謝産物の利用などを概説する。最後に、バイオテクノロジーの基礎的な知識について簡単に解説することで、次年度の「食品バイオテクノロジー」「食品バイオテクノロジー実験」への橋渡しをする。

到達目標:　①カビ、酵母、細菌類、ウイルスの一般性状とそれらの生育要因について理解できる。
②微生物の食品への利用（加工、醸造、代謝産物の利用、バイオテクノロジーへの応用）について理解が深まる。
③毎授業、記述式の復習カードを提出することにより、正しい知識を要約して文章化できるようになる。

授業方法:　毎回講義形式で教科書と板書を中心に授業を行う。必要に応じてプリント、ビデオ教材、教材提示機等を用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	微生物学の発展	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
2.	微生物一般について	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
3.	微生物の種類と性質（カビ）	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
4.	微生物の種類と性質（酵母、キノコ）	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
5.	微生物の種類と性質（細菌類）	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
6.	微生物の種類と性質（放線菌）	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
7.	微生物の生育と環境因子	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
8.	ウイルスとファージ	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
9.	食品中の微生物相	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
10.	発酵食品に果たす微生物の役割（アルコール飲料）	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
11.	発酵食品に果たす微生物の役割（醤油、味噌、乳製品など）	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
12.	微生物の代謝産物の利用（アミノ酸、核酸など）	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
13.	微生物の代謝産物の利用（抗生物質）	復習問題について復習カードに要領よくまとめて記入し、次週提出すること。
14.	バイオテクノロジーへの応用	復習問題の採点結果を確認し、まとめに向けて全体的に復習すること。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　高校生物の知識や「生化学」「食品衛生学」で学んだことを踏まえた内容になるので、既存の知識を活用すること。授業全体を通じて、生命の起源である微生物は基本的にわれわれ高等動物と同じシステムをもつ生物体であることを理解し、ヒトと環境や食物との関係について広い視野に立って思考できるようになることを期待する。

フィードバックの方法:　毎授業の最後に復習問題を課し次の授業で回収したものについて、翌週の授業冒頭で模範解答の一例を教材提示機で示し、解説する。
14回目の授業において、それまでの復習問題（5点満点）の結果を表にして授業内で掲示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	90	到達目標①②（第2回以降の授業内容のすべて）に関する理解度により評価する。
復習問題	10	到達目標③について毎回5点満点で採点し、平均点を2倍して10点満点で評価に加える。
授業への参加度	0	まじめに授業に出席したかを参考までに評価する。

教科書:　木村光　編、食品微生物学　改訂版、培風館

参考書:　児玉徹　熊谷英彦　編、食品微生物学　食品の科学⑤、文永堂出版
村田容常　渋井達郎　編、食品微生物学（新スタンダード栄養・食物シリーズ16）、東京化学同人

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

632260

食品衛生学A

西池　　珠子

授業テーマ:　食の安全

授業の概要:　食品衛生とは、飲食物によって発生する健康上の危害を防止し、人の生命と健康を守ることである。近年、社会構造の変遷とともに、食品の生産、貯蔵、流通、加工などの技術が進歩し、世界各地から様々な食品が輸入され、日本人の食生活は世界的に見ても稀なほど豊かになった。しかしその反面、輸入感染症の増加や、農薬や抗生物質の食品中への残留が問題となり、食品の安全確保の重要性はいっそう高まっている。
この授業では、時代に対応した食品衛生の基本的知識を身につけ、食の安全に対する科学的な視点を養う。

到達目標:
1. 食品の生物的・化学的・物理的な変質要因および有害物質に関する基礎的知識を身につける。
2. 食品衛生行政および関連法規や基準について、その目的を理解する。
3. 食に関する「安全」と「安心」の違いを理解し、科学的態度を身につける。

授業方法:　講義（教科書を使用）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品衛生行政と関連法規	教科書の関連する部分を読んでおく。
2.	食品と微生物	教科書の関連する部分を読んでおく。
3.	細菌性食中毒（1）	教科書の関連する部分を読んでおく。
4.	細菌性食中毒（2）	教科書の関連する部分を読んでおく。 ＜授業後＞細菌性食中毒の概要をまとめる。
5.	ウィルス性食中毒	教科書の関連する部分を読んでおく。
6.	自然毒食中毒	教科書の関連する部分を読んでおく。
7.	化学性食中毒	教科書の関連する部分を読んでおく。
8.	経口感染症	教科書の関連する部分を読んでおく。
9.	経口寄生虫疾患	教科書の関連する部分を読んでおく。
10.	食品の変質とその防止	教科書の関連する部分を読んでおく。
11.	有害物質による食品汚染	教科書の関連する部分を読んでおく。
12.	食品添加物	教科書の関連する部分を読んでおく。 ＜授業後＞身の周りの食品に使われている食品添加物を調査する。
13.	食品衛生対策	教科書の関連する部分を読んでおく。
14.	食の安全と環境	教科書の関連する部分を読んでおく。
15.	まとめ	前回までの内容を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポートは採点し返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
筆記試験	70	到達目標1に関する知識と2に対する理解度、および3について科学的態度が身についているかどうかにより評価する。
レポート	30	到達目標1のうち、課題とした内容に関する理解度により評価する。

教科書:　細貝祐太郎他編　新食品衛生学要説　医歯薬出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

632360

食品物性学

山本　　寿

授業テーマ:　食品のテクスチャーとレオロジー

授業の概要:　食品のおいしさには物理的因子（テクスチャー）も影響し、その定量化にはレオロジー（物体の変形や流動の物理）の方法が有用である。本科目では、テクスチャー用語と基礎レオロジー概念（ひずみ、応力、破断、弾性と粘性、粘度）を解説し、測定データの解析法を習得させることで、3年次「食品・加工物性学実験」に備える。

到達目標:　「食品の物性とは何か」を理解し、「測定結果を解析して評価する方法」を習得し、活用できること。
・食品のテクスチャー用語を理解する。
・ひずみと応力の意味を理解し、実験条件や変形長と荷重からそれらを計算できる。
・固状食品の応力－ひずみ曲線を解析し、初期弾性率と破断特性を求め、それらの意味を解釈できる。
・固状食品のクリープ（ひずみ－時間）曲線を4要素モデル解析し、静的粘弾性率を求めることができる。
・ずり応力とずりひずみの意味および粘度の定義を理解する。
・液状食品のずり応力－ずりひずみ曲線とニュートン流動の粘度を理解する。

授業方法:　毎回、自作の教科書に基づく講義に演習を混ぜ、クリッカー小テストによって理解度を確認する。実践的な課題に2回取り組んでもらい、レポートを提出してもらう。講義の流れの中で代表的な物性実験映像をプロジェクタで見せる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品のおいしさに対するテクスチャーの重要性を説明し、テクスチャー用語とテ測定例を紹介する。	教科書の第1章「食品の嗜好性・テクスチャー・物性的アプローチ」を読む。
2.	食品の変形から「ひずみ」を、物体の運動から「力」をそれぞれ導入する。	第2章「物体のひずみと応力」の2.1節「物体の変形とひずみ」と2.2.1節「基本的な物理量と単位」と2.2.2節「力」を読む。「食物学のための数学と物理」を復習し、自由落下加速度の計算問題2.2を解く。
3.	「重力の法則」から質量と重力の関係を理解する。「応力」を導入し、食品に加えられる応力とひずみの関係を考察する。	教科書の第2章2.2.2節「重力（万有引力）」を読み、問題2.3, 2.4を解く。2.2.3節「応力」を読み、問題2.5—2.8を解く。
4.	「応力—ひずみ曲線」の特性として「初期弾性率」と「破断特性（ひずみ、応力、エネルギー）」を導入し、初期弾性率の求め方を説明する。レポート課題1「Excel による応力—ひずみ曲線の作成および破断特性量と初期弾性率の決定」を配付し、説明する。	教科書の第3章「固状食品の応力—ひずみ特性」の3.1節「応力—ひずみ特性」と3.2節「破断特性」を読む。
5.	初期弾性率と破断特性を復習した後、食品を2回圧縮（貫入）することで定義されるテクスチャー特性量（硬さ、付着性、凝集性など）を導入する。	教科書の第3章3.3節「テクスチャー特性」を読む。
6.	レポート課題1の結果を講評した後、成績上位者にコンニャクゼリーと寒天ゼリーを試食・官能評価させる。ここまでのまとめと応用として、「コンニャクゼリーのおいしさと危険性（窒息事故）の原因」を考察する。	「コンニャクゼリーはなぜおいしく、危険なのか」を考えながら、前回までの内容を復習する。
7.	食品のクリープ測定結果（応力一定下でのひずみの時間変化）に対する弾性と粘性の存在を認識し、弾性モデル（ばね）の性質（フックの法則）を学ぶ。	教科書の第4章「固状食品のクリープ特性（静的微小変形）」を4.2.2節「弾性モデル：ばね」まで読む。Youtube で「高校物理 弾性力」を視聴する。
8.	1次関数の微分を確認し、粘性モデル（ダッシュポット）の性質（応力とひずみ速度の比例関係とその解）を学ぶ。	「食物学のための数学と物理」の「微分」を復習し、本科目の教科書4.2.3節「粘性モデル：ダッシュポット」を読み、問題に取り組む。
9.	弾性モデルと粘性モデルを直列につなげたマックスウェル・モデルを導入し、加重・除重期におけるひずみの時間変化を考える。	教科書4.3節「直列2要素モデル：マックスウェル・モデル」の内容を予め自分で考えて構築する。
10.	弾性モデルと粘性モデルを並列につなげたフォークト・モデルを導入する。指数関数の性質（微分やグラフ）を確認し、加重期におけるひずみの時間変化（フォークト方程式の解）を考える。	数学的準備として「食物学のための数学と物理」の第1章「指数関数」と第4章「指数関数の微分」を復習し、本科目の教科書4.4節「粘弾性モデル：フォークト・モデル」の内容（空白部）を自分で考えて埋める。
11.	マックスウェル・モデルとフォークト・モデルを直列につなげた4要素モデルを導入し、加重期におけるひずみの時間変化を構築する。	教科書4.5節「4要素モデル」の内容（空白部）を自分で考えて埋める。
12.	クリープ測定データを4要素モデルで解析し、4つの粘弾性率を導く方法を解説する。レポート課題2「Eクリープ曲線と4要素モデル解析」を配付する。	教科書4.6節「4要素モデルによるクリープ測定結果の解析」を読みながら、空白部を自分で考えて埋める。
13.	演習を通して、クリープ測定結果に対する4要素モデル解析の手続きを理解する。	教科書4.6節の問題4.2, 4.3を読み、解く。
14.	液状食品の流動特性を記述するために「ずり速度」と「ずり応力」の概念を導入する。	教科書の第5章「液状食品の流動特性」の5.1節「ずり速度とずり応力」を読む。
15.	ずり速度がずり応力に比例するニュートン流動を考え、「粘度」を導入する。演習として水のデータから粘度を求める。	教科書5.2節「ニュートン流動と粘度」を読み、問題5.1, 5.2 を解く。

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目の準備科目であった1年次「食物学のための数学と物理」をしっかり復習して授業に臨んでください。また、本科目は3年次「食品加工・物性学実験」の準備科目です。本科目で理論的な内容をしっかり修得して実験科目に備えてください。

フィードバックの方法:　毎回のクリッカー小テスト結果をスライドで提示する。2回のレポート課題を締め切り後の授業で採点の上返却・講評する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度・理解度	25%	クリッカーテストによって授業への準備度、積極的参加度、授業内容の理解度を評価する。クリッカーテストの最終評価では、べき（0.7--0.8）乗変換して過剰な広がりを緩和する。
レポート課題（2回）	30%	食品の破断特性と初期弾性率およびクリープ特性の求め方がどの程度身についたかを実践的な課題（実験データの解析）で、に対する結果の完成度で評価する。
定期試験	45%	食品のテクスチャー、ひずみと応力、破断特性、クリープ特性（粘弾性）と解析モデル、粘度など、食品物性学の基礎概念に対する理解度や運用力により評価する。最終評価の際には、試験素点をべき（0.7--0.8）乗変換して過剰な広がりを緩和する。

教科書:	担当者作成の『食品物性学』(同女生協で販売予定)
参考書:	川端晶子『食品物性学』(建帛社) 松本幸雄『食品の物性とは何か』(弘学出版)
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業後、教室で、またオフィスアワーなど、公務時間以外に研究室で応対する。

632560

食品加工貯蔵学

桝田　　哲哉

授業テーマ:　何故加工食品となるのか？

授業の概要:　現在、おびただしい数の加工食品が市場を賑わせている。しかし、その原料や製造方法などは、消費者に余り知られていない。そのことが、ある時には消費者の不安を駆り立てる原因にもなっている。食品加工貯蔵学では、食品は生物との見地から、食品加工の基礎、各種貯蔵法の原理及び加工食品は如何に食品成分の特性を活かして製造されているのかを学ぶことで、加工食品に対する正しい知識を体得することを目標とする。さらに、疾病予防を目的として開発された加工食品や食品の安全性，食商品学についても教授する。

到達目標:　食品学総論・各論の知識を基礎として
1. 食品素材から加工食品となる仕組みを科学的に説明できる。
2. どうして食品の保存・貯蔵ができるのか？その原理を解説できる。
3. 食品の表示方法の成り立ちがわかる。
4. 特定保健用食品や遺伝子組み換え食品を正しく理解できる。
以上のことから
A. 加工食品に関する事象や課題に関心を持つようになる。
B. 加工食品にまつわる事象を科学的な視点で捉えることができるようになる。
C. 加工食品に関する事象についてプレゼンテーションできるようになる。

授業方法:　テキストを用いて上記項目を順次解説する。また必要により、プリントの配布およびPower Pointの使用などを行う。隔週、講義終了後に20分程度の小テストを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	農産食品の加工（穀類・豆類・いも類）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
2.	農産食品の加工（野菜類・果実類など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
3.	畜産食品の加工（畜肉類）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
4.	畜産食品の加工（乳類・卵類など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
5.	水産食品の加工（冷凍品）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
6.	水産食品の加工（乾燥品・練り製品など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
7.	食用油脂および調味食品	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
8.	嗜好食品およびインスタント食品（嗜好飲料・アルコール飲料など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
9.	食品の加工の原理	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
10.	食品の保存法（低温による保存など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
11.	食品の保存法（燻煙による保存など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
12.	食品の安全性	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
13.	加工食品の規格と表示制度	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
14.	食商品学・遺伝子組み換え食品	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
15.	まとめ	使用テキスト該当部分を予め予習のこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　AからCに到達することで、「食品学・調理学の基礎知識として、食品の特性を活かした加工・調理方法」および「食品の安全性をふまえた食品の取扱い方」を理解できるようになる。

フィードバックの方法:　小試験の解説を行う。解説をもとに復習のこと。重要事項を記憶し、定着させることでその他の事項との相関が深まります。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	100	知識・理解が到達目標に達しているかどうかを基準とする。

教科書:　新　食品・栄養科学シリーズ 「食品加工学（第2版）第6刷」西村公雄・松井徳光編（化学同人）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業終了後研究室にお訪ねください。不在時は随時連絡いたします。

632760

食品バイオテクノロジー

井沢　　真吾

授業テーマ:
食品の製造・加工におけるバイオテクノロジーや遺伝子組換え技術の有用性と危険性について学び、将来、食のプロフェッショナルとしてあるいは母となった場合に適切に判断できるような知識と判断力を身につける。

授業の概要:
食品の製造・加工におけるバイオテクノロジーについて具体的な例と共に学ぶ。

到達目標:
バイオテクノロジーおよび遺伝子組換え技術の利用に関して、食のプロフェッショナルとして適切に判断できるような知識と判断力を身につける。

授業方法:
スライド・動画・プリントを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概略	ニュース・新聞など関連情報に目を通す
2.	チーズとバイオテクノロジー技術	配布プリントを中心とする予習復習
3.	トレハロースの製造と食品加工	配布プリントを中心とする予習復習
4.	漬物と腸内細菌	配布プリントを中心とする予習復習
5.	発酵食品と腸管免疫	配布プリントを中心とする予習復習
6.	乳酸菌関連食品・バクテリオシン	配布プリントを中心とする予習復習
7.	寒天とゼラチン	配布プリントを中心とする予習復習
8.	トマトと遺伝子組換え	配布プリントを中心とする予習復習
9.	デカフェコーヒー豆	配布プリントを中心とする予習復習
10.	Btコーンと米国畜産業	配布プリントを中心とする予習復習
11.	米国の食を取り巻く動向	配布プリントを中心とする予習復習
12.	巨大産業と種の支配	配布プリントを中心とする予習復習
13.	子供には何を食べさせたら良いのか？	配布プリントを中心とする予習復習
14.	日本と世界の食の将来	配布プリントを中心とする予習復習
15.	総括と小論文作成	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
食品に利用されているバイオテクノロジー技術について、その利便性や安全性について考えていきます。暗記等は不要ですが、しっかり自分自身の意見をもつことを求めます。関連企業の紹介なども行います。

フィードバックの方法:
講義中およびメールでの質問・ディスカッションに対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
講義への出席	70	出席・遅刻・欠席の割合で評価します。
小論文等の小テスト	30	適宜、各自の考えを記述・提出させる。

教科書:
なし

参考書:
講義内で適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、変化対応力

教員との連絡方法:
メール　thioredoxin@kit.ac.jp

632960

食品官能評価論

真部　　真里子

授業テーマ:

授業の概要:
食品の特性は、人間の五感によって測定する官能評価でなければ判断できないものがある。本科目では、人間の感覚という「あいまいさ」のあるものから信憑性の高いデータをえるために必要な知識と技術の習得をめざし、官能評価について、準備、実施、データ収集・解析の順に概説する。

到達目標:
・官能評価を実施するのに必要な味覚・嗅覚・おいしさに関する知識を身につける。
・官能評価の立案・実施・解析を適切に行うために必要な基本的な知識と考え方を習得する。

授業方法:
講義形式（一部、体験学習を含む）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	官能評価とは	調理科学の教科書等に記載の「おいしさ」「官能評価」に関わる部分を読んでおく。
2.	味・味覚	1回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
3.	におい・嗅覚	2回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
4.	おいしさの情報処理	3回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
5.	官能評価に影響する因子	4回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
6.	実施計画1：パネル・試料	5回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
7.	実施計画2：質問紙・検査室	6回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
8.	まとめ−官能評価の準備−	7回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
9.	比較法：2点比較法・3点比較法	8回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
10.	順位法1：スピアマンの順位相関係数	9回の講義内容について、コメントシートにまとめる。 教科書に記載の練習問題のうち、講義中にできなかった問題を解答しておく。
11.	順位法2：Kendallの一致性の係数	10回の講義内容について、コメントシートにまとめる。 教科書に記載の練習問題のうち、講義中にできなかった問題を解答しておく。
12.	評点法：分散分析と多重比較	11回の講義内容について、コメントシートにまとめる。 教科書に記載の練習問題のうち、講義中にできなかった問題を解答しておく。
13.	多変量解析	12回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
14.	官能評価の計画立案	13回の講義内容について、コメントシートにまとめる。
15.	まとめ	本講義の全体を復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
専門フードスペシャリスト資格試験を受験する人は、試験日までに、『三訂食品の官能評価・鑑別演習」の官能評価に関するところを、講義の進度に関わらず自主的に学習することをお勧めします。

フィードバックの方法:
コメントペーパーは教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	26	コメントペーパーの内容も考慮し、官能評価の実施に必要な基本知識を、講義を通して理解しようとしているかを評価する。
小テスト＆レポート	9	官能評価の解析法の理解度により評価する。
定期試験	65	官能評価の実施に必要な基本知識（周辺知識を含む）の理解度を評価する。

教科書:
（公社）日本フードスペシャリスト協会『三訂食品の官能評価・鑑別演習』建帛社
授業中に配布する冊子を併用する。

参考書:
古川秀子『おいしさを測る　食品官能検査の実際』幸書房
古川秀子・上田玲子『続　おいしさを測る　食品開発と官能評価』幸書房
日本官能評価学会（編）『官能評価士テキスト』建帛社
今井悦子・安原安代『健康を考えた調理科学実験』アイ・ケイコーポレーション
山本隆著『楽しく学べる味覚生理学』建帛社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
オフィスアワーまたは授業の前後に教室内で対応

633060

食品流通論

鬼頭　　弥生

授業テーマ:　食品の生産から流通、消費までの仕組みと課題を理解する

授業の概要:　食品は生きるうえで不可欠なものであり、かつ身近なものである一方、その背後にある生産・流通のシステムは複雑化・多様化しており、私たち消費者からは見えにくい。本講義では、食生活の変化、食品が農場から食卓に至るまでの仕組み、生産・加工・流通にかかわる事業主体の行動や各段階の特徴について解説する。また、私たちが直面している食をめぐる問題や課題についてもとりあげて議論する。

到達目標:　食生活の変化とその背景を理解する。
フードシステムの各段階（生産・加工・流通）の役割・特徴や、各段階の事業者の行動についての知識を習得する。
フードシステムをめぐる問題や課題を考えられるようにする。

授業方法:　テキストを用いて講義形式で授業を行う。毎回レジュメを配布する。スライドや映像教材を活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス：食生活や食品生産・流通の仕組みを理解する意義について、フードシステムという概念をもとに説明する。	特になし
2.	食生活の変化：現在の私たちの食生活の特徴について理解する。食生活の形態の変化や、変化の要因について説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 自身の食生活について記録する課題を提示するので、記録し考察してみること。
3.	品目別食品消費の変化：コメ、野菜、畜産物などの品目別消費量の変化や、食の変化を示すキーワードについて学ぶ。	テキストの該当部分を読んでくること。 自身の食生活について記録する課題（2）を提示するので、記録し考察してみること。
4.	卸売市場：生鮮品の流通に大きな役割を果たしている卸売市場について説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 中央卸売市場を1つ取り上げ、調べてみること。
5.	卸売流通：加工食品を扱う食品問屋（食品卸）について、その役割と近年の動向を説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 食品卸会社を1つ取り上げ、調べてみること。
6.	小売流通：食品小売業について学ぶ。スーパーマーケットなどを取り上げ、その運営の仕組みや商品政策について説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 チェーン展開しているスーパーマーケットを取り上げ、調べてみること。
7.	外食産業：チェーンレストランなどを取り上げ、その運営の仕組みや食材供給システムについて解説する。	テキストの該当部分を読んでくること。 外食店を1つ取り上げ、その特徴を調べてみること。
8.	中食産業：主にコンビニエンスストアを取り上げ、その運営の仕組みや今後の動向などについて説明する。	テキストの該当部分を読んでくること。 コンビニエンスストアの特徴をまとめてみること。
9.	第2回～第8回の内容に関わる具体的な事例について学ぶ（映像教材を用いる）。	これまでの授業や、テキストの内容でわからなかったところをまとめること。
10.	主要食品の流通（1）：主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ。	テキストの該当部分を読んでくること。 課題として提示した品目のなかから2品目選び、その流通や消費の特性を調べてみること。
11.	主要食品の流通（2）：主要食品を取り上げ、その流通の仕組みと消費特性を学ぶ。	テキストの該当部分を読んでくること。 課題として提示した品目のなかから2品目選び、その流通や消費の特性を調べてみること。
12.	フードマーケティング：フードビジネスによるマーケティングを理解する。マーケティングの基礎的な用語を理解する。	テキストの該当部分を読んでくること。 フードマーケティングの事例を調べて考察してみること。
13.	環境問題と食：食にかかわる環境問題、また環境保全のための国や企業の取り組みについて解説する。さらに食品廃棄・ロスの現状についても説明す	テキストの該当部分を読んでくること。 食にかかわる環境問題にはどのようなものがあるのか、調べてみること。
14.	食品の安全確保：食品の安全確保のための考え方や、そのための仕組みを解説する。リスクアナリシスの仕組みと、企業における食品安全管理システム（HACCPなど）を学ぶ。	テキストの該当部分を読んでくること。 HACCPなどの安全確保システムについて、調べてみること。
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業の内容を踏まえて、食にかかわることに関心をもち、新聞・ニュース等を通じて情報を収集すること。事前にテキスト（授業予定分）を読んで授業に臨むこと。授業終了時に課題を提示するので、次回の授業時に提出すること。

フィードバックの方法:　授業後に提出してもらう感想（コメントペーパー）で出された質問に対しては、授業のなかでまとめて解説をおこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標に示した3つの点の理解度と、これらを整理して説明できるかを基準とする。
授業への参加度	20%	授業への積極的な参加と、課題の提出を基準とする。

教科書:　日本フードスペシャリスト協会編、三訂　食品の消費と流通、建帛社、2016年

参考書:　高橋正朗・清水みゆき編著、食料経済―フードシステムからみた食料問題―、オーム社、2016年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業前後に教室において対応する。また、Eメールにより対応する。

633460

公衆衛生学

太田　　はるか

授業テーマ:　社会・環境要因と健康との関連について学ぶ。

授業の概要:　医療技術が発展し我々は長く生きることが可能になった。しかしその一方で、高齢化、慢性疾患の増加などの疾病構造の変化、医療費の増加などに伴う問題が社会に生じ、日常的な健康増進や病気の予防、長く幸せに生活すること、効率的な医療の達成がますます重要な時代となっている。そこで本講義では、社会・環境要因が我々の健康状態に及ぼしうる影響について学び、健康増進と疾病予防のために個人や集団レベルで実施可能な対策について考える。

到達目標:　健康の定義、公衆衛生の定義、健康増進や疾病予防の考え方、保健統計の概要、集団の健康状態、疾病の測定と評価方法、健康に関わる社会制度と保健対策について理解することを目標とする。

授業方法:　教科書と配布資料を用い、パワーポイントで示しながら講義形式で行う。小テストを行って理解の定着を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会と健康:公衆衛生の概念、健康の概念、健康の定義と目的	該当箇所の予習と復習を行う。
2.	社会と健康:予防医学の段階、プライマリ・ヘルスエアとヘルスプロモーション、公衆衛生の歴史など	該当箇所の予習と復習を行う。
3.	保健統計:人口静態統計、人口動態統計、生命表	該当箇所の予習と復習を行う。
4.	保健統計:傷病統計、その他の保健統計	該当箇所の予習と復習を行う。
5.	疫学:疫学の概念、疫学の指標、疫学の方法	該当箇所の予習と復習を行う。
6.	生活習慣の現状と対策: 生活習慣病、身体活動	該当箇所の予習と復習を行う。
7.	1回から6回までのまとめ	該当箇所の予習と復習を行う。
8.	生活習慣の現状と対策: 喫煙、飲酒、口腔保健行動、ストレス	該当箇所の予習と復習を行う。
9.	主要疾患の疫学:生活習慣病と成人保健、主要部位のがん、循環器疾患、代謝疾患(肥満症・糖尿病など)	該当箇所の予習と復習を行う。
10.	主要疾患の疫学:骨粗鬆症、口腔疾患、精神疾患、感染症など	該当箇所の予習と復習を行う。
11.	保健行政:地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保健	該当箇所の予習と復習を行う。
12.	保健行政:地域保健、母子保健、学校保健、産業保健、高齢者保健	該当箇所の予習と復習を行う。
13.	環境保健:人間生活と環境、環境汚染と健康、環境衛生	該当箇所の予習と復習を行う。
14.	社会保障:社会保障の概念、医療制度、介護保険制度と社会福祉制度	該当箇所の予習と復習を行う。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業に先立ち、教科書の関連ページを読む。授業後、理解できないことはそのままにせず、各自調べたり、積極的に質問すること。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験・課題レポート	50	到達目標の健康増進や疾病予防の考え方、健康に関わる社会制度と保健対策に関する知識と理解度により評価する。
出席・授業態度	50	積極的に授業に参加し、健康増進と疾病予防のために個人や集団レベルで実施可能な対策について考えることができるようになったかを評価する。

教科書:　松村宰・中山健夫編集　栄養科学シリーズNEXT「公衆衛生学 社会・環境と健康」第3版（講談社サイエンティフィク）

参考書:　必要に応じて授業時に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

633560

応用栄養学

坂本　　裕子

授業テーマ:　各ライフステージにおける栄養特性を理解し、健康の維持・増進を目指す

授業の概要:　食生活の現状や課題を理解、考察し、栄養に関する知識、食事摂取基準についての理解を深める。妊娠期から高齢期にわたる各ライフステージにおける栄養特性を理解し、実際の食生活にいかせる力を身につける。

到達目標:　食べ物の働きを理解し、栄養が各ライフステージにおける健康の保持・増進、疾病の予防にとって重要であることの理解を深める。

授業方法:　教科書を中心に主に講義形式で行う。視聴覚教材を用いることもある。小テスト(3回)、課題提出(1回)を予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	現在の食の現状と課題、日本人の食事摂取基準	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
2.	栄養ケア・マネジメント、食事摂取状況のアセスメント	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
3.	成長・発達・加齢と栄養	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
4.	妊娠期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
5.	授乳期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
6.	新生児期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
7.	乳児期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
8.	離乳食の進め方	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
9.	幼児期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
10.	学童期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
11.	思春期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
12.	成人期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
13.	年期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
14.	高齢期の生理的特徴と栄養アセスメント、栄養ケア	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。
15.	環境と栄養、まとめ	該当する単元を予習し、事前配布された授業シートをしてきてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書を用い主に講義を行いますので、予習をしてきてください。授乳期、幼児期、更年期の後にその単元までの小テストを行います。課題「ベビーフード」については販売場所の状況等も調べ、10回目に提出してもらう予定ですので準備してください。

フィードバックの方法:　小テスト、課題の結果を返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	基本的な知識を問い、重要項目について説明できる力を有するか評価します。
小テスト・課題提出	35	小テストと課題(3段階評価)の評価を加えます。
出席状況	5	欠席・遅刻を減点します。

教科書:　辻　悦子 「カレント応用栄養学」 建帛社

参考書:　「日本人の食事摂取基準 2015年版」 第一出版
「国民健康・栄養の現状」 第一出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応します。

633760

被服学

平光　　睦子

授業テーマ:　生活のなかの衣服

授業の概要:　「生活のなかの衣服」をテーマに、わたしたちの衣生活を文化的・歴史的な視点と科学的な視点から考えます。健康的で豊かな衣生活を営むための基本的な知識を学ぶとともに、衣生活についての見識を広め理解を深めることを目指します。

到達目標:
①衣服の時代性や地域性に関する基本的な知識を身につける
②衣服の素材や性能に関する基本的な知識を身につける
③衣服に関する知識を自身の生活に結びつけて理解し、豊かで快適な衣生活について考えることができる

授業方法:　テキストをもちいて講義形式で行います。適宜、体験的な要素をとりいれながら進めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	衣服と人間　ーひとはなぜ装うのか	テキストpp.1～3
2.	衣服の起源と類型	テキストpp.3～13
3.	気候風土と装い	テキストpp.46～48
4.	民族と衣服	テキストpp.48～56
5.	西洋の衣生活の変遷①　古代・中世	テキストpp.14～20
6.	西洋の衣生活の変遷②　近世	テキストpp.20～25
7.	西洋の衣生活の変遷③　近現代	テキストpp.25～31
8.	まとめ	
9.	衣服の素材①　繊維	テキストpp.57～61
10.	衣服の素材②　糸・布	テキストpp.61～64
11.	衣服の素材③　布の性能	テキストpp64～68
12.	衣服の品質と管理	テキストpp.117～121,pp.121～124,pp103～116
13.	衣服の手入れ	テキストpp125～134
14.	衣服の廃棄とリサイクル	テキストpp.135～139
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　マナビーの小テストをとおして講義及びテキストの理解度をはかります。
小レポートや提出物は、採点またはコメントを記して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	授業へ積極的に参加し、到達目標①～③に関する理解度を評価します
小レポート等	10	到達目標③の観点から、レポートや作業における視点や姿勢を評価します
試験	50	おもに、到達目標①②について評価します

教科書:　佐々井啓、大塚美智子編著『衣生活学』 朝倉書店

参考書:
岡田宣子編著『ビジュアル衣生活』建帛社
山口庸子、生野晴美編著 『新版　衣生活論　持続可能な消費に向けて』 アイ・ケイ　コーポレーション
酒井豊子、藤原康晴 編著 『ファッションと生活—現代衣生活論（放送大学教材）』放送大学教育振興会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　マナビーの掲示板機能

633960

保育学

寺田　　加代子、毛利　　貴子

授業テーマ:　乳幼児期の重要性とその援助と家庭看護

授業の概要:　（保育学）乳幼児期の保育（家庭・集団）における生活援助と子育て支援

（家庭看護）乳幼児期に発生しやすい事故、感染症とその予防・対処

到達目標:
・（保育学）乳幼児期の健全な成長・発達を理解し、乳幼児期の生活援助が理解できる。
・（保育学）保育所保育指針を通して、乳幼児保育の意義及び保育に関する基本的知識を習得する。
・（保育学）ライフステージにおける乳幼児期の重要性を踏まえ、乳幼児を取り巻く環境（子育ての現状と課題）や親の役割及び子育て支援について理解する。
・（家庭看護）乳幼児期に発生しやすい事故や感染症について理解し、その予防と対処に関する知識を習得する。

授業方法:　（保育学）（家庭看護）講義・演習（グループワークも含む）形式を中心に、DVD教材を使用する。
授業テーマについての意見・感想・質問などの小用紙への記載を求め、授業に反映する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	シラバスを読み目標を確認する
	子育てと保育及び子どもの健康	
2.	家族と子育て①　赤ちゃんの誕生	自分の成長をたどる。 母子手帳の成長記録を振り返る
3.	家族と子育て②　新生児の特徴とケア	我国の妊娠・出産・産褥にかかわる法律に関心を向ける
4.	乳児の成長と発達①　運動機能について	前回の授業資料内容を理解する
5.	乳児の成長と発達②精神的発達について	「特定の大人への基本的信頼関係の獲得」の理解を深める
6.	乳幼児の生活　食事と栄養	「食育法」について関心を向ける
7.	乳幼児期の保育の意義について	「幼稚園教育要領・保育所保育指針」の理解を深める
8.	認定こども園の実際（DVD視聴））	自分自身の幼稚園・保育所時代を振り返っておく
9.	乳児期の生活と遊びと環境	玩具ショップでおもちゃ調査
10.	幼児期の生活と遊びと環境	自分自身の幼児期の遊びを振り返っておく
11.	子どもの権利と福祉について	育児の孤立と育児不安について関心を向ける
12.	親の役割と子育て支援	虐待に関する新聞記事やニュースに関心をもち読んでおく
13.	乳幼児期に起こりやすい事故について	家庭や保育の場で起こり得る気道異物や熱傷、溺水について、その予防、対処と共に学ぶ
14.	乳幼児期に罹患しやすい感染症について	麻疹、水痘、手足口病、流行性耳下腺炎等についての基本的知識を学ぶ
15.	まとめ（総括）	保育学の授業内容を振り返っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業についての意見・感想・質問などの小用紙に対する解説やコメントは授業でまとめて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60%	（保育学）到達目標である乳幼児の生活支援及び子どもの健康などの理解度を評価する。
授業への参加度	20%	（保育学）積極的に授業（グループ討議含む）に参加し、上記の達成目標を達成しようとする意欲や態度を評価する。
小レポート	20%	（家庭看護学）

教科書:　（保育学）保育所保育指針　フレーベル館（株）　定価149円＋税は購入して下さい。
また、必要な資料はプリントとして配布する。
DVD等を教材と使用することもある。
（家庭看護）　配布資料を元に講義を行う。DVD視聴も予定している。

参考書:　（保育学）講義中に適宜紹介する。
（家庭看護）　講義中に適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

634160

家庭経営学

伏木　　真理子

授業テーマ:

授業の概要:

私たちは様々な生活資源を用いて家庭における生活をつくっている。この授業では、その生活資源の中でも、特にカネとヒトに焦点をあてて解説していく。課題として「家計簿」をつけることによって自分の生活を振り返り、今後の生活設計に役立てる。そして、経済社会の動きを体感するために株式学習ゲームを活用する。また、現代社会における、家族、家族関係、家族の機能についても解説する。

到達目標:

・生活資源について説明できるようになる。
・経済社会におけるモノとお金の循環について理解し、説明できるようになる。
・生活設計に関わる社会保障施策について理解し、説明できるようになる。
・自らの生活設計に基づき、生活資源の管理・運用ができるようになる。
・現代の家族関係・家族の機能について理解し、説明できるようになる。
・生活資源について、多面的にとらえ、その現状や問題点等を把握し、考察できるようになる。

授業方法:

講義を基本とするが、学生の発言等を求めることもある。必要に応じて視聴覚教材(ビデオ等)も使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション-「家庭生活」とは？	各自の家庭生活について、予め振り返っておく。
2.	家庭経営、生活経営の基盤となるもの-生活資源	生活資源とは何か、各自で予め考えておく。
3.	家計収入と家計調査-家計簿をつけてみる	各自の収支状況について、予め振り返っておく。支出を中心に、1ヶ月間、家計簿をつける。
4.	家庭経済と国民経済-経済社会のしくみ、経済循環、株式学習ゲーム	新聞、テレビ、Web等で報道される経済ニュース等の情報に触れておく。配付された株式学習ゲームの資料を基に、約2ヶ月間ゲームを行う。毎週、状況報告書を提出する。
5.	家族関係・家族機能の変化-近代家族、現代家族	「あなたにとって家族とは」という問いかけに対して、予め考えておく。
6.	生活時間と家事労働	各自の生活活動、それに費やす時間について、予め振り返っておく。
7.	家計支出と費目別変化-経済構造の変化に伴う消費・生活の変化	各自の家計簿で、支出費目ごとに集計をしておく。
8.	家族周期と個人のライフコース、ライフステージ-あなたのライフデザイン	各自の夢や目標について、予め考えておく。
9.	生活設計-若年者の生活と労働	若年者の置かれている現状について、Web等で調べておく。
10.	生活設計-シングルペアレント	シングルペアレントの置かれている現状について、Web等で調べておく。
11.	生活設計-高齢期の生活	高齢者の置かれている現状について、Web等で調べておく。
12.	社会保障施策-年金	新聞、テレビ、Web等で報道される年金に関するニュース等の情報を調べておく。
13.	社会保障施策-医療	新聞、テレビ、Web等で報道される医療に関するニュース等の情報を調べておく。
14.	社会保障施策-介護	新聞、テレビ、Web等で報道される介護に関するニュース等の情報を調べておく。
15.	家族と地域・社会生活-自助・共助・公助、セーフティネット	新聞、テレビ、Web等で報道される社会保障に関するニュース等の情報を調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	40	家計簿の提出及び分析の度合、株式学習ゲームの状況報告書の提出回数及び分析の度合を基準とする。
レポート	55	各自が選んだテーマについての実態、問題点等の把握の度合、またそれに対する考察、独自の視点があるかを基準とする。
授業への参加姿勢・受講態度	5	皆出席を前提とする。遅刻・欠席については減点対象として、厳正に対処する。

教科書:

参考書:

神原文子・杉井潤子・竹田美知編著『よくわかる現代家族　第2版』、ミネルヴァ書房、2016年。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応、マナビーの掲示板機能

634260

運動健康論

米田　　祐子

授業テーマ:　身体の構造や機能と運動の関係について学ぶ

授業の概要:　健康の保持・増進のためには適度な身体運動が必要であるが、身体運動は瞬発的な無酸素性運動と持久的な有酸素性運動の要素に分けられる。無酸素性運動で筋・骨格系を鍛え、有酸素性運動で呼吸・循環系を鍛え、さらにスポーツなどの巧みな動作による脳・神経系への刺激、ホルモン系の活性によりからだの恒常性が保たれる。このような身体のしくみと運動の関係について基本的な構造や機能を学ぶ。

到達目標:　身体運動や各種スポーツと健康の関わりについて知見を広める。授業への積極的な取り組みや課題に対する提出物において理解した知識をまとめ、各自の発表において表現力を高める。

授業方法:　講義と各自の発表含めた方法で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	運動と健康について日常生活を振り返る	一日24時間の身体活動量について多い日と少ない日、以前と現在の相違点などを考えておく
2.	筋・骨格系と運動	筋肉や骨と身体運動との関わりについて調べておこう
3.	筋力および筋電図の測定方法	筋力の測定にはどんな方法があるか考えてみよう
4.	脳・神経系と運動	身体運動を行う時の神経系のしくみについて調べておこう
5.	バランス機能の測定方法	バランス機能の測定で新しいアイディアを考えてみよう
6.	呼吸・循環系と運動	呼吸数、心拍数、血圧について調べておこう
7.	呼吸代謝の測定方法	エネルギー消費量を求める方法を考えてみよう
8.	エアロバイクによる持久力の測定方法	エアロバイクについて調べてみよう
9.	運動時の心拍数と血圧について	運動中の心拍数と血圧はどのように変化するかしらべてみよう
10.	無酸素性と有酸素性運動について	瞬発的な運動か持久的な運動かどちらが得意か考えてみよう
11.	血中乳酸の分析方法	疲労する増えるけれどもエネルギー源にもなる乳酸について考えてみよう
12.	ホルモンと運動の関係	いろいろなホルモンについて調べてみよう
13.	基礎体温および運動時の体温につい	女性の特徴である基礎体温の変化などについて調べてみよう
14.	健康増進のための適切な身体運動	身体の各部位の構造や機能、そして健康を保つ方法についてl復習しておく
15.	成長期や高齢期におけるスポーツについて	年齢に合わせた身体運動について考えてみよう

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業期間中に1～2回、各自の興味のある項目について発表するために、関連書物による定説やインターネット等による最新情報をまとめておく。

フィードバックの方法:　提出物は教室で返却しまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加・態度	40	授業への参加状況を評価する
提出物・テスト	40	予習、授業の取り組みにおける理解を評価する
発表	20	各自の発表時の資料や表現力を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

634360

フードスペシャリスト論

水谷　　由記子

授業テーマ:　フードスペシャリストの意義とその概念および活用について講義する。現代の食生活について考える。

授業の概要:　食の多様化が進む現在、生産者の顔が消費者に見えにくくなってきており、様々な問題を生むようになってきている。
このようなことから、両者の乖離をとりもつ専門知識を持った職業人の存在が望まれるようになってきた。この社会的要請にこたえて登場したのが、フードスペシャリストである。この科目では、フードスペシャリストの意義とその概念および活用について講義する。

到達目標:　フードスペシャリストとして不可欠な知識を得ることを目標とする。

授業方法:　教科書を用いて順次解説を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	フードスペシャリストとは	教科書の該当項目の章を熟読する
2.	おいしさの追求	教科書の該当項目の章を熟読する
3.	食生活の変遷と消費行動	教科書の該当項目の章を熟読する
4.	食の消費現場とこれに対応する食産業	教科書の該当項目の章を熟読する
5.	食品の品質規格	教科書の該当項目の章を熟読する
6.	食に関する表示	教科書の該当項目の章を熟読する
7.	食糧の流通	教科書の該当項目の章を熟読する
8.	食品の鮮度と熟度、および鑑別検査の概要	教科書の該当項目の章を熟読する
9.	食物の安全性	教科書の該当項目の章を熟読する
10.	食に関する消費者の保護	教科書の該当項目の章を熟読する
11.	食の情報とその活用	教科書の該当項目の章を熟読する
12.	現代の食卓の課題	教科書の該当項目の章を熟読する
13.	食環境と食育	教科書の該当項目の章を熟読する
14.	フードスペシャリストの展望	教科書の該当項目の章を熟読する
15.	まとめ	教科書の「索引」を利用し、フードスペシャリストに関する幅広い知識の集約につとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の講義の中で指摘する「ポイント」について、その日のうちに必ず復習すること。

フィードバックの方法:　コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	到達目標に対しての態度・意欲を評価
課題レポート	10	課題項目に関する理解度により評価
期末試験	70	到達目標に関する理解度により評価

教科書:　日本フードスペシャリスト協会編『四訂フードスペシャリスト論（第4版）』建帛社

参考書:　講義中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　講義の前後に教室内で対応する。

634460

フードコーディネート論

井上　　博子

授業テーマ:
おいしさの本質やホスピタリティ、伝統的な食文化、マナーなどを修得し、より質の高いフードコーディネートを提案できる能力を養う。

授業の概要:
「食情報」が氾濫し、食の選択基準がより複雑化するなど、食環境が大きく変化し続けている現在、必要な「栄養摂取としての食」のみならず、「文化としての食」や「おもてなし」の重要性が世界的に注目されている。
この授業では、日本をはじめ世界の食文化や調理文化、テーブルウェアの知識とその演出法、サービスマナーなどの基礎知識を学ぶとともに、食ビジネスや食消費トレンドなどの最新情報も交えて解説する。

到達目標:
（1）おいしさの本質やホスピタリティ、世界の食文化、マナーなどの知識がある。
（2）より質の高い食生活をトータルに演出、コーディネートできる。
（3）フードスペシャリスト資格試験に合格できる能力を習得する。

授業方法:
講義を基本とするが、学生によるグループ発表やディスカッションを積極的に取り入れる。
知識の確認や応用にフードスペシャリスト資格認定試験の過去問題を解くなど、試験を意識した授業内容となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	フードコーディネートの基本理念	フードスペシャリスト資格試験の過去問題を見てみる。 教科書の該当範囲を読んで予習しておく。
2.	おいしさとフードコーディネート グループでプレゼンのテーマを決める	教科書の該当範囲を読んで予習しておく。
3.	食事の文化（1） 食のタブーと宗教現代の食事文化	教科書の該当範囲を読んで予習しておく。
4.	食事の文化（2）日本の食事の歴史	教科書の該当範囲を読んで予習しておく。
5.	食事の文化（3）特別な日の食事	グループ発表の準備（パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく）
6.	食事の文化（4）諸外国の食事文化	グループ発表の準備（パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく）
7.	食卓のコーディネートとマナー（1） 日本料理	グループ発表の準備（パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく）
8.	食卓のコーディネートとマナー（2） 中国料理	グループ発表の準備（パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく）
9.	食卓のコーディネートとマナー（3） 西洋料理	グループ発表の準備（パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく）
10.	メニュープランニング（1） メニュープランニングの要件	グループ発表の準備（パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく）
11.	メニュープランニング（2） 料理様式とメニュー開発	グループ発表の準備（パワーポイントや配付資料の作成、課題の論点を整理しておく）
12.	食空間のコーディネート	フードスペシャリスト資格試験の過去問題を解いてみる
13.	フードサービスマネジメント	フードスペシャリスト資格試験の過去問題を解いてみる
14.	食企画の実践コーディネート	フードスペシャリスト資格試験の過去問題を解いてみる
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業には必ず教科書を用意し、指示した重要な語句や用語、図表をチェックすること。
予習やグループ発表の準備にも教科書を活用し、親しんでおくこと。
教科書の補填として配布するプリント、資料にも目を通し、内容を理解しておくこと。
知識の確認や応用に、フードスペシャリスト資格試験の過去問題を解いてみること。

フィードバックの方法:
出席カードに書かれた質問や意見、要望には、その都度「教室でまとめて対応、解説する」。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40%	積極的に授業に参加し、発言など授業への貢献度や受講態度を基準とする。出席カードの自由記述欄には、その日のグループ発表へのコメントをはじめ、講義に対する感想、意見を必ず記載すること。
発表	30%	準備学習とグループ発表での自分の役割とその達成度、態度・意欲を評価する。
期末試験	30%	フードコーディネートに関する知識や理解度により評価する。

教科書:
『三訂フードコーディネート論』（公社）日本フードスペシャリスト協会編　（建帛社）

参考書:
『フードスペシャリスト資格認定試験過去問題集』（公社）日本フードスペシャリスト協会編　（建帛社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
毎回の講義の後およびEメールで連絡可能（メールアドレスは授業時に知らせる）

634560

食生活論

山下　　満智子

授業テーマ:　充実した人生の基礎となる健康な食生活について学ぶ

授業の概要:　充実した人生の基礎となる食生活について、京都や日本の食文化、食生活の現状と課題、食の機能など食に関する様々な視点から学び、自らの健康な食生活について考え実践する力を養う。

到達目標:　ユネスコ無形文化遺産に登録された和食の特徴を理解する。食生活の現状と課題を理解する。
ライフステージと食生活について理解する。自らの健康な食生活について考え実践する力を養う。

授業方法:　授業は、教科書、パワーポイント、映像を用いて講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス ユネスコ無形文化遺産に登録された和食の特徴について理解する	
2.	京都の食文化—季節の行事と食べ物－	
3.	食生活の現状と課題	事前に配布する食事記録用紙に記入する。
4.	茶と暮らし	
5.	食生活の概念、食の機能	教科書で下調べを行う。
6.	ライフステージと食	ライフステージと食について下調べを行う。
7.	食と健康ーダイエットの落とし穴—	食と健康について下調べを行う。
8.	もてなしとマナー	箸の持ち方、マナーについて下調べを行う。
9.	献立の基本「一汁三菜」	
10.	和食の基本「だし」と「調味料」	家庭あるいは下宿で使う「だし」と「調味料」について下調べを行う。
11.	家庭料理の役割	
12.	食物アレルギーと食品表示	食物アレルギーと食品表示について下調べを行う。
13.	外来の食文化	
14.	これからの食生活	事前に配布する食事記録用紙に記入する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　和食や様々な視点での食の学びを通して、健康で充実した人生の基礎となる食生活を自ら考え実践する力を養う授業となることを願っています。

フィードバックの方法:　採点して返却する。教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標であるユネスコ無形文化遺産に登録された和食に関する知識や、食生活の現状と課題、健康な食生活などについて論理的な説明ができるか否かを基準とする。
授業の参加度	50	主体的に授業に参加し、健康な食生活について自ら考え発表することができるか否かを評価する。

教科書:　岡崎光子編著、食生活論、光生館

参考書:　京都府立大学大学院　食事科学研究室編、和食の散歩道、久美株式会社
福田靖子他、「食生活論」第3版。朝倉書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメール、あるいは授業の前後に教室で対応する。
メールアドレスは、初回授業に伝える。

634660

生活科学概論

村上　恵、川﨑　祐子、真部　真里子、山本　寿、米田　祐子、吉井　美奈子、杉浦　実

授業テーマ:　食物科学専攻での学びと「生活科学」

授業の概要:　食物科学専攻新入生を対象として、大学生活全般と食物科学専攻の学びに必要な知識や心構え、食物分野のトピックス、生活科学の入門的内容を講義する。

到達目標:　食物科学専攻での4年間の学びを概観するとともに、興味を持って自主的に大学で学ぶ姿勢を身につける。また、生活全般における人と環境の相互作用、並びに家庭生活が人間生活において果たす役割を生活科学的視点から概観し、身近な課題に目を向けて考察する態度や能力を身につける。

授業方法:　前半6回の授業を食物科学専攻アドバイザーの教員6名が1回ずつリレー方式で、後半9回を生活科学領域を専門とする教員がそれぞれ講義する。必要に応じてパワーポイント・スライド、資料、ビデオ等を使用し、学生に問いかける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食物科学専攻における学び。キャリアデザインと免許・資格	入学時に配布された「履修要項・シラバス」と「免許・資格関係履修要項」の食物科学専攻に関係する箇所に目を通し、授業日に必ず持参する。
2.	食物科学専攻における学び。4年間の勉学について	「履修要項・シラバス」にある“修学上の基本事項”の中の〔授業〕と〔成績〕を読んでおく。
3.	食物科学専攻における学び。健やかな学生生活の過ごし方	入学時に配布された「学生生活のしおり」を参考に大学生活を思い描き、それらを支える健康的な生活について話し合える準備をしておく。
4.	食物科学専攻における学び。情報処理とレポート作成	情報処理教室の PC にログインし、MS-Word で「調理科学実習のレポートを作成する、キーボードマスターを練習する」など、本学の情報処理環境に慣れておく。授業日までに作成した調理科学実習のレポート(印刷物)を持参する。
5.	食物科学専攻における学び。消費者として(食品表示の見方)	身近にある食品の包装紙やパッケージに記載されている食品表示を見ておく。
6.	食物科学専攻における学び。本学の歴史と調理学	調理科学実習1回目のオリエンテーションで配付される資料を読み返しておく。
7.	食物科学への関心と学問的展開	教科書『楽しもう家政学』(開隆堂出版)の「序章:生活は万物の基礎である」の章を読み、前もって自分の意見をまとめておく。
8.	生活科学とは	教科書『楽しもう家政学』(開隆堂出版)の中にあるコラムの内容を前もって読んでおく。
9.	生活科学と家政学	教科書『楽しもう家政学』(開隆堂出版)の「第1部:命をはぐくむ」の内容を前もって読んでおく。
10.	生活科学の研究領域と研究方法	教科書『楽しもう家政学』(開隆堂出版)の「第1部:命をはぐくむ」の内容を前もって読んでおく。
11.	家庭の機能・家庭生活	教科書『楽しもう家政学』(開隆堂出版)の「第2部:人とつながる」の内容を前もって読んでおく。 ※ゲストスピーカー
12.	生活科学の社会的展開	教科書『楽しもう家政学』(開隆堂出版)の「第2部:人とつながる」の内容を前もって読んでおく。
13.	生活科学の学問的展開 (1)	教科書『楽しもう家政学』(開隆堂出版)の「第3部:暮らしをつくる」の内容を前もって読んでおく。
14.	生活科学の学問的展開 (2)	教科書『楽しもう家政学』(開隆堂出版)の「第3部:暮らしをつくる」の内容を前もって読んでおく。
15.	まとめ	教科書『楽しもう家政学』(開隆堂出版)の「おわりに」の内容を前もって読んでおく。これまで学んだことをまとめて発表する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　食物科学専攻のオリエンテーション的科目であり、前半では、この専攻に関わる専任教員が順に登場します。各教員がそれぞれの立場から発するメッセージやアドバイスを吸収し、この専攻での4年間の学びのスタートにつなげてください。後半では、食物科学が含まれる、より広い学問分野である「生活科学」の視点や方法を紹介します。身近な生活全般に存在する様々な課題を生活科学的視点から眺め、解決法を考えましょう。

フィードバックの方法:　「調理科学実習」の「まとめ」の時間(春学期最終週)を利用し、教室でまとめて解説する。「免許・資格」に関しては、過去数年受講生から受けたよくある質問に対する答えを資料にして授業内で配付する。新たな質問にはマナビーで回答する。第7回以降、提出したワークシート等を一部教室で返却する。また、前の授業で質問や出た意見を次の授業で紹介・追加説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	28%	出欠席状況と授業への積極的な参加姿勢
前半6回の提出物	24%	提出物の完成度
後半9回の提出物と定期試験	48%	提出物の完成度と試験採点結果

教科書:　第1回目の授業には「履修要項・シラバス」と「免許・資格関係履修要項」を使用する。
第7回目以降の授業では、『楽しもう家政学』(「家政学のじかん」編集委員会著、開隆堂出版)を使用する。
適宜、資料を配付する。

参考書:
「若手研究者が読む「家政学原論」」2006　亀高京子監修　家政教育社
「家政学の未来一生活・消費・環境のニュー・パラダイム」松岡明子編著　有斐閣
「変わる家族　変わる食卓」岩村暢子　頸草書房
「近代家族の成立と終焉」上野千鶴子　岩波書店
「近代国家と家族モデル」西川祐子　吉川弘文館

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業後、教室で。専任教員の場合、オフィスアワーなどで研究室でも応対する。

634760

生活経済学

庄司　　俊作

授業テーマ:　＜雇用・社会保障＞と＜食・農・地域・環境＞から現代日本の生活を考える

授業の概要:

私たちは一部自営業者・農家を除き企業等に雇われ、働いて労働の対価として賃金を得て生活している。この、企業等に雇われることを「雇用」という。また、私たちの生活が電気や食料など基礎的な生活手段なくして成り立たないことは指摘するまでもない。医療や介護など社会保障や地域社会との関わりも私たちの生活を大きく左右する。

日本社会はかつて貧困問題を解決し、中流社会を実現したといわれた。しかしそれは、一時の幻想であった。かつてなら大学を出れば悪くてもそこそこの企業に就職でき、その企業で毎年給料が上がって退職まで働き続けることができた。会社に入って10年もすれば結婚し子どもを作り、40歳前後には住宅ローンを組み家も建てられた。重役とまではいかなくても、課長ぐらいにはなってやりがいのある仕事をやり、妻がややこしい家事・育児等万般そつなくこなしてくれたので、心置きなく「会社人間」の人生を送ることができた。退職後は十分ではないがそれなりに年金がもらえ、趣味に、場合によれば学び直しに充実した老後をおくる。

そんな生活はしかし、多くの人に保証されていないことが明らかになってかなりの年月が経つ。大学を出ても正社員での就職は少ない。有期の非正規か派遣かで働く若者が少なくない。非正規の賃金は多くて年収300万円までで、年収100万円台で働くものも少なくない。派遣労働者に支払われる「賃金」の総額がせいぜい200万円、これは時給でありボーナスどころか交通費さえつかない。まさにワーキングプアである。こうした働き方をする人々がこの間急増した。正社員で就職した女性が結婚して子どもを産み育てる。ところが、こんなしごく当然な人生は一般企業では通用しないところが少なくない。子どもを産むか会社を辞めるか悩んだあげく、多くの女性が働き続ける道を選択した結果、生まれた事態が少子化である。結婚して働き続けるのはまだしも「よき人生」かもしれない。いまや一生結婚しない人々が急増しつつある。約20年後の生涯離婚率は男性30%、女性25%と試算されている。

こんな働き方を多くの人々に強いている社会はよくない社会だと思う。けっして大げさにいうのでなく、私たちが生きる社会の持続性が脅かされている事態である。その実態とそれがもたらしている社会問題を学生とともに考えることが授業の目的である。雇用の問題は社会保障や年金のあり方に連動する。また、貧困・格差の拡大は地域間格差の拡大、また日本の場合非農業と農業の所得格差の拡大でもある。高齢化の荒波は農林漁業と地方の地域社会をいち早く洗った。戦後の経済成長を農業や林業にしわ寄せした結果も加わって、食料自給率が先進国では例外というべきレベルまで低下するとともに、環境保全・国土保全の懸念も強まっている。こうした問題もつまるところ、日本の経済発展、雇用のあり方に起因する。現実とともに未来の方向も学生と一緒に考えていきたい。

到達目標:

①授業のテーマに関して広い基礎知識をもっていただく。
②関連する岩波新書や例えば朝日新聞の記事を「読む意欲と能力」を身につけていただく。
③思考力を養い、理解したことや考えたことを的確な言葉で表現する能力を養っていただく。
④関心・意欲をもって独習、自由研究が進められるレベルを目指す。

授業方法:

講義を中心とする。毎回レジメと資料を配布し、それをもとに講義する。なお、適宜ビデオ鑑賞をしたり、新聞記事を配布して身近に理解してもらう工夫をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンスとビデオ鑑賞(『派遣法誕生　前篇』か「女たちの10年戦争」)	
2.	現代開発主義国家日本と企業社会	
3.	日本型雇用システムと家族・女性・教育	
4.	雇用の多様化と差別ー正規と非正規	
5.	雇用身分社会と派遣労働	
6.	女性と労働	
7.	ブラック企業と若者の生活	
8.	最低賃金制度とワーキングプア	
9.	格差社会と少子高齢化、子どもの貧困	
10.	社会保障と国民の生活	
11.	年金と生活保護	
12.	資源・エネルギー・原発	
13.	地域経済格差と「地方消滅」	
14.	第1次産業と食料・環境問題	
15.	授業のまとめー現代日本の経済と生活	

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生にお願いしておきたいことがある。一生懸命授業に取り組むが、わずか15回の講義では理解も高が知れている。何でもかまわないので関心がある問題について関連文献を読み、独習、自由研究を進めれば長い目で見て得られるものは大きい。

フィードバックの方法:

以下を歓迎します。また、いずれも成績評価に加味します。
①授業中の質問や意見発表。
②ビデオ鑑賞に関して小レポートを作成し提出すること(提出は自由)。
③独習、自由研究の成果についてレポートを作成し提出すること(提出は自由)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートまたは試験等	70	理解の度合とレポートの場合は加えて表現力
授業への取り組み	30	出席率と授業に対する意欲

教科書:　なし

参考書:

森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書、2015年
今野晴貴『ブラック企業』文春新書、2012年
細井和喜蔵『女工哀史』岩波文庫、1954年
鈴木宣弘・木下順子『ここが間違っている！　日本の農業問題』家の光協会、2013年
藻谷浩介・NHK広島取材班『里山資本主義』角川新書、2013年
吉岡斉『原発と日本の未来』岩波ブックレット、2013年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、

教員との連絡方法:　メールで連絡してください。

634860

調理科学Ⅰ

村上　　恵

授業テーマ:　調理過程を科学的に理解する。

授業の概要:　各食材の調理性について、調理操作と食品成分の化学反応を関連づけながら学習する。また新しい食材や最近の食に関わるニュースも取り上げながら解説する。
調理科学実習Ⅰ、Ⅱおよび調理科学実習Ⅲ、Ⅳで取り扱う調理素材について、調理過程における変化を科学的に把握する。

到達目標:　調理の意義・目的を理解する。
植物性食品および動物性食品の調理による変化を科学的に理解する。
食にかかわる情報を見極め、正しく伝えられる能力を養う。

授業方法:　講義形式で行う。必要に応じてプリント、パワーポイント教材などを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	調理学の概要 意義、調理学の目的と範囲 植物性食品の調理性1 炭水化物の基礎	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
2.	植物性食品の調理性2 米の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
3.	植物性食品の調理性3 小麦粉、その他穀類・雑穀の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
4.	植物性食品の調理性4 いも類、豆類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
5.	植物性食品の調理性5 種実類、野菜の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
6.	植物性食品の調理性6 山菜・果実類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
7.	植物性食品の調理性7 海藻・キノコ類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
8.	動物性食品の調理性1 タンパク質の基礎 食肉類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
9.	動物性食品の調理性2 食肉類、魚介類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
10.	動物性食品の調理性3 卵類、乳類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
11.	その他食品1 でんぷんの調理 脂質の基礎・油脂の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
12.	その他食品2 ゲル化食品（ゲル形成素材）の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
13.	飲料類 アルコール、茶、コーヒー、飲料水	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
14.	調理の疑問を科学する 半年間学んできた内容と日常の調理操作との関連	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
15.	まとめ	前回まで学んだことを見直しておく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度＋小テスト（レポート）	20	質問に答えるなど積極的に授業に参加し、なおかつ調理による食品の変化に関する知識、理解度により評価する。
定期試験	80	到達目標である調理による食品の変化、調理の意義ついて科学的かつ論理的に説明できるかを基準に評価する。

教科書:　下村道子・和田淑子編著 「新調理学」（光生館）
※調理科学実習Ⅰで購入している場合は、改めて購入する必要はない。
※再履修者は教科書が変更になっているため、注意すること。

参考書:　山崎清子ほか編著 「新版　調理と理論」（同文書院）
木戸詔子・池田ひろ編著 「新食品・栄養科学シリーズ　調理学第3版」（化学同人）
渋川祥子・畑井朝子編著「ネオエスカ　調理学」（同文書院）
「食品成分表」日本食品標準成分表2015（七訂）のデーターベース使用の書籍（女子栄養大）
「調理のためのベーシックデータ」（女子栄養大出版部）
（公社）日本フードスペシャリスト協会編「調理学」（建帛社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対　あるいはオフィスアワー

634960

調理科学Ⅱ

村上　　恵

授業テーマ:　調理過程を科学的に理解する。

授業の概要:　食品のおいしさについてその基本的要因を学び、おいしさの本質とは何かを科学的観点から考察する。また、調理科学Iに続き、食品の調理操作(調味や加熱)の意味や調理器具の扱い方を知ることにより、調理素材のより良い取り扱い方を科学的根拠に基づき総合的に考察できる力を養う。さらに、必要な栄養素量や献立作成法、食文化についても学ぶ。

到達目標:
調理操作、調味操作について科学的に理解する。
食事計画(献立作成)の概要を理解する。
食文化(特に和食)について調理との関係を理解する。
自身の食生活にも目を向け適切な食事ができるようになる。

授業方法:　講義形式で行う。必要に応じてプリント、パワーポイント教材などを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	調理学の概要 意義、調理学の目的と範囲 調理と嗜好性1 食べ物のおいしさに関与する要因と変動	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
2.	調理と嗜好性2　嗜好の評価 調理操作論1　非加熱操作	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
3.	調理操作論2 非加熱操作(冷却・凍結・解凍) 加熱操作　(熱の伝わり方)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
4.	調理操作論3 加熱操作　(加熱法の種類)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
5.	調理操作論3 加熱操作　(加熱法の種類)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
6.	調味料の調理性 砂糖、食塩、しょうゆ、みそ、食酢類 だし類、うま味類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
7.	調理操作論4 調味操作 調理設備・器具・エネルギー源	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
8.	新調理システム	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
9.	食事計画論1 食事の意義・役割、種類 日常食の食事計画(食事摂取基準と食品成分表)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
10.	食事計画論3 食事バランスガイド 日常食の食事計画(献立作成)	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
11.	食事計画論4 ライフステージ別食事 高齢者の摂食機能と調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
12.	食事計画論5 特別食の食事計画 調理文化論1 日本の食事の歴史と文化	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
13.	調理文化論2 外国の食事の歴史と文化	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
14.	調理による栄養成分および物性の変化	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
15.	まとめ	前回まで学んだ内容を見直しておく。講義後には、ポイントをノートにまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度＋小テスト(レポート)	20	質問に答えるなど積極的に授業に参加し、なおかつ調理による食品の変化に関する知識、理解度により評価する。
定期試験	80	到達目標である調理操作、食事計画、食文化について科学的かつ論理的に説明できるかを基準に評価する。

教科書:
下村道子・和田淑子編著 「新調理学」(光生館)
※調理科学実習Iで購入している場合は、改めて購入する必要はない。
※再履修者は教科書が変更になっているため、注意すること。

参考書:
山崎清子ほか編著 「新版　調理と理論」(同文書院)
木戸詔子・池田ひろ編著 「新食品・栄養科学シリーズ　調理学第3版」(化学同人)
渋川祥子・畑井朝子編著「ネオエスカ　調理学」(同文書院)
「食品成分表」日本食品標準成分表2015(七訂)のデーターベース使用の書籍(女子栄養大)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)

	（公社）日本フードスペシャリスト協会編「調理学」（建帛社）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法：	授業の前後に教室内で応対　あるいはオフィスアワー

635060

食品分析化学

杉浦　　実

授業テーマ:

食品に含有される栄養成分と代表的な機能性成分について学ぶとともに、食品科学分野で広く汎用される分析手法（公定法）および機能性成分の抽出・単離とその分析法、これら分析を行うための分析機器の基本原理と構成、またデータの利用方法について学ぶ。食品衛生監視員と食品衛生管理者の資格を取得するために必須の科目で、実践的な知識を得て理解を深める。

授業の概要:

分光法（紫外、可視、赤外、原子吸光） の基礎と応用、食品成分の分離分析を行う上で必須な薄層やカラムクロマトグラフィー、高速液体クロマトグラフィー、ガスクロマトグラフィーなど各種の分離手法や電気化学的測定法の基本原理、また質量分析などの機器分析について食品分野で実際に使用する上で必要とする基礎的な知識を得る。各講義毎に小テストによる理解度を確認するとともに、基礎から応用までの演習問題にも取り組む。

到達目標:

食品分野で汎用される主な分析機器の基本原理と構成、そして得られる情報の解釈と利用の仕方について基礎的な理解が得られることを目標とする。

授業方法:

教科書と配布プリントによる講義と、実際にどのような現場で食品成分の分析業務が日常的に行われているのか、全国の分析機関（第3機関）の業務や公定法について説明する。また毎回学習したことについて小テストを行うことで理解度を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品分析の概要と分析データの取り扱い、分析化学に関わる基礎理論（濃度、化学平衡・pH・緩衝液、酸化と還元）について	高等学校で化学を履修していない学生も受講するので、特に準備は求めない。
2.	容量分析と重量分析、吸光光度分析について	食品分析の概要と分析データの取り扱いと分析化学に関わる基礎理論（濃度、化学平衡・pH・緩衝液、酸化と還元）について復習しておく。
3.	食品成分の定性分析と定量分析について	容量分析と重量分析、吸光光度分析について復習しておく。
4.	食品成分の定量に用いられる機器分析法（紫外・可視分光分析法、蛍光・化学発光分析法）について	食品成分の定性分析と定量分析について復習しておく。
5.	食品成分の定量に用いられる機器分析法（イオン選択性電極法、原子吸光分析法、近赤外分光法）について	食品成分の定量に用いられる機器分析法（紫外・可視分光分析法、蛍光・化学発光分析法）について復習しておく。
6.	食品成分の分離・定量に用いられる機器分析法（クロマトグラフィーと電気泳動法）について	食品成分の定量に用いられる機器分析法（イオン選択性電極法、原子吸光分析法、近赤外分光法）について復習しておく。
7.	食品成分の構造解析に用いられる機器分析法（赤外分光分析法、磁気共鳴法、質量分析法）について	食品成分の分離・定量に用いられる機器分析法（クロマトグラフィーと電気泳動法）について復習しておく。
8.	食品成分の生化学的反応に基づく分析法（酵素や免疫学的反応を用いる分析法）について	食品成分の構造解析に用いられる機器分析法（赤外分光分析法、磁気共鳴法、質量分析法）について復習しておく。
9.	アミノ酸・タンパク質の分析と定量法について	食品成分の生化学的反応に基づく分析法（酵素や免疫学的反応を用いる分析法）について復習しておく。
10.	脂質の分析と定量法について	アミノ酸・タンパク質の分析と定量法について復習しておく。
11.	炭水化物の分析と定量法について	脂質の分析と定量法について復習しておく。
12.	ビタミンの分析と定量法について	炭水化物の分析と定量法について復習しておく。
13.	無機質の分析と定量法について	ビタミンの分析と定量法について復習しておく。
14.	食品成分の精製における溶媒による濃縮、抽出と二相分配、クロマトグラフィーによる分離とその具体例について	無機質の分析と定量法について復習しておく。
15.	まとめ	前回までの授業内容を教科書・配布プリント・ノートを使って復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

食品衛生監視員と食品衛生管理者の資格を取得するために必須の科目であるとともに、食品科学に携わる上で全ての分野で必要な知識となる。分析技術は日進月歩であり、分析機器メーカーからは毎年のように高性能な装置が開発され、食品企業や大学・公的研究機関においてはこれらの分析技術と分析機器類が普及しているため、食品成分の分析について基本的な原理を理解し、実践的な知識とすることが大切である。

フィードバックの方法:

課題として出題した小テストや演習問題は、授業中に解説・解答を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度、小テスト及び演習問題	40	授業への積極的参加度及び授業毎の小テストや演習問題で確認する。到達目標に掲げた食品分析化学に関する知識、理解度により評価する。
定期試験	60	到達目標に掲げた食品化学に関する知識、理解度により評価する。

教科書:

プリントを配付する。

参考書:

新藤一敏、森光　康次郎著 「食品分析化学（新スタンダード栄養・食物シリーズ18)」 東京化学同人
松井 利郎、松本清　編 「食品分析学—機器分析から応用まで」 培風館
日本食品標準成分表2015年度版　文部科学省科学技術・学術審議会資源調査会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対。
オフィスアワーで応対。

635160

京の料理と菓子

真部　真里子、岡本　隆史、鵜飼　治二

授業テーマ:

授業の概要:
京都の料理と菓子の伝統を支える調理技術や調理法ならびに精神を学ぶことによって、日本の食文化・食生活に対する理解を深める。

到達目標:
・京都の料理と菓子の伝統文化に触れることによって、京都、ひいては日本の食文化・食生活への関心を高める。
・「もてなしの心」の本質を理解し、日常の健全な食生活の在り方を自分なりに考察する。
・【菓子】和菓子の歴史や種類を学び、京菓子の奥深さと日本人の感性を理解する。
・【料理】種々の調理技術や調理法の食品学・調理科学的合理性を理解する。

授業方法:
受講人数は40名。受講希望者多数の場合は選考する。選考方法は、1年次秋学期の必修科目にて説明する(選考には一部、1年次の成績も考慮する)。
授業は、3 名の教員がリレー式で担当する。
4月:講義を中心とする(一部課題内容の発表を含む)
5月:講義と実践を含む演習【菓子】
6月:講義(デモンストレーションを含む)【料理】
7月:講義とグループ学習(発表会を含む)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	【講義】日本の食文化、京の食文化の変遷－料理編	新入生オリエンテーション期間に実施した京料理マナー体験、「食生活論」の講義で学んだ京の食文化に関する内容を復習しておく。
2.	【講義】日本の食文化、京の食文化の変遷－菓子編	1回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
3.	【グループ学習】京菓子で使用される用語	2回の講義中に配当された京菓子に関する用語について調べ、まとめておく。
4.	【講義と実践】季節の菓子	2、3回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
5.	【講義と実践】干菓子(打物、押し物他)	4回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
6.	【講義と実践】工芸菓子	5回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
7.	【講義と実践】季節の菓子と上生菓子	6回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
8.	【講義(含実演)】京料理のだし	7回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
9.	【講義(含実演)】京野菜	8回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
10.	【講義(含実演)】京料理と魚	9回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
11.	【講義(含実演)】京料理と日々の食生活	10回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
12.	【グループ学習】京料理に関する学び(8～11回)の振り返り	11回の内容をコメントペーパーにまとめておく。
13.	【グループ学習】各グループごとに、12回で選んだテーマについて発表	グループごとに、12回で決めたテーマについて発表できるように学習記録にまとめる。
14.	【グループ学習】京菓子に関する学び(4～7回)の振り返り	4～7回の内容を復習しておくこと。
15.	京菓子に関するまとめ	14回の内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
登録者多数の場合は選考がありますが、見る機会の少ない技術を目の当たりにする貴重な機会ですので、興味のある人は、まずは登録してください。受講可能となった場合は、選考に漏れた人がいることをしっかりと認識して、積極的な態度で受講ねがいます。
なお、5月には、上履き・調理用白衣・三角巾・手拭用タオルが必要になります。6月にも上履き・手拭用タオルを使用します。

フィードバックの方法:
コメントペーパーの内容については、必要に応じて、教室でまとめてコメントする。
学習記録の一部は、発表会に活用するので、発表会においてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加度	50	受講態度・コメントシートの内容・忘れ物有無によって、この講義への関心の高さと理解度を評価する。
発表	40	京料理に対する理解と関心の高さを評価する。
レポート	10	京菓子・和菓子への理解と関心の高さを評価する。

教科書:
適宜資料を配布する。

参考書:
伏木亨、熊倉功夫『だしとは何か』アイ・ケイコーポレーション
日本料理アカデミー監修『日本料理大全　プロローグ』シュハリイニシアティブ
石橋郁子(文)、宮野正喜(写真)『京菓子歳時記　末富の十二か月』光村推古書院
江原絢子、石川尚子(編)『日本の食文化　その伝承と食の教育』アイ・ケイコーポレーション
和食文化国民会議監修『和食文化ブックレット』1～10

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
原則、授業の前後に教室内で対応する。

635260

京の食材論

長友　　麻希子

授業テーマ:
京都の伝統食材について学びながら食文化への理解を深める。

授業の概要:
和食や和菓子といえば、誰もが京都をイメージするように、京都は歴史的に日本の食文化をリードしてきた都市である。本講義では、そんな京都の食文化を支える食材を取り上げ、生産される現場の様子や歴史的背景を紹介しながら、食をめぐる多様な価値観や意味を考察する。

到達目標:
京都の食文化の成り立ちを繙くことで、「食」の本質を見つめなおし、身近なところから視野を広げてもらうのがねらいである。

授業方法:
講義形式で行う。必要に応じてパワーポイント、DVD、資料などを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	京都の風土と食	
2.	京野菜1	
3.	京野菜2	
4.	精進料理1	※『典座教訓・赴粥飯法』
5.	精進料理2	
6.	京の水と大豆加工品（豆腐、ゆば）	
7.	和菓子1	
8.	和菓子2	
9.	宇治茶	※『喫茶養生記』
10.	畜産物の歴史と京都	
11.	京の漬物	
12.	日本酒	
13.	暦と食	
14.	京料理	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
京都の食文化の本質に迫っていくと、日本文化のユニークさや意外な特徴を知ることができます。客観的に日本文化を考えてみたい人にぜひ受講してもらいたいと思います。

フィードバックの方法:
授業中の発言、または出席カードのコメント欄を通じて

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	70	すべて記述、論述形式。
レポート	20	予習課題としてレポートを提出。評価は内容次第。
授業中のコメント等	10	

教科書:

参考書:
長友麻希子『にっぽん食探見』京都新聞出版センター
道元『典座教訓・赴粥飯法』講談社学術文庫
栄西『喫茶養生記』講談社学術文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:
授業中、もしくは教務課を通じて

635360

食文化論

橋爪　　伸子

授業テーマ:

授業の概要:

食文化とは社会集団、地域、時代等において共有され習慣化された食物摂取に関する生活様式である。その形成には各文化圏の風土、歴史、社会等のさまざまな要因が関与し、利用する食物や料理、食事作法、嗜好や美味の価値観などに反映されている。
本授業では食文化形成の諸要因をふまえ、いくつかの類型から世界の食文化を概観する。次に日本の食文化について特徴を理解したうえで、それが形成されてきた歴史を学び、次世代へ継承する意義を考える。

到達目標:

食文化形成の諸要因を理解し、多様な食文化を客観的に評価する視点と受容できる感性を身につける。
日本の食文化の特徴と、その成立の歴史を理解する。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食文化成立の要因、類型と伝播	復習:要点の整理、参考文献による学習
2.	さまざまな食文化:米を主食とする食文化	同上
3.	〃 :牧畜社会の食文化	同上
4.	〃 :味と香りによる類型	同上
5.	〃 :社会の規約	同上
6.	日本の食文化:特徴的な食材	同上
7.	〃 :特徴的な加工と調理	同上
8.	〃 :特徴的な様式と習慣	同上
9.	〃 :多様な地域性	同上
10.	日本の食文化史:先史～古代	同上
11.	〃 :中世	同上
12.	〃 :近世1	同上
13.	〃 :近世2	同上
14.	〃 :近代	同上
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問がある場合は質問票に記入して提出し、次回の授業時に解答・解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	70%	到達目標に関する理解度を評価する
受講姿勢	30%	受講姿勢を通し積極的な学習態度を評価する

教科書:

参考書:

江原絢子・石川尚子編著『日本の食文化 「和食」の継承と食育』アイ・ケイコーポレーション、2016
上田純一編『京料理の文化史』思文閣出版、2017
橋爪伸子『地域名菓の誕生』思文閣出版、2017
渡辺実『日本食生活史』吉川弘文館、2007
熊倉功夫『日本料理の歴史』吉川弘文館、2007
原田信男『和食と日本文化』小学館、2005
石毛直道『世界の食べもの　食の文化地理』講談社、2013
石毛直道監修『世界の食文化』農山漁村文化協会、2003-2007

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業前後に教室内で対応

635460

食と健康管理

真部　真里子、伊藤　節子、猿渡　綾子

授業テーマ:

授業の概要:
食生活や栄養が健康増進あるいは疾病の一次予防・重症化予防とどのように関係しているのか理解を深めるとともに、健康管理の視点から食生活や栄養のあり方を学ぶ。食品化学で学んだ食品成分の特性と栄養学で学んだ栄養素の機能に関する知識を実際の食生活にどのように活用すればよいかを理解する。

到達目標:
・健康管理に対する正しい情報を習得し、根拠のない情報と区別できる。
・健康管理に関して得られた知識を実生活に活かそうとする態度を身につける。

授業方法:
講義形式。3人の担当者がリレー方式で担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品と機能性	食品学の教科書等に記載の食の機能性と表示に関する部分を読んで、復習しておく。
2.	食と行動科学	1回目の講義時に指示したレポートをまとめる。
3.	食とカウンセリング	2回目の講義内容を復習しておく。
4.	三大栄養素	教科書P40～58を事前に読んでおく。
5.	ビタミン	教科書P61～64を事前に読んでおく。
6.	ミネラル	教科書P58～60を事前に読んでおく。
7.	食に関する教育（食育基本法、6つの基礎食品、食事バランスガイド、食事摂取基準など）	教科書P76～85、107～112を事前に読んでおく。
8.	行動療法と食行動の変容	7回目に指示した食事バランスガイドに則った食事記録を書いて提出する。
9.	ライフステージから見た食と健康１（胎児期、乳児期）	8回目に指示したセルフチェック表を記入する。 教科書P129～134を事前に読んでおく。
10.	ライフステージから見た食と健康２（離乳期、幼児期）	8回目に指示したセルフチェック表を記入する。 教科書P135～140を事前に読んでおく。
11.	ライフステージから見た食と健康３（学童期、成人期、高齢期）	8回目に指示したセルフチェック表を提出する。 教科書P140～148を事前に読んでおく。
12.	食の健康に与える影響（生活習慣病、メタボリックシンドロームと食事、運動）	教科書P149～168を事前に読んでおく。
13.	食物アレルギーの基礎知識	食物アレルギーについて知っていることをまとめておく。
14.	アレルギーと生活習慣病予防のための食事	前回授業で配布した資料を熟読して理解しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
7、8回目の課題はコメントを付けて教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	授業に積極的に参加し、正しい情報を積極的に入手しようとする態度・意欲を評価する。
レポート	15	授業内容の理解度と知識を実生活に活用する姿勢がある。かを基準とする。
定期試験	55	健康管理に関する正しい知識の習得度により評価する。

教科書:
（公社）日本フードスペシャリスト協会編『三訂栄養と健康』（建帛社）

参考書:
伊藤節子『講談社現代新書　親と子の食物アレルギー』（講談社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応

635560

住居学

河本　　ゆう子

授業テーマ:　これからの住まいを考える

授業の概要:　私たちの暮らしの中で最も身近な環境である住まいを見直し、これからの社会、家族のかたち、生活に最適な住居についての考え方を学ぶ

到達目標:　住居学の基礎知識と設計の基礎を学び、多角的に住まいを見る力を身につける

授業方法:　講義および設計製図実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	住まいの機能と条件	住まいの基本的条件と機能について、自宅を対象に考察を行う
2.	住生活のあり方とその変遷	自宅の空間構成とその使い方を考える
3.	設計図の表現技法	さまざまなタイプの住まいの間取り図を収集する
4.	設計製図の基礎	平面図の描き方、基礎的な図面記号について理解する
5.	家族と住まい	家族のかたちと住宅の移り変わりについて考察する
6.	住まいの環境	空調・換気、照明など、快適な環境を支える設備について、自宅の設置状況を見直す
7.	安全・安心の住まい	自宅の築年数、構造などを確かめる
8.	住生活のための人間工学とインテリアデザイン	人体寸法、自室の寸法を実測する
9.	LDK空間の設計計画－エスキス	コンセプト、空間プランを検討する
10.	高齢者と住まい	高齢期の住まいに関する選択肢について考える
11.	LDK空間の設計計画－平面図	平面図を書く
12.	バリアフリーとユニバーサルデザイン	さまざまな視点から自宅の改善が必要な箇所を探る
13.	LDK空間の設計計画－仕上げ	図面全体を整える
14.	住まいの維持管理	住宅の種類と、そのメリット・デメリットについて考察する
15.	まとめ	これからの住まいのあり方について、まとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　家庭科教員免許を取得希望する学生さんのための科目です

フィードバックの方法:　提出課題にコメントを記入して返却します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	15	
演習	10	提出物の内容により評価します
設計製図	15	提出課題の内容、課題に取り組む態度を評価対象とします なお、設計製図が提出されない場合、単位を取得できません
試験	60	

教科書:　「私たちの住居学　サステティナブル社会の住まいと暮らし」オーム社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　質疑などは講義時間後に対応します

635660

被服製作実習基礎Ⅰ

稲岡　　まみ

授業テーマ:

衣服製作実習を通して、被服製作の基礎的な知識と、それに連動する技術を身につけ、被服の設計、縫製を自ら展開できる基礎力を涵養する。特に、人と衣服との関係、着衣基体としての人体形態、体型と衣服デザインの関係、デザインを表現するための素材、縫製、そして着装時の衣服の適合性･ゆとり、機能性、審美性について考察を加える。これによって消費者の立場から、それぞれの人に応じて、生理的にも心理的にも快適で美しい衣服とはどのようなものかを見極める基礎的知識と能力を習得させる。

授業の概要:

縫製の基礎として、手縫いの基礎、ミシン、ロックミシン、アイロンなどの機器の使用方法、素材の取り扱いを学ぶ。
また、課題作品は各自見本帳にまとめる。さらに綿素材のブラウスをとりあげ、被服製作実習Ⅱにつながる基礎的な洋裁の知識と技術の習得を目指す。

到達目標:

被服で扱われる素材についての基礎知識を身につける。
.基礎的な被服構成における縫製技法を習得する。
被服製作実習の指導方法もあわせて習得する。
着装の効果を理解し、心豊かな衣生活創造に向けた知識と能力を習得する。

授業方法:

授業概要に準じたクラスサイズで実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	授業に関する諸注意。
2.	被服製作に必要な道具の使用方法	被服製作に必要な道具の使用方法の説明と実習。
3.	手縫いの基礎1	玉止め、しつけ、まつり縫いなどの手縫いの基礎の実習。
4.	手縫いの基2	裾の始末についてさまざまな種類とその目的、技術を学ぶ。
5.	手縫いの基礎3	ホック付け、かんぬき止め、ループつけなど 手縫いの基礎1、2、3の見本帳をまとめる。
6.	ミシンの基礎1	ミシン下糸の巻き方、糸のかけ方を学び、直線縫いをする。
7.	ミシンの基礎2	ミシンの縫い目の調節方法を習得する。 ミシンの基礎1、2の見本帳をまとめる。
8.	綿素材の取り扱い ブラウス1	綿素材の取り扱いについて学ぶ。 綿のブラウスを取りあげ、下処理としての地の目の補正、裁断を学ぶ。
9.	綿素材の印付け ブラウス2	ルレット、チャコペーパーを使い、綿素材の印付けについて学ぶ。
10.	接着芯の取り扱い ブラウス3	アイロンを使用し、前見返し、衿に接着芯を接着する。
11.	ロックミシンかがり ブラウス4	ロックミシンで直線、曲線をかがる。
12.	ミシン縫いの基礎3 ブラウス5	脇、肩など立体になるように布を配置し、ミシンで縫い合わせる方法を学ぶ。
13.	ミシン縫いの基礎4 ブラウス6	衿の曲線部分を縫い合わせる。 適宜縫い代をカットし、細部までアイロンで美しく形を作る。
14.	ミシン縫いの基礎5 ブラウス7	袖下部分のミシン縫いをする。 縫い代をアイロンで割る。
15.	手縫いの基礎4 ブラウス8	袖口部分の奥まつりをする。適切にしつけ縫いをし、丁寧にまつる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

授業中に完成しなかった課題がある場合は、次回までに各自で完成させて授業に臨むこと。
理論の理解と丁寧な課題制作を目指してください。

フィードバックの方法:

提出物は採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	60	到達目標の習得度と理解度により評価する。
参加度	40	授業への取り組みの積極性、態度･意欲を評価する。

教科書:

参考書:

中屋典子、三吉満智子監修　服装造形学. 技術編 Ⅰ　文化出版局

獲得が期待される基礎的･汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能, Eメール

635760

被服製作実習基礎Ⅱ

稲岡　　まみ

授業テーマ:　ブラウス・スカートの製作

授業の概要:　洋服の基本アイテムであるブラウスおよびスカートの製作を行う。被服製作の一連の流れを実習を通して体験し、基礎的な洋裁の知識と技術の習得を目指す。また、本科目は教職課程の「家庭」教科に関する科目であり、家庭科の被服分野の指導方法についてもあわせて学習する。

到達目標:
1.被服における立体構成の基礎知識を身につける。
2.基礎的な洋裁技術を習得する。
3.洋服製作の工程を把握し、モノ作りの意義を理解する。
被服製作実習の指導方法もあわせて習得する。

授業方法:　授業概要に準じたクラスサイズで実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ブラウスの製作(1)	採寸とパターン作成
2.	ブラウスの製作(2) 製図とパターンの整理	パターンを完成させる。
3.	ブラウスの製作(3) 用布の見積りと裁断、芯地貼り、印付け(チャコペーパーとルレットを使用)	本縫いの準備
4.	ブラウスの製作(4) 本縫い(衿作り、身頃縫い合わせ)	本縫いを進める。
5.	ブラウスの製作(5) 本縫い(袖作り、縫い代のしまつ)	本縫いを進める。
6.	ブラウスの製作(6) 本縫い(衿付け、裾のしまつ)	本縫いを進める。
7.	ブラウスの製作(7) 本縫い(袖付け、ボタンホール、ボタン付け)	ブラウスを完成させる。
8.	スカートの製作(1) 採寸と製図(パターン展開)	パターンを完成させる。
9.	スカートの製作(2) 採寸と製図(パターン展開)	用布の見積りと裁断、印付け 本縫いの準備をする。
10.	スカートの製作(3) 本縫い(ダーツ・脇・後中心縫合わせ)	本縫いを進める。
11.	スカートの製作(4) 本縫い(ファスナー付け)	本縫いを進める。
12.	スカートの製作(5) 本縫い(ファスナー付け)	本縫いを進める。
13.	スカートの製作(6) 本縫い(裾上げ、ベルト作り)	本縫いを進める。
14.	スカートの製作(7) 本縫い(ベルト付け、ホック付け)	本縫いを進める。
15.	着装と評価	着装写真の撮影準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中に完成しなかった課題がある場合は、次回までに各自で完成させて授業に臨むこと。

フィードバックの方法:　提出物は採点して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
作品	60	到達目標の習得度と理解度により評価する。
参加度	40	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能, Eメール

635860

被服造形論

藤本　　純子

授業テーマ:

授業の概要:

この科目では、豊かな生活を送る上で望ましい被服の在り方について考え、そのような被服を形造るための理論を学ぶ。講義を通して被服造形に関する基礎知識を身につけ、技術に対する理解を深める。
「被服製作実習基礎」の履修者はこの科目をあわせて受講することが望ましい。

到達目標:

1. 被服造形の流れを理解する。
2. 被服造形に関わる人体構造、デザイン、材料と用具、構成等の基礎知識を身につける。
3. 被服造形におけるパターン設計の基礎理論を理解する。
4. 被服造形の技術の重要性について理解する。
5. 被服への関心を高め、豊かな衣生活を探る能力を養う。

授業方法:

講義形式の授業を中心とする。配布プリント、画像、映像により授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 被服造形の要素	
2.	被服の製作過程(1)	
3.	被服の製作過程(2)	レポート作成
4.	被服デザインの要素(1)	レポート作成
5.	被服デザインの要素(2)	
6.	人体の構造と体形	衣服のサイズ表示の調査
7.	材料と用具	
8.	パターン設計(1)基本型スカート	課題パターンの完成
9.	パターン設計(2)スカートのバリエーション	課題パターンの完成
10.	パターン設計(3)スカートのバリエーション	課題パターンの完成
11.	パターン設計(4)身頃原型とダーツ	課題パターンの完成
12.	パターン設計(5)袖	課題パターンの完成
13.	被服造形の変遷	
14.	現代の被服造形	レポート作成
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

提出物は採点して返却する。授業時に紹介して、解説をする場合もある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40	到達目標1, 2の知識や到達目標3の理解度、到達目標4, 5の考察力および論理的な論述力を評価する。
レポート	30	課題のねらいを理解し、取り組んだ内容を独自の視点から述べているかを評価する。
参加度	30	積極的・意欲的に授業に参加したかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

マナビーの掲示板機能, 授業の前後に教室内で応対, オフィスアワー

635960

まちづくり概論

齋藤　　朱未

授業テーマ:

授業の概要:
近年耳にすることが多い「まちづくり」について，多様な観点で“まち”や“むら”をとらえ，まちづくりとは何か，どのような視点があるのかを理解することで，これからの生活環境について考えていく。

到達目標:
・まちづくりとは何か，どのような手法があるのかを理解する
・農山村と都市との関係を理解しつつ，地域独自のまちづくりについて専門的な知識を広げる

授業方法:
講義形式を基本とし，数回のグループ学習を行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域とは	学んだ内容について整理しておく
2.	まちづくりとは	学んだ内容について整理しておく
3.	まちづくりの枠組み	学んだ内容について整理しておく
4.	住民主体のまちづくり	学んだ内容について整理しておく
5.	地域コミュニティとまちづくり	学んだ内容について整理しておく
6.	地域商業とまちづくり	学んだ内容について整理しておく
7.	都市の変化と現状	学んだ内容について整理しておく
8.	都市化による農村の変化	学んだ内容について整理しておく
9.	地域固有の資源とまちづくり	学んだ内容について整理しておく
10.	地域資源～地域由来の生活様式	学んだ内容について整理しておく
11.	地域資源～郷土食	学んだ内容について整理しておく
12.	地域資源～人材	学んだ内容について整理しておく
13.	生きものと暮らすまちづくり	学んだ内容について整理しておく
14.	安全安心なまちづくり	学んだ内容について整理しておく
15.	まとめ	学んだ内容について整理しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
身のまわりには色んな決まりや考えをもとにつくられた環境がある。私たち一人ひとりがまちつくる重要な要素であると認識し，受講することを望む。

フィードバックの方法:
毎回のミニレポートについては授業時に回収し，コメントをつけて次回授業までに返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及び課題提出	30	積極的に授業に参加し，まちづくりについて理解しようとしているかを評価する。
定期試験	70	まちづくりとは何か，どのように行なわれているのか，その手法を理解しているかを評価する。

教科書:

参考書:
森岡清志編「地域の社会学」有斐閣アルマ
石原武政・西村幸夫「まちづくりを学ぶ」有斐閣ブックス
佐々木一成「観光振興と魅力あるまちづくり」学芸出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力

教員との連絡方法:
オフィスアワー，Eメール，マナビー掲示板機能を利用

636060

くらしの色彩学

奥田　　紫乃

授業テーマ:　くらしの中の色彩

授業の概要:　色が見える仕組みを理解し、色彩に関する知識を身につける

到達目標:　実生活における色彩の効果をインテリアやファッションなどに活用する

授業方法:　スライドを用いた講義、色彩に関する実習課題による

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	色彩とは	色を見る(感じる)ために必要な3つの要素について再確認する
2.	光と色	光の波長について復習する
3.	視覚と色	色が見える仕組み、特に視細胞について復習しておく
4.	物体と色	赤いリンゴが見える仕組みを、他者に説明できるようにする
5.	様々な色の見え方(感じ方)	身の周りの対比効果や同化現象をとりあげ、考察する
6.	色を使ったコミュニケーション	色の表現方法について理解を深める
7.	色を定量的に扱う(混色系表色系)	混色について学び、混色系表色系について理解を深める
8.	混色実習	回転混色による混色について理解し、実習結果を考察する
9.	色を定量的に扱う(顕色系表色系)	顕色系表色系について理解を深める
10.	配色の基礎	PCCS表色系について理解を深め、基本的な配色ができるようにする
11.	配色の応用	インテリア分野における配色について、自身の好みの配色を選定し考察する
12.	明視性と心理効果	日常生活における色彩イメージについて考察する
13.	ユニバーサルデザインと色覚	色覚異常の人や高齢者の色の見えについて理解を深める
14.	配色課題-課題発表	様々な配色事例について考察する
15.	まとめ	生活における色彩の効果についてまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題はマナビーまたは配布資料による(最終授業までに返却する)

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	15	
課題	25	課題提出状況、提出内容による
試験	60	

教科書:　色と光の能力テストTOCOL公式テキストBASIC、株式会社リリス
インテリア・カラー・ブック、日本色研事業株式会社
fashion color co-oridante work paper、日本色研事業株式会社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　マナビーによる

636160

京と女性の住生活

西山　　紀子

授業テーマ:

授業の概要:　各回、京および女性の視点に立って解説を行い、居住環境の多様な変化がみられる現代において、しっかりとした生活指針がもてるよう、住に関する専門知識を深める。

到達目標:　京のまちの変化や女性のライフスタイルの変化に対応して身近な空間を整えることができる知識と技術を身につける。

授業方法:　講義を中心とするが、7回目と13回目の授業時間内に(予定)、30分程度のグループ討論と、発表を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 「住生活を学ぶこと」について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
2.	住まいと生活 住まいと起居様式、住まいの機能、住まいにおける公私等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
3.	住まいの変遷 住まいの変遷と生活の変化について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
4.	町家の暮らし 伝統的な住まい方、現代の住まい方等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
5.	町家のインテリア 内装材、家具調度品等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
6.	現代の住まいのインテリア 空間構成、インテリアエレメント、インテリアアクセサリー等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
7.	住まいと家族生活 家族の多様化、家族の変化と住要求、住まいの変化と発展等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
8.	結婚と住生活 家庭の構築と住まい、家事労働等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
9.	子育てと住生活 妊娠期の住生活、住まいと子どもへの愛着形成、住まいと子どもの発育等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
10.	男女共生社会における住生活 女性の社会参加、男女の役割変化による住要求の変化、住まいの変化と発展等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
11.	高齢化社会における住生活 高齢者の居住形態の多様性、住生活支援、介護の必要性による住要求の変化等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
12.	光の環境と住生活 採光と住生活、照明と住生活等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
13.	色の環境と住生活 色彩の心理、色彩調節と住生活等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
14.	自己実現と住生活 住生活への自主性、住まいづくりへの参加等について	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。
15.	まとめ	日常から身の回りの生活環境に注意し、気付いたこと、感心したこと、納得したこと、疑問に思ったことなどをメモやスケッチ等で記録しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　試験:コメントを付けて返却する。
レポート:コメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	まちやライフスタイルの変化に対応した住環境整備に関する理解度により評価する。
発表、討論	20%	討論では京や女性の視点を踏まえた意見が出せているか、 発表では討論の達成度と、各自が役割を果たせているかにより評価する。
授業への参加度	10%	授業参加への積極度により評価する。

教科書:　図解住居学編集委員会編 「図解住居学1　住まいと生活　第二版」 彰国社　2011年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

636260

女性のための法律入門

村上　　画里

授業テーマ:　知的財産法と通して学ぶビジネスの世界

授業の概要:　世界では、物や方法の発明・商品のデザイン・ネーミングなどを活用することによってビジネスが展開されています。そして、日常生活を豊かにするために、私たちは本や映画等に接しています。これらの分野は、知的財産、あるいは、知的財産権として保護を受けることができます。この授業では、ビジネスにおいてどのような形で知的財産権が用いられているのかを学んでいきます。

到達目標:　どのようなものが、どの知的財産権を保護する法律で守られるのかについてイメージができるようになり、発明、デザイン、商品名等がどの種類の知的財産権で保護を受けられるのかを考えるようになる力を身につけることを到達目標とします。

授業方法:　講義：30～40パーセント（受講者数確定時期により調整します。）
ディスカッション・グループワーク：60～70パーセント。5～6人のグループを複数もうけ、グループワークやディスカッションを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション、授業の進め方についての説明。身の回りの知的財産権。	教科書UNIT1の素読
2.	特許権侵害訴訟における訴訟戦略	教科書UNIT6の素読
3.	著作権で保護されるものとは	教科書UNIT8の素読
4.	会社名、商品名等を守る商標権	教科書UNIT14の素読
5.	グループディスカッション 発明、職務発明について	教科書UNIT4の素読
6.	グループディスカッション 特許権が侵害された場合にどうすべきか。逆に特許権を侵害されていると主張されたらどのような対応が可能か。	教科書UNIT7の素読
7.	グループディスカッション 発明者、冒認出願について	教科書UNIT4の素読
8.	グループディスカッション どのようなものが著作物としての保護を受けられるか。	教科書UNIT8の素読
9.	グループディスカッション 著作権侵害はどのようにして判断されるか。	教科書UNIT10の素読
10.	グループディスカッション 著作権人格権はどのような権利か。	教科書UNIT12の素読
11.	グループディスカッション 商標権の活用方法①	教科書UNIT14の素読
12.	グループディスカッション 商標権の活用方法②	教科書UNIT14の素読
13.	グループディスカッション 営業秘密vs特許権	教科書UNIT15の素読
14.	グループディスカッション 営業秘密vs特許権	教科書UNIT15の素読
15.	総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:　グループディスカッションをする班分けは、履修登録確定後に行う。履修登録が確定するまでは、知的財産法の大きな枠組みについて講義を行う。そのため、履修登録確定までの授業内容は変更する可能性がある。班分け後の授業においては、各回で与えられたテーマについて、グループ内で検討、討議をしてもらい、授業終了後にワークシートを提出してもらう。

フィードバックの方法:　・グループ討議の評価については、授業中に可能な限り行い、それが難しい場合は、マナビー掲示板を通じて行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
グループワーク	70	グループワークにおける自分の役割と到達度、討論では、与えられた課題に対する到達目標を踏まえてた発言をしているかを評価する。
定期試験	30	各法律に則ってどのようなものが知的財産権として保護されてるのか説得的に説明できているかどうかを基準とする。

教科書:　茶園成樹編『知的財産法入門』（第2版）、有斐閣、2017年

参考書:　特許庁　はじめての方へ～私たちの身の回りのアイデア、デザインなど～
https://www.jpo.go.jp/beginner/indexj.html
経済産業省　不正競争防止法の概要
http://www.meti.go.jp/policy/economy/chizai/chiteki/pdf/2016unfaircompetitiontextbookr2.pdf
学校における教育活動と著作権
http://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/seidokaisetsu/pdf/gakko_chosakuken.pdf

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応。

636360

女性のためのカウンセリング入門

伊東　　優

授業テーマ:　短期療法（ブリーフセラピー）を中心としたカウンセリング理論の概観と治療的コミュニケーションの実践的検討

授業の概要:

近年、こころの問題やカウンセリングに対する社会的関心が高まってはいますが、「カウンセリングではなにをするのか」「問題をどのように捉えていくのか」「どのように問題が解決するのか」「本当に効果があるのか」など、カウンセリングの実際について知る人は少ないかもしれません。
カウンセリング・心理療法には、〇〇療法と名のつくアプローチが山のようにあり、それぞれ独自の理論を構成していて着眼点もさまざまですが、総じてカウンセリングとは、臨床心理学に基づきコミュニケーション（相互作用）によって問題の解決を図る援助行為だといえます。どのようなカウンセリングであれ、そこにはセラピストとクライエントとの特殊な治療的コミュニケーション（相互作用）に基づく人間関係があります。

では、そもそもコミュニケーションとはなんでしょうか。カウンセリングに限らず、どのような人間関係も問題も、コミュニケーションというものから切り離すことはできません。にもかかわらず、コミュニケーションあるいは人間関係という概念は、漠然とした理解のもと無定義に用いられることも少なくありません。カウンセリングにおけるコミュニケーションの見立て方や技術を学ぶことは、広く日常生活におけるより円滑で充実した人間関係の構築に役立つでしょう。

本講義では、さまざまなカウンセリング理論を概観したうえで、とりわけ治療的コミュニケーションに対する実証的研究が進んでいる短期療法（ブリーフセラピー）に焦点を当て、「人間コミュニケーションの語用論」「システム論」「社会構成主義（social constructionism）」といった背景理論を実際の事例を通して学び、カウンセリングの実際とコミュニケーション技術の応用について検討していきます。

到達目標:

「知識・理解」種々のカウンセリング理論への知識を深め、プラグマティック（実用主義的）な援助姿勢を学ぶ。
「関心・意欲・態度」人間コミュニケーションの語用論、社会構成主義をベースに、人間心理に対する自己理解・他者理解を深める。
「表現・技能・能力」コミュニケーションの性質や機能についての理解を深め、柔軟な発想で、実践的に考察できる。

授業方法:

講義およびディスカッション。適宜、レジュメ、視聴覚教材を用いる。受講者の関心やニーズに柔軟に応じるため、シラバス記載の内容は適宜変更される場合がある。また、授業でのディスカッションのために、簡単な事前準備や小レポートを求める場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション－カウンセリングとはなにか	シラバスを熟読してくること。
2.	さまざまなカウンセリング理論（1）—精神分析、来談者中心療法	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
3.	さまざまなカウンセリング理論（2）—認知行動療法	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
4.	さまざまなカウンセリング理論（3）—短期療法、家族療法	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
5.	カウンセリング論の統合的視座－プラグマティズム（実用主義）とは	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
6.	人間コミュニケーションの語用論（1）－コミュニケーションの性質・機能	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
7.	人間コミュニケーションの語用論（2）－パラドキシカルなコミュニケーション	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
8.	問題とその解決－社会構成主義	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
9.	TVドラマ『リーガル・ハイ』で考える問題の社会構成	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
10.	カウンセリングの見立てと介入－コミュニケーションの悪循環と良循環	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
11.	変化の原理－コンテンツとコンテクスト	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
12.	コミュニケーション技法－傾聴・質問・コンプリメント・リフレーミング	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
13.	セルフケア技法（1）－アサーション	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
14.	セルフケア技法（2）－マインドフルネス	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
15.	まとめ	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では一方的な知識の習得を求めるのではなく、授業内でのディスカッション・対話を通じてカウンセリング、臨床心理学に対する知的好奇心が刺激されることを望みます。授業への参加度を高く評価しますので、積極的な発言を期待します。

フィードバックの方法:

提出されたコメントペーパーは適宜講義内で扱い、まとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度、コメントペーパー	60	講義・ディスカッションへの積極的参加やコメントペーパーの内容によって到達目標「知識・理解」「関心・意欲・態度」「表現・技能・能力」が達成されているかを評価する。
定期試験	40	主に自由記述式の設問に対して論理的に考察でき、到達目標「知識・理解」「関心・意欲・態度」「表現・技能・能力」が達成されているかを評価す

教科書:

日本ブリーフセラピー協会編　Interactional Mind Ⅷ（2015）　特集：ブリーフセラピーテキスト＆ワーク　北樹出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:

授業後に教室内で対応する。

636460

女性のための生涯発達論

伊東　　優

授業テーマ:　ライフサイクル全般にわたる心理発達の概観と、直面しやすい諸問題についての発達心理学および臨床心理学的検討

授業の概要:

「生涯発達論」とは、「人の心は生涯を通じて発達、変化する」という観点から、人間の心的発達を乳児期から青年期だけでなく、その後の成人期、中年期、老年期までも視野にいれ、ライフサイクル全体を通じた心の変化の特徴やプロセスを明らかにしようする学問です。乳幼児期や児童期、思春期はもちろん、青年期、成人期以降も、さまざまなライフイベントや心理発達課題に直面し、葛藤しながら心は変化・発達していきます。

とりわけ、現在私たちが過ごしている青年期は「どのような生き方が私らしいのだろうか。」「自分らしい人生とはなんだろうか。」といったアイデンティティの葛藤を迎える時期として重要です。2016年、時限立法とはいえ女性活躍推進法が施行されたように、近年女性をめぐるライフスタイルの選択、アイデンティティの模索といった女性としての生き方にまつわる問題は、かつてないほどに注目されています。それは、現代における、女性の生き方に対する価値観の多様化の反映でもあり、成人期における職業選択のみならず、女性の生活全般、生涯にわたる正解のない問題テーマです。

本講義では、性の受容、進路選択、職業生活、家庭生活、結婚・出産・子育て、老いの受容、介護といったライフイベントや、友人関係、異性関係、親子関係、職場関係といった対人関係における心理的問題と絡めながら、ライフサイクル全般にわたる、主に女性の生涯発達プロセスを学び、多様な価値観についての相対的理解を深めていきます。

到達目標:

「知識・理解」人の心理発達を、生涯を通じた変化プロセスとして捉える視点がもて、各発達段階における心理課題を理解できる。

「関心・意欲・態度」各発達段階、ライフサイクルにおける諸問題に関心をもち、相対主義的視座に立ち、自己理解・他者理解を深める。

「表現・技能・能力」各発達段階、ライフサイクルにおける諸問題に対して柔軟な発想で、解決志向視点をもてる。

授業方法:

講義およびディスカッション。適宜、レジュメ、視聴覚教材を用いる。受講者の関心やニーズに柔軟に応じるため、シラバス記載の内容は適宜変更される場合がある。また、授業でのディスカッションのために、簡単な事前準備や小レポートを求める場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション－こころの一生と生涯発達	シラバスを熟読してくること。
2.	現代女性におけるライフサイクルの変化	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
3.	多様な生き方と心理発達－社会構成される価値観と自己選択	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
4.	乳幼児期－女の子としての自分	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
5.	児童期－女の子らしさ（性役割）と社会性の発達	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
6.	思春期－対人関係の葛藤と心身の変化	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
7.	青年期（1）－アイデンティティの模索と確立	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
8.	青年期（2）－対人関係の葛藤	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
9.	成人初期（1）－さまざまなライフスタイルの選択とアイデンティティ	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
10.	成人初期（2）－職業生活をめぐる問題	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
11.	成人初期（3）－配偶者選択と結婚をめぐる問題	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
12.	成人初期（4）－出産・子育てをめぐる問題	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
13.	中年期－中年期の危機と対人関係	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
14.	老年期－役割変化への適応と死の受容	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。
15.	まとめ	教科書および配布資料における指定範囲を読み、内容を把握してくること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この授業では一方的な知識の習得を求めるのではなく、授業内でのディスカッション・対話を通じて生涯発達、ライフサイクルを中心テーマとして、発達心理学、臨床心理学に対する知的好奇心が刺激されることを望みます。授業への参加度を高く評価しますので、積極的な発言を期待します。

なお、現代における価値観の多様化は、主体的な人生選択が可能となり自己実現の機会や幅が広がる一方で、ライフスタイル選択には常に自己決定・自己判断がつきまとい、生涯を通じて葛藤や矛盾を抱えながら生きるということにもなります。自分とは相容れない価値観との衝突や葛藤の機会が増えることにもなるでしょう。特定の価値観や視点に囚われ、固執し、相容れない価値観を排斥すれば、自己の内部ではかえって価値観の多様性を失うというパラドックスを生んでしまいます。特定の価値観に囚われたり固執したりせず、様々な価値観に好奇心をもって触れながら、他者との対話を重ね、葛藤し学んでいこうとする姿勢を求めます。

フィードバックの方法:

提出されたコメントペーパーは適宜講義内で扱い、まとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度、コメントペーパー	60	講義・ディスカッションへの積極的参加やコメントペーパーの内容によって到達目標「知識・理解」「関心・意欲・態度」「表現・技能・能力」が達成されているかを評価する。
定期試験	40	主に自由記述式の設問に対して論理的に考察でき、到達目標「知識・理解」「関心・意欲・態度」「表現・技能・能力」が達成されているかを評価す

教科書:

岡本祐子・深瀬裕子　編著　2013　エピソードでつかむ生涯発達心理学　ミネルヴァ書房

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、思いやる力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業後に教室内で対応する。

636560

女性のためのライフプランニング

村上　　元庸、髙橋　　玲

授業テーマ:　女性が健康に生きるために

授業の概要:　現代の人々の最大の関心の一つである健康、医療、高齢をキーワードに講義を行う

到達目標:　健康、老化に関する関心と確かな知識を得る

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康について(村上)	関連分野の予習をして臨む
2.	女性の健康、疾患予防(村上)	関連分野の予習をして臨む
3.	健康と幸福感について(村上)	関連分野の予習をして臨む
4.	ライフサイクル、思春期、成人期、中年期(村上)	関連分野の予習をして臨む
5.	ライフサイクル、老年期 (村上)	関連分野の予習をして臨む
6.	現代の疾病構造〔総論〕(村上)	関連分野の予習をして臨む
7.	疾患(疾患　各論1)(高橋)	関連分野の予習をして臨む
8.	疾患(疾患　各論2)(高橋)	関連分野の予習をして臨む
9.	女性における医学的諸問題(総論)(高橋)	関連分野の予習をして臨む
10.	女性における医学的諸問題(疾患　各論1)(高橋)	関連分野の予習をして臨む
11.	.女性における医学的諸問題(神経疾患　各論2)(高橋)	関連分野の予習をして臨む
12.	.女性における医学的諸問題(精神疾患　各論3)(村上)	関連分野の予習をして臨む
13.	.女性における医学的諸問題 (高橋)	関連分野の予習をして臨む
14.	高齢社会、老化、介護、医療、緩和医療について(村上)	関連分野の予習をして臨む
15.	総括	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60	講義内容の理解度により評価する
授業への積極的参加度	40	

教科書:　配布資料

参考書:　授業で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

636660

空間情報学

齋藤　　朱未

授業テーマ:

授業の概要: 地図はどのように作られるのか，地図を読むことでなにがわかるのか，生活の中における「空間」を読み解く。

到達目標: まちづくりの基盤である空間情報について，専門的な知識を身につける

授業方法: 講義形式を基本とし，数回の個人・グループワークを行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地図の成り立ち1	出された課題について自身で調べてみる
2.	地図の成り立ち2（地理の確認）	地理の内容について復習する
3.	地図の成り立ち3（地図作り）	地図から読み取れることを考えてみる
4.	地図を読む1（地図の種類）	地図の種類について復習する
5.	地図を読む2（地図記号）	地図記号について復習する
6.	地図を読む3（等高線，地性線）	等高線等について復習する
7.	地図を読む4（地図から立体を検討する）	地図を立体的に把握する事項について復習する
8.	生活と地図の活用1（主題図の読み取り）	身近な地図を観察しておく
9.	生活と地図の活用2（主題図の読み取り）	主題図の読み取りを深める
10.	地理空間情報とは？	地理空間情報について復習する
11.	身のまわりの空間情報（GPSとは？）	GPSについて復習する
12.	身のまわりの空間情報（写真測量とは？）	写真測量について復習する
13.	空間情報と地域理解1（統計データ）	統計データを観察してみる
14.	空間情報と地域理解2（地域調査）	地域調査の方法を復習する
15.	まとめ	これまでの内容を整理し，まとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス: 地理が得意ではなくても構いません。地図に関心を持ち，自分たちの生活がどのような環境にあるのか理解したいという気持ちを持って受講することを望みます。

フィードバックの方法: レポートはマナビー上で提出確認を行う。毎回のミニレポートについては授業時に回収し，コメントをつけて次回授業までに返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	20	講義時に指示された課題の提出状況，内容により評価する。
出席及び課題提出	30	積極的に授業に参加し，空間情報について理解しようとしているかを評価する。
定期試験	50	授業内容を理解しているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、創造力

教員との連絡方法: オフィスアワー，Eメール，マナビー掲示板機能を利用

636760

児童福祉論

宮本　　義信

授業テーマ:　子ども家庭危機の局面に児童福祉の視点からどう対応するのか

授業の概要:　子ども・配偶者虐待、非行、傷病・障害、失業・経済破綻、別離・失踪等などの子ども家庭危機に対する支援の方法について児童福祉の視点から考察し、家族が知っておきたい基礎知識の獲得を目指す。危機とは危険であると同時に好機である。従来の殻を破って新しい家族を創り出す変容の機会であり、その局面に対するすばやい対応が求められている。しかし実際そうした危機に対応できずに、問題をより一層深刻化させている現実も少なくない。授業では、こうした事例を踏まえて、問題の掘り起こし（何が問題か？）と対処の仕方（どうするか？）を2本の柱として展開する。

到達目標:　子ども家庭問題のアセスメント方法（問題の掘り起こしと対処の仕方）に関する基礎を修得する。

授業方法:　エクササイズ、ケーススタディ、グループディスカッションなどを積極的にとりいれ、参加型授業に留意したい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	子ども家庭問題の理解—「子ども一家庭・地域—福祉」の三点観測—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	児童福祉の学びに向かって（1）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	児童福祉の学びに向かって（2）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	事例検討：A子のケース	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	児童福祉の担い手たちと施設・機関（1）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	児童福祉の担い手たちと施設・機関（2）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	事例検討：B子のケース	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	事例検討：C夫のケース	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	ひとり親家族とくらしの支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	子どもの成長と地域における子育て支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	障がい乳幼児の療育と家族（親）支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援事業計画	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	事例検討：D夫のケース	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	子ども・若者育成支援一現状、課題一	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	ふりかえいとまとめ、補足的な説明	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	70	出席を含む授業への参加・態度およびミニレポート内容
期末レポート	30	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業前後に対応

636860

居住計画学

麻生　　美希

授業テーマ:　持続可能な住まいとまちのあり方

授業の概要:
・都市と住まいの歴史的な変遷や地域性、住まいを支える様々な要素と、それらの役割について学びます。
・身近なまちについて、実際に観察・分析し、担い手も考慮したまちの改善策を提案します。
・現代日本の課題を踏まえ、どのようなまちづくりが求められているか理解します。

到達目標:　まちを読み解く力とまちづくりのプロセスに関する基礎知識を身につけることを目標とします。

授業方法:　レジュメ、スライドによる講義を基本とし、一部、フィールドワーク、グループワーク、プレゼンテーションを含みます。フィールドワークの日時は地域の方と参加者と相談して決めます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	住まいを支える条件と要素	特にありません。
2.	都市と住まいの変遷	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
3.	地域固有の集落と都市	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
4.	日本の都市と地域の課題	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
5.	パブリックスペースの役割	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
6.	商業施設の役割	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
7.	ストックを生かすまちづくり	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
8.	身近なまちの分析①	各自でフィールドについて事前に調べ、フィールドワークの準備をします。
9.	身近なまちの分析②	フィールドワーク後すぐに、メモ・写真・地図の整理などを各自で行います。
10.	まちづくりの担い手	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
11.	コミュニティのデザイン	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
12.	まちづくりの進め方	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
13.	身近なまちの改善	8,9回目の授業で明らかとなった課題を解決するためのアイデアを出し合い、プレゼンテーションの準備をします。
14.	計画からマネジメントへ	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
15.	まとめ	前回までの授業内容を復習しておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　わからなかったこと、疑問点を書くことができるミニレポートを提出してもらいます。必要に応じて次回の授業にてコメント・説明を行います。また、プレゼンテーションに対してもコメントをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	50	積極的な授業への参加や、フィールドワーク・グループワーク・プレゼンテーションへの前向きな姿勢を評価します。
定期試験	50	授業内容の理解度を評価します。

教科書:　伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉編著 『都市計画とまちづくりがわかる本　第二版』 彰国社

参考書:　アトリエ・ワン 『コモナリティーズ　ふるまいの生産』 LIXIL出版
原広司 『集落の教え100』 彰国社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーもしくはemail

636960

安全・安心のまちづくり

生田　英輔、延原　理恵、高井　逸史

授業テーマ:　日常から非日常におけるまちの防災や安全について考える力を付与する

授業の概要:　まちづくりにおける居住者の生活の質を考える場合、快適性、利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。本講義では地震などの自然災害のみならず火災や住宅内事故などの日常災害をも対象として、そのメカニズムと防災・安全対策について講じる。また、犯罪も取り上げて防犯環境設計について講じる。

到達目標:　受講生は各種建物を含むまちづくりにおける防災・安全性の確保に関して説明および計画できるようになる。

授業方法:　パワーポイントによる図表や動画を用いた講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　まちの防災・安全・安心	シラバスを読んで授業の概要について理解する
2.	地震災害①　地震のメカニズム、地盤と震害	地震のメカニズム、地盤と震害に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
3.	地震災害②　建物被害	地震時の建物被害に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
4.	地震災害③　地震火災・津波、避難行動	地震火災・津波、避難行動に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
5.	地震災害④　防災まちづくり	防災まちづくりに関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
6.	平常時火災①　火災の実態	火災に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
7.	平常時火災②　防火設備、防火計画	防火設備、防火計画に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
8.	台風・洪水災害①　台風、洪水、水害	台風、洪水、水害に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
9.	台風・洪水災害②　水防、避難行動	水防、避難行動に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
10.	犯罪　街頭犯罪、防犯環境設計	街頭犯罪、防犯環境設計に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
11.	雪氷災害　豪雪地帯、雪害	豪雪地帯、雪害に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
12.	日常災害①　日常災害と非日常災害	日常災害と非日常災害に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
13.	日常災害②　バリアフリーとユニバーサルデザイン	バリアフリーとユニバーサルデザインに関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
14.	日常災害③　高齢者対応の住まいとまちの安全対策	高齢者対応の住まいとまちの安全対策に関する文献、資料、記事、論文等を読んでおく
15.	まとめ	各回の配布資料を理解し、関連する文献、資料、記事、論文等を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポート課題に対してコメントを返します

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	まちづくりにおける防災・安全に関する知識や理解度により評価する
レポート	20	まちづくりにおける防災・安全に関する調査結果の完成度と評価についてどの程度独自の視点があるかを基準とする

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

637060

コミュニティ社会心理学

石盛　　真徳

授業テーマ:　少子高齢化社会における「まちづくり」活動

授業の概要:　日本は人類史上例を見ないほど急速に人口減少社会に移行しており、そのことは地域社会においても様々な問題を生じさせている。また、地方自治体の財政難により、これまでの行政的な手法だけでは、地域コミュニティにおける諸問題の解決が困難となっている。その一方で、NPOやボランティア団体等の活動による、まちづくり活動がある程度は活発に行われるようになり、市民自身によって問題解決が取り組まれている。この授業では、さまざまなテーマに関する身近なまちづくり活動について、コミュニティ心理学・社会心理学の理論的枠組みを用いて検討し、諸問題の解決への有効なアプローチについて理解を深め、かつ、そのような分析能力を受講生自身が身につけることを目的とする。

到達目標:
1. コミュニティ心理学の基本概念と理論について説明できる。
2. 様々な分野での市民参加の取り組みについてコミュニティ心理学の枠組みを用いて分析・評価できる。
3. 身近な社会問題やまちづくり活動について、自分で行った分析結果や評価に基づき解決策を提言できる。

授業方法:　授業は講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コミュニティ心理学の歴史と基本概念	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
2.	犯罪とコミュニティ1 :近隣コミュニティと犯罪予防	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
3.	犯罪とコミュニティ2:近隣コミュニティと犯罪に関する理論	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
4.	犯罪とコミュニティ3:再犯防止と社会内処遇	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
5.	災害とコミュニティ1:リスク認知の特徴	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
6.	災害とコミュニティ2:地域での防災対策・活動	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
7.	環境問題とコミュニティ1 :地域環境問題の構造	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
8.	環境問題とコミュニティ2 :環境配慮行動の意思決定プロセス	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
9.	景観とコミュニティ1:景観意識の変遷	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
10.	景観とコミュニティ2:景観をめぐる問題と法制度	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
11.	景観とコミュニティ3:景観のよさの評価	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
12.	ボランティアと市民参加1:ボランティア活動の概要	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
13.	ボランティアと市民参加2:ボランティアへの参加とコミュニティ	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
14.	行政とのパートナーシップ1: 「協働」を支える理論的背景	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。
15.	行政とのパートナーシップ2: 行政とのパートナーシップにおける課題	教科書および参考書の該当箇所をよく読んで予習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　街を歩いていて気付いたことや報道等で気になったコミュニティ関連のトピックスについては、必ずインターネット等で調べてどのような背景があるのかを考えてみてください。

フィードバックの方法:　・ミニレポートに関しては、代表的な内容のレポートについて、授業の冒頭で、復習を兼ねて講評する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	30	各回の授業で解説したコミュニティ心理学の概念と理論を用いて考察し、ミニレポートとして適切にまとめられているのかで評価を行う。
期末レポート	70	自分の居住地・出身地で取り組まれている「まちづくり」活動、または自分がこれまでに関わったことのある「まちづくり」活動について、SWOT分析を行い、Strength（強み）、Weakness（弱み）、Opportunity（機会）、Threat（脅威）の各側面について、コミュニティ心理学の観点から、その活動の問題点や可能性について適切に論じられているかで評価を行う。 具体的な評価割合は、1. まちづくり活動の概要をわかりやすく説明できているか、分析の対象とする活動の2. Strength（強み）、3、Wea

教科書:　加藤潤三・石盛真徳・岡本卓也（編）「コミュニティの社会心理学」 ナカニシヤ出版 (2013)

参考書:　植村勝彦 ・高畠克子・箕口雅博・原裕視・久田満（編）「よくわかるコミュニティ心理学［第2版］」 ミネルヴァ書房 (2012)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　メール：m-ishimori@haruka.otemon.ac.jp

637160

景観デザイン学

麻生　　美希

授業テーマ:　景観の捉え方とデザインの手法

授業の概要:
・時代によって風景の意味するものや役割が異なることを学びます。
・景観特性の把握と景観保全・形成の手法について学びます。
・景観の美醜や、これからの景観デザインについて考えます。

到達目標:　都市計画やまちづくり分野における景観の基礎知識を身につけることが目標です。

授業方法:　レジュメ、スライドによる講義を基本とします。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	景観デザインを学ぶ意義	特にありません。
2.	風景の歴史①	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
3.	風景の歴史②	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
4.	観光のまなざし	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
5.	景観の美醜	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
6.	景観という概念	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
7.	地域固有の景観特性の把握①	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
8.	地域固有の景観特性の把握②	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
9.	地域固有の景観特性の把握③	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
10.	景観保全・形成の手法	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
11.	景観保全・形成の事例①	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
12.	景観保全・形成の事例②	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
13.	景観保全・形成の事例③	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
14.	新しい景観の創出	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
15.	これからの景観デザイン	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　わからなかったこと、疑問点を書くことができるミニレポートを提出してもらいます。必要に応じて次回の授業にてコメント・説明を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	50	積極的な授業への参加を評価します。
レポート	50	プレゼンテーションのマナー・論理性・独創性等で評価をします。

教科書:

参考書:
五十嵐太郎 『美しい都市・醜い都市　現代景観論』 中央公論新社
中川理 『造形ライブラリー06　風景学　風景と景観をめぐる歴史と現在』 共立出版
文化的景観学検討会 『地域のみかた　ー文化的景観学のすすめー』 独立行政法人 国立文化財機構 奈良文化財研究所
日本建築学会編 『景観法活用ガイド　市民と自治体による実践的景観づくりのために』 ぎょうせい

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法:　マナビーもしくはemail

637260

テキスタイルデザイン実習

平光　　睦子

授業テーマ:　テキスタイルデザインの基本的な技法を学ぶ

授業の概要:　作品制作をとおして平面デザインの基本的な方法論を学ぶとともに、染色の技法を修得し素材や色彩にたいする感性を磨きます。フェルト、型染め、デジタルプリントの各技法の特徴を理解しそれに適したデザインを創作し、作品として仕上げます。

到達目標:
①平面デザインの基礎知識を学ぶ
②フェルトの基本的な技法を修得する
③染色（型染め）の基本的な技法を修得する
④デジタル・プリントの基本的な技法を修得する

授業方法:　定員を20名とし、実習を基本とします。 作業によっては補講期間内に実施する場合があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション ニードル・フェルトの基礎知識	
2.	ニードル・フェルトの技法	制作工程の事前・事後学習をする
3.	フェルト（コースター）の色とデザイン	完成した作品の制作工程をふりかえり、課題シートを記入する
4.	フェルト（コースター）の技法	制作工程の事前・事後学習をする
5.	型染めの基礎知識	完成した作品の制作工程をふりかえり、課題シートを記入する
6.	型染め（バンダナ）のデザイン	作例を調査しデザイン案を考え、 素材となる写真や画像を準備する
7.	型染め（バンダナ）の型制作	制作工程の事前・事後学習をする
8.	型染め（バンダナ）の技法	色やレイアウトについて、デザイン案を考える
9.	型染め（バンダナ）の技法	色やレイアウトについて、デザイン案を考える
10.	デジタル・プリントの基礎知識	完成した作品の制作工程をふりかえり、課題シートを記入する
11.	デジタル・デザインの技法	作例を調査しデザイン案を考え、 素材となる画像を準備する
12.	デジタル・デザインの技法	制作工程の事前・事後学習をする
13.	デジタル・デザインの技法	制作工程の事前・事後学習をする
14.	裁断、縫製、仕上げ	仕上がりを想定し、材料を準備する
15.	提出課題のふりかえりとまとめ	完成した作品の制作工程をふりかえり、課題シートを記入する

受講者へのメッセージやアドバイス:　各回の達成目標を理解し、必要に応じて授業時間外にも作業するなど進行状況は各自で管理してください。準備物等は授業内に連絡します。

フィードバックの方法:　作品完成後、課題シートを作成し提出してください。課題シートにはコメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	授業の進行に合わせて作業を進め、意欲的に取り組むかを評価します
課題作品・課題シート	60	到達目標①～④について作品における発想、デザイン、作業などの点から評価します

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示板機能

637360

地域計画学演習

齋藤　　朱未

授業テーマ:

授業の概要:
テーマに基づいて身のまわりの環境について理解を深め，それを他人に伝えるための方法について学ぶ。
（H30年度は鴨川について行う）

到達目標:
身近な環境において多様な視点で物事を捉え，そこに存在する問題を解決するための知識を習得する。

授業方法:
授業時間外の学外見学実習を行なう。
一人一人の積極的な授業参加により進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	講義内容について理解する
2.	鴨川とは？その歴史を調べる	鴨川の歴史について調べる
3.	鴨川とは？その歴史を見てみる	鴨川の歴史について復習する
4.	鴨川とは？その歴史を理解する1	鴨川の歴史を説明できるようにする
5.	鴨川とは？その歴史を理解する2	鴨川の歴史をまとめておく
6.	鴨川の防災に調べる	鴨川の防災について調べる
7.	鴨川の防災に見てみる	鴨川の防災について説明できるようにする
8.	鴨川の防災について理解する	鴨川の防災についてまとめておく
9.	鴨川防災マップの作成1	鴨川の歴史・防災についてその仕組みを考える
10.	鴨川防災マップの作成2	鴨川防災についてハザードマップを読み解いておく
11.	鴨川防災マップの作成3	作成テーマごとに問題点を整理しておく
12.	鴨川防災マップの作成4	作成テーマに沿ってマップのポイントを押さえておく
13.	鴨川防災マップの作成5	作成テーマの特徴を整理する
14.	鴨川防災マップの作成6	作成テーマの特徴を説明できるようにする
15.	鴨川防災マップの完成・発表	作成テーマについてまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
レポートはマナビー上で提出確認を行う。毎回のミニレポートについては授業時に回収し，コメントをつけて次回授業までに返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60	積極的に授業に参加し，授業について理解しようとしているかを評価する。
レポート提出	40	授業内容について理解しているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
メールまたはマナビ―オフィスアワー，Eメール，マナビー掲示板機能を利用

637460

都市空間論

麻生　　美希

授業テーマ:　都市空間の特性と形成手法

授業の概要:
・都市の機能や空間特性、形成の歴史について学びます。
・日本の法定都市計画の基本的な枠組みと手法について学びます。
・都市空間の形成事例を学び、京都市の都市空間について考えます。

到達目標:　都市計画の基礎知識を身につけることが目標です。

授業方法:　レジュメ、スライドによる講義を基本とし、一部、グループワークを含みます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	都市の定義、機能と空間特性	特にありません。
2.	都市の起源と発展	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
3.	日本における都市形成史	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
4.	近代都市計画の導入と変遷	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
5.	法定都市計画の基本的な仕組みと役割	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
6.	総合計画と都市計画マスタープラン	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
7.	土地利用計画（区域区分、地域地区制度、地区計画）	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
8.	都市施設の整備と市街地開発事業	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
9.	人口減少時代の都市計画（コンパクトシティ）	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
10.	魅力的な都市空間の形成①	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
11.	魅力的な都市空間の形成②	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
12.	京都市の都市空間①	各自で京都市について事前に調べます。
13.	京都市の都市空間②	各自で京都市について事前に調べてます。
14.	都市計画の課題	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
15.	まとめ	前回までの授業内容を復習しておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　わからなかったこと、疑問点を書くことができるミニレポートを提出してもらいます。必要に応じて次回の授業にてコメント・説明を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	50	積極的な授業への参加を評価します。
定期試験	50	授業内容の理解度を評価します。

教科書:　伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉編著 『都市計画とまちづくりがわかる本　第二版』 彰国社

参考書:　都市史図集編集委員会編 『都市史図集』 彰国社
高橋康夫・吉田伸之・宮本雅明・伊藤毅 『図集　日本都市史』 東京大学出版会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　マナビーもしくはemail

637560

地域遺産論

麻生　　美希

授業テーマ:　文化財や文化資源の保存・活用

授業の概要:
・文化財の価値、保護の理念について学びます。
・まちづくりにおける文化財や文化資源の活用について学びます。
・観光について理解します。
・世界遺産の枠組みを参考にし、身近な資源の価値付けを行います。

到達目標:　まちづくりにおいて文化財や文化資源が果たしうる役割を理解することが目標です。

授業方法:　レジュメ、スライドによる講義を基本とし、一部、プレゼンテーションを含みます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文化財の保存・活用の意義	特にありません。
2.	文化財保護の歴史と類型	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
3.	文化財概念の広がり	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
4.	リビングヘリテージ	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
5.	文化財の活用	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
6.	暮らしに埋もれた文化資源	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
7.	文化財や文化資源のまちづくりへの活用	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
8.	エコミュージアムの取組	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
9.	観光の動向	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
10.	観光とまちづくり	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
11.	観光のマネジメント	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
12.	世界遺産の保護①	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
13.	世界遺産の保護②	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
14.	私の世界遺産①	課題に取り組み、プレゼンテーションの準備をしましょう。
15.	私の世界遺産②	課題に取り組み、プレゼンテーションの準備をしましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　わからなかったこと、疑問点を書くことができるミニレポートを提出してもらいます。必要に応じて次回の授業にてコメント・説明を行います。また、プレゼンテーションに対してもコメントをします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	50	積極的な授業への参加を評価します。
課題発表・レポート	50	プレゼンテーションやレポート執筆のマナー・論理性・独創性等で評価をします。

教科書:

参考書:
日本建築学会編 『まちづくりの教科書　第2巻　町並み保全型まちづくり』 丸善
日本エコツーリズム協会 フェノロジーカレンダー研究会編 『地域おこしに役立つ!　みんなでつくるフェノロジーカレンダー』 旬報社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビーもしくはemail

650560

生化学Ⅰ

倉橋　　優子

授業テーマ:　栄養素の代謝（主に糖質、脂質）を学ぶ

授業の概要:　生化学Iでは、口から摂取した栄養素（糖質、脂質）が体の中でどのように代謝されていくのかを中心に学ぶ。正常な状態での代謝を理解することで、次年度以降に履修する臨床病態学や臨床栄養学で疾患の成因や栄養食事療法などを理解することが出来るようになる。

到達目標:
・授業で学ぶ内容について、理解し、自分で説明することが出来るようになる
・授業で学んだ内容を復習し、国家試験対策にも使えるノート作りを行う
・毎回の授業の理解度、予習・復習を行ったかについて自己評価し、マナビーに記録する

授業方法:　講義形式で行う。教科書および配布プリントに従って進める。PowerPointスライドも併用する。授業は口頭での説明が中心となるので、しっかりと聞いて適宜メモ・ノートを取ること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人体の構成（身体構成成分、真核細胞と原核細胞）【1A-a, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
2.	人体の構成（細胞膜、細胞小器官）【1A-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
3.	人体の構成(細胞小器官つづき、細胞骨格)【1A-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
4.	酵素（一般的性質、酵素の分類、特異的作用、補酵素）【3D-a, b, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
5.	酵素（酵素反応速度論）【3D-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
6.	酵素（阻害様式、活性の調節、アロステリック酵素）【3D-b, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
7.	生体エネルギーと代謝（独立栄養と従属栄養、異化・同化、酸化・還元）【3A-a, b、3B-a】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
8.	生体エネルギーと代謝（生体酸化、酸化的リン酸化）【3A-c、3B-b, c、3C-a, b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
9.	糖質の代謝（解糖系）【4B-a】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
10.	糖質の代謝（クエン酸回路、ペントースリン酸回路）【4B-b, c】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
11.	糖質の代謝（グリコーゲンの合成・分解、糖新生）【4B-d, e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
12.	糖質の代謝（その他糖質の代謝、グルクロン酸経路、血糖の調節）【4B-d】 脂質の代謝（トリグリセリドの分解）【4C-b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
13.	脂質の代謝（トリグリセリドの合成、脂肪酸の分解）【4C-a, b】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
14.	脂質の代謝(脂肪酸の合成、不飽和脂肪酸の代謝、エイコサノイドの代謝、ケトン体の代謝)【4C-a, c, e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
15.	脂質の代謝（コレステロールの代謝、脂質の輸送とリポタンパク質）【4C-f, g】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　『高校生物』や本学で学ぶ『生物の基礎』、『栄養素の化学』を土台に知識を更に積み上げていくので、授業が始まる前までにしっかり復習しておくこと。講義は一つ一つ代謝について学ぶことになり、新しい言葉がたくさん出てきます。毎回の予習・復習がとても大事となってきますので、コツコツ頑張って下さい。『生化学I』と同時に開講する『基礎栄養学I』とは重なる部分が多いので、知識を上手く構築していって下さい。

フィードバックの方法:　質問、感想については、マナビーでコメントを返す。
また、必要に応じて授業中に全体へ向けてコメントする。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	授業で学んだ内容に対する理解度を評価する
授業への参加度	5	積極的にマナビーへのアンケート（自己評価や授業に対する感想や質問）へ参加しているかを評価する
ノート提出	15	後々まで使えるノート作りが出来ているかを評価する

教科書: 林　典夫・廣野治子, シンプル生化学【改訂第6版】, 南江堂

参考書: Visual栄養学テキストシリーズ　人体の構造と機能および疾病の成り立ち Ⅱ 生化学、中山書店
薗田勝、栄養科学イラストレイテッド演習版　生化学ノート　改訂第3版、羊土社
田村隆明、スッキリわかる！グングン身につく！生化学ドリル、南山堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、自己管理力

教員との連絡方法: オフィスアワーまたはマナビーの掲示板機能・アンケート機能を利用

650660

生化学Ⅱ

倉橋　　優子

授業テーマ:　栄養素の代謝(タンパク質・アミノ酸、核酸)、細胞内情報伝達について学ぶ

授業の概要:　生化学IIでは、生化学Iに引き続き、代謝の一部(タンパク質・アミノ酸、核酸)について学ぶ。さらにタンパク質の生合成、遺伝子発現について理解し、遺伝情報の伝達、代謝調節のための情報伝達などについて学習する。これらを学習することにより、臨床病態学や臨床栄養学で学ぶ代謝異常症などの理解につながる。

到達目標:
・授業で学ぶ内容について、理解し、自分で説明することが出来るようになる
・授業で学んだ内容を復習し、国家試験対策にも使えるノート作りを行う
・毎回の授業の理解度、予習・復習を行ったかについて自己評価し、マナビーに記録する

授業方法:　講義形式で行う。教科書および配布プリントに従って進める。PowerPointスライドも併用する。授業は口頭での説明が中心となるので、しっかりと聞いて適宜メモ・ノートを取ること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	アミノ酸・タンパク質の代謝(非必須アミノ酸の生合成、アミノ基転移反応、タンパク質・アミノ酸の異化)【4A-a, b, c】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
2.	アミノ酸・タンパク質の代謝(尿素回路、特殊生成物:ポルフィリン、クレアチニン、生理活性アミン、一酸化窒素)【4A-d, e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
3.	アミノ酸・タンパク質の代謝(生理活性ペプチド、タンパク質の合成・分解)【4A-f, g】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
4.	核酸の構造(核酸の基本構造、ヌクレオシドとヌクレオチド)【2D-a】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
5.	核酸の構造・機能(DNA、RNA、遺伝子、ゲノム、染色体)【2D-a, b, c, d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
6.	核酸の代謝(プリン・ピリミジンヌクレオチドの分解)【2D-e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
7.	核酸の代謝(プリン・ピリミジンヌクレオチドの合成)【2D-e】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
8.	タンパク質の生合成(細胞周期、複製、転写)【2D-g】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
9.	タンパク質の生合成(翻訳)【2D-h】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
10.	タンパク質の生合成(タンパク質の翻訳後修飾)、遺伝子操作・解析【2D-f, i】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
11.	遺伝子発現の調節(原核生物・真核生物)	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
12.	情報伝達の機構(細胞間情報伝達、シグナル伝達の概要)【5A-a, c】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
13.	情報伝達の機構(受容体による情報伝達)【5A-c】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
14.	情報伝達の機構(細胞内シグナル伝達)【5A-d】	事前学習として、授業内容のところにあるキーワードについて該当する部分を教科書で読んでおく。 復習は、授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。
15.	まとめ	授業で学んだことを見直し、自分で分かりやすいようにノートを作成し、まとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問、感想については、マナビーでコメントを返す。
また、必要に応じて授業中に全体へ向けてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	授業で学んだ内容に対する理解度を評価する
授業への参加度	5	積極的にマナビーへのアンケート(自己評価や授業に対する感想や質問)へ参加しているかを評価する
ノート提出	15	後々まで使えるノート作りが出来ているかを評価する

教科書:	林　典夫・廣野治子, シンプル生化学【改訂第6版】, 南江堂 適宜、資料を配布
参考書:	遠藤克己、栄養の生化学 1-2-3　改訂第3版、南江堂 薗田勝、栄養科学イラストレイテッド演習版　生化学ノート　改訂第2版、羊土社 田村隆明、スッキリわかる！グングン身につく！生化学ドリル、南山堂
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力
教員との連絡方法:	オフィスアワーまたはマナビーの掲示板機能・アンケート機能を利用

650760

解剖生理学Ⅰ

足達　　哲也

授業テーマ:

授業の概要:　人間の体の構造と各種の臓器や器官の働きについて学ぶ。

到達目標:　人体の構造と機能について分子レベルから細胞,組織,臓器レベルまで階層的・系統的に理解することを目標にする。さらに人が健康な生活を送るために必要な栄養学を理解でき、疾病の予防やその成り立ちと快復の促進など他の専門科目に対する学習の基礎知識を身に付けることを目標とする。

授業方法:　教科書ならびに配付資料を用いて液晶プロジェクターでの授業資料の提示説明および板書で講義する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人体の区分と解剖学用語	本講義の到達目標を理解し，講義に臨むこと。
2.	分子から細胞まで、細胞小器官の機能	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
3.	組織と膜	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
4.	皮膚の構造と機能	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
5.	骨格系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 骨格系の概略、体幹の骨	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
6.	骨格系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 体肢の骨	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
7.	筋系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 筋の種類、骨格筋の形状・構造、作用	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
8.	筋系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 主要骨格筋	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
9.	神経系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 神経系の構成・機能、脳室と脳脊髄液	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
10.	神経系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 中枢神経系、末梢神経系	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
11.	神経系の構成器官の構造と機能Ⅲ: 自律神経系	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
12.	感覚器系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 体性感覚および特殊感覚（味覚・嗅覚・聴覚）の構造と機能	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
13.	感覚器系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 特殊感覚（視覚・平衡覚）の構造と機能	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
14.	内分泌系の構成器官の構造と機能Ⅰ: 内分泌系の概要、内分泌腺（視床下部、下垂体、甲状腺、上皮小体）	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
15.	内分泌系の構成器官の構造と機能Ⅱ: 内分泌腺（副腎、心臓、腎臓、肝臓、消化器、性腺、胎盤、脂肪組織、血管内皮）	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義内容をより深く理解するために、図書館での視聴覚機器利用、資料室での標本観察およびラーニングコモンズでの情報収集・ディスカッションを行い、学習度を深めることが望ましい。

フィードバックの方法:　毎回の小テストについては，順次返却する。
また毎回の講義においてルーブリックを作成しており，毎回の講義受講後の理解度など自己評価を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60	講義で学習した内容全体を出題範囲とし，理解度を評価する。
平常小テスト	25	毎回講義の始めの予習テストおよび数回の確認テストの内容を評価する。
受講態度	15	毎回の講義の出席状況，ルーブリックによる自己評価や講義中の質問や応答など講義への参加度と貢献度を評価する。また私語や無断退室など受講上好ましくない行為に対してはマイナス評価を与える。

教科書:	栄養科学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能　改訂第2版　志村二三夫　羊土社　2014 （ISBN: 978-4-7581-0876-8）
参考書:	「人体機能生理学」（第8改訂第5版）杉晴夫（編著）、宮崎俊一　等（著）、南江堂、2009 (ISBN9784-5242-53647) 「ギャノング生理学原書25版」ウィリアム・F.　ギャノング, キム・E.　バレット（著）、岡田康伸（監訳）、医学書院、2017 （ISBN9784-6213-01883） 「解剖生理学図鑑　ヒトのからだの全てが初心者でもわかる決定版！！」アドルフ・ファーラー, ミハエル・シュンケ（著）、大久保眞人（監訳）、ガイアブックス、2013 （ISBN9784-8828-28648）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	E-mailにて連絡（kaibouseiriadachi@gmail.com）

650860

解剖生理学Ⅱ

足達　　哲也

授業テーマ:

授業の概要:　解剖生理学I に続いて残りの人間の体の器官系の構造と働きについて学ぶ（血液学、心臓血管系、リンパ系と生体防御、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系、人体発生学）。

到達目標:
（1）血液および心臓血管系の構成器官の構造と機能について理解できる。
（2）特異的・非特異的生体防御機構について理解できる。
（3）呼吸器系、消化器系、泌尿器系、生殖器系の構成器官の構造と機能を理解できる。
（4）ホメオスターシス（体温・体液・電解質）について理解できる。
（5）人体発生・再生医療について理解できる。

授業方法:　教科書ならびに配付資料を用いて液晶プロジェクターでの授業資料の提示説明および板書で講義する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	血液の構成要素と機能	本講義の到達目標を理解し，講義に臨むこと。
2.	心臓血管系の構成器官の構造と機能 I: 心臓、血液循環	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
3.	心臓血管系の構成器官の構造と機能 II: 胎児循環、血管構造、循環生理学	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
4.	リンパ系と生体防御	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
5.	内部環境の恒常性（体液、電解質、体温）とエネルギー代謝	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
6.	呼吸器系の構成器官の構造と機能 I: 呼吸器系構成器官の構造	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
7.	呼吸器系の構成器官の構造と機能 II: 呼吸器系構成器官の機能	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
8.	消化器系の構成器官の構造と機能 I: 口腔、咽頭、食道、胃	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
9.	消化器系の構成器官の構造と機能 II: 小腸,大腸	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
10.	消化器系の構成器官の構造と機能 III: 肝臓、胆嚢、膵臓	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
11.	泌尿器系の構成器官の構造と機能: 泌尿器系構成器官の構造	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
12.	泌尿器系の構成器官の構造と機能: 泌尿器系構成器官の機能	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
13.	生殖器系の構成器官の構造と機能 I: 男性生殖器	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
14.	生殖器系の構成器官の構造と機能 I: 女性生殖器	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。
15.	人体発生と再生医療	医学用語，特に解剖学用語に慣れるための小テストを課すので，事前学習を30分以上かけて行うこと。 また必ず講義当日には事後学習を1.5時間以上かけて行い、当日の講義内容を理解しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義内容をより深く理解するために、図書館での視聴覚機器利用、資料室での標本観察およびラーニングコモンズでの情報収集・ディスカッションを行い、学習度を深めることが望ましい。

フィードバックの方法:　毎回の小テストについては，順次返却する。
また毎回の講義においてルーブリックを作成しており，毎回の講義受講後の理解度など自己評価も行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60	講義で学習した内容全体を出題範囲とし，理解度を評価する。
平常小テスト	25	毎回講義の始めの予習テストおよび数回の確認テストの内容を評価する。
受講態度	15	毎回の講義の出席状況，ルーブリックによる自己評価や講義中の質問や応答など講義への参加度と貢献度を評価する。また私語や無断退室など受講上好ましくない行為に対してはマイナス評価を与える。

教科書:	栄養科学イラストレイテッド　解剖生理学　人体の構造と機能　改訂第2版　志村二三夫　羊土社　2014年 （ISBN: 978-4-7581-0876-8）
参考書:	「人体機能生理学」（第8改訂第5版）杉晴夫（編著）、宮崎俊一　等（著）、南江堂、2009（ISBN9784-5242-53647） 「ギャノング生理学原書25版」ウィリアム・F.　ギャノング, キム・E.　バレット（著）、岡田康伸（監訳）、医学書院、2017 （ISBN9784-6213-01883） 「解剖生理学図鑑　ヒトのからだの全てが初心者でもわかる決定版！！」アドルフ・ファーラー, ミハエル・シュンケ（著）、大久保眞人（監訳）、ガイアブックス、2013 （ISBN9784-8828-28648）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	E-mailにて連絡（kaibouseiriadachi@gmail.com）

651260

食品学総論

森　　紀之

授業テーマ:　食べ物と健康及び食品成分の化学的理解

授業の概要:　食品成分の化学的諸性質、栄養特性、物性、安全性などについて全般的基礎知識を学ぶ。管理栄養士として食べ物と健康の関わりについて理解するために必要な基本的知識として、食品がどのような成分からできており、どのような性質を持っているかについて理解する。

到達目標:
1. 食べ物と・環境との関わりについて理解する。
2. 食品の分類、食品成分表について理解する。
3. 食品の主要成分とその性質を理解する。
4. 食品の嗜好成分、有害成分とその性質、食品の物性を理解する。
5. 食品の保蔵・加工・調理の過程で起こる食品成分の化学的・物理的変化と食品品質の関係を理解する。
6. 食品の機能と表示について理解する。

授業方法:　講義形式で行う。教科書および配布プリントに従って進める。PowerPointスライドも併用する。授業は口頭での説明が中心となるので、しっかりと聞いてメモ・ノートを取ること。また、理解度確認のための小テストを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人間と食品　食品の歴史的変遷, 食と環境　語句の定義	教科書を用意しておくこと。
2.	食品中の水分(1)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
3.	食品中の水分(2)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
4.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化　ータンパク質ー(1)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
5.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化　ータンパク質ー(2)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
6.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化　ータンパク質ー(3)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
7.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化　ー糖質ー(1)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
8.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化　ー糖質ー(2)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
9.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化　ー糖質ー(3)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
10.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化　ー脂質ー(1)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
11.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化　ー脂質ー(2)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
12.	食品の主要成分の化学・栄養性・変化　ー無機質・ビタミンー	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
13.	食品中の嗜好成分の化学・変化(1)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
14.	食品中の嗜好成分の化学・変化(2)	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。
15.	食品成分の酸化的劣化とその防止	使用する教科書の該当部分を予め読んでおく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業時間数の関係で教科書記載の全ての項目について解説できませんが、管理栄養士国家試験ではその全てが対象となりますので、しっかりと自学自習をしてください。質問にはいつでも応じます。
理解できない部分があった場合、自分で調べたり聞きやすい人に質問したりして、そのまま放置しないように心がけてください。

フィードバックの方法:　小テストは教室内でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60%	到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により評価する。
出席及び小テスト	40%	授業への積極的参加度及び小テストで確認する到達目標に掲げた食品に関する知識、理解度により総合的に評価する。

教科書:　森田潤司・成田宏史 編:新食品・栄養科学シリーズ『食品学総論(第3版)』(化学同人)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワーならびに授業前後に教室内で対応

652160

食品衛生学B

吉田　　香

授業テーマ:　食の安全について理解する

授業の概要:　人の生命維持や健康の維持・増進には、食物の摂取は一日も欠かすことはできず、摂取する食物は栄養的に価値があると同時に衛生的に安全なものでなければならない。食品はその生産から消費にいたる過程で、微生物や寄生虫による汚染、農薬、有害金属、放射性物質等による汚染や食品成分の変化により生じる有害物質の混入を受けている。また、種々の食品添加物も使用されている。本講義では、これら多岐にわたる要因について学び、正しく理解することにより、食品の安全性を確保するための知識を修得する。

到達目標:
・病原性微生物、化学物質等による食品の汚染と防止対策について理解している。
・食品の安全性を踏まえた食品の取り扱いを理解している。
・食品衛生関係法規および食品衛生行政について理解している。

授業方法:　教科書および配布資料を用い、プロジェクターでの資料提示説明および板書により講義する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食品衛生関係法規と食品衛生行政	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
2.	食品中の微生物	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
3.	食品の変質とその防止法	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
4.	1～3回目までの小テスト、食中毒の概要と発生状況、細菌性食中毒(1)	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
5.	細菌性食中毒(2)、ウイルス性食中毒	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
6.	人獣共通感染症、寄生虫症	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
7.	動物性自然毒食中毒	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
8.	植物性自然毒食中毒、化学性食中毒	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
9.	4～8回目までの小テスト、食品添加物	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
10.	カビ毒、食品成分の変化により生成する有害物質	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
11.	農薬、PCB、ダイオキシンによる食品の汚染	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
12.	有害金属による食品の汚染、放射性物質、内分泌かく乱物質	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
13.	9～12回目までの小テスト、食品の器具・容器包装、食品の新しい安全性問題	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
14.	食品衛生管理	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
15.	まとめ	1～14回目の内容を徹底的に復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　疑問点があれば、授業終了後、積極的に質問に来てください。
小テストを3回行う予定にしているので、各自、まとめノートを作成するなどして、充分復習しておいてください。また、日頃より積極的に食品衛生学に関する新しい情報を収集して、自ら学ぶ姿勢を示してほしい。

フィードバックの方法:	小テストの解答用紙を回収後、その場で正解を示し、各自に間違った箇所の確認をさせる。さらに、問題の解説を行う。翌週、平均点や点数分布を公表する。定期テストの結果は、希望者に対して、点数または採点済みの答案用紙を開示する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	75	到達目標である病原性微生物、化学物質等による食品の汚染と防止対策についての理解度、食品衛生関係法規および食品衛生行政についての理解度より評価する。
小テスト	20	到達目標としている項目について復習を充分に行い、理解しているかを評価する。
授業への取組状況	5	積極的に授業に参加し、到達目標としている項目について意欲を持って学習しているかを評価する。

教科書:	川添禎浩 編　新 食品・栄養科学シリーズ　食べ物と健康5「食品衛生学」 化学同人
参考書:	川井英雄・丸井正樹・川村堅 編著　カレント「食べ物と健康：食品衛生学」 建帛社 小塚　諭 編著 「イラスト食品の安全性」[第2版] 東京教学社 篠田純男・成松鎮雄・林泰資 著 「食品衛生学」[第3版]　三共出版
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	随時研究室内で対応する。

652260

食品加工学

西村　　公雄

授業テーマ:　何故加工食品となるのか？

授業の概要:　現在、おびただしい数の加工食品が市場を賑わせている。しかし、その原料や製造方法などは、消費者に余り知られていない。そのことが、ある時には消費者の不安を駆り立てる原因にもなっている。食品加工学では、食品学総論・食品学各論で会得した知識を元に，食品は生物との見地から、加工食品は如何に食品成分の特性を活かして製造されているのか，及び各種貯蔵法の原理を学ぶことで、加工食品に対する正しい知識を体得することを目標とする。さらに、疾病予防を目的として開発された加工食品や遺伝子組み換え食品の安全性および食品の表示についても教授する。

到達目標:　食品学総論・食品学各論の知識を基礎として，
1. 食品素材から加工食品となる仕組みを科学的に説明できる。
2. どうして食品が保存できるのか？その原理を解説できる。
3. 食品の表示方法の成り立ちが分かる。
4. 特定保健用食品や遺伝子組み換え食品を正しく理解できる。
以上のことから
A. 加工食品に関する事象や課題に関心を持つようになる。
B. 加工食品にまつわる事象を科学的な視点で捉えることができるようになる。
C. 加工食品に関する事象についてプレゼンテーションできるようになる。
AからCに到達することで，「食品学・調理学の基礎知識として，食品の特性を生かした加工・調理方法」および「食品の安全性をふまえた食品お取り扱い方」を理解できるようになる。

授業方法:　テキストを用いて下記項目を順次解説する。また必要により、プリントの配布およびPower Pointの使用などを行う。原則的に2週間に一度，その日の講義内容についてグループディスカッションを行い，皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。また，隔週、講義終了後に20分程度の小試験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	農産食品の加工（穀類・豆類・いも類）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
2.	農産食品の加工（野菜類・果実類など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
3.	畜産食品の加工（畜肉類）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
4.	畜産食品の加工（乳類・卵類など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
5.	水産食品の加工（冷凍品）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
6.	水産食品の加工（乾燥品・練り製品など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
7.	食用油脂および調味食品	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
8.	嗜好食品およびインスタント食品（嗜好飲料・アルコール飲料など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
9.	食品の加工原理	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
10.	食品の保存法	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
11.	食品の包装	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
12.	加工食品の規格と表示制度	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
13.	加工食品の規格と表示制度	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
14.	遺伝子組み換え食品	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　管理栄養士専攻生は，最終的に国家試験に受からねばなりません。もちろん，それが最終目標ではありませんが，国家試験に合格しないと管理栄養士としてのスタートラインには立てません。地道に幅広く知識を蓄える必要があります。こつこつと知識を積み重ねて行きましょう。

フィードバックの方法:　マナビーを使って小試験の解説を行う。必ず，解説を元に復習のこと。国家試験合格のためには，丁寧に学び，重要事項を記憶し，まとめておくことが，重要です。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	100	知識・理解が到達目標に達しているかどうかを基準とする。

教科書:　新　食品・栄養科学シリーズ「食品加工学（第2版）第6刷」西村公雄・松井徳光　編（化学同人）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー以外の時間でも，講義・実験実習・会議などがなければ研究室におります。随時お訪ね下さい。

652460

公衆栄養学Ⅰ

今井　　具子

授業テーマ:　地域や集団の健康作りについて学ぶ

授業の概要:　公衆栄養学の概念、国や地域等の健康、栄養問題の現状と課題を知る。また、これらに対応するための栄養政策について知る。

到達目標:　地域や職域等の健康、栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を収集・分析し・それらを総合的に評価・判定する方法を理解することを目標とする。また、公衆栄養に関する法律や施策の理解、活用法について理解することを目指す。

授業方法:　教科書等を用いて講義を行う。必要に応じて、教材提示期を使用する。該当する管理栄養士国家試験問題を解き、その単元の理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	公衆栄養学の概念	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
2.	社会環境と健康・栄養問題	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
3.	健康状態の変化	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
4.	食事の変化	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
5.	食生活の変化・食環境の変化	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
6.	わが国の公衆栄養活動	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
7.	公衆栄養関連法規1 地域保健法、行政栄養士の基本指針	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
8.	公衆栄養関連法規2 健康増進法、食育基本法、	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
9.	公衆栄養関連法規3 管理栄養士・栄養士制度、栄養士法など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
10.	国民・健康栄養調査	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
11.	実施に関連する指針・ツール1 食生活指針、食事バランスガイド	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
12.	実施に関連する指針・ツール2 アクティブガイド、健康づくりのための身体活動基準2013	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
13.	国の健康増進基本方針と地方計画	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
14.	食育推進と地方計画	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
15.	まとめ	公衆栄養Ⅰの範囲の管理栄養士国家試験問題を確実に解けるようにし、まとめのノートを完成させましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書中心に授業を行います。事前に予習してきてください。授業のパワーポイントは事前にマナビーに配布します。必要に応じてコピーして来て下さい。国家試験のためのまとめのノートを作成して下さい。各単元の学習が終了した時点で、ノート提出を課題とします。小テストを数回実施します。1週目の授業に予定表を配布します。

フィードバックの方法:　小テスト、ノート提出の結果を返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	国家試験問題を解き解説できる力、キーワード・重要事項を説明できる力。
ノート提出・小テスト	35	ノートにはキーワード・重要項目が網羅できているか点数化します。
出席状況	5	出席数を点数化し、欠席・遅刻は減点します。

教科書:　公衆栄養学　光生館
2018年度版管理栄養士栄養士必携　日本栄養士会

参考書:　国民健康・栄養の状況　第一出版
公衆栄養マニュアル　南山堂
公衆衛生マニュアル　南山堂
日本人の食事摂取基準2015年版　第一出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示機能、授業前後に教室内で対応します。

652560

公衆栄養学Ⅱ

今井　　具子

授業テーマ:　栄養疫学について学び、公衆栄養学と実際の国・世界の健康施策について理解する

授業の概要:　栄養疫学、食事摂取基準、公衆栄養マネジメント、公衆栄養学プログラムの展開、諸外国の状況について学ぶ

到達目標:　地域や職域等の健康、栄養問題と、それを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を疫学的手法を用いて収集・分析し・それらを総合的に評価・判定する能力を養う。また保健・医療・福祉・介護システムの中で、栄養上のハイリスク集団の特定とともに、あらゆる健康・栄養状態のものに対して、適切な栄養関連サービスを提供するプログラムの作成・実施・評価の総合的なマネジメントに必要な理論と方法を取得する。

授業方法:　教科書等を用いて講義を行う。必要に応じて、教材提示期を使用する。該当する管理栄養士国家試験問題を解き、その単元の理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養疫学の概要・暴露情報としての食事摂取量	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
2.	食事摂取量の測定方法1 食事記録、24時間思い出し法	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
3.	食事摂取量の測定方法2 食物摂取頻度調査など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
4.	食事摂取量の評価方法	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
5.	食事摂取基準1 策定の基礎理論と活用の基礎理論	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
6.	食事摂取基準2 日本人の食事摂取基準2015年版　活用の実際　総論	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
7.	食事摂取基準3 日本人の食事摂取基準2015年版　活用の実際　主要栄養素	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
8.	食事摂取基準4 日本人の食事摂取基準2015年版　活用の実際　ビタミン、ミネラルなど	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
9.	公衆栄養マネジメントと公衆栄養アセスメント	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
10.	公衆栄養プログラムの目標設定と公衆栄養プログラム計画	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
11.	公衆栄養学プログラムの評価	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
12.	諸外国の健康・栄養問題の現状と課題	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
13.	諸外国の健康・栄養政策	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
14.	公衆栄養プログラムの展開	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は、必要に応じて印刷して来て下さい。
15.	まとめ	公衆栄養Ⅱの範囲の管理栄養士国家試験問題を確実に解けるようにし、まとめのノートを完成させましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書中心に授業を行います。事前に予習してきてください。授業のパワーポイントは事前にマナビーに配布します。必要に応じてコピーして来て下さい。国家試験のためのまとめのノートを作成して下さい。各単元の学習が終了した時点で、ノート提出を課題とします。小テストを数回実施します。1週目の授業に予定表を配布します。

フィードバックの方法:　小テスト、ノート提出の結果を返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	国家試験問題を解き解説できる力、キーワード・重要事項を説明できる力。
ノート提出・小テスト	35	ノートにはキーワード・重要項目が網羅できているか点数化します。
出席状況	5	出席数を点数化し、欠席・遅刻は減点します。

教科書:　公衆栄養学　光生館
2018年度版管理栄養士栄養士必携　日本栄養士会
日本人の食事摂取基準2015年版　第一出版

参考書:　公衆栄養マニュアル　南山堂
公衆衛生マニュアル　南山堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示機能、授業前後に教室内で対応します。

652660

公衆衛生学Ⅰ

吉田　　香

授業テーマ:　人間を取り巻く社会・環境要因と健康との関わりについて学ぶ

授業の概要:　公衆衛生学は社会・環境と健康に関する学問であり、ひとりひとりの努力と組織化された社会活動によって、疾病を予防し、肉体的および精神的健康の維持増進をはかる科学であり技術である。本講義では、まず、公衆衛生の概念を理解した後、現在のわれわれの健康をめぐる状況を把握するために衛生統計を学ぶ。さらに、疫学、生活習慣病の現状と対策および環境衛生などについても学び、健康に関して幅広い知識を得る。

到達目標:
・わが国における健康・疾病の現状を統計的情報に基づいて理解している。
・疫学の方法について理解し、統計的手法を使用できる能力を修得している。
・環境と健康の関係について理解している。

授業方法:　教科書および配布資料を用い、プロジェクターでの資料提示説明および板書により講義する。配布資料中には空欄部があるので、授業中に各自が埋めて資料を完成させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	公衆衛生の概念・健康の概念・地域保健	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
2.	人口静態統計	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
3.	人口動態統計	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
4.	生命表、傷病統計	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
5.	1～4回目の小テスト、疫学の概念、疫学の指標	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
6.	疫学の方法、バイアスと交絡	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
7.	スクリーニングとその適用	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
8.	根拠に基づく保健対策、疫学研究と倫理	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
9.	5～8回目の小テスト、環境汚染と健康影響、公害、環境汚染の現状と環境基準	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
10.	地球環境問題	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
11.	上水道、下水道、廃棄物処理	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
12.	気候、空気、温熱条件、ダイオキシン、放射線	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
13.	9～12回目の小テスト、身体活動、運動の現状と対策	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
14.	喫煙行動、飲酒行動、睡眠、休養、歯・口腔健康の現状と対策	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
15.	まとめ	1～14回目の内容を徹底的に復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　疑問点があれば、授業終了後、積極的に質問に来てください。
小テストを3回行う予定にしているので、各自、まとめノートを作成するなどして、充分復習しておいてください。また、公衆衛生学は社会と密接に関係しているので、日頃より積極的に情報の収集をするなどして、自ら学ぶ姿勢を示してほしい。

フィードバックの方法:	小テストの解答用紙を回収後、その場で正解を示し、各自に間違った箇所の確認をさせる。さらに、問題の解説を行う。翌週、平均点や点数分布を公表する。定期テストの結果は、希望者に対して、点数または採点済みの答案用紙を開示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	75	到達目標である統計的情報に基づいた健康・疾病の現状についての理解度、到達目標である疫学に関する理解度、環境と健康の関係についての理解度により評価する。
小テスト	20	到達目標としている項目について充分に復習を行い、理解しているかを評価する。
授業への取組状況	5	積極的に授業に参加し、到達目標としている項目について意欲を持って学習しているかを評価する。

教科書:	松村宰・中山健夫 編 栄養科学シリーズNEXT「公衆衛生学 社会・環境と健康」第3版　講談社サイエンティフィク
参考書:	「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会 北田善三・須崎尚 編著　カレント「社会・環境と健康:公衆衛生学」第2版　建帛社 鈴木庄亮他監修　「シンプル衛生公衆衛生学」 南江堂
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	随時研究室内で対応する。

652760

公衆衛生学Ⅱ

吉田　　香

授業テーマ:　生活習慣病に対する予防および衛生行政について学ぶ

授業の概要:　人が身体的、精神的に健康で健やかな生活を送るためには、健康を維持し、病気になる前の予防が重要である。そのためには、ひとりひとりの努力が必要であるが、社会全体の組織的活動も重要となってくる。本講義では、公衆衛生学Iで学んだ健康をめぐる状況を基に、主要疾患の疫学と予防対策、感染症、保健行政および関連法規について学んでいく。このことにより、保健･医療･福祉･介護システムの中で栄養に関してマネージメントを行う能力を養う。

到達目標:
・主要疾患の疫学と疾病予防対策についての専門的知識を持ち、栄養との関係を理解している。
・わが国における保健行政を理解している。
・社会保障・福祉制度について理解している。

授業方法:　教科書および配布資料を用い、プロジェクターでの資料提示説明および板書により講義する。配布資料中には空欄部があるので、授業中に各自が埋めて資料を完成させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	生活習慣病の概念、悪性新生物の疫学と予防対策	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
2.	循環器疾患、代謝疾患、骨・関節疾患、歯科疾患の疫学と予防対策	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
3.	自殺、不慮の事故、精神疾患の疫学と予防対策	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
4.	感染症成立の要因、感染症法	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
5.	主な感染症とその予防	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
6.	1～5回目の小テスト、社会保障の概念、社会保険制度	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
7.	医療制度、医療費	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
8.	社会福祉行政、高齢者福祉	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
9.	地域保健、母子保健	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
10.	6～9回目の小テスト、成人保健	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
11.	介護保険	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
12.	産業保健	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
13.	10～12回目の小テスト、学校保健	小テストに備え、テスト範囲を充分勉強しておく。講義予定箇所については、授業前に必ず教科書および配布プリントを読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。小テストで間違った箇所は、ノートにまとめる等して徹底的に復習して理解しておく。
14.	国際保健	授業に備え、必ず教科書および配布プリントの該当箇所を読み、講義内容が理解できるよう予習しておく。授業後は、理解を深めるよう充分復習する。それでも理解できなかった箇所は整理して次回講義時に質問できるよう準備しておく。
15.	まとめ	1～14回目の内容を徹底的に復習し、理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:	疑問点があれば、授業終了後、積極的に質問に来てください。 小テストを3回行う予定にしているので、各自、まとめノートを作成するなどして、充分復習しておいてください。また、公衆衛生学は社会と密接に関係しているので、日頃より積極的に情報の収集をするなどして、自ら学ぶ姿勢を示してほしい。
フィードバックの方法:	小テストの解答用紙を回収後、その場で正解を示し、各自に間違った箇所の確認をさせる。さらに、問題の解説を行う。翌週、平均点や点数分布を公表する。定期テストの結果は、希望者に対して、点数または採点済みの答案用紙を開示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	75	到達目標である主要疾患の疫学と予防対策、保健行政、社会保障・福祉制度についての理解度により評価する。
小テスト	20	到達目標としている項目について復習を充分に行い、理解しているかを評価する。
授業への取組状況	5	積極的に授業に参加し、到達目標としている項目について意欲を持って学習しているかを評価する。

教科書:	松村宰・中山健夫 編　栄養科学シリーズNEXT「公衆衛生学 社会・環境と健康」第3版　講談社サイエンティフィク （公衆衛生学Iで使用した教科書） 「国民衛生の動向　2018/2019」 厚生労働統計協会
参考書:	「国民の福祉の動向」 厚生労働統計協会 北田善三・須崎尚 編著　カレント「社会・環境と健康:公衆衛生学」第2版　建帛社 鈴木庄亮他監修 「シンプル衛生公衆衛生学」 南江堂
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	随時研究室内で対応する。

653461～63　**生化学実験**

倉橋　優子、水谷　公彦

授業テーマ:　生化学の研究に必要な基本的な実験技術や原理を学ぶ。

授業の概要:
i) 大腸菌からDNAを抽出し、部分精製し、定量する。
ii) パン酵母から酵素インベルターゼを抽出し、部分精製する。その酵素標品を用いて、酵素活性を測定し、比活性、精製倍率、収率を求める。その前提となるタンパク質の定量法、還元糖の定量法について習得する。さらに、酵素の重要な諸性質を実験によって確認し、酵素反応とは何かを学ぶ。
iii）あわせて、フローチャートの書き方や実験レポートの書き方を学ぶ。

到達目標:
生化学の研究に必要なDNAの分離精製法、酵素の分離精製法、酵素実験の基礎技術を習得すること。
1. 試薬調製法を理解する。
2. 細胞からのDNAの抽出法，精製法、抽出されたDNAの定量法を習得し、その原理を理解する。
3. パン酵母からの酵素インベルターゼの抽出法、部分精製法を習得する。その酵素標品を用いたインベルターゼ活性測定法を習得する。その前提となるタンパク質の定量法，還元糖の定量法について習得する。
4. 酵素の最適pH、最適温度、活性化エネルギー、Km とVmax、酵素阻害剤と阻害様式など、酵素のもつ諸性質について理解する。
5. フローチャートを書くことで、実験を的確に遂行する能力を身につける。
6. レポートを書くことで、発表のための能力を身につける。

授業方法:
研究室作成のテキストを使用する。数名のグループで実験を行い、各個人でレポートを作成する。
初回に実験項目全般の内容説明を行う。以後は、毎回授業の最初に実験方法の詳細説明と諸注意を行い、その後実験に入る。結果をまとめた後で、解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	実験の全体説明と演習 ①実験を始める前に・器具の確認 ②実験ノートの書き方・実験レポートの書き方 ③演習（試薬の調製法・フローャートの書き方）	掲示板に掲示される諸注意をよく読んで、準備して実験室に来ること。
2.	大腸菌からのDNAの抽出と定量（その1） ①)実験の方法と原理の説明 ②菌体からのDNAの抽出 ③DNAの精製 実験の間に小テスト（試薬の調製法）	授業までにテキスト内容を予習し、実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 小テストに向けての復習。
3.	大腸菌からのDNAの抽出と定量（その2） ①実験の方法と原理の説明 ②リン含量によるDNAの定量・紫外部吸収測定によるDNAの定量 ③ジフェニルアミン法によるDNAの定量 結果のまとめ	授業までに各実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 あわせて検量線グラフの作成と提出。 実験レポート(1)の作成に向けて実験内容の研究とその後の展開を考える。
4.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その1） ①実験の方法と原理の説明 ②酵母インベルターゼの抽出（画分Iの調製） ③酵母インベルターゼの部分精製－熱処理－（画分IIの調製） 結果のまとめ	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験レポート(1)の作成・提出。
5.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その2） ①実験の方法と原理の説明 ②酵母インベルターゼの部分精製－アルコール分画－（画分IIIの調製） ③結果のまとめ	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験レポート（2)の作成に向けて実験内容の研究とその後の展開を考える。
6.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その3） ①実験の方法と原理の説明 ②ソモギー・ネルソン法による還元糖の定量（標準曲線の作成） ③画分Iのインベルターゼ活性の測定（予備実験）（ソモギー・ネルソン法による測定） 結果のまとめ	授業までに各実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(2)の作成に向けて実験内容の研究とその後の展開を考える。
7.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その4） ①実験の方法と原理の説明 ②各画分のインベルターゼ活性の測定（ソモギー・ネルソン法による測定） ③結果のまとめ（総インベルターゼ活性（uinit）・収率を求める）	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(2)の作成・提出。
8.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その5） ①実験の方法と原理の説明 ②ハトリー・ローリー法によるタンパク質の定量（標準曲線の作成） ③各画分のタンパク質の定量（ハトリー・ローリー法による測定） 結果のまとめ（各画分の比活性・精製倍率・収率を求める）	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。
9.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その6） ①実験の方法と原理の説明 ②インベルターゼによるスクロース加水分解量と反応時間との関係（ソモギー・ネルソン法による測定） ③インベルターゼによるスクロース加水分解速度に対する酸素量の効果（ソモギー・ネルソン法による測定） 結果のまとめ	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(3)の作成・提出。
10.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その7） ①実験の方法と原理の説明 ②インベルターゼの反応速度に対するpHの影響（ソモギー・ネルソン法による測定） ③結果のまとめ（最適pHを求める） 演習（酵素反応の速度論的解析）	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(4)の作成・提出。

11.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その8） ①実験の方法と原理の説明 ②インベルターゼの反応速度に対する基質濃度の影響（ソモギー・ネルソン法よる測定） ③結果のまとめ（Km値・Vmaxを求める） 演習（活性化エネルギーの求め方）	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 テキストで指示する演習を提出。 実験レポート(5)の作成・提出。
12.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その9） ①実験の方法と原理の説明 ②インベルターゼの反応速度に対する温度の影響（ソモギー・ネルソン法による測定） ③結果のまとめ（反応最適温度と活性化エネルギーを求める）	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 テキストで指示する演習を提出。 実験レポート(6)の作成・提出。
13.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その10） ①実験の方法と原理の説明 ②グルコースオキシダーゼ法によるグルコースの定量（標準曲線の作成） インベルターゼの反応速度に対する尿素、ラフィノース及びアラビノースによる濃度の影響 （グルコースオキシダーゼ法による測定） ③結果のまとめ（インベルターゼの反応速度の50%を阻害する尿素、ラフィース及びアラビノースの濃度を求める） 演習（酵素阻害剤の型と阻害の機構）	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 実験レポート(7)の作成・提出。
14.	酵母インベルターゼの部分精製とその性質（その11） ①実験の方法と原理の説明 ②インベルターゼの反応速度に対する基質濃度の影響並びに尿素、ラフィノース及びアラビノースの影響（グルコースオキシダーゼ法による測定） ③結果のまとめ（Km値とVmaxならびにKm'値とVmax'を求め、さらに、阻害の型を決定し、阻害定数Kiを求める）	授業までに実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出。 実験タイムコースの作成・提出。 テキストで指示する演習を提出。 実験レポート(8)の作成に向けて実験内容の研究とその後の展開を考える。
15.	まとめ ①小テスト（実験の背景理論など） ②実験の後片付け・器具の整理 ③まとめ	小テストに向けての復習。 実験レポート（8）の作成（提出は第16回目）。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実験内容を理解して実験に臨むために、また、実験をスムーズに行うために、受講者には毎回の授業までにテキスト内容を予習し各実験のプロトコールをフローチャートで作成して提出することを求める。テキストで指示する演習もしておくことが必要となる。
また、小テストの準備のための復習、レポート作成に向けての実験内容の研究とその後の展開を考えることが重要となる。
授業後は実験レポートを期日厳守で提出しなければならない。

フィードバックの方法:

レポートはコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テストによる理解度	35%	到達目標1-4に掲げた試薬濃度の計算、調製法、実験原理が理解できているかを評価する。
実験レポートによる理解度	40%	レポートの形式、まとめの仕上がり度から到達目標2-4である実験の内容が理解できているかを評価する・また、到達目標6により的確に報告できているかを評価する。 レポートが提出されなければ評価できない。
実験への参加度	25%	出席を含む実験の取り組み態度と理解度ならびにフローチャートの提出状況から到達目標1-5ができるようになったかを評価する。

教科書:

研究室作成のテキスト『生化学実験法』を配布する。

参考書:

配布テキスト中に記載

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で応対。
オフィスアワー（研究室U311b）で応対。

653761～63

食品加工学実験

西村　公雄、林　由佳子

授業テーマ:
加工原理を体得し，貯蔵中に生じる成分変化を理解する。

授業の概要:
本実験では、発酵食品（味噌・パンなど）、食品成分の凝固を利用した加工食品（うどん・チーズ・豆腐・マーマレード・かまぼこなど）およびその他の加工食品（アイスクリーム・コーヒー豆の焙煎など）を実際に製造するとともに、加工食品の製造・貯蔵中の食品成分（還元糖・アミノ態窒素量・塩基性窒素量など）の変化を追跡することで、加工食品の製造原理や、製造中並びに貯蔵中に生じる成分変化を理解する。

到達目標:
加工食品の製造および食品の保存を体験することで，食品加工学を中心とする食品に関する科目で学んだ知識を体得する。
1. どうして食素材から加工食品が出来るのか(たとえば，何故，小麦タンパク質からパンができあがるのか)，含まれる成分の役割を理解できるようになる。
2. また，保存中の変化についても，具体的に理解できるようになる。
1，2に到達することで「食品学・調理学の基礎知識を基礎として，食品の特性を生かした加工・調理方法」および「食品の安全性をふまえた食品の取り扱い方」を理解できるようになる。

授業方法:
1グループ2～3名で実験を行なう。実験をスムーズに進行させるため、受講者には予め実験の方法をまとめたものを各自提出してもらう。レポートは、毎週必要と判断した項目につき提出させる。また，レポートの考察内容につきグループディスカッションを行い，皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	発酵食品の製造（味噌・パンなど）	実験当日までに，味噌やパンの製造方法に付きマニュアルを提出させる。
2.	食品成分の凝固を利用した加工食品の製造（うどん・中華麺・マーマレードなど）	実験当日までに，うどん・中華麺・マーマレードなどの製造方法に付きマニュアルを提出させる。
3.	食品成分の凝固を利用した加工食品の製造（かまぼこ・フレッシュチーズなど）	実験当日までに，かまぼこ・フレッシュチーズなどの製造方法に付きマニュアルを提出させる。
4.	その他加工食品の製造（アイスクリーム・コーヒー豆の焙煎など）	実験当日までに，アイスクリーム・コーヒー豆の焙煎などの製造方法に付きマニュアルを提出させる。
5.	製造中の成分変化（味噌調製直後の還元糖量およびアミノ態窒素量の測定）	実験当日までに，味噌調製直後の還元糖量およびアミノ態窒素量の測定方法に付きマニュアルを提出させる。
6.	製造中の成分変化（味噌熟成後の還元糖量およびアミノ態窒素量の測定）	
7.	貯蔵中の成分変化［牛乳（微生物量・タンパク質の変性度測定による）・魚肉（揮発性塩基窒素量測定による）の鮮度判定］	実験当日までに，牛乳（微生物量・タンパク質の変性度測定による）・魚肉（揮発性塩基窒素量測定による）の鮮度判定方法に付きマニュアルを提出させる。
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
実験は，実際に体験することが肝要です。従いまして，講義とは異なり出席を重視いたします。実験中，事故が起こることがないように，常に神経をとがらせ，今の操作の意味を考えましょう。それを元に，次に何をするか頭の中で常に整理しておきましょう。積極的に参加することが大切です。

フィードバックの方法:
レポートの考察内容につきグループディスカッションを行い，皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。その際，発表内容に関するコメントを与えることで，行った実験内容・意義に付きフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	40	レポートとしての体裁が整っているか。実験結果に付き適切な考察がなされているかなどを評価基準とする。
平常試験	10	基本的な計算能力が備わっているかを評価する。
授業への積極的参加	50	まじめに実験に取り組んでいるかを評価する。

教科書:
教科書は，用いない。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
オフィスアワー以外の時間でも，講義・実験実習・会議などがなければ研究室におります。随時，お訪ね下さい。

654760

栄養素の化学

伊東　　徳人

授業テーマ:　有機化学の基礎的知識と三大栄養素である炭水化物（糖質）、脂質、タンパク質及び核酸の化学

授業の概要:　炭水化合物（糖質）、脂質、タンパク質、核酸の化学構造と性質について有機化学的な基礎的知識、理解を得ることによって生化学への基盤とする内容である。

到達目標:　生化学」「基礎栄養学」で学ぶ生体における代謝や分子生物学の基礎を理解するためには、生体分子の化学に関する知識が必要である。本科目では、炭水化物（糖質）、脂質、タンパク質及び核酸の化学構造と性質について、有機化学的な視野を持って生化学、栄養学を学ぶための導入的な科目とすることを目標とする。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 有機化学の復習	
2.	単糖類の構造、投影法（Fischer/Haworth）、 ヘミアセタール	当日、配布したプリントの復習
3.	旋光性と変旋光、 還元糖と非還元糖 単糖類の誘導体、 酸化、還元、脱水反応	当日、配布したプリントの復習
4.	二糖類、グリコシド結合（結合様式） 代表的な二糖類とその性質	
5.	多糖類、 デンプン、セルロース、グリコーゲン	当日、配布したプリントの復習
6.	単純脂質、トリグリセリド、ケン化反応	当日、配布したプリントの復習
7.	飽和脂肪酸、不飽和脂肪酸、 幾何異性体（cis, trans）、 トランス脂肪酸、	
8.	小テスト 複合脂質、 ステロイド	
9.	α−アミノ酸の種類と構造	当日、配布したプリントの復習
10.	α−アミノ酸の特徴 オリゴペプチド	
11.	ポリペプチド、タンパク質 タンパク質の高次構造	当日、配布したプリントの復習
12.	核酸の化学	当日、配布したプリントの復習
13.	核酸の化学	当日、配布したプリントの復習
14.	その他、栄養素の化学	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　小テストの質問等は教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業の参加・態度	10	出席カードに確認問題を解き、その出来具合に応じて出席点を付与する。
小テスト	20	
定期試験	70	

教科書:

参考書:　豊田正武・田島眞（編）『食物・栄養系のための基礎化学』 丸善（株） 出版事業部

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　nito@dwc.doshisha.ac.jp

654960

給食経営管理論Ⅰ

神田　　知子

授業テーマ:　給食経営管理の概念、給食の資源とその活用、食事計画の基本的知識について学ぶ。

授業の概要:　本講義では、管理栄養士国家試験ガイドラインの【1給食の概念】【2給食経営管理の概念】【3A栄養・食事のアセスメント、3B食事の計画】、【4A品質と標準化】【5C事故・災害時対策】【6A生産（調理）施設・設備設計】について解説する。食事計画に必要な、食事摂取基準を活用した給与栄養目標量の設定、食品構成の作成方法、食品成分表の活用方法など、献立計画については演習形式で行う。

到達目標:
(1)給食の意義及び給食経営管理の概念について理解していること
(2)給食の資源とその活用について理解していること
(3)対象者個別の栄養状態、嗜好に配慮した栄養・食事計画に必要な給与栄養目標量の設定方法、食品構成の作成方法、食品成分表の活用方法、食事摂取基準を活用した献立計画に必要な基礎知識を身につけること（基礎的な料理技術含む）

授業方法:　講義が中心であるが、演習やグループ学習も取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	給食経営管理論の概念と栄養士法との関連について解説する【1A】。	【復習】管理栄養士が行う”栄養の指導”とは何か説明できる。自分は誰のためにどのような食事を提供できるようになりたいかを考える。 【予習】健康増進法における特定給食施設の位置づけ、給食施設における管理栄養士の役割について調べる。
2.	健康増進法における特定給食の位置づけ、給食を提供する施設と関連法規、給食経営管理における栄養・食事管理と経営管理について解説する。災害時対策について解説する【1B, 5C】。＜災害時の食支援＞	【復習】特定給食施設とは何か、特定給食施設における管理栄養士に求められる能力とは何かを説明できる。 【予習】給食のサブシステムについて調べる。
3.	給食の生産・提供システムについて解説する【1B, 2A, 5C】。＜新調理システムの概要＞	【復習】トータルシステムとサブシステムを説明できる。 【予習】給食管理の意義と目的、給食の資源、給食の外部委託について調べる。
4.	給食の資源、給食業務の外部委託について解説する【2B】。	【復習】経営管理とは何か、経営管理の5つのプロセスとは何か、契約方式について説明できる。 【予習】組織の原則、給食の組織、マーケティングミックスについて調べる。
5.	給食経営と組織の構造・組織形態、リーダーシップとマネジメント、給食におけるマーケティングの活用について解説する【2C, 2D】。	【復習】組織の原則、給食の組織、マーケティングミックスの例を説明できる。 【予習】食事摂取基準のエネルギーと栄養素の指標について調べる。
6.	日本人の食事摂取基準とその活用（総論、指標）の解説を行う【3B】。 1-5回の授業内容について小テストを行う。	【復習】食事摂取基準のエネルギーと栄養素の指標を説明できる。 【予習】食事摂取基準を活用したアセスメント、食事計画について調べる。
7.	日本人の食事摂取基準とその活用2（活用の基礎理論）と20代女性の給与栄養目標量の設定について解説を行う【3B】。レポート課題として20代女性の給与栄養目標量の設定を行う。	【復習】食事摂取基準の摂取源、摂取期間、対象集団などを説明できる。食事摂取基準を活用した個人のアセスメント、食事計画をDRIsの指標を用いて設定できる。 【予習】献立作成基準、食品構成、食品群別荷重平均成分表について調べる。
8.	給与栄養目標量からの食品構成表の作成方法について解説する【3B】。レポート課題として食品構成を作成する。	【復習】献立作成基準、食品構成、食品群別荷重平均成分表が説明できる。食品構成表が作成できる。 【予習】まあじ1尾を焼いて食べる時のエネルギーを計算する（生、焼きの場合）。
9.	給食における食品成分表を活用した栄養価計算の方法について解説する【3B】。	【復習】生の食材および調理による重量変化を考慮した栄養価が計算できる。 【予習】一汁二菜の献立を考える。
10.	食品構成を活用した栄養・食事計画の立案、食品成分表を活用した栄養価計算の方法について解説する【3B】。〈献立名人にないりたい＞＜学食栄養士＞	【復習】食品構成表を活用して期間献立を計画するプロセスが説明できる。 【予習】一汁二菜の献立を考える。
11.	給与栄養目標量・食品構成表を参考にした献立作成、作業指示書の書き方、原価計算について解説する【3B】。＜給食が育む和食のミライ＞	【復習】原価計算とレシピの作成ができる。献立の栄養価が計算できる。 【予習】給食の品質、生産管理について調べる。
12.	給食の品質と生産計画、作業工程、給食の品質保証システムについて解説する【4A, 4D】。＜機内食のセントラルキッチン＞	【復習】自分が考えた献立の作業工程を作成できる。品質についてまとめる。 【予習】大量調理施設衛生管理施設「施設設備の構造」についてまとめる。
13.	給食におけるHACCPシステムの運用、大量調理施設衛生管理マニュアルと基本的な厨房設備・施設管理（基準と関連法規）との関連について解説する【5A,6A,6B】。レポート課題として個人を対象とした1日3食分の献立計画、作業工程計画、調理レポートについて解説する。	【復習】大量調理施設衛生管理マニュアルと施設設備の構造について復習する。 【予習】品質の評価、指標について調べる。1日分の献立作成レポートに取り組む。
14.	品質評価の指標、方法について解説する【4A】。	【復習】品質の評価、指標についてまとめる。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義の内容は、学内の実習や校外実習、臨地実習を通して、知識がつながり理解が深まるものである。断片的にとらえず、知識や経験を統合させることが大切である。実習後にノートを見直し、理解を深めること。

フィードバックの方法:　レポートはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	15	到達目標（1）（2）の理解度を基準とする。
レポート課題を含む授業への参加・態度	20	到達目標（3）に関するレポートの内容により評価する。到達目標（3）に関して、手料理プロジェクト（10～12月）の内容も評価点に含める。
定期試験	65	到達目標（1）（2）（3）の理解度により評価する

教科書:	「給食経営管理論」 化学同人新食品・栄養科学シリーズ 「日本人の食事摂取基準」 第一出版 「日本食品標準成分表」 「栄養士・管理栄養士のためのなぜ？どうして？(4)給食経営管理論」　メディックメディア
参考書:	「ひと目でわかる料理の教科書基本編」 新星出版社 「材料の下ごしらえ百科」 主婦と生活社 「体脂肪計タニタの社員食堂」 大和書房 「せんぽ東京高輪病院 500kcal台のけんこう定食」 ワニブックス 「東京・足立区の給食室　毎日食べたい12栄養素バランスごはん」　泰文堂
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対する。

655060

給食経営管理論Ⅱ

神田　　知子

授業テーマ:　給食管理の中心となる、生産管理、衛生管理、安全管理、給食経営管理の資源と給食施設での活用や展開について学ぶ。

授業の概要:　本講義では、管理栄養士国家試験ガイドラインの【3C食事計画の実施、評価、改善】【4B原価、4C食材、4D生産（調理）と提供】【5給食の安全・衛生】、【6給食の施設・設備】【7給食の人事】について解説する。

到達目標:
(1)給食の原価管理、食材管理、生産管理、安全・衛生管理の基本を身につけること。
(2)食事摂取基準を活用した集団の栄養・食事計画ができること
(3)様々な給食施設での資源（人、物、金、設備、方法）の活用と給食施設に応じた給食の評価の方法を理解すること
(4)大量調理施設衛生管理マニュアルに準じて衛生的な生産計画ができること

授業方法:　講義が中心で演習を取り入れることがある。ビデオ教材を活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	衛生管理の目的と食中毒・感染症について解説する。事故への対応、安全対策について解説する(5A)。＜食中毒予防＞	【復習】細菌性食中毒とウイルス性の食中毒の原因物質、潜伏期間、主な症状を覚える。 【予習】大量調理施設衛生管理マニュアルを3回読み、目次を書きだす。
2.	HACCPシステム、大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた衛生管理について解説する(5ABC)。 課題として、大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた献立計画・調理レポートを行う。	【復習】衛生管理を重視した献立課題に取り組む。 【予習】大量調理施設衛生管理マニュアルを読む。
3.	基本的な厨房設備・施設管理（基準と関連法規）について解説する(6AB)。＜学校給食の衛生管理＞	【復習】大量調理施設衛生管理マニュアルの「施設設備の構造」「施設設備の管理」「器具等の洗浄・殺菌マニュアル」をまとめる。 【予習】給食の原価構成、直接費、間接費、経費、損益分岐点の計算式、固定費、変動費、ABC分析についてまとめる
4.	給食の原価・売上・経費について解説する(4B)。	【復習】材料費、労務費、経費について説明できる。損益分岐点の計算ができる。固定費、変動費、ABC分析が説明できる。 【予習】食材の購入方法、検収項目、大量調理施設衛生管理マニュアルの「食品の保管温度」についてまとめる。
5.	給食の食材・購買管理、在庫管理について解説する(4C)。	【復習】食材の購入方法が説明できる。契約方法が説明できる。1か月にかかった食材料の計算式がかける。発注の計算式がかける。 【予習】調理場における衛生管理&調理技術マニュアルを読んで、該当箇所をノートにまとめる。
6.	給食の生産と提供に関する大量調理の特性と標準化について解説する(4A, 4D)。	【復習】施設ごとの給食のオペレーションが理解できる。生産計画と人員配置、調理工程、作業工程を考えた計画書の作成方法が理解できる。 【予習】給食のシステムについてまとめる。作業区分別の使用機器についてまとめる。
7.	給食の大量調理の調理特性と標準化について解説する(4A, 4D)。	【復習】大量調理の調理特性を少量調理と比べて説明できる。生産性を高める合理化の方法を説明できる。基本の少量調理ができる。 【予習】事業所給食の栄養・食事計画の章をまとめる。
8.	健康増進法における特定給食施設の位置づけについて解説する(1AC)。 1-7回の授業内容について小テストを行う。	【復習】健康増進法の栄養士・管理栄養士配置規定についてまとめる。 【予習】給食管理を目的とした食事摂取基準の適用についてまとめる。
9.	事業所給食における食事摂取基準を活用した集団の栄養・食事計画の実施について解説する(1AC, 3ABC)。課題として、大量調理施設衛生管理マニュアルに準じた献立計画・調理レポートを行う。	【復習】食事摂取基準2010年版の給食管理を目的とした食事摂取基準の適用について整理する。 【予習】事業所給食の目的、栄養士、管理栄養士の配置規定についてまとめる。
10.	事業所給食の実際について解説する。 事業所給食における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。	【復習】事業所での栄養士配置規定を説明できる。集団の給与エネルギーおよび給与栄養目標量の設定の考え方を理解し、設定できる。 【予習】児童福祉施設の栄養士、管理栄養士の配置規定についてまとめる。
11.	児童福祉施設・学校給食の実際について解説する。 児童福祉施設・学校給食における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。＜学校栄養士＞ 病院給食の実際、入院時食事療養制度について解説する。 病院給食における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。	【復習】児童福祉施設、学校給食の栄養士配置規定や基づく法律について整理する。委託できる業務、学校給食実施基準についてまとめる。 【予習】病院の栄養士、管理栄養士の配置と関連法規、入院時食事療養制度、栄養管理体制、治療食の分類、病院が自ら実施すべき業務について調べる。
12.	病院給食の実際、入院時食事療養制度について解説する。 病院給食における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。＜食べて治す＞	【復習】入院時食事療養Ⅰの基準が説明できる、加算の対象が説明できる。病院給食の委託の範囲、院外調理のシステムや保管温度が説明できる。病院栄養士の配置規定が説明できる。 【予習】高齢者・介護福祉施設の名称、特徴と栄養士配置規定についてまとめる。介護保険施設について調べる。
13.	高齢者福祉施設の給食の実際について解説する。 高齢者福祉施設における給食の評価、摂取量の把握、栄養教育について解説する(1AC, 3ABC)。＜訪問栄養指導士＞	【復習】高齢者施設の種類と特徴、栄養士配置規定についてまとめる【予習】OFTとOFF-JT、従業員の雇用形態についてまとめる。
14.	給食の人事・労務管理、教育訓練、管理栄養士が把握すべき給食経営の収支、について解説する(7A)。	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義の内容は、学内の実習や校外実習、臨地実習を通して、知識がつながり理解が深まるものである。断片的にとらえず、知識や経験を統合させることが大切である。実習後にノートを見直し、理解を深めること。

フィードバックの方法:	レポートはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	15	到達目標(1)～(3)の理解度を評価基準とする
レポート課題を含む授業への参加・態度	20	到達目標(2)(4)に関するレポートの提出内容により評価する。到達目標(1)に関して、手料理プロジェクト(4～6月)の内容も評価点に含める。
定期試験	65	到達目標(1)～(4)の理解度により評価する

教科書:

「給食経営管理論」 化学同人新食品・栄養科学シリーズ
「日本人の食事摂取基準」 第一出版
「日本食品標準成分表」
「栄養士・管理栄養士のためのなぜ？どうして？(4)給食経営管理論」　メディックメディア
「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」(学建書院)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対する。

655360

応用栄養学Ⅰ

小切間　美保

授業テーマ:
日本人の食事摂取基準策定の基礎理論を理解し，ライフステージに応じた栄養ケア・マネジメントの基本的な考え方とその方法を学ぶ。

授業の概要:
日本人の食事摂取基準策定の基礎理論を理解する。それをふまえて，個人の身体状況，栄養状態，心理・社会的状況及び環境に応じた栄養ケア・マネジメントのプロセスを習得する。また，ライフステージ別の栄養ケア・マネジメントでは妊娠期・授乳期の栄養，乳児期の栄養について深く学習する。

到達目標:
・日本人の食事摂取基準の基礎理論を理解できる。
・栄養ケア・マネジメントの意義およびプロセスについて理解できる。
・妊娠期，授乳期および乳児期の身体の特徴について説明でき，栄養ケア・マネジメントについて理解できる。

授業方法:
スライド，配付資料やDVDなどを適宜使用した講義形式による授業が中心であるが，グループワークや発表を行うこともある。事前に課題（予習内容）を提示する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	応用栄養学の目的 食事摂取基準：策定の基本的事項と留意点	2～3回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
2.	食事摂取基準の活用に関する基本的事項	事前に2～3回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
3.	エネルギー摂取基準の基本的事項	事前に2～3回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
4.	エネルギー必要量のライフステージ別の特徴	事前に4～6回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
5.	たんぱく質摂取基準の基本的事項およびライフステージ別の特徴	事前に4～6回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
6.	脂質摂取基準の基本的事項およびライフステージ別の特徴とエネルギー産生栄養素バランス	事前に7～8回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
7.	栄養ケア・マネジメントとは何か （1）栄養ケア・マネジメントと栄養管理プロセス （2）栄養管理の過程と栄養支援の内容	事前に7～8回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
8.	栄養ケア・マネジメントの定義とプロセス （1）行動計画とモニタリング （2）栄養アセスメントの方法	事前に9～13回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
9.	妊娠期の栄養 （1）妊娠の生理 （2）分娩と産褥の生理	事前に9～13回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
10.	授乳期の栄養 （1）授乳の生理 （2）栄養アセスメントと栄養ケア	事前に9～13回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
11.	妊娠期・授乳期の疾病と栄養ケア （1）妊娠高血圧症候群 （2）妊娠貧血，肥満など 新生児・乳児期の栄養 （1）新生児の分類と生理的変化	事前に9～13回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
12.	乳児期の栄養 （1）乳児の体について （2）授乳・離乳の支援ガイドの概要	事前に9～13回目に関する課題を提示するので，教科書を読み込んでまとめる。（詳細は随時説明する。）
13.	授乳・離乳の支援（ゲストスピーカーによる栄養ケアの事例紹介を含む）	
14.	乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア （1）乳児期の栄養補給法と栄養ケア （2）早産児，低出生体重児の栄養療法	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
人の栄養に関する専門的基礎知識を体系的に整理し，対象に合わせた栄養・食管理ができるようになるための科目です。

フィードバックの方法:
提出物について，教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
まとめのテスト	60	日本人の食事摂取基準策定の基礎理論，妊娠期・授乳期・乳児期の栄養ケア・マネジメントについての体系的な理解度により評価する。
小テスト（2回）	30	
レポートおよび授業への参加度	10	

教科書:
新食品・栄養科学シリーズ　応用栄養学，化学同人
日本人の食事摂取基準，第一出版
栄養管理プロセス 第2版　基礎と概念，医歯薬出版

参考書:
栄養士・管理栄養士のためのなぜ？どうして？⑥基礎栄養学/応用栄養学，メディックメディア
栄養科学イラスト例テッド　応用栄養学，羊土社
栄養科学シリーズNEXT　応用栄養学，講談社サイエンティフィク

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:
授業前後の教室内や研究室で対応

655460

応用栄養学Ⅱ

木村　　祐子

授業テーマ:　幼児期から思春期の栄養マネジメントの概要と運動やスポーツ選手の栄養管理を中心に

授業の概要:　管理栄養士として、ヒトを対象としたQOL（生活の質）維持向上していくためには、ライフステージごとの特徴（発育・発達・加齢）における生体内変化を理解し、栄養マネジメントを行うことが重要である。そこで本科目は、ライフステージの中の幼児期から思春期に関して学ぶ。また、最近は運動やスポーツを行っている選手を対象とした栄養マネジメントのニーズが高まっている。そこで競技力向上や健康維持・増進のために運動やスポーツ選手の栄養補給法や栄養マネジメントを具体的な事例を用いて学ぶ。

到達目標:　●幼児期の発育・発達の評価方法を学び幼児食や保育所給食の内容の理解ができる。　●学童期の成長スパートの状況を理解し、ふさわしい栄養摂取内容が理解できる。　●思春期の生理的特徴を理解し、栄養ケア計画が作成できるようになる。　●健康づくりや競技力向上のために個人や集団の対象者のアセスメントと栄養教育ができる知識な学べる。

授業方法:　PCやDVDの活用、配布資料や教材を適宜使用し、講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. 幼児期の栄養 1）発育・発達と栄養アセスメント	春学期に応用栄養学Iで学修した「日本人の食事摂取基準2015」の総論部分の予習
2.	1. 幼児期の栄養 2）栄養ケアの方法と保育所給食	発育・発達とおやつの意義についての予習
3.	2. 学童期の栄養 1）発育・発達と栄養アセスメント	学童期の成長スパートについての予習
4.	2. 学童期の栄養 2）栄養ケアの方法と学校給食	学校給食と栄養教諭について予習
5.	3. 思春期の栄養 1）発育・発達と栄養アセスメント	思春期におけるホルモンの変化について予習
6.	3. 思春期の栄養 2）栄養と病態・疾患・生活習慣と栄養ケアの方法	貧血と摂食障害についての予習
7.	4. 運動と栄養 1）身体活動とエネルギー代謝	エネルギー産生についての予習
8.	4. 運動と栄養 2）運動・スポーツと体力 3）運動と健康増進	健康づくりと栄養摂取についての予習
9.	5. 競技力向上と栄養管理 1）期分けと栄養マネジメント	トーレニングと栄養管理についての予習
10.	5. 競技力向上と栄養管理 2）体づくりとたんぱく質	体タンパクの合成についての予習
11.	5. 競技力向上と栄養管理 3）スタミナづくりと糖質	グリコーゲンの代謝についての予習
12.	5. 競技力向上と栄養管理 4）グリコーゲンローディング	糖質の分解についての予習
13.	5. 競技力向上と栄養管理 5）コンディショニングづくりとミネラル、ビタミン、水分補給	熱中症についての予習
14.	5. 競技力向上と栄養管理 6）試合期と栄養補給法 7）女性アスリート	試合時の環境についての予習
15.	5. 競技力向上と栄養管理 8）スポーツ選手の栄養教育の実際と評価	栄養教育の手法についての予習

受講者へのメッセージやアドバイス:　ライフステージに即した知識をもとに管理栄養士としての職業観を醸成していきましょう。

フィードバックの方法:　質問等があれば次週に適宜対応。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	管理栄養士国家試験に要する知識を含む内容
出席及び授業終了時の提出物	20	本字の授業内容をまとめる

教科書:　新食品・栄養科学シリーズ
応用栄養学　編　灘本知憲・宮谷秀一　第4版　化学同人

参考書:　サクセス管理栄養士講座　応用栄養学　ライフシリーズ別　監修　社団法人全国栄養士養成施設協会　社団法人日本栄養士会　第一出版
管理栄養士養成課程におけるモデルコアカリキュラム準拠 第1巻 栄養ケア・マネジメント 基礎と概念 特定非営利活動法人日本栄養改善学会　監修／木戸康博・小倉嘉夫　ほか編 医歯薬出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　初回の講義時に説明。

655560

応用栄養学Ⅲ

今井　　具子

授業テーマ:　成人期以降のライフステージ・特殊環境下での栄養ケアマネジメントを理解する。

授業の概要:　成人期、高齢期の栄養特性を理解し栄養ケア・マネジメントできる。特殊栄養を理解する。

到達目標:　健康の基本である栄養・食生活の現状とあり方について、成人期から高齢期に至るライフステージの栄養特性 や栄養状態を理解するとともに、それぞれのライフステージの栄養ケア・マネジメントについて理解を深める。また、特殊環境下における栄養特性や栄養状態を理解する。

授業方法:　教科書などを用い、講義を行う。必要に応じて、教材提示機を使用する。該当する管理栄養士国家試験問題を、解く。ケーススタディーをする場合もある。事前にアナウンスするので、準備しておいてください。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	成人期の特性と生活習慣	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
2.	成人期の栄養と疾患・病態1 肥満、メタボリックシンドローム、糖尿病など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
3.	成人期の栄養と疾患・病態2 高血圧、脂質異常症、心筋梗塞など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
4.	成人期の疾病別ガイドラインの利用	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
5.	成人期の栄養アセスメント	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
6.	成人期の栄養ケア ケーススタディー	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
7.	更年期の特性と更年期の栄養状態	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
8.	更年期の栄養アセスメントと栄養ケア ケーススタディー	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は印刷してきてください。必携を忘れずに持ってきてください。事前に配布したケースワークを行います。
9.	高齢期の特徴と高齢期の栄養状態	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
10.	高齢期の疾患	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
11.	高齢期の栄養アセスメントと栄養ケア ケーススタディー	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
12.	.環境と栄養　1 ストレス応答と栄養・特殊環境と栄養ケア	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
13.	環境と栄養　2 低温・高温環境と栄養、高圧・低圧環境と栄養	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
14.	特殊栄養 無重力環境と栄養など	該当する単元を読んでおいてください。マナビーでパワーポイントが配布されている場合は必要に応じて印刷してきてください。
15.	まとめ	応用栄養Ⅲの範囲の管理栄養士国家試験問題を解き、説明できる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書中心に授業を行いますので、事前に予習してきてください。授業のパワーポイントは事前にマナビーに配布します。管理栄養士国家試験に向けてまとめのノートを作成してください。各単元の学習が終了した時点で、ノート提出を課題とします。数回小テストを行います。1週目の授業で予定表を配布します。成人期、更年期、高齢期の最後の週にはケースシタディーを行います。事前に内容を確認し、必要な資料を持参してください。

フィードバックの方法:　小テスト、ノート提出の結果を返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	国家試験問題を解き、解説できる能力(50%)と、キーワード・重要項目について簡単に論述できる能力(50%)を確認します。
ノート提出・小テスト	35	ノート提出はキーワードや重要項目が網羅されており、理解されているか確認し、3段階で評価します。小テストは数値化して加点します。
出席状況	5	出席数を点数化し、欠席・遅刻を減点します。

教科書:　応用栄養学Ⅰ、Ⅱで使用の「応用栄養学」化学同人を継続使用
2018年度版管理栄養士栄養士必携　日本栄養士会

参考書:　「栄養ケア・マネジメント」医歯薬出版
日本人の食事摂取基準2015年版　第一出版
国民健康・栄養の現状　第一出版
診療ガイドラインUP-TO-DATE　メディカルビュー

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、授業の前後に教室内で応対します

655660

臨床病態学Ⅰ

伊藤　　節子

授業テーマ:　疾患の成因と病態、治療

授業の概要:　解剖生理学、基礎栄養学で学んだことを理解していることを前提として、臨床病態学Ⅱ、Ⅲとあわせて臨床現場で管理栄養士として働くために必要な医学的知識を分野別に学ぶ科目である。この科目が最初に履修する科目であるため、前半は総論として臨床医学の基礎を学び、後半では各論に入る。少しでも理解しやすいように、比較的理解を促すために消化管の疾患からスタートする。

到達目標:　総論:疾患診断の基礎、カルテの読み方、疾患の治療の理解
各論:消化管疾患、肝・胆・膵疾患、循環器疾患の病態の理解

授業方法:　講義中心である。理解を助けるためにビデオを使用することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	疾患の診断:問診のとり方、カルテの書き方・読み方	教科書第2章の予習
2.	前回授業内容に関する小テスト 疾患の診断:主な症候の理解	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第2章の予習
3.	前回授業内に関する小テスト 疾患の治療:治療の方法、エビデンスに基づく治療	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第3章の予習
4.	前回授業内容に関する小テスト 疾患の治療:薬物の体内動態、薬物代謝に及ぼす食品の影響	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第3章の予習
5.	前回授業内容に関する小テスト 消化管の疾患:口腔、食道	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 口腔、食道の解剖生理学の復習 第10章の予習
6.	前回授業内容に関する小テスト 胃・十二指腸の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 胃・十二指腸の解剖生理学、消化吸収の機構についての復習 第10章の予習
7.	前回授業内容に関する小テスト 胃・十二指腸の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第10章の予習
8.	前回授業内容に関する小テスト 炎症性腸疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 栄養素の吸収についての復習 小腸、大腸の解剖生理学の復習 第10章の予習
9.	前回授業内容に関する小テスト 大腸の疾患、その他の消化管の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第10章の予習
10.	前回授業内容に関する小テスト 肝臓の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 肝臓の解剖生理学の復習 第10章の予習
11.	前回授業内容に関する小テスト 肝臓の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 肝臓における代謝の復習 第10章の予習
12.	前回授業内容に関する小テスト 胆道の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 胆道系の解剖生理学の復習 第10章の予習
13.	前回授業内容に関する小テスト 膵臓の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 膵臓の解剖生理学の復習 第10章の予習
14.	前回授業内容に関する小テスト 循環障害	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第11章の予習
15.	まとめ	これまでの授業内容の総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　解剖生理学、基礎栄養学の知識が身についていることを前提とした授業内容である。本教科の予習の際に、解剖生理学。基礎栄養学の関連部分を復習をすることにより学習効果が高まる。

必ず、授業用のノートを作成し、予習をしてくること。授業中のスマホ使用厳禁。

フィードバックの方法:　毎回、授業の初め(9;00)に前回授業で行った内容についての小テストを行い、復習の習慣をつけて知識の定着を図る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	39	40点/100点　まとめの試験と合算して60点以上を合格とする。遅刻して受けなかった回の小テストは0点となる
まとめの試験	60	60点/100点　小テスト、出席点と合算して60点以上を合格とする
出席	1	初回の講義には小テストを行わないので出席点1点とする 遅刻は0点

教科書:　伊藤節子編　臨床病態学　化学同人

参考書:　配布資料(授業中に配布)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業終了後

655760

臨床病態学Ⅱ

伊藤　　節子

授業テーマ:　疾患の成因と病態、治療

授業の概要:　解剖生理学、基礎栄養学で学んだことを理解していることを前提として、臨床病態学Ⅰ、Ⅲとあわせて臨床現場で管理栄養士として働くために必要な医学的知識を分野別に学ぶ。授業内容に示した疾患の各論を学ぶ。

到達目標:
循環器疾患の病態と治療の理解
脳血管障害、神経疾患,、老年期の疾患の病態と治療の理解
腎尿路系の疾患の病態と治療の理解
内分泌系疾患、骨・筋肉疾患の病態と治療の理解
呼吸器系疾患の病態と治療の理解
血液疾患の病態と治療の理解

授業方法:　講義が中心である。理解を促すためにビデオを使用する場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	循環器系疾患	循環障害についての復習 心・血管系の解剖生理学の復習 第11章の予習
2.	前回授業内容に関する小テスト 循環器系疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 心・血管系の解剖生理学の復習 第１１章の予習 第11章の予習
3.	前回授業内容に関する小テスト 脳血管障害	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第12章の予習
4.	前回授業内容に関する小テスト 老年期の疾患 神経系疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第12章の予習
5.	前回授業内容に関する小テスト 腎・尿路系の構造と働き	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 腎・尿路系の解剖生理学の復習 第13章の予習
6.	前回授業内容に関する小テスト 糸球体疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第13章の予習
7.	前回授業内容に関する小テスト 尿細管間質性疾患、酸・塩基平衡	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第13章の予習
8.	前回授業内容に関する小テスト 腎血管系・尿路系疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第13章の予習
9.	前回授業内容に関する小テスト 腎不全	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第13章の予習
10.	前回授業内容に関する小テスト 内分泌系疾患(糖尿病を除く)	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 内分泌系の解剖生理学の復習 第14章の予習
11.	前回授業内容に関する小テスト 骨代謝と筋・骨格疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第15章の予習
12.	前回授業内容に関する小テスト 呼吸器疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 呼吸器系の解剖生理学の復習 第16章の予習
13.	前回授業内容に関する小テスト 血液疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 造血系の解剖生理学の復習 第17章の予習
14.	前回授業内容に関する小テスト 血液疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第17章の予習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
解剖生理学、基礎栄養学の知識が身についていることを前提とした授業内容である。本教科の予習の際に、解剖生理学。基礎栄養学の関連部分を復習をすることにより学習効果が高まる。

必ず、授業用のノートを作成し、予習をしてくること。

フィードバックの方法:　毎回、授業の初め（９;００）に前回授業で行った内容についての小テストを行い、復習の習慣をつけて知識の定着を図る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	39	39点/100点　授業の復習問題（３点x１３回）
まとめの試験	60	60点/100点
出席	1	小テストを行わない1回目の出席点　1/100点

教科書:　伊藤節子編著、臨床病態学、化学同人し

参考書:　配布資料(授業中に配布）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業終了後

655860

食品学各論

西村　　公雄

授業テーマ:　食素材を考える。

授業の概要:　食品学各論では、主要な食品材料を取り上げ、(1)それらの特質・機能を解説する。さらに、(2)各食品に含まれる成分が、健康に対して与える役割・疾病予防への関与を考え、(3)これら各成分が食物としての特性にどのように活かされているのかについても解説する。以上の事柄を学ぶことで、各種食品素材についての正しい知識を習得する。

到達目標:　生化学・食品学総論の知識を基礎として，各食素材の成分と特徴について学ぶ。
以上のことを理解することにより
1. 食素材に関する事象や課題に関心を持つようになる。
2. 食素材にまつわる事象を科学的な視点で捉えることができるようになる。
3. 食素材に関する事象についてプレゼンテーションできるようになる。
1から3に到達することで，総合的に食品の安全性をふまえた食品の取り扱いを理解できるようになる。

授業方法:　テキストを用いて下記項目を順次解説する。また必要により、プリントの配布およびPower Pointの使用などを行う。原則的に2週間に一度，その日の講義内容についてグループディスカッションを行い，皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。また，隔週、講義終了後に20分程度の小試験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	農産食品（穀類：米，小麦：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
2.	農産食品（穀類：大麦，とうもろこし，そば；いも類：さつまいも，じゃがいも：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
3.	農産食品（いも類：やまのいもなど；種実類：ごま，落花生など：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
4.	農産食品（豆類：大豆，小豆など；野菜類：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
5.	農産食品（野菜類：キャベツ，レタスなど：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
6.	農産食品（果実類:りんご，なしなど；きのこ類：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
7.	農産食品（きのこ類：しいたけ，まつたけなど）および水産食品（藻類）：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
8.	畜産食品（食肉類:うし，ぶたなど：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
9.	畜産食品（食肉類：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
10.	畜産食品（卵類：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
11.	畜産食品（乳類：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
12.	畜産および水産食品（乳類および魚介類：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
13.	水産食品（魚介類の死後変化と鮮度など）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
14.	加工食品の素材（油脂類，糖類など：その成分と特徴）	使用テキスト該当部分を予め予習のこと
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　管理栄養士専攻生は，最終的に国家試験に受からねばなりません。もちろん，それが最終目標ではありませんが，国家試験に合格しないと管理栄養士としてのスタートラインには立てません。地道に幅広く知識を蓄える必要があります。こつこつと知識を積み重ねていきましょう。

フィードバックの方法:　マナビ-を使って小試験の解説を行う。必ず，解説を元に復習のこと。国家試験合格のためには，丁寧に学び，重要事項を記憶し，まとめておくことが，重要です。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	100	知識・理解が到達目標に達しているかどうかを基準とする。

教科書:　新　食品・栄養科学シリーズ「食品学各論(第3版)」瀬口正晴・八田一　編(化学同人)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー以外の時間でも，講義・実験実習・会議などがなければ研究室におります。随時お訪ね下さい。

655960

臨床栄養学Ⅰ

小松　　龍史

授業テーマ:　臨床栄養学に流れる共通の考え方や基礎となる事項を学ぶ

授業の概要:　専門科目としての臨床栄養学は傷病者や障がい者の栄養管理の実際を学ぶ。本講義はそのスタートにあたり、管理栄養士の職業倫理、医療分野における活動の基本的な理念、医療や福祉制度、栄養管理のプロセスの基本となる概念や栄養状態の評価など必要な知識を学ぶ。講義はこれらの事項について単元を設けて解説する。関係が深い科目は、臨床病態学、応用栄養学、給食経営管理学、基礎栄養学、解剖生理学、生化学、社会福祉学等幅広いので、関連科目の振り返りを考慮しながら講義を進めたい。

到達目標:　医療職性の強い専門職としての管理栄養士の職業倫理、患者中心の医療など医療分野における活動の基本的な理念を学び理解する。医療・介護制度と傷病者・障がい者の栄養管理の制度上のしくみについて理解する。臨床分野において対象に合わせた栄養管理（食事管理・栄養教育を含む）を実践できる能力を養うために栄養評価（評価方法と栄養診断）、栄養必要量算定、栄養補給や栄養教育などの栄養管理計画の作成と実施・モニタリング・カルテの記述などの一連のプロセスについての基礎知識を理解する。

授業方法:　授業形態は講義ですが、予習を重視するため、講義に当たり当日内容の基本的事項について予め問いかけを行います。また配布資料、資料提示等を適宜用います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床栄養学の意義と目的	傷病者への栄養学的な介入によって、患者に何がもたらされるかを、身体的側面、心理的側面、QOL（生活の質）の3つの視点で予習すること
2.	医療と臨床栄養	専門職として最も重要な職業倫理について、栄養士・管理栄養士の職業倫理を調べる。患者中心の医療、チーム医療等の基本と管理栄養士の役割について調べること
3.	医療制度の基本	我が国の医療保険制度の基本および栄養に関する診療報酬について調べてくること
4.	福祉・介護と臨床栄養	障害に関する基本的な分類方法や考え方および、我が国の介護保険制度の基本と栄養関連の介護報酬制度を調べてくること
5.	栄養ケア・マネジメント（栄養管理のプロセス）の概要	対象者の栄養管理の一連のプロセスである栄養ケア・マネジメントの概念について調べておくこと
6.	栄養状態の評価（栄養アセスメント）−1	栄養スクリーニング、主観的包括的評価（SGA)および栄養状態の指標としての臨床診査、エネルギー摂取および消費量などの評価方法について調べておく こと
7.	栄養状態の評価（栄養アセスメント）−2	栄養状態の指標として、窒素出納値、身体計測と身体構成成分、血液検査などからの評価方法について調べておくこと
8.	栄養状態の判定	栄養状態の評価（栄養アセスメント）の結果に基づいた、栄養状態の判定法（栄養診断）について調べておくこと
9.	栄養管理に用いられる栄養補給方法－経静脈栄養法	経静脈栄養補給のルート、特徴、合併症について調べておくこと
10.	栄養管理に用いられる栄養補給方法－経腸栄養法（経口および経管栄養法）	経管栄養法（チューブ栄養）のルート、特徴、合併症および使用される栄養剤の種類と特徴を調べる。病院食の種類と特徴を調べておくこと
11.	栄養介入（栄養管理計画の策定と実施）	栄養管理計画を策定するために必要な事項をあらかじめ列挙しておく。エネルギー補給量の設定について調べておくこと
12.	栄養管理のモニタリングと評価	栄養管理を実施（栄養介入）にあたり、モニタリング（経過観察）する項目の選定方法を調べておくこと
13.	傷病者・要介護者への栄養教育	患者教育を行う場面としてどのような場合が考えられるか。行動変容を可能とする栄養教育とはどのようなものかを調べておくこと
14.	食物と薬剤の相互作用	食品が薬剤の吸収や作用に影響を与える場合の例、薬剤が食欲や栄養素の吸収や体内利用に影響を与える例について調べておくこと
15.	まとめ	１－１４回目までの重要事項について整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習を行っていることを前提に講義を進めるので、講義ノートとは別に予習ノートを作成し必ず予習をすること。予習を行う際、興味深い点や疑問点などを明確にしておき、講義においてそれらを深めたり解決すること。講義のおいて未解決点が残った場合は、講義終了後質問紙に書いて提出するか、口頭で質問すること。予習ノートは講義前日3時間目開始前までに提出すること（初回の講義は不要）。

フィードバックの方法:　質問等に対しては、内容によって判断し個別に応じるか、教室でまとめて解説する。提出された予習ノートは確認し、講義開始前に返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する
予習ノート	30%	予習を通じて意欲的に授業に参加し、上記到達目標を達成しようとしているかを評価する
出欠席の取り扱い		60%の出席率を下回った場合、欠席数１回につき2点減点する

教科書:　「エッセンシャル臨床栄養学」第8版3刷　佐藤和人　本間健　小松龍編著（医歯薬出版）

参考書:　「栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ」奈良信雄著（医歯薬出版）
「国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル」日本栄養士会監訳（第一出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワーまたは授業前後教室内で対応します。

656060

臨床栄養学Ⅱ

小林　　ゆき子

授業テーマ:　傷病者における栄養管理プロセスを理解する

授業の概要:　管理栄養士が対象者の栄養管理を実施するための手法として、国際的に標準化された「栄養管理プロセス」について学ぶ。これは栄養管理の一連のながれを規定したもので、近年、我が国を含む多くの国々で導入された方法である。ここでは対象者を傷病者に限定し、栄養管理プロセスの特徴の1つである栄養診断の方法や記録方法を中心に、課題症例を検討することで理解し、習得する。

到達目標:
・栄養管理プロセスの全体像を理解する。
・対象者の栄養状態を判定（栄養診断）する技能を習得する。
・栄養診断の結果を決められた様式で診療録に記述する能力を習得する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養管理プロセスと用語マニュアルについて	これまで広く認知されてきた栄養ケアマネジメントについて理解しておく。
2.	栄養診断と記録方法について	基本的な記録方法とされているSOAP形式について理解しておく。
3.	栄養スクリーニングと栄養アセスメントについて	これまでに学習した栄養スクリーニングと栄養アセスメントの内容を復習しておく。
4.	栄養診断と栄養介入について	
5.	症例1（過栄養）の病態の解説と栄養状態の特徴について	
6.	症例1（過栄養）の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
7.	症例2（低栄養）の病態の解説と栄養状態の特徴について	
8.	症例2（低栄養）の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
9.	症例3（周術期患者）の病態の解説と栄養状態の特徴について	
10.	症例3（周術期患者）の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
11.	症例4（消化器疾患患者）の病態の解説と栄養状態の特徴について	
12.	症例4（消化器疾患患者）の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
13.	症例5（腎臓疾患患者）の病態の解説と栄養状態の特徴について	
14.	症例5（腎臓疾患患者）の栄養アセスメント、栄養診断、介入計画の検討と記録について	提示症例に対する栄養アセスメントを各自で検討しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	90	栄養管理プロセスの理解と習得レベルを評価。
授業への積極的参加度	10	栄養診断ができるようになったかを評価。

教科書:　監訳（公社）日本栄養士会／国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル／第一出版

参考書:　佐藤和人、本間健、小松龍史編／エッセンシャル臨床栄養学第8版／医歯薬出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

656160

臨床栄養学Ⅲ

小松　　龍史

授業テーマ:　疾病ごとの病態に対応した栄養管理方法の根拠と基本を学ぶ

授業の概要:　専門科目としての臨床栄養学は傷病者や障がい者の栄養管理の実際を学ぶ。臨床栄養学ⅠとⅡで学んだ総論的まなびに引き続き各論前半の科目に該当する。各疾患における栄養管理を病態と栄養学を理論的に結びつけつつ、栄養管理のプロセスを学ぶ。傷病者の栄養管理を関係が深い科目は、臨床栄養学Ⅰ／Ⅱ、臨床病態学、応用栄養学、給食経営管理学、基礎栄養学、解剖生理学、生化学、社会福祉学等幅広いので、関連科目の振り返りを考慮しながら講義を進めたい。

到達目標:　栄養管理や栄養指導の実務において、特に重要性の高い生活習慣と関わりの深い疾患を中心に、病態や栄養生理代謝と食生活の関係、発症の予防と治療、経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターの解釈、栄養管理計画の立案、モニタリングと評価など栄養管理の実際について理解する。

授業方法:　授業形態は講義であるが、予習を重視するため、講義に当たり当日内容の基本的事項について予め問いかけを行う。また配布資料、資料提示等を適宜用います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床栄養学の各論を学ぶにあたって、科目間の関連や管理栄養士実務との関連を考えてみる。	2年生の時に学習した臨床栄養学ⅠおよびⅡについて復習をしておく
2.	肥満と肥満症　（1）病態と栄養代謝と食生活・生活習慣など	肥満と肥満症の定義は何か、肥満の分類、基準基本的な事項を復習しておく。肥満患者の食生活の評価方法を調べておく。減量時の栄養管理の基本的な考え方を調べておく。
3.	肥満と肥満症　（2）栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	減量時の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく
4.	糖尿病　（1）糖尿病の病態（1型・2型）と栄養代謝の関連、食生活・生活習慣など	糖尿病の病態と治療について1型糖尿病、2型糖尿病を区別して説明できるように復習しておく。使用する経口血糖降下剤についてその作用機序とともに調べておく
5.	2型糖尿病　（2）栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	2型糖尿病患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。糖尿病治療ガイドラインの食事療法関連項目を調べておく。
6.	2型糖尿病　（3）血糖コントロール・合併症・患者教育	血糖コントロールの目標値、合併症の種類など栄養食事指導に必要な事項を調べるとともに、その手法について調べる。糖尿病治療のための食品交換表を調べる。
7.	1型糖尿病　病態栄養、インスリン療法と食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	1型糖尿病患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。
8.	脂質異常症・痛風　病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	脂質異常症患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。動脈硬化性疾患予防ガイドラインの栄養関係事項を調べる。
9.	高血圧　病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	高血圧患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。高血圧治療ガイドラインの栄養関連項目を調べる。
10.	心疾患・脳卒中　病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	心疾患・脳卒中患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。
11.	脂肪肝　病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	脂肪肝患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。脂肪肝の原因を栄養状態との関連で調べておく
12.	貧血　鉄代謝・鉄利用と食事、鉄欠乏性貧血、検査データの解釈、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	鉄欠乏性貧血患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。鉄の吸収に影響を与える要因を説明できるようにしておく
13.	骨・歯・栄養欠陥　生活習慣や環境の影響、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	骨疾患患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。歯周病と糖尿病の関係についてしらべておく。PEMの分類を説明できるように調べておく。
14.	神経性無食欲症　病態と治療、生活習慣や環境の影響、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	神経性無食欲症患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。
15.	まとめ	重要事項の点検をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習を行っていることを前提に講義を進めるので、講義ノートとは別に予習ノートを作成し必ず予習をすること。予習を行う際、興味深い点や疑問点などを明確にしておき、講義においてそれらを深めたり解決すること。講義のおいて未解決点が残った場合は、講義終了後質問紙に書いて提出するか、口頭で質問すること。予習ノートは講義前日3時間目開始前までに提出すること（初回の講義は不要）。

フィードバックの方法:　質問等に対しては、内容によって判断し個別に応じるか、教室でまとめて解説する。提出された予習ノートは確認し、講義開始前に返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する
予習レポート	30%	予習を通じて意欲的に授業に参加し、上記到達目標を達成しようとしているかを評価する。
出欠席の取り扱い		60%の出席率を下回った場合、欠席数1回につき2点減点する。

教科書:　「エッセンシャル臨床栄養学」第8版2刷　佐藤和人　本間健　小松龍史編著（医歯薬出版）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィスアワーまたは授業前後教室内で対応します。

656260

臨床栄養学Ⅳ

小松　　龍史

授業テーマ:　疾病ごとの病態に対応した栄養管理方法の根拠と基本を学ぶ

授業の概要:　専門科目としての臨床栄養学は傷病者や障がい者の栄養管理の実際を学ぶ。臨床栄養学Ⅲに引き続き各論後半の科目に該当する。各疾患における栄養管理を病態と栄養学を理論的に結びつけつつ、栄養管理のプロセスを学ぶ。傷病者の栄養管理を関係が深い科目は、臨床栄養学Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ、臨床病態学、応用栄養学、給食経営管理学、基礎栄養学、解剖生理学、生化学、社会福祉学等幅広いので、関連科目の振り返りを考慮しながら講義を進めたい。

到達目標:　栄養管理や食事療養において、通常の食生活とは異なる特別な栄養成分の調整を必要としたり、中心静脈栄養法など特殊な栄養療法を必要とするなど、管理栄養士が臨床の現場で重要な役割を求められる疾患を中心に、病態や栄養生理代謝と栄養管理の関係、患者の栄養管理や経過観察に必要な臨床データや栄養評価パラメーターの解釈、治療薬などについて知識を得る。

授業方法:　授業形態は講義であるが、予習を重視するため、講義に当たり当日内容の基本的事項について予め問いかけを行う。また配布資料、資料提示等を適宜用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	消化器疾患（1）　胃潰瘍、胃がんなどの病態栄養、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	上部消化管（口腔から食道・胃の疾患）疾患患者の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。特に嚥下障害、胃がん等に注目する。
2.	消化器疾患（2）　炎症性腸疾患の病態栄養、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	炎症性腸疾患（クローン病、潰瘍性大腸炎）の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。
3.	消化器疾患（3）　肝炎、肝硬変の病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	急性・慢性肝炎および肝硬変の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。特に肝硬変非代償期の病態生理・生化学と臨床症状に対応した栄養管理を学んでおく。
4.	消化器疾患（4）　胆石・胆嚢炎・膵炎の病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	胆石・胆嚢炎・膵炎の病態と栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。食生活と胆石の種類、急性膵炎と慢性膵炎の病態の違い等に注目
5.	腎疾患（1）　糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎盂腎炎、慢性腎臓病（CKD)の病態栄養の理論的背景	慢性腎臓病に繋がる糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、腎盂腎炎に注目して栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく
6.	腎疾患（2）　慢性腎臓病（CKD）の概念・腎機能と栄養管理、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	慢性腎臓病（CKD)のステージと栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。
7.	腎疾患（3）　糖尿病性腎症、人工透析などの栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	糖尿病性腎症の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。人工透析の方法と栄養管理の特徴を学習しておく
8.	呼吸器疾患　肺炎、慢性閉塞性肺疾患などの病態栄養、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	誤嚥性肺炎や慢性閉塞性肺疾患（COPD)の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく
9.	内分泌・代謝疾患　甲状腺機能亢進症などの病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	種々の内分泌疾患の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく
10.	免疫・アレルギー　アレルギー性疾患、自己免疫疾患の病態栄養、食生活、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	食物アレルギー、膠原病等の自己免疫疾患の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく
11.	感染症　慢性消耗性疾患などの病態栄養、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	慢性消耗性疾患などの栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。特に敗血症時の炎症反応などを調べておく。
12.	外科（1）　外科侵襲時の代謝と栄養管理、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価など（クリィティカルケアを含む）	外科侵襲時の代謝変動を調べるとともに、術前術後の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく
13.	外科（2）　消化器の外科手術と病態と栄養代謝、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	特に栄養状態の変化が表面化しやすい消化管の外科手術前後の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく
14.	小児期の疾患　先天性代謝異常、小児腎疾患、小児糖尿病などの病態栄養、食生活・生活習慣、栄養アセスメント・栄養管理計画・モニタリングと評価	小児期の栄養学的特性を踏まえつつ、各疾患時の栄養管理の基本的な考え方をもとに、栄養アセスメントすべき項目、栄養管理計画の基本、モニタリングすべき項目を調べておく。
15.	まとめ	各種疾患時の栄養管理についてまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習を行っていることを前提に講義を進めるので、講義ノートとは別に予習ノートを作成し必ず予習をすること。予習を行う際、興味深い点や疑問点などを明確にしておき、講義においてそれらを深めたり解決すること。講義のおいて未解決点が残った場合は、講義終了後質問紙に書いて提出するか、口頭で質問すること。予習ノートは講義前日3時間目開始前までに提出すること（初回の講義は不要）。

フィードバックの方法:　質問等に対しては、内容によって判断し個別に応じるか、教室でまとめて解説する。提出された予習ノートは確認し、講義開始前に返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する
予習ノート	30%	予習を通じて意欲的に授業に参加し、上記到達目標を達成しようとしているかを評価する
出欠席の取り扱い		60%の出席率を下回った場合、欠席数1回につき2点減点する。

教科書:	エッセンシャル臨床栄養学」第8版2刷　佐藤和人　本間健　小松龍史編著（医歯薬出版） 「国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル」日本栄養士会監訳（第一出版）
参考書:	「栄養アセスメントに役立つ臨床検査値の読み方・考え方・ケーススタディ」奈良信雄著（医歯薬出版） 「国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル」日本栄養士会監訳（第一出版）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィスアワーまたは授業前後教室内で対応します。

656360

栄養教育論Ⅰ

片井　　加奈子

授業テーマ:　栄養教育の基礎理論の修得

授業の概要:　栄養教育の概念、栄養教育の目的・目標や栄養教育の対象や場、食環境・組織や地域への展開を学び、栄養教育のための理論的基礎を学ぶ。さらに栄養教育に活用される行動科学理論やモデル、そして行動変容技法の概念と方法を学ぶ。また、栄養教育基礎技術として、カウンセリングやコーチングについて学ぶ。

到達目標:　栄養学基礎理論を基に国民の栄養・食生活の現状をふまえて、栄養教育の概念を理解する
実践能力を養うのに必要な栄養教育に関する基礎的な理論と方法を習得する
社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた栄養教育の基礎的な展開について理解する

授業方法:　講義・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養教育の概念 栄養士・管理栄養士の定義、役割について	教科書とノートの用意する。 該当部分の教科書を読む。
2.	栄養教育と健康教育について	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料をマナビーにアップ又は配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
3.	栄養教育の背景（歴史等）について	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
4.	栄養教育と関係法規等について	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
5.	栄養教育と食環境の関わりについて	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
6.	栄養教育に関連する生活指導について（運動・休養を中心に）	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
7.	栄養教育に関連する生活指導について（飲酒・喫煙を中心に）	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
8.	栄養教育の概念についての小テスト 栄養教育と食行動変容について	小テストの勉強 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
9.	栄養教育と行動変容のモデルや理論1	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。
10.	栄養教育と行動変容のモデルや理論2 （事例についてのディスカッション）	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。
11.	栄養教育と行動変容のモデルや理論3 （事例についてのディスカッション）	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。
12.	栄養教育と行動科学の部分の小テスト 栄養教育実施のための技術1（コミュニケーションについて）	小テストの勉強 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
13.	栄養教育実施のための技術2（カウンセリング・コーチングについて）	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。

14.	栄養教育とコミュニケーションについての小テスト 栄養教育実施のための技術3（プレゼンテーションについて） （事例についてディスカッション）	小テストの勉強 該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。
15.	まとめ	該当部分の教科書を読む。 基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討等を行うので、事前に配布された事例についてまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

管理栄養士を「人間の健康の維持・増進、疾病の発症予防・重症化予防、および生活の質（quality of life; QOL）の向上を目指して、望ましい栄養状態・食生活の実現に向けての支援と活動を、栄養学・健康科学等関連する諸科学をふまえて実践できる専門職」ととらえ、上記の支援と活動に関する理論や方法を中心に学ぶ。

フィードバックの方法:

課題は、授業開始後すぐに教室で集める。
課題についてのコメントや採点掲示はマナビーを用いて行う。
レポート解説は教室でまとめて行う。また、マナビーにてレポート提出や解説を行うこともある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	10	レポート課題を正しく理解して、適切な方法で調べ、自分の考えを論理的に説明できるかを基準とする。
小テスト	30	教科書の単元終了後に小テストを数回行い、その平均点を評価とする。
定期試験	60	栄養教育の概念及び栄養教育のための理論や方法の基礎知識や理解度により評価する。加えて、社会・生活環境や健康・栄養状態の特徴に基づいた栄養教育の基礎的な展開の知識や理解を合わせて評価する。

教科書:

栄養科学シリーズ NEXT 栄養教育論, 笠原賀子・川野因　編, 講談社サイエンティフィク
. 問題思考型　栄養教育論　Ver. 4, 小野章史　編

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:

オフィスアワーやマナビーを通して行う

656460

栄養教育論Ⅱ

片井　　加奈子

授業テーマ:

栄養教育を効果的に実践できるように栄養教育に関する理論や方法、技術等への理解を深める。
栄養教育マネジメントを理解して、対象者（学習者）に合わせた栄養管理が出来るように、これまでに学んだ専門的知識を結びつける。

授業の概要:

栄養教育論Ⅰで学んだことを前提に、個人および集団の健康・栄養状態の評価や判定に基づく個別的、専門的、医療的な栄養教育が行えるよう、栄養教育マネジメントおよび栄養教育に関わる理論と方法について理解を深める。具体的には、管理栄養士（専門家）としての「栄養」の知識や技術を、対象者（学習者）の状態やニーズに合わせて「食事」・「食生活」の支援として活用できるように学びを深める。また、栄養教育により対象者（学習者）がよりよい食生活が行えるような栄養教育の在り方（内容、計画、すすめ方等）を学ぶ。

到達目標:

栄養教育論1の知識や理解を基に栄養教育マネジメントについて理解する。
具体的には、健康・食物摂取に影響を及ぼす要因、栄養教育における目標設定、栄養教育の計画立案、栄養教育プログラムの実施、栄養教育の評価、栄養教育マネジメントで用いられる理論やモデルについての知識を有し、各項目について理解していること。
ライフステージ・ライフスタイル別栄養教育の展開の知識と理解を深めること。

授業方法:

講義・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養教育マネジメント1（マネジメントサイクルについて）	教科書とノートの用意をする。 該当部分の教科書を熟読する。
2.	栄養教育マネジメント2（栄養教育におけるアセスメントおよび学習者の把握について）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
3.	栄養教育マネジメント3（栄養教育の目標設定について）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
4.	栄養教育マネジメント4（栄養教育の計画立案について）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
5.	小テスト 栄養教育マネジメント5（栄養教育の形態や実践的な方法について）	小テストの勉強 該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
6.	栄養教育マネジメント6（栄養教育の評価について）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
7.	栄養教育マネジメント7（栄養教育マネジメントで用いる理論やモデルについて）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
8.	小テスト 妊娠・授乳期の栄養教育について （事例検討）	小テストの勉強 該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
9.	乳幼児期の栄養教育について （事例検討）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
10.	学童期・思春期の栄養教育について （事例検討）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
11.	成人期の栄養教育について （事例検討）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビ一上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。

12.	高齢期の栄養教育について （事例検討）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
13.	傷病者・障がい者と栄養教育 （事例検討）	該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。 授業で事例検討を行うので、事前に配布された事例について理解を深めておく。
14.	小テスト 諸外国の栄養教育の動向	小テストの勉強 該当部分の教科書を熟読する。 授業中に次週以降に使用する資料を配布するので、読み込んでおく。 マナビー上に提示される資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参する。
15.	まとめ	いままで配布された資料や自分で作成した授業ノートを復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
事例検討など一部演習を組み込んで授業を行う。
疑問や意見、質問などを積極的に発し、自ら問題解決を図ろうとする意欲を持って臨んでください。

フィードバックの方法:
レポート課題は、教室で集めて採点後に教室にて返却する。レポート課題解説は教室でまとめて行う。また、マナビーにてレポート提出や解説を行いこともある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	10	レポート課題を正しく理解して、適切な方法で調べ、自分の考えを論理的に説明できるかを基準とする。
小テスト	30	教科書の単元終了後に小テストを数回行い、その平均点を評価とする。
定期試験	60	栄養教育マネジメントについての知識と理解度により評価する。加えて、ライフステージ・ライフスタイル別の栄養教育の展開についても知識と理解度を評価する。

教科書:
栄養科学シリーズ NEXT 栄養教育論, 笠原賀子・川野因 編, 講談社サイエンティフィク
問題思考型 栄養教育論, 小野章史 編

参考書:
日本人の食事摂取基準（2015年版）
国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル
国民健康栄養調査の現状

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
オフィスアワー、マナビーにて対応します

656560

栄養教育論Ⅲ

片井　　加奈子

授業テーマ:　栄養カウンセリングの基礎を学ぶ

授業の概要:　栄養教育論Ⅰ、栄養教育論実習で学習した栄養カウンセリングについての基礎をさらに深く学び、対象者（学習者）の準備性や生活状況、食生活に応じた栄養カウンセリングの方法を講義で考え方、演習で技法を学ぶ。
また、実際にクラスメイトに対して複数回の食生活支援（面接）を行うことで、栄養カウンセリングについて理解を深める。
演習やグループワークを行い、その結果を発表し、教員やクラス内で質疑や討論を行う。

到達目標:　栄養カウンセリングの基本的な考え方を理解する
栄養カウンセリングに関わる理論等について理解する
クラスメイトに栄養カウンセリングを用いて面接を複数回行い、その記録を適切につけ、栄養カウンセリング技術の向上をはかる
グループワークや演習を通して、発表や質疑などで自分の意見を発してディスカッションに積極的に参加することで、栄養カウンセリングについて深く考える

授業方法:　講義・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	アイスブレイクについて	予習として 教科書とノートの用意する アイスブレイクについて調べてくる 復習として アイスブレイクについて学んだことを整理しておく
2.	栄養カウンセリングについて （栄養カウンセリングの特徴など）	予習として 該当部分の教科書を読む 復習として 学んだことをノートに整理し、まとめておく
3.	栄養カウンセリングの基本 （カウンセリングマインド、カウンセラーとしての態度、倫理など）	予習として 該当部分の教科書および資料を読む 復習として 学んだことをノートに整理し、まとめておく
4.	カウンセリングの基本的態度 （傾聴、受容、共感的理解など）	予習として 該当部分の教科書および資料を読む 復習として 学んだことをノートに整理し、まとめておく
5.	カウンセリングの基本的態度（演習） （受容・要約・開かれた質問等） 初回面接の実施	予習として 該当部分の教科書および資料を読む 復習として 演習内容の振り返りを行い、ノートに気づきなどを整理しておく 初回面接の振り返りを行い、支援記録を書く （目標宣言シート基に作られたセルフモニタリングシートを書く）
6.	動機づけ面接法の基本	予習として 該当部分の資料を読む 復習として 学んだことをノートに整理し、まとめておく
7.	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論1 （行動療法など）	予習として 該当部分の教科書および資料を読む 復習として 学んだことをノートに整理し、まとめておく
8.	栄養カウンセリングに必要なカウンセリング理論2 （継続支援（面接）の実施）	予習として 該当部分の教科書および資料を読む 復習として 学んだことをノートに整理し、まとめておく セルフモニタリングシートの分析、面接の振り返りを行い、支援記録を書く
9.	支援の中で困っていることを話し合う	予習として 支援記録を振り返り、困っていることや対応に迷ったことなど、発表できるようにまとめておく 復習として グループワークの内容や他のクラスメイトから学んだ支援のポイントなどを整理してノートにまとめておく
10.	カウンセリングに必要な食行動理論	予習として 該当部分の教科書および資料を読む 復習として 学んだことをノートに整理し、まとめておく
11.	栄養カウンセリングの実際 （栄養カウンセリングの流れ） （継続支援（面接）の実施）	予習として 該当部分の教科書および資料を読む 復習として 学んだことをノートに整理し、まとめておく セルフモニタリングシートの分析、面接の振り返りを行い、支援記録を書く
12.	ライフステージ別栄養カウンセリング （事例検討およびグループワーク、発表）	予習として 該当部分の教科書および資料を読む 提示された事例について調べておく 復習として 事例整理シートのまとめやグループワークのまとめをしておく
13.	ライフステージ別カウンセリング （ロールプレイおよび振り返り）	予習として 提示された事例について、事例整理シートより面接シナリオを考える 復習として ロールプレイの振り返りを行い、ノートにまとめておく

14.	臨床栄養におけるカウンセリング （ロールプレイ） （継続支援（面接）の実施（最終回））	予習として 提示された事例について調べておく 復習として ロールプレイの振り返りを行い、ノートにまとめておく 面接の振り返りを行い、支援記録を完成させ、評価を行う
15.	まとめ	いままで配布された資料や自分で作成した授業ノートを復習する 支援記録の提出

受講者へのメッセージやアドバイス:
基本的に授業中に次週以後に使用する資料を配布するので（マナビー上での配布も有）、読み込んでおいてください
マナビー上に提示される配布資料の確認および理解と必要に応じてプリントアウトして授業に持参してください。

フィードバックの方法:
レポート課題は、教室で集めて採点後に教室にて返却する。レポート解説は教室でまとめて行う。また、マナビーにてレポート提出や解説を行うこともある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	授業やグループワーク等に積極的に参加して、質問や疑問、意見を発し、授業内容の理解や課題解決に向けて取り組む意欲や態度を評価する
支援記録	20	クラスメイトに複数回、栄養カウンセリングを用いて食生活支援を行い、その記録が適切に書けているか評価する
定期試験	60	栄養カウンセリングの考え方や用いられる理論、技法について理解しているか評価する 栄養管理の中で栄養教育（栄養カウンセリング）計画やその評価が適切に出来るか問う

教科書:
栄養科学シリーズ NEXT 栄養カウンセリング論　小松啓子、大谷貴美子 編　講談社サイエンティフィク

参考書:
アイスブレイク　出会いの仕掛け人になる　今村光章　株式会社晶文社
栄養カウンセリング論　赤松利恵・永井成美　化学同人
栄養士のためのカウンセリング論　石井均　建帛社
行動変容のための面接レッスン　行動カウンセリングの実践　足立淑子　医歯薬出版株式会社
動機づけ面接法　実践入門　ステファン・ロルニック 他 著　星和書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:
オフィスアワー、授業後、マナビー上で対応します

656661～63　**総合演習A**

片井　加奈子、天野　信子

授業テーマ:　栄養士・管理栄養士に関する縦断的な専門知識・技術を統合し、栄養士・管理栄養士として「栄養の指導」ができるよう総合的な能力を養う。

授業の概要:　管理栄養士として必要な専門知識、技術を統合するため、今まで学習してきたことを基礎に応用力、問題解決能力を高め、現在の社会のニーズ、学習者（対象者）に即した対人的な栄養業務が展開できるよう、栄養教育現場を想定して体験的に学習をすすめる。

到達目標:
栄養教育プログラムの基本的な案を立て、指導案を作成することができる
栄養教育プログラムの評価について適切な評価法を選択することができる
栄養教育プログラムや指導案に沿って教育媒体・教材を選択し、作成することができる
栄養教育の基本的な技能を基に模擬集団栄養教育を行うことができる
行った栄養教育について評価案を基に、分析・評価ができる

授業方法:　演習・実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	前半：オリエンテーション 後半：栄養マネジメントについて、栄養ケア・マネジメントにおける評価について	事前学習として、栄養ケア・マネジメントについて今まで学んだことを復習しておく 授業後学習として、食品目安量の課題を行う
2.	前半：集団栄養教育の実際１（栄養教育の企画、指導案作成） 後半：集団栄養教育の実際2（栄養教育の教材・媒体、評価法の検討）	事前学習として、集団栄養教育の方法等についてこれまでの授業で習ったことを復習しておく また、指導案が書けるように資料等を調べて準備しておく 授業後学習として、指導案や評価案を仕上げてくる
3.	前半：模擬集団栄養教育準備（リーフレット案作成） 後半：模擬集団栄養教育準備（リーフレット作成）	事前学習として、栄養教育における効果的な教材について理解を深めておく 授業後学習として、模擬集団栄養教育のリーフレットを仕上げてくる
4.	前半および後半：模擬集団栄養教育準備（栄養教育の媒体・教材の作成）	事前学習として、模擬集団栄養教育の媒体・教材が作成できるよう資料を探して準備をしておく 授業後学習として、模擬集団栄養教育の媒体（教材）を仕上げてくる
5.	前半：模擬集団栄養教育準備（評価表などの作成） 後半：模擬集団栄養教育準備（プレゼンテーションのリハーサル）	事前学習として、評価案から評価表が作成できる準備をする 授業後学習として、リハーサルを行っての反省・感想を基に改善点を修正しておく
6.	前半および後半：模擬集団栄養教育（プレゼンテーションと評価）	事前学習として、模擬栄養教育が出来るように仕上げてくる 授業後学習として、模擬教育後のレポート課題を行う
7.	前半および後半：模擬集団栄養教育（プレゼンテーションと評価）	事前学習として、模擬栄養教育が出来るように仕上げてくる 授業後学習として、模擬教育後のレポート課題を行う
8.	前半および後半：まとめ（総合評価を全体で行う）	事前学習として、7回目で配布した資料を読み込んでおく 授業後学習として、模擬教育後のレポート課題を仕上げる

受講者へのメッセージやアドバイス:　グループ別にテーマ（栄養教育が治療として重要な代謝疾患、または栄養上配慮の必要な学習者（集団栄養教育現場）を想定）に沿った模擬集団栄養教育を立案、計画、実施、評価を行う。その中で、栄養スクリーニング、栄養アセスメント、栄養状態の判定、栄養介入、栄養モニタリングと評価 を体験的に学び、効果的な栄養教育方法（教材等）や栄養管理に必要な事柄について総合的に学ぶ。

フィードバックの方法:　レポートや課題提出は演習内に行います。レポート等提出物の返却は実習後に返却します。レポートや課題指導は演習中またはオフィスアワーに行います。一部の課題はマナビーを用いて提出・返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習への参加度	40	演習に積極的に参加して、到達目標に掲げる技能の獲得ができ、課題が解決されているかを基準とする。また、栄養士・管理栄養士として積極的に栄養問題に取り組もうとする意欲や態度も評価する。
提出物	30	作成された指導案、媒体・教材およびレポートにより評価を行う。評価は、作成物が栄養学的に正しい根拠があるものか、栄養教育を行う対象や場に合っているか、また、栄養教育前の分析が正しい方法で適切にできているか、評価を正しく出来ているかを確認する。
発表、討論	30	個人またはグループ発表や討論において、適切な方法で調査し、まとめた自分の意見を自分の言葉で述べることができるか、また論理的で根拠のある意見が述べれているかを基準とする。加えて、他人の意見を十分聞き、人への理解を深めているかどうかを評価する。

教科書:　栄養科学シリーズ　NEXT　栄養教育論実習　片井加奈子・川上貴代・久保田恵 編　講談社サイエンティフィク

参考書:
日本人の食事摂取基準（2015年版）
国民健康栄養の現状（最新版）
臨床栄養学・応用栄養学の教科書
食品成分表
糖尿病食事療法のための食品交換表や腎臓病食品交換表

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、演習中にアポイントを取ることも可能です。

656760

総合演習B

小松　龍史、今井　具子、片井　加奈子、神田　知子、倉橋　優子

授業テーマ:
授業・実習で学んだことを体系的・総合的にまとめる
校外・臨地実習の事前指導

授業の概要:
この授業は校外・臨地実習の総合的な事前指導と給食の運営（校外実習）、臨床栄養IおよびII（臨地実習）、給食経営管理実習（臨地実習）、公衆栄養学実習（臨地実習）それぞれの事前指導を行う。
また、この授業計画は15回であるが、総合演習Bに相当する部分は7.5回分であり、7.5回分は校外・臨地実習時間にあてる。

到達目標:
基礎教科・専門教科の知識や技術を統合し、校外・臨地実習で課題発見・解決できるよう今までの学習内容の理解を深める
臨床・福祉・給食経営管理・行政などの施設で活躍する専門家（管理栄養士）による特別講義により、実践活動の場における栄養士・管理栄養士の業務について学ぶ
臨地・校外実習に臨む心構えを学ぶ
臨地・校外実習先を研究し、実習課題を持って実習に臨めるようにする

授業方法:
講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	校外・臨地実習全般についての説明	臨地・校外実習報告会の内容を思い出し、その時に取ったノートや記録を見返しておく。
2.	校外・臨地実習についての心構え	予習として、1回目に配布した資料等を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
3.	給食の運営、給食経営管理についての特別講義	予習として、実習要録の給食の運営、給食経営管理の部分を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
4.	病院実習についての特別講義	予習として、実習要録の臨床栄養管理の部分を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
5.	高齢者の保健・福祉についての特別講義	予習として、福祉施設について調べてくること、また嚥下について理解を深めておくこと 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
6.	行政栄養士の業務・役割についての特別講義	予習として、実習要録の公衆栄養学の部分を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめたレポートを課す
7.	病院実習施設配当調整	予習として、配当に関する資料を読み込んでくること 復習として、病院実習での課題を考えておくこと（個人）
8.	病院実習に関する4年生との懇談会、課題研究（グループワーク）	予習として、春学期に行った臨地・校外実習報告会の冊子を読み返しておくこと 復習として、病院実習での課題を考えておくこと（グループ）
9.	給食の運営実習配当調整	予習として、配当に関する資料を読み込んでくること 復習として、給食の運営実習での課題を考えておくこと（個人）
10.	給食の運営実習に関する4年生との懇談会、課題研究（グループワーク）	予習として、春学期に行った臨地・校外実習報告会の冊子を読み返しておくこと 復習として、給食の運営実習での課題を考えておくこと（グループ）
11.	公衆栄養学実習についての説明と4年生との懇談会（グループワーク）	予習として、春学期に行った臨地実習報告会の冊子を読み返しておくこと 復習として、授業内容をまとめておくこと
12.	臨地校外実習でのインシデント・アクシデントについて（グループワーク）	予習として、春学期に行った臨地実習報告会の冊子を読み返しておくこと 復習として、グループワークの内容をまとめておくこと
13.	実習に関する連絡・確認事項、諸注意（1）	予習として、実習課題を仕上げておくこと 復習として、授業内容をまとめておくこと、必要書類を記入してくること、実習に向けてグループで情報を共有しておくこと
14.	実習に関する連絡・確認事項、諸注意（2）	予習として、13回目に配布した資料等を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめておくこと、必要書類を記入してくること、実習に向けてグループで事前課題を行うこと
15.	実習に関する連絡・確認事項、諸注意（3）	予習として、14回目に配布した資料等を読み込んでくること 復習として、授業内容をまとめておくこと、実習に向けてグループで事前課題を仕上げておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:
学外指導者の都合など諸般の事情により一部順序が入れ替わったり、内容を変更する場合がある。総合演習Bの最初の授業時に確定した授業計画を配布する。

フィードバックの方法:
レポートや課題、提出物は授業中または決められた提出期限までに担当者に提出する。
レポートは内容を確認した（採点）後、実習中または実習後に返却を行う。
実習課題については、添削指導後、授業中に返却を行う。その際、教室でまとめて指導を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	60	授業やグループワークに積極的に参加し、授業目標を到達しようとする姿勢や意欲、態度より評価する。また、校外・臨地実習の事前・事後学習への積極的な取り組みを評価する。
提出物	40	レポートについては、管理栄養士の業務や役割を認識し、校外・臨地実習に対する準備や心構えについて、今の自分の状況を鑑み、これからの課題やそのための解決策について論述されているかを基準とする。 課題研究については、自ら設定した実習目標について、適切な方法で調査し、課題や課題解決策が立てられているか、そしてその実践がなされているかを基準とする。

教科書:
実習要録　配布資料（プリント等）

参考書:
日本人の食事摂取基準　第一出版
管理栄養士・栄養士必携　第一出版
管理栄養士・栄養士のための困りごと相談ハンドブック（日本栄養士会監修）新日本法規

	給食実務必携　第一出版 認知症ケアと予防に役立つ栄養療法　クリエイツかもがわ 栄養士・管理栄養士をめざす人の文書術ハンドブック　化学同人 保育所給食と子どものゆたかな育ち　かもがわ出版 給食人　かもがわ出版
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業後にも対応します。

656860

卒業演習

村上　恵、今井　具子、伊藤　節子、片井　加奈子、神田　知子、小切間　美保、小松　龍史、倉橋　優子、仲佐　輝子、吉田　香、足達　哲也、森　紀之

授業テーマ:
管理栄養士専攻での4年間の学びの総まとめ

授業の概要:
管理栄養士として必要な下記の分野における知識と理解力を修得する。
社会・環境と健康，人体の構造と機能及び疾病の成り立ち，食べ物と健康，基礎栄養学，応用栄養学，栄養教育論，臨床栄養学，公衆栄養学，給食経営管理論

到達目標:
管理栄養士に必要な知識・理解と応用力を評価するため，全ての試験結果と授業への参加度の合計が60点に達していること。

授業方法:
各回の授業は講義形式で行う。随時最新の情報を織り交ぜながら，プリントを配付し，パワーポイント・スライドまたは教材提示機を用いて分かりやすく各分野の内容を解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション―卒業演習の概要	授業外に実施される理解度確認試験に合わせて，該当する分野のまとめノートの作成と予習を行うこと。各回の授業後には，授業内容と照らし合わせて各自まとめノートを修正しつつ復習を行うこと。
2.	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（生化学）	
3.	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（解剖生理学）	
4.	人体の構造と機能及び疾病の成り立ち（臨床病態学）	
5.	基礎栄養学	
6.	応用栄養学	
7.	栄養教育論	
8.	臨床栄養学	
9.	社会・環境と健康	
10.	オリエンテーション―栄養士免許・管理栄養士免許について	
11.	食べ物と健康（食品衛生学）	
12.	食べ物と健康（食品学）	
13.	公衆栄養学	
14.	給食経営管理論	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
まとめノートの作成に当たっては，各科目の教科書，授業ノートのほかに，参考資料として「管理栄養士栄養士必携」「日本人の食事摂取基準」「国民健康・栄養の現状」「国民衛生の動向」などを使用すること。

フィードバックの方法:
複数回のオリエンテーションおよび各科目担当教員や国家試験対策室において個人面談によりフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度および9月以降の理解度確認試験の成績	60	管理栄養士として必要な知識・理解と応用力を評価するため，全ての試験結果と授業への参加度の合計が60点に達していること。
まとめ試験	40	

教科書:
各科目で使用した教科書および補足プリント

参考書:
管理栄養士栄養士必携，日本栄養士会
日本人の食事摂取基準2015年度版，第一出版
国民健康・栄養の現状―厚生労働省国民健康・栄養調査報告より―，第一出版
国民衛生の動向，厚生労働統計協会
その他のものはオリエンテーション，授業等で学生に周知する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応

656961～64

食事計画実習

小切間　美保、神田　知子、前野　雅美

授業テーマ:
食事計画を栄養計画，献立計画，生産計画（衛生管理計画含む）などによる総合計画と位置づけて実習する。

授業の概要:
管理栄養士が関与する食事提供は嗜好面，栄養面，経済面，衛生面など，品質を保証するために計画的に行われなければならない。特定給食施設での栄養・食事管理はもちろん，在宅者への栄養教育においても適切な食事計画と調理の指導が要求されることから、実践力の基礎となる知識と技術を体得する。

到達目標:
(1)給食提供の基礎となる，栄養計画，献立作成，調理・配膳作業計画，経営計画（原価管理），衛生管理計画を含めた総合的な知識と技術を身につけることを目標とする。

授業方法:
食事計画，準備作業，調理を伴う実習，振り返り，まとめの順で授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	(1)食事計画実習の目的について概説。 (2)生産管理の概要と栄養計画について概説。 (3)組織と役割分担、レポート課題についての説明。 (4)衛生管理・安全管理について演習。 (5)モデル献立（和食・洋食）の生産管理の説明および作業分担の確認。	【復習】衛生管理に関するレポート 【予習】モデル献立（和食）の予習と調理の練習
2.	(1)給食経営管理実習室の設備を使用したモデル献立（和食）の実習。 (2)モデル献立（和食）の試食・衛生管理の実践・まとめ。 (3)喫食量の測定。	【復習】実習に関するレポート 【予習】モデル献立（洋食）の予習と調理の練習
3.	(1)給食経営管理実習室の設備を使用したモデル献立（洋食）の実習。 (2)モデル献立（洋食）の試食・衛生管理の実践・まとめ。	【復習】実習に関するレポート 【予習】試作献立①の計画と調理
4.	(1)モデル献立実習を振り返り，作業管理，衛生管理，安全管理の評価とまとめ。 (2)試作献立①の計画（実習室でのシミュレーションを含む）。試作献立①の作業分担および衛生管理のポイントを確認。 (3)給食経営管理ソフトの使用法の説明と実習。	【予習】(1)調理実技テストの課題（テスト日までに各自練習） (2)試作献立①の予習と調理の練習
5.	(1)給食経営管理実習室の設備を使用した試作献立①の実習。 (2)試作献立①の試食・衛生管理の実践・まとめ。	【復習】試作献立①の実習の反省と改善方法に関するレポート 【課題】給与栄養目標量の設定と食品構成表の作成レポート 【予習】試作献立②の計画と調理
6.	管理，安全管理の評価とまとめ。 (2)試作献立②の計画（実習室でのシミュレーションを含む）。試作献立②の作業分担および衛生管理のポイントを確認。 (3)調理に関する実技テスト	【予習】試作献立②の予習と調理の練習
7.	(1)給食経営管理実習室を使用した試作献立②の実習 (2)試作献立②の試食，衛生管理の実践・まとめ	【復習】試作献立②の実習の反省と改善方法に関するレポート 【予習】試作献立①②の改善案の作成と調理
8.	(1)試作献立②の振り返り，作業管理，衛生管理，安全管理の評価とまとめ。 (2)反省と改善案の発表。	【課題】事業所給食を対象とした調理レポート

受講者へのメッセージやアドバイス:
実習は全て、「調理を伴う予習」を行った上で出席することが原則である。

フィードバックの方法:
レポートはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および実習態度	48	到達目標(1)のために、調理を伴う予習をした上での実習態度を評価する
調理に関する実技テスト	10	到達目標(1)のために必要となる技術を評価する。
レポート等の提出物	42	到達目標(1)のために必要となる視点で書かれているかを基準とする。到達目標（1）に関して、手料理プロジェクト（10～12月）の内容も評価点に含める。

教科書:
「日本食品標準成分表」
「調理のためのベーシックデータ」（女子栄養大出版部）
「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」（学建書院）
「給食経営管理論実習−給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解」（医歯薬出版）

参考書:
「なぜ？どうして？給食経営管理論」（メディックメディア）
「日本人の食事摂取基準」（第一出版）
「大量調理」（学研書院）
新食品・栄養科学シリーズ「給食経営管理論」（化学同人）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対する。

657261～63

食品学実験

西村　　公雄、林　　由佳子

授業テーマ:　食品一般成分分析法の体得

授業の概要:　食品成分表に掲載されている一般成分（水分・灰分・タンパク質・脂質・食物繊維・糖質）の測定法を体得する。

到達目標:　食品学総論で学んだ食品の一般成分含量を各自用意した食品を用いて測定する。この実験を通して，
1. 一般成分測定を体得できるとともに，
2. 何故，各成分が測定値分含まれているか理解できるようになる。
1，2に到達することで食品の安全性をふまえた食品の取り扱い方を理解できるようになる。

授業方法:　1グループ2～3名で実験を行なう。実験をスムーズに進行させるため、受講者には予め実験の方法をまとめたものを各自提出してもらう。レポートは、毎週必要と判断した項目につき提出させる。また，レポートの考察内容に付きグループディスカッションを行い，皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	実験の心構えおよび試薬の調製 クロマトグラムの原理解説	使用テキスト該当部分を予め予習のこと。
2.	水分（常圧加熱乾燥法による）および水分活性	実験当日までに，水分（常圧加熱乾燥法による）および水分活性に関する実験マニュアルを提出する。
3.	灰分	実験当日までに，灰分に関する実験マニュアルを提出する。
4.	タンパク質（ケルダール法による分解）	実験当日までに，タンパク質（ケルダール法による分解）に関する実験マニュアルを提出する。
5.	タンパク質（ケルダール法による蒸留）	実験当日までに，タンパク質（ケルダール法による蒸留）に関する実験マニュアルを提出する。
6.	脂質（ソックスレー抽出法による）	実験当日までに，脂質（ソックスレー抽出法による）に関する実験マニュアルを提出する。
7.	食物繊維（酵素−重量法による）および糖質	実験当日までに，食物繊維（酵素−重量法による）および糖質に関する実験マニュアルを提出する。
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　実験は，実際に体験することが肝要です。従いまして，講義とは異なり出席を重視いたします。実験中，事故が起こることがないように，常に神経をとがらせ，今の操作の意味を考えましょう。それを元に，次に何をするか頭の中で常に整理しておきましょう。積極的に参加することが大切です。

フィードバックの方法:　レポートの考察内容に付きグループディスカッションを行い，皆の前でプレゼンテーションをしてもらう。その際，発表内容に関するコメントを与えることで，行った実験内容・意義に付きフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	40	レポートとしての体裁が整っているか。実験結果に付き適切な考察がなされているかなどを評価基準とする。
平常試験	10	基本的な計算能力が備わっているかを評価する。
授業への積極的参加	50	まじめに実験に取り組んでいるかを評価基準とする。

教科書:　大鶴　勝編「食品学実験」（朝倉書店）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー以外の時間でも，講義・実験実習会議などがなければ研究室におります。随時お訪ね下さい。

657361～63

臨床栄養学実習A

小松　　龍史、萩原　　喜代美

授業テーマ:　チーム医療をめざして

授業の概要:　医療分野においてチーム医療の担い手の一員として管理栄養士が参加する機会が増えてきた。また個別の栄養管理計画を全入院患者に作成されるようになった。また栄養サポートチームにおける管理栄養士の役割も高まっている。そこで臨床栄養活動に必要な基本的手技を学び、これらの技術を身につけるとともに、栄養管理や栄養指導を行う対象となる疾患を重点的にとりあげ、具体的な症例についてSGA、ODAに基づく実践的な栄養アセスメントの方法、最新の臨床栄養情報をもとにたてる栄養療法のプランとその結果の評価法をグループワークを通して学ぶ

到達目標:　臨床における栄養管理に必要な身体計測、食事調査、身体兆候の観察などの栄養アセスメントの基本的主義を繰り返し練習することにより習得させる。グループワークにより症例検討を通して栄養管理のプロセスを模擬体験し、科学的根拠に基づいた栄養管理計画を立案能力をつけるとともに、医療チームの中で栄養の専門職としてコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を育成する。障がい者や患者等の疑似体験あるいは栄養アセスメント作業をお互いに行うことを通して対象者への思いやりや守秘義務などの倫理観を養う

授業方法:　(1)本実習では栄養アセスメント技術の習得のために身体計測（皮下脂肪厚の測定など）、身体徴候の観察・問診などは反復実習を行う。さらにチーム医療でのコミュニケーション、ファシリテーション、リーダーシップなどの能力を高めるために、70%以上の実習テーマはグループワークにより実施する。
(2)シラバスに記載した項目はグループにより交代しながら実施する。またテーマにより必要な時間や回数が異なるため、記載順に1回づつ実施するものではない。
(3)記載したすべての項目を実施する予定であるが、必要に応じて若干の変更を加える場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	【臨床栄養アセスメントA】タンパク質・エネルギー栄養失調の栄養アセスメント・身体徴候の観察と問診・身体計測（上腕三頭筋部、肩甲骨下部など）	レポートの作成
2.	【臨床栄養アセスメントB】エネルギー摂取量の評価、24時間思い出し法、食品交換表を活用した簡易評価、食生活状況の評価、食生活状況調査（問	実習前日の食事記録の作成およびレポート作成
3.	【臨床栄養アセスメントC】エネルギー消費量の評価、身体活動レベルの評価、ハリスベネディクトの式などによる基礎代謝量の推定	実習前日までのライフコーダ装着（1週間）とレポート作成
4.	【臨床栄養アセスメントD】空腹時および食後のエネルギー代謝測定とRQ	被験者は空腹及び安静状態の維持およびレポート作成
5.	【臨床栄養アセスメントE】体組成の評価（生体インピーダンス法）、たんぱく質栄養状態の評価（クレアチニン身長係数、窒素出納値の推定）、Na摂取量の推定など	3日分の24時間蓄尿およびレポート作成
6.	【栄養スクリーニング】模擬病院における栄養スクリーニングと主観的包括的評価（SGA）	レポート作成
7.	【強制栄養法の基本】人体モデルを用いた中心静脈栄養セッティング	レポート作成
8.	【強制栄養法の基本】人体モデルを用いた経腸栄養セッティング（経鼻胃管および胃瘻）	レポート作成
9.	【水分出納および水分管理】グループワークによる症例を用いた水分出納の推定と水分管理計画の作成	レポート作成
10.	【栄養管理計画実習A】グループワークによる経腸栄養適用患者（経鼻胃管・胃瘻）の栄養管理計画の作成	レポート作成
11.	【栄養管理計画実習B】グループワークによる中心静脈栄養適用患者の栄養管理計画の作成（人体モデルによる模擬実習含む）	レポート作成
12.	【栄養管理計画実習C】グループワークによる糖尿病症例の栄養管理計画作成	レポート作成
13.	【栄養管理計画実習D】グループワークによる慢性腎臓病症例の栄養管理計画作成	レポート作成
14.	【高齢者・要介護】嚥下評価、ベッド、介護食器活用、高齢者等模擬体験衣料による体験、車いす活用、褥瘍モデルスケッチなど	レポート作成
15.	実習のまとめ	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　復習として、毎回の実習に対するレポートを次回実習時に提出する。実習では反復して行うテーマも多くあるので実習レポートはその回だけでなく、過去の実習結果と比較するなど、創造的で多面的なレポート作成が求められる。

フィードバックの方法:　レポートを確認して返却する。必要に応じて個別にあるいは全体にレポート作成の助言を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席回分のレポート評価	70%	本科目は実習であるため出席していないと評価されない。レポートは3段階評価
グループワークでの発表や質疑応答などの総合評価	30%	グループワークの発表の内容や充実度、質疑応答などにより3段階評価

教科書:　配布資料および臨床病態学および臨床栄養学で用いた教科書等

参考書:　糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版　（日本糖尿病協会・文光堂）
国際標準化のための栄養ケアプロセス用語マニュアル（日本栄養士会監訳・第一出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	オフィスアワーまたは授業前中後教室内で対応します。

657461～63　**臨床栄養学実習B**

近藤　慶子、山下　尚子

授業テーマ:　おもな疾病の栄養管理に必要な食事形態や栄養成分の調整や献立の立案

授業の概要:　テーマごとに解説を行うとともに、特に医療分野に用いられる治療食献立の作成と治療食の作成実習を行う。

到達目標:　傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養マネジメントを実践するうえで必要な、治療食を考え実践できることを目標とする。

授業方法:　講義の後、グループ単位で、課題に適した食事計画（献立作成）（宿題）と、試作実習、試食および評価を行い発表する。なお、実習の一部内容に関して必要に応じて変更することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	治療食の基本（1） ・治療食および実習説明と平成28年度診療報酬改訂の解説 ・一般的な食事計画（献立）の立て方 ・常食から軟菜食への展開による1日分の食事計画（献立作成） ・軟菜食（4品）、ソフト食の試作、試食	復習として実習レポートを作成し、次回の実習時に提出する。
2.	治療食の基本（2） ・膵臓病食・潰瘍食・心臓病食について ・常食から各疾患食（形態・成分制限食）への展開 ・課題の症例に対し栄養アセスメントを行い、栄養ケアプランを作成、 それに基づいた1日分の食事計画（献立作成） ・常食（2品）→脂質制限食の実習、試食 ・嚥下食の実習（摂食障害時の食事の工夫）	医療において用いられる病態に対応した複数献立を基軸になる食種から展開する方法について予習しておく
3.	治療食の基本（3） ・糖尿病食について（食品交換表演習） ・課題の症例に対し栄養アセスメントを行い、栄養ケアプランを作成 それに基づいた1日分の食事計画（献立作成） ・低エネルギー料理の試作、試食、代用甘味料・エネルギー調整品の試飲、試食	糖尿病食品交換表について予め予習しておく。
4.	治療食の基本（4） ・腎臓病について（食品交換表演習） ・課題の症例に対し栄養アセスメントを行い、栄養ケアプランを作成、 それに基づいた1日分の食事計画（献立作成） ・治療用特殊食品を用いた単品の試作、試食	慢性腎臓病の病態と栄養管理について予習しておく
5.	治療食の試作と評価（1） ・一般食の常食から軟菜食（全粥・五分粥）、特別食（心臓病食・潰瘍食・膵炎食）への展開：第1・2回で作成した展開食の試作、試食、評価	食事形態が異なる場合における献立の関係、調理方法の違いなどを調べておく
6.	治療食の試作と評価（2） ・糖尿病食：第3回で作成した糖尿病食の試作、試食、評価	第3回で作成した献立をあらかじめよく読んで、調理手順等を記述しておく。
7.	治療食の試作と評価（3） ・腎臓病食：第4回で作成した腎臓病食の試作、試食、評価	第4回で作成した献立をあらかじめよく読んで、調理手順等を記述しておく。
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　限られた時間と回数で治療食献立の作成と調理を行うことから、十分に予習をして臨んでください。

フィードバックの方法:　実習時気づいた点を指摘するとともに、完成度の高い献立を共有できるようにしたい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習態度、献立・レポートの提出物	60%	
試験	40%	

実習態度、レポート等の提出物、試験により総合的に評価します

教科書:　糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版
糖尿病性腎症の食品交換表　第2版
腎臓病の食品交換表　第8版　治療食の基準

参考書:　日本食品標準成分表2015年版(2016年4月以降市販される予定)
「日本人の食事摂取基準2015年版」
栄養科学シリーズNEXT 「臨床栄養管理学実習」講談社サイエンティフィック

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　実習時および前後の時間帯に対応するようにしたい。

657561～63

応用栄養学実習

小切間　美保、桒原　晶子

授業テーマ:　ライフステージ別の栄養ケア・マネジメント

授業の概要:　妊娠期，乳幼児期，学童期，青年期，高齢期における生理的変化に応じた栄養状態の特徴を理解した上で，各ライフステージの事例を用いて栄養アセスメントを行い，栄養問題を検出する。それを基に目標設定，行動計画，モニタリング計画を立案することで，栄養ケア・マネジメントのプロセスを学ぶ。

到達目標:　栄養アセスメントに必要な評価法について説明でき，事例を用いて栄養ケア・マネジメントを実施できる。

授業方法:　グループで調理を伴う実習や事例検討を行う。実習テーマごとにレポートを提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	妊娠期および乳児期の栄養マネジメント 1）実習内容および課題の説明 2）妊娠期の栄養アセスメントと妊婦疑似体験 3）乳児の栄養管理 ①調乳の方法と実習 ②市販ミルクの試飲と評価	◆妊婦疑似体験と調乳のレポート
2.	妊娠期の栄養マネジメント 1）妊婦の事例検討 離乳期の栄養マネジメント 1）離乳食について 2）離乳食実習 3）市販離乳食の試飲と評価	◇離乳食実習の予習 ◆離乳食実習のレポートと市販離乳食に関するまとめ
3.	高齢期の栄養マネジメント 1）高齢者の事例検討 2）事例検討についてグループワーク 3）摂食機能低下に対応した食事形態（食品の物性測定の実際）	◆事例検討の復習
4.	青年期女性の栄養マネジメントと展開食献立計画 1）青年期女性の栄養マネジメント（臨床栄養学実習Aとの連携） ①栄養アセスメントと栄養問題の抽出 ②目標設定と栄養管理計画とモニタリング計画 2）各自が実施したマネジメントについてグループワーク 3）成人期の献立から離乳期，高齢期への展開食献立計画	◆青年期女性の栄養マネジメントについて考察
5.	展開食献立の実習 1）調理 2）グループ発表 3）評価とまとめ	◇展開食献立の予習 ◆展開食献立のレポート
6.	幼児期・学童期の栄養マネジメント 1）幼児期および学童期の栄養管理：発表 2）食物アレルギー児への対応（特定給食施設における個別対応など） 3）幼児期・学童期・高齢期の間食献立計画	◇幼児期・学童期の栄養管理に関する発表の準備 ◆本時の発表について考察
7.	青年期女性の栄養マネジメント-モニタリング-と間食献立の実習 1）青年期女性の栄養マネジメント-モニタリング-（臨床栄養学実習Aとの連携） ①栄養アセスメントと経過の評価 ②目標設定の妥当性の検討 ③栄養管理計画の修正 2）モニタリング結果についてグループワーク 3）幼児期・学童期・高齢期の間食献立の実習	◆青年期女性の栄養マネジメント-モニタリング-のまとめ ◇間食献立の予習 ◆間食献立レポート
8.	まとめ 1）各ライフステージ事例検討の評価 2）栄養マネジメントのまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　必ず出席し，レポートを全て提出すること。

フィードバックの方法:　個々の提出物（レポート課題）は採点して返却し，教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度および実習態度	20	※欠席は20%の枠にかかわらず厳しく減点する。
レポート課題および発表	80	課題の完成度，発表態度を評価する。

教科書:
配付プリント
応用栄養学　第4版，化学同人
栄養ケア・マネジメント　基礎と概念，医歯薬出版
日本人の食事摂取基準，第一出版
食品成分表

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力，思考力，創造力，プレゼンテーション力，コミュニケーション力，思いやる力，変化対応力

教員との連絡方法: 研究室および授業前後の実習室内で対応

657661～63　**基礎栄養学実験**

仲佐　輝子、渡邊　英美

授業テーマ:　栄養素の役割や機能を実験を通して理解する。

授業の概要:　基礎栄養学の講義で得た知識を基に栄養素の役割や機能について実験を通して理解すること。また、栄養学を学ぶための実験手法の基礎を習得すること。
ビタミンの実験は1つの材料を用いて、各グループで異なる操作を施して実験を行い、最後に結果を発表する。レポートにはそれらをもとに考察したことを書く。ラットの実験は、クラス全体で摂食群4匹、絶食群4匹の実験結果がでる。実験項目毎に結果を発表し、レポートには各自、2群間の有意差検定も行って考察したことを書く。

到達目標:　①栄養成分の分析では、ビタミンを取り上げ、食品中のビタミンB2およびビタミンCについて種々の操作を行って残存するビタミン量を測定することによってその性質を理解する。
②生理現象などがヒトとよく似ているラットを用いて摂食群と絶食群を作成し、栄養素の摂取と生体内代謝との関係を、血液および肝臓中の各種成分分析や酵素活性を測定することによって理解する。
③実験は、グループでの共同作業である。グループの中で、積極的に実験に関わり、協力して実験を進めることができる。
④実験方法をフローチャートで示すことで、実験を的確に進めることができる。
⑤実験結果から内容を理解し、レポートにまとめることができる。

授業方法:　基礎栄養学実験は1単位の実験であるので、実験回数は3コマ続きで7.5回である。1回目はその0.5回分に相当する。1グループ6～7名で実験を行う。初回に実験項目全般についての内容を説明し、以後は当日の実験操作上の注意点を述べる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基礎栄養学実験に関する全体説明 （1)基礎栄養学実験全体の内容説明 （2)基礎栄養学実験全体の内容説明	
2.	栄養成分の分析　―　酸処理、アルカリ処理、UV照射後の牛乳中のビタミンB2量の測定（Lumiflavin法） （1)実験操作の説明及び実験（牛乳のpH処理、光照射処理） （2)実験（残存するビタミンB2の抽出とLumiflavin法による測定） （3)結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。ビタミンB2の性質、牛乳中のビタミンB2量を調べる。
3.	標準食で飼育されたラットを対照として、絶食による血液中生体成分および肝機能への影響をみる 1）血糖値および血漿中遊離脂肪酸量の測定 （1)ラットの飼育条件及び組織重量の説明 （2)血糖値及び遊離脂肪酸測定の操作説明及び実験 （3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ｉで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
4.	2）肝臓中のグルコース6ホスファターゼ活性の測定 （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験 （3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ｉで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
5.	3）肝酵素液中のタンパク質の測定および肝臓中のグリコーゲン量の測定(1)（グリコーゲンの抽出・分解） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験 （3)実験及びグルコース6ホスファターゼ活性の結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ｉで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
6.	4）肝臓中のグリコーゲン量の測定(2)（グリコーゲン分解液中のグルコース定量） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験 （3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ｉで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
7.	5）血漿中アルブミン量の測定および実験結果の整理 （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験及び結果のまとめ （3)実験結果の整理と有意差検定	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。基礎栄養学Ｉで解説した摂食時、絶食時の生体内代謝について復習する。
8.	栄養成分の分析　―　大根中のビタミンC量の測定（Indophenol比色法） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験及び結果のまとめ （3)小テスト及びまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。ビタミンCの性質、大根および人参中のビタミンC量を調べる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実験には、事前にテキストを読み、実験操作についてはノートにフローチャートで作成して臨むこと。内容については、すでに基礎栄養学で学んだことなので、教科書をよく読んで予習しておくこと。レポートは指定した日時までに提出することになるが、実験結果などは、その都度まとめ、整理しておくこと。
実習の進め方やレポートの書き方等、詳しいことは第1回目の授業で説明する。
事前連絡なしの欠席遅刻は厳禁とする。
レポート提出が遅れた場合は減点の対象とする。

フィードバックの方法:　レポートはコメントをつけて返却する。不備のある場合は再提出を求める。
教室でまとめて解説する場合もある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む実験への積極的参加度	40%	到達目標③、④を踏まえ、実験操作予習の有無、実験内容の理解度、実験態度により評価する。
レポート	50%	レポート形式が整っているかを評価する。実験結果から到達目標①、②の実験内容を理解し、的確に報告できているかを評価する。
小テスト	10%	実験結果算出の理解度により評価する。

教科書:　研究室作成の「基礎栄養学実験」を配布する。

参考書:	実験内容に関係するすべての本が参考となる。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業前後に実験室内で対応する。

657761～63

栄養教育実習

片井　　加奈子、天野　　信子

授業テーマ:　人への栄養教育の実際を実習を通して学ぶ。

授業の概要:　栄養教育論で学んだ理論や方法、技術を基に、個人または集団の健康を回復、維持、増進できるよう栄養情報を駆使して、総合的に栄養教育プログラムを作成、実行できる能力を養う。また、そのプログラムを判断、評価する栄養教育の技術的体系を体験的に習得する。そして、栄養教育を「人への理解」という観点からとらえ、実践力や問題解決能力を高める。

到達目標:
栄養教育方法に対する理解を深めるとともに、人へ栄養教育を行う姿勢を身につける
栄養教育における効果的な教材・媒体への理解を深め、教材や媒体を作成できるようになる
栄養教育を行う際の基本的な技能（カウンセリングやコーチング）について理解を深める
栄養教育プログラムの基本的な案を立てることができる

授業方法:　実習・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コンピューターを活用した栄養教育媒体について 1）実習全般についてのオリエンテーション 2）効果的な栄養教育の媒体・教材についてディスカッションを行う 3）MS-WORDを利用した媒体作成	事前学習として （1）栄養教育論の「媒体・教材」の部分を読んでくること （2）学生食堂で卓上メモを活用した集団栄養教育を行うと想定し、食堂利用者の食生活上の問題点とその改善策を考えるための資料を集めてくること 復習として、MS-WORDを利用した媒体を仕上げてくること
2.	手描きによる栄養教育媒体について 1）栄養教育媒体案作成 2）手描きによる栄養教育媒体の作成 3）媒体作成および評価（自己評価・他者評価）	事前学習として （1）栄養教育論の「媒体・教材」の部分を読んでくること （2）学生食堂でポスターを活用した集団栄養教育を行うと想定し、食堂利用者の食生活上の問題点とその改善策を考えるための資料を集めてくること 復習として、手描きによる媒体を仕上げてくること
3.	栄養教育に必要なプレゼンテーション技術について1 1）効果的なプレゼンテーションに必要な技術についてディスカッションを行う 2）プレゼンテーション案作成 3）MS-POWER POINT、ペイントソフトを活用したプレゼンテーション教材作成	事前学習として、配布した資料を読み込んでくること 復習として、MS-POWER POINTを一度使ってみること
4.	栄養教育に必要なプレゼンテーション技術について2 1）MS-POWER POINT、ペイントソフトを活用したプレゼンテーション教材作成 2）プレゼンテーションの実際と評価（自己評価・他者評価） 3）集団討議法を用いて討議を行う	事前学習として、集団討議法について理解を深めてくること 復習として、プレゼンテーションの他者評価を分析し、自己評価とともに振り返りを行う
5.	模擬個人栄養教育の実際 1）臨床栄養ソフトを用いた模擬栄養教育 2）コーチングを取り入れた栄養教育について（ロールプレイ演習）	事前学習として、糖尿病の栄養管理について復習してくること、コーチングについて今まで習ったことを基に理解を深めてくること 復習として、個人栄養教育の手順について振り返りを行っておくこと
6.	栄養教育に必要なカウンセリング基礎技術 1）「聴く」ことの体験 2）話し手の気持ちを受け止めるということの体験	事前学習として、5回目に示した課題を行ってくること 復習として、「傾聴」について理解を深めておくこと
7.	行動科学を活用した栄養教育の実際 1）気持ちを表現する体験 2）気持ちを大切にしたかかわりについて 3）ケーススタディを活用した栄養教育ロールプレイ演習	事前学習として、6回目に示した課題を行ってくること 復習として、行動科学理論の実際について理解を深めておくこと
8.	まとめ ビデオ教材を用いてディスカッション	事前学習として、7回目に配布した資料を読み込んでくること 復習として、これまでの内容をまとめて整理しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　実習は、個人で課題を進めるものと、グループで協同して行うものがある。

フィードバックの方法:
レポート課題は実習中に集め、実習後に採点の上、返却する。
また、一部マナビーによる課題の提出・フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習への参加度	40	実習・演習に積極的に参加して、到達目標に掲げる知識や技能の獲得が出来ているかを基準とする。また、管理栄養士として積極的に課題発見・課題解決を行おうとする意欲や態度も評価する。
提出物	30	作成された指導案、媒体・教材およびレポートにより評価を行う。評価は、作成物が栄養教育理論に則っているか、栄養教育を行う対象や場に合っているか、また、栄養教育前の分析が正しい方法で適切にできているか、評価を正しく出来ているかを確認する。
発表、討論	30	個人またはグループ発表や討論において、自分の意見を自分の言葉で述べることができるか、また論理的で根拠のある意見が述べれているかを基準とする。加えて、他人の意見を十分聞き、人への理解を深めているかどうかを評価する。

教科書:　栄養科学シリーズ　NEXT　栄養教育論実習　片井加奈子・川上貴代・久保田恵編　講談社サイエンティフィク

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:	オフィスアワー、実習中にアポイントを取ることも可能です。

657861～64　**給食経営管理実習（学内実習）**

小切間　美保、神田　知子、内田　真理子

授業テーマ:　Plan（計画）Do（実行）Check（確認）Action（対応）のマネジメントサイクルに基づき、100食の食事提供を体験し、提供した食事について評価を行う。

授業の概要:　特定給食の管理・運営に関する一連の業務について実習を通じて学ぶ。

到達目標:　(1)大量調理法、作業手順、調理器具や調理機器の使用法の習得に加え、経営管理、栄養・食事管理、衛生・安全管理、提供した食事の満足度調査など、管理栄養士として必要な知識と技術を習得する。

授業方法:　給食経営管理実習室を使用して，100食分の食事提供の計画・試作・実習を行う。時間割等の都合上，クラスによって実習内容の順番が異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	(1)試作実習の計画について説明。 (2)栄養管理計画，発注書作成の実習。 (3)作業計画，衛生管理計画。原材料保存実施のための準備。 (4)献立①②の作業管理と衛生管理のポイントを確認。	【課題提出】事業所給食の献立作成レポート提出 【予習】試作献立①②の予習と調理の練習
2.	(1)献立①および献立②の試作実習 (2)検食および検食簿記入，試食，後片付け，まとめ。	【復習】実習に関するレポート 【予習】献立①の100食調理にむけての計画と調理
3.	(1)試作実習の評価と改善点の検討。 (2)献立①について100食提供の栄養管理，作業管理，衛生管理等の計画。作業管理，衛生管理のポイントについて確認。 (3)献立①について100食提供の原価管理，食材料管理，食環境と食教育等の計画。	【復習】実習に関するレポート 【予習】献立①の100食調理に向けての予習と調理の練習
4.	(1)献立①について100食の食事提供（検食を含む）。 (2)献立①について試食，後片付け，実習の振り返り	【復習】実習に関するレポート 【予習】献立②の100食調理にむけての計画と調理
5.	(1)献立①の100食提供の振り返り。 (2)献立②について100食提供の栄養管理，作業管理，衛生管理等の計画。作業管理，衛生管理のポイントについて確認。	【予習】献立②の100食調理に向けての予習と調理の練習
6.	(1)献立②について100食の食事提供（検食を含む）。 (2)献立②について試食，後片付け，実習の振り返り	【復習】実習に関するレポート
7.	(1)献立①②の品質評価 (2)インシデントレポートの作成。 (3) 保存用実習報告書の作成。 (4)フードサービスとマネジメントについてグループワークの実施。 (5)事業所給食を想定した費用分析	【復習】喫食者アンケートのまとめ 【課題】給食経営管理実習報告書の作成
8.	(1)実習内容の反省点を整理し発表。 (2)給食経営管理実習のまとめ。	

受講者へのメッセージやアドバイス:　実習は全て、「調理を伴う予習」を行った上で出席することが原則である。

フィードバックの方法:　レポートはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および実習態度	52	到達目標(1)のために、調理を伴う予習をした上での実習態度を評価する
レポート等の提出物	48	到達目標(1)のために必要となる視点で書かれているかを基準とする。到達目標（1）に関して、手料理プロジェクト（4～6月）の内容も評価点に含める。

教科書:
「日本食品標準成分表」
「調理のためのベーシックデータ」（女子栄養大出版部）
「給食経営管理論実習−給食の運営の実際と給食経営管理の総合的理解」（医歯薬出版）
「調理場における衛生管理＆調理技術マニュアル」（学建書院）

参考書:
「なぜ？どうして？給食経営管理論」（メディックメディア）
「大量調理」（学研書院）
新食品・栄養科学シリーズ「給食経営管理論」（化学同人）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

657961～63

公衆栄養学実習（学内実習）

今井　　具子

授業テーマ:　公衆栄養学Ⅰ、Ⅱで学習する内容についてグループワーク、個人課題を通して理解を深める。

授業の概要:　栄養政策、栄養疫学、栄養マネジメントについて、各自又はグループで模擬体験し、レポートにまとめる。

到達目標:　公衆栄養学で学習した知識に基づき、地域や個人の健康、栄養問題とそれを取り巻く自然、社会、経済、文化的要因に関する情報を自ら収集・分析し、それらを総合的に評価・判定する方法を体験する。また総合的な公衆栄養教育プログラムの作成、実施、評価の総合的マネジメントを模擬体験する。

授業方法:　各自ITCを活用して資料を収集し分析・評価する演習と、グループ単位で調査または公衆栄養アセスメントを行い、プログラムを作成し、発表資料を作成する演習とを組み合わせて行います 。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養情報の検索・収集とEBN	課題についてのグループワークのあと、各自でパソコンを使った情報収集を行います。
2.	栄養アセスメントの実際	公衆栄養学の教科書、第4章　3　食事摂取量の測定方法を読んでおいてください。
3.	健康日本21第2次と第2次食育推進基本計画の地方計画の実際	公衆栄養学の教科書、第3章　6　国の健康増進基本方針と地方計画を読んでおいてください。
4.	地域の健康作りのための食環境整備の実際	公衆栄養学の教科書、第6章　2　食環境づくりのためのプログラムの展開を読んでおいてください。
5.	栄養調査データ解析の実際	公衆栄養学の教科書、第4章　2暴露情報としての食事摂取量と、4　食事摂取量の評価方法を読んでおいてください。
6.	アセスメントからプログラム計画へ　（1）	グループワークとして、アセスメント結果より、問題点を抽出して、公衆栄養学プログラムを作成します。
7.	アセスメントからプログラム計画へ　（2）	グループワークの続きを行います。プログラムの内容、目標、評価方法等を考え、パワーポイントにまとめます。
8.	プログラムの発表	各班が作成した公衆栄養学プログラムを発表し、質疑応答を行い、評価します。

受講者へのメッセージやアドバイス:　個人の演習とグループワークを組み合わせて行います。パソコンの扱いが苦手な学生も、基本的な操作をマスターし、パソコンを使って健康教育等の資料の収集や作成ができるようになりましょう。

フィードバックの方法:　退出されたレポートにコメントを返します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート提出	50	各レポートを数値化して評価します。提出遅れ、未提出は減点の対象です。
発表	40	発表内容、プレゼンより評価します。
出席状況	10	原則、全回出席が基本です。欠席・遅刻は減点します。

教科書:　適宜資料を配布します。

参考書:　公衆栄養学　光生館　（公衆栄養学I、IIと同じテキスト）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、授業の前後に教室内で応対します

658360

臨床病態学Ⅲ

伊藤　　節子

授業テーマ:　疾患の成因と病態、治療

授業の概要:　解剖生理学、基礎栄養学で学んだことを理解していることを前提として、臨床病態学Ⅰ、Ⅱで学んだこととあわせて疾患の病態を理解して治療について学ぶ科目である。臨床現場で管理栄養士として働くために必要な臨床医学の知識を中心に講義する。特に、臨床病態学Ⅲを履修する時期には生化学で糖質、脂質、タンパク質を学んでいるはずであるので、その知識を習得していることを前提にして授業を進めていくため、関連科目の復習と教科書の予習が必要である。

到達目標:
血液疾患の病態と治療について理解する
免疫・アレルギー疾患の病態と治療について理解する
小児と成人の違いについて理解し、小児期に遭遇する疾患の病態と治療について理解する
生化学の知識を整理して糖質代謝の異常による疾患の病態と治療について理解する
生化学の知識を整理して脂質代謝の異常による疾患の病態と治療について理解する
生化学の知識を整理してタンパク質・核酸代謝の異常による疾患の病態と治療について理解する
栄養障害、摂食障害による疾患の病態と治療について理解する
これまで学んだ疾患の病態を病理学・組織学的に理解する
再興感染症、新興感染症を含めた感染症、臨床検査などを総合的に理解する

授業方法:　講義が中心である。理解を助けるためにビデオを使用することがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	血液疾患	第17章の予習
2.	免疫・アレルギー疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第18章の予習
3.	免疫・アレルギー疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第18章の予習
4.	小児の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第19章の予習
5.	小児の疾患	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第19章の予習
6.	糖質代謝とその異常	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(糖質代謝)の復習 第5章の予習
7.	糖質代謝とその異常	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(糖質代謝)の復習 第5章の予習
8.	脂質代謝とその異常	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(脂質代謝)の復習 第6章の予習
9.	脂質代謝とその異常生化学(糖質代謝)の復習	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(脂質代謝)の復習 第6章の予習
10.	タンパク質、核酸の代謝とその異常	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 生化学(タンパク質代謝)の復習 第7章の予習
11.	栄養障害、摂食障害	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 基礎栄養学の復習 第8章、9章の予習
12.	疾患による細胞、組織の変化	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第1章の予習
13.	疾患による細胞、組織の変化	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第1章の予習
14.	再興感染症、新興感染症、臨床検査	前回授業の復習(小テスト対策を含む) 第4章の予習
15.	まとめ	総復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
解剖生理学、基礎栄養学の知識が身についていることを前提とした授業内容である。本教科の予習の際に、解剖生理学、基礎栄養学、生化学の関連部分を復習をすることにより学習効果が高まる。

必ず、授業用のノートを作成し、予習をしてくること。

フィードバックの方法:　毎回、授業の初め(9:00)に前回授業で行った内容についての小テストを行い、復習の習慣をつけて知識の定着を図る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト	39	39点/100点　授業の復習問題(3点 x 3回)
まとめの試験	60	60点/100点
出席点	1	小テストを行わない1回目の出席点

教科書:　伊藤節子編著、臨床病態学、化学同人

参考書:　配布資料(授業中に配布)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業終了後

658461～63　**生物学実験B**

足立　　聡子、松宮　　健太郎

授業テーマ:　動物・植物組織の観察と微生物の培養を通じ生物の知識と実験手技を学ぶ

授業の概要:　本実験は生物試料の正しい扱い方と観察、及び無菌操作による微生物の培養方法を学ぶことを目標としている。顕微鏡の正しい使い方を習得した上で、細胞や花粉、植物内含有物を顕鏡観察する。このことにより、大学入学までに学んできた内容をより詳細に理解することを目的とする。また、培養実験では、器具の洗浄・滅菌、培地の調製・滅菌、無菌操作の必要性を理解し、これらの手技を習得する。市販の納豆から納豆菌を分離培養することで、純粋培養の必要性や分離できた納豆菌の生理機能を理解し、環境微生物試験では、私たちの生活に密着したカビ類、細菌類の観察と同定を行う。生物試料の統計処理方法及び推定・検定の基礎を統計ソフトを用いて実習する。

到達目標:
・実験データは、毎回レポートで報告することになる。レポートは、独りよがりな内容になることなく、その実験内容を知らない自分の家族に読んでもらっても理解してもらえるような真心のこもった内容にすることを目標に、社会人になってからも必要な第三者に発信する術を身につける。
・次年次以降の本格的な実験実習のためにも基本的な実験手技を習得することを目的とする。
・培養実験では、器具の準備や培地の調製を含め、菌体の培養開始から観察までに数か月を要し、各回完了型の内容になるとは限らない。そのため、いつどの実験を何のために行うか、いつまでにそのレポートを書き終えるか等の中長期的スケジュール管理ができるようにする。

授業方法:　毎回、最初に実験の内容説明、基本的知識の確認を行ってから実験にはいる。難しい手技は必ず教員が学生にデモンストレーションを行う。クラス半分が顕微鏡実験、もう半分が培養実験を行い、次回その内容をローテーションする授業形態をとる回が何度かあるため、学生はどちらの実験をするかを把握して実験に臨む必要がある。顕微鏡実験は個人で、培養実験は班単位での実験となる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 基礎(1)実験器具の名称、実験器具の取り扱い方 基礎(2)数値の取り扱い方 基礎(3)酸、塩基の取り扱い方、試薬の調製法	有効数値について調べる。 定量用器具の種類を調べておく。
2.	光学顕微鏡の使い方 マツ科、ユリ科、キク科の花粉細胞の顕鏡とスケッチ・ミクロメーターを用いた花粉の大きさの測定	顕微鏡の部位名称及び基本的な使い方を予習する。観察試料の花粉はどの様な形態をしているのか、予測してノートに書いておく。花粉の大きさの測定もするので、ミクロメーターの使い方も予習する。
3.	培養の基礎 器具の洗浄・培地作成・無菌操作の習得 実験器具の洗浄方法と使用方法を学び、納豆菌を培養するための培地を作成しその滅菌方法を学ぶ。	細菌類やカビ類を培養するためには、なぜ器具の洗浄・滅菌及び培地の調製・滅菌、無菌操作が必要なのか考える。ガスバーナーの使い方を予習する。GPY培地の組成を確認しておく。
4.	貯蔵デンプン・タマネギの鱗茎細胞・鐘乳体の観察とスケッチ ジャガイ・サツマイモ塊根、バナナのデンプン粒、インドゴムの鐘乳体の観察とスケッチを行う。	観察試料の貯蔵デンプン粒の形態、タマネギの鱗茎細胞の膜構造を調べておく。未熟と完熟バナナでの貯蔵デンプン粒の量の違いを予測する。鐘乳体とはインドゴムの葉のどの組織に存在し、主成分は何かを調べておく。インドゴムの葉からどのようにプレパラートを作成するか予習する。
5.	納豆菌の分離・釣菌、納豆菌を使った実験 市販の納豆から納豆菌を分離し増殖させる。納豆菌のグラム染色と芽胞染色実験並びにアミラーゼ、プロテアーゼ、DNase活性の有無を調べる酵素活性試験。	分離培養と釣菌をする目的を考えておく。分離培養はどのように培養できれば成功か予習する。納豆菌が持つ酵素の種類について学習しておく。約1ヶ月にわたって行う実験のため、実験ノートの付け方に気を付ける。レポートは全工程を1冊にまとめて提出する。
6.	植物色素の同定・細胞分裂の観察 ホウレンソウから抽出した光合成色素をペーパークロマトグラフィーにより分離し、分離された色素が何か同定する。タマネギ根端の細胞分裂の各ステージを観察・スケッチし、各ステージの所要時間を算出する。	ペーパークロマトグラフィーの原理を学習しておく。ホウレンソウの光合成色素の種類を確認し、Rf値の算出方法を予習する。細胞周期と細胞分裂の違いを学んでおく。細胞分裂各ステージの染色体の特徴的な形態を確認しておく。
7.	環境微生物試験 空中に浮遊している細菌やカビ類を経時的に寒天平板で捕捉し、質的・量的に調査する。手のひらの微生物検査を手洗い前と手洗い後に行い、どちらが質的・量的に汚染度が高いか検討する。希釈法による土壌細菌の分離も行う。	空中落下細菌は寒天培地の暴露時間と暴露場所における菌体コロニー数や種類にどのような変化が起きるか予測しておく。手のひらの微生物検査については手洗い前と手洗い後の菌体数に明白な違いが出るにはどのように実験を行えばよいかを考えておく。土壌細菌試験は、試料である土壌の希釈方法を予習する。
8.	生物統計 モデルを用い、平均値・分散・標準偏差・相関等をEXCELで実習。実際に、ムラサキハナマメの長径・短径を各自で測定し、統計処理を行う。	基本統計量・度数分布表とヒストグラム、散布図と相関についてできる限り知識を深めておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習は実験内容を把握し、まず自分で結果の予測をたてましょう。ただ単に頭で考え予測するのではなく、実験ノートになぜそのように予測するか理由を述べておきましょう。そうすることで、レポート作成時に、実際の結果と自分の予測の比較がしっかりできるようになります。また、調べるべきキーワードや実験原理、実験方法を予習しておくことで、実験中にわからない言葉がないように、2歩3歩先を読んで作業ができるようになりましょう。実験中困っている学生を気遣える思いやりの気持ちをもって実験を行えるようにしましょう。

フィードバックの方法:　レポートの書き方について、学生の大半が陥る書き方の不備にはその都度クラス全体にアナウンスを行う。不備の多いレポート内容に関しては、学生本人もどのように書いたらいいのかわからない部分もあるかと思うので、個人的に指導を行うことで学生の気づきを促す。何度かはレポートを返却し教員の添削内容を学生に確認してもらう(そのレポートは再度提出)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	80	レポートの提出遅れ、極端に事実と異なる観察スケッチは減点対象となる。 テキストに挙げている通り、レポートの基本的構成で書かれているか。 結果が数値で出る場合は途中式を省略せず記載する。数値の羅列ではなく、表やグラフで整理する。その際、どの数値を図式化したら効果的かをよく考えて行う。 考察は、現象のみを述べるのではなく、その現象に至った理由や自分の予測と結果の比較、結果と文献的に言われている事との比較を論理的に述べる。
出席状況・実験態度	20	出席が原則である。 関心・意欲・態度の悪い場合は減点対象となる。

教科書:　同志社女子大学　生活科学部　食物栄養科学科　生物学研究室 編 『生物学実験』

参考書:	高校の生物図説は大変役に立ちます。 図書館で毎回の実験内容に見合った参考文献を探し使用する。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応する。 教員不在の際は、助手が対応し追って教員が対応する。

658561～63

化学実験B

森　　紀之、吉田　　香

授業テーマ:　食品や食品成分、生体成分を用い、化学実験において基本的な原理や実験手法を学ぶ。

授業の概要:　食物栄養科学科で行う最初の基礎実験として、はじめに、研究倫理について学ぶ。化学的な項目について実験を行い、基本的な器具の名称やその扱い方、試薬の調製法、実験データの整理の仕方などを学ぶ。実験内容としては、まず、定性試験では糖質とアミノ酸の呈色反応を、定量実験では中和滴定を行う。次にクロマトグラフィーでは吸着クロマトグラフィーである薄層クロマトグラフィーと、分配クロマトグラフィーであるペーパークロマトグラフィーを行う。その他、緩衝作用の強さの測定、ポリフェノール量の測定、塩析・電気泳動法によるタンパク質の分離を行う。

到達目標:
1. それぞれの実験の原理や反応について理解する
2. 実験へ積極的に参加し、様々な器具の取り扱い方法を習得する
3. レポート（目的、序論、方法、結果、考察、感想、参考文献）が書けるようになる

授業方法:　一人またはグループで実験を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 基礎①研究倫理について、実験器具の名称と取り扱い方　基礎②数値の取り扱い方　基礎③酸、塩基の取り扱い方、試薬の調製法	
2.	糖、アミノ酸、タンパク質および脂質の呈色反応 ①説明、試薬の調製　②定性分析（糖、アミノ酸、タンパク質）　③定性分析（脂質）	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。実験に出てくる試薬や反応について、あらかじめ辞典や参考書などを用いて性質など調べておく。
3.	中和滴定（食酢中の酢酸濃度測定） ①説明、試薬の調製　②中和滴定（水酸化ナトリウムの力価測定）　③中和滴定（食酢中の酢酸濃度の測定）	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。中和滴定について原理を学んでおく。
4.	薄層クロマトグラフィー（トマトに含まれるアミノ酸の分離） ①説明、ガラス細工　②試薬・試料の調製　③薄層クロマトグラフィー	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。薄層クロマトグラフィーについて原理を学んでおく。
5.	分配クロマトグラフィー（ビタミンB2とビタミンB12） ①説明、試薬の調製　②ペーパークロマトグラフィー、吸収スペクトルとモル吸光係数の測定　③分配比の測定	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。ペーパークロマトグラフィー、吸収スペクトル、モル吸光係数について調べて学んでおく。
6.	食品中のポリフェノール量の測定 ①説明、試料の調製　②ポリフェノール量の測定 ③結果のまとめ（検量線作成、計算）	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。食品中に含まれるポリフェノールについてどのようなものがあるか調べておく。
7.	緩衝値βの測定 ①説明、緩衝値βの測定　②緩衝値βの測定（つづき）　③結果のまとめ（グラフ作成、計算）	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。緩衝作用とはどのような性質なのか、緩衝作用を持つ物質にはどのような特徴があるのか調べておく。
8.	血清タンパク質の分離（塩析法と電気泳動法） ①説明、試薬の調製　②塩析法のよる血清タンパク質の分離　③電気泳動、デンシトメーターによる解析	事前に実験書をよく読んで流れをフローチャートにまとめておくこと。血清や塩析、電気泳動についてあらかじめ辞典や参考書などを用いて調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出されたレポートは、添削し、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	85	目的、序論、方法、結果、考察などレポートに必要な項目が書けているかを評価する
授業への参加度	15	出席および実験に取り組む態度を評価する

教科書:　研究室で作成した実験書を配布する。

参考書:　図書館にある実験に関する書籍を都度利用すること

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、実験の前後に実験室内で応対

658660

社会福祉学B

宮本　　義信

授業テーマ:　管理栄養士が知っておきたい「社会福祉」の基礎的専門知識

授業の概要:　「社会福祉」という言葉は、心理的・個別的援助、アドボカシー、仲裁、社会計画、地域組織化、社会資源の発掘とその発展への努力等々、直接的に人びとの生活支援に焦点づけられた言葉として、また国政レベルでの政策策定や地方自治体レベルでの行政活動を中心にして間接的に人びととその生活支援活動の客観的条件を整備する言葉として多様に使われている。担当者は、毎回の授業テーマの設定に際して、本教科が管理栄養士養成課程において開講される科目であることに留意しながら展開する。子ども、高齢者や傷病・障害がある人の家庭や地域の問題を「社会福祉」の視点から考察し、保健・医療・福祉・保育・介護システムの概要について管理栄養士が知っておきたい基礎的専門知識の獲得を目指す。

到達目標:　管理栄養士が知っておきたい「社会福祉」の基礎的専門知識を修得する。

授業方法:　スライドやDVD教材を活用しながら具体的かつ経験的に修得できるようにしていく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会福祉の概念と歴史	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	社会福祉の施設・機関、法と行財政ー高齢者施設を中心にー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	社会福祉の方法・技術ー家族ソーシャルワークを中心にー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	社会福祉の専門職および関連職種ー国家資格、任用資格、公的資格などー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	貧困、医療・介護問題と生活保障	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	社会福祉実践（ソーシャルワーク）の固有性、意義と目標	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	子ども・配偶者虐待への援助・介入活動ー事例検討：A子のケースー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	少年非行の法と臨床ー事例検討：B子のケースー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	子どもの病気と医療（病棟）保育	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	子ども・子育て支援法と子ども・子育て支援事業計画	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	高齢者介護と家族（在宅）支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	高齢期の住宅・居住環境対策とくらしのデザイン	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	障がい乳幼児の療育と家族（親）支援	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	世界の社会福祉ー北米の社会福祉ー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	世界の社会福祉ー東アジアの社会福祉ー	適宜、教科書・資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個々の提出物については、コメントを付け教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30	出席を含む授業への参加・態度およびレポートの内容
定期試験	70	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:　宮本義信（編著）『くらしに活かす福祉の視点ー学生・ボランティアが知っておきたい基礎知識ー』ミネルヴァ書房、2010年

参考書:　宮本義信（著）『アメリカの対人援助専門職ーソーシャルワーカーと関連職種の日米比較ー』ミネルヴァ書房、2009年
宮本義信（著）『台湾の社会福祉ー思想・制度・実践ー』ミネルヴァ書房、2015年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業前後に対応

658760

給食の運営（校外実習）

小松　龍史、今井　具子、片井　加奈子、神田　知子、倉橋　優子

授業テーマ:　給食の運営（校外実習）

授業の概要:　学内で履修した食事計画実習や給食経営管理実習などで学んだことを基に、給食業務を行うために必要な食事の計画や調理を含めた給食サービス提供に関する専門的知識と技術を実践活動の場で学び、体得する

到達目標:
・適切な給食実務を行うために必要な専門的知識や技術の統合を図る
・給食サービスを提供する場における栄養士（管理栄養士）のあり方や役割、重要性を理解する
・実習終了後の報告会および事後指導に出席し各実習施設での実習内容を共有して学びを深める

授業方法:　実習施設へおもむき実習を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・総合演習Bおよびその授業時間内に設定している給食の運営実習の事前指導にて校外実習の理解を深め、実習の目標設定および課題研究を行う。 ・福祉施設、病院、事業所等の実践活動の場において実習を行い（事前に設定した）課題解決を進める。また新たな課題発見・解決に取り組む。 ・事後指導に出席し各実習施設での実習内容を振り返りまとめる。 ・実習報告会に参加してプレゼンテーションやグループワークを行うと共に、各実習施設での実習内容を共有して、給食の運営がどのように行われているか理解を深める。	予習として ・福祉施設、病院、事業所等の実践活動の場において円滑に実習が行えるように、それぞれの施設の特徴を調べ、そこで働く栄養士（管理栄養士）の役割について理解を深めておく。 ・実習に行く前に課題研究（事前課題）を進める。 ・実践活動の場で新たな課題発見および解決ができるように、実習要録を始め、授業で習ったことを復習しておき、給食の運営に関する理解を深めておく。 ・各施設から予習課題がある場合は、その課題を行う。 復習として ・実習要録や実習報告書を完成させる。 ・実習終了後の事後指導に参加して実習の学びを深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・施設によっては事前オリエンテーション等に参加する。
・実習内容やスケジュールは個々の実習施設によって異なる。
・実習終了後、事後指導を受けて報告会を行う（報告会の準備や運営等も含む）。
・校外実習45時間のうち事前・事後指導時間に5時間をあてる。

フィードバックの方法:　提出物は実習終了後に返却する。一部マナビーを使って返却することもある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前指導への参加度	10	事前指導（グループワークも含む）への積極的態度とともに提出物の内容も評価する。
校外実習施設での実習修得	80	実習への積極的参加とともに、課題解決や新たな課題発見、課題解決への意欲や態度も評価する。
事後指導および報告会への参加度	10	事後指導（グループワークも含む）への積極的態度とともに校外実習要録などの提出物の内容も評価する。

教科書:　事前指導(総合演習Bなど)で配布された資料、臨地・校外実習要録、配布資料（実習施設からの指示書等）など

参考書:
給食実務必携　第一出版
日本人の食事摂取基準　第一出版
管理栄養士・栄養士必携　第一出版
認知症ケアと予防に役立つ栄養療法　クリエイツかもがわ
保育所給食と子どものゆたかな育ち　かもがわ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示板機能（一部担当教員）、Eメール

658860

臨床栄養学実習Ⅰ（臨地実習）

小松　龍史、今井　具子、片井　加奈子、神田　知子、倉橋　優子

授業テーマ:　医療機関での臨床栄養管理について臨地実習する

授業の概要:　学内で履修した授業や実習などで学んだことを基に、医療機関における栄養管理業務を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学ぶ

到達目標:
・医療機関における栄養部門の役割や組織を知る
・傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理を行えるよう、栄養アセスメントに基づいた栄養管理計画の作成・実施・評価に関する総合的なマネジメントの考え方を理解する
・患者と接することによりのコミニュケーションの重要性や寄り添うことの意味を考える

授業方法:　病院へおもむき臨地にて栄養管理の実体験を積む

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・実践活動の場（病院）で課題発見・問題解決に取り組み、専門的知識および技術の統合を図る。 ・医療における管理栄養士のあり方、役割、重要性について理解する。 ・傷病者の栄養管理に必要な栄養状態の評価・判定、栄養補給、栄養教育について理解する。 ・医療施設の組織と栄養部門の機能について理解する。 ・患者との面談や種々の医療職種とのコミュニケーションを通じて、患者中心の医療やチーム医療のあり方を学ぶ。 ・実習終了後に反省会を行い、各実習施設での実習内容を共有することで学びを深める。	総合演習Bにおいて充分な予習を行うとともに、各実習施設からの予習課題を行ったうえで、臨地実習に臨む。 復習として、事後指導を受けるとともに各グループ単位で実習内容のプレゼンテーションを行う。さらに実習要録や実習報告書を作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・施設によっては事前オリエンテーション等に参加する。
・実習内容やスケジュールは個々の医療機関によって異なる。
・実習終了後、事後指導を受けて報告会を行う（報告会の準備や運営等も含む）。
・臨地実習45時間のうち実習事前指導および実習終了後の事後指導計5時間を含む。

フィードバックの方法:　提出物は実習後返却する。一部マナビーを使って返却することもある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前指導への参加度	10%	事前指導（グループワークも含む）への積極的態度とともに提出物の内容も評価する。
校外実習施設での実習修得	80%	実習への積極的参加とともに、課題解決や新たな課題発見・課題解決への意欲や態度も評価する。
事後指導および報告会への参加度	10%	事後指導（グループワークも含む）への積極的態度とともに校外実習要録などの提出物の内容も評価する。

教科書:　実習要録　配布資料（プリント等）

参考書:
エッセンシャル臨床栄養学8版（医歯薬出版）
日本食品標準成分表（出版社を問わない）
日本人の食事摂取基準2015年版（第一出版）
糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版　（文光堂）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール、電話等

658960

臨床栄養学実習Ⅱ（臨地実習）

小松　龍史、今井　具子、片井　加奈子、神田　知子、倉橋　優子

授業テーマ:　医療機関での臨床栄養管理について臨地実習する

授業の概要:　臨床栄養学実習Ⅰ（臨地実習）での実習に引き続き、学内で履修した授業や実習で学んだことを基に、医療機関における栄養管理を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学ぶ

到達目標:
・傷病者の病態や栄養状態の特徴に基づいた適正な栄養管理について理解を深める
・医療・介護制度やチーム医療における管理栄養士の役割、業務について理解を深める

授業方法:　病院におもむき実習を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	実践活動の場（病院）で、栄養管理を総合的にとらえて課題発見・問題解決に取り組み、専門的知識および技術の統合を図る。 ・栄養管理の実施におけるチーム医療・職種間の連携の具体例について経験する。 ・患者とのコミュニケーションをとりながら栄養管理およびその効果の評価を行う。 ・症例の検討を通して、個別栄養管理のアプローチ法を学ぶ。 ・実習終了後に反省会を行い、各実習施設での実習内容を共有することで学びを深める。	総合演習Bにおいて充分な予習を行うとともに、各実習施設からの予習課題を行ったうえで、臨地実習に臨む。 復習として、事後指導を受けるとともに各グループ単位で実習内容のプレゼンテーションを行う。さらに実習報告書、実習要録を作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・臨床栄養学実習I（臨地実習）と連続して実習を行なう。受け入れ施設数が限られているため受講者の調整を行なう場合がある。
・上記授業内容は例であり医療機関により実習スケジュールや内容は異なる。
・臨地実習45時間の内、実習事前指導および実習終了後の事後指導計5時間を含む。

フィードバックの方法:　提出物は実習終了後に返却する。一部マナビーを使って返却することもある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前指導への参加度	10%	事前指導（グループワークも含む）への積極的態度とともに提出物の内容も評価する。
実習施設での修得	80%	実習への積極的参加とともに、課題解決や新たな課題発見・課題解決への意欲や態度も評価する。
事後指導及び報告会への参加度	10%	事後指導（グループワークも含む）への積極的態度とともに校外実習要録などの提出物の内容も評価する。

教科書:

参考書:
エッセンシャル臨床栄養学8版（医歯薬出版）
日本食品標準成分表（出版社を問わない）
日本人の食事摂取基準2015年版（第一出版）
糖尿病食事療法のための食品交換表　第7版　（文光堂）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、Eメール、電話等

659060

給食経営管理実習（臨地実習）

小松　龍史、今井　具子、片井　加奈子、神田　知子、倉橋　優子

授業テーマ：
給食経営管理実習（臨地実習）

授業の概要：
学内で履修した授業や実習で学んだことを基に、医療部門における給食経営管理を行うために必要な専門的知識と技術を実践活動の場で学ぶ

到達目標：
・給食の運営や関連の資源（食品流通、食品開発の状況、給食に関わる組織や経費等）を総合的に判断し、栄養面、安全面、衛生面全般のマネジメントを行う能力を養う。
・組織管理や品質管理などのマネジメントの基本的な考え方を学ぶ。

授業方法：
病院へおもむき実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」：

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・病院の実践の場において、給食経営管理を行う管理栄養士の業務を理解し、課題発見、問題解決に取り組む。 ・給食全般のマネジメントができるよう視野を広げ、特定の業務（調理作業の分析、喫食者訪問、食材料の管理、衛生管理、食事オーダーなど）について検討する。 ・喫食者のアンケートや業務のプロセス評価など給食経営に必要な種々の評価法を知る。 ・給食経営に必要なコンピュータシステムの概要を知り、システムの利用が栄養部門業務にどのような効果や影響をもたらしているかを考察する。 ・実習終了後に反省会を行い、各実習施設での実習内容を共有することで学びを深める。	総合演習Bにおいて充分な予習を行うとともに、各実習施設からの予習課題を行ったうえで、臨地実習に臨む。 復習として、事後指導を受けるとともに各グループ単位で実習内容のプレゼンテーションを行う。さらに実習報告書、実習要録を作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス：
臨床栄養学I（臨地実習）と連続して医療機関において実習する。本実習は臨床栄養学II（臨地実習）との二者択一となるため受講者の調整を行なう場合がある。
医療機関により実習スケジュールや内容は異なる。
臨時実習45時間の内、事前指導および実習終了後の事後指導計5時間を含む。

フィードバックの方法：
提出物は実習終了後に返却する。一部マナビーを使って返却することもある。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
事前指導への参加度	10	事前指導（グループワークも含む）への積極的態度とともに提出物の内容も評価する。
校外実習施設での実習修得	80	実習への積極的参加とともに、課題解決や新たな課題発見・課題解決への意欲や態度も評価する。
事後指導および報告会への参加度	10	事後指導（グループワークも含む）への積極的態度とともに校外実習要録などの提出物の内容も評価する。

教科書：
実習要録
配布資料（プリント等）

参考書：
日本食品標準成分表
管理栄養士技術ガイド
日本人の食事摂取基準
糖尿病食品交換表第7版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法：
オフィスアワー、Eメール

659360

基礎栄養学Ⅰ

仲佐　　輝子

授業テーマ:　栄養の基本的概念及びその意義を理解する

授業の概要:　健康な生活を営むためには適切な栄養摂取が不可欠であり、市場に出回る多種多様な食品の中から適正な食品を選択する能力が求められている。そこで、人が生命を維持し、健康を保ち、活動するために食物として摂取する栄養素は生体内でどのように変化し、エネルギー源や身体構成成分として利用されるのかを学び、健康の保持増進、疾病の予防における栄養の役割について学ぶ。

到達目標:
①栄養の概念、日本人の食生活の現状について理解する。
②摂食行動と生体リズム、消化吸収のメカニズムについて理解する。
③糖質・脂質・たんぱく質の代謝と相互変換について理解する。
④糖質・脂質・たんぱく質の栄養的役割について理解する。

授業方法:　授業は教科書と配布プリントを用い、パワーポイントで示しながら講義形式で行う。単元終了毎に小テストを行って理解の定着を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養の概念とその歴史	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
2.	栄養と健康（日本の食生活の現状、生活習慣病）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
3.	摂食行動（摂食の調節、食欲）、食事のリズムとタイミング	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
4.	消化器系器官の構造と機能	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
5.	栄養素の消化（管腔内消化とホルモンによる調節）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
6.	膜消化と吸収機構	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
7.	大腸における発酵・吸収と機能性非栄養成分	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
8.	糖質の栄養(1)（食後・食間期の糖質代謝、糖質代謝の臓器差）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
9.	糖質の栄養(2)（血糖とその調節、他の栄養素との関係）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
10.	脂質の栄養(1)（脂質の臓器間輸送、脂質代謝の臓器差）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
11.	脂質の栄養(2)（食後・食間期の脂質代謝、コレステロール代謝の調節）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
12.	脂質の栄養(3)（脂質の量と質の評価、必須脂肪酸）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
13.	たんぱく質の栄養（1）（たんぱく質・アミノ酸の代謝）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
14.	たんぱく質の栄養（2）（半減期、アミノ酸の臓器間輸送）	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は、同時に開講されている「生化学」の講義内容と密接に関係するので、その内容を自分で結び付けて理解すること。授業に先立ち、教科書の関連ページを熟読すること。復習としては、授業で得た知識を整理しノートにまとめる。理解できないことは、そのままにせず、参考図書で確認したり、積極的に質問すること。

フィードバックの方法:　単元終了毎に行う小テストについては、テスト終了後すぐに解説を行って知識の定着を図る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	到達目標①～④に関する理解度により評価する。
小テスト	30%	それぞれの単元内容に関する理解度により評価する。

教科書:　「新食品・栄養科学シリーズ　基礎栄養学」第4版（化学同人）

参考書:　他の出版社から出版されている基礎栄養学関係の本を参考にするとよい。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で、または研究室で対応する。

659460

基礎栄養学Ⅱ

仲佐　　輝子

授業テーマ:　栄養の基本的概念及びその意義を理解する

授業の概要:　健康な生活を営むためには適切な栄養摂取が不可欠であり、市場に出回る多種多様な食品の中から適正な食品を選択する能力が求められている。そこで、人が生命を維持し、健康を保ち、活動するために食物として摂取する栄養素は生体内でどのように変化し、エネルギー源や身体構成成分として利用されるのかを学び、健康の保持増進、疾病の予防における栄養の役割について学ぶ。

到達目標:
①基礎栄養学Ⅰでのたんぱく質の栄養についての知識を基に、その栄養価の判定について理解する。
②糖質、脂質、たんぱく質の栄養と関連づけて、ビタミンおよび無機質の栄養学的な機能および作用機構について理解する。
③水・電解質の栄養的意義、エネルギー代謝について理解する。
④栄養と遺伝素因との関係を通して、生体反応の個人差を理解し、個別対応の栄養教育を行う上での基礎的な知識を習得する。

授業方法:　授業は教科書と配布プリントを用い、パワーポイントで示しながら講義形式で行う。単元終了毎に小テストを行って理解の定着を図る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	たんぱく質の量と質の評価	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
2.	ビタミンの栄養(1)(脂溶性ビタミンA、D)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
3.	ビタミンの栄養(2)(脂溶性ビタミンE、K、水溶性ビタミンB1)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
4.	ビタミンの栄養(3)(水溶性ビタミンB2、B6、ナイアシン、パントテン酸)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
5.	ビタミンの栄養(4)(水溶性ビタミン葉酸、B12、ビオチン、C)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
6.	無機質の栄養(1)(無機質の分類と一般的機能)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
7.	無機質の栄養(2)(カルシウム、リン、マグネシウム、フッ素、ナトリウムと塩素、カリウム)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
8.	無機質の栄養(3)(鉄、銅、ヨウ素、マンガン、セレン、亜鉛、クロム・モリブデン、硫黄)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
9.	水・電解質の代謝(1)(生体内での水の機能と水の出納)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
10.	水・電解質の代謝(2)(電解質の代謝)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
11.	エネルギー代謝(1)(エネルギー代謝の概念とエネルギー消費量)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
12.	エネルギー代謝(2)(エネルギー代謝の測定法及び臓器別エネルギー代謝)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
13.	遺伝子発現と栄養(1)(遺伝形質と栄養の相互作用)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
14.	遺伝子発現と栄養(2)(後天的遺伝子変異と栄養素・非栄養素成分)	教科書の該当する部分を読み、専門用語については生化学辞典などで確認する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は、同時に開講されている「生化学」の講義内容と密接に関係するので、その内容を自分で結び付けて理解すること。授業に先立ち、教科書の関連ページを熟読すること。復習としては、授業で得た知識を整理しノートにまとめる。理解できないことはそのままにせず、参考図書で確認したり、積極的に質問すること。

フィードバックの方法:　単元終了毎に行う小テストについては、テスト終了後すぐに解説を行って知識の定着を図る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	到達目標①～④に関する理解度により評価する。
小テスト	30%	それぞれの単元内容に関する理解度により評価する。

教科書:　「新食品・栄養科学シリーズ　基礎栄養学」第4版(化学同人)を使用する。

参考書:　他の出版社から出版されている基礎栄養学関係の本を参考にするとよい。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で、または研究室で対応する。

659560

調理科学

村上　　恵

授業テーマ:　調理過程を科学的に理解する。

授業の概要:　食品を衛生的に栄養的に摂取するため手法や調理過程でおこるさまざまな成分の反応、またはおいしさについて科学的に学ぶ。

到達目標:
調理の意義・目的を理解する。
植物性食品および動物性食品の調理による変化を科学的に理解する。
調理操作、調味操作について科学的に理解する。
食事計画(献立作成)の概要を理解する。
食文化(特に和食)について調理との関係を理解する。

授業方法:　講義形式で行う。必要に応じてプリント、パワーポイント教材などを用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	調理学の概要 意義、調理学の目的と範囲 調理と嗜好性1 食べ物のおいしさに関与する要因と変動	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
2.	調理と嗜好性2　嗜好の評価 植物性食品の調理性1 炭水化物の基礎	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
3.	植物性食品の調理性2 米、小麦粉の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
4.	植物性食品の調理性3 その他穀類・雑穀の調理 いも類、豆類・種実類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
5.	植物性食品の調理性3 野菜・山菜・果実類の調理 海藻・キノコ類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
6.	動物性食品の調理性1 タンパク質の基礎、食肉類の調理 魚介類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
7.	動物性食品の調理性2 魚介類の調理 卵類、乳類の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
8.	その他食品1 でんぷんの調理 脂質の基礎・油脂の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
9.	その他食品2 ゲル化食品(ゲル形成素材)の調理 調味料1　砂糖の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
10.	調味料2 食塩、しょうゆ、みその調理 食酢類、だし類(うま味料) 香辛料の調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
11.	飲料類 アルコール、茶、コーヒー、飲料水 調理操作論1 調理操作の基礎・非加熱調理	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
12.	調理操作論2　加熱操作	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
13.	調理操作論3　調味操作 調理設備・器具・エネルギー源	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
14.	食事計画論 食事の意義・役割、種類 日常食・特別食の食事計画	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。
15.	調理文化論　日本・外国の食文化 まとめ	各回の項目に該当する内容についてあらかじめ教科書を読んでおく。 講義後には、ポイントをノートにまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度＋小テスト(レポート)	20	質問に答えるなど積極的に授業に参加し、なおかつ調理による食品の変化に関する知識、理解度により評価する。
定期試験	80	到達目標である調理による食品の変化、調理の意義、食文化について科学的かつ論理的に説明できるかを基準に評価する。

教科書:
下村道子・和田淑子編著 「新調理学」(光生館)
※調理科学実習Iで購入している場合は、改めて購入する必要はない。

参考書:
山崎清子ほか編著 「新版　調理と理論」(同文書院)
木戸詔子・池田ひろ編著 「新食品・栄養科学シリーズ　調理学第3版」(化学同人)
渋川祥子・畑井朝子編著「ネオエスカ　調理学」(同文書院)
「食品成分表」日本食品標準成分表2015(七訂)のデーターベース使用の書籍(女子栄養大)
「調理のためのベーシックデータ」(女子栄養大出版部)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対　あるいはオフィスアワー

659660

公衆栄養学実習（臨地実習）

小松　龍史、今井　具子、片井　加奈子、神田　知子、倉橋　優子

授業テーマ:

授業の概要: 臨地実習前の事前課題、臨地実習、実習終了後の報告会準備、事後指導にいたる一連の学び

到達目標: 地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスに関するプログラムの作成・実施・評価を総合的にマネジメントする能力を養う。

授業方法:
・学内にて事前指導に出席する。
・実習施設へおもむき実習に取り組む。
・実習内容をまとめて報告会を企画、準備、発表を行う。
・実習終了後に実習報告書を作成し、実習全体のまとめを行う。
・事前・事後指導時間に5時間をあてる（課題研究、実習報告書のまとめ等）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・学内での事前指導において地域や職域等における保健・医療・福祉・介護システムの栄養関連サービスについて理解を深める。そして、保健所および保健センター等の地区特性を調べ課題発見・課題研究に取り組む。 ・保健所および保健センター等の実践活動の場で実習を行い、適切な栄養マネジメントを行うために必要な専門知識と技術の統合を図る。同時に課題研究、問題解決に取り組む。 ・実習内容をまとめて実習報告会を行い発表する。そして、他の施設の発表を聞き、知識を補完して実習の理解を深める。 ・実習終了後に事後指導を受けて実習報告書を提出する。	

受講者へのメッセージやアドバイス: 学内での事前準備、報告会準備、実習報告書の作成等を通し、公衆栄養学臨地実習の総合的理解を深めるように努めて下さい。

フィードバックの方法: 事前課題、実習課題、報告会準備についてコメント･アドバイスを行ないます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学内での事前指導への出席	10	出席数を点数化し、遅刻・欠席は減点とする。授業態度も考慮する。
保健所および保健センター等での実習修得	80	
報告会への出席および発表	5	報告内容、報告会の発表態度等を評価する。
実習報告書および実習要録などの提出物	5	自習要録等の提出物を評価する。

教科書:
実習要録
配布資料（プリント）

参考書:
日本食品標準成分表2015
全官報
日本人の食事摂取基準2015年版　第一出版　など
公衆栄養学Ⅰ、Ⅱの教科書（公衆栄養学　光生館）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー、授業の前後、マナビーの掲示板機能等を使って行ないます。

659761～63　**公衆衛生学実習A**

太田　　はるか

授業テーマ:　保健統計と疫学の基本的な考え方を理解し、手法や問題点を学ぶ。

授業の概要:　社会・環境と健康に関する公衆衛生の課題について、実習書と教科書を用いて説明する。受講生は情報処理機器を使用して実習する。レポートは次の実習日に提出する。2～7回目の実習では、上記の内容に加えて6名程度のグループに分かれ、グループ毎に質問紙調査の企画、目的や仮説の設定、調査票の作成、プリテスト、実査、集計、解析、報告書作成までを行う。8回目にパワーポイントを用いた報告会を実施する。

到達目標:　実習書を熟読して、情報処理機器を適切に使いこなすことができるようになる。
Word, Excel を用いて、わかりやすい図表の示し方とレポート・報告書の書き方を習得する。
プレゼンテーションの資料作成手順や発表の作法を習得する。

授業方法:　パワーポイントによる実習内容の説明とデモンストレーションを行う。受講生は情報処理機器を使用して、実習書に従って課題を実習する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと保健統計 1) 実習概要の説明と諸注意 2) 主な保健統計情報の収集方法と活用 (1) 公衆衛生学実習A全体の基本事項及び内容の説明、実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
2.	データ収集：標本抽出方法、データの種類と尺度、調査票の作成 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
3.	データ解析（1）：単純集計、クロス集計、代表値、散布度 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
4.	データ解析（2）：散布図、分割表、相関係数、統計的推論、回帰分析 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
5.	疫学に使用する指標の算出 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
6.	記述疫学研究、分析疫学研究（横断研究） (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
7.	分析疫学研究（コホート研究、症例対照研究）、介入研究、バイアスと交絡 (1) 実習の説明 (2) 実習 (3) 評価とまとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成
8.	まとめ (1) まとめ (2) まとめ	実習内容の予習・復習とレポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前に各回の実習箇所を一読し、内容を理解した上で授業に出席すること。
実習の進め方やレポートの書き方等、詳しいことは第1回目の授業で説明する。
レポート提出が遅れた場合は減点の対象とする。

フィードバックの方法:　レポートはコメントをつけて返却する。
教室でまとめて解説する場合もある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習への積極的参加度と実習態度・発表	60	積極的に実習に参加し、実習書に従って情報処理機器を使用できるかを評価する。グループ学習では、自分の役割を踏まえて適切なプレゼンテーション資料を作成しているかを評価する。
レポート・小テスト	40	実習した内容に関して、Word, Excel を用いてレポートを作成する。仕上がり度合と独自の視点があるかを評価する。最終の授業で公衆衛生学に関する小テストを実施する。

教科書:　福富和夫他著 「保健統計・疫学」改訂5版 （南山堂）

参考書:　日本疫学会監修 「はじめて学ぶ　やさしい疫学　－疫学への招待－」改訂第2版 （南江堂）
村松宰・中山健夫編集 「栄養科学シリーズ　NEXT　公衆衛生学」第3版 （講談社サイエンティフィク）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

659861～63

公衆衛生学実習B

吉田　　香

授業テーマ:　種々の実験手法を学ぶとともに、環境、食の安全について考える

授業の概要:　われわれの生活の周辺には、温度、空気、水、騒音などの物理的環境要因、農薬、有害金属、食品添加物などの化学的環境要因、動植物、微生物などの生物学的環境要因が存在し、それらが相互に関連し合って人間の健康に影響を与えている。本実習では、近郊の河川水や市販の食品を試料とし、河川水の水質検査、食品添加物の定性・定量分析、油脂の変質試験、食品や河川水中の菌数の測定、室内環境の測定を行い、環境や食の安全に関する知識を修得する。また、種々の化学実験手法や微生物実験の手法について学ぶ。

到達目標:
・種々の化学実験、微生物実験、環境測定実験の分析手法を習得している。
・環境や食の安全に対して関心を持ち、安全性を踏まえた食品の取り扱い方を理解している。
・実験結果より科学的根拠に基づいた考察ができ、適切な報告書の作成ができる。

授業方法:　1グループ5～6名程度で実験を行う。初回に全般についての説明や諸注意を行う。毎回当日の実験内容の解説を行った後、グループ単位で実験を行う。各回の実験レポートは次の実験日に提出する。提出したレポートは添削後、再提出を求めることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション ①公衆衛生学実習B全体の実験の基本事項およびレポートの書き方の説明 ②公衆衛生学実習B全体の実験内容の説明 ③マイクロピペッターの使い方の練習と確認実験	配布されたテキストを一読し、理解を深めておく。
2.	水質試験：亜硝酸性窒素、硝酸性窒素、アンモニア性窒素、COD、リン酸性リン、pH ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ、微生物実験の準備	実験箇所を一読して実験内容を理解し、テキストの検量線の作成部分の空欄を埋めておく。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
3.	食品及び環境中の微生物試験：一般生菌数、大腸菌群 ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所を一読して実験内容を理解し、テキストの空欄のシャーレ枚数を記入しておく。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
4.	食品添加物の定性分析：ソルビン酸、亜硫酸塩、着色料 ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所をあらかじめ一読し、実験内容を理解した上で、授業に出席する。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
5.	食品添加物の定量分析：亜硝酸塩の定量 ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所を一読して実験内容を理解し、テキストの検量線の作成部分の空欄を埋めておく。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
6.	油脂の変質試験：チオバルビツール酸価、酸価 ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所をあらかじめ一読し、実験内容を理解した上で、授業に出席する。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
7.	室内環境の測定：気温、気湿、気動(気流)、二酸化炭素、一酸化炭素、粉じん、騒音、照度 ①実験操作の説明 ②実験 ③実験及びまとめ	実験箇所をあらかじめ一読し、実験内容を理解した上で、各班測定箇所を考えておく。実験後、レポートを作成することにより行った実験内容をより深く理解する。
8.	まとめ ①各班室内環境の測定結果の比較・報告会 ②まとめ	室内環境の測定結果のまとめを行い、各班の結果比較に備える。比較報告をすることにより行った実験内容をより深く理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実験手技を習得するだけでなく、実験に関連した内容や法律についての理解を深めるよう努めてください。また、毎回のレポート作成により、実験結果から考察できる能力を養うとともに、将来必要となる報告書や論文の書き方を学んでほしいと思います。

フィードバックの方法:　提出レポートは毎回添削後、不備やミスがあった場合はコメント付きで次の実験日に返却し、再提出を求める。また、全員の添削結果もその折、教室でまとめて解説し、レポート作成の注意点を指導する。コメント付の採点レポートの返却は全てのクラスの実験終了後に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習への積極的参加度と実習態度	40	実験中の実験への取り組み態度より到達目標である実験手技の修得、実験への理解度を評価する。
レポート	60	レポートより到達目標である実験への理解力、考察能力、報告書作成能力を評価する。レポート提出が遅れた場合は減点の対象とする。

教科書:　研究室作成のテキストを配布

参考書:　保田仁資 「食品衛生学実験」 東京化学同人
蔵楽正邦・松村學・栗原文男・叶多謙蔵・小林とこ子 「環境衛生学実験」第2版　建帛社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　随時研究室内で対応する。

659961～63

臨床病態学実習

伊藤　　節子

授業テーマ:　臨床病態学の実践

授業の概要:　管理栄養士として正しく理解しておくことが栄養指導に不可欠である疾患を取り上げ、カルテの読み方や検査データの見方を具体的な症例を通して学び、グループごとに発表し、その内容について質疑応答を行うことにより理解を深める。
食物アレルギー対応の社会的ニーズが高まっている中で管理栄養士として理解すべき正しい知識と対応を身につけることができることを目指す。

到達目標:
1. カルテの読み方、データの読み方、正しい情報の得方を学び、内容をクラスメートに正しく伝える
2. 疾患の病態と治療の理解
3. 集団における食物アレルギー児への対応と個別対応の違いを理解する
4. 食物アレルギー対応のための食事は特別なものではないことを理解し、栄養面の充足をする方法を具体的に学ぶ

授業方法:　グループ学習と発表

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	実習の説明 課題の配布と説明 課題作成の要点の説明 担当症例の決定	配布資料を熟読
2.	6つの疾患について、グループごとに要点をまとめ、発表の準備をする	担当症例についてのデータを熟読し、病態、治療をまとめて発表の準備をする
3.	担当者による症例提示と病態、治療についての発表とそれに対する質疑応答 1. クローン病 2. 潰瘍性大腸炎	担当症例についてのデータを熟読し、病態、治療をまとめて発表の準備をする
4.	担当者による症例提示と病態、治療についての発表とそれに対する質疑応答 3. 肝硬変による肝不全 4. 胃がんの術前術後管理と栄養障害	担当症例についてのデータを熟読し、病態、治療をまとめて発表の準備をする
5.	担当者による症例提示と病態、治療についての発表とそれに対する質疑応答 5. 慢性腎臓病と腎不全 6. 高血圧	担当症例についてのデータを熟読し、病態、治療をまとめて発表の準備をする
6.	食物アレルギーの疫学、病態、対応の理解 容器包装された加工食品のアレルギー表示の読み方についての実習	配布資料に基づく予習 加工食品のアレルギー表示例の収集
7.	安全な食物アレルギー対応食を提供するための工夫についてグループごとに話し合い、その結果を発表 （保育所給食、学校給食、病院給食、給食提供会社における対応）	配布資料に基づく予習 給食提供における安全な食物アレルギー対応食の提供の原則を各自まとめておく
8.	持参した卵、牛乳、小麦を使用しない献立の内容を栄養価も含めて幼児期に適したものかどうかをグループごとに検証し、修正したものを発表	卵、牛乳、小麦を使用せずに幼児期の栄養面の充足を図った献立の作成と栄養価の計算による検証

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実習時間中に発表内容について訂正やコメントをすることによりフィードバックする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および授業態度	60	出席点 8点x7＋4点＝60点　スマホ、内職などは1回につき4点減点
症例発表の評価	20	正しい情報を得て発表できるかどうかを評価
食物アレルギー対応に関する評価	20	食物アレルギー対応の理解度と、食物アレルギー児の栄養学的特性をふまえた献立作成ができるかどうかを評価

教科書:　伊藤節子編著　臨床病態学　化学同人（臨床病態学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで使用しているもの）

参考書:　必要な資料は実習中に配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　実習時間中に適宜

670061～63

解剖生理学実験

仲佐　輝子、渡邊　英美

授業テーマ:　ヒトの身体の生理的機能について実験を通して理解する。

授業の概要:　解剖生理学で学んだ知識を実験により確認し、栄養学を理解し応用するためのヒトの身体の構造と機能について理解を深める。
唾液アミラーゼ活性の測定は、各自の唾液を用いて1人ずつ行う。感覚器系の実験は、2人1組になって行う。赤血球数、白血球数の測定は、こちらで準備したラットの新鮮血を用いて1人ずつ行う。ラットの解剖は1グループ、2匹のラットを解剖する。尿検査は、グループで2人の尿を採取して行う。

到達目標:
①消化器系の実験では各自の唾液アミラーゼを用いて実験を行い、消化全般について理解する。
②感覚器系の実験では体性感覚である重量感覚と空間閾値、味覚について理解する。
③血液検査、尿検査を通してそれぞれの検査項目の臨床的意義を理解し、栄養指導における活用を考える。
④ラットの解剖を通してヒトの身体の構造および機能について理解する。
⑤実験は、グループでの共同作業である。グループの中で、積極的に実験に関わり、協力して実験を進めることができること。
⑥実験方法をフローチャートで示すことで、実験を的確に進めることができる。
⑦実験結果から内容を理解し、レポートにまとめることができる。

授業方法:　解剖生理学実験は1単位の実験であるので、実験回数は3コマ続きで7.5回である。8回目はその0.5回分に相当する。1グループ6～7名で実験を行う。初回に実験項目全般についての内容を説明し、以後は当日の実験操作上の注意点を述べる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	解剖生理学実験に関する全体説明 （1)実験に際しての諸注意 （2)解剖生理学実験全体の内容説明 （3)レポート作成について、試薬の濃度計算テスト	
2.	消化器系実験（唾液アミラーゼによる消化－アミラーゼ活性の測定、唾液腺の消化能力の差の測定－） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験 （3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
3.	消化器系実験（唾液アミラーゼによる消化－唾液アミラーゼの最適pH、熱安定性－） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験 （3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
4.	感覚器系実験（味覚） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験 （3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
5.	感覚器系実験（空間閾値及び重量感覚） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験 （3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
6.	血液検査（赤血球数、白血球数、ヘモグロビン量、ヘマトクリット値、血液及び血漿の比重） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験 （3)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。検査項目についてヒトの基準値を調べておくこと。
7.	ラットの解剖（ラットの解剖を通して人体の構造・機能を考える） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験 （3)実験及び結果のまとめ、実験終了時には動物の霊に対して感謝し黙祷を捧げる	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。
8.	尿検査（尿の一般性状） （1)実験操作の説明及び実験 （2)実験及び結果のまとめ	テキストの該当する部分を読み、実験内容を把握する。方法は実験ノートにフローチャート化して書く。

受講者へのメッセージやアドバイス:　実験には、事前にテキストを読み、実験操作をノートにフローチャートで作成して臨むこと。内容については、すでに1年次の解剖生理学で学んだことなので、教科書を読んで予習しておくこと。レポートは指定した日時までに提出すること。実習の進め方やレポートの書き方等、詳しいことは第1回目の授業で説明する。
事前連絡なしの欠席遅刻は厳禁とする。
レポート提出が遅れた場合は減点の対象とする。

フィードバックの方法:　レポートはコメントをつけて返却する。不備のある場合は再提出を求める。
教室でまとめて解説する場合もある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む実験への積極的態度	45%	到達目標⑤、⑥を踏まえ、実験操作予習の有無、実験内容の理解度、実験態度により評価する。
レポート	50%	レポート形式が整っているかを評価する。実験結果から到達目標①～④の実験内容を理解し、的確に報告できているかを評価する。
小テスト	5%	試薬の濃度計算の理解度により評価する。

教科書:　研究室作成の「解剖生理学実験」を配布する。

参考書:　実験内容に関係するすべての本が参考となる。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:	授業前後に実験室内で対応する。

691260

食物学特別講義

柴田　　克己、小川　　剛伸

授業テーマ:　栄養素でわかる食品と健康との関係

授業の概要:　本講義では、前半（第1回～第7回）を小川剛伸、後半（第8回～第15回）を柴田克己が担当する。
小川剛伸…加工食品は、現代の我々の食生活に欠かせない存在であり、おいしさに対する消費者からの要求は非常に強い。テクスチャーは食品のおいしさを決める重要な要因であり、加工食品を開発・製造する際には、テクスチャーをどのようにデザインするかが大切となる。本授業では、パスタなどを例に、加工食品のテクスチャーに関する基礎的な事項から最新の研究までを概説する。
柴田克己…食べ物と栄養素と健康に関わる情報を活用するための知識を講義する。

到達目標:　小川剛伸…パスタなどの加工食品における、テクスチャーの重要性および食品のおいしさを向上させるためのテクスチャーデザインの基礎について理解を深める。また、テクスチャーの機器測定に関して、手法、原理、データ解析法などを説明し、研究に活用できる程度の知識を得る。さらに、3次元グルテン構造のイメージングによるテクスチャーの見える化や、人工知能を用いたテクスチャーの予測やおいしさのデザインなど、近年の研究について概説し、テクスチャー研究における現状の課題と今後の展望について考える。
柴田克己…食べ物と病気とのかかわりおよび健康の維持・増進を栄養素・非栄養素の代謝を通じて話ができる。

授業方法:　小川剛伸…講義形式
柴田克己…講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	工業的に製造される加工食品について	特に必要としない。
2.	加工食品におけるテクスチャーの重要性について	配布資料等を事前に読み、準備する。
3.	加工食品におけるテクスチャーデザインの基礎について	配布資料等を事前に読み、準備する。
4.	テクスチャーの機器測定について①手法と原理	配布資料等を事前に読み、準備する。
5.	テクスチャーの機器測定について②データ解析法	配布資料等を事前に読み、準備する。
6.	テクスチャー研究における現状について①テクスチャーの見える化	配布資料等を事前に読み、準備する。
7.	テクスチャー研究における現状について②おいしさと人工知能	配布資料等を事前に読み、準備する。
8.	食べ物と病気とのかかわりの歴史	予習（教科書を事前に読み準備する）
9.	活き活きと生きるために必要な栄養素の種類と量	予習（教科書を事前に読み準備する）と復習（講義をふまえ，解説したところを復習する）
10.	代謝特性からみた至適エネルギーバランス	予習（教科書を事前に読み準備する）と復習（講義をふまえ，解説したところを復習する）
11.	食事と寿命との関り	予習（教科書を事前に読み準備する）と復習（講義をふまえ，解説したところを復習する）
12.	栄養素からみた食品の特徴	予習（教科書を事前に読み準備する）と復習（講義をふまえ，解説したところを復習する）
13.	食品に含まれる非栄養成分（機能性成分）	予習（教科書を事前に読み準備する）と復習（講義をふまえ，解説したところを復習する）
14.	調理による栄養素の変化（特にビタミン）	予習（教科書を事前に読み準備する）と復習（講義をふまえ，解説したところを復習する）
15.	次世代食品	復習（講義をふまえ，解説したところを復習する）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　小川剛伸…質問用紙に記載の内容について、教室で解説する。
柴田克己…E-メールの活用

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出欠状況	70%	欠席を減点する（小川剛伸）
レポート	30%	テクスチャーに関する基礎的な事項を理解した上で、課題に対して説得力をもって記載できるかを基準とする。（小川剛伸）
受講態度	30%	質問，筆記しているか（柴田克己）
確認試験	20%	正答率（柴田克己）
レポート	50%	みやすさ，読みやすさ，正確度（柴田克己）

教科書:　小川剛伸…なし。必要に応じてスライドの抜粋や資料を配布する。
柴田克己…栄養素でわかる食品と健康－WEB連動テキスト－柴田克己・木戸康博　共編著，2016年，培風館
2800円　ISBN978-4-563-07365-7

参考書:　小川剛伸…詳細は最初のクラスにおいて参考文献一覧を提示する。
柴田克己…なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　小川剛伸…授業の前後に教室内で対応
柴田克己…kshibata@konan-wu.ac.jp

692460

有用生物開発論

川﨑　　祐子

授業テーマ:

授業の概要:
微生物、植物、動物などを対象に、遺伝子組換えなどによるより有用な性質を持つ個体を育種する技術について解説する。また、これらの技術の安全性と、社会に及ぼす影響について考える。さらに、作物中から染色体を抽出し、特定のDNA配列の検出技術に触れる。

到達目標:
①遺伝子工学などの手法を利用した有用生物の開発について理解を深める。
②基礎的な遺伝子工学の操作ができるようになる。

授業方法:
「コメ品種のDNA鑑定の実際」では実験操作のデモンストレーションを含む演習形式、その他は講義形式で行う。学生が自分で調べた論文の内容について口頭で発表する。
演習的内容に関しては90分の授業枠には収まらないため、隔週で2コマ連続で行うことがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	遺伝子組換え、細胞融合などによる新規作物の開発について （全体的なオリエンテーション）	
2.	遺伝子組換え技術とPCRの原理（関連論文の紹介）	DNAの測定法、PCRの原理について実験書を調べておくこと。
3.	実験原理の発表と方法論の検討	調べた実験書の内容についてわかりやすく解説できるよう発表準備をすること。
4.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （プロトコールの作成と試薬の準備）	
5.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （作物中からのゲノムDNAの抽出-1）	実験書を熟読して予習しておくこと。
6.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （作物中からのゲノムDNAの抽出-2）	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
7.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （ゲノムDNAの精製-1）	実験書を熟読して予習しておくこと。
8.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （ゲノムDNAの精製-2）	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
9.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （ゲノムDNAの定量-1）	実験書を熟読して予習しておくこと。
10.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （ゲノムDNAの定量-1）	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
11.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （PCRによる目的遺伝子の増幅-1）	実験書を熟読して予習しておくこと。
12.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （PCRによる目的遺伝子の増幅-2）	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
13.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （目的遺伝子の電気泳動-1）	実験書を熟読して予習しておくこと。
14.	コメ品種のDNA鑑定の実際 （目的遺伝子の電気泳動-2）	実際に操作した内容について、実験ノートに整理しておくこと。
15.	結果の評価および発表	実験ノートを基に、得られた結果について説明できるよう準備しておくこと。最終的にレポートにまとめて提出すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
実験原理や結果の発表に際して、その場で解説を加え内容を補完する。
レポートは添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標①については序論での調べ物を通じて、②については方法、結果、考察の記述により達成度合いを評価する。
発表	30	到達目標①②に照らして、自分が理解した内容をわかりやすく説明できるかを評価する。
授業への参加度	20	到達目標②について毎回予習をしたうえで演習に臨んでいるか授業中の態度により評価する。

教科書:
必要に応じてプリント等を配布する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対

692560

臨床心理学特論

大和　　謙二

授業テーマ:　病気の心理

授業の概要:　健康観、疾病観の歴史的変遷を辿り、現代を生きる我々の病気に対する一見非合理な行動の背景を探る。また患者側、医療者側と言った立場性の違いにより、なぜ医学・医療をめぐるコミュニケーションのズレを生じるのかも探っていく。更にそういった問題が、心身相関を通じて実際の身体的症状にどのように影響するかも探っていく。

到達目標:
1. 栄養学を学び、それを臨床的に応用していく場合、その医学的・.科学的言説を、正確に伝えていくために、患者の心理的反応を予想・理解する。
2. その理解に基づき、臨床場面で相方向的なコミュニケーションを成立させるための基礎を獲得することを目標とする。

授業方法:　講義、並びにグループディスカッション。心理検査の実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康観の歴史 健康が個人的なものという観念が比較的新しいものであり、社会的・文化的にも規定されうる相対的なものであることを学ぶ。	以下事前に配布するテキストプリントに目を通しておくこと。
2.	疾病観の歴史 疾病の原因を、我われは様々なものに帰属させてきた。今我々が持っている疾病観に潜む歴史的残渣を見つけだしていく。	歴史的に有名な疾患についての基礎知識を学習しておくこと。
3.	病者の心理 病を得たときに生じる、我々の心理的な変化を学ぶ。	自分の周囲にいる人物、もしくは自分自身が病を得たときに、どのような行動の変化があったかを整理しておくこと
4.	医療者の心理 病に対峙する医療者の心理を分析し。患者とのズレを明らかにする。	医療を受ける場面で感じた、違和感、不満があればまとめておくこと。それを素材に医療者側の心理を考える
5.	病気行動とコーピングスキル 病を得ると、病者としての病気行動が要求される。それを支えるコーピングスキルについて分析する。	病気にかかり、治っていく過程において自分の行動の変化を自分自身の体験で振り返っておくこと。
6.	病気と社会 病気行動は社会的行動であり、病気になることの社会的意味について考察する。	マスコミなどでどのように病気が扱われているかを自分なりに分析しておくこと。
7.	ストレス 心理的なダメージであるストレスが身体的な問題を引き起こすメカニズムについて分析する。	自分自身がストレスを感じる場面を整理しておくこと。
8.	危機的状態における心理的反応 ストレスを回避するための心理的反応を、精神分析の枠組による解釈や、認知的不協和理論などの理論を通じて学ぶ	自分自身が危機的状態に陥ったときの回避方法のパターンを分析しておくこと。
9.	心身症 具体的な心身症について学ぶ。	プリントにある心身症について調べ一通り理解しておくこと
10.	心理検査実習 PFスタディや、CMIなどの心理検査を実習する。	
11.	医療者と患者関係 現実の臨床的場面での医者患者関係の諸相を学ぶ。	以下臨床経験がある場合、特に困難を感じた事例に付きレポートをまとめておく。臨床未経験であれば、自分自身が栄養指導を受けると仮定して、抵抗要因を洗い出しておく。
12.	症例分析1 各自が経験した症例をレポートし、検討する。	
13.	症例分析2 各自が経験した症例をレポートし、検討する。	
14.	臨床的コミュニケーション論 患者との面接場面での話法を説得心理学の技法によりブラッシュアップする。	日常経験の中で、自分自身が他者を説得する際に利用しているコミュニケーション術について分析しておく。
15.	総括と臨床実践	

受講者へのメッセージやアドバイス:　臨床経験のある受講者は経験したケーススタディを講義の中で随時発表してもらい、また臨床未経験の方も身近に病気を経験した方の、病気行動をケーススタディをしてもらうことで、より理解を深めてもらいます。

フィードバックの方法:　上記のレポートや発表を評価の対象にします。フィードバックはレポートに基づくディスカッションの中で行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・討論	50%	自己のオリジナルな臨床経験や体験を素材として、その心理的側面の理論的分析を評価する。
授業への参加度	50%	授業中に展開される理論の具体的理解のために、事例の紹介に貢献できるかを評価する。

教科書:　教科書は使用しません

参考書:　E・キュブラー・ロス　死ぬ瞬間　中公文庫

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室で対応。

692860

食品ハイドロコロイド論

山本　　寿

授業テーマ:　水溶性コロイドとしての食品素材のレオロジー特性と反応過程、モデル解析と反応機構

授業の概要:　基礎的な数学（指数・対数・微分）の知識と学部レベルの食品物性学の理論的知識（テクスチャー、応力ーひずみ特性、クリープ特性のための解析モデルなど）、それらを応用した食品物性学実験（解析を含む）の経験を踏まえ、食品素材である多糖類やタンパク質の水溶性コロイドの性質をレオロジー的側面から研究する方法論を実例に沿って習得する。特に、食品ハイドロコロイドがゲル化や糊化・老化などの動的な変化、すなわち反応状態にあるとき、その過程を速度論的に捉える考え方と解析法を身につけさせ、反応機構についても考察させる。

到達目標:　学部レベルの食品物性学の理論的知識と実験・解析経験に、より高度で精細な取扱いを積み上げ、研究レベルを向上する。

授業方法:　講義に加えて、データ解析に取り組ませることで、実践的な研究訓練を施す。場合によっては、機器を使った実験を経験させる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	物体の圧縮変形と力学：ひずみと応力	教科書「食品物性学」第2章「物体のひずみと応力」と「食物学のための数学と物理」第3章を復習する。
2.	応力ーひずみ特性（初期弾性率、破断・テクスチャー特性）	「食品物性学」第3章「固状食品の応力−ひずみ特性」を復習する。
3.	破断測定とテクスチャー測定（実験と解析）	「食品加工・物性学実験」第1, 2章を復習し、持参する。
4.	クリープ特性と粘弾性要素（数学的補足：微分）	「食品物性学」第4章「固状食品のクリープ特性（静的微小変形）」4.2節と「食物学のための数学と物理」第3章を復習する。
5.	粘弾性（Maxwell と Voigt）モデル（数学的補足：微分方程式）	「食品物性学」4.3, 4.4節と「食物学のための数学と物理」第1−4章を復習する。
6.	4要素モデル（理論）	「食品物性学」4.5, 4.6節を復習する。
7.	クリープ曲線の 4要素モデル解析（実例による演習）	「食品物性学」4.6節と「食品加工・物性学実験」第2章を復習する。
8.	ずりひずみとずり応力・ニュートン流動と粘度・非ニュートン流動	「食品物性学」第5章「液状食品の流動特性」を読む。
9.	物体の振動変形（数学的補足：三角関数）	高校数学の「三角比」を復習し、「食品物性学」第6章「食品の動的粘弾性（微小振動変形）」を 6.1.2節まで読む。
10.	動的粘弾性：貯蔵弾性率と損失弾性率	「食品物性学」第6章「食品の動的粘弾性（微小振動変形）」6.1.3.節「貯蔵弾性率と損失弾性率」と 6.1.4節「動的粘弾性とゲル化」を読む。
11.	実例：ヒエ・タピオカ・ヤマイモ混合麺の応力ーひずみ特性と評価	配付資料（論文等）を読む。
12.	実例：牛乳/豆乳ーκ−カラギーナン混合系のゲル化過程（動的粘弾性）とゲルの応力ーひずみ特性に及ぼす pH と Caイオン添加の影響	配付資料を読む。
13.	実例：デンプンの等温熱水糊化における粘度増大過程に対する反応速度解析と糊化機構	配付資料を読む。
14.	実例：デンプンの等室温NaOH糊化における粘度増大過程に対する反応速度解析と糊化機構	配付資料を読む。
15.	実例：デンプンの等温熱水および室温NaOH糊化における動的粘弾性の変化と糊化/ゲル化移行現象	配付資料を読む。

受講者へのメッセージやアドバイス:　学部で食品物性学を学んだ人は、理論や実験・解析レポートを復習しておいてください。初めて、この分野を学ぶ人は事前に学部の「食品物性学」の教科書を手に入れ予習しておいてください。これらを理解するためには、学部の「食物学のための数学と物理」で扱う程度の「指数・対数関数とその微分」の知識と運用力が必要です。

フィードバックの方法:　提出物を返却し、講評・解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	70%	出欠席状況と小テストなどの採点結果
レポート（発表）	30%	完成度を通して、食品を対象とした物性研究方法の理解度を評価する。

教科書:　「食品物性学」（自著、学部用教科書として同女生協で販売、所持者は新規購入不要）
「食品加工・物性学実験」（自著、学部用教科書として同女生協で販売、所持者は新規購入不要）
各回の授業テーマに沿った論文などの配付資料

参考書:　「食物学のための数学と物理」」（自著、学部用教科書として同女生協で販売、所持者は新規購入不要）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　随時、研究室で。

694360

環境物質制御論

吉田　　香

授業テーマ:　環境汚染物質の動態を知ることにより、環境汚染やヒトへの健康影響を考える

授業の概要:　物質による環境汚染の影響を理解し、対策を進めるためには、汚染状況や発生源を明らかにし、環境動態を把握する必要がある。重金属やダイオキシンなど多様な物質の具体的な汚染状況、環境中での挙動および化学的特性を知ることにより、ヒトへの健康影響も推察することができる。また、環境や人体中のこれら物質を正確に測定することにより、環境汚染物質の環境中での挙動やヒトの健康に及ぼす影響を評価することができる。本授業では、人間の生活に影響する環境汚染物質と健康との関わりについて考え、理解を深めることを目的とする。

到達目標:
・環境汚染物質の動態と健康影響について理解している。
・環境汚染物質の動態と健康影響についてディスカッションができる。
・環境汚染物質の動態と健康影響について的確なプレゼンテーションができる。

授業方法:　パワーポイントや配布資料を用いた講義とグループディスカッションにより、各課題に対する知識を深める。その後、関連する文献を各自で検索し、資料としてまとめて発表する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	汚染物質の環境中における動態および生物濃縮	授業でわからなかった専門用語については、各自で調べて、理解を深めておく。
2.	重金属の環境動態	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
3.	重金属の健康影響（1）	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
4.	重金属の健康影響（2）	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
5.	重金属の環境動態と健康影響－文献調査、発表	1～4回目の内容に関連する文献を検索し、資料としてまとめて発表できるよう準備をする。発表後のディスカッションで生じた疑問点について、解決しておく。
6.	有機塩素化合物の環境動態	業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
7.	有機塩素化合物の健康影響	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
8.	ダイオキシン類の環境動態	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
9.	ダイオキシン類の健康影響	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
10.	有機塩素化合物の環境動態と健康影響－文献調査、発表	6～7回目の内容に関連する文献を検索し、資料としてまとめて発表できるよう準備をする。発表後のディスカッションで生じた疑問点について、解決しておく。
11.	ダイオキシン類の環境動態と健康影響－文献調査、発表	8～9回目の内容に関連する文献を検索し、資料としてまとめて発表できるよう準備をする。発表後のディスカッションで生じた疑問点について、解決しておく。
12.	内分泌かく乱物質の環境動態	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
13.	内分泌かく乱物質の健康影響	授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。さらに、関連項目についてインターネット等を利用して調べ、ディスカッションに備えておく。授業後、得た知識を整理し、理解を深めておく。
14.	内分泌かく乱物質の環境動態と健康影響－文献調査、発表	12～13回目の内容に関連する文献を検索し、資料としてまとめて発表できるよう準備をする。発表後のディスカッションで生じた疑問点について、解決しておく。
15.	まとめ	1回目～14回目までの内容について総合的にディスカッションをするので、充分復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　幅広い分野の専門知識を持つことは、自分が目指す専門分野で独創性や創造性を発揮するためには不可欠です。知識を深めるよう積極的に授業に参加してください。

フィードバックの方法:　ディスカッションの時間を設け、意見交換を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	環境汚染物質の動態と健康影響について理解した上でディスカッションに参加しているかを評価する。
レポート	30	環境汚染物質の動態と健康影響について適切な説明ができているかを基準とする。
発表	30	環境汚染物質の動態と健康影響について深く理解した上で発表しているかを基準とする

教科書:	資料を配布する。
参考書:	水川薫子・高田秀重　著 「環境汚染化学―有機汚染物質の動態から探る」 丸善出版 桜井 弘 編 「生命元素事典」 オーム社 その他　関連資料および文献などを適宜紹介
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力
教員との連絡方法:	随時研究室内で対応する。

694460

食品プロセス論

西村　　公雄

授業テーマ:

授業の概要:
担当者が，今まで食品プロセス学の研究者として行ってきた研究の履歴につき講義し，加工食品をどのように研究対象として捉えるかにつき教授する。関連論文などを紹介し，幅広く食品プロセス学に関する理解を深める。

到達目標:
1. 食品プロセス学とは，どのような研究分野であるのか理解できるようになる。
2. 食品をどのように捉えるれば，研究となるのかその方法が分かるようになる。
3. 研究論文の体裁を理解できる。
4. 研究論文を読み解くすべが身につく。
5. 自分の力で研究論文を書き上げる能力が向上する。

授業方法:
担当者が著した論文（ほぼ英文）を読み合わせしながら順次説明および討議する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	活性酸素が，タンパク質ゲル状食品の品質を改良する　−ビタミンCの食品品質改良効果−　導入	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
2.	活性酸素が，タンパク質ゲル状食品の品質を改良する　−ビタミンCの食品品質改良効果−（卵白アルブミンを用いて）	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
3.	活性酸素が，タンパク質ゲル状食品の品質を改良する　−ビタミンCの食品品質改良効果−（魚肉筋原繊維タンパク質を用いて）	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
4.	活性酸素が，タンパク質ゲル状食品の品質を改良する　−ビタミンCの食品品質改良効果−（小麦タンパク質，大豆タンパク質などを用いて）	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
5.	何故，鶏のクリーム煮を真空調理法で加熱するとホワイトソースの分離が生じるのか？ −その機構−	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
6.	ヒアルロン酸は，冷凍変性防止剤として使用できるのか？　−ヒアルロン酸の新たな機能性−	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
7.	前半まとめ	1−6の項目に付き予めまとめておくこと。
8.	マッピング法による最適化条件の検索　−膨化劣化が生じないシューペーストの製造法−	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
9.	糖化鶏肉タンパク質の機能改変　−その歴史−（魚肉に糖を付加させると機能改変が生じる）	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
10.	糖化鶏肉タンパク質の機能改変　−その実践−（魚より安定性の高い恒温動物の肉（鶏肉）では，どのような機能改変が生じるのか）	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
11.	糖化鶏肉タンパク質の機能改変　−その実践−　（マッピング法を用いて，機能性を最大限に引き出す試み）	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
12.	低温加熱による肉質軟化機構	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
13.	トマト中に存在するアンギオテンシンI交換酵素阻害物質の検索	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
14.	本当に鉄剤をお茶で飲んでは，いけないのか？　ー女子大生を対象としてた調査についてー	こちらで準備した関連論文につき，読んでおくこと。
15.	後半まとめ	8−14の項目に付き予めまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
論文を読み解きながら，討議をすることでその場でフィードバックスして行く。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・態度	100	論文内容を十分理解できているかを評価基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
オフィスアワー以外の時間でも，講義・実験実習・会議などがなければ研究室におります。随時お訪ね下さい。

694560

食嗜好論

真部　　真里子

授業テーマ:　食嗜好を左右する要因を探るために必要な知識と評価方法を身につける。

授業の概要:　味覚、嗅覚に関する基礎知識と食品官能評価の基礎を講義で概説した後、受講生自身で、これらに関する一次文献を検索し、文献の理解に必要な統計学、心理学、生理学的な知識を自ら補充しつつ、内容をパワーポイントにまとめて発表する。また、自らテーマを決めて、模擬官能評価を実施する。

到達目標:
・味やにおいの認識メカニズムを理解できる。
・学術論文に記載された研究内容を理解できる。
・目的に応じた官能評価を計画立案できる。

授業方法:　1～5回までは講義を行い、6～9回は論文紹介準備と論文紹介、10～15回は模擬官能評価の実施とまとめを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1. この授業の進め方に関する説明 （受講生の受講目的も確認する） 2.【講義】味やにおいの認識メカニズム ①感覚器について	この講義を受講する目的を簡単にまとめておく。
2.	2.【講義】味やにおいの認識メカニズム ②味覚・・嗅覚の認識メカニズム （開始時に前回の疑問点を確認する）	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。 解消できなかった疑問点を列挙しておく。
3.	3.【講義】食嗜好を左右する要因について （開始時に前回の疑問点を確認する）	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。 解消できなかった疑問点を列挙しておく。
4.	4.【講義】食品官能評価法 ①準備 （開始時に前回の疑問点を確認する）	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。 解消できなかった疑問点を列挙しておく。
5.	4.【講義】食品官能評価法 ①準備 ②解析 （開始時に前回の疑問点を確認する）	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。 解消できなかった疑問点を列挙しておく。
6.	5.【講義】文献の探し方 （開始時に前回の疑問点を確認する） 6. 紹介用論文の検索 講義内容で興味をもった内容に合致した一次文献を検索し、紹介用論文を決定する。	前回の授業内容を簡潔にまとめ、疑問点を解消しておく。 解消できなかった疑問点を列挙しておく。 ここまでの講義内容で興味をもった項目を3つ挙げておく。
7.	7. 論文紹介準備 参考文献を用いて、紹介用論文の内容を十分に理解し、PPを用いて内容紹介ができるよう準備する。	紹介用論文を決定し、あらかじめ入手しておく。
8.	7. 論文紹介準備 参考文献を用いて、紹介用論文の内容を十分に理解し、PPを用いて内容紹介ができるよう準備する。	前回の授業時間でできなかった準備を補っておく。
9.	8. 論文紹介 論文紹介と質疑応答	PPを使った発表ができるように、準備する。
10.	9.【講義】模擬官能評価の進め方 10. 模擬官能評価計画書作成 随時、担当教員と相談しながら作成する。	どんな官能評価を実施したいか、目的等を自分なりに整理しておく。
11.	11. 模擬官能評価準備 随時、担当教員と相談しながら準備する。	計画書の不十分な点を補い、完成させておく。
12.	12. 模擬官能評価の予備試験 予備試験を実施し、検査方法が適切か確認する。不適切な箇所があった場合は修正する。	予備試験の具体的な手順をまとめておく。
13.	13. 模擬官能評価の実施	模擬官能評価が適切に実施できるように具体的な手順をまとめておく。
14.	14. 模擬官能評価結果の解析	模擬官能評価の生データを整理しておく。
15.	15. 模擬官能評価総括（発表） 模擬官能評価についてPPを使って発表。	模擬官能評価の目的から考察までを発表できるようPPを作成しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　不確かなことがあれば、随時、担当教員に相談すること。

フィードバックの方法:
講義：授業開始時に、前回の講義の疑問点を受講生から挙げてもらい、その場で解説する。
発表：発表終了後の質疑応答の中でコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	講義開始時に実施する前回講義の振り返りによって、学びへの積極性と理解度を判断する。 模擬官能評価の取り組みによって、官能評価の計画立案力を評価する。
発表	50	文献紹介発表によって、学術論文の理解力を評価する。 模擬官能評価のまとめの発表によって、官能評価に対する理解度を判断する。

教科書:　適宜、資料を配布

参考書:
日本官能評価学会編『官能評価士テキスト』建帛社
今田純雄著『食べることの心理学』有斐閣選書
大越ひろ・新宮英夫編著『食の官能評価入門』光生館
山本隆著『楽しく学べる味覚生理学』建帛社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業前後に教室内にて対応

694660

給食経営管理論

神田　　知子

授業テーマ:　栄養管理・給食管理におけるPDCAサイクルと食事摂取基準の活用

授業の概要:　栄養管理・給食管理におけるPDCAサイクルと食事摂取基準の適用「日本人の食事摂取基準」は何をどれくらい食べればよいかを示した食事摂取量のガイドラインである。しかし、給食管理において食事摂取基準をどのように活用するかについては実践的な研究報告が少なく、科学的根拠が不足している。マネジメントサイクルに沿った栄養管理や給食管理業務において、食事摂取基準を活用するための留意点や限界などにも触れ、実践するための考え方を学ぶ。

到達目標:　(1)栄養管理・給食管理に関連する文献の発表を行い、自分の考えを説明できる

授業方法:　講義とディスカッションにより行う。また、関連する文献や研究をまとめて紹介する課題を与える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食事摂取基準の基本的知識について解説する。	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
2.	栄養管理・給食管理におけるPDCAサイクルと食事摂取基準の適用について解説する。	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
3.	食事摂取量の把握方法について解説する。(1)食事記録法、24時間思い出し法、陰膳法	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
4.	食事摂取量の把握方法について解説する。(2)食物摂取頻度調査票、食事歴法質問票	【予習】関連論文を発表するための文献を検索し、発表の準備を行う
5.	栄養計画、食事計画と品質管理の精度について解説する。	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
6.	PDCAサイクルに基づく保育所給食の栄養管理・給食管理について解説する。	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
7.	PDCAサイクルに基づく学校給食の栄養管理・給食管理について解説する。	【予習】関連論文を発表するための文献を検索し、発表の準備を行う
8.	PDCAサイクルに基づく事業所給食の栄養管理・給食管理について解説する。	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
9.	PDCAサイクルに基づく一般治療食患者等の栄養管理・給食管理について解説する。	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
10.	高齢者および障がい者施設における栄養管理・給食管理について解説する。	【予習】関連論文を発表するための文献を検索し、発表の準備を行う
11.	栄養管理報告書に基づく栄養管理実施状況の評価について解説する。	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
12.	給食管理において食事摂取基準を活用する上での問題点、限界について解説する。	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
13.	栄養管理・給食管理に関する研究事例紹介(1)学内実習の研究事例	【予習】関連論文を発表するための文献を検索し、発表の準備を行う
14.	栄養管理・給食管理に関する研究事例紹介(2)学校給食、事業所の研究事例	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。
15.	栄養管理・給食管理に関する研究事例紹介(3)病院、福祉施設の研究事例	【予習】指導教員の指示のもとに予習を行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席を含む授業への参加・態度	50	授業に積極的に参加し、自分の考えが述べられているかを基準とする。
課題の発表	50	到達目標(1)の理解度を基準とする。

教科書:　プリントを用いる。

参考書:　「PDCAサイクルと食事摂取基準による栄養管理・給食管理」建帛社
「日本人の食事摂取基準」第一出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対する。

694760

調理機能論

村上　　恵

授業テーマ:　調理による食品の機能性の変化について学ぶ

授業の概要:　食品はほとんどの場合、生ではなく調理することによって食されている。調理操作（主に加熱調理）により、食品のもつ特性は、物理的・化学的変化を起こし、嗜好性だけでなく、栄養性・機能性を向上させる。伝統的な食事として今日まで受け継がれてきた調理法は、その食品のおいしさを最大限に引き出し、栄養的にも優れた調理法であることが明らかにされつつある。この講義ではこれまで学んだ調理科学を基礎とし、調理操作による食品の機能性（一次機能、二次機能、三次機能）への影響について資料や論文を紹介しながら理解を深める。

到達目標:　調理による食品の変化を栄養学的・物性学的・組織学的観点から理解する。
調理と水の関係を理解する。
食文化と調理の関係を理解する。
調理機能にかかわる最近の話題について理解する。

授業方法:　配布資料、教材を用いた講義とディスカッション、および演習（プレゼンテーション）を行う。
可能であれば、実験実習を行う場合もある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	調理にかかわる最近の話題	調理にかかわる最近の記事について、調べておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。15回目のプレゼンテーションに向けて、論文を検索しておく。
2.	調理科学の基礎1 食品の調理性①	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
3.	調理科学の基礎2 食品の調理性②	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
4.	調理科学の基礎3 調理操作①	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
5.	調理科学の基礎4 調理操作②	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
6.	加熱調理と調味料	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
7.	調理機能・食品機能を読み解く	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
8.	調理操作による栄養成分の変化	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
9.	調理による食品物性および食品組織の変化	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
10.	調理と水1（水の硬度と和食）	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
11.	調理と水2（水の硬度と西洋料理）	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
12.	食事からの水分摂取量について （調理による損耗）	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
13.	調理と食文化	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
14.	調理機能の研究について	授業内容にかかわる基本的な調理科学については学部で学んだことを復習しておく。 参考文献をあらかじめ読んでおくことが望ましい。
15.	まとめ（プレゼンテーション） 授業にかかわる内容の論文について、レジュメを用いて発表を行う。	授業にかかわる内容の論文について、レジュメを作成しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ディスカッション・積極性	60	到達目標の栄養学的・物性学的・組織学観点から発言しているかを評価する。
プレゼンテーション	40	選択した論文について、論理的に説明できるかを基準に評価する。

教科書:　こちらから配布する資料

参考書:
「食品調理機能学」田村真八郎、川端晶子編著　建帛社
「新しい食学をめざして　調理学からのアプローチ」吉田集而、川端晶子編著　建帛社
「光琳選書（6）調理と水」久保田昌治、石谷孝佑、佐野洋編著　光琳
「クッカリーサイエンス001　加熱上手はお料理上手」日本調理科学会監修　建帛社
「クッカリーサイエンス002　だしの秘密」日本調理科学会監修　建帛社
「クッカリーサイエンス003　野菜をミクロの眼で見る」日本調理科学会監修　建帛社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対　あるいはオフィスアワー

694860

臨床栄養制御論

小松　　龍史

授業テーマ:　病態時のエネルギー・たんぱく質代謝等を踏まえた栄養管理の基本と栄養ケア・プロセスの活用

授業の概要:　臨床における栄養管理を行う際のバックグラウンドとなる専門的知識や技術について、エビデンスの収集を組み込みながら、考察していく。水分・電解質管理、エネルギー消費量の評価、たんぱく質必要量の推計など、学部教育より深めた基礎知識の習得を図ったうえで、栄養管理のプロセスへの応用力を習得させるためにグループワークを含めた授業を展開する。

到達目標:　基礎分野および臨床分野におけるエネルギーやたんぱく質の栄養状態の管理に加え、浮腫・脱水に関与する水の管理の重要性と対処法を理解し、チーム医療において管理栄養士が適切に栄養管理の役割を果たせる知識と技術を養う。国際標準化された栄養ケアプロセスを理解しつ応用できる能力を養う

授業方法:　講義またはグループ討議を行う。講義時間の最初に講義予定範囲の中からテーマを提示し、そのテーマに沿ったグループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	脱水や浮腫、下痢など水分および電解質の管理を必要とする場合の基礎知識	脱水・浮腫のメカニズムを調べておく
2.	輸液や経腸栄養における水分、電解質管理の実際	関連専門書で知らべておく
3.	人のエネルギー消費量推計方法の理論と実際（1）間接熱量測定の基礎	特になし
4.	人のエネルギー消費量推計方法の理論と実際（2）間接熱量測定の実際	特になし
5.	傷病者のエネルギー代謝変動（1）周術期、クリティカルケア	各疾患のエネルギー変動に関するエビデンスを収集・評価しておく。
6.	傷病者のエネルギー代謝変動（2）COPD、感染症、癌など	各疾患のエネルギー変動に関するエビデンスを収集・評価しておく
7.	人のたんぱく質必要量に関する基礎理論と実際（1）窒素出納試験	日本人の食事摂取基準に採用されているたん白質推定平均必要量の根拠を調べておく。
8.	人のたんぱく質必要量に関する基礎理論と実際（2）臨床応用	臨床分野の文献検索をしておく
9.	人のたんぱく質必要量に及ぼす身体活動や生体因子の影響	臨床分野の文献検索をしておく
10.	人のたんぱく質必要量とエネルギー代謝の関係	臨床分野の文献検索をしておく
11.	栄養制御の手段としての栄養ケアプロセス（1）概念	栄養ケアプロセス用語マニュアルを確認しておく
12.	栄養制御の手段としての栄養ケアプロセス（2）栄養アセスメントに基づく栄養診断	栄養診断用語を整理しておく
13.	栄養制御の手段としての栄養ケアプロセス（3）栄養介入	栄養介入の実際について、事例研究を行っておく
14.	症例検討	症例をあらかじめ提示するので、栄養管理プロセスに準じて栄養管理計画を立ててくる
15.	まとめ	栄養ケアプロセス用語マニュアル、日本人の食事摂取基準（特にたん白質）を確認しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　特に予習を行っていないと、グループ討議（ディスカッション）が成立しない。文献検索を丁寧に行うこと

フィードバックの方法:　授業時の討論を通してフィードバックします

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する
ディスカッション	40%	グループワークを通したディスカッションにおいて上記到達目標を達成するための積極性と根拠のある発言ができているかを評価する

教科書:

参考書:　たんぱく質・アミノ酸の新栄養学　岸恭一・木戸康博編（講談社サイエンティフィック）
国際標準化のための栄養ケアプロセスマニュアル　日本栄養士会監訳（第一出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業前後またはオフィースアワーにて対応します

694960

食物アレルギー論

伊藤　　節子

授業テーマ:　食物アレルギー

授業の概要:　食物アレルギーの基礎から臨床まで、特に栄養指導に必要な食物の抗原性についての理解を深め、食物アレルギー児に関わる専門職に求められることを具体的に学ぶ

到達目標:　食物アレルギー児に関わる専門職に求められることを具体的に学ぶことにより、個別対応、給食対応を可能にする

授業方法:　セミナー形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食物アレルギーの定義と分類	教科書の熟読
2.	食物アレルギーの症状と疫学	教科書の熟読 発表内容のまとめ
3.	食物アレルゲンの特徴	教科書の熟読 発表内容のまとめ
4.	食物アレルギーの診断	教科書の熟読 発表内容のまとめ
5.	食物アレルギーが起こる仕組み	教科書の熟読 発表内容のまとめ
6.	食物荒れるイーが治る仕組み	教科書の熟読 発表内容のまとめ
7.	食物アレルギー児の経過	教科書の熟読 発表内容のまとめ
8.	食物アレルギーの治療の基本	教科書の熟読 発表内容のまとめ
9.	原因療法としての食事療法	教科書の熟読 発表内容のまとめ
10.	調理による食物の低アレルゲン化 （鶏卵）	教科書の熟読 発表内容のまとめ
11.	調理による食物の低アレルゲン化 （その他の食物）	教科書の熟読 発表内容のまとめ
12.	食物アレルギー児の献立作成の基本	教科書の熟読 発表内容のまとめ
13.	誤食を起こさないための給食提供	教科書の熟読 発表内容のまとめ
14.	対症療法	教科書の熟読 発表内容のまとめ
15.	まとめ	教科書の熟読 発表内容のまとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　前回授業のフィードバックを毎回の授業中に行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表内容	70	毎回のセミナー中の発表内容で評価する
レポート	30	課題に対するレポートの内容で評価する

教科書:　伊藤節子　乳幼児の食物アレルギー　診断と治療社

参考書:　適宜文献を用意する（授業中に配布）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業後および研究室訪問

695060

栄養疫学

今井　　具子

授業テーマ:　栄養疫学の概略、最新のトピックスを教科書、論文抄読を通して学ぶ。

授業の概要:　教科書に沿って栄養疫学の概略を習得した後、最新論文より関連するトピックスを議論します。

到達目標:　個人、集団レベルの栄養状況を把握するためには食事調査が重要である。食事調査の種類とその特徴を理解し、得られた食事データの意味と疫学的解析の手法を理解する。また栄養と深く関わる身体計測、生理データ、遺伝子、環境と栄養との関連を学び、栄養疫学研究から得られた知見のヘルスプロモーションへの応用について理解を深める。

授業方法:　講義と関連文献の講読、討論を行う。受講者の数によるが、3週に1度程度、各学生が論文の抄読発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養疫学の概要	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
2.	食物と栄養素	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
3.	食事調査方法の種類とその特徴	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
4.	食事調査とIT	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
5.	食パターンを考える	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
6.	生体指標の信頼性	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
7.	食物摂取頻度調査の信頼性	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
8.	身体計測、生理データの種類と信頼性	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
9.	研究デザインの種類と特徴	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
10.	研究デザインの実際	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
11.	栄養疫学からヘルスプロモーションへ1（エコロジカルスタディの動向）	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
12.	栄養疫学からヘルスプロモーションへ2（栄養疫学と施策）	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
13.	栄養疫学からヘルスプロモーションへ3（栄養疫学と社会貢献）	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
14.	データ解析の実際	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。
15.	栄養疫学のこれから	教科書のが該当する箇所を読んでおいてください。事前に配布する論文に目を通しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書を事前に予習してきてください。授業内で紹介した関連文献等より、論文を選んで抄読します。興味を持った多くの論文に触れるようにしておいてください。

フィードバックの方法:　授業中に討論や抄読についてコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文紹介	50	論文紹介の内容、準備状況、プレゼン力
討論	30	ディスカッションへの貢献度、クリティカル・シンキングの理解
授業態度	15	他学生へのコメント・質疑応答への参加程度
出席状況	5	程度出席数を点数化し、遅刻・欠席を減点

教科書:　第2版　食事調査のすべて　栄養疫学　田中平三監訳　Walter Willett原著　第一出版　2003年、

参考書:　食事評価法マニュアル　市川博充翻訳　Frances E Thompson原著　医歯薬出版　1997年
わかりやすいEBNと栄養疫学　佐々木敏　同文書院　2008年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示機能、授業前後に「対応します

695160

くらしのデザイン特殊演習A

奥田　　紫乃

授業テーマ:　快適な居住環境と環境調査手法

授業の概要:　快適な居住環境をつくるために必要となる環境調査手法について学び、調査結果から設計解を得る手法を実践による解明する。実地調査は、授業外時間に受講生が実施し、簡易な測定器や色票などを用いて環境を測定する。

到達目標:　心理的・物理的に快適にすごすために必要となる居住環境要素について学び、特に光・視環境に関する物理・心理量が把握できるようになる

授業方法:　講義、課題発表とディスカッションによる
その他、授業外でのフィールドワーク(実地調査)を伴う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	環境調査の概要と設計への応用	調査テーマの模索
2.	データ収集の基礎	データ収集手法に関する文献・資料の収集
3.	データ分析の基礎	データ収集手法に関する文献・資料の収集
4.	テーマ・目標の設定	調査テーマに基づく資料の収集、調査対象の設定
5.	関連文献調査	調査テーマに基づく資料の収集、発表準備
6.	関連文献調査結果発表	発表時のディスカッションに対する改善案の作成
7.	調査概要の立案	調査計画の具体化
8.	データ収集手法の選択	データ収集に関する各種資料の分析
9.	データ収集	データの整理・分類、データ収集に関する発表資料の作成
10.	データ収集結果発表	発表時のディスカッションに対する改善案の作成
11.	データ分析手法の選択	データ分析に関する各種資料の収集
12.	データ分析	データ分析結果の発表資料作成
13.	データ分析結果発表	発表時のディスカッションに対する改善案の作成
14.	調査結果の評価のための手法	各種評価指標に関する調査
15.	調査結果の評価・発表	発表時のディスカッションに対する改善案の作成

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中のディスカッションを通してフィードバックする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	20	
調査演習の発表・議論	40	調査結果のプレゼンテーション、他者の発表時のディスカッションなど
調査報告レポート	40	

教科書:　よりよい環境創造のための環境心理調査手法入門　日本建築学会編　技報堂出版　2000

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　e-mailによる

695260

くらしのデザイン特殊演習B

平光　　睦子

授業テーマ:　服飾文化の現状と課題

授業の概要:　近年、日本のアパレル産業やテキスタイル産業は生産拠点を海外へ写し国際競争力を追求し、その一方で日本国内の各産地は新たな局面を迎えています。本演習では、日本のファッション産業の現状を見直し、「創造的なモノづくり」という視点から服飾文化の将来の展望を考えます。はじめは講義形式ですすめ、つぎに受講生はその内容を受けて各自で対象を定めて調査し、結果の報告と意見交換によって互いの認識を深めます。

到達目標:
①日本のファッション産業の現状を認識する。
②調査をとおして「つくり手」の現状のなかでの対応を知る。
③調査をとおして「つくり手」の立場から今後の課題を考える。

授業方法:　講義、フィールドワーク、ゼミナール形式ですすめます。調査のためのフィールドワークは、日時を変更し授業時間以外に実施する場合もあります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ファッション産業の現状	
2.	ファッション産業の現状に関する調査 ①調査の対象とテーマ	調査計画を考える
3.	ファッション産業の現状に関する調査 ②調査	調査をすすめ結果をまとめる
4.	ファッション産業の現状に関する調査 ③調査結果の報告と意見交換	調査をすすめ結果をまとめる
5.	国内産地のこころみ	
6.	事例研究①　調査の目的と方法	調査計画を考える
7.	事例研究①　調査	調査をすすめる
8.	事例研究①　調査	調査をすすめ結果をまとめる
9.	事例研究①　報告と意見交換	調査をすすめ結果をまとめる
10.	「モノづくり」の保護と育成	
11.	事例研究②　調査の目的と方法	調査計画を考える
12.	事例研究②　調査	調査をすすめる
13.	事例研究②　調査	調査をすすめる
14.	事例研究②　報告と意見交換	調査をすすめ結果をまとめる
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内でコメントし、適宜、評価を記して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40	授業へ積極的に参加し、自分の意見や感想を表明できるかを基準とする。
レポート	60	到達目標①～③についてそれぞれレポートを課し、テーマの独創性、調査の精度、考察の深さなどを基準に評価します。

教科書:

参考書:　授業中に指示します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　マナビーの掲示板機能

695360

くらしのデザイン特殊演習C

藤本　　純子

授業テーマ:

授業の概要:
私たちは常に衣服を身につけて行動し、生活の場では多くのテキスタイルに囲まれて過ごしている。本演習では被服やテキスタイルに関わるモノ作りの視点から考察を深める。

到達目標:
1.被服関連のモノ作りについての知見を広める。
2.豊かなくらしを指向する発想力や創造力を養う。
3.提案力・議論力を養う。

授業方法:
課題に応じた調査および制作に各自で取組み、その成果の発表と討論を中心に授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	被服デザインの基礎	
3.	被服材料とテキスタイル	
4.	染めの技法(1)調査・制作	染めに関する調査・制作に取り組む。
5.	染めの技法(2)調査・制作	染めに関する調査・制作に取り組む。
6.	染めの技法(3)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。
7.	織りの技法(1)調査・制作	織りに関する調査・制作に取り組む。
8.	織りの技法(2)調査・制作	織りに関する調査・制作に取り組む。
9.	織りの技法(3)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。
10.	被服構成の造形技法(1)調査・制作	造形技法に関する調査・制作に取り組む。
11.	被服構成の造形技法(2)調査・制作	造形技法に関する調査・制作に取り組む。
12.	被服構成の造形技法(3)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。
13.	歴史的衣装にみる染織と造形技法(1)見学	見学レポートを作成する。
14.	歴史的衣装にみる染織と造形技法(2)ディスカッション	
15.	総括とポートフォリオ作成	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
提出物は採点し、授業中に解説を加えて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物	50	到達目標1,2の理解度・習得度により評価する。
発表とディスカッション	30	到達目標3の習得度により評価する。
参加度	20	授業の取り組みに対する意欲, 態度を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能, Eメール

695460

くらしのデザイン特殊演習D

麻生　　美希

授業テーマ:　地域特性を尊重した計画提案

授業の概要:
・各自が選定したフィールドにおいて地域特性の把握を行います。
・そのフィールドの課題（テーマ）を設定し、地域特性を尊重した計画提案を行います。

到達目標:　地域特性の把握、テーマ設定、計画策定の一連の流れを理解することが目標です。

授業方法:　レジュメ、スライドによる講義も行いますが、演習（調査・分析・提案の個別指導）が中心となります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	対象地域の選定	授業までに各自が取り上げたい地域の候補を挙げておきます。
2.	文化的景観という概念	文化的景観という概念について予習しておきます。
3.	対象地域の文化的景観としての分析（1）	文化的景観としての分析に必要な対象地域の資料を収集します。
4.	対象地域の文化的景観としての分析（2）	文化的景観としての分析に必要な対象地域の資料を収集します。
5.	対象地域の文化的景観としての分析（3）	文化的景観としての分析に必要な対象地域の資料を収集します。
6.	フィールドワークの実施	各自が調査準備を行い、フィールドワークを行います。
7.	フィールドワークのまとめ	フィールドワーク後すぐに、メモや写真、地図の整理などを各自で行っておきます。
8.	フィールドワークの成果の共有	フィールドワークのまとめを行い、プレゼンテーションの準備をします。
9.	地域特性を生かしたまちづくり（1）	特にありません。事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
10.	地域特性を生かしたまちづくり（2）	前回の授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
11.	対象地域の課題分析（1）	課題分析に必要な対象地域の資料を収集します。
12.	対象地域の課題分析（2）	課題分析に必要な対象地域の資料を収集します。
13.	計画の検討（1）	個別指導を行うので、計画案を事前に作成します。
14.	計画の検討（2）	個別指導を受けて、計画案を修正します。
15.	プレゼンテーション・ディスカッション	プレゼンテーションの準備をします。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中のディスカッションや個別指導を通じてフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	50	授業受講前の事前準備ができているか、課題に積極的に取り組んでいるかを評価します。
課題発表	50	プレゼンテーションのマナー・論理性・独創性等で評価をします。

教科書:

参考書:
西村幸夫・野澤康 『まちの見方・調べ方　地域づくりのための調査法入門』 朝倉書店
文化的景観学検討会編著 『文化的景観スタディーズ01　地域のみかたー文化的景観のすすめー』 奈良文化財研究所

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビーもしくはemail

695560

くらしのデザイン特殊演習E

齋藤　　朱未

授業テーマ:

授業の概要:
私たちが生活していく中で，その地域特有の習慣・文化などと密に接することがある。それら地域に根付いている習慣・文化などを地域資源として考え，地域資源が置かれている現状，その管理・継承について学ぶ。また，地域資源を活用したまちづくりのあり方として，観光資源として取り上げることで，多様な地域資源の管理・継承方法について学ぶ。

到達目標:
・地域資源とは何かを理解する
・地域資源が置かれている現状を把握し，今後の管理・継承のあり方について検討する

授業方法:
講義とディスカッションにより進めていく。ディスカッションは各回で取り上げる資源についてテーマを定め，そのテーマについて関心のある事柄についてまとめてくる。その内容について発表してもらい，ディスカッションを行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域資源とは	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
2.	地域資源の種類とその管理主体	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
3.	地域資源（自然資源と生業）	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
4.	地域資源（土地資源）	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
5.	地域資源（郷土芸能）	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
6.	地域資源（地域由来の生活様式）	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
7.	地域資源（郷土食）	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
8.	地域資源（人材）	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
9.	都市農村交流とは	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
10.	ニュー・ツーリズム	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
11.	エコ・ミュージアム	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
12.	教育的ツーリズム	授業時に出題されたキーワードについて調べ，整理しておくことを求める
13.	地域資源と都市農村交流の検討①	学んだ内容について整理しておくことを求める
14.	地域資源と都市農村交流の検討②	学んだ内容について整理しておくことを求める
15.	地域資源の問題と今後の可能性について	学んだ内容について整理しておくことを求める

受講者へのメッセージやアドバイス:
生活の中にあって当然と感じているものについて，その活かし方，残し方について，受講者の積極的な意見を期待する。

フィードバックの方法:
個々の提出物については，コメントを付け，教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し，地域資源について理解しようと努めているかを評価する。
レポート	50	得た知識に対し，地域資源の現状，管理・継承について理解しているかを評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
オフィスアワー，Eメール，マナビー掲示板機能を利用

695660

くらしのデザイン発展演習A

奥田　　紫乃

授業テーマ:　居住環境を快適にするための視環境デザインの手法・技術を構築する

授業の概要:　受講生ごとにテーマを設定し、その目的を達成するためのパラメータの設定、刺激の適時方法などを検討し、調査/実験結果を分析・考察する

到達目標:　ある環境要因がヒトの生理・心理に与える影響について、客観的データを示しながら他者に説明できるようになる

授業方法:　講義、および受講生による発表・報告

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、テーマの設定	テーマの模索
2.	テーマに沿った文献の収集・内容報告（1）	文献・資料の収集・報告内容まとめ
3.	テーマに沿った文献の収集・内容報告（2）	文献・資料の収集・報告内容まとめ
4.	研究手法の提案・分析（1）	資料の収集、発表まとめ
5.	研究手法の提案・分析（2）	資料の収集、発表まとめ
6.	パラメータの設定（1）	資料の収集、発表まとめ
7.	パラメータの設定（2）	資料の収集、発表まとめ
8.	刺激の提示方法（1）	資料の収集、発表まとめ
9.	刺激の提示方法（2）	資料の収集、発表まとめ
10.	調査計画と報告（1）	調査の実施、報告内容まとめ
11.	調査計画と報告（2）	調査の実施、報告内容まとめ
12.	調査結果の分析・考察（1）	結果分析・考察、報告内容まとめ
13.	調査結果の分析・考察（2）	結果分析・考察、報告内容まとめ
14.	調査結果の分析・考察（3）	結果分析・考察、報告内容まとめ
15.	分析結果のプレゼンテーション	発表準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中およびE-mail等による

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60	授業における報告・発表内容、調査に取り組む姿勢など
調査課題	40	分析結果、およびプレゼンテーションの内容

教科書:

参考書:　設定テーマにより必要に応じて授業中に指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　E-mailによる

696060

こころのデザイン特殊演習A

村瀬　　学

授業テーマ:　児童文化における「仮想の生き物」の存在を考える。

授業の概要:　ギリシア神話から現代のファンタジーまでの、仮想の生き物、幻獣の変身・メタモルフォーゼの存在とデザインをかんがえる。

到達目標:　なぜ人類は「仮想の生き物」を作らなくては暮らすことができなかったのか、子どもたちはその「仮想の生き物」の物語をなぜ面白がるのか、その原理的な考察を深め、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法:　講義形式。映像もふんだんに使う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「仮想の生き物」「幻獣」についての概要の説明	授業の進め方のオリエンテーション
2.	幻獣の文化史（古代篇）①	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
3.	幻獣の文化史（古代篇）②	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
4.	幻獣の文化史（古代篇）③	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
5.	幻獣の文化史（古代篇）④	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
6.	幻獣の文化史（中世・近世篇）①	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
7.	幻獣の文化史（中世・近世篇）②	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
8.	幻獣の文化史（中世・近世篇）③	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
9.	幻獣の文化史（中世・近世篇）④	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
10.	幻獣の文化史（近代・現代篇）①	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
11.	幻獣の文化史（近代・現代篇）②	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
12.	幻獣の文化史（近代・現代篇）③	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
13.	幻獣の文化史（近代・現代篇）④	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
14.	幻獣の文化史（近代・現代篇）⑤	次回のテーマについて調べることをそのつど指示する。
15.	幻獣史の全体のまとめ	授業全体のまとめのレポートの説明をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　物語をたくさん読んでください。

フィードバックの方法:　定期的に小冊子をつくり、それまでの考察を掲載してゆく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の発表。	80	毎回の調べものはよくできて発表できているか。
出席・欠席	20	厳しく採点する。

教科書:　随時指示する

参考書:　随時指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールでのやりとりが基本

696160

こころのデザイン特殊演習B

宮本　　義信

授業テーマ:

授業の概要:

今日、福祉サービスの規制緩和（自己負担・自己責任原則）の流れのなかで、市民（利用者）サイドの福祉選択が問われる場面が確実に増えている。福祉サービスを利用者・家族だけで主体的に組み立て活用できる時代になった。本演習では、こうした現状をふまえ、生き方と選択の多様化という視点から、市民（利用者）と福祉の関係をめぐる課題を確認していく。そして、“福祉専門家まかせ”にしがちであった社会福祉を、再び一般の市民（利用者）の手に取り戻すことを目指したい。

到達目標:

社会福祉の専門知識を修得する。

授業方法:

教室における講義、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会福祉の基本的な考え方とあゆみ	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	社会福祉および福祉関連制度の利用の仕組み	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	社会福祉に働く人びと	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	社会福祉の援助の仕方	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	社会福祉の関連職種とボランティア	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	子ども虐待と援助	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	子どもの成長と地域における子育て支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	少年非行の法と臨床	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	家族と高齢者介護	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	高齢期のお金とくらしのデザイン	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	高齢者居住施設のこれから	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	障害をもつ人とのかかわり	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	障害乳幼児の療育と家族支援	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	これからの社会福祉	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	ふりかえりとまとめ、補足的な説明	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・発表	50	出席を含む授業への参加・態度および発表内容
レポート	50	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業前後に対応

696260

こころのデザイン特殊演習C

諸井　　克英

授業テーマ:　日常の暮らしので人々が発現する諸行動を社会心理学の視点から理解することを試みる。

授業の概要:　社会心理学とは，社会の中で人々が繰り広げる様々な行動を素材として，そのような行動を発現させるこころのメカニズムを明らかにする学問である。この演習では，社会心理学の基本的方法(実験，観察，面接・調査)を学習し，その上で恋愛や被服などの具体的な社会行動に関する研究の方法を具体的に習得する。つまり，「仮説の設定→検証方法の立案→実施→解析」という一連の研究過程を具体的に経験させ，種々の社会行動を支えるこころのメカニズム理解の方法を身につける。とりわけ，仮説の妥当性を客観的に査定するための有力な方法として種々の統計的検定を駆使できる力を育む。つまり，学問領域だけでなく実務・リサーチ系でも有力な統計ツールとして認知されている「SPSS」統計処理ソフトの活用能力を磨く。

到達目標:　社会行動解析のための基礎スキルの習得

授業方法:　講義と受講生による報告。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	社会心理学とは何か	本授業のシラバスの確認
2.	社会心理学の基本的方法(1)	前回授業の確認
3.	同上 (2)	前回授業の確認
4.	統計処理の基本－SPSS操作－ (1)	前回授業の確認
5.	統計処理の基本－SPSS操作－ (2)	前回授業の確認
6.	実験(観察)条件の設定－SPSSによる平均値比較－ (1)	前回授業の確認
7.	実験(観察)条件の設定－SPSSによる平均値比較－ (2)	前回授業の確認
8.	事象間の関連性の探索－SPSSによる相関分析－ (1)	前回授業の確認
9.	事象間の関連性の探索－SPSSによる相関分析－ (2)	前回授業の確認
10.	事象を喚起する原因の探索－SPSSによる重回帰分析－ (1)	前回授業の確認
11.	事象を喚起する原因の探索－SPSSによる重回帰分析－ (1)	前回授業の確認
12.	事象を喚起する原因の探索－SPSSによる重回帰分析－ (2)	前回授業の確認
13.	諸事象のまとまりの探索-SPSSによる因子分析- (1)	前回授業の確認
14.	諸事象のまとまりの探索-SPSSによる因子分析- (2)	前回授業の確認
15.	実データの処理実践	前回授業の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業と授業の間の1週間にこそ，自己進歩があることを忘れないに。

フィードバックの方法:　授業時やマナビーの利活用。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや課題整理も含む）	70	事前準備と授業時の熱心さ
課題	30	完成度

教科書:　授業時に指示する。

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー，日常の接触

696360

こころのデザイン特殊演習D

小﨑　　眞

授業テーマ:　生活の中のいのち理解

授業の概要:　演習ゆえに参加者の主体的な関与が期待されます。参加者による生命倫理学に関する多種多様なテキストに対する批評を通し、参加者自身の問題意識を開拓します。さらに、昨今の生命倫理学が直面している課題等への提言の構築を模索します。尚、第2回から第12回まではテキストに掲載された論考を中心に学びます。13回、14回は別途資料に基づき昨今の倫理的課題に関心を払いつつ、クラス内討議を深め、全体のまとめとします。

到達目標:
1. 多様化した生活空間の中で、自明の理とされてきた既存概念（生命観、人間観）に再検討をとおし、いのちに対する理解を深化します。
2. 生命倫理関連の基本文献を通し、「自己決定権」（self-determination）、「自律性原理」(autonomy)など、いのちに対する議論、概念の枠組みを学びます。
3.「所有」、「公共」、「他者」、「身体」をキーワードに、自律性原理のみでは立ち行かぬ課題へ対峙すべく思想構築への手がかりを探求します。

授業方法:　演習ゆえに参加者の主体的な関与が期待されます。参加者によるテキスト批評を通し、参加者自身の問題意識を開拓すると共に、昨今の課題等への提言を構築する努力を期待します。尚、第2回から第12回まではテキストに掲載された論考を中心に学びます。13回、14回は別途資料に基づき昨今の倫理的課題に関心を払いつつ、クラス内討議を深め、全体のまとめとします。
参加自身により、将来に向けた一提言を構築する事が求められます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　本演習の授業計画、授業目標、評価方法等の解説および発表予定を決定します。	シラバスにより、本演習の概要、目標、要求課題などに関する学びを深める。
2.	人格と生命(1)　「生命の尊厳と生命の質は両立可能か」	当該テーマ（尊厳）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
3.	人格と生命(2)　「医学における人格の概念」	当該テーマ（人格）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
4.	人格と生命(3)　「人格性の基準」	当該テーマ（パーソン論）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
5.	生命操作と倫理基準(1)「人工妊娠中絶の擁護」	当該テーマ（プロ・ライフ、プロ・チョイス）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
6.	生命操作と倫理基準(2)「嬰児は人格を持つか」	当該テーマ（QOL）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
7.	死と生命倫理(1)　「レイチャルスの安楽死論に応えて」	当該テーマ（安楽死）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
8.	死と生命倫理(2)　「倫理学と安楽死」	当該テーマ（自己決定）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。
9.	治療と実験を巡り(1)「医師と患者の『同意』の意味」	当該テーマ（同意）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。
10.	治療と実験を巡り(2)　動物の生存権	当該テーマ（動物の生存権）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
11.	死とは何か(1)　「死の定義-倫理学的・哲学的・政策的混乱-」	当該テーマ（死）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
12.	死とは何か(2)　「死の判定基準の法制的定義」	当該テーマ（死の判定）に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
13.	所有とは何か　「所有的個人主義」への問い	所有と近代社会に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
14.	他者を巡り　レヴィナスからの問いかけ	他者論に関する資料（レジュメ、小論）の関して、批判検討を加える。 コメント資料作成。
15.	将来的課題を巡り	演習全体をふりかえり、自身の論考の構成を検討する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
受講生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。
受講学生の主体的な学習が期待されます。受講学生自身によるテキスト批評などを通し、自身の問題意識を開拓すると共に、昨今の課題等へ積極的に関与する事が期待されます。

フィードバックの方法:
毎回の授業内で、講義の学びを深めるリアクションペーパーを作成します。
受講生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラス内でのテキスト批評	40	担当したテキスト批評における、読解力、批判力を基準にします。
クラス討議への参加および貢献	30	発表内容に基づく議論に関与し、討議を深めるために貢献（建設的議論）内容を基準にします。
演習レポート	30	文献資料及び一次資料等を収集し、本演習の到達目標に即したレポートを作成します。当該レポート作成に関する批判力、洞察力、思考力を基準とします。 詳細は最初のクラスにおいて説明する予定です。

教科書:
H.T.エンゲルハート、H..ヨナス他（加藤尚武、飯田亘之編）『バイオエシックスの基礎-欧米の「生命倫理」論』東海大学出版会　1988

参考書:
加藤尚武／加茂直樹編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社　1998.
坂本百大、青木清、山田卓生　編著『21世紀のグローバル・バイオエシックス生命倫理』北樹出版　2005.

	木村利人他編『バイオエシックスハンドブック-生命倫理を超えて-』法研　2003. 宮本久雄、金泰昌編『他者との出会い』東京大学出版会　2007. 大庭健、鷲田清一編『所有のエチカ』ナカニシヤ出版　2000.. 熊野純彦、吉澤夏子編『差異のエチカ』ナカニシヤ出版　2004.
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力。
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します（オフィスアワー、Eメールなど）。

696460

こころのデザイン発展演習A

村瀬　　学

授業テーマ:　「幻想の生き物」と「幻想の地理学」について知る。

授業の概要:　物語でしめされる「幻想の生き物」の多様性と、その生き物の住む「幻想の地理学」「幻想の衣食住」の多様性について知る。

到達目標:　「幻想の生き物」の住む大地、世界のデザインを知り、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法:　講義形式。映像もふんだんに観る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	幻想の地理学の説明。	授業の進め方のオリエンテーション
2.	自然科学の地理学から、物語の世界デザインへ　①	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
3.	自然科学の地理学から、物語の世界デザインへ　②	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
4.	自然科学の地理学から、物語の世界デザインへ　③	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
5.	自然科学の地理学から、物語の世界デザインへ　④	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
6.	アニメ・映画・小説の世界デザインへ　①	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
7.	アニメ・映画・小説の世界デザインへ　②	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
8.	アニメ・映画・小説の世界デザインへ　③	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
9.	アニメ・映画・小説の世界デザインへ　④	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
10.	アニメ・映画・小説の世界デザインへ　⑤	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
11.	アニメ・映画・小説の世界デザインへ　⑥	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
12.	アニメ・映画・小説の世界デザインへ　⑦	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
13.	アニメ・映画・小説の世界デザインへ　⑧	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
14.	アニメ・映画・小説の世界デザインへ　⑨	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
15.	物語の世界デザイン全体のまとめ。	物語の世界デザイン全体のまとめを冊子にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　物語をたくさん読んでください。

フィードバックの方法:　定期的に小冊子をつくり、それまでの考察を掲載してゆく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	80	毎回の調べものはよくできて発表できているか。
出席・欠席	20	厳しく採点する。

教科書:　そのつど指示する

参考書:　そのつど指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールのやりとりが基本

696560

こころのデザイン発展演習B

宮本　　義信

授業テーマ:

授業の概要:

社会福祉関係機関および各種社会福祉施設においては、多様な社会福祉援助活動が展開されている。本演習では、ソーシャルワークの個別援助技術と集団援助技術についての知見を発展させるために、より具体的な支援のあり方について、専門的な演習を行う。とりわけ、今日の福祉最前線で有効性が注目される"Family Centered Social Work Practice"を主テーマとして、家族ソーシャルワーク実践についての学びを深める。

到達目標:

家族ソーシャルワークの方法の修得

授業方法:

教室における講義、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	家族中心ソーシャルワークとは―家族実践におけるその有効性―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	ソーシャルワークと心理臨床―近似性の拡大―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	アメリカのヘルピング・プロフェッション	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	ソーシャルワーク専門職の成立と発展―歴史的な経緯と資格、養成教育―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	境界線上の新しい専門性の模索―重複免許をめぐって―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	マリッジ＆ファミリー・セラピスト	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	ヒューマンサービス・ワーカー―その役割とソーシャルワーカーとの関連性―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	ナーシングホーム―高齢者の暮らしを支える専門家たち―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	スクールソーシャルワーク―コネチカット州ハートフォード市の実践―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	コネチカット・チルドレンズ・プレイス―虐待を受けた子どもの治療教育―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	クリアリングハウスのヒューマンサービス―嗜癖とソーシャルワーカー―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	チャイルドライフ・スペシャリスト―病棟保育の考え方―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	クリニカル・ソーシャルワーカー―個人開業と社会福祉―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	日米の比較から―家族支援の新方向―	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	ふりかえりとまとめ、補足的な説明	教科書の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・発表	50	出席を含む授業への参加・態度および発表内容
レポート	50	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

宮本義信（著）『アメリカの対人援助専門職―ソーシャルワーカーと関連職種の日米比較―』ミネルヴァ書房、2009年

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業前後に対応

696660

こころのデザイン発展演習C

諸井　　克英

授業テーマ:　人の行動や意識の基底にある心理学的メカニズムを客観的に明らかにするために，具体的な研究デザインを構築する。

授業の概要:　受講生それぞれが興味ある事象（人の行動や意識に関わる事象）を同定し，それに関する先行研究を収集する。そのうえで，先行研それぞれの目的・方法・結果・研究成果を理解する。これらの作業に基づいて，焦点とする事象を限定し，その基底にある心理メカニズムを実証的に明らかにするための研究デザインを立案する。

到達目標:　社会心理学の枠組みに立脚した，人の行動や意識に関わる事象に関する基礎的研究デザインの立案。

授業方法:　講義と受講生による報告。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	興味ある事象（人の行動や意識に関わる事象）の同定 （1）	本授業のシラバスの確認
2.	興味ある事象（人の行動や意識に関わる事象）の同定 （2）	前回授業の確認
3.	関連先行研究の収集 （1）	前回授業の確認
4.	関連先行研究の収集 （2）	前回授業の確認
5.	関連先行研究の読解 （1）	前回授業の確認
6.	関連先行研究の読解 （2）	前回授業の確認
7.	関連先行研究の読解 （3）	前回授業の確認
8.	焦点とする事象の限定 （1）	前回授業の確認
9.	焦点とする事象の限定 （2）	前回授業の確認
10.	研究デザインの構築 (1)	前回授業の確認
11.	研究デザインの構築 (2)	前回授業の確認
12.	研究デザインの構築 (3)	前回授業の確認
13.	研究デザインの実践に向けて	前回授業の確認
14.	総括 (1)	前回授業の確認
15.	総括 (2)	前回授業の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業と授業の間の１週間にこそ，自己進歩があることを忘れないに。

フィードバックの方法:　授業時やマナビーの利活用。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや課題整理も含む）	70	事前準備と授業時の熱心さ
課題	30	完成度

教科書:　演習時に指示する。

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー，日常の接触

696860

服飾文化史学特論

平光　　睦子

授業テーマ:　服飾とジャポニスム

授業の概要:　19世紀の西欧ではジャポニスムといわれる日本趣味の流行が見られました。この潮流は表面的な流行にはとどまらず、日本の美術や工芸は西欧の視覚表現に少なからぬ影響を及ぼし、その影響はアール・ヌーヴォーやアール・デコといわれる国際的な装飾芸術運動へと繋がっていきます。本講座では、ジャポニスムにおいて日本の服飾や染織工芸が西欧に及ぼした影響をとおして、日本の服飾の特質をとらえることを目指します。また、現代のジャポニスムといわれる事例を取り上げ、現代日本の服づくりにおける課題を考えます。

到達目標:　①近代服飾史とその時代背景を理解する。
②日本と西欧の具体的な影響関係を読み取り説明することができる。
③現代の日本の服づくりについて、授業のテーマに沿った視点から考察することができる。

授業方法:　講義形式を基本に、一部演習を取り入れてすすめます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　ジャポニスムの時代	
2.	海を渡ったキモノ	配布プリントを通読
3.	テキスタイルにみる日本の影響	配布プリントを通読
4.	服飾にみる日本の影響①	配布プリントを通読
5.	服飾にみる日本の影響②	配布プリントを通読
6.	アール・ヌーヴォー	配布プリントを通読
7.	アール・デコ	配布プリントを通読
8.	事例研究①　ジャポニスムの実例	
9.	事例研究①　報告と意見交換	レポートを作成
10.	現代のジャポニスム①	配布プリントを通読
11.	現代のジャポニスム②	配布プリントを通読
12.	事例研究②　現代の実例	
13.	事例研究②　報告	レポートを作成
14.	事例研究②　意見交換および考察	
15.	補足とまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中にコメントし、評価を記して返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	30	授業へ積極的に参加し、到達目標①ができるかを基準とする。
レポート	70	到達目標②③について、レポートの完成度と報告や意見交換での積極的な姿勢を基準とする。

教科書:

参考書:　深井晃子 『ジャポニスムインファッション—海を渡ったキモノ』平凡社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　マナビーの掲示板機能

696960

衣生活デザイン特論

藤本　　純子

授業テーマ:

授業の概要:
快適な衣生活を実現させる要素はなにか。これには、動きやすさといった身体的側面、TPOへの適合や帰属集団の表出といった社会的側面、入手価格・管理経費・保管スペースといった経済的側面などが複合的に関連している。この講義では、そのような多様な側面を意識しながら、デザインと構成の視点から衣生活のあり方について考察し、議論を深める。

到達目標:
1.快適な衣生活のための多様な要素について理解する。
2.デザインと構成の視点から衣生活を捉える思考力を身につける。
3.提案力・議論力を養う。

授業方法:
講義および講義内容に関連するテーマの演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	衣服生産の流れ	
3.	被服デザインの要素	
4.	ライフスタイルと被服デザイン	ワードローブを調査する。
5.	イメージと被服デザイン	
6.	時代を表すファッション分析(1)1910年代	1910年代のファッション画像資料を収集する。
7.	時代を表すファッション分析(2)1920年代	1920年代のファッション画像資料を収集する。
8.	時代を表すファッション分析(3)1930-1950年代	1930-1950年代のファッション画像資料を収集する。
9.	時代を表すファッション分析(4)1960-1970年代	1960-1970年代のファッション画像資料を収集する。
10.	時代を表すファッション分析(5)現在	新聞・雑誌・カタログより写真資料を収集する。
11.	良いデザイン(1)事例研究	良いデザインの事例を探す。
12.	良いデザイン(2)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえ、レポートを作成する。
13.	悪いデザインと改良プラン(1)事例研究	悪いデザインの事例を探す。
14.	悪いデザインと改良プラン(1)プレゼンテーションとディスカッション	プレゼンテーションの準備を行う。 ディスカッションの内容を踏まえ、レポートを作成する。
15.	これからの衣生活デザイン	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
添削して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物	50	到達目標1, 2,の理解度、習得度により評価する。
発表とディスカッション	30	到達目標3の習得度により評価する。
参加度	20	授業への取り組みの積極性、態度・意欲を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能, Eメール

697060

食と栄養学特論

森　　紀之

授業テーマ:　食・栄養と健康

授業の概要:　「くらしのデザイン」をする際に重要な健康について、食を通じた栄養の役割から学ぶ。まず、各栄養素が健康の維持・増進、疾病の予防のために果たす役割、生理機能について学び、それぞれのライフステージにおいて、何をどのような割合で摂取するのが望ましいのか考える。各回の授業では現代の食生活におけるトピックスを取り上げ、食・栄養と健康の関係の重要性と将来の「生活デザイン」構築において「食・栄養と健康」の問題どう組み込めるかを考える。

到達目標:
1.各栄養素が健康の維持・増進、疾病の予防のために果たす役割、生理機能について理解できる。
2.ライフステージにおいて、何をどのような割合で摂取するのが望ましい理解できる。
3.食・栄養と健康の関係の重要性に気づき、将来の「生活デザイン」構築において「食・栄養と健康」 の問題を組み込みことができるようになる。

授業方法:　配布プリント教材などに従って進める講義と受講者の発表を含む演習形式を混合して行う。授業計画の詳細は、受講者数、受講者の専門分野やこれまでの学習背景を考慮して、立てる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業計画、健康と栄養の現状	特になし。
2.	身体活動と栄養－エネルギー摂取基準を中心に－	前回までの復習。
3.	糖質の栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。
4.	たんぱく質の栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。
5.	脂質の栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。
6.	ビタミンの栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。
7.	ミネラルの栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。
8.	ライフステージ前半の栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。
9.	ライフステージ後半の栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。
10.	食行動に関わる栄養と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。
11.	機能性成分と健康	前回までの復習。 演習発表の準備。
12.	生活習慣病と栄養 その1	前回までの復習。 演習発表の準備。
13.	生活習慣病と栄養 その2	前回までの復習。 演習発表の準備。
14.	食品表示・栄養成分表示	前回までの復習。 演習発表の準備。
15.	まとめ・「生活デザイン」構築と「食・栄養・健康」の関係	前回までの復習。 演習発表の準備。

受講者へのメッセージやアドバイス:　成書の講読をもとに学ぶが知識の積み重ねで理解が深まるので復習は効果的です。また, 各項目にいて各自の発表を含む演習を行うのでその準備が必要になります。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50%	到達目標1,2に関する調査結果のまとまりと仕上がり度合を評価する。
発表、討論	50%	準備学習の度合、発表技能・態度、到達目標3を踏まえて討論しているかを評価する。

教科書:　使用する場合は授業中に示す。

参考書:　国立健康・栄養研究所 監修:『健康・栄養食品アドバイザリースタッフ・テキストブック』、第一出版
厚生労働省「日本人の食事摂取基準2015年版」策定検討委員会報告書:『日本人の食事摂取基準（2015年版）』、第一出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワーならびに授業前後に教室内で対応

697160

環境学特論

齋藤　　朱未

授業テーマ:

授業の概要:
環境問題に対し，さまざまな立場の人がさまざまな内容を広く社会に述べている。そのような中で，自身の考えに近い人はいるだろうか？立場が違うことで考え方が違っているかもしれない。それにより考えが違うひとを排除するのではなく，お互いの置かれている状況を踏まえ，今後の環境のあり方について考えることが必要なのではないか？そのための基礎として，多様な考えや活動について学ぶ。

到達目標:
環境問題の多様さを理解し，その知識を深める

授業方法:
講義とディスカッションにより進めていく。ディスカッションは各回で取り上げるテーマについて関心のある事柄についてまとめ，その内容について発表し，ディスカッションを行なう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	学んだ内容を自身の中で整理しておくことを求める。
2.	環境問題の現状①	課題文献を読了し，自身の中で整理しておくことを求める。
3.	環境問題の現状②	授業内で出たキーワードについて調べ，レジュメとして整理することを求める。
4.	リスクから考える①	課題文献を読了し，自身の中で整理しておくことを求める。
5.	リスクから考える②	授業内で出たキーワードについて調べ，レジュメとして整理することを求める。
6.	失われた環境①	課題文献を読了し，自身の中で整理しておくことを求める。
7.	失われた環境②	授業内で出たキーワードについて調べ，レジュメとして整理することを求める。
8.	環境を守る①	課題文献を読了し，自身の中で整理しておくことを求める。
9.	環境を守る②	授業内で出たキーワードについて調べ，レジュメとして整理することを求める。
10.	当事者性から考える①	課題文献を読了し，自身の中で整理しておくことを求める。
11.	当事者性から考える②	授業内で出たキーワードについて調べ，レジュメとして整理することを求める。
12.	公正と正義①	課題文献を読了し，自身の中で整理しておくことを求める。
13.	公正と正義②	課題文献を読了し，自身の中で整理しておくことを求める。
14.	公正と正義③	授業内で出たキーワードについて調べ，レジュメとして整理することを求める。
15.	学習内容の整理と今後の環境との関わり	これまでの学習内容について整理しておくことを求める。

受講者へのメッセージやアドバイス:
生活していくなかで環境に対し思うことは人ぞれぞれであることを意識し，受講することを望む。

フィードバックの方法:
個々の提出物については，コメントを付け，教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し，その内容について理解し，知識を深めようと努めているかを評価する。
レポート	50	環境問題の多様さを理解しているかを評価する。

教科書:
西城戸誠・舩戸修一編者「環境と社会」人文書院

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力

教員との連絡方法:
オフィスアワー，Eメール，マナビー掲示板機能を利用

697360

居住環境デザイン特論

奥田　　紫乃

授業テーマ:　居住環境の評価法

授業の概要:　知覚による居住環境の評価法について学ぶ

到達目標:　光の物理量から視覚心理・生理反応を予測する手法を概説し、それらの手法を活用した環境の解析・制御手法を理解する

授業方法:　内容に応じて、スライドによる講義、演習、演習発表を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	光環境の測定(1)測定機器使用方法	測光機器の使用方法について理解する
2.	光環境の測定(2)測光量について	測光量（照度・輝度）と明るさの関係について具体的に考察する
3.	光環境の測定(3)昼光率の測定	測定結果に基づき、窓の性能について考察する
4.	光環境の測定(4)　分光放射輝度の測定	物体表面の色の見えについて理解する
5.	感覚量測定の基礎	感覚量の取り扱い（対数値）について予習・復習する
6.	明視性の評価(1)　視認能力の測定法	視認能力の測定について理解する
7.	明視性の評価(2)　等視力曲線、等読みやすさ曲面	チャートの読み取り方を理解する
8.	明視性の評価(3)　モデリング評価・シルエット現象	生活の中のモデリング・シルエット現象について考察する
9.	明視性の評価(3)　色の見えの評価法	各種演色評価のための指標について理解する
10.	印象の測定	段階尺度法、ME法について理解する
11.	評価構造の測定	SD法、評価グリッド法について理解する
12.	視環境の評価	物理量と視認能力・主観評価との関係について理解する
13.	設備の性能評価	照明設備に関する測定・性能評価について情報収集する
14.	住宅性能の評価	住宅性能表示制度
15.	環境評価に関するまとめ	これまでの学びをレポートにまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中のディスカッションを通してフィードバックする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	授業中に積極的に発言し、理解を深めたかどうか
演習課題	40	測定結果の記録、分析・考察など
レポート	40	レポートの客観性、論理性など

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　e-mailによる

697460

児童文化特論

村瀬　　学

授業テーマ:　児童文化の担い手の作家を考える。

授業の概要:　児童文化の担い手の作家、４人（グリム・アンデルセン・宮沢賢治・宮崎駿）を中心に考える。

到達目標:　作家の個性が切り開いた。児童文化の世界デザインの豊かさを知り、理解力と知的な関心を広げ、探究意欲を深める。

授業方法:　講義形式。映像もふんだんに観る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	４人（グリム・アンデルセン・宮沢賢治・宮崎駿）の概要の説明	授業の進め方のオリエンテーション
2.	グリムの世界①	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
3.	グリムの世界②	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
4.	グリムの世界③	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
5.	アンデルセンの世界①	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
6.	アンデルセンの世界②	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
7.	アンデルセンの世界③	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
8.	宮沢賢治の世界①	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
9.	宮沢賢治の世界②	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
10.	宮沢賢治の世界③	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
11.	宮崎駿の世界①	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
12.	宮崎駿の世界②	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
13.	宮崎駿の世界③	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
14.	その他の作家達	次回のテーマについて調べることを、そのつど指示する。
15.	作家の個性が切り開く世界のまとめ	物語の世界デザイン全体のまとめを冊子にする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　物語をたくさん読んでください。

フィードバックの方法:　定期的に小冊子をつくり、それまでの考察を掲載してゆく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	80	毎回の調べものはよくできて発表できているか。
出席・欠席	20	厳しく採点する。

教科書:　そのつど指示する。

参考書:　そのつど指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　メールでのやりとりが基本

697560

地域子育て支援施策特論

宮本　　義信

授業テーマ:

授業の概要:

現代の家族をめぐって、個人が多様な生活スタイルを選択する可能性や、家庭生活の新しい多面的なあり方がクローズアップされている。本講義では、まず、子どもにとっての今日的な家族状況をふまえ、そこに起こり生じている現象やその意味について、“子ども、家庭・地域、福祉の三点観測”を実施する。そして次に、子どもの健全育成、自立支援、権利擁護などの個別の施策を統合した地域子育て支援策に必須のアセスメント法の構築を試みる。

到達目標:

家族支援のためのアセスメント法の修得

授業方法:

教室における講義、レポート発表、エクササイズ、ケーススタディ、グループ討議。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	家族援助とアセスメント—その基礎理解—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
2.	アセスメントが求められる社会的背景と発展	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
3.	子ども家庭ソーシャルアセスメントのプロセス	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
4.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの機能と専門職の役割	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
5.	子ども家庭ソーシャルアセスメントに必要な知識・技術（1）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
6.	子ども家庭ソーシャルアセスメントに必要な知識・技術（2）	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
7.	子ども家庭ソーシャルアセスメント実践の場	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
8.	地域子育て支援策とアセスメント	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
9.	子ども家庭福祉・福祉関連法とアセスメント	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
10.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの実際—子ども虐待と危機介入—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
11.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの実際—保育所における家族援助—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
12.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの実際—児童館と子どもの居場所づくり—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
13.	子ども家庭ソーシャルアセスメントの実際—地域における子育てニーズの発見—	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
14.	子ども、家庭・地域、福祉の三点観測	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。
15.	ふりかえりとまとめ、補足的な説明	適宜、資料の範囲を示すので、まとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

個々の提出物については、コメントを付け返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・発表	50	出席を含む授業への参加・態度および発表内容
レポート	50	ルーブリックを用いた達成度評価

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

授業前後に対応

697660

学校デザイン特論

小野田　正利

授業テーマ:
いま、学校と保護者そして近隣住民との難しい関係を読み解く～「イチャモン学」への誘い

授業の概要:
いま、学校現場で喫緊の課題となっている、学校と保護者のトラブル、学校と近隣住民とのトラブルを、教育学・心理学・法律学・社会学などの多面的な角度から分析する。

到達目標:
学校と保護者あるいは地域住民との間のトラプルや紛争は、いじめ・非行・不登校と並んで、教育問題にラインナップされるところまできたように思います。私は、かなり早い段階からこういった現象をてがけ、問題の構造がどこにあ　るかだけでなく、具体的な改善方策についても提言を重ねてきました。教育学という領域だけではなく、心理学、福祉　学、法律学、そして弁護士、精神科医・スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、 クレーム対応の専門家といった実務家も交えて「新・学校保護者関係研究会」を主宰して、全国各地からの要請に応えて、講演やシンポジウ ム、ワークショップをおこなってきました。
いま、学校現場に様々な要求が持ち込まれることによって、時として教師が疲労困憶し、子どもの教育に支障をきた すことが増えています。それは学校に限らず、医療や福祉でも同様です。　この背景にあるものは何か、改善の手だてはどこにあるのか。様々な録画ビデオや資料を駆使しながら、具体的に問題提起をします。そして受講者の皆さんと一緒 に、ワークショップも取り入れながら、これらの理解を深めたいと考えます。

授業方法:
講義形式の授業、対話形式の授業と、そしてワークショップ形式の授業を組み合わせたものにします。必要に応じてグループをつくり、作業もおこないます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに～イチャモン研究の動機と研究方法	
2.	いま、学校で何が起きているのか?（ＤＶＤ 視聴含む）	
3.	イラだちやすい社会、言ったもん勝ち・言わな損の社会（ＤＶＤ視聴含む）	
4.	満足基準、期待水準の急上昇の中で（ＤＶＤ 視聴含む）	
5.	人相手の他の労働との比較（医療と福祉）	
6.	教職員向けの小野田講演（第1 部）	
7.	教職員向けの小野田請演（第2　部）	
8.	ワークショップ（エコロジカル・マップで問題解決の糸口を探す）	
9.	ワークショップ（ロールプレイイングで対応力を学ぶ）	
10.	子どもの声は騒音か？ 学校近隣トラブルを考える（1）	
11.	隣人住民の平穏という人格権との調整 学校近隣トラプルを考える（２）	
12.	解決が困難なケースを考える	
13.	教師の自殺ケースから考える（ＤＶＤ 視聴含む）	
14.	敵と見なさない（ＤＶＤ 視聴含む）	
15.	普通の教師が普通に生きられる社会と学校を	

受講者へのメッセージやアドバイス:
３０時間（集中）の講義全体を通して、「教師と保護者のいい関係づくり～学校への無理難題要求（イチャモン）急増のウラにあるもの」を、様々な角度から考えていきます。喫緊の課題となっている学校をめぐる、時として難しい問題の背景をともに考え、解決の方向性について議論したいと思います。
前半は、私自身が書いてきた多くの論考をもとにしながら、同時にテレビ番組等のＤＶＤをいくつも見せながら、この現象について考察を深めます。また私がどのように講演をおこなっているかについて、演じます。このところ「教育界の綾小路きみまろ」というような紹介もされています。
中盤は、人数次第ですが、ワークショップをおこないます。アイスブレーキングからはじまり、問題構造の見立てる　力の育成（エコマップづくり）、相手の思いを推し量る力の育成（ロールプレイング）で構成します。
終盤は、学校や教職員が身構えずに、保護者や地域住民と向き合うにはどうしたらよいか、保護者などもどのように して学校への要求を伝えていくことが必要なのかについて、受講者のみなさんと一緒に知恵を絞りましょう。

フィードバックの方法:
レポート提出後に、コメントを伝える。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30%	毎回、出席しているか
ワークショップ	30%	取り組み状況
レポート	40%	複数回、提出してもらうレポート

教科書:
小野田正利著『普通の教師が普通に生きる学校～モンスターペアレント論を超えて』（時事通信社、２０１３年、1,470 円）

参考書:
小野田正利著『悲鳴をあげる学校』（旬報社、２００６年、１４７０円）
小野田正利著『親はモンスターじゃない！』（学事出版、２００８年、１４７０円）
小野田正利著『イチャモンどんとこい！』（学事出版、２００９年、１４７０円）
小野田正利著『ストップ！ 自子チュー』（旬報社、２０１０年、１２６０円）
小野田正利編著『イチャモン研究会～学校と保護者のいい関係づくりへ』（ミネルヴァ書房、２００９年、１４７０円）
小野田正利著『それでも親はモンスターじゃない』（学事出版、２０１５年、１４７０年）
小野田正利著『先生の叫び 学校の悲鳴』（エイデル研究所、２０１５年、１６２０円）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:
onoda@hus.osaka-u.ac.jp

697760

家族社会心理学特論

諸井　　克英

授業テーマ:　社会心理学の枠組みにそって，わが国の家族変容の基底にある心理学的メカニズムの理解をする。

授業の概要:　青少年の事件が起きるたびに，「家族の変容」という言説が流布される。「家族とは何なのか」曖昧なまま，「家族の大切さ」という感情的言説を機軸にした「家族価値への回帰」が唱導されるのである。本講義では，第二次大戦後の我が国の家族像の変遷を辿りながら，「家族とは何なのか」を探求する。つまり，(1)対人関係に関する普遍的システム，(2)時代条件の変容の関数として創出・衰退するシステムという観点から，社会心理学や家族心理学で得られている諸知見を整理しながら，「家族」を論じる。

到達目標:　社会心理学の枠組みに立脚した，家族関係を理解・分析する力。

授業方法:　講義と受講生による報告。本学の応答システム「manaba」を使用し(PC，スマホで可能)，授業に関する告知や授業理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	家族心理学の課題	本授業のシラバスの確認
2.	家族関係の定義とその変容	前回授業の確認
3.	夫婦関係の現状	前回授業の確認
4.	結婚関連指標の現状	前回授業の確認
5.	結婚価値の変貌	前回授業の確認
6.	夫婦関係の社会心理学的特徴	前回授業の確認
7.	夫婦関係を支える心理学的メカニズム	前回授業の確認
8.	恋愛の罠	前回授業の確認
9.	夫婦関係の段階的進展	前回授業の確認
10.	夫婦関係の危機への対処	前回授業の確認
11.	理想とする「夫婦」像の変遷	前回授業の確認
12.	多様な夫婦像の創出	前回授業の確認
13.	シングルは幸せか	前回授業の確認
14.	夫婦関係の未来	前回授業の確認
15.	総括	前回授業の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業と授業の間の１週間にこそ，自己進歩があることを忘れないに。

フィードバックの方法:　授業時やマナビーの利活用。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況（note takingや課題整理も含む）	70	事前準備と授業時の熱心さ
課題	30	完成度

教科書:　諸井克英著『夫婦関係学への誘い』(ナカニシヤ出版)

参考書:　適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、時代を駆け抜ける力

教員との連絡方法:　マナビー，日常の接触

697860

生涯発達心理学特論

立木　　康介

授業テーマ:　精神分析から学ぶライフ・ステージの課題

授業の概要:　下記の内容に即して、精神分析の基礎理論を学ぶとともに、各ライフ・ステージにて人間存在に課される心的な課題と、それについて思考し、対処する際の方向性を探る。

到達目標:　精神分析的な思考にもとづいて「人生」や人間関係の諸相を捉えることができるようになること。

授業方法:　講義形式。配布物に即して、とりわけ第4回以降は配布物に受講生が目を通していることを前提に、進める。受講生に意見を求めることもあるが、多くの場合「正解」ではなく、各人の考えを聞きたいので、率直に答えること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	精神分析理論の概説 その1 フロイト理論の枠組	特になし。講義の内容に集中すること。
2.	精神分析理論の概説 その2 対象関係論（クラインとビオン）	特になし。講義の内容に集中すること。
3.	精神分析理論の概説 その3 ラカン	特になし。講義の内容に集中すること。
4.	幼少年期の症例から学ぶ（1）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
5.	幼少年期の症例から学ぶ（2）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
6.	幼少年期の症例から学ぶ（3）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
7.	青年期の症例から学ぶ（1）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
8.	青年期の症例から学ぶ（2）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
9.	青年期の症例から学ぶ（3）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
10.	中年期の症例から学ぶ（1）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
11.	中年期の症例から学ぶ（2）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
12.	中年期の症例から学ぶ（3）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
13.	老年期の症例から学ぶ（1）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
14.	老年期の症例から学ぶ（2）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。
15.	老年期の症例から学ぶ（3）	事前に配布される資料に目を通してから授業に臨むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各配布物には授業の前に目を通しておくこと。とくに第4回以降に扱う事例については必須。

フィードバックの方法:　必要に応じて授業中に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学期末のレポート	70	授業内容の理解の度合
平常点	30	授業への取り組み

教科書:

参考書:　立木康介編『精神分析の名著』中公新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

697960

生活と倫理特論

小﨑　　眞

授業テーマ:　生活に根ざしたいのちの倫理探求

授業の概要:　多様化した生活状況の中で、既存概念では計りしえない課題（受精卵売買、臓器売買、家族内殺傷事件等）が生じています。それらに対峙すべく倫理・思想（人間の関係性・人間観）を探求します。倫理探究の極みは超越的なるものとの関与を否定し得ません。即ち、「宗教」という視座の意義に注目すべきであります。本講義では、具体的歴史・文化・生活の中で育まれてきたユダヤ・キリスト教の知恵と文化に対する批判検討を通し、生活に根ざした倫理・思想の考察を深める予定です。

到達目標:
1. 生命倫理学の基礎概念（善行、自己決定、公正、無害）を意義と課題を考察します。
2. QOLやSPLの背景としてのキリスト教文化に関して学びを深めます。
3. 「正義と平等」「自己と他者」「親密圏と公共圏」をキーワードとし、生活に根ざした倫理・思想の考察を深めます。

授業方法:　主に講義形式で行うが、参加者による討論、映像資料等の提示も予定しています。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　本講義の授業計画、授業目標、評価方法等の解説および本講義の問題提起。	シラバスを通し、講義内容、到達目標、評価基準などの理解を深める。
2.	生命倫理とは何か 「医の倫理」から「バイオエシックス」そして「生命倫理」。 「生命倫理」の歴史的、文化的文脈に注目し、生命倫理の成立・発展過程を探究する共に、昨今の課題に焦点を当てる。	配布プリントや参考文献により、医の倫理、バイオエシックスの歴史的背景に関する先行研究を深め、整理する。
3.	生命倫理の基礎（1）　4つの原則（「自己決定」、「善行」、「公正」、「無害」）を巡り生命倫理の基礎理論の概略に触れつつ、多元主義時代の倫理学の可能性を探究する。	配布プリントや参考文献により、生命倫理の基礎的学びを深める。 とくに、4つの原則の内実を整理する。
4.	生命倫理の基礎（2）　ケアの倫理とパーソン論の内実を探究する。さらに、新たに期待されている「ライフエシックス」としての方向性を提示する。	配布プリントや参考文献により、パーソン論に関する学びを深め、整理する。
5.	出生を巡る生命倫理（1）　人工妊娠中絶に内在する課題を探究にする。	配布プリントや参考文献により、人工妊娠中絶の実情などを整理する。
6.	出生を巡る生命倫理（2）　人工授精、体外受精に内在する課題を探究する。	配布プリントや参考文献により、体外受精の実情などを整理する。
7.	出生を巡る生命倫理（3）　生殖技術の背後にある課題を巡り、特に権利と人権の視座から検討を加える。	配布プリントや参考文献により、プロ・ライフ、プロ・チョイスに関して整理する。
8.	死を巡る生命倫理　脳死、安楽死、尊厳死という現象に内在する課題を探究する。	配布プリントや参考文献により、脳死、安楽死などの実情などを整理する。
9.	臓器移植と生命倫理　臓器移植に内在する課題を探究する。特に、本人の自己決定と家族の同意を巡る課題に焦点を当てる。	配布プリントや参考文献により、臓器移植の実情などを整理する。
10.	死生の文化と生命倫理（1）生命の質（QOL）、生命の尊厳（SOL）を巡り、その内実を探究する。	配布プリントや参考文献により、QOL、SOLに関して学びを深め、整理する。
11.	死生の文化と生命倫理（2）いのちの語り（呻き、ためらい、痛み）への向き合い−旧約聖書の語り−	配布プリントや参考文献により、死生の文化に関する学びを深め、整理する。
12.	死生の文化と生命倫理（3）いのちの語り（呻き、ためらい、痛み）への向き合い−新約聖書の語り−	配布プリントや参考文献により、死生の文化に関する学びを深め、整理する。
13.	生命倫理の将来展望（1）　他者、公共の視座から	配布プリントや参考文献により、他者論に関する学びを深め、整理する。
14.	生命倫理の将来展望（2）　スピリチュアリティーの視座から	配布プリントや参考文献により、スピリチュアルケアに関する学びを深め、整理する。
15.	生命倫理の将来展望（3）　新しき視座を求めて	配布プリントや参考文献により、講義全体の学びを振り返り、整理する。学期末レポート向けた構成を考え、まとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:
受講学生数、受講学生の関心や理解度に応じて、開講後に授業計画を受講生に対して説明した上で変更することがあります。
あらかじめ配布された資料（小論など）に関してレヴューすることが期待されます。

フィードバックの方法:
講義で扱ったテーマに関して、受講生による議論や他の方々との議論等を通し、自分自身の思索を深めることが期待されます。
毎回の授業内で、講義の学びを深めるリアクションペーパーを作成します。
受講生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
リアクションペーパー	50	毎回の講義後、講義内容に関する意見等（200字程度）を求めます。講義内容への理解度及び受講者の思考力を基準にします。
学期末レポート	50	参考文献、講義中の紹介文献等の中から、関心のある論考3点を選び、テキスト批評を行い、講義内容にとの対話を通したレポート作成します。的確なテーマを設定し、到達目標への取り組み状況及び自身の課題としての論理構成力により評価します。 詳細は最初のクラスにおいて説明する予定です。

教科書:　特に指定しない。講義ごとにレジュメ等を配布する予定です。

参考書:
加藤尚武／加茂直樹編『生命倫理学を学ぶ人のために』世界思想社　1998.
木村利人他編『バイオエシックスハンドブック-生命倫理を超えて-』法研　2003.
山根純佳『産む産まないは女の権利か　フェミニズムとリベラリズム』勁草書房　2004.
江原由美子『自己決定権とジェンダー』岩波書店　2002.
小松美彦『自己決定権は幻想である』洋泉社　2004.
宮本久雄、金泰昌編『他者との出会い』東京大学出版会　2007.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力。
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します（オフィスアワー、Eメールなど）。

698060

こころのデザイン発展演習D

小﨑　　眞

授業テーマ:　生活といのちの文化

授業の概要:　近現代社会において、人間の生死の問題は心身二元論的視座から処理される傾向が強かったようです。しかし、昨今、いわゆる西洋の文化を背景とした「近代的な学知」の偏狭さへ疑義が生じてきています。医学等の専門的な学知の間の壁を越え、新たな知の構築への挑戦が期待されています。そこで、既存の生命観を再考し、多様化した生活空間の只中で、宗教文化との対話などを通し、新たな「いのちの文化」（価値観）のデザイン構築を実践します。

到達目標:
1. 近現代社会の思想潮流を整理し、理解します。
2. とくに、西洋文化的視座（二元論的思考）の可能性と課題を探究します。
3. 宗教文化を始め、生命に関する多様な価値観との出会いを通し、いのちの文化のデザインを構築します。

授業方法:　演習形式、状況によっては講義をおこなう。能動的学習を目指してディベートなども取り入れます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　本演習の授業計画、授業目標、評価方法等の解説および発表予定を決定します。	シラバスにより、本演習の概要、到達目標、要求課題などを整理する。
2.	近現代社会の思想潮流１　自律概念と自己決定	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、自立概念に関する論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。 コメント資料作成。
3.	近現代社会の思想潮流２　正義とは何か	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、正義に関する論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。 コメント資料作成。
4.	近現代社会の思想潮流３　功利主義の意義と課題	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、功利主義に関する論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。 コメント資料作成。
5.	いのちの思想１　バイオエシックスとは	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、指定の論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。 コメント資料作成。
6.	いのちの思想２　自己決定権を巡り	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、自己決定権の是非に関する論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。コメント資料作成。
7.	いのちの思想３　死生学、生命学等との対話	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、指定の論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。 コメント資料作成。
8.	宗教文化といのち１　旧約（ヘブライ）聖書といのち	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、指定の論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。
9.	宗教文化といのち２　新約聖書といのち	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、指定の論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。コメント資料作成。
10.	宗教文化といのち３　キリスト教思想の意義と課題	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。キリスト教思想に関する論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。 コメント資料作成。
11.	ポストモダン社会におけるいのち１　多文化社会といのちの文化	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、多文化社会に関する論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。 コメント資料作成。
12.	ポストモダン社会におけるいのち２　身体論といのち	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、身体論に関する論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。 コメント資料作成。
13.	ポストモダン社会におけるいのち３　他者論といのち	配布資料や参考文献を用いて、先行研究の学びを深める。とくに、指定の論稿のブックレヴューを行い、議論を整理する。 コメント資料作成。
14.	将来へ向けて	演習全体も学びを通し、自身の研究との関わりを深める。 コメント資料作成。
15.	全体のまとめ	演習レポート作成のために論理構成を考え、まとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　発表のための事前準備、事後報告が必要です。先行研究批判のための種々の準備（資料収集、資料分析など）が必要です。

フィードバックの方法:　毎回の授業内で、講義の学びを深めるリアクションペーパーを作成します。
受講生からのコメントは教室内でまとめて解説するなど、可能な限り、共有します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クラスにおけるテキスト批評	30	担当したテキスト批評における、読解力、批判力を基準にします。
クラス討議への参加および貢献	30	発表内容に基づく議論に関与し、討議を深めるために貢献（建設的議論）内容を基準にします。
演習レポートの作成	40	文献資料及び一次資料等を収集し、本演習の到達目標に即したレポートを作成します。当該レポート作成に関する批判力、洞察力、思考力を基準とします。詳細は最初のクラスにおいて説明する予定です。

教科書:　教室にて指示します。

参考書:	詳細は最初のクラスにおいて参考文献表を提示します。
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力。
教員との連絡方法:	授業前後の対応を基本としますが、詳細については、最初の講義で各担当教員が説明します（オフィスアワー、Eメールなど）。

698160

都市空間特論

麻生　　美希

授業テーマ:　近代都市計画の課題

授業の概要:
・近代都市計画が果たした役割について学びます。
・近代都市計画が現代において抱える課題について、テーマごとに詳しく学びます。
・文献購読を通じて、最新の都市計画の課題について学びます。

到達目標:　これからの都市計画やまちづくりのあり方について、自分の頭で考えられるようになることが目標です。

授業方法:　レジュメ、スライドによる講義を基本とし、一部、文献講読やディスカッションを含みます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	近代都市計画の役割と現代(1)	近代都市計画の基礎について、復習しておきましょう。
2.	近代都市計画の役割と現代(2)	近代都市計画の基礎について、復習しておきましょう。
3.	縮退時代の都市計画(1)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
4.	縮退時代の都市計画(2)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
5.	地方分権・地域主権へ(1)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
6.	地方分権・地域主権へ(2)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
7.	ツーリズムと都市・地域(1)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
8.	ツーリズムと都市・地域(2)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
9.	官民パートナーシップによるまちづくり(1)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
10.	官民パートナーシップによるまちづくり(2)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
11.	文化としての都市(1)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
12.	文化としての都市(2)	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。
13.	課題文献の講読(1)	事前に担当する文献を読み、内容をレジュメ等でわかりやすくまとめておく必要があります。
14.	課題文献の講読(2)	事前に担当する文献を読み、内容をレジュメ等でわかりやすくまとめておく必要があります。
15.	これからの都市計画	前回までの授業の内容を復習をしておきましょう。また、事前に資料を配布した場合には、目を通しておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　わからなかったこと、疑問点を書くことができるミニレポートを提出してもらいます。必要に応じて次回の授業にてコメント・説明を行います。また、授業中のディスカッションを通じてフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	30	積極的な授業への参加を評価します。
文献講読・ディスカッション	30	自分が担当した文献を丁寧にまとめられているか、また他者の発表に対して質問や意見をすることができるかを評価します。
レポート	40	レポート執筆のマナー・論理性・独創性を評価します。

教科書:

参考書:
蓑原敬編著 『都市計画　根底から見なおし新たな挑戦へ』 学芸出版社
蓑原敬・饗庭伸・姥浦道生・中島直人・野澤千絵・日埜直彦・藤村龍至・村上暁信 『白熱講義　これからの日本に都市計画は必要ですか』 学芸出版社
橋爪紳也 『ツーリズムの都市デザイン』 鹿島出版会
飯田泰之・木下斉・川崎一泰・入山章栄・林直樹・熊谷俊人 『地域再生の失敗学』 光文社新書
『季刊まちづくり　26号(特集　地域づくりの視点から都市計画制度に提案する)』 学芸出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　マナビーもしくはemail

699160

生体物質作用論

仲佐　　輝子

授業テーマ:　酸化ストレスと疾患の関係、その防御システムについて理解する。

授業の概要:　生体内で発生する活性酸素種が生体成分を攻撃して酸化変性を誘発し、これが組織障害を引き起こして様々な疾患の発症に繋がっている。また、我々の生体には極めて巧妙な防御システムが構築させており、恒常性が維持されているが、防御システムは生活習慣や加齢により弱まるので、これを高めることが、疾病予防の重要な課題である。ここでは、これらについて考え、理解を深める。

到達目標:
①関連する文献を講読し、酸化ストレスと疾患の関係について理解できる。
②関連する文献を講読し、酸化ストレスに対する防御について理解できる。
③抗酸化作用の測定では、実験計画を立てて実施し、データのまとめができる。

授業方法:　配布資料を用いた講義と演習および実験を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業計画）	
2.	活性酸素と酸化ストレス	配布資料を熟読する。
3.	活性酸素の生成機構（1）ミトコンドリア電子伝達系	配布資料を熟読する。
4.	活性酸素の生成機構（2）キサンチンオキシダーゼ	配布資料を熟読する。
5.	抗酸化システム	配布資料を熟読する。
6.	疾患と酸化ストレス（糖尿病）	配布資料を熟読する。
7.	疾患と酸化ストレス（高血圧）	配布資料を熟読する。
8.	疾患と酸化ストレス（動脈硬化）	配布資料を熟読する。
9.	植物性食品と抗酸化作用（1）	配布資料を熟読する。
10.	植物性食品と抗酸化作用（2）	配布資料を熟読する。
11.	酸化ストレスマーカーの測定（バイオマーカー測定法）	文献を読み実験計画を立てる。
12.	活性酸素消去系酵素の測定（1）SOD	文献を読み実験計画を立てる。
13.	活性酸素消去系酵素の測定（2）GSH-Px	文献を読み実験計画を立てる。
14.	活性酸素消去系酵素の測定（3）Catalase	文献を読み実験計画を立てる。
15.	全体のまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業に先立ち、配布資料を読み、専門用語を調べておくこと。

フィードバックの方法:　教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	60%	到達目標①、②の理解度を、授業での発表内容、討議への参加状況をもって評価する。
レポート	40%	到達目標③については、文献を読んでの実験計画書、実験結果のまとめをもって評価する。

教科書:　必要に応じてプリントを配布する。

参考書:　随時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応する。

699260

食育論

小切間　美保

授業テーマ:　食育を科学的に理解し，実践する力を養う。

授業の概要:　「食」とは自身の健康維持のみならず，子孫へ健康に命をつないでいく重要な行為である。健全で心豊かな「食」を実現するためにあらゆる世代において食育が必要であることから，子どもの食育だけにとどまらず中高年や高齢者を対象に食育を考える。本講義では，理論的かつ実践的に食育を考えていきたい。

到達目標:　日本人の食の現状と課題をライフステージ，栄養素および食品摂取状況，食習慣・食行動，食環境の視点から分析し，論ずることができる。

授業方法:　毎回，講義とグループディスカッションを併用する。また，関連する資料をまとめて発表するという課題を与える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	食育の定義について	事前に関連資料を紹介するので，読み込んでおく。
2.	日本人の食をめぐる現状と課題:食習慣とビタミン・ミネラル摂取状況との関連	国民健康栄養調査結果，食事摂取基準，微量栄養素に関する最新の文献を予習する。
3.	日本人の食をめぐる現状と課題:食習慣と脂質摂取状況との関連	国民健康栄養調査結果，食事摂取基準の関連箇所を予習する。
4.	日本人の食をめぐる現状と課題:ライフステージ別の食習慣の問題点（妊娠期から学童期）	国民健康栄養調査結果，食事摂取基準の関連箇所を予習する。
5.	日本人の食をめぐる現状と課題:ライフステージ別の食習慣の問題点（思春期から成人期）	国民健康栄養調査結果，食事摂取基準，微量栄養素に関する最新の文献を予習する。
6.	人の食行動科学の理解と食育への活用	栄養教育論の行動科学に関連する箇所を予習する。
7.	食に対する価値観および食に関する知識や調理習慣の変化	調理経験と食事観，食習慣，自己肯定感等に関する最新の文献を参照し，意見をまとめる。
8.	欧米，アジア諸国における食をめぐる現状	国内外の食育事例を紹介するので，それについて意見をまとめる。
9.	妊婦および乳児への食育の実際	国内外の食育事例を紹介するので，それについて意見をまとめる。
10.	幼児の食育事例検討	国内外の食育事例を紹介するので，それについて意見をまとめる。
11.	学童の食育事例検討	国内外の食育事例を紹介するので，それについて意見をまとめる。
12.	中学・高校生，大学生への食育の実際	国内外の食育事例を紹介するので，それについて意見をまとめる。
13.	働く世代，高齢者への食育の実際	国内外の食育事例を紹介するので，それについて意見をまとめる。
14.	食育のために生活者と栄養の専門職との「接点」の創造	国内外の食育事例を紹介するので，それについて意見をまとめる。
15.	全体のまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートおよび授業への参加度	40	
課題の発表	30	統計資料や学術論文に関する考えから科学的分析力を評価する。
討論での発言状況	30	論理的思考力の成長度合いを評価する。また，プレゼンテーション力やコミュニケーション力についても成長度合いを評価する。

教科書:

参考書:　関連資料および文献などを適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業中およびその前後で対応

699360

栄養生理学

片井　　加奈子

授業テーマ:　ヒトのからだの情報伝達を正しく理解した上で栄養教育を行うことの大切さを授業・演習・実験を通して学ぶ

授業の概要:　栄養の代謝を踏まえ、証拠に基づいた栄養教育について理解を深める

到達目標:
・栄養素を摂取した「からだ」がどのような生理過程を経て栄養素を利用していくかを栄養素と個々の器官を関連させて学ぶ
・栄養関連情報を駆使した栄養教育について理解を深める

授業方法:　講義と一部演習（プレゼンテーション）及び実験を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	分子栄養学について	予習として、分子栄養学について調べてくる 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
2.	リン酸の吸収と排泄の仕組み（食事のリン酸代謝への影響）	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく 実験結果をまとめ評価しておく
3.	リン酸の血中濃度調節機構（腎不全と高リン血症）	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
4.	海藻類の腸内環境改善効果について（食品の持つ機能性について）	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
5.	糖代謝の制御メカニズムについて	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
6.	肥満の制御メカニズムについて	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
7.	テーラーメイド栄養学について	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
8.	運動と栄養について	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
9.	運動選手と栄養教育	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
10.	プレゼンテーション演習１	予習として、課題についてプレゼンテーション準備を行う 復習として、プレゼンテーションの評価を行う
11.	プレゼンテーション演習２	予習として、課題についてプレゼンテーション準備を行う 復習として、プレゼンテーションの評価を行う
12.	プレゼンテーション演習３	予習として、課題についてプレゼンテーション準備を行う 復習として、プレゼンテーションの評価を行う
13.	エビデンスに基づいた栄養教育を考える	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
14.	情報の栄養教育への活用について	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業の内容を理解しておき、分からないところなどは調べたり、次回教員に質問できるようにしておく
15.	ビデオフォーラムとまとめ	予習として、配布された資料を読み込んでおく 復習として、授業全体のまとめを行っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
資料の配布はマナビーを通して行うこともあります。
プレゼンテーション演習については、第7回にテーマ決めを行い準備する時間を取ります。
また、希望者はプレゼンテーションに先立ち、個人的に時間を取って指導します。

フィードバックの方法:　レポートは授業中に提出を求め、返却も授業中に行います。マナビー上で提出・返却を行うこともあります。レポート指導は授業中にまとめて行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	積極的に授業に参加し、質問や疑問を発して、課題解決する姿勢を評価する。到達目標ができるようになったかを評価する。
レポート	30	課題について、適切な方法で調べまとめた上で、自分の考えを論理的に説明できるかを基準とする。
発表、討論	30	課題について、適切な方法で調べてまとめ、効果的な媒体・教材を用いて発表でき、かつその内容が栄養学的に正しいかどうかを基準とする。また、他人の発表を意欲的に聞き、積極的に討論に参加することも基準とする。

教科書:

参考書:
テーラーメイド個人対応栄養学　日本栄養・食糧学会監修　合田敏尚・岡崎光子編集　建帛社
栄養・食品機能とトランスポーター　日本栄養・食糧学会監修　竹谷豊・薩秀夫・伊藤美紀子・武田英二編集　建帛社
これからの栄養教育論　Isbel R. Contento著　足立己幸・衛藤久美・佐藤都喜子　監訳　第一出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、メール、マナビー

699460

分子栄養学

倉橋　　優子

授業テーマ:

授業の概要:
食品中に含まれる栄養成分は、身体の構成成分やエネルギー源として利用されるほかに体内での代謝調節にも深く関わっている。この授業では栄養素や栄養学と関連する遺伝子について取り上げ、理解を深める。

到達目標:
・栄養素と栄養学に関する遺伝子についての知識を深める
・分子生物学についての知識を深める
・トピックスについて事前学習（調査）、発表、討論する技能を身につける

授業方法:
講義及び成書や英語原著論文の購読と発表を含む演習を行う。
受講者が目指している専門分野とこれまでの学習背景を考慮して授業計画は変更することもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	分子生物学の基礎1	染色体、ゲノム、DNA、RNA、複製、転写、翻訳について復習し、まとめておくこと。
2.	分子生物学の基礎2	授業の際に準備学習の内容を指示する。
3.	栄養素と遺伝子1（糖質）	糖質の代謝について授業前までに復習をしておくこと。グルコーストランスポーターについて教科書を読んでおくこと。
4.	栄養素と遺伝子2（アミノ酸）	アミノ酸の代謝、細胞内情報伝達について復習をしておくこと。
5.	栄養素と遺伝子3（脂質）	脂質の代謝について復習しておくこと。
6.	栄養素と遺伝子4（ビタミン）	ビタミンA、βカロテンについて復習し、まとめておくこと。
7.	栄養素と遺伝子5（ビタミン）	ビタミンD、ビタミンEについて復習し、まとめておくこと。
8.	栄養素と遺伝子6（微量金属）	微量金属について復習し、まとめておくこと。
9.	栄養素と遺伝子7（微量金属）	授業の際に準備学習の内容を指示する。
10.	栄養素と遺伝子8（アルコール）	授業の際に準備学習の内容を指示する。
11.	栄養学と関連する遺伝子1（メタボリックシンドローム）	メタボリックシンドロームとは何か予習をし、まとめていくこと。
12.	栄養学と関連する遺伝子2（肥満）	授業の際に準備学習の内容を指示する。
13.	栄養学と関連する遺伝子3（肥満）	授業の際に準備学習の内容を指示する。
14.	栄養学と関連する遺伝子4（時計遺伝子）	授業の際に準備学習の内容を指示する。
15.	栄養学と関係する遺伝子5（寿命）	授業の際に準備学習の内容を指示する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
演習発表（プレゼンテーション）については、発表中にコメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	トピックスに関する栄養成分について理解できているか、準備学習で書いたレポートの仕上がり度合を評価する。
発表・討論	50	準備学習の発表技能・態度、討論へ意欲を評価する

教科書:
佐久間慶子、栄養と遺伝子のはなし（第3版）、技報堂出版

参考書:
中村桂子、松原謙一監訳、Essential細胞生物学 原書第4版、南江堂
中村桂子、松原謙一監訳、細胞の分子生物学 第6版、ニュートンプレス

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
オフィスアワーまたは授業の前後に応対

699560

食物栄養科学演習Ⅰ

院生活未定16

授業テーマ: 食物栄養科学分野の研究課題の探索とプレゼンテーション力の習得

授業の概要: 修士論文とさらなる学究的目標を達成するためには，研究テーマに関連した専門領域の国内外の研究動向を把握し，研究成果を有効に発表することが必要である。また，研究に携わる者としての国際的な倫理観を身につけ，その基本的姿勢をもって研究をデザインする力を習得しなければならない。そこで，本演習では，食物栄養科学分野の英語研究論文の講読を通して，研究倫理に則った実験・調査等の研究手法を理解し，研究の発展的展開を考える力を身につける。また，同時に，論文内容をプレゼンテーションすることによって，研究成果発表力を養成すると共に、演習Ⅱにつなげる。

到達目標: 専門分野の英語研究論文を読み込んでわかりやすくプレゼンテーションできる。

授業方法: 講義，文献講読，受講者の発表，ディスカッションなどにより授業を構成する。プレゼンテーションは，あらかじめレジュメを作成の後，教員と学生の前でパワーポイント・スライドにて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	研究テーマに関連した専門領域の英語論文の講読に当たって，あらかじめ日本語訳を行い，専門用語等の内容を調べておくこと。発表当日のディスカッションに備え，関連する先行研究の論文も合わせて読んでおくこと。 また、プレゼンテーションに必要なレジュメ，スライドは授業内に全て作成し終えることができないので，授業時間外で作成する必要がある。
2.	食物栄養科学分野の研究発展に有用な文献とは1—文献検索手法	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
3.	食物栄養科学分野の研究発展に有用な文献とは2—文献検索の実践	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
4.	食物栄養科学分野の文献の講読	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
5.	食物栄養科学分野の文献の講読	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
6.	食物栄養科学分野の文献紹介とは—分かりやすいプレゼンテーションのためのレジュメ，スライド作り	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
7.	食物栄養科学分野の文献紹介—プレゼンテーション	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
8.	プレゼンテーションの講評と修正	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
9.	食物栄養科学分野の文献検索	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
10.	食物栄養科学分野の文献の講読	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
11.	食物栄養科学分野の文献の講読	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
12.	プレゼンテーションのためのレジュメ，スライド作成	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
13.	食物栄養科学分野の文献紹介—プレゼンテーション	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
14.	プレゼンテーションの講評と修正	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。
15.	まとめ	1の準備学習等の内容をふまえて、指導教員の指導のもと予習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 教室内で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	
発表	50	プレゼンテーション力と質疑応答力で評価する。

教科書: なし

参考書: 随時紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 研究室内で対応

699660

食物栄養科学演習Ⅱ

西村　公雄、今井　具子、川﨑　祐子

授業テーマ:　食物栄養科学分野の研究課題の探索とプレゼンテーション力の習得

授業の概要:　修士論文とさらなる学究的目標を達成するためには，研究テーマに関連した専門領域の国内外の研究動向を把握し，研究成果を有効に発表することが必要である。また，研究に携わる者としての国際的な倫理観を身につけ，その基本的姿勢をもって研究をデザインする力を習得しなければならない。そこで，本演習では，食物栄養科学分野の英語研究論文の講読を通して，研究倫理に則った実験・調査等の研究手法を理解し，研究の発展的展開を考える力を身につける。また，同時に，論文内容をプレゼンテーションすることによって，研究成果発表力を養成する。

到達目標:　専門分野の英語研究論文を読み込んでわかりやすくプレゼンテーションできる。

授業方法:　講義，文献講読，受講者の発表，ディスカッションなどにより授業を構成する。プレゼンテーションは，あらかじめレジュメを作成の後，教員と学生の前でパワーポイント・スライドにて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	研究テーマに関連した専門領域の英語論文の講読に当たって，あらかじめ日本語訳を行い，専門用語等の内容を調べておくこと。発表当日のディスカッションに備え，関連する先行研究の論文も合わせて読んでおくこと。 また、プレゼンテーションに必要なレジュメ，スライドは授業内に全て作成し終えることができないので，授業時間外で作成する必要がある。
2.	食物栄養科学分野の研究発展に有用な文献とは1—文献検索手法	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
3.	食物栄養科学分野の研究発展に有用な文献とは2—文献検索の実践	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
4.	食物栄養科学分野の文献の講読	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
5.	食物栄養科学分野の文献の講読	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
6.	食物栄養科学分野の文献紹介とは—分かりやすいプレゼンテーションのためのレジュメ，スライド作り	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
7.	食物栄養科学分野の文献紹介—プレゼンテーション	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
8.	プレゼンテーションの講評と修正	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
9.	食物栄養科学分野の文献検索	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
10.	食物栄養科学分野の文献の講読	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
11.	食物栄養科学分野の文献の講読	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
12.	プレゼンテーションのためのレジュメ，スライド作成	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
13.	食物栄養科学分野の文献紹介—プレゼンテーション	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
14.	プレゼンテーションの講評と修正	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。
15.	まとめ	1の準備学習との内容を踏まえて、指導教員の指導の下予習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室内で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	
発表	50	プレゼンテーション力と質疑応答力で評価する。

教科書:　なし

参考書:　随時紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　研究室内で対応

699760

臨床栄養学実地研究

小松　　龍史

授業テーマ:
医療分野の管理栄養士業務について実地研修（インターンシップ）を行うことにより、実務能力を体得する。

授業の概要:
医療機関において1年間にわたり実地研修を行い、医療分野の管理栄養士としての基本的能力を養う。特に1年間で到達すべきコンピテンシーを業務分野ごとに明示されたレベルに到達できることを目標とする。

到達目標:
インターンシップにより実施する研修分野と到達すべきコンピテンシーの概要は次の通り。
＜インターンシップにおけるスキルの到達目標＞
レベルI当該項目を知っているが経験がない
レベルII当該項目を指導下で実践できる。　　（経験はあるが単独ではできない）
レベルIII当該項目を単独で実践できる
レベルIV当該項目を熟練し指導できる

授業方法:
医療機関においての実地修練であることから、管理栄養士だけでなく、医師、コメディカルスタッフ、事務職、調理師等関連職者から実地指導を受ける。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

「授業内容」／Course Contents and Outside Class Work

	授業内容	準備学習等の内容
1.	医療人として、管理栄養士として、組織人としての基本的な態度、行動をとる （目標レベルIII）	特に医療における管理栄養士の職業倫理について、既存資料、webサイト、日本栄養士会生涯教育などにより、研鑽しまとめておく。
2.	栄養管理 (1)栄養評価（目標レベルIII） (2)栄養管理計画（目標レベルIII） (3)栄養補給法（目標レベルII～III） (4)食事摂取量調査（目標レベルIII） (5)医療連携（目標レベルI～III）	栄養管理プロセスの基本、特に栄養評価に基づく栄養診断について学習しておく。
3.	栄養指導 行動科学的な手法を用いた指導ができる、など（目標レベルII～III）	認知行動療法などの栄養指導において応用される介入手法について学習しておく。
4.	チーム医療への参加、クリニカルパスの運用 （目標レベルII）	医療における様々な医療チームの現状と診療報酬上に多職種連携がどのように評価されているかを学習しておく。
5.	給食経営管理 (1)献立作成（目標レベルII～III） (2)調理・配膳（目標レベルI～III） (3)食材料管理（目標レベルII～III） (4)給食の評価（目標レベルII～III）	給食経営管理においてポイントとなる業務を理解するために、医師によるオーダーから、配食に足るまでの情報の流れと関連業務を総括して述べられる準備をしておく。
6.	リスクマネジメント (1)医療安全管理 （目標レベルI～III） (2)院内感染対策 （目標レベルI～II） (3)食品衛生管理 （目標レベルI～II） (4)災害時緊急対策（目標レベルI～II）	食事の安全安心を含め、医療現場におけるリスク管理を、患者、医療者、施設などそれぞれの視点からまとめておく
7.	栄養関連会議に出席し意見を述べる。（目標レベルI）	栄養関連の会議の種類、出席者、必要な資料等について調べておく。
8.	部門運営 （費用対効果、労働基準法など含む）（目標レベルI～II）	栄養部門業務を俯瞰して図式し、人員配置、業務の概要、合理的な運営方法などについて検討しておく。労働基準法、労働安全衛生法などを調べておく。
9.	研究活動 （テーマ設定、計画、実施、まとめ、論文作成）（目標レベルII～III）	1年次から研究テーマについて、指導教員、現地指導者と十分に話し合っておく。人を対象とした医学研究の倫理審査について、学習しておく。
10.	専門分野の知識の習得 （目標レベルIII）	特に医療における管理栄養士に必要な専門知識や技術について把握し、学会誌等をとおして新しい知識の習得に努める。

受講者へのメッセージやアドバイス:
インターンシップは、受け身で研修すると十分に効果をもたらしません。常に与えられた課題について、事前準備を怠らず、実地研修に臨むこと。報告、連絡、相談を心がけること。すべての研修内容は、管理栄養士が求められるスキルを習得し患者の治療に最大限に貢献するために行うものであることを忘れてはいけない。

フィードバックの方法:
指導教員は学生およびインターンシップ指導者と密接に連携し、実習内容の確認および、スキルの到達度の点検を実施する。点検により研修内容の修正や研修量の調整を行い、最大限に研修効果を得るよう連携する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50%	出席率60%未満は0点とする
到達度評価	50%	コンピテンシー票の記載により到達度を評価

教科書:
用いない

参考書:
給食経営管理実務ガイドブック　富岡和夫編著（同文書院）
国際標準化のための栄養ケアプロセスマニュアル　日本栄養士会監訳（第一出版）
静脈経腸栄養ガイドライン（第3版）　日本静脈経腸栄養学会編集（照林社）
エッセンシャル臨床栄養学第8版　佐藤和人、本間健、小松龍史編（医歯薬出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
電話、メール等でアポイントメントを取り、面談して対応する

699860

まちづくり特論

天野　　太郎

授業テーマ:　まちづくりの実例を通した諸課題の考察

授業の概要:　各地のまちづくりの実態について紹介するとともに、その現状や地域的課題について総合的に考察し、くらしに関する諸問題を多面的に探求し、解決に向けた実践を提案する。

到達目標:　まちづくりを中心としたくらしの諸問題に向けた探究と解決策を学ぶことを通して、自らのキャリアをデザインしていく意欲を養うことを目標とする。さらに、
・まちづくりに関連する視点を十分に理解する力
・まちづくりの問題に取り組むための方法論を理解する力
を獲得することを目標とする。

授業方法:　講義・演習形式を中心とし、必要に応じてまちづくりの実態を理解するためにフィールドワークを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　課題の所在	配布資料の確認
2.	まちづくりの諸事例を通した課題1	配布資料・文献調査
3.	まちづくりの諸事例を通した課題2	配布資料・文献調査
4.	まちづくりに関する文献調査	国立国会図書館　文献検索
5.	まちづくりに関する文献検討と諸課題の抽出	国立国会図書館　文献検索
6.	まちづくりの実例ー①地域住民からの視点：北海道富良野におけるまちづくりを通して	配布資料・文献調査
7.	まちづくりの実例ー②行政からの視点：北海道富良野におけるまちづくりを通して	配布資料・文献調査
8.	まちづくりの実例ー③外部観光客からの視点：北海道富良野におけるまちづくりを通して	配布資料・文献調査
9.	まちづくりの実例ー④大学と地域連携の実践例：北海道富良野におけるまちづくりを通して	配布資料・文献調査
10.	まちづくりの実例ー⑤被災地における新しいまちづくりー東北被災地を事例にした都市計画とNPOのありかた	配布資料・文献調査
11.	フィールドワーク1	地域資料の収集
12.	フィールドワーク2	地域資料の・発表資料の準備
13.	フィールドワーク3	地域資料の収集・発表資料の準備
14.	まちづくりの研究報告レポート	発表資料の作成
15.	総括ー報告の検討と残された課題	発表資料の再検討

受講者へのメッセージやアドバイス:　さまざまな視点からまちづくりを考えていきます。具体的な関心のある地域を想定しながら実例とともに取り組んでいきます。

フィードバックの方法:　研究報告の検討・意見交換を通してフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・参加	50	授業への積極的な参加を評価する。
研究レポート・報告	50	研究課題の報告を評価する。

教科書:　特になし。選択したテーマ・地域に即して適宜指示する。

参考書:　特になし。選択したテーマ・地域に即して適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　基本的に研究室対応（知徳館C354),ならびにEメール

701501、02

医薬品分析化学実習

前川　　京子、山内　　雄二

授業テーマ:　医薬品分析の基本的な技術と知識

授業の概要:　化学物質や医薬品をその化学的・物理的性質に基づいて分析するための基本的知識と技能の修得を目的とし、化学分析における試薬・器具・計量器の取り扱い方、データ処理法、化学平衡に基づいた定量法である容量分析法および汎用される機器分析法の基本的な技術と知識を習得させる。

到達目標:
・測定値を適切に取り扱うことができる
・各種分析装置を用いて、試料の分析を実施できる
・上記を通じて基礎的な科学力を身につける

授業方法:
実習テキスト、パワーポイント、DVD教材を用いて実習講義を行う。
容量分析用滴定装置、分光光度計、高速液体クロマトグラフィー装置、薄層クロマトグラフィー装置を学生が自ら操作して試料の分析を行う。
個人または2～3人のグループで実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	器具・計量器の取扱い方法（C2-(1)-①分析の基本1）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
2.	実験値を用いた計算および統計処理法、定量分析用標準液の調製と標定（C2-(1)-①分析の基本2; C2-(3)-②定量分析1）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
3.	電気滴定法：水素イオン濃度（pH）の測定、電気滴定の原理と操作法の修得（C2-(2)-①酸と塩基2,3；C2-(3)-②定量分析5）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
4.	酸塩基滴定（電位差滴定法）：日本薬局方収載医薬品の容量分析の実施（C2-(3)-②定量分析1,5）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
5.	キレート滴定：キレート滴定の原理と操作法の修得（C2-(2)-②各種の化学平衡1；C2-(3)-②定量分析2）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
6.	キレート滴定：日本薬局方収載医薬品の容量分析の実施（C2-(2)-②各種の化学平衡1；C2-(3)-②定量分析5）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
7.	酸化還元滴定：酸化還元滴定の原理と操作法の修得（C2-(2)-②各種の化学平衡3,4；C2-(3)-②定量分析4）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
8.	酸化還元滴定：日本薬局方収載医薬品の容量分析の実施（C2-(2)-②各種の化学平衡3,4；C2-(3)-②定量分析5）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
9.	紫外可視吸光度法：紫外可視吸光度法の原理と操作法の修得（C3-(4)-①分光分析法1）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
10.	紫外可視吸光度法：日本薬局方収載医薬品の定量分析の実施（C3-(4)-①分光分析法1）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
11.	薄層クロマトグラフィー：クロマトグラフィーの種類、特徴、分離機構の修得（C2-(5)-①クロマトグラフィー1,2）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
12.	薄層クロマトグラフィー：薄層クロマトグラフィーを用いた分離分析、日本薬局方収載医薬品の確認試験・純度試験の実施（C2-(5)-①クロマトグラフィー	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
13.	液体クロマトグラフィー：液体クロマトグラフィーで用いられる装置の構成と検出法の修得（C2-(5)-①クロマトグラフィー1,3）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
14.	液体クロマトグラフィー：液体クロマトグラフィーを用いた分離分析、日本薬局方収載医薬品の定量分析の実施（C2-(5)-①クロマトグラフィー1,3）	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。
15.	データのまとめ方、レポートの作成法	実習内容を実習テキストで予習し、各実習終了後、実習結果およびテキストに記載した当該実習関連課題についてのレポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解析する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40%	無断欠席が1回以上ある場合は単位を認めない
レポート	40%	分析結果のまとめの仕上がり度合と考察
実習態度	10%	積極的に技術を習得する意欲を評価する
実習テスト	10%	実習テストの正解率により評価する

教科書:　医薬品分析化学実習テキスト（実習時に無料配布）

参考書:　第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店発行）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:	電子メール、オフィスアワー

702501、02

生薬学実習

中村　　憲夫

授業テーマ:　生薬学に関する知識及び技能の習得

授業の概要:　生薬が医薬品であり，漢方処方製剤の原料となっていることを認識する．日本薬局方に収載されている生薬について，外部形態の観察，スケッチを行い，また局方規定生薬及び生薬由来医薬品は薬局方の条文に沿って確認試験を行うことにより，生薬に対する理解を深めることを目的とする．また，代表的な漢方処方製剤の構成生薬について，ルーペを用いて鑑別，スケッチを行い，数種の漢方処方については煎剤の調製を行い，匂い，色調，味を体験するなど薬学コアカリキュラムC5(1),(2), E2(10)を習得する．

到達目標:
1．薬用植物の外部的特徴を理解する能力の習得．
2．薬用植物から有効成分を単離する能力の習得．
3．外観及び確認試験により生薬を判別する能力の習得．
4．漢方処方を構成する生薬を理解する能力の習得．

授業方法:　おおよそ2人1組または個人単位で，実習室にて実験する．

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	No.1（1）　薬用植物の観察、スケッチ：薬用植物園にて実習・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1),2),4)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
2.	No.1（2）　薬用植物の観察、スケッチ：薬用植物園にて実習・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1),2),4)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
3.	No.2（1）　薬用植物から医薬品の抽出・分離：茶葉からのカフェインの抽出・分離・・・・・・・・C5(2)-3-1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
4.	No.2（2）　薬用植物から医薬品の抽出・分離：茶葉からのカフェインの抽出・分離・・・・・・・・C5(2)-3-1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
5.	No.2（3）　薬用植物から医薬品の抽出・分離：茶葉からのカフェインの抽出・分離・・・・・・・・C5(2)-3-1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
6.	No.3（1）　生薬の確認試験：生薬を原料とする医薬品の確認試験（医薬品の確認試験－1）・・・・・・・・・C5(1)-4-2),4) アドC5-3-1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
7.	No.3（2）　生薬の確認試験：生薬を原料とする医薬品の確認試験（医薬品の確認試験－2）・・・・・・・・・C5(1)-4-2),4) アドC5-3-1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
8.	No.3（3）　生薬の確認試験：生薬を原料とする医薬品の確認試験（未知試料の確認試験－1）・・・・・・・・C5(1)-4-2),4) アドC5-3-1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
9.	No.3（4）　生薬の確認試験：生薬を原料とする医薬品の確認試験（未知試料の確認試験－2）・・・・・・・・C5(1)-4-2),4) アドC5-3-1)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
10.	No.4（1）　生薬の鑑定：生薬の生，刻みの観察、鑑定 ・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-2-1), -3-1), -4-3)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
11.	No.4（2）　生薬の鑑定：生薬の生，刻みの観察、鑑定 ・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-2-1), -3-1), -4-3)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
12.	No.5（1）　漢方方剤の調製：漢方方剤の構成生薬の鑑定と煎じ薬の調製（構成生薬のスケッチ）・・・・・・・・・・E2(10)-1-3), -2-2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
13.	No.5（2）　漢方方剤の調製：漢方方剤の構成生薬の鑑定と煎じ薬の調製（漢方方剤の調製）・・・・・・・・・・E2(10)-1-3), -2-2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
14.	No.6（1）　生薬を用いた軟膏製剤の作成：紫雲膏の作成（紫雲膏の調製）・・・・・C5(2)-3-1), E(10)-1-3), -2-2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．
15.	No.6（2）　生薬を用いた軟膏製剤の作成：紫雲膏の作成（紫根の色素の定量）・・・C5(2)-3-1), E(10)-1-3), -2-2)	配布した実習書を充分理解してから実習にのぞむこと．

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポートを添削して返却する．

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席，実験への取り組み態度	50%	欠席及び取り組む態度により減点する．無断欠席の場合は単位を認めない．
レポート	50%	レポートのまとめの仕上がり度合により評価する．

教科書:　生薬学実習書を配布
わかりやすい化学実験—基本操作とチェックポイント—　著者　津波古充朝　他（廣川書店）

参考書:　第十七改正日本薬局方解説書（学生版）日本薬局方解説書編集委員会編（廣川書店）
パートナー生薬学改訂第3版　竹谷孝一，木内文之，小松かつ子編（南江堂）
カラーグラフィック薬用植物第4版　北中進，寺林進，高野明人編（廣川書店）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

703701、02

生化学実習

和田　　戈虹、川村　　暢幸、安川　　淳一朗

授業テーマ:　生化学の講義で学んだ知識を用いて実験の原理を理解し、基本的な生化学的、分子生物学的手法を習得する。

授業の概要:

1. 酵素学実習
　本実習では本来生体で行われている酵素と基質との反応を試験管内において人工的に構成した条件下で行い、産生される生成物を化学反応によって検出し、酵素活性を測定する。これらの実験を通して、酵素反応の基本的な性質を理解する。また、酵素反応に阻害剤を添加してその影響を観察することにより、阻害剤がどのようなメカニズムで酵素反応を阻害するかについて学ぶ。
2. PCR法実習
　本実習では、口腔粘膜細胞を材料とし、PCR法を利用してアルデヒドデヒドロゲナーゼ2遺伝子の遺伝子型の判定を行う操作を通して、PCR法の原理を理解し、遺伝子工学の分野で一般的に行われる操作を学ぶ。

到達目標:

1. 酵素学実習
C6 生命現象の基礎(3) 生命活動を担うタンパク質 【(3)酵素】
1)生物の生体反応を触媒するタンパク質である酵素の性質を理解する。
2)酵素活性に対する阻害剤の影響を観察することにより、酵素研究の基礎を学ぶ。
3)酵素反応速度論(ミカエリス・メンテンの理論)を理解する。
4)基本的な統計情報の解析法を理解する。

2. PCRによる遺伝子型解析
C6 生命現象の基礎(4) 生命情報を担う遺伝子 【(6)組換えDNA】
PCR法の原理を理解し、遺伝子工学の分野で一般に行われる操作を学ぶと共に、遺伝子診断やテーラーメイド医療の現場で実際行われるPCR法による遺伝子型決定法の実際に触れることを目的とする。

授業方法:　2～6名を1班として、各項目の実習内容を実習日程に基づいてローテーションにより進行する。
実験操作はプロトコールを作成するなど十分な予習に努めること。また、実習当日は担当教員の説明を遵守すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体説明(酵素学実習、PCR法実習)、ピペットマン操作練習	WEB学習支援システムの動画を見て予習し、当日の教員の操作指示を理解した上で確実に行えるようにする。
2.	酵素学実習・酵素ラクターゼによる乳糖分解機構	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
3.	酵素学実習・グルテストセンサーによるグルコースの測定	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
4.	酵素学実習・酵素反応における産生物の経時変化	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
5.	酵素学実習・酵素反応における基質特異性	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
6.	酵素学実習・酵素反応におけるpH, 温度の影響	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
7.	酵素学に関する講義・課題	
8.	PCRによる遺伝子型解析・表現型の解析(アルコールパッチテスト)	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
9.	PCRによる遺伝子型解析・染色体DNA抽出	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
10.	PCRによる遺伝子型解析・PCR　PCRによる遺伝子型判定	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
11.	PCRによる遺伝子型解析・アガロースゲル電気泳動	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
12.	PCRによる遺伝子型解析・遺伝子型と表現型の解析	WEB学習支援システムの動画を見て操作のイメージトレーニングを行う。実習書を予習し、必要に応じてプロトコールを作成する。
13.	遺伝子型に関する講義・課題	
14.	総合説明・再実験	
15.	総合説明・再実験	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポートを添削後返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	10	無断欠席の場合には単位を認めない。
実習態度	5	
レポート等	80	遅刻厳禁。提出期限を過ぎたレポートは原則的に受理しない。内容に不備のあるレポートの提出は減点の対象となり、再提出を課す。
学力確認テスト	5	生化学Iで習った知識の定着度や生化学実習関連の知識を確認するテストである。学力が不足している対象者には補習のための演習を実施する。

教科書:　酵素学実習とPCR法実習で1部, 動物実験実習で1部の実習書を配布する。

参考書:	生物化学実験法1還元糖の定量法　第2版　福井作蔵　著 生物化学実験法7蛋白質の定量法　第3版　菅原　潔、副島正美　著 薬学領域の生化学(廣川書店)編集　伊東　晃　藤木博太
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力
教員との連絡方法:	WEB学習支援システムの掲示板等

703801、02

微生物学実習

川崎　　清史、上野　　貴之

授業テーマ:

授業の概要:　コアカリに準拠して微生物・免疫に関連する必修項目を学習する

到達目標:　微生物取り扱いのための基本的技術と態度を習得する。さらに、抗菌薬の作用について理解する。また、抗原－抗体反応を利用した実験技術を理解し、習得する。

授業方法:　講義と実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	滅菌法と無菌操作I:代表的な滅菌法の理解 コアカリC8(3)⑤	実習書を読み事前学習を行う
2.	滅菌法と無菌操作II:代表的な滅菌法の習得 コアカリC8(3)⑥2	実習書を読み事前学習を行う
3.	滅菌法と無菌操作III:主な消毒薬の適切な使用 コアカリC8(3)⑤および⑥2	実習書を読み事前学習を行う
4.	滅菌法と無菌操作IV:無菌操作法の理解と習得 コアカリC8(3)⑥2	実習書を読み事前学習を行う
5.	細菌の分離培養及び同定I:細菌の分離培養の実施 コアカリC8(3)⑥3	実習書を読み事前学習を行う
6.	細菌の分離培養及び同定II:細菌の液体培養法の習得 コアカリC8(3)⑥2	実習書を読み事前学習を行う
7.	細菌の分離培養及び同定III: グラム染色の実施 コアカリC8(3)⑥1	実習書を読み事前学習を行う
8.	細菌の分離培養及び同定IV:菌種同定に用いられる生化学的試験法の理解 コアカリC8(3)⑥3	実習書を読み事前学習を行う
9.	細菌の分離培養及び同定V:選択培地等を用いた細菌の同定コアカリC8(3)⑥3	実習書を読み事前学習を行う
10.	抗菌薬感受性試験:液体希釈法 コアカリE2(7)①1	実習書を読み事前学習を行う
11.	抗菌薬感受性試験:軟寒天培地の利用による阻止円形成 コアカリE2(7)①1	実習書を読み事前学習を行う
12.	感染と免疫I:リポ多糖によるマクロファージ系培養細胞の刺激 コアカリC8(1)①②③	実習書を読み事前学習を行う
13.	感染と免疫II:マクロファージ系培養細胞によるNO産生量の測定 コアカリC8(1)①②③	実習書を読み事前学習を行う
14.	感染と免疫IV:沈降反応を利用した抗原の検出 コアカリC8(2)②4	実習書を読み事前学習を行う
15.	感染と免疫V:免疫染色による抗原の検出 コアカリC8(2)②4	実習書を読み事前学習を行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前に実習書を配布する。その内容に従い事前学習と復習を行うこと。

フィードバックの方法:　必要に応じて面談等を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	80%	原則として、実習に全て出席した者を成績評価の対象とする。レポートの採点は実習内容の理解度に基づき行う。
授業態度	20%	実習中の態度・姿勢。なお無断欠席の場合は単位を認めない

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワーの活用

704401、02

衛生薬学実習

木津　　良一、眞田　　法子

授業テーマ:

衛生薬学領域で重要な試験項目について、衛生薬学的意義や原理の理解、基本操作の習得、ならびに自然科学者としての心構えや態度の涵養

授業の概要:

我々の生命や健康は環境（食品、水、空気、嗜好品）から摂取する様々な化学物質により影響を受けることから、これら化学物質の摂取量や曝露量を把握する必要がある。本実習では、衛生薬学領域で重要な試験項目である空気試験、水質試験、食品試験、裁判化学試験に含まれる以下の（1）～（4）の各項目について実習を行う。
（1）空気試験：カタ冷却力、感覚温度、二酸化炭素濃度、ホルムアルデヒド　D2ー（2）ー ④ ー2
（2）空気試験：過マンガン酸カリウム消費量、アンモニア性窒素　D2ー（2）ー ③ ー5
（3）食品試験：着色料、糖質　D1ー（3）ー ① ー2
（4）裁判化学試験：性別判定、指紋検出　D2ー（1）ー ① ー7

到達目標:

各試験項目の意義、原理、操作、試薬の意味を説明できる。
試薬の調製法、器具・装置の取扱いに関する基本的知識と技術を習得する。
実験・研究に携わる自然科学者としての心構えや態度を身につける。

授業方法:

1日目は実習項目の概要について説明し、その後、実習に必要な器具・機器の準備ならびに試薬類の調製を行う。2日目から各項目について実習を行う。実習項目は12あるが、項目によって1人で、2人1組または4人1組で操作を行う。実習項目ごとに最初に操作上の重要な点や注意点、ならびに研究災害防止のうえで留意すべき点を説明し、その後に実習に入る。実習中ならびに実習終了後に、行った操作や得られた結果について討議することにより、各実習項目の衛生薬学的意義や測定原理について理解を深める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1日目3講時　各実習項目の概要および原理、諸注意、レポートの書き方等の説明	
2.	1日目4講時　使用する器具の洗浄	
3.	1日目5講時　使用する試薬の調製	2日目に実習する項目について、測定原理と操作の概要を把握する。
4.	2日目3講時　空気試験：カタ冷却力測定（カタ温度計法）、二酸化炭素濃度測定（検知管法）　D2ー（2）ー ④ ー2	
5.	2日目4講時　空気試験：感覚温度の算出　D2ー（2）ー ④ ー2	
6.	2日目5講時　空気試験：ホルムアルデヒド濃度測定（HPLC法）　D2ー（2）ー ④ ー2	本日の実習で得られた実験結果を図表等にまとめるとともに、結果に対する考察を行い、レポートを作成する。 3日目に行う項目について、測定原理と操作の概要を把握する。
7.	3日目3講時　水質試験：過マンガン酸カリウム消費量測定（1）試薬の調製、標定　D2ー（2）ー ③ ー5	
8.	3日目4講時　水質試験：過マンガン酸カリウム消費量測定（2）検体の測定　D2ー（2）ー ③ ー5	
9.	3日目5講時　水質試験：アンモニア性窒素濃度測定（インドフェノール法）　D2ー（2）ー ③ ー5	本日の実習で得られた実験結果を図表等にまとめるとともに、結果に対する考察を行い、レポートを作成する。 4日目に行う項目について、測定原理と操作の概要を把握する。
10.	4日目3講時　食品試験：着色料同定（TLC法）　D1ー（3）ー ② ー5	
11.	4日目4講時　食品試験：糖質分析（酵素法）（1）グルコース、フルクトース　D1ー（3）ー ① ー2	
12.	4日目4講時　食品試験：糖質分析（酵素法）（2）スクロース　D1ー（3）ー ① ー2	本日の実習で得られた実験結果を図表等にまとめるとともに、結果に対する考察を行い、レポートを作成する。 5日目に行う項目について、測定原理と操作の概要を把握する。
13.	5日目3講時　裁判化学試験：性別判定試験（1）PCR　D2ー（1）ー ① ー7	
14.	5日目4講時　裁判化学試験：性別判定試験（2）電気泳動解析　D2ー（1）ー ① ー7	
15.	5日目5講時　裁判化学試験：指紋検出（ニンヒドリン反応法）　D2ー（1）ー ① ー7	本日の実習で得られた実験結果を図表等にまとめるとともに、結果に対する考察を行い、レポートを作成する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

本実習で行う操作や用いる機器の測定原理はいずれも、薬学領域で広く用いられている基盤的なものであるので、その原理をしっかり理解することが重要である。

フィードバックの方法:

提出のレポートは採点したのち、所属研究室ごとに返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習への取り組み態度	70%	スムーズに実習を開始できているか、適切に操作を行っているか、必要な操作や注意を省略していないかなど、実習に臨む態度を評価する。実習に全て出席したものを成績評価の対象とする。無断欠席の場合、単位は認めない。
レポート	30%	到達目標に基づき、測定の目的や原理が正しく理解できているか、得られた結果が適切にまとめられているか、その結果をどのように考察しているか、を基準とする。

教科書:

参考書:

日本薬学会 編、 衛生薬学　健康と環境、 東京化学同人、 6,100円
今井浩孝、小椋康光 編、 衛生薬学：基礎・予防・臨床、 南江堂、 7,000円
日本薬学会 編、衛生試験法・要説、金原出版、4,800円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:	E-メール:rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 実習室および研究室で随時対応。

705201、02

薬理学実習

藤井　健志、土田　勝晴、漆谷　徹郎、天ヶ瀬　葉子、間下　雅士、水川　裕美子、高鳥　悠記

授業テーマ:　薬理学的手法の習熟とデータ解釈

授業の概要:　薬理学I、IIおよびIIIの講義で学んだ知識を定着させ、個々の薬物や生体機能の調節メカニズム、治療薬の臨床応用について理解を深める。また、自律神経系、中枢神経系に作用する薬物の薬効の評価法を学ぶ。あわせて、動物実験に伴う倫理的な問題についても学習する。

到達目標:
1. 中枢神経系に作用する薬物の作用について、行動薬理学的な観点から評価法を実践できる(知識・技能)。
2. 鎮痛薬の効力の検定法を理解し、効力の違いを測定できる(知識・技能)。
3. 心臓の機能に影響を及ぼす薬物の効果を測定し、薬物の作用メカニズムを説明できる(知識・技能)。
4. 呼吸器系に影響を及ぼす薬物の効果を測定し、薬物の作用メカニズムを説明できる(知識・技能)。
5. 消化管機能に影響を及ぼす薬物の効果を測定し、薬物の作用メカニズムを説明できる(知識・技能)。
6. 動物愛護の観点から生命倫理を正しく理解し、実践できる(知識・態度)。
7. 実験記録の記載方法、レポートの作成方法について学び、実践できる(知識・技能)。

授業方法:　学生は小グループに分かれ、以下の15項目を1日に3項目ずつ巡回する。従って、学生によって順番は異なる場合がある。講義と実習、その後にSGD(small group discussion)を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第一日目3講時:中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価 実習 E2(1)③-1,5,6,7,12	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
2.	第一日目4講時:中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
3.	第一日目5講時:中枢神経系に作用する薬物—マウスを用いた行動薬理学的手法による薬効評価small group discussion　(SGD)	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
4.	第二日目3講時:痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定　実習 E2(1)③-2,12	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
5.	第二日目4講時:痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
6.	第二日目5講時:痛覚に作用する薬物—マウスを用いた鎮痛効力検定 small group discussion　(SGD)	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
7.	第三日目3講時:心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察　実習 E2(1)①1-4、E2(3)①1-6	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
8.	第三日目4講時:心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
9.	第三日目5講時:心臓機能に及ぼす薬物の作用—モルモット摘出心臓を用いた薬物の作用の観察 small group discussion　(SGD)	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
10.	第四日目3講時:循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察 実習 E2(1)①1-4、E2(3)①1-6、E2(4)①1-4	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
11.	第四日目4講時:循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
12.	第四日目5講時:循環器系、呼吸器系に作用する薬物—麻酔ラットを用いた薬物の作用の観察　small group discussion　(SGD)	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
13.	第五日目3講時:消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察　実習 E2(1)①1-4、E2(4)②6	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
14.	第五日目4講時:消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。
15.	第五日目5講時:消化器系に作用する薬物—モルモット摘出腸管を用いた生体反応の観察　small group discussion (SGD)	配付された実習書をあらかじめ読み、実習で用いる薬物について調べておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業で扱われるテーマに関して、実習書を参考にしながら自主的に様々な資料(下記の参考文献はその一例)にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。
スモールグループディスカッション(SGD)の内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておき、実習期間が終了したのちに提出すべきレポートに活かせるようにしておくこと。
なお、追加の指示がある場合には、授業時に資料として配付するとともに、マナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。

フィードバックの方法:　SDGで討論した内容については各回の授業終了時までに解決できるようにする。また、授業内容に対する質問・疑問等への回答をマナビーにアップロードする。レポートについては採点後、できるだけ早い時期にアドバイザーを通して返却し復習の機会に役立てること。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート課題	100%	無断欠席があった場合は単位は認めない。成績は実験レポート(課題への解答を含む)を100点満点で評価する。無断で欠席した場合には単位を認定しない。

教科書:　実習書を配付する。

参考書:
今井正・宮本英七監修、標準薬理学第7版、医学書院
高木敬次郎・亀山　勉監修、最新基礎薬理学第3版、広川書店(薬理学Iの教科書)
加藤隆一・田中千賀子編集、New薬理学改訂第6版、南江堂
越前宏俊著、図解薬理学第2版、医学書院
重信弘毅・石井邦雄編集、パートナー薬理学、南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:	質問等があれば随時各担当者の研究室 まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメールにて事前に連絡する方が望ましい。なお、科目代表者である藤井を通して質問をすることもできる（E-mail:tfujii@dwc.doshisha.ac.jp）。

705300

薬物動態学実習

喜里山　暁子

授業テーマ:　コンパートメントモデルを使って、体内での薬の動きを視覚化する。

授業の概要:　コンパートメントモデルを基本にした薬物速度論、ならびにタンパク結合に関連した知識（組織分布）を実験で確かめる。C13(4)2-4)～5)、C13-(5)1-1)～3)、6)～7)、9)、11)

到達目標:　薬物動態学ⅠおよびⅡで学ぶ速度論（1次消失速度定数、クリアランス、タンパク結合率と分布の関係）について、実習を通じて体得させる。

授業方法:　実習は5日間（1日3コマ）を利用し、1グループ3人程度で各実験を順次行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1-コンパートメントモデルを用いた薬物動態のシミュレーションの解説(1) 静脈内投与時における薬物濃度の経時変化および解析方法についての説明	薬物動態学ⅠおよびⅡのテキストをよく読んで、1-コンパートメントモデルとその代表的なパラメータについて理解しておく。
2.	1-コンパートメントモデルを用いた薬物動態のシミュレーションの解説(2) 経口投与時における薬物濃度の経時変化および解析方法についての説明	薬物動態学ⅠおよびⅡのテキストをよく読んで、1-コンパートメントモデルとその代表的なパラメータについて理解しておく。
3.	平衡透析法によるタンパク結合実験の解説 (1) 透析法によるタンパク結合定数の測定の原理と解析 (2) タンパク結合実験による血液ー組織間分布平衡のシミュレーションの原理と解析	薬物動態学ⅠおよびⅡのテキストをよく読んで、1-コンパートメントモデルとその代表的なパラメータについて理解しておく。
4.	1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析 (1) (1) 急速静注後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション (2) 体内動態パラメータの算出と考察（一次速度定数およびクリアランスの理解）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
5.	1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析 (2) (1) 急速静注後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション (2) 体内動態パラメータの算出と考察（一次速度定数およびクリアランスの理解）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
6.	1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析 (3) (1) 急速静注後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション (2) 体内動態パラメータの算出と考察（一次速度定数およびクリアランスの理解）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
7.	1-コンパートメントモデルを用いた経口投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(1) (1) 経口投与後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション (2) 体内動態パラメータの算出と考察（一次吸収速度定数の理解）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
8.	1-コンパートメントモデルを用いた経口投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(2) (1) 経口投与後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション (2) 体内動態パラメータの算出と考察（一次吸収速度定数の理解）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
9.	タンパク結合定数の測定と解析(1) 平衡透析法によるアルブミン水溶液のタンパク結合の測定 タンパク結合率の算出と各種プロットからのタンパク結合定数の解析	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
10.	タンパク結合定数の測定と解析(2) 平衡透析法によるアルブミン水溶液のタンパク結合の測定 タンパク結合率の算出と各種プロットからのタンパク結合定数の解析	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
11.	タンパク結合定数の測定と解析(3) 平衡透析法によるアルブミン水溶液のタンパク結合の測定 タンパク結合率の算出と各種プロットからのタンパク結合定数の解析	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
12.	タンパク結合定数の測定と解析(4) 平衡透析法によるアルブミン水溶液のタンパク結合の測定 タンパク結合率の算出と各種プロットからのタンパク結合定数の解析	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
13.	1-コンパートメントモデルを用いた点滴静脈内投与後の薬物動態の解析 体内動態パラメータの算出と考察（投与量と定常状態の薬物濃度の関係およびクリアランスへの影響）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
14.	2-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与時の薬物動態の解析(1) (1) 2-コンパートメントモデルによる血中濃度ー時間データの解析 (2) 薬物動態学的パラメーターの算出と理解	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

	15. 2-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与時の薬物動態の解析(2) (1) 2-コンパートメントモデルによる血中濃度－時間データの解析 (2) 薬物動態学的パラメーターの算出と理解	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習書は予め配布しますので、実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておいてください。。実習講義および到達度確認テストの実施日程については別途通知します 。薬物動態学ⅠおよびⅡで学習した内容を理解しておくと、実習を通してその内容が視覚化され理解しやすくなります。

フィードバックの方法:

実習中に実験方法や解析方法について随時解説や質問に答えるとともに、提出したレポートを採点して返却する。マナビーを利用する予定である。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および実習態度	50%	全日程に出席して与えられる・無断欠席の場合、単位は認められない
レポート	30%	実習書に従い期日までに作成し、提出
到達度確認試験	20%	

教科書:

2018年度　薬剤学実習書およびプリント

参考書:

薬物動態学Iの講義テキスト
薬物動態学IIの講義テキスト

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、想像力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

質問等がある場合は、学内メール(akiriyam@dwc.doshisha.ac.jp)にて対応する。

706101、02 **薬剤学実習**

芝田　信人、羽森　真美、喜里山　暁子、西村　亜佐子、担当者未定

授業テーマ:　薬物の体内での挙動を理解し、医薬品製剤の設計および製剤評価のための基本的知識・技術の修得

授業の概要:　薬剤学実習では、薬物の体内動態、製剤化および製剤の評価のための基本的な知識・技術を習得する。具体的には、水流シミュレーターを用いた1-コンパートメントモデルによる薬物体内動態の速度論的解析と理解、顆粒剤、カプセル剤、錠剤の作製、分解反応速度論に基づく注射剤の有効期限の決定、製剤均一性試験法（含量均一性試験、質量偏差試験）および医薬品の溶出試験法などを学修する

到達目標:
1. 吸収、分布、代謝、排泄の各過程および薬物動態学に関する基本事項を修得する
2. 薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項を修得する
3. 薬物と製剤材料に関する基本的事項を修得する
4. 製剤の種類、製造、品質に関する基本的事項を修得する
5. 薬物の投与剤形や薬物体内動態の制御法などを工夫したDDSに関する基本的事項を修得する

授業方法:　各項目の実習を2～3名のペアを組み、実習日程に基づいて進行する。実習作業に関連する説明は、各項目の開始時に各項目の担当教員が行うので、その指示に従うこと。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析 (1) ① 急速静注後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション ② 体内動態パラメータの算出と考察 （1次速度定数およびクリアランスの理解） E4-（1）、（2）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
2.	1-コンパートメントモデルを用いた急速静脈内投与後の薬物動態のシミュレーションと解析 (2) ① 急速静注後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション ② 体内動態パラメータの算出と考察 （1次速度定数およびクリアランスの理解） E4-（1）、（2）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
3.	1-コンパートメントモデルを用いた経口投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(1) ① 経口投与後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション ② 体内動態パラメータの算出と考察 （1次吸収速度定数の理解） E4-（1）、（2）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
4.	1-コンパートメントモデルを用いた経口投与後の薬物動態のシミュレーションと解析(2) ① 経口投与後の血中薬物濃度の経時的変化をシミュレーション ② 体内動態パラメータの算出と考察 （1次吸収速度定数の理解） E4-（1）、（2）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
5.	タンパク結合定数の測定 ① 平衡透析法によるアルブミン水溶液の透析と非結合型薬物濃度の測定 E4-（1）、（2）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
6.	タンパク結合定数の解析(1) ① 薬物のタンパク結合率の算出 E4-（1）、（2）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
7.	タンパク結合定数の解析(2) ① 各種プロットからの薬物のタンパク結合定数の解析 E4-（1）、（2）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
8.	顆粒剤・カプセル剤・錠剤の作成 ① 押し出し造粒法による顆粒剤の作製 ② カプセル剤の作製 ③ 打錠器を用いた錠剤の作製 E5-（1）、（2）、（3）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
9.	注射剤の有効期限の決定法（1） ① 薬物の分解反応に速度論を適用した薬物の分解速度定数の決定 ② 薬物の分解反応に速度論を適用した薬物の分解半減期の決定 ③ 通常の取り扱いを行なう環境下に暴露した医薬品の含量を測定することによる医薬品の有効期限の決定 E5-（1）、（2）、（3）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
10.	注射剤の有効期限の決定法（2） ① 薬物の分解反応に速度論を適用した薬物の分解速度定数の決定 ② 薬物の分解反応に速度論を適用した薬物の分解半減期の決定 ③ 通常の取り扱いを行なう環境下に暴露した医薬品の含量を測定することによる医薬品の有効期限の決定 E5-（1）、（2）、（3）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。

11.	製剤均一性試験法 （1） 作製した錠剤に対して含量均一性試験を適用する E5-（1）、（2）、（3）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
12.	製剤均一性試験法 （2） 作製したカプセル剤に対して質量偏差試験を適用する E5-（1）、（2）、（3）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
13.	溶出試験法（1） 調製したカプセル剤について溶出試験法を適用する E5-（1）、（2）、（3）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
14.	溶出試験法（2） 調製した錠剤について溶出試験法を適用する E5-（1）、（2）、（3）	実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておく。
15.	まとめ 本実習を通じて得られた知識について到達度確認テストを実施する。	

受講者へのメッセージやアドバイス:

実習書は予め配布するので、実習書をよく読んで、実習手順およびその解析方法について理解しておくこと。実習講義および到達度確認テストの実施日程については別途通知する

フィードバックの方法:

演習問題等については実習中に解説する。レポートについては採点後に返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
到達度確認試験	20%	成績評価は、出席点（30%）、レポート点（30%）、実習試験（20%）、態度（20%）とし、それらの総合（100点）として評価する。合計60点以上で合格とする。なお、たとえ合計が60点以上であった場合でも、出席点を満たさない限り、合格として取り扱わない。また、出席点を満たしている場合であっても、実習レポートの一部を提出しなかった場合、提出期限を過ぎて提出した場合、レポートを提出しなかった場合などは態度点あるいはレポート点から減点する。
実習レポート	30%	
出席及び実習に臨む姿勢	50%	

教科書:

2018年度薬剤学実習書およびプリントを配布する

参考書:

薬物動態学Iの講義テキスト （旧カリ薬物動態学のテキスト
NEWパワーブック生物薬剤学第3版、廣川書店 （新カリ薬物動態学Ｉのテキスト）
NEWパワーブック物理薬剤学・製剤学第3版、廣川書店 （物理薬剤学の講義テキスト）
臨床製剤学第3版、南江堂 （旧カリ臨床製剤学の講義テキスト）
臨床製剤学第4版、南江堂 （新カリ製剤学の講義テキスト）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

薬剤学実習に関して質問等がある場合は、科目代表者（芝田信人）の下記メルアドまで
nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

708401、02

薬物治療学実習

村上　元庸、高橋　玲、岸本　寛史

授業テーマ:　症例を把握し、適切な薬物治療を実際に提案することをめざす。

授業の概要:　症状、徴候, 検査内容を読み取り、薬物を検討し、症例につき討議して薬物療法を考える。人体の構造と機能、疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた薬物治療学の知識を駆使する。さらに、心音や呼吸音の聴取, 血圧測定、心電図等の基本的な検査法、疾患における特徴ある所見などを高機能シミュレーターにて実際に体験し学習を進める。文献情報やエビデンスを確認する。 C6, C7, E2(1)～(11), E3(1)(2), E4(1)

到達目標:　基礎医学、薬理学、薬物治療学の知識を基礎として、提示された症例について実際に薬物治療を提案する。臨床では患者さんの疾患を理解しカルテを読み薬物治療を提案できる力が必要とされる。シミュレーターを用いて服薬指導やフィジカルアセスメントの実践に必要な能力を養う。その際、チーム医療の一員としての役割を理解する。

授業方法:　解説にパワーポイント、動画を用いる。 実技体験・実習・討論を行い、理解を深めていく。
実習の区切りごとに課題をレポートとしてマナビーに提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	提示された患者さんの症候、検査結果を分析する。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
2.	高機能シミュレーターを用い、徴候、理学的所見を理解する。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
3.	脈、呼吸、血圧について、高機能シミュレーターを用いた体験的実習をおこなう。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
4.	尿所見、血液、組織等の検査を理解する。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
5.	高機能シミュレーターを用い、心電図、心音、呼吸音の体験的実習をおこなう。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
6.	エコー、内視鏡などの検査を体験的に理解する。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
7.	症例につき模擬カルテ形式で提示し討論する。疾患の総合的理解を深める。文献情報やエビデンスを確認する。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
8.	模擬症例提示で急性疾患における薬物治療の実習を行う。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
9.	慢性疾患につき理解を深め処方を検討する.	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
10.	症例につき討論し、薬物治療の基礎となる疾患の総合的理解を深める。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
11.	症例につき討論し、薬物治療の基礎となる疾患の総合的理解を深める。文献情報やエビデンスを確認する。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
12.	症例につき討論し、薬物治療の基礎となる疾患の総合的理解を深める。文献情報やエビデンスを確認する。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
13.	症例につきグループでカルテ形式で提示された症例を討論し、薬物治療内容を決定する。疾患、薬に関する臨床的な質問に答える。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
14.	症例につきグループでカルテ形式で提示された症例を討論し、薬物治療内容を決定する。疾患、薬に関する臨床的な質問に答える。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。
15.	症例につきグループでカルテ形式で提示された症例を討論し、薬物治療内容を決定する。疾患、薬に関する臨床的な質問に答える。	機能形態学、生化学、病理学、病態、治療学などの科目で症例に関連のあるところを復習して臨む。

受講者へのメッセージやアドバイス:　フィジカルアセスメントに必要な聴診器の使い方を、実習前にあらかじめ習熟しておく。プラクティカル・サポート・センターなどを利用して実習前に血圧測定や聴診器を用いた呼吸音・心音の聴診ができるようにしておく。

フィードバックの方法:　マナビーに提出されたレポートを授業時間内にリアルタイムでフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技試験とレポート提出	100%	課題とした知識と技能のすべての基本を習得している。無断欠席の場合は単位は認められない。

教科書:　資料配付

参考書:　資料配付

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

709600

免疫・感染症学特論

川崎　清史、菅野　陽介、川村　暢幸、上野　貴之、安川　淳一朗

授業テーマ:

授業の概要: 免疫、感染症、および関連する疾病や生体制御の基本的メカニズムについて学習する。コアカリを超えたアドバンストな内容である

到達目標: 免疫、感染症、および関連する疾病や生体制御の基本的メカニズムついてアドバンストな内容を習得する

授業方法: 授業形式は講義を基本とし、オムニバス形式をとる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	新興再興感染症I:概論、各論(新型インフルエンザ等) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須
2.	新興再興感染症II:各論(HIV, プリオン、癌と感染症など) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須
3.	免疫と医療(自然免疫とアジュバント開発、ワクチンなど) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須
4.	細菌感染時の自然免疫応答(食作用、炎症応答など) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須
5.	細菌感染症に対する化学療法(新たな抗菌化合物の発見と開発のための取り組み) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須
6.	免疫・感染と疾患(炎症性骨破壊)、炎症・TLRシグナル伝達による骨免疫制御 コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須
7.	感染と共生(院内分離型MRSAとミツバチ脳に感染するウィルスを題材にして) コアカリC10(1)(2)(3)	オムニバス形式なので事前学習は不要。聴講した上で興味を持った事項についてはレポート作成のための学習が必須
8.	まとめのレポート作成	事前に出題された課題に対する準備

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 必要があれば個別に面談等を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
まとめの課題レポート	60%	出席回数5回以上の学生を評価対象とする
授業態度(出席等)	40%	

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワーの活用、研究室の訪問

710200

臨床薬理学特論

中西　　弘和、岩根　　裕紀

授業テーマ:
薬剤師の専門的能力を臨床における薬物治療で活かすために
−薬理学的見地から治療薬について的確な説明および処方の提案などを目指して一

授業の概要:
臨床で薬剤師が処方支援を依頼されることが多い治療薬の薬理を把握して、模擬症例への薬剤の選択を、作用・副作用などを考慮し選択する。
臨床現場の薬剤師を講師として招くため、講義項目の順序は変更することがある。

到達目標:
薬物は生体に作用をもたらすものであるが、臨床ではその時に望ましい作用発揮する薬物を治療薬と考える。臨床薬理学は治療薬の安全で適正な使用のために必須の薬理学である。この授業では薬剤師が臨床で薬物治療を支援することが多い項目について、臨床薬理学的概念で個々の患者の最適な薬剤選択を可能とすることを目指す。

授業方法:
予め提示した課題に対しての発表や討議を主として授業を行うが、必要に応じてパワーポイント・プリントを用いた講義形態をとる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床薬理学導入講義および課題説明	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
2.	睡眠に影響する薬　C14−(4)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
3.	消化器機能に影響する薬　C14−(2)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
4.	排尿に影響する薬　C14−(3)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
5.	がん治療薬　1　C14−(4),(5)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
6.	がん治療薬　2　C14−(4),(5)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
7.	アレルギー治療薬　C14−(4)、D1	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。
8.	まとめ	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、その薬理作用などを調べた上で、処方支援につながる方法を学習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
がん専門薬剤師の先生を招聘して講義を行うため、講義内容の順番を変更することがあります。第1回目に予定を提示します。授業では積極的に発言してください。

フィードバックの方法:
授業時に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および授業に対する態度（発表・発言）	40%	積極的に授業へ参加したかを評価する。
レポートおよび確認テスト	60%	レポートは予習であり、提出が無ければ減点する。確認テストは到達目標を十分に理解できているかを評価する。

教科書:
今までに購入した薬理書
課題にある薬品の添付文書（医薬品医療機器情報ホームページ：http://www.info.pmda.go.jp/　で入手可能）

参考書:
アプライドセラピューティクス（じほう）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:
hnakanis@dwc.doshisha.ac.jp

710300

東洋医学特論

中村　　憲夫、成橋　　和正

授業テーマ:　漢方医学を理解する

授業の概要:　東洋医学，特に医療現場で広く用いられている漢方医学について概説する．漢方医学は中国伝統医学の湯液療法を日本独自で発展した日本の伝統医学である．現代医療において漢方処方の需要が日増しに増加しており，医療現場で活躍する薬剤師として漢方に対する知識は欠かすことが出来ない．本講義では，漢方方剤の適用に対する基礎的な「証」を正しく認識し，時に外来講師（ゲストスピーカー）による講義を加え，医療現場で必要な漢方医学知識を修得する．

到達目標:　漢方方剤の適用に対する基礎的な「証」を正しく認識し，医療現場で必要な漢方医学知識の修得

授業方法:　パワーポイントなどを利用し，講義を行う．

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	東洋医学概論・・・・・・・・・・・・・・C-7(3)-1-1, 2	授業内容に該当する部分の教科書を読み、参考書、インターネットを使い、調査すること.
2.	漢方医学の基礎知識・・・・・・・・・・・C-7(3)-1-2, 3, 4	授業内容に該当する部分の教科書を読み、参考書、インターネットを使い、調査すること.
3.	診断と治療・・・・・・・・・・・・・・・C-7(3)-1-4, 5	授業内容に該当する部分の教科書を読み、参考書、インターネットを使い、調査すること.
4.	漢方処方の特徴・・・・・・・・・・・・・C-7(3)-1-6, 7, C-7(3)-2-1	授業内容に該当する部分の教科書を読み、参考書、インターネットを使い、調査すること.
5.	漢方薬の副作用・・・・・・・・・・・・・C-7(3)-2-2	授業内容に該当する部分の教科書を読み、参考書、インターネットを使い、調査すること.
6.	漢方治療の実際（ゲストスピーカー）・・・C-7(3)-2-1, 2	課せられた課題に対し，教科書だけでなく，参考書なども使い調査すること.
7.	現代のトピック（１）・・・・・・・・・・C-7(3)-2-1, 2	課せられた課題に対し，教科書だけでなく，参考書なども使い調査すること.
8.	現代のトピック（２）・・・・・・・・・・C-7(3)-2-1, 2	課せられた課題に対し，教科書だけでなく，参考書なども使い調査すること.

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問者に対して研究室で解説する．（中村）
メール(knaruhas@dwc.doshisha.ac.jp)にて対応する．（成橋）

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30%	欠席により減点する.
提出レポート	70%	レポートのまとめの仕上がり度合により評価する.

教科書:　学生のための漢方医学テキスト　日本東洋医学会学術教育委員会編　（南江堂）

参考書:　現代医療における漢方薬改訂第2版　日本生薬学会監修　（南江堂）
入門漢方医学　　日本東洋医学会学術教育委員会編　（南江堂）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　（中村）
メール(knaruhas@dwc.doshisha.ac.jp)にて対応する．（成橋）

710400

院内感染対策特論

森田　　邦彦、松元　　加奈

授業テーマ:　感染症の予防ならびに治療に果たす薬剤師の役割を考える。

授業の概要:
1)院内感染と市中感染の実態について理解する。
2)世界規模で蔓延する耐性菌による感染症の実態と対策を理解する。
3)院内肺炎、市中肺炎、医療介護関連肺炎診療ガイドラインについて理解する。
4)有効・安全な感染症治療を実践するために、主だった抗菌薬および抗真菌薬のPK-PD理論に基づく適正使用のあり方を理解す　る。
5)耳鼻咽喉科クリニックでの感染症治療の取り組み例を理解し、医療現場での薬剤師のあるべき職能を想起する。
6)症例検討を通して、感染症治療における薬剤師の役割を思考する。
C10(3), C11(3)-3

到達目標:
1)院内感染と市中感染の実態について説明できる。
2)世界規模で蔓延する耐性菌による感染症の実態と対策を説明できる。
3)院内肺炎、市中肺炎、医療介護関連肺炎診療ガイドラインについて説明できる。
4)有効・安全な感染症治療を実践するために、主だった抗菌薬および抗真菌薬のPK-PD理論に基づく適正使用のあり方を説明できる。
5)耳鼻咽喉科クリニックでの感染症治療の取り組み例を理解し、医療現場での薬剤師のあるべき職能を想起できる。
6)症例検討を通して、感染症治療における薬剤師の役割、特に抗菌薬適正使用支援に即応できる実践力を身につける。
C10(3), C11(3)-3

授業方法:　Power Pointによる映写ならびに配布資料を用いた講義（第1回、第3回、第5回は森田が、第2回はゲストスピーカーの前田雅子先生が、第4回は松元が、それぞれ担当する）と、少人数グループによる症例検討（Team Based Learning)を中心とした演習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	科学的な感染症治療薬の使用法・総論	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み）
2.	院内肺炎、市中肺炎および医療・介護関連肺炎に対する診療ガイドラインと、各種耐性菌による感染症とどう戦うか	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み）
3.	耳鼻咽喉科領域における抗菌薬の適正使用に向けた薬剤師の役割（ゲストスピーカー：まえだ耳鼻咽喉科クリニック薬剤師・前田雅子先生	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み）
4.	抗真菌薬の適正使用	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み）
5.	抗HIV薬の適正使用	HIV感染症の臨床と抗HIV薬の適正使用ならびに薬剤師が果たす役割について解説する。
6.	症例検討（その1）	症例の問題点に着眼できるためには、第1回～第5回までの講義内容の復習と理解が必須である。
7.	症例検討（その2）	症例の問題点着眼できるためには、第1回～第5回までの講義内容の復習と理解が必須である。
8.	症例検討（その3）	症例の問題点に着眼できるためには、第1回～第5回までの講義内容の復習と理解が必須である。

受講者へのメッセージやアドバイス:
感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。
1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学I、4年次の模擬病院薬局実習で取得済み）
2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み）
3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（3年次の臨床薬剤学Iで修得済み）

フィードバックの方法:　毎回の症例検討（少人数グループによるteam-based learning)時に出された各班からの見解に対して、リアルタイムにフィードバックを行う。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
症例検討のレポート	50%	症例検討に際し、第1回～第4回の講義内容を礎とした思考ができているかという観点で評価する。
少人数ループでの意見交換の態度	30%	積極的に意見交換を行っているか、相手の意見に耳を傾けているか、について評価する。
毎回の受講態度	20%	出席状況と各回の受講を通しての「気づき」を評価する。

教科書:
毎回、オリジナル資料を配布する。
今日の治療薬 2018年版（南江堂）（2017年版以前のものでもかまわない）、もしくは治療薬ハンドブック2018年版（じほう）（2017年版以前のものでもかまわない）

参考書:
日常診療に役立つ抗感染症薬のPK-PD　戸塚恭一　監修　ユニオンエース社
感染症のチーム医療　専門医の処方意図を探れ　三笠桂一、森田邦彦　編集　南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
オフィスアワー、Eメール

710900

薬理学特論

藤井　健志、土田　勝晴、漆谷　徹郎、天ヶ瀬　葉子、間下　雅士、水川　裕美子、髙鳥　悠記

授業テーマ:　薬理学研究の最近の進歩

授業の概要:　4年次までの「薬理学」あるいは関連の授業において、生理機能、病態生理、「薬」の作用メカニズムと生理機能に及ぼす影響などを学んできたはずである。本特論では、アセチルコリン、イオンチャネル、インクレチン、ストレス、細胞死、がん、アルツハイマー型認知症をテーマとして取り上げ、それぞれの領域における最近の研究手法、研究の進捗状況、新規治療薬の開発などについて学ぶ。また、臨床研究論文を読み進めるのに必要な種々の臨床統計解析手法の解釈・選択法についても一部学ぶ。

到達目標:
1. オータコイドとしてのアセチルコリンの役割を説明できる。
2. 消化管ホルモンと新規糖尿病治療薬について説明できる(知識)。
3. イオンチャネルの心臓における役割について説明できる(知識)。
4. がん治療における最近の進歩について説明できる(知識)。
5. 神経細胞死のメカニズムについて説明できる(知識)。
6. ストレスに対する細胞の応答メカニズムを説明できる(知識)。
7. 最新のアルツハイマー病治療について説明できる(知識)。
8. 臨床論文を理解するための統計解析法について説明できる(知識・技能)。
9. レポートとして学習内容に対する自分の理解をまとめることができる(知識・技能)。

授業方法:　パワーポイント(ビデオが映写の場合もある)もしくは配付資料にしたがって主に担当者が講義することにより進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス、アセチルコリン研究における最近の進歩 C13(3)-4 (藤井)	アセチルコリンの役割についてできるだけ調べておく。
2.	消化管ホルモンと新規糖尿病治療薬　C8(3)-2 C13(3)-5 C14(3)-5 (漆谷)	消化管ホルモンの役割についてできるだけ調べておく。
3.	イオンチャネルの薬理、心臓作用薬 C13(1)-4-1),2) C14(2)-2-2),3) (土田)	イオンチャネルについてできるだけ調べておく。
4.	がん研究における最近の進歩　C8(2), C14(2), C17(3) (天ケ瀬)	がんについてできるだけ調べておく。
5.	脳虚血後の神経細胞死のメカニズムC13(2)-1-4) (間下)	細胞死についてできるだけ調べておく。
6.	ストレス応答研究における最近の進歩 C13(2)-1-5),6) (水川)	細胞へのストレスについてできるだけ調べておく。
7.	アルツハイマー病治療薬開発における最近の進歩 C13(2)-1-4) (高鳥)	アルツハイマー病についてできるだけ調べておく。
8.	まとめと振り返り (藤井)	学習した内容の全体を振り返っておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業で扱われるテーマに関して、自主的に様々な資料にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。
授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておき、提出すべきレポートに活かせるようにしておくこと。疑問などが生じた場合には、担当者が紹介する資料を参照する、担当者に質問するなどして、積極的に問題解決をはかること。
なお、追加の指示がある場合には、授業時に資料として配付するとともに、マナビー・Vivi-linkにもその情報をアップロードするので常に確認すること。

フィードバックの方法:　レポートは採点(コメント)しできるだけ早い時期にアドバイザーを通して返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート課題	100%	課題の選び方、レポートの作成方法、採点基準については、第1回目の授業の際に指示する。

教科書:　特に指定しない。授業中に必要な資料を配付する。

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　質問等があれば随時各担当者の研究室を訪問し解決しておくこと。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール等にて事前に連絡する方が望ましい。なお、科目代表者の藤井を通しても質問することができる(E-mail:tfujii@dwc.doshisha.ac.jp)。

711000

創薬理論科学特論

白井　隆一、榎本　光伯、宮脇　あかり、山本　康友、藤岡　弘道

授業テーマ: 分子構造を核として医薬品の有機化学的理解を深める

授業の概要: 医薬品構造の目的別最適化の有機化学について学ぶ。

到達目標: 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学・有機化学・生化学分野の基本的知識を身に付けている。(基礎的な科学力)

授業方法: 講義、演習及びブレインストーミング。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	創薬理論科学概論 C17 (1) (2) (3)	
2.	低分子医薬品 C17 (1) (2) (3)	低分子医薬品の例を調べておく
3.	低分子医薬品 C17 (1) (2) (3)	低分子医薬品の例を調べておく
4.	微生物由来医薬品 C17 (1) (2) (3)	微生物由来医薬品の例を調べておく
5.	植物由来医薬品 C17 (1) (2) (3)	植物由来医薬品の例を調べておく
6.	半合成医薬品 C17 (1) (2) (3)	半合成医薬品の例を調べておく
7.	合成医薬品 C17 (1) (2) (3)	合成医薬品の例を調べておく
8.	医薬品構造の設計 C17 (1) (2) (3)	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: メール、口頭、面談

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
質疑応答を含む平常時試験	100%	６０点以上

教科書: プリントを配布する

参考書: トップドラッグから学ぶ創薬化学(有機合成化学協会編)
創薬化学—有機合成からのアプローチ(北　泰行、平岡　哲夫編、東京化学同人)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: 授業時及びオフィスアワー

711100 **ゲノム創薬特論**

桑原　　淳、根木　　滋、眞田　　法子

授業テーマ: ゲノムサイエンスと創薬科学の先端的理解

授業の概要: ポストゲノムの時代になり，ゲノムの制御機構は分化・発生とも関連して，従来よりもより複雑で高度であることが明らかに成りつつある．また，創薬科学の手法も構造生物学，bioinformaticsやin silico創薬の発達により，劇的に変化しつつあり，chemical genomics等の新しい学問分野も生まれつつある．本講義では最新のゲノム科学，ポストゲノムとしての蛋白質科学，シード探索を中心とした創薬科学，機能分子デザイン，健康・環境物質分子との関わり，レギュラトリーサイエンス等について，広範な視点からゲノム創薬を理解する．

到達目標: 歴史的な背景から最新の先端的事例まで、広範な視点から，ゲノムサイエンスや創薬科学を学ぶ．知識・理解：生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学・有機化学・生化学分野の基本的知識を身に付けている。（基礎的な科学力）

授業方法: オムニバス形式の講義（1～5，8：桑原，6：根木，7：眞田）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ゲノム創薬科学 1　ゲノム科学 – ゲノムの高次制御機構と創薬、抗癌医薬　–　C4 (1), C4 (3), C6 (2), C6 (4)	講義に関連する課題・文献を調査し，レポートとしてまとめる．
2.	ゲノム創薬科学 2　ゲノム科学 – 細胞核のダイナミクス　–　C6 (1)	講義に関連する課題・文献を調査し，レポートとしてまとめる．
3.	ゲノム創薬科学 3　ポストゲノムにおける転写因子 – Zinc finger etc.　– C6 (3)	講義に関連する課題・文献を調査し，レポートとしてまとめる．
4.	ゲノム創薬科学 4　先端的創薬手法 – Bioinformatics，in silico 創薬，Chemical genomics, etc.　– C4 (1), C4 (3)	講義に関連する課題・文献を調査し，レポートとしてまとめる．
5.	ゲノム創薬科学 5　ゲノムの初期化，ゲノム編集と再生医療 – C6 (4)	講義に関連する課題・文献を調査し，レポートとしてまとめる．
6.	ゲノム創薬科学 6　ポストゲノムにおける機能分子デザイン – 亜鉛フィンガー，ヘム，ペプチド　etc.	講義に関連する課題・文献を調査し，レポートとしてまとめる．
7.	ゲノム創薬科学 7　健康と環境に関わる小分子を通したゲノム調節 – アリル炭化水素受容体を中心に	講義に関連する課題・文献を調査し，レポートとしてまとめる．
8.	ゲノム創薬科学 8　総括	講義に関連する課題・文献を調査し，レポートとしてまとめる．

受講者へのメッセージやアドバイス: ゲノムサイエンスと創薬科学の先端的理解に向けての一歩にしてもらいたい．

フィードバックの方法: 各教員が講義後に復習として，レポート課題を課して提出させ，授業外での自主的な調査・分析並びに課題の解決能力の育成を促す．

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート又は，テスト	100	レポート又は，テストを基に総合的に評価する．

教科書: 特に指定しない．

参考書: 特に指定しない．

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法: オフィスアワー、E メールの利用、授業の前後に教室内で応対、等

711200

新薬開発特論

喜里山　暁子

授業テーマ:
新薬の研究開発に至る過程について学習するとともに、各分野の専門家をゲストに招き最新の情報にふれる。

授業の概要:
「医薬品をつくること」における「医薬品の開発と生産」および「製剤化のサイエンス」
医薬品開発と生産の流れ （C17(1)）
治験 （C17(4)）
DDS （C16(3)）
開発医薬品の体内動態の特徴づけ （C13(5)）

到達目標:
将来、医薬品開発と生産に参画できるようになるために、医薬品開発の各プロセスについて基本的知識を修得し、合わせてそれらを実施する上で求められる適切な態度を身につける。
1） 医薬品開発と生産の流れ：医薬品開発と生産の実際を理解するために、医薬品創製と製造の各プロセスに関する基本的知識を修得し、社会的重要性に目を向ける態度を身につける。
2） 治験：医薬品開発において治験がどのように行われるかを理解するために、治験に関する基本的知識とそれを実施する上で求められる適切な態度を身につける。
3） DDS：薬物治療の有効性、安全性、信頼性を高めるために、薬物の投与形態や薬物体内動態制御法などを工夫したDDSに対する基本的知識を修得する。
4） 開発医薬品の体内動態の特徴づけ：医薬品開発段階において、各化合物の留意すべき体内動態の特徴について考える。
以上の項目を通して、医療機関、製薬企業、医療行政などの幅広い薬学専門分野において、問題点や課題を自ら発見し、それらを解決していく視点を身に付けられるようにする。

授業方法:
製薬企業の専門家を招聘し(4コマ)、生の情報を伝えてもらう。
講義資料（レジメ）を配布し、パワーポイントを使う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 新薬の位置づけ：医薬品の種類(一般薬と医療用薬、新薬とジェネリック医薬品)、医薬品の市場、疾患とummetニーズ 医薬品の評価法(同等性試験)：同等性(BE) と生物学的利用率、吸収率を決める要素(溶解性と粘膜透過性)、ジェネリック医薬品の同等性試験	授業中に指示した内容をレポートにまとめて提出
2.	日本の医療政策を踏まえたジネリック医薬品の開発(仮) （ゲストスピーカー）	授業中に指示した内容をレポートにまとめて提出
3.	製薬会社における経口投与剤の処方設計(仮) （ゲストスピーカー）	授業中に指示した内容をレポートにまとめて提出
4.	ジェネリック医薬品開発における薬物動態学(仮) （ゲストスピーカー）	授業中に指示した内容をレポートにまとめて提出
5.	製薬会社における製剤、DDS研究開発(仮) （ゲストスピーカー）	授業中に指示した内容をレポートにまとめて提出
6.	医薬品開発における薬動力学的解析法 （PK/PD解析）	授業中に指示した内容をレポートにまとめて提出
7.	薬物の血中濃度のとらえ方と薬物動態学的パラメータの変動要因から見た薬物の特徴づけ 主な疾病における薬物動態変化の推定の考え方 薬物の投与設計に必要な関係式 到達目標：C17-(2)、C17-(3)	授業中に指示した内容をレポートにまとめて提出
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
レポートは授業中に指示した内容について作成し、次の講義で返却しますので、復習に利用してください。必要があれば講義で追加の説明を行います。

フィードバックの方法:
質問については、レポートに記載されていれば個別に答えるとともに、必要な場合には次の講義で受講者全員に解説する。マナビーを利用する予定である。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	15%	
レポート	35%	
期末試験	50%	総合成績が60点以上で合格

教科書:
授業プリント

参考書:
橘高敦史編 「ベーシック薬学教科書シリーズ6　創薬科学・医薬化学（薬学教育モデル・コアカリキュラム準拠）」（化学同人）
日本薬学会編 「スタンダード薬学シリーズ8　医薬品の開発と生産」（化学同人）
緒方宏泰編 「第3版　臨床薬物動態学ー薬物治療の適正化のためにー」（丸善出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:
質問等がある場合は、学内メール(akiriyam@dwc.doshisha.ac.jp)にて対応する。

711301～04 **模擬病院・薬局実習**

中西　弘和、阿南　節子、森田　邦彦、芝田　信人、杉浦　伸一、成橋　和正、根木
滋、山内　雄二、松元　加奈、羽森　真美、喜里山　暁子、西村　亜佐子、渡邉　愛未、光岡
千賀子、吉岡　ゆうこ

授業テーマ:　真の薬剤師としてはばたくために　～模擬実習～

授業の概要:　薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度を学び取らせる。すべての実習に出席することが必須である。

到達目標:　卒業後、チーム医療に参画できるようになるために、病院実務実習・薬局実務実習に先立って、すでに修得してきた基礎系科目ならびに実務・臨床系科目の内容を応用しつつ、調剤、製剤、服薬指導などの患者本位の視点に立った薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度の各項目、すなわち薬学モデルコアカリキュラムの薬学臨床Fの（2）・（3）・（5）の前）について実習および演習で修得する。

授業方法:　オリジナルな実習書と教科書に沿って実習を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	処方せんと疑義照会　代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相 互作用を列挙できる。処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。処方せん等に基づき疑義照会ができる。 F-(2)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
2.	処方せんと疑義照会　代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相 互作用を列挙できる。処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。処方せん等に基づき疑義照会ができる。 F-(2)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
3.	処方せんと疑義照会　代表的な疾患に使用される医薬品について効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相 互作用を列挙できる。処方せんの様式と必要記載事項、記載方法について説明できる。処方せんの監査の意義、その必要性と注意点について説明できる。処方せんを監査し、不適切な処方せんについて、その理由が説明できる。処方せん等に基づき疑義照会ができる。 F-(2)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
4.	処方せんに基づく医薬品の調製　薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。後発医薬品選択の手順を説明できる。無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。 F-(2)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
5.	処方せんに基づく医薬品の調製　薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。後発医薬品選択の手順を説明できる。無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。 F-(2)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
6.	処方せんに基づく医薬品の調製　薬袋、薬札（ラベル）に記載すべき事項を適切に記入できる。主な医薬品の成分（一般名）、商標名、剤形、規格等を列挙できる。処方せんに従って、計数・計量調剤ができる。後発医薬品選択の手順を説明できる。無菌操作の原理を説明し、基本的な無菌操作を実施できる。抗悪性腫瘍薬などの取扱いにおけるケミカルハザード回避の基本的手技を実施できる。処方せんに基づき調剤された薬剤の監査ができる。 F-(2)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
7.	患者・来局者応対、服薬指導、患者教育　適切な態度で、患者・来局者と応対できる。妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列 挙できる。患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、 副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保 管方法等について適切に説明できる。 F-(2)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。

8.	患者・来局者応対、服薬指導、患者教育　適切な態度で、患者・来局者と応対できる。妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列 挙できる。患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、 副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保 管方法等について適切に説明できる。 F-（2）	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
9.	患者・来局者応対、服薬指導、患者教育　適切な態度で、患者・来局者と応対できる。妊婦・授乳婦、小児、高齢者などへの応対や服薬指導において、配慮すべき事項を具体的に列 挙できる。患者・来局者から、必要な情報（症状、心理状態、既往歴、生活習慣、アレルギー歴、薬歴、 副作用歴等）を適切な手順で聞き取ることができる。患者・来局者に、主な医薬品の効能・効果、用法・用量、警告・禁忌、副作用、相互作用、保 管方法等について適切に説明できる。 F-(2)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
10.	患者・来局者応対、服薬指導、患者教育　代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い 方法を説明できる。薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。 F-(3)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
11.	患者・来局者応対、服薬指導、患者教育　代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い 方法を説明できる。薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。 F-(3)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
12.	患者・来局者応対、服薬指導、患者教育　代表的な疾患において注意すべき生活指導項目を列挙できる。患者・来局者に使用上の説明が必要な製剤（眼軟膏、坐剤、吸入剤、自己注射剤等）の取扱い 方法を説明できる。薬歴・診療録の基本的な記載事項とその意義・重要性について説明できる。代表的な疾患の症例についての患者応対の内容を適切に記録できる。 F-(3)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
13.	薬物療法の実践　身体所見の観察・測定（フィジカルアセスメント）の目的と得られた所見の薬学的管理への活 用について説明できる。薬物療法に必要な医薬品情報を収集・整理・加工できる。代表的な症候（頭痛・腹痛・発熱等）を示す来局者について、適切な情報収集と疾患の推測、 適切な対応の選択ができる。F-(3)・(5)	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
14.	総合実習（模擬病院・薬局実習 のまとめ）	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。
15.	総合実習（模擬病院・薬局実習 のまとめ）	実習書に従い、各項目をあらかじめ熟読して実習に臨み、知識・態度・技能を学ぶ。実習後には実習時の課題がスムースに出来るように繰り返し復習すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:
自己評価日誌は必要事項を実習開始までに記載して実習に臨むこと。
すべての実習に出席することが必須である。

フィードバックの方法:
実習時に各指導教員からコメント。
自己評価日誌やレポートは確認して実習時に返却。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート内容	20%	担当教員の評価基準による
毎回の実習に臨む態度	30%	担当教員の評価基準による
総合実習における知識・技能・態度の評価	50%	担当教員の評価基準による 無断欠席の場合単位は認められない

教科書:
本学オリジナルの「模擬病院・薬局実習」テキスト
治療薬マニアル2018年版または今日の治療薬2018年版解説と便覧のうちいずれか一方（すでに2016～2017年版を購入済みならばそれでも良い）。

参考書:
「薬学生のための病院・薬局実習の手引き」近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会監修、日本病院薬剤師会近畿ブロック／日本薬剤師会大阪・近畿ブロック編（じほう）
覚える 薬理作用別 クスリ 本学オリジナルテキスト

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:	各担当教員に連絡を取る。

711400

病院実務実習

杉浦　伸一、中西　弘和、阿南　節子、天ヶ瀬　葉子、上野　貴之、漆谷　徹郎、榎本　光伯、川崎　清史、川村　暢幸、菅野　陽介、木津　良一、喜里山　暁子、桑原　淳、小谷晶子、眞田　法子、芝田　信人、白井　隆一、髙鳥　悠記、髙橋　玲、土田　勝晴、中村憲夫、成橋　和正、西村　亜佐子、根木　滋、羽森　真美、藤井　健志、前川　京子、間下　雅士、松元　加奈、宮脇　あかり、村上　元庸、森田　邦彦、

授業テーマ:　真の薬剤師としてはばたくために　～実務実習～

授業の概要:　病院薬剤師業務の実体験を通じて、大学講義と実務医療の知識及び技術をつなげるとともに、医療に対する真摯な態度を修得する。

到達目標:　卒業後、薬剤師として医療に参画できるようになるために、過去4年間にわたる薬学教育で修得してきた基礎系科目ならびに実務・臨床系の講義および実習科目の内容を応用しつつ、調剤、製剤、服薬指導などの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度の各項目、すなわち実務実習モデルコアカリキュラムD2の実習および演習事項を修得する。また、チーム医療に参画するための薬剤師としての心構え、患者・生活者の心を理解できる患者・生活者本位の視点、病院・薬局・企業・教育・行政など薬学関連領域とのコミュニケーション能力を習得する

授業方法:　実務実習近畿地区調整機構によって割り当てられた実習病院施設に赴き、現地の指導薬剤師による指導のもとに実務実習を55日間にわたって遂行する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	◎患者の診療過程に同行し、その体験を通して診療システムを概説できる。 ◎病院内での患者情報の流れを図式化できる。 ◎病院に所属する医療スタッフの職種名を列挙し、その業務内容を相互に関連づけて説明できる。 ◎生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。 ◎医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。 ◎職務上知り得た情報について守秘義務を守る。 ◎薬剤部門を構成する各セクションの業務を体験し、その内容を相互に関連づけて説明できる。 ◎処方せん（外来、入院患者を含む）の受付から患者への医薬品交付、服薬指導に至るまでの流れを概説できる。 ◎病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。　実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
2.	◎処方せん（麻薬、注射剤を含む）の形式、種類および記載事項について説明できる。 ◎処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。 ◎代表的な処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。 ◎薬歴に基づき、処方内容が適正であるか判断できる。 ◎適切な疑義照会の実務を体験する。 ◎薬袋，薬札に記載すべき事項を列挙し、記入できる。	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
3.	◎処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。(技能) ◎錠剤、カプセル剤の計数調剤ができる。（技能） ◎調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。 ◎代表的な医薬品の剤形を列挙できる。 ◎代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。（技能） ◎医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 ◎代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 ◎異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
4.	◎毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤ができる。（技能） ◎一回量(一包化）調剤の必要性を判断し、実施できる。（知識・技能） ◎散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能） ◎調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的な取扱いができる。（技能） ◎細胞毒性のある医薬品の調剤について説明できる。 ◎特別な注意を要する医薬品（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能） ◎錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能） ◎調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。（技能）	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

5.	◎患者向けの説明文書の必要性を理解して、作成、交付できる。（知識・技能） ◎患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。 ◎自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。 ◎お薬受け渡し窓口において、薬剤の服用方法、保管方法および使用上の注意について適切に説明できる。 ◎期待する効果が充分に現れていないか、あるいは副作用が疑われる場合のお薬受け渡し窓口における適切な対処法について提案する。（知識・態度）	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
6.	◎注射剤調剤の流れを概説できる。 ◎注射処方せんの記載事項（医薬品名、分量、用法・用量など）が整っているか確認できる。（技能） ◎代表的な注射剤処方せんについて、処方内容が適正であるか判断できる。（技能） ◎適切な疑義照会の実務を体験する。（技能） ◎処方せんの記載に従って正しく注射剤の取りそろえができる。（知識・技能） ◎注射剤（高カロリー栄養輸液など）の混合操作を実施できる。（技能） ◎注射剤の配合変化に関して実施されている回避方法を列挙できる。 ◎毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの注射剤の調剤と適切な取扱いができる。（技能） ◎細胞毒性のある注射剤の調剤について説明できる。 ◎特別な注意を要する注射剤（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能） ◎調剤された注射剤に対して、正しい鑑査の実務を体験する。（技能）	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
7.	◎リスクマネージメントにおいて薬剤師が果たしている役割を説明できる。 ◎調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。 ◎商品名の綴り、発音あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。 ◎医薬品に関わる過失あるいは過誤について、適切な対処法を討議する。（態度） ◎インシデント、アクシデント報告の実例や、現場での体験をもとに、リスクマネージメントについて討議する。（態度） ◎職務上の過失、過誤を未然に防ぐための方策を提案できる。（態度） ◎実習中に生じた諸問題（調剤ミス、過誤、事故、クレームなど）を、当該機関で用いられるフォーマットに正しく記入できる。（技能）	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
8.	◎医薬品管理の流れを概説できる。 ◎医薬品の適正在庫の意義を説明できる。 ◎納品から使用までの医薬品の動きに係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。 ◎医薬品の品質に影響を与える因子と保存条件を説明できる。 ◎納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目を列挙できる。 ◎同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。 ◎院内における医薬品の供給方法について説明できる。 ◎請求のあった医薬品を取り揃えることができる。（技能）	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
9.	◎麻薬・向精神薬および覚せい剤原料の取扱いを体験する。（技能） ◎毒薬、劇薬を適切に取り扱うことができる。（技能） ◎血漿分画製剤の取扱いを体験する。（技能） ◎法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬、特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度） ◎医薬品の採用と使用中止の手続きを説明できる。 ◎代表的な同種・同効薬を列挙できる。	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

10.	◎医薬品情報源のなかで、当該病院で使用しているものの種類と特徴を説明できる。 ◎院内への医薬品情報提供の手段、方法を概説できる。 ◎緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法について説明できる。 ◎患者、医療スタッフへの情報提供における留意点を列挙できる。 ◎医薬品の基本的な情報を、文献、MR（医薬情報担当者）などの様々な情報源から収集できる。（技能） ◎DIニュースなどを作成するために、医薬品情報の評価、加工を体験する。（技能） ◎医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に、必要事項を記載できる。（知識・技能） ◎医療スタッフからの質問に対する適切な報告書の作成を体験する。（知識・技能） ◎医療スタッフのニーズに合った情報提供を体験する。（技能・態度） ◎患者のニーズに合った情報の収集、加工および提供を体験する。（技能・態度） ◎情報提供内容が適切か否かを追跡できる。（技能）	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
11.	◎病棟業務における薬剤師の業務（薬剤管理、与薬、リスクマネージメント、供給管理など）を概説できる。 ◎薬剤師の業務内容について、正確に記録をとり、報告することの目的を説明できる。 ◎病棟における薬剤の管理と取扱いを体験する。（知識・技能・態度） ◎医療スタッフが日常使っている専門用語を適切に使用できる。（技能） ◎病棟において医療チームの一員として他の医療スタッフとコミュニケートする。（技能・態度） ◎診療録、看護記録、重要な検査所見など、種々の情報源から必要な情報を収集できる。（技能） ◎報告に必要な要素（5W1H）に留意して、収集した情報を正確に記載できる（薬歴、服薬指導歴など）。（技能） ◎収集した情報ごとに誰に報告すべきか判断できる。（技能） ◎患者の診断名、病態から薬物治療方針を把握できる。（技能） ◎使用医薬品の使用上の注意と副作用を説明できる。 ◎臨床検査値の変化と使用医薬品の関連性を説明できる。	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
12.	◎医師の治療方針を理解したうえで、患者への適切な服薬指導を体験する。（技能・態度） ◎患者の薬に対する理解を確かめるための開放型質問方法を実施する。（技能・態度） ◎薬に関する患者の質問に分かり易く答える。（技能・態度） ◎患者との会話を通して、服薬状況を把握することができる。（知識・技能） ◎代表的な医薬品の効き目を、患者との会話や患者の様子から確かめることができる。（知識・技能） ◎代表的な医薬品の副作用を、患者との会話や患者の様子から気づくことができる。（知識・技能） ◎患者がリラックスし自らすすんで話ができるようなコミュニーケションを実施できる。（技能・態度） ◎患者に共感的態度で接する。（態度） ◎患者の薬物治療上の問題点をリストアップし、SOAPを作成できる。（技能） ◎期待する効果が現れていないか、あるいは不十分と思われる場合の対処法について提案する。（知識・技能） ◎副作用が疑われる場合の適切な対処法について提案する。（知識・態度）	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
13.	◎治療方針決定のプロセスおよびその実施における薬剤師の関わりを見学し、他の医療スタッフ、医療機関との連携の重要性を感じとる。（態度） ◎適正な薬物治療の実施について、他の医療スタッフと必要な意見を交換する。（態度） ◎院内製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。（軟膏、坐剤、散剤、液状製剤（消毒薬を含む）など）（技能） ◎無菌製剤の必要性を理解し、以下に例示する製剤のいずれかを調製できる。（点眼液、注射液など）（技能）	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

14.	◎実際の患者例に基づきTDMのデータを解析し、薬物治療の適正化について討議する。（技能・態度） ◎患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。（態度） ◎患者にとって薬に関する窓口である薬剤師の果たすべき役割を討議し、その重要性を感じとる。（態度） ◎患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を討議する。（態度） ◎生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。（態度） ◎医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。（態度） ◎職務上知り得た情報について守秘義務を守る。（態度）	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。
15.	実習のまとめ	実習に参加する前に、薬学生のための病院・薬局実務実習テキストを熟読し、臨床でよく使用される薬剤を調べる。また、実習施設の採用薬、内規などもできるだけ入手して実習までに頭に入れておく。実習中、実習終了後には実習中に学んだことを整理して必要事項を確実に把握できるよう学習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
実務医療の現場に学生として参加し患者さんに接することになるため、言葉遣いや身だしなみに注意するとともに自己の健康管理に注意する。

フィードバックの方法:
担当指導薬剤師からのメッセージおよび直接指導

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況及び態度	60%	指定された実習日数５５日を満たすことと、担当薬剤師の評価基準に従う
振り返りテスト	40%	満点で40%とする

教科書:
特には指定しない。必要に応じてプリント配布

参考書:
治療薬マニアル2017年版
覚える薬理作用別薬（本学オリジナルテキスト）
今日の治療薬2017年版解説と便覧など（いずれもすでに2016～2017年版を購入済みならばそれでも良い）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
各指導薬剤師の指示に従う

711500

薬局実務実習

芝田　信人、阿南　節子、天ヶ瀬　葉子、上野　貴之、漆谷　徹郎、榎本　光伯、川崎　清史、川村　暢幸、菅野　陽介、木津　良一、喜里山　暁子、桑原　淳、小谷　晶子、眞田　法子、白井　隆一、杉浦　伸一、髙鳥　悠記、髙橋　玲、土田　勝晴、中西　弘和、中村　憲夫、成橋　和正、西村　亜佐子、根木　滋、羽森　真美、藤井　健志、前川　京子、間下　雅士、松元　加奈、宮脇　あかり、村上　元庸、森田　邦彦、

授業テーマ:　地域の保険薬局において薬学を実践する

授業の概要:　配分された地域の保険薬局において以下の項目を中心に実習を行う

1）実務実習を始めるにあたっての態度を学ぶ
2）保険薬局での調剤業務の流れ
3）処方せんの受付
4）服薬指導の実践実習

到達目標:

1）実務実習を始めるにあたって
SBO 1 生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。
SBO 2 医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。
SBO 3 職務上知り得た情報について守秘義務を守る。
SBO 4 病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。
2）保険薬局での調剤業務の流れ
SBO 5 調剤業務全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。
SBO 6 保険薬局として指定される条件を、薬局の設備と関連付けて具体的に説明できる。
3）処方せんの受付
SBO 7 処方せん受付時の対応および注意事項について説明できる。
SBO 8 初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。
SBO 9 初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。
SBO10 処方せん受付け時の対応ができる。
4）服薬指導の実践実習
SBO11 患者に共感的態度で接する。
SBO12 患者との会話を通して、病態、服薬状況、服薬上の問題点などを把握できる。
SBO13 患者にわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。

授業方法:　病院・薬局実務実習近畿地区調整機構ならびに地方の地区調整機構によって配当された保険薬局において、11週間の実務実習を実施する。実務指導は、各保険薬局に勤務する実務経験が5年以上の指導薬剤師が行う。実習期間中には担当教員が現地を訪問し、実習項目の到達度をチェックすることにより形成的評価を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬局アイテムと管理（1）《薬局アイテムの流れ》（P101） P101-1薬局で取り扱うアイテムが医療の中で果たす役割について説明できる。 P101-2薬局で取り扱うアイテムの保健・衛生、生活の質の向上に果たす役割を説明できる。 P101-3薬局アイテムの流通機構に係わる人達の仕事を見学し、薬剤師業務と関連づけて説明できる。 《薬局製剤》（P102）（P-103） P102-1代表的な薬局製剤・漢方製剤について概説できる。 P103-1代表的な薬局製剤・漢方製剤を調製できる。	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
2.	薬局アイテムと管理（2）《薬局アイテムの管理と保存》（P104） P104-1医薬品の適正在庫とその意義を説明できる。 P104-2納入医薬品の検収を体験し、そのチェック項目（使用期限、ロットなど）を列挙できる。 P104-3薬局におけるアイテムの管理、配列の概要を把握し、実務を体験する。（知識・技能） 《特別な配慮を要する医薬品》P105 P105-1麻薬、向精神薬などの規制医薬品の取扱いについて説明できる。 P105-2毒物、劇物の取扱いについて説明できる。 P105-3法的な管理が義務付けられている医薬品（麻薬、向精神薬、劇薬、毒薬，特定生物由来製剤など）を挙げ、その保管方法を見学し、その意義について考察する。（態度）	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
3.	情報のアクセスと活用（1）《薬剤師の心構え》（P201） P201-1医療の担い手が守るべき倫理規範を遵守する。（態度） P201-2職務上知り得た情報について守秘義務を守る。（態度）	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

4.	情報のアクセスと活用（2）《情報の入手と加工》（P202、P203、P204、P205、P206、P207） P202-1医薬品の基本的な情報源（厚生労働省、日本製薬工業協会、製薬企業、日本薬剤師会、卸など）の種類と特徴を正しく理解し、適切に選択できる。（知識・技能） P-202-2　基本的な医薬品情報（警告、禁忌、効能、副作用、相互作用など）を収集できる。（技能） P203-1処方内容から得られる患者情報を的確に把握できる。（技能） P204-1薬歴簿から得られる患者情報を的確に把握できる。（技能） P205-1緊急安全性情報、不良品回収、製造中止などの緊急情報の取扱い方法を説明できる。 P206-1問い合わせに対し、根拠に基づいた論理的な報告書を作成できる。（知識・技能） P207-1医薬品・医療用具等安全性情報報告用紙に必要事項を記載できる。（知識・技能） 《情報の提供》（P-208、P-209、P-210） P208-1入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度） P209-1入手した患者情報を、必要に応じ、適正な手続きを経て他の医療従事者に提供できる。（技能・態度） P210-1患者および医薬品に関連する情報の授受と共有の重要性を感じとる。（態度）	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
5.	薬局調剤を実践する（1）《保険調剤業務の全体の流れ》（P301） P301-1保険調剤業務の全体の流れを理解し、処方せんの受付から調剤報酬の請求までの概要を説明できる。 P301-2保険薬局として認定される条件を、薬局の設備と関連づけて具体的に説明できる。 《処方せんの受付》（P-302、P-303、P-304、P-305、P-306、P-307、P-308） P302-1処方せん（麻薬を含む）の形式および記載事項について説明できる。 P302-2処方せん受付時の対応および注意事項（患者名の確認、患者の様子、処方せんの使用期限、記載不備、偽造処方せんへの注意など）について説明できる。 P302-3初来局患者への対応と初回質問表の利用について説明できる。 P303-1初来局および再来局患者から収集すべき情報の内容について説明できる。 P304-1処方せん受付時の対応ができる。（技能・態度） P304-2生命に関わる職種であることを自覚し、ふさわしい態度で行動する。（態度） P304-3患者が自らすすんで話ができるように工夫する。（技能・態度） P304-4患者との会話などを通じて、服薬上の問題点（服薬状況、副作用の発現など）を把握できる。（技能） 《処方せんの鑑査と疑義照会》（P-305、P-306、P-307、P-308） P305-1処方せんが正しく記載されていることを確認できる。（技能） P305-2処方せんに記載された処方薬の妥当性を、医薬品名、分量、用法、用量、薬物相互作用などの知識に基づいて判断できる。（知識・技能） P306-1薬歴簿を参照して処方内容の妥当性を判断できる。（知識・技能） P307-1疑義照会の行い方を身につける。（知識・態度） P308-1疑義照会事例を通して、医療機関との連携、患者への対応をシミュレートする。（技能・態度）	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

6.	薬局調剤を実践する（2）《計数・計量調剤》（P309、P310、P311、P312、P313、P314） P309-1薬袋、薬札に記載すべき事項を列挙できる。 P310-1処方せんの記載に従って正しく医薬品の取りそろえができる。（技能） P310-2錠剤、カプセル剤などの計数調剤ができる。（技能） P310-3代表的な医薬品の剤形を列挙できる。 P310-4医薬品の識別に色、形などの外観が重要であることを、具体例を挙げて説明できる。 P310-5代表的な医薬品の商品名と一般名を対比できる。 P310-6同一商品名の医薬品に異なった規格があるものについて具体例を列挙できる。 P310-7異なる商品名で、同一有効成分を含む代表的な医薬品を列挙できる。 P310-8代表的な同種・同効薬を列挙できる。 P310-9代表的な医薬品を色・形、識別コードから識別できる。（技能） P311-1一回量（一包化）調剤を必要とするケースについて説明できる。 P311-2一回量（一包化）調剤を実施できる。（技能） P312-1錠剤の粉砕、およびカプセル剤の開封の可否を判断し、実施できる。（知識・技能） P313-1散剤、液剤などの計量調剤ができる。（技能） P313-2調剤機器（秤量器、分包機など）の基本的取扱いができる。（技能） P314-1毒薬・劇薬、麻薬、向精神薬などの調剤と取扱いができる。（技能） P314-2特別な注意を要する医薬品（抗悪性腫瘍薬など）の取扱いを体験する。（技能 ）	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
7.	薬局調剤を実践する（3）《計数・計量調剤の鑑査》（P315） P315-1調剤された医薬品に対して、鑑査の実務を体験する。（技能）	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
8.	薬局調剤を実践する（4）《服薬指導の基礎》（P316、P317、P318、P319、P320） P316-1適切な服薬指導を行うために、患者から集める情報と伝える情報を予め把握できる。（知識・技能） P317-1薬歴管理の意義と重要性を説明できる。 P317-2薬歴簿の記載事項を列挙し、記入できる。（知識・技能） P317-3薬歴簿の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。 P318-1妊婦、小児、高齢者などへの服薬指導において、配慮すべき事項を列挙できる。 P319-1患者に使用上の説明が必要な眼軟膏、坐剤、吸入剤などの取扱い方を説明できる。（技能） P320-1自己注射が承認されている代表的な医薬品を調剤し、その取扱い方を説明できる。	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
9.	薬局調剤を実践する（5）《服薬指導入門実習》（P321） P321-1指示通りに医薬品を使用するように適切な指導ができる。（技能） P321-2薬歴簿を活用した服薬指導ができる。（技能） P321-3患者向けの説明文書を使用した服薬指導ができる。（技能） P321-4お薬手帳、健康手帳を使用した服薬指導ができる。（技能） 《服薬指導実践実習》（P322） P322-1患者に共感的態度で接する。（態度） P322-2患者との会話を通じて病態、服薬状況（コンプライアンス）、服薬上の問題点などを把握できる。（技能） P322-3患者が必要とする情報を的確に把握し、適切に回答できる。（技能・態度） P322-4患者との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集し、必要に応じて対処法を提案する。（技能・態度） P322-5入手した情報を評価し、患者に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度）	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

10.	薬局調剤を実践する（6）《調剤録と処方せんの保管・管理》（P323、P324、P325） P323-1調剤録の法的規制について説明できる。 P323-2調剤録への記入事項について説明できる。 P323-3調剤録の保管、管理の方法、期間などについて説明できる。 P324-1調剤後の処方せんへの記入事項について説明できる。 P325-1処方せんの保管、管理の方法、期間などについて説明できる。 《調剤報酬》（P326、P327） P326-1調剤報酬を算定し、調剤報酬明細書（レセプト）を作成できる。（技能） P327-1薬剤師の技術評価の対象について説明できる。 《安全対策》（P328、P329、P330、P331、P332、P333） P328-1代表的な医療事故訴訟あるいは調剤過誤事例について調査し、その原因について指導薬剤師と話し合う。（知識・態度） P329-1名称あるいは外観が類似した代表的な医薬品を列挙できる。 P330-1特にリスクの高い代表的な医薬品（抗悪性腫瘍薬、抗糖尿病薬など）を列挙できる。 P331-1調剤過誤を防止するために、実際に工夫されている事項を列挙できる。 P332-1調剤中に過誤が起こりやすいポイントについて討議する。（態度） P332-2過誤が生じたときの対応策を討議する。（態度） P333-1インシデント、アクシデント報告の記載方法を説明できる。	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
11.	薬局カウンターで学ぶ（1）《患者・顧客との接遇》（P401、P402、P403） P401-1かかりつけ薬局・薬剤師の役割について指導薬剤師と話し合う。（態度） P401-2患者、顧客に対して適切な態度で接する。（態度） P402-1疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。（技能・態度） P403-1医師への受診勧告を適切に行うことができる。（技能・態度） 《一般用医薬品・医療用具・健康食品》（P404、P405） P404-1セルフメディケーションのための一般用医薬品、医療用具、健康食品などを適切に選択・供給できる。（技能） P405-1顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること。
12.	薬局カウンターで学ぶ（2）《カウンター実習》顧客対応実習：（P406） P406-1顧客が自らすすんで話ができるように工夫する。（技能・態度） P406-2顧客が必要とする情報を的確に把握する。（技能・態度） P406-3顧客との会話を通じて使用薬の効き目、副作用に関する情報を収集できる。（技能・態度） P406-4入手した情報を評価し、顧客に対してわかりやすい言葉、表現で適切に説明できる。（技能・態度） 《カウンター実習》健康管理実習：（P407） P407-1疾病の予防および健康管理についてアドバイスできる。（技能・態度） P407-2セルフメディケーションのための一般用医薬品・医療用具などを適切に選択・供給できる。（技能） P407-3医師への受診勧告を適切に行うことができる。（技能・態度） P407-4患者・顧客からモニタリングによって得た副作用および相互作用情報への対応策について説明できる。	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

13.	地域で活躍する薬剤師（1）《在宅医療》(P501、P502) P501-1訪問薬剤管理指導業務について説明できる。 P501-2在宅医療における医療廃棄物の取り扱いについて説明できる。 P502-1薬剤師が在宅医療に関わることの意義を指導薬剤師と話し合う。(態度) 《地域医療・地域福祉》(P503、P504、P505) P503-1病院薬剤師と薬局薬剤師の連携の重要性を説明できる。 P504-1当該地域における休日、夜間診療と薬剤師の役割を説明できる。 P505-1当該地域での居宅介護、介護支援専門員などの医療福祉活動の状況を把握できる。(知識・技能) 《災害時医療と薬剤師》(P506、P507) P506-1緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。 P507-1緊急災害時における、当該薬局および薬剤師の役割について説明できる。	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
14.	地域で活躍する薬剤師（2）《地域保健》(P508、P509、P510、P511、P512、P513、P514、P515) P508-1学校薬剤師の職務を見聞し、その役割を説明できる。 P509-1地域住民に対する医薬品の適正使用の啓発活動における薬剤師の役割を説明できる。 P510-1麻薬・覚せい剤等薬物乱用防止運動における薬剤師の役割について説明できる。 P511-1日用品に係る薬剤師の役割について説明できる。 P511-2日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。 P512-1誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスできる。(知識・技能) P513-1生活環境における消毒の概念について説明できる。 P514-1話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。 《地域対応実習》(P515) P515-1日用品に含まれる化学物質の危険性を列挙し、わかりやすく説明できる。 P515-2誤飲、誤食による中毒および食中毒に対して適切なアドバイスができる。(知識・技能) P515-3生活環境における消毒の概念について説明できる。 P515-4話題性のある薬物および健康問題について、科学的にわかりやすく説明できる。	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること
15.	薬局業務を総合的に学ぶ《総合実習》(P601、P602) P601-1薬局業務を総合的に実践する P602-1患者の健康の回復と維持に薬剤師が積極的に貢献することの重要性を感じとる。(態度) P602-2薬が病気の治癒、進行防止を通して、病気の予後とQOLの改善に貢献していることを感じとる。(態度)	実務実習事前学習、模擬病院薬局実習及び関連授業で学習した資料等を閉じたポートフォリオにより復習をして実習に望むこと 予め病院・薬局実務実習近畿地区調整機構より配布される実習書をよく読んでおくこと。また、別途配布される薬学実務関連の問題集を解答することにより、実務関連の学習効果の確認をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:

社会人としてのマナーや節度をもって実習に望むこと

フィードバックの方法:

実習期間中の出席点を60%とし、残りの40%については、実習期間中における毎日の実習日誌、週単位の実習日誌および保険薬局の指導薬剤師が評価する実習態度を参考にして評価を行う(100点満点)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	60%	指定された実習日数55日を満たすこと
実習状況および態度	40%	指導薬剤師、担当教員の形勢評価を基準とする

教科書:

特に指定しない。近畿地区調整機構編集の実務実習書、実務実習に関するワークおよび薬学基礎に関するワークを配布する。

参考書:

今日の治療薬(南江堂)、治療薬マニュアル(医学書院)
ビジュアル薬剤師実務シリーズ上、下巻　上村直樹編集(羊土社)
薬学生・薬剤師のための知っておきたい医薬品600　日本薬学会編(じほう)
服薬指導・看護に役立つ(よくわかる)治療薬ブック(照林社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

実習先でトラブルがあった場合は、担当教員、あるいは科目代表者(芝田信人、nshibata@dwc.doshisha.ac.jp)まで連絡すること

712800

基礎数学

芝田　　信人

授業テーマ:　数学の基礎力を磨き、薬学に必要な数学的な考え方につなげる

授業の概要:　薬学専門科目を学ぶために必要とされる数学的な基礎力を養うことを目的とする。具体的には，将来、電子軌道、化学反応速度論、薬物体内動態を学ぶ準備として，数学を道具として用いる方法の習得と数学的思考力の向上を目指す。
内容は，高等学校の数学II，数学IIIで学習する微分法，積分法，さらにそれらを基礎とした常微分方程式論が中心である。数学的な厳密性を追求することよりも，数学を薬学の道具として使うことに重点をおく。また化学反応を数理的に捉えることによって，自然科学における数学の役割を理解することも目標の一つである。この内容は、薬学新コアカリキュラムの薬学準備教育（7）薬学基礎としての数学・統計学に準拠する

到達目標:
1. 単位と有効数字の意味を理解し、薬学の計算に応用できる
2. 薬学に必要な指数関数・対数関数の取り扱いができる
3. 微分・積分の基本事項を理解し、それらを用いた薬学計算ができる
4. 調剤に必要な濃度計算ができる
5. 薬学関連のグラフの正しい取り扱いができる

授業方法:　出席は毎回取る。授業は指定するテキストに従って行う。授業中に理解力確認のための小テストを数回行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	数と式 ①単位と文字式 ②様々な方程式 ・凝固点効果度 ・ファンデルワールスの状態方程式 ・平衡定数	講義の前に、①、②について関連する部分を予習すること
2.	確率 ①条件付確率 ②反復試行の確率 ・マンモグラフィーによる癌の発見 。副作用の発現率	講義の前に、①、②について関連する部分を予習すること
3.	三角関数 ①三角関数の定義 ・計算演習 ・三平方（ピタゴラスの定理 ・ブラッグの法則	講義の前に、①について関連する部分を予習すること
4.	指数と累乗根 ①指数の計算 ②累積根の計算 ・計算演習	講義の前に、①、②について関連する部分を予習すること
5.	対数 ①対数計算の規則 ②指数と対数 ・計算演習 ・水素イオン指数 ・放射性同位元素の放射能	講義の前に、①、②について関連する部分を予習すること
6.	グラフ ①1次間数のグラフ ②指数関数と片対数グラフ ③逆数プロット ・薬品の分解反応 ・アレニウスプロット	講義の前に、①～③について関連する部分を予習すること
7.	単位 ①物理量 ②SI単位 ③物理量をあらわす記号と単位 ④SI接頭語 ⑤SI組立単位 ⑥固有名称と記号を持つSI組立単位 ⑦非SI単位 ⑧無次元の物理量 ⑨単位の変換	講義の前に、①～⑨について関連する部分を予習すること
8.	計量 ①誤差 ②有効数字 ③測定値を用いる計算 ④質量と物質量 ⑤濃度 ⑥希釈 ⑦密度	講義の前に、①～⑤について関連する部分を予習すること
9.	微分・積分（1） ①微分・積分の感覚 ②平均変化率 ③極限 ④傾きと導関数	講義の前に、①～⑨について関連する部分を予習すること
10.	微分・積分（2） ①積や商の微分 ②合成関数の微分 ③指数関数および対数関数の微分 ・計算問題	講義の前に、①～③について関連する部分を予習すること
11.	微分・積分（3） ①三角関数の微分 ②高次関数の微分 ③偏微分 ・計算問題	講義の前に、①～③について関連する部分を予習すること

12.	微分・積分（4） ①不定積分 ②定積分 ・計算問題	講義の前に、①、②について関連する部分を予習復習すること
13.	微分方程式 ①　医薬品の分解 ・　0次反応 ・　1次反応 ・　2次反応	講義の前に、①について関連する部分を復習すること
14.	微分方程式の応用 ・　複合反応 ・　シュレディンガー方程式	微分・積分の計算方法を総合的に復習すること
15.	まとめ	14週目までの講義の総まとめを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:

高校で習った数学Ⅰ、Ⅱ、（Ⅲ）を復習しておくこと。数学Ⅲを履修していなくても心配はない。

フィードバックの方法:

講義で、またはマナビーで練習問題等の解説を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	50%	出席状況、小テストの得点、よび期末試験の得点をもとに、100点満点（出席および小テスト30%、課題レポート20%、期末試験50%）で評価し、60点以上を合格とする。
出席状況及び小テスト	30%	講義期間中3回行う。試験を行う日程は講義中に指示する。
課題レポート	20%	微分・積分に関する演習問題を3回レポート提出するする。 上記評価基準により不合格となった場合には、追加レポートを課す。

教科書:

特に使用しないが、基礎数学講義ノートを配布する。また、必要ならばプリントを配布する。

参考書:

高校で使用した数学の教科書や参考書
理系なら知っておきたい数学の基本ノート（微分積分編）佐々木隆宏　中経出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:

講義に関する質問等は、下記のメルアドまで
nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

712900

基礎化学

山内　　雄二

授業テーマ:　薬学専門化学の基礎を学ぶ

授業の概要:　薬学教育モデル・コアカリキュラム「C薬学基礎」及び「薬学準備教育ガイドライン」を中心に、薬学部での専門科目学習において重要な化学系各講義を理解するための化学的基礎学力および知識の修得を目指す。高校化学の復習・補完および有機化学、生命物理化学、医薬品分析化学など薬学専門化学系科目の導入知識の修得を目指す。

到達目標:
原子の構造と化学結合についての化学的基礎知識を修得する。
化学結合論に基づいた代表的な有機化合物の立体構造の推察力及び表現力を獲得する。
有機化合物の構造と命名法の理解と代表的な有機化合物の命名能力を獲得する。
化学平衡論や化学反応論の知識の修得及びそれらに基づいた化学量論的計算力を獲得する。

授業方法:
講義。
板書を中心に講義を行い、必要に応じてPower Point等の視覚教材を用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	原子の基本構造、原子と元素、原子の電子配置 準備(5)①-1,2,3	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
2.	原子の電子軌道、電子軌道と元素の化学的性質、電子のエネルギーと原子の安定性 準備(5)①-4,5　C1(1)①-1,2	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
3.	化学結合と分子の構造、化学結合の分類、共有結合と分子軌道法、共有結合と混成軌道 準備(5)②-1,2,3　C1(1)①-1,2	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
4.	混成軌道と化合物の立体構造（1） C1(1)①-2,3	講義内容の復習および自己演習
5.	混成軌道と化合物の立体構造（2） C1(1)①-2,3	講義内容の復習および自己演習
6.	分子間力、極性と双極子モーメント、極性と電気陰性度、水素結合とファンデルワールス力 準備(5)②-1,2,3　C1(1)②-1,2,3,4,5,6,7	講義内容の復習および自己演習
7.	有機化合物の定義、分類、構造、命名法（1） 準備(5)②-5　C3(1)①-1,2,3,4　C3(1)②-1,2,3,4,5,6　C3(3)①-1	高校化学の教科書の復習、講義内容の復習および自己演習
8.	有機化合物の定義、分類、構造、命名法（2） 準備(5)②-5　C3(1)①-1,2,3,4　C3(1)②-1,2,3,4,5,6　C3(3)①-1	講義内容の復習および自己演習
9.	有機化合物の定義、分類、構造、命名法（3） 準備(5)②-5　C3(1)①-1,2,3,4　C3(1)②-1,2,3,4,5,6　C3(3)①-1	講義内容の復習および自己演習
10.	分子の溶解と溶液、溶解度、溶液の濃度、溶液の性質（1） 準備(5)③-1,2,3　準備(5)④-1　C1(2)⑥-1	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
11.	分子の溶解と溶液、溶解度、溶液の濃度、溶液の性質（2） 準備(5)③-1,2,3　準備(5)④-1　C1(2)⑥-1	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
12.	酸と塩基の定義、酸と塩基の強さ、濃度と電離度 準備(5)③-4、C2(2)①-1,2	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
13.	可逆反応と化学平衡、化学平衡の移動、反応速度、無機化学 準備(5)③-1,2,3,4,5　C1(3)①-1,2,3,4,5,6,7	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
14.	水のイオン積とpH、中和と塩の加水分解、緩衝液、塩の溶解平衡 準備(5)③-4　C2(2)①-1,2,4	高校化学の教科書の復習および指定教科書の予習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
講義での学習内容は、高校化学の復習に基づく化学的基礎知識を60%、薬学専門化学系科目の導入知識を40%に設定している。1年次秋学期以降に受講する薬学専門化学系科目の準備として、本講義の学習内容はほぼ完全に理解・修得することが望ましい。

フィードバックの方法:
平常時試験の結果や解説を講義中に実施する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時試験	45%	化学的基礎知識の修得度及び理解度により評価する。 化学結合論に基づいた有機化合物の立体構造の推察及び表現できるかを評価の基準とする。
定期試験	45%	有機化合物の構造と命名法の理解度及び命名能力を評価の基準とする。 化学平衡論や化学反応論の知識の修得度及び理解度により評価する。 化学平衡論や化学反応論に基づいた化学量論的計算力を評価の基準とする。
授業への参加度	10%	出席度を評価の基準とする。

教科書:　新編基礎化学（金原　粲監修、実教出版）

参考書:　高校の化学基礎、化学の教科書及び副教材（化学図説など）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:
オフィスアワーおよび講義の前後に対応する。

713000

基礎生物学

小谷　　晶子

授業テーマ:　薬学生物へのいざない

授業の概要:　本講義では、薬学専門科目に直結する「生物学」のうち、からだの構成成分とエネルギー代謝、遺伝子、からだの各器官のはらたき、生体防御へと解説し、「薬」との関連性についても概説する。

到達目標:　生物系薬学専門科目を理解する上で必要不可欠な知識を習得し、興味を持って学修する姿勢を身につけることを目標とする。

授業方法:　指定した教科書、オリジナル教材、プリント等を用いた講義を中心とする。随時、小テストやレポートを課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	細胞の構造と機能 C6-(1)-①～③など	教科書【第１章　細胞の構造と働き】(p.1～p.15)を予習しておくこと。
2.	生体をつくる物質 C6-(2)-①～⑧、C6-(3)-①～④、C6-(5)-①～⑤	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
3.	代謝と栄養 1 C6-(2)-①～⑧、C6-(3)-①～④、C6-(5)-①～⑤	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
4.	代謝と栄養 2 C6-(2)-①～⑧、C6-(3)-①～④、C6-(5)-①～⑤	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
5.	遺伝子―DNAからタンパク質へ 1 C6-(3)-①～②、C6-(4)-①～⑥、C6-(7)-①～③、C7-(1)-①	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
6.	遺伝子―DNAからタンパク質へ 2 C6-(3)-①～②、C6-(4)-①～⑥、C6-(7)-①～③、C7-(1)-①	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
7.	脳と神経 1 C6-(6)-①～③、C7-(1)-④、C7-(2)-①	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
8.	脳と神経 2 C6-(6)-①～③、C7-(1)-④、C7-(2)-①	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
9.	組織と器官 1 C7-(1)-②～⑭、C7-(2)-②～⑩	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
10.	組織と器官 2 C7-(1)-②～⑭、C7-(2)-②～⑩	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
11.	組織と器官 3 C7-(1)-②～⑭、C7-(2)-②～⑩	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
12.	組織と器官 4 C7-(1)-②～⑭、C7-(2)-②～⑩	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
13.	免疫のしくみ 1 C8-(1)-①～③、C8-(2)-①～②	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
14.	免疫のしくみ 2 C8-(1)-①～③、C8-(2)-①～②	前回の講義終了時に、次回の講義範囲に関する参考資料を提示するので、予習をしておくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

薬学部は、医療の直接的担い手としての薬剤師、創薬・育薬に携わる研究者、臨床研究開発部門や医薬情報担当者、また、衛生科学や社会薬学などの分野に関わる人材などを育成する役割を負っています。また、薬学部を卒業する者には、国民の健康を支える医療人として、生命の尊厳を基盤とし、人類の健康と福祉に貢献することが広く社会から求められます。

このような社会的責務を負う薬学部において、「生物系」の知識は、機能形態学、生化学、分子生物学、免疫学、微生物学などの、すべての学問の基盤となるものに始まり、薬理学、薬物動態学、病態生化学、病理学、衛生薬学などの専門的な学問の礎となります。また、生物系のみならず、たとえば、有機化学における医薬品の構造活性相関や物理化学Ⅱおける酵素の立体構造と反応性など、多種多様な学問へと繋がります。

周知のとおり「生物系」の学問は日進月歩であり、バイオテクノロジー、新薬開発、がん研究などの新たな知見が毎日のようにトピックスとして取り上げられています。また、新たな感染症やアレルギー、生活習慣病、環境汚染などの諸問題についても、ニュースなどで大きくクローズアップされています。

薬学部では「生物系」の学問は必要不可欠なものであり、その重要性は日々大きくなるばかりです。もちろん、医療の現場においても、「生物系」の知識を駆使して問題解決にあたる必要があります。また、薬剤師としての資質を問うべき薬剤師国家試験でも、問題解決能力を問う意味で「生物系」の知識が深く問われます。

ところが、皆さんは高校で生物をどこまで履修し、理解したでしょうか。もしかすると生物そのものを高校で全く履修していない人もいることでしょう。そんな人が、大学の講義でいきなり「生物系」科目の細かく専門的な内容や難解な用語に出会うと、最初からつまずいてしまい、学問への興味を失ってしまうことになりかねません。

高校の「生物」のうち、ほとんどが薬学部での学問に直結するといっても過言ではありません。本講座「基礎生物学」では薬学専門科目につながる範囲に焦点を絞り、からだの構成成分とエネルギー代謝、遺伝子、からだの各器官のはらたき、生体防御へと分かりやすく解説します。

生命の営みは、実に精巧にできた壮大なストーリーです。そして、生物系の学問は決して「暗記科目」ではありません。ストーリーを理解できれば、おのずとその内容が記憶として定着します。生命のロマンを楽しみながら、好奇心をもって学修にとりくんでいきましょう。

フィードバックの方法:　授業の最後に、アンケート・ポートフォリオを作成し、達成度や疑問点を明らかにする。
次回の講義時等、随時回答・解説する。
その他、種々の手法を用いる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	「基礎生物学」全般の理解度を問う
小テスト・レポート	20%	各テーマの理解度を問う

教科書:　高野行夫、岩崎克典編、薬学を学ぶためのやさしい生物学、南江堂
「覚える　薬理作用別　クスリ」

参考書:	竹内昭博、新生理学、日本医事新報社 小野廣紀子、内藤通孝、わかる生物学 知っておきたいヒトのからだの基礎知識、化学同人 田村隆明、大学1年生のなっとく！生物学、講談社 日本薬学会編、薬学の基礎としての生物学、東京化学同人 山川 喜輝、理系なら知っておきたい生物の基本ノート[生化学・分子生物学編]、Kadokawa 辻　勉・入村達郎、薬学生のための基礎シリーズ　基礎生命科学、培風館
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で対応、オフィスアワー（総合薬学教育研究室、憩水館6階 W611、随時）も積極的に活用してください。

713100

生物統計学

藤井　　健志

授業テーマ:　薬物の効果を客観的に評価するにはどうすればよいのかを知ろう。

授業の概要:　統計学は、確率の計算が基本であるために、微積分を基本とする数式ありきで学ぶことが当然のこととされているために難解なものと受け取られがちです。しかしながら、研究データや医療現場で用いられるデータで用いられる統計学は、けっして難解なものではなく、分かってしまえばとても簡単です。一方で、確率の計算は、所詮偶然と受け取られることも多く、客観的にどのように判定すべきなのかを知っていることは大切です。授業では、統計学に対する世界観が変わるようにしたいと思います。将来、治験コーディネータや医薬品開発業務に携わりたいと考える方には必須の知識です。できる限り具体的な状況（臨床データ）を想定しながら、将来必ず役に立つ統計解析の手法を身につけることができる授業にしたいと思っています。

到達目標:
1. 基本統計量とは何かを説明でき、実際に計算することができる（知識・技能）。
2. 統計学的な有意差とはどのようなことかを説明でき、実際に計算することができる（知識・技能）。
3. 仮説検定と推定の違いについて説明できる（知識）。
4. t検定について説明でき、実際に計算することができる（知識・技能）。
5. 分散分析法および多重比較法について説明できる（知識）。
6. χ2検定について説明できる（知識）。
7. 相関係数について説明できる（知識）。
8. 一次回帰分析法について説明できる（知識）。
9. 生存時間解析法について説明でき、実際にグラフを読み取ることができる（知識・技能）。
10. ジェネリック医薬品が製造承認を得るのに必要な要件について説明できる（知識）。
11. 多変量解析法について説明できる（知識）。
12. Evidence Based Medicine（証拠のある医療）について説明できる（知識）。
13. 第1種の過誤と第2種の過誤について説明できる（知識）。

授業方法:
1. プリテストによる予習状況の確認（5分）
2. パワーポイントによる講義（75分）
3. ポストテスト（口頭試問またはミニテスト）による理解度の確認（10分）クリッカーを使用する場合もある。

毎回の授業における疑問・質問を随時受け付けているので、プリテスト用紙に積極的に記入するように心がけること。なお、プリテストは予備知識の確認あるいは準備状況を確認するために実施している。成績評価や出席管理のために実施しているわけではない。したがって、他人に成りすまして提出されたプリテストが発見された場合、実施が取りやめられることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬学の世界における統計学：統計解析の必要性とは A(2)	医療の世界における統計学について概略を調べておくこと。
2.	データをどうあらわすのが良いのか：基本統計量とは E3(1)-5-1	基本統計量についてあらかじめ調べておくこと。
3.	薬物の効果があるとはどういうこと：有意とは E3(1)-5-2	統計学における有意差とはどのようなことかあらかじめ調べておくこと。
4.	薬物の効果の評価には、はやり、すたりがあるよ：仮説検定と推定とは E3(1)-5-2,5	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。
5.	実際に2群の比較をしてみよう：t-検定とは E3(1)-5-2,3,5	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。
6.	実際に3群以上の比較をしてみよう：多重比較とは（分散分析とポストテスト）E3(1)-5-5	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。
7.	時間経過はどう評価するかな：繰り返しありの場合の分散分析とは E3(1)-5-5	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。
8.	薬効の確率的な評価：χ2検定とは D1(1)-3, E3(1)-5-4	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。
9.	関連の強さはどう考えるのか：相関係数とは E3(1)-5-6	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。
10.	医薬品の命への影響をどう評価するか：生存時間解析とは E3(1)-5-7	教科書の該当箇所をあらかじめ読んでおくこと。
11.	ジェネリック医薬品の評価ってどうしているの：同等性の解析とは E3(1)-4, E3(1)-6	ジェネリック医薬品についてあらかじめ調べておくこと。
12.	臨床検査データを同時に解析するにはどうするのか：多変量解析とは E3(1)-4	多変量解析について事前に調べておくこと。
13.	誤るとはどういうことか：第一種の過誤と第二種の過誤とは E3(1)-5	2つの過誤についてあらかじめ調べておくこと。
14.	統計計算の実際：Excel他ソフトウェアの利用法とは E3(1)-5-5, E3(1)-6、質疑応答	第13回までの授業内容について各自疑問点を明らかにし、質問を準備しておくこと。
15.	まとめ	学習した内容の全体を振り返っておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業で、予習状況もしくは予備知識に関するプリテストを実施するので、教科書の指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。また、自主的に様々な資料（下記の参考文献はその一例）にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。指定された教科書1冊だけで学習するのではなく、疑問を感じたら様々な資料にあたって問題解決を図ること。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。なお、追加の指示がある場合はマナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。できるだけ多数の書籍を読んでほしいが、下記の参考文献がわかりやすい。授業中にも随時紹介する。

フィードバックの方法:　前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。定期試験の問題および解答はマナビーにアップロードするので、各自自己採点し不明の点は必ず質問すること（メール可）。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
多肢選択式の定期試験	100%	定期試験（多肢選択式により40問を出題）に対する妥当な正答率（最低合格基準：Minimum Pass Level）により合格を判定する。最低合格基準は第14回目の授業の授業の際、もしくはマナビーにて試験実施前に公表する。なお、最低合格基準は目標達成度の60%を超えない範囲で設定され、この基準を満たした場合に単位が認定される。中間試験は行わない。出席点はない。

教科書:　竹内正弘監訳、ハーバード大学講義テキスト生物統計学入門、丸善

参考書:	浜田知久馬著、学会・論文発表のための統計学—統計パッケージを誤用しないために、真興交易医書出版部 足立堅一著、統計学超入門、篠原出版新社 足立堅一監訳、EBM実践のための統計学的Q＆A、篠原出版新社 野村英樹・松倉知晴著、本当はやさしい臨床統計、中山書店
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力
教員との連絡方法:	オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室（憩水館6階W602）まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール（tfujii@dwc.doshisha.ac.jp）にて事前に連絡する方が望ましい。

713200

基礎物理化学

根木　　滋

授業テーマ:
薬学専門科目である物理化学の導入編であり、薬学関連の物理化学の基礎的内容に関する興味および理解を深める。

授業の概要:
薬学は「薬物」を扱う学問である。薬物が物質である以上、「物理化学」の習得を抜きにしては、種々の薬学専門領域の理解が中途半端なものになる。本講義では高校物理および化学の内容を復習しながら、大学で学ぶ物理化学の基礎となる土台を築くことを目標とする。

到達目標:
物理および物理化学の重要項目の内容について講義および演習を通して理解を深め、アドバンスな薬学専門分野に対応できる基礎学力を身に着ける。

授業方法:
基本的には、授業はパワーポイントおよびプリントを利用する。講義内容の理解を深める目的で毎回小テストを実施する。また、授業内容によってはレポートを課す場合がある。教科書は適宜利用する。また、「薬学生のための計算実践トレーニング帳」の中かから宿題をだし、この部分に関しても適宜確認テストを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	物理化学で使う基礎数学: 薬学で用いる指数、対数、微分・積分の基礎計算、濃度計算、物質量の概	薬学生のための計算実践トレーニング帳　のSCENE2の濃度計算の部分を予習すること。
2.	物質の三態と気体の性質（その１）: 物質の三態と状態変化、三態の状態図（相図）、気液平衡と蒸気圧、混合溶液の状態変化と状態図、気体の圧縮と圧力、ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則 C1(2)-総論、C1(3)-物理平衡	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
3.	物質の三態と気体の性質（その２）: アボガドロの法則、気体の状態方程式、混合気体と分圧の法則、理想気体と実在気体、ファンデルワールスの状態方程式C1(2)-総論-1,2	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
4.	化学反応とエネルギー（その１）: 内部エネルギー、熱力学第一法則（エネルギー保存の法則） C1(2)-エネルギー-1,2,3,5,7,9	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
5.	化学反応とエネルギー（その２）: 発熱-吸熱反応、ヘスの法則、エンタルピー C1(2)-エネルギー-1,2,3,5,7,9	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
6.	化学反応とエネルギー（その３）: エントロピー、熱力学第二法則、熱力学第三法則 C1(2)-エネルギー-1,2,4,5	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
7.	化学反応とエネルギー（その４）:化学反応変化の方向とギブス自由エネルギー C1(2)-エネルギー-1,2,4,5	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
8.	化学反応速度（その１）: 化学反応速度式、反応の進行とエネルギー変化 C1(4)-反応速度-1,2,5,8	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
9.	化学反応速度（その２）: 活性化エネルギー、反応の遷移状態と反応中間体 C1(4)-反応速度-1,2,5,8	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
10.	化学反応速度（その３）: 代表的な触媒反応（特殊酸・塩基触媒反応、酵素反応など）、薬物動態の基礎 C1(4)-反応速度-1,2,5,8	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
11.	化学平衡（その１）: 可逆反応と化学平衡、平衡定数 C1(3)-溶液の化学	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
12.	化学平衡（その２）:化学平衡の移動、ルシャトリエの原理、化学ポテンシャルの基礎 C1(3)-溶液の化学	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
13.	酸化還元反応（その１）: 酸化と還元、酸化数 C1(3)-電気化学-1,2	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
14.	酸化還元反応（その２）: 酸化剤・還元剤と半反応式、酸化還元反応式、代表的な化学電池 C1(3)-電気化学-1,2	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（教科書）の対応項目を予習する。
15.	まとめ	これまでの全講義内容について総復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
物理や物理化学は数式が多く用いられて敬遠されがちですが、自然現象を数式で表現するのが物理や物理化学の本質です。そのあたりを講義では丁寧に説明し理解を促していきますので、皆さんもがんばってついてきてください。どうぞよろしくお願いします。

フィードバックの方法:
毎回の授業の疑問点を出席カードに書いてもらい、その中の重要だと思われる事項についてはマナビーなどを通して随時答えていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト（レポートを含む）	20%	毎回の講義の基礎的な理解度による
定期試験	80%	講義全体の総合的な理解度による

教科書:
薬学生のための計算実践トレーニング帳 （前田初男 編著、化学同人） 基礎化学と併用、他の授業でも使用予定
新編基礎化学（金原粲　監修、実教出版） 基礎化学と併用

参考書:
薬学物理化学　第5版（松島美一　監修、廣川書店）
物理化学の基礎づくり （C. ローレンス、A. ロジャー、R. コンプトン 著、伊藤公一　訳、化学同人）
生命科学系のための物理化学 （R. Chang 著、岩澤康裕、北川禎三、濱口宏夫　訳、東京化学同人）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、

教員との連絡方法:	マナビー snegi@dwc.doshisha.ac.jp

713400

臨床医学概論

村上　元庸、川崎　清史、髙橋　玲、土田　勝晴

授業テーマ:　臨床医学、医療倫理、医療制度について学ぶ

授業の概要:　医療の進歩は著しく、新しい医療技術の登場は、その恩恵を受ける一方で新たな倫理、法問題を提示してきた。医療の安全性、情報の開示、根拠に基づいた医療、自己決定権、インフォームドコンセント、生命の尊厳、QOLなどの重要な概念を理解しておく必要がある。医学、医療の歴史、医療の社会経済的背景、先端の医療、新たな社会的倫理的問題について共に考える。

到達目標:　医療人として医療に対する確かな考え方が得られるよう講義を行う。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	医学、医療の歴史（村上） A (1),(2),(3), B (1	関連のあるところを予習して臨む。
2.	医の倫理（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
3.	自己決定権、守秘義務、個人情報（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
4.	情報の開示、インフォームドコンセント、医療と安全性（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
5.	根拠に基づいた医療、エビデンスについての考え方（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
6.	細胞、組織、疾患、病理学（高橋） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
7.	疾患と薬（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
8.	医療資源の配分,医療費（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
9.	生命の誕生と生殖医療（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
10.	緩和医療（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
11.	細胞膜活動電位（土田） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
12.	受容体、細胞内情報伝達（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
13.	細菌、ウイルスの世界（川崎） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
14.	老年医学（村上） A (1),(2),(3)	関連のあるところを予習して臨む。
15.	まとめ	関連のあるところを復習して臨む。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	60	講義内容の理解度で評価
出席,授業態度	10	
レポート	30	

教科書:　授業にて説明

参考書:　森岡恭彦ほか編著「新医学概論」産業図書
伏木信次ほか編集「生命倫理と医療倫理」金芳堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

713500

看護・介護学概論

岡山　寧子、小松　光代、杉原　百合子、山縣　恵美

授業テーマ:
高齢者の健康をまもる看護・介護のあり方を考える

授業の概要:
超高齢化など、現代の社会変動に沿った保健医療福祉分野の状況をふまえ、人々の健康の回復・維持・増進にむけた看護・介護のあり方を学ぶ。ここでは、高齢者の健康に焦点をあて、生活機能や認知機能からみた看護・介護のあり方について考える。

到達目標:
1. 高齢者と社会、看護・介護について理解できる。。
2. 高齢者の生活機能低下の予防・回復に向けての食生活、活動性、排泄などへの援助技術について理解できる。
3. 認知症ケアについて理解できる。
4. 高齢者の安心・安全な暮らしをまもる看護や家族支援について理解できる。

授業方法:
講義、演習
DVD教材

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護・介護とは何か①:看護を取り巻く状況	看護・介護の現状を調べる
2.	看護・介護とは何か②:介護を取り巻く状況	配布資料の復習
3.	看護・介護と健康①:エイジングと健康長寿	老化による高齢者の生活機能低下を調べる
4.	看護・介護と健康②:エイジングと健康長寿、地域包括ケア・チーム医療	配布資料の復習
5.	日常生活の援助技術①:休息(睡眠)支援	活動と休息のバランスを調べる
6.	日常生活の援助技術②:介護予防	生活機能低下予防を調べる
7.	日常生活の援助技術③: フレイルやサルコペニア	配布資料の復習
8.	日常生活の援助技術④排尿障害	老化による排泄機能低下を調べる
9.	日常生活の援助技術⑤尿失禁時の支援	配布資料の復習
10.	安心・安全な生活をまもる:事故や災害時の対応	高齢者に多い事故を調べる
11.	安心・安全な生活をまもる:転倒・骨折予防とケア	高齢者の転倒・骨折の実情を調べる
12.	認知症高齢者への支援①:認知症とは何か	認知症の基礎知識を調べる
13.	認知症高齢者への支援②:ケアのあり方	配布資料の復習
14.	「大往生を看取る」を考える	高齢者のエンドオブライフケアを調べる
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
人々が健康長寿をめざすために、どんな看護や介護が必要かを共に考えていきましょう。

フィードバックの方法:
コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	授業への参加度
試験	80	到達目標1～4の修得状況

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:
基本的に授業の前後に応対

713800

医薬品分析化学Ⅰ

前川　　京子

授業テーマ:　分析化学の薬学における位置づけ、役割、応用

授業の概要:　分析化学は薬学領域のすべての分野において医薬品や生体成分などの化学物質の性質を理解する上で必須の基礎科学である。そこで、分析化学の薬学における位置づけや役割を十分認識させ、単位系、濃度の表し方、化学計算などの分析化学における基本的な事項を理解させる。その上で、無機・有機化合物の定性反応の原理、分析化学における不可欠な基礎概念である化学平衡について講義し、化学反応などにおける量的関係の基礎理論となる化学平衡論を学習させる。さらに、日本薬局方収載医薬品を例にして理論の実際への応用について学習させる。

到達目標:
・単位系、濃度の表し方、化学計算などの分析化学における基本的な事項をを修得する。
・無機・有機化合物の定性反応の原理を修得し、定性分析の日本薬局方医薬品への応用を理解する。
・化学平衡論を修得する。
・上記を通して基礎的な科学力を修得する。

授業方法:　教科書、配布プリントに基づき、パワーポイント等の視覚教材を使用して講義する。授業計画の単元ごとに演習課題を課し、各単元ごとの理解度を確認する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	分析化学の基本的事項:物理量と単位。国際単位系、濃度の単位、物理量と濃度 (C2-(1)-①分析の基本2)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
2.	定性分析:無機イオンの定性分析 (C2-(3)-①定性分析1;C3-(5)-①無機化合物・錯体5)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
3.	定性分析:無機定性分析の日本薬局方医薬品への応用 (C2-(3)-①定性分析2)	講義内容の理解度を教科書の演習問題で確認すること。
4.	定性分析:有機官能基の定性分析 (C2-(3)-①定性分析2;C3-(3)-③1;④1・2・3;⑤1官能基の性質と反応)	講義内容の理解度を教科書の演習問題で確認すること。
5.	定性分析:有機定性分析の日本薬局方医薬品への応用。(C2-(3)-①定性分析2)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
6.	化学平衡論:イオン強度、活量、活量係数 (C1-(2)-⑥溶液の性質2,4)	講義内容の理解度を教科書の演習問題で確認すること。
7.	分析化学の基本的事項:分析データの取扱い (C2-(1)-①分析の基本2)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
8.	演習:定性分析、濃度	教科書及び参考図書で講義内容を予め予習しておくこと。
9.	化学平衡論:溶液の化学平衡、解離平衡式、平衡定数 (C1-(2)-④化学平衡の原理2,3)	演習課題のレポートを提出させ、講義内容の理解度を認識させる。
10.	化学平衡論:酸塩基平衡の基礎 (C2-(2)-①酸・塩基平衡1;C3-(1)-①基本事項5)	講義内容の理解度を教科書(No.2)の演習問題で確認すること。
11.	化学平衡論:酸塩基の解離とpH (C2-(2)-①酸・塩基平衡2)	講義内容の理解度を教科書の演習問題で確認すること。
12.	化学平衡論:塩の解離とpH (C2-(2)-①酸・塩基平衡2)	講義内容の理解度を教科書の演習問題で確認すること。
13.	化学平衡論:弱酸・弱塩基の化学種とpH分布 (C2-(2)-①酸・塩基平衡2)	講義内容の理解度を教科書の演習問題で確認すること。
14.	化学平衡論:緩衝液 (C2-(2)-①酸・塩基平衡4)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
15.	まとめ	教科書、参考図書及び配布資料に基づいて講義内容をまとめ、総復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	45%	到達目標に関する知識・理解度により評価する
平常試験	45%	定性反応の原理・応用に関する理解度により評価する。
演習課題	10%	演習課題の正解率により評価する

教科書:　コンパス分析化学(安井　裕之　編集)(南江堂)
演習を中心とした薬学生の分析化学(嶋田　健次　編集)(廣川書店)

参考書:　第十七改正日本薬局方解説書(廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　電子メール、オフィスアワー

714000

生化学Ⅰ

和田　　戈虹

授業テーマ:

授業の概要:　生体の4大成分である糖、脂質、アミノ酸、ヌクレオチドの構造と機能を含む化学的な諸性質を習得し、生化学を学ぶ上での基礎を固める。

到達目標:　生化学Iは、初めて生化学を学ぶ学生を対象に、生体物質及びタンパク質化学の基礎を体系的に講義する。生命現象を分子レベルで理解し、生命の営みを化学の立場でとらえることを目的とする。人体の構造と機能、疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた知識を基盤とした薬物治療学の知識を身に付けている。生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる生化学分野の基本的知識を身に付けている。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション・アミノ酸 C6 生命現象の基礎(2)生命現象を担う分子【(3)アミノ酸】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
2.	タンパク質の構造と機能 C6 生命現象の基礎(3)生命活動を担うタンパク質【(1) タンパク質の構造と機能】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
3.	タンパク質分析法 C6 生命現象の基礎(3)生命活動を担うタンパク質	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
4.	糖と多糖 C6 生命現象の基礎(2)生命現象を担う分子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
5.	脂肪酸と脂質 C6 生命現象の基礎(2)生命現象を担う分子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
6.	生体膜の構造と機能 C6 生命現象の基礎(1)細胞の構造と機能 【(1)細胞膜】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
7.	ヌクレオチド C6 生命現象の基礎(2)生命現象を担う分子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
8.	酵素反応機能 C6 生命現象の基礎(3)生命活動を担うタンパク質 【(3)酵素】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
9.	酵素反応速度論 C6 生命現象の基礎(3)生命活動を担うタンパク質 【(3)酵素】	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
10.	複製・転写・PCR-I C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
11.	複製・転写・PCR-II C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
12.	翻訳 C6 生命現象の基礎(4)生命情報を担う遺伝子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
13.	ビタミンと微量元素 C6 生命現象の基礎(2)生命現象を担う分子	生化学I講義テキスト(配布)の予習。復習課題を完成しレポートとして提出する。
14.	代謝概説・総合演習	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　小テスト等に関して、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	4	
小テスト	6	
レポート等	10	
定期試験	80	総合点が60点以上で合格

教科書:　生化学I講義テキスト(配布)
キャンベル・ファーレル生化学(廣川書店)第6版　川嵜敏祐　金田典雄　監訳

参考書:　ストライヤー生化学(東京化学同人)第5版入村達郎他訳
Voet & Voet Biochemistry 3rd Edition, Wiley
薬学領域の生化学(廣川書店)編集　伊東　晃　藤木博太

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー等、授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

714100

機能形態学Ⅰ

髙橋　　玲

授業テーマ:　人体の解剖学的構造と生理機能

授業の概要:
1）人体の構造について、器官別のマクロ的構造から顕微鏡的・分子的微細構造に至るまでを系統的に学ぶ。
2）人体の機能について、器官・組織・細胞レベルおよびそれぞれの相互関係を学ぶ。
3）上記1）2）は、特に、基礎的な科学力として疾病の発生機序や病態（病理学）あるいは薬物治療学に応用できる知識を身に付ける。
4）機能形態学IおよびIIの両方をあわせて解剖・組織学および生理学の全般に相当する知識を得る。
5）薬学教育モデル・コアカリキュラムのC6(1)～(7),C7(1)(2)に相当する内容を含む。

到達目標:
1）人体の生理機能について形態学的な根拠をもってわかりやすく簡潔に他者に説明できる。
2）疾病の成り立ちや薬物・毒物の作用に関連の深い細胞や組織の機能について、その恒常性の維持のメカニズムをわかりやすく簡潔に他者に説明できる。
3）上記1）と2）について、薬物領域での様々な事象を見出し、問題解決に向けて試行錯誤する研究的能力や自己研鑽の態度を養う。

授業方法:　インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを予習で準備し、授業当日に教員と、あるいは学生同士でディスカッションしながら理解を深めていく。各授業ごとに課題をレポートとしてマナビーに提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ヒトの身体の構成とホメオスタシス	ヒトの身体の構成 ホメオスタシスとその維持機構
2.	身体の構造	解剖学の基礎用語 骨格系・筋系 身体の区分と内臓の位置関係
3.	生命現象減少を担う細胞の構造と機能（1）	細胞膜 膜輸送 細胞間コミュニケーション
4.	生命現象減少を担う細胞の構造と機能（2）	細胞膜 膜輸送 細胞間コミュニケーション
5.	循環器系・リンパ系（1）	循環器系（心臓と血管） リンパ管とリンパ節
6.	循環器系・リンパ系2（2）	循環器系（心臓と血管） リンパ管とリンパ節
7.	消化器系（1）	消化器系の構造 口腔・咽頭・上部消化管・下部消化管・神経支配
8.	消化器系（2）	消化器系の構造 口腔・咽頭・上部消化管・下部消化管・神経支配
9.	肝臓・胆嚢・脾臓（1）	肝臓の機能 コレステロール代謝 薬物代謝 胆汁産生と排泄 膵臓の外分泌機能
10.	肝臓・胆嚢・脾臓（2）	肝臓の機能 コレステロール代謝 薬物代謝 胆汁産生と排泄 膵臓の外分泌機能
11.	神経系（1）	神経系の基礎 中枢神経系 末梢神経系
12.	神経系（2）	神経系の基礎 中枢神経系 末梢神経系
13.	感覚器系（1）	感覚器 眼・視覚系 耳・聴覚と平衡覚 鼻・嗅覚系 舌・味覚
14.	感覚器系（2）	感覚器 眼・視覚系 耳・聴覚と平衡覚 鼻・嗅覚系 舌・味覚
15.	まとめ	すべての項目の復習と確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。

フィードバックの方法:
1）フィードバックをしながら授業を進める。
2）オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100%	課題について人体の機能と構造の両面から理解して説明できるかを重点に評価する。

教科書:　カラーで学ぶ解剖生理学　第2版（Kevin T. Patton, Gary A. Thibodeau著）メディカル・サイエンス・インターナショナル

参考書:
トートラ人体の構造と機能　第2版（Gerard J. Tortora著）丸善
キクタンメディカル1. 人体の構造編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社
キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社）

	キクタンメディカル3. 症候と疾患編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社） キクタンメディカル6. 薬剤編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）他（アルク社） Dr.レイの病理学講義　改訂3版　編著 高橋玲　著 北澤荘平（金芳堂）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法：	オフィスアワー、授業の前後教室内

714200

機能形態学Ⅱ

髙橋　　玲

授業テーマ:　人体の解剖学的構造と生理機能

授業の概要:
1）人体の構造について、器官別のマクロ的構造から顕微鏡的・分子的微細構造に至るまでを系統的に学ぶ。
2）人体の機能について、器官・組織・細胞レベルおよびそれぞれの相互関係を学ぶ。
3）上記1）2）は、特に、基礎的な科学力として疾病の発生機序や病態（病理学）あるいは薬物治療学に応用できる知識を身に付ける。
4）機能形態学IおよびIIの両方をあわせて解剖・組織学および生理学の全般に相当する知識を得る。
5）薬学教育モデル・コアカリキュラムのC6(1)～(7),C7(1)(2)に相当する内容を含む。

到達目標:
1）人体の生理機能について形態学的な根拠をもってわかりやすく簡潔に他者に説明できる。
2）疾病の成り立ちや薬物・毒物の作用に関連の深い細胞や組織の機能について、その恒常性の維持のメカニズムをわかりやすく簡潔に他者に説明できる。
3）上記1）と2）について、薬物領域での様々な事象を見出し、問題解決に向けて試行錯誤する研究的能力や自己研鑽の態度を養う。

授業方法:　インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを予習で準備し、授業当日に教員と、あるいは学生同士でディスカッションしながら理解を深めていく。各授業ごとに課題をレポートとしてマナビーに提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	筋系	筋組織の構造 骨格筋 心筋 平滑筋
2.	呼吸器系	呼吸器系の概要 呼吸とその調節機構
3.	血液・血液凝固・線溶系（1）	血液について 止血と血液凝固・線溶系 血液型
4.	血液・血液凝固・線溶系（1）	血液について 止血と血液凝固・線溶系 血液型
5.	泌尿器系（1）	体液について 腎臓の構造と機能 排尿機構
6.	泌尿器系（2）	体液について 腎臓の構造と機能 排尿機構
7.	体液調節（1）	体液量および浸透圧の調節 体液の酸塩基平衡
8.	体液調節（2）	体液量および浸透圧の調節 体液の酸塩基平衡
9.	皮膚・体温調節（1）	皮膚の役割 体温調節機構
10.	皮膚・体温調節（2）	皮膚の役割 体温調節機構
11.	内分泌系（1）	視床下部下垂体系 松果体
12.	内分泌系（2）	甲状腺 副甲状腺 副腎 膵臓
13.	生殖器系（1）	男性生殖器 女性生殖器 生殖腺
14.	生殖器系（2）	男性生殖器 女性生殖器 生殖腺
15.	まとめ	すべての総復習と確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。

フィードバックの方法:
1）フィードバックをしながら授業を進める。
2）オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100%	課題について人体の機能と構造の両面から理解して説明できるかを重点に評価する。

教科書:　カラーで学ぶ解剖生理学　第2版（Kevin T. Patton, Gary A. Thibodeau著）メディカル・サイエンス・インターナショナル

参考書:
トートラ人体の構造と機能　第2版（Gerard J. Tortora著）丸善
キクタンメディカル1. 人体の構造編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社
キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社）
キクタンメディカル3. 症候と疾患編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社）
キクタンメディカル6. 薬剤編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）他（アルク社）
Dr.レイの病理学講義　改訂3版　編著 高橋玲　著 北澤荘平（金芳堂）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後教室内にて

714600

医薬品分析化学Ⅱ

前川　　京子

授業テーマ:　化学薬品、生物薬品の定量分析

授業の概要:　目的物質の存在量を知るための定量分析法である重量分析法、容量分析法、生化学的分析法のそれぞれについて具体的な定量法・試験法の原理を理解させ、各分析法の無機薬品、有機薬品、生物薬品への適応や応用を日本薬局方収載医薬品を例にして学習させる。

到達目標:
・化学物質の分析で得られる測定値の取り扱いに関する基本的事項を修得する。
・溶液中の化学平衡に関する基本的事項を修得する。
・化学物質の定量分析に関する基本的事項を修得する。
・臨床現場で用いる代表的な分析技術に関する基本的事項を修得する。
・上記を通じて基礎的な科学力を身につける

授業方法:　教科書、配布プリントに基づき、パワーポイント等の視覚教材を使用して講義する。授業計画の単元ごとに演習課題を課し、各単元の理解度を確認する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	定量分析総論:定量分析法、分析法バリデ―ション（C2-(1)-①分析の基礎3）	教科書（No.1）で講義内容を予め予習しておくこと。
2.	重量分析法:揮発法、抽出法、沈殿法（C2-(3)-②定量分析6,7）	教科書（No.1）及び参考図書(No.1)で講義内容を予め予習しておくこと。
3.	容量分析法:中和滴定法（C2-(2)-①酸・塩基平衡1; C2-(3)-②定量分析1）	講義内容の理解度を教科書（No.2）の演習問題で確認すること。
4.	容量分析法:非水滴定法（C2-(3)-②定量分析1）	講義内容の理解度を教科書（No.2）の演習問題で確認すること。
5.	容量分析法:キレート滴定法（C2-(2)-②各種の化学平衡1; C2-(3)-②定量分析2）	講義内容の理解度を教科書（No.2）の演習問題で確認すること。
6.	容量分析法:沈殿滴定法（C2-(2)-②各種の化学平衡2; C2-(3)-②定量分析3）	講義内容の理解度を教科書（No.2）の演習問題で確認すること。
7.	容量分析法:酸化還元滴定法（C2-(2)-②各種の化学平衡3; C2-(3)-②定量分析4	講義内容の理解度を教科書（No.2）の演習問題で確認すること。
8.	容量分析法:滴定終点検出法（指示薬法、電気的終点検出法）	講義内容の理解度を教科書（No.2）の演習問題で確認すること。
9.	演習:重量分析法、容量分析法	演習課題のレポートを提出させ、講義内容の理解度を認識させる。
10.	生物学的分析法:代表的な分析法（C2-(6)-②分析技術1）	教科書（No.1）及び参考図書(No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
11.	生物学的分析法:酵素分析法（C2-(6)-②分析技術3）	教科書（No.1）及び参考図書(No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
12.	生物学的分析法:酵素免疫測定法（C2-(6)-②分析技術2）	教科書（No.1）及び参考図書(No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
13.	生物学的分析法:ラジオイムノアッセイ（C2-(6)-②分析技術2）	教科書（No.1）及び参考図書(No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
14.	試料の前処理、保存（C2-(6)-①分析の準備1）	教科書（No.1）及び参考図書(No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
15.	まとめ	教科書、参考図書及び配布資料に基づいて講義内容をまとめ、総復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説し、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	45%	各種定量分析の原理、操作法および応用例を説明できるかを基準とする
平常試験	45%	化学薬品、生物薬品の定量分析に関する理解度により評価する。
演習課題レポート	10%	演習課題の正解率により評価する

教科書:
コンパス分析化学（安井　裕之　編集）（南江堂）
演習を中心とした薬学生の分析化学（嶋田　健次　編集）（廣川書店）

参考書:
第十七改正日本薬局方解説書（廣川書店）
薬剤師に必要な臨床機器分析（秋澤　俊史　編集）（廣川書店）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　電子メール、オフィスアワー

714700

機器分析学

前川　　京子

授業テーマ:　物理的原理に基づく分析機器による化学物質の量的・質的分析法の理解

授業の概要:　医薬品等の物質の特性や量を正確・精密に分析するには、物理化学的原理に基づいて開発された機器分析法が多用される。現在汎用されている各種の機器分析法の原理を理解させ、医薬品等の化学物質の特性解析や定量への応用について日本薬局方収載医薬品を例にして学習させる。

到達目標:
・機器を用いる分析法の原理とその応用に関する基本的事項を修得する。
・分離分析法に関する基本的事項を修得する。
・最新の分技技術やその原理を意欲的に習得する。

授業方法:　教科書、配布プリントに基づき、パワーポイント等の視覚教材を使用して講義する。授業計画の単元ごとに演習課題を課し、各単元の理解度を確認していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	電磁波を利用した組成分析、特性解析および構造解析 (C1-(1)-③原子・分子の挙動1,2)	教科書(No.1, No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
2.	組成分析:紫外可視吸光度法 (C2-(4)-①分光分析法1)	講義内容の理解度を教科書(No.3)の演習問題で確認すること。
3.	組成分析:蛍光光度法 (C2-(4)-①分光分析法2)	講義内容の理解度を教科書(No.3)の演習問題で確認すること。
4.	組成分析:原子吸光光度法、発光分析法、化学発光分析法、ICP (C2-(4)-①分光分析法4)	講義内容の理解度を教科書(No.3)の演習問題で確認すること。
5.	特性解析:旋光度・旋光分散・円二色性 (C2-(4)-①分光分析法5)	講義内容の理解度を教科書(No.3)の演習問題で確認すること。
6.	特性解析:粉末X線回折測定法、屈折率測定法 (C2-(4)-④X線分析法2)	教科書(No.1, No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
7.	特性解析:熱分析法、粘度測定法 (C2-(4)-⑤熱分析1,2)	教科書(No.1, No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
8.	構造解析:赤外分光分析法 (C2-(4)-①分光分析法3;C3-(4)-②赤外吸収1,2)	講義内容の理解度を教科書(No.3)の演習問題で確認すること。
9.	構造解析:核磁気共鳴スペクトル分析法 (C2-(4)-②NMR測定法1;C3-(4)-①核磁気共鳴1,2,2,3,4,5)	教科書(No.1, No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
10.	構造解析:核磁気共鳴スペクトル解析演習 (C3-(4)-①核磁気共鳴1,2,3,4,5)	講義内容の理解度を教科書(No.3)の演習問題で確認すること。
11.	構造解析:質量分析法 (C2-(4)-③質量分析1;C3-(4)-③質量分析1,2,3,4)	教科書(No.1, No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
12.	構造解析:質量分析法 (C2-(4)-③質量分析1;C3-(4)-③質量分析1,2,3,4)	教科書(No.1, No.2)で講義内容を予め予習しておくこと。
13.	分離分析:液体クロマトグラフィー (C2-(5)-①クロマトグラフィー1,3)	講義内容の理解度を教科書(No.3)の演習問題で確認すること。
14.	分離分析:ガスクロマトグラフィー・薄層クロマトグラフィー (C2-(5)-①クロマトグラフィー1,4;C2-(5)-①クロマトグラフィー1,2)	講義内容の理解度を教科書(No.3)の演習問題で確認すること。
15.	まとめ	教科書、参考図書及び配布資料に基づいて講義内容をまとめ、総復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50%	各種機器分析の原理と応用例を説明できるかを基準とする
平常試験	50%	機器分析法の原理に関する理解度により評価する。

教科書:
薬学領域の機器分析学(財津 潔、鶴田　泰人　編集)(廣川書店)
コンパス分析化学(安井　裕之　編集)(南江堂)
演習を中心とした薬学生の分析化学(嶋田　健次　編集)(廣川書店)

参考書:　第十七改正日本薬局方解説書(廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　電子メール、オフィスアワー

714900

衛生化学

木津　　良一

授業テーマ:　医薬品や環境汚染物質、放射線の健康影響

授業の概要:　我々の身の回りには極めて多種類の化学物質や電磁波などが存在し、ヒトに対して有害な作用を示すものも多い。我々は日常生活の中で、あるいは職業上の作業の中で有害環境因子に恒常的に曝露されており、有害環境因子は重要な健康リスクとなっている。本科目では、有害環境因子が健康に及ぼす影響を理解するために、薬学教育モデル・コアカリキュラム「D2環境（1）化学物質・放射線の生体への影響」の各項目について学ぶ。
D2（1）ー ①　化学物質の毒性
D2（1）ー ②　化学物質の安全性評価と適正使用
D2（1）ー ③　化学物質による発がん
D2（1）ー ④　放射線の生体への影響

到達目標:　化学物質や放射線などの有害環境因子の健康への影響を理解し、有害作用を回避し適正に使用できるようになるために、有害環境因子の毒性などに関する基本的事項を習得する。
D2（1）ー ① ～ ④ の各項目はさらに幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。

授業方法:　講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に沿って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。また、4週に1回、計4回の平常試験を講義時間の中で30分程度を用いて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	化学物質の毒性　D2（1）ー ① －1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2.	化学物質の毒性　D2（1）ー ① －2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3.	化学物質の毒性　D2（1）ー ① －3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4.	化学物質の毒性　D2（1）ー ① －4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5.	化学物質の毒性　D2（1）ー ① －5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6.	化学物質の毒性　D2（1）ー ① －6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7.	化学物質の毒性　D2（1）ー ① －7	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8.	化学物質の安全性評価と適正使用　D2（1）ー ② －1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
9.	化学物質の安全性評価と適正使用　D2（1）ー ② －3、4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10.	化学物質の安全性評価と適正使用　D2（1）ー ② －5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11.	化学物質による発がん　D2（1）ー ③ －1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12.	化学物質による発がん　D2（1）ー ③ －2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13.	化学物質による発がん　D2（1）ー ③ －3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14.	放射線の生体への影響　D2（1）ー ④ －1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15.	放射線の生体への影響　D2（1）ー ④ －3、4	今回の講義内容を復習し理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　平常試験については講義の中で解説する。質問事項については講義室または研究室で随時対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常試験	100%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:

参考書:　日本薬学会 編、 衛生薬学　健康と環境、 東京化学同人、 6,100円
今井浩孝、小椋康光 編、 衛生薬学：基礎・予防・臨床、 南江堂、 7,000円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　E-メール：rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。

715000 **微生物学**

川崎　　清史

授業テーマ:

授業の概要: 薬学教育コアカリキュラムC8生体防御と微生物のうち、(3)微生物の基本、と(4)病原体としての微生物、の内容をすべて含む。

到達目標: 微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)の特徴と性質を学習する。さらに病原性微生物(細菌、ウイルス、真菌、原虫)の各論、およびこれら病原性微生物に対する化学療法の基礎を学習する。

授業方法: 講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション・微生物学概論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
2.	細菌総論I(細菌の形態と構造、増殖)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
3.	細菌総論II(遺伝と代謝)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
4.	真菌・原虫総論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
5.	ウイルス総論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
6.	消毒と滅菌、感染と共生	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
7.	感染症概論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
8.	病原細菌各論I(グラム陽性球菌、グラム陰性球菌)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
9.	病原細菌各論II(グラム陽性好気性桿菌、グラム陰性好気性桿菌、嫌気性菌)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
10.	病原細菌各論III(抗酸菌、スピロヘータ、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
11.	病原性ウイルス各論I(DNAウイルス)	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
12.	病原性ウイルス各論II(RNAウイルス、レトロウイルス)、プリオン感染症	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
13.	病原性真菌・原虫各論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
14.	化学療法概論	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習・復習を行うこと
15.	まとめ	教科書に沿って授業を進めるのでその内容に沿った授業の予習を行うこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

【薬学教育モデルコアカリキュラムと授業計画との対応　(2015年度以降入学生用)】
C8生体防御と微生物
(3)微生物の基本
【(1) 総論】
1. 原核生物、真核生物およびウイルスの特徴を説明できる。－授業計画1、2、3、4、5
【(2) 細菌】
1. 細菌の分類や性質(系統学的分類、グラム陽性菌と陰性菌、好気性菌と嫌気性菌など)を説明できる。－授業計画2、3
2. 細菌の構造と増殖機構について説明できる。－授業計画2
3. 細菌の異化作用(呼吸と発酵)および同化作用について説明できる。－授業計画3
4. 細菌の遺伝子伝達(接合、形質導入、形質転換)について説明できる。－授業計画3
5. 薬剤耐性菌および薬剤耐性化機構について概説できる。－授業計画3，14
6. 代表的な細菌毒素について説明できる。－授業計画6，7
【(3) ウイルス】
1. ウイルスの構造、分類、および増殖機構について説明できる。－授業計画5
【(4) 真菌・原虫・蠕虫】
1. 真菌の性状を概説できる。－授業計画4
2. 原虫および蠕虫の性状を概説できる。－授業計画4
【(5) 消毒と滅菌】
1. 滅菌、消毒および殺菌、静菌の概念を説明できる。－授業計画6
2. 主な滅菌法および消毒法について説明できる。－授業計画6
(4)病原体としての微生物
【(1)感染の成立と共生】
1. 感染の成立(感染源、感染経路、侵入門戸など)と共生(腸内細菌など)について説明できる。－授業計画6
2. 日和見感染と院内感染について説明できる。－授業計画7
【(2)代表的な病原体】
1. DNA ウイルス(ヒトヘルペスウイルス、アデノウイルス、パピローマウイルス、B 型肝炎ウイルスなど)について概説できる。－授業計画11
2. RNA ウイルス(ノロウイルス、ロタウイルス、ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エコーウイルス、ライノウイルス、A型肝炎ウイルス、C 型肝炎ウイルス、インフルエンザウイルス、麻疹ウイルス、風疹ウイルス、日本脳炎ウイルス、狂犬病ウイルス、ムンプスウイルス、HIV、HTLV など)について概説できる。－授業計画12
3. グラム陽性球菌(ブドウ球菌、レンサ球菌など)およびグラム陽性桿菌(破傷風菌、ガス壊疽菌、ボツリヌス菌、ジフテリア菌、炭疽菌、セレウス菌、ディフィシル菌など)について概説できる。－授業計画8
4. グラム陰性球菌(淋菌、髄膜炎菌など)およびグラム陰性桿菌(大腸菌、赤痢菌、サルモネラ属菌、チフス菌、エルシニア属菌、クレブシエラ属菌、コレラ菌、百日咳菌、腸炎ビブリオ、緑膿菌、レジオネラ、インフルエンザ菌など)について概説できる。－授業計画8，9
5. グラム陰性らせん菌(ヘリコバクター・ピロリ、カンピロバクター・ジェジュニ／コリなど)およびスピロヘータについて概説できる。－授業計画9，10
6. 抗酸菌(結核菌、らい菌など)について概説できる。－授業計画10
7. マイコプラズマ、リケッチア、クラミジアについて概説できる。－授業計画10
8. 真菌(アスペルギルス、クリプトコックス、カンジダ、ムーコル、白癬菌など)について概説できる。－授業計画13
9. 原虫(マラリア原虫、トキソプラズマ、腟トリコモナス、クリプトスポリジウム、赤痢アメーバなど)、蠕虫(回虫、鞭虫、アニサキス、エキノコックスなど)について概説できる。－授業計画13
E2薬理・病態・薬物治療

（7）病源微生物（感染症）・悪性新生物（がん）と薬
(1)抗菌薬
1．以下の抗菌薬の薬理および臨床適応を説明できる。－授業計画14
(2)抗菌薬の耐性
1．主要な抗菌薬の耐性獲得機構および耐性菌出現への対応を説明できる。－授業計画14

フィードバックの方法:
必要に応じて面談等を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	100%	点数に応じて評価

教科書:
薬学領域の微生物学・感染症学・化学療法学　第2版　西島正弘・後藤直正・増澤俊幸・河村好章　編　廣川書店

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:
オフィスアワーの活用

715100

生化学Ⅱ

和田　　戈虹

授業テーマ:

授業の概要:
1）生体エネルギーの産出と蓄積；2）主要な代謝回路；3）遺伝情報；4）分子生理学などの側面から、生体内の物質がどのような反応経路で変換・生成されるのか、また、エネルギー代謝がどのようにして行われるか、など生命現象の基本メカニズムについて解説する。

到達目標:
生化学IIは、生化学Iで生体内成分の構造と機能について学んだ学生のために、その続編として開講する。
人体の構造と機能、疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた知識を基盤とした薬物治療学の知識を身に付けている。生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる生化学分野の基本的知識を身に付けている。

授業方法:
主に液晶プロジェクター・ビデオなどを用いて授業を行うが、適宜、小テストを行う。学生によるオーラルプレゼンテーションの授業方式も採用する予定である。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	エネルギー代謝—解糖系 C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
2.	エネルギー代謝—クエン酸回路 C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
3.	エネルギー代謝—電子伝達と酸化的リン酸化I C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
4.	エネルギー代謝—電子伝達と酸化的リン酸化II C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
5.	エネルギー代謝—脂質代謝I C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
6.	エネルギー代謝—脂質代謝II。 C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
7.	炭素系代謝回路総論 C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
8.	窒素代謝(アミノ酸の同化)I C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
9.	窒素代謝(アミノ酸の同化)II C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
10.	窒素代謝(ヌクレオチドの代謝)I C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
11.	窒素代謝(ヌクレオチドの代謝)II C6 生命現象の基礎(5)生体エネルギーと生命活動を支える代謝系	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
12.	膜チャンネル・受容体とポンプ C6 生命現象の基礎(6)細胞間コミュニケーションと細胞内情報伝達	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
13.	細胞の構造とオルガネラの機能 C6 生命現象の基礎((1)細胞の構造と機能	生化学II講義テキスト(配布)の予習。復習レポートを作成し、提出する。
14.	代謝回路の概説・総合演習	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
小テストに関して、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度	4	
小テスト	6	
レポート等	10	
定期試験	80	総合点が60点以上で合格

教科書:
生化学II講義テキスト(配布)
キャンベル・ファーレル生化学(廣川書店)第6版 川嵜敏祐 金田典雄　監訳

参考書:
ストライヤー生化学(東京化学同人)第5版入村達郎他訳
薬学領域の生化学(廣川書店)編集　伊東　晃　藤木博太
Voet & Voet Biochemistry 3rd Edition, Wiley

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
オフィスアワー等、授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

715200

分子生物薬学

和田　　戈虹

授業テーマ:

授業の概要:
本講義は、真核生物の分子生物学を中心に、遺伝情報と疾患、遺伝情報と医薬について理解するための基礎を学ぶ。さらに、遺伝子改変を利用した高等真核生物の高次機能の解析を取り上げ、疾患と遺伝子、疾患モデル動物、ポストゲノムへの展開、iPS細胞と再生などのトピックスも紹介する。

到達目標:
生命機能を担う遺伝子ついて理解すると同時に、遺伝子工学の基礎を修得する。生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる生化学分野の基本的知識を身に付けている。人体の構造と機能、疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた知識を基盤とした薬物治療学の知識を身に付けている。

授業方法:
主に液晶プロジェクター・ビデオなどを用いて授業を行うが、資料をWebで配布する。適宜、小テストを行う。学生によるオーラルプレゼンテーションの授業方式も採用する予定である。単に暗記するだけでなく、「なぜ、どうして？」といった疑問を放置せずに、1つ1つの生命現象を正確に理解してほしい。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス（分子生物学のアウトライン） C7 人体の成り立ちと生体機能の調節（1）人体の成り立ち	予習テストを実施する
2.	原核生物と真核生物 C6 生命現象の基礎（1）細胞の構造と機能	予習テストを実施する
3.	細胞周期と細胞分裂 C6 生命現象の基礎（7）細胞の分裂と死	予習テストを実施する
4.	遺伝子発現と染色体の構造 C6 生命現象の基礎（4）生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
5.	DNA複製・修復・組み換え C6 生命現象の基礎（4）生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
6.	遺伝子発現制御と分化（セントラルドグマ） C6 生命現象の基礎（4）生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
7.	遺伝子工学の基礎1 C6 生命現象の基礎（4）生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
8.	遺伝子工学の基礎2 C6 生命現象の基礎（4）生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
9.	遺伝改変動物の作製-I　トランスジェニック動物の作製と応用 C6 生命現象の基礎（4）生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
10.	遺伝改変動物の作製-II　遺伝子破壊動物&クローン動物 C6 生命現象の基礎（4）生命情報を担う遺伝子	予習テストを実施する
11.	基礎免疫 C8 生体防御と微生物（1）身体をまもる	予習テストを実施する
12.	変異・疾患モデル動物と疾患原因遺伝子の解明 C6 生命現象の基礎　（7）細胞の分裂と死	予習テストを実施する
13.	iPS細胞、DNAチップ、ポストゲノムへの展開 C6 生命現象の基礎（1）細胞の構造と機能（7）細胞の分裂と死	予習テストを実施する
14.	分子生物学総合演習I	
15.	分子生物学総合演習II	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
予習テストに関して、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加度、中間試験等	20	
定期試験	80	総合成績が60点以上で合格

教科書:
『コンパス分子生物学』創薬・テーラーメイド医療に向けて一 第2版　南江堂　編集　荒牧弘範　大戸茂弘
分子生物薬学講義テキストを配布する。

参考書:
分子生物学の基礎　第4版　著編者　George M.Malacinski 川喜田　正夫（東京化学同人）
Essentials of Molecular Biology. 4th ed. 著編者　Malacinski, George M.(Jones & Bartlett Publishers Inc.)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
オフィスアワー等、授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

715400

病態生理学

漆谷　　徹郎

授業テーマ:　病態時の生体機能変化と診断の基礎

授業の概要:　薬がいかにして効くかを扱うのが薬理学、実際の病気に対する治療戦略を扱うのが薬物治療学であるが、これらの基礎になる部分、すなわち、病気ではどのように生理機能が乱れているかを理解する必要がある。学ぶべき多くの病態が存在するが、同時進行する病態生化学と分担して担当する。薬学コアカリキュラムでカバーすべき疾患を網羅するが、感染症、アレルギーは扱わない。また、正常と異常を区別するのに必須な生物統計学を重視する。

到達目標:　生体膜の電気的興奮の機序を学んで、電気生理学の基礎を理解し、病的異常性を生物統計学により判定することを学ぶ。これに基づき、精神神経疾患、呼吸器、消化器、血液、感覚器、腎臓における代表的な疾患の原因と病態生理学的変化を説明できるようにする。薬学コアカリキュラムでは、C7-(2), E1-(2), E3-(1)-5, 及びE2のうち、薬物治療の基礎となる病態生理部分を扱う。

授業方法:　パワーポイントによる講義（同一画面のプリントを配布）
小テストによる要点の確認
マナビーにアップした資料による演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論、生体膜とイオンチャネル　C7(1)-4	前学期の機能形態学, 生化学の発展なので, ノートを見直しておこう
2.	興奮性膜、神経電導, 心臓刺激伝達系 C7(1)-4, C7(2)-1	膜電位計算用Excelファイルをマナビーにアップするので、これに各自数値を入れて、膜電位変化をシミュレーションしてみよう
3.	臨床検査と基準値 E1(2)-2, E3(1)-5	１年次秋学期の「生物統計学」の復習と応用問題なので、「生物統計学」のノートを復習しておこう
4.	ベイズ思考と臨床判断	考え方は難しいが, 詳細に解説したファイルをマナビーにアップするので、繰り返し読んで理解しよう
5.	神経生理と精神神経疾患（１）E2(1)-3	参考となる画像がマナビーにリンクされているので、これをみておく。また、参考となる映画を紹介するので、機会をみてみておこう。
6.	精神神経疾患（２）E2(1)-3	参考となる画像がマナビーにリンクされているので、これをみておく。また、参考となる映画を紹介するので、機会をみてみておこう。
7.	筋・呼吸器系疾患 E2(1)-2, E2(4)-1	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
8.	中間テストと問題解説 消化器系疾患　E2(4)-2	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
9.	肝・胆嚢・膵臓系疾患 E2(4)-2	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
10.	血液疾患 E2(3)-2	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
11.	感覚器系疾患 E2(6)	マナビーに聴覚、平衡感覚に関するシミュレーション動画がリンクされているので、各自見ておく
12.	腎・泌尿器系疾患 E2(3)-3	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
13.	代謝・内分泌系疾患 E2(5)	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく
14.	生物統計学再び: χ２検定 E3(1)-5, 6	マナビーに演習問題がアップされているので、各自解いておく
15.	まとめ	マナビーにアップされている小テストの解説で勉強しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　一回ごとの講義内容を予習復習によりその都度理解するように習慣づけること。試験直前の、小テストの答えの丸暗記は将来の役に立たない。問題の意味を理解するように。

フィードバックの方法:　質問のための研究室訪問は随時。マナビー掲示板への投稿も歓迎。基本的に、小テストの正解と解説はマナビーにファイルとしてアップする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間テスト	50%	選択肢問題、計算問題による客観テスト。
期末テスト	50%	選択肢問題、計算問題による客観テスト。

教科書:　（１回ごとにプリント配布）

参考書:　市田、辻、秋葉編、「疾病と病態生理」　南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　憩水館６階W606
turushid@dwc.doshisha.ac.jp

715500

薬理学Ⅰ

藤井　　健志

授業テーマ:
薬物により引き起こされる生体機能の変化を知り、医薬品による治療メカニズムを考察できるようになる。

授業の概要:
薬理学I, IIおよびIV（3年次に開講）の3科目で薬理学の基本原理、医薬品が病気の症状を改善するメカニズムについて学ぶ。

到達目標:
1. 薬理学の基本概念について説明できる（知識）。
2. 薬物の作用メカニズムについて概要を説明できる（知識）。
3. 受容体理論について説明でき、用量反応曲線の読み取りができる（知識・技能）。
4. 神経伝達物質受容体の情報伝達のメカニズムを説明できる（知識）。
5. 末梢神経系の構成を説明できる（知識）。
6. 自律神経系に作用する薬物（アゴニスト・アンタゴニスト）について説明できる（知識）。
7. 運動神経系に作用する薬物について作用メカニズムと臨床応用を説明できる（知識）。
8. 局所麻酔薬の作用メカニズムと臨床応用を説明できる（知識）。
9. 全身麻酔薬の作用メカニズムと臨床応用を説明できる（知識）。
10. 上記6から9に該当する薬物の構造式の特徴について説明できる（知識）。

授業方法:
授業方法:
1. プリテストによる予習状況の確認（5分）
2. 板書による講義（75分）
3. ポストテスト（口頭試問またはミニテスト）による理解度の確認（10分）
を原則とするが、随時指名して回答させるので、積極的な授業参加を期待する。
毎回および演習ではクリッカーによる回答をする場合がある。なお、プリテストは予備知識の確認あるいは準備状況を確認するために実施している。成績評価や出席管理のために実施しているわけではない。したがって、他人に成りすまして提出されたプリテストが発見された場合、実施が取りやめられることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬理学とは：E1(1)①1, 9	
2.	薬理学総論1—薬物の作用メカニズム・生体機能制御系：E1(1)①3-5, 7	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
3.	薬理学総論２－受容体理論：E1(1)①1	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
4.	神経伝達物質と受容体１：E1(1)①2	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
5.	神経伝達物質と受容体２：E1(1)①2	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
6.	末梢神経系全般：E2	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
7.	自律神経系に作用する薬物１－交感神経系１（作用薬）：E2(1)①1	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
8.	自律神経系に作用する薬物２－交感神経系２（拮抗薬・遮断薬）：E2(1)①1,3	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
9.	自律神経系に作用する薬物３－副交感神経系１（作用薬）：E2(1)①2	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
10.	自律神経系に作用する薬物４－副交感神経系２（拮抗薬・遮断薬）：E2(1)①2,3	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
11.	運動神経系に作用する薬物：E2(1)②2	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
12.	局所麻酔薬：E2(1)②1	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
13.	中枢神経系に作用する薬物１　全身麻酔薬：E2(1)③1	あらかじめ教科書指定された範囲を読んでおくこと。
14.	質問・薬理学Ⅰの範囲内における薬理学の最新の知見	第13回までの授業内容について各自疑問点を明らかにし、質問を準備しておくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
毎回の授業で、予習状況もしくは予備知識に関するプリテストを実施するので、教科書の指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。また、自主的に様々な資料（下記の参考文献はその一例）にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。指定された教科書1冊だけで学習するのではなく、疑問を感じたら様々な資料にあたって問題解決を図ること。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。なお、追加の指示がある場合はマナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。

フィードバックの方法:
前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。定期試験の問題および解答はマナビーにアップロードするので、各自自己採点し不明の点は必ず質問すること（メール可）。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
多肢選択式の定期試験	100%	定期試験（多肢選択式により40問を出題）に対する妥当な正答率（最低合格基準：Minimum Pass Level）により合格を判定する。最低合格基準は第14回目の授業の授業の際、もしくはマナビーにて試験実施前に公表する。なお、最低合格基準は目標達成度の60%を超えない範囲で設定され、この基準を満たした場合に単位が認定される。中間試験は行わない。出席点はない。

教科書:
今井正・宮本英七監修、標準薬理学　第7版、医学書院

参考書:
竹内孝治・岡淳一郎編集　最新薬理学　第3版　廣川書店
重信弘毅・石井邦雄編集　パートナー薬理学　南江堂
加藤隆一・田中千賀子編集　New薬理学　第6版　南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室（憩水館6階W602）まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール（tfujii@dwc.doshisha.ac.jp）にて事前に連絡する方が望ましい。

715600

物理薬剤学

芝田　　信人、羽森　　真美

授業テーマ:　薬の基本的性質から医薬品の製造に至るまでの過程において、必要な基礎的知識を習得する。

授業の概要:

1　物質の状態および相互変換過程を解析できるようになるために、熱力学の基本的知識を学習する。
2　複雑な系における物質の状態および相互変換過程を熱力学に基き解析できるようになるために、溶液および電気化学に関する基本的知識を学習する。
3　物質の変換過程を理解するために、化学反応速度論、および反応速度に影響を与える諸因子に関する基本的知識を学習する。
4　薬物と製剤材料の性質を理解し、応用するために、それらの物性に関する基本的知識を学習する。
5　医薬品およびその製剤の安定性に関する理解を深めるため、化学反応速度に影響を与える諸因子に関する基本的知識を学習する。
6　医薬品の溶解性および溶解速度に関する基本的知識を学習する。
7　医薬品の用途に応じた適切な剤形を調製するために、製剤の種類、有効性、安全性、品質などに関する基本的な知識と、調製を行う際の基本的知識を学習する。
8　様々な製剤技術を応用した現行の代標的な医薬品製剤あるいはDDS製剤について学習する。

到達目標:

1. 薬物と製剤材料の物性に関連する基本的事項を修得する。
2. 物質の変換過程を理解するために、反応速度論に関する基本的事項を修得する。
3. 溶液中の化学平衡に関する基本事項を修得する。
4. 薬物の携帯や薬物体内動態の制御方などを工夫したDDSに関する基本事項を修得する。

授業方法:　本講義は物理化学の知識を医薬品の製造関連分野へと発展させたものであるので、必要と判断した場合には物理化学の復習を取り入れながら授業を進める。講義は教科書に準拠して進める。期末試験(80分)と出席点を加味し、60点以上を合格とする(100点満点)。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション (1)講義の概要、薬剤学の定義と関連学問領域(物理化学、日本薬局方、調剤学)の解説 (2)講義に関する演習問題の学習法の解説	
2.	結晶および粉体の物理化学的性質 (1)結晶と無晶形(結晶多形、溶媒和物、固体分散体) (2)複合体形成(キレート化合物、分子複合体、包接化合物) (3)安定度定数の測定法 E-E5-(1)-①-1～5	教科書の該当箇所を3回読む
3.	反応速度論Ⅰ (1)反応速度と反応次数 (2)反応速度式(0次反応、1次反応、2次反応) (3)複合反応(平行反応、連続反応、可逆反応) C-C1-(3)-①-1～7	教科書の該当箇所を3回読む
4.	反応速度論Ⅱ (1)反応速度に影響する因子(温度、触媒、イオン強度、誘電率) (2)医薬品の分解(加水分解、酸化、光分解) (3)医薬品の安定化(化学的修飾、難溶性塩形成、複合体形成) (4)医薬品の安定性試験のガイドライン C-C1-(3)-①-1～7	教科書の該当箇所を3回読む 30分小テスト(1回目)を行う。講義1～3までの内容をよく復習すること。
5.	反応速度論Ⅲ (1)反応速度に影響する因子(温度、触媒、イオン強度、誘電率) (2)医薬品の分解(加水分解、酸化、光分解) (3)医薬品の安定化(化学的修飾、難溶性塩形成、複合体形成) (4)医薬品の安定性試験のガイドライン C-C1-(3)-①-1～7	教科書の該当箇所を3回読む
6.	粒子・粉体の性質(Ⅰ) (1)粒子の形状と密度 (2)粒子系の種類と測定法 (3)集合体としての粉体の性質 C-C2-(2)-①-1～4、②-1～4	教科書の該当箇所を3回読む
7.	粒子・粉体の性質(Ⅱ) (1)充填性・かさ (2)流動性 (3)ぬれ (4)臨界相対湿度 C-C2-(2)-①-1～4、②-1～4	教科書の該当箇所を3回読む 30分小テスト(2回目)を行う。講義4～6までの内容をよく復習すること。
8.	固体の溶解現象 (1)固体の溶解(Noyes-Whitneyの式、Nernst-NoyesWhitneyの式、Higuchiの式、Hixson-Cro-wellの式 (2)溶解性の改善 E-E5-(1)-①-1～5	教科書の該当箇所を3回読む
9.	界面化学Ⅰ (1)表面過剰エネルギーと表面張力、Gibbusの等温吸着式 (2)表面張力測定法 E-E5-(1)-③-1～4	教科書の該当箇所を3回読む
10.	界面化学Ⅱ (1)界面活性剤の性質(曇点、クラフト点) (2)ミセル形成と界面活性剤の作用 (3)HLB、要求HLB値、ぬれ、JP収載界面活性剤の特徴 E-E5-(1)-③-1～4	教科書の該当箇所を3回読む 30分小テスト(3回目)を行う。講義7～9までの内容をよく復習すること。

11.	分散系 （1）コロイド分散系の性質（運動学的性質、光学的性質、電気的性質、DLVO理論、電気二重膜、コロイドの安定性、吸着） （2）サスペンション （3）エマルション E-E5-(1)-③-1～4	教科書の該当箇所を3回読む
12.	レオロジーⅠ （1）ニュートン流動と非ニュートン流動（塑性流動、準塑性流動、準粘性流動、チキソトロピー、粘度の温度依存性） （2）粘弾性（マクスウェルモデル、フォークトモデル） E-E5-(1)-②-1～2	教科書の該当箇所を3回読む
13.	レオロジーⅡ （1）レオロジーの測定法（回転粘度計、動的粘弾性測定、毛細管粘度計、落球粘度計、分散系の粘度、製剤のレオロジー測定） (2)高分子溶液の粘度（相対粘度、比粘度、還元粘度、粘度法による高分子の分子量の決定） E-E5-(1)-②-1～2	教科書の該当箇所を3回読む 30分小テスト（4回目）を行う。講義10～12までの内容をよく復習すること。
14.	拡散と膜透過 （1）フィックの拡散法則（拡散、フィックの第1法則、フィックの第2法則、Nernst-Noyes-Whitneyの式） (2)膜透過とDDS（DDSの基本概念、リポゾームとDDSへの適用、リピッドマイクロスフェア） E-E5-(3)-①-1～2、②-1～3	教科書の該当箇所を3回読む
15.	15 まとめ 1～14の範囲について学力の確認を行う	

受講者へのメッセージやアドバイス:

事前に教科書を読むのと読まないとでは理解度に大きな差が出ますので、講義を受ける前には必ず該当箇所を3回読んでくること。

フィードバックの方法:

薬剤師国家試験問題に関連する演習問題を配布する。一部講義中に解説を行うので、教科書と共に持参すること。また、各自単元の学習に使用する。

必要に応じて3回マナビーを利用した小テストを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	71%	期末試験の71%を100点満点に配当
出席及び積極的参加度	9 %	ランダムに3回出席を取る。100点満点の9%として配当
30分小テスト	20%	4回の小テストを合計し、100点満点の20%として配当

教科書:

金尾義治　他編「NEW　パワーブック　物理薬剤学・製剤学」（廣川書店）
物理薬剤学演習ブック　（配布する）

参考書:

嶋林三郎　他編「製剤への物理化学」（廣川書店）
辻　彰　他編「わかりやすい物理薬剤学（第4版）」（廣川書店）
薬学教育モデル・コアカリキュラム対応コアカリ・マスター　vol. 1（薬学ゼミナール）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:

質問等は以下のメルアドまで。
nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

715700

薬物動態学Ⅰ

喜里山　暁子

授業テーマ:
薬物の生体内での動き、および薬物動態学的相互作用に関する基本的事項について学修する

授業の概要:
薬物の生体内運命を理解するために、吸収･分布･代謝･排泄の過程に関する基礎的知識とそれらを解析するための基本的技能を学修する。
(1) 生体膜透過 (E4(1)①)、吸収 (E4(1)②)、分布 (E4(1)③)、代謝 (E4(1)④)、排泄 (E4(1)⑤)
(2) 上記各過程が関与する相互作用 (E4(1)、F(2)②1)

到達目標:
(1) 薬物の生体内運命を理解するために、吸収･分布･代謝･排泄の過程に関する基礎的知識を習得する。
(2) 上記各過程が関与する相互作用について予測し、説明できる。
以上の項目を通して、社会に流通する医薬品製剤を理解し、人が摂取したときの人体中での薬の動きを予測する知識を身に付ける。

授業方法:
指定した教科書に従って、パワーポイントを使って授業をすすめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション (講義の概要) 生物幕の構造と透過機構(1) (1) 生体膜の構造	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
2.	生物幕の構造と透過機構(2) (2) 薬物の生体膜透過機構 (3) トランスポーター	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
3.	薬物の吸収(1) (1) 消化管の構造と吸収	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
4.	薬物の吸収(2) (2) 消化管吸収に影響を及ぼす因子(1)	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
5.	薬物の吸収(3) (2) 消化管吸収に影響を及ぼす因子(2)	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
6.	薬物の吸収(4) (3) 消化管以外の部位からの吸収	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
7.	薬物の体内分布(1) (1) 組織分布を支配する要因 (2) 薬物のリンパ管系移行	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
8.	薬物の体内分布(3) (3) 脳移行 (4) 胎児への移行 (5) 乳汁中への移行機構	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
9.	薬物の代謝(1) (1) 薬物代謝と薬効 (2) 薬物代謝の様式	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
10.	薬物の代謝(2) (3) 薬物代謝酵素	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
11.	薬物の代謝(3) (4) 薬物代謝の変動様式	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
12.	薬物の排泄(1) (1) 腎排泄	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
13.	薬物の排泄(2) (2) 胆汁中排泄と腸管循環	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
14.	薬物の排泄(3) (3) その他の排泄経路 総復習	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
事前に教科書を読むことにより理解度が大きく向上します。講義を受ける前には必ず該当箇所をしっかり読んできてください。レポートは授業中に指示した内容について作成し、次の講義で返却しますので、復習に利用してください。質問等、必要があれば講義で追加の説明を行います。

フィードバックの方法:
質問については、レポートに記載されていれば個別に答えるとともに、必要な場合には次の講義で受講者全員に解説する。マナビーを利用する予定である。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席･レポート	20%	授業への積極的な参加度
期末試験	80%	総合成績が60点以上で合格

教科書:
金尾義治、森本一洋編 「NEW パワーブック 生物薬剤学」(廣川書店)

参考書:
伊藤清美、萩原琢男、宮内正二編 「パザパ薬学演習シリーズ9 生物薬剤学演習」(京都廣川書店)
日本薬学会編 「スタンダード薬学シリーズⅡ6 医療薬学Ⅵ. 薬の生体内運命」(東京化学同人)

獲得が期待される基礎的･汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:
質問等がある場合は、学内メール(akiriyam@dwc.doshisha.ac.jp)にて対応する。

715900

食品衛生化学

木津　　良一

授業テーマ:　食品に含まれる栄養成分、有害化学物質および微生物と健康の関わり

授業の概要:　ヒトが生きていくうえには、食品を通して栄養の摂取が必要不可欠であることは言うまでもない。一方、食品には自然毒や有害化学物質、病原性微生物が含まれている場合があり、これらの摂取は健康や生命のリスクとなる。本科目では、食品含有成分の機能や作用を科学的に理解し、栄養素とその代謝、食品の安全性と食品衛生管理などに関する基礎知識を習得するために、薬学教育モデル・コアカリキュラム「D1健康（3）栄養と健康」の各項目について学ぶ。
D1（3）ー①　栄養
D1（3）ー②　食品機能と食品衛生
D1（3）ー③　食中毒と食品汚染

到達目標:　食品の摂取が健康に与える影響を化学的に理解するために、食品と栄養の機能、食品の安全性に関わる諸因子、食品衛生管理に関わる基本的事項を習得する。
D1（3）ー ① ～ ③ の各項目はさらに幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。

授業方法:　講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に沿って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。また、4週に1回、計4回の平常試験を講義時間の中で30分程度を用いて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養　D1（3）ー ① ー1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2.	栄養　D1（3）ー ① ー3、4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3.	栄養　D1（3）ー ① ー5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4.	栄養　D1（3）ー ① ー6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5.	栄養　D1（3）ー ① ー7、8	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6.	食品機能と食品衛生　D1（3）ー ② ー1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7.	食品機能と食品衛生　D1（3）ー ② ー2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8.	食品機能と食品衛生　D1（3）ー ② ー3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
9.	食品機能と食品衛生　D1（3）ー ② ー4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10.	食品機能と食品衛生　D1（3）ー ② ー5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11.	食品機能と食品衛生　D1（3）ー ② ー6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12.	食品機能と食品衛生　D1（3）ー ② ー7	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13.	食中毒と食品汚染　D1（3）ー ③ ー1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14.	食中毒と食品汚染　D1（3）ー ③ ー2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15.	食中毒と食品汚染　D1（3）ー ③ ー3	今回の講義内容を復習し理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　平常試験については講義の中で解説する。質問事項については講義室または研究室で随時対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常試験	100%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:

参考書:　日本薬学会 編、 衛生薬学　健康と環境、 東京化学同人、 6,100円
今井浩孝、小椋康光 編、 衛生薬学：基礎・予防・臨床、 南江堂、 7,000円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　E-メール：rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。

716000

医薬品無機・放射化学

根木　　滋

授業テーマ:　薬学領域における無機化学および放射化学の有用性の総合的理解

授業の概要:　生物は種々の元素の多彩で、かつ特異な化学反応性を巧みに利用して生命活動を行っている。本講義の前半では、薬学領域における無機化学、特に生体内における微量元素の働きや無機元素を含む医薬品の作用機序など生物無機化学を中心に紹介する。
また、放射線の発見は物理学と化学の世界に大きな変革をもたらし、やがて医学利用されるまで発展した。本講義の後半は、薬学にとって必要な放射線の基礎知識や放射性医薬品など放射性同位元素の医学、薬学における利用について紹介する。

到達目標:　講義を通して、無機化学、生物無機化学の基礎、および放射化学の基礎を学び、
薬学分野にそれらの知識を応用できるようになることを目標とする。

授業方法:　パワーポントを主に用い、適宜板書を行う。授業は配布するテキストをベースに行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬学領域における無機化学の必要性	特になし。
2.	原子の構造と電子の振舞い（C1-1）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
3.	化学結合と錯体化学（C1-1、C3-5-1）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
4.	元素の化学（生体必須元素と毒性元素）（C4-1）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
5.	金属を含むタンパク質・酵素（C1-2,、C4-1, C6-1-2, C6-3-1）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
6.	生体内酸化還元（C3-5-1, C6-3-1）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
7.	金属を含む医薬品（C3-5-1, C4-3-6, F2-3、F2-5）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
8.	原子核と放射能（C1-1-4）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
9.	放射線と物質との相互作用（C1-1-4）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
10.	放射線測定（C1-1-4）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
11.	放射性同位元素の製造と利用（C1-1-4）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
12.	放射線と生体（C1-1-4, D2-1-4）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
13.	放射性医薬品と画像診断（C2-6-2、F2-5）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
14.	薬学領域における放射性同位元素の利用（C1-1-4, C2-6-2）	毎講義の最後に次回の講義内容を示す。次講義までに、前回の講義内容を復習すると共に、講義テキスト（プリント）の対応項目を予習する。
15.	まとめ	これまでの全講義内容を総復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　無機化学および放射化学は薬学の基礎から応用、実務分野まで幅広く関与してくる内容です。
特に、国家試験に関係の深い項目、例えば元素と疾患・金属含有医薬品・放射性壊変・物理的診断法・放射性医薬品などについては、授業内容の復習と問題演習を必ず行うことが望ましいです。
皆さんと一緒に頑張りたいと思いますので、よろしくお願いします。

フィードバックの方法:　毎回の授業の疑問点を出席カードに書いてもらい、その中の重要だと思われる事項についてはマナビーなどを通して随時答えていく。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
小テスト（レポートを含む）	20%	毎回の講義の基礎的な理解度による
定期試験	80%	毎回の講義の総合的な理解度による

教科書:

参考書:　NEW放射化学・放射薬品学（佐治英郎・関 興一　編著、廣川書店、3,800円）
ベーシック薬学教科書シリーズ４　無機化学（青木 伸　編著、化学同人、2,800円）
薬学領域の放射科学（佐治英郎　監修、廣川書店、4000円）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、

教員との連絡方法:　マナビーシステム
e-mail:snegi@dwc.doshisha.ac.jp

716200

創薬有機化学Ⅱ

山本　　康友、宮脇　　あかり

授業テーマ:　生体内の化学反応を有機化学で理解する

授業の概要:　有機化学の講義で学習した化学反応が生命活動や医薬品の作用機序にどのように関わっているのか理解する

到達目標:
各種官能基の性質と生体内反応への関わりを理解する。
生体内で起こる求電子付加反応について理解する。
生体内で起こる求核置換反応について理解する。
生体内で起こる求核付加反応について理解する。
生体内で起こる求核アシル置換反応について理解する。
生体内で起こるカルボニル縮合反応について理解する。
生体内で起こる脱離反応について理解する。
生体内で起こる酸化還元反応について理解する。

授業方法:　講義を中心とした授業を行う。板書、プリントおよびパワーポイントを使用する。講義内で小テストを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	化学結合と軌道 C1(1)-1-1,2,3,4	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
2.	各種官能基の性質と生体内反応への関わり C4(3)-1-1,2,3,6, C6(2)-3-1,2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
3.	化合物の立体化学とその表記法 医薬品の命名法 C4(1)-1-1,2, C4(1)-2-1,2,3,4,5,6, C5(2)-4-1	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
4.	アルカンの性質と立体配座 医薬品の立体配座 C4(1)-2-7, C4(2)-1-2,3,4,5,6,7	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
5.	化合物の酸性・塩基性 生体内反応における酸性塩基性の重要性 C4(3)-7-1,2,3	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
6.	生体内で起こる求電子付加反応 C4(2)-2-1,2,3,4,5,6,7, C5(2)-2-1,2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
7.	生命活動に重要な芳香族化合物とその反応 C4(2)-3-1,2,3,4,5, C6(2)-1,2,3,4,5	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
8.	生体内で起こる求核置換反応 C4(3)-2-1,2, C5(1)-1-3,6	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
9.	生体内で起こる脱離反応 C4(3)-2-3, C5(1)-1-1,2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
10.	カルボニル基に対する求核付加反応 C4(3)-5-1	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
11.	生体内で起こる求核アシル置換反応 C5(1)-1-8,9,10,11	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
12.	生体内で起こるカルボニル縮合反応（1） C5(2)-1-1,2,3,4	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
13.	生体内で起こるカルボニル縮合反応（2） C5(2)-1-1,2,3,4	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
14.	生体内で起こる酸化還元反応 C5(1)-1-4,5,7,8	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
15.	総合演習：生体内の有機化学 C6(1)-1-1,2,3,4,5	講義全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　有機化学の講義で学んだ化学反応を今一度見直し、その知識を使って生命活動を有機化学的な視点で解釈してみましょう。

フィードバックの方法:　レポート課題および小テストについて、講義中またはマナビーで解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	講義全体の理解度により評価する
レポート及び小テスト	20%	課題に対する理解度により評価する

教科書:　ブルース有機化学　第7版　（大船泰史・香月　勗・西郷和彦・富岡　清　監訳、化学同人）

参考書:　マクマリー生化学反応機構　ーケミカルバイオロジー理解のためにー　（J. McMurry, T. Begley 著、長野哲雄　監訳、東京化学同人）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業時およびオフィスアワー

716300

生体分析化学

山内　　雄二

授業テーマ:　分析技術の臨床応用

授業の概要:　薬学教育モデル・コアカリキュラム「C2化学物質の分析－(6)臨床現場で用いる分析技術」を中心に、薬学研究や臨床現場で分析技術を適切に利用するための代表的な分析法の基本知識を修得する。
医薬品分析化学Ⅰ・Ⅱ及び機器分析学で修得した分析原理や分析技術に関する知識を基盤とし、臨床化学分析法、臨床物理的診断法、薬毒物分析法としての応用や適用を理解・修得する。

到達目標:　臨床分析に必要な試料の取り扱いや精度管理についての基本的知識を修得する。
チーム医療に参画するために必要な臨床分析技術や臨床検査値の基本的知識を修得する。
臨床分析技術(臨床化学検査法、臨床画像検査法)について医薬品分析化学Ⅰ・Ⅱ及び機器分析学で学んだ知識を基盤として臨床分析技術の原理や応用を理解・修得する。

授業方法:　講義。
配布プリントを使用し、必要に応じて板書及びPower Point等の視覚教材を用いて説明する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床分析の準備 臨床検体の前処理及び取扱い 臨床分析の単位と精度管理及び標準物質の意義 C2(6)①-1,2	講義内容の復習および自己演習
2.	臨床化学分析(1) 臨床分析で用いる代表的な分析法 酵素を用いた分析法の原理及び臨床応用 C2(6)②-1,3	講義内容の復習および自己演習
3.	臨床化学分析(2) 免疫反応を用いた分析法の原理及び臨床応用 C2(6)②-2	講義内容の復習および自己演習
4.	臨床化学分析(3) センサーの原理及び臨床応用 ドライケミストリーの原理及び臨床応用 C2(6)②-4	講義内容の復習および自己演習
5.	臨床化学分析(4) 電気泳動法の原理 キャピラリー電気泳動法の原理 C2(5)②-1	講義内容の復習および自己演習
6.	臨床化学分析(5) 薬毒物中毒における生体試料の取扱い 中毒原因物質や乱用薬物のスクリーニング法 C2(6)②-1	講義内容の復習および自己演習
7.	臨床化学分析(6) 薬毒物の管理や取扱い基準・制度 C2(6)②-1	講義内容の復習および自己演習
8.	臨床画像検査(1) 心電図の基礎　C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
9.	臨床画像検査(2) 心電図の基礎的解析法　C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
10.	臨床画像検査(3) 超音波診断法　C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
11.	臨床画像検査(4) X線検査、X線CT　C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
12.	臨床画像検査(5) X線造影剤、血管造影、心臓カテーテル、MRI、MRI造影剤 C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
13.	臨床画像検査(6) 核医学検査、放射性医薬品　C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
14.	臨床画像検査(7) 放射性医薬品の管理及び取り扱い　C2(6)②-5	講義内容の復習および自己演習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　薬学教育モデル・コアカリキュラムの「C2 化学物質の分析－(6)臨床現場で用いる分析技術」を中心に講義を実施する。薬学共用試験CBT及び薬剤師国家試験の受験や薬剤師として将来活動するするために必要な知識であるので、積極的に講義に参加して欲しい。

フィードバックの方法:　平常時試験の結果や解説を講義中に実施する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常時試験	45%	臨床分析に必要な試料の取り扱いや精度管理についての基本的知識の修得度及び理解度により評価する。 チーム医療に参画するために必要な臨床分析技術や臨床検査値の基礎知識の修得度及び理解度により評価する。
定期試験	45%	臨床検査技術(臨床化学検査法、臨床画像検査法)の原理や応用についての基本的事項の修得度及び理解度により評価する。
授業への参加度	10%	出席度を評価の基準とする。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィスアワーおよび講義の前後に対応する。

716400

天然医薬品化学

中村　　憲夫

授業テーマ:

授業の概要:

天然医薬品化学は，重要な薬理活性を有する天然物質を医薬品の素材として探索する学問である．天然薬物をもとにして開発された医薬品が数多く用いられていることを紹介し，天然物質がもつ様々な生理活性について説明する．また，一般的な分類法に従って天然物質の生合成経路について解説する．次いで，生物評価を併用した天然物質の分離精製と単離した化合物の構造決定について解説する．最後に天然から薬を見つける流れについて概説する．

到達目標:

1．天然薬物をもとにして開発された医薬品を理解する．
2．天然物質の構造からその生合成経路を判断する．
3．天然薬物から生物活性物質の単離方法を分析する．
4．生物活性物質の化学構造を分析する．

授業方法:

板書およびPowerPointを使用する．

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	天然医薬品：天然医薬品とリード化合物（1）（C5(2)-1-1,4，C5(2)-4-1,2，アドC5-4-3）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
2.	天然医薬品：天然医薬品とリード化合物（2）（C5(2)-1-1,2,3，C5(2)-4-1,2，アドC5-4-1,2）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
3.	天然医薬品：天然医薬品とリード化合物（3）（C5(2)-1-1,5，C5(2)-4-1,2,3，アドC5-4-4）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
4.	天然医薬品：シーズの開拓(アドC5-5-1,2)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
5.	天然医薬品：天然医薬品資源(アドC5-5-3,4)	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
6.	天然有機化合物の研究法：抽出と分離精製（1）（C5(2)-3-1）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
7.	天然有機化合物の研究法：抽出と分離精製（2）（C5(2)-3-1）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
8.	天然有機化合物の研究法：構造解析法（1）（C5(2)-3-1，C3(4)-2-2，3-4，4-1）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
9.	天然有機化合物の研究法：構造解析法（2）（C5(2)-3-1，C3(4)-1-5，4-1）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
10.	微生物由来の医薬品：微生物が生み出す医薬品（抗生物質）（1）（C5(2)-2-1,2）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
11.	. 微生物由来の医薬品：微生物が生み出す医薬品（抗生物質）（2）（C5(2)-2-1,2）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
12.	微生物由来の医薬品：微生物が生み出す医薬品（抗生物質）（3）（C5(2)-2-1,2）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
13.	. 微生物由来の医薬品：抗生物質の生産（C5(2)-2-1,2）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
14.	微生物由来の医薬品：微生物の利用（C5(2)-2-1,2）	配布したプリントをただ単に見直すだけではなく，講義中に説明した内容についても十分復習すること．
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

質問者に対して研究室で解説する．

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中に実施する小テスト（中間試験）	50%	到達目標1，2に関する理解度により評価する．
定期試験	50%	到達目標3，4に関する理解度により評価する．

教科書:

なし．プリントを配布する．

参考書:

化学系薬学Ⅲ　自然が生み出す薬物(日本薬学会編，東京化学同人)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

オフィスアワー

716500

公衆衛生学

木津　　良一

授業テーマ:　社会における集団の健康と疾病

授業の概要:　健康の保持・増進のためには、疾病の治療とともに疾病の予防が重要である。疾病の治療は一人一人の個別の状況に対応して行われるが、予防にあたっては、個人の状況のみならず集団としての特徴を把握することが重要である。本科目では、薬学教育モデル・コアカリキュラム「D2環境（1）化学物質・放射線の生体への影響」の各項目について学ぶ。
D1（1）ー ①　健康と疾病の概念
D1（1）ー ②　保健統計
D1（1）ー ③　疫学
D1（2）ー ①　疾病の予防とは
D1（2）ー ②　感染症とその予防
D1（2）ー ③　生活習慣病とその予防
D1（2）ー ④　母子保健
D1（2）ー ⑤　労働衛生

到達目標:　人々（集団）の健康と疾病の現状およびその影響要因を把握するために、また、健康を理解し疾病の予防に貢献できるようになるために、保健統計や疫学に用いられる種々の指標とその意味、感染症・生活習慣病・職業病など現代の疾病の現状とその予防に関する基礎事項を習得し、集団を対象とする公衆衛生学の考え方を身につける。
D1（1）ー ① ～ D1（2）ー ⑤ の各項目はさらに幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。

授業方法:　講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に沿って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。また、4週に1回、計4回の平常試験を講義時間の中で30分程度を用いて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康と疾病の概念　D1（1）ー ① ー1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2.	保健統計　D1（1）ー ② ー1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3.	保健統計　D1（1）ー ② ー2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4.	保健統計　D1（1）ー ② ー3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5.	疫学　D1（1）ー ③ ー1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6.	疫学　D1（1）ー ③ ー2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7.	疫学　D1（1）ー ③ ー3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8.	疫学　D1（1）ー ③ ー4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
9.	疾病の予防とは　D1（2）ー ① ー1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10.	疾病の予防とは　D1（2）ー ② ー1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11.	疾病の予防とは　D1（2）ー ② ー2、3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12.	疾病の予防とは　D1（2）ー ② ー4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13.	生活習慣病とその予防　D1（2）ー ① ー1、2、3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14.	母子保健　D1（2）ー ④ ー1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15.	労働衛生　D1（2）ー ⑤ ー1、2	今回の講義内容を復習し理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　平常試験については講義の中で解説する。質問事項については講義室または研究室で随時対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常試験	100%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:

参考書:　日本薬学会 編、 衛生薬学　健康と環境、 東京化学同人、 6,100円
今井浩孝、小椋康光 編、 衛生薬学：基礎・予防・臨床、 南江堂、 7,000円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　E-メール：rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。

716600

環境衛生学

木津　　良一

授業テーマ:　生活環境や生態系の保全と人為活動ならびに自然現象の関連

授業の概要:　日常生活も含めてヒトの活動は自然環境や生態系との相互作用の中で行われており、自然環境や生態系の汚染・破壊は生活環境の悪化や健康の減退につながる。本科目では、地球環境と生命の相互作用、人類が直面している深刻な地球規模の環境問題、生活環境を維持するための水や空気の現状と法規制、廃棄物の取扱いなどに関する基礎知識を習得し、人為活動と自然環境・生態系の相互作用を理解するために、薬学教育モデル・コアカリキュラム「D2環境（2）生活環境と健康」の各項目について学ぶ。
D2（2）ー ①　地球環境と生態系
D2（2）ー ②　環境保全と法的規制
D2（2）ー ③　水環境
D2（2）ー ④　大気環境
D2（2）ー ⑤　室内環境
D2（2）ー ⑥　廃棄物

到達目標:　生態系や生活環境を保全し維持できるようになるために、環境汚染物質などの成因、測定法、生体への影響、汚染防止、法規制などに関する基礎知識を習得する。
D2（2）ー ① ～ ⑥ の各項目はさらに幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。

授業方法:　講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に沿って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。また、4週に1回、計4回の平常試験を講義時間の中で30分程度を用いて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地球環境と生態系　D2（2）ー ① ー2、3、4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2.	地球環境と生態系　D2（2）ー ① ー1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3.	地球環境と生態系　D2（2）ー ① ー1、5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4.	環境保全と法的規制　D2（2）ー ② ー1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5.	環境保全と法的規制　D2（2）ー ② ー2、3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6.	水環境　D2（2）ー ③ ー1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7.	水環境　D2（2）ー ③ ー3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8.	水環境　D2（2）ー ③ ー4	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
9.	水環境　D2（2）ー ③ ー5	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10.	水環境　D2（2）ー ③ ー6	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11.	大気環境　D2（2）ー ④ ー1	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12.	大気環境　D2（2）ー ④ ー2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13.	大気環境　D2（2）ー ④ ー3	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14.	室内環境　D2（2）ー ⑤ ー1、2	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15.	廃棄物　D2（2）ー ⑥ ー1、2、3	今回の講義内容を復習し理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　平常試験については講義の中で解説する。質問事項については講義室または研究室で随時対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常試験	100%	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:

参考書:　日本薬学会 編、 衛生薬学　健康と環境、 東京化学同人、 6,100円
今井浩孝、小椋康光 編、 衛生薬学：基礎・予防・臨床、 南江堂、 7,000円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　E-メール：rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。

716700

免疫・感染症学

川崎　　清史

授業テーマ:

授業の概要:　薬学教育コアカリキュラムC8微生物と生体防御のうち、（1）身体を守る、と（2）免疫系の制御とその破綻・免疫系の応用、の内容をすべて含む。

到達目標:　免疫について基本的な事柄を学習する。そして微生物感染に応答する生体の仕組み、免疫に関わる病気、免疫を利用した技術を学習する。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	免疫学概論：免疫系の細胞（リンパ球、貪食細胞）、免疫系の組織（骨髄、胸腺、リンパ節） コアカリC8（1）①②③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
2.	自然免疫I：自然免疫系の特徴、補体系 コアカリC8（1）①1，2，3	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
3.	自然免疫II：貪食細胞、Toll様受容体によるパターン認識 コアカリC8（1）①	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
4.	抗原提示I：MHCの構造と種類、抗原提示（抗原ペプチドとの結合）のメカニズム コアカリC8（1）③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
5.	抗原提示II：T細胞による抗原認識、CD抗原 コアカリC8（1）③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
6.	T細胞の種類と役割 コアカリC8（1）③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
7.	サイトカイン：サイトカインの種類と役割 コアカリC8（1）③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
8.	異物の多様性に対応する仕組みI：抗体の種類と構造、T細胞受容体の構造 コアカリC8（1）③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
9.	異物の多様性に対応する仕組みII：遺伝子再編成、B細胞の発生と分化および活性化、クローン選択説、ヘルパーT細胞との相互作用 コアカリC8（1）③	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
10.	自己と非自己の識別：免疫寛容のメカニズム コアカリC8（1）①	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
11.	微生物感染と免疫応答：細菌感染、ウイルス感染、寄生虫感染に対する免疫応答の特徴 コアカリC8（2）①	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
12.	免疫疾患とその治療法I：アレルギーの分類と発症機構、自己免疫疾患、炎症の発症機構 コアカリC8（2）①	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
13.	免疫疾患とその治療法II：移植免疫、腫瘍免疫、先天性・後天性免疫不全症候群、ワクチン、抗体製剤 コアカリC8（2）①②	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
14.	免疫を利用した技術：沈降・凝集反応、免疫化学的測定法、モノクローナル抗体・ポリクローナル抗体 コアカリC8（2）②	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習／復習を行うこと
15.	まとめ	教科書に沿って授業を進行するのでその内容に従って予習を行うこと

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　必要に応じて面談等を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	100%	点数に応じて評価

教科書:　わかりやすい免疫学、市川厚・田中智之　編集、廣川書店

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワーの活用

716800

病態生化学Ⅰ

松野　　浩之

授業テーマ:
内分泌・代謝疾患について医学・薬学領域での必要な知識を習得する。

授業の概要:
内分泌・代謝疾患について、実践症例を元にグループ学習を行い、授業ごとに発表をすることで、全体討論の場を構築していく。

到達目標:
(1)人体の構造と機能・疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた知識を基礎とした薬物治療学の知識を身につける。
(2)患者に適した薬物治療を実施するために必要な薬理学・病態学・薬物治療学の知識を身につける。
(3)薬剤師に求められる専門的知識や技能を積極的に習得しようとする意欲を構築する。
(4)疾病の薬物治療や健康の保持・増進に関わる諸課題に強い関心をもつようにする。
(5)実験・調査・観察などで得られた結果を適切に解析・評価すると共にわかりやすく報告・発表する力を身につける。
(6)薬学領域の様々な事象の中から課題や問題を見出し、問題解決に向けて試行錯誤し努力する。

授業方法:
チュトーリアル方式
教科書の症例に関する質問の回答を各自予習して用意する。2-3人でcellと呼ぶグループを作成し、2つ以上のcellが結合して授業中に最初のdiscusionを行う。ついで、全体に対する発表を行う。発表者は、レポートの提出権利を得る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	チュトーリアル方式の説明と授業全体のオーバービューを行う。医療倫理を題材に、演習を行う。	教科書(Endocrinology 生協で販売)を各自用意。
2.	糖尿病(1) 糖代謝に関与する生理活性物質について学習し、糖尿病の成因について理解する。E(5)-①-1	実践症例(教科書13、14ページ)の設問について予習、回答する。
3.	糖尿病(2) インスリン強化療法についてその意義と患者さんへの対応を学習する。近年、開発されている新薬の有効性を病態に応じて解説する。E(5)-①-1	実践症例(教科書15、16ページ)の設問について予習し、回答する。
4.	糖尿病(3) メタボリックシンドロームについて、特に運動・食事療法がなぜ有用なのかを解説し、患者さんへのコンプライアンスの重要性と薬剤師の役割を解説する。E(5)-①-1	実践症例(教科書23、24ページ)の設問について予習し、回答する。
5.	糖尿病(4) 糖尿病が基礎疾患として何故重要なのか？実際の大学病院で薬学実習生が体験した症例を元に、合併症について生化学的に学習する。また、生化学検査値について学習する。E(5)-①-1	実践症例(教科書30、31ページ)の設問について予習し、回答する。生化学検査値について、糖尿病診断に用いられる数値を事前に確認する。
6.	糖尿病(5) 糖尿病に合併する急性疾患の危険性、対応する薬剤師の重要性を認識する。急性疾患での糖代謝について解説する。E(5)-①-1	実践症例(教科書32-34ページ)の設問について予習し、回答する。 糖尿病治療薬について病態から分類し、その作用機序を確認しておく。
7.	高尿酸血症と痛風 尿酸代謝と食事・アルコールの影響を学習する。これらの病態の進展や、他の疾患から2次的に起こる尿酸代謝の亢進を理解する。E(5)-①-3	実践症例(教科書43、44ページ)の設問について予習し、回答する。
8.	脂質異常症(1) 脂質代謝とその破綻に伴う病態について解説する。講義4で行ったメタボリックシンドロームを脂質を中心に復習を兼ねて学習する。E(5)-①-2	実践症例(教科書60、61ページ)の設問について予習し、回答する。
9.	脂質異常症(2) 近年、脂質代謝の中でも重要視される逆輸送経路の需要性と合併する疾患について解説する。講義形式に慣れてきた段階なので、設問を授業中に加えて、予習なしのdiscussionを試みる。E(5)-①-2	実践症例(教科書62ページ)の設問について予習し、回答する。脂質代謝経路を確認しておきましょう。
10.	甲状腺機能関連疾患(1) 甲状腺機能亢進症について学習する。治療に際して留意する副甲状腺機能についても解説する。E(5)②-2	実践症例(教科書80-82ページ)の設問について予習し、回答する。カルシウム代謝について学習しておきましょう。
11.	甲状腺機能関連疾患(2) 甲状腺機能低下症について学習する。人の恒常性について認識し、他の代謝疾患との関連性を解説する。E(5)②-2	実践症例(教科書83、84ページ)の設問について予習し、回答する。
12.	下垂体関連疾患 視床下部・脳下垂体に関連する疾患について、Cushing症候群を症例にあげ解説する。E(5)②-5	実践症例(教科書95、96ページ)の設問について予習し、回答する。ホルモンのフィードバック機構について整理しておきましょう。
13.	骨粗鬆症 骨代謝について分子レベルで解説する。講義10解説したカルシウム代謝(生理学的)と骨平衡について学習する。E(2)③-2	実践症例(教科書105ページ)の設問について予習し、回答する。骨粗鬆症治療薬の作用機序を調べておきましょう。
14.	フィードバック 教科書の課題について、重要な部位を解説し学生へのフィードバックを行う。講義時間に余裕があれば、新たな症例を提示し、その場でdiscussinを行う。	教科書の課題を整理し、回答を構築しておく。課題は講義1から13まで多数あるので、順次行っておくことが大切です。
15.	まとめ	全体を通して学習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
医療は、常にヒトと対峙してこそ本来の価値と治療を行う方向性が見えてきます。また、医療を実践するに自分一人では成し遂げられず、医療チームの一員として信頼され、機能することが重要です。本講義では、DWCLA10に基づき、医療人として必要な知識と実践能力を構築していくことを目標としています。積極的な授業への参加を希望します。

フィードバックの方法:
教科書の課題、症例の回答については講義ごとに解説する。試験は、答案の開示を個別に行う。開示の方法と時間は、各自、教員へのアポイントを取って確認する。レポートは、発表者に提出する権利を与える。マナビーの提出様式に沿って作成されたレポートは採点して、14周目までに個別に返信する。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	出題された内容について、理論的説明がなされているがkey wordを設定して採点を行う。
授業中の発表レポート	30%	毎回の授業でopen discussionを行い、発表者は次回にレポートを提出する。これらについて一回につき最高10点満点で採点する。
再履修者	100%	再履修については、試験のみで判定する。

教科書: Endocrinology（4月から大学生協で販売）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: hmatsuno@dwc.doshisha.ac.jp

716900

病態生化学Ⅱ

松野　　浩之

授業テーマ:
血液・循環器疾患について薬剤師・医療従事者として必要な知識を習得する。

授業の概要:
血液・循環器関連疾患について、実践症例を用いてグループ学習を行い、授業ごとに発表をすることで、全体討論の場を構築していく。

到達目標:
(1)人体の構造と機能・疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた知識を基礎とした薬物治療学の知識を身につける。
(2)患者に適した薬物治療を実施するために必要な薬理学・病態学・薬物治療学の知識を身につける。
(3)薬剤師に求められる専門的知識や技能を積極的に習得しようとする意欲を構築する。
(4)疾病の薬物治療や健康の保持・増進に関わる諸課題に強い関心をもつようにする。
(5)実験・調査・観察などで得られた結果を適切に解析・評価すると共にわかりやすく報告・発表する力を身につける。
(6)薬学領域の様々な事象の中から課題や問題を見出し、問題解決に向けて試行錯誤し努力する。

授業方法:
チュトリーアル方式
病態生化学1の成績から、mother Cellと呼ばれる集団を作成する。約10名程度は、授業時に単独で活動し、他のcellへの助言や発表を促す役割を担う。M.Cellは13週目に個別にレポートを提出する。各症例ごとに発表担当班(3-4cell)をあらかじめ指定する。他は、病態生化学1と同様の様式で授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Overview 血液に関する基礎的知識の確認、循環器に関する基礎的知識の確認、および今シリーズの全体像を解説して今期の目標を示す。	教科書(Blood & Circulation　生協にて9月後半より販売)を購入しておいてください。
2.	貧血(1)鉄欠乏性貧血 体内の鉄代謝を確認して欠乏による貧血の成員を解説する。各血球成分が分化・成熟する過程を解説する。E(3)-②-3	教科書実践症例(ページ31-33)を予習しましょう。課題26・28について調べましょう。
3.	貧血(2)再生不良性貧血 汎血球減少症を示す病態について解説する。また、溶血性貧血についても解説する。E(3)-②-3	教科書実践症例(ページ35)を予習しましょう。課題30・31について調べましょう。
4.	血栓症(1)血小板 血小板関連疾患について解説する。止血血栓と病的血栓、血小板機能障害が示す遺伝的疾患(血友病など)も解説する。E(3)-②-1,2	教科書実践症例(ページ58・59)を予習しましょう。課題37・38について調べましょう。
5.	血栓症(2)凝固・線溶 凝固と線溶について解説する。抗凝固剤は広範囲に使われ、病態との関連に注意が必要である。また、検査値を理解する重要性を解説する。E(3)-②-2	教科書実践症例(ページ61・62)を予習しましょう。課題39について調べましょう。
6.	循環器疾患(1-1)狭心症 虚血性心疾患について解説する。心臓の自動能やAPDについて基礎的知識を確認する。E(3)-①-3	教科書実践症例(ページ78・79)を予習しましょう。課題46-48について調べましょう。
7.	循環器疾患(1-2)狭心症 追加症例を前週に提示します。それについて実践形式で討論を行います。E(3)-①-3	心臓の生理、生化学についてよく復習しておきましょう。心電図について基礎的な知識を準備しましょう。
8.	循環器疾患(2)心不全 右心系、左心系における血液胴体と不全に伴う病態について解説する。E(3)-②-2	教科書実践症例(ページ81-83)を予習しましょう。課題49について調べましょう。
9.	循環器疾患(3-1)不整脈 心筋におけるAPD・自動能につて解説する。また、致死性の不整脈を発症する病態について解説する。E(3)-②-1	教科書実践症例(ページ97)を予習しましょう。課題55を調べておきましょう。
10.	循環器疾患(3-2)不整脈(合併症) 基礎疾患(糖尿病)を有する患者さんが、心疾患を示した場合どのような変化が病態に見られるか、薬剤が及ぼす影響についても解説する。E(3)-②-1	教科書実践症例(ページ110-113)を予習しましょう。課題58・59について調べましょう。
11.	循環器疾患(3-3)不整脈 上室性不整脈について、最近の治療形態の変化を追加症例から学習します。	追加症例は10週の後に提示します。
12.	循環器疾患(4)高血圧 血圧の調節因子について解説する。2次的に高血圧を示す疾患について解説する。E(3)-②-4	教科書実践症例(ページ127)を予習しましょう。課題60について調べましょう。
13.	循環疾患(5)高血圧(腎性高血圧) 応用編として、高血圧患者が急性疾患を呈した場合薬物用法がどのように対応されるか解説する。また、RAA系の生体内での多様性についても解説する。E(3)-②-4	症例は、11回の講義終了後示します。課題63を調べておきましょう。
14.	循環器疾患(6)高血圧(仮面高血圧) 健康診断などでは、正常範囲を示しながら生活内で高血圧を呈する疾患が存在します。これらの危険性、薬剤師としての関わり方などを解説します。E(3)-②-4	症例は、12回の講義終了後示します。高血圧に関するまとめを各自しておきましょう。
15.	まとめ	講義1-14を復習しましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:
秋学期では、よりいっそうの積極的なDiscussionへの参加を希望します。講義期間中、最低一回は発表しましょう。

フィードバックの方法:
教科書の課題、症例の回答については講義ごとに解説する。試験については、講義終了後、答案の開示を個別に行う。開示の方法と時間は、各自、教員へのアポイントを取って確認する。発表者のレポートは、採点したのちマナビーを介して個別に返信する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	70%	出題された内容について、理論的説明がなされているかkey wordを設定して採点を行う。

発表班・質問者・レポート	30%	発表班におて症例の解説をおこなったものは、発表点（10店満点）を受ける。発表に対する質問者は、マナビーを介して質問内容をまとめてレポートを提出する。内容について一回につき最高10点満点で採点する。採点結果は個別に返信する。
M.Cell レポート（指定者のみ）	30%	授業開始時にM.Cellに指定され、受諾した人は13週目終了時にレポートを提出する用紙を受け取り、14週目にまでに提出する。
試験（再履修者）	100%	再履修者は試験のみで判定する。

教科書: Blood & Circulation（9月後半に生協にて販売）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: hmatsuno@dwc.doshisha.ac.jp

717000

医薬品毒性学

漆谷　　徹郎

授業テーマ:　毒性発現機序と毒性評価

授業の概要:　すべての薬は毒であり、すべての毒は薬になり得る。物質を生体に作用させれば、必ず何らかの効果が得られるはずであり、それを毒性と呼ぶか、薬効と呼ぶかは判断する側の価値観に過ぎない。本講では、物質と生体の相互作用を、「毒性」という面から解説する。医薬品毒性学と医療安全性学を通年講義とみなし、この二つの講義で、薬学コアカリキュラムの毒性関係の項目を網羅する。なお、毒性発現の分子機構、および生体側の免疫反応以外の防御機構に関しては、毒性学的に重要でありながら薬学コアカリキュラムにはほとんど含まれていない。これらの項目は本講義で独自なものとして入れ込んでいる。

到達目標:　代表的な毒物の毒性発現機構、生体の解毒機構、代表的な臓器毒性、中毒への対処法を理解する。また、毒性評価に必須な生物統計を駆使できるようにする

授業方法:　教科書に沿ってパワーポイントで講義し、教科書に収載されていないものはプリントを配布。プリントには各回の要点に関する小テストを掲載

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	生物統計学　χ２検定, Kaplan-Meiyer法　E3(1)-5、E3(1)-6, 7	マナビーにアップした演習問題を理解する
2.	毒性学の歴史、毒性の考え方 D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
3.	毒性評価の理論的背景、各種毒性学専門用語の定義と解説　D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
4.	毒性発現の分子機構 C6(7), D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
5.	生体防御・解毒機構 C6(7), D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
6.	天然毒性物質—１　D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
7.	天然毒性物質—Ⅱ　D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
8.	中間テスト、医薬品の副作用：概論　E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
9.	肝毒性　D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
10.	腎毒性　D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
11.	消化器毒性・呼吸器毒性　D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
12.	神経行動毒性　D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
13.	循環器・血液毒性　D2(1), E1(4)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
14.	臨床中毒学 D2(1)	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習
15.	まとめ	マナビーにアップした小テストの解説で予習・復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　次学期の医療安全性学を合わせて通年講義とみなし、この二つの講義で、薬学コアカリキュラムの毒性関係の項目を網羅する。教科書は共通である。

フィードバックの方法:　小テストの正解や解説は基本的にマナビーにアップ。それに基づいた質問などは随時研究室を訪問。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	50%	知識を問う選択肢問題・計算問題。7回までの講義範囲。
定期試験	50%	知識を問う選択肢問題・計算問題。8回以降の講義範囲。

教科書:　漆谷編、「医薬品安全性学」 ベーシック薬学教科書シリーズ、化学同人

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　turushid@dwc.doshisha.ac.jp　憩水館6F　W606　に随時

717100

薬理学Ⅱ

藤井　　健志

授業テーマ:

薬物により引き起こされる生体機能の変化を知り、医薬品による治療メカニズムを考察できるようになる。

授業の概要:

薬理学Ⅰ、ⅡおよびⅣの3科目で薬理学の基本概念、医薬品が病気の症状を改善するメカニズムについて学ぶ。特に、中枢神経系、循環器系および消化器系に作用する薬物の作用メカニズムを学ぶ。

到達目標:

1. てんかんの治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
2. うつ・躁病の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
3. 統合失調症の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
4. パーキンソン病の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
5. 認知症の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
6. 種々の鎮痛薬の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
7. 心不全の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
8. 虚血性心疾患の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
9. 不整脈の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
10. 高血圧症の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
11. 利尿薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
12. 消化器系疾患の治療薬の作用メカニズムについて説明できる(知識)。
13. 上記1から13該当する薬物の構造式の特徴について説明できる(知識)。

授業方法:

1. プリテストによる予習状況の確認
2. 板書による講義
3. ポストテストにより理解度の確認

を原則とするが、随時指名して回答させるので積極的は授業参加を期待する。なお、プリテストは予備知識の確認あるいは準備状況を確認するために実施している。成績評価や出席管理のために実施しているわけではない。したがって、他人に成りすましてプリテストが提出された場合、実施が取りやめられる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	中枢神経系に作用する薬物2　てんかん:E2(1)③7	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
2.	中枢神経系に作用する薬物3　うつ・そう・不安神経症:E2(1)③5,6	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
3.	中枢神経系に作用する薬物4　統合失調症:E2(1)③4	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
4.	中枢神経系に作用する薬物5　パーキンソン病:E2(1)③9	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
5.	中枢神経系に作用する薬物6　アルツハイマー型認知症・脳血管疾患・中枢性筋弛緩薬・中枢興奮薬:E2(1)③3,8,10,14	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
6.	中枢神経系に作用する薬物7　麻薬性鎮痛薬・非麻薬性鎮痛薬・片頭痛:E2(1)③2,3	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
7.	循環器系に作用する薬物1 急性心不全・慢性心不全:E2(3)①2	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
8.	循環器系に作用する薬物2　虚血性心疾患(心筋梗塞・狭心症):E2(3)①3	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
9.	循環器系に作用する薬物3　不整脈:E2(3)①1	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
10.	循環器系に作用する薬物4　高血圧症:E2(3)①4	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
11.	循環器系に作用する薬物5　利尿薬:E2(3)③1	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
12.	消化器系1　胃・炎症性腸疾患:E2(4)②1,2	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
13.	消化器系2　消化管運動・肝・膵・胆道系:E2(4)②3,4,5,6,7,8	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
14.	質問・薬理学Ⅱの範囲内における薬理学の最新の知見	第13回までの授業内容について各自疑問点を明らかにし、質問を準備しておくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

毎回の授業で、予習状況もしくは予備知識に関するプリテストを実施するので、教科書の指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。また、自主的に様々な資料(下記の参考文献はその一例)にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。指定された教科書1冊だけで学習するのではなく、疑問を感じたら様々な資料にあたって問題解決を図ること。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。なお、追加の指示がある場合はマナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。

フィードバックの方法:

前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。定期試験の問題および解答はマナビーにアップロードするので、各自自己採点し不明の点は必ず質問すること(メール可)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
多肢選択式の定期試験	100%	定期試験(多肢選択式により40問を出題)に対する妥当な正答率(最低合格基準:Minimum Pass Level)により合格を判定する。最低合格基準は第14回目の授業の授業の際、もしくはマナビーにて試験実施前に公表する。なお、最低合格基準は目標達成度の60%を超えない範囲で設定され、この基準を満たした場合に単位が認定される。中間試験は行わない。出席点はない。

教科書:

今井正・宮本英七監修、標準薬理学　第7版、医学書院

参考書:

竹内孝治・岡淳一郎編集、最新薬理学　第3版、廣川書店
重信弘毅・石井邦雄編集、パートナー薬理学、南江堂
加藤隆一・田中千賀子編集、New薬理学　第6版、南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室(憩水館6階W602)まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール(tfujii@dwc.doshisha.ac.jp)にて事前に連絡する方が望ましい。

717400

薬物治療学Ⅰ

村上　　元庸、髙橋　　玲

授業テーマ:　疾患理解に基づいて薬物治療を提示することができる

授業の概要:　医療において薬物治療は重要な位置を占めている。薬剤師は医師や他の医療専門職等と協力して適切な薬物療法に貢献し医療の質を高める役割と責任が期待されている。薬物治療学Iでは、消化器疾患、循環器疾患、呼吸器疾患、病原微生物感染症、アレルギー疾患、悪性腫瘍などの各疾患の総合的な理解と薬物療法につき学ぶ。

到達目標:　薬剤師は薬物療法に貢献し医療の質を高める役割が期待されている。そのためには、医学、薬学に精通し、個々の患者に応じた薬の選択ができなければならない

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	症候、検査 E1 (2) (2) (村上)	関連基礎分野の予習
2.	消化器疾患 E2 (4) (2) (村上)	関連基礎分野の予習
3.	消化器疾患 E2 (2) (2) (村上)	関連基礎分野の予習
4.	消化器疾患 E2 (2) (2) (村上)	関連基礎分野の予習
5.	循環器疾患 E2 (3) (1) (村上)	関連基礎分野の予習
6.	循環器疾患 E2 (2) (1) (村上)	関連基礎分野の予習
7.	循環器疾患 E2 (2) (1) (村上)	関連基礎分野の予習
8.	高血圧 E2 (2) (1) (村上)	関連基礎分野の予習
9.	呼吸器疾患 E2 (4) (1) (村上)	関連基礎分野の予習
10.	呼吸器疾患 E2 (4) (1) (村上)	関連基礎分野の予習
11.	アレルギー疾患 E2 (2) (2) (高橋)	関連基礎分野の予習
12.	感染症Ⅰ　E2 (7) (3) (高橋)	関連基礎分野の予習
13.	感染症Ⅱ　E2 (7) (3) (高橋)	関連基礎分野の予習
14.	悪性腫瘍　E2 (7) (7) (8) (高橋)	関連基礎分野の予習
15.	まとめ	関連分野の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	90	講義内容の理解度により評価する
出席、授業態度、意欲	10	

教科書:　授業にて指示

参考書:　授業にて指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

717500

薬物治療学Ⅱ

村上　元庸、髙橋　玲、岸本　寛史

授業テーマ:　疾患を理解し適切な薬物治療を提案できる

授業の概要:　医療において薬物治療は重要な位置をしめる。薬剤師は医師や他の医療専門職と協力して患者さんのため適切な薬物療法を提供し医療の質を高める役割と責任が期待されている。薬物治療学Ⅱでは、薬物治療学Ⅰに続き、血液疾患、代謝性疾患、感覚器疾患、皮膚疾患、神経疾患、骨・関節の疾患、移植医療、高齢者医療と薬物療法を学ぶ。さらに症候、病態、検査法を理解し、症例検討も行う

到達目標:　適切な薬物療法を理解できる

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	血液学 C-14 (2) （村上）	関連基礎分野の予習
2.	血液疾患 C-14 (2) （村上）	関連基礎分野の予習
3.	代謝性疾患 C-14 (3) （村上）	関連基礎分野の予習
4.	感覚器疾患 C-14 (4) （村上）	関連基礎分野の予習
5.	皮膚疾患 C-14 (4) （村上）	関連基礎分野の予習
6.	腎疾患　C-14 (3) （村上）	関連基礎分野の予習
7.	肝疾患 C-14 (4) （村上）	関連基礎分野の予習
8.	神経疾患　C-14 (3) （岸本）	関連基礎分野の予習
9.	神経疾患　C-14 (3) （村上）	関連基礎分野の予習
10.	大脳認知機能、認知症 C-14 (1),(2),(3),(4), C-15 (1),(2) （村上）	関連基礎分野の予習
11.	骨・関節の疾患 C-14 (4) （高橋）	関連基礎分野の予習
12.	移植、自己免疫疾患　C-14 (1),(4) (高橋)	関連基礎分野の予習
13.	移植、自己免疫疾患　C-14 (1),(4) (高橋)	関連基礎分野の予習
14.	悪性腫瘍　C-14 (1),(3),(4) （高橋）	関連基礎分野の予習
15.	まとめ	関連分野の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	90	講義内容の理解度により評価する
出席、授業態度、意欲	10	

教科書:　授業にて説明

参考書:　授業にて説明

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

717600

調剤学

森田　　邦彦、中西　　弘和、杉浦　　伸一

授業テーマ:　真の薬剤師として、はばたくために　～実務実習事前学習・基礎編～

授業の概要:　薬剤師業務の基本である処方箋に基づく調剤、疑義照会、医薬品の安定性と管理、リスクマネージメント等に関する基礎ならびに薬剤師の使命について学習する。

到達目標:　安全で適正な薬物療法を遂行するために、処方箋の書式、医薬品の各種剤形、医薬品の供給と管理、基本的な計数・計量調剤の技法、疑義照会の基本、ならびに現代医療のなかで薬剤師に求められている職能の基本的事項を修得する。

授業方法:　配布プリント、Power Point映写を中心として講義するほか、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、学生はこれらの課題に対する答案を期限内に提出し、翌週の講義で解説を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。適宜教科書も用いる。
第１回～第2回、第10回～第14回を森田が、第3回～第6回と第9回を中西が、第7回と第8回を杉浦がそれぞれ担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬剤師業務の展望と社会からの期待（その１）。 旧薬学コアカリキュラム：A(2)-1)～2), A(2)-2, A(3)-5-1), B(1)-2, C18(3)-2, D1(1)-1～3	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
2.	薬剤師業務の展望と社会からの期待（その２）。 旧薬学コアカリキュラム：A(2)-1)～2), A(2)-2, A(3)-5-1), B(1)-2, C18(3)-2, D1(1)-1～3	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
3.	処方せんの基礎、処方せんと調剤-1 旧薬学コアカリキュラム：D1(2)-1-1)～4)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
4.	処方せんと調剤-2 旧薬学コアカリキュラム：D1(2)-1-5)～6), D1(2)-2-8)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

5.	処方せんと調剤-3 旧薬学コアカリキュラム：D1(2)-2-7), D1(2)-2-9)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
6.	処方せんと調剤-4 旧薬学カリキュラム：D1(2)-2-11), D1(3)-1-2)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
7.	処方せんと調剤-5 旧薬学コアカリキュラム：D1(2)-2-11), D1(3)-1-2)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
8.	製剤化の基礎 旧薬学コアカリキュラム：D1(4)-3	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
9.	注射薬・輸液 旧薬学コアカリキュラム：D1(4)-4	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

10.	疑義照会-1 旧薬学コアカリキュラム：D1(3)-1	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
11.	疑義照会-2 旧薬学コアカリキュラム：D1(3)-2	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
12.	重大な副作用の初期症状、警告、禁忌 旧薬学コアカリキュラム：D1(3)-2	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
13.	リスクマネージメント-2 旧薬学コアカリキュラム：D1(5)-2	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
14.	医薬品の管理と供給 旧薬学コアカリキュラム：D1(5)-2D1(4)-1	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

15. まとめ	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。
2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

フィードバックの方法:

第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、翌週の講義で解説（フィードバック）を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
マナビーでの課題	30%	課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、各回5点満点で計30点満点とする。
期末試験	70%	第1回～第14回の全範囲を対象とした多肢選択式および記述式の期末試験問題70点満点とする。

教科書:

わかりやすい調剤学　第6版　廣川書店
毎回の講義時に配布するオリジナル資料

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール

717700

臨床薬剤学Ⅰ

森田　　邦彦、松元　　加奈

授業テーマ:　真の薬剤師として、はばたくために　～実務実習事前学習・基礎編～

授業の概要:　臨床薬剤学I、IIを一系統の科目とみなし、この2科目で薬物療法の実施に際して薬剤師が主導的役割を果たすべき事項、すなわちPK-PD理論に基づく各種薬剤の適正使用のあり方をはじめ、有効性をできるだけ高め、副作用発現を未然に回避あるいは早期発見に努めるための臨床薬剤師としての職能を系統立てて理解する。これらの内容はいずれも5年次の実務実習先で修得する実践的技能および知識の基礎をなすものであり、領域としては、薬物血中濃度モニタリングに基づく患者個々への投与設計のあり方、感染症の予防と治療における薬物療法の適正化、炎症・アレルギー疾患治療薬の適正使用、呼吸器疾患治療薬の適正使用について、薬学モデルコアカリキュラム　E:医療薬学のE4(2)②TDMと投与設計、F:薬学臨床の(2)処方箋に基づく調剤、(3)薬物療法の実践、を対象領域とする。

到達目標:　薬物血中濃度モニタリングによる投与設計領域、感染症の予防と治療領域、炎症・アレルギー疾患治療領域、呼吸器疾患治療領域を対象に、患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、適切に患者情報を収集した上で、患者の容体を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に個々の患者に適した薬物療法を提案・実施・評価できる能力を修得する。
以上に基づき、チーム医療への参画、薬物療法における実践的能力を培う。

授業方法:　配布プリント、Power Point映写を中心として講義するほか、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、学生はこれらの課題に対する答案を期限内に提出し、翌週の講義で解説を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。適宜教科書も用いる。
第1回～第8回、第10回～第14回を森田が、第9回を松元が、それぞれ担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬物動態の解析(TDM)-1 薬学コアカリキュラム:E4(2)②	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
2.	薬物動態の解析(TDM)-2 薬学コアカリキュラム:E4(2)②	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
3.	薬物動態の解析(TDM)-3 薬学コアカリキュラム:E4(2)②	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

4.	消毒と滅菌、感染症の予防、感染症の治療（その１） 薬学コアカリキュラム：F（3）	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
5.	感染症の治療（その２） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
6.	感染症の治療（その３） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
7.	感染症の治療（その４） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

8.	感染症の治療（その5） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
9.	感染症の治療（その6） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
10.	感染症の治療（その7） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
11.	炎症・アレルギー疾患の治療（その1） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

12.	炎症・アレルギー疾患の治療（その2） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
13.	呼吸器疾患の治療（その1） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
14.	呼吸器疾患の治療（その2） 薬学コアカリキュラム：F(3)	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
15.	まとめ	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

受講者へのメッセージやアドバイス：	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
フィードバックの方法：	第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、翌週の講義で解説（フィードバック）を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	マナビーの課題	30%	課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、各回5点満点で計30点満点とする。
	期末試験	70%	第1回～第14回の全範囲を対象とした多肢選択式および記述式の期末試験問題70点満点とする。

教科書:

今日の治療薬2018年版（南江堂）（2017年版以前のものでもかまわない）、もしくは治療薬ハンドブック（じほう）（2017年版以前のものでもかまわない）。
毎回配布するオリジナル資料

参考書:

日常診療に役立つ抗感染症薬のPK-PD　戸塚恭一　監修　ユニオンエース社
感染症のチーム医療　専門医の処方意図を探れ　三笠桂一、森田邦彦　編集　南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール

717800

薬物動態学Ⅱ

喜里山　暁子

授業テーマ:
薬物の体内動態および動態解析の基礎的知識と、臨床における相互作用や薬物治療の管理についての知識について学修する

授業の概要:
薬物動態の理論的解析ならびに投与設計に関する基本的事項、および薬物の投与形態や薬物体内動態の制御法などを工夫したDDSに関する基本的事項を学修する。
(1) 薬物速度論:コンパートメントモデル、生理学的モデル、非線形モデル、モーメント解析、PK/PD解析 (E4(2)①)
(2) TDM:TDMの意義、実例、母集団薬物速度論 (E4(2)②)
(3) 各種生理的・病的条件下における薬物の体内動態 (F(2)②1、F(2)④2)
(4) ドラッグデリバリーシステム:生物学的同等性、放出制御、経粘膜デリバリー、プロドラッグ、標的志向 (E5(2)③、E5(3)①②)

到達目標:
(1) 各薬物動態解析法の特徴とパラメータの意味を理解し、理論的に解析をおこなう技術、および投与設計に関する基本的事項を習得する。
(2) 薬剤の投与形態、体内動態制御を目的としたDDS製剤等について基本的事項を習得する。
以上の項目を通して、社会に流通する医薬品製剤を理解し、人が摂取したときの人体中での薬の動きを予測する知識を身に付ける。

授業方法:
指定した教科書に従って、パワーポイントを使って授業をすすめる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション (講義の概要) 薬物動態学を学ぶための簡単な数学、単位、公式、図の見方 補足(1):薬物の分布(血漿タンパク結合)	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
2.	薬動学による薬物動態の解析(1) (1) コンパートメントモデル(1)	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
3.	薬動学による薬物動態の解析(2) (1) コンパートメントモデル(2)	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
4.	薬動学による薬物動態の解析(3) (1) コンパートメントモデル(3)	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
5.	薬動学による薬物動態の解析(4) (2) クリアランスと生理学的モデル	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
6.	薬動学による薬物動態の解析(5) (3) 非線形モデル (4) モーメント解析	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
7.	薬動学による薬物動態の解析(6) (5) デコンボリューション法 (6) PK/PD解析	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
8.	薬動学による薬物動態の解析(7) (7) バイオアベイラビリティ	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
9.	薬物相互作用(1) (1) 薬物相互作用の分類 (2) 薬物動態学的相互作用(1)	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
10.	薬物相互作用(2) (2) 薬物動態学的相互作用(2) (3) 薬力学的相互作用 (4) 飲食物・嗜好品との相互作用 (5) 薬物の臨床検査値への影響	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
11.	薬物治療管理(1) (1) TDMの臨床的意義 (2) 薬物血中濃度の測定 (3) TDMの実例	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
12.	薬物治療管理(2) (4) 母集団薬物速度論とベイジアン解析 (5) 病態と薬物体内動態	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
13.	ドラッグデリバリーシステム(1) (1) DDSの意義と目的 (2) 放出制御 (3) 経粘膜デリバリー	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
14.	ドラッグデリバリーシステム(2) (4) プロドラッグ (5) 標的指向 補足(2):生体膜透過機構(吸収・分泌)	教科書の該当箇所をしっかり読んでおく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
事前に教科書を読むことにより理解度が大きく向上します。講義を受ける前には必ず該当箇所をしっかり読んできてください。レポートは授業中に指示した内容について作成し、次の講義で返却しますので、復習に利用してください。質問等、必要があれば講義で追加の説明を行います。

フィードバックの方法:
質問については、レポートに記載されていれば個別に答えるとともに、必要な場合には次の講義で受講者全員に解説する。マナビーを利用する予定である。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・レポート	20%	授業への積極的な参加度
期末試験	80%	総合成績が60点以上で合格

教科書:
金尾義治、森本一洋編 「NEWパワーブック　生物薬剤学　第3版」(廣川書店)
灘井雅行、萩原琢男、林弥生編 「パザパ薬学演習シリーズ6　薬物速度論演習」(京都廣川書店)

参考書:
高田寛治著 「薬物動態学　ー基礎と応用ー　改訂2版」(じほう)
山崎浩史、夏目秀視、橋爪孝典編 「演習と解説　薬物動態学」(廣川書店)
緒方宏泰編 「第3版　臨床薬物動態学ー薬物治療の適正化のためにー」(丸善出版)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力
教員との連絡方法:	質問等がある場合は、学内メール(akiriyam@dwc.doshisha.ac.jp)にて対応する。

717900

薬物代謝学

成橋　　和正

授業テーマ:　薬物代謝、薬物相互作用

授業の概要:　医療の発展に伴い、薬物の重要性は高まっており、薬物療法における併用など複雑化してきている。薬物が効力を発揮するには、薬物自体が生体への薬理作用を有することが必須となるが、臨床使用では、薬物の薬物動態特性が重要となってくる。薬物動態には、薬物代謝酵素や薬物トランスポーターなどの機能タンパク質が重要な役割を担っており、近年は、分子生物学的にも解明されつつある。これらに関する基礎知識は、臨床薬剤師として薬物療法に関与する上で十分理解すべき事項である。本講義では、機能タンパク質の中でも、臨床上、最も重要な役割を担っている薬物代謝酵素について、基礎的な知識を身につけ、臨床でおこる事象を理解できること、すなわち、薬学的メカニズムと臨床エビデンスを説明できることを目標とする。

到達目標:　種々の薬物代謝に関与する酵素と酵素反応の機序を説明できる。
薬物代謝反応による薬の薬効と毒性の変化の例を挙げて説明できる。
薬効に個人差や人種差が生じる要因を列挙し、その違いを説明できる。
薬物代謝酵素の遺伝的多型が薬物治療時及ぼす影響を代表例を示して説明できる。
薬物動態学的機序によって起こる薬物相互作用について、例を挙げて説明できる。

授業方法:　講義形式
（指定教科書を中心とし、適宜、プリント等を配布する）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	くすりの体内での化学的変化とそれが起こる部位を列挙して説明できる（C13-4代謝1）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
2.	初回通過効果について説明できる（C13-4代謝8）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
3.	肝および固有クリアランスについて説明できる（C13-4代謝9）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
4.	薬物代謝様式とそれに関わる代表的な酵素を列挙できる（C13-4代謝3）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
5.	シトクロムP-450の構造、性質、反応様式について説明できる（C13-4代謝4）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
6.	くすりの酸化・還元、加水分解反応について具体的な例を挙げて説明できる（C13-4代謝5, 6） 第一相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる（C12-1化学物質の代謝・代謝的活性化2）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
7.	くすりの抱合について具体的な例を挙げて説明できる（C13-4代謝6） 第二相反応が関わる代謝、代謝的活性化について概説できる（C12-1化学物質の代謝・代謝的活性化3）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
8.	前半まとめ	第1回目から第7回目までの講義内容について、十分に復習をしておく。
9.	薬物代謝が薬効に及ぼす影響について説明できる（C13-4代謝2）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
10.	プロドラッグについて薬物代謝酵素と関連づけて説明できる（C13-4代謝7）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
11.	小児の発達に伴う薬物代謝酵素活性の変化を説明できる（C13-4代謝7） 加齢に伴う薬物代謝酵素活性の変化を説明できる（C13-4代謝7） 疾病による薬物代謝酵素の変化について説明できる（C13-4代謝7）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
12.	薬物代謝酵素の遺伝子多型の臨床的意義について概説できる（C13-4代謝7） 薬物代謝酵素の遺伝子多型の人種差について説明できる（C13-4代謝7） 薬物代謝酵素の遺伝子多型の診断法について説明できる（C15-3遺伝的素因2,3） 薬物代謝酵素の個人差に関係する外的因子である誘導や阻害現象を例に挙げて説明できる（C13-4代謝7）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
13.	薬物代謝阻害を原因とする薬物相互作用とその臨床的意義について説明できる（C13-4相互作用1）	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
14.	薬物代謝誘導を原因とする薬物相互作用とその臨床的意義について説明できる（C13-4相互作用1） 薬物代謝酵素が関与する、薬物-薬物間、薬物-食物間相互作用を列挙し、説明できる	教科書該当ページをあらかじめ一読し、講義を受けた後には、関連書籍等を用いて理解を深める。
15.	まとめ	第1回目から第14回目までの講義内容について、十分に復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　臨床的な科目を理解する上で重要な基礎を学びます。
（2010～2014年度入学生適用カリキュラム科目につき、授業内容中に記載されている記号番号は「薬学教育モデル・コアカリキュラム」旧版のものを示しています）

フィードバックの方法:　適宜、質問を受け付ける。
また、学期中間時点で到達度を確認し、その評価点を学生に知らせる。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	5%	講義への出席回数ならびに授業への取り組み
試験	95%	筆記試験による評価

教科書:
医療薬物代謝学　第2版
編者:山崎浩史, 小澤正吾. 出版:テコム・出版事業部. 発行年:2018

参考書:
新薬剤学　改訂第3版
編集:原島秀吉. 出版:南江堂. 発行年:2011

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:
メール　knaruhas@dwc.doshisha.ac.jp（成橋）

718000

臨床薬剤学Ⅱ

森田　　邦彦、中西　　弘和

授業テーマ:　真の薬剤師として、はばたくために　～応用編～

授業の概要:　臨床薬剤学I、IIを一系統の科目とみなし、この２科目で薬物療法の実施に際して薬剤師が主導的役割を果たすべき事項、すなわちPK-PD理論に基づく各種薬剤の適正使用のあり方をはじめ、有効性をできるだけ高め、副作用発現を未然に回避あるいは早期発見に努めるための臨床薬剤師としての職能を系統立てて理解する。これらの内容はいずれも5年次の実務実習先で修得する実践的技能および知識の基礎をなすものであり、薬学コアカリキュラムC8(4), C10(3), C13(1), C13(3)～C13(5), C14(2)～(5), C15(2), , D1(2)-2, D1(5)～(6)のうちの基本的な部分に該当する。

到達目標:　消化器系疾患、精神神経系疾患、がん化学療法、緩和ケア、糖尿病、循環器疾患、血液疾患、臓器移植医療に対する薬物療法の基本と、薬剤師が果たすべき有効性・安全性向上への職能発揮のあり方について説明できる。
以上に基づき、チーム医療への参画、薬物療法におけ実践的能力を培う。

授業方法:　配布プリント、Power Point映写を中心として講義するほか、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、学生はこれらの課題に対する答案を期限内に提出し、翌週の講義で解説を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。適宜教科書も用いる。
第１回～第4回、第9回～第14回を森田が、第5回～第8回を中西が、それぞれ担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	消化器系疾患治療薬(その１) 新薬学コアカリキュラム:E2(4), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム:C14(2)-1-2), C14(2)-4-2)～5), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
2.	消化器系疾患治療薬(その２) 新薬学コアカリキュラム:E2(4), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム:C14(2)-1-2), C14(2)-4-2)～5), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
3.	精神疾患治療薬－1 新薬学コアカリキュラム:E2(1), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム:C14(2)-1-2), C14(4)-1-2)～3), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1)～3)の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1)すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目(生化学、物理化学、有機化学など)で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2)薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題(新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど)に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3)臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

4.	精神疾患治療薬－2 新薬学コアカリキュラム：E2(1), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(4)-1-2)～3), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
5.	抗悪性腫瘍薬－1 新薬学コアカリキュラム：E2(7), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(5)-7-2)、C14(5)-8, C14(5)-9-2)～3), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
6.	抗悪性腫瘍薬－2 新薬学コアカリキュラム：E2(7), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(5)-7-2)、C14(5)-8, C14(5)-9-2)～3), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
7.	緩和ケア－1 新薬学コアカリキュラム：E2(7), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(4)-8, D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

8.	糖尿病治療薬 新薬学コアカリキュラム：E2(5), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(2)-2-4)～5), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
9.	心臓・血管系疾患治療薬ー1 新薬学コアカリキュラム：E2(3), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(2)-2-2)～3), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
10.	心臓・血管系疾患治療薬ー2 新薬学コアカリキュラム：E2(3), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(2)-2-4)～5), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
11.	心臓・血管系疾患治療薬ー3 新薬学コアカリキュラム：E2(3), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(2)-2-4)～5), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

12.	血液・造血器疾患治療薬－1 新薬学コアカリキュラム：E2(3), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(2)-3-2)～4), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
13.	血液・造血器疾患治療薬－2 新薬学コアカリキュラム：E2(3), (11), E3(3), E4(1), (2), F(3) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(2)-3-2)～4), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
14.	臓器移植に用いられる薬剤 新薬学コアカリキュラム：E2(3), (11), E3(3), E4(1), (2), F(2) 旧薬学コアカリキュラム：C14(2)-1-2), C14(2)-3-2)～4), D1(2)-2	臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。 2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。 3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス：

臨床薬剤学は、実務実習事前学習の根幹をなす科目であり、薬剤師の主要業務の基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～3）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
1）すでに修得した調剤学の基礎の上に臨床薬剤学を学ぶ以上、常に従来の各基礎薬学科目（生化学、物理化学、有機化学など）で修得した内容との関連を考察する姿勢が望まれる。
2）薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
3）臨床薬剤学は、実務実習に出向く前の重要な事前学習の一環であることを念頭にし、特に“臨床の場”で求められる多角的思考力に基づく洞察力や推理力の修得を意識し、さらにはこれらを礎とした問題発見解決能力の重要性を意識する姿勢が望まれる。

フィードバックの方法：

第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、翌週の講義で解説（フィードバック）を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
マナビーでの課題	30%	課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、各回5点満点で計30点満点とする。
期末試験	70%	第1回～第14回の全範囲を対象とした多肢選択式および記述式の期末試験問題70点満点とする。

教科書：

今日の治療薬2018年版（南江堂）（2017年版以前のものでもかまわない）、もしくは治療薬ハンドブック（じほう）（2017年版以前のものでもかまわない）。
毎回配布するオリジナル資料

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法：

オフィスアワー、Eメール

718100

医薬品情報学

松元　　加奈、岸本　　寛史

授業テーマ:

授業の概要:

薬物治療に必要な情報を医療チームおよび患者に提供したり、処方設計を提案したり、臨床上の問題解決ができるようになるために、医薬品情報ならびに患者情報の収集・評価・加工、臨床研究デザイン・解析などに関する基本的知識を修得し、それらを活用するための基本的事項を身につける。
調剤学や臨床薬剤学等の講義で学んだことの情報源は何か、それらの情報をどの様に評価・加工し、臨床現場に提供していくべきなのかを考える力を身につける。
模擬病院薬局実習や実務実習事前学習と連動して授業を進める。

到達目標:

・ 医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理・評価、EBM の実践ならびに臨床研究デザイン・解析に関する基本的事項を修得する。
・ 患者からの情報の収集、評価に必要な基本的事項を修得する。
・ 統計情報を解析し、その解析結果を医療の実践に応用する力を身に付ける。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	医薬品と医薬品情報 薬学コアカリキュラム　E3(1)①	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
2.	医薬品情報源 薬学コアカリキュラム　E3(1)②	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
3.	医薬品情報に関わる職種とその役割 薬学コアカリキュラム　E3(1)①の2.	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
4.	厚生労働省、製薬企業などの発行する資料とその特徴 薬学コアカリキュラム　E3(1)①	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
5.	医薬品添付文書と医薬品インタビューフォーム 薬学コアカリキュラム　E3(1)②	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
6.	医薬品の開発過程で行われる試験と得られる医薬品情報 薬学コアカリキュラム　E3(1)①の4.	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
7.	医薬品の市販後に行われる調査・試験と得られる医薬品情報 薬学コアカリキュラム　E3(1)①	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
8.	医薬品情報に関係する法律と制度 薬学コアカリキュラム　E3(1)①の5.	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
9.	医薬品情報の収集・評価・加工・提供・管理 薬学コアカリキュラム　E3(1)③	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
10.	EBM(Evidence-Based Medicine)とNBM(Narrative-Based Medicine) 薬学コアカリキュラム　E3(1)④	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
11.	臨床研究デザインと解析 薬学コアカリキュラム　E3(1)⑥	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
12.	医薬品の比較・評価 薬学コアカリキュラム　E3(1)⑦	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
13.	薬物治療に必要な患者情報と情報源 薬学コアカリキュラム　E3(2)①	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
14.	患者情報の収集・評価・管理 薬学コアカリキュラム　E3(2)②	その日の授業内容に関連した練習問題を提示するので、翌週までに解答しておくこと。
15.	まとめ	これまでの講義内容や練習問題を十分に復習し臨むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

毎回配布する練習問題について、次回以降の講義中に解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100%	到達目標全般に関する知識や理解度により評価する。

教科書:

参考書:

上村直樹監修・編集、下平秀夫編集　ビジュアル薬剤師実務シリーズ 上　羊土社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応、Eメール

718400

臨床病態生化学

松野　　浩之

授業テーマ:　消化器と婦人科領域の疾患について医学・薬学領域での必要な知識を獲得する。

授業の概要:　消化器・婦人科領域の疾患について、実践症例を元にグループ学習を行い、授業ごとに発表をすることで、全体討論の場を構築していく。

到達目標:
(1)人体の構造と機能・疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた知識を基礎とした薬物治療学の知識を身につける。
(2)患者に適した薬物治療を実施するために必要な薬理学・病態学・薬物治療学の知識を身につける。
(3)薬剤師に求められる専門的知識や技能を積極的に習得しようとする意欲を構築する。
(4)疾病の薬物治療や健康の保持・増進に関わる諸課題に強い関心をもつようにする。
(5)実験・調査・観察などで得られた結果を適切に解析・評価すると共にわかりやすく報告・発表する力を身につける。
(6)薬学領域の様々な事象の中から課題や問題を見出し、問題解決に向けて試行錯誤し努力する。

授業方法:
チュトーリアル方式
Cellを2―3名で形成し、授業時間ごとにパネラーを3-4組抽出します。パネラーは、疑問点の説明を行い、これに対する質問に答えます。別に、Mother cellsを10名程度、これまでの成績から抽出します。
Discussionを中心に授業を進めていきます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	Overview 今学期の講義となる消化管と生殖器に関する基礎的な知識を確認する。	教科書Gastroenterology & Gynecology(4月から販売)を生協で購入してください。
2.	上部消化器疾患(1)胃潰瘍 ピロリ菌による胃潰瘍について解説する。 E2-(4)-②	実践症例(教科書15・16ページ)について予習してください。課題67について調べてください。
3.	上部消化管疾患(2)食道関連疾患 食道関連疾患(胃食道逆流症・食道アカラシアなど)を解説する。食事やアルコールがこれあの疾患に及ぼす影響を解説する。E2-(4)-②	実践症例(教科書18・25ページ)について予習してください。課題64について調べてください。H2ブロッカーとPPIについて胃や食道疾患に対する使用方法を調べておきましょう。
4.	上部消化管疾患(3)機能性胃腸症 胃の酸分泌機構を確認し、薬剤などによる胃機能障害がもたらす障害について解説する。E2-(4)-②	実践症例(教科書20・21ページ)について予習してください。課題68について調べてください。
5.	上部消化管疾患(4)ダンピング症候群 胃の外科的切除がもたらす病態について解説する。また、胃癌についても解説する。E2-(4)-②	実践症例(教科書23ページ)について予習してください。
6.	下部消化管疾患(1)クローン病 小腸と大腸の機能について確認する。クローン病と潰瘍性大腸炎について解説する。E2-(4)-②	実践症例(教科書37・38・45・46ページ)について予習してください。炎症性サイトカインについて調べておきましょう。
7.	下部消化管疾患(2)薬剤性大腸炎 薬剤が原因となる下部消化管の障害は多い。大腸炎を中心に解説する。E2-(4)-②	実践症例(教科書40ページ)について予習してください。腸内フローラについて調べておきましょう。
8.	下部消化管疾患(3)過敏性腸症候群 IBSの病態と大腸癌について解説する。大腸癌については遺伝子解析が進んでおり、遺伝子の多段階発がんについても解説する。E2-(4)-②	実践症例(教科書42・43ページ)について予習してください。Cell Cycleについて調べましょう。癌遺伝子や癌抑制遺伝子について調べましょう。
9.	肝臓・膵臓関連疾患(1)膵炎 慢性・急性膵炎について解説する。膵臓の外分泌機能、胆嚢の機能について確認する。E2-(4)-②	実践症例(教科書59・60ページ)について予習してください。
10.	肝臓・膵臓関連疾患(1)肝炎 肝炎について様々な病態を解説する。肝臓は、薬物代謝に置いて重要な役割を果たしており、機能障害はすべての薬物治療に影響する。E2-(4)-②	実践症例(教科書61・62ページ)について予習してください。
11.	免疫と感染症(1)膠原病 関節リウマチとベーチェット病について解説する。 E2-(2)-②	実践症例(教科書68・69ページ)について予習してください。
12.	免疫と感染症(2)ウイルス感染症 インフルエンザと風邪症候群について解説する。 E2-(2)-②	実践症例(教科書82・83ページ)について予習してください。
13.	婦人科領域の疾患(1)生殖 妊娠や性感染症について解説する。不妊治療、妊娠時の薬物療法、性感染症に伴う合併症などについて基礎的知識を確認する。E2-(3)-③	実践症例(教科書96・105-108ページ)について予習してください。
14.	婦人科領域の疾患(2)子宮内膜症 子宮内膜症や子宮がん・子宮頸がんについて解説する。E2-(3)-③	実践症例(教科書98・100ページ)について予習してください。
15.	まとめ	1-14の講義について復習しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:
3回シリーズの最後です。来年からは臨床実習です。より実践的に学習に取り組んでください。

フィードバックの方法:
教科書の課題、症例の回答については講義ごとに解説する。レポートについては、講義終了までにマナビーを介して各自に返信する。答案の開示を個別に行う。開示の方法と時間は、各自、教員へのアポイントを取って確認する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	70%	出題された内容について、理論的説明がなされているがkey wordを設定して採点を行う。
発表・レポート	30%	毎回の授業でopen discussionを行い、発表者(パネラー・質問者)はマナビーを介してレポートを提出することができる。これらについて一回につき最高10点満点で採点する。採点結果は、各自に返信する。
試験(再履修者)	100%	再履修のものは試験のみで採点する。

教科書:
Gastroenterology & Gynecology (4月より生協にて販売)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	hmatsuno@dwc.doshisha.ac.jp

718500

薬局管理学

光岡　　千賀子

授業テーマ:　地域医療の重要な担い手である薬局薬剤師の社会的役割を理解し、国民から求められる薬剤師像を考える。

授業の概要:
医療の高度化・複雑化、少子高齢化の進展に伴い、薬局・薬剤師には最適な薬物療法を提供する医療の担い手としての役割が期待されている。又、国民の健康意識への高まり、多様な価値観に応える為には高い倫理観と使命感を持って自ら判断し行動することが求められる。
現医療制度下で質の高い薬学的サービスを提供するために、これまでに修得した知識、技能、コミュニケーション力を総合的な実践力に変え患者に寄り添う医療人を目指す。
薬局の日常業務、在宅医療でのエピソードを紹介し、臨場感あふれる授業を計画している。

到達目標:
1. 薬局の管理運営に必要な法制度、経済等に関して学ぶ(知識)
2. 質の高い薬学的サービスを提供するための技能、態度を修得する。(技能・態度)
3. 長期実務実習における薬局業務(疑義照会、服薬指導、薬歴管理、在宅医療、医薬品情報管理、一般用医薬品販売等)について理解する。(知識・技能・態度)
4. 地域に貢献する薬剤師の社会活動(学校薬剤師、保健予防活動等)を理解する。(知識)
5. 地域における薬剤師の役割および薬局の展望についても考える。(知識・技能・態度)

授業方法:
講義:配布プリント、必要に応じてパワーポイントを使用する。適宜教科書も用いる。
関連する医療ニュース等を取り上げ、薬局・薬剤師を取り巻く環境についての情報を共有し討議を行う。
No.1－15 は授業の概要を示したもので、講義の順番は変更されることがある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬局の果たすべき役割、薬局の組織と業務:A (1)、B(4)	常に医療・健康・福祉に関するニュースに関心を持ち、特に興味をもったものについては、概要をまとめる。
2.	医薬分業とかかりつけ薬局A(1)～(4)、B(4)	主に保険調剤に関する関係法規及び調剤業務全般について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
3.	社会保障制度と医療保険制度:B(1)～(3)	社会保障制度、医療保険制度の仕組みや福祉、介護保険制度等について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
4.	保険調剤の仕組みと調剤報酬:C18(1)、C18(2) 現行の診療報酬制度に薬剤師業務をあてはめ薬剤師の役割を考える。	薬剤師業務について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
5.	保険調剤業務の実際と調剤支援システム:B(2)、F(1)～(2)	調剤支援システム、電子薬歴等の長所・短所等を考える。
6.	患者中心の薬歴管理と疑義照会:A(3)、F(1)～(3) 患者中心の薬歴管理のための問題抽出する(POS)能力を磨くための事例を考える。	薬歴管理のための問題抽出するPOSについて4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
7.	服薬支援とコミュニケーションスキル:A(3) 服薬支援するためのコミュニケーションスキル、傾聴、共感の重要性を考える。	服薬支援するためのコミュニケーションスキル、傾聴、共感の重要性について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
8.	薬局における医薬品情報の収集と提供:E2、E3 患者、地域住民の健康意識、セルフメディケーションの支援のためのスキルを磨く。	セルフメディケーションについて4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
9.	薬局におけるリスクマネジメント:E1(4) ヒアリハットに目を向け自ら考え行動する力を磨く。	ヒアリハットについて4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
10.	在宅医療と地域医療マネジメント:A(3)～(4)、B(1)～(3)	増々重要性を増す在宅)医について多職種連携を考え、薬剤師のするべき役割を考える。
11.	一般用医薬品と薬局医薬品・薬局製剤:E2(9)～(10) リスク分類、薬局製剤の意義等薬機法を下に整理する。薬局におけるトリアージも学習する。	一般用医薬品のリスク分類、薬局製剤の意義等薬機法について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
12.	プライマリケア薬剤師とセルフメディケーション:A(3)～(4)、E2 地域住民の健康意識が高まりを見せるなかセルフメディケーションの支援として薬剤師の役割を考える。	セルフメディケーションの支援として薬剤師の役割ついて4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
13.	地域保健活動(学校薬剤師、市民講座、スポーツファーマシスト等):A(3)～(4)、B(4)	調剤業務、医薬品の供給のみならず薬剤師の幅広い職能ついて4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
14.	薬局薬剤師の専門性とかかりつけ薬局:A(1)～(4) 求められる薬剤師像と薬局の展望	薬剤師法第一条に謳われる薬剤師の職能に目お向け国民に求められる薬剤師像を考える。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
主に保険調剤に関する関係法規及び調剤業務全般について4年生春学期までに学習した事柄を確認しておくこと。
常に医療・健康・福祉に関するニュースに関心を持ち、特に興味をもったものについては、概要をまとめる。

フィードバックの方法:
教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	10%	地域医療での薬剤師の社会的役割について自身の考えをまとめた薬剤師像(倫理観、使命感)を評価する。
期末試験	80%	授業全般を通して、高い倫理観と使命感を持って自ら判断し行動し、患者に寄り添う薬剤師として問題点を抽出、解決する能力(総合力)を評価する。
出席・授業態度	10%	授業で取り上げた医療を取り巻く問題点に対し積極的に討議に参加したかを評価。

教科書:
上村直樹、平井みどり監修　新ビジュアル薬剤師実務シリーズ上/下　薬剤師業務の基本/調剤業務の基本　第3版　(羊土社)

参考書:
日本薬学会編　スタンダード薬学シリーズ9「薬学と社会」(東京化学同人)
「薬学生のための病院・薬局実習の手引き」近畿地区薬学部学生実務実習に関する協議会監修、日本病院薬剤師会近畿ブロック／日本薬剤師会大阪・近畿ブロック編(じほう)
日本薬剤師会監修平成30年度版　保険薬局Q&A薬局・薬剤師業務のポイント/(じほう)

日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会監修　薬学生・薬剤師のためのヒューマニズム （羊土社）

浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集　今日の治療薬 （南江堂）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業の前後に教室内で応対。

718600

医療安全性学

漆谷　　徹郎

授業テーマ:　医薬品の安全性保証

授業の概要:　画期的な新薬候補を見いだしたからといって、それが即座に医薬品になるわけではない。臨床での使用にあたっては、厳密な安全性の保証を行う必要がある。これは研究者が恣意的に行うものでなく、法律やガイドラインによって規定されている。本講では、医薬品開発に必要な安全性試験の基盤の理解と、試験法の実際について解説する。医薬品毒性学と医療安全性学を通年講義とみなし、この二つの講義で、薬学コアカリキュラムの安全性試験関係の項目を網羅するが、毒性試験法の実際の解説、緊急安全性情報の具体例の解説は、コアカリキュラム外の独自の項目である。また、薬害の講義の1コマを使用して、薬害被害者の生の声を聞く機会をもつ。

到達目標:
安全性試験法の理解
薬害を知り、倫理性の醸成と、薬害を避けるための方策
臨床現場における医薬品による健康被害の実態の理解と、薬剤師としての心構えの醸成

授業方法:　教科書に従って講義。教科書にない資料はプリント配布かファイルをマナビーにアップ

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論. 薬物開発と安全性研究　E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと
2.	薬害—1 A(1)③	教科書の当該個所を予習しておくこと
3.	薬害—2 A(1)③	教科書の当該個所を予習しておくこと
4.	薬害—3 A(1)③	教科書の当該個所を予習しておくこと
5.	安全性試験概論，一般毒性、トキシコキネティクス E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと
6.	薬物依存性 B(2)③　D1(1)①	教科書の当該個所を予習しておくこと
7.	薬物アレルギー、免疫毒性 E1（4）	教科書の当該個所を予習しておくこと
8.	薬害被害者の方の講演とレポート　A(1)③	講義2～4を復習し、自分なりの考えをまとめて講演に臨むこと。1時間の講演後、30分でレポートを完成させて提出しなければならない
9.	遺伝毒性、発がん性試験　E1（4）　E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと
10.	生殖・発生毒性、皮膚毒性　E1（4）　E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと
11.	内分泌毒性、感覚器毒性、筋肉、骨毒性　E1（4）　E3(1)	教科書の当該個所を予習しておくこと
12.	緊急安全性情報（1）E3(1)	マナビーに資料が提示されるので、講義前後に参照すること
13.	緊急安全性情報（2）E3(1)	マナビーに資料が提示されるので、講義前後に参照すること
14.	安全性速報、オーミックスと安全性研究　E3(1)	マナビーに資料が提示されるので、講義前後に参照すること
15.	まとめ	マナビーにアップした小テストで復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　薬害の講義の1コマを使用して、薬害被害者の生の声を聞く機会をもつ。シラバス入稿時点では、講演者・日程とも未定である。この講演会の日程は被害者の方の都合が優先されるので、8回目とは限らない。詳細は第1回目の講義のときに通知される。

フィードバックの方法:　薬害被害者講演会後には、講演者との質疑応答の時間が設けられ、また次の講義ではフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
薬害被害者講演会についてのレポート	40%	講演内容の重要な点をまとめているか。自分なりの視点が表現できているか。事実誤認、認識不足がないか。
定期試験	60%	2，3，4，8以外が出題範囲

教科書:　「医薬品安全性学」漆谷徹郎編、化学同人（前期「医薬品毒性学」と共通）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　turushid@dwc.doshisha.ac.jp

718700

薬業経済学

阿南　節子、森島　敏隆、田中　将之

授業テーマ:　医療経済学の中で特に薬剤に関連する事項を学ぶ。

授業の概要:　日本の人口動態と国民医療費について理解し、医療政策、診療報酬制度、医療保障制度について理解する。また医薬品市場とジェネリックについての動向を学ぶ。医療の質や医療安全について理解し、費用効果分析について学ぶ。さらに医療統計の見方・考え方を理解し、EBM(Evidence-Based Medicine)について、理解を深める。

到達目標:
・医療の経済の様々な事象の中から課題や問題を見出すとともに、問題解決に向けて試行錯誤することができる。（研究能力、自己研鑽）
・統計情報を解析し、その解析結果を医療の実践に応用する力を身に付ける。（薬物療法における実践的能力、地域の保健・医療における実践的能力）
・「患者が質の高い医療を受ける権利」を保障する仕組みを理解するため、医薬品の経済的側面に関する基礎的知識を学ぶ。
・我が国の医療制度と国民医療費の現状を学び、薬剤に関連する様々な指標を理解する。
・医療関連資料を理解するに当たってのEBM(Evidence-Based Medicine)について更に詳しく学ぶ。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	概論とオリエンテーション　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
2.	医薬品市場の動向　国民医療費の動向B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
3.	医療の質と医療安全の指標　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
4.	医療政策についての費用効果分析　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
5.	個々の薬剤や医療技術についての費用効果分析　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
6.	国際的な社会保障制度と日本の社会保障制度の変遷B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
7.	日本の医療保険制度　現状と問題点B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
8.	診療報酬　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
9.	DPC制度　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
10.	ジェネリック医薬品　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
11.	EBM(Evidence-Based Medicine)　医療統計の見方・考え方１　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
12.	EBM(Evidence-Based Medicine)　医療統計の見方・考え方２　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
13.	医療の質と経済性評価　B(3)	厚生労働省　統計一覧参照
14.	ハイリスク医薬品の考え方　B(3)	日本病院薬剤師会　ハイリスク薬に関する業務ガイドライン参照
15.	病院経営の実際、薬局経営の実際　B(3)	病院情報局参照　http://hospia.jp/

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40%	
小テスト	60%	到達目標に対する理解度で評価する

教科書:

参考書:　必要時配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

718800

臨床検査学

髙橋　玲、村上　元庸、杉浦　伸一、山内　雄二

授業テーマ:
臨床検査における総論および各論を学習する。

授業の概要:
臨床検査の原理、方法、結果の評価、精度管理などについて基本的な知識を習得する。

到達目標:
薬剤師が関わるあらゆる医療場面での検査項目について、その基本的な原理、意義、結果の解釈、および精度管理について理解することを目標とする。臨床検査学に共通して用いられる用語や検査技術についての基礎知識を最初に学ぶ。次に、臨床の各分野における具体的な検査項目を学ぶ。最後に、症例解析を行い、基礎知識の実際的な応用を試みる。薬学教育モデル・コアカリキュラムのC14(1)に相当する内容を含む。

授業方法:
スライド投影と配布プリントを用いた講義を主体とし、適宜、教員・学生間および学生・学生間のインタラクティブなディスカッションを挿入して理解を高める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床検査総論（高橋）	検査の基準値 臨床検査の精度管理 国際単位
2.	尿・糞便・穿刺液・髄液・精液検査（高橋）	体液の分類、採取方法および特徴 体液の保存方法
3.	体液・電解質・酸塩基平衡検査（杉浦）	電解質の種類、組成、生理的役割 酸塩基平衡における肺と腎の役割 アシドーシス･アルカローシス
4.	臨床化学検査（高橋）	AST, ALT, LDH, ALP、ChE 血漿と血清
5.	血液・血栓・止血検査（高橋）	血液成分の組成 血液凝固のカスケード 線維素溶解系
6.	免疫血清・輸血・移植関連検査（高橋）	MHC・HLA抗原 抗原・抗体のtitration 血液型の種類
7.	細菌・寄生虫・ウイルス・リケッチア・クラミジア検査（高橋）	代表的な感染症の病原体
8.	染色体・遺伝子関連・病理検査（高橋）	染色体の構成 転座・欠失・増幅 FISH法 パパニコロー染色
9.	消化器機能検査（村上）	胃液の分泌調節機構 消化における肝・膵のはたらき
10.	腎機能検査（村上）	クレアチニン クレアチニンクリアランス BUN
11.	循環機能検査・循環器画像検査（山内）	血圧測定の原理 心電図測定 ドップラーエコー
12.	呼吸（気管支・肺）機能検査・呼吸器画像検査（山内）	スパイロメトリー 1秒率・肺活量 閉塞性障害と拘束性障害
13.	神経・筋機能・感覚機能検査（高橋）	脳波の波形分類 筋電図 末梢神経伝導検査
14.	症例検討（村上/高橋）	再生不良性貧血および細菌性気管支肺炎の際の検査項目と期待される検査値
15.	まとめ	すべての項目の復習と確認

受講者へのメッセージやアドバイス:
医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。

フィードバックの方法:
1）フィードバックをしながら授業を進める。
2）オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100%	100点満点で評価する。

教科書:

参考書:
臨床検査法提要　改訂第33版（金原出版株式会社）
迷路にはまらない臨床検査値の読み方・考え方（日本医事新報社）
異常値の出るメカニズム第3版（医学書院）
今日の臨床検査2011-2012（南江堂）
薬剤師のための臨床検査の知識　改訂4版著 池田千恵子（じほう）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、分析力

教員との連絡方法:
オフィスアワー、授業の前後教室内にて

718900

日本薬局方概論

前川　　京子

授業テーマ:　日本薬局方の役割と意義

授業の概要:　「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に規定された日本薬局方は、繁用される医薬品や医療上重要な医薬品の公的な品質基準及びその品質評価に必要な試験方法などを規定した医薬品の標準書であり、その構成と内容を理解した上で、薬剤師業務、薬事業務、医薬品製造業務における薬局方の果たす役割は何かを学ぶ。

到達目標:
・日本薬局方の意義と構成について説明できる。
・日本薬局方収載の一般試験法の内容を説明できる。
・薬学の知識を有機的に統合して医薬品の品質、有効性及び安全性の確保のための公的基準を理解する。

授業方法:　教科書、配布プリントに基づき、パワーポイント等の視覚教材を使用して講義する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬局方の歴史と役割 (B-(2)-②日本薬局方8)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
2.	通則 (B-(2)-②日本薬局方8)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
3.	通則、生薬総則 (C5-(1)-④生薬の同定と品質評価2)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
4.	製剤総則1 (E5-(2)-①代表的な製剤1, 2, 3, 4, 5, 6 E5-(3)-②放出制御3)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
5.	製剤総則2 (E5-(2)-①代表的な製剤1, 2, 3, 4, 5, 6 E5-(3)-②放出制御3)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
6.	製剤総則3 (E5-(2)-①代表的な製剤1, 2, 3, 4, 5, 6 E5-(3)-②放出制御3)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
7.	一般試験法(化学的試験法) (C2-(3)-①定性分析2)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
8.	一般試験法(物理的試験法1) (E5-(1)-④薬物及び製剤材料の物性)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
9.	一般試験法(物理的試験法2) (C1-(2)-③自発的な変化5; C2-(4)機器を用いる分析法)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
10.	一般試験法(紛体物性測定法、生物学的・生化学的・微生物学的試験法) (C2-(3)-②定量分析)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
11.	一般試験法(製剤試験法1) (E5-(2)-②製剤化と製剤試験法1)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
12.	一般試験法(製剤試験法2) (E5-(2)-②製剤化と製剤試験法4)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
13.	一般試験法(容器・包装材料試験法、滅菌法) (E5-(2)-②製剤化と製剤試験法3; C8-(3)-⑤消毒と滅菌1, 2)	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
14.	医薬品各条	教科書で講義内容を予め予習しておくこと。
15.	まとめ	教科書、参考図書及び配布資料に基づいて講義内容をまとめ、総復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	100 %	薬局方の構成と内容の理解度と、その役割を論理的に説明できるかを基準とする。

教科書:　第十七改正日本薬局方解説書(廣川書店)

参考書:　HANDY INTELLIGENCE 日本薬局方(京都廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　電子メール、オフィスアワー

719000

実務実習事前学習ＩＡ

中西　弘和、杉浦　伸一、成橋　和正、西村　亜佐子

授業テーマ:　薬物治療基礎知識の醸成と実践薬学のための礎の構築（1）

授業の概要:　病態の治療に用いられる薬物の物性や特性について、基礎から総合的に学修し、医療現場で遭遇するであろう様々な疾病の薬物治療において薬剤師として科学的な側面からアプローチするための統合的なスキルを学ぶ。授業では模擬処方を解析して薬学的管理を学ぶ。
講義項目の順序は変更することがある。
臨床現場の医師・薬剤師を講師として招く。

到達目標:　患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療 ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、最適な治療を実施するための薬物治療の処方解析に関する基本的事項を修得する。

授業方法:　予め課題として明示した医薬品情報を理解し、模擬処方の解析を行い、調べた内容について発表・討議を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	糖尿の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
2.	がん治療の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
3.	緩和医療の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
4.	循環器の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
5.	循環器・脳血管の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
6.	女性特有疾患の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
7.	女性特有疾患（女性ホルモン関連など）の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
8.	免疫の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
9.	アレルギーの基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
10.	呼吸器疾患の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
11.	感染症の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
12.	病態栄養の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
13.	消化器疾患の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
14.	精神疾患の基本処方解析と薬学的管理、および関連するチーム医療について	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
15.	まとめ	学んだ内容についてまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　臨床現場の先生を招聘して講義を行うため、講義内容の順番を変更することがあります。第1回目に予定を提示します。各回の課題について授業前にテストを行います。第1回目の授業内容や課題については、2018年3月20日に4回生の掲示版・薬学の広場に掲示しますので指示に従って予習をしてください。

フィードバックの方法:　授業時に各担当教員から解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題テスト	25%	試験の点数で評価60％以上で合格
授業後確認テスト	25%	試験の点数で評価60％以上で合格
試験	50%	試験の点数で評価60％以上で合格

教科書:

参考書:
薬がみえる　vol.1・2・3　メディックメディア
治療薬マニアル2018　医学書院
病気がみえる　vol.1～11　メディックメディア
覚える 薬理作用別 クスリ 本学オリジナルテキスト

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　hnakanis@dwc.doshisha.ac.jp

719100

実務実習事前学習ⅡA

中西　弘和、杉浦　伸一、成橋　和正、西村　亜佐子、小谷　晶子

授業テーマ:　薬学基礎知識の醸成と実践薬学のための礎の構築（2）

授業の概要:　薬物治療における処方提案は薬剤師にとって必須である。その能力を身に付けるためには、基本的な処方を理解はすでに学んでいる。
授業では処方解析学に用いた模擬処方に対して、患者の状態変化に応じた処方提案実施を行う。
講義項目の順序は変更することがある。
臨床現場の医師・薬剤師を講師として招く予定。

到達目標:　患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療 ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、患者にとって最適な治療を実施するための処方提案に関する基本的事項を修得する。

授業方法:　予め課題として明示した医薬品情報を理解し、患者の状況変化による模擬処方に対する提案について発表・討議を行う。更に薬学の学びの総復習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	糖尿の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
2.	がん治療の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
3.	緩和医療の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
4.	循環器の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
5.	循環器・脳血管の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
6.	女性特有疾患の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案①、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
7.	女性特有疾患（女性ホルモン関連など）の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案②、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
8.	免疫の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
9.	アレルギーの基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
10.	呼吸器疾患の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
11.	感染症の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
12.	病態栄養の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
13.	消化器疾患の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
14.	精神疾患の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案、及び薬学の学びの復習	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。また、今までの薬学での学びの復習。
15.	まとめ	学んだ内容についてまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業では処方解析学に用いた模擬処方に対して、患者の状態変化に応じた処方提案実施を行うため、必ず処方解析学のテキストを持参すること。
臨床現場の先生を招聘して講義を行うため、講義内容の順番を変更することがある。第1回目に予定を提示する。
各回の課題について授業前にテストを行う。また授業理解を促すために確認テストを行う。

フィードバックの方法:　授業時に各担当教員から解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題テスト	25%	試験の点数で評価60%以上で合格
授業後確認テスト	25%	試験の点数で評価60%以上で合格
試験	50%	試験の点数で評価60%以上で合格

教科書:

参考書:
薬がみえる　vol.1・2・3　メディックメディア
治療薬マニアル2018　医学書院
覚える 薬理作用別 クスリ 本学オリジナルテキスト

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: hnakanis@dwc.doshisha.ac.jp

719400

臨床医学特論

村上　元庸、髙橋　玲

授業テーマ: 臨床薬学と臨床医学の統合

授業の概要: 疾患の特徴、薬物治療について正しい知識と対処法を身につける。

到達目標: 疾患の特徴、薬物治療について正しい知識と対処法を身につける。

授業方法: 講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	臨床医学（村上） C-14	関連基礎分野の予習
2.	消化器疾患 （村上） C-14、(2)(3)	関連基礎分野の予習
3.	骨粗鬆症 （村上） C-14(1)(3)(4)	関連基礎分野の予習
4.	認知機能障害 （村上） C-14 (3)	関連基礎分野の予習
5.	悪性腫瘍の遺伝子診断と治療 （高橋）C-14(5)	関連基礎分野の予習
6.	現在の再興・新興感染症の現状（1）（高橋） C-14(5)	関連基礎分野の予習
7.	現在の再興・新興感染症の現状（2）（高橋） C-14 (5)	関連基礎分野の予習
8.	薬学分野による地域医療の展望（ゲストスピーカー）	関連基礎分野の予習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100	講義内容の理解度により評価する

教科書: 指定なし

参考書: 授業で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法: 授業の前後に教室内で応対

719500

薬剤管理指導特論

阿南　　節子、中西　　弘和、野﨑　　歩

授業テーマ:　薬剤師が関わる薬剤管理指導の重要性を理解し、様々な疾患における薬剤管理指導の実際を学ぶ。

授業の概要:　医療現場で薬剤師が遭遇する重要な疾患群(循環器疾患、呼吸器疾患、糖尿病、悪性腫瘍など)について、病態・診断・治療を理解する。また、近年、特に薬剤師の役割が注目されている輸液管理・集中治療室の薬剤管理の概要についても学ぶ。薬物療法については、安全で有効な薬物療法に対する薬剤師の役割の重要性を理解する。

到達目標:
・いくつかの重要な疾患について処方提案を行う事ができる。(チーム医療への参画、薬物療法における実践的能力)
・服薬指導やフィジカルアセスメントを通じて、患者の利益を見据えた行動(ファーマシューティカル・ケア)を実践する能力を持っている。(薬物療法における実践的能力)
・医療安全、医療の質の向上の観点から、チーム医療において薬剤師が主体的に薬物治療に関わることが必要とされている。さらに薬剤管理指導では、薬剤師が個々の患者に対し適正で安全な薬物治療を実施することが必要である。この授業では、実臨床における薬剤管理指導業務を行うための実践力の修得を目指す。

授業方法:　講義形式、演習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	循環器疾患(高血圧、高脂血症)の薬剤管理指導 C-14(2)	示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。
2.	呼吸器疾患(喘息、COPD)の薬剤管理指導C-14(3)	示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。
3.	糖尿病の薬剤管理指導C-14(3)	示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。
4.	悪性腫瘍の薬剤管理指導C-14(5)	示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。
5.	輸液管理・栄養管理が必要な患者に対する薬剤管理指導C-14	示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。
6.	心疾患患者に対する薬剤管理指導C-14(2)	示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。
7.	集中治療室の患者に対する薬剤管理指導C-14	示した課題の薬剤管理指導に必要な事項を予め調べた上で、患者への説明や対応を理解する。
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室内でまとめて解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席および授業に対する態度	40%	
レポートおよび確認テスト	60%	到達目標に対する理解度で評価

教科書:　今日の治療薬(南江堂)または治療薬マニュアル(医学書院)(できるだけ最新版)

参考書:　病気がみえる(メディックメディア)
アプライドセラピューティックス(じほう)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

719600

臨床栄養学特論

杉浦　　伸一

授業テーマ:　基礎薬学い基づく臨床栄養を理解しチーム医療の中での薬剤師の役割を知る

授業の概要:　栄養療法は主疾患の治療の補助療法であるとともに疾病の原因ともなる。投与される栄養素は治療薬という観点からは、生理学及び生化学の基礎メカニズムに依存する。本講義では、臨床栄養の基礎から臨床応用までを学ぶとともにNST（Nutrition Support team）などのチーム医療における薬剤師の役割を理解する

到達目標:　疾病に伴う症状などの患者情報を解析し、最適な治療を実施するための薬理、病態・薬物治療に関する基本的事項を修得するとともに、臨床栄養に関わる諸課題に強い関心を持つという薬剤師としての心構え、求められる専門的知識や技能を積極的に学修しようとする意欲を持ち、基礎学習領域で学んだ知識を有機的に統合して理解しようとする態度を身に付ける。

授業方法:　講義の理解を助けるためのパワーポイントを使用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基礎栄養学理論 水分電解質代謝	生化学・生理学の基礎知識と臨床栄養を紐づける講義をするため、基礎の講義資料があれば見直しておく。
2.	基礎栄養学理論 静脈栄養の理論	生化学・生理学の基礎知識と臨床栄養を紐づける講義をするため、基礎の講義資料があれば見直しておく。
3.	基礎栄養学理論 高カロリー輸液の理論と実際	生化学・生理学の基礎知識と臨床栄養を紐づける講義をするため、基礎の講義資料があれば見直しておく。
4.	基礎栄養学理論 経腸栄養療法の理論と実際 （糖質・脂質・タンパク質のバランス）	生化学・生理学の基礎知識と臨床栄養を紐づける講義をするため、基礎の講義資料があれば見直しておく。
5.	臨床栄養学理論 病態別栄養療法の実際（肝臓疾患・腎臓疾患・がんなど）	生化学・生理学の基礎知識と臨床栄養を紐づける講義をするため、基礎の講義資料があれば見直しておく。
6.	臨床栄養学理論 肥満と治療	生化学・生理学の基礎知識と臨床栄養を紐づける講義をするため、基礎の講義資料があれば見直しておく。
7.	外部講師（医師または薬剤師）による実際的な栄養療法の講義	生化学・生理学の基礎知識と臨床栄養を紐づける講義をするため、基礎の講義資料があれば見直しておく。
8.	外部講師（医師または薬剤師）による実際的な栄養療法の講義	生化学・生理学の基礎知識と臨床栄養を紐づける講義をするため、基礎の講義資料があれば見直しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　外部講師との日程調整により授業内容が前後する場合がある。1回目の講義で詳細を伝える

フィードバックの方法:　小テストの解説により講義内容をフィードバックする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・態度	60%	講義に対する積極性を評価
小テスト	40%	得点

教科書:　特になし

参考書:　症例から学ぶ輸液療法（じほう）
輸液療法のポイント（ジェフコーポレーション）
輸液処方実践問題集（じほう）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己評価力

教員との連絡方法:　ssugiura@dwc.doshisha.ac.jp

719700

薬学特別演習a

専任教員

授業テーマ:　薬学専門知識の統合的理解

授業の概要:　多様な職域・業務環境における薬剤師業務の観点からこれまでの学習内容を統合的に再編成して、薬学専門領域の重要事項を学習する。薬学部の全教員が分担して全体で 120 コマの演習を行なう。これを 15 回に分けて記しているので、1 回は 8 コマ分の内容を含んでいる。なお、記載の講義順は暫定的であり、実際には担当教員のスケジュールに合わせて配分するので、実際の順番とは異なる。120 コマのうち 4 コマを使って平常試験を 2 回行なう。

到達目標:　講義科目と実習科目を通して学習し身につけてきた知識、技能および態度を基礎とし、更に問題解決能力や応用力を高め、薬学専門知識の統合的理解を目的とする。関心・意欲・態度:薬学の各学習領域で学んだ知識を有機的に統合して理解しようとする態度を身に付けている。(基礎的な科学力、研究能力)

授業方法:　必要に応じて補助教材(プリントなど)用い、板書またはパワーポイントにより講義・演習を行う。授業の一定進行ごとに平常試験を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・物質の物理的性質　ー　A 物質の構造、B 物質の状態、C 物質の変化 ・化学物質の分析　ー　A 化学平衡、B 化学物質の訂正と定量、C 分析技術の臨床応用	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
2.	・生体分子の構造　ー　A 生体分子の解析法、B 生体分子の立体構造と相互作用 ・化学物質の性質と反応　ー　A 化学物質の基本的性質、B 有機化合物の骨格、C 官能基、D 化学物質の構造決定	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
3.	・ターゲット分子の合成　ー　A 官能基の導入・変換、B 複雑な化合物の合成 ・生体分子・医薬品の化学　ー　A 生体分子のコアとパーツ、B 医薬品のコアとパーツ	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
4.	・天然物由来薬物　ー　A 薬になる動植鉱物、B 薬の宝庫としての天然物 ・医薬品の開発と生産　ー　A リード化合物の創製と最適化	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
5.	・生命体の成り立ち　ー　A 器官の構造と機能、B 細胞の構造と機能、C 生体の機能調節、D 生命体の誕生、E 微生物・ウイルス	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
6.	・分子レベルの生命理解　ー　A 細胞を構成する分子、B 遺伝子、C タンパク質、D 生体エネルギー代謝、E 生理活性分子とシグナル分子、F 遺伝子操作・遺伝子工学、G 免疫・生体防御 ・感染症と生体防御　ー　A 免疫系の破綻と制御、B 感染症	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
7.	・健康　ー　A 栄養と健康、B 社会・集団と健康、C 疾病の予防 ・環境　ー　A 化学物質の生体への影響、B 生活環境と健康	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
8.	・薬物の効き方 (1)　ー　A 薬の作用機序、B 自律神経に作用する薬、C 知覚神経・運動神経系に作用する薬、D 中枢神経系に作用する薬、E 循環器系に作用する薬、F 腎に作用する薬	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
9.	・薬物の効き方 (2)　　H 消化器系に作用する薬、I ホルモンと薬、J 代謝系に作用する薬、K 血液・造血系に作用する薬、L 炎症・アレルギーと薬、M 感染症と薬 ・平常試験 (1)	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。　平常試験　(1)
10.	・薬物の体内動態　ー　A 薬の作用と生体内運命、B 体内動態の変動要因、C 薬物動態の解析 ・製剤　ー　A 製剤材料の性質、B 製剤化、C DDS	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
11.	・薬物治療　ー　A 体の変化、B 疾患と薬物治療、C 病原微生物・悪性新生物 ・薬物治療に役立つ情報　ー　A 医薬品情報、B 館じゃ情報、C テーラーメイド薬物治療	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
12.	・薬学と社会　ー　A 薬剤師を取り巻く法律と制度、B 薬害と副作用被害、C 社会保険制度と薬剤経済、D 地域薬局 ・医薬品の開発と生産　ー　A 医薬品開発、B 治験	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
13.	・ヒューマニズム　ー　A 生と死、B 医療の担い手としてのこころ構え、C 対人業務 ・薬剤師業務　ー　A 薬剤師業務の基礎、B 処方せん、C 疑義照会、D 調剤、E 医薬品の管理と供給、F リスクメネージメント、G 服薬指導と患者情報、H 現代医療の中の生薬・漢方薬	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
14.	・病院業務　ー　A 病院における調剤、B医薬品管理、C 情報の取扱い、D 病等業務	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
15.	・薬局業務　ー　A 薬局で取り扱う医薬品等と管理、B 薬局における調剤、C 薬局対面業務、D 地域における業務 ・平常試験 (2)	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。 平常試験 (2)

受講者へのメッセージやアドバイス:　この演習は薬剤師国家試験出題範囲を網羅する形で行われるが、出題が予想されるすべての内容を扱うことは時間的に不可能である。演習問題はあくまでも例示であるので、それから発展させる形で関係する領域を深く自己学習することが求められる

フィードバックの方法:　講義での演習問題については、講義中、或は終了後に、正答と解説が提示される。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常試験	100	平常試験で評価する。

教科書: これまでの授業で使用してきた教科書を使用する。必要に応じてプリントを配布する。

参考書: これまでの授業で使用してきた教科書を使用する。必要に応じてプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー、マナビーの掲示板機能、E メールの利用、授業の前後に教室内で応対、等。

719800

薬学特別演習b

専任教員

授業テーマ:　薬学専門知識の統合的理解

授業の概要:　多様な職域・業務環境における薬剤師業務の観点からこれまでの学習内容を統合的に再編成して、薬学専門領域の重要事項を学習する。薬学部の教員が分担して全体で 130コマの演習を行なう。これを 15 回に分けて記しているので、1 回は約 8 コマ分の内容を含んでいる。なお、記載の講義順は暫定的であり、実際には担当教員のスケジュールに合わせて配分するので、実際の順番とは異なる。130 コマのうち 12 コマを使って平常試験を 2 回行なう。

到達目標:　講義科目と実習科目を通して学修し身につけてきた知識、技能および態度を基礎とし、更に問題解決能力や応用力を高め、薬学専門知識の統合的理解を目的とする。関心・意欲・態度:薬学の各学習領域で学んだ知識を有機的に統合して理解しようとする態度を身に付けている。(基礎的な科学力、研究能力)

授業方法:　必要に応じて補助教材(プリントなど)用い、板書またはパワーポイントにより講義・演習を行う。各講義・演習に臨むにあたり、事前に提示された内容について予習する必要がある。平常試験を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・物質の物理的性質　ー　A 物質の構造、B 物質の状態、C 物質の変化 ・化学物質の分析　ー　A 化学平衡、B 化学物質の訂正と定量、C 分析技術の臨床応用 ・平常試験 (1)	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。 平常試験 (1)
2.	・生体分子の構造　ー　A 生体分子の解析法、B 生体分子の立体構造と相互作用 化学物質の性質と反応　ー　A 化学物質の基本的性質、B 有機化合物の骨格、C 官能基、D 化学物質の構造決定	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
3.	・ターゲット分子の合成　ー　A 官能基の導入・変換、B 複雑な化合物の合成 ・生体分子・医薬品の化学　ー　A 生体分子のコアとパーツ、B 医薬品のコアとパーツ	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
4.	・天然物由来薬物　ー　A 薬になる動植鉱物、B 薬の宝庫としての天然物 ・医薬品の開発と生産　ー　A リード化合物の創製と最適化	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
5.	・生命体の成り立ち　ー　A 器官の構造と機能、B 細胞の構造と機能、C 生体の機能調節、D 生命体の誕生、E 微生物・ウイルス	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
6.	・分子レベルの生命理解　ー　A 細胞を構成する分子、B 遺伝子、C タンパク質、D 生体エネルギー代謝、E 生理活性分子とシグナル分子、F 遺伝子操作・遺伝子工学、G 免疫・生体防御 ・感染症と生体防御　ー　A 免疫系の破綻と制御、B 感染症	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
7.	・健康　ー　A 栄養と健康、B 社会・集団と健康、C 疾病の予防 ・環境　ー　A 化学物質の生体への影響、B 生活環境と健康	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
8.	・薬物の効き方 (1)　ー　A 薬の作用機序、B 自律神経に作用する薬、C 知覚神経・運動神経系に作用する薬、D 中枢神経系に作用する薬、E 循環器系に作用する薬、F 腎に作用する薬	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
9.	・薬物の効き方 (2)　ー　H 消化器系に作用する薬、I ホルモンと薬、J 代謝系に作用する薬、K 血液・造血系に作用する薬、L 炎症・アレルギーと薬、M 感染症と薬	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
10.	・薬物の体内動態　ー　A 薬の作用と生体内運命、B 体内動態の変動要因、C 薬物動態の解析 ・製剤　ー　A 製剤材料の性質、B 製剤化、C DDS	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
11.	・薬物治療　ー　A 体の変化、B 疾患と薬物治療、C 病原微生物・悪性新生物 ・薬物治療に役立つ情報　ー　A 医薬品情報、B 患者情報、C テーラーメイド薬物治療	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
12.	・薬学と社会　ー　A 薬剤師を取り巻く法律と制度、B 薬害と副作用被害、C 社会保険制度と薬剤経済、D 地域薬局 ・医薬品の開発と生産　ー　A 医薬品開発、B 治験	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
13.	・ヒューマニズム　ー　A 生と死、B 医療の担い手としてのこころ構え、C 対人業務 ・薬剤師業務　ー　A 薬剤師業務の基礎、B 処方せん、C 疑義照会、D 調剤、E 医薬品の管理と供給、F リスクメネージメント、G 服薬指導と患者情報、H 現代医療の中の生薬・漢方薬	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
14.	・病院業務　ー　A 病院における調剤、B医薬品管理、C 情報の取扱い、D 病等業務	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。
15.	・薬局業務　ー　A 薬局で取り扱う医薬品等と管理、B 薬局における調剤、C 薬局対面業務、D 地域における業務 ・平常試験 (2)	各教員が国家試験問題に準拠した独自の或は類似の問題を作成して配布し、講義前に予習、或は、講義中に演習し、解説講義を基に復習する。 平常試験 (2)

受講者へのメッセージやアドバイス:　この演習は薬剤師国家試験出題範囲を網羅する形で行われるが、出題が予想されるすべての内容を扱うことは時間的に不可能である。演習問題はあくまでも例示であるので、それから発展させる形で関係する領域を深く自己学習することが求められる。

フィードバックの方法:　講義での演習問題については、講義中、或は終了後に、正答と解説が提示される。

「成績評価方法」	評価方法	割合	評価基準
「成績評価基準」:	平常試験	100	平常試験の成績を総合的に評価する。

教科書: これまでの授業で使用してきた教科書を使用する。必要に応じてプリントを配布する。

参考書: これまでの授業で使用してきた教科書を使用する。必要に応じてプリントを配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワー、マナビーもしくはVivi LinkやEメールの利用、授業の前後に教室内で応対、等。

719900 **インターンシップⅡ**

白井　　隆一

授業テーマ:　製薬企業および医薬品規制機関での業務に薬学の専門知識がどのように活かされているか

授業の概要:　製薬企業においては、厚生労働省から医薬品の製造販売承認を得るために必要な資料の収集や作成、これらの資料に基づく承認申請書の作成、作成された資料のPMDAへの申請などが重要な薬事業務であり、製造販売が承認されてはじめて医薬品を製造し販売することができる。医薬品の製造業務においては、製造工程管理や品質管理がGMPやGQPを遵守して行われる。また、販売した医薬品については、GVPに従い市販後の安全性を確保していく必要があり、必要に応じて、GPSPに従って製造販売後の調査・試験が実施される。このように、製薬企業では多種多様な業務が展開されており、皇漢堂では一般用医薬品について薬学部で学ぶ専門知識が製薬企業の活動に必須のものであることを受講生に学ばせる。一方、医薬品の製造工程管理や品質管理は医薬品の有効性と安全性を保証するために極めて重要であり、その管理は国内外において厳しく規制されている。これらの管理において必須となる標準物質は日本薬局方に規定され、公的に製造・頒布されており、日本においてはRS財団が厚生労働省の監督下でこの業務を担っている。このような医薬品規制に関わる業務も薬学を修めた者が担う重要なものであり、RS財団での標準物質の製造・頒布業務の体験を通して医薬品規制への関与・寄与の一端を学ばせる。

到達目標:　医療機関、製薬企業、医療行政などの幅広い薬学専門分野において、問題点や課題を自ら発見し、それらの解決のために真摯に取り組む研究者としての視点を身に付けている。(研究能力)

授業方法:　(1)キャリア支援部及び医療薬学科による事前指導、(2)皇漢堂製薬(株)、(一財)医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団大阪事業所での体験実習、(3)医療薬学科での実習報告および事後指導

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	キャリア支援部による講習1(事前指導) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
2.	キャリア支援部による講習2(事前指導) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
3.	医療薬学科による事前指導 B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
4.	オリエンテーション(皇漢堂) オリエンテーション(RS財団) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
5.	薬事部実習(皇漢堂) 標準物質と計量標準並びに日本薬局方標準品に関する講義(RS財団) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
6.	品質保証部実習(皇漢堂) 化学薬品標準品の品質評価実習(確認試験)(RS財団) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
7.	製剤学予備実習(皇漢堂) 化学薬品標準品の品質評価実習(確認試験)(RS財団) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
8.	錠剤試製実習(皇漢堂) 化学薬品標準品の品質評価実習(定量試験)(RS財団) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
9.	製剤試験実習(溶出試験等)(皇漢堂) 化学薬品標準品の品質評価実習(定量試験)(RS財団) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
10.	製剤試験実習(製剤均一試験, 定量試験等)(皇漢堂) 生物薬品標準品の品質評価実習(RS財団) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
11.	製造販売承認申請書作成実習(皇漢堂) 生物薬品標準品の品質評価実習(RS財団)	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
12.	品質管理部実習(皇漢堂) 日本薬局方標準品最終製品の製造実習(RS財団) B(2)②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。

13.	生産工場見学（皇漢堂） 実習のまとめとプレゼンテーション（RS財団） B（2）②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
14.	医療薬学科による事後指導 B（2）②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。
15.	体験実習報告会（医療薬学科） B（2）②	製薬企業における医薬品の開発、製造販売承認申請、製造工程管理、品質管理、安全性管理等に係る業務の流れ、および医薬品の品質管理に必須の日本薬局方標準品の品質評価、製造、頒布等の業務の流れを把握するとともに、関連する各種専門用語の意味を理解する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 実習報告会

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前指導・体験実習・実習報告会への出席	30%	60%で合格とする
実習先指導者の評価	60%	
実習報告会の評価	10%	

教科書: なし

参考書: なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: 訪問

720100

早期体験学習Ⅰ

成橋　和正、阿南　節子、天ヶ瀬　葉子、榎本　光伯、川村　暢幸、菅野　陽介、芝田　信人、白井　弘子、白井　隆一、杉浦　伸一、中西　弘和、西村　亜佐子、松元　加奈、水川　裕美子、宮脇　あかり、森田　邦彦、安川　淳一朗、山本　康友、和田　戈虹

授業テーマ:　早期体験学習

授業の概要:　将来、薬剤師となるべく、薬剤師に関連する多様な側面を体験・経験する。

到達目標:
調剤の基本的技術を習得し、医療薬学科の学生として学習に対する目的意識を高める。
有機化学実験・動物解剖を通して、科学者としての薬剤師資質の礎を築く。
マナー・コミュニケーション講座を通して、社会人としての基本的なマナー・コミュニケーション力を身につける。
F-(1)①, A-(1), (2), (3), B-(1)

授業方法:　講義、演習、実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 薬剤師になるための6年間の薬学部での学修について理解する。 講義・実習の受け方・レポートの書き方を学ぶ。	薬剤師の社会的役割を概説し、6年間の学びのロードマップを理解する。 講義・実習を受けるにあたって、講義聴講テクニック（ノートテイキング）やレポート作成について学ぶ。
2.	調剤実習① 手洗いの種類と手洗いの方法を学ぶ。 身の回りの汚染と手洗いの重要性を学ぶ。 （パームスタンプによる手の汚染を測定する）	各自で手洗いの種類とその方法を繰り返し練習する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
3.	調剤実習② 水薬調製の基本的手技を習得する。 （水薬の秤量、消毒薬の調製）	調製に関する計算が出来るようにする。 調製に用いる器具の名称を覚え、正しい使用方法を身につける。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
4.	調剤実習③ 散剤調製の基本的手技を習得する。 （散薬の秤量、手分包）	天秤を正しく設置し、正しく使用できるようにする。 散薬瓶、スパーテルの正しい持ち方を身につける。 手分包、分包紙の折り方を身につける。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
5.	調剤実習④ 軟膏調製の基本的手技を習得する。 （軟膏・クリーム剤の秤量、調製、軟膏壷への充填）	調製に用いる器具の名称を覚え、正しい使用方法を身につける。 使用する薬品について調べる。 「薬局製剤」について理解する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
6.	調剤実習⑤ 坐薬の調製を行う。 （①～④で学んだ手技を活用し、坐薬の調製に挑戦する）	調製に用いる器具の名称を覚え、正しい使用方法を身につける。 使用する薬品について調べる。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
7.	有機化学入門 有機化学実験の基本的な手技を習得する。	有機化学合成の基礎的な実験を行う。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
8.	動物解剖 マウスの解剖を通し、生体の構造を理解する。 生命の尊さについて考える。	マウスを用い、哺乳類の基本的な臓器、器官の位置や名称を理解する。 実習前にテキストの各臓器の空欄を埋めてくる。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
9.	Problem Based Learning (PBL) [1]	シナリオから、問題点を抽出し、書籍、インターネット等を用いて、問題点の解決策を見いだす。 グループでのディスカッションを行う。
10.	Problem Based Learning (PBL) [2]	プレゼンテーションマテリアルを作成する。
11.	Problem Based Learning (PBL) [3]	プレゼンテーションマテリアルを作成する。
12.	Problem Based Learning (PBL) [4]	プレゼンテーションを行う。質疑応答、を行う。
13.	フィジカルアセスメント【入門】 聴診器の使い方を学び、血圧測定方法を習得する。	聴診器、血圧計を正しく使用し、血圧測定が出来るようにする。 「フィジカルアセスメント」について理解する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
14.	コミュニケーション・マナー講座 [1]	あいさつ等における一般的なマナーや、相手の気持ちを考えた接遇について考え、日常で実践する。 演習後、レポート作成。
15.	コミュニケーション・マナー講座 [2]	ビジネスシーンにおけるマナーや、コミュニケーションについて考える。 演習後、レポート作成。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・将来、薬剤師になる上で、医療に関連する多くのことを体験します。
・この経験が後の講義・実習での礎となり、将来の自分の薬剤師像を膨らませます。
・薬剤師として知っておくべき薬物名を暗記してもらいます。配布するテキスト「覚える　薬理作用別　クスリ」を使用してクスリ名小テストを行います。

フィードバックの方法:
レポートを採点し、コメントをつけて返却する。
教員が、随時、質問を受け付け、適時、アドバイスを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席、授業への参加度	10%	出席は必須です。
レポート	20%	提出は必須です。
小テスト	20%	クスリ名小テストを含みます。
定期試験	50%	記述式、客観式試験により評価します。

教科書:
早期体験学習　2018　同志社女子大学薬学部
（本学オリジナルテキスト、開講前に配布します）

	覚える　薬理作用別　クスリ （本学オリジナルテキスト、開講前に配布します）
参考書：	キャリアデザインワークプロフェッショナル社会人 コミュニケーション・マナー編（ホルス出版） 稲本 恵子（著），白井　弘子（著），中村　真典（著）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法：	メール　knaruhas@dwc.doshisha.ac.jp（成橋）

720200

早期体験学習Ⅱ

成橋　和正、阿南　節子、川村　暢幸、芝田　信人、白井　弘子、杉浦　伸一、中西　弘和、西村　亜佐子、羽森　真美、松元　加奈、森田　邦彦、渡邉　愛未

授業テーマ:　早期体験

授業の概要:　将来、薬剤師となるべく、薬剤師に関連する多様な側面を体験・経験する。

到達目標:
患者や医療スタッフと良好なコミュニケーションをとるための基本技能である「接遇」や「マナー」を習得する。
身体の不自由な高齢者の疑似体験を通していつくしみの「心」を磨くとともに、医療人としての精神を養う。
実際の医療現場を見学し、薬剤師の使命・役割を理解する。
薬害の実態を薬害被害者の話を聞くことで理解し、医療人としての薬剤師の姿勢を考える。
フィジカルアセスメントに必要な知識を学び、手法・手技を習得する。
F-1①, A-(1), (2), (3), (4), (5), B-(1), (4). F-(1)②, ③, F-(4), (5)

授業方法:　講義、演習、実習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コミュニケーション・マナー講座 [3]	医療現場における患者への接遇について考える。 演習後、レポート作成。
2.	コミュニケーション・マナー講座 [4]	医療現場における医療スタッフとのコミュニケーションのあり方について考える。 演習後、レポート作成。
3.	日本の医療現場の薬剤師の活躍を知る。	日本における薬剤師の病院薬局・調剤薬局での役割や医療における位置づけや役割を理解する。 レポートを作成し理解を深める。
4.	病院見学 病院薬剤師の業務を見学。	病院薬剤師の業務を理解する。 見学後、感想文の作成。
5.	薬局見学 薬局薬剤師の業務を見学。	薬局薬剤師の業務を理解する。 見学後、感想文の作成。
6.	フィジカルアセスメント【基礎】[1]	フィジカルアセスメントをする上で必要となる基礎的理解と手技の習得。[1] ・心音、肺音の聴取を習得する。 ・脈拍測定、血圧測定の手技を習得する。
7.	フィジカルアセスメント【基礎】[2]	フィジカルアセスメントをする上で必要となる基礎的理解と手技の習得。[2] ・心音、肺音の聴取を習得する。 ・脈拍測定、血圧測定の手技を習得する。
8.	病院・薬局見学の成果プレゼンテーションマテリアルの作成 [1]	病院・薬局見学に基づき、その成果をグループごとにポスター形式で作成する。[1]
9.	病院・薬局見学の成果プレゼンテーションマテリアルの作成 [2]	病院・薬局見学に基づき、その成果をグループごとにポスター形式で作成する。[2]
10.	病院・薬局見学の成果プレゼンテーション	ポスター形式の発表会を行う。 プレゼンテーション、ディスカッション、質疑応答
11.	Automated External Defibrillator (AED) の使用を体験する。	AEDが何であるかを理解する。 AEDがどのような場面で使用されるのかを理解する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
12.	高齢者体験する。	高齢者をはじめ、体の不自由な人の疑似体験をし、健常者との違いを理解する。 実習前にテキスト該当部分を一読する。 実習後、レポートを作成し理解を深める。
13.	薬害被害者から薬害の実態をお話しいただく	薬害について事前に調べる。 話を聞き、レポートならびに感想文を作成する。
14.	日本の企業の薬剤師の活躍を知る。 海外の薬剤師の活躍を知る。	日本における薬剤師の企業での役割を理解する。 世界各国における薬剤師の役割や医療における位置づけや役割を理解する。 レポートを作成し理解を深める。
15.	まとめ	早期体験学習Iの全内容、早期体験学習IIの第1回目から第14回目までの授業内容について、十分に復習をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・将来、薬剤師になる上で、医療に関連する多くのことを体験します。
・この経験が後の講義・実習での礎となり、将来の自分の薬剤師像を膨らませます。
・薬剤師として知っておくべき薬物名を暗記してもらいます。配布するテキスト「覚える　薬理作用別　クスリ」を使用してクスリ名小テストを行います。

フィードバックの方法:
レポートを採点し、コメントをつけて返却する。
教員が、随時、質問を受け付け、適時、アドバイスを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席、授業への参加度	10%	出席は必須です。
レポート	20%	提出は必須です。
小テスト	20%	クスリ名小テストを含みます。
定期試験	50%	記述式、客観式試験により評価します。

教科書:
早期体験学習　2018　同志社女子大学薬学部
（本学オリジナルテキスト、早期体験学習Iで使用したもの）
覚える　薬理作用別　クスリ
（本学オリジナルテキスト、早期体験学習Iで使用したもの）
キャリアデザインワークプロフェッショナル社会人 コミュニケーション・マナー編（ホルス出版）
稲本 恵子 (著), 白井　弘子 (著), 中村　真典 (著)
（早期体験学習Iで指定したものと同じ）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	メール knaruhas@dwc.doshisha.ac.jp（成橋）

720300

臨床薬学概論

芝田　　信人、杉浦　　伸一、西村　　亜佐子

授業テーマ:　医療人としての薬剤師の役割・在り方を知る

授業の概要:

1. 薬学の専門家として必要な基本姿勢を身に着けるために、医療社会における薬学の役割、薬剤師の使命を知り、どのように薬学が発展してきたかを理解する。
2. 生命の尊さを認識し、人の誕生から死ぬまでの間に起こりうる様々な問題を通して医療における倫理の重要性を学ぶ。
3. 常に社会に目を向け、生涯にわたって医療を通して社会に貢献できるようになるために必用な心構えを身に着ける。
4. 医療の担い手の一員である薬学専門家として、患者、同僚、地域社会との信頼関係を確立できるようになるために、相手の心理、立場、環境を理解するための基本的知識、技能、態度を学ぶ。

到達目標:

1. 医療と薬学の歴史を認識するとともに、国民の健康管理、医療安全、やくがいぼうしに置ける役割を理解し、薬剤師としての使命感を身に付ける
2. 倫理的問題に対して主体的に行動するために、生命・医療に係る倫理観を身に付け、医療の担い手としての感性を養う
3. 患者・生活者、他の職種との対話を通じて相手の心理、立場、環境を理解し、信頼関係を構築するために役立つ網力を身に付ける
4. 医療･福祉・行政・教育機関及び関連職種の連携の必要性を理解し、チームの一員としての在り方を身に付ける
5. 生涯にわたって水から学ぶことの必要性・重要性を理解し、修得した知識・技能・態度を確実に次世代へ継承するイオクと行動力を身に付ける。

授業方法:　各項目はパワーポイント、教科者、板書、配布する講義テキストで要点を解説する。講義内容に関連する小テストを数回行う。また、授業内容に関連する課題について数回のレポート提出を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション 効率の良い授業でのノートの取り方 薬学部で学ぶべきこと 薬学の使命、6年制薬学教育 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
2.	薬剤師の歴史と使命 薬剤師の誕生・成長・現在・未来の薬剤師 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
3.	日・米・独の薬剤師　日本の薬剤師、アメリカの薬剤師、ドイツの薬剤師の比較 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
4.	薬が作用する仕組み くすり、痛み、病気から薬学っていうものを考える A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
5.	医薬品の開発 医薬品の設計、研究開発、臨床試験、承認申請までの過程、および研究倫理を考える A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
6.	医療人としての心構え 医療の目的、命の尊厳、先進医療と倫理、薬剤師の医療の中での役割 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
7.	医療行為に関わる心構え　医のこころ、薬剤師にとっての臨床とは A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
8.	薬剤師の活動分野　社会の薬剤師に対する期待, 病院・薬局薬剤師、在宅医療、学校薬剤師、セルフメディケーション A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
9.	臨床コミュニケーション(1)　自己のコミュニケーション能力の理解と認識 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
10.	臨床コミュニケーション(2) 患者の心理の理解、家族心理の理解、臨床コミュニケーションの実際 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
11.	PBL 小グループに分かれて薬剤師の態度に関するテーマについて討議し、発表を行う。テーマについては第10講が終了したときに通知する。 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。
12.	将来の薬剤師像を描く(1) あなたは将来どの様な薬剤師になりますか 医療における暗黙知（文字に表し難い知識）を形式知（サイエンス）と結合するための情報を提供することにより、自然科学を学んだ唯一の医療人である薬剤師という職業の面白さを例示する。 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編（東京化学同人）を熟読すること。

13.	将来の薬剤師像を描く(2) 薬剤師に必要な知識・技術・態度とは 薬剤師に要な知識がどの様な情報から成り立っているのか、また、それを実践する技術とは何か、さらにその技術を実践する態度について事例をあげて解説する。 A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編(東京化学同人)を熟読すること。
14.	チーム医療の実践 チーム医療とチーム医療にかかわるためのスキル A-(1)、(2)、(3)、(4)、(5) B-(1)、(2)、(3)、(4)	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編(東京化学同人)を熟読すること。
15.	まとめ １～14回までのすべての範囲についての学力を確認する	教科書に指定した、スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編(東京化学同人)を熟読すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

小テスト(20%)、レポート(20%)、期末試験(60%)でもって評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合、期末試験や小テストのみでたとえ60%以上であっても合格としない。中間試験は実施しない。期末試験の再試験は実施しないが、不合格の場合、課題レポートの提出を課す。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60%	出席および小テスト(20%)、レポート(20%)、期末試験(60%)でもって評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が6回以上(授業を3分の1以上欠席)である場合、期末試験や小テストのみでたとえ60%以上であっても合格としない
出席および小テスト	20%	
レポート	20%	
		上記評価基準により不合格の場合は、さらに課題レポートの提出を課す

教科書:

スタンダード薬学シリーズII1　薬学総論、日本薬学会編(東京化学同人)
臨床薬学概論(2018)配布する

参考書:

薬学教育改訂モデル・コアカリキュラム(配布する)
海外の薬剤師を訪ねて、岡部　進著(新興医学出版)
人間の尊厳と科学　　山本邦夫著(京都廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

講義に関する質問等がある場合は、科目代表者(芝田信人、nshibata@dwc.doshisha.ac.jp)まで連絡すること

720400

医療倫理入門

阿南　　節子、小﨑　　眞

授業テーマ:　医療倫理の基本を理解する。

授業の概要:　まず、人の「生」と「死」について考える。死をめぐる倫理問題についても理解を深める。世界的な医療倫理の考え方の変遷を学び、なぜ医療倫理が重要であるのかの経緯を学ぶ。薬剤師の倫理については、新薬開発、実際に日本で起きたいくつかの薬害と生命倫理、生殖医療や遺伝子治療についても理解する。

到達目標:
・キリスト教主義教育により、隣人を愛し他者を思いやるこころを持ち、世の光・地の塩となって他者及び社会に奉仕することのできる人物を理解する。
・リベラル・アーツ教育により、深い学術的知識、専門的技能と幅広い教養を持ち、学士にふさわしい分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力などの基礎的・汎用的能力を持った人物を目指す
・生命の誕生」、「死」、「インフォームドコンセント」など、医療における様々な状況における倫理的な問題を通じ、医療倫理の基本と重要性を理解する。

授業方法:　講義、その他

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　A(1)	日本薬剤師会　薬剤師倫理規定参照
2.	誕生を巡る倫理問題（映像資料などを通し）　A(1)	日本生命倫理学会　HP参照
3.	生命倫理との対話　A(1)	日本生命倫理学会　HP参照
4.	死を巡る倫理問題　（映像資料などを通し）　A(2)	日本生命倫理学会　HP参照
5.	生命倫理との対話　A(2)	日本生命倫理学会　HP参照
6.	死生の文化とケアを巡り A(3)	日本生命倫理学会　HP参照
7.	医療倫理の変遷　A(1)A(2)	日本生命倫理学会　HP参照
8.	薬剤師倫理規定のながれ A(1)A(2)	日本薬剤師会　薬剤師倫理規定参照
9.	患者の権利と生命倫理 A(1)A(2)	世界医師会　リスボン宣言　参照
10.	臨床研究の倫理 A(1)A(2)	厚生労働省HP 「治験」参照
11.	新薬開発の倫理 A(1)A(2)	厚生労働省HP 「治験」参照
12.	. 薬害と生命倫理　映画鑑賞「典子は今」 A(1)A(2)	厚生労働省「薬害を学ぼう」参照
13.	生殖医療と生命倫理 A(1)A(2)	日本生命倫理学会　HP参照
14.	遺伝子医療と倫理 A(1)A(2)	日本生命倫理学会　HP参照
15.	総括A(1)A(2)	日本生命倫理学会　HP参照

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	40%	
小テスト　レポート	60%	医療倫理の基本についての理解度を評価する

教科書:　特に定めない

参考書:　必要時配布する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

720500

生命物理化学Ⅰ

桑原　　淳

授業テーマ:　生命科学に関わる物理化学理論の修得

授業の概要:　物理化学は量子力学，統計力学や熱力学を基にして，自然科学全般に通じる概念や原理の根幹を担っており，単に化学だけでなく，生物学や医療薬学とも密接な関連性を持つ．生命現象を定量的に取り扱うための理論を学ぶ．本講義では巨視的な系の観点から熱力学，溶液論や電解質について，物理化学の基本的な考え方を理解し，生体や薬物等の系に適用できるようにする．また，各項目で必要に応じて，高校物理の内容にも触れる．

到達目標:　物理化学が生体に如何に適用できるかという観点から，物理化学の諸原理について，明確な「イメージ（心像）」を持てるようにする．知識・理解：生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学分野の基本的知識を身に付けている。（基礎的な科学力）

授業方法:　講義形式．適宜，板書とプロジェクターを利用．教科書等に準拠したプリントを配布．

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	序論：物理化学における物理量と単位，数学的表現 － SI単位と組立単位，微積分，微分方程式	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
2.	熱力学 1 － 熱力学第1法則 － 熱，仕事，状態関数 C1 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
3.	熱力学 2 － 熱力学第2，第3法則 － Carnotサイクル，エントロピー　C1 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
4.	熱力学 3 － Gibbs自由エネルギー － 熱力学関数 C1 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
5.	熱力学 4 － 化学ポテンシャルと化学平衡　C1 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
6.	熱力学 5 － 気体の分子運動とエネルギーの量子化 － van der Waals 状態方程式，Boltzmann分布　C1 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
7.	溶液論 1 － 希薄溶液と束一性　C1 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
8.	溶液論 2 － 分子間相互作用　C1 (1)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
9.	溶液論 3 － 表面状態とコロイド分散系　C1（2）	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
10.	相平衡 1 － 相平衡の熱力学　C1 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
11.	相平衡 2 － 多成分系の状態図　C1 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
12.	電解質溶液 1 － 酸と塩基，塩　C2 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
13.	電解質溶液 2 － 電気伝導，電流，Ohmの法則，Debye-Huckel理論　C2 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
14.	電気化学と化学電池　C1(2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習．
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　復習を非常に重視しています．教科書の演習問題や国家試験に関連した設問を通して，自主的な学習を勧めています．物理化学理論の理解を深めてほしい.と思います．

フィードバックの方法:　各章の演習問題の自主学習成果に対して，教員自作の解説・解答を示す．

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	中間試験又は，小試験・レポート等で理解度を計り，定期試験で総合的に評価する．

教科書:	「基礎薬学　物理化学」桐野　豊　編（廣川書店）
参考書:	「生命科学のための物理化学」（上・下）D.Eisenberg, D.Crothers 著（培風館） 「アトキンスの物理化学」（上・下）P.W. Atkins 著（東京化学同人）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、変化対応力
教員との連絡方法:	オフィスアワー，マナビーの掲示板機能，E メールの利用，授業の前後に教室内で応対，等

720600 **有機化学Ⅰ**

白井　　隆一

授業テーマ:

授業の概要: 有機化学の学びを通して『くすりの性質』を正しく理解するための能力を身につける。
問題演習や小テストを交えながら講義を進め、多様な有機化学反応を理解できる学力を身につける。

到達目標: 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学・有機化学・生化学分野の基本的知識を身に付けている。(基礎的な科学力)

授業方法: 講義および問題演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	電子構造と結合・酸と塩基 C3(1)(1)～(2)	教科書予習
2.	有機化合物の基礎－命名法、物理的性質、および構造の表示法 C3(1)(1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
3.	アルカン－構造、命名法、熱力学 C3(1)(1)～(2) C3(2)(1)	教科書予習および前回講義の復習
4.	シクロアルカン－構造、命名法・熱力学 C3(1)(1)～(2) C3(2)(1)	教科書予習および前回講義の復習
5.	アルケン－反応性の基礎・熱力学と速度論 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
6.	アルケンの反応－有機電子論 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
7.	アルケンの反応－付加反応1 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
8.	アルケンの反応－付加反応2 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
9.	アルケンの反応－付加反応3 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
10.	立体化学－原子の空間配置、付加反応における立体化学1 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
11.	立体化学－原子の空間配置、付加反応における立体化学2 C3(1)(1)～(2) C3(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
12.	ハロゲン化アルキルの求核置換反応1 C3(1)(1)～(2) C3(3)(1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
13.	ハロゲン化アルキルの求核置換反応2 C3(1)(1)～(2) C3(3)(1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
14.	ハロゲン化アルキルの求核置換反応3 C3(1)(1)～(2) C3(3)(1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
15.	まとめ	前回講義の復習

受講者へのメッセージやアドバイス: 講義を集中して聴き、その時に理解するよう努める。
復習を怠らずわからないまま放置しないようにする。
授業動画を最大限に活用する。

フィードバックの方法:
小テスト
課題
授業動画
マナビーでのドリル

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	80%で合格
平常時試験	10%	
課題提出	10%	

教科書:
ブルース有機化学　第7版・上巻(大船泰史・他監訳、化学同人)
ブルース有機化学　第7版・下巻(大船泰史・他監訳、化学同人)

参考書:
ブルース有機化学　第7版・問題の解き方(英語版)(化学同人)
有機化学explorer(竹本佳司・他編、京都廣川書店)
ベーシック薬学教科書シリーズ5　有機化学(夏苅英昭・他編、化学同人)
ブラウン・プーン　基本有機化学　第3版(池田正澄・他監訳、廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 教授室を訪問

720700

生命物理化学Ⅱ

桑原　　淳

授業テーマ:　生命科学に関わる物理化学理論の修得，生体分子や薬物分子の構造・物性への理解.

授業の概要:　本講義では生命物理化学Ⅰに引き続いて，微視的な系の観点から分子構造論や分光学の基礎となる電磁波と物質の相互作用について解説する．生命現象を深く理解するには，それらを物理化学の原則に照らして，分子レベルで解析することが重要である．そこで，物理化学が如何に生体に適用できるかという観点から種々の分光学的手法について，主として測定原理を解説する.

到達目標:　物理化学が生体に如何に適用できるかという観点から，物理化学の諸原理について，明確な「イメージ（心像）」を持てるようにし，生体分子や薬物分子を「かたち」として把握できるようにする．知識・理解：生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学分野の基本的知識を身に付けている.（基礎的な科学力）

授業方法:　講義形式．適宜，板書とプロジェクターを利用．教科書等に準拠したプリントを配布.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	化学反応速度論 1 – n次反応速度式，反応次数(n)決定法，放射崩壊と放射平衡 等 C1 (3)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
2.	化学反応速度論 2 – 複合反応，触媒反応(酸・塩基触媒,酵素)，反応速度と温度(Arrhenius式) 等 C1 (3)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
3.	化学反応速度論 3 – 衝突理論と遷移状態理論 等 C1 (3), C4 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
4.	化学反応速度論 4 – 酵素反応速度論，阻害形式，等　C1 (3), C4 (2)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
5.	輸送過程 – 拡散と溶解速度，Fickの法則，固体の溶解，粘度，粘性抵抗（沈降，遠心分離，電気泳動），レオロジー等　C2 (5)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
6.	元素 – 金属・非金属，錯体の構造と機能，電子状態，量子数　C3 (5)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
7.	量子化学 1 – 前期量子論 C1(1)-1-1) ～ 4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
8.	量子化学 2 – 量子力学の原理 – 波動方程式 C1(1)-1-1) ～ 4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
9.	量子化学 3 – 化学結合と分子構造 – 分子軌道 C1(1)-1-1) ～ 4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
10.	分光学 1 – 電磁波と物質の相互作用　C1 (1)，　C2 (4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
11.	分光学 2 – 吸収，蛍光，燐光，　旋光性，円偏光二色性，レーザー 等　C2 (4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
12.	分光学 3 – 核磁気共鳴，X線回折 等　C2 (4)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
13.	放射線と放射能　C1 (1)	講義時に，設問・課題を課したり，各章・単元ごとに，教科書の演習問題の自作解答や関連の国家試験問題を配布し，復習を強力に推奨．講義時にも，前回の内容を要約して復習.
14.	生体分子の解析 – 核酸・蛋白質，相互作用 等　C4 (1)	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　復習を非常に重視しています．教科書の演習問題や国家試験に関連した設問を通して，自主的な学習を勧めています．物理化学の理論の理解を深めてほしい.と思います

フィードバックの方法:　各章の演習問題の自主学習に対して，自作の解説・解答を示す.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	中間試験又は，小試験・レポート等で理解度を計り，定期試験で総合的に評価する.

教科書:　「基礎薬学　物理化学」桐野　豊　編（廣川書店）

参考書:	「生命科学のための物理化学」(上・下) D.Eisenberg, D.Crothers 著 (培風館) 「アトキンスの物理化学」(上・下) P.W. Atkins 著 (東京化学同人)
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、変化対応力
教員との連絡方法:	オフィスアワー, マナビーの掲示板機能, E メールの利用, 授業の前後に教室内で応対, 等

720800 **有機化学Ⅱ**

白井　　隆一

授業テーマ:

授業の概要: 有機化学の学びを通して『くすりの性質』を正しく理解するための能力を身につける。
問題演習や小テストを交えながら講義を進め、多様な有機化学反応を理解できる学力を身につける。

到達目標: 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学・有機化学・生化学分野の基本的知識を身に付けている。(基礎的な科学力)

授業方法: 講義および問題演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ハロゲン化アルキルの脱離反応1 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (1)～(2)	教科書予習
2.	ハロゲン化アルキルの脱離反応2 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
3.	アルキンの反応 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
4.	ジエンの反応 C3 (1) (1)～(2) C3 (2) (2) C3 (3) (1)～(2)	教科書予習および前回講義の復習
5.	アルコール・エーテル・エポキシドの反応 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (3)	教科書予習および前回講義の復習
6.	ベンゼンの反応、芳香族性 C3 (1) (1)～(2) C3 (2) (3)	教科書予習および前回講義の復習
7.	置換ベンゼンの反応1 C3 (1) (1)～(2) C3 (2) (3)	教科書予習および前回講義の復習
8.	置換ベンゼンの反応2 C3 (1) (1)～(2) C3 (2) (3)	教科書予習および前回講義の復習
9.	カルボニル化合物－求核アシル付加反応 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
10.	カルボニル化合物－求核付加・脱離反応 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
11.	カルボニル化合物－求核アシル置換反応 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
12.	カルボニル化合物－α、β－不飽和カルボニル化合物の反応 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
13.	カルボニル化合物－α炭素上での反応1 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
14.	カルボニル化合物－α炭素上での反応2 C3 (1) (1)～(2) C3 (3) (4)	教科書予習および前回講義の復習
15.	まとめ	教科書予習および前回講義の復習

受講者へのメッセージやアドバイス: 講義を集中して聴き、その時に理解するよう努める。
復習を怠らずわからないまま放置しないようにする。
授業動画を最大限に活用する。

フィードバックの方法:
小テスト
課題
授業動画
マナビーでのドリル

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	80%で合格
平常時試験	10%	
課題提出	10%	

教科書:
ブルース有機化学　第7版・上巻(大船泰史・他監訳、化学同人)
ブルース有機化学　第7版・下巻(大船泰史・他監訳、化学同人)

参考書:
ブルース有機化学　第7版・問題の解き方(英語版)(化学同人)
有機化学explorer(竹本佳司・他編、京都廣川書店)
ベーシック薬学教科書シリーズ5　有機化学(夏苅英昭・他編、化学同人)
ブラウン・プーン　基本有機化学　第3版(池田正澄・他監訳、廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 教授室を訪問

720900

生薬学Ⅰ

中村　　憲夫

授業テーマ:　天然の医薬品である生薬について学ぶ

授業の概要:　我々人類は種々の天然薬物資源をそのままあるいは加工調製し，生薬として利用してきた．生薬が伝統医学における薬として，また現代医薬品の原料として利用されていることを理解する．生薬を正しく利用し，疾病の治療に有効な薬物を提供するために，薬用植物の基本的な分類，外部形態的特徴，薬用部位，特徴成分および生薬に関する概論(歴史，品質評価)，を学ぶ．また各論では生薬の成分，薬効，漢方処方(薬学教育モデル・コアカリキュラムC5)について学習する．

到達目標:
1．薬用植物の基本的な分類，外部形態的特徴，薬用部位，特長成分を理解する．
2．生薬の歴史，品質評価を理解する．
3．各生薬の基原植物，薬用部位，成分．薬効，漢方処方を理解する．

授業方法:　主として板書によるが，時にパワーポイントなどの映像を利用し，理解度を深めるため適宜，課題を出し，小テストを行う．

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	生薬と生薬学，生薬の利用・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・アドC5-5-4)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
2.	生薬の歴史・・アドC5-1-1), -2-1), -5-2)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
3.	生薬の基原植物の形態と分類・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-2), 3), -	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
4.	生薬の成分(1)・・	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
5.	生薬の成分(2)・・	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
6.	生薬の品質評価・・	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
7.	生薬の生産と流通・・アドC5-	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
8.	生薬の薬理作用・・	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
9.	生薬各論:藻類，真菌類，裸子植物の生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
10.	生薬各論:クワ科，タデ科などの生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4),	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
11.	生薬各論:モクレン科，キンポウゲ科の生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
12.	生薬各論:アケビ科，ツヅラフジ科などの生薬・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
13.	生薬各論:ボタン科，ケシ科，バラ科の生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
14.	生薬各論:マメ科などの生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問者に対して研究室で解説する．

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	到達目標3に関する理解度により評価する．
授業中に実施する小テスト(中間試験)	50%	到達目標1，2に関する理解度により評価する．

教科書:　パートナー生薬学改訂第3版　竹谷孝一，木内文之，小松かつ子編(南江堂)

参考書:　第十七改正日本薬局方解説書(学生版)　日本薬局方解説書編集委員会編(廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

721000 **調剤学Ⅰ**

芝田　信人、中西　弘和、杉浦　伸一、西村　亜佐子

授業テーマ:　調剤を通じて医療に貢献できる薬剤師を目指す

授業の概要:　調剤は薬剤師に認められた法的権限であるが、1992年の第２次医療法改訂以前の調剤は単に医師の処方箋に記載された通りに医薬品を調合することが最も重要とする狭義の調剤であった。しかし、インフォームド・コンセントに基づく患者主体の疾病治療を展開してゆく中で、副作用の予防や治療効果の確認までもが調剤に関連する薬剤師の業務として拡大した。したがって、医師や歯科医師の処方が医学的に妥当であるかの判断（処方監査）、医薬品の相互作用や重複投与の防止、患者への充実した服薬指導、患者の薬剤服用歴・指導内容の記録と管理、副作用の予防や早期発見と対策、後発医薬品の選択あるいは患者の様態の把握など、医薬品が関わる多様な臨床場面の全てを含めたものが薬剤師が行う広義の調剤として位置づけられている。講義では、以上のような広義の調剤を行いうる薬剤師を目指し、おもに調剤の基本的な知識・態度について学習する。

到達目標:
1. 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活動をする臨床現場で必要な心構えと薬学管理の基本的な流れを把握する
2. 処方せんに基づく調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的な調剤業務を修得する
3. 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、てきせつに患者情報を収集したうえで、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・評価できる能力を修得する
4. 医療機関や地域で、他職種が県警・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における他職種のやくわりと意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案ができる
5. 地域での保険、医療、福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリーケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解する

授業方法:　教科書、Power Point映写を中心として講義する他、適宜プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬剤師業務の変遷と薬剤師倫理　（担当:　芝田） ① 医療における薬剤師の使命 ② 医療体系の変化 ③ 調剤の概念 ④ 医療の担い手としての倫理規範 ② 身だしなみ・言葉使い ③ 薬剤師に関する法令 ④ 守秘義務・個人情報の保護 ⑤ 病院薬剤師に求められる倫理 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
2.	各種剤形の定義(担当:　芝田） ① 錠剤 ② カプセル剤 ③ 内用散剤 ④ 内用水剤 ⑤ 軟膏剤 ⑥ 様々な外用剤 ⑥ 薬袋の作成（内服薬、水薬ラベル、外用薬、頓服薬） F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
3.	調剤の基礎　（担当:　芝田） ① 様々な処方せん ② 処方監査 ③ 薬袋作成 ④ 計数調剤の手順 ⑤ 計量調剤の手順 調剤薬監査の実際　（担当:　中西） ① 調剤薬鑑査の流れ ② 調剤薬鑑査の手順	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
4.	計量調剤の製剤量計算演習 ① 内用散薬の成分量から製剤量の計算 ② 内用液剤の成分量から正材料の計算 ③ 小テストⅠ F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと 小テストⅠの範囲はマナビー参照
5.	計数調剤の実際　（中西） ① 計数調剤の特徴 ② 計数調剤の手順 ③ 薬袋の作成 ④ 簡易懸濁法 ⑤ 計数調剤薬の監査 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
6.	計量調剤の実際（担当:　中西） ① 内用散剤計量調剤 ② 内用液剤計量調剤 ③ 薬袋の作成 ④ 一包化・分割・粉砕調剤 ⑤ 計量調剤薬の監査 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
7.	外用薬調剤の実際（担当:　中西） ① 外用薬調剤の一般的注意事項 ② 薬袋の作成 ③ 軟膏剤の混合調剤 ④ 外用調剤薬の監査 ⑤ 小テストⅡ F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと 小テストⅡの範囲はマナビー参照

8.	処方せん受付と処方せん監査・疑義照会の実際 （担当： 西村） ① 処方せんの種類 ② 処方せん受付とインタビュー・接遇 ③ 処方せん監査の手順 ④ 疑義照会の手順 ⑤ 一般名処方 ⑥ 後発医薬品（ジェネリック） F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
9.	薬剤交付と情報提供Ⅰ （担当： 西村） ① 薬剤の交付 ② 服薬指導 ③ 薬歴の記録 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
10.	薬剤交付と情報提供Ⅱ （担当： 西村） ① 薬剤の交付 ② 服薬指導 ③ 薬歴の記録 ④ 小テストⅢ F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと 小テストⅢの範囲はマナビー参照
11.	注射調剤の実際（担当： 杉浦） ① 注射剤調剤の流れ ② 注射剤の投与経路 ③ 安全性・品質の確保 ④ 電解質輸液・注射療法の基本 ⑤ 注射剤・輸液の混合（無菌調製） F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
12.	医薬品の管理と供給（担当： 杉浦） ① 医薬品管理の目的 ② 品質管理 ③ 在庫管理 ④ 法的管理が義務付けられている医薬品 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
13.	リスクマネージメント(担当： 杉浦） ① リスクマネージメントとは ② ハイリスク医薬品管理 ③ 院内における医療安全管理 ④ 小テスト Ⅳ F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと 小テストⅣの範囲はマナビー参照
14.	薬物相互作用・副作用・禁忌症 （担当： 芝田） ① 薬物動態学的相互作用 ② 薬力学的学的相互作用 ③ 特定の疾病に対する投与禁忌薬 ② 肝障害患者・腎障害患者に禁忌の薬剤 ③ 妊婦ならびに授乳婦に禁忌の薬剤 ④ 年齢別禁忌 F-(1)、(2)、(3)、(4)、(5)	講義前に教科書の関連箇所を3回読んでおくこと
15.	15. まとめ	１回～14回までの講義内容について総合的に復習する。また、4回の薬剤テストに出てきた代表的な薬物の一般名、薬理作用、効能についても十分に復習する

受講者へのメッセージやアドバイス：
講義中に出てくる薬剤は、医療現場での使用頻度が高く、実際に薬剤師国家試験にも頻出であるものばかりなので、それら薬剤の一般名、薬理作用、効果効能についても良く学習しておくこと。期末テストでは、これら薬剤の一般名、薬理作用、効能についても合わせて出題する

フィードバックの方法：
演習等の解説は講義中に行う。また、課題レポートに対する解答例はマナビーにアップする。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	70%	期末テスト（70%）、レポート(20%）および出席状況（10%） の合計100点満点により成績を評価する。なお、期末テストおよびレポート点のみにより60点を超える場合であっても、出席回数が15回のうち9回以下である場合は合格の対象外とする。
小テスト	20%	期末テスト（70%）、レポート(20%）および出席状況（10%） の合計100点満点により成績を評価する。なお、期末テストおよびレポート点のみにより60点を超える場合であっても、出席回数が15回のうち9回以下である場合は合格の対象外とする。
出席状況及びレポート	10%	期末テスト（70%）、レポート(20%）および出席状況（10%） の合計100点満点により成績を評価する。なお、期末テストおよびレポート点のみにより60点を超える場合であっても、出席回数が15回のうち9回以下である場合は合格の対象外とする。 以上の評価基準により不合格となった場合には課題レポートを課す

教科書：
コンパス調剤学、矢野芳巳、牧野和隆 編集、南江堂
本学オリジナル医薬品集（配布する）

参考書：
スタンダード薬学シリーズⅡ1 薬学総論 Ⅰ. 薬剤師としての基本事項 日本薬学会編 東京化学同人

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、創造力
教員との連絡方法：	講義に関する質問等は、科目代表者（芝田）の下記のメルアドまで連絡してください nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

721100 **有機化学Ⅲ**

白井　　隆一

授業テーマ:

授業の概要: 有機化学の学びを通して『くすりの性質』を正しく理解するための能力を身につける。
問題演習や小テストを交えながら講義を進め、多様な有機化学反応を理解できる学力を身につける。

到達目標: 生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学・有機化学・生化学分野の基本的知識を身に付けている。(基礎的な科学力)

授業方法: 講義および問題演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	酸化・還元反応1 C3(1)(1) C3(2)(2) C3(3)(3)～(4)	教科書予習
2.	酸化・還元反応2 C3(1)(1) C3(2)(2) C3(3)(3)～(4)	教科書予習および前回講義の復習
3.	酸化・還元反応3 C3(1)(1) C3(2)(2) C3(3)(3)～(4)	教科書予習および前回講義の復習
4.	アミン・ヘテロ環化合物 C3(1)(1) C3(3)(5)～(7) C3(3)(3)～(4)	教科書予習および前回講義の復習
5.	炭水化物1 C6(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
6.	炭水化物2 C6(2)(2)	教科書予習および前回講義の復習
7.	アミノ酸 C6(2)(3)	教科書予習および前回講義の復習
8.	ペプチド、たんぱく質 C6(2)(4)	教科書予習および前回講義の復習
9.	脂質 C6(2)(1)	教科書予習および前回講義の復習
10.	核酸1 C6(2)(5)	教科書予習および前回講義の復習
11.	核酸2 C6(2)(5)	教科書予習および前回講義の復習
12.	触媒作用、補酵素1 C6(2)(6)	教科書予習および前回講義の復習
13.	触媒作用、補酵素2 C6(2)(6)	教科書予習および前回講義の復習
14.	触媒作用、補酵素3 C6(2)(6)	教科書予習および前回講義の復習
15.	まとめ	前回講義の復習

受講者へのメッセージやアドバイス: 講義を集中して聴き、その時に理解するよう努める。
復習を怠らずわからないまま放置しないようにする。
授業動画を最大限に活用する。

フィードバックの方法: 小テスト
課題
授業動画
マナビーでのドリル

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	80%で合格
平常時試験	10%	
課題提出	10%	

教科書: ブルース有機化学　第7版・上巻(大船泰史・他監訳、化学同人)
ブルース有機化学　第7版・下巻(大船泰史・他監訳、化学同人)

参考書: ブルース有機化学　第7版・問題の解き方(英語版)(化学同人)
有機化学explorer(竹本佳司・他編、京都廣川書店)
ベーシック薬学教科書シリーズ5　有機化学(夏苅英昭・他編、化学同人)
ブラウン・プーン　基本有機化学　第3版(池田正澄・他監訳、廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: 教授室を訪問

721200

基礎病理学

髙橋　　玲

授業テーマ:　疾病の原因、成り立ちおよび臓器・組織での形態学的・機能的変化を学ぶ。

授業の概要:　基礎的な科学力として、ヒトにける疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた知識を基盤とした薬物治療学の知識を獲得する。基礎病理学と臨床病理学をあわせて、病理学の総論および各論について学習する。

到達目標:
1）ヒトの疾患について、原因および個体・臓器・組織・細胞・遺伝子・タンパクレベルにおける病的変化（代謝異常、退行性変化、炎症、腫瘍、循環障害など）を理解する。さらに、薬物作用との関連について考察できる。
2）基本的な疾患名、病理所見、疾患分類について日本語と英語の正しい記載を理解し、使用することができる。
3）薬学教育モデル・コアカリキュラムのC6(1)～(7),C7(1)(2),E2(1)～(7)に相当する内容を含む。
4）薬学領域の様々な事象と疾病との関連における課題や問題点を見出し、問題解決に向けて試行錯誤することができる研究的能力を養う。

授業方法:　インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを予習で準備し、授業当日に教員と、あるいは学生同士でディスカッションしながら理解を深めていく。各授業ごとに課題をレポートとしてマナビーに提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	細胞損傷・適応（1）	低酸素ストレス フリーラジカル･活性酸素 壊死とアポトーシス 肥大、過形成、萎縮、低形成
2.	細胞損傷・適応（2）	低酸素ストレス フリーラジカル･活性酸素 壊死とアポトーシス 肥大、過形成、萎縮、低形成
3.	炎症	急性炎症・慢性炎症 炎症における白血球の役割 特異的炎症・非特異的炎症
4.	感染症（1）	日和見感染 カタル性炎症・壊疽 敗血症 真菌症 ウイルス感染症
5.	感染症（2）	日和見感染 カタル性炎症・壊疽 敗血症 真菌症 ウイルス感染症
6.	免疫異常	細胞性免疫と液性免疫 アレルギーの分類 自己免疫疾患
7.	循環障害・血液異常	鬱血と充血 梗塞の定義 出血傾向の原因 浮腫のメカニズム 心不全の分類
8.	腫瘍（1）	腫瘍の定義 良性腫瘍と悪性腫瘍 退形成 上皮内癌
9.	腫瘍（2）	前癌病変 悪性腫瘍の転移様式 ホルモン依存性癌 腫瘍マーカー
10.	先天異常・遺伝性疾患	染色体異常症 単一遺伝子病 多因子遺伝病
11.	代謝異常	タンパク質代謝異常 脂質代謝異常 糖質代謝異常 核酸代謝異常 無機物代謝異常
12.	循環器	虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞） 心筋症 心内膜炎 大動脈解離 高血圧
13.	造血系・リンパ系（1）	貧血の分類と成因 急性白血病と慢性白血病 血小板の異常 悪性リンパ腫 伝染性単核症
14.	造血系・リンパ系（2）	貧血の分類と成因 急性白血病と慢性白血病 血小板の異常 悪性リンパ腫 伝染性単核症
15.	まとめ	すべての疾患の復習と確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。

フィードバックの方法:
1）フィードバックをしながら授業を進める。
2）オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	100%	１００点満点で評価する。

教科書: Dr.レイの病理学講義　改訂3版　編著 高橋玲　著 北澤荘平（金芳堂）

参考書: トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語　監修・著　高橋玲（アルク社）
キクタンメディカル1. 人体の構造編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社
キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社）
キクタンメディカル3. 症候と疾患編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社）
キクタンメディカル6. 薬剤編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）他（アルク社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー、授業の前後教室内

721300

生薬学Ⅱ

中村　　憲夫

授業テーマ:　天然の医薬品である生薬について学ぶ

授業の概要:　世界各地で使用されている天然薬物は，動植物および鉱物を人間に適用しながら長年の経験などにより種々選択され，今日に伝承されている．これらの天然薬物は，現在も医薬品材料として直接あるいは間接的に使用されるとともに，食品，香粧品あるいは農薬などにも用いられている．生薬学は天然薬物に関する総合的分野であり，薬学にのみ存在する学問である．生薬は現在医療現場で使用されている漢方処方の構成原料であり，これら構成生薬の薬効，成分を良く理解しておく必要がある．本講義では生薬の成分，薬効，漢方処方について概説する．

到達目標:　1．各生薬の基原動植物，薬用部位，成分，薬効，漢方処方を理解する．

授業方法:　主として板書によるが，時にパワーポイントなどの映像を利用し，理解度を深めるため適宜，課題を出し，小テストを行う．

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	生薬各論:ミカン科，ニガキ科，ヒメハギ科などの生薬・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
2.	生薬各論:クロウメモドキ科，ウコギ科などの生薬・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
3.	生薬各論:セリ科の生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
4.	生薬各論:マチン科，リンドウ科などの生薬・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
5.	生薬各論:アカネ科，ヒルガオ科の生薬・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
6.	生薬各論:ムラサキ科，シソ科の生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
7.	生薬各論:ナス科，ゴマノハグサ科などの生薬・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
8.	生薬各論:キキョウ科，キク科の生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
9.	生薬各論:オモダカ科，ユリ科の生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
10.	生薬各論:アヤメ科，イネ科などの生薬・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
11.	生薬各論:ショウガ科，ラン科の生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
12.	生薬各論:動物生薬（1）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
13.	生薬各論:動物生薬（2）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
14.	生薬各論:鉱物生薬・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・C5(1)-1-1), -2, -3, -4-4), 5)	授業中に説明した内容について十分に見直し，復習すること．
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問者に対して研究室で解説する．

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	到達目標1に関する理解度により評価する．
授業中に実施する小テスト(中間試験)	50%	到達目標1に関する理解度により評価する．

教科書:　パートナー生薬学改訂第3版　竹谷孝一，木内文之，小松かつ子編（南江堂）

参考書:　第十七改正日本薬局方解説書（学生版）日本薬局方解説書編集委員会編（廣川書店）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

721400 **有機化学Ⅳ**

山本　　康友、宮脇　　あかり

授業テーマ:　薬のはたらきを有機化学で理解する

授業の概要:　医薬品の多くは有機化合物である。医薬品がなぜ機能するのか、生体と薬がどのように相互作用するのかを、医薬品の化学構造を通して理解する。

到達目標:
酵素および受容体と医薬品との相互作用を化学構造に基づいて理解する。
プロドラッグの意義および親化合物への変換を化学反応で理解する。
キラル医薬品の意義について理解する。
バイオアイソスターについて化学構造で理解する。
ファーマコフォアの概念を理解する。
各種医薬品の作用機序を有機化学で理解する。

授業方法:　講義を中心とした授業を行う。板書、プリントおよびパワーポイントを使用する。講義内で小テストを実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬と有機化学 C4(1)-①-1,2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
2.	ファーマコフォア、プロドラッグ、バイオアイソスター C4(3)-②-2, ③-1,2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
3.	化学構造と溶解性、酸性塩基性 C4(3)-②-1, ③-3	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
4.	キラル医薬品 C4(1)-①-2, (3)-①-1	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
5.	抗悪性腫瘍薬の有機化学 C4(1)-②-4、(3)-④-1, ⑥-1,2,3	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
6.	循環器作用薬の有機化学 C4(1)-②-3, (2)-③-1,2, (3)-④-6, ⑤-1, ⑦-1	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
7.	中枢神経作用薬の有機化学 C4(1)-②-1, (3)-④-2, ⑤-4,5	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
8.	抗菌薬・抗ウイルス薬の有機化学 C4(2)-②-1,2,3, (3)-④-3,4,5	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
9.	免疫抑制剤およびステロイドの有機化学 C4(3)-⑤-3	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
10.	糖尿病・脂質異常症治療薬の有機化学 C4(2)-②-2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
11.	消化性潰瘍治療薬の有機化学 C4(2)-①-1,2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
12.	コリン作動薬・抗コリン薬の有機化学 C4(3)-⑤-2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
13.	医薬品と命名法 C3(1)-①-1,2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
14.	薬物代謝と有機化学 C4(1)-②-2, (2)-④-1,2	ブルース有機化学の該当項目を予習すること
15.	総合演習 C4(1)-①-1,2, ②-1,2,3,4	講義全体の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　医薬品の化学構造がなぜ重要なのか、有機化学の知識を使って考えてみましょう。構造式を理解できる能力は薬学部生の大きなメリットになります。

フィードバックの方法:　レポート課題および小テストについて、講義中またはマナビーで解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	講義全体の理解度により評価する
レポート及び小テスト	20%	課題に対する理解度により評価する

教科書:　ブルース有機化学　第7版　（大船泰史・香月　勗・西郷和彦・富岡　清　監訳、化学同人）

参考書:
医薬品構造化学　－薬の構造と薬理作用の関係を紐解く－　（前川智弘　著、京都廣川書店）
やさしい分子薬理学　－分子構造から薬理活性へ－　（平山令明　著、共立出版）
メディシナルケミストリー（北川　勲、柴崎正勝、富岡　清　監訳、丸善）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業時およびオフィスアワー

721500

臨床病理学

髙橋　　玲

授業テーマ:

)疾病の原因、成り立ちおよび臓器・組織での形態学的・機能的変化を学ぶ。
2)疾病における病態メカニズムを理解し、薬物による病態制御に応用できる基礎的知識を学ぶ。

授業の概要:

基礎的な科学力として、ヒトにける疾病の成り立ちを理解し、薬の作用機序に基づいた知識を基盤とした薬物治療学の知識を獲得する。基礎病理学と臨床病理学をあわせて、病理学の総論および各論について学習する。

到達目標:

1)ヒトの疾患について、原因および個体・臓器・組織・細胞・遺伝子・タンパクレベルにおける病的変化(代謝異常、退行性変化、炎症、腫瘍、循環障害など)を理解する。さらに、薬物作用との関連について考察できる。
2)基本的な疾患名、病理所見、疾患分類について日本語と英語の正しい記載を理解し、使用することができる。
3)薬学教育モデル・コアカリキュラムのC6(1)～(7),C7(1)(2),E2(1)～(7)に相当する内容を含む。
4)薬学領域の様々な事象と疾病との関連における課題や問題点を見出し、問題解決に向けて試行錯誤することができる研究的能力を養う。

授業方法:

インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを予習で準備し、授業当日に教員と、あるいは学生同士でディスカッションしながら理解を深めていく。各授業ごとに課題をレポートとしてマナビーに提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	呼吸器	気管支喘息 肺塞栓症 急性呼吸窮迫症候群 肺癌の組織型と治療法 気管支肺炎と間質性肺炎
2.	口腔・消化器	食道静脈瘤 慢性胃炎・自己免疫性胃炎 胃癌 イレウス 薬剤性大腸炎 アメーバ赤痢 潰瘍性大腸炎 クローン病 大腸腺腫・大腸癌
3.	肝・胆・膵	ウイルス性肝炎 薬剤性肝炎 肝硬変 肝細胞癌 胆石症 急性膵炎・慢性膵炎
4.	喫煙による疾患(ゲストスピーカー)	喫煙による細胞組織障害
5.	泌尿器	糸球体腎炎 間質性腎炎 糖尿病性腎症 腎盂腎炎 尿路結石症
6.	生殖器	前立腺肥大 前立腺癌 子宮内膜症 子宮頸癌・体部癌 乳腺症
7.	内分泌(1)	クッシング病・クッシング症候群 尿崩症 甲状腺腫 原発性アルドステロン症 糖尿病
8.	内分泌(2)	副甲状腺機能亢進症 副腎機能低下症 褐色細胞腫 多発性内分泌症
9.	筋・骨格系	骨粗鬆症 変形性関節症 痛風 関節リウマチ 重症筋無力症
10.	脳・神経系(1)	脳圧亢進症 脳梗塞・脳出血・くも膜下出血 パーキンソン病 髄膜炎 脳腫瘍
11.	脳・神経系(2)	プリオン病 筋委縮性側索硬化症 脊髄小脳変性症 脳浮腫
12.	皮膚(1)	湿疹・皮膚炎症候群 蕁麻疹 単純ヘルペス 母斑・母斑症
13.	皮膚(2)	扁平上皮癌・有棘細胞癌 中毒疹・薬疹 ボーエン病/表皮内有棘細胞癌 皮膚真菌症
14.	感覚器	白内障・緑内障 糖尿病性網膜症 うっ血乳頭 中耳炎 メニエール病
15.	まとめ	すべての項目の復習および確認

受講者へのメッセージやアドバイス:	医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。
フィードバックの方法:	1)フィードバックをしながら授業を進める。 2)オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100%	100点満点で評価する。

教科書:	Dr.レイの病理学講義 改訂3版　編著 高橋　玲　著 北澤荘平　金芳堂
参考書:	トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語　監修・著　高橋玲(アルク社) キクタンメディカル1. 人体の構造編　監修・執筆　高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編　監修・執筆　高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル3. 症候と疾患編　監修・執筆　高橋玲(Dr.レイ)(アルク社) キクタンメディカル6. 薬剤編　監修・執筆　高橋玲(Dr.レイ)他(アルク社
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、プレゼンテーション力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、授業の前後教室内

721600 **調剤学Ⅱ**

森田　　邦彦、松元　　加奈

授業テーマ:　真の薬剤師として、はばたくために　～実務実習事前学習・基礎編～

授業の概要:　薬剤師業務の基本である処方箋に基づく調剤、疑義照会、医薬品の安定性と管理、リスクマネージメント等に関する基礎ならびに薬剤師の使命について学習する。
薬学コアカリキュラムでは、F 薬学臨床（1）、（2）、（3）の領域が相当する。

到達目標:　安全で適正な薬物療法を遂行するために、処方箋の書式、医薬品の供給と管理、疑義照会の基本、副作用の察知に向けた初期症状、入院患者ならびに在宅患者への服薬指導等、現代医療のなかで薬剤師に求められている職能の基本的事項を修得する。
以上に基づき、薬物療法における実践的能力の基礎を培う。

授業方法:　配布プリント、Power Point映写を中心として講義するほか、第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、学生はこれらの課題に対する答案を期限内に提出し、翌週の講義で解説を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。適宜教科書も用いる。
第１回～第10回、第13回～第14回を森田が、第11回～第12回を松元が、それぞれ担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬剤師業務の展望と社会からの期待および調剤学Ⅰの総復習（その1）。 薬学コアカリキュラム:F（1）	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
2.	薬剤師業務の展望と社会からの期待および調剤学Ⅰの総復習（その2）。 薬学コアカリキュラム:F（2）	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
3.	処方箋調剤と疑義照会（その1） 薬学コアカリキュラム:F（2）	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
4.	処方箋調剤と疑義照会（その2） 薬学コアカリキュラム:F（2）	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

5.	処方箋調剤と疑義照会（その3） 薬学コアカリキュラム：F（2）	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
6.	処方箋調剤と疑義照会（その4） 薬学コアカリキュラム：F（2）	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
7.	重大な副作用の初期症状（その1） 薬学コアカリキュラム：F(3)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
8.	重大な副作用の初期症状（その2） 薬学コアカリキュラム：F(3)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
9.	警告・禁忌 薬学コアカリキュラム：F(3)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

10.	リスクマネジメント 薬学コアカリキュラム：F(3)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
11.	服薬指導（その1） 薬学コアカリキュラム：F(3)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
12.	服薬指導（その2） 薬学コアカリキュラム：F(3)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
13.	医薬品管理と供給（その1） 薬学コアカリキュラム：F(2)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。
14.	医薬品管理と供給（その2） 薬学コアカリキュラム：F(2)	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

15. まとめ	調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。 1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。 2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

調剤学は、薬剤師の養成をめざす薬学部にしかない特徴的科目であり、薬剤師業務のすべての基本がこの科目に集約されているといっても過言ではない点をまず十分に意識する必要がある。そのためには、下記1）～2）の項目を日常念頭にした行動が必須となる。
1）今までに修得した基礎薬学科目（例えば生化学や物理化学など）の応用の上に調剤学が成り立っていることを理解するために、常にこれら各基礎薬学科目を復習し、それぞれの科目で修得した内容と調剤学で学ぶことの関連を考察する姿勢が望まれる。
2）各自が将来、薬剤師を目指していることを自覚し、日ごろから薬物療法にまつわる時事問題（新聞記事やTVあるいはインターネットで配信されるニュースなど）に関心を持ち、その記事の箇所を切り抜いたり、メモを取ったりする姿勢が望まれる。

フィードバックの方法:

第2回、第4回、第6回、第8回、第10回、第12回の各講義終了後に自宅学習用課題をマナビーにて提示する。この課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、翌週の講義で解説（フィードバック）を行うことで、自ずと普段から学習成果を積み上げることができるよう配慮する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
マナビーでの課題	30	課題はいずれも各2回分ずつの講義内容に対する多肢選択問題および記述式問題からなる小テストであり、各回5点満点で計30点満点とする。
期末試験	70	第1回～第14回の全範囲を対象とした多肢選択式および記述式の期末試験問題で、70点満点とする。

教科書:

毎回、オリジナルな資料を配布する。

参考書:

調剤学Ｉで教科書として用いた「新ビジュアル薬剤師実務シリーズ上下」羊土社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール

721700

薬理学Ⅲ

土田　　勝晴

授業テーマ:　薬物の作用機序が臨床効果に結び付く理由を説明できる考える力を養成する。

授業の概要:　人体の機能、病態の成り立ちと薬物作用機序との関連を正確に理解し、臨床適応での薬物治療を論理的に説明できる力を高める。その結果、臨床現場での適正な薬物選択の判断力アップを目指す。学習分野は主に心臓血管系、呼吸器系などの自律神経系、腎臓、代謝性疾患、炎症、癌等の分野の薬理作用を扱う。

到達目標:　薬理作用の真の理解のためには、病態、生理、生化学、化学構造等の情報に基づいて、病態の成り立ちと薬物作用との関連を分子レベルまで掘り下げて正確に理解することが不可欠である。臨床適応もその先におのずと見えてくることが多い。薬効を論理的に説明できる力を高め、臨床現場での適正な薬物選択の判断力アップに繋げることを目指す。
なお同時並行で実施される薬理学実習の一部内容と関連した項目もあり、それについても理解を深めたい。

授業方法:　主にプリント、パワーポイントを使用し、時に小テスト（自己採点）を実施して理解度を確認する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	神経生理学の基礎と代表的な関連薬剤 E(1)1,2	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
2.	自律神経系の基礎とその作用薬 Ⅰ E(1)1	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
3.	自律神経系に作用する薬物 Ⅱ E(1)1	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
4.	心臓血管系に作用する薬物 （心不全治療薬、抗不整脈薬） E(3)1,4	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
5.	心臓血管系に作用する薬物 （抗不整脈薬、抗高血圧薬） E(3)1	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
6.	心臓血管系に作用する薬物 （抗高血圧薬、虚血性疾患治療薬） E(3)1,4	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
7.	血液関連治療薬 E(3)2	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
8.	利尿薬 E(3)3	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
9.	呼吸器系に作用する薬物 （気管支拡張薬、去痰薬） E(4)1	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
10.	呼吸器系に作用する薬物 （呼吸興奮薬） 代謝性疾患治療薬 （糖尿病） E(4)1 E(5)1	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
11.	代謝性疾患治療薬 （糖尿病、脂質異常症） E(5)1	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
12.	代謝性疾患治療薬 （高尿酸） 抗炎症薬 E(5)1 E(2)1	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
13.	抗炎症薬 抗悪性腫瘍薬 E(2)1 E(7)8	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
14.	抗悪性腫瘍薬 E(7)8	下記教科書・参考文献などから、該当部分を予習
15.	まとめ	講義の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　予習、復習など自主性、またなぜかと考えることが大切である。

フィードバックの方法:　小テスト（自己採点）により随時知識の確認を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間テスト	50%	正答率換算で点数付け
期末テスト	50%	正答率換算で点数付け

教科書:　最新基礎薬理学第3版　竹内孝治、岡淳一郎編　廣川書店
標準薬理学　宮本英七、飯野正光編　医学書院

参考書:　わかりやすい薬理学　安原一、小口勝司　ヌーベル廣川

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　ktsuchid@dwc.doshisha.ac.jp

721800

製剤学

芝田　　信人

授業テーマ:

薬物が製剤化され、審査・承認を経て医薬品となる過程、その医薬品が臨床現場で患者に対して臨床使用される過程を学習し、加えて臨床現場で使用される特殊製剤を学習することにより、医薬品を適正に使用するための薬剤師としての基本姿勢・知識を修得し、能力を醸成する。

授業の概要:

以下の製剤化のサイエンスを学修する　E3(1)①、E5(1)～(3)
1　薬物と製剤材料の性質を理解し、応用するために、それらの物性に関する基本的知識を学修する。
2　医薬品開発と生産の実際を理解するために、医薬品創製と製造の各プロセスに関する基本的知識を学習し、社会的重要性に目を向ける態度を身につける。
3　製剤の製造法と製剤用機器の基本的知識を学修する。
4　医薬品の用途に応じた適切な剤形を調製するために、製剤の種類、有効性、安全性、品質などに関する基本的な知識と、調製を行う際の基本知識を学修する。
5　病院・薬局における医薬品の管理と供給を正しく行うために、内服薬、注射剤などの取り扱い、および院内製剤・薬局製剤に関する基本的知識を学修する。

到達目標:

1.　薬物と製剤材料の物性に関する基本的事項を修得する
2.　製剤の種類、製造、品質などに関する基本的事項を修得する
3.　薬物の投与剤形や薬物体内動態の制御法などをくふうしたDDSに関する基本的事項を修得する

授業方法:

本講義は物理薬剤学の知識を医薬品製剤各論へと発展させたものであるので、必要と判断した場合には物理薬剤学の復習を取り入れながら授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	製剤の基礎物理化学 ①　粒子・粉体の性質 ②　溶液と溶解現象 ③　界面化学 以上、物理薬剤学の復習	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
2.	医薬品の開発(1) ①　非臨床試験 ②　製剤化試験 ③　薬物動態試験 ④　薬理学的試験 ⑤　毒性試験 ⑥　臨床試験	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
3.	医薬品の開発(2) ①　医薬品開発における国際協調 ②　医薬品医療機器総合機構の役割 ③　医薬品開発に係る厚生労働省令 ④　製造販売後の安全監視体制 ⑤　医薬品の製造と品質管理	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
4.	日本薬局方 ①　日本薬局方の構成 ②　日本薬局方通則 ③　製剤総則と製剤各論	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。 30分小テスト(1回目)を行う。講義1～3までの内容をよく復習すること。
5.	経口投与する製剤(1) ①　速放性政治後放出制御製剤 ②　錠剤 ③　カプセル剤 ④　顆粒剤 ⑤　散剤 ⑥　関連する単位操作と局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
6.	経口投与する製剤(2) ①　経口液剤 ②　シロップ剤 ③　経口ゼリー剤 ④　製剤添加物 ⑤　関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
7.	口腔内に適用する製剤 ①　口腔用錠剤 ②　口腔用液剤 ③　口腔用スプレー剤 ④　口腔用半固形剤 ⑤　関連する一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。 30分小テスト(2回目)を行う。講義4～6までの内容をよく復習すること。
8.	注射により投与する製剤 ①　注射剤 ②　無菌製剤の等張化 ③　透析に用いる製剤 ④　関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
9.	気管支・肺に適用する製剤 ①　吸入剤 目に投与する製剤 ①　点眼剤 ②　眼軟膏剤 耳に投与する製剤 鼻に投与する製剤 膣に適用する製剤 ①　膣錠 ②　膣用坐剤 関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学(南江堂)の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。

10.	皮膚などに適用する製剤 ① 外用固形剤 ② 外用液剤 ③ スプレー剤 ④ 軟膏剤 ⑤ クリーム剤 ⑥ ゲル剤 ⑨ 貼付剤 ⑩ 関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。 30分小テスト（3回目）を行う。講義7～9までの内容をよく復習すること。
11.	その他の製剤 ① 生物学的製剤 ② 放射性医薬品 ③ 生薬関連製剤 ④ 関連する局方一般試験法・容器	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
12.	製剤試験法 包装材料試験法	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
13.	ドラッグデリバリーシステム（DDS）（1） ① DDSの目的 ② 放出制御型製剤 ③ 経口投与製剤に視る様々なDDS製剤 ④ 外用放出制御型製剤	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。 30分小テスト（4回目）を行う。講義10～12までの内容をよく復習すること。
14.	ドラッグデリバリーシステム（DDS）（2） ① 標的部位志向（ターゲッティング ② EPR効果 ③ 微粒子キャリアー ④ 遺伝子治療製剤のターゲッティング	シラバスのスケジュールに沿って、教科書とする臨床製剤学（南江堂）の該当箇所を予め3回読み、講義に望むこと。
15.	まとめ 1～14までの範囲において学力の確認を行う。	

受講者へのメッセージやアドバイス:
医薬品の剤形を理解することは、薬理学と同等に重要です。現行の局方収載の剤形は多岐にわたるので、それぞれの特徴を理解することが重要です

フィードバックの方法:
演習問題等の解説は講義中に行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末テスト	71%	100点満点中71%に充当する
30分小テスト	20%	100点満点中20%に充当する（マナビーによる自己採点）
出席状況	9 %	講義期間中ランダムに3回の出席を取る。100点満点中9%に充当する

教科書:
三嶋基弘　他著「臨床製剤学（改訂第3版）」（南江堂）
製剤学演習問題（配布する）

参考書:
平野裕之、市川秀樹　著　Handy　Intelligence　日本薬局方、京都廣川書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:
講義に関する質問等は、下記のメルアドまで連絡してください
nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

721900

薬理学Ⅳ

藤井　　健志

授業テーマ:　薬物により引き起こされる生体機能の変化を知り、医薬品による治療メカニズムを考察できるようになる。

授業の概要:　薬理学Ⅰ、ⅡおよびⅣの3科目で薬理学の基本概念、医薬品が病気の症状を改善するメカニズムについて学ぶ。

到達目標:
1. 内分泌系に作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。
2. オータコイドについてを説明できる(知識)。
3. 抗アレルギー薬の作用メカニズムを説明できる(知識)。
4. リウマチに作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。
5. 免疫系に作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。
6. 呼吸器系に作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。
7. 血液系に作用する薬物の作用メカニズムを説明できる(知識)。
8. 上記1から7に該当する薬物の構造式の概要を説明できる。

授業方法:
1. プリテストによる予習状況の確認
2. 板書による講義
3. ポストテストにより理解度の確認

を原則とするが、随時指名して回答させるので積極的は授業参加を期待する。なお、プリテストは予備知識の確認あるいは準備状況を確認するために実施している。成績評価や出席管理のために実施しているわけではない。したがって、他人に成りすましてプリテストが提出された場合、実施が取りやめられる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	内分泌系に作用する薬物　全般:E2(5)	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
2.	内分泌系に作用する薬物　全般:E2(5)	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
3.	内分泌系に作用する薬物　全般:E2(5)	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
4.	内分泌系に作用する薬物　全般:E2(5)	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
5.	内分泌系に作用する薬物　全般:E2(5)	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
6.	オータコイド1:E2(2)①	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
7.	オータコイド1:E2(2)①	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
8.	抗アレルギー薬:E2(2)②	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
9.	リウマチの治療薬:E2(2)②、③	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
10.	免疫系に作用する薬物:E2(2)②	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
11.	呼吸器系1:E2(4)①	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
12.	呼吸器系2、血液系1　E2(3)②、E2(4)①	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
13.	血液系2　第20章E2(3)②	あらかじめ教科書の指定された範囲を読んでおくこと。
14.	質問・薬理学Ⅳの範囲内における薬理学の最新の知見	第13回までの授業内容について各自疑問点を明らかにし、質問を準備しておくこと。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業で、予習状況もしくは予備知識に関するプリテストを実施するので、教科書の指定された範囲をあらかじめ読んでおくこと。また、自主的に様々な資料(下記の参考文献はその一例)にあたって専門用語を理解するように努力しておくこと。指定された教科書1冊だけで学習するのではなく、疑問を感じたら様々な資料にあたって問題解決を図ること。授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。なお、追加の指示がある場合はマナビーにもその情報をアップロードするので常に確認すること。

フィードバックの方法:　前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。定期試験の問題および解答はマナビーにアップロードするので、各自自己採点し不明の点は必ず質問すること(メール可)。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
多肢選択式の定期試験	100%	定期試験(多肢選択式により40問を出題)に対する妥当な正答率(最低合格基準:Minimum Pass Level)により合格を判定する。最低合格基準は第14回目の授業の授業の際、もしくはマナビーにて試験実施前に公表する。なお、最低合格基準は目標達成度の60%を超えない範囲で設定され、この基準を満たした場合に単位が認定される。中間試験は行わない。出席点はない。

教科書:　今井正・宮本英七監修、標準薬理学　第7版、医学書院

参考書:
竹内孝治・岡淳一郎編集、最新薬理学　第3版、廣川書店
重信弘毅・石井邦雄編集、パートナー薬理学、南江堂
加藤隆一・田中千賀子編集、New薬理学　第6版、南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室(憩水館6階W602)まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール(tfujii@dwc.doshisha.ac.jp)にて事前に連絡する方が望ましい。

722000

薬物治療学Ⅲ

村上　　元庸、髙橋　　玲

授業テーマ:　代表的な内科疾患を学び薬物療法につき理解を深める。

授業の概要:　内科学は医学の中心的位置にある学問分野であり、薬物療法の基本ともいえる分野である。この分野を学ぶことにより、将来、患者さんへの対応能力、薬物療法に対する力を養うことを目指す。薬剤師は医学の進歩に対応して他の医療専門職と共に医学、薬学を生涯学び続けることが必要である。疾患について自ら学んでゆけるための基礎力となるようにする。

到達目標:　薬物療法に対する力を養う

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	抗血栓療法 C-14 (1),(2) (村上)	関連基礎分野の予習
2.	皮膚疾患 C-14 (1),(4)　(村上)	関連基礎分野の予習
3.	高血圧 C-14 (1),(2)　(村上)	関連基礎分野の予習
4.	循環器疾患 C-14 (1),(2)　(村上)	関連基礎分野の予習
5.	精神疾患 C-14 (3)　(村上)	関連基礎分野の予習
6.	上部、下部消化管疾患 C-14 (1),(2)　(村上)	関連基礎分野の予習
7.	代謝性疾患 C-14 (1),(2)　(村上)	関連基礎分野の予習
8.	肝疾患、膵、胆道疾患 C-14 (1),(2)　(村上)	関連基礎分野の予習
9.	骨粗しょう症 C-14 (1),(3),(4)　(村上)	関連基礎分野の予習
10.	内分泌疾患 C-14 (1),(3)　(村上)	関連基礎分野の予習
11.	免疫疾患 C-14 (1),(4)　(高橋)	関連基礎分野の予習
12.	腎疾患 C-14 (1),(3)　(村上)	関連基礎分野の予習
13.	神経疾患 C-14 (1),(3)　(村上)	関連基礎分野の予習
14.	呼吸器疾患　(村上) C-14 (1)	関連基礎分野の予習
15.	まとめ　(村上)	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	90	講義内容の理解度により評価する
出席、態度、関心	10	

教科書:　授業にて説明

参考書:　授業にて説明

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

722100

処方解析学

中西　弘和、杉浦　伸一、成橋　和正、西村　亜佐子、小林　由佳、岩根　裕紀、野﨑　歩

授業テーマ:
医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患 における薬物療法に関する基本的事項を修得する。

授業の概要:
薬物治療における処方提案は薬剤師にとって必須である。その能力を身に付けるためには、基本的な処方を理解することが重要である。授業では模擬処方を解析して薬学的管理を学ぶ。
講義項目の順序は変更することがある。
臨床現場の医師・薬剤師を講師として招く。
F-(2)－④～⑥、F-(3)－①～④も併せて学ぶ。

到達目標:
患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療 ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、最適な治療を実施するための薬物治療の処方解析に関する基本的事項を修得する。

授業方法:
予め課題として明示した医薬品情報を理解し、模擬処方の解析を行い、調べた内容について発表・討議を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	糖尿の基本処方解析と薬学的管理 E2-(5)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
2.	がん治療の基本処方解析と薬学的管理 E2-(7)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
3.	緩和医療の基本処方解析と薬学的管理 E2-(7)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
4.	循環器の基本処方解析と薬学的管理 E2-(3)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
5.	循環器・脳血管の基本処方解析と薬学的管理 E2-(3)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
6.	女性特有疾患の基本処方解析と薬学的管理① E2-(2)・(3)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
7.	女性特有疾患（女性ホルモン関連など）の基本処方解析と薬学的管理② E2-(3)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
8.	免疫の基本処方解析と薬学的管理 E2-(2)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
9.	アレルギーの基本処方解析と薬学的管理 E2-(2)・(6)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
10.	呼吸器疾患の基本処方解析と薬学的管理 E2-(4)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
11.	感染症の基本処方解析と薬学的管理 E2-(7)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
12.	病態栄養の基本処方解析と薬学的管理	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
13.	消化器疾患の基本処方解析と薬学的管理 E2-(4)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
14.	精神疾患の基本処方解析と薬学的管理 E2-(1)	提示した課題の治療薬として代表的薬品を挙げ、授業で必要な医薬品情報を理解しておく。
15.	まとめ	学んだ内容についてまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
臨床現場の先生を招聘して講義を行うため、講義内容の順番を変更することがある。第1回目に予定を提示する。
各回の課題について授業前にテストを、また授業後に確認テストを行う。
第1回目の授業内容や課題については、2018年3月20日までに4回生の掲示版・薬学の広場に掲示しますので指示に従って予習をすること。
処方解析学で使用したテキストは、処方提案論で使用する。

フィードバックの方法:
授業時に各担当教員から解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題テスト	25%	試験の点数で評価60％以上で合格
授業後確認テスト	25%	試験の点数で評価60％以上で合格
試験	50%	試験の点数で評価60％以上で合格

教科書:

参考書:
薬がみえる　vol.1・2・3　メディックメディア
治療薬マニアル2018　医学書院
覚える 薬理作用別 クスリ 本学オリジナルテキスト

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:
hnakanis@dwc.doshisha.ac.jp

722200

実務実習事前学習Ⅰ

中西　弘和、阿南　節子、芝田　信人、杉浦　伸一、髙橋　玲、成橋　和正、西村　亜佐子、羽森　真美、松元　加奈、光岡　千賀子、村上　元庸、森田　邦彦、渡邉　愛未

授業テーマ:　応用薬学実践のための知識・技能を身に付ける（1）

授業の概要:　実務実習事前学習Ⅰは、病院実務実習・薬局実務実習に先立ち、大学内で調剤、服薬説明、疑義照会などさまざまな薬剤師業務に必要となる項目についての基本的知識・技能を習得することを目標とする。また、薬学の基礎知識を実践の場で応用展開するためのさまざまな方法論を学習し、自己解決能力を育むことを目的とする。具体的には、臨床現場で必要となる薬剤師の調剤技術や医療コミュニケーションの基礎を理解し、実際の臨床現場に出るにあたっての薬学的方法論をとスキルを身に付ける。

到達目標:

1. 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活動をする臨床現場で必要な心構えと薬学管理の基本的な流れを把握する
2. 処方せんに基づく調剤業務を安全で適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的な調剤業務を修得する
3. 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、てきせつに患者情報を収集したうえで、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・評価できる能力を修得する
4. 医療機関や地域で、他職種が県警・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における他職種のやくわりと意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案ができる
5. 地域での保険、医療、福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリーケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解する

授業方法:　到達すべき薬剤師のスキルに関連する基礎的事項を理解し、アクティブラーニング型式で知識に基づいた技術を修得する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	.一般調剤Ⅰ ① 処方せんの書式と処方監査・疑義照会 担当: 森田　邦彦 ② 処方せんに基づく薬袋・薬札の作成 担当: 成橋　和正 ・処方せん記載事項を理解し、処方せん監査のチェックポイントを理解する ・処方せんに基づく薬袋・薬札の作製法を学ぶ F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
2.	一般調剤Ⅱ ① 軟膏調剤 担当: 杉浦　伸一、 芝田　信人 ② 計数調剤・調剤薬監査 担当: 阿南　節子、 渡邉　愛未 ・軟膏混合調剤における留意点と混合技術を学ぶ ・計数調剤および調剤薬監査における留意点を学修する F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
3.	一般調剤Ⅲ ① 水薬計量調剤・配合変化 担当　芝田　信人 ② 散薬計量調剤・配合変化 担当　中西　弘和 ・計量調剤における成分量から製剤量への計算方法をマスターする ・内服用水剤及び散剤の調剤における留意点を学修する F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
4.	患者・他職種への応対Ⅰ 在宅/薬局での患者応対 担当　森田邦彦・松元加奈・光岡千賀子 ・在宅の患者応対での容態や服薬状況の確認のための話法を学ぶ ・薬局患者応対での初回インタビューや情報提供のための話法を学ぶ F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
5.	患者・他職種への応対Ⅱ 病棟での患者応対/持参薬チェック 担当　森田　邦彦・松元加奈 ・患者や他職種への応対のための話法を学ぶ ・入院患者が持参した薬につき、持参薬鑑別シートを作製する方法を学ぶ F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
6.	患者・他職種への応対Ⅲ 疑義照会/他職種への情報提供 担当:森田邦彦・松元加奈・光岡千賀子 ・処方内容に関する疑義を医師に問い合わせる場合の話法を学修する ・患者の薬物治療に関連する情報を医師に伝達するための話法を学修する F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
7.	臨床検査値の読み方　担当: 高橋　玲 ・臨床検査所見に基づく処方設計・処方提案を考える F(1)～(5)	第1週目～第6週目の内容について到達度の確認を行う。

8.	フィジカルアセスメント　　担当：　村上元庸 ・身体所見の観察・測定評価に基づく処方設計・処方提案を考える F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
9.	薬局での薬剤交付 ①　吸入器の使用法の説明 担当：　光岡　千賀子 ②　インスリンの自己注射法の説明 担当：　芝田　信人 ・薬局での薬剤交付時などで、医療器具の使用方法を患者にわかり易く説明するための話法を学修する F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
10.	がん性疼痛緩和ケア 担当：　中西　弘和 ・病棟あるいは在宅におけるがん疼痛管理の方法論を理解する F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
11.	注射薬配合変化 担当：　成橋　和正 ・注射薬混合時に生じる配合変化を科学的に理解し、それを避けるための方法について考える F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
12.	輸液・栄養管理 担当：　杉浦　伸一 ・術後の栄養管理に使用する高カロリー輸液について、カロリー数や電解質濃度の計算法を修得する F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
13.	注射無菌調製　Ⅰ ①　無埃衣(ガウン)・手袋の着脱 担当：　中西　弘和、羽森　真美 ②　医療手洗い 担当：　成橋　和正、渡邉　愛未 ・無菌操作を理解し、無埃衣(ガウン)・手袋の着脱と医療手洗いを修得する F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
14.	注射無菌調製　Ⅱ ①　注射薬の無菌調製(アンプル) 担当：　杉浦　伸一、西村　亜佐子 ②　注射薬の無菌調製(バイアル) 担当：　成橋　和正、渡邉　愛未 ・無菌操作を理解し、注射薬の無菌調製法を修得する F(1)～(5)	事前の配布資料あるいは関連する教科書を熟読しておくこと
15.	まとめ	1週目から14週目までの内容についてマナビーを用いた到達度確認テストを行う。

受講者へのメッセージやアドバイス：

本講義は、通常の知識の修得だけではなく、薬剤師のスキルを磨くための基本的なアクティブラーニングを取り入れる。したがって、出席は実習に準じるものであるので、毎回出席を取る。到達度確認テストを70%、出席を30%として評価する(100点満点)。なお、欠席回数が3分の1以上である場合は、確認テストのみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とならない。

フィードバックの方法：

講義：配布プリント、Power Point映写、適宜教科書を用いて進める。スキルに関するアクティブラーニングを行うので、都度、教員からフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
到達度確認テスト	70%	到達度確認テスト(70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が1/3以上である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはならない。
出席状況	30%	到達度確認テスト(70%)、出席状況(30%)とを点数化して評価する(100点満点)。なお、授業への欠席回数が1/3以上である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはならない。

教科書：

特に指定はしないが、これまでに使用した教科書や参考書等を持参すること。各項目に応じたプリントを配布する。

参考書：

これまでに使用した関連する教科書
ビジュアル薬剤師実務シリーズ上下　上村直樹監修　羊土社
今日の治療薬2018年版解説と便覧　浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集　南江堂
本学が配布するオリジナル医薬品集

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	質問等は科目代表教員（芝田信人）のメルアドまで。 nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

722300

薬事関連法規・制度

杉浦　　伸一

授業テーマ:　チーム医療の一員として薬物療法を実践する上で必要となる薬剤師に関連した法規及び制度の知識を修得する

授業の概要:　薬事法規・制度は薬剤師の資格を得るために、薬学部で学ばなければならない必修科目である。本講義で扱う薬事関係法規としては、医薬品医療機器等法（薬事法）、薬剤師法、医療法、医師法・歯科医師法・保健師助産師看護師法、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法、大麻取締法・あへん法、毒物及び劇物取締法、独立行政法人医薬品医療機器総合機構法、薬害と副作用被害に関する制度、製造物責任法、社会保障制度関係法規（健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法）、血液供給体制等について学ぶことになる。

到達目標:　薬剤師は患者の生命に直接関わる医薬品などを広範に取り扱い、国民の身体・健康を守らなければならないことを理解するために医療に関連した法律の知識を必要とする。各種法律の精神とその施行に関する基本的知識を修得し、それらを遵守する態度を身につけることを目標にする。併せて医療制度の変化とコミュニティーファーマシーの役割についても学ぶ。

授業方法:　資料とパワーポイントによって講義し、復習テスト組み込んで理解度を確認する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	〔1〕医療の担い手としての使命（C18-(1)） 〔2〕法令の構成（C18-(1)-2-1）	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
2.	〔3〕医薬品医療機器等法-1(18-(1)-2-2)	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
3.	〔3〕医薬品医療機器等法-2(18-(1)-2-2)	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
4.	〔3〕医薬品医療機器等法-3(18-(1)-2-2)	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
5.	〔4〕薬剤師法(C18-(1)-2-3) 〔5〕医療法(18-(1)-2-4)	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
6.	〔6〕医師法・歯科医師法・保健師助産師看護師法(C18-(1)-2)	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
7.	〔7〕血液供給体制 〔8〕管理薬に関する規制（C18-(1)-3）	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
8.	〔9〕毒物及び劇物に関する規制（C18-(1)-3-4）	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
9.	〔10〕健康被害救済制度（C18-(1)-2-6） 1. 独立行政法人医薬品医療機器総合機構法 〔11〕薬害（C17-(1)-8-1） 〔12〕製造物責任（C18-(1)-2-7） 1. 製造物責任法（PL法）	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
10.	〔13〕 薬剤経済・医療統計（C18-(2)）	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
11.	〔14〕地域薬局・薬剤師（C18-(3)） 医薬分業（C18-(3)） 医薬品流通（C18-(3)	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
12.	〔15〕医薬品開発とのコンセプト（C17-(1)-1-2） 〔16〕医薬品の承認（C17-(1)-4-3） 承認後の制度（C17-(1)-4-3）	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
13.	〔17〕医薬品の製造と品質管理（C17-(1)-6-1） 1. GLP 2. GCP 3. GMPなど	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
14.	〔18〕治験の意義と業務（C17-(4)） 治験における薬剤師の役割	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。
15.	講義の総括	薬事法規・制度は覚えるべき内容が多いため、講義時に配布されたプリントを参考に小テストで授業の理解度を確認するので復習を充分に行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義内容の理解を深めるために、講義の順番が変更になる場合がある。また、難しい法律用語と言い回しがあるため、それに慣れ、正しい解釈ができることが重要である。膨大な範囲となるため常々整理しておくことを勧める。

フィードバックの方法:　小テストの解説とパワーポイントによるまとめ

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席態度（小テストを含む）	20%	授業への参加と積極性
定期試験	80%	得点率

教科書:　薬学必修講座　薬学と社会2017年度版　薬学教育センター編　評言者（内容毎年改訂）

参考書:　薬事関係法規　三輪亮寿ら著　南江堂
薬事関係法規　三輪亮寿ら著　南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡方法:	ssugiura@dwc.doshisha.ac.jp

722400

チーム医療実践演習

中西　弘和、杉浦　伸一、成橋　和正、西村　亜佐子、小林　由佳、岩根　裕紀、野﨑　歩

授業テーマ:　医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、チーム医療で必要な薬物療法に関する知識を修得する。

授業の概要:　医療チーム内における薬剤師の役割を理解し、チーム医療で必要な薬物療法について学ぶ
臨床現場の医師・薬剤師を講師として招くため、講義項目の順序は変更することがある。
第1回目に予定を提示する。
A-(4),F-(4)も併せて学ぶ。

到達目標:　チーム医療に必要な薬剤師の役割を理解し、特にチーム医療で必要な薬物療法に関する基本的事項を修得する。

授業方法:　予め課題として明示した医薬品情報を理解し、模擬処方の解析を行い、調べた内容について発表・討議を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	糖尿のチーム医療と薬学的管理 E2-(5)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
2.	がん治療のチーム医療と薬学的管理 E2-(7)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
3.	緩和医療のチーム医療と薬学的管理 E2-(7)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
4.	循環器のチーム医療と薬学的管理 E2-(3)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
5.	集中治療のチーム医療と薬学的管理 E1-(2)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
6.	妊婦・授乳婦および小児のチーム医療と薬学的管理 E3-(3)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
7.	在宅のためのフィジカルアセスメントとチーム医療の薬学的管理 E1-(2)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。フィジカルアセスメントについては特に復習を入念に行うこと。
8.	在宅のためのフィジカルアセスメントとチーム医療の薬学的管理 E1-(2)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。フィジカルアセスメントについては特に復習を入念に行うこと。
9.	アレルギーのチーム医療と薬学的管理 E2-(2)・(6)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
10.	呼吸器疾患のチーム医療と薬学的管理 E2-(4)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
11.	感染症のチーム医療と薬学的管理 E2-(7)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
12.	病態栄養のチーム医療と薬学的管理 E3-(3)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
13.	透析のチーム医療と薬学的管理 E2-(3),E3-(3)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
14.	高齢者のチーム医療と薬学的管理 E3-(3)	授業内容に関する講義の復習・参考図書による予習を行って授業に臨むこと。
15.	まとめ	学んだ内容についてまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　臨床現場の先生を招聘して講義を行うため、講義内容の順番を変更することがあります。第1回目に予定を提示します。必要時にテキストを配布します。

フィードバックの方法:　授業時に各担当教員から解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業後確認テスト	50%	試験の点数で評価60%以上で合格
試験	50%	試験の点数で評価60%以上で合格

教科書:　必要時にテキストを配布します。

参考書:　病気が見える　メディックメディア
覚える 薬理作用別 クスリ 本学オリジナルテキスト

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　hnakanis@dwc.doshisha.ac.jp

722500

処方提案論

中西　弘和、杉浦　伸一、成橋　和正、西村　亜佐子、小林　由佳、岩根　裕紀、野﨑　歩

授業テーマ:　医療チームの一員として薬物治療に参画できるようになるために、代表的な疾患における薬物療法の処方提案を修得する。

授業の概要:　薬物治療における処方提案は薬剤師にとって必須である。その能力を身に付けるためには、基本的な処方を理解はすでに学んでいる。
授業では処方解析学に用いた模擬処方に対して、患者の状態変化に応じた処方提案実施を行う。
講義項目の順序は変更することがある。
臨床現場の医師・薬剤師を講師として招く予定。
F-(2)ー④～⑥、F-(3)ー①～④も併せて学ぶ。

到達目標:　患者情報に応じた薬の選択、用法・用量の設定および医薬品情報・安全性や治療 ガイドラインを考慮した適正な薬物治療に参画できるようになるために、患者にとって最適な治療を実施するための処方提案に関する基本的事項を修得する。

授業方法:　予め課題として明示した医薬品情報を理解し、患者の状況変化による模擬処方に対する提案について発表・討議を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	糖尿の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(5)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
2.	がん治療の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(7)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
3.	緩和医療の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(7)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
4.	循環器の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(3)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
5.	循環器・脳血管の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(3)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
6.	女性特有疾患の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案① E2-(2)・(3)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
7.	女性特有疾患（女性ホルモン関連など）の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案② E2-(3)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
8.	免疫の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(2)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
9.	アレルギーの基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(2)・(6)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
10.	呼吸器疾患の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(4)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
11.	感染症の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(7)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
12.	病態栄養の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E3-(3)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
13.	消化器疾患の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(4)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
14.	精神疾患の基本処方に対する患者の状況変化による処方提案 E2-(1)	処方解析学で学んだ処方について、患者の状況が変化した場合の対応を予習する。
15.	まとめ	学んだ内容についてまとめておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業では処方解析学に用いた模擬処方に対して、患者の状態変化に応じた処方提案実施を行うため、必ず処方解析学のテキストを持参すること。
臨床現場の先生を招聘して講義を行うため、講義内容の順番を変更することがある。第1回目に予定を提示する。
各回の課題について授業前にテストを行う。また授業理解を促すために確認テストを行う。

フィードバックの方法:　授業時に各担当教員から解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題テスト	25%	試験の点数で評価60%以上で合格
授業後確認テスト	25%	試験の点数で評価60%以上で合格
試験	50%	試験の点数で評価60%以上で合格

教科書:

参考書:　薬がみえる　vol.1・2・3　メディックメディア
治療薬マニアル2018　医学書院
覚える 薬理作用別 クスリ 本学オリジナルテキスト

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法: hnakanis@dwc.doshisha.ac.jp

722600

実務実習事前学習Ⅱ

芝田　信人、阿南　節子、杉浦　伸一、中西　弘和、西村　亜佐子、松元　加奈、森田　邦彦、渡邉　愛未

授業テーマ:　応用薬学を実践できる薬剤師としてはばたくために～応用編～

授業の概要:　病院実務実習・薬局実務実習に先立って、すでに修得してきた基礎系科目ならびに実務・臨床系科目の内容を応用しつつ、調剤、製剤、服薬指導、セルフメディケーション、フィジカルアセスメントなどの薬剤師職務に必要な基本的知識、技能、態度の各項目に関連する講義・演習事項を修得する。

到達目標:

1. 医療の担い手として求められる活動を適切な態度で実践するために、薬剤師の活動をする臨床現場で必要な心構えと薬学管理の基本的な流れを把握する
2. 処方せんに基づく調剤業務をあんぜんで適正に遂行するために、医薬品の供給と管理を含む基本的な調剤業務を修得する
3. 患者に安全・最適な薬物療法を提供するために、てきせつに患者情報を収集したうえで、状態を正しく評価し、適切な医薬品情報を基に、個々の患者に適した薬物療法を提案・評価できる能力を修得する
4. 医療機関や地域で、他職種が県警・協力する患者中心のチーム医療に積極的に参画するために、チーム医療における他職種のやくわりと意義を理解するとともに、情報を共有し、より良い医療の検討、提案ができる
5. 地域での保険、医療、福祉に積極的に貢献できるようになるために、在宅医療、地域保健、福祉、プライマリーケア、セルフメディケーションの仕組みと意義を理解する

授業方法:　講義：配布プリント、Power Point映写、適宜、これまでの講義に使用した教科書を用いて進める。
演習：主としてTBL（team-based learning)の手法を取り入れ、少人数グループ制で実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	治療薬物血中濃度測定（TDM）Ⅰ 担当:　森田邦彦 F(1)～F(5)	臨床薬剤学Ⅰの講義資料を見ておくこと
2.	治療薬物血中濃度測定（TDM）Ⅱ 担当:　森田邦彦 F(1)～F(5)	臨床薬剤学Ⅰの講義資料を見ておくこと
3.	腎機能低下患者における薬物療法 担当:　松元加奈 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
4.	移植医療における薬物療法 担当:　森田邦彦 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
5.	感覚器疾患における薬物療法 担当:　森田邦彦 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
6.	神経系疾患における薬物療法 担当:　森田邦彦 F(1)～F(5)	臨床薬剤学Ⅱの講義資料を見ておくこと
7.	医薬品情報Ⅰ 担当:　松元加奈、渡邉愛未 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
8.	医薬品情報Ⅱ 担当:　松元加奈、渡邉愛未 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
9.	呼吸器系疾患における薬物療法 担当:　中西弘和 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
10.	内分泌・代謝性疾患における薬物療法 担当:　中西弘和 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
11.	精神系疾患・消化器系疾患における薬物療法　担当　芝田信人 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
12.	医療保険制度 担当:　杉浦伸一 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
13.	ハイリスク薬の管理・医療安全 担当　阿南節子 妊婦・授乳婦における薬物療法 担当　西村亜佐子 F(1)～F(5)	これまでの講義内容や配布したプリントより出題される
14.	高齢者・小児における薬物療法 担当　芝田信人 F(1)～F(5)	配布プリントあるいはこれまでに使用した教科書の関連部分を見直しておくこと
15.	まとめ	第1週から第14週までの内容について総合的に復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:	本講義では、期末テストを実施する。期末テスト（70%）、出席状況（30%）とを点数化して評価する（100点満点）。なお、授業への欠席回数が6回以上（授業を3分の1以上欠席）である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはならない。
フィードバックの方法:	講義： 配布プリント、Power Point映写、適宜教科書等を用いて進める。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	70%	期末試験（70%）、出席状況（30%）とを点数化して評価する（100点満点）。なお、授業への欠席回数が6回以上（授業を3分の1以上欠席）である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。
出席状況	30%	期末試験（70%）、出席状況（30%）とを点数化して評価する（100点満点）。なお、授業への欠席回数が6回以上（授業を3分の1以上欠席）である場合には、試験のみでたとえ60%以上を確保した場合であっても合格とはしない。

教科書:	特には指定しない。必要時にはプリントを配布する
参考書:	ビジュアル薬剤師実務シリーズ上/下　上村直樹監修　羊土社。 今日の治療薬2018年版解説と便覧　浦部晶夫、島田和幸、川合眞一編集　南江堂。 これまでに使用した関連する教科書 本学オリジナル医薬品集
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	質問等がある場合は科目代表（芝田信人）のメルアドまで。 nshibata@dwc.doshisha.ac.jp

723301、02

有機化学実習

白井　　隆一、榎本　　光伯、宮脇　　あかり、山本　　康友

授業テーマ:

授業の概要:

有機化学実験を通して『くすりの性質』を正しく理解するための能力と技術を身につける。
有機化学実験の基本操作および安全な化学実験操作、各種実験器具の使用方法、使用目的を理解させる。さらに試薬や医薬品等の有機化合物を混合した検体を分液ロート、ろ過、再結晶、クロマトグラフィーで分離・精製し、得られた各有機化合物の融点、定性試験を検討する。さらには誘導体の合成により未知検体の同定を行い、化学実験により有機化合物の分離と構造決定を行うための基本的原理・操作・技術・方法を習得させる。

到達目標:

生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学・有機化学・生化学分野の基本的知識を身に付けている。(基礎的な科学力)

授業方法:

実習前講義、実験実習、グループディスカッション、実習レポート提出によりおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1.安全教育(3講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。
2.	2.実験器具の取り扱い、試薬調製、ガラス細工(4講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。
3.	3.分液漏斗による有機化合物未知検体(酸性)の分離精製・融点測定、同定1－3(5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。
4.	4.-6.分液漏斗による有機化合物未知検体(塩基性)の分離精製・融点測定、同定1－4(3・4・5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。
5.	7.-9.アセチルサリチル酸の合成、精製と融点測定(3・4講時)、ケイヒ酸の合成(5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。
6.	10-.12ケイヒ酸の合成、精製と融点測定(3．4講時) 有機定性分析(5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。
7.	13.-15.クロラムフェニコールアミンの絶対配置決定、スペクトルによる構造解析(3．4講時) 総合討論(5講時) C3(1)～(3)	実験の基礎となる理論や考え方を調査させる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

単に作業をこなすのではなく、原理や操作の意味を考え、注意深く観察する。

フィードバックの方法:

グループディスカッションとレポートの返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実技	40%	60%以上で合格
実習レポート	40%	
グループディスカッション	10%	
確認テスト	10%	

教科書:

有機化学実習書(医薬品製造化学研究室・創薬有機化学研究室編)
わかりやすい化学実験(化学と生物　実験ライン1、津波古他、廣川書店)

参考書:

薬学部教育研究における防災安全の手引(同志社女子大学薬学部医療薬学科)
学生のための化学実験安全ガイド(徂徠他、東京化学同人)
有機分析(百瀬　勉、廣川書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:

研究室を訪問

723401、02

生命物理化学実習

桑原　　淳、根木　　滋

授業テーマ:　薬物分子・生体分子の物性と構造

授業の概要:　生命物理化学の講義で学んだ理論や原理が薬物分子や生体分子に対して，どのように適用されるかを，実際の医薬品を用いて実験を行って確かめる．また，bioinformaticsの観点からPCを用いて核酸や蛋白質の機能構造解析を行い，生体分子や薬物分子の立体構造について，理解を深める．

到達目標:　物理化学の基礎事項を理解させる．知識・理解：生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学分野の基本的知識を身に付けている．（基礎的な科学力）　表現・技能・能力：実験・調査・観察等で得られた結果を適切に解析・評価するとともに、分かりやすく報告・発表する力を身に付けている．（コミュニケーション能力、研究能力）

授業方法:　実験実習をグループ単位で実施する，実験結果について，PBL等も踏まえながら，討論等を行う．

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	緩衝液の調製：緩衝液のpHについて　C2 (2)	毎回，実習後，復習を兼ねて，論文形式に準拠した実習報告書と実習関連課題を合わせた実習レポートを作成する．
2.	薬物の定量：サリチル酸の定量 – 紫外可視吸収スペクトル（検量線）C2 (4)、C4 (3)	毎回，実習後，復習を兼ねて，論文形式に準拠した実習報告書と実習関連課題を合わせた実習レポートを作成する．
3.	薬物の定量：アスピリンの定量 – 紫外可視吸収スペクトル（試料）C2 (4)，C4 (3)	毎回，実習後，復習を兼ねて，論文形式に準拠した実習報告書と実習関連課題を合わせた実習レポートを作成する．
4.	薬物の物性：アスピリンの加水分解 – 擬1次反応　C1 (3)，C4 (3)	毎回，実習後，復習を兼ねて，論文形式に準拠した実習報告書と実習関連課題を合わせた実習レポートを作成する．
5.	薬物の物性：アスピリンの加水分解 – 反応速度定数　C1 (3)，C4 (3)	毎回，実習後，復習を兼ねて，論文形式に準拠した実習報告書と実習関連課題を合わせた実習レポートを作成する．
6.	薬物の物性：アスピリンの加水分解 – 反応速度定数の温度依存性　C1 (3)，C4 (3)	毎回，実習後，復習を兼ねて，論文形式に準拠した実習報告書と実習関連課題を合わせた実習レポートを作成する．
7.	薬物の物性：アスピリンの加水分解 – Arrhenius式と活性化エネルギー　C1 (2)，C4 (3)	毎回，実習後，復習を兼ねて，論文形式に準拠した実習報告書と実習関連課題を合わせた実習レポートを作成する．
8.	薬物の物性：希薄溶液の束一性 – 凝固点降下度の測定（蒸留水）C1 (2), C4 (3)	毎回，実習後，復習を兼ねて，論文形式に準拠した実習報告書と実習関連課題を合わせた実習レポートを作成する．
9.	薬物の物性：希薄溶液の束一性 – 溶質の分子量決定（試料）C1 (2), C4 (3)	毎回，実習後，復習を兼ねて，論文形式に準拠した実習報告書と実習関連課題を合わせた実習レポートを作成する．
10.	生体分子の立体構造：核酸　C4 (1)	毎回，実習課題についてのレポートの提出を行う事で，授業外の自主学習を促している．
11.	生体分子の立体構造：蛋白質　C4 (1)	毎回，実習課題についてのレポートの提出を行う事で，授業外の自主学習を促している．
12.	生体分子の立体構造：薬物分子相互作用　C4 (1)	毎回，実習課題についてのレポートの提出を行う事で，授業外の自主学習を促している．
13.	コンピューターを用いたDNA解析　C4 (1)	毎回，実習課題についてのレポートの提出を行う事で，授業外の自主学習を促している．
14.	コンピューターを用いた蛋白質解析　C4 (1)	毎回，実習課題についてのレポートの提出を行う事で，授業外の自主学習を促している．
15.	コンピューターを用いた蛋白質2次構造予測　C4 (1)	毎回，実習課題についてのレポートの提出を行う事で，授業外の自主学習を促している．

受講者へのメッセージやアドバイス:　実験実習をグループ単位で実施し，その原理や実験結果について，討論等を行う．

フィードバックの方法:　グループの実習データファイルを,実習者各自に還元して情報の共有を行っている．

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50	実習を体験することが重要であるので，出席が原則である．
実習レポート	50	総合的に評価する．

教科書:　「生命物理化学実習書」（生命物理化学研究室 編）
「基礎薬学　物理化学」 桐野　豊　編（廣川書店）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　実習中に実習室内で応対の他，オフィスアワー, E-mail 等で対応．.

723501～18 **薬学基礎研究**

薬学部教員

授業テーマ: 問題解決能力の醸成　薬学アドバンスド教育A～F(1)

授業の概要: 研究課題に基づき、それぞれの指導教員の教育指導により、研究を進める。

到達目標: 研究マインドをもって生涯にわたり医療に貢献するために、薬学における研究の位置づけを理解し、自らが実施する研究に係る法令、指針を理解した上で、それらを遵守して研究に取り組み、研究のプロセスを通して、知識や技能を総合的に活用して問題を解決する能力を培う。

授業方法: 実験を中心とした教育指導をおこなうが、それぞれの指導教員の専門分野によってその方法は異なる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。 (1)薬学における研究の位置づけ G(1)－1)～4) 1.　基礎から臨床に至る研究の目的と役割について説明できる。 2.　研究には自立性と独創性が求められていることを知る。 3.　現象を客観的に捉える観察眼をもち、論理的に思考できる。(知識・技能・態度) 4.　新たな課題にチャレンジする創造的精神を養う。(態度) (2)研究に必要な法規範と倫理 G(2)－1)～3) 1.　自らが実施する研究に係る法令、指針について概説できる。 2.　研究の実施、患者情報の取扱い等において配慮すべき事項について説明できる。 3.　正義性、社会性、誠実性に配慮し、法規範を遵守して研究に取り組む。(態度)A-(2)・④-3再掲 (3)研究活動を通して、創造の喜びと新しいことを発見する研究の醍醐味を知り、感動する。 G(3)－1)～6) 1.　研究課題に関する国内外の研究成果を調査し、読解、評価できる。(知識・技能) 2.　課題達成のために解決すべき問題点を抽出し、研究計両を立案する。(知識・技能) 3.　研究計画に沿って、意欲的に研究を実施できる。(技能・態度) 4.　研究の各プロセスを適切に記録し、結果を考察する。(知識・技能・態度) 5.　研究成果の効果的なプレゼンテーションを行い、適切な質疑応答ができる。(知識・技能・態度) 6.　研究成果を報告書や論文としてまとめることができる。(技能)	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
2.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
3.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
4.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
5.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
6.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
7.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
8.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
9.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
10.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
11.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
12.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
13.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。
14.	それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。

	15. それぞれの指導教員の指示にしたがって計画される。	テーマ設定、研究方法の策定、データの収集、データの解釈、関連文献の検索、次の方針の決定などを指導を受けながら遂行する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
全員毎回出席が原則。

フィードバックの方法:
指導教員から随時直接フィードバックを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的な研究態度	50%	指導教員の個々の評価基準
発表・研究論文内容	50%	指導教員の個々の評価基準

教科書:
それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

参考書:
それぞれの専門分野によって必要とする教材は異なる。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
各教員で対応

723600

医療・薬物治療概論

杉浦　　伸一

授業テーマ:　病院における薬物治療の実際を学ぶ

授業の概要:　実務実習で習得した知識や体験を深めることができるとともに、実務実習で経験できなかった診療科領域の薬物療法についても学ぶことができ、有意義な科目となる。4年次生にとっても、実務実習に向けて各診療科の最前線に触れることができる。医療の現場を知るための外部講師によるオムニバス的な講義となっている

到達目標:　本講義では薬学アドバンスド教育 F 薬学臨床①～⑧に関連する項目を含む
講義を通して、疾病の薬物治療や健康の保持・増進に関わる諸課題に強い関心を持ち、薬剤師に求められる専門的知識や技能を積極的に学修しようとする意欲を持つことで患者や生活者本位の観点に立って、患者・生活者の心を理解できる感性を身に付ける

授業方法:　特別講師が原則60～70分間講義し、その後、講義内容について質疑応答を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
2.	高齢化社会の課題と地域における医療・福祉の役割	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
3.	ICT（感染管理）活動	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
4.	NST（栄養サポートチーム）の活動	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
5.	漢方薬を用いた治療	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
6.	脳卒中について	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
7.	骨粗鬆症の投薬管理	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
8.	メタボリック症候群、循環器疾患治療における薬剤投与の役割	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
9.	妊婦の投薬管理	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
10.	がん治療における化学療法 ～乳がんを中心に～	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
11.	アレルギーと薬剤	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
12.	回復期 薬剤師の仕事 ～あなたも薬剤師になって考えてみよう～	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
13.	抗菌薬の採用と管理／小児医療における投薬管理	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
14.	重症患者集中治療における薬剤師の果たす役割	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと
15.	医療安全 ～薬剤師の立場から～	復習として、当日配布された資料等を再度読み込むこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　コーディネーターは授業の前後に導入とまとめを行う。なお、各回の授業内容は予定であり、講義の順序は変更になることがある

フィードバックの方法:　毎回の講義のあとに質疑応答を行ない、そこで出された質問等について解説することを通じてフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	50%	受講態度や積極性
レポート	50%	課題は講義中に発表

教科書:　なし

参考書:　参考資料は講義ごとに配布する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　ssugiura@dwc.doshisha.ac.jp

750100

体のしくみ

村上　　元庸

授業テーマ:　解剖学および生理学について正しく理解する

授業の概要:　この講義では、人体を、細胞、細胞よりなる組織、組織よりなる臓器、諸臓器よりなるシステム（系）、システムの統合された人体ととらえ、すべてが関連しあっていることを学ぶ。

到達目標:　人体の基本的な構造と機能について正しい知識を身につける。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	解剖生理学の基礎	教科書にて該当する分野の予習
2.	皮膚	教科書にて該当する分野の予習
3.	骨	教科書にて該当する分野の予習
4.	骨格筋	教科書にて該当する分野の予習
5.	造血系	教科書にて該当する分野の予習
6.	循環器系	教科書にて該当する分野の予習
7.	呼吸器系	教科書にて該当する分野の予習
8.	内分泌系	教科書にて該当する分野の予習
9.	消化器系	教科書にて該当する分野の予習
10.	神経系	教科書にて該当する分野の予習
11.	腎、泌尿器系	教科書にて該当する分野の予習
12.	生殖系	教科書にて該当する分野の予習
13.	感覚器系	教科書にて該当する分野の予習
14.	免疫系	教科書にて該当する分野の予習
15.	まとめ	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	80	講義内容の理解度により評価する
レポート	20	

教科書:　人体の構造と機能 （1） 解剖生理学　医学書院

参考書:　授業で紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

750200

基盤病理学

髙橋　　玲

授業テーマ:　基盤病理学看護を行う際に必要となる疾病の原因、成り立ちおよび臓器・組織での形態学的・機能的変化を学ぶ。

授業の概要:　身体や細胞の構造と機能の面から疾病の成り立ちを理解し、治療につながる知識を得る。疾病に共通する病理学総論と各臓器・組織に特異的な病変に関する病理学各論を組み合わせて体系的に学ぶ。

到達目標:
1）ヒトの疾患について、原因および個体・臓器・組織・細胞・遺伝子・蛋白レベルにおける病的変化（代謝異常、退行性変化、炎症、腫瘍、循環障害など）を理解し、簡潔に説明することができる。
2）基本的な疾患名、病理所見、疾患分類について日本語と英語の正しい記載を理解し、使用することができる。

授業方法:　インタラクティブな講義形式による。あらかじめ設定された授業のポイントを準備し、授業当日に教員と、あるいは学生同士でとディスカッションできるように事前に学習することを前提とする。各授業ごとに課題をレポートとしてマナビーに提出する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	細胞損傷・適応，炎症	細胞ストレス アポトーシスと壊死 活性酸素 急性炎症における血管の役割 炎症における白血球の役割
2.	循環障害・血液異常，感染症	梗塞の定義 浮腫のメカニズム 血栓形成機構・止血機構 日和見感染
3.	免疫異常，腫瘍	アレルギーの分類 自己免疫疾患 腫瘍の定義 退形成・分化・悪性度 悪性腫瘍の転移様式
4.	先天異常・遺伝性疾患，代謝異常	高窒素血症 高アンモニア血症 染色体異常症
5.	循環器	心筋梗塞と狭心症 本態性高血圧と二次性高血圧 心不全 動脈硬化症
6.	造血器	貧血の分類とその成因 急性白血病と慢性白血病 伝染性単核症 悪性リンパ腫 多発性骨髄腫
7.	呼吸器	気管支喘息 肺塞栓症 慢性閉塞性肺疾患 間質性肺炎と気管支肺炎 急性呼吸窮迫症候群 肺癌の組織型と治療
8.	口腔・消化管	口腔癌・食道癌 食道静脈瘤 イレウス 偽膜性大腸炎 炎症性腸疾患
9.	肝・胆・膵	ウィルス性肝炎 肝硬変 胆石・胆嚢炎 急性膵炎・慢性膵炎
10.	泌尿器・生殖器	糸球体腎炎 糖尿病性腎症 間質性腎炎 ネフローゼ 子宮内膜症 子宮頸癌
11.	内分泌	尿崩症 バセドウ病 原発性アルドステロン症 糖尿病とその合併症
12.	筋・骨格系	骨粗鬆症と骨軟化症 変形性関節症 重症筋無力症 関節リウマチ
13.	脳・神経系	脳梗塞・脳出血・くも膜下出血 パーキンソン病 筋萎縮性側索硬化症
14.	皮膚・感覚器	湿疹・皮膚炎症候群 じんま疹 母斑 皮膚癌
15.	まとめ	すべての項目の復習と確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　医学生物学関係の科目の学習においては、専門用語が多く用いられている。予習の段階では、内容の理解が難しい場合でも、キーとなる言葉の意味を前もって調べておくだけで授業中の理解度の向上が期待できる。

フィードバックの方法:
1）フィードバックをしながら授業を進める。
2）出席票のコメント欄に疑問点や意見を書いておくと次回の授業でフィードバックする。
3）オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	定期試験	100%	100点満点で評価する。

教科書: Dr.レイの病理学講義 改訂3版　編著 高橋　玲　著 北澤荘平　金芳堂

参考書: トップジャーナルの症例集で学ぶ医学英語　監修・著　高橋玲（アルク社）
キクタンメディカル1. 人体の構造編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社）
キクタンメディカル2. 診療と臨床検査編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社）
キクタンメディカル3. 症候と疾患編　監修・執筆　高橋玲（Dr.レイ）（アルク社）
キクタンメディカル4. 保健医療編　監修 高橋玲（Dr.レイ）　執筆 押味貴之（アルク社）
キクタンメディカル5. 看護とケア編　監修 高橋玲（Dr.レイ）　執筆 平野美津子（アルク社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法: オフィスアワー、授業の前後教室内

750300

微生物学・免疫学

川崎　　清史

授業テーマ:

授業の概要:
看護にとって重要な領域である感染症を理解するために、微生物の種類や特徴を学ぶ。そして、感染症の原因となる特定の病原体の性質や特徴についた学ぶ。また、感染や伝播を予防するための方法を学ぶ。さらに、感染を防ぐ免疫系の基本的なしくみや、その破綻による自己免疫疾患等の疾病について学ぶ。

到達目標:
微生物の種類や特徴を学ぶことにより、感染症の原因となる特定の病原体の性質や特徴を理解する。また、感染や伝播を予防するための方法を理解する。さらに、感染を防ぐ免疫系の基本的なしくみや、その破綻による自己免疫疾患等の疾病について理解する。

授業方法:
講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション、微生物（細菌、ウイルス、真剣、原虫）概論	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
2.	細菌の性質１（形態、特徴）	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
3.	細菌の性質２（培養、栄養、遺伝）	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
4.	ウイルス、真菌、原虫の性質（構造、特徴、増殖）	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
5.	免疫１（自然免疫）	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
6.	免疫２（獲得免疫）	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
7.	滅菌、消毒、および病原体の検出方法	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
8.	化学療法	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
9.	新興再興感染症・予防接種	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
10.	病原細菌各論1（黄色ブドウ球菌や化膿レンサ球菌をはじめとするグラム陽性病原菌など）	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
11.	病原細菌各論2（緑膿菌や赤痢菌、コレラ菌などのグラム陰性病原菌など）	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
12.	病原細菌各論3（抗酸菌、スピロヘータ、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマなどの病原菌）	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
13.	病原ウイルス各論	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
14.	病原原虫・病原真菌各論	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。そして、授業後に内容再確認とさらに理解を深めるために復習が必要。
15.	まとめ	教科書の該当箇所を事前に読んで予習すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
必要に応じて面談等を行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	100%	得点に応じて評価する

教科書:
微生物学 （南島洋一、吉田真一、永淵正法　著） 医学書院

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:
オフィスアワーの活用

750400

基礎栄養学

木村　　祐子

授業テーマ:　人の健康にとって栄養が、いかに重要かを理解するとともにその基本的概念と知識を習得する。

授業の概要:　栄養学の基本について解説し、人の健康と栄養の密接な関係を理解できるように講義を進める。また将来の看護専門職として患者への栄養支援が、管理栄養士等の他職種との連携や栄養ケア計画の実際について解説する。

到達目標:　栄養学の基本を理解するとともに、人間栄養学の取り組みがなぜ必要なのかを講義を通じて考える能力を養う。

授業方法:　授業形態は講義で、配布資料や資料提示等を適宜行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養とは何かを人間栄養学の視点から考える	
2.	栄養素の基本知識（炭水化物と脂質を中心として）	教科書等で該当部分を予習すること
3.	栄養素の基本知識（たんぱく質を中心として）	教科書等で該当部分を予習すること
4.	栄養素の基本知識（脂溶性ビタミンと主要な水溶性ビタミン）	教科書等で該当部分を予習すること
5.	栄養素の基本知識（ミネラル−日本人が欠乏しやすいミネラルを中心として−）	教科書等で該当部分を予習すること
6.	食品の種類と含有栄養素の特徴	教科書等で該当部分を予習すること
7.	栄養素の消化と吸収	教科書等で該当部分を予習すること
8.	栄養素の体内代謝（エネルギー代謝を含む）	教科書等で該当部分を予習すること
9.	日本人の食事摂取基準	教科書等で該当部分を予習すること
10.	ライフステージと栄養（妊娠期・授乳期・乳幼児期）	教科書等で該当部分を予習すること
11.	ライフステージと栄養（学童期・思春期・成人期・高齢期）	教科書等で該当部分を予習すること
12.	栄養ケア・マネジメント（チーム医療による栄養管理を含む	教科書等で該当部分を予習すること
13.	栄養状態の評価と判定	教科書等で該当部分を予習すること
14.	疾病の食事療法（糖尿病・肥満・慢性腎臓病を中心に）	教科書等で該当部分を予習すること
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　看護実践の中で栄養学の重要性を感じられるとともに、栄養学の面白さをできるだけ感じてもらえる講義を行うので、興味をもって受講してほしい。予習を重視する。毎回の講義の終了前に次回の事前学習範囲を告げるので、次回講義までにその範囲を教科書だけでなく参考図書その他の文献等で予習を行う。

フィードバックの方法:　質問は、授業のまとめの提出物に記載し、次回に個別または必要があれば全体に説明を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	上記到達目標に関する知識や理解度により評価する。
授業のまとめの提出物	30%	毎回の講義の習得状況を評価する。

教科書:　中村丁次　他 「系統看護講座　人体の構造と機能（3）栄養学」

参考書:　授業の中で適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　非常勤講師のため講義の初回に連絡する。

750500

基礎薬理学

漆谷　　徹郎

授業テーマ:　薬物効果の基礎的理解―主に看護師を対象として―

授業の概要:　医師や薬剤師のような、直接処方や調剤に携わる職種以外でも、医療関連職であれば、薬に関する専門的知識が求められる。この講義では、薬物治療の理論的基盤である薬理学の入門編として、個々の薬物の詳細には立ち入らず、一般的な薬物作用について概観し、今後の専門教育の基礎を気づくことを目標とする。他学部履修可であるが，基本的に看護師を目指す学生を対象とする.

到達目標:　解剖・生理学や薬理学の基礎知識が固まっていれば、具体的な薬物療法に関係する看護のポイントは講義や実習、更に現場での経験を積めば必ず身についてくる。重要なのは、基礎知識を固めておくことである。教科書は指定するが、現役看護師向けしてさえ詳細すぎ，まして1年次生には荷が重いので，卒業までに理解しておくべきポイントを前もって列挙し，少なくともその項目については自己学習可能な段階となることを目標とする.

授業方法:　教科書の指定された部分をパワーポイントにより講義する。教科書にない資料はマナビーにアップする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基礎知識１:薬理学とは・薬物の作用点	教科書4－22を予習 マナビーアップする資料を参照
2.	基礎知識２:薬物動態学、薬物相互作用、薬物開発	教科書22－45を予習
3.	自律神経系	教科書132－146 マナビーにアップする神経系の図を暗記すること
4.	高血圧、狭心症	教科書184－194
5.	心不全、不整脈、利尿	教科書195－206
6.	脂質異常症、血液・呼吸	教科書207－226
7.	中枢１:麻酔、催眠、不安、精神病、うつ	教科書152－172
8.	中枢２:パーキンソン病、てんかん、麻薬性鎮痛薬	教科書172－181
9.	抗炎症薬、免疫・アレルギー	教科書118－129、102－111
10.	感染症１	教科書　62－88
11.	感染症２	教科書　62－88
12.	がん	教科書　90－100 マナビーにアップする資料参照
13.	消化器、生殖・泌尿器	教科書　227－238
14.	代謝・内分泌	教科書　242－256
15.	まとめ	配布するまとめの資料を参照

受講者へのメッセージやアドバイス:　看護師として必須のアイテムについては、まとめた資料を配布するので、最低限これらを頭に入れ、その上で発展学習に臨む姿勢を養ってほしい。

フィードバックの方法:　随時質問のための訪問は歓迎

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100%	前もって公表した項目に関する客観テスト

教科書:　吉岡、泉、井関編、「薬理学」系統看護学講座、専門基礎分野、疾病のなりたちと回復の促進③、医学書院

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　turushid@dwc.doshisha.ac.jp, 憩水館6F606にて随時

750600

外科疾病・治療学

石丸　　庸介

授業テーマ:　主要疾患の症候、病態生理、治療法の理解。

授業の概要:　疾患、治療法を医学的に正しく理解し、看護理論に応用できる力を獲得する。

到達目標:　疾患、治療法を医学的に正しく理解し、看護に応用できる力を獲得する。

授業方法:　講義形式。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	外科学総論	教科書全般に目を通しておくこと。
2.	脳神経疾患の外科治療1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
3.	脳神経外科の外科治療2	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
4.	運動器疾患の外科治療1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
5.	運動器疾患の外科治療2	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
6.	腎・泌尿器疾患の外科治療	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
7.	婦人科疾患の外科治療	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
8.	消化器疾患の外科治療1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
9.	消化器疾患の外科治療2	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
10.	乳腺疾患の外科治療1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
11.	乳腺疾患の外科治療2	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
12.	創傷治癒1	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
13.	創傷治癒2・再建	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
14.	麻酔	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと。
15.	まとめ	これまでの授業の復習をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントペーパー等による。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	主要疾患の症候、病態生理、治療法についての知識を評価する。

教科書:　系統看護学講座　別巻「臨床外科看護総論」「臨床外科看護各論」(医学書院)

参考書:　適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

750700

内科疾病・治療学

村上　　元庸

授業テーマ:　主要疾患の症候、病態生理、治療法の理解

授業の概要:　疾患を医学的に正しく理解し、看護理論に応用できる力を獲得する。

到達目標:　疾患を医学的に正しく理解し、看護に応用できる力を獲得する。

授業方法:　講義形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	総論　糖尿病	教科書にて予習
2.	糖尿病	教科書にて予習
3.	呼吸器疾患	教科書にて予習
4.	呼吸器疾患	教科書にて予習
5.	循環器疾患	教科書にて予習
6.	循環器疾患	教科書にて予習
7.	消化器疾患	教科書にて予習
8.	消化器疾患	教科書にて予習
9.	消化器疾患	教科書にて予習
10.	消化器疾患	教科書にて予習
11.	腎疾患	教科書にて予習
12.	血液疾患	教科書にて予習
13.	神経疾患	教科書にて予習
14.	認知症	教科書にて予習
15.	まとめ	復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポート

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	80	講義内容の理解度により評価する
レポート、意欲、授業態度	20	

教科書:　看護のための臨床病態学

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

750800

こころのしくみと保健医療

木村　　洋子、北林　　百合之介

授業テーマ:

授業の概要:　こころのしくみを理解し，現代社会におけるこころの健康の維持・増進における課題と精神保健の役割を理解する.

到達目標:
1. 精神科医療の歴史的変遷を理解することができる.
2. 精神科医療の対象となる疾患及び治療について理解することができる.
3. こころの健康における諸概念や理論を理解することができる.
4. 生活場面におけるこころの健康問題と精神保健の役割について理解することができる.

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	精神医学　総論	配布した資料をもとに,【精神医学　総論】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
2.	統合失調症	配布した資料をもとに,【統合失調症】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
3.	気分障害	配布した資料をもとに,【気分障害】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
4.	神経症性障害，ストレス関連障害及び身体表現性障害	配布した資料をもとに,【神経症性障害】【ストレス関連障害及び身体表現性障害】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
5.	中毒性障害，物質関連障害	配布した資料をもとに,【中毒性障害】【物質関連障害】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
6.	児童思春期精神障害（発達障害・パーソナリティ障害）	配布した資料をもとに,【児童思春期精神障害】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
7.	老年精神医学	配布した資料をもとに,【老年精神医学】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
8.	コンサルテーション・リエゾン精神医学	配布した資料をもとに,【コンサルテーション・リエゾン精神医学】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
9.	こころの健康とは	系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　第5版　医学書院　p26からp30を予め熟読していくこと.
10.	ストレス理論	現在，自身が経験しているストレス源と対処方法について確認しておくこと,
11.	危機理論とリスクマネジメント	【危機理論】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
12.	ライフサイクルと精神保健	【エリクソンの発達段階及びそれぞれの発達段階における課題】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
13.	生活の場と精神保健	【家庭・学校・職場，それぞれにおけて生じやすい精神的な問題】について，マインドマップを活用し，事前に整理すること. 作成したマインドマップは講義前日までにマナビーで送信すること
14.	さまざまな社会病理現象	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　精神疾患とその治療について学ぶ機会は8回しかありません. 貴重な機会ですので，事前準備をして受講してください.

フィードバックの方法:　第11回から第13回に提出していただいたマインドマップは確認の上，講義の中でフィードバックします.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前学習	20	事前学習の内容を確認し，A（良くできた），B（できた），C（もう少し），D（不十分・未提出）の4段階で評価する. C以上を合格とする.
定期試験	80	

教科書:
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　第5版　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　第5版　医学書院

参考書:　講義中に適宜紹介する.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

750900

成育医療学

岩佐　　弘一、石丸　　庸介

授業テーマ:
小児疾患の病態・治療について理解する。
女性生殖疾患の病態・治療と妊娠の生理について理解する。

授業の概要:
育成医療は、受胎にはじまり小児・思春期を経て次の世代を生み育てるまでの一連の過程における身体的・精神的問小児に多題を扱う医療であり、小児科学と生殖医療・産婦人科学で構成する。
[小児科学]
　小児に多い疾患・特有の疾患の病態、診断、治療、予後について、小児期各期(新生児期、乳児期、幼児期、学童期、思春期)および系統別に学習する。
[生殖医療・産婦人科学]
　女性生殖器の構造と機能、女性生殖疾患に関わる病態・治療法(月経異常、性感染症、不妊と不育症、周産期の異常、腫瘍)について学習する。

到達目標:
1)小児に多い疾患の病態・診断・治療法について理解する
2)女性生殖器の構造と機能、女性生殖疾患やハイリスク妊産婦の病態・治療法について理解する

授業方法:
1:講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	小児科学(1)総論、血液疾患・腫瘍性疾患(白血病、悪性腫瘍)	教科書の該当部分を読んでおくこと
2.	小児科学(2)アレルギー疾患(喘息、食物アレルギーなど)、腎泌尿器疾患(ネフローゼ症候群など)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
3.	小児科学(3)感染症	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
4.	小児科学(4)循環器疾患(先天性心疾患、川崎病など)、遺伝性疾患(ダウン症候群など)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
5.	小児科学(5)消化管疾患(肥厚性幽門狭窄、閉塞、腸重責、先天性疾患など)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
6.	小児科学(6)内分泌代謝異常(糖尿病、代謝異常など)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
7.	小児科学(7)脳神経疾患(低酸素脳症、脳性麻痺、てんかんなど)	前回の授業資料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
8.	女性生殖器の構造、機能、主な症状、主な診察・検査と治療・処置	教科書の該当部分を読んでおくこと
9.	婦人科疾患(1)　性分化疾患、臓器別疾患	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
10.	婦人科疾患(2)　機能的疾患	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
11.	産科学(1)　妊娠の生理、正常妊娠	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
12.	産科学(2)　分娩の要素	前回の授業料内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
13.	産科学(3)　妊娠・分娩の異常	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
14.	不妊症、不育症、性感染症、受胎調節法	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
・1回の授業で進む量と内容が多いので、教科書の章末の「ゼミナール」の復習と課題を確認して要点を整理して下さい。
・授業1-7と授業8-14の時間割が異なります。授業日については、授業の開始時までにマナビーによりお知らせします。
・授業内容により使う教科書が異なりますので注意して下さい。

フィードバックの方法:
質問用紙、コメントペーパー等に対しては、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	到達目標に関する知識や理解度により評価する。

教科書:
『系統看護学講座 専門分野II　小児臨床看護各論』医学書院(授業内容1-7)
『系統看護学講座 専門分野II　母性看護学[2]母性看護学各論』医学書院(授業内容11-14)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対

751000

健康心理学

眞鍋　　えみ子

授業テーマ:　健康心理学の理解、その知識と技法の健康維持増進への活用

授業の概要:　健康心理学とは、健康の維持と増進、疾病の予防と治療、ヘルスシステムや健康政策の分析や改善などに行動科学の知識と技術で関与する心理学の一領域であり、健康で幸福な人生を実現するための比較的新しい学際的心理学である。ストレスとその対処法、ソーシャルサポート、パーソナリティ（行動様式）と疾患との関連性、ライフスタイル、自己効力感のテーマを取り上げ、健康心理学について理解を深める。

到達目標:　健康心理学についての理解を深め、その知識と技法を自分の心身の健康に役立てる力を身につける。

授業方法:　講義/演習の混合、講義ではDVD、パワーポイント、プリント等を活用する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康心理学とは（1）	「健康とは」について考えておく
2.	健康心理学とは（2）「ギフト　僕がきみに残せるもの」から考える	前回の授業の復習をしておく
3.	プラシーボ効果について	前回の授業の復習をしておく
4.	ストレスのメカニズム(1)　生理学的ストレス：セリエ、アロスタシス	前回の授業の復習をしておく
5.	ストレスのメカニズム(2)　心理社会学的ストレス：大学生活におけるライフイベントを考える	・前回の授業の復習をしておく ・大学生活でストレスを感じた事象とその時の対処方法やその後の経過を考えておく
6.	ストレスのメカニズム(3)　心理社会学的ストレス：社会的適応尺度	・前回の授業の復習をしておく ・配付した資料を熟読しておく
7.	ストレスのメカニズム(4)　心理社会学的ストレス：ストレスコーピング	前回の授業の復習をしておく
8.	ストレスのメカニズム(5)　心理社会学的ストレス：事例による検討	前回の授業の復習をしておく
9.	ストレスへの対処について	前回の授業の復習をしておく
10.	ストレスコーピングの分析とストレス対処、マインドフルネス	前回の授業の復習をしておく
11.	マインドフルネスの体験とストレスの評価（演習）	前回の授業の復習をしておく
12.	パーソナリティと健康	自分のパーソナリティの特徴について見直しておく
13.	健康行動と生活習慣の形成（1）セルフモニタリング	・前回の授業の復習をしておく ・理想的な生活習慣について考える
14.	健康行動と生活習慣の形成（2）動機づけ	マズローの欲求について学習しておく
15.	まとめ	これまでの授業の復習をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　日々の生活での体験を教材に、自己の思考・行動パターンに気づけるように、個人のワークやディスカッションを取り入れて授業をすすめます。

フィードバックの方法:　コメントペーパー等に対するのフィードバックは教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	ストレスのメカニズムに関する知識やその評価方法に関する理解度により評価する。
授業への参加度	40	積極的に授業に参加し、授業内容に関連した自己の思考や行動パターンを客観的に発表できるかを評価する。

教科書:

参考書:
松本千明 『健康行動理論の基礎』 医歯薬出版
島井哲志・長田久雄・小玉正博（編） 『健康心理学・入門』 有斐閣
日本健康心理学会編 『健康心理学概論』 実務教育出版社
森和代 『よくわかる健康心理学』 ミネルヴァ書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　E メール、授業の前後に教室内で応対

751100

疫学

桝本　　妙子、萩本　　明子

授業テーマ:

授業の概要:
疫学の基礎知識や方法論を講義することによって、データを読み取る力の習得を目指す。
公衆衛生看護における疫学指標と調査方法を講義する。

到達目標:
疫学は人間集団における健康状態とそれに関連する要因の分布を明らかにし、その結果から健康障害の要因追及および、予防やQOLの向上に役立つ情報を得ることを目的としている。疫学における原因追及の進め方、疫学の各種の研究方法、既存のデータの利用、疫学研究における倫理について学習する。
各種保健統計指標の正しい読み取り方、解釈の仕方を学習し、主要な疾患のリスク要因から予防までを総合的に理解する。さらに人間集団の健康問題の解決へと繋げることを目指す。

授業方法:
基本的に、教科書に沿った講義形式で実施する。
適宜、補助資料を配布、パワーポイント等を使用する。
講義の中で練習問題を解くことがあるため、指示があった場合は電卓を準備すること。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	疫学とは（萩本）	教科書をの該当箇所を読んでおくこと
2.	疾病頻度の測定　疫学指標（萩本）	前回までの講義内容を理解するとともに、教科書の該当箇所を読んでおくこと
3.	疾病頻度の測定　相対危険と寄与危険（萩本）	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと
4.	疫学研究方法　記述疫学、生態学的研究、横断研究（萩本）	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと
5.	疫学研究方法　コホート研究、症例対象研究（萩本）	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
6.	疫学研究方法　介入研究（萩本）	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと
7.	偏りと交絡　誤差（萩本）	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
8.	偏りと交絡　交絡因子（萩本）	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
9.	偏りと交絡　標準化（萩本）	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
10.	因果関係、エビデンス（萩本）	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと
11.	スクリーニング（萩本）	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
12.	既存のデータ（萩本）	前回までの講義内容を理解し、マナビーで示した計算問題を解いておくこと。教科書の該当箇所を読んでおくこと
13.	公衆衛生看護と疫学①（桝本）	前回までの講義を復習しておくこと
14.	公衆衛生看護と疫学②（桝本）	前回までの講義を復習しておくこと
15.	まとめ	14回分の講義内容を総合的に復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:
疫学は、専門用語も多く、皆さんが今まで馴染みのない思考過程をする部分もあり、入門時のハードルが高い学問です。しかし、それほど難しいことを述べているものではありませんし、疫学の基礎を身につけることによって、教科書やニュースなどで取り上げられるデータやトピックなどを正しく理解できるようになります。
皆さんが一つ一つ理解を進めていけるように講義を進めていきます。

フィードバックの方法:
講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	疫学の基礎知識や代表的な指標の計算方法が身についているかを評価する。

教科書:
中村好一著:「基礎から学ぶ楽しい疫学」（医学書院）
第4版　公衆衛生看護学. Jp　インターメディカル

参考書:
「国民衛生の動向」（厚生労働統計協会）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:
講義前後およびメール、マナビーの掲示板などで対応する。

751200

公衆衛生学

木津　　良一

授業テーマ:　社会における集団の健康と疾病

授業の概要:　健康の保持・増進のためには、疾病の治療とともに疾病の予防が重要である。疾病の治療は一人一人の個別の状況に対応して行われるが、予防では個人の状況のみならず、集団としての特徴を把握することが重要である。本科目では、以下の(1) ～ (6) の項目について学び、現代における疾病の現状とその予防に関する基礎知識を習得するとともに、集団を対象とする公衆衛生学の考え方を身につける。
(1) 公衆衛生の概念
(2) 感染症とその予防
(3) 食品保健と栄養
(4) 生活習慣病
(5) 産業保健
(6) 生活環境の保全

到達目標:　現代における疾病の現状とその予防に関する基礎知識を習得する。
集団を対象とする公衆衛生学の考え方を身につける。
(1) ～ (6) の各項目はさらに幾つかの小項目から構成されている。各小項目の到達目標は配布プリントに記載する。

授業方法:　講義内容をまとめたプリントを事前に配布し、その内容に沿って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを使用し、必要に応じて板書する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	公衆衛生の概念	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2.	感染症とその予防 1　感染症法	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3.	感染症とその予防 2　主な感染症とその動向	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4.	感染症とその予防 3　感染症の予防	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5.	食品保健と栄養 1　食品の安全 ―細菌性食中毒―	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6.	食品保健と栄養 2　食品の安全 ―化学物質による食中毒―	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7.	食品保健と栄養 3　国民の栄養	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8.	中間まとめ	次回に講義する項目について予習する。
9.	生活習慣病 1　生活習慣病の現状と対策	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10.	生活習慣病 2　健康日本21と健康増進法	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11.	産業保健　労働環境と職業性疾病	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12.	生活環境の保全 1　地球環境問題	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13.	生活環境の保全 2　水・空気・土壌	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14.	生活環境の保全 3　ごみ・廃棄物の処理	今回の講義内容を復習して理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15.	まとめ	今回の講義内容を復習して理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問事項については、講義室または研究室で随時対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
中間試験	30	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
定期試験	30	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
レポート	40	到達目標に基づき、課題を論理的に分かりやすく説明できているかを基準として評価する。

教科書:

参考書:　清水忠彦、佐藤拓代 編、わかりやすい公衆衛生学、ヌーベルヒロカワ、2,200円
芦野由利子 ほか著、公衆衛生、医学書院、2,200円
平野かよ子、山田和子 ほか編、わかりやすい公衆衛生学、メディカ出版、3,200円

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　E-メール：rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応

751300 **看護と法律**

谷　　直之

授業テーマ:　看護師に関する法的基礎知識と法的責任

授業の概要:　看護職として必要な法的な知識と思考方法を学びます。関係法令の知識は、看護師国家試験でも必要な知識であり、これを習得することは重要ですが、それ以上に、きちんとした資料、現実の姿をふまえた上で、しっかりとした理由とともに、自分の意見を持つという姿勢は、看護職として非常に大切な素養となります。映像資料等を活用しつつ、生命倫理の問題と合わせて、看護師とは何か、何が求められるのか、万一事故等が起こった時にどうなるのか、といった重要な問題を扱っていきます。

到達目標:　看護専門職として必要な法的知識を修得する。
看護師の法的地位・責任について理解する。
生命倫理問題について、法的な視点から考察できる。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	法学オリエンテーション（1） 法とは何か？	テキストのはしがきを熟読しておくこと。また医療問題をとりあげた書籍を読んだり、ドラマ・映画等を観たりしておくこと。
2.	法学オリエンテーション（2） 国家と法 自然法論と法実証主義	配布レジュメのほか、テキスト第１章「Ａ　法の概念をよく読んで内容を理解しておくこと。
3.	法学オリエンテーション（3） 自己決定権とパターナリズム	自然法論と法実証主義との対立、自己決定権思想とぱた一なリズムの対立を理解し、自分の言葉で説明できるようにしておくこと。
4.	生命倫理と法 優生思想と医療 ハンセン病問題	第2回・第3回の講義内容をふまえ、優生思想、ハンセン病問題について、書籍やインターネット等を活用して、理解を深めておくこと。
5.	医療と法（1） 医療事故の現状 看護師の法的責任①	公益財団法人日本医療機能評価機構のホームページ等から、医療事故の現状について調べておくこと。
6.	医療と法（2） 看護師の法的責任②	配布レジュメを参考に、看護師の法的責任（刑事上の責任、民事上の責任、行政上の責任）について内容を理解しておくこと。
7.	医事法（1） 法の概念・分類 衛生法	法配布レジュメのほか、テキスト第一章「Ｂ　法の分類」「Ｃ　衛生法」をよく読んで内容を理解しておくこと。
8.	医事法（2） 厚生行政のしくみ	法配布レジュメのほか、テキスト第一章「Ｄ　厚生行政のしくみ」をよく読んで内容を理解しておくこと。
9.	看護法（1） 保健師助産師看護師法①	配布レジュメのほか、テキスト第二章「ＩＡ　保健師助産師看護師法」をよく読んで内容を理解しておくこと。
10.	看護法(2) 保健師助産師看護師法② 看護師等の人材確保の促進に関する法律	配布レジュメのほか、テキスト第二章「ＩＢ　看護師等の人材確保の促進に関する法律」をよく読んで内容を理解しておくこと。
11.	医事法 医師法 医療法 医療関係資格法	配布レジュメのほか、テキスト第二章「ⅡＡ　医師法」をよく読んで内容を理解しておくこと。
12.	保健衛生法 薬害・薬禍 B型肝炎 母体保護法	過去の薬禍・薬害問題について、各自で調べ、整理しておくこと。 B型肝炎とその救済策について整理しておくこと。
13.	薬務法・環境衛生法・環境法	配布レジュメのほか、テキスト第三～４章をよく読んで内容を理解しておくこと。
14.	社会保険法・福祉法・労働法	配布レジュメのほか、テキスト第六～九章をよく読んで内容を理解しておくこと。
15.	まとめ	配布レジュメを中心に、講義内容を復習しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　法律というと、難解で自分とは無関係なもの、と思われがちですが、実は、私たちの生活、とりわけ、看護師の業務とは密接に関連しています。法を守ることは、まず第一に患者さんを守ること、次に自分自身や自分の同僚を守ることと思ってください。できるだけ興味を持ってもらえるように工夫して進めていきたいと思いますが、日ごろから、映画やドラマ、小説などで、医療と法の問題に接しておいてください。

フィードバックの方法:　授業において全体に講評するほか、マナビーを活用して行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	社会の仕組みや、社会に存在している諸問題について、まず興味・関心を持ってください。そして、自分から積極的に情報を集め、しっかりと考え、さらに自分にできることを行動に移すように心がけてください。 到達目標にある、法に関する基本原理・原則の理解、法律学の諸分野における問題点についての正しい知識と、自分の意見・主張を、論理的に、適切な文章で説明できるかを基準とする。

教科書:　『看護関係法令』（医学書院）　最新版

参考書:　大谷　實『新　いのちの法律学　生命の誕生から死まで』（悠々社、2011年）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力

教員との連絡方法: オフィスアワー、大学WebMail<ntani@dwc.doshisha.ac.jp>

751400

家族関係論

光木　幸子、和泉　美枝、杉原　百合子

授業テーマ:

授業の概要: 家族を理解するため諸理論を理解し、家族を対象としたアセスメント方法と支援について学習する。

到達目標: （光木）[家族看護の理論と健康課題を抱える成人期患者家族への看護]
看護の対象である家族を理解するための家族機能・構造・発達等に関する考え方を学習し、療養している成人期患者を支える家族の事例をとおして家族アセスメント方法と支援について学習する。

（杉原）[高齢者を介護する家族への看護]
加齢に伴う疾病・障害を持ちながら在宅・施設で生活する高齢者とその家族を総合的に理解し、家族全体の課題として捉える視点とアセスメントについて理解できる。さらに介護という課題を担う家族がセルフケア機能を発揮できるための支援について理解できる。
（和泉）[子どもをもつ家族への支援]
少子高齢化が進む現代社会の中で育児をする家族の現状と親役割の獲得過程について、 さらに疾病・障害をもつ子どもと家族について学習をし、その支援方法について理解できる。

授業方法: 随時視聴覚教材・個人ワーク・グループワークを取り入れながら講義を行います。演習では与えられた課題を個人ワークやグループワークを通して完成しクラスで共有します。なお詳細は初回に説明を行います。講義資料はその都度配布する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	家族看護学とは （光木）	教科書第1章に目を通しておく
2.	家族とは （和泉）	自分の家族観について考えて（イメージして）おく
3.	看護学における家族の理解　ジェノグラムとエコマップ、家族機能（光木）	教科書第2章に目を通しておく
4.	家族看護を支える理論と介入方法（家族発達理論・家族システム理論・家族ストレス対処理論）（光木）	教科書第3章に目を通しておく
5.	家族看護の展開の方法 （光木）	教科書第4章に目を通しておく
6.	看護学における家族の理解を深める（GW）（杉原）	第2回講義で作成したレポートをもとに家族観について再考しておく
7.	急性期患者の家族看護 （光木）	教科書第5章のA）急性期患者の家族看護に目を通しておく
8.	新しい生命を迎える家族の支援（和泉）	
9.	終末期患者の家族看護　（光木）	教科書第5章のC）終末期の患者の家族看護に目を通しておく
10.	在宅療養者の家族への看護 （杉原）	事前配布資料に目を通しておく
11.	高齢者の患者の家族看護（杉原）	教科書第5章のF）高齢者の患者の家族看護に目を通しておく
12.	周産期に関する家族看護 （和泉）	教科書第6章に目を通しておく
13.	障害をもつ子どもと家族の支援 （和泉）	教科書第5章のD）先天奇形をもつ児の家族看護に目を通しておく
14.	看護学における家族の理解を深める（GW発表）（杉原・和泉・光木）	発表資料の作成と準備
15.	まとめ（杉原）	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 個々の提出物はコメントをつけて返却する
発表については随時講義内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60	看護職者としての家族への支援方法に対する基礎知識の習得度を評価する
発表・討論	10	発表資料の内容と討論における参加態度を評価する
態度	20	積極的に個人ワークやグループワークを行い、主体的に学習しているか評価する
出席	10	積極的に授業に参加し、主体的に学習しているか評価する

教科書: 系統看護学講座　家族看護学　医学書院

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワーおよび講義の前後に教室内で対応する

751500

保健医療システム論

岡山　寧子、北尾　和弘、佐藤　卓利、里村　由紀子

授業テーマ:　保健医療福祉のシステムを行政と経済の視点から学習する

授業の概要:　少子高齢化の進行や国民ニーズの多様化・複雑化、また、地方分権の推進によって、住民に身近な保健福祉のサービスは県から市町村へ、サービスの提供者は、行政から民間事業者に移行される一方で、国際化が進み地球規模での感染症への対応が要求されるなど、保健・医療・福祉の各分野を取り巻く環境は大きく変化している。ここでは、保健医療福祉のシステムを行政と経済の視点から学習する。

到達目標:
1.保健医療福祉行政の変遷とその理念について理解する。
2.保健医療福祉を推進する行政や財政のしくみについて理解する。
3.保健医療福祉行政の実際について、その全体像、母子や高齢者対策、健康危機対策を理解する。
4.日本の医療保障制度について理解する。
5.医療保障制度のしくみと経済について、医療保険、介護保険、高齢者医療などから理解する。
6.経済的視点からみた地域包括ケアシステムについて理解する。

授業方法:　講義、演習、グループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	保健医療福祉行政の変遷とその理念（里村）	今まで自分が利用した保健医療福祉制度について調べておく 教科書p2-6,p18-30を読んでおく
2.	保健医療福祉活動を推進する行政のしくみと機能（里村）	配布資料の復習 教科書p54-61,150-168を読んでおく
3.	保健医療福祉財政のしくみ（里村）	配布資料の復習 教科書p74-80を読んでおく
4.	保健医療福祉行政の実際①母子への保健医療福祉施策（里村）	配布資料の復習 教科書p25-52,p136-139を読んでおく
5.	保健医療福祉行政の実際②健康づくりから高齢者への保健医療福祉施策（里村）	配布資料の復習 教科書p25-52,139-142を読んでおく
6.	保健医療福祉行政の実際③難病、精神障害者保健医療福祉施策（里村）	配布資料の復習 教科書p25-52,p142-148を読んでおく
7.	国および地方自治体における保健医療福祉計画（北尾）	教科書p176-209を読んでおく
8.	保健医療福祉行政の実際④健康危機管理（災害、感染症対策）（北尾）	最近起こった災害、感染症について調べておく 教科書p46-49を読んでおく
9.	日本の医療保障制度ー社会保障としての医療経済、年金、健康保険、介護保険、医療保険（佐藤）	医療制度について調べておく
10.	医療保障制度のしくみと経済①医療保険制度、診療報酬制度（佐藤）	前回配布資料の復習
11.	医療保障制度のしくみと経済②高齢者の医療制度（佐藤）	前回配布資料の復習
12.	医療保障制度のしくみと経済③介護保険制度（佐藤）	前回配布資料の復習
13.	経済的視点からみた地域包括ケアシステム（佐藤）	地域包括ケアシステムについて調べておく
14.	経済的視点からみた介護・看護（佐藤）	前回配布資料の復習
15.	まとめ	1～14回の講義内容をまとめる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義またはmanabeでまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	80	到達目標1～6の修得状況
授業への参加度	20	授業への参加、授業態度

教科書:　医学書院　標準保健師講座・別巻1　保健医療福祉行政論（著者代表：藤内修二）

参考書:　講義中に適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　講義前後で対応する

751600

保健医療統計

眞鍋　えみ子、藤井　健志、小松　光代

授業テーマ:　統計学の基礎と統計的手法の理解

授業の概要:　看護職実務上や看護研究で必要な統計的な基礎知識や統計的手法を修学する。データの集計方法など推計学の基本的事項を扱った上で、統計的検定の方法とその解釈の仕方について学習する。
アンケート調査による統計処理を行い、結果のまとめ、発表のプロセスを通して、地域や学校における保健活動や健康管理に必要な情報検索、情報の収集・分析方法等を学ぶ。

到達目標:　1）統計的な基礎知識について理解する。
2）表計算ソフト、統計処理ソフト、スライドソフトの使い方および推測統計学の考え方を理解する。

授業方法:　講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	基礎統計量（統計用語とさまざまな代表値）:藤井4/10	
2.	母集団と標本（パラメトリック・ノンパラメトリックデータ）:藤井4/17	前回の授業資料内容を理解しておくこと
3.	基礎統計量（分散、標準偏差、標準誤差）:藤井4/24	前回の授業資料内容を理解しておくこと
4.	統計的検定と統計的推論の考え方:藤井5/15	前回の授業資料内容を理解しておくこと
5.	相関係数と回帰分析:藤井5/29	前回の授業資料内容を理解しておくこと
6.	χ2検定（分割表）:藤井6/5	前回の授業資料内容を理解しておくこと
7.	2つの平均を比較する（t検定）:藤井6/19	前回の授業資料内容を理解しておくこと
8.	3つ以上の平均を比較する（分散分析と多重比較）:藤井6/26	前回の授業資料内容を理解しておくこと
9.	質問紙調査票の作り方:眞鍋5/8	エクセルの基本的な使い方（データ入力やグラフ作成）を確認しておくこと
10.	質問紙調査票の作成と調査依頼、データ入力表の作成:眞鍋5/22	グループでテーマに沿った調査項目を作成し、調査票を作成する。調査票は、期日までにマナビーを用いて送信する
11.	データ収集・入力、エクセルの操作方法:眞鍋6/12	授業日までにグループで作成した調査票を用いて調査を実施する
12.	SPSS操作方法（1）:眞鍋7/3	エクセルを用いてデータの入力と入力データの確認をして、期日までにマナビーを用いて提出する
13.	SPSS操作方法（2）:眞鍋7/10	期日までにマナビーを用いて課題を提出する
14.	報告書の作成:小松7/17	報告書の着眼点や構成を考えておく
15.	報告書発表・まとめ:小松7/24	報告書の内容を発表できるように準備する

受講者へのメッセージやアドバイス:
・主体的に学習し、理解を深めようとする姿勢が求められます。
・エクセルの基本的な使い方（データ入力やグラフ作成）は習得しておいてください。
・授業内容9でグループを構成し、それ以降はグループ単位で学習をすすめていきます、遅刻のないようにしてください。
・授業で扱った内容については、教科書、参考文献もしくはweb等の解説をあたり、理解を深めてください。
・授業内容11-14では、USBメモリーを準備してください。

フィードバックの方法:　質問やコメントペーパー等に対する受講生へのフィードバックは教室でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	授業内容1～8について統計的な基礎知識の理解度により評価する
授業への参加度	30	授業9～15では授業への態度や課題への取り組み状況により評価する
報告書	20	質問紙調査結果のまとめの仕上がり度合

教科書:　畠慎一郎・田中多恵子　SPSS超入門　インストールからはじめるデータ分析　東京図書　（授業10～15で使用）

参考書:
浜田知久馬　学会・論文発表のための統計学—統計パッケージを誤用しないために　真興交易医書出版部
足立堅一　統計学超入門　篠原出版新社
野村英樹・松倉知晴　本当はやさしい臨床統計　中山書店
内田治 すぐわかるSPSSによるアンケートの調査・集計・解析（第5版）　東京図書
内田治　すぐわかるSPSSによるアンケートの統計的検定　東京図書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

751700

看護学概論

當目　　雅代、片山　　由加里

授業テーマ:　看護の概念と看護職の役割

授業の概要:　看護学生が看護学について初めて学ぶ科目である。看護は主要な4つの概念で構成されている。「看護の対象となる人間、対象の目的となる健康、対象がおかれている環境」を知ることで「看護」とは何かを考える。また、看護学を学ぶ導入として医療チームや看護倫理について学習する。

到達目標:　1）看護学の導入として、看護の概念や定義、専門職としての看護、看護の対象者の特徴を学ぶことを通して、看護学についての理解を深める基盤とする。
2）医療における自己決定権と患者の権利擁護について理解する

授業方法:　テキストやレジュメを使って講義形式で行い、適宜、グループワークを取り入れる。
必要に応じて、視聴覚資料や参考文献の資料を用いる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護学コースガイダンス（當目）	教科書を読み、教科書の構成を確認する。
2.	看護の概念と定義、学問としての看護学（當目）	増田れい子さんの本を読んでおく
3.	看護の歴史（當目）	チームの中の看護職を考えるので、医療チームについて事前学習する。
4.	看護教育制度（當目）	自分が学ぶ看護学について考える
5.	看護の主要概念：人間とは（當目）	人間に関する記事や本を読んでおく
6.	看護の主要概念：健康とは(當目）	健康に関する記事や本を読んでおく
7.	看護の主要概念：環境とは（當目）	環境に関する記事や本を読んでおく
8.	保健医療システム：病院の役割と機能（當目）	実習病院の機能や役割を考える
9.	看護職者の倫理観（當目）	看護職としての責任と義務を考える
10.	保健・医療・福祉における看護職の役割（當目）	チームの中の看護職に役割を考える
11.	中間のまとめ	
12.	健康ステージと看護（片山）	健康に関する本・記事などを読んでくる。
13.	ライフサイクルと看護（片山）	人間に関する本・記事などを読んでくる。
14.	.医療における自己決定権と患者の権利擁護（片山）	現代の医療に関する本・記事などを読んでくる。
15.	看護のインフォームドコンセントと個人情報の管理（片山）	チームの中の看護職の役割について考えてくる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　看護学生としての看護を考えるファーストステップであることの自覚をもって授業に臨むようにする。

フィードバックの方法:　授業時間の終わりに授業の質問を受け付け、疑問点を共有する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	50	目標1の達成度を評価する
課題レポート	20	目標2の達成度を評価する
授業への参加度	15	積極的に授業に参加する
小レポート	15	目標1の達成度を評価する

教科書:　ライダー島崎玲子他編著：看護学概論　看護追及へのアプローチ第3版，医歯薬出版会（2015）
増田れい子『看護―ベッドサイドの光景』岩波新書

参考書:　日本看護協会出版会監修『新版看護者の基本的責務：定義・概念/基本法/倫理』日本看護協会出版会（2016）
日本看護協会編『日本看護協会看護業務基準集2007年改訂版』日本看護協会出版会（2007）
立川昭二『病気の社会史』岩波文庫（2007）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー　マナビーの掲示板

751800

看護理論

片山　　由加里

授業テーマ:　看護理論を知る

授業の概要:　看護理論とは、看護の本質の探究であり、看護実践の軸となるものです。ナイチンゲールの時代から現代までの理論の発展を学ぶことで看護の基本を理解し、ヘンダーソンの理論を通じて病のある人をどのように理解していくか、そして、どう関わるのかを学習します。

到達目標:
1. 看護実践における看護理論の必要性について理解する
2. 看護理論の発展を通して看護の基本について理解する
3. 代表的な看護理論を用いて看護の対象者を理解することを体験する

授業方法:　指定の書籍3冊を読み込みます。主要な看護理論を学び、患者事例を分析します。個人での発表や学生グループでの討議・発表を行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護理論とは	看護を受けた体験と看護を行った体験」を思い出しておいてください。
2.	ナイチンゲール「看護覚え書き」	「新版　愛、深き淵より」1章を読んでおく。
3.	グループワーク①環境と衛生	「看護覚え書き」の指定の章を読んでおく。
4.	グループワーク②生活と看護の役割	「看護覚え書き」の指定の章を読んでおく。
5.	発表①環境と衛生	「新版　愛、深き淵より」2章を読んでおく。
6.	発表②生活と看護の役割	「新版　愛、深き淵より」3章を読んでおく。
7.	様々な看護理論家とその理論 「私たちの健康の体験」	「新版　愛、深き淵より」をすべて読んでおく。
8.	ヘンダーソン「看護の基本となるもの」	「看護の基本となるもの」序章を読んでおく。
9.	ヘンダーソン「看護の独自性とケア」	「看護の基本となるもの」1章を読んでおく。
10.	トラベルビー「人間関係と体験の意味」	演習記録を作成する。
11.	ロイ「内的・外的環境と適応」	演習記録を作成する。
12.	患者体験の理解「基本的ニード」	演習記録を作成する。
13.	患者体験の理解「体験の意味」	演習記録を提出する。
14.	日本の看護と「安全・安楽・自立」	「看護の基本となるもの」をすべて読んでおく。
15.	「私の看護観」	自分の看護観を書きまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各回で事前学習やレポートを指示します。その都度、丁寧に確実に行ってください。

フィードバックの方法:　学生の発表やグループワークの発表、演習課題にコメントし、演習記録の修正や最終レポートに活かすことができるようにします。各回授業にてミニッツペーパーを配布します。記載された疑問点や理解状況には次の回にて回答します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業・グループワークへの参加度	30	授業やグループワークへの参加状況、グループでの発表を評価します。
演習課題	40	到達目標2と3の達成状況を評価します。
最終レポート	30	到達目標2と3が達成できたかどうか、到達目標1ができたかどうかを評価します。

教科書:
ヴァージニアヘンダーソン著　湯槙ます・小玉香津子訳(2006):看護の基本となるもの新装版 日本看護協会出版会
星野富弘(2000):新版　愛、深き淵より 学研パブリッシング
フロ-レンス・ナイチンゲール著　湯槙ます他訳(2011):看護覚え書改訳第7版 現代社

参考書:
茂野香おる他(2015):系統看護学講座　基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ, 医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビー掲示板

751901、02

ヘルスアセスメント

片山　　由加里

授業テーマ:　バイタルサインの測定技術を習得する。看護アセスメントの最初のステップを理解する。

授業の概要:　ヘルス（健康）アセスメントは保健・医療・福祉チームに共通する医療専門職のアセスメントです。外観の観察やバイタルサインの測

到達目標:
1. ヘルスアセスメントの意義と目的を説明できる
2. バイタルサインの観察・測定が正確にできる
3. 主観的情報と客観的情報を区別し、望ましい状態や基準値と比較分析・解釈できる

授業方法:　基礎看護学実習室にて、看護師役・患者役になりながら技術を修得します。自己の技術のふりかえりや観察結果のアセスメントのために演習記録を作成します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ヘルスアセスメントとは	Nursing Skills視聴「接遇マナー」
2.	全体の外観、観察と報告	Nursing Skills視聴「病室の環境整備」
3.	実習室①ヘルスアセスメントの環境	Nursing Skills視聴「手指衛生」
4.	身体計測、健康歴の聴取	Nursing Skills視聴「身体の計測（身長・体重・腹囲）」
5.	バイタルサインとは	Nursing Skills視聴「腋窩検温：バイタルサインの測定」
6.	実習室②血圧測定	ユニフォーム着用と身だしなみ
7.	実習室③身体計測	Nursing Skills視聴「血圧：バイタルサインの測定」
8.	体温の観察	24時間リズムの体温を測定する
9.	脈拍・血圧の観察	バイタルサイン観察の自己練習（PSC利用）
10.	呼吸の観察	バイタルサイン観察の自己練習（PSC利用）
11.	実習室④バイタルサイン測定	バイタルサイン観察の自己練習（PSC利用）
12.	実習室⑤対象者の観察と看護	バイタルサイン観察の自己練習（PSC利用）
13.	ヘルスアセスメントの実際	演習記録を作成する
14.	実習室⑥総合(安全・安楽・自立)	血圧測定の自己練習（PSC利用）
15.	ヘルスアセスメントの記録	血圧測定の自己練習（PSC利用）

受講者へのメッセージやアドバイス:　限られた時間内で正確な技術を身に付けるために、授業への積極的な参加と集中力が必要です。確実に修得するまで、実習室やPSセンターにきて練習しましょう。
同時進行している「体のしくみ」も踏まえながら各回で解らないところがないようにし、「看護学概論」、「看護理論」の学修と併せて、科目終了直後の「基礎看護学実習Ⅰ」に向かい、療養患者に接するための必要最低限の態度を身に付けます。

フィードバックの方法:　実習室での技術修得は複数教員による少人数制をとり、各学生に直接的にコーチングしていきます。観察方法や技術修得を振り返るための演習記録に対しては解説やコメント等で指導していきます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	10	講義および実習室の演習に参加し、クラスやグループに貢献できているかどうかを評価します。
演習記録	20	授業目標2を理解、授業目標3の達成を評価します。
筆記試験	30	授業目標1、2、3に対する知識と理解を評価します。
実技試験	40	バイタルサインの観察の手技が正確にできるかどうかの実技試験をひとりずつ実施します。

教科書:
茂野香おる他（2015）：系統看護学講座　基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ　医学書院
医療情報科学研究所（2015）：フィジカルアセスメントがみえる　メディックメディア

参考書:
阿曽洋子(2011)：基礎看護技術第7版　医学書院
山内豊明（2011）：フィジカルアセスメントガイドブック第2版　医学書院
角濱春美（2008）：看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術　メジカルフレンド社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示板

752001、02

フィジカルアセスメント

木村　　静

授業テーマ:　フィジカルの情報収集技術とアセスメントする方法を修得する

授業の概要:　解剖生理に関する基礎的な知識を前提とし、患者への的確な問診と看護者の体表面から行う身体観察を通して、情報を正確に収集する方法を理解する。
また、収集した情報を基準値や標準値と比較することにより、情報を的確に分析する方法を理解する。
学習する単元としては、呼吸器系、循環器系、運動器系、消化器系、泌尿器系、脳神経系、生殖系を含む。

到達目標:
1. 的確に問診やフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)を行うために必要な基礎的知識を習得することができる。
2. 的確に問診やフィジカルイグザミネーション(視診、触診、打診、聴診)を行い、正確な身体の情報を得ることができる。
3. 得られた身体の情報について、基準値や標準値と比較しアセスメントすることができる。

授業方法:　授業は、講義、デモンストレーション、演習より構成される。なお、デモンストレーションや演習では、シミュレーター教材も使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	科目のオリエンテーション フィジカルアセスメントとは 生殖の基礎知識	シラバスを読む(予習) 教科書関連ページを読む(予習) 学習内容を整理する(復習)
2.	活動・休息の基礎知識【体表解剖・胸郭/呼吸器系】	教科書関連ページを読む(予習) 学習内容を整理する(復習)
3.	活動・休息のフィジカルアセスメント【体表解剖・胸郭】(デモンストレーション・実技演習)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習)
4.	活動・休息のフィジカルアセスメント【呼吸器系】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
5.	活動・休息の基礎知識【循環器系】	教科書関連ページを読む(予習) 学習内容を整理する(復習)
6.	活動・休息のフィジカルアセスメント【循環器系】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
7.	活動・休息の基礎知識【運動器系】	教科書関連ページを読む(予習) 学習内容を整理する(復習)
8.	活動・休息のフィジカルアセスメント【運動器系】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) グループでレポート課題を行う(復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
9.	摂取・栄養の基礎知識【消化器系①】	教科書関連ページを読む(予習) 学習内容を整理する(復習)
10.	摂取・栄養のフィジカルアセスメント【消化器系①】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	プラクティカルサポートセンターで自己学習を行う(予習・復習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) レポートを作成する(復習)
11.	摂取・栄養の基礎知識【消化器系②】	教科書関連ページを読む(予習) 学習内容を整理する(復習)
12.	摂取・栄養のフィジカルアセスメント【消化器系②】(デモンストレーション・実技演習・アセスメント)	ナーシングスキルにて関連項目を学習する(予習・復習) レポートを作成する(復習)
13.	分泌・排泄のフィジカルアセスメント【直腸・肛門/泌尿器系】(基礎知識・実技演習・アセスメント)	教科書関連ページを読む(予習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) 学習内容を整理する(復習) レポートを作成する(復習)
14.	知覚・認知のフィジカルアセスメント【脳神経系】(基礎知識・実技演習・アセスメント)	教科書関連ページを読む(予習) ナーシングスキルにて関連項目を学習する(復習) 学習内容を整理する(復習) レポートを作成する(復習)
15.	まとめ	全学習範囲の総復習を行う(復習)

受講者へのメッセージやアドバイス:　上記15コマの授業内容は、順序を変更することがあります。

フィードバックの方法:　各単元ごとに課したレポートに、コメントをつけて返却します。
また、演習における学生の技術や態度に対し、コメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
記述試験	50%	到達目標1. の理解度より評価する。
演習態度	30%	到達目標1. 2. の達成度や態度、意欲より評価する。
レポート	20%	到達目標2. 3. を踏まえ、実技演習の振り返りより、自分が根拠を理解し配慮をもって技術を達成できたかを基準とする。

教科書:
フィジカルアセスメントがみえる、MEDIC　MEDIA
山内豊明、フィジカルアセスメントワークブック、医学書院

参考書:
横山美樹、はじめてのフィジカルアセスメント、メヂカルフレンド社
山内豊明、フィジカルアセスメントガイドブック第2版、医学書院
岡崎美智子編、根拠がわかる基礎看護技術、メヂカルフレンド社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	オフィスアワーを活用してください。

752300

看護過程論

片山　由加里、下岡　ちえ、東　真理、宇野　真由美

授業テーマ:　問題解決技法を用いて個別的な看護方法を導き出す

授業の概要:　看護過程の一連のプロセス、すなわち、根拠のある看護援助を立案する方法を学びます。療養するひとりの人物の理解とその情報は複雑で膨大ですが、全ての回を使って段階的に進めることでその全容を把握します。看護理論の枠組みを用いて患者情報に基づく健康問題を抽出し、個別的な援助を立案します。1年次から学習してきたアセスメントは観察とその分析・解釈の段階から援助に至る段階へと進むこととなります。

到達目標:
1. 問題解決技法を用いた看護過程論を根拠に基づく看護(EBN)として理解できる
2. 事例における個別的な看護方法を導き出すことができる
3. 看護過程の展開を演習記録として適切に表現することができる

授業方法:　各回で段階的に示される課題を遂行しながら、事例を分析します。事例分析は学生個々で展開しますが、学生同士のグループワークを活用します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護過程と臨床判断:看護の問題解決技法	1年次に学修した「アセスメント」について復習しておく。
2.	看護が扱う健康問題とその根拠(EBN)	事例中の疾患の病態生理を学修する。
3.	情報収集(観察・測定、コミュニケーション、記録物)	健康知覚-健康管理に必要な患者の情報(能力)は何であるかをリストアップしてくる
4.	情報の解釈(健康知覚-健康管理)	事例を読み、指示する領域に関する箇所をマーキングしてくる。
5.	情報の解釈(栄養、排泄)	事例を読み、指示する領域の情報整理(望ましい状態や基準値との比較分析)をしてくる。
6.	情報の解釈(活動、休息)	事例を読み、指示する領域の情報分析・解釈(健康問題の抽出)をしてくる。
7.	情報の解釈(認知・知覚)	事例を読み、全ての領域の情報整理と分析・解釈をしてくる。
8.	情報の解釈(心理、社会、スピリチュアル)	指示する諸疾患の病態関連図を作成する。
9.	情報の統合(関連図、看護診断の抽出)	考え得る全ての健康問題を入れ込んだ看護関連図を作成する。
10.	看護診断のリストアップ	各健康問題の優先性を検討し、看護診断リストを作成する。看護診断の根拠と看護の方向性を記載する。
11.	看護計画立案:目標	指示する看護診断の看護目標を作成する。
12.	看護計画立案:計画	指示する看護診断の看護計画を作成する。
13.	実施と評価	1日の看護計画を作成する。
14.	看護記録、実習記録	看護計画と看護診断の評価を作成する。
15.	看護実践と看護過程:状況下の思考と行動	実習記録の書き方について理解し、解らないところを整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回、課題があります。授業は課題を実施した上で臨む必要があります。既習科目の十分な知識はもちろん、事例に伴う新たな知識も必要になります。殆どの回でグループワークを行いますが、その成立のためにも、前もって各自が課題を遂行していることが不可欠となります。科目終了直後の「基礎看護学実習Ⅱ」において、受け持ち療養患者に看護するための必須の技術となります。確実に習得しましょう。

フィードバックの方法:　学生が作成・提出した課題を用いて、どのように事例展開をしていくかという修正点や改善点を説明します。また、自らの作成した課題がどの程度の到達状況にあるのかが判り、最終的な目標が達成できるように、その内容や程度がどうであるかを段階的に各自に示します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
演習記録	50	演習記録を添削し、到達目標2と3ができるようになったかを評価します。
グループワークへの参加度	30	グループワークでの発言や貢献度を評価します。
授業への参加度	20	積極的に授業に参加し、到達目標1ができたかどうかを評価します。

教科書:
任和子編(2015)実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド　照林社
マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳(2009) アセスメント覚え書　ゴードン機能的健康パターンと看護診断　医学書院
ヴァージニアヘンダーソン著　湯槙ます・小玉香津子訳(2006):看護の基本となるもの新装版 日本看護協会出版会
星野富弘(2000):新版　愛、深き淵より 学研パブリッシング

参考書:
茂野香おる他(2015):系統看護学講座　基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ　医学書院
T.　ヘザー・ハードマン／上鶴　重美原書編集、日本看護診断学会監訳、上鶴重美訳(2015)NANDA-I看護診断　定義と分類 2015-2017原書第10版　医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビーの掲示板

752400

看護コミュニケーション論

木村　　静、片山　　由加里

授業テーマ:
自らが持つ看護コミュニケーション力を高める。

授業の概要:
第1回～第4回、第15回:
実習や日常の体験に照らし合わせ、看護のコミュニケーションの理解を深めます。
自らが持つ看護コミュニケーション力を高め、援助的関係の形成や看護の対象者へのコミュニケーション技術を習得します。
第5回～第14回:
看護者として援助的人間関係の構築に必要なコミュニケーションの基礎的知識について学習します。
また、コミュニケーション技法を活用し、より良い人間関係の構築を目指したコミュニケーションを行う力を身に付けます。

到達目標:
第1回～第4回、第15回:
1. 援助的関係の形成とコミュニケーションについて理解する
2. 看護の対象者のコミュニケーションについて理解する
3. 自己の理解を深め、受容と共感における他者との関係づくりの力を養う

第5回～第14回:
1. コミュニケーションの理論や技法に関する基礎的知識を理解することができる
2. コミュニケーション技法を実践的に活用する能力を習得することができる

授業方法:
第1回～第4回、第15回:
看護のコミュニケーションの基本について解説した後、各自の実習や日常体験を「プロセスレコード」等によって振り返り、学生グループ間で討議や発表を行います。
第5回～第14回:
授業は、講義、グループディスカッション、グループ発表より行います。
基礎看護学実習Ⅰでの患者とのコミュニケーションの振り返りも行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コミュニケーションとは:人の中にある意味と私たちを取り巻く状況(片山)	教科書(精神看護出版)の該当章を読んでおく。
2.	私たちのコミュニケーションの傾向:対立場面と感情(片山)	教科書(精神看護出版)の該当章を読んでおく。
3.	コミュニケーション技法、援助する人・援助を受ける人(片山)	各自が体験した実習や日常の場面を「プロセスレコード」に書き起こす。
4.	自己理解と他者理解、プロセスレコード(片山)	「プロスレコード」を完成させる。
5.	人間関係を構築するためのコミュニケーションの基本(木村)	授業内容を復習する
6.	実習体験の振り返り【患者とのコミュニケーション】①グループディスカッション(木村)	実習体験の振り返りに関するレポートを作成して臨む
7.	実習体験の振り返り【患者とのコミュニケーション】②グループ発表、まとめ(木村)	グループ発表原稿を準備して臨む
8.	看護者に求められるコミュニケーション①【看護コミュニケーションとは、コミュニケーションの構成要素】(木村)	授業内容を復習する
9.	看護者に求められるコミュニケーション②【コミュニケーション技術の実際、共感、傾聴】(木村)	授業内容を復習する
10.	コミュニケーションに問題のある場面の振り返り①【プロセスレコードの活用の実際】(木村)	授業内容を復習する
11.	コミュニケーションに問題のある場面の振り返り②グループディスカッション(木村)	レポートを作成して臨む
12.	コミュニケーションに問題のある場面の振り返り③グループ発表、まとめ(木村)	グループ発表原稿を準備して臨む
13.	日常生活の援助場面におけるコミュニケーション①グループディスカッション(木村)	グループディスカッション内容を整理する
14.	日常生活の援助場面におけるコミュニケーション②グループ発表、まとめ(木村)	グループ発表原稿を準備して臨む
15.	看護のコミュニケーションとは:多様性との共生、保健・医療・福祉チームの協働(片山)	教科書(医学書院)の該当章を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:
基礎看護実習Ⅰや自分自身の日々の体験、感情や感覚を大切に、講義やグループワークに積極的に参加してください。また、看護コミュニケーションは独立して修得できるものではなく、看護学の専門知識を必要としますので、他の授業科目も十分に学修を進めてください。

フィードバックの方法:
第1回～第4回、第15回:
「プロセスレコード」などの演習記録やグループ発表に対して教員よりコメントします。
第5回～第14回:
発表やレポートに対し、コメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	授業に積極的に参加し、グループワークの発言や到達目標が達成できるかを評価する。
レポート	60	到達目標を理解した上で、到達目標に関する実践について論理的に説明できるかを演習記録(プロセスレコード)から評価する。
欠席		減点する

教科書:
第1回～第4回、第15回:
茂野香おる他(2015):系統看護学講座基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ　医学書院
第5回～第14回:
適時プリント等を配付する。

参考書:
第1回～第4回、第15回:
アーネスティン・ウィーデンバック著池田明子訳(2007):新装版コミュニケーション 日本看護協会出版会
第1回～第4回、第15回:
阿曽洋子(2011):基礎看護技術第7版 医学書院
第5回～第14回:
適時紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力
教員との連絡方法:	オフィスアワー、マナビー

752500

睡眠改善学

田中　　秀樹

授業テーマ:　生体リズムとその調整方法の理解

授業の概要:　「24時間社会」と言われる今日、生体リズムと生活習慣病やうつ病との関連が明らかにされる等、日常生活やビジネス、ヘルスケアの他、子どもの成長や教育にも生体リズムを整えることの重要性が指摘されている。看護職においては患者の生体リズムを整え、疾病の予防や治癒を促進するだけでなく、看護師自身の健康、ストレスマネージメントのためにも重要である。特に夜勤やシフトワークは、人間の生体リズムにとって過酷な仕事環境である。生体リズムやシフトワークに関する理解を深め、その調整のスキルを身につけることは、身体の負担が少なく、医療事故やミスを防ぐ上でも重要である。
科学的根拠に基づいた知識と技術を理解し、睡眠改善策の提案や援助方法について学習する。

到達目標:　1)生体リズムや睡眠に関する知識や評価方法、睡眠改善技術を理解できる。
2)自分自身の睡眠や生体リズムのモニタリングとその評価ができ、睡眠改善策や援助方法について提案できる。
3)提案した睡眠改善策や生体リズムの調整方法について実践できる。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	睡眠改善学総論	教科書の該当部分を読んでおくこと
2.	睡眠障害	前回の授業内容の理解と事前配布資料を読んでおくこと
3.	睡眠知識教育の重要性(1)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
4.	睡眠知識教育の重要性(2)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
5.	睡眠中の生命現象(1)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
6.	睡眠中の生命現象(2)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
7.	睡眠と生体リズム(1)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
8.	睡眠と生体リズム(2)	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
9.	睡眠環境、運動と睡眠	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
10.	社会と睡眠、子どもと睡眠	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
11.	睡眠の評価技術	前回の授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
12.	セルフモニタリング課題の検討・グループワーク	前回の授業内容の理解とセルフモニタリングから自分の睡眠の課題を考えること
13.	グループワークの発表、睡眠相談・睡眠改善技術	前回までの授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
14.	看護職・介護職の睡眠	前回までの授業内容の理解と教科書の該当部分を読んでおくこと
15.	まとめ	これまでの授業内容を見直すこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　8/28～30の期間に集中講義で授業を行います。

フィードバックの方法:　コメントペーパー等に対するのフィードバックは、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席及びコメントペーパー提出	40	到達目標1)2)に関する問題意識や関心度を評価する。
セルフモニタリング課題への取り組み	10	準備学習とグループワークでの到達目標2)3)の態度・意欲を評価する。
レポート	50	到達目標1)2)を理解した上で、問題点を明らかにし、その理由を説得力をもって説明できるか、実現可能な具体的な対策を立案しているかを基準とする。

教科書:　日本睡眠改善協議会, 基礎講座 睡眠改善学, ゆまに書房

参考書:　応用講座 睡眠改善学, 日本睡眠改善協議会, ゆまに書房
ぐっすり眠れる3つの習慣, 田中秀樹, ベスト新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対

752600

基礎看護学実習Ⅰ

看護学部教員

授業テーマ:

授業の概要:
実習を通して、入院患者における療養環境を知り、療養生活への支援から看護の役割について学ぶ。
さらに、ヒューマンケアの基本として倫理的態度を養い、看護への興味や関心を高めることを狙いとする。
なお、学生は、臨地実習において入院患者の療養生活を観察し、看護師が行っている療養生活への支援場面を見学する。

到達目標:
1. 入院患者を取り巻く療養環境を知ることができる。
2. 療養生活への支援に関する看護の役割を知ることができる。
3. 看護職者として必要な倫理的態度を身につけることができる。

授業方法:
学生は5日間実習を行う。
実習初日と最終日は学内、2～4日目は臨地実習である。
1病棟につき学生5～6名程度とし、1名の教員が1病棟を担当する。
なお、上記記載の担当者以外に、実習助教、実習助手も実習指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	実習1日目:実習オリエンテーション(学内実習)	実習要綱・実習要項を読み、体調を整えて、万全の姿勢で臨む。 事前に、1年次生春学期の既習学習内容を整理しておくことが望ましい。
2.	実習2日目:病院・病棟オリエンテーション/看護活動の見学(臨地実習)	日々の記録を行う
3.	実習3日目:療養環境の観察/療養生活への支援場面の見学(臨地実習)	日々の記録を行う
4.	実習4日目:療養環境の観察/療養生活への支援場面の見学(臨地実習)	日々の記録を行う
5.	実習5日目:実習のまとめ・発表会(学内実習)	実習全体を振り返り、まとめの記録を行う。 グループ内で発表内容を準備した上で臨む。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
実習記録に対し、コメントを行う。
実習最終日には、担当教員が個人面談を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習内容(知識、技術、態度)	100%	到達目標1. 2. 3. の理解度、達成度、態度、意欲より総合的に評価する。

教科書:
実習要綱、実習要項、配布資料

参考書:
フローレンス・ナイチンゲール著、湯槇ますほか訳、看護覚え書－看護であること　看護でないこと－、現代社
ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯槇ますほか訳、看護の基本となるもの、日本看護協会出版会
東京医科大学看護専門学校編著、よくわかる看護者の倫理綱領、照林社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
オフィスアワーを活用してください。

752700

基礎看護学実習Ⅱ

看護学部教員

授業テーマ:
看護の方法を理解する

授業の概要:
入院療養患者を受け持ち、受け持ち患者と援助的関係をつくる。受け持ち患者に対する看護の体験を通して、看護過程の展開方法を学ぶ。
（実習要項に基づく）

到達目標:
（実習要項に基づく）
1. コミュニケーションを通して受け持ち患者との援助的関係をつくる取り組みができる。
2. 受け持ち患者の看護を体験できる。
3. 受け持ち患者の情報収集から計画立案までの看護過程のプロセスを理解できる。
4. 看護職者として必要な倫理的態度を身につけることができる。

授業方法:
学生は複数の実習病院に分かれて、2週間（10日間）の実習を行います。実習病棟別に学生グループで行動します。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションを受け、基礎看護学実習Ⅱ実習要項に従って進めます。担当教員と病院の実習指導者による指導のもと、受け持ち患者とコミュニケーションをとり、診療補助の見学と生活援助の体験をします。患者の理解・情報分析や看護計画を病棟や学内のカンファレンスで発表・討議し、看護過程を展開・実践することで、看護実践力の基礎を習得します。指定された毎日の記録提出により記録物の指導も受け、看護過程の理解を深めます。	オリエンテーションを受け、基礎看護学実習Ⅱ実習要項を理解し、充分な予習をして実習に臨んでください。 とくに、バイタルサインの観察、フィジカルエグザム、生活援助技術を中心に技術練習をしておいてください。 また、看護過程の展開についてもやり方で解らないところがないようにしておいてください。 さらに、入院患者や病棟の特徴に伴って、各実習指導教員が事前学習を指示する場合もあります。

受講者へのメッセージやアドバイス:
欠席は原則として認めません。実習期間前から健康管理に注意し、実習施設への移動も含めて実習中の生活を整えるように行動してください。実習に関する学内等での説明会を必ず受け、実習に必要な持ち物や記録類の管理ができるようにしてください。各実習施設や担当教員からの予習課題を含め、既習科目の復習を含めて十分な予習を行ってください。
ひとりひとりの学生にとって個別的な臨床学習環境になります。大変貴重な機会ですので万全の態勢で臨み、様々な状況下においても主体的に行動できるようにしましょう。

フィードバックの方法:
原則として教員1名が学生5～7名の1グループを担当し、実習時間中は常に担当教員も看護ユニフォームを来て実習病棟に在住します。少人数制をとり、実習指導者と共に直接指導をすることで、学生がその時その場で看護実践をふりかえりながら、看護実践力を習得する体験をします。学生は記録指導も毎日受け、実践の実際の客観的な振り返りや実践の言語化と記録化についても学びます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
患者とのコミュニケーション	15	「患者とのコミュニケーション」を細項目で評価します。
看護の体験	25	「看護の体験」を細項目で評価します。
看護過程の展開	35	「看護過程の展開」を細項目で評価します。
看護職者としての倫理的態度	10	実習に積極的に参加したかどうかを含めて、「看護者としての倫理的態度」を減点法で評価します。
カンファレンスへの参加度	15	3回の学生カンファレンスを評価します。

教科書:
マージョリー・ゴードン著、上鶴重美訳（2009） アセスメント覚え書　ゴードン機能的健康パターンと看護診断　医学書院
茂野香おる他（2015）：系統看護学講座　基礎看護学第16版基礎看護技術Ⅰ　医学書院
角濱春美他（2015）：看護実践のための根拠がわかる基礎看護技術第2版　メヂカルフレンド社
任和子編（2015）：実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド　照林社

参考書:
実習要項、配布資料（プリント等）
T.　ヘザー・ハードマン／上鶴　重美原書編集、日本看護診断学会監訳、上鶴重美訳2015）NANDA-I看護診断　定義と分類 2015-2017原書第10版　医学書院
藤崎郁（2012）：フィジカルアセスメント完全ガイド第2版　学研

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
マナビー掲示板機能、オフィスアワー

752800

成人看護学概論

當目　　雅代、光木　　幸子

授業テーマ:　成人期の発達段階と成人期を取り巻く社会環境及び疾病構造

授業の概要:　人生の中で成人期が最も長い期間であり、成人期の対象は罹患する疾病も非常に多岐にわたっている。成人期の発達段階を踏まえて学習する。また、成人期にある対象が疾病を有した場合に、急性期、慢性期、回復期、終末期という経過別の特徴的な看護の導入を学習する。

到達目標:　1）ライフサイクルからみた成人期の特徴を理解し、成人保健の動向と課題及び保健・医療・福祉システムを学ぶ。
2）成人期の対象者を理解するための理論を学ぶ。

授業方法:　講義と演習グループワークで行う。補助者として葉山講師、小笠講師、田村実習助教、天野実習助教も担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	成人看護学とは（當目）	
2.	成人保健の動向と保健医療福祉対策　（光木）	教科書の該当箇所を読んでおく。
3.	健康状態が急激に変化し急性の状態にある人への看護（當目）	教科書の該当箇所を読んでおく。
4.	生活機能障害を有する人への看護（當目）	教科書の該当箇所を読んでおく。
5.	慢性的な経過をたどる健康障害を有する人への看護（光木）	教科書の該当箇所を読んでおく。
6.	人生の最期のときを迎える人への看護（光木）	教科書の該当箇所を読んでおく。
7.	がん患者の看護（光木）	がん患者の理解を深めておく。
8.	人生の最後のときを迎える人の看護：ACP（光木）	
9.	慢性看護学で活用する理論１：病みの軌跡（光木）	
10.	成人看護に有用な理論と概念２：ストレス理論・危機理論（當目）	自分のストレスフルな状況を想定しておく。
11.	成人看護に有用な理論と概念３：障害受領論（當目）	障害者の現状を理解しておく。
12.	成人看護に有用な理論と概念４：自己効力理論（光木）	
13.	医療保障制度（光木）	わが国の医療保障制度について事前学習する。
14.	成人看護領域のエキスパートナースの役割と活動（ゲストスピーカー）	専門看護師制度や認定看護師制度について事前学習する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　成人期の患者を理解するために、成人が取り巻く環境を理解しておく。

フィードバックの方法:　コメントペーパーについて回答する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	70	到達目標1・2に対しての達成度を評価する。
授業への参加度	15	積極的に参加しているか評価する。
課題レポート	15	到達目標1に対しての達成度を評価する。

教科書:　系統看護学講座　成人看護学総論　成人看護学〔1〕 医学書院

参考書:　新体系看護学　成人看護概論・成人保健　メヂカルフレンド社
成人看護学　成人看護学概論　NOUVELLE　HIROKAWA
ナーシンググラフィカ　成人看護学(1)成人看護学概論　MCメディカ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィースアワー、マナビー掲示板

752900

成人急性期看護援助論

當目　雅代、小笠　美春

授業テーマ:　手術療法により健康状態がクリティカルな状況にある患者の周手術期看護

授業の概要:　成人期を対象に、健康状態が急激に変化する急性期看護、特に手術療法に伴う看護援助方法を学ぶ。成人患者が手術による身体的、精神的、社会的な変化に適応するために、手術や麻酔が身体に及ぼす影響、手術を受ける患者の心理状態、手術前・中・後の身体的管理方法とその状態における日常生活援助方法について学習する。事前学習のためにマナビー上で動画配信したり、術後の患者の状態を再現したシミュレーションモデル人形を活用し、アクティブラーニングを行う。

到達目標:
1. 周手術期の定義を述べることができる。
2. 周手術期患者の不安・心配の定義を説明できる。
3. 手術の伴う生体反応および麻酔の影響を述べることができ、看護援助方法を説明できる。
4. 手術室看護について説明できる。
5. 手術に伴う生体損傷とその修復過程のアセスメントおよび看護援助の方法を説明できる。
6. 術後合併症のアセスメントと看護援助の方法を説明できる。
7. 術後の疼痛管理、輸液管理、創傷管理、ドレーン管理について看護援助の方法を説明できる。
8. 手術前オリエンテーションの必要性と方法を説明できる。
9. 胃がんで手術を受けた患者の看護過程の展開において関連図を描くことができる。
10. 胃がんで手術を受けた患者の看護過程の展開において情報の統合アセスメントができる。

授業方法:　講義を受けてから、それに関連する看護演習を実施する。また、術後管理看護アセスメントは個人及びグループワークで行う。天野実習助教も担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	周手術期看護の役割と定義（當目）	
2.	手術室看護1　安全対策、事故対策（小笠）	教科書の該当箇所を読んでおく。
3.	手術室看護2　手術室看護師の役割（小笠）	前回の授業内容を復習しておく。
4.	手術患者の身体的側面　手術に伴う麻酔の影響（小笠）	教科書の該当箇所を読んでおく。
5.	手術患者の身体的側面　手術に伴う生体反応（當目	教科書の該当箇所を読んでおく。
6.	術後看護　シミュレーションモデル演習（當目）	教科書の該当箇所を読んでおく。
7.	手術後合併症の予防と早期発見　呼吸器・循環器（當目）	教科書の該当箇所を読んでおく。
8.	手術後合併症の予防と早期発見　消化器・泌尿器・術後せん妄・感染症（當目）	教科書の該当箇所を読んでおく。
9.	手術後の疼痛管理・輸液管理・創傷管理・ドレーン管理（（小笠）	教科書の該当箇所を読んでおく。
10.	手術を受ける患者の心理状態（當目）	教科書の該当箇所を読んでおく。
11.	胃がん患者の看護過程の展開　関連図の考え方（當目）	教科書の第6章の事例を読んでおく。
12.	胃がん患者の看護過程の展開　統合アセスメントの考え方（小笠）	11回目の関連図を完成させておく。
13.	手術前検査と患者の準備（小笠）	既習の内容を復習しておく。
14.	集中治療室における看護ケア（ゲストスピーカー）	クリティカルケア領域のエキスパートナースについて学習しておく。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書と授業プリントは必携し、必ず事前に該当箇所を読んでおく。

フィードバックの方法:　術後観察に関する質問は学生間共有するためマナビー掲示板を活用し、受け付ける。関連図はコメントを入れて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	周手術期の看護についての知識を評価する
看護過程	15	患者の術後の全体像を描かているか評価する。
授業への参加度	15	積極的に授業や演習に参加しているか評価する。

教科書:
竹内登美子編：高齢者と成人の周手術期看護1　外来／病棟における術前看護、医歯薬出版、2012年
竹内登美子編：高齢者と成人の周手術期看護2　術中／術後の生体反応と急性期看護、医歯薬出版、2012年

参考書:
鎌倉やよい：周手術期の臨床判断を磨く　手術侵襲と生体反応から導く看護、医学書院、2008年
野村実：周手術期管理ナビゲーション、医学書院、2014年
疾患別看護過程セミナー　総合改訂版、医学芸術社、2006年
長谷川雅美・林優子編：疾患と看護過程実践ガイド、医学芸術社、2005年
竹内佐智恵編：周手術期看護、MCメディカ出版、2009年
富田幾枝：新看護観察のキーポイントシリーズ　急性期・周手術期看護、中央法規、2013年
中村美知子：周手術期看護　安全・安楽な看護の実践、インターメディカ、2016年
竹末芳生、藤野智子：術後ケアとドレーン管理、照林社、2014年
中田精三：手術室看護の知識と実際、メディカ出版、2009年
村上美好：写真でわかる臨床看護技術、インターメディカ、2007年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィースアワー、マナビー上掲示板

753000

成人リハビリテーション期看護援助論

當目　雅代、小笠　美春

授業テーマ:　機能障害を持った対象者のリハビリテーション看護

授業の概要:　本授業では健康状態が回復期にある成人患者に対する看護援助方法を講義する。また、成人患者が手術後や受傷後、社会復帰に向けてのリハビリテーションを行うための方法を学ぶ。具体的には、筋力増強訓練方法や歩行訓練方法である。また、手術療法が適応となる運動機能が障害された患者の看護過程の展開方法を学習する。

到達目標:
1. リハビリテーション期における看護の役割と機能を理解できる。
2. 日常生活動作(ADL)の概念と評価方法および自立のための看護援助方法を説明できる。
3. 早期離床の意義と二次合併症の予防のための看護について説明できる。
4. 筋力増強訓練について説明ができ、適切な技術を身につける。
5. 呼吸機能訓練について説明ができ、適切な技術を身につける。
6. 松葉杖歩行、杖歩行の指導方法の説明ができる。
7. 運動機能障害、感覚機能障害の対象者へのリハビリテーションプログラムの特徴と患者教育方法について説明できる。
8. 呼吸機能障害、循環機能障害の対象者へのリハビリテーションプログラムの特徴と患者教育方法について説明できる。
9. 手術療法が適応となる運動機能が障害された患者の看護過程の展開方法を実施できる。

授業方法:　講義と演習を組み合わせて展開する。天野実習助教も担当する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	リハビリテーション期の定義と看護の役割と機能(當目)	教科書の該当箇所を確認しておく。
2.	日常生活動作自立への援助-日常生活動作の考え方と評価方法(當目)	教科書の該当箇所を確認しておく。
3.	早期回復への援助-早期離床、二次障害の予防(小笠)	教科書の該当箇所を確認しておく。
4.	運動機能障害、感覚機能障害のリハビリテーションプログラム(當目)	教科書の該当箇所を確認しておく。
5.	呼吸機能障害、循環機能障害のリハビリテーションプログラム(小笠)	教科書の該当箇所を確認しておく。
6.	手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法1:看護過程の思考方法(小笠・當目)	病態生理のレポートを仕上げておく。
7.	手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法2:情報収集(小笠・當目)	術後合併症と関連付けて考えるように復習しておく。
8.	手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法3:ゴードン分類(小笠・當目)	術後合併症と関連付けて考えるように復習しておく。
9.	手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法4:関連図作成(小笠・當目)	収集した情報から関連図の下案を作成しておく。
10.	手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法5:情報の統合と問題点の抽出(小笠・當目)	関連図から考えられる情報を統合し、仮の問題点を導き出しておく。
11.	手術療法が適応となる運動機能障害患者の看護過程の展開方法6:看護目標とケア計画(小笠・當目)	必要な情報を事前に整理し、アセスメントできるようにしておく。
12.	松葉杖歩行、杖歩行の指導方法(當目)	
13.	呼吸機能訓練:腹式呼吸・胸式呼吸・器具を用いた呼吸訓練方法(小笠)	
14.	筋力増強訓練方法:意義・方法と体験(當目)	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　リハビリテーション看護では主に整形外科や脳神経外科の運動機能を障害された患者への援助を学ぶ。また、手術療法が適応となる運動機能障害のある患者の看護過程を展開するので、成人急性期看護援助論の学習内容を復習し、看護過程の展開の授業に臨む。

フィードバックの方法:　看護過程の展開は個別指導でフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標1～8の理解度を評価する。
看護過程	40	到達目標9の達成度を評価する。
授業への参加度	10	積極的な授業参加を評価する。

教科書:　奥宮暁子:ナーシンググラフィカ成人看護学⑤リハビリテーション看護, MCメディカ出版(2017)

参考書:
落合芙美子:新体系　看護学全書別巻, リハビリテーション看護, メジカルフレンド社(2015)
酒井郁子:看護学テキストNICEリハビリテーション看護, 南江堂(2010)
石鍋圭子:リハビリテーション専門看護, 医歯薬出版(2004)
鈴木愉:ナースのためのリハビリテーションレクチュア, 文光堂(2001)
宮川哲夫:動画でわかるスクイージング, 中山出版(2006)
日本呼吸器ケア・リハビリテーション学会:呼吸器リハビリテーションマニュアル-患者教育の考え方と実践-, 照林社(2007)
石鍋圭子:リハビリテーション看護実践テキスト, 医歯薬出版(2008)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　オフィースアワー、マナビー上掲示板

753100

成人慢性期看護援助論A

光木　　幸子、葉山　　有香

授業テーマ:

授業の概要:　慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者とその家族の特徴を理解し、慢性的な健康課題とともに生きることを支える看護援助に必要な理論と方法を教授する。

到達目標:
1. 慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者とその家族の特徴について理解できる。
2. 疾病管理と療養生活のセルフマネジメントとそれを支える諸理論について説明できる。
3. 疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進する看護援助方法（対象理解・援助方法・評価の方法）を理解できる。
4. 慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントの実際を理解できる。

授業方法:　講義、講義・演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	慢性的な健康課題をもちながら生活する患者とその家族の特徴、 慢性疾患の疫学・予防と治療の特徴・今後の課題と施策　光木	
2.	セルフマネジメントとは：セルフマネジメントを支える諸理論①　光木	セルフマネジメントのための主要概念の動画を視聴する 事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
3.	セルフマネジメントとは：セルフマネジメントを支える諸理論②　光木	医学モデルとエンパワメントモデルの動画を視聴する 事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
4.	セルフマネジメントを推進する看護方法：セルフマネジメントの過程　光木	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
5.	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援①　光木	膵臓の機能と解剖、糖尿病の定義・原因・種類・検査・症状・治療方法等の事前課題を行う
6.	糖尿病とともに生きるセルフマネジメント支援②　光木	糖尿病の理解を深め、前回の授業内容でわからない点を明らかにしておく
7.	慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援①　葉山	肺の機能と解剖、呼吸不全の定義・診断基準・原因・治療等の事前課題を行う
8.	慢性呼吸不全とともに生きるセルフマネジメント支援①　葉山	呼吸不全の理解を深め、前回の授業でわからない点を明らかにしておく
9.	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援①　光木	心臓の機能と解剖、慢性心不全の定義・原因・症状・治療方法・憎悪因子等の事前課題を行う 心電図の動画を視聴し課題を行う
10.	慢性心不全とともに生きるセルフマネジメント支援②　光木	慢性心不全の理解を深め、前回の授業でわかわらない点を明らかにしておく
11.	腎不全とともに生きるセルフマネジメント支援　ゲストスピーカー	腎臓の機能と解剖、腎不全の定義・原因・症状・検査・治療方法等の事前課題を行う
12.	肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援①　葉山	肝臓の機能と解剖、肝硬変の定義・分類・症状・検査・治療方法等の事前課題を行う
13.	肝硬変とともに生きるセルフマネジメント支援②　葉山	肝硬変の理解を深め、前回の授業でわからない点を明らかにしておく
14.	難病とともに生きるセルフマネジメント支援　葉山	パーキンソン病の定義・原因・診断基準・検査・症状・治療方法等の事前課題を行う
15.	まとめ　光木　葉山	

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業の2/3以上の出席により定期試験が受けられます。
欠席しないように自己の体調管理をお願いします。
第5回、7回、9回、11回、12回14回の事前課題は、授業2日前（火曜日17時）までにノートに書いて事務に提出してください。

フィードバックの方法:　事前課題についてはコメントをいれて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	到達目標1・2・3・4に関する理解度により評価する
レポート（事前課題）	30	到達目標4に必要な専門的知識を事前に学習できているかを基準に評価する

教科書:　鈴木久美他、成人看護学　慢性期看護　病気とともに生活する人を支える、南江堂

参考書:　安酸史子他、ナーシング・グラフィカ　成人看護学③　セルフマネジメント、メディカ出版
浅野嘉延他、看護のための臨床病態学、南山堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメールを利用　光木　smitsuki@dwc.doshisha.ac.jp　葉山　yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

753200

成人慢性期看護援助論B

光木　　幸子、葉山　　有香

授業テーマ:

授業の概要:　成人慢性期看護援助論Aで学んだ知識に基づき、慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者の看護援助方法について学修する。さらに、成人患者を対象とした診療や療養に伴う援助技術を学修する。

到達目標:
1. 糖尿病をもちながら生活する患者に対するセルフマネジメントのためのアセスメントおよび看護計画を立案できる。
2. 看護計画に基づきセルフケア能力を高めるための患者教育方法を理解できる。
3. 慢性的な健康課題を持ちながら生活する成人患者への看護実践において必要となる輸液管理、インスリン自己注射、呼吸管理等を安全に行うための援助方法を実践的に習得する。

授業方法:　講義、講義と演習を組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	成人慢性期援助論Bの進め方　葉山・光木	
2.	講義（治療薬の安全な管理：ME器機取り扱い）葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
3.	演習（治療薬の安全な管理：ME器機取り扱い）葉山	事前に提示された動画や資料を見て手順等を理解しておく。
4.	演習（点滴静脈内注射の実施、輸液管理、持続静脈内点滴注射実施中の寝衣交換）葉山	事前に提示された動画や資料を見て手順等を理解しておく。
5.	演習（点滴静脈内注射の実施、輸液管理、持続静脈内点滴注射実施中の寝衣交換）葉山	事前に提示された動画や資料を見て手順等を理解しておく。
6.	演習（持続静脈内点滴注射実施中の患者の観察）葉山	事前に提示された動画や資料を見て手順等を理解しておく。
7.	演習「患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進するための看護計画」(1)　グループワーク①　光木	事前に提示された事例について、各自課題をした上でグループワークに臨む。
8.	演習「患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進するための看護計画」(2)　グループワーク②　光木	7回目授業のグループワークについて、決められた箇所までグループで完成させておく。
9.	演習（血糖測定とインスリン自己注射）　光木	事前に提示された教科書と動画を見て手順等を理解しておく。
10.	演習（呼吸器ケア）　葉山	事前に提示された教科書の範囲を復習し、動画を見て手順等を理解しておく。
11.	演習「患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進するための看護計画」(3)　発表①　光木	当日、発表順を決定して各グループの看護計画を発表するので、発表準備をしておく。
12.	演習「患者の疾病管理と療養生活のセルフマネジメントを推進するための看護計画」(4)　発表②　光木	当日、発表順を決定して各グループの看護計画を発表するので、発表準備をしておく。
13.	演習（患者教育ロールプレイ①）光木	当日、発表順を決定して各グループでロールプレイを行うので、事例にも目を通して理解しておく。
14.	演習（患者教育ロールプレイ②）光木	当日、発表順を決定して各グループでロールプレイを行うので、事例にも目を通して理解しておく。
15.	まとめ　葉山　光木	

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業の2/3以上の出席により定期試験が受けられます。欠席しないように自己の体調管理をお願いします。

フィードバックの方法:　事前課題についてはコメントを入れて返却する。その他、質問等に対して教室でまとめてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	20	グループ発表での自分の役割とその達成度、準備学習とグループワークでの到達目標1・2の理解度を評価する。
レポート（事前課題）	30	到達目標2・3に関する知識や理解度により評価する
定期試験	50	到達目標1～3に関する知識や理解度により評価する

教科書:　鈴木久美他、成人看護学　慢性期看護　病気とともに生活する人を支える、南江堂

参考書:　阿曽洋子ら著、基礎看護技術　第7版、医学書院、2011
吉田みつ子ら監修、写真でわかる基礎看護技術、インターメディカ、2012

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメールを利用　光木　smitsuki@dwc.doshisha.ac.jp　　葉山　yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

753300

がん看護援助論

光木　　幸子、葉山　　有香

授業テーマ:

授業の概要:　がんに対する治療として、主に薬物療法、放射線療法を取り上げ、それらの治療を受ける患者・家族に対する看護について学修する。合わせて、がんの終末期にある患者・家族の苦痛とその援助方法について学修する。

到達目標:
1. がん患者の症状マネジメント・疾病管理の方法が理解できる。
2. 薬物療法を受ける患者と家族への基本的な看護援助方法が理解できる。
3. 放射線療法を受ける患者と家族への基本的な看護援助方法が理解できる。
4. 終末期にあるがん患者への看護援助方法が理解できる。
5. がんで化学放射線療法を受ける患者の看護過程を展開し、治療中の患者に対する看護計画が立案できる。

授業方法:　講義、講義と演習を組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	がん患者の症状マネジメント・疾病管理　葉山 事例提示	
2.	がん治療と看護　薬物療法を受ける患者の看護①　葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
3.	がん治療と看護　薬物療法を受ける患者の看護②　葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
4.	がん治療と看護　放射線療法を受ける患者の看護①　葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。 月曜日の11時までに病態生理を提出する。急性の看護過程6回目終了後に返却する
5.	がん治療と看護　放射線療法を受ける患者の看護②　葉山	事前に提示された教科書の範囲を予習しておく。
6.	がん看護専門看護師ゲストスピーカー	血液疾患看護について学習しておく(幹細胞移植も含む)
7.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開①)看護過程の思考方法　(光木・葉山)作成した病態生理とゴードンの分類と情報の解釈でわからないところを修正しながら作成する	病態生理を作成し、ゴードンの分類と情報の解釈を記載しておく。
8.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開②)関連図を作成する　(光木・葉山)	月曜日11時までに病態生理とゴードンの分類と情報の解釈を事務に提出する。
9.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開③)統合を作成する(光木・葉山)	関連図から考えられる情報を統合し、仮の問題点を導き出しておく。
10.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開④)情報の統合と問題点の抽出(光木・葉山)	関連図と統合を月曜日11時までに事務に提出する。
11.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開⑤)看護目標とケア計画　(光木・葉山)	情報の統合と問題点の抽出を書き進めておく
12.	演習(化学放射線療法を受ける患者の看護過程の展開⑥)情報の統合と問題点、看護目標、ケア計画修正(光木・葉山)	自分が質問したい内容を整理しておく。
13.	苦痛に対するマネジメント　光木	月曜日11時までに事務に看護過程の記録物を提出する。 教科書p.90～103を読んでおく
14.	がん患者の心理的サポート　光木	教科書p.103～117を読んでおく
15.	まとめ　葉山　光木	

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業の2/3以上の出席により定期試験が受けられます。欠席しないように自己の体調管理をお願いします。

フィードバックの方法:　コメントペーパー等に対して、教室でまとめてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的態度	10	到達目標2および3を理解したうえで積極的に授業に参加し、到達目標5ができるようになったかを評価する
定期試験	60	到達目標1～4に関する知識や到達目標5の到達度により評価する
看護過程	30	到達目標5の到達度により評価する

教科書:
小松浩子ら編、系統看護学講座　別巻　がん看護学、医学書院、2015
任和子編、実習記録の書き方がわかる看護過程展開ガイド、照林社

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメールを利用　光木　smitsuki@dwc.doshisha.ac.jp　　葉山　yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

753400

成人急性期看護学実習

當目　雅代、小笠　美春、天野　功士

授業テーマ:
全身麻酔で手術を受ける患者を受け持つことで周手術期看護・リハビリテーション看護を学ぶ。

授業の概要:
成人看護学領域ならびに関連領域科目で学習した理論、知識、技術を適用して、手術を受ける患者と家族を多面的に、総合的に理解し、根拠に基づいた看護ケアを実施する。そのため、周手術期およびリハビリテーション期の特性に応じた対象の個別的な看護過程を展開する能力を修得する。さらに、本実習を通して看護学生としての看護観を培う。

到達目標:
1. 患者の疾患に伴う病態生理を理解することができる。
2. 根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、受け持ち患者に適応できる。
3. 問題解決方法を活用し、受け持ち患者の個別性に応じた看護過程を展開できる。
4. 患者の術前の全身状態をアセスメントし、維持・改善のための援助を実施できる。
5. 手術に伴う生体反応、麻酔の影響および生体損傷とその修復過程をアセスメントし、術後の看護援助を実施できる。
6. 術後合併症を予防するためのアセスメントに基づいた看護援助を実施できる。
7. 手術に伴う日常生活動作（ADL）の変化を評価し、適切なセルフケア援助を実施できる。
8. 早期離床と二次障害の予防を促すための看護援助を実施できる。
9. 受け持ち患者の社会復帰に向けてのリハビリテーションの目標を設定し、看護援助を実施できる。
10. 患者の疾患および個別性に応じた療養指導ならびに退院指導ができる。
11. 受け持ち患者の看護援助を振り返り、自己の看護について考察できる。

授業方法:
1. 学生4～6名を1グループとし、3週間の実習を行う。
2. 実習初日に病院・病棟の概要についてのオリエンテーションを受ける。
3. 事前学習として、受け持ち患者に必要とされる看護技術について学内演習を行う。
4. 事前学習として、受け持ち患者の病態生理および術前・術中・術後看護のレポートを作成する。
5. 全身麻酔で手術を受ける患者を1名を受け持ち、看護過程の展開を行う。
6. 受け持ち患者の周手術期・リハビリテーション期のケアを教員、臨地実習指導者および担当看護師の指導のもと実施する。
7. 病棟実習中盤と最終日に学生カンファレンスを行い、受け持ち患者への看護実践の振り返りを行う。
8. 事後学習として学内で受け持ち患者の看護過程を評価・修正し、学習成果としてまとめる。
9. 実習を通して自己の実習を評価するとともに、教員からの面接評価を受け、今後の学習課題を明確にする。
10. 天野実習助教も臨床実習病棟で指導にあたる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	主に急性期病院で3週間の実習を行う。全身麻酔で手術を受ける患者を受け持ち、周手術期の患者の状況に合わせて外科系病棟、手術室および集中治療室で実習する。そのため成人看護学領域ならびに関連領域科目で学習した理論、知識、技術を適用して、術前・術中・術後および回復期の特性に応じた根拠に基づいた個別的な看護過程を展開する。また、カンファレンスなどから学びを共有し、学生自身のクリティカル看護およびリハビリテーション看護に対する看護観を深める。	術式に関わらず周手術期看護・回復期看護に共通した内容の予習を行う。そのうえで、実習病棟の特徴的な疾患、治療、処置、検査についても事前に知らせるので各々をノートにまとめておく。受け持ち患者が決定したら、当該疾患の病態生理（疫学、解剖生理、検査、治療、処置、看護）をレポートにまとめ提出する。手術室および集中治療室の特徴や看護のポイントをまとめておく。成人急性期看護援助論および成人リハビリテーション期援助論の資料はファイル綴じにして実習に必携する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
成人急性期看護学実習では既習の成人疾病外科学治療学、成人急性期援助論および成人リハビリテーション期援助論の学習内容が重要なので、必ず復習する。また、看護の展開が早いので、事前学習を十分行い、準備性・予測性ができるようになっておく。免疫力が低下している対象者を受け持つので、健康管理には注意する。

フィードバックの方法:
実習担当教員が実習病棟にいるため、その都度ケアのフィードバックは行う。また、看護過程の展開は随時個別指導し、受け持ち患者の看護に反映させる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度・態度	20	実習日数の4/5の出席が評価の基準となる。
事前学習	20	共通の事前学習・患者の個別の事前学習の内容を評価する。
看護過程の展開	40	情報の解釈・アセスメント・看護の方向性、問題抽出、計画が個別性を踏まえたものになっているか、ケアの根拠を文献を活用して述べているか、計画に沿って実践できたかを基準に評価する。
日々の看護実践記録	20	SOAPで記述でき、根拠を示してアセスメントができ、看護の方向性が示されていることを基準に評価する。

教科書:
関連科目の教科書全て

参考書:
関連科目の参考文献全て

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:
実習指導教員が病棟にいるので、随時報告する。急用時のみ教員の携帯に連絡する。

753500

成人慢性期看護学実習

光木　幸子、葉山　有香、田村　沙織

授業テーマ:

慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者とその家族への看護援助方法を実施する。また終末期にある患者とその家族への看護援助方法を理解する。

授業の概要:

成人看護学領域ならびに関連領域科目で学習した理論、知識、技術を適用して検査や治療を受ける患者と家族を多面的に、総合的に理解し、根拠に基づいた看護ケアを実施する。慢性的な健康課題をもちながら生活する成人患者および終末期にある患者の特性に応じた対象の個別的な看護過程を展開する能力を修得する。また、終末期にある患者を全人的に理解し、その人らしさを支える看護援助方法を理解する。実習を通して看護学生としての看護観を培う。

到達目標:

1. 根拠に基づいた看護を提供するための情報を探索し、受け持ち患者に活用できる。
2. 問題解決方法を活用し、受け持ち患者の個別性に応じた看護過程が展開できる。
3. 患者の治療前の身体的・心理的・社会的状態を把握でき、維持・改善のための援助ができる。
4. 治療および検査を受ける患者の身体的影響をアセスメントし、治療中の看護援助ができる。
5. 病気とともに生活する患者の治療に伴う心理的・社会的問題についてアセスメントし、治療中の看護援助ができる。
6. 患者のセルフケア能力をアセスメントし、病気とともに生活する患者に適したセルフケア援助ができる。
7. 医療チームとの連携と調整を理解し、看護者としての役割を実践できる。
8. 家族の状況を理解し、療養を継続していくうえで家族がどのような役割を担っているか説明できる。
9. 長期療養を行う患者に必要な社会資源が理解できる。
10. その人らしい人生の最期を生き抜くことの意味を理解し、必要な援助を理解できる。
11. 医療の中で生じる倫理的な課題と看護者の役割について理解できる。

授業方法:

学生は、3週間（15日間）臨地実習を行う。1週間のうち病院内実習は3～4日/週、大学内での演習や記録の指導は1～2日/週。なお1名の実習助手（田村沙織）も実習指導を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	病院内実習：実習オリエンテーション	成人慢性期援助論AとBの授業資料を整理して活用できるようにする 受け持ち患者の病態生理を作成するための資料を準備する。
2.	病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく
3.	学内演習：受け持ち患者の関連図の作成、必要な看護技術の練習	前日の実習記録を作成したものを提出する。練習が必要な看護技術項目のナーシングスキルを視聴しておく
4.	病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく
5.	病院内実習（カンファレンス）	上記に加え、カンファレンス資料を作成しておく
6.	病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく
7.	病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく
8.	学内演習：受け持ち患者の看護過程の展開、看護技術の練習、パンフレット作成 カンファレンス：「医療の中で生じる倫理的な課題と看護者の役割について」	上記に加え、受け持ち患者の看護過程の展開の記録物を作成しておく
9.	病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく
10.	病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく
11.	病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく
12.	病院内実習	前日の実習記録を作成し、本日の実習目標と行動計画を作成しておく。本日予定されている検査・治療・処置について事前学修し、必要な援助内容を確認しておく
13.	病院内実習（カンファレンス）	上記に加え、カンファレンス資料を作成しておく
14.	透析センター病院実習	前日の実習記録の提出と受け持ち患者の看護過程の展開の記録物を作成する
15.	個人面談、記録の整理まとめ	最終提出に向けて必要な記録物を作成する

受講者へのメッセージやアドバイス:

今まで学んできた科目の知識や技術を使い、有意義な実習を行ってください。
実習の2/3以上の出席により評価の対象となります。
欠席しないようにセルフマネージメントしてください。

フィードバックの方法:

日々の記録物はコメントをつけて個別に返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習への参加態度や記録物	100	到達目標がどの程度できるようになったかを評価する。

教科書:

関連科目で使用した教科書及び授業配布の資料等

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:	実習場所や演習時にその都度対応する。必要時マナビ-の掲示板機能を利用する。 Eメールを利用　光木　smitsuki@dwc.doshisha.ac.jp　葉山　yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

753600

精神看護学概論

木村　　洋子

授業テーマ:

授業の概要:　精神に健康問題を抱える人と家族の特徴を理解し，こころの健康の保持増進及び回復を援助するために必要な精神看護の役割と機能を学ぶ.

到達目標:
1. 精神保健医療福祉の現場を理解できる.
2. 精神に健康問題を抱える人と家族の特徴を理解できる.
3. 精神看護学に必要な諸概念を理解できる.
4. 精神看護に関連する理論・モデルを理解できる.

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「こころのケア」と現代社会	系統看護学講座　専門分野2　精神看護の基礎　第5版　医学書院　p2からp6を予め熟読していくこと.
2.	精神看護学とその課題	系統看護学講座　専門分野2　精神看護の基礎　第5版　医学書院　p8からp15を予め熟読しておくこと.
3.	国内外の精神科医療の現状と課題　No.1	配布した資料をもとに，国内の精神科医療の現状と課題について整理しておくこと.
4.	国内外の精神科医療の現状と課題　No.2	配布した資料をもとに，精神科医療の現状と課題について整理しておくこと.
5.	精神障害者と精神科医療の変化	配布した資料をもとに，精神科医療の変遷について，自身の意見をまとめておくこと.
6.	精神障害の体験と精神看護	系統看護学講座　専門分野2　精神看護の基礎　第5版　医学書院　p16からp19を予め熟読しておくこと.
7.	精神看護学で学ぶこと	系統看護学講座　専門分野2　精神看護の基礎　第5版　医学書院　p20からp22を熟読しておくこと.
8.	精神看護学の基本的な考え方	
9.	精神看護に関連する諸概念：QOL，リカバリー	【QOL,リカバリー】について，マインドマップを活用し，講義前日までにマナビーにより提出すること.
10.	精神看護に関連する諸概念：スティグマ，アドボカシー	【スティグマ・アドボカシー】について，マインドマップを活用し，講義前日までにマナビーにより提出すること.
11.	精神看護に関連する諸概念：ノーマライゼーション，エンパワメント，アドヒアランス	【ノーマライゼーション，エンパワメント，アドヒアランス】について，マインドマップを活用し，講義前日までにマナビーにより提出すること.
12.	精神看護学に関連する理論・モデル：人間関係論	【ペプロウ】について，図書等を利用し，整理しておくこと.
13.	精神看護学に関連する理論・モデル：セルフケア理論	【オレム】について，図書等を利用し，整理しておくこと.
14.	精神看護学に関連する理論・モデル：ストレス・脆弱性モデル	【ストレス・脆弱性モデル】について，図書等を活用し整理しておくこと.
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　第9回から第11回まで提出していただいたマインドマップは講義中にフィードバックします.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
事前学習	20	提出されたマインドマップについて確認し，A（良くできた），B（できた），C（もう少し），D（不十分・未提出）の4段階で評価する. C以上を合格とする.
定期試験	80	

教科書:
系統看護学講座　専門分野2　精神看護の基礎　第5版　医学書院
系統看護学講座　専門分野2　精神看護の展開　第5版　医学書院

参考書:　講義中適宜紹介する.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

753700

精神看護援助論A

木村　　洋子

授業テーマ:

授業の概要:　精神に健康問題を抱える人と家族に必要な基本的な看護援助について学習する.

到達目標:
1. さまざまな視点から対象を理解する方法を学ぶ.
2. 精神看護におけるコミュニケーション技法の特徴を理解できる.
3. 患者ー看護者関係成立・進展のための援助技術の特徴を理解できる.
4. 精神看護における日常生活援助技術の特徴を理解できる.

授業方法:　講義形式とグループワークによる演習形式を組み合わせて実施する.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	患者ー看護者関係成立・進展のための看護技術:基本的態度・援助	配布する【ペプロウの患者ー看護者関係】について熟読し,整理しておくこと.
2.	患者ー看護者関係成立・進展のための援助技術:各段階における援助技術	
3.	精神看護におけるコミュニケーション技法	
4.	患者ー看護者関係成立・進展のための援助技法:プロセスレコードの実際	
5.	患者ー看護者関係成立・進展のための援助技法:ロールプレイの実際	
6.	看護過程に共通する技術:精神状態のアセスメント(No.1)	【精神機能】【精神状態のアセスメント】について,事前に整理しておく.
7.	看護過程に共通する技術:精神状態のアセスメント(No.2)	
8.	看護過程に共通する技術:社会的状態のアセスメント	【社会的状態のアセスメントの視点】について,事前に整理しておく.
9.	看護過程に共通する技術:日常生活のアセスメント	【日常生活のアセスメントの視点】について,事前に整理しておく.
10.	日常生活援助技術:活動と休息	
11.	日常生活援助技術:食事と栄養	
12.	日常生活援助技術:排泄と清潔	
13.	日常生活援助技術:身だしなみ,身の回りの整理・整頓及び管理	
14.	精神看護におけるインフォームドコンセント	【インフォームドコンセント】について,事前に整理しておく.
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出されたプロセスレコードについては,内容を確認し,コメントを入れて返却する.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ロールプレイに基づいてプロセスレコードを作成する.	30	ロールプレイの実施内容ではなく,十分に看護場面を再構成し,振り返ることができているかを評価の基準とする.A(良くできている),B(できている),C(もう少し),D(不十分,未提出)の4段階で評価し,C以上を合格とす
定期試験	70	

教科書:
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の基礎　第5版　医学書院
系統看護学講座　専門分野Ⅱ　精神看護の展開　第5版　医学書院

参考書:　講義中に適宜紹介する.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

753800

精神看護援助論B

木村　　洋子

授業テーマ:

授業の概要:　精神に健康問題を抱える人と家族を理解し，個別的・具体的な看護援助について考える基礎的能力を養う.

到達目標:
1. 精神症状をアセスメントする視点を理解し，必要なマネジメント技術について考えることができる.
2. 精神障害者の入院時の生活環境と制限に関する特徴を理解し，必要な援助技術について考えることができる.
3. 薬物療法と精神科リハビリテーションにおける援助技術の特徴と役割を理解できる.
4. 精神障害者の退院促進と生活支援技術の特徴と役割を理解できる.
5. 精神に健康問題を抱える人と家族の事例を用いて看護過程を展開できる能力を養う.

授業方法:　講義形式とグループワークによる演習形式を組み合わせて実施する.

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	症状マネジメント技術:興奮，多弁・多動	【興奮，多弁・多動】を呈する精神疾患について，マインドマップを活用し，整理しておくこと. なお，マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する.
2.	症状マネジメント技術:幻覚・妄想	【幻覚・妄想】を呈する精神疾患について，マインドマップを活用し，整理しておくこと. なお，マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する.
3.	症状マネジメント技術:無為・自閉，抑うつ，拒否	【無為・自閉】,【抑うつ】,【拒否】を呈する精神疾患について，マインドマップを活用し，整理しておくこと. なお，マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する.
4.	症状マネジメント技術:不安・強迫	【不安】.【強迫】を呈する精神疾患について，マインドマップを活用し，整理しておくこと. なお，マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する.
5.	症状マネジメント技術:せん妄・昏迷	【せん妄】【昏迷】を呈する精神疾患について，マインドマップを活用し，整理しておくこと. なお，マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する.
6.	精神科入院時の生活環境と制限に関する援助	【精神医療における法律】と【入院形態】について，マインドマップを活用し，整理しておくこと. なお，マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する.
7.	薬物療法と精神科リハビリテーションの援助技術:薬物療法	【精神科医療で用いられる薬物】について，マインドマップを活用し，整理しておくこと. なお，マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する.
8.	薬物療法と精神科リハビリテーションの援助技術:精神科リハビリテーション	【精神科リハビリテーション】について，マインドマップを活用し，整理しておくこと. なお，マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する.
9.	精神障害者の退院促進と生活支援技術	【精神障害者の退院促進】について，マインドマップを活用し，整理しておくこと. なお，マインドマップはPDF形式で講義前日までにマナビーで提出する.
10.	グループワーク:看護過程:情報収集とアセスメント（精神的・身体的・社会的情報）	配布する事例について，熟読して精神的・身体的・社会的情報について，情報を整理し，アセスメントをする.
11.	グループワーク:看護過程:情報収集とアセスメント（セルフケア）	1. グループワークで得た学びを自身の記録に追記する. 2. セルフケアについて，情報を整理し，アセスメントをする.
12.	グループワーク:看護過程:全体としての理解の仕方	アセスメントに基づき，関連図を作成する.
13.	グループワーク:看護過程:看護問題の明確化と具体的・個別性のある看護目標・計画	関連図から看護問題を抽出し，看護目標をあげ，看護計画を立案する.
14.	看護過程:グループ発表	
15.	看護過程:グループ発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出された看護過程記録については，内容を確認の上，返却する.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
看護過程記録	30	記載内容を確認し，A（よくできている），B（できている），C（もう少し），D（不十分）の4段階で評価し，C以上を合格とする.
事前学習課題への取り組み	20	9回の事前学習課題のうち，少なくとも6回以上は提出すること. なお，提出された事前学習はA（よくできている），B（できている），C（もう少し），D（不十分）の4段階で評価し，C以上を合格とする.
定期試験	50	

教科書:
精神看護の基礎（第5版）:医学書院
精神看護の展開（第5版）:医学書院

参考書:　講義中適宜紹介する.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

753900

精神看護学実習

木村　　洋子

授業テーマ:　精神看護学実習（臨地実習）

授業の概要:　精神疾患を有する対象と援助的関係を構築し，看護過程の展開を通して対象を理解する視点を学び，必要な看護実践を行う基礎的能力を養う.

到達目標:
1. 援助的関係を構築できる。
2. 看護過程を展開し、対象を理解する視点を学び、必要な看護実践を行うことができる。
3. 精神科医療における対象への倫理的配慮の必要性を理解することができる。
4. 学生として品行を備え、対象を尊重した態度と自ら学ぶ姿勢を持ち、実習に臨むことができる。

授業方法:　実習形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	精神疾患を有する対象を受け持ち，援助的関係を構築し，看護過程を展開する. ・実習スケジュール：2単位，90時間（1単位，45時間/週）. ・実習施設および週単位の実習計画・実習日程については実習要項を参照すること. ・実習の進め方： ＜実習前＞ 事前学習課題の設定および学習内容の確認を行う. 実習オリエンテーションを行う. ＜実習中＞ ・実習初日に施設・病棟オリエンテーションを行う. ・毎日のカンファレンス：（目的）学習上の問題を解決する. ・中間カンファレンス：（目的）受け持ち対象者のニーズにあった具体的かつ個別的な看護計画の立案を行う. ・最終カンファレンス：（目的）実践を評価して学びを深める.	＜事前学習＞ 1. 援助的関係の基盤となる態度・技術および行き詰まりを解決する方法について 2. 精神科医療の対象とする主な精神疾患（統合失調症，気分障害）の症状，身体的，心理・社会的治療と看護について 3. 精神科医療で行われている行動制限（入院形態，処遇，隔離・拘束など）の法的根拠について 4. 精神病者監護法（1900年）以降，精神障害者を取り巻く法律の変遷を踏まえ，精神障害者がどのように処遇されてきたかについて. 5. 精神保健福祉施策と社会資源の現状について A4用紙にまとめ，実習オリエンテーション（精神看護学実習）時に教員に退出すること．なお，枚数については制限しない.

受講者へのメッセージやアドバイス:　看護学部実習要綱及び精神看護学実習要項参照すること．なお，実習オリエンテーションは特別な事情を除き欠席は認めない．日程・場所については追って通知する．実習期間中は5分の4以上の出席を求める.

フィードバックの方法:　毎日の実習記録については，その日のうちに確認し，返却する.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
総合評価（実習到達度・提出記録等）	100	60点を合格とする.

教科書:

参考書:　実習中適宜紹介する.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　ykimura@dwc.doshisha.ac.jp

754000

母子保健看護概論

眞鍋　　えみ子、萩本　　明子

授業テーマ:　子どもと女性・母親およびその家族の健康問題、看護の役割について学ぶ

授業の概要:　生涯発達の視点から子どもと女性・母親およびその家族の健康問題、看護の役割について学ぶ。
[ウイメンズヘルス]
女性のライフサイクル各期を通したウイメンズヘルス（生涯をとおした女性の健康）の観点から、看護の対象である女性の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題、看護の役割について学ぶ。リプロダクティブヘルスの概念、周産期医療の現状、母子保健の動向、ライフサイクル各期における女性と家族の健康について学習する。
[小児看護学]
小児看護の対象である子どもを理解するため、子どもを取り巻く社会の状況、小児医療の現状、家族の状況、成長発達、発達理論などを学習し、子どもと家族を支えるための小児看護の役割について理解する。

到達目標:　1)周産期医療の現状、母子保健の動向について理解する。
2)リプロダクティブヘルスの概念、女性の身体的・心理的・社会的特徴と健康問題や看護の役割について理解する。
3)現在の小児医療、小児看護、小児保健の概要や問題点などを理解する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	子どもの理解、子どもを取り巻く環境[萩本]	教科書の該当箇所を読んでおくこと
2.	子どもに関する諸統計[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
3.	子どもの権利、小児看護の課題[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
4.	母子保健、学校保健、感染症対策[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
5.	子どもの成長発達の特徴[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
6.	小児看護で用いられる理論の概要[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
7.	児童虐待[萩本]	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
8.	女性とリプロダクティブヘルス（1） ケアの背景となる理論 ［眞鍋］	自分が生まれたときや幼少期の話を家族から聞いておく
9.	女性とリプロダクティブヘルス ケアの担い手とその役割 ［眞鍋］	前回の講義内容を理解する
10.	日本における周産期医療の現状 ［眞鍋］	居住地域で出産のできる施設を調べてみる
11.	発展途上国における周産期医療の現状 ［眞鍋］	前回の講義内容を理解し、事前に配付された資料を読んでおく
12.	ライフサイクル各期における女性と家族の健康（1） 母性準備期、母性成熟期 ［眞鍋］	自分自身の月経周期、日数を確認しておく
13.	ライフサイクル各期における女性と家族の健康（2） 妊娠、出産、育児 ［眞鍋］	前回の講義内容を理解する
14.	母子保健の動向と現状 ［眞鍋］	前回の講義内容を理解する
15.	ライフサイクル各期における女性と家族の健康（3） 消費者の視点からお産の安全・安心を考える／陣痛促進剤による被害者の会からゲストスピーカー ［眞鍋］	今日の臨床サポート→分娩遷延 →詳細情報→各論→14:子宮収縮薬による陣痛誘発・陣痛促進に際しての留意点を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:　・子どもや女性・母親およびその家族の健康問題や医療の現状と看護の役割について理解が深められるように適宜、補助資料の配布やビデオ、DVD教材を使用して、授業を進めていきます。
・授業の進行は、変更の可能性があります。その際はマナビーによりお知らせします。

フィードバックの方法:　講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80	到達目標1)2)3)に関する知識や理解度により評価する
授業への参加度	20	到達目標1)2)に関する関心度を確認する（授業内容8-15部分）

教科書:　奈良間美保他著、系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論、医学書院（授業内容1-7に使用）

参考書:　国民衛生の動向、厚生労働統計協会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　講義前後およびメール、マナビーの掲示板などで対応する。

754100

小児看護援助論A

萩本　　明子

授業テーマ:

授業の概要:　子どもの特徴、成長発達、子どもや家族にとっての疾病や障がいの意味について講義する。

到達目標:　子どもの成長･発達を理解し、各発達段階の特徴に応じた日常生活のあり方や支援方法を多角的に学習する。また、子どもに特徴的な健康問題を理解し、それが子どもや家族に及ぼす影響を考えるとともに、様々な健康レベルにある子供とその家族に必要な看護の在り方を学習する。

授業方法:　基本的に、教科書に沿った講義形式で実施する。
適宜、補助資料を配布、パワーポイント等を使用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	各期の成長発達　新生児	母子保健看護概論を振り返っておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
2.	各期の成長発達　乳児期	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
3.	各期の成長発達　幼児期前期	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
4.	各期の成長発達　幼児期後期	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
5.	各期の成長発達　学童期･思春期	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
6.	成長発達の評価、子どもの栄養	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
7.	疾病や障がいが子どもや家族へ及ぼす影響と看護	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
8.	子どもに起こる主要症状と看護①（機嫌･不機嫌、痛み、発熱など）	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
9.	子どもに起こる主要症状と看護②（消化器症状、電解質異常、脱水など）	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
10.	子どもに起こる主要症状と看護③（呼吸･循環器系の症状など）	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
11.	子どもに起こる主要症状と看護④（神経症状など）	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
12.	急性期にある子どもと家族への看護	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
13.	慢性期にある子どもと家族への看護、継続看護①	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
14.	慢性期にある子どもと家族への看護、継続看護②	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
15.	まとめ	14回分の講義内容を総合的に復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　講義についての意見･感想･質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	授業目標が達成できているかどうかを評価する。

教科書:　奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論」（医学書院）
奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論」（医学書院）
山元恵子監修:「写真でわかる小児看護技術」（インターメディカ）

参考書:　講義時に適宜提示する。

獲得が期待される基礎的･汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　講義前後およびメール、マナビーの掲示板などで対応する。

754200

小児看護援助論B

川崎　　友絵

授業テーマ:

授業の概要: 子どもや家族に必要な看護を見出し、実践する能力を養う

到達目標: 子どもの成長発達や様々な健康レベルを考え、小児に特有な看護技術について学習するとともに、看護を受ける子どもやその家族の思いについて理解する。また、子どもとその家族の健康問題に対するアセスメント能力を習得するために、看護過程の展開について学ぶ。

授業方法: 講義、演習、グループワークの形式で構成する。
講義は、資料の配布、パワーポイント等を使用して実施する。
演習は、3つのグループに分かれ、グループごとに実施する。
看護過程演習は、5-6名のグループに分かれ、グループごとに1紙面事例について展開し、看護計画を立案、指導計画を立てる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ハイリスク新生児への看護	母子保健看護概論を振り返っておくとともに、教科書の該当部分を読んでおくこと
2.	重症心身障害のある子どもと家族への看護(独立行政法人 国立病院機構 南京都病院 看護師)	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
3.	終末期にある子どもと家族への看護	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
4.	演習ガイダンス	前回までの講義内容を理解しておくこと
5.	演習① フィジカルアセスメント バイタルサイン	演習の事前課題、事後課題を行うこと
6.	演習② フィジカルアセスメント 身体計測	演習の事前課題、事後課題を行うこと
7.	演習③ 輸液管理	演習の事前課題、事後課題を行うこと
8.	演習④ 栄養	演習の事前課題、事後課題を行うこと
9.	プレパレーション、プレイセラピー	前回までの講義内容を理解し、教科書の該当箇所を読んでおくこと
10.	看護過程演習① ガイダンス、事例紹介	演習の事前課題、事後課題を行うこと
11.	看護過程演習② アセスメント、問題リスト	演習の事前課題、事後課題を行うこと
12.	看護過程演習③ 関連図、看護計画立案	演習の事前課題、事後課題を行うこと
13.	看護過程演習④ 指導計画立案、資料作成	演習の事前課題、事後課題を行うこと
14.	看護過程演習⑤ 発表	演習の事前課題、事後課題を行うこと
15.	まとめ	14回分の講義内容を総合的に復習すること

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やマナビーを用いて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	授業目標が達成できているかどうかを評価する。
演習課題及び看護過程の記録	50	演習課題、レポート、看護課程の記録を総合的に評価する。

教科書: 奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論」(医学書院)
奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論」(医学書院)
山元恵子監修:「写真でわかる小児看護技術」(インターメディカ)

参考書: 講義時に適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法: 講義前後およびメール、マナビーの掲示板などで対応する。

754300

小児看護学実習

萩本　明子、川崎　友絵、笹谷　絵里

授業テーマ:

授業の概要:　疾病あるいは障がいがある小児とその家族を総合的に理解し、小児看護を実践するための基礎的能力を身につけるとともに、小児看護の役割と機能への理解を深める。

到達目標:
1. 疾病あるいは障がいがある小児とその家族について総合的に理解することができる。
2. 疾病あるいは障がいがある小児とその家族の看護上の問題を、問題解決のプロセスを踏まえて解決することができる。
3. 疾病あるいは障がいがある小児とその家族の成長発達段階、健康レベルに応じて個別的に行われる看護援助を実践することができる。
4. 小児看護の専門職者としての態度を養う。

授業方法:
2週間(10日間)実習を行う。学生1グループを　4～6名とし、各病院に配置する。1病棟に1名の教員を配置する。
原則学生1名で1名の患児とその家族を継続的に受け持つ。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	総合病院の小児科病棟、小児外科病棟、もしくは小児科を含む混合病棟にて実習を行う。2週間の実習中、原則1名の疾病あるいは障がいのある小児を受持つ。 患児とその家族を総合的(身体的、精神的、社会的、成長発達など)に理解するため、患児や家族、病棟のスタッフ、他職種とのコミュニケーション、カルテ、日々の看護援助、患児との遊びや学習から情報を収集し、問題解決プロセスを用いて全体像を把握し、必要な看護上の問題を導き出す。導き出した看護上の問題点を解決するため、個別性のある看護を計画し、実施、評価する。 受持ち患児やその家族に必要な看護援助、患児との遊びや学習支援を実践し、個別性のある看護援助の実践能力を高める。 病棟でのカンファレンス、反省会、実習終了後の反省会を通じて、他の学生の経験を共有し、学びを深める。	実習前には、母子保健看護概論、小児看護援助論A・B、成育医療学で学習した内容を復習し、予習課題を行ったうえで実習に望む。 実習中には、実習記録をすすめるとともに、翌日に必要な看護援助の学習、準備を行う。 実習後には、学びを振り返り、自己の課題を明確にして、次の実習につなげる。

受講者へのメッセージやアドバイス:
実習期間前から体調を整え、万全の姿勢で臨んでください。

フィードバックの方法:
各グループに1名の教員を配置し、臨地実習指導者と協力しながら適宜実施する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習内容(出席日数、実習内容、実習態度、実習記録)	100	実習目標の達成度

教科書:
実習要項、配布資料
奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論」(医学書院)
奈良間美保他著:「系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学各論」(医学書院)
山元恵子監修:「写真でわかる小児看護技術」(インターメディカ)

参考書:
適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
実習時指定する。

754400

ウイメンズヘルス援助論A

植松　　紗代

授業テーマ:　妊娠・分娩期における女性の心身の健康の保持増進

授業の概要:　妊娠・分娩期における女性の心身の健康の保持増進に関する知識と技術の習得

到達目標:
妊娠期における母体の心身の変化・特徴、胎児の発育・発達について理解し、アセスメントすることができる。
妊娠期のヘルスプロモーションを理解し、その支援方法を説明することができる。
出産の機序や分娩経過に応じた母体の心身の変化・特徴について理解し、その支援方法について説明することができる。
妊娠・分娩期の異常について理解することができる。
女性のライフサイクルにおける性の多様性や不妊、出生前診断について理解することができる。

授業方法:
パワーポイントやDVD教材、配布資料を用いて講義する。
周産期におけるシミュレーション学習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	妊娠期における看護(1)母体の生理的変化と胎児の発育発達について	母性看護学各論「妊娠期における看護(p.58～103)」を読んでおく
2.	妊娠期における看護(2)母体と胎児の経過と健康状態の診断について	母性看護学各論「妊娠期における看護(p.103～126)」を読んでおく
3.	妊娠期における看護(3)妊婦への看護について	母性看護学各論「妊娠期における看護(p.126～176)」を読んでおく
4.	妊娠期における看護(4)母体と胎児の異常について	母性看護学各論「妊娠期の異常と看護(p.358～400)」を読んでおく
5.	分娩期における看護(1)分娩機序と分娩経過について	母性看護学各論「分娩期における看護(p.178～220)」を読んでおく
6.	分娩期における看護(2)分娩の診断と看護について	母性看護学各論「分娩期における看護(p.220～250)」を読んでおく
7.	分娩期における看護(3)分娩期の母体と胎児の異常について	母性看護学各論「分娩期の異常と看護(p.401～456)」を読んでおく
8.	妊娠期のアセスメント(1)情報収集とアセスメントの実施	母性看護学各論「妊娠期における看護(p.58～176)」を読んでおく
9.	妊娠期における看護(5) 演習:妊婦健診(レオポルド触診法、腹囲・子宮底の測定、NSTモニターの装着等)	母性看護学各論「妊娠期における看護(p.95～102)」レオポルド触診法、胎児心拍数陣痛図(ノンストレステスト)を読んでおく ＊白衣着用(実習に準じる)、詳細は後日説明する
10.	妊娠期のアセスメント(2)アセスメントの実施	母性看護学各論「妊娠期における看護(p.58～176)」を読んでおく
11.	地域における子育て支援 (ゲストスピーカー)	詳細は後日説明する
12.	リプロダクティブヘルス 性の多様性、不妊、出生前診断について	母性看護学各論「不妊治療と看護(p.27～56)」「出生前診断(p.14～27)」、女性生殖器「性周期と性ホルモン(p26～35)」を読んでおく
13.	妊娠期のアセスメント(3)アセスメントの共有と発表	妊娠期のアセスメントを発表に向け完成させておく
14.	周産期シミュレーション学習	周産期にかかわる(ウィメンズヘルス援助論Bも含む)授業の復習 ＊白衣着用(実習に準じる)、詳細は後日説明する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説・コメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
筆記試験	70	不妊、出生前診断に関する知識と対象者への支援方法および妊娠・分娩期における女性の心身の健康に関する知識とアセスメント能力、支援方法の理解度を評価する
レポート	20	妊娠期の母体と胎児の健康に関する知識の習得度とアセスメント能力、さらにその支援方法に関する理解度を評価する
発表・討論	10	積極的に授業に参加し、グループワークでの態度・意欲も評価する

教科書:
系統看護学講座 専門Ⅱ「母性看護学各論」母性看護学2 医学書院(成育医療学で使用した教科書)
系統看護学講座 専門Ⅱ「女性生殖器」成人看護学9 医学書院(成育医療学で使用した教科書)

参考書:
病気がみえるvol.10産科　メディックメディア第3版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後における直接連絡

754500

ウイメンズヘルス援助論B

和泉　　美枝

授業テーマ:　周産期における母子とその家族のアセスメントとケア

授業の概要:　講義や演習、シミュレーション学習を通して、産褥期～育児期、新生児期にある母子の身体的・心理的・社会的特徴や変化、援助方法について理解し、看護技術の習得を目指す。さらに、事例を用いた看護過程の展開をウェルネスの視点から行う。
地域における子育て支援の実際や母子を取り巻く環境について学習する。
思春期・更年期の身体的・心理的・社会的変化を学習する。

到達目標:　産褥期～育児期、新生児期にある母子の身体的・心理的・社会的特徴や変化、母子を取り巻く環境を理解できる
産褥期～育児期、新生児期にある母子の援助方法を理解し、技術を習得できる
ウェルネスの視点から看護過程の展開ができる
思春期・更年期の身体的・心理的・社会的変化が理解できる

授業方法:　教科書、パワーポイント、DVD教材を用いて講義する
演習、シミュレーション学習を行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	リプロダクティブヘルス　思春期・更年期・高齢期	女性生殖器「思春期の特徴と疾患、治療、看護の特徴(p.11～12)」「性感染症(p.198～202)」「更年期の特徴と疾患、治療、看護の特徴(p.12～13)」「更年期障害(p.176～178)」「高齢女性におこりやすい女性生殖器疾患患者の看護(p.264～269)」を読んでおく
2.	産褥期における看護(1) 退行性変化と異常	母性看護学各論 「p.308～311、320～327、484～497」を読んでおく
3.	産褥期における看護(2)　進行性変化と異常	母性看護学各論「p.310～311、321、327～329、339、491～494」を読んでおく
4.	産褥期における看護(3) 心理・社会的変化と問題、セルフケア能力とその支援	母性看護学各論「p.312～320、330～342、349～354、486～488、505～510」を読んでおく
5.	新生児期における看護(1)　胎外生活への適応①	母性看護学各論「p.254～292」を読んでおく
6.	新生児期における看護(2)　胎外生活への適応②	母性看護学各論「p.254～292、301～303」を読んでおく
7.	新生児期における看護(3)　育児技術	母性看護学各論「p.294～301、342～349」を読んでおく
8.	産褥期・新生児期のアセスメント(1)	授業の産褥期・新生児期における看護の復習と、母性看護学各論「p.535～546」を読んでおく
9.	新生児期における看護(4)　新生児の異常とその看護	母性看護学各論「p.293～301、456～483、497～503」を読んでおく
10.	産褥期・新生児期における看護(演習) 産褥子宮底の測定、新生児のバイタルサイン測定、児頭計測、沐浴	授業の産褥期・新生児期における看護の復習と、母性看護学各論「p.296～300」を読んでおく ＊H406も使用する、白衣着用(実習に準じる)、詳細は後日説明する
11.	産褥期・新生児期のアセスメント(2)	授業の産褥期・新生児期における看護の復習と、母性看護学各論「p.535～546)」を読んでおく
12.	地域における子育て支援 (ゲストスピーカー)	母性看護学各論「p.351～354」を読んでおく 京都市、京田辺市で行われている育児支援について自己学習しておく
13.	産褥期・新生児期のアセスメント(3)	授業の産褥期・新生児期における看護の復習と、母性看護学各論「p.535～546)」を読んでおく
14.	シミュレーション	ウィメンズヘルス援助論A・Bの授業の復習をしておく ＊H406も使用する、白衣着用(実習に準じる)、詳細は後日説明する
15.	まとめ	授業の復習をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レポートは教室でまとめて解説・コメントし、適宜個別に解説・コメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	産褥期～育児期、新生児期にある母子と思春期・更年期・高齢期の特徴とその援助方法の理解度を評価する
レポート	20	ウェルネスの視点を持った母子の看護過程展開に関する理解度をレポートから評価する
授業への積極的態度	10	積極的に授業に参加しているなどの態度、意欲を評価する

教科書:　系統看護学講座 専門Ⅱ「母性看護学各論」母性看護学2 医学書院(成育医療学で使用した教科書)
系統看護学講座専門Ⅱ「女性生殖器」成人看護学9 医学書院(成育医療学で使用した教科書)

参考書:　井上裕美他監修 「病気がみえるVol.10 産科」メディックメディア
水野克己他 「よくわかる母乳育児」へるす出版
佐世正勝他 「ウエルネスからみた母性看護過程」医学書院
太田操編著 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」医歯薬出版株式会社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業前後の時間やオフィスアワー時に対応する

754600

ウイメンズヘルス実習

眞鍋　えみ子、和泉　美枝、植松　紗代、岡　いくよ

授業テーマ:　周産期における健康の保持増進と疾病を予防する能力を養う

授業の概要:　周産期にある母子を受け持ち、その身体的・心理的・社会的特徴や母子を取り巻く環境について理解し、看護過程の展開を通して必要な看護の根拠やウエルネスの視点から看護援助の必要性を理解しながら、指導者と共に実践する。また、地域における子育て支援活動に参加し、対象者の健康の保持増進、疾病予防のために必要な看護援助方法や多職種との連携、協働の重要性について考える。

到達目標:
1）周産期にある母子を受け持ち、その身体的・心理的・社会的特徴について理解できる
2）周産期にある母子を受け持ち、看護に必要な技術が習得できる
3）看護過程の展開を通して必要な看護の根拠やウエルネスの視点から看護援助の必要性が理解できる
4）周産期医療にける看護職の役割について理解できる
5）地域における子育て支援活動に参加し、その必要性と母子を取り巻く環境、他職種との連携・協働の重要性について理解できる
6）学生としての品行を備え、対象を尊重した支持的・共感的な態度で関わり、自ら学ぶ姿勢を持って実習に臨むことができる

授業方法:　実験実習実技（学外）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・臨床現場（病院）において、周産期にある母子を受け持ち、その身体的・心理的・社会的な変化や特徴を理解し、看護に必要な技術を経験する。さらに、ウェルネスの視点から看護過程を展開することにより、セルフケア能力の育成・向上の重要性と必要な看護の根拠について学びを深める。 ・地域における子育て支援活動に参加し、母子を取り巻く環境と、育児支援や他職種との連携・協働の重要性について理解する。 ・実習終了後に病棟と学内でカンファレンスを行い、各実習施設での実習内容を共有することで学びを深める。	・ウィメンズヘルス援助論A・Bの学習内容を復習するとともに、事前課題を行ったうえで実習に臨む。 ・復習として、実習記録の指導を受けるとともに、カンファレンス資料を作成し指導を受ける。

受講者へのメッセージやアドバイス:　学内での学修を統合する重要な科目です。特に周産期や育児期に焦点をあてて学修します。既習の知識や技術を復習して実習に臨んでください。特に、免疫機能の未熟な新生児の看護を実践するため、体調管理には十分に留意してください。

フィードバックの方法:　実習記録はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
知識・技術	80	到達目標1)～5)における知識や理解の到達度によって総合的に評価する
実習への積極的態度	20	事前学習や積極的な実習への取り組み、到達目標1)～5)の理解を深めようとする姿勢および到達目標6)に関する態度や姿勢を評価する

教科書:　ウィメンズヘルス実習要項、系統看護学講座 専門Ⅱ「母性看護学各論」母性看護学2 医学書院

参考書:
井上裕美他監修 「病気がみえるVol.10 産科」メディックメディア
水野克己他 「よくわかる母乳育児」へるす出版
佐世正勝他 「ウエルネスからみた母性看護過程」医学書院
太田操編著 「ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程」医歯薬出版株式会社
竹内正人編著 「帝王切開の全て」メディカ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　実習に関する質問などは主に実習中に対応する

754700

高齢者看護学概論

小松　　光代、岡山　　寧子

授業テーマ:　高齢者における健康長寿への看護を考える

授業の概要:　少子・超高齢社会が進展する中で、高齢者を取り巻く社会状況や日々の暮らし、心身の加齢変化など「高齢期を生きぬくこと」を理解し、健康長寿に向けての看護について学ぶ。健康増進のための介護予防支援、健康回復・維持のための支援のあり方を理解し、高齢者の生活を支える保健医療福祉分野における社会資源やそれらの連携について学ぶ。

到達目標:
1. 高齢者の健康と生活について説明することができる。
2. 高齢者の健康長寿に向けての保健・医療・福祉について説明することができる。
3. 高齢者の心身の加齢変化、中でも生活機能の低下について説明することができる。
4. 高齢者とのコミュニケーションのあり方について考えることができる。

授業方法:　講義、演習
DVD教材の使用

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	高齢看護学の展開（健康長寿を考える）（岡山）	高齢者のイメージ化
2.	数字からみた高齢者の姿、高齢者の健康と生活（岡山）	超高齢社会における高齢者の健康とくらしを調べる
3.	社会の中の高齢者像（1）（小松）	高齢者の生活背景理解に必要な戦後の歴史的な出来事を調べる
4.	老いの自覚、高齢者の体とこころ（1）（岡山）	老化について調べる
5.	健康長寿と保健・医療・福祉（1）（岡山）	高齢者における保健・医療・福祉の動向を調べる
6.	健康長寿と保健・医療・福祉（2）（岡山）	配布資料の復習
7.	健康長寿と保健・医療・福祉（3）（岡山）	配布資料の復習
8.	社会の中の高齢者像（2）（小松）	課題にそったレポート作成
9.	高齢者の生活機能を考える（岡山）	老化による高齢者の生活機能低下を調べる
10.	老いの自覚、高齢者の体とこころ（2）（岡山）	配布資料の復習
11.	高齢者のコミュニケーション（1）（小松）	看護コミュニケーション論の復習
12.	高齢者のコミュニケーション（2）演習（小松）／老いの自覚、高齢者の体とこころ（3）演習（岡山）	事前配布プリントの予習、配布プリント、参考書等を読み復習
13.	高齢者のコミュニケーション（3）演習（小松）／老いの自覚、高齢者の体とこころ（4）演習（岡山）	事前配布プリントの予習、配布プリント、参考書等を読み復習
14.	高齢者看護における倫理的課題（小松）	看護者の倫理綱領を読み復習
15.	まとめ（岡山・小松）	

受講者へのメッセージやアドバイス:　この超高齢社会、高齢者の健康長寿について共に考えてみませんか。

フィードバックの方法:　コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	30	出席状況、授業中の態度
レポート	20	到達目標1、3、4の理解度
試験	50	到達目標1～4の理解度により評価

教科書:　系統看護学講座　老年看護学　医学書院

参考書:　講義中に、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　基本的に授業の前後に応対、マナビーの掲示板機能

754800

高齢者看護援助論A

岡山　　寧子

授業テーマ:　健康長寿を考える:高齢者の安心・安全な暮らしへの支援、生活機能低下の予防・回復への看護

授業の概要:　高齢期における加齢変化や疾病等により生じうる生活機能の低下について、低下のメカニズムや日常生活への影響などを理解し、その予防や回復のために必要な看護方法を学ぶ。高齢者看護援助論Aでは、生活機能を予防し、安心・安全で自立した暮らしへの援助および生活機能低下からの回復に向けての援助について学ぶ。また、認知機能低下のある高齢者への看護についても学ぶ。そして高齢者のエンドオブライフケアについて考える。

到達目標:
1. 生活機能低下(フレイル・サルコペニア・生活不活発病など)の予防・回復への援助の基本を修得する。
2. 骨折した高齢者の生活機能回復に向けての看護の基本を修得する。
3. 事故予防や災害看護、服薬支援など安心・安全で自立した生活に向けての援助の基本を修得する。
4. 認知機能低下のある高齢者への看護の基本を修得する。
5. 高齢者のエンドオブライフケアの理解を深める。

授業方法:　講義、演習。DVD等を用いての講義、グループワークの実施。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業ガイダンス、生活機能低下の予防・回復への援助(1)フレイル・サルコペニア、生活不活発病の予防	高齢者の生活機能低下を調べる
2.	生活機能低下の予防・回復への援助(2)転倒・骨折の予防　入院中の転倒・転落リスクへの対応	配布資料の復習
3.	生活機能低下の予防・回復への援助(3)転倒・骨折予防の取り組み・足病変への対応	配布資料の復習
4.	生活機能低下の予防・回復への援助(4)骨折した高齢者への看護	配布資料の復習
5.	安心・安全で自立した生活への援助(1)活動と休息のバランス、せん妄への対応	活動と休息のバランスを調べる
6.	安心・安全で自立した生活への援助(2)事故や災害、エコノミー症候群などへの対応	高齢者に多い事故を調べる
7.	安心・安全で自立した生活への援助(3)脱水・暑熱障害への対応	高齢者の熱中症を調べる
8.	安心・安全で自立した生活への援助(4)服薬支援、痛み、感染症などへの対応	高齢者における薬物療法を調べる
9.	認知機能低下のある高齢者の看護(1)認知症の病態と治療、対応の仕方	認知症について調べる
10.	認知機能低下のある高齢者の看護(2)認知症高齢者への看護、認知症予防	配布資料の復習
11.	認知機能低下のある高齢者の看護(3)認知症のある高齢者との暮らし(介護家族への看護)	配布資料の復習
12.	認知機能低下のある高齢者の看護(4)認知症のある高齢者との暮らし(地域で支える)	配布資料の復習
13.	「生きぬく」を考える(1)様々な最期	高齢者のエンドオブライフケアを調べる
14.	「生きぬく」を考える(2)大往生を看取る(DVD視聴を通して)	配布資料の復習
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　人々の健康長寿をめざすために、どんな看護が必要かを共に考えていきましょう。

フィードバックの方法:　コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	授業への参加度
試験	70	到達目標1～5の修得状況

教科書:
医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学
医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾病論

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応

754900

高齢者看護援助論B

山縣　　恵美

授業テーマ:
健康長寿を考える:リハビリテーションを受ける高齢者、および生活の場で療養生活を送る高齢者に対する生活機能再構築に向けた看護

授業の概要:
高齢期における加齢変化や疾病等により生じうる生活機能の低下について、低下のメカニズムや日常生活への影響などを理解し、その予防や回復のために必要な看護方法を学ぶ。高齢者看護援助論Aに続いて、本科目では、特にリハビリテーションを受ける高齢者や生活の場で療養生活を送る高齢者に対する、生活機能再構築に向けた看護を学ぶとともに、高齢者看護における看護技術や看護過程の展開についても学ぶ。

到達目標:
1. 高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護の基本を身につける。
2. 脳血管疾患患者に対する看護の基本を身につける。
3. 生活機能低下を認める高齢者に対する日常生活援助について説明できる。
4. 生活機能低下を認める高齢者に対する排泄に関連した援助技術が習得できる。
5. 高齢者看護における看護過程の展開について理解し、事例に対する看護過程が展開できる。

授業方法:
講義、演習。DVD等を用いながらの講義、実習室等での看護技術演習、シミュレーション学習、およびグループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護(1):回復期から維持期に向けた支援	教科書「老年看護学」第7章B. 保健医療福祉施設における看護を読む
2.	高齢者のリハビリテーションのプロセスと看護(2):生活の場(介護施設)における支援	前回の講義レジュメを復習する
3.	生活機能再構築に向けた援助(1):排泄への援助(オムツを装着している高齢者への援助)	ナーシングスキル:「排泄のケア:排便障害」、「排泄介助:ポータブルトイレ」、「排便介助」、「排尿介助」、「おむつ交換」を学習する
4.	生活機能再構築に向けた援助(2):排泄への援助(排尿障害)	・教科書「老年看護学」第5章C. 排泄 ・教科書「老年看護　病態・疾患論」第2章C. ②排尿障害(尿失禁)を読む
5.	生活機能再構築に向けた援助(3):排泄への援助(シミュレーション学習)	ナーシングスキル:「おむつ交換」、「陰部洗浄」を学習する。PSCでオムツ交換援助の技術演習を行う。
6.	認知症高齢者に関するビデオ学習	教科書「老年看護学」第7章C. 介護を必要とする高齢者を含む家族への看護を読む
7.	生活機能再構築に向けた援助(4):排泄への援助(まとめ)、入浴援助	・教科書「老年看護学」第5章D. 清潔 ・教科書「老年看護　病態・疾患論」第2章C. ⑤入浴事故を読む ・ナーシングスキル:「入浴・シャワー浴介助」を学習する
8.	生活機能再構築に向けた援助(5):入浴援助	・教科書「老年看護学」第5章D. 清潔 ・教科書「老年看護　病態・疾患論」第2章C. ⑤入浴事故を読む ・ナーシングスキル:「入浴・シャワー浴介助」を学習する
9.	生活機能再構築に向けた援助(6):食事への援助(誤嚥、食事の工夫、口腔ケア援助)	・教科書「老年看護学」第5章B. 食事・食生活 ・教科書「老年看護　病態・疾患論」第2章C. ④嚥下障害を読む
10.	脳血管疾患患者に対する看護:回復期リハビリテーション病棟での看護①	・教科書「老年看護学」第6章B. ①脳卒中 ・教科書「老年看護　病態・疾患論」第4章B. ①脳血管障害を読む
11.	脳血管疾患患者に対する看護:回復期リハビリテーション病棟での看護②	前回の講義レジュメを復習する
12.	高齢者看護における看護過程の展開のフレームおよびアセスメントツール	高齢者看護援助論Aで実施した看護過程展開演習の復習
13.	事例を用いた看護過程の展開(1)	事例展開の個人ワークの実施
14.	事例を用いた看護過程の展開(2)	事例展開の個人ワークの実施
15.	まとめ	これまでの授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
マナビーおよびペーパーでの授業の感想、質問等に対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。事例展開については、演習後に解説を行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・授業への積極的参加度	30	出席および授業中の発言、態度と、到達目標4の到達度により評価する
レポート	20	到達目標2～5に関するレポートの仕上がり度合いから評価する
試験	50	到達目標1～5の理解度により評価する

教科書:
医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学
医学書院　系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護　病態・疾病論

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

755000

高齢者看護学実習

小松　光代、岡山　寧子、杉原　百合子、山縣　恵美

授業テーマ:
さまざまな健康レベルの高齢者とその家族を深く理解し、高齢者のQOL向上を目指した看護を学ぶとともに、多職種における連携・協働について理解する。

授業の概要:
入院加療中もしくは施設・在宅で生活する高齢者の生活像および健康状態を理解し、加齢変化や疾病に伴う日常生活障害のある高齢者に対してQOLを踏まえた援助を学ぶ。また、地域包括ケアシステムの理解を深め、高齢者の暮らしを支える保健・医療・福祉領域における協働・連携と看護職に求められる役割について考える。

到達目標:
1. 入院加療中の高齢者や、介護保険における施設サービスを利用する高齢者との関わりを通して、日常生活に障害のある高齢者の生活像および健康状態を全人的に捉える視点を持つことができる
2. 高齢者の尊厳・権利の擁護を基盤に置き、生活の再構築を図りQOL向上に向けた援助および地域での生活を見据えた適切な在宅療養移行支援を計画し実践することができる
3. 高齢者と家族を包括的に支援するためのチームアプローチとその中での看護の役割について理解できる
4. 介護保険法における在宅および地域密着型サービスを利用する高齢者との関わりを通して要介護状態にある高齢者の理解を深めると共に、望ましい日常生活への援助を理解する
5. 看護職の倫理原則や社会人のマナーを理解し遵守できる

授業方法:
回復期リハビリテーション病棟あるいは介護老人保健施設、および介護保険関連施設にて実習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・初日は学内において全体オリエンテーションを受け、実習方法、実習場所の概要、注意事項等について把握する。 ・回復期リハビリテーション病棟あるいは介護老人保健施設にて高齢者を1名受け持ち、看護過程を展開し、看護援助を行う。 ・疾病や加齢変化に伴う日常生活障害のある高齢者に対してQOLを踏まえた援助を行う。 ・高齢者と家族を支援するためのチームアプローチと、その中での看護の役割を把握する。 ・介護保険関連施設の実習では、要介護状態にある高齢者の日常生活への援助を行うとともに、地域包括ケアシステムについての理解を深める。 ・最終日には全体カンファレンスを行い、実習における学びを共有し、学びを深める。	・既習の高齢者看護学概論・援助論の学習内容を復習し、指示された事前学習を行い、実習に臨む。 ・実習後には指示された内容で実習のまとめを行い、実習目標に沿って学びを整理する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
実習記録については、適宜コメントをつけて返却する。
カンファレンスにおいては、随時時間内にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況・実習態度	30	主体的・積極的に実習に参加しているか評価する
実習記録	70	到達目標1～5の到達度によって評価する

教科書:
北川公子ほか、系統看護学講座　老年看護学、医学書院
鳥羽研二ほか、系統看護学講座　老年看護　病態・疾患編、医学書院
実習要項（配布）

参考書:
山田律子ほか、生活機能からみた老年看護過程＋病態・生活機能関連図、医学書院
亀井智子ほか、根拠と事故防止からみら老年看護技術、医学書院
マージョリー・ゴードン著、アセスメント覚え書　ゴードン機能的健康パターンと看護診断、医学書院
工藤綾子、これだけは知っておきたい高齢者看護学、ピラールプレス
角濱春美、手技と実践で学ぶ　実践！高齢者のフィジカルアセスメント、メディカ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
実習に帯同している場合は適宜連絡・報告を行う。それ以外は教員の連絡先を適宜提示する。

755100

在宅看護援助論A

小松　　光代

授業テーマ:　在宅看護の特徴、歴史的変遷と在宅療養を支える看護職の役割

授業の概要:　在宅療養者と家族の療養生活を支える看護について学習し、施設内看護との相違や在宅療養の意義、本人・家族の意向を尊重した看護援助等を理解し、住み慣れた自宅で最期まで過ごすための看護の基本を学ぶ。

到達目標:
1.在宅看護の歴史的変遷と現状から訪問看護師の役割を理解できる
2.在宅療養を支える法・制度、社会資源および多職種・関係機関との連携について説明することができる。
3.在宅療養を支援するのための看護過程や援助技術の特徴を理解できる
4.在宅療養者と家族、地域の特性に応じた健康および生活支援の援助方法を理解できる
5.在宅療養者と家族の権利保障や倫理的支援について考えることができる。

授業方法:　講義、演習、グループワーク等。DVDやビデオを活用する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	在宅看護の特徴、歴史的変遷と在宅療養を支える看護職の役割	入院中の看護と在宅療養者の看護の相違点、共通点について調べておく
2.	訪問看護の対象と場、在宅看護の提供方法及び家族への支援	在宅看護の提供方法について教科書を読み学習しておく
3.	在宅における援助技術(1)訪問看護場面のコミュニケーション、面接技術	看護コミュニケ―ション論を復習しておく
4.	訪問看護場面のシミュレーション(演習)	配布資料を参考に、事前学習をする
5.	在宅看護に係わる法令・制度とその活用	在宅療養者が利用できる社会資源について教科書を読んでおく
6.	在宅看護における看護過程の展開の特徴	看護過程の展開について復習しておく
7.	要介護状態にある高齢者と家族への支援	介護保険と要介護認定、要介護の要因を復習しておく
8.	在宅におけるエンドオブライフケア(1)看取りケアの基本	既習のエンドオブライフケアについて復習をしておく
9.	在宅におけるエンドオブライフケア(2)看取りの実際	エンドオブライフケア(1)の資料に目を通しておく
10.	在宅療養者と家族への倫理的配慮と意思決定支援	権利擁護、倫理綱領について学習しておく
11.	在宅療養する小児と家族への支援	長期療養となり在宅に移行する小児疾患と看護について教科書をよんでおく
12.	在宅療養する神経系難病患者と家族への支援(1)療養経過と看護の基本	神経系難病と看護について復習しておく
13.	在宅における基本的な援助技術(2)排便コントロール在宅療養する	排泄に関わる解剖生理や排便のケアについて復習しておく
14.	在宅療養する神経系難病患者と家族への支援(2)看護過程の展開	講義の資料に目を通し復習する。 看護過程の課題を作成
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　超高齢社会の日本における在宅看護の魅力や療養者と家族の望むその人らしい生き方の支援について一緒に考えましょう

フィードバックの方法:　コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。
提出物については、コメントを付けて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	20	到達目標への知識や理解度により評価する
試験	70	到達目標への知識や理解度により評価する
授業態度	10	積極的に授業に参加し、主体的に学習しているか評価する

教科書:　系統看護学講座　在宅看護論　医学書院

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　講義前後やメール、オフィスアワーで対応する

755200

在宅看護援助論B

杉原　　百合子

授業テーマ:　在宅療養者と家族の療養生活を支える看護:在宅療養者と家族への看護の実際とチームケア

授業の概要:　在宅療養者と家族の生活像をイメージしながら、訪問看護で提供される看護技術と患者・家族指導の方法・留意点を学習し、保健・医療・福祉職の相互連携による在宅チームケアの実際について理解する。

到達目標:
1.在宅療養者への健康管理と日常生活援助および医療的処置の技術を理解できる。
2.医療依存度の高い在宅療養者への支援の実際について理解できる。
3.介護家族への介護指導方法、相談・援助技術(緊急時や災害時の対応含む)を理解できる。
4.病院・施設から在宅への移行支援(退院支援)と住環境、介護・福祉用具について学ぶ。
5.地域包括支援センターの機能と役割について学ぶ。

授業方法:　講義/演習。DVD等を用いながらの講義、実習室等での演習、およびグループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	在宅看護の展開に必要な保健・医療・福祉の連携	教科書第4章G①～④に目を通しておく
2.	病院から施設・在宅への継続看護:退院支援	教科書第3章B①～④に目を通しておく
3.	在宅における基本的な援助(1)食生活・排泄・清潔	教科書第6章B②、③、⑤に目を通しておく
4.	在宅における基本的な援助(2)移動・福祉用具と住環境	教科書第6章B④に目を通しておく
5.	在宅環境での日常生活ケアの方法(演習:在宅A・老年B)	事前配布資料に目を通しておく
6.	医療依存度の高い療養者と家族への支援(1)胃瘻増設患者へのケア	教科書第6章C④に目を通しておく
7.	医療依存度の高い療養者と家族への支援(2):尿道留置カテーテル管理と看護	教科書第6章C②に目を通しておく
8.	医療依存度の高い療養者と家族への支援(3):ストーマ増設中の療養者へのケア	教科書第6章C③に目を通しておく
9.	医療依存度の高い療養者と家族への支援(4):在宅酸素療法・人工呼吸療法	教科書第6章C⑥～⑧に目を通しておく
10.	医療依存度の高い療養者と家族への支援(5):皮膚管理・褥瘡	ナーシングスキル手技リスト57:褥瘡のアセスメント・予防を確認しておく
11.	医療依存度の高い療養者と家族への支援(6):在宅での輸液療法(HPN,CVポート)	ナーシングスキル手技リスト226:皮下埋め込み型ポートを確認しておく
12.	訪問看護場面における訪問看護師のリスクマネジメント(1)災害時における支援	教科書第5章C⑥に目を通しておく
13.	訪問看護場面における訪問看護師のリスクマネジメント(2)感染防止・安全の管理	教科書第5章C②、⑤に目を通しておく
14.	地域包括支援センターの機能と看護職の役割	事前配布資料に目を通しておく
15.	まとめ	これまでの資料に目を通しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　提出物、コメントペーパーに対する解説・フィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標1～5に関する知識や理解度により評価する
レポート	30	到達目標1～4に関する知識や理解度により評価する
講義への参加度・態度	10	積極的に授業に参加し、主体的に学習しているか評価する

教科書:　河原加代子ほか、系統看護学講座　在宅看護論、医学書院

参考書:　講義中に適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　講義の前後およびオフィスアワーで対応する。

755300

在宅看護学実習

小松　光代、橋本　秀実、三橋　美和、岡山　寧子、杉原　百合子、山縣　恵美

授業テーマ:
在宅療養者と家族を対象とした訪問看護を通して、訪問看護師の役割、在宅療養を支援する関係機関、多職種連携について理解する

授業の概要:
在宅で療養する様々な疾病、健康レベル、ライフサイクルにある人々と家族を対象として、看護援助の方法、家族支援、法制度や社会資源、保健・医療・福祉関連機関との連携について学び、看護過程が展開できる基礎的な能力を習得する。

到達目標:
1.在宅で療養する人と家族の意向を尊重した訪問看護の基本を学ぶ。
2.在宅で療養する人と家族を対象に、暮らしの場における看護過程の展開ができ、指導者とともに可能な看護援助を一部実施できる。
3. 地域包括ケアシステム構築過程の実際や在宅療養を継続するための関係機関との連携、社会資源の活用について学ぶ。
4.在宅療養者と家族を支援する訪問看護師の機能と役割を理解できる。
5.看護職の倫理原則を理解し遵守できる。

授業方法:
訪問看護ステーションおよび保健医療福祉関係機関で実習する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	在宅療養の場で既習の知識と技術を統合し、在宅療養者と家族が住み慣れた地域で生活を継続するための訪問看護計画を立案、指導者とともに看護援助を一部実施し評価する。在宅療養者を支える様々な社会資源を視野に入れながら訪問看護を体験し、看護師の役割と様々な関係機関と訪問看護ステーションの多職種協働、連携の実際を学ぶ。地域包括ケアシステム構築の現状と課題、看護職の役割を理解できる。各施設での実習終了後は、学内で学びを共有し、さらに理解を深める。	事前学習をするとともに、在宅で頻度の高い援助技術において、e-learningにより学習する。受け持ちが想定される療養者の看護過程や患者教育、家族への指導方法について復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
実習受け入れ施設が限られており、遠方となる場合がある。事前に調整を行う予定である。施設により、実習スケジュールが異なる場合があるので、事前の指示に注意を払うようにする。
在宅療養者を支援する訪問看護を通して、在宅で療養する意義について考えましょう。
療養者と家族の生活が、様々なサービスに支えられて実現していることを知りましょう。

フィードバックの方法:
実習記録は、コメントをつけて返却する。
カンファレンスについては、時間内にコメントをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習施設での実習修得	70	実習目標1～5の到達度を評価する
実習態度及び出席度	20	主体的な学習や実習中の倫理的態度と積極的な行動、出席状況
事前学習	10	事前学習レポートを評価する

教科書:
系統看護学講座　在宅看護論　医学書院

参考書:
角田直枝,よくわかる在宅看護,Gakken.
押川真喜子, 写真でわかる訪問看護アドバンス,インターメディカ

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
実習に帯同している場合は、適宜連絡、報告を行う。それ以外は、教員の連絡先を適宜提示する。

755400

公衆衛生看護学概論

桝本　　妙子

授業テーマ:　公衆衛生看護の概念、目的、対象と方法、活動の場の特性、地域包括支援システムにおける看護職の役割を学ぶ

授業の概要:　公衆衛生看護の概念、変遷、機能、目的について学ぶとともに、保健師・養護教諭の行う活動の対象と方法、特性について学習する。また、地域・学校・事業所で展開される公衆衛生看護活動と地域包括支援システムにおける看護職の役割、それぞれの関係職種との連携について学習する。

到達目標:
①公衆衛生看護の概念、変遷について説明できる。
②公衆衛生看護の対象と方法について説明できる。
③地域・学校・事業所で展開される公衆衛生看護活動について説明できる。
④地域包括支援システムにおける看護職の役割と関係機関、関係職種との連携について説明できる。

授業方法:　講義および適宜グループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	公衆衛生看護学の概念と機能	テキストp.3-7を読んでおく
2.	公衆衛生看護学における健康のとらえ方	前回の授業のまとめと健康とは何かについて考えておく
3.	公衆衛生看護活動の対象	前回の授業のまとめとテキストp.7-8を読んでおく
4.	公衆衛生看護活動の方法	前回の授業のまとめとテキストp.7-8を読んでおく
5.	地域・学校等におけるヘルスプロモーション活動	前回の授業のまとめとテキストp.13-17を読んでおく
6.	公衆衛生看護の歴史と発展(1)　創成期の公衆衛生看護	前回の授業のまとめとテキストp.21-26を読んでおく
7.	公衆衛生看護の歴史と発展(2)　第２次世界大戦後の保健師活動	前回の授業のまとめとテキストp.27-36を読んでおく
8.	社会環境の変化と公衆衛生看護	前回の授業のまとめとテキストp.69-78を読んでおく
9.	公衆衛生看護の活動分野(1)　行政における保健師の活動	前回の授業のまとめとテキストp.60-63を読んでおく
10.	公衆衛生看護の活動分野(2)　学校における養護教諭の活動	前回の授業のまとめとテキストp.433-446を読んでおく
11.	公衆衛生看護の活動分野(3)　事業所における保健師の活動（産業保健）（ゲストスピーカー）	前回の授業のまとめとテキストp.447-467を読んでおく
12.	地域・学校等における保健医療福祉システムの連携（地域包括支援システムにおける看護職の役割）	前回の授業のまとめとテキストp.49-54を読んでおく
13.	グループ支援・組織化	前回の授業のまとめとテキストp.148-157を読んでおく
14.	公衆衛生看護の展望	前回までの授業のまとめをしておく
15.	まとめ	前回までの授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は2年次配当の看護専門科目であるため、看護学に関する基礎的内容は、各自自己学習のうえ授業に臨んでください。

フィードバックの方法:　講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントを講義時に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
毎回の振り返りシート及び授業への参加度	20	授業内容の理解度及び参加態度・意欲を評価する
宿題カードを含む課題	30	到達目標①～④についての理解度と説明力を評価する
期末試験	50	到達目標①～④についての理解度と説明力を評価する なお、欠席は減点対象とする

教科書:　『第4版　公衆衛生看護学. Jp　データ更新版』荒賀直子・後閑容子編　インターメディカル

参考書:
『これからの保健医療福祉行政論』星旦二・麻原きよみ編　日本看護協会出版会
『新版保健師業務要覧』日本看護協会監修　日本看護協会出版会
『健康相談の理論と実際』三木とみ子・徳山美智子編　ぎょうせい
『国民衛生の動向・厚生の指標　増刊』厚生労働統計協会
『社会環境と健康　健康管理概論第3版』講談社サイエンティフィク

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　講義前後で対応する

755500

健康教育論

三橋　　美和

授業テーマ:

授業の概要:　個人および集団の特性や健康レベルに応じた保健行動獲得のための支援技術である「健康教育」について、その意義と基本的な方法を学ぶ。

到達目標:
1.健康教育の意義を理解し、基本的な理論や方法について理解する
2.健康教育の一連のプロセスを理解し、具体的な展開技術を学ぶ

授業方法:　講義及びグループ演習で展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康教育とは何か　ー理念、目的、意義ー	教科書の該当箇所を読んでおく
2.	健康教育の発展過程	前回の授業を振り返り、教科書の該当箇所を読んでおく
3.	保健行動とは	〃
4.	健康教育に用いる理論	〃
5.	健康教育の方法(1) 対象規模別にみた種類と特徴	〃
6.	健康教育の方法(2) 媒体の種類と特徴	〃
7.	健康教育のプロセス(1) 企画	〃
8.	健康教育のプロセス(2) 実施	〃
9.	健康教育のプロセス(3) 評価	〃
10.	健康教育の企画(1) ニーズアセスメントとテーマの設定	健康教育の企画に必要な資料の準備・作成等（グループでの作業を含む）
11.	健康教育の企画(2) 実施方法の選定と企画案の作成	〃
12.	健康教育の企画(3) 指導案・媒体の作成	〃
13.	健康教育の企画(4) 評価計画の作成	〃
14.	健康教育の実施	健康教育の実施に必要な資料準備・発表練習等（グループでの作業を含む）
15.	健康教育の評価 ー企画評価・実施評価・結果評価の実際ー	健康教育の評価に必要な資料の準備・作成等（グループでの作業を含む）

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やmanabeを用いて行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	目標についての理解度と説明力により評価する
レポート	10	提出期限・レポート内容により評価する
授業（主にグループ演習）への取り組み状況	40	授業（主にグループ演習）への参加態度と取り組み状況により評価する

教科書:　荒賀直子・後閑容子編、公衆衛生看護学jp 第4版、インターメディカル

参考書:　講義中に適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:　講義前後で対応する。

755600

国際保健

橋本　　秀実

授業テーマ:　世界の人々の健康と国際協力について考える。

授業の概要:　世界の健康問題と国際保健協力の概要について学びます。これまで主として病を持つ個人の健康の回復に向けた看護について学んできた視野を広く世界に向けて、世界の健康格差とその解消に向けた取り組みについて学びます。

到達目標:
（1）国際保健協力の歴史と世界の健康問題の解決に向けた取り組みについて説明することができる。
（2）世界の健康問題を解決するための組織とその概要、日本の国際保健医療協力の組織と働きについて述べることができる。
（3）世界の主要な健康問題の概要を述べることができる。
（4）日本に暮らす外国人の健康問題とその背景について述べることができる。

授業方法:　授業は講義とディスカッション、グループワークとプレゼンテーションにより行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	コースオリエンテーション 国際保健とは何か	シラバスに目を通す テキストを用意しておく
2.	先進国と途上国 健康格差とその背景	事前学習プリント
3.	国際保健医療協力機関とその働き	事前学習プリント
4.	国際保健の歴史と基本概念	事前学習プリント
5.	世界の健康戦略	事前学習プリント
6.	人口問題	事前学習プリント
7.	国際緊急援助 難民の健康	事前学習プリント
8.	リプロダクティブヘルス	事前学習プリント
9.	子どもの健康	事前学習プリント
10.	感染症	事前学習プリント
11.	途上国におけるプライマリヘルスケアの実際	事前学習プリント
12.	文化とはなにか 異文化理解	事前学習プリント
13.	移民の健康と倫理 在日外国人の概要と背景	事前学習プリント
14.	在日外国人の健康問題	事前学習プリント
15.	まとめ	テキストと資料を復習する

受講者へのメッセージやアドバイス:　事前学習をして臨み、疑問点を授業で解決して、事後学習（学びと感想）で自らの考えをまとめていきましょう。

フィードバックの方法:　課題や小テストについては授業中に全体にフィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	30	目標（1）～（4）について評価する。
事前事後学習	60	日常の学習状況について評価する。
小テスト	10	目標（1）～（4）について評価する。

教科書:　田代順子監修．ワークブック国際保健・看護基礎論．ピラールプレス

参考書:　川野雅資監修．看護学実践　Scuience of Nursing　国際看護学．ピラールプレス
日本国際保健医療学会編．国際保健医療学．杏林書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:　研究室（H506)在室時は対応可能。マナビ一掲示板またはEmailでの連絡も可能。

755700

国際看護活動論

橋本　　秀実

授業テーマ:
世界を舞台に活躍できる看護師を、国内でも様々な文化的背景を持つ人々を対象とした看護ケアを実践できる看護師を目指しましょう。

授業の概要:
主に途上国を対象として国際保健・看護協力を展開するための基礎となる力を身につけましょう。
また、異文化背景を持つ対象者を看護するための知識を学びます。

到達目標:
1. 国際保健・看護協力を展開するための国や地域の情報収集やアセスメントができる
2. 参加型学習行動法について理解し、国際開発援助協力について考察することができる
3. 異文化背景を持つ対象の看護について考察することができる

授業方法:
グループワーク、演習、プレゼンテーションを中心に進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション	2年次科目国際保健について復習する
2.	国や地域の情報収集とアセスメント1	グループワークを進める
3.	参加型学習行動法と国際協力1	国際保健で学んだ国際保健協力について復習しておく
4.	国や地域の情報収集とアセスメント2	グループワークを進める
5.	諸外国の保健医療と看護	資料を読む
6.	参加型学習行動法と国際協力2	国際保健で学んだ国際保健協力について復習しておく
7.	国や地域の情報収集とアセスメント3 プレゼンテーション	グループワークを進める
8.	国や地域の情報収集とアセスメント4 プレゼンテーション	グループワークを進める
9.	異文化背景を持つ対象の看護	2年次科目国際保健テキスト該当箇所を読む
10.	在日外国人の文化的背景1	グループワークを進める
11.	国際看護活動の実際	2年次科目国際保健の主要概念や戦略について復習しておく
12.	在日外国人の文化的背景2	グループワークを進める
13.	在日外国人の文化的背景3 プレゼンテーション	グループワークを進める
14.	在日外国人の文化的背景4 プレゼンテーション	グループワークを進める
15.	異文化背景を持つ対象の看護 事例検討	レポート作成

受講者へのメッセージやアドバイス:
2年次に学んだ国際保健を踏まえてさらに具体的な看護の展開について学びます。グループワークや演習を中心に進めますので積極的に参加しましょう。

フィードバックの方法:
授業中にコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	60%	1、3について評価する
課題	20%	2について評価する
レポート	20%	3について評価する

教科書:
2年次使用した国際保健のテキスト

参考書:
授業で紹介します

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:
必要時対応します（H506）
メールでも構いません（hihashim@）

755800

卒業研究Ⅰ

小松　光代、和泉　美枝、杉原　百合子

授業テーマ:
看護研究の意義、研究倫理、研究手法、プロセスについて基礎的知識を学ぶ

授業の概要:
看護研究の意義、研究倫理、文献検索の方法、量的・質的研究の手法について学び、研究計画立案のプロセスを習得する

到達目標:
1.看護研究の意義、プロセスの概要を理解できる
2.文献検索、文献検討の方法を習得できる
3.看護研究の基本的な一連の方法を理解できる
4.研究倫理について理解し、研究計画の立案のプロセスが習得できる

授業方法:
講義及び学生による発表、学生間での討論、教員の指導により授業を展開する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護研究の意義とプロセス（小松）	興味のある看護の領域、キーワードを考えておく
2.	研究倫理と研究計画(小松)	興味のある看護の領域、キーワードを考えておく。倫理綱領を復習しておく
3.	文献検索の実際(和泉、杉原)	文献検索のデータベースの名称を調べておく 文献クリティークの資料①の作成
4.	文献検討の意義と方法(小松)	論文の構成を復習しておく 文献クリティークの資料①の作成
5.	量的研究（実態調査研究・因果検証型研究・実験研究）の方法(1)(和泉)	事前配布資料に目を通しておく
6.	量的研究（実態調査研究・因果検証型研究・実験研究）の方法(2)(和泉)	事前配布資料に目を通しておく
7.	文献検討のまとめ（和泉）	収集した文献に目を通しておく 文献クリティーク資料②の作成
8.	文献検討のまとめ(発表)（和泉、杉原、小松）	文献クリティーク①の資料を作成し、発表の準備をしておく
9.	質的研究の方法（1）事例研究(杉原)	事前配布資料に目を通しておく
10.	質的研究の方法（2）質的記述的研究(杉原)	事前配布資料に目を通しておく
11.	看護研究の計画の作成(杉原)	「2.研究計画と看護研究における倫理的配慮」で配布した資料を読み返す
12.	質的研究の方法（3）質的記述的研究の実際①(杉原)	事前配布資料に目を通しておく
13.	質的研究の方法（4）質的記述的研究の実際②(杉原)	事前配布資料に目を通しておく
14.	看護研究の計画の発表（小松、杉原、和泉）	研究計画書(レポート③)を作成し、発表の準備をしておく
15.	看護研究の計画の発表(小松、杉原、和泉)	研究計画書(レポート③)を作成し、発表の準備をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
専門職として看護現象を研究的にまとめるプロセスの基礎を学びましょう

フィードバックの方法:
個々の提出物はコメントをつけて返却する
発表については随時講義内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・討論	20	発表および討論での知識・技能の習得度を評価する 積極的に授業に参加し、主体的に学習しているか評価する
レポート	80	看護研究の基礎知識・技能の習得度を評価する

教科書:
教科書は使用しない。必要な資料はプリントとして配布する。

参考書:
系統看護学講座別巻看護研究,坂下玲子他,医学書院
ナーシング・グラフィカ基礎看護学④看護研究,川村佐和子編,メディカ出版
黒田裕子の看護研究Step by Step 第5版,黒田裕子,医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力、

教員との連絡方法:
講義の前後およびオフィスアワーで対応する

756101、02　**看護実践総合演習Ⅰ**

専任教員

授業テーマ:　看護実践能力の習得と自己課題の明確化

授業の概要:
1）看護職者としての基本的な姿勢の習得、既習得の知識を選択・統合した臨床判断能力の育成とそれに基づく看護実践能力を習得する
2）状況設定のシミュレーション学習や臨地実習で遭遇することの多い場面設定による看護OSCEにより、自己の課題を明らかにし自己学習へとつなげる。
3）自分を理解し他者との関係を深めることにより、積極的にコミュニケーションを取ることの重要性に気づき、キャリア形成に必要なものを理解する。
4）文章を読み解く力やレポートの書き方、論理的な思考プロセスを理解し、そのスキルを習得する。

到達目標:
1）看護職者としての基本的な姿勢の習得、既習得の知識を選択・統合した臨床判断能力の育成とそれに基づく看護実践能力を習得する。
2）状況設定のシミュレーション学習や臨地実習で遭遇することの多い場面設定による看護OSCEにより、自己の課題を明らかにし自己学習へとつなげる。
3）自分を理解し他者との関係を深めることにより、積極的にコミュニケーションを取ることの重要性に気づき、キャリア形成に必要なものを理解する。
4）文章を読み解く力やレポートの書き方、論理的な思考プロセスを理解し、そのスキルを習得する。

授業方法:　5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス キャリア学習(1)マインドマップ作成・自己理解	
2.	キャリア学習(2)　キャリア論、自己理解　［キャリアカウンセラー山崎聡子］	看護職を目指す理由や理想の看護職像について考える
3.	キャリア学習(3)　ヒューマンスキル、目標をもつことの大切さ　［キャリアカウンセラー山崎聡子］	
4.	キャリア学習(4)　1年間の目標の設定・ポートフォリオの活用方法、先輩看護職からのメッセージ	1-3の授業内容を振り返り、自己理解を深める
5.	看護学科の領域紹介	
6.	研究室訪問	マインドマップを完成させ、マップを用いて自己紹介ができるように準備する
7.	アカデミックリーディングの基礎	
8.	アカデミックライティングの基礎(1)　レポート作成の基礎	7.の授業内容を復習し、理解を深める
9.	アカデミックライティングの基礎(2)　レポート作成のための資料の探し方	8.の授業内容を復習し、理解を深める
10.	アカデミックライティングの基礎(3)　レポート作成、グループワーク	・8,9.の授業内容の復習と期日までにレポートを作成し、提出する。 ・グループワーク後は、レポートを修正し、提出する。
11.	臨地実習に向けて　感染予防対策　［ゲストスピーカー感染管理認定看護師　高比良］	麻疹、風疹、ムンプス、水痘の予防接種の接種歴を確認しておく
12.	シミュレーション学習(1)　臨地実習場面	・事前学習はマナビーなどで周知する ・基礎看護学Ⅰの実習要項を読んでおく
13.	シミュレーション学習(2)　一次救命処置（BLS）	事前配付資料およびPSCでのDVD視聴
14.	看護OSCE（客観的臨床能力試験）と振り返り	事前学習はマナビーなどで周知する
15.	先輩看護職からのメッセージ「看護の魅力」　ゲストスピーカー	

受講者へのメッセージやアドバイス:　学士力や看護実践能力の段階的なステップアップを目指します。自己学習の課題は、看護技術e-learningやPSCを活用して主体的に学習を進めてください。模擬患者さんの授業参画も計画しています。

フィードバックの方法:
アカデミックライティングのレポートについてはコメントや添削して返却する。
質問用紙やコメントペーパー等に対するフィードバックは教室でまとめて解説する。
シミュレーション学習・看護OSCEは時間内にフィードバックをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50	積極的に授業に参加し、到達目標1)2)3)ができるようになったかを評価する。
課題レポート	20	到達目標4)を理解した上で、アカデミックライティングのレポートの完成度で評価する
シミュレーション学習・看護OSCE	20	積極的に授業に参加し、到達目標1)2)ができるようになったかを評価する。
自己学習に取り組む姿勢	10	ナーシングパスポートやプラクティカルサポートセンターでの取り組む姿勢を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　E メールを利用、授業の前後に教室内で応対

756201、02

看護実践総合演習Ⅱ

専任教員

授業テーマ:

授業の概要: 主体的に学ぶ姿勢を習得し，看護実践能力を養う.

到達目標:
1. 主体的に学ぶ姿勢を習得する.
2. シミュレーション学習や看護OSCEにより看護実践能力を育む.
3. 2年生で経験する臨地実習等から，看護の機能と役割について理解する.

授業方法: 講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	キャリア学習(1) :シスターアドバイザーからのアドバイス，2年次の過ごし方	
3.	キャリア学習(2) 「勤労観・職業観、価値観・能力」 キャリアカウンセラー:山崎聡子	
4.	キャリア学習(3)「社会との関わりを通して自己理解を深める」 キャリアカウンセラー:山崎聡子	
5.	シミュレーション学習:臨床場面	予め提示された課題を行う.
6.	臨地実習における感染予防 ゲストスピーカー:感染管理認定看護師	
7.	2年生で経験する臨地実習:実習指導者の立場から	基礎看護学実習Ⅰでの経験を想起しておくこと.
8.	2年生で経験する臨地実習:臨地実習の意義・目的	看護学部実習要項・基礎看護学実習Ⅱ実習要項を熟読しておくこと
9.	2年生で経験する臨地実習:学習のプロセス，健康管理，安全管理，個人情報保護など	看護学部実習要項・基礎看護学実習Ⅱ実習要項を熟読しておくこと
10.	ヒューマンケアの基本「倫理的実践力について考える」	基礎看護学実習Ⅱでの経験を想起しておく
11.	シミュレーション学習(2) 一次救命処置(BLS)	1年次の学習内容を復習する
12.	シミュレーション学習(3) 一次救命処置(BLS)，看護OSCEオリエンテーション	1年次の学習内容を復習する
13.	看護OSCE(客観的臨床能力試験):実施	予め提示された課題を行う.
14.	看護OSCE(客観的臨床能力試験):振り返り	
15.	キャリア学習(4):地域で活躍する看護職	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: シミュレーション学習・看護OSCEは時間内にフィードバックする.

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業に取り組む姿勢	40	積極的に授業に参加することができる.
シミュレーション学習・看護師OSCE	50	提示された課題を理解し必要な判断をしながら，看護援助を実施することができる.
自己学習に取り組む姿勢	10	ナーシングパスポートやプラクティカルサポートセンターを活用し，主体的に学習に取り組むことができる.

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: ガイダンス時に伝達する.

756301、02

看護実践総合演習Ⅲ

専任教員

授業テーマ:
看護実践能力の習得と自己課題の明確化、キャリア学習と学士力の養成

授業の概要:
科目別実習前に既習の知識や技術を用いた看護実践能力の確認や実習に備えた学習を行う
専門職となるためのキャリア学習をする。学士力(リーディング、ライティング、プレゼンテーションの力)を育成する。

到達目標:
1.看護職としての必要な知識、技術、態度を選択・統合した臨床判断能力の育成及び強化を行い、それに基づく看護実践能力を習得する
2.臨地実習で遭遇することの多い場面設定によるOSCEにより、自己の課題を明らかにし、自己学習へのつなげる
3.看護職としてのキャリア形成に向けた準備ができる
4.情報リテラシー(情報活用力)を修得し、課題にそった文献検索とレポートが作成できる

授業方法:
講義ならびに演習形式とする

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	振り返りと1年間の目標設定、ポートフォリオの作成	ポートフォリオを振り返り目標を考えておく
2.	「看護職としてのキャリアをイメージする」（外部講師）	自身の看護職としてのキャリアについて考えておく
3.	「キャリア実現にむけた大学生活」(外部講師)	自身の看護職としてのキャリアについて考えておく
4.	「キャリアを考慮した就職先の選び方」	自身の看護職としてのキャリアについて考えておく
5.	学士力「情報収集・情報整理力(文献検索)」	文献検索の方法を復習する
6.	学士力「課題発見・アカデミックライティング④」	課題資料を作成する
7.	科目別実習前オリエンテーション① (臨地実習の意義・目的、学習のプロセス、事前学習、客観的臨床能力試験課題提示)	実習要綱を読む
8.	科目別実習前オリエンテーション② (感染予防、健康管理について)	感染予防について復習しておく
9.	科目別実習前オリエンテーション③ (安全管理、個人情報保護について)	医療安全と個人情報の保護について復習しておく
10.	科目別実習前オリエンテーション④ (成人急性期、成人慢性期)	実習要項を読んでおく。実習の事前学習をする
11.	j科目別実習前オリエンテーション⑤ (小児看護学、ウィメンズヘルス)	実習要項を読んでおく。実習の事前学習をする
12.	科目別実習前オリエンテーション⑥ (高齢者看護学、在宅看護学)	実習要項を読んでおく。実習の事前学習をする
13.	科目別実習前オリエンテーション⑦ (精神看護学)	実習要項を読んでおく。実習の事前学習をする
14.	科目別実習前オリエンテーション⑧ (チーム医療：多職種の役割と連携)	配布資料に目をとおしておく
15.	客観的臨床能力試験と振り返り	配布資料に目をとおし、技術練習をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
看護実践総合演習Ⅰ、Ⅱで学習したことを基礎に、領域別実習前に看護実践能力を高めましょう。
キャリア学習や学士力を高める学習を通して、専門職となるステップを着実に進めましょう。

フィードバックの方法:
個々の提出物はコメントをつけて返却する
発表については随時講義内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	40	到達目標1,2の知識と理解。技術、態度の到達により評価する
レポート	30	到達目標3,4の知識と理解。技術、態度の到達により評価する
出席度・態度	30	主体的に学習する態度

教科書:
教科書は使用しない。必要な資料はプリントとして配布する。

参考書:
講義中に、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
講義の前後およびメール、オフィスアワーで対応する

756401、02

看護実践総合演習Ⅳ

専任教員

授業テーマ:　看護実践能力の習得と自己課題の明確化、キャリア学習と学士力の養成

授業の概要:　最終学年としてに既習の知識や技術を用いた看護実践能力の確認や実習に備えた学習を行う
専門職となるためのキャリア学習をする。学士力(プレゼンテーションの力)を育成する。

到達目標:
1.看護職への橋渡しの技術・知識を習得し、看護実践能力を向上することができる。
2.最上級生として下級生に対して看護学生モデルとなることができる。
3.看護職としてのキャリア形成に向けた準備ができる
4.効果的なプレゼンテーション技法を習得する。

授業方法:　講義ならびに少人数の演習形式とする

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	振り返りと1年間の目標設定、ポートフォリオの作成	ポートフォリオを振り返り目標を考えておく
2.	上級生シスターアドバイザー	最上級生として下級生に看護学生としてもモデルが示せるように準備する
3.	薬害被害について	
4.	実践看護技術１ナーシングバイオメカニクス	既存の知識と技術を統合し、効果的な体位変換・移乗方法を考える
5.	実践看護技術２点滴静脈注射	既存の知識と技術を統合し、点滴静脈注射の介助方法を事前学習する
6.	実践看護技術3ストーマケア	ストーマケアの事前学習をする
7.	統合実習オリエンテーション	実習要綱を読む
8.	客観的臨床能力試験	配布資料に目をとおしておく
9.	客観的臨床能力試験と振り返り	配布資料に目をとおしておく
10.	看護管理特別講義	看護管理を復習する
11.	キャリア教育１	自身の看護職としてのキャリアについて考えておく
12.	キャリア教育２	自身の看護職としてのキャリアについて考えておく
13.	プレゼンテーション技法	パワーポイント活用方法を学んでおく
14.	国家試験対策	
15.	４年間の振り返り	

受講者へのメッセージやアドバイス:　看護実践総合演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで学習したことを基礎に、卒業前の看護実践能力を高める。

フィードバックの方法:　個々の提出物はコメントをつけて返却する
発表については随時講義内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	40	到達目標1の知識と理解。技術、態度の到達により評価する
レポート	40	到達目標2、3、4の知識と理解、技術、態度の到達により評価する
出席度・態度	20	主体的に学習する態度

教科書:　教科書は使用しない。必要な資料はプリントとして配布する。

参考書:　講義中に、適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　講義の前後およびメール、オフィスアワーで対応する

756500

看護実践総合実習（アドバンス）

看護学部教員

授業テーマ:
看護の知識・技術の統合、実践への適用、チームの一員としてのケア参画

授業の概要:
地域に根ざした拠点病院において対象が持つ健康問題を包括的に把握し、保健・医療・福祉その他の関連機関とのチーム医療を通して、総合的な看護援助を行い、組織における看護職の役割を理解するとともに、対象のQOLを援助する基本的な能力を養う。さらに看護援助を通して総合的な看護実践能力を培うとともに看護専門職としての自己の在り方を省察する。

到達目標:
1）保健医療福祉における協働・連携の重要性を認識し，チーム医療における看護の役割と機能について理解することができる.
2）組織における役割と機能について理解することができる.
3）実務に即した看護を実践できる能力を養う.
4）複数の対象者を受け持ち，優先順位を考慮した業務調整について理解する.
5）学習テーマあるいは課題を追求するための実習計画を立案し，実践することにより,既習の知識・技術・態度の統合をはかる.
6）さまざまな健康レベルにある対象とその家族に対して包括的にアセスメントし，必要に応じた看護を実践できる.
7）学生として品行を備え、対象を尊重した態度と自ら学ぶ姿勢を持ち,実習に臨むことができる.

授業方法:
実習（学外）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	[1週目]以下の内容について学習する ・チーム医療、多職種連携、地域・外来・病棟の連携、退院調整 ・看護職としてのメンバーシップおよびリーダーシップ ・看護マネジメント ・メンバーのシャドーイング（一勤務帯）：タイムマネージメント、複数の課題の優先度	・既習の学習内容を復習するとともに、事前課題を行ったうえで実習に臨む。 ・復習として、実習記録の指導を受けるとともに、カンファレンス資料を作成し指導を受ける。
2.	[2～3週目]複数の患者・対象者を受け持ち、看護援助の優先度と時間管理を考慮した一日の行動の計画・実践を行う	・既習の学習内容を復習するとともに、事前課題を行ったうえで実習に臨む。 ・復習として、実習記録の指導を受けるとともに、カンファレンス資料を作成し指導を受ける。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・4年間の学びや課題の探究プロセスを統合する重要な科目です。既習の知識や技術を復習して実習に臨んでください。
・看護職者として求められる基本的な資質と能力を常に意識しながら多様な人が対象となる実習に臨んでください。
・体調管理には十分に留意してください。

フィードバックの方法:
実習記録はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習内容（実習記録、技術習得等）	50	到達目標1)2)4)における知識や理解の到達度によって総合的に評価する
実習への積極的参加度	50	事前学習や積極的な実習への取り組み、到達目標3)5)6)7)に関する態度や姿勢を評価する

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
実習に関する質問等は主に実習中に応対する。

756600

看護倫理

當目　　雅代

授業テーマ:　臨床における倫理的問題と解決方法

授業の概要:　保健・医療の進展に伴い、看護の分野では様々なジレンマが生じている。看護職はこれらの倫理的問題に対する高い感受性と倫理感が求められる。そこで医療倫理・看護倫理の原則を基盤として倫理的問題に対する解決へのプロセスを教授する。

到達目標:
1. 倫理の定義と生命倫理・医療倫理・臨床倫理・看護倫理の違いを理解できる。
2. 生命倫理の原則・看護倫理の原則が説明できる。
3. 医療の現場で生じている倫理的問題を抽出し、説明できる。
4. 倫理的問題解決に向けた意思決定支援方法について理解できる。
5. 事例を分析することで、意思決定支援のアプロ―チ方法を習得できる。
6. 看護学生としての倫理的態度を習得することができる。

授業方法:　講義とグループワークで行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	倫理とは	
2.	生命倫理のはじまり	事前の教科書の生命倫理の原則を予習する
3.	生命倫理の原則	事前の教科書の生命倫理の原則を予習する
4.	看護の倫理原則と看護職の倫理綱領	看護学概論で既習の看護者の倫理綱領を復習する
5.	医療・看護倫理の歴史 患者の権利と擁護	事前の教科書のインフォームドコンセントを予習する
6.	価値とは何か	今日の医療における倫理的問題を調べておく
7.	医療・看護におけるジレンマ	日常のジレンマについて考えておく
8.	医療の中の倫理的問題1	今日の医療における倫理的問題を調べておく今
9.	医療の中の倫理的問題2	今日の医療における倫理的問題を調べておく
10.	倫理的問題のアプローチ法	教科書の該当箇所を読んでおく
11.	看護事例による倫理的問題解決への意思決定支援方法	教科書の該当箇所を読んでおく
12.	看護事例による意思決定方法を用いた事例分析1	意思決定方法を用いた事例分析を事前検討し、グループワークに参加する
13.	看護事例による意思決定方法を用いた事例分析2	意思決定方法を用いた事例分析を事前検討し、グループワークに参加する
14.	看護事例による意思決定方法を用いた事例分析3	意思決定方法を用いた事例分析を事前検討し、グループワークに参加する
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　臨地実習前に倫理的感性を養い、倫理的判断能力を修得することは重要である。保健・医療・看護の中で生じている倫理的問題に関心を持っておくこと。

フィードバックの方法:　意思決定方法を用いた事例分析については最後に分析例を提示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加態度	15	積極的に授業に参加する。
試験	60	目標1・2・4・6の達成度を評価する
事例分析	10	目標5を踏まえた上で問題を明確にしているか評価する。
課題レポート	15	目標3の達成度を評価する

教科書:
松葉祥一:系統看護学講座, 別巻, 看護倫理, 医学書院(2016)
手島恵:2016年度版看護者の基本的責務, 日本看護協会出版会(2016年)

参考書:
小西恵美子:看護倫理よい看護・よい看護師への道しるべ, 南江堂(2010)
吉田みつ子:看護倫理見ているものが違うことから起こること, 医学書院(2013)
ジョイス・E・トンプソン:看護倫理のための意思決定10のステップ, 日本看護協会出版会(2004)
香川知晶:命は誰のものか, ディスカバリー携書(2009)
サラ T.フライ :看護実践の倫理―倫理的意思決定のためのガイド, 日本看護協会出版会(2010) 2010/4

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、マナビー上掲示板

756700

看護マネジメント

中川　　典子

授業テーマ:

授業の概要:
看護援助の提供に関わる看護マネジメントについての基本的な考え方を学習する。看護組織を運営していくための組織論・リーダーシップ論・管理理論について学び、ケアのリーダーについて、チーム連携のリーダーとしての役割について検討する。さらに、医療安全対策としての組織の管理、また、安全管理と感染管理について学習する。

到達目標:
1.看護管理の概念、看護職の役割と機能について説明することができる。
2.看護をとりまく保健・医療・福祉のしくみについて説明することができる。
3.看護サービスを提供するための組織内のしくみ、保健・医療・福祉の協働・連携について説明することができる。
4.組織の一員として、自覚と責任ある行動をとり、自らの役割を果たす重要性について説明することができる。
5.対象者のプライバシーや個人情報を保護するための情報管理について説明することができる。
6.医療安全の基本的な考え方と看護師の役割について説明することができる。
7.看護の質の向上に向けて看護師として専門性を発展させていく重要性について説明することができる。

授業方法:
1.講義　2.ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護とマネジメント−看護管理の概念、目的、マネジメントプロセス−	教科書関連ページに目を通しておくこと
2.	看護職の役割と機能、日常の看護実践の中のマネジメント	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の関連ページに目を通しておくこと
3.	看護サービスのマネジメント	教科書関連ページに目を通しておくこと
4.	看護を取り巻く諸制度	教科書関連ページに目を通しておくこと
5.	多職種連携	前回の授業内容を理解しておくとともに、教科書の関連ページに目を通しておくこと
6.	看護・医療の質管理①　医療安全、感染管理	教科書関連ページに目を通しておくこと
7.	看護・医療の質管理②　情報、物品、施設管理	教科書関連ページに目を通しておくこと
8.	まとめ:看護の質と看護管理	看護の質の向上と看護師の責任・役割について自分の考えが述べられるように準備しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:
4/13(金)ⅣⅤ、4/20(金)ⅣⅤ、4/27(金)ⅢⅣⅤⅥに集中講義で授業を行います。
看護サービスをマネジメントするのは管理職に限ったことではありません。対象者に提供する看護の質を保証するための必要な取り組みについて一緒に考えましょう。

フィードバックの方法:
質問用紙、コメントペーパー等に対しては、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	10%	積極的に授業に参加しているか評価する。
発表、討論	20%	積極的に授業に参加し、到達目標7ができるようになったかを評価する
定期試験	70%	到達目標1～6に関する知識の到達度により評価する

教科書:
上泉和子他「系統看護学講座　統合分野　看護の統合と実践①　看護管理」最新版(医学書院)

参考書:
なし

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
講義前後で対応する。

756800

学校保健

大川　　尚子

授業テーマ:

授業の概要:

学校保健は、学校における児童・生徒等の健康の保持増進を図り、学校教育目標の達成に寄与することを目指して行われる活動である。学校保健に関する知識を習得し、学校保健活動の円滑な実施と成果の確保のために必要な養護教諭の役割について理解することを目的とする。 学校保健活動を推進するために、保健管理、保健教育、組織活動についての基礎的な理論を系統的に学習し、現代的な健康課題に適切に対応していくための知識や技能について学ぶ。

到達目標:

「知識・理解」
(1)学校保健(保健教育・保健管理・組織活動)を理解し説明できる。
(2)学校保健活動の法的根拠について理解することができる。
(3)学校保健活動の推進に当たっての養護教諭の役割について理解することができる。
「関心・意欲・態度」
(1)現代社会が抱える様々な健康課題や教育的課題を積極的に見出すことができる。
(2)健康課題や教育的課題を意欲的に発表できる。
「表現・技能・能力」
(1)児童・生徒が抱える様々な健康問題と社会的背景の関連性を考えることができる。
(2)児童・生徒が抱える様々な健康問題の解決策を考えることができる。

授業方法:

講義、演習が中心です。毎回発表、討論があります。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　学校保健とは	特になし
2.	学校保健の考え方・領域構造・運営と担当者	教科書をよく読んできてください。
3.	子どもの体と心/子どもの体・子どもの心・ヘルスプロモーション	教科書をよく読んできてください。
4.	健康の評価/健康情報の収集と活用・健康診断・健康相談	教科書をよく読んできてください。
5.	疾病や健康障害/心臓病検診・検尿・眼科疾患・歯・肥満傾向など	教科書をよく読んできてください。
6.	感染症とその対策/学校感染症・予防接種・性感染症など	教科書をよく読んできてください。
7.	養護教諭が行う救急処置/救急処置と養護	教科書をよく読んできてください。
8.	心の健康問題/心の危険信号・心身症状・不登校・対応と担い手	教科書をよく読んできてください。
9.	特別支援教育と健康/特別支援教育・発達障害・病弱教育など	教科書をよく読んできてください。
10.	保健室の役割/養護教諭・保健指導・健康相談	教科書をよく読んできてください。
11.	学校安全/事故災害の防止・安全教育と安全管理の実際	教科書をよく読んできてください。
12.	学校環境衛生/日常点検・照度・騒音・空気・学校給食・飲料水	教科書をよく読んできてください。
13.	学校給食/意義とねらい・施設と管理・食生活指導計画	教科書をよく読んできてください。
14.	学校保健の推進/学校保健計画と学校保健組織活動・学校保健の沿革・行政体型・法律	教科書をよく読んできてください。
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

学校保健の法的根拠、学校保健活動の推進に当たっての養護教諭の役割について理解するために一緒に学びましょう。

フィードバックの方法:

毎回、コメントペーパーを書いていただき、その内容についてフィードバックしていきたいと思います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	学校保健に関する知識・理解度により評価する。
レポート	10%	学校保健に関する知識・理解度により評価する。
発表、討論	10%	学校保健に関する知識・理解度により評価する。
授業への参加度	10%	積極的に授業に参加しているか評価する。

教科書:

改訂　学校保健(東山書房)

参考書:

学校保健実務必携(学校保健・安全実務研究会編)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

nookawa@tamateyama.ac.jp

756900

近代看護教育の歴史

岡山　　寧子

授業テーマ:　看護の過去・現在・未来、そして同志社の看護マインドを考える

授業の概要:　世界・日本における近現代の看護・看護教育の変遷を概観し、現在の看護・看護教育の成り立ちを理解するとともに、これからを展望する。また、日本でも非常に早い時期に、新島襄により設立された同志社病院・京都看病婦学校に焦点を当て、その足跡と意義を考える。あわせて、同志社で学び、その後看護に貢献した先人達を紹介し、同志社における看護マインドについて考える。

到達目標:
1. 世界における看護・看護教育の変遷とこれからを理解する。
2. 日本における看護・看護教育の変遷とこれからを理解する。
3. 同志社創設者新島襄が目指した看護・看護教育を理解する。
4. 同志社で学び、看護に貢献した先人達の足跡をを理解する。
5. 同志社における看護マインドについて考える。

授業方法:　講義・グループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	世界における看護・看護教育の変遷とこれから	世界の看護史をイメージする
2.	日本における看護・看護教育の変遷①　明治以前～戦間期	日本の看護史をイメージする
3.	日本における看護・看護教育の変遷とこれから②　戦後～現在・未来	前回配付資料の復習
4.	同志社創始者新島襄が目指した看護・看護教育①　新島襄と医療・看護	「現代語で読む新島襄」(現代語で読む新島襄編集委員会編、丸善出版、2000年)に目を通しておく
5.	同志社創始者新島襄が目指した看護・看護教育②　同志社病院・京都看病婦学校	前回配付資料の復習
6.	同志社で学び、看護に貢献した先人達①	前回配付資料の復習
7.	同志社で学び、看護に貢献した先人達②	前回配付資料の復習
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　これからの看護はどのように進んでいくのだろうか。それを考える手掛かりとして、看護が今に至ったプロセスを今一度振り返ってみましょう。

フィードバックの方法:　コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20	授業への参加度
レポート	80	到達目標1～5の修得状況

教科書:

参考書:　「現代語で読む新島襄」(現代語で読む新島襄編集委員会編、丸善出版、2000年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応

757000

看護キャリアデザイン論

中　　友美

授業テーマ:

授業の概要:

①アンケート、画像テスト等を通じて自己を知る（自己認識）
②看護職に求められる資質について知る（専門的資質）
③自らの将来をおおまかに設計できる（キャリア設計能力）
④職業において自分が何を実現しようとするのか、職業に対しての意味づけを考える（キャリア・職業観）
⑤自分はどの道を歩むのか（キャリア選択）
⑥キャリアプランを実現するための行動（実現力）を確認する
⑦看護職キャリアの可能性（ライフプラン＆キャリアプランについて）
⑧看護師という資格を活かしてキャリアをどのように積んでいくのかをイメージ化し、生涯学習へと繋げる。

到達目標:

キャリアデザインを通じて、医療における現状や、自己を知り判断力、問題解決能力を身につける。

授業方法:

講義、グループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション／自己認識チェック	
2.	看護とキャリア	教科書 第三章P81～第四章P113～を読む
3.	看護職に求められる共感性／グループワーク	疑問点の整理
4.	キャリアプラン設計①／グループワーク	疑問点の整理
5.	キャリアデザインと実現力	疑問点の整理
6.	看護管理者のインタビュー事例	疑問点の整理
7.	キャリアプラン設計②／グループワーク	疑問点の整理
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

11月8～9日の期間に集中講義で授業を行います。

フィードバックの方法:

教室で解説する。レポートはコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	80%	役割を意識し、グループワークにのぞみ、討論では問題解決能力を踏まえた上で発言しているかを評価する。
レポート	20%	判断能力を理解した上で、自らのキャリアやキャリアプランに対して説明できるかを基準とする。

教科書:

近藤隆雄・松谷容範・中友美『看護師』（新水社, 2013年） ISBN:978-4-88385-154-6 1,600円+税

参考書:

田中堅一郎『従業員が自発的に働く職場を目指すために　組織市民行動と文脈的業績に関する心理学的研究』（ナカニシヤ出版, 2004年）ISBN:978-4-88-848893-8 5,200円+税

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:

講義前後もしくはEメールで対応する。(naka@aline.jp)

757100

災害看護論

笹川　　寿美

授業テーマ:　災害の理解、災害各期における看護の果たす役割

授業の概要:　災害による社会や地域の人々の生活・健康への影響と災害に関する社会のしくみや対応について理解し、災害各期における人々の健康や生活ニーズに応じた支援活動を行うための看護の基礎を学ぶ。あわせて、災害の初動時に必要な技術（救急処置）について習得する。

到達目標:
1. 災害の定義、災害の種類、災害サイクル、災害に対する社会のしくみについて理解できる。
2. 災害発生期における災害看護活動、看護体制づくりを理解できる。
3. 災害サイクル各期の被災者のニーズと看護師の役割や実践活動について説明できる。
4. 災害が人々の健康に及ぼす影響と必要な看護ケアについて理解できる。
5. 被災者の心理・援助者の心理について理解できる。
6. 災害における自身と地域の備えについて理解する。

授業方法:　講義、演習。講義ではDV、パワーポイント、プリント等を活用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	災害、災害看護の歴史・定義、災害サイクル	日本における災害について調べておく
2.	災害に関する制度、社会の対応・仕組み	前回までの講義内容を理解しておくこと
3.	災害サイクルにおける看護活動①：初動期	トリアージについて調べておく
4.	災害サイクルにおける看護活動②：初動期に必要な技術（演習）	応急処置について調べておく
5.	災害サイクルにおける看護活動③：中・長期、準備期	前回までの講義内容を理解しておくこと
6.	災害時のこころのケア	前回までの講義内容を理解しておくこと
7.	災害時に支援優先度の高い対象別のケア	前回までの講義内容を理解しておくこと
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　10/27（土）ⅢⅣ限、11/6（火）ⅢⅣⅤ限、11/17（土）ⅠⅡⅢ限に集中講義で授業を行います。

フィードバックの方法:　コメントペーパー等に対するフィードバックは教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60%	到達目標3への知識や理解度により評価する
授業への参加度	40%	積極的に授業に参加し、主体的に学習しているか評価する

教科書:

参考書:　講義中に適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　講義前後で対応する。

757200

セルフケア支援論

光木　　幸子

授業テーマ:

授業の概要:
ドロセア E オレムの3つのセルフケア理論（セルフケア論、セルフケア不足理論、看護システム理論）を理解し、事例（自分が領域実習で受け持った患者）を通してセルフケアのとらえ方と看護について学習する

到達目標:
1. セルフケア理論を理解できる
2. セルフケア不足理論を理解できる
3. 看護システム理論を理解できる
4. 事例を通してセルフケアの3つの要件（普遍的セルフケア要件、発達的セルフケア要件、健康逸脱に対するセルフケア要件）を整理できる
5. 事例を通して、セルフケア能力（セルフケア・エージェンシー）と治療的ケア・ディマンドを査定し、セルフケア不足を補う援助方法を列挙できる
6. 事例を通して、看護介入の度合い（全代償システム、部分代償システム、支持・教育システム）や方法を明らかにできる

授業方法:
講義と演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オレムのセルフケア理論の世界観と用語の定義を理解する	
2.	オレムのセルフケア理論	配布された資料に目を通しておく
3.	オレムのセルフケア不足理論	配布された資料に目を通しておく
4.	看護システム理論	配布された資料に目を通しておく
5.	事例を通してセルフケアの3つの要件（普遍的セルフケア要件、発達的セルフケア要件、健康逸脱に対するセルフケア要件）を整理	オレムのセルフケア理論を資料を復習しておく
6.	事例を通して、セルフケア能力（セルフケア・エージェンシー）と治療的ケア・ディマンドを査定し、セルフケア不足を補う援助方法を列挙できる	オレムのセルフケア不足理論の資料を復習しておく
7.	事例を通して、看護介入の度合い（全代償システム、部分代償システム、支持・教育システム）や方法を明らかにできる	看護システム理論の資料を復習しておく
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
質問については授業の前後に対応する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	15	演習での参加度により評価する
レポート	85	到達目標1～6の到達度により評価する

教科書:
指定教科書はなし。授業時に配付する資料により授業を行います。

参考書:
竹尾恵子監修、事例でまなぶ看護理論、GOKKEN
eBOOK　ドロセア・E. オレムにおける看護のセルフケア不足理論の基礎的研究
ドロセア　E.　オレム　オレム看護論看護実践における基本概念、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:
e-mail：smitsuki@dwc.doshisha.ac.jp

757300

終末期看護論

葉山　　有香

授業テーマ:

授業の概要:　終末期にある患者・家族、遺族の特徴を理解し、終末期患者・家族が尊厳を保ち納得した終末期を過ごすための看護について、講義・グループワーク・ディスカッションを通じて学習する。

到達目標:　1. 終末期にある患者・家族について理解できる。
2. 終末期にある患者・家族に対する看護について理解できる。　3. 遺族への看護について理解できる。
4. 終末期医療における倫理的問題について理解できる。　5. 終末期医療における多職種連携と看護の役割について理解できる。

授業方法:　講義とグループワーク・ディスカッションを組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	終末期医療の現状、終末期医療と看護の理解	テキストp.2～19、48~67に目を通しておくこと
2.	ゲストスピーカー:終末期にある患者・家族の理解、終末期医療における多職種連携と看護の役割	テキストp.22～45に目を通しておくこと
3.	終末期にある患者の身体・心理・社会・霊的苦痛に対する援助:DVDを用いてグループワーク・ディスカッション	テキストp.152～167に目を通しておくこと
4.	終末期にある患者とのコミュニケーション:事例を用いてグループワーク・ディスカッション	テキストp.90～99に目を通しておくこと
5.	終末期にある患者の家族への援助:事例を用いてグループワーク・ディスカッション	テキストp.264～276に目を通しておくこと
6.	臨死期の看護、終末期医療における倫理的課題:事例を用いてグループワーク・ディスカッション	テキストp.304～319に目を通しておくこと
7.	遺族への援助:事例を用いてグループワーク・ディスカッション	テキストp.319～324に目を通しておくこと
8.	第1回から7回までの講義、グループワーク・ディスカッションのまとめ	これまでの授業で用いた資料を復習しておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　グループワーク・ディスカッションでは、積極的な意見交換を期待しています。

フィードバックの方法:　コメントペーパー等に対して、教室でまとめてコメントします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	グループワークやディスカッションに積極的に参加しているか、到達目標1～5を踏まえたうえで発言しているかを評価する。
レポート	50	文献を用いて、到達目標2・3について自身の考えをまとめる。内容の論理性を評価する。

教科書:　田村恵子編:終末期看護:エンド・オブ・ライフ・ケア、メディカルフレンド社、2017

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Eメールを利用　葉山　yhayama@dwc.doshisha.ac.jp

757400

補完代替医療

稲田　　雅美

授業テーマ:
保健看護領域における対人援助の一方法として音楽療法・芸術療法について概観する。

授業の概要:
補完代替医療とは、現代西洋医学の領域外の医学・医療体系の総称である。近年、各国で伝統医療の見直しがなされ、多くの人が代替医療を日常的に取り入れ、その効果を実感している。ここでは、代替医療について文献的な検討を行いながら、音楽療法および芸術療法全般における、目的、適応症、方法、効果などについて学習する。

到達目標:
・音楽療法、芸術療法の理解を通して、看護、心理、福祉の視野に立つ学際的な知識を獲得する。
・現代西洋医学との融合、または使い分けできる知識を習得することにより、将来、現代医学と併用して補完代替医療を実践する際に必要な思考や姿勢を養う。

授業方法:
講義を中心とする。講義のテーマに応じてDVDなど視覚教材を活用する。また授業の中で数回のミニレポートまたはミニテストを課し、理解の確認を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	補完代替医療、音楽療法、芸術療法の概観	芸術療法の種類について事前に調べておく。
2.	心身の発達と音楽との関係	からだ、こころ、ことばの発達について、既修科目において学習した事項を復習しておく。
3.	小児医療と音楽療法	同上
4.	成人医療と音楽療法	成人の精神疾患について、既修科目において学習した事項を復習しておく。
5.	音楽療法、芸術療法の背景理論	参考文献の該当箇所に目を通しておく。
6.	描画・絵画と子どもの心	子どもの感情表現に関するさまざまな文献に目を通しておく。
7.	描画療法と描画テスト	描画テストの種類について事前に調べておく。
8.	総括・芸術と精神病理	これまでの授業でまとめたノートの内容を総復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
芸術作品や芸術活動一般に対する関心を高めてください。

フィードバックの方法:
提出物については授業内でまとめてコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席状況	60%	クラス内でのディスカッションなど、毎回の授業に積極的に参加することを評価する。
レポートおよびテスト	40%	授業目標における、音楽療法、芸術療法に対する理解と、学際的な視野に立つ思考ができていることを評価する。

教科書:

参考書:
稲田雅美『こころをつなぐミュージックセラピー:ことばを超える音との対話』ミネルヴァ書房(2016年)
稲田雅美『音楽が創る治療空間』ナカニシヤ出版(2012年)
レスリー・バント『音楽療法:ことばを超えた対話』ミネルヴァ書房(1996年)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で対応する。

757500

臨床遺伝学と看護

勝元　　さえこ

授業テーマ:

授業の概要:

まず、ヒトの遺伝子の構造、機能、機能発現等の遺伝学の基本を学ぶ。遺伝学の急速な進歩により病気とその原因遺伝子の同定、遺伝子の機能と病因との関連が明らかになりつつある。一方、遺伝学の 知識・情報は入手できても、患者・家族にとって利益になるとは限らない部分もある。遺伝学から見た疾病、健康に対する理解と遺伝学的サービスについて 理解し、遺伝学的課題を抱えた、もしくはそのリスクのある個人・家族・集団の特質とその多様性を理解し、遺伝カウンセリングなど遺伝医療の進展に伴って求められるチーム医療の在り方と看護の役割を理解する。

到達目標:

科学的思考に基づいた判断能力や問題解決能力を発揮し、保健・医療・福祉のあらゆる場において看護ケアを提供できる学際的な幅広い見識と看護学の専門知識を体系的に修得している。

医療の高度化や看護ニーズの多様化に対応し、主体的・創造的に看護を実践しようとする態度と生涯を通じて自発的な能力開発を継続的、発展的に行おうとする態度を身につけている。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	遺伝看護の基礎: 人体の成り立ちと遺伝情報①	
2.	遺伝看護と基礎: 人体の成り立ちと遺伝情報②	前回の講義内容を理解しておくこと
3.	遺伝看護と基礎: 疾病の成り立ちと遺伝情報①	前回までの講義内容を理解しておくこと
4.	遺伝看護と基礎: 疾病の成り立ちと遺伝情報②	前回までの講義内容を理解しておくこと
5.	遺伝医療と看護	遺伝医療の現状と課題についてまとめておく
6.	遺伝カウンセリング	カウンセリングの基本について確認しておく
7.	遺伝医療におけるELSI（倫理的・法的・社会的問題）	「看護倫理」の授業で学んだことを復習しておく
8.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

10月25～26日の期間に集中講義で授業を行います。

フィードバックの方法:

レポートに対しコメントをつけて返却します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40%	積極的に授業に参加し、主体的・創造的に自身の考えと向き合い、学んだ知識と統合しようとする姿勢を評価する。
発表・討論	20%	グループ発表での自身の役割とその達成度、討論では主体的・創造的に学びと考えを統合しているか評価する。
レポート	40%	本科目の理解度とともに、課題に対し、自分の立場を明確にし、独自の視点を持って述べられているかを基準とする。

教科書:

特になし

参考書:

講義にて紹介・提示します。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:

講義前後で対応いたします。

757600

セーフティプロモーション論

岡山　寧子、木村　みさか、反町　吉秀

授業テーマ:
セーフティプロモーションを通して人々のくらしにおける安全・安心を考える。

授業の概要:
セーフティプロモーションは公衆衛生的なアプローチによる安心・安全づくりのことであり、ここではその基本的な考え方や歴史、方策などを学び、子どもや高齢者の事故予防、自殺の予防などについての理解を深める。それらを通して、人々のくらしの中での安全・安心について考える。

到達目標:
1. セーフティプロモーションの基本的な考え方や歴史、日本や諸外国の取り組み状況などを理解する。
2. 自殺の現状からその予防について理解する。
3. 子どもの学校での事故の現状からその予防について理解する。
4. 高齢者の暮らしの中での事故の現状からその予防について理解する。

授業方法:
講義、演習
DVD教材

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人々のくらしにおける安全・安心をマネージメントする科学:セーフティプロモーションとインジュリープリベンション(反町)	くらしの安心・安全を考える
2.	セーフティプロモーションの基本的な考え方や歴史(反町)	配布資料の復習
3.	セーフティプロモーションの日本や諸外国における取り組み(反町)	配布資料の復習
4.	自殺の現状とその予防(反町)	配布資料の復習
5.	子どもの学校での事故の現状とその予防①(木村)	子どもの事故について調べる
6.	子どもの学校での事故の現状とその予防②(木村)	配布資料の復習
7.	高齢者の事故の現状とその予防①(岡山)	高齢者の事故について調べる
8.	高齢者の事故の現状とその予防②　まとめ(岡山)	配布資料の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:
セーフティプロモーションによる安心・安全づくりを共に考えましょう。

フィードバックの方法:
コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	40	授業への参加度
レポート	60	到達目標1～4の修得状況

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:
基本的に授業の前後に応対

790100

基礎薬学総合実習

山本　康友、川崎　清史、桑原　淳、白井　隆一、和田　戈虹

授業テーマ:　基礎薬学領域で必須とされる実験技術の習得

授業の概要:　技術指導を受けながら実験技術の習得

到達目標:　基礎薬学領域で必須とされる実験技術の理解

授業方法:　各研究室を巡回して技術指導を受けながら与えられた課題を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	光学活性体の選択的合成	有機化学教科書の熟読
2.	光学活性体の純度分析	有機化学教科書の熟読
3.	NMRによる化学構造解析	有機化学教科書の熟読
4.	MALDI-TOFF-MASによる構造解析	有機化学教科書の熟読
5.	微生物ゲノムのPCRによる高感度検出	教科書の熟読
6.	微生物の形質転換と薬剤耐性検出	教科書の熟読
7.	遺伝子クローニング技術1	教科書の熟読
8.	遺伝子クローニング技術2	教科書の熟読
9.	真核細胞への蛍光プローブ導入技術	教科書の熟読
10.	細胞内蛍光プローブの観察法	教科書の熟読
11.	遺伝子発現解析　1　プロモーター解析	教科書の熟読
12.	遺伝子発現解析　2　定量PCR	教科書の熟読
13.	遺伝子操作によるタンパク質の生産	教科書の熟読
14.	発現タンパク質の精製	教科書の熟読
15.	X線構造解析のシミュレーション	教科書の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:　実験を楽しむ気構え

フィードバックの方法:　あらゆる手段

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50%	課題に対する理解
出席	50%	全出席

教科書:　随時指定する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　口頭、面談、メール等

790200

生体分子機能学特論

桑原　　淳

授業テーマ:　生体高分子の構造・機能及び、医療への応用を理解し、その解析技術を学ぶ

授業の概要:　化学と生物学とのインターフェイスとして重要な蛋白質や遺伝子などの生体機能分子による機能発現と制御機構を中心に、生体機能を化学的に追究するとともに、その解析法についても学び、併せて薬物作用との関連性について概説する。

到達目標:　特に、生体における癌化や老化の諸問題に関連して、生体機能・細胞機能の仕組みやその制御の分子レベルでの理解を深め、その基礎の上に立った新しい薬物開発の重要性を示す。本授業を通じて、博士論文作成に必要な問題提起と問題解決能力の科学的素養を養うことを目指している。 知識・理解：生体及び環境に対する医薬品・化学物質等の影響を理解するために必要となる物理化学・有機化学・生化学分野の基本的知識を身に付けている。（基礎的な科学力）

授業方法:　解説講義と論文購読を主として、必要に応じてプリントを配布。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、概論　生体高分子の特性	生体高分子の特性を調査し、列挙する
2.	遺伝子の構造と機能　DNAとRNAの役割	DNAとRNAの役割を調査し、列挙する
3.	遺伝子解析技術　遺伝子解析・操作法	遺伝子解析・操作法を調査し、列挙する
4.	遺伝子解析技術　遺伝子発現制御法	遺伝子発現制御法を調査し、列挙する
5.	蛋白質の構造と機能　蛋白質の折り畳み	蛋白質の折り畳みを調査し、列挙する
6.	蛋白質の解析技術　質量分析法、NMR、X線構造解析法、蛍光測定法	質量分析法、NMR、X線構造解析法、蛍光測定法を調査し、列挙する
7.	蛋白質の解析技術　人工蛋白質の創製	人工蛋白質の創製例を調査し、列挙する
8.	蛋白質の解析技術　遺伝子と蛋白質の相互作用	遺伝子と蛋白質の相互作用について調査し、列挙する
9.	Computer Aided Design　DNAを標的としたデザイン	DNAを標的としたデザインについて調査し、列挙する
10.	Computer Aided Design　蛋白質を標的としたデザイン	蛋白質を標的としたデザインについて調査し、列挙する
11.	Computer Aided Design　DNA−蛋白質複合体を標的としたデザイン	DNA−蛋白質複合体を標的としたデザインについて調査し、列挙する
12.	疾患関連遺伝子と遺伝子診断・遺伝子治療	疾患関連遺伝子と遺伝子診断・遺伝子治療について調査し、列挙する
13.	疾患関連タンパク質と薬物デザイン	疾患関連タンパク質と薬物デザインについて調査し、列挙する
14.	最新の研究事例1	最新の研究事例について調査し、列挙する
15.	最新の研究事例2	最新の研究事例について調査し、列挙する

受講者へのメッセージやアドバイス:　生体分子や薬物分子を化学的に解析する手法を学んで、生命現象をより深く理解し、先端的な問題解決のための科学的素養を養ってほしい。

フィードバックの方法:　実験の進め方、結果のまとめ方と考察、論文の書き方等に有用な項目については、特に復習を必ず行うことを強調している。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	40	
定期試験	60	授業での評価を含めて総合的に評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　随時指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能、E メールの利用、授業の前後に教室内で応対、等。

790300

医薬品分子機能解析学特論

白井　　隆一

授業テーマ:

授業の概要:
医薬品の標的分子の多くは生体内酵素や内因性リガンドの受容体であり、これら標的分子との分子間相互作用や共有結合形成といった化学的事象を介して期待される薬理作用を発現する。また、生体内反応で化学修飾されて活性本体に変貌するものもある。こうした多機能化合物である医薬品の立体化学を含めた構造解析、物性解析、結合性解析、反応性解析を基盤技術として、精密有機合成による医薬品機能創製を交えて、医薬品の分子機能の基本設計概念と先端を解説する。

到達目標:
医薬品分子の合成と生体分子との相互作用を理解する。

授業方法:
講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	1.医薬品機能発現緒論	教科書の予習
2.	2.分子間力1　強い力	教科書の予習および前回講義の復習
3.	3.分子間力2　弱い力	教科書の予習および前回講義の復習
4.	4.共有結合形成1　酵素機能阻害	教科書の予習および前回講義の復習
5.	5.共有結合形成2　受容体機能阻害	教科書の予習および前回講義の復習
6.	6.生体内高分子構造の立体化学解析	教科書の予習および前回講義の復習
7.	7.医薬品分子構造の立体化学解析	教科書の予習および前回講義の復習
8.	8.医薬品分子構造のコンホメーション解析	教科書の予習および前回講義の復習
9.	9.医薬品分子構造と生体内高分子構造の計算化学的素描	教科書の予習および前回講義の復習
10.	10.生体内高分子と医薬品低分子との相互作用解析	教科書の予習および前回講義の復習
11.	11.生体内分子と医薬品分子との相互作用－薬理活性相関	教科書の予習および前回講義の復習
12.	12.医薬品分子構造の合成化学的供給法1	教科書の予習および前回講義の復習
13.	13.医薬品分子構造の合成化学的供給法2	教科書の予習および前回講義の復習
14.	14.医薬品分子構造の機能評価法	教科書の予習および前回講義の復習
15.	15.医薬品精密有機化学合成法の現状と未来	前回講義の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
ディスカッションとレポート返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席	30%	70%で合格
演習、総合討論	30%	
課題、レポート提出	40%	

教科書:
創薬化学（長野哲雄、夏苅英昭、原　博　編、東京化学同人）

参考書:
大学院講義有機化学I. 分子構造と反応・有機金属化学（野依良治、柴崎正勝、鈴木啓介、玉緒皓平、中筋一弘、奈良坂紘一　編、東京化学同人）
大学院講義有機化学II. 有機合成化学・生物有機化学（野依良治、柴崎正勝、鈴木啓介、玉緒皓平、中筋一弘、奈良坂紘一　編、東京化学同人）
創薬化学　-有機合成からのアプローチ-（北　康行、平岡哲夫　編、東京化学同人）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:
教授室を訪問

790400

医薬品構造機能相関学特論

山本　　康友

授業テーマ:　医薬品分子の構造と活性の相関

授業の概要:　医薬品は人類の病に対する挑戦の証であり人類が積み重ねてきた英知の結晶である。その分子構造と薬理活性の相関を中心主題として、種々の構造間相互作用と官能基間相互作用の理論と実際、並びに構造と薬理活性発現の分子論的機構の理解について解説する。また、これら分子構造間相互作用の物理化学的及び化学的確認法と、それら分子構造の設計、化学合成法、およびこれらを基盤とする最先端医薬品構造機能相関化学の現状と展望についても概説する。更に医薬品創製を支える根源的発想についても俯瞰する。

到達目標:　医薬品分子の構造と活性の相関の理解

授業方法:　講義、演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	医薬品構造機能相関論緒論	有機化学教科書の熟読
2.	医薬品分子構造の発想の源流	有機化学教科書の熟読
3.	分子骨格構造と薬理活性相関の基礎	有機化学教科書の熟読
4.	分子官能基構造と薬理活性相関の基礎	有機化学教科書の熟読
5.	定量的構造活性相関解析理論QSAR	有機化学教科書の熟読
6.	マッピング手法による構造活性相関理論の進展	有機化学教科書の熟読
7.	分子複合体の核磁気共鳴分析	有機化学教科書の熟読
8.	分子骨格構造の最適化法の基礎	有機化学教科書の熟読
9.	分子骨格構造の先端的最適化法	有機化学教科書の熟読
10.	分子官能基構造の最適化法の基礎	有機化学教科書の熟読
11.	分子官能基構造の先端的最適化法	有機化学教科書の熟読
12.	骨格構造構築法の進歩	有機化学教科書の熟読
13.	官能基構築法の進歩	有機化学教科書の熟読
14.	分子配座固定による活性の最適化手法	有機化学教科書の熟読
15.	構造機能相関学が拓く新規医薬品展望	有機化学教科書の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:　医薬品の構造がなぜ重要か具体的に考えてみましょう

フィードバックの方法:　レポート返却およびディスカッション

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	30%	70点以上
期末試験	50%	70点以上
平常時試験	20%	70点以上

教科書:　北川勲、柴崎正勝、富岡清　監訳、メディシナルケミストリー、丸善

参考書:　前川智弘　著、医薬品構造化学、京都廣川

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　面談、メール

790500

微生物感染学特論

川崎　　清史

授業テーマ:

授業の概要: 微生物の感染と生体の防御機構について、その捉え方、現状の理解、将来の課題、について学習する

到達目標: 感染の成立のための微生物側の戦略とそれを防ぐ宿主応答を分子レベルで理解することにより、感染症治療の根本となる知識と応用力を養成する。まず、細菌とウイルスの構造、増殖、生合成と代謝の仕組みを解説する。そして感染に対する生体側の免疫応答機構を分子レベルで解説する。次に代表的な病原体を例として取り上げて、その感染の成立に関わる現象や諸因子について宿主との関わりを中心に解説する。さらに最新の研究事例を取り上げて感染の分子機構を理解するための研究の切り口を示す。

授業方法: 輪読、輪講形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業オリエンテーション、微生物感染概論	講義中に示された資料を基にして復習を行う
2.	細菌総論I:構造と特徴、増殖機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う
3.	細菌総論II:生合成と代謝	講義中に示された資料を基にして復習を行う
4.	ウイルス総論:構造と特徴、増殖機構、細胞・組織傷害の機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う
5.	感染と宿主応答I:自然免疫の仕組み	講義中に示された資料を基にして復習を行う
6.	感染と宿主応答II:自然免疫受容体による微生物認識と応答	講義中に示された資料を基にして復習を行う
7.	感染と宿主応答III:獲得免疫の誘導、記憶の仕組み	講義中に示された資料を基にして復習を行う
8.	感染と宿主応答IV:ワクチンとアジュバント	講義中に示された資料を基にして復習を行う
9.	感染の成立I:二成分制御系による細菌の宿主環境適応	講義中に示された資料を基にして復習を行う
10.	感染の成立II: 細菌のエフェクターとTypeIII分泌系	講義中に示された資料を基にして復習を行う
11.	感染の成立III:細菌の薬剤耐性機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う
12.	感染の成立IV:病原体の宿主免疫回避機構	講義中に示された資料を基にして復習を行う
13.	新興再興感染症	講義中に示された資料を基にして復習を行う
14.	最新の研究事例 I	最新の研究論文を用いた学習では事前に論文を熟読しておくことが必要
15.	最新の研究事例 II	最新の研究論文を用いた学習では事前に論文を熟読しておくことが必要

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法: 必要に応じて個別面談によりフィードバックを行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度(平常点)	40%	課題の理解、取り組む姿勢等で判断
レポート	60%	内容で判断する

教科書: 微生物感染学(光山正夫編、南山堂)

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法: オフィスアワーの活用

790600

分子病態生化学特論

和田　　戈虹

授業テーマ:　病態を分子レベルで理解する

授業の概要:　病気とその治療法を本質的に理解するためには病態を分子レベルで解析する必要がある。本講義では代表的な病態として糖尿病、感染症、骨粗鬆症、腎臓疾患を取り上げ、それぞれの病態の生化学的な背景、遺伝子操作を含めた病態モデル、治療薬の分子ターゲットに関する最新の知見を示す。更に、最新の研究事例を取り上げ、討論形式で問題点等を議論することにより薬物治療の根本となる知識と応用力を養成する。

到達目標:　病態の分子メカニズムに関する最新の知見、解析手法等を学術論文より習得する。

授業方法:　論文の輪読、研究の生データ討論、学生間の議論など、いわゆる“セミナー形式”で行う。基本的には、1週間前にトピックスに関連する論文を配布し、授業ではその内容に関して討論する。授業の形式は、先ず、基本的な知識の講義を土台にして、それに基づき、各人にテーマを与えるので、それについて自主的に調べて考えをまとめるとともに、お互いに発表し、議論し合う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、病態の生化学的解析法概論	論文を熟読し、発表内容を準備する。
2.	遺伝子改変動物と病態モデル	論文を熟読し、発表内容を準備する。
3.	糖尿病の生化学的解析１　病因論・病態モデル	論文を熟読し、発表内容を準備する。
4.	糖尿病の生化学的解析２　治療の分子ターゲット・最新の研究事例	論文を熟読し、発表内容を準備する。
5.	感染症の生化学的解析１　病原性微生物の貪食・殺菌作用のメカニズム	論文を熟読し、発表内容を準備する。
6.	感染症の生化学的解析２　抗酸菌感染の分子機序	論文を熟読し、発表内容を準備する。
7.	骨粗鬆症の生化学的解析１　病因論	論文を熟読し、発表内容を準備する。
8.	骨粗鬆症の生化学的解析２　病態モデル	論文を熟読し、発表内容を準備する。
9.	骨粗鬆症の生化学的解析３　治療の分子ターゲット	論文を熟読し、発表内容を準備する。
10.	骨粗鬆症の生化学的解析４　最新の研究事例	論文を熟読し、発表内容を準備する。
11.	腎臓疾患の生化学的解析１　病因論	論文を熟読し、発表内容を準備する。
12.	腎臓疾患の生化学的解析２　病態モデル	論文を熟読し、発表内容を準備する。
13.	腎臓疾患の生化学的解析３　治療の分子ターゲット	論文を熟読し、発表内容を準備する。
14.	腎臓疾患の生化学的解析４　最新の研究事例	論文を熟読し、発表内容を準備する。
15.	最新の研究事例解析	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　講義での討論を通して、理解を深める。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業での発表評価	50	
課題の準備やレポート	50	総合点が70点以上で合格

教科書:　特に指定しない。必要に応じてプリントなどの配布資料を配る。

参考書:　随時指定する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　電子メール等

790700

医療薬学総合実習

漆谷　徹郎、木津　良一、髙橋　玲、藤井　健志、前川　京子

授業テーマ:　医療薬学領域で必須とされる先端技術の修得

授業の概要:　医療薬学領域で必須とされる先端技術を修得しておくことは、将来いかなる分野で専門性を発揮する場合も有用である。本実習では、各担当教員の研究室を巡回することによって、各領域の最新の技術を修得する。

到達目標:　薬効薬理試験の最新技術（1～3）は藤井、毒性試験の最新技術と毒性評価・予測法（4～6，9）、特にオーミックステクノロジーの応用は漆谷、病理組織標本（光顕、電顕）の作成法、特殊染色法や遺伝子マーカーを用いた診断・評価法（7，8，10～12）は高橋、環境物質の毒性発現解析法と微量分析法（13、14）は木津、医薬品成分分析法（15）は前川が担当し、それぞれの技術が研究過程で必要になった時取り組めるように、また、関連論文の理解の一助となることを目標とする。
漆谷を責任教員とし、実習全体の統括・評価を行う。

授業方法:　各研究室を巡回して技術指導を受けながら与えられた課題を実践する。実験実施時間に関しては担当教員と相談して適宜配分する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	薬効評価法1　摘出臓器を用いた評価	担当教員である藤井教授と事前に相談・討議しておく
2.	2.薬効評価法2　生体位での評価 ―　遺伝子改変動物を用いて	担当教員である藤井教授と事前に相談・討議しておく
3.	3.薬効評価法3　薬物受容体解析法 ―　突然変異導入受容体発現細胞を用いて	1～3をまとめて課題のレポートを作成
4.	医薬品毒性評価法1　in vivoにおける臓器障害評価・血液生化学 ―　データベースを活用したフェノタイプアンカーリング法の実際	担当教員である漆谷教授と事前に相談・討議しておく
5.	医薬品毒性評価法2　in vitroにおける細胞毒性評価 ―　遺伝子導入細胞を用いた毒性パスウェイ解析の実際	担当教員である漆谷教授と事前に相談・討議しておく
6.	医薬品毒性評価法3　遺伝子発現変化とバイオインフォマティクス ―　システムズバイオロジーをトキシコゲノミクスへ応用する	4～6をまとめて課題のレポートを作成
7.	病理診断：病理組織標本作成法 ―　酵素抗体法・蛍光抗体法に応用できる固定・薄切・抗原賦活化	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
8.	8.病理診断：電子顕微鏡標本作成法 ―　細胞の超微細構造解析および免疫電顕への応用	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
9.	病理診断：病理組織による病態評価1　薬物誘起性障害 ―　細胞傷害の形態学的および分子レベルでの解析	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
10.	病理診断：病理組織による病態評価2　癌の診断・評価 ―　癌細胞の悪性度・増殖速度の評価（mitotic index、labelling index、DNA合成に関与するタンパク群の発現、FACSとの組み合わせ）	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
11.	病理診断：病理組織による病態評価3　血液学的評価 ―　薬物治療における腫瘍マーカーと病態との関係性	担当教員である高橋教授と事前に相談・討議しておく
12.	病理診断：病理組織による病態評価4　in situ hybridization ―　主としてfluorescence in situ hybridization (FISH)法により、腫瘍細胞の形態学的特徴やクローン性との関連について考察	7～12をまとめて課題のレポートを作成
13.	環境汚染物質の細胞毒性発現シグナル解析 ―　毒物応答性核内受容体による発現制御	担当教員である木津教授と事前に相談・討議しておく
14.	環境汚染物質・生体成分の微量分析法	13～14をまとめて課題のレポートを作成
15.	医薬品の有効性・安全性評価のための分析法	担当教員である前川教授と事前に相談・討議しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実習中適宜、及びコメントを付けたレポートの返却

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実験・課題レポート	100%	与えられた課題の達成度

教科書:　各研究室において，ラボマニュアルが与えられる

参考書:　最新の関連文献をその都度指定

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:	各担当教員の研究室を直接訪問する

790800

薬効安全性学特論

漆谷　　徹郎

授業テーマ:　医薬品開発時の安全性保証

授業の概要:　臨床での医薬品の安全な使用を保証するためには、分子レベルにおける毒性発現機構、生体防御機構の理解が必須である。これらの概説の後、医薬品使用時に臨床現場における有害作用発生を早期に察知し、これを軽微なうちに回避するのに必要な基礎知識を供する。また、安全性研究に導入されつつある最新技術、特に遺伝子解析やオミクス技術について解説し、医薬品を支える安全性試験についても即戦力となる知識と応用力を養う。

到達目標:　医療安全性に関する基礎・臨床の最先端英文論文を読解し、批判的に吟味する能力を身につけ、自身の研究テーマとの関連性において応用・考察することを可能とする。

授業方法:　前半は、学部授業で扱えなかった安全性関連の専門知識を講義し、後半は、最新の論文をレビューしながら最先端の研究動向を把握し、最後に課題論文について学生自身がレビューを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、安全性試験概論	学部における毒性・安全性に関する講義内容を復習しておくこと
2.	生体防御の分子機構1　酸化ストレス除去機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
3.	生体防御の分子機構2　異常タンパク質除去機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
4.	生体防御の分子機構3　アポトーシスの分子機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
5.	生体防御の分子機構4　遺伝子修復機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
6.	毒性発現機構：変異原性の分子機構	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
7.	臓器毒性各論1　肝臓毒性とその検定法	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
8.	臓器毒性各論2　腎臓、消化器毒性とその検定法	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
9.	安全性試験法の実際と関連論文のレビュー	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
10.	メタボロミクス、プロテオミクス手法による安全性評価と関連論文のレビュー	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
11.	最新の注目すべき英文論文のレビュー（1）	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
12.	最新の注目すべき英文論文のレビュー（2）	関連英文論文が紹介されるので、読んでおくこと
13.	課題論文の学生によるレビュー（1）	課題論文は、学期後半に与えられる
14.	課題論文の学生によるレビュー（2）	課題論文は、学期後半に与えられる
15.	課題論文の学生によるレビュー（3）	課題論文は、学期後半に与えられる

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　レビュー時に適宜

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
論文レビュー	100%	論文内容の理解度と批評的論点の明確さ

教科書:　指定しない。関連論文は最新のものを適宜指定する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　憩水館6階、W606

790900

薬効評価学特論

藤井　　健志

授業テーマ:　薬効の科学的な解析法を学ぶ。

授業の概要:　医薬品は基礎および臨床場でのバックグラウンドとして必須の知識を身につける。

到達目標:
1. 臨床論文を読み進めるのに必要な統計解析法を理解し、実践できる（知識・技能）。
2. 受容体機能の解析法を説明できる（知識）。
3. 細胞内情報伝達の仕組みの解析法を説明できる（知識）。
4. 生理活性物質の機能と解析法を説明できる（知識）。
5. 生命倫理の観点から動物愛護と実験動物倫理について説明でき、実践できる（知識・態度）。
6. 薬理薬効試験法について説明できる（知識）。
7. 種々の病態モデル動物の有用性について説明できる（知識）。

授業方法:　第1～3回授業を矢野、第4～15回授業を藤井が担当する。
パワーポイントもしくは配付資料にしたがって進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	生物統計学1　調査・解析方法の種類	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
2.	生物統計学2　解析方法の選択と解釈	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
3.	生物統計学3　臨床統計への応用と統計パッケージの利用方法	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
4.	薬物受容体理論と受容体機能解析法	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
5.	薬効評価の指標1：細胞内情報伝達系	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
6.	薬効評価の指標2：生理活性物質	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
7.	実験動物と動物試験、生命倫理	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
8.	薬効薬理試験法1　摘出臓器を用いた試験	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
9.	薬効薬理試験法2　培養細胞を用いた試験	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
10.	病態モデルと治療薬開発1　中枢性疾患	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
11.	病態モデルと治療薬開発2　循環系疾患	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
12.	病態モデルと治療薬開発3　消化器系・アレルギー性疾患	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
13.	病態モデルと治療薬開発4　遺伝子改変動物	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
14.	将来期待される治療薬の分子ターゲット	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。
15.	最新の研究事例解析：基礎研究と臨床研究	事前に配付された資料を読んで不明の点を明らかにしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　毎回の授業で、予習しておくべき項目を指示するので、自主的に様々な資料にあたって専門用語や進歩状況を理解しておくように努力しておくこと。特に英語論文を資料として用いることが多いので、できる限り不明な語彙の意味は調べておき、最低限、実験方法および図・表の内容を確認しておくこと。
授業の最後に指示される内容にしたがって、各自学習内容のまとめを作成しておくこと。
なお、追加の指示がある場合には、授業時に資料として配付するとともに、マナビーに情報をアップロードするので常に確認すること。

フィードバックの方法:　前回の授業内容に対する質問・疑問等への回答を授業の冒頭に紹介する。講義の各段階において、基礎事項の理解度や学習達成度を確認するレポートを課す。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート課題	100%	講義の各段階において、基礎事項の理解度や学習達成度を確認するレポートを課す。レポート課題への作成の取組み方（10%）、理解度（20%）などを基に、その内容（70%）を総合的に評価する。レポート未提出者は評価の対象外となる。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　授業中に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワーは特に定めていないので、質問等があれば随時研究室（憩水館6階W602）まで訪問してよい。ただし、会議等により不在の場合があるので、あらかじめメール（tfujii@dwc.doshisha.ac.jp）にて事前に連絡する方が望ましい。

791000

臨床治療薬効学特論

髙橋　　玲

授業テーマ:　癌の化学療法の分子生物学的裏付けを学ぶ。

授業の概要:　EBMが重視されている現在、薬物治療には科学的根拠に基づく薬効の裏付けが必須である。本講義では癌の細胞生物学的佐賀を明らかにした上で、各種治療戦略がいかなる分子を標的としているかを個別的に検討する。また、化学療法の有効性を決定する患者側の因子に関しても検討していく。更に最新の研究事例から、将来あり得べき治療法について展望する。

到達目標:　授業目標を討論形式で進め、癌治療における分子生物学的裏付けを臨床応用可能とする知識と応用力を養う。

授業方法:　対話形式および小グループ討論

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、癌の細胞生物学概論	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
2.	癌の病理診断からみた悪性度・薬物感受性評価	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
3.	殺細胞薬の分子レベルでの作用機構	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
4.	殺細胞薬の臨床効果	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
5.	分子標的治療薬(小分子)の分子レベルでの作用機構	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
6.	分子標的治療薬(小分子)の臨床	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
7.	分子標的治療薬(バイオ医薬品)の分子レベルでの作用機構	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
8.	分子標的治療薬(バイオ医薬品)の臨床	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
9.	ホルモン療法の分子レベルでの作用機構	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
10.	ホルモン療法の臨床	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
11.	背景因子としての遺伝子多型と痛の生物学	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
12.	遺伝子多型と薬剤効果	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
13.	癌幹細胞研究の展望	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
14.	癌幹細胞を標的とした創薬研究	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。
15.	最新の研究事例解析	各授業内容に用いられるキーワードを選び出し、それぞれについての文献検索と情報収集を事前に行う。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　1)フィードバックをしながら授業を進める。
2)オフィスアワーを利用して直接コンタクトを取る。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50%	50点満点
レポート	50%	50点満点

教科書:　資料配付

参考書:

BASIC AND CLINICAL PHARMACOLOOY 11th Edition Katzung, Masters, Trevor) Mc Graw Hill Medical

Textbook of Therapeautics, Drug and Disease Management 8th Edition (Helms, Quan, Herfindal. Gourley) Lippincott Williams & Wilkins

Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7th Edition (Kumar, abbas, Fausto) ELSEVIER SAUNBDERS

Robbins and Cotran Pathologic Basis of Disease 7th Edition (Kumar, abbas, Fausto) ELSEVIER SAUNBDERS

Rubin's Pathology Clinicopthologic Foundations of Medicine 4th Edition (Rubin, Gorstein, Rubin, Schwarting, Stayer) Lippincott Williams & Wilkins

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、授業の前後教室内

791100

レギュラトリーサイエンス特論

前川　　京子

授業テーマ:　医薬品の開発及び品質、有効性、安全性の確保

授業の概要:　医薬品の開発、製造、品質確保、有効性及び安全性の保証に関わる行政的規制基準はその多くが科学的合理性の下で国際的に調和されたものであることを理解し、科学技術の進展に伴う新機能剤形医薬品の品質確保などに要求される新たな規制基準の策定や医薬品承認審査業務などに対応できる知識と能力を養成する。

到達目標:
・薬学の知識を有機的に統合して医薬品の品質、有効性及び安全性の確保のための公的基準を理解する。
・レギュラトリーサイエンスが社会に果たす役割について説明できる。
・薬学領域の様々な事象の中から課題や問題を見出すとともに、問題解決に向けて試行錯誤することができる。

授業方法:　講義とディスカッションを組み合わせて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	イントロダクション:レギュラトリーサイエンスとは	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
2.	日本薬局方の役割及び構成等の変遷並びに外国薬局方との比較	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
3.	日本薬局方とレギュラトリーサイエンス(1)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
4.	日本薬局方とレギュラトリーサイエンス(2)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
5.	医薬品開発に関するガイドラインとその国際調和(1)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
6.	医薬品開発に関するガイドラインとその国際調和(2)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
7.	医薬品の品質及び安全性の確保に関するガイドラインとその国際調和	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
8.	開発・承認審査における医薬品の評価(ベネフィット・リスク評価)(1)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
9.	開発・承認審査における医薬品の評価(ベネフィット・リスク評価)(2)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
10.	開発・承認審査における医薬品の評価(ベネフィット・リスク評価)(3)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
11.	医薬品の有害作用の情報源(1)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
12.	医薬品の有害作用の情報源(2)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
13.	ジェネリック医薬品の評価(1)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
14.	ジェネリック医薬品の評価(2)	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。
15.	総合討論	参考書等を読み、授業内容部分を予習及び復習する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　講義でまとめてディスカッションする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50%	個々の事例について積極的に討論に参加できるかを評価する
レポート	50%	レギュラトリーサイエンスの役割を論理的に説明できるかを基準とする。

教科書:　特に指定しない。授業ごとに資料を配布する。

参考書:
医薬品のレギュラトリーサイエンス(豊島・黒川 編著:南山堂)
医薬品評価概説(東京化学同人)
医薬品開発入門　第2版(じほう)
薬学倫理・医薬品開発・臨床研究・医療統計学(中山書店)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　電子メール、オフィスアワー

791200

生態環境毒性学特論

木津　　良一

授業テーマ:　環境物質の有害作用発現の分子機構を理解する。

授業の概要:　身の回りの有害化学物質について、その有害作用が発現される分子機構ならびに有害作用の評価法に関する先端知識を習得する。さらに、講義内容に関連した最新の研究論文を題材として、研究の着眼点、実験方法、得られた結果に対する考察などについて討論する。

到達目標:　代表的な有害化学物質について、有害作用発現の分子メカノズムを説明できる。
代表的な有害作用に対する評価法について原理や操作などを説明できる。

授業方法:　講義内容をとりまとめたプリントを事前に配布し、その内容に沿って講義を進める。講義は主としてパワーポイントを用い、必要に応じて板書する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、生態系と環境物質概論	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
2.	環境有害物質各論 1　重金属	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
3.	環境有害物質各論 2　農薬	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
4.	環境有害物質各論 3　大気汚染物質・室内環境とシックハウス	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
5.	環境有害物質各論 4　天然毒性物質	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
6.	微量物質の分析・検出法	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
7.	リスク評価法 1　環境物質、食品添加物、残留農薬の疫学	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
8.	リスク評価法 2　医薬品のリスク評価とメガスタディー	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
9.	ダイオキシンとAh受容体の分子機構	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
10.	内分泌撹乱物質の分子機構	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
11.	変異原性物質のリスク評価法	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
12.	環境汚染物質と代謝活性化	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
13.	食物連鎖と生体内蓄積	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
14.	最新の研究事例解析 1　毒性メカニズム	今回の講義内容を復習し理解を深めるとともに、次回に講義する項目について予習する。
15.	最新の研究事例解析 2　環境アセスメント	今回の講義内容を復習し理解を深める。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　質問事項については、講義室または研究室で随時対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	100%	到達目標に基づき、課題を論理的に分かりやすく説明できているかを基準として評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　E-メール:rkizu@dwc.doshisha.ac.jp、 講義室および研究室で随時対応。

791300

実践的薬剤処方解析実習A

森田　邦彦、阿南　節子、佐藤　敦夫、芝田　信人、松元　加奈

授業テーマ:　生物薬剤学関連の手法の習得と臨床現場への応用

授業の概要:　最先端医療の現場で使用されている技術、および将来応用の可能性のある革新的技術について、これを基礎研究の場で修得しておくことは、臨床現場での実務・研究にとって重要であるとの観点から、本実習ではまず、生物薬剤学に関連する基本的な手技・分析法を習得し、その後、関連病院である国立病院機構・南京都病院にて、臨床の場におけるTDMの実際を経験する。
第2回～第8回を芝田が、第9回～第10回を森田と松元が、第11回～第12回を阿南が、第13回～第14回を佐藤が、それぞれ担当する。森田は責任教員として実習全体の統括・評価を行うとともに、第1回と第15回を担当する。

到達目標:
1. モデル系での薬物動態シミュレーションができる。
2. 動物を用いた各種投与経路による薬物血中濃度モニタリングができる。
3. 腎排泄能を測定できる。
4. In vitroでの薬物のタンパク結合性試験ができる。
5. 薬物代謝に関連する遺伝子型の決定ができる。
6. 呼吸器感染症領域の薬物血中濃度モニタリングを実践できる。

授業方法:　演習、授業、実習を組み合わせて行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション: 吸収・分布・代謝・排泄(ADME)の基礎	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
2.	コンパートメントモデルを用いた薬物動態のシミュレーション1: 肝障害および腎障害時のADMEの変動と投与設計	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
3.	コンパートメントモデルを用いた薬物動態のシミュレーション2: 加齢および性差におけるADMEの変動と投与設計	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
4.	ラットを用いたin vivo血中薬物濃度モニタリング1: PK/PDによる投与設計と薬効評価	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
5.	ラットを用いたin vivo血中薬物濃度モニタリング2: 薬物相互作用を考慮したPK/PDモデルの構築と投与設計	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
6.	ラットを用いたin situ消化管吸収: 食物一薬物間相互作用と消化管クリアランスの見積もり	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
7.	ラットを用いた薬物腎排泄能測定: 各種腎機能マーカーを指標とした腎クリアランスの見積もりと投与設計	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
8.	剤型とドラッグデリバリーシステム(DDS): ナノテクノロジーを応用したDDS製剤のADMEと投与設計	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
9.	血漿タンパク結合性検査: ヒトにおける各種薬物結合性タンパクの薬物結合能の評価と投与設計	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
10.	遺伝子多型と薬物代謝: 薬物代謝に関わる酵素系の多型と薬物のADME	学部生当時に修得済みの薬物動態学等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
11.	がん化学療法における抗がん剤の投与設計	学部生当時に修得済みの臨床薬剤学Ⅰ・Ⅱ等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
12.	がん化学療法における薬効評価	学部生当時に修得済みの臨床薬剤学Ⅰ・Ⅱ等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
13.	TDMの実際1:(南京都病院) 感染症治療薬のPK/PD解析による投与設計	学部生当時に修得済みの臨床薬剤学Ⅰ・Ⅱ等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
14.	TDMの実際2:(南京都病院) 感染症治療における薬効評価	学部生当時に修得済みの臨床薬剤学Ⅰ・Ⅱ等の資料をはじめ、関連講義科目の内容を復習しておく。
15.	総合討論・成果発表会	第1回～第14回のポートフォリオに基づいて、パワーポイントでのプレゼンテーションに向けた準備をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　薬物動態学、生物薬剤学および臨床薬剤学を中心とした学部レベルで修得済みの基本的知識ならびに考え方の復習が必須である。

フィードバックの方法:
1. 各課題に対するレポートの内容を各担当教員が評価し、フィードバックする。
2・発表会のプレゼンテーションの内容を評価し、フィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
各回の課題	50%	達目標に掲げた知識や理解度あるいは技能について、一定水準に到達しているかという点を主体としてレポートに記述されている内容で評価する。
最終発表会でのプレゼンテーション	50%	達目標に掲げた知識や理解度あるいは技能について、一定水準に到達しているかという点を主体として、プレゼンテーションで表現されている内容で評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　E-メール、オフィスアワー

791500

生物薬剤学特論

芝田　　信人

授業テーマ:　薬物体内動態の変動要因の理解と薬物治療への反映

授業の概要:　医薬品を臨床で使用する場合、薬剤師が直面するのは多くが薬剤学的問題である。適切な薬物治療を施すには、薬が体の中でどのように動き、どのように効くのかを理解しなければならない。また、実践的な医薬品の使用は様々な病態のもとでの使用となるので、病態が薬物の体内動態に如何に影響を及ぼすかを理解することは、適切な薬物治療を遂行する上で重要である。さらに、医薬品は適切な製剤設計のもとで供給されるので、その剤形の特徴を深く理解することはより適切な薬物治療につながる。本講では、基礎と臨床の間をつなぐべく、薬物動態学および製剤設計学に関連する基礎知識、薬物体内動態の変動要因、薬物体内動態に対する病態の影響を理解するとともに、医薬品の相互作用に関する最近の重要な知見とその臨床的意義を考察し、医療の担い手としての薬剤師に要求される実践的専門知識について総合的に理解を深める。更に、臨床薬物速度論に立脚し、薬物血中濃度モニタリングなど、薬剤師による薬物投与計画を実践する上で必要な知識・技能について理解を深める。

到達目標:　様々な病態における様々な薬物の投与設計法を学修する

授業方法:　基礎理論を説明した後に、臨床症例を用いた演習をおこなう。随時、小テストおよびレポートを課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、概論	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
2.	薬物吸収・分布研究法：基礎と臨床応用	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
3.	薬物代謝・排泄研究法：基礎と臨床応用	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
4.	薬物体内動態とその変動要因（1）：トランスポーター、代謝酵素	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
5.	薬物体内動態とその変動要因（2）：剤型、投与経路、病態	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
6.	薬物速度論的解析法：ADMEデータの取り扱い、コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、母集団解析法、薬物血中濃度予測法	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
7.	肝・腎・心疾患時の薬物体内動態	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
8.	高齢者・小児・妊婦での薬物体内動態	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
9.	ドラッグデリバリーシステムによる薬物体内動態制御	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
10.	薬物動態学的相互作用（1）：吸収過程・分布過程で起こる相互作用	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
11.	薬物動態学的相互作用（2）：代謝・排泄過程で起こる相互作用	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
12.	薬物動態とSNPs解析（1）：SNPと薬剤応答性、SNPとEvidence-Based Medicine	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
13.	薬物動態とSNPs解析（2）：薬物動態・作用に関係したSNPsの実例	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
14.	臨床現場での血中濃度モニタリングと薬物投与計画および処方設計 薬の特徴付け	コンパートメント・モデル、ノンコンパートメント・モデル、臓器クリアランスなどの薬物速度論に関する基礎事項について十分に復習しておくこと。
15.	まとめと総合討論 英語によるプレゼンテーション	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　講義中に行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション	40%	課題に対するプレゼンテーション（40%）およびレポート（60%）により評価する。
レポート	60%	課題に対するプレゼンテーション（40%）およびレポート（60%）により評価する。

教科書:　特に指定はしないが、必要なプリントは講義ごとに配布する。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	質問等は、nshibata@dwc.doshisha.ac.jp まで。

791600

感染制御処方学特論

森田　　邦彦

授業テーマ:　感染症の予防と治療における抗菌薬・抗真菌薬の適正使用とその支援（antimicrobial stewardship)のあり方を考える。

授業の概要:　感染症の概論から始め、感染防止の一般的な問題から、感染症が発生した場合の原因病原微生物に対する適切な薬剤選択に至るまでの諸問題に関して、総合的に解説した後、臨床現場における感染制御および治療の事例研究を通じて、応用力を養う。
抗菌化学療法認定薬剤師（日本化学療法学会）やInfection Control Doctorの資格取得を念頭においた講義として位置づけられる。

到達目標:　髄膜炎、敗血症、発熱性好中球減少症、クロストリディウム・ディフィシル感染症といった重症感染症を中心に、それらの診断、エンピリック治療のあり方、ターゲット治療のあり方を修得し、典型症例について適正処方を提案できるようになる。

授業方法:　パワーポイント映写とそのハンドアウト資料を用いた講義、ならびに提示された各症例を題材としたteam-based learning形式の演習。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、感染症概論	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
2.	臨床で問題となる感染症と宿主応答機構	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
3.	医療関連感染サーベイランス	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
4.	我が国における死因第3位の肺炎：HAP、CAP、NHCAPの概要と治療ガイドライン	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
5.	髄膜炎の概要と治療ガイドライン	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
6.	発熱性好中球減少症の概要と治療ガイドライン	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）

7.	敗血症とSARS： 臓器障害発症時とaugmented renal clearance発現時の抗菌薬の動態変動と処方のあり方	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
8.	クロストリジウム・ディフィシル感染症の概要と治療戦略	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
9.	深在性真菌症の概要と治療戦略	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
10.	抗菌薬による感染症治療の実際（ケーススタディー）1	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
11.	抗菌薬による感染症治療の実際（ケーススタディー）2	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
12.	抗菌薬による感染症治療の実際（ケーススタディー）3	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
13.	抗菌薬による感染症治療の実際（ケーススタディー）4	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
14.	抗菌薬による感染症治療の実際（ケーススタディー）5	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）

15.	最新の研究事例解析とまとめ	感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。 1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み） 2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み） 3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）

受講者へのメッセージやアドバイス:

感染症の治療あるいは予防に必要な薬物療法に関する下記1）～3）に示す基本的知識の復習が必須となる。
1）薬物血中濃度モニタリング（TDM）に基づく投与設計のあり方（学部3年次の臨床薬剤学I、学部4年次の模擬病院薬局実習、および学部6年次の院内感染対策特論で取得済み）
2）原因菌に応じた抗菌薬の選択のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）
3）選択した抗菌薬のpharmacokineticsとpharmacodynamicsの関係解析に基づく至適投与設計のあり方（実践的薬剤処方解析学実習Aで修得済み）

フィードバックの方法:

各回ごとのレポートを査読し、添削とともに採点し、コメントを添えて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50%	到達目標に掲げた知識や理解度あるいは技能について、一定水準に到達しているかという点を主体としてレポートに記述されている内容で評価する。
まとめの口頭試問	50%	到達目標に掲げた知識や理解度あるいは技能について、一定水準に到達しているかという点について、14回の講義・演習内容に関する口頭試問を通して評価する。

教科書:

毎回、資料を配布する。

参考書:

日常診療に役立つ抗感染症薬のPK-PD　戸塚恭一　監修　ユニオンエース社
感染症のチーム医療　専門医の処方意図を探れ　三笠桂一、森田邦彦　編集　南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:

オフィスアワー、Eメール

791700

癌疾患関連処方学特論

中西　　弘和

授業テーマ:　がん専門薬剤師を目指す

授業の概要:　がん専門薬剤師として習得すべき知識・技能を身に付けるために、がんの発生から治療、緩和医療までを授業範囲とする。

到達目標:　がん専門薬剤師としての薬学的管理の基礎知識の習得

授業方法:　予め提示した課題に対しての発表や討議を主として行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	なし
2.	がん治療の基礎	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
3.	抗がん剤の知識①	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
4.	抗がん剤の知識②	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
5.	抗がん剤の知識③	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
6.	抗がん剤の知識④	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
7.	抗がん剤の知識⑤	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
8.	がん化学療法各論①	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
9.	がん化学療法各論②	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
10.	がん化学療法各論③	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
11.	がん化学療法各論④	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
12.	がん化学療法各論⑤	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
13.	がん化学療法各論⑥	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
14.	まとめについて、発表と討議	予め提示した課題に基づく発表ができるように準備学習を行う
15.	まとめ	1つ以上のがんについて課題通りにまとめること。

受講者へのメッセージやアドバイス:　予め与えられた課題をまとめておくこと。特に抗がん剤の知識は十分にしておくこと。
また、理解度に応じて授業内容を変更することがある。

フィードバックの方法:　授業時に教員から行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	50	点数で評価　60%以上必要
レポートと発表	50	課題に対するレポートとその発表内容を総合的に教員が評価する。

教科書:　新臨床腫瘍薬　第5版　2018年6月発売につき　それまでは教員の指示に従う

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　hnakanis@dwc.doshisha.ac.jp

791800

医薬品情報解析学特論

阿南　　節子

授業テーマ:　医薬品情報の収集と解析法

授業の概要:　様々な医薬品情報の収集法と活用の方法を理解する。国内外の安全性情報についても、収集と活用の方法を理解する。医療関連文献の評価と活用については、要約・序論・実験方法・結果・討論・結論について学ぶ。Evidence Based Medicineと医薬品情報については、評価方法について理解し、また医薬品情報をチーム医療で活用することを学ぶ。

到達目標:　・薬学領域の様々な事象の中から課題や問題を見出すとともに、問題解決に向けて試行錯誤することができる。（研究能力、自己研鑽）
・薬品はそれに関する情報と一体となって初めて有効性と安全性が臨床の場で保証される。その情報が基礎・臨床のエビデンスに裏付けられている必要がある。本講義によって、医薬品情報に関する基本知識・技術を学習した後、最終的に医療現場における薬剤師活動に活かすことのできるEBMの実践方法を習得する。

授業方法:　講義　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、医薬品情報概論	
2.	医薬品開発と医薬品情報	
3.	医薬品情報と薬事制度	
4.	医薬品情報の収集と活用1	
5.	医薬品情報の収集と活用2	
6.	安全性情報と薬剤疫学　1	
7.	安全性情報と薬剤疫学　2	
8.	医療関連文献の評価と解析：要約と序論	
9.	医療関連文献の評価と解析：実験方法,結果の提示	
10.	医療関連文献の評価と解析：討論と結論	
11.	医療関連文献の評価と解析：討論と結論	
12.	医療情報と薬剤経済	
13.	Evidence Based Medicineと医薬品情報1	
14.	Evidence Based Medicineと医薬品情報2	
15.	チーム医療の実際	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教室内でまとめて解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50%	
レポート	50%	到達目標の理解度を評価する

教科書:　特に定めない

参考書:　必要時配布

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

792400

治験・CRC特論

阿南　節子、加納　武、藤井　千賀、増田　慎三、吉本　淳

授業テーマ:　臨床試験の理解と治験コーディネーターとしての薬剤師の役割

授業の概要:　薬剤師の職域としてのCRCについて、治験担当医師、病院薬剤師、製薬企業の開発担当者、それぞれの立場から解説する。1～4を治験担当医師、5～11を製薬企業の開発担当者、12～15を治験担当薬剤師が担当する。1日数コマの集中講義とする。

到達目標:　病院薬剤師が治験などの業務に関与することが、臨床サイドから求められている。ここでは、医薬品の開発や治験・臨床試験などについてのアウトライン、CRC(Clinical Research Coordinator 治験コーディネーター)としての薬剤師のあり方を、法律やガイドラインなどの規制要件とともに学ぶ。

授業方法:　講義、頻回のラボミーティングのもとに、実験研究と文献調査を継続する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	治験とCRCの役割(概論):ドラッグ・ラグ、倫理指針、倫理審査委員会	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
2.	医師の立場から:医師主導治験、疫学研究と臨床研究	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
3.	臨床試験の課題と期待されるCRC像	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
4.	トランスレーショナルリサーチについての討論	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
5.	医薬品の開発:製薬企業の立場から(1) 医薬品を取り巻く環境、医薬品開発と薬害、非臨床試験、GLP	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
6.	医薬品の開発:製薬企業の立場から(2) GCP、GPMSP、SOP、治験の流れ(準備、依頼、契約、実施、終了、Key Open)	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
7.	医薬品の開発:製薬企業の立場から(3) 承認申請、PMDA、国際共同治験	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
8.	医薬品の開発:製薬企業の立場から(4) GPSP、製造販売後臨床試験、使用成績調査、特定使用成績調査、副作用・感染症報告	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
9.	医薬品の開発:製薬企業の立場から(5) 治験のケーススタディ(1)	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
10.	医薬品の開発:製薬企業の立場から(6) 治験のケーススタディ(2)	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
11.	医薬品の開発:製薬企業の立場から(7) 治験のケーススタディ(3)	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
12.	病院におけるCRCの役割:病院薬剤師の立場から(1) 医薬品開発治験におけるCRC及び事務局員の役割分担、SMOの役割	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
13.	病院におけるCRCの役割:病院薬剤師の立場から(2) GPSP、製造販売後臨床試験、使用成績調査、特定使用成績調査、副作用・感染症報告、グローバル化への対応	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
14.	病院におけるCRCの役割:病院薬剤師の立場から(3) 治験のケーススタディ(1)	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。
15.	病院におけるCRCの役割:病院薬剤師の立場から(4) 治験のケーススタディ(2)	テーマ毎の最新の関連文献や資料を読解・整理して講義に臨むこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　講義前後に教室で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末の発表内容に基づき評価	100%	到達目標に対する理解度で評価する。

教科書:　特に指定しない

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　創造力、リーダーシップ、

教員との連絡方法:　講義の教室

800301、02、61、62

道徳教育論

佐藤　　光友

授業テーマ:　道徳教育における理論的かつ実践的指導方法についての考察

授業の概要:　本科目においては、児童生徒の道徳性を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念(道徳あるいは道徳教育の意義、日本における道徳の歴史的変遷の視点、道徳性の発達、道徳規範、道徳教育における理論ならびに方法、これからの学校教育における道徳教育のあり方)を考察する。さらに、特別の教科道徳における指導方法や指導計画、指導内容(資料活用、発問作成)ついて学んでいく。

到達目標:　児童生徒の道徳性(道徳的心情・判断力・実践意欲と態度)を育成するための道徳教育の基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を確実に身につける。さらに、道徳授業の指導方法や指導内容に対応した指導案作成(資料活用、発問作成など)や模擬授業の基本的技能を修得できるようになること。

授業方法:　講義と平行して、指導案を基にして、集団討議や模擬授業等を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	道徳教育の意義、目標	シラバスを事前に読んでおくこと。
2.	道徳教育の歴史	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
3.	道徳教育と学習指導要領	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
4.	道徳性の発達	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
5.	道徳性と社会規範	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
6.	道徳教育の方法Ⅰ(モラルジレンマ方式)	事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。
7.	道徳教育の方法Ⅱ(価値明確化方式)	事前に配布している資料を使って復習をし、道徳教育の方法についての資料を読んでおくこと。
8.	道徳授業の指導Ⅰ(教材の活用方法)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
9.	道徳授業の指導Ⅱ(指導案作成の手順)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
10.	道徳授業の指導Ⅲ(道徳授業の発問構成)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
11.	道徳授業の指導Ⅳ(モラルスキルトレーニング活用授業)	事前に配布している資料を使って復習をし、学習指導案作成のための資料を読んでおくこと。
12.	教育活動全体と道徳教育	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読しておくこと。
13.	道徳教育における評価	事前に配布している資料を使って復習をし、次回の資料を熟読して自分なりに道徳教育の課題を考えておくこと。
14.	道徳教育の課題	事前に配布している資料を使って復習をしておくこと。
15.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
指導案作成・提出	30%	課題に対応した指導案作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。
発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。
定期試験	40%	道徳教育の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。

教科書:　金光靖樹、佐藤光友編著『やさしく学ぶ道徳教育』(ミネルヴァ書房)
文部科学省 著『中学校学習指導要領解説　道徳編』

参考書:　授業中適宜指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

810361、62

英語科教科教育法A

今井　由美子、大塚　朝美

授業テーマ:
未来の教師に求められる英語科教育指導法の理論について理解を深める

授業の概要:
将来的に英語教師としてアクティブ・ラーニングの手法を授業に取り入れることが求められることから、この授業では課題に取り組む際の姿勢を能動的に保つよう受講生を支援しつつ、主に次の3点に重点をおき授業を進める。
1）国際語としての英語の理解を深める。
2）様々な英語教授法の理論を理解する。
3）学習指導要領に沿った授業を計画・実行するために、中学校および高等学校における英語指導理論について学ぶ

到達目標:
中学校および高等学校学習指導要領に示された英語科の学習内容について、背景となる学問領域と関連させながら、様々な英語教授法および学習指導理論を踏まえつつ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法の基礎を学ぶ。

授業方法:
講義中心の授業を進めるが、イメージがわきやすいように、AV教材の使用や、受講者自身が実際に指導方法を実演する機会もできるだけ設ける。また、知識を確認するために毎回クイズを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	日本における英語教育の目的について	
3.	英語教授法について	
4.	日本語母語話者にとっての英語能力について	Quiz 1　課題①提出
5.	英語能力の構成要素と英語能力の評価について	Quiz 2
6.	Communicative Language Teaching について	Quiz 3
7.	Oral Approach について	Quiz 4
8.	Grammar Translation Method について	Quiz 5
9.	授業をどう構成するか	Quiz 6
10.	言語材料（発音、文字、語彙、文法）について	Quiz 7
11.	情報機器やメディア教材の活用について	Quiz 8　課題②提出
12.	学級運営について	Quiz 9
13.	聞くこと・話すことの指導について	Quiz 10
14.	読むこと・書くことの指導について	Quiz 11
15.	自律的学習者の育成について、目指すべき21世紀の英語の授業	Quiz 12

受講者へのメッセージやアドバイス:
英語教師として必要な一定以上の English proficiency を3年生秋学期末までに身につけていることが望まれる。具体的には、TOEICやTOEFL、英検など英語標準化テストのスコアの提出を求める。

フィードバックの方法:
クイズは毎回、回答のチェックを行う。提出された課題は受講生同士でのピア・チェックを行い、担当者により評価された後返却される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
クイズ	30%	クイズの平均点を評価に加える。
課題2種	10%	２種類の課題提出を評価に加える。
プロジェクトへの取り組み	10%	プロジェクトへの取り組みを評価に加える。
学期末テスト	50%	

教科書:
『国際語としての英語：進化する英語科教育法』（若本夏美・今井由美子・大塚朝美・杉森直樹、2017、松柏社）
中学校教科書：New Horizon 1-3 （東京書籍）
高校教科書：Revised Sailing：Oral Communication Ⅰ （啓林館）
高校教科書：Crown English Series Ⅰ （三省堂）

参考書:
中学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説 外国語編
高等学校学習指導要領・高等学校学習指導要領解説 外国語編

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:
オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

810461、62

英語科教科教育法B

今井　　由美子、大塚　　朝美

授業テーマ:

未来の教師に求められる英語科教科教育法の理論を学び、実践へとつなげる。

授業の概要:

将来的に英語教師としてアクティブ・ラーニングの手法を授業に取り入れることが求められることから、この授業では課題に取り組む際の姿勢を能動的に保つよう受講生を支援しつつ、英語科教科教育法Aで得た知見を基に、主に次の4点に重点をおき授業を進める。
1）学習到達目標に基づく授業の組み立て方を理解する。
2）学習指導案を作成する。
3）模擬授業を行う。
4）模擬授業の評価と振り返りを行う。

到達目標:

中学校および高等学校の英語教育の基礎となる学習指導要領および教科用図書（教科書）について理解するとともに、学習到達目標および年間指導計画・単元計画・各時間の指導計画について理解する。学習指導要領に示された英語科の学習内容について背景となる学問領域と関連させながら、英語科教科教育法Aで学んだ様々な英語教授法および学習指導理論を踏まえ、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う方法の基礎を学び、指導案作成・模擬授業へとつなげていく。

授業方法:

（1）中学・高校における英語の指導方法を研究し、来年度の教育実習に備えて、実習生としての心構えと指導法や指導技術を習得する。具体的には、中学・高校の英語の指導方法を体得するために毎回模擬授業を中心に授業を通してそれらの技術を会得する。教師役を演じる受講者は毎回の模擬授業を通して得られる反省を通して、教師としての心構えと指導技術の基礎を築くことを目標とし、生徒役を演じる受講者は教師役の指導法を生徒の視点から観察・議論することにより、自己啓発を行い、授業観察の視点を養う。
（2）模擬授業実施者は、中学・高校のテキストを使用し、指導案および提示教材・配布教材を作成し、模擬授業を実施する（模擬授業は2人または3人で50分の授業を行う予定）。模擬授業の後、指導法に対して指導者側及び生徒側からの意見を交換する。生徒側は、各担当者の授業に対する評価表を提出する。模擬授業実施者は、授業を振り返り、レポートを提出す

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（実習先＜中学校・高校＞に分かれ模擬授業担当者のペアを決める）	指導案作成打ち合わせ
2.	指導案作成① 「何を教えるか」を考える	指導案作成打ち合わせ
3.	指導案作成② 「どのように教えるか」を考える	指導案作成打ち合わせ
4.	指導案作成③ 「授業の流れ」を考える	指導案作成打ち合わせ
5.	指導案作成④ 「リハーサルからわかること」を考える	模擬授業リハーサル
6.	模擬授業と評価・振り返り①	模擬授業リハーサル
7.	模擬授業と評価・振り返り②	模擬授業リハーサル
8.	模擬授業と評価・振り返り③	模擬授業リハーサル
9.	模擬授業と評価・振り返り④	模擬授業リハーサル
10.	模擬授業と評価・振り返り⑤	模擬授業リハーサル
11.	模擬授業と評価・振り返り⑥	模擬授業リハーサル
12.	模擬授業と評価・振り返り⑦	模擬授業リハーサル
13.	模擬授業と評価・振り返り⑧	模擬授業リハーサル
14.	模擬授業と評価・振り返り⑨	模擬授業リハーサル
15.	模擬授業と評価・振り返り⑩	模擬授業リハーサル

受講者へのメッセージやアドバイス:

英語教師として必要な一定以上の English proficiency を秋学期末までに身につけていることが望まれる。具体的には、TOEICやTOEFL、英検など英語標準化テストのスコアの提出を求める。

フィードバックの方法:

授業ではグループディスカッションおよび発表を行う。ペアまたはグループで、模擬授業を行うための指導案を作成し、リハーサルを経て、模擬授業を行う。共同作業に対し積極的、協力的な姿勢が各受講生に求められる。模擬授業は生徒役の受講生により評価される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的な参加	30%	授業への貢献度、協力的姿勢など評価する。
夏期課題およびモデルリーディング	20%	夏期課題およびモデルリーディングを評価に加える。
教案作成（日本語・英語）	15%	2つの教案を評価に加える。
模擬授業および事後の各自の振り返りレポート	35%	模擬授業および振り返りレポートを評価する。

教科書:

『国際語としての英語：進化する英語科教育法』（若本夏美・今井由美子・大塚朝美・杉森直樹、2017、松柏社）
中学校教科書：New Horizon 1-3 （東京書籍）
高校教科書：Revised Sailing：Oral Communication Ⅰ （啓林館）
高校教科書：Crown English Series Ⅰ （三省堂）

参考書:

中学校学習指導要領・中学校学習指導要領解説 外国語編
高等学校学習指導要領・高等学校学習指導要領解説 外国語編
横溝紳一郎編著、生徒の心に火をつける、（教育出版）
田尻悟郎、英語授業改革論、（教育出版）
北原延晃、英語授業の『幹』をつくる本：上下巻、（ベネッセコーポレーション）
太田洋、英語を教える50のポイント、（光村図書）
中嶋洋一、英語好きにする授業マネージメント30の技、（明治図書）
高梨庸雄他、教室英語活用辞典、（研究社）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

810761

国語科教科教育法A

青木　　隆之

授業テーマ:　国語科教育に関する基本的な事項の学習及び模擬授業

授業の概要:
・来年度の教育実習を念頭におき、国語科教育の基本的な事項について学ぶ。
・前半は講義中心、後半は受講生による模擬授業中心で進める(全員が1回の模擬授業)。
・講義では、学習指導要領(中高の国語)について、その変遷、目標、内容等を学ぶとともに、国語の教科書についても言及する。また、学習指導案についても取り上げる。
・模擬授業では、学習指導案の作成も含め、「生徒役」の受講者とともに検証を深める。

到達目標:
・学習指導要領(中高の国語)について、その背景や目標、内容、指導法等を理解すること。
・国語の授業を具体的に構想し、それに基づいて学習指導案の作成をすることが出来ること。
・作成した学習指導案に即して模擬授業を行い、実践的な力を養うこと。
・中高の国語科教員の役割について考察を深めること。

授業方法:　基本的な事項に関する学習は講義形式で行う。模擬授業は、全員が交代で行い、その都度検証をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス(この授業の目標、内容、授業方法と予定、評価等)を行う。	中高時代の国語の授業や先生のことを想起しておく。
2.	学習指導要領に関して、主に中学校「国語」の目標や内容について学ぶ。次期学習指導要領の改訂ポイント等にも言及する。	現行の学習指導要領(中学・国語)に目を通しておく。
3.	学習指導要領に関して、主に高等学校「国語」の目標や内容について学ぶ。次期学習指導要領の改訂ポイント等にも言及する。	現行の学習指導要領(高校・国語)に目を通しておく。
4.	中高の「国語」の教科書について、その内容や取り扱い等を学ぶ。	印象に残る教材を想起しておく。
5.	学習指導案について、様々な書式を見ながら、その構成や各項目の意義等を学ぶ。	定番的な教材について、教材観を深め、授業展開の構想を練っておく。
6.	前時の学習をふまえて、実際に学習指導案を作成する。	定番的な教材について、教材観を深め、授業展開の構想を練っておく。
7.	「国語」の評価について、その観点や規準作成、評価方法等を学ぶ。	学習指導案の目標と評価規準について、教材との適否を改めて考えておく。
8.	授業における発問、指示、板書、ノート指導、ワークシート等について、その要点を学ぶ。	中高時代の国語の授業を想起し、印象に残る授業(特に発問、指示、板書等)をメモしておく。
9.	受講者による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う〈①〉	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
10.	受講者による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う〈②〉	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
11.	受講者による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う〈③〉	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
12.	受講者による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う〈④〉	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
13.	受講者による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う〈⑤〉	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
14.	受講者による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う〈⑥〉	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
15.	これまでの授業の総括を行い、あわせて中高国語科教員の役割についても考える。	現時点での自己の課題を再確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業は皆出席が前提です。
・したがって、欠席が目立つ、模擬授業が予定日に出来ない、提出物を出さない、私語や「内職」をする…等は困ります。教員を強く志望する者に受講してほしい。
・積極的に授業に参加し、まじめに取り組むことで、教育実習の成功も見えてくるはずです。受講者には、心配事や悩みを出してほしいと思います。それらを一般化してともに考え、教育実習や教員採用に備えていきたいと考えています。

フィードバックの方法:　提出物に対する受講者へのフィードバックに関しては、すべて教室で解説する。なお、模擬授業についての「感想シート」は、匿名にしたうえで、毎回、次の授業で全員分を印刷・配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	30	積極的な姿勢で授業を受けたか否か、模擬授業にまじめに取り組んだか否か、提出物はすべて提出したか否か、この3点を評価する。
模擬授業	30	模擬授業にまじめな姿勢で取り組んだ否かを評価する。また、「生徒役」の者は模擬授業参加態度がまじめなものであったか否かを評価する。
提出物	40	毎回の授業の最後に提出する「感想シート」に感想や質問を積極的に記載したか否か、模擬授業用の学習指導案(1つ)を誠実に作成したか否か、小論文(「国語科教員の役割とは」)にまじめに取り組んだか否か、この3点を評価する。

教科書:

参考書:
『中学校学習指導要領』〔平成20年3月告示　文部科学省〕
『中学校学習指導要領解説　国語編』〔平成20年9月　文部科学省〕
『高等学校学習指導要領』〔平成21年3月告示　文部科学省〕
『高等学校学習指導要領解説　国語編』〔平成22年6月　文部科学省〕

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、変化対応力、自己管理力
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で対応する。メール利用の場合、アドレスは次のとおり。 sk114550@mail.doshisha.ac.jp

810762

国語科教科教育法A

春日　　清彦

授業テーマ:

教職の現場で実際の授業をしていくうえで必要な、教材研究、指導案の作成、授業の実際の場面を想定した指導のあり方を具体的に学習していく。

授業の概要:

1　教材を租借し自分がその教材を通じて何を伝えたいのか、教材観にまとめることができる。さまざまなジャンルの教材の特徴や固有の意義を理解する。(知識・理解・表現)
2　具体的な指導目標を設定し、配当時間を考え、指導案を作成することができる。限られた時間の中で何を目的とする授業なのか、明確に説明できるようにする。(思考力、立案能力)
3　作品の特性を考慮しつつ、さまざまな指導の可能性を考えることができる。アナログ教材からデジタル教具などを用い、レクチャー・調べ学習・グループ学習・発展学習など、発展的な学習方法について考える。
4　時間配分、授業のポイントを考えながら、板書例を作成することができる。生徒の知識を定着させ、思考を整理するためには板書はきわめて有効である。どのような工夫ができるのか、多様な可能性を考えたい。
5　作成した授業案にそくして、参加者相互に意見を交換し合うことで課題を明らかにすると同時に、その授業に関する参加者の討議を通じて授業の具体的イメージを深化、発展することができる。(意欲・態度)

到達目標:

古文、漢文、現代文の評論、物語、詩などさまざまなジャンルを、指導要領に示されるところの学年の教育目標、単元の教育目標に即して体系的に指導計画が立てられなければならない。そのなかで、自らが教材の何を、どのように教えるかを考え、教育現場のさまざまな局面で生かしていってほしい。

授業方法:

現在の教育現場の実情、教材研究の方法、指導案作成の方法等を講義形式の授業で確認したうえで、具体的な作品にそくして、教材研究、指導案の作成、発表、意見交換をグループで行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「学習指導要領」の基本的なコンセプトと留意点 学習指導要領における教科の目標及び内容に関する理解を深めるとともに、それが具体的な教材の中ではどのように反映されるべきであるのかを考える。	学習指導要領に関する必要箇所を読み込んでおく。
2.	個別のジャンルにおける教材の特性と学習の意義について考える。① 論理的文章(中学　説明文)の特徴を具体的作品の分析を通して考える。	教材を読み込んでおく。
3.	個別のジャンルにおける教材の特性と学習の意義について考える。② 論理的文章(より高度な評論)の特徴を具体的作品の分析を通して考える。	教材を読み込んでおく。
4.	個別のジャンルにおける教材の特性と学習の意義について考える。③ 物語教材の特徴と指導目標、指導上の留意点を具体的な作品を通して考える。	教材を読み込んでおく。
5.	個別のジャンルにおける教材の特性と学習の意義について考える。④ 物語教材の特徴と指導目標、指導上の留意点を具体的な作品を通して考える。 作品の表現上の特徴と発展的な学習のあり方について考える。	教材を読み込んでおく。
6.	個別のジャンルにおける教材の特性と学習の意義について考える。⑤ 古典の学習指導の特徴と意義について、内容理解と歴史的意義について考える。	教材を読み込んでおく。
7.	個別のジャンルにおける教材の特性と学習の意義について考える。⑥ 古典の学習指導の特徴と意義について具体的な作品を通して考える。とりわけ内容上の特徴とそれを味読していくうえで必要な文法の体系的な指導のバランスを考える。	教材を読み込んでおく。
8.	個別のジャンルにおける教材の特性と学習の意義について考える。⑦ 詩・短歌・俳句などの短詩系文学の特徴と指導上の留意点について、具体的な教材を通して考える	教材を読み込んでおく。
9.	教材研究から指導案の作成までの過程における留意点と具体的な作成作業。① グループに分かれ、具体的な作品を選定し、指導案を作成する。	それぞれが指導案の試案を作成し、グループ討論を経て指導案を完成する
10.	教材研究から指導案の作成までの過程における留意点と具体的な作成作業。② グループに分かれ、具体的な作品を選定し、指導案を作成する。とりわけ板書例を作成していく留意点を考える。	それぞれが指導案の試案を作成し、グループ討論を経て指導案を完成する
11.	グループ発表と発表をもとにしたディスカッション①	発表グループの作品を読み込んでおく。
12.	グループ発表と発表をもとにしたディスカッション②	発表グループの作品を読み込んでおく。
13.	グループ発表と発表をもとにしたディスカッション③	発表グループの作品を読み込んでおく。
14.	グループ発表と発表をもとにしたディスカッション④	発表グループの作品を読み込んでおく。
15.	発表の総括と課題。 発表の中から抽出された課題を通じて、何をどのように教えるかについての意見交換をおこなう。	自分たちが発表した作品の指導案について、評価すべき点、課題を話し合っておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自分が作品を理解することと、授業をすることはずいぶんと違うものです。指導案を作成して見ることで、自分の読みの特徴や、伝えたいことは何かを明確にしていくこともできると思います。人に教えるという作業は実は自分の理解度を確認する作業でもあります
まず、積極的に参加すること。生徒にやる気を起こさせる授業をするためには、まず、教師がやる気を見せ、作品の魅力を伝えられるようにならなければならないと思います。

フィードバックの方法:

発表毎に参加者全員が評価用紙を作成します。(他のグループの発表には「発表評価用紙」、自分の発表には「発表自己評価用紙」を作成します。)
自分たちの考えたことが他者の目にどう映るのか、また自分たちを客観的に自己分析してみることでより良い指導案の作成に向けて課題を明確にしていきたいと思います。

「成績評価方法」 「成績評価基準」:	評価方法	割合	評価基準
	指導案グループ発表	60	グループで協力して作業に当たれているか。 教材に対する理解度、生徒の理解とやる気を促す指導案が工夫できているか。聞いている人に理解されるようプレゼンテーションが工夫できているか。
	授業態度（発言等）	20	発言回数、及び発表者の発表内容が咀嚼できているかなど。
	発表評価用紙（レポート）	20	作品を十分に読み込んだうえで、発表者の評価すべき点、改善すべき点を明確にしたうえで丁寧に評価用紙がかけているか。

教科書:

中学校学習指導要領
高等学校学習指導要領

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkasuga@intnl.doshisha.ac.jp

810861

国語科教科教育法B

青木　　隆之

授業テーマ:　「国語」の授業の具体的な領域に関する基本事項の学習と模擬授業

授業の概要:
・来年度の教育実習を念頭におき、「国語」の具体的な指導領域について学ぶ。
・定番的な教材をもとに試験問題作成にも取り組む。
・前半は講義中心、後半は受講生による模擬授業中心で進める（全員が1回の模擬授業）。
・講義では、学習指導要領（中高の国語）について、3領域1事項の指導について学ぶ。
・模擬授業では、学習指導案の作成も含め、「生徒役」の受講者とともに検証を深める。

到達目標:
・学習指導要領記載の3領域1事項の指導について理解すること。
・たしかな教材観に基づいて試験問題の作成が出来ること。
・国語の授業を具体的に構想し、それに基づいて学習指導案の作成をすることが出来ること。
・作成した学習指導案に即して模擬授業を行い、実践的な力を養うこと。
・同志社という学園を卒業した教員として、現場で勤めていく上での意義について考察を深めること。

授業方法:　基本的な事項に関する学習は講義形式で行う。模擬授業は、全員が交代で行い、その都度検証をする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（この授業の目標、内容、授業方法と予定、評価等）を行う。	国語科教科教育法Aをふまえ、現時点での自己の課題を再確認しておく。
2.	学習指導要領記載の「話すこと・聞くこと」について、その目標や内容を理解するとともに、具体的な実践例を学ぶ。	学習指導要領（中高、国語）の該当部を読んでおく。
3.	学習指導要領記載の「書くこと」について、その目標や内容を理解するとともに、具体的な実践例を学ぶ。	学習指導要領（中高、国語）の該当部を読んでおく。
4.	学習指導要領記載の「読むこと」について、その目標や内容を理解するとともに、具体的な実践例を学ぶ。	学習指導要領（中高、国語）の該当部を読んでおく。
5.	学習指導要領記載の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」について、その目標や内容を理解するとともに、具体的な実践例を学ぶ。	学習指導要領（中高、国語）の該当部を読んでおく。
6.	アクティブ・ラーニングの手法を採用した「国語」の授業について、実践例もふまえたうえで、より効果的な授業を考察する。	次期学習指導要領等、事前に配布する資料を読んでおく。
7.	前時までの授業をふまえて、共通教材をもとに学習指導案を作成する。	国語科教科教育法Aでの学習指導案に関する学習を想起しておく。
8.	前時の共通教材をもとに、試験問題の作成を行い、相互に検証する。	中高時代の試験問題を想起しておく。保存しているものがあれば、授業に持参する。
9.	受講生による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う。（①）	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
10.	受講生による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う。（②）	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
11.	受講生による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う。（③）	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
12.	受講生による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う。（④）	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
13.	受講生による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う。（⑤）	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
14.	受講生による模擬授業及び相互検証と、担当者による指導、助言を行う。（⑥）	担当者は学習指導案や教材の準備をしておく。「生徒役」の者は、自身の模擬授業の構想を深め、学習指導案の作成をしておく。
15.	これまでの授業の総括を行い、あわせて中高国語科教員の役割や、この同志社という学園で学んで教員を続けていくことの意義についても考える。	現時点での自己の課題を再確認しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・授業は皆出席が前提です。
・したがって、欠席が目立つ、模擬授業が予定日に出来ない、提出物を出さない、私語や「内職」をする…等は困ります。教員を強く志望する者に受講してほしい。
・積極的に授業に参加し、まじめに取り組むことで、教育実習の成功も見えてくるはずです。受講者には、心配事や悩みを出してほしいと思います。それらを一般化してともに考え、教育実習や教員採用に備えていきたいと考えています。

フィードバックの方法:　提出物に対する受講者へのフィードバックに関しては、すべて教室で解説する。なお、模擬授業についての「感想シート」は、匿名にしたうえで、毎回、次の授業で全員分を印刷・配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業態度	30	積極的な姿勢で授業を受けたか否か、模擬授業にまじめに取り組んだか否か、提出物はすべて提出したか否か、この3点を評価する。
模擬授業	30	模擬授業にまじめな姿勢で取り組んだ否かを評価する。また、「生徒役」の者は模擬授業参加態度がまじめなものであったか否かを評価する。
提出物	40	毎回の授業の最後に提出する「感想シート」に感想や質問を積極的に記載したか否か、模擬授業用の学習指導案（1つ）を誠実に作成したか否か、小論文（「同志社という学園で学んだうえで教員を続けていく意義とは」）にまじめに取り組んだか否か、この3点を評価する。

教科書:

参考書:
『中学校学習指導要領』〔平成20年3月告示　文部科学省〕
『中学校学習指導要領解説　国語編』〔平成20年9月　文部科学省〕

	『高等学校学習指導要領』〔平成21年3月告示　文部科学省〕 『高等学校学習指導要領解説　国語編』〔平成22年6月　文部科学省〕
獲得が期待される基礎的・汎用的能力：	分析力、思考力、自己管理力、
教員との連絡方法：	授業前後に教室内で対応する。メール利用の場合、アドレスは次のとおり。 sk114550@mail.doshisha.ac.jp

810862

国語科教科教育法B

春日　　清彦

授業テーマ:

春学期に作成した指導案のなかで浮かび上がってきた課題を、より詳細に分析し、実際の授業に役立つものとしてブラッシュアップしていくことを目的とする。

授業の概要:

授業の概要
1　周辺教材（表現指導、読書指導、ディベートなど）の指導上の留意点を理解し、授業に活かせる方法を模索する。
2　春学期の課題を踏まえて、個々の作品に当たりつつ、課題の克服を目指す。（理解・創意工夫）
3　それぞれの教育観、教材観、指導方法などを具体的に話し合うことにより、教員になることの意味、さらに広く人と関わることの意味を考える。（関心・意欲・態度）

到達目標:

指導案を作成してみると分野によっては知識の足りない部分があったり、授業の組み立てが単調になってしまったり、発問がうまく作れなかったりと課題が見つかるものである。
秋学期では、そのような課題をピックアップし、より充実した授業計画を作っていきたい。
また、教科教育法Aでは扱えなかった教科教育のうえで必要な内容（読書指導、国語表現、文法の体系的な学習、プレゼンテーション、ディベートなど）をさまざまな方法（ワークショップ、アナログ教材、デジタル教材）で学習する可能性について考える。そのなかで、自らが教材の何を、どのように教えるかの可能性を広げてほしい。

授業方法:

講義形式、ワークショップ形式、発表形式などさまざまな方法を駆使していく。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	春学期から抽出された課題の確認 実際に指導案を作成する際に、困ったこと、苦労したこと等を話し合い、授業の方向を決める。	春学期の課題をまとめておく。
2.	読書指導について① 読書指導の方法に関する具体的な方法。生徒の興味を喚起しつつ、生徒が自主的に読書を楽しむことのできるような工夫について考える。	次のワークショップに必要な自分の好きな作品を選定しておく。
3.	読書指導について②（ワークショップ） 具体的に「帯作り」を通じて生徒の興味関心を喚起する工夫を考える。	作品の核となるフレーズの決定。人の目を楽しませる帯の工夫を考えておく。
4.	表現指導について 国語表現の授業の意義と留意点について考えるが、とりわけ、生徒たちが最も苦手とするものは論理的な文章の作成である。高校や大学への進学を控えた子供たちが、自分の思いを論理的な思考、構成を用いて書くことの指導法について考える。	
5.	表現指導について② コミュニケーション能力とは情報収集、見解構築、情報発信を双方向的におこなうことのできる能力であるといえる。説明文や小論文を作成することはその基礎的トレーニングとして最も有効な方法といえる。ここでは具体的に大学入試の問題を利用して小論文を書いてみて、その指導法や留意点を考える。	指定された選択肢から、自分で小論文を書いてみる。
6.	古文指導の実際① 部分（教科書掲載部分）と全体（作品全体）の関係。指導方法と指導の留意点について考える。	教材となる作品を読み込んでおく。
7.	古文指導の実際② 文法事項をどう授業に組み込んでいくか。とかく古典の授業は生徒が絶対的な知識が乏しいために一方的な授業に陥りやすい。とりわけ文法は、授業がマンネリ化してしまう一因ともなりかねない。ここでは、どのようなバランスでどのように授業の中に組み込むことで、生徒が自主的に取り組める方法について考える。	教材となる作品の文法事項について調べておく。
8.	古文指導の実際⑤ 実際に自分で作ってみた指導案にしたがって模擬授業をしてみる。生徒間でのディスカッションを通して、どのような課題があるか話し合ってみる。	
9.	漢文指導の実際 具体的な教材を通じて、指導案を作成して見る。内容の面白さ、スケールの大きさなど魅力的でありながら、生徒たちは暗記科目ととらえる傾向も否めない。ここでは内容と授業で押さえるべき用字法、句法のバランスについて考える。	教材となる作品を読み込んでおく。
10.	韻文指導の実際 詩などはその呂的な特徴ゆえ、単元間の調整教材として使われるきらいがあるが、その内容の深さ、生徒の感性を豊かにしていく教材としては非常に優れたものである。ここでは、具体的な作品にあたりながら、「詩の世界を絵にしてみる。」「群読」など様々なアプローチの方法を考える。	教材となる作品を読み込んでおく。
11.	小説指導の実際① 小説の読解の指導をしていくうえで、教師の発問が作品の世界を豊かなものにしたり逆に誘導的な発問で作品の魅力を損なってしまうこともある。ここでは、生徒の思考を生かし周囲に話題を広げていけるような発問の工夫について考える。	教材となる作品を読み込んでおく。
12.	小説指導の実際②－ワークショップ－ 具体的な作品を通じて、発問例を組み立ててみる。グループで話し合いながら、教えるべき事柄、確認すべき事柄、考えさせるべき事柄をどのように生徒から引き出していくのか工夫する。	

13. 評論文指導の実際
　ここでは、春学期の発展的な指導として、評論文の読解、要約、発展学習の方法について考える。特に生徒の興味にしたがって自ら「調べ学習」ができるような工夫も考えてみたい。

教材となる作品を読み込んでおく。

14. 評論文指導の実際②－ワークショップ－
　ここでは、物語教材の発問例のワークショップを踏まえつつ、評論分に必要な、論理構成表、板書例、要約の指導法について、授業の中でどのように取り組むかを工夫してみる。

15. まとめ
　課題と次年度教育実習に向けて。

受講者へのメッセージやアドバイス:

指導案は作成してみたものの、生徒達にどのように問いかけるのか、自分の想定していた答えと違う方向に授業が進んでいきそうなときどう対応するのか、どのようにまとめれば生徒にとってわかりやすい板書になるのか等々不安はつきません。
　ここではきわめて具体的に授業のイメージを想像し、授業の組み立て方を学んでいきたいと思います。積極的に参加すること。対象となる作品をよく読み込み、自分なりの考えを持つことが大切であると思っています。

フィードバックの方法:

書くテーマ毎に作成する課題は、グループ間で共有したり、担当者から添削のうえ返していきたいと思います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題	40%	本の帯、小論文、各指導案作成の課題に、適切に取り組み工夫されているか。
指導案レポート	40%	指定する課題作品の中から一つの作品を選び、指導案を作成する。授業を踏まえた指導案が工夫できているか。
授業態度等	20%	授業に積極的に取り組み、発言等をしているか。

教科書:

中学校学習指導要領
高等学校学習指導要領

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:

kkasuga@intnl.doshisha.ac.jp

811101～03

音楽科教科教育法A

本間　　晶子、伊藤　　一美

授業テーマ:

授業の概要:
中学校・高等学校の音楽教師を目指して、日本の音楽教育の歴史、学習指導要領について理解する。また、学習指導要領に準拠する教材を研究し、歌唱教材に関しては弾き歌い実技も行う。さらに、実際に授業プランを構想して、学習指導案を作成の上、模擬授業を実施して教育実習に備える。日頃、馴染みの薄い日本の伝統音楽、郷土の民謡、世界の諸民族の音楽についても触れる。

到達目標:
1、学習指導要領、教材について理解する。
2、意欲をもって模擬授業等ができる。
3、指導法について意見を述べることができる。
4、歌唱共通教材の弾き歌いができる。

授業方法:
講義・実技・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	音楽科教育の意義と学習指導要領。 アンケート実施。	教科書を準備。
2.	日本の音楽教育の歴史。	教科書指定箇所の熟読。
3.	歌唱教材の研究とピアノによる弾き歌いⅠ。(中学校歌唱共通教材)	弾き歌い実技。
4.	歌唱教材の研究とピアノによる弾き歌いⅡ。(高校歌唱教材)	弾き歌い実技。
5.	「表現」を中心とした授業の学習指導案の作成。	教科書指定箇所の熟読。
6.	歌唱教材(独唱曲:日本歌曲)による模擬授業。	模擬授業の準備。
7.	歌唱教材(独唱曲:外国の歌曲)による模擬授業。	模擬授業の準備。
8.	歌唱教材(合唱曲)による模擬授業。	模擬授業の準備。
9.	鑑賞教材及びその指導法の研究。	鑑賞教材の選択。
10.	「鑑賞」を中心とした授業の学習指導案の作成。	鑑賞教育の指導案の立案。
11.	鑑賞教材による模擬授業。	模擬授業の準備。
12.	日本の伝統音楽、郷土の民謡についての研究。	日本の伝統音楽、郷土の民謡について、知識を得ておく。
13.	世界の諸民族の音楽についての研究。	世界の諸民族の音楽の中で、何か一つ紹介できるように調べておく。
14.	音楽科教科教育法Bの準備。	学習指導要領、学習指導案について復習しておく。
15.	今学期の統括。	今学期全般にわたり、質問等あれば、整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60%	学習指導要領、教材についての理解度により評価する。
演習	20%	意欲をもって模擬授業等ができているかを評価する。
レポート	10%	自分の指導法を評価、反省し、次につなげてゆける視点をどの程度持つことができたかを評価する。
実技	10%	授業に即した弾き歌い実技ができたかを評価する。

教科書:
「中等科音楽教育法」(音楽之友社)
「中学生の音楽1」、「中学生の音楽2．3」、「中学生の音楽2．3下」、「中学生の器楽」　(教育芸術社)
「高校生の音楽1」(教育芸術社)

参考書:
「中学校学習指導要領解説　音楽編」(文部科学省)
「高等学校学習指導要領解説　音楽編」(文部科学省)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対。

811201～03

音楽科教科教育法B

本間　晶子、伊藤　一美

授業テーマ:

授業の概要:
音楽科教科教育法Aで身に付けた知識、概念、能力を基に展開する。夏期休暇中に各自異なった題材による授業プランを構想し、よく練った上で指導案を作成する。その学習指導案に沿って模擬授業を実施する。教育実習をより有意義なものとする為にも、できるだけ各自の現場を想定して積極的に工夫を凝らしてのぞむ。さらに、模擬授業に対するディスカッション、講評を重ねて、より良い指導法について考察してゆく。

到達目標:
1、学習指導案の書き方、教材について理解している。
2、意欲、創意工夫をもって模擬授業ができる。
3、日本の伝統音楽に関心を持って鑑賞ができる。

授業方法:
講義・演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	模擬授業指導案の準備。	伝統音楽レポート、学習指導案提出の準備。
2.	模擬授業。ディスカッションと講評。（滝廉太郎・武満徹）	模擬授業の準備。
3.	模擬授業。ディスカッションと講評。（日本の民謡・合唱曲）	模擬授業の準備。
4.	模擬授業。ディスカッションと講評。（歌舞伎・雅楽）	模擬授業の準備。
5.	模擬授業。ディスカッションと講評。（文楽・箏）	模擬授業の準備。
6.	模擬授業。ディスカッションと講評。（ポップス）	模擬授業の準備。
7.	模擬授業。ディスカッションと講評。（ミュージカル・作曲）	模擬授業の準備。
8.	模擬授業。ディスカッションと講評。（カンツォーネ・シャンソン）	模擬授業の準備。
9.	模擬授業。ディスカッションと講評。（ジャズ・バロック）	模擬授業の準備。
10.	模擬授業。ディスカッションと講評。（古典派・ロマン派）	模擬授業の準備。
11.	模擬授業。ディスカッションと講評。（国民楽派・印象主義）	模擬授業の準備。
12.	模擬授業。ディスカッションと講評。（ドイツリート・オペラ）	模擬授業の準備。
13.	模擬授業。ディスカッションと講評。（世界の諸民族の音楽）	模擬授業の準備。
14.	模擬授業。ディスカッションと講評。（リコーダーアンサンブル）	模擬授業の準備。
15.	模擬授業実習のまとめ。	各自の反省点、及び、全体の問題点を整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
提出指導案については、コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	60%	到達目標1の習熟度により評価する。
模擬授業	30%	各自の模擬授業への意欲とその完成度により評価する。
レポート	10%	日本の伝統音楽についての関心と理解度により評価する。

教科書:
「中等科音楽教育法」（音楽之友社）
「中学生の音楽1」、「中学生の音楽2．3上」、「中学生の音楽2．3下」、「中学生の器楽」（教育芸術社）
「高校生の音楽1」（教育芸術社）

参考書:
「中学校学習指導要領解説　音楽編」（文部科学省）
「高等学校学習指導要領解説　音楽編」（文部科学省）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対。

811561

家庭科教科教育法A

藤本　　純子、唐津　　育子

授業テーマ:
家庭科教育の意義と可能性を理解し、実践力をつける

授業の概要:
社会・科学的視点に立った家庭科教育の意義を理解し実践力をつける。
家庭科教育に関連する情報収集・検索演習及び学習指導要領と家庭科教科書の内容理解を中心に教材研究を行う。
中学校及び高等学校の学習指導案を作成する。
*体験的な学習は必須であるので、「生活科学実験」(3年秋学期開講)の履修を強く勧める。

到達目標:
1. 中学校及び高等学校における家庭科の授業実践に不可欠な知識・技術について理解する。
2. 現代の教育課題に対応した社会・科学的視点に立った家庭科教育について理解する。
3. 中学校および高等学校の家庭科教員として必要な知識や技術について理解する。

授業方法:
教材研究
　家庭科教育に関連する情報収集演習
　担当分野の高等学校教科書内容紹介（プレゼンテーション）と討議・相互評価
中学校及び高等学校の学習指導案作成
＊教職に関する科目については皆出席を前提とするため、遅刻欠席については厳正に対処する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	これまでの家庭科教育についての振り返り
2.	教材研究 家庭科教育にかかわる情報収集・検索演習	課題1 家庭科のキーワードに関する解説レポート
3.	教材研究 家庭科教育のめざすもの 高等学校家庭科教科書内容調べ	教科書の読み込み
4.	教材研究 家庭科教育にかかわる情報収集・検索演習	情報収集
5.	教材研究 家庭科教育のめざすもの	家庭科教育の意義について考える。
6.	教材研究 家庭科教育のあゆみ	家庭科教育の本質と独自性について考える。
7.	教材研究 教材研究発表（高等学校家庭科教科書内容紹介）に向けて	課題2 教材研究(個人研究)レポート 提出
8.	プレゼンテーション1 教材研究発表・意見交流と相互評価	プレゼンテーションの準備
9.	プレゼンテーション2 教材研究発表・意見交流と相互評価	プレゼンテーションの準備
10.	プレゼンテーション3 教材研究発表・意見交流と相互評価	プレゼンテーションの準備
11.	教材研究発表のまとめ 学習指導案作成に向けて 授業のつくり方 学習指導案の作成方法	課題3 家庭科教育に関わる読書レポート提出
12.	学習指導案作成に向けて 現代の生活課題と家庭科教育の視点 学習指導要領の読み方	中学校学習指導案の作成
13.	学習指導案作成 中学校学習指導案（第一次案）見直しとグループワーク（相互評価・意見交流）	課題4 中学校学習指導案一次提出
14.	教材研究 学習指導要領	課題5 中学校学習指導案二次提出 課題6 授業資料整理の確認
15.	まとめ	振り返り

受講者へのメッセージやアドバイス:
家庭科教育の意義と可能性を学びあい、実践力を身につけよう。

フィードバックの方法:
毎時間、ワークシート（授業感想・意見）提出と返却をおこなう。
教材研究発表の相互評価結果を提示する。
課題レポートは添削し、返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	到達目標に関する知識や理解度により評価する。
模擬授業の教材研究	20	学習指導要領解説と教科書を熟読し、社会・科学的視点を踏まえた家庭科の教材研究を行っているかを評価する。
学習指導案	10	学習指導要領と教科書を熟読し、社会・科学的視点と学習のねらいを踏まえた学習指導案を作成しているかを評価する。
課題レポート・ワークシート他	10	課題のねらいを理解し、充実した内容であるかを評価する。

教科書:
文部科学省「中学校学習指導要領解説　技術・家庭編」
文部科学省「高等学校学習指導要領解説　家庭編（平成30年3月告示）」
＊新学習指導要領の解説書が発行されたら購入すること
中学校教科書「技術・家庭　家庭分野」（開隆堂）
高等学校教科書「家庭総合　明日の生活を築く」（開隆堂）
池崎喜美恵ほか『家庭科教育』（学文社）

参考書:
文部科学省「高等学校学習指導要領解説・家庭編（平成22年3月告示）」

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール : 唐津 (ikaratsu@dwc.doshisha.ac.jp), 藤本 (jfujimot@dwc.doshisha.ac.jp)

811562

家庭科教科教育法A

浅井　　由利子

授業テーマ:

授業の概要:
中学校、高等学校の家庭科教育の意義、目標、内容、学習指導、評価、家庭科教師としての資質、家庭科教育の歴史、家庭科教育の課題と展望について講義と質疑応答を行う。学習指導計画作成の意義を学び、さらに具体的に学習指導案作成についても学び、学習指導案を作成する。さまざまな授業実践例から教材教具の工夫、教材研究の方法についても学ぶことで学習指導案作成の実践的な力を養う。

到達目標:
①家庭科教育が初等・中等教育の段階で重要な科目であることを認識する。
②家庭科教育史、中学校・高等学校の家庭科教育の目標・性格と在り方、家庭科教師論、教育課程等について理解する。
③生徒の実態を踏まえ、効果的な指導方法、教材教具を工夫して学習指導案を作成できる。

授業方法:
講義／演習の混合
家庭科教育について理論的な内容について講義形式で行い、毎回振り返り用紙を提出する。学習指導案の作成については演習形式でグループでの意見交換も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の到達目標、進め方、成績評価の方法、提出物）	
2.	中学校家庭分野、高等学校家庭総合の現行教科書と学習指導要領の目標と内容	『学習指導要領解説』（中・高）の目標と内容について読んでおくこと。
3.	家庭科教育の意義、目標	テキストの該当するページを読んでおくこと。家庭科教育の意義について自分の考えをまとめ、指定された期日までに提出すること。
4.	家庭科教育の内容、学習指導	テキストの該当するページを読んでおくこと。
5.	家庭科教育の学習指導計画、評価	テキストの該当するページを読んでおくこと。
6.	教材研究の方法と教材・教具の作成について	効果的な教材・教具の例をまとめておくこと。
7.	家庭科教育における実践的研究（中学校、高等学校の実践例1）	参考になる授業実践例を図書館の本やネットで検索し、コピーしてくること。発表の準備とレポート提出。
8.	家庭科教育における実践的研究（中学校、高等学校の実践例2）	参考になる授業実践例を図書館の本やネットで検索し、コピーしてくること。発表の準備とレポート提出。
9.	学習指導案の書き方	家庭科教科書（中・高）、学習指導要領解説の割り当てられたページを熟読しておくこと。
10.	学習指導案作成	必要な資料を収集しておくこと。また、次回までに学習指導案を完成させておくこと。
11.	学習指導案試案について発表と意見交換	出された意見を参考に改善すべき点を確認すること。
12.	施設・設備、家庭科の教師としての資質	テキストの該当するページを読んでおくこと。
13.	家庭科教育の歴史	テキストの該当するページを読んでおくこと。
14.	諸外国の家庭科教育・家庭科教育の課題と展望	テキストの該当するページを読んでおくこと。
15.	これまでの振り返りとまとめ	テキスト、学習指導要領、中高家庭科教科書、配布されたプリント等を整理しておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:
自分自身の生活に関心をもち、その中で様々な課題に気づき、生活をよりよくするにはどうしたらよいか考えるとともに、改善するための行動につなげることが重要である。家庭科教育の内容は非常に幅広いので、教科書を読むだけでなく、様々な方法で確かな知識を身につけてほしい。

フィードバックの方法:
振り返り用紙はコメントをつけて返却する。
学習指導案試案は教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
学習指導案	40	到達目標③を踏まえ、学習指導要領に則し、生徒の実態に合わせた内容と量であるかどうかを評価する。
レポート	20	到達目標①を理解した上で、説得力ある内容かどうかを評価する。
授業への積極的参加度	40	到達目標②ができるようになったか振り返り用紙や発表等で評価する。

教科書:
池崎喜美恵ほか『家庭科教育』（学文社）
『技術・家庭　家庭分野』（開隆堂）
『家庭総合　明日の生活を築く』（開隆堂）

参考書:
『中学校学習指導要領』（文部科学省）
『高等学校学習指導要領』（文部科学省）
杉山久仁子編著『新学習指導要領の展開　技術・家庭　家庭分野編』（明治図書）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示板機能、Eメールを利用、授業の前後に教室で応対

811661

家庭科教科教育法B

唐津　　育子

授業テーマ:

中学校・高等学校家庭科の学習指導要領に示された目標と内容に沿った授業設計と模擬授業を行い、相互評価・討論し実践に必要な学習指導能力を養う。家庭科教科教育法Aの学びと関連させて、家庭科教育のねらいを踏まえ、情報機器の活用や多様な授業方法を理解し、社会的科学的視点を持った実践力を身につける。

授業の概要:

学習指導要領と生徒の実態を踏まえた中学校「技術・家庭」(家庭分野)、高等学校「家庭総合」の授業設計及び学習指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業の後、グループ討議と相互評価を行い、授業改善の視点を身につける。段階を踏んで学習内容の指導上の留意点、家庭科と社会科の視点の違い一家庭科教育の独自性—、実技・実習における学習評価の考え方、授業方法の工夫や情報機器・視聴覚教材の活用について理解を深める。グループ討議、家庭科教育に関連した本紹介等のアクティブラーニングを通して、プレゼンテーション力やコミュニケーション力をつける。

到達目標:

①授業実践に必要な学習指導能力及び教師としての力量を養う。
②家庭科教育のねらいを踏まえ、情報機器の活用や多様な授業方法を身につける。
③社会的科学的視点を持った家庭科教育の実践力をつける。
④アクティブラーニングを通して、プレゼンテーション力やコミュニケーション力をつける。

授業方法:

中学校及び高等学校家庭科の模擬授業を行い、討議、相互評価を行う。
パワーポイントを使って、家庭科教育に関連した本紹介(プレゼンテーション)を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	模擬授業に向けた説明。 中学校「技術・家庭」学習指導案(春学期提出)個別添削指導	家庭科教科教育法Aで指示した夏休み宿題提出(高等学校「家庭総合」学習指導案・家庭科に関する読書レポート)
2.	模擬授業1 中学校「技術・家庭」模擬授業　家庭分野「家族と家庭と子どもの成長」、相互評価・討論。	添削した中学校「技術・家庭」学習指導案再提出 模擬授業準備(指導案・ワークシート・掲示物・パワーポイント等)
3.	模擬授業2 中学校「技術・家庭」模擬授業　家庭分野「食生活と自立」、相互評価・討論。	模擬授業準備(指導案・ワークシート・掲示物・パワーポイント等)
4.	模擬授業3 中学校「技術・家庭」模擬授業　家庭分野「衣生活・住生活と自立」、相互評価・討論	模擬授業準備(指導案・ワークシート・掲示物・パワーポイント等)
5.	模擬授業4 中学校「技術・家庭」模擬授業　家庭分野「身近な消費生活と環境」相互評価・討論。	模擬授業準備(指導案・ワークシート・掲示物・パワーポイント等)
6.	中学校「技術・家庭」模擬授業のまとめ 高等学校「家庭総合」指導案添削指導 授業方法の工夫1 視聴覚教材の活用とねらい	
7.	授業方法の工夫2 高等学校の教育実践例の紹介	
8.	授業方法の工夫3 高等学校「食生活分野」の授業実践紹介とDVD「調理実習—和食の献立」視聴	添削した高等学校「家庭総合」学習指導案再提出
9.	模擬授業5 高等学校「家庭総合」模擬授業「人の一生と家族・家庭」、相互評価・討論	模擬授業準備(指導案・ワークシート・掲示物・パワーポイント等)
10.	模擬授業6 高等学校「家庭総合」模擬授業「子どもや高齢者とのかかわりと福祉」、相互評価・討論	模擬授業準備(指導案・ワークシート・掲示物・パワーポイント等)
11.	模擬授業7 高等学校「家庭総合」模擬授業「生活における経済の計画と消費」相互評価・討論	模擬授業準備(指導案・ワークシート・掲示物・パワーポイント等)
12.	模擬授業8 高等学校「家庭総合」模擬授業「生活の科学と環境—食生活」、相互評価・討論	模擬授業準備(指導案・ワークシート・掲示物・パワーポイント等)
13.	模擬授業9 高等学校「家庭総合」模擬授業「生活の科学と環境—衣生活・住生活」、相互評価・討論	模擬授業準備(指導案・ワークシート・掲示物・パワーポイント等)
14.	家庭科教育に関連した本の紹介①(パワーポイントによるプレゼンテーション)	本紹介プレゼンテーション準備(パワーポイント)
15.	家庭科教育に関連した本の紹介②(パワーポイントによるプレゼンテーション) 高等学校「家庭総合」模擬授業のまとめと振り返り。	本紹介プレゼンテーション準備(パワーポイント)

受講者へのメッセージやアドバイス:

・学習指導案作成と模擬授業を行い、受講者全員での相互評価・討論を通して、家庭科教育の意義やねらいを掴み、家庭科教育に携わる意欲を育んでもらいたい。
・日ごろから読書や社会の出来事に目を向け、社会科学的視点を身につけてほしい。

フィードバックの方法:

学習指導案は添削し、個別指導の上、教室で返却する。
模擬授業を行った後、討論、相互評価を行い、評価表を各自に提示する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業	50 %	授業内容・授業用ワークシート・パフォーマンス・相互評価
学習指導案	30 %	到達目標①②③に鑑み、完成度により評価
課題レポート・プレゼンテーション	20 %	内容・パフォーマンス

教科書:

中学校学習指導要領解説　技術・家庭編(平成29年3月告示文部科学省)
高等学校学習指導要領解説　家庭編(平成30年3月告示文部科学省)
*解説書が発行されたら購入してください。
中学校教科書「技術・家庭　家庭分野」(開隆堂出版)
高等学校教科書「家庭総合　明日の生活を築く」(開隆堂出版)

参考書:	高等学校学習指導要領解説　家庭編（平成22年3月告示文部科学省）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	eメール、授業前後に教室内で対応。

811662

家庭科教科教育法B

川﨑　　祐子

授業テーマ:　次年度の教育実習に備えて（学習指導法と模擬授業）

授業の概要:
本科目では新学習指導要領に準拠し、特に家庭科に特化した学習指導方法について学ぶ。
中学校技術・家庭（家庭分野）、高等学校家庭総合の全領域から家庭科教科教育法Aで割り当てられた50分間（授業1回分）の学習指導案（細案）を完成させ、1人1人が模擬授業を行う。
また、全員が模擬授業とは異なる領域（例えば教育実習先が中学校の場合は高等学校）の学習指導案（細案）を新たに作成する。これを基に代表1名が50分間模擬授業する。
4年次生による教育実習体験談を聞いたり、実習先での自己紹介の練習を行い、次年度の教育実習に向けて準備を行う。

到達目標:
①中学校・高等学校における家庭科の教材内容、学習指導法が理解できる。
②1人1人が教壇に立って模擬授業を行うことにより指導技術が身につく。
③机上の空論ではなく、より具体性を伴った学習指導案を書けるようになる。
④学生同士が互いに模擬授業を観察、評価することで問題点がみつけられ、改善できるようになる。
⑤教育実習生としての心構えや覚悟ができる。

授業方法:
前半（学習指導法）は講義形式で行う。
模擬授業は全員が行い、自己評価する。また、学生同士で相互評価を行い、改善点を共有する。
自己紹介は、教育実習初日の朝のショートホームルームで行うことを想定して、各自が3分間教壇に立って行う。
最後の50分間模擬授業の相互評価はグループで討議を行い、質疑応答する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体説明と模擬授業に関する諸注意	家庭科教科教育法Aで指示された夏休みの宿題（家庭科と消費生活・家庭科と高齢者社会・家庭科と環境問題）を提出する。
2.	学習指導法（講義法、板書法）	
3.	学習指導法（問答法、示教法、パフォーマンス）	第1回の授業で家庭科教科教育法A担当教員添削済みの学習指導案・板書計画・プリント原稿を返却するので、それらを修正し再提出する。
4.	学習指導法（師範法、実習法）	模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。
5.	学習指導法（調理実習・被服実習指導の注意点）	模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。
6.	本年度教育実習（4年次生）体験内容の紹介	模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。
7.	模擬授業（1～2名）と相互評価	本年度教育実習生（4年次生）による体験談に対するレポートを提出する。 模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。
8.	模擬授業（1～2名）と相互評価	模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 模擬授業後、自身の授業風景をDVDで確認し、自己評価用紙に記入したものを提出する。
9.	模擬授業（1～2名）と相互評価	模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 模擬授業後、自身の授業風景をDVDで確認し、自己評価用紙に記入したものを提出する。
10.	模擬授業（1～2名）と相互評価	模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 模擬授業後、自身の授業風景をDVDで確認し、自己評価用紙に記入したものを提出する。
11.	模擬授業（1～2名）と相互評価	模擬授業に向けて、掛図・標本の作成等準備を行う。 模擬授業後、自身の授業風景をDVDで確認し、自己評価用紙に記入したものを提出する。 2本目の学習指導案を作成する。
12.	自己紹介の練習と2本目の学習指導案内容の検討（全員）	模擬授業後、自身の授業風景をDVDで確認し、自己評価用紙に記入したものを提出する。 2本目の学習指導案を提出する。
13.	50分間模擬授業内容の検討（代表1名）	自己評価、相互評価、担当教員の添削結果を基に1本目の学習指導案を再度修正し、完成させたものを提出する。
14.	50分間模擬授業（代表1名）とグループ討議による相互評価	2本目の学習指導案を修正したものを提出する。
15.	次年度教育実習に向けて（まとめ）	「教職課程履修カルテ」に必要事項を記入し、マナビーで提出する。 春休みの宿題（食育と家庭科）をする（3月末提出）。

受講者へのメッセージやアドバイス:
模擬授業は「家庭科教科教育法A」で作成した学習指導案を基に行うので、本授業は学習指導案が完成していることが前提となる。

フィードバックの方法:
模擬授業の後すぐに教員による改善点の指導を行うとともに、他の履修者による相互評価、本人の授業風景を映したDVDを見ての自己評価により模擬授業内容を客観的に見直し、学習指導案の再修正を行う。
「教職課程履修カルテ」に必要事項を記入しているかどうかを、3年次春・秋にマナビーを通じて中間提出させてコメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業	55	授業内容および各自が作成した掛図や標本などの完成度により目標①②の到達度合いを評価する。
学習指導案	20	到達目標①③について、2本の学習指導案の完成度により評価する。
夏休みの宿題	15	到達目標①について、食物学以外の分野について理解が深まったかを評価する。
授業への参加度	10	到達目標④⑤について、体験談レポートや自己紹介、相互評価表などから評価する。
遅刻・欠席		厳しく減点する。

教科書:
池崎喜美恵他、家庭科教育、学文社
中学校教科書、技術・家庭　家庭分野、開隆堂
高等学校教科書、家庭総合 明日の生活を築く、開隆堂

参考書:
中学校学習指導要領解説、文部科学省
高等学校学習指導要領解説、文部科学省

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力
教員との連絡方法:	授業前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

811900

地理歴史科教科教育法A

天野　　太郎

授業テーマ:　地理歴史科教科の指導・教授法に関する方法と基礎実践

授業の概要:　地理歴史科の授業を計画・実施していく上での基本的な事項について把握するとともに，授業分析や，学校のカリキュラムのあり方等の考察をおこない、実践をおこなう。また、ICTの機器の活用や、Active Learningの手法についての基礎的事項ならびに運用について実践的に理解を深める。

到達目標:　授業改善の方法や大人（教師）と子どものよりよい関係のあり方について，基本的な姿勢や方法について身につけることを目標とする。具体的には以下の3点を到達目標とする。
・知識・理解：地理歴史科の授業の目標と意義、授業の在り方、指導法などについて理解できる。
・技能：地理歴史科の教材開発、授業づくり、指導法に関する技能を向上させることができる。
・関心・意欲・態度：地理歴史科の授業づくりと模擬授業を通して、授業実践に対する意欲と関心を持つことができる。

授業方法:　講義、指導案と模擬授業についてはグループデイスカッション，演習形式を併用する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス　講義の概略と進め方の確認と説明	配布資料の確認
2.	地理歴史科の学習指導要領と講義の要点１	学習指導要領の確認
3.	地理歴史科の学習指導要領と講義の要点２	学習指導要領の確認
4.	地理歴史科の学習指導要領と講義の要点３	学習指導要領の確認と過去の指導案の分析
5.	高等学校地理歴史科学習指導案の実際と指導案作成の留意点	指導案　事前作成作業
6.	指導案作成の実践1	指導案　事前作成作業
7.	指導案作成の実践2	プレゼンテーションの準備
8.	指導案作成の実践3　指導案発表と改善	プレゼンテーションの準備
9.	地歴教材の研究と調査法の実例～地図・歴史資料の活用方法論	教材研究・図像資料の調査
10.	地歴授業の実践例ー実際の講義を通した指導案の作成と方法論	教材研究・図像資料の調査
11.	地歴授業の実践ーグループ別授業発表と討議	発表レジュメ資料の作成
12.	地歴授業の実践ーコンピューターーIT機器を活用した授業方法(1)	発表レジュメ資料の作成
13.	地歴授業の実践ーコンピューターーIT機器を活用した授業方法(2)	発表レジュメ資料の作成
14.	地歴教育の課題-Active Learningの方法論	配布資料の確認
15.	全体の総括	全体の資料の再検討

受講者へのメッセージやアドバイス:　模擬授業を見据えた実践的な授業運営に向けての授業を行いますので、積極的な姿勢を前提とします。

フィードバックの方法:　授業内の提出物、模擬授業において個別・全体についてフィードバックをおこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内のレポート	50	到達目標授業改善の方法や大人（教師）と子どものよりよい関係のあり方について，基本的な姿勢や方法について身につけているか総合的に判断する。
指導案の提出	30	到達目標授業改善の方法や大人（教師）と子どものよりよい関係のあり方について，基本的な姿勢や方法について身につけているか総合的に判断する。
模擬授業	20	到達目標授業改善の方法や大人（教師）と子どものよりよい関係のあり方について，基本的な姿勢や方法について身につけているか総合的に判断する。

教科書:　文部科学省『高等学校学習指導要領解説　地理・歴史科編』

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業内・後における教室で行うとともに、オフィスアワーを中心として研究室（知徳館c354）にて対面で行う。

812000

地理歴史科教科教育法B

天野　　太郎

授業テーマ:　地理歴史科授業の実践的手法の獲得

授業の概要:　前期の地理歴史科教科教育法Aの内容理解を前提として，授業の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深めるとともに，模擬授業を通して授業実践の手法を総合的に学習する。

到達目標:　授業事例の分析、学習指導案を含む指導計画の作成を通して授業づくりに関する留意点を身に付け，実践的な授業実施を行える能力を身につける。具体的には以下の3点を到達目標とする。
・知識・理解：地理歴史科の授業の目標と意義、授業の在り方、指導法などについて理解できる。
・技能：地理歴史科の教材開発、授業づくり、指導法に関する技能を向上させることができる。
・関心・意欲・態度：地理歴史科の授業づくりと模擬授業を通して、授業実践に対する意欲と関心を持つことができる。

授業方法:　模擬授業を中心とした演習および講評・討議形式でおこなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	配布資料の確認
2.	地理歴史科における評価の工夫、単元計画・学習指導案のあり方	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行う
3.	受講生による模擬授業と評価分析1	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
4.	受講生による模擬授業と評価分析2	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
5.	受講生による模擬授業と評価分析3	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
6.	受講生による模擬授業と評価分析4	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
7.	受講生による模擬授業と評価分析5	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
8.	教材研究と地理歴史科教育の実例—IT機器・インターネットを活用した実例	配布資料の確認、教科書の準備
9.	受講生による模擬授業と評価分析—IT機器・インターネットを活用した分析手法	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
10.	受講生による模擬授業—IT機器・インターネットを活用した授業(1)	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
11.	受講生による模擬授業—IT機器・インターネットを活用した授業(2)	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
12.	受講生による模擬授業—IT機器・インターネットを活用した授業(3)	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
13.	受講生による模擬授業—IT機器・インターネットを活用した授業(4)	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
14.	受講生による模擬授業と評価分析8—IT機器・インターネットを活用した今後の教科教育のありかた	模擬授業に向けた練習活動や指導案・板書計画・教科書参考書の収集活動を予習として継続的かつ計画的に行うとともに、他の学生の模擬授業時に提示された改善策を自分の模擬授業にフィードバックさせ、次年度の教育実習に向けた長期的な準備活動とする。
15.	全体の総括	次年度実習に向けた資料の整理・確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　模擬授業を見据えた実践的な授業運営に向けての授業を行いますので、積極的な姿勢を前提とします。

フィードバックの方法:　授業内の提出物、模擬授業において個別・全体についてフィードバックをおこなう。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業実施（指導案と実践を含む）	60	到達目標　授業事例の分析、学習指導案を含む指導計画の作成を通して授業づくりに関する留意点を身に付け，実践的な授業実施を行える能力を身につけているかを総合的に判断する。
相互の討議参加	40	到達目標　授業事例の分析、学習指導案を含む指導計画の作成を通して授業づくりに関する留意点を身に付け，実践的な授業実施を行える能力を身につけているかを総合的に判断する。

教科書:　文部科学省『高等学校学習指導要領解説　地理・歴史科編』

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内・後における教室で行うとともに、オフィスアワーを中心として研究室にて対面で行う。

812100

公民科教科教育法A

天野　　太郎

授業テーマ:　公民科教育の実践1

授業の概要:　高等学校の公民科教育をおこうなう上で必要な法令／学習指導要領などの学習と、現在の高等学校の公民科教育における現状と課題を概観した上で、公民科教育を行う上で必要不可欠な指導案の作成を行う。また、ICTの機器の活用や、Active Learningの手法についての基礎的事項ならびに運用について実践的に理解を深める。

到達目標:
1：高等学校公民科教育に必要な、学習指導要領を中心とした制度や法令について理解する。
2：高等学校公民科教育に必要な、指導案作成の実践と模擬授業の基礎を理解する。具体的には以下の3点を到達目標とする。
・知識・理解：公民科の授業の目標と意義、授業の在り方、指導法などについて理解できる。
・技能：公民科の教材開発、授業づくり、指導法に関する技能を向上させることができる。
・関心・意欲・態度：公民科の授業づくりと模擬授業を通して、授業実践に対する意欲と関心を持つことができる。

授業方法:　講義形式とともに、指導案／模擬授業の実習を含めて展開する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　ガイダンス　講義の概要	配布資料の確認作業
2.	公民科教育の現状(1)	配布資料の確認作業
3.	公民科教育の現状(2)	学習指導要領の通読
4.	学習指導要領にみる公民科教育の目標	学習指導要領の精読とともに、指導案や課題作成に向けた予習を継続的に行う
5.	学習指導要領と学校運営	学習指導要領の精読とともに、指導案や課題作成に向けた予習を継続的に行う
6.	指導案の概要	他の学生の指導案発表時に出た諸課題をまとめ、自己の指導案作成力の向上に資する。
7.	指導案の作成(1)　インターネット・IT機器を活用した指導計画	他の学生の指導案発表時に出た諸課題をまとめ、自己の指導案作成力の向上に資する。
8.	指導案の作成(2)　インターネット・IT機器を活用した指導計画	他の学生の指導案発表時に出た諸課題をまとめ、自己の指導案作成力の向上に資する。
9.	指導案の作成(3)　総合的な指導案の留意事項	他の学生の指導案発表時に出た諸課題をまとめ、自己の指導案作成力の向上に資する。
10.	Active Learningの手法についての基礎的事項と運用	指導案全体の資料整理をおこなう。
11.	指導案を軸とした授業運営とその課題	模擬授業の準備作業をおこなう。
12.	模擬授業(1)	他の学生の事例を参照しつつ、模擬授業の準備作業をおこなう
13.	模擬授業(2)	他の学生の事例を参照しつつ、模擬授業の準備作業をおこなう
14.	模擬授業(3)	他の学生の事例を参照しつつ、模擬授業の準備作業をおこなう
15.	模擬授業の総括	指導案、資料を取りまとめ、自身の模擬授業の振り返りをおこなう。

受講者へのメッセージやアドバイス:　模擬授業を見据えた実践的な授業運営に向けての授業を行いますので、積極的な姿勢を前提とします。

フィードバックの方法:　授業内の提出物、模擬授業において個別・全体についてフィードバックをおこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
指導案の作成	30	到達目標1：高等学校公民科教育に必要な、学習指導要領を中心とした制度や法令について理解しているか確認する。
議論の発言参加度	30	他の学生の発表・授業内容への理解度を評価する。
模擬授業	40	到達目標2：高等学校公民科教育に必要な、指導案作成の実践と模擬授業の基礎を理解しているか評価する。

教科書:　文部科学省編『高等学校学習指導要領解説　公民編』

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内・後における教室で行うとともに、オフィスアワーを中心として研究室にて対面で行う。

812200

公民科教科教育法B

天野　　太郎

授業テーマ:　公民科教育の実践(2)

授業の概要:　現代社会の諸問題について、広い視野に立って主体的に考察する力を養うとともに、将来の指導者として自らが人間としての在り方生き方の自覚を高める。また、教育思想史的観点から教授法の理解を深め、将来の教育現場への教育方法の考察をすすめる。パワーポイントやインターネットなどの機器を活用した授業を前提とし、Active Learningをはじめとした教材研究の多角的な手法について考察する。

到達目標:
1:公民科教科教育の内容の検討と、模擬授業を通じた実践力を養成する。
2:模擬授業内で効果的な機器使用法や授業活用はもとより、インターネットの課題や危険性、著作権問題などをふくめたインターネットリテラシーの獲得をはかる。具体的には以下の3点を到達目標とする。
・知識・理解:公民科の授業の目標と意義、授業の在り方、指導法などについて理解できる。
・技能:公民科の教材開発、授業づくり、指導法に関する技能を向上させることができる。
・関心・意欲・態度:公民科の授業づくりと模擬授業を通して、授業実践に対する意欲と関心を持つことができる。

授業方法:　講義とともに、模擬授業を中心とし学生の主体的な学びを中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　講義の内容とガイダンス	配布資料の確認
2.	公民科教科教育内容の検討(1)	学習指導要領の確認
3.	公民科教科教育内容の検討(2)	学習指導要領の確認
4.	公民科授業の模擬授業実践1	模擬授業・指導案の作成と授業準備
5.	公民科授業の模擬授業実践2	模擬授業・指導案の作成と授業準備
6.	公民科授業の模擬授業実践3	模擬授業・指導案の作成と授業準備
7.	公民科授業の模擬授業実践4	模擬授業・指導案の作成と授業準備
8.	中間総括と公民科教育の課題	指導案の通読と教材研究
9.	公民科授業の模擬授業実践5	模擬授業・指導案の作成と授業準備
10.	公民科授業の模擬授業実践6	模擬授業・指導案の作成と授業準備
11.	公民科授業の模擬授業実践7	模擬授業・指導案の作成と授業準備
12.	公民科授業の模擬授業実践8	模擬授業・指導案の作成と授業準備
13.	公民科授業の模擬授業実践9	模擬授業・指導案の作成と授業準備
14.	「公民」のありかたと学校教育の現状 インターネットリテラシーとともに	模擬授業・指導案の作成と授業準備
15.	全体の統括　ふりかえり	全体の指導案の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　模擬授業を見据えた実践的な授業運営に向けての授業を行いますので、積極的な姿勢を前提とします。

フィードバックの方法:　授業内の模擬授業において適宜フィードバックをおこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業(指導案を含む)	50	模擬授業を通して到達目標1、2の達成度を総合的に評価する。
模擬授業に対する質疑応答・コメント	50	質疑・応答を通して到達目標1、2の達成度を総合的に評価する。

教科書:　文部科学省編『高等学校学習指導要領解説　公民編』

参考書:　特に指定しない

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業後の教室、マナビーならびに研究室にて随時対応する。

812301、02、63

生徒指導

中川　　美保子、依田　　勝彦

授業テーマ:　生徒指導の理論・方法及び進路指導の理論・方法を実践的に理解する。

授業の概要:
（1）生徒指導が特定の領域の活動ではなく、教育課程全般において機能する汎用性のある教師としての重要な専門性であることを理解する。
（2）生徒指導の機能は、集団生活における秩序を維持し集団を守ることによって、個々の児童・生徒が安心して自らの個性や能力を伸長することに寄与し、児童生徒全体を成長させる働きであることを理解する。
（3）性行不良などによる逸脱行為やいじめ問題など、個別の課題を持った児童・生徒への適切な生徒指導のあり方について、具体的な事例を提示し、グループ討議を中心としたアクティブ・ラーニングを活用し主体的に考える。
（4）教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを知り、今日、進路指導・キャリア教育が学齢期だけでなく、人の人生全般にわたる長期的な展望を見据えた重要な教育活動であることを理解する。
（5）児童生徒が実際に職業体験を行うことの意義を、アクティブ・ラーニングの手法を用いて、自らの体験をグループ内で述べ合うことによって考えを深め、教師が児童生徒にこれからの進路や職業を具体的に例示し考えさせることの重要性を理解する。
（6）進路やキャリア形成について、社会的、心理的な課題を抱えた児童・生徒への個別指導としてのキャリアカウンセリングの意義を理解する。

到達目標:
（1）生徒指導は、児童生徒の社会的資質及び行動力を高めることを目指す、教育活動全体を通じて行われる重要な教育活動であることを理解する。
（2）児童生徒の主な生徒指導上の個別課題を把握し、内外の関係者と連携した適切な対応のあり方を理解する。
（3）進路指導とは、児童生徒が能動的に自らの生き方を選択、計画できる人間となることを目指す教育活動であることを理解する。
（4）進路選択・キャリア形成の視点を持った授業設計やガイダンス、個別のカウンセリングを含む進路指導の中核となる知識や資質を習得する。

授業方法:　1：講義　教師の講義と、受講生のグループ討議、ロールプレイング、受講生全員による討議を組み合わせて行う。グループ討議によって、受講生の能動的な活動を促進する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学校教育における生徒指導・進路指導の位置づけを知る。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導・進路指導のイメージを授業前後で比較する。
2.	児童生徒が将来、心身ともに健全な生き方を続ける指針としての進路指導・キャリア教育の重要性を理解し、進路指導の教育課程における位置付けを知る。（依田）	（予習）どのような授業で進路指導が活用されているかを調べてくる。
3.	進路指導・キャリア教育が特定の授業だけでなく、学校全体で取り組まれる組織的な営みであることを理解するとともに、教育関係者のみならず、家庭や地域などの協力・連携のもとに行われる活動であることを理解する。（依田）	（予習）家庭や地域の人たちが授業者となった進路指導の授業を振り返る。
4.	学年や学校として、職業体験を企画、実施することが、児童生徒のその後の進路選択やキャリア形成に重大な意義があることを理解し、これまで自らが体験した進路指導のあり方について、グループで話し合いよかった点や改善点について考える。（依田）	（復習）グループ討議で新たに理解できたことをまとめる。
5.	児童生徒が生涯にわたる生き方を考える指針としての「生涯年表」などの教材を取りいれた進路指導の方法を考え、指導案を作成する。（依田）	指導案を完成させる。
6.	キャリアカウンセリングの基礎的な考え方を理解し、ガイダンスとカウンセリングを有効に活用した児童生徒への個別的な進路指導について理解する。（依田）	課題レポートの作成。
7.	生徒指導の能力を築くことは、学校生活全般（教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間）において、生徒の自己肯定感を高め、能動的な活動を促すことを可能とする教師として重要な力量であることを理解する。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導の機能を生かした実践例を考える。
8.	校則の遵守などの集団を対象とした指導と、課題を持つ個別の児童生徒を対象とした指導のあり方について、グループ活動によって、それぞれにおける適切な対応を考える。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 グループ活動で理解したことをまとめる。
9.	校務分掌における生徒指導と教育相談の位置付けを理解し、児童生徒へのアプローチの違いや連携について具体的な事例を通して理解する。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導と教育相談の相違点をまとめる。
10.	学校の指導方針並びに年間指導計画に準拠した生徒指導方針を教師各自が遵守することの重要性を理解し、この方針に基づいて行われる集団への生徒指導のあり方を考える。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）生徒指導におけるチーム学校の意義を調べる。
11.	児童生徒にあいさつや時間の遵守など、基礎的な生活習慣を身につけさせること、他者への感謝や思いやりなど道徳的な素養を育成すること、校則の遵守などの規範意識を促進することなどの生徒指導の機能が集団生活を円滑にするために重要であることを理解する。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）道徳の授業化と生徒指導の関連をまとめる。
12.	全校集会や諸行事、生徒会活動などを通して、児童生徒が自己の存在感を認められ、自己肯定感を高めるために、どのような機会を教師が作ることができるかグループでアイデアを考え、発表する。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導を通して子どもたちの自己肯定感を高める効果的な取り組みを調べてみる。
13.	学校教育法・生徒指導提要から、生徒指導に関わる主な内容及び条項を取り出し、校則、懲戒及び体罰等の指し示す具体的な内容を理解し、その必要性や妥当性を考える。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導に関わる主要な法律についてまとめる。

14.	文部科学省から出されている資料・統計を調べ、暴力行為、いじめ、不登校の定義や現状を知り、解決のために必要な対応や関係機関との連携のあり方をグループで話し合う。(中川)	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」(適宜)の記入提出 (復習)グループ活動で新たに理解したことをまとめる。
15.	まとめと振り返り これまでの授業を振り返るとともに、現在、進行している生徒指導上の新たな問題に関して、どのような対応が為されているかについて知り、自らも対応について考える。(中川)	生徒指導の現状と課題についてレポートする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自身の小学校、中学校、高校時代を振り返り、生徒指導や進路指導で思い出に残っている体験を授業を通して相対化し、それを将来の教師としての糧とできるような、子どもたちに還元できる授業となることを願っています。

フィードバックの方法:

・毎回配布する「質問用紙」に対して、次回の授業前あるいは授業内でコメントをお返しします。
・毎回配布する「毎時のまとめ」を複数回提出していただき、評価してお返しします。
・提出されたレポートに関して、授業内で評価のポイントを解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート、小テスト	50%	到達目標(1)生徒指導導に関する知識を理解しているか、またこの分野への関心意欲の高さを評価基準とする。(中川)
グループ討議、ロールプレイ	30%	到達目標(1)(2)に関して、自分の考えを適切に表現し他者と協調的に関われるかを評価基準とする。(中川)
授業への積極的参加度	20%	将来、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができているかを評価基準とする。(中川)
レポート	50%	到達目標(3)(4)に関する知識・理解、関心や意欲の高さを評価基準とする。(依田)
グループ討議	30%	到達目標(4)に関して、自分の考えを適切に表現し他者と協調的に関われるかを評価基準とする。(依田)
授業への積極的参加度	20%	進路指導に関して意欲関心を持ち、主体的に取り組んでいるかを評価基準とする。(依田)

教科書:

参考書:

生徒指導提要 (平成22年3月告示 文部科学省)(中川)
学校教育法 (昭和22年3月 法律第26号)(中川)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力(中川)
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力(依田)

教員との連絡方法:

1. 授業の前後に教室内で対応(中川)(依田)
2. メールによる(mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp 中川)(kyorita@dwc.doshisha.ac.jp 依田)
3. 研究室訪問してください。(C444)(中川)

812361、62

生徒指導

木村　　久男

授業テーマ:

学校における教育活動全般にかかる生徒指導・進路指導の理論と方法を学び理解する。生徒が輝く学校を作り出すために大切なこと。

授業の概要:

学習指導要領に沿った授業テーマや到達目標を、具体的な事例を基に明らかにして、「生徒理解」を深め、「指導観」を磨くことで目指す教師像をイメージする。
対話的な講義を中心に受講者がともに考え、語り合う時間を大切にする。配布資料や時々の生徒指導に関係する報道等をもとにした受講者同士の意見交流やグループ討議、毎時間提出する小レポートを活用した交流など、アクティブラーニングの手法を用いて授業を行う。

到達目標:

1、生徒指導の意義は、「問題行動」や「非行」等の対策ということにとどまるものではなく、全教職員による、すべての生徒の人格のよりよき発達と充実した学校生活を作り出すためのものであるということを理解する。
2、すべての生徒を対象にした学級・学年・学校の教育課程内外での学習指導、進路指導、教育相談等を通しての生徒指導の進め方を理解する。
3、生徒の「問題行動」等の生徒指導上の課題の背景をつかみ、その課題に応える指導を行えるように、養護教諭等の教職員やカウンセラー等の専門家、外部機関や家庭・地域等の学校内外との連携を含めた対応の在り方を理解する。

授業方法:

講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション「生徒指導の領域と機能」。教育課程における生徒指導の位置づけを知る。講義概要、講義通信、受講時の心得、成績評価について。	教職を目指す上での希望、不安や問題意識はどんなものか。最近の子どもと教育に関するニュースや関心のある社会問題は何か。自身を振り返ったり、情報を集めましょう。
2.	生徒指導と教師の役割。生徒指導の土台となる、生徒との「信頼関係」をどうつくるか。集団指導・個別指導の方法原理を知る。	前回に配布した資料を読んでおく。 「なめられたら終わり」か？ 生徒との信頼関係を築く上で大切なものは何か。先生の「権威とは何か」これまでの体験や知識を元に考えみましょう。
3.	学級・学校づくりと生徒指導の原則。教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生活指導の意義や重要性を理解する。	前回に配布した資料及び実践報告を読んでおく。 学校生活の大半は授業時間。今求められている「アクティブラーニング」とはどんなものか。生徒の瞳の輝く授業学習をどう作るか。「面白い授業体験」をもとに考えてみましょう。
4.	「指導を受け容れる力」。生徒指導上の課題の定義とその背景にあるもの、対応の視点。「問題行動」や「荒れ」・非行と言われるものの実態や「学級崩壊」について調べたり、自身の体験を思い出して考える。	前回配布した実践報告を読んで授業に臨む。 生徒の「問題行動」や「荒れ」と言われるものの実態や「学級崩壊」について調べ、自身の体験をもとに考えてみましょう。
5.	「いじめ」の現実を明らかにし、その定義や対応の視点と原則を考える。	「いじめ事件」報道などからいじめの実態と原因について調べ、克服の道を調べよう。「いじめ指導」で一番大事なことは何か、やってはいけないことは何か、を考えよう。「いじめと自殺」の問題を「ウエルテル効果」やWHOの「自殺を予防する自殺事例報道のありかた」などについて調べて考えててみましょう。
6.	「登校拒否」「不登校」や「暴力行為」等の実態を明らかにし、その定義や対応の視点と原則を考える。	前回に配布した資料及び実践報告を事前に読んでおく。 「登校拒否」「不登校」や「暴力行為」の実態と事例を調べよう。その克服と援助の取り組みについて事例をもとに考えてみましょう。
7.	今日的な生徒指導の課題（児童虐待、性、薬物、インターネット等）への対応について考え、専門家や関係機関との連携の必要性を理解する。教育相談、外部機関との連携。	紹介する参考文献などをもとに「少年事件」と「自尊感情」について調べてみよう。「迷惑」をかけた・かけられた経験も振り返って考えてみましょう。
8.	「クレーム」問題を考える。「モンスターペアレント」の正体。保護者理解と家庭・地域との連携の在り方を考える。	「クレーム問題」「モンスターペアレント」の事例について調べよう。「クレーム」を「つながるチャンス」に変えるために大切なことは何かをこれまでの学習や経験をもとに考えてみましょう。
9.	発達障がいや特別支援教育と生徒指導の関連について、体験や学んだことをもとにして考える。「問題行動」の背景にある発達課題や学校・家庭の問題と生徒指導のあり方を理解する。	前回配布した資料及び実践報告を読んでおく。 発達障がいや特別支援教育と生徒指導の関連について学んだことや体験をもとに考えてみましょう
10.	校則、体罰、懲戒等の生徒指導に関する問題を考え、それに関する主な法令の内容を理解する。	前回配布した資料を事前に読んでおく。 校則体罰、懲戒などに関わる報道を調べ、法令や指導における問題点を考えてみましょう。
11.	日々の学習活動や道徳・総合的な学習の時間、給食、清掃活動、特別活動を通しての生徒指導と学級・学年・学校づくり。生活習慣の確立や規範意識の醸成等と児童の存在感が育まれる場や機会の設定の意義と方法。	子どもが「変わる」ために大切なものは何か。金森利朗や制野俊弘などの教育実践を調べて学びましょう。
12.	「学習権」と進路指導。キャリアガイダンスとの連携。	自身が受けた進路指導がどのようなものだったっかをまとめてみよう。「ユネスコ学習権宣言」や「「子どもの権利条約」「児童憲章」などをもとに、キャリアガイダンスと関連付けた「学習権」について考えましょう。
13.	「教育の力」。教育集団（生徒集団、父母集団、教師集団）の力。その中核となる学校教職員の組織的な取り組みの重要性を理解する。	いじめ・不登校や「問題行動」などでの教育相談場面の事例を調べ、チーム学校としての生徒指導のありようを考えましょう。
14.	課題レポート発表Ⅰ。生徒指導や教職への不安や疑問について交流する。	「手作り新聞」プレゼンテーションの準備をしよう。 ゆとり教育と「学力問題」などの教育問題について考えよう。
15.	課題レポート発表Ⅱ．この講義で学んだことを振り返り、目指す教育と教師像を考え合う。	印刷配布された全員分の「手作り通信」を読んで、教育と子どもの問題を考えよう。 この授業で学んだことを振り返り、目指す教育・教師像を考えちう。教職への不安や疑問があれば質問できるようにまとめておきましょう。

受講者へのメッセージやアドバイス:

今日的な教育課題や社会問題を積極的に取り上げながら授業を進めていくので、本や雑誌、新聞、テレビ、インターネットなど、メディアを通した教育情報にできるだけ多く触れておくようにしましょう。
また、講義テーマを自分自身の体験に引き寄せて、問題意識を持って授業に参加しましょう。

フィードバックの方法:

コメントカードは全員分を講義通信に掲載して毎回紹介し、解説します。
　最終レポートとなる「手作り通信」は、縮小印刷して全員分を配布し、一人1分のプレゼンテーションを行ってもらいます。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート試験	60	1、問題意識を持って調べたことや体験をもとにして記述し、自分なりの考察ができる。 2、読み手にわかりやすく興味をひく文章表現ができる。 3、グラフや表、イラストなどをを活用して、読み手にわかりやすい紙面構成にすることができる。 4、文字の丁寧さと読み手の興味を引くレイアウトの工夫ができる。
レポート等の発表内容	10	グループ活動での発表や1分間のプレゼンテーションで、聞き手の興味を引くように内容をわかりやすく伝えることができる。
毎回の授業最後に提出する小レポート	30	1、グループ活動や対話・討論など、場に応じて学習活動に参加することができる。 2、これまでの体験や知識をもとに考察して、講義後のコメントカードにまとめることができる。

教科書:

特に指定しない

参考書:

学習指導要領
生徒指導提要
講義のつど授業の参考文献等を紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、コミュニケーション力。

教員との連絡方法:

1、授業の前後で教室内で対応。
2、メールによる（kimura@soai.ac.jp

812363

生徒指導

中川　　美保子、依田　　勝彦

授業テーマ:　生徒指導の理論・方法及び進路指導の理論・方法を実践的に理解する。

授業の概要:
（1）生徒指導が特定の領域の活動ではなく、教育課程全般において機能する汎用性のある教師としての重要な専門性であることを理解する。
（2）生徒指導の機能は、集団生活における秩序を維持し集団を守ることによって、個々の児童・生徒が安心して自らの個性や能力を伸長することに寄与し、児童生徒全体を成長させる働きであることを理解する。
（3）性行不良などによる逸脱行為やいじめ問題など、個別の課題を持った児童・生徒への適切な生徒指導のあり方について、具体的な事例を提示し、グループ討議を中心としたアクティブ・ラーニングを活用し主体的に考える。
（4）教育課程における進路指導・キャリア教育の位置付けを知り、今日、進路指導・キャリア教育が学齢期だけでなく、人の人生全般にわたる長期的な展望を見据えた重要な教育活動であることを理解する。
（5）児童生徒が実際に職業体験を行うことの意義を、アクティブ・ラーニングの手法を用いて、自らの体験をグループ内で述べ合うことによって考えを深め、教師が児童生徒にこれからの進路や職業を具体的に例示し考えさせることの重要性を理解する。
（6）進路やキャリア形成について、社会的、心理的な課題を抱えた児童・生徒への個別指導としてのキャリアカウンセリングの意義を理解する。

到達目標:
（1）生徒指導は、児童生徒の社会的資質及び行動力を高めることを目指す、教育活動全体を通じて行われる重要な教育活動であることを理解する。
（2）児童生徒の主な生徒指導上の個別課題を把握し、内外の関係者と連携した適切な対応のあり方を理解する。
（3）進路指導とは、児童生徒が能動的に自らの生き方を選択、計画できる人間となることを目指す教育活動であることを理解する。
（4）進路選択・キャリア形成の視点を持った授業設計やガイダンス、個別のカウンセリングを含む進路指導の中核となる知識や資質を習得する。

授業方法:　1：講義　教師の講義と、受講生のグループ討議、ロールプレイング、受講生全員による討議を組み合わせて行う。グループ討議によって、受講生の能動的な活動を促進する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学校教育における生徒指導・進路指導の位置づけを知る。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導・進路指導のイメージを授業前後で比較する。
2.	児童生徒が将来、心身ともに健全な生き方を続ける指針としての進路指導・キャリア教育の重要性を理解し、進路指導の教育課程における位置付けを知る。（依田）	（予習）どのような授業で進路指導が活用されているかを調べてくる。
3.	進路指導・キャリア教育が特定の授業だけでなく、学校全体で取り組まれる組織的な営みであることを理解するとともに、教育関係者のみならず、家庭や地域などの協力・連携のもとに行われる活動であることを理解する。（依田）	（予習）家庭や地域の人たちが授業者となった進路指導の授業を振り返る。
4.	学年や学校として、職業体験を企画、実施することが、児童生徒のその後の進路選択やキャリア形成に重大な意義があることを理解し、これまで自らが体験した進路指導のあり方について、グループで話し合いよかった点や改善点について考える。（依田）	（復習）グループ討議で新たに理解できたことをまとめる。
5.	児童生徒が生涯にわたる生き方を考える指針としての「生涯年表」などの教材を取りいれた進路指導の方法を考え、指導案を作成する。（依田）	指導案を完成させる。
6.	キャリアカウンセリングの基礎的な考え方を理解し、ガイダンスとカウンセリングを有効に活用した児童生徒への個別的な進路指導について理解する。（依田）	課題レポートの作成。
7.	生徒指導の能力を築くことは、学校生活全般（教科、道徳、特別活動、総合的な学習の時間）において、生徒の自己肯定感を高め、能動的な活動を促すことを可能とする教師として重要な力量であることを理解する。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導の機能を生かした実践例を考える。
8.	校則の遵守などの集団を対象とした指導と、課題を持つ個別の児童生徒を対象とした指導のあり方について、グループ活動によって、それぞれにおける適切な対応を考える。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 グループ活動で理解したことをまとめる。
9.	校務分掌における生徒指導と教育相談の位置付けを理解し、児童生徒へのアプローチの違いや連携について具体的な事例を通して理解する。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導と教育相談の相違点をまとめる。
10.	学校の指導方針並びに年間指導計画に準拠した生徒指導方針を教師各自が遵守することの重要性を理解し、この方針に基づいて行われる集団への生徒指導のあり方を考える。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）生徒指導におけるチーム学校の意義を調べる。
11.	児童生徒にあいさつや時間の遵守など、基礎的な生活習慣を身につけさせること、他者への感謝や思いやりなど道徳的な素養を育成すること、校則の遵守などの規範意識を促進することなどの生徒指導の機能が集団生活を円滑にするために重要であることを理解する。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）道徳の授業化と生徒指導の関連をまとめる。
12.	全校集会や諸行事、生徒会活動などを通して、児童生徒が自己の存在感を認められ、自己肯定感を高めるために、どのような機会を教師が作ることができるかグループでアイデアを考え、発表する。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導を通して子どもたちの自己肯定感を高める効果的な取り組みを調べてみる。
13.	学校教育法・生徒指導提要から、生徒指導に関わる主な内容及び条項を取り出し、校則、懲戒及び体罰等の指し示す具体的な内容を理解し、その必要性や妥当性を考える。（中川）	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）生徒指導に関わる主要な法律についてまとめる。

14.	文部科学省から出されている資料・統計を調べ、暴力行為、いじめ、不登校の定義や現状を知り、解決のために必要な対応や関係機関との連携のあり方をグループで話し合う。(中川)	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」(適宜)の記入提出 (復習)グループ活動で新たに理解したことをまとめる。
15.	まとめと振り返り これまでの授業を振り返るとともに、現在、進行している生徒指導上の新たな問題に関して、どのような対応が為されているかについて知り、自らも対応について考える。(中川)	生徒指導の現状と課題についてレポートする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

自身の小学校、中学校、高校時代を振り返り、生徒指導や進路指導で思い出に残っている体験を授業を通して相対化し、それを将来の教師としての糧とできるような、子どもたちに還元できる授業となることを願っています。

フィードバックの方法:

・毎回配布する「質問用紙」に対して、次回の授業前あるいは授業内でコメントをお返しします。
・毎回配布する「毎時のまとめ」を複数回提出していただき、評価してお返しします。
・提出されたレポートに関して、授業内で評価のポイントを解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート、小テスト	50%	到達目標(1)生徒指導導に関する知識を理解しているか、またこの分野への関心意欲の高さを評価基準とする。(中川)
グループ討議、ロールプレイ	30%	到達目標(1)(2)に関して、自分の考えを適切に表現し他者と協調的に関われるかを評価基準とする。(中川)
授業への積極的参加度	20%	将来、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができているかを評価基準とする。(中川)
レポート	50%	到達目標(3)(4)に関する知識・理解、関心や意欲の高さを評価基準とする。(依田)
グループ討議	30%	到達目標(4)に関して、自分の考えを適切に表現し他者と協調的に関われるかを評価基準とする。(依田)
授業への積極的参加度	20%	進路指導に関して意欲関心を持ち、主体的に取り組んでいるかを評価基準とする。(依田)

教科書:

参考書:

生徒指導提要 (平成22年3月告示 文部科学省)(中川)
学校教育法 (昭和22年3月 法律第26号)(中川)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己実現力(中川)
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力(依田)

教員との連絡方法:

1. 授業の前後に教室内で対応(中川)(依田)
2. メールによる(mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp 中川)(kyorita@dwc.doshisha.ac.jp 依田)
3. 研究室訪問してください。(C444)(中川)

813000

情報科教科教育法A

高橋　　参吉

授業テーマ:
高等学校の共通教科情報科（社会と情報）の授業を実践してみよう。

授業の概要:
高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。この授業では、情報科の意義、教育目標と内容、授業設計と授業計画、学習指導案の作成などについて学ぶ。主に、「社会と情報」に関する分野の学習内容について学習指導案を作成することにより、具体的な授業方法についても学ぶともに、情報科教員として必要な知識・技能および実践的な能力を身につける。なお、高等学校の次期学習指導要領の共通教科情報科（情報I）の内容を含めた授業を行う。

到達目標:
・高等学校情報科の意義、教育目標および科目概要について説明できる。
・高等学校情報科の科目内容および指導上の留意点について説明できる。
・高等学校情報科の学習指導に対する方法および評価について説明できる。
・共通教科情報科の科目について、授業設計、情報機器および教材の活用ができる。
・共通教科情報科の授業設計に基づく、学習指導案が作成できる。
・学習指導案に基づき模擬授業を実施し、授業改善について考えることができる。

授業方法:
講義や演習形式の授業が主となるが、学習指導案の作成では、グループ学習、協働学習形式の授業であり、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業となるように留意する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（講義方針、成績評価、LMSの利用など）、教育の情報化と情報教育の位置付け	高等学校情報科で学習した内容について、検定教科書で調べておく。
2.	情報教育の変遷と学習指導要領、情報科の意義と目標	学習指導要領解説書、教科書の該当箇所を読んでおく。
3.	共通教科と専門教科「情報」の位置付け、次期学習指導要領（共通教科情報科）の目標と内容	教科書の該当箇所を読み、共通教科情報科の目標をまとめておく。
4.	共通教科情報科（社会と情報、情報の科学）の内容と取り扱い	教科書の該当箇所を読み、共通教科情報科の内容をまとめておく。
5.	授業の展開例と学習指導の具体例（メディアと情報、情報のディジタル化、情報の表現・発信）、指導上の留意点	教科書、検定教科書の該当箇所を読み、学習ノートを実施する。
6.	授業の展開例と学習指導の具体例（情報モラル、法・制度全般）、指導上の留意点	教科書、検定教科書の該当箇所を読み、学習ノートを実施する。
7.	授業の展開例と学習指導の具体例（個人情報、著作権）、指導上の留意点	教科書、検定教科書の該当箇所を読み、学習ノートを実施する。5～7回の内容を踏まえ、参考文献も見て、「情報モラル」に関するレポートを作成しておく。
8.	「社会と情報」のまとめ（小テスト、学習ノートの確認）	小テストの範囲（2～7回の内容）を学習しておく。学習ノートの理解が十分でない箇所を調べておく。
9.	教育課程の編成、年間指導計画、授業計画の作成	教育課程の編成について、既習であれば調べておく。
10.	授業設計の重要性、学習指導の方法と学習評価	授業設計や学習指導法など、既習であれば調べておく。教科書の該当箇所を読んでおく。
11.	共通教科情報科における授業設計、情報機器および教材の活用	「情報機器の操作」の内容を復習し、教材活用に生かせるようにしておく。
12.	学習指導案（社会と情報）の作成	学習指導案の内容について検討しておく。
13.	学習指導案（社会と情報）の修正および学習評価	学習指導案の内容、特に指導過程を推敲し、評価についても検討する。
14.	教材（社会と情報）の作成	プリント、PowerPointなどの教材を作成する。
15.	模擬授業と授業改善	模擬授業の準備をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
この科目は、高等学校情報科の内容と指導法について学習する重要な科目です。教育実習での教科指導に直接つながるので、予習・復習を十分してください。

フィードバックの方法:
授業内試験（小テスト）、学習ノート、模擬授業の内容については、授業内で行う。レポートについては、学習支援システム（LMS）やメールなどを利用して行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業の発表	20	学習指導案に従った発表はできているか。作成した教材は適切か。
授業内試験（小テスト）	20	共通教科情報科の目標と内容を理解しているか。
レポート（学習指導案を含む）	30	レポート（情報モラル）の内容は適切か。レポート（学習指導案）の内容は適切か。
学習ノート	30	実施できているか。理解できているか。

教科書:
高等学校学習指導要領（平成21年3月告示、東山書房）
高等学校学習指導要領解説　情報編（平成22年5月、文部科学省、開隆堂）
情報科教育法第2版（岡本敏雄、高橋参吉、西野和典編著、丸善出版）
最新社会と情報　新訂版（岡本敏雄、山極　隆編、実教出版）

参考書:
最新社会と情報　新訂版　学習ノート（実教出版編修部、実教出版）
2018　事例でわかる情報モラル（実教出版編修部編、実教出版）
Office2013対応　教職・情報機器の操作～教師のためにICTリテラシー入門（高橋参吉ほか、コロナ社）
インターネットの光と影Ver.6　～被害者・加害者にならないための情報倫理入門～（情報教育学研究会（IEC）情報倫理教育研究グループ、北大路書房）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
授業前後の時間、学習支援システム（LMS）やメールなどを利用して行う。

813100

情報科教科教育法B

高橋　　参吉

授業テーマ:
高等学校の共通教科情報科（情報の科学）の授業を実践してみよう。

授業の概要:
高等学校共通教科情報科では、情報社会を主体的に生きるために必要な情報活用能力（情報活用の実践力、情報の科学的な理解、情報社会に参画する態度）の育成が求められている。また、専門教科「情報」では、情報に関する幅広い知識や技能を有した技術者の育成が必要となっている。この授業では、教育目標と内容、授業設計と授業計画、学習指導案の作成などについて学ぶ。主に、「情報の科学」に関する分野の学習内容について学習指導案を作成し、具体的な授業方法についても学ぶともに、情報科教員として必要な知識・技能および実践的な能力を身につける。なお、高等学校の次期学習指導要領の共通教科情報科（情報I、情報II）の内容を含めた授業を行う。

到達目標:
・高等学校情報科の科目内容および指導上の留意点について説明できる。
・高等学校情報科の学習指導に対する方法および評価について説明できる。
・共通教科情報科の科目について、授業設計、情報機器および教材の活用ができる。
・共通教科情報科の授業設計に基づく、学習指導案が作成できる。
・学習指導案に基づき模擬授業を実施し、授業改善について考えることができる。
・情報科の実践研究の動向を知り、発展的な内容について考えることができる。

授業方法:
講義や演習形式の授業が主となるが、学習指導案の作成では、グループ学習、協働学習形式の授業であり、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業となるように留意する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス（講義方針、成績評価、LMSの利用方法など）、情報科の目標と内容	高等学校情報科の目標と内容を復習しておく。
2.	次期学習指導要領（情報I、II）の目標と内容、情報学との関係について	学習指導要領を読み、次期学習指導要領と現行学習指導要領の相違点についてまとめる。
3.	授業の展開例と学習指導の具体例（ネッワーク、情報セキュリティ）指導上の留意点	教科書、検定教科書の該当箇所を読み、学習ノートを実施する。
4.	授業の展開例と学習指導の具体例（情報デザイン、コンテンツ）、指導上の留意点	教科書、検定教科書の該当箇所を読み、学習ノートを実施する。
5.	授業の展開例と学習指導の具体例（アルゴリズム、プログラミング）、指導上の留意点	教科書、検定教科書の該当箇所を読み、学習ノートを実施する。
6.	授業の展開例と学習指導の具体例（モデル化とシミュレーション、データベース）、指導上の留意点	教科書、検定教科書の該当箇所を読み、学習ノートを実施する。
7.	専門教科情報科の内容とその取扱い、次期学習指導要領(専門教科情報科）の内容について	教科書を読み、専門教科情報科の科目構成について、まとめておく。
8.	専門教科情報科の授業の展開例と学習指導の具体例、指導上の留意点	教科書、専門教科情報科の目標や内容を読み、概略をまとめておく。専門教科情報科の科目と教職課程における専門科目構成をレポートとして作成する。
9.	「情報の科学」のまとめ（小テスト、学習ノートの確認）	小テストの範囲（1～6回の内容）を学習しておく。学習ノートの理解が十分でない箇所を調べておく。
10.	高等学校での授業実践例、研究動向の紹介	関心のある高等学校の実践内容事例について調べる。
11.	共通教科情報科における授業設計、情報機器および教材の活用	授業設計や学習指導法など、教科書の該当箇所を読んでおく。
12.	学習指導案（情報の科学）の作成	学習指導案の内容について検討しておく。
13.	学習指導案（情報の科学）の修正および学習評価	学習指導案の内容、特に指導過程を推敲し、評価についても検討する。
14.	教材（情報の科学）の作成	プリント、PowerPointなどの教材を作成する。
15.	模擬授業と授業改善	模擬授業の準備をしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
この科目は、高等学校情報科の内容と指導法について学習する重要な科目です。教育実習での教科指導に直接つながるので、予習・復習を十分してください。

フィードバックの方法:
授業内試験(小テスト)、学習ノート、模擬授業の内容については、授業内で行う。レポートについては、学習支援システム（LMS）やメールなどを利用して行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業の発表	20	学習指導案に従った発表はできているか。作成した教材は適切か。
授業内試験（小テスト）	20	共通教科情報科の目標と内容を理解しているか。
レポート（学習指導案を含む）	30	レポート（情報モラル）の内容は適切か。レポート（学習指導案）の内容は適切か。
学習ノート	30	実施できているか。理解できているか。

教科書:
高等学校学習指導要領（平成21年3月告示、東山書房）
高等学校学習指導要領解説　情報編（平成22年5月、文部科学省、開隆堂）
情報科教育法第2版（岡本敏雄、高橋参吉、西野和典編著、丸善出版）
最新情報の科学　新訂版（岡本敏雄、山極　隆編、実教出版）

参考書:
最新情報の科学　新訂版　学習ノート（実教出版編修部、実教出版）
2018　事例でわかる情報モラル（実教出版編修部編、実教出版）
Office2013対応　教職・情報機器の操作～教師のためにICTリテラシー入門（高橋参吉ほか、コロナ社）
インターネットの光と影Ver.6　～被害者・加害者にならないための情報倫理入門～（情報教育学研究会（IEC）情報倫理教育研究グループ、北大路書房）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
授業前後の時間、学習支援システム（LMS）やメールなどを利用して行う。

814961～63

教育実習A（事前・事後指導を含む）

今井　　由美子

授業テーマ:　未来の教師としての第一歩、教育実習を成功させよう

授業の概要:　教育実習

到達目標:

1）各自が実習生として英語科指導を実地に行うために必要な留意事項や心構えを学ぶ
2）これまでに学んだ英語科教科教育法の知識及び学習指導案作成方法を再確認する
3）教職オリエンテーション（中学現役教員および高等学校現役教員による教育実践、同和・人権教育、性教育）により教育現場の実情を理解する（3年次までで全5回、日程の都合で3年次に前倒しで実施）
実習中
1）指導教諭の下、真摯な態度で実習に臨む
2）教育現場における実習経験を通し、教師として求められる知識、技能、態度、教育精神を学ぶ
実習後
1）実習報告書作成やポスターセッション・卒論発表に参加することにより、各自の体験をまとめる作業を通し、教師として必要とされる知識、技能、態度、教育精神を再確認する
2）他の実習経験者及び3年生教職課程履修生との交流を通し、各自の体験を客観的に捉える
各回の授業内容：実習前
1）教育実習の意義と実習生としての心構え、留意事項を講義する
2）模擬授業（個人、40分程度、ビデオ撮影あり）を実施し、授業体験と振り返りを行う
実習中
1）実習校における2～3週間の教育実習を行う
2）実習簿及び実習報告書の記入、提出をする
実習後
1）大学指定の報告書提出と、授業において実習報告（個人、10分程度、ポスター作成）を行う
2）教育実習経験を、英語英文科ポスターセッション（7月）または卒業研究発表会（1月）で参加・発表する
3）教育実習経験、使用した学習指導案・資料等を整理し、「Viva! 教育実習」に記録としてまとめる
4）実習校より実習簿および実習評価を受け取った後、個人面談を行う

授業方法:　教育科学における理論と実践の結合である教育実習が中心となる。実習前後には、実践的認識を深め、教職に関して自己啓発を促すための準備と内省を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、実習における留意事項及び心構え、模擬授業日時決定	
2.	模擬授業 (1) と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
3.	模擬授業 (2) と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
4.	模擬授業 (3) と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
5.	模擬授業 (4) と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
6.	模擬授業 (5) と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
7.	模擬授業 (6) と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
8.	模擬授業 (7) と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
9.	模擬授業 (8) と評価・振り返り	模擬授業リハーサル
10.	教育実習の実習報告・振り返り (1)	ポスター作成
11.	教育実習の実習報告・振り返り (2)	ポスター作成
12.	教育実習の実習報告・振り返り (3) 秋実習予定者模擬授業 (1)	ポスター作成 模擬授業リハーサル
13.	教育実習の実習報告・振り返り (4) 秋実習予定者模擬授業 (2)	ポスター作成 模擬授業リハーサル
14.	教育実習の実習報告・振り返り (5) 秋実習予定者模擬授業 (3)	ポスター作成 模擬授業リハーサル
15.	まとめ 「教職課程履修のあゆみ」提出	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　模擬授業を振り返り考えたことを「教職課程カルテ」に記入する。
教育実習において経験したこと、学んだことを「教職課程カルテ」に記入する。カルテは担当者によりチェックされ返却される。
教育実習における記憶を記録し、文集としてまとめる。文集は受講生に配布される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習前の模擬授業および振り返りレポート	10%	模擬授業および振り返りレポートを評価する。
実習校における評価	70%	実習校での評価を、評価の一部として加える。
教育実習報告書および実習簿の内容	5%	提出物として評価に加える。
「教職課程履修カルテ」の利用	5%	提出物として評価に加える。
ポスターセッションまたは卒業研究発表会での実習報告	10%	参加および発表すること、発表内容について評価に加える。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

815061

教育実習A（事前・事後指導を含む）

高橋　　幸平

授業テーマ：
教育実習の準備・計画・実践・事後研究

授業の概要：
実習前には、実習を充実したものにするために必要な知識や技術を学び、計画を立てる。教育実習中には、準備した内容に基づいて実践を行う。実習後には、実習内容について振り返り、自分の実践について評価を行う。また、教員という目標に向け、さらなる学びについて計画を立てる。

到達目標：
1.国語科指導のための技術を身につけている
2.授業やクラスを滞りなく運営できる
3.生徒の言動に対して適切に対応できる

授業方法：
講義・個別指導・発表とディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」：

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（実習簿他書類配布並びにガイダンス）	
2.	教育実習事前指導（全般的な注意事項）	
3.	教育実習事前指導（先輩からの報告集・指導案の例）	
4.	個別面談1（教材研究・指導案の作成など）	実習期間中・指導案作成
5.	個別面談2（教材研究・指導案の作成など）	実習期間中・指導案作成
6.	個別面談3（教材研究・指導案の作成など）	実習期間中・指導案作成
7.	個別面談4（教材研究・指導案の作成など）	実習期間中・指導案作成
8.	個別面談5（教材研究・指導案の作成など）	実習期間中・指導案作成
9.	個別面談6（教材研究・指導案の作成など）	実習期間中・指導案作成
10.	教育実習報告会1	
11.	教育実習報告会2	
12.	教育実習報告会3	

受講者へのメッセージやアドバイス：
★重要★
授業や実習に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

・できる限り実習教材の教材研究や指導案の打合せにくること。
・実習後の報告書を提出すること。

フィードバックの方法：
個別指導や報告会の中でコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
実習先の評価	70	
授業貢献度・個人別発表内容・提出物	30	報告書の提出を求める。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法：
学内メール：kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

815062

教育実習A（事前・事後指導を含む）

大島　　中正

授業テーマ：
教育実習の準備・実践・事後研究

授業の概要：
実習前には、緻密な計画を立てて準備に全力をそそぐ。実習中は実習担当教諭の指導のもとで真摯に実践をおこなう。実習後はっ教育現場での体験に基づいて反省を行ない、さらなる学びへの計画をたてる。

到達目標：
①国語科指導のための力をやしなう。
②学級の運営ができる力をやしなう。
③生徒への理解に努力し、その言動に対して適切に対応する力をやしなう。

授業方法：
講義・個別指導・発表・ディスカッション。

「授業内容」および「準備学習等の内容」：

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（実習簿他書類配付ならびにガイダンス）	
2.	事前指導（全般的な注意事項など）	
3.	事前指導（先輩からの報告集・指導案の例など）	
4.	個別面談	各自で指導案などを作成する。
5.	個別面談	各自で指導案などを作成する。
6.	個別面談	各自で指導案などを作成する。
7.	個別面談	各自で指導案などを作成する。
8.	個別面談	各自で指導案などを作成する。
9.	個別面談	各自で指導案などを作成する。
10.	教育実習報告会	
11.	教育実習報告会	
12.	教育実習報告会	

受講者へのメッセージやアドバイス：
連絡は、マナビーの使用を予定しています。必ずスマホへの転送を設定してください。

フィードバックの方法：
個別指導や報告会において適宜おこないます。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
実習先の評価	70	
授業貢献度・個人別発表内容・提出物	30	報告書の提出を求める。

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己管理力、自己実現力.

教員との連絡方法：
オフィスアワー。
Eメール：toosima@dwc.doshisha.ac.jp

815101、02

教育実習A（事前・事後指導を含む）

松下　　悦子、山本　　裕樹

授業テーマ:　学校現場での教育実習を通して教職の在り方を考える。

授業の概要:　教育実習の事前指導として、その意義と心得を再認識をした上で、指導案の作成や教材研究など実際の授業運営方法を確認し、教育実習への準備をする。教育実習終了後、実習中の経験を通して学んだことを発表し、指導案や教材の工夫の仕方や現場での対応などの具体的な問題点などについて討論する。

到達目標:　実際の教育現場に行き、教師として必要な以下のような要因を身に着けることを目標とする。
1. 包括的な知識
2. 考察力
3. 技能
4. 態度
5. 精神力

授業方法:　講義と演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育実習のためのオリエンテーション。 模擬授業日の決定。	教育実習の日程と授業で扱う教材が決まっている人は、その教材や資料を持参すること。
2.	指導案の書き方 模擬授業（ピアノを弾きながらの歌唱指導）① 教室の見渡し方。	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。
3.	模擬授業（ピアノを弾きながらの歌唱指導）② ピアノを弾きながらの生徒への促し方	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。
4.	模擬授業（ピアノを弾きながらの歌唱指導）③ 歌詞や曲の説明と指導法	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。
5.	模擬授業（ピアノを弾きながらの歌唱指導）④ 消極的な生徒へのアプローチ	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。
6.	模擬授業（ピアノを弾きながらの歌唱指導）⑤ 教師とはパフォーマー	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。
7.	模擬授業（ピアノを弾きながらの歌唱指導）⑥ 事前準備と対応	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。
8.	模擬授業（ピアノを弾きながらの歌唱指導）⑦ 授業で想定されるトラブル	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。
9.	模擬授業（ピアノを弾きながらの歌唱指導）⑧ 生徒を飽きさせない	1回目の授業で渡した楽譜の練習をしておくこと。 また、実習先での教材が決まっている場合は、その曲を用意すること。
10.	教育実習報告① 学校の特徴とクラスの規模	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。
11.	教育実習報告② 教材について	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。
12.	教育実習報告③ 指導案に沿った授業展開と生徒の反応	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。
13.	教育実習報告④ 音楽科目以外の授業とクラス運営 クラブ活動	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。
14.	教育実習報告⑤ トラブルが起きた場合の解決策	教育実習先での事項を、10分以内で報告できるようにまとめておくこと。
15.	現場での教師の在り方など含む総括。	授業を受ける側と提供する側の違いを再度思い返し、発信する立場の難しさを忘れないようにしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業内容は決められた1日1項目ではなく、授業の進展度合いによって変動します。
参考文献など必要と思われるものは授業内にて紹介。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。場合によって提出物に対してのコメント返却もある。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表、討論	60	文言のまとめ方、声の出し方を含む聞き手への伝達法、反応を感じ取る力等を基準とする。
レポート	40	簡潔に要点をまとめられているか。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応

815200

教育実習A（事前・事後指導を含む）

天野　　太郎

授業テーマ:　教育実習のオリエンテーションとリフレクション

授業の概要:　教育実習は4年間の教職課程の総仕上げであるとともに、教師の生成過程の入り口に立つことでもある。学ぶ経験から初めて教える経験に転換する中で、ものごとの視野が大きく変わることになる。そうした転換点には、多くの不安と不案内がつきまとうであろう。そこでこの授業では以下の到達目標を念頭にしながら、教育実習の総合的な仕上げを行う。

到達目標:
（1）授業の視聴、教壇実習を通じて、教壇に立つ自分のイメージを固め、技術的なポイントについて再確認する。
（2）教育実習中に起るであろうさまざまなポイントについて話し合う。
（3）教育実習の実践
（4）教育実習についてのリフレクション。

授業方法:　演習形式を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育実習簿の配布、その使い方の説明、その他の書類の説明。教育実習全体のオリエンテーション	配布資料の確認。
2.	授業VTR(DVD)視聴により、授業見学のポイントを学ぶ。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や予備学習を行う。
3.	教壇実習を通して、緊張のほぐし方、生徒への視線、口調などについて話し合う。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や予備学習を行う。
4.	教壇実習を通して、指導案の作り方、教材研究とは何かについて確認する。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や教材研究、予備学習を行う。
5.	教壇実習を通して、発問の工夫、授業のリズム、声の大きさなどについて話し合う。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や教材研究、予備学習を行う。
6.	教壇実習を通して、生徒との接し方、しかり方・ほめ方について話し合う。	教育実習に向けた実践的準備活動として、配布の諸資料の整理や教材研究、予備学習を行う。
7.	HR活動、クラブ活動、学校行事が学校教育でになっている役割について説明する。	教育実習にむけての総合的な準備を行う。
8.	教育実習（1）	教育実習にむけての総合的な準備を行う。
9.	教育実習（2）	教育実習にむけての総合的な準備を行う。
10.	教育実習（3）	教育実習にむけての総合的な準備を行う。
11.	教育実習のリフレクション（1）教師とは何か。教師に求められるものは何か。	教育実習後の課題を学生相互に確認し、より改善された、質の高い教育目標に向けての授業の構築をおこなうため、情報の整理・復習を行う。
12.	教育実習のリフレクション（2）自分の授業を振り返りながら、授業とは何かを考える。	教育実習後の課題を学生相互に確認し、より改善された、質の高い教育目標に向けての授業の構築をおこなうため、情報の整理・復習を行う。
13.	教育実習のリフレクション（3）自分の授業を振り返りながら、授業とは何かを考える。	教育実習後の課題を学生相互に確認し、より改善された、質の高い教育目標に向けての授業の構築をおこなうため、情報の整理・復習を行う。
14.	教育実習のリフレクション（4）現在の生徒について考える。	教育実習後の課題を学生相互に確認し、より改善された、質の高い教育目標に向けての授業の構築をおこなうため、情報の整理・復習を行う。
15.	学校教育を取り巻く環境	実習簿の整理・確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内で個別・全体的な総括を随時フィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
教育実習簿	20	到達目標3について総合的に評価する。
教育実習報告書	20	到達目標3について総合的に評価する。
教育実習内容の報告・プレゼンテーション	30	到達目標1、4について総合的に判断する。
教育実習後の相互デイスカッション	30	到達目標2について総合的に判断する。

教科書:　特になし。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビー、メールなどを総合的に活用する。

815361、62

教育実習A（事前・事後指導を含む）

藤本　　純子、川﨑　　祐子

授業テーマ:　実習校での教育実習と本学での事前・事後指導

授業の概要:　本科目は、教育実習校での3～4週間の実習、本学での教育実習直前指導及び教育実習反省会、教職オリエンテーション（中学校・高等学校現職教員による教科別の講義、同和・人権教育、性教育）をもって構成される。

到達目標:
①教育の現場における実習体験を通して、教師として必要な知識、技能、態度が身につく。
②教育とは何かについて深く考えることができる。
③教育現場が置かれている現状について理解できる。
④実習先の先生や生徒との関わりを通じて、問題解決能力やコミュニケーション能力が高まる。
⑤実習で体験したことを反省会で互いに共有することで、他者の体験を追体験することができる。

授業方法:
教職オリエンテーションは他学科と合同で講義形式で行う。日程の都合上、3年次に前倒しで行われることがあるが、出欠席、レポート提出による評価は本科目で行う。
教育実習事前指導は講義形式で行う。また、事前指導の一環として個別面談を実施する。
教育実習後の反省会は学科別に討議形式で行う。実習後、あらかじめ決められたフォームに従って資料を作成し、反省会では資料を基に報告と質疑応答を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教職オリエンテーション（中学校・高等学校現役教員による教育実践、教育現場の実情等説明）	レポートを提出する。
2.	教職オリエンテーション（同和教育、人権教育、性教育）	レポートを提出する。
3.	事前指導（教育実習Aの全体スケジュール説明、重要書類や教育実習簿の配布と説明）	春休みの間に中学校・高等学校の家庭科教科書を熟読しておくこと。
4.	事前指導（教育実習の意義、目的、心構えなど具体的な諸注意）	教科書「教育実習64の質問」と教育実習簿の注意事項をに目を通しておくこと。
5.	事前指導（教育実習の意義、目的、心構えなど具体的な諸注意）	教科書「教育実習64の質問」と教育実習簿の注意事項をに目を通しておくこと。
6.	事前指導（教育実習の意義、目的、心構えなど具体的な諸注意）	教科書「教育実習64の質問」と教育実習簿の注意事項をに目を通しておくこと。
7.	事後指導（反省会とグループ討論）	教育実習報告書を提出する。 「教職課程履修カルテ」に必要事項を記入することで実習内容の振り返りをする。 反省会に向け、実習先での体験についてまとめておく。
8.	事後指導（反省会とグループ討論）	反省会に向け、実習先での体験についてまとめておく。
9.	事後指導（反省会とグループ討論）	反省会に向け、実習先での体験についてまとめておく。
10.	事後指導（反省会とグループ討論）	反省会に向け、実習先での体験についてまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
教育実習先で臨機応変に対応できるようにするために、家庭科に関連する書籍、指導書（図書館、教職課程センター、教育実習指導教員研究室にて閲覧可能）、新聞等を読むことで、生活科学全般に対する知識を蓄積すること。
家庭科教育は内容が広範囲にわたるので、各自実習校で行う範囲を事前に知るように努め、教職課程センターや各学科の担当教員の研究室に準備された指導書等の資料によって前もって授業計画をたてておくことが望ましい。

フィードバックの方法:
春学期授業前に個人面談を行い、春休み中の準備状況や教育実習に行くにあたっての覚悟などについて直接確認する。
反省会終了後に教育実習簿の記載内容を確認したものを返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習校からの評価	65	到達目標①②③④について、実習校からの評価をもって評価する。
教育実習簿	15	到達目標①②③④について、日誌の記載状況から評価する。
提出物	10	教職オリエンテーションや教育実習報告書の提出状況で評価する。
授業への参加度	10	到達目標⑤を含め全体的に積極的に参加・発言したかで評価する。
遅刻・欠席		厳しく減点する。

教科書:
寺昌男、黒澤英典、別府昭郎、教育実習64の質問、学文社

参考書:
中学校技術・家庭（家庭分野）の指導書、開隆堂・東京書籍他
高校家庭総合の指導書、開隆堂・大修館書店・実教出版他

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力、（教育実習ではこれまでに培った全ての能力を駆使することが要求される。）

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対、マナビーの掲示板機能

815700

教育実習B（事前・事後指導を含む）

川田　　隆雄

授業テーマ:　教育実習の綿密な準備と教師になるための基礎を築く

授業の概要:　教育実習は教職課程の総仕上げです。また、教育の現場に直接参加することは大きな試練でありまた喜びでもあります。そして、本学で学んだ教育理論や教育方法等を実践を通して確認し修得する機会にもなります。本授業では、教育実習前、実習中、実習後に必要な教師としての職務や心得等の理解を深めることを目標とします。教育実習終了後の秋学期は、教育現場での教師と子供達との関係の問題に焦点をあてて、参考図書を読みながら議論していきます。

到達目標:　実際の教育実習で実力が発揮出来るように、模擬授業を通じて準備を行います。また、教師になるために必要な基礎的知識を書籍を通して学びます。

授業方法:　講義・模擬授業・グループ討議、輪読会等を予定。概ね下の授業内容で示したスケジュールを予定しているが、状況によって内容や順番が変更される場合がある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育課程についてのガイダンス	復習
2.	情報教育の学習指導案の作成	復習
3.	模擬授業演習１	模擬授業準備
4.	模擬授業演習２	模擬授業準備
5.	模擬授業演習３	模擬授業準備
6.	模擬授業演習４	模擬授業準備
7.	教育者になるための書籍を購読	発表準備
8.	教育実習と振り返り	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:　教育実習に実際行くための模擬授業の準備、教育実習先から帰ってきた後の振り返りのための準備など、かなりの時間数の予習・復習が含まれる。

フィードバックの方法:　授業内および、教育実習中はスカイプなどを使いフィードバックをおこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への取り組み	40	模擬授業の成果
教育実習の成果	60	実習校から届く成績表を参考にする

教科書:　適宜指示

参考書:　適宜指示

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、創造力、思考力

教員との連絡方法:　授業内でのコンタクトを基本とする。

816500

社会科教科教育法A

藤原　　孝章

授業テーマ:　社会科教育ーその授業の原理、内容、方法

授業の概要:　中学校社会科教師としての専門性を深めるために、現代社会と社会科との関連性に言及しながら、社会科の教科原理、目標、内容について考察していく。授業では、中学校社会科の年間計画や学習指導案の作成を宿題として課し、それらの相互評価を行う。また対話カードなどを用いて講義内容の理解を深めていく。

到達目標:　知識理解:中学校社会科教師としての専門性を深め、社会科の教科原理、目標、内容について十分な理解ができる。
技能・態度:中学校社会科の年間計画や学習指導案の作成をとおして、授業実践に対する態度と技能を身に付けることができる。

授業方法:　教科書及び授業で配布する資料を活用した講義を中心に、指導案の分析、作成や教材体験などワークショップを加える。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(講義のすすめ方)、エントリーシート、藤原研究室の紹介	必ず出席のこと
2.	社会科の基本的性格―現代社会と中学校社会科	教科書、参考文献、資料の熟読
3.	社会科教育の歴史―教育課程の変遷を中心に	教科書、参考文献、資料の熟読
4.	中学校社会科の目標と教科構造(指導要領解説)	教科書、参考文献、資料の熟読
5.	社会科の授業計画―中学校社会科の授業構成と学習原理	教科書、参考文献、資料の熟読
6.	中学校社会科の授業事例1(地理的分野)と教材研究	中学校社会科単元計画・学習指導案の準備
7.	中学校社会科の授業事例2(歴史的分野)と教材研究	中学校社会科単元計画・学習指導案の準備
8.	中学校社会科の授業事例3(公民的分野)と教材研究	中学校社会科単元計画・学習指導案の準備
9.	中学校社会科単元計画・学習指導案提出・共有	中学校社会科単元計画・学習指導案の準備
10.	中学校社会科単元計画・学習指導案改善指導	教科書、参考文献、資料の熟読
11.	中学校社会科公民的分野の授業実践に関するワークショップ1	教科書、参考文献、資料の熟読
12.	中学校社会科公民的分野の授業実践に関するワークショップ2	教科書、参考文献、資料の熟読
13.	中学校社会科公民的分野の授業実践に関するワークショップ3	教科書、参考文献、資料の熟読
14.	単元計画・学習指導案改訂版の提出、共有、ふりかえり, 社会科教育の評価	中学校社会科単元計画・学習指導案の作成
15.	学びの確かめの試験(持ち込み可)	教科書、参考文献、資料の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:　教職課程科目なので、欠席・遅刻はないものとする

フィードバックの方法:　毎時間のふりかえりカードへのコメント返却、クラスでの共有
中学校社会科単元計画・学習指導案の提出と改善のためのコメント、改善指導案の再提出

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	講義対話カード(ふりかえりカード)を含め、授業に積極的に参加しているか。
課題(学習指導案の提出)	40	中学校社会科単元計画・学習指導案提出　改訂版の再提出ができているか
学びの確かめのための試験	30	授業目標が達成されているか。参考書、ノート、対話カード、資料など持ち込み可

教科書:　文部科学省『中学校学習指導要領解説社会編』日本文教出版、2008年

参考書:
藤原孝章(2008)『シミュレーション教材「ひょうたん島問題」一多文化共生社会ニッポンの学習課題』明石書店
藤原孝章編(2009)『時事問題学習の理論と実践―国際理解・シティズンシップを育む社会科教育』福村出版
唐木清志・西村公孝・藤原孝章(2010)『社会参画と社会科教育の創造』学文社
原田智仁編(2016)『社会科教育のルネサンス』保育出版社
開発教育協会編(2016)『18歳選挙権と市民教育ハンドブック』開発教育協会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　e-mail

816600

社会科教科教育法B

天野　　太郎

授業テーマ:　中学校社会科の授業運営に向けての実践

授業の概要:　中学校社会科（地理的分野・歴史的分野）を中核とした教科教育のありかたと、その実践について指導案や模擬授業も踏まえながら学習する。また、ICT機器の活用やActive Learningの運用を実践的に行う。

到達目標:
1　中学校社会科（地理的分野・歴史的分野）の目標、意義、内容、指導法、評価について理解を深める。
2　中学校社会科の授業事例の分析、学習指導案を含む指導計画の作成を通して、授業づくりに関する留意点を身に付ける。
・知識理解：中学校社会科教師としての専門性を深め、社会科の教科原理、目標、内容について十分な理解ができる。
・技能・態度：中学校社会科の年間計画や学習指導案の作成をとおして、授業実践に対する態度と技能を身に付けることができる。
・関心・意欲・態度：社会科の授業づくりと模擬授業を通して、社会科の授業実践に対する意欲と関心を持つことができる。

授業方法:　講義を中心としつつ、教材研究指導、指導案の作成、模擬授業の実践を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義のガイダンス	配布資料の確認
2.	戦後社会科の成立と初期社会科の実践	配布資料の確認
3.	中学校学習指導要領の変遷と分化社会科	配布資料の確認
4.	中学校社会科学習指導案の実際と指導案作成の留意点（1）	指導案・配布資料の確認
5.	中学校社会科学習指導案の実際と指導案作成の留意点（2）	指導案・配布資料の確認
6.	ICT機器の活用とActive Learningの運用実践	指導案・配布資料の確認
7.	学習指導案（課題）の作成にあたって	指導案・配布資料の確認
8.	中学校社会科（地理的分野・歴史的分野）の教材研究方法～導入論・発問論・教材論	テーマに応じた教材研究を行う
9.	中学校社会科（地理的分野・歴史的分野）の教材研究(1)	テーマに応じた教材研究を行う
10.	中学校社会科（地理的分野・歴史的分野）の教材研究(2)ICT活用のありかた	テーマに応じた教材研究を行う
11.	中学校社会科（地理的分野・歴史的分野）の教材研究(3)Active Learningの運用	テーマに応じた教材研究を行う
12.	学習指導案の改善(1)	指導案・配布資料の確認
13.	学習指導案の改善(2)	指導案・配布資料の確認
14.	社会科における評価の工夫	指導案・配布資料の確認
15.	模擬授業の概要	模擬授業に向けた準備

受講者へのメッセージやアドバイス:　模擬授業を見据えた実践的な授業運営に向けての授業を行いますので、積極的な姿勢を前提とします。

フィードバックの方法:　授業内でのコメントペーパーに対して、適宜紹介し、コメントを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度・コメントペーパー	40	到達目標1の到達度を評価する。
単元計画・学習指導案提出　模擬授業	60	到達目標2の到達度を総合評価する。

教科書:　文部科学省『中学校学習指導要領解説　社会科編』

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業後の教室ならびに研究室にて対面で行う。

816960

教育課程論

佐藤　　光友

授業テーマ:　学校教育における教育課程の理論的・実践的展開

授業の概要:　教育課程の基本的事項について理解を深め、教員として教育課程の編成、実施、評価、改善をになうことのできる力を身につけることのできる講義をめざす。具体的には、教育課程の基本的な考え方や仕組み、教育評価、教育課程の歴史的変遷、さらには、授業デザイン、カリキュラム・マネジメントを含めた教育課程の実践的な展開方法を学んでいく。

到達目標:　教育課程の基本的事項について理解を深め、教職としての基礎・基本を身につける。

授業方法:　基本的には講義形式。集団討議や意見発表も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育課程の意義と概念	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	教育課程の歴史	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の歴史」の資料を熟読しておくこと。
3.	教育課程と学習指導要領Ⅰ	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。
4.	教育課程と学習指導要領Ⅱ	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。
5.	教育課程の編成	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の編成」の資料を熟読しておくこと。
6.	教育課程の評価	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の評価」の資料を熟読しておくこと。
7.	教育課程実施上の配慮事項	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程実施上の配慮事項」の資料を熟読しておくこと。
8.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに、次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の予習をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	到達目標、教育課程の基本的事項に関する理解度により評価する。
授業への参加意欲	60%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出により評価する。

教科書:　文部科学省『小学校学習指導要領解説　総則編』
文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

817060

道徳教育・特別活動論

佐藤　　光友

授業テーマ:　人と人との関係の中で望ましい生き方をするために

授業の概要:　道徳教育においては、児童生徒の道徳性を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を考察する。さらに、道徳の時間における指導方法や指導計画、指導内容(指導案作成、資料活用、発問作成)ついて学んでいく。特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を考察する。さらに、学級活動などにおける指導方法や指導計画、指導内容ついて学んでいく。

到達目標:　道徳教育では、児童生徒の道徳性を育成するための道徳教育の基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を確実に身につける。さらに、道徳授業の指導方法や指導内容に対応した指導案作成(資料活用、発問作成など)や模擬授業の基本的技能を修得できるようになること。特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な知識を獲得し、学級活動や学校行事を企画し実行できる力を身につけること。

授業方法:　講義と平行して、指導案や企画を基にして、模擬授業や発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	道徳教育の目標	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	道徳教育と学習指導要領(道徳教育の内容と歴史)	事前に配布している資料を使って復習をし、「道徳教育の内容と歴史」の資料を熟読しておくこと。
3.	道徳教育のあり方(指導計画と具体、評価)	事前に配布している資料を使って復習をし、「道徳教育の内容と歴史」の資料を熟読しておくこと。
4.	道徳の時間における実践(指導案作成、資料活用、発問作成)	事前に配布している資料を使って復習をし、「道徳の時間における実践」の資料を熟読しておくこと。
5.	特別活動の目標と教育的意義	事前に配布している資料を使って復習をし、「特別活動の目標と教育的意義」の資料を熟読しておくこと。
6.	特別活動と学習指導要領(活動内容、指導計画と具体、評価)	事前に配布している資料を使って復習をし、「特別活動と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。
7.	学級活動・学校行事の企画づくり	事前に配布している資料を使って復習をし、「学級活動・学校行事の企画づくり」の資料を熟読しておくこと。
8.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
指導案ならびに企画作成・提出	30%	課題に対応した指導案、企画作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。
発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。
定期試験	40%	道徳教育・特別活動の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。

教科書:
金光靖樹、佐藤光友編著『やさしく学ぶ道徳教育』(ミネルヴァ書房)
赤坂雅裕、佐藤光友編著『やさしく学ぶ特別活動』(ミネルヴァ書房)

参考書:
文部科学省著『小学校学習指導要領解説　道徳編』
文部科学省著『中学校学習指導要領解説　道徳編』
文部科学省著『小学校学習指導要領解説　特別活動編』
文部科学省著『中学校学習指導要領解説　特別活動編』

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

817100

教育方法及び技術

大黒　　孝文

授業テーマ:　授業力をデザインする

授業の概要:　学校における教育方法の基礎的な学習理論と技術について理解するために、主体的・対話的で深い学びにつながる授業デザインと評価計画を立てることができると共に，情報機器の活用を含む授業展開と教材開発の基礎的能力を身につけることができる。

到達目標:
・教育方法の基礎的な学習理論と技術について説明することができる。
・主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)につながる授業デザインを構想できる。
・ICTを活用した教材開発と指導計画の構想ができる。
・学習評価の種類と方法を理解し，適切に活用することができる。

授業方法:　1.講義，2演習，3.講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	これまでの授業経験をふり返り授業の方法をカテゴリーに分けておく
2.	教育方法（1）学習論と授業論の基礎	マナビーで配布する学習論に関する資料を読んでおく
3.	教育方法（2）学習論と授業論の変遷	学習論と授業論の関連付けを考えておく
4.	教育方法（3）主体的・対話的で深い学びを支える理論	マナビーで配布するアクティブラーニングに関する資料を読んでおく
5.	教育方法（4）主体的・対話的で深い学びを支える方法	マナビーで配布するケースメソッド教材から問題点を抽出しておく
6.	教育方法（5）学習環境の現状と問題	ケースメソッド教材をさらに深く読み進めておく
7.	教育方法（6）育てたい力と学習評価	マナビーで配布する学習評価に関する資料を読んでおく
8.	情報機器と教材活用（1）ICTと教材の役割	これまでの授業経験をふり返り，用いた情報機器の種類と使用方法をまとめておく
9.	情報機器と教材活用（2）ICTと教材活用のための理論	マナビーで配布する情報機器と教材活用に関する資料を読んでおく
10.	情報機器と教材活用（2）ICTと教材活用のための方法	マナビーで配布する学習評価に関する資料を再読しておく
11.	教育の技術（1）授業設計と指導案（ICT活用を含む）	指導案作成のための教科と単元を決めておく
12.	教育の技術（2）指導案作成演習1	指導案のフォーマットに沿って素案を作成しておく
13.	教育の技術（3）指導案作成演習2	作成した指導案に沿って発話計画と板書計画を立てておく
14.	教育の技術（4）授業観察と評価演習	作成した指導案における観点別評価の資料と方法について再検討をしておく
15.	まとめとふり返り	これまでの学習についてのふり返りを行っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講義では，現場の教師が授業研究によって力量を高める手法をケースメソッド教材の形で取り入れます。具体的には，マンガで描かれた授業の実際から問題点を発見し，対応の方法や事前の準備等に関して討議を行うと同時に，協同学習の理論と方法を学びます。その後に取得予定の教科の単元指導案を作成し，模擬的な授業の演習を発話や板書計画を中心に実施します。

フィードバックの方法:　提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業レポート	40	指導案作成過程における成果物やレポート等をポートフォリオ評価で行う。
課題テスト	30	到達目標の学習内容の理解度を客観的に評価する。
小テスト	20	到達目標のアクティブラーニング型授業の小テストを実施し，問題点に気づく力を客観的に評価する。
授業への参加度	10	演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。

教科書:　使用しない

参考書:
中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（現在公示分　文部科学省）
他、適宜授業の中で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応，オフィスアワー，Eメール等

817160

教育方法及び技術

水本　　徳明

授業テーマ:　授業力をデザインする

授業の概要:　学校における教育方法の基礎的な学習理論と技術について理解するために、主体的・対話的で深い学びにつながる授業デザインと評価計画を立てることができると共に，情報機器の活用を含む授業展開と教材開発の基礎的能力を身につけることができる。

到達目標:
・教育方法の基礎的な学習理論と技術について説明することができる。
・主体的・対話的で深い学び(アクティブラーニング)につながる授業デザインを構想できる。
・ICTを活用した教材開発と指導計画の構想ができる。
・学習評価の種類と方法を理解し，適切に活用することができる。

授業方法:　1.講義，2演習，3.講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	これまでの授業経験をふり返り授業の方法をカテゴリーに分けておく
2.	教育方法（1）学習論と授業論の基礎	マナビーで配布する学習論に関する資料を読んでおく
3.	教育方法（2）学習論と授業論の変遷	学習論と授業論の関連付けを考えておく
4.	教育方法（3）主体的・対話的で深い学びを支える理論	マナビーで配布するアクティブラーニングに関する資料を読んでおく
5.	教育方法（4）主体的・対話的で深い学びを支える方法	マナビーで配布するケースメソッド教材から問題点を抽出しておく
6.	教育方法（5）学習環境の現状と問題	ケースメソッド教材をさらに深く読み進めておく
7.	教育方法（6）育てたい力と学習評価	マナビーで配布する学習評価に関する資料を読んでおく
8.	情報機器と教材活用（1）ICTと教材の役割	これまでの授業経験をふり返り，用いた情報機器の種類と使用方法をまとめておく
9.	情報機器と教材活用（2）ICTと教材活用のための理論	マナビーで配布する情報機器と教材活用に関する資料を読んでおく
10.	情報機器と教材活用（2）ICTと教材活用のための方法	マナビーで配布する学習評価に関する資料を再読しておく
11.	教育の技術（1）授業設計と指導案（ICT活用を含む）	指導案作成のための教科と単元を決めておく
12.	教育の技術（2）指導案作成演習1	指導案のフォーマットに沿って素案を作成しておく
13.	教育の技術（3）指導案作成演習2	作成した指導案に沿って発話計画と板書計画を立てておく
14.	教育の技術（4）授業観察と評価演習	作成した指導案における観点別評価の資料と方法について再検討をしておく
15.	まとめとふり返り	これまでの学習についてのふり返りを行っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講義では，現場の教師が授業研究によって力量を高める手法をケースメソッド教材の形で取り入れます。具体的には，マンガで描かれた授業の実際から問題点を発見し，対応の方法や事前の準備等に関して討議を行うと同時に，協同学習の理論と方法を学びます。その後に取得予定の教科の単元指導案を作成し，模擬的な授業の演習を発話や板書計画を中心に実施します。

フィードバックの方法:　提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業レポート	40	指導案作成過程における成果物やレポート等をポートフォリオ評価で行う。
課題テスト	30	到達目標の学習内容の理解度を客観的に評価する。
小テスト	20	到達目標のアクティブラーニング型授業の小テストを実施し，問題点に気づく力を客観的に評価する。
授業への参加度	10	演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。

教科書:　使用しない

参考書:
中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（現在公示分　文部科学省）
他、適宜授業の中で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応，オフィスアワー，Eメール等

817200、60

生徒指導論

中川　　美保子

授業テーマ:　教育活動全般に通底する教師の心の働きとしての「生徒指導」の機能について理解する。

授業の概要:　生徒指導をひとつの校務分掌の領域ととらえるのではなく，全教師によるすべての児童生徒への心身の健全な育成に寄与する予防啓発的な機能であることを理解する。昼食，清掃活動などの生活指導，部活動などの課外活動，運動会，遠足などの諸行事など，あらゆる場面での子どもたちへの適切な関わりについて、DVDや自作資料を適宜用いて解説し、グループ討議やロールプレイイングを適宜実施し、教師としての関わり方について自らの考えを深める。

到達目標:　1.生徒指導とは、特別な指導が必要な子どもへの対症療法的指導のことではなく、すべての子ども達の健全な発達に寄与する学校教育全般に渡る予防啓発的な活動であることを理解する。
2.グループ活動やロールプレイイングを通して、他者と協調し活動すること、教師としての実践に触れることができる。

授業方法:　1:講義　教師の講義と、受講生のグループ討議、ロールプレイイング、受講生全員による討議を組み合わせて行う。特にグループ討議を半数以上取り入れ、受講生の能動的な活動を促進する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	生徒指導の領域と機能について解説し、資料から具体的なイメージを持つ。グループ活動によって、領域と機能の違いを話し合う。	(予習)対症療法的指導、予防啓発的指導とはどのようなことは、それぞれについて調べてくる。(次週発表するため)
2.	生徒指導の領域と機能に関して、予防啓発的な活動の重要性を事例によって考える。	
3.	教職における生徒指導の役割 具体的な学校生活の一場面を想定してどのような対応が適切かについて各自で考える。	(予習)教師として対応がむずかしいだろうと考えられる場面を複数考えてくる。(次回発表する。)
4.	教職における生徒指導の役割 ー予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(1)ー 各自が考えた場面を発表し、分類した上で、興味のある場面ごとにグループに分かれる。	
5.	教職における生徒指導の役割 ー予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(2)ー グループごとに、そのような場面での適切な対応について考える。	
6.	教職における生徒指導の役割 ー予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(3)ー 前回から続きの討議を行い、次回からの発表の準備に進む。	(復習)グループで役割分担して、発表の準備を行う。
7.	教職における生徒指導の役割 ー予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(4)ー 各班の発表(20分発表、5分質問、5分振り返り)3班実施	(復習)発表から感じたことをミニレポートにまとめる。 (最終週にレポートとして提出)
8.	教職における生徒指導の役割 ー予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(5)ー 各班の発表(20分発表、5分質問、5分振り返り)3班実施か(5)	(復習)発表から感じたことをミニレポートにまとめる。 (最終週にレポートとして提出)
9.	教職における生徒指導の役割 ー予防啓発的な生徒指導をどう生かすのか(6)ー 各班の発表を振り返り、全体で討議する。	(予習)次週のゲストスピーカーに質問したいことを考えてくる。
10.	教職における生徒指導の役割 ーーゲストスピーカーの講義から考えるー	(復習)実際の学校の様子を聞いて、子ども達に望まれる生徒指導の機能を箇条書きにしてまとめる。 (最終週にレポートとして提出)
11.	教職における生徒指導の役割 ー実際の事例から考える(1)ー 教室内で昼食時間に起こったいじめ事例から、自分が教師としてこの事例に関わる場合にどのように対応するか考え、全員で討議する。	(復習)討議から考えたことをミニレポートとしてまとめる。 (最終週にレポートとして提出)
12.	教職における生徒指導の役割 ー実際の事例から考える(2)ー 摂食障害がきっかけで不登校になった事例から、この後の対応について考え、グループで討議する。	(復習)討議から考えたことをミニレポートとしてまとめる。 (最終週にレポートとして提出)
13.	教職における生徒指導の役割 ー実際の事例から考える(3)ー バス遠足の引率中に気持ちが悪くなり嘔吐した子供への対応について考え、全体で討議する。	(復習)討議から考えたことをミニレポートとしてまとめる。 (最終週にレポートとして提出)
14.	教職における生徒指導の役割 ーロールプレイイングをとおしてー 11,12,13回の授業の事例からひとつ選び、グループに分かれて、教師役と子ども役になって、実際に体験する。	(復習)ロールプレイイングから考えたことをミニレポートとしてまとめる。 (最終週にレポートとして提出)
15.	まとめと振り返り 生徒指導全般についてのまとめ 学校教育における生徒指導の位置づけと重要性についてまとめる。	(復習)レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:　自身の中学校、高校時代を振り返り、辛かったことやネガティブな体験を相対化し、それらの体験を教師としての強みとして、子どもたちに還元できる授業となることを願っています。

フィードバックの方法:
・各自の発表に関して、その授業内あるいは次回の授業内でコメントをお返しします。
・提出されたレポートに関して、授業内で評価のポイントを解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	40%	到達目標1に関する知識や理解を適切に表現できているかを基準とする。
グループ討議、ロールプレイ	40%	到達目標1の理解がなされているか、到達目標2について、臨機応変で柔軟な思考力と実践的な力量があるかを基準とする。
授業への積極的参加度	20%	到達目標1，2に関して、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができることを基準とする。

教科書:

参考書: 生徒指導提要 （平成22年3月告示　文部科学省）
学校教育法 （昭和22年3月　法律第26号）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる（mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp）
3. 研究室訪問してください。（C444）

817360

学校栄養教育実習（事前・事後指導を含む）

仲佐　　輝子、小切間　　美保

授業テーマ:
実習校での栄養教諭の教育実習と本学での事前・事後指導

授業の概要:
子ども達の望ましい食習慣を形成するために，学校現場での1週間の栄養教育実習を通して，栄養教諭の職務内容についての理解を深め，栄養教諭としての使命を自覚する。
本科目は，教育実習校での1週間の実習と，本学での栄養教育実習事前指導および実習後の報告会への参加・発表および問題点の整理と今後の課題の明確化をもって構成される。

到達目標:
①栄養教育実習に向けて，教育実習に臨む心構えをもつことができる。
②研究授業において食に関する指導を実践できる。
③学校給食を生きた教材として活用するための具体的方法が理解できる。
④教育実習校での実習を振り返り，自身の問題点と課題を明らかにできる。

授業方法:
栄養教育実習直前指導は講義法で行う。学校現場での実習指導は、栄養教諭と家庭・保健等の教科担当教諭等との連携により行われる。実習後の報告会は1人20分程度で実習内容等について報告し，問題点や疑問点についてクラスで議論を深め，実習中の問題点を整理し今後の課題を明らかにする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	栄養教育実習を行うための心構え、実習簿等の配布	
2.	栄養教育実習の意義や目的と教育現場での諸注意	栄養教育実習に臨むにあたって、特に食に関する指導のテーマについて、知識を深めるための情報収集や課題研究をすること。
3.	栄養教育実習の食に関する指導等における具体的な諸注意	
4.	実習簿の書き方，報告書等提出物の配付と説明	
5.	「食に関する指導」の企画および学習指導案作成手順の確認	学校栄養教育論Ⅱで配付した資料および模擬授業で作成したクラス全員の学習指導案を見直しておくこと。
6.	実習報告会（最初の2名）	実習校での実習体験を資料を用いて報告する。
7.	実習報告会（次の2名）	実習校での実習体験を資料を用いて報告する。
8.	実習報告会（最終回）	実習校での実習体験を資料を用いて報告する。

受講者へのメッセージやアドバイス:
栄養教育実習に臨むにあたって，特に食に関する指導のテーマについて，教材研究のための情報収集や課題研究をすること。

フィードバックの方法:
実習簿はコメントをつけて返却する。発表については，教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習校からの評価	65%	実習校で評価された成績報告票を基に評価する。
実習簿	15%	到達目標②～④を踏まえ、研究授業における教材研究、食に関する指導の取り組み、学校給食の意義や運営方法の理解度を評価する。
教育実習報告書	10%	自らの教育実習体験と照らして教職に求められているものについて考えられているかを評価する。
報告会での発表	10%	自らの実習を振り返り、自己の今後の課題を明確化できているかを評価する。
遅刻・欠席		厳しく減点する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:
授業の前後に教室内で応対

817401、02、61、62

教職論

大黒　　孝文

授業テーマ:　教職をめざして（なりたい教師と求められる教師）

授業の概要:　本講座では，教職を希望するみなさんに，①教職の意義と教員に必要な資質能力，②教職の制度と職務内容や義務，及び教師の役割，③教職の今日的課題とチーム学校，④アクティブラーニング型授業の理論と方法，⑤教職に対する適正と進路選択。以上の5項目を教職現場の実態を含めて正確に伝えると同時に集団討議によって問題解決能力を身につける。併せて，教職に対する意欲の喚起と教員採用までの支援を行う。

到達目標:
・教職の意義と教師に必要な資質能力について説明することができる。
・教職の制度と職務内容や義務を理解し、教師の役割について説明することができる。
・教職の今日的課題について関心を持ち、チーム学校の重要性を説明することができる。
・実践的にアクティブラーニング型授業を行い、理論と方法を説明することができる。
・教職に対する適性と進路選択について、総合的に検討することができる。

授業方法:　1:講義，2:演習，5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	教育に関わる疑問や質問等をまとめる
2.	データで見る公教育の実態と役割	教職員の労働に着目した今日的課題を調べておく
3.	データで見る教職の実態と社会的比較	教職員の労働に着目した今日的課題を調べておく
4.	教職に求められる資質・能力と社会的背景	前時に配布する教員としての資質能力チェック表を確認しておく
5.	教師としての能力を高めるアクティブラーニングの理論	協同学習を学ぶケースメソッド教材を用いて問題点を読み取る（マナビーを用いた反転授業あり）
6.	教師としての能力を高めるアクティブラーニングの方法	協同学習を学ぶケースメソッド教材を用いて問題点を読み取る（マナビーを用いた復習授業あり）
7.	教師としての能力を高めるアクティブラーニングの現状	協同学習を学ぶケースメソッド教材を用いて問題点を読み取る（マナビーを用いた復習授業あり）
8.	学校組織の中で教師のはたす役割	カリキュラムマネジメントについて調べておく
9.	教員としての服務と職務内容	配布した教職アプローチを読む
10.	教員としての義務と身分	配布した教職アプローチを読む
11.	学び続ける教師の研修とその養成	配布した教職アプローチを読み読書感想文を書く
12.	学校の内から見るチーム学校（専門性）	配布した教職アプローチを読む
13.	学校の外から見るチーム学校（連携と分担）	配布した教職アプローチを読む
14.	教職のこれからと進路選択	教員採用試験に対する不安や疑問が質問できるようにする
15.	まとめ	全体のまとめとしてふり返る

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講義では，教職現場の実態を異なった視点で観ることができる工夫を行っています。視点を移動することで学校教育の多様な見え方ができると考えます。教職をめざすみなさんには，教育に関する諸問題や今日的課題に関心を持ち，情報の収集を心がける中で，進路決定に向けての課題と問題点を明確してもらいます。

フィードバックの方法:　提出物は教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標の学習内容の理解度を客観的に評価する。
感想文	20	教職アプローチの感想文の完成度を思考判断と表現，及び指定したフォーマットの規準に沿って評価する。
小テスト	20	到達目標のアクティブラーニング型授業の小テストを実施し，問題点に気づく力を客観的に評価する。
授業への参加度	10	討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。

教科書:　教職アプローチ（第6版：授業内で配布）

参考書:
小学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
中学校学習指導要領（平成29年3月公示　文部科学省）
高等学校学習指導要領（現在公示分　文部科学省）
他、適宜授業の中で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等

818701

教育課程論

水本　　徳明

授業テーマ:

授業の概要:　教育課程の基本的事項について理解し、教員として教育課程の編成、実施、評価、改善をになうことのできる基本的力量を形成する。

到達目標:　次のことができるようになることを目標とする。
①適切な概念を使って、教育課程の内容と教育課程に関わる制度について説明する。
②現代日本の学校教育の課題という観点から、学校で形成する学力と学校教育の目的・目標について考えを述べる。
③カリキュラム・マネジメントのための教師の役割と具体的行動を説明する。

授業方法:　提示された資料に基づいて教育課程に関わる課題についてレポートを作成し、議論する。関連する基本的事項について解説する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　教育課程とはなんだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
2.	今の学校の教育課程はどうなっているのだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
3.	日本の教育課程はどのように変わってきたのだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
4.	教育課程にはどんなタイプがあるのだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
5.	教育課程はどのように編成されるのだろうか	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
6.	教育課程の現代的課題①学習観の転換	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
7.	教育課程の現代的課題②児童生徒の変容	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する
8.	教育課程の現代的課題③社会の変動	授業で学んだことが自分にとってどのような意義を持つのかを振り返って、授業レポートに記入する

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業レポートについて、とくに「前回授業の振り返り」を中心に、授業中にコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業レポート	100	到達目標①～③について評価する。

教科書:　文部科学省『中学校学習指導要領』

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　メールによる　nmizumot@dwc.doshisha.ac.jp

818702

教育課程論

桐村　　幸雄

授業テーマ:　教育課程の意義及び編成・実施

授業の概要:　教育の目的、目標及び教育課程の意義を理解し、教育課程の編成、実施、評価のあり方等について研究し教職に役立てる。

到達目標:
① 教育基本法と学校教育法の関連について理解する。
② 教育課程の意義や法制等について理解する。
③ 教育課程編成、実施、評価について理解する。

授業方法:　講義を中心に、意見発表やグループディスカッションを適宜取り入れる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育基本法と学校教育法	講義の復習と次時の予習
2.	学習指導要領の要点	講義の復習と次時の予習
3.	教育課程の意義と法制	講義の復習と次時の予習
4.	教育課程の編成（一般方針）	講義の復習と次時の予習
5.	教育課程の編成（内容の取扱い授業時数等）	講義の復習と次時の予習
6.	教育課程実施上の配慮事項	講義の復習と次時の予習
7.	教育課程編成の手順と評価	講義の総復習
8.	まとめ	教育課程論のまとめをする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題レポート等コメントを付けて教室で返却します。
課題レポート等から得られた共通課題は、講義で解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	① 教育基本法と学校教育法の関連についての理解度により評価する。 ② 教育課程の意義や法制等についての理解度により評価する。 ③ 教育課程編成、実施、評価についての理解度により評価する。
課題レポート	20%	教育課程の編成に関する課題に即してまとめているか評価する。
授業への積極的参加及び態度	10%	積極的な態度で授業に参加しているかを評価する。

教科書:　文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』ぎょうせい

参考書:　市川須美子、浦野東洋一、小野田正利、窪田眞二、中嶋哲彦、成嶋隆　編集『教育小六法　平成30年版』学陽書房　（注）平成29年以前の版も可

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応します。

818761

教育課程論

柴沼　　真

授業テーマ:

教育課程を、どのように「そうぞう」力をもって組み立てていくか。（以下、「」内は昨年度受講生の声です）

授業の概要:

教育課程について学ぶことは、学校教育に携わるものとしては必ず知っておかなければいけないことを学ぶことである。ただし、単なる枠組みとしてだけ理解するのではなく、それをどのように教師として活用していくのかという視点からも理解する必要がある。
そこで、本講義では、「学校とは何か、教育とはどういうものか、といった根底から、それぞれの考えや意見を出し合い、様々な視点から学びを深めていく」授業です。

到達目標:

この授業において、目標とするのは、教育課程を編成する際に「そうぞう」力が大切であるかということを理解したうえで、その力を持つためにいかに努力できるかということに気付き行動できることです。

授業方法:

「先生から学んだ知識を基に、自分や周りの人とディスカッションして授業を進めていきます。」「自分の頭では考え出せなかった考えを聞き、考えていくので面白いです。」「携帯の充電が大切です。」

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 教育課程を学び必要性について	教職の基礎科目の復習をしておく。
2.	教育課程編成の原理①　PDCAとOODA	PDCA理論を予習しておくこと。
3.	教育課程編成の原理②　PLAN	学習指導要領とはどういうものかを理解しておくこと。
4.	教育課程編成の原理③　DO	授業実践に関する今までの授業の復習をしておくこと。
5.	教育課程編成の原理④　CHECK　ACTION	評価とはどういう性格のものであるのか理解すること。
6.	教育課程の歴史	「ゆとり教育」とはどういうものだと思うか、述べられるようにしておくこと。
7.	学力観の変化の歴史	アクティブラーニングがなぜ必要であるのかを考えておくこと。
8.	まとめ　今後の学校教育で、教育課程に携わるうえで必要なこと。	全7回分の学習内容をまとめておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:

「授業に参加しようと思って、行動するほど、楽しい授業となります。」ただし、「体験型の授業なので、とても面白いのですが、授業後のレポートをまじめにやらないと面白いだけで終わってしまうので、内容を自分なりにまとめてレポートする作業を重視して取り組むとよいと思います。」

フィードバックの方法:

原則的にマナビーをもちいて、フィードバックします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	90	全授業回を通じた変化を自覚化できるか。
小レポート	１０	授業を通じた変化

教科書:

参考書:

学習指導要領の解説

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、

教員との連絡方法:

makoto3shibanuma@gmail.comまで、ご連絡ください。

818762

教育課程論

佐藤　　光友

授業テーマ:　学校教育における教育課程の理論的・実践的展開

授業の概要:　教育課程の基本的事項について理解を深め、教員として教育課程の編成、実施、評価、改善をになうことのできる力を身につけることのできる講義をめざす。具体的には、教育課程の基本的な考え方や仕組み、教育評価、教育課程の歴史的変遷、さらには、授業デザイン、カリキュラム・マネジメントを含めた教育課程の実践的な展開方法を学んでいく。

到達目標:　教育課程の基本的事項について理解を深め、教職としての基礎・基本を身につける。

授業方法:　基本的には講義形式。グループワークや意見発表も行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育課程の意義と概念	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	教育課程の歴史	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の歴史」の資料を熟読しておくこと。
3.	教育課程と学習指導要領Ⅰ	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。
4.	教育課程と学習指導要領Ⅱ	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程と学習指導要領」の資料を熟読しておくこと。
5.	教育課程の編成	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の編成」の資料を熟読しておくこと。
6.	教育課程の評価	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程の評価」の資料を熟読しておくこと。
7.	教育課程実施上の配慮事項	事前に配布している資料を使って復習をし、「教育課程実施上の配慮事項」の資料を熟読しておくこと。
8.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに、次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の予習をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	到達目標、教育課程の基本的事項に関する理解度により評価する。
授業への参加意欲	60%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出により評価する。

教科書:　文部科学省『中学校学習指導要領解説　総則編』

参考書:　授業中適宜指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

818801

特別活動論

小林　　稔

授業テーマ:　学校教育における「中核活動」としての「特別活動」を理解する。

授業の概要:　学校教育における特別活動の意義を理解し、実践的指導力を身に付けるために、
1.学校教育における特別活動の意義と目標、内容・理論に関して、歴史的変遷を踏まえつつ理解する。
2.デイスカッションや学習指導案作成等の活動を通して、特別活動の実践を理解する。

到達目標:　学校教育における特別活動の意義を理解し、実践的指導力を身に付けるために、
1.学校教育における特別活動の意義と目標、内容・理論に関して、歴史的変遷を踏まえつつ理解する。
2.デイスカッションや学習指導案作成等の活動を通して、特別活動の実践を理解する。

授業方法:　単に講義を聞くというだけでなく、提示した課題についてグループで検討したり、発表したりする。
グループ活動は教室外活動をともなう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションとグループ分け	学習指導要領解説の目次を読んでくる
2.	特別活動の目標と変遷	学習指導要領解説の目標を読んでくる
3.	さまざまな実践（学習指導案の検討を含む）から特別活動を考える	学習指導案（教科は何でもよい）について事前学習してくる
4.	特別活動と関連する領域・教科及び生徒指導を考える	学習指導要領解説の生徒指導の項を読んでくる
5.	ブレインストーミングでこれからの特別活動を考える	事前に決まったテーマについてアイデアをある程度考えてくる
6.	特別活動の内容と系統性	学習指導要領解説の内容の項を読んでくる
7.	評価について	学習指導要領解説の「評価について」の項を読んでくる
8.	特別活動のまとめと発表	事前に出された課題について実施してくる

受講者へのメッセージやアドバイス:　将来的にでも良いので、教職をめざされる方の受講を歓迎します

フィードバックの方法:　マナビーで返却する　課題レポート（40%）、平常試験（40%）、授業への積極的参加（20%）

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	40	到達目標の実践力を身に付けるために、講義中に教示した学習指導案の基本構造になっているかを評価する。
平常試験	40	到達目標、「特別活動の意義と目標、内容・理論」に関して適確に回答できる
授業への積極的参加	20	授業へ積極的に参加し、デイスカッションや学習指導案作成がしっかりできているかを評価する。

教科書:　中学校学習指導要領解説特別活動編　（文部科学省著）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:　Eメールを利用　mkoba98@gmail.com

818802

特別活動論

桐村　　幸雄

授業テーマ:　特別活動と人間形成

授業の概要:　学校教育において、望ましい集団活動や体験的な活動を通して、実際の社会で生きて働く社会性を身に付けるなど、生徒の人間形成を図る教育活動としての特別活動のあり方について研究し教職に役立てる。

到達目標:
① 特別活動の目標、教育的意義等について理解する。
② 特別活動の各内容について理解する。
③ 特別活動が生徒の人間形成に果たす役割について考察する。

授業方法:　講義を中心に、意見発表やグループディスカッションを適宜取り入れます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	特別活動の目標	講義の復習と次時の予習
2.	特別活動の基本的な性格及び教育的意義	講義の復習と次時の予習
3.	学級活動の目標と内容	講義の復習と次時の予習
4.	生徒会活動の目標と内容	講義の復習と次時の予習
5.	学校行事の目標と内容	講義の復習と次時の予習
6.	特別活動の全体計画等指導計画の作成と内容の取扱い	講義の復習と次時の予習
7.	特別活動における評価	講義の総復習
8.	まとめ	特別活動論のまとめをする。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
① 課題レポート等コメントを付けて教室で返却します。
② 課題レポート等から得られた共通課題は、講義で解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	① 特別活動の目標、教育的意義等についての理解度により評価する。 ② 特別活動の各内容についての理解度により評価する。 ③ 特別活動が生徒の人間形成に果たす役割についての考察内容や深まりを評価する。
課題レポート	20%	特別活動の内容等について、課題に即してまとめているか評価する。
授業への積極的参加及び態度	10%	積極的な態度で授業に参加しているかを評価する。

教科書:　文部科学省『中学校学習指導要領解説　特別活動編』ぎょうせい

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応します。

818861

特別活動論

柴沼　　真

授業テーマ:

特別活動を学び、「そうぞう」する。（以下、「」内は、昨年度受講生の声です）

授業の概要:

特別活動は、生徒の自主性をいかに引き出すかということが非常に重要であるからこそ、教師が「正解」にとらわれすぎてしまっていては、適切な行動ができなくなる可能性があります。「「自分で考え自分の意見」をしっかり持つことが大切」だと思ってもらえる授業を目指します。

到達目標:

この授業において、目標とするのは、特別活動は生徒の自主性をどうやって引き出すかという点について、教師のマネジメント力が重要になるということに気付き行動できることです。

授業方法:

「先生から学んだ知識を基に、自分や周りの人とディスカッションして授業を進めていきます。」「自分の頭では考え出せなかった考えを聞き、考えていくので面白いです。」「携帯の充電が大切です。」

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　特別活動とは？	特別活動を調べておく
2.	特別活動の内容①　学級活動	自分の経験を相対化しておく
3.	特別活動の内容②　生徒会活動	自分の経験を相対化しておく
4.	特別活動の内容③　学校行事	自分の経験を相対化しておく
5.	特別活動の実際　クラスマネジメント	自分の経験を相対化しておく
6.	特別活動をそうぞうする。　学校行事	自分の経験を相対化しておく
7.	学びの総合化	全授業回の学習内容をまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

「この授業は体験的内容を重視し、実践することを通して教職について学ぶ授業です。」「ペアやグループワークをしながら学びを深めていきます。授業の最初と最後で自分の考えがどのように変化したのかを実感できる。」「この授業に必要なものは、鉛筆と消しゴムと柔らかい頭です。」

フィードバックの方法:

マナビーを通してフィードバックを行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	90	全授業回を通じた変化を自覚化できるか。
小レポート	10	授業を通じた変化

教科書:

参考書:

学習指導要領の解説　特別活動編

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:

makoto3shibanuma@gmail.comまでご連絡ください。

818862

特別活動論

佐藤　　光友

授業テーマ:　学校教育における特別活動の意義と役割を考えよう。

授業の概要:　特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な概念を考察する。さらに、学級活動などにおける指導方法や指導計画、指導内容ついて学んでいく。

到達目標:　特別活動論においては、児童生徒が望ましい集団活動を通じて、個性の伸張をはかり、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育成するために必要な基本的な考え方や学習指導要領における基本的な知識を獲得し、学級活動や学校行事を企画し実行できる力を身につけることを目標とする。

授業方法:　講義と平行して、チームでつくる学級活動・学校行事の企画を基にして、集団討議や発表を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	教育課程における特別活動の位置づけ	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	特別活動の目標と教育的意義	事前に配布している「特別活動の目標と教育的意義」の資料を使って予習をしておくこと。
3.	特別活動の内容Ⅰ(学級活動)	事前に配布している「学級活動」の資料を使って予習をしておくこと。
4.	特別活動の内容Ⅱ(学校行事)	事前に配布している「学校行事」の資料を使って予習をしておくこと。
5.	特別活動の内容Ⅲ(生徒会活動)	事前に配布している「生徒会活動」の資料を使って予習をしておくこと。
6.	特別活動の企画・立案作成と発表	事前にどんな学級活動・学校行事を企画するのかを考案しておくこと。
7.	特別活動の評価と課題、展望	事前に配布している「特別活動の評価」の資料を使って予習をしておくこと。
8.	まとめ	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　各授業終了の際、本時の概要を振り返るとともに次時予告を行うので、指示に従って既習事項の復習及び次時の準備学習等をしておくこと。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
企画作成・提出	30%	課題に対応した企画作成であるかどうかを踏まえたうえで評価する。
発表を含む授業への参加意欲	30%	課題への回答に適合した振り返りシートの提出、発表内容により評価する。
定期試験	40%	特別活動の基本的な考え方や概念に関する理解度により評価する。

教科書:　赤坂雅裕、佐藤光友編著『やさしく学ぶ特別活動』(ミネルヴァ書房)
文部科学省著『中学校学習指導要領解説　特別活動編』

参考書:　授業中に適宜指示をする。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

818961、62

英語科教科教育法基礎

杉森　　直樹

授業テーマ:
英語教授法の基礎を学ぶと共に、情報機器やメディアを用いた英語教育の方法及び技術を実践的に習得する。

授業の概要:
外国語としての英語(English as a Foreign Language)の教授法に関する基礎的知識を習得すると共に、コンピュータ支援の語学教育(Computer-Assisted Language Learning: CALL)やeラーニングによる英語の教授法についての演習を通じて、コンピュータや各種デジタル機器等の情報メディアを英語教育に効果的に活用する方法と電子教材開発の技法を習得することを目標とする。学期後半には模擬授業演習を行い、それまでの授業で学んだ教授法に関する知識や情報機器の活用技能を実践的に応用できる授業力の養成を目標とする。

到達目標:
主要な英語教授法について理解している。
日本の英語教育の現状を理解している。
情報メディアやインターネットを用いた英語教育の方法について理解し、実践することができる。
PowerPoint/電子黒板を用いた英語の授業を行うことができる。

授業方法:
日本におけるEFLとしての英語教育の現状と課題に関する講義、インターネット上の英語学習教材の利用演習、電子黒板としてのPowerPointを用いた教材開発とそれを用いた模擬授業を実施する。授業中にコンピュータを利用することが多いため、教室はCALL教室を利用する。授業中のレポート課題と期末のレポート課題を課す。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業解説及び導入課題	シラバス記載内容の確認
2.	日本における英語教育の現状と課題	授業中に提示する課題
3.	英語教授法の基礎（1）GTM & ALM	授業内容の復習
4.	英語教授法の基礎（2）CLT	授業の内容の復習
5.	情報メディアによる英語学習（1）	授業中に提示する課題
6.	情報メディアによる英語学習（2）	授業中に提示する課題
7.	電子黒板としてのPowerPoint活用法	PowerPointの操作方法の復習
8.	電子教材開発演習(1)計画	模擬授業の計画，立案
9.	電子教材開発演習(2)コンテンツ作成	PowerPointスライドの作成
10.	電子教材開発演習(3)運用演習	模擬授業計画書の作成
11.	模擬授業演習(1)	模擬授業のリハーサル
12.	模擬授業演習(2)	模擬授業のリハーサル
13.	模擬授業演習(3)	模擬授業のリハーサル
14.	模擬授業演習(4)	模擬授業のリハーサル
15.	授業内容の総括	

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業への積極的な参加を望みます。

フィードバックの方法:
模擬授業についてのコメントを個別にフィードバックする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中に指示する課題	20	課題の達成度により評価
模擬授業、教材開発	35	模擬授業の達成度により評価
期末レポート課題	25	教科教育法に関する課題レポートの達成度により評価
授業内活動への参加の度合	20	積極的に授業に参加し，各回の授業テーマへの取り組みにより評価

教科書:
他の英語科教科教育法科目と共通のテキストを使用

参考書:
望月昭彦編(2010)『改訂版　新学習指導要領にもどづく英語科教育法』大修館
竹内理他著(2008)『CALL授業の展開』松柏社
文部科学省(2008)『中学校学習指導要領』東山書房
文部科学省(2011)『高等学校学習指導要領』東山書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール、マナビー

819060

中学英語科教科教育法

今井　　由美子

授業テーマ:　中学英語教師に求められる実践的な英語指導法を学ぶ。

授業の概要:　将来的に中学校英語教師としてアクティブ・ラーニングの手法を授業に取り入れることが求められることから、この授業では課題に取り組む際の姿勢を能動的に保つよう受講生を支援しつつ、主に次の3点に重点をおき授業を進める。
1）学習指導要領に沿った授業を計画・実行するために中学校における英語指導理論についてさらに理解を深める。多様な興味関心、学習動機、学習スタイルをもつ中学生に対しての英語学習指導について考える。
2）教職課程で学んだ理論やアイデアを実際に応用し、模擬授業において実践し具体化させる。
3）模擬授業を行い、また模擬授業に参加することを通し、授業評価における批判的思考を育てる。

到達目標:　中学校学習指導要領に示された英語科の学習内容の指導において、具体的な授業場面を想定した授業設計を行う際に活用できる様々なタスクや活動について学び、指導できるようにする。

授業方法:　学期前半は講義とワークショップ形式を併用する。後半は受講生が擬模擬授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 英語基礎指導法(1)リズム、イントネーション	
2.	英語基礎指導法(2)発音、文字	
3.	英語基礎指導法(3)文法	
4.	英語基礎指導法(4)リスニング	
5.	英語基礎指導法(5)リーディング	
6.	英語基礎指導法(6)スピーキング	
7.	英語基礎指導法(7)ライティング	
8.	模擬授業とその評価(1)	模擬授業リハーサル
9.	模擬授業とその評価(2)	模擬授業リハーサル
10.	模擬授業とその評価(3)	模擬授業リハーサル
11.	模擬授業とその評価(4)	模擬授業リハーサル
12.	模擬授業とその評価(5)	模擬授業リハーサル
13.	模擬授業とその評価(6)	模擬授業リハーサル
14.	模擬授業とその評価(7)	模擬授業リハーサル
15.	模擬授業とその評価(8)	模擬授業リハーサル

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　模擬授業(個人)を行うための指導案を作成し、リハーサルを経て、模擬授業を行う。模擬授業は生徒役の受講生により評価される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
積極的な授業参加度	10%	授業への貢献度、協力的な姿勢を評価する。
模擬授業	20%	模擬授業の質を評価する。
課題提出	20%	提出課題を評価に加える。
学期末テスト	50%	指導法についての理解度を期末テストにより確認する。

教科書:　テキスト
資料およびプリント教材を適宜配布する。
模擬授業では必要に応じNew Horizon 1-3 （東京書籍)を使用する

参考書:
今井由美子他、Sounds Make Perfect、（英宝社）
横溝紳一郎編著、生徒の心に火をつける、(教育出版)
田尻悟郎、(英語)授業改革論、(教育出版)
北原延晃、英語授業の『幹』をつくる本:上下巻、(ベネッセコーポレーション)
太田洋、英語を教える50のポイント、(光村図書)
中嶋洋一、英語好きにする授業マネージメント30の技、(明治図書)
高梨庸雄他、教室英語活用辞典、(研究社)

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

819161、62

国語科教科教育法基礎

齋藤　　隆彦

授業テーマ:
「主体的・対話的で深い学び」を実現する国語教師になるための国語科基礎的知識獲得と「共有」等の体験的理解

授業の概要:
新指導要領に示されている「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力」の育成に携わる教師育成のため、教科書教材、新聞等の日常手に入れられる素材などを使い、教師からの一方的な講義だけでなく、学生間の「文章発表」「プレゼン」「模擬授業」など、アクティブ・ラーニングの手法も用いて、新学習指導要領にそった授業を展開する。
「統辞・範列」「抽象化・具体化」「メタファー」「範疇化」「三角ロジック」など、つけるべき力（教科内容）をできるだけ焦点化し、「話す・聞く」「書く」「読む」「考える」授業のためのさまざまな概念や授業法を学生自身が経験を通して理解する活動を多く取り入れる。

到達目標:
・国語科教師としての基礎的な力を高めることを目標とする。
・新学習指導要領に示される「社会生活に必要な国語」の使い手となる生徒を育てるための授業づくりをめざし、教科全体の構造、各授業の目標・準備・展開・評価、ICT活用、アクティブ・ラーニングの展開について、講義・学生相互の取り組み・模擬授業等を通して習得する。
・国語科の授業づくりについて関心を持って取り組めるようになることを目指す。

授業方法:
講義を基調とするが、「主体的・対話的で深い学び」を教室に実現する教師の育成のため、ペアワークによる対話的活動、各自が熟考した課題の教室内での共有、プレゼンテーションなどを各時間行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「国語科でつけるべき力」とは？新学習指導要領の背景と目標。本授業の参加の仕方。	『新学習指導要領中学校国語解説』の第1章、第2章を読んだ上で、「国語科でつける力とは？」と「国語科でつけてきた力とは？」の二つの質問への現時点での答えを考えてくる。
2.	「編集」自己紹介から編集を考える。 「話す」「書く」「聞く」「読む」の仕組みの理解と実践。	第1回の復習（指導要領）。 第1回で示した創作的課題「自己紹介」を準備し、「編集」について考える。
3.	「読む」「論理や物語の展開の読み」の留意点	第2回の復習（池上「記号論」と「選択」）。 第2回で示した「読む」に関する課題を準備し、「読む」力について考える。
4.	「書く」「目的や意図に応じた取材と展開」主に「たとえば」の工夫	第3回の復習（「読む」力の育成）。 第3回で示した「書く」に関する課題を準備し、「書く」力について考える。
5.	「書く」と「読む」の関係①　「くわしく」と「まとめて」	第4回の復習（「書く」力の育成）。 第4回で示した「書く」と「読む」をつなぐ実践についての課題を準備し、「書く」力と「読む」力の関係について考える。
6.	「書く」と「読む」の関係②　表現の仕方の工夫。「アナロジー」と「三角ロジック」	第5回の復習（「書く」「読む」の関係）。 第5回で示した「書く」と「読む」をつなぐ実践についての課題を準備し、「書く」力と「読む」力の関係について考える。
7.	「話す・聞く」 プレゼンテーションを中心に、抽象・具体、類似、三角ロジックなど、これまで取り扱ったスキルを「話す・聞く」に用いる。	第6回の復習（「書く」「読む」の関係）。 第6回で示した「話す・聞く」についての課題を準備し、「話す・聞く」力について考える。
8.	「古典」1 「伝統的な言語文化」古典に慣れる・古典に親しむ。（音読を楽しむ工夫） （含：プレゼン演習）	第7回の復習（「話す・聞く」力の育成）。 第7回で示した「古典」についての課題を準備し、「古典」でつける力について考える。
9.	「古典」2 「伝統的な言語文化」古典を楽しむ。（脱「逐語訳」・謎解きと引用） （含：プレゼン演習）	第8回の復習（「古典」1の学習）。 第8回で示した「古典」についての課題を準備し、「古典」でつける力について考える。
10.	「古典」3 「伝統的な言語文化」漢文に親しむことと語彙拡大。（「返り点」指導具体例と、漢文・故事成語引用） （含：プレゼン演習）	第9回の復習（「古典」2の学習）。 第9回で示した「古典」についての課題を準備し、「古典」でつける力について考える。
11.	「言葉の特徴や使い方」 言葉を集め分類する（範疇化）（「辞書的」と「文脈的」） （含：プレゼン演習）	第10回の復習（「古典」3の学習）。 第10回で示した「古典」についての課題を準備し、「古典」でつける力について考える。
12.	国語科授業の作り方 （ここまでの学習内容を振り返り、学習指導案を用いながら授業の構成を考えることで、「教科内容と授業化」についてのスキルを高める。合わせて、ICT、アクティブ・ラーニングについても確認する）	第11回の復習（「言葉の特徴や使い方」）。 第11回で示した「国語科授業づくり」についての課題を準備し、そこでつける力について考える。
13.	「私の国語授業ミニ提案」プレゼン1 （目標・活動・評価に留意。ICT機器の使用）	個人のプレゼン・レポートの準備と学友の発表の内容の記録・整理
14.	「私の国語授業ミニ提案」プレゼン2 （目標・活動・評価に留意。ICT機器の使用）	個人のプレゼン・レポートの準備と学友の発表の内容の記録・整理
15.	「私の国語授業ミニ提案」プレゼン2 （目標・活動・評価に留意。ICT機器の使用）	個人のプレゼン・レポートの準備と学友の発表の内容の記録・整理

受講者へのメッセージやアドバイス:
新学習指導要領も「21世紀に生き抜く力を子どもたちにつけたい」という願いが前面に出ています。そんな力をつけられる教師へ。まずは、教師（をめざす者）が「主体的・対話的で深い学び」を実現していきましょう。「考える」「調べる」「話す・聞く・書く・読む」を値切らない。教育雑誌や専門書なども少しずつ読んで、創造的教師のベースを作りましょう。
なお、上記授業内容もあくまで計画ですので、皆さんの参加の仕方、課題への取り組み等で内容は若干変化すると思われます。ご了承ください。

フィードバックの方法:
毎回の授業プリントは、課題と感想等と記入し提出する。フィードバックとして、その一部は次回において教室で共有する。必要ある場合は、教師が解説し、可能な限り学生同士でも考える。
レポートは、ペアワーク等で学生同士でも読み合い共有する。こちらからも「コメント（あるいはコメントに準ずるもの）」を加えて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
前時の確認	30	前時の授業内容の知識の理解・定着
授業への参加	50	ペアワーク参加等や授業プリント提出状況
プレゼン・レポート	20	国語授業提案のプレゼン・レポートの取り組み

教科書:
柴田義松他『あたらしい国語科指導法（四訂版）』（学文社）
『中学校指導要領解説　国語編』（平成29年 6月公示　また出版されていませんので、文科省HPからダウンロード）

参考書:	浜本純逸『国語科教育総論』(溪水社) 髙木まさき他『国語科重要用語辞典』(明治図書) 鶴田清司他『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン　中学校編』(明治図書) 山元隆春『読者反応を核とした「読解力」育成の足場づくり』(溪水社) 松下佳代他『ディープ・アクティブ・ラーニング』(勁草書房) 田中博之『アクティブ・ラーニング実践の手引き』(教育開発研究所) 山元隆春編『アクティブ・ラーニングの授業展開』(東洋館出版) 山元悦子『発達モデルに依拠した言語コミュニケーション能力育成のための実践開発と評価』溪水社 『高等学校学習指導要領解説 国語編』(文部科学省)
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、
教員との連絡方法:	授業前・授業後の10分程度教室か控え室にいます。

819260

中学国語科教科教育法

齋藤　　隆彦

授業テーマ:
授業をきっかけとして、「優れた国語の授業」を探求する態度を形成し、将来の「優れた国語科教師」育成を図る。

授業の概要:
学習指導要領（中学国語科）を概説し、中学国語科の授業づくりについて研究する。
授業は、二つの柱で行う。一つは、『学習指導要領』及び『国語科教育総論』（浜本純逸）を中心に、先行実践に具体例を求めつつ、国語科の可能性と課題を考え、授業者としての基礎を作る。もう一つは、教科書教材を用いた受講者の模擬授業を基に相互に学び合う授業を行う。
国語科における「知識を教える」という側面と、「読解力・表現力・思考力」を育てるという側面、さらには「学びに向かう力の育成」という側面を授業において実現するための具体例を単元学習に求め、教師からの提示と学生からのミニプレゼンの双方で学習する。

到達目標:
・中学国語科教師として、実践的な知識とその運用の力を高めることを目標とする。
・新学習指導要領に示される「社会生活に必要な国語」の使い手となる生徒を育てるための授業づくりをめざし、教科全体の構造、各授業の目標・準備・展開・評価、ICT活用、アクティブ・ラーニングの展開について、先達の実践を具体例に挙げつつ、講義・学生相互の取り組み・模擬授業等を通して習得する。
・先達の具体的な実践を学ぶことで、学生たちが本教科教育の実践研究につながりを作り、将来的にも授業設計の向上に取り組むことができる。

授業方法:
講義を基調とするが、「主体的・対話的で深い学び」を教室に実現する教師の育成のため、ペアワークによる対話的活動、各自が熟考した課題の教室内での共有、プレゼンテーションなどを各時間行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「国語科授業で育てる力」1 「学習指導要領」における国語科で育成すべき力とは。 「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」	新指導要領で求められる「学力」について、指導要領や解説を読んで、自分なりの理解をしておく。
2.	「国語科授業で育てる力」2 「知識の伝達」と「知識運用法の育成」	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。 前回に指示した課題に向かい、「探求」について考える。
3.	「国語科授業の方法」1「総合的な学習（単元学習）」と「系統的な学習」のデザイン。 「大村はまの単元学習」	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。 前回に指示した課題に向かい、「総合的な学習」と「系統的な学習」について考える。
4.	「国語科授業の方法」2「大村はまの単元学習」のミニプレゼン。 （受講者によるミニプレゼンで「情報を持ち寄る」経験）	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。前回に指示した課題に向かい、「大村はまの単元学習」を通して単元学習について考える。
5.	「国語科授業の方法」3 「遠藤瑛子の単元学習」	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。 前回に指示した課題に向かい、「単元学習」的な展開について考える。
6.	「国語科授業の方法」4 「遠藤瑛子の単元学習」のミニプレゼン。 （受講者によるミニプレゼンで「情報を持ち寄る」経験）	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。前回に指示した課題に向かい、「遠藤瑛子の単元学習」を通して単元学習について考える。
7.	「国語科授業を作る」1 「古典」（読みを中心に）	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。 前回に指示した課題に向かい、「古典」でつける読む力とその育成法について考える。
8.	「国語科授業を作る」2 「古典」（書きを中心に）	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。 前回に指示した課題に向かい、「古典」でつける書く力とその育成法について考える。
9.	「国語科授業を作る」3 「現代文　説明的文章」（読みを中心に）	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。前回に指示した課題に向かい、「現代文説明的文章」でつける読む力とその育成法について考える。
10.	「国語科授業を作る」4 「現代文　説明的文章」（書きを中心に）	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。前回に指示した課題に向かい、「現代文説明的文章」でつける書く力とその育成法について考える。
11.	「国語科授業を作る」5 「現代文　文学的文章」（読みを中心に）	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。前回に指示した課題に向かい、「現代文文学的文章」でつける読む力とその育成法について考える。
12.	「国語科授業を作る」6 「現代文　文学的文章」（書きを中心に）	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。前回に指示した課題に向かい、「現代文文学的文章」でつける書く力とその育成法について考える。
13.	「国語科授業を作る」7 「話す・聞く」の力をつける授業	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。前回に指示した課題に向かい、「話す・聞く」力とその育成法について考える。
14.	「国語科授業を作る」8 「語彙力・国語の特質」の授業	前回の復習で知識の定着と理解の深化を図る。前回に指示した課題に向かい、「語彙力」とその育成法、他、について考える。
15.	「国語科授業の作り手を目指す」 受講者全員によるミニプレゼンによる共有	各自が現時点で考える「国語科授業」について、プレゼン形式で発表するので、その準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:
新学習指導要領も「21世紀に生き抜く力を子どもたちにつけたい」という願いが前面に出ています。そんな力をつけられる教師へ。まずは、教師（をめざす者）が「主体的・対話的で深い学び」を実現していきましょう。「教科教育法基礎」よりさらに具体的な授業について考察し、それぞれ自分なりの授業のイメージも作っていきます。「大村はま」「遠藤瑛子」といった先達について学ぶことで、さらに「優れた実践」を探求するきっかけとしたいと思います。なお、上記授業内容もあくまで計画ですので、皆さんの参加の仕方、課題への取り組み等で内容は若干変化すると思われます。ご了承ください。

フィードバックの方法:
毎回の授業プリントは、課題と感想等と記入し提出する。フィードバックとして、その一部は次回において教室で共有する。必要ある場合は、教師が解説し、可能な限り学生同士でも考える。
レポートはプレゼン形式で授業内で各自が発表する。その際にコメント（あるいはそれに準じるもの）でフィードバックとする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
前時の確認	30	前時の授業内容の知識の理解・定着
授業への参加	50	ペアワーク参加等や授業プリント提出状況
プレゼン・レポート	20	国語授業提案のプレゼン・レポートの取り組み

教科書:
浜本純逸『国語科教育総論』（溪水社）
『中学校学習指導要領解説　国語編』（文部科学省　平成29年6月公示　まだ出版されていませんので文科省HPからダウンロード）

参考書:	柴田義松他『あたらしい国語科指導法（四訂版）』（学文社） 髙木まさき他『国語科重要用語辞典』（明治図書） 鶴田清司他『論理的思考力・表現力を育てる言語活動のデザイン　中学校編』（明治図書） 山元隆春『読者反応を核とした「読解力」育成の足場づくり』（溪水社） 松崎正治他『国語科教師の実践的知識へのライフヒストリー・アプローチ』（溪水社：現在はアマゾンによる オンデマンド ペーパーバック） 田中耕治編『時代を拓いた教師たち』（日本標準） 田中耕治他『新しい時代の教育方法』（有斐閣） 松下佳代他『ディープ・アクティブ・ラーニング』（勁草書房） 田中博之『アクティブ・ラーニング実践の手引き』（教育開発研究所） 山元悦子『発達モデルに依拠した言語コミュニケーション能力育成のための実践開発と評価』（溪水社）
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、
教員との連絡方法:	授業前・授業後の10分程度教室か控え室にいます。

819301、02

音楽科教科教育法基礎

垣内　　幸夫

授業テーマ:

・「中学校学習指導要領（音楽）」「高等学校学習指導要領（芸術）」の目標と内容を理解し、音楽科の教材研究・指導法・評価に関する実践力を身に付ける。

授業の概要:

本授業では、①「中学校学習指導要領（音楽）」「高等学校学習指導要領（芸術）」の目標と内容について、正しく理解することに重点を置く。②音楽科の特性を理解し、生徒の実態を視野に入れ、情報機器を活用した内容の音楽科学習指導案を作成する。③模擬授業ではアクティブ・ラーニングの手法を用いて、グループ学習による多様な題材の授業の実践を行う。グループ単位で学生たちが議論を展開し、共同で指導案を仕上げ、グループの構成員が行った模擬授業を振り返り、自ら発見した課題について互いに協力して主体的に解決する力を養う。さらに授業後の総括・発表・討論を経て、音楽の授業に対する理解を深め、個人レポートを作成する。④日本の音楽教育の歴史を学ぶことで、教材についての理解を深めるとともに、実践研究の動向を知り授業設計の向上に取り組む。

到達目標:

・中学校音楽科の目標と内容を理解し、音楽の授業ができるようになる。
・音楽科学習指導案が作成できる。
・模擬授業を実践し、多様な題材の音楽授業を追求することができる。
・実践研究の動向を知り、授業設計を行うことができる。

授業方法:

授業形態（講義、演習）。講義の後に講義内容に則してテストを実施し、レポート並びに学習指導案を提出する。グループ学習によって構想した模擬授業を実践する。模擬授業では情報機器及び視聴覚教材の活用を考慮する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	第1回:「中学校学習指導要領（音楽）」の理解1　音楽科の目標と各学年の指導内容	中学校音楽科の目標と各学年の指導内容について予習しておく。
2.	第2回:「中学校学習指導要領（音楽）」の理解2　歌唱（含む歌唱共通教材）・器楽	中学校音楽科の歌唱共通教材の任意の1曲を弾き歌いできるようにする。
3.	第3回:「中学校学習指導要領（音楽）」の理解3　創作・鑑賞及び「共通事項」	「共通事項」を理解し、簡易な曲の創作を試みておくこと。
4.	第4回:「高等学校学習指導要領（芸術）」の理解　音楽科の目標と科目編成	高等学校学習指導要領（芸術）」の音楽科の目標と科目編成について予習しておく。
5.	第5回:音楽科学習指導案1　音楽科学習指導案の原理・形式と評価規準	各自が教えたい教材を選んでくる。
6.	第6回:音楽科学習指導案2　音楽科学習指導案の作成	各自が選んだ教材による学習指導案の構想を練っておく。
7.	第7回:模擬授業の準備　題材の選択と教材研究及び学習指導案作成	グループ毎に行う模擬授業の題材について考えてくる。
8.	第8回:模擬授業1　＜能・歌舞伎・文楽＞・＜アジアの民族音楽＞による授業の実践	模擬授業のためのグループメンバーによる事前練習と当日配布する資料を準備しておく。
9.	第9回:模擬授業2　＜魔王＞（鑑賞）・＜大地讃頌＞（合唱）による授業の実践	模擬授業のためのグループメンバーによる事前練習と当日配布する資料を準備しておく。
10.	第10回:模擬授業3　＜花＞（歌唱）・身体表現による授業の実践	模擬授業のためのグループメンバーによる事前練習と当日配布する資料を準備しておく。
11.	第11回:模擬授業4　創作（創造的音楽学習）・＜オペラ・ミュージカル＞による授業の実践	模擬授業のためのグループメンバーによる事前練習と当日配布する資料を準備しておく。
12.	第12回:模擬授業の総括　全模擬授業の振り返りと学生による討論	全ての模擬授業の学習指導案を検討しておく。
13.	第13回:日本の音楽教育の歴史から音楽教育の意義を考察し、教材についての理解を深める。	音楽教育の意義について考えておく。
14.	第14回:日本の音楽教育の歴史から実践研究の動向を知り、授業設計の向上に取り組む	興味・関心のある授業実践例を調べてくる。
15.	第15回:21世紀の音楽科教育の展望と総括 定期試験は実施しない。	今後の音楽科教育の展望について述べられるように準備する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

受講生の皆さんが中学性の時に、あまり経験してこなかった題材についても積極的に取り組んでほしい。

フィードバックの方法:

①テストは採点して返却する。②学習指導案は添削して返却する。③模擬授業については教室で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
模擬授業に関する総括レポート	40%	模擬授業後のレポートにより達成度を評価する。
講義内容に関するテスト	20%	講義内容の理解度を評価する。
音楽科学習指導案の提出	20%	音楽科学習指導案の中身について評価する。
実践研究の動向に関するレポート	20%	調べ学習の成果を評価する。

教科書:

『最新 中等科音楽教育法[改訂版]』（中等科音楽教育研究会編、音楽之友社）
「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）
「中学校学習指導要領解説　音楽編」（平成29年6月 文部科学省）
「高等学校学習指導要領解説　芸術編 」（平成11年12月 文部科学省）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

Eメール（kaki@kyokyo-u.ac.jp）並びに授業の前後に教室内で応答する。

819401、02

中学音楽科教科教育法

本間　　晶子

授業テーマ:

授業の概要:

中学校学習指導要領「音楽」の目標・内容を理解した上で、表現領域及び鑑賞領域の授業プランを構想する。そのプランに基づいて学習指導案を作成して模擬授業を行い、それに対するディスカッションにより指導法を考察してゆく。主にグループ活動を中心に進められるので、コミュニケーション能力や時にはリーダーシップも求められる。常に積極的に活動に参加してゆくことが重要である。

到達目標:

1、中学校指導要領「音楽」の目標・内容について理解している。
2、具体的な授業プランを構想し、実践する力が身についている。
3、指導法について、自分の意見を述べることができる。
4、教材についての知識がある。

授業方法:

講義・演習・グループ活動

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の進め方、成績評価の説明等）。	履修登録目的を整理しておく。
2.	中学校学習指導要領「音楽」の全体構造と共に、目標・内容について理解する。。	教科書指定箇所の熟読。
3.	歌唱教材及びその指導法の研究Ⅰ。（中学校歌唱共通教材）	中学校歌唱共通教材の弾き歌い。
4.	歌唱教材及びその指導法の研究Ⅱ。（中学校歌唱共通教材以外の日本の歌）	歌唱教材の読譜。
5.	歌唱教材及びその指導法の研究Ⅲ。（外国の曲）	歌唱教材の読譜。
6.	歌唱共通教材及びその指導法の研究Ⅳ。（合唱曲）	歌唱教材の読譜。
7.	学習指導案の作成。	学習指導案の書き方の復習。
8.	作成学習指導案による模擬授業及びディスカッションと講評Ⅰ。（日本の曲）	模擬授業の準備。
9.	作成学習指導案による模擬授業及びディスカッションと講評Ⅱ。（外国の曲）	模擬授業の準備。
10.	作成学習指導案による模擬授業及びディスカッションと講評Ⅲ。（合唱曲）	模擬授業の準備。
11.	器楽指導の研究。	リコーダー奏法の復習。
12.	創作指導の研究。	創作指導法の立案。
13.	鑑賞教材及びその指導法の研究Ⅰ。（主に西洋音楽）	目的に即した鑑賞教材の選択。
14.	鑑賞教材及びその指導法の研究Ⅱ。（日本の伝統音楽・諸外国の民族音楽）	日本の伝統音楽の扱い方について考えておく。
15.	まとめ	今学期全般にわたって質問等あれば、整理しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:

教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60%	到達目標1の理解度により評価する。及び、指導法について、根拠をもって自分の意見を述べることができるかを基準とする。
模擬授業の発表内容	30%	指導案作成の習熟度、模擬授業の完成度などにより評価する。
授業に対する意欲・態度	10%	授業・グループ活動への参加度により評価する。

教科書:

「中等科音楽教育法」（音楽之友社）
「中学生の音楽1」、「中学生の音楽2・3上」、「中学生の音楽2・3下」、「中学生の器楽」（教育芸術社）

参考書:

「中学校学習指導要領解説　音楽編」（文部科学省）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:

授業の前後に教室内で対応。

819500

社会科教科教育法基礎

天野　　太郎

授業テーマ:　中学社会科教育の基礎と教育実習への導入

授業の概要:　中学校社会科教育に必要な基礎知識を身につけるとともに、指導案・模擬授業といった実践的な授業運営に向けての基礎的な能力を養うことを目標とする。さらにICT機器の活用やActive Learningの運用を実践的に行う。

到達目標:　中学校社会科の学習内容、学習方法を検討し、特に模擬授業づくりを通して、社会科教師としての専門性、実践力を身に付ける
・知識理解：中学校社会科教師としての専門性を深め、社会科の教科原理、目標、内容について十分な理解ができる。
・技能・態度：中学校社会科の年間計画や学習指導案の作成をとおして、授業実践に対する態度と技能を身に付けることができる。
・関心・意欲・態度：社会科の授業づくりと模擬授業を通して、社会科の授業実践に対する意欲と関心を持つことができる。

授業方法:　講義と指導案作成、模擬授業の基礎を合わせて行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　講義のガイダンス・履修指導	配布資料の確認
2.	中学校社会科の学習内容、学習方法を検討し、特に模擬授業づくりを通して、社会科教師としての専門性、実践力を身に付ける。	配布資料の確認
3.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～学習指導要領に基づいた授業づくり	配布資料の確認
4.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～地理学習における授業づくり	配布資料の確認、指導案の作成
5.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～歴史学習における授業づくり	配布資料の確認、指導案の作成
6.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～「身近な地域」の種類と設定の仕方（具体例）	模擬授業の準備確認
7.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～インターネットによる地図情報の収集・活用	模擬授業の準備確認
8.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～テーマ設定と学習指導案づくり、ワークシートの作成	模擬授業の準備確認
9.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～インターネットによる資料の収集と活用(1)	模擬授業の準備確認
10.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～インターネットによる資料の収集と活用(2)	模擬授業の準備確認
11.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～視聴覚機器を活用したフィールドワークの実際	配布資料の確認
12.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～テーマの再検討、ワークシートの修正	模擬授業の準備確認
13.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～ネット、パワーポイントを利用した授業の実際(1)	模擬授業の準備確認
14.	中学校社会科の授業づくり（事例研究） ～ネット、パワーポイントを利用した授業の実際(2)	模擬授業の準備確認
15.	全体の総括	指導案の再確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内の課題提出、指導案作成、模擬授業に対して随時適宜フィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業内でのコメントペーパー、小課題、指導案	50	到達目標:中学校社会科の学習内容、学習方法を検討し、特に模擬授業づくりを通して、社会科教師としての専門性、実践力を身に付けているか総合的に評価する。
指導案・模擬授業の内容	50	到達目標のなかで、中学校社会科の学習内容、学習方法を検討し、特に模擬授業づくりを通して、社会科教師としての専門性、実践力を身に付けているか総合的に評価する。

教科書:　文部科学省「中学校学習指導要領　解説　社会編」

参考書:　特になし。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業後の教室ならびにマナビー、メールを活用する。

819600

中学社会科教科教育法

藤原　　孝章

授業テーマ:　中学校社会科教育の実践的研究

授業の概要:　中学校社会科の学習内容と方法について、授業分析と教材研究、模擬授業などを通して、社会科授業の目標と意義、授業のあり方、指導法などについて理解を深め、中学校社会科教師としての専門性、実践性を身に付ける。

到達目標:
知識理解:社会科授業の目標と意義、授業のあり方、指導法などについて理解できる。
技能:社会科の教材開発、授業づくり、指導法に関する技能を向上させることができる。
関心・意欲・態度:社会科の授業づくりと模擬授業を通して、社会科の授業実践に対する意欲と関心を持つことができる。

授業方法:
指導案の研究と分析、作成、実践(模擬授業)などワークショップを中心とする
教員の協働を学ぶためにグループワーク活動を中心とする

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(授業のすすめ方、グループ分け)	必ず出席のこと
2.	社会科教材研究、授業のねらい	教科書、参考文献の熟読
3.	社会科授業の単元研究、単元計画1(グループA)	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究
4.	社会科授業の単元研究、単元計画2(グループB)	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究
5.	社会科授業の単元研究、単元計画3(グループC)	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究
6.	社会科授業の単元研究、単元計画4(グループD)	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究
7.	ふりかえりと改善。計画案の再提出1	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究
8.	ふりかえりと改善。計画案の再提出2	教科書、参考文献の熟読をしたうえでの社会科の教材研究
9.	模擬授業(グループA)	単元案、授業案づくり
10.	模擬授業(グループB)	単元案、授業案づくり
11.	模擬授業(グループC)	単元案、授業案づくり
12.	模擬授業(グループD)	単元案、授業案づくり
13.	ふりかえりと改善。授業案の最終提出1	単元案、授業案の検討
14.	ふりかえりと改善。授業案の最終提出2	単元案、授業案の検討
15.	最終レポートの提出と発表(社会科の授業の課題)	教科書、参考文献、単元案、授業案の熟読

受講者へのメッセージやアドバイス:　教職課程科目なので遅刻、欠席はないものとする

フィードバックの方法:
毎時間の講義対話カード(ふりかえりカード)へのコメント返却、クラスでの共有
教材開発、授業づくり及び模擬授業へのコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	講義対話カード(ふりかえりカード)、グループ活動・ワークショップなど授業に積極的に取り組んでいるか
授業レポート(中間)	40	授業研究／学習指導案／模擬授業など積極的に取り組んでいるか。授業目標が達成されているか
最終レポート	30	授業目標が達成されているか

教科書:　文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説　社会編』

参考書:
社会系教科教育学会編(2010)『社会系教科教育研究のアプローチ』学事出版
猪瀬武則編(2012)『究極の中学校社会科-公民編-』日本文教出版
全国社会科教育学会編(2011)『社会科教育実践ハンドブック』明治図書出版
藤原孝章編(2009)『時事問題学習の理論と実践―国際理解・シティズンシップを育む社会科教育』福村出版

唐木清志・西村公孝・藤原孝章(2010)『社会参画と社会科教育の創造』学文社
原田智仁編(2016)『社会科教育のルネサンス―実践知を求めて―』保育出版社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　e-mail

819760

家庭科教科教育法基礎

守野　　美佐子

授業テーマ:　家庭科教育と情報社会

授業の概要:　新学習指導要領の趣旨を理解し、まず、家庭生活と家族の抱える現在の諸課題に関し家庭科教育に何ができるかを探る。他領域にわたる家庭科の学習の関連性を認識し、学習効果、効率のよい年間指導計画の立案をめざす。また、中高生の情報リテラシーを育成するための学習を計画し、学習指導案を作成する。また、アクティブラーニングの手法を用い3～4名のグループで視覚教材やPCを活用し教材研究を行い、パワーポイントを使って互いの成果を発表し、意見交換の場をもつ。他者の発表を教育者の視点で評価する機会とする。

到達目標:
・新学習指導要領に示された家庭科の目標および主な内容並びに全体構造を理解できる。
・家庭科で学習する家庭生活と家族の抱える現在の諸課題について、教育者の視点で捉えられる。
・生徒の発達段階と学習内容の関連付けを考慮した年間指導計画が立てられる。
・情報社会における家庭生活を捉え、中高生の情報リテラシーを育成する学習指導案が作成できる。
・家庭科教育における情報メディアの活用、視覚教材やPCを活用した教材研究を実践発表できる。

授業方法:　講義、調べ学習、指導計画と指導案の作成、パソコン教室で教材を作成し発表（グループ活動）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	全体説明と新学習指導要領の趣旨の理解	新学習指導要領に目を通しておく
2.	学習指導要領の全体構造	中学校「技術・家庭」、高等学校「家庭」の教科書を見て、内容をつかんでおく
3.	家庭科教育の課題	家庭生活と家族の抱える現在の諸課題を調べておく
4.	年間指導計画の軸となる家庭科教育の目標	家庭科で何を学ばせたいか考えておく
5.	年間指導計画（1）中心軸となる目標設定と学習内容の関連性を考慮した計画	自分の中心軸となる目標を明確にしておく
6.	年間指導計画（2）目標と評価の明確化　学習効果と学習効率の視点からの修正	前時の計画を仕上げ、見直しておく
7.	情報社会における家庭生活（1）家族、福祉、コミュニケーション	ケータイやスマホの普及と人間関係について良し悪しを考えておく
8.	情報社会における家庭生活（2）衣食住、消費、環境	ネットショッピングやネット上のフリマについて、良し悪しを考えておく
9.	学習指導案（1）書き方とアクティブ・ラーニング（AL）の手法の活用	アクティブ・ラーニングの学習方法について調べておく
10.	学習指導案（2）視聴覚教材、PCを活用した学習指導案（時案）の作成	家庭科の授業に使えそうな、10分程度の視聴覚教材を探しておく
11.	パワーポイントを活用した教材研究（1）テーマ決めと計画（グループ活動	パワーポイントの良さを活かせる授業ができる内容を探しておく
12.	パワーポイントを活用した教材研究（2）教材作成	前時に分担した教材作成をすすめておく
13.	教材研究発表（1）前半グループ	発表者は準備しておく 聞く者は厳しい目で評価する
14.	教材研究発表（2）後半グループ	発表者は準備しておく 聞く者は厳しい目で評価する
15.	総評（学習内容の振り返りと学習成果の共有）	これまで学習した内容を振り返っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　各回のテーマについて、興味関心、問題意識を持ち、ニュースなどを見聞きするよう心がけるとよい。受け身ではなく自分の頭で考え、自分の問題意識や意見が持てるよう、主体的な学習をしてもらいたい。

フィードバックの方法:　提出物は添削し返却、 質問等は講義後に直接に受け応え、または、メールで受け応えする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
年間指導計画	30%	中心軸となる目標に沿って計画が立てられており、学習内容の関連性を考慮し、効率よく配列できていることを重視
学習指導案	20%	指導案の書き方が理解できていることと、アクティブ・ラーニングや視聴覚教材の活用などの工夫がみられることを重視
教材研究と発表	30%	テーマに沿って教材研究ができていること、分担協力して発表できることと、中高生にわかりやすいように工夫できていることを重視
平素の提出物	20%	提出を求める提出物への取り組み姿勢を評価

教科書:
池﨑喜美恵他著、家庭科教育、学文社出版
中学校学習指導要領（平成29年3月告示）、文部科学省
中学校教科書、技術・家庭　家庭分野、開隆堂出版
高等学校教科書、家庭総合　明日の生活を築く、開隆堂出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　メール　m.morino.bell@gmail.com

819861、62

中学家庭科教科教育法

浅井　　由利子

授業テーマ:

授業の概要:
中学校家庭科の目標、内容について学んだあと、すぐれた授業実践にできるだけ多くふれて、具体的なイメージができるようにする。授業実践を紹介しあうことで、いろいろな指導法や教材教具の工夫について共有する。また、教材教具を実際に作成して、授業案の発表と質疑応答を行い、相互評価により、よりよい授業づくりができるようにする。

到達目標:
①中学校家庭科の目標、内容について理解する。
②すぐれた実践から効果的な指導法、工夫された教材教具とはどのようなものか理解する。
③教材教具の工夫、作成、授業案の発表を行うことで授業を実践できる力を養う。

授業方法:
講義と演習を組み合わせて行う。4、5、13、14回については発表と質疑応答を行い、授業実践の内容と指導法の工夫について共有する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の到達目標、進め方、評価方法、提出物などの説明）	
2.	中学校学習指導要領より技術・家庭の家庭分野の目標、内容	学習指導要領の目標、内容を読んでおくこと。
3.	これまでの授業実践例について学ぶ	
4.	授業実践の紹介、発表（1）	すぐれた中学校家庭科の授業実践を選び、発表のレジュメを準備し、授業後、レポートを提出すること。
5.	授業実践の紹介、発表（2）	すぐれた中学校家庭科の授業実践を選び、発表のレジュメを準備し、授業後、レポートを提出すること。
6.	家族と家族関係（ロールプレイ他）	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
7.	幼児の生活と家族（遊びの意義、絵本づくりなど）	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
8.	中学生の食生活と栄養、日常食の献立（食生活点検、食材カードなど）	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
9.	衣服の選択と手入れ（実習「1枚の布をまとう」他）	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
10.	住居の機能と住まい方（住まいのイメージづくり、住まいに関する絵本紹介など）	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
11.	家庭生活と消費、環境（ビデオ、実験など）	学習指導要領解説、教科書の該当ページを読み、疑問点を明らかにしておくこと。
12.	教材、教具の作成	教材、教具の工夫についてアイデアを考え、準備をしておくこと。
13.	授業案を発表、討議（1）	教材教具を完成させ、指導法を工夫した授業案をまとめておくこと。
14.	授業案を発表、討議（2）	教材教具を完成させ、指導法を工夫した授業案をまとめておくこと。
15.	これまでの振り返りとまとめ	これまで学んだことを振り返り、レポートにまとめ、提出すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:
当たり前と思っている日々の暮らしを見直し、生活の中から課題を見つけ、解決策を考えることが大切である。さらに、中学生の実態について様々な情報を収集し、授業案を考える際に参考にしてほしい。

フィードバックの方法:
振り返り用紙はコメントをつけて返却する。授業実践の紹介、授業案の発表については教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
振り返りレポート	40	到達目標①を踏まえ、基本的な知識を身につけているかどうかを基準とする。
発表	30	到達目標③を踏まえ、わかりやすく発表できていることを基準とする。
レポート	30	到達目標②を理解した上で、どの程度独自の視点があるかを基準とする。

教科書:
『技術・家庭　家庭分野』（開隆堂）

参考書:
『中学校学習指導要領』（文部科学省）
杉山久仁子編著『新学習指導要領の展開　技術・家庭　家庭分野編』（明治図書出版）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
マナビーの掲示機能、Eメールを利用、授業の前後に教室内で応対

819901、61

教職特別演習Ⅰ

佐藤　　光友

授業テーマ:　教職にかかわるさまざまな諸問題を解決することができる実践力などを身につける。

授業の概要:　教職を志望する学生のために、これまで履修、習得した教職科目の専門的知識や技能を統合できるように、講義や集団討論を行う。また、教職に対する使命感と意欲の喚起を呼び起こし、実践的指導を備えた教師としての資質と能力を身につけることのできる講義や集団討論、小論文を含めた演習を行う。

到達目標:　教職を志望する学生のために、これまで履修、習得した教職科目の専門的知識や技能を統合し、教職に対する使命感と意欲の喚起を呼び起こし、実践的指導を備えた教師としての資質と能力を身につけることを目標とする。

授業方法:　講義/演習の混合、教職科目の専門的知識や技能を問う、小論文への取り組み。課題解決にかかわる学習場面においては、主に集団討論、ロールプレイ等を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション〔実践力を高め、児童生徒へのよりよい対応ができる教師を目指すために〕	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	教師としての質向上〔教師としての人間力〕	事前に与えた教師としての姿勢についての課題に取り組んでおくこと。
3.	教師としての質向上〔教師としての姿勢〕	事前に与えた教師としての姿勢についての課題に取り組んでおくこと。
4.	教師の対応力向上〔不登校への対応　その1〕	事前に与えた不登校への対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
5.	教師の対応力向上〔不登校への対応　その2〕	事前に与えた不登校への対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
6.	教師の対応力向上〔いじめへの対応　その1〕	事前に与えたいじめへの対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
7.	教師の対応力向上〔いじめへの対応　その2〕	事前に与えたいじめへの対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
8.	学級経営力向上〔担任としての対応　その1〕	事前に与えた担任としての対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
9.	学級経営力向上〔担任としての対応　その2〕	事前に与えた担任としての対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
10.	授業力向上〔単元計画と授業デザイン　その1〕	事前に与えた授業デザインついての資料を熟読しておくこと。
11.	授業力向上〔単元計画と授業デザイン　その2〕	事前に与えた授業デザインついての資料を熟読しておくこと。
12.	授業力向上〔模擬授業　その1〕	事前に与えた模擬授業の資料を熟読しておくこと。
13.	授業力向上〔模擬授業　その2〕	事前に与えた模擬授業の資料を熟読しておくこと。
14.	個人課題の確認と取り組み〔個人面接を中心に〕	事前に個人面談で相談したい事項を調べておくこと。
15.	まとめと振り返り	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　常に受験する府県・政令市、私立学校等の教員採用選考試験を視野に入れ、最高の自己アピールができるようにスキルアップを心がけよう。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
集団討論、ロールプレイ	20%	討論、ロールプレイでは、到達目標の教師として対応、配慮等を踏まえて発言しているかを評価する。
小論文作成・提出	30%	教職科目の専門的知識や与えられた課題を説得力をもって説明できるかを基準とする。
レポート提出	50%	教職科目の専門的知識や技能を統合して、与えられた課題を説得力をもって説明できるかを基準とする。

教科書:　同志社女子大生のための教職アプローチ

参考書:　適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

819902、62

教職特別演習Ⅰ

大黒　　孝文

授業テーマ:　実践的教師力を高める

授業の概要:　本講座は，教職を希望するみなさんの実践的な教師力を高めるために，特に教師として求められる資質能力と表現力に着目した演習を行う。具体的には教育課程の個々の科目の履修により修得した専門的知識や技能を統合し，教職に対する使命感と意欲の喚起を行い，教育現場で生きてはたらく基本的な資質と能力を身につけることを目標する。

到達目標:
・教員として必要な基本的知識と技能を獲得することができる。
・教員の立場で事象を判断し対応する能力を身につけることができる。
・教師になるための能力を伸張し自己表現することができる。

授業方法:　1:講義，2:演習，5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:教職への意欲喚起と個人目標の設定	教育現場の現状と採用試験に関わる疑問や質問等をまとめておく
2.	求められる教師像1:受験をする地域性から学ぶ	受験希望地の教育の特徴や採用状況を調査する
3.	求められる教師像2:教育現場の実態から学ぶ	ボランティア活動等の実践的活動を文章にまとめておく
4.	教師の身分と教育法規1	前時に配布する法規資料の内容を確認する
5.	教師の身分と教育法規2	配布した法規資料の内容を暗唱する
6.	学校教育に関する今日的課題	教育について報道される今日的課題について資料を集め，説明できるようにまとめる
7.	学級経営1	学校現場で起こる問題を想定し，対応策を考える
8.	学級経営2	前時で提示された教育的課題に対して指導方針を立てる
9.	生きる力と授業の目的1	生きる力の定義と意味をまとめておく
10.	生きる力と授業の目的2	生きる力の定義と意味を再確認しておく
11.	児童生徒の指導と支援1	場面指導の課題に対して対応方法を考える
12.	児童生徒の指導と支援2	場面指導の課題に対して対応方法を考える
13.	児童生徒理解とカウンセリングマインド1	場面指導の練習をする
14.	児童生徒理解とカウンセリングマインド2	前時までに指摘された課題の改善策を考える
15.	教職への意欲喚起とふり返り	全体のまとめとしてふり返る

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講座は教員志望の学生を対象にしています。事前に，教育現場における今日的課題や教育法規に関心を持ち，調査や資料収集を行ってください。そして，求められる教員像と今の自分に不足している資質・能力を認識し高める活動を指導・支援します。
可能ならば学校ボランティア等を通じて，教育現場の実態に触れることを強くすすめます。

フィードバックの方法:　提出物や発表は教室で個別に評価し解説する。同時に，改善点を指摘する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	40	到達目標の教員の立場で判断する場面を面接や討論，模擬授業において総合的に評価する。
提出物	30	到達目標の教員としての基本的知識と技能をレポートや小論文を用いて評価する。
授業への参加度	30	到達目標の討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。

教科書:　教職アプローチ第5版（教職論で事前配布）

参考書:　小学校学習指導要領解説　総則編（平成29年3月告示　文部科学省）
その他，適宜授業の中で紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応、オフィスアワー、Eメール等

820001、61

教職特別演習Ⅱ

佐藤　　光友

授業テーマ:　教職にかかわるさまざまな諸問題を解決することができる実践力などを身につける。

授業の概要:　教職を志望する学生のために、これまで履修、習得した教職科目の専門的知識や技能を統合できるように、講義や集団討論を行う。また、教職に対する使命感と意欲の喚起を呼び起こし、実践的指導を備えた教師としての資質と能力を身につけることのできる講義や集団討論、ロールプレイ、模擬授業、小論文を含めた演習を行う。

到達目標:　教職を志望する学生のために、これまで履修、習得した教職科目の専門的知識や技能を統合し、教職に対する使命感と意欲の喚起を呼び起こし、実践的指導を備えた教師としての資質と能力を身につけることを目標とする。

授業方法:　講義/演習の混合、教職科目の専門的知識や技能を問う、小論文への取り組み。課題解決にかかわる学習場面においては、主に集団討論、ロールプレイ等を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション〔実践力を高め、児童生徒へのよりよい対応ができる教師を目指すために〕	事前にシラバスを読んでおくこと。
2.	教師の対応力向上〔生徒指導への対応　その1〕	事前に与えた生徒指導についての課題に取り組んでおくこと。
3.	教師の対応力向上〔生徒指導への対応　その2〕	事前に与えた生徒指導についての課題に取り組んでおくこと。
4.	教師の対応力向上〔生徒指導への対応　その3〕	事前に与えた生徒指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
5.	教師の対応力向上〔生徒指導への対応　その4〕	事前に与えた生徒指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
6.	教師の対応力向上〔生徒指導への対応　その5〕	事前に与えた生徒指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
7.	教師の対応力向上〔生徒指導への対応　その6〕	事前に与えた生徒指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
8.	教師の対応力向上〔学習指導への対応　その1〕	事前に与えた学習指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
9.	教師の対応力向上〔学習指導への対応　その2〕	事前に与えた学習指導についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
10.	学級経営力向上〔保護者・地域対応　その1〕	事前に与えた保護者・地域対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
11.	学級経営力向上〔保護者・地域対応　その2〕	事前に与えた保護者・地域対応についての課題(小論文を含む)に取り組んでおくこと。
12.	授業力向上〔模擬授業　その1〕	事前に与えた模擬授業の資料を熟読しておくこと。
13.	授業力向上〔模擬授業　その2〕	事前に与えた模擬授業の資料を熟読しておくこと。
14.	個人課題の確認と取り組み〔個人面接を中心に〕	事前に個人面談で相談したい事項を調べておくこと。
15.	まとめと振り返り	自分なりに授業内容の総括をしておくこと。

受講者へのメッセージやアドバイス:　自ら決定した公立学校・私立学校の教員採用選考試験において最高の実力が発揮できるように、常に意識して自己アピールに磨きをかけ、スキルアップを心がけよう。

フィードバックの方法:　教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
集団討論、ロールプレイ	20%	討論、ロールプレイでは、到達目標の教師として対応、配慮等を踏まえて発言しているかを評価する。
小論文作成・提出	30%	教職科目の専門的知識や与えられた課題を説得力をもって説明できるかを基準とする。
レポート提出	50%	教職科目の専門的知識や技能を統合して、与えられた課題を説得力をもって説明できるかを基準とする。

教科書:　同志社女子大生のための教職アプローチ

参考書:　適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。

820002、62

教職特別演習Ⅱ

大黒　　孝文

授業テーマ:　教育現場で生かすことができる教師としての力量を高める。

授業の概要:　本講座は，教職を希望するみなさんの実践的な教師力を高めるために，特に教師として求められる資質能力と表現力に着目した実践的演習を行う。具体的には教育課程の個々の科目の履修により修得した専門的知識や技能と児童生徒の多様な発達上の課題についての知識・理解を統合し，教職に対する使命感と意欲の喚起を行い，教育現場に即対応できる資質と能力を身につけることをめざす。

到達目標:
・教員として必要な実践的知識と技能を獲得することができる。
・教員の立場で現実的に起こりうる事象を判断し対応する能力を身につけることができる。
・教師になるための実践的な能力を伸張し自己表現することができる。

授業方法:　1:講義，2:演習，5:講義/演習の混合

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:教職への意欲喚起と個人目標の設定	教育現場の現状と採用試験に関わる疑問や質問等をまとめておく
2.	求められる教師像1:受験をする地域性から学ぶ	受験希望地の教育の特徴や採用状況を調査する
3.	求められる教師像2:教育現場の実態から学ぶ	ボランティア活動等の実践的活動を文章にまとめておく
4.	教師の身分と教育法規1	前時に配布する法規資料の内容を確認する
5.	教師の身分と教育法規2	配布した法規資料の内容を暗唱する
6.	学校教育に関する今日的課題	教育について報道される今日的課題について資料を集め，説明できるようにまとめる
7.	学級経営(応用)1	学校現場で起こる問題を想定し，実践的な対応策を考える
8.	学級経営(応用)2	前時で提示された教育的課題に対して実践的な指導方針を立てる
9.	生きる力と授業の目的(応用)1	生きる力の定義と意味を確認し，自分なりのことばで表現する
10.	生きる力と授業の目的(応用)2	生きる力の定義と意味を確認し，自分なりのことばで表現する
11.	児童生徒の指導と支援(応用)1	場面指導の課題に対して実践的な対応方法を考え，練習する
12.	児童生徒の指導と支援(応用)2	場面指導の課題に対して実践的な対応方法を考え，練習する
13.	児童生徒理解とカウンセリングマインド(応用)1	場面指導の練習をする
14.	児童生徒理解とカウンセリングマインド(応用)2	前時までに指摘された課題の改善策を考える
15.	教職への意欲喚起とふり返り	全体のまとめとしてふり返る

受講者へのメッセージやアドバイス:　本講座は教員採用試験受験希望学生を対象にしています。事前に，教育現場における今日的課題や教育法規に関する学習内容を中心に，これまでの講義で各自が習得した知識を整理します。そして，求められる教員像と今の自分に不足している資質・能力を認識し，高める活動を指導・支援します。具体的には，ロールプレイや模擬授業等の演習を重視した学習活動が中心となります。
可能ならば，学校ボランティア等を通じて，教育現場の実態に触れることを強くすすめます。

フィードバックの方法:　提出物や発表は教室で個別に評価し解説する。同時に，改善点を指摘する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	40	到達目標の教員の立場で判断する場面を面接や討論，模擬授業において総合的に評価する。
提出物	30	達成目標の教員としての基本的知識と技能をレポートや小論文を用いて評価する。
授業への参加度	30	到達目標の討議演習や日々の学習に参加する状況の自己評価と他者評価を参考に評価する。

教科書:　教職アプローチ(教職論で事前配布)

参考書:　生徒指導提要(平成22年3月　文部科学省)
その他，適宜授業の中で紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に対応，オフィスアワー，Eメール等

820003、63

教職特別演習Ⅱ

中川　　美保子

授業テーマ:　人権尊重の精神に基づき，教師としての求められる適切な資質や能力について，実践を通して理解を深める。

授業の概要:　急激に変化する自然環境や複雑な社会状況を力強く生き抜く子どもたちを育てるために，教師として獲得しなければならない教師力や総合的な人間力を育成する。そのため、学級経営をはじめ生徒指導、教育相談などの各領域ごとに、基礎的知識や理論を講義と演習を通して考える。
演習では、グループ討議やロールプレイングを繰り返すことによって、実践力、コミュニケーション能力など実際に求められる力量を養成する。

到達目標:
1. 教師の社会的使命を理解し、今、求められる力量とは何かを深く理解する。
2. 教師としての実践力、コミュニケーション能力を養う。
3. 教師としての即時対応能力、コミュニケーション能力を養う。

授業方法:　講義と演習の混合；前半は講義を中心とし、各課題について，受講生と授業担当者との双方向的なやりとりを行う。後半は、各課題についてグループ討議，ロールプレイ実施後，受講生自身の自己評価と相互の他者評価を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	今，教師に求められる力とは　一学級経営から考えてみよう一	(復習)講義から、教師に求められる力量について400字以内でまとめたミニレポートを作成する。 (予習)生徒指導、教育相談の内容について、調べてくる。
2.	今，教師に求められる力とは　一生徒指導，教育相談から考えてみよう一	(復習)講義から、生徒指導、教育相談に必要な能力について400字以内でまとめたミニレポートを作成する。 (予習)独自のアクティブラーニングのアイデアを考える。
3.	今，教師に求められる力とは　一学習指導面から考えてみよう一	(復習)講義から、学習指導での留意点につて400字以内でまとめたミニレポートを作成する。 (予習)人権学習の導入に使用する資料を次回までに用意する。
4.	今，教師に求められる力とは　一人権尊重に基づいた子ども理解とは一	(復習)講義から、人権学習の導入部の指導案を作成する。 (予習)学校と地域の特色ある連携例を調べる。
5.	今，教師に求められる力とは　一保護者や地域の人たちとの連携について一	(復習)講義から、自分が教師だったらやってみたい保護者、あるいは地域との連携プランを400字以内でまとめる。 (予習)教員間の協力で、課題になるのはどのような点か調べてくる。
6.	今，教師に求められる力とは　一教員間の協力・協調の実際一	(復習)講義から、教師間の協力に関して、校務分掌間を例にして、関連図を作成する。 (予習)新教育課程の内容を調べる。
7.	グループ討議　教師としての実践力，コミュニケーション能力を養う　一新教育課程における教育課題への適切な対応とは一	(予習)学級経営あるいは教科指導における自己課題を設定する。
8.	グループ討議　教師としての実践力，コミュニケーション能力を養う　一学級経営，教科指導における自己課題の設定一	(予習)不登校問題について具体的な事例を設定し、適切な対応を考えてくる。
9.	グループ討議　教師としての実践力，コミュニケーション能力を養う　一子どもの不登校問題への適切な対応一	(予習)いじめ事例を設定し、加害者、被害者への具体的な支援について考えてくる。
10.	グループ討議　教師としての実践力，コミュニケーション能力を養う　一いじめ問題の理解と適切な対応について	(予習)発達に特徴がある子どもたちの現状を調べてくる。
11.	グループ討議　教師としての実践力，コミュニケーション能力を養う　一発達障がいの理解と適切な対応について	(予習)学級内で盗難事件が起こった場合の学級指導について、担任としてどうするか考えてくる。
12.	ロールプレイ　教師としての即時対応力，コミュニケーション能力を養う　一学級全体に起こった問題への対応一	(予習)仲間はずれになってしまった子どもへの個人的な支援について考えてくる。
13.	ロールプレイ　教師としての即時対応力，コミュニケーション能力を養う　一子ども個人に起こった問題への対応一	(予習)担任の教え方が悪いと管理職に抗議を申し入れている保護者との個人面談の方法について考えてくる。
14.	ロールプレイ　教師としての即時対応力，コミュニケーション能力を養う　一学校に不信感を持つ保護者への対応一	(予習)これまでの授業を振り返り、成果と課題を400字程度にそれぞれまとめてくる。
15.	教師としての普遍的な資質や能力，求められる教師力についての考察とまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　教師としての実践力を養う演習中心の授業です。積極的な姿勢で授業に臨んでください。

フィードバックの方法:
グループ討議、ロールプレイ・・・・即時のコメント
ミニレポート・・・教室でまとめて解説する
小論文　・・・添削して返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
グループ討議	20%	到達目標2に関して、発表での態度、表現、他者との協調性を基準とする。
ロールプレイ	20%	到達目標3に関して、自分の役割をどれほど理解し、表現できるかを基準とする。
小論文	40%	到達目標1に関して、論旨の一貫性、主張の適合性、表現能力を基準とする
ミニレポート	20%	到達目標1に関して、授業への積極的参加、意欲を基準とする。

教科書:

参考書:
学校教育法 （昭和22年3月　法律第26号）
生徒指導提要 （平成22年3月告示　文部科学省）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力
教員との連絡方法:	1. 授業の前後に教室内で対応 2. メールによる（mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp） 3. 研究室訪問してください。（C444）

820101、02

教職実践演習（中・高）

河江　優、仲　万美子、大江　宮子

授業テーマ:　教員としての必要な知識・技能を補完し、教職の学びのまとめを行う。

授業の概要:　今までの教育実習や課程外活動の学びを総括する。

到達目標:　①履修カルテを振り返り、完成させる。②現職教員ならびに教育関係者の講義から、教育現場や教職の現状を確認する。③グループディスカッション・ワークショップを通して、客観的な視点を広げる。④教職への自己の課題を確認し、知識や技能を補完する。その内容は以下である。＊音楽科指導法＊課外活動＊障がい児教育＊学級運営＊地域ならび社会的環境＊保護者との連携など。

授業方法:　①現職教員または教育関係者による講義。②3人の担当教員によるテーマ別授業：3回ごとに担当教員が変わる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション—授業の進め方について	音楽学科教職課程履修カルテを読み返す。
2.	教育現場から学ぶ—1	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
3.	教育現場から学ぶ—2	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
4.	教育現場から学ぶ—3	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
5.	教育現場から学ぶ—4	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
6.	教育課題の整理と理解：A−1	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
7.	教育課題の整理と理解：A−2	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
8.	教育課題の整理と理解：A−3	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
9.	教育課題の整理と理解：B−1	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
10.	教育課題の整理と理解：B−2	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
11.	教育課題の整理と理解：B−3	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
12.	教育課題の整理と理解：C−1	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
13.	教育課題の整理と理解：C−2	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
14.	教育課題の整理と理解：C−3	今週の講義課題について各自参考文献などに目を通す。
15.	音楽学科教職課程履修カルテの完成とまとめ	音楽学科教職課程履修カルテを読み返し、追記して完成させる。

受講者へのメッセージやアドバイス:　この授業は全出席を前提としています。各自の4年春学期までの学びに関連する資料を読み返し、また本講義で提示された観点について、新たな知識を積極的に獲得する努力を積み重ねてください。

フィードバックの方法:　授業中に記述した感想の内容を口頭により教室でまとめて解説し伝える。あるいは指定された内容について記入したコメントを担当者が入力したものを配布する。いずれの場合も、教員だけでなく将来教員を目指す受講生のコメントからも各自の課題を見いだし、自己実現力を高めてください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50%	積極的な知識習得に向けた姿勢から評価する。
レポート	50%	授業での提出物の内容、教職課程履修カルテの提出状況や内容から評価する。

教科書:　特に指定しない。

参考書:　授業時に適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　マナビーの掲示板機能、または授業後に教室で対応

820200

教職実践演習（中・高）

余田　　義彦

授業テーマ:
教職課程における学びの総まとめを通して情報科教員に求められる資質能力の向上を目指す

授業の概要:
「教職課程履修カルテ」を使って教職課程での学びを振り返り、そこで身につけてきた力量を以下の4つの事項と照らし合わせて自己点検評価する。(1)使命感や責任感、教育的愛情等に関する事項、(2)社会性や対人関係能力に関する事項、(3)生徒理解や学級経営等に関する事項、(4)教科の指導力に関する事項
そして、将来教員になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補い、教員としての資質能力を高める。最後にその成果を発表し、教員として最小限必要な資質能力が身についているかを確認する。

到達目標:
①【知識・理解】教職課程で学んだ生徒理解、学級経営、教科指導等に関わる基礎的・基本的な知識を説明できる。
②【関心・意欲・態度】使命感や責任感、教育的愛情をもって生徒に接しようとする。また、自己研修を通して教員としての資質能力を高めようとする。
③【表現・技能・能力】社会性や対人関係能力をもって行動できる。また、アクティブラーニングを意識した授業設計や教科指導ができる。

授業方法:
1回は講義、2～6回の「振り返り」と15回は発表と討議を通して行う。9～14回の課題解決活動は8回で設定した課題内容に応じて、事例研究、授業分析、学習指導案作成、模擬授業、役割演技（ロールプレーイング）、発表・討議などの方法で行う。現職教員による講義は、講師の都合上、土曜に行う。日程については年度はじめに講師、受講生の都合を調整して決める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション 教員に求められる資質能力について	発表準備
2.	教職課程履修の振り返り1（教職に関する科目）	発表準備
3.	教職課程履修の振り返り2（教科に関する科目）	発表準備
4.	教育実習の振り返り1（教材研究、教材開発、学習指導案作成）	発表準備
5.	教育実習の振り返り2（授業、評価）	発表準備
6.	教育実習の振り返り3（学級経営、生徒とのコミュニケーションなど）	発表準備
7.	現職教員による講義	
8.	情報科教員に求められる資質能力の自己点検評価と課題設定	発表準備
9.	課題解決活動	課題解決活動
10.	課題解決活動	課題解決活動
11.	課題解決活動	課題解決活動
12.	課題解決活動	課題解決活動
13.	課題解決活動	課題解決活動
14.	課題解決活動のまとめ	課題解決活動と発表準備
15.	成果発表とまとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
授業では毎回、MacBookAirを使いますので、初回から持参するようにしてください。

フィードバックの方法:
教室でまとめて解説します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加姿勢	30	全出席を前提とし、到達目標②の達成度を評価します。
講義や課題解決活動等のレポート	40	到達目標①②③の達成度を評価します。
「教職課程履修カルテ」の内容	30	到達目標①②③の達成度を評価します。

教科書:
文部科学省『高等学校学習指導要領解説情報編』開隆館出版販売

参考書:
向後千春『教師のための「教える技術」』明治図書出版
稲垣忠,鈴木克明『授業設計マニュアルVer.2: 教師のためのインストラクショナルデザイン』北大路書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
Eメール（yyoden@dwc.doshisha.ac.jp）、授業の前後に教室内で対応

820300

教職実践演習（中・高）

天野　　太郎

授業テーマ:　教職課程の集大成としての総合的・実践的な活動を通した教員としての理解の深化

授業の概要:　４年間の教職課程ならびに教員免許取得にむけた総合的な仕上げのステージとして、教職／教科に関する他の授業科目の履修や教職課程外での様々な活動を通じて、身に付けた資質能力が、教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されたかについて実践的かつ自発的に学習することを目標とする。教科教育知識の実践的な運用について学習するとともに、生徒や生徒を取り巻く社会環境の幅広い理解、そして教育現場における諸課題について学習する。

到達目標:　１:教員として最小限必要な資質能力として有機的に統合され、形成されることを目標とする。
２:教科教育知識の実践的な運用について学習するとともに、生徒や生徒を取り巻く社会環境の幅広い理解、そして教育現場における諸課題について理解することを目標とする。

授業方法:　座学のみならず、実際の模擬授業への参画、実践を行うことを通して指導力ならびに教科教育の理解力の総合点検と検証を行うとともに、校外学習を積極的に行い、現場の学校見学、同和教育や平和教育、地域教育の現場見学を通して、教育を取り巻く環境の総合的な理解の促進をはかる。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業のガイダンス	配布資料の確認
2.	ロールプレイング(1)　教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
3.	ロールプレイング(2)　教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
4.	ロールプレイング(3)　教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
5.	ロールプレイング(4)　教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
6.	ロールプレイング(5)　教科教育法学生を対象とした生徒／教師の立場からのロールプレイングと授業コメントを通したアドバイスの実践と指導力の確認	配布資料の確認・指導案の確認
7.	研究授業の実践を通した指導力の評価	配布資料の確認
8.	現職教員を交えた教育現場のワークショップ（土曜日・日曜日開講）	配布資料の確認
9.	現職教員を交えた教育現場のワークショップ2（土曜日・日曜日開講）	配布資料の確認
10.	教科教育内容に則した現地学習～京都の歴史	配布資料の確認・指導案の確認
11.	教科教育内容に則した現地学習～美術史	配布資料の確認・指導案の確認
12.	教育研究会／学校見学を通した教育課題の討議	配布資料の確認・指導案の確認
13.	同和教育／平和教育／地域教育に関する博物館見学学習を通した教育課題に関する総合（土曜日・日曜日開講）	配布資料の確認
14.	教育実習全体の振り返りから見た授業と学級運営のワークショップ	配布資料の確認
15.	全体の総括	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内にてコメントペーパーの内容について適宜評価・コメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ロールプレイングによる研究授業実践	40	到達目標1の達成度について総合的に評価する。
ワークショップにおける参画度・関与	40	到達目標2の達成度について総合的に評価する。
コメントペーパー	20	到達目標2の達成度について総合的に評価する。

教科書:　特になし。

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業内・後の教室ならびにオフィスアワーを中心として随時研究室にて行う。

820461、62

教職実践演習（中・高）

今井　　由美子、大塚　　朝美

授業テーマ:　未来の教員としてのさらなる資質能力の向上をめざして

授業の概要:　教職課程履修における振り返りを行う。

到達目標:　教職課程の授業および教職課程外での諸活動を通し、「教職課程履修カルテ」、「教育実習簿」の記録、ディスカッションやゲストスピーカーによる講義（講演） などをもとに、4年間の大学での学びを総合的に振り返る。本科目の履修を通し、教職に就く上での自己課題の確認、将来に向けての目標の設定を行う。

授業方法:　グループによる話し合い・発表などを取り入れ、教職課程履修を振り返る。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　授業の進め方	教職課程履修カルテは授業開始までに各自でプリントアウトしておくこと
2.	「教職課程履修カルテ」を用いて振り返り	振り返りレポート作成
3.	教育実習　振り返り(1)（テーマ：教科書分析）、まとめ、発表	振り返りレポート作成
4.	教育実習　振り返り(2)（テーマ：指導案作成と授業）、まとめ、発表	振り返りレポート作成
5.	教育実習　振り返り(3)（テーマ：教材作成）、まとめ、発表	振り返りレポート作成
6.	教育実習　振り返り(4)（テーマ：生徒への対応、先生方との連携）、まとめ、発表	振り返りレポート作成
7.	教育実習　振り返り(5)（テーマ：実習生としての諸問題への対応）、まとめ、発表	振り返りレポート作成
8.	教育実習　振り返り(6)（テーマ：教職課程を履修することの意義）、まとめ、発表	振り返りレポート作成
9.	ビデオ教材を用いて 「教師の役割とは」(1)	
10.	ビデオ教材を用いて 「教師の役割とは」(2)	
11.	ビデオ教材を用いて 「教師の役割とは」(3)	
12.	教育実習の記録冊子完成（『Viva! 教育実習』配布予定）	
13.	卒業論文発表会参加（振り替え）	
14.	ゲストスピーカー（高等学校教諭）を迎えての講義または講演会（2019年2月実施分として振り替え）	
15.	ゲストスピーカー（中学校教諭）を迎えての講義または講演会（2019年2月実施分として振り替え）	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　教育実習における学びを各自で「教職課程履修カルテ」に記入する。授業が始まる前に各自がカルテの記入ページをプリントアウトし、授業に持ってくること。カルテは担当者によりチェックされ、返却される。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
「教職課程履修カルテ」の利用方法および内容	30%	カルテの記述内容を評価する。
課題の提出	20%	課題の提出を評価する。
発表	10%	発表における内容・姿勢・態度を評価する。
積極的な参加姿勢	10%	授業における活動への貢献度を評価する。
教職講演会への参加・課題提出	30%	講演会への出席、課題提出を評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィス・アワーまたはemailにて連絡をとること

820561

教職実践演習（中・高）

高橋　　幸平、山田　　哲久

授業テーマ：
教育現場の実態を知る。

授業の概要：
講演や教育現場への参加を通じて、教育の実態（効果や問題点）に関する知識を獲得し、教員としての資質を高める。

到達目標：
1.教員としての使命や責任を理解している
2.教員としての職責や義務を理解している
3.学級経営について理解している
4.教科の指導力を十分に有している

授業方法：
講義をもとにした演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」：

	授業内容	準備学習等の内容
1.	中学校の現職教員による教育実践の講演会	
2.	ガイダンス(授業の進め方・評価方法など)	
3.	中高の教育現場―職務分掌―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
4.	中高の教育現場―担任業務―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
5.	中高の教育現場―クラブ活動―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
6.	中高の教育現場―国語教育と授業(1)―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
7.	中高の教育現場―国語教育と授業(2)―	教育実習での経験をもとに現職教員への質問事項を用意しておく。
8.	中高等学校の授業見学に向けた事前指導	
9.	中高等学校の授業見学	見学中に留意する点をあらかじめリストアップしておく。
10.	中高等学校の授業見学	見学中に留意する点をあらかじめリストアップしておく。
11.	中高等学校の授業見学	見学中に留意する点をあらかじめリストアップしておく。
12.	授業見学の事後指導	
13.	教育現場における重要問題に関する討論(1)	
14.	教育現場における重要問題に関する討論(2)	
15.	教育現場における重要問題に関する討論(3)	

受講者へのメッセージやアドバイス：
★重要★
授業に関する重要な情報はすべてマナビーを通じて連絡します。必ずスマホへの転送を設定しておいてください！

・授業見学は11月中のいずれか1日に、3コマ分（270分）を使って実施する。
・受け入れ先の事情によって授業見学が実現できない場合は、教育現場における重要問題に関する討論を実施する。

フィードバックの方法：
授業中の発言に対してコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」：

評価方法	割合	評価基準
		すべての回への出席を前提とする。 特に講演会・インターンシップ・授業見学はこの授業の基幹である。必ず出席すること。
講演会・インターンシップ・授業見学などのレポート	50	
授業・討議への貢献度	50	

教科書：

参考書：

獲得が期待される基礎的・汎用的能力：
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法：
学内メール：kotakaha@dwc.doshisha.ac.jp

820562

教職実践演習（中・高）

大島　　中正

授業テーマ:　教育現場の実態を知る

授業の概要:　教員としての資質を高めるために、教育現場への参加を通じて教育の実態に関する知識を体得する。

到達目標:
①教員の使命や責任を理解する。
②教員の職責や義務を理解する。
③学級経営について理解する。
④国語科の指導力を養うべく努力する。

授業方法:　教育現場での実習を中心とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	指示された課題にとりくむ。
2.	講義(下京中学校教員による)	指示された課題等にとりくむ。
3.	講義	指示された課題にとりくむ。
4.	実習	指示された課題にとりくむ。
5.	実習	指示された課題にとりくむ。
6.	実習	指示された課題にとりくむ。
7.	実習	指示された課題にとりくむ。
8.	実習	指示された課題にとりくむ。
9.	実習	指示された課題にとりくむ。
10.	実習	指示された課題にとりくむ。
11.	実習	指示された課題にとりくむ。
12.	実習	指示された課題にとりくむ。
13.	実習	指示された課題にとりくむ。
14.	実習	指示された課題にとりくむ。
15.	ふりかえり	指示された課題にとりくむ。

受講者へのメッセージやアドバイス:　公立中学校での実習が中心です。貴重な体験の機会が与えられることに感謝して真摯にとりくんでください。

フィードバックの方法:　第１回のオリエンテーション時に具体的な情報を提供します。適宜、個別にまたは全体に対応します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習校からの報告	80	
レポート	20	到達目標により評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力。

教員との連絡方法:　オフィスアワー。Eメールなど。

820660

教職実践演習（中・高）

川﨑　　祐子、藤本　　純子、浅井　　由利子

授業テーマ:　教員（特に家庭科）としての資質能力の向上と、教職に関する4年間の総まとめ

授業の概要:　授業の一環として中学校・高等学校の現職教員をゲストスピーカーとしてお招きして教育実践についての講義と質疑応答を行う。（現職教員の教育実践は、講師の方の都合上、授業期間外に行われることがある。）
教育実習における実践例は、原則としてL、S各学科代表1名が教育実習での研究授業を再現し、グループで相互評価を行う。L、S3年次生の教職科目履修者の授業見学を可とする。
授業後半では家庭科に関連するさまざまな話題を基にグループワークや討議を行うことで、教員としての資質能力の向上を目指す。

到達目標:　①中学校、高等学校の家庭科現職教員の教育実践に触れ、自らの教育実習体験と照らして教職に求められているものについて考える。
②教育実習中の体験や、4年間で学んだ教職課程及び教科にかかわる科目の授業内容、教職課程以外での様々な活動を「教職課程履修カルテ」を通して振り返り、現状・問題点・解決法について考える。
③テーマごとにグループで現状・問題点・解決法について話しあい、発表することを通して学生同士で問題点等を共有する。
④本科目の履修を通して、教職に就く上での自己の課題を確認し、さらに不足している知識や技能を自覚し、教員としての資質能力の向上を目指す。

授業方法:　教育実践の学びにおける討議・発表、各テーマでの問題点等の抽出や発表などはグループ討議を含む演習形式、その他は講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	現職教員の教育実践に学ぶ（中学校）	講義を通じて学んだことなどを専用のレポート用紙にまとめて第3回授業で提出すること。
2.	現職教員の教育実践に学ぶ（高等学校）	講義を通じて学んだことなどを専用のレポート用紙にまとめて第3回授業で提出すること。
3.	オリエンテーション（授業の進め方、担当者、評価方法などの説明）	教育実習で印象に残ったこと、中高のそれぞれに特徴的なこと、教員に必要なことは何かなど、次週までに考えておくこと。
4.	現職教員の教育実践に学ぶ（グループ討議・発表・全体討議）	全体討議の中で浮かび上がったことや討議を通じて感じたことなどをカードに記入し、次週提出すること。
5.	教育実習における実践例についての発表と討議（中学校）	教育実習での研究授業について振り返り、工夫した点や問題点、疑問点について考えておくこと。
6.	教育実習における実践例についての発表と討議（高等学校）	実践例および討議の内容を踏まえ、各自の教育実習での授業について振り返ること。
7.	「教職課程履修カルテ」（2.テーマ別学習記録）からのテーマの抽出とグループ分け	「教職課程履修カルテ」」（2.テーマ別学習記録）の記入済みのものを印刷して持参すること。自分にとって最も関心のあるテーマや課題は何か考えておくこと。
8.	選んだテーマの具体的な目標設定と計画策定	手に入れた情報、思考や作業の途中メモなどすべてポートフォリオに入れておくこと。
9.	必要な情報（課題解決に必要な基礎知識、過去事例など）の収集	各自図書館やネットなどで役立ちそうな文献資料、データ、事例等を探しておくこと。
10.	各グループでの情報分析、課題解決策の検討（1）	集めた情報から現状、問題点とその原因について箇条書きにしておくこと。
11.	各グループでの情報分析、課題解決策の検討（2）	グループでの話し合いをもとにさらに課題解決策についてできるだけたくさんアイデアをメモしておくこと。
12.	発表のための資料作成	集めた情報から発表に必要な情報を取捨選択しておくこと。
13.	発表と質疑応答	わかりやすく伝えるための発表の工夫、練習をしておくこと。
14.	課題解決策の提案とまとめ	ポートフォリオの中身を時系列に整理しておくこと。
15.	教職実践演習のまとめと「教職課程履修カルテ」wordファイルの回収確認、授業アンケートなど	4年間の教職科目の学び全てを振り返り、「教職課程履修カルテ」の必要事項をすべて記入し終えたことを確認し、wordファイルをマナビーで提出すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:　現職教員による教育実践講義は、3年次「教職オリエンテーション」と合同クラスで行います。また、教育実習における実践例（研究授業）には3年次生が授業見学にきます。次年度教育実習に行く3年次生にとって良いお手本になるよう、積極的に討議・発表等に取り組んでください。

フィードバックの方法:　現職教員の教育実践に学ぶ（中学校・高等学校）レポートを第4回授業でいったん返却し、グループ討議の資料として活用する。討議の中で、相互に理解を深めあう。「教職課程履修カルテ」は3年次春、3年次秋、4年次春、4年次秋にマナビーを通じて提出を求め、コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表・討議への参加度	30	3名の教員がそれぞれ担当した授業回において、到達目標①～④を踏まえた授業への参加であったかを基準に評価する。
現職教員の教育実践についてのレポート	20	到達目標①についてはレポートを通じても評価する。
後半の授業での提出物	30	到達目標③④については、課題解決策の提案（ポートフォリオの凝縮まとめ）の提出物等で評価する。
「教職課程履修カルテ」	20	到達目標④に鑑み、4年間の教職科目の学びや自己評価など全てについて漏れなく記入されているかを評価する。
遅刻・欠席		厳しく減点する。

教科書:

参考書:　中学校学習指導要領解説、文部科学省
高等学校学習指導要領解説、文部科学省

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応、マナビーの掲示板機能

820760

教職実践演習（栄養教諭）

仲佐　　輝子、浅井　　由利子

授業テーマ:　栄養教諭としての資質能力の向上と、教職に関する4年間の振り返り

授業の概要:　現職栄養教諭の教育実践についての講義と質疑応答を行う。（現職教員の教育実践は、講師の方の都合上、授業期間外に行われることがある）教育実習における実践例は、代表2名が教育実習での研究授業を再現し、相互評価を行う。教職科目履修者の授業見学を可とする。授業後半では、教育実習などでの体験を基に現状把握と課題解決策についてグループワークを行う。

到達目標:
①現職栄養教諭の教育実践に触れ、自らの教育実習体験と照らして教職に求められているものについて考える。
②教育実習中の体験や、4年間で学んだ教職課程及び教科に関わる科目の授業内容、教職課程以外での様々な活動を「教職課程履修カルテ」を通して振り返り、資料収集、問題点とその原因の分析から課題解決策を明らかにする。
③グループで選んだテーマについて現状・問題点・解決策の提案をわかりやすく発表することで学生同士で問題点などを共有する。
④栄養教諭になる上で、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能などを補い、その定着を図る。

授業方法:　教育実践の学びにおける討議・発表、各テーマでの問題点等の抽出や発表などは、グループ討議を含む演習形式、その他は講義形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション（授業の進め方、担当者、評価方法などの説明）	
2.	現職教員の教育実践に学ぶ（小学校）(1)	講義を通して学んだことをレポートにまとめて第4回授業後に提出すること。
3.	現職教員の教育実践に学ぶ（小学校）(2)	講義を通して学んだことをレポートにまとめて第4回授業後に提出すること。
4.	現職教員の教育実践に学ぶ（小学校）(3)	講義を通して学んだことをレポートにまとめて授業後に提出すること。
5.	教育実習における実践例についての発表と討議(1)	
6.	教育実習における実践例についての発表と討議(2)	
7.	「教職課程履修カルテ」(3.テーマ別学習記録）からのテーマの抽出とグループ分け	「教職課程履修カルテ」を読み、自分にとって最も関心のあるテーマや課題は何か考えておくこと。
8.	選んだテーマの具体的な目標設定と計画策定	手に入れた情報、思考や作業の途中メモなど、すべてポートフォリオに入れておくこと。
9.	必要な情報（課題解決に必要な基礎知識、過去事例など）の収集	各自図書館やネットなどで役立ちそうな文献資料、データ、事例等を探しておくこと。
10.	各グループでの情報分析、課題解決策の検討(1)	集め情報から現状、問題点とその原因について箇条書きにしておくこと。
11.	各グループでの情報分析、課題解決策の検討(2)	グループでの話し合いを基にさらに課題解決策についてできるだけたくさんアイディアをメモしておくこと。
12.	発表のための資料作成	集めた情報から発表に必要な情報を取捨選択しておくこと。
13.	発表と質疑応答	わかりやすく伝えるための発表の工夫、練習をしておくこと。
14.	課題解決策の提案とまとめ	ポートフォリオの中身を時系列に整理しておくこと。
15.	教職実践演習のまとめと「教職課程履修カルテ」の完成	4年間の教職科目の学びすべてを振り返り、「教職課程履修カルテ」を完成させ、wordファイルをマナビーで提出すること。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　現職教員の教育実践に学ぶレポートについては教室でまとめて解説する。7～12回の授業後に提出する振り返り用紙については、コメントをつけて返却する。発表については、教室でまとめて解説する。
「教職課程履修カルテ」は、3年次春、3年次秋、4年次春、4年次秋にマナビーを通して提出を求め、コメントをつけて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	20%	授業での発表内容、討議への参加状況をもって評価する。
現職教員の教育実践委についてのレポート	10%	自らの教育実習体験と照らして教職に求められているものについて考えられているかを評価する。
後半の授業での提出物	30%	到達目標②を理解した上で、根拠ある情報を手に入れ、現状と問題点を整理できているかどうか、 また、課題解決策が具体的で他者に役立つものが提案できているかを基準に評価する。
後半の授業での発表	20%	到達目標③を踏まえ、根拠をもとに説明し、図表、概念図等を使い、わかりやすく簡潔に表現できているかを基準とする。
「教職課程履修カルテ」	20%	すべての項目について漏れなく記入されているかを評価する
遅刻・欠席		厳しく減点する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で対応する。また、マナビーの掲示板機能を使う。

820900

養護概説

大川　　尚子

授業テーマ:

授業の概要:

養護教諭は、学校に勤務する教育職員として、保健室の機能を生かし、専門的な知識や技能を有した専門職として位置づく存在である。このような、わが国の養護教諭の特質をさまざまな法律・行政施策や制度等との関連性をふまえて理解する。また、養護教諭の職務内容の基本を理解し、児童生徒の健康問題の把握や今日的課題を明確にしながら、養護教諭に求められる資質や望ましいありかたについて考える。

到達目標:

「知識・理解」
(1)学校保健活動の担い手としての養護教諭の役割、養護教諭の専門性を理解する。
(2)養護教諭の「職」としての「養護」の意味や、養護教諭制度の沿革と職務内容の変遷について説明できる。
「関心・意欲・態度」
(1)養護教諭の行う養護の概念や職務の体系を理解し、その実践の基礎的視点を持つ。
(2)児童生徒の健康問題に適切に対応するため専門職としての力量を有する。
(3)健康問題の発見・分析、判断から解決へと導く対応力、教育指導力を備える。
「表現・技能・能力」
(1)学校教育における組織活動を理解し、学校保健を推進する中核としての力量を確立する。
(2)養護教諭になるという意志を固める。

授業方法:

講義、演習が中心です。毎回発表、討論があります。グループワークによる共同制作や発表などを行います。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに　養護とは	特になし
2.	教育関係法令と教育行政	教科書をよく読んできてください。
3.	学校教育と学校保健	教科書をよく読んできてください。
4.	養護教諭	教科書をよく読んできてください。
5.	養護教諭の職務	教科書をよく読んできてください。
6.	保健管理	教科書をよく読んできてください。
7.	保健教育	教科書をよく読んできてください。
8.	健康相談	教科書をよく読んできてください。
9.	保健室経営	教科書をよく読んできてください。
10.	組織活動	教科書をよく読んできてください。
11.	安全管理と危機管理	教科書をよく読んできてください。
12.	子どもの現代的な健康課題（不登校・いじめ）とその対応	グループによる事前学習が必要です。
13.	子どもの現代的な健康課題（虐待・薬物乱用）とその対応	グループによる事前学習が必要です。
14.	子どもの現代的な健康課題（発達障害・メンタルヘルス）とその対応	グループによる事前学習が必要です。
15.	まとめ	特になし

受講者へのメッセージやアドバイス:

養護教諭の基本的な職務内容を理解するとともに、専門職としての養護教諭像をイメージできることが大切です。
養護教諭として望ましい活動は何か、求められる能力はなにか、その能力はどのようにして身につけられるのか等について一緒に学びましょう。

フィードバックの方法:

毎回、コメントペーパーを書いていただき、その内容についてフィードバックしていきたいと思います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	養護教諭に関する知識・理解度により評価する。
レポート	10%	養護教諭に関する知識・理解度により評価する。
発表・討論	10%	養護教諭に関する知識・理解度により評価する。
授業への参加度	10%	積極的に授業に参加しているか評価する。

教科書:

新養護概説（少年写真新聞社）

参考書:

学校保健実務必携（学校保健・安全実務研究会編）
児童生徒等の健康診断マニュアル平成27年度改訂（日本学校保健会）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:

nookawa@tamateyama.ac.jp

821000

教職実践演習（養護教諭）

橋本　　秀実、水本　　徳明

授業テーマ:
養護教諭としての資質・能力の向上～関係する全ての人との適切なコミュニケーションを図ることができる教員を目指して

授業の概要:
健康教育の進め方、養護教諭と他の教諭との連携、保護者との連携や保護者への健康教育、健康教育の現状と課題等のテーマについて、受講者各自が養護実習、看護学の各専門領域における臨地実習等で体験した内容に基づいて発表、全体討議等を行い、その過程で自らの体験を振り返ってそれぞれのテーマについて理解を深めるとともに、他の受講者の経験から学び、養護教諭としての知見を深め、視野を広くすることを目的とする。
また、模擬授業やロールプレイングにより実践的指導力を深める。これらのことを通して、養護教諭としての資質・能力を身に付けるとともに自らの不足している知識・能力を補う。

到達目標:
学校教育における養護教諭の役割を述べることができる
教育実習を振り返り、養護教諭としての自分自身の課題を見つめなおし、将来像を描く
保健指導や健康相談の実践的能力を高める

授業方法:
講義と演習、ディスカッションを中心に進める

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション チーム学校における養護教諭の役割	実習校の概要（児童生徒数、教職員数、校舎の形態と教室等の配置など）について振り返る
2.	教職の意義、教員の役割と職務内容	教職科目と教育実習での学習に基づいて、現代社会における学校教育の課題と教員の役割について考察する。
3.	学校経営、学級経営と養護教諭	実習校の教育目標について振り返る
4.	いじめや不登校等児童生徒指導及び特別支援教育における養護教諭の役割	実習校の児童生徒の特徴について振り返る。
5.	特別活動や課外活動における養護教諭の役割 保護者や地域社会との連携	実習校の地域の特徴について振り返る。
6.	学校保健計画	実習校での学校保健計画を振り返る
7.	学校保健における組織活動	実習校での学校保健組織活動を振り返る
8.	学校保健と保護者、地域との連携	実習校での保健教育・保健管理における保護者・地域との連携を振り返る
9.	いじめや不登校等の児童生徒への支援	実習校での事例を振り返る
10.	保健指導の実践1	保健指導案を作成し、模擬授業の準備をする
11.	保健指導の実践2	保健指導案を作成し、模擬授業の準備をする
12.	健康相談の実践1	実習校での健康相談事例を振り返る
13.	健康相談の実践2	実習校での健康相談事例を振り返る
14.	保護者との連携	実習校での保護者との連携を振り返る
15.	まとめ	今までの授業を振り返る

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
発表、ディスカッション、模擬授業やロールプレイなどについて、授業の際にコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	60%	学校教育における養護教諭の役割を述べることができる 教育実習を振り返り、養護教諭としての自分自身の課題を見つめなおし、将来像を描くことができる
発表・ディスカッション等	40%	模擬授業やロールプレイを通して保健指導や健康相談を効果的に実施することができる

教科書:
徳山美智子ほか編著．改訂学校保健　ヘルスプロモーションの視点と教職員の役割の明確化．東山書房
（2年次　学校保健テキスト）
采女智津恵編．新養護概説．少年写真新聞社
（2年次　養護概説テキスト）

参考書:
文部科学省．チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/_icsFiles/afieldfile/2016/02/05/1365657_00.pdf
文部科学省．教職員のための子どもの健康観察の方法と問題への対応
http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_icsFiles/afieldfile/2009/04/27/1260335_2.pdf
http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_icsFiles/afieldfile/2009/04/27/1260335_3.pdf
http://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/hoken/_
日本学校保健会．児童生徒等の健康診断マニュアル　平成27年度改定
http://www.gakkohoken.jp/book/ebook/ebook_H270030/index_h5.html#表紙
文部科学省．いじめ防止対策推進法
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1337278.htm
文部科学省．学校における子供の心のケア
https://anzenkyouiku.mext.go.jp/mextshiryou/data/seikatsu07.pdf

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、思いやる力

教員との連絡方法:
hihashim@dwc.doshisha.ac.jp

821100

養護実習

桝本　　妙子

授業テーマ:
学校教育における学校保健の役割とその内容について学び、養護教諭の職務の理解と認識を高め、実践能力を養うとともに、自らの目指す養護教諭像を描く

授業の概要:
実習校における4週間の実習と事前事後指導からなります。事前指導で養護実習に必要な技能を学び、実習に備えます。実習校では積極的に児童生徒と触れ合い、養護実践を学びましょう。事後指導では、自らの実習を振り返り、まとめるとともに、クラスでの報告を通して、学校の実態や校種の違いに対応した学校保健や養護実践について学びを深めます。

到達目標:
1. 学校保健活動及び養護教諭の職務、役割を述べることができる
2. 実習校の子どもの心身の状況・生活の状況、健康問題の特質を述べることができる
3. 子どもの保健・養護上の問題に対する方法や留意点を述べることができる
4. 自らの描く養護教諭像とその姿に近づくための課題を述べることができる

授業方法:
事前学習により、基礎知識を修得したうえで、講義や演習、実習を行い、自己評価、他者評価などによりよりよい実践方法等を学びます。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	人権教育・性教育オリエンテーション	3年次履修済
2.	現職教員に聞く	3年次履修済
3.	4年次事前学習：実習オリエンテーション、健康診断演習、保健だより作成演習、保健指導模擬授業、救急処置・ヘルスアセスメント・健康相談演習	学校保健、養護概説、フィジカルアセスメント等の既習科目を復習し、ロールプレイや模擬授業などの準備をする
4.	実習校での実習	翌日の計画にのっとって事前準備をするとともに実習の振り返りを行う。毎日実習記録に記入し提出する。
5.	養護実習報告会	実習を振り返り報告会資料を作成する

受講者へのメッセージやアドバイス:
養護教諭を目指すみなさんを応援します。知識と技術と心を磨いてすてきな養護教諭になりましょう。

フィードバックの方法:
実習前指導では授業時に全体または個人に直接フィードバックする
実習中は指導養護教諭から直接フィードバックを受ける

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習校での評価	60%	到達目標1～3について評価する
実習簿・報告書	15%	到達目標1～3について評価する
事前指導の発表等	10%	到達目標1～3について評価する
報告会	10%	到達目標1～3について評価する
最終レポート	5%	到達目標4について評価する

教科書:
2年次に使用した学校保健・養護概説の教科書
日本学校保健会.児童生徒の健康診断マニュアル平成27年度改定（Web入手可）

参考書:
山内豊明監修.　保健室で役立つステップアップフィジカルアセスメント.東山書房
文部科学省.教職員のための子どもの健康相談及び保健指導の手引き（Web入手可）
日本学校保健会.小学校保健学習の評価と指導（Web入手可）
日本学校保健会.中学校保健学習の評価と指導（Web入手可）
大谷尚子・森田光子編著.養護教諭の行う健康相談.東山書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:
必要な場合は研究室へきてください（H506）
メールでも構いません（hihashim@）

821201、02、61～63

教育相談

中川　　美保子

授業テーマ:　教育相談の理論及び方法を不登校、いじめ問題を教材として実践を通して理解する。

授業の概要:
（1）教育相談が学校教育に欠くことにできない重要な機能であることを理解する。
（2）学校教育相談の基礎となる知識や理論を知り、その代表的な活用方法を学ぶ。
（3）不登校、いじめなどへの具体的な支援の方法をグループ討議やロールプレイングを通したアクティブ・ラーニングを活用し主体的に学ぶ。
（4）チーム学校の機能を理解し、学校内外の関係者や専門家との連携の重要性を理解する。

到達目標:
（1）教育相談は、幼児、児童及び生徒が自らの長所を知り課題に対処し、集団の中で自らの個性を生かして成長する力を育めるように支援する活動であることを理解する。
（2）幼児、児童及び生徒の各発達段階の特徴を理解し、それぞれに適した支援の方法をカウンセリングの理論や技法の基礎を学ぶことによって身に付ける。

授業方法:
1：講義　教師の講義と、受講生のグループ討議、ロールプレイング、受講生全員による討議を組み合わせて行う。特にグループ討議を半数以上取り入れ、受講生の能動的な活動を促進する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学校教育における教育相談の位置づけを知る。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）教育相談のイメージを授業前後で比較する。
2.	教育相談に応用できる臨床心理学の基礎的な理論を理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）カウンセリングマインドという用語について調べてくる。
3.	実践事例を通して、教育相談における「カウンセリング・マインド」、「受容、傾聴、共感的理解」などの態度をどのように活用するかを考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）事例についての振り返り
4.	前時の学びから、さらに具体的な事例を題材にして、「カウンセリング・マインド」、「受容、傾聴、共感的理解」などの態度を実際にどのような場面でどのように活用できるか、グループで考え討議する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）不登校とはどのような状態のことなのかについて、自分なりの考えをまとめてくる。
5.	不登校とはどのような状態のことなのかについて理解し、不登校の前触れとして子どもたちが示すシグナルにはどのようなものがあるかをグループで話し合う。	「毎時のまとめ」の記入 （復習）グループ討議についてまとめる。
6.	前時の結果をグループごとに発表し、不登校の前駆状態にある子どもや不登校になった子どもへの適切な支援について、考えを深める。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）不登校の子どもたちにとって適切な居場所を提供するためにはどのような条件が必要かを箇条書きでまとめる。
7.	不登校の子ども本人やその保護者への適切な対応・支援について、先に考えた「受容、傾聴、共感的理解」などの態度を意識的に取り入れて、教師役と子どもや保護者役になって互いにロールプレイングを行い、実際に感じたことを述べ合うことでさらに適切な対応について考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）不登校に関して、授業者から出された課題についてのレポートを作成する。
8.	いじめ事象の機序を理解し、いじめ被害者が示すシグナルにはどのようなものがあるかを考える。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）いじめの定義からいじめを分類しまとめる。
9.	いじめ事象を犯罪型いじめと対人関係型いじめに大別し、対人関係のもつれを中心としたいじめ問題への支援として、カウンセリング・マインドに基づいた「受容、傾聴、共感的理解」などが重要であることを理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）対人関係型いじめへの対応への基本的な視点をまとめる。
10.	児童期、思春期の各発達段階によって、子どもたちの不適応や問題行動への支援の方法が異なることを理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）次週の授業で自分が演じる役作りをする。
11.	不登校、いじめ、虐待、非行など、子どもに関わる課題について、グループごとに1事例を取り上げ、前時2段階の発達段階に分けて、教師と子ども役を設定して2回のロールプレイングを行い、発達段階が支援のあり方と強く関連していることを実習する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）本時のロールプレイングについて振り返る。
12.	校務分掌での教育相談係としての行う教育相談と、教師全員が学校生活全般を通して行う教育相談について、それぞれの目的や、実際の相談のあり方について理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）スクールカウンセラーとはどのような業務を行い、教師とどのように連携しているのかを調べる。
13.	教育相談活動は教師個人で行えるものではなく、管理職・学年主任・生徒指導主事・養護教諭、スクールカウンセラーなどが日常的に体制を整えて、組織的に取り組む営為であることを理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （予習）「チーム学校」の取り組みについて、具体的な事例を調べてくる。
14.	チーム学校には地域の専門機関との適切な連携が不可欠であることを、事例を通して理解する。	「毎時のまとめ」の記入 「質問用紙」（適宜）の記入提出 （復習）機能としての教育相談に必要なことがらをまとめる。
15.	まとめと振り返り ーこれまで学んだ不登校、いじめ問題などを通して学校教育における教育相談の重要性を考えるー	（復習）レポートの作成

受講者へのメッセージやアドバイス:
自身の小学校、中学校、高校時代を振り返り、辛かったことやネガティブな体験を相対化し、それらの体験を教師としての強みとして、子どもたちに還元できる授業となることを願っています。

フィードバックの方法:
・毎回配布する「質問用紙」への回答は、次回の授業前あるいは授業内でコメントしてお返しします。
・毎回配布する「毎時のまとめ」を複数回提出していただき、評価してお返しします。
・提出されたレポートに関して、授業内で評価のポイントを解説します。

「成績評価方法」
「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート、小テスト	50%	到達目標（1）に関して、教育相談に関する知識を理解しているか、また教育相談への関心意欲の高さを評価基基準とする。
グループ討議、ロールプレイ	30%	到達目標（1）を理解し、到達目標（2）を習得し、自分の考えを適切に表現し、他者と協調的に関われるかを評価基準とする。
授業への積極的参加度	20%	到達目標（1）（2）と関連して、将来、教師となることを自覚し、授業に主体的に取り組むことができているかを評価基準とする。

教科書:

参考書: 生徒指導提要 （平成22年3月告示　文部科学省）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 思考力、コミュニケーション力、自己実現力

教員との連絡方法:
1. 授業の前後に教室内で対応
2. メールによる（mnakagaw@dwc.doshisha.ac.jp）
3. 研究室訪問してください。（C444）

850101、02

国語

松崎　　正治

授業テーマ:　こどもの言葉の発達を踏まえた言葉の生活と文化の内容を学ぶ

授業の概要:　幼児教育と初等教育との連携を考えて、こどもの言葉の発達の様相を知り、幼児教育の言葉の領域・言語表現および小学校国語科の内容に関する専門的知識を学ぶ。

到達目標:
①こどもの発達、とりわけ言葉の発達の様相を理解している。
②幼児教育・初等教育において、こどもの立場を尊重し、こどもの状況を深く感受しながら、こどもの言語学習の基礎となる言葉に関する知識を理解している。
③言葉を用いて、自分が考えたことを、文脈や目的に照らして編集し、他者に効果的に提示、表現することができる。

授業方法:　講義形式・演習形式など様々な形態を組み合わせている。スピーチ演習を毎時間行う。話し合い、討論も行う。ビデオ教材を使うこともある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	シラバスをよく読んでおくこと。
2.	言葉の機能とこどもの言語発達～乳幼児期から学童期まで	学んだ内容をまとめておく。「私が言葉に出会ったとき」を記述する。
3.	言葉の教育の歴史～母語教育の思想と歴史	学んだ内容をまとめておく。「方言と共通語」について記述する。
4.	話すこと聞くことの教育の基礎(1)～話すことと聞くことの構造と内容	学んだ内容をまとめておく。スピーチの準備をする。(以後、毎回分担担当)
5.	話すこと聞くことの教育の基礎(2)～話すことと聞くことの方法	学んだ内容をまとめておく。スピーチの振り返りをする。(以後、毎回分担担当)
6.	読むことの教育の基礎(1)～絵本・紙芝居・人形劇や説明文などの教材研究①	使った作品を読み直し、学んだ内容をまとめておく。
7.	読むことの教育の基礎(2)～絵本・紙芝居・人形劇や説明文などの教材研究②	生かし方を自分なりに考え、学んだ内容をまとめておく。
8.	読むことの教育の基礎(3)～絵本・紙芝居・人形劇や物語などの教材研究①	使った作品を読み直し、学んだ内容をまとめておく。
9.	読むことの教育の基礎(4)～絵本・紙芝居・人形劇や物語などの教材研究②	生かし方を自分なりに考え、学んだ内容をまとめておく。
10.	読書指導の内容と方法	学んだ内容をまとめておく。
11.	書くことの教育の基礎(1)～書く力の発達　―話すことから書くことへ―	文章を書いてみる。
12.	書くことの教育の基礎(2)～書くことの内容と方法	文章表現を完成する。
13.	国語の特質に関する事項(書写も含む)	書写の練習をする。
14.	伝統的な言語文化・児童文化財	学んだ内容をまとめておく。
15.	全体の振り返りとまとめ　こどもの言葉の教育の課題と今後の展望	全体を振り返って、レポートにまとめる準備をする。

受講者へのメッセージやアドバイス:　言葉は面白い。生きています。それを実感していきましょう。

フィードバックの方法:　授業の中でコメントしたり、書いたものは教室の皆で共有して、学び合う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出物・発表	30%	内容に深まりがあるか、積極的に発表できているかを評価する。
スピーチ	10%	スピーチの基本を踏まえて他者に効果的に表現できているかを評価する。
レポート	60%	こどもの発達、とりわけ言葉の発達の様相を理解した上で、言葉に関する知識について、論理的に書けているか、内容に説得性があるか、自分が考えたことを、文脈や目的に照らして編集し、他者に効果的に提示、表現しているかを評価する。

教科書:
厚生労働省・内閣府『幼稚園教育要領／保育所保育指針／幼保連携型認定こども園教育・保育要領〈原本〉平成29年告示』チャイルド本社2017年
文部科学省『小学校学習指導要領解説　国語編　平成20年8月(平成27年3月付録追加)』東洋館出版2015年
旺文社編『小学漢字1006字の正しい書き方　3訂版』旺文社2010年

参考書:
岩立志津夫・小椋たみ子『よくわかる言語発達』ミネルヴァ書房2005年
山元悦子『発達モデルに依拠した言語コミュニケーション能力育成のための実践開発と評価』渓水社2016年
小椋たみ子・小山正・水野久美『乳幼児期の言葉の発達とその遅れ～保育・発達を学ぶ人のための基礎知識』ミネルヴァ書房2015年
無藤隆・汐見稔幸『イラストで読む！幼稚園教育要領保育所保育指針幼保連携型認定こども園教育・保育要領はやわかりBOOK　平成29年告示対応』学陽書房2017年
細川英雄，尾辻恵美，マルチェッラ・マリオッティ『市民性形成と言葉の教育――母語・第二言語・外国語を超えて』くろしお出版2016年
秋田喜代美『対話が生まれる教室―居場所感と夢中を保障する授業』教育開発研究所2015年
国立教育政策研究所『〈国研ライブラリー〉資質・能力 理論編』東洋館出版2016年
日本国語教育学会『国語教育総合事典』朝倉書店2011年
田近洵一・井上尚美『国語教育指導用語辞典　第四版』教育出版 2009年
全国大学書写書道教育学会『明解書写教育』萱原書房2009年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール、オフィスアワー

850200 **社会**

藤原　　孝章

授業テーマ:　小学校社会科の教材内容研究

授業の概要:
・小学校社会科の社会内容について理解を深め、社会科授業実践の前提となる教材の研究を行う。
・地域社会、日本の都道府県、国土、農林水産業、工業、金融情報サービス産業、日本の歴史、政治、国際社会、世界に関わる内容について、その見方・考え方を身につける
・多様な視点からクリティカルに社会を見る目を養い、小学校教員としての資質を育成する。

到達目標:
知識理解:小学校社会科の教材研究を通して社会内容について理解を深めることができる。
技能:小学校社会科の教材研究を通して社会の見方・考え方のスキルを高めることができる。
関心・意欲・態度:社会を多様な視点からクリティカルに見る目を養い、社会について関心を高め、教員としての資質・態度を身に付けることができる。

授業方法:
講義および教材研究。グループ活動による教材の作成と発表。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション(講義のすすめ方)、エントリーシート	自身が使っていた社会科教科書、社会科地図帳の持参
2.	日本の白地図を使って、日本の地理と歴史を概観しよう1	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
3.	日本の白地図を使って、日本の地理と歴史を概観しよう2	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
4.	日本の白地図を使って、日本の地理と歴史を概観しよう3	スーパー、コンビニ、100円ショップ、道の駅の調査
5.	日本の白地図を使って、日本の地理と歴史を概観しよう4	スーパー、コンビニ、100円ショップ、道の駅の調査
6.	＜スーパー＞調べで、日本の産業、貿易と流通を考えよう1	スーパー、コンビニ、100円ショップ、道の駅の調査
7.	＜スーパー＞調べで、日本の産業、貿易と流通を考えよう2	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
8.	＜スーパー＞調べで、日本の産業、貿易と流通を考えよう3	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
9.	＜スーパー＞調べで、日本の産業、貿易と流通を考えよう4	社会科教科書、社会科地図帳の熟読
10.	映像資料から、小学校社会の内容(身近な暮らし)について考えてみよう1	参考文献の熟読
11.	映像資料から、小学校社会の内容(身近な暮らし)について考えてみよう2	参考文献の熟読
12.	映像資料から、小学校社会の内容(身近な暮らし)について考えてみよう3	参考文献の熟読
13.	ちがいのちがいカードから、子どもを支える法律について考えよう1	参考文献の熟読
14.	ちがいのちがいカードから、子どもを支える法律について考えよう1	参考文献の熟読
15.	まとめ	授業資料、授業ノート

受講者へのメッセージやアドバイス:
社会科指導法との関連が深い科目のため、欠席、遅刻はないものと考えておくこと

フィードバックの方法:
毎時間の講義対話カード(ふりかえりカード)へのコメント
グループ活動による教材調べ活動の発表に対するコメント

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	対話カードを含めて、積極的に授業に取り組んでいるか
課題(教材調べレポート)	40	積極的に取り組んでいるか。授業目標に到達しているか。
学びの確かめのための試験	30	授業目標に到達しているか。

教科書:
文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説社会編』東洋館出版社

参考書:
片上宗二編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり① “民主政治”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
木村博一編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり② “グローバル化”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
棚橋健治編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり③ “情報化社会”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
小原友行編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり④ 論争問題を取り上げた国際理解学習の開発』明治図書出版
岩田一彦編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑤ “エネルギー問題”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
田淵五十生編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑥ “人権”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
西脇保幸編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑦ “国際関係と平和”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
池野範男編(2005)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑧“資本主義経済”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
原田智仁編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑨ “国民的アイデンティティ”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版
森分孝治編(2006)『社会科教材の論点・争点と授業づくり⑩ “戦争と平和”をめぐる論点・争点と授業づくり』明治図書出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力
教員との連絡方法:	e-mail

850300

算数

今井　　敏博

授業テーマ:　幼児期の「数・量・形」から小学校第6学年までの算数の内容を理解する。

授業の概要:　幼児期における数・量・形の概念形成、小学校における算数の概念形成、公式の意味を理解することを中心に説明します。子どもが理解するという視点で受講生が意味を理解することを目標にしています。

到達目標:
1. 子どもの発達段階に応じた算数教材の系統性を知る。
2. 算数の公式が導かれる過程の意味理解を深める。
2. 教育実践・保育実践へ適用する関心・意欲・態度を身に付ける。

授業方法:　講義と小演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	子どもの数概念の発達と数概念の形成	数概念という用語を調べておく。 子どもの数概念の発達を復習する。
2.	子どもの命数法、記数法の習得	学校で学んだ記数法を思い出しておく。 命数法と記数法の違いを復習する。
3.	「数と計算」教材における加法・減法の概念	合成・分解と加法・減法の教材としての扱いを復習する。
4.	「数と計算」教材における乗法・除法の概念	乗法とその逆演算の除法の算数教材としての意味を復習する。
5.	「数と計算」教材における小数の加法・減法	小数の加法・減法の指導法を復習する。
6.	「数と計算」教材における小数の乗法・除法	小数の乗法・除法の指導法を復習する。
7.	「数と計算」教材における分数の加法・減法	分数の加法・減法の指導法を復習する。
8.	「数と計算」教材における分数の乗法・減法	分数の乗法・除法の指導法を復習する。
9.	子どもの量概念の形成	量概念という用語を調べておく。 子どもの量概念の形成を復習する。
10.	「量と測定」教材における測定の役割	測定という用語を調べておく。 測定の算数教材としての重要性を復習する。
11.	「量と測定」教材における面積を求める公式の導き方	面積を求める公式を導く方法を復習する。
12.	子どもの図形概念の形成	図形概念の形成過程を復習する。
13.	「図形」教材の系統性	小学校における図形教材の系統性を復習する。
14.	四角形の定義と性質	四角形の定義と性質から包含関係を復習する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　「わかった」という認識を経験しほしいです。「なるほど」という感覚からプラスの情動が生じ、プラスの情意を形成してほしいです。「算数の苦手な教師や嫌いな教師は算数が苦手で嫌いな子どもをつくりだす」と言われています。算数が嫌いでない子どもたちに育てる教育者・保育者になってほしいです。

フィードバックの方法:　授業内の小演習については、受講者（できた人）が発表して他の受講生に紹介します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標1，2に関する理解度を評価する。
授業への参加度	50	授業に前向きに参加し、到達目標3が身についているかを評価する。

教科書:　文部科学省、小学校学習指導要領解説 算数編（平成20年8月）、東洋館出版社

参考書:
日本数学教育学会編、算数指導用語辞典　第4版、東洋館出版社
中山理、算数再入門、中公新書
糸井尚子、子どもは小さな数学者、学文社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　オフィスアワー、昼休み時間、授業の前後に教室内で応対

850401、02 **理科**

大黒　　孝文

授業テーマ:　理科が大好きな教師になる

授業の概要:　小学校で理科を教える教師としての資質と能力の育成をめざして，理科の4領域における内容の理解をすすめ，実験・観察指導や実験開発を行なう基礎的な知識と技能を身につける。同時に，協同学習の5つの基本的構成要素を学び，学生自らが主体的で協同的に学ぶ学習体験をすることで，アクティブラーニング型の授業デザインができる基礎的な力を身につけることができる。

到達目標:
・小学校の理科授業に関する基礎的な知識や判断力を持つことができる。
・小学校学習指導要領理科の目的や内容を説明することができる。
・各領域における実験・観察を行い，学習指導を行なう基礎的な技能を身につけることができる。
・協同学習の理論を取り入れたアクティブラーニング型授業に関心を持つことができる。

授業方法:
1:講義，2:演習，3:実験実技実習（学内），4:講義/演習の混合
理科の4領域の学習内容の講義と実験観察の実技を交互に実施する中で，協同的な学習手法を体験的に取り入れた演習を行う。
ICT関連機器を取り入れた授業実践を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	これまでの理科学習をふり返り，自らの課題を見つけておく
2.	現在の理科教育の課題と意義	既習の理科学習内容をふり返り，理科に関わる今日的課題に興味を持って情報を収集する
3.	理科で使う力，着ける力（科学的リテラシーとは）	現行学習指導要領（理科）にある学習内容の確認 事前に配布するPISAとTIMSSの学習状況調査の実態と例題の確認
4.	生命・地球（生命分野の学習内容とポイント）	生命分野の既習内容の確認
5.	生命・地球（生命分野の実験技能とポイント：顕微鏡操作と光合成の実験演習）	顕微鏡操作方法の予習する
6.	生命・地球（地球分野の学習内容とポイント）	地球分野の既習内容の確認
7.	生命・地球（地球分野の実験技能とポイント：星座早見盤の製作と操作演習）	星座早見盤の使用方法について事前学習
8.	物質・エネルギー（粒子分野の学習内容とポイント）	粒子分野の既習内容の確認
9.	物質・エネルギー（粒子分野の実験技能とポイント：気体の発生実験演習）	気体の発生方法の予習をする
10.	物質・エネルギー（エネルギー分野の学習内容とポイント）	エネルギー分野の既習内容の確認
11.	物質・エネルギー（エネルギー分野の実験技能とポイント：振子の実験演習）	振り子の実験の予習をする
12.	学習指導要領の見方（領域と学年間の関連）	学習指導要領の小学校と中学校学習内容の関連をみる
13.	ケースメソッド教材で学ぶ理科指導1（手回し発電機による蓄電実験）	現行教科書6年理科（電気のはたらき）を読んでおく
14.	ケースメソッド教材で学ぶ理科指導2（手回し発電機による蓄電実験）	ケースメソッド教材から問題点を読み取り，改善と対策を考える
15.	まとめ	学習内容のふり返りとまとめを行う

受講者へのメッセージやアドバイス:　理科の学習内容や実験観察の技能は，みなさんがすでに経験した内容と現行指導要領から新たに取り入れられた学習内容があります。小学校で理科を教える教師として基礎的な知識と操作技能を身につけましょう。同時に，実験観察演習において，協同学習を取り入れたアクティブラーニング型授業を体験的に取り入れます。

フィードバックの方法:　提出物によって，教室でまとめて解説する場合と採点して返却する場合に分かれる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50	到達目標の理科に関する基礎的な知識や判断力，及び，学習指導要領の内容の理解度について評価する。
演習とレポート	40	到達目標の実験観察の技能実技の習得とレポートによる思考判断と理解が適切に記述できているかを評価する。
授業への参加度	10	到達目標のアクティブラーニング型授業への参加状況を自己評価と他者評価を参考にして評価する。

教科書:
小学校学習指導要領　理科編（平成29年3月告示　文部科学省）
小学校学習指導要領解説　理科編（平成29年3月告示　文部科学省）
プリント配布

参考書:
「プロ教師をめざす　新理科教育早わかり事典」明治図書
学習指導要領小学校理科新旧対照資料（平成29年3月　啓林館）
その他，適宜授業中に紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:　授業の前後で対応，オフィスアワー，Eメール等

850501、02

生活

笠間　　浩幸

授業テーマ:　幼少年期の発達課題と学びの特性から「生活」の課題を考える

授業の概要:　小学校教科「生活科」の特徴と、授業対象となる小学校1・2年生の発達的特性について、その基本的な理解を図る。特に自然や社会、人を対象とする直接的な体験活動が、どのように幼少年期の幼児・児童の学びにつながっていくかについて、受講生自らもいくつかの直接的体験を通して考える。この課題は大きく自然体験、調査、ものづくり、グループ活動となるが、この体験的な学びを通して生活科教育の目標理解と教材選択に関する選択眼が開かれることを目指

到達目標:
・幼児期から小学校低学年における発達の課題とそれにふさわしい教育内容・方法の課題について理解する。
・教科「生活」の誕生の意義とこれまでの変遷を知るとともに、今日の子どもの自然体験や社会体験の実態を踏まえた教育課題に取り組もうとする。
・個人及びグループによる体験的な学びを通して、自分たちの考えや大切な学びの内容を、他にもわかりやすく伝自えることのできる基本的な表現力を獲得する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 「生活」の内容・方法	自分が体験した生活科について振り返りをしておく
2.	生活科の経緯の振り返り 本授業でのプロジェクト課題に関する提案	自分が調査で取り組んでみたテーマについて考えておく
3.	幼少年期の発達課題と生活科	生活科の持つ幼小接続の可能性を考えておく
4.	プロジェクト課題の検討会	グループワークについてのテーマと方法を考える
5.	泥だんごづくりの振り返り／プロジェクト課題の確認	グループワークについてのテーマと方法を考える
6.	野外探索活動	グループワークについてのテーマと方法を考える
7.	野外探索活動の振り返り／体験と学びの関係	野外活動での気づきをまとめておく
8.	子どもの主体的な活動と学びを引き出す教材研究（1）	グループワークについてのテーマと方法を考える
9.	子どもの主体的な活動と学びを引き出す教材研究（2）	グループワークについてのテーマと方法を考える
10.	子どもの主体的な活動と学びを引き出す教材研究（3）	プレゼンテーションの具体的な準備を行う
11.	プロジェクト発表準備検討会	プレゼンテーションの具体的な準備を行う
12.	プロジェクト発表（1）	プレゼンテーションの方法を学ぶ
13.	プロジェクト発表（2）	プレゼンテーションの方法を学ぶ
14.	プロジェクト発表（3）	プレゼンテーションの方法を学ぶ
15.	保育及び生活科の課題と可能性についてのまとめ	全体の学習内容と自らの学びの到達点を振り返っておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　自らの直接的な体験を取り入れた授業となるので、積極的な授業参加を求める。

フィードバックの方法:　授業時にコメントをする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
ミニレポート	20%	幼少年期の発達課題にふさわしい教材内容・方法の理解ができているかどうかを評価する。
最終レポート	50%	生活科教育の全体的な特徴の把握と自らも体験的に学ぶことができた教材研究の視点が明確になっているかどうかを評価する。
授業への参加度	30%	自らの課題意識を明確にし、グループでの話し合いやプレゼンテーションンに積極的に参加していたかどうかを評価する。

教科書:　小学校学習指導要領「生活編」

参考書:　適宜、授業時に紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　オフィスアワー

850601、02

音楽

垣内　　幸夫

授業テーマ:

小学校・幼稚園・保育所で音楽を取り上げる意義を考えながら、そこで扱う音楽内容について理解を深め、音楽の指導ができるようになる。また保育の場における音楽的環境構成について理解する。

授業の概要:

授業は「わらべうた遊び」「音楽と身体表現」「オルフ・シュールベルク」「コダーイ・システム」「音楽づくり」「歌唱」「器楽」「鑑賞」「指揮と伴奏」の各項目を実践的に学んだ後、まとめのレポートを提出する。
また、授業の最後に小学校歌唱共通教材の任意の1曲の「弾き歌い」、あるいは身体表現のための「即興伴奏」の実技テストを行う。

到達目標:

小学校・幼稚園・保育所で音楽を取り上げる意義について、自分の意見を述べることができる。
歌唱共通教材を弾き歌いすることができる。
即興的に伴奏を付けることができる。
小学校・幼稚園・保育所において、発達段階に合った音楽の指導ができるようになる。

授業方法:

演習・実技

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション わらべうた遊び（1）	わらべうたについて調べる。
2.	わらべうた遊び（2）	身体表現について調べておく。
3.	音楽と身体表現	作曲家カール・オルフ及びオルフ・シュールベルクについて調べる。
4.	オルフ・シュールベルク	作曲家コダーイ・ゾルターン及びコダイ・システムについて調べる。
5.	コダーイ・システム	創造的音楽学習及び音楽づくりについて調べておく。
6.	音楽づくり	小学校歌唱共通教材について調べる。
7.	歌唱（1）小学校歌唱共通教材	こどもに歌わせたい合唱曲について調べておく。
8.	歌唱（2）合唱	リコーダーを練習しておく。
9.	器楽（1）リコーダー	器楽合奏で担当したい楽器と演奏したい曲を準備しておく。
10.	器楽（2）器楽合奏	こどもに鑑賞させたい曲を探し、選曲した理由を考えておく。
11.	鑑賞	指揮と伴奏の練習をしておく。
12.	指揮と伴奏	実技テスト（1）弾き歌いのための準備・練習に励む。
13.	実技テスト（1）弾き歌い	実技テスト（2）即興伴奏の練習に励む。
14.	実技テスト（2）即興伴奏	総括のため全授業を振り返り意見が言えるように準備しておく。
15.	授業の総括	総括の場で積極的に討論に参加する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

こどもの発達段階をよく考えた音楽の指導ができるようにしましょう！

フィードバックの方法:

提出レポートについては、総括の時間に教室でまとめて解説する。
実技テストについては、テスト終了時に教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
提出レポート	40%	到達目標「小学校・幼稚園・保育所で音楽を取り上げる意義について」自分の考えを持てたかどうか、提出レポートの内容によって評価する。
実技テスト	40%	到達目標「歌唱共通教材を弾き歌いすることができる。」「即興的に伴奏を付けることができる。」の達成度を評価する。
授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標「発達段階に合った音楽の指導ができる。」ようになったかどうかを評価する。

教科書:

初等科音楽教育研究会編/『最新　初等科音楽教育法』（改訂版）音楽之友社
（＊秋学期開講の「音楽科指導法」（担当垣内）で同じ教科書を使用する）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:

分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、変化対応力

教員との連絡方法:

Eメール（kaki@kyokyo-u.ac.jp）並びに授業の前後に教室内で応答する。

850701、02

図画工作

竹井　　史

授業テーマ:　図画工作科の領域の理解と領域を支える教材研究のあり方

授業の概要:　図画工作科の授業を進める際のベースになる教材の本質について理解し、その本質的内容を具体化するための教材研究のあり方について、具体的な材料や用具をもとに学習する。

到達目標:　本授業では、図画工作科授業を進める際の内容領域の理解と教材研究力を育成することを目的とする。

授業方法:　図画工作科の授業を進める際に必要な内容に関し、実技をもとに行う。実習に際しては、集団活動をアクティブラーニングを意識した授業を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	表現するとは何か。豊かな表現とは何か。小学校学習要領等のねらいや内容について学習を深めつつ、表現活動の意義と実際について明らかにする。	小学時代を振り返り、自身がどのような表現をしてきたのかを思い起こし、その意義について考える。
2.	児童の絵画の発達の理解をもとに、表現を支える教育者の支援のありかたと環境づくりについて明らかにする。	自分自身が小学校、低学年、中学年、高学年の時に描いてきた表現について思い起こし、その違いについて考える。
3.	絵の具を使った活動について、基本的な色彩理論をもとに学習する	小学時代の絵の具の使用について、楽しかった点、難しかった点について考える。
4.	絵の具を使った活動に関する題材をもとに、絵画指導の支援と環境づくりについて学習する。	前時の学習をもとに、小学時代の絵の具の使用の指導のあり方について考える。
5.	色紙を使った工作やおもちゃ作りをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。	小学時代の工作について、楽しかった点、難しかった点について考える。
6.	ストロー、紙皿、紙コップなどを使ったおもちゃ作りをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。	小学時代に行ったストロー、紙皿、紙コップなどをを材料にしたおもちゃづくりについて、楽しかった点、難しかった点について考える。
7.	画用紙や工作用紙、段ボールなどを使ったおもちゃ作りをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。	小学時代に行った工作用紙や画用紙、段ボールなどの紙を材料にしたおもちゃづくりについて、楽しかった点、難しかった点について考える。
8.	ペットボトルや紙パックなどの空き容器を使ったおもちゃ作りをもとに、ものづくりの援助のあり方と環境づくりについて学習する。	小学時代に行ったペットボトルや紙パックなどを材料にしたおもちゃづくりについて、楽しかった点、難しかった点について考える。
9.	自然材(土や砂)による造形的な遊びをもとに、自然材を使ったものづくりの意義と援助のあり方、環境づくりについて学習する。	小学時代に行った自然材（主に土や砂）を材料にしたおもちゃづくりについて、楽しかった点、難しかった点について考える。
10.	自然材(泥土)による造形的な遊びをもとに、自然材を使ったものづくりの意義と援助のあり方、環境づくりについて学習する。	小学時代に行った自然材（主に泥）を材料にしたおもちゃづくりについて、楽しかった点、難しかった点について考える。
11.	自然材(小枝、木)による造形的な遊びをもとに、自然材を使ったものづくりの意義と援助のあり方、環境づくりについて学習する。	小学時代に行った自然材（主に小枝、木）を材料にしたおもちゃづくりについて、楽しかった点、難しかった点について考える。
12.	自然材による総合的な遊びをもとに、自然材を使ったものづくりの意義と援助のあり方、環境づくりについて学習する。	小学時代に行った自然材を材料にした総合的なおもちゃづくりについて、楽しかった点、難しかった点について考える。
13.	鑑賞とは何か。鑑賞授業をもとに、鑑賞授業の内容と進め方について学習する。	小学時代の鑑賞の授業を振り返り、楽しかった点、難しかった点について考える。
14.	ものづくりの題材をもとに表現領域における指導案の書き方のポイントについて学習する。	ものづくりの指導案とはどのような点に留意する必要があるか考える。
15.	教材研究とは何かについてこれまでの授業を振り返り、その要点についてまとめる。	授業を振り返り、教材研究とは何かについて考える。

受講者へのメッセージやアドバイス:　新指導要領では、主体的・対話的で深い学びの実現が目指されますが、そのような深い学びを支えるベースになるのが、深い教材研究力です。この授業では、教材研究に焦点をあて、具体的な事例をもとに、教材研究力の育成を目指します。授業で扱う教材の本質について自分なりに考えてみてください。

フィードバックの方法:　授業中の質疑、授業後のふりかえりによる。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業後の小レポート	70%	各課題の理解度
課題レポート	30%	課題レポートの切り口、内容およびレポートの論理性

教科書:　竹井　史著、『作って遊べる子どものart　bookまいにちぞうけい115』、メイト
『小学校学習指導要領』（平成29年告示　文部科学省）

参考書:　図画工作科教科書（日本文教出版、開隆堂）授業時に適宜紹介する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、

教員との連絡方法:　研究室、メール。メールは、最初の授業においてお知らせします。

850800 **家庭**

中山　　まき子

授業テーマ:　「自立し共に生きる生活を創る」ための深い教育力の獲得

授業の概要:　（1）小学校家庭科を担当するために必要な基礎知識（教科目標である目指す資質・能力、具体的な内容と構成、評価の観点、等）について深く幅広い理解を促す。
（2）家庭科における見方・考え方、すなわち「家族や家庭生活、衣食住、消費や環境などに係わる生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承と創造、持続可能な社会の構築等の視点」で捉え、よりよい生活を営むために工夫する知力・技能力、思考力等を鍛え、教材開発力を育む。
（3）児童の発達段階、家族・家庭生活、特別支援教育に敏感な教員力を養成する。

到達目標:　小学校家庭科の目標、すなわち「生活の営みに係わる見方・考え方を働かせ、衣食住などに関する実践的・体験的活動を通して、生活をよりよくしようと工夫する資質・能力」を、児童に育む教員として深く広い探究心と多様性に対応できる教育力を取得する。
また児童が、（1）自立及び共に生きる生活の創造を目指し、（2）主体的・対話的で深い学びができるような、家庭科の教育内容を創意工夫する力を身につける。

授業方法:　講義、個人発表、グループ発表等。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	新・学習指導要領の骨子を理解する―「カリキュラム・マネジメント」・「生きる力の具体化と三つの柱」・「アクティブラーニング」とは―	教科書と学習指導要領を準備して授業に臨む
2.	小学校家庭科の学びの目標を理解する―「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「学びに向かう力・人間性等」との対応から―	家庭科5年生、6年生の総授業時間と2年間の総計画表を用意してくる。
3.	家庭科の歴史的推移と小・中・高校の系統性及び内容の関連性の理解	明治以来の家庭科の歴史的変遷をノートにまとめておく。
4.	家族・家庭生活」に関する深い学びと教材研究・教材開発（1）	学習指導要領A領域をノートに整理してくる。
5.	「家族・家庭生活」に関する深い学びと教材研究・教材開発（2）	学習指導要領A領域の学び方、工夫を考えてくる。
6.	「衣食住の生活」に関する深い学びと教材研究・教材開発（1）	学習指導要領B領域をノートに整理してくる。
7.	「衣食住の生活」に関する深い学びと教材研究・教材開発（2）	米・味噌と日本の歴史、日本の料理法、世界の料理法について考えノート整理してくる。
8.	「衣食住の生活」で指定された題材＜調理・制作＞の実習指導の意義	家庭科での「実習」の意義と注意点について事前にノート整理してくる。
9.	「消費生活・環境」に関する深い学びと教材研究・教材開発（1）	学習指導要領C領域の学び方、工夫を考えてくる。
10.	「消費生活・環境」に関する深い学びと教材研究・教材開発（2）	学習指導要領C領域の幅広い学びについて各自がノート整理してくる。
11.	「複合的な教育内容」に関する深い学びとコンピューターや情報通信の活用	家庭科でのコンピューターやスマートホンの活かし方につて、各自考えカード化して持ち寄る。
12.	男女共同参画社会・少子化社会・高齢化社会の実態と学び、そして教材研究	男女共同参画社会基本法、少子化社会基本法を事前によみ、法の趣旨、意図をノートに整理し、小学校高学年教材への活用を考えてくる。
13.	食育基本法、ユネスコ無形文化財遺産登録（和食）と日本社会・国際社会の学び・教材研究（昆布・鰹・煮干しを中心に、出汁の「うまみ」の学びと実験を行う）	食育基本法を読み、さらに日常生活の中で、うま味／出汁がどのように用いられているのかを考え、レポート化してくる。
14.	「持続可能な社会の構築」と、消費者教育の推進、環境基本計画の学び	以下の2種の法律等を調べ、授業時に持参する。①サスティナビリティーに関する法律等、②消費者教育に関わる法律。
15.	「自立し共に生きる生活を創る」教育とその評価について	授業全体に対する疑問・感想等を整理して授業にのぞむ。

受講者へのメッセージやアドバイス:　2017年に改訂された新たな学習指導要領に基づき、学び方・学ばせ方の工夫を考えていこう。

フィードバックの方法:　各回のテーマで学生の調べ学習等で不足した内容や資料は、必ず教員が次回に補足・補填する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
（1）授業時最後に提出する小レポート・小課題など	40%程度	各自が配当された学びの諸課題に対して、指導内容を深めたレポートを作成できたか。
（2）目標・内容に関する深い調べ学習とその報告	40%程度	上記の到達目標、内容の達成度。
（3）「主体的・対話的で深い学び」をもたらす教材研究、教材開発、授業計画等の提案	20%程度	（2）の中で、とくに、主体性や対話に基づく学びが、どの程度重視され、発揮されていたか。

教科書:　文部科学省『小学校学習指導要領解説　家庭編』（2017年6月）
渡邊彩子監修『新編：新しい小学校家庭5・6』東京書籍（2014年2月20日検定済）

参考書:　加地芳子・大塚眞理子編著『初等家庭科概論』ミネルウァ書房、2011年
文部科学省他、家庭科の学習指導要領の改訂に向けた諸資料
授業内容に即し適宜、必要なものを提示・配布する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、プレゼンテーション力、リーダーシップ、自己管理力、変化対応力

教員との連絡方法:　初回授業で受講生には、質疑応答用のメールアドレス等を伝える。

850901、02

体育

宮尾　　夏姫

授業テーマ:　子どもの発育発達と運動指導

授業の概要:　幼児期から児童期に至る子どもの発育発達と該当時期に求められる運動遊びや運動指導のあり方を実技を通して理解を深める。体育において取り上げられる各領域について，その目的や特性に応じた基本的技能や求められる指導内容・指導方法について学ぶ。また保健分野の内容についても取り上げる。

到達目標:
・幼児期から児童期の子どもの発育発達を踏まえた，運動遊びや運動の指導方法を理解し，実践することができる。
・体育において取り上げられる各運動領域の目的，特性，指導内容，及び，指導方法について理解する。
・体育において取り上げられる各運動領域の基礎的技能を習得する。
・運動遊びやスポーツの楽しさを体感し，運動の日常化の重要性を理解し実践することができる。

授業方法:　各運動領域について，グループによる模擬指導等を含む実技，演習を行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	・シラバスの確認 ・小学校学習指導要領解説体育編及び幼児期運動指針をダウンロードし確認しておく
2.	体つくり運動系領域Ⅰ	・該当領域の内容について熟読しておく
3.	体つくり運動系領域Ⅱ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
4.	器械運動系領域Ⅰ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
5.	器械運動系領域Ⅱ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
6.	器械運動系領域Ⅲ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
7.	陸上運動系領域Ⅰ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
8.	陸上運動系領域Ⅱ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
9.	ボール運動系領域Ⅰ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
10.	ボール運動系領域Ⅱ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
11.	ボール運動系領域Ⅲ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
12.	表現運動系領域Ⅰ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
13.	表現運動系領域Ⅱ	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
14.	保健領域	・該当領域の内容について熟読しておく ・模擬指導の準備をしておく
15.	まとめ	・授業全体の資料を見直し，技術と指導のポイントを整理する

受講者へのメッセージやアドバイス:　幼児期・児童期の運動指導は非常に重要な役割を担っています。運動あるいは体育に対する好き嫌い，得手不得手は人それぞれあるかと思いますが，目的や指導方法を理解し，動きの観察力を高めることは，指導者として極めて重要です。わからないことについて積極的に他者に尋ねる姿勢をもって望んでください。

フィードバックの方法:　毎時の学習ノートに対するフィードバックを次時のイントロダクション時に行う。また，模擬指導について各時間ごとにコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席と授業への参加	50	出席し，積極的に指導及び実技に参加しているか評価する
授業課題	20	課題の達成度(基礎的運動技能)について評価する
授業内容の理解	30	授業内容及び運動指導のポイントについて理解できているか毎時の学習ノートコメントを用いて評価する

教科書:

参考書:
文部科学省「小学校学習指導要領解説 体育編」2017，文部科学省HP
文部科学省「幼児期運動指針ガイドブック」
三木四郎著「新しい体育授業の運動学」2015，明和出版
杉原隆・河邉貴子編著「幼児期における運動発達と運動あそびの指導」2016，ミネルヴァ書房
岩田靖著「体育の教材を創る―運動の面白さに誘い込む授業づくりを求めて」2012，大修館書店

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　メール及びオフィスアワー(詳細は第1回目の授業で伝える)

851060

学校栄養教育論Ⅰ

小切間　美保

授業テーマ:　子どもをとりまく「食」の現状と栄養教諭の役割

授業の概要:　我が国における食生活の変遷の中で，食文化を含む食・栄養に関する課題と，学校給食法に基づく学校給食の目標および位置づけをふまえ，学校給食を通して食を営む力を育てるために，学校における栄養教育の意義と理論を学ぶ。特に食を通じた子どもの健全育成を目的とし，発育・発達過程に応じた食に関する栄養教育の理論と方法を学ぶことによって，栄養教諭として使命の自覚や，職務内容についての理解を深める。

到達目標:
・栄養教諭の使命と職務内容について理解し，科学的根拠に基づいた食に関する指導に意欲を持つ。
・学校給食の歴史と現状を知り，食に関する指導における学校給食の意義を説明できる。
・対象の発育・発達過程に応じた栄養教育の理論と方法を説明できる。

授業方法:　講義形式を基本とする。第5～7，11回には個人発表やグループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーションと科学的根拠に基づいた食育について	初回に第5～7回の課題について説明するので，まとめる
2.	栄養教諭制度創設の経緯と職務内容	第5～7回の課題についてまとめる
3.	食に関する指導に係る法令，諸制度	第5～7回の課題についてまとめる
4.	学校給食および食に関する指導における食文化理解の重要性	第5～7回の課題についてまとめる
5.	課題の発表：科学的根拠に基づいた食に関する指導（規則正しい食事と健康）	子どもの発育・発達過程に応じた栄養に関わる現状と課題についてまとめる
6.	課題の発表：科学的根拠に基づいた食に関する指導（話題の食品と健康）	子どもの発育・発達過程に応じた栄養に関わる現状と課題についてまとめる
7.	課題の発表：科学的根拠に基づいた食に関する指導（野菜，果物，乳製品の摂取と健康）	子どもの発育・発達過程に応じた栄養に関わる現状と課題についてまとめる
8.	子どもの発育・発達過程に応じた栄養に関わる現状と課題	学校における食に関する指導の現状と課題についてまとめる
9.	学校給食の意義と役割，および学校給食の現状 海外のSchool Lunch　Programとの比較	学校における食に関する指導の現状と課題についてまとめる
10.	学校における食に関する指導の現状と課題 （幼児，児童及び生徒の健康・栄養状態，食行動，食環境等に関する情報の収集・分析）	食に関する指導における行動科学の理論と応用についてまとめる
11.	食に関する指導における行動科学の理論と応用	食に関する指導における行動科学の理論と応用について復習する
12.	学校給食と栄養教育（発達に応じた学習教材の例）	食に関する指導の全体計画と栄養教諭の役割についてまとめる
13.	食に関する指導の全体計画と栄養教諭の役割	
14.	食に関する指導の学習指導案作成について	
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:　学校栄養教諭，または幼稚園・保育所の管理栄養士等を含めて，子どもの食育にかかわる専門職に関心のある方はぜひ履修してください。

フィードバックの方法:　授業に解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポートおよび授業への参加度	30	提出レポートと発表を通して，科学的根拠に基づいた食に関する指導内容と方法の理解度を評価する。 ※欠席は総合点から厳しく減点する。
試験	70	栄養教諭の使命と職務内容，学校給食の意義や栄養教育の理論・方法に関する知識および理解度を評価する。

教科書:
金田雅代，栄養教諭論，建帛社
新しい家庭5・6，東京書籍
食に関する指導の手引，平成22年文部科学省　東山書房
技術家庭[家庭分野]，開隆堂出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　研究室および授業前後の教室内で対応

851160

学校栄養教育論Ⅱ

小切間　美保

授業テーマ:　食に関する指導の実際

授業の概要:　学校栄養教育論Ⅰで学んだことを前提に，管理栄養士に求められている栄養アセスメントを基礎とした，学校教育現場に即した個人および集団の食に関する指導の方法と技術を学ぶことにより，栄養教諭の職務の実践について理解する。具体的には，家庭・地域との連携を含め，学校教育活動全体で取り組む食に関する指導の内容，計画，方法を習得する。

到達目標:
・食に関する指導としての各自のテーマについて指導案を作成し，模擬授業ができる。
・個別栄養相談指導や家庭・地域との連携に関する知識があり，対応方法が理解できる。

授業方法:　講義，学生による模擬授業，グループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	給食の時間における食に関する指導（地場産品，郷土料理の活用を含む）	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
2.	食に関する指導の実践演習①（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察）―家庭科（小学5年生）における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
3.	食に関する指導の実践演習②（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察）―家庭科（小学6年生）における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
4.	食に関する指導の実践演習③（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察）―技術・家庭科における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
5.	食に関する指導の実践演習④（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察）―体育科における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
6.	食に関する指導の実践演習⑤（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察）―保健体育科における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
7.	食に関する指導の実践演習⑥（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察）―生活科における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
8.	食に関する指導の実践演習⑦（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察）―道徳における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
9.	食に関する指導の実践演習⑧（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察）―特別活動における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
10.	食に関する指導の実践演習⑨（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察）―総合的な学習における食に関する指導―	2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておく。
11.	食に関する指導の実践演習⑩（指導案作成，模擬授業，相互批評と指導効果について考察） 家庭，地域と連携した食に関する指導（家庭の理解を深める活動及び地域へ広げる活動）	
12.	事例検討（教育実習の心構えを含む）とグループワーク	
13.	事例検討（肥満児童に対する個別指導や保護者への対応）とグループワーク	
14.	偏食や特別な疾病（食物アレルギー，肥満と痩せ，糖尿病）等の個別栄養相談指導と対応方法	事例検討のまとめのレポートを提出する。
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:
受講者数や習熟度により授業内容の順番等を変更することがある。
2～11回の模擬授業のテーマについて，学習指導要領や教科書，食に関する指導の手引などを調べて予習をしておくこと。
また，給食の時間における食に関する指導の指導案作成，事例検討のまとめのレポートを提出すること。

フィードバックの方法:　教室で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポートおよび授業へ参加度	20	指導案作成の完成度および模擬授業の実施能力を評価する。 グループワーク実施後にワークシートを提出し，学習態度を評価する。
指導案，模擬授業および試験	80	指導案作成のための知識とスキルを評価する。また，個別栄養相談指導等に関する理解度と対応方法に関する応用力を評価する。

教科書:
金田雅代，栄養教諭論，建帛社
新しい家庭5・6，東京書籍
食に関する指導の手引，平成22年文部科学省　東山書房
技術・家庭[家庭分野]，開隆堂出版

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　研究室および授業前後の教室内で対応

870100

地域保健活動システム論

桝本　　妙子

授業テーマ:　地域保健システムの理念、目的、すすめ方、発展過程と施策化を学ぶ。

授業の概要:　地域保健システムの理念、目的、すすめ方を理解し、個別援助のチームづくりから地域全体のシステムづくりへの発展過程を学ぶ。また、システム構築のための保健医療福祉の連携、コーディネート機能や施策化について学習するとともに、政策形成過程を学ぶ。

到達目標:
①地域保健システムの理念、目的、すすめ方について説明できる
②個別援助のチームづくりから地域全体のシステムづくりへの発展過程を説明できる
③システム構築のための保健医療福祉の連携、コーディネート機能や施策化、政策形成過程について説明できる

授業方法:　講義、グループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域保健システムの理念、目的、すすめ方	テキストp.166-168を読んでおく
2.	地域保健システムの発展過程、チームワーク	テキストp.168-174を読んでおく
3.	地域保健システムの事例紹介	前回授業の復習
4.	地域保健システムの事例検討	前回授業の復習とグループでの検討・まとめ
5.	地域保健システムの実際(1) 地域にある社会資源やシステムの検索と収集	前回授業の復習とグループでの検討・まとめ
6.	地域保健システムの実際(2) 住民のニーズに即した社会資源とシステムの適用	前回授業の復習とグループでの検討・まとめ
7.	地域保健システムの実際(3) 住民のニーズに即した社会資源とシステムの評価	前回授業の復習とグループでの検討・まとめ
8.	地域保健システムの実際(4) まとめ	前回までの授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は、保健師免許取得に必要な科目であり、3年次までに学習した関連科目の基礎的内容を復習して臨んでください。

フィードバックの方法:　講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントを講義時に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	課題への取り組みを含む授業への参加態度・意欲・成果を評価する。
レポート	50	到達目標①～③についての理解度と説明力を評価する。 なお、欠席は減点対象とする。

教科書:　『第4版　公衆衛生看護学. Jp　』荒賀直子・後閑容子編　インターメディカル　(2年次に使用したテキスト)

参考書:　適宜紹介

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:　講義前後で対応する

870200

家族相談援助論

三橋　　美和

授業テーマ:

授業の概要:　保健師が家庭で行う家族保健指導の目的、プロセス、役割を学ぶ

到達目標:
1.地域を構成する最小単位である個人・家族を対象とした保健指導の意義と、家族保健指導の目的、保健師の役割を理解する。
2.家庭訪問において保健師が行う健康問題のアセスメント、看護計画立案、実施、評価の展開方法を学ぶ。

授業方法:　講義およびグループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 保健師が行う家族を対象とした保健指導及び家庭訪問の特徴	教科書p177-180読んでおく
2.	家庭訪問のプロセス(1)訪問計画	教科書p181-184を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
3.	家庭訪問のプロセス(2)家庭訪問における保健指導の実際	教科書p181-184を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
4.	家庭訪問のプロセス(3)家庭訪問の評価	教科書p185-187を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
5.	家庭訪問の実際(1)新生児訪問の展開①	事前配布資料を読み、関連する施策等の情報収集をしておく
6.	家庭訪問の実際(2)新生児訪問の展開②	事前配布資料を読み、関連する施策等の情報収集をしておく
7.	家庭訪問の実際(3)筋神経系難病の家庭訪問の展開①	事前配布資料を読み、関連する施策等の情報収集をしておく
8.	家庭訪問の実際(4)筋神経系難病の家庭訪問の展開②	事前配布資料を読み、関連する施策等の情報収集をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やmanabeを用いて行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	60	到達目標の達成状況
レポート等課題の達成状況	30	到達目標の達成状況
授業への参加状況	10	出席、授業への積極性

教科書:　荒賀直子・後閑容子編、公衆衛生看護学.jp 第4版、インターメディカル（2年次に購入済み）

参考書:　授業内に適宜提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力

教員との連絡方法:　Eメールにて対応する

870300

公衆衛生看護活動論Ⅰ

三橋　　美和

授業テーマ:

授業の概要:　保健師が行う地区活動の目的、プロセス、役割を学ぶ。

到達目標:　公衆衛生看護活動における対象のとらえ方、健康課題の抽出、活動計画の作成についての理論と実際を理解する。とくに、地域を対象としてアセスメントする地域看護診断の種々の理論と方法、アセスメントに基づく活動計画の立案、並びにこれらのプロセスにおける保健師の活動の特徴を理解する。

授業方法:　講義およびグループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 公衆衛生看護活動(地区活動)とは 地区活動でめざすもの	教科書p97-98を読んでおく
2.	対象集団のとらえ方	事前配布資料を読んでおく
3.	活動方法上の主な特徴	事前配布資料を読んでおく
4.	地区活動の展開(1)地域看護診断	教科書p98-108を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
5.	地区活動の展開(2)地域看護診断	教科書p109-116を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
6.	地区活動の展開(3)地域看護診断	事前配布資料を読んでおく
7.	地区活動の展開(4)健康課題の抽出	事前配布資料を読んでおく
8.	地区活動の展開(5)健康課題の抽出	事前配布資料を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やmanabeを用いて行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	80	目標に対する理解度と説明力を評価する
授業への参加状況	20	授業への参加態度・意欲を評価する

教科書:　荒賀直子・後閑容子編、公衆衛生看護学jp 第4版、インターメディカル(2年次に購入済み)

参考書:　授業中に適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメールにて対応する

870400

公衆衛生看護活動論Ⅱ

三橋　　美和

授業テーマ:

授業の概要:　保健師が行う地区活動の目的、プロセス、役割を学ぶ。

到達目標:　公衆衛生看護活動における対象のとらえ方、健康課題の抽出、活動計画の作成についての理論と実際を理解する。とくに、地域を対象としてアセスメントする地域看護診断の種々の理論と方法、アセスメントに基づく活動計画の立案、並びにこれらのプロセスにおける保健師の活動の特徴を理解する。

授業方法:　講義およびグループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地区活動の展開(1)活動方針と目標の設定	教科書p128-134を読んでおく
2.	地区活動の展開(2)活動計画の立案	事前配布資料を読んでおく
3.	地区活動の展開(3)活動の展開:総合的プログラムでの展開	事前配布資料を読んでおく
4.	地区活動の展開(4)活動評価:評価の視点と特徴	教科書p134-137を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
5.	地区活動の展開(5)活動評価:評価方法	事前配布資料を読んでおく
6.	地区活動の展開(6)活動評価:PDCAサイクルによる地区活動の展開	事前配布資料を読んでおく
7.	グループ及び地区組織活動の支援(1)	教科書p148-164を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
8.	グループ及び地区組織活動の支援(2)	事前配布資料を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やmanabeを用いて行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	80	目標に対する理解度と説明力を評価する
授業への参加状況	20	授業への参加態度・意欲を評価する

教科書:　荒賀直子・後閑容子編、公衆衛生看護学jp 第4版、インターメディカル（2年次に購入済み）

参考書:　授業にて適宜提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメールにて対応する

870500

公衆衛生看護方法論Ⅰ

桝本　　妙子

授業テーマ:　公衆衛生看護における対象別活動方法の展開と保健師の役割

授業の概要:　地域で生活する個人・家族および集団の特徴や諸条件をふまえて、ライフサイクル（母子、成人、高齢者）に即した援助とすすめ方を学習する。

到達目標:
①地域における母子保健体系の法的根拠、展開方法とその中で果たす保健師の役割を説明できる。
②地域における成人保健体系の法的根拠、展開方法とその中で果たす保健師の役割を説明できる。
③地域における高齢者保健体系の法的根拠、展開方法とその中で果たす保健師の役割を説明できる。

授業方法:　講義および適宜グループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	地域母子保健の理念と現状	テキストp.238-246を読んでおく
2.	地域母子保健の実際(1)妊産婦の健康と保健指導	テキストp.250-251を読んでおく
3.	地域母子保健の実際(2)乳幼児の発達と保健指導	テキストp.251-255を読んでおく
4.	地域母子保健の実際(3)児童虐待の防止と発達障害児への支援（ゲストスピーカー）	テキストp.256-259を読んでおく
5.	地域成人保健の理念と現状	テキストp.261-272を読んでおく
6.	地域成人保健の実際	テキストp.272-281を読んでおく
7.	地域高齢者保健の実際	テキストp.282-304を読んでおく
8.	まとめ	前回までの授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は保健師免許取得に必要な科目であり、対象別看護の基本的内容については各自復習して授業に臨んでください。

フィードバックの方法:　講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントを講義時に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	課題への取り組みを含む授業への参加態度・意欲を評価する、
試験	70	到達目標①～③についての理解度と説明力を評価する。 なお、欠席は減点対象とする。

教科書:　『第4版　公衆衛生看護学. Jp』荒賀直子・後閑容子編　インターメディカル（2年次に使用したテキスト）

参考書:
『国民衛生の動向2017/2018』厚生統計協会
『標準保健師講座３　対象別公衆衛生看護活動』松田正巳他、医学書院
『新版保健師業務要覧』日本看護協会監修　日本看護協会出版会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　講義前後で対応する

870600

公衆衛生看護方法論Ⅱ

三橋　　美和

授業テーマ:

授業の概要:　公衆衛生看護活動における健康課題別支援の体系と方法を学ぶ

到達目標:　地域で生活する個人・家族及び集団の特徴や諸条件をふまえて、健康課題別の支援方法を学ぶ。具体的には、感染症、難病、障害者（児）、精神保健の各施策体系に基づいて展開される保健事業の法的根拠、展開方法と、保健師の役割を理解する

授業方法:　講義およびグループワーク

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 地域難病保健対策と保健師の役割(1)	教科書p306-319を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
2.	地域難病保健対策と保健師の役割(2)	事前配布資料を読んでおく
3.	地域感染症保健対策と保健師の役割(1)	教科書p357-392を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
4.	地域感染症保健対策と保健師の役割(2)	事前配布資料を読んでおく
5.	地域障害者保健対策と保健師の役割(1)	教科書p320-337を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
6.	地域障害者保健対策と保健師の役割(2)	事前配布資料を読んでおく
7.	地域精神保健対策と保健師の役割(1)	教科書p338-356を読んでおく 事前配布資料を読んでおく
8.	地域精神保健対策と保健師の役割(2)	事前配布資料を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:　各健康課題におけるわが国の今日的課題について、報道等から情報収集しておく。
保健医療システム論を復習し、各領域の法律・制度について確認しておく。

フィードバックの方法:　意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やmanabeを用いて行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
試験	80	目標に対する理解度と説明力を評価する
授業への参加状況	20	授業への参加態度・意欲を評価する

教科書:　荒賀直子・後閑容子編、公衆衛生看護学jp 第4版、インターメディカル（2年次に購入済み）

参考書:　授業内に適宜提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　Eメールにて対応する

870700

公衆衛生看護管理

桝本　　妙子

授業テーマ:　公衆衛生看護管理の理論と実際

授業の概要:　公衆衛生看護活動の組織や財政のしくみ、管理、評価、社会資源の開発など、地域特性に応じた公衆衛生看護管理の理論と実際を理解する。また、災害発生など健康危機管理における保健師活動の重要性と役割、援助の実際を学ぶ。

到達目標:　①公衆衛生看護管理の理論と実際を説明できる。
②健康危機管理の実際を説明できる。

授業方法:　講義および適宜グループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	公衆衛生看護管理の目的と機能	テキストp.483-484を読んでおく
2.	公衆衛生看護管理の対象と方法	前回の授業のまとめとテキストp.484-492を読んでおく
3.	継続教育と人材育成	前回の授業のまとめとテキストp.493-498を読んでおく
4.	専門的自律	前回の授業のまとめとテキストp.498-499を読んでおく
5.	災害時の保健師活動の理論	前回の授業のまとめとテキストp.405-427を読んでおく
6.	公衆衛生看護管理の実際(1)　グループワーク	前回の授業のまとめとグループワークのまとめ
7.	公衆衛生看護管理の実際(2)　グループワーク	前回の授業のまとめとグループワークのまとめ
8.	まとめ	前回までの授業の復習

受講者へのメッセージやアドバイス:　本科目は保健師免許取得に必要な科目であり、公衆衛生看護関連科目については各自復習して授業に臨んでください。

フィードバックの方法:　講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントを講義時に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業及びグループワークへの参加度	50	課題の取り組みを含む授業への参加態度・意欲・成果を評価する。
試験	50	到達目標①②についての理解度と説明力を評価する。 なお、欠席は減点対象とする。

教科書:　『第4版　公衆衛生看護学. Jp』荒賀直子・後閑容子編　インターメディカル（2年次に使用したテキスト）

参考書:　『新版保健師業務要覧』日本看護協会監修　日本看護協会出版会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:　講義前後で対応する

870800

公衆衛生看護展開論演習

桝本　妙子、橋本　秀実、三橋　美和

授業テーマ:

授業の概要: 模擬事例やモデル地域を用いた家庭訪問、健康相談、地域看護診断の演習により、保健師の専門的支援技術を習得する。

到達目標:
1. 事例検討および模擬演習により、家庭訪問及び健康相談における個人・家族に対する保健指導技術を習得する。
2. モデル地域の地域診断プロセスを体験することにより、地区管理活動に必要な基礎技術を習得する。

授業方法: 模擬事例やモデル地域を用いて看護活動を実践する演習を行う。地域看護診断（8回目以降）はグループで実施する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 家庭訪問①事前準備・家庭訪問の実際	
2.	家庭訪問②家庭訪問計画の作成（新生児訪問）	提示された事例について、訪問計画を立案する
3.	家庭訪問③家庭訪問の展開（新生児訪問）：シミュレーション学習	家族相談援助論の家庭訪問の展開方法について復習しておく
4.	家庭訪問④ハイリスク事例：育児支援事例の検討	事例の情報に目を通し、疑問点を解決し、関連する施策等の情報収集をしておく
5.	家庭訪問⑤ハイリスク事例：精神疾患をもつ事例の検討	事例の情報に目を通し、疑問点を解決し、関連する施策等の情報収集をしておく
6.	健康相談①乳幼児健診における問診・保健指導	事前配布された問診表に目を通し、疑問点を解決し、関連する施策等の情報収集をしておく
7.	健康相談②特定健診における問診・保健指導	事前配布された問診表に目を通し、疑問点を解決し、関連する施策等の情報収集をしておく
8.	地域看護診断①既存資料の分析	グループワークの進度に応じて、グループごとに授業までの準備作業を決めておく
9.	地域看護診断②既存資料の分析	グループワークの進度に応じて、グループごとに授業までの準備作業を決めておく
10.	地域看護診断③既存資料の分析	グループワークの進度に応じて、グループごとに授業までの準備作業を決めておく
11.	地域看護診断④地区踏査計画	グループワークの進度に応じて、グループごとに授業までの準備作業を決めておく
12.	地域看護診断⑤地区踏査	グループワークの進度に応じて、グループごとに授業までの準備作業を決めておく
13.	地域看護診断⑥健康課題の抽出	グループワークの進度に応じて、グループごとに授業までの準備作業を決めておく
14.	地域看護診断⑦健康課題の抽出	グループワークの進度に応じて、グループごとに授業までの準備作業を決めておく
15.	地域看護診断⑧グループ発表	グループワークの進度に応じて、グループごとに授業までの準備作業を決めておく

受講者へのメッセージやアドバイス: 関連科目に関する基礎知識は各自で復習（準備学習）のうえ授業に臨むこと。

フィードバックの方法: 意見・感想・質問等に対する解説やコメントは講義時やmanabeを用いて行う。
レポート、提出課題はコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題達成状況	70	課題達成状況
参加状況	30	出席、演習への参加状況

教科書: 特に指定しない

参考書: 関連科目の講義で用いた教科書、文献、レジメを活用する。その他必要に応じて提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力: 分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法: Eメールにて対応する

870900

公衆衛生看護学実習Ⅰ

桝本　妙子、橋本　秀実、三橋　美和

授業テーマ:

授業の概要:
自治体及び事業所での公衆衛生看護活動に参加し実践することを通して、既習の知識と技術を統合し、地域特性の把握、健康課題の理解、健康水準の向上を目指した看護活動展開方法等、公衆衛生看護活動の展開に必要な基礎的な能力を習得する。

到達目標:
1.地域（コミュニティ）診断を実施し、地域の健康課題を地域特性と関連付けて理解できる
2.公衆衛生看護活動実践機関の機能と役割及び事業の体系を理解できる
3.地域で生活する個人・家族・集団・組織のセルフケア能力を高めるための支援方法について理解できる

授業方法:
自治体及び事業所で実習する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自治体及び事業所において、既習の知識と技術を統合し、看護活動の企画・実施・評価を実施する。記録やカンファレンスを通して実習を振り返り、学びを深める	・既習科目を復習し、知識や技術を十分なものにしておく ・実習施設及び地域に関する情報収集とアセスメントを実施する ・実習で実施することが想定される事業や保健指導についての知識や技術の復習をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
実習受入れ施設が限られており、遠方となる場合がある。事前に調整を行う予定である。
施設により、実習スケジュールが異なる場合があるので、大学からの連絡に注意すること。

フィードバックの方法:
担当教員が実習施設に赴き、随時フィードバックを行う。また、実習記録はコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習施設での知識及び技術習得	80	実習目標1～3の到達状況
実習態度及び出席状況	20	主体的な学習や実習中の倫理的態度と積極的な行動、出席状況

教科書:

参考書:
関連科目の講義で用いた教科書、文献、レジメを活用する。その他必要に応じて提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
実習オリエンテーション及びmanabeにて提示する。

871000

公衆衛生看護学実習Ⅱ

桝本　妙子、橋本　秀実、三橋　美和

授業テーマ:

授業の概要:
自治体及び事業所での公衆衛生看護活動に参加し実践することを通して、既習の知識と技術を統合し、地域特性の把握、健康課題の理解、健康水準の向上を目指した看護活動展開方法等、公衆衛生看護活動の展開に必要な基礎的な能力を習得する。

到達目標:
1.地域（コミュニティ）診断を実施し、地域の健康課題を地域特性と関連付けて理解し、その対策を考えることができる
2.公衆衛生看護活動実践機関の機能と役割及び事業の体系を理解できる
3.地域で生活する個人・家族・集団・組織のセルフケア能力を高めるための支援方法について理解し、指導のもとで実践できる
4.社会資源の開発、サービスの事業化及びシステム化の必要性と方法を理解できる
5.健康危機に対して、組織的な管理体制やシステム構築の必要性と方法を理解できる
6.公衆衛生看護活動の理念と役割を理解できる

授業方法:
自治体及び事業所で実習する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	自治体及び事業所において、既習の知識と技術を統合し、看護活動の企画・実施・評価を実施する。記録やカンファレンスを通して実習を振り返り、学びを深める。	・既習科目を復習し、知識や技術を十分なものにしておく ・実習施設及び地域に関する情報収集とアセスメントを実施する ・実習で実施することが想定される事業や保健指導についての知識や技術の復習をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
実習受入れ施設が限られており、遠方となる場合がある。事前に調整を行う予定である。
施設により、実習スケジュールが異なる場合があるので、大学からの連絡に注意すること。

フィードバックの方法:
担当教員が実習施設に赴き、随時フィードバックを行う。また、実習記録はコメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
実習施設での知識及び技術習得	80	実習目標1～6の到達状況
実習態度及び出席状況	20	主体的な学習や実習中の倫理的態度と積極的な行動、出席状況

教科書:

参考書:
関連科目の講義で用いた教科書、文献、レジメを活用する。その他必要に応じて提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
実習オリエンテーション及びmanabeにて提示する。

880100、60

博物館概論

山田　　邦和

授業テーマ:　博物館とは何か

授業の概要:　現代社会の中で博物館は、生涯教育の場として、また文化の伝承と発信の場として、大きな役割を果たしている。しかしその一方で、博物館を取り巻く社会情勢はますます厳しくなりつつあり、従来の博物館に関する考え方が通用しなくなってきているのもまた事実である。この授業では、博物館の理想と現実を理解し、今後の社会の中で博物館がいかなる役割を果たすのか、考えていきたい。

到達目標:　博物館の社会的機能を理解し、博物館を生涯学習に役立てるための術を身につける。

授業方法:　講義形式とする。できるだけ画像や映像を使って理解を深めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	博物館の楽しみ	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
2.	博物館とは何か	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
3.	博物館法1	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
4.	博物館法2	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
5.	博物館法3	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
6.	博物館法4	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
7.	博物館の歴史（欧米）1	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
8.	博物館の歴史（欧米）2	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
9.	博物館の歴史（日本）1	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
10.	博物館の歴史（日本）2	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
11.	美術の博物館	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
12.	歴史の博物館	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
13.	理科系の博物館	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
14.	博物館の危機の時代	関連しそうな書物やウェブサイトに目を通す。また、実際の博物館を見学することが望ましい。
15.	まとめ	授業の内容をふりかえり、まとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業中の私語、携帯電話などの「内職」、勝手な退室などの他の受講生に迷惑になる行動は厳禁である。そうした場合、厳正に措置するので心得ておいていただきたい。とにかく、真摯に学ぶ意欲のある受講生の参加を期待する。

フィードバックの方法:　教室でまとめておこなう。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	100	授業の内容を的確に理解し、自分の言葉で説明できているかどうか。博物館の社会的機能を理解し、博物館を生涯学習に役立てるための術を習得できているかどうか。

教科書:

参考書:　全国大学博物館学講座協議会西日本部会編『概説博物館学』（芙蓉書房出版、2002年）1,900円＋税

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　kyamada@dwc.doshisha.ac.jp

880500

博物館資料論

天野　　太郎

授業テーマ:　博物館があつかう資料とは

授業の概要:　博物館とは、人類および自然の営為をしめすモノ（生物を含む）を収集し、それを恒久的に保存し、そして展示・普及する公共的な施設・機関である。その収集にあたっては綿密な調査・研究を行い、その成果を公表し学術的な貢献をすることによって、博物館は信頼を得る。このように博物館資料は博物館の基盤であり、根幹である。この講義では、博物館がとりあつかうさまざまな資料を概観し、それぞれの特徴と意味について考えてもらう。

到達目標:　博物館資料は実に多様であるが、それぞれの性格や特徴について把握できていること。またその資料は博物館においては恒久的に保存するものであり、保存・取扱についても理解できていること。

授業方法:　講義形式でパワーポイントを使用し、授業ごとにレジュメを配布する。できるだけ画像を使って理解を深めてもらう。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	博物館資料とは何か	博物館・美術館を見学すること
2.	博物館資料の分類	博物館・美術館を見学すること
3.	博物館の歴史資料	博物館・美術館を見学すること
4.	博物館の美術工芸品(1)　絵画	博物館・美術館を見学すること
5.	博物館の美術工芸品(2)　陶磁器	博物館・美術館を見学すること
6.	博物館の美術工芸品(3)　金工	博物館・美術館を見学すること
7.	博物館の美術工芸品(4)　木工・漆工	博物館・美術館を見学すること
8.	博物館の美術工芸品(5)　竹工・染織	博物館・美術館を見学すること
9.	博物館の美術工芸品(6)　彫刻	博物館・美術館を見学すること
10.	博物館の考古資料	博物館・美術館を見学すること
11.	博物館の民俗（民族）資料	博物館・美術館を見学すること
12.	写真資料と映像資料	博物館・美術館を見学すること
13.	博物館資料の自然科学的分析と複製、復元、シュミレーション	博物館・美術館を見学すること
14.	博物館における資料の取扱　展示・整理・収蔵	博物館・美術館を見学すること
15.	まとめ	これまでの講義の復習をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に関連する展示を見学すること。展示解説などに、講義で解説したキーワードを実物で確かめつつ作品を鑑賞してください。そして博物館はいろいろな種類があります。できるだけさまざまな博物館を見学してください。

フィードバックの方法:　授業中、あるいは授業前後で質問等があれば適宜解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	多様な博物館資料の性格と特徴の理解度と、博物館資料の保管・取扱に関する理解度により評価する。
授業への参加度	30	積極的に授業に参加すること。欠席は基本的に減点します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後で対応します。

880560

博物館資料論

五島　　邦治

授業テーマ:　資料の特性にあった展示法

授業の概要:　博物館での展示は、その資料の特徴によって、保存管理方法や展示方法が変わるので、その特性を十分に知る必要がある。また、展示の前提としての資料の調査も重要になる。この授業ではそうした資料に応じた展示・保存調査方法について話す。また随時、基礎知識として知って置かなければならない代表的な作品を紹介する。学外授業では博物館・美術館を見学し、実際の文化財を資料として観察したい。具体的に、作品を想定して博物館の展示を企画してみる。

到達目標:　主要な文化財の知識を得、適切な展示法を確立する。

授業方法:　講義形式で授業を進め、その都度プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	文化財の基礎知識	博物館へ行ってあらかじめ展示品と展示方法をみておいてほしい。
2.	資料の種類	文化財の種類を考えておく。
3.	紙と繊維	博物館で掛け軸と巻物を見て、どんな構造になっているのかを見ておくことが望ましい。
4.	木と漆	博物館で漆の作品にどんなものがあるかを見ておく。
5.	資料と展示方法	博物館へ行って、展示ケースの構造、種類を把握し、そこに何が展示されているかを見る。
6.	資料の保存方法と安全対策	博物館へ行って、展示ケースの中の作品がどのように安全に留意されているかを見てみる。
7.	資料の調査方法	博物館へ行って、資料の材質（何でできているか）を考える。
8.	地域調査と寺社調査	地域の中に文化財を所蔵する寺院や神社があるかを探してくる。
9.	資料購入と資料寄託	寺町の古美術商をめぐって、買わなくてもいいから、美術品を見てくる。
10.	資料の借用手順	博物館へ行って、他館や他の所蔵者から借用している作品を確認する。
11.	展示計画書の作成	博物館の展示を見て、どのような構成になっているか、目玉は何かを考える。
12.	博物館見学（学外）	見学に行く博物館について、あらかじめネットでどんな施設かを確認しておく。
13.	展示の工夫	博物館の展示を見て、展示品がよく見えるようにどのような工夫をしているか見てみる。
14.	展示とデザイン	展覧会のポスターを見て、目を惹くものをひとつ選び、どうしてそれがよかったのかを考える。
15.	展示企画書の作成（実習）	展示したい作品のリストアップをしておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業期間中、大学周辺の博物館を見学する。また、授業以外でも、ふだんから展覧会をたくさん見てほしい。

フィードバックの方法:　毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	
定期試験・展示企画書	70	定期試験は、客観テスト。展示企画書は授業中の指導により、オリジナリティーのあるものを作成する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　e-mail goshima@sky.plala.or.jp

880600

博物館展示論

大西　　秀之

授業テーマ:　展示から探る博物館の社会的役割

授業の概要:

博物館展示論という科目名から、ほとんどの方々は、本講義の内容は博物館の展示室における所蔵コレクションや陳列ケースなどのディスプレイの手法を学ぶのだろう、とイメージされるのではないでしょうか。しかし、そうしたディスプレイの手法は、あくまでも本講義で取り扱う対象・テーマであっても、決して学習の最終目的ではありません。

本講義の目的は、展示を通して博物館が担うべき社会的役割を再考するとともに、その役割をどのように展示によって果たすか具体的に検討することにあります。このため、本講義では、展示室のみに視野を限定せず、博物館を取り巻く社会状況までも射程に入れた博物館展示のあり方を追究したいと考えています。

到達目標:

・博物館展示の多様性と可能性を理解する。
・博物館展示や文化財行政に対して学芸員が果たすべく役割を理解する。
・博物館が担うべき社会的役割に対応した展示のあり方を理解する。

授業方法:

講義形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・また必要に応じてインターネット情報などを使用します。
・毎回授業内容に関する出題を行いコミュニケーションペーパーによってを収集する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	博物館展示とは？	事前にシラバスをよく読んで到達目標や評価方法などを確認しておいてください。
2.	博物館展示の目的と意義	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
3.	博物館展示とショーウィンドウ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
4.	多様な博物館展示	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
5.	博物館展示の歴史的変遷	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
6.	博物館から博情館へ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
7.	エデュテインメント	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
8.	ミュージアムショップと博物館展示	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
9.	ミュージアムコンプレックスの可能性	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
10.	体験学習と博物館展示	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
11.	博物館展示の企画・制作	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
12.	展示とミュージアム・マーケティング	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
13.	博物館組織と展示セクション	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
14.	展示に対す学芸員の責任・役割	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください。
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学びどう理解したのか整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

この講義の受講生の皆さんには、「宝物」の宝物殿や「珍品」の陳列室などといった固定的な既存のイメージに囚われず、展示のあり方から現代社会において求められている博物館の役割を、自ら見出して行かれることを期待します。

フィードバックの方法:

・コメントペーパーに対しては、次の授業の際に総評を交えた解説を行い、毎回返却します。
・定期試験は、終了1週間後にマナビーで評価基準を提示します。また希望者には、担当教員の研究室で採点したものを返却しますので各自受け取りにお越しください。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	論述試験では、到達目標である「博物館展示の多様性と可能性、展示に対する学芸員の役割、社会的役割に対応した展示のあり方」を、具体的事例を基に説明・論述できているかを評価の基準します。
授業への参加度	60%	到達目標を積極的に身に付けようとする姿勢や意欲を評価します。このため、原則的に毎回の出席とコメントペーパーの提出を求めます。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、批判力
教員との連絡方法:	オフィスアワーを含めご質問などには随時対応いたします。 また授業内でご提示するe-mailでも対応いたします。

880660

博物館展示論

瀬口　　眞司

授業テーマ:　展示から探る博物館の社会的役割

授業の概要:

博物館展示論では、所蔵コレクションや陳列ケースなどのディスプレイの基本的な考え方ももちろん学びますが、それは最終目的ではありません。

講義の最終目的は、博物館が担うべき社会的役割を〈展示〉を通して再考し、その役割を果たすために必要な観点や手法を具体的に検討するところにあります。

展示室だけに視野を限定せず、博物館を取り巻く社会状況までも射程に入れて、博物館とその展示のあり方を追究していきましょう。

到達目標:

・博物館展示の多様性と可能性を理解する。
・博物館展示に対して学芸員が果たすべく役割を理解する。
・博物館が担うべき社会的役割に対応した展示のあり方を理解する。

授業方法:

講義形式
・1～14回はパワーポイントを使用した講義を行います。
・また必要に応じてインターネット情報などを使用します。
・毎回授業内容に関する出題を行い、コミュニケーションペーパーによって収集する予定です。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	博物館展示とは？	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
2.	博物館展示の目的と意義	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
3.	博物館展示とショーウィンドウ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
4.	多様な博物館展示	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
5.	博物館展示の歴史的変遷	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
6.	博物館から博情館へ	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
7.	エデュテインメント	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
8.	ミュージアム・ショップと博物館展示	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
9.	ミュージアム・コンプレックスの可能性	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
10.	体験学習と博物館展示	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
11.	博物館展示の企画・制作	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
12.	展示とミュージアム・マーケティング	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
13.	展示における博物館職員の役割	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
14.	博物館展示を取り巻く課題	前回の講義終了後、どんな内容で、なにを学び、どのような見解を持ったのか、自分なりに「まとめ」を作成しておくようにしてください
15.	まとめ	論述試験に向けて各回の内容とポイントを確認し、その上で自らがなにを学び、どう理解したのかについて、整理しておいてください。

受講者へのメッセージやアドバイス:

博物館とは、モノとその情報を通して〈社会の知性を育む宝箱〉です。固定的な既存のイメージに囚われず、現代社会において求められている博物館の役割を、〈展示〉を通して自ら見出していってください。

フィードバックの方法:

・コメントペーパーは、次回の授業の際に教室で総評を加えた解説を行い、毎回返却します。
・定期試験は、終了1週間後に評価基準をマナビーで提示します。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40%	論述試験では、到達目標である〈博物館展示の多様性と可能性、展示に対する学芸員の役割、社会的役割に対応した展示のあり方〉について具体的事例を基に説明・論述できているか、を評価の基準にします。
コメントペーパー	60%	コメントペーパーは、授業内での問いに対し、自らの理解や意見などが記述できていれば加点します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力、思考力、批判力
教員との連絡方法:	ご質問などには随時対応します。また授業内でご提示するe-mailでも対応します。

880700

博物館経営論

桐山　　秀穂

授業テーマ:　博物館経営（ミュージアム・マネジメント）の実際

授業の概要:　現代の博物館は、本来の役割である調査研究と資料の収集・保存・展示のみではなく、いかに社会貢献するかが問われている。博物館は、そうした意味できわめて高い社会性を持っているのである。博物館と社会との関係は、地域と、あるいは国内や海外と、あるいは愛好者、児童・生徒・学生、高齢者、あるいは行政ないし出資者との関係があり、実にさまざまである。そしてその対応は博物館によって異なっており、現在の博物館のあり方は実に多様である。この講義では博物館をめぐるさまざまな経営の側面を解説することにより、現代社会の中で博物館がどのような役割を担っているのか、考えていく。

到達目標:　博物館の基本的な体制や業務・活動を理解するとともに、博物館の社会的な位置づけの多様性、それを生かした博物館の社会貢献のあり方と経営が理解できるようになること。

授業方法:　講義形式でパワーポイントを使用し、授業ごとにレジュメを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	博物館をめぐる現状	博物館・美術館を見学すること
2.	博物館の制度と組織・博物館の団体	博物館・美術館を見学すること
3.	公立博物館と指定管理者制度	博物館・美術館を見学すること
4.	国立博物館と独立行政法人化	博物館・美術館を見学すること
5.	私立博物館と公益法人化	博物館・美術館を見学すること
6.	展覧会の企画運営	博物館・美術館を見学すること
7.	博物館資料の収集と研究	博物館・美術館を見学すること
8.	博物館のマーケティングと広報、販売	博物館・美術館を見学すること
9.	博物館の危機管理	博物館・美術館を見学すること
10.	学校教育と博物館	博物館・美術館を見学すること
11.	生涯学習と博物館	博物館・美術館を見学すること
12.	博物館友の会とボランティア	博物館・美術館を見学すること
13.	博物館とコレクター・アマチュア研究者と古物商・古美術商	博物館・美術館を見学すること
14.	博物館と観光　博物館と地域・博物館と外国人	博物館・美術館を見学すること
15.	まとめ	これまでの講義の復習をすること

受講者へのメッセージやアドバイス:　講義に関連する博物館を見学すること。博物館は規模の大小や展覧会の方向性をはじめ、巡回展を行うか否か、イベントやグッズ制作への積極性、学校教育や生涯学習への積極性など、いろいろです。できるだけさまざまな博物館を見学してください。

フィードバックの方法:　授業中、あるいは授業前後で質問等があれば適宜解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	博物館の基本的な体制や業務・活動の理解度と、同じく到達目標博物館の多様性とその社会貢献のあり方・経営に関する理解度により評価する。
授業への参加度	30	積極的に授業に参加すること。欠席は基本的に減点します。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後で対応します。

880760

博物館経営論

五島　　邦治

授業テーマ:　日本の博物館

授業の概要:　博物館の組織や設備、その運営について学ぶ。とくに博物館は、地域社会と関わっている場合が多い。地方自治体が運営している場合だけでなく、私設博物館がその地域のランドーマークになっていたり、地域で重要な役割を果たしていたりする。この授業では、とくに博物館の地域における役割と運営方法、問題点、将来の博物館のあり方について考え、あなたがある地域の博物館学芸員になったら、どのような博物館を目指すかを考える。

到達目標:　日本の主要な博物館の特色を知り、博物館の仕事を理解する。

授業方法:　講義形式で授業を進め、その都度プリントを配布する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	「博物館法」と博物館学芸員	授業までにぜひ博物館の展示を見ておいてほしい。
2.	博物館の組織ー構成と職員	博物館を見学し、どんな人が働いているかを調べておく。
3.	博物館の歳入	博物館の収入は何か。博物館の入館料を調べてこれで経営ができるのかを考えておく。
4.	地方博物館の役割と宿命	自分の出身地にはどんな博物館があるのか、リストを作る。
5.	博物館と地域ー観光を中心に	観光地の博物館を探して、観光との関係を考えておく。
6.	博物館見学（1）	見学に行く博物館について、あらかじめネットでどんな施設かを確認しておく。
7.	博物館と行政ー行政企画との関連	京都市のもっている博物館・美術館のリストを作ってみる。
8.	博物館教育・ボランティアの育成	子供たちのための博物館展示を探してみる。
9.	博物館普及活動	博物館のホームページを検索して、博物館がどんな広報をしているか、調べてみる。
10.	博物館見学（2）	見学に行く博物館について、あらかじめネットでどんな施設かを確認しておく。
11.	関連行事	博物館のホームページを検索して、講演会にどんなものがあるか探す。
12.	博物館施設の建設	博物館のホームページを検索して、博物館の建物だけを見てみる。建築家、ユニークさなど。
13.	収蔵庫とその管理	博物館の管理部門について考えてみる。
14.	レストランと博物館グッズ	博物館に行ってグッズ売場で何を売っているのか調べてみる。
15.	まとめ	博物館を経営するポイントをまとめておく（定期試験の課題に反映）。

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業期間中、大学周辺の博物館を見学する。また、授業以外でも、ふだんから展覧会をたくさん見てほしい。

フィードバックの方法:　毎回の質問について、重要なものについて授業中にまとめて説明する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	30	
定期試験・レポート課題	70	定期試験は客観テスト。レポートは個人的な見学をもとにした博物館の実際を紹介する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　e-mail goshima@sky.plala.or.jp

880800、60

博物館資料保存論

橋本　　清一

授業テーマ:　博物館資料の劣化と保存についての基礎的知識と技術の習得

授業の概要:　博物館資料の保存を行うために、(1)博物館での温度・湿度などの空気環境測定や、カビ・昆虫などの生物被害やその防除法を、(2)伝世品の保存と修復法を、(3)埋蔵文化財の保存処理法などを、プリントとスライドで講義する。

到達目標:　博物館における資料保存およびその保存・展示環境と収蔵環境を科学的に捉え、資料を良好な状態で保存していくための理論や技術などの知識を学んで、博物館資料の保存に関する基礎的能力を養うことを目標とする。

授業方法:　プリントとスライドおよび各種資試料等を用いて進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	博物館資料の保存の意義	博物館、美術館、資料館、埋蔵文化財センター等の展示室の見学を行うのが望ましい。 新聞、テレビ等の文化財や美術品等のニュースを見ておくこと。
2.	博物館資料の展示、保管環境	〃
3.	博物館資料の梱包、輸送時の環境	〃
4.	博物館資料のカビ・昆虫による損傷と、防除・殺菌・くん蒸法	〃
5.	博物館資料の火災・水害・地震・盗難・混雑からの安全対策、応急処置	〃
6.	博物館文化財の劣化損傷と、自然環境の保全・保護	〃
7.	紙・繊維・染織資料の特徴と保存、修理法	〃
8.	漆の特徴と、漆工品の材質・技法・保存法	〃
9.	伝世品の博物館資料の保存と修復法（1）	〃
10.	伝世品の博物館資料の保存と修復法（2）	〃
11.	埋蔵文化財の出土遺物の取り上げ法、遺構の保存法と取り上げ法、遺跡整備	〃
12.	出土土器などの特徴と保存処理法	〃
13.	出土木製品の特徴と保存処理法	〃
14.	出土鉄・銅製品の特徴と保存処理法	〃
15.	出土石製品・他の出土有機質製品・出土船の特徴と保存処理法	〃

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　特別に伝えたい内容については、授業のなかで説明をする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的参加度	50%	「授業への積極的参加度」「期末レポート」で総合的に評価する。
期末レポート	50%	

教科書:　特に使用しない

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力

教員との連絡方法:　出席カードの最下欄の「自由記述欄」を主とする。困難な時は授業直後とする。

880900

博物館教育論

天野　　太郎

授業テーマ:　博物館における教育機能の総合的理解

授業の概要:　本講義では、博物館のもつ重要な機能である教育施設としての機能に注目し、学校教育・生涯教育における博物館の果たすべき役割と機能、その問題点について考えていきます。

到達目標:
1：博物館の教育機能について多角的に把握する力を養う。
2：博物館の教育機能について、理解したうえで発信する力を養う。

授業方法:　講義を中心として、プレゼンテーションを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	講義の概要とガイダンス	配布資料の確認
2.	博物館教育の基礎1　歴史的経緯	配布資料の確認
3.	博物館教育の基礎2　現在の博物館における諸課題	配布資料の確認
4.	学校教育と博物館～1近代日本における博物館の意義	配布資料の確認
5.	学校教育と博物館～2大学博物館の果たす役割	現地学習を行う博物館を調査し、現状と課題について考察する。
6.	博物館における教育機能－学校教育を軸とした現地学習(1)－	現地学習を行う博物館を調査し、現状と課題について考察する。
7.	博物館における教育機能－学校教育を軸とした現地学習(2)－	現地学習を行う博物館を調査し、現状と課題について考察する。
8.	チルドレンズ・ミュージアムの実態	配布資料の確認
9.	生涯学習における博物館の役割	配布資料の確認、館園実習博物館の確認
10.	博物館における教育機能一現地学習(1)	配布資料の確認、館園実習博物館の確認
11.	博物館における教育機能－現地学習(2)	プレゼンテーションの準備
12.	博物館教育の現状と課題一教育プログラムの発表1	プレゼンテーションの準備
13.	博物館教育の現状と課題一教育プログラムの発表2	プレゼンテーションの準備
14.	博物館教育の現状と課題一教育プログラムの発表3	プレゼンテーションの準備
15.	全体の総括	配布資料の確認

受講者へのメッセージやアドバイス:　博物館と社会教育を考える上で、また学芸員課程での必修科目ですので、積極的な履修姿勢を前提とします。

フィードバックの方法:　授業内プレゼンテーションへのコメントを通して、授業内にて個別・全体へのフィードバックを行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
出席・コメントペーパー	50	出席状況の確認と、到達目標1：博物館の教育機能について多角的に把握する力を養っているか判断する。
プレゼンテーション報告	50	到達目標2：博物館の教育機能について、理解したうえで発信する力を養っているか、パワーポイントの報告を通して判断する。

教科書:　特になし

参考書:　特になし。必要に応じて指示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　授業内・後の教室内にて行うとともに、オフィスアワーを中心として研究室にて対面して実施する

880960

博物館教育論

烏賀陽　梨沙

授業テーマ:　博物館の教育機能の総合的理解

授業の概要:　社会の変化にともない、人々の学習欲求も多様化・高度化し、博物館は従来の機能に加え社会教育機関としてより積極的な役割を期待されている。本講義では博物館の「教育的使命」の重要性を認識し、博物館教育の基本的な理念と意義を識る。次に博物館における学習の特性や関連する学習理論を理解し、教育活動への具体的展開を日本や欧米の例を参考に学ぶ。また、博物館が学校と連携する意義、生涯学習における博物館の役割やその課題について考察する。学外授業では美術館・博物館を訪れ、実践を体験するとともに現場の諸問題を考え総合的な理解を深める。

到達目標:　博物館の教育・普及活動についての大切な基本事項（目的，対象，その背景にある考え方）を理解する。また、実際に博物館を訪れ、その実情を考えることで総合的な理解ができることを目指す。

授業方法:　講義を基本とする。（インタラクティブな講義形式。）
講義期間中に、学外授業として美術館・博物館を訪問する（予定）。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション	
2.	物館教育の意義と理念１	予習：指示したリーディング資料を読んでおく。（リーディングに対する「コメント・ペーパ」の提出を課す場合有。） 復習：自主的なフィールドワークの中で活かすこと。
3.	博物館教育の意義と理念２	予習：同上 復習：同上
4.	博物館の教育プログラムの形態と実際	予習：同上 復習：同上
5.	博物館の利用と学び — 学習理論１	予習：同上 復習：同上
6.	博物館の利用と学び — 学習理論２	予習：同上 復習：同上
7.	博物館の利用と学び — 実践 現地学習(1) —	
8.	博物館の利用と学び — 実践 現地学習(2) —	
9.	博物館教育の実際 – 教育的な展示	予習：同上 復習：同上
10.	博物館教育の実際 – 博物館の教育普及活動の現状ーディスカッション	予習：同上 復習：同上
11.	家族と博物館	予習：同上 復習：同上
12.	学校と博物館	予習：同上 復習：同上
13.	地域と博物館	予習：同上 復習：同上
14.	博物館教育の新しい試み	予習：同上 復習：同上
15.	まとめ：博物館教育の課題と展望 博物館の教育活動のあり方ーデイスカッション	予習：同上 復習：同上

受講者へのメッセージやアドバイス:　受講生には真摯に取り組む熱心な学習態度を望みます。

フィードバックの方法:　授業内で総括しコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常点	20	授業態度、コメントペーパ。
レポート	80	中間レポートと期末レポート。 ※出席を前提とした、上記総合評価。 （出席重視）

教科書:

参考書:　必要に応じて随時指示。
小笠原 喜康他編 『博物館教育論』 ぎょうせい出版
全国大学博物館学講座協議会西日本部会 編 『新時代の博物館学』 芙蓉書房出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、自己実現力

教員との連絡方法:　質問は授業の前後のみ受けつけます。

881000、60

博物館情報・メディア論

南　　博史

授業テーマ:　メディアとしてのミュージアムとは何か

授業の概要:　博物館の社会的役割が大きく変わった。その種類、活動内容も幅広く、方法も多様になってきた。また、その活動範囲は館内から地域全体に及び、文化的・社会的・経済的活動による地域活性化の効果も大きく取り上げられるようになった。こうした変化にメディアとしての博物館の役割はますます大きくなっている。資料のデジタル化、多様な情報機器の発達、それらを用いた教育普及活動、博物館と情報教育、そして博物館と社会を結び付ける広報活動、その理論と方法、管理と公開、機器の活用などの基礎的知識と技術を習得する。

到達目標:
1. メディアとしてのミュージアムを支えるICTの知識を獲得することができる。
2. 社会教育機関としてミュージアムの情報教育への理解が高めることができる。
3. ミュージアムに必要な情報収集・分析・発信能力を持つことができる。

授業方法:
・講義が中心となるが、毎回意見交換を行う。
・グループ協議・発表など3回のワークショップを開く。
・コンピュータを利用した情報収集などを行う。
・必要に応じて博物館におけるICT利用の現状について現地見学を行う。
・博物館情報メディア論学習ノートを作成する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	導入:メディアとしてのミュージアムとは	
2.	概論:博物館とデジタルアーカイブ	博物館の歴史を復習しておくこと
3.	事例調査①:インターネットによる調査(1):博物館のさまざまなICT活動について調べる	博物館のさまざまなICT活動についてwebを使って調べる
4.	事例調査②:インターネットによる調査(2):調査経過の発表とディスカッション、第1回WSのテーマ決定	調査成果をパワポにまとめる
5.	事例調査③:インターネットによる調査(3):テーマごとにさらに調査を進める	webを使って調査を行う
6.	第1回ワークショップ(テーマごとにグループにわかれて意見交換・グループごとに発表)	WSに向けてテーマの調査webを使って行う
7.	各論:博物館資料情報化の現状と課題	博物館資料論を復習しておく
8.	各論:博物館資料データベースの現状と課題	データベースの基礎知識を学んでおく
9.	第2回ワークショップ(第1回ワークショップの成果をさらに発展・グループごとに発表)	WSの結果を次のWSに結び付けられるよう情報を集めておく
10.	各論:情報教育の現状と課題・1	なぜ情報教育が必要なのか社会のニュースに関心をもつように心がける。
11.	各論:情報教育の現状と課題・2	学校教育との関係を調べておく
12.	各論:博物館活動と著作権	著作権とは何かを事前に調べておく
13.	見学:ミュージアムの情報活動を実見する	
14.	第3回ワークショップ(ワールドカフェ方式のワークショップでそれぞれの課題や意見を共有する)	WSに向けて集めた情報を整理しノートに書き込んでおく
15.	ワークショップの成果発表	

受講者へのメッセージやアドバイス:
・ミュージアムは総合学なので広い視野で授業に積極的に参加すること。
・日常からミュージアムの情報収集・発信活動に気を配ること。
・ICTは日進月歩である。常に新しい情報に注目すること。
・こうした活動をできるだけノートに記入すること。

フィードバックの方法:
・ワークショップによって学習成果を全員が共有する。
・授業ノートにコメントをつけて返却する(希望者のみ)

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業ノート	60	授業への参加態度、メディアとしてのミュージアムに関する知識、理解が進んだかどうかで評価する。
発表・討論	20	グループ発表のための情報収集力を高め、メディアとしてのミュージアムが必要とする知識、理解が進んだかどうかで評価する。
レポート	20	メディアとしてのミュージアムの知識と理解が進み、客観的にその必要性を主張できるようになったかで評価する。

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　mhiro373@yahoo.co.jp

885100

図書館概論

高橋　　俊郎

授業テーマ:
図書館の基本、および概略を理解する。

授業の概要:
図書館の歴史や機能の基本的な事項を学び、これからの社会における図書館のあり方を考える時に基礎となる概念を形成する。実際に大規模公共図書館などを各自で見学し、レポートを提出し、学びの中間点での気づきを促す。「図書館は成長する有機体」であり、成長するということの意味を理解する。

到達目標:
1. 図書館全般についての知識と理解を深める。
2. 各種図書館のあり方について関心を持ち、意欲的な態度で調査・分析に取り組む。
3. 自分の考えを簡潔に表現し、他人に伝える技能と能力を養う。

授業方法:
１～８回までは講義を行い、その間に各自で大規模図書館などを見学・調査してレポートを作成する。９回にレポート内容について簡潔に発表する。試験は複数課題の小論文形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	図書館とは何か ランガナタン「図書館学の五法則」の今日的意義	教科書を読む。
2.	出版と図書館の歴史 日本の図書館、外国の図書館	教科書を読む。
3.	現代社会における図書館（1） 生涯学習、情報環境の変化、危機管理	教科書を読む。
4.	図書館の理念 図書館の自由、図書館員倫理綱領・個人情報	教科書を読む。10回までに国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
5.	図書館関連法規	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
6.	図書館の種類　（1）公共図書館	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
7.	図書館の種類　（2）学校図書館	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
8.	図書館の種類　（3）大学図書館・専門図書館	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
9.	図書館の種類　（4）国立図書館	教科書を読む。国立国会図書館関西館、大阪府立中央図書館、大阪市立中央図書館などを各自で見学・調査してレポートにまとめる。
10.	レポート提出と発表	レポート内容を簡潔に発表できるように準備する。
11.	レポート提出と発表	レポート内容を簡潔に発表できるように準備する。
12.	現代社会における図書館（2）出版事情・著作権・自主回収	教科書を読む。
13.	現代社会における図書館（3）図書館運営	教科書を読む。
14.	図書館をめぐる今日的課題 多様な行事や講習会など クレイマーや切り取り、都市犯罪など	カレントアウェアネス・ポータルや新聞記事DBを検索して、近年の図書館をめぐる話題を集めておく。
15.	まとめ	講義で出てきたキーワードについて、簡潔にまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
世の中の森羅万象を内包する図書館という機能を、図書館の内側からの視点で見つめなおしてみましょう。

フィードバックの方法:
レポートは教室で、その都度に質問し、評価して、実体験の内容を理論的に深めるようにする。
授業後半に質問タイムを設けるとともに、Eメールを利用して質問・助言に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	到達目標1の理解度により評価する。
レポート提出と発表	30%	到達目標3の達成度により評価する。
授業への参加度	20%	到達目標2の出席状況・取り組む態度で評価する。

教科書:
塩見昇編著　JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ1『図書館概論』（四訂版）　日本図書館協会

参考書:
『図書館ハンドブック』（第6版）　日本図書館協会
『図書館年鑑』（年刊）　日本図書館協会
「カレントアウェアネス・ポータル」　国立国会図書館情報ポータルサイト

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
Eメールを利用、および授業の前後に教室内で応対。

885160

図書館概論

柳　　勝文

授業テーマ:　図書館についてもっと知りませんか？

授業の概要:　図書館の機能・役割・歴史・位置付け等について理解します。

到達目標:　図書館の基本的な概要を理解した上で、今後の図書・図書館学の学びに展開すること

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	司書課程について この科目について	なし
2.	図書館とは何か	テキストの該当箇所を読む
3.	現代社会と図書館	テキストの該当箇所を読む
4.	図書館の理念	テキストの該当箇所を読む
5.	図書館法規と行政	テキストの該当箇所を読む
6.	地域社会と図書館	テキストの該当箇所を読む
7.	公共図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
8.	学校図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
9.	大学図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
10.	専門図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
11.	国立国会図書館の制度と機能	テキストの該当箇所を読む
12.	図書館の歴史的展開	テキストの該当箇所を読む
13.	外国の図書館	テキストの該当箇所を読む
14.	図書館関係団体と学習の手引き	復習
15.	まとめ	まとめ

受講者へのメッセージやアドバイス:　京都、関西には様々な形の図書館が存在しています。ぜひ現地を実際に訪問し、授業で触れたことを自分の目で見て体験してください。

フィードバックの方法:　anb18968@nifty.comへメール下さい

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業参加	40	授業への取り組み姿勢、積極的な質問などを評価します
試験	60	定期試験により評価します

教科書:　塩見昇編著『図書館概論』（日本図書館協会、2016）

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力

教員との連絡方法:　anb18968@nifty.comへメール下さい

886200

学校経営と学校図書館

枝元　　益祐

授業テーマ:　学校組織における学校図書館の諸機能の把握と理解

授業の概要:　学校図書館経営は(1)各種図書館に共通の経営原理を学ぶ (2)一般経営(企業・行政等)関係の資料から経営の基礎知識を取り入れてみる (3)理論に偏らず、可能な限り事例研究によって図書館の問題を考える。また、学校図書館の意義・目的、役割と機能を把握し理解する。さらにコンピュータ等メディア機器を利用した児童・生徒の自主学習をサポートする学習メディア・センターとしての学校図書館を考える。

到達目標:
・学校図書館の理念及び発展過程を理解し、学校図書館全般についての基本的理解を目指す。
・教師としてのみならず学校図書館経営の責任者としての司書教諭の任務と担うべき役割理解する。

授業方法:　講義形式ではあるが、学生の積極的且つ主体的な参画を前提とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学校図書館の現状と課題	学校教育全体の理念を整理しておいて下さい。
2.	学校図書館の理念と教育的意義(学校図書館の諸機能)	戦後の教育改革に関して整理しておいて下さい。
3.	教育行政と学校図書館(制度的枠組みに於ける学校図書館の位置付け)	制度的枠組みの中で学校図書館がどのように位置付くのかを教育法規等を根拠に整理しておいて下さい。
4.	教育行政と学校経営(制度的枠組みに於ける学校教育の位置付け)	制度的枠組みの中で学校図書館がどのように位置付くのかを教育法規等を根拠に整理しておいて下さい。
5.	学校教育に於ける学校図書館の位置付け	制度的枠組みの中で学校図書館がどのように位置付くのかを教育法規等を根拠に整理しておいて下さい。
6.	学校経営における学校図書館の位置付け	学校組織全体の中で学校図書館がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
7.	学校教育に於ける経営(施設・機能)	学校組織全体の中で学校図書館がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
8.	学校図書館の経営(予算、評価)	学校組織全体の中で学校図書館がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
9.	司書教諭の任務と職務	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
10.	司書教諭の学校教育に於ける意義	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。特に、学校司書との相違点と共通点に留意して下さい。
11.	生涯学習に於ける学校図書館の意義	学校図書館での学びがどのように生涯学習と関連するのかを整理しておいて下さい。
12.	学校図書館メディアの構築と管理	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
13.	学校教育に於ける学校図書館メディアの活用	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
14.	学校図書館メディアのネットワーク形成	学校組織全体の中で司書教諭の役割がどのように位置付くのかを整理しておいて下さい。
15.	学校図書館活動の今後の動向	全体のリフレクトを心がけて下さい。

受講者へのメッセージやアドバイス:　司書教諭課程の基幹科目ですので、幅広く学校図書館について扱うと共に、この科目の内容が後の展開科目に強く影響しますので、主体的且つ自覚的に授業に参画することが不可欠になります。

フィードバックの方法:　授業での小課題は添削して返却する。また、Eメールアドレスを授業時に告知するので、質問などがあったら連絡をして下さい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業時の小課題	40	授業内容での各ユニットの理解・定着が図られているかで判断する。
最終試験	60	授業内容全体の理解が図られているかで判断する。

教科書:　教科書は指定せず，適宜資料を配布する。

参考書:　志村尚夫・天道佐津子　監修 『学校経営と学校図書館、その展望』(学校図書館図解・演習シリーズ4)
青弓社、2004.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　Eメール

886360

学校図書館メディアの構成

枝元　　益祐

授業テーマ:　情報化の進展の中での学校図書館と多様なメディアの活用及び、組織化を身に付ける。

授業の概要:　情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

到達目標:
1. 学校教育における学校図書館の果たす役割を理解し、そこに寄与する学校図書館メディア全体の諸相を理解する。
2. 学校図書館の各種メディアの特性を理解し収集選択する上での諸問題を考察する。
3. 学校図書館メディアの組織化（分類、目録、件名）とその機能を習熟する。
4. これからの理想とする学校図書館のあり方を考える。

授業方法:　講義形式ではあるが、学生の積極的且つ主体的な参画を前提とする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	学校教育に於ける学校図書館の役割・機能	学校教育全体の枠組みの理解をしておいて下さい。
2.	学校図書館に於ける学校図書館メディアの意義	学校教育全体の枠組みの理解をしておいて下さい。
3.	学校図書館に於ける学校図書館メディアの有用性とその限界	メディアの捉え方を把握して下さい。
4.	学校図書館メディアの限界の克服への視座	教育でのメディア活用を理解して下さい。
5.	教科教育との連携の必要性とその際の学校図書館の機能	教科教育との関連を意識して下さい、
6.	学校教育に於ける情報メディアと学校図書館メディアの関連	教育でのメディア活用を理解して下さい。
7.	教育課程の展開に寄与する学校図書館メディア	教育でのメディア活用を理解して下さい。
8.	教育課程の展開に於ける学校図書館メディアの活用方策（総論）	教育でのメディア活用を理解して下さい。
9.	教育課程の展開に於ける学校図書館メディアの活用方策（教育活動全体を通した関わり）	教育でのメディア活用を理解して下さい。
10.	教育課程の展開に於ける学校図書館メディアの活用方策（教科教育に於ける関わり）	教育でのメディア活用を理解して下さい。
11.	学校図書館メディアの組織化（総論）	NDC、NCR、BSHの基本構造を理解する。
12.	分類の意義と分類作業の基本	NDCを活用します。
13.	資料組織化（目録の種類と目録作業の基本）	NCRを活用します。
14.	教育課程の展開に寄与する目録と資料の組織化	NDC、NCR、BSHを活用します。
15.	学校図書館のアクセッシビリティを念頭に置いた資料の組織化	件名目録の活用を意識して下さい。

受講者へのメッセージやアドバイス:　学校図書館メディアの組織法とその構築について扱います。極めてテクニカルな内容ですので積極的な授業参画と、主体的且つ自覚的な課題への取り組みが不可欠になりますので十分に注意して下さい。

フィードバックの方法:　授業時の小課題を添削して返却する。また、Eメールアドレスを授業時に告知しますので、質問等があれば連絡をして下さい。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業時の小課題	40	授業での各ユニットの理解、定着を図ることで判断する。
最終試験	60	授業全体での理解、定着を図ることで判断する。

教科書:　授業時に適宜資料を配付します。

参考書:　志保田務、北　克一、山本順一 編著 『学校教育と学校図書館：司書教諭科目のねらい・内容とその解説』第一法規、2007.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール

886460

学習指導と学校図書館

家城　　清美

授業テーマ:

司書教諭が、探究学習を遂行し支援する際の意義と役割を理解する。また学校図書館の意義と役割を理解する。

授業の概要:

学習指導要領では児童・生徒が学習に能動的に取り組むことが重要とされている。この授業では能動的な学習者の育成を目的とする探究学習の意義をグループ演習を通じて理解する。また、その過程で司書教諭として必要とされる専門性を習得できるようにする。演習では、児童・生徒の立場から与えられた課題に取り組み作品として完成させる。次に取り組む過程を振り返り、児童・生徒が課題に取り組む際の困難さを認識する。困難さを緩和あるいは取り除くため、司書教諭としての支援の在り方を受講した様々な支援方法や見学校の実践から考えて、発表する。

到達目標:

情報社会では、学力観に変化がみられる。従来の学びに加え、学ぼうとする力も学力としている。そこで、情報活用を基礎とした学びによって、視野を広げ、多様な価値観を育成する必要がある。このような学びの重要性を理解する。さらに学校図書館を活用して、現在唱えられている児童・生徒の学力をどのように育成するかを理解する。学校図書館と司書教諭がどのように育成に関わっていくかを理解する。この過程で情報リテラシーの育成の重要性も理解する。理解と共に、この演習を通して、情報リテラシーに含まれる様々なスキルを習得する。演習はグループ演習であるので、協調性とリーダーシップを発揮することができる。司書教諭として課題を解決するための思考力・判断力を活用することになる。

授業方法:

授業は講義、動画視聴、見学、演習で進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに 講義内容の説明 グループ演習への準備	配付資料である講義計画表から講義の進捗状況を知っておく。
2.	学校教育/学力観の変遷　1 戦後から1980年代	配付資料:年表を振り返り、講義内容を確認すること。年表の所定の余白に重要と思ったことは書き留めること。
3.	学校教育/学力観の変遷　2 1990年代から現在	年表を振り返り、講義内容を確認すること。教科書の該当箇所を読んで理解しておくこと。
4.	学校図書館利用指導の変化 海外の学校図書館観の変化 海外の図書館利用指導の変化 探究学習と情報活用プロセス	海外の図書館利用指導理論の変遷など講義を振り返り、理解しておくこと。配付資料と教科書の該当箇所を読んで理解しておくこと。探究学習で求められることを理解しておくこと。
5.	学校図書館からの支援方法　1 様々な間接支援の方法の紹介	各支援方法の目的や効果を理解する。教科書や紹介された以外に支援方法やツールがあるか調べておく。日本十進分類法NDCを理解しておくこと。パスファインダーの構成と効用を理解しておくこと。
6.	学校図書館からの支援方法　2 様々な直接支援の方法の紹介	ブックトークの効果を理解しておくこと。ブックトークへの準備の仕方、トーク内容の構成方法を理解しておくこと。
7.	グループ演習　Ⅰ 探究学習に取り組む　1 児童・生徒への課題設定に関する支援方法	事前にグラフィック・オーガナイザーを活用し、各自課題を考えておくこと。
8.	グループ演習　Ⅱ 探究学習の支援に取り組む　2 課題に対しての学校図書館メディアの選択と情報収集に関する支援	情報リテラシーの内容を配付資料で確認しておくこと。
9.	グループ演習　Ⅲ 様々な探究学習の発表方法	事前に動画の英文和訳を読み、内容を理解しておくこと。様々な発表方法があることを理解し、今回の課題についても、他にどのような発表方法があるか考えてみる。
10.	学校図書館見学	事前に見学校への質問を考えておく。見学では司書教諭の役割など実践、学校図書館の資料・設備なども十分に見聞すること。見学後レポートの作成。
11.	グループ演習　Ⅳ 作品の完成 発表内容の構成を考える	課題には全員で取り組むが、仕上げ段階では分担作業で、作品を完成させる。随時グループ内で話し合いをすること。
12.	グループ演習　Ⅴ 発表シートの完成 発表の評価法(Rubric)の確認	各自の分担作業を進めておく。全員でRubricの各項目に該当する内容に作品が仕上がっているか確認しておく。
13.	グループ演習　Ⅵ 発表　1 相互評価	評価表に発表分の評価をする。
14.	グループ演習　Ⅶ 発表　2 相互評価	評価表に発表分の評価をする。
15.	グループ演習　Ⅷ 発表　3 相互評価 自己評価 まとめ 学習形態の違いを考える:教授型授業と探究型授業	評価表の完成 講義内容、資料と教科書を振り返り理解しておくこと。授業形態で教師への支援を考える。探究学習の理解とプロセス、方法知・内容知を知る。

受講者へのメッセージやアドバイス:

司書教諭の職務を果たすために必要な授業であり、協同作業も多いので、理由なく欠席しないこと

フィードバックの方法:

協同作業中の完成までのグラフィックオーガナイザーなどについては、机間巡視中に適宜、質問に答え、助言する。できるものは教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40	全講義と配付資料の内容の理解の深まりを評価の対象とする。
授業への参加度	20	グループ演習での積極性・協調性や受講態度を評価する。
発表	40	グループ発表での発表態度を評価する。発表内容では、作品の完成度と司書教諭の支援の理解と深まりを評価する。

教科書:

堀川照代・塩谷京子　編著 『改訂新版　学習指導と学校図書館』 2016　放送大学教育振興会　日本放送出版協会　発売　ISBN978-4-595-31650-0

参考書:	今井　福司　著『日本占領期の学校図書館　アメリカ学校図書館導入の歴史』2016　勉誠出版　ISBN 978-4-585-20046-8 桑田　てるみ編著『思考力の鍛え方』2010　静岡学術出版　ISBN978-4-903859-38-5
獲得が期待される基礎的・汎用的能力:	分析力／Analytical ability, 創造力／Creative ability, プレゼンテーション力／Presentation skill,
教員との連絡方法:	授業の前後に対応します。

886500

読書と豊かな人間性

村木　　美紀

授業テーマ:
読書および多様な読書材の現状と展開

授業の概要:
司書教諭が学校・学校図書館でその役割を果たすためのひとつとして、読書および児童・生徒向けの読書材（調べ学習用資料も含む）について学んだ後に、児童・生徒の発達段階に応じた読書教育の理念と方法の理解を図る。
本科目は、司書教諭課程科目であるとともに、司書課程の「児童サービス論」の要素を併せ持つため、公立図書館における子どもへの図書館サービスも意識して学習する。
国・自治体の施策，学習指導要領の改訂，言語活動の充実，電子書籍等の出版流通など今日的状況を踏まえて解説する。

到達目標:
1【知識・理解】読書および読書材、学校・図書館の取組みについて理解し、説明ができる。
2【関心・意欲・態度】読書や学校・図書館の取り組みについての問題提起や提案ができる。
3【表現・技能・能力】グループワーク・発表を通じてプレゼンテーション力やコミュニケーション力を身に着ける。

授業方法:
講義
一部，グループ演習・発表を実施する

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	読書の意義と目的	
3.	発達段階に応じた読書の指導と計画	
4.	関連法規および国・自治体の施策	関連法規について目を通しておくこと
5.	家庭，地域，公立図書館等との連携	自身が居住する自治体や公立図書館の現状を確認しておくこと
6.	学校図書館の現状と課題	
7.	子ども向け資料の種類と活用：各種紙媒体	書店や図書館で読書材やその情報に触れておくこと
8.	子ども向け資料の種類と活用：視聴覚資料・インターネット・データベース	書店や図書館で読書材やその情報に触れておくこと
9.	子ども向け資料の種類と活用：マンガ・電子書籍等	書店や図書館で読書材やその情報に触れておくこと
10.	読書の指導方法：読み聞かせ，ストーリーテリング，ブックトーク，ビブリオバトル等	図書館のイベント参加やHPを通じて現状を把握しておくこと
11.	読書に関する図書館イベントの企画と運営	グループワークのために企画を考えておく
12.	ワークショップ：図書の解体	授業で指示したワークショップの準備をしておくこと
13.	確認テスト	
14.	グループ発表(1)	グループワーク・発表の準備
15.	グループ発表(2)	グループワーク・発表の準備

受講者へのメッセージやアドバイス:
ワークショップでは実際に古書を解体予定

フィードバックの方法:
基本的に授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
テスト	60	到達目標の1を中心に評価する。
レポート・ワークショップ	20	到達目標の1・2を中心に評価する。
グループ演習・発表	20	到達目標の2・3を中心に評価する。

教科書:
今まど子，小山憲司『図書館情報学基礎資料』樹村房，2016，150p.

参考書:
適宜指示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、変化対応力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
Eメール：mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

886560

読書と豊かな人間性

佐久間　朋子

授業テーマ:

授業の概要:
児童生徒の発達段階に応じた読書環境の理念と方法の理解を図る。
1.読書の意義と目的　2.読書と心の教育（読書の習慣形成を含む）　3.発達段階に応じた読書の指導と計画　4.児童・生徒向け図書の種類と活用（漫画等の利用方法を含む）　5.読書の指導方法（読み聞かせ、ストーリーテリング、ブックトーク等）　6.家庭、地域、公共図書館等との連携

到達目標:
読書の目的を理解し、具体的な読書指導の方法を体験し、実践できるようになる。
発達段階に応じた図書の種類と活用方法を体験し、実践できるようになる。

授業方法:
授業計画に基づき講義形式とグループ演習発表、受講生全員がビブリオバトル発表をする。
なお、受講生数、理解度などによって授業計画は変更することもある。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	子どもの読書状況 全国学校図書館協議会 子どもの読書状況などから	
2.	読書能力・読書興味の発達段階 発達段階の目安など	
3.	読書資料の特徴と選択 絵本や児童文学の種類	
4.	読書プログラム　読み聞かせ グループ学習・演習 グループで読み聞かせを演習する。	読み聞かせに適する本を各自用意すること。
5.	読書プログラム　紙芝居 グループ学習・演習 グループで紙芝居演習をする。	
6.	読書プログラム　ペープサート グループ学習・演習 グループでペープサート演習をする。	
7.	読書プログラム　パネルシアター・ブラックライトシアター	
8.	読書プログラム　アニマシオン	アニマシオンでの課題図書をしっかり読んで授業にのぞむこと。
9.	読書活動の推進ー日本　*ビブリオバトル発表	ビブリオバトル発表の準備とクラスメートの発表に対する評価コメントを用意すること。
10.	読書活動の推進ー諸外国　*ビブリオバトル発表	ビブリオバトル発表の準備とクラスメートの発表に対する評価コメントを用意すること。
11.	読書資料（1）ー絵本・童話　*ビブリオバトル発表	ビブリオバトル発表の準備とクラスメートの発表に対する評価コメントを用意すること。
12.	読書資料（2）ー児童文学 ストーリーテリング・ ブックトーク	
13.	学校、家庭における読書活動と読書指導	課題図書の児童文学を必ず読んで授業にのぞむこと。
14.	読書をめぐる諸問題 資料ごとの特徴の違い 発達障害者に対する支援　など	司書・司書教諭として読書指導のありかたを考えて授業にのぞむこと。
15.	まとめ	自分が現場で活躍する司書・司書教諭としての考えをまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
絵本・児童文学・ヤングアダルト文学など子どもの本に興味を持ち、読むこと。
課題図書や課題を提示するので、締切日を守るように各自学習計画をたてること。

フィードバックの方法:
筆記試験　採点して教室で返却する。
質問　教室で解説する。
課題提出物　採点して教室で返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
筆記試験	30	課題に対する自分の考えや理解度、及び知識を評価する。
読書プログラム発表	30	グループ活動で自分の役割を積極性と協調性を持って果たしているか。また、発表などで活用方法をどう表現するか。を総合的に評価する。
授業中の課題	30	ビブリオバトル発表等に対する課題解決に向けての意欲と方法を評価する。
受講態度	10	授業への積極的に参加しているかを評価する。

教科書:

参考書:
『司書教諭・学校司書のための学校図書館必携　ー理論と実践- 改訂版』 全国学校図書館協議会　監修　悠光堂　2017年
『学校教育と図書館　ー司書教諭科目のねらい・内容とその解説』 志保田努　他編著　第一法規　2007年
『子どもの読書環境と図書館』 日本図書館研究会編集委員会　変　日本図書館研究会　2006年

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、

教員との連絡方法:
授業後に直接質問・相談すること。特別な事情がある場合には下記メールで対応する。
bukkyou_sakuma@yahoo.co.jp

886600

情報メディアの活用

西尾　　純子

授業テーマ:　情報メディア活用の理論と実践

授業の概要:　学校図書館における情報メディア活用能力の意義・必要性について取り上げる。司書教諭として生徒を指導するために、情報メディアを活用する能力を身につけることができるように実践的な能力を養成する。

到達目標:
1. 司書教諭として必要な各種メディアの現状、特性、活用等について理解できる。
2. 関連法規、情報倫理等について理解できる。
3. 課題に沿って自ら企画し、調べた結果を発表できる。

授業方法:　コンピュータ教室での演習、一部講義を含む。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要と導入 / 情報メディアに関する基礎知識	これまでに履修した「学校図書館司書教諭」に関する科目名を確認しておく。
2.	情報メディアとは何か、歴史、知識基盤社会、生涯学習	授業内容を復習する。
3.	学校教育における情報メディアの意義と活用	授業内容を復習する。
4.	情報メディアの種類、特性	授業内容を復習する。
5.	情報メディアの選択、機器や設備の管理	授業内容を復習する。
6.	コンピュータ、ソフトウェア、周辺機器	授業内容を復習する。
7.	情報検索のしくみ、データベース検索、インターネット	授業内容を復習する。
8.	授業におけるコンテンツの活用	授業内容を復習する。
9.	授業におけるICTの活用	授業内容を復習する。
10.	学校図書館ウェブサイトの活用	授業内容を復習する。
11.	特別なニーズに対応した情報メディアの活用	授業内容を復習する。
12.	情報メディアの活用と知的財産権	授業内容を復習する。
13.	情報モラルと個人情報保護	授業内容を復習する。
14.	情報メディアに関連するトラブルと対策	授業内容を復習する。
15.	総括	最終の授業後に、半期を振り返り各自復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・「学校経営と学校図書館」を事前に履修していることが望ましい。
・自らの興味・関心のある分野について資料やウェブサイトに目を通すように心がけてください。

フィードバックの方法:
・授業時に、教室で解説する。
・提出物は返却しない。必要な場合には、提出前に各自がコピーをとっておくこと。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	出席、発表、課題への取り組みなど積極的に授業に参加し、到達目標に対応する能力を身につけることができたかどうかを評価する。原則として2/3以上の授業に出席し、課題を提出した者のみを成績評価の対象とする。
小レポート	50	授業中に課題を出す。到達目標に対応して、理論だけでなく、実際に演習で得た知識・技術などを評価の対象とする。

教科書:

参考書:
『情報メディアの活用』 シリーズ学校図書館学第5巻
全国SLA「シリーズ学校図書館学」編集委員会・編　全国学校図書館協議会　978-4793322464
『情報メディアの活用　三訂版』
山本 順一ほか　放送大学教育振興会　978-4595316494
『情報メディアの活用と展開　改訂版』 学校図書館図解・演習シリーズ　1
中山伸一編著　青弓社　978-4-7872-0041-9

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　集中講義のため、授業中および授業後に直接質問・相談すること。マナビーの掲示機能を利用することがある。

886800、60

図書館情報技術論

石橋　　進一

授業テーマ:

授業の概要:　図書館業務に必要なコンピュータの基礎知識を習得し、図書館において情報技術がどのように活用されているかを学ぶ。

到達目標:　まず現代社会における情報通信技術の進展を概観したのち、データベースや検索エンジン等、情報処理の初歩を学ぶ。次に図書館で使用されているさまざまな技術の具体例を通じて図書館情報システム論を習得する。さらに読書や学術情報をめぐる環境がデジタルとネットワークの技術によってどのように変化しているか、新しい知見の理解をめざす。

授業方法:　1:講義（ただし、簡単な発表を求めることもある。毎回、コメントペーパーの提出を求める。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに	教科書を用意しておく
2.	コンピュータの基礎、ネットワークの基礎	教科書を熟読の上、配布プリントの空欄を記入しておく
3.	情報技術と社会	教科書の該当する章を事前に読んでおく
4.	データベースのしくみ	教科書の該当する章を事前に読んでおく
5.	検索エンジンのしくみ	教科書の該当する章を事前に読んでおく
6.	コンピュータシステムの管理とセキュリティ	教科書の該当する章を事前に読んでおく
7.	図書館における情報技術活用の現状	教科書の該当する章を事前に読んでおく
8.	図書館業務システムのしくみ(1)	教科書の該当する章を事前に読んでおく
9.	図書館業務システムのしくみ(2)	教科書の該当する章を事前に読んでおく
10.	電子資料の管理技術	教科書の該当する章を事前に読んでおく
11.	デジタルアーカイブ	教科書の該当する章を事前に読んでおく
12.	最新の情報技術と図書館(1)	
13.	最新の情報技術と図書館(2)	
14.	展望と課題	教科書および配布物を事前に読んでおく
15.	まとめ	教科書および配布物を事前に読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:　公立図書館の利用や見学に基づいた質疑を歓迎します。

フィードバックの方法:　コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	40	図書館における情報技術の進展について現状と課題を説明できるかを基準とする。
レポート	30	図書館の情報技術を実際に使ってみて、できることできないことを調査した結果について仕上がりの度合いを基準とする。
授業への参加度	30	コメントペーパーを重視する。

教科書:　田窪直規編集、改訂図書館と情報技術、樹村房

参考書:　杉本重雄、図書館情報技術論（現代図書館情報学シリーズ 3）、樹村房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。Eメールを利用。

886900、60

図書館サービス概論

高橋　　俊郎

授業テーマ:
図書館サービスの基本を学び、時代に即したパブリックサービスのあり方を探る。

授業の概要:
図書館サービスの基礎となる考え方の歴史を学び、特にパブリックサービスとしての図書館サービスのあり方について考察する。そのため、閲覧席を設置し、コンシェルジュを配置しているなどの大型書店と公共図書館を対比しながらパブリックサービスの要点を確認する。さらに、図書館サービスの現状と問題点を分析して、今後の様々な可能性を探ることにより、図書館司書の役割を含めて図書館サービスの本質について学びとる。

到達目標:
1. 図書館サービス全般についての知識と理解を深める。
2. 図書館サービスのあり方について関心を持ち、意欲的な態度で調査・分析に取り組む。
3. 自分の考えを簡潔に表現し、他人に伝える技能と能力を養う。

授業方法:
１～１２回までは講義を行い、その間に各自で、多様にサービス展開している大型図書館と、閲覧席を持つ大型書店を見学・調査し、そのレポートを「閲覧席型書店と公共図書館」をテーマに１３回にグループ討議し、発表する。試験は複数課題の小論文形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	図書館サービスの意義・図書館のイメージ	教科書を読む。自分の図書館イメージについて考えておく。
2.	図書館サービスとマネジメント・司書の役割	教科書を読む。5回までに身近な公共図書館を利用する。
3.	利用者スペースの整備	教科書を読む。身近な公共図書館を利用する。
4.	資料提供・フロアワーク	教科書を読む。大型公共図書館を利用する。
5.	予約・相互貸借・連携	教科書を読む。大型公共図書館を利用する。
6.	情報提供・電子図書館	教科書を読む。8回までに複数の図書館ホームページを閲覧する。
7.	対象者別サービス（1）児童・YA・高齢者	教科書を読む。複数の図書館ホームページを閲覧する。
8.	対象者別サービス（2）障がい者・多文化	教科書を読む。複数の図書館ホームページを閲覧する。
9.	多様なサービス（1）利用案内・パスファインダー	教科書を読む。12回までに閲覧席設置、コンシェルジュ配置などの大型書店を利用する。
10.	多様なサービス（2）集会・文化活動・学校支援	教科書を読む。閲覧席設置、コンシェルジュ配置などの大型書店を利用する。
11.	図書館サービスと著作権・複写サービス	教科書を読む。閲覧席設置、コンシェルジュ配置などの大型書店を利用する。
12.	利用統計とサービス指標、その経営活用	教科書を読む。次回までに閲覧席設置、コンシェルジュ配置などの大型書店の利用結果をまとめておく。
13.	グループ討議「閲覧席型書店と公共図書館」	単に相違点について分析するだけでなく、魅力ある図書館サービスが何かを考察する。
14.	グループ討議結果の発表	グループでの統一見解はもとより、全員が何らかの形で発表する。
15.	まとめ	講義で出てきたキーワードについて、簡潔にまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
図書館の利用者としての視点を大切にして、サービスを提供する側の視点に立って考え、図書館のサービス理論に基づいて実際のサービスを分析してみましょう。

フィードバックの方法:
グループ討議と発表は、その都度に質問し、評価して理解度を深める。
授業後半に質問タイムを設けるとともに、Eメールを利用して質問・助言に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	到達目標1の理解度により評価する。
グループ討議・発表	30%	到達目標3の達成度により評価する。
授業への参加度	20%	到達目標2の出席状況・取り組む態度で評価する。

教科書:
小田光宏編著　JLA図書館情報学テキストシリーズⅡ3『図書館サービス論』 日本図書館協会

参考書:
塩見昇編　新編図書館学教育資料集成3『図書館サービス論』 教育史料出版会
菅谷明子 『未来をつくる図書館』 岩波新書
大阪市立図書館 『知識創造型図書館への改革』（当該図書館のホームページで公開）

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:
Eメールを利用、および授業の前後に教室内で応対。

887000

情報サービス論

高橋　　俊郎

授業テーマ:
図書館における情報サービスの基礎を学び、レファレンスに有効な基本的情報源とその活用について知識を深める。

授業の概要:
参考図書などの文献情報はもとより、ネット経由の電子化情報など多様な情報源について学び、情報源としての確からしさの判定、的確な情報源に素早く辿り着く技術、他機関を紹介する判断などについて学ぶ。図書館における実際のレファレンスサービスのプロセスに従い、インタビューから調査・回答に至る情報検索の基礎知識を得る。

到達目標:
1. 情報サービス全般についての知識と理解を深める。
2. 情報サービスのあり方について関心を持ち、意欲的な態度で調査・分析に取り組む。
3. 自分の考えを簡潔に表現し、他人に伝える技能と能力を養う。

授業方法:
１～９回までは講義を行い、その間に各自で公共図書館のレファレンスを受けて、経過・結果・所感などについてレポートを作成する。１０回にレポート内容について簡潔に発表する。試験は複数課題の小論文形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	レファレンスサービスと情報サービスの意義	教科書を読む。
2.	情報サービスの基礎・レファレンスサービスの構造	教科書を読む。
3.	情報サービスの種類（1）レフェラル・カレント	教科書を読む。
4.	情報サービスの種類（2）地域情報・専門情報	教科書を読む。大学図書館で各種データベースを検索してみる。
5.	情報サービスの種類（3）デジタル情報	教科書を読む。大学図書館で各種データベースを検索してみる。
6.	情報源の実際　印刷・電子・二次資料作成	教科書を読む。大学図書館で各種データベースを検索してみる。
7.	レファレンスの実際（1）レファレンスプロセス	教科書を読む。9回までに各自で公共図書館のレファレンスを受ける。
8.	レファレンスの実際（2）検索戦略・回答と評価	教科書を読む。各自で公共図書館のレファレンスを受ける。
9.	レファレンスの実際（3）参考図書とデータベース	教科書を読む。各自で公共図書館のレファレンスを受ける。
10.	レポート提出と発表	各自で公共図書館のレファレンスを受けて、経過・結果・所感などについてレポートを作成し、簡潔に発表できるよう準備する。
11.	調べ方の実際（1）言葉・事柄、日時・統計	教科書を読む。
12.	調べ方の実際（2）地理・地名、人物・団体	教科書を読む。
13.	調べ方の実際（3）図書・雑誌、文献の所在	教科書を読む。
14.	調べ方の実際（4）調査内容の共有化、協同DB	教科書を読む。国立国会図書館レファレンス協同データベースを検索しておく。
15.	まとめ	講義で出てきたキーワードについて、簡潔にまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
利用者としてレファレンスサービスを受けた時の気づきをもとに、レファレンスサービスを提供する側の視点で図書館の情報サービスについて考えてみましょう。

フィードバックの方法:
レポートは教室で、その都度に質問し、評価して、実体験の内容を理論的に深めるようにする。
授業後半に質問タイムを設けるとともに、Eメールを利用して質問・助言に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	到達目標1の理解度により評価する。
レポート提出と発表	30%	到達目標3の達成度により評価する。
授業への参加度	20%	到達目標2の出席状況・取り組む態度で評価する。

教科書:
小田光宏編著　JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ5『情報サービス論』 日本図書館協会

参考書:
木本幸子 『情報源と情報サービス』（第2版） 大学教育出版
井上真琴 『図書館に訊け！』 筑摩書房
千野信浩 『図書館を使い倒す!』　新潮新書

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
Eメールを利用、および授業の前後に教室内で応対。

887060

情報サービス論

竹島　　昭雄

授業テーマ:　図書館の今日的情報サービスを知る

授業の概要:　図書館情報サービスの本質を知るとともに、サービスにおける図書館員の役割を理解する。そのうえで、情報サービスの種類、レファレンスサービス、情報検索サービスの在り方と方法を学ぶ。さらに、具体的な情報資源の特質と利用方法を知り、最後に情報サービスにかかわる知的財産権ついての基礎的知識を得ることによって、「情報サービス演習A」につながる内容とする。

到達目標:
1.情報サービスにおける図書館員の役割を理解する。
2.情報サービスの種類を知る。
3.レファレンスサービスの理論と方法を修得する。
4.情報検索サービスの理論と方法を修得する。
5.各種情報資源の特質と利用方法を修得する。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	情報社会と図書館の情報サービス	各人の生活において、どのようなものが価値のある「情報」につながったかを具体的に考えなさい。部活動やサークル活動、アルバイトなどの場面を想起すると考えやすい。
2.	図書館における情報サービスの種類	情報サービスにおける「直接サービス」と「間接サービス」とはどのようなものであるかを調べなさい。
3.	図書館における情報サービスの理論的展開	身近な公共図書館で実施されている情報サービスを調べなさい。
4.	レファレンスサービスの理論と実践	レファレンスプロセスの手順を確認し、特にレファレンスインタビューと図書館員の姿勢について考えてみよう。
5.	レファレンスサービスの実際	図書館のレファレンスコーナーに行って、レファレンスライブラリアンがどのような仕事をしているか観察しなさい。
6.	情報検索サービスの理論と方法	「CiNii　Articles」で2つ以上のキーワードをそれぞれ単独で検索した場合と、AND検索した場合(スペースで並べる)と、OR検索した場合(大文字でORをはさむ)と、NOT検索した場合(除外する言葉の前に半角のマイナスを付ける)の結果を比較しなさい。
7.	各種情報源の特質と利用法(1)	「NDL-OPAC」で書誌情報を検索し、調べた書誌情報を使って、普段利用している図書館のOPACと「CiNii Books」を検索して、所蔵状況を調べなさい。
8.	各種情報源の特質と利用法(2)	「NDL－OPAC雑誌記事索引」で論文を検索し、普段利用する図書館でその論文の掲載雑誌が利用できるかを確認しなさい。
9.	各種情報源の特質と利用法(3)	「国立国会図書館近代デジタルライブラリー」を用いて、古典籍資料や歴史的音源を実際に調べてみなさい。
10.	各種情報源の評価と解説	普段利用する図書館にあるレファレンスブックの中で、ユニークと思う事典やハンドブックなどを10件以上探してみなさい。
11.	各種情報源の組織化	「中学校におけるいじめや不登校問題」について書かれた図書を、身近な図書館のOPACで検索しなさい。
12.	発信型情報サービスの意義と方法	京都府内の公共図書館のWebサイトを、デザイン性やアクセシビリティーの観点から比較しなさい。
13.	情報サービスにかかわる知的財産権の基礎知識	「意匠権」「肖像権」「公衆送信権」「パブリックドメイン」のそれぞれについて、図書館の情報サービスという観点から調べなさい。
14.	図書館利用教育と情報リテラシーの育成	「公共図書館パスファインダー集(国立国会図書館リサーチ・ナビ)」を検索し、利用者にとって役に立つと思われる事例を選びなさい。
15.	まとめ	毎回の講義時に配布したプリントに目を通し、特に重要なポイントについて確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内で質問と回答を求め、そのコメントを行う。
授業に関する質問は、質問用紙に書いて提出する。回答については、次回の授業で質問項目と回答を全員に配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標の情報サービスの種類と方法知識度や、到達目標のレファレンスサービスと情報検索サービスの理解度並びに、各種情報資源の特質と利用方法の知識を評価する。
授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標の知識並びに理解が得られたかを評価する。

教科書:

参考書:
『情報サービス論』(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望4)、竹之内禎編著、学文社、
『情報サービス論』(現代図書館情報学シリーズ5)、山崎久道編集、樹村房、
『情報サービス論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ5)小田光宏著、日本図書館協会、

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、創造力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　Eメール(akio-takeshima@mx.scn.tv)

887100

図書館情報資源概論

石橋　　進一

授業テーマ:

授業の概要:　図書館情報資源の種類と展開

到達目標:　さまざまな図書館情報資源について、類型と特質、生産と流通、選択・収集・保存の面から、図書館業務に必要な基本を学ぶ。

授業方法:　1:講義（ただし、簡単な発表を求めることもある。また、毎回、コメントペーパーの提出を求める。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに	教科書を用意しておく
2.	情報・記録・メディア	教科書の該当する章を事前に読んでおく
3.	印刷資料　その1	教科書の該当する章を事前に読んでおく
4.	印刷資料　その2	教科書の該当する章を事前に読んでおく
5.	非印刷資料（有形、パッケージ）	教科書の該当する章を事前に読んでおく
6.	ネットワーク情報資源	教科書の該当する章を事前に読んでおく
7.	政府刊行物	教科書の該当する章を事前に読んでおく
8.	地域資料	教科書の該当する章を事前に読んでおく
9.	コレクションの構築	教科書の該当する章を事前に読んでおく
10.	コレクションの評価	教科書の該当する章を事前に読んでおく
11.	商業出版と流通	教科書の該当する章を事前に読んでおく
12.	学術情報の流通	教科書の該当する章を事前に読んでおく
13.	図書館の知的自由	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
14.	課題と展望	教科書および配布物を事前に読んでおく
15.	まとめ	教科書および配布物を事前に読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:　公立図書館の利用や見学に基づいた質疑を歓迎します。

フィードバックの方法:　コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	60	図書館情報資源の多様性に関する理解度により評価する
授業への参加度	40	コメントペーパーを重視する

教科書:　高山正也・平野英俊、図書館情報資源概論、樹村房、2012

参考書:　宮沢厚雄、図書館情報資源概論(全訂第3版)、理想社、2015
馬場俊明、図書館情報資源概論、日本図書館協会、2012

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。Eメールを利用。

887160

図書館情報資源概論

竹島　　昭雄

授業テーマ:　図書館情報資源の種類と管理運営法を知る

授業の概要:　公立図書館をとりまく社会環境の変化と情報技術の進展は、図書館資料の概念や取り扱いにも大きな変化をもたらしている。この科目では、伝統的な印刷メディアと先端的な電子メディアを紹介しながら、市民の要求に応えてどのように蔵書を形成し、提供するかを知る。また、出版流通に関する基礎的知識と電子メディアの動向、資料の受入方法・蔵書管理の在り方についての知識を修得する。

到達目標:
1.図書館情報資源の種類と内容を知る。
2.出版流通のシステムと課題を理解する。
3.図書館の知的自由の意義を知る。
4.蔵書を構築するための収集・選択の知識を修得する。
5.蔵書の管理方法を知る。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	図書館情報資源:図書館情報資源の意義、情報革命と活字文化、図書館情報資源の類別、図書館員の専門性。	教科書 UNIT1～4の学習
2.	印刷資料:図書、雑誌、新聞、小冊子、地図、その他資料。	教科書 UNIT5～8の学習
3.	非印刷資料:点字、録音資料、マイクロ資料、映像資料、音声資料。	教科書 UNIT9～12の学習
4.	電子資料:電子資料、ネットワーク情報源、図書館資料のデジタル化、電子コンテンツ、電子出版。	教科書 UNIT13～17の学習
5.	資料特論:灰色文献、政府刊行物、地域資料、人文社会・自然科学・技術分野の情報資源。	教科書 UNIT18～22の学習
6.	出版流通システム:出版の意義、出版・書店・図書館、出版流通経路、再販制度。	教科書 UNIT23～26の学習
7.	図書館の知的自由(1):図書館の自由、図書館の自由と検閲。	教科書 UNIT27～28の学習
8.	図書館の知的自由(2):図書館の自由に関する宣言、図書館情報資源と著作権。	教科書 UNIT29～30の学習
9.	蔵書論:蔵書の意義、収集方針、複本と予約、蔵書の更新。	教科書 UNIT131～34の学習
10.	収集と選択:選書の意義、選書論、選書の方法、選書のための情報源。	教科書 UNIT35～38の学習
11.	蔵書管理(1):蔵書評価法、除籍と廃棄。	教科書 UNIT39～40の学習
12.	蔵書管理(2):資源共有、分担収集、分担保存。	教科書 UNIT41～43の学習
13.	資料の組織化:受入業務、登録業務、資料の装備、予算の管理。	教科書 UNIT44～47の学習
14.	書庫管理:書庫管理の意義、蔵書点検、保存とメディア変換、資料保存と修復。	教科書 UNIT48～50の学習
15.	まとめ。	教科書及び配布プリントの事前学習

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業に関する質問は、質問用紙に書いて提出する。回答については、次回の授業で質問項目と回答を全員に配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	80%	到達目標情報資源に関する種類と内容に関する知識や知的自由の意義に関する理解度、到達目標収集と選択方法の知識により評価する。
授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、各到達目標を理解できたかを評価する。

教科書:　『図書館情報資源概論』(JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ8)馬場俊明著、日本図書館協会

参考書:
『図書館情報資源概論』(現代図書館情報学シリーズ8)高山正也・平野英俊編集　樹村房
『図書館情報資源概論』(ライブラリー図書館情報学8)伊藤民雄著　学文社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　Eメール(akio-takeshima@mx.scn.tv)

887200

情報サービス演習A

村木　　美紀

授業テーマ:　レファレンスサービスの実践

授業の概要:　レファレンス資料やその他の情報源についての種別と利用方法を学び，レファレンス質問の回答処理の演習を通じて実践的な能力の育成を図る。基本的には図書館の紙媒体資料を中心に取り扱うが，一部インターネットやデータベースも使用することで，ハイブリッドな資料・情報の検索を身につける。
それとともに単に調査（検索）を行うだけでなく，それらをまとめ，提供し，記録することも意識した演習を行う。

到達目標:
1【知識・理解】レファレンス資料や各種情報源の種別と利用方法を知る。
2【関心・意欲・態度】レファレンスプロセスを踏まえた上での柔軟な調査とわかりやすく丁寧な回答ができる。
3【表現・技能・能力】プレゼンテーション力やコミュニケーション力，実務に沿った記録や評価に必要な技能を身に着ける。

授業方法:　演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	レファレンスサービスの実際 (1)図書館の活用とレファレンスコレクション	本学図書館やよく利用する公立図書館のレファレンスコレクションを確認しておくこと
2.	レファレンスサービスの実際 (2)質問の受付と分析	レファレンス協働データベースの閲覧
3.	レファレンスツールの探索	調査・レポート作成・発表準備
4.	言語・文字情報の探索	調査・レポート作成・発表準備
5.	事物・事象情報の探索	調査・レポート作成・発表準備
6.	人物・団体情報の探索	調査・レポート作成・発表準備
7.	地理・地名情報の探索	調査・レポート作成・発表準備
8.	歴史・日時情報の探索	調査・レポート作成・発表準備
9.	統計情報の探索	調査・レポート作成・発表準備
10.	図書・叢書情報の探索	調査・レポート作成・発表準備
11.	新聞・雑誌情報の探索	調査・レポート作成・発表準備
12.	レファレンスサービスの実際 (3)情報の記録・発信とパスファインダー	図書館訪問やリンク集を活用し、実際に提供されているパスファインダーを出来るだけ多数確認しておくこと
13.	レファレンスサービスの実際 (4)情報の評価	
14.	総合演習	調査・レポート作成・発表準備
15.	総合演習の評価	

受講者へのメッセージやアドバイス:
・調査は毎回、授業時間外に各自図書館で行う
・グループ発表1回、個人でのレポートは10回程度を予定

フィードバックの方法:　基本的に授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	80	到達目標の1・2・3をもとに総合的に評価する。
発表	20	到達目標の3を中心に評価する。

教科書:
中西裕[ほか]『情報サービス論及び演習』学文社，2012，159p.（ライブラリー図書館情報学；6）
＊最新版を用意すること

参考書:
高田高史『図書館のプロが伝える調査のツボ』柏書房，2009，310p.
浅野高史+かながわレファレンス探検隊『図書館のプロが教える＜調べるコツ＞』柏書房，2006，286p.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、コミュニケーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール：mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

887260

情報サービス演習A

竹島　　昭雄

授業テーマ:　レファレンスサービスの実践的スキルの修得。

授業の概要:　「情報サービス論」の内容を踏まえ、情報サービスの中核であるレファレンスサービスの実際を理解することを目的とする。伝統的な冊子体情報源だけでなく、インターネットのサーチエンジン等も含めた各種情報源を用いた情報探索の演習およびそのプロセスの分析等を行い、レファレンスサービスの実践的スキルの育成を図る。そのためにはレファレンスコレクションについての知識を習得し、情報探索および回答作成を質問事例をもとに実習する。

到達目標:
1.レファレンスサービスの基礎知識の修得とレファレンスプロレスの理解。
2.各テーマに関する情報源の知識と利用法の修得。
3.情報探索の基礎的知識の修得。
4.図書・叢書・雑誌記事・新聞記事の探索データベースの知識と使用法の修得。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス、:ビデオ視聴によるレファレンスサービスの理解	同志社女子大学及び同志社大学の今出川図書館に所蔵されているレファレンスブックを確認しよう。
2.	レファレンスサービスの基礎(1):レファレンスサービスの根拠、レファレンスサービスの歴史、レファレンスサービスの構造	
3.	レファレンスサービスの基礎(2):利用者とレファレンスサービス、セルフレファレンス、間接レファレンス、フロアワークレファレンス、	
4.	レファレンスプロセス(1):レファレンスサービスの構成要素と作用、構成要素1-質問者、構成要素2-質問事項、構成要素3-図書館資料、構成要素4-図書館員、構成要素5-回答	
5.	レファレンスプロセス(2):4作用の連続性、質問のやりとり、質問の分析、探索戦略の確立、探索の実行と回答の発見、回答の事後処理	
6.	「言語・言葉」に関する情報の探索と質問の回答、評価	「言語・言葉」に関する問題に取り組む。
7.	「事柄・事象」に関する情報の探索と質問の回答、評価	「事物・事象」に関する問題に取り組む。
8.	「日時・歴史」に関する情報の探索と質問の回答、評価	「日時・歴史」に関する問題に取り組む。
9.	「地理・地名」に関する情報の探索と質問の回答、評価	「地理・地名」に関する問題に取り組む。
10.	「人物・団体」に関する情報の探索と質問の回答、評価。	「人物・団体」に関する問題に取り組む。
11.	情報検索の基礎(1):検索の手順、情報の読み方、検索語、論理演算。	
12.	.情報検索の基礎(2):トランケーション機能、再現率、有益な検索サイト等。	
13.	「図書・叢書」に関する情報の探索と質問の回答、評価。	「図書・叢書」に関する問題を、PCを使って調べる。
14.	「新聞・雑誌記事」に関する情報の探索と質問の回答、評価。	「新聞・雑誌記事」に関する問題を、PCを使って調べる。
15.	まとめ。	配布プリント内容の重要事項を確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　演習問題の回答を提出し、授業時間内に回答をコメントする。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
期末試験	50%	到達目標レファレンスサービスの基礎知識の修得や到達目標各テーマに関する情報源の知識を評価する。
授業中の課題	30%	到達目標レファレンスプロレスの理解と情報探索技術修得の達成度を評価する。
授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、達成目標情報探索の基礎的知識の修得がどの程度できたかを評価する。

教科書:

参考書:
『問題解決のためのレファレンスサービス』長澤雅男、石黒祐子共著、日本図書館協会、
『情報サービス演習』(現代図書館情報学シリーズ7)原田智子編、樹村房、
『実践型レファレンス・サービス入門』(JLA図書館実践シリーズ1)、斎藤文雄、藤村せつ子著、日本図書館協会、

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール(akio-takeshima@mx.scn.tv

887300

情報サービス演習B

村木　　美紀

授業テーマ:　情報検索の理論と実践

授業の概要:　情報検索のうち、コンピュータ検索に関わる基本的な知識と技術を学ぶ。具体的にはCD-ROMやオンラインで提供される各種データベースの検索演習およびインターネット上の情報収集を通じて、情報検索の方法を実践的に身につける。

到達目標:
1【知識・理解】コンピュータ検索の基礎を学ぶ。
2【関心・意欲・態度】各種データベースの種類と特徴を知り、柔軟に検索することができる。
3【表現・技能・能力】回答の提供、情報・調査の評価を行うことができる。

授業方法:　コンピュータ教室での演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス	
2.	検索の基礎知識：語彙統制とシソーラス，論理演算，トランケーション	講義科目「情報サービス論」で学んだことを確認しておく
3.	検索結果の分析・評価，レファレンス事例の活用	
4.	人物略歴情報の検索：CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと
5.	雑誌情報の検索：CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと
6.	図書情報の検索：CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと
7.	図書内容情報の検索：CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと
8.	総合演習：CD-ROM	教科書の該当箇所に目を通しておくこと
9.	図書情報の検索：データベース	データベースに目を通し、操作に慣れておくこと
10.	雑誌情報の検索：データベース	データベースに目を通し、操作に慣れておくこと
11.	新聞記事の検索：データベース	データベースに目を通し、操作に慣れておくこと
12.	インターネット検索：基礎	サーチエンジンの機能を確認し、操作に慣れておくこと
13.	インターネット検索：応用	サーチエンジンの機能を確認し、操作に慣れておくこと
14.	総合演習：インターネット	
15.	データベースの実際と評価	

受講者へのメッセージやアドバイス:　ほぼ毎回課題を出題するので、授業時間内に終わらなかった場合は次の授業時までに終わらせておくこと

フィードバックの方法:　授業時に口頭で行う

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
テスト	60	到達目標の1・2を中心に評価する。
レポート	40	到達目標の1・2・3について総合的に評価する。

教科書:　田中功，齋藤泰則，松山巌『CD-ROMで学ぶ情報検索の演習 新訂4版』日外アソシエーツ，2013
＊最新版を用意すること

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール：mmuraki@dwc.doshisha.ac.jp

887360

情報サービス演習B

西尾　　純子

授業テーマ:　情報検索の理論と実践

授業の概要:　図書館が提供する情報サービスにおいて、必要となる情報検索の知識と技術を学ぶ。主に電子資料とネットワーク情報資源を用いた情報サービス演習を行うことにより、利用者からの多岐にわたる質問に答えることができる実践的な能力を養成する。

到達目標:
1【知識・理解】コンピュータ検索の基礎を学ぶ。
2【関心・意欲・態度】各種データベースの種類と特徴を知り、柔軟に検索することができる。
3【表現・技能・能力】回答の提供、情報・調査の評価を行うことができる。

授業方法:　コンピュータ教室での演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	授業の概要と導入 /「情報検索とは何か」	最初の授業開始までに、これまで検索したことのあるデータベース名を確認しておく。
2.	レファレンスサービスのあり方	演習で出された課題を復習する。
3.	レファレンスインタビューの実際	演習で出された課題を復習する。
4.	検索戦略の立て方	演習で出された課題を復習する。
5.	図書データベース	演習で出された課題を復習する。
6.	新聞記事データベース	演習で出された課題を復習する。
7.	雑誌記事データベース	演習で出された課題を復習する。
8.	学術論文データベース	演習で出された課題を復習する。
9.	中間まとめ、これまでの検索結果の評価	これまでの課題を振り返り、各自復習しておく。
10.	ネットワーク情報資源の利用（人物・団体情報の探索）	演習で出された課題を復習する。
11.	ネットワーク情報資源の利用（電子ジャーナル）	演習で出された課題を復習する。
12.	ネットワーク情報資源の利用（オープンアクセス）	演習で出された課題を復習する。
13.	発信型情報サービスの計画	演習で出された課題を復習する。
14.	発信型情報サービスの作成	演習で出された課題を復習する。
15.	総括	最終の授業後に、半期を振り返り各自復習しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
・「情報サービス論」を事前に履修していることが望ましい。
・自らの興味・関心のある分野についてレファレンス資料やウェブサイトに目を通すように心がけてください。

フィードバックの方法:
・授業時に、教室で解説する。
・提出物は返却しない。必要な場合には、提出前に各自がコピーをとっておくこと。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への参加度	50	出席、発表、課題への取り組みなど積極的に授業に参加し、到達目標に対応する能力を身につけることができたかどうかを評価する。原則として2/3以上の授業に出席し、課題を提出した者のみを成績評価の対象とする。
小レポート	50	授業中に課題を出す。到達目標に対応して、理論だけでなく、実際に演習で得た知識・技術などを評価の対象とする。

教科書:

参考書:
『情報サービス演習』 JLA図書館情報学テキストシリーズ Ⅲ 7
齋藤泰則ほか　日本図書館協会　978-4-8204-1419-3
『改訂 情報サービス演習』 現代図書館情報学シリーズ7
原田 智子ほか 樹村房　978-4-88367-267-7
『CD-ROMで学ぶ 情報検索の演習 新訂4版』
田中 功ほか　日外アソシエーツ　978-4-8169-2393-7

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、自己管理力

教員との連絡方法:　授業中および授業後に直接質問・相談すること。マナビーの掲示機能を利用することがある。期間途中から長期病気欠席等の場合には、状況に応じて機会を設ける。

887400

図書館制度・経営論

石橋　　進一

授業テーマ:

授業の概要:　図書館に関連する法律と政策、および図書館経営の理念と実務の理解

到達目標:　まず図書館に関連する法律を学習し、政策の現状を整理する。その理解を前提に図書館経営の理念と実務の理解を図る。仕上げとして市町村立図書館のサービス計画を実際に立案することにより、図書館評価の手法について基本的知識の習得をめざす。

授業方法:　1:講義（ただし、終盤に各自の調査に基づく発表を求める。また、毎回、コメントペーパーの提出を求める。）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	はじめに	教科書を用意しておく
2.	図書館をめぐる法体系、図書館法逐条解説(1)	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
3.	図書館法逐条解説(2)	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
4.	地方自治体の図書館関連条例など	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
5.	図書館のサービス計画と予算	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
6.	図書館業務・サービスの調査と評価	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
7.	他館種の図書館に関する法律など	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
8.	図書館サービス関連法	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
9.	図書館政策、公共機関施設の経営方法	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
10.	図書館の組織・職員	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
11.	図書館の施設・設備	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
12.	図書館の管理形態の多様化	教科書の該当する章および配布物を事前に読んでおく
13.	個人発表　その1	調査にもとづいた発表ができるようにしておく
14.	個人発表　その2	調査にもとづいた発表ができるようにしておく
15.	まとめと振り返り	教科書および配布物を事前に読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:　公立図書館の利用や見学に基づいた質疑を歓迎します。

フィードバックの方法:　コメントペーパーの質問、要望等については、次回、教室でまとめて回答します。なお、提出物は返却しません。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
発表	30	見学等、さまざまな調査にもとづき、選んだテーマについて現状と課題、方策が明確に提示されているかを基準とする。
レポート	30	図書館のサービス計画立案の仕上がりの度合いを基準とする。
授業への参加度	40	コメントペーパーを重視する。

教科書:　手嶋孝典、図書館制度・経営論　第2版（ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5)、学文社、2017

参考書:　塩見昇他編、新図書館法と現代の図書館、日本図書館協会、2010

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　授業の前後に教室内で応対。Eメールを利用。

887460

図書館制度・経営論

竹島　　昭雄

授業テーマ:　図書館制度・経営の基本と課題を学ぶ

授業の概要:　公立図書館を主体とする図書館経営にかかわる法体系を学ぶことによって、図書館の役割や社会的意義を確認するとともに、図書館員としてのあり方や使命を知る。さらに、図書館経営の具体的手法を学ぶことによって、今日の社会に求められる図書館を実現するための道筋を確認する。

到達目標:
1.図書館をめぐる法体系の概要を知り、図書館法の知識を修得する。
2.地方自体の図書館関連条例と他館種の法律の概要を修得する。
3.今日の公共機関及び図書館の経営方法の状況を知る。
4.図書館職員のあり方を知る。
5.図書館サービス計画の策定及び評価の方法を知る。

授業方法:　講義

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	図書館をめぐる法体系:日本国憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法。	『新図書館法と現代の図書館』(参考文献4)の「Ⅰ図書館法の法的地位」P2～36を読む。
2.	図書館法逐条解説(1):図書館法の目的と図書館の定義、図書館奉仕、司書及び司書補、設置及び運営上望ましい基準。	『新図書館法と現代の図書館』(参考文献4)の「Ⅱ図書館法逐条解説」P98～129を読む。
3.	図書館法逐条解説(2):公立図書館の設置、公立図書館の職員、図書館協議会、入館料など、公立図書館の補助、私立図書館、図書館同種施設。	『新図書館法と現代の図書館』(参考文献4)の「Ⅱ図書館法逐条解説」P130～200を読む。
4.	地方自治体の図書館関連条例など:公共図書館の法的根拠、地方自治体における関係法令、地方自治体における物品管理・図書館の場合。	自分が居住している市町村の図書館設置条例が、どのような内容であるかを調べる。
5.	他館種の図書館に関する法律など:他館種との連携、学校図書館、国立図書館、大学図書館、その他の図書館。	『図書館制度・経営論』(参考文献2)P34～39を読む。
6.	図書館サービス関連法規:読書に関連する法律と図書館サービス、著作権法と図書館サービス、個人情報の保護に関する法律と図書館サービス、労働関連法規・公益法人制度改革と図書館サービス。	『図書館制度・経営論』(参考文献2)P40～45を読む。
7.	図書館政策、国・地方公共団体:国の生涯学習政策、国の図書館政策、都道府県の図書館政策。	『図書館制度・経営論』(参考文献2)P46～53を読む。
8.	公共機関・施設の経営方法と図書館経営:経営とは何か、公共機関・施設の経営方法、公立図書館の経営。	『図書館制度・経営論』(参考文献1)第2章～第3章P12～31を読む。
9.	図書館の組織・職員(1):教育委員会、組織構成、図書館長の役割。	『図書館制度・経営論』(参考文献1)第4章P32～45を読む。
10.	図書館の組織・職員(2):職員、図書館協議会、図書館を支える住民団体、図書館ボランティア。	『図書館制度・経営論』(参考文献1)第4章P32～45を読む。
11.	図書館の施設・設備:新図書館建設のあり方、図書館建築計画の実例、その他施設の留意点、家具・サイン計画。	『図書館経営論』(参考文献5)第6章P125～162を読む。
12.	図書館サービスの計画と予算の確保:図書館サービス計画、予算の確保と執行。	『図書館経営論』(参考文献5)第2章第4節P37～45を読む。
13.	図書館業務:図書館サービスの調査と評価。	『図書館制度・経営論』(参考文献2)P84～89を読む。
14.	図書館の管理形態の多様化、図書館の新しい動向:管理運営・業務の外部化、指定管理者制度等。	『新図書館法と現代の図書館』(参考文献4)のP224～246を読む。
15.	まとめ。	配布プリントの重点項目を確認する。

受講者へのメッセージやアドバイス:　身近な公共図書館に行って蔵書やサービス内容職員の対応などを観察して、その図書館の運営に関する感想をレポートする。レポートの提出方法は第1回の授業で解説する。

フィードバックの方法:　授業に関する質問は、質問用紙に書いて提出する。回答については、次回の授業で質問項目と回答を全員に配布する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	50%	到達目標図書館法に関する知識や地方自治体の条例に関する知識、並びに到達目標図書館サービス計画の策定と図書館評価に関する知識を評価する。
レポート	30%	到達目標である公共図書館経営の学習を通じて、実際の公共図書館の経営を評価する視点がどの程度得られたかを基準とする。
授業への参加度	20%	積極的に授業に参加し、到達目標図書館制度の根拠法と経営の在り方が理解できたかを評価する。

教科書:

参考書:
『図書館制度・経営論』柳与志夫著(ライブラリー　図書館情報学第4巻)　学文社
『図書館制度・経営論』手嶋孝典編著(ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望5)　学文社
『新図書館法と現代の図書館』塩見昇・山口源次郎編著　日本図書館協会
『新図書館法と現代の図書館』塩見昇・山口源次郎編著　日本図書館協会
『図書館経営論』(新現代図書館学講座3)竹内紀吉編著　東京書籍
『公立図書館の経営　増補版』大沢正雄著　日本図書館協会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　思考力、コミュニケーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:　Eメール(akio-takeshima@mx.scn.tv)

887500、60

情報資源組織論

高橋　　俊郎

授業テーマ:
情報資源を組織する方法について、実践的な組織化理論を学ぶ。

授業の概要:
カード目録に始まる情報資源の組織化の歴史を通して、その考え方の基礎を学ぶ。書誌ユーティリティ時代にあっても、目録・分類の構造を把握しないことには、情報資源の的確な組織化と利用につながらない。その基礎となる組織化理論を目録記述法によって理解する。

到達目標:
1. 情報資源組織化全般についての知識と理解を深める。
2. 情報資源の組織化について関心を持ち、意欲的な態度で調査・分析に取り組む。

授業方法:
講義を中心に行う。各自で複数の図書館のデータベースを検索し、同一書誌の記述内容の違いについて調査し、講義内容の理解を促す。試験は複数課題の小論文形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	情報資源とは、情報資源を組織するとは、その目的は	教科書を読む。
2.	書誌コントロールとその歴史	教科書を読む。各自で色んな図書館のデータベースを検索し、同一書誌の記述内容の違いについて調査する。
3.	書誌ユーティリティとMARC	教科書を読む。国立国会図書館のJAPAN/MARCを検索してみる。
4.	コンピュータによる目録作成の実際	教科書を読む。
5.	目録の種類、媒体、機能	教科書を読む。
6.	記述目録法と目録規則	教科書を読む。『日本目録規則』に目を通しておく。
7.	書誌階層と記述	教科書を読む。
8.	記述目録作成の実際（1）タイトル表示と責任表示	教科書を読む。
9.	記述目録作成の実際（2）出版事項、注記など	教科書を読む。各自で複数の図書館のデータベースを検索し、同一書誌の記述内容の違いについて確認する。
10.	記述目録作成の実際（3）多様な情報資源	教科書を読む。各自で複数の図書館のデータベースを検索し、情報資源の形態による記述内容の違いを確認する。
11.	記述目録作成の実際（4）標目と排列	教科書を読む。
12.	分類法の概要	教科書を読む。『日本十進分類法』に目を通しておく。
13.	主題目録と分類、請求記号	教科書を読む。『基本件名標目表』に目を通しておく。
14.	メタデータとウェブサービス	教科書を読む。
15.	まとめ	講義で出てきたキーワードについて、簡潔にまとめておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:
情報資源の組織化は図書館の機能にとって最も基本的なものです。組織化をする側の視点に立って、書誌データや分類、件名などを見つめなおしてみましょう。

フィードバックの方法:
目録の基本記述などの実技の際には、個々人を回って質問し、評価して、内容理解を深める。
授業後半に質問タイムを設けるとともに、Eメールを利用して質問・助言に対応する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70%	到達目標1の理解度により評価する。
授業への参加度	30%	到達目標2の出席状況・取り組む態度で評価する。

教科書:
柴田正美編著　JLA図書館情報学テキストシリーズⅢ9『情報資源組織論』（新訂版）　日本図書館協会

参考書:
『日本目録規則』（改訂3版）　日本図書館協会
『日本十進分類法』（第10版）　日本図書館協会
『基本件名標目表』（第4版）　日本図書館協会
日本図書館情報学会研究委員会編　『メタデータとウェブサービス』　勉誠出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力

教員との連絡方法:
Eメールを利用、および授業の前後に教室内で応対。

887700

図書・図書館史

中西　　秀彦

授業テーマ:　図書の歴史から未来を展望する

授業の概要:　必修の各科目で学んだ内容を発展的に学習し、図書の歴史と図書館の歴史について理解を深める。それは単なる教養としてではない。未来は現在のみを知ることで、立ち現れるのではなく、過去と現在を結ぶ線を延長することで立ち現れるからである。図書と図書館の歴史を学ぶことは、現在の図書と図書館がどのような経緯で成立し、それが歴史的にどのような意味をもつかを知ることである。それを知ることで、将来の図書館員として、図書館がどのように変容しようとも、主体的に関われる能力を涵養できる。

到達目標:
1.図書・図書館の発展について正しい知識をえている
2.歴史的事実をもとに将来の図書・図書館のあり方を洞察できる
3.図書館の実務について、図書・図書館の知識を応用できる

授業方法:　講義による。ビジュアルをできるだけ用い、図書と図書館の歴史について具体的にイメージできるようにする。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	記録とメディア	世界史の想起。高校の教科書でよいからひととおりよんでおくこと。参考文献のうち一冊を読んでおくこと
2.	書物の誕生と古代・中世の図書館	
3.	印刷の誕生と近代型図書館の成立	午前の授業について、疑問点を明らかにしておくこと。
4.	西洋図書館の発展	1日目の学習について、事前に読んでおいた参考書とてらしあわせて、より深めたい箇所を認識しておく
5.	20世紀の図書館	日本史の想起。中学・高校の教科書でよいからひととおり読んでおくこと。
6.	日本の図書・図書館史1　古代から江戸	午前の授業について、疑問点を明らかにしておくこと。
7.	日本の図書・図書館史2　明治以後	2日目の学習について、事前に読んでおいた参考書とてらしあわせて、より深めたい箇所を認識しておく
8.	メディアの電子化・電子図書館	

受講者へのメッセージやアドバイス:　参考文献にあげた文献の2冊は最低読んでおくこと。

フィードバックの方法:　集中講義のため教室での直接質問に限る

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
平常試験	100	図書・図書館史を正しく理解しているか

教科書:

参考書:
前川恒雄・石井敦『図書館の発見』 日本放送出版協会
日本図書館協会編 『図書および図書館史』 日本図書館協会
樺山紘一 『図説　本の歴史』 河出書房新社
スチュアート・A.P. マレー 『図説図書館の歴史』　原書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、変化対応力

教員との連絡方法:　マナビーを利用するが、集中講義のため直接の質問でもよい

887860

図書館施設論

佐藤　　毅彦

授業テーマ:

授業の概要:　図書館の施設・設備に関する歴史と現状について、基礎的な知識を身につけ、図書館建築の現代的な動向を理解する。

到達目標:　図書館の施設・設備について、日本の公共図書館を中心に、実際の状況を、写真・パンフレットなどを素材として紹介する。図書館サービスが実践される「場」としての図書館建築について、図書館の地域計画、建築計画、図書館内の設備、利用者と職員のコミュニケーション、などの要素をとりあげ、具体例を検討しながら理解を深める。

授業方法:　講義　授業時間中の後半に、その授業内容に関する課題を出題し、提出することを求める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	図書館建築の意義	テキストの「序文」「もくじ」等を参照し、授業内容について、予備知識をもっておく。
2.	図書館の地域計画	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
3.	図書館建築にかかわる人々	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
4.	図書館内の設備	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
5.	図書館施設と利用者・職員	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
6.	図書館施設と図書館サービス	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
7.	図書館建築の最近の動向	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。
8.	全体のまとめ	前回の授業で指示するテキストの該当ページを参照しておく。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業中の提出物について、次回以降の授業で、教員のコメントを授業中に発表する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中の提出物の提出状況	10	授業中に設定する課題について提出しているかどうか、提出回数をカウントする。
授業中の提出物の内容	40	提出された課題の内容について、設定された課題と合致した内容になっているかどうかを判定する。
筆記試験	50	設問について、指定の文字数の範囲内で、出題に際して想定したキーワードを使用して、説明されているかどうかを評価する。

教科書:　植松貞夫『図書館施設論』樹村房、2014
2000+税　ISBN9784883672127

参考書:　世界の夢の図書館　エクスナレッジ　2014
日本の最も美しい図書館　エクスナレッジ　2015

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力

教員との連絡方法:　集中講義期間中の授業中に対応する

890100 **看護学研究特論**

眞鍋　えみ子、小松　光代、桝本　妙子

授業テーマ:　研究のプロセス、研究倫理規範の修得、EBMとNBMの統合

授業の概要:　看護研究の意義を理解し、国内外の研究論文クリティークを通してエビデンスとナラティブを統合した看護実践の探求につながる研究課題の明確化、研究方法と研究デザインの選択や倫理的に配慮された研究計画書の作成、論文の執筆、研究成果を看護実践に活用する方法を学ぶ。
［小松］ 研究のプロセスや倫理的配慮、研究計画、文献クリティークの方法、ナラティブモデルの基盤や手法、エビデンスとナラティブ統合の重要性について学ぶ。
［眞鍋］ 研究および看護実践におけるエビデンスの探索、統合、看護実践への活用プロセスについて学ぶ。
［桝本］ 文献検索法を教授するとともに文献クリティークを通して、研究課題を明確にする方法を学ぶ。

到達目標:
1)看護研究の意義を理解できる。
2)研究論文のクリティークを通してエビデンスとナラティブを統合について理解できる。
3)研究課題の明確化、研究方法と研究デザインの選択や倫理的に配慮された研究計画書の作成、論文の執筆について理解できる。
4)研究成果を看護実践に活用する方法について具体的な例をあげて説明できる。

授業方法:　講義およびディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護研究の意義、医療におけるエビデンス(EBM)とナラティブ(NBM) ［小松］	教科書の第一部(1章、2章)と第二部（5章)を読み、ディスカッションの準備をする
2.	研究のプロセス、研究方法と理論的基盤、研究デザイン ［小松］	参考書を読み、研究プロセスの概要を理解して臨む
3.	研究課題焦点化のための文献検索の方法 ［桝本］	医中誌、PubMedの操作を確認しておく
4.	研究課題焦点化のための文献クリティーク ［小松］	事前に配布された論文を熟読する
5.	看護研究における倫理的配慮 ［小松］	事前に示された資料やWebを熟読する
6.	EBM式思考様式と批判的吟味(1)問題の定型化 ［眞鍋］	事前に配布された論文を熟読する
7.	EBM式思考様式と批判的吟味(2)情報収集 ［眞鍋］	事前に配布された論文を熟読する
8.	EBM式思考様式と批判的吟味(3)得られた情報の批判的吟味 ［眞鍋］	事前に配布された論文を熟読する
9.	EBMの看護実践への活用 ［眞鍋］	事前に配布された論文を熟読する
10.	NBMの定義とプロセス ［小松］	教科書第二部(5章)を読み、プレゼンテーションの準備をする
11.	NBMの技法(1)面接法と質問技法 ［小松］	教科書第二部(6章、7章)を熟読し、プレゼンテーションの準備をする
12.	NBMの技法(2)物語のすりあわせ ［小松］	教科書第二部(8章、9章)を熟読し、プレゼンテーションの準備をする
13.	EBMとNBMの統合的理解 ［小松］	教科書第三部(10章、11章、12章)を熟読し、適応可能な看護現象を考えディスカッションに備える
14.	研究計画書の作成 ［小松］	研究計画書の構成について理解しておく
15.	研究計画(文献検討)の発表 ［桝本］	文献を検索し、文献検討とプレゼンの準備をする

受講者へのメッセージやアドバイス:　教科書や事前に配布された資料を読み、要点や意見をまとめて質疑応答に備えてください。

フィードバックの方法:　ディスカッション内で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標2)3)に関する理解度により評価する
発表、討議	50	到達目標1)4)に関する理解度により評価する

教科書:　斎藤清二：改訂版　医療におけるエビデンスとナラティブ(対立から調和へ),遠見書房.

参考書:　D.F.ポーリット&C.T.ベック著,近藤潤子監訳：看護研究(原理と方法)第2版,医学書院
山川みやえ,牧本清子：よくわかる看護研究論文のクリティーク,日本看護協会出版会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　Eメール、講義の前後で対応する

890200

看護研究方法論

小松　光代、木村　洋子、桝本　妙子

授業テーマ:　研究課題の焦点化と研究デザインの選択、倫理審査の手続き

授業の概要:　看護学研究特論における学修をもとに研究課題の焦点化を図り、量的研究法(症例対照研究、コホート研究、介入研究)と質的研究法(質的記述的研究法)、並びに混合研究法の手続きや実際の手法を教授し、課題に応じた研究デザイン、研究計画の具現化について探索する。

到達目標:
1.質的研究論文のクリティークを通して、研究課題に応じた研究デザインの選択とプロセスについて理解できる。
2.量的研究方法論文のクリティークを通して、研究課題に応じた研究デザインの選択とプロセスについて理解できる。
3.混合法を用いた研究デザインとプロセスについて理解できる。
4.研究倫理審査の手続きや成果発表について理解できる。

授業方法:　講義およびプレゼンテーション形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護学研究における倫理審査(小松)	研究の倫理的手続きについて資料を収集しておく
2.	質的研究の種類と方法(木村)	質的研究の種類について学習しておく
3.	質的研究のプロセス(木村)	質的研究の種類を復習し、研究プロセスの概観について教科書に目を通しておく
4.	質的研究のデータ収集方法(木村)	関心あるテーマについて質的研究論文を検索し、研究の種類やプロセスについて復習しておく
5.	質的研究のデータ分析方法(木村)	質的研究のデータ収集方法を復習し、分析方法について教科書を読んでおく
6.	質的研究の結果の解釈(木村)	質的研究論文に目をとおし、結果の解釈について予習しておく
7.	質的研究論文のクリティーク(木村)	提示された論文に目を通しておく
8.	量的研究の方法と実際①:調査研究の進め方(桝本)	量的研究方法(調査研究)について教科書を読んでおく
9.	量的研究の方法と実際②:横断研究論文のクリティーク(桝本)	量的研究方法(横断研究)について教科書を読んでおく
10.	量的研究の方法と実際③:症例対照研究論文のクリティーク(桝本)	量的研究の症例対照研究論文についてクリティークしておく
11.	量的研究の方法と実際④:コホート研究論文のクリティーク(桝本)	量的研究のコホート研究論文についてクリティークしておく
12.	量的研究論文の実際⑤:介入研究論文のクリティーク(桝本)	量的研究の介入論文についてクリティークしておく
13.	混合研究法の基礎(小松)	量的研究と質的研究の統合について教科書をよんでおく
14.	混合研究法の活用(小松)	混合研究法を用いた研究を検索し持参する
15.	研究成果の発表(小松)	研究結果の報告について教科書を読んでおく 指定されたレポートを作成する

受講者へのメッセージやアドバイス:　自らの研究課題に応じた研究方法について理解を深めましょう

フィードバックの方法:　講義やディスカッションに関するフィードバックは、講義の中で解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	50	目標1,2の到達から評価する
ディスカッションへの参加度	20	目標1,2,3の到達から評価する
プレゼンテーション	30	目標1,2,3,4の到達から評価する

教科書:　D.F.ポーリット＆C.T.ベック著,近藤潤子監訳(2010):看護研究(原理と方法)第2版,医学書院

参考書:　APA(アメリカ心理学会)編,江藤裕之,前田樹海,田中建彦訳:APA論文作成マニュアル,医学書院.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　講義前後やメール等で対応する

890300

科学英語論文クリティーク

飯田　　毅

授業テーマ:
専門領域の英語論文の検索方法、読み方、書き方を学び、批判的に捉える方法を習得する。

授業の概要:
修士論文及び将来の自分の研究を英語で読み、書く際に必要となる文献検索の方法、英語論文の読み方、書き方についての基本的事項を習得する。また、国際学会等で英語で自分の研究を発表する方法についても学ぶ。専門領域の英語論文を読み、英語論文を系統的に探索する方法を身につけ、批判的に読む方法を習得する。

到達目標:
1 文献検索エンジンを使用し、英語論文の読み方及び書き方を知り、批判的に文献を読む基礎的な手法を学ぶ。
2 国際的にコンセンサスが得られている研究デザイン別ガイドラインの紹介により、論文の識別や読み方、解釈の要点について学ぶ。
3 国際学会等で発表する際に必要となる英語のプレゼンテーションの心構え及び方法について学ぶ。

授業方法:
論文の輪読、学生間の議論等のセミナー形式で授業を実施する。事前に看護・医療のトッピックスに関連する抄録や論文を配布し、授業ではその内容に関して討論する。授業の形式は、学生の発表、質疑応答に引き続き、論文のクリテークトディスカッションを行う。担当回には自主的に調べて考えをまとめて発表するとともに、相互に議論する。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、英語学習の方法	シラバスを読み、授業内容を理解する。
2.	学術雑誌の国際的コンセンサス（インパクトファクターとThe EQATOR Network)について	専門分野の学術雑誌について調べてくる。
3.	英語論文の読み方(1)：アカデミック・ライティングとは。英文に流れを作るストラテジー。ディスコースを結束させるストラテジー。	テキストを読み、内容を整理して、授業に臨む。
4.	MEDLINE, CINAHLによる文献検索	文献検索の方法を調べておく。
5.	英語論文の読み方(2)：メタディスコースで読者を誘導。文頭メタディスコースの活用法。時制で示す書き手のスタンス。	テキストを読み、内容を整理して、授業に臨む。
6.	英語論文の読み方(3)：　感傷的表現のヘッジと断定表現のブースター。パラグラフのまとめ方。パラグラフとエッセイの基本ムーブ。	テキストを読み、内容を整理して、授業に臨む。
7.	英語による文章表現方法(1)：国際ジャーナル論文の書き方。研究メソッドの書き方。	テキストを読み、内容を整理して、授業に臨む。
8.	英語による文章表現方法(2)：結果(リザルト）の書き方。	テキストを読み、内容を整理して、授業に臨む。
9.	英語による文章表現方法(3):ディスカッション及びアブストラクトの書き方。	テキストを読み、内容を整理して、授業に臨む。
10.	英語論文のクリテークとディスカッション、解説(1）	自分の研究分野に関する論文を取り上げ、批判的に読みながら、議論する。
11.	英語論文のクリテークとディスカッション、解説(2）	自分の研究分野に関する論文を取り上げ、批判的に読みながら、議論する。
12.	英語論文のクリテークとディスカッション、解説(3）	自分の研究分野に関する論文を取り上げ、批判的に読みながら、議論する。
13.	英語論文のクリテークとディスカッション、解説(4）	自分の研究分野に関する論文を取り上げ、批判的に読みながら、議論する。
14.	英語によるプレゼンテーションの方法(1）	自分の研究方法を確立させ、英語でプレゼンテーションを行う。
15.	英語によるプレゼンテーションの方法(2)、まとめ	再度自分の研究方法を確立させ、英語でプレゼンテーションを行う。全体をまとめる。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:
授業中の発表に関しては、発表後にフィードバックする。毎回の課題に関しては、マナビーを通して課題を返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業中の発表とディスカッションの評価	60	到達目標(1)(3)に関して、毎回の発表、質疑応答、議論を通して評価する。
課題レポート	30	到達目標(2)に関して、期末レポートをルーブリックで評価する。ルーブリックに関しては、授業中に提示する。
授業への貢献	10	授業中の意欲的な発言、準備状況について観察を通して評価する。

教科書:
中谷安男 「大学生のためのアカデミック英文ライティング」 大修館書店

参考書:
American Psychological Association. (2010). Publication manual of the American Psychological Association (6th ed.). Washington, DC: American Psychological Association.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:
分析力、思考力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:
E-mail

890400

理論看護特論

當目　　雅代

授業テーマ:　看護研究のおける理論開発方法

授業の概要:　看護学という学問を発展させるために看護職は日々看護実践の中でリサーチマインドをもって研究に取り組むことが求められている。研究の目的を大別すると理論生成と理論検証である。そこで理論に関連する用語を理解したうえで、看護領域における理論の考え方や理論開発方法について学習する。また、看護の知の5つの構成要素を学習することで、看護実践における理論の位置づけを検討するとともに、5つの知の統合によってもたらされる看護ケアを探求することを目指す。さらに、看護領域の研究の概念枠組に用いられる中範囲理論について検討する。

到達目標:
1. 看護専門職者として看護学の構築に向けての意義が説明できる。
2. 研究目的である理論生成と理論検証について説明できる。
3. 理論生成と理論検証にむけて関連用語を理解し、説明できる。
4. 看護領域における理論開発方法を理解し、説明できる。
5. 看護の知の構成要素を理解し、看護実践の知と知識を説明できる。
6. 看護領域における中範囲理論の適用を説明できる。

授業方法:　講義と学生による課題のプレゼンテーションと討議

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション:看護における理論とは何か	
2.	学問とは:専門職における学問の意味	プレゼンテーション準備をする
3.	科学とは:科学的思考プロセス	プレゼンテーション準備をする
4.	理論とは:理論のレベルと種類	プレゼンテーション準備をする
5.	概念とは:概念の本質と種類	プレゼンテーション準備をする
6.	変数とは:変数の種類と目的	プレゼンテーション準備をする
7.	看護の知とは:看護の知の構成要素の概要	プレゼンテーション準備をする
8.	看護の知:経験知ー看護における経験知の開発と評価方法	看護学の総合的な知の構築に向けての経験知を読んでおく
9.	看護の知:倫理知ー看護における倫理知の開発と評価方法	看護学の総合的な知の構築に向けての倫理知を読んでおく
10.	看護の知:個人知ー看護における個人知の開発と評価方法	看護学の総合的な知の構築に向けての個人知を読んでおく
11.	看護の知:審美知ー看護における審美知の開発と評価方法	看護学の総合的な知の構築に向けて審美知を読んでおく
12.	看護の知:解放知ー看護における解放知の開発と評価方法	看護学の総合的な知の構築に向けて解放知の資料を読んでおく
13.	看護における中範囲理論	関心のある中範囲理論を考えておく
14.	看護における実践理論	関心のある実践理論の論文を探索しておく
15.	看護における理論構築	

受講者へのメッセージやアドバイス:　主体的に授業に取り組んでください

フィードバックの方法:　ファシリテーターとして授業内で発問や助言をします

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション資料	50	到達目標1～6を評価します。
課題レポート	40	到達目標4・5を評価します。
討論での積極的参加度	10	各授業内での討論参加度を評価します。

教科書:
ペギー L チン,メオーナ K クレイマー (著), 川原 由佳里(監訳), チン&クレイマー看護学の総合的な知の構築に向けて, エルゼビア・ジャパン, 2007.
佐藤栄子:中範囲理論入門第2版, 日総研, 2008年.

参考書:
黒田 裕子, 看護診断のためのよくわかる中範囲理論 第2版, 2015.
Peggg.L.Chinn:Integrated Theory & Knowledge Development in Nursing Mosby; 8版 2010.
D. F. ポーリット, 近藤潤子 (翻訳):看護研究 第2版—原理と方法 単行本, 医学書院, 2010.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　メール

890500

看護倫理特論

當目　雅代、杉原　百合子、光木　幸子

授業テーマ:　医療・看護における倫理的問題の意思決定プロセス方法

授業の概要:　医療の現場では常に倫理的問題に遭遇している。看護職が倫理的問題を解決するためには、適切な倫理的判断能力を有することが求められる。そこで、医療・看護における倫理の基本原則および意思決定方法を学習する。そのうえで、臨床における看護の倫理的問題について意思決定プロセスの方法論を用いて分析し、理解を深める

到達目標:
1. 生命倫理・医療倫理・看護倫理について説明できる。
2. 医療のおける倫理的問題を明確化し、対策を考えることができる。
3. 医療・看護における倫理原則を理解し、倫理的現象の説明ができる。
4. 倫理的問題の意思決定プロセスを説明できる。
5. がん看護における倫理的問題を明確化し、意思決定プロセスを適用して問題解決できる。
6. 認知症看護における倫理的問題を明確化し、意思決定プロセスを適用して問題解決できる。

授業方法:　講義と受講生によるプレゼンテーション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　生命倫理・医療倫理・看護倫理とは(當目)	
2.	今日の社会における倫理的問題の明確化（當目）	現在問題となっている医療における倫理的問題に関心をもつ
3.	今日の社会における倫理的問題の対策（當目）	現在問題となっている医療における倫理的問題に関心をもつ
4.	医療・看護の倫理原則 （當目）	倫理原則を臨床事例で深められるようにしておく
5.	意思決定プロセスの方法　倫理的問題に対する意思決定プロセス方法論（當目）	教科書・参考図書を読んで意思決定プロセスを理解しておく
6.	がん看護における病名・病状説明に関する倫理的問題（患者）	プレゼンテーション資料を準備する
7.	がん看護における病名・病状説明に関する倫理的問題（家族）（光木）	プレゼンテーション資料を準備する
8.	がん看護における治療の継続、拒否や中止に関する倫理的問題（光木）	プレゼンテーション資料を準備する
9.	がん看護における終末期にある患者に関する倫理的問題（光木）	プレゼンテーション資料を準備する
10.	がん看護における終末期患者の家族に関する意思決定プロセスの支援	プレゼンテーション資料を準備する
11.	認知症看護における倫理的問題の捉え方（杉原）	プレゼンテーション資料を準備する
12.	認知症の人に対する日常的ケアの倫理的問題（杉原）	プレゼンテーション資料を準備する
13.	認知症の人と家族に対する終末期ケアの倫理的問題（杉原）	プレゼンテーション資料を準備する
14.	認知症看護における倫理的問題に対する支援（杉原）	プレゼンテーション資料を準備する
15.	認知症看護における意思決定プロセスの支援（杉原）	プレゼンテーション資料を準備する

受講者へのメッセージやアドバイス:　授業に主体的に取り組んでください。

フィードバックの方法:　教員はファシリテーターとして質問や助言を行います。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション資料	45	到達目標1～6を評価します。
課題レポート	45	到達目標2・5・6を評価します。
討議への参加度	10	授業内での討議への積極的参加度を評価します。

教科書:　ジョイス・E. トンプソン,ヘンリー・O. トンプソン (著),看護倫理のための意思決定10のステップ, 日本看護協会出版会, 2004.
授業内で適宜紹介する

参考書:　小西恵美子, 看護倫理—よい看護・よい看護師への道しるべ, 南江堂; 改訂第2版 , 2015.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　メール

890600

看護教育特論

小笠　　幸子、岡山　　寧子

授業テーマ:　看護教育の歴史をふまえ、生涯教育の視点に立った看護教育のあり方を考える

授業の概要:　近・現代における看護教育の歴史、看護教育制度の変遷をふまえて、看護基礎教育および看護継続教育の現状や今日的な課題について学修する。それらを通して、看護教育学の基本的な理解を深め、生涯教育の視点に立った看護教育学のあり方を検討する。

到達目標:
1. 看護教育とは何かを理解する。
2. 近・現代における看護教育の変遷を理解する。
3. 現代における看護基礎教育の現状と課題を考える。
4. 学士課程から看護基礎教育を考える。
5. 看護継続教育の現状と課題を考える。
6. これからの看護教育を展望する。

授業方法:　講義および討議形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護教育とは何か	看護教育についての文献や資料を探す
2.	近・現代における看護教育の変遷①:同志社の看護教育	同志社と医療に関する文献や資料を探す
3.	近代における看護教育の変遷②:明治～戦間期における看護教育の事例から	同志社と医療に関する文献報告の準備
4.	近・現代における看護教育制度の変遷	看護教育制度についての文献や資料を探す
5.	現代における看護基礎教育の現状と課題①:教育課程の変遷から	現代における看護基礎教育の現状と課題に関する文献報告の準備
6.	現代における看護基礎教育の現状と課題②:看護の高等教育化の進展	現代における看護基礎教育の現状と課題に関する文献報告の準備
7.	学士課程から看護基礎教育を考える①:看護職養成教育と看護学教育	学士課程に看護基礎教育に関する文献や資料を探す
8.	学士課程から看護基礎教育を考える②:看護系教員に求められるもの	学士課程に看護基礎教育に関する文献報告の準備
9.	学士課程から看護基礎教育を考える③:継続教育のつなぎを考える	学士課程に看護基礎教育に関する文献報告の準備
10.	看護継続教育の現状と課題	看護継続教育に関する文献や資料を探す
11.	看護継続教育のこれからを展望する	看護継続教育に関する文献や資料を探す
12.	看護教育学関連文献の精読、討議	関連文献の討議に向けての準備
13.	看護教育学関連文献の精読、討議	関連文献の討議に向けての準備
14.	看護教育学関連文献の精読、討議	関連文献の討議に向けての準備
15.	これからの看護教育を展望する	看護教育の展望を考える

受講者へのメッセージやアドバイス:　これからの看護教育はどのように進んでいくのだろうか。看護の歩んできた道を振り返りながら、共に考えていきましょう。

フィードバックの方法:　コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
討議参加状況	40	討議参加状況
課題レポート	60	到達目標1～6の修得状況

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応

890700

看護管理特論

中川　　典子

授業テーマ:　看護の質向上のための組織の運営管理やマネジメント

授業の概要:　看護管理の歴史的な経緯をふまえ、看護実践者として看護の質向上のための組織の運営管理やマネジメントに必要な諸理論を学習する。また、看護活動に必要な保健医療福祉に関わる多職種間との連携・協働や看護組織における管理の実際について学習する。

到達目標:
1. 看護・医療の質向上のための組織運営やマネジメントに必要な理論を理解する。
2. 看護活動に必要な保健医療福祉制度について理解する。
3. 保健医療福祉にかかわる多職種との連携・協働について理解し、看護の役割について考察する。
4. 質の高いサービスを継続的に提供するための看護の役割について考察する。

授業方法:　講義およびプレゼンテーション形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	看護管理総説－看護管理の概念、変化する医療・福祉・経済とマネジメントの動向	看護倫理特論の内容を復習しておくこと
2.	看護組織と管理（1）:組織論、組織文化、組織倫理	前回までの講義内容を理解しておくこと
3.	看護組織と管理（2）:保健・医療・福祉サービス提供組織のしくみ	前回までの講義内容を理解しておくこと
4.	看護実践の基盤となる法律、業務範囲:保助看法、労働三法、看護業務基準など	保助看法、看護業務基準（日本看護協会）について学習しておくこと
5.	看護におけるマネジメント（1）:リーダーシップ、フォロワーシップ、意思決定	トピックスに関連する内容、看護に関連する文献を検索し学習しておくこと
6.	看護におけるマネジメント（2）:パワー、エンパワーメント、動機づけ	トピックスに関連する内容、看護に関連する文献を検索し学習しておくこと
7.	医療・看護の質保証（1）:医療安全対策とセーフティマネジメント	トピックスに関する社会情勢、施策などについて学習しておくこと
8.	医療・看護の質保証（2）:医療・看護の質管理	トピックスに関する社会情勢、施策などについて学習しておくこと
9.	医療・看護の質保証（3）:看護の質の継続的改善、看護管理のプロセス	看護の質の継続的改善について、自分の考えをまとめておくこと
10.	看護人材マネジメント(1):キャリア発達とキャリア開発	トピックスに関連する内容、看護に関連する文献を検索し学習しておくこと
11.	看護人材マネジメント(2):ジェネラリストとスペシャリスト 、WLB	トピックスに関連する社会情勢、施策、看護に関連する文献を検索し学習しておくこと
12.	看護管理における情報管理:情報とは、情報活用、情報提供、情報の保護	トピックスに関連する社会情勢、施策、看護に関連する文献を検索し学習しておくこと
13.	医療制度とその動向（1）:社会の変化と医療への影響、多職種連携	地域医療構想、IPWについて学習しておくこと
14.	医療制度とその動向（2）:診療報酬制度	診療報酬制度、平成20年度改定について学習しておくこと
15.	これからの看護管理を展望する	これからの看護管理の課題について自分の考えをまとめておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　入学前に体験した臨地実習や臨床経験において看護管理の視点からの課題や疑問点を抽出しておくこと。

フィードバックの方法:　質問用紙、コメントペーパー等に対しては、教室でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業への積極的態度	10%	討論の促進に貢献する内容や頻度(タイミング)でなされているか。
プレゼンテーション	40%	内容が正確であり、主要な論点を踏まえているか、自らの体験も踏まえつつ現実的な考察がされているか。
課題レポート	50%	課題のテーマが明確で、主要な論点を踏まえ現実的かつ先見性をもって考察されているか。

教科書:　特に指定しないが、参考文献、厚生労働省HPなどを適宜活用する

参考書:
看護管理学習テキスト:日本看護協会出版会（最新刊）
看護白書（毎年刊行）:日本看護協会出版会
中西睦子:看護サービス管理、第4版、2013、医学書院
桑田耕太郎、田尾雅夫:2006、組織論、有斐閣
Stephen P. Robbins. 高木晴夫訳（2009）【新版】組織行動のマネジメント－入門から実践へ、ダイヤモンド社
金井壽宏:リーダーシップ入門、日本経済新聞出版会、2005
原玲子:看護師長・主任のための成果のみえる病棟目標の立て方、日本看護協会出版会
P.ハーシィ, K.H.ブランチャード, D.E.ジョンソン著, 山本成二, 山本あづさ訳:行動科学の展開－入門から応用へ、人的資源の活用、生産出版、2000
日本医療機能評価機構HP、病院機能評価
金井Pak雅子、河野秀一:病棟マネジメントに役立つ法律制度の基礎知識、2011年夏季増刊、MCメディカ出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　講義前後で対応する。

890800

健康科学特論

岡山　寧子、稲田　雅美、村上　元庸

授業テーマ:　健康長寿をめざした望ましい健康づくりへのアプローチ

授業の概要:　健康的で幸福な生活の実現をめざす健康長寿に向けての支援は、精神的、身体的、社会的、そして生活のゆたかさや質の高さなど多角的な視点からの考察が必要である。ここでは、健康や健康長寿とは何かをふまえ、子どもへの発達支援や高齢者支援での芸術療法の実践例、そして健康回復・維持のための安全性の高い薬物療法のあり方などを検討し、健康長寿に向けた望ましい健康づくりへのアプローチについて探究する。

到達目標:
1. 健康や健康長寿について概観し、健康長寿をめざした望ましい健康づくりのあり方について考える。
2. 代替医療の中の芸術療法について理解する。
3. 子どもへの発達支援や高齢者支援での幅広い芸術療法を実践例からか考える。
4. 臨床医学、中でも高齢者医療や薬物療法と健康について考える。
5. 高齢者の薬物療法を事例から考える。

授業方法:　講義および討議形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康、健康長寿とは何か	健康や健康長寿に関する文献や資料をみておく
2.	健康長寿をめざした望ましい健康づくり	健康や健康長寿に関する文献報告の準備
3.	芸術療法と健康科学①　芸術療法とは何か、その歴史的変遷	芸術療法に関する文献や資料をみておく
4.	芸術療法と健康科学②　芸術療法の理論的背景、治療と芸術	芸術療法に関する文献報告の準備
5.	芸術療法と健康科学③　音楽を用いた事例から	音楽療法に関する文献をみておく
6.	芸術療法と健康科学④　描画を用いた事例から	描画による芸術療法に関する文献をみておく
7.	芸術療法と健康科学⑤　手工芸を用いた事例から	手工芸による芸術療法に関する文献をみておく
8.	芸術療法と健康科学⑥　芸術療法と「病の語り」	文献や配付資料等の復習
9.	薬物療法と健康科学①　臨床医学における薬物療法、その基本	臨床医学における薬物療法に関する文献をみておく
10.	薬物療法と健康科学②　薬物療法と安全性	臨床医学における薬物療法に関する文献をみておく
11.	薬物療法と健康科学③　消化器疾患と薬物療法	消化器疾患と薬物療法に関する文献をみておく
12.	薬物療法と健康科学④　循環器疾患と薬物療法	循環器疾患と薬物療法に関する文献をみておく
13.	薬物療法と健康科学⑤　高血圧と薬物療法	高血圧と薬物療法に関する文献をみておく
14.	薬物療法と健康科学⑥　呼吸疾患と薬物療法	呼吸疾患と薬物療法に関する文献をみておく
15.	まとめ　健康長寿をめざした望ましい健康づくりへのアプローチ	健康づくりのあり方を考える

受講者へのメッセージやアドバイス:　健康長寿をめざす支援を考える中で、芸術療法や薬物療法という視点から考えましょう。

フィードバックの方法:　コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
討議参加度	40	討議への参加度
課題レポート	60	到達目標1～5の修得状況

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応

890900

成人看護学特論Ⅰ

當目　雅代、光木　幸子

授業テーマ:　クリティカルケア・リハビリテーション看護の研究のための知見を得る

授業の概要:　生命の危機的および回復過程にある状況の患者・家族を理解するために有用な中範囲理論を学習する。また、重症度や緊急性を的確に判断するためのスキルである臨床推論について検討する。さらに成人看護領域のクリティカルケアおよびリハビリテーション看護の最近の研究動向を概観することで、修士論文で取り組む学生の研究の位置づけを探索する。

到達目標:
1. 成人急性期・リハビリテーション期看護領域に関連のある中範囲理論を理解できる。
2. 成人急性期・リハビリテーション期看護領域の研究の動向を調査することができる。
3. 学習成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

授業方法:　受講生のプレゼンテーション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション　コースガイダンス（當目）	
2.	成人期に有用な中範囲理論－ストレス-コーピング理論（當目）	ストレス—コーピング理論のプレゼン資料を作成
3.	成人期に有用な中範囲理論－危機理論（當目）	危機理論のプレゼン資料を作成
4.	成人期に有用な中範囲理論－成人教育理論　アンドラゴジー（光木）	成人教育理論のプレゼン資料を作成
5.	成人期に有用な中範囲理論－トランスセオリティカル（光木）	トランスセオリティカルのプレゼン資料を作成
6.	成人期に有用な中範囲理論－マスタリー理論（光木）	マスタリー理論のプレゼン資料の作成
7.	クリティカルケアにおける臨床推論の方法（當目）	臨床推論の参考資料を読んでクリティカルケア看護の要点をプレゼンする
8.	リハビリテーション看護における臨床推論の方法（當目）	臨床推論の参考資料を読んでリハビリテーション期看護の要点をプレゼンする
9.	成人の対象者に対するチーム医療（光木）	チーム医療の動向のプレゼン資料を作成する
10.	成人急性期における今日の健康問題の現状（當目）	成人急性期の現状を探索し、明確化する
11.	成人急性期における今日の健康問題の課題（當目）	成人急性期の課題を探索し、明確化する
12.	クリティカルケアに関する研究の動向（當目）	クリティカルケア看護の動向を検索し、まとめてプレゼン資料を作成する
13.	クリティカルケアに関する研究の課題（當目）	
14.	リハビリテーション看護に関する研究の動向（當目）	リハビリテーション期看護の動向を検索し、まとめてプレゼン資料を作成する
15.	リハビリテーション看護に関する研究の課題（當目）	

受講者へのメッセージやアドバイス:　自身の研究テーマの考えるための基礎的知識としてください。

フィードバックの方法:　授業内でファシリテーターとして助言をします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション資料	40	目標1・2・3の到達度を評価する。
課題レポート	50	目標1・2・3の到達度を評価する。
授業への参加度	10	積極的な討論の姿勢を評価する。

教科書:
石松伸一, 実践につよくなる 看護の臨床推論: ケアを決めるプロセスと根拠, 学研メディカル秀潤社, 2014.
佐藤栄子：中範囲理論入門第2版, 日総研, 2008年.

参考書:
D. F. ポーリット, 近藤潤子 (翻訳)：看護研究 第2版—原理と方法 単行本, 医学書院, 2010.
Pamela J.Brink, 小玉 香津子 (翻訳)：看護研究計画書作成の基本ステップ, 日本看護協会出版会, 1999.

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力

教員との連絡方法:　マナビー　メール

891000

成人看護学特論Ⅱ

當目　雅代、光木　幸子

授業テーマ:　慢性期看護・がん看護の研究のための知見を得る

授業の概要:　慢性疾患やがんとともに生活する人とその家族を理解するために有用な中範囲理論を学び、研究や実践にどのように適用できるのかを探求する。さらに成人看護学領域の慢性疾患看護およびがん看護の最近の研究動向を概観することで、修士論文で取り組む研究の位置づけを探求する。

到達目標:
1. 成人慢性期・がん看護領域に関連のある中範囲理論を理解できる。
2. 成人慢性期・がん看護領域の研究の動向を調査することができる。
3. 学習成果を効果的にプレゼンテーションすることができる。

授業方法:　受講生のプレゼンテーション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、　コースガイダンス	
2.	成人期に有用な中範囲理論－慢性疾患病みの軌跡	慢性疾患病みの軌跡のプレゼン資料を作成
3.	成人期に有用な中範囲理論－QOL（quality of life）論	QOLのプレゼン資料を作成
4.	成人期に有用な中範囲理論－セルフケア理論	セルフケア理論のプレゼン資料を作成
5.	成人期に有用な中範囲理論－症状セルフマネジメント	症状セルフマネジメントのプレゼン資料を作成
6.	成人期に有用な中範囲理論－自己効力感	自己効力感のプレゼン資料を作成
7.	成人期に有用な中範囲理論－エンパワメント	エンパワメントのプレゼン資料を作成
8.	成人期に有用な中範囲理論－病気の不確かさ理論	病気の不確かさ理論のプレゼン資料を作成
9.	成人期に有用な中範囲理論－喪失と悲嘆	喪失と悲嘆のプレゼン資料を作成
10.	成人期に有用な中範囲理論－自己概念	自己概念のプレゼン資料を作成
11.	成人期に有用な中範囲理論－ソーシャルサポート	ソーシャルサポートのプレゼン資料を作成
12.	慢性疾患看護に関する研究の動向	慢性疾患看護の研究の動向を検索し、まとめてプレゼン資料を作成する
13.	慢性疾患看護に関する研究の課題	
14.	がん看護に関する研究の動向	がん看護の研究の動向を検索し、まとめてプレゼン資料を作成する
15.	がん看護に関する研究の課題	

受講者へのメッセージやアドバイス:　自身の研究テーマの考えるための基礎的知識としてください。

フィードバックの方法:　授業内でファシリテーターとして助言をします。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
プレゼンテーション資料	40	目標1・2・3の到達度を評価する。
課題レポート	50	目標1・2・3の到達度を評価する。
授業への参加度	10	積極的な討論の姿勢を評価する。

教科書:　佐藤栄子：中範囲理論入門第2版，日総研，2008年

参考書:
Pierre Woog ed.(1992):黒江ゆり子他訳(1995)慢性疾患の病みの軌跡、医学書院、
I M,Lubkin:Chronic Ilness-Inpact and Interventions 9ed.,Jones and Batlett,2011.
Dorothea E.Orem(2001):小野寺杜紀訳(2005)オレム看護論第4版、医学書院
野川道子編(2010)看護実践にいかす中範囲理論、メジカルフレンド
Ilene M Lubkin et al(2002) 黒江ゆり子監訳(2007)クロニックイルネス

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　メール

891100

ウイメンズヘルス特論Ⅰ

和泉　　美枝

授業テーマ:　女性とその家族の健康と健康課題の検討

授業の概要:　女性とその家族の健康と健康課題を社会情勢やヘルスケアシステムの現状と課題から学ぶ

到達目標:　女性のライフスタイルに伴って変化する身体的・心理的・社会的・文化的な健康と健康課題を文献クリティークから理解できる。特に妊娠・出産・育児を経験する女性とその家族の健康と健康問題に関する文献をクリティークし、女性とその家族の健康支援に必要な理論、アセスメント、援助方法について現代の社会情勢やケアシステムを踏まえて研究的に分析できる。

授業方法:　パワーポイントあるいは配布資料を用いた講義とプレゼンテーション、ディスカッションを組み合わせて授業を進める。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、ウィメンズヘルスについて	
2.	女性を取り巻く社会情勢の変遷	母子保健や社会保障の動向、衛生の主要指標について事前学習をしておく。
3.	女性とその家族のライフスタイルの変化	社会の動向、国民衛生の主要指標について事前学習をしておく
4.	女性とその家族の健康問題（乳幼児期～思春期）	
5.	女性とその家族の健康問題（性成熟期～更年期）	
6.	ウィメンズヘルスケアシステムの動向	女性を取り巻く社会保障の動向を事前学習しておく
7.	ウィメンズヘルスに関連する理論	
8.	周産期にある女性の健康支援　ストレスとレジリエンス、エンパワメント	
9.	妊娠期における超音波診断法の現状と課題	出生前診断の方法と実施状況、妊婦健康診査の現状について事前学習しておく
10.	看護師・助産師における超音波診断法の活用方法	看護師や助産師が超音波診断法を行うことについて自分の考えをまとめておく
11.	周産期の身体的アプローチ：身体組成と自律神経活動	日本人女性、妊婦、褥婦の身体組成について事前学習しておく
12.	周産期の心理的アプローチ：ストレスや不安・抑うつと自律神経活動	周産期のメンタルヘルスの現状と課題について事前学習しておく
13.	周産期の女性とその家族の健康問題と支援に関する研究の動向：プレゼンテーション	周産期の女性とその家族の健康問題と支援に関する研究の動向に関する文献を読んでおく
14.	周産期の女性とその家族の健康問題と支援に関する研究の動向：ディスカッション	周産期の女性とその家族の健康問題と支援に関する研究の動向に関する文献を読んでおく
15.	まとめ	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	40	女性とその家族の健康と健康課題に関するレポートから評価する
プレゼンテーション、ディスカッション	30	プレゼンテーション、ディスカッションにおける積極性、適切性を評価する
授業への積極的態度	30	積極的、主体的に授業に参加しているなど態度、意欲も評価する

教科書:　適時提示する

参考書:　国民衛生の動向
厚生労働統計協会
母子保健の主なる統計

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　質問などは主に授業内で対応する

891200

ウイメンズヘルス特論Ⅱ

眞鍋　　えみ子

授業テーマ:　女性の健康課題の理解とエビデンスに基づく支援の探究

授業の概要:　女性の生殖に関する健康問題や健康関連行動・セルフケア行動とストレス、ソーシャルサポート、ライフスタイル、自己効力感、パーソナリティなどの心理社会的要因に関する研究論文の講読や事例検討から、基盤となる理論、概念、研究方法、研究動向の理解を深める。そして、妊娠期、育児期のセルフケアと健康関連行動など、現代の女性の健康課題に対して、エビデンスに基づく健康の維持・増進の方策について探究する。

到達目標:
1）研究論文のクリティークや事例検討による分析ができる。
2）1）の基盤となる理論、概念や研究動向について理解できる。
3）女性の健康課題に対して、エビデンスに基づく健康の維持・増進の方策を検討できる。

授業方法:　講義およびディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	オリエンテーション、女性と健康行動・セルフケア行動	ウイメンズヘルス特論Ⅰで学習したことの振り返り
2.	健康行動・セルフケア行動の背景となる理論	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
3.	健康行動・セルフケア行動に関するモデル：概要	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
4.	健康行動・セルフケア行動に関するモデル：文献による検討	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
5.	健康行動・セルフケア行動に関するモデル：事例による検討	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
6.	健康行動・セルフケア行動を規定する要因の抽出	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
7.	妊娠期のヘルスケア行動を規定する要因の検討	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
8.	健康行動・セルフケア行動の評価	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
9.	健康行動・セルフケア行動の評価手法の開発	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
10.	ウィメンズヘルスにおけるEBM：意義	看護学研究特論で学習したことの振り返り
11.	ウィメンズヘルスにおけるEBM：課題発見・文献検索	ディスカッションに備え、臨床における課題を考え、文献検索をする
12.	ウィメンズヘルスにおけるEBMのデータの解釈・批判的吟味	ディスカッションに備え文献をクリティークしておくこと
13.	ウィメンズヘルスにおけるEBMの実践への適用	ディスカッションに備え文献をクリティークしておくこと
14.	女性と生殖に関する健康問題に関する研究の動向：プレゼンテーション	関心のあるテーマを取り上げ、文献を検討する
15.	女性と生殖に関する健康問題に関する研究の動向：ディスカッション	関心のあるテーマを取り上げ、文献を検討する

受講者へのメッセージやアドバイス:
ウイメンズヘルス特論Ⅰの内容を復習しておくこと。
ウイメンズヘルスの関連記事や資料を読み、ディスカッションでは活発な意見交換ができるよう準備をする。

フィードバックの方法:　ディスカッション内で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標3)の課題の明確化とその分析力、計画力について評価する
発表、討議	50	到達目標1)2)の達成度で評価する

教科書:

参考書:　名郷直樹（2009）ステップアップEBM実践ワークブック―10級から始めて師範代をめざす，南江堂

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己管理力

教員との連絡方法:　Eメール

891300

高齢者・在宅看護学特論Ⅰ

岡山　寧子、村上　元庸

授業テーマ:　健康長寿に向けての支援の探究

授業の概要:　高齢者に多い疾患や加齢変化に伴う生活機能の低下によって直面する日常生活上の課題について検証し、個々に対応した健康維持・増進・回復に必要な看護について探究する。

到達目標:
1. 老化理論や老年症候群、高齢者に多い疾患・治療などから高齢者の健康と医療について考える。
2. 現代社会における高齢者像や生活状況から健康長寿について考える。
3. 生活機能低下、中でもフレイルやサルコペニアなどの予防支援について考える。
4. 安心・安全な暮らしをまもる支援などから、健康長寿をめざした看護の方法を探究する。

授業方法:　講義および討議形式で行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康長寿①:現代社会における高齢者像と生活	現在の高齢者をイメージする
2.	健康長寿②:高齢者の健康とは何か	高齢者の健康に関する文献や資料をみておく
3.	高齢者の健康と医療①:老化と老年症候群	加齢と老化に関する文献や資料をみておく
4.	高齢者の健康と医療②:老年病と治療	高齢者に多い疾患に関する文献や資料をみておく
5.	高齢者の健康と医療③:安全な薬物療法	高齢者に多い疾患に関する文献や資料をみておく
6.	高齢者の健康と医療④:認知機能評価と認知症	高齢者の健康と医療に関しての討議の準備
7.	高齢者の健康と生活①:認知症のパーソンセンタード・ケア	認知症ケアに関する文献をみておく
8.	高齢者の健康と生活②:生活機能のアセスメント	高齢者の生活機能に関する文献をみておく
9.	高齢者の健康と生活③:フレイルと介護予防	高齢者の健康と生活に関しての討議の準備
10.	高齢者の健康と生活④:サルコペニアとロコモーティブシンドローム	高齢者の健康と生活に関しての討議の準備
11.	高齢者の健康と生活⑤:介護予防の実際	介護予防に関する文献をみておく
12.	高齢者の健康と生活⑥:安心・安全な暮らしをまもるー転倒・骨折と支援	高齢者の転倒・骨折に関する文献をみておく
13.	高齢者の健康と生活⑦:安心・安全な暮らしをまもるー脱水や暑熱障害の予防と支援	高齢者の健康と生活に関しての討議の準備
14.	高齢者の健康と生活⑧:安心・安全な暮らしをまもるー虚弱高齢者の脱水や暑熱障害の予防と支援	高齢者の健康と生活に関しての討議の準備
15.	まとめ:これからの高齢者・在宅看護	健康づくりのあり方を考える

受講者へのメッセージやアドバイス:　健康長寿をめざした看護の方法を共に探究しましょう。

フィードバックの方法:　コメントペーパーに対するフィードバックは、次回以降の講義の中でまとめて解説する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
討議参加度	40	討議への参加度
課題レポート	60	到達目標1～4の修得状況

教科書:

参考書:

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　授業前後に教室内で対応

891400

高齢者・在宅看護学特論Ⅱ

小松　光代、杉原　百合子

授業テーマ:　地域包括ケアシステムの確立に向けた在宅療養者と家族への看護支援の在り方を探求する

授業の概要:　様々なライフステージ、健康状態にある在宅療養者と家族を支える在宅看護の現状と課題を学修し、地域包括ケア実現に向けた多職種連携と在宅看護の在り方、看護職の役割を探求する

到達目標:
1.在宅看護に活用できる理論・モデルを理解し、在宅看護のあり方について探求できる。
2.保健医療福祉制度の活用を通して権利擁護、意思決定支援の現状と課題を明らかにできる。
3.在宅看取りの政策背景や医療依存度の高い療養者を支える在宅看護の役割を考察できる。
4.家族アセスメントの理論・モデルを理解し、家族支援のあり方を探求する。
5.地域包括ケアのシステム確立に向けた現状と課題から在宅看護を支える看護職の役割を探求する。

授業方法:　講義およびプレゼンテーションン、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	在宅看護の歴史的変遷、現状と課題、今後の展望(小松)	在宅看護の歴史や制度の変遷について学習しておく
2.	在宅看護に活用できる理論・モデル①:ICFモデル(小松)	ICFモデルについて学習しておく
3.	在宅看護に活用できる理論・モデル②:家族アセスメントの理論(杉原)	家族アセスメントの種類について学習しておく
4.	在宅看護に活用できる理論・モデル③:ケースマネジメントとケアマネジメント(小松)	ケースマネジメント、ケアマネジメントについて学習しておく
5.	在宅看護の実際①:地域包括ケアシステムと地域包括支援センターにおける看護職の役割(杉原)	地域包括支援センターにおける看護職の役割について学習しておく
6.	在宅看護の実際②:多職種連携と看護職の役割(杉原)	多職種連携における看護職の役割について学習しておく
7.	在宅看護の実際③:様々な形態(訪問看護、外来、小規模多機能型居宅介護、療養通所介護等)と看看連携(小松)	在宅看護の場と対象、看看連携について学習しておく
8.	在宅看護の実際④:保健医療福祉制度の現状と課題(小松)	主要な保健医療福祉制度について学習しておく
9.	在宅看護の実際⑤:在宅療養者と家族の権利擁護(在宅看護、医療における倫理的課題)(小松)	権利擁護や倫理的な課題を含むの事例を収集しておく
10.	在宅看護の実際⑥:認知症の人の尊厳を守り日常生活行動を支える看護(小松)	認知症の人の尊厳について学習しておく
11.	在宅看護の実際⑦:看取り支援(政策、現状、課題)(小松)	在宅看取りの現状と課題について学習しておく
12.	在宅における家族支援①:生活リズム障害と介護負担の軽減(小松)	家族介護者の介護負担について学習しておく
13.	在宅における家族支援②:認知症の人と家族への支援(杉原)	在宅で療養する認知症の人への支援について資料に目を通しておく
14.	在宅看護学分野における研究の動向(小松)	在宅看護学分野の研究論文を検索しておく
15.	まとめ(これからの在宅看護)(小松)	

受講者へのメッセージやアドバイス:　在宅看護に関する新聞記事や資料に関心をもち、情報を収集、整理しておく。

フィードバックの方法:　講義時やそれ以外はメールによりフィードバックする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	80	到達目標1～5の到達について評価する
ディスカッションの参加度	20	到達目標1～5のディスカッションの積極性、多角的な視点、革新性等について評価する

教科書:　適宜文献や資料を紹介する

参考書:　必要時指示、紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　講義前後やメール等にて対応する

891500

公衆衛生看護学特論Ⅰ

桝本　妙子、橋本　秀実、三橋　美和

授業テーマ:　公衆衛生看護活動の発展と展望

授業の概要:　個人、家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護の課題解決のための方策を探究し、公衆衛生看護実践能力の向上を図る。

到達目標:
①健康を多面的にとらえ、エビデンスに基づく健康課題の抽出から保健活動の計画と評価、政策立案までのプロセスを修得し、公衆衛生看護における保健師の役割と機能を探究できる。
②保健行動理論をもとに、行動変容のための支援と保健師の役割を探究できる。
③公衆衛生看護の立場から国際保健活動を探究できる。

授業方法:　講義および適宜グループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	健康のとらえ方①:健康の概念(桝本)	テーマについて予習しておく
2.	健康のとらえ方②:健康課題の変遷と保健師の役割(桝本)	テーマについて予習しておく
3.	健康のとらえ方③:地域における健康の現状(桝本)	テーマについて予習しておく
4.	健康のとらえ方④:地域における健康の課題(桝本)	テーマについて予習しておく
5.	保健師の活動計画と評価①:地域の健康課題の抽出(桝本)	テーマについて予習しておく
6.	保健師の活動計画と評価②:活動計画の立案(桝本)	テーマについて予習しておく
7.	保健師の活動計画と評価③:活動評価の立案(桝本)	テーマについて予習しておく
8.	保健師の活動計画と評価④:保健政策の立案(桝本)	テーマについて予習しておく
9.	保健師の健康支援①:保健行動理論(三橋)	テーマについて予習しておく
10.	保健師の健康支援②:保健行動変容のための施策(三橋)	テーマについて予習しておく
11.	保健師の健康支援③:保健行動変容のための支援(三橋)	テーマについて予習しておく
12.	保健師の健康支援④:保健行動変容の支援における課題(三橋)	テーマについて予習しておく
13.	公衆衛生看護のグローバルな課題①:世界のエイズ・マラリア・結核(橋本)	テーマについて予習しておく
14.	公衆衛生看護のグローバルな課題②:世界の新興感染症、NCD(非感染性疾患)(橋本)	テーマについて予習しておく
15.	公衆衛生看護のグローバルな課題③:難民・移民の健康(橋本)	テーマについて予習しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　学生の皆さんの主体的な学習によりすすめます。発表者は、テーマに基づいて事前に資料を準備しプレゼンテーションします。メンバーは、事前に配布された資料を読み、自分の意見、考えを述べてディスカッションします。授業時間以外の準備、資料作成が必要です。

フィードバックの方法:　講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントを講義時に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業及び討論への参加度	50	授業内容の理解度及び参加態度・意欲を評価する。
プレゼン・討議内容・課題レポート	50	到達目標①～③についての理解度と説明力を評価する。

教科書:　特に指定しない

参考書:　適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:　講義前後で対応する

891600

公衆衛生看護学特論Ⅱ

三橋　美和、橋本　秀実、桝本　妙子

授業テーマ:　公衆衛生看護活動の課題と展開方法

授業の概要:　個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護の理論をふまえながら、健康課題解決のための方策を探求し、公衆衛生看護実践能力の向上を図る。

到達目標:
1.社会環境の変化と健康課題、保健師活動の変遷について理解を深める。
2.公衆衛生看護活動の対象のライフサイクル別、健康課題別にみた課題と支援方法について理解を深める。
3.地域におけるコミュニティの特性に応じた支援方法について理解を深める。

授業方法:　講義及びゼミナール形式

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	ガイダンス 社会環境の変化と健康課題（桝本）	プレゼンテーション担当者から配布された資料を熟読して疑問点を明らかにしておく。また、関連資料を調べておく。
2.	保健師活動の変遷（桝本）	〃
3.	母子保健活動の動向（三橋）	〃
4.	母子保健活動の課題と地域特性に応じた支援方法（三橋）	〃
5.	成人保健活動の動向（三橋）	〃
6.	成人保健活動の課題と地域特性に応じた支援方法（三橋）	〃
7.	精神保健活動の動向（三橋）	〃
8.	精神保健活動の課題と地域特性に応じた支援方法（三橋）	〃
9.	学校保健及び産業保健活動の動向（対象者の現状、施策と支援の現状）（橋本）	〃
10.	学校保健及び産業保健活動の課題と地域特性に応じた支援方法（橋本）	〃
11.	社会格差と健康（橋本）	〃
12.	国際保健活動の動向（対象者の現状、施策と支援の現状）（橋本）	〃
13.	地域特性に応じた国際保健活動の展開（橋本）	〃
14.	国際保健活動の課題と展望（橋本）	〃
15.	まとめ　これからの保健活動（桝本・三橋・橋本）	〃

受講者へのメッセージやアドバイス:
プレゼンテーション担当者は、テーマに基づいて研究や実践に関する文献をもとに資料を作成して討議テーマを提示する。資料は受講者全員に配布し、準備学習した上でディスカッションに臨む。
公衆衛生看護学に関する基礎知識は各自で復習（準備学習）のうえ授業に臨むこと。

フィードバックの方法:
質問には教室またはmanabeで解説する。
レポートは、コメントを付けて返却する。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題達成状況	50	プレゼン・討議内容、課題レポート内容
参加状況	50	出席、討論への参加状況

教科書:　特に指定しない

参考書:　適時提示する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力

教員との連絡方法:　講義前後で対応する

891800

助産学概論

淺田　祥子、眞鍋　えみ子、高田　昌代

授業テーマ:　助産師の職務倫理、出産を取り巻く環境の理解

授業の概要:　助産の変遷や課題について理解し、助産師としての役割遂行に必要な専門職としての責務と役割、将来の方向性について考察する。
（眞鍋） 助産とその歴史、関連する法律、母子保健の変遷、助産学教育の動向、国内外における助産師活動など現代の助産を取り巻く状況や助産学の基礎となる概念や理論を学ぶ。さらに、対象の権利を擁護しながら助産師としての役割遂行に必要な専門職としての責務と役割を考える視点を養う。
（淺田） 周産期の倫理的問題に関する事例を取り上げ、ケアの視点や意思決定のプロセスについて考える。
（高田） 対象の権利を擁護しながら助産師としての役割遂行に必要な専門職としての責務と役割を考える。

到達目標:　1)助産の変遷や課題について理解する。
2)助産師としての役割遂行に必要な専門職としての責務と役割、将来の方向性について表現できる。

授業方法:　講義およびディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	助産学のガイダンス ［眞鍋］	
2.	助産師の専門職性と役割（1） 助産の歴史と文化 ［眞鍋］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
3.	助産師の専門職性と役割（2） 母子保健の動向と助産 ［眞鍋］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
4.	助産師の専門職性と役割（3） 助産に関係する概念、助産師の定義と業務 ［眞鍋］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
5.	助産師の専門職性と役割（4） 助産師の声明 ［眞鍋］	ディスカッションに備え「助産師の声明」を熟読しておくこと
6.	助産師の専門職性と役割（5） 諸外国の助産の変遷 ［眞鍋］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
7.	助産師の専門職性と役割（6） 助産師教育の動向 ［眞鍋］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
8.	助産師の専門職性と役割（7） Woman-Centered Care ［高田］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
9.	助産師の専門職性と役割（8） 自己決定支援 ［高田］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
10.	助産師の専門職性と役割（9） 出産文化の多様性に対する理解と助産活動 ［高田］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
11.	助産師の役割遂行と倫理（1） 個人・社会・職業倫理、助産師と倫理綱領 ［眞鍋］	ディスカッションに備え倫理綱領を熟読しておくこと
12.	助産師の役割遂行と倫理（2） 助産師としての自律性・アドボケーター ［眞鍋］	ディスカッションに備え「看護職としての自律性」について考えをまとめておくこと
13.	助産師の役割遂行と倫理（3） 周産期の倫理的課題 ［淺田］	授業8～12の内容を再確認しておくこと
14.	助産師の役割遂行と倫理（4） 周産期の倫理的問題における意思決定支援 ［淺田］	授業8～12の内容を再確認しておくこと
15.	まとめ ［眞鍋］	ディスカッションに備え「目指す助産師像」について考えておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　入学前に学習した看護倫理、保助看法における看護師および保健師業務について学習しておく。
関連記事や資料を読み、ディスカッションでは活発な意見交換ができるよう準備をする。

フィードバックの方法:　ディスカッション内で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	50	到達目標1)2)に関する理解度や問題意識により評価する
発表、討議	50	到達目標2)に関する表現力により評価する

教科書:

参考書:
進純郎, 岡本喜代子, 助産力, 日本助産師会出版
中山まき子, 出産施設はなぜ疲弊したのか, 日母産科看護学院・医療法改定・厚生諸政策のあゆみ, 日本評論社, 2015
白井千晶, 産み育てと助産の歴史　近代化の200年をふり返る, 医学書院
福井 トシ子編, 新版　助産師業務要覧　第3版 ［Ⅰ基礎編］, 日本看護協会出版会
福井 トシ子編, 新版　助産師業務要覧　第3版 ［Ⅱ実践編］, 日本看護協会出版会
福井 トシ子編, 新版　助産師業務要覧　第3版 ［Ⅲアドバンス編］, 日本看護協会出版会

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメールや授業の前後に教室で対応

891900

リプロダクティブヘルス論

眞鍋　えみ子、岩佐　弘一、谷　直之、中村　嘉孝、藤井　ひろみ

授業テーマ:　リプロダクティブヘルス・ライツ支援の基礎

授業の概要:　女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康支援の展開に必要な知識と原理・技法について学び、女性やその家族の健康課題や望ましい支援のあり方について考察する。

到達目標:
1)女性のライフサイクルとリプロダクティブヘルス・ライツとその支援に関するディスカッションにより女性をエンパワメントする方策ついて説明できる。
2)ジェンダーにかかわる法的問題について、労働、家族、暴力、性の視点から考えることができる。
3)性的マイノリティの抱える課題を理解し、その支援や取り組みについて説明できる。
4)性と生殖の形態と機能について、解剖・生理、性周期と生殖のメカニズム、内分泌環境、女性ライフサイクルにおける疾患などについて理解できる。
5)不妊症や不育症の原因と診断、生殖補助医療の最新治療や技術について学び、生殖補助医療における多職種連携について理解できる。
6)リプロダクティブヘルス・ライツの視点から助産師の役割を説明できる。

授業方法:　講義、プレゼンテーション、ディスカッション

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	リプロダクティブヘルス・ライツの歴史的背景・意義と課題[眞鍋]	
2.	女性生殖器の解剖・生理	前回までの講義内容を理解しておくこと
3.	性周期と生殖のメカニズム	前回までの講義内容を理解しておくこと
4.	性周期と内分泌環境	前回までの講義内容を理解しておくこと
5.	女性のライフサイクルにおける疾患	前回までの講義内容を理解しておくこと
6.	不妊症・不育症の原因・診断[中村]	授業2～4の講義内容を理解しておくこと
7.	不妊症・不育症の治療[中村]	前回までの講義内容を理解しておくこと
8.	生殖補助医療[中村]	前回までの講義内容を理解しておくこと
9.	生殖補助医療における周産期医療への影響、社会的・倫理的問題、多職種連携[中村]	生殖補助医療に関する関連記事や最近の動向を調べておく
10.	セクシュアリティ、性的マイノリティとは[藤井]	セクシュアリティ、性的マイノリティの定義を学習しておく
11.	性的マイノリティに関する課題とその支援・取り組み[藤井]	助産師としての支援についてイメージしておく
12.	ジェンダーと法:総論[谷]	日本国憲法をみておく
13.	ジェンダーと法:事例を用いた検討[谷]	前回の講義内容を理解しておくこと
14.	リプロダクティブヘルス・ライツの課題とその支援:討議[眞鍋]	前回までの講義内容を整理し、助産師としての役割を考察しておくこと
15.	リプロダクティブヘルス・ライツの課題とその支援:発表とまとめ[眞鍋]	発表の準備をしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:
女性生殖器の解剖、機能について学習しておくこと。
不妊や女性の労働などの関連記事や資料を読み、ディスカッションでは活発な意見交換ができるよう準備をする。

フィードバックの方法:　授業内で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	60%	到達目標1)2)3)6)の理解度により評価する
授業への積極的参加度	40%	ディスカッションの内容から到達目標4)5)の理解度を評価する

教科書:　指定しない

参考書:
日本不妊学会、新しい生殖医療技術のガイドライン、2003、金原出版
堤治、現代生殖医療のメインストリーム、2014、産婦人科の実際臨時増刊号63(11)、金原出版
鈴木秋悦、武田佳彦、青野敏博他(編)、不妊・不育症診療パーフェクトガイド、2016、臨床婦人科産科増刊号70(4)、医学書院

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力

教員との連絡方法:　講義前後で対応する。

892000

ペアレンティング援助論

和泉　美枝、植松　紗代、中川　淑子

授業テーマ:　親子関係の創造と子育て支援

授業の概要:　家族のライフスタイルおよび親役割の発達に応じたニーズと課題を理解し、助産師の役割について検討する

到達目標:
母性・父性の心理、周産期の女性の心理（妊娠期・産褥期うつや育児不安など）について理解できる。
周産期における支援活動の見学や事例検討を通して、親役割の発達、母性・父性の育成とその課題をアセスメントし、その支援方法を理解できる。
周産期の女性と乳幼児期の睡眠の特徴を理解し、サーカディアンリズムの視点から生活リズムの確立とその支援方法を理解できる。
親子の始まりである周産期において、成長・発達していく赤ちゃんと家族の関係性を重視し、周産期に求められるこころのケアとその技法を理解できる。

授業方法:　講義およびプレゼンテーション・ディスカッション形式で行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	母子関係・親子関係に関連する理論	家族システム理論、家族ストレス対処理論について事前学習をする。
2.	母子関係・親子関係を支援する政策と課題、地域社会における多職種や組織との連携	母子保健や社会保障の動向について事前学習する。
3.	妊娠期～乳児期の家族の支援	妊娠期～乳幼児期の家族の特徴を事前学習する。
4.	思春期の家族の支援	思春期にある子どもの特徴とその家族の特徴を事前学習する。
5.	疾病・障害をもつ子どもの家族の支援	周産期～小児期の医療体制について事前学習をする。
6.	疾病・障害をもつ子どもの家族の支援の実際：事例検討	事例を読んでおく。
7.	周産期～育児期における睡眠の特徴とその支援	睡眠改善学「睡眠と生体リズム（p.21～51），睡眠と社会（p.99～111），睡眠障害；女性に特有の睡眠障害（p.117～127）」を読んでおく
8.	乳幼児期の睡眠の特徴とその支援	睡眠改善学「子供の教育と睡眠（p.79~97），子どもの睡眠障害（p.128～131）」を読んでおく
9.	母子の生活リズムの確立とその支援	睡眠改善学「睡眠相談技術（p.145～161），睡眠改善技術（p.164～188」」を読んでおく
10.	親業とは、親子関係について考える	
11.	子どもを取り巻く環境	
12.	アクティブリスニングによるコミュニケーション	
13.	アイメッセージによるコミュニケーション	
14.	親子の対立～新しい親子関係の創造	
15.	親子関係の創造と助産師の役割	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	40	家族のライフスタイル、親役割の発達に応じたニーズと課題、助産師の役割に関するレポートから評価する
プレゼンテーション、ディスカッション	30	プレゼンテーション、ディスカッションにおける積極性、適切性を評価する
授業への積極的態度	30	積極的・主体的に授業に参加しているなど態度・意欲も評価する

教科書:　親業 子どもの考える力をのばす親子関係のつくり方，トマス ゴードン（著），近藤 千恵（翻訳），大和書房，1998

参考書:
家族看護学 理論と実際 第4版，鈴木和子，渡辺裕子，日本看護協会出版会
基礎講座 睡眠改善学，堀忠雄，白川修一郎（監修），日本睡眠改善協議会（編），ゆまに書房

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　質問などは主に授業内で対応する

892100

妊娠期助産診断技術学

岩佐　　弘一、和泉　　美枝、小切間　美保

授業テーマ:　妊娠期の助産診断と妊婦への支援

授業の概要:　妊娠期の助産診断、助産ケアの展開に必要な知識、診断に伴う最新の技術、妊婦のセルフケア能力を高める支援方法を学ぶ

到達目標:　妊娠の診断、胎児Well-beingの評価、母子感染や母体合併症、正常からの逸脱のスクリーニングなどの妊婦管理のための知識、診断能力を修得できる。
妊婦の身体的・心理的・社会的変化が正常か、正常からの逸脱かについて判断する助産診断能力と技術、セルフケア能力を高める支援方法を修得できる。
周産期の女性の栄養管理に関する基礎的知識を修得する。

授業方法:　講義およびグループワークで行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	妊娠の診断	助産診断・技術学　妊娠期「妊娠の生理」を読んでおく
2.	胎児Well-beingの評価	助産診断・技術学　妊娠期「妊娠の生理」「妊娠期のフィジカルアセスメント」を読んでおく
3.	胎児異常・奇形の診断と管理	助産診断・技術学　妊娠期「妊娠の異常・ハイリスク妊娠」を読んでおく
4.	妊娠期の異常・ハイリスク妊娠	助産診断・技術学　妊娠期「妊娠の異常・ハイリスク妊娠」を読んでおく
5.	正常からの逸脱のスクリーニング、妊娠期における検査・薬剤	助産診断・技術学　妊娠期「妊娠期における検査・薬剤・手術」を読んでおく
6.	妊娠期の助産診断－助産診断の概要、妊娠経過と助産診断(身体・心理・社会的側面)	助産診断・技術学　妊娠期「助産診断・技術学の概要」「妊娠期の心理的・社会的変化とアセスメント」を読んでおく
7.	妊婦のフィジカルアセスメント	助産診断・技術学　妊娠期「妊娠期の助産診断」を読んでおく
8.	妊婦の日常生活上のケア	助産診断・技術学　妊娠期「妊婦の支援」を読んでおく
9.	胎児のフィジカルアセスメント	助産診断・技術学　妊娠期「妊娠の生理」「妊娠期のフィジカルアセスメント」を読んでおく
10.	妊娠期の助産過程	講義内容を復習しておく
11.	妊娠期の助産過程の展開:事例検討	講義内容を復習しておく
12.	妊娠期の保健指導の技法	講義内容を復習しておく
13.	妊娠期の保健指導案の作成	講義内容を復習しておく
14.	妊娠期・母乳育児期の栄養管理の基礎	
15.	妊娠期・母乳育児期の栄養管理の実際	

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	妊娠期・母乳育児期にある母子の特徴とその支援方法の理解度を評価する
課題レポート	30	ウェルネスの視点を持った母子の助産過程展開に関する理解度をレポートから評価する

教科書:　助産学講座 6　助産診断・技術学Ⅱ[1]妊娠期, 医学書院
胎児診断・管理のABC, 森巍, 金芳堂

参考書:　今日の助産 第3版, 生田克夫(監修), 北川眞理子, 内山和美(編), 南江堂
病気がみえる産科, 医療情報科学研究所(編), メディックメディア

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　質問などは主に授業内で対応する

892200

分娩期助産診断技術学

岩佐　　弘一、植松　　紗代

授業テーマ:　分娩期の助産診断と産婦への支援

授業の概要:　分娩期の助産診断と産婦への支援方法を学ぶ。

到達目標:
分娩期の病態生理・医学的ケアに関する健康支援の展開に必要な基礎知識と分娩期の助産診断、助産ケアの展開に必要な理論、診断に伴う最新の技術を修得できる。
分娩期の母児の健康診断と経過診断及び異常発生の予測や予防、早期発見に関する助産診断能力を育成するための知識と方法・技術を修得できる。
分娩期の女性の心理的変化について理解し、対象者とその家族に寄り添う助産実践について探求することができる。
分娩期に発症しやすい異常とその病態・検査・治療についての知識を修得できる。

授業方法:　パワーポイントやDVD教材、配布資料を用いた講義及びグループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	分娩の機序と分娩三要素	産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩の生理(p.4～32)」を読んでおく
2.	分娩期の助産診断(1)分娩開始と進行状態の診断	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩期の助産診断(p.46～89)」を読んでおく
3.	分娩期の助産診断(2)分娩に伴う産婦の身体的、心理的変化と健康状態の診断	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩期の心理社会的変化(p.34～43)」を読んでおく
4.	分娩期の助産診断(3)母体の管理	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩期のフィジカルアセスメント(p.61～81)」を読んでおく
5.	分娩期の助産診断(4)胎児の管理	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩期のフィジカルアセスメント(p.82～89)」を読んでおく
6.	分娩期の助産診断(5)異常時の管理	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩期の異常・偶発疾患(p.170～190)」「ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援(p.192～209)」を読んでおく
7.	分娩進行の診断と産婦・家族のケア(第1期)	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩介助法(p.92～110)」「産婦の支援(p.136～159)」を読んでおく
8.	分娩進行の診断と産婦・家族のケア(第2期)	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩介助法(p.110～116)」「産婦の支援(p.160～162)」を読んでおく
9.	分娩進行の診断と産婦・家族のケア(第3・4期)	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩介助法(p.117～134)」「産婦の支援(p.162～166)」を読んでおく
10.	分娩介助の意義と原理	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩介助法(p.92～116)」を読んでおく
11.	異常分娩の管理(1)娩出力の異常、分娩誘導	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩の3要素の異常(p.170～180)」「分娩誘発(p.216～232)」を読んでおく
12.	異常分娩の管理(2)産道、胎児およびその付属物の異常	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩の3要素の異常(p.170～180)」を読んでおく
13.	異常分娩の管理(3)分娩時母体損傷	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症(p.182～190)」を読んでおく
14.	異常分娩の管理(4)第3期出血、産科ショック	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「分娩に伴う損傷・偶発疾患・合併症(p.182～190)」「救急処置(p.244～252)」を読んでおく
15.	産科救急疾患・産科手術と母体管理、産科緊急時の薬物療法	助産学講座7助産診断・技術学Ⅱ「ハイリスク・異常分娩時のアセスメントと支援(p.192～209)」「産科手術および産科的医療処置(p.212～215、232～243)」を読んでおく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　個別に解説・コメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
筆記試験	70	分娩期における母体の心身の健康状態の診断とその支援方法、分娩進行の診断及び分娩介助法、さらに分娩期の異常とその管理方法の理解度を評価する
レポート	30	分娩期の母体と胎児の健康に関する知識と診断能力、さらにその支援方法に関する理解度を評価する

教科書:
助産学講座7　助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期、医学書院
最新産科学　異常編、荒木勤、文光堂

参考書:
今日の助産　第3版、生田克夫(監修)、北川眞理子、内山和美(編)、南江堂
病気がみえるvol.10　産科　第3版、メディックメディア

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、コミュニケーション力、リーダーシップ、自己実現力

教員との連絡方法:　授業の前後における直接連絡

892300

産褥・新生児期助産診断技術学

和泉　　美枝、桑原　　勲

授業テーマ:　産褥期、新生児期の助産診断と母子への支援

授業の概要:　産後の母子の助産診断、助産ケアの展開に必要な知識、診断に伴う最新の技術、褥婦のセルフケア能力を高める支援方法を学ぶ。

到達目標:
[桑原勲／6回]
胎児期の身体的発育、機能の発達、およびその逸脱状態、新生児の身体的機能や胎外生活適応過程、ハイリスク新生児の特徴などの胎児期、新生児期、乳児期の発育・発達を理解できる。
[和泉美枝／9回]
産褥期にある女性の身体的・心理的・社会的変化について理解し、適切な経過診断とケアを行うための助産診断能力と技術が修得できる。
母子関係や家族関係について理解を深め、産後の女性のセルフケア能力を高める支援、育児支援、母乳育児支援、家族の愛着形成の支援について理論に基づいた実践方法を修得できる。
新生児期の経過診断とケアに関する助産診断能力と技術が修得でき、さらにハイリスク新生児および家族に対する支援について理解できる。

授業方法:　講義およびグループワークを行う

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	新生児学総論、発育・発達とその評価（桑原）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「乳幼児の発育発達と健康診査」を読んでおく
2.	体温調節と保温、栄養・水−電解質バランスの基礎と臨床（桑原）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「新生児の適応生理」を読んでおく
3.	呼吸器系・循環器系の基礎と臨床 （桑原）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「新生児の適応生理」を読んでおく
4.	黄疸・血液系・内分泌系・代謝系の病態と臨床（桑原）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「新生児の適応生理」を読んでおく
5.	免疫系と感染・中枢神経系の基礎と臨床（桑原）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「新生児の適応生理」を読んでおく
6.	早産・低出生体重児の病態と管理（桑原）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「NICUとハイリスク新生児のケア」を読んでおく
7.	退行性変化と進行性変化のフィジカルアセスメントとケア（和泉）	助産診断・技術学　分娩期・産褥期「産褥期の生理」「産褥期の助産診断」「褥婦の支援」「乳房管理」を読んでおく
8.	退行性変化の異常とケア（和泉）	助産診断・技術学　分娩期・産褥期「産褥期の異常・偶発疾患」「ハイリスク・異常褥婦のアセスメントと支援」を読んでおく
9.	褥婦の心理社会的変化のアセスメントとケア（和泉）	助産診断・技術学　分娩期・産褥期「産褥期の心理社会的変化」「褥婦の支援」を読んでおく
10.	生後早期の新生児のフィジカルアセスメント（和泉）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「フィジカルアセスメント」を読んでおく
11.	出生直後の新生児のケア（和泉）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「出生時のケア」「出生後24時間以内のケア」を読んでおく
12.	生後24時間以降の新生児のフィジカルアセスメント（和泉）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「出生後24時間以降の早期新生児のケア」を読んでおく
13.	生後24時間以降の新生児のケア（和泉）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「出生後24時間以降の早期新生児のケア」「家庭生活への移行とフォローアップ」を読んでおく
14.	早産・低出生体重児のケア（和泉）	助産診断技術学　新生児期・乳幼児期「NICUとハイリスク新生児のケア」を読んでおく
15.	まとめ（和泉）	講義内容を復習しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　課題については授業内でコメントする

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
定期試験	70	産褥・新生児期にある母子の特徴とその支援方法の理解度を評価する
課題レポート	30	ウェルネスの視点を持った母子の助産過程展開に関する理解度をレポートから評価する

教科書:
助産学講座 7　助産診断・技術学Ⅱ[2]分娩期・産褥期, 医学書院
助産学講座 8　助産診断・技術学Ⅱ[3]新生児期・乳幼児期, 医学書院
仁志田博司, 新生児学入門, 医学書院

参考書:
今日の助産 第3版, 生田克夫（監修）北川眞理子・内山和美（編）, 南江堂
病気がみえる産科, 医療情報科学研究所（編）, メディックメディア

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、思いやる力

教員との連絡方法:　質問などは主に授業内で対応する

892500

地域母子保健論

藤原　朋子、桝本　妙子、三橋　美和、江守　晃子

授業テーマ:　地域母子保健の現状と課題

授業の概要:　母子保健行政の仕組み、制度・施策、社会資源、関係機関・関連職種との連携を理解して、地域社会での助産師の役割と活動を探求する能力を養う。

到達目標:　①母子保健行政の仕組み、制度・施策、社会資源、関係機関・関連職種との連携を説明できる。
②地域社会での助産師の役割と活動を探求できる。

授業方法:　講義および適宜グループワークを行う。

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	母子保健行政（1）　国内外における母子保健に関する各種施策（桝本）	テーマについて予習しておく
2.	母子保健行政（2）　わが国における乳幼児健康診査システム（桝本）	テーマについて予習しておく
3.	ハイリスク妊婦の保健（三橋）	テーマについて予習しておく
4.	児童虐待の予防と支援（三橋）	テーマについて予習しておく
5.	新生児訪問指導、乳児家庭全戸訪問事業（こんにちは赤ちゃん事業）（藤原）	テーマについて予習しておく
6.	新生児訪問指導の理論と実際（藤原）	テーマについて予習しておく
7.	周産期におけるドメスティック・バイオレンス（DV）とは、特徴、実態（江守）	テーマについて予習しておく
8.	DVの予防と被害女性への支援（江守）	テーマについて予習しておく

受講者へのメッセージやアドバイス:　学生の皆さんの主体的な学習によりすすめます。発表者は、テーマに基づいて研究や実践に関する文献をもとに資料を作成して受講者全員に事前配布するとともに、討議テーマを提示してプレゼンテーションします。メンバーは、事前に配布された資料を読んで準備学習をしたうえで自分の意見、考えを述べてディスカッションに臨みます。

フィードバックの方法:　講義についての意見・感想・質問等に対する解説やコメントを講義時に行う。

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
授業及び討論への参加度	50	授業内容の理解度及び参加態度・意欲を評価する。
プレゼン・討議内容・課題レポート	50	到達目標①～③についての理解度と説明力を評価する。

教科書:　特に指定しない

参考書:　適宜紹介する

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、プレゼンテーション力、リーダーシップ

教員との連絡方法:　講義前後で対応する

892600

助産マネジメント論

竹内　　芳子、谷口　　利絵、初田　　聡美、眞鍋　　えみ子

授業テーマ:　場に応じた助産業務管理

授業の概要:　周産期医療システム、周産期の医療安全の確保と医療事故への対応、災害時の対応について学ぶ。場に応じた助産業務管理（病院、院内助産院、診療所、助産所）や他職種との連携、業務管理に必要な能力を養う。さらに母子や家族への安全、安心、快適なより望ましい助産ケアの提供システムについて検討する。
（眞鍋） 助産師の業務管理、運営に関する法律を基礎として、助産業務管理の特性と課題や助産師として医療安全に向けたマネジメントを医療の動向をふまえて検討する。
（芦田） 助産所における助産業務の管理、および医療事故を予防するために必要な基本的な管理を学び、自律した助産師のあり方を考察する。また、独立開業を行う場合に必要な資源、人材等の経営的視点について学ぶ。
（初田） 院内助産システムの目的、運営等を学び、施設内における自律した助産師活動のあり方を考察する。
（竹内） 病院における助産業務の管理、および医療事故を予防するために必要な基本的な管理や他職種との連携について学ぶ。

到達目標:
1)わが国の周産期医療システム、周産期の医療安全の確保と医療事故への対応、災害時の対応について理解できる。
2)場に応じた助産業務管理（病院、院内助産院、診療所、助産所）の特徴や課題、他職種との連携について理解できる。
3)業務管理に必要な能力について理解し、自己分析ができる。
4)母子や家族への安全、安心、快適なより望ましい助産ケアの提供システムについて検討できる。

授業方法:　講義およびディスカッション、フィールドワーク（学外）

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	周産期医療システムと活動場所の特性と業務、助産管理の概念 ［眞鍋］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
2.	助産師活動とリスクマネジメント ［眞鍋］	前回の授業料内容を理解しておくとともに、ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
3.	災害時の助産師活動 ［眞鍋］	前回の授業料内容を理解しておくとともに、ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
4.	助産師の法的責任と助産所開設 ［眞鍋］	前回の授業料内容を理解しておくとともに、ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
5.	病産院における助産業務管理：総論、チーム医療［竹内］	助産学実習Ⅰでの経験の想起、ともに、ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
6.	病産院における助産業務管理：組織・書類・財務・業務の質管理 ［竹内］	助産学実習Ⅰでの経験の想起、ともに、ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
7.	病産院における助産業務管理：産科棟の管理・外来の助産管理 ［竹内］	助産学実習Ⅰでの経験の想起、ともに、ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
8.	病産院における助産業務管理：医療安全対策・災害対策 ［竹内］	助産学実習Ⅰでの経験の想起、ともに、ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
9.	院内助産システムとその運用 ［初田］	院内助産システムの背景、役割について学習しておく
10.	院内助産院の業務管理と院内での連携 ［初田］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
11.	助産所における助産業務、チーム連携と実践事例［谷口］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
12.	助産所の管理・運営に関する法規［谷口］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
13.	助産所における助産業務管理：医療安全対策、情報管理、人事管理、施設物の管理［谷口］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
14.	助産所における助産業務管理：経営［谷口］	ディスカッションに備え文献を参考に予習しておくこと
15.	まとめ：助産ケアの提供システムの検討 ［眞鍋］	ディスカッションに備え業務管理に必要な能力について考えておくこと

受講者へのメッセージやアドバイス:　入学前に学習や経験した看護倫理、看護管理、保助看法における看護師および保健師業務について学習しておくこと。
助産学実習Ⅰでの経験を振り返る。

フィードバックの方法:　ディスカッション内で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
レポート	60	到達目標1)2)4)の理解度について評価する
発表、討議	40	到達目標2)4)の理解度や3)を理解した上での態度を評価する

教科書:

参考書:
助産学講座 10　助産管理，医学書院
福井 トシ子編，新版　助産師業務要覧　第3版 ［Ⅰ基礎編］，日本看護協会出版会
福井 トシ子編，新版　助産師業務要覧　第3版 ［Ⅱ実践編］，日本看護協会出版会
福井 トシ子編，新版　助産師業務要覧　第3版 ［Ⅲアドバンス編］，日本看護協会出版会
日本助産師会，助産所開業マニュアル 2013年版，日本助産師会
日本助産師会災害対策委員会，助産師が行う災害時支援マニュアル，日本助産師会出版

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、リーダーシップ、思いやる力、変化対応力、自己実現力

教員との連絡方法:　Eメールや授業の前後に教室で対応

892700

助産学実習Ⅰ

岡　いくよ、和泉　美枝、植松　紗代

授業テーマ:　周産期にある母子や家族を対象にした助産実践に必要な基礎的理論・知識、技術、態度の修得

授業の概要:　分娩・産褥・新生児期の助産過程の展開を通し、母子とその家族を総合的に理解し、対象者の個別性に応じた助産ケア、健康の保持増進のための健康教育、育児支援の実践について根拠に基づいて考え、実践できる能力を修得する。

到達目標:　産婦・褥婦および胎児・新生児の健康水準の診断を科学的根拠に基づいて行い、分娩から産褥・育児期が自然で安全に経過し、育児を主体的に行えるよう支援できる。
産婦・褥婦およびその家族に必要な保健指導・健康教育が実践できる。
対象者およびその家族の尊厳、権利、価値観、ニーズを尊重し、信頼関係に基づいたケアができる。

授業方法:　実験実習実技(学外)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・分娩時より産婦を受け持ち、情報の収集・アセスメント・助産診断・助産計画の立案などの助産過程を展開し、助産ケアを指導助産師とともに行い、分娩見学を行う(2例)。 ・分娩見学した褥婦と新生児を受け持ち、助産過程を展開し、助産ケアと保健指導・健康教育を指導助産師とともに行う。 ・出産準備教育を見学する。 ・日々の実習記録により助産ケアを振り返り、翌日の助産計画を立案する。 ・1週間毎にカンファレンスを実施し、学びを深める。	・助産学概論、ペアレンティング援助論、妊娠期・産褥・新生児期助産診断技術学、助産技術学演習等での学習内容、およびウィメンズヘルス看護学(母性看護学)の学習内容を復習しておく。 ・復習として、実習記録の指導を受けるとともに、カンファレンス資料を作成し指導を受ける。 詳細は実習要項を参照する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実習記録はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
知識・技術	50	到達目標における知識や技術の到達度によって総合的に評価する
実習への積極的態度	50	事前学習や積極的、主体的な実習への取り組み、到達目標の理解を深めようとする姿勢、態度を評価する

教科書:　ペアレンティング援助論、妊娠期・産褥・新生児期助産診断技術学、助産技術学演習、ウィメンズヘルス看護学(母性看護学)等で使用した教科書

参考書:　実習の進行状況に則して適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力、自己実現力

教員との連絡方法:　質問には主に実習中に対応する

892800

助産学実習Ⅱ

和泉　　美枝、植松　　紗代、岡　　いくよ

授業テーマ:　周産期にある母子や家族を対象にした助産実践・関連職種との連携と協働

授業の概要:　正常な妊産褥婦・新生児を対象として、妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産過程の展開を通し、エビデンスに基づいた分娩の基本的な介助技術の修得と、周産期における対象の理解、対象の個別性に応じたケアを実践できる能力を修得する。

到達目標:
妊娠・分娩・産褥・新生児期の助産過程の展開に必要な助産診断能力と助産技術を修得できる。
エビデンスに基づいた安全で安心な分娩の基本的な介助技術を修得できる。
妊産褥婦および胎児・新生児の健康水準の診断を行い、妊娠期から分娩・産褥・育児期が自然で安全に経過し、育児を主体的に行えるよう支援できる。
対象者およびその家族の尊厳、権利、価値観、ニーズを尊重し、信頼関係に基づき個別性に応じたケアができる。
病院や診療所の特性や周産期医療における役割と助産活動に必要な連携について理解できる。

授業方法:　実験実習実技(学外)

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	・妊婦健診受診妊婦、助産師外来受診妊婦を受け持ち、情報の収集・アセスメントを行い、指導助産師の指導の下に妊婦健診を実施する(妊娠初期の妊婦5例、中期の妊婦5例、末期の妊婦10例)。 ・産婦を受け持ち、情報の収集・アセスメント・助産診断・助産計画の立案などの助産過程を展開し、助産ケアと分娩介助を指導助産師の指導の下行う(10例以上)。 ・産婦と胎児の情報の収集・アセスメント・助産診断・助産計画の立案などの助産過程を展開し、分娩時における間接介助と新生児係(新生児受け)を指導助産師の指導の下行う(各5例)。 ・分娩介助した褥婦と新生児を受け持ち、助産過程を展開し、助産ケアを助産師とともに行う。 ・帝王切開事例を術前から受け持ち、情報収集・アセスメント・看護診断・看護計画の立案などの看護過程を展開し、術前・術中・術後のケア、産褥期・新生児期のケアを指導助産師とともに行う(1例)。 ・分娩介助時は指導助産師と助産ケアを振り返る。日々の助産ケアについては実習記録により振り返り、翌日の助産計画を立案する。 ・1週間毎にカンファレンスを実施し、学びを深める。	助産学概論、ペアレンティング援助論、妊娠期・分娩期・産褥・新生児期助産診断技術学・助産技術学演習、助産マネジメント等での学習内容、および教科書・資料を復習しておく。 詳細は実習要項を参照する。

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　実習記録はコメントをつけて返却する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
知識・技術	50	到達目標における知識や技術の到達度によって総合的に評価する
実習への積極的態度	50	事前学習や積極的・主体的な実習への取り組み、到達目標の理解を深めようとする姿勢、態度を評価する

教科書:　ペアレンティング援助論、妊娠期・分娩期・産褥・新生児期助産診断技術学、助産技術学演習等で使用した教科書

参考書:　実習の進行状況に則して適宜提示する。

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、創造力、コミュニケーション力、思いやる力、変化対応力、自己管理力

教員との連絡方法:　質問には主に実習中に対応する

893200

統合ヘルスケア論

田口　　玲奈、大本　　千佳

授業テーマ:　周産期・産婦人科領域における補完代替医療の応用

授業の概要:　周産期に用いられる東洋医学（指圧・鍼灸など）を中心とした安楽法やリラクゼーション法（アロマ、タッチケアなど）について学び、周産期の疼痛や不快症状の緩和やその評価方法を探究する。

到達目標:　1)周産期におけるリラクゼーション法（アロマ、タッチケアなど）の基本的な原理を学び、周産期でのケアに応用可能な基礎的技術を修得できる。
2)東洋医学における診察技術を学び、周産期でのケアに応用できるツボ療法や鍼灸の基礎的な技術を修得できる。

授業方法:　講義、ディスカッション、実技演習

「授業内容」および「準備学習等の内容」:

	授業内容	準備学習等の内容
1.	周産期・産婦人科領域における東洋医学の活用［田口］	妊娠期助産診断技術学、分娩期助産診断技術学の復習をしておくこと
2.	周産期・産婦人科領域におけるツボ療法や鍼灸の基礎［田口］	前回までの講義内容を理解しておくこと
3.	周産期・産婦人科領域におけるツボ療法や鍼灸の活用［田口］	前回までの講義内容を理解しておくこと
4.	周産期・産婦人科領域におけるツボ療法や鍼灸の効果［田口］	前回までの講義内容を理解しておくこと
5.	アロマセラピーの基礎：精油や基材［大本］	妊娠期助産診断技術学、分娩期助産診断技術学の復習をしておくこと
6.	アロマセラピーの基礎：臨床への導入［大本］	前回までの講義内容を理解しておくこと
7.	周産期ケアに活かせるアロマセラピーの実践：基本手技	前回までの講義内容を理解しておくこと
8.	周産期ケアに活かせるアロマセラピーの実践：症状や状態に合わせた応用［大本］	前回までの講義内容を理解しておくこと、周産期ケアに生かせる場面をイメージしておく

受講者へのメッセージやアドバイス:

フィードバックの方法:　授業内で解説する

「成績評価方法」「成績評価基準」:

評価方法	割合	評価基準
課題レポート	80%	到達目標1)2)の理解度で評価する
授業への積極的参加度	20%	ディスカッションの内容から到達目標1)2)への問題意識や探究姿勢を評価する

教科書:　指定しない

参考書:　特集　産む力を育てる周産期のアロマテラピー, 助産雑誌, 2009年10月号,　Vol.63 No.10
藤本幸弘, メディカルアロマテラピーの科学, コスモ21
平馬直樹, 基本としくみがよくわかる東洋医学の教科書, ナツメ社

獲得が期待される基礎的・汎用的能力:　分析力、思考力、思いやる力、変化対応力

教員との連絡方法:　講義前後で対応する。